幻日辞典

著　者
seren arbazard

2013/5/21 版

人工言語学研究会

まえがき

seren arbazard

本書、幻日辞典は人工言語アルカの辞典である。出版されている中で最も杜撰な辞書である。というのも、本書は作りかけの段階のものを一段落ついた段階で出版したものであり、誤植が多く、見出し語も２万弱しかなく、基本語の語法も用例も実際の文献から推測せざるをえないものがあり、文化欄も書きかけであり、用例も足りないためである。また、語源欄も異世界のものが作りかけである。制作途上とはいえ、出版された辞書の中で最低の出来である。しかし個人が一人で執筆した人工言語の辞書という観点で見ると、2013 年現在世界で最も作りこまれているといえる。

本書は 1991 年から 2013 年までのセレンを中心としたアシェットが内々で作ってきたアルカが形になったもので、最も純度が高く、しかして排外的なものである。アルカの生きてきた一つの時代の終わりとしてマイルストーンとなるべく出版されたものである。

本書を出版した目的は、国会図書館に納本してスキャンさせることで人工言語アルカが存在したことを証明し、既刊の書籍を未来人が読み解けるようにすることである。本書は窮地に立たされている中、親友の nias avelantis に出版を代行してもらい、実現したものである。氏の尽力に感謝したい。

英語や日本語など自然言語と遜色ない人工言語を完全なる人工言語とすると、本書で再現されているのはわずか１％程度である。語彙も足りないし文化記述も足りない。これだけ作ってもまだ１％である。それだけ完全な人工言語への道のりは遠く、個人では不可能である。ただ、セレンやリディアの目標は完全なる人工言語の１％を再現しようというものだったので、自分たちの目標は果たしたといえる。

fiina rydia

愛するリディアに捧ぐ

本辞典の凡例

＜書式＞

見出し語
[品詞タグ] 語義１。補足
[品詞タグ] 語義２。補足
　：
[類義語] 似た意味の語、語２…
[反意語] 反対の意味の語、語２…
[類音] 似た音の単語に注意
[アクセント] 本則どおりでない場合に付す。アクセントを大文字で示す
アトラスでの語源１ ｜ アトラスでの語源２
成立年 : 造語者 : 初出文献 : 語源注記
ɑ_μɑ:ɑμɑ_ɪμ:jz_lʃ: その他の言語　訳語欄
[語法]
単語の使い方の説明。格詞 ɪ は母音の前で ɪl になるといったような、文化と関係ない説明。
[文化]
その語の文化的な説明。
[成句]
en ʃ hɔʃ ʃeʃ ʅ ʃɪn のような、ことわざなどではないものの、それひとつでまとまって特定の意味になるものは前方に載せる。反対に、ことわざは後方に載せる。従って、成句→慣用句の順番で掲載される。慣用句の独立タグを設けなかったのは、ɑcʃ bìlɑlel のように成句だか慣用句だか判断の難しいものが散見されるため。
[用例]
語義のほか、格組やコロケーションを具体的に示した使用例。ɑcɔ cun のようなコロケーション的なものを前方に載せ、文例のような重いものほど後方に載せる。☆が付いている用例はアルカ独特の言い回しになっているものを指す。用例の書式は次のとおり。

幻文　和訳 (『出典単行本』ｏｒ「出典雑誌論文」キャラ名等 : 書き手)

出典がなく書き手しか示されない場合、それがその人の語録であることを指す。
例えば (μcɑcɪ ləʃcɪ) で検索すれば、その人個人の語録が検索される。

訳語欄について

アルカは「フィーリア＝アルフィ語」と「ファルファニア＝アルバザード語」のふたつから派生したアポステリオリ人工言語であるため、これらの古語を合わせて知っておくことで語源や語形成を理解しやすくなる。
例えば「重い」は ɑɪɑ だが、古語では bɥə である。bɥə の名残は ɒelbɪ や μɪɪuɥə などに現れている。ɑɪɑ だけ知っていてもこれらの単語の語源は理解できない。そこで ɑɪɑ の項に訳語として古語を設けておく。
最後にシージア＝ルティア語が来ている。これは厳密にはアルカとは血縁関係がない（ɑ_μɑ まで遡らない前提で）が、レスティル（アルバザード）は文化的に zɸ の時代から延々と影響を受け続けてきているため、ルティア語由来の単語も多い。そのため、直系でなくとも訳語欄を設けている。日本語における漢字や英語などと理解されたし。
jɒ 以降はカレンにアルティア人が入ったことから、ルティア欄の右にアルティア語を記すこともある。

語形成や語源の理解・製作の能率化がレーゾンデートルであるため、訳語欄を設けるのは主に基本語とする。すべてに設けることも可能であるが、例えばほとんどの科学の用語は時代的に見て ɑu や ɪμ などに存在しないため、欄を設けても空白にしかならない。こういった空白にならざるをえない単語はどのみち欄を設けることができないし意味がない。従ってそういったものを捨象していった結果得られる基本語を中心に採録する。

その言語に対応する訳語が存在しない場合は x を記す。訳語欄が見出し語と変わらない場合は . を置く。見出し語と同じでかつ名詞の場合は名詞の性 lə, lɪ のみを置いてピリオドは置かない。

jz_lʃ 欄の名詞の場合、名詞の性を lə,lɪ で示す。ɪɪu の項の jz,lʃ 欄には lɪ ʅɔleʃʃ と書いてあり、女性名詞とわかる。さらにそれに続いて括弧書きで名詞の性が定まった理由が付加されることがあり、理解を助ける。性はセルメルでは中性があったが、現代では男女いずれかに振り分けられている。ある時振り分けられたものではなく、順次振り分けられてきたもので、LL%以上本来は中性だった。それがシフトしていったものなので、現代では男女のみ記す。ひとつひとつに中性名詞から男性名詞というように示すのはバカバカしい。というのも、もともとほとんどが中性名詞なのでほぼすべてに中性から何々と付けることになる。ならば中性からという部分は無標にするのがよい。

例

uɪlɲ
[形容詞] 健康な、ヘルシーな、病気のない
[名詞] 健康
[類義語] ucucɪn
[反意語] leun
1L: 制 :uɪl（健康）
[語法]
健康は５段階に分類される。
ucucɪn: 痛みも苦しみもない完全に健康な状態。
uɪlɲ: 健康な状態。少し胃がもたれるとか、少し肩がこるとか、生理で気が散るといった程度だとここに分類される。
ɪnuεμʃ: 不定愁訴を抱えている未病の状態だが、医者や薬には頼らない状態。
leun: 病気の状態。かぜのような軽いものから、癌のような重いものまで幅広く含む。
ɪllɑcj: 植物状態。この次は死 (uɔμʃ)。
ucucɪn ～ uɪlɲ でいられる長さのことを lculeɟ といい、アルバザード人の生活習慣に大きく関与している。→ lculeɟ
[文化]
アルバザード人は健康第一の人種で、食生活や生活リズムや運動に気を配る。医食同源が一般化しており、料理に気を使う。食事と同じくらい重要なのが生活リズムで、一定の生活リズムで暮らすことにこだわる。遊びや労働よりリズムを優先する。
[用例]
ʃə εʃ uɔlʅ ɪɲɪl lɪlʃ ɪn lεl εl lɪl uɪlɲ. 健康が一番大切だと思っている。

＜外国語見出し＞
見出し語 , 言語名
アルカの訳語 . 補足
語源

例
ʅɔleʃʃ,jzl
ɪɪu
ʅɔɔl,ɑu.ʅ

＜タグ＞

・辞書の書式用
出現順に記す。

[類音]	上記
[アクセント]	上記
[語法]	上記
[文化]	上記
[成句]	上記
[用例]	上記

・品詞類

[名詞]	訳語から名詞用法の存在が明らかな場合は [名詞] を省略することがある
[代詞]	ʃə, lə, le など
[属格]	属格名詞の訳語。jɔμ で「背の高い人」、ʅιφ で「金持ち」など。属格名詞なので、jɔμ の項に載っていても jɔμen という属格にして初めて「背の高い人」という意味を持つ
[動詞]	「ɥəl を～する」のように訳語に格組を伴なうことがある
[形容詞]	形容詞は通常副詞としても使える。この場合、いちいち[形容詞] [副詞] と併記せず、[形容詞] のみとする。例えば ucenel は形容詞の副詞的用法と捉える
[副詞]	形容詞由来だが、副詞化すると独特の語義や訳語を持つ場合に記す。形容詞に el をつけて表す

[法副詞]　助動詞に相当するもの。jen など
[遊離副詞]　el なしで動詞の前後に来るか、動詞から離れて el を付ける副詞。ɪləəʃ など
[文頭純詞]　純詞は文全体を修飾する語。「しかし」など日本語では接続詞に分類されるものも入るので注意。hɪc（ところで）など
[文末純詞]　jec（～かなぁ）など
[格詞]　前置詞に相当するもの
[接続詞]　「～と」「～か」など。「しかし」などは文頭純詞
[感動詞]　jɔɔnɔɥən などの挨拶語も含む
[接頭辞]　ɪl など
[接尾辞]　ɪn など
[接辞]　拘束形態素のうち、ocl のように頭にも尻尾にも来るもの。
[天秤詞]　(ɪlʃe, (aleɪ などモダリティを示す。(笑) などに相当。
[擬音]　ガチャンなどの音を表す。帰納音の一種。
[擬声]　ワンワンなどの鳴き声を表す。帰納音の一種。
[演繹音]　規則的に音質を変化させる擬音語。
[擬態語]　ジグザグなど擬音語と対をなすオノマトペの一種。

・固有名詞の下位分類
名詞が固有名詞の場合［名詞］の代わりに次のいずれかを記載する
[人名]　ユーマの一族
[エルト]　epʃ
[サール]　jɪɪɸ
[悪魔]　ɑeeɒ
[魔物]　ɪɑel
[亜魔]　ɑelɑcɪ
[死神]　正確には魂科だが、そう書くと分かりにくいため
[名前]　固有名詞だが、人でも神でも悪魔でもないようなもの。犬の ʔɔɔɒɪ、生きるＯＳの elɑcɪn など。
[ランドマーク]　建造物や寺社仏閣やテーマパークなど
[企業]　企業名、社名
[商標]　商品名
[地名]　場所名。東京ドームはランドマークで文京区は地名
[アトラスの国家]　すべて収録。国以外は［地名］。1L 年にリディアが作ったものが多いが、それ以前にあったものや、J0 年にセレンが世界地図を作ったときに加えたものもある
[筐界]　ɸɑ に作られた ʔɪlʔɔuel という地域圏のこと。JJ 年に制作
[地球の国名]　造語当時の全国を収録

・シソーラス
[類義語]　ふくよかとデブのように、評価による対も含む
[反意語]　明るいに対する暗いなど。ぱっと見たときに見間違えないよう、類義語に対して反義語でなく反意語としている

・ポライトネス
ll 段階。標準は無標で、俗語と丁寧の間。
[丁寧]　丁寧語や雅語
[俗語]
[卑語]

・位相
単純位相
無標　セート位相（中立位相）
[ɸɑen]　アルデン位相
[ben]　アルベン位相
[ɥeal]　ユール位相
[dcʔb]　ピッコ位相
[ɒɒɪ]　アンマ位相
[ɒɥə]　マユ位相
[qɪno]　ガノ位相
[ɥenʔ]　ユンク位相
[ɒdɑ]　ミリア位相
[男性]
[女性]
[遊女]

複合位相
[ɑɥecnʃ]　男性エタット
[ʔlefʃ]　男性リース
[ɸnefʃ]　女性エタット
[ɸenʃe]　女性リース
[ʔccʃe]　ユンク・ミリア
[ɥenʃe]　ユンク・ミリア・マユ
[ɑɑlʃe]　ミリア・マユ

年齢
[幼児]
[老人]

婉曲性
[婉曲]　直接的な表現を避けているのでユンクなどでも使いやすい

方言・外国語
[南方]
[ɪɑʃɑ]
[ɒefcɔ]
[ʃɑ]

・語形成
語源欄以外の語形成。語義のタグに語形成の説明を委ねる。
[メタファー]　隠喩
[メトニミー]　換喩
[シネクドキー]　提喩
[見立て]　その単語を何に見立てているかを表す。
例えば ʔəl（話）は「液体」に見立てられているため、elʔɔɒ（流れ）など液体に関するコロケーションを利用できることが分かる。

・評価
[ポジティブ]　良い意味
[ネガティブ]　悪い意味

・分野
[アイテム]　武器や防具や道具
[アビリティ]　必殺技など
[シェルト]　チェスのようなゲーム
[ジョブ]　武士や剣士や魔導師など、ɸɑ などで使われる各ユニットの性質のこと
[武道]　アルバザードの格闘技のこと
[ユマナ]　惑星アトラスに存在しない語。地球版アルカにしかない。
[医療]　病気や薬、医者など
[地球の国家]
[地球の星座]
[色]　アルバザードの伝統色など
[音楽]　楽器だけでなく音楽関連すべて
[化学]　元素、化合物、その他化学用語
[花言葉]　木にもある。木の場合は枝を贈る
[気象]　天気や天気に関する現象など
[経済]　お金に関するもの
[芸術]　絵画や漫画も含む
[言語]　言語、言語学、言葉、文学
[文字]　文字やフォントに関するもの
[京極]　京極についての説明→ ɒɪnɪ(J) の［文化］の＜［京極］タグ＞参照
[建築]　家の中のものも。家具は含まない
[言葉遊び]　ジョークや駄洒落など
[娯楽]　ゲームなど
[交通]　乗り物や道など
[歳時記]　年中行事など
[宗教]　宗教関連
[象徴]　メタファーとまではいかないが、その語が何をイメージさせるか
[植物]　植物、野菜、園芸
[親族]　家族や親戚など
[数学]　算数も含む
[生物]　動物は［動物］、植物は［植物］で別タグ。身体語彙もここに入る
[組み数字]　1 / 4 とあれば、4 番中の 1 番の意味
[単位]　長さのメルフィなど

[地学]　地形、地理など
[釣り]　釣り
[電算]　ЄF 用語など
[動物]　虫や魚も含む
[被服]　身に付けるものは何でも
[美容]　髪型などにも適用
[牧畜]　牧畜に関連する用語
[魔法]　魔法の名や魔法学。
ファイナルファンタジーやドラゴンクエストの魔法に相当するものがある場合は、分かりやすさのため括弧内に併記。
[料理]　器具や料理名も
[歴史]　時代の名前や歴史的事件の名前
[論理]　論理学関連

＜記号類＞

●フォント

フォントは ıɰ̀ɿinſcȷ を用いる。

ıɰ̀ɿinſcȷ のコードは ФѰЄŒ や Θɔμɷ では幻字を表記でき、オンラインではそのままのデータでアルファベットを表記でき、互換性がある。

●約物総則

ͱ　ſeᴅdeµı。エクスクラメーションとして使う。
"　1) nɔµᴅ。引用符。引用した言葉や書名などを括る。
　ɺ) ʅəʅeµſ。喋り括弧。セリフを括る。
%　ɔʅȷφıl。パーセントとして使う。アルカでも同じ文字として ɺ1 年から採用する。
'　ȷeleſ。
　1)「や」といった一文字の単語とほかの単語ををつなぐ。ſ'ıuelſinſ のように。書名などは括らない。"～" のような文中にセリフが入れ子になっても ' は使わない。
　ɺ) 単語を形態素や音節ごとに区切る。φcl'ʅɔu'ez や ıɰ'ᴅı'leſ のように。同音異義語などで形態素の区切りを明瞭にしたいときなどにも使う。
()　ʅeµſ。パーレン。補足、省略可能、出典を示す。
　なしの場合は補足。ありの場合は省略可。ɭcɔn(ɥəᴅın ın) は補足で、ſə eſ (ȷen) ɭın は省略可。ʅeµſ は地球同様数式にも使う。
()　ɔȷnʅeµſ。思う括弧。頭の中で考えている言葉を括る。
×　ɗı 記号。強調記号。注釈記号。否定。非文。数式では nɔſ eɜəıl。
+　dɔʅ。正号。プラス。足すという意味では使わない。
,　ʃȷənʅ。カンマ。
–　ſcɑ。負号。マイナス。引くという意味では使わない。ハイフンとしても使わない。
.　φıcn。ピリオド。
　「～の」や o f を意味することもある。ᴅcɥə.ʅ で ᴅcɥə のカルミーユを意味する。
…　uccnſ
　1) ʔ 点リーダ。余韻を示す。日本語の「あ、そう……」などと同じ。ɱ 点リーダは下記ダッシュに対して文字幅が広すぎるため、ʔ 点とする。ʔ 点だとオンラインでアルファベットになったときも違和感がない。
　ɺ) 以下省略を示す。"ſə eſ..." で「これは～」や「これはほにゃらら」の意味。
,,,　ucʃȷənʅ。ſɔſɔ、～、何々の意味。
/　ʅcld。接続詞 ɔ の代わりに使う。
　ᴅccʅ/lcȷcʅ で「りんごとみかん」。数式では足し算という意味にはならない。ʔ/ɱ は「３と４」だが、「３足す４」という意味ではなく、「３と４（の比）」という意味で、分数になる。ʔ/ɱ で日本語と同じく四分の三。このときの / の読みは ɔ でなく ən。
//　音韻を示す。
:　ılɔſ。コロン。区切り文字。語源欄などで頻出。
;　φılɔn。セミコロン。下記参照。
< = >　ʅılſ, ʅɔʅ, nɔɷ。不等号。数式では日本語と同じ。語源欄では下記参照。
ȣ　ʅəənɔ。クエスチョンマーク。
▯　ıɰucs。タグを示す。音声を示す。
\　ıɱcld。円マークでなくバックスラッシュとして扱う。
_　ᴅɔµen。アンダーバー。
　1) ハイフンとして使う
　ɺ) ＰＣのファイル名などで e や ʅenɔ を意味する文字として使う。lecȷ_ɭcɔn.sdφ で「紫苑の絵．ｊｐｇ」の意味。
　ʔ) ȷɔu(en) の意味。人の生年などに用いる。(ᴅel ʔɺ0_ʔΔ0) のように。ʔɺ0 ı ʔΔ0 だと与格でなく掛け算に見えるため、ȷɔu を使って ʔɺ0 年から ʔΔ0 年の間生きたという風に捉える。
––　ᴅcl。
　1) ダッシュとして使う。素早い沈黙や息を止めるような静止を示す。日本語の「––え？」と同じように。
　ɺ) 平調や中止調の代わりに使う。
–　ȷeµec。これも ȷɔu(en) になる。
{}　ᴅııᴅ。言い換え可能を示す。
|　hıȷµecn。: より大きい区分を作る。語義と語源欄を区切る。
¥　アルカでは使わない。用例訳や語法欄など、和文欧文中で使う可能性がある。

●約物細則

×　用例中で非文を示す。語源欄では廃語・廃用を示す。
ȣ　用例中で、やや不自然を意味する。非文と違って誤用ではない。
ȣȣ　用例中で、かなり不自然を意味する。ほぼ非文に近い。
/　連言の ɔ の代わりとして使う。
　1) 単語同士の連結の場合、"ᴅccʅ/lcȷcʅ" のように、スペースを入れない。
　ɺ) 句同士の連結の場合、"ᴅeᴅ l'eʅȷ ᚨ / hıȷµecn l'eʅȷ 1." のようにスペースを入れる。ʃȷənʅ に合わせると ᴅeᴅ l'eʅȷ ᚨ/ hıȷµecn l'eʅȷ 1 だが、/ と , ではデザインが異なり、/ の場合は前後にスペースがないと不格好で見づらい。
　これは、"ᴅeᴅ l'eʅȷ ᚨ/hıȷµecn"（ᚨ と縦線を表す丸）という解釈を防ぐため。
,　重文を作る場合は ɔɔ と発音し、単に節を区切る場合はポーズを置く。
　1) ın cȷʅıſ, ſıəſ の場合は重文を作るので、ɔɔ と発音する。
　ɺ) cᴅ ın ıʅſıſ lı, lı ʅə ȷɔı の場合は従属節と主節の区切りを示すので、ポーズを置く。
　ʔ) 名詞を並列する場合は ə と読む。ᴅccʅ,ıdleȷ で ᴅccʅ əl ıdleȷ と読む。
　この際、1),ɺ) と異なり、スペースを入れない。/ と同じ要領で、視覚的にひとつのまとまりを作るためである。手書きの際もスペースを入れない。
　ᴅccʅ,ıdleȷ,lcȷcʅ のように複数個 , がある場合は、最後だけ ə と読み、ほかはポーズを置く。これは / と同じ。
　動詞を並列するケースは少ないが、もしする場合は重文の ɔɔ と読み間違えないように文をよく読む。
　なお、動詞を並列するケースは少なく、かつ ɔɔ と誤解しやすいため、本辞典では動詞の並列の場合は ə と書き、, は使わない。
　ɱ) リストとして名詞を列挙する場合は ə と読まず、ポーズを置く。
　µcɷcı, ɔuc, ʅlccz のように名詞を単に並べるだけの場合は ə と読まない。
　また、区切りを示すためにスペースを入れる。そうでないと句がリスト化されたときに見づらいため。
　日本語にしたときに「ᛏ や B」と訳す場合は ə と読む。「ᛏ, B」と列挙するだけの場合は読まない。文意によって変わる。
　複雑そうに見えるが実際はそうでもない。: で ə と読ませる案もあったが、文が区切れて見えるので避けた。
　,, 案もあったが、, だけで十分弁別できるため、このようにした。
:　区切りを示す。辞書を見やすくするために使う。
;　アルバレンなどの ʅeµ, ſə の代用として使う文字。
　アルカでも同様だが、; と書いた場合は黙字として扱い、文の区切りを示すために用いる。
　lə eſ ᴅeɼ ΔL ſ'eµn e ɥəəᴅı; eᴅıſ ɷıcz ɭc ləʅɔ ınɭıl, lıɷ lɥ əɷcı. の場合、
　「彼はユーマの一族の ΔL 代目で、アンシャルに来てリュディアを建国した後に王となった」の意味。
　もし ; でなく , だったら、「アンシャルに来た後に王になり、それからリュディアを建国した」となり、意味が異なる。
→　1) ～を参照せよ。
　ɺ) 右のほうが左より一般的である。
←　左のほうが右より一般的である。
　例）ucʅ ← ucʅhcᴅ（ucʅhcᴅ と意味は似ているが、ucʅ のほうが一般的）
‹　右は左になる。
›　左は右になる。○○ .ɑu› ×× .lſ ＝ ɑu の○○は lſ の××になった。

●言語名

ɑ	フィーリア語
ɑu	フィルヴェーユ語
lɥ	リュディア語
ɲl	ルカリア語
ɪɲɑ	アルディアル語
lɟ	レスティル語
ɲɑ	アルフィ語（フィルヴェーユ語と同じだが、時代が異なる）
ɟz	シージア語
lʃ	ルティア語
lz	リーゼル語
ɪlʃ	アルティア語、凪語、凪霧
hɥ	ヒュート語
ɲʃ	ケートイア語
cn	イネアート語
ɟl	スカルディア語
ɒɑ	メディアン語
ɒe	メティオ語
ɪɲ	アルバザード語（アルバレン）
ɪ	アルカ
ɟɔɲn	アルカ・エ・ソーン
dɲ	プレディス語
ɑɸn	フィガン語
ɑɲɑ	ファルファニア語
ul	ヴェルシオン語
bɸ	ベルガンド語
ɑɒ	ディミニオン語
uɒ	ヴェマ語
llɟ	ロロス語
無標	現アルカ

●年代

言語名の後に付ける。lʃɑ で古ルティア語。
現代まで続いていれば現。それ以外は新。ɟzɟ は新シージア語。lʃɟ は現ルティア語。
制アルカは ɪl で、新生は ɪɑ。

ɑ	古
ɪ	遠
ɑ	中
u	近
ɟ	現（新）

l	上代 (zɸ_ɪl)：上代はユーマの一族による残存している記録が乏しいため、詳細不明なことが多く、しばしばひとつの年代としてまとめられる。

●時代

ɑl	フィアル
ʃɒ	アルテム
uɟ	ヴァステ
ɟɲ	サリア
ɦu	ラヴァス
zɸ	アズゲル
ɒʃ	メルテナ
ɪɪ	カコ
ɟɒ	セルメル
ɲɑ	オーディン
nɑ	ナディア
ɲʃ	アルティル
ul	ヴェレイ
ɪl	アレイユ
ls	ランジュ

●暦

ɟl	セルト暦
ɒl	メルティア暦
ɥɒ	ユーマ暦
cɒ	イムル暦
ɒ	メル暦

ΔΔ00ɥɒ でユーマ８８００年。

●人名

無標	ɟeɲen
ɲ	ɲcɑcɪ
ɒ	ɒel
l	ləlcɪ
ɥ	ɥəlʃ
ɲɥ	ɲɥəə
ɪɒ	ɪɒccɲ
lz	lcczɪ

●語源と語形成

アトラスの語源は地球の語源よりも詳細で、略号を使わないと非常に長くなってしまうため、略号を用いる。

<	「←」の意味。左のものが右のものになるという意味。
>	「→」の意味。右のものが左のものになるという意味。
><	右と同根。ɑɲɪnje.lʃ >< ɑɲɪnɟ で「ルティア語の ɑɲɪnje はアルカの ɑɲɪnɟ と同根」の意。
<>	関連形態素。主に古語について「語源が定かでないものの、〇〇の形態素が関係している」と分かっている場合に使う。
.	「～」を示す。ɒcɥə.l で ɒcɥə のカルミーユ。
,	言語名を記す。ɪilɑɪcz,lɥ で「リュディア語の ɪilɑɪcz」の意味
&	推定形。主に古語などの記録の少ない単語に用いる。また、単に語源説が定かでない場合にも用いる。
数字	「. 数字」の形で、「第何義から」を意味する。
/	1) ａｎｄ。本文でも同様。 J) アンクレット。複合、合成など。
()	補足。本文でも。
{}	原義。本文では言い換え。
>>	右に継承。継承というのは、その語義がアルカではこの単語に相当するという意味。
<<	右から継承。>> の逆。
e	エーステ。その語が本来的に持つ語形を魔法理論ランスロットに基づいて示したもの。
l	リムレット。音的発達など、音が変化したもの。
ɪ	カルミーユ。音を変え、元の語と違う意味の単語に変化。
lcɪ	省略、短縮、脱落。
heɒ	狭義化。意味が狭くなる。外延が減る。
hɪn	広義化。意味が広くなる。外延が増える。
ɪleɪ	転義。元の語義になかった語義を持つようになり、しかも元の語義を破棄する。heɒ の場合は元の語義にないものは増え　ないし、元の語義の一部が残る。
ɒɔnɪ	転移。元の語義のままだが、外延のみが変わる場合。例えば ɪn.ɑu から派生した ɪn は ɪn.ɑu と同じ意味だが、アルデン位相ではなくセート位相を外延に取る。
eɟʃel	訳語。借用語を当該言語に訳したもの。uɪcɪlɒcə.lʃ → ucɪlɲen など。
uuʃ	文法化。uezueʃeɒ。名詞などの内容語が格詞などの機能語になる現象。
ɪluez	語彙化。ɪluezeɒ。文法化の逆。
lecɒeɒ	一般化。固有名詞 ɥəəɒɪ を指す lccz が、「小さい女の子」　総称を指すようになった例など。
ɪɪleɒ	特殊化。一般化の逆。
ɪelʃ	婉曲化。男→カレシとするように、遠まわしに語義を指すように変化したもの。男→カレシのようにシネクドキーの例もあれば、桜田門→警察のようにメトニミーもある。比喩表現を個別に表記する場合もあるが、語形成の理由が「話者が婉　曲的な表現を望んだため」というものであれば、ɪelʃ 表記を優先する。
ueɲɪ	抽象化。物事を指す「これ」が時間を指す「これ」を意味するようになるなど。
uɔlʃ	具体化。抽象化の逆。
ɑɔueʃ	オノマトペ。音がそのまま語源となっているもの。
hɪɪlueʃ	演繹音。
ɪɔɔɪueʃ	擬態語。
ɑɪcɪ	音象徴。例えば e は水を表す音象徴で、e が付くものは水に関係するものが多い。eɲc（血）、eɲcɪ（水）、eɲec（川）など。同じく dɪ（アルカではたいていリムレットして ɑɪ）は光に関係するものを表す。ɑɪɪl（太陽）、ɑɪɲ（光）など。

ɥɔlɛ˥ アフォーダンス。転換動詞などに用いる。bɪɔɸ（拳）から動詞「叩く」が生ずるなど。

ɲɪccɩɪ ɑɛɛl（フェール神）の能力から「一目ぼれ」という意味を生じるようなケース。

ɑɸcɟ メタファー。

ɪɒɔʅ メトニミー。

clɒ シネクドキー。部分から全体への提喩。zɪɒ ləɳɪɲ（足が来る）は「人が来る」の意味なので、全体を部分で比喩している。この逆が uɪc˥leu。

uɪc˥ シネクドキー。全体から部分への提喩。

ʃeel メルテーブルでできた語。地球の語源欄ではしばしば @で表記。

ɒu 母音調和。ɒɛɒɕɲuɛɟʃɔ。

ɲɪdueʃ n 対語。

ɑɔɲʃ 復活。一度廃語になったものが戻る。変更点がある場合もある。

cɟʃ 異形態。cɔ と ce など。

ɸɛlɟ 反転語。˥ɔɒɔ と ɒɔ˥ɔ のように音節をひっくり返して主に対語を作る造語法。現実の古アルカに見られ、神話では ɑ などに見られる。

ləɒcɒ 恣意

nɛɒc 語源不詳

jelɪn 民衆たちの間で自然発生したもので、記録がないため語源が不明なもの。

＜語源＞

アルカの単語には２種類の語源がある。地球の語源とアトラスの語源である。

アルカは実際には地球上でも使われる言語なので、地球で何年にどのような経緯で誰が作ったか記される。

本来幻日辞典にはこちらの語源しかなかったが、異世界アトラスで使われる言語である以上、アトラス上での語源も設定せねばならないとして、アトラスの語源が生まれた。

●地球の語源

訳語欄の一つ上に付与。記述は主に日本語。書式は次のとおり。

成立年代 : 造語者 : 初出文献 : 語源および解説

例
ɪɪu
[名詞] 鎖、チェーン
[動詞] ɥəl を鎖で巻く、繋ぐ
[メタファー] つなぎとめておくもの
ɲɑ;ɲɪɪuɥə,ɩjɩ.ɩc˥
1?: 古 ɲɪɪuɥə（鎖）
ɲɪɪbɥə:ɲɪɪuɥə:˥ɔlɛʃʃ
[文化]
ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖。
[成句]
ɥən ɪɪu 芋づる式に
[用例]
ɪɪu ɔɒɪ ɪ ncɪl 犬を鎖につなぎとめる
ɸcl ɪʃ ɪɪu ɟɔuen lɪ ʃcɪnɪl. あの２人の恋愛関係は金によるものだった。
ɑcɲeʃɪn ɑɔɟɪʃ ɥə ɥən ɪɪu 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。

「1?: 古 ɲɪɪuɥə（鎖）」の部分が地球の語源。
省略せずに書くと「1?:jeɲen:˥lel: 古 ɲɪɪuɥə（鎖）」。読み方は――
「メル 1? 年 (＝２００２年) にセレンが制アルカの辞書に記載したもので、古アルカの ɲɪɪuɥə から来ている。ɲɪɪuɥə の意味は鎖」
――である。

・造語者について詳細は→ uɛʃlɪɑɪn

・幻英からの転記と成立年

˥ɔɑel（変数）や lɔd（配列）のように、幻英から転記したものは、成立年の箇所は造語年ではなく転記年を意味する。

lɔd の場合、古でリュウが dɪlɪn とした。制で lɔd になって以降変わらず、ɩ] で幻日の新版を作る際にメルがきっかけとなり幻日に転記された。そのような過程が明瞭かつ重要であれば、第二義以降であっても注記を各項に設ける。

●アトラスの語源

地球の語源よりも詳しく複雑である。
地球の語源の上に付与される。主にアルカで記述される。書式は次のとおり。

成立年代ないし継承元言語名ないし借入先言語名 : 造語者 : 初出文献 ; 項 (補足). 語形成 解説

これを各語義ごとに | を挟んで繰り返す。ただし左側の語義やタグから判断できるものについては重複を避ける。

/ は ɪn˥leʃ（アンクレット）を示す。したがってアンクレットは語形成欄に現れない。
語源は語義ごとに付与。単なる品詞の転用のような自明のもの、他の語義と同様のものには付与しない。少なくとも中心語義と比喩語義には必須。
廃用語義の前には x が付与される。
語形成が複数の項にかかるときはパーレンで分配法則。((ʌ)ɩc˥ で「ʃ と ˥ を ɪn˥leʃ した後に省略」を意味。(ʌ.ɩc˥ だと ∩ を省略した後 ʃ と ɪn˥leʃ」を意味。
造語者の無標は ɲɑ なら jeɲen、それ以外の時代は民衆。
初出の無標は ɲɑ なら jʃ の辞書ないし ɑcɪ˥lel。それ以外は ɪ の辞書。
語形成の前はセミコロン。成立、語形成、造語者、初出の順にしなかったのは地球の語源と書式を合わせるため。順番を崩さず語形成のみ機械処理で拾えるようにセミコロンを用いた。

例
ɪɪu
[名詞] 鎖、チェーン
[動詞] ɥəl を鎖で巻く、繋ぐ
[メタファー] [名詞] つなぎとめておくもの
ɲɑ;ɲɪɪuɥə,ɩjɩ.ɩc˥
1?: 古 ɲɪɪuɥə（鎖）

省略せずに書くと以下のようになる。
したがって、実際には上の記述で下の記述と同じ量の情報が含まれていることになる。

ɪɪu
:
:
ɲɑ:jeɲen:˥lel;ɲɪɪuɥə,ɩjɩ(ɪɪu).ɩc˥ | ɲɑ:jeɲen:˥lel;ɪɪu1.ɥɔlɛ˥ | ɲɑ:jeɲen:ɑcɪ˥lel;ɪɪu1.ɑɸcɟ
1?: 古 ɲɪɪuɥə（鎖）

ɲɑ:jeɲen:˥lel;ɲɪɪuɥə,ɩjɩ(ɪɪu).ɩc˥ の読み方は――
「ɲɑ でセレンが制アルカの ˥lel に記載したのが始まり。
　語形成は省略で、上代レスティル語の ɲɪɪuɥə を詰めたもの。ɲɪɪuɥə の意味は本項 ɪɪu と同じ」
――である。
(ɪɪu) などは本項の見出し語と同じであれば無標で書く必要がないので、通常は省略している。

ɲɑ:jeɲen:˥lel;ɪɪu1.ɥɔlɛ˥ の「ɪɪu1.ɥɔlɛ˥」の読み方は――
「ɪɪu（本項）の第一義のアフォーダンスを用いて転換動詞にしたもの」
――である。

ɲɑ:jeɲen:ɑcɪ˥lel;ɪɪu1.ɑɸcɟ の読み方は――
「ɲɑ でセレンがディアクレールに記した語（＝制でなく新生なので、さらに細かい年代が分かる）
　ɪɪu（本項）の第一義のメタファーからできた語義」
――である。
タグに [メタファー] とあり、意味的にもメタファーであることは明らかなので通常は省略する。
通常は ˥lel と ɑcɪ˥lel が無標で省略されるので、制か新生かは判断できないかのように思える。

しかし地球の語源欄を見れば 1?: 制とあるので年代は自明であり、これにより ˥lel と ɑcɪ˥lel をともに無標化することに成功した。

●継承

ɑu や ɪɲ などの古語はアルカの主な構成要素になっている。
アルカの単語は ɲc のようにアルカ独自のもの以外に、古語からできたものがある。
その内訳は大きく分けて二つ。ひとつは ɲɑ 以降に古語の形態素を使って新たに作られたもので、地球でいえばルネサンスにラテン語の形態素を用いて作られた学術用語などに相当する。
たとえば ɪnɑe は T↑A を意味するが、当然 ɲɑ 以降に作られた単語である。この語源は ɪnɩɪnʃe˥ɪɪɑe.l で、ɪnɩɪnʃe/˥ɪɪɑe はともに古語の形態素である。つまり ɲp などの時代に ɪnɩɪnʃe˥ɪɪɑe という語があったわけではなく、古語を使って命名しているにすぎない。そういう意味でルネサンスを引き合いに出した。
一方アルカがそのまま古語から継承したものもある。これは借入ともいえよう。しかし借入としないのは、単純にルティア語などの外国語から入ったものと区別するためである。アルカというのはアポステリオリ人工言語であるとともに、ɑu, ɑɲɑ, lɥ, lj, ɪɲ と続く言語の系譜の支流であるから、ルティア語からの借入と ɑu などからの借入を同一視することはできない。そこで ɑu などからそのままアルカに取り入れられたものを「継承」と呼ぶ。継承には例えば ɑlɔɲɪ などがある。

語源欄の「;」の左は成立年代などが来る。例えば ɪɪu の場合は ɲɑ;ɲɪɪuɥə,lɟl.lɕ˥ となる。
しかしこれだけでは ɲɪɪuɥə,lɟl の語源を遡れないため、人工言語製作的には恣意になる。しかし歴史的に見て記録が残っているはずの語源は作るべきなので、ɲɪɪuɥə,lɟl という見出しを別途設ける。
また、ɲɪɪuɥə,lɟl が形態素となる単語は ɪɪu 以外にもありえるので、ɪɪu の語源欄に毎回 ɲɪɪuɥə,lɟl の語源を書くのは非合理的であり、その意味でも別項を立てるほうがよい。

一方継承の場合、語源欄の書き方が異なる。ɑlɔɲɪ の場合は ɑu;lɔ/ɲɪʃ となる。成立年代でなく継承先の言語名を示している。
もし ɪɪu と同じにするとこうなるだろう。ɑu はここでは ɾɒ 時代だとすると。

ɑlɔɲɪ
[動詞] 思う
[類義語] lɔ
[反意語] ɲɪɑcɟ
ɾɒ;ɑlɔɲɪ,ɑu
ɟ1:ɲcɑcɪ
[語法]
lɔ

その上で別途 ɑlɔɲɪ,ɑu という見出しを立て、

ɑlɔɲɪ,ɑu
ɑlɔɲɪ
lɔ/ɲɪʃ

という記述をする。ところが ɪɪu:ɲɪɪuɥə と違って ɑlɔɲɪ:ɑlɔɲɪ は綴字が同一であり、根本的な語義も保持されている。
この場合は別項を立てる合理性がない。そのため成立年代でなく言語名を書いて一項にまとめている。
これをしないとのべつ幕なしに継承由来の古語見出しが増える。継承は実に多いので、幻日辞典は古語見出しだらけになってしまう。
原則として古語見出しは語源屋を惹きつけ、また作者の製作能率を上げるものである。一般的な使用者にとっては検索結果が増えるということはそれだけ目視に時間がかかることを意味し、必ずしも合理的でない。
古語見出しは中身を見れば分かるとおり、行数が少ない。つまり簡単に一語を稼げる。それで幻日にはこんなに多くの単語があるんですよという喧伝には役立つ。が、それで利便性が損なわれるのでは意味がない。それゆえ、古語見出しはあくまで必要最小限に抑える。

●語義の変遷

例えば lɪnʃcɟ を引くと――
ɑ;e 個体 ,ɑ> 個々のアテン ,ɑu> 人間 ,ɑɲɑ>lɪn（人間）,lɟl> 使徒 ,lɟɟ
――こう出ている。まず、フィアルでエーステでできた。そのときの意味は「個体」である。次に ɑu では個々のアテンという意味になり、ɑɲɑ で人間の意味になった。次に lɟl では人間は lɪnʃcɟ でなく lɪn という語形になり、lɪnʃcɟ は意味的に空白地帯になる。そこで lɟɟ に人間に代わって使徒という意味が入った、というわけである。

＜音調・イントネーション＞

・文末音調

急上昇調：ɒclees：ȣȣ
上昇調：˥əənɔ,˥əənɔɟʃecɲɪ：ȣ
平調：ɟc˥ɪ：_
下降調：φɪcn：.
急下降調：ʃeɒdeɲɪ：↾
中止調：˥clc：|
昇降調：˥cɒ：↾ȣ

・語音調

急上昇調：lcɟɒclees：'ȣȣ
上昇調：lcɟ˥əənɔ：'ȣ
平調：lcɟɟc˥ɪ：'_
急下降調：lcɟʃeɒdeɲɪ：'↾ˇ
中止調：lcɟ˥clc：'|
昇降調：lcɟ˥cɒ：'↾ȣ

＜音韻＞

古アルカの ⅏ 子音は語源欄に用いる。
順に ŧeɲ, ƶɔʃ, Xɪn, Tc˥ のように大文字で示す。
例：jeɲen ← ŧeɲen ← ŧeeɲe（静か）/n（指小辞）

＜天秤詞＞

(ɪ˥ʃe):(ɪ
(ɑleɪ):(ɑ
(ɪ˥cɟ):(l
(˥cɕɲ):(˥
(˥ɪnʃe):(˥n
(ɑəəɲφɪ):(ɑɲ
(ucɕne):(un
(ʃeeɒɟ):(ʃ
(ɒɥə˥ɪ：(ɒɥ

＜数式＞

ɪɲ˥ɪnʃcɟ でも互換性がない。
もともと変数も l でなく ʃ を使う時点で互換性がなく、それなら無理にほかの約物も互換性を持たせる必要がないと判断。

・数字

半角数字のまま使う。

・変数

⅏l 順に使う。

・定数

losz 順に子音の後ろから使っていく。
母音は四則記号に使う。
定数は変数の前に書く。

・符号

+	プラス。
−	マイナス。
+−	プラスマイナス、プラマイ。
−+	マイナスプラス。

・不等号

< > =　　を地球と同じく使う。
<=, >=　　などの組み合わせもそのまま。

・四則

+　　加算
−　　減算
×　　乗算
/　　除算

読みは順に ɔ, c, ɪ, e。ɑɔʅ, ɑcɑ, hɪnʃ, ɑeɟʃ でも可。

・分数

分数も / で示す。ʔ/ɱ で四分の三。ʔ+ɱ ではない。
読みは uc əɲ uɪl。
帯分数はＱＷＥＲＴＹでは使えない。仮分数にする。

・小数

φɪcɲ を使う。0.ɱ のように。
読みは ɥəə cɲʃ uɪl。

・カッコ

地球と同じ。(), {} など。

・単位

ɒ　　メルフィ。ɒ
b　　メルバ。ʅφ

数式中では □ 内に入れる。
[ɒ/ɒ] で時速メルフィ。
□ は混乱ない場合は省略できる。あるいは下記同様大文字にしてもよい。

・特別な定数

重力加速度 φ や摩擦係数 μ のように特定の名称が定まっている係数については幼字を使う。これは幼字を使う文化圏の強みである。もし漢字圏が科学を発達させたら特別な定数は漢字一文字で示されただろう。なお ɪɲʅɪnʃcɟ では幼字を表示できないため、その字の読みを用いる。

・その他

絶対値は ‖ で示すが、これはＱＷＥＲＴＹ用の表記で、実際には ɔ という幼字を使う。

指数は ^ で示すが、これも本来は幼字を用いる。

ɾ

ɾ　e の異形態。母音の前に付く ［レベル］1　1L:ɹeɥen ［語法］ →e（e と ɾ の使い分けについて） 母音で始まる語の前に付く。ＰＣのフォントを使う場合、ブロック体の場合は l の直後にアポストロフィーを置く。筆記体の場合は動詞媒介として使っていたハイフンを置く。
　後ろが母音で始まる語でも、特にその語が強調される場合であれば e のまま使われることがある。"ılnı, ʃɥə ɹeɥ lın ueʃɥɔlɔɒ e "e" ɹeʃe" のように。また、e と言った時点ではまだ次の単語を思いついてなかった場合、次の語が母音から始まっても、いちいち ɾ から言い直す必要はない。（言い直してはいけないというわけでもない）【用例】 ɒccl ɾ'ıɒel 妹のリンゴ

ɾ'ınsəɥ ［歳時記］ルーメル後夜祭、タンジュール ［レベル］3　ɹ1:lınɾe ɾ'ınsəɥ（楽しいこと）から ɾ'ınsəɥ のみ分離したもの。カテージュのそれとは関係ない。 ［文化］ テームスの日に行われる４年に一度の大祭り。

ɾɾ ［演繹音］つー、ツー ［レベル］３　ɹɹ ［語法］ 何かを指で擦ったり摩るような音。

ʎlı ［経済］需要、デマンド、ニーズ ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ʎlə（必要）【用例】 eɹn ɾcl ʎlı cɒ ɾəɔ. 最近、傘の需要がある。

ʎlı(ɹ) ［遊女］［文末純詞］ı, e ［レベル］4　ɹ1:lı

ʎlıɾ ［動詞］ɥəl をくちゃくちゃ噛む、噛む ［レベル］3　擬

ʎlıl ［動詞］ɥəl について ı とおしゃべりする、喋る ［普通動名詞］ぺちゃくちゃ、雑談、歓談、私語 ［レベル］3　古 :ʎlıl（おしゃべり）。オノマトペから。【用例】 ın ɾeɥıɾ leɒ lɔnɾ ʎlıl ı hıɾn. 友達とおしゃべりをしながら音楽を聴いた。

ʎlılleɒ ［名詞］ＤＪ、ディスクジョッキー ［レベル］5　1ɱ: 制 : 音楽をかけたり喋ったりする

ʎlın ［接尾辞］〜ちゃん。指小辞。 ［レベル］1　ɥɑ;ɾın（古い指小辞だが ɾın（〜も）とのバッティングで滅んだ）/ɹın（敬称） ɹʔ ［文化］ ınlɒeu

ʎlınɾ ［名詞］［形容詞］サービス、おまけ、無償の、見返りを求めない行為 ［レベル］3　古 :lınɾ をメルが喋れず、ʎlınɾ と言ったことから。恐らくメル ɫ 〜 ۹ 年で、このころ lınɾ は lınɾe だったはず。lınɾe を lınɾ にしたのは後のソーン。従って、ʎlınɾ の前に ʎlınɾe があったと考えられるが、推測の域を出ない。【用例】［言葉遊び］"ın ɥə ʎlınɾ c ɥəɥə cɹɾ ın ɑcɾ lınɾ ı lıɟ. hɜɒ... ɹɔn ın ɾıə nelɾ ɾ c lıɟ nı"「俺はシャントをあげる代わりに、ゆゆからチャントをもらってるわけで。ふむ、となると俺はあいつらから ɾ を買ってるというわけか」

ʎldɔleɾ ［経済］需給 ［レベル］4　1L

ʎlıl ［政治］大統領、元首 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :ʎlılɾ 重要な ɹɔllɔlɒɹıl では長いため ［文化］ アルバザードには大統領はいない。

ʎlıllɔlɒ ［政治］大統領制 ［レベル］4　1L

ʎlc ［代詞］［南方］［女性］ɾɥə ［レベル］3　ɹ1:l.ɾc

ʎlc,ɑ　ɾıl　e

ʎlcɾ ［動物］雀 ［レベル］3　古 : チッチと鳴く ləɾɔ（鳥）のことだと思う。

ʎlcɾe,ɑ　ɾıl　ʎlc（スピード）/ɾe（風のような）

ʎlcl ［形容詞］チクチクする ［レベル］2　古 : チクチク【用例】 nɔn ɥcɹ ncɒɹ ʎlcl. チクチクするセーターはイヤ。

ʎlcll ［名詞］藁、わら、ワラ ［レベル］4　ɑu;ɑɔueɾ。チクチクするオノマトペから。 1ʔ: 制 : チクチクするもの ʎlcll:ʎlcll

ʎlclllɔɔb ［被服］麦わら帽子、麦藁帽子、ストローハット ɹɒ;/　ɹɱ ［文化］ 農民の帽子。現代では夏に階層関係なくかぶる人がいる。現代では都市部の女性がかぶっていると大人しく牧歌的な印象を与える。

ʎlclı ［植物］パパイヤ ［レベル］4　ɹeɥen ? :lılɾı ［文化］ 珍しい果物で、あまり食べられない。

ʎlclc　enɾ　<>ʎlcɾe

ʎlcɹ ［化学］電荷 ［レベル］5　1L: 古 :ʎlclɾeɹ

ʎlcn ［名詞］鈴、ベル ［類義語］ɒclec ［レベル］4　ɑu;ɑɔueɾ　古

ʎlcn(ɹ) ［代詞］［南方］［女性］ɾəın ［レベル］3　ɹ1:ʎlc の属格

ʎlcnlılc ［生物］男性の尿道口、鈴口 ［レベル］4　1L

ʎlcnleel ［生物］陰茎包皮、亀頭包皮 ［レベル］5　1L

ʎlcnleelɑıcz ［医療］亀頭包皮炎 ［レベル］6　1L

ʎlcnɹcı ［音楽］タンバリン ［レベル］2　1ʔ: 制 : 鈴の膜楽器

ʎlcɑ ［動詞］ɥəl（人）をさらう、ɹɔl（波）が ɥəl（泳ぐ人）を ı（沖）に流す、さらう、攫う、浚う、拐う ［シェルト］取る。駒を取ること。 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ʎlcɑəɾɔ「速く取る」

ʎlcɑɔl ［シェルト］取られた駒 ［レベル］3　ɹʔ

ʎlcφ ［医療］乗り物酔い ［動詞］ɥəl を酔わせる、酔う、乗り物に酔う ［レベル］3　1L: 古 ʎlclφɔɔı（吐き気を持つ）【用例】 ın nı ʎlcφ ɒcl ɹɔl. バスのせいで酔った。

ʎlcd ［名詞］泡 ［経済］バブル ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 : 泡がはじける音のオノマトペ dʎlc から。

ʎlcdlılc ［料理］スフレ ［レベル］5　1ʕ: 制

ʎlcddcle ［料理］カプチーノ ［レベル］4　1ʕ: 制

ʎlcdıul ［経済］バブル経済 ［レベル］4　1L

ʎlcb ［生物］液胞　ɥɾ;ʎlcd.l　ɹɱ

ʎlcl ［生物］ふところ、懐 ［レベル］4　1L: 古 ʎlcl（持つ）［語法］［文化］ セリアのような服の場合、横から手を差し入れる形で懐ができる。アルセリアの場合、差し入れる隙はない。ボタン式の服の場合、ボタンを外して横から差し入れる部分が懐となる。【用例】 ʎlcl lıc 広い懐

ʎlcl,ɑ　ɾcl　ʎlc（腕）/ıl（物）

ʎlclɑ ［名詞］かいろ、カイロ、懐炉、ホッカイロ ［レベル］3　1L:ʎlcl/ɑıc ［文化］ 一般人の魔力の弱まったカコ時代に遠征用として開発された。化学的なものは nɑ で作られ、ɥɾ,ul で普及した。ユティア朝では使い捨てでない張るタイプの懐炉が一般的。【用例】 ın dcıɾ nelɾ ʎlc lɑ cɒ ɾeɥl. 外出するときはいつも携帯用の懐炉を持ち歩いた。

ʎlclɒell ［名詞］懐中時計 ［レベル］5　ɹ0 ［文化］ ɥɑ で腕時計に代わった。

ʎlcı ［遊女］［代詞］ɾɥə ［レベル］4　ɹ1:lccı【用例】 ʎlcı scnl len ɾɥə eɒɔ cn ɾɥə ɾeɒɾeɒ/heɾheɾ leɾeɤ この耳と尻尾を見ればわかろ？（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ʎlcı(ɹ) ［人名］［幼児］ちあ。ləlcı ıɥbızıɥɑ のこと。 ［レベル］6　ɹ1 ごろ :ɥəlɾ ［語法］ 親も使う。【用例】 lənı lənı, ʎlcı lccs. ちあたん、おいでおいで。

ʎlcıɾɔ,ılɾ　lcı　ʎlcı/ɾɔ

ʎlcın ［遊女］［代詞］ɾəın ［レベル］4　ɹ1:ʎlcı

ʎlcıhıɾ ［料理］お子様ランチ ［レベル］2　ɹɹ:ɥcɑcı:ʎlcı（しあの）/hıɾ（お皿）。池袋。昼食。ファミレス。

ʎlcılə,ılɾ　lıc

ʎlce ［名詞］ɾəlɑ ［生物］［医療］寒熱　ɑ;e

ʎlɔ(ɹ) ［幼児］ちゅっ、ちゅ。軽く触れる程度のキス ［動詞］ɥəl にキスする、キスする ［婉曲］キス ［レベル］1　古 ［語法］ キスの幼児語。或いは軽く触れる程度のキス。アルバザードではキスは性的であるから、キスという語をあまり使いたがらない者が婉曲にいうためにあえて ʎlɔ ということがある。

ʎlɔ,ɑu　ʎlɔl、ɾɔe　ɑıcı

ʎlɔʎlɔ,ɒɑɑ　ɾɔe　ʎlɔ/ʎlɔ

ʎlɔl ［料理］ガム ［レベル］2　1ɱ: 制 : 古 :lʎlı ［文化］ 精神安定剤、また、歯と顎の健康を守るとして、虫歯にならない甘味料のものが普及している。むしろ歯を守る成分が含まれている。アメリカ人並みにアルバザード人はガムを噛む。授業中は飲食禁止だが、水とガムだけは認められている。吐き捨ては禁止。

ʎlɔlɔ ［名詞］コカイン ［レベル］5　古

ʎlɔlɔn ［植物］サポディラ　1۹: 制 :ʎlɔlzɔɒ ガムの木

ʎlɔn ［動詞］ɥəl を舌打ちさせる、舌打ちする ［感動詞］チッ、ちっ、ちぇっ ［レベル］2　古 : 舌打ちの音 ［語法］ 怒りや不満や軽蔑などを表す。かなり不快の程度が高く、相手に喧嘩を売る覚悟がないと使えない。

ʎlɔn(ɹ) ［名詞］古アルカの５ ［レベル］3　赤→ ɹcɑıll

ʎlɔn,lɹl　ɫ　ʎlɔφc.l

ʎlɔφc,ɑu　ɑɥec　ɑen　/

ʎlɔl ［動詞］ɥəl を研ぐ、砥ぐ、とぐ ［レベル］4　1ʔ: 制 :ʎle　ʎlɔ: ［語法］ 鉛筆などは研げない。先を尖らす (dcl zɔɒl) という。

ʎlɔlɑɔl ［名詞］砥石 ［レベル］5　1ʕ: 制

ʎle ［動詞］ɥəl を磨く、磨く、みがく ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ʎlɔ（研ぐ、磨く）【成句】 ʎle ɑɥec 切磋琢磨

ʎle(ɹ) ［組み数字］１２/１４ ［レベル］4　語源不詳

ʎleɾ ［単位］マイナス３６乗　ɹ1:ʎlcɾ

ʎlel ［動詞］ɥəl をクリックする、クリックする ［普通動名詞］クリック ［レベル］3　ıl; ↓　1ɱ: 制 :ılılɾı:lʎlc。オノマトペから。マウスをクリックしたときの音から取った。【用例】 ɾı ʎlel ２クリック。２クリック詐欺などの。

ʎledcɾı ［名詞］研磨剤 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIɾ

ʎlelcl ［化学］ツリウム　1Δ: 制

ʎle ləllı ［人名］チェ＝ルッカ ［組み数字］１２/１４ ［レベル］4　語源不詳 ［文化］ (→ –L dıl ucɔ) 第４期３代アルシェ第１２使徒。男性。

ʎlə ［名詞］恥 ［名詞］(nı) 恥ずかしい ［類義語］ıɑcn、elɑcn ［反意語］ıɒd ［レベル］2　ɑ;e　赤 :ʎlə,ʎləə ［語法］ 自分の個性が維持できなかったときにアルバザード人は恥ずかしいと感じる。レインは自分は敬虔なキャラだと思っているので、性的なことを口走ったときに恥ずかしいと感じる。アルカの分からない静相手にも恥ずかしがったことからわかるとおり、アルバザード人は他者の目を気にしない。自分にとって自分のキャラと合わないことをしたときにのみ恥ずかしいと感じる。他人が見ていなくても同様で、そこが日本人と最も異なる。
　アルバザード人はプライドが高く、自分のキャラを崩さない。一般に恥ずかしいと認めるのは屈辱的である。だが、「自分は本当はこういうキャラじゃない」ということを主張するために、あえて自分から「恥ずかしい」ということがある。女が性的に喜んでいるときに自分から恥ずかしいといわないと淫乱に見えるので、わざと自分から恥ずかしいとアピールする。この「自分のキャラじゃないのよ」とアピールするための「恥ずかしい」についても考慮しておかなければならない。【用例】 nɔn nı ʎlə ıın. 恥ずかしいよぉ。 ın uɔɥɾıɾ ɹıɾ ɒcl ʎlə. 恥ずかしくて死にそうだった。

ʎlə,ɑ　lcɥ

ʎləɾ ［動詞］ɥəl をしゃぶる、しゃぶる ［レベル］2　1L:ɒel: オノマトペ。ユリアが物をしゃぶる音から。

ʎləɑcın ［地学］［歴史］エディアカラ紀　ul;/　ɹʔ ［文化］ φııueɑeɒe

ʎləlɔ ［名詞］ストロー ［レベル］2　ɹ1:ʎlə/lɔ。lɔ は管。ʎlə は擬音。

ʃɟeʃʃı ［人名］裏切りツェッタ ［動詞］ɥəl を裏切る、裏切る ［普通動名詞］ 裏切り、背信 ［レベル］３ ɥcɑcı: 古 : 前期からあるが、当初はサールだった。ところが内容のせいで神格化を失って人間に鞍替えされた。『制定語彙』では神として数えられている。

ʃɟeʃʃılccɑı ［天文］メンカリナン 1L:ɥcɑcı/ɟeɥen/ᴅel: 裏切りの星 ［文化］ ここが輝くときは凶兆。lɔɔne 座に位置する。

ʃɟeʃʃı e ɥəlcı ［哲学］囚人のジレンマ、ユリアの裏切り、双子の裏切り ［レベル］６ ɥɑ;ɟeɥen/ɥcɑcı/ᴅel J? ［文化］ ・現実的背景 ２０１２年１０月１６日、セレンは知り合いの女子中学生があまりに人生を舐めているので、一計を案じることにした。『闇金ウシジマくん』の１巻を読ませて「調子こいてるとお前もこうなるぞ」と脅し、１７日に読ませた。しかし彼女は全く反省せず、セレンは呆れた——という一件があった 一方セレンは１６日に、これは子供の社会の教科書として良いと思い、５歳の娘のルシアに読ませようとした。そして１８日までにリディアが絵本の読み聞かせのように、子供でも分かるような翻訳をして読んであげた。 その後１９日にセレンが紫亞に感想を聞いたところ、「闇金って儲かりますね」、「警察に逮捕されないように気をつけないとですね」という搾取側の視点でしか感想を言わなかったので、「搾取される側の感想は？」と聞いたところ、「あぁ、自分はギャンブルに興味ないし、ギャンブルはしないようにしようと思いました」と答えた。 その後「パチンコってなんですか？」と聞いてきたので説明。すると紫亞は「ギャンブルって儲かるんですか？」と聞いてきたので、「店が成立するってことはどういうことだと思う？」と聞き返したら少し考えて、「あ、儲かる人より損する人が多いから、それがお店の利益になるんですね！」と気付いた。 賢い解釈に気をよくしたセレンは、リディアやメルとともに期待値について教えることにした。簡単なギャンブルの話で説明し、期待値について説明したところ、紫亞はすぐ理解した。「で、ギャンブルってのは払う額より期待値が少なく、その差額が店の利益なわけだ」と説明したら、よく理解していた。紫亞は「期待値が払う額より少ないのにやるのはバカだということですね。あと、物事を選択するときは最も期待値が高い選択肢を選べってことですね」と理解したので関心した。 そこでセレンが面白がって、リディアとメルを使って一芝居打つことにした。食卓にある高い皿を紫亞とユルトのいないところでわざと割らせ、部屋に誰もいなかった振りをさせ、あとからメルとリディアに割れた皿を持たせて「誰が割ったの！？」と言わせるという芝居だ。リディアの芝居は臭いのでメルに主に任せた。メルが「あのとき家には紫亞とユルト以外誰もいなかったのよ。あんたたち二人しか犯人はいない。さぁどっち？」と詰め寄り、リディアは発狂して「高いお皿を割って知らんぷりするなんておしおきよ！」と詰め寄った。突然の発狂に震える子供たち。 もちろん身に覚えのない子供たちは「自分じゃない」と言う。そこで２人を隔離し、別室へ。そして互いにこう説明する。「お前も相手も互いの無実を主張すれば尻叩き３発ずつで許してやる。お前が相手を無実だと言っても相手がお前がやったと言えば、相手は無実になりお前は尻叩き３０回になる。逆の場合はお前が無罪で相手が尻叩き３０回。もし二人とも相手がやったと言えば二人とも尻叩き１５回だ。さぁどうする？」 ユルトはどうせろくに理解しないだろうからリディアに担当させ、紫亞にはメルに説明させた。このケースの場合、紫亞にとってはユルトがやったと言ってユルトのせいにしたほうが、期待値的に言えば罰が軽くなる。つまり期待値で見れば紫亞は無実のユルトを売ったほうが合理的である。 紫亞は期待値を計算して最も期待値の高い選択肢を選ぶだろうと大人は考えたので、３人とも「紫亞がユルトを売って、ユルトは性格的に紫亞を売らずにユルトが罰を受けるだろう」と考えた。大人たちの間で賭けて遊ぼうと思っていたが、全員同じ組み合わせに賭けたので賭けが成立しなかった。 ところが意外なことに紫亞は「ユルトはやってないし自分もやってない」と主張した。一方ユルトは予想通り両者の無罪を主張した。セレンが「お前、期待値考えなかったの？」と聞いたら、紫亞は「期待値を出したらゆうちゃんがやったことにするほうがいいんですけど、でもゆうちゃんはお皿が割れたとき紫亞と一緒にいましたから、やってません」と純粋な一面を見せた。それを聞いて喜んだのは主にセレンとリディアで、根性まで歪んでなくて良かったと言って、ネタばらしして褒めてあげた。 だが紫亞はその後「それに、ゆうちゃんの性格上、私がやったって言うはずないんですよね。ゆうちゃんが私を告発しない確率が圧倒的に高いなら、私もゆうちゃんの無実を主張したほうが逆に叩かれる回数の期待値的に好都合なんですよね。ゆうちゃんの行動パターンをも計算に入れた上での期待値を考えると、かえってゆうちゃんの無実を主張したほうが合理的なんですよね」という内容のことを喋り、結局情で選んだのか総合的な期待値で合理的な判断をしたのか分からなくなり、セレンとリディアは「あの子は怖い……」と言い合った。なお、メルだけは「この子は将来有望だ」と言って笑っていた。 ネタバレをした後なので、むろん尻叩きの刑は行わなかった。なお、ユルトが紫亞の無罪を主張すると分かっている場合、紫亞はユルトの有罪を主張すれば尻叩き０回なので期待値的に見てなおユルトを売ったほうが良い。しかし２人全体の尻叩きの平均回数を考えると、ユルトを売った場合は１５＋０＝１５回割る２で７．５回となる一方、ユルトを売らなければ３＋３＝６割る２で３回となるため、二人の総合的な期待値を考えればユルトを売らないほうが合理的である。紫亞は恐らくユルトと自分の二人の総合的な期待値で選択肢を選んだと思われ、優しさがかいま見えてセレンは喜んだ。 ・ ɥɑ では ɥɑ では上記のようなユルトとルシアを使った裏切りの実験をセレンらが行ったことから、囚人のジレンマのことを「双子の裏切り」と呼ぶようになった。

ʃɟeʃʃel ［魔物］ツェッテル（裏切箱）: 第五十七天 : 光の幻天 ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı/ɟeɥen/ᴅel:ʃɟeʃʃı/lec ［文化］ 憑族。本や石版や石碑や宝箱に住みつき、めくった瞬間や眼に入った瞬間や開けた瞬間、パッと光を出して獲物の目を眩ませ、そのスキをついて獲物に食らいつく。

ʃɟelʃ ［被服］ブレザー、ツェルト ［レベル］４ ᴅelʃcı JL1:lənɔ;e J?

ʃɟelcn ［地名］ツェリン J0 ［文化］ マンセイ南西部の都市。 ɥəəᴅı ʕɸɱʔ イーハル、現アリディアの ʃɟelcn に侵攻

ʃɟən ［名詞］区切り、くぎり ［動詞］ɥəl を ı（区切った数や結果などの状態）などに区切る、区切る、くぎる ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ıʅʃe:ʃɟən̩

ʃɟən̩ ［約物］ツンク、「,」記号、カンマ、点 ［レベル］２ 古 ［語法］ １：重文を作ったり、文や語句を区切ったりするのに使う。前者の場合、ɔɔ という音価を持つ。 ２：文中イントネーションを作る。,ȣ で ᴅɔ zlәənɔ。

ʃɟəl ［名詞］双方向 ［形容詞］双方向の、可逆な ［交通］一歩通行でない道 ［化学］可逆 ［反意語］ɿɔɥeʃ ［レベル］４ ɑ;l は「物」 赤 : 相互の

ʃɟəlᴅcɥə ［物理］可逆変化 ［レベル］５ 1L

ʃɟəlɥenɟ ［名詞］ダイアローグ ［反意語］ɿɔɥeʃɥenɟ ［レベル］５ ɥɑ;/ Jɱ

ʃɟəlcɟɔ,ılʃ ɥın, ɟee, ɟɔn

ʃɟəəʃɔn ［電算］モールス信号 ［レベル］５ JJ: オノマトペ。ツートンという音から。ツーが鳴っている状態で、トンが無音の状態を示す。 ［文化］ ・ネットユーザーによる定義 ı"・" c"ー・" ɔ"・ー" e"ー" ə"・・" ʃ"・・・" ɿ"・ー・" ʅ"・・ー" ɟ"ー・・" n"ーー・" u"ー・・・" ɑ"・・・ー" ᴅ"・ーー" ɑ"ー・ー・" φ"・ー・ー" d"・・ーー" b"ーー・・" h"・・・・" ɥ"・ー・・" ɗ"ー・・ー" ɥ"ー・ー" z"ーーー" s"・ーー・" o"・・ー・" l"ーー" 0"・・・・・" 1"ー・・・・" J"・ー・・・" ʔ"・・ー・・" ɱ"・・・ー・" ɸ"・・・・ー" ʕ"・ーーー" ɥ"ー・ーー" Δ"ーー・ー" L"ーーー・" ȣ"ーー・ーー" ɼ"ー・・・ー" ,(コンマ)"・ー・ー・" .(ピリオド)"ー・ー・ー" 訂正"ーーーー"

ʃᴅ ［歴史］アルテム、ıɥʃeᴅ ［レベル］３ J1

ʃd ［演繹音］とことこ、てくてく、てぷてぷ、よちよち、てこてこ、すたすた、ざっざっ、ぱたぱた、スタスタ、パタパタ、ぱからっぱからっ、パカパカ、とてとて、てて っ、ててて ［レベル］２ J1 ［語法］ 歩く音。走る音。人も馬も。

ʃɥə ［代詞］［ᴅclcı］あなた ［レベル］１ 1L: 古 : 女が男に使う二人称の ɑɥəɟ ɟɔə（あなた）から、始めの音を取り、音を清音に柔らかくしたもの。 ［語法］ ほかのユンク語同様、かしこまった席や怒った場合は ʃc に戻る。可愛く日常的に振舞うときだけ使う。 ほとんどのユンクは ʃc と混ぜて使う。

ʃɥə(J) ［遊女］［代詞］ʃə ［レベル］４ J1:ʃə

ʃɥə,ɟzɑ ʃən

ʃɥənın ［ɥənʃe］あなた自身 ［レベル］２ J0:ʅcɔn

ʃɥəɥ ［普通動名詞］決断、決意、決心 ［動詞］ɥəl を決断する、決意する、決心する ［レベル］４ ɥɑ;<ɟzɑ Jɱ

ʃɥəɥenɟ ［地名］テューレンス、燈京 ［弓道］礼射系 ［アクセント］ʃɥƎɥenɟ ［レベル］３ J1:ɥcɑcı ［文化］ ルティアの首都。ルティア語でのスペルは ʃəɥenɟ。ルティア語読みの場合はテュランで、アクセントも最後の音節になる。

ʃɥəı ［サール］テュア ［レベル］３ 古 ［文化］ ポエンと竜王ティクノの娘。アルデスの妻。高貴なものは他人に裸を見せないという理由で絹を纏って生まれてきた。そのため、アルバザードでは縁起を担いで服屋にはテュアが飾られている。クレオーンに命じて兄アルデスにバオナを起こさせ、自分との間に子を設けさせた。服を着て生まれてきたので、服飾（アクセサリーや靴なども）を司る。

ʃɥəıcn ［植物］アネモネ ［レベル］４ 1ɸ: 制 :ʃɥəıᴅcnı（テュアの花）

ʃɥəəl ［動詞］ɥəl と両思いになる ［普通動名詞］両思い、両想い ［反意語］ ［レベル］３ JJ: 古 ʃɟəl

ʃɥıɟ,ɑu ᴅıu

ʃɥın ［形容詞］高尚な、崇高な、高貴な ［反意語］beɥcl ［レベル］４ ɑu;e ılıʃı ʃɥın:ʃɥın:ʃɥın ［文化］ → ınʃel 高尚、知的、美麗、敬虔など、アルバザードの代表的な価値観のうちのひとつ。 【成句】 ɟenʃınʃ ᴅcl ɑəɥne ʃɥın. 高尚な夜をありがとう（ɟeɥen ıɥbızıɥɑ『ＮＡＤ』） 【用例】 lı eʃ ʃɥın. 彼は高尚だ。

ʃɥınɟ ［名詞］約束、誓い、ちかい ［動詞］ɥəl を ı に約束する、約束する、誓う ［類義語］dcnı ［レベル］３ ɟᴅ;ɟzɑ<ʃɥın/ɟɔləə J1:ɥɥəə:ʃɥınɟɔɔl（高尚な行為） 【用例】 ʃɥınɟ ı ʅɔɿ 約束を交わす ʃɥınɟ ʅɔɿ{ınʃoɟ} 交わした約束

ʃɥınıʃc ［名詞］高尚さ ［レベル］４ JJ

ʃɥcɿɔ,ɟzɑ ʅɔɟ <> c,ɑ/ɿɔ,ɑ

ʃɥcɿɔᴅelɔɥ ［軍事］天馬の尾、トリコメロール ［名詞］食後の後片付け役。 ［アクセント］ʃɥcɿɔᴅelƎɥ zφ:ʃɥcɿɔ,ɟzɑ/ᴅelɔɥ/ɟzɑ ［レベル］５ J1 ［文化］ lɥəɟcel 後片付け役というのは、複数人でレストランなどに行ったとき、店員に手間をかけさせないように客がテーブルなどを綺麗にして席を立つ際、綺麗にする役どころの人のこと。一番立場の低いものが行う。アルティア人が持ち込んだ習慣で、店員に対する気遣いというより自分たちのグループの恥を晒さぬようにという思いが強い。 【成句】 ʃɥcɿɔᴅelɔɥ ılcʃ 立つ鳥後を濁さず。eʃ とともに使う。

ʃɥcɿɔl,ɟzl ɑleə ʃɥcɿɔ,ɟzl/ıl,ɑ

ʃɥcᴅ ［化学］電子 ［レベル］４ ılıʃı

ʃɥcᴅʃcɑl ［化学］酸化 ［レベル］５ 1L

ʃɥcᴅʅcᴅ ［化学］還元 ［レベル］５ 1L

ʃɥcᴅɟıɟ ［化学］電子配置 ［レベル］５ J1

ʃɥcᴅeɟd ［化学］電子雲 ［レベル］５ J1

ʃɥɔᴅeɿcı ［人名］トロメキア ［組み数字］３／１６ ［レベル］４ ᴅelʃcı ʔɥ:ıɥɑə/eɟʃı;e 古 ［文化］ eɟʃı エスタの第３子。女。

ʃɥeʃ ［名詞］遠足、ハイキング、トレッキング ［レベル］３ 古 : 足音の

オノマトペ ［文化］ lɪzlɪ までは課題授業で年２回ほどハイキングに行く。お決まりの場所はワッカ。 【用例】 ɪnɟ ɪµɪʃ ucl ʃµeʃ ᴅcl eɟl. 雨が降ったので、遠足に行けなかった。

ʃµel ［法律］罰金、過料 ［レベル］３ 10: 制 :ʃµeφɪµ（罰の金）【用例】 ɑcʃ ʃµel ɑə 1000 ɟɔlʃ 罰金千ソルトを課す

ʃµeɟʃ ［名詞］試練 ［レベル］４ 古 ɟɔµn ［語法］ 何かのために乗り越える苦難のこと。µɑ でリーザがルティアの王位継承権を巡って行った洞窟巡りのようなものを指す。

ʃµen ［動詞］ɥəl を罰する、罰する、懲らしめる、懲罰する、罰を課する、お仕置きする ［法律］罰、刑、刑罰、ペナルティ ［レベル］３ ɟɔµ n:ʃµen（罰） 参考 : 古 :lɪhc,dcclcdəəφc,dcclc（罪）【用例】 nɔn ʃµen ɑɪn ʃɥə cɟʃ lelʃr 月に代わって、お仕置きよ！（『セーラームーン』月野うさぎ）

ʃµenuɪnʃ ［法律］罰法 ［レベル］４ ɺ0: 罪でなく罰の法。ɑcɟuɪnʃ だと、ほとんどの法が ɑcɟuɪnʃ に当てはまるため。 ［語法］ 刑法と民法の総称。

ʃµenlczno ［政治］刑罰庁 ［レベル］４ ɺ0 ［文化］ 事務省下。刑務所の管理、刑罰の実行などを担当する。公開処刑制度なので、死刑の実行も行う。 日本やヨーロッパと違い、死刑執行人は奴隷や身分の低い者でなく、むしろ高徳な役人が行う。刑罰庁には死刑専門の担当官がおり、どれも位が高い。→ ɪɑcɟɪnʃ

ʃµenɪʃc ［法律］量刑 ［レベル］５ µɑ;/「刑の程度」 ɺ?

ʃµenɪn ［ジョブ］刑吏 µɑ;/ ɺ0

ʃµenɔz ［法律］罰則、ペナルティ ［レベル］４ µɑ;/ ɺ0 ［語法］ 法令の中で違反行為に対する刑罰または過料を科する旨を定めている規定のこと。

ʃµeᴅɪ ［名詞］有効防御、軽傷 ［動詞］ɥəl を防ぐ、防ぐ、ɥəl は ɟɔl にあまり効かない、効かない、無効だ ［形容詞］（ɪn で）鉄壁な、堅牢な、難攻不落、無敵な ［類義語］ɪluɪn ［反意語］ccscɟ ［レベル］３ ɑu;e ɺ0 ［語法］ おおむね防御してあまりダメージがないこと。

ʃµeɪ ［人名］トレア ［名詞］アルカンスにおけるトレアの手 ［名詞］下巻 ［組み数字］３/３ ［レベル］２ 古 ［文化］ ɪµlɪnɟ サール信者で、アルカンスを巡ってブレア・スレアと争った。

ʃµeɪleelʃ ［化学］γグロブリン。他の血漿蛋白質と異なり肝細胞でなくＢリンパ球で作られる。 µʃ;/ ɺ0

ʃµeɪᴅel ［名詞］後期 ［レベル］３ 1L:clᴅəɟ:µcɑcɪ

ʃµeɪhɔ ［生物］坐骨 ［レベル］５ 1L:µcɑcɪ

ʃoɪ ［代詞］［ᴅᴅɪ］アンタ、あんた ［レベル］１ 1L:ʃɥə

ʃoɪl ［名詞］リゾート地、リゾート ［レベル］４ 1L:ʃoɪɪɥə/lɪ 【用例】 ɪn leʃ ʃoɪl e ɟɪezɔn ɔl lcʃe. 家族でスキーリゾートに行った。

ʃoɪµ ［人名］トゥワル ［組み数字］1/6 ［レベル］３ 1L:ʃoen/ɪµφc: 古 :ɪµφc: 神の金 ［文化］ ヴァノンの１番目。女性。財政担当

ʃoɪµzcɔ ［工学］解析機関、トゥワルジオ ɺ0:ʃoɪµzel のセリジオ ［文化］ cᴅəl 1ᴘ?Δ に ʃoɪµzel が父を手伝ってともに発明した。これがきっかけで大量の計算ができるようになり、アンジェルの作成にこぎつけた。解析機関は穴を空けたパンチカードで動作する魔法のいらない機械であった。このパンチカードは nenlɪµʃ という。

ʃoɪµzel ［人名］トワーゼル ［組み数字］１６/１６ ［レベル］４ ᴅelʃcɪ ᴘ0:ɪµɑə/eɟʃɪ;e 古 ［文化］ eɟʃɪ エスタの第１６子。女。

ʃoɪµzel ɑcɟcɑcɪ ［人名］トワーゼル＝ディシディア ɺ0 ［文化］ (cᴅəl 1ᴘ1ɺ:1ᴘΔ1)µɑ の工学者。ルティア人で、シグナリオ校の高等部を経てラグナロクの大学部へ進学。卒業後は研究室に入り、シグナリオとラグナロクを繋いで巨額の研究費を得てアンジェルを開発。

ʃoɪµlcl ［化学］ハフニウム 1L

ʃoɪl ［代詞］［ᴅᴅɪ］アンタの ［レベル］１ ɺ1:llccz:ʃoɪ/ 古 ɪl。ʃoɪn は ʃəɪn と似るため ‹ʃoɪn:1L:ʃoɪ/n

ʃoɪɪɥə ［地名］トワーユ、天国、ヘブン ［反意語］lɪʃcɪ ［レベル］２ 古 :µcɑcɪ: 語源不詳 ［文化］ → lelɪc ｜約 1?9 億年前 |ɪµɑel が天国 ʃoɪɪɥə と地獄 lɪʃcɪ に分裂｜ 【成句】 ɪlʃ le nene lɪ ʃoɪɪɥə ～の後を追う。

ʃoen ［エルト］トゥウェン ［動詞］ɥəl を ɪ に寄付する、寄付する、募金する、恵む、提供する ［普通動名詞］寄付、寄贈、募金、恵み、提供 ［レベル］３ µcɑcɪ: 古 ［文化］ 富を平等にする老婆の姿をしたエルト。貧しいものに富を与えたり、富める者に喜捨させようという意志を与える。が、サールのガーレスによってその殆どの力を封じ込められている。文化的解釈としては、「喜捨の精神を人間の強欲が邪魔している」という意味を持つ。 【成句】 ʃoen ɑileɟ llɔɟɪn lɪu. やかましく騒ぎ立てるやつはあまり多く恵んでもらえない：慌てる乞食は貰いが少ない nɔn lɔµɪʃ ɟeɪ cᴅ ɑcɟ lɪnɪ ʃoen eµc. 今日は献血しにモールへ行った。

ʃoennɪleɪ ［企業］トゥウェンナケア ［レベル］４ ɺ1 ［文化］ 日清に相当する企業。戦災時・騒乱時・災害時に配給係りとなったことで名を馳せた。

ʃoenɑcɟʃ ［交通］西条、西大通り ［名詞］白虎、トゥウェンディスト ［レベル］３ µɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から ɺ?

ʃoenφcl ［名詞］寄付金 ［レベル］３ ɺ1 ［文化］ ɑɪcφ

ʃoenlczno ［政治］慈恵庁 ［レベル］４ 1L ［文化］ 召還省下。低所得者への生活保護、炊き出し、税務庁との協同で高所得者からの喜捨の拝受などを行う。かつてカルテ神の恵みを受けたものを配給していたことから、召還省下に置かれる。

ʃoenleᴅc ［歳時記］恵みのスープ ［レベル］３ ɺ1 ［文化］ ucɔ lɪl のイベントで、カルテで大規模な炊き出しを行う。元は µʃ でホームレス相手に行った慈善事業が始まりで、当時はカルテがないので大通りや公園で行われた。現在は冬で室内に籠もりがちな時期なのでたまには外に出て暖かい物でも飲もうという意味合いが強く、スープなどを作って配る。

ɾlɔc,ɑu ɑɪµ e

ɾlɔcnʃ,ɟzɑ ɑɪµ ɾlɔc

ɾɪ ［単位］２ ［レベル］１ 10 ɟees:ɥɔə:lədə,ɪlʃ

ɾɪ(ɺ),ɪlʃ le ‹›ɾɪ

ɾɪ,ɑ ʃɪnʃ e

ɾɪ,ɪlʃ eʃ, ɑɪ ɪɪɾɪ

ɾɪʃ ［格詞］～ごとに、～おきに、～につき ［名詞］周期 ［物理］波の周期 ［レベル］２ 1?: 制 : 恣意 ［語法］ １周期にかかる時間や量を述べる。ɾɪʃ ɟɔɔʃ で「一週間ごとに」。一回が巡ってきてから次の一回が巡ってくるまでの期間を表わす。 【用例】 ɾɪʃ ɺ ɟel 隔日で ɾɪʃ ɺ lelʃ 隔月で ɾɪʃ ɟel 毎日 ?000 dɪµᴅɟɔlʃ ɾɪʃ 1 µɪɟ ɑeel. ɥəə uɪɑe ɔn ʃə ɪsc. ３０００円で１回で、空くじなし。

ɾɪʃ(ɺ) ［化学］ケトン 1L:ɾɪ/ʃeɟ。この ʃeɟ は任意の有機物Ｒを意味する ʃ で、電気ではない。アルデヒドの語源も同様。

ɾɪʃɾɪ ［格詞］［ɥənʃe］lɔllɔ の否定 ［レベル］１ 1L:µcɑcɪ: 赤 lɔllɔ からの造語。lɔllɔ は音象徴「コ」（内側、来るなどの意味）の繰り返しでできている。「コ」の反対は「タ」。タンタとコンコ、ルタとルコなどの語に現れている。ケッタとケッコの違いにも生きている。新生でも意味は少し変わったが leʃɾɪ, lellɔ は生き残っている。lɔllɔ の反対なので、それを模して ɾɪʃɾɪ としたもの。意味は lɔllɔ の反対。

ɾɪʃʃɪn ［名詞］バタバタ、パタパタ ［運動］水泳のクロール ［レベル］３ 1L:ɾɪʃn:1ᴘ: 制 : 古

ɾɪʃʃɪoɪ,ɪlʃ 反実仮想の助詞

ɾɪʃʃɪoɪn,ɪlʃ 反実仮想の助詞。女性形。

ɾɪʃʃɪen ［ɥənʃe］［接続詞］～のいない、～を使わない ［レベル］２ ɺ0:ᴅelcɑ cɪ lceµ

ɾɪʃʃe ［普通動名詞］スキップ ［動詞］ɥəl をスキップして ɪ に行く ［レベル］２ ɑu;ʃɪnʃɪ.l 古 :ʃɪnʃɪ と同根。メルのステップの際の声が変形して語彙化したもの。

ɾɪʃle ［普通動名詞］ダブルクリック ［動詞］ɥəl をダブルクリックする、ダブルクリックする ［レベル］３ ɪl;/ ɺ0

ɾɪʃlelʃ ［名詞］月極 ［形容詞］月極の ［レベル］４ ɺɺ

ɾɪʃlelʃɪᴅɔlɪ ［名詞］月極駐車場 ［レベル］４ ɺɺ 【用例】 ɟʃcʃ ɾɪʃlelʃɪᴅɔlɪ 月極駐車場を借りる

ɾɪʃɟ ［親族］親戚、身内 ［生物］属 ［言語］州方言 ［文字］ファミリー。具体的なスタンダード ミディアムなどは種 (lcʃe)。 ［レベル］２ 1?: 制 :ɾɪ ɾɪ ［語法］ eµn より狭く、lcʃe より広い。eµn > ɾɪʃɟ > lcʃe の順。eµn のうち、一緒に暮らしていないものを指す。

ɾɪɾl ［地球の国名］ジブチ 1L: 国章に２本の腕

ɾɪɾl(ɺ) ［魔法］虚斥力 ［反意語］lɔlɔʃ ［レベル］５ ɪµɑ;ɾɪ/ɾɪ ɺ1 ɑcɪɾɪɾl: ［語法］ ɪµɑ では斥力一般。従って ɪµɑ では虚斥力のことを ɑcɪɾɪɾl と呼んだ。ɪ では虚斥力のみを指すので ɑcɪ は不要となった。

ɾɪɾɪlɪ ［植物］ユキヤナギ ᴅʃ;ɪlʃ ɺɺ

ɾɪɾɪlc,ɪlʃ ɪlʃc 「上るところ」

ɾɪɾɪlə,ɪlʃ nel

ɾɪʃɔʃɪbe ［化学］二級イミン 1L

ɾɪʃɔlɔbe ［化学］二級アルジミン 1L

ɾɪʃɔllelʃ ［名詞］先々月 ［レベル］２ µɑ;/ ɺ?

ɾɪʃɔlɟɪlʃ ［名詞］一昨年、おととし ［レベル］２ µɑ;/ ɺ?

ɾɪʃɔlɟɔɔʃ ［名詞］先々週 ［レベル］２ µɑ;/ ɺ?

ɾɪʃɔlel ［名詞］おととい、一昨日、おとつい ［反意語］ɾɪleɟʃ ［レベル］２ 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɟ 【用例】 cᴅ ɾɪʃɔlel おとといに

ɾɪʃɔbezɪl ［化学］二級アミン 1L

ɾɪʃe ［親族］おじ、おば、叔父、伯父、叔母、伯母 ［レベル］２ 古 : 親戚。赤アンクノットにはないが、以前は赤と書いてあった。誤記のはず。

ɾɪʃeɟ ［ユマナ］２ちゃんねる、２ちゃん ［レベル］５ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

ɾɪʃen ［接続詞］ɾɪʃ。～ごとの。 ［レベル］３ ɺ1

ɾɪʃel ［形容詞］地道な、着実な、こつこつ、コツコツ ［反意語］ɪlʃɪʃel ［レベル］３ µɑ;ɾɪʃ/el。ɾɪʃ を動詞とみなして「周期的に歩む、進む」という意味で使い、その副詞形の ɾɪʃel に「周期的にこつこつ歩むような」という意味を与えたもの。 ɺ?

ɾɪʃeeɟ ［言語］二重否定 ［レベル］４ ɺ0 ［語法］［文化］ ɪn en cnɪʃ en lɪ（彼女でない人を見なかった）のように、否定を二度行っているもの。ʃə ɑe lɪn lel ɪn en cnɪʃ lɪ も二重否定。 en 以外にも二重否定は起こる。ɪn ɔlʃ ucl ʃə ɪlɪl は論理的には「絶対それを伝えられないことはない」で、この意味で使うこともあるが、単に否定の強調で「絶対それを伝えられない」の意味で使うほうが多い。ただしインテリ層はこの非論理的な用法を嫌うことがある。

ɾɪl ［生物］腕 ［反意語］zɪᴅ ［動詞］ɥəl を抱く、抱く、抱える、抱きかかえる ［普通動名詞］抱っこ、だっこ ［類義語］ɟɪuɪn、lcoɪ ɟeµʃ ［レベル］１ 1?: 制 ɾlc:ɾlc:lə ɟɪuɪn（棒状）:lcoɪ,ɪlʃ 【成句】 hɔᴅ ɾɪl ɪ ～に対して素直な、正直な。lɪʃeᴅ 参考。 ɑeɥə ɾɪl ɪ{ʃel} ～に対して不器用な、頑固な、素直でない 【用例】 lnɪl ɾɪl 腕を伸ばす lcᴅ ɾɪl 腕を曲げる lcᴅ ɾɪl lɔµ sɪᴅ 腕を引っ込める ɟɔlʃ ɾɪl 腕を組む：悩み、思考、不快、敵意、脇腹痛などのときの仕草。 ɟɔµɑ ɾɪl 手を挙げる、挙手する

ɾɪlʃ ［政治］派、派閥、リーグ 甘党、辛党、猫派などの「派」［レベル］

3　古 :「（ソーンとの和平に）賛成するか？」という言葉から。【用例】 ʃiʅʃ e ȷɔʮn ソーン派

ʃiʅcʃ ［生物］腕の付け根 ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcȷ

ʃiȷ ［植物］マホガニー ［レベル］6　ɪiʅɪ: そういう家具の名前

ʃiuɪȷ ［娯楽］腕相撲 ［レベル］2　1L ［文化］ やり方は日本と同じ。

ʃil ［被服］腕輪、ブレスレット ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɹɪɑ:ʃiʅhɔlɔ（腕輪）

ʃilɔnz ［名詞］腕枕 ［レベル］4　1L ［文化］ 彼女に対して彼氏、子に対して母、娘に対して父の組み合わせしかない。後者は娘が５才になる程度でやめる。【用例】 ɑcʃ ʃilɔnz ɪ nene ～に腕枕してやる nɔn en nɪ eȷcl ɪ lcɑcɪ ʅɔʅʅɔ ʃilɔnz. 誰かの腕枕で寝るのは快適ではない。

ʃiɪ ［地学］大陸 ［形容詞］～大陸。前置。 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 恣意 ［文化］ ɪʅiɪʃ, ȷɪucɪ, ɑɪbeʮ, ʅeueɪ, ɪɑenʃɔ, lecuɪ の６大陸。uȷ までは ʅlenɑcɪ も含まれた。　地球の大陸と比べると､日本では６大陸だから同じで､欧米では７と教えることが多いので１つ少ないことになる。

ʃiɪ,ɪlʃ　lyə　ʃi/ʅɪ

ʃiȷʅɪɑ ［地球の国名］セントルシア　1L: 国旗に黒い三角と黄色い三角

ʃiɪᴅeᴅ ［組み数字］タカサークル ［レベル］5　ɹ1 ［文化］ ʮɪdɪll

ʃiɪȷcʅ ［経済］貿易摩擦 ［レベル］5　1L

ʃic ［生物］人体の脇、わき、わきのした、脇の下、腋窩、えきか ［レベル］2　1ʕ: 制 :ʃiʅ ［語法］ 脇の下が中心。腋毛が生える部分がさらに中心となる。広義には肩の肩関節部分も含むが、ふつうここは ɑlel。服飾や刀文化の関係で、アルティア人のアルカ話者などは肩の肩関節周りから脇の下まで大雑把に ʃic で指すことがある。

ʃichclȷcen ［生物］腋窩横紋　ʮɑ;/　ɹʃ

ʃicscɔʮ ［生物］極泉　ɹ1

ʃiclᴅ ［名詞］敗者復活 ［名詞］敗者復活戦 ［名詞］ダブルイリミネーション、ダブルエリミネーション ［レベル］5　ʮɑ;/ | ʮɑ;ʃiclᴅɑɪljeucʃɪ から ɹʃ 【用例】 ɪʮ ʃiclᴅ ȷɔu uɪȷʃɪn ɔ uɪɑeɪn 勝ち抜いた者と一度敗れた者の間で敗者復活戦を行う　ɪʮ ʃiclᴅ ȷɔu uɪɑeɪn ȷecn 敗者同士で敗者復活戦を行う

ʃiccnc ［生物］脇毛､わき毛､腋毛 ［レベル］3　ɹ0 ［文化］ 男性は剃らず、女性は通常剃る。女性で残しているのは日本同様恥ずかしいことに当たる。

ʃiɔʃɪn ［農耕］二圃式農業 ［レベル］6　ʮɑ　ɹɹ ［文化］ → ucʅɔʃɪn　zφ でカルテ神の恩恵を失ってからできた農法。冬雨型の気候のもとで小麦の冬作と休閑を繰り返す。レスティルで始まり、徐々に北へ広まった。

ʃieȷʃ ［名詞］あさって、明後日 ［反意語］ʃiʃɔlel ［レベル］2　1L:lcɔn

ʃieȷlelʃ ［名詞］再来月 ［レベル］2　ʮɑ;/　ɹʔ

ʃieȷȷɪlʃ ［名詞］再来年 ［レベル］2　ʮɑ;/　ɹʔ

ʃieȷȷɔɔʃ ［名詞］再来週 ［レベル］2　ʮɑ;/　ɹʔ

ʃiel ［動物］フウチョウ、風鳥、ゴクラクチョウ、極楽鳥　ʮɑ;‹ɑφn　ɹʃ

ʃielcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ふうちょう座　ɹʃ ［文化］ cɑɪ

ʃil ［形容詞］速い ［反意語］ɑeᴅc ［魔法］タッシュ（ヘイスト）。中位時魔法。時間を歪めて速度を上げる。 ［音楽］アレグロ ［レベル］1　ȷeʮʃ　1ʔ: 制 :ʃəl: 古 :ʃlcʃe（速い） ʃlcʃe:ʃlcʃe:ʃil:ʃɔʃɔlə,ɪlʃ 【用例】 ［メタファー］ʃil yən bəb ハエのようにすばしこい : 邪魔くさい感じ　ɪᴅɔ ʃil 速い車

ʃilȷɪʮ ［動詞］yəl を ɪ（シーンなど）まで巻き戻す、巻き戻す ［普通動名詞］巻き戻し ［類義語］ȷɪʮ ［反意語］ʃildɪʅ ［レベル］3　ɹ0 ［語法］ ʃildɪʅ

ʃilucᴅ ［生物］速筋 ［レベル］5　ɹʃ‹ɹɹ

ʃilɑɔnʃ ［交通］高速道路、上 ［レベル］3　1L:ʮcɑcɪ:ɪʮbɪlelʃ

ʃildɪʅ ［動詞］yəl を ɪ(シーンなど)まで早送りする､早送りする ［普通動名詞］早送り ［類義語］dɪʅ ［反意語］ʃilȷɪʮ ［レベル］3　ɹ0 ［語法］ dɪʅ は見ながらの早送り。ʃildɪʅ は一時停止してからの高速早送り。

ʃillɔd ［交通］急行電車 ［レベル］3　1L:lcɔn

ʃilɪ ［名詞］ジェット ［動詞］yəl を早く噴出する、噴出する、噴射する ［普通動名詞］噴出、噴射 ［レベル］3　1ʃ: 制 :ʃilblɪ

ʃilcʃ ［名詞］速さ、スピード、速度 ［音楽］テンポ ［レベル］2　1L:ᴅel:ɹ1 に ʃilɪʃc にしようとしたが長いので ʃilcʃ はこのまま残した。語源は ʃil/ɪʃc となる。【用例】 ʃə ɪʃ led lel ɪn ʃɔc ʃilcʃ. スピード調節が難しかった。

ʃilcʃledl ［法律］ネズミ捕り、ねずみ捕り、ねずみとり、ネズミトリ、ネズミ取り、ねずみ取り ［レベル］6　ʮʃ;/　ɹʃ ［文化］ 自動車が普及するにつれてスピード違反を取り締まるために行われたが、旧革命で道路の整備とともに、そもそもネズミ捕りというやり方が「卑怯で汚い。その上やったりやらなかったり、全員が一律に罰せられるわけでもないのがアンフェアだ」と、アルバザード人の精神に反したため、非難を浴びて廃止された。よって ul 以降では存在しない取り締まりである。

ʃilcn ［動詞］yəl を一瞥する、一瞥する、ちらっと見る、チラ見する ［普通動名詞］一瞥、いちべつ、チラ見 ［レベル］3　1ʔ: 制

ʃile ［動物］チーター ［レベル］3　1L:ʃil（地上で一番速く走るので） ［擬声］ ədcc（威嚇）、φrlrlrl（唸り）、ʅyən、ʅyəə（呼び合い）

ʃileᴅ ［普通動名詞］加速 ［動詞］yəl を加速する､加速する ［レベル］4　1L ［語法］ 論理的に言えば「速くすること」なので、加速ではない。加速は時速１ｋｍから２ｋｍにしても加速といえるが、時速２ｋｍ自体は遅い。従って正しくは ʃiᴅcᴅecɑ というべきであるが、単に長くて面倒くさいので避けている。

ʃileᴅȷcɪ ［魔法］加速膜 ［レベル］6　ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

ʃileᴅȷcɪʮɔʅucɪn ［魔法］加速膜斥力　ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

ʃileᴅɪʃc ［物理］加速度 ［レベル］4　1L

ʃileᴅɔu ［物理］加速度運動 ［レベル］4　1L

ʃiȷ ［名詞］試験、テスト、実力テスト、検定、検定試験、考査 ［レベル］2　1L: 制 :ʃidȷ ［文化］ 日程→ ɑcɪȷel, ᴅelȷel　・日程　学生の試験は毎年二回実施される。ディアセルの直前と、メルセルの直前である。卒業見込み生にとってはメルセルの直前の試験は卒業試験でもある。試験は授業と同じ時間割で行われる。記述式の試験で、マークシートはあまりない。また、筆記試験の他に面接試験もある。口頭で質問される事項に答えられるかがポイントとなる。　試験の結果は ɑɪnʃ, eʮɑc, leʃʃc, ɑʮeɪ で評価され、ɑʮeɪ は赤点である。評価は絶対評価である。だからその気になれば全員が ɑɪnʃ でもありえるし、全員が落第することもある。　・アルバザードの試験　アルバザードで実施される試験問題は、どの科目でも単に答えを出せばよいものではなく、「なぜそうなるか」が含まれるものが多い。国語算数理科社会どの科目であれ、「なぜ」を考えさせる仕組みになっている。これはアルバザード政府が自発的に考える人間を育成したいと考えているためである。以下に例を挙げよう。　アルバザードにおける数学の試験問題例　ミールは問うた。「０！は、ふつうに考えれば０になると思うが、これは正しいか」 ミールの考えは正しいか。もし正しいなら証明せよ。もし違うなら、なぜミールはこう考えたのか説明し、０！の値を求めよ。　模範解答　ミールの考えは誤り。ミールが０！＝０と考えたのは、「階乗はｎから１まで１つずつ数を変えながら掛けていくもの」と考えたため。よって彼女は「０！＝１×０＝０」と考えた。　他方、（ｎ－１）！＝ｎ！÷ｎであり、ｎ＝１のとき０！＝１である。よって０！＝１。　以上を見ても分かる通り、アルバザードでは物事を言葉できちんと説明できる人材を育成している。　計算だけなら機械でもできる。問題だけならパターンプラクティスをすれば誰でも解ける。計算だけしても演習だけしても「なぜかを考える力」はつかないし、理屈を言葉で説明する力もつかない。　アルバザード人は論議が好きな民族である。相手が間違っている場合、なぜ相手が間違っているかを説明する必要がある。自分の正しさを証明するだけでなく、なぜ相手がそのような間違った考えをしているのか、その思考の過程を汲み取って理解する必要がある。　議論において重要なのは自分の正しさを主張することだけではない。相手の間違った思考回路を指摘し、説明することもまた大事である。そうでなければ完全に論破したことにはならないし、第一相手が納得しない。　分かっていない人間にはなぜその思考過程が間違っているのかを説明する必要がある。それゆえ、アルバザードにおける問題はこのように誤った思考回路を提示し、なぜそれが間違っているのかを説明させた上、相手がどのような思考過程でそのような誤謬に至ったかまで説明する必要がある。日本人の識者はしたり顔で「なぜ『ふつうに考えれば０！＝０になる』のかがむしろ全く理解できないのですが」というようなセリフを吐くが、これは自分の持っている正しい知識の量をひけらかしつつ、自分の正しさをさも当然のことと涼し気な顔で言いたいだけである。アルバザード人は相手の思考回路を理解できない己の無能さを恥じるため、そのようなセリフは恥と捉え、言おうとしない。　アルバザードではこのように、問題の背景にある「なぜ」に答えねばならない。その上で日本と同じように通常の演習問題も解かねばならない。ゆえにアルバザードにおける試験は日本のそれと比べると非常に難しく、また論議力を付けさせる上で非常に有益であるといえる。　日本でいうような単にお勉強ができる秀才タイプでは、切り抜けられないことが多々ある。自分で言葉を使って自分の考えを表現し、相手の考えを理解した上で言葉で整然と反論できる力がないと生きていけない。　アルバザードは上層部にマニュアル人間を必要としていない。それはアルバザードが ȷᴅ から２０００年近くにわたって持ち続けてきた理念である。当時のアルバザードはルティアのような魔法兵団もなければメティオのような魔獣兵団もなく、特筆したものがなかった。それが世界一の強国になったのは、常になぜかを考え独自の発想を生み出す人材を育成してきたためである。　アルバザードにおいて単なる計算問題のような設題はまずなされることがない。例えば１＋１＝２のような簡単な計算問題であっても、「１＋□＝２になるような数を□に入れなさい」などという形で出題され、計算以外の思考を強制させられる。　反面、ɑc ɪnʅɪ のような低学年のうちは計算力が大事とされるため、lɪzʅɪ 以降とはまるで逆で、完全に公文式で理屈抜きでひたすら計算問題や書き取り問題を写経のようにやらされる。特にアルナ校のような名門校では、子供が腰痛になるくらいの量を出題し、演習させる。　暗記科目も ɑcɪnʅɪ のうちに地獄のように覚えさせられる。例えば日本では６年生までに歴史を覚えるが、アルバザードでは ɑcɪnʅɪ のうちにイルムス全てを暗記させられる。　なお、アルバザードは合理主義の国なので、適材適所や船頭多くして船山に登るといった事柄も認識している。　アイディア力のある人間ばかりいても技術者がいなければモノづくりはできない。そこで ᴅɪnɪʅɪ に行く際に、普通科に行くか専門科に行くかを選択する。専門科に行くと公文もびっくりするくらいのパターンプラクティスと演習の繰り返しの日々が待っている。そこでは考える機会は奪われ、ひたすら機械になるよう徹する訓練が行われる。いわゆるブルーカラーやＩＴワーカーにこの層が多い。　なお、言うまでもなく支配層は普通科出身の「考える力のある人間」たちである。問題は解けるがそれを説明できない人間は日本と違って見下される傾向にある。【用例】 uɪȷʃ ʃiȷ 試験に受かる　uɪȷ ʃiȷ ʃ'ɪlɑ 数学の試験を受ける、数学の試験がある　eu{ɪʮ} ʃiȷ 試験を課す、試験を行う　ɪn ʃcl ʃiȷ cᴅ ʅeȷʃ. 明日はテストがある。　ɪʮ ʃiȷ 試験を受ける、試験を与えられる、試験を与える。多義的。　"cᴅ ʅcʃ, ʃə ɪʃ ʃiȷ ʅɪlcȷ le ʅcd ɑɪsnɪ lɪɪʃeȷ.「最初はちょっとした親切心を観るためのテストだった。　"ȷee nɔn euɪʃ ʃiȷ ʅeȷ ɪ lenɑc yəlc ɑɪs ȷecn.「そんな親切な子供たちに次のテストを行った。

ʃiȷȷɪnɔ ［名詞］試験日程 ［レベル］4　1L:ʮcɑcɪ:ɪʮbɪlelʃ ［文化］ ɑcɪȷel, ᴅelȷel

ʃiȷn ［動詞］yəl を証明する、証明する、実証する ［普通動名詞］証明、実

証 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ıɉen（反省、証明）← ıµſıɉen 【成句】 ſıɉn eɉſ 名を証明する : 面目躍如

ſıɉnµenɉ ［名詞］証言 ［動詞］ɥəl という証言を言う、証言する ［レベル］4　µɷ;/　ɈɱՈ

ſıɉnıb ［名詞］証拠 ［レベル］3　1L:lcɔn

ſıɉnılene ［名詞］実証不可能性、証明不可能性 ［レベル］5　µɷ;/　Ɉʔ

ſıɉnene ［名詞］実証可能性、証明可能性 ［レベル］5　µɷ;/　Ɉʔ

ſıɉᴅ ［名詞］証明書、証書 ［レベル］4　1ʔ: 制 :ſıɉᴅıɉ

ſıɉhɔcın ［名詞］試験監督、試験官 ［レベル］4　Ɉ0

ſıɉıııl ［数学］フィボナッチ数、フィボナッチ、フィボナッチ数列 ［レベル］5　µɷ;/「前にある２つの数の和の数」 Ɉʔ ［文化］ ɾlu でユルグが発見したのが最初。　人類が再発見したのは zφ のシージア人。　その後 ɉᴅ でアルバザード人が再発見し、µɷ 以降へと継承された。
　・現実では　　Ɉʔ 年にルシアがセレンにプリキュアの話をしていた。面倒に感じたセレンが適当に話を流して「そんなことよりフィボナッチ数の話をしようぜ」といい、その際に ſıɉıııl と命名し、「今からフィボナッチ数について説明するから」と言った。「０，１，１，２，３，５と来れば次に何が来ると思う？」と聞いたら、面白がってしばらく考え、「８です」と答えた。「なんで？」と聞いたら「前の２つの数を足しました。え、だから ſıɉıııl（２つ前の数）って言うんですよね？」と言った。ネーミングが理解を促進させてしまったようだが、それでも解けた。　他方、ɈɈ 年にセレンが向かいの家の９歳の娘に同じ問題を出したときは「７です」と言われ、正答にはならなかった。私立に通うお嬢様なのだが、解けなかった。ſıɉıııl という命名の分かりやすさのせいもあるだろうが、やはりルシアは賢いと感じた。
ちなみにユルトに同じ問題を出したところ、こちらの言っている意味すらよく伝わっていなかったようだ。数列という概念がそもそも彼の頭にないらしく、「次に何の数が来る？」と聞いても「は？」という顔だった。数が意味を持って順序良く並んでいるということすら理解できていない。彼の貧弱な頭では、先の集合はただ６個の数が意味なく置かれているにすぎないのだ。セレンは興ざめして彼に教えるのをやめた。

ſın ［形容詞］〜も、〜もまた、同様に〜も、同じく〜も ［レベル］1　1ʔ: 制 : 恣意　参考 : 古 :lɔlı「仲間」【用例】 ın ɉccnı ɔᴅı ſın. 犬も好きだ。　ın ſın ɉccnı ɔᴅı. 私も犬が好きだ。　ın bıɔφıſ ſın lı. 私は彼を殴りもした。殴った以外に何かしたことになる。

ſın(Ɉ) ［人名］ウムトナの略称 ［組み数字］１６／２８ ［レベル］1　制

ſın,ɑ　ɔµ, eɉ　e

ſın,ɷᴅ　lenɔ

ſınſ ［名詞］外、屋外、野外、アウトドア ［名詞］漠然と建物や家や部屋の外 ［形容詞］屋外の、戸外の、露天の ［格詞］〜の外で ［格詞］〜のくせに、〜の癖に ［反意語］dɔſ ［レベル］1　1L: 古 :ſınſı　ſı, ſınſı:ſı, ſınſı ［文化］
　日本と違い、男女は明確な役割分担をしているため、女なのに料理ができないとか、女なのに口汚いといった場合は、ſınſ ᴅcn（女のくせに）と言われる。日本ではそう言われると逆ギレするが、アルバザードだと恥じる。女のくせにと指摘することで相手を女の範疇に押し込め、適正な位置に矯正するという意味で、社会的善であるとされる。　当然、男にも同じことが言える。男のくせに喧嘩ができないとか、戦えないなどと揶揄され、逆らうことはできない。【用例】 ſınſ ıſ ueµſ lılel. まだ外は暗かった。　ſc eſ lɔɔı ı bel ſınſ ᴅcn. 女のくせに料理もできないのかよ。

ſınſſıə ［経済］通販、通信販売 ［レベル］4　1L: 店の外で買う【用例】 ☆ el ſıə ɉen ɷcdcſ ɑeµel ſcnlı uıµ lec ſınſſıə e ſɔɑ nɔɷ sɔſlec. オンライン通販のほうがカタログ通販より値段がずっと安い。

ſınſſcu ［運動］野試合　µɷ;/　ɈɱՈ

ſınſɉe ［軍事］雷管 ［レベル］6　µɷ;ɑɔueſ。雷管を打つときの音から。ɈɱՈ ［文化］ φel

ſınſɉeφel ［軍事］管打ち銃、パーカッション　µɷ;/「雷管銃」 ɈɱՈ ［文化］ φel

ſınſueᴅl ［数学］［物理］［地学］外射 ［レベル］5　Ɉ0

ſınſhcᴅ ［生物］外性器 ［レベル］4　1L

ſınſhcᴅſ ［生物］外陰部 ［レベル］5　µɷ;/　ɈɱՈ

ſınſµenɉ ［芸術］書き文字　1L

ſınſleeu ［普通動名詞］外出し、膣外射精 ［反意語］dɔſleeu ［レベル］4　µɷ;/　Ɉʔ ［文化］ → dɔſleeu　あまり効果のない避妊法として用いられる。

ſınſləoı ［被服］土足 ［レベル］3　ɈɈ

ſınſı ［名詞］［形容詞］ジグザグ ［動詞］ɥəl をジグザグ状にする、ジグザグにする ［レベル］2　1L: 古 :ſınſ: メルの遊びから。地面に丸をジグザグ上に書いていき、丸から丸へと毎回足を変えながら片足で跳躍していくという遊び。メルは跳ぶたびにリズムを取って ſınſ·ſınſ·ſeenſſ と喋っていた。これは当時セレンやリディアが与えたオノマトペで、ジグザグの意味で使い出したのはオヴィが始めで、自転車の乗り方の話をしているときだった。

ſınſı,ɑ　ſınſ　ſı が外。

ſınſılɔ ［名詞］アウトドア、野外活動 ［レベル］4　1L【用例】 ın ɉccnı ɑleı ᴅın ſə eſ ɷız uecn ı ſınſılɔ. 野外活動により適しているという点で夏が好きだ。

ſınſın ［音楽］ポルカ ［レベル］5　Ɉ1: リズムの擬音

ſınſcɑın ［天文］太陽系外惑星 ［レベル］4　Ɉ0: 太陽系の外の惑星であることから

ſınſɔᴅ ［生物］嬰児、赤ちゃん、赤ん坊、赤子 ［レベル］4　µɷ;ſınſ/ſɔᴅ「腹の外」 Ɉʔ ［語法］ 産まれたばかりの子供のこと。

ſınſɔᴅɑeᴅe ［地学］［歴史］始生代、太古代 ［レベル］6　ul;/　Ɉʔ ［文化］ φı ıueɑeᴅe　４０億年前（または３８億年前）から２５億年前までの間を指す。最初の生命が誕生したと考えられる冥王代の次の時代であり、原生代の前の時代である。太古代とも呼ばれる。

ſınſɔᴅc ［建築］雨戸 ［レベル］3　1L

ſınſɔı ［化学］電子殻 ［魔法］殻、ノート ［レベル］5　ɉᴅ;ſınſı.l。魔法のほうが化学より先。　古 :ſınſɔı ← ſınſı（外）/uɔı（原子核） ［語法］ 原子核に近い順から、ſ,l,l,ɉ 殻となる。　魔法では ſ 殻から µ 殻までの１６殻。→ ɷɔlᴅcɥə

ſınſɔııl ［化学］電子の座席数 ［レベル］5　1L

ſınſe ［名詞］ソト ［反意語］lɔnſe ［レベル］3　Ɉ1: 古 ſı（ソト）/ſeſɔnı（関係） ［文化］ lɔnſe【用例】 nıᴅɔ ſınſe 外面、ソトヅラ、外ヅラ

ſınſen ［接続詞］ſınſ。外の。 ［レベル］3　Ɉ1

ſınl ［生物］手首、リスト ［反意語］oɔɔᴅ　ɉeµſ ［レベル］2　1ʔ: 制　le:le :lə ɉıuınſe（手が ɉıuın で音が似ることもあり） ［文化］ oɔɔᴅ【用例】 ſınl lclı 細い手首＝ ɑcɔl

ſınllcl ［普通動名詞］リストカット、リスカ ［レベル］4　ıl;/　Ɉʔ【用例】 ıµ ſınllcl リスカする

ſınlucnſ ［被服］腕につけるお守り、タリスマン ［レベル］4　1ʔ: 制 : 手首のお守り ［語法］ ミサンガなどはその例

ſınlhɔ ［生物］手根骨 ［レベル］5　ɈɈ

ſınloıɉd ［被服］長袖、長そで ［レベル］3　µɷ;/　ɈɱՈ

ſınlɔlſ ［名詞］手枷、手かせ ［レベル］4　1L: リディアの書【用例】 eu ſın lɔlſ ı llın 奴隷に手枷を嵌める

ſınl ［料理］麺、麺類、パスタ、スパゲッティ、スパゲティ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ſın ［文化］ 通常パスタのこと。　頻繁に食べられる。パスタが最も一般的で、ミートソースやナポリタンが多い。　麺自体に油を含むので、高カロリーで消化にはよくないとされる。結果、胃弱はかえって痩せ、常人は太りやすい。そのためミロクは害食に指定しようとしたが、伝統料理とのことで排他には批判が殺到し、諦めた。　麺類は音もなく啜る。凪人は勢い良く音を立てるが、アルバザード人やルティア人はそれをしない。【用例】 ləc{len} ſınl 麺を啜る。ɉcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ləc を使う。ɉcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

ſınlıµ ［名詞］シュレッダー ［レベル］4　ɈɈ: 麺状にする機械

ſınɉ ［哲学］徳、人徳、美徳、高徳、人間性（人徳という意味の人間性） ［類義語］lıneſ ［レベル］4　古　::lı lcɉſe（正義は lə lcɉſe） ［語法］ 美徳、高徳、人徳、悪徳などの徳。道徳の面から見て良いこと。 ［文化］ ſell【用例】 lə ſcl ſınɉ. 彼女は徳が高い。

ſınɉſell ［名詞］徳育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。 ［レベル］3　µɷ;/　ɈɱՈ ［文化］ ſell、ıllılıɷ

ſınucµ ［魔法］開式赫晄 ［レベル］5　Ɉ0: 古 ſı（外に）/ucµ

ſınɷ ［物理］［数学］単位量 ［レベル］5　Ɉ0: 古 ſıl/ɷə

ſındɔ ［植物］デュラム小麦 ［レベル］4　Ɉ1:ſınl/dɔɔſ ［文化］ パスタなどの原料になる小麦。

ſındɔlleı ［植物］［料理］デュラムセモリナ粉 ［レベル］4　Ɉ1

ſıns,ɉzɷ　ɔll

ſıns,ɉzl　leµ

ſınselcn ［アトラスの国家］タンジェリン ［レベル］5　Ɉʔ:µcɷcı

ſınl ［名詞］腕時計 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ſınlᴅell（手首につける時計） ［文化］
　アンセが腕時計形で、時計機能を持っているため、腕時計は既に廃れている。

ſınıɉı ［医療］二卵性 ［レベル］4　1L

ſınıµſ ［魔法］開式魔法 ［レベル］4　Ɉ1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ſıncᴅlıɷ ［地球の国名］モナコ ［レベル］6　1L: 国旗が２色

ſıncı ［美容］おさげ、二つ結び、ツインテール ［レベル］2　1L

ſıncı(Ɉ) ［名詞］緑 ［類義語］ɷccı ［レベル］3　Ɉ0: 古 ſel/ncᴅ（葉っぱの色） ［語法］ ɑclueeɥə 語【用例】 cnɉ ſıncı 碧目

ſıncın ［名詞］二連休 ［レベル］3　µɷ;/　ɈɱՈ

ſınɔſɉ ［経済］複式簿記 ［レベル］6　1L

ſınɔlµı ［建築］メゾネット ［レベル］5　1Ո: 制

ſıu ［動詞］ɥəl を ı に貼る、貼る、貼り付ける、はる、張る ［普通動名詞］塗付、添付、塗布 ［反意語］ıſıu ［レベル］2　1Ɂ: 制 : 恣意

ſıuıl ［音楽］スカ ［レベル］6　Ɉ1:「ニイヨン」で強くなるリズム

ſıuıcl ［被服］ツーピース ［レベル］4　Ɉ1

ſıueɉ ［名詞］二人きり、二人ぼっち、ふたりぼっち ［形容詞］二人きりの、二人ぼっちな、ふたりぼっちな、二人だけの ［レベル］4　µɷ;/　ɈɱՈ【用例】 ın ııl lel uın ɉel l'ınɉ ləſ nɔɉɉe ſəµ ſıueɉ ɔnnı,8 cᴅ lı ɑelez cᴅen ɾləəlɉ.「ふたりぼっちだね」と言った夕方の教室を、僕は決して忘れない。　ınɉ eſ eµᴅeɉ, ɥın µeſl eſ ſə ɑcı. ınɉ uınɔ ɑıl hıſcını, ɉɔn ınɉ eſ uıın ſıueɉ. 私たちは騎士、敵はこの世界。守るべきは恋心。私たちは、二人だけの軍隊。

ſıueɉſɔ ［言語］二重母音 ［レベル］4　1L

ſıɑ ［動詞］ɥəl を c から取る、取る、とる、収穫する、もぐ、奪う、盗む、徴収する、得る、摂る、摂取する、もげる ［動詞］ɥəl を履修する、履修する ［類義語］lcᴅ、ɑcſ ［反意語］ſcɑl、ucnɉ　µɷ ［レベル］1　1ʔ: 制　ɑəſɔ:ɑəſɔ:【用例】 ſıɑıſ ᴅccl c zedl 枝からりんごをもぎ取った

ʃıaɥec ［地球の国名］オマーン ［レベル］6 1L: 国章が２本の剣

ʃıal ［動詞］ɥəl を狩る、狩る、漁をする、狩猟する ［普通動名詞］狩り、狩猟 ［レベル］3 ɥɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ʃıɑ からの連想 uıcʃ:uıcʃ:uıcze:hıφələ, ılʃ

ʃıalφel ［名詞］猟銃 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃Ⴖ ［文化］ φel

ʃıallıȷl ［被服］ハンチングシューズ、ハンティングシューズ ɥʃ;/ ⅃Ⴖ

ʃıalın ［名詞］ハンター、狩人 ［生物］捕食者。生態学における。 ［レベル］3 ɥɑ;/ | nɑ;/ ⅃⅃

ʃıalcɒdc ［動物］ジガバチ ［レベル］6 ⅃0: 狩りをするハチ

ʃıalɔɒı ［動物］猟犬 ［レベル］5 ɥɑ;/ ⅃Ⴖ

ʃıalɔɒıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］りょうけん座 ⅃Ⴖ ［文化］ cɑı

ʃıaı ［動物］鷹、タカ、ホウル、ファルコン ［単位］潤 ［レベル］3 1ɦ: 制 : ʃıal からの連想

ʃıaɔɥ ［音楽］四分音符 ［レベル］4 1L ［文化］ → ɑɔɥ

ʃıɒ ［形容詞］［ポジティブ］貴重な、勿体無い、もったいない、希少価値のある ［名詞］貴重品 ［反意語］ȷəəʃ ［レベル］2 古

ʃıɒlıɑ ［名詞］希少価値 ［レベル］4 ⅃⅃

ʃıɒɒc 鉛丹 ⅃⅃:ʃın/ncɒ

ʃıɒz ［植物］カルダモン 1ʕ: 制 :ʃıȷ/ʅıɒz

ʃıɒze ［植物］竜舌蘭 ［レベル］5 1ʕ: 制 :ʃıɒ/zeɒ（貴重な草）

ʃıɒzeȷcȷdı ［料理］テキーラ ［レベル］5 1ʕ: 制

ʃıɒıʃ ［言語］二重分節 ［レベル］6 1L ［語法］ 言語を形態素に分け（１次分節）、音素に分ける（２次分節）こと。人間の言語の特徴としてセレンが発見した。lıɑcıneʃın⌉ という音を lı ɑcın eʃ ın⌉ と形態素ごとに分け、個々の ɑcın などを ɑ c ı n と音素のレベルで分けること。

ʃıɒıφl ［音楽］オーボエ ［レベル］4 ⅃1:ʃıɒıφeʃ/lɔɥ

ʃıɒıφeʃ ［音楽］ダブルリード、複簧 ⅃1

ʃıɒccɥ ［論理］ジレンマ、両刀論法 ［レベル］5 1Ⴖ: 制 : ２つの論 ［語法］ 日本語では「どっちも選べず悩むこと」という意味が定着しているが、この意味は論理学的には本来誤りで、アルカでもこの用法はない。

ʃıɒɔ⌉ ［音楽］四分休符 ［レベル］4 1L ［文化］ → ɑɔɥ

ʃıɒɔllcɥə ［普通動名詞］孫請け、サブサブコントラクト ［動詞］ɥəl を孫請けする、孫請けする ［レベル］5 ɥɑ;/ ⅃Ⴖ

ʃıɒelc ［名詞］囃子、囃、おはやし、はやし ɥɑ;<ʃıɒelə,ılʃ の名詞形 ⅃Ⴖ 【用例】 lc ʃə, ın ⌉e ȷcl ɑel⌉c cɒ hıɥd, ɥın ʃɔll e ʃıɒelc cɒ ɑəɥne. ɑɔ⌉, ın ɥəlıȷ ɑıl ɥıɑel e ȷıɒȷelɑ lɔʃ ⌉eȷʃ. ıɥʃe, ın ȷcl uɔ⌉⌉ı cɒ ⌉eȷʃ ʃın ı… その後昼に塾に行き、夜は囃子の練習。更に現代文の宿題を明日以内に。明日も忙しいなぁ……。 ın ⌉e uın ʃɔll e ʃıɒelc. お囃子の練習へ行ってくる。

ʃıɒelə ［動詞］ɥəl の気分を高揚させる、高揚させる、ハイテンションにする、囃し立てる、囃す、はやす ［レベル］4 ɥɑ;<ılʃ ⅃Ⴖ 【用例】 leȷ eʃ ɔn ıl ɔɔφı⌉coıcn c ɥəlc eɒ ʃıɒelə enʃɔ eɒ ʃeɔlɔ ȷı ʃə oıcn. 小さい頃から大垣まつりに関わってきた人は祭の前になるとテンションが上がって馬鹿になる。

ʃıɑ ［名詞］岩、岩石 ［レベル］2 1Ⴖ: 制 :ʃıȷɑɔl（大きい / 鉱物（石））【成句】 ʃıɑ ȷıen ıdl 前途多難

ʃıɑıȷ ［魔物］タダス（岩憑）: 第三十五天 : 土の風天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ʃıɑ（岩）/ıȷ（制の「もの」）［文化］ 大きな岩肌に凹凸があると、たまに人の顔に見えることがある。くぼみの部分が目や口に見え、突出した部分がまるで鼻のような崖がある。そんな場所を見つけたら、注意したほうがいい。岩憑が潜んでいるかもしれない。岩憑は山岳部で旅人を襲う。ひとたび咆哮をあげれば岩石が雨のように降り注ぎ、旅人を潰す。防御力が尋常でなく、体力も多い。移動はできないため、ひたすら逃げるのみである。

ʃıφ ［名詞］報酬、ごほうび、褒美、見返り、リターン、賞金 ［レベル］3 1ʔ: 制 :「払われたもの」が原義 ［語法］ ɑcʃ ʃıφ は約束していない報酬を払うこと。φı⌉ ʃıφ は約束の報酬を払うこと。 【成句】 ȷee ʃıφ eʃ hıɥ そして見返りは赤字 : 骨折り損のくたびれもうけ

ʃıφıɒe ［料理］ポップコーン、爆弾あられ ［アクセント］ʃıφıɒE ［レベル］3 zφ;<ʃıφıɒe,uclhınɔc ⅃ʔ

ʃıφc ［経済］チップ（サービス料のチップのこと） ［レベル］3 1ʕ: 制 :ʃıφ ［文化］ チップを払う習慣はない。特に恩があった場合に心づけをすることはある。

ʃıd ［形容詞］正確な ［反意語］ʃecȷ ［レベル］2 1ʔ ←古 :ʃıdȷ（雑な）。ʃıdȷ は足並みが揃わない行進を意味するオノマトペ。"ləl⌉ ɥəl⌉e ʃıdȷʃıdȷ" で「統率が取れていない」とか「仲が悪い」「相性が悪い」「まとまりがない」などの意味になる。

ʃıddc ［形容詞］へぼい、しょぼい、ヘボい、ショボい、ヘタレな ［反意語］ȷccɥə ［レベル］2 古 ［語法］ 「へたっぴでしょぼい」と覚えよう。

ʃıdhıɹ ［言語］正体 1L ［文化］ ɥɑ でセレンが作った書体。アルカの公式の書体。元はペンで作られたが、太さが均一なほうが無色透明で公式にふさわしいとして、鉛筆でデザインされ、鉛筆体となった。

ʃıdılcɑeɥn ［天文］連星系 ⅃ʔ

ʃıb ［動詞］ɥəl を調べる、調べる ［普通動名詞］調査、捜査、探査、検査 ［レベル］3 1ɦ: 制 :ʃıdȷ（テスト）【用例】 ʃıb ez ɔn lec 部屋に本があるか調べる ʃıbıʃ ləəȷ ı⌉ ɑın ɑısel nɔn ʃeə ɒelʃın le nı delȷ ız. 困っていた異民族の私を親切に手伝ってくれるかどうか。

ʃıbı ［法律］審理、公判 ［動詞］ɥəl を審理する、審理する ［レベル］4 1ʕ: 制 :ʃıb

ʃıbɔ ［動物］カキ、牡蠣、オイスター ［レベル］3 lı⌉ʃı 【成句】 ɑɔnl ʃıbɔ uıɥ ⌉eeʃ ıɒıuel. リュウの月とパールの月の間は牡蠣を食べるな : uıɥ ⌉eeʃ は二重格詞。英語圏では r の付かない月に牡蠣を食べるなという。これは５～８月を指す。メル暦の場合、リュウの月の頭は４月中旬で、日本でいう「桜が散ったら牡蠣を食べるな」という時期と一致している。またパールの月の終わり、ミルフの月になる前日は９月上旬であり、グレゴリオ暦でいうＭａｙ～Ａｕｇｕｓｔにちょうど覆いかぶさる形となる。そしてこの期間が夫婦であるリュウとパールの名からなるという奇跡的な一致をリディアが発見し、こんなに覚えやすいことはないとして、息子 ıɒıuel の名を取って慣用句にしたもの。⌉eeʃ 参照。 ［文化］ 利食。貝類の中でほぼ唯一消化に良く、栄養素が豊富。成句にもあるように、リュウの月からパールの月は中毒になりやすく味も落ちるので食べない。

ʃıbe ［化学］ケチミン ［レベル］5 1L: ケトン＋イミン

ʃıbel ［色］紺色 ［レベル］3 古 ȷɔɥn

ʃıhıɑɑɥın ［数学］二次関数 ［レベル］4 1L

ʃıhıɑɒcɥəȷın ［数学］二次方程式 ［レベル］4 1L

ʃıɥelȷɔɥ ［ユマナ］［音楽］ダブルシャープ 1L

ʃıɥelhıcʃ ［ユマナ］［音楽］ダブルフラット 1L

ʃıɥə ［電算］全角 ［反意語］⌉ɔɥə ［レベル］3 ⅃0:ʃıɥəıʃ

ʃıɥəlc ［名詞］双子 ［類義語］ɥəlcı ［レベル］3 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

ʃıɥəlɔʃȷ ［電算］変換キー ［レベル］4 ⅃0

ʃıɹ ［格詞］［文頭純詞］しかし、だが、だがしかし、しかしながら ［レベル］1 19: 制 ［語法］ ʃıl の強調。強逆接。大きく事態がひっくり返る場合に使う。

ʃıɥ ［副詞］［形容詞］かなり、そこそこ、なかなか ［レベル］1 ⅃0: 恣意。ʃcn,ʃcn⌉ı など、ʃ が多いので悩んだが、音が明らかに異なるし、実際に使う形の ȷe ʃıɥ の音が悪くないので採用。 ［語法］ uıɥʃ

ʃıɥʃcı ［アイテム］タルティア ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 :ɒıʃılɔʃcıʃ 死を愛する」で、lıȷʃcı と発想が同じ。ɒıʃılɔ は lıı より古い言葉。リディアが古風さを出すためにわざと古い語を用いた。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ザナのもつ魔剣。切ったものを即死させる力がある。ザナ本人はその剣の力を持て余して厭っている。 【成句】 ʃıɥʃcı ueɒın 両刃の剣。誤って自分を切ると死んでしまうことから。

ʃıɥ⌉ ［動詞］ɔn について ɥəl に相談する、相談する ［普通動名詞］相談 ［反意語］⌉clʃ ［レベル］3 @ 1L:ɒelcɑcı ılcȷ 【用例】 ʃıɥ⌉ ın 俺にまかせろよ、言ってみろよ

ʃıɥɒıɒ ［生物］豊乳 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃Ⴖ

ʃıɥı⌉ ［名詞］歩合、ぶあい、成功報酬 ［レベル］4 ɥɑ;ʃıʃ/ɥı⌉（成功につき） ⅃Ⴖ

ʃıɥı⌉ȷlıc ［電算］アフィリエイトブログ、アフィブログ、まとめサイト ［レベル］6 ıl;ʃıɥı⌉dcɥ/ȷlıc ⅃Ⴖ

ʃıɥı⌉dcɥ ［名詞］アフィリエイト、アフィ、成功報酬型広告 ［レベル］5 ıl;/ ⅃Ⴖ

ʃız ［生物］四肢、体肢 ɥɑ;ʃı⌉/zıɒ ⅃Ⴖ

ʃızc⌉ɔ ［名詞］二者択一 ［レベル］4 ⅃⅃

ʃızcn ［化学］キシレン 1L:ɥcɑcı ［語法］ オルト・メタ・パラの異性体を持つ。

ʃıoı ［動詞］ɥəl（商品や店舗）を ı におごる、おごる、奢る、ı のために支払う、支払う ［普通動名詞］おごり、ゴチ、ごち、支払い、ペイ ［レベル］3 ʃɒ;ʃıoı（買う）<oıʃı.φel⌉ȷ。おごるの意味になったのは ɥɑ から。 ⅃ʔ ［語法］ 日本語の「おごる」と違い、誰かの分を代わりに支払うことを指す。家族内や恋人間で「おごる」という言い方は日本語ではしないが、ʃıoı は他人の代わりに支払うことを意味するため、家族で食べたファミレスの代金を父親が家族に ʃıoı するということができる。 ɥəl に店舗を取る場合、その店舗で発生した代金を支払うことを意味する。この場合は ɔn 格に回しても良い。 ［文化］ ɒcnɑız アルバザードでは支払いはふつう割り勘。アンセが導入されてから特にその機会が増えた。ただし恋仲にあれば男性が通常女性の分を支払うことが多い。女性のほうが裕福な場合は女性が払ったり割り勘にすることもある。 夫婦間では家庭の共有の財布から支払われることが多いが、財布を握るのは稼ぎ手の男性なので、恋人時代と変わらず支払いは男性がすることが多い。 先輩後輩間では先輩が払うか割り勘するのがふつう。 【用例】 lı ʃıoıʃ ıne ıl ın ȷccnı. 彼は私にジュースをおごってくれた。 dıdı ʃıoıʃ (ɔn) belıʃe. パパがレストランの支払いをした。

ʃıoılcl ［名詞］二極、ふたまた、二また ［交通］二叉路 ［俗語］二股 ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ʔ 【用例】 ȷeɥen ʃcl ʃıoılc ɑel ɥcɑcı ɔ ɒel. セレンはリディアとメルと二股をかけている。

ʃıl ［格詞］［文頭純詞］しかし、だが、だがしかし、しかしながら。中逆接。 ［レベル］1 ɥɑ;ʃıl,⌉ʃ < ʃıcl,ɑ.l 1Ⴖ: 制 : 古 :ʃıcl ʃıcl:ʃıcl:uıleʃ:ɒınsc,ılʃ ʃıl,⌉ʃ ［語法］ ʃıl と ʃeʃ の使い分けは ɒın/ɒcl と同じ。ɒın 参照。 ʃıl と ɑee でなく ʃıl と ʃeʃ の組み合わせになる。ɑee は ɑe に聞こえるため。名詞句が後続する場合、ɑe でも文法的に正しくなってしまう。ɑee と ɑe では区別が誤解が起こるため、男性でもこの場合は ʃeʃ を用いる。 ［文化］ ＜議論における逆接と反論＞ アルバザード人は議論において、反論をする際に逆接を使わない。かなりややこしいので以下は注意して読んでほしい。 日本人ＡとＢが議論をしているとする。Ｂに対してＡが「だが」と言う際は、「お前の意見は分かったが、俺の意見と違う。俺の意見はこうだ」というニュアンスの「だが」である。あくまで「だが」と述べた人物の論点から見ている。 一方、アルバザード人は論議をする際に相手と向き合う姿勢を取らず、横並びになって同じ議題を見つめる。相手も自分に対して同じこと

をするので、通常アルバザードにおいて議論する際は、イエスの立場とノーの立場の両方を経ることになる。相手とともにイエスを検討し、ノーも検討するが、あくまで自分のスタンスはイエスかノーか最初から決まっているというシステムをとる。　アルバザード人が「だが」というときは、相手の論点に立って行う。Ｂに対し「だが」と言う際、Ａは「お前の意見は分かった。だがお前の理屈にはこんな穴があるぞ」というニュアンスで使う。あくまで相手の論点に立ち、相手の論理の穴を突く。そのため、自分の意見が何であろうと、つまり自分がＡだろうがＣだろうが関係なく、常にＢの論点ーー相手の論点で論じられる。　では、アルバザード人が「お前の言いたいことは分かったが、俺はそう思わない」という際には何というか。それは２つある。まず、協調的な議論をする気がない場合、つまり喧嘩を覚悟する場合は逆接を使う。自分の論点に立った発言を「だが」で始めた場合、それは相手に喧嘩を売ることに等しい行為なので、注意がいる。　喧嘩をしないで反論したい場合は、必ず順接を使う。形式上は順接で、ɥın や ɟee を使っているが、実際には ʃıl の内容である。これは反論の順接と呼ばれるもので、好んで使われる。【用例】ın ˥eʃ. ʃıl lı en ˥eʃ. 私は行ったが彼は行かなかった。

ʃılʃ ［政治］大使、特命全権大使　［レベル］４　1ʔ: 制 :ʃılıuʃ

ʃılʃcɟ ［名詞］ステッキ　µɷ;‹,lʃ（長い棒）.ıle˥　˩ɱ

ʃıʃ ［生物］網　［言語］語群　［レベル］６　µɷ;ʃıʃı.˥　˩˩　［文化］　µəᴅı

ʃılı ［単位］単位　［レベル］３　1ɥ: 制 : 古 :ʃıl（単位）から　［語法］　単位量 ʃınɷ はよく使うので単純語。　億兆などの位については ıl 参照。

ʃılıɟl ［被服］ガマシャ　µɷ;/　˩ɱ　［文化］　ɟᴅ でできた。２枚の革を縫い合わせた靴。貴族も平民も履いた。

ʃılınʃ ［魔法］タラント。ゾンビを作る技術。　［ユマナ］ヴードゥー、ブードゥー　ᴅe;「死の外に」　˩ɱ

ʃılıɷc ［経済］第二次産業　［レベル］４　1L

ʃılıɥəɔ ［言語］単位動詞　［レベル］５　˩0　［語法］　将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響の９相を持つ動詞。　すべての動詞が単位動詞になれる。　ーー〇ーー〇ーー〇ーー　というモデルで示される。　非単位動詞と対立する存在。アルカの場合、定動詞と等しい。　例：叩く、歩いて移動する

ʃılıeel ［物理］［数学］単位面積　［レベル］５　˩0

ʃılccɑı ［地球の国名］パナマ　1L: 国旗に２つの星

ʃılccɑı(˩) ［天文］二等星　［レベル］５　µɷ;/　˩ɱ　［文化］　˥ɔlccɑı

ʃıleɟ ［宗教］タレス、僧侶、召喚省の役人、ビショップ　［レベル］３　古

ʃıleᴅ ［音楽］二重奏、デュオ、デュエット　［類義語］ɟelʃ　［レベル］５　µɷ;/　˩ʔ

ʃıleeuʃılcʃ ［物理］第二宇宙速度　［レベル］５　1L

ʃılə,ılʃ　˥e　‹›ʃı

ʃıı ［感動詞］えい、えいっ、やぁ、やあ、やあっ、とう、とうっ、たぁ、たぁっ　［レベル］１　ɑ;ʃəı.˥　［語法］　気合を入れるときや何か動作を始めるときの掛け声。

ʃıı˥ɟ ［建築］二階　［レベル］２　1L

ʃııᴅcɟɔ ［言語］二重子音　［レベル］６　1L

ʃııµ˥ ［化学］二重結合。接尾辞は ıʃ。　［レベル］５　1L

ʃıılı ［地球の国名］インドネシア　［レベル］６　1ɥ: 制

ʃıc ［動詞］ɥəl を c から識別する、識別する　［普通動名詞］識別　［反意語］˥ɔc　［レベル］４　˩1: 古 ʃı（外、異なる）/c（見る）

ʃıc˥ ［文頭純詞］更に悪いことに　［反意語］µıɑı　［レベル］２　1ɥ: 制 : 恣意　【用例】　eɟ˥ıʃ cᴅ hıµd. ʃıc˥ ɟıeʃ cᴅ ɷəµne. 昼に雨が降った。さらに夜は雪になった。

ʃıcl ［名詞］原稿、マニュスクリプト　［レベル］４　古　【用例】　µə˥ıɟ ʃıcl 原稿を仕上げる

ʃıclᴅıɟ ［名詞］原稿用紙　［レベル］４　µɷ;/　˩ʔ

ʃıcn ［単位］尋、ひろ、ファゾム、タイン、１８１ｃｍ　［レベル］５　ɑu; ʃıcl。腕を広げて立ったときの形が ʃıcl の字形であることから。　˩ʔ　［文化］　ᴅıcnısı　人体が両腕を広げたときの右手の中指の先から左手の中指の先までの長さ。アルデス王の長さが単位として使われ、その長さは約１８１ｃｍであった。この長さはアトラスにおける男性の理想ファゾムとされている。

ʃıcᴅ ［動物］スズメバチ、クマンバチ、オオスズメバチ、雀蜂　［レベル］３　1ʔ: 制 :ʃıcᴅd（大きいハチ）　［語法］　クマンバチは大型のスズメバチの俗称でしかなく、アルカでは別に区別しない。

ʃıcl ［名詞］［形容詞］Ｔ字型　［レベル］３　1ɱ: 制 : 古の幻字 ʃıcl

ʃıcl(˩) ［文頭純詞］しかしながら　［レベル］１　赤　［語法］　ʃıl よりも持って回った言い方。古風で文語的な印象も。

ʃıcl,ɑ　ʃıl　e

ʃıclɟılıɟ ［被服］Ｔシャツ　［レベル］３　˩1

ʃıcldɔl ［美容］Ｔゾーン　［レベル］５　˩1

ʃıclɥıᴅe ［交通］Ｔチャリ　［レベル］４　˩1

ʃıclı ［植物］丁字、クローブ　［レベル］４　1ʕ: 制 : 古 :ʃıcl

ʃıɔ,ılʃ　ʃı/ɔ

ʃıɔʃ ［動物］アザラシ　［レベル］４　1ʔ: 制 :ıɔl から。音が似ないように変えた。

ʃıe,ɑ　ee˥　eʃı.φe˥ɟ

ʃıeᴅɔ ［数学］平方根　［レベル］４　1L

ʃıez ［名詞］相部屋（二人まで）、二人部屋、ツインルーム　［レベル］４　1ʕ: 制　［語法］　ʃıez にダブルルームとツインルームの区別はない。

ʃıel ［動詞］ɟɔl は ɥəl を ı に兼ねさせる、ɥəl は ı を兼ねる、兼ねる　［普通動名詞］兼用、兼任　［レベル］３　˩˩:ʃı/eel（二面）【用例】　ʃə leɟʃez eʃ ʃıel ı be˥ı. この居間はキッチンも兼ねている。

ʃıə ［動詞］ɥəl を c から ˥ɔn で ı に買う、買う、輸入する、購入する　［経済］購買、購入　［経済］輸入← ˥ıʃıʃıə　［レベル］２　1L: 赤 :ʃıoı　ʃıoı:ʃıoı　［文化］　＜モールと払い方＞　アンセの電子マネー、小切手、現金で支払う→ φcl　本人と照合しなければ一切の買い物ができないのでアンセを盗んでも何の利益もない。ただし特殊な技術を用いてセキュリティを突破すればこの限りでない。　店は大抵モールに並んでいる。モール内が一つの大きなスーパーだと考えて良い。会計も各々の店でなく、総合会計所で一度に済ませる。尚、個々の店内にも会計があり、そこで個別に会計することもできる。客はカートを転がしながら遊歩し、商品を取っていく。最終的に会計所でアンセ等を使って金を払う。本人照合がないとアンセは使えない。　アンセはクレジットカードではない。預金口座のようなもので、電子上の財布である。まだない金の分は使えない。一般にクレジットカードはない。クレジットは一種の借金である。アルバザードは借金を嫌う。ゆえにクレジットはない。プリペイドもない。アンセがあるので不要である　レジは自動式である。日本でいうところの駅の自動改札に近く、係員が横で監視しているだけである。商品についたタグをレジは自動で読み取って計算する。客はアンセをリーダーに通すと清算が行われ、アンセの口座から金額が引き落とされ、タグが除去される。これで売買が成立する。　＜価格と税金＞　物の価格はそれぞれ異なる。同じ商品でも季節や商戦によって変わる。ただ、総じて安定した価格ではある。商品には消費税が含まれる。値段は全て税込みで表示されるため、特に意識しなければ税金がかかっているかどうか気付かない。消費税は変動レートで、物によって異なる。最低限の日用品に消費税はかからない。食料品にもかからない。最低限でない日用品には消費税が少しかかる。歯ブラシには税金がかからないが、歯磨き粉にはかかる。このように、商品によって異なるので注意がいる。娯楽品には多額の税金がかかる。ゲームやジュースや菓子などは税金が高い。野菜ジュースなどの健康目的の物は税金が安い。酒は意外と高くない。アルティス教が奨励しているからである。タバコはそもそも違法なので税金以前の問題である。　＜情報の購入＞　本屋で本を買う場合は上で述べたのと同じ買い方をする。本の税金は娯楽嗜好が強いかどうかで決まる。本の内容によって異なる。　また、紙ではなくデータとしてアンセ経由で無料でＤＬすることもできる。ＤＬのＩＤ数に応じて、情報税から版元に配当金が配られる。無料と言っても次年度に情報税を払うので、この無料は「その場では支払わない」という程度の意味でしかない。詳しくは lıɑınlı nφ を参照すること。　＜自動販売機＞　自動販売機は少ない。アルバザードは無人対応を嫌う。【成句】　ɥəə ʃıə, ɥəə ˥ııl 鳴かず飛ばず　ʃıə cʃ ılcn hɔʃ 栄枯贔屓、えこひいき

ʃıəɟıµᴅ ［経済］仕入債務　1L

ʃıəᴅcld ［名詞］買い物かご、買い物籠、買い物カゴ　［レベル］３　˩˩

ʃıəɷıɟ ［普通動名詞］セールス、営業、買い勧誘　［レベル］３　µɷ;/　˩˩

ʃıəɷıɟın ［名詞］セールスマン、営業マン　［医療］ＭＲ、プロパー　［レベル］３　µɷ;/　˩ʔ

ʃıəɷcµec ［経済］買い気配、買気配　˩˩

ʃıəın ［経済］客、消費者、顧客、クライアント　［レベル］２　1L　［文化］　日本はお客様は神様という風潮があるが、アルバザードでは売り手と買い手は対等。客は物やサービスがほしい。店は金がほしい。その利害が一致しているので、どちらの立場が上ということはない。もちろん客にはその店で買わない権利があるものの、店も失礼な客に売らない権利がある。対等なので客は威張ることがないし、店員もへつらうことなく、道で人に物を尋ねたときのような調子で会話を行う。　これを実現させているのはアルバザードの国民性もあるだろう。元々アルバザード人は他人に偉そうにするのが苦手で、目下だからといって偉そうにしたり、目上だからといって態度をコロッと変えたりするのを嫌う。悪人相手には平然と攻撃的になれる人々だが、そうでもなければ穏やかで親切で繕わない人が多い。

ʃıəelɑ ［経済］不買、不買運動　［動詞］ɥəl を不買する、不買する　［レベル］４　µɷ;/「買うもんか」　˩ʔ　【用例】　ıµ ʃıəelɑ ı{ʃel} ucenuenʃ ₌ ʃıəe lɑ ucenuenʃen 大企業に対する不買運動をする

ʃc ［代詞］あなた　［レベル］１　µɷ;ʃc,hɥ ‹ ʃcɟ,ɑ　1ʔ: 古 :ʃcɟ（男性が女性を呼ぶ際の二人称）　ʃcɟ,ɑ_ɑu　ɷɥəɟɟɔə,ɑ_ɑu　ləɟɟɔ,ɑu　ʃcʃ,ɑu:ləɟɟɔ　ʃcɟ ɷɥəɟɟɔə　ʃcʃ:ɑılın,ɟzɷ　lccze,ɟzɟ:nını,ılʃ　ɑ では ʃcɟ と ɷɥəɟɟɔə の２種のみ。ɑu で男が男を ləɟɟɔ、男が女を ʃcɟ、女が男を、ɷɥəɟɟɔə、女が女を ʃcʃ と細分化。　［語法］　中立的な二人称。→ ın

ʃcʃ ［ユマナ］ティット　古 :µcɷcı/µɥəə: フィンランド語「 少女 」が語源。リュウ自作のＯＳで、性別が女とされている。リディアがこれにティットと名付けた。フィンランド語 ʃɥʃʃ　が語源。　［文化］　リュウ自作のＯＳ。アンシャンテの改良を実現させる要因となった。フィンランド語由来の固有名詞なので、˥ɔµcn などと同じく厳密にはアルカの単語ではない。アルカ名では elɑcın。

ʃcʃ,ɑu　ʃc（女が女を）　ʃcɟ.l

ʃcʃʃı ［動詞］ɥəl をあやす、あやす　［レベル］２　1ʔ: 制 :ʃcʃʃı,ʃcʃʃı　［語法］　子供や赤ん坊や愛玩対象と遊んであげたりして機嫌を取ること。

ʃcʃʃı ʃcʃʃı ［感動詞］いい子いい子　［レベル］１　古 :µcɷcı: 造語元はナルムだが、直接的な造語者はリディア。ナルムから聞いた歌を思い出せず ʃcʃı ʃcʃı と歌詞を繋いでいたのを子供に向けて使ったことから。

ʃcʃ ʃɔʃ ［擬音語］チクタク　［レベル］３　ɟᴅ;ɑɔueʃ　古 :µcɷcı

ʃcʃlcl ［化学］ナトリウム　［レベル］４　1Δ: 制

ʃcʃc ［エルト］ティティ　［形容詞］内気な、気弱な、内向的な、シャイな　［反意語］˥ɔ˥n　［レベル］３　µcɷcı: 古　［文化］　蝶の羽を持つ少女の姿をしたエルト。全長は蝶と同じで小さい。服は白いうす布をまとっている

だけで、靴も履いていない。髪は薄緑。羽は青が基調で黒線などが混ざり、非常に美しい。非常に気弱な性格で、誰か来るとすぐに逃げてしまう。ティティは魔力の高い花の蜜を吸い集めていて、傷ついた者を見るとそれを与えて助けてくれる。

ʃcʃce ［動詞］ɥəl を照れさせる、照れる、恥じらう、はじらう、はにかむ。「はにかむ」は微笑むという意味ではない。 ［再帰動名詞］照れ、てれ、恥、はじ ［レベル］３ 1L:ʃcʃn:1ʃ: 制 :ʃcʃc/nı

ʃcʃceıl ［言語］ネガティブフェイス、ネガティブ・フェイス ［反意語］ʅɔʅ neıl ıl;「消極的面子」 Jʔ ［語法］ eıl

ʃcʃɔ ［名詞］茂み、ブッシュ、しげみ、やぶ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :（小さい森）。lcʃɔ は良い匂いという意味の語に既に使っているので lc を制アルカの ʃc（小さい）から参照した（注：1Δ 年現在では lcʃɔ は lıʃl になっているのでぶつかりはない）

ʃcʃɔllıd ［美容］ウェーブクリップ J1

ʃcʃɔncı ［美容］ソバージュ、ウェーブヘア ［レベル］４ 1L

ʃcʅ ［名詞］傾き、傾斜 ［動詞］ɥəl を ɷə（角度など）だけ ı（方角など）に傾ける、傾ける、かしげる、傾げる、傾く ［形容詞］傾いた、ななめな、斜めな、斜め ［数学］傾き ［地学］勾配 ［文字］スラント、斜体。オブリーク、イタリック、レフティがある→ ıʃɔᴅ ［類義語］dɔcʃ ［レベル］２ 1L:ʃɔʅ: 古 :ʃɔʅ（坂）。ʃɔʅ は歩く音のオノマトペ。 【用例】 ʃcʅ dɔ 首をかしげる、首を傾げる ʃcʅ dɔ ɑenel 小首を傾げる ele ʃcʅ 傾いた台 "ȷɔn..." lınʅɔ ʃcʅcʅ dɔ. "ʃɔ ȷcl ȷɔɷ ı ʃə ɑcı ȷec"「じゃあ……」青年は首を傾げる。「世界はどうなってしまうんだろう？」

ʃcʅ(J) ［サール］ʃcʅnɔ の略称 ［組み数字］９/１２ ［レベル］１ J

ʃcʅʃ ［動物］オウム、鸚鵡、パロット ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʃcʅʅə（言葉を真似る）

ʃcʅʃıɷ ［地球の国名］ドミニカ国 1L: 国章にオウム

ʃcʅʅılı ［地学］正角図法 ［レベル］５ 1L

ʃcʅʅıɷ ［地球の国名］セーシェル 1L: 国旗の線が斜め

ʃcʅʅcl ［普通動名詞］袈裟斬り ［動詞］ɥəl を袈裟斬りする、袈裟斬りする ［レベル］５ ɥɷ;/「斜め切り」 Jʃl

ʃcʅȷ ［医療］痙攣、筋違い、寝違え ［動詞］ɥəl を痙攣させる、痙攣する、寝違える ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 制 ʃcʅʃ（震えのオノマトペ） 【用例】 lı ʃcʅ ȷıʃ ȷı uɔɥʃ. 彼は死ぬ前に痙攣した。

ʃcʅn ［生物］ドラゴン、龍、竜。こけら属衛天種の魔物。 ［レベル］３ ʃᴅ;ʃcʅnɔ.ʅ 1ʔ: 制 :ʃcʅnɔ から ʃcʅn:ʃcʅn::uını,ılʃ ［文化］ 羽の生えた大型の爬虫類様の生き物。口から火を吐くものもある。魔物だが、人間によって飼いならされた品種がある。ヒュート国は飛竜の優秀な生産地。知能の高いものは言語を解し、魔法も操る。低いものは単に獰猛。空を飛ぶか飛ばないかで ɑɥeʃcȷ と ʃɔɔl に大別される。 ・血筋 ɥəəᴅı ʔʔJL 以降、竜族が降ってくる。 それ以前の竜、例えばハクシウス軍が用いた飛竜などはロゼットであり、人間と神の交配種。知能が神並みのものもあれば、動物並みのものもあった。家畜化されたのは主に後者。 【用例】 "ʅeʃʃı, ɥeʃl ʅeȷ eʃ ʃcʅn", ȷɔı ın ʃeᴅ ıʃ, ȷee ȷıʅcʅ ʃcʅᴅ ȷıen nɔȷ, ȷɔn eu uın ılʃe ɥıȷ ɷc ɔnnı.「さぁ次の相手はドラゴンです！」とかいって出てきたのがハムスターだったらﾃﾗﾊﾞﾛｽだよな。

ʃcʅnʅıɷ ［地球の国名］ブータン ［レベル］６ 1L: 国旗に龍

ʃcʅndɔl ［地名］竜方 ［レベル］６ J0 ［文化］ アクオリア、ロロス、アルティアのこと。竜の口付近の地方のこと。ルティアの影響が濃いが、独立した文化圏。

ʃcʅnı ［アイテム］ティクナ ［レベル］４ ɥcɷcı: 古 :ʃcʅnɔenı「龍の涙」を変えたもの ［文化］ ヴァストリアの１つ。フルミネアのもつ神石。娘のフェルデンを失ったときに竜王ティクノが流した涙が水晶になったもの。

ʃcʅncɑı ［地球の星座］［ユマナ］りゅう座 Jʃl ［文化］ cɑı

ʃcʅnɔ ［サール］ティクノ、竜王ティクノ ［名詞］９時 ［名詞］西 ［交通］ティクノ通り ［魔法］召喚魔法ティクノ（バハムート）。咆哮とともに大量のユノを放射する。 ［音楽］ソ＃ ［組み数字］９/１２ ［類義語］ʃcʅ ［レベル］２ ᴅelʃcı ʃl:ʃcʅnɔ;e ȷeɥen: 古 : キャラの設定内容はリディア ［文化］ アルミヴァの９番目。サールの頭から生まれた。竜の姿をしている。ヴァステではサールを束ねて悪魔と戦った。ポエンの夫で、アルデスとテュアの父。正義感が強く、正々堂々としている。

ʃcʅueɥ ［地球の国名］トリニダード・トバゴ共和国 1L: 国旗に斜めの黒い線

ʃcʅᴅ ［植物］ハムスター ［レベル］３ ɥcɷcı:lıʅʃı: 元は ʃccıʅıᴅı（可愛いねずみ） ［文化］ ペットとして飼われる。

ʃcʅdɔ ［医療］斜頸 1L

ʃcʅl ［動詞］ɥəl を真似る、真似る、まねる、真似する、まねする ［普通動名詞］真似、マネ、モノマネ、ものまね、物まね、物真似、物マネ ［レベル］２ 1ʔ: 制 【用例】 ɥen ʃcʅl (leȷ) ın (ȷɔ). 私がするのを真似て。

ʃcʅʃɥɔ ［動詞］なりきる、世界に入る、入る、世界にひたる、ひたる、浸る ［普通動名詞］なりきり ［レベル］３ ɥɷ;/。お手本を真似るように演じることから。 Jʃl

ʃcʅlcl ［化学］アルゴン 1Δ: 制

ʃcʅlccɑı ［地球の国名］ボスニア・ヘルツェゴビナ 1L: 国旗に斜めの星

ʃcʅlɔɥʅılı ［地学］メルカトル図法、正角円筒図法 ［レベル］５ J0 ［文化］ 極点を表現しづらいため、世界地図としてはミラー図法に地位を奪われている。

ʃcʅı ［名詞］柄、つか、つまみ、抓み、え、バックなどの持ち手という手に持つ紐部分、バイクや自転車等の回らないハンドル、グリップ、スロットル、取っ手、ハンドル、ドアハンドル ［言語］［文字］アーム ［化学］アーム。顕微鏡の。 ［軍事］グリップ。銃の握るところ。 ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ʃlcʅʅıl［持つところ］→ ʃcʅı 【用例】 bcʅ ʃcʅı 柄を握る

ʃcʅın ［植物］モクレン、木蓮、マグノリア ［レベル］５ 1ʃl: 制 :ılıʅʃı:ʃlcn 【用例】 ın ȷccnı ʃcʅın ᴅcɥleseᴅᴅe. 薄紫の木蓮が好きだ。

ʃcʅc ［植物］カケス 1ʔ: 制 :lıʅʃı:ʃcʅu「まねるカラス」

ʃcʅe ［地学］潮、海流 ［レベル］３ ɥɷ;ʃceɥ/ʅe「海が行く」 Jʔ ［語法］ ıʅe

ʃcl ［動詞］ɥəl を含まない、ɥəl を c から除く、含まない、除く、逸脱する、排他する、排斥する、追放する、追い出す、排除する、どける、どかす、のける、除名する、除外する、限る、区切る ［格詞］～以外は、～を除いて ［反意語］ʅıu ［レベル］２ 1L: 恣意 【用例】 ıɥᴅcuı ʃcl ᴅeᴅ ɔn hı ɥᴅı ʃcl nebɥı. ネブラ以外、アルミヴァは幼字に丸印を持つ。

ʃclle ［遊女］［代詞］ʃcȷȷe ［レベル］４ Jʔ

ʃclı ［普通動名詞］保育、育児 ［動詞］ɥəl を育てる、育てる、育児する ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ʃcnəlıȷ（幼児を世話する） ［文化］ アルバザードの親は厳しい。子供は動物と考えているので、子供の決断に任せるというような考えはない。子供の悪行は親の責任なので、厳しく躾ける。 ただ、どうしても先天的に落ち着きがないとか人の気持ちが分からないという問題児もいる。 教育ではどうにもならず、放っておくと殺人などを犯しかねない場合、親は子供を処分すべきと考えられている。 物心が付いてからも動物を苛めて殺したりしている子供は将来人を殺す可能性が高い。犯罪抑止のため、そのような子供は親が責任を持って殺すべきというのが常識。この場合、親は罪に問われないが、保険金は下りない。 一部の家庭では不貞を働いた娘やレイプに遭った娘まで殺してしまうので、レイユでは社会問題になっている。 一方、アルバザードの親は子供に論理性と良心を重んじる。言い訳はきちんとさせ、物事をきちんと言葉で説明できるように育てる。嘘は許さない。他人に対して善意を持つよう育てる。 アルバザードは個人主義なので、「常識」を踏まえた上で、個性を持つことが重要。最低限の常識を守っていれば、あとは自分の好きなように思想を持てるし、それが推奨される。親は子供が個性を持ち、他人の個性を尊重するよう育てる。 親は頻繁にスキンシップをする。乳母車は好まず、頻繁におんぶや抱っこをする。１０才までは頻繁にベタベタするが、思春期になると距離を置く。ただし、心配したときや慰めるときに抱きしめるなど、最低限のスキンシップは大人になっても取る。 思春期になると親は子供の異性交遊を厳しく監視しだす。娘には特に厳しい。門限があり、男子と二人きりにならないよう注意する。息子には非行に走らないよう厳しく注意する。これは手に負えない悪童だと思った場合、親の権限で殺してもよい。また、親権を放棄して子供を労働所に送ることもできる。 子供が ᴅıu になると親の親権はなくなり、口出しできなくなる。また、常識的にもしなくなる。この時期になると途端に親は口を出さなくなる。
　アルバザードは親の権限が大きいため、祖父母などが親の監視者となり、虐待を防ぐ目となる。核家族ではこの目がないので虐待や娘のレイプが起きやすい。アルバザードでは娘は父親の分身と考えられているため、父親がレイプしても娘は男とセックスしたとカウントされないため（もちろんその後結婚しづらくなるが）、余計事件が起きやすい。

ʃclın ［名詞］保育士 ［レベル］５ ɥɷ;/ Jʔ

ʃclınʃe ［感動詞］もしもし ［レベル］２ 古 :ʃc'lınʃe。ınlınʃe を ın/lınʃe と解し、ın の部分を ʃcȷ に変えたもの。ʃcȷ は l の前で ȷ が落ちて ʃc になった。ʃc'lınʃe の原義は「貴方は返事する」であり、「返事できますか？通じていますか？」の意味。アンシャンテにおいて使われた。

ʃclılınφ ［法律］親権、監護権 ［レベル］５ 1L:ɥcɷcı:ıɥbıleʃʃ

ʃclen ［接続詞］ʃcl。～を含まない。 ［レベル］３ Jʔ

ʃcȷ ［形容詞］～しか、～にすぎない、しょせん、所詮、ごとき。程度が想像より低いことを示す。 ［反意語］ıȷ ［レベル］１ 1ʔ: 制 :ʃcȷ（小さい） :ȷɔɥn:ʃc。ティよりティッといった感じの語。声門閉鎖音が入る感じのようだ。 ［語法］ 動詞につくと「～しか」「せめて～くらい」などの意味になる。 【用例】 ʃıə ɷə uc ʃcȷȣ ３つしか買わないの？

ʃcȷ(J) ［言語］フレマゼル語の不活格を表す語 ɥɷ;‹ɑɥeᴅızeɥ Jʃl

ʃcȷ,ɑ ʃc（男→女） elʃ;e

ʃcȷʃ ［名詞］小声 ［普通動名詞］囁き、呟き、呟き、ささやき、ひそひそ声 ［動詞］ɥəl を ı に小声で言う、つぶやく、呟く、言う、囁く、ささやく ［類義語］ɑlıns ［レベル］２ 1ʃl: 制 :ʃıȷʃ 【用例】 lə ʅəʃ ȷɔı ʃcȷʃel. = lə ʃcȷʃıʃ ȷɔı. 彼は小声でそう言った。

ʃcȷȷıᴅe ［言語］不活格 ［反意語］uınȷıᴅe ɥɷ;/ Jʃl

ʃcȷȷe ［文末純詞］［ᴅclcı］ʃcȷee。～なのよ。 ［レベル］１ 1L: 制

ʃcȷȷen ［文末純詞］［ᴅclcı］ʃcȷȷe ［レベル］２ J1:ɥcɷcı:ʃcȷȷe/n

ʃcȷl ［名詞］マスコミ、マスコミュニケーション、マスコミ機関 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ʃcȷlɔ（あなたは知っているかの意味。ʃcȷı と同根） ［文化］ → beɥcl ・革命とマスコミ セレンは革命前、マスコミが国民の民度を下げていると糾弾した。beɥcl の文化欄に見られるように、革命で権力者になると、セレンはマスコミを潰さず殺さず、逆に国民の洗脳道具として利用した。マスコミの洗脳能力を買って、国民の民度を底上げするように利用した。統制されたマスコミは司民制においても重要なポジションを取った。

ʃcȷı ［文頭純詞］ご存知のように、ご存知のとおり、知ってのとおり、見ての通りの ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ʃcȷlɔ（あなたは知っている）

ʃcȷc ［名詞］粒、つぶ、ツブ、顆粒、消しくず、消しクズ、消し屑、けしつぶ、消し粒、消しつぶ ［レベル］３ 1ʃ: 制 :ʃcȷ（小さい） :lccl: 【用例】 lenı cl ınɷ ɥed ɔlʃı lcuɥɔ lenın eʃ ʃcȷc ʃcȷ. けし粒の生命でも私たち瞬いてる（『星間飛行』）

ʃcȷcbeʃc ［化学］懸濁 ［レベル］５ 1L

ʃcjciʅij ［生物］粗面小胞体　ɥʃ;「粒（リボソーム）が付着した小胞体」　ɺɱ

ʃcjɔı ［感動詞］おめでとう ［レベル］２　古 :ʃcjɔıı, ʃcjɔ, ʃcjɔɷ。元は ʃcjj ɔɷ「君はおこなった」で、仕事完了を祝福する言葉。転じてめでたいことがあるたびに使われた。音はまず ɷ が落ち、重子音が弱化して ʃcjɔ になった。それに感動詞の ıı（これは只の「アー」という声にすぎなかった）がくっ付いて慣用化され ʃcjɔıı が生まれ、後に ʃc にアクセントがあることから ıı が弱化して短くなって現在の ʃcjɔı に至る。

ʃcjɔɔnɔ ［感動詞］調子はどう？、どうしてた？、最近どう？、このごろどうですか？、ここんとこどうだった？、最近何かあった？ ［レベル］２　古 :ʃcjɔɔnɔ ← ʃcjjɔɔnɔɥən が短くなったもの。

ʃcjee ［文末純詞］〜なんだよ、〜なんだって。報告、情報提供の純詞。 ［レベル］１　ʅL: 制 :ʃc ɟe–e（あなたは知っている）が語になったもの。 【用例】 eɟʅ lənı ɟcl cɒ ɑcɟ ʃcjee. 今日は雨が降るよ。

ʃcn ［副詞］［形容詞］とても ［レベル］１　古 :ʃcnʅı の女性形。制アルカで「とても度」が弱まり、ʃcnʅı が使われることが増えたので、程度を弱めた。　:::ʅiʅı,ılʃ ［語法］ uıɥʃ

ʃcnʃ ［普通動名詞］乾杯 ［動詞］ɥəl について ı の神などに ɔʅ と乾杯する、乾杯する ［感動詞］乾杯 ［レベル］３　古 :ɑɔueʃ 【用例】 "ʃcnʃ lın ɥıuen lenın ʃeʃ ɒcll lcɥ ʃə ɒcl ʃəəbe ʅlıl ɑcɥ"「乾杯と行きたいところだけど、こんな何もない白い空間じゃそれも望めないわね」

ʃcnʃcn ［ɥenʃe］［形容詞］［副詞］ʃcnʅı ［レベル］１　古

ʃcnʃe ［天文］ティンテ、海王星、風天 ［組み数字］８/９ ［レベル］３　古 : ʃcnʃe ← ʃcnʅıı/ʃeeze

ʃcnʅı ［副詞］［形容詞］ものすごく、物凄く、非常に ［レベル］１　lɥ;ʃcnʅıı,ɑ. l　赤　ʃcnʅıı:ʃcnʅı::ʅiʅı,ılʃ ［語法］ uıɥʃ 【用例】 lə leɑ ɟen ʃıleI ʃcnʅı. 彼はとても早く走る。

ʃcnʅıɒıɒ ［生物］巨乳 ［レベル］４　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcnʅıı,ɑ　ʃcnʅı　ʅı は ʅıc

ʃcnl ［名詞］グラス ［レベル］２　古 : 乾杯するときにグラスを合わせたときの音 ʃcnʃ から

ʃcnjɔɥj ［電算］スーパーコンピュータ ［レベル］５　ʅL

ʃcnuıenın ［魔法］良蓄体 ［レベル］６　ɺ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

ʃcnuccɷɥɔn ［魔法］高暁圧 ［レベル］６　ɺ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

ʃcnucen ［音楽］フォルティッシモ ［レベル］４　ʅL

ʃcnuɔıɥ ［物理］［化学］高速炉 ［レベル］６　ul;ʃcnlcjc/uɔıɥ　ɺɱ ［語法］ 高速中性子を利用しながら核燃料の増殖を行わない原子炉のこと。

ʃcnɑıc ［料理］強火 ［レベル］３　ʅL

ʃcnɑen ［美容］ベリショ、ベリーショート ［レベル］４　ɺ1

ʃcnɒıɒ ［生物］豊乳 ［レベル］４　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcnɒecɑuɔıɥ ［物理］［化学］高速増殖炉 ［レベル］６　ul;ʃcnlcjc/ɒecɑuɔıɥ　ɺɱ ［語法］ 高速中性子による核分裂連鎖反応を用いた増殖炉のこと。

ʃcnɷcɥeʃ ［法律］重犯罪、大犯罪、重罪 ［レベル］３　ɺ0:ʅL:ɥcɷcı:ıɥbıleIʃ

ʃcnɷclɑ ［化学］強アルカリ性、強塩基 ［レベル］４　ʅL:ɥcɷcı

ʃcnφel ［軍事］大砲 ［レベル］３　ɺɱ ［文化］ cɒəl ʅɱʅɺ 年に ɥəlc scleel が発明。ナディア以降戦史で重要な兵器となる。

ʃcndıje ［料理］強力粉 ［レベル］４　ɥɷ;/　ɺʔ ［文化］ dıje

ʃcnɥəʃın ［魔法］良導体 ［レベル］５　ɺ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

ʃcnl ［音楽］鐘、ベル、チャイム ［メタファー］時間、限。授業の何時間目や何限。 ［レベル］２　ɟɔɥn:ʃcnl はオノマトペ　参考 : 古 :φclılɷɔ（ベル）　φclılɷ:φclılɷ ［語法］ 釣鐘型のものと、欽ちゃんの仮装大賞で使う段状のもの両方を指す。 ［文化］ 死神が嫌う音。鐘を鳴らすと死神は逃げていく。逃げられずに聞き続けると下位は死ぬ。ただし、死神が正体を現しているときでないと効かない。

ʃcnl ʃ'ıleʃ ［ユマナ］除夜の鐘 ［レベル］４　ɺ1: 年末の鐘

ʃcnlcjc ［物理］［化学］高速中性子 ［レベル］６　ul;/　ɺɱ

ʃcnı ［名詞］幼女、２〜５才の女の子 ［反意語］ılʃcnı ［レベル］２　古

ʃcnı(ɺ) ［遊女］［文頭純詞］ɷcnı ［レベル］４　ɺ1:ɷcnı 【用例】 ʃcnı ɒcın lɥıl ʃɥə lı ʃɔʃɥıl ʃlı. しかし何はともあれこっちじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ʃcnı(ʔ) ［言語］［文字］標準書体、ティナ書体、ティナ、幼女書体 ［類義語］ɑleɷclınj ［レベル］４　ɺ1:ɒclɑ:ləlcı → hıɾɒ ［文化］ ɑleɷclınj　・概要　幻京書体 サンセリフ ミディアム スタンダード ローマン　字案（小文字）ıɥle　字案（大文字）ɟeɥen ıɥbızıɥɷ　フォント制作 ɟeɥen ıɥbızıɥɷ　ɺ1 年企画立案、同完成　・特徴　幻字の形を伝えるために使われる最もプレーンな書体。　これを中心に様々な書体が生まれる。　用途が文字の原型を伝えることなので、これ自体をデザイン上で使うことはあまりない。　文字見本、初学者・幼児向け書籍などに用いる。　地球の欧文サンセリフにおける実質的な出版業界の標準であるヘルベチカと比べると、やや正方形寄りになっている。ティナのレギュラーがヘルベチカのファットかブロードに相当する。　アルバザード人は幼字や京極など、正方形の文字に見慣れている。そこで幻字も見本書体はやや正方形に近づけてある。ʅı nʃcı も ʃcnı に準ずる。　ʃcnı や lınʃcı の文字幅を用いると、幼字や京極と合わせたときに幻字が浮きづらいという特徴がある。　なお、見本書体以外のフォントのスタンダードは、ヘルベチカのように ʃcnı と比べてやや狭くなる傾向にある。　・名称　ɑleɷclınj 中では ʅı ɥɷcnıl と呼ばれる。

ʃcnıʅı ［名詞］小学校、小学、幼稚園、保育園 ［レベル］２　ʅL ［文化］ 小中学校は北区まで行くと２〜９歳の子供には辛く、親も大変なので、小中学校は東西区に設置されている。ただしアルナ校のような進学校では最初から北区に行くので、親兄弟などが送り迎えをする。南区の子供は東西近いほうの小中学校に行く。カルザス通りからだとどちらからも遠いが、カルザス通りはインプレンやゲームセンターなど、繁華街の中心なので、個人商店の子供は住んでいない。個人商店は東西どちらかに寄っているので問題ない。

ʃcnıjl ［化学］強酸性 ［レベル］４　ʅL:ɥcɷcı

ʃcnıɑeɒe ［地学］［歴史］中原生代 ［レベル］６　ul;/　ɺʔ ［文化］ φııueɑeɒe　１６億〜１０億年前の地質年代の区分。原生代（原生累代）のうち古原生代の終わりから新原生代の始まりまでをいう。

ʃcnıɷıcɒın ［名詞］小学校中退 ［レベル］３　ʅL

ʃcnıɥeφıjʃ ［名詞］小卒 ［レベル］３　ʅL

ʃcnıl ［生物］幼児 ［レベル］２　ɥɷ;ʃcnı/ıl　ɺʔ

ʃcnıın ［名詞］小学生 ［レベル］２　ʅL

ʃcncʅ ［名詞］風呂敷、ふろしき ［レベル］４　ɺɺ:ɷcʃcncʅ

ʃcncun ［音楽］ピアニッシモ ［レベル］４　ʅL

ʃcnɔɟ ［代詞］あなた自身 ［レベル］２　ʅL:lcɔn

ʃcnenl ［アビリティ］大技、必殺技、ティネンル ［レベル］３　ɺʔ

ʃcneeʃın ［経済］大株主 ［レベル］４　ɺɺ

ʃcu ［普通動名詞］試合 ［レベル］３　ʅL: 制 :ʃcjuıj（小さい戦い） 【用例】 ın nıʃ ɥəəɑ ʃcn ɒın cn ʃə ʃcu. その試合を見てとても興奮した。

ʃcɑ ［数学］［名詞］［形容詞］マイナス ［数学］負の数、負数← ʃcɑıll ［名詞］［形容詞］陰性。検査が陰性。 ［化学］陰極 ［反意語］dɔʅ ［レベル］３　ʅʔ: 制 :ɑıʃ の回文ではなく、ɟɔɥn で失うが ʃcɑl。制で失うの意味だったが、新でマイナスにした。数を失った結果という意味である。 ［語法］ ɺ1 に－の字形が定まった。瓶に溜まった水の減少量を示した刻み線が元となり、マイナスを指すようになった。　水を継ぎ足したら今度は瓶の上部に刻む必要が出てくるが、－だと区別できないので縦棒を引いて＋にした。ここから＋でプラスとなった。　乗算は和算の繰り返しなので＋を傾けて×に。　割り算は通常の計算では数が減るので、－を同じく傾けて／となった。　四則の字形はスラ以外 ɺ1 に定まった。　＋は足し算だけでなく正号も示す。－は同様に引き算だけでなく負号も示す。　読みは ɑɔʅ に対して dɔʅ、ɑcɷ に対して ʃcɑ。

ʃcɑʅı ［化学］陰極、カソード ［レベル］５　ʅL

ʃcɑnı ［名詞］否定的な、マイナスの気持ち ［反意語］dɔʅnı ［レベル］４　ɺ0

ʃcɑuclccɑı ［天文］マイナス三等星　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcɑl ［動詞］ɥəl を失う、失う、紛失する、失くす、無くす、なくす、亡くす、なくなる、無くなる、失くなる、もげる ［普通動名詞］喪失、失い、ロス ［受動名詞］無くし物、なくしもの、無くしもの、なくし物、落し物、おとしもの、落としもの、遺失物 ［反意語］ʃıɑ、lcɒ ［言語］脱落 : ɑclʃ ɟın の ʃ が消えるような現象のこと。しかもその後 ɟ が l に同化し、ɑc llın となる。 ［化学］酸化 ［レベル］２　古 :ɟɔɥn 【成句】 ʃcɑl ıɥʅı 言葉が出てこない : 思い出せずに「うー、なんだっけ」という状態。

ʃcɑlheʃʃel ［法律］遺失物等横領罪、拾得物横領罪、占有離脱物横領罪 ［レベル］６　ɥʃ;/「なくしたものを横領すること」　ɺʔ

ʃcɑı ［名詞］［形容詞］半分、ハーフ ［類義語］ɑeɟʃ ［反意語］ɑɔʅʅ ［レベル］２　ʅL: 制 : ʃcɑ から。「失った」が原義。 ［語法］ ɑɔʅʅ

ʃcɑıʃcı ［ユマナ］［宗教］煉獄、パーガトリー　ɺɱ:ʃcɑı/lıʃcı「半分地獄」

ʃcɑın ［化学］還元剤 ［レベル］５　ʅL

ʃcɑıuıɥ ［名詞］［形容詞］半透過性、半透性、選択的透過性、半透性のある　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcɑıɑɔʅı ［音楽］半音階、クロマチック　ɺ1

ʃcɑıdıjʃʃəj ［医療］半米粒大　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcɑıɥɔlɔ ［被服］半ズボン ［レベル］３　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcɑızclɔ ［地球の国名］アンゴラ　ʅL: 国章に半歯車

ʃcɑızclɔʃ ［交通］半クラ、ハンクラ ［レベル］６　ɺ1

ʃcɑıoıjd ［被服］半袖、半そで ［レベル］３　ɥɷ;/　ɺɱ

ʃcɑıll ［数学］負数、負の数 ［反意語］dɔʅıll ［レベル］４　ɥɷ;/　ɺʔ

ʃcɑııɥʃ ［魔法］半式魔法 ［レベル］５　ɺ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

ʃcɑııɥn ［被服］ハーフコート ［レベル］４　ɺ1

ʃcɑıılecuʅiʅı ［地学］半極投影法、ハーフポーラー ［レベル］５　ɺ0

ʃcɑcɥɔɟ ［化学］陰イオン、アニオン ［レベル］５　ʅL

ʃcɒ ［植物］種、種子、核 ［生物］核 ［地学］核 ［メタファー］核心 ［数学］球の中心← ɟeel ［レベル］２　ɺ0: 古 ʃeʅ/ɒelɒɔ（緑に関する丸いもの） 【成句】 ʃɔe ʃcɒ 核心に迫る、核心を突く

ʃcɒʃ ［名詞］ミニチュア、模型 ［レベル］３　ʅʔ: 制 :ɟıɷ:ʃcɒɔɟʃ（縮小模型）

ʃcɒʃch ［生物］核小体、仁、核仁 ［レベル］５　ɥʃ;/　ɺɱ

ʃcɒɟ ［名詞］ハンドバッグ ［レベル］３　ʅʔ: 制 : 原 ʃcɒeɟʅ（小さいかばん）

ʃcɒɟcı ［生物］核膜 ［レベル］５　ɥʃ;/　ɺɱ

ʃcɒueʃ ［言語］述語 ［レベル］４　ɺ0: 核となる語

ʃcɒueɒl ［数学］［物理］［地学］心射 ［レベル］６　ɺ0

ʃcɒueɒʅiʅı ［地学］心射図法　ɺ0

ʃcɒueɒliɲʅɔɲʅili ［地学］心射方位図法、Ｒｅｃｔｉｌｉｎｅａｒ、ＧＮＯＭＩＣ、ｔａｎｇｅｎｔ－ｐｌａｎｅ　ɺ0 ［文化］ 大圏コースを探すことができる図法。航空船舶ができる以前から、障害物関係なしに空を飛んで移動することができたユーマの一族にとっては重要な地図であった。

ʃcɒuec⅂ ［生物］核質、核液、核原形質　μʃ;/　ɺɱ

ʃcɒɑcbl ［生物］核基質　μʃ;/「核の網」 ɺɱ

ʃcɒɒeɒ ［数学］［地学］大円　［地学］大圏← ıʃɔlıȷʃcɒɒeɒ　［レベル］5　ɺ0: 球の中心を通る円　［文化］　球の中心を通る任意の円。円状の点は球上の点を通る。球の中心を通るため、球面を通る円の中で最も半径が大きい。地学では経線がすべて大円となる。緯線は赤道のみ大円となる。　大円上の任意の２点は常にその球における最短ルートである→ ʃcɒɒeɒɥeȷ

ʃcɒɒeɒɥeȷ ［地学］大圏コース　［レベル］5　ɺ0　［文化］　大圏上の任意の２点を結んだ線のこと。球面上における２点間の最短ルート航に等しいため、航空や航海に用いられる。

ʃcɒzelɔ ［生物］間脳　［レベル］6　ɺ0: 脳にとって種の位置

ʃcɒɔ ［交通］原チャ、原チャリ、原付、原動機付自転車、ゲンチャ、ゲンチャリ、スクーター　［レベル］3　lıʃı ではスクーターのみ。新生から ɺɱ までバイク一般だったが、ɺɱ で原チャに。　［文化］　ɑılɑcȷ

ʃcɑ ［形容詞］貧しい、貧乏な　［名詞］貧乏、貧困　［類義語］ɑɥenlen、ɒɔ ɒ⅂əc　［反意語］⅂ıφ　［レベル］2　@ 1L　【成句】［メタファー］ʃcɑ enʃɔ ⅂əc ɒɔɒ 根を食べるほど貧しい：アルバザードでは根っこは貧乏人の食べ物。ジャガイモの普及もこれで遅れた。　μcɑcı ɔ ɒel ıȷ ıʃ ʃcɑ cɒ ɥəlc. 家貧しくして孝子あらわる　ʃcɑ ȷeʃ ɥəlφ 貧すれば鈍する　ʃcɑen ʃcl ucl nɔz ɑcl 貧乏人は爪を長くする余裕がない：貧乏暇なし

ʃcɑɥɔφel ［医療］偽痛風　1L:μcɑcı　［文化］　μɑ で、痛風かと思ったらそうではないことから、貧乏な痛風と名づけられた。貧乏としたのは、痛風の語源を応用したもの。

ʃcɑıɑɔ ［地学］長石　［レベル］4　1L: 貧しい石。恐らくほしいものが入っていないという意味。

ʃcφ ［名詞］バンガロー　［レベル］6　1ʔ: 制 :ʃcμıφnı（小さい機械？）

ʃcdȷ ［名詞］小刀、ナイフ　［類義語］lcɑμe　［レベル］3　1ɱ: 制 :ʃcȷdcc⅂（小さい剣）［文化］　⅂əc⅂ɔn　さすがに木製のものは使わない。

ʃcdȷelc ［動物］さんま、サンマ、秋刀魚　［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleʃ　［文化］　秋の魚で、秋によく食用される。塩焼きにして大根おろしをかけるなど、日本的な食べ方をする。伝統として、赤いもみじの葉を皿の端に乗せる。

ʃcdhıɾl ［言語］雑体　1L　［文化］　ʃıdhıɾl の前身となるフォントで、書体のデザイン自体は ʃıdhıɾl と同じ。セレンが作成した。ʃıdhıɾl ができたため、使われなくなった。

ʃcdl ［動詞］ɥəl を検討する、検討する、見直しする、見直す、審議する、審査する　［普通動名詞］検討、審議、見直し、審査　［政治］審議　［レベル］4　1ɱ: 制 :lıʃı/ 古 :ʃıdlɔ → ʃıdl だが、ʃıdl は既に使われていたため。

ʃcdı ［植物］タンポポ、たんぽぽ、蒲公英、ダンディライオン　［花言葉］あどけなく可愛らしい　［レベル］2　1ʔ: 制 :ȷıɑ:ʃcdıμcn（小さいひまわり）［文化］　自生しており、雑草とも考えられていないため、除去されない。可愛い花だと考えられているが、放っておいても咲くので、わざわざ管理はされていない。そのため、春になると至る所で咲き乱れる。

ʃcdc ［医療］メス　［レベル］3　1ʕ: 制 :ʃcdȷ

ʃch ［植物］仁、ケーネル、穀粒、実　［形容詞］肝心の、肝心要の、要の、主要な　［レベル］4　1ʕ: 制 :ʃcȷhɔı

ʃcμcı ［地名］ティリア海　［レベル］6　ɺ0:μcɑcı:ʃc⅂nɔ/eμcı　［文化］　アルティア東･南、ヒュグノー東、ヴァルメレア東、アルハノン北、アヴィエル北の海。

ʃczɔ ［文頭純詞］とりあえず、いまのところ、当面　［副詞］いったん、一旦、一度、とりあえず　［レベル］2　1ɱ: 制 :ʃcz（今）［語法］　後に何らかの変化をするということを含意する。

ʃcs ［動詞］ɥəl を踏襲する、踏襲する、踏まえる　［言語］ɥəl（韻を踏まれる元となる単語や文）の韻を踏んで hıȷ（韻を踏む先である単語や文）に音を合わせる、韻を踏む、押韻する　［普通動名詞］踏襲　［レベル］4　1Δ:ʃc⅂l　【用例】　μe ȷɔ ʃə ⅂ɔnʃ ʃcs ınʃ. 私のやったのを踏まえてやってみなさい：ınʃ で「私がしたこと」。　leɒ ɑel "μcɑcı ɥəɑcı" ʃcseȷ μcɑcı hıȷ ɥəɑcı.「みなしごリディア」という曲はリディアとユディアで韻を踏んでいる。

ʃcsueʃ ［言語］韻、押韻、韻を踏んだ言葉　［レベル］4　1Δ:ȷeμen:ɒelcɑcı

ʃcl ［動詞］ɥəl を持つ、持つ、持っている、所有する、ɥəl がある　［普通動名詞］所有　［反意語］ȷc、ılʃc　［レベル］1　μɑ;ʃlcl,ɑ　1L: 古 :ʃlcl（持つ）　ʃlcl:ʃlcl:ʃcl:oılə,ılʃ　［語法］　所有の意味では ʃcl 単体で ʃcleȷ の相になる。　【用例】　ın ʃcl ıɒel. 妹がいる。　ın ʃcleȷ ɒıμ⅂. 鎌を手に持っている　ın ʃcl ɒıμ⅂. 鎌を所有している。

ʃcllıl ［経済］ロングポジション　ɺɺ

ʃclȷ ［名詞］記事、アーティクル　［レベル］3　1ʔ: 制 :ʃclɒ ？　【用例】　☆ ın cȷ⅂ nelʃ ʃclȷ ɔnen ılın ɔn ʃclɒ. 新聞は社会面を読む。　ın cȷ⅂ ʃclȷ ɔnen uıu hɔʃ. スポーツ欄しか読まない。　☆ ın ⅂clıʃ ʃclȷ le ɑcʃ ʃel μıʃ ɔn ılɔn ınʃ c ʃclɒ. 趣味に関する良い記事があったので、切り抜きしておいた：紙の新聞はないので、アルバザードでは起こらない。

ʃclȷıɒe ［言語］属格、所有格　［レベル］4　ɺ0　［語法］　属格の表現は２種ある。ひとつは e で、lec e ɒccμ（ミールの書）のように使う。ひとつは ⅂enɔ で、ɒccμ ⅂enɔ lec（ミールの書）のように使う。e と語順が逆なだけである。　また、屈折による属格もある。　ɑcı ueeμ のような２語でひとつの単語の属格は ɑcı ueeμen ないし ɑcı–ueeμen となる。　＜まいった、参った＞　所有格を使って「参った、あなたの勝ちだ」という意味の用法がある。これはアルカンスに端を発するものである。　ʃəın ʃəın まいった、まいった！、ギブギブ、ギブアップ

ʃclnı ［名詞］ボランティア　［形容詞］自発的な、有志の、ボランティアの　［反意語］ılʃclnı　ɺ0: 心ある

ʃclnıuıın ［軍事］義勇軍　［レベル］4　ɺ0

ʃclɑ ［動詞］ɥəl に間に合わない、間に合わない、乗り過ごす、取り逃がす、しくじる、ミスする、逃す　［副詞］～に間に合わない、手遅れ　［反意語］lɔnʃ　［類音］ʃcɑl、lclɑ　ɺ0:ʃcɑl ɒel（時を失う）【用例】　ın ʃcl ɑıʃ lɔd. 電車に遅れた。

ʃclɒ ［名詞］新聞　［レベル］2　1ʔ: 制 :ʃclɔɒıȷ（報道の紙）［文化］　アルバザードでは既に衰退し、紙媒体の物は存在しない。アンセに配信されるニュースサイトを ʃclɒ と読んでいる。　【用例】　ın cȷ⅂ nelʃ ʃclɒ ʃıʃ ȷel. 私は毎朝新聞を読む：あえて毎朝と訳出。　ın cȷ⅂ıʃ ʃclɒ oınel cɒ ɑııμ. 朝、新聞をざっと読んだ。　ın cȷ⅂ ucl clɒ e ʃclɒ ȷı hıμd. 朝のうちに新聞全体を読むことはできない。　☆ ʃə ȷɔɑı lənıʃ ʃclɒ hınel. その事件は新聞に大きく載った。hın に注意。紙面は二次元なので。

ʃclɒı ［魔法］ティルマ、防霊力　［レベル］4　ɺ0: 古 ʃlclɒıcn（抱く←体を持つ）。体を抱くように包み込む光であることから。　［語法］　enuel en

ʃclɒe ［動詞］ɥəl になつく、なつく、懐く　古 :ʃclɒ ← ʃlclɒel（メルを持つ）。メルがセレンに懐いたことから。元は「懐かれる」の意味だったが、この動詞は主格が省略されやすく、一方対格に来るものが省略されにくくことから、能受が逆転した。　【用例】　lcı ʃcllɒeȷ ɒel ʃcnel. しあはメルによく懐いている。　ʃə ⅂eʃ ʃclɒe lın. この猫は人に懐く。

ʃclɥəɔ ［言語］所有動詞　［レベル］5　ɺ0　［語法］　ʃcl, ȷc など。

ʃclın　所有者、持ち主　1L:lecn

ʃclısı ［経済］持株比率　ɺɺ

ʃclɔn ［擬音］ぴんぽん、ピンポン、ピンポーン　［レベル］2　ɑu　赤 : 正解やブザーの音

ʃcı ［形容詞］正しい　［名詞］正解、正答、あたり、当たり、アタリ　［類義語］ılɒccμ、ılnı　［反意語］eucʃ　［レベル］2　μɑ; ↓　1L: 制 :ʃeı　［文化］　ʃcı　【用例】　lı ȷeȷ ʃcı nı. 彼は正しかったようだ。　"ʃcı ɔn "⅂ɔn ɑce", ʃıl eucʃ ɔn ȷııs. ınɑc ɑcȷʃ ɔ ɑcȷʃ lənı uın ɔl ɑce ɑc c⅂ nɔl.「そう、嘘でできている。だけど無じゃない。嘘が集まると、ごく稀にだけど、何かが生まれることがあるんだ。

ʃcıʃ ［エルト］ティアト　［名詞］人質　［レベル］3　μcɑcı: 古　［文化］　夜の海を司るルーンの娘。小さな少女の姿をしている。昼の海を支配する王サテュラに攫われてしまう。

ʃcıʃc ［感動詞］愛してる　［レベル］1　1ʔ: 制 : 古 :ʃccı ʃcȷ（貴方を愛している）

ʃcıʃcȷ ［感動詞］さようなら、またね、さよなら、じゃあね、バイバイ、行ってきます、いってくるね　［レベル］2　古 :ʃcı ʃcȷ（私は）貴方を愛しています。中学以降、リディアが来て駅で別れるときにお決まりのセリフだった。　［語法］　恋人同士が使う。　【用例】　ʃcıʃcȷ. nɔn ʃccı ʃɥə nɔɑ neʃıl. ʃeʃ ʃɥə eɒ ucl ⅂ıın μıʃ e ɥəlcın dɔʃen ʃɔɒ e. さようなら。貴方を誰より愛してる。それでもお腹の子の良い父親にはなれないわ（『Ｒｏｍａｎ』＃１「見えざる腕」）

ʃcı⅂ ［動詞］ɥəl を慰める、慰める、なぐさめる、気が晴れるようにする　［普通動名詞］慰め、なぐさめ、慰安　［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :⅂əʃcı（愛していると言って）。「慰めてくれるなら愛してると言って」という台詞から。　【用例】　ın ʃcı⅂ıʃ nɔȷ uɔl ʃeμ leɒ ɑcμʃe. 元気な音楽を聴いて気晴らしをした。

ʃcıȷ ［普通動名詞］セックス　［動詞］ɥəl をセックスする、セックスする　［類義語］eȷȷe　［反意語］ɒedȷ　［レベル］3　μɑ:μcɑcı;ʃccı/eȷȷe　ɺʔ:μcɑcı: リディアが「愛のあるセックスでないとセックスに意味はない」と言い出し、ただのセックスと愛のあるセックスを分けるべきと言い出し、造語することとなった。メルも強く共感していた。　［語法］［文化］　愛のあるセックスを ʃcıȷ という。それ以外の体目当てのセックスや快楽目当てのセックスを ɒedȷ という。アルティス教は ʃcıȷ を至高のものとして捉えるため、幼女にいたずらしたり少女をレイプしたりしても真の精神的満足は得られないとみなしている。　ʃcıȷ は ɒedȷ に比べて価値があるとされる。それは希少価値が高いためである。風俗やレイプでは ɒedȷ にしかならない。付き合っている間柄でのセックスでさえ ʃcıȷ である保証はない。彼女が義理でさせているだけとか、逆に彼氏が性欲処理としてセックスをしている場合があるためである。

将軍は大奥の女を好きに抱けたが、女は将軍というステータスがなければその男に股を開かなかったろうから、ʃcıȷ とは呼べない。将軍などのステータスとセックスしただけで ɒedȷ である。つまり自由に女を食える人間でさえ ʃcıȷ は貴重なのである。むしろ地位や権力などステータスが高いほど女は男自身でなくステータスに股を開くので、ʃcıȷ から遠ざかる傾向にある。現代でいえば医者や一流企業のサラリーマンなどがこれに陥りやすい。　仮に結婚や同棲をしている間柄でも ʃcıȷ でないことがある。互いに恋してセックスしたなら ʃcıȷ であるが、バツイチ子ありなどが「この子の将来のこともあるし、ウチには財産もないし、この子に父親代わりの人がいたほうがいいし、私も誰かに守ってもらいたいし」など打算が少しでもあれば要するに結婚や同棲という形での身売りでしかないので、その男に打算なく惚れて恋心からセックスしたわけではないから ʃcıȷ ではなく ɒedȷ である。愛のあるセックスではない。　男はとにかくやりたいが先に立って、やれればなんでもいいと思うことがある。女はそういう感覚はほとんどなく、誰でもいいから突っ込んでくれと思うことはない。そういう妄想をする女がたまにいても、実際に行動に移すまではしない。女用のソープがないことからもそれは分かる。

男はセックスしたいと思ってもそう簡単にはできない。女はしようと思えば簡単に男を誘惑できる。女に誘われて断る男はあまりいないため、何人か誘えばセックスにありつけるからである。だが女にとっては女体というリソースをタダで提供するだけであり、それは損にしかならない。だからやらない。　そう考えると女はやりたくなれば簡単にやれて男はそうはいかないから大変という考えが出てくる。しかし女がやりたくなって男を誘惑してやるのは所詮 ɒedȷ で

しかなく、男が万札を握りしめてソープに行く ᴅedɟ と何ら変わりない。１万程度でできる格安ソープとそこら辺の男に声をかけて女体を提供するのでは大差ない。どちらも損をしている上に ᴅedɟ でしかない。　このように考えるといかに ʃcıɟ が希少価値が高いかが分かる。実は ʃcıɟ は女のほうが得にくい。というのも、恋人同士のセックスは、女の側は義理マンを除けば男のことが好きで受け入れてやっている場合が基本だが、男の場合は本当にその女を愛していて抱くというより性欲処理の面が拭い切れないためである。性欲処理でない純粋な愛情で男が女を抱くのは難しい。その意味で ʃcıɟ を得られる男は多いが ʃcıɟ を得られる女は少ないと言える。　そしてこの ʃcıɟ の希少価値ゆえに、愛のあるセックスを経験したことのない者を蔑んだ ʃcıɟbeel という言葉が生まれた。

ʃcıɟbeel ［ネガティブ］愛童貞　［レベル］５　µɑ;/　⅃ʔ　［語法］［文化］　→ ʃcıɟ　ʃcıɟ をしたことのない者。

ʃcın ［名詞］カノジョ、彼女　［反意語］ılʃcın　［レベル］２　古 :ʃcın,ʃccın。ʃcı「 愛 」に指小辞の n が付いたもの。　［文化］　日本の場合、男女入り混じって雑談するということは多くない。他人かカップルかという差が歴然としている。友達という区分が少ない。知り合うのが難しく、出会いがないということになる。　その代わり、気に入れば付き合うまでが早く、セックスに至るのも早い。ただ、付き合ってセックスすると、いちゃいちゃする割合は少なく、淡白な関係になる。　アルバザードの場合、ほぼ真逆と見てよい。男女が付き合うのに平均３年ほどかかる。カナンと紗枝の状態でさえ、ふつう数カ月、長ければ数年かかる。　日本と違って離婚も再婚も厳しいアルバザードでは、恋人選びはじっくり時間をかける。　なお、付き合ってもセックスしなければ女は別の誰かと付き合う権利があるため、付き合うのは早くしても、セックスは最低でも ʔ 年はさせないということもある。　このように選択が厳しいため、逆にいえば「恋人候補」が一人しかいないと、それだけで数年間を無駄にしてしまい、適齢期を逃す恐れがある。　そのため、アルバザード人は男女ともに候補を数人見繕っておく。彼らと数年間付き合い、この人は大丈夫だと相思相愛になった相手を選ぶ。　ゆえに、候補をたくさん確保するために、男女の仲はよく、学校や職場でも常に入り混じって話す。女子は女子で固まるということがない。　また、アルバザード人は一度セックスすると、フランス人並にいちゃいちゃする。ただし、人前では絶対にしないところが決定的な違いである（ちょっとくらいはいちゃいちゃするが、恐らく日本人か韓国人と同じくらい）。セックスの頻度は極めて多い。アルバザード人は女子側が積極的であるため、精力の強さはカレシ選びで重視される。特にアルバザードは娯楽が少ないため、セックスは恋愛関係でとても重要である。アルバザードのほとんどの女子は自慰を行うため、性感帯も発達しており、最初に痛くしなければたいていはセックスに依存するようになる。　ただし、アルバザード人の女は総じて「押す」でなく「引く」タイプで、自分から求めるのではなく、相手に求めさせ動かすというタイプである。　カレシは女子の誘惑してくる空気を読む能力が必要で、毎日のように求めてくるのに応じ続ける体力が求められる。応じなかった場合はたいてい女から愛想を尽かされ、関係が冷める。アルバザードの場合、それで簡単に別れられないので、冷えてしまうと後々辛い。　【成句】　ʃcın cᴅen ʃc ıʃ beʃʃel eʃ ʅıɟen. みじめなときにできた彼女が本物だ。女は男そのものより男の持つステータスに股を開きがちな生き物なので、金や地位などを持っているときにできた女は信用できない。逆に自分が空手のときに拾ってくれた女が愛すべき本物の恋人だという教え。　【用例】　nɔɑ hırn ʅɔnʃ ʅılʃ ʃcın 友達以上恋人未満　ın ɟc ʃcın. ʃə eʃ ɟınse clcı ɔnen lɑcɟ ınʃ cʅ ueµn. 彼女がいない、ただこの一点で人生崩壊（加藤智大）

ʃcınʃ ［形容詞］ぐいぐいくる、グイグイくる、ぐいぐい来る、グイグイ来る、よくなつく、よく懐く、熱烈な　［反意語］ılʃcınʃ　［レベル］４　µɑ; ʃcın/eʃ「カノジョのような」　⅃⋔　［文化］　µɑ でセレンが作った語。女は付き合っているときは相手のことを熱心に思うが、別れた途端歯牙にもかけず思い出もうっちゃり捨てて手のひらを返す心ない生き物だということを揶揄して造語した。逆に男は付き合っているときはそっけないが、別れた後もずっと引きずる生き物で、ılʃcınʃ が造語された。つまり女は ʃcın の間は ʃcınʃ だが ʃcın でなくなると ılʃcınʃ になり、男は常にずっとほどほどに ılʃcınʃ であるということである。

ʃcınıl ［名詞］恋人、カップル　［類義語］ɑılle　［レベル］２　1L:lecn

ʃcınc ［動物］アメリカンショートヘア、アメショ　［レベル］４　⅃1: ルティア猫　［文化］　人気。

ʃcıuel ［武道］ティアベール、ルティア式戦闘術　［アクセント］ʃcıuEl　［レベル］３　⅃0:ləʃcı/ɥəuel　［文化］　ユベールの一種。受けを主体とする戦闘術。µɑ でソーンがアルベールを元に開発した。その後ルティアで栄え、護身術として定着した。受け、流し、守りなど、護身術に特化している。徒手の場合、合気道に近い体系。武器を使う場合、薙刀や棒などが伝統的に扱われる。アルバザードには護身術として入り、女子の間で人気が高い。

ʃcıᴅ ［代詞］［ɟlɑeµs］ʃc　［レベル］１　⅃⅃:ʅᴅccµ

ʃcıᴅeʃ ［代詞］［ɟlɑeµs］ʃccɟ　［レベル］１　⅃⅃:ʅᴅccµ

ʃcıdcı ［言語］二人称　［レベル］４　1L:lcɔn

ʃcıµı ［名詞］港、波止場、港湾、ハーバー、漁港、桟橋　［レベル］３　⅃0:ʃceµ/µı → ʃceµı → ʃcıµı（同化）　参考 :1⋔: 制 :ıdlᴅɔnɔ　［文化］　日本と大差ない。ふつうに旅券を見せて船に乗せてもらう。国外へ行くならパスポートとしてアンセを見せる。

ʃcıµıᴅ ［言語］理字、ティアラム　［レベル］５　⅃1:ʃcı/ɑɔµᴅı　［文化］　hırl、lcᴅ

ʃcıµen ［言語］ルティア語　［レベル］３　⅃0　［文化］　→ lcᴅ, hırl, elɑɟeʃı　●古ルティア語から現ルティア語までの概要　名称：lʃ（ルティア語）　系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派ルティア語群 (ıʃenıᴅıʃ, ɥəᴅıeᴅcʃ, ᴅıleʃɑcıᴅ, ɟıucıcɑıl, ɟcczcılelʃeᴅ, ləʃcıʃıl)　使用年代：ᴅʃ_ls：ᴅʃ_ʅʅ(lʃɑ), ɟᴅ_µɑ(lʃl), nɑ_µʃ(lʃɑ), ul(lʃu), ıl_ls(lʃ(lʃɟ))　分布：北サヴィア　話者：シージア滅亡後の南部シージア人。現在のルティア人　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：客観的把握　zφ でシージアが滅び、北はリーゼル、南はルティアに分裂する。シージアは zφ の頃は人種の坩堝で国際都市であった。zφ 末期のシージア戦争では最大の激戦区となっていた。　ところが zφ が終わると ᴅʃ と ʅʅ では大きな戦に巻き込まれなかったため、安定した発展を遂げるようになった。かつて文明の最先端を行っていた地域だったが、ᴅʃ 以降はその安定性により伝統の国へシフトした。　ɟz と比べると、lʃ には名詞に性がある。また、名詞に有界性ができ、単数複数や可算不可算などができた。冠詞も生まれている。音韻的には h が復活し、鼻母音も獲得している。複雑な二重母音の体系も生まれた。　◆古ルティア語 (lʃɑ)　語順など文法の大雑把な面は ɟz と変わらない。　・文字　ɥəᴅᴅı ꟼLꟼL　［言語］［文字］ルティアがメテ幼字を公用文字に→ hırl　ꟼL⋔⋔ にメテ幼字が制定されたのも束の間、メテがソーンに暗殺され、さらに後釜についたアルシェまでソーンに敗れるや一転、メテを象徴するメテ幼字の権威は失墜した。　ソーンはアルハノンの文化圏出身者であったため、メテ幼字を廃してアルハノンを支配地の効用文字に制定 (Δ00L)。レスティルに初めて表音文字が公的に入った。　ソーンが暗殺されアルバが王位につくと、アルバはアルハノンを公用文字から除外。ところが彼自身アルハノンが公用文字だったころの生き証人で、表音文字の便利さを肌で知っている世代だった。　それまではルビとして響字を使うのみだったレスティル（この時点でアルバザード）だったが、ここで表意の幼字に戻すより表音を使ったほうが便利でかつ国民の適応も早いのではないかと考えた。そこでアルバは幼字を廃し、響字だけで記すよう定めた (cᴅəl ↟)　一方ルティアはすでにこのとき伝統を重んじる国になっていたため、ꟼLꟼL に採用していたメテ幼字しか使わず、表意が使われ続けた。　・音韻　zφ が終わって ᴅʃ が始まると戦争の終わりとともにハーディアン人との貿易が活発化し、h がもたらされる。　ɟz では消失して ' になっていたが、lʃɑ 以降に入った語には h が付く。この時代の人々は例えば 'ɔµeʃʃ に元々 h が付いていたことをもはや知らないので、'ɔµeʃʃ などは hɔµeʃʃ に戻らずそのままになった。これは自然言語で一般的に見られる現象である。例えば日本語では d が h に変化した時期があるが（ピカ→ピカる→ピカり→光）、「パソコン」などの外来語ではそのまま d 音で再び取り入れている。　ɟz には h はないが、lʃ には h がある。' を見れば ɟz 由来の語だと分かり、h を見れば lʃɑ 以降の語だと分かる。　・格　与格も格を持つようになる。　与格 cl が膠着して (c)l になる。　ɑclcıl（少女に）、lczµɔl（家に）、ɑılıncl（貴方に）　主格と音が似るケースがあるので注意。　主格：母音調和した母音＋ µ：ɑılın → ɑılınıµ（ファラナール。貴方が）　対格：(ɟ)ıs：'ɔµeʃʃıs（オレッタージュ。リンゴを）　与格：(c)l　・名詞の数　zφ 末期ごろから ᴅʃ の始まりにかけて複数の ɟe が ɟ として膠着し、複数形を指すようになった。　無声音には ɟ で、有声音には z が付く。lıd なら lıdɟ、lıb なら lıbz。　無声音と有声音の対立のない子音の場合は ɟ が付く。lın なら lınɟ。ただしその後に有声音が来ると濁る。lınzıµ。　開音節には z が付く。lı なら lız。　この後、ʃə ʅenɔ（これの）が ʃən になり、ʃən が「ひとつの」を指すように意味が変わり、単数形が生まれる。　それから「～というもの」という名詞の概念そのものを指す接尾辞として –(l)eʃʃ が生まれる。　'ɔµeʃʃeʃʃ（リンゴというもの）　◆遠ルティア語 (lʃl)　＋前期 ɟᴅ　ᴅʃ と ʅʅ で戦火を避け lʃɑ ではルティアは発展を見せていた。　ɟᴅ に入り、cᴅəl1↟L にアルティアで魔導師が減少し、武士の台頭への機運が高まる。　⋔⋔⋔ にルティアはアルティアを攻撃し、開港を迫る。アルティアで開国と攘夷に分かれ、内乱が発生。　ꟼΔ⋔ にアルティアがルティアへ侵攻。　ꟼ⋔↟ にトモエ陥落し、ルティアは西部を奪われる。　＋中期 ɟᴅ　前期末から中期にかけてアルティア人の支配を受け、ılʃ の語彙や文字が流入する。　異文化を取り入れるアルバザード人は ılʃ との混合で二重把握を獲得したが、伝統を重んじるルティア人は客観的把握を貫き通した。　＋後期 ɟᴅ　・鼻母音　µɑ で宮廷を中心に鼻母音ができる。　ın がフランス語の ın のように発音される。　・二重母音　同じく µɑ で宮廷を中心に二重母音の音価が変化する。　合字の ɔe のような音である。　この変化は宮廷から徐々に庶民へ広がっていった。　・名詞の性　再びルティアは力を取り戻し、リーゼ姫の時代に最盛期を迎える。　リーゼ姫の頃には宮廷で詩歌の対照技法が流行した。対照技法というのは二文一対の中で太陽や月といったペアとなる単語を織り交ぜる技法のことである。例えば ↟B という ɟ つの文があるとする。このうち ↟ で太陽を使い、B で月を使い、対照させるという具合である。　なお、太陽と月のほかには男と女などがあり、この分類も彼女が行った。彼女は男が含まれる名詞を男性名詞と呼び、女が含まれる名詞を女性名詞と呼び、それ以外の対照性のない名詞を中性名詞と呼んだ。　ところで ↟B に続くパラグラフで ↟'B' というのがあったとして、この ↟'B' の中で太陽と月がもう一度言及された場合、どうなるだろうか。　当然代名詞で受ける確率が高いわけだが、ʔ 人称の代名詞は lə しかないため、太陽も月も lə で受けることになる。するとどちらがどちらを受けているのか分からなくなってしまう。　対照技法において ↟B はたいてい似た構文を取るため、↟'B' でどちらも lə を使うと、どちらがどちらか分からない恐れがある。　↟B の次に必ず ↟'B' が来ればまだしも、B'↟' という文の順序になるケースもあり、このような場合はさらに誤解を招きやすい。　そこでリーゼは lə をアプラウトさせた（＝リムレットさせた）lı を作り、lə と lı で受けるようにした。　この案を思いついたときに書いていた二文一対の文 ↟B が太陽と月をこの順序で含んでおり、リーゼは試験的に太陽を lə で受け、月を lı で受けた。　それが宮中で評判となったため、リーゼは男性名詞を lə で、女性名詞を lı で受けるようにした。　この時点では中性名詞は lə で受けていたが、lə は男性名詞を受けるものだという感覚が一般化すると、中性名詞は ʃə で受けられるようになった。　これがきっかけとなり、既出の名詞は ʃə, lə, lı で義務的に受けられるようになり、定冠詞が生まれる。　一方、このころ単数形は上記 ʃən で表していたわけだが、定冠詞ができたことで ʃən と並行しながら不定冠詞が規則的に生まれる。　ʃən, lən, lın でそれぞれの性の不定冠詞であ

る。　・指示詞　ſə が冠詞になって消えたことで「これ」と「あれ」の対立が消え、Tə が指示詞としての意味をなさなくなり、消滅。しかし指示詞を使わないわけにはいかず、同時に ſəſə から ſəſ、ſələ から ſəəl が生まれ、「これ」と「あれ」の対立を作る。　いずれも前置。　これらは指示詞であって冠詞ではない。不定冠詞でも定冠詞でもなく、指示をするためだけにある。　フランス語の ɗe は ən でも əne でも le でも lı でもないが、あれに近いものを想像すればよい。　・まとめ　男性定冠詞　lə　中性定冠詞　ſə　女性定冠詞　lı　男性不定冠詞　lən　中性不定冠詞　ſən　女性不定冠詞　lın　近称指示詞　ſəſ　遠称指示詞　ſəəl　◆中ルティア語 (lſɑ)　・文字　アルカができたことで、アルカの幻字が入ってくる。　音の表記に便利なため、音の表記に使われた。　・語彙　文法は相変わらずだが、語彙はアルカのものが入るようになった。ただ、最初のころは外来語をルティア語に翻訳して取り入れる国粋主義的な手法が一般的であった。　しかしこれは後のミロク革命で一転することとなる。　・名詞の性　名詞の分類が対照性を持たないものにまで広がり、中性名詞が消滅。　不定冠詞の頭子音が消失。　ſə がお役ごめんになったことで近称指示詞の ſəſ が短縮され、ſə に。　男性定冠詞　lə　女性定冠詞　lı　男性不定冠詞　ən　女性不定冠詞　ın　近称指示詞　ſə　遠称指示詞　ſəəl　・テンスとアスペクト　アルカの影響を受け、テンスが変わった。　連動詞式は止め、動詞に接尾辞を付けるようになった。　過去：–(e)ſ　ɑəſıſ（与えた）　現在（通時）：–ȷ　ɑəſıȷ（与える）　未来は ʅeµ を文法化して表す。　ɑəſı ʅeµ（与えるだろう）　アスペクトは変わらず助動詞で表した。　◆近ルティア語 (lſu)/ ルティア語 (lſ)　・文字　時代を追うごとに幻字の使用頻度が増したが、幻字は lſ を記すのに適していないため、理字も使われ続けた。　・語彙　アルカの語彙が大量に入ってきた。　・格　アルカの影響を受け、ＳＯＶの標準語順の場合、与格以外が落ちるようになった。　ただし玲方語では lſ でも格が落ちない。　lſɑ: ən ᴅıncȷıµ ın ɑclcıl lı lelc əȷıs czɔleſ. イュン　マニサール　ア～ン　フィリアール　ラ　シェリウサージュ　イゾレーット　lſu/lſ: ən ᴅıncȷ ın ɑclcıl lı lelcə czɔ leſ.　イュン　マニース　ア～ン　フィリアール　ラ　シリウーゥ　イゾレーット　ıµʅı: ʅɔ ucʅ ȷcnȷıſ leſſ ı le ɑcın.　●ルティア語（現ルティア語、現代ルティア語、lſ, lſȷ）概説　分布：ルティア、リーゼル、アルバザード、アルティア、ミディート…　lſȷ の前身は lſu で、lſȷ は ıl_ls の間に使われた。　他方、lſ 全体の前身は ȷz である。zφ でシージアが国際都市だったことから、ȷz は当時最も学問的に進んでいた。それゆえ現代でも特に人文分野には ȷz_lſ が多く使われる。例えば言語の年代名は ȷz_lſ 語を使う。lſu は ləſcı ulınɑ と読む。ここに形容詞 ulınɑ が使われている。　一方、錬金術や科学は ȷᴅ 以降アルバザードで発達したため、これらの分野の術語は ıµ_ı を使うことが多い。

＜文字と音節の変遷＞　ſᴅ で ȷzɑ ができる。　ȷµ でアクサンの位置が最終音節に固定。　zφ で響字が作られたとき、ȷz は２４子音９母音計３３文字を選択。響字は読み仮名として使われ、文字自体は幼字を使用。　ᴅſ で T がなくなる。　ʅʅ で ɗ,Ɖ がなくなる。子音２２の母音８の計３０となる。　前期 ȷᴅ でアルティア人によって幼字が廃止され、読み仮名でしかなかった響字で記されるようになる。

中期 ȷᴅ で理字ができる。このとき上で述べた３０個分の字が制定される。　後期 ȷᴅ で二重母音の音が変化する。　ıc[θ:]　ıe[θ:]　ıı[ʉ:]　ıɔ [ɔ:]　ıə [ɔ:]　ec [e:]　ee [E]　eı [θ:]　eɔ [8:]　eə [A:]　ɔc [A:]　ɔe [8:]　ɔı[o:]　ɔɔ[Ↄ:]　ɔə[ɔ:]　c＋母音は口蓋化してヤ行風に。dlce はプリェと発音。　ə＋母音は唇音化してワ行風に。ʅəı はクヮと発音。

µɑ で鼻母音ができる。　nɑ で単母音の音価が変わる。e は環境によって [ɜ] になり、ə が [Ɵ] になった。　µſ で定冠詞 lə の発音が [lɜ] となる。　ul で冠詞と母音で始まる単語の間にエリジョンが起こる。lə ıȷce で l'ıȷce。lı elȷc で l'elȷc。　ただし、ルティア語には「単語は同じなのに性が変わると意味が変わるもの」が多くある。例えば lə ȷıuın は腕で lı ȷıuın は手である。同じく lə ıʅəı は青い紫陽花で、lı ıʅəı は赤い紫陽花である。ıʅəı の場合、どちらも l'ıʅəı にしてしまうとどちらの意味か分からなくなる。このような場合には古形である lən, lın を用いて lən ıʅəı, lın ıʅəı などとする。　＜ルティア語の音＞　無アクセント。デフォルトは最終音節。高低アクセント。　音節は複雑で、パターン数は多い。短く区切る傾向にあり、ＣＶＣＣなら２音節で読む。　２２子音８母音。３０音。ひとつの音素が複数の音声として現れることがある。母音 e,ə などは特に音声のバリエーションが多い。ɗ はなく、l に置き換わる。　ſ,ɑ,ȷ,z,n,ᴅ,l,µ,ʉ,Ƶ,ɭ,s,d,b,ɑ [Ψ] ,u [∀] ,ɥ,o,ʅ,φ,X [ʁ] [ʔ] [X] ,h　c [c] [Є] ,A,e [e] [E] [ɜ] ,8,θ,ı [ı] [ʉ] ,ɔ [ɔ] [Ↄ] ,ə [ə] [Ǝ] [Ɵ]　音節末の d,ſ,ȷ,ʅ は読まない。lıſ [lı]　後ろに e が付くと読む。このとき e は [ɜ] に。lıſe [lıſɜ]　d,ſ,ȷ,ʅ でも子音が重なれば読む。lıſſ [lıſ]。上とシュワーの有無で異なる。　それ以外の子音は読む。leɑ [leɑ]

e は音節がＣＶのときに [ɜ] になる。lenı [lɜnı]。le はアクサンが来るので [E]　ほかの母音同様アクセントが付く場合は強くなる。e の場合は[E]になる。lıneſ[lınE]　音節がＣＶでも最終音節の母音がシュワーしかない場合はアクセント位置が繰り上がるため、e でもシュワーにならない。lenı は [lenı] だが lene になると ne にアクサントは付けられないので le にアクセントが来て [Enɜ] となる。　ə は [Ɵ] だが、定冠詞 lə のみ [lƟ] でなく [lɜ]。これは高頻度による音の弱化。　例　ɗəəʅccſe [[illegible]]　ləᴅccne [lƟᴅcnɜ]　lə ɑlıᴅ [lɜ Ψlıᴅ]　lı ɑcɔle [lı Ψɥplɜ]

＜ルティア語とフランス語＞　ルティア語はよくフランス語に似ていると言われる。作者がフランスの混血だから意図的に似せたのではと勘繰られるのだと思う。文法も単語も ɑu から作っているので、地球においてはアプリオリの人工言語である。特にフランス語を流用したということはない。ただ、下記のルティア人の感性は実際には作者の美的センスが反映されており、かつ作者はフランス語をある程度美しいと考えているので、影響は受けているといえるだろう。　＜ルティア語の自然性＞　ルティア語は地球で使うことを念頭においていないので、セレンはルティア人らしい美的センスを追及した造りにしようと考えた。　アルカは「や」が多い。破裂音が多いとコロコロして聞こえ、摩擦音が多いと耳障りだ。l のような流音が多いと流暢に聞こえる。これは人類に共通の感覚ではないが、ルティア人は一般にそのように感じる。言語学的には人類全体に共通する音のイメージはあまりないが、ある言語に限ればこういうことはある。例えば日本人は一般に清音より濁音を汚いとか強いと感じる。　またルティア語は抑揚が少なく流れるように聞こえるため、上品に聞こえる。これもルティア人の感性だ。　さらに文法には自然言語らしい冗長さを加えた。アルカはアトラスではアポステリオリ人工言語なので、自然性が純自然言語のルティア語より薄い。ルティア語に名詞の性があるのは自然言語らしさを描写しようという試みの一環である。とはいえ、もちろん面白いからという理由で付けたのではなく、言語学的な発達を並行して考慮してのことである。

ſcılec ［言語］ルティア方言　［レベル］４　ȷ0

ſcııʅı　ティアーシャ　ȷɔµn で「 全てを愛する 」の意　［文化］　クミールのつけている日記だが、赤アンクノット及び通常のアンクノット並みの情報を持つ。

ſcııll ［言語］ルティア数字　ȷ1 ［文化］　ȷzɑ でできた１２進法の数。アルミヴァが語源になっている。現代でも物を数えるときなどに用いられる。　0:ᴅɥəl　1:ȷecl　ȷ:ſccl　ʔ:dɔɔl　ɱ:neµl　ꝑ:ʅleul　ʕ:ʅızel　ɋ:ɑınl　Δ:zɔnl　L:ſcʅl　10:ɑenl　11:nebl　1ȷ:ʅɔl　1ʔ:ʅɔlȷecl　1ɱ:ʅɔlſccl　:　:　1ɱɱ:ȷınȷ

ſcıeucſ ［名詞］正誤　［レベル］３　µɑ;/　ȷʔ

ſcıeucſdıl ［名詞］正誤表　［レベル］４　µɑ;/　ȷʔ

ſccſel ［サール］ティーテル　［名詞］２時　［名詞］東北東　［交通］ティーテル通り　［音楽］ド＃　［組み数字］２／１２　［類義語］ſel　［レベル］２　ᴅelſcı ɱ:ſccſel;e　古　［文化］　アルミヴァの２番目。サールの胴体から生まれた幼女。ティーナという剣を持って生まれた。しかしティーテル本人は剣を使うことができず、専らこの剣にふさわしい者を待つ番人になってしまう。ティーテルは生涯成長することなく、夫を持つこともなかった。結局ティーテルの剣を扱うに値するものは現れなかった。µɑ になると、ティーテルはテームスの復活を感じ、キルセレスに剣を奪われるのを恐れて腹の中に剣を隠した。しかし剣は収まり切らずに出てきてしまった。よく見るとティーテルの腹からは剣だけではなく小さな女の赤ん坊までもが出てきていた。その子供は以前ネブラに強姦されたときに剣にかかったネブラの精液から生まれた娘だった。その子供はティーテルとネブラの娘である。ティーテルはこの子供なら剣を使えるかもしれないと思って剣をその子供に託し、娘をエンナと名付けた。それを見たキルセレスは剣を奪おうと襲い掛かってきた。命からがらティーテルは娘をアトラスに送り込む。娘は剣の力に守られて生きのび、やがてソーンの使徒となる。

ſccʅ ［形容詞］正々堂々とした、威風堂々とした、公明正大　［反意語］ſelȷ　［レベル］３　ȷ0: 竜王ティクノのような。ティクノはヴァステで勇敢に戦った。　参考 :1L:ɑıµʅ ← ɑıµʅeȷ。ダルケスのような。フェルデンと駆け落ちの最中にアルデスに襲われ、逃げもせず策も弄せず正々堂々と戦ったことから。ɑıʅʅ と似るので離した。　［文化］　男にとって良いとされる性格の代表格。ちょっと不器用で損をしてでも、正々堂々としているほうが良いとされる。特にアルデンにとって重要なファクター。　【成句】　ſccʅ ɥən ſcʅnɔ 威風堂々

ſccȷ ［代詞］あなたたち　［レベル］１　1L

ſccnı ［アイテム］ティーナ　［レベル］４　µcɑcı: 古 :ſccſel からだろう　［文化］　ヴァストリアの１つ。エンナのもつ剣。エンナの母ティーテルから譲り受けたもので、エンナはクミールが振るうにふさわしいと思っている。

ſccnı(ȷ) ［µenſe］［形容詞］［副詞］とても　［レベル］１　1L:ʅᴅccµ:ſcnſcn が古で幼児語だったこともあり、ſcnſcn はミリアに好まれるようになった。ユンクはこれを避け、音の柔らかい ſccnı を作りだした。　［語法］　ſcn よりも強く、ſcnſcn に相当。

ſccµen ［地学］ムーンストーン　［レベル］４　1L:ıſcclcləɑ を嫌ってリディアに付け直されたもの　［文化］　白魔法ハティアの効果がある魔石。ſcıµenȷ に似ていることから来ている。アルタレスとアレキサンドライト、軍曹とジルコンといい、しばしば魔石と言葉は関連が深い。アルカは神の言葉であるため、言葉自体が呪文となり効果を持つため。　無色透明のものはヴィルを大量に重合できる。

ſccl ［代詞］あなたの、あなたのもの　［レベル］１　1L:ſc/ſəl

ſccleȷ ［代詞］あなたたちの、あなたたちのもの　［レベル］１　1L

ſccı ［名詞］愛、愛情　［動詞］ɥəl を愛する、愛する　［形容詞］愛された、愛しの、愛する、ディアー、ディア　［魔法］ティーア。害の中位黒魔法。相手に自分を愛させる魔法。相手に献身させ、操る。hıſcı と違って黒魔法となる。　［組み数字］２／６　［類義語］ɑelcȷſ　［反意語］uıµıe　［レベル］２　ɑ;e　古 :ſcı, ſccı　ſccı:ſccı::ɑcılə,ılſ　［語法］　自分より相手の幸福を願う気持ちが ſccı で、男女間以外にも用いられる。　恋愛感情は hıſcı であり、成就してもしなくても hıſcı といえる。　互恵的な恋愛感情は µınɑc である。　相手の存在に快楽を見出す気持ちが ȷccnı である。相手のことを必ずしも自分より優先するとは限らないため、ȷccnı ᴅccʅ のように物を取ることができる。　相手と一緒にいたいと思う気持ちが lııd であり、制の lıl に値する。　【成句】　ſccı eᴅ ᴅeſ ıl ınueµ　可愛さ余って憎さが百倍　【用例】　ſcıſcȷ, ȷenſınſ ᴅcl ſɥə ſccıſ nɔn ȷccnı. さようなら、愛してくれてありがとう。

ſccıµenȷ ［名詞］ラブレター、恋文、愛の言葉　［レベル］３　1L: 愛のことば　【用例】　ın ılſıſ ſccıµenȷ cᴅ cʅȷel ılnɔɑ ȷel cᴅ nɔȷ ȷeµcʅ ſc leeu ȷcl ıſɔlı̧ lc 1 ȷılſ. cl heʅ ſcl ıᴅılcȷ ɑəen 1 ȷılſ lcen le ȷel. ȷee ſəəȷ ſc cıµenȷ eȷ ɑcſl ıl elen hınſel. ɥın ıleᴅ ınſ ſın eȷ ɑcſl ılſıſ ſ'elen. 君があと１年の命と知った日から、毎日ラブレターを書いた。一度も渡すことができずに机の引き出しに溜まった３６５通の手紙には、あの日からの君の最後の１年が綴られている。僕の心も引き出しの中に仕舞ったまま（ȷeµen ıµbızıµɑ）

ſcɔ ［形容詞］単なる、ただの　［遊離副詞］［形容詞］ただ、単に　［文頭純詞］ただ、

只、単に、ジャスト、ただ～なだけだ ［レベル］1 ɑɥɑ 古 ᴅıcl̂e:ᴅı cl̂e, ʃcɔ ［語法］ lı eʃ neȣ に対し、ʃcɔ, ɑcın（単に女の子よ）と ɑcın ʃcɔ（単なる女の子よ）では意味が違う。後者は変哲もない少女という意味になる。 よく文中に挿入されるため、lı eʃ ʃcɔ ɑcın のように遊離副詞に見えることがある。

ʃce ［名詞］修飾始点 ［数学］括弧開く ［レベル］2 1ⅅ: 制 : 古 :leɥ にあたるもの leɥ:leɥ:leɥ ［語法］ ʃce ʃən で括弧と同じ役割をし、語句を挟んでひとつにまとめることができる。論理的に誤解ないように明示する場合に使う。文末では ʃən が省略され、ʃce しかないこともある。 【用例】 ın cnıʃ ʃce lı lənı ʃən. 私は彼が来たことを見た。 (ɹ ɔ ʔ) ı ʔ ≐ 1ⱽ.（２＋３）＊３＝１５：(を ʃce と読む。

ʃceʃ ［名詞］レイアウト ［レベル］4 1ⅅ: 制 : 恣意

ʃceʃɥen ［電算］マークアップ言語、マークアップ ıl;/「レイアウト言語」 ɹⅅ

ʃcel ［数学］半径 ［レベル］3 @ 1L

ʃced ［建築］溝渠、こうきょ ［印刷］どぶ、ドブ、溝 ［レベル］3 ɹʔ までは「どぶ」の意味だった ‹1ʔ: 制 :ʃcedɔn（小さい水路） ［語法］ 主に給排水を目的として造られる水路のうち、小規模な溝状のものの総称。 ミゾは ȷıcȷ。

ʃceɥ ［地学］海、海洋 ［形容詞］～海。前置。 ［メタファー］［地学］だだっ広くて人里離れたところ：ふつう ıɥɑə は狭くて陸地が見えてしまうし、ɔl̂ı, lecuı はなじみがなさすぎて不適切。海だと陸が見えないところがあるので隔絶感が強い。 ［レベル］2 ȷɔɥn 古 :ȷɔɥn:ʃceɥ ← ʃcnl̂ıeɥcı（凄い（＝広い）水） l̂ıləı:l̂ıləı:lı ᴅıleı（水）:ıl̂ı,ılʃ ［語法］ 表層 (φcᴅʃceɥ)、中深層 (enɑınʃceɥ)、漸深層 (ȷeelʃceɥ)、深海層 (enφcᴅʃceɥ)、超深海層 (ɑınʃceɥ) の５区分がある。 【用例】 ıc, ınȷ sılcl̂ nɔȷȷe l̂e ȷcl ʃceɥ. 結局我が家では海に行くことに決めた。

ʃceɥʃıɑ ［地学］岩礁、がんしょう ［レベル］5 ɥɑ;/ ɹʔ ［語法］ 主に海で水中に隠れたり、水面上にわずかだけ姿を現している岩。

ʃceɥʃeeze ［気象］海風 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃceɥȷıcȷ ［地学］海溝 ［レベル］5 1L

ʃceɥȷczl ［地学］海盆 1L

ʃceɥȷel ［歳時記］海の日 ［レベル］3 ɹ0 ［文化］ ミロク革命で制定された祭日。カテージュの海が海開きになる。日付は ɥıl ucɔ（６月１６日ごろ）で、日本よりだいぶ早い。水がまだ冷たいので冷えないタイプの水着を着る人も。

ʃceɥuıȷ ［軍事］海戦 ［レベル］4 ɹɹ

ʃceɥɑeᴅe ［歴史］大航海時代 ［レベル］4 ɹɹ ［文化］ ʕⱽ アッティ＝メテ、世界一周。大航海時代の幕開け→ l̂edc

ʃceɥφını ［軍事］領海 ［レベル］4 1L

ʃceɥdcʃȷ ［環境］海洋汚染 ［レベル］5 1L

ʃceɥɥəlɔ ［地学］海面 ［レベル］4 1L

ʃceɥɥəᴅı ［動物］海洋生物 ［レベル］5 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃceɥoıl ［地学］海嶺（広義の） ［レベル］5 1L

ʃceɥlcl ［化学］インジウム 1L

ʃceɥlɔze ［名詞］マリンスノー ［レベル］6 ul;/「海中懸濁物」 ɹⅅ

ʃcə ［名詞］１～２個 ［形容詞］１～２個の ［類義語］ɑɔə、ılɑɔə ［レベル］2 ɹ0:ʃcɑı/ɑɔə（半分になった ɑɔə）

ʃɔ ［代詞］何、何の。疑問代詞 ［動詞］ɥəl に関して何をするか？ ［レベル］1 lɥ 古 : 古で「何」は ıl や ʃɔ ıl:ıl, ʃɔ。ʃɔ は lȷl̂ 移行１０も表したため、混同を避けて ıl も使われ続けた： ［語法］ 動詞の場合、ʃc ʃɔ uın ınȣ（私に何をするの？）のように、疑問の代動詞として使う。 【用例】 ʃə eʃ ʃɔȣ これは何ですか。 ın ʃɔ uın ȷec. 何をしようかなぁ：ȷɔ uın ʃɔ だと「何をアレしようかなぁ」の意味になる。アレには文脈ごとに異なる動詞が入る。 nɔn lıɥ ʃɥə en ılnı ʃɔ eʃ ʃɔ. 何が何だか分からないでしょうね。

ʃɔ(ɹ) ［化学］化合物中で何級かを指す。ucʃɔ だとターシャル。 1L:ʃɔnl̂

ʃɔ,ɑ ʃɔı e

ʃɔ,lȷl̂ 10 ȣ 0 を指す ɥəə と同じ文字で使われ、音だけ異なった。

ʃɔ,ılʃ ʃəl ‹›ʃɔ

ʃɔʃ ʃɔ/ıʃ

ʃɔʃ(ɹ) ［擬音］とん、トンッ、ひょい、ヒョイ、ぴょん、ピョン ［レベル］2 1L

ʃɔʃʃc ［料理］タルト ［レベル］4 lıl̂ʃı

ʃɔʃʃɔn ［幼児］おはな、お鼻、鼻 ［レベル］1 ɹ0:ᴅel: 古 ʃɔ, 指小辞 n

ʃɔʃıl ［代詞］何であろうと、あらゆる、どんな、どんな～であろうと ［レベル］1 ɥɑ;ʃɔ/ʃıl「何であろうとしかして」 19: 制 :ʃɔ/ʃıl 【成句】 ȷı ʃɔʃ ıl 何よりも先に、まず最初に、とにかくはじめに 【用例】 ın lıdn uın ʃc ɔlʃı ʃc lıl ʃɔʃıl. 君のしてほしいことはなんでも叶えてあげるよ。 ın ıləəʃ ɥıl̂ uın ʃɔʃıl leden ı. どんな困難でも乗り越えてみせる。

ʃɔʃıluılʃın ［名詞］何でも屋、問題処理屋、問題解決屋 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃɔʃıleʃ ［代詞］何かしらの ［レベル］1 ɹ0:ȷeɥen/ɥcɑcı:ʃɔʃıl/ʃe

ʃɔʃɔ ［代詞］なになに、～、何とか、何々、何がし、何某、なにそれ、ほにゃらら ［レベル］2 1ⱽ: 制 : 古でも ılıl（何々）という同じ用法の語があったため、それを制アルカの語である ʃɔʃɔ に置き換えたもの。 ［語法］ 思い出せない語の一部の後に付けて「何々」という忘れた部分を表わす語。ıɥbıʃɔʃɔ アルバ～何々（アルバザードのつもりで）【用例】 "l̂e eʃ ʃɔ ıȣ leȷ lıɑ beel̂ l̂ı dıɥᴅ... ʃɔʃɔuenʃ..." "ᴅedlɼ ʃɔʃɔɼ" 「あれなんだっけ。日本の会社でさ、〇〇社ってとこで、ほらトイレ作ってる……」「わかった、ＴＯＴＯだ！」

ʃɔʃɔl ［代詞］何々の、なになにの ［レベル］2 ɹ0

ʃɔʃɔlə,ılʃ uıɑ, ʃıl

ʃɔʃe,ɑ ʃɔȷ ʃɔ/ʃe「鼻に来る風」

ʃɔl̂ ʃɔ/cl̂

ʃɔl̂ʃ ［動物］サイ、犀 ［レベル］3 lıl̂ʃı ［擬声］ bəə（鳴き声）

ʃɔl̂lı ［名詞］ゴール、終点、着点 ［交通］ターミナル、ターミナル駅 ［名詞］特定のものを探しているときのお目当て、アタリ ［反意語］l̂cʃʃı ［レベル］3 ɹ0:ᴅelcɑcı lceɥ:ʃɔɔl̂lı

ʃɔl̂l ［料理］ハム ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑıdʃɔl̂l（燻製された豚肉のもも）。ɑıdl と音を離した。

ʃɔl̂ı ［料理］そば、ソバ、蕎麦 ［レベル］3 1ʕ: 制 : 古では ıʃl̂ıc ［文化］ 麺かクレープとして食される。クレープはケートイアから伝わったもので、北部ほど食べる。蕎麦はもともと軟水の多いアルバザードでも食されていた。アルバザード人がもともと食べていた蕎麦は海産物の出汁で味付けた麺だったが、凪人がもたらした蕎麦は醤油で味を付けたもの。アルバザードではこちらのほうが人気が出てしまい、ワッカやカテージュなど一部の地域を除いて蕎麦といえば醤油味と決まっている。箸を使って食べる。 蕎麦は音もなく啜る。凪人は勢い良く音を立てるが、アルバザード人やルティア人はそれをしない。 【用例】 l̂əc{ȷcd} ʃɔl̂ı そばを啜る。ȷcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは l̂əc を使う。ȷcd は啜る動作を強調するときだけ使う。例えば今食べているソバはガレットのようなものではなく麺であると明言したいときなどに使う。

ʃɔl̂ɔ ［名詞］傾向、風潮 ［動詞］ɥəl を ı に偏らせる、偏る、片寄る ［名詞］偏り ［化学］極性← dɔʃcʃɔl̂ɔ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ʃɔl̂ 【用例】 ıɥɑen ʃcl ʃɔl̂ɔ ɑel ȷccnı ᴅcn. 体育会系は女好きな傾向にある。

ʃɔl̂ɔl̂əc ［名詞］偏食 ［レベル］4 ɹ1

ʃɔl̂ɔl̂əcın ［名詞］偏食家 ［レベル］4 ɹ1

ʃɔl̂ɔlcıȷ ［化学］極性分子 ［レベル］5 1L

ʃɔl ［名詞］ひとつ前、先代、前時代 ［形容詞］ひとつ前の、先代の、前時代の ［反意語］l̂eȷ ［レベル］1 @ 1L 【用例】 ȷılʃ ʃɔl 去年、昨年

ʃɔlleʃ ［名詞］先月 ［レベル］2 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃɔlȷılʃ ［名詞］去年 ［レベル］2 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃɔlȷɔɔʃ ［名詞］先週 ［レベル］2 ɥɑ;/ ɹʔ

ʃɔlȷel ［名詞］一日前、その前の日、前日 ［レベル］3 1L

ʃɔlɑlec ［電算］ページアップ ［レベル］5 ɹ0

ʃɔlın 前任者 1L

ʃɔlıɥl̂ı ［言語］先代アルカ ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ ［文化］ ■現実では リーザが作った使徒用暗号。アティーリではソーンとの戦闘のためにリーザが第二アルカを改変したもの。ユマナでは同じ目的でリーザが作った人工言語。語彙は少なかったが、古アルカに影響を与えている。 リーザがユーアの助けを借りて作った使徒用暗号。制作完了の年月日が明瞭で、彼女の日記によると、メルーＬ年メルの月ジールの日（１９８０年６月４日）にできている。この暗号には名がなかったのでセレンが先代アルカと名付けた。初代アルカと同じくこれもアルカの一種ではない。 先代アルカの語彙は 10 数程度だとかつて思われていたが、派生する語や未知の語があったため、実際の語彙数は 100 を超える。ジェスチャーでも口頭でも筆記でも同様の命題が伝わるようになっているという点で特徴的である。 先代アルカから制アルカに流入した語は eᴅ、ɑıɑ、ȷɔɥ、lcu のような基本語が多く、sıᴅ のような身体語彙にも見られる。また hıɼᴅı（厳密には初代アルカ）や ɥȷcclı など、アシェットに関する語彙にも流入している。

ʃɔlel ［名詞］昨日 ［反意語］l̂eȷʃ ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ:ʃɔllɑcȷ

ʃɔȷ ［名詞］匂い、香り、臭い ［類義語］ʃɔlle ［レベル］2 1ⅅ: 制 : 古 :ʃɔ ʃɔʃe:ʃɔʃe::ȷıoın,ılʃ 【用例】 ʃɔȷ ᴅınen zɔᴅ eᴅ ɑıc 木の燃える匂い

ʃɔȷ(ɹ) ʃɔ/eȷ

ʃɔȷφel̂ ［生物］嗅球 1L

ʃɔn ［単位］１０分の１、割、分 ［レベル］3 1ⅅ: 制 :ɑɔn: 制では億の意味

ʃɔn,ılʃ ʃəənɔ ʃəənɔ.l

ʃɔnʃ ［動詞］ɥəl をぽんと叩く、ぽんぽんする、叩く、ポンポンする、とんとんする、トントンする ［レベル］3 ɑɔueʃ 【用例】 lı ʃɔnʃıʃ ın ɔn ɑlel. 彼は私の肩をぽんと叩いた。 ʃɔnʃcl̂ ɥə ɔn lɔȷ, ᴅıcn ʃ'ılʃc nı ɔɥ ɑɥeᴅ ı ɑıɥı ɥən ɑɔl l'ɔɥ dcl. トンと背中を押すと、少年の身体は転がる石のように暖炉の方へ近付いていった。

ʃɔnʃɔ ［名詞］ジョブ ［名詞］職業 ［レベル］4 古 : 官位 ［語法］［文化］ en uelen ジョブの場合、仕事の意味ではない。ファイナルファンタジーのジョブといえば分かりやすいだろう。戦士や魔導師などがある。 ɥɑ までは実在したが、ナディア以降は人類の衰退とともに消えた。アティーリはジョブチェンジやダーマの神殿に当たるものはない。生まれ持っての素質に後天的な訓練の結果、ジョブが決まっていく。リディアのように思春期以降急激に召喚士の能力を開花させたのはレアケース。 【用例】 ᴅcɥə ʃɔnʃɔ c ɑɥecn ıl ıɥʃın 魔法使いから戦士に転職する

ʃɔnʃɔ,ɑu ʃɔnl̂

ʃɔnʃɔȷdıʃ ［名詞］職業差別 ［レベル］5 ɥɑ;/ ɹⅅ ［文化］ ɥɑ でセレンが職業差別は良くないと言うまで職業差別は平気で行われてきた。セレンの死後は再び職業差別が行われた。 旧革命でミロクが職業差別を撤廃したが、ミロクの影響が薄まるにつれて職業差別は復活してきた。 革命で再びセレンが職業差別を撤廃し、ls では所得格

差も是正され、職業差別は落ち着いている。セレンは「医者が清掃員より上だということはない。編集者がライン工より上だということはない。ライン工は編集者の仕事ができないだろうが、編集者もまたライン工の単純作業は気が狂ってしまってできなかったり、立ちっぱなしの警備員やレジ打ちの仕事は足腰が痛くてできなかったりして、できないことがある。そう考えると底辺と呼ばれる職業の人も上の人間にできないことをやっていて、それはそれで凄いのだ。お勉強ができれば世の中良いというわけではない。勉強ができてホワイトカラーだからといってブルーカラーをやるだけの体力のないヒョロガリ・デブがブルーカラーを笑うのは許せない」と述べた。セレンはホワイトカラーの人間で、まして革命家でもあったから、彼の考えは負け惜しみとは捉えられず、革命とともに受け入れられていった。　実際、この設定は現実のセレンの思想を反映したもの。セレンは底辺と呼ばれる仕事をしている人間はそれはそれなりに凄いと尊敬している。とてもじゃないがセレンには立ちっぱなしの仕事や単純作業はできないからだ。セレンは社会的には身分が高いが、底辺職を見ていて「あれは自分には真似できないなぁ」と思い、「職業差別は荒唐無稽だな。差別してる奴は一回底辺職やってみろよ。お前らの体力や根性じゃ到底務まらないから」と思うようになった。

ʃɔnʃɔɒcɥə ［娯楽］転職、ジョブチェンジ、クラスチェンジ、ジョブチェン ［レベル］4　ɹɹ

ʃɔn˥ ［名詞］官位、官爵、位、階級、等級、地位、身分、立場、職業、カースト、レベル、～号、博士号などの号、肩書き、役職 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :ʃɔnʃɔ　ʃɔnʃɔ:ʃɔnʃɔ ［語法］ ʃɔn˥ は身分としての位を指し、˥ını は階級としての位を指す。平民や商人や王族などは身分であり、社長や部長や元帥や一等兵や警視総監などは階級である。 ［文化］ カコでアルバ王政が誕生したときの身分制度は、王族、貴族、軍人、文民の４種。商人か農民かという分け方はなく、戦闘要員か否かで軍人と文民を分けた。一番下の身分は非戦闘要員である文民。また、奴隷はこの外で、身分外であった。　μɑ ではアシェットが貴族を廃止。しかしナディアで植民支配に成功した軍人が貴族になり、元に戻る。アルティルでも同様で、ヴェレイでシルク・アルミが認められ、再び貴族は廃止。　軍文の区別は魔法を失ったナディアにおいて、軍隊に属する軍人と、それ以外のふつうの人々である民間（文人）の区別に取り替わった。民間は商人と平民に分けられる。ナディア～シルク･アルミ前の身分は王族、貴族、軍人、商人、平民の５種。商人には「工」も含む。　ヴェレイで五民平等が確立し、文民統制になり、さらにその後身分制度は廃止になった。アルタレス制ができたころには既に身分はなかったものの、王、副王、官僚、平民という事実上の身分ができあがっていた。これは現在の日本と似ている。　革命後、ʃɔn˥ という言葉は生き続け、事実上の身分である王、副王などを指すようになった。また、身分制が廃止されている都合で、官僚、役人、学生、僧侶、学者、商人などといったものも ʃɔn˥ に入るようになり、職業とのグレー化も進んだ。　一方、ミロクは「王族、僧侶、学者、医者」は死刑にできないと特別扱いしたため、これら４種とそれ以外の「平民」を加えた５種が革命後の ʃɔn˥ であるという見方もできる。上記の ʃɔn˥ が広義だとすると、この ʃɔn˥ は狭義の ʃɔn˥ である。よって、狭義的にはアルバザードは５身分制といえる。 【用例】 nı ʃɔn˥ lı ʃə ɑcı. 階級意識を感じる。

ʃɔn˥ın ［地名］トンカン　ɹ0 ［文化］ アルハンテ西部の都市。

ʃɔn˥ɔʃın ［魔法］ノーム　ılʃ;/　ɹɱ

ʃɔnl ［動詞］ɥəl を ı に植える、植える ［反意語］˥eɒɹ ［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :dɔʃ ʃəənɔ（土へ）

ʃɔnɹ ［名詞］順位、ランク、ランキング、格付け、序列、順序 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ʃɔn 【用例】 ʃɔnɹ zɔ˥ 一位

ʃɔnı ［名詞］３０代女性 ［反意語］ılʃɔnı ［レベル］2　1ɱ: 制 : 古 :ʃɔnıı

ʃɔnıl ［生物］３０代 ［レベル］2　μɑ;nııʃ/ıl　ɹʔ

ʃɔne ［動物］イカ ［レベル］3　古 :ʃɔn（10）/e（水）。もしくは elc（魚）の短縮か。　ılıoı: ［文化］ 食用されるが、日本よりゲテモノ扱い。

ʃɔnecaıl ［生物］軟体動物門　ɹɹ: イカ門

ʃɔu ［動詞］ɥəl とケンカする、ケンカする ［普通動名詞］ケンカ、けんか、喧嘩 ［経済］もみあい、もみ合い、揉み合い ［レベル］2　1ʔ: 制 :ʃcɹuıɹ（小さな戦い）から。 ［語法］ よくある流れはこう。怒ったほうが "oecɭ" と言って相手に突っかかる。たいてい右手の人差し指で相手の顔を指す。ユベールの間合いまで近付く。いきなり殴りかからず、相手の罪状と自分の感情を並べ立てる。次に相手に逃げる機会を与えて様子を伺う。相手が逃げた場合、一言捨て台詞を吐いてその場を丸く収める。相手に交戦の意思があれば殴りかかる。胸倉は掴まない。アルバザード人は必修でユベールを学校で習う。胸倉を掴んだら小手を捻られることを知っているため、間合い以上に近づくことすらしない。なお、状況が緊急の場合、すべての過程を取っ払って殴りかかる。緊急でないのにいきなり殴りかかったら観衆に卑怯者と罵られる。その場合、観衆の中からたいてい数人の男が出てきて卑怯者を潰してしまう。また観衆は審判という重要な役割も持っており、善意で勝者を決定する。敗者が大けがを負わないうちに場を収めてやる機能を担っている。一般にアルバザード人はケンカ早く、議論で勝負がつかなければ力づくで決めようとする。ケンカは見るのもするのも好き。逃げるとクラスの笑い物になり、彼女もできなくなる。また、明らかに力の差がある相手や怪我人に喧嘩を売っても笑い物にされる。大きい人間は小さい相手に喧嘩を売れない。が、小さい人間から売ることはできる。ほかに日本と違うのは、女も殴り合いのケンカをする点。 【用例】 el ʃɔu lcn hıdn. 友達と喧嘩してはいけません。　ɑen ʃɔu, eɒ ɒeɒcμ ı hıdn. けんかしないで友達と仲良くしなさい。

ʃɔɑ ［電算］インターネット ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ʃeɹɑcb（電気 / 網） ［文化］ メル ɹΔ0 年代に開発された。最初はパソコン間で試用されたが、国の強力な援助を受けて速やかにメル ɹΔΔ 年にアンセの機能として実装された。以降、アルバザードでは完全に普及しており、どの個人もネットを利用している。定額制で、いくらでも使える。容量は今の日本と比べて遥かに大きく、高速である。ニュースも最もネットが早く出回る。世界の情報網で最も優れたものである。普及率が著しいため、ネットに関する法が日本より遥かに進んでいる。違法なものの取り締まりは遥かに厳しくかつ迅速である。 【用例】 ʃɔɑ eɒ ˥ılɒı cɹ. ネットの接続がよく切れる。　ʃə ʃın eʃ ɑıɹ eleɹ lel el ɑɔnl ʃɔɑ e. ネット見ないのも仕事のウチですよ（『モテキ＃３』）

ʃɔɑueʃ ［電算］ネット用語 ［レベル］4　ıl;/　ɹʔ

ʃɔɑueφı ［名詞］［電算］ネット弁慶 ［レベル］5　μɑ;/　ɹʔ ［語法］ ueφı

ʃɔɑl ［動詞］ɥəl を ı に預ける、預ける、預金する、託す、たくす ［経済］預金 ［反意語］˥ɔɑʃ ［レベル］3　古 【用例】 ʃɔɑl φcl ı ˥len 銀行に金を預ける　ʃɔɑl ɒcuı ı ɑe˥lı 学校に娘を預ける

ʃɔɑlφcl ［経済］預金 ［レベル］4　1L

ʃɔɑlcuı ［娯楽］オンラインゲーム、オンゲー ［レベル］4　ɹɹ

ʃɔɑın ［電算］プロバイダー、インターネットサービスプロバイダ ［レベル］4　1L

ʃɔɑın(ɹ) ［名詞］何番目の、いくつ目の ［レベル］2　ɹ1

ʃɔɒ ［生物］腹、おなか ［言語］［文字］カウンター、ふところ ［レベル］2　ɑμɑ　古 :μcɑcı: 小さかった頃のメルの腹部をぽんぽんと撫でながら ʃɔɒʃɔɒ といっていたことから、ʃɔɒʃɔɒ はおそらく「ぽんぽん」にあたる言葉だろう　φı:φı:lı φoıcn（体の真ん中にあるので母体）:hıφı,ılʃ ［語法］ 腹筋がある辺りを指す。肋骨を含んでそこから下、へそを含んでそのから上の部分。へその少し下も含む。通常腹痛というと、ここが痛いことになり、胃か大腸が痛みを訴えているケースがほとんど。 【用例】 ʃɔɒ ɑıb 膨れたお腹

ʃɔɒɹ ［名詞］釜、カマ、窯、罐 ［レベル］3　lı˥ʃı

ʃɔɒuıc˥ ［生物］腹部　μɑ;/　ɹɱ

ʃɔɒucɒ ［生物］腹筋 ［レベル］4　ɹɱ<ɹɹ

ʃɔɒɥıc ［医療］腹痛 ［レベル］3　1L

ʃɔɒı ［名詞］身分証明書 ［レベル］4　1ɱ: 制 :ʃɔnɒıɹ ［文化］ アンセに内臓されている。

ʃɔɒɔ˥ılc ［名詞］切腹、腹切り、トモカリ ［アクセント］ʃɔɒɔ˥ılЄ ［類義語］nı˥clc ［レベル］4　ɹɒ;ılʃ　ɹ1 ［語法］ nı˥clc はアルバレンで ʃɔɒɔ˥ılc の訳語。ʃɔɒɔ˥ılc が正統な凪霧。 ［文化］ アルティアの奇習。不徳を働いた武士が腹を割いて自害する風習。

ʃɔɒɔe ［地名］トモエ、ともえ、巴、巴市 ［弓道］武射系 ［アクセント］ʃɔɒɔE ［レベル］4　ɹ1:ılʃ ［文化］ ルティア西部の都市。かつてアルティアと戦争をしたときの要所で、トモエ陥落がルティアの敗因となった。支配される前の名は ɑlınɑcμ で、現在では街の名として残っている。行政区分は県。県庁はトモエ県トモエ区トモエ市所在。

ʃɔφɥəəlı ［名詞］おまじない ［魔法］白魔導師のハノン。白魔法の入門的な内容で、低位白魔法を一通り覚える行程のもの。 ［レベル］3　神無アルカ : 苦痛を取り除く癒しの魔法。φɥə は古アルカの苦い・つらいに当たるのではないか。 ［語法］［文化］ 人を癒したり助けたりする効果がある類のおまじないの総称。ゲーム的にいうと回復補助魔法や白魔法にあたる。 【用例】 ʃə eʃ ʃcɔ ʃɔφɥəəlı ɥəɒcl. それはありふれたおまじないにすぎない。

ʃɔφıl ［名詞］［形容詞］何百もの。前置。 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcɹ

ʃɔd ［再帰動名詞］よちよち、よちよち歩き ［動詞］ɥəl（場所）をよちよち歩く、歩く ［レベル］2　古 : オノマトペ

ʃɔdl ［料理］マドレーヌ ［レベル］4　ɹ0:ɒelcɑcı lceμ: 古 :lcʃɔlcdl（バニラケーキ）を短くしたもの。 ［文化］ μɑ でリディアが作ったのが最初。貝型のものはなく、円形の型を使う。

ʃɔμ ［形容詞］魅力的な、モテる ［反意語］ɹɔlel ［レベル］3　ɹɔμn ［文化］
　＜モテる男性＞　正義感がある。　倫理観がある。　情けがある。　優しい。　賢い。　清潔である。　身なりが良い。ただし、豪華はマイナス。　スタイルが良い。　顔が良い。　筋肉が締まっている。　女のコンプレックスに対して共感力がある。　女にとって付け入る隙となる欠点を持っている。欠点の少ない男は男に尊敬されるが女に好かれはしない。凄い人と言われて終わる。　女を褒めそやす。
　＜モテる女性＞　貞淑である。（浮気の前科があるとアルバザードではかえってモテない。事実上モテるのは処女のみ）　男を立てる。　従順かつ協力的である。　控えめで大人しい。　優しい。　素直。　美しいか可愛らしい。　細くて小さい。　賢いが、それを表に出さない。　薄化粧。　飾り気のない服を着ている。　人の悪口を言わない。（男はもともと言わない）　男の話にころころとよく笑い、女同士で話しているときでも大口を立てて笑わない。　男を褒める。

ʃɔμʃe ［丁寧］吐息、息、トルテ ［類義語］leɑ ［レベル］4　ɹ1:ʃɔμ/ʃeeze ［文化］ 主に美少女に用いる。

ʃɔμcɹʃe ［人名］トリステ　ɹ0 ［文化］ （ɥəəɒı ʕLɬ9:9ɱL0）　ɥəəɒı ʕL90 イクスタン、ルクレティアとの間に娘 ɗəə˥ccʃe を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 ˥ılɒın の娘 ʃɔμcɹʃe を第二夫人として娶る

ʃɔoı ［名詞］香水、パーフュム、パルファン ［レベル］3　ɹɔμn:ʃɔoı（香水）。原義は「鼻に（匂いを）渡すもの」。ʃɔ（鼻）/oı（oıldɔ（渡す））から。フランス語ｔｏｉｌｅｔｔｅではない。 ［文化］ 現代ではきわめて薄くつける程度に用いる。　μɑ までは非常に高価で、主に貴族の所有物であった。自然物から純粋に抽出していたため、貴族は体臭予防だけでなく、水で薄めた香水で嗽をして口臭予防にも使った。
　香水の発祥は zφ のシージア。その後レスティルにもたらされた。
　香水が発展したのは ɹɒ のケートイア。内陸地で水が少なくシャワーや風呂に入る機会が少なく、また肉食をしていたため、体臭を隠す

ために主に貴族の間で発達した。ケートイアの香水文化はアルバザード北東部に流入し、そこからアルシアや中央部へ入っていった。アルシアは泉が多く水浴びをする機会が多い。アルナは湾が近いので水が豊富。従ってこれらの地域では香水を付けすぎない文化が発達した。また凪人は香水の香りの強いのを嫌い、ほとんど付けることがなかった。 〔用例〕 ɟɪb{eɯ} ʃɔoɪ 香水をつける。ɟɪb のほうが eɯ よりおしゃれな言い方に感じる。 ɟɛɛ lccʃɔ e ʃɔoɪ ɛɒɔɛn ɑɛlcn cʅ ɛɒcʅ ʅɪlcɟɛl. 薔薇をベースとした香水の芳香が微かに漂う。

ʃɔl 〔代詞〕[ɥɛɛl] 君、あなた、貴方 〔レベル〕1 ʃl:ɟɔɟnːʃc/ 古 ɪl

ʃɔl,ɟzɑ cl ʃɔ/ɪl「何 / 物」 時間とともに意味が変化して「すべて」に。

ʃɔlʃ 〔植物〕年輪 〔レベル〕3 ɥɑ;ʃɔlcɟ/ɔlʃ ʃ?

ʃɔlʃlcdl 〔料理〕バウムクーヘン 〔レベル〕3 ɥʃ;/ ʃ?:ɟɛɥɛn/ɒclɑː ドイツ人のミクちゃんと話してて、「バウムクーヘンのバウムって実際はバオムって発音するの？古い教科書には ɪə は ɪɔ って発音するってあるんだけど」って聞いたら、「バウムクーヘンってなんですか、リーダーさん」って聞かれた。ドイツの菓子じゃないのか……？← t w i t t e r より。このような会話をしている過程でアルカでそもそも何ていうのか考えることになり、命名した。

ʃɔlʃe 〔代詞〕[ɥɛɛl] 君の 〔レベル〕1 ʃl:ɟɔɟnːʃɔl/ʃe

ʃɔʅl 〔生物〕大腿、もも、腿、太もも 〔反意語〕ɪnʃɔ 〔レベル〕2 ɟɛɥʃ ʃ?: 制 :ʃeʅl ɟe:ɟe 〔用例〕 ʃɔʅl sɪʅ 太い腿、たくましい腿

ʃɔʅuɪnɔ 〔生物〕箕門 ʃl

ʃɔʅhɔ 〔生物〕大腿骨 〔レベル〕4 ʃʃ

ʃɔʅʅɔnz 〔名詞〕膝枕、膝まくら、ひざ枕、ひざまくら 〔レベル〕2 ɥɑ;/ ʃ? 〔用例〕 ɑcʃ ʃɔʅʅɔnz ɪ nene ～に膝枕してやる

ʃɔʅɪ 〔魔法〕錬成物、トルカ 〔レベル〕6 ʃl0: 古 ʃɔɔʃc（終わる）/ɪl（物） 〔文化〕 lɒcɥɵ

ʃɔʅl 〔動詞〕ɥɵl を訓練する、訓練する、練習する 〔普通動名詞〕〔再帰動名詞〕訓練、練習、トレーニング 〔レベル〕3 ʃ0ʅ: 制 : 古 :ʃɔlɪ。新では格組を変え、ɥɵl に人でなく内容を取って使いやすくした 〔用例〕 ʃɔʅlɔɟ 練習中 ʃə eʃ ɑɔʅl ɪʅɪ ɔn ɑel ɪɟʅɪ lel el ʃɔʅl ʃə ɔnʅel. 練習することがアルカを勉強する上で一番重要だ。 cɒ ʃə ɟɪʅʃ, ɪn ʃɔʅl ɑɔɟɪel ɥɵl nɔɟ ɪɟ jen eɒ ɑɔcʅnefˀ. 最近、早起きの習慣を身につけようと練習中だ。

ʃɔʅʅe 〔名詞〕懐かしい匂い、子供の頃の匂い 〔類義語〕ʃɔɟ 〔レベル〕5 ɥɑ;ʃɔ/ʅʅe。匂いに敏感なセレンが懐かしい香りをかいだときに特別に世界から切り分けた語。 ʃʃʃ

ʃɔʅuɪɑɔɟ 〔軍事〕トルヴァドール、トルバドール、抗魔筐、こうまきょう 〔アクセント〕ʃɔʅuɪɑɔɟ 〔レベル〕4 ɥɑ;ʃɔl/uɪɑɔɟ「全国」 〔文化〕 ʅɪʃɔuel

ʃɔlɑ 〔名詞〕合宿、キャンプ 〔レベル〕3 ʃʃ: 制 :ʃɔʅɒɔʃ

ʃɔlɑʃəlɑ 〔医療〕プール熱 〔レベル〕4 ʃL:ɟɑɑɪ 〔文化〕 レイユ前期において、学校の合宿の時期に増える病気であることから名づけられた。子供がかかりやすい。何気に韻を踏んでいる。

ʃɔlɑʅɪ 〔名詞〕キャンプ場 〔レベル〕3 ʃL:ɒelcɑɑɪ ɪlcɟ

ʃɔlcʃɔ,ɪʅʃ ɑleɪ

ʃɔlcʃɔhɪɑɪ 〔植物〕グミ、茱萸 nɑ;uɪɟ ɪʅʃ ʃʃ

ʃɔlcɟ 〔名詞〕年齢、年、とし、歳、才、エイジ、エージ 〔類義語〕ɟɪʅʃ 〔レベル〕2 ɟɒ;ʃɔlcɟ,ɟzɑ < ʃɔ/lccz「何 / 小さい」→「どれくらい小さい」→「何歳」 ʃʃ ::lə ʃɔlcɟ(メルティアが男) 〔語法〕 → lculeɟ lɪ eʃ ʃɔlcɟ ʃʃ は「彼は四歳だ」で、lɪ eʃ ɟɪʅʃ ʃ は「彼はニ年目の新人だ」という意味。

〔成句〕 hɪɪɟ ʃɔlcɟ. ʃɔnʃ dɪlɒ ʃɔlcɟ 年功序列 〔用例〕 ɪn ʃcl 10 ʃɔlcɟ. = ɪn eʃ ʃɔlcɟ 10. 私は十歳だ。 nɪnɪ ɑel ʃɔlcɟ 1 (lenɔ) ʃelʃ ʃ 1 歳 2 ヶ月の赤ん坊 ɟcɑɑɪ ɪʃ ʃɔlcɟ ʃɔɪl cɒ ɟɪɟʃ ʃeepɟɵ リディアはテームスを倒したとき、何歳でしたが。 ʃc ʃcl ʃɔɪl ʃɔlcɟɵ = ʃc eʃ{ʃəɟ} ʃɔlcɟ ʃɔɪlɵ 何歳ですか。おいくつですか。 ɒɪcɒ ləəʃ eɟ ɒɪʃʃ ɪɪ ʃə lɔnɑ ɑcn lə eʃ ɑcɪn le ʃcl ʃ ʃɔlcɟ ʃcɟ. 6 歳の幼い自分は夢の中で大人の姿になっていた。 ɔɒɪ ɪʅɪɪ eɒ ʃɔlcɟ ʃ? ɪɪʅʃ lɪn cɒ ʃɔlcɟ 1. 犬は 1 歳で人間でいう 1 5 歳になる。

ʃɔlcɟɟɛz 〔名詞〕年齢制限 〔レベル〕3 ʃ?

ʃɔɪ 〔生物〕鼻 〔動詞〕自然と ɥɵl の匂いを感じる、自然と ɥɵl を嗅ぐ、ɥɵl が匂う、ɥɵl の匂いがする、ɥɵl が臭う、ɥɵl の臭いがする、ɥɵl が香る、かぐ、嗅ぐ、におう、臭う、匂う 〔電算〕マウスのホイール（マウスのクリックの間にある球） 〔名詞〕のど、ノド→ lec 〔類義語〕ʃɔʃʃ ɔn 〔レベル〕1 ɑɟɑ;ʃɔ.l ʃʃ ←古 :ʃɔ ʃɔ:ʃɔɪ:lə dəlcʃ 〔語法〕 日本語の鼻の領域と同じ。日本語で言う鼻の下は ɪʃɔ l。 〔用例〕 鼻をかむ→ ʃɔɪ eɟ ʃɔɪ oɪʅ 高い鼻 ʃɔɪ ʅɪc 大きな鼻 ʃɔɪ ɑɔʃ 横広がりな鼻。タイ人のような横に広い鼻の意。

ʃɔɟɪd 〔生物〕鼻息 〔動詞〕ɥɵl に鼻息をつかせる 〔レベル〕3 ʃʃ: 制 : 鼻の空気 〔用例〕 ɔʅ ʃɔɟɪd pəəɑ. 鼻息荒く

ʃɔɪn 〔動詞〕ɥɵl を嗅ぐ、嗅ぐ、かぐ 〔文末純詞〕～なようだ。嗅覚での推量。 〔レベル〕2 ʃ?: 制 〔用例〕 ʃɔɪn ɒccnɪ 花を嗅ぐ ɟeɥen ʃɔɪn nelʃ lec. セレンは本を嗅ぐくせがある。

ʃɔɪnnɪʅl 〔生物〕嗅覚 〔レベル〕4 ʃ1

ʃɔɪnc 〔生物〕鼻毛 〔レベル〕3 ʃʃ

ʃɔɪɑɔ 〔言語〕鼻音 〔レベル〕6 ʃL

ʃɔɪɒɪl 〔生物〕鼻孔 〔レベル〕4 ʃ?: 制 〔語法〕 ʃɔɪscɒ

ʃɔɪɑɛɥec 〔生物〕鼻中隔軟骨 ʃL

ʃɔɪhɔ 〔生物〕鼻骨 〔レベル〕5 ʃL

ʃɔɪɟɪʅɔ 〔医療〕鼻炎 〔レベル〕4 ʃL

ʃɔɪscɒ 〔生物〕鼻腔 〔レベル〕5 ʃʃ: 制 : 鼻腔 〔語法〕 鼻孔は奥の鼻音を調音するのに使う鼻腔とは違い、穴の部分だけを指す。指を鼻に入れてみたとき、指の第一関節ほどが入る部分までを ʃɔɪɒɪl といい、指がつっかえてもう入らない部分以降を ʃɔɪscɒ という。

ʃɔɪl 〔名詞〕いくつ、どれくらいの 〔形容詞〕いくつの数の。前置。 〔形容詞〕何番目の。後置。 〔レベル〕2 ʃL 〔用例〕 ʃc lɪl ʃɔɪl ɒccʅɵ りんごはいくつほしい？

ʃɔɪlɪdl 〔動詞〕ɥɵl に鼻でため息をつかせる、ため息をつく 〔類義語〕lɪdl 〔レベル〕3 ʃL:ɒelcɑɑɪ ɪlʃe 〔語法〕 lɪdl するとちょっと失礼かなというときにする仕草。

ʃɔɪleɒ 〔名詞〕鼻歌、ハミング 〔レベル〕3 ʃL: 鼻をつまむと歌えないので鼻で歌ってることになる，

ʃɔɪɪbe のど布→ lec ʃʃ

ʃɔɪelʃ 〔生物〕鼻くそ、ハナクソ、鼻クソ 〔レベル〕2 ʃL:ɟcɑɑɪ

ʃɔɪɟɵ 〔生物〕鼻水 〔レベル〕2 ʃL 〔文化〕 鼻を人前でかむのは不潔な動作。すするのも不潔な動作。ユンクは恥らって人前ではせず、トイレなどでする。男は平気でするが、ユールはユンク同様隠れてする。 〔用例〕 ɪɟ ʃɔɪɟɵ 鼻水を出す cɟ ʃɔɪɟɵ 鼻をする ɪʅjcd ʃɔɪɟɵ 鼻をかむ

ʃɔc 〔動詞〕ɥɵl を調整する、調整する、調節する、服の丈を調整する、直す 〔普通動名詞〕調整、調節、修正、直し 〔レベル〕3 古 : アルシェの lɔcɟ が変化したもの。 〔用例〕 ʃɔc ncɒ 色を調整する

ʃɔcʅɔɟʅ 〔普通動名詞〕リストラ、リストラクチャー、リストラクチャリング、部門削減、削減、部門撤退、撤退 〔動詞〕ɥɵl をリストラする、リストラする、削減する 〔類義語〕ʃɔcɪlɑɔnɟ 〔レベル〕4 ɪl;/ ʃ? 〔語法〕 ʃɔcɪlɑɔnɟ

ʃɔcɒ 〔文頭純詞〕いつの間にか、いつのまに、いつしか、気付いたら、そういえば、そういや、何時しか、気付けば、気づけば 〔レベル〕2 ɪʃ: 制 : 古 :ʃɔcn,ʃɔcɒɪ（今何時？）が変化したもの。

ʃɔcsɪlɪ 〔ユマナ〕トイザらス、といじゃらー 〔レベル〕5 ʃʃ:ləlcɪ: セレンの発音「といざらす」により、ɟ ではなく l。池袋。

ʃɔcoɪnc 〔工学〕〔数学〕無駄歯 〔レベル〕6 ɥɑ;/ ʃ? 〔文化〕 歯車の歯は同じ歯同士が咬み合う回数が増えると癖がついて摩耗しやすくなる。たとえば６０と３０の歯数の歯車だと６０が最小公倍数なので、それぞれ１回転と２回転ごとに同じ歯が当たり、摩耗が早まる。そこで１つ無駄歯という歯を入れ、６１の歯車を作る。すると最小公倍数が１８３０となり、同じ歯同士が咬み合うのは順に３０回転・６１回転のときになり、摩耗が減る。その代わり速比は変化する。 無駄歯 zφ のころには開発されていたが、アルバザードでは ɟɒ ごろに導入された。しかし ɟɒ 後期で魔法工学が盛んになるにつれ、計器が精密性を要求するようになり、無駄歯が使われる機会は減っていった。

ʃɔcɪlɑɔnɟ 〔普通動名詞〕リストラ、リストラクチャー、リストラクチャリング、人員削減 〔動詞〕ɥɵl をリストラする、リストラする、人員削減する、削減する 〔類義語〕ʃɔcʅɔɟʅ 〔レベル〕4 ɪl;/ ʃ? 〔語法〕 ʃɔcɪlɑɔnɟ は人のリストラ。ʃɔcʅɔɟʅ は部門などの削減や撤退。

ʃɔccɒɔe 〔美容〕コンディショナー 〔レベル〕4 ʃl;/ ʃ? にセレンが造語したがその後リディアの辞書を見たら同じ語形で既に登録済みだった。 〔文化〕 コンディショナーは、髪の表面をカバーするという点では、リンスに近いけど、リンスよりも髪の表面のコンディションを整える力が強いもの。

ʃɔɔ 〔名詞〕古アルカの１０ 〔レベル〕3 ɪɟɑ;ʃɔ,lʃ).l 赤

ʃɔɔʃ 〔代詞〕何の 〔レベル〕1 ʃl0:ɟeɥen/ɟcɑɑɪ

ʃɔɔʃɔ 〔音楽〕スウィング、シャッフル、バウンス 〔反意語〕ɪʃʃɔɔʃɔ ʃl:「トート」というのは口で出す音のことで、「トー」が長い拍、「ト」が短い拍を指す。スウィングの拍の構成を説明するときに「トート」などといって伝えたところから

ʃɔɔʅ 〔動詞〕ɥɵl を終える、終える、終わる 〔法副詞〕～しおわる、終了 相を示す。 〔動詞〕非単位動詞の終了相を作る連動詞。ɥɪn lə ʃɔɔʅ ləʅ ɑə ɑɔə, ncʅɔʅ ɪl ɪlɔ（そして彼女は数歩歩き、地面に倒れた） 〔名詞〕エンディング、終わり、エンド、ＥＤ、フィン、ｆｉｎ 〔接辞〕複合語で「終わりの」の意味を作る。 〔音楽〕フィーネ 〔反意語〕ʅcʃ 〔レベル〕2 ɥɑ;ʃɔɔʅc.l ʃL: 古 :ʃɔɔʅc ʃɔɔʅc:ʃɔɔʅc::ɔɔʅ,ɟʅ 〔語法〕 nɪ ɑɪcɒ ɥeɒ は恐怖を感じだしたが感じ切って恐怖を認知する前に不安定度に留めた場合。nɪ ʃɔɔʅ ɥeɒ は一度恐怖を感じたが、それが終わった段階。 〔用例〕 ɪn ʃɔɔʅɪ(cʅ ʅɪb ɟɪ ɑɔnc ɑel ɪn ɒɔʅ ɪʅ. 寝る時間になってようやく仕事が終わった。

ʃɔɔʅnɔɑ 〔言語〕終了相 〔レベル〕4 ʃl0 〔語法〕 状態動詞の一端、事後段階の一端、外相の一端。 非単位動詞の右端点。 「～しおわった、～な状態からの脱却」という意味。

ʃɔɔʅʅɔʅ 〔生物〕直腸 〔レベル〕4 ʃL

ʃɔɔʅc,ɑ ʃɔɔʅ ʅccʃɔ

ʃɔɔʅɔd 後注→ lec ʃʃ

ʃɔɔn 〔単位〕何十 〔レベル〕2 ʃ1

ʃɔɔn beeφ 〔人名〕トーン＝ベーグ ʃl0:ɟcɑɑɪːɒcɟɔʃːʃɔɔʅ/ 人名化の n 〔文化〕 アルダ時代のミロクの同級生。肉屋の息子で体格が良く、ミロクと仲が悪い。最終的にミロクの近衛兵にまで昇進する。

ʃɔɔnɔ 〔魔物〕トーノ（土竜）: 第三十三天 : 土の衛天 〔レベル〕5 ʃL:ɟcɑɑɪ/ɟeɥen/ɒel:ʃəənɔ/ʃɔɔʅ の混成 〔文化〕 土属性の地竜。大きさは竜族最大。飛べず、動きは緩慢。ベージュ色。寝ながら火を吐くなどして攻撃してくる。家よりも大きい竜で、腕力も最大。だが、性格は竜族の中では大人しいため、刺激せずが大人しく迂回しよう。

ʃɔɔnɔɛɥcɒ 〔天文〕デネボラ ʃL:ɟcɑɑɪ/ɟeɥen/ɒel 〔文化〕 トーノの心臓。

ʃɔɔᴅɪ ［被服］カマーバンド　μʃ;ʃɔᴅ.⌉　⅃Ṃ

ʃɔɔɑ ［名詞］坂、坂道、スロープ ［名詞］承 ［音楽］ポルタメント→ nɪɑ ［レベル］2　⅃0:jeμen/μcɑcɪ:ʃɔɔʃ:1L:ʃɔ⌉ɑɔnʃ 【用例】 ʃə ʃɔɔɑ ɑe ⌉cn nɔɑ ᴅɪl ɭɪ. この坂、こんなに急だったっけ。

ʃɔɔμcɪ ［地名］トーリア海　⅃0:μcɑcɪ: 竜の海 ［文化］ アクオリア東の海。

ʃɔɔμcɪʃc⅂e ［地学］トーリア海流　⅃ʔ

ʃɔɔze ［地名］トーゼ川 ［レベル］6　古 :μcɑcɪ:「風の川」。ʃeeze のアプラウト。⅃0 年にセレンがサプリを流れると決めるまで、サプリなのかアルダなのか決まっていなかった。単にリディアが幼少期遊んだ川となっていた。 ［文化］ サプリの村を流れる川。

ʃɔɔzeφɪlɑ ［天文］天の川、ミルキーウェイ ［軍事］侵攻ルート、攻撃ルート ［レベル］4　⅃0: トーゼ川の銀河 ［文化］ ファルアモンのヴェガがリディアのアルタイルを襲うために通る川状の銀河であることからこの名が付いた。リディアで川というところからサプリ村のトーゼ川が選ばれた。

ʃɔɔl ［生物］竜、ドラゴン ［レベル］4　古 :ʃəənɔ からか ［文化］ 歩くタイプのドラゴン。

ʃɔɔl uɪlbej ［人名］トール＝ヴァルベス　1L:clᴅəj:μcɑcɪ ［文化］ (ᴅel 1Ṃ1 → 1ʔʔ) アルティル期の軍人。デスパナの機織りの娘と売れない作家の間に生まれた。１５歳で陸軍に志願。驚異的な身体能力で王国屈指の剣士となる。２９歳でイグレスタに対する議員の人数制限が始まり、暴徒鎮圧の命を受ける。鎮圧の功績により、３０歳でヴァルベス王の側近となり、警護を担当する。３２歳でイグレスタ革命。ラティア刑務所に侵入した暴徒を斬り捨てるも数に押され撤退。王宮に侵入したイグレス勢と戦い、王を逃がし、戦死。

ʃɔɔlɑen ［名詞］トールデン、トール人、地竜人 ［レベル］4　⅃0:μcɑcɪ ［文化］ アルバザードとケートイアに住む民族。アルバザードは混血が進んでいるので、現在ではケートイア人のほうが純度が高い。骨格が華奢で色白で、背は飛竜人より低い。体格が全体的に飛竜人に劣る。飛竜人より小柄な民族で、牧畜より農耕を営んできた。髪は茶色で目も茶色が多い。

ʃɔɔldɔl ［地名］地竜方 ［レベル］4　⅃0:μcɑcɪ ［文化］ 北方のうち、アルバザード・ケートイアを指す。地竜人が住む。

ʃɔe ［動詞］ɥəl を刺す、刺す、突く、つつく、つっつく ［擬音］つんつん、ツンツン、ちょんちょん、チョンチョン ［レベル］2　lʝl;ɔej,jzɑ.l jɔμn　参考 : アルシェでは dcdc　dcdc:ʃɔe:ɔej:ʃlɔʃlɔ,ᴅɑɑ dcelə,ɪlʃ 【用例】 ʃɔe lcel 長く突く、奥まで突く

ʃɔen ［普通動名詞］弱者から強者への一撃、攻撃、暴力 ［動詞］ɥəl を打つ、打つ、撃つ、殴る、叩く、突く、攻撃する ［シェルト］後手の一矢 ［反意語］ləəd ［レベル］3　jɔμn: 弱者が強者を刺すとき、下の位置から突き上げるようにすることからだそうだ。 ［文化］ ・後手の一矢　シェルトや将棋のようなゲームはどうしても後手が若干不利である。そこで、後手だけに与えられた特殊ルールがある。後手は詰みの状態になってもあと１手だけ動かすことができる。例えば敵の攻撃で月手魔取になった場合、次の敵のターンで自分の月が取られたとする。普通はそこでゲーム終了だが、残った何らかの駒で相手の月か最後の魔を取ることができれば引き分けに持っていくことができる。これを後手の一矢といい、ソーンにだけ認められた特権である。

ʃɔendcɔ ［生物］能動輸送　μʃ;/　⅃Ṃ

ʃɔenɪ ［名詞］ルサンチマン　μɑ;ʃɔen/nɪ　制 : リディアの辞書から ⅃Ṃ に輸入。

ʃɔeuɪnɑ ［普通動名詞］突刺、突き刺し　μɑ;/　⅃Ṃ

ʃɔeucl ［名詞］刺し傷 ［レベル］3　1L:ɭcɔn

ʃɔezɔn ［運動］［娯楽］ビリヤード、撞球、スヌーカー ［レベル］4　1ʔ ［語法］ zɔn キュー　ɪɔz チョーク　ᴅɪɭ ポケット　bɪlʃ クッション　hɔl ひねり、スピン

ʃɔelɪj ［医療］刺手、さしで　μɑ;/　⅃Ṃ ［文化］ 鍼を持つ手。ふつう右。

ʃɔelenʃ ［普通動名詞］磔、はりつけ ［名詞］見せしめ、みせしめ ［動詞］ɥəl を ɪ に磔にする、磔にする ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪɭelʃ: 刺された人形

ʃɔəʃɔə ［地名］トウトウ　⅃0 ［文化］ アンペル西部の都市。

ʃe ［法副詞］～しないで ［レベル］1　1L: 古 :ʃeɔ（いいえ、だめ） ［語法］ μe 【用例】 ☆ ʃe ᴅc nɔn. ひとりにしないで。

ʃe(⅃) ［動詞］［μenʃe］ɑe ［レベル］1　1L 【用例】 nɔn ʃe ɗɪcz. チビじゃないもん。

ʃe(ʔ) ［接尾辞］eʃ に同じ。 ［接尾辞］名詞から性質状態を示す形容詞を作る。 ［接尾辞］名詞を直接言及するのを避ける。 ［接尾辞］形容詞の語義をぼかしたり弱めたりする。 ［レベル］1　ɑu;ʃeeze から。　1L:ʃeeʃ: 直接言及を避ける用法はメルが 1L 年に作った。"ɜᴅ... ɪlɑc, nɔn ⌉ɔμ lɪn dɪμᴅʃe४"（えぇと、だから、日本とか行きたいなぁ、みたいな？）というリディアへの言葉が初出。その後、一週間以内に言いやすさの面から子音と母音がひっくり返り、(e)ʃ になった。しかし ⅃0 年に、接尾辞 cʃ と区別が付かないとのことで ʃe に戻った。アルカでは伝統的に～ʃe（～風な）で終わる語が多いので、ʃe だけ切り離して発音するのは慣れがあり、違和感はない。ʃe 以外だと、ejdʃe や sc⌉ʃe はかなり違和感を感じたはず。　ʃe, eʃ:ʃe, eʃ:ʃe, eʃ ［語法］ 直接言及を避けるほうについては、日本語の「っぽい」「とか」「みたいな」や英語のｓｏｒｔ　ｏｆに相当する。直接名詞に言及したくないので ʃe を付けて「～っぽい」とぼかす。この用法の場合、形容詞ではなく名詞のままになる。　名詞→形容詞　ejd（雲）: ejdʃe（曇りの）　動詞→形容詞　sc⌉ʃe（滑りやすい）　動詞→形容詞→名詞という合わせ技も可能。　sc⌉ʃeʃ（滑りやすさ）　形容詞→形容詞　jeμcd（湿った）→ jeμcdʃe（湿っぽい）【用例】 dɪμᴅʃe 日本っぽい　ejdʃe 曇っている

ʃe(Ṃ) ［南方］［動詞］eʃ ［レベル］3　⅃1

ʃe,ɑ　ʃeeze。拘束形態素として使う。　ʃeeze.ɭc⌉

ʃe,ɑ(⅃)　ʃeᴅ、ʃeμ　›‹ʃe(ʃeeze)

ʃe,ɪlʃ　ɪ, ɪl　‹›ʃɪ

ʃeʃ ［格詞］［文頭純詞］［μenʃe］ɑee ［レベル］1　1L:ɑee

ʃeʃ(⅃) ［動詞］［μenʃe］ɑeʃ ［レベル］2　1L

ʃeʃʃɪ ［感動詞］［ɥənʃe］ねぇ ［レベル］1　古 :「聞いてくれた ४」の意 ［語法］ 呼びかけ。lee より可愛い。ʃeʃʃɔ の方が若干丁寧だが、ʃeʃʃɪ で十分可愛い。

ʃeʃʃɔ ［感動詞］［ɥənʃe］ねぇ。若干 ʃeʃʃɪ より丁寧。 ［レベル］1　古 :ʃeʃʃɪ と同じだが、語源が「聞いてくれますか？」であり、若干 ʃeʃʃɪ より丁寧。

ʃeʃʃe ［名詞］おじさん、オジサン ［類義語］lɪnlɪ ［レベル］2　古 :ʃeʃʃe ← ʃeʃe

ʃeʃʃen ［名詞］おじちゃん ［類義語］ʃeʃʃe ［反意語］lɪnlɪn ［レベル］2　⅃0:ʃeʃ ʃe/n

ʃeʃlc,ɑ　ɑeᴅc　ʃlcʃe,ɑ.φe⌉j

ʃeʃɔn ［形容詞］義理の、血の繋がっていない ［反意語］eμc⌉ɪ ［レベル］4　ɑu;ʃeʃɔnɪ.⌉「関係性による関係」 ⅃Ṃ　ʃeʃɔn:ʃeʃɔn

ʃeʃɔnɪ ［名詞］関係 ［名詞］人間関係、人付き合い ［レベル］2　ɑ;ʃe は「風」で「関係」。nɪ は「心」？　赤　ʃeʃɔnɪ:ʃeʃɔnɪ:lə ʃeʃɔnɪ:ʃeʃɔnɪ,ɪlʃ 【成句】 ʃeʃɔnɪ ɑel ɪnj ɭenɪʃ eμcɪ cʃ elɑe ⌉ɔ⌉. 同じ泉から水を飲んだ仲：袖すり合うも他生の縁 【用例】 ʃcl ʃeʃɔnɪ ɪ ～と人間関係がある。知己であるより深く、知り合い程度。文脈次第では男女関係という隠語の場合もある。　ʃeʃɔnɪ le leeu lenɪ cᴅ el uɔlʃ ʃə ⌉ɔ⌉⌉ɔ elɑ, nɔn jeɑɔ ɑɪn ʃə ⌉ɪlʃ elɑ, jɔɪ lɔʃ, nɪʃ ueᴅ. ʃeʃ ᴅɥə४ eucʃlɔ⌉c eɥɔ४ 言葉にすれば 消えちゃう関係 なら 言葉を消せばいいやって 思ってた 恐れてた だけど あれ？ なんか 違うかも（『恋愛サーキュレーション』千石撫子）

ʃe⌉ ［植物］葉、葉っぱ、このは、木の葉 ［レベル］2　ɑ;ʃe/lc「風で動く」　赤　ʃe⌉:ʃe⌉:lec 【用例】 ʃe⌉ ɪʃ ᴅeʃ ᴅclᴅel ᴅcl ʃeeze. 風が吹いて木の葉が散った。　ɪn nɪʃ ʃə eʃ ɥənɑc ɭel ʃe⌉ ɪʃ ᴅeʃ. 木の葉が散るのを見てむなしさを感じた。

ʃe⌉(⅃) ［動詞］［μenʃe］ɑe⌉ ［レベル］2　1L

ʃe⌉,ɑ　ʃe⌉、ɑccɪ　jɪɪl;e

ʃe⌉ʃ ［電算］Ｅメール、メール ［動詞］ɥəl を ɪ にメールで出す、メールする ［レベル］3　1Ṃ: 制 : 古 :ʃejhe⌉ɪ ［語法］ 件名は ɔlᴅɪ で内容は ɑɔjᴅ。 ［文化］ アンセのメール機能で送受信する。ボイスメールや映像メールも可能。使い方は日本人より西洋人に似ており、用件を伝えるだけのことが多い。人とは直に会って話すほうが好きな国民性なので、メールは端的で、何分以内に返さないと仲間はずれになるという女子高生のメール地獄のような現象はない。

ʃe⌉ʃdɔleʃ ［電算］メールサーバー ［レベル］5　1L

ʃe⌉ʃzɪnɑ ［電算］Ｅメールアドレス ［レベル］4　⅃0

ʃe⌉⌉cld ［地学］魚眼石　1L: 熱すと葉っぱのように剥がれる

ʃe⌉ɭ ［名詞］アンケート ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ʃe⌉ɪjɪ（聞く紙）が ʃe⌉ɭɪ（聞く法律）と勘違いされたもの。⌉ɪɭɪ と ⌉ɪjɪ はしばしば混同された。 【用例】 ɪμ ʃe⌉ɭ ɪ ɔn ɔn について ɪ にアンケートを頼む

ʃe⌉j ［名詞］カップ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :eʃe⌉hɔɔjɪ（茶の入れ物） ［語法］ 取っ手のある茶碗。取っ手のない円筒形のものは dɪd。

ʃe⌉jɪɪze ［名詞］木の葉吹雪 ［類義語］ᴅcnʃjɪɪze ［レベル］4　μɑ:μcɑcɪ;/ ⅃Ṃ

ʃe⌉n ［普通動名詞］協議 ［動詞］ɥəl を ɪ{ɔ⌉} と協議する、協議する ［レベル］5　1ʔ: 制 :「関係者が話す」

ʃe⌉nc ［植物］フェイジョア ［レベル］6　古 : 緑色の

ʃe⌉ncd ［植物］グリーンピース、グリンピース ［レベル］3　古 : 緑の豆

ʃe⌉μɪ ［悪魔］テクラ、緑の悪魔テクラ ［レベル］3　ᴅelʃcɪ 0:ʃe⌉μɪ;ʃe⌉/hɔɔμɪ　μcɑcɪ: 古 :ʃe⌉(緑)/hɔɔμɪ ［文化］ 緑の毛で覆われた怪物。慎重。

ʃe⌉μɪ,lʝl　ɑccɪ　ʃe⌉μɪ

ʃe⌉μɪlccɑɪ ［天文］サイフ　1L:μcɑcɪ/jeμen/ᴅel ［文化］ hɔɔμɪlccɑɪ

ʃe⌉lcl ［化学］タリウム ［レベル］6　1Δ: 制

ʃe⌉ɪμ⌉ɔ ［言語］葉ノード　μɑ:ᴅel;/　⅃ʔ:ᴅel

ʃe⌉eleʃ ［法律］覚書、覚え書き、合意書 ［レベル］5　μɑ;ʃe/lel/eʃ「忘れるなというようなもの」 ⅃⅃

ʃel ［格詞］～によると ［名詞］情報、個々の情報、データ、資料 ［電算］データ ［反意語］⌉ɔj ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ʃelɔ「知を伝える」 ［語法］ 断片化された個々のデータを示す。体系化されていない知識を示す。ばらばらに乱立しているデータのこと。 ［文化］ ＜情報とコンテクスト＞　ɭɪlʃen　社内文書や案内表や契約書などにおいて、情報をどの程度厳密に細かく伝えるかは国によって異なる。アメリカでは低コンテクストだが、フランスや日本は高コンテクストで情報量が少ない。ある程度常識に委ねる。一方、フランスの案内板は不親切だが、日本は世界一と言っていいほど気配りが細かい。アルバザードは日本式に最も近く、高コンテクストながらも気配りは細かい。例えば電子レンジに猫を入れたら死ぬことくらい明らかなので、アルバザードの説明書にはそのような注意は書いていない。もし誰かが訴えても、裁判所はただちに棄却する。ただ、老人にも分かるようにボタンに大きな文字で「加熱」と書かれていたり、絵で分かるようになっていたりと、気配りは日本人並み。　情報の伝達には国民性が出ており、親切でまじめがモットーのアルバザードの場合、「困っている人を助ける」という姿勢が出ている。難しい説明書に悩んで困るだろうお年寄りのお客さんなどを想定してマニュアルが組まれる。＜共有の精神＞　ケチや独占といった「自分だけ良ければそれで良

い」という考えはアルバザード人が卑怯と忌むところで、情報はできるだけそれを必要とする人に与えるべきだという共有の精神がある。　従って、相手にとって必要であれば教えてやるのが善とされる。日本の場合、ときにはおせっかいと取られるかもしれない。 【用例】 ſel le ſcl ɔȷſ ſcnɿı 容量の大きなデータ

ſel(ɺ) [化学] ニトリル　1L:ſeeze

ſelɑɔnſ [電算] データバス　1L

ſelɑıcφ [経済] 情報税　[レベル] 4　ls:jeµen;/　1L:µcɑcı:ıµbıleıſ [文化] 書籍や音楽などの電子コンテンツを無料でＤＬするために一年に一度支払う税金のこと。ls のミロク革命で導入された。　コンテンツのデータはアルバザードでは無料で手に入るが、それは情報税を納めているため。情報税の税率や額はコンテンツの内容によって異なる。例えば書籍は国民の民度を上げる重要なものなので、内容がアカデミックであるほど納税額は安く済む。　情報税については著作権が関与することなので、lıɑınlınφ を参照すること。

ſelµı [電算] データベース、ＤＢ [類義語] ſelı [レベル] 4　1ʔ: 制 : データの家

ſellɔɔı [形容詞] [名詞] 情弱、情報弱者 [反意語] ſelıl [レベル] 4　ıl;/「情報に暗い」 Jʔ 【用例】 dce lılel (ııı ıl ſellɔɔı ı (ııı ɥɔl ınjeµ ı. 未だにＩＭＥとかｗｗｗ　どんだけ情弱だよｗｗｗ　グーグル ЄÐE 使えって。

ſelı [名詞]便覧、資料集、データベース [類義語]ſelµı [レベル]4　1ſ: 制 :ſel

ſelı(ɺ) [化学] ニトリル基、シアノ基　1L

ſelıl [形容詞] [名詞] 情強、情報強者 [反意語] ſellɔɔı [レベル] 4　ıl;/「情報に明るい」 Jʔ

ſelın [法律] 参考人、情報人 [レベル] 4　J0:ɒelcɑcı lceµ

ſelen [接続詞] ſel [レベル] 3　J1

ſelə [動物] カモノハシ [レベル] 5　ılıſı:ſeȷɥıɥə（電気 / 毒）

ſeȷ [言語] ſ の文字 [レベル] 1　1ɱ: 制 : 電気 [語法] 第 1 文字目の幻字。最初の子音字。

ſeȷ(ɺ) [名詞] 電気 [レベル] 2　1ʔ: 制 : 古 :ſeȷ（電気）。ſeȷlın ← ſeȷ（電気）/lın（lınſcȷ（霊人））から。原義は「電気の人」。リディアの知人で、この名はリディアが付けたアルカ名

ſeȷ(ʔ) [動詞] [µenſe] ɑeȷ [レベル] 2　1L

ſeȷſ [心理] ゲイ、ホモ、同性愛、ボーイズラブ、ＢＬ [類義語] neɒd [反意語] ſeȷſeel [レベル] 4　1ʔ: 制 :ſeȷſeel [文化] → eſcɒ アルバザードでは同性愛は比較的受け入れられる。アルバザードの性生活は圧倒的に男優位なため、女は閉塞感が強い。恋人が処女であることはほぼ絶対であり、女が風俗に行くこともまずない（中年以降は一部ありえる）。その結果、アルバザードではレズ率がホモ率より圧倒的に高い。女同士の場合、セックスをしても処女のままとみなされることも関与している。　ſə eueɒ lənıȷ cſ ıleſ. ɥəl ıleſ, ſeȷſ ɒc lɔnſ ſeȷ ſeel lı ɔuı llccz. llccz eȷȷeſ µcɑcı ɑcn ɑcı eȷ ſcın e jeµen.

ſeȷſınſɔı [化学] Ｋ殻 [レベル] 5　1L

ſeȷſcı ɒeſe [人名] テスティア＝メテ [レベル] 5　古 [文化] ４期２代ソーンのルシーラ。女性。アノの母。

ſeȷſɔɒȷ [名詞] 電気がま、電気ジャー、電気釜 [レベル] 3　1L:µcɑcı:ıµbıleıſ

ſeȷſeel [ユマナ] [人名] テステェル [レベル] 4　古 : 生年その他不詳。神話テステェルのモデルとなった人。 [文化] レズビアンの女性。おしとやかで、すこぶる美しかったらしい。女性を魅了する不思議な魅力を持っており、魅了された女性は彼女と関係を持ったそうだ。

ſeȷſeel(ɺ) [人名] テステェル [心理] レズビアン、レズ、同性愛 [類義語] ɑcıncȷ [反意語] ſeȷſ [レベル] 4　ɒelſcı ſ1:eµeȷ/lɔɔlel;e　古 :ſeȷſeel [文化] eȷſı　エレスとコーレルの娘。レズビアンだが、自分から襲うことはなく、相手を誘惑して襲わせる。そうやって自分の家系を含む多くの少女をたぶらかしていったが、男には見向きもしなかったために嫉妬され、残酷王フェンゼルによって永久出産の拷問を受ける。

ſeȷſeel(ʔ) [企業] テステェル社　J1 [文化] uɔµɒ

ſeȷſeelncı [普通動名詞] アヒル座り、テステェルニア [動詞] ɥəl をアヒル座りさせる、アヒル座りする [レベル] 3　古 : リディアが思春期ごろに特によくしていた座り方。可愛いと好評だった。

ſeȷl [気象] 台風　1ſ: 制 :ſeez（風）/eȷl [文化] アルバザードにはあまりないが、たまにアティア海で発生したものがやってくる。 【用例】 ſeȷl lənı cn. 台風が来そうだ。　ſeȷl lənıſ{uınɑıſ} oıllı. 台風がワッカを襲った。

ſeȷlı [物理] 電場、電界 [レベル] 5　1L:ɒɥɔlı などと同じネーミング。電荷や電位から命名しようか考えたが、単純なのを推すことにした。

ſeȷlccſ [物理] 静電誘導 [レベル] 4　1L

ſeȷȷleſ [名詞] 電光掲示板、電子画面、電子モニタ、電気モニタ [レベル] 3　ul;/　Jʔ

ſeȷȷı [料理] 抹茶 [レベル] 4　JJ:ılſ

ſeȷȷcz [芸術] 電子画板 [レベル] 4　1L: ねこの郵便屋さん [文化] フルカラー＆筆圧感知の電子ペーパー。画面に直接描くペンタブレットが電子ペーパーになったもの。

ſeȷȷɔlz [建築] 電線 [レベル] 4　µſ;/　Jʔ

ſeȷȷe [南方] [女性] [文末純詞] ſcȷȷe [レベル] 3　J1

ſeȷncıl [建築] 電柱 [レベル] 4　Jʔ [文化] アルバザードは一部地域を除いて地震がほとんどないので電力は地下ケーブルを使用する。従って電柱を街中に見ることはない。

ſeȷɑµcɒ [生物] 電子顕微鏡 [レベル] 5　1L

ſeȷɑclɔ [名詞] 電気ポット [レベル] 3　1L:µcɑcı:ıµbıleıſ

ſeȷɑɔnſ [名詞] チャンネル [レベル] 3　1L:µcɑcı:ıµbıleıſ [文化] アルバザードはジャンルごとにチャンネルが分かれている。ニュースならずっとニュースだけをやっている。 【用例】 [ユマナ] ın cnıſ ſeȷɑɔnſ ſ. ６チャンを見た。　scφıſ ſeȷɑɔnſ ılſ. チャンネルを変えた。　scφ ɑlen ſeȷɑɔnſ ılſ8 チャンネル変えていい？

ſeȷɑɔnȷ [化学] 電気分解、電解 [レベル] 5　J0

ſeȷdıɒ [名詞] 電灯 [レベル] 3　1L:ɒelcɑcı ılcȷ [文化] ɒɔl

ſeȷµı [工学] 発電機 [レベル] 4　µſ:uınφıµɑ lcczel;ſeȷ/µı「電気の家」JJ

ſeȷµcl [物理] 放電 [レベル] 5　1L

ſeȷµen [地学] トルマリン、電気石 [組み数字] １０／１０ [レベル] 4　1L [文化] ノアの流れをよくし、結果的にノアを強化する魔石。

ſeȷµecn [数学] ｘ軸→ ȷınl [レベル] 4　1L

ſeȷsczɔl [音楽] エレキギター [レベル] 4　J1

ſeȷl [普通動名詞] 発電 [動詞] ɥəl（主に何ワットなどの量）を発電する、発電する [レベル] 4　1ʔ: 制 :ſeȷlıɑ

ſeȷlı [名詞] 発電所　µſ;/　Jɱ

ſeȷlıſ [物理] 充電 [レベル] 3　µɑ;/ ↓　1L: 電気を（充電池などの中に）入れる

ſeȷlıſıµ [名詞] 充電器 [レベル] 3　µɑ;/。科学が未発達な µɑ でも充電器程度のものは既にあった。　Jʔ

ſeȷlın [企業] テスラン [レベル] 5　J1:ſeȷ の語源となった人名が ſeȷlın。 [文化] 東京電力に相当する企業。

ſeȷlın nıɔn [人名] テスラン＝ナオン　1L:clɒəȷ:µcɑcı [文化] アルティル期の政治家。財政省貿易庁長官。メル２４０年の種枯れ病の際、大規模な輸入政策を実施。運輸庁長官のルノ＝ファルファニアに協力を要請。これがきっかけでルノの名声が上がり、第四次選挙でアルティスの議席が増えた。メル２４５年、ルノ暗殺を主張したミナリスに反対し、アルミナを立てた。ミナリスとの利権争いで揉めていたテスランには好機であった。

ſeȷlcſ [化学] 樟脳、カンフル、カンファー [レベル] 6　J0:ſeȷlcſ（楠木）。ȷlɒe からの借入。ſe:ſeȷ（東）/zıɒ:lcſ（香木）。ヴァルマレア・ヒュグノー原産の植物。メティオから見て東方であったことから。 [文化] 現在では防虫剤などに使われる。

ſeȷleſȷ [音楽] エレクトリックピアノ、電子ピアノ [レベル] 5　J1

ſeȷleɒ [音楽] エレクトロニカ　J1

ſeȷı [物理] プラズマ [レベル] 4　1ʔ: 制 : 古 :ſeȷȷıdlc（電気の空気）

ſeȷıllec [電算] ブログ、ウェブログ、インターネット日記 [レベル] 4　1L:µcɑcı:ıµbıleıſ

ſeȷc [電算] マイク、マイクロフォン、送話器、拡声装置、音を電気信号に変える装置 [レベル] 3　µſ　1ɧ: 制 :ſeȷɑɔ（電機の音）

ſeȷcȷıµ [名詞] 電気ブレーカー、ブレーカー [レベル] 3　1L:µcɑcı:ıµbıle ıſ

ſeȷcɑecɒ [電算] マイクスピーカー、ヘッドセット。スピーカーとマイクが一体化したもの。 [名詞] 受話器 [レベル] 3　µſ;/　Jʔ

ſeȷe [化学] [電算] 電池、バッテリー、バッテリーパック [レベル] 3　lı lſı:「電気を起こす水」 [文化] 最古の電池はアズゲルの時代にファベルのマレット人が作ったものをシフェルが導入したもの。マレット人はメッキ用に deφlſeȷe を開発した。その後、カコでボルタ電池が作られた。　µɑ で化学が起こっても魔動式のものが多かったため、動力としての電池はナディアを待つことになる。 【用例】 lı ſıə ſeȷe ɔ ɑınſφıµ ſeµ. 電池とＤＶＤを買うらしい。

ſeȷeɒɔ [物理] 電源 [レベル] 3　1L

ſen [単位] 8 [レベル] 1　1L: 制 :ſe　ɔȷɔı:hen::ınlə,ılſ

ſen(ɺ) [南方] [動詞] ſe [レベル] 3　J1

ſen,lȷl　lɔſ　ſel「葉の数ほど多い」

ſenſ [農耕] [動詞] ɥəl を耕す、耕す、たがやす [レベル] 3　1ɱ: 制 :ȷıɑ:ſnɔ 【用例】 ſenſ lɔſın 畑を耕す

ſenſı [建築] 土木、土木業 [レベル] 3　1ɱ: 制

ſenſın [農耕]農民 [レベル]3　1L:clɒəȷ:µcɑcı [語法] 小作も地主も含め、田畑で ſələc や ılſəl を作る人。 【用例】 ſenſın nıll ılſəl lcnel. 農家の人は農作物のことをとても気にしている。

ſenſııɒɔ [名詞] ブルドーザー [レベル] 3　1ɱ: 制 : 土木工事する車

ſenſc [名詞] セメント [レベル] 3　1ɱ: 制

ſenſe [名詞] コンクリート [レベル] 3　1ɧ: 制 :ſenſc 【用例】 ſenſc eɒ hɔnɔ{ ☒ euc}. セメントが固まる。セメントは乾いて固まるものではないので euc とは言わない。

ſenl [動詞] ɥəl をほつれさせる、解れる、ほつれる [レベル] 3　ılıſı

ſenɑ [被服] イヤリング、耳輪、耳飾り、ピアス [レベル] 3　1ſ: 制 :ſeɒ/ɑcıl [文化] 魔力を高める装身具とされ、特に召喚士に好まれる。耳に近いため、神の声がよく届くと考えられているため。現代では敬虔な信者が身に付ける。

ſenφı,ɑu　leſſc　e

ſenlccɑı [植物] 八角、トウシキミ [レベル] 5　1L [文化] 東洋料理の香辛料として、アルバザードでは稀に用いられる。

ſenleɒ [音楽] 八重奏、オクテット　µɑ;/　Jʔ

ſeneɿıuccɑı [生物] [医療] 八宗穴、八総穴、八脈交会穴　µɑ;/　Jɱ

ʃeu ［物理］電圧、電位差 ［レベル］4 μɥəə:lɪl̩ʃɪ

ʃeueʃ ［魔法］ゴーレム ［レベル］4 zφ;ʃeeue/ʃe Ɉᥰ

ʃeɑ ［名詞］雫、滴 ［動詞］ɥəl を c から滴らせる、滴る、したたる、垂らす、落とす、かける、こぼす、零す、もらす、漏らす、涙を流す ［レベル］3 古 : 滴る音 ［語法］ コップの水をどばっと零す場合は ncl̩ȷ dɪd, μcl̩ eμ となる。ʃeɑ は使えない。

ʃeɑuccɑɪ ［生物］［医療］栄穴、榮穴 μɑ;/「経脈のしたたる穴」 Ɉᥰ

ʃeɑɣɪdc ［医療］点滴 ［レベル］3 ȷȷ

ʃeɑɪlɒc ［アイテム］カイトシールド μɑ;/ Ɉᥰ ［文化］ ȷɒ で発明された騎兵用の盾で、脚を守るために縦長になっている。雫型をしている。

ʃeɒ ［生物］耳 ［動詞］ɥəl を自然と聞く、ɥəl が聞こえる、聞く、聞こえる、耳にする、聴く ［電算］マウスのボタン。右クリックなどの「クリック」する部分。［文字］イヤー ［類義語］ʃeμ ［レベル］1 1ᥰ: 制 : 古では ʃe ［語法］ 領域は日本語の耳と同じ。【成句】 ɔu ʃeɒ 耳を立てる、耳を動かす。意外なことを聞いたときなどの動作。【用例】 ʃeɒ l̩ɪc 大きな耳 ʃeɒ μɪʃ{ɑμeɒ} よく聞こえる耳 ʃeɒ ɑlɔn 耳が遠い、難聴

ʃeɒʃcɪ ［アイテム］テムティア ［レベル］4 Ɉ1:ʃeeɒȷ/ʃccɪ「永遠の愛」［文化］ ヴァストリアのひとつ。ルノから世界を救った褒美としてリディアが ɒelɈ1 にもらったピアス。任意に７～２５才の姿になれる。セレンの浮気防止策としてリディアが欲した。

ʃeɒl̩ ［建築］倉、蔵、倉庫、納屋、物置 ［レベル］3 古 ［文化］ 一戸建ては庭に、集合の場合は大きな倉庫室の一部を間借りするか、貸し倉庫屋から借りる。

ʃeɒl̩φcɔ ［経済］税金等調整前当期純利益 1L

ʃeɒl̩ɔzeʃ ［名詞］耳カギ ［レベル］3 1L ［文化］ 窓に付いているカギのこと。縦になっている金属棒を下に倒すと鍵が開き、上に倒すと鍵が閉まる。

ʃeɒl̩ez ［建築］物置部屋 ［レベル］3 1L:lcɔn

ʃeɒȷ ［建築］窓 ［芸術］漫画のコマ← ɒclȷlɪl ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɪμ:ʃehɔɒɥə（風の扉）【用例】 ɪn ʃeμl̩ɪʃ ɒeȷɪ hɔɒeȷ ʃeɒȷ lɪlel. 窓を開けっ放しのまま、外出した。 ɪn μeʃɪʃ ʃə lel lɪ ɑeɥə ʃeɒȷ. 窓を閉めるように彼に頼んだ。 ☆ ɪn ɑeɥəʃ ʃeɒȷ lɪnɪ ȷʃɪȷ eȷl̩. 雨が降り込まないように窓を閉めた : ȷʃɪȷ の用法に注意。

ʃeɒȷl̩ɪll ［建築］窓枠→ l̩ɪll ［レベル］3 1L

ʃeɒȷȷcɪ ［建築］窓ガラス。素材はガラスとは限らない。 ［レベル］3 1L

ʃeɒȷueμɪnʃ ［医療］自閉症。発達障害の一種。 ［レベル］5 ul;/ ↓ Ɉʔ:ɒel>ʃeɒȷleul:1L:μɥəə: リュウが診察した限り、人の話を聞かないで窓や床などを見ているケースが多かったことからきているそうだ。

ʃeɒȷɑcɪɑ ［建築］窓ガラス ［レベル］3 μɑ;/ Ɉᥰ

ʃeɒȷlɔʃȷ ［ユマナ］［電算］ｗｉｎｄｏｗｓキー ［レベル］5 Ɉ0

ʃeɒȷcɪ ［生物］鼓膜 ［レベル］3 1L

ʃeɒȷcɪɑɪcz ［医療］鼓膜炎 1L

ʃeɒuɪnɔ ［生物］天窓 ［レベル］5 Ɉ1

ʃeɒɑecɒ ［名詞］イヤホン、イヤフォン ［類義語］ɔȷnɑecɒ ［レベル］3 Ɉ1 ［語法］ 渡りの部分（右のスピーカーと左のスピーカーをつなぐ棒状の部分）を頭にかけるのが ɔȷnɑecɒ。耳にかけるか耳に入れるのが ʃeɒɑecɒ。耳に入れるインナーイヤホンは ʃeɒɑecɒ のうち dɔʃɑe cɒ。

ʃeɒɑeeʃɑel ［言語］聴覚音声学 1L

ʃeɒɒɪl ［生物］耳の穴、外耳孔 ［レベル］2 μɑ;/ Ɉᥰ

ʃeɒɒcll ［卑語］つんぼ、耳つんぼ ［レベル］3 Ɉ1 ［文化］ 使わないこと。

ʃeɒd,lᥰ eμuɪlcl

ʃeɒdcʃ ［医療］耳鼻科、耳鼻咽喉科。耳だけでなく鼻や喉も診る。大病院内の科目。 ［類義語］ɔȷnscɒuɪlȷ、ɔȷnscɒuɪlɪ ［レベル］3 1L

ʃeɒdccd ［医療］耳鳴り、みみなり、耳なり ［レベル］3 1ᥰ: 制 : 耳 / ピーという音

ʃeɒdeȷʃ ［魔法］テンペスト ［レベル］5 Ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ʃeɒdeμɪ ［言語］テンペラ。ʕ 記号。 ［経済］デフレーション、デフレ ［レベル］1 古 :ʃeɒdeμɪ ［語法］ 急下降調のイントネーション記号。びっくりマークに相当。

ʃeɒdeμɪl̩əənɔ ［言語］意外な驚嘆。文末で使用。ʕȣ で示す。 ［レベル］2 ȷȷ

ʃeɒlɔμ ［生物］外耳道 ［レベル］5 1L

ʃeɒɪʃeɒ ［美容］イヤーツーイヤー、イヤートゥーイヤー Ɉ1

ʃeɒɪφe ［生物］蝸牛（耳の） ［レベル］5 1L

ʃeɒɪlə,ɪlʃ ɑɔl̩

ʃeɒcȷ ［魔法］テミス気質 ［レベル］5 制 : テミスは元々よく人の言うことを聞くという意味の言葉で、それがヴィル＋ノアの性質を示していることから流用されて今に至る。 ［文化］ ヴィル＋ノア気質。

ʃeɒcl ［経済］見積もり、見つもり ［動詞］ɥəl を見積もる、見積もる ［レベル］4 ȷɔμn 【用例】 μen ʃeɒcl φɪμʃ. 値段を見積もって。

ʃeɒelʃ ［生物］耳くそ、耳垢、耳あか、耳アカ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ

ʃeɑ ［名詞］聞こえ、耳に聞こえた感じ、中立な意味での耳障り ［レベル］3 1ʕ: 制 :ʃɔɑ（聞こえる）【用例】 ʃeɑ ɒelcȷ 不快な音、耳障りが悪い音

ʃeɑe ［化学］ダイオキシン ［レベル］5 ɪlɪl̩ʃɪ

ʃeφ ［経済］定価 ［反意語］φɪb ［レベル］4 μɑ;ɪʃe/φɪμʃ「店での値段」 Ɉʔ:μcɑcɪ

ʃeφl ［名詞］ラジオ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ʃeȷφɥɪl̩eμc ［文化］ ラジオは災害時に使用される緊急の道具として一家に一台は置いてある。だが、通常はアンセを使うため、日常的にはあまり使われる機会がない。ラジオでは主にニュースや天気や交通情報を流している。番組はテレビと同じく内容ごとにチャンネルが異なる。つまり、周波数が異なる。 【用例】 ɪn ʃenɪʃ{ȷeμɪʃ} ʃə ueμʃ l̩ɔn ʃeφl cɒ ʃɔlel. 昨日そのニュースをラジオで聞いた。「ラジオで」の「で」は l̩ɔn。「聞こえた」であろうと l̩ɔn → l̩ɔn ɪn ʃclɪʃ l̩eʃcnȷ ɒeȷɪ ʃeφl eȷ ɪμ. ラジオをつけたまま居眠りをした。 ɪn ʃeμ ʃeφl cȷʃ cn ʃecl̩. テレビの代わりにラジオを聞く。 ɪn ɑelɪʃ l̩ɔnʃ ʃeμ ʃeφl. ラジオを聞きながら勉強した。 ɪn ɒɔl̩ nelʃ l̩ɔnʃ ʃeμ ʃeφl. いつもラジオを聞きながら寝る。

ʃeφl̩ɪ ［名詞］ラジオ局 ［レベル］4 μʃ;/ Ɉʔ

ʃed ［生物］耳たぶ、耳朶 ［レベル］3 lɪl̩ʃɪ: 耳のパン。食べ物のパンに似ていると捉えられた。 【成句】［婉曲］ȷel ʃed 耳たぶをはむ : 性交時の前戯をする。ただし、この場合、主に男が女に対し前戯をするという意味になる。

ʃeɥɔ ［動詞］ɥəl を盗用する、盗用する、盗作する、パクる ［普通動名詞］盗用、盗作、パクリ、パクり、オマージュ ［レベル］4 古 :ʃeɥɔ ← ʃeɔɥɔl で（悪く使う）

ʃeμ ［動詞］ɥəl を聞く、聞く、聴く ［文末純詞］～だそうだ、らしい、だそうだ、ようだ。耳で聞いた推量や伝聞。 ［類義語］l̩ɔμʃ、ʃeɒ、μɪnʃ ［感動詞］ほら、ねぇ、聞いて ［レベル］1 μɑ;ʃe 1L: 古 :ʃe ʃe:ʃe: 【用例】 lɪ ʃeμɔμ l̩ɪɪn. 彼は父親の話を聞いている。ひとつの話題が終わるまで聞き通すのだが、現在はまだその過程にあって話が終っていないという意味。 ɪn ʃeμɪʃ ʃə ueμʃ lɪɒel cɒ ɑcȷ ʃcȷ. 今日になってようやくその知らせを聞いた。 lɪ uɔμʃɪʃ ʃeμ. 彼が死んだらしい。 ɪuel ɪnʃ ʃeμɔμ lə leɑ μenȷ. 死神は黙ったまま彼女の言葉を聞く。

ʃeμl̩ ［動詞］ɥəl に出かける、出発する、出かける、行ってくる ［普通動名詞］通学、通勤 ［反意語］l̩ɔlʃ ［レベル］2 @ 1L ［文化］ 食後暫くしてから出る。七時ごろに出発する。学生の登校時間は片道３０分ほどで、社会人も大差ない。社会人は近場の職場を選ぶし、学生も近場の学校を選ぶ。だから時間はかからない。 ＜通学＞ ふつうは最寄の学校へ行く。通学時間は３０分～１時間程度である。徒歩、自転車、電車、バスなどを利用していく。 【用例】 ɪn ʃeμl̩ɪʃ ȷɪʃ. ちょうど外出するところだった。 ɪn ʃeμl̩ɪʃ ucl ɒcl ȷɪe. 雪に閉じ込められた。 el ʃeμl̩ lcn lɪnɪ ɪlɔ cɒ ɑəμne. 夜遅くに遊びに出てはいけない。 ʃə l̩ɪɑ lcn ɥəlc ʃeμl̩ cɒ ɑəμne nɔu. この国は子どもが夜遅く出かけるのを禁止している。 ɪn ʃeμl̩ɪʃ μcȷ. 出かけたくなかった。

ʃeμl̩lɪz ［名詞］門限 ［レベル］3 1L ［文化］ 日本語と違って個々の家庭の門限をイメージしない。最初にイメージするのは国が定める門限のこと。 【用例】 ʃeμl̩lɪz eʃ uɪμzɔn ɔn μɪ ɪnʃ. ウチは門限が８時だ。

ʃeμl̩ɑɔnʃ ［名詞］通学路、通勤路 ［レベル］2 Ɉ0

ʃeμl̩ɒel ［名詞］通学時間、通勤時間 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ʃeμnɪl̩l ［生物］聴覚 ［レベル］3 Ɉ1

ʃeμucleʃ ［丁寧］聴覚障害者、聾唖、ろうあ ［レベル］4 μɑ/; Ɉʔ

ʃeμɑɪʃcl ［動詞］ɥəl を c から聞き出す、聞き出す ［レベル］3 ȷȷ

ʃeμɪ ［物理］電位 ［レベル］5 μɥəə:lɪl̩ʃɪ

ʃeμɪn ［名詞］聞き手、聴き手、リスナー ［レベル］2 Ɉ0

ʃeμcɪ ［政治］テロ、テロリスト ［レベル］4 古 :μcɑcɪ:ʃeμcɪ ← ʃeeze/eμcɪ（冷たい風）【用例】 ʃeμcɪ nccʃ le ʃcl ɑccɒbcl ɪȷelcl̩ ɔl̩ ɑcɔ cɑ ccɒel l̩ɔnʃ ȷɔnʃ ɔȷn ʃ'ɪlʃcnɪ lcs le ʃcl ᛚ ucɪ ʃɔlcȷ ɑɔ dɔɑ. 無精髭を蓄えた優しいテロリストは黄ばんだ歯を見せながら笑うと、ᛚ つばかりの幼い少年の頭をポンと撫でた。

ʃeμenuc ［医療］聴力 ［レベル］3 μɑ;/ Ɉʔ

ʃez ［化学］窒素の通称、窒素 ［レベル］4 1L

ʃezȷdel ［化学］ピリジン ［レベル］6 1L

ʃezɒ ［植物］柳 ［レベル］4 lɪl̩ʃɪ: 風に揺れるもの

ʃezɒncɪ ［美容］柳髪 ［レベル］4 1L ［文化］ 長髪の前髪が顔を隠している髪。リングの貞子とか、ネギまの宮崎のどかのような髪。女の子が風呂で髪を洗うと多かれ少なかれこうなるので、入浴中の髪の表現としても使われる。

ʃezhɔə ［化学］硝酸塩。ʃezɪlȷc と同じ。 1L

ʃezɪȷl ［化学］硝酸 ［レベル］4 1L

ʃezɪȷlɪ ［化学］ニトロキシ基。硝酸が水素を１つ失って開いたもので、ＲＯＮＯ２に等しい。 1L

ʃezɪȷlc ［化学］硝酸塩。ニトレート、ニトラート 1L

ʃel ［動詞］ɥəl に逆らう、逆らう、抗う、あらがう、抵抗する、反抗する、違反する ［普通動名詞］反抗、抵抗、違反 ［形容詞］（ʃelɪn で）逆らうような、反抗的な ［形容詞］（ʃelɪn で）逆、逆な ［格詞］逆らって、～と対照的に、～に反するように、～に対して、～対～、～：～、： ［類義語］bɪlʃe ［反意語］hɪɪȷ ［レベル］2 1ʔ: 制 【成句】 ɒeȷɪ l̩ɔ ʃel(en) l̩ɔ 一対一で、サシで、タイマンで、１対１で 【用例】 ʃel ɒccnɪ, ȷɪe eʃ ɑcnʃ. ミーナと対照的に紗枝は暗い。

ʃel(Ɉ) ［サール］ʃccʃel の略称 ［組み数字］2／１２ ［レベル］1 ȷȷ

ʃel,ɑ ʃelʃ ʃe は風

ʃelʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に吹かせる、吹く、吹かす、吹かせる ［レベル］3 μɑ Ɉ0: 赤 :ʃel ʃel:ʃel:ʃelʃ 【用例】 × ʃeeze ʃelʃ → ʃeeze cl̩ ȷɔɑ. 風が吹いた。 ʃeeze ʃelʃɪʃ lɔɔb ɪ l̩ɔle. 帽子が風に吹かれて池に落ちた。

ʃelʃe ［アイテム］テルテ ［レベル］4 古 :ȷeμen:ʃe は風。l は ɪl で「物」。ʃe が二度来て強調になっている。セレンのデザインした服。たなびくような羽衣がないかと色々探した結果、見つかった絵を参考に考えたもの。リディアに伝えたが理解されず、絵を描いたが下手で分

からないといわれた。　［文化］　ヴァストリアの１つ。リディアの持つ羽衣。エルフレインからプレゼントされたもの。薄絹でできていて、腕に絡めてマントのように羽織る。マントのように垂れ下がっているが、先っぽがずっと長い。肩の部分では留めず、もっと長い。左右の上腕部でくるっと何度か先っぽを巻き、そこを支点にして更に腕の下へ先っぽを持って行き、肘の上のところにある腕輪についている収納部で抑えて留める。残った長い先っぽは更に地面に垂らしておく。テルテを纏うと空を自由に飛べるようになる。宇宙空間でも推進力なく行きたい方向へ飛んでいける。

fellonl　［形容詞］非常識な　［レベル］３　」」

fell　［名詞］教育、教養　［類音］fel　［レベル］３　制 :foll の対だが、意味的にあまり対だと意識されないので残した。　［文化］　・家庭教育と学校教育　　アルバザードで教育というと家庭と学校の２場面に大別される。アルバザード人は３歳になる年（２歳）から学校に行くので、学校教育が子供に影響を与えるウェイトは大きい。　アルバザードは多文化社会なため、各家庭ごとに教育方針が異なる。総じて言えることと言えば、親が学校教育を経ているので、学校でやるような教育を家庭でもしがちということが挙げられる。　　では学校教育はどのようなものかというと、それは生徒の家庭ごとに合わせたものではなく、各学校の教育方針に基づいたものであり、親は教育方針を見てどこの学校に通わせるか決める。　ただ実際にはいちいち学校の教育方針を見て学校を選ぶという家庭は少ない。ごく一部の上流階級だけがそういったことをする。たいていは公立の学校に行き、dinili まではよほどの学力がない限りは最寄りの学校に通う。この辺りは日本と同じである。　　学校教育は学校ごとに方針が異なるが、おおまかなところでは国レベルないし州レベルで一致している。　アルバザードの学校において総じて言えることは、徳育＞知育＞体育の順で注力するということである。特に、学力が上の学校ほど徳育にも熱心である。　　アルバザードの学校は日本と異なり、学科の勉強をするところというイメージよりも、人間としての勉強をするところというイメージである。　つまり、学力だけでなく、人間性を鍛えることが重要となる。　　・日本と異なる授業体系　　日本はいわゆる詰め込み式の教育をしており、ゆとり教育においてもその原理は変わらない。　日本の教育の原理は教師から生徒への一方通行な知識の伝授である。　対して個人主義で言葉の力を重視するアルバザードでは、自分の考えを自分の言葉できちんと説明し、等身大でありのまま主張することが求められる。　このため、アルバザードの授業は双方向性があり、基本的に対話式である。教師は生徒に一方的に物事を教えるのではなく、生徒に意見や考えを述べさせ、対話の中で授業を形成していく。　数学のような科目ですら、インタラクティブに授業が進んでいく。例えばある公式を教える際、日本では公式の証明を教師が実演し、暗記を要求する。アルバザードでは、卑近な例を取ってそこから公式を生徒に帰納させ自解させるようなやり方を取る。最初からいきなり公式を見せない。卑近な例を取ってそこから式を一般化させ、公式を帰納させる。つまり、自分たちで考えさせる。この間、生徒たちは黙って聞いているのではなく、周りの生徒と相談しあい、教師に質問をしつつ、公式を練りあげていく。　公式を提示して覚えろというのではなく、どうしてこういう公式があるのか、どうしてこういう公式になるのかなど、「なぜ」かを考えさせる。こうして自分たちで導出した公式というのは忘れにくい。　日本のように詰め込み式でとにかく覚えろというスタンスだと一見時間はかからないが、本当にその公式のなんたるかを理解しているわけではないので、すぐに忘れてしまい、復習で二度手間三度手間になってしまう。アルバザードの場合、よくよく理解させるので、忘れてしまうということが少ない。　日本では途中式を重視しないが、アルバザードではどうしてその答えになったのかを異様に気にする。ひとつの式を展開したことについてすら、どうしてそこで展開したのか、そこで展開する意味は何か、何のためにそこで展開したのか、そこで展開するメリットは何かなど、細かく途中式を分析する。余分で冗長な途中式はないか、もう少し合理化できないか、逆に過合理で他人が見たときに分かりにくい説明不足な途中式になっていないかなど、細かく見ていく。　そう、日本だと数学は詰将棋のように最短手が美しいとされるが、アルバザードだと、数学は言葉と考えられており、最短手は舌足らずと考えられている。美しい数学とは説明が過不足なく、より多くの人にとって分かりやすく無駄がないものを指す。最短手は機械人間の言葉としては優秀だが、人間の言葉としては劣っていると考えられている。　アルバザード人は自分の言葉で自分の考えを他人に伝えるということを重視している。説明不足だと相手は分かってくれないし、相手に腹芸を強いて多解釈や誤解を生じかねない。かといって冗長でも相手は時間を無駄に思って聞いてくれないし、相手の時間を過度に奪うことは失礼だと考えられているので、過不足ない説明が求められる。　その考え方が国語だけでなく数学にも及んでおり、最短手よりも過不足のない親切な教材のような相手の理解を促進させるような相手のことを考えたコミュニケーション力の高いやり方のほうが好まれるというわけである。　　アルバザードの教師はとにかく「なぜだ？」を連呼する。生徒はそれを必死に考える。逆に生徒も疑問を持ったら「なぜだ？」を教師に浴びせる。教師は説明責任があり、過不足ない分かりやすい表現で生徒に説明する必要がある。このため、教師という職は日本よりも難易度が高く、必然的に教師の質は高く、社会的地位も高い。　　アルバザードでは対話式の授業が大半で、教師が主に喋ることは日本と同様だが、教師は一方通行で知識を与えるものというよりは、ディベートの司会者的な存在である。　生徒同士も活発に議論を行い、考察をし、お題である「なぜか」について考える。こういう教育は非常に回りくどく、詰め込み式教育に比べて問題数を捌けない。しかしこういう教育は忘れにくく、また、問題の本質を生徒は理解しているので、新しい問題を見たときに解き方を自解することがしばしばある。　　・アルバザード式教育が生まれた現実の背景　　実は日本でも頭の良い生徒というのは個人的にこういう学習法をしていることが多い。　例えばセレン自身中学時代に英語や数学などで学年一位を取っており、偏差値も７０を越えていたが、集中して勉強した記憶は中３の数ヶ月、しかも進研ゼミを使って自力でやったことしかない。　セレンは公式などをそのまま覚えることはなく、なぜこういう公式になるのだろうとか、どうやったら公式を過去の偉人と同じく発見できるのだろうと考え、公式の本質を理解するようにしていた。英語でも同じで、「なぜこの構文を取るのだろう。この構文を取ることにどのような合理性やメリットがあるのか。英語らしい構文とはなんなのか」といったことを考えながら勉強していた。単語を覚える際ですら、「なぜこの単語はこういうのだろう。語源は何なのだろう」と考え、常に「なぜか」を考えていた。　その結果、上辺だけの勉強でなく、物事の本質を理解する学習法になった。この方法だと一度理解したことは忘れにくいため、二度手間がなかったし、一つひとつの知識が組み合わさって新しい知識になり、未修事項についても自分で「もしかしてこういう公式があるのではないか」とか「もしかしてこのような英語表現が適切なのではないか」などといった予想が立てられるようになった。　周りの子供は日本式の詰め込み教育をしており、塾通いと学校で忙しそうにしていたが、セレンは塾も殆ど行かず、中３になったら教師とケンカして辞めてしまったので、殆ど勉強していない。進研ゼミも春の数ヶ月頑張っただけで、それ以降は本屋で自分で教材を買って気が向いたときにやる程度であった。受験シーズンになると殆ど勉強せず幼馴染と夜中まで自転車で遊びに出たり、リディアたちとつるんでいたりした。受験日の前日には新作のゲームを買って一切勉強しないという怠惰ぶりだった。　従って時間的には人の何分の一も勉強していないのだが、普段から自転車に乗りながら「三平方の定理はなぜ成立するのか」など、一々学問的な疑問を興味本位で自問自答しており、物事について「なぜか」だけは考え続けた。　その結果、偏差値７０以上のクラスに進学したので、恐らくこの「なぜか」を考える学習法というのは、一見遠回りでも、最終的には詰め込み式教育より短い時間で深く学習できるのではないかという考えに至った。それで理想的な学習方法としてアルバザードの教育方法に採用した。

　　・アルバザード式は底辺には適用できない　　その後セレンは塾等で教師をすることになるが、１０００人近くの生徒を見てきて感じたことは、頭の良い子はアルバザード式で勝手にやってしまうということだった。　たまに詰め込み式を要領よくやる子もいたが、そういう生徒はたいてい地頭力がいいというよりはよくできた機械という印象だった。　共通してそういう生徒に言えるのは、学問自体に興味がなく、課題として勉強をこなしているので、テストに関係ないトリビア的な知識を与えてもつまらなそうにしているということだった。　セレンはトリビアをたくさん仕入れて、そういった知識を組み合わせて応用することで未修事項の予測をしていたが、この手の生徒は学問に興味がないため、テストに直接関係のある知識以外はどうでもいいと思っていて、興味を示さない。機械的に要領よく詰め込み式教育に適応した子供は、そういう手合いが多い。応用力がないので、この手の生徒は教えられたお勉強以外は苦手である。　また、しばしばこの手合いの人間にはコミュ障な機械人間か、人を見下したような態度の者が多い。これはなぜか分からないが、１０００人近くの生徒を教育してきて経験的に知っていることである。　セレンは「無駄な知識などない。知識は必ずいつかどこかで繋がる」がモットーだった。テストに出る内容にしか教師の言葉に耳を貸さないタイプは目先のことにしか目が行っていない愚か者である。　特に女にこのタイプが多い。女生徒を見ていてしばしば感じたが、女はテストという目先の現実しか見ず、学問という高尚なレベルにまでは目を向けない。男子生徒のほうがトリビアを面白がって聞こうとする傾向にある。学問に対する意欲があるのだ。女は目先の現実、半径３ｍ以内の生活にしか目を向けない。高尚さや学問の追求をする女は男に比べてレアである。その結果、セレンは平均的に女は低俗でくだらない生き物だと考えるようになった。もちろん１０００人近くの生徒を教えてきた経験からの平均的な話であり、個人レベルではリディアや紫亞のような本当に頭の良い女がいることも分かっている。　さて、本当に頭の良い人間は、トリビアでもなんでもたくさん吸収し、それを自分の力で組み合わせて応用し、新たな知識に結びつける。それが創造性のある賢い人間で、アルバザードで上層部に行くような人間はたいていこのタイプである。

　教師をしていて、アルバザード式で自習する生徒が極稀にいるのだが、そういう人間はたいてい天才肌で、しばしば興味のないことは一切学習せず、興味のあることは異常に高得点を取ることが多い。たいていそういう学生は成績が偏っているのだが、オールラウンダーでできる生徒も極々稀にいる。　　また、教師をしていてセレンはあることに気付いた。それは、アルバザード式の教育は誰にでも適応できるものではないということである。　頭の悪い人間というのはどうしても存在する。彼らに「なぜか」を考えさせようとしようものなら、いくら時間があっても足りない。どれだけ言っても理解せず、上辺しか理解しないのですぐ忘れる。底辺の学生というのはしばしばそうだ。　このような人間には詰め込み式というかパターンプラクティスが向く。アルバザード式は必ずしも万人にとって好都合ではない。地頭力が悪い人間には、むしろ考えさせると余計混乱させてしまうだけなので、「いいかお前ら、とにかくこういう問題が出たら何も考えなくていいからこう解け」とパターンプラクティスをさせるのが向いている。　要するに工場で単純作業をする底辺の人間と同じであり、こういう学生は「いいかこのベルトコンベアにこれが流れてきたらこれを乗せろ」というような単純作業のパターンプラクティスしかできないし、それにしか向いていない。　　アルバザードもそこら辺の事情を把握しており、下の学校ではパターンプラクティスの詰め込み学習が多い。上に行くほどアルバザード式学習が多くなる。　日本のように詰め込み式で物事の本質を考えない人間は、いくらお勉強ができても、東大には行けるかもしれないが、アルナ大には入れない。逆にアルナ大の人間は東大にも入れる。

　　・徳育の重視　　上で述べたように、アルバザードでは徳育を重視している。では具体的にどのように徳育を施すのか。　家庭や学校で何が正義かということを子供は教わる。子供の頃は親や教師の洗脳を受ける。子供の頃はそれでいい。ただ、成長するにつれて、自分なりの正義感を持つように自立させられる。　自分の目で社会

を見て何が正義であるかを考え、それまでに教育された知識を駆使して自分なりの正義感を組み立てる。　　アルバザードでは人徳がないと上の学校や会社に入れない。これは日本と決定的に異なる点である。アルバザード人はお勉強ができるだけの機械人間や欠陥人間に上層部に入ってきてほしくないと考えている。　コミュ障で勉強しかできない東大生でも日本ではしばしば良い会社に入って正社員として高い地位に甘んじられるが、アルバザードではそういうお勉強しかできない人間は職人と同レベルに見られる。アルバザードでは職人の地位は高いが、それでも社会の上層部には食い込まない。つまりアルバザードではお勉強しかできない人間は職人扱いされ、生きる機械のように扱われ、社会の上層部には行けない。　学力だけ高く自分の正義感や人徳を持ち合わせない人間は職人扱いされ、アルナ大のような名門校には入れない。代わりに、できる勉強の分野に合った専門学校に入り、そこから企業の研究開発職などに就く。名門大学卒でなく専門学校卒なので、日本よりも社会的地位は低く見られる。要するにアルバザードではお勉強しかできない人間は機械人間として歯車のように黙って働けとしか思われないわけである。

　　なぜそのような冷遇があるのかというと、それはアルバザードが徳育を重視しているためである。　勉強ができても人間性を兼ね揃えていない人間が社会の上層に行き国を動かすようなことがあっては遠からず国が滅ぶと考えられているからである。日本が好例であろう。　　・人徳はどう評価するのか　　学力テストと異なり、人徳は評価しづらい。どう点数を付けるのか。　これこそ教師の出番である。アルバザードは上で述べたように対話式の授業なので、教師が生徒一人ひとりとコミュニケーションを取る機会が多い。生徒と深く関わるため、生徒の人間性を把握できる。ひねくれてないか、相槌が打ててコミュニケーションが取れるか、他人の感情を無視して我利ばかり求めないか、協調的か、危険思想はないか、動物や同級生に対する蔑視や虐待の兆候はないかなど、その生徒個人の人間性を間近で見て取れる。　そうした対話式の授業を通じて教師は生徒の人間性を評価する。むろん教師も人間なので好き嫌いがあるから、公平な評価は約束されない。しかしアルバザードでも各科目ごとに専門の教師が教鞭をとるため、一人の生徒の人間性を各教科の教師それぞれが評価することになる。そのため贔屓があっても複数人が評価するので評価は平均化され、公平な評価が期待できる。

当然子供は教師に媚びを売るようになるが、教師は何千と生徒を見てきているので、そのような子供だましには乗らない。媚びを売るような態度は卑怯とみなされ、評価はむしろ下がる。　日本でも内申点という評価はあるが、人間性というよりは授業をいかにまじめに受けているかを評価されることが多い。　アルバザードの場合は対話を通して社会性に問題がないかなど、人間性を見られている。もちろん日本のように真面目で積極的で意欲的かといった項目も見られているが、アルバザードでは日本の内申点よりも広く人間性そのものが評価されている。　　いくら学力が高くても人間性を伴っていない人間は上の学校には行けない。　たとえテストの点数が１００点でも、例えば人を小馬鹿にしたような性格の悪い人間が上の学校に行ってゆくゆく国を動かしていくなどということがあってはならないと考えられている。そういう性格に問題のある人間が社会の上に立って国を動かしていくと、長期的に見て国も政治も経済も腐っていくためである。　アルバザードでしばしば上に行く人間というのは、学力はもちろんあり、それでいて人間性が伴っている者である。他人のことを考え、利他的に行動できるか。機械人間のような職人ではなく、きちんと自分の言葉で自分の考えを表現し、人に伝えることができるか。精神が安定していてメンタルに異常がないか。――などなど、そういった人間性の問題をクリアした人間だけが社会の上層部に行くことができる。　　・徳育教育とアルバザード式「なぜ」学習の歴史　　徳育教育とアルバザード式「なぜ」学習が流行ったのは ȷᴅ 初期の学校建設のころと、μɑ でアシェットがリーザの指導のもと教育改革を行ったときと、ul でミロクが旧革命を起こしたときと、ls でセレンが革命を起こしたときの４回である。

　その間は時折気が抜けて徳育の重要性が失われたり詰め込み式教育が行われたりして、日本と同じような状況になったことがある。

　ただ、どの時代においても多くの上層部や学者は「なぜか」を考える学習法を実践してきた。徳育は時代によっては日本と同じく失われたこともあった。特に ıl でモンスターペアレントが現れて教師の権限が抑圧された頃が最悪だった。　　・年齢ごとの教育　　アルバザード人は一般に子供の年齢に応じて次のような教育を施す。

　　５歳：才能を開花させるような訓練を始める。一流ピアニストだスケーターだというのは大体この時期から始めることが多い。５歳まではその子に何が合うのか見極める期間である。日本だと２歳くらいから習い事をさせる親もいる（アルバザードにもいるにはいるが)、２歳くらいだとその子の自我も確立しておらず、適性も分からない。５歳くらいになってくるとおおまかその子がどんな性格の子か分かる。そこで子供に合った一生ものの技能を習得させようとする。が、しばしば思春期になると子供が自分の意思で方向性を転向してしまうこともある。　１０歳：使命を与える。これは歴史的にリーザ、セレン、ミロクなど、１０歳で使命を与えられ全うしてきた偉人が多いため、アルバザード人は１０歳というのは偉人にとって自分の一生の使命を与えられる時期だと考えている。凡庸な者は使命を与えてもこなせず、転向してしまう。使命を与えるということは幼少期の親から至れり尽くせりを受けていた時代が終わり、徐々に自立を促される時期でもある。　１２歳：自立の時期。思春期の開始で、ここから ᴅılʃ になる。ᴅılʃ になると自立を促され、親からの庇護及び束縛が一気に緩まる。１２歳になるまでアルバザード人の親は子供を動物のように扱い、支配的に育てるが、１２歳になると個性や子供自身の意思を尊重するようになる。子供のうちは動物と同じで適正な判断ができないと考えられているため、親が価値観から正義感から着るものに至るまでどうあるべきかいちいち手塩にかけて世話してやる。また、１２歳になるまでは子供を猫のように可愛がり、スキンシップも非常に多い。子が親に逆らうことは許されず、親は必要に応じて言葉だけでなく折檻して教育しても良い。その代わり親は子供にあらゆることを手取り足取り教え、互いにベタベタとくっついて濃厚なスキンシップを取り、親は子を無償の愛で可愛がる。それが１２歳になるとなくなり、スキンシップは減り、親から与えられる無償のサービスも減り、子供は自分の意思で考え動くことを要求されるようになる。親との接点は徐々に減っていき、アルバザード人本来の個人主義になっていく。基本的にこの時期になると日本人から見てとたんにアルバザード人の親は放任主義に転向したかのように見える。要は動物の子離れのようなもので、それがこの国でははっきりした形で現れるということである。　１５歳：試練が与えられる。これは神話で偉人たちが１５歳くらいに何らかの試練を与えられてきたことが背景にある。子供は更に大人に近付くための試練を与えられ、それを乗り越える必要がある。親からの自立圧力も更に高まり、親との接点も減る。親は何かあったときのアドバイザー的な役割でしかなくなる。子供が負う家事手伝いの領分も増え、自立を促される。　２０歳：成人し、子供は親から完全に離れ、親の支配から完全に抜け、個人としての責任を負う。子供が２０歳になれば子供が何をしても親には一切関係がなくなる。親とは個人対個人の付き合いをし、支配関係はなくなる。むしろ親が後に老いれば子が親を扶養し、子が親を支配する関係に逆転することもある。

ʃellȷcnȷɔl ［名詞］教育番組　［レベル］３　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ 【用例】 μȷccl uı μȷıʃ ın cn ʃellȷcnȷɔl. 親は教育番組を無理に見させた。

ʃelllenȷ ［名詞］知的教養、教養　［レベル］４　J0:ᴅelcɑcı lceμ

ʃelleʃȷ ［形容詞］背徳的な　［名詞］背徳感　［反意語］hıȷȷleʃȷ　［レベル］４　μɑ;/　J?

ʃelȷ ［形容詞］卑怯な、狡猾な、卑劣、ずるい、汚い　［類義語］belnı　［反意語］ʃccl　［類音］ʃell　［レベル］３　μɑ; ↓　1?: 制 :ʃɔlȷ: 古 :ʃeɔlɔ　belnı:belnı:belnı　［語法］　μɑ で ʃelȷ ができたときは belnı と同じ意味だったが、belnı のほうが強い意味になっていった。　【用例】　ın nıʃ sɔ ı ȷɔɔl ʃelȷ lııʃ. 彼の卑怯なやり口に怒りを覚えた。

ʃelȷlele ［形容詞］ずる賢い、狡猾な　［レベル］４　1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ʃeln ［名詞］性格、気性、気立て、気質、キャラクター、キャラ、人格、好み　［レベル］３　lıĩlı　［語法］　好みやタイプという意味でも使うので、ın ȷccnı ʃeln ʃccl は「君の性格が好きだ」だけでなく、場合によっては「君の趣味はいいね」の意味にもなる。日本語より用法が広いので注意。　【用例】　lecn ʃcl ʃeln μıʃ ʃcn enʃɔ lcɔn ȷccnı lə. レインはとても性格が良いので、紫苑は彼女が好きだ。　ʃcl ʃeln μəəɑ 気性が荒い

ʃelncı ［美容］逆毛　［レベル］５　J1

ʃeluıȷ ［普通動名詞］迎撃、応戦、抗戦　［動詞］ɥəl を迎撃する、迎撃する　［レベル］４　μɑ;/　J?

ʃeluelȷ ［名詞］テルヴェルス　1L:ʃel:uelȷ　［語法］　ミディート国のテロ組織。ルージュと出会う際に出会った。

ʃelɑıμ ［名詞］逆光　［レベル］３　JJ

ʃelᴅı ［政治］衆愚、愚民　［レベル］５　ɑu;ʃeɔlɔ/lıᴅı「愚かな大衆」 J?

ʃelᴅılɔlᴅ ［政治］衆愚政治、衆愚政、衆愚制　［レベル］５　μɑ;/　J?

ʃelᴅed ［名詞］合わせ鏡　［婉曲］レズビアン　［レベル］５　J0:ᴅel: 合わせ鏡から、レズの意味も造語。鏡は女性の持ち物としてここでは女性のメトニミー。合わせるというのは、女性×女性の意味。

ʃelɑ ［名詞］見栄、虚勢、虚栄、虚栄心、虚仮、こけ、強がり、つよがり、見せかけ、みせかけ、はりぼて、ハリボテ、張りぼて、名ばかり、形だけ　［形容詞］こけおどしの、虚仮威しの、見えをはった、名ばかりの、形だけの　［形容詞］（ʃelɑın で）見栄っ張りな　［類義語］ucenlɥɔ　［レベル］３　1?: 制 : 古 :ʃeɔləɑɔ（偽物の宝石）。偽者の宝石を本物のように見せかけるというところから。　【用例】　lı ʃcl{ȷıbeȷ} ʃelɑ μıl. 彼は見栄っ張りだ。　lə lıμıʃ ʃelɑ ɔ ɑce ueμȷ ȷcl μəl ɔl lıl ɔnl ʃəəȷ c ɑcɔnı. ただの強がりも嘘さえも、願えば『ほんとう』になるんじゃないかって思ったんだ。

ʃelɑȷcnȷ ［動詞］ɥəl を ı に誇示する、誇示する、見せつける　［レベル］３　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

ʃelɑᴅccμ ［論理］屁理屈　［レベル］３　μɑ;/「見せかけの理屈」 J?　［語法］　一見理屈らしい理屈に見えるが実際ははりぼてでしかなく、単なる見せかけの理論のことを指す。　【用例】　lıɑ{lə} ʃelɑᴅccμ 屁理屈を言う

ʃelɑenıᴅ ［言語］［文字］オーバーシュート。O などの文字が小さく見えるためミーンラインより少し上、ベースラインより少し下にはみ出させること。　J1:「抗錯覚」

ʃelφıμᴅı ［企業］テルガルマ　J1:「反戦企業」［文化］　三井物産に相当する企業。元は反戦団体。

ʃeldılel ［生物］承筋　J1

ʃeldıᴅ ［ユマナ］［宗教］プロテスタント　J?

ʃelμecn ［言語］［論理］逆説、逆説的な　［文頭純詞］逆説的に、しかしながら、そうとはいうものの、とはいえ　［反意語］hıȷȷμecn　［レベル］４　J0: 逆らう線→逆らう流れ　【用例】　μıɑel e ʃə ȷencın eʃ lılɔ enʃɔ ın nı nıə, ʃıl ʃə eʃ ʃelμecn lel ın ıμ elɑ ʃə. ゴールデンウィークの課題が少ないのは嬉しいが、逆にやる気が起きない。

ʃelzıᴅ ［俗語］レズビアン　［レベル］４　J0:ᴅel:ʃelᴅed を登録した際、セレンの「ʃelᴅed は婉曲じゃなく俗だと思った」という言葉を受け、「俗っぽくするなら ʃelzıᴅ だと思うよ。脚と脚を交差させるという感じでしょ」という生々しい説明とともに造語されたもの。

ʃelsccz ［論理］反命題、反対命題　μɑ;/　J?

ʃellız ［地学］［歴史］ペルム紀　［レベル］６　ul;/　J?　［文化］　φııueɑeᴅe

ʃelı ［電算］電卓　［レベル］３　1?: 制 : 古 :ʃeȷdılılı（電気 / 数）［文化］　ᴅel 1P」に ɑıcı φııuc が発明した。電子計算機はキャッシャーやコンピュー

タが既にあったが、卓上で簡単に計算できるものはこれが始めて。やがて計算尺を駆逐した。　画像はネットユーザーが ȷ⒑ に制作したアルバザードの電卓ディスプレイ。交差しているところは表示上離れているけど内部では繋がっていることにして合計８セグメント。

ʃelıȷ ［形容詞］物理的に汚い ［類義語］beφɔı ［反意語］uınʃıs ［レベル］3 ȷȷ:µcαcı:αen lıȷ{ɔs}（触るな） ［語法］ beφɔı

ʃel ıαel ［娯楽］テルアデル ［レベル］3 ȷ1 ［文化］『ドラゴンクエスト』に相当するゲーム。

ʃelıhıɾd ［言語］電卓体 1L ［文化］ ʃıdhıɾd から作った書体。機械っぽさや無機質さを表現。

ʃelıµ⁊ ［言語］逆接 ［レベル］4 µα;/「逆な接続（接続詞ではないので ıµ⁊c ではない）」 ȷʔ

ʃelcαc ［美容］アンチエイジング ［レベル］5 ȷ1

ʃeleʃ ［代詞］［ɒıɥə］あんたたちの ［レベル］1 ȷ1:⁊lccz:ʃeləl/ʃe

ʃeleȷʃcı ［歴史］［軍事］連合国、テレスティア ［レベル］4 ul;ʃel/eȷʃ/αcı「その名に抗う土地」 ミロクに抗う国々の意。 ȷȷ

ʃelen ［接続詞］ʃel ［レベル］3 ȷ1

ʃelenuc ［名詞］抵抗力 ［レベル］3 1L:µcαcı:ıµbıleʃʃ

ʃeləl ［代詞］［ɒıɥə］あんたたち ［レベル］1 ȷ1:⁊lccz:ʃɥə/ 古 ıl

ʃeı ［格詞］もし〜なら。反実仮想。 ［副詞］〜ではないけれど。反実仮想の副詞。 ［レベル］2 19: 制 : 古 :ɒɥəl/lı 無い存在 :::ʃıʃʃıoı,ılʃ ［語法］ ɔl 現実には起こらなかったこと、或いは未来的に起こりえるはずのないことを指す。 【用例】 ʃeı ın eʃ lı, ȷɔn ın ʃın ȷɔʃ uın ȷɔı. 私が彼の立場にあったら、やはり同じようにするだろう。 ın ⁊e ʃeı. 私は行かないけど。 ʃeı lenı eȷ nɔl ı ⁊ılʃe clcı, lenı lcel ⁊leɒı ɥə ȷen uınα e µeʃl. 一箇所に固まっていると、敵からの攻撃を受けたときに一網打尽にされやすいからね。

ʃeı(ȷ) ［化学］アジド 1L:ʃeeze/ı

ʃeıʃ ［動詞］ɥəl をバラバラにする、バラバラにする、木っ端微塵にする、ぶっこわす、崩壊する、崩す ［類義語］ʃeıʃl ［レベル］3 1⒑: 制 :hıµ:ʃeıʃɔl（バラバラにする） 【成句】 ıɾdɒıαcɔ eȷ ʃeıʃ 覆水盆に還らず：四散したアルマディオは元に戻らないことから。

ʃeıʃlıα ［地球の国名］ミクロネシア連邦 1L: 散り散りなので

ʃeıʃµcı ［地名］テアトリア海 ［レベル］4 ȷ0:µcαcı: 大破壊された海 ［文化］ アルシェリア南〜フレスティル西の海。ヴァステでミュールやアルカット大陸南岸が破壊されたことでできた。

ʃeıʃl ［普通動名詞］大破壊、台なし、台無し、だいなし ［動詞］ɥəl を木っ端微塵にする、台無しになる、棒に振る ［類義語］ʃeıʃ ［レベル］3 α;α ɔueʃ 古 :ʃeıʃɔl,ʃeıʃl ［語法］ ʃeıʃl のほうが ʃeıʃ より強い。

ʃeı⁊elɒ ［医療］排泄器 ［レベル］5 1L

ʃeıd ［医療］軟膏 ［レベル］3 lı⁊ʃı: 硬膏。「引き裂いて使う薬」？

ʃeıl ［文末純詞］そうだろうかいやそんなはずがない。〜ではないのだろうか、いやそうに違いない ［レベル］2 ［言語］反語 19: 制 :ʃeı に古の l を付けた。「 正しいものか？ 」という意味。 ［語法］ 反語。肯定を否定に、否定を肯定に変える。肯定を強調する用法はない。 【用例】 ıµ ɒcuı uıαeʃ lcnȷ cɒ uıȷʃe ʃeıl8 アルミヴァはヴァステで悪魔に負けたのだろうか？いや、負けたはずがない。

ʃec⁊ ［名詞］テレビ ［レベル］2 古 :ʃec⁊（絵（短縮形が c⁊）を伝える） ［文化］ テレビは今の日本よりずっと薄い。大抵は壁掛けで、重さもそう重くない。優れた液晶高画質画面である。液晶の見える角度は広く、ほぼ真横から見ても画像が見える。画素数は多く、色数も多い。映像もクリアである。画面はフラットで、歪曲はない。画面の大きさは大きく、三十インチは余裕で越える。大抵の家庭は一台しかテレビがない。或いはテレビがない家もある。大家族が多いので全員で見るときも画面が大きいので見やすい。アルバザードはあまりテレビに没頭しないので、チャンネル争いも起きない。 内容ごとにチャンネルが分かれている。ニュースチャンネルはニュースしか報道しない。教養チャンネルは教養番組しか報道しない。スポーツチャンネルはスポーツのみである。チャンネルは無料と有料のものがある。無料のものはどのテレビでも見れるが、有料のものは予め料金を支払っていないと見れない。ホテルなどのテレビは無料番組は見れるが、有料番組を見るときはフロントに申告して見れるようにしてもらう。そしてチェックアウト時に加算分を支払う。 有料と無料の違いであるが、娯楽性の少ないものが無料である。ニュースや教養や天気や交通情報などは無料であるが、スポーツ、バラエティ、アダルトなどは有料である。日本と違ってアダルトは規制がない。有料ではあるが、払えばいくらでも見れる。アダルトチャンネルを子供に見せたくなければそのチャンネルに支払わなければ良い。 トークショーやお笑いはあるが、日本とは違うタイプのお笑いなので注意。また、日本ほど発達したアニメがないため、アルティアからの輸入アニメを放送している。 尚、有料チャンネルはテレビごとではなく、世帯ごとに契約するものである。ある家がバラエティチャンネルと契約していれば、ケーブルを繋いだその家のどのテレビからでもそのチャンネルを見ることができる。 【用例】 ʃec⁊ ⁊ıen bıl 壁掛けテレビ ın ⁊ılɒı cn ʃec⁊ αə αcl µı⁊. よくテレビを見過ぎてしまう。 ın cnıʃɔµ ʃec⁊ ⁊ɔnʃ ȷɔ ɥəə. 何もせずテレビを見ていた。 ın cnıʃ{ȷeµıʃ} ʃə ueµʃ ⁊ɔn ʃec⁊ cɒ ʃɔlel. 昨日そのニュースをテレビで見た。「テレビで」の「で」は ⁊ɔn。「見かけた」であろうと ⁊ɔn → ⁊ɔn ın ⁊ılɒı cn ʃec⁊ µı⁊el. 普段、テレビを見過ぎる。 ıµəəs ınʃ ȷc cnı ʃec⁊ ⁊cnel. 弟はテレビっこだ。 ın cn ʃec⁊ αə ʔ ɒcu ʃıʃ ȷel. 日に３時間テレビを見る。 ın αµeɒ nelʃ ı ʃec⁊ µı⁊el cɒ cn ʃə. テレビを見るときに近付きすぎる。 ın αlɔnc⁊ c ʃec⁊ ıʃc ⁊ıl. テレビから少し後ろに下がった。 ın ⁊ıcʃ αɔ e ʃec⁊. テレビの音量を上げた。 ın cȷıʃ ʃec⁊ lc ueµʃ ueeµ. 最後のニュースを見てからテレビを消した。 ın αen ıl ɒel l'ın cn ʃec⁊. テレビを見る時間を減らさなければならない。 µȷccl ⁊ılɒı sɔ⁊ ın ɒın ın cn ʃec⁊ µı⁊el. テレビの見過ぎで親によく怒られる。 ın ȷeαıʃ ʃec⁊ lını lɔɔ⁊ ȷen eɒ ıʃc uecn. 会話の時間を増やすためにテレビを片付けた。 ın cnıʃ ucl ʃec⁊ αɔl αcl. しばらくの間テレビを見れなかった。

ʃec⁊⁊ı ［名詞］テレビ局 ［レベル］3 µʃ;/ ȷʔ

ʃec⁊ɥɔ ［名詞］ドラマ、テレビドラマ ［レベル］2 ul;ʃec⁊/⁊ɥɔ「テレビ演劇」 古

ʃecȷ ［形容詞］不正確な ［反意語］ʃıd ［レベル］3 1ʃ: 制

ʃecn ［単位］１０の－３０乗 ȷ1:lccʃen

ʃeɔ ［感動詞］［形容詞］ちがう、いやだ、そうではない、もう、もうっ、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［感動詞］バツ、不正解 ［レベル］1 α;e 赤

ʃeɔȷ ［形容詞］遠慮がちな、控えめな、控え目な ［反意語］lcµʃe ［レベル］3 古 :ʃeɔȷ（いいえと言う）

ʃeɔn ［感動詞］あらいやだ、やだもう、お上手ね ［レベル］2 古 :⁊ɒccµ ız αəlɒccı:ʃeɔ/n（指小辞） ［語法］ 誉められたときなどに謙遜していう言葉。女性のみ。男性は特にこれを意味する特定の感動詞を持たない。

ʃeɔnı ［形容詞］間違った ［類義語］eucʃ ［反意語］ılnı ［レベル］3 ul:ɒcµɔ⁊ ;ʃeɔ/nı ȷ1 ［語法］［文化］ ılɒccµ

ʃeɔɒ ［名詞］永遠、永久 ［数学］無限、∞ ［形容詞］無限の、未来永劫、永遠の ［副詞］永遠に、ずっと、永久に、いつまでも、終始、始終、終日 ［反意語］ılʃeɔɒ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʃeeɒȷ ［語法］ ʃeel ［文化］ → αc ıılʃ µα でセレンは無限は現実世界には存在せず、認知世界と数学世界などにのみ存在すると主張した。 ・子供のころの記憶 幼稚園のとき、帰りのバスで友達と「無限と無量大数はどちらが大きいか」で議論になった。お互い父親に聞いたが、当時はネットがないしウチの父親は理系でないので頼りにならなかったように思う。そう考えると今ウチの５歳の娘がやたら高度なことを話しているのもそこまで驚くことじゃないのかなとも思う。

ʃeɔɒȷıe ［気象］万年雪、根雪 ［レベル］5 µα;/「永遠の雪」 ȷʔ

ʃeɔɒȷɔuɔ ［数学］無限小数 ［レベル］4 ȷʔ ［文化］ αcııʃ

ʃeɔɒɒcµȷ ［論理］水掛け論 ［レベル］5 1⒑: 制 : 永遠に続く論

ʃeɔɒccµ ［形容詞］間違った ［類義語］eucʃ ［反意語］ılɒccµ ［レベル］3 ul:ɒcµɔ⁊);ʃeɔ/ɒccµ ȷ1 ［語法］［文化］ ılɒccµ

ʃeɔl ［名詞］ウィット、機知 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 非 ʃeel「 無用な争いを避ける 」 ［語法］ 気まずさや相手の無神経な言動、攻撃的な態度などをやんわりとかわして、その場の空気を和らげたり自分に有利な情勢をもたらしたりする、気のきいた言葉やしゃれがとっさに出せる才知。 【用例】 ʃcl ʃeɔl 機知に富む、ウィットがある

ʃeɔlɔ ［名詞］アホ、あほ、阿呆、ばか、バカ、馬鹿 ［感動詞］バカ、アホ ［類義語］bıı、bıın、beɾd、lecʃ、beɔlɔ ［レベル］1 古 :ʃeɔlɔɔ,ʃeɔlɔ ［語法］ 悪意がなく、親しみが篭っている。

ʃeɔlɔn ［名詞］テオロン ［レベル］5 古 :⁊lccz:ʃeɔlɔ（馬鹿）/ 指小辞 n。英語・日本語ではバカーズ。 ［文化］ ランティスのセレン・オヴィ・ギル・ザナの総称。 【成句】 ɥən ʃeɔlɔn 気が置けない、気の置けない

ʃee ［感動詞］ʃeɔ の口語体。非常によく使う。固さを感じない言い方。 ［レベル］1 古 【用例】 ʃee ɔn ʃə e. それは違います。

ʃeeʃ ［名詞］性質 ［反意語］⁊ɔɔ⁊ ［レベル］3 1ʃ: 制

ʃeeʃcȷ ［魔物］テーティス（風竜）：第二十四天：風の衛天 ［レベル］5 1L:µcαcı/ȷeµen/ɒel:ʃeeze/αµeʃcȷ ［文化］ 風属性の飛竜。非常に細見で骨ばっている。爪が異様に長く鋭く、カマイタチのように高速で獲物を切り刻む。木に潜むため、肌は緑色。

ʃeeʃcı ［宗教］テーティア ［レベル］3 古 :ʃeʃcı, ʃeeʃcı ← ʃeeɒȷʃcı ［文化］ leʃcȷ

ʃee⁊ ［物理］ワープ、時空間移動、瞬間移動 ［魔法］テーク（ルーラ、リレミト、テレポ、デジョン）。秘術のひとつ。パールが使える。一瞬にして自分の馴染みある場所に移動できる。 ［レベル］3 古 :ʃee⁊（ワープ）← ʃeeze（風）/⁊e（行く）。風のように速く行くというところから。 ［レベル］3 【成句】 ɒcll ʃee⁊ɾ 遅刻しちゃう！：直訳すると「テークがほしい」。

ʃeel ［名詞］扇、うちわ、団扇、ファン ［名詞］扇形のもの ［数学］おうぎ形 ［動詞］ɥəl を扇ぐ、扇ぐ、煽ぐ、あおぐ ［レベル］3 zφ; ↓ 1⒑: 制 : 古 :ʃeeze⁊ılə（風の紙） ʃeel:ʃeel 【成句】 eleʃ µı⁊en ʃeel 扇の向こうの表情：読めない腹の底。ȷɒ_µα の貴族（特に女性）が表情をあらわにするのをはしたないと感じた結果、扇で笑うときなどに顔を隠していたことから。なお、扇は貴族の装飾品でもあったため、絢爛な扇を見せびらかす目的もあった模様。 ［文化］ 神々は温度調節を魔法で行うので扇は必要なかった。zφ で魔力の弱い下層民が魔法で涼むよりも手で涼んだほうが楽と判断した結果編み出された。 当時は今の扇型をしておらず、旗のような形で、ȷɒ まで続いた。 ȷɒ でカレンシアができて団扇や扇型のものが凪からもたらされ、貴族の間で流行った。 アルバザードでは団扇はレア。ほとんどが扇

で、開閉のできる扇子。デザイン性が高く、携帯しやすい。　夏はほとんどの人が携帯する。暑さが本格化するディアセル以降によく使われる。そのため、ディアセルにデートを申し込む際、扇に愛の言葉を書いて贈ることがある。何も書かなくてもかまわない。ただし、日本のラブレターと違ってロッカーに置いておくということはなく、手渡しする。【成句】 lɪnʃ ʃeel ɪ ɪ に扇を贈る。ディアセルに誘う。夏に告白する【用例】 ☆ "ɟɪɪ ɑeɥ le ʃeelɔɥ nɔɟ uejel ᴅɪn ɟcʃ hɪʃcɪ ɑɪ zen ʃeel e ɑcɪjel lənɪl ʃccɟ"「さぁ、ディアセルに扇を贈る相手もなく、自分で自分を扇いでいる俺が来ましたよ」

ʃeelɿɪ ［地学］扇状地 ［レベル］４　1L

ʃeelhɔɿ ［動物］帆立貝、ホタテガイ、ほたてがい、ホタテ、ほたて、帆立 ［レベル］３　1Ո: 制 : 扇の貝

ʃeeɟ ［動詞］ɥəl を否定する、否定する、否認する ［普通動名詞］否定、否認 ［形容詞］否定的、否定的な。ʃeeɟɪn で。 ［論理］裏 ［反意語］ɿɔɔl ［レベル］３　1L: 古 ʃee/ɟɔ（ダメ、する）

ʃeeɟuɔɿ ［言語］否定文 ［レベル］４　1L

ʃeeɟᴅccɥ ［論理］反論 ［レベル］４　Ɉ0

ʃeen ［ɥenʃe］ʃee、ʃee のユンク語 ［レベル］２　古

ʃeeue ［悪魔］テーヴェ ［歳時記］木曜日。週の第４日目。 ［音楽］ファ ［組み数字］４／７ ［レベル］２　ᴅelʃcɪ 0:ʃeeue;e ɟɔɥn: アルシェ形は ʃəəe。ʃə は土。əə が ee に変わったのは恐らく母音調和。 ［文化］ ソームの４番目。性別がない。無言のゴーレム。土を操る。土でできた巨大なゴーレム。知能がない。

ʃeeueɑɥeɪɑɔl ［地学］クロム鉄鉱　1L

ʃeeuelcl ［化学］クロム ［レベル］４　1Δ: 制

ʃeeᴅɟ ［悪魔］テームス ［シェルト］テームス、永駒 ［レベル］２　ᴅelʃcɪ 0:ɟɪ ɪl;e　古 ［文化］ 悪魔の王ならびに母。ユーマが生まれたことで生じた世界の歪み。悪魔の死骸でできた塊の姿。黒と灰色の球体。会話不可能。宇宙に住む。殺された悪魔を胎内に宿し、再び産み出す。意思を持たず、ひたすら悪魔の復活を行う。蠢動を繰り返し、こけらとしてアデルを産む。ヴァステでアルミヴァに封印された。カコで復活しメテに封印された。ɥɑ で復活し、アシェットに滅ぼされた。死と同時に復活し、ユーマ・アルテと対を成す存在になった（ɥəəᴅɪ 参照）。　太陽を司る。太陽の黒点にいる。　＜誕生の経緯＞　ユーマ誕生後、世界の歪みについては誰もが不安を抱かずに過ごしていた。しかし誰も知らないところで世界の歪みは起こっていた。歪みの原因はユーマである。サールもエルトも気付くことはなかったが、ユーマの存在は世界の歪みを引き起こしていた。世界に起こった歪みは強大な存在を生み出した。それは終わることなく尽きることのない巨大な存在であった。アルデはそれをテームスと呼んだ。テームスは始めに悪魔アルマを生んだ。悪魔アルマはヴィードのアルマを思うままに操ることができた。次にテームスは悪魔フレスティア、悪魔ヴァルテ、悪魔ブレイス・クレートを生んだ。フレスティアはユノを操り、ヴァルテはヴィルを操り、ブレイスとクレートの２人はノアを操った。テームスは更にフレスティアの下に悪魔ホーラ、悪魔プスホーラ、悪魔テクラ、悪魔インプラを生んだ。これらは順に、赤い霊力、青い霊力、緑の霊力、黄色の霊力を操る者である。同時にテームスはヴァルテの下に悪魔ミダン、悪魔ヴェンシートを生み、更に９匹の悪魔ソームを生んだ。ミダンは聖の魔法を操り、ヴェンシートは邪の魔法を操った。尚、ソームの内訳は闇の悪魔ヴェルム、水の悪魔エルヴァ、風の悪魔サティ、土の悪魔テーヴェ、炎の悪魔ベーゼル、雷の悪魔イルヴァ、光の悪魔パルトである。彼らはいずれも強力なヴィードを操るテームスで、アルテを凌駕した。　フレスティアから始まるこれらの悪魔をまとめてヴィルテといい、ヴィルテにアルマを加えたものをアルヴァという。更にテームスは名もない悪魔を無数に生み出していった。これらをまとめてテームスと呼ぶ。そしてこうしたテームスたちを生み出すと、一旦は活動を止めた。テームスは多種多様であった。言語を司る悪魔エルトや時間を司る悪魔メルティアのようにテームスが存在し続けるために必要なこの世界を支える重大な役目を負っている者もいる。その一方で役目を持たずに自由意志で動く剣士キルセレスのようなものもいる。あるテームスは宇宙にいて何もしないが、ある者はアトラスに降りていき、アルテを襲うことがあった。エルトとサールはいがみあっていたが、より強大な存在であるテームスの出現によって一時的に団結し、共にテームスを討とうとした。こうして神と悪魔の戦いであるヴァステが勃発することとなった。【成句】 ʃeeᴅɟ ɥɪuel また現れたテームス：元の木阿弥

ʃeeᴅɟlelʃ ［歳時記］閏月、うるう月 ［レベル］５　ɥɑ;ʃeeᴅɟɟɪlʃ からの類推。Ɉɂ

ʃeeᴅɟɟɪlʃ ［歳時記］閏年、うるう年 ［レベル］３　ɥɑ;/「テームスの日で終わる年」 Ɉɂ

ʃeeᴅɟɟel ［歳時記］閏日、うるう日、テームスの日、大晦日 ［レベル］３　ɥɑ;/　Ɉɂ

ʃeeᴅɟscn ［歳時記］閏秒、うるう秒 ［レベル］５　ɥɑ;ʃeeᴅɟɟɪlʃ からの類推。Ɉɂ

ʃeed,ɑu　1000　ʃeɿ/dɪlɪlɪ

ʃeebe ［被服］法衣、テーベ、羽衣 ［レベル］３　古 :ʃeebe（法衣）← ʃeezeɟɪbe（風の服） ［語法］ ʃeebe は風になびくほど余りの部分がある服。ɑlɔɟ はバスローブのようになびかないもの。 ［文化］ ひらひらした長いワンピースの服。風にたなびくような長めのワンピースを指す。ただ布を巻いて纏ったようなもので、ᴅelʃe のように肌にぴったりフィットするようなものではない。袖や裾が余り、全体的にだぶだぶで、それゆえ風に舞いやすい服を指す。宗教に用いなくても良い。そういう服の種類をいう。元はアルティス教徒の男性用の服だが、アルバザードでは礼服だけでなく普段着としても活躍している。女性が着ても全く違和感がない。

ʃeeɥə ［感動詞］［ɥənʃe］すみません、ごめんなさい、なんていいましたか？、えっ？ ［類音］ʃee, ʃeeɔ, ʃeɔ ［レベル］１　Ɉ0: 右記 ʃeeɑə から。　参考 :leeɑ:19:ɟɔɥn:ʃeeɑə（悪いことを許す）が原義で、それを始めから人為的に音を変えて作った造語。だから ʃeeɑə という語形で実用されたことはない。leeɑ は leeu と区別できないので変更。 ［語法］ denʃ, uɪnʃ, lɪnʃeɤ など、なんにでも使える。

ʃeeɥe ［感動詞］ノーサンキュー、いいえありがとう ［動詞］ɥəl を辞退する、辞退する、辞去する、断る、拒否する、拒絶する、遠慮する。お礼を言って断ること。 ［普通動名詞］辞退、辞去、遠慮、拒否、拒絶 ［レベル］２　ʃᴅ;ʃeɔ/ɟeeɥe　1Ո: 制 :ʃeɔ と ɟeeɥe の鞄語　ʃeeɥe:ʃeeɥe:ʃeeɥe 【成句】 ʃeeɥe bɪɟ. ご遠慮なく、遠慮しないで。

ʃeeze ［気象］風、気流 ［魔法］テーゼ（エアロ）。風の多段黒魔法。風の刃で敵を切り刻む。 ［数学］平行四辺形→ ʃeezecɿɪl ［名詞］様式、～式、～風：赤アンクノットのころから続く伝統的な用法。 ［歳時記］二気ないし六候で一月 ［動詞］ɥəl に送風する、送風する、風を送る ［類義語］ɑlɪnʃ ［レベル］１　ɑ;ʃe は風の ɑɪcɪ　先　ʃeeze:ʃeeze:lɪ ɑɔn(ɟɪʃcc) :ɟɪoɪ,ɪlʃ 【成句】 ʃeeze leɑ lɔɟ ゾッとする【用例】 ʃeeze ucen{ʃcn} 強い風　ʃeeze eᴅ ɟɔɑ{ɪɥ}. 風が起こる。　ʃeeze eᴅ ɪɥ{cɟ}. 風が吹く { やむ }。　ʃeeze ᴅc ɪʃə ᴅeɥel. 風がまったくなかった。　ʃeeze ɪnɑ ɪɥ ucenel. 風が強く吹いている。　ɪn nɪʃ led ɪ ləɿ ᴅcl ʃeeze ucen. 強い風のせいで歩くのが困難だった。　ɪn ləlɪʃ ɑɪl ʃel ʃeeze. 風に向かって歩かなくてはならなかった。　ʃeeze cɿ cun. 風が静まった。　ɪnɟ nɪʃ ɑccʃ ᴅcl ʃeeze ʃ'ɪleɪ. 浜風が私たちの体を冷やしてくれた。　ʃeeze ɪnɑ ɪɥ ucenel. 風が強く吹いている。　ʃeeze eʃ ucen ɔ ɟɔɥʃ cᴅ ɑcɟ. 今日は風が強くて冷たい。　ʃeeze ᴅɪφɪnɑ ɥɪ. 風が家を揺らしている。

ʃeezeʃeɟl ［名詞］風力発電 ［レベル］４　ɥʃ;/　ɈՈ

ʃeezeʃeɟՈɪ ［名詞］風力発電所 ［レベル］４　ɥʃ;/　ɈՈ

ʃeezen ［人名］テーゼン ［気象］偏西風 :1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［組み数字］３／１１ ［レベル］３　古 :ɥcɑcɪ:ʃeeze（風）/n（指小辞） ［文化］ アルシアの３番目。風の魔法の大成者。女性。

ʃeezeucɪn ［名詞］風力 ［レベル］４　ɥɑ;/　ɈՈ

ʃeezelcl ［化学］窒素 ［レベル］４　1L

ʃeezelɔɑ ［物理］風洞　ɥʃ;/「風のトンネル」 Ɉɂ ［文化］ 人工的に小規模な流れを発生させ、実際の流れ場を再現･観測する装置ないし施設。ɥʃ で作られ、航空機の発達とともに発展してきた。

ʃeezecɿɪl ［数学］平行四辺形 ［レベル］３　1L: 風に吹かれて横に薙がれたような四角形。 ［語法］ 通常 ʃeeze のみで使う。

ʃeezəɟ ［人名］テーズス　Ɉ0 ［文化］ (ɥəəᴅɪ Ᵽ0LΔ:) メルテナ後期のエスピール派教皇。

ʃees ［地名］テージュ海、夕月海 ［レベル］３　ɥcɑcɪ: 古 :ʃeeᴅɟscnɪ（テームスの空） ［文化］ アルバザードの南にある海。ɥɑ で巨人が復活して暴れまわった場所であり、それ以前はヴァステにおいてデームスが空から降ってきた場所である。リディアの時代にはデームスはテージュより少し北、アルバザードの上空アルテージュから降ってくる。

ʃeesʃɪnl ［料理］うどん ［レベル］３　1L ［文化］ 利食。アルバザードは軟水が湧くため、昆布と相性が良く、その結果、うどんが発達した。最初はパスタの一類であったが、後にアルティア人が醤油汁に入れて食べているのがナディアで紹介され、日本と同じようなうどんができるに至った。昆布の取れるテージュ海でできたため、テージュ麺と名付けられた。【用例】 ɿəc{len} ʃeesʃɪnl うどんを啜る。ɟcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ɿəc を使う。ɟcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

ʃeesɿleeu ［地学］［気象］西岸海洋性気候区、Ｃｆｃ区 ［レベル］４　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʃeesɪɥ ［天文］軌道エレベーター ［レベル］５　Ɉ1:ʃees/ɪɥ（テージュ機械）。悪魔が降りてきたトンネルのテージュとよく似ていることから。

ʃeel ［エルト］［サール］テール ［名詞］運命 ［形容詞］運命的な、お決まりの ［法副詞］～せざるをえない、どうしても～してしまう。宿命として抗っても仕方がなくしてしまうというニュアンス。自分の意思というより宿命としてやったというニュアンス。 ［名詞］お約束。文字通り約束の意味ではなく、「幼馴染みがヒロインとかお約束すぎる」という場合のお約束のこと。 ［形容詞］いつか来る ［類義語］ɪlʃeɔᴅ、uelɪnʃ ［反意語］ɪlʃeel ［レベル］２　ɑəlᴅccɪ: 古 ［語法］ ʃeel と ɪlʃeɔᴅ の違い。ʃeel は「いつかくる」という意味なので、必ず開始が存在するという意味。ɪlʃeɔᴅ は必ず終了が存在するという意味。開始と終了のどちらに視点を置くかの違い。 ［文化］ 生命を持った２枚のカード。１枚はエルトでもう１枚はサール。エルトが出るかサールが出るかで人の運命が分かれる。【成句】 cl lɪ ʃeel. すべてはテールのカードの上にある：なるようになるさ。ケセラセラ。　uɔɥʃ ʃeel いつか来る死　uɔɥʃ e ʃeel 運命の死（この句の意味は定かではない。単に上記と意味が異なることを指しただけ） ʃeel ɥɟcʃ ʃeel 塞翁が馬【用例】 lɪ uɔɥʃɪʃ ʃeel ᴅcl ʃcɑɪʃc. 彼は貧しくて死なざるをえなかった。

ʃeelueʃ ［言語］メルテーブル、メルテーブルによってできた語 ［レベル］３　Ɉ0: もう一枚の言葉 ［語法］ http://constructed-language.org/arka/study_mav_11.html

ʃeelᴅɪɑc ［娯楽］テール・マディ、運命の指輪 ［娯楽］リアルタイム戦略シミュレーションゲーム、ＲＴＳ← lɪɑclᴅeluɪjɪnɔjcnllcuɪ ［類義語］lɪɑclᴅeluɪjɪnɔjcnllcuɪ ［レベル］５　ɪl;「運命の指輪」 Ɉɂ ［文化］ ɪl で発売されたリアルタイム戦略シミュレーションゲーム。リアルタイム戦略シミュレーションゲームの代表作となったため、同ジャンルを指す名前になっている。

ʃeeɪ ［エルト］テーア ［動詞］ɥəl に復讐する、復讐する、報復する ［普通動名詞］復讐、報復、仕返し ［レベル］３　ɥcɑcɪ: 古 ［文化］ 皆殺しのジ

オによって家族を殺された少女。テーアはジオへの復讐を誓い、復讐の機会をエルトに祈り続けた。見かねたエルトたちはテーアが祈り始めて４４４４日目が来たときに彼女をエルトにした。その後テーアはエルトの力を得、ジオに復讐を果たした。【成句】ɷɪc ʃeeɪ uɪn bɪzʏ 覚えてろ！、覚えてやがれ！

ʃeeɔ ［感動詞］だーめ、いーえ ［レベル］1 古 ［語法］ ʃeɔ より間延びした感じで、柔らかい感じを受ける。或いは ʃee の部分が強調されれば逆に強い否定に感じる。

ʃeə ［接続詞］[ɥenʃe] ɷel ［レベル］1 1L: アシェット女子 :ɷel の弱化。

ʃə ［代詞］［形容詞］これ、この。前置。 ［代詞］lə。人をこき下ろして物扱いした言い方。 ［反意語］le ［レベル］1 古 :ʃə, bɪle bɪle,ɑ oɪle,ɑ scle,ɑu:ɪɑ,lɣ ʃə,lɟɷ（これ），lə,lɟɷ_ɪɥɷ（それ）:ʃə,ɟzɟ（ʃə,lɟɷ からシージア戦争で借入。lՈ まで「これ」。後に中性定冠詞となる）ʃəʃ,lՈ ʃə ,lʃɑ:lɔ,ɪlʃ ［語法］ ・人でも ʃə になるケース 通常無生物を受けるが、電話などで「こちら」という意味になるときは人でも ʃə を使うことがある。 ʃclɪnʃe, ʃə eʃ lcɔn ɪɪnɔ. もしもし、こちら紫苑です。 ・名前を受けるときは ʃə "hɪՈɪ ᴅcɟʃ ʃɔɥɤ ᴅecɷ ɟeɥ ᴅɔɪ ᴅce ɟʃ hɪՈɪn. ʃə eʃ lcɔn, ɪl ᴅɪlcɪɤ"「何をなさっているのですか。もうお名前は存じております。紫苑、ですよね？」 この ʃə は ᴅceɟʃ hɪՈ ɪn（あなたのお名前）を受けている。I know your name. It is Shion, isn’t it?における I t と同じと考えればよい。 名前は無生物なので、ʃə で受けることになる。 むろん ʃə が eɟʃ でなく lcɔn 本人を受ける場合は、ʃɥə eʃ lcɔn ɟeʃeɤ のように有生人称代名詞を用いる。 ・照応 照応で一度 ʃə を使った後、同一文中で別の名詞を受ける際は距離に関係なく le を使う。逆に文中で le が使われている間は、別の遠くのものを指すときであっても le でなく ʃə を使う。 ʃə と le しかないので、無生物は同時に３つ以上照応させることはできない。ʃəəbe や ʃəəᴅc や ʃəəɟ にしても元の ʃə が代理している名詞のことしか指せない。ɪn ɟccnɪ ᴅccl. ʃə eʃ ʃɔʃɔ. の ʃə は ᴅccl であり、これを ʃəəɟ にしようが ʃəəbe にしようがリンゴでしかない。もちろん ʃəəɟ にすることで数は変わる。 ・時間を指す ʃə １０月にthis Augustと言ったら今年ではなく来年の８月を英語では指す。thisは未来を指す。過去は指せない。 一方アルカでは、dɪɪl の月に ʃə ɥɪlɷəɥɪ と言った場合、その年一年を範囲として ʃə と呼んでいるので、ʃə ɥɪlɷəɥɪ といえば二ヶ月前の ɥɪlɷəɥɪ の月を指すことになる。 英語では月単位にthisがかかり、アルカでは年単位に ʃə（この）がかかるのであろう。 日本語の場合、「この８月に」と言えば、せいぜい6，7，８月にしか使えず、月が離れると「今年の」とか「今度の」といった言い方に変わるのが自然である。日本語の「この８月」は現在が８月に近くないと言いづらい。どうも幻日英でそれぞれの語法があるようだ。 アルカの場合は一年などある範囲を決めて、その範囲の中であれば過去でも未来でも近くても遠くても ʃə で指せるようである。ɪnɟ ᴅɪlɟɪʃ lɔl cᴅ ʃə ɥɪlɷəɥɪ とも ɪnɟ ᴅɪlɟ ɟcl cᴅ ʃə ɥɪlɷəɥɪ ともいえる。それがたとえ何月であろうと年内であれば。また、年内でなくとも、この句の元の意味は「その年のラルドゥラの月に」という意味なので、話者のいる時間軸とずれていても、指示している時間の範囲がいつなのか分かっていれば問題なく使うことができる。 【用例】 ʃə ᴅccl このりんご ʃə eʃ ᴅccl. これはりんごです。

ʃə,lՈ 中性定冠詞 ʃə（それまで使っていた無生三人称代名詞「それ」から来ている）

ʃə,lʃɑ ʃə ʃəʃ,lՈ.lcl

ʃə,lɟɷ ʃən bə,ɑu.l

ʃə,ɪlʃ lenɔ, e

ʃəʃ,lՈ ʃə ʃə/ʃə

ʃəʃʃc ［サール］トゥッティ ［レベル］3 古 ［文化］ アルデスとテュアの三男。地の龍。ʃɔɔl と人型を使い分ける。

ʃəʃʃcuɪɪn ［軍事］陸軍 ［レベル］4 1L: 地の龍トゥッティの軍

ʃəʃʃcɪ ［建築］［地名］［ランドマーク］トゥッティアの長城、トゥッテイア ［レベル］3 zφ;ʃəʃʃc。平地に長く建てられたさまが寝そべっている地の竜に見えたことから。 ɺʔ ［文化］ ɥəəᴅɪ 1ɬ」 ヴェルディア軍はハクシウス軍がケートを奪還しにくるだろうことを想定し、ケートとハクシウス間に対地対空両用の迎撃砦を築きはじめる。ケートとハクシウスの間に作られたのは主に飛竜兵に対抗するためのジンティアの長城で、その後方にさらに長大なトゥッティアの長城を建設しだした。後者はレスティル国の力を見せつけるという目的のほか、ケートが陥落したときに本来のレスティル領が侵略されないよう築いたもので、更にはレスティルに併合されたケートイア人の反乱を恐れて築いたものでもある。後にこれがケートイア建国の際、アルバザードとの国境線となる。建設は急ピッチで進められたが、ハクシウス軍は完成を恐れ、19ɺ 年に進軍。長城は間に合わなかったものの、19ɺ 年の進軍が失敗に終わったことでレスティルは難を逃れた。 ɥəəᴅɪ ɺʔΔ ジンティアの長城が完成 ɥəəᴅɪ ʔΔL トゥッティアの長城が完成

ʃəʃə ［代詞］[ɥenʃe] これら ［類義語］ɪnʃəʃə ［レベル］1 1L:ɥcɷcɪ

ʃəʃəl ［代詞］[ɥenʃe] これらの、これらのもの ［類義語］ɪnʃəʃəl ［レベル］1 1L:ʃəʃə/ʃəəl

ʃəl ［植物］植物 ［反意語］ləᴅ ［レベル］2 ɥɷ 1L:ʃələc ᴅəᴅ:ᴅəᴅ

ʃəllɪ ［名詞］植物園 ［レベル］4 ɥɷ;/ ɺʔ

ʃəlɟɪd ［名詞］二酸化炭素の日常表現、二酸化炭素 ［レベル］4 1L:clᴅəɟ:ɥcɷcɪ: 植物が（昼に使う）空気

ʃəlnɔl ［地学］植生 ［レベル］5 1L

ʃəlucnl ［建築］生垣、生け垣、垣根 ［レベル］5 1L

ʃəlɑcɪᴅ ［生物］植物界 ［レベル］5 ɺɺ

ʃəlɪ ［物理］場 ［レベル］5 ul;ʃəlɔ/lɪ「物理学上の場」 ɺʔ

ʃəlcnc ［植物］毛茸 ɥɷ;/ ɺՈ

ʃəleᴅɟ ［料理］植物油 ［レベル］5 1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アルバザードはオリーブが多く採れるため、オリーブ油を主に指す。

ʃələc ［農耕］［植物］穀物 ［レベル］4 古 :hɪɥ:ʃələc（食用植物）。ʃə（土の）ʌəc（食べ物）。「土が作った食べ物」［文化］ アルバザードでは主に小麦、大麦、ライ麦、米などを指す。

ʃəlelʃ ［名詞］今月 ［レベル］2 ɥɷ;/ ɺʔ

ʃəɟ ［名詞］大きさ、サイズ。具体的な大きさ。 ［文字］級数、ポイント ←hɪdɪnʃʃəɟ ［類義語］lɪlhɪ ［レベル］2 制 【用例】 ʃəɟ ʃcnlɪ キングサイズ、クイーンサイズ

ʃəɟuɪll ［農耕］半農半牧、混合農業 ［レベル］4 1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʃəɟɪlʃ ［名詞］今年 ［レベル］2 ɥɷ;/ ɺʔ

ʃəɟɔɔʃ ［名詞］今週 ［レベル］2 ɥɷ;/ ɺʔ

ʃəɟel ［名詞］この日 ［レベル］2

ʃən ［名詞］修飾終点 ［数学］括弧閉じ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :leɥ bə ないし leɥ ʃə の ʃə から bə:ʃə:ʃɥə ［語法］ ʃce

ʃən,lʃɷ ひとつの。単数形を示す。 ʃə lenɔ「これの」

ʃən,lɟl これの、中性不定冠詞→ ʃcɪɥen

ʃən,lɟɷ これの ʃə の属格

ʃənɟ ［農耕］農耕、農業 ［レベル］3 1L:ɟeɥen:ʃəənɔ/ɟɔ ［文化］ 郊外に農地は密集している。そのため、市と市の間にある工場や道路から出る汚染物質から隔離され、きれいな水と空気で育まれる。自給率は高く、輸入に依存しない国である。

ʃənɪ 風土 古 :ʃəənɔ 土から

ʃənɪ,ɑ leʃʃe ɟɪɪl;ʃəənɔ

ʃənɪɟ ［地名］トゥナス ［レベル］5 1ɬ:ʃənɔ（土）から ［文化］ ソーンの使徒ヴァシヴの支配地。

ʃənɪɟ(ɺ) ［アトラスの国家］トゥナス ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：9ɬ0ΔLՈ.L0ʔɺɬ1 lᴅ ɺ

ʃəuɪn ［天文］上弦と満月の間、凸月 ［名詞］北東、東北 ［組み数字］4 / 8 ［レベル］2 1Ո: 制 :ɟɔɥn:ʃuɪn ［文化］ lelʃeel

ʃəuɪnucᴅ ［生物］前鋸筋 ［レベル］6 ɺՈ<ɺɺ:ʃəuɪnucᴅe と leeueucᴅe で拮抗させている。ʃəuɪn と leeue が逆の月であることを利用している。この ʃəuɪn は弓道の打ち起しのことで、打起こしから会に至る間に前鋸筋を使うことから。ちなみに前鋸筋は会でももちろん使うが、弦の戻ろうとする張力をモロに受けるのはむしろ前鋸筋の拮抗筋である菱形筋。実際、弓道の稽古をしていて初心者が痛めやすいのは前鋸筋（横っ腹のほう）より菱形筋（背中のほう）であることからも、会で負荷がかかるのは前鋸筋より菱形筋であることが分かる。そして leeue が会を意味することから、菱形筋が leeueucᴅe となる。

ʃəuɪnlcl ［化学］モリブデン 1Δ: 制

ʃəuɪl ［形容詞］十分な、充足した ［形容詞］心が満ち足りた ［副詞］十分に、ひとしきり、ひととおり、ひと通り、一通り ［動詞］ɥəl を概ね満たす、概ね満たす、十分にさせる、満たす ［反意語］ɟes ［レベル］2 1L:ʃəuɪl（満ちつつある月）【用例】 enʃ, ᴅel ʃəɥ ʃəuɪl. ごゆっくり。時間は十分ある。 ɪn ɑelɪʃ ʃəuɪlel. 十分勉強した。

ʃəɥ ［名詞］今、現在 ［法副詞］現在時制の副詞 ［動詞］今 ɥəl である、である。現在時制の繋辞。 ［形容詞］現在の、現行の ［名詞］今回。動詞が過去形になっているのに ʃəɥ が来ていたら、確実にこの意味。 ［文頭純詞］さぁ、じゃあ、それでは ［軍事］［形容詞］［法副詞］現在の、本～（本作戦など）：軍隊では時制や相をできるだけ明示する特殊な位相を使う。 ［レベル］1 1L: 恣意だが、ʃə は「この」の意味。 【成句】 c ʃəɥ 今後 ɪlՈɪlʃ ʃəɥ 今のところ、目下 ʃə ʃəɥ この今、ちょうど今 【用例】 cn ʃəɥ 現実を直視する ɪᴅcɥ ʃəɥ 現在の夫 ɪn le ʃəɥ. 今行くよ ʃəɥ, ɪnɟ le lccɪ. さぁ、行こうか。 bɪlʃcɥ uɪnɷɔɥ ʃəɥ ɪɟɥɪ. 大佐が基地を攻撃中であります。 ʃəɥ eʃ ɟɪ ɑleɪnɪleɪ ɪʃə lɪn. こっちでは夏休み前なのね。

ʃəɥɑelɪn ［名詞］在校生 ［レベル］4 1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʃəɥᴅel ［言語］現在時制 ［名詞］現在 ［レベル］4 ɺ1

ʃəɥφɪɥʃ ［経済］時価 ［レベル］4 1L

ʃəɥφɪɥՈlcʃ ［経済］時価評価 1L

ʃəɥφɪɥʃuelՈ ［経済］時価会計 ［レベル］6 1L

ʃəɥcʃɔ ［娯楽］現在の得点 ɺ1

ʃəɥelɷɑel ［言語］共時言語学。通時言語学と対照するときに使う用語。 1L

ʃəl ［名詞］もの、物、物質、品物、物品 ［化学］物質 ［類義語］ɑɪᴅ ［反意語］ucɟ ɟeɥʃ ［レベル］1 1L: 古 :ʃəɪl（このもの） ɪl:ɪl::ʃɔ,ɪlʃ ［語法］ 形のないものも含む。ucɟ は出来事という動作性のあるものを指す。

ʃəlʃe ［哲学］形而下の、物質的な ［反意語］ucɟʃe ［レベル］5 ɺ0: モノ的な

ʃəlɟɔɷɪ ［交通］物損事故、対物事故 ［レベル］5 ɥɷ;/ ɺՈ

ʃəlɑ ［物理］熱、ヒート ［医療］熱、ネツ、体温。接尾辞として熱病を指すことも。 ［レベル］2 1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ:ʃəl/ɟɪɑ ʃlce:ʃlce:lə ʃlce 【用例】 ʃəlɑ ʃcn 高熱

ʃəlɑʃɪɑ ［普通動名詞］除熱 ［レベル］4 1L

ʃəlɑɑcʃ ［普通動名詞］加熱 ［レベル］3 1L

ʃəlɑɷə ［物理］熱量 ［レベル］4 1L:ʃəlɑɪll にしようと思ったが、「熱を比較したり数値で測ることのできるものとして捉えたもの」という定義に従うと、ɷə がふさわしい。

ʃəladɔl ［地名］灼方 ［レベル］4 ɺ0 ［文化］ ファルファニア（ファベルの)、アメルテ、アステルト、ディシリウス、ガーヴィ、アルガーヴ、ミディートの地域。広範囲に渡っている。元々ガーヴィやアルガーヴはアステルトの横に接していたため。 ミディートが含まれるのは、ファルファニアやガーヴからの移住者が多く、ルティアとは別の王国を築いたため。

ʃəlabıl ［物理］比熱 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ: 熱の壁。この値が高いほど熱すのに大きな熱が必要になることから。

ʃəlaıµ ［物理］熱機関 ［レベル］5 1L

ʃəlɒcyə ［化学］化学変化、物質変化 ［レベル］4 1L

ʃəlɒcµɔɟ ［哲学］物神崇拝、フェティシズム ［名詞］フェチ µɑ;/ ɺɱ

ʃəlɒedc ［化学］対物レンズ ［レベル］4 µɑ;/ ɺʔ

ʃəlɑə ［化学］物質量 ［レベル］5 1L

ʃəlφıµʃ ［経済］物価 ［レベル］4 ɺ1 ［文化］ アルバザードは日本に比べ、食料品の物価が高い。その代わり質が高い。 主食となる穀物は安く、利食も多くは生産量が多いため比較的安い。嗜好品は高くなり、酒類はワインなど一部を除いて極めて税金が高いため、価格が高い。例えばケーキは高いがパンは安く、焼酎は高い。 日本と比べて明らかに値段の差があるものはチーズ。チーズは非常に安価である。
意外なところだと、蕎麦、醤油、味噌、大豆製品はアルバザードでも生産されているため安価。フルーツも全体的に安価だが、アルバザードで取れないマンゴーなどは高価である。 魚は西洋と比べて安価。逆に肉は西洋より高価。ただし鶏肉は除く。牛肉の消費量は少ないものの、乳製品は安価。 逆にチョコレートなど、菓子類は非常に高価。ただしガムは安価。 家賃は安価。水道電気光熱費などのインフラも安価。通信費も安価。 タクシーは日本並みで、高価。人力車は安価。 衣料品は高価だが、医療費は安価。交通費はやや高価。 ヤマダ電機のような大型チェーン店がないため、機械類は高価。 外食は高価。反面、喫茶店は安価。 美術館等文化施設は安価。映画は日本並みだが、演劇やサーカスは日本より極めて安価。 性産業はインプレンの発達により安価だが、いわゆるキャバクラなどの酒が入るところでは高価。 学費は条件にもよるが、原則無料。

ʃəlıɟəʃ ［物理］フェルミ粒子 ［反意語］ucınıɟəʃ ul;/ ɺʔ

ʃəlɔ ［物理］物理 ［レベル］4 1L:ɟeµen:ʃəl/ɔz（物に働く法則。神話では最初に運動から研究され出したため）

ʃəlɔɑel ［物理］物理学 ［レベル］4 1L ［文化］ カコから研究されていた。物体の運動から最初に研究されだした。化学ほどリュウは貢献していない。 現実にはセレンがほとんど名付けた。制で作った単語もかなり残っている。

ʃəı ［感動詞］はい、はいどうぞ、どうぞ、ほいよ、ほら ［動詞］yəl を ı に差し出す、差し出す、差しだす ［レベル］1 ɑ;ʃɔ/ı「物を /『あ』という掛け声→物を渡すときの掛け声」 古 :ʃəı「これがそれです」［語法］ 物を人に差し出すときに使うことば。いつでも誰相手でも使える。ʃəı なしで差し出すと丁寧でないが、ʃəı を付けると付けないより丁寧になる。

ʃəın ［代詞］［ɒclcı］あなたの ［レベル］1 1L:ʃə

ʃəɔ ［名詞］（過去に対して）このごろ、最近、近頃、ここんとこ ［名詞］（現在に対して）このころ、この頃 ［名詞］（未来に対して）近々、そろそろ、もうそろそろ、こんど、今度 ［反意語］leɒel ［レベル］2 1ɱ: 制 :ʃəı 【成句】 cɒ ʃəɔ この頃 【用例】 ʃəɔ e ɟılʃ ʃɔl 去年の今頃

ʃəəʃ ［形容詞］［ネガティブ］地味な ［料理］あっさりした、油っぽくない ［形容詞］脱脂した ［反意語］φınl、ɑııu ［レベル］3 ɺ0:ʃəənɔ/ʃe（土の色のようにお洒落でない。土の色は農民を想起させるため）［語法］ ɑııu

ʃəəʃ(ɺ) ［擬音］ツーツー。電話の切れる音。アルバザードでは ls でもこの音。 ［レベル］3 µʃ;ɑɔueʃ ɺʔ

ʃəəʃɒcle ［名詞］脱脂綿 µɑ;/ ɺɱ

ʃəəl ［名詞］グラウンド、広場、空き地、校庭、開けたところ、ひろば ［類義語］ɒeɒı ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ:ʃəənɔ/lı ［語法］ 典型的には、建物がなく平らで土が出ていて何もない広いところのこと。

ʃəəlı ［動物］モグラ ［レベル］3 ılılʃı:ʃəəlı ← ʃəənɔlıɒı（土の鼠）

ʃəəɟ ［代詞］これら ［レベル］1 1L

ʃəənı,lɟl leʃʃe ʃənı

ʃəənıɟ ［人名］トゥーナス ［組み数字］4 / 1 1 ［レベル］3 1L:ɟeµen ←古 :µcɑcı:ʃəənɔ（土）［文化］ アルシアの４番目。土の魔法の大成者。両性具有の人物。

ʃəənɔ ［名詞］土 ［名詞］土砂。土と砂のことだが、アルカでは特に土砂を指す専門の単語はなく ʃəənɔ という。 ［魔法］トゥーノ。土の多段黒魔法。土石流で敵を押しつぶす。 ［植物］レゴリス ［名詞］［婉曲］子宮、母親、母体 ［レベル］1 ɑ:e 赤 ʃəənɔ:ʃəənɔ:lə ʃəənɔ:ʃɔn,ılʃ 【成句】 ʃəənɔ leɑ(en) ɒɔɒ 根なし土：根性無し、バテたり諦めたりするのが早いやつ：根のない（というか弱い）草ばかり生えた土はすぐ雪崩れることから。 ʃcl ɒɔɒr 根性出せ！、諦めんな！

ʃəəɒc ［代詞］こちら→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəɒcɟ ［代詞］こちら→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəɒcn ［代詞］こちらの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəɒcnɟ ［代詞］こちらの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəbe ［代詞］［形容詞］こんな、このような→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəbeɟ ［代詞］こんな→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəben ［代詞］こんなの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəbenɟ ［代詞］こんなの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ʃəəyə ［文末純詞］［yənl］eyɔ ［類義語］ınlcc ［レベル］2 古 ɟɔµn: 語源不詳。eyɔ に相当するものとして使われていた。当時は男女区別なく使った。

ʃəəl ［代詞］それの、それのもの ［レベル］1 1L:ʃə/ʃəl ［語法］「この部品はそれのものだよ」などで使う。

ʃəəl,lɱ le ʃə/lə

ʃəəleɟ ［代詞］これらの、これらのもの ［レベル］1 1L

F ［言語］述語、動詞 ［レベル］4 ɺ0:ʃcɒ

l

l llenƶ

lʃ ［演繹音］がっ、ガッ、こつ、コツ、こっ、コッ、ごっ、ゴッ ［レベル］2 ɺ1 ［語法］ ぶつかる音。 力を一気に放出する寸前の溜める音。

lɱ ［演繹音］カチャ、ガチャ、コト ［レベル］2 µɑ;hıılueʃ ɺʔ ［語法］ ドアを開ける音、電話の受話器を取り置きする音など。

lʃl ［擬音］カチャ、ドアの開く音、ガチャ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ll ［歴史］カコ、lılɔ ［レベル］3 ɺ1

ln ［演繹音］コン、こん、コンコン、こんこん、ごん、ゴン ［レベル］2 ɺɺ ［語法］ ノックするような音。

lnl ［演繹音］ぐき、ぐきっ、グキ、グキッ、めき、メキ、めきっ、メキッ、ぐにっ、グニッ、ぐにゃっ、グニャッ ［レベル］2 ɺɺ ［語法］ ぶつけて捻る音。捻挫、突き指などの音。ぶつけてぐにゃっとする音。 【用例】 ın ʃclcl ucl ɔn lıɟ ɑɔ φnɔφ cɒ lıɟ cl ɑılʃ ı elen. 手を机にぶつけてグキッと怪我をした。

lnıl ［形容詞］まっすぐな ［動詞］yəl をまっすぐにする、まっすぐにする、真っ直ぐにする ［類義語］ɑıllnıl ［反意語］lcɒ ［レベル］2 1ʕ: 制 : まっすぐ行く。開音節だと形容詞としていいづらいＣＣＶ構造なので、制 lnı は不採用。

lnılʃıleɒɔu ［物理］等加速度直線運動 ［レベル］5 1L

lnıllcɒɑcnl ［名詞］可展面 ul;lnılɑcnl/lcɒɑcnl「平面になれる曲面」であることから。 ɺɱ ［文化］ 伸縮することなしに平面に展開することができる計量を持つ曲面のこと。逆の言い方をすれば、平面を曲げたり切ったり丸めたりつなげたりすることで作ることのできる曲面のこと。円柱の側面の筒の部分が曲面であり、展開すると長方形の平面になるが、これが好例。 なお、球面は可展面にならない。もしなったら、地図はこの世に一通りでいいことになってしまう。球面を平面に展開できないからこそ、図法はたくさんあるのである。

lnılncı ［美容］ストレート、直毛 ［レベル］3 1L

lnıluɔl ［形容詞］［ポジティブ］一本気な、意思の固い、良い意味で頑固な、職人気質の ［類義語］uelınʃe ［レベル］3 ɺ0

lnılɑcnl ［名詞］平面。２次元という意味の場合は ɑcll を使う。曲面の反対としての平面。 ［反意語］lcɒɑcnl ［レベル］6 ul;/ ɺɱ

lnıldıµɒ ［ユマナ］カタカナ ［レベル］4 1L: 日本の字で、カクカクしている

lnılµecn ［数学］直線 ［レベル］3 1L

lnıb ［動物］ラクダ、駱駝、キャメル ［レベル］3 lılʃı:「こぶの生き物」

lnıblıɑ ［地球の国名］エリトリア 1L: 国章に駱駝

lnıl ［名詞］オカルト、超常現象 ［レベル］3 1L:lnɔɔɟ/nılɟ

lncɟ ［生物］たてがみ、鬣 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ılılʃı:lnc

lnɔb ［医療］こぶ、コブ、瘤 ［レベル］3 1ʔ: 制 :lnıb

lnɔbcdı ［医療］いぼ痔。lələɟlnɔb と同じ ［レベル］5 1L

lnɔɔɟ ［名詞］謎、ミステリー ［名詞］問題、設問 ［形容詞］［ポジティブ］不思議な、神秘的な、風変わりな ［反意語］zıl、eµɟeeµ、µelcµ ［名詞］テストや試験に出てくる問題 ［レベル］2 ɑu;ləənɔɟʃecµı.l 古 : 使徒ミルフの名の lənɘɔɟ が語源。lənɘɔɟ は彼女の疑問文調の口調をからかう言葉で、疑問というところから謎という意味になった。 lnɔɔɟ:lnɔɔɟ:lə ɑelɒıʃ 【用例】 nı lnɔɔɟ ı ～を不思議に思う

lnɔɔɟlec ［名詞］問題集、ワーク ［レベル］3 µɑ;/ ɺʔ

lnɔɔɟenuc ［魔法］超能力、異能 ［レベル］3 µɑ;/「謎の能力」 ɺɱ ［文化］ カルディアにおいては、超能力は魔法学で説明が付かず、科学的にも説明が付かない能力のことで、念力や読心術といった異能のことを指す。占いや予言は魔法学的に原理がよく分かっていないが、神代からあり魔法の範疇で慣例として捉えられていたことから、魔法と異能の間のような存在になっている。

lɒcn ［植物］ラベンダー ［レベル］3 lılʃı: クミールの花

lɒcl ［単位］１０の２７乗 ɺ1:lɒcclcı

lɒccµ ［組み数字］２８/ ２８ ［交通］クミール通り ［レベル］2 ɺɺ

lɒccµ(ɺ) ［料理］ɒcµeʃel ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

lɒccµ ɒeʃe ［人名］クミール＝メテ ［組み数字］２８/ ２８ ［レベル］2 古 : クミールは語源不詳。古アルカでの意味は「口頭弁論」。メテは『カコ』で、本来はドゥルガ側なのだからソーンのクミールが撰ぶ姓としては不適当。 ［文化］ → ɒcµueµınʃ 第４期４代ルシーラ・エ・ソーン。女性。yənl。１６０ｃｍ、３９ｋｇ。髪は濃紺がかって見える艶のある黒で肩まで届き、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝４：６。
兄弟は無し。８歳で母親を事故で亡くす。１７歳でルシーラに就任。虚弱体質で、心も非常に繊細。容姿が非常に美しく、アシェットーのユンク。ルティアの文化に憧れている。 【成句】 cn lɒccµ, ʃə ɑcı eʃ lɔl nɔɑ lec ʃccl. 見よクミール、世界は君の本より面白い：事実は小説よりも奇なり。引きこもったクミールに対してセレンが送っ

た言葉から。

lpcclcı ［歳時記］小暑 ［名詞］１１時 ［組み数字］１１／２４ ［レベル］３ J0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

lpel ［名詞］時期 ［レベル］３ 古 :lpel。l は leμc や lee からの推移で季節を意味し、pel は時間のはずだが、これより古い形が不明。 ［用例］ ſə lpel 今季 ſə eſ lpel l'el ſcl eaı joael. 風邪を引きやすい時期だ。

lddd ［擬音］くふっ、くふふふ。堪えた笑い声。 ［レベル］３ 1L

lh ［演繹音］クンカクンカ、クンカ、くんか、くんかくんか、くふーくふー、くふー ［類義語］jh ［レベル］４ μɑ;jeμen;hıılueſ J? ［語法］ 物を勢い良く嗅ぐときの音。思い切り吸い込むのは jh。 ［用例］ μcɑ cır μcɑcır μcɑcır μcɑcıııııııııııııııııııııııınnnnnnnnnrrrrrrrrrr ııııııııı ....ıııı. ıı...ıııφφφrr μcɑcı, μcɑcı, μcɑcıııııııııııııııııııınnnnnnnnnnrrrrrrr ıııııı, lǝh lǝhr lǝǝh lǝǝhrr jǝh jǝhr jǝǝh jǝǝhrr ıdı ſc eſ lccſɔ ıı... jɔn jɔn. ıhıııır ın ſɔın lıl ncı leſe e μcɑcı lǝſcı lccs ɑɔ lǝǝh lǝǝh ıııırrr lǝǝh lǝǝhr ıııırrrr ſeɔr ın ɔs lıl ncı lıııſ ɑɔ pǝɑ pǝɑr pɔɑ pɔɑ, pǝǝɑ pǝǝɑr ncı, ncır pǝɑ pǝɑr lyın lyın lyǝnr μcɑ cı lccs lıen ıμɑcı lenɔ leſſ e pclɑ ıſ ınl ſcnlı ɑıdr ıııııı...ıııı...ıd, ıııı ıır ɔɔɔɔǝǝǝǝǝǝǝǝǝφφφφr ın nı nıǝ ɔn ſc jcl nɔl ı jlıl ŧ ſ'ıuelınſcj, μcɑcı lccsr ıııııır ınl, ınl er μcɑcı lccsr ınlrrr ıd, ıııııırrr uec lıl ɑcı ıj ıſ ıſp enſɔ ın nı nıǝ ıſc uı––– ſeeeeeeeeeeeeeeeeeeeer ſe ɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔrrr ıııııııııııııııııμſeeeeeeeeeeerrr hıııııııııııııııııııııııcƶeeee eeeeeeeeennnnnr lılɑcı ſcj ɑe ɑcını ɑıııııııııııırrrrrr ıd, ın lıllcl yǝl ıuelınſcj ſın eſ........ [illegible] eſ en ɑcını8888888888888888 ſe eeɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔrrrrrr ıııııııııııııııııırrrrrr ıııμſeeeeeeeee eeeer lleeeeeeeeeeeeeeeueeeeeeeeeeeeeeeelllllllır ıııııııııııııııııııııınn nnr ııııııııııμbıƶıııııııııııııμɑrrrr ɔrlıııııır beɔ ɑıııııırrrrrr ın leeur ın leeu uın ſǝǝbe ɑcı ſcj–– ſɔ88 lǝ cnɔμ...8 μcɑcı lccƶ lıen ɔlpılecj cnɔμ ın lırrr μcɑcı lccƶ lıen ıuelınſcj lɔɔlɔμ ı pen ɑırrrr ıſſı... ſǝ ɑcı ɑej φej lırr (lınſe hoıııııııııııııııııırrrrr ın ſcl μcɑcı lccƶrrrrr ıſſı ıl ın, pelr pen jɔ jen leɑ neſıl eǝr ɔǝ, μcɑcı lccƶ lıen lılɑcı ıııııııııııır ſeɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔr ııııııı, ıııııııφ, ıd, ıd, lcc ƶı lınlıııııııır l...lpcccccccμμμμr lǝlcıııııııııııırrrrrr pclcıııııııırrrrrr ǝ....ǝǝǝǝǝǝǝǝǝǝǝɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔɔrrrrrrr ɑeμ lcclıj leyǝſe ɑc cnı ſc, μcɑcı. ılep ınſ, ſc μe lǝlɔ jcl μcɑcı lıen ıμbıƶıμɑr リディア！リディア！リディア！リディアぁぁあああわぁああああああああああああああああああああああああん！！！ あぁああああ…ああ…あっあっー！あぁあああああ！！！リディアリディアリディアぁああぁわぁああああ！！！ あぁクンカクンカ！クンカクンカ！スーハースーハー！スーハースーハー！いい匂いだなぁ…くんくんんはぁっ！リディア＝ルティアたんの亜麻色の髪をクンカクンカしたいお！クンカクンカ！あぁあ！！ 間違えた！モフモフしたいお！モフモフ！モフモフ！髪髪モフモフ！カリカリモフモフ…きゅんきゅんきゅい！！ アルディアミルフの月のリディアたんかわいかったよぅ！！あぁぁああ…あああ…あっあぁああああ！！ふぁぁあああんんっ！！ アヴェランティス５面決まって良かったねリディアたん！あぁあああああ！かわいい！リディアたん！かわいい！あっああぁああ！ イラスト数枚も発売されて嬉し…いやぁあああああ！！！にゃああああああああん！！ぎゃああああああああ！！ ぐあああああああああああ！！！イラストなんて現実じゃない！！！！あ…アルディアもアヴェランティスもよく考えたら… リ デ ィ ア ち ゃ ん は 現実 じ ゃ な い？にゃあああああああああああああん！！うぁああああああああああ！！ そんなぁあああああああ！！いやぁぁぁああああああああああ！！はぁああああああん！！アルバザードぉおおおお！！ この！ちきしょー！やめてやる！！現実なんかやめ…て…え！？見…てる？表紙絵のリディアちゃんが僕を見てる？ 表紙絵のリディアちゃんが僕を見てるぞ！リディアちゃんが僕を見てるぞ！挿絵のリディアちゃんが僕を見てるぞ！！ アヴェランティスのリディアちゃんが僕に話しかけてるぞ！！！よかった…世の中まだまだ捨てたモンじゃないんだねっ！ いやっほぉおおおおおおお！！！僕にはリディアちゃんがいる！！やったよメル！！ひとりでできるもん！！！ あ、イラストのリディアちゃああああああああああああああん！！いやぁあああああああああああああああ！！！！ あっあんああっああんあリーザ先生ぁあ！！ク、クミール！！ルシアぁあああああああ！！！ミリアぁあああ！！ ううっうぅうう！！俺の想いよリディアへ届け！！アルバザードのリディアへ届け！ （『クンカクンカジェネレーター』）

lyn ［演繹音］きゃん、キャン、きゅい、キュイ、きゅん、キュン ［レベル］２ μɑ;hıılueſ J? ［語法］ 子犬などの高い悲鳴などに使う。

lyh ［演繹音］きゃはは、キャハハ ［レベル］２ μɑ;hıılueſ J? ［語法］ lyn と似ており、女の高い笑い声などに使う。

lyın ［感動詞］［μenſe］きゃん、lyıı ［レベル］２ ſp;ɑɔueſ J?

lyın,ɑ lıın e

lyıı ［感動詞］［μenſe］きゃあ！ ［類義語］hyıı ［レベル］２ ſp;ɑɔueſ J1

lyɔ ［普通動名詞］演技、演出、劇、芝居、戯曲、演劇、ドラマ ［動詞］yǝl（内容や演目など）を演じる、演じる、演技する、見せかける、みせかける ［レベル］２ ɑ;e 赤 :lyɔ（演じる）: 語源不詳 ［文化］ 演劇はあまり人気がない。映画の方が人気がある。多くの人が映画の方を選ぶ理由は、視覚的な理由である。映画はＣＧやカメラワークを駆使して多彩な演出ができる。ところが演劇の場合、視点は観客の視点に固定されているし、ＣＧも使えない。確かに演劇は一回きりでしかも生だから臨場感はあるかもしれない。だが、視覚上の華麗さは映画に劣る。声も生の声より編集して何度も撮り直してある映画の方が聴きやすい。そういうわけで演劇は人気がない。アルバザードは完成された客観的な作品を好む。失敗するかもしれない演劇は完成されていない。映画は完成してから出すので必ず完成している。だが演劇は人間がやるのだからどんなに練習しても小さなミスがでて完成に達しないことがある。また、映画は誰がどこで上映しても何度でも同じ映像が見られるが、演劇はそうではない。毎回毎回変わってしまう。この客観性のなさをアルバザードは嫌う。 ［用例］ ſǝ lyɔ ıſ pellıl. そのドラマは再放送だった。

lyɔſ ［美容］ドウラン、ドーラン ［レベル］５ J1:‹›lyɔ

lyɔlı ［名詞］劇場 ［レベル］３ J0 ［用例］ ſǝ ɑcı eſ lyɔlı. ſǝ φıμu, le epſ, cl eſ ſcɔ ncɑc ſcj len ıd nıl ɔ lɔl ı llɔı. 人生は劇場だ。この苦しみもあの悲しみも、 話を面白可笑しくする為の 一小節にすぎんのだ。 (μenj ႤႬ1)

lyɔj ［医療］インシュリン、インスリン ［レベル］４ lılſı

lyɔıb ［被服］衣装、コスチューム ［レベル］３ 1?: 制 : 演技に用いる服装

lyɔpc ［動詞］yǝl（場所）にいないふりをする、居留守をする ［普通動名詞］居留守、いるす、いないふり ［レベル］３ JJ

lyɔɑ ［動詞］yǝl（内容）を演出する、演出する ［普通動名詞］演出 ［形容詞］演出された、仕組まれた、約束された ［レベル］３ 1ȾI: 制 :lyɔɑɔl（劇を飾る） ［用例］ lyɔɑ ſccı 愛を演出する

lyɔın ［名詞］俳優、女優 ［類義語］enjı, lccɑı, ɑcılccɑı ［レベル］２ J1

lye ［動詞］yǝl をつんのめらせる、つんのめる ［レベル］３ μcɑcı: 古 : 体育館などの床で体育館履きを履きながら走り、急にブレーキをかけて止まるとする「キュッ」という音に近いものを造語者のリディアは想像したのだろう。

lyǝl ［人名］キュク ［組み数字］７／１６ ［レベル］４ pelſcı ႶI:ıμɔɑ/eȷſı;e 古 ［文化］ eȷſı エスタの第７子。男。

lyǝl ɑccp ［人名］キュク＝ディーム J0 ［文化］ (cpǝl 1JΔ1:1ɁŦŦ) ルシフェル校の魔法学者。元はアルシェリア人の留学生だった人物。

lyǝoc ［動物］イルカ、ドルフィン ［レベル］３ lılſı: 鳴き声から

lyǝoccɑı ［地球の星座］［ユマナ］いるか座 JႶ ［文化］ cɑı

lyıl ［音楽］カスタネット、ミハルス。区別はない。 ［レベル］２ J1: 擬音 ［文化］ カスタネットとミハルスの区別はなく、学校では演奏が簡単なミハルスが用いられる。 ［用例］ lyıl lyɔl, lyɔl lycl カチャカチャと鳴らす音 ın lyıl, ɔn lyɔl (ln うんたん、うんたん♪ :ın, ɔn は休符の間合いを取る声

lyılef ［音楽］タンゴ ［レベル］５ J1: カスタネットを使うことがあり、その音がクラックと聞こえることから

lyıcn ［形容詞］ギリギリアウトな ［反意語］lɔyen ［レベル］３ J0:yıl yec n → lyecn → lyıcn(yecn から離すため)。新生で語頭子音 ly を認めた初めての語。φyıɑ をその前に認めたことがきっかけ。 ［用例］ DDD... le been eſ lyıcn ır むー、あのブスはギリギリやれないラインだな。

lycǝj ［人名］クリウス ［レベル］６ J0 ［文化］ (yǝǝpı ŦɁſ1:ſJJŦ(ŦႤŦŦ:ſJJŦ)) カコ前期のヴェマ王。 yǝǝpı ŦႤŦŦ ヴェマで召喚士 lycǝj が王を倒して新王となる

lyedſcı ［人名］クレプティア ［レベル］６ J0 ［文化］ (yǝǝpı ſLႶ1:ႤႶɁɁ) yǝǝpı ſLႤႶ アンダント、旧イクサンテ系貴族のアルシェリア人 lyedſcı を第二夫人として娶る。クレプティアは人種的にはシフェルだったため、マレットの多いイクサンテの完全な理解は得られなかったものの、暴動は一時沈静化

loıl ［動物］ペンギン ［レベル］２ ılılſı ［擬声］ locbǝǝ locbǝǝ

loın ［南方］［格詞］lɔn, ɔl, lɔllɔ ［レベル］３ J1:l.lɔn

loıy ［生物］クァール。目と目の間の部分 ［レベル］３ 古 : オノマトペ。この部分に指を近づけるとムラムラ気持ち悪くなってくる。その感覚を loıy という音で表現した。「くわーっとなる部分」のような意味。 ［文化］ 集中力が宿るとされている。

loıyjelɔſ ［電算］［ユマナ］ｑｗｅｒｔｙキーボード ［レベル］４ JJ: ｑｗｅｒｔｙだとアルカにならないので、クワールの音の部分だけを切り取った。

loıyhɔ ［生物］前頭骨 ［レベル］４ 1L

locſ ［動詞］yǝl をつねる、つねる、抓る ［レベル］２ 古 :lǝǝoc,locſ,loccφ。どれも手の甲を抓る音からきている。

locn ［植物］ユリ、百合、リリー ［レベル］３ 古 :μcɑcı:"ıl, nɔn jɔ ⊣ pcjjɔ ɑccnı jɔǝ jeyen lɔllɔ pel." から

loɔl ［動詞］yǝl に寝がえりを打たせる、ころんと転がる、寝返りを打つ ［普通動名詞］寝返り、寝がえり、ねがえり ［レベル］２ 古 : オノマトペ ［用例］ ın loɔlıſ μıj ɑc uıμ ucμɑ. 一晩中寝返りを打っていた。

llj ［演繹音］きしきし、キシキシ、きし、キシ、きしっ、キシッ、ぎしぎし、ギシギシ、きー、キー、ききー、キキー、きっ、キッ、きーっ、キーッ、ぎぎーっ、ギギーッ、ぎぎー、ギギー ［レベル］２ JJ

llıſ ［名詞］ビザ、査証、入国許可証 ［レベル］３ ılılſı

llıl ［動詞］yǝl を ı に広める、広める、知らしめる、知らせる、放送する、演説する、公演する、アナウンスする、広報する、宣伝する ［普通動名詞］放送、演説、公演、アナウンス、広報、宣伝 ［レベル］３ jɔyn: 広く言う

lllllı ［名詞］放送局 ［レベル］４ μſ;/ J? ［語法］ ラジオ局やテレビ局などのことをいう。規模は企業規模から学校の放送部まで幅広く使える。

lllıjepj ［名詞］放送部 ［レベル］４ 1L ［用例］ lllıjepj ɑcſıſ lep cp hıydn cın jccnı. 昼休みに放送部員が音楽を流してくれた。

llıl ［医療］抗生物質 ［レベル］３ 1Ɂ: 制 : 古 :lcƶlǝlıı（細菌を殺す）

llıj ［名詞］鋏、ハサミ、はさみ ［レベル］２ ıμle:llıj 参考 :jɔyn:hɔpyǝıj → hɔpj（鋏） :::ɔpǝlc,ıllſ

llıjllıd ［料理］トング ［レベル］３ 1ſ: 制

ɭlijɭilc ［料理］箸型トング ［レベル］３ 1ʕ: 制

ɭlin ［政治］奴隷 ［反意語］ᴅclın、leeᴅ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ɭəᴅlın（動物（のように扱われた）人間） ［文化］ 革命後は、ＩＤ登録をされずアンセを持たない戸籍のない人間のうち、奴隷商に支配されているもの。３Ｋの仕事をさせられ、寿命も短い。アルバザードを裕福にしている影の存在。

ɭlinȷ ［代詞］［ᴅᴅı］アンタら ［レベル］１ Ɉ1:əᴅʃɔnı: 古 ɭəᴅ/lınʃcȷ「生者ども」

ɭlinȷen ［代詞］［ᴅᴅı］アンタらの ［レベル］１ Ɉ1:əᴅʃɔnı:ɭlinʃ/en

ɭlinuıc ［軍事］奴隷兵 ［レベル］５ Ɉ0

ɭlinɷc ［言語］［文字］大文字 ［反意語］leᴅıl ［レベル］２ µɷ;ɭlinɷcı「飾り文字」 Ɉ1 ［文化］ ＜概要＞ µɷ で幻京書体ができたときに合わせて作られたもの。 小文字の弁別性の向上、曖昧さ回避、装飾文字として作られた。 従って地球と逆で小文字のほうが先にありきで、大文字は装飾用などとして後からできた。 ＜用途＞ デザインや強調に使う。いずれも大文字の使用は義務でない。 英語と違って固有名詞なども義務でない。 ・見出し：Tec e Ðccµ：語頭のみ。機能語を除く。 ・人名：Tecn ¥əʃcı ・強調：ʃə eʃ ӾЄ₩Єᛏ ľ' ıՈıʃ ʃə ɑcı ɷı. ・見出し強調：TEЄ E ÐЄЄӾ, TEЄ e ÐЄЄӾ ・似た文字の弁別：ʃə eʃ ʃ, F ʃcȷee, en ɭ ı. ・神の名と普通名詞の弁別：ᛏµɷə ɷel ᴅcµɔɭ ɔnʃ ıµɷə ʃ'eµcı ・外国語の音素：ŧ で［θ］など。この用法の場合は必ず大文字にするか小文字にアクサンを付ける必要がある。 ＜成立＞ ʃ: 横棒を追加 ɭ: 横棒を追加 ɭ: 横棒と捻りを追加 ȷ: 反転し、横棒を追加 n: 旧字に横棒を追加 u: 旧字に横棒を追加 ɑ: 幼字 ɑccnı の変形 ᴅ: 横棒を追加 ɷ: 旧字の上半分を切除し、縦棒を追加 φ: 旧字を巻かず、縦棒を追加 d: 反転したものと融合 b: 縦に反転させて融合 h: 幼字 hɔᴅɥə ɥ: 四方に反転させ融合 ɗ: 四方に反転させ融合 µ:ɥ を傾ける z: 二字重ねる s: 二字重ねる o: 横棒を追加 l: 横棒を追加 ı: 横棒を追加 c: 横棒を追加 ɔ: 横棒を追加 e: 縦に反転して融合させ角張らせる ə: 縦に反転して融合させ角張らせる ɜ: 反転して融合

ɭlinɷcı ［魔法］［丁寧］［地学］ダイヤモンド、ダイヤモンド ［地名］クランディア。ミュールの uȷ までの呼称。 ［組み数字］２/１０ ［類義語］hɔµɷ ［レベル］４ zφ;ɭlenɷcı.ɭ ミュールの uȷ までの名から。ここで採れるものの質が良かったことから

ɭlinφcn ［名詞］奴隷商 ［レベル］５ 1L: リディアの書

ɭluel ıʃeeᴅȷ ［人名］クラヴェル＝アルテームス ul;ɭleeuel.l ɈɈ ［文化］ ul_ıl の実業家。ハイン＝アルテームスの父。サンテームス社のＣＥＯを務める。ʔ9Δ に uınʃeᴅȷ を開発。

ɭlid ［名詞］挟み、クリップ ［動詞］ɥəl を ı にクリップで留める、留める、挟む、はさむ ［化学］クリップ。顕微鏡の。 ［レベル］３ ıՈʃı:ɭlid 参考 : 古 :hɔᴅɥə。ɭlij からの推移。

ɭlıl ［名詞］空間、スペース、場所 ［類義語］bɔddɔ ［レベル］２ Ɉ0:ɭlı:1ʔ: 制 : 古 :ɭılbə（世界） ［語法］ 物理的な空間だけでなく精神的な空間でもよい。

ɭlıc ［料理］グルメ、美食 ［レベル］３ ȷɔµn:ɭlıc 参考 : 古 :ɭəcɭıhc（食べる罪）

ɭlıcn ［植物］ıɭlecᴅ ［組み数字］６/９ ［レベル］４ ɑ:ȷııl;e Ɉ1

ɭlıcınʃ ［名詞］割合、比率、レート ［類義語］ısı ［アクセント］ɭlᛏcınʃ ȷᴅ;ȷzɷ ［レベル］３ Ɉ1

ɭlıcınʃ,ȷzɷ ᴅeȷʃ

ɭlcʃ ［サール］クリット ［動詞］ɥəl を lel だと評論する、評論する、批評する、評価する、鑑別する、鑑定する、見極める ［経済］［動詞］ɥəl（不動産など資産）を評価する、評価する ［普通動名詞］評論、批評、評価、鑑別、鑑定 ［類義語］φlıcɷ ［レベル］３ 古 :ɭlccz ［文化］ サール界きっての評論家。 【成句】 ɭlcʃ µıʃel µıɭ 過大評価する、買いかぶる ɭlcʃ ɥıᴅel µıɭ 過小評価する、侮る、あなどる 【用例】 ☆ ın ɭlcʃcɭ ʃc ȷıᴅel. 見直したよ：ȷıᴅel とともに「見直す」。場合によっては「見下したよ」という悪い評価のこともある。

ɭlcʃɑcɷn ［経済］評価・換算差額等 1L

ɭlcʃɷıe ［経済］評価損 1L

ɭlcʃφcɔ ［経済］評価益 1L

ɭlcɭ ［地学］島 ［形容詞］～島。前置。 ［レベル］２ ȷɔµn 参考 : 古 :ɭıllc。水で周りを囲まれ、他の土地から孤立させられた土地。 ɭıllc:ɭıllc:lə ɭıllc:µıc,lc

ɭlcɭµı ［地球の国名］モルディブ 1L: 国名が島に住む人

ɭlcȷ ［動詞］ɥəl をきしませる、きしむ、軋ませる、軋む ［普通動名詞］きしみ、軋み ［レベル］３ 1L: 演繹音

ɭlcȷʃɔȷ ［地名］クリストス ［レベル］６ ɑu;e Ɉʔ ［文化］ ガルヴェーユのフランヴェールの南にある地域。湖が多い。

ɭlcu ［生物］生態 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ɭəlcuµɔ

ɭlcuȷecᴅ ［生物］生態系 ［レベル］４ 1L

ɭlcuɑel ［生物］生態学 ［レベル］５ µɷ;/ Ɉʔ

ɭlcᴅ ［医療］臨床 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ɭlcczcᴅı（クリスのとき）。クリスが５年に交通事故で車に撥ね飛ばされたとき及びその事件が ɭlccᴅı で、そこから紆余曲折を経て臨床となった。この語は「 クリスのときのように病院に運ばれて集中治療を受ける 」という文で使われていた。その後、リュウが好意で助けた見ず知らずの少女を彼が親身に看病したときに「 クリスのときのようにリュウはその少女を看病した 」と言い表した。このとき、少女の容態を観察し治療するという実地的なところから ɭlcczcᴅı が臨床の意味を持つようになった。

ɭlcᴅzɔn ［地名］クリムゾン zφ Ɉʔ

ɭlcz ［普通動名詞］スピーチ、演説、講演 ［動詞］ɥəl を演説する、演説する、講演する ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ıՈɭʃı:ɭəlccz（小さく喋る）

ɭlczɭı ［名詞］演説場、公演場、壇上 ［レベル］４ µɷ;/ Ɉʔ

ɭlczeʃ ［料理］キッシュ、クリゼット ［レベル］３ µɷ;ɭlccz/ʃe「クリスのような」 Ɉʔ ［文化］ µɷ でクリスが開発した料理。脂肪分が多いので革命期は一度害食に認定された。

ɭlcı ［遊離副詞］［形容詞］かもしれない ［レベル］１ Ɉ0:ɭleı（粉）から。粉程度の大きさの確率というところから。 ［語法］ ılɘəʃ

ɭlcınle ［アビリティ］クリアンシェ、ジャンプ、落下、急降下 ［レベル］４ ȷµ;µɭ で「雹」。雹がバラバラ落ちてくるように相手に向かって何度も落下していくことから。 Ɉʔ ［文化］ ɑµelınʃ

ɭlccz ［組み数字］３/２８ ［交通］クリス通り ［名詞］クリス組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２ ɈɈ

ɭlccz ᴅclee lccȷcı ［人名］クリス＝ミレー＝リーシア ［組み数字］３/２８ ［レベル］２ 古 : クリスは不詳。ミレーは６年リディアとミルフが与えた「 踊る 」という語。クリスは格闘技がうまく、踊っているようだからという。リーシアは『カコ』から。クリスの古アルカでの意味は「 言葉少ない 」。 ［文化］ → lcȷueµınʃ （ʃcɑ Δ ɷɥə µıu →） 第４期４代アルシェ第３使徒。女性。ıᴅᴅı。１７０ｃｍ、６２ｋｇ。髪は黄色い金色で背中まで長く、少しくせっ毛で、三つ編みを一本にして結んでいることが多い。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。 ・『ミールの書』より そう言うと女性はおおらかに笑った。女性はセルフィッシュガーデンの女性の中では大柄な方で、190ɗᴅ 近くもあった。体格はスレンダーであり、豊かな胸元と良く締まっている腰元が非常に肉感的な印象を与える。流石にこんなドレスを着ているだけのことはあるなとミールは思った。こう言ってはなんだが、リディアのように比較的少女時代のままの体型で成長した女性にはあまりにそぐわない服装だとも思った。先のアッシュもこの女性の様に魅力的なだったが、アッシュに比べるとこの女性の方が活発に見える。 【成句】 ɭlccz ʃcȷ ɥən ɥənɭ ɔɭ ɑıuı ドレスを着ればクリスでもおしとやかに見える：馬子にも衣装

ɭlɔʃ ［牧畜］［動詞］ɥəl を屠殺して ı にする、屠殺する、潰す ［普通動名詞］屠殺 ［レベル］３ ıՈɭʃı

ɭlɔʃɔᴅ ［牧畜］屠殺法 ［レベル］４ ɈɈ

ɭlɔɭ ［地学］高原 ［レベル］３ ıՈɭʃı

ɭlɔleʃ ［ポジティブ］［形容詞］売れない ［名詞］古本、中古本、古書、レディスレイ ［類義語］ɷɔleʃ、leɷcȷlec ［反意語］lɘəle ［アクセント］ɭlƎleʃ（売れない）、ɭlɔlEʃ（古書） µɷ;lʃ（古書） ［レベル］３ Ɉʔ ［語法］［文化］ アルバザード人、ルティア人、凪紗に共通する価値観として、「一番売れているものは最大公約数的な人気しか得ておらず、一人ひとりの心の核に響く作品ではない」という考えがある。だからこそ一人ひとりにとって本当に良いものはむしろ売れていないものの中にこそあると彼らは考える。本屋で人気の新刊として出されているものよりも、古書店でひっそり佇んでいる本の中にこそ良いものがあると考えている。そこから lʃ の古書が転じて「良い意味で売れない」という意味を獲得するに至った。 彼らの価値観では、ɭlɔleʃ ＞ lɘəle ＞ ɷɔleʃ ＞ φɔleᴅ の順で尊い。 ɭlɔleʃ は価値のある良作だが客層がコアすぎたりジャンルがニッチすぎたり客が無理解だったり内容が高度すぎて売れないものに対して好意的に用いる。 lɘəle は売れるべくして売れた名作、人々の人気の最大公約数を上手く突いた作品に対して好意的に使う。 ɷɔleʃ は売れないべくして売れなかったクオリティの低い作品に対して悲観的に使う。 φɔleᴅ は「俗悪なものでも売れたので良い。売れたもの勝ち」という商業主義的な作品に対し、「汚い」という批判的な意味を込めて侮蔑的に用いる。アルバザードではたとえ売れても、内容によってはくだらないとか低俗とか娯楽にすぎないとして高評価を得られないことが多い。 基本的にアルバザード、ルティア、凪の価値観では高尚なもの、学問、芸術が高評価を得る（人気を博すかどうかは別として）ことが多いため、ɭlɔleʃ は良く φɔleᴅ は悪いというイメージがある。

ɭlɔȷ ［名詞］主張、～説 ［動詞］ɥəl を ı に主張する、主張する、訴える、強く言う、言う ［医療］［動詞］ɥəl（病状）を訴える、訴える ［レベル］３ 1Ո: 制 : 古 :ɭəlɔȷ（考えを言うこと） ［文化］ 主張は客観的に分かりやすく短くはっきりと述べるべきとされる。また、主張は遠慮せずばんばん行うべきとも考えられている。日本では上司には主張できないし、女友達同士も主張しあうと絶交に至ることが多い。だが、アルバザードはもう少しざっくばらんに主張しあえる。女友達同士も理論や思想を語り合い、主張しあえる。そんなアルバザードでも馬鹿な相手と怒っている相手には主張しない。聞き流したりなだめたりして、まともに取り合わない。 【用例】 ıucl ɭlɔȷıʃ ʃɔᴅɥıc. 患者は腹痛を訴えた。

ɭlɔn ［動詞］ɥəl をまごつかせる、まごつく、まごつかせる、まごまごする、おどおどする、きょどる、うろたえる ［レベル］３ 1Ո: 制 : 古 :φlın

ɭlɔᴅ ［形容詞］心が広い、寛大な、度量の大きい、器の大きい、器が大きい、磊落な、らいらくな、豪放磊落な、ごうほうらいらくな ［反意語］nılcz ［レベル］３ ıՈɭʃı 【用例】 cᴅ ɥəlc, ın nıʃ lelʃ eʃ ᴅıl ɭıen sın. sın ıȷ le ʃcl nı ɭlɔᴅ ɥəu ȷen ucl, ȷɔı ın ȷeµıʃ. 子供のころ、月は空に開いた穴だと思ってた。 空みたいに広い心があっても、傷つくことがあるんだなって思った。 （µenȷ 9Ɉᛏ） ふつうの発話なら ɥəu でなく ʃcl を使うが、ここでは ʃcl の重複を避けるため用いられている。また、意味的にも ɥəu にすることで ucl との関連性を強めている。

ɭlɔı ［名詞］物語、ストーリー ［レベル］２ Ɉ0:ɭlɔ:1ʔ: 制 :ȷɔµn:ɭəlɔıȷ 【用例】 ɭlɔı lı delȷen ɭɔnʃ uɔl lı ɭlɔı. ȷee ȷeleȷ lı leȷ ʃcl uɔl e. 苦悩あるところに物語があり、物語あるところに意志がある。そして意志ある者には魂が宿る（『ネギま！』「２６３時間目」ネギ＝スプリングフィールド） "lə ȷɔlȷıʃ lıl ȷelın ᴅıl ɭlɔı lɘəʃ uecl ɷcı lɘəʃ ȷcl ȷeɷɔ" 「人の記憶に残ることが、夢を生かすことだから」

ɭlɔɭı ［名詞］物語の舞台 ［レベル］４ Ɉ0

ꞁlɔɪn ［音楽］バラッド ［レベル］５ ꞁ1:ꞁlɔɪ/en

ꞁlɔɪlcuɪ ［娯楽］ロールプレイングゲーム、ロープレ、ロールプレイング、ＲＰＧ ［レベル］３ ꞁ1: 物語ゲーム。ɥeɑɔnlcuɪ と区別。

ꞁleʃɪʃcȷ ［人名］クレタティス ［レベル］６ 古 ［文化］ 女性。２期のルシーラ。

ꞁleꞁ ［生物］扁桃腺 ［レベル］３ 古

ꞁleꞁɑɪcz ［医療］扁桃炎、扁桃腺炎 ［レベル］５ ꞁL

ꞁleȷ ［普通動名詞］場面説明、状況説明、説明 ［動詞］ɥəl についての状況説明をｌにする、場面説明する、状況説明する、ナレーションする、説明する ［レベル］３ ꞁ?: 制 : 語源不詳 【用例】 lɪnɪ ʅcᴅ ꞁleȷ 様子を見るために

ꞁleȷȷen ［アトラスの国家］クレッセン ［レベル］５ ꞁ?:ɥcɑcɪ

ꞁleȷdcɪl ［音楽］効果音、サウンドエフェクト、ＳＥ ［レベル］４ ꞁ0:ꞁleȷl eᴅ からの類推

ꞁleȷleᴅ ［音楽］ＢＧＭ ［レベル］３ ꞁ0: 場面説明となる音楽。状況を叙述する音楽

ꞁlen ［経済］銀行 ［レベル］２ ȷɔɥn ［文化］ 革命後は国の機関として存在する。いわゆる日銀しかない。

ꞁlen,ȷzɑ ɑccɪ

ꞁlenȷ ［代詞］［形容詞］あのような ［類義語］ɥəɪ ［反意語］lenɑc ［レベル］１ ꞁꞁ;ꞁlenƶ,ȷzɑ.ꞁ ꞁꞁ ［語法］ ȷɔɪ

ꞁlenȷen ［代詞］あちらの ［レベル］１ ꞁꞁ

ꞁlenɑcɪ ［地名］クレンディア。ミュールの旧称。 ［類義語］ᴅɥəəl ［レベル］５ ꞁ1

ꞁlenz ［経済］輸出 ［類義語］ɪʃᴅ ［反意語］ɑeɥʃ ［レベル］３ ȷɔɥn

ꞁlenƶ,ȷzɑ ɑlɔn

ꞁlenɪȷ ［魔法］クレナス、気動力 ［レベル］５ ꞁ0:ꞁleeʃ/nɪ ［語法］ enuelen

ꞁleulɪnȷ ［名詞］使命、クレブランス、クレヴァンス ［類義語］ɑɪȷ ［レベル］４ ɑ;e ꞁ?: 以前にあった語形を再利用。

ꞁleulɪnȷȷenʃc ［地学］［歴史］カンブリア爆発 ［レベル］６ ul;ꞁleulɪnȷlɪz/ȷenʃc「カンブリアのボウル→カンブリア紀に起こった種の坩堝化」 ꞁ?

ꞁleulɪnȷlɪz ［地学］［歴史］カンブリア紀 ［レベル］６ ul;/ ꞁ? ［文化］ φɪɪue ɑeᴅe

ꞁleulɪnȷlɪzȷɪ ［地学］［歴史］先カンブリア紀、先カンブリア時代、先カンブリア、隠生代 ［レベル］６ ul;/ ꞁ? ［語法］［文化］ 冥王代から原生代までを取りまとめて言う。

ꞁleuɪnȷ ［魔法］［哲学］五行説、五行、クレヴァンス ［レベル］４ ȷzl;ꞁleul/ɪnȷ「五つのエレメント」 ［文化］ zφ でシージアに起こった魔法理論で、ləꞁle ʃcɪ の重要な概念。基本７属性のうちさらに基本となる水風土火雷の５属性を取り出して配列したもの。方位や季節や人体構造などと深く関わる。アルバザード（レスティル）も zφ のシージア戦争を皮切りに、ȷᴅ 以降特に強く影響を受けている。 地球の五行説と比べると面白い。どちらも理論立ってできているものなので、かなり相同するはずである。特に内臓との関連などがそうである。また、夏が共通して南になっている点などは地理的な要因による。

	lɪcuɥɪ	nɪɪs	ɑlɔɪ	belzen	ȷɪdlcȷ
	水	風	土	火	雷
方位	北	東	中央	南	西
季節	冬	春	変わり目	夏	秋
人体	体液	呼吸	肢体	脈	神経
臓器	腎	肝	脾	心	肺
器官	耳	目	口	舌	鼻
味	鹹	酸	甘	苦	辛
色	青	緑	茶	赤	黄

新緑の緑、紅葉の黄色、土色の茶

５行を男女に分け、さらに１０段階に分類する。ちょうど十干に相当するのでそう訳すが、むろん十干とは別の概念である。男女は分類の一側面にすぎない。別の分類も示しておく。

男	女
陽	陰
動	静
黒魔法	白魔法
交感神経	副交感神経

この時代、むろん交感神経やリンパ液の医学的な存在など知らない。しかし経験的に知っていたのは地球と同じ。 人体で十干を作ると以下のようになる。 体液＝リンパ液・津液：血 血が女になるのは分かりやすい。 呼吸＝吸息：吐息 吐くと副交感神経が優先的になるため。 肢体＝四肢：体幹 母体が幹になる。 脈＝動脈：静脈 動脈のほうが陽なため。 神経＝交換：副交感 副交感のほうが陰なため。

ꞁleuɪnȷuccɑɪ ［生物］［医療］五兪穴、五行穴 ɥɑ;/ ꞁ⋂

ꞁleucɪ ［植物］ゼラニウム ［レベル］４ ꞁ0: ファベル語で「鶴の首」［文化］ ファベル原産。インセンスとして好んで用いられる。ɥɑ ではファーヴァのお気に入りで、ファーヴァを通じてリディアも好んだ。

ꞁleɑ ［動詞］ɥəl を ɔn について口封じする、口封じする、口を封じる、口に戸を立てる ［普通動名詞］口封じ ［レベル］３ ılıʃı ［語法］ 殺すとは限らない。

ꞁleᴅ ［生物］［医療］膿 ［レベル］３ 古

ꞁleᴅɪ ［動詞］ɥəl を殲滅する、殲滅する、滅ぼす、滅する、滅亡する、滅亡させる、滅ぶ ［類義語］scɪl、φɥecn ［レベル］３ ꞁ0:ꞁleɪ/ᴅcɥə（粉みじんにする） ［語法］ 敵を完膚なきまでに叩きのめすこと。 【用例】 "lenɪ ȷcʃ ʅeʃəl len ꞁleᴅɪ ʃeeᴅȷ ʃcȷȷe.「私たちには悪魔テームスを殲滅するのには足りないものがあった。

ꞁleᴅen ［アイテム］ボウガン、クロスボウ、弩 ［レベル］５ ȷᴅ;ꞁlᴅenʃ.ꞁ ꞁ⋂ ［文化］ ȷᴅ の ꞁleᴅenʃ で発明された。

ꞁleᴅenʃ ［地名］クレメント、クレメント県 ［アクセント］ꞁleᴅEnʃ、ꞁlEᴅenʃ ［レベル］３ ꞁ1:ɥcɑcɪ ［文化］ アルバザード東部の県。山岳地帯。県西部は比較的アルナからの登山者やハイカーたちが来がちで、lɪuen の滝が名所になっている。

ꞁleᴅenʃ(ꞁ) ［アイテム］神弩クレメント、クレメント ［レベル］４ ɥɑ;ꞁleᴅ en/ʃe ꞁ⋂:ɥcɑcɪ/ȷeɥen: ルージュだけヴァストリアがないことがずっと問題視されていたが、ꞁ⋂ にカレンダー作成が契機となってルージュにもヴァストリアを設けようという話にようやくなり、セレンとリディアの協議により、弓と銃があるのに間のボウガンがないのはおかしいということになってボウガンをヴァストリアのラインナップに加えることとなった。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ルージュのもつ神弩。

ꞁleɑcɪ ［天文］太陽系外縁天体、クレディア ［レベル］４ ꞁ0:ꞁleeʃɑcɪ（クレートのゆりかご）海王星付近にあるため。

ꞁleɥ ［丁寧］音 ［類義語］ɑɔ ［レベル］３ ȷzɑ>lȷȷ;ɑɪcɪ>ꞁ ꞁ1 【用例】 eȷꞁ ꞁcʃ. ʃə ꞁleɥ ɥeɑ nɪ ɪnʃ ȷccnɪ. 雨が降ってきた。この音は心を落ち着けてくれる。

ꞁlez ［医療］化膿 ［レベル］３ ꞁL: 古 :ꞁleᴅꞁələl（膿を作る）

ꞁlezɑclɑɪc ［医療］打膿灸 ɥɑ;/ ꞁ⋂

ꞁles ［普通動名詞］創造、クリエイション ［動詞］ɥəl を作る、作る、創る、創造する ［類義語］lɪɑ ［レベル］４ ȷzɑ;ꞁələl.l ꞁ? ꞁələl:ꞁələl:ꞁles

ꞁlel ［名詞］辞書、辞典 ［名詞］事典← ɑɪᴅꞁlel ［名詞］大きな本、大著、本 ［名詞］論文集、大きな論文、大作の論文、論文 ［レベル］２ ꞁ?: 制 :ꞁlelec（言葉の本） ［語法］ 通常は辞書を指すが、一般書籍でも辞書であるかのように大きなものや、論文でも長いものや論文集などについては ꞁlel ともいえる。 ［文化］ 最初に作られたのはカコで、魔法用の語彙リストとしてであった。 ・ɑcɪɑɪn e ꞁlel ılı ɪɪs ʅcn nɔȷ lecʅ ɪl oel ueʃ ɪ ꞁlel. 辞書の編集者は辞書にどの単語を載せるか決めてはならない。 セレンが ɥɑ で ɑꞁ の制作理念として挙げた言葉。辞書にどの単語を載せるべきかを編集者が決めるのはおこがましい。辞書に何の単語が必要であるかは引き手が決めるものだ。そして引き手はあらゆる単語を調べる可能性がある。可能性がある限り、この世に存在するあらゆる言葉を採録する必要がある。セレンはそのように考えた。この考えは後世まで受け継がれ、ɑꞁ や ɑelde などもすべて引き継いでいる。 現実のセレンも同じように考えている。百科事典でもウィキペディアでも国語辞典でも、掲載基準などというものはあってはならない。特にパソコンが普及して電子辞書が作れるようになり、紙面の都合がなくなった現代においては、ますます掲載基準など設けてはならない。辞書とは引き手のあらゆる可能性に対応できなければならない。その意味でどんなスラングであれ、特定のゲームにしか出てこない魔法の名前であれ、全く無名な固有名詞の情報であれ、辞書はあまねくすべての概念を網羅していなければならない。そういう意味でセレンにとって最も辞書らしい辞書はグーグルである。最大の辞書はニッコクでもＯＥＤでも、ましてやウィキペディアでもない。グーグルである。

ꞁlelɑel ［言語］辞書学 ［レベル］６ ꞁL ［文化］ カコで辞書が初めて作られたが、学問として大成したのは ɥɑ。

ꞁleɪ ［名詞］粉、パウダー ［レベル］２ ȷɔɥn: 紅茶用の角砂糖。hɔe は hɔɪ などと区別が付きづらく、hɔ だとむしろ塊を想像するため。 ::: ꞁɪ,ɪlʃ

ꞁleɪȷɪe ［気象］粉雪 ［レベル］５ ꞁL ［文化］ アルバザードでは最も美しい雪とされる。 【用例】 ʃə ɪʃ ꞁleɪȷɪe. 粉雪だった：誰かにどんな雪だったと聞かれて答えるとき。

ꞁleɪuelʃ ［気象］ダイヤモンドダスト、細氷 ［レベル］５ ꞁL

ꞁleɪᴅ ［魔物］クレアム（毒蛾）：第十九天：風の炎天 ［レベル］５ ꞁL:ɥc ɑcɪ/ȷeɥen/ᴅel:ꞁleɪ/ᴅɪlz ［文化］ 蟲族。風を操り、毒の燐粉を捲き散らす。特に火に弱い。

ꞁleɪɑcȷʃ ［筐堺］クレアディスト ［レベル］５ ɥɑ;「粉雪を捧げる土地」 ꞁꞁ ［文化］ 筐堺司：ꞁlccz lccȷcɪ 筐堺国：lccȷcɪ, uɔzɪᴅɔ ılȷ

ꞁleɪφɪlcȷ ［軍事］弾幕、クレアガリス ［類義語］φɪlcȷeȷꞁ ［レベル］６ ꞁ0:「粉の弾」。ダイヤモンドダスト ꞁleɪuelʃ からの造語。弾が多すぎてひとつひとつが粉のように感じられることから。

ꞁleɪφɪlcȷlcuɪ ［娯楽］弾幕シューティング ［類義語］φɪlcȷlcuɪ ［レベル］６ ꞁ1

ꞁleɪlccɑɪ ［天文］星屑、星くず、ほしくず、スターダスト ［類義語］lccɑɪȷ ［レベル］４ ꞁ0: 粉のような星

ꞁlec ［言語］小説、ノベル ［レベル］２ ꞁ?: 制 :ȷɔɥn:ꞁᴅccɥlec（クミールの好きなジャンルの本）【用例】 ɪʃʃe ɔn cȷꞁ ꞁlecʏ 小説読むの頑張って！ ʃcɔ, nɔn cȷꞁ lɪn ꞁlec ꞁɪ ez cᴅ eȷꞁ. 雨の時はただ部屋で小説を読んでいたい。 ʃə eʃ ʅed ʅel el ɪʃʃ ɑɪȷʃ e ꞁlec. 小説の要約を書くのは難しい。

ꞁlecʃɔȷ ［アトラスの国家］クレイトス ［レベル］５ ꞁ?:ɥcɑcɪ

ꞁlecᴅ ［名詞］分身 ［魔法］クレイム（ブリンク）。忍術。分身を作り、敵の攻撃の命中率を下げる。 ［レベル］３ ꞁ0:ꞁɪc⋂lecᴅɪ（もう一人の自分）

から
ˈleɔ ［言語］辞書形 ［レベル］5 1L ← 1ſ: 制
ˈleɔɔn ［サール］クレオーン ［レベル］5 ȷeɲen: 古 : 恣意 ［文化］ バオナを引き起こすサール。アルデスにバオナをかけ、テュアを犯させた。
ˈleeſ ［悪魔］クレート ［レベル］3 ɒelſcı 0:ˈleeſ;e ɲcɑcı: 古 : 当時の原則通り対となる bɼlecȷ は ee という長母音でない ［文化］ ノアを司る。２０代女性の姿。鍛えられた肉体で、軽装。ブレイスを守る。慎重。ブレイスとペアをなす。常に２人で行動し、超絶的な気を操る。海王星を司る。
ˈleeu ［地学］気候 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:ˈleeuel
ˈleeuel ［エルト］クレーヴェル ［名詞］５時 ［名詞］南南東 ［交通］クレーヴェル通り ［音楽］ミ ［組み数字］5／１２ ［類義語］leu ［レベル］2 ɒe lſcı ɱ:ˈleeuel;e 古 ［文化］ アルミヴァの５番目。エルトの右足から生まれた。太陽を司り、正義や秩序を重んじる。太陽を司ることと天のエルトであることから、天気や天候も司る。コノーテの兄。創世記ではよく審判を下す。長い杖を武器とする。厳格で規則的で潔癖。自分の正義に逆らうものを許さない。【用例】 ˈleeuel lıſ sın. 日が照っていた。
ˈleeuelȷ ［気象］雨雲← eȷˈleȷd ［レベル］3 1L:ˈleeuel/elȷ（クレーヴェル神の憂鬱）。太陽神が憂鬱になって雨雲に隠れることで雨が降るため。【用例】 ˈleeuelȷ lıſ sın. 空に雨雲があった。
ˈleeuel ȷın ［名詞］晴れ男、晴れ女 ［反意語］ɥəəɒı ȷın ［レベル］3 JJ:「クレーヴェルさん」［文化］ アルティア人が持ち込んだ概念。
ˈleeuelenı ［気象］狐の嫁入り、天気雨、晴れなのに降る雨 ［経済］押し目。上げ相場が一時的に下がることで、晴れなのに雨に喩えている。 ［レベル］4 1L: 晴れなのに雨が降るということは、太陽神クレーヴェルが空で泣いているからに違いないという考えの元に。【用例】 ˈleeuel enı ıſ ıɲ. 日が差しているのに雨が降っていた。
ˈlees ［名詞］秩序 ［反意語］uɔln ［レベル］3 J0:ˈleeuel/sc（クレーヴェルの指）
ˈlı ［名詞］場所 ［格詞］～で。処格。場所格。 ［類義語］ˈlılſe ［レベル］1 ɔɑ; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :ˈlıl, ˈlılſe（場所） ˈlıl, ˈlılſe:ˈlıl, ˈlılſe:ˈlı ɑcı（大地はサール）:ˈlı,ılſ ［語法］「子どもの前で非常識なことをするな」は ɑen eɒ ſelˈlɔnl ˈlı ɥəlc という。格詞は ȷı でなく ˈlı を使う。「～の前で」と日本語ではよく言うが、アルカでは本当にその人の前方にいることを強調しない限りは ˈlı を使う。よく誤訳しやすいので注意。【用例】 ın ɑelıſ ˈlı lecˈlı. 図書館で勉強した。
ˈlı(J),ılſ ˈleı
ˈlı,ɑ ıɑcl e
ˈlı,ılſ ˈlı <>ˈlılſe
ˈlıɱıſ ［音楽］チャチャ J1: 床を踏む音の擬音
ˈlıſȷ,ɑ lec e
ˈlıſȷə,ɑɥɑ ɒıȷ
ˈlıſı ［経済］貿易 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ˈlıɑıſe（国単位の販売）
ˈlıſıſıə ［経済］輸入 ［レベル］3 1L
ˈlıſıɲ ［名詞］カタル ［シェルト］チェック、チェックの総称 ［レベル］4 古 ［語法］ ラシェットのメンバーのこと。第４期４代のカタルはランティス。
ˈlıſılczɴɔ ［政治］貿易庁 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:clɒəȷ ［文化］ 外務省下。貿易を管理する。
ˈlıſıııſɒ ［経済］輸出 ［レベル］3 1L
ˈlıſcȷ ［普通動名詞］救済、救世、救出 ［動詞］ɥəl を救う、救う、救済する、救世する、救出する ［レベル］2 ɲɑ;ıɱıſcȷ.ˈl Jʔ
ˈlıſees ［地名］カテージュ、夕月市、夕月京 ［伝統色］山吹色 ［アクセント］ ˈlɪˈſees ［レベル］2 古 :「テージュの場所」。「夕月」lınſe ſ'ınsəɲ から。［文化］ アルバザードの南端の大都市。テージュ海のすぐ北。守護神はアッティ。
ˈlıſeesɑıuı ［被服］アフタヌーンドレス J1
ˈlıſeesɒel ［名詞］Ｐタイム ［反意語］ıɲnıɒel ［レベル］5 ul;「カテージュ式時間」 Jʔ ［文化］ ıɲnıɒel
ˈlıſeesdcnɑ ［医療］スリオロシ形。打鍼法で使う。カテージュで打鍼法ができたことから。 ɲɑ;/ Jɱ
ˈlıſeeszɔl ［音楽］マンドリン ［レベル］6 J1
ˈlıſeesın ［名詞］カテージュ人 ［レベル］2 JJ【成句】 ȷclſ ɥən ˈlıſeesın 悠々自適
ˈlıſə ［形容詞］即席の、即興の ［レベル］3 J1:ˈlı ſə「この場で」
ˈlılſ ［動物］ダチョウ、駝鳥、オストリッチ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ˈlıcˈləſɔ（大きい鳥）［擬声］ ɔɒəə
ˈlıɱı ［動物］オオハシ、チュウハシ、大嘴、巨嘴鳥 ɲɑ;ˈlıc/ˈləſı Jɱ
ˈlıɱıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］きょしちょう座 Jɱ ［文化］ cɑı
ˈlıſɔȷn ［名詞］頭隠して尻隠さず ［レベル］3 1L【成句】 ſcl ˈlıſɔȷn 頭隠して尻隠さず：ダチョウが危険を感じると頭だけ土に突っ込んで現実逃避することから。
ˈlıɱı ［親族］お父さん、お父ちゃん ［レベル］2 1L:ləlcı: セレンのことを dıdı と認識したので、次は ȷeɲen や ˈlıın も教えようとしてメルとリディアが ˈlıın と言わせようと頑張ったところ、次にセレンが見たとき「かーっ、かーっっか」と言っていたため、セレンが「かっかって何？」と聞いたことから。非自発的ながら、ルシア＝アルバザードによる最初の造語で、lcıɱ1L、メル１９年ラルドゥラの月リュウの日のこと。リディアがこの音形をなぜかあまり好まなかったことと、娘自身がやがて大きくなったこともあり、あまり長い間は使われなかった。メル２３年メルの月ジールの日にｓｋｙｐｅでセレン含め４人のアルカユーザーで話していたところ幼児語の話題からこの語に至り、ユーザーによる「ˈlıɱı はフィンランド語の幼児語でうんちという意味があります」という発言があり、ネット上をそれを確認したところ、ｗｉｋｉｔｉｏｎａｒｙで確認が取れたため、ここに追記する。なぜリディアがこの語形を気に入らなかったかが分かった。リディアは幼少期をフィンランドで過ごしていたためであると考えられる。
ˈlıɱɔ ［動物］カッコウ ［レベル］2 古 : 鳴き声から
ˈlıˈlıl ［名詞］コピー、複製、複写 ［動詞］ɥəl を ı に写す、写す、うつす、模写する、コピーする、ダビングする、書き写す ［動詞］ɥəl を ı に書き抜く、書き抜く、書抜く、書きぬく、かきぬく。国語の問題の書き抜きなどに使う。 ［普通動名詞］書き抜き、書抜、書抜き、書きぬき、かきぬき ［類音］ˈlıˈlȷ。コピーと本物が似ている音なので非常に紛らわしいが、逆にレトリック的においしい。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ˈlıˈlclı（同じに書く）【用例】 ɒcɲ ˈlıˈlıl ɑelȷ ı ſə φıɲ. 映画をこのディスクにコピーしてください。 ın ˈlıˈlɔɲ "lenle ɲcəȷφel e ˈlıɒc ʉ" ɔnſ "ıɒel ınſ eſ ucl ınˈl ȷɔı."「とある科学の超電磁砲Ｓ」と「俺の妹がこんなに可愛いわけがない。」をダビング中。 ˈlıˈlıl ɒɔlȷ ɑcl lɔɔɑel. ダビングは意外と時間が掛かる。 ın ˈlıˈlıl uın ɒıɥı l'ın ˈlılnıſ ı ɑınſφıɲ l'ın ſıəſ ȷı ɑɔə ȷel. 録画しておいたアニメをこの間買ったブルーレイにダビングしよう。
ˈlıˈlſeeſ ［魔法］複写性 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə
ˈlıˈllın ［ジョブ］写本師 ɲɑ;/ Jɱ
ˈlıˈlleu ［普通動名詞］転載、転置 ［動詞］ɥəl を ı に転載する、転載する、転置する、転地する ［レベル］3 ɲɑ;/ Jʔ ［語法］ 引っ越したり場所を変えたりする場合には使えない。元のものをコピーし、元のものが残った状態を保持しないかぎりは使えない。
ˈlıˈlȷ ［名詞］本物、本格的なもの ［形容詞］本物の ［反意語］ɑcel ［類音］ˈlıˈlıl。コピーと本物が似ている音なので非常に紛らわしいが、逆にレトリック的においしい。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ˈlclȷ:ˈlcl（類似）
ˈlıˈlı ［電算］スロット ［レベル］4 1L:ˈlıˈlc。ˈlıˈlc と同形にしなかったのは、パソコンにもヒビが入るので、ˈlıˈlc にすると故障のヒビと区別がつかなくなるため。
ˈlıˈlı,ılſ ſcn, ſcnˈlı ˈlıc.ˈl
ˈlıˈlc ［名詞］割れ目、裂け目、亀裂、ひび、切れ目 ［婉曲］女性器 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ˈlıˈlıc
ˈlıˈlɔ ［歴史］カコ、月戦争、紅姫の憂鬱、こうきのゆううつ ［レベル］3 古 : 紅姫とは皇女ルーキーテのこと。高貴と掛けている。憂鬱はアディアが抗争状態にあったことから。 ［文化］『幻想話集アティーリ』に登場する物語。上弦の月と下弦の月に分かれた人類の戦いの物語だが、やがてアルシェ・ソーンという２団体の抗争へシフトしていく。次第に召喚士はエルトと契約するかサールと契約するかで二大派閥に分かれていった。召喚士が勢力をつけると次第に勢力争いが生じた。彼らは上弦の月と下弦の月を象徴として戦ったため、これを月戦争カコと呼ぶ。カコは痛み分けで終わり、何世代にも渡って繰り返された。一旦は収束しても長い年月を経て戦った者の子孫がカコを再発させるようなこともあった。だが依然として決着はつかずじまいであった。
ˈlıl ［名詞］充足、満足、十分、充分、満タン、満杯 ［形容詞］満足な、満ち足りた、十分な、充分な、満員な、満員、一人前の ［動詞］ɥəl を満たす、満たす、満タンにする、満杯にする ［副詞］満足げに ［感動詞］もうたくさんだ、もう十分だ、もういい、もういいよ、もう知らない、もういい、もう結構です、もう結構 ［反意語］ləl ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :ˈlılı（存在が多い、満足）【用例】 nı ˈlıl ı ɑclſ 結果に満足する
ˈlılſ ［電算］スキャン ［動詞］ɥəl を ı にスキャンする、スキャンする ［レベル］3 ɲɥəə
ˈlılſıɲ ［電算］スキャナー ［レベル］3 1L
ˈlılˈl ［名詞］記録 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ˈlıˈlſı:ˈlıle（書かれたもの）
ˈlıln ［名詞］ビデオカメラ、ビデオ ［動詞］ɥəl を撮影する、撮影する、撮る、とる、録画する、撮像する ［普通動名詞］撮影、録画、撮像 ［レベル］3 1ɬ:ȷeɲen:lele: 古 :ˈlılı ［文化］ 思い出を記録する良い道具としてアルバザードには普及している。特に恋人とのデートや子供の成長記録や旅行先の様子などを撮るときに使われる。出先では荷物になるので持っていかないという人もいる。ビデオカメラは日本のものより小さく、進歩している。記憶媒体は内臓メモリで、テープは不要。画質を気にしないならアンセで録画も可能。
ˈlılnı ［名詞］満足、満足感 ［レベル］3 ɲɑ;/ Jʔ
ˈlılnɔu ［名詞］カメラワーク ［レベル］5 1L:ɲcɑcı:ıɲbılelſ
ˈlılɑcllea ［運動］フルマラソン ［レベル］4 ɲɑ;/ Jʔ ［文化］ ɑcllea
ˈlıll ［芸術］枠、枠線、額、額縁 ［芸術］サッシ、フレーム ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ˈlılıφcl（絵の金属）
ˈlıllɔd ［交通］満員電車 ［レベル］3 ul;/ Jʔ
ˈlılı ［地学］地図、道路地図、世界地図 ［レベル］2 19: 制 : 場所の図 ［語法］ 様々な地図を文脈ごとに指す。
ˈlılıdcſ ［地学］図法 ［レベル］5 J0: 地図の種類 ［文化］ アルティルで神々が作成し、人類に伝えた。神代より様々な図法が神々によって開発された。
ˈlılc ［料理］箸、トング ［レベル］2 lıˈlſı: 割り箸 ［文化］ ˈləcˈlɔn 金属製か木製。
ˈlılcele ［料理］箸置き、箸おき ［レベル］3 JJ
ˈlılen ［接続詞］ˈlıl。～で満たされた、～に満ちた ［レベル］3 J1
ˈlıl e ɒccɲ『ミールの書』 古 : ミールの書の古名。ミールの書は古

アルカの時期に書かれたものなので、正式なタイトルは古アルカ名となる。ʅıl とは古アルカで本の意味。

ʅılə ［政治］［法律］法、法律 ［レベル］3 ɑu; 原義は「紙に書かれたもの」だろう。lə は恐らく紙。ʅıɟı,ʅıʃɟ との混同が過去にあったことからも分かる。 赤 :ʅılə（法律） ʅılə:ʅılə ［語法］ → ıɥuınʃ ʅılə は法律全体を指す。「国際法」などというときは ʅılə を使う。具体的な法、例えば民法だ商法だというときは、～ uınʃ を使う。 ［文化］ ＜制定＞ 法律は法務庁が作り、事務省に提出する。事務省はそれを受け、副王の制定を受ける。副王は王の承認を得る。 ＜量刑の強化＞ ミロク革命までは人権擁護と犯罪者更生の観点で法が定められていた。ゆえに量刑は軽く、死刑も非人道的とされ、殆ど下らなかった。正に殺し得の世の中で、被害者は泣き寝入りするしかなかった ミロクはこれを悪とし、犯罪を抑制するために量刑を重くした。特に殺人は情状酌量がなければすぐに死刑である 尚、これは命には命を以って償うという単純な法ではない。ミロクは犯罪者の更生を無駄だと断言した。一度法を犯せば後がないという風潮が軽率な犯罪を防止すると判断した。犯罪者を更生するために税金をかけるのは無駄である そもそも犯罪者の更生など被害者や社会は望んでいない。彼らが望むのは彼がもう犯罪をしえない状況である。犯罪者は殺すか閉じ込めるのが一番無難である。更生させたといっても再犯の可能性が高い。だからその心配がないように殺すのが一番安心である 公共の福祉は個人の人権に優先される。だからミロクは殺人者を速やかに死刑にした。これは被害者や安全な社会の視点から見た裁きである どの殺人も等価というわけではない。復讐は十分情状酌量の余地がある。その殺人者は復讐のために殺人を犯した。その相手がいなくなった今、殺す相手はいない。社会に戻しても殺す相手がいないので心配ない。そう判断されるため、死刑にならない可能性がある ところで、殺人以外の罪も軒並み量刑が重くなった。情状酌量がなければ詐欺でも二十年以上は懲役される。強盗なら五十年はかたい。また、いたずらや暴行など、どれもかかわらず、特定の誰かに恨みをもって罪を働いた場合、ふつう終身刑になる もし自分に恨みをもっていたずらした加害者が捕まって数年で出てくれば今度は更に恨まれて殺されるかもしれない。被害者がそう悩んで生きなくてはならないのは酷である。ミロクはそうした逆恨みを実行させないために恨みのある犯罪者は終身刑に処している 少年法の撤廃 犯罪者の更生が念頭にない以上、誰にやられたかはどうでも良いことである。問題は被害者である。被害者がやられたことが重要である。誰がやったかはどうでも良い。それが大人だろうと子供だろうと関係ない ゆえにミロクは少年法を撤廃し、何歳であろうと大人と同じ法で裁くように決めた。それどころかミロクは「子供のうちから悪事を働くなど、とてもまともな大人になれそうにない」と失格者の烙印を押す。そして子供はむしろ大人より量刑を重くされる 不良少年少女の死刑や終身刑などは日常茶飯事である。但し、ミロクは親に責任を求めることはしない。親と子は別の個人であり、別々に扱われるからである。ここに連座の発想はなかった

ʅıləʃcdl ［政治］［法律］違憲審査 ［レベル］4 1L

ʅıləʅɔlᴅ ［政治］法治主義 ［レベル］5 1L

ʅıləʅɔlᴅʅıɑ ［政治］法治国家 ［レベル］5 1L

ʅıləuenʃ ［法律］法曹界 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʅıləɑıczʅɔlᴅ ［政治］立憲君主制 ［レベル］4 1L

ʅıləlıɑ ［政治］立法 ［レベル］4 1L

ʅıləlıɑʅı ［政治］立法府。国会のこと ［レベル］4 1L

ʅıləlıɑlıφel ［政治］立法権 ［レベル］4 1L

ʅıləlcznɔ ［政治］法務庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 事務省下。法律を作り、事務省に提出する。事務省はそれを受け、副王の制定を受ける。副王は王の承認を得る。

ʅıɟ ［数学］三角、トライアングル、三角形の ［レベル］2 ɟɔɥn φeφe:φeφe

ʅıɟʃcıl ［地名］カスティアル ［レベル］5 ɭ0:ɥcɑcı:ʅıl（場所）/ɟ（砂）/ʃcı ← ɑcı（地）/l ← ıl（もの）。砂の土地 ［文化］ 古代国家のひとつ。ファルファニアの南。

ʅıɟʃɔ ［植物］ナツメグ ［レベル］3 古

ʅıɟʃɔl ［魔法］カストル、銀粉 ［レベル］6 古 ʅıɟʃɔl（塵埃） ［文化］ 代表的な活性剤 (ʅıləl)。銀を砕いて粉にし、月光に晒して得る。

ʅıɟʅı ［地学］三角州 ［レベル］4 1L

ʅıɟʅıɑ ［地球の国名］ニカラグア 1L: 国旗に三角のマーク

ʅıɟɟʅcn ［名詞］あぐら、胡坐 ［動詞］ɥəl にあぐらをかかせる、あぐらをかく ［レベル］2 1L: 前から見たときの脚の形が三角形になる

ʅıɟucᴅ ［生物］三角筋 ［レベル］4 ɭ⋂‹ɭɭ

ʅıɟɑɥın ［数学］三角関数 ［レベル］5 1L ［文化］ 三角関数における三角形のそれぞれの辺は ᴅɥəʃ（斜線），zɔᴅ（縦線），ueᴅɔ（横線）と呼ばれる。これは元々木の高さを影の長さから測定したときの名残。太陽が南中したときに北に伸びる影と木が直角二等辺三角形になる。この三角形のそれぞれの辺を上記のように名付けたことから、やがて三角関数ができたときにも名前だけ流用された。三角関数は天文学で距離を測るさいに利用された。 三角関数は単位円上で考えられることが多いため、辺の比を示すものであっても、日本語と同じく「弦」で命名される。

ʅıɟᴅc ［植物］アガパンサス、ムラサキクンシラン、紫君子蘭 ［アクセント］ʅıɟᴅ€ ［レベル］3 ɟᴅ;ʅıɟəᴅc,ılʃ ɭ1 ［文化］ 南ファベル原産で、ɟᴅ でカレンに伝来し、そこから北へ伝わった。アルバザード南部でよく見られる。観賞用。

ʅıɟᴅc(ɭ) ［人名］カスミ ［アクセント］ʅıɟᴅ€ ɭ1 ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大７組で、アリスの友人。髪は黒髪ストレートの長髪。典型的なアルティア人。バンド「フィーナ」のボーカルとリードギターを担当する。メル組だがラーサを嫌って通常の制服を着ている。

ʅıɟᴅc ɟıɥbelcı ［人名］柊霞 ɭ1

ʅıɟɑeʅ ［地学］三角江、エスチュアリー ［レベル］6 1L ［語法］ 沈水海岸のひとつ。

ʅıɟbıɑ ［音楽］トライアングル ［レベル］2 ɭ1

ʅıɟhɔ ［生物］肩甲骨 ［レベル］4 1ʕ: 制 : 形から ［文化］ ここが凝ると疲れる。膏肓があることからも、重要な部位とされる。

ʅıɟhɔoıl ［生物］肩甲棘 ɥɑ;/ ɭ⋂

ʅıɟhɔoılɥɔuᴅɥəʃ ［生物］肩甲棘内端縁間 ɥɑ;/ ɭ⋂

ʅıɟhɔoıll ［生物］肩峰 ɥɑ;/。「肩甲骨の峰」 ɭ⋂

ʅıɟɥı テント 1ʔ: 制 : 三角な家

ʅıɟɥıʅıɑ ［地球の国名］キルギス 1L: 国旗の中の３本の輪がテント

ʅıɟı ［被服］三角巾 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʅıɟıbe（三角の布）。ソーン ʅɥıɟʃ が三角形。

ʅıɟı,ɑ ᴅıɟ

ʅıɟı,ɑu lec ʅıʃɟ,ɑ.l

ʅıɟın ［人名］カサン ［組み数字］3／5 ［レベル］3 1L: 古 :ʅıɟı/ʅıɟı で ıʅıɟı になって ıʅıɟ。「法」の重ね。 ［文化］ blınueɥ lcφɥe リーファ隊の３番目。男性。法と異端者尋問を担当した。徹底派で強硬な人物で恐れられた。

ʅıɟınʃe ［地名］カサンテ ［レベル］5 ɭ0:ɥcɑcı: 定規のようにまっすぐな土地（山間にギザギザした地形があるため） ［文化］ ベルフェ南西部の都市。鍾乳洞で有名。山間で、温泉も沸く。渓流遊びなどをする。

ʅıɟınɟel ［ユマナ］水曜日 ［レベル］2 1L

ʅıɟınɑıın ［化学］ブロモメタン、メチルブロマイド、臭化メチル 1L

ʅıɟınlcl ［化学］臭素 ［レベル］5 1Δ: 制

ʅıɟını ［化学］ブロモ 1L

ʅıɟınıʃın ［化学］ブロモアルカン 1L

ʅıɟıᴅe ［言語］処格 ［レベル］5 ɭ0

ʅıɟıll ［数学］三角数 ［レベル］5 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ʅıɟcɑı ［地球の星座］［ユマナ］さんかく座 ɭ⋂ ［文化］ cɑı

ʅıɟe ［形容詞］洗練された、粋な ［反意語］ıʅıɟe ［レベル］4 1L:ʅıɟe: 古 ʅıᴅıɟɔ たくさんした（学んだ）

ʅıɟeeu ［物理］三角波 ［レベル］5 ɭ1

ʅıɟəᴅc,ılʃ ʅıɟᴅc

ʅın ［名詞］缶 ［レベル］2 古 :ʅın。ʅın はオノマトペで、缶を蹴ったりして衝撃を加えたときの音からきている。日本語の「缶」からではない。

ʅın(ɭ) ［格詞］メティオ語の能格を示す格詞。 ［反意語］ɑɔɟ ɥɑ;‹ᴅe ɭ⋂

ʅın(ʔ) ［生物］［医療］経、経脈 ［反意語］ɟen ɥɑ;‹ʃın,ɟzl(ᴅcuıʃ).ıleʅ ɭ⋂

ʅınʃ ［自然動名詞］［普通動名詞］成長、発展、発達、発育 ［動詞］ɥəl を ı（状態や年齢）まで育てる、育てる、成長する、成長させる、栽培する、養う、子供を引き取る、扶養、育つ、発達する、発育する、伸びる ［レベル］2 ʃᴅ;ʅıc/ʃe「大きくする」 古 【用例】 ɥe ʅınʃ nɔɟ. 大人になれよ。

ʅınʃ(ɭ) ［音楽］力や意味を持った特別な歌、歌、カント ［動詞］ɟɔl は ɥəl の内容のカントを歌う、歌う、詠唱する、詠う ［魔法］歌魔法の詠唱、歌魔法を詠唱する、唱える ［レベル］3 ɭ0:ʅınʃe（缶の風）。鼓を打つときの音。呪文に抑揚をつけて歌うときに鼓を叩いてリズムを取ったことから。その後呪文となる歌を指すようになったが、ɑɥecᴅ がその意味を指すようになったので「特別な歌」や「力や意味を持った歌」という意味になった。

ʅınʃφcl ［政治］養育費 ［レベル］4 ɭ0 ［語法］ 離婚した夫が妻側に払う養育費の意味と、単に子供のある家庭で父母が協力して子供を育てる場合の養育費の意味があり、どちらも同じ単語で示す。養育費という単語が出たからといって必ずしも離婚したというわけではない点に注意。 ［文化］ 別居をすると子供は夫の家に残る。妻は夫より稼ぎが少ないため、養育費を支払うことはない。妻の過失で別居になった場合は、養育費でなく慰謝料として妻ないし妻の親族から得る。

ʅınʃlcuı ［娯楽］育成ゲーム ［レベル］5 ɭɭ

ʅınʃleul ［医療］発達障害 ［レベル］5 1L

ʅınʃın ［名詞］ブリーダー、保護者、親権者 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʅınʃıbel ［医療］カンタベル、陽気な性格 ［レベル］5 ɭ1: 古「大笑いする」 ［文化］ ʅıᴅelcı 【成句】 ʅınʃıbel lənı 抱腹絶倒する、爆笑する

ʅınʃıɥ ［地名］カンタル、館紫街 ［レベル］6 古 :「館」クミールの家、「紫」クミール ［文化］ アシェルフィの北部の街。クミールの家がある。ソエンよりずっと手前。 【成句】 ʅınʃıɥ ʃelen ıɑel 背水の陣。防衛部隊であるソーン側の守りを越えられたら後がない。ここまで攻め込まれるとアシェルフィに進入されてしまう。

ʅınʃene ［名詞］伸びしろ ［レベル］4 ɭɭ 【用例】 ʃcl ʅınʃene 伸びしろがある

ʅınʅ ［名詞］飼料、餌、えさ、エサ、飼い葉、飼葉、ペットフード ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɟıɑ:ʅıᴅʅəə

ʅınʅɔʃın ［魔法］［哲学］邪精 ［レベル］4 ɟᴅ;‹ılʃ‹ʅın/ʅɔʃın ɭ1 ［文化］ hcnıʃı

ʅınlcɔn ıᴅınze ［人名］カンシオン＝アマンゼ ［レベル］3 古 :ʅın,ʅɥın（父）/lcɔn（シオン）。アマンゼ家の子はたいてい～ lcɔn になる。lcɔn の親が出家したので、lcɔn 以降この法則は崩れる。 ［文化］ シオンの父親。

ʅınɟıᴅe ［言語］能格 ［反意語］ɑɔɟɟıᴅe ɥɑ;/ ɭ⋂

linjen ［生物］［医療］経絡　jzl;/　Ꭻ⋂

linjenɔᴅ ［生物］［医療］経絡治療　μɑ;/　Ꭻ⋂

linuc ［形容詞］強い、腕力が強い、力が強い ［類義語］ucen、niiu ［レベル］2　Ꭻ0:liᴅıucᴅe（筋肉が多い）

linuel ［植物］ピスタチオ ［レベル］5　古 jɔμn

linɑzel ［篭堺］カンヅェル ［レベル］5　μɑ;uılᴅılei 語で「塔」 ᎫᎫ ［文化］ 篭堺司：sccl uılcu　篭堺国：uılᴅılei, ılhinɔn, hyəφnɔ, yəlɔ

linɑıl ［人名］カンダル　Ꭻ0 ［文化］（yəəᴅı ⋂ᚨΔ٩:ᚨ0Ꭻ?）メルテナ中期の貿易商。神商会の会長。

linɑc ［人名］カンディ　Ꭻ1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

linɑcμı ［地名］カンディラの丘 ［料理］モンブラン。モンブランによく似た菓子。白でなく黄色。上には栗。人気が高い。 ［アクセント］linɑc μᚨ ［レベル］3　Ꭻ0 ［文化］ ベルティアにある丘の名。　yəəᴅı Δ00L 1ᚨ 歳のソーンが前線でメテと対峙。ソーンはわざと未熟を装い、命からがら逃げる振りをする。油断したメテが使徒を連れずにソーンを追う。そして linɑcμı の丘でソーンに葬られる

linɑcl ［魔法］カンディル。1／１００ルノン。 ［レベル］6　Ꭻ1:linɑc/ıl「カンディのもの」 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

linɑcıl ［歴史］帝国、カンディアル ［レベル］4　Ꭻ0:clinʃ/ɑcı/ıl（皇帝の土地の物＝皇帝の土地）

linɑcıljclʃlcıl ［政治］帝国自由都市　μɑ;/　Ꭻ⋂

linɑcılıln ［政治］帝国主義　nɑ;/　Ꭻ⋂ ［文化］ 帝国主義があった zφ ごろはそれが当たり前の制度すぎてわざわざ取り沙汰されることがなかった。この単語が造語されたのは帝国主義という概念が問題視された産業革命後である。というのも、このころは植民地を手に入れて資源と購入者を一気に得ようとしたが、この考え方を帝国主義と呼んだためである。

linμen ［言語］能格言語、能格型 ［反意語］yəlμen　μɑ;/　Ꭻ⋂

linzeμce ［ランドマーク］［運動］武道館、カンゼリエ、カンゼリエ武道館 ［レベル］4　lʃ;「神に届く山」 Ꭻ1:μcɑcı ［文化］ ul でできた。ul のアルナオリンピックが契機となった。　その後ライブなどにも用いられるようになった。バンドにとって最終目標となる国内最大の会館である。

linzel ［地名］カンゼル、カンゼルの森 ［レベル］6　ɑ;e　Ꭻ? ［文化］ セルア山の近くにある森。ヴィーネの家があった。

linzel ʃɔlcı ［人名］カンゼル＝トシア　Ꭻ0 ［文化］ （cᴅəl 1Ꭻ۶?:1?⋂1）メティオの機織職人。1?Ꭻ1 に nenliμʃ を発明。

linsel ［娯楽］カンジェル ［レベル］3　Ꭻ1:lic/ınsel ［文化］ 『機動戦士ガンダム』に相当するアニメ。

linleczen ［魔法］［哲学］悪霊 ［レベル］4　jᴅ;‹ılʃ‹lin/leczen　Ꭻ1 ［文化］ hcnıʃı

linlə,ılʃ　yıᴅ

linı ［名詞］階級、地位、職位、爵位 ［名詞］男爵、子爵、公爵、侯爵、候爵、伯爵、貴族、会長、社長、筆頭副社長、副社長、専務、常務、取締役、経理担当役員、非常勤役員、監査役、本部長、本部長代 、部長、次長、副部長、支店長、所長、課長、課長代理、係長、主任、平社員。これらは訳語検索でヒットがかかるようにしただけのもので、linı の実際の訳語ではない。詳しくは文化欄を参照のこと。 ［組み数字］２０ ［レベル］3　1L: 恣意 ［語法］ ʃɔnl ［文化］ → uıın　アルバ二世は軍隊を整え、軍人を元帥と士官と兵に分けた。士官と兵をそれぞれ３分割し、将官、佐官、尉官、准士官、下士官、兵卒とした。これら６種をさらに３分割し、大将～下級兵までの１８区分を作った。頂点には元帥が来るため、１９段階の階級制度ができた。　ミロクはこれに大元帥を加え、元帥と大元帥の階級を総指揮官と呼称した。よって、総指揮官・士官・兵の３階級ができ、その内訳は大元帥～下級兵までの２０段階となった。これが現在の軍の階級制度である。　一方、警察や企業における階級は軍隊とは別のところで発達した。それは非体系的で、ヴェレイにおいてすら非体系的であった。　現在の日本企業でも「副社長と専務はどちらが上なんだ」「この会社は専務がいない」「この会社は所長が一番上で社長はいない」「社長が一番上かと思ったら会長がいた」「社長とＣＥＯはどちらが偉いのだろう」といった疑問が日常的にある。　実際日本企業の場合、役職の序列に公式なものはない。世間一般では通例こうであるという程度の目安しかない。実際は会社によってまちまちで、理事があったりなかったりするし、理事が中くらいのところもあれば、理事が一番上のこともある。自衛隊と比べれば実にいい加減である。　また、日本は警察も複雑で、同じ課長でも警察庁のは警視長になり、警視庁のは警視正になる。さらに、警察本部のものだと警視になる。逆にいえば、同じ警視正でも、警察庁の理事と警視庁の課長などが横並びになっており、大変分かりづらい。　実はこの複雑さはヴェレイでは日本同様であった。そこでミロクは最も体系化された軍隊の階級を、そのまま警察と企業に当てはめた。企業は有象無象に役職を増減し、名ばかり管理職や天下りポストを作ったりした前科があるため、特にミロクは厳しく２０階級性を敷いた。　日本語だと「警視」「中将」「部長」などと別の単語で呼ぶので、覚えにくい反面、覚えればどの組織の役職だか分かるという利点がある。アルカの場合どれも同じなので、汎用性がある反面、どの組織のことだか分からない。「リーダー」や「長（おさ）」と同じように、漠然とトップを指すだけで、どの組織のことか分からない。ただ、「リーダー」にそこまで不便は感じないのと同じく、アルカでも問題は感じない。　中小企業だと２０段階すべてが埋まらないことがあるが、その場合は空白で構わない。逆に大企業では２０段階で足りないこともあるが、その場合は同一ポストに複数人を宛がって良い。日本企業で課長が部署ごとにいるのと同じである。便宜上片方の課長に hılʃ などの修飾をつけてさらに階級を細かくすることはできるが、それは社内の通用名であって、商法および会計法では認められていない。　＜訳語＞　会長、社長、筆頭副社長、副社長、専務、常務、取締役、経理担当役員、非常勤役員、監査役、本部長、本部長代 、部長、次長、副部長、支店長、所長、課長、課長代理、係長、主任、平社員　――などは日本の役職であり、アルカではすべて２０段階の中で対応させる。企業によって役職数も序列も異なるので、本辞典では役職を各単語に反映させなかった。ただし、会長か社長がおおむね ıμlılʃ で、平社員はほぼ確実に ᴅɔllɔılʃ である。　警察庁長官、警視総監、警視監、警視長、警視正、警視、警部、警部補、巡査部長、巡査長、巡査　――は日本の警察の階級で、１１段階になっている。アルカでは２０段階になっているので、およそ２倍細かい。訳語が圧倒的に足りないため、企業の役職同様、本辞典では単語に訳を宛てない。　＜爵位＞　爵位も同様に２０段階あり、男爵などよりも細かい区切りになっている。システムが違うので公爵が何で男爵が何というような一対一の関係はない。　＜２０階級＞　階級は３種類の呼び方がある。　１：八分法　ıμlılʃ, lılʃcj, hyəlı, benɔᴅ, φılʃe, nɔce, ᴅɔɔl, oılʃ の８段階に分ける。　hyəlı ～ oılʃ に関して、３段階の内訳をそれぞれ hılʃ ～、jeel ～、ᴅɔll ～で分ける。例えば大将は hılʃhyəlı で、少尉は ᴅɔllφılʃe。　長所は覚えやすいことと、どの階級エリアにいるのか分かりやすいことで、ネイティブにとっては後者の意義しかない。　短所は語形が長いことで、これが理由となって八分法は特に口語で好まれない。　２：七分法　ıμlılʃ と lılʃcj を総指揮官 ɑı llcɔn にしたもの。あとは１と同じ。組み数字などに使われる。　３：全分法　hılʃ, jeel, ᴅɔll を使わず、すべてを単純語で分ける方法。　長所と短所は上記の逆。それにしても、２０段階もあると、聞いたときにパッとどの階級エリアにいるのか分からないので不便である。　そこでアルバ一世（およびミロク）は巧いことを考えたもので、上記の８段階の語頭音がすべて食い違っていることを利用した。　語頭音が食い違っているので、ソームと同じく省略時は頭字だけで通じる。それを活かし、総指揮官以外の１８段階を命名する際、すべて語頭音だけは保持した。　つまり、oılʃ に属する３つの階級は、すべて o から始まる。これにより、どの階級エリアにいるのか、単純語レベルでもサッと理解できる。　ここが決定打となり、アルバザード人は通例全分法を使う。　ちなみに、語頭音について付け足すと、jɔμleʃ, μjccʃ, uıc を加えても重複がない。これを利用し、陣内では語頭音だけを書いた駒が置かれている。u とあればすぐ３段階中の３番目と分かる。　全分法の内訳は以下のとおり。　上位概念である hyəlı, benɔᴅ などの最初の母音に対し、必ず異なった母音で始まるようになっている。このことは全分法においても２文字で２０段階の省略記号を作れることを意味している。b ないし be と書けばベノムのことであるし、bı とあればバルティールのことと分かる。通例 b は h（将官），φ（尉官）などとの対比で使われ、be は内訳である bılʃcμ（大佐）などとの対比で使われる。　また、内訳の３段階については、下位のほうが上位より文字数が多いことがない。φcluın（６文字）、φəcyə（５文字）、φeel（４文字）のように、少なくとも下が上を越えることはない。これは一種のニーモニックとして考えられたものである。　ıμlılʃ（大元帥）　lılʃcj（元帥）　hiμɑcın（大将）　hcμuel（中将）　hejʃcı（少将）　bılʃcμ（大佐）　bcıleʃ（中佐）　bɔμʃ（少佐）　φcluın（大尉）　φəcyə（中尉）　φeel（少尉）　nılᴅc（准尉）　nelʃe（特務曹長）　nccs（兵曹長）　ᴅılʃcj（曹長）　ᴅclen（軍曹）　ᴅenʃ（伍長）　oeʃʃı（兵長）　occz（上級兵）　oɔɔl（下級兵）　７分法と２０分法は最初の２文字で階級が分かる。nɔ. は nɔce、nc. は nccs。ıμ. は ıμlılʃ で、ɑı. は ɑıllcɔn というように。

linı(Ꭻ) ［音楽］琴、こと ［レベル］5　ılʃ‹›lin（缶ｸオノマトペ）　Ꭻ1

linıʃı ［被服］袴、はかま ［類義語］ninılɔ ［レベル］4　Ꭻ1:ləjcın:ılʃ 【成句】ʃcl ucl dɔʃen linıʃı 脛に疵を持つ

linın ［人名］カナン ［組み数字］１３／１３ ［天文］カナン座 ［レベル］3 先 :ınɔ:lənɔnɔ ［文化］ 第４期３代ソーン第１３使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

linıᴅcn ［魔法］［哲学］邪神 ［レベル］4　jᴅ;‹ılʃ‹lin/ıᴅcn　Ꭻ1 ［文化］ hcnıʃı

linıᴅɔɑ ［普通動名詞］昇進、昇格、出世、立身出世 ［動詞］yəl を ı に昇進させる、昇進する、出世する ［反意語］linıᴅeɑ ［レベル］3　Ꭻ1

linıᴅeɑ ［普通動名詞］降格、左遷 ［動詞］yəl を ı に降格する、降格する、左遷する ［反意語］linıᴅɔɑ ［レベル］3　Ꭻ1

linc ［動物］孔雀、クジャク、ピーコック ［レベル］3　1?: 制 : 古 :liᴅıncᴅ（色が多い） ［擬声］ ıhcc

linccɑı ［地球の星座］［ユマナ］くじゃく座　Ꭻ⋂ ［文化］ cɑı

linɔ ［動物］鷲、イーグル ［名詞］つめかけ、爪かけ ［組み数字］３／５ ［レベル］2　lılʃı:「大きい爪」

linɔliɑ ［地球の国名］アルバニア　1L: アルバニア語で自国をＳｈｑｉｐｅｒｉｓｅ（鷲の国）と呼ぶことから

linɔn ［単位］穣　Ꭻ1:linɔ

linɔuceʃ ［地球の国名］アルメニア　1L: 国章に鷲とライオン

linɔc ［人名］カノイ ［経済］インフラストラクチャー、インフラ ［レベル］4　古 :hinɔc の古形 ［文化］ 初代開発省長官。イムル２２年、カコで荒廃したアルバザードに上水道、下水道、トイレ、医療機関を設置。避妊具を無料配布。ベルフェに自然に湧く温泉にヒントを得、公衆浴場を設置した。

linɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］わし座　Ꭻ⋂ ［文化］ cɑı

line ［名詞］缶詰、缶詰め ［レベル］2　1⋂: 制 :linı（缶）

liu ［動詞］yəl を含む、含む、カバーする ［言語］［動詞］yəl 在中、在中 ［格詞］～を含んで ［反意語］ʃcl ［レベル］2　1?: 制 : 古 :lədɔʃɔ（口の中に）

liul ［経済］財政、財務、ファイナンシャル ［レベル］4　1?: 制 :liɑıul「国のための経済行為」の意

liuldıl ［経済］財務諸表 ［レベル］6　1L

liulipnon ［政治］財務省、大蔵省 ［レベル］4　1L:clᴅəj:μcɑcı

ʅıuen ［接続詞］ʅıu。～を含んだ。 ［レベル］3 ȷ1

ʅıuec ［亜魔］カヴェイ ［レベル］5 ȷȷ:ʅıde/uecφın ［文化］ 頭に小さな角の生えたヴェイガン。角がある以外は人間とほとんど区別がつかない。 【成句】 ʅıde e ʅıuec cʅ ȷcnȷ. 馬脚をあらわす。人間に化けたカヴェイが角を見られて正体を知られてしまったというところから。

ʅıɑ ［動詞］［ポジティブ］［ネガティブ］ɥəl を憐れむ、ɥəl に同情する、憐れむ、哀れむ、あわれむ、同情する、可愛そうだと思う、気の毒に思う ［反意語］becnȷ ［レベル］3 ȷ0:ʅıɑn:19: 制 : 古 ［語法］ 本来はさげすむの反対で良い意味の言葉だが、相手が「同情しやがって！」と思うことがあるので、ネガティブになることがある。 【用例】 ɷen ʅıɑ ınɼ 同情しやがって！

ʅıɑcl ［名詞］模擬 ［形容詞］模擬の ［レベル］3 μɷ;ʅıʅȷ/ɑcel「本物のような偽物」 ȷʔ

ʅıɑclʃıȷ ［名詞］模試、模擬試験、模擬テスト ［レベル］4 μɷ;/ ȷʔ

ʅıᴅ ［電算］ＵＲＬ、アドレス ［レベル］3 ıl;ləᴅcᴅ ȷʔ

ʅıᴅʃ ［動物］鼠、ねずみ、ネズミ、モルモット、モルモットなどの類 ［色］ねずみ色。ɷɔlɑ より少し暗い。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lıʅʃı:ʅıᴅı（鼠）。ʅıᴅı は多いとか増えるという意味で、鼠を指す。

ʅıᴅʅ ［名詞］寓話 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ȷıɷ:ʅıᴅlə（動物話）

ʅıᴅȷ ［動詞］ɥəl を ı（画面や倍率など）に拡大する、拡大する ［普通動名詞］拡大 ［反意語］lccze ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ʅıᴅı（多い）

ʅıᴅu ［医療］ペスト、黒死病 ［レベル］5 1L:ʅıᴅʃ/leun

ʅıᴅφc ［動物］プルガトリウス ıl;ʅıᴅʃ/φcc「鼠猿」 ȷʔ

ʅıᴅz ［植物］ショウガ、生姜、しょうが ［レベル］2 古 ［文化］ 体を温めるとされ、冬は風邪防止に生姜湯がよく飲まれる。料理にもよく使われる。

ʅıᴅzɷclɑıc ［医療］生姜灸 μɷ;/ ȷ∫

ʅıᴅze ［商標］カムゼ、ジンジャーエール、ジンジャエール μɷ;ʅıᴅz ȷʔ ［文化］ カルディアでは地球より早く開発された。

ʅıᴅı ［名詞］玄人、専門家、熟練者、経験豊富な人、プロフェッショナル、プロ、エキスパート、達人、名人 ［形容詞］経験豊富な、玄人の、プロの ［反意語］ləʃı ［レベル］3 赤 : 多い ［語法］ その仕事により１円でも金をもらえばプロ。一切金銭を受け取らなければアマ。金銭の多寡は問わない。バイトか正社員かなど身分も問わない。つまり同人漫画家はプロである。逆に言えばどんなにボカロＰとかで再生回数を稼いでも、お金を一切もらっていなければアマである。ということはカルディアではプロよりも凄いアマが平気で存在するということである。

ʅıᴅı,ɑ ɷc elʃ;ʅı/ᴅɔ「場所を占める物」→「場所を占められている」→「物がたくさんある」

ʅıᴅı,ılʃ ɔlʃ

ʅıᴅıʃ ［政治］連邦 ［レベル］5 ȷʔ‹ʅıɷᴅıʃ:1L

ʅıᴅıʃᴅɔel ［政治］連邦政府 ［レベル］6 ȷʔ

ʅıᴅıʃɷıczʅıɷ ［政治］連邦王国 ［レベル］6 ȷʔ

ʅıᴅın ［単位］カマン ［レベル］5 ȷ1: 古 ʅıᴅı/ınʅɔ ［文化］ ınʅɔ

ʅıᴅılı ［料理］お好み焼き ［レベル］3 nɷ‹ılʃ;ʅıᴅılı‹ʅıᴅılc（多い）。具材が多いことから。 ȷʔ ［文化］ nɷ で遅れてアルバザードに流入した食べ物。食べる前から食べ終わったような形をしている（つまり吐瀉物のように見える）ということで ȷᴅ ではアルバザードに受け入れられず、カレンシア内に留まった。

ʅıᴅılın ［芸術］キッチュ、キッチュさ ［形容詞］キッチュな ［レベル］5 ul;ʅıᴅılı/en「お好み焼きのような」。一見吐瀉物に見える俗悪なものだが食べると意外とおいしいというところから転じてキッチュを意味するようになった。 ȷʔ

ʅıᴅıleʃ ［政治］参事会。自治都市の議決機関のこと。 zφ;「鳥の群れ→会議」 ȷ∫

ʅıᴅılə,ılʃ ɷc ›‹ʅıᴅı

ʅıᴅc ［名詞］科学、サイエンス、理学 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ʅıᴅccμ（科学）。語源不詳。ᴅcμ は ᴅccμ「論理」の ᴅcμ だと思われる。造語者不明。

ʅıᴅc,ȷzɷ ılᴅclʅ

ʅıᴅcʃʃe ［形容詞］科学的な、科学の ［反意語］ləȷcıʃʃe ［レベル］4 μɷ;/ ȷʔ

ʅıᴅcʃıʃȷ ［名詞］理学部、理系 ［レベル］4 ȷȷ

ʅıᴅcɷcı ［言語］サイエンスフィクション、ＳＦ ［レベル］3 μɷ;/ ȷʔ

ʅıᴅcl ［遊離副詞］［形容詞］きっと、恐らく ［レベル］1 古 :ʅıᴅıl ないし ʅıᴅ cl。l は動作を表す l。動作が多いこと、すなわち頻繁に。ʅıᴅıl の ʅıᴅı は ʅıᴅı（多い）から。母音調和していたのがなぜ c になったのかは不明。何か音の似た単語とぶつかりそうになったので避けたのではないか。 ［語法］ ıləəʃ

ʅıᴅclȷıʅ ［企業］カミルサック ［レベル］5 ȷ1:「きっと見つかる」。キャッチフレーズをそのまま社名にしたもの。 ［文化］ 電通に相当する企業。

ʅıᴅcın ［名詞］科学者 ［レベル］2 μɷ;ʅıᴅc/ın ȷʔ

ʅıᴅɔ ［交通］トラック ［レベル］3 1L: リディアの書 :ʅıcıᴅɔ

ʅıᴅeʃ ［単位］正 ȷ1:ʅıcᴅ/ʃe

ʅıᴅelcı ［亜魔］カメリア ［医療］顔色 ［レベル］3 ȷ1: 古 ʅıᴅı/ 古 el/cɔ ［文化］ 魔族ミエルの一種。阿修羅のように顔がたくさんある。 顔色とは、その人が持っている性格の一面のこと。悪さをする ᴅıluel や、正義漢の ləlcɑeμ など、それぞれに役割が異なる。 現実はマンガのキャラクターと違い、完全に悪な人間もいなければ、完全に善な人間もいない。リディアでもズルをすることがあるし、セレンでも怠けることがある。色々なキャラクターが混在して一人の人間になっている。 多重人格と顔色の違い。多重人格の場合、例えば ȷeμen と交替する ᴅıluel などの別個の人格が存在するとことになる。顔色の場合、ᴅıluel や ləlcɑeμ などは ȷeμen 本人の一面でしかない。 日本では多重人格は非常に有名なのにこの病気になる人間が極めて少ないため、確かに苦しんでいるのに単なる思い込みや我侭とされることがある。正常と多重人格の間に位置し、誰にでも多かれ少なかれあるものが顔色である。 顔色は μɷ でセレンが自己分析に用いたのが始めて。セレンは気分屋で、ミルフと対照的な性格であった。特にその日の体調によって気分の変化が激しく、そのことに悩んで顔色の発見に至った。最初に分析されたのは ləlcɑeμ, ᴅıluel である。後に ʅınʃıbel, nınɔ が分析された。 その後リディアから lccnı と eμcnı が、メルから ɷɔlɑen が分析された。これらはセレンがほとんど持っていなかったため、発見が遅れた。 ləlcɑeμ は善で安定しており、我慢強く慈愛に満ち、人を守り、暖かく柔らかく幸福である。頭の回転がよくアイディアに満ち、天才的な新しい発想をする。 ᴅıluel は悪で疑い深く、焦りやすくイライラし、攻撃的で暴力的で嫉妬深く、他人の不幸を嗤う。衝動的で犯罪を厭わない。人を傷付けることで自分が強いと安心する。ストレスを受けたときに傷付かないように対処するための人格なので、ある程度までは必要悪。 ʅınʃıbel は明るく陽気で熱く、よく笑う。不注意で危険を好み、無計画。失敗しやすく失言も多い。人懐こい。強気で厚かましく、周囲のことを考えない。音楽や運動を好む。金遣いが荒い。 nınɔ は不安症で神経質で生真面目で几帳面で慎重で他罰的。不安を払うために計算ばかりしている。必ずマイナスの結果を支持する。ストレッサーを調べ上げて排他しようと躍起になる。冷酷で、人を助けない。人との関わりを避ける。守銭奴。 lccnı は優しく慈愛に満ち、利他的で気がきく。人のことを考え、自己犠牲的。涙もろい。 eμcnı は嘆き悲しみ、愛情を求め、孤独を恐れる。泣きやすい。 ɷɔlɑen は無感情で無感動で冷淡で虚無的。 しかしこれでは際限がないことを指摘したリュウは、善悪で ləlcɑeμ, ᴅıluel、陰陽で nınɔ, ʅınʃıbel を組み合わせて使うとうまく収まると述べた。例えば eμcn, ɷɔlɑen はリディアやメルなりの nınɔ に当たる。 Ｘ軸に ləlcɑeμ を取る。正が ləlcɑeμ。右が神なので印象が良い。また ləlcɑeμ のほうが ʅınʃıbel より古いので第一軸を取るのが自然。Ｙ軸には ʅınʃıbel を取る。気分の浮き沈みという直感に沿っていて良い。 地球で実例を挙げると、ねこの郵便屋さんを書いたのが ləlcɑeμ、玲音の書の最後を書いたのが ᴅıluel、掲示板で常連と話していたのが ʅınʃıbel、サイトを消したり人工言語関連の記事を書いたのが nınɔ に相当する。 季節や気温の変化と関係があり、冬は nınɔ が出やすく、夏は ʅınʃıbel が出やすい。体調と深く関係があり、不定愁訴があると nınɔ と ᴅıluel が出やすい。 理想の状態はこの ∫ 顔色をバランスよく使うことである。座標を描いたときに原点にいるのが望ましい。 怒りやすい人は怒らない人を羨むが、これは逆に ᴅıluel が少なすぎ、バランスが悪い。 怒らないというのは必ずしも良いことではない。怒らない人というのは舐められやすく苛められやすいなどのマイナスがあり、怒りやすい人間には想像つかない悩みがある。また、自分の怒りや不満に鈍感で、ストレスが大きくなるまで気付かないなどの欠点もあり、結局バランスが大切である。 バランスのとれた人間は感情が豊かで、しばしば偏ったまま動かない人間からは気分屋に見えるが、それは気にしなくて良い。 偏った座標を転々とするのが最もストレスが溜まるとしたら、一箇所に偏るのが二番目に疲れる。単位円のように原点から少しずつ動くのが最も好ましい。つまり、怒るときはそれなりに怒り、喜ぶときはハメをはずさない。

ʅıᴅəlı ［魔物］カムラ（巨百足）: 第九十二天 : 害の陽天 ［レベル］5 古 : ʅıᴅəlı ← ʅıᴅıləı ［文化］ 蟲族。百足の化け物。立ち上がると平屋の屋根ほどにもなる。無数の脚で絡みつき、強力な顎で獲物を生きたまま喰らう。毒の粘液を吐き散らす。腺から出る黄色い粘液が体にかかっていて、体に触れた相手を腐食させる。殻は固いため、物理攻撃は避ける。魔法で倒すべし。

ʅıᴅələ,ılʃ uınɔ

ʅıᴅəc ［ジョブ］神威、カムイ ［レベル］4 ȷᴅ;ılʃ → ʅılın ȷ1 ［文化］ ʅılın

ʅıɷ ［名詞］国 ［政治］国家 ［政治］（行政単位としての）国→ ȷılıc ［形容詞］～国。前置。 ［レベル］2 μɷ;ʅılɷıcz.lcʅ 古 :ʅılɷıcz（王の場所、国）から ʅılɷıcz:ʅılɷıcz:lı uıɷɔμ（地はサール）:ȷcı,ılʃ

ʅıɷʃccı ［名詞］愛国心 ［レベル］4 ȷȷ 【用例】 "ɑɔʅ, nɔn ıləəʃ ııs ɑın lın ʃcȷʃ ᴅcl ləəȷ ʅılᴅı ȷc ʅıɷʃccı.「それと、愛国心を持たれては困るから、必ず混血児を選ぶことにしたわ。

ʅıɷʃccın ［名詞］愛国者 ［レベル］4 ȷȷ

ʅıɷʅılə ［法律］公法 1L

ʅıɷləʃɔ ［動物］国鳥 ［レベル］5 μɷ;/ ȷʔ ［文化］ ucsɔn

ʅıɷlcıᴅ ［経済］国債 ［レベル］4 1L

ʅıɷᴅɥəʅıle ［宗教］国教 ［レベル］4 μɷ;/ ȷ∫ ［文化］ ʅʅ でアゼリアがアリスカンテを国教として定めたのが始まり。その後 nɷ で人類が魔法を失ったことでアリスカンテは形骸化する。μʃ で政教分離の観点からアリスカンテが国教から外れ、アルティス教も国教でないままだった。しかし ul の旧革命でミロクがアルティス教を国教とする。以後アルバザードではアルティス教が国教となっているが、国民が全員アルティス教徒というわけではない。丁信仰などを信じるものもいる。

ʅıɷᴅccnı ［植物］国花 ［レベル］5 ȷ1 ［文化］ アルバザードは μɷ で決まり、桃。ルティアはコスモス。アルティアは桜 (ʅɔzəe)。

ʅıɷᴅɔel ［経済］ソブリン債 ［レベル］6 ȷȷ:ʅıɷᴅɔellcıᴅ

ʅıɷᴅɔellıᴅc ［経済］ソブリンリスク ［レベル］6 ȷȷ

ʅıɷɷcμec ［政治］国境、国境線 ［レベル］3 1L

ʅıɷφııbel ［名詞］国章 ［レベル］5 μɷ;/ ȷʔ ［文化］ ʅeμn アルバザードの国章は四角形の蔦の中に国木である欅が門のように二本立ち、そ

の間に救世主であるセレンとリディアが描かれたもので、μα で制定された。リディアがセレンにすがる構図で、セレンは空 (ılʃees) に向かって飛翔しようとしている。欅は二人の出会いを象徴し、セレンの翼は ılʃees への飛翔、すなわち悪魔の討伐を象徴する。セレンとリディアの色は lcȷ から uelʃıueμcı へのグラデーションで表現される。　・ルティア国章　国旗同様 ɔlcuce から ɑlcıns を使ったグラデーション。人物はルティアの大魔導師にしてアルシアの１１魔将の師匠であるユクレシア。魔法の光を手から放っている。　・凪国章　国木（正確には木ではないが）の竹が四隅にあり、中央には ɥənɔ, ucμ, nɔı の三竦みが置かれ、中央に ıμᴅı が座す配置となっている。中央の文様は刀を振り下ろすときの揺らめくような切っ先を示す。

ʅıαzɔᴅ ［植物］国木、国樹 ［レベル］5　μα;/　ʝʔ ［文化］ → scnz

ʅıαlıφel ［政治］国家権力 ［レベル］4　1L

ʅıαı ［政治］国旗、バナー ［レベル］3　1ʔ: 制 :ʅıαıde ［文化］ ＜アルバザードの国旗＞　アルバザードの国旗は μα でアシェットによって制定された。　大きさは横長の長方形で、比率は１:√２の白銀比(大和比)。　アルバザードの象徴色は赤なため、国旗の地の色は αcılccuı ＃ｅ２１８３ａ。αcılccuı は月とリディアに掛かっている。　左上には国を示す幼字が ɥəəlɔ で書かれる。色は lcȷ ＃００２２００。　右下には ıμbızıμα ＃００３ｆｆｆの三角形。アルバザード人、ルティア人、凪人で主に構成される三竦みであることを示す。アルバザードという名前の色がそのまま用いられている。　左下には絡みあう二本の紐が二組。　上は北部アルシアに住み、凪人より早くから流入していたルティア人及びルティア語を意味する紐。厳密にはシージアのアヴァンシアンを象徴する紐であり、色は ıuınl ＃１７３ｃ５６。　下は南部カレンシアに住み、ルティア人より後に入ってきた凪人及び凪霧を意味する紐。カレンシア系凪国を象徴する紐であり、色は ȷəclen ＃００４８００。　二本の紐が絡み合っているのは「言語と文化の交わり」と「アルバザード人と、かの民族の交わり」を象徴する。　中央部には国家のスローガンが掲げられている。　スローガンは ıμlı αe lıα ʅɔn ʅɔ ȷel（ローマは一日にして成らず）をもじって ıμlı ɔnʃ ıμbızıμα αe lıα ʅɔn ʅɔ ȷel（言語と国家は一日にして成らず）という意味である。　フォントは ılblınʃ を使用する。　・ルティア国旗　背景は ɔlcuce（ルティアローズ）の bʕbʕαα。最下部のナイキのような模様は南端にある ȷeμeμcı 海を象徴し、色は ɑlcıns の bʕαıαα。中央下部寄りでは薔薇の蔦の絡まる魔杖ヴァルデが交差し、その中央に幼字が座す。ヴァルデの色は黒で、幼字の色は elȷe ᴅczıμc の 0000ᗰΔ。　・凪国旗　背景は ıμclı の ʔɖLɖLɖ。アルバザード国旗の右下の三角の折り返しを半分程度に小さくしたものを四隅に付ける。色は hıφılc の ɑ0ɬ0ᗰ⅃。幼字は中央で、色は ʅıᴅəc の ⅃ɬɬʕᗰ⅃。ʅıᴅəc 色の幼字の周りを護衛のように守り飾るのは ȷıeoılc の 00⅃ᗰᗰΔ。幼字の下に刀が横置きされる。色は ɔμαcın の αꟼαꟼαꟼ。その刀に国花である桜の文様が ʅɔzəe の αᗰΔαꟼɬ で乗る。　なお、現実では ᴅel ʝʔ 初頭にｔｗｉｔｔｅｒ上でネットユーザーとの交流のもとで成立し、ユーザーの手によって実際に作られたものである。

ʅıαın ［政治］国民、人民、臣民 ［レベル］3　1L:ᴅelcαcı ılcȷ

ʅıαınʅıα ［政治］国民国家　1L ［文化］ → ʅıαınlıφel　ʅıαınlıφel を採用する国家。

ʅıαınȷʃıȷ ［法律］国民解職、リコール ［レベル］4　1L

ʅıαınuıc ［軍事］国民兵 ［レベル］6　⅃0

ʅıαınαıȷ ［法律］国民発案、イニシアティブ　1L

ʅıαınzcᴅ ［法律］国民投票、レファレンダム ［レベル］5　1L

ʅıαınlıφel ［政治］国民主権 ［レベル］4　1L ［文化］ ランティスの即位後にできたが、絶対王政の色が強く残っているため、形骸的であった。　ミナレットの台頭から、徐々に本来の意味を得ていく。

ʅıαcuılucnl ［医療］［法律］国民皆保険 ［レベル］4　⅃1 ［文化］ cuılucnl

ʅıαcı ［歴史］カディア族 ［レベル］6　⅃0: 古リディア語「大きな人」

ʅıαeȷʃ ［政治］国名、国籍 ［レベル］3　1L:clᴅəȷ:μcαcı

ʅıαelᴅı ［歳時記］建国記念日 ［レベル］3　⅃0: 国の記念 ［文化］ イムル 10 年 L 月 ʝʔ 日、アルバ二世はアルナ城を制圧し、アルバザードを建国した。これを以って建国記念日とする。平年なので１６１０年９月２２日に相当するが、これをメル暦に直すとメルー ʔꟼL ᴅcʅ ʃın である。

ʅıαelα ［言語］公用語 ［レベル］3　⅃⅃

ʅıφ ［形容詞］富んだ、裕福な、お金持ちの ［形容詞］豊富な ［形容詞］心が豊かな ［形容詞］土地などが生産力のある、豊穣な ［属格］金持ち ［類義語］φılαnıl, φınʅeᴅȷ ［反意語］ʃcα ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 : 裕福＝ʅıφc（金が多い） ［文化］ 富は悪でもあるため、どちらかというと忌避される。逆に貧困は清貧に繋がるため、善行とみなされる。どちらも行き過ぎがよくないと考えられ、適度に金があり、適度に清貧であることが尊ばれる。つまり、貪欲なのも貧困が過ぎるのも良くないと考えられている。 【成句】 ʅıφen ȷeʅ ʃcαen. 金持ち喧嘩せず。 【用例】 ın nı ʅıφ ɔl cn ılʃəʅ αc. 豊かな収穫物を見ると心も豊かになる：日本語の豊かとはニュアンスが違う。「俺、今年金持ちになったなぁ」というわりと俗っぽい感じ。

ʅıφμı ʃμcʅɔl ［人名］南神楽　⅃1

ʅıφılеı ［地球の国名］コスタリカ　1L: 国名が豊かな海岸

ʅıφəlı ［企業］カグラ　ılʃ ［レベル］3　⅃1 ［文化］ ソニー、パナソニック、ナショナル、富士通、東芝、日立に相当する企業。

ʅıd ［名詞］電話 ［動詞］ɥəl について ı に電話する、電話する ［レベル］2　μʃ:ıμʅılcȷ heȷʃcı;ləᴅcᴅ。発明者が、余っていた短めの好きな語形を選んで命名した。受話器を置くときのかぽっという音から来ているという説もある。　古 :ləᴅələʃeȷlın が長いので別語から何らかの頭字語にしたものが ʅıd だったが、それが何だかは誰も覚えていない。古アルカでは ləᴅələʃeȷlın（テスランによって言う）だが、長いので ləᴅʃe だった。ləᴅʃe よりも ʅıd の方が複合語中では使われた。

x:x: ［語法］ ・格組 「ɥəl に電話する」ではない。典型的なミス。　・音　呼出音：ıdɔdɔ。プルルル　切れた時などの音：ʃəəʃ。ツーツー　受話器を取り置きする音：ʅʃıʅ。ガチャ　・出るとき　ʃə eʃ ᴅccμ ınʃcȷȷe.（こちらはミールです）のように、ʃə を使う。 ［文化］ ıμʅılcȷ heȷʃcı　もしもしに当たるのは ʃclınʃeȣ。相手はそれに対して自分の名を名乗る。ın eʃ ではなく ʃə eʃ で始める。　電話はアンセの一機能として実装されている。音声チャット、映像＆音声チャットが可能。アンセは個人使用が前提なので、単体としての電話機は企業内に残っている。　電話番号はアンセのＩＤ番号に等しい。ＩＤをじかに入力するのではなく、ケータイのアドレスと同じく短縮ダイヤルになっている。電話番号は世界共通である。つまり世界に同じ電話番号を持つ人間はいない。電話番号はアンセに登録された個人を表わす番号と同じである。端末を変えても生涯変わることはない。そのため、犯罪に使われることがないよう、番号はアンセと同じく暗号化されている。　人に電話番号を教えるときはアンセをケータイのリーダ部分に当てて読み込ませる。テレビや雑誌などで会社等の電話番号を伝える場合、日本のように何番と番号を言うことはない。画面や紙面に小さい模様のような物が表われるのでそれをケータイのカメラで写すと番号が登録される。　尚、企業用の番号は個人用とは異なる体系である。といっても使用する国民にとっては何ら違いを感じ得ない。　Ｍタイムを採用しているため、人といるときは電話に出ない。ただし緊急時のみ断って出る。電車やバスなどの中で話すことは許されるが、ふつうの会話同様、大きな声を立ててはいけない。 【用例】 ıμ ʅıd ı ～に電話をかける　cȷ ʅıd ı{c} ～との電話を切る　ʅıd ʃə ı そのことについて～に電話をかける　ɥəʃı ʅıd cʃen{xe} ～からの電話に出る　ɥəʅc{ȷeʅ} ʅıd cʃen{xe} ～からの電話を無視する、拒否する、電話に出ない　ʅıd lənıʅ. 電話がかかってきた。　ʅıd eᴅ cȷ. 電話が切れる。電波などの具合が悪くて自然と切れること。　ucnı ʅıd 電話を切る、電話が切れる。電話をかけてもいつまでも相手が出ないと切ってしまうが、そのときの切るが ucnı（諦める）に当たる。　ɥəʃı ʅıd ɑɔ ʅʃıʅ 電話にガチャっと出る。受話器があるころの擬音。　nɔn ʅıdıʃ ı lı ʃıʃ αəμne ȷı ᴅɔʅ. 毎晩、私は寝る前に彼に電話をしていた。　le ʅıdıʃ ıl ın cᴅ ın ᴅc ıʃə. 私が居ない間に誰かから電話があった。

ʅıd(⅃) ［人名］カップ ［組み数字］１０／１６ ［レベル］4　ᴅelʃcı ᗰᗰ:ıμαə/eȷʃı;e　古 ［文化］ eȷʃı　エスタの第１０子。男。

ʅıdʅı ［動物］コガネムシ ［レベル］3　1ʕ: 制

ʅıdn ［法律］条約 ［レベル］4　1ʔ: 制 :ʅıαdcnı（国家間の約束）

ʅıduılȷ ［医療］電話医 ［レベル］5　⅃1 ［文化］ cuıl

ʅıddel ［企業］カッペル ［レベル］5　⅃1 ［文化］ ニトリに相当する企業。ディミトリアよりも安値路線。

ʅıdɔʅ ［動物］カブトムシ、かぶとむし、かぶと虫、カブト虫、甲虫 ［レベル］2　⅃0:ʅıdʅ:1ᗰ: 制 :ʅıdeʅdɔ（角の虫）

ʅıde ［名詞］角、枝角 ［動詞］ɥəl を ı に突っ込む、突っ込む、突進する、つっこむ。lıʃ と同じ格組。 ［レベル］2　1ʔ: 制 :ʅıdel 【成句】 ȷcnȷ ʅıde ɔn ʃɔʃɔ ʅı ʃɔʃɔ 角を見せる：台頭する、頭角を現す、頭角をあらわす 【用例】 lı ȷcnȷıʃ ʅıde ɔn uıuı ʅı ɑeʅʅı. 彼は学校の体育で頭角をあらわした。

ʅıdeʅıα ［地球の国名］マダガスカル共和国、マダガスカル ［レベル］6　1L: 国章に角

ʅıdeɥıᴅe ［交通］ママチャリ ［レベル］3　⅃1

ʅıdez ［名詞］電話ボックス、公衆電話のあるところ ［レベル］3　1L ［文化］ ケータイの普及とともに徐々に廃れていった。

ʅıdel ［サール］カペル ［レベル］5　古 ［文化］ 角が生えた白い馬。たてがみは栗色で目は青く、角が黄金に輝く一角獣で、ユニコーンのようなもの。角から雷をレーザーのように出して敵を焼く。ネルメスと同じなのでサール。

ʅıdelzcɔ ［魔物］カペルジオ（角鰐）：第二十九天：土の陽天 ［レベル］5　1L:μcαcı/ȷeμen/ᴅel:ʅıdel/zchɔ ［文化］ 爬族。背中のゴツゴツが異様に大きく、角のようになっている。顎が強力で、人も飲み込んでしまう。

ʅıdellcl ［化学］ポロニウム　1Δ: 制

ʅıdelcɑı ［地球の星座］［ユマナ］いっかくじゅう座　⅃ᗰ ［文化］ cɑı

ʅıhc ［法律］罪、咎、とが ［類義語］αcz ［反意語］ʃμen ［レベル］2　ɑ;e 赤　ʅıhc:ʅıhc:le φec ［語法］ 法に触れない罪が ʅıhc で、法律上の罪が αcz。ʅıhc のほうが軽いかといえば、そうとも限らない。民衆の私刑では ʅıhc が大きく考慮される。ʅıhc は法には触れないが人道上、宗教上、誤った行いによるものである。そのため、必ず αcz より軽いとは言い切れない。　敬虔な教徒にとっては αcz よりも ʅıhc のほうが不名誉である。この違いはコロケーションにも及ぶ。nı ʅıhc とは言えるが、nı αcz とは言えない。ʃcl αcz が正しい。ʅıhc は心に染み込むが、αcȷ は対象でしかない。 【成句】 lecn ʅıhc 罪をかぶる、罪を背負う 【用例】 nı ʅıhc 罪悪感がある

ʅıhcᴅc ［名詞］帯 ［レベル］3　⅃⅃:ılʃ ［語法］ 布製で平たく幅が広い。

ʅıɥı,ɑ　led　ɥı は痛いと関連か。「痛むところ」？

ʅıɾ ［普通動名詞］引用 ［動詞］ɥəl を ı に引用する、引用する ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ʅəhıɾᴅı(ʅə の幻字)。ʅə が引用符代わりに使われたことから。

ʅıɾʃe ［名詞］カルテ、中央公園 ［レベル］2　古 :ʅıɾʃe, ʅıɾʃen ［文化］ → ıμnı（直径は１５００ｍ (1⅃00ᴅelɑc) である）　アルバザードの各都市の中心にある大きな公園のこと。カルテは住宅区、企業区、商業区から独立した街区。都市最大の公園で、中心にはカルテンがある。休憩、談話、遊戯、憩いの場として使われる点はふつうの公園と同じ。カルテは緑豊かで空気が清浄である。大抵は噴水や池があり、川があるところもある。全体の形は円形で、境界の多くは低木の植栽か頑丈で高い金網で囲まれている。或いは葉の多く冬でも枯れない高

い木が植えられている。地面は舗装されているところと、土が剥き出しのところがある。　子供の遊具は遊戯場に集まっている。どの位置からも監視の届く安全なところにある。遊具同士は固まって置かれていて、必ず監視が行き届くようになっている。また、子供の遊具の周りには特別に金網などで境界が設けられていることもある。
　水道の水は清浄されていて飲める。飲み水以外の水道がある。太い水道で、各所に点在している。これは消火用の水道であり、子供たちでは容易に開けないようになっている。これらの水道には長いホースが設置されている。カルテには守衛所があり、常に数人がカルテ内とカルテの付近を巡回し、数人が守衛所で待機している。水道は守衛所のところにあり、飲料水に毒を加えたりできないようにされている。　トイレは非常に清潔で広く、紙が備え付けられていて水洗である。個室の扉の外側にはパネルが付いていて、そこに手をかざすことで扉が自動で開く。水洗は内部のパネルに手をかざすことで流れるが、無駄な水を使わないよう、水は１度しか流せないように設定されている。もう１度流すには１度出ることになる。トイレはカルテの隅の方にある。トイレは基本的に密室な為、何が起こるか解からない。数人に連れ込まれて金を脅し取られるようなことがありうる。その為、トイレ付近には男女二名の守衛が常に配置されている。このことは更にトイレ紙の窃盗、覗き、痴漢、放火、破壊などの犯罪の軽減に役立っている。トイレが有料なフランスでは有人トイレがたまにある。エッフェル塔脇のトイレには階段を下って中に入ったすぐ左手に窓のないオフィスがあり、人が座っている。入って左が男子トイレで、使用後、オフィスを通った際に硬貨を置く。これと似た造りであるため、トイレでのカツアゲ等が起きない。
カルテには都市最大の図書館が常設されている。カルテは中心部にいくほど賑やかである。中心部にはステージがあり、演奏などができる。また、最も中心の場所にはカルテンがあり、アルテへの礼拝が可能である。カルテンは防音効果が高く、中は静かであるが、機械装置のおかげで涼しい。中心部に比べるとカルテの周縁部は静かである。飛行機やヘリコプターはカルテの上空を基本的には通過できない。しかし、都市によってはカルテの利用者が多い時間帯にのみ通過を禁止することもある。カルテは国の管轄で、維持費は税金でまかなわれる。　カルテ内では出店が許されていて、軽食などが売られている。軽食というのは日本で言えば菓子類やたこ焼きやクレープのようなものである。もう少し食事になるようなものも売っている。軽食の出店はカルテの内部に多い。カルテの美化は徹底されている。クリーンキーパーが数名常設され、軽食の店舗も極力ゴミを出さないような商品を売る。一々資源を無駄にするような包装は極力避けられる。とりわけ、利用者側にも強い美化への心がけが要求される。　カルテはふつう公園に比べ、維持費がかかる。守衛の人件費、設備費、維持費など。従って、多くのカルテを作ることはできない。ゆえに一都市に一つである。住民達はよりカルテに近いところに住もうとする。そのためカルテ付近の地価は高い。　日本の番地は駅から近い方が一丁目ということがあるが、こちらはカルテからどの程度離れているかで番地が決まる。

ʅiɾʃen ［建築］礼拝堂、カルテン ［レベル］２　古 ［文化］ → lccʅı カルテンは lccʅı 内の中心部にある礼拝堂である。全てのシーカに一つずつ設けられている。　シーカはカルテにあり、カルテの周りはステージがあるのでしばしば煩い。そのため、シーカには防音処置が施されている。しかし、機械装置によって中は涼しく保たれている。
カルテンの中心部にはサリュという祭壇がある。サリュは最もアルテと交信を行いやすい場所とされる。カルテンの存在意義は正にこのサリュを保護することである。従ってカルテンの部屋は強固な造りが第一に要求される。　アルティス教徒はふつう祈りをどのような場所でも行うことができる。だが、祈りはアルテに届かなければ意味がないため、信者はできるだけアルテに祈りが届きやすい場所を求む。サリュは中でも特に交信しやすい場所とされているため、特別な願いを持った信者はサリュに赴いて祈る。尚、サリュの使用料は無料。　カルテンはカルテが開いている間は使用できるが、カルテが閉まっている時間帯は使用できない。また、サリュを破壊したりしないようにカルテンで持ち物検査が義務付けられている。カルテンでの祈りはキリスト教の告白とは違うので、誰かが祈りの内容を聞くということはない。サリュのある部屋は強固な造りで、完全な防音で、電波も入らない。盗撮や盗聴の危険がないように常にサリュの部屋はチェックが行われる。

ʅiɾʃenlɔdn ［交通］中央アルナカルテン駅 ［レベル］５　1L:ᴅelcɑcı ılʃe ［文化］　カルテンの周囲にある地下鉄。１２本のアルミヴァ線のターミナルである。

ʅiɾȷ ［植物］園芸、ガーデニング ［レベル］３　古 :ʅiɾȷ（園芸）← ʅiɾʃe ［文化］　園芸は庭で行う。ベランダも庭の一部なので、ベランダでも良い。ベランダでは洗濯物を干したりせず、園芸の場として活用する。多くの家は緑化運動として自宅で何らかの園芸を行う。全世帯が園芸を行えば都会の中でも緑の量はかなり多くなる。園芸で好まれるのは花。木は背が高いし根を張る場所がないので、一戸建てでないと難しい。したがって、鉢植えなどに花を植えておくことが多い。どうしても木を育てたいのであれば小さい木を鉢植えなどで育てる。つまり盆栽。アルバザードでは盆栽は老人の趣味ではなく、一般的。園芸で好かれるのは匂いの弱いものである。匂いが強いと集合住宅の場合、苦情が来るため。一戸建てでも隣家に迷惑なので匂いの強いものは置かない。

ʅiɾlɿ ［非言語］カルラス ［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılʃe: 引用する手 ［語法］
　ジェスチャーのひとつ。引用や特殊な造語であることを指す。アメリカ人は両手の人差し指と中指でダブルクォーテーションを作るが、あれに相当する仕草。　手をパーにして、親指を曲げずに中指の位置まで持っていく。親指はどこにもつけない。横からみると手が「つ」の形になる。この「つ」の形の手を右手で作り、左から右に流れるように持っていく。引用部分や強調部分をラインマーカーで引いて指示する動作を手で表したもの。

ʅiµ ［動詞］ɥəl を使わないでおく、取っておく、存置する、残しておく、残す、温存する、とっておく ［反意語］ɥɔl ［レベル］２　1L: 恣意 ［語法］
　まったく使わないという意味ではなく、節約してゼロにしないでおくという意味。 【成句】 ʅiµ ınueµ 臥薪嘗胆 【用例】 ʅiµ lcdl ɑccnı nɔn. 私の分のケーキ残しといてね。

ʅiµʃ ［名詞］カード ［娯楽］カードゲーム、カード ［遊離副詞］［形容詞］したりしなかったり：φılɑ と同じ発想。 ［レベル］１　1L: 古 :ʅııɑe（カーデ占いに使うカード）無声音の方が言いやすいので ʃ にし、ʅıʃ だと音がかぶるので µ に変えた。 ［語法］ ıləəʃ ［文化］ ʅəzφcn、lıʃɔȷ 【用例】 ȷıı, ın len uelɑ ʅiµʃel ı. まぁ、飲んだり飲まなかったりだな。 nɔn ʅɔµ ɑıl ıʃɔc lını eu φcl ı ʅiµʃ. チャージするためにコンビニへ行かないといけない。

ʅiµʃe ［サール］カルテ ［レベル］２　ᴅelʃcı LL ȷen ucı:ʅiµʃe;ʅəc/ıµʃe　古 :ʅiµʃe ← ʅəc/ıµʃe。かつてエルトと考えられていた時期があったが、食物は天より地に近く、主に地が作るものであるという考えでサールと捉えなおされた。 ［文化］　飲食を司る。転じて栄養、滋養などを司る。 【成句】 ıl ʅiµʃe いただきます、ごちそうさま

ʅiµʃenʅleı ［企業］カルテナケア ［レベル］２　Ɉ1 ［文化］　イオン、セブンアンドアイ、イトーヨーカドーに相当する企業。コンビニは少ないのでスーパー小売としての大企業。

ʅiµl ［政治］（行政単位としての）県→ ȷılıc ［形容詞］～県。前置。 ［レベル］２　1ɱ: 制 : 古 :ʅıcµəlclɔ（大きな家）

ʅiµle ［娯楽］カルシェ、トランプ ［レベル］２　古 :ʅııɑe/ıµle ［文化］　地球とほぼ同様のものがある。元々メル暦で１３ヶ月使っていることから、月のカードとしてリディアからルージュまでが採用されている。それを聖数の４種類分揃え、春夏秋冬のカードとする。そこにおまけのカードとしてルシーラのセレンとクミールを足すと、ちょうどトランプと同じ枚数になる。トランプと異なるのは一枚一枚が数字でなく、春のリディア、秋のメルのように人名になっている点。なお、数を利用することもあるため、それぞれのカードには数も書いてある。また、セレンとクミールの数は１４で固定されている。トランプは遊びや小規模の賭けに使われる。　ゲームによってカードの強さは異なるが、一般的にジョーカーのアシェットやテームス、また１番であり世界の救世主である大召喚士リディアは強い傾向にある。もちろんゲームによって１が一番使えない場合もある。

ʅiµȷcclʅcucȷʅ ［俗語］［普通動名詞］親前音読 ［レベル］５　ıl;「親のところで音読」 Ɉʔ ［文化］ ıl の ɥəᴅcʅl 用語で、キチガイなスレタイやレスに対する揶揄として使われる言葉。「幼女のおまんこ美味しいよあばばばばｗｗｗｗｗ」→「親前音読」（親の前でそのレス読み上げてみろよ）というような感じで使う。

ʅiµɑın ［人名］カルファン ［組み数字］２／１６ ［レベル］４　ᴅelʃcı ʔʕ:ıµɑə/eȷʃı;e　古 ［文化］ eȷʃı　エスタの第２子。男。

ʅiµᴅı ［エルト］不死鳥カルマ ［名詞］不死鳥、フェニックス ［レベル］４　古 :µcɑcı ［文化］　死なない鳥。エルトなのは空を飛ぶことから。

ʅiµᴅıʅıɑ ［地球の国名］ウズベキスタン　1L: 国章にフェニックス

ʅiµᴅıleµn ［天文］オメガ星雲　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel ［文化］　不死鳥カルマが羽を広げたような赤い星雲。

ʅiµᴅıᴅcleel ［アイテム］カルマミレール、不死鳥の羽、フェニックスの尾、世界樹の葉 ［組み数字］２／１２ ［レベル］４　Ɉ0: 不死鳥カルマの羽 ［文化］
　天然物なので、開発されたものではない。不死鳥カルマが舞う際に落ちた羽。ヴィード死状態の人間を蘇生するアイテム。羽を死者の胸の上にかざすと、暖かいオレンジ色の光があふれ、羽が崩れて砂になり、死者が蘇る。レアアイテムで、通常は手に入らない。 【成句】 ʅiµᴅıᴅcleel cʃen ȷcel 棚からぼたもち、濡手で粟　ʅɔn ʅiµᴅıᴅcleel 起死回生

ʅiµᴅıɑɔʅ ［植物］常緑広葉樹林 ［レベル］５　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ: 年中落ちずに葉が幅広い木

ʅiµᴅıφeʃ ［植物］常緑針葉樹林 ［レベル］５　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ʅiµᴅıcn ［植物］ハイビスカス ［レベル］４　1L:「不死鳥の花」。南国で咲き、年中咲いていることから。

ʅiµᴅıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ほうおう座　Ɉɱ ［文化］　cɑı

ʅiµɑ ［生物］目、類 ［言語］語。特定の民族に使われる言語というレベル。lʃ, ıµ など、ʃɔʃɔµen に相当するレベル。これ以下が方言レベルとなる。 ［レベル］４　µɑ;ʅıɑ.ʅ　ɈɈ ［文化］ µəᴅı

ʅiµɑcnı ［魔法］カルディナ、心 ［レベル］６　ls　ɈɈ ［文化］　リディアの失った９つの心。ʅiµɑcnıl からだが、ʅiµɑcnı,ȷzl（夢幻）にもかかっている。　心の花で、集まるとクリスタルになる。

ʅiµɑcnı,ȷzl　lɔnɑ、lıɑcı、ɑcı　<>ʅı/ɑcı

ʅiµɑcnıl ［植物］ɑcıcn ［ランドマーク］アルナ大学。校章からの異名。 ［組み数字］１／９ ［レベル］４　ȷzl;ʅiµɑcnı/ıl　Ɉ1

ʅiµɑcnıl(Ɉ) ［言語］［文字］標準書体、標準幻字書体、カーディナル書体、カーディナル ［類義語］ʃcnı ［レベル］４　ɈɈ:ɑleɑclıɳ ［文化］ ɑleɑclıɳ

ʅiµɑcnılµecn ［組み数字］秋桜賞 ［レベル］５　Ɉ1 ［文化］　→ µıdıll　ȷᴅ で lccze 姫が文官を技能に応じて９階級に分けた。アルティアから伝わっていた浴衣のような服を着て登朝するのが習わしで、上位者は白、中位者は青、下位者は緑と定めた。これを白文官などという。またそれぞれの位をさらに３段階に分け、上白文官～下緑文官までの９階に分けた。これが ȷᴅ でアルバザードに伝わった。リーゼはまた文官にそれぞれの位階を示す９種の草木花を定め、それぞれの位階の象徴とした。このため、それぞれの以下は草木花の名で呼ばれるようになった。µɑ ではこの花の名をセレンが序列組み数字９に用いた。この花は当時のルティア王宮で美しいとされた順に定まっている。ルティア人は派手ではっきりとしたものを嫌い、ささやかでか弱いものを好む。また、高価なものを下品と嫌う傾向がある。そのため蘭やバラなどは思ったほど高くない。フランスのようにバラを非常に愛する国からすれば、バラがかろうじて９位で、蘭が入っ

てもいないというのは非常に驚くべきことだろう。とはいえ９位に入っているのだから国花のひとつと呼ぶのにふさわしいくらいの人気はあり、薔薇園も盛んである。アルバザード人はルティア人ほどではないが上流階級ほど同じような嗜好性を持つため、この序列には違和感を感じない。なお、ハスは風土的に沿わなかった。ライラックよりラベンダーが好まれた。百合やチューリップのような形でしかも花弁が比較的大きいものはランク外の傾向にある。スズランくらいの大きさならば良いが、スズランは神話的にイメージが悪い。カエデは国樹なので別枠。なお、桜と桃は木でなく花の付いた枝を象徴とする。

lipɑclinj ［アイテム］鎌、カルディランス、カーディランス ［類義語］dipl ［レベル］３ jzl;lipɑcni/linj「夢祓い」 l1 ［文化］ 大鎌の一種で、薙刀に似た武器。刃の部分が横に長いのが dipl で、刃が薙刀のように縦に長いものが lipɑclinj。刃が三日月状になっている。 あやかしから身を守る神器として現代でも儀礼的に用いられる。 夢織の紗枝の武器でもある。

lipɑci ［魔法］［アイテム］カルディア、カード、魔法のカード ［魔法］［アイテム］月→ yelclcj ［ユマナ］［娯楽］スペルカード ［レベル］３ l0:lipf/ɑci ［文化］ 魔法のカード。アデルなどの絵が描いており、力が封印されている。 ［用例］ el lcp ucl lipɑci ɔl ɔle jc jelej. fe idci ni ɔnf ilep yenɔl ef fcɔ linɔl enlel lel yeni jc jelej. fe ef lcel lin lel yeni ef fcɔ lenf pcef enfɔ yeni ni.... 魂がなければカードは出ません。私に魂がなかったらこの気持ちも感情も全てはニセモノの作り物で、私はただの空っぽな人形なのかも知れないと思うと……とても……（『ネギま！』「２６３時間目」絡繰茶々丸）

lipɑcin ［魔法］カーディアン、カルディアン ［レベル］３ l0 ［文化］ カーディアを操る者。

lipɑcin ɑcclci ［娯楽］カーディアン・フィーリア、カルディアン・フィーリア ［レベル］３ l1 ［文化］『カードキャプターさくら』に相当するアニメ。

liz ［名詞］ペン ［類義語］hensc ［レベル］２ pelfci 100:bepf;e。もとはシャンテを書くときの人差し指のことを意味する言葉。ペンの意味を持つのは pelfci l1 から。 l?: 制 : 古 :lijizipɔ（書く木） ［文化］ hensc ［用例］ hɔl liz ペンを回す：アルバザードでは物を投げるのと同じく無礼なのでしないこと。 in jcf liz l'in ilf lɔn. 書くためのペンがなかった。

lizli ［名詞］ペン立て ［レベル］２ l1: 制

lizn ［名詞］看板 ［レベル］２ l?: 制 ［成句］ yee ilcn pɔlen lizn ɑiiu 華やかな看板の下に美人なし：名物に美味いものなし

lizhiel ［言語］ペン体 l0 ［文化］ hielpecn

lizhɔj ［名詞］筆箱、筆入れ ［レベル］２ l?: 制 : ペンの入れ物

lizi ［文字］文房具、ステーショナリー、筆記用具 ［レベル］２ pelfci 100:bepf;liz.l l1: 制 :liz ［語法］ →hiel ilfɔn より広く、事務や学校で使う定規や電卓など文具全般。 pelfci 100 に悪魔ベルトが開発。光の魔法で空中に文字を書くもので、筆記用具や紙の質に字体が影響されず、幻字のような曲線と直線を組み合わせた文字が最初から可能だった。

lizef ［名詞］シャープペンシル、シャーペン、シャープペン ［レベル］２ l1:liz/fe

lisc,ilf lcn

lil ［副詞］［形容詞］ちょっと、少し ［レベル］１ l1: 古 :lilɔ（少ない） ［語法］ uipf

lil(l) ［アイテム］刀、かたな、カタナ ［レベル］３ ［類義語］ɑpec ɑu;lclc.l l0 lil:lil:lilc,ilf jili,ɑcφcf

lil(?) ［エルト］lilzij の略称 ［組み数字］６／１２ ［レベル］１ ll

lil,ɑ li、lilfe、ilɔ e

lilf ［接続詞］［は］より～でない ［数学］未満 ［格詞］～未満、＜、（時間を伴って）～まで ［反意語］nɔɑ ［レベル］２ l1: 古 :lilɔ（少ない） ［語法］ lilf fep という場合、今は含まれない。

lilfel ［植物］街路樹 ［名詞］カルチェル ［レベル］３ lf;「植わった場所」 ll ［文化］ アルナ大の部室棟の別名が lilfel。ケヤキの街路樹を歩いた先にあるというメトニミーからこの名が付いた。後期大学と一緒なので、前期大学生にとっては先輩たちに顔を売る機会が得られる場所になっている。高校以下は部室が宛てがわれないが出入りは自由。

lilfin ［宗教］司教、ビショップ zφ;「車輪のスポーク」 l0

lilfcj ［軍事］元帥 ［名詞］ラスボス ［組み数字］２／２０ ［レベル］３ 古 :zi ni:linɔc/linfcj（塔の上にいる人（とても地位が高い人）） ［語法］ lilfci ［文化］ 大元帥の下。現代ではアルタレスが担当。

lilfcpcj ［武道］組み手の型、天地拳、カルティリス ［レベル］５ l0: 相手がカイトクレーマーになって反映しあう型なので、licfllecpii と cl cpcej で lilfcpcj ［文化］ ユベールの組み手の型。聖数の４を基盤とし、４手の動作で攻め、４手の動作で受けの型を形成する。これを練習すると一人でも組み手を練習できる。上中突きから始まるものが最も基本型。 ［用例］ fɔll lilfcpcj 組み手を練習する pɪcj lilfcpcj 組み手を覚える ip lilfcpcj 組み手をする ip lilfcpcj ɔl nene ～と組み手をする

lilfcip ［建築］庭、ガーデン、中庭 ［レベル］３ jp ll: 古 lilfe ipel「内側に秘めた場所」 ［文化］ 庭園様式は jp で発達した。ガーデニングは現在でも盛ん。

lilfce ［人名］カルティエ ［名詞］昼。１１時から１５時。 ［形容詞］昼の ［レベル］１ l0:pcɑci:lilfef.jzɑ（昼の太陽） hyedi:hyedi:li lilfce ［文化］ pczipc

lilfɔ ［名詞］森 ［形容詞］～の森。前置。 ［レベル］２ ɑ;lil/fɔ（森） 赤 lilfɔ:lilfɔ:li lilfɔ ［用例］ lilfɔ lceacl 深い森

lilfɔle ［普通動名詞］森林浴 ［レベル］３ l1:pcɑci:ipbilelf:ɔilpɔɑ に対して lilfɔle。lilfɔ は pɔɑ できないので。 ［文化］ ɔilpɔɑ

lilfɔɑili ［被服］ウッドマンズブーツ pɑ;/ l0 ［文化］ jp でできた。森の中を歩くために作られた。

lilfe ［名詞］場所 ［類義語］li ［レベル］１ ɑ:jil;li/il/fe → lilfe,ɑ 古 lil, lilf e:lil, lilfe:li ɑci（大地はサール）:li,ilf ［語法］ li が短すぎて格詞と思われそうなときに誤解を避けるために使うのがひとつ目の用法。 もうひとつは、le と pen j の違いに相当するが、li に対して特に何かの意味がある場所のことを lilfe という。話者にとって何らかの意味のある空間を lilfe と呼ぶ。別にそこがカーペットだろうと道端だろうと、話者の焦点が当たっていれば lilfe といえる。 ［成句］ cl lilfe, cl ɑepe 古今東西

lilfe,ɑ ［名詞］［副詞］ip ［アクセント］lilfE jil;li/il/fe ［語法］ lYlfe だと場所で、lilfE だと疑問詞「どこ」。

lilfef ［気象］昼の太陽 ［医療］陽明 pɑ;<jzɑ l0

lilfen ［接続詞］lilf ［レベル］３ l1

lilfen(l) ［政治］伯爵、アール jp;lilfe/en l0 ［文化］ 土地を持った貴族。

lilfeel ［アトラスの国家］カルテール ［レベル］５ l1:pcɑci:lil/feep（テームスの地）

lilli ［法律］刑務所 ［レベル］３ 古 :lil/lihc（罪の場） ［文化］ 少年院などは存在しない。青少年も罪を犯せば一様に刑務所に入る。 ミロク革命後は、終身刑の囚人にせよ死刑囚にせよ、囚人は刑務所で強制労働をさせられる。革命中の収容所と異なり、極めてきつい仕事というわけではない。ミロクは犯罪者を社会の役に立てるため、できるだけ長く働かせようと考えた。だから囚人の労働環境は悪くない。常人とそう変わらない仕事をさせられ、待遇もそうは悪くない。健康で規則正しい健全な生活を強いられる。一方、死刑囚や終身刑の囚人は過酷な労働をさせられる。死ねばそれで構わないし、生きていてもいずれ死刑が来る。最後まで囚人から労働力を搾る。この囚人は不健康で不衛生で危険な最悪の仕事をさせられる。ときには解剖や薬の人体実験の材料としても使われる。薬の人体実験はアルバザードの医療を発展させるため、大きな利益を生む。これらの囚人に人権はない。彼らは重大な犯罪を犯した時点で人権を放棄しているとみなされる。これらの囚人には監査が付き、脱走などを防ぐ。だが監査の一番の仕事は彼らの自殺を防ぐことである。刃物は極力持たせないし、舌を噛んでもすぐに治療する。 刑務所では囚人によって様々な製品が生産される。それは公共物として世の中に流布する。たとえばカルテのトイレットペーパーなども彼らが生産したものが多い。それらの製品には「私は自分の罪を償います」とか「私は社会に貢献します」などと印刷されていることが多い。

lillihc ［アトラスの国家］カルカヒ ［レベル］４ l1:pcɑci: 罪の処 ［文化］ 面積：۹۲۱۹.۸۸۹۲ lp ］ メティオの罪人が島流しにあった島。アルティルでメティオの支配を逃れて独立。

lillc ［天文］ベガ ［類義語］ɑcipes ［レベル］５ ɑu;lelc.l l1:pcɑci ［文化］ ɑeɑinj

lillc,ɑ sclc lil は場所。lc は動き。「動いてできた裂け目」

lilɔuel ［軍事］［地学］カルコヴェル、篋堺、きょうかい ［レベル］４ l0:li lfe/lɔue/il（箱のような場所） ［文化］ l501 アシェット、トルバドールを結成。アルバザードはカレンシアと合わさり、カレンザード篋堺となる。この時点ではまだヴェルシオンとベルガンドは敗戦を宣言していない。アシェットはこれらの征服を目指すべく、予めラヴァにヴェルシオンを、クノンにベルガンドを宛てがい、ヴェルアンジェ篋堺とサントミュール篋堺を作る pɑ でアシェットは悪魔と対抗するために人類をまとめようと活動した。その呼びかけに応えた連合国を fɔluiɑɔp という。その意味は「全国」だが、残念ながらすべての国家が参加してはくれなかった。文明の遅れていた地域や悪魔との戦いが深刻でなかった国はわざわざ派兵する旨みがない。結果、pcɑccf 以南、ɑipɑinci 以南は参加していない。 アシェットはトルバドールの参加国を文化圏・経済圏の観点で２８のグループに分けた。そのひとつひとつのグループを lilɔuel という。そして使徒を一人ずつ宛てがい、保護責任者とした。テームスを倒した後も彼らは持ち場において要職に就いている。 ただし最初のうちは彼らはアルバザード住まいが多かったので、出張という形で lilɔuel に赴くというのが実情で、遠方から権力を行使しているだにすぎなかった。セレンらがアルカディアへ去る前後には、徐々に使徒は赴任先に定住しないた長期滞在するようになっていた。 なお、ul と bφ は確実に人類が征服するという強い意思を持って予め lilɔuel に含まれている。そして実際その後人類が勝利し、トルバドールに編入されている。

ipliinfcj の幼字の大文字部分が示すものは元は使徒の苗字であった。彼らは子供の頃は素性が知れないものが多く、苗字を持っていなかった。自分が王家の血筋だと知って lefci という苗字を得る者や、副リーダーだからという理由で uipjccli という苗字を得る者など、パターンは様々であった。 アルシェの苗字は後に統治することになる国の名である。登場初期には付いていない場合がほとんどで、王族と発覚してから苗字を得るパターンが多い。 ソーンの苗字は個性に基づいて命名されたもので、元々苗字を持っていないか苗字を捨てさせられた子供の集まりだった。 lilɔuel ができると、使徒の苗字は lilɔuel をも指すようになった。例えばクミールの苗字の字は、クミールの苗字という意味では pefe と読むが、同時に国名としては pefcɔ であり、さらに lilɔuel としては jɔnipcin である。jɔnipcin は pefcɔ およびその周辺国家である。 lilɔuel は文化圏・経済圏ごとのまとまりでできているので、アシェットは経済の活性化のために lilɔuel 内の通貨を統一し、小規模なユーロを作っていった。ユーロは国が多すぎて経済格差が激しい。２８地区に分ければ文化差や経済格差はより狭まり、貿易の簡略化、労働力の流動性などが高まる。労働力の流動性が高まっても小さい面積なので、富める国の仕

事が激減するリスクもユーロよりは低い。　この改革は結果的に成功し、悪魔との戦いで大きく落ち込んでいた経済活動は導入前より活性化した。さらにはこれが一部の ʅılՈɔuel 内で一部の商品についての関税撤廃などにも繋がった。　　ʅılՈɔuel は言ってみれば小規模な経済圏で、必ず１カ国以上の国からなる。ləʃcı のような強国はひとつでひとつの ʅılՈɔuel を形成する。　幼字の苗字の部分は ʅılՈɔuel という地域圏ないし国名を指すとともに、それぞれの地域の通貨を表す記号でもある。例えば ləʃcı の文字なら ɒcın を指す。　　幼字の苗字はアルバザードのように元々国を意味する字もあれば、uılɔ のように使徒個人の性質によって造字されたものもある。その字自体は本来 ʅılՈɔuel とはなんら関係がないが、ʅılՈɔuel の成立とともにそれぞれの ʅılՈɔuel の名も表すようになっていった。もちろん使徒の苗字という読みも残っている。一字が複数の読みを持つ日本語と同じ原理である。　　µɑ 以降、国の増減や各国の国力の変化があったため、現代では µɑ 当時の ʅılՈɔuel はそのままの形では残っていない。しかし国が滅んでも土地が動くわけではないため、地域圏や国名を示す字として ıl 以降も使われている。例えばリディアの苗字の ləʃcı は未だにルティア国かつルテティア箆堺を意味する。　　・箆堺司　　ʅılՈɔuel の責任者は euınsel（箆堺司）という。白雪の槍をシンボルとして持っていたためである。

ʅılՈə,ɑ　ıȷʃel　ʅıl/Ոə。ʅə‹ʅc で「動く」。

ʅıll　[法律] 定員、定数　[レベル] 3　1L:ʅıl/ıll（いっぱいになる数）

ʅıllelcın　[魔法] カルシェリアン　[レベル] 4　J0:ʅıllelce のカルミーユ　[文化]　異空間に置いたアイテムを出し入れする魔法。時魔法。時空魔法。カルシェリエは人だが、カルシェリアンは魔法。アティーリでは死神のように武器を空中から取り出すといった特殊能力を持つものがいる。これは魔法であって人間にも使うことができる。時魔法の一種で、時空を操る。

ʅıllelce　[魔法] [ジョブ] 刀隠、戸隠、トガクシ、とがくし、鞘、カルシェリエ　[魔法] カルシェリアン。この意味で使われることも　[レベル] 4　J0:ʅıl/lelceµ　[文化]　自分の胎内に刀を仕舞う人のこと。神話におけるティーテルやエンナがこれに当たる。トガクシは常に女性で、女性器の想起と関連付けられる。　【成句】 [丁寧] ɥəəʃ ʅıllelce ɔʅ nene 〜と性交する　ıµ ʅıllelce 戸隠しする

ʅılȷcɑıµ　[形容詞] 神に罰せらる、神に呪われた　[反意語] ʅılıɒcʃc　[レベル] 3　J0:µcɑcı:ʅılıɒcʃc の反意語であることを示すために ʅıl を置き、光を失った (ȷcɑıµ) を続けたもの。　【用例】 el eɒ ʅılȷcɑıµ ɔl ʅəueµ ɑc. 人を悪く言うものは神の報いを受ける。

ʅılȷeel　[地名] カルセール　[レベル] 5　ɒelʃcı L٩ ȷen ucı;ʅıl/ȷeel　J0:µcɑ cı:「中つ国」 [文化]　古代国家のひとつ。ハーディアン人の移民によって建国された。サルディーンとメディアンの間。後にサールの本拠地となる。

ʅılȷeelın　[名詞] カルセール人　[レベル] 5　J0

ʅılȷə,ɑ　leıʅ　ʅıl/ȷə

ʅıln　[法律] 陪審　[レベル] 5　ȷɔµn

ʅıluıenın　[魔法] 貧蓄体　[レベル] 6　J1　[文化]　ɑɔlɒcɥə

ʅıluccɑµɔn　[魔法] 低晄圧　[レベル] 6　J1　[文化]　ɑɔlɒcɥə

ʅılucen　[音楽] メゾフォルテ　[レベル] 5　1L

ʅılɑılcȷ　[箆堺] カルファリス　[レベル] 5　µɑ:dıl;ʅıl/ɑılcȷ「正義の土地」　JJ　[文化]　箆堺司：dıl ccləəʃɔ　箆堺国：ccləəʃɔ, ȷeµeµcı 諸島

ʅılɑıc　[料理] 弱火　[レベル] 3　1L

ʅılɑcı　[芸術] イラスト、イラストレーション、絵画、図画、一枚の絵画　[類義語] lecȷ　[レベル] 2　µɑ;cʅıl/ɑcı「四角に収められた世界」　J?

ʅılɑcıl　[名詞] 絵本　[レベル] 2　µɑ;ʅılɑcı/lec　JՈ 登録だが以前からあった。

ʅılɒı　[遊離副詞] [形容詞] しばしば　[レベル] 1　1L: 古 ʅıɒı（多い）から　[語法]　ıləəʃ　【用例】 ın cn ʅe ɑelȷ ʅılɒıl cɒ ȷɔɔʃʃɔɔʅ. 週末は大抵映画を見に行く。　ın ʅılɒı lı µı ȷʅɔlel cɒ ɑəµne. 夜は大抵家にいる。

ʅılɒınʃ　[宗教] カルマント派　[レベル] 5　J0:ʅıɒı/lınʃcȷ（多い（と思う）人）　[文化]　サルト教の一派閥。語源自体はサルト教を指す。アルテを実在だと考えた。

ʅılɒıɒ　[生物] 貧乳、ひんぬー、ヒンヌー　[レベル] 4　µɑ;/　JՈ　【用例】 ʅılɒıɒ eʃ ləɑcl ɑıʅ ʃə eʃ ʃıɒ ɑıʅ 貧乳はステータスだ！希少価値だ！

ʅılɒıbez　[医療] 頻尿　[レベル] 5　1L

ʅılɒc　[名詞] レギュラーキャラ　[音楽] ドミナント　[レベル] 4　1L:ʅılɒı　[語法]　物語にレギュラーとして登場する人物。

ʅılɒcɥə　[言語] カルミーユ　[アクセント] ʅılɒ€ɥə　[レベル] 5　J0:ʅılɔ/ɒcɥə（少し変える）[文化]　音と意味が変わるもの。

ʅılɒɔ,ɑ　ılɔ、senʅı　ʅıl/ɒɔ（低い）

ʅılɒeɑc　[地名] カルメディ　[軍事] カルメディ戦争　[レベル] 6　J0:ȷʅılɑ cı/ɒeɑcın。カルセールのカルではないので注意。　[文化]　スカルディア・メディアン国境付近で、３０００年戦争の舞台となった砂漠地帯。

ʅılɑ,ɑu　deɑ　e

ʅılɑıcz,ɑu　ʅıɑ　ʅıl/ɑıcz

ʅılɑcµeʃ　[法律] 軽犯罪　[レベル] 4　J0:1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ʅılɑclɑ　[化学] 弱アルカリ性、弱塩基　[レベル] 4　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ʅılɑcı　[地名] カルディア、幻界、人工世界カルディア　[レベル] 2　J1: 古 ʅıl/ɑcı（夢幻の地）[語法]　アトラスは惑星、レカイは「この世」、アルデルは「あの世」。カルディアはレカイとアルデルの総称。アルカルテとの違いはユマナを含まないこと。　[文化]　＜カルディアの基本方針・芸術性と嗜好・価値観の相違＞　　・「リアル異世界ファンタジー」と「経験主義」　　カルディアの基本方針は「リアル異世界ファンタジー」である。理論上はファンタジー要素が１個のとき、最もリアリティが高くなる。架空の要素が少ないほど現実の要素が相対的に増えるためである。カルディアでは uccɑ のみを公理として肯定し、そこから神や魔法などを演繹させている。リアリティが高まることのメリットはその世界がまるで本物であるかのように感じられる点で、これは没入感等に貢献する。デメリットは作成に手間がかかる点である。　星の形や大陸の大きさなど、アトラスの環境は地球に似ている。もしアトラスが火星の位置にあったら人間は生存できない。また、もし陸と海の比が８：２だったら人間の生きられる気温にならない。さらにパンゲア大陸の崩れ方もある程度プレートなどから定まり、恣意的ではない。リアリティを高めていくと自由に弄れる部分は案外少なくなる。　１００％リアルにすると地球のコピーになってしまうので、ある程度学問的に矛盾のないか少ないレベルでオリジナリティを持たせ、いわゆる遊びの部分を作る必要がある。こうした方針に基づいてアトラスはできている。もちろんほかにも異世界の作り方もあるだろうしそれは否定しないが、あくまでカルディアは「リアル異世界ファンタジー」という基本方針を遵守している。　　もうひとつの基本方針に「経験主義」がある。セレンは環境が人間社会に与える影響力を高く評価している。簡単にいえば、例えば地球をもう一度作っても日本に当たるところには日本語のような言語ができるだろうし、地球のような星があったら日本に当たるところの言語は日本語のような言語になるだろうということである。中にはそう思わない人もいるだろうが、カルディアはこの考えに即している。　アルティア語が日本語のような構造をしているのもこの考えに則している。もちろんあくまで異世界なので、リアルに作り込んでいっても作者の側で自由に設定できる余白も存在する。そういった遊びの部分は例えばアルティア語の京極がヴェマ発祥でなくアルティア（ハーディアン）発祥であることなどに現れている。　同様に、用言である動詞と形容詞が日本語では互いに異なる活用を持つ一方で、アルティア語では同一の活用を持つ。これもまた余白の部分でできるアレンジといえよう。もちろんこのアレンジも適当に取ってつけたわけではない。日本の隣国である韓国では動詞と形容詞が活用を共有する。アレンジをするにもなるべく風土の近いものを調査して行っている。ラテン語がカッコイイからという理由で無理やりラテン語の特徴を持ってくるようなことはしない。リアル異世界もそうだが、この辺りは極度の神経質のなせる業ということができよう。　　個々の人間は環境に逆らおうと思えば逆らえるが、人間全体でみればそんな天の邪鬼は少なく、環境に黙って適応するほうが圧倒的に多いため、個人の意思に関わらず社会全体は環境に沿って作られる。　衣食住は分かるだろうが、セレンは言語にもある程度これが及ぶと考えており、大学院のテーマも風土が言語に与える影響についてであった。これは言語学の潮流ではなく、無視されたテーマのひとつであった。証明のしようがないからというのが理由のひとつである。しかし現象が存在する以上は理由があるはずで、研究の対象である。だが成果の出しようがなければ研究者によって無視されるのはやむを得ないのだろう。それでも世界や言語を作っていたセレンにとってはこのテーマは興味があった。　風土と言語の関係というと、例えば中国語は南に行くほど声調が多く、印欧語は北に行くほど母音率が下がる傾向にある。なぜ東西ではないのか。なぜ声調数がランダムにバラけないのか。なぜ南北なのか。南北で風土というと気候ということになるが、ランダムに声調が配置されない以上は気候が言語に何らかの影響を与えていることは確からしい。だが言語学はこの現象にそれ以上物を言おうとしない。　風土と言語が関わっているのならカルディアを作ったときにアルティア語は日本語風にすればよいという指針が持てる。指針がないと何語風にすればリアルな異世界になるのか分からない。それでセレンにとってこのテーマは重要であった。　このテーマを支えるのは環境決定論であり、広く言えば経験主義である。従ってカルディアの基本方針に経験主義が挙がっている。　　・芸術的嗜好性　　確かに作者側で弄れる遊びの部分は少ないが、少ないからこそその部分を大切に作り込めるという見方もある。どうせ作るのだから遊びの部分には理想や嗜好を反映させたい。ここは作者の意思が明確に現れる部分といえる。　アルカとカルディアは日常生活を送ることにも用いられるが、むしろ芸術用途に向いているとセレンは考えている。従って遊びの部分は主に芸術的視点で作られることになる。例えばセレンは世界中の様々なデザインを見た結果、結局のところ和風とフランス風が好きだという結論に達した。北欧のデザインが好きだという人がいるのももちろん分かる。ただセレンの場合、奇しくも自分の血に嗜好が沿っていた。理由の内訳は血が半分で、物事を穿って見ない性格が半分だと感じた。　その嗜好が反映されているので、アルバザードはフランス風なデザインのほかにカレン県経由の和風なデザインが存在する。別に風土的にはカレンはアルティア人でなくてもよいのだ。もちろんアルティア人が住んでいるのは彼らが ȷɒ で大きな軍事力を有していたからという歴史的な理由がある。だがそれでもメティオ人が入っていけない理由はない。このように、遊びの部分をどうするかは嗜好が大きく影響を与えているといえる。矛盾が生じない程度であれば嗜好を反映させるのは問題ないし、モチベーションを維持できる。　文字にも嗜好が絡んでいる。アルティア人に京極を与えたのは歴史的な理由以外にも作者の理想がある。意外かもしれないがセレンはアルカと同じくらい日本語が好きで、甲乙の付けがたい存在と考えている。その日本語はほとんどの語彙を中国語などの外国語から借りているが、もし日本語が和語を巧く発達させ、かつ漢字も借りずに独自に漢字のような文字を作っていたらどうなっていただろうかと考えることがある。またセレンはアルファベットのデザインも好きだが漢字のデザインも好きで、どちらにも良さがあると考えている。だから幻字のほかに京極のような文字を望んだし、それが地球で中国に相当するヴェマでなく日本に相当するアルティアの文字であることに面白みを覚えた。　アトラスの場合、ヴェマはサールの本拠地であったため、幼字から脱却することは政治的に難しい。一方アルティア、当時のハーディアンは神との繋がりが弱く、かつ大陸の端という防衛に適した位置にあったことからも独特の文化を生むのに適し

ていた。京極がアルティアの文字であることにはそれなりの理由がある。ただ最終的な理由は嗜好によるものだろう。例えば京極ができたのがケヴェアの辺境でなかった理由はないからだ。なぜいくつかの矛盾しない選択肢の中からアルティアが選ばれたかという点に関しては嗜好が関与しているといえよう。　　・価値観　　また、セレンとリディアは２０代後半までは自分の正しいと思う価値観以外を世界から排他するタイプの人間だった。しかしその後自分の嗜好を遊びの部分では優先させるものの、遊び以外の部分ではリアルに即して作っていくという方針に転換した。自分の嗜好よりも世界の安定を優先させた結果である。どんなにリディアのことが好きだろうと彼女と自分は別の個体であり、同じ価値観を共有することはできない。メルやルシアについても同様だ。その個体と関係を持ちたいと思うのならば、異なる価値観を受け入れる必要がある。ゆえに異なる個体が共有する世界はある程度寛大でなければならないと考える。そして寛大であるがこそ、様々な作品が創れる。　　・混血児リディア　　混血児は日本ではモテるが欧米ではモテない。リディアはモテずに暗い思春期を過ごした。どこにも自分の居場所はないと感じ、どの国にもアイデンティティがないと感じた。だから自分のための世界を作ろうと考えた。もしリディアがモテモテだったら、カルディアは存在しなかったろう。劣等感はバネになる

ɿılɑeȷ　[代詞] [φıɴɔ] ウチらの　[レベル] 1　Ɉ1:ɔucȣ:ɿılıʃ/ınʃeȷ の eȷ

ɿılɑeᴅc　[音楽] アンダンテ　1L

ɿıld　[生物] 手指を曲げて凹状にした手のひら、握りかけた手のひら、手のひら、手の平、掌　[動詞] ɥəl を把握する、把握する　[言語] 把握　[類義語] ocȷ　[レベル] 3　古 ȷɔµn: この手で何かを掴むときの「かるぷっ」という音から。日本人には分かりにくいが、口でものを「かぷっ」とはむ時の音のイメージに近いのかもしれない。　[文化]　nıɿlelɑɑel

ɿıldɑcı　[植物] 芙蓉、フヨウ　[レベル] 6　nɑ;ɿıld/ɑcıcn　ɈɈ

ɿıldıȷe　[料理] 薄力粉　[レベル] 5　µɑ;/　Ɉʔ　[文化]　dıȷe

ɿıldıɑcı　[アトラスの国家] カルパフィア　[レベル] 5　1L:µcɑcı:「橋となるところ」

ɿıldıɑcıʃcɿe　[地学] カルパフィア海流　Ɉʔ

ɿılb　[名詞] 世の常　[物理] 次元　[レベル] 3　1ʔ: 制 : 古 :ɿılbə（世界）　ɿılb ə:ɿılbə

ɿılbə,ɑ　cl　ɑcı　ɿıl/bə

ɿılhı　[名詞] 規模。抽象的な大きさ。　[類義語] ʃəȷ　[レベル] 3　Ɉ0:ɿılhın（広いところ）

ɿılhecᴅ　[宗教] 修道会、修道院　[レベル] 4　zφ　ɈɈ

ɿılɥəʃın　[魔法] 半導体　[レベル] 5　Ɉ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥə

ɿılɥəᴅ　[名詞] カリューム、双子宇宙。カルディアとユマナの総称。ıµle と ȷɔµn でいう ıɑcı のようなもの。　[アクセント] ɿılɥƎᴅ　[レベル] 3　lʃ;ɿılɑcı/ɥəᴅını　Ɉʔ　[文化]　ᴅɥəɿılᴅ

ɿılɥəɑcı　[名詞] 孤児院、カルユディア、カリュディア　[類音] ɿılɑcı。言葉遊びでカルディアと結びつけるのに使える。　[レベル] 3　ɈɈ: 古 ɿılʃɔ などと同じ造語。「孤児の場所」

ɿılzıȷ　[エルト] 悪心カルザス　[名詞] 6 時　[名詞] 南　[交通] カルザス通り　[音楽] ファ　[組み数字] 6 / １２　[類義語] ɿıl　[レベル] 2　ᴅelʃcı ɱ:ɿılzıȷ;e　古　[文化]　アルミヴァの６番目。エルトの左腕から生まれた。悪い心を司る。エルト神の破片から生まれた。ルフェルとダルケスの父で、コノーテの夫。エルトを支配していた。デームスと戦い、大きな功績を挙げる。ラヴァスになってルフェルが力を付けると彼女を初のエルトの王に立てた。ヴァルファントに挑み、知略で勝ち、ヴァルファントを従えた。本人は王にはなれなかったものの、娘のルフェルが王になった。知的で狡猾で好奇心旺盛。

ɿılzıȷɿəueµ　[名詞] 流言飛語、流言蜚語　[類義語] ɑceᴅez　[レベル] 4　ɈɈ　[語法]　ıl の ɥəᴅcɿl などに見られる悪意のある嘘の悪口のこと。しばしば現実に沿わない嘘であり、基本的に悪口であっても本当のことなら ɿılzıȷɿəueµ とはふつう言わない。

ɿılzıȷıdı　[ユマナ] [音楽] ヘ音記号　[レベル] 5　1L

ɿılze　[名詞] 市庁舎　[レベル] 5　ɿɿ;ɿılʃe.ɿ　Ɉɱ

ɿılzeele　[軍事] カルゼーレ、漿座　[レベル] 5　Ɉ0:ɿılʃe/zelɔ　[文化]　アンジェリカ脳内のコクピット。ヴェルディエルで満たされ、ディアメルが壁面から出ている。

ɿılzeele(Ɉ)　[人名] カルゼーレ、斬吹、きりぶき　ɿɿ;ɿılzeele,lɔlɔȷ‹›ɿclȷe leȷ。訳語は ɿcl（切る）/ȷeleȷ（息吹）→キリイブキ→キリブキ→斬吹から来ている。　Ɉʔ　[文化]　暗殺者の大家。ɿɿ の lɔlɔȷ 発祥の家だが、µɑ 以降本家をアルバザードに移した。初期は弓だけでなく忍者道具のくないや手裏剣といった飛び道具を好んだが、φleı の発明以降は銃火器を専門に取り扱うようになった。カルゼーレ家の者は遺伝的にユノとノアに恵まれるが、ヴィルには恵まれない。従って φleı の使い手は少ない。ただし偶に多大なヴィルを持って生まれる女がおり、この場合ユノ、ヴィル、ノア全てに恵まれることになる。このため、カルゼーレ家の当主は伝統的に強力な能力を持った女性であり、典型的な母系社会である。

ɿıloı　[地学] 高山、霊峰、大山、特別な山　[レベル] 2　赤 : 手のひらの形のような場所という原義

ɿıloı,ɑ　oıl　ɿıl/oı「手の形のような場所」

ɿıloıɿıɑ　[地球の国名] ネパール　[レベル] 6　1L: 国旗にエベレスト

ɿıllc,ɑ　ɿlcɿ

ɿıllcl　[化学] フランシウム　1Δ: 制

ɿılı　[動物] ムカデ　[レベル] 2　古 :ɿılı、ɿıᴅıləı（たくさんの足）

ɿılı(Ɉ)　[植物] ハギ、萩　[レベル] 4　µɑ;ılʃ　ɈɈ

ɿılıȷ　[代詞] [φıɴɔ] ウチら　[レベル] 1　Ɉ1:ɿᴅccµ:ɿɔleʃ と似るため ‹ɿılıʃ:Ɉ1:ɔuc ȣ:ɿɔlı/ʃe

ɿılıȷl　[化学] 弱酸性　[レベル] 4　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

ɿılın　[ジョブ] 武士、武者、カラン、侍、サムライ、さむらい　[反意語] ɿılen　[レベル] 3　ȷᴅ;ılʃ‹ɿılın‹ɿıl ə‹ɿclc　「刀の人」　Ɉ0　[文化]　→ ılʃcın, lɔlɔȷın　ȷᴅ のアルティア人の間に ucµ が少なく nɔı と ɥənɔ の多い遺伝子が普及する。その結果魔導師がほぼ絶滅。戦闘は男だけが引き受けるようになり、女は家に押し込められるようになった。　アルティア人はヴィルを持たない代わりに強力なハノン等を持って生まれてきたため、剣士が非常に有力になった。豪族は有能な剣士たちを集めて力をつけ、成り上がっていった。有事の際に豪族を守るという名目で剣士を雇い、普段は奉公させその見返りとして石高を与えた。こうして封建制ができあがった。　このとき剣士たちはカラン（武士）と呼ばれた。カランに要求されたのは裏切らないことであり、すなわち忠誠心である。また、常にカランは誠実であることが求められた。ここから忠義を尊ぶ武士道精神が生まれることとなる。領主と武士の結びつきは強く、生涯にわたって続くものであった。
　魔法という常識が通じないこと、あまりに文化的に差異があること、地理的に大陸の端であることから、アルティアは孤立した国になっていた。ɿɿ では鎖国が実施され、ルティアから貿易の打診を何度も受け続けた。　ȷᴅ で業を煮やしたルティアがアルティアに開国を迫ると、開国派と鎖国派に分かれて内乱が起こった。結局鎖国派が内乱に勝利し、攘夷を決行。カランの軍団を率いてルティアに攻め入り、圧倒的な刀の力でルティアの魔法兵団を切り捨てる。　フランディール（現トモエ）陥落後、ルティアは現領土の西半分を明け渡すことで和平に同意。こうしてアルティアの文化がルティアに入り、武士やアルティア人の服装がルティアに入る。元来ルティアは寒い地域なので、アルティア式の合わせを持った服は着ない。しかしこのときのことが原因で、現在ルティア人は袴や浴衣のような服も着る。　　カランの戦闘方式は剣による集団戦法である。１０人程度からなる小さな隊を複数組み、組長の指揮の下に動く。隊の規模が極めて小さいため、機動力に優れる。地上では馬を使って移動し、長距離は飛空する。戦闘時には馬を降り、剣で戦う。機動力を重視するため防具はほとんど着けず、下記の画像のような服装で戦う。　カランの持つ剣は ɿılc（刀）であり、アルティア産の刀は世界一優れている。µɑ ではリュウがほれ込んで愛用した。　刀の威力は絶大で、特に卓越した武士にかかれば、魔導師がいくら魔法で防御しても防壁ごと斬り捨てられてしまう。　µɑ になるとルティアが勢力を強め、現在の領地を取り戻す。　カランの性格は武士道を重んじ、非常に寡黙で恥を恐れる。しかしプライドが高すぎて刃傷沙汰になることがある。また、集団になると始末に負えない点があり、一人一人は大人しいのに戦場になると急激に残忍になる性質を持っている。そのため、ルティア人虐殺など、歴史に汚点が散見される。　　・下位区分　　戦場における武士の各部隊は φıləᴅı という。ガルマはカランとアマガタリで構成される→ ıᴅıφıʃılc　武士は上級、中級、下級にランク分けされる。下級は「裾持ち」という意味の ȷıeoılc、中級は「石切り」という意味の hɔnɔɿılc、上級は「天薙ぎ」という意味の ȷɔlıᴅıɿclc と呼ばれる。　画像は石切りの服装。刀は左に一本。帯と長い鉢巻。髪は結って上げる。色は裾持ちは黒青、石切りは赤茶、天薙ぎは黒灰となる。　このうち上流から精鋭九十九人を選び、王の親衛隊を作る。この親衛隊は ɿıᴅələ（守る）の名詞形 ɿıᴅəlc（守護）の転で ɿıᴅəc と呼ばれる。訳語には神威を当てる。　数が九十九人なのは王自身を百番目にして最後の守護者として計上するためである。
　戦時には ɿıᴅəc の半分の５０名が国外に出て、残りが国内での役務につく。　神威は浅葱色の羽織と袴を着ている。国外を務める５０人の総大将は新橋色の羽織を纏う（国内は言うまでもなく王）。　新選組と違って浅葱色の服などは平時から着られる。といっても常に着ているわけではなく、適宜黒い袴とやうちきなども着る。

ɿılınlıb　[名詞] 滅私奉公　[レベル] 3　ɈɈ

ɿılıᴅcʃc　[形容詞] 神に守られた、神に認められた、神の加護を得た　[反意語] ɿılȷcaıµ　[レベル] 3　Ɉ0:µcɑcı: 古 ɿıl/ 古 ıᴅcʃc「神とともにある光を与えられた」[語法]　アルデの一族とは限らない。むしろ魔方にとってはしばしば悪魔属を指す。　【用例】　ıµʃenı ɿılıᴅcʃc 神に護られし召喚士

ɿılc,ılʃ　ɿcl,　ɑµec　oen

ɿılcȷ　[副詞] [形容詞] わずかに、気持ち　[レベル] 1　Ɉ0:ɿıl/lcȷ。ʃcnɿı から ʃcn が来ているように、隣同士語源的に相関関係を持たせようとして、ɿıl から ɿılcȷ を作った。この点が頻度や確率とは異なる覚えやすさになっている。　[語法]　uıµʃ

ɿılcȷᴅıᴅ　[生物] 微乳、ちっぱい、チッパイ、ちっぱいぱん、チッパイパン、ペチャパイ、ぺちゃぱい　[レベル] 4　µɑ;/　Ɉɱ

ɿılcn　[魔法] 宿木、架琳、鳥居、とりい、トリイ、ヤドリギ　[伝統色] 朱色。陽命朱が塗られて経年変化するとこのように退色する。さらに経つとこの色からも外れる。　[レベル] 3　ȷᴅ;ılʃ ‹›ɿıl/c「見るところ」門に立って外を見ることから。　Ɉ1　[文化]　eȷɿı

ɿılcun　[音楽] メゾピアノ　[レベル] 5　1L

ɿılcz　[地名] カリーズ、カリズ、カリーズ市、狭処市　[交通] カリーズ駅　[アクセント] ɿılЄz　[レベル] 4　ɈɈ:「小さなところ」　[文化]　名前に反してカリーズ市は大きく、人口密度も高い。駅はジャンクションで、幻環線を始めとする国鉄や私鉄の線が走る。

ɿılcl　[名詞] 墓　[レベル] 2　ɑu　赤 :µcɑcı:ɿılcl（墓）。ɿıl は場所。cl は全てという意味で、全員の意味。ɿılcl は「全ての者が行き着くところ」の意で、即ち墓。　【用例】　ın ɿeµ ɿılcl e ɑcɔ (ınʃ) ɔl lıɿl (ınʃ) ᴅın uɔ µʃȷel ləəʃ ȷeȷcl lənı. 祖父の命日が近いので母と墓参りに行く途中だ。

ɿılcl,ȷzɑ　ueµʃ　›‹ɿılcl

ɿılce　[建築] アトリエ、工房、執務室、書斎、カリエ　[レベル] 3　Ɉ0: 古 ɿıl/ce（左右に並んだ部屋）

ɿılce ʃʻılcȷ　『アリスのアトリエ』、カリエ・タリス　Ɉ0　[文化]　µɑ の

錬金術士アリス＝アンシャルの日常をコミカルに描いた小説（予定）

lılɔ ［形容詞］少ない ［反意語］ɑc ［感動詞］おしい、あと一歩 ［レベル］1 ɑ:elſ;lıDı.l。「多い」の lıDı の音を一部変えることで対語を作った。 赤 :lıl と混同するかと思ったが、DCCl lılɔ を程度を表す DCCl lıl（ちょっとリンゴ）で解釈することはないので古アルカのまま採用した。 lılɔ:lılɔ 【用例】 lın lılɔ 少ない人数、少人数

lılɔlılſen ［哲学］［言語］ローコンテクスト、低コンテクスト μɑ;/ Jʔ ［語法］［文化］ ɑclılſen

lılɔlcſe ［親族］小家族、核家族 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelſ ［語法］ 小家族と核家族を日常的には区別しない。

lılɔn ［ポジティブ］［名詞］質素、倹約、慎ましやか、つましやか、倹しやか ［類義語］yeɑ ［レベル］3 du;lılɔ.l J1 ::lılɔı

lılɔnſyəı ［企業］カロン・テュア ［レベル］4 J1 ［文化］ ユニクロに相当する企業。

lılɔuıcl ［名詞］小部分 ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbılelſ

lılɔDcyə ［形容詞］変化に富まない、単調な、退屈な、安定した ［反意語］ɑcDcyə ［レベル］3 1L

lılɔφınɑ ［経済］寡占 ［レベル］5 1L

lılɔdcſ ［形容詞］種類が少ない ［反意語］ɑcdcſ ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbıl elſ

lılɔyəlcın ［環境］少子化 ［レベル］3 1L

lılɔl ［魔物］カロル（巨蛇）：第五十天：雷の巨天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/Del:lıc/lɔlɔ ［文化］ 爬族。雷を帯びた大蛇。通常の青大将の直径と長さを１０倍にした大きさ。恐ろしい怪力で敵を絞めつけ、そこに電気を流して敵をしびれさせ、確実に逃がさないようにする。そして毒の牙で獲物を仕留める。飛べないが、地を這う速度は予想外に速い。蛇というのは意外なほど早く動く。

lılɔlcɑı ［地球の星座］［ユマナ］うみへび座 JՈ ［文化］ cɑı

lılɔı ［組み数字］7／１０ ［哲学］素 ［医療］肝 ［歳時記］丁、ひのと ［レベル］4 μɑ;lılɔı,jzl J1 ::lı lılɔı

lılɔı,jzɑ lılɔn lılɔn,du.l

lılɔılın ［生物］［医療］肝経 jzl;/ JՈ

lılɔılſəl ［名詞］［形容詞］凶作 ［反意語］ɑcılſəl ［レベル］3 J0

lılɔeeſın ［経済］貸借対照表の少数持株分 1L

lılen ［ジョブ］カレン、技術者、技工士、技師 ［電算］神、ネ申、プロの犯行 ［反意語］lılın ［レベル］3 J0: 古ハーディアン語「刀を持たないもの」［文化］ ハーディアン人、特にアルティア人は非常に器用で職人気質であり、力の弱いものは武士にならず技師になることが多かった。技師は刀を作ったり服を作ったりしていた。 現在カレンはその気質を活かし、アニメや漫画などの細かい芸術作品を生産している。アルティア人の作るサブカルは世界一で、仕事は早いがいい加減というアルバザード人は舌を巻く。 【用例】 oe (ılſe ſə eſ yəſ lıl en ıɾ ちょｗこれプロの犯行だろｗ

lılen(J) ［地名］カレン、火憐、カレン県 ［地名］カレン半島 ［レベル］3 J1:μcɑcı:lıl。半島が刀の形をしていることから。訳語はセレン。［文化］ アルバザード南端、アゲイト島の西に位置する半島。また同半島に存在する県の名。 アルバザードはルティア系の人間がアルシアに多いが、jD 以降アルティア人がアルシアに流入。しかしアルシアは強固なルティア社会だったことと気候が彼らに合わなかったことから、アルティア人の移民は南下して同半島に入った。 カレン南端の緯度は東京とほぼ同じかやや高い程度であり、日本と気候が変わらない。アルバザードの内陸部で最も温暖な気候である。アルティア文化が花咲き、地球的にいえば最も和風な県である。 同じ国内でも文化圏や気候の違いから外国並みの扱いを受けている。ふつうのアルバザード人の感覚ではケートイアのほうがよほど自国に感じられる。

lılenjcı ［地名］カレンシア、カレンシア王国、幻凪国、幻凪 jD;lılen/jcı「カレンの国」［レベル］4 JJ ［文化］ 110」アルティアがアルバザード南部を支配。カレンシア王国が建国される。最大版図は北はワッカで東はカテージュ。アルティアを本国ないし宗主国と称し、アルティア王への忠誠を誓った。 1ɁL0 ベルガンドの猛攻によりカレンシアが弱体化。 1ʕ0Ɂ 弱体化していたカレンシアに bφ が猛攻をしかける。これによりカレンシアはアルバザードへ吸収される道を選択。カレンシアは亡国する。この時点でアルティア本国へ帰ったものもいれば、残ってアルバザード人となったものもいる。少数ながらベルガンド側に亡命したものもいる。 jD 中期にできたアルティア人の国。アルバザード南部を征服し、最大版図は北はワッカで東はカテージュ。建国以降、凪紗はアルバザードの中央政府にも官僚を輩出し、アルバザード辺境部の領主なども務めた。もともと ly, lj を継承して客観的把握をする言語だった ıμ は主観的把握をする凪霧の影響を強く受け、主観的把握を取り入れるようになった。しかし根底には客観的把握があるため、アトラス初の二重把握という認知様式を獲得するに至る。 jD 後期で ıμ と lſ の勢力が強まるとカレンシアは領土を狭めていき、μɑ では凪霧を解するアルバザード人は北部を中心に減っていった。 また jD 後期の 1Ո9ʔ には bφ によってカテージュが陥落される。これによりカレンシアはアルバザードとの同盟を強めている。しかし結局国力の弱体化は避けられず、ついには μɑ(1ʕ0Ɂ) でアルバザードに吸収された。 国は滅んでも凪紗はむしろ時代を追うごとにアルバザード全土へ薄く広がっていった。現在ではアルバザード人は一般に lſ は学んでも ılſ は第二外国語でしかない。従って ılſ で話されても理解できない国民が特に北部には多い。だがアルカが ıμ から継承した二重把握はカレンシアの亡国後も失われず、現在でも生き続けている。

lılenjcın ［言語］カレンシア方言 ［名詞］カレンシア人 ［レベル］5 JJ ［文化］ ılſcıμen

lılenaılle ［名詞］カレンの恋人 ［料理］カレンファルシェ、琥珀羹、琥珀糖、琥珀菓子、錦玉 ［レベル］4 J1:μcɑcı ［文化］ jD のカレンに住む少女とカテージュに住む少年の悲恋の話。双方の親が仲が悪く、二人の結婚を認めなかったために、二人は駆け落ち。双方の親が相手側の子供に刺客を放ち、追われた彼らは最終的にカレンの隠れ家に自ら火をつけ自害。ここからカレンの訳語が「火憐」となっている。 また、同時にカレン県発祥のお菓子の名産品でもあり、琥珀羹のことである。jD で作られた。

lılendcnɑ ［医療］松葉形。管鍼法に使う。カレンシアで管鍼法ができたことから。 μɑ;/ JՈ

lılenzıμɑ ［筐堺］カレンザード ［レベル］5 μɑ;lılenjcı/ıμbızıμɑ JJ ［文化］ 筐堺司：jeμen ıμbızıμɑ 筐堺国：ıμbızıμɑ, 旧 lılenjcı, ıφecſ

lıleɑ,ul eμɑc

lıleɑuəla ［交通］［アイテム］［魔法］カレドヴルフ、飛銀竜、飛竜艇カレドヴルフ ［レベル］6 μɑ:μcɑcı;lıleɑ,ul/uəla,ul JՈ:μcɑcı ［文化］ → ɑılɑc ıj μɑ でリディアがラグナロクと神々に依頼してセレンのために作ってもらったセレン専用のファルディアス。 セレンの持つ尋常ならざるユノをスピードに反映できるようオーダーメイドされた一機。装甲も堅牢で、軍事利用にも向いている。ギア数（飛水晶数）は通常の飛竜艇と同じく六速まで。しかし飛水晶の質や機体の質が特別で、セレンの持つ異常なユノに負けない仕様になっている。 通常の飛竜艇の最大速度が時速２５０ｋｍであるのに対し、カレドヴルフの最大速度は時速５０００ｋｍに達する。ただ時速４万ｋｍに満たないため、アトラスを脱出して宇宙に行くことはできない。あくまでアトラスで用いる乗り物である。 なおカレドヴルフは「甘い風 (lccıſeeze)」という特殊機能がついており、体に受ける風の抵抗を魔法の力で１００分の１程度まで抑えてくれる。従って最大速度で走っても時速５０ｋｍのバイクと同じ程度にしか風の抵抗を感じず、すこぶる快適である。 ちなみにカレドヴルフは武器ではないため、セレンの愛車ではあるものの、ヴァストリアではない。

lıleμcı ［ランドマーク］カレリア水族館、紫灯水族館 ［レベル］5 J0:μcɑcı: 古 lıl/eμcı（水の場所）。「紫灯」ブラックライト ［文化］ 大航海時代にできた水族館で、革命後はランスケルンの西部にある。ネブラ＝ミルフにあり、ランスケルンに接している。ブラックライトなどを使った薄暗く幻想的な雰囲気なため、カップルに人気。男子学生にとっては、女子をランスケルンに誘うのは比較的気軽にできても、カレリアにはなかなか誘えず、勇気がいる。女子側もそれを知っているので、カレリアに誘われると、相手は自分にかなり気があると判断する。

lılel,jzɑ ueμ lılcl.l

lılecoı ［アトラスの国家］カレイワ ［アクセント］lılecoƬ ［レベル］5 1L:μcɑcı: 左右対称な土地（左右対称な山があり、その間の長い谷を通って国に入る）

lıleeze ［建築］東屋、休憩所、カレーゼ ［レベル］4 J0:lıcleeze（大傘） ［文化］ 東屋のように休めるところ。屋根があって、その下にベンチがあり、日かげで休むことができる。この屋根を傘に見立てた命名。

lılə,ılſ lcl <>lclc

lıləl ［魔法］活性剤、カルル ［レベル］6 J0: 古 lələl（作る） ［文化］ 錬金術において溶質を溶媒に入れたときに、それだけではアディストが生じない場合に、アディストを生じさせるために入れる物質。溶質と溶媒を活性させて反応させる働きを担う。

lıləı,ɑ ſceμ lıl（場所）/ı（海）

lıləıl,ɑ ıle lıləı/le

lıləılɔɔb ［被服］バイコーン jD;/ JՈ ［文化］ jD でできた。海兵が身に付けたことから。

lıııſ ［文頭純詞］そもそも、それに ［レベル］1 中期制：古 lccſɔ 【用例】 "lıııſ, lı leeu jcl ucl eD lenı c jelej cD lı ej lınſ ı Dıu"「それに、大人になったころには、もう私たちから離れられない身体になっているわ」

lııl ［文末純詞］［μɑen］lɔl ［レベル］1 J1:lɔl

lııl ［動詞］yəl を lel だと認める、認める、承認する、認証する ［普通動名詞］承認、認証 ［レベル］2 古 :lııl（はいと言う） ［語法］「彼を認める」など、「よく評価する」という意味のときは、ın lııl lı eſ ſɔſɔ のように具体的に述べる。ın lııl lı 単体だと単に「何がしかを認める」であり、「よく評価する」という意味になれない。

lııın ［親族］父、父親 ［反意語］lııl ［レベル］2 μɑ;lııın.l 1Δ: 赤 :lyın lyın :lyın:lə ıın ［文化］ lııl ・父親と子供と妻 一般的に、アルバザードの父親は日本ほど子供に干渉しない（もちろん、中には子供好きもいる）。夕方には家に帰るわりに、子育てにはあまり参加しない。父親の関心の７割は妻に向いており、子供に３割といったところである。 日本人は一般的に妻に関心を払わないが、アルバザード人は妻に一番の興味を寄せ、妻の機嫌を取ることに時間を費やす。機嫌を取っているかぎりアルバザード人の女性は貞淑で従順で家事も効率よくこなす。 アルバザード人の妻は機嫌を損ねても表面上夫に逆らわない。その代わり、仮病を使う。精神的に具合が悪いなどといって（厳密には嘘ではない）、部屋に篭って泣きはらし、子育てを放棄する（姑がいるからできる芸当）。この国ではたいてい姑は嫁の味方をするので、夫は自分の母親からも叱られる羽目になる。そのため、夫の関心は常に妻に向き、子供に向く余裕がない。 ・避難場所としての父親 子供、特に娘にとって父親は避難所である。母親は父親の前では可愛い女の顔を見せるため、鬼のように怒る母親から逃げるために、父親のところへ逃げる。しかし父親は「母さんの言うことを聞きなさい」と言って適当に追い返す。 アルバザード人は家庭を持っても趣味を止めないため、父親は趣味を続ける。たいてい父親は子供が ɑcınıl になると自分の趣味に誘う。ここで子供が同じ趣味に適応できれば、そこで初めて父親は子供を大い

に可愛がるようになる。これは友達づきあいというより師弟関係に近い。同じ趣味を持ち、自分が師となり、子供を弟子とみなす関係で、親子のそれではない。子供が「そんなのつまんないよ」というと、父親は子供に関心を持たないまま子供は成人する。　・父親と娘　一般に子供、特に娘は父親になつくが、父親は娘より妻に関心を示す。ただし息子に比べるとアルバザード人男性は圧倒的に娘を可愛がる。つまり父親は妻＞娘＞息子の順で愛するのが慣例である。　娘は幼く話題も合わないので、父親は「小さい人が家にいる」くらいにしか考えていない。娘は「パパはママから私を守ってくれるので、なんとか好かれよう」と考え、同じ趣味に手を出すことが多い。趣味が一致すると、父親にとって「この小さい少女は面白い人間だ」という認識になり、会話をするのに値する人物になる。　えてして会話が成立する３歳ごろから父親は娘を本格的に可愛がりはじめる。蜜月がピークに達するのは５歳ごろで、そこから関係は徐々に冷えていく。　日本の漫画では娘や孫に褒められてでれっとするシーンが散見されるが、アルバザードの父親は娘に褒められるより妻に褒められるほうを喜ぶ。　一般に、父親は娘の性的なシーンを強く拒絶する。オムツを取り替えるのも嫌がるし、風呂に一緒に入るのもためらう。頑張っても９歳までしか一緒に入らない。風呂後に娘が裸で走り回ったりすると「はしたない」と言って叱る。　父親が娘に対して一歩引いて接する反面、娘は一般的に父親が好きで、日本と違って思春期でも父親に憧れたままというのがふつうである。日本人のように「洗濯物を一緒に洗わないで」とか「お父さん汚い」と言った発言はない。そもそも、その発想自体がアルバザード人の娘にはない。むしろ逆に、家庭内で娘の下着が干してあったりするのが目に入ると、父親は気まずく不快に感じる。　娘は幼い頃は父親と結婚したがり、母親を排除しようとすることすらある。父親に懐いてくるのは生涯続く。一方父親は生涯通じて妻に関心があるため、過剰に甘えてくる娘を適度に引き離すことが多い。　特に１０歳を過ぎると父親は娘と一歩距離を置いて、女性として扱うようになる。娘は父親に近付こうとするが、父親のほうが距離を置こうとする傾向にある。思春期以降、父親が娘に行う接触はハグや頭撫で撫でやキスなど、狭い範囲に限定される。（身体接触自体を好まない日本人や凪人にとってはこれでも親密に見えるが）　また、たいていの娘にとって理想の男性像は父親である。それは子供のころから母親や周囲の人間が、父親がいかに偉大かを吹き込むためである。日本では母親が父親の悪口を子供の前で言うことがあるが、アルバザードでそれをすると完全な悪妻となる。母親は子供の前では常に父親は偉大だと吹き込むことが美徳とされ、子供の前で父親を貶すなどあってはならないとされる。　たまった母親のフラストレーションはたいてい夫本人か、あるいは母親の両親へ持ち込まれる。すると母親の父、つまり夫から見た舅が怒る。夫はそれが怖いので、妻をなるべく怒らせないようにするという好循環が生まれる。　・父親と息子　父親は娘に比べ、息子をあまり可愛がらない。息子に対しては壁として立ちはだかり、「いつか俺を倒して越えてみせろ」という態度で臨む。息子はそんな父親を偉大だと思うと同時に、怖いとも感じる。　父親にとって息子は後輩と部下とライバルと後継者を合わせたような存在である。立派に育て上げ、いつか自分を越えさせようと考える。　・夫と姑　→ luıl の通り、アルバザード人男性は総じてマザコンがデフォルトなので、何かあれば夫は姑を優先する。しかし姑はここで息子を味方に付けると、「嫁が家出するのでは？」と危惧するため、あえて嫁の味方をする。　従って嫁と姑が仲違いした場合、たいてい次のようなパターンで事態が解決される。　１：嫁が姑と喧嘩する　２：嫁が夫に相談する　３：夫は姑の肩を持つ→嫁、発狂　４：３を見てカタルシスを得た姑が満足し、嫁の肩を持ってやる　５：姑から華を持たされた嫁がカタルシスを得て、問題解決する　６:夫にだけフラストレーションが残るが、男なので我慢する

ʅiınjel ［歳時記］父の日 ［レベル］3　ʝ0 ［文化］ ʝ0 年にアシェットがユーアをもとに制定。日付は ʊcı nen。この時期はちょうど冬至ごろで、日本同様かぼちゃを食べる風習があり、娘や嫁がかぼちゃ料理を父親に振舞う。ビタミンＡの効果で粘膜が強くなり、風邪を引きにくくなる効果があるため。また、父親のために柚子湯を入れる。

ʅiınᴅcll ［俗語］母子家庭、ボッシー ［類義語］ᴅcʅiın、ᴅcʅiınμı ［レベル］4　μʊ;/　ʝʔ

ʅiını ［名詞］(ʃcl) 桃色の心。ゆかいな、楽しい、元気な、えっちな、思い出深い ［レベル］3　1L8: ピンクは膨張色。膨張色は輪郭がぼやけて見える。過去の記憶は現在に比べ、ぼやけている。そこでピンクで過去を指す。

ʅiıɑ ［色］桃色、ピンク、カーフ。ΨΨ٩Ψ٩Ψ ［形容詞］桃色の、ピンクの ［レベル］2　1L:ʅiıᴅ e ɑəlᴅccı　1L: フルミネアの頬　ʅɔᴅᴅe:ʅɔᴅeʃ:lı dəleʃ

ʅiıɑʅiμᴅı ［植物］むくげ、ムクゲ、槿 ［レベル］6　1L:ʅiıɑ/ʅiμᴅıcn

ʅiıᴅ ［生物］頬、ほお、ほほ ［名詞］左右片方のページ→ lec ［類義語］hıμʅıᴅ ［レベル］1　古　::dəəl 【成句】 ɑıb ʅiıᴅ 頬を膨らませる。怒ったり不満に思ったときの子供っぽい仕草。　ʅiıᴅ ɑcu 痩せこけた頬。ɑıb の反対なので。 ʅiıᴅ ɑıb 膨らんだ頬。ぷーっと膨らませた場合と太ってこけてなく肉がついた場合とがある。　ın ʃcl ʅiıᴅ ɑıb cᴅ ʃəɔ ᴅın eȷ sıl. 最近太ったので頬が太った。

ʅiıᴅncȷ ［生物］えくぼ、エクボ、笑窪 ［レベル］3　ʝ0

ʅiıᴅncᴅ ［美容］チーク、チークカラー ［レベル］5　ʝ1

ʅiıᴅbcl ［生物］頬髭 ［レベル］4　ʝʝ

ʅiıᴅıjel ［動詞］ɥəl に口だけ笑わせる、口だけ笑う、笑う。目は笑わない ［レベル］3　1L:ᴅelcʊcı ılʃe: 頬の筋肉だけで笑い、目は動かさないことから ［語法］ 裏に秘めた意味や含みがあることを暗示する笑み。

ʅiıᴅɔd　側注→ lec　ʝʝ

ʅiıʊ ［名詞］兆し、お告げ、きざし、前兆、予兆、サイン、シグナル、予言 ［レベル］3　1L:ʅiıʊe 【用例】 ☆ʅɔ ʃeʅ l'ıʃ ᴅeʃ ıdcıʃ ʅiıʊ ʊel ılcȷ lə nıʅ cn. 一枚の落ち葉は秋の訪れを告げる兆しのようだった。

ʅiıʊe ［名詞］カーデ ［レベル］3　ɑəlᴅccı: 古 ［文化］ μʊ でフルミネアが作成した占い。また、その占いに使うカードの名前。タロットカードのようになっているが、枚数は遥かに多い。歴史上の偉人や神などを絵柄にしている。

ʅiıʊen ［名詞］運、ラック、巡り合わせ ［レベル］2　ʝ1: 古 ʅiıʊe/en

ʅiıμ ［名詞］ブーム、流行 ［レベル］3　1ʕ: 制

ʅic ［形容詞］大きい ［反意語］lcȷ ［レベル］1　ɑ;e　古　ʅic:ʅic:ᴅıl:ᴅılə,ılʃ 【用例】 ［メタファー］ʅic ɥən ʅiclı カイラのように大きな：韻を踏んでいる　lcu ʅic 大きな声

ʅicʃ ［料理］栄養 ［レベル］2　古 :ʅicʃ（栄養）。「大きくするもの」。

ʅicʃʃlecᴅı ［名詞］カイトクレーマー ［娯楽］一機、自機の予備、あと何機の機、エクステンド。ʅcʃʃɔ も可。 ［レベル］2　ɑu　1ʕ: 制 : 古 :ʅicʃʃ ecᴅıı ［語法］［文化］ もう１人の自分。自分の中に居て自分を諌めたり誘惑したりする。長いので通称キットと呼ばれる。

ʅicʃcᴅ ［生物］巨核球、骨髄巨核球　μʃ;/　ʝʃ

ʅicʃcᴅȷı ［生物］前巨核球　μʃ;/　ʝʃ

ʅicʃcᴅɔe ［美容］トリートメント ［レベル］4　ul;/　ʝʔ にセレンが造語したがその後リディアの辞書を見たら同じ語形で既に登録済みだった。 ［文化］ リンスと同じ効果があるが、毛髪の内部にまで、タンパク質成分が浸透できるので、ダメージ部分に栄養を補給する事ができる。

ʅicʅ ［動物］恐竜 ［レベル］2　古 : 大きい者

ʅicʅɔ ［動物］主竜類　ul;ʅicʅ.ʅ　ʝʔ

ʅicȷ ［経済］通貨 ［類義語］ınɑın ［レベル］3　1ʔ: 制 :ʅiʊφcl ［文化］ → ınɑın　アルバザードの通貨は ȷɔlʃ。ルティアの通貨は ᴅcın。アルティアの通貨は φcn。メティオの通貨は nıızel。ケートイアの通貨は φclcı。ヒュートの通貨は φclcəȷ。　最初の貨幣はアズゲルで生まれた。これに伴い月なしの存在した不完全なメルティア暦の太陰太陽暦が改められた。

ʅicȷcı ［音楽］トムトム、タム、ロータム ［レベル］6　ʝ1

ʅicn ［天文］カイン、木星、巨天 ［魔法］水のクリスタル ［組み数字］5 / 9 ［レベル］3　古 :ʅicn ← ʅic/ʃəənɔ

ʅicn(ʝ) ［名詞］巨人 ［レベル］3　μʊ;ʅic/en　ʝʃ

ʅicn,ȷzʅ　ɥəʅʅı　< ʅıl,ɑ/c,ɑ

ʅicn ɥəʃcı ［人名］カイン＝ユティア ［レベル］5　1L:clᴅəȷ:μcʊcı ［文化］ (ʔ40 →) レイユ期のアルティス教徒。生誕と同時にアルシオン派のシオンに拾われ、生き延びる。しかし同年シオンがミナリスとの一騎打ちで殉教したため、シオンのことは覚えていない。しかしアルティスに多大な恩を感じ、マルテに仕えた。マルテの死後はその死後はアメリを支えた。ʔ00 年にミロクの表向きの父親となる。ʔ10 年にアメリとユレットがアルファウスと戦って戦死すると、アルタレスとなり、ミロクの摂政となった。ʔ1ʕ 年、ミロクにアルタレスの座を渡し、開発庁長官となる。

ʅicnc ［動物］メインクーン ［レベル］6　ʝ1: 大猫

ʅicuılı ［医療］大病院 ［反意語］lcȷuılı ［レベル］3　ʝ1 ［文化］ cuıl

ʅicɑel ［ユマナ］大学 ［レベル］3　ʝ0

ʅicᴅ ［動物］象 ［レベル］2　lıʅʃı: 大きい者が語源 ［擬声］ ɑıɔ（鳴き声） 【用例】 ʃɔı e ʅicᴅ 象の鼻。厳密には上唇。　ʅicᴅ ʃcl ʃɔı ɑcl. = ʅicᴅ eʃ ɑcl ɔn ʃɔı. 象は鼻が長い。

ʅicᴅuceʃ ［地球の国名］スワジランド　1L: 国章にライオンと象

ʅicᴅzcɔ ［名詞］象牙、アイボリー ［地球の国名］コートジボワール ［レベル］4　1L

ʅicᴅclcɔlz ［医療］前立腺肥大症 ［レベル］6　1L

ʅicφıɔ ［音楽］チューバ ［レベル］5　μʃ;ʅic/φıɔ　ʝ1

ʅicφel ［軍事］大銃、砲 ［レベル］6　μʊ;/　ʝʃ ［文化］ φel

ʅichcnʅlcʃc ［生物］アポクリン汗腺 ［レベル］5　ʝ1

ʅicz ［音楽］ディスコ。ホールのほう。 ［レベル］4　ʝ1:ʅic/ez

ʅiczıμ ［筐堺］カイザー ［レベル］5　μʊ;ıμʃı 語で「大きな国」 ʝʝ ［文化］ 筐堺司：dcnenı uılɔ　筐堺国：ıμʃı, zeμʊcı lcıμ

ʅicoıʃı ［歳時記］大市場、年末決算セール、大バーゲン ［レベル］3　ʝ1 ［文化］ 南区で大規模なマーケットが開かれる日。大バーゲンの日で、年末商戦最大の掻き入れ時。革命で制定された。繁忙期のルージュの日のちょうど後半戦開始となる μəs μıu で、メルセル用の商品などが飛ぶように売れる。また、決算セールも兼ねるため、家電製品なども飛ぶように売れる。モールでは世界各地の名産品の物産展が開かれ、世界の珍味が味わえる。腐敗しにくい時期なので露天で売りやすいということもある。

ʅicl ［動詞］ɥəl を ı に収穫する、収穫する ［普通動名詞］収穫 ［レベル］3　古 :ʅicl（収穫）。大きくするが原義。 【用例】 ıμbızıμʊ ʅicl ılʃəʅ cᴅ ılcȷ. アルバザードでは秋に収穫を行う。

ʅiclı ［魔物］カイラ（巨鬼）：第三十二天：土の巨天 ［レベル］4　古 :ʅicl ınʃcȷ（大きい人） ［文化］ 人型の巨大なアデル。棍棒を振り回し、怪力を持つ。知能は低く、言語は解さない。 【成句】 ɑcın ʃɔe ʅiclı. 窮鼠猫をかむ。

ʅiclızed ［名詞］朝三暮四 ［レベル］3　ʝʝ:「愚鈍なカイラの計算」

ʅiclcıȷ ［化学］高分子、高分子化合物 ［レベル］5　1L

ʅicın ［ユマナ］大学生 ［レベル］3　ʝ0

ʅicınɑı ［軍事］重火器、アーティラリー ［類義語］ʊıʊınɑı　μʊ;/　ʝʃ ［文化］ φel

ʅicıφleı ［アイテム］ブロードソード　ȷᴅ;/「レイピアより幅広い剣」 ʝʃ

ʅıcıφed ［音楽］スーザフォン、スーザホン、スーザホーン、スーザフォーン　ul;ʅıc/ıφed　大型で蝸牛のような形をしていることから。　JJ

ʅıcɔɒıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おおいぬ座　JΩ ［文化］ cɑı

ʅıcɔdncı ［被服］アロンジュ　ȷɒ;/　JΩ ［文化］ ȷɒ でできた。男性貴族用の大きなカツラ。

ʅıɔ ［名詞］壺、壷、ジャー、ポット ［レベル］２　古

ʅıɔ(J) ［名詞］お香 ［レベル］３　ıʃ;ʅıɔ（壺）と同根。香りをたきしめる壺のメトニミーでお香を指すようになった。　JJ

ʅıɔlcȷʃ ʅəlnɔɥȷ ［人名］カオシスト＝クルノース　ȷɒ　古 : もともとファミィの名が小説版アンクノットにおいてはファミィ＝カオシスト＝クルノースとなっていた。このミドルネームの使いどころがなかったため、先祖の名にした。 ［文化］ ȷɒ で光の魔法 ʅıɔlcn を開発した人物。アルバザード出身の男性。ʅıɔlcn を任意の材質にかけると、その材質には色が付く。ʅıɔlcn は光を色に変換し、かつそれを物質に定着させる効果がある。これを使えば紫などの高価な色を安く提供できる。ʅıɔlcn は粉にかけることができるので、粉を練ってペーストにすれば染料になり、絵画などに利用できる。また、麻や綿や絹などの繊維にもかけることができるので、衣服の染料としても使える。それまでは色によって高価や安価といった価格の違いがあり、さらに色によってはそもそも染料がなく作れないということもあった。ʅıɔlcn を使えばどんな色でも安く作ることができ、庶民でも綺麗な色のついた服を着ることができるようになる。この結果、カオシストは庶民の熱烈な歓迎を受けた。　カオシストは ʅıɔlcn を使い、染料を安価に提供した。これが大ヒットとなり、巨額の富を抱えるようになった。ʅıɔlcn が彼にとって好都合だったのは、これが難合だったことである。基本的に彼自身が伝授しなければ真似できず、技術の流出リスクが少ない。また、カオシストによる寡占経営が可能となる。このことが巨額の富を得た要因となった。　その後財力を背景にカオシストは商人から貴族に成り上がり、クルノース家は隆盛する。ɥɑ でアルシェが現れたころの当主は ɒcɒɔzı で、息子に culcɒ、娘に ɑıɒcc がいる。ミモザは「クルノース家はもともと安価な染料を庶民に提供することで庶民の支持を得た。それゆえ我々は貴族になっても庶民の味方である」ということをアピールし、当世の貴族批判をなるべく避けようとしていた。そのパフォーマンスの一環として娘のファミィを庶民の学校であるアシェルフィ校へ入れた。そしてこの行動がファミィとセレンの出会いに繋がり、ひいては色魔法の成立を促した。そして何より、このときの出会いが後世のミロク＝ユティア誕生に繋がっていく。

ʅıɔȷ ［数学］直径、ディアミーター ［名詞］径 ［レベル］３　古 :ɥɥəə:ʅıɔȷ（ここからここまでという意味か）

ʅıɔlc ［植物］金木犀 ［類義語］ılcȷcn ［レベル］５　ıʃ;ʅıɔ/lccʃɔ「良い匂いのするお香」 JJ

ʅıɔlcn ［魔法］カオリン ［レベル］６　ȷɒ;ʅıɔlcȷʃ　J1 ［文化］ → ʅıɔlcȷʃ ʅəlnɔɥȷ、lcȷʃcnı、ȷıcʅın　光の低位難合白魔法。最も安定するのは白のときで、同時に最も容易に出せる色である。

ʅıe ［名詞］タンク、貯水槽 ［レベル］３　1ʔ: 制 :「大きな水」

ʅıen ［接続詞］ʅı。～にある。 ［レベル］２　J1 【用例】 ın lı ʃəɥ ɑeʅc ʅıen nıφɔɥı. 名古屋の塾なう。

ʅıenʅleed ［化学］構造異性体 ［レベル］６　1L: 結合の場所が異なる異性体

ʅıez ［動物］オットセイ ［レベル］４　1ʔ: 制 : 恣意

ʅcʃ ［動詞］ɥəl を始める、始める、はじめる、始まる ［名詞］はじめ、開始、紀元 ［名詞］先端、先っぽ、末端 ［名詞］オープニング、ＯＰ ［法副詞］～しはじめる。開始相の副詞。 ［文頭純詞］まず、はじめに、始めに、最初に、そもそも、てゆうか ［接辞］「はじめの」の意味を作る。lıɒ と意味が近い。 ［レベル］１　ɥɑ;ʅccʃɔ.l　1L: 古 :ʅccʃɔ　ʅccʃɔ:ʅccʃɔ　ʅccʃɔ eɥ（法副詞）:::ʅczɔlə,ıʃ 【成句】 c ʅcʃ 最初から 【用例】 ɥın lə bcʅcʅ ʅcʃ e lıȷ e ȷıe. そして彼は紗枝の手の先っぽを握った : ʅcʃ は名詞。

ʅcʃʃı ［名詞］スタート、起点 ［交通］ターミナル、ターミナル駅 ［反意語］ʃɔʅʅı ［レベル］２　J0:ɒelcɑcı lceɥ:ʅcʃ/ʅı

ʅcʃʃılcʃ ［物理］初速度 ［レベル］４　1L: スタート時の速度

ʅcʃʃɔ ［名詞］キット ［医療］交代人格。主人格以外の人格 ［娯楽］一機、自機の予備、あと何機の機、エクステンド。ʅıcʃɔʅlecɒı でも可。 ［レベル］３　ɑu　古 ［文化］ キット。カイトクレーマーのこと。日本語では交代人格だが、主人格と交代人格が同時に出てくることもあるので、ʅcʃʃɔ としている。

ʅcʃʃe ［名詞］カウンターパート、対の片方、相方、対立項 ［レベル］３　J0:ʅcʃʃɔ

ʅcʃlen ［料理］タホ ［レベル］３　ɥɑ;‹ɑφn　JΩ ［文化］ ɥɑ でフィガンから伝わった料理。フィガンでは朝食に食べられるが、アルバザードでは主にお菓子とされる。甘くした豆腐にタピオカを入れ、黒蜜をかけたもの。

ʅcʃȷel ［歳時記］最初の日、元旦、元日 ［レベル］３　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʅcʃncɑ ［言語］開始相 ［レベル］４　J0 ［語法］ 行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。　非単位動詞の左端点。　「～しはじめる」という意味。

ʅcʃlɔl ［生物］十二指腸 ［レベル］３　1L

ʅcʃlecȷ ［芸術］口絵 ［レベル］５　J0

ʅcʃɔʅı ［天文］初期宇宙　J0

ʅcʅʃ ［名詞］像、ステーチュー、肖像、ポートレート、小像、何かの形をまねたもの ［レベル］３　1Ω: 制 : 似たもの

ʅcʅl ［芸術］肖像画 ［レベル］４　1ʔ: 制 :ʅcʅȷlʅ（似た絵） ［文化］ 写真よりも絵のほうが肖像画として真実を写していると考えられている。写真は一瞬の瞬間しか写さないのでたいてい変な顔をしており、顔の平均値を知るには写真よりも似顔絵のほうが適していると考えられる。なお、その理屈でいえば顔を知るには動画が一番ということになる。確かにそうだが、絵や写真と違って動くので落ち着いて鑑賞しづらいという欠点があり、絵に引けをとる。

ʅcʅclə,ıʃ　lınʃ, ɔȷʅ

ʅcʅelɔ,ɑ　ıucl　ʅc/ʅe/lɔ「（おかしな）方向に動いた頭」

ʅcȷ ［単位］６ ［レベル］１　1L: 制 :ʅc　csc:ın::ınɒc,ıʃ

ʅcȷʃ ［植物］［建築］芝生 ［動詞］［ネガティブ］ɥəl を c からさぼらせる、サボる、さぼる : セルメルで、授業をサボった生徒が構内の芝生で寝っころがって友達と遊んでいたことから。 ［レベル］２　初 :cȷʃ は不明。ʅ は生命？ ［語法］ 手抜きしてやるの意味でなく、欠席するという意味のサボる。 【用例】 ɑen ʅcȷʃ c ɑeʅʅı. 学校をさぼるな。

ʅcȷʃcȷ ［アトラスの国家］キスティス ［レベル］５　Jʔ:ɥcɑcı

ʅcȷʃen ［音楽］サンバ ［レベル］５　J1:「ロクハチ」リズムの隠語から

ʅcȷʅ ［名詞］伝説、語り継ぎ、武勇伝、いいつたえ、言い伝え ［名詞］伝記← ʅcȷʅlec ［レベル］３　1ʔ: 制 :ʅəcȷ

ʅcȷʅlec ［名詞］伝記→ ʅcȷʅ ［レベル］４　ɥɑ;/　JΩ

ʅcȷɑɔɥ ［音楽］六十四分音符　1L ［文化］ → ɑɔɥ

ʅcȷhıɥɑcı ［地球の国名］アンティグア・バーブーダ　1L: ６人の聖人の名前が６つの郡についている。

ʅcȷlccɑı ［地球の星座］［ユマナ］南斗六星　JΩ ［文化］ cɑı

ʅcȷleɒ ［音楽］六重奏、セクステット　ɥɑ;/　Jʔ

ʅcȷel ［天文］エリス。準惑星 ［レベル］６　ɒelʃcı 0:ʅclȷeleȷ;ʅclȷeleȷ.lcʅ　Jʔ

ʅcn ［形容詞］つらい、ツライ、ツラい、しんどい、辛い、きびしい、キビシイ、キビしい、厳しい ［類義語］uccʃ ［反意語］nıɑıɥ ［名詞］困難、苦労、苦境、耐えがたい困難。難しいという意味の困難は led。 ［レベル］２　1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ ȷe ʅcn で「ひどく」。程度の強さを表す。ネガティブな意味とは限らないが、ネガティブな雰囲気は残っている。「切望」という感じがする。lıl とともに使うと「どうしても～したい」というニュアンス。ｂａｄｌｙに近いが、ȷe ɥıɒ とは言わない。日本語でも「ひどく」とは言うが、「辛く」とは言わないので、アルカ独特の言い方に注意。ʅcn と脚韻を踏むため、ʅcn ʃcn の形で使われることも多い。 【成句】 ɥcɑcı en ȷeɥ ʅcn e lcczı 親の心子知らず 【用例】 ɑcȷ ıʃ ȷel ʅcn. 今日はしんどい一日だった。　ʃə ıʃ ʅcn lel ın lıb uıɥ ȷel. 一日中働くのはつらかった。　ʃə eʃ ʅcn lel ın ıʅʃ ucl lı lc ʃəɥ. 彼にもう会えないのはつらい。　ʃə eʃ ʅcn lel el ʃeɥ lıl ʃ ılɑ ɑel ɑeldınʃ le lə eʃ lɔɔı ıl ɑɔl ʔ ɒcu J0 ɑec ıȷ. 苦手教科である数学の講義を３時間２０分も受けるのは辛い。

ʅcnʅı ［名詞］苦境、辛い状況 ［レベル］３　1L 【用例】 ın lıʃ ʅcnʅı. 苦境に晒されていた。つらい状況にさらされていた。

ʅcnlıʃ ［名詞］窮地、窮状 ［レベル］３　J0

ʅcnz ［経済］［動詞］ɥəl（金額など）を ı（目標など）に入札する、入札する ［普通動名詞］入札 ［レベル］５　ȷɔɥn ［文化］ 入札は日本と同じやり方。たとえば建設業が入札を行う場合、いくつかの会社が会場に集まる。自分の会社はいくらでこれを建てられますよという見積を立てた金額を紙に書き、それを箱に入れる。全社が入札を終えると紙を開き、一番安く仕上げることのできる会社に仕事を依頼する。価格競争を防ぐために談合が行われることがあるが、これは違法。談合を行うと入札の意味がなく、入札が形骸化するため。談合をするくらいならそもそも入札を止め、いつの回はどの会社が引き受けるという協定を結ぶ方が良い。それなら合法。

ʅcɑ ［料理］卵白 ［レベル］３　1L:lʅc/ɑcɥ

ʅcɑʃ ［化学］アルブミン　ɥʃ;ʅcɑ/eʃ「卵白の」。卵白の構成タンパク質のうちの約６５％を占める主成分タンパク質に対して命名された。　JΩ

ʅcɑucɥɔ ［化学］アルブミン　1L:ȷeɥen

ʅcɒ ［動詞］ɥəl を曲げる、曲げる、歪曲する ［形容詞］曲がった、曲がっている、くねくねした、歪曲した ［言語］キム、昇降調 ［反意語］ʅnıʅ ［レベル］２　ɑ;ʅc eʅȷ "ɔu"　赤　ʅcɒ:ʅcɒ:ʅcɒ

ʅcɒncı ［美容］くせっ毛、癖毛、天パ、天然パーマ ［レベル］３　J0:ɒelcɑcı lceɥ

ʅcɒɑcnʅ ［名詞］曲面。平面の反対として。 ［反意語］ʅnıʅɑcnʅ ［レベル］６　ul;/　JΩ

ʅcɒdıɥɒ ［ユマナ］ひらがな、平仮名 ［レベル］５　1L: 日本の字で、曲がっている

ʅcɒhɔ ［生物］肋骨 ［レベル］３　1L

ʅcɒhɔȷcı ［生物］肋膜 ［レベル］５　1L

ʅcɒhɔȷcıɑıcz ［医療］肋膜炎 ［レベル］６　1L

ʅcɒhɔɒc ［生物］肋軟骨 ［レベル］６　ɥɑ;　JΩ

ʅcɒhɔɒcɥecn ［生物］肋骨弓　ɥɑ;　JΩ

ʅcɒhɔɒcɥecnɒɔl ［生物］下肋部、季肋部。上腹部で左右の肋骨弓下の部分。 ［類義語］sıɒhɔueȷnɒɔl　ɥɑ;「肋骨弓下」 JΩ

ʅcɒɥɔ ［アイテム］ブーメラン、キムヨ ［レベル］３　J0:lɔɥɔ, ɥılɥɔ からの類推。曲がり飛び道具。

ʅcɒɥecn ［数学］曲線 ［レベル］３　1L

ʅcɒlıȷl ［被服］ルイスヒール　ɥɑ;/　JΩ ［文化］ ȷɒ でできた。貴族の女性用。

ʅcɒelı ［アトラスの国家］キメラ ［レベル］５　1L:ɥcɑcı: ひん曲がった

ʅcd ［動詞］ɥəl を測る、測る、はかる、量る、計る、計測する、計量する、

測定する ［普通動名詞］計測、計量、測定 ［レベル］2 ʅɺ: 制 : 恣意 cdı c:cdıc

ʅcdıµ ［名詞］計器、計り ［レベル］2 ʅL

ʅcdıµʃɑel ［魔法］計量魔法学 ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

ʅcdɔ ［動物］ツル、鶴、クレーン ［レベル］3 lılʃı: 曲がった首が原義 ［擬声］ dɔɦɔɦɔ 【成句】 ıµ ʅcdɔ ı ı を首を伸ばして見る

ʅcdɔʅıɷ ［地球の国名］ウガンダ ʅL: 国章に鶴

ʅcdɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］つる座 ɺɱ ［文化］ cɑı

ʅcb ［名詞］棚、シェルフ、ラック、荷物棚 ［レベル］2 古 【成句】 ɥəc lec ʅı ʅcb e µcɷcı リディアの棚で本を探す＝見つかるはずのないものを探す、無駄骨を折る、無駄足：アルバシェルトを作り上げたリディアは万物を勉強するほどの努力家で、書架にものすごい量の本があることから。

ʅcµɹ ［名詞］文化、風俗、習俗 ［反意語］ınʃcɹ ［レベル］3 ʅɺ: 制 :ʅıµɹ（共通文化） ［語法］ ʅcµɹ は総称的な文化。特に異文化間で共有される文化、ないし共通な文化。 ınʃcɹ は個別の文化。国だけでなく企業など、細かい単位にも使える。また、異文化間における「異なっている部分の文化」も示す。 ʅcµɹ が共通部分で、ınʃcɹ が共通しない部分と見てもよい。 ınʃcɹ は「異なっている部分」を指すことがあるので、ıµbızıµɷ ʃcl ınʃcɹ ı ləʃcı は「アルバザードはルティアに対し異なった文化を持っている」の意味になる。これは ıµbızıµɷ ʃcl ınʃcɹ enʅ ı ləʃcı としてもよい。

ʅcµɹeʃ ［哲学］エティック、エティックな ［反意語］ınʃcɹʃ ［レベル］6 ul; ʅcµɹ/ʃe ɺʔ ［語法］ 文化の外部から客観的に比較する態度のこと。逆に主観的なのはイーミック。

ʅcµɹelɷ ［言語］新生人工言語 ʅL ［語法］ 自然人工問わず、意識的に文化を持った人工言語のこと。アルカなど。狭義には人工文化を持ったものを指す。

ʅczɔlə,ılʃ ʅcʃ

ʅcl ［名詞］［料理］刃、刃物 ［動詞］ɥəl を切る、切る、斬る ［言語］キル、中止調 ［類義語］ıuınɹ ［レベル］2 ɑ;ʅc/ıl「物を動かす→物を変化させる→切って形を変化させる」 ʅʔ: 制 : 古 :ʅclc（切る）。日本語の「切る」とは無縁。韓国語のカルとも無縁。この ʅc は変形するという意味の前期アルカからの音象徴。 ʅclc:ʅcl::ʅılə,ılʃ, ʅılc,ılʃ ［語法］ ncı 【用例】 ☆ ın nıʃ ʃə eʃ ɹɔµʃ ɥən ʅcl. 身を切るような寒さだった。 ın ʅclıʃ lıʅc ı ʃcɑı. 私は卵を半分に切った。

ʅclʃ ［エルト］キルト ［動詞］ɔn について ɥəl の相談に乗る、顧問する、相談に乗る ［反意語］ʃıµʅ ［レベル］3 ɒel: 古 ［文化］ 茶色い犬の姿をしたエルト。背に大きなずた袋を背負っていて、ここに人の悩みを吸い込むことができる。キルトは悩みを聞くとこの袋に悩みをしまい、代わりに打開策を袋から出してくれる。

ʅclʃın ［名詞］顧問 ［レベル］3 ʅL:ɒelcɷcı ılcɹ

ʅclʃc ［名詞］女副主人公 ［レベル］3 ɺ0:ɦəəʅccʃe

ʅclʃcʅnɔ ［アイテム］キルティクノ ［レベル］4 µcɷcı: 古 :ʅclcʃcʅnɔ（ティクノを切る） ［文化］ ヴァストリアの１つ。リュウのもつ魔剣。悪魔キルセレスが竜王ティクノと戦ったとき、自慢の最速の太刀でティクノに切りつけた。ティクノは光が見えたと同時に切られていた。致命傷には至らなかったものの、負けを悟ったティクノは早々に逃げた。その剣が恐ろしいと瞬時に悟ったティクノは自分に剣が刺さったまま逃げた。そのおかげでティクノはその剣を手に入れることができた。その剣を調べてみると、どうやら居合い専用の剣のようだとわかった。しかも両刃でないので、刀と呼ぶにふさわしいものであった。ティクノはその刀を家宝にし、自ら ʅclʃcʅnɔ と呼んだ。ティクノはキルティクノを試してみたが、鞘がないので神速が発揮できない。鞘を臣下に作らせて見たが、にわか作りの鞘では到底太刀打ちできない。ティクノはキルセレスの鞘を欲した。しかし彼とはもう戦いたくない。そこで黙って家宝にしていた。µɷ になるとキルティクノはリュウの手に渡る。リュウはキルセレスを出し抜いて鞘を奪い、キルティクノの本領を発揮させる。リュウはライバルのリーネとこの剣で居合いの勝負を行った。

ʅclʃcı ［アトラスの国家］キルティア ［アクセント］ʅclʃc↑ ［レベル］5 ʅL:µcɷcı:ʅcl ɹeleɹ

ʅclʃɔɒı ［動物］柴犬 ［レベル］4 ʅL:µcɷcı:ıµbıleʃʃ

ʅcʅılzıɹ ［アイテム］キルカルザス ［レベル］4 µcɷcı: 古 ［文化］ ヴァストリアの１つ。リーネのもつ魔剣。キルセレスがカルザスに切りつけたときの刀。リーネはライバルのリュウとこの剣で居合いの勝負を行った。

ʅclɭ ［動詞］ɥəl を剃る、剃る、そる ［レベル］3 ʅʔ: 制 :ʅclɭc（切ってなくす）

ʅclɭıµ ［美容］髭剃り、剃刀、ひげそり、かみそり、カミソリ、レイザー ［レベル］3 ɺ1

ʅclɭıµɒɔ ［美容］レザーカット ɺ1

ʅclɹ ［形容詞］細かい、仕事が細かい、切り方が小さい、繊細な、デリケートな、念入りにした、精巧な、精巧にした、まめな、マメな、几帳面な、精度が高い、詳細な、仔細な、詳しい、くわしい ［料理］［動詞］ɥəl を細かくする、細かくする、刻む ［文頭純詞］厳密には、厳密に言えば ［反意語］oın ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 恣意

ʅclɹʃıb ［動詞］ɥəl を精査する、精査する ［普通動名詞］精査 ［レベル］4 µɷ;/ ɺʔ

ʅclɹlɥəɷcı ［言語］ハードファンタジー ［レベル］6 µɷ ɺɺ ［文化］ lɥəɷ cı

ʅclɹınɔz ［音楽］トレモロ ［レベル］6 ɺ1

ʅclɹeleɹ ［悪魔］キルセレス ［アクセント］ʅƐlɹeleɹ ［レベル］4 ɒelʃcı 0:ʅclɹ eleɹ;ʅcl/ɹeleɹ 古 µɥəə/ɑəlɒccı: フルミネアがリュウと『幻想話集アティーリ』の話が興じた際に２人で作った悪魔。ʅcl は古の ʅclc で、「切る」の意味。ɹeleɹ はセレスのこと。即ち「魂を切り裂く者」の意。 ［文化］ 悪魔最強の剣士。ヴァルファントと戦って勝つが、ヴァルファントに与えられた傷が原因でカルザスに破れ、逃げ延びる。その後ティーテルの剣を狙うが、ティーテルは娘のエンナに剣を託し、エンナをアトラスに送り込んでしまう。あきらめたキルセレスはテームスの封印が解けるまで寝起きを繰り返すことにした。 非常に紳士的で、強いものをこよなく愛す。ただし、口数は少ない。低く響く声をしている。紳士的というのはフェアプレーを好むという意味。１対１での戦いを好み、勝負前には必ず傷ついた相手を回復してから勝負に挑む。 準惑星のエリスを司る。 【用例】 ʅclɹeleɹ"ɹıı, ın ʅeı uın ʃc. ɹɔn µe uıɹ ın enzel" キルセレス「さぁ、回復してやろう。全力でかかってくるがよい」(『ＦＦ４』ルビカンテ)

ʅcluınɷ ［普通動名詞］斬撃 µɷ;/ ɺɱ

ʅclɒ ［名詞］チャンス、機会、好機 ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :ʅclcɒel（チャンス）。「切るとき」が語源。リュウの造語。 【成句】 hıɹ ʅclɒ 折角、せっかく、折角だから ʅclɒ clcı 一世一代 ʅclɒ ueeµ 千載一遇 【用例】 lını ʅclɒ ʅeɹ 出直す。またの機会を狙う ʃc ɷen ʃcɑl ʃə ʅclɒ. このチャンスを逃すなよ。 le ıʃ ʅɔ ʅclɒ µıʃ lɔʃen ɥəµ ʅclɒ. １０に１つのチャンスだった。 ın ɹcʃ ʅclɒ. チャンスがなかった。

ʅclɒc ［名詞］舞台裏、裏話、秘話 ［レベル］3 µɷ;ʅı/clɒc「イルミに記された→秘密の内容→秘話」 ɺʔ

ʅclɒeʃ ［動詞］ɥəl を切り落とす、切り落とす ［レベル］2 ɺɺ

ʅclɷ ［政治］（行政単位としての）州→ ɹılıc ［レベル］2 ʅL:µcɷcı:ʅcʅıɷ（国を分かつ）

ʅclɷɔl ［地学］斧石群 ʅL: 刃のような結晶を持つことから

ʅcld ［動詞］ɥəl を煌かせる、煌かせる、きらめく、きらめかせる、きらっと光る、煌く、閃く ［動詞］ɥəl（下着など）をチラっと見せる、チラ見せする ［名詞］ひらめき、閃き、きらめき、煌めき、閃光、一閃 ［名詞］スラッシュ、/ 記号 ［類義語］ıuınɹ ［レベル］2 ʅʔ: 制 :ʅcldıı（刃の光） 【用例】 ʅcld uelʃel 鈍く光る

ʅcldıʅn ［名詞］チラリズム ［レベル］4 ɺ1

ʅcldıɷɔ ［地学］角閃石 ʅL

ʅclb ［動詞］ɥəl を彫る、彫る、ほる、彫刻する、刻む、刻み込む ［普通動名詞］彫刻 ［レベル］3 ʅʔ: 制 :ʅclɒeb（切って彫る） 【用例】 ʃə ʅclb eʃ ʃcnʅı. この彫刻は見事だ。

ʅclbı ［芸術］版画 ［レベル］3 ʅʕ: 制 :ʅlcb

ʅclbcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ちょうこくぐ座 ɺɱ ［文化］ cɑı

ʅclbezcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ちょうこくしつ座 ɺɱ ［文化］ cɑı

ʅclµenɹ ［動詞］ɥəl を ı に言い返す、言い返す、口答えする ［普通動名詞］口応え ［類義語］bıʃɹ ［レベル］3 ʅL:µcɷcı:ʅcl/µenɹ（刃物のような言葉） ［語法］ bıʃɹ と違い、聞き手が少なくとも「この野郎！」と思っているような言いかえしのこと。アルバザード人は総じてプライドが高いので、非論理的に口応えされると激しくキレる人が多い。ʅclµenɹ は文字通り言葉の暴力と捉えられるため、言いかえされてキレて殴ったとしても、言葉の暴力の分と相殺される。とはいえ、たいてい「暴力＞言葉の暴力」という評価が下るので、差し引いてもゼロにはならない。 【成句】［言葉遊び］ɷen ʃel ɒcnʃc ɒın lıɹ ʃcl en ʅclµenɹ hɔʃ ʃeʃ belʅcl ʃın. 嫁に逆らうな。言葉で刺してくるほかに包丁も持ってるぞ。 ［µenʃe］ʃe ʅclµenɹ ʃel lccı lını ɹɔµɷıʃ. 優しくしてほしいなら、夫には口応えしないこと。

ʅclµecn ［武道］斬撃の線、刀剣の軌跡 ［レベル］4 ɺɺ

ʅclz ［植物］切り株 ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 古 :ʅclczıɒɔ

ʅclzlcdl ［料理］ロールケーキ ［レベル］3 ɺɺ

ʅclzɔl ［数学］正弦、サイン ［レベル］5 ʅL: 単位円の弦を半分に切ったもの ［文化］ アルテムで神々が天文学を始めた後に発見され、ユーマの一族にも伝わった。従ってアズゲルのころには既に正弦表が発見されていた。 ɥəəɒı ɺʔʔ1 の冷戦期に半弦の考え方ができる。ɥəəɒı ɺʕʔʔ に弦を半分にして直角三角形を当てはめたところから余角が発見され、余弦ができる。 遅れて三角比ができたのは遠い cɒəl ʅʅɺ1 のことである。

ʅclzɔleeu ［物理］正弦波 ［レベル］5 ɺ1

ʅclıɷcl ［植物］［医療］切モグサ µɷ;/ ɺɱ

ʅclc ［医療］解剖 ［レベル］3 ılıʅʃı: 切ると解剖が同じ語形だった。

ʅclc,ɑ ʅcl ʅc eɹ ɔu. l eɹ ɹɔɔl.

ʅclcɑel ［生物］［医療］解剖学 µɷ;/ ɺɱ

ʅclcoılı ［アトラスの国家］キリワラ ［レベル］5 ʅL:µcɷcı: 左右対称な山

ʅcle ［地学］断層、切り口 ［レベル］3 ʅɺ: 制 :ʅcleel（切ったあとにできる顔）

ʅccʃ ［建築］枢、とぼそ、くるる、くる、くろろ ［レベル］6 ʃɒ;ʅc（動く）/c（目）/ʃe（のような）「目のような中心になるもので、くるくると動くもの」 ɺʔ

ʅccʃɔ,ɑ ʅcʃ ʅc꞊ɔu

ʅccɹ ［名詞］横の列、横の行、行、列 ［類義語］lʃıl ［反意語］nccɒ ［レベル］3 µɷ;ıʅcɹ.ʅ ɺɱ ［語法］ ɹılɹ

ʅccnı ［植物］サイプレス、糸杉 ［レベル］4 ɹɒ;hɥ

ʅccd ［名詞］錐、きり ［レベル］3 ʅɺ: 制 : 古 :ʅccd（切る剣）。元は ʅclc dccʅc。元の意味が忘れられたため余った語形となったところにリュウかメルが錐の意味を当てた。

ʅɔ ［単位］1 ［レベル］1 ʅʔ scs:ɑəə::dc,ılʃ

ʅɔ(ɹ),ılʃ 個。助数詞。 cʅɔ

ꞁↄ(ʔ),ıꞁſ [接頭辞][接尾辞] 指小辞、縮小辞 ꞀꞀ
ꞁↄ,ɑ dↄſ、ꞁↄꞁ、ꞁↄnſe e
ꞁↄ,ıꞁſ ſə <>ꞁↄ
ꞁↄſ [単位] 千、1000 [レベル] 2 1L: 恣意 ſeed:ſen
ꞁↄſſı [代詞][ɟɔlɑeɥs] ꞁↄꞁ [レベル] 1 ꞀꞀ:ꞁɒccɥ:ɒɥəꞁꞁↄſı などの ꞁↄſı から。
ꞁↄſſc [化学][単位] スコヴィル値。辛さの単位。 ul;ꞁↄſſↄn/ıſc Ꞁʔ
ꞁↄſſↄn [植物] ペッパー、唐辛子、トウガラシ、とうがらし、唐芥子 [レベル] 2 1L:ꞁıſn:1ʔ: 制 :ɟↄɥn:ꞁↄſſnn（良い匂いのする実）
ꞁↄſſↄn(Ꞁ) [音楽] 太鼓、たいこ [レベル] 4 ıꞁſ; 擬音 Ꞁ1
ꞁↄſɟ [建築] タイル、瓦 [動詞] ɥəl をこつこつ叩く、コツコツ、叩く [レベル] 3 ꞁıꞁſı: タイルを叩いたときの音
ꞁↄſɟhↄ [生物] 外側鼻軟骨 1L [文化] アルバザード人の男の一部がイライラしたり不安だったり考えていたりするときに、この部分（ないし鼻骨）を人差し指の爪でコツコツ叩くことから。
ꞁↄſꞁ [農耕] 小作 [レベル] 4 1ʔ: 制 :ꞁↄſnlcɑ（田畑を借りる）
ꞁↄſı,ɑ ꞁↄↄſ ꞁe/ſı
ꞁↄſın [農耕][地学] 田、田畑、農地、耕地、田んぼ、田園、農場、農園、田圃、圃 [レベル] 2 1L:ꞁↄſn:1ʔ: 制 : 古 :ꞁəɒəſəənↄ（田畑。植物の（育つ）土） [語法] 野菜や穀物を育て、動物を飼育する場所。 【用例】 ſenſın eſ uↄꞁꞁı ꞁı ꞁↄſın ꞁını ꞁıcl ıꞁſəꞁ. 農家の人々は畑で収穫に忙しい。
ꞁↄſın(Ꞁ) [魔法][哲学] 精 [レベル] 3 ɟɒ;‹ıꞁſ Ꞁ1 [文化] hcnıſı
ꞁↄſınꞁꞁın [農耕] 農奴 [レベル] 4 ꞀꞀ
ꞁↄſınɒcɥↄɟ [哲学] 精霊崇拝、アニミズム、汎霊説、汎神説 ɥɑ;/ Ꞁɱ
ꞁↄſıncɟſc [言語] 精霊代名詞 [レベル] 4 ꞀꞀ [文化] 精霊に関わらず命を持たないものが九十九など意志を持って言語を操る場合に使う代名詞。九十九によってはこの代名詞を使わないこともある。無生物にも使う。こういう代名詞がある言語は地球ではアルカだけではないか。言語的にはアルティア人が持ち込んだものである。 ɟↄlɑeɥs に伴いクミールがユルトをあやしながらリディアの家で相談しながら作ったもの。アルティア語の代名詞そのものとは異なるので混同しないように。特に nını など。
ꞁↄſↄſıbe [化学] 一級イミン 1L
ꞁↄſↄꞁↄ,ıꞁſ ɟıdɥe
ꞁↄſↄꞁↄbe [化学] 一級アルジミン 1L
ꞁↄſↄbezıl [化学] 一級アミン 1L
ꞁↄſe [名詞] 画一性 [形容詞] 画一的な [反意語] ɑcſe [レベル] 3 Ꞁ0:ꞁↄ/ſe eze
ꞁↄꞁ [形容詞] 同じの、同じ [純詞][感動詞] こちらこそ、同様に、同じく、右に同じ、右へ倣え、ライクワイズ [格詞] ～と同じく、～と同じで [文末純詞] ～ですね？ 確認を求める。 [接続詞] ｢と｣は同じくらい～だ。 [数学]合同 [音楽]シーミレ [反意語]ꞁↄↄſ [レベル]1 ɟeɥſ 1ʔ ←古 :ꞁↄꞁↄ。純詞用法は「私の考えと同じか？」という意味から来る。 ꞁↄ, ꞁↄꞁↄ, chↄ（文末純詞）:ꞁↄ, ꞁↄꞁↄ, chↄ:ꞁↄꞁↄ:hılı,ıꞁſ, hılıhılə,ıꞁſ [語法] ꞁↄꞁ ı ſↄſↄ は「～と同じ」という意味である。ſə eſ ꞁↄꞁ ı le(これはあれと同じだ)。よく間違えやすいのが、ſə eſ ɟlıl ꞁↄꞁ ı le のような文である。この ı は ꞁↄꞁ ではなく eſ にかかるので、「これはあれに同じ光景だ」となり、通じない。ſə eſ ɟlıl ꞁↄꞁ ılen le だと ılen は ɟlıl ꞁↄꞁ にかかるので、「これはあれへの同じ光景だ」になり、通じない。ſeſ nↄn cnıſ ɟlıl ꞁↄꞁ ↄn leɟ nↄn ɟↄſ ɟı ıɟꞁ(しかし私のみたものはさっきと同じ光景だった)のように、ↄn を使うのがよい。これは enꞁ や ꞁↄↄſ も同様。 【成句】 cɒ ꞁↄꞁ 同時に 【用例】 ſc ɟccnı ɒccꞁ ꞁↄꞁȣ 君はリンゴが好きだよね？ ın ꞁↄꞁ ſc eſ ꞁıc. 私は君くらい大きい。
ꞁↄꞁ(Ꞁ) [擬音] カツカツ、コツコツ、カッカッ [レベル] 2 Ꞁ0:ꞁıꞁce
ꞁↄꞁſ [動詞] ɥəl を ı（場所など）に伴う、伴う、ともなう、連れ立つ [レベル] 3 Ꞁ0: 古 ꞁↄꞁꞁↄ/ꞁeſſı（共に行く）
ꞁↄꞁſılcſↄu [物理] 等速度運動 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁſıb [普通動名詞] 照合、同一照合、アイデンティフィケーション [動詞] ɥəl が lel{ı} と同一かどうか照合する、照合する [レベル] 4 1L:ɥcɑcı :ıɥbıꞁelſ [語法] ɑızſıb
ꞁↄꞁꞁı [名詞] バランス [動詞] ɥəl のバランスを取る、調整する [形容詞] バランスの取れた、天秤の釣り合った [化学] 無極性の [レベル] 3 1L:ꞁↄꞁꞁↄ:1ſ: 制 :ꞁↄꞁꞁı 【用例】 ſcl ꞁↄꞁꞁı ↄn ucın パワーバランスが取れている
ꞁↄꞁꞁı ꞁıꞁꞁↄ [名詞] どっちもどっち、どっちも同じ、同じようなもんだ、どちらも同じ、どっちでもいいだろ、五十歩百歩、目くそ鼻くそを笑う、どんぐりのせいくらべ [レベル] 3 古 :zını: シーソーとカッコウの音形が似ていて混同されがちだったが、それを指摘されたときに「どちらも似たようなものだ」という意味で引き合いに出してザナが言い出したのが由来。
ꞁↄꞁꞁın [名詞] シーソー [レベル] 2 古 :ꞁↄꞁꞁı ← ꞁↄꞁꞁın
ꞁↄꞁꞁılcıɟ [化学] 無極性分子 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁꞁc [名詞]ヤジロベー [名詞]やじろべえ形のもの [レベル]3 1L: リディアの書 :ꞁↄꞁꞁı 【成句】 ｢ↄ｣ꞁı ꞁↄꞁꞁc. ｢と｣の関係が薄氷の上にある：ヤジロベーの両端に乗っかっていて、どっちかが変なことをすると落ちることから。
ꞁↄꞁꞁↄ [格詞][ɥenſe] ↄꞁ、ꞁↄn [レベル] 1 ɑ;e 赤 ꞁↄꞁꞁↄ:ꞁↄꞁꞁↄ [語法] ↄꞁ と ꞁↄn の両方を意味する。区別する場合は女性も ↄꞁ, ꞁↄn を使う。
ꞁↄꞁꞁↄ(Ꞁ) [幼児][言語] ことば、言語、言葉 [レベル] 2 Ꞁ0: 子供（ルシア）がよく出す「こっこ」という謎の喉音から
ꞁↄꞁꞁↄl [形容詞] 誰かを伴った、孤独でない [反意語] ɥecnↄ [レベル] 3 Ꞁ1:ꞁↄꞁꞁↄ/ıl
ꞁↄꞁꞁↄlɥəↄ [言語] 他動詞 [反意語] ɥecnↄɥəↄ [レベル] 5 Ꞁ1
ꞁↄꞁꞁↄen [ɥenſe][接続詞] ꞁↄꞁꞁↄ。～を伴って。～を使って。 [レベル] 2 Ꞁ0
ꞁↄꞁɟın [数学] 等式 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁɟıɑɒcɥə [物理] 等温変化 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁɟıdnɥecn [気象] 等圧線 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁɟıcɒ [名詞] 同じクラス、クラスメート、クラスメイト、同級生 [類義語] ɑelɒec [レベル] 2 1L:ɒelcɑcı ılcɟ
ꞁↄꞁɟↄɥcſɥecn [地学] 等高線 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁɟeɒɟ [名詞] 同じ部活やサークルの仲間 [レベル] 4 1L:ɒelcɑcı ıꞁſe
ꞁↄꞁn [形容詞] 外向的な、積極的な、外交的な [反意語] ſcſc [レベル] 3 1ɱ: 制 :ꞁeꞁn:1ɱ: 制 : 古 :ꞁeꞁꞁↄnı（内向的(来る心)）
ꞁↄꞁncɑ [名詞] 同級生、級友 [レベル] 2 1L:ɒelcɑcı ılcɟ
ꞁↄꞁneıl [言語] ポジティブフェイス、ポジティブ・フェイス [反意語] ſcſ ceıl ıl;「積極的面子」 Ꞁʔ [語法] eıl
ꞁↄꞁueſ [言語] 同義語 [レベル] 3 1L
ꞁↄꞁɑↄ [言語] 同音異義語 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁɒɥəſ [名詞] 等間隔 [レベル] 4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıꞁelſ
ꞁↄꞁɒıcnɒcɥə [物理] 等積変化 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁɒↄɒ [言語] 同根 [レベル] 6 Ꞁ0 【用例】 ꞁↄꞁɒↄɒ ↄn ꞁıc ꞁıc と同根
ꞁↄꞁhıɥɟ [言語] 同字異語、同字異義語、同綴異義語 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁhcɒ [生物][形容詞] 同性 [反意語] ꞁↄↄſhcɒ [レベル] 3 ɥɑ;/ Ꞁʔ
ꞁↄꞁɥıcl [化学] 同素体 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁɥↄnɒcɥə [物理] 等圧変化 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁocl [医療] 同性愛、ホモ、ホモセクシャル、レズ、ゲイ [類義語] ſeɟſ、ſeɟſeel [反意語] ꞁↄↄſocl [レベル] 4 ɥɑ;ꞁↄꞁhcɒ/ocl Ꞁʔ
ꞁↄꞁı [料理] スライスパン [レベル] 3 1ʔ: 制 :ꞁↄꞁcldↄɑ（一切れのパン）
ꞁↄꞁı,ıꞁſ ıſə ꞁↄ/ꞁı
ꞁↄꞁıdı [数学] 等号 [レベル] 4 1L
ꞁↄꞁıb [被服] 共布 ɥɑ;/ Ꞁɱ
ꞁↄꞁısıɟıɟ [数学] 等比数列 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁısıbↄc [地学] モルワイデ図法 [レベル] 5 Ꞁ0: 面積比の等しい楕球状の地図
ꞁↄꞁcɒ [名詞] 同時 [文頭純詞] 同時に [レベル] 2 Ꞁ1
ꞁↄꞁclɒ [名詞] 唯一のチャンス [名詞] シングルイリミネーション、シングルエリミネーション [レベル] 5 ɥɑ;/ | ɥɑ;ꞁↄꞁclɒaıꞁɟeucſı から Ꞁɱ
ꞁↄꞁↄ [動物] 鳩 [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ꞁↄꞁꞁↄↄ(泣き声のオノマトペ) :: ꞁı ueɥcıl [文化] まぬけで群れるという象徴。平和という意味はない。 鳩は暗い所で大人しくなる習性があるため、手品師に好んで使われる。 鳥のプロトタイプ。【成句】 elɑ ɥən ꞁↄꞁↄ 鳩のように逃げる：蜘蛛の子を散らすように逃げる
ꞁↄꞁↄ,ɑ ꞁↄꞁ ꞁe/ꞁↄ
ꞁↄꞁↄ,ꞁıſ ꞁↄn, ↄꞁ ꞁↄꞁꞁↄ.ꞁ
ꞁↄꞁↄ.ıꞁſ ez
ꞁↄꞁↄſ [魔法] 虚引力 [反意語] ſıſıꞁ [レベル] 6 ıɥɑ;ꞁↄ/ꞁↄ Ꞁ1
ꞁↄꞁↄn [言語] 駄洒落、ダジャレ、シャレ、オヤジギャグ、掛詞 [レベル] 3 古 :ꞁↄꞁↄn ← ꞁↄꞁↄ（同じ） [語法][文化] 音の同じか類似した語句を利用して二重の意味を持たせる表現技法。一つの語句に複数の意味を持たせる場合と、複数の同音・類音の語句を並べる方法とがある。 日本語は同音異義語の多い言語なので容易に ꞁↄꞁↄn ができるため、どちらかというとオヤジギャグとして小ばかにされがち。アルカではあまり ꞁↄꞁↄn が作れないため、粋な表現技法として良く見られがち。
ꞁↄꞁↄꞁↄ,ıꞁſ [名詞] ɟeleɟſ, ıuelınſ [名詞] 死神、凪国風死神 [アクセント] ꞁↄꞁↄꞁ∍ ꞀꞀ [文化] 凪国の死神。着物を着ており、ボートの櫂のような木の枝に乗って飛ぶ。乗り方は地球の西洋の魔女のようなまたがって乗るタイプでなく横乗り。横に進むため、首を右か左に曲げて進行方向を見る。
ꞁↄꞁↄcɑı [地球の星座][ユマナ] はと座 Ꞁɱ [文化] cɑı
ꞁↄꞁen [接続詞] ꞁↄꞁ。～と同じの。 [レベル] 3 Ꞁ1
ꞁↄꞁen(Ꞁ) [名詞] 同一人物、同一物 [レベル] 3 ɥɑ;/ Ꞁɱ
ꞁↄꞁenɑc [数学] 等差 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁenɑcɟıɟ [数学] 等差数列 [レベル] 5 1L
ꞁↄꞁeɒ [言語] 同化、アシミレーション [数学] 通分← ɑↄɥꞁꞁↄꞁeɒ [レベル] 3 1L
ꞁↄꞁeɒaıɥ [名詞] カウンターイルミネーション ıl;/「同化光」 Ꞁɱ [語法] 海の底から水面方向に見上げたときに、浅い場所の深海魚が太陽の光を背にして自分の影を目立たせないように、自分の腹側を発光させて光にとけ込むようにして、自分より下の水位にいる捕食者に狙われにくくするための深海魚の防御方法のこと。
ꞁↄꞁeɥc [親族] 同胞、同じ親から生まれた雛、兄弟、仲間、同志、一族、親類、民族、はらから [レベル] 3 1L:clɒəɟ:ɥcɑcı: 同じ血の
ꞁↄꞁe [地学] 沼、池 [名詞] スランプ [レベル] 2 Δ:ɑəlɒccı『すなおな気持ちになれる風』 :::lə elɑe（アルドゥ） [語法] 沼は湖の小さいものだが、アルカでは沼は池に近い。アルカの沼は池よりも広い。また、しばしば浅い。 【用例】 ın ꞁı ſəɥ ꞁↄꞁe e lecɟ. 絵がスランプだ。
ꞁↄꞁeꞁı [地学] 沼地 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 沼の場所

ɿɔlejıl ［名詞］井の中の蛙 ［レベル］３ 1L: 池のリーダー

ɿɔleuını ［名詞］［形容詞］井の中の蛙の自信、勘違いした自信、実のない自信、井の中の蛙大海を知らず ［類義語］uını ［レベル］３ ɺ0: → ɿɔlejıl ［語法］ 井の中の蛙の自信のこと。実際にはまるで能力がないのに自信だけはあること。eɥcb の成句とニュアンスが異なる。 【用例】 ıı, ın nı elɑcn ı lı ɿɔleuını ɥəlel(ılʃe あの井の中の蛙、マジでｱﾁｬｰなんだけどｗ

ɿɔȷ ［名詞］方法、手段、やりかた、やり方、仕方、様式 ［格詞］～の方法で ［反意語］ʃel ［レベル］２ @ 1L

ɿɔȷ(ɺ) ［化学］アルデヒド ［レベル］５ 1L:ɿɔ/ʃeȷ。ʃıʃ 参照。ɿɔʃ にしなかったのは千と重複するため。

ɿɔȷʃ ［形容詞］あつらえた、テーラーメイド、誂える ［反意語］ᴅıdl ［レベル］３ ɺ0:ɿɔnȷ/ȷıʃ

ɿɔȷlec ［名詞］マニュアル、教本 ［レベル］３ ɺ1

ɿɔȷı,ılʃ lə ɿɔ/ȷı

ɿɔȷen ［接続詞］ɿɔȷ ［レベル］３ ɺ1

ɿɔȷeɥen ［ユマナ］［名前］コセレン 1ʔ:ɥcɑcı:ɿlel: 非アルカ。ɿɔɥcn と同じような語源。 ［文化］ リディアの飼い猫。雄。猫を飼おうとしていた時期のリディアのところにちょうど良く庭先に現れたので捕獲された。

ɿɔn ［格詞］～を使って。具格、道具格。 ［名詞］道具← ᴅɔlʃ ［類義語］ᴅeɿcı ［反意語］ucʃ ［レベル］１ 制 : 古の ɿɔɿɿɔ（具格）から :::ɿɔɿɔ,ılʃ ［語法］ → e ・偶然性 ɿɔn は偶然性や無意識を意味しない。無意識だろうと偶然だろうと道具を用いた行為にはすべて ɿɔn が使われる。例えば cnȷıʃ ɿɔn ʃecɿ（テレビで見かけた）のような場合、たまたまテレビで流れていたのを見かけるわけで、この場合、ɿɔn を使うことに違和感を感じる日本人ユーザーがいた。恐らくこのユーザーは ɿɔn を「～を使って」と訳していたため、違和感を感じたのだろう。日本語の「使う」は意図的な動作なのでたまたま見かけた場合は ɿɔn が不適切に感じたのだろう。だが ɿɔn に意図の有無は関係ない。道具を用いた行為ならすべて ɿɔn を取るので、「～を使って」という訳語に引きずられてはならない。 【用例】 ɿcl zɔᴅ ɿɔn ɑcɔl のこぎりで木を切る

ɿɔn(ɺ) ［エルト］ɿɔnɔɔʃe の略称 ［組み数字］１２/１２ ［レベル］１ ɺɺ

ɿɔn(ʔ) ［生物］［医療］腑。陽である。 ȷzl ɺʃl ［語法］［文化］ hın

ɿɔnʃ ［格詞］～しながら、～しつつ、～している間に、～の間に。同時格。 ［反意語］ȷceʃ ［レベル］１ 1ʔ ←古 :ɿɔnʃlcl（共有する） ［語法］ ɿɔnʃ は同時性を持ち、ɔɿ は同時性を持たない。これらを否定するとそれぞれ ȷceʃ と leɑ になる。ılcȷ ɿəʃ ȷɔı ɔɿ ocɿ の場合、アリスは喋る前か後に頷いたことになる。ılcȷ ɿəʃ ȷɔı ɿɔnʃ ocɿ の場合、アリスは喋りながら頷いたことになる。頷いた回数はどちらも不明だが、後者はたいてい複数回と取られることが多い。 なお、ɔɿ や leɑ は必ず同時性がないかというとそうではない。行為が後ろに来ない限りは同時性を持つ。例えば ılcȷ ocɿcɿ leɑ lcu の場合、lcu は行為名詞ではないので同時性を持ち、通常「声を出さずに頷いた」と解釈される。なお、この例文では ɔɿ の代わりに ɿɔnʃ を使うことができない。ɿɔnʃ が使えない場合の ɔɿ は同時性を持ちうるという理解でもよい。ɿɔnʃ と置き換えられるときは、同時性がある場合に ɿɔnʃ を使い、そうでないときに ɔɿ を使う。 【用例】 lı nılıʃ ɿɔnʃ enı. 彼女は泣きながら笑った。

ɿɔnʃɔn ［言語］節字、ハーディアン文字、アルティア文字、ロロス文字、コントン ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ hıɾ、lcᴅ

ɿɔnʃe ［名詞］ウチ、身内 ［反意語］ʃınʃe ［レベル］２ ɺ1: 古 ɿɔ（ウチ）/ʃe ʃɔnı（関係） ɿɔ: ［文化］ アルバザードのウチソト観について。 日本人はウチソトを日本文化の特徴と思いがちだが、ウチソトは外国にも見られる傾向である。 ただ、ウチソトがあればその価値観は日本と同じかというのもまた誤解である。 アルバザードの場合、ウチとソトを分けるが、キーワードは恥ではない。 キーワードは愛で、悪く言えば身贔屓である。 アルバザード人は身内や仲間などウチには甘く、ソトには冷たい。 これは歴史的に見てアルバザードが戦争を繰り返し周辺国家と戦い続けてきたことに由来する。 アルナが革命前からやや円形気味な都市だったのも城壁で囲んでいたためである。 城壁の外や国外や異邦人はすなわち敵で、脅威であった。地球でいうならフランスなどに似ている。 このことからアルバザード人はウチに対して甘い文化になっていった。 日本の場合ウチにはむしろ厳しく、身内の恥を出さないためには粛清も厭わないルティア的な考えである。 アルバザード人は身内を他人の前で褒めることは控える。 しかし本人の前では褒める。また、他人の前で貶すこともない。

ɿɔnɿ ［動詞］ɥəl（内容）を ı（相手）に啓発する、啓発する ［普通動名詞］啓発 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɿɔnȷınlə（専門家が言う） ［語法］ ɿə と同じ格組。

ɿɔnɿɔ,ɑ dɔʃ ɿɔ が内。

ɿɔnȷ ［名詞］専門、専攻、専属 ［動詞］ɥəl を専門とする、専業する、専門とする、専攻する ［レベル］３ ɑu;ɿɔn は ɿɔɿɿɔ などの具格に関与？ 古 【用例】 lə ɿɔnȷ ȷelɑ. 彼は文学を専攻している。 lə ɿɔnȷɔɥ ȷelɑ. 彼は一時的に（非本来的に）文学を専攻している。

ɿɔnȷueʃ ［言語］術語、専門用語、業界用語、ジャーゴン ［レベル］４ ɥɑ;/ ɺʔ

ɿɔnȷıᴅe ［言語］具格、道具格 ［類義語］ɔɿȷıᴅe ［レベル］４ ɺ0

ɿɔnȷeʃ ［形容詞］専門的な、マニアックな ［レベル］３ ɑu;ɿɔnȷ/ʃe ɺʔ

ɿɔnucɥ ［魔法］閉式赫晄 ［レベル］６ ɺ0: 古 ɿɔ（中に、同じ）/ucɥ ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɿɔnuccɑı ［生物］［医療］下合穴 ɥɑ;/。腑病に用いることから。 ɺʃl

ɿɔnᴅılᴅ ［生物］腑。西洋医学における腑のこと。 ［レベル］5 ɥɑ;/ ɺʃl ［語法］［文化］ hın

ɿɔnl ［法律］常識、通念、倫理、規範、良識、公序良俗 ［類義語］ınleᴅın ［レベル］2 古 :ɿɔnl。元は ɿɔnlɔ「共通の知恵、思考」 ［文化］ 法律と同程度、ときにはそれ以上の効力を持つ不文律。 【用例】 ʃcl ɿɔnl 常識がある

ɿɔnlcl ［化学］ラドン ［レベル］４ 1Δ: 制

ɿɔnıȷı ［生物］［名詞］［形容詞］一卵性 ［レベル］３ 1L

ɿɔnıɥʃ ［魔法］閉式魔法 ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɿɔnıɥɿ ［生物］［医療］腑会 ɥɑ;/ ɺʃl

ɿɔncᴅ ［名詞］［形容詞］モノカラー、単色 ［名詞］白黒、モノクロ、１Ｃ ［レベル］４ ɥɑ;/ ɺʃl ［語法］ 通常単色だと墨を使うのでモノクロの意味として使う。白黒でない場合例えば白緑などの場合は「単色で色は緑」のような言い方をする。無標が黒というだけである。

ɿɔncı ［美容］ポニーテール ［レベル］２ 1L

ɿɔnɔʃȷ ［経済］単式簿記 ［レベル］６ 1L

ɿɔnɔhı ［人名］コノハ ls;ılʃ ɺɺ ［文化］ 三人目は ɿɔnɔhı。見た目は 1ʕ 歳程度。凪人の名を持つが、れっきとしたロゼットで、神と人の混血児だ。 コノハはロゼットにも関わらず、あるものを司って生まれてきてしまったため、天界から追放されてしまった。 人を幸せにすることに生き甲斐を感じる。けなげで純粋で天真爛漫。しかし呪われた血のせいで、親切心がいつも裏目に出てしまう。

ɿɔnɔɔʃe ［エルト］善心コノーテ ［名詞］１２時 ［名詞］北 ［交通］コノーテ通り ［音楽］シ ［組み数字］１２/１２ ［類義語］ɿɔn ［アクセント］ɿƎnɔɔʃe、ɿɔnƎɔʃe ［レベル］２ ᴅelʃcı ʃl:ɿɔnɔɔʃe;e 古 ［文化］ アルミヴァの１２番目。エルトの左足から生まれた。善心と名高い。ルフェルとダルケスの母で、カルザスの妻。クレーヴェルの妹。慈愛にあふれ、献身的で安定を望む。

ɿɔnɔe ［植物］木 ［名詞］木材、材木 ［類義語］zɔᴅ ［アクセント］ɿɔnɔE ［レベル］３ ɥɑ;ılʃ ɺ1

ɿɔnen ［接続詞］ɿɔn。～を使って。 ［レベル］２ ɺ1 ［語法］ e

ɿɔnez ［名詞］資料室、用具室 ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

ɿɔnel ［形容詞］言葉に表わされた、感情などを口に出す ［反意語］ɑenɿ ［レベル］３ ɺ0:ɿɔn elɑ（言葉を使った）

ɿɔu ［名詞］箱、ケース、漠然と道具箱、何かを収納するカセットテープのカセットのような殻、釣り道具入れ、牛乳パックのような容器 ［メタファー］箱詰めされてしまわれて大事にされた物や人。箱入り娘などの箱と同じ。 ［メタファー］世間知らず ［交通］車両、車体← dıɿɿɔ ［電算］ドライブ ［類義語］ɿɔɑel ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ɿɔue（箱）（中（ɿɔ）が暗い（ue）） ɿɔue:ɿɔue ［語法］ 代表的な収納容器。様々なメタファーに使われる。ʃeᴅɿ との違い。ɿɔu は収納目的が強く、ʃeᴅɿ は貯蔵目的が強い。また、ɿɔu は大事に手元に収納しておこうとするので箱入りという意味にもなる。 【用例】 ʃə eʃ ucl ᴅeɥ lel ın ɑlɔl le ɿɔu ɑıɑ. 私があんな重い箱を運ぶなんて不可能だ。

ɿɔuleʃȷ ［音楽］アップライト、アップライトピアノ ［レベル］６ ɺ1

ɿɔuı ［医療］カプセル ［レベル］２ 1ʕ: 制 :ɿɔu

ɿɔuıȷ ［運動］サバイバルゲーム ［レベル］４ ɺ0:ɿɥɔ/uıȷ ［文化］ 団体競技の中で最も人気のあるスポーツ。おもちゃの銃を使った日本と同じタイプのゲームもあるが、銃撃戦は歴史上あまり出てこなかったため、そこまでメジャーではない。最も人気のあるのは戦場を模した白兵戦で、剣や槍を持って戦うという内容。弓兵もいる。武器や防具は安全設計になっており、一定の箇所に一定のダメージを与えられると死亡とみなし、倒した陣営にポイントが加算される。倒した敵の階級により、ポイントは異なる。女子も参加でき、授業で習った薙刀などをここぞとばかりに振るう。

ɿɔuıld ［名詞］小包郵便物、小包 ［レベル］３ 1ʕ: 制

ɿɔuıenın ［魔法］単蓄体 ［レベル］６ ɺ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɿɔuc ［名詞］ブロック ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ɿɔu

ɿɔucʃ ［遊離副詞］［形容詞］たまに、偶に、あまりない ［レベル］１ ɺ0:ɿɔ/uc/ʃe（３つに１つくらいの）→ ɿɔucʃ。言葉遊びから来ている。頻度を９段階で示すと、１段階あたりの見込みは訳１１％（１０回に１回ほどの頻度）となる。ɿɔucʃ は下から３番目だから約３３％を示す。３３％は確率に直すと３分の１で、３つに１つであるから、ɿɔucʃ とした。 ［語法］ ıləəʃ

ɿɔuɔ ［数学］直方体 ［レベル］３ 1ʃl: 制 : 古 :ɿɔue(箱)

ɿɔuɔlcȷı ［化学］角砂糖 ［レベル］３ 1L

ɿɔue ［建築］押入れ、物入れ、クロゼット、クローゼット ［レベル］２ 1ʔ: 制 参考 : 古 :ɿɔue（箱）

ɿɔue,ɑu ɿɔu 「中が暗い」

ɿɔueȷ ［名詞］一人きり、一人ぼっち、ひとりぼっち、ぼっち ［形容詞］一人きりの、一人ぼっちな、ひとりぼっちな ［レベル］３ ɥɑ;/ ɺʃl

ɿɔueȷʃɔ ［言語］単母音 ［レベル］６ 1L

ɿɔuen ［名詞］鉈、ナタ ［レベル］３ 1ɫ: 制 :ɿᴅccɥ:ȷɔɥn:ɿuen 【用例】 leeu, nɔn ılɔ ɑın ɿɔɿɿɔ ʃɥə, ɿɔuenᴅını. 遊んであげるわ、おいで、鉈女。(『ひぐらしのなく頃に』)

ɿɔueɥ ［魔法］魔封石 ［レベル］５ ɺ1:ɿɔue/ɥen「箱の宝石」 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɿɔuel ［名詞］闇 ［類義語］uel ［レベル］３ ɥɑ ɺɺ:ɿıɿɿɔuel と同根。ɥɑ なので ɿıɿɿɔuel より古いことになる。

ɿɔɑʃ ［動詞］ɥəl を c から引き出す、ɥəl を c から返してもらう、ɥəl（預けた子供など）を c のところまで迎えにいく、引き出す、迎えに行く ［反意語］ʃɔɑl ［レベル］３ ɺ0: 古 ɿɔ（こちら側へ）/ 古 ɑəʃɔ（取る） 【用例】 ɿɔɑʃ φcl ɿı ɿlen 銀行で金を下ろす

ɿɔɑle ［建築］面積の狭い薄い板 ［芸術］タブレット、ペンタブレット、ペンタブ ［電算］タブレット、スレート ［レベル］３ ȷɒ;ɿɔddel.ɿ「小さい箱」。その後薄い板になり、現在ではタブレットに。

ɿɔɑı ［医療］流行性感冒、流感、インフルエンザ ［レベル］３ ɿᛘ: 制 :ȷıɑ:eɿ ɔeɑı（伝染する風邪）

ɿɔɑɔµ ［音楽］二分音符 ［レベル］５ ɿL ［文化］ → ɑɔµ

ɿɔɑel ［名詞］小さい箱、小さな箱、小箱、宝石入れ、貴金属入れ ［名詞］単位。大学の授業の単位。ひとつの授業の単位を小さな箱になぞらえたもの。 ［電算］変数。値や数値を入れる小箱と捉えられたため。 ［レベル］３ ɻɻ:ɿɔddel と同根 ［語法］ 変数：ɿɔɑel 配列：lɔd 配列の要素（添字）: ɑılɒ ハッシュ：ɑelɿı ハッシュのキー：ȷıcɒ 変数、配列、ハッシュ等の値：µıɑl 【用例】 eu 1 ɑel µıɑl ı ʃ ɑel ɿɔɑel 1 という要素をʃという変数に入れる zed ıl ɿɔɑel ȷıɒel lını lıɑ ɑelȷınɔ e ɑlɔɒ ɿeȷ. 来セメスターの時間割を組むために、単位を計算しなおすべき。

ɿɔɒ ［動物］子犬 ［レベル］２ ɿL:ɒelcɑcı ılʃe:ɿɔɔɒı

ɿɔɒʃ ［生物］クローン、複製人間 ［レベル］３ ɿʔ: 制 : 古 :ɿɔɿɔ（同じ）

ɿɔɒuıȷn ［ネガティブ］［名詞］(ʃcl) 無謀な、蛮勇の ［類義語］uıȷn ［レベル］３ ɻ0: 子犬の勇気。敵から見て子犬がキャンキャン騒いでいるだけに見えるような。

ɿɔɒɒı,ɑ ɥeɿ elʃ;ɿɔ/ɒıcn

ɿɔɒɒe,ɑ ɿııɑ ȷııl;ɿɔɒɒı.ɿ

ɿɔɒb ［名詞］トロッコ ［レベル］３ ɿɱ: 制 :ɿɔu（箱）

ɿɔɒɥəɔ ［魔法］［化学］単離 ［レベル］６ ɻ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɿɔɒı ［数学］比例、正比例 ［動詞］ɥəl を ı に比例させる、比例する ［副詞］比例して ［レベル］４ 古 :ɿɔɒı ないし ɿɔɔɒı(比例)。ɿɔɔɒı が本来的だが、犬のコーマと間違えるので ɿɔɒı が多かった。ɿɔɿɿɔ と ɿıɒı からきている。つまり「 共に増える 」の意。

ɿɔɒıφeʃ ［音楽］シングルリード、単簧 ɻ1

ɿɔɒcȷ ［動詞］ɥəl を跪かせる、膝まづかせる、膝まづく、跪かせる、跪く、ひざまずく、ひざまづく ［レベル］３ ɻ0:ɒelcɑcı ɭceµ:ɿɔlɒclɿ（片方のひざ） ［語法］ 片膝で座ること。すなわち跪く。忠誠を誓うしぐさ。同時に、男性が女性に対し、自分が相手を守るとの意思を伝える際の動作。この後、右手を心臓の前に当てがい、これをもって忠誠を誓う約束の動作とする。

ɿɔɒcnʃcɿɔıɒcµ ［法律］一夫一妻、一夫一婦、一夫一妻制、一夫一婦制 ［レベル］４ µɑ;/ ɻɱ ［文化］ アルバザードでは神代においては女性は魔導師としての地位が高く、男尊女卑の傾向はなかった。このころは一夫一婦制が一般的であった。しかし有力なものが複数の妻や夫と結婚することはあった。ȷɒ になり魔力の衰退とともに貴族社会が発達して女性が家の奥に閉じ込められると、有力な男性が複数の女性を妻とすることがあり、一夫多妻制になったが、それは一部の話であった。なお、ȷɒ では通常一妻多夫制は社会通念上はしたないとして見られなかった。この傾向は µʃ まで続いたが、ul になるにつれて男女平等の名の下に一夫一婦制が明文化され、ls に至る。

ɿɔɒcnʃcuɔıȷıɒcµ ［法律］一妻多夫、一妻多夫制 ［レベル］４ µɑ;/ ɻɱ ［文化］ ɿɔɒcnʃcɿɔıɒcµ

ɿɔɒɔ ［文頭純詞］なぜか、なんとなく、何故か、何となく、なんのけなしに、何の気なしに、なぜだか、何でかしらないが、何故か分からないが、不思議なことに ［レベル］２ ɑ;e 古 :ɿɔɒɔ。元は「 何故 」を意味する疑問詞だったが、「 何故 」が cɔ に代わったため、「 なんとなく 」の意義を持つようになった。

ɿɔɒɔ,ɑ eȷ elʃ:「どこへ向かう形→どのような理由」

ɿɔɒɔɿ ［音楽］二分休符 ［レベル］４ ɿL ［文化］ → ɑɔµ

ɿɔɒeʃ ［単位］マイナス２８乗 ɻ1:ɿıɒʃ/ʃe

ɿɔɒeʃ,lȷl ɿııɑ ɿɔɒɒı/ʃe

ɿɔɒeɒ ［数学］単位円 ［レベル］５ ɻ0: 半径１の円

ɿɔɒelʃ ȷıɑµecn ［人名］コメルト＝サフレイン ［レベル］６ 古 ［文化］ リーザの教師。リーザをナルシェに引き合わせた。

ɿɔɒelc,ılʃ ȷɔı、このような、こういう ɿɔ/ɒelc

ɿɔφ ［名詞］錫、スズ ［レベル］４ ɒelʃcı L:φclcəȷ;ɿɔɿɿɔ/φc 古 :µɥəə:ɿɔɿɿɔ φc から。ɿɔɿɿɔ（ともに)、φc（金属）で、「くっついていく金属」の意。ほかの金属との合金に使われたことから。制では４対の中に消え去った。

ɿɔφɑɔl ［地学］スズ石 ɿL

ɿɔφlcl ［化学］錫→ ɿɔφ ［レベル］４ ɿL

ɿɔd ［名詞］合体、統合、一致団結、融合、ユナイト、ユニオン、包括、包括的、統一、総合、結合、併合、和合 ［経済］合計、総計、トータル ［名詞］トリニティ、三位一体 ［名詞］合計金額→ ɿɔdφıµ ［数学］数学のシグマ ［動詞］ɥəl を ı に合体させる、合体させる、合体する ［形容詞］統一された、画一的な、包括的な、全般的な、合併された ［化学］合成 ［経済］合併 ［音楽］タイ ［反意語］ɑɔnȷ ［レベル］２ µɑ;ɑφn ɿʔ: 制 : 語源不詳 【用例】 ɭıɒl ɿɔd 統一的なデザイン

ɿɔdȷ ［数学］積分 ［レベル］５ nɑ;ɿɔd.ɿ ɿʕ: 制 :ɿɔd

ɿɔdn ［運動］ヨガ、ヨーガ ［レベル］３ ɿʔ: 制 :ȷıɑ:ɿɔdcdncı（精神を）統一する座り ［文化］ ルヴァンの一種。座って瞑想するのではなく、色々なポーズをとりながら呼吸をすること。

ɿɔdueʃ ［言語］合成語。複合語と派生語を含める ［レベル］５ ɿɱ: 制 : 合成の語 ［語法］ ınɿleʃ

ɿɔdɑılı ［名詞］合併号 ［レベル］３ µɑ;ɿɔd/ɑılı「合わさった号」 ɻʔ

ɿɔdφen ［化学］合成樹脂 ［レベル］５ ɿL

ɿɔdde ［単位］斤、一斤。アルバザードのものは地球より少し少ない。 ［名詞］一斤の食パン ［レベル］３ ɻɻ:ɿɔddel 【成句】 1 ɿɔdde ʃıʃ 1 ȷel 一日一斤のパンで人は生きる：起きて半畳寝て一畳

ɿɔddel ［名詞］柩、棺、ひつぎ、棺桶、棺おけ ［電算］函数、関数。複数のステートメントが入っている箱のように見えることから。ɿɔɑel や ɿɔu は別の意味で使われるため、ɿɔɑel より大きな箱として採用された。 ［類義語］uɔµɿɿɔu ［レベル］３ lȷɑ;ɿɔue（箱。「中が暗い」。音象徴の複合語）›ɿɔuel (ɿɔue/ıl (物)) ›ɿɔddel.l ɻ0: 古レスティル語で「暗い箱」 lııɿɔue:ɿɔddel:lə ɿɔddel:ɥəlclcȷ,cn

ɿɔddel(ɻ) ［人名］コッペル ［レベル］６ ɻ0 ［文化］ (ɥəəɒı ʔLᛘʕ:ɱɱ1Δ) アルヴェーテの教祖リデルの参謀。

ɿɔddel(ʔ) ［人名］コッペル ɔµ ɻɻ ［文化］ サプリ村の住人。パン屋の経営者。大柄で気の優しい中年男性。顎髭と頬髭あり。

ɿɔddelcı ［論理］産婆法、コッペリア ［レベル］５ ɻ0:ɿɔddel/ 古リュディア語 lcı(→ lcı) ［文化］ 相手に自分の考えを引き出させる誘導するような語り口のこと。アルバザード人は知的かつ融和的なやり方として非常に好む。アズゲルでコッペルが主君 lcɑel に対して行ったことから。

ɿɔdhɔd ［化学］合成ゴム ［レベル］５ ɿL

ɿɔdɥəuel ［運動］［ユマナ］合気道 ［レベル］５ ɻ0: 相手とぶつかりあうよりも相手の呼吸や動きに合わせ、和合するように動くことから。

ɿɔdzɔɒ ［植物］接木、接ぎ木 ［レベル］５ ɿʕ: 制

ɿɔdlcɒl ［化学］合成繊維 ［レベル］５ ɿL

ɿɔdlcıȷ ［化学］合成高分子 ［レベル］５ ɿL

ɿɔdleʃ ［音楽］コード ［レベル］５ ɻ1:ɿɔd/ʃəl/ʃe ［文化］ ソームを使って表す。例えばＦなら ʃeeue。音階と区別するよう単に頭文字を取ってʃとするか幼字を使って表す。

ɿɔdıdıl ［アトラスの国家］コパパル ［レベル］５ ɿL:µcɑcı:「太陽の方」

ɿɔdeʃ ［名詞］詰め合わせ、つめあわせ、詰めあわせ、詰合せ、詰合わせ、つめ合わせ、アソート ［レベル］３ ɻ1:ɿɔd/ʃe

ɿɔbl ［物理］三次元、３次元、３Ｄ、立体、立体という意味でのステレオ、ステレオ、立方 ［俗語］三次元、三次、惨事。現実の人間や現実世界そのものを指すスラング。 ［形容詞］三次元の、立体の ［レベル］３ ɿʔ: 制 :ɿıbl 古 :ɿıbl（３次元)、ɿılbə（世界）【用例】 ɿɔbl eʃ beɔ ɑıdᛚ ɑcɿl eʃ ıɿɿıııᛚ 惨事はクソだ。虹最強伝説！ ɒclɑ ɿɔbl le ɭı ıʃə ɭınel ɥən 本当にそこに存在するかのような３Ｄアート

ɿɔblncʃɒelɑc ［数学］［気象］立方ミリメルフィ。降水量などに使う。 ［レベル］３ ɿL:µcɑcı:ıµbılelʃ

ɿɔblɒelɑc ［数学］立方メルフィ ［レベル］３ ɿL:µcɑcı

ɿɔbldıɒɔ ［数学］空間図形 ［レベル］４ ɿL

ɿɔblclʃı ［名詞］立体映像、ホログラム ［レベル］３ ɿL:ɒelcɑcı ılcȷ

ɿɔblcn ［物理］立体視 ［レベル］４ ɻʔ ［語法］ 平行法と交差法がある。

ɿɔbe ［化学］アルジミン ɿL: アルデヒド＋イミン

ɿɔbel ［アトラスの国家］コベル ［レベル］５ ɻʔ:µcɑcı

ɿɔhıɿə ［名詞］若、わか、王子 ［類義語］ıµɑcȷʃ、ɒcleµ ［アクセント］ɿɔhıɿƎ ［レベル］３ ȷɒ;‹,ılʃ‹/「小さな宝物」 ɻɱ ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ ○名 ×姓 ×前置 ×後置 ○男 ○単体使用 / 名詞用法 敬称の一種であるが、名前とともには使えない。ɿɔhıɿə ȷeµen というような使い方はできない。 ［文化］ アルティアやロロスで王の息子を呼んだ言葉。ȷɒ では凪の王子を指したが、ȷɒ のうちに王子一般を指すようになった。ȷɒ のうちにアルティア本国で主君の息子や自分が仕える若い主を指すように意味が変化し、それがロロスに行き、その一方でカレンシア経由でアルバザードにも伝わった。 µɑ ではルビィがセレンを若と呼んで仕えた。セレンが大人になってもルビィはセレンを個人的に若と呼び続けた。

ɿɔhıɑɑµın ［数学］一次関数 ［レベル］４ ɿL

ɿɔɥɔl ［名詞］使い捨て ［形容詞］使い捨ての、ディスポーザブル ɿʔ: 制 :1 回使用

ɿɔɥɔlc(ɻ) ［人名］こより ［アクセント］ɿɔɥɔlЄ ɻ1:ɿɔɥɔlc ［文化］『ねこの郵便屋さん』の主人公。

ɿɔɥɔlc,ılʃ ıµʃen ʃ'ıɒıφıʃılc ɿɔɥɔlə,ılʃ

ɿɔɥɔlə,ılʃ ɿə ıµʃen ‹›ɿə/ɥɔl

ɿɔɥə ［電算］半角 ［反意語］ʃıɥə ［レベル］３ ɻ0:ɿɔɥəıʃ

ɿɔɥəlcın ［名詞］一人っ子、ひとりっこ ［レベル］３ ɿL

ɿɔɥəlcınıµɑı ［政治］一人っ子政策 ［レベル］３ ɿL ［文化］ ヴェレイのメテで行われたが、失敗に終わった。

ɿɔɥəlɔʃȷ ［電算］無変換キー ［レベル］４ ɻ0

ɿɔµ ［格詞］〜の方へ ［名詞］方向 ［ɥənʃe］［動詞］ɿe ［動詞］ɥəl を ı へ向ける、向ける、向く ［シェルト］方向転換。歩やテームスの方向転換。 ［類義語］ıµɿɔµ ［反意語］µɔʃ ［レベル］１ ȷeµʃ ɿɱ: 制 : 古 :ɿeµı（方向） ɿe（方向） ɿeµ,ɑ（後置詞の）, ɿeµı, ɿeɿeµ（〜のほうへ）:ɿe, ɿeµ:ɿeµ, ɿeµı ɿeɿeµ（〜のほうへ）【成句】 ɭı ɿɔµ ucl ı ɑcı ɔ ɒel ucnɑel. 彼は夢と時間に同時に安全には向き合えない：虻蜂取らず、二兎を追う者は一兎をも得ず。実際には言葉遊びになっていて、ɭı はセレンで、ɑcı と ɒel が何を意味するかは言うまでもないだろう。向き合えはするが安全は保障されないというわけで。 ʃcɑl ɿɔµ 前後不覚 【用例】 eelcɿ ɿɔµ ɭc 後ろを振り返った ɿɔµ dııl ı hcɭ パールを方向転換して横駒にする

ɿɔµʃ ［動詞］ɥəl に耳を傾ける、耳を傾ける、聞く ［類義語］ʃeµ ［レベル］

2　1L:ɿɔµ ʃeᴅ。類音は ɿɔɔʃ, ɿɔlʃ だが、明らかに文脈が異なるので問題ない。

ɿɔµʃe ［動詞］ yəl を ı（場所）に干す、干す、ほす ［レベル］2　1L:ɿɔµ ʃeeze（風に）

ɿɔµɿ ［動詞］ yəl の量を減らす、減らす、減る、削減する ［普通動名詞］減少、減量、削減 ［反意語］ᴅecɑ ［レベル］2　1L:ɿɔµ ɿılɔ（少ないほうへ）【用例】 uılȷ ɿəʃ ın ɿɔµɿ ıl uelɑ. 医者に酒量を減らすように言われた。

ɿɔµɿcᴅ ［生物］伸展　µɑ;/「～のほうへ（去るほうへ）曲げる」　ɺɱ

ɿɔµɿɔµl ［生物］外返し、外反し、外がえし、外反　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔµl ［動詞］ yəl をのけぞらせる、のけぞらせる、のけぞる、仰け反る、そる、反る ［反意語］ɿɔls ［レベル］2　1L:ɿɔµ lɔȷ 【用例】 lı nılıʃ ɿɔnʃ ɿɔµl. 彼は体をのけぞらせて笑った。

ɿɔµlɑɔ ［言語］そり舌音 ［レベル］6　1L

ɿɔµȷ ［動詞］yəl を ı と共生させる、共生させる、共存する ［普通動名詞］共生、共存 ［レベル］3　1L:ɿɔlµ:1L:ɿɔlɿɔµı 【用例】 ɿɔµȷ ɿeʃ ɔnʃ ɔᴅı 猫と犬を共生させる

ɿɔµȷıc ［生物］回外　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔµn ［魔物］コルン（羽妖精）: 第八十二天 : 利の炎天 ［レベル］5　古 : ɿɔµn ← ɿeµn のアプラウト。セレンの絵の入った黄色いファイルでは同名のコルンという少女の名前に使われている。花言葉を魔力に変える花魔法を使うという設定だった。 ［文化］ 妖族。翼の生えた手のひらサイズの少女の姿をしている。人見知りが激しく、臆病で、すぐ逃げてしまう。気に入られると、魔力を回復してくれる。甜菜糖が好きなので、lcɑı を餌に釣れる。 【成句】 lccʃ ɿɔµn ɿɔn lcɑı 海老で鯛を釣る　ɿɔµn lelɑ 飛んで火に入る夏の虫

ɿɔµnɑµenȷ ［名詞］蛇足、余計なこと ［レベル］3　ɺ0: 魔族コルンの羽根 ［文化］ カコで、あるアルバザード人の男が高価な指輪を盗んだ。男は容疑者として咎められたが、魔族コルンの悪戯だと証言した。役人がコルンの姿を描いてみよと命じた際、男はコルンの背中に翼でなく羽根を描いた。妖精は大概羽根が生えていると思ったためである。ところが ɿɔµn という名は ɿeµn のアプラウトから来ており、学のある人間ならコルンに羽根がないことは分かる。無学な男はあわれ不必要な羽根を描いたことで捕らえられてしまった。転じて、不必要な蛇足を指す際に lecȷ ɿɔµnɑµenȷ というようになった。 【用例】 lecȷ ɿɔµnɑµenȷ 蛇足を述べる　ʃə eʃ ɿɔµnɑµenȷ. それは余計なことだ。

ɿɔµneʃ ［電算］コルネット、電子秘書　ıl ［レベル］3　ɺɺ:ɿɔµn/ʃe ［文化］ 人格化されたＯＳのこと。最古はリュウの elɑcın。　ıl でできた。人気キャラクターが画面内に表示され、ＯＳとして働いてくれる。電脳メガネを使えばＧＰＳと連動して携帯機でも使え、３Ｄで空中に表示することもできるので、「リアル俺の嫁」を実現できる。　音声認識もあり、声で操作できるため、秘書のような存在となる。

ɿɔµφı ［料理］［植物］干し柿 ［卑語］玉ぶくろ、陰嚢 ［レベル］2　1L:ɿɔµʃe/φılʃ ［文化］ アルバザードでは柿は生食より干し柿にして食べることが多い。柿は日本ほど人気でないが、干し柿は昭和の日本並みに人気がある。

ɿɔµhɔl ［生物］外旋　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔµcn ［ユマナ］［名前］コリン　1ʔ: 制 : 日本語の「小」/µcɑcı の µc/ 指小辞の n。本名コリディア。通称コリン。 ［文化］ 厳密にはアルカの単語ではないが、［ユマナ］なのでかまわない。セレンの飼い猫。白地に黒茶色の模様の入った雄。子猫のとき他家の庭先で捕えた。リディアに猫を共通で飼おうと言われたのがきっかけで捕獲した。ひとぎらい。

ɿɔµɔu ［生物］外転　µɑ;/「去るほうへ動く」　ɺɱ

ɿɔµeʃ ［名詞］一方向 ［形容詞］一方向の ［交通］一方通行 ［化学］不可逆 ［反意語］ʃȷəl ［レベル］3　ɺ0:ɿɔµ/hɔʃ（ひとつの方向だけ）→ ɿɔµɔʃ → ɿɔµeʃ 【成句】 heɿ ɿɔµeʃ 梨のつぶて

ɿɔµeʃʃı ［化学］ダイオード ［化学］半導体ダイオード← ɔµdɿɔµeʃʃı ［化学］発光ダイオード、ＬＥＤ、TEΨ、エルイーディー← ɑıµcȷɿɔµeʃʃı ［レベル］4　µʃ;ɿɔµeʃ。電流を一定方向にしか流さないことから。 【用例】 ın euıʃ ɿɔµeʃʃı lel ɑıφ ɿı µı ᴅcȷɿınel. 家の電球を TEΨ に変えてみた。

ɿɔµeʃᴅcyə ［物理］不可逆変化 ［レベル］5　ɺ0

ɿɔµeʃµenȷ ［名詞］モノローグ、独白、ひとり語り、一人語り、独り語り ［反意語］ʃȷəlµenȷ ［レベル］5　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔµeȷdɔn ［企業］コレスポン　ɺ1 ［文化］ 富士ソフトに相当する企業。

ɿɔµen ［接続詞］ɿɔµ ［レベル］3　ɺ1

ɿɔµec ［化学］界面 ［レベル］5　1L:ȷeµen:ɿɔɔɿ/ɑcµec ［文化］ 液体や固体などの相が別の相と接している境界のこと。別の相が気体や真空の場合は特に表面 (yəlɔ) と呼ぶ。例えばコップに入れた水とコップの外の空気が触れる部分が表面である。

ɿɔµecɑɔʃucın ［物理］界面張力 ［レベル］6　ɺ0

ɿɔµecᴅıcʃ ［化学］界面活性剤 ［レベル］5　1L:ȷeµen

ɿɔzl ［名詞］ロッカー、下駄箱 ［レベル］2　1ɱ: 制 :ɿɔzɿɔu(錠のついた戸棚)。鍵はついてないので ɿɔz。鍵を手に持たずにロッカーに付けてたら防犯の意味がない。

ɿɔzeʃ ［名詞］鍵、キー ［動詞］ yəl を解錠する、解錠する、開ける、鍵を開ける ［メタファー］事件や問題などを解くためのカギ ［反意語］ɿəɿc ［レベル］2　ȷɔµn:ɿɔzeʃʃ（鍵）【用例】 ın nıʃ ɑıφɑ ᴅın ʃcɑl ɿɔzeʃ. 鍵をなくしてイライラした。

ɿɔzeɱıɑ ［地球の国名］キューバ ［レベル］6　1L: 国章に鍵

ɿɔzeʃueʃ ［名詞］キーワード ［レベル］3　ɺ0:ᴅelcɑcı lceµ

ɿɔzeʃueᴅu ［娯楽］キーモブ　ɺɺ

ɿɔzəe ［ランドマーク］フェリシア学院 ［類義語］ɑelclcı ［レベル］6　ȷᴅ; 校章による異名　ɺɺ

ɿɔzəe(ɺ) ［言語］［文字］印刷標準京極書体、業界標準京極書体、印刷業界標準京極書体、コズエ、桜京極 ［レベル］6　ɺɺ:ɿɔzəe,ılʃ ［文化］ セリフの京極書体。本文に用いる。

ɿɔzəe,ılʃ　ȷeµɔn ［アクセント］ɿɔzəE

ɿɔs ［被服］ミトン ［レベル］4　1ʔ: 制 :ɿɔscȷıb（親指の服）【用例】 nɔn lecnıʃ ɿɔs. ミトンを手に嵌めた。

ɿɔl ［名詞］片方 ［反意語］cɔ ［レベル］2　µɑ; ↓　1L:lcɔn:ɿɔ/ʃəl（ひとつのもの）

ɿɔlʃ ［動詞］ yəl に帰る、帰る、還る、戻る ［普通動名詞］帰還、帰宅、下校、退社、帰港 ［動詞］［婉曲］ȷɔl は死ぬ : ヴェーユで生まれた魂があの世へ戻ることから。leeu ıʃɔlıȷ よりも畏まった言い方。 ［反意語］ʃeµɿ ［レベル］2　1L: 制 :ɿɔɑ（出かける） ［語法］ ある地点に戻ることを想定した出発が ʃeµɿ で、その帰還が ɿɔlʃ。　相手を追い返すときは ɿɔlʃr（帰れ！）とは言わない。leeur（去れ！）と言う。 【用例】 ın ɿɔlʃıʃ µı ɔɿ ȷıb euеȷ. 濡れた服を着たまま家に帰った。　ın ɿɔlʃıʃ µı ᴅın ʃə eᴅcɿ uelʃ uıɑel. たちまち暗くなったので家に帰った。　el ɿɔlʃ lıɑ µı ıɱılʃ uıµzɔn ɔlʃı ıuen. 遅くとも８時までには帰らなければならない。　nɔn ɿıdıʃ ı ᴅıl yəl nın ɿɔlʃ ȷcl µı nɔuel. お母さんに電話して家に帰るのが遅くなると伝えた。

ɿɔlʃɑµec ［名詞］因果応報、自業自得 ［レベル］3　ɺɺ:「自分に帰ってくる剣」

ɿɔlʃɔuı ［アトラスの国家］コルトヴァ ［アクセント］ɿɔlʃɔuɥ ［レベル］4　ɺʔ:µcɑcı

ɿɔlʃe ［形容詞］高圧的な、強引な、脅迫的な、偉そうな、高慢な感じの、無理強いな、横柄な、生意気 ［反意語］yəlɿ ［レベル］3　ɺ0:ɿɔlᴅın ʃeeze(支配者風の)。ɑılɿ や ɑılȷ と似ているため、離した　参考 :ɑılL:1ʕ: 制 :ɑılL。 【成句】 lccz ȷeµen ɿɔlʃe hınl ıµɿı 生意気な小僧がアルカを広めた : 憎まれっ子世に憚る

ɿɔlle ［名詞］パーティ、一座、一同、仲間たち ［レベル］3　ɺɺ:ɿɔlı/ıle 【用例】 lıɑ ɿɔlle パーティを組む、編成する

ɿɔlȷeʃ ［格詞］～のおかげで、おかげさまで ［類義語］ᴅın ［反意語］ᴅclφıl ［レベル］2　ɺ0:dcnenı:ɿɔnʃ ȷenʃ ～（～を感謝して）が短くなって機能語になったもの。l が入っているのは語気の整えとのこと。 【用例】 ın µıllcɿ ɿɔlȷeʃ ʃccȷ cl. 皆さんのおかげで成功しました。

ɿɔlȷeʃen ［接続詞］ɿɔlȷeʃ ［レベル］3　ɺ1

ɿɔln ［釣り］リール ［レベル］4　1ʔ: 制 :ɿɔɔl

ɿɔlɑ ［論理］帰納 ［動詞］yəl（帰納結果）を c から帰納する、帰納する ［反意語］hııl ［レベル］5　1L:ɿɔlʃ/ɑµɔᴅ ［文化］ lınʃıhııl

ɿɔlɑlcu ［言語］擬声 ［レベル］4　ɺ1 ［語法］ ɑɔueʃ

ɿɔlɑueʃ ［言語］帰納音 ［レベル］4　ɺ1: 直訳は帰納語 ［語法］ ɑɔueʃ

ɿɔlɑdcıl ［言語］擬音 ［レベル］4　ɺ1: 帰納音が ɿɔlɑdcıl だとこれが dcıldc ıl になってしまうので ɿɔlɑueʃ だった。 ［語法］ ɑɔueʃ

ɿɔlɑµec ［アイテム］片手剣　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔlᴅ ［政治］支配する、統治する、治める ［普通動名詞］支配、統治 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 恣意

ɿɔlᴅφılenı ［医療］支配欲 ［レベル］4　ul;/　ɺʔ

ɿɔlᴅlınφ ［政治］統治権 ［レベル］4　1L

ɿɔlᴅɔzɔᴅ ［医療］片手挿管法。鍼の。　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔlyəlᴅ ［被服］モノクル、片眼鏡　nɑ;/　ɺɱ ［文化］ 彫りの浅い凪人は着用できず、地球の白人よりも彫りの浅いトール人にも難しく、一部の彫りの深い人が身に付けた。地球と違って上流階級の装飾品というイメージはない。なぜか医者の間で普及したため、医者のイメージを持たれている。

ɿɔls ［動詞］ yəl をかがませる、かがませる、屈ませる、屈む、かがむ、前かがみになる、前屈する、腹の方に身を屈める、身を縮める ［類義語］ıȷd ［反意語］ɿɔµl ← ɑɔᴅ。音がよく似ていて聞き分けづらい。 ［レベル］3　1L:ɿɔµ ʃɔᴅ で ɿɔµʃ だったが、ɿɔµʃ では ɿɔµl と似すぎるため、変えた。ɿɔµ ləoısc（足の指のほうへ） ［語法］ 仰け反る（のけぞる）の反対動作。

ɿɔlı ［名詞］仲間、味方、同類、同志 ［娯楽］［軍事］友軍、同盟軍 ［形容詞］味方の、友軍の ［反意語］µeʃɿ ［レベル］2　古 : 同じ人

ɿɔlıɑc ［経済］第一次産業 ［レベル］5　1L

ɿɔlc,ılʃ　ɿɔɔl　ɤ‹

ɿɔlcn ［名詞］眇、すがめ。斜視の場合は ıuɔlcnȷ。 ［類義語］ɿɔlcnȷ　µɑ;ɿ ɔlcnȷ.ɿ　ɺɱ

ɿɔlcnȷ ［名詞］片目 ［類義語］ɿɔlcn　µɑ;/　ɺɱ

ɿɔlccɑı ［天文］一等星 ［レベル］4　µɑ;/　ɺɱ ［文化］ 等級を数値で表すのは神代からの習慣だが、６等星より暗い星を観測できるようになったのは µɑ で魔動望遠鏡ができてから。魔動望遠鏡が契機となり、より細かい等級が作られるようになった。数値は小さいほど明るく、０を超えるとマイナスになる。マイナスのほうが明るい。例えば火星は ʃcɑuclccɑı（マイナス三等星）になる。

ɿɔlɔ ［名詞］精神、マインド、理性、思性、悟性 ［反意語］ᴅıcn ［レベル］2　ɑ;e　古 :ɿɔlɔ（精神、金）　ɿɔlɔ:ɿɔlɔ:lə ɿɔlɔ:ɿɔc,ılʃ ［語法］ enuelen ［文化］ → ȷeleȷ　精神は第一頸椎、首と頭の間に座す。この部分を ɿɔlɔn という。ルクレティアによって特定された部位で、ɑu などにはここを指す言葉がなかった。現代医学的に見ればこの場所は自律神経と深く関与しており、ここが冷えたり凝り固まったりすると不定

愁訴を訴えることが多く、精神の座と考えた古代人の身体性が非常に優れていたことがわかる。【用例】☆ ın ʃcalıʃeȷ ɿɔlɔ ıləəʃelᒥ 私の頭がどうかしていたのだ。

ɿɔlɔȷnɥıc ［医療］片頭痛 ［レベル］3 1L

ɿɔlɔn ［生物］首の後ろ、コロン ［レベル］2 ȷzl;ɿɔlɔ/ᴅıcn›ɿɔlɔᴅ›ɿɔlɔn ɿ1 ×ɿɔlɔn:ɿɔlɔn:ɿɔlɔn ［文化］ ɿɔlɔ

ɿɔlɔn(ɺ) ［ジョブ］落ち武者 ılʃ;ɿılın.ɿ ɿɱ

ɿɔlɔnhıφəlc ［ジョブ］野伏、のぶせ、のぶし、レンジャー、落ち武者狩り ılʃ;/ ɿɱ

ɿɔlɔdınʃ ［名詞］教養科目 ［反意語］ᴅıcndınʃ ［レベル］2 ɿɿ ［文化］ ɑeldınʃ

ɿɔlɔleun ［医療］精神病 ［類義語］ıucɿɿɔlɔ ［レベル］3 μɑ:μɥəə;/ 1L:clᴅəȷ:μcɑcı ［文化］ ueμınʃ

ɿɔle ［名詞］ロール、巻いたもの ɑu;ɿɔɔl/eʃ ɿɱ

ɿɔleʃ ［代詞］［ɥən］私たち ［レベル］1 ɿ1:ɿᴅccμ:ɿɔleʃʃ（つながれた→同胞）

ɿɔleʃʃ,ȷzl ııu ɿɔɔl,ɑu.ɿ

ɿɔlen ［美容］ロール、巻き髪 ȷᴅ;ɿɔle/ncı ɿɱ ［文化］ ȷᴅ でできた。

ɿɔleeuʃılcʃ ［物理］第一宇宙速度 ［レベル］5 1L

ɿɔləɿ ［名詞］一歩 ［レベル］2 ɿ1:ləȷcın

ɿɔı ［動詞］ɥəl を ı に乗せる、乗る、乗せる、積む、重なる、重ねる ［経済］［動詞］ɥəl を ı（一部二部など）に上場する、上場する ［反意語］ɿenɑ ［レベル］2 古 【用例】 ɿɔı ı lɔd 電車に乗る ɿɔı led ıl ıᴅɔ 荷物を車に載せる

ɿɔıɿȷ ［建築］一階 ［レベル］3 1L

ɿɔıɿɔdleʃ ［音楽］オーギュメントコード ［レベル］6 ɿ1

ɿɔıȷ ［化学］モノマー、単量体 ［レベル］5 1L:ȷeμen:ȷeıȷ から類推。ɿɔ は１。

ɿɔıuenʃ ［経済］上場企業、上場会社 ［レベル］5 ɿ1

ɿɔıμɿ ［化学］単結合 ［レベル］5 ɿ1

ɿɔıenφ ［経済］単利 ［レベル］5 ɿɿ: 単純に載せていく

ɿɔc ［動詞］ɥəl を c から lel{ı} だと同定する、同定する ［普通動名詞］同定、アイデンティファイ ［反意語］ʃıc ［レベル］4 ɿ1: 古 ɿɔ(内、同じ)/c(見る)

ɿɔc(ɺ) ［名詞］ɿɔlɔ,ılʃ ［文字］精、偏、旁、冠、脚、構、垂、繞 ［レベル］3 ɿɔlɔ.l ［文化］ ɿɔcᴅınlen

ɿɔcʃ ［動詞］ɥəl を ı に吸収する、吸収する、取り込む ［普通動名詞］吸収、取り込み ［魔法］コイト（アスピル）。利の中位黒魔法。敵のヴィルを吸収する魔法。敵に魔法を使わせなくするとともに、自分は魔力を回復して魔法を撃てるようにする魔法。 ［経済］［動詞］ɥəl を吸収する、吸収する、買収する、M＆Aする。M＆Aも含めて言う。 ［反意語］μcnȷ ［レベル］3 古 :ɿɔcʃ で「吸収」。ɿɔ が「中」。cʃ は不明。 ［語法］ ɿɔcʃ sɔ（怒りを吸収する）は慣用句。失敗などで怒られたときに、「あー、すみません！」と大げさに捉えて高速に慌てた感じで謝って、相手の怒りを広げないように吸収することを言う。日本人がほぼ毎日必ずやっていること。アルバザード人は平静にしているのが常なので、こういう動作をまずしない。"ɔə, uınʃ" で済ます。ただアルバザードでもこうするときがあって、例えばハイジャックとかで人質に取られたときに、怒れる犯人相手に機嫌を取るためにへつらってやることはある。だが、会社や学校ではしない。だから例えばレインから見たら、日本で働く静は奴隷か人質のような扱いに耐えているように見える。 【用例】 lı ɿɔcʃıʃ sɔ e hılʃ. 彼女は上司の怒りを吸収した（慌てて上司に大げさに謝った）。

ɿɔcʃeʃ ［魔法］吸収 ［レベル］5 ɿ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɿɔcɿɔ,ılʃ ʃə ɿɔ/cɿɔ

ɿɔcn ［魔物］コイン（独眼鬼）：第六十八天：聖の巨天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:ɿɔ/cnȷ（一つ目） ［文化］ 薄い青い肌をした一つ目の巨人。眼が大きい。眼からレーザーを放ち、大きな斧を振るう。弱点は目だが、まぶたが固いので、閉じている間は潰せない。

ɿɔcnᴅed ［天文］サダルメリク 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ リュウは巨人コインと戦ったが、その怪力と目から出るビームに苦戦した。弱点は目なのだが、攻撃するとまぶたを閉じてしまうし、ビームを出している間は危なくて近寄れない。そこでリュウは大きな魔法の鏡を作り、ビームを放つコインの前に持ってきた。ビームはコインの目に跳ね返り、コインは封印された。そのときの鏡がサダルメリク。

ɿɔcnlcıȷ ［化学］巨大分子。ダイヤモンドなど。 ［レベル］5 1L: 魔族コインのような巨大な分子。

ɿɔcᴅınlen ［運動］［文字］心技体、精身技 ［レベル］3 ɿɿ ［文化］ アルティア人の武道でよく言われる概念。精神、身体、技術の三位一体により上達するという考えのこと。 日本語の心技体に当たるものだが、こちらでは精身技という。技の位置する場所も異なるので注意。
　また、京極において順に偏と旁とその他のパーツを指す。 偏は京極の最も大きな分類項目を示す一次要素である。偏はある京極に必ず１個存在する。弓 (uın) のように偏だけで構成される文字もある。
　偏は左に来るものだけでなく、冠や烈火や門構えといった様々な場所に来るものも指す。場所や形でなく、その字の中で最も主要となる構成素を指すので、漢字の偏と違って京極の偏は文字によって「偏、旁、冠、脚、構、垂、繞」のいずれにもなる。 旁は主に右に来るが、漢字と同じで必ず右とは限らない。京極の中分類を示す二次要素である。京極は必ず０個ないし１個の旁を持つ。 最後の技に当たるものは字の細かい意義を決定するための付加物であり、様々な位置に付く三次要素である。一次と二次以外はすべて三次要素として、あらゆる京極に０個以上存在する。

ɿɔceȷʃ ［電算］トリップ名、トリップ、鳥 ［レベル］3 ɿ1: 同定名

ɿɔɔʃ ［形容詞］反対の、逆の、まったく異なる、さかさま、逆さま、傘がおちょこ、服が逆さか後ろ前 ［反意語］ɿɔɿ ［副詞］［文頭純詞］むしろ、逆に、反対に ［レベル］2 μɑ 1L: 赤 :ɿɔʃı ɿɔʃı:ɿɔʃı:ɿɔʃı ［語法］ ɿɔɿ 【用例】 eȷn eᴅıʃ ɿɔɔʃ ᴅcl ʃeeze ucen. 強風のせいで傘がおちょこになってしまった。

ɿɔɔʃnɔı ［生物］［医療］逆気 μɑ;/ ɿɱ

ɿɔɔʃnɔıledʃ ［生物］［医療］逆気而泄 μɑ;/ ɿɱ

ɿɔɔʃueʃ ［言語］反意語、反義語、対義語、反対語、アントニム ［レベル］4 1L

ɿɔɔʃhcᴅ ［生物］［形容詞］異性 ［反意語］ɿɔɿhcᴅ ［レベル］3 μɑ;/ ɿʔ

ɿɔɔʃsıɿȷ ［数学］逆数 ［レベル］4 1L

ɿɔɔʃocl ［医療］異性愛、ヘテロセクシャル、ストレート、ノンケ、のんけ ［反意語］ɿɔɿocl ［レベル］4 μɑ;ɿɔɔʃhcᴅ/ocl ɿʔ

ɿɔɔʃeɿl ［医療］逆流 ［レベル］3 1L

ɿɔɔɿ ［名詞］状態、様子、様態、具合 ［名詞］機械のモード ［化学］物質の三態の相 ［医療］症状→ leɿɔ ［医療］容態→ leunɿɔɔɿ ［反意語］ʃeeʃ ［レベル］3 @ 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ᴅəlφ:ᴅəlφ 【用例】 ʃel ɿɔɔɿ e sın, eȷɿ ȷcl cᴅ ɿeȷʃ cn. 空模様からすると、あしたは雨だろう。

ɿɔɔɿueʃ ［言語］擬態語 ［レベル］5 ɿ1 ［語法］ ɑɔueʃ

ɿɔɔɿᴅcncɑ ［言語］状態無相 ɿ0 ［語法］ 状態動詞における無相区間。完了～終了相に等しい。 動詞＋副詞 lı で示す 例：ȷɿcn lı（座っていはじめる～座っていおえるまでの総称）

ɿɔɔɿɥəɔ ［言語］状態動詞 ［レベル］6 ɿ0 ［語法］ 単位動詞の経過～影響相までの↾相からなる区間のこと。 行為動詞に比べ、動作主の意思が表れにくく、動きも静的。

ɿɔɔl ［動詞］ɥəl を肯定する、肯定する、うべなう、肯う ［形容詞］肯定的。ɿɔɔlın で。 ［反意語］ʃeeȷ ［レベル］3 @ 1L 【用例】 lı ɿɔɔlıʃ ɿlɔȷ ınʃ. 彼は私の主張を肯った。

ɿɔɔlʃeeȷ ［言語］極性 μɑ;/ ɿʔ ［語法］ 叙述を肯定するか否定するかという要素のことを指す。

ɿɔɔȷ ［名詞］たすき、襷、たすき状のもの ［娯楽］（スロットの）リール、スロットマシン ［レベル］4 1ɱ: 制 :ɿɔɔlȷıb ［文化］ ɿəzφcn、lıʃɔȷ

ɿɔɔn ［音楽］鉦、摺鉦、当たり鉦、しょう μɑ;‹ılʃ。こーんというオノマトペから。 ɿɱ

ɿɔɔᴅ ［親族］兄弟姉妹、兄弟、姉妹、シブリング ［レベル］2 1L:clᴅəȷ:μcɑcı:ɿɔ ʃɔᴅ ないし ɿɔɿ ʃɔᴅ ［語法］ 長幼と性別で４種に分類する。義理の兄弟も通常は同じように呼ぶ。血が繋がってなくても兄貴分、妹分のような間柄であれば、兄弟として呼ぶ。セレンがメルを妹と呼んでいるのはこの用法に基づく。

ɿɔɔᴅɑeɱı ［名詞］姉妹校 ［レベル］4 ɿɿ

ɿɔɔᴅı ［名前］コーマ 語源不詳 ［文化］ メルの飼っていた犬。μɑ では竜に変身する犬として登場。 【成句】 ɿɔɔᴅı ȷɔʃ コーマがやったの＝人のせいにすること：メルが９歳くらいのとき、アルシェの資料を紛失したとき、コーマのせいにしてあっさりバレたことから、オヴィらがからかって反復した。当時のアルカだと ɿɔɔᴅı ȷɔɑ だと思うが、よく似ている。 ɿɔɔᴅı ɑcɔ ᴅel 飼い犬に手をかまれる 【用例】 "ɜᴅ... dıd ıʃ μcφ, ᴅıᴅı" "hɜn, ȷɔn ne ȷɔʃȣ ɿɔɔᴅıȣ" 「あの……ママ、コップが割れたよ」「で、誰がやったの？コーマ？」:明らかに子供がやったと分かっていて、嘘をついてる子供にイラつきながら、いびってる感じ。ɿɔɔᴅıȣ はむろん、嫌味。

ɿɔɔᴅıʃe ［名詞］姉妹店 ［レベル］4 ɿɿ

ɿɔɔᴅelɑ ［言語］同系、姉妹語 ［レベル］6 1L

ɿɔɔɑcʃʃı ［料理］巻き寿司、巻きずし、手巻き寿司、手巻きずし ［レベル］3 ılʃ ɿʔ ［文化］ ɑcʃʃı

ɿɔɔl ［名詞］巻物、スクロール ［動詞］ɥəl を巻く、巻く、くるくる巻く、スクロールする ［電算］スクロール ［レベル］2 ɑu;e 古 ɿɔɔl:ɿɔɔl:ɿɔɔl:ɿɔɔlə,ılʃ ［文化］ アルカは縦巻き。上から下に読む。 【用例】 μen cȷɿ ıɱılʃ ᴅɔl ɿɔnʃ ɿɔɔl. スクロールして下まで読んで。

ɿɔɔlȷlez ［電算］巻物型掲示板、ティーカップ型掲示板、ふつうのネット掲示板、個々のスレッド、スレッド、スレ ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

ɿɔɔldɔɱı ［電算］プルダウン ［レベル］4 ɿ0

ɿɔɔlzɔn ［電算］スクロールバー ［レベル］3 ɿ1

ɿɔɔlı ［名詞］リール、巻き枠 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɿɔɔl

ɿɔɔleʃ ［名詞］アーカイブ、書庫、文庫、資料保存室 ［名詞］@ウィキ、アットウィキ、@ｗｉｋｉ ［レベル］4 ȷɔμn:ɿɔɔleʃ ← ɿɔɔl ［語法］ 「学級文庫」、「子ども文庫」などというように、ある集団に対して開かれた蔵書群の比較的小規模なものを文庫というが、これは ɿɔɔleʃ ではない。子ども文庫などは ɥəlclec のように lec という。

ɿɔɔlel ［人名］コーレル ［組み数字］１３/１６ ［レベル］4 ᴅelʃcı ɱ٩:ıμɑə/eȷʃı;e 古 ［文化］ eȷʃı エスタの第１３子。男。テステェルの父。

ɿɔɔlel oıɱı ［人名］コーレル＝ワッカ 1L:ᴅelcɑcı ılʃe ［文化］ アルティル期の芸術家。アルバザード出身。新古典主義の先駆者。魔法を失い神を見れなくなったことにより、人類は新古典主義を開花させた。

ɿɔɔlə,ılʃ lənı ‹›ɿɔɔl

ɿɔeɿȷ ［名詞］一意 ［形容詞］一意的な ［反意語］ɑceɿȷ ［レベル］5 μɑ:ᴅel;/ ɿɱ:ᴅel

ɿe ［動詞］ɥəl に行く、行く、いく。移動動詞。 ［副詞］～しにいく ［動詞］ȷɔl（道）が ɥəl（目的地）に通じている、通じる、通ずる、行く ［反意語］lənı ［レベル］1 1ʔ ←古 :ɿeʃʃı ɿe,ɑ（移動）ɿeʃʃı,ɑ（行く）:ɿe ɿeʃʃ

ɪ:ʅeɰ:ʃɪlə,ɪlʃ ［語法］ 強調以外で ʅe ɪ ɑeʃʅɪ と言わないこと。 【用例】 ɪn ʅe ɑeʃʅɪ. 学校に行く。 ɪn ʃɪə ʅe ɩcdl. ケーキを買いに行く。

ʅe,ɑ ʅe、ʅɔɰ、ʃɪnʅ e

ʅeʃ ［言語］ʅ の文字 ［レベル］1 1Ɱ: 制 : 猫 ʅeʃʃɔ:ʅeʃʃɔ::ᴅcɔ,ɪlʃ ［語法］ 第２文字目の幻字。

ʅeʃ(ɺ) ［動物］猫 ［類義語］ᴅccʅɔ、ənc ［レベル］1 1L: 古 : 森（ʃɔ）の方向（ʅe）を知るもの。古では ʅeʃʃɔ で制では ʅeʃȷ。新で ʅeʃ に。 ［擬声］ nɥɪ（にゃぁ） ᴅɥɪ（みゃあ） ənc（うにぃ。甘え） ʅdɗɗ（くるるる、喉鳴らし） φɗɗɗ（唸り） ʟɪɪ（シャー！威嚇） nɥɪɪn, ᴅɥɪɪn（にゃーん、長鳴き。えさくれとか、ドア開けろとか、コタツ入れろとか、そういうときの声） oɪɪn（「いい加減ドア開けろや、鳴くのも疲れるんじゃ！」とか、「いつまでも抱いてんじゃねえよ、早く離せゴルァ」とか、イラついたときの大きな要求声） ［文化］ アルバザードで最も好まれるペット。静かなのでどこでも飼える。元々一匹狼なので飼い主に従わない生き物であると考えられ、厳しい躾は始めから放棄される。アルバザードの人間は個人主義が強く、猫の生き方は肌に合う。だから猫を同類とみなすことが多い。同類とみなすので犬と違って上下関係で従う・従わせるという関係にはならない。共同生活者として飼うことが多い。ただ、トイレの躾はするし、どこで爪を研ぐかなどの躾も行う。つまり、最低限の躾は行う。尚、アルバザードでは飼いやすいということと肌に合うという理由から猫の方が多く飼われている。血統書つきの猫を買うという発想はなく、可哀想な捨て猫を拾うか、知り合いから分けてもらう。なお、アルバザードにも勿論血統書つきの猫はいるが、それはステータスとして飼うのでなく、単にマニアとして飼うだけである。たとえば猫に詳しい人がマニアになって血統書つきの猫をほしがるという場合である。ただ、それがイコールステータスにはならない。

ʅeʃ(ʔ) ʅe/ɪʃ

ʅeʃ(Ɱ) ［人名］エケトネの略称 ［組み数字］２１／２８ ［レベル］1 制 【成句】 ɑccnɪ ʅeʃ 万一に備えて :1L:ᴅɪʃ:「心配性のエケトネのために」が原義。従ってこの ʅeʃ は猫ではない。

ʅeʃʃɪ ［感動詞］さぁ、さあ、ほら。相手を促す感動詞 ［感動詞］開始、はじめ、始め、どん、ドン、のこった、ファイト、ファイッ、ゴー ［レベル］1 古 : 行く ［語法］ ɰenʃe は leeu だが、彼女らも気合を入れる場面などでは ʅeʃʃɪ という。

ʅeʃʃɪ(ɺ) ［南方］［動詞］ʅe ［レベル］3 古

ʅeʃʃɪ,ɑ ʅe ʅe/ʃɪ「外へ行く」

ʅeʃʃɪʃȷ ［生物］ネコ属 ［レベル］5 ɺ0

ʅeʃʃɪʅʃ ［名詞］猫派、ネコ派 ［レベル］3 1L

ʅeʃʃɪn ［ɰenʃe］ʅeʃʃɪ ［レベル］1 1L

ʅeʃʃɪnʃɔɪ ［化学］L 殻 ［レベル］5 1L

ʅeʃʃc ［単位］漠 ɺ1: 古 ʅeʃʃɔ

ʅeʃʃɔ ［サール］ケット ［レベル］5 古 :ɰcɑcɪ:ʅeʃʃɔ（猫）。原義は「森の方向を知るもの」という古アルカのものであるから、英語のｃａｔ由来ではない。英語排他が行われていない時期の語なので、英語なら ʅɪʃ か ʅɥɪʃ になるはずである。 ［文化］ 猫を司るサール。高潔で気位が高く、美しい。魔力が極めて高い。また、動きが俊敏で格闘技にも長ける。ケットは強力な力を帯びた自らの爪を武器に戦い、敵を瞬時に切り裂く。

ʅeʃʃɔ,ɑ ʅeʃ ɑ;e 現在の猫を指していたとは思えない。ミアキスを指したのではないか。ʃᴅ 頃にはリビアヤマネコを指したのではないか。

ʅeʃʃɔl ［動物］アビシニアン ［レベル］6 ɺ1:ʅeʃʃɔ 神に似ている

ʅeʃʃeᴅ ［生物］猫耳、ネコミミ ［レベル］3 ɰɑ ɺɺ ［文化］ アルバザード人は猫好きが多いため、可愛いものとしてコスプレなどでも一定の人気がある。魔族などで本物の猫耳を持って生まれた場合、環境次第では虐められたり逆にもてはやされたりする。アルナ大のような環境の良いところなら貴重がられて愛されることが多いだろう。

ʅeʃʅ ［動物］川蝉 ［レベル］5 ɺʔ‹ʅeʃȷ:ɪlɪʅʃɪ:ʅeʃʅ ← eʅeʃʅcʃ（川の雀）

ʅeʃʅeʅ ［動詞］ɥəl をぶらつかせる、ぶらつかせる、ぶらつく、ぶらぶらする、散策する ［レベル］3 1L:ɰcɑcɪ: ねこが家の中や縄張りをてくてく歩いているさまから。人間からすれば特に意味もなくぶらついているようにしか見えないため。 【用例】 ɪn ʅeʃʅeʅɪʃ lɪl ᴅeȷ ɰɪ ᴅɪn senʃ eʃ ɰɪʃ ʃcn. あまりに天気がよいので外をぶらつきたくなった。 ɑcȷ ɪʃ ɑɪz ʃcn ɪ ʅeʃʅeʅ. 散策するにはもってこいだった。 ɪn ʅeʃʅ eʅɪʃ ʅɪdʃe cᴅ ɗəəʅȷ ɔʅ hɪɗn. 夕方に友達とカルテをぶらついた。

ʅeʃȷ ［普通動名詞］巡回 ［動詞］ɥəl を巡回する、巡回する ［レベル］3 ɰɑ; ʅeʃ/ȷɔ「猫のようにする」 ɺʔ 【用例】 ʅeʃȷ nɔʟɪl e ȷɪᴅen 新刊コーナーを巡回する

ʅeʃn ［普通動名詞］移植 ［動詞］ɥəl を ɪ に移植する、移植する ［電算］移植 ［レベル］4 1Ɱ: 制 :ʅeʃnɪ

ʅeʃueɰɪnʃ ［医療］回避性パーソナリティ障害、回避性人格障害、不安性パーソナリティ障害、不安性人格障害 ［レベル］5 ul;eʅeʃɔne/ueɰɪnʃ ɺʔ:ᴅel

ʅeʃɑelcɪ ［生物］イエネコ亜種 ɺ0

ʅeʃdɪɑl ［名詞］怒って威嚇した ［レベル］3 1L: 猫のアーチ。猫が怒ったときに弓なりになることから 【用例】 ʃcl ʅeʃdɪɑl 怒って威嚇する

ʅeʃɰecn ［数学］y 軸→ cnʅ ［レベル］4 1L

ʅeʃcnȷ ［名詞］いねむり、居眠り、うたたね、うたた寝、まどろみ、まどろむ ［名詞］一休み、小休止 ［経済］一服 ［ユマナ］ミニストップ ［類義語］ɥəncȷ ［レベル］3 1L: 古 :ɰcɑcɪ:ʅeʃʃɔc（猫の目）。猫は常に居眠りのような浅い眠りをしていて、半開きの目をしばしばさせている。居眠りをする人間がその様子に似ていることから。 ［語法］ ʃcl ʅeʃc nȷ にすること。ɪɰ はやや不自然。 【用例】 ☆ ɪn ʃclɪʃ ʅeʃcnȷ ɪlɑcn beʃʃ eȷ uɪd ȷcn. 鍋が煮えてるにもかかわらず、居眠りをしてしまった。 ɑen ʃcl ʅeʃcnȷ cᴅ ʟɪl. 授業中に居眠りしてはいけません。 ɪn ɪʃ ɔᴅɔ ʃcnʅɪ enʃɔ ɪn ʃclɪʃ ʅeʃcnȷ ɰɪȷ ɑɔə ɑɔl ncɪ ɪnʃ eᴅ ʅcl. 眠すぎて髪を切ってる間に何度も寝そうになった。

ʅeʃcns ［地学］キャッツアイ、猫目 ［レベル］4 1L

ʅeʃɔn ［植物］マタタビ、またたび ［レベル］4 ɺɺ:「猫の木」

ʅeʃeʃ ［形容詞］女々しい、めめしい、野暮な、野暮ったい、やぼな、粋でない ［名詞］女々しさ、野暮 ［反意語］ɪɑccɥə ［レベル］3 ɰɑ;ʅeʃ/eʃ「エケトネのような」 ɺⱮ

ʅeʃenɪ ［名詞］泣き虫 ［レベル］2 ɰɑ;eʅeʃɔne/enɪ ɺɺ ［文化］ ʃcl ʅeʃenɪ 泣き虫だ

ʅeʃeɰn ［生物］ネコ科 ［レベル］5 ɺ0

ʅeʅ ʅe/cʅ

ʅeʅʃ ［動詞］ɥəl（場所）を循環する、循環する、回る、回す、廻る、廻す。移動様態動詞 ［経済］回転する ［音楽］ターン ɰɑ ［レベル］3 1Ɱ: 制 : 古 :ʅeʃʃɪʅeʅʅɔ ［語法］「ɥəl を循環させる」ではない。 【成句】 ʅeʅʃ ɰenȷ 話を続ける、話をつなげる、話を繋げる

ʅeʅʃʅəc ［名詞］回し飲み、回し食い ［レベル］3 ɺ0 ［文化］ dɪȷʅʅəc

ʅeʅʃʅen ［普通動名詞］回し飲み→ ʅeʅʃʅəc ［レベル］3 ɺ0

ʅeʅʃᴅcʅȷ ［音楽］輪唱 ［レベル］3 ɰɑ;/ ɺʔ

ʅeʅʃdcʃ ［医療］循環器科 ［レベル］5 1L

ʅeʅʃɰenȷ ［言語］ケクトレンス、循環話法 ［レベル］3 ɰɑ;/ ɺ0 ［文化］ 複数人がひとつの話題を順繰りに話すこと。 例えば道で迷っているとき、３人の女の子の集団に声をかけたとする。このとき、日本だとたいてい一人の子が代表で説明するが、アルバザードだと３人が順々に言葉を回していく。 例： ʃ 子「ランスケルンは北区にあります」ここで ʅ 子に目を微かにやる。 ʅ 子「コノーテ＝ミルフにありますよ」ここで ʅ 子に ʅ 子「ここからだと電車でいくといいですよ」 ――このように、３人がそれぞれ少しずつ情報を回し飲みのように喋る。これが彼女たちにとって協調的に話せていることの証明であり、同時に複数人がその情報を納得しているということを示すことでその情報の正確さを示している。なお、この喋り方は古アルカの時代にアンシャンテを通じて広まったもの。

ʅeʅʃɪsɪ ［経済］回転率 ［レベル］5 1L

ʅeʅʃelᴅ ［生物］循環器 ［レベル］5 1L

ʅeʅʅɔ ［感動詞］ようこそ ［感動詞］どうぞどうぞ、どうぞ、ぜひ、是非 ［動詞］ɥəl を受け取る、受け取る→ ᴅcl,ɥə ［動詞］ɥəl（人）を ʅɪ で歓迎する、ɥəl（人）を ʅɪ で出迎える、歓迎する、出迎える→ ʟcʃcl ［感動詞］いらっしゃいませ、いらっしゃい ［反意語］ʟɪnʃ ［レベル］2 古 :ʅeʅɔ（来る）、ʅeʅʅɔʅeʅʅɔ（ようこそ）。nɔn nɪhɥə ʅeɰ ʃcȷ ʅeʅʅɔ ʃə（私はあなたが来て嬉しい）の意味で、ʅeʅʅɔʅeʅʅɔ と繰り返して使った。 ［語法］［文化］ ・ようこそ 人を歓迎するときは ʅeʅʅɔ という。家に招待するときに使うが、パーティなど人の集まりの輪に入れてやるときも ʅeʅʅɔ という。言われた相手は ȷenʃɪnʃ と返す。また、販売店の店員は ʅeʅʅɔ といわない。店は客を歓迎するのではなく、客と売買をする場だからである。ゆえに ȷɔɔnɔɥən という。 ただし、店員がホスト役になる店では ʅeʅʅɔ という。つまり旅館やホテルでは ʅeʅʅɔ という。メイド喫茶は自分の家のメイドという設定なのでいらっしゃいではなく、ᴅclən ɪn（おかえりなさいませ）だろう。 小さな小売店や個人商店の場合はむしろ ȷɔɔnɔɥən でなく ʅeʅʅɔ のほうが妥当。ȷɔɔnɔɥən と個人商店で言われると知人や町の人に挨拶されたかのような気になる。 バスや電車など、人を運ぶ業務は ȷɔɔnɔɥən という。不動産も物を売るので ȷɔɔnɔɥən である。客を招待した場合、ホストはパーティなど、迎える用意をしておき、歓迎する。時間は大抵ホストが決めているのでホストの家に迷惑ということはない。また、前触れなく客が来るということはまずない。友人の家に遊びに行く場合でも予め連絡は取っておく。いきなり行くと迷惑。 ・どうぞ 人の行為などを歓迎するときに使う。

ʅeʅʅɔ(ɺ) ［南方］［動詞］lənɪ ［レベル］3 古

ʅeʅʅɔ,ɑ lənɪ ʅe/ʅɔ「内へ行く」

ʅeʅʅɔʅeʅʅɔ ［感動詞］ようこそ ［レベル］2 古 :ʅeʅʅɔ より丁寧 ［語法］ ʅeʅʅɔ より丁寧。

ʅeʅȷ ［普通動名詞］旅行、旅路 ［動詞］ɥəl を旅行する、旅行する、旅する ［レベル］2 1Ɱ: 制 :ʅɔʅȷ（長い旅行） ［文化］ ディアセルとメルセルは国内で過ごすことが多いので、特に決まった時期はなく、スケジュールの調整がつく時期にごっそり休みを取って行く。国内の場合はカテージュやアルナが人気。国外ではやはりルティアやメティオが人気。 日本人と比べるとアルバザード人は旅行好きではなく、近場の国内で遊ぶことが多い。日本の場合は国内旅行のほうがかえって高くついてしまうからかもしれない。アルバザードだと国内のほうが安い。 団体行動は苦手なので、ツアーやパックは利用しない。そういう国民性なので旅行代理店はなく、チケットを各自取って行く。 【用例】 ʃɪʃ ȷɪlʃ, ɪn ʅeʅȷ neʅʃ ɔʅ ʟcʃe ʟɪnɪ ɑɔnl hɪɰʃ. 毎年夏には家族で避暑地に行く。 ɪn ʅeʅȷɪʃ lɪl ɑcdcʃ l'ɪn ʟeᴅ ʟɪl. 気の向くままどこかに旅行に行きたかった。 ɪn ʅeʅȷ uɪn hɪȷ ɪnɔ. 予定通り旅行に行くつもりだ。

ʅeʅȷuenʃ ［ユマナ］旅行代理店 ［レベル］4 1L:ɰcɑcɪ:ɪɰbɪʟeʅʃ 【用例】 ɪn ʅeʃ ʅeʅȷuenʃ ᴅɪn ɪn ʅe lɪl eᴅ ɪlɥə. フランスに行きたくなったので、旅行代理店にいってみた。

ʅeʅȷᴅɪȷ ［名詞］パスポート、旅券 ［レベル］3 1Ɱ: 制 : 旅行の券 ［文化］ 国外旅行にのみ使う。アンセに入っているので紙としては不要。

ʅeʅȷɪn ［名詞］旅行者、旅人 ［レベル］2 ɺɺ

ʅeʅʅ ［動詞］ɥəl を ɪ に呼ぶ、呼ぶ、来てもらう、召集する、召喚する、呼び出す、誘う ［名詞］［動詞］再生、再生する。ＣＤプレーヤーやビデ

オなどのテープなどを。 [反意語] ȷɔȷ [レベル] 2 1ɱ: 制 :ȷiȷl ←不明 【用例】 ☆ ın ȷeȷȷıʃ lı ıɒɔl eȷn ınʃ. 彼女を傘に入れてあげた。

ȷeȷȷɒenʃe [名詞] 出張ヘルス、デリヘル、デリ、ホテトル [レベル] 4 1Δ [文化] 富裕層に限られ、アルバザードにもある。アルバザードでは本番あり。

ȷeȷe [動物] 鮭、サケ、鱒、マス [レベル] 2 1ʔ: 制 :『制定語彙』ȷeȷɔelc（旅をする魚） [語法] サケとマスの区別はない。

ȷeȷeliȷc [料理] イクラ、筋子 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 鮭の卵

ȷeȷeɥ,ɑ ～の方へ

ȷeȷ [名詞] 次 [形容詞] 次の、続きの、次世代の [文頭純詞] 次に [反意語] ʃɔl [レベル] 1 1L: 制 ȷeȷ ɑɔɔuı:ɑɔɔuı:

ȷeȷ(ȷ) ȷe/eȷ

ȷeȷʃ [名詞] 明日 [反意語] ʃɔlel [レベル] 1 1L:ȷeȷlɑcȷ 【用例】 ʃə eʃ cɒ l'ın lɔ ɔn ȷeȷʃ. 明日について考えるときだ。 ın lɔɥ nɔȷ ʃɔ uın cɒ ȷeȷʃ. 明日何をするか考えているところだ。

ȷeȷlelʃ [名詞] 来月 [レベル] 2 ɥɑ;/ ȷʔ

ȷeȷȷılʃ [名詞] 来年 [レベル] 2 ɥɑ;/ ȷʔ

ȷeȷȷɔɔʃ [名詞] 来週 [レベル] 2 ɥɑ;/ ȷʔ

ȷeȷȷel [名詞] 翌日、よくじつ、その次の日、あくる日 [レベル] 2 1L

ȷeȷalec [電算] ページダウン [レベル] 3 ȷ0

ȷeȷın [名詞] 後継者 [類義語] lcʃı [レベル] 3 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

ȷeȷe [料理] まな板 [レベル] 2 1ɱ: 制 :ılıȷʃı:ȷȷen（プラスチックまな板）

ȷen [南方] [格詞] ȷɔɥ, ıl [レベル] 3 ȷ1:l.ȷeɥ

ȷenʃ [動詞] ɥəl を ı に招待する、招待する、招く、まねく [普通動名詞] 招待 [レベル] 2 1L:ȷeʃɥ:1ʔ: 制 :ȷeʃɥec（来ることを依頼する） [文化] 招待状はヴェレイでメールになり、アレイユでもアンセによるメールが一般化している。パーティの招待は遅くても数日前にはされる。

ȷenʃɒıȷ [名詞] 招待状 [レベル] 3 1L

ȷenɑ [動詞] ɥəl を c から降ろす、降ろす、おろす、降りる、降ろす、下りる、下ろす [反意語] ȷɔı [レベル] 2 1ʔ: 制 :ȷɔnɑ（降りる）: 古 :ȷɔı

ȷenɔ [接続詞] ～の [レベル] 2 ɑ;ȷe は「方向」 古 : 所有や所属など、修飾を表わす語で、後に e に代わった。ȷenɔ は修飾語＋ ȷenɔ ＋被修飾語の語順であった。たとえば nɔn ȷenɔ hıɾɒı で「私の勇者」の意味。だが、後に生まれた古アルカの e は制アルカの e と同じく ȷenɔ に対して順番が逆転している。これは古アルカの語順がＳＯＶからＳＶＯに変わったときに起こったことである。 ȷenɔ:ȷenɔ::ʃə,ılʃ:ʃın,ɑɒ 【用例】 ıɥəbızıɥɑ ȷenɔ ıɥnı アルバザードのアルナ nɔn ȷenɔ hıɾɒı 私の勇者様。ザナのことでもある。

ȷeu [動詞] ɥəl を ı に例える、例える、喩える、譬える、たとえる、比喩する、なぞらえる、準える [レベル] 3 1ɱ: 制 : 語源不詳 【用例】 "ɥənı ȷeu ɑın ɒɔe ı ȷɔı lınʃıın"「エリカたとえてあげる～」（家なき子）

ȷeueı [地名] ケヴェア [組み数字] 4 / 6 [レベル] 3 ɑu;e 古 [文化] サヴィアの南にあるマレットの大陸。 面積 : 1ʔʔΔL99ɱ.ɱ9ɱʔʔL ȷɒ ȷ

ȷeueıȷczı [地学] ケヴェアプレート ȷʔ

ȷeuec [ユマナ] 南アメリカ大陸 [レベル] 4 制

ȷeaʃ [建築] 瓦礫、ガレキ [レベル] 3 1ʔ: 制 : 元は ȷɔd。音が変化して ȷeɑ となった。

ȷeaɔn [名詞] 軌道 [類義語] ıȷl [レベル] 4 ȷ1:ȷe/ɑɔnʃ

ȷeɒ [生物] 胃 [レベル] 2 古 :ȷeɒ 【成句】 ʃcl ȷeɒ lcȷ 小食だ ʃcl ȷeɒ e ɒel ほとんど何も食べない ʃcl ȷeɒ e ɥcɑcı 食べようと思えば大食できる体質だ ʃcl ȷeɒ ʃ'ɔuc 大食だ、大食いな 【用例】 ɔl el ʃcl ȷeɒ lcȷ, ȷɔn el eʃ uıln ʃel elı. 報告によると小食は体に良いらしい。

ȷeɒȷ [動詞] ɥəl を摘む、摘む、つむ、抜く、引っこ抜く、摘み取る、むしる、毟る [反意語] ʃɔnl [レベル] 2 @ 1L

ȷeɒaıcz [医療] 胃炎 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 胃の炎症

ȷeɒɒclȷ [生物] 梁丘 ȷ1

ȷeɒɒelʃ [生物] 内関 [レベル] 6 ȷ1

ȷeɒφılʃ [生物] 幽門 [レベル] 5 1L: 閉じたり開いたりするので門か扉が候補となった

ȷeɒφəz [医療] アニサキス [レベル] 6 ɥɑ:ɥɥəə;/「胃に噛み付く糸くず状の（回虫）」 ȷɱ [文化] ȷɒ で凪人が刺身をもたらした頃から謎の胃痛がアルバザード人の間に起こった。ɥɑ でリュウが魔動内視鏡を作ると患者の胃中にアニサキスを発見。これが原因であることが判明した。実際には胃だけでなく小腸などにも進行することがあるが、たいていは胃痛で気付くのでこのような命名となっている。ちなみに小腸に達すると ıl の技術をもってしても開腹手術が必要となる。 リュウは実験の結果アニサキスが６０度以上の加熱ないしマイナス２０度以下の２４時間の冷凍で死滅することを発見した。これ以降アルバザード人は刺身を食べるときには冷凍してから解凍して食べるようになった。現在では業務用冷凍庫にて冷凍した後に解凍する。冷凍すると味は落ちるが、生食を嫌うアルバザード人は安全を取る。 現実には魚類の生食を嫌うリディアによってアシェットの人々にもたらされた文化。日本人のセレンはリディアに寿司や刺身などを食べないよう何度も言われて苦心した。

ȷeɒdı [地球の国名] イラク [レベル] 6 古 : 星の国 ȷendeȷı が ȷeɒdı になったもの。n は ɒ に

ȷeɒdcφ [医療] 胃がん [レベル] 3 1L

ȷeɒde [天文] 天文 [レベル] 4 1ʔ: 制 : 古 :ȷende（星） [文化] ユーマの一族は神々の知識を得て、アトラスが球体であることや、星の運行がどうなっているかということを最初から知っていた。そのため天文学は地球よりも早く正確に確立された。逆に知識として始めから得ていたため、ストーンサークルのような天文関係の遺跡はかえって少ない。 学問としての天文学は神がレスティルで農耕を始めたころから社会上の運用として開始され、その後人間にも伝来した。アズゲルではレスティルを中心に各民族が高等な天文学の知識を持っていた。

ȷeɒdeȷʃ [アトラスの国家] ケンペスト [レベル] 5 ȷ0:ȷeɥen: 星の土地

ȷeɒde ɑcȷcɑcı [人名] ケンペ＝ディシディア ȷ0 [文化] (cɒəl 1ɱ9ȷ:1ʔʔ9) ラグナロクの工学者。学長を勤めた。トワーゼルの父親。ınsel の構想を練った人物。cɒəl 1ʔ1ȷ に階差機関を発明。

ȷeɒbıd [医療] 胃潰瘍 [経済] 塩漬け [レベル] 3 1L

ȷeɒɥıc [医療] 胃痛 [レベル] 3 ȷȷ 【成句】 ȷeɒɥıc e ɥcɑcı 鬼の霍乱

ȷeɒscɔɥ [生物] 胃兪、胃愈 [レベル] 6 ȷ1

ȷeɒoılu [医療] 胃ポリープ [レベル] 5 1L:ȷeɥen

ȷeɒlɔl [生物] 胃腸。胃と腸のこと [レベル] 3 1L

ȷeɒıȷl [生物] [医療] 胃酸 [レベル] 3 1L

ȷeɒınueɥ [医療] ＦＤ、ＮＵＤ、機能性胃腸症、機能性胃腸障害、慢性胃炎 [レベル] 4 ȷ1:ȷeɒ/ınueɥ [文化] ul で φȷȷ 等の普及とともに蔓延した病気。ul 初期は φȷȷ がそこまで原因だと社会が認知していなかった。自律神経失調症や鬱も併発する。 労働効率が悪すぎるとしてミロクが徹底的に作業環境を向上させた結果、電子ペーパーやアンセや音声認識などの技術が ul 末期に発達した。 労働時間の短縮やワークシェアリングや格差社会の軽微な是正などにより、徐々に ıl に向かうに従って ΨΨ は減少していった。

ȷedl [名詞] 罠 [動詞] ɥəl を罠にかける、罠にかける [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ȷeʃʃı（罠）/ 古 dıȷ lıı（行くと死ぬ） 【用例】 ɥəu ȷedl 罠にかかる ın ȷedlcȷ ʃcɾ かかったな！

ȷedc [地学] コンパス、羅針盤、磁石、方位磁針、方位磁石 [レベル] 3 1ʕ: 制 : 古 :ȷe（方向）/dc（針） [文化] zφ のシージアで発明された。zφ_ɥɑ は人類は空を飛べ、ɥɑ では飛空挺も発明された。人々は自由に長距離を旅できる環境にあったが、その裏にあったのは羅針盤である。地球では羅針盤の発見が大航海時代の幕開けに繋がっているが、人が空を飛べ飛空挺が存在したカルディアでは羅針盤は古くから発明されている。 カルディアにおける大航海時代は人が魔法を失い、地球と同じ方法でしか航海をできなくなってからであり、羅針盤がもたらしたものではない。貿易品の需要と ʔ,ȷ 遺伝子の普及が直接の理由である。

ȷedccaı [地球の星座] [ユマナ] らしんばん座 ȷɱ [文化] caı

ȷeɥeȷ [名詞] 片道 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ȷeɥə [名詞] 客、お客さん、ゲスト [反意語] ȷʃıl [レベル] 2 1L:ȷeȷȷɔ ɥə（歓迎を受ける） [語法] 店の客は ʃıəın。

ȷeɥəez [建築] 客間、ゲストルーム [レベル] 3 ɥɑ;/ ȷʔ

ȷeɥ [名詞] 類、種類のうちの類、上位概念、あるグループのまとまり。 [反意語] dcʃ [レベル] 3 1L: 恣意

ȷeɥ,ȷzɑ ȷe ȷeɥ,ɑ.ıluez

ȷeɥ,ɑ ʃce, ı, ȷɔɥ ȷe（方向）

ȷeɥʃ [言語] 括弧、カッコ、かっこ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ȷeɥ ～ ʃə 構文の ȷeɥʃə。ȷeɥ はかっこで、ʃə はかっこ閉じ。昔は ȷeɥ ～ bə だった。

ȷeɥn [生物] 翼 [魔法] ケルン（トベルーラ）。風の古代魔法。ルテの上位版。高く自由に飛ぶことができる。参照 ləʃe [名詞] バイク、オートバイ← ɑılɑcȷ [類義語] ɑɥenȷ、ɒcleel [レベル] 2 ɒʃ 古 :ȷeɥ scnı（つばさ）。「 空へ 」が原義で、後に ȷeɥn になった。リディアとクミールが１９９７年パールとメルの調査『高好感度幻字調査』において共に上位１４位以内に入れた語。 ȷeɥscnı:ȷeɥn:lı ɒcleʃ:ɑılɑcıȷ,ul [語法] 羽が集まってできたもので、空を飛ぶのに使う。 [文化] 絵画において翼は飛翔の象徴として用いられれることがある。霊人はユノを使って自由に飛べるが、飛んでいることが絵画の中で判然としない場合は、飛んでいるということを表すためにあえて翼を象徴的に付けることがある。アルバザードの国章などがその代表例である。

ȷeɥnȷıɑ [地球の国名] マーシャル諸島共和国 1L: 国章に羽のような絵

ȷeɥnȷıcȷ [動物] 翼竜 ul;/ [レベル] 6 ȷʔ [文化] 分類学的には恐竜ではない。

ȷeɥnɒılȷ [魔物] ケルンマルス（鳥乙女）: 第二十六天 : 風の風天 [レベル] 5 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ȷeɥn/ɒılȷ。ɒılȷ はここでは花嫁、乙女。 [文化] 鳥族。羽の生えた若い女。裸で、臍から下が鳥。臍から頭までが人間の姿。手と腕も人間のもの。風と雷の魔法を使う。弱点の風が効かない相手。高らかにけたたましく笑い、歌で相手を誘惑する。

ȷeɥnɒɔɒ [生物] 曲垣 ȷ1

ȷeɥnılɔɥ [植物] わかめ、ワカメ、若布、若芽 [レベル] 2 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ: 羽状に広がる大きな海藻だからか。

ȷeɥnılɔɥhcɒelɒ [植物] メカブ、めかぶ→ ȷɔʃılɔɥ [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ [文化] 肝臓にいいとして、好んで食べられる。日本のものと違って酸っぱくない。わかめごはんの味がする。

ȷeɥnıɥɑ [魔物] ケルナルド（飛鮫）: 第十四天 : 水の巨天 [レベル] 5 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ȷeɥn/hcɥɑ [文化] 魚族。空飛ぶ巨大な鮫。水辺におり、突如水中から飛び出て人を喰らう。人に噛みつくとそのまま空を飛んで水辺に戻り、水中に獲物を引きずりこむ。

ȷeɥscnı,ɑ ȷeɥn ɑ:ȷııl;ȷeɥ scnı

ȷeɥı,ɑ ȷɔɥ ȷeɥ

ȷel [動詞] ɥəl を忘れる、忘れる、忘却する [普通動名詞] 忘却 [レベル] 2 1L:ȷɔl:1ʔ: 制 : 古で知るは lɔ で、状態動詞。「 知識を中に入れる 」と

いう意味の ʅɔlɔ というのがあったが、「精神」の意味の ʅɔlɔ に消されてしまっていた。制では n 対語彙として復活させた。［語法］ ʅel clɒ だと「ノートの存在自体を忘却する」という意味。「置き忘れる」の意味ではない。～し忘れるには副詞の ʅelınel を使う。 ところで日本語の「置き忘れる」にはふたつの意味がある。ひとつは「本来持って帰るべきところを忘れて、置いたままにしてしまう」。ひとつは「きちんと置いておかなければならないのに、置くのを忘れてしまった」。前者は eu ʅelınel で、後者は en eu ʅelel である。英語の f o r g e t t o d o は後者に相当する。【用例】 ın ʅelıſ ȷen ſə eſ hıɥſ. 暑さを忘れることができた。 lı en neſıſ ın ʅelel. 彼は私を起こし忘れた。 ın ʅelıſ enz ſə. そのことを忘れようとした。＝そのことを頭から振り払おうとした。

ʅel,ɑu ııl ʅcʅelɔ.ʅ

ʅelſ ［形容詞］ 婉曲な、遠まわしな、遠回し、婉曲的な ［反意語］ dılu ［レベル］ 3 1L:ʅeelıſ ɥə（包まれた）

ʅeʅ ［音楽］ 曲、ソング、歌 ［類義語］ ɒcʅȷ、leɒ ［レベル］ 2 ɑu J1: 古 φɥ ıleɥcʅə（歌）

ʅeʅlıɷ ［音楽］ 作曲 ［レベル］ 3 J1

ʅelueɷ ［生物］［医療］ 奇穴、新穴、特効穴 ȷzl;‹ʅelucɷ.ɒu‹ʅel/uccɷı Jʅ ［語法］［文化］ uccɷı

ʅelɑɥenȷ ［植物］ ひなげし、ヒナゲシ、ポピー、雛芥子、雛罌粟、コクリコ、虞美人草、グビジンソウ、シャーレイポピー ［言葉遊び］ 羽忘れの精霊、羽を失くした精霊、精霊。ʅeel が ʅel になっていることから、羽忘れの精霊とも呼ばれる。アリア＝イネアートのように、精霊族の血が入っているのに羽を持っていない混血種を指す。 ［レベル］ 3 JJ:ʅeel/ɑɥenȷ 大きさの割に花弁が薄く、下から見上げると太陽光で透けて蝶の羽のように見えることから。ʅeel となっているのは花弁が何かを包むような形になっていることから。

ʅelɥı,ɑ ʅec ʅe は行く。

ʅelɥə,ɑ elɑ ʅe は行く

ʅeı ［形容詞］ 正常だ、あるべき状態だ、治っている、直っている ［動詞］ ɥəl を治す、治す、なおす、治療する、直す、修繕する、あるべき状態にする、セラピー、更生、矯正する、回復する、癒す、いやす ［普通動名詞］ 治療、癒し、いやし、ヒール、ヒーリング、正常、回復 ［普通動名詞］ メンテナンス、メンテ→ dıſ ［魔法］ ケア（ケアル）。利の白魔法。ヴィード傷を癒す魔法。 ［反意語］ ıucl ［レベル］ 1 ɑ;e 赤 ʅeı:ʅeı 【用例】 ın lıl lı eɒ ʅeı uıɷel. 彼が早く回復することを願う。 ın nıſ nıə ɒın ȷeɥcʅ lı cʅ ʅeı. 彼が回復したと聞いて嬉しかった。

ʅeıſ ［植物］ ミント、はっか、ハッカ、薄荷 ［レベル］ 3 1ʔ: 制 : 古 :ʅeıſɔ（癒しの匂い）

ʅeılılſe ［音楽］ イージーリスニング、ムード音楽 ［レベル］ 5 J1

ʅeıȷɔɥcſ ［生物］ 理想身長 ［レベル］ 4 ɥɷ;/ Jʔ ［文化］ ɒıcnısı

ʅeıɒel ［医療］ 回復期間 ［レベル］ 4 1L:ɥɥəə

ʅeıɷəɷ ［生物］ 理想体重 ［レベル］ 4 ɥɷ;/ Jʔ ［文化］ ɒıcnısı

ʅeıɔɒ ［医療］ セラピー ［レベル］ 4 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelſ

ʅeıeɒ ［名詞］ 回復、正常化 ［レベル］ 3 J1

ʅec ［動詞］ ɥəl を ı まで追う、追う、追いかける ［反意語］ elɑ ［レベル］ 2 1L: 古 :ʅelɥı ʅelɥı:ʅelɥı

ʅecȷ ［植物］ ナガイモ、ヤマイモ、ヤマノイモ、ジネンジョ、山芋、長芋 ［レベル］ 2 1L:ʅeɒ/ȷəc（胃の芋）→ ʅeȷc →言いにくいので ʅecȷ。 ［語法］ 山芋と長芋は同一視される。実際にアルバザード人が食べているのは長芋。 ［文化］ 胃に良い芋として、アルバザード人に好まれる。これに含まれるムチンが胃粘膜を保護するため。 ɥɷ ではパールが東国に行った際にお土産として持って帰り、胃に良いという原住民の話を信じてセレンに食べさせたところ、元気になった。それからセレンはナガイモをアルバザードでも生産させ、それに倣って人々がナガイモを食べ始めた。それがレイユまで続いている。なお、少量の醤油をかけて食べる。

ʅecȷucɥɔ ［化学］ ムチン ［レベル］ 5 1L

ʅecn ［交通］ 往復、往来、行ったり来たり ［動詞］ ɥəl（場所）を往来する、往来する、往復する ［レベル］ 3 J0:ʅe/lənı → ʅenı → ʅecn（ʅe や lənı そのものと類音なため、音素を逆転）

ʅecnɷɔdɒ ［交通］ 往復切符 ［レベル］ 4 J0

ʅecɒı,ɑ cɒ

ʅecɥıʅ ［動詞］ ɥəl を追い越す、追い越す、追いこす→ ɥıʅ ʅecl ［名詞］ 追い越し、追いこし ［レベル］ 2 J0

ʅeclələ ［動詞］ ɥəl に追い付く、追い付く、おいつく、追いつく→ ləʅɔ ʅecl ［レベル］ 2 J0

ʅeɔɒ ［交通］ 行き方、道 ［レベル］ 2 J1

ʅeɔl ［動詞］ ɥəl を侮辱する、侮辱する ［普通動名詞］ 侮辱 ［レベル］ 3 1ʔ: 制 : 古 :ʅəſeɔlɔɔ（愚かだという）

ʅeeſ ［格詞］ ～を行き着く先として ［格詞］ ～を子として ［反意語］ eɒɔ ［レベル］ 4 J1: 古 ʅe/ 古 ſe ［語法］ eɒɔ の反対で、源から流れいでた先を示す。また、血脈でいえば子を指す。ʅeeſ ıɒıuel で「アマヴェルを子として」という意味になる。すなわち ɥɥəə/dııl を指す。 アルバザードは夫婦別姓なため、親をまとめて指す場合「田中家」のようには呼べないので、子の名に ʅeeſ を取って示す。【用例】 elſ hıſc ıſ ȷııl ʅeeſ ɥəəɒı. エルトはサールと恋に落ち、ユーマを設けた。 ſə eɥʅe leeu{ʅe} {ʅeeſ} le eɥec. この大河はあの川へ流れている。

ʅeeſɔ ［地名］ ケート、荊京 ［人名］ ケートイア王 ［レベル］ 4 ſɒ;ʅeɥ/ſɔ「森へ」。妙な語源に見えるだろうが、イスタンブールの諸説ある語源の中の e i s s t i n p o l i（街へ）と同じような造語で、こういうものは自然言語にもちゃんと見られる。 古 :ʅeeſɔcı から ［文化］ ケートイアの首都。ɥɷ ではセレンが時魔導師メルと出会った地。【成句】 ɷıcz ʅeeſɔ ſcȷ ſcl ȷınse 盗人にも三分の理 lını uıȷſ ɷıcz ʅeeſɔ ケート王を倒すために：大義名分を持って

ʅeeſɔɥəəsc ［軍事］ 清教徒軍、ケートユージ ［レベル］ 6 J0:ʅeeſɔ/ɥəəsc ［文化］ ɥəəɒı ʅJʅ 清教徒兵団、ケートイア義勇軍と挟撃してレスティリア軍をアデュで破る。彼らはまとまり、清教徒軍を名乗る

ʅeeſɔcı ［地名］ ケートイア ［レベル］ 2 ʅʅ;ʅeeſɔ/ɷcı「ケートの街があるところ」 ʅıʅɔ ［文化］ メテの使徒イムルの支配地。

ʅeeſɔcı(J) ［アトラスの国家］ ケートイア、荊国。アデュなど、厳しいイメージが付きまとうため荊。同時に音符にもなっている。 ［レベル］ 2 ʅʅ;ʅeeſɔ/ɷcı「ケートの街があるところ→首都ケートのある国」 ʅıʅɔ ［文化］ 面積：ʕ00Jʕ0.ΔΔL0Jʅ ʅɒ ］ cɒəl 10 レスティルからケートイアが独立。アルバ二世は対抗する戦力がなく、これを承認。レスティルをアルバザードと改名する。

ʅeeſe ［形容詞］ 暴君な、偉そうな、尊大な、わがままな、暴虐な、邪知暴虐な、邪智暴虐な ［名詞］ 暴君、タイラント、フンチュン、黄君、馬鹿王、バカ殿 ［レベル］ 4 ɥɷ;ʅeeſɔ。ɥɷ 時代のケート王が邪知暴虐であったことから。 Jʅ ［語法］ 王だけでなく偉そうな夫など、一般人にも使える。暴君のように振る舞う人全般に使える。

ʅeeſen ［接続詞］ ʅeeſ ［レベル］ 4 J1

ʅeeu ［物理］ 周波、周波数、振動数 ［レベル］ 4 1ʅ: 制 :ʅıʅeeu（同じ波）

ʅeel ［動詞］ ɥəl を ı に包む、包む、つつむ ［レベル］ 2 古 :ɥcɷcı: リディアは包装紙を指して ʅeel といっていた。セレンは包装紙と思っていたがそうなのかは不明で、リディアに聞いても思い出せないどころか、そんなことがあったのかさえ覚えていなかった。語源はもはや不明。

ʅeelſ ［化学］ グロブリン。α、β、γがあり、前者２つはホルモン屋￥やビタミンを運び、γは抗体として免疫の働きを持つ。 ɥſ;ʅeel/eſ Jʅ

ʅeelɒıȷ ［名詞］ 包装紙、包装材 ［レベル］ 3 1ʔ: 制 : 包装する紙

ʅeelbıʅl ［化学］ 保護コロイド 1L

ʅə ［動詞］ ɥəl を ı に言う、言う、云う、伝える← ɥenȷ ［名詞］ 言葉→ ɥenȷ ［類義語］ ɥenȷ、ʅəɔ、ſcȷſ、dcɥɔ、hıɒ、ɑlıns ［レベル］ 1 ɑ;e 古 ʅə:ʅə: ［語法］ ɥenȷ 【成句】 ʅə ʅə よく言うよ、はいはい、言ってろ、ほざけ ʅə ʅılɔl 無口な、口数の少ない ʅə ɷcl よく喋る、口数の多い ʅə ʅcſ 言い出す

ʅəſ ʅə/ıſ

ʅəſȷ,ɑ len ʅə は口

ʅəʅ ［被服］ プラッターハット、ピザハット ȷɒ;ʅəſɔ/lɔ「鳥頭」 Jʅ

ʅəſı ［生物］ くちばし、嘴 ［レベル］ 2 ɑ;ʅəſɔ.ʅ 1ʕ: 制 : 古 :ʅəſɔʅə（鳥の口）

ʅəſıφ ［名詞］ つるはし、ツルハシ ［レベル］ 3 ɒelſcı Δ:φclcəȷ;ʅəſı/φc 1ʕ: 制 :ʅəſı

ʅəſılɔhɔ ［アイテム］ アーメット ɥɷ;/「くちばしのある兜」 Jʅ ［文化］ ȷɒ で作られた。

ʅəſɔ ［名詞］ 鳥、鳥類 ［生物］ 鳥綱 ［レベル］ 1 ɑ;ʅə は生き物。 赤 :ʅəſɔ（鳥） ʅəſɔ:ʅəſɔ:ʅə ɥȷcel（天） ［語法］ コウモリなどの鳥でないものや、ニワトリなどの飛ばないものも含む。 プロトタイプは鳩。

ʅəſɔʅɔlen ［美容］ プーフ ȷɒ; Jʅ ［文化］ ȷɒ でできた。貴族の女性用。

ʅəſɔn ［動物］ 小鳥 ［象徴］ 可愛いもの、小さいもの ［レベル］ 2 1L:ɒelc ɷcı ılſe: 鳥に指小辞の n がついたもの ［語法］ 可愛いもの、小柄なものの象徴。

ʅəſɔledȷ ［名詞］ 鳥葬 ［動詞］ ɥəl を鳥葬する、鳥葬する ɥɷ;/ Jʅ

ʅəſɔeɥec ［地球の国名］ ウルグアイ 1L: ウルグアイはグアラニー語でウルという鳥の飛ぶ川の意味

ʅəʅ ʅə/cʅ

ʅəʅlc,ɑɥɑ ıucl、ʅcʅelɔ,ɑ

ʅəʅʅəl ［感動詞］ くっくっく ［レベル］ 3 J1

ʅəʅl ［動詞］ ɥəl をきゃっきゃと笑わせる、きゃっきゃと笑う、くすくす笑う、へらへら笑う、笑う ［レベル］ 2 古 : 子供や女が笑う声のオノマトペ

ʅəʅı ［動物］ 鱸、スズキ、バス ［レベル］ 4 1ʅ: 制 :ılıʅſı:ʅəʅıc（大きな口）

ʅəʅc ［名詞］ 錠、ロック、錠前 ［動詞］ ɥəl（ドアなど）に鍵をかける、施錠する、鍵を掛ける ［反意語］ ʅɔzeſ ［レベル］ 2 ɑu;ʅc は「動き」を示す。錠前を動かすため。 赤 ʅəʅc:ʅəʅc:ʅəʅc 【用例】 ʅəʅc ɔɒc ɥınel ドアをしっかり閉める hɔɒ ʅəʅc 鍵を開ける uıȷſ ʅəʅc 泥棒などが鍵を開ける、正規の鍵以外でこじ開ける

ʅəʅɔlə,ılſ ʅəc ʅə/ʅɔ(ıdɔſ)/lə

ʅəʅeɥſ ［言語］ 喋り括弧 ［反意語］ ɔȷnʅeɥſ ［レベル］ 4 J1

ʅəʅəlc ［言語］ ククリ、ɑ、ɑu 古 :「言語」

ʅəl ［形容詞］ くしゅくしゅな ［レベル］ 3 古

ʅəlc ［料理］ シュークリーム ［レベル］ 2 1ʕ: 制 :ʅəl/lıc

ʅəȷ ʅə/eȷ

ʅən ［人名］ クノンの略称 ［組み数字］ ２７／２８ ［レベル］ 1 制

ʅən,ılſ ueſ ‹›ʅə

ʅənueɥınſ ［医療］ 依存性パーソナリティ障害、依存性人格障害 ［レベル］ 5 ul;ʅənɔn/ueɥınſ Jʔ:ɒel

ʅənc ［生物］ 触覚 ［類義語］ ɔsnıʅl ［レベル］ 3 1L: 制 ʅədɔncı

ɿənɔɒ ［色］えんじ、エンジ、臙脂 ［レベル］４ ɹ0:μcɑcı:ɒcμɔɿ:ɿədɔ/nɔɒ

ɿənɔn ［組み数字］２７/２８ ［交通］クノン通り ［レベル］２ ɹɹ

ɿənɔn uılbeȷ ［人名］クノン＝ヴァルベス ［組み数字］２７/２８ ［レベル］２ 古 : 語源不詳 :uılbeȷ は「最後の人」 ［文化］ → ɿənueμınʃ 第４期４代ソーン第１３使徒。女性。ɒclcı。１５８ｃｍ、４５ｋｇ。金色の髪で、５歳の頃の紫亞のように髪を二つに結いていることが多い。長さは肩より長い。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。常にぼーっとしているように見える。たまにギョッと驚く。 ・『ミールの書』による アッシュの左手にはクノンと呼ばれた女性がいた。彼女はリナと同じようにどこか気の抜けた雰囲気があるのだが、目つきからして元気がありそうな女性だ。 ミールは自ら名乗った。すると突然リナがはっとして、「きゃっ！」と小さく叫んだ。その拍子に円卓の上のグラスを倒してしまい、中に入っていた水がクノンにこぼれる。ミールは思わずビクッとしてしまった。 「あぁあ、ごめんなさい、ごめんなさい！ 私……ごめんなさい！」 リナは慌ててハンカチを取り出し、クノンの服を拭く。クノンはその頃になってようやく「あーびっくりしたぁ！」と叫んだ。

ɿənɔnɔ uılbeȷ ［人名］クノノ＝ヴァルベス ［レベル］５ 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第１２使徒。異性魔王。

ɿəueμ ［普通動名詞］悪口、悪評、愚弄、けなし、貶し、罵倒 ［動詞］ɥəl をけなす、けなす、貶す、愚弄する、ののしる、罵る、罵倒する、揶揄する ［反意語］hıɿ ［レベル］２ ɿL:ɒelcɑcı ıʃ(e:ɿə/ueμ。ueμɿ にすると uenɿ に似るため、順序を変えた。 ɒɔɿə:ɒɔɿə 【用例】 ɿəueμ ɭcn neʃıl 人の悪口は言うな

ɿəɑ ［動詞］ɥəl を ı に申告する、申告する ［普通動名詞］申告 ［レベル］４ 古 :ɿəɑ ← ɿəɑəʃɔ（口を取る）らしい。

ɿəɑɒıȷ ［名詞］申告書 ［レベル］５ ɿⅡ: 制 : 申告の紙

ɿəɒ ［生物］［動物］動物、有生物、生物、生き物 ［類義語］ɿəlcu ［反意語］ʃəɿ ［レベル］２ ɑ;ɿə は動物。 赤

ɿəɒʃəɿ ［動物］［植物］動植物 ［レベル］４ μɑ;/ ɹʔ

ɿəɒʃəɿɿı ［名詞］動植物園 ［レベル］５ μɑ;/ ɹʔ

ɿəɒɿı ［名詞］動物園 ［レベル］２ μɑ;/ ɹʔ

ɿəɒȷıd ［名詞］酸素の日常表現、酸素 ［類義語］ȷıd、zɔɒlcl ［レベル］３ ɿL:clɒəȷ:μcɑcı: 動物が吸う空気

ɿəɒɑcıɒ ［生物］動物界 ［レベル］４ ɹɹ

ɿəɒeȷȷe ［名詞］獣姦 ［レベル］４ μɑ;/ ɹʔ

ɿəd ［俗語］フェラチオ、フェラ、オーラルセックス ［レベル］４ 古 :ɿəd（フェラチオ）← ɿə（口）/dɔnnɔ（ちんこ）

ɿədn ［動詞］ɥəl を ı に寄生させる、ȷɔl は ı に寄生する、寄生する ［普通動名詞］寄生 ［レベル］３ ɿL:ɿədɔncıɿ（虫が依存する）

ɿədnleun ［医療］寄生虫病 ［レベル］５ ɿL

ɿədnın ［生物］寄生虫、寄生動物、寄生植物 ［レベル］４ ɿL ［語法］ 寄生の語源には虫が入っているが、この虫はアルカ独特の「気持ち悪いもの全般」の用法。実際に寄生虫という虫がいるわけではない。ɿədnın は寄生生物全体を指す。

ɿədnɔl ［生物］宿主 ［レベル］５ ɹ0

ɿədcleɥə,lʃɑ ɒılʃȷel

ɿəXı,ɑ ueȷn 「口のしっぽ」

ɿəɥə ［形容詞］［副詞］いわゆる、所謂 ［レベル］２ 古 :ɿəɥə（言われる） ［語法］ 挿入的によく使われる。 【用例】 lı eʃ ɿəɥə hıμɑcı. 彼はいわゆる聖人だ。

ɿəμe ［植物］プルーン ［レベル］３ 古

ɿəz ［俗語］クズ、屑、ダメ人間、クソやろう、糞野郎、ドキュン、ＤＱＮ、カス、かす ［類義語］beɔ、ɿəz ［レベル］２ ɑu;φɥəz.ɿ 古 :ɔuc(zını8):‹φɥəz（苦い奴）

ɿəzφcn ［経済］クズ商売、ドキュン商売、ＤＱＮ商売、賤業、虚業 ［レベル］４ ɹ1 ［文化］ → ıɱıɿıɑ 馬鹿相手の商売。ギャンブル、たばこ、ブランドバッグ、スイーツなど、ドキュンの好む低俗なものを餌にした商売のこと。 ミロクは革命で排他しようとしたが、ミルギらの強い説得で維持することとなった。 ミルギ曰く、「馬鹿は殺さず絞るべし」。現実には９０年代のリーザの言葉で、最も早く呼応したのはメル。最後まで呼応しなかったのはセレンとリディア。２０１０にセレンが折れた。 ＜案外変わらない世界＞ かつてアルバザードを理想の国として作ろうとしたが、リアルに作りこんでいった結果、理想とリアルが相反することがあった。例えば交通。かつてアルバザードは車のない社会を目指したことがあった。しかしそれでは経済が成り立たないため、歩行者と自動車を完全に分離して、地下道路を発達させた。ところが現実にはスーパーマーケット等は地上にあるため、商品を搬入するためには、トラックを店までつける必要がある。従って店舗は車道沿いに存在することとした。そういった配慮のもとで人と車を分離してきたが、アルバザードが世界一の経済力を誇るという事を実現するためには、例えばこの交通においてもこのような社会システムをとっていること自体が経済の発展の妨げとなる。交通だけでなくこういった諸般の事情からリアルに考えていくと、経済的な問題でアルバザードが一番であることを維持するためには、どうしても現在の地球でいうところのアメリカや日本といった先進国の姿がある意味一つの答えと言わざるをえない。 それでは歩行者の安全をどう守るかだが、あらゆる道を広くして必ず歩道と自転車道路と車道を作る。さらに、信号はすべて歩車分離式にする。——といったことを実現するためには予算が掛かりすぎる。それにこれだと渋滞もひどい。また、作るだけならまだしもそれを毎年毎年維持していくとなると莫大な予算がかかり、税金を上げざるを得ない。税金をむやみに上げると国民の消費は冷え込み、経済全体の流れは悪くなる。限りある税金を効率的に使うために、ある程度の社会的な不便さは仕方ないといえる。もちろんそうした社会的インフラを作ることで雇用を生み出すことはできるが、むやみに公共事業をふやすとかえって経済に深刻なダメージを与えかねない。 社会インフラの不備により交通事故に遭って怪我をするものや死亡する者も出てくるだろう。そのような社会がとても理想の社会とは思えないが、リアルに考えるとそのようになる。理想を言えば誰もが働かずに安心して食べていける犯罪のない世界が理想である。しかしそれは架空の世界の中でもさらに架空のことであり、リアリティーを考えていくと、どうしてもそのようにせざるを得ない。結局のところ突き詰めて考えていくと、色々な細かいところで先進諸国の姿に似ていくこととなる。 ギャンブルについても同様で、ギャンブル自体がすごくくだらないことだと分かっていても、ではそんなくだらない商売は廃業してしまえばいいかというとそうでもなく、それで経済が回っているというプラスの面もある。ミロクのような人間は、そんなくだらない商売で回る経済などいらないと考えるが、それではアルバザードが世界一を貫くことができない。 例えばミロクはこう考える。ブランドのバックやギャンブルやたばことといったくだらないものに金を出すならその金で勉強したり本を買ったりした方が良いと。ところが実際それを国民が行った場合どうなるか考えてみよう。書籍というのは日本でもそうだが値段はたかがしれている。ギャンブルやブランド品等と比べると、非常に安い。日本でも高いと思われる本はせいぜい１冊５０００円ぐらいの学書だが、そういった学書でも、逆に言えばせいぜい５０００円くらいで買えてしまう。またそういった学書を読むのに何週間や何ヶ月もかかるものだから、月の出費などたかが知れている。もし国民が全員真面目になって学者のように本を読めば国民の学力は上がるかもしれないが、それだけでは当然経済は回らない。そう考えていくと、わざわざくだらないことに金をばらまいてくれる知能の低い層というのは逆にありがたい存在であり、マーケットを活性化させているといえる。学者からしても、そういったくだらない人間がくだらないものに沢山の金を使ってくれることで経済が回り、国が維持され、巡り巡って自分が研究をする環境が整えられる。そのように考えれば、まあ要するにバカも使いようということである。 ＜ls 以降＞ ıɱıɿıɑ にもある通り、革命家たちは賤業を規制してきた。ミロクも規制した時期があったし、ls のセレンは完全に殲滅した。

ɿəzeȷʃ ［俗語］Ψ8A ネーム、ドキュンネーム、キラキラネーム ［類義語］ɭəlceȷʃ ıl;/「クズの名前」 ［レベル］４ ɹʔ ［語法］［文化］ → eȷʃ, eȷʃlınφ, ɭəlceȷʃ 発展した先進国で少子化が進むにつれ、主に低学歴層から徐々に増加する性質を持った個性豊かな名前のこと。 ２０１２年の日本でいうところの光宙（ぴかちゅう）や美妃（みっふぃー）などのことを指す。 ıl ごろからアルバザードでも徐々に増え、社会問題となった。例えば ɭələ–μıd–μıʃ–ʃeezeɒen など。これは現実でもクリスが子供の名に付けようとしてリディアから猛反対にあった。

ɿəocnz ［生物］完骨 ɹ1: 口の歪みを取るのにも用いた

ɿəl ［名詞］話、ストーリー ［動詞］ɥəl を ı に話す、話す、伝える、言う ［見立て］液体 ［レベル］２ 古 :ɿəl,ɿəıl（言われたこと（但しこれは多義語）） 【用例】 eɿlɔɒ {eɿlɔɒ e ɿəl} 話の流れ ɭɔɔɿıʃ ıl eɑıʃ ɔn ɿəl ȷcɑ cɒ hıμd. 昼、祖母と昔の話になった。

ɿəlın ［形容詞］空腹な、おなかがすいた ［類義語］ıɭıd ［反意語］ɑecɿ ［レベル］２ ɹ0: 古 ɿəc lın（食べたい） 【用例】 nɔn eȷ{eʃ, ʃəμ} ɿəlın. おなかがすいた。お腹が空いた。お腹がすいた。

ɿəlıɒı ［被服］胴着 ［レベル］４ ɹ1:ləȷcın:ılʃ ［文化］ アルティアからルティアに伝わった服で、剣道やなぎなたやなどで袴とともに着られる。日本の弓道着のような袖の長い、剣道着より柔らかい素材のものである。日本と異なり、普段着にもなる。ul 以降、アルバザードでは日本のような体育会系を象徴する服ではなく、むしろ古風な人柄を想起させる。

ɿəlılı ［料理］食べ物、料理、飲食物、食事、ごはん、食料、食品、飲食 ［レベル］２ ɑ;ɿə/ıl/ıl 赤 【成句】 ɿəlılı lıɑ ɒıcn 医食同源

ɿəlılıuenʃ ［名詞］食品会社 ［レベル］４ ɿL:μcɑcı:ıμbılelʃ ［語法］ ɿəcluenʃ と区別。

ɿəlılıdcɿl ［医療］食中毒 ［レベル］３ ɿL

ɿəlılıμez ［医療］［料理］ダイエット、食事制限 ［レベル］３ ɿL:μcɑcı:ıμbıle lʃ ［文化］ 痩身改善も含む。

ɿəlılısı ［経済］エンゲル係数 ［レベル］４ μʃ;/「家計における飲食物の占める割合」 ɹʔ

ɿəlcu ［動物］獣、けもの、けだもの、動物 ［類義語］ɿəɒ ［レベル］３ ʃɒ;ɿə/lcuμɔ「動物 / 命」 ɹʔ

ɿəlcuɿıμɑ ［動物］獣弓類、獣弓目 ul;「獣の目」 ［レベル］６ ɹʔ

ɿəlcuμɔ μəɒı ɿə/lcuμɔ「命のある動物」

ɿəlɔe ［アイテム］クロエ、命水晶、クリスタル ［類義語］ɑlcı ［レベル］４ 古 :ɑəlɒccı: 元は小説版アンクノットの喋るクリスタルの名前。すなわち ɿə/lɔ/e（話して考える透明なもの）。 ［語法］ ヴィードを蓄えた特殊な水晶が ɿəlɔe。 ［文化］ ɑlcı 単なる水晶のクリスタルではなく、アティーリに登場する大量のヴィードを秘めたクリスタル。意思を持ち、会話することができる。

ɿələoı ［美容］シニヨン、シニョン、まげ、丁髷、ちょんまげ、おだんご ılʃ;‹›ɿələl ɹ1

ɿələoı,ȷzɑ elɑ ‹›ɿələlc

ɿələl ［魔法］造形術、クルル ［レベル］５ 古「作る」［文化］ 神々の使う魔法で、物質を生み出す魔法。ユーマの一族にはこれがなかった。また、神であっても剣や家といった小さいものしか造形できない。

ɿələl,ɑ lıɑ l は「物」

ɿəlɑɱılcl ［名詞］独裁者、革命家、殺し屋、アサシン、暗殺者、ギャン

ブルのディーラー、ディーラー、クルルカリル [レベル] 4　ɑu;「墓を作る者」　赤
ꞁəın [名詞] 話し手、話者 [レベル] 2　ꞀO
ꞁəc [動詞] ɥəl を食べる、食べる、食う [反意語] len [類義語] ıꞁə [レベル] 1　ɑ;ꞁə　古　ꞁəc:ꞁəc::ꞁəꞁɔꞁə,ıꞁʃ 【用例】 ın ꞁəcʃ lıl uecn. もう少し食べたかった。　ın ꞁəcʃ hıɰl ɷə ɰıꞁ. 昼に食べ過ぎた。　ın ꞁəcʃ ɷə ɰıꞁ enʃɔ nıꞁ ᴅelcȷ. 気持ち悪くなるほど食べた。　ın ꞁəcʃ lıl eᴅ ɑc ȷı ᴅɔꞁ. 寝る前に何か食べたくなった。　ın ꞁəcʃ ɥəə. 何も食べなかった。　ın ꞁəc ꞁe uın hıɰl ʃınʃ ɰı. 昼食は外食しにいく。
ꞁəcꞁ [動物] モズ [象徴] 残酷 [レベル] 3　1ʔ: 制 : 古。前期古アルカ ꞁəcꞁ əʃɔ（食べる鳥）
ꞁəcꞁɔn [料理] 食器 [レベル] 2　1L:ɰcɷcı:ıɰbılelʃ [文化]　フォークなど、手の持つほうは材質は金属か木。子供用には木が好まれる。茶碗など、椀類は陶器か金属か木かプラスチック。子供用には木が好まれる。プラスチックは食事がまずくなると言われ、不評。料理の種類からいってアルバザードはナイフとフォークを使って食べる。ただ、箸も普及していて皆使うことができる。用途に合わせて箸も使う。箸は中国のように長いものではなく、日本のと同じように短い。料理は大皿から自分の小皿に取って食べる。席から遠い場合は人に取ってもらう。箸で渡すのは無礼。菜箸を使って皿に盛ってから渡す。食器は木製や金属製のものがあり、陶器のものもある。箸にしても金属製のものと木製のものがあるが、料理によって使い分ける。
ꞁəcꞁɔnꞁcb [名詞] 食器棚 [レベル] 3　ꞀꞀ
ꞁəclız [料理] 賞味期限、消費期限 [レベル] 2　ꞀO 【用例】 ɥɔlꞁ{ɰıꞁ} ꞁəcl ız 賞味期限を過ぎる
ꞁəcnı [医療] [料理] 食欲 [レベル] 2　ɰɷ;/　1L:lcɔn 【用例】 ꞁəcnı eleȷ eᴅ ɷɔʃ cᴅ ılcȷ. 秋になると食欲が出る。　ꞁəcnı lcu 食欲が少ない、小食だ：本人のふだんの性向を示す。　ʃcl ꞁəcnı 食欲がある：その日の体調を示す。　ın ȷc ꞁəcnı ᴅın ın ꞁəcʃ dɔɑ lel ꞁəclȷɔu. おやつにパンを食べたので食欲がない。
ꞁəcnıɥə [医療] 摂食障害 [レベル] 3　1L
ꞁəcᴅ [文頭純詞] そういえば、思えば、そういや [レベル] 2　古 :ꞁəc,ꞁəcᴅ（今言う）【成句】 ꞁəcᴅ ɔn「「といえば、～といえば、～と言えば
ꞁəcl [料理] 食事、飲食 [レベル] 2　1L:ɰcɷcı:ıɰbılelʃ:ꞁəc/ɔl [語法] [文化]　ɑııl, hıɰl, ɾəəl, ɷənel の総称。食事の量は少なく、栄養重視。小食でもアルバザードは食料品が高く、エンゲル係数が高い。食事は朝・昼・夕・夜の４回。食事量のウェイトの置き方は家庭によって異なるが、夕は必ず軽食。品目数にこだわる習慣はないが、「これはタンパク質、これは炭水化物、これはビタミン」など、必要な栄養素が献立にあるかどうかは気にする。特徴的なのは、人種によって洋食と和食の比率を決める点。ləlcın は和食１回洋食２回、ɥəlʃın は和食２回洋食１回が腸に適応しているというような説を信じている。アルバザードは人種のるつぼで、しかも食糧危機に瀕した経験が少ないため、マナーがほとんどないといっていい。わざわざ汚らしく食べるというようなことをしないかぎり、誰も気にしない。食事中の会話はＯＫ。 【成句】 ꞁəcl eʃ dcʃı 医食同源 【用例】 ꞁəc{ıɰ} ꞁəcl 食事をする　ın nıʃ bın ı ꞁəcl. 食事を楽しんだ。　ın ʃıɑ ꞁəcl ɰıȷ ꞁⅡ ʃıʃ ȷel ɰınel, ʃıl ın ꞁəc lcı ıȷ. きちんと４食食べるが、さらに間食もする。
ꞁəclȷɔu [医療] 食間 [レベル] 3　1L 【用例】 ın len bıꞁᴅ cᴅ ꞁəclȷɔu. = ın len bıꞁᴅ ȷɔu ꞁəcl. 食間に牛乳を飲む。
ꞁəcluenʃ [料理] 外食産業 [レベル] 4　1L:ɰcɷcı:ıɰbılelʃ
ꞁəclez [建築] 食堂 [レベル] 3　1L
ꞁəcɔᴅ [料理] 食べ方、マナー、食事作法 [レベル] 3　ɰɷ;/　Ꞁʔ
ꞁəcelʃ [料理] 食べ残し、食べカス [レベル] 2　1L:ɰcɷcı:ıɰbılelʃ:elʃ で造語しているのは鼻くそなどの応用だろう
ꞁəcelɑ [普通動名詞] 食い逃げ→ elɑ [レベル] 3　ꞀꞀ
ꞁəɔ [生物] 口 [動詞] ɥəl を自然と言う、言う、思わず言葉が漏れる、呟く [類義語] ꞁəə、ꞁəəꞁə [レベル] 1　ɑu;ꞁə.ꞁ　19: 制　ꞁəɔ:ꞁəɔ:lı dəl 【成句】 cl ʃcl ꞁəɔ ꞁɔꞁ 異口同音 【用例】 ın ɔuıʃ eɰ dɔʃ ꞁəɔ ꞁɔɰ ɷcdcʃ. 口の中で水をあちこちに動かした。　ɷə ꞁəɔ 一口
ꞁəɔꞁı [音楽] マウスピース（楽器の口を当てる部分） [レベル] 4　19: 制 : 口の場所
ꞁəɔꞁıɔȷ [軍事] 口径 [レベル] 6　ɰɷ;φelꞁəɔ/ꞁıɔȷ　ꞀⅡ [文化]　φel
ꞁəɔȷcıs [言語] [生物] 口蓋 [レベル] 3　1L
ꞁəɔɑeeʃɑel [言語] 調音音声学 [レベル] 6　1L
ꞁəɔᴅ [名詞] 言い方、口調 [レベル] 2　1L:ᴅelcɷcı ılcȷ
ꞁəɔᴅcll [卑語] おし、聾唖 [レベル] 3　Ꞁ1 [文化]　使わないこと。 【成句】　ꞁəɔᴅcll ɑılȷın 生き残った聾唖：言わぬが花、沈黙は金なり。残虐なケートイア王に呼ばれた二人の男がいた。琴の演奏の意見を求められ、片方は答えたが穿って解釈されて処刑された。片方は聾唖で喋れず、無言で頷いていた。一言も褒めることのできなかった自分は殺されるに違いないと恐怖に震えた男は泣き出した。すると感涙したものと誤解した王に気に入られ生き延びることができたという寓話から。
ꞁəɔɷeȷdı [名詞] 猿轡、猿ぐつわ [レベル] 4　制 [語法]　さるぐつわなどの口を封じるものなら何でも良く、ハンカチやギャグボールでも良い。
ꞁəɔheʃ [名詞] 一部始終、徹頭徹尾、終始一貫、首尾一貫 [レベル] 3　ꞀꞀ
ꞁəɔɰeȷꞁ [地名] クオレスク、竜の口 [レベル] 5　1L:ɰcɷcı:ꞁə/ɑɰeʃcȷ/ꞁıl（竜の口の所） [文化]　ユピトールとイールゥートを竜の口に見立てたもので、その間にある海のこと。シェルタージュが眠っていた。
ꞁəɔscᴅ [生物] 口腔 [レベル] 4　19: 制 : 口の腔
ꞁəɔl [名詞] 台詞、せりふ、セリフ [レベル] 3　19: 制 :ꞁə 【用例】 ꞁəɔl dcɔʃ くさいセリフ
ꞁəe [生物]唾、つばき、唾液 [レベル] 2　古 :ꞁəe（唾）。原義は「 口の水 」。
ꞁəel [生物] よだれ、涎 [レベル] 2　ꞀO:ꞁəe（唾）と ᴅɔe（滝）から。ᴅɔe の元が ᴅɔel であるため、l が添加。
ꞁəelıbe [被服] よだれかけ [レベル] 2　ꞀO: 涎の布
ꞁəelc [人名] クエリ　ꞀꞀ [文化]　ɰɷ のリディアの飼い猫。翼の生えた白猫。メス。
ꞁəə [ɰenʃe] おくち、お口 [レベル] 1　ꞀO:ᴅel: 古 ꞁə
ꞁəə,ɑ　uıu　ꞁə が動物なので「動く」とかから「運動」の意味になっているのだろう。
ꞁəəꞁə [幼児] お口、おくち [レベル] 1　ꞀO:ᴅel: 古 ꞁə
ꞁəənɔ [言語] ꞁəənɔȷʃecɰı　ꞀꞀ
ꞁəənɔȷʃecɰı [言語] [文字] クーノステイラ、？記号、？、クエスチョンマーク、急下降調→ ꞁəənɔ [レベル] 2　ɑ;ꞁə は「言う、口」で nɔ は「疑問」。古
ꞁəəɷ [単位] クード [レベル] 5　Ꞁ1: 古 ꞁə/ɷə「一口量」 [文化]　ınꞁɔ
ꞁəədɔ [動物] 昆虫 [類義語] uelcz [レベル] 2　ɑ;ꞁə は生き物。　赤　ꞁə ədɔ:ꞁəədɔ::φın [語法]　節足動物門の昆虫網のこと。ふつうのアルバザード人はアリのような形をしたもの程度にしか考えておらず、クモも ꞁəədɔ だと思っている。
ꞁəədɔʃıⅡ [生物] 昆虫網　ꞀꞀ
ꞁəədɔucl [医療] 虫刺され [レベル] 3　ꞀO:ȷeɰen
ꞁəəhe [アトラスの国家] クーヘ [レベル] 5　1L:ɰcɷcı: 舌（長いので）
ꞁəəhe(Ꞁ) [地名] クーヘ [レベル] 5　ꞀO:ɰcɷcı: 現 ꞁəəhe と同じ名だが、古アルカなので正式なスペルは ꞁəəXe。 [文化]　古代国家のひとつ。カスティアルの西。

l

lʃıʃ [名詞] 引き出し [反意語] zıʃ [レベル] 3　ꞀO:lıꞁʃı:lʃı（引き出しを引くオノマトペ）【用例】 leʃ{ɰɔꞁ} lʃıʃ 引き出しを出す { 閉める }。hɔᴅ/ɷeɥə でも可。
lʃın [名詞]ナプキン。テーブルクロスは別。 [レベル]3　1ʔ: 制 : 食事布 【用例】 hın(eᴅ) lʃın ıl elen 机にナプキンを広げる
lʃıᴅ [動詞] ɥəl を ı に立たせる、立たせる、立つ [文字] ローマン、立体、正体、正字体 [反意語] ȷꞁcn [レベル] 1　ɰɷ;ȷꞁcn.ʃeel　@ 1L: 古の zını は使徒の現在の名と重なるので避けた。　zını:zını 【成句】 lʃıᴅ ᴅɔl nene ～の側に立つ、仲間になる　lʃıᴅeȷ ɷeᴅȷel 呆然と立ち尽くす
lʃıᴅnını [地学] [歴史] オロシリアン　ul;/　Ꞁʔ [文化]　φııueɑeᴅe
lʃıd [美容] ムース [化学] フォーム。ホイップクリームなど。 [レベル] 3　古 :ɑɔueʃ 【用例】 eu lʃıd ı ncı 髪にムースを塗る
lʃıɰ [名詞]上下、上下方向 [数学] z 軸← lılɰecn [レベル]2　1L:lʃıᴅ/ꞁɔɰ（立つ方向）
lʃıɰꞁeu [言語] タクソノミー [レベル] 5　1L: 上下方向の比喩
lʃıɰhɔl [名詞] ピッチ、ｘ軸周りの回転、上昇旋回 [レベル] 6　Ꞁ1
lʃıɰınɔz [音楽] オルタネイトピッキング　Ꞁ1
lʃıɰez [名詞] エレベーター、リフト [レベル] 2　1L:ᴅelcɷcı ılʃe: 上下動する部屋。エスカレーターのように ɔu ～とすると、日本語で「エスカレーター」と「エレベーター」を間違える人がいるのと同じことになると思い、造語の発想をあえてずらした。
lʃıl [名詞] 行列の各列、列 [魔法] 晄基配列の列 [レベル] 2 [反意語] ȷıꞁȷ　ꞀO:ᴅelcɷcı lceɰ:lʃıᴅ/ȷıȷ → lʃıȷ → lʃıl（言いにくいため） [語法]　ȷıꞁȷ
lʃɔꞁ [数学] 弧度、ラジアン、平面角 [レベル] 5　1Ⅱ: 制 : 古 :ılsʃɔꞁ（弧の度） [語法]　円の半径と同じ長さの弧に対する中心角のこと。例えば単位円（半径１の円）で考えると、弧は半径と同じ１になる。円周は２パイである。円１周分の角度は３６０°であり、求めたい角度をﾚﾟとすると ,「２パイ：１＝３６０°:ﾚﾟ」という式が成り立つ。するとﾚﾟ＝３６０/２パイで、パイ＝３．１４１５９とすると、ﾚﾟ≒５７．２９５８°である。この値を１弧度 (＝１ラジアン) と呼び、アルカでは１シュトックと呼ぶ。
lʃel,ul　eȷʃı
lll [擬音] しゅー。電車やバスのドアが閉まる音。ドアそのものの音でなく、開閉時に生じる空気圧の変化による音。 [感動詞] しーっ、静かに [レベル] 1　1L:ənclec
llıcn [軍事] 同盟 [レベル] 4　ꞀO:ʃlclᴅıcn
lı [動詞] ȷɔl は ɥəl（場所）にいる・ある、いる、ある、居る、おる、有る、存在する、在る [文末純詞] ～だ、～だった。気付きを示す。 [法副詞] 状態動詞の無相を示す [レベル] 1　ɑ;lı/ıl「ある物」　古 lıl　lıl:lıl :lıləl [語法]　・ｔｈｅｒｅ　ｉｓとＳ　ｉｓ　Ｔｈｅｒｅ　ｉｓ　ａ　ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙ　ｏｎ　ｔｈｅ　ｄｅｓｋもＴｈｅ　ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙ　ｉｓ　ｏｎ　ｔｈｅ　ｄｅｓｋも ꞁlel lı hıl le elen となる。　・居続ける　「居続ける」の場合、lı lılel でなく lıl だけでよい。　・「有料」と「無料」　lı（接頭辞）: lıφıɰʃ（有料）　ᴅc（接頭辞）: ᴅcφıɰʃ（無料）　lı,ᴅc は ɷc,ꞁılɔ と同じく形容詞的に使っている。本来 φıɰʃʃcl などと言うべきところを、lıφıɰʃ と言っている。 φıɰʃʃcl が煩雑なのと、「母なし」などの意味を表わすときは lıılȷc よりも ᴅclııl のほうが理解しやすいため。lı は静的な動詞であるため、特別に派生語中では形容詞として使われ、ʃcl に相当する意

味を持つ。派生語では形容詞的な接頭辞として働くことに注意。【用例】 lın ɑc lıſ ıſə. そこにはたくさんの人がいた。 ȷlcn lı 座っている：ȷlcn の状態動詞の無相。

lıſ lı/ıſ

lıſſı ［文末純詞］［dclb］lɔl ［レベル］1 Jl:elefɔne:ıl ııſıẟ「そうですよね？」

lıſcᴅ ［生物］真核生物 ［レベル］4 J0

lıſɔɑ ［電算］オンライン ［レベル］3 JJ

lıſeᴅ ［形容詞］素直な、人の言うことに耳を傾ける ［反意語］ᴅcſeᴅ ［レベル］3 J0: 耳のある ［語法］ lıſeᴅ は欲望に正直なとか、人の好意などを素直に受け入れるといった意味の素直さではない。その場合は hɔᴅ ſıl ı を使う。 【用例】 lın lıſeᴅ ləlɔ ȷen ȷɔµen nɔɑ lelen. 賢い人間より素直な人間のほうが高みに昇る。(µenȷ ۹J)

lıl lı/cl

lılll ［芸術］画廊、ギャラリー ［レベル］4 1?: 制 : 絵の場所

lılııd ［名詞］ファックス、ＦＡＸ、ファクシミリ ［レベル］4 1?: 制 : 絵を送る電話。電話回線を用いたことから。 ［文化］ レイユでは既に廃れている。スキャナで取り込んだ画像を端末で送る方が一般的である。

lıll ［形容詞］シャリシャリ、サクサク、さくさく ［レベル］3 古 ［語法］ 歯ごたえがあって瑞々しく、それでいてどろどろしていないさま。レタスなどの食感に使う。触った感じにも使えるので触感でもある。砂のシャリシャリではない。ポテトチップスはむしろパリパリなので µclȷ。µcſȷ はパリパリ、カリカリでクリスピーなさま。

lılȷ ［普通動名詞］［生物］孵化、ふ化 ［動詞］ yəl を孵化させる、孵化する、ふ化する ［レベル］3 1?: 制 :lılc

lıln ［植物］レタス、チシャ ［レベル］3 1?: 制 :lılſı: では lıll「シャリシャリするもの」

lıll ［動詞］ yəl に気がつく、気がつく、気が付く、気づく、認識する、気付く、悟る ［類義語］nılɔ ［反意語］uen ［レベル］2 1?: 制 :lılɔl（存在を知る） ［語法］ lıll が広義で、nılɔ が狭義。nılɔ は潜在的には気づいていたが自覚には至っていなかったものが意識に登ってきたときに使う。特に心情を表わすときに用いやすい。 【用例】 lıll ȷınse 原因に気がつく、心当たりがある

lılllɔnɑ ［名詞］明晰夢→ ɑelnɔı ［類義語］ɑelnɔı、lɔnɑ ［レベル］4 µɑ;/ J?

lılı ［名詞］位置、ポジション ［物理］位相← eeulılı ［レベル］3 1L:µcɑcı :ıµbılelſ 【用例】 sıl lılı ſəl これの位置を決める

lılıl ［アイテム］打刀 ll;lıləʌılc J

lılc ［名詞］卵 ［生物］卵、たまご ［レベル］2 µcɑcı: 古 :lılc（卵）。卵が割れるオノマトペが lılc であり、それが語源。 ［文化］ 通常鶏卵のこと。

lılcdcnɑ ［医療］卵形。鍼尖の一種。 µɑ;/ J

lıle ［名詞］カスタード ［レベル］3 ılılſı

lıl ［動詞］ yəl を ı に教える、教える ［反意語］ȷcȷl ［名詞］授業 ［名詞］教え ［レベル］2 1?: 制 : 古 :ləlɔ（習う） hel:hel::ȷen,ılſ ［文化］ clᴅ 授業が八時から始まる学校の場合、実際には十分ほど前に来て朝礼を行う。担任が出席確認や何らかの告知をする。その後授業に入る。授業は一コマ五十分である。休み時間は十分で、合わせて一時間である。八時から始まる学校の場合、十二時までに四コマの授業がある。頭を使う難しい学問はこの時間に集中させる。四時間が終わると昼休みである。二時間ある。三十分で昼食を採り、一時間ほど歓談などをし、三十分ほど寝る。寝る場所は主に校庭である。軒の下と空の下がある。雨の日は軒の下に集まる。皆思い思いに芝生などでうつらうつら眠る。昼休みが終わると二時である。そこから五時まで三コマの授業がある。ここでは午前の復習や、複雑に頭を働かせない種類の学習に勤しむ。五時になると担任の教師が終礼をする。今日の変わった出来事や明日以降の行事等に関する告知を行なう。そして十分間ほどで解散となる 授業はチャイムと同時に始まったり終わったりする。時間に正確に終わらせたり始めたりするのが教師の義務である。ゆえに生徒はチャイムが鳴ればまだ話が終わってなくとも退席して良い。教師はチャイムが鳴る前に必ず終わらせようとする。誤って長引かせてしまい、もし鳴ってしまえば教師は「チャイムが鳴りましたので、申し訳ありませんが、ここで中断させていただきます」と謝辞して即座に終わらせる。生徒にしてみれば中断されるので続きが気になる。これは中途半端で良くないことである。だから教師は尚更時間通りに終わらせようとする。 授業中、教師は生徒に名指しで質問して答えさせる。また、生徒が教師に質問することもある。時間の都合上長くなる場合は個別に後で生徒を呼び出す。 授業中にトイレに行くのは自由である。断りなしに退席して構わない。また、事情があって帰る場合も自由に退席できる。むしろ一々名乗りを上げて報告するのは授業を中断するので迷惑である。教師側もトイレに行ける。ただ、生徒とは立場が違う。教師は一人しかいないわけだから教師がトイレに立つと授業が中断してしまう。だからできれば事前に行っておくのが好ましい。 尚、私語は厳禁である。授業は録音されているため、私語は慎んでもらう。私語をすれば退席させられるし、最悪退学させられる。また、授業中に関係のない行動を取ったり、騒いだり、暴れたりしても同じ処分である。因みに、寝るのは構わない。誰も注意しない。但し、鼾がうるさいと起こされる。 ＜授業のデータ化＞ 全て授業の内容はレコーダーに記録され、日付とクラスと教師と学科が記載された上で電子データの形で保存される。全ての授業内容は閲覧可能であり、図書館が管理している。 【用例】 ſeµ lıl 授業を聞く、授業を受ける、授業に出る lıɑſ ı lıl 授業に出る、出席する ınȷ ſcl ɱ lıl hɔſ ſ'eµıᴅ ɔlȷ 1 ȷel ılnɔɑ leȷſ (lınſe 明日から１日に授業が午前中の４コマだけになる♪ ſəµ, lıl eᴅ lcſ. さあ、講義が始まる。

lılſ ［名詞］研修会、ゼミ、ゼミナール ［レベル］4 ȷɔµn:「クミールがソーンにアルカを教えるときの集まり」【用例】 ɑılſ ı lılſ ゼミに出る

lıll ［名詞］箒、ほうき ［動詞］ yəl をほうきで掃く、掃く ［レベル］3 1: 制 :lılſı:lılı（竹箒で掃く音）【用例】 ın lıllıſ ȷıe. 雪を履いてよけた。

lıllı ［名詞］教えるところ、学校、学び舎 ［交通］教習所 ［名詞］寺子屋、私塾 ［類義語］ɑelı、ɑelc ［レベル］3 JJ ［語法］ 広義には教えるところ全般。狭義には ɑelı より小さな私塾。

lıllı ［音楽］マラカス ［レベル］5 Jl: 擬音

lılucı ［名詞］シラバス、講義要項 ［レベル］6 1: 制 : 講義の概要

lılᴅyəɔcn ［普通動名詞］授業参観 ［レベル］3 ul;/ J 【用例】 ınȷ ſcl ɱ lıl ſ'eµıᴅ hɔſ ᴅcl lılᴅyəɔcn cᴅ leȷſ. ɑɔl ɱ ɑec ſıſ 1 lılr 明日は授業参観で午前の４コマだけだ。しかも１コマ４５分！

lılᴅıcȷɑelın ［名詞］教育実習生 ［レベル］6 µɑ;/ J

lılı ［名詞］はけ、刷毛 古 : 音から

lılın ［名詞］先生、教師、指導者、講師 1?: 制 ::uµecn ［語法］ 敬称としては使えない→ lınlı 【用例】 ın uıȷſıſ ıµnıᴅını ᴅcl lılın. 先生のおかげでアルナ大に合格しました：教師本人に語りかけるときは lılın ではなく ɑyəȷȷɔə, ləı ないし lınlı。 ın eᴅ lıl lılın µıſ. 良い先生になりたい。

lılınbılȷ ［名詞］教師棟 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

lılınez ［名詞］職員室 ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelſ ［文化］ 日本のような職員室はない。教師の部屋は全て個室である。その他に教師が集まって会議をするときに使う会議室がある。個室は六畳程度の広さである。本棚や机などが置いてある。ただの講師でも部屋がきちんと割り当てられている。教師の数は少なくないので、その全てに部屋を割り当てると大層なスペースがいる。そのため、教師がいる部屋は校舎と繋がった別棟にある。教師棟である。教師は一日のうち、全てのコマで授業することはない。連続しても二、三コマである。そのため、教師は授業が連続する場合は部屋に帰らない。必要な資料を鞄に入れて教室がある学生棟へ向かう。そして授業が一段落つけば部屋へ戻る。また、職員棟には学科ごとの事務室があり、事務手続きの一部をここで行う。

lılez ［生物］脊椎動物 ［レベル］4 1L ［語法］ 脊椎動物と無脊椎動物の区別はアルカにもある。人間にとって身近な動物とそうでない動物を分けるために、この分類は自然。しかし生物学上は、脊椎動物は脊索動物の亜門に過ぎない。

lıl e lecn ［ユマナ］［言語］はじめてのアルカ、はじアル J?

lıȷ lı/eȷ

lıȷıd ［言語］有気、有気音 ［レベル］6 1L

lın ［名詞］真、真実、真相 ［形容詞］本当の、真実の、真の ［文頭純詞］本当は ［副詞］本当に、本気で ［類義語］yəlceſ ［反意語］enl ［レベル］2 1?: 制 : 古 :lcn（真実）← lın（実在の、存在するもの）← lıl（存在）。まず lıl から lın が生まれた。次に真実と実在を使い分けるため、母音変化しただけの lcn が生まれ、こちらが専門で真実を請け負った。やがて本当を表わす日本語語源の hɔnſɔɔ が現われたが、これが新たに現われた本当を表わす µəlc に追いやられて消える。この間に lcn と lın の使い分けは消え、lcn は実在の意味も表わすようになった。この lcn は古の lcnlılbə（現実（実在する世界））に残っている。一方、本当の意味を表わすのは専ら µəlc であったが、『ミールの書』で日本語の「真」という語が繰り返し使われたため、訳者であるリディアらが µəlc の代わりに語形が同じな lcn を復刻させた。そして制アルカでは lcn が残った。lcn を「真」起源とするのは誤りで、それだと lıb の語源となっている古アルカの lcnlılbə の存在が時間的に説明つかない。 ::lə ᴅclɔ（hıcn が男性）【成句】 lın yən clſı le ᴅed lıɑ 鏡が造る像のように真実な el ȷccz ɑɔnl lın lɔnſ nelſ ɑɔnl ſə lcȷſ el. 真実は喧伝するものでも謙遜して隠すものでもない (ȷeµen ıµbızı µɑ) el ləſ lıl ıl ſccl lı lın. 真実は常に堂々としていればよい (ȷeµen ıµbızıµɑ) lın lənı leȷ lıl ſə lɔnſ ɑcı ſın ȷɔ. 真実は求める者の前に現れる。そして幻想もまた求める者の前に現れる (ȷeµen ıµbızıµɑ)

lın(J) ［文末純詞］［µenſe］lı ［レベル］1 1Δ:µcɑcı

lınſ ［動詞］ yəl を ı に送る、送る、贈る ［名詞］プレゼント、ギフト、贈り物 ［動詞］人を ı まで見送る、人を lı で見送る、見送る→ yəleu ［文末純詞］～してあげる、～してやる、～してくれる ［電算］［名詞］［動詞］アップロードする、送信する :1L:µcɑcı: アップロードと厳密に言う場合は lınſ ı dɔleſ → neɑ ［法律］贈与する ［類義語］ıᴅel、ȷeɑcµ、neɑ ［反意語］ᴅcl ［レベル］2 ɑ:elſ;e ȷɔµn: アンシャンテが原義 lınſ:lınſ:ȷe ɑcµ 【用例】 ſə lınſ eſ leȷ ın lılıſ ılıl. このプレゼントは私が一番ほしかったものだ。 ın dcɔ uın ſc lyə lınſ. 俺がそこへ連れてってやるよ。 lınſ ȷeɑcµ プレゼントを贈る

lınſɑıcφ ［経済］［法律］贈与税 ［レベル］5 Jl ［文化］ 控除額は年間日本円にして３００万程度 (ᴅelJl) で、相続税の７００万に比べて甘い（２年数カ月分にしか相当しないので）。その代わり取り締まりが厳しい。 相続税の控除額が７００万なので、資産が７００万程度ならば３年かけて生前に贈与しておくこともできる。３０００万もあれば消化に十年もかかるため、この法律は中産階級以下に甘く、金持ちに厳しい。ミロク革命らしい制度と言える。

lınſın ［魔法］仙術、仙人術、仙道、タオイズム ılſ J

lınſıµ ［名詞］発信機 ［レベル］4 Jl

lınſılceſ ［名詞］残念なイケメン、残念な美人、シャンタリエット ［レベル］5 µɑ;lınſe/ılceſ「左右非対称な満月」 J ［語法］［文化］ 見た目はいいのに性格や趣味や言動が変だったり人に理解されなかったりして、見た目ほどモテない人のこと。セレンやリディアやメルなど。

lınſc ［化学］飽和 ［レベル］4 1L:µcɑcı:lınſe

lınſcn ［ジョブ］仙人 ılſ J

lınʃcʮ ［植物］プリムラ　ɹ0:lınʃe。春を呼ぶという意味。アルバザードでは見ごろが立春。

lınʃcıʮ］ ［化学］飽和結合　ɹ1

lınʃcıʮlənɔ ［化学］飽和炭化水素　1L

lınʃɔɔ］ ［娯楽］トゥルーエンド、トゥルーエンディング、ＴＥ、ＴＥＤ、ＴＲＵＥ　［レベル］５　ıl;/　ɹʔ

lınʃe ［天文］満月。日本の満月より幅が広く、月相１４からプラスマイナス１ほどである。つまり日常的には ʃəuınlınʃe と leeuelınʃe も lınʃe に含める。　［名詞］北　［名詞］［形容詞］食べ物がちょうど熟していて食べ頃である、熟した、熟れた、うれた、熟れる、うれる、熟する　［名詞］［形容詞］満開　［経済］満期　［魔法］シャンテ。光の低位白魔法。任意の色の光を出し、文字や絵を空中に書く。　［組み数字］５／８　［レベル］２　ᴅel ʃcı 100:beʮʃ;e　古 :ıleʃʃ e ınlınʃe の略で、ınlınʃe というとアンシャンテと誤解されるので lınʃe と略していたもの。最も光の強い月で、魔力が宿ると信じられている。　［文化］　lelʃeel、ıʮoınʃ　ᴅelʃcı 100　［言語］［文字］悪魔ベルトが文字を発明。神はそれに倣う。ベルトはこれまでの歴史をまとめるため、空間に文字を書く魔法 lınʃe を開発。ならびに筆記用具を開発。歴史の記録にはセルトの記憶を受け継ぐアルミヴァも協力した　【用例】　lınʃe lıʃ sın. 満月が出ていた。　lınʃe ɔʮ le eue. 満月が欠けていく。

lınʃe(ɹ) ［魔法］シャンテ　［レベル］５　ʮɑ　1ɹ:lec e ᴅccʮ　［語法］　lınʃe も参照。　『ミールの書』にでてくる魔法。宙に発光する文字や絵を浮かばせる魔法で、セルフィッシュガーデンの住人やミールはこれを使って紙がなくともノートを取ったり板書したりすることができる。lınʃe に記載。

lınʃe(ʔ) ［感動詞］すみません、あのー、あのぅ、エクスキューズミー。通常尻上がりで。　［感動詞］［丁寧］（疑問文で）えっ？、何て言ったんですか　［レベル］２　古 :「返事する？」が原義。元は「今返事できますか？」の意味で、アンシャンテに使われた。　［語法］　人に話しかけるときに使う。上下性別場面は関係ない。公的な感じがするので友達など、親しい間柄では使わないのが妥当。友達なら nee などといって呼びかければ良い。疑問文では「すみません、もう一度言ってください」の意味。丁寧。ʃɔȣ と聞き返すのは丁寧でないが無礼でもないので日常的に良く使われる。

lınʃe,ɑ　lınʃe, ɹɔ]ʃı　ɹııl;e　第一語義は満月。満月に声をかけるとエルトから言葉が返ってくるというサールの発想から返事という意味に。

lınʃe ʃ'ınsəʮ ［歳時記］シャンテ・タンジュール　［レベル］３　ɹ1　［文化］　カテージュで毎月晴れた満月の日（lınʃe は毎月数日間あるので、すべて雨でつぶれる確率は低い）に行われる祭り。カルテなどで竜騎兵の格好を模してアンフェルを着て、アンフェリアを踊る。ヒラヒラと舞うロンテが特徴的。月が昇り出し東の低い位置に大きく輝くころ（おおむね６時頃）から始まり、２時間ほど続く。古スカルディアのころからあり、現在では竜は使わない（存在しないため）。また、現代では時計の普及により、時刻は月と関係なく６時からとされている。

lınʃelı]c ［料理］目玉焼き　［レベル］３　1ɱ: 制 : 満月の形をした卵料理　【用例】　ın]əcʃ dɔɑ ɔ lınʃelı]c lel ɑıl. 朝食にパンと目玉焼きを食べた。

lınʃehıd ［名詞］幼字 lınʃe のこと　［レベル］３　ɹ1

lınʃelcl ［化学］テクネチウム　1Δ: 制

lınʃeɔn ［植物］トケイソウ、とけいそう　1ᑫ: 制 :lınʃezeᴅ。花の模様が時計版の文字のように lınʃe に似てるから。

lınʃeɔncl ［植物］パッションフルーツ、果物トケイソウ、果物とけいそう　［レベル］６　1ᑫ: 制

lın] ［サール］シャンク　［レベル］５　ᴅel: 古　［文化］　笑いながら多くの子供を殺した男。シャンクは５歳の最愛の娘を見殺しにされ、見殺しにしたものを呪った。そこにサールのメロウは目をつけてシャンクに力を与えた。シャンクは娘を見殺しにした者の子を殺して彼らにも同じ苦しみを与えた。見かねたエルトがシャンクを討伐しようとしたがシャンクはエルトをもしのぐ力で抵抗し、やむなくエルトは彼を殺すのを諦め、デスパで封印するに留めた。

lınlı ［名詞］［形容詞］先生、教師、教師に対する呼びかけ　［類義語］ɹenɹee　［レベル］２　ʮɑ; ↓　1Δ:ᴅel:『玲音の書』について話していたメルが噛んで lılın を lınlı といったことで教師を意味するようになり、やがて敬称に変わった。　［語法］　→ ɹenɹee, ıdʃ, eɹʃ　〇名（後置）　〇姓（前置）　〇男女　〇単体使用／名詞用法　　教師の呼称。lılın は呼称でない。　lınlı は教師と医者に使う。弁護士、研究者、作家、政治家には使えないので注意。逆に職場の現場監督やＯＪＴの上司などには使える。つまり人を教育する人への呼称。医者は日本より患者にあれこれと指示するため、lınlı の扱いを受ける。　ɑʯəɹɹɔə と呼ぶこともできるが、直接教わっている相手なら lınlı のほうが丁寧。直接教わっていなければ ɑʯəɹɹɔə でも失礼でない。　ʮɹcclı は非常に丁寧で、政治家などにも使える→ ʮɹcclı　【用例】　hııɹ lınlı ʮınel. 先生の言うことをよく聞きなさい。

lınlın ［ᴅdci］先生。先生の敬称の愛称版　［レベル］２　1Δ:ᴅel ız ʮcɑcı

lınnı ［感動詞］［俗語］マジかよ？、マジで？、ｍｊｄ　［レベル］２　ɹ1:lın ıȣ から

lınɑcı ［名詞］現実世界　［レベル］４　ɹʔ　［文化］　ɑcııl

lınᴅıcn ［名詞］正体、実体　［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcɹ

lını ［名詞］信念、ポリシー、志、けじめ　［組み数字］３／６　［レベル］３　1Δ:lıʮ nı（信じる心）【用例】　ʃcl lını ɔn]ɔɹ nɔzeʃ 自分のやり方に信念がある　eu{ɑcʃ} 信念を植え付ける｛与える｝

lınıɹɔɔl ［名詞］確信犯　［類義語］lınıɑcʮeʃ　［レベル］４　ʮɑ;/　ɹʔ　［語法］　lınıɑcʮeʃ は「知っていてあえてやる」という意味の確信犯ではなく、「信念を持ってやる」という本来の意味の確信犯。lınıɹɔɔl は「信念を持って行う行為全般」を指し、犯罪に限らない。一方、cbɹɔɔl は「知っていてあえてやる（故意犯）」という慣用として使われている意味のほうの確信犯を指す。日本語話者はこれらの単語の使い分けに注意すること。

lınıɑcʮeʃ ［法律］確信犯　［類義語］lınıɹɔɔl　［レベル］４　ʮɑ;/　ɹʔ　［語法］　lı nıɹɔɔl

lınɔ ［名詞］原型、原作、本来、元々、大本、原始の形、一次、一次創作　［形容詞］原型の、大元の、本来的な、本質的な　［反意語］ıllın　［レベル］４　1ʕ: 制 :lın

lınɔʃılcʃ ［音楽］ア・テンポ、アテンポ　1L

lınɔ]eeu ［物理］基本振動　1L

lınɔuɔln ［生物］幹細胞　ʮʃ;/　ɹɱ

lınɔɑɔce ［普通動名詞］原作レイプ　［レベル］５　ıl;/　ɹʔ　【用例】　ʃəəbe eʃ ʮı] lınɔɑɔce ɑıdh 原作レイプってレベルじゃねーぞ！

lınɔdıᴅ ［ユマナ］［宗教］カトリック　ɹɱ

lınɔıll ［数学］因数　［レベル］４　1L

lıneɹʃ ［名詞］本名、真名　［反意語］enleɹʃ、ɹcn]eɹʃ　［レベル］３　ɹ1

lıu ［形容詞］～というもの、～とかいうやつ　［レベル］２　1ɱ: 制 : 古存在の lıl　［語法］　初出、未知を表わす。あるいは既出でも馴染みのないものに使う。　本人にとって初出でないのに lıu を使い続けるのは、心理的に遠ざけたいため。嫌悪感、未知への恐怖、照れ隠しなどの現れ。　【用例】　ᴅccl lıu lənıɹ ıʃə e. ミールとかいう人が来てるよ。

lıueʯə ［言語］屈折、屈折語、屈折語的　［レベル］６　1L

lıɑ ［法副詞］～しなければならない、～する責任がある　［名詞］責任　［動詞］ʯəl の責任を ı に着せる（与える）　［レベル］１　1ʔ:lınʃeɑı（責任）（君は答え（lınʃe）る義務がある（ɑı）　［語法］　ɑıl 「～するのが当然だ」というニュアンスなら hıɔ を使う。「～する責務がある」というニュアンスなら lıɑ を使う。　【用例】　ʃc ʃɔɔ] lıɑ ʃə lıb. 君はこの仕事を終えなければならない。　lıɑ ınʃ ʃəʮ]ıl. 責任は果たしているさ。

lıɑʃ ［動詞］ʯəl を ı に出席させる、出席する、参加する、出勤する、出社する　［再帰動名詞］出席、参加　［反意語］ıllıɑʃ　［レベル］２　1ɱ: 制 :lı　［文化］　出席は成績に関与しない。要は試験に受かれば良い。だから出席は自由である。自信があれば出なくても構わない。休むからといって報告する必要は一切ない。途中から来るのも自由だし、来たからといって来たことを報告する必要もない。また、途中で勝手に帰っても構わない。だがそれでも教師は毎日出席を取る。皆勤賞をカウントするためである。だから言い換えれば一度休んだ生徒の出席はそれ以降取らなくても良い。日々出席を読み上げられる数が減っていくのは皆勤賞をもらおうという者にしてみればある種のプレッシャーにもなる。

lıɑʃhı]l ［名詞］皆勤賞　［レベル］３　1L:ʮcɑcı:ıʮbılelʃ

lıɑʃıl ［名詞］出欠、出欠席　［レベル］２　1L:ʮcɑcı:ıʮbılelʃ　【用例】　ɹıcn lıɑʃ ıl 出席を取る

lıɑn ［普通動名詞］担当、担任　［動詞］ʯəl を担当する、担当する　［レベル］２　1ɱ: 制 :lıɑ

lıɑnı ［形容詞］責任感のある　［反意語］ıllıɑnı　［レベル］３　ʮɑ;/　ɹɱ

lıɑnın ［名詞］担任　［レベル］２　1Δ:ɹeʮen:ᴅelcɑcı

lıɑl ［名詞］余裕、余力　［レベル］３　1ɱ: 制 : 後期古 lıuıl「力がある」【成句】　ʃeı ʃc ʃcl lıɑl enʃɔ ～する余裕があれば、～していただけませんでしょうか　【用例】　ın ʃcl lılel lıɑl. まだ余裕がある、余裕綽々だ。

lıɑı ［植物］カブ　［レベル］３　ɹᴅ　1ᒋ: 制 :lı]ʃı:lıɑ]　lıɑ]:lıɑı　［文化］　→ uıl]ɔʃın　uıl]ɔʃın により急速に広まった植物。

lıɑıφeɹl ［植物］コールラビ、カブランカン　1ʕ: 制

lıɑıl ［名詞］責任者　［レベル］３　1L:lcɔn

lıɑcl ［形容詞］実存の、実在の　［類義語］ɑcı、ɑcını　［反意語］ɑcɑ　［レベル］４　ul;lı/ɑcı/ıl「世界に存在する物」。ɑcɑ に対応して作られた。　ɹɹ

lıɑclᴅel ［名詞］リアルタイム　［形容詞］リアルタイムで進行する　［レベル］４　ul;lıɑcl/ᴅel「実存する時間上の」　ɹɹ

lıɑclᴅeluıɹınɔɹcnllcuı ［娯楽］リアルタイム戦略シミュレーションゲーム、ＲＴＳ→ ʃeelᴅıɑc　［類義語］ʃeelᴅıɑc　ıl;　ɹʔ

lıᴅ ［動詞］ɔn について ʯəl に賛成する、賛成する　［普通動名詞］賛成　［反意語］ɹʃcʮ　［レベル］２　1ʔ ←古 :]ə ıl（はいと言う）　［文化］　議論の際は賛成か反対か立場を明確にするが、真か偽かを考察するときには曖昧になりがち。真理はしばしば極端なところにはないため。賛成でも反対でも、理由をはっきり持ち、説明する。　【用例】　ʯı, ın lıᴅ ʃc. えぇ、賛成です。

lıᴅʃɑɔnz ［普通動名詞］本採用　［レベル］４　1L:ʮcɑcı:ıʮbılelʃ

lıᴅɹʃcʮ ［普通動名詞］賛否　［レベル］３　ɹɹ　【成句】　lıᴅɹʃcʮ (cɔ) lı 賛否両論

lıᴅd ［動詞］ʯəl に滞在する、滞在する、留まる、残す、残る、泊まる　［普通動名詞］滞在、宿泊　［レベル］３　1ɱ: 制 :ɹɔʮn:lıᴅ（滞在）　::lıləl　【用例】　lı ʮeʃıʃ ın lıᴅd ıʃə ɑə uecn. 彼は私にもう少し留まるように言った。　ın lıᴅd uın ʮı e hıdn cᴅ ɑcɹ. 今日は友達の家に泊まるつもりだ。

lıᴅl ［芸術］デザイン　［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :lıᴅıcnıl

lıᴅlın ［芸術］デザイナー　［レベル］４　ɹ1

lıᴅıφ ［言語］有声、有声音　［レベル］６　1L

lıᴅcʮ ［論理］真理　［レベル］４　ʮɑ;lın/ᴅccʮ　ɹɹ

lıᴅɔᴅ ［形容詞］安定した　［反意語］ᴅcᴅɔᴅ　［レベル］４　ɹ1: 根有り

lıᴅɔᴅeeʃın ［経済］安定株主　ɹɹ

lıᴅel ［名詞］イベント、催事、催し　［類義語］ɹɔɑ　［レベル］３　ɹ1: 古 lıl/ᴅel「ある時間上に存在するもの」　［語法］　特定の意味を持った ɹɔɑ のこと。

ɟɔɷ の中でも特別な意味を持ったものを lɪᴅel という。「ゲームのイベント」や「武道館での催し」などはこれに当たる。【用例】 lɪᴅel ʃcn ビッグイベント

lɪᴅeljel ［歳時記］催日 ［類義語］ıılʝel ［反意語］ncınʝel ［レベル］3 Ɉ1 ［語法］ ıılʝel

lɪᴅelen ［歳時記］歳時記、シャムエレン ［レベル］4 Ɉ1:lɪᴅel/elen ［文化］ アルバザードのイベントをまとめたもの。歳時記に相当。時代によって増減する。

lɪɷ ［名詞］質、クオリティ、価値、意義、値打ち、値うち、ねうち ［類義語］ᴅeʝʃıʃ ［反意語］ɷə ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lıɷɔl クミールが作った誤用から生まれた語。このままだと「石がある」でしかない。石の関連から宝石の価値を表わすことにだけ使われていた語。【用例】 lɪɷ ʃcn 高価値、ハイクオリティ、上質な

lɪφɥcʝ ［地球の国名］ギリシャ ［レベル］5 1ɨ: 制

lɪφıɥʃ ［形容詞］有料 ［反意語］ᴅcφıɥʃ ［レベル］3 1L

lɪφıɥʃʝcnʝɔl ［名詞］有料番組、有料放送 ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ

lɪd ［名詞］卵黄 ［レベル］3 1٩

lɪdɔʃc ［形容詞］符号付き ul;/ Ɉ⋒

lɪdɔʃcdılеʃ ［電算］符号付き数値 ul;/ Ɉ⋒

lɪɥ ［動詞］ɥəl を信じる、信じる ［動詞］ɥəl を強くそうだと思う、思い込む ［普通動名詞］思い込み、信念、信用、信頼、信仰（神を信仰するという意味では ᴅcɥɔʝ） ［類義語］ᴅcɥɔʝ ［反意語］ɑcl ［レベル］2 lʝl;lɪɥl ,ɑ.l 1ʔ: 制 :ʝɔɥn:lɪɥl lɪɥl: ［語法］「信じる」は信用するの意味合いが強いが、lɪɥ はどちらかというと「強く主観的に～だと思う」という意味で使われることが多いので、日本人から見ればアルバザード人はやたら相手を信頼しているように聞こえることがある。文脈によって単に強く主観的に思うという意味でしかないときもある。【成句】 , el lɪɥ ～と言われている：文末で使う。【用例】 × lɪɥ ᴅcɥɔ˥ → ᴅcɥɔʝ ᴅcɥɔ˥ 神を信じる。lɪɥ だと神が言っていることなどに対して「そうだ」と思うことを示し、信仰、崇拝の意味はない。 lɪɥ ᴅeɥel 確信している ın ıcl lɪɥ ucl senʃdɔɥ˥lı˥. ときどき天気予報を信じられないときがある。

lɪɥʃ ［人名］シャルト ［組み数字］4 / 6 ［レベル］3 1L ? : 制の ıɥlı を変えたもの 参考 :ıɥlı:1L: 古 :ıɥlɔ:「神の習い」［文化］ ヴァノンの４番目。女性。事務を担当。

lɪɥɱcl ［化学］レニウム ［レベル］5 1L x:eʝʃın:eʝʃın ［文化］ ɷɔlᴅcɥə 単体でもっとも硬い金属で、天然元素として最後に発見された地球とは異なり、早くから発見されていた。その物質自体はガレットを通さないという特徴から、算出するケヴェアや中央アルカットなどで既に知られていたためである。zφ で発見され、魔法学に用いられた。 希少性が高く、アルバザードではほとんど取れなかったため、実用の歴史は乏しい。ヴィード戦におけるアルテマシールドとみなされ、防衛において使われたことはあるものの、物理攻撃で破壊できるため費用対効果が貧弱であった。

lɪɥ˥ ［名詞］不自由、拘束、束縛、義務 ［形容詞］不自由な、拘束された、束縛された、強制の、義務的な ［反意語］ʝclʃ ［レベル］3 @ Ɉ0

lɪɥ˥ᴅıφ ［物理］強制振動 Ɉ1

lɪɥ˥zıu ［数学］位置ベクトル、固定ベクトル、束縛ベクトル Ɉ1

lɪɥ˥zeʃ ［言語］文法範疇、文法カテゴリー ɥɷ;/「義務項目」 Ɉ⋒

lɪɥ˥ə ［動詞］ɥəl を言い切る、言い切る ［普通動名詞］言い切り ［レベル］3 ɈɈ

lɪɥl ［組み数字］6 / １０ ［哲学］信 ［医療］腎 ［歳時記］乙、きのと ［レベル］4 ɥɷ;lɪɥl,ɑ Ɉ1 ::lı lɪɥl

lɪɥl,ɑ lɪɥ e

lɪɥɱın ［生物］［医療］腎経 ʝzl;/ Ɉ⋒

lɪɥı˥n ［名詞］懐疑主義の反対。まず信じてみようという主義。アルバザード人に多い。［レベル］4 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ

lɪɥın ［名詞］信者、信奉者 ［レベル］3 ɈɈ

lɪz ［名詞］限界、リミット、期限、ぎりぎり、ギリギリ、上限、下限 ［名詞］しめきり、締め切り、締切、締切り、〆切、〆切り、納期→ lıʝɔllɪz ［副詞］限界まで ［数学］極限 ［レベル］3 ɥɷ 1⋒: 制 :lıʝız 【成句】 ɑɔnlc˥ lɪzel 危機一髪だ 【用例】 ɑɥeᴅ ı lɪz 限界に近づく lɪz c˥ ɥı˥ 制限を越えた

lɪzıll ［数学］極限値、極値 ［レベル］5 1L

lɪzeʃ ［形容詞］余裕のない、余力のない、ギリギリな ［形容詞］（服が）ぱつぱつな、パツパツな、ぱっつん、パッツン、ぱつぱつ、パツパツ、ぱっつんぱっつん、パッツンパッツン、ぴっちりした、ピッチリした ［反意語］ʝɔseʃ ［レベル］3 ɥɷ;lɪz/ʃe Ɉʔ

lɪl ［遊離副詞］［形容詞］～のままである ［動詞］ɥəl を維持する、維持する、保持する、保存する、保守する、ɥəl に残る、残る、居座る ［動詞］ɥəl のままでいる、ɥəl に居続ける、居続ける。維持を示す繋辞 ［普通動名詞］維持、保持、保存、保守、居残り、いのこり ［音楽］テヌート ［反意語］ᴅcɥə ［レベル］1 古 lɪl（存在） ::ɷclze ［語法］ lɪl ıʃə だと「ここに居続けろ」という意味だが、原理的には「この場所をキープしろ」という意味にもなる。 lɪl ʝeeɥ だと「静かで居続けろ」という意味。lɪl ʝeeɥel だと「静かに居続ける」の意味。 ʝɔ lɪlel は前もしたし今もしているの意味。【成句】 lɪl nɔʝ 自分を保つ、自我を保つ 【用例】 lı lɪl ıʃə. ここに居続けてほしい：lɪl ıʃə のほうがふつう。 ın lɪlıʃ ɥı ᴅın ʃınʃ eʃ hıɥʃ ɔ ʝeɥcd ˥cnel. 外は熱くて湿気が多いので室内にいた。 lɪl ʝɔı. そのまま。キープしろ lə lɪl ez nɔzeʃ lel ɔʝ˥. 彼女は自分の部屋を綺麗に保つ。

lɪl(Ɉ) ［言語］l の文字 ［レベル］1 1⋒: 制 : 存在 ［語法］ 第３文字目の幻字。【用例】 ᴅ l ʃɥə. あなたのままでいてください。文字の名を使って ᴅcɥ lɪl ʃɥə と読ませる妙技。

lɪl(ʔ) ［名詞］存在、有 ［反意語］ʝııs ［レベル］2 ɑ;lı/ıl「存在するもの」赤 ［語法］ なお、アルカの実在論では、存在は認知的なものとされている。 →ɷcını˥l 【用例】 ʃɥə eʃ lɪl uɔll lɪlʃ nɔn. あなたは私に取って大切な存在よ。

lɪl(⋒) ［南方］［動詞］lı ［レベル］3 古

lɪl,ɑ lı lı（存在）.ɑıcı/ıl（物）

lɪlʃ ［名詞］状況、境遇、立場、地位、言い分、言いぶん、いいぶん、事情 ［格詞］～の点で見て、～の観点で見て ［言語］態、ボイス、ヴォイス ［レベル］1 古 :lɪlʃ（立場）← lɪl（存在）/ʃe（風）。「存在する雰囲気」が原義。lɪlʃe と同語源。【成句】 ʃel lɪlʃ ɷel ～のくせに lɪlʃ ʝelın 世間的には、常識的には、事実上の lɪlʃ ʝɔɷn 事実上の lɪlʃ ᴅeʝı ıl 場合によっては 【用例】 ın lɔʃ ɔn lı lɪlʃ lı. 彼の立場で彼について考えた。 lı ucnʝıʃ ıucl ʃel lɪlʃ ɷel uılʝ (=ʃınʃ uılʝ). 彼は医者のくせに患者を見捨てた。 ɥen ʃeɥ lɪlʃ nɔın. 私の言い分も聞いてよ。 ☆ ɥe lɔ lɪlʃ lə. 自分の身になって考えてみろよ。アルカでは「彼の身になって」と言う。「自分の身になって」という表現はしない。 "lɪlʃ ucenıʃc ʃʻıul, ɷcʃc e lıuı, ʝııs e uıcnɔlɔz, lcn e φel, ucnɷ ɥıʃ, nenʃ ˥ıl e φıɥᴅı, en ılue leʝʃ e ʃeɥcı, ɥı˥ı ʃeə ɷıcıldɔl, ˥ıɷ ˥ıen ıl ˥ıılʃc, eə. 経済大国であること、多くの国と国交があること、徴兵制がないこと、拳銃の所持が認められていないこと、治安が良いこと、戦争勃発のリスクが低いこと、テロの主だった標的でないこと、首都圏に住んでいること、居住地が極東であること、かな。

lɪlɱɥɔ ［名詞］ロールプレイ、ロールプレイング ［レベル］4 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ

lɪlʃbıl ［名詞］バカの壁、馬鹿の壁、シャルト・バル、立場の壁 ［レベル］5 ɥɷ;/「立場の壁」 Ɉʔ ［文化］ ɥɷ でセレンが唱えた理論であり、同時にバカの壁という意味の概念でもある。アルカにおけるバカの壁とは次のような意味である。どんなに論理的な考えであろうと万人には理解されない。どんなに優れた意見や価値観であろうと理解しあえない障壁がある。それは立場の違いから来るものであり、立場が違えば瑕疵のない理論であっても理解・納得することはできない。理解しあえない根底に立場の違いがあり、それがある以上絶対に理解しあえない。それを立場の壁（バカの壁）と呼ぶ。 セレンは話せば分かるなんていうのは嘘だと言い、議論における論理の持つ力の無力さを説いた。セレンが早くからバカの壁を発見していたのは、２８の異なる母語の話者からなるアシェットで議論を重ねたためである。セレンのような特異な環境に身を置くものは少なかったため、ıl まで彼のこの理論は注目されないままだった。 ıl ではグローバル化が進むにつれ、セレンの考えが見直され、lɪlʃbıl というタイトルで彼の考えを元にした本が出版され、この概念が有名なものとなった。

lɪlʃınʃɔı ［化学］M殻 ［レベル］5 1L

lɪlʃe ［名詞］雰囲気、ムード、その場の空気、気配 ［動詞］ɥəl と恋人として付き合う、付き合う :1L:ɥcɷcı:「その雰囲気にする」［歳時記］三月で一季 ［レベル］3 古 :lɪlʃe（雰囲気）← lɪl（存在）/ʃe（風）。「存在する雰囲気」が原義。 :::ᴅelc,ılʃ 【成句】 nılɔ lɪlʃe 空気を読む、雰囲気を察する lɪlʃe eʃ φɥə 空気が重い、険悪なムードだ

lɪlʃeʝ ［化学］静電気 ［レベル］3 古 : 存在する（静止している）電気

lɪlʃeʝucın ［化学］静電気力。アルカでは主に化学で使われる。［レベル］5 Ɉ0

lɪlʃen ［言語］文脈、コンテクスト ［レベル］5 Ɉ0:lɪlʃe/ʃeʃɔnı ［語法］ アルバザードでは言語学だけでなく日常的にも用いられる言葉。［文化］ ミロク革命以前は様々な民族が寄せ集められてできた文化だったため、低コンテクスト文化だったが、革命後はミロクが「何が善で何が悪か」を定め、倫理・常識とはかくあるべしという形を形成したおかげで、皆が同じ価値観を持てるようになった。アルティス教の社会になったことでアルティスの倫理観が共通の倫理になったという点も挙げられる。この結果、アルバザードは急激に高コンテクスト文化になり、腹芸を覚えるようになっていった。 ただし言語上の構文論においては多民族国家なので誤解がないよう、ローコンテクストのままである。つまり「お子様と運転時はご遠慮ください」のようなハイコンテクストな構文は取らず、「子供に与えないでください。また、食べたら運転しないでください」のようにローコンテクストな構文で表現する。

lɪlʃen(Ɉ) ［接続詞］lɪlʃ。～の立場の。［レベル］3 Ɉ0

lɪɱ ［名詞］価値観 ［レベル］4 ɥɷ;lɪl/ɱı「自分の居場所。自分が物事を見ている視点のこと」 Ɉ⋒ ［文化］ アルバザード人は価値観が合う人を老若男女関係なく好む傾向にある。人を好きになったり付き合ったりする際の尺度として、価値観が占める割合は大きい。要するに価値観が合うということは気が合うということで、気が合うことは人間関係の構築と継続に大きな役割を果たすと考えられている。 ・２０１２年１２月２９日のセレンの呟き 自分の芸術や音楽や正義などの価値観が両親特に父親由来であると気付いた。周囲に自分の価値観を認められると嬉しく思う。植え付けられた価値観なのに嬉しく思うのだ。ということは恐らく娘も今植え付けている価値観を自分のものとし、その価値観を肯定してくれる人間に好意を持つようになるのだろう。 不思議なものだ。父親のことは嫌っていたのに、自分は嫌になるくらい父に似ている。彼が達成できなかった物書きの夢を叶え、彼の価値観を是としている。幼児期の教育はそれほど重要ということだ。自分の価値観と思いきや、嫌いな父親の価値観だったのだから。【用例】 ınʝ ʃcl lɪɱ ᴅɥəl ı lɔ˥. 私たちは価値観が合う。

lɪɱı ［名詞］場所、陣地、陣営、マス、升、マス目、升目、座標 ［シェルト］マス、マス目 ［類義語］˥ı、˥ılʃe、uı˥˥ıʝ、cnɱı ʃᴅ;「存在する場所」［レベル］

３　ʖʔ ［語法］　シェルトやすごろくのマス、戦争などで今現在自分が存在している狭い地点などを指す。ＲＰＧゲームの自キャラの存在する座標なども指す。

lılıφınɑ ［普通動名詞］場所取り　［レベル］４　ɗu;/　ʖʔ

lılıeᴅ ［植物］にら、ニラ、韮　［レベル］３　1L:「胃に残る」が原義。消化しにくいことから。ニラは消化にいいと言われるが、消化を促進するだけであって、ニラ自体は消化しにくい。【用例】 ɔd e lılıeᴅ ȷɔlȷıʃ ın ʅəc lıl bel. ニラの和え物が食欲をそそった。

lılıeᴅɑclaıc ［医療］ニラ灸　μɑ;/　ʖɱ

lılıeeu ［物理］固有振動数　［レベル］５　1L

lıll,au　lecᴅ　lıllı「存在する存在→ふつうのもの」

lılȷ ［数学］［電算］［論理］ブール代数、二値数、真偽を１と０で表したもの　［レベル］６　1L:lıl/ıll（存在数）

lılȷıɑʅıᴅ ［生物］恒温動物　［レベル］４　1L

lıluɔμʃ ［医療］アポトーシス　ul;lılcʃ/uɔμʃ。体の恒常性を保ち、個体をより良い状態に保つために積極的に引き起こされる細胞の死であることから。　ʖʔ

lılɑ ［医療］看護、介護　［レベル］３　1L:lıl/ɑμeᴅ

lılɑeμ ［経済］軟調　ʖʖ

lılɑelȷ ［俗語］工房、高坊　［類義語］ȷıᴅının　［レベル］４　ıl;/「まだ制服着てんのかよ」　ʖʔ ［語法］　ᴅıᴅᴅın

lılᴅ ［名詞］住居、住処、棲家、巣、家、家屋、家庭　［動詞］ɥəl に住む、住む　［レベル］２　ʖʖ:lıl/ᴅıcn「体を居させる」［語法］　μı や nɔlμı やホームレスの公園など、住むところ全てを広く指す。【用例】 lı lılᴅeȷ ȷe elıμnı. 彼は中央アルナに住んでいる。

lılᴅɑıcφ ［経済］住民税　［レベル］５　μʃ;/。ｒａｄａｉｇだと持ち家にかかる税金と誤解されかねないため。　ʖʔ ［文化］　地方税のひとつ。μʃ のアルバザード発祥。　その年のメルセル現在で居住しているところで課税される。そのため、メルセル後に転居した場合でも、メルセル時に居住していた自治体に全て納付しなければならない。

lılᴅhıcʅı ［法律］家庭裁判所　［レベル］４　ʖʖ

lılᴅın ［哲学］存在理由、レーゾンデートル　［レベル］５　ʖ0 【用例】 ʃcl lı lᴅın 意味がある、意味ある　ʃə ȷc lılᴅın ı. これ意味ないじゃん。

lılᴅcɥə ［化学］物理変化　1L: 物質を変化させないで維持する変化

lılᴅccnı ［企業］シャルミーナ　［レベル］４　ʖ1 ［文化］　資生堂、花王に相当する企業。

lılɑcȷʅ ［音楽］テヌート・スタッカート、スラー・スタッカート、メゾ・スタッカート　1L

lılφıμʃ ［名詞］維持費　［レベル］５　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lılɥəɔ ［言語］存在動詞　［レベル］５　ʖ0 ［語法］　lı, ᴅc など。

lılμecn ［数学］ｚ軸→ lʃıμ　［レベル］５　1L

lılzeʅʃ ［経済］底入れ　ʖʖ:「底に居座っている→下げ止まっている」

lıll ［ユマナ］［宗教］孔子　［レベル］５　ʖʔ:lell（慈。アルカで仁のこと。仁義を説いたので、「仁義の人」で孔子）

lıllᴅɥəʅıle ［ユマナ］［宗教］儒教。宗教というよりは教えに近いが。　［レベル］５　ʖʔ

lıllınʃ ［丁寧］［親族］おばあさま、シャルラント　［レベル］２　ʖ1:lıl/lınʃ（いまだ美しい）［文化］　lıılı

lılın ［物理］剛体　［レベル］６　ʖ1

lılıb ［化学］保存料　［レベル］４　1L:ȷeμen

lılıb(ʖ) ［名詞］有職　［反意語］ᴅclıb　［レベル］４　μɑ;/　ʖʔ

lılıbʃcɑ ［経済］ワーキングプア、ワープア、勤労貧困　［レベル］５　ıl;/「有職者なのに貧困」　ʖʔ

lılıμʃ ［娯楽］［軍事］［魔法］バフ、デバフ。効果の持続する魔法。　［反意語］ leeuıμʃ　ʖʖ ［語法］　良いか悪いか、バフかデバフかは μıʃ と ɥıᴅ を付けて区別する。

lılıll ［数学］定数　［レベル］４　1L

lılcʃ ［魔法］［生物］恒常性、ホメオスタシス　［言語］［名詞］保守性　［レベル］４　ʖ0:lıl/ıʃc　［文化］　→ ɑɔlᴅcɥə, ɥəncȷ　　＜言語の変化と保守性＞

　言語には保守性がある。アラビア語は最も保守性が高い部類である。これには宗教的な理由がある。宗教的な理由がなく保守性が高い言語は例えばドイツ語である。このように言語の保守性は言語ごとに異なり、その背景に理由があるものがある。　アトラスで最も保守性が高いのは ɑu_μɑ である。成員が変わらないため、統語論と音韻論はほとんど変化しない。厳密には μɑ にいるロゼットは寿命があるので成員は変化するが、ここにいるロゼットは ɗu で戦功のあったものなのでヴィード量が多く、何万年単位で生きる。そのため zφ_ls までで終わってしまう世界からすれば実質寿命がないと考えてよい。　人間の言語で最も保守性が高いのは lɥ_ıμ である。ɗu まで神は lȷ に住んでいたため、神との繋がりが強い。ɗu 後も宗主国として実質 μɑ が存在していたため、特に神との繋がりの深い上流階級の間では lɥ_ıμ は ɑu_μɑ にペグされていた。彼らにとっては生活上でもビジネスでも ɑu_μɑ にペグしているほうが効率的だからである。そして ɑu_μɑ が変化のない神の言葉であるため、それにペグした lɥ_ıμ も同様に保守性が高いというわけである。このように、歴史的な理由があって lɥ_ıμ の保守性は世界一強い。　一方下流についてはペグする理由がないため、その他の自然言語同様語彙的にも音的にも変化していた。しかし紙が貴重な時代なので残っている文献は上流のもので、下流の言語は歴史的に不明な点が多い。これは日本の平安時代と同様である。ȷᴅ 以降は教育水準が高まり、教師側は学者などの上流である場合が多かったため、上流の μɑ 様の発音や語彙が中流に浸透した。これにより上中流はほぼ ɑu_μɑ にペグし、マス層がペグすることとなった。　このころになると多少下流がどう話していたかの記録も残っており、二重母音 ıc などが ee と発音されていたなどの事実を知ることができる。　μɑ になってアルカができる。人工言語であるため保守性が強い。ところがアシェットが死んでしまえば国民は手にしたアルカを好き勝手に遠慮なく変える。ただし地球と同じく上流ほど保守性が強く、古風で原理主義的な言い方を好む。下流や若者ほど勝手に言語を変える傾向がある。　nɑ, μʃ,ul で変化が随時起こるが、ıl で原理主義者のミロクが μɑ の統語や音韻に戻し、教育とメディアを使って広めなおす。ls の終末までレインの時代から５０年程度しか経っていないので、流石に語彙以外での変化はない。

lıle ［芸術］漫画、コミック、マガジン、マンガ　［レベル］２　1ʔ: 制 :lıʅlec（絵の本）［語法］　枠線は ʅıll。コマは ʃeᴅȷ。吹き出しは eȷd。台詞は μenȷ。集中線は nɔlμecn。流線は ȷeμecn。４コマは uıllʃeᴅȷ。トーンは uelʃuıcʅ。ベタは ueμ。書き文字は ʃınʃμenȷ。　φıʅɔn で終わるセリフは φıʅɔn を省く。ただし省けるのは各吹き出し中の最後のセンテンスのみ。［文化］　アルティア式は右開き。アルバザード式は左開き。どちらから始めても構わない。漫画はアルティア人が高めたものなので、アルティア式にすることが多い。幼児用や学習者用など、一部のものは左開きが多い。【用例】 ın ıμıʃ μııɑ cᴅ ȷeȷ ʅılᴅıl lını cȷʅ lıle. 漫画を読むために徹夜をしたものだった。

lıleʃ ［遊離副詞］［形容詞］たぶん、多分、おそらく、恐らく　［レベル］１　ʖ0:lıl/ʃe（存在しそうな）［語法］　ıləəʃ

lıleʃ,ȷzl　ez　lıl/ʃeeze

lıleuecz ［娯楽］アニメ、アニメーション→ ᴅıɥı　［類義語］ᴅıɥı　［レベル］２　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ　:::ɔᴅıɥıᴅc,ılʃ

lıleeu ［物理］定常波　1L:lılıeeu からの類推

lılə,ılʃ　lecᴅ　lıll

lıləl ［名詞］万物　［レベル］４　ʖ1:lıl/ 古 ıl「存在するもの」［語法］　ıluee

lıləl,ȷzɑ　lı ɔʅ nene、lıᴅd　＜ lıl,ɑ

lıləl,ɑ　ȷccı　elʃ;lıl/ıl「存在する物事」　赤

lııȷ ［普通動名詞］世話、接待、客などの応対、接客（顧客サービスも含む）［動詞］ɥəl を接待する、接待する、もてなす、饗す、世話する　［レベル］３　ȷɔμn:lııȷ 【成句】 lııȷ bıȷ. おかまいなく、お構いなく。

lııȷın ［名詞］世話係、世話人、海のパトロール、スキー場の安全を見張るインストラクター　［レベル］３　1L 【用例】 sınlııȷın ıʅlıʃ ın cᴅ ın cʅ ncʅȷ ı ȷıe. 私が転ぶと、スキーパトロールの人が助け起こしてくれた。

lıııucl ［名詞］［形容詞］異常あり、異状あり　［レベル］４　μɑ;/　ʖʔ

lııᴅ ［形容詞］不人気な　［反意語］ȷccn　［レベル］２　@ 1L

lııd ［形容詞］有標な　［反意語］ȷccɑ　［レベル］５　lıʅʃı: 印がある

lıısı ［数学］有理数、有比数　［レベル］４　1L

lıc ［形容詞］甘い　［形容詞］人間関係などが良好で仲の良い←→ φɥə　［類義語］lccı　［レベル］１　ȷeμʃ　1ʔ: 制　lc:lc:ɑelue:ʃlcılə,ılʃ 【用例】［メタファー］ lıc ɥən lce 密のように甘い　ın ȷccnı lıc. 私は甘い物が好きだ。

lıc,ɑu　ᴅelcn　lı/c「自分の居場所から見る」

lıcʃılʃ ［名詞］甘党　［レベル］４　1L

lıcʅ ［料理］飴、キャンディ、キャンディー、キャンデー、飴玉　［レベル］２　1ʔ: 制 :lıcφeʅ（甘い球）【用例】 oeᴅ lıcʅ 飴を舐める

lıcnı ［名詞］［ネガティブ］お人好し、おひとよし、お人よし、おひと好し　［レベル］３　ʖʖ:「甘い心」［語法］　少しからかって使う。【用例】 uec lı cnı uıȷʃıʃ ʃə ʃıȷ ʃın. 何人かのお人好しがこの試験も通過した。

lıcnı(ʖ) ［人名］シャイナ　μɑ　ʖʖ ［文化］　サプリ村の住人。乳製品屋の経営者。恰幅の良い中年女性。

lıcφɥə ［形容詞］ほろ苦い　［レベル］３　1L

lıcdcnɑ ［植物］ノゲシ、のげし　1L:「甘い針」。針があるが柔らかくて痛くない【用例】 ın ȷcn lıcdcnɑ ᴅın ʃə eʃ φɥə ɑcn eȷʃ ʃəəl eʃ lıcd cnɑ ı. 甘い針っていうわりにノゲシは苦いんで嫌いだよ。

lıcleʃʃe ［伝統色］黄土色　［レベル］２　ʖʖ

lıcıb ［化学］甘味料　［レベル］４　1L:ȷeμen

lıɔd ［料理］サワードウ　［レベル］３　1ʕ: 制 :lıɔ/dɔɑ（すっぱいパン）

lc ［名詞］後ろ　［形容詞］後ろの　［格詞］～の後ろに　［反意語］ȷı　［レベル］１　μɑ;ʃeel　@ 1L　nəʃlc:nəʃlc:nəʃlc 【用例】 lc uıμzɔn ８時以降に　lc lceμ 冬以降　lc ʅeʃ 猫の後ろに

lc,ɑ　lıc　ɑıcı

lc,ılʃ　zɔn

lcʃ ［動詞］ɥəl を見失う、見失う、無くす、亡くす、失う、紛失する、なくす、見えなくなる　［普通動名詞］紛失　［反意語］ȷıʅ　［レベル］２　@ 1L ［語法］　この「なくす」は紛失するの意味。つまり見つけるの反対。【成句】 lcʃ lɔȷ e nene ～の背中が見えなくなる：～の背中が見えなくなるまで見送る

lcʃı ［親族］子孫、末裔　［形容詞］ポスト　［名詞］後継、後継機、後継者、後世　［反意語］ȷıʃı　［レベル］３　1L:ȷıʃı からの類推　nəəʃ:nəəʃ 【用例】 lcʃı ɑlɔn 遠い子孫

lcʃıeμʅ ［親族］卑属　［レベル］５　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lcʃcl ［動詞］ɥəl を ıʃʅıʃ で歓迎する、歓迎する、出迎える　［普通動名詞］歓迎、出迎え　［類義語］ʅeʅʅɔ　［反意語］lccʃı　［レベル］３　ʖ0:lc/ʃcl（甘く持つ）

lcʃɔ ［植物］バニラ　［レベル］３　lıʅʃı: 甘い匂い

lcʃe ［親族］家族　［生物］種　［言語］地域方言　［文字］具体的なフォントファミリーの種→ ʃıʃȷ　［レベル］２　1ʔ: 制 :hıμ:μəlclɔʃe（家の関係）［語法］

家族。一緒に住んでいる人で、血縁関係は関係ない。居候でも婿でも lcſe。

lcſeleed ［名詞］家族構成 ［レベル］4 JJ【用例】 lcſeleed lɔn 複雑な家族構成

lcſeıſı ［名詞］家族会議 ［レベル］4 µɑ;/ Jſ【用例】 lcſe ınſeȷ en ȷccıȷ lcſeıſı. うちの家族は家族会議をしたことがない。

lcl ［普通動名詞］省略、略、簡略 ［言語］省略、短縮 ［動詞］ɥəl を省略する、省略する、飛ばす、スキップする、一段抜かし、食事などを食べずに抜かす ［レベル］3 1ʔ: 制 :lc（ない）【用例】 ın ȷcn hıµſıſc, ȷɔn ın ᴅcll nɔȷ lcl ȷen ɑleı. 暑いのが嫌なので夏を飛ばせればいいのに。

lclȷ ［普通動名詞］キス ［動詞］ɥəl にキスする、キスする ［類義語］ıləl、lccın、lclə ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :lclə ［語法］ lclȷ は唇同士のキス。ıləl は lclȷ より軽いキスで、唇同士を軽く触れる程度。lccın は舌を絡めるディープキス。lclə は唇以外に触れる軽いキス。頬や額や手の甲などにする。 ［文化］ キスは西洋人より日本人の感覚に近い。恋愛関係にあるもの同士でするものであり、それ以外とはしない。 親が ſcnıl までの子供にすることはある。南方の親は ıləl もするが、北方の親は lclə まで。ルティア人は身体接触が苦手で、キスは恋人としかしない。

lclȷnııſ ［地学］［歴史］古第三紀 ul;/ Jʔ ［文化］ φııueɑeᴅe

lcluеſ ［言語］略語 ［レベル］3 J0

lclᴅ ［名詞］紙袋 ［レベル］3 1ſ: 制 : 古 :lcll

lcll ［アトラスの国家］シックル ［レベル］5 Jʔ:µcɑcı

lclc ［死神］詩姫、しき ［レベル］6 1L:ȷeµen: ふと思い浮かんだ音を名前に用いた。そのため夢織でも変わった名前の扱いを受けている。モデルはミルフとメルで、主にメル。 ［文化］ 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第七雛。正体は琥珀の精。琥珀の中に閉じ込められたアシナガバチから生まれた。死神アルハイクを封印した。 ふだんは青い目をしているが、戦闘時には琥珀色に変わる。ふわふわの金髪で人形のように美しい少女の姿をしているが、性格は残忍。 知能は高く、おっとりしている紗枝はすぐ出し抜かれてしまう。だが所詮は子供で、調子に乗ってしくじる癖がある。 死神は魂に飢えると性欲が亢進するが、詩姫は子供なので発散の仕方を知らず、代わりに残虐性や悪知恵が増す。

lclc(J) ［魔法］式神 ılſ Jſ

lcle ［動詞］ɥəl に付いてくる、付いていく、ɥəl に後続する、後続する ［普通動名詞］後続、後追い、二番煎じ ［レベル］3 1L

lclə ［普通動名詞］キス。唇以外に行うキス ［動詞］ɥəl にキスをする、キスする ［類義語］lclȷ、ıləl、lccın ［レベル］2 ɑ;lc/lə 古 : 甘い口が原義 lclə:lclə ［語法］ lclȷ【用例】 ın lcləſ lı ɔn lııᴅ. 私は彼女の頬にキスをした。

lcl ［形容詞］横並びな、並行する、パラレルな ［反意語］ȷıȷ ［レベル］4 @ 1L

lclle ［代詞］［南方］［女性］lclcȷ ［レベル］3 J1:ȷe/ſlc

lcllen ［代詞］［南方］［女性］lclcn ［レベル］3 J1:lclle の属格

lclc,ılſ sc lc/lc

lclclılc ［名詞］指切り、指きり、シシカリ ［類義語］lclcȷɔləlc ［アクセント］lclclıl€ ［レベル］6 ȷᴅ;ılſ J1 ［文化］ アルティアの奇習。女が意中の男に操を立て心中を伝えるために左手の小指を切り落とし、白い紙に包んで送った風習のこと。lclcȷɔləlc も参考のこと。 ȷᴅ でアルバザードにも伝来し、真似をする女性が現れた。アルティア人の異常な執着心の現れとして引き合いに出される。純愛の極端な形としても引き合いに出される。

lclcȷɔləlc ［名詞］指交わし、シシソクリ ［メタファー］男女間の約束 ［類義語］lclclılc ［レベル］6 ȷᴅ;ılſ J1 ［文化］ アルティア人の奇習。意中の男女が左手の小指同士を絡め、永遠の愛を誓って己の指を切り落とすこと。

lcȷ ［色］黒緑色 ［経済］財政が黒字（儲けている） ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ılncᴅ（黒緑色）「正しい色」。ȷɔµn では lcȷelɔn。 ［語法］ 黒緑色。アルカの正式な色。公式文書はこの色で書かれる。１６進＝００２２００。

lcȷſ ［料理］ラム、ラム酒 ［レベル］4 lıſı

lcȷſcnı ［色］［芸術］伝統色、システィナ ［アクセント］lcȷſcn↑ ［レベル］4 1ſ10(J1):ɑıᴅcc;lıɔlcȷſ/nı J1 ［文化］ → ueµcᴅ ・日々の色 アルバザードでは日付によって固有の色 (ȷelncᴅ) が存在する。µɑ でファミイとセレンが制定した色で、３６６色存在する。 leſſe のように特定の伝統色ではなく色グループ全体を指すものもある。lııɑ などもそうである。 ᴅeɑcı のように伝統色にありながらも同時に黄緑という色グループ全体を指す語もある。 bılᴅ のように伝統色にない単色ないし色グループも存在する。 クルノース家門外不出の lıɔlcn により実現したもので、色魔法の下地となる概念である。lıɔlcn ができた ȷᴅ より前の段階では、人類の持つ色は鉱物や植物や動物などの自然物から得られるものに限られ、ここで述べる伝統色のような理論的な色の体系を求めるのは不可能であった。というのも、ある特定の色を出すための材料がそもそも存在しないということがあるためである。 ・暦と色 地球では色相環は１０色を使うことが多いが、アルバザードでは１２色である（円環状のものはたいていアルミヴァを使うため、オリジナルの文化としてカルディア独特の色相環を作る必要がある）。 これに無彩色を足すと１３になり、ちょうどメル暦の月の数と一致する。月は２８段階に分析されるので、１３カ月で３６４色になる。これに ıleſ と ſeeᴅȷ を足すと都合３６６色になる。 これにより誕生日固有の色、その人のパーソナルカラー、色占いといった文化の創出が可能になる。 ・四季週 ひと月の内訳である２８日は週ごとに分かれ、ılſe, ɑleı, ılcȷ, lceµ の７色ずつに分かれる。各四季週の彩度と明度は以下のとおり。春は麗らかなので、春週は明度が強く彩度の弱いパステルカラーを採用している。夏週は明度彩度ともに高く、原色や純色が現れる。これは夏の強い日差しをイメージしている。秋週はややどんよりした色で、これから暗い冬週へ向かっていくイメージ。そして冬週が彩度明度ともに弱い暗く落ち着いた色である。これは月の４週を四季で表現することから生まれた考え方で、真夏の月にも冬の週があるし、真冬の月にも夏の週があることからできた発想である。 月の前半をアルシェの週といい、後半をソーンの週という。総じてアルシェは明るい色で、ソーンは暗い色である。ソーンは秋冬の担当で、落ち着いたシックな感じや渋いイメージを醸し出している。アルシェは原色や明るい色を担当している。音楽の長調がアルシェだとすると、短調がソーンであり、どちらにもそれぞれ価値や使いどころがある。 季：明度：彩度 春：強い：弱い 夏：強い：強い 秋：弱い：強い 冬：弱い：弱い ・アルミヴァ色相環→ ıɑel 色相環は一番上が黄緑（ＲＧＢ＝１２８・２５５・０＝８０ＦＦ００）になるように配置する。黄緑を１２時（０時）の方向にしたら、次は３時のポエンが赤（ＲＧＢ＝２５５・０・０＝ＦＦ００００）になるように色相環を配列する。 なぜこうする必要があるかというと、赤（暖色）が女性で青（寒色）が男性を象徴するためである。アルミヴァは里程標となる０時と３時が女性で、同じく里程標となる６時と９時が男性である。従って黄緑を０時にして時計回りの色相環を作るとちょうど良くなる。 色相は０～３５９までの角度で示す。地球は赤は０だがアトラスでは９０なのでずれがある。このまま計算に用いないこと。本項ではＲＧＢなどの数値は読者もフォトショップなどで確認できるよう、地球の角度で示している。 以下アルミヴァと色の対応表。参考にした資料がどうもフォトショップで実際の色と比べた時に正しくないように感じられたため、色名はセレンが目で確認して付けたもの。ただそれではきちんと伝わらないだろうから、括弧内にＲＧＢ値を入れておいた。 向かい合う角度は足すと白（２５５・２５５・２５５）になる。例えば角度３０（幻天では６０）は２５５・１２７・０で、向かい合う２１０（幻天では２４０）は０・１２８・２５５で、足すと２５５・２５５・２５５になる。 アルミヴァ：色（ＲＧＢ）：色相角度（幻天）：色相角度（地球） セイネルス：黄（２５５・２５５・０：ＦＦＦＦ００）：３０：６０ ティーテル：橙（２５５・１２７・０：ＦＦ７Ｆ００）：６０：３０ ポエン：赤（２５５・０・０：ＦＦ００００）：９０：０ ネルメス：赤紫（２５５・０・１２７：ＦＦ００７Ｆ）：１２０：３３０ （数値的に赤紫なのは異論ない。しかしセレンには濃いピンクに見える。どうも紫系統の認識がずれているようだ） クレーヴェル：紫（２５５・０・２５５：ＦＦ００ＦＦ）：１５０：３００ （青と赤が２５５なのでまごうことなき紫なのだが、セレンの目には赤紫に見えた。というかこの色のことを赤紫というのだとずっと思っていた） カルザス：青紫（１２８・０・２５５：８０００ＦＦ）：１８０：２７０ （赤が青の半分なので青紫なのは間違いない。だがセレンはこれが真紫だと思っていた。数値を見て驚いた） ヴァルファント：青（０・０・２５５：００００ＦＦ）：２１０：２４０ ヴァルゾン：淡い青（０・１２８・２５５：００８０ＦＦ）：２４０：２１０ ティクノ：水色（０・２５５・２５５：００ＦＦＦＦ）：２７０：１８０ フェンゼル：青緑（０・２５５・１２８：００ＦＦ８０）：３００：１５０ ネブラ：緑（０・２５５・０：００ＦＦ００）：３３０：１２０ コノーテ：黄緑（１２８・２５５・０：８０ＦＦ００）：０：９０ この配置だと女性であるティーテル、ポエン、コノーテがちょうど暖色になる。なんとも奇跡的な話である。 例外はセイネルスだが、そもそもこれは生きている剣なので性別が判断しがたい（どちらかというと男性だと思うが）。 さてこれをメル暦にどう対応させるかだが、アルバザードの四季に合わせて配置したほうが季節感がある。真夏の８月に青というのはイメージに合わなかろう。そこで暖色が夏になるように配置したい。アルカでは夏は夏至から始まる。６・２１ごろなので、µıl ᴅel ごろである。夏の終わりは秋分の前日。秋分が９・２３ごろで、ᴅcl lcn ごろ。つまり µıl_ᴅcl がおおむね夏ということになる。４カ月間である。そして黄緑～赤までで４色である。そこで µıl を黄緑にすると ᴅcl が赤になり、暖色が夏に収まる。６月はまだ春と夏の間なので新緑の緑の終わりから黄への過渡期であり、ちょうど黄緑でよい。すると夏真っ盛りの dıl が炎の色の橙になるのでちょうどよい。赤と橙だとより暑く感じるのは炎の色の橙なので、ᴅcl が赤というのは異論ない。 ８の µıl が黄緑で lɔnɔɔſe ということは、１１の ᴅcl が赤で dɔen ということになる。１３の µəs は無彩色なのでスキップ。すると翌年の ɑcı は紫で lleeuel となる。すなわちメル暦起点の ɑcı は紫のクレーヴェルからスタートすることになる。秋の終わりの肌寒い季節で、これから寒い青に向っていくのでちょうどぴったりである。 こうしていくと年始は紫になり、最も寒い月が青になるのでイメージに合い、さらに春から初夏にかけて新緑の緑となる。総じて巧い配置になっていると言える。 ・明度と彩度 色相については分かったが、明度と彩度はどのように定めるか。明度と彩度についてはＨＳＶ色空間 (ueµcᴅ) で捉え、ともに０～１００％（ないし０～１．００）の変域を持つとする。 しかし彩度２０％以下はふつうの人間の目にはグレーすなわち１３月の領域に見える。また明度２０％以下はどんな色相や彩度であってもどのみちふつうは黒に見える。しかもこれは色を並べたときの話で、単体で色を見たときではない。彩度２０％明度２０％の程度の赤はグラデーションの中では周りの灰色との比較で有彩色に見える。しかしこの色単体を取り出すと黒か灰色に感じられる。せいぜい凝視して「赤味がかった灰色」に感じる程度で、これを見てとっさに赤だと思う人はまずいない。 となるとこの色はコノーテの月に入れるのはおかしいということになり、伝統色からは排他される。日常的な視点で人間が有彩色だと感じない色を伝統色として採用するのは不自然である。

むろん現代アルバザードのアートでは３６６のような少ない色数で満足することはないのでこれらの色も使用するが、少なくとも伝統色には採用されない。 単体で見た場合、ぱっと見有彩色に感じられるのはどの程度からであろうか。色相 ſclnɔ の水色（地球だと１８０°）で、彩度明度２２％とすると、地球ではＨ（色相）＝１８０、Ｓ（彩度）＝５６、Ｖ（明度）＝５６になる。彩度と明度

は１６進数である。これをＲＧＢにすると２Ｃ３８３８で、１０進数では４４５６５６である。この色はＩｐｈｏｎｅなどの端末で見ると（端末の設定によっても異なるだろうが）ほとんど黒に見える。しかしＰＣ上でフォトショップなどで確認すると深い青に見える。
　ここでもしＳＶを９％にするとほぼ完全に人間の目には黒に見え、有彩色とは認識されない。もちろん９％分あるので分類上は有彩色なのだが、人間の目にはそのように感知されない。というわけで９％だと有彩色と認識にするには下げすぎで、２２％だとまずまずということがいえる。ただ２２％でも実際はだいぶ灰色に見えるので、現実的には２８％くらいがぎりぎり単体でもぱっと見て有彩色に感じられる下限ではないか。　　ところで先ほどから２２％だ９％だ２８％だといっているが、この区切れの悪い数値はどこから来たのか。　ひと月は２８日あるので２８色ある。２８色はリディアの月なら紫だが、同じ紫でもこれを２８種に細分化せねばならない。細分化するには明度と彩度を弄るしかない。そこで日にちによって明度と彩度が変わるようにしたいわけだ。　明度と彩度の最大値を１００％とし、これを１４段階にそれぞれ区切る。１段階目である最大値は彩度明度ともに１００％なので、残り１３段階についていくつずつ数値を減らしていけばよいかという話になる。もし１０％ずつ刻んでいったら数値がマイナスに突っ込んでしまうので不可。逆に１％刻みではほとんど色の違いを感じられないので無意味。そこで色の違いを保たせつつ、かつ人間の目にも有彩色と感じられる値を下限としたい。目視の結果、２８．５％に当たりを付けた。下限を２８．５％にすると、刻み幅は５．５％になる。もし幅を５％にすると下限は３５％になる。しかし人間の目には２２％でもどうにか有彩色と感じられるので、下限を３５％で区切ってしまうと全体の色域が狭くなってしまってもったいない。逆にもし刻み幅を７％にすると下限は９％になるが、これでは黒にしか見えず、有彩色に含めるのは無理がある。　そこで５．５％で刻んで下限を２８．５％にするのが妥当と思われる。これは感覚に基づく判断だが、ɥɑ の技術力ではまさに感覚に基づいて伝統色を設定するしかなかったので、文化的にも歴史的にもそのほうがかえって整合性がある。　　まとめよう。明度彩度ともに１００％を最高値とし５．５％刻みで下限が２８．５％になるような１４段階のスケールを求める。　このうち前半７段階を強とし、後半７段階を弱とする。すると以下のようなスケールが得られる。　なお、強列は降順で、弱列は昇順とする。これは後で分かるが、１００／１００という強い組み合わせだけでなく２８．５／２８．５という弱い組み合わせや、あるいは１００／２８．５のような片方だけが強い組み合わせを作ることができるようにである。　　明度強：100, LՈ.ᚨ, ΔL, Δʔ.ᚨ, ꝗΔ, ꝗꞁ.ᚨ, ʕꝗ　明度弱：ꞁΔ.ᚨ, ʔՈ, ʔL.ᚨ, Ոᚨ, ᚨ0.ᚨ, ᚨʕ, ʕ1.ᚨ　彩度強：100, LՈ.ᚨ, ΔL, Δʔ.ᚨ, ꝗΔ, ꝗꞁ.ᚨ, ʕꝗ　彩度弱：ꞁΔ.ᚨ, ʔՈ, ʔL.ᚨ, Ոᚨ, ᚨ0.ᚨ, ᚨʕ, ʕ1.ᚨ　　これで２８段階揃う。そしてこれらを上述の四季週のイメージに合わせて組み合わせる。
　あくまでこの春夏秋冬は月の中の週であって、真夏に冬の週もあるし、真冬に夏の週もあるので混乱しないよう注意。　　季：明度：彩度　春：強い：弱い　白く淡い色。パステル。春の柔らかいイメージ　夏：強い：強い　白く濃い色。純色や原色。夏の強いイメージ。夏野菜の色でもあり、色の少ない ɥɑ ごろの生活では植物は色をもたらす主な物質だったため、このイメージは受け入れやすかった　秋：弱い：強い　黒く淡い色。くすんだ感じの色。冬へ向けて寒くなっていく秋のどんよりしたイメージ　冬：弱い：弱い　黒く濃い色。抹茶色やワインレッドのような深い色で、渋い色。暗く寒い冬のイメージ。冬野菜や根菜の色とも一致する　　リディアの日は春週の最初なので、明度は強い系列を使い、彩度は弱い系列を使う。すなわち明度は１００％で、彩度は２８．５％となる。同様にオヴィの日は９４．５％と３４％である。次週になりラルドゥラの日になると彩度は強くなり、明度はふたたび強い系列を使うので、明度が１００％で彩度が１００％となる。すなわち純色や原色はラルドゥラに現れる。　　・５度刻みの色相　　ふたたび色相について。彩度と明度は２８．５～１００％の値を取る。すなわち人間の目が有彩色と認識しやすい変域を取る。　一方色相は上記のままでは１２色しか取れない。彩度明度と比べてパターン数が少なく、色の無駄遣いともいえる。しょせん彩度と明度を５．５％ずつ落としていっても人間の目にはそんなに大きな違いは感じない。さらに色相も少ないともなれば、伝統色は似たり寄ったりの色ばかりに感じられる。　そこで色相をより多く使うようにしたい。例えばコノーテの黄緑を０˚とすると、セイネルスは３０˚である。すると１０˚や２０˚の色味は使われないことになる。ここに無駄がある。そこでリディアの日は０˚、オヴィの日は５˚、クリスの日は１０˚と５度ずつ刻む。　メルの日で３０˚になるので次月のリディアの日と同じ色相になってしまうが、両日は互いに明度と彩度が異なるので色が重複することはない。ラルドゥラの日になったらまた０˚に戻す。つまり曜日ごとに基準となるその月の角度に何度プラスするかが決まっている。uelᴅ の曜日ならプラス０˚で、eɥuɪ ならプラス５˚である。　こうすることで色相を３６０˚中７２段階も使えるようになる。また、同じ色相がふたたび出るまで７ターンかかるため、色の見分けがしやすくなり、似たような色が減る。これだけ数値が離れれば人間の目にも区別しやすい。　　・明度の入れ替え　　さて、上記の容量で配置していくと、夏冬週の明度と彩度が１００／１００、９４．５／９４．５、８９／８９のようにゾロ目ばかりになってしまう。　これでは色に変化が少ない。なるべく色をバラけさせないと、「伝統色が扱う色の範囲は狭くて使えない」ということになってしまう。そこで下記の日付の間で明度を入れ替える。こうすることでゾロ目が減り、色がバラけ、色域が広くなる。　　ɔuc:ɥəəs　ɥɥəə:zını　φcl:ᴅcl　əᴅſɔnı:lənɔn　lcnı:ıll　ɥelezɔnı:dcnenı　　ところで φcl:ᴅcl と ɥelezɔnı:dcnenı は入れ替えても一見意味がないように見える。ところが一カ月分のカラーチャートを作ると意味が見えてくる。　明度を入れ替える前の状態でカラーチャートを作ると、綺麗にグラデーションする。綺麗なのは良いが、色に日々の変化が感じられない。日々の色といっているのに「今日は群青色。明日は微かに今日より薄い群青色……って結局群青色じゃん！」ということになってしまっては、今日のラッキーカラーとかテーマカラーといった文化も育たない。そして何よりつまらない。ということは ɥɑ でも民衆にも広まらず、未来に残らない。　　そこで、なるべくカラーチャートが市松模様になるように、色をバラけさせる。同じ青系統の月の中でも「今日は群青色、明日はペールブルー、昨日は紺色」というような変化があるほうが受け入れやすい。　また、こうすることで毎日の変化を感じながら、しかして「今月のテーマカラーは青」というような使い方ができる。つまり月単位で色を使い分けたい人にも、毎日使い分けたい人にも資する。また、春夏秋冬週の違いがあるので、週ごとに使い分けたい人にも資する。さらに半月ごとにアルシェとソーンでテーマが変化するので、半月ごとに使い分けたい人にも資する。　そういうわけでチャートを市松模様にしたいのだが、それにはここで述べた明度の入れ替えが必要である。　　・色相の昇降　　実はこれだけではまだ綺麗な市松模様にならない。そこで色相のプラス補正についても昇降を与える。　今のところリディアの日がプラス０˚でメルの日がプラス３０˚であった。補正値は昇順である。　これを春秋週に関しては逆転させる。つまりメルの日がプラス０˚で、リディアの日がプラス３０˚である。　一方、夏冬週はそのままとする。これは夏がラルドゥラの日を含み、ここに原色や純色が現れるためである。この日に色相補正をしてしまったら、例えば黄色の月に黄色の純色が出ないというおかしなことになってしまう。　　・色の演繹
以上を踏まえ、ᴅeljel の色を求める。ɑcɪ ɑcɪ なので、色相は紫。色相の補正はリディアの日なのでプラス３０˚。明度は１００％、彩度は２８．５％である。このようにして論理的に個々の日付の伝統色を求めることができる。　地球ではＨ＝２７０˚、Ｓ＝２８．５、Ｖ＝１００で計算する。このときのＲＧＢは＃ＤＡＢ６ＦＦで、１０進数では２１８・１８２・２５５である。具体的にはピンクがかった紫となる。　また ɑcıjel は zın ɥıl なので、色相はセイネルスの黄。ラルドゥラの日なので純色が現れる。ＨＳＶはＨ＝６０˚、Ｓ＝１００％、Ｖ＝１００％。ＲＧＢは＃ＦＦＦＦ００であり、１０進数では２５５・２５５・０である。これは純色の黄色に等しい。つまりディアセルは真正の黄色ということになる。記念日としては分かりやすい。　　・明度／彩度　　ɑcɪ:100/ꞁΔ.ᚨ　ucɔ:LՈ.ᚨ/ꝗꞁ.ᚨ　lcȷ:ΔL/ʔL.ᚨ　φcl:Δʔ.ᚨ/Δʔ.ᚨ　ɑəl:ꝗΔ/ᚨ0.ᚨ　ɑɥə:ꝗꞁ.ᚨ/LՈ.ᚨ　ᴅel:ʕꝗ/ʕ1.ᚨ　ɥıl:100/100　zın:LՈ.ᚨ/ᚨʕ　dıl:ΔL/ΔL　ᴅcl:Δʔ.ᚨ/Ոᚨ　ɑıu:ꝗΔ/ꝗΔ　ɥəs:ꝗꞁ.ᚨ/ʔՈ　jeɥ:ʕꝗ/ʕꝗ　ɥıu:ꞁΔ.ᚨ/100　ſın:ʔՈ/ᚨʕ　lcn:ʔL.ᚨ/ΔL　ɥez:Ոᚨ/Ոᚨ　scl:ᚨ0.ᚨ/ꝗΔ　ɑcn:ᚨʕ/ʔՈ　lef:ʕ1.ᚨ/ʕꝗ　len:ꞁΔ.ᚨ/ꞁΔ.ᚨ　lıl:ʔՈ/ꝗꞁ.ᚨ　nen:ʔL.ᚨ/ʔL.ᚨ　dcn:Ոᚨ/Δʔ.ᚨ　ᴅıſ:ᚨ0.ᚨ/ᚨ0.ᚨ　lən:ᚨʕ/LՈ.ᚨ　ᴅcɥ:ʕ1.ᚨ/ʕ1.ᚨ　　・色相補正（四季週＼曜日）　　uelᴅ　eɥuı　jıſ　cc　ſeeue　beezel　cluı　dıɥſ　ılſe　ʔ0　ꞁᚨ　ꞁ0　1ᚨ　10　ᚨ　0　ɑleı　0　ᚨ　10　1ᚨ　ꞁ0　ꞁᚨ　ʔ0　ılcȷ　ʔ0　ꞁᚨ　ꞁ0　1ᚨ　10　ᚨ　0　lceɥ　0　ᚨ　10　1ᚨ　ꞁ0　ꞁᚨ　ʔ0　　・ルージュの月　　ルージュの月は本来無彩色のために用意された月だが、実は白から黒まで２８段階に分けると細かすぎて隣同士の色をふつうの人間が識別できないという問題がある。色の本を見ても無彩色のページは２８以上あるので、一見すべて命名できそうに見える。だがそのほとんどはグレイに赤や青などの色味が入った色で、厳密には無彩色でない。そして色のついた灰色なら毎月エンナの日辺りに出現している。　純粋な無彩色だけで２８段階というのは現実的でなく、せいぜい半分の１４段階だろう。これだと人間の目にも区別がつく。さらにいえば、５˚などの有彩色は各色相ごとに４色しか存在しないのに、無彩色だけその７倍の高分解をするというのはアンバランスである。　そこでルージュの月のソーンの週だけ使って無彩色を示す。ɥəs ɥıu が純白で、ɥəs ᴅcɥ が真黒となる。　　するとアルシェの週が余るが、ここに４５˚の倍角色を納める。　アルミヴァの１２色相は方位に例えるなら１２方位に相当する。１２方位というのはよく考えると東南や北西といった４５˚の倍角が表現できないという欠点がある。ということは色相環にも同じことが言える。赤と黄緑という起点となる色のちょうど間の色が表現できないという事態に陥る。赤と黄緑の間は４５˚なので、実はセイネルスの月のテーヴェの曜日に出ている。しかし明度と彩度の組み合わせ上、純色は出ない。そこで下記のように４５˚倍角色を配置する。なおこの角度は幻天での値なので注意すること。例えば幻天で１３５˚は地球では３１５˚になる。
　ɑcɪ h=Ոᚨ, ȷ=100, u=100　ucɔ h=Ոᚨ, ȷ=ʕՈ.ꞁᚨ, u=ʕՈ.ꞁᚨ　lcȷ h=Ոᚨ, ȷ=ꞁΔ.ᚨ, u=ꞁΔ.ᚨ　　ɑəl h=1ʔᚨ, ȷ=100, u=100　ɑɥə h=1ʔᚨ, ȷ=ʕՈ.ꞁᚨ, u=ʕՈ.ꞁᚨ　ᴅel h=1ʔᚨ, ȷ=ꞁΔ.ᚨ, u=ꞁΔ.ᚨ　　ɥıl h=ꞁꞁᚨ, ȷ=100, u=100　zın h=ꞁꞁᚨ, ȷ=ʕՈ.ꞁᚨ, u=ʕՈ.ꞁᚨ　dıl h=ꞁꞁᚨ, ȷ=ꞁΔ.ᚨ, u=ꞁΔ.ᚨ　　ɑıu h=ʔ1ᚨ, ȷ=100, u=100　ɥəs h=ʔ1ᚨ, ȷ=ʕՈ.ꞁᚨ, u=ʕՈ.ꞁᚨ　jeɥ h=ʔ1ᚨ, ȷ=ꞁΔ.ᚨ, u=ꞁΔ.ᚨ　　さて、こうすると φcl と ᴅcl が残る。　その前に ɥez と dcn を名付けよう。ɥez は銀色で、dcn は鉄色である。となるとここに金と銅を足して、アルバザードで重要な４つの金属を縦軸で揃えたい。日本の折り紙でよく金銀が入っているが、アルバザードでもやはり金銀銅鉄のような色は特殊な色として扱われるため、こうしてルージュの月に特別な色として加わる。　φcl を＃Ｂ８７３３３の銅色とし、ᴅcl を＃ＦＦＤ７００の金色とする。もっとも金などは光沢ありきの色なので、ここではあくまで黄色の一種に見える。このように並べていくと、巧い具合にアトラスの歴史の中で発見された順序に上から並ぶ。しかも縦軸はテーヴェの曜日であり、テーヴェは土の属性で、鉱物はここに入る。非常に興味深い配列である。　　残った ılef と ſeeᴅȷ について。　ılef には彼らが使用していた公式色の lcȷ を宛がう。＃００２２００である。　そして最後の ſeeᴅȷ には、ɥɑ で伝統色を作ったファミイの定めた恋色で、＃Ｆ８ＤＡＤ２である。ɥɑ で共同研究者のセレンは最初この色は悪魔の日の色としてピンと来ないと考えたが、ファミイが研究の最後に自分の気持ちを託した色のことだと気付く。これが最終的に未来のミロク＝ユティアに繋がる。　　・伝統色成立の経緯　　ȷᴅ で lıɔlcȷſ ləlnɔɥȷ が lıɔlcn を開発。染料や画材の色を安く提供し、財を築く。　ɥɑ になると ȷᴅ で発達した錬金術のおかげで、自然物を使った顔料が lıɔlcȷſ のころより豊富に採れるようになる。種類も豊富で値段も下がってきたため、相対的にクルノース家の売り上げが落ちる。　問題は lıɔlcn が扱いづらいことにあった。アナログで色を作るので、匙加減ひとつで色が微妙に変わってしまう。従ってひとつの色で糸や粉に色をつけるのは難しく、ク

ライアントの注文した色にならなかったり、色がまだら目になってしまうことがあった。そのため自然顔料も需要が残っていた。この頃は自然顔料によるものを獅法色、ʅıɔlcn によるものを魔法色と呼んでいた。　　1ԻLʔ 年、時の当主 ᴅcᴅɔzı ʅəlnɔɥȷ は経営不振に悩んでいた。当時は折しも貴族批判がなされていた時代で、ミモザは自分たちが庶民派であることをアピールするため、長女ファミイをアシェルフィ校へ編入させる。リディアやセレンと同級生になる。　1ԻLꟾ 年、ファミイは席替えでセレンの隣になり、話すようになる。同年ファミイが学校帰りに誘拐される。クルノース門外不出のカオリンの使い方を吐かせるためである（どのみちまだ伝承していなかったの無駄だったが)。居合わせたセレンがこれを助ける。このことでファミイはセレンに好意を持つようになる。　1ԻLᛇ 年、ファミイはセレンを誘って部活を始める。色と魔法の関係について研究する色魔法部を設立。部員は２人のみ。　1ԻLʕ 年、ファミイはアシェルフィ高等部へ進学。同セレン。　1ԻLΔ 年、ファミイは高等部を卒業。ミモザからアマンゼ家へ嫁ぐことを命じられるがこれを拒絶し、大学進学を望む。進学と引き換えに、ミモザの命令で一年花嫁修業を行う。　1ԻLL 年、ファミイ、アルナ大へ進学。セレンと連絡を取って色魔法部を存続。　1ʕ0ʔ 年、ファミイはカオリンをミモザから伝授される。　1ʕ0ᛇ 年、ミモザからふたたびアマンゼ家へ嫁ぐことを命じられるが再度拒絶。色魔法部の成果を出すことに注力しはじめる。　1ʕ09 年、色魔法部が ȷıcʅın を開発。実用に向けて調整に入る。　1ʕ10 年、サイカンが実用ベースに乗る。ʅıɔlcjʃ の提唱した ueɥcᴅ とサイカンを用い、lcjʃcnı を制定。ueɥcᴅ を使って色相と明度と彩度を定め、それを規則的にメル暦に配置。各日付の色はＨＳＶで定められたが、実際使うのはサイカンであるため、当時リュウが作っていたコンピュータを使ってＨＳＶをＲＧＢに変換した。本には伝統色をＨＳＶとＲＧＢの両方の値で登録し、それぞれにアルカで色名を付けた。伝統色は３種ある。１つはこれまでアトラスが用いてきた獅法色。１つはそれに近い魔法色。最後は魔法色オリジナル。１番目のものは lcȷ のように元の名を残した。２番目のものは元の名前を残しつつ、元の色を魔法色に合わせた。例えば eɥɑc はこのころ完全に「これはこの色だ」と決められていたわけでなく、「おおむねこういう感じの色だな」という風に決まっているだにすぎなかった。その見本色はクルノースが書籍にして保有していたが、魔法色がそれと少し異なる色の場合、色の値が数値的に分かる魔法色を優先したほうが後々合理的である。そのためこちらを正しい色とした。従って eɥɑc などはそれまで考えられていた色と少し異なることになる。この辺りは地球でも似たようなことがあった。３番目はもともと自然物では出せない色なので、色魔法部が新たに命名した。従って lcjʃcnı には３つの命名パターンがある。　同、ミモザが結婚への最後通告を出す。ファミイは覚悟を決めるが、lcjʃcnı の最後の色に想いを託してセレンに送った。もともと ʃeeᴅȷ の色は候補がなく、決めあぐねていた。セレンはファミイのシステムなので最後は自分の好きな色を当てればいいと言った。ファミイはそれに hıʃcı と名付け、結婚前日にセレンに送った。　これを見たセレンはファミイの気持ちを知って諭しに行く。これ以前にもファミイは彼を初めて意識した日 (ɑıu ucɔ) に lıʃɥ əəl e uelφıɥ と名付けるなどしてささやかにアピールしていたが、セレンが気付くことはなかった。　hıʃcı によってようやくファミイの気持ちを知ったセレンはこのときファミイにカモミールの花を渡している。結局セレンは断り切れずに事が起こる。　リディアはこのことに気付いたが、ファミイの気持ちを中学のころから知っていたので耐えた。　同、ファミイは euel ıᴅınze と結婚。　1ʕ11 年、サイカンによってまだら目もなければ失敗もない色で糸や粉を塗ることができるようになった。この年には色を付けた繊維や衣服や画材や顔料の生産が完了。３６６ものカラフルな色を確実なクオリティで安価に提供ともなれば、当時のアルバザード人が食いつかないはずがなかった。さらに３６６日に固有の色を設けたおかげで「今日のテーマカラーを！」「あなたのパーソナルカラーを！」という売り文句ができ、これも売り上げに貢献した。また、これによってメル暦の国民の間での認知度が上昇した。イムル暦でも使えるのだが、lcjʃcnı はもともとメル暦に合わせてあるのでこちらのほうが圧倒的に使いやすい。むろんメル暦が認知されたのはアシェットの知名度も大きい。こうしてクルノース家は建て直された。　同、ファミイが娘の lcɔn を出産。　　・伝統色の訳語　　伝統色は色魔法部が ueɥcᴅ を使って色相と明度と彩度を定めたものがもとになっている。最終的にはサイカンを使うのでＲＧＢ値も定める。　それまでの獅法色と重なるか近ければそれまでの色名をそのまま使うかアルカに訳せば良い。しかし１６７７万色から３６６色しかピックアップしていないので、既存の色とかぶる確率は圧倒的に少ない。そこでかぶる色ないし近い色がなければ新たに単語を作ることになる。　さてそうなると幻日辞典のほうにも同じ問題が起こる。地球の色と近いものがない場合は名前の付けようがなく、セレンが日本語で適当に訳語を付けねばならない。例えば ɑcı ɑcı は＃ＤＡＢ６ＦＦで２１８・１８２・２５５だが、『色の名前５０７』という書籍でこれに近い色を探しても見当たらない。これより色数の多い本はあるのだが、ＲＧＢ値が載っていなくて参照しようがなかったり、値があっても肝心の色名がなかったりして使い物にならなかった。　むろん＃ＤＡＢ６ＦＦをグーグルで調べれば何かしらはヒットする。しかしこれは特に名前が定まってない色で、訳語の設定には役立たない。さらに＃ＤＡＢ６ＦＦに近い色でかつ名前が付いている色も見当たらない。　こういう例が多いので、日本語の色の名前を幻日の訳語欄に設けるのは無理がある。近い色がなくあっても無名だったりするからだ。だがこれは考えてみれば当然で、１６７７万色の中から他方は３６６色で他方は５０７色しか選んでいないのだから、そもそも原色などを除いてかぶるはずがないのだ。　＃ＤＡＢ６ＦＦに無理に近い色を当てることもできる。例えばフレッシュピンクは上掲によると２２８・１９８・２００でまだ近い。しかし１０・１６・−５５も違っているのに「はいこれはフレッシュピンクですよ」で良いわけがないだろう。そんないい加減なことではユーザーを混乱させるだけだ。　なお、色詞については uelφıɥen 参照。　　ȷelccʃ ［伝統色］ライラック：大切なもの：＃ＤＡＢ６ＦＦ：ɑcı ɑcı　　このように、日本語の色名はあくまで捨象する。ところで捨象すると逆に良いこともある。　地球だろうとアトラスだろうと命名のセンスはそんなに変わらない。植物などを語源とすることが多い。　このライラックという色名だが、実は地球にもあるのだ。しかしそれは１９１・１７１・２００であり、ȷelccʃ の色ではない。アトラスにも同じライラックという名前の色があるが、別々の世界なのだからその色が地球の色と同じなはずがない。かといって地球に遠慮してライラックという色名を避ける理由もない。　もし日本語の色名も併記した場合、ȷelccʃ 以外のどこかの箇所でまたライラックという言葉が現れる可能性が高い。これでは非常に混乱を招く。そういう意味では日本語の色名は捨象してアルカの色名の訳語のみに限定することには理がある。　　・システィナ表　　別途ｐｄｆを参照のこと。　　・色の命名　　ɥɑ までの歴史を反映して作られる。　まず、ᴅel ɑcı など、色の名前そのものを指すタイプがある。　次に、ɑclʃ や ɑedc のように物そのものを指すタイプがある。　地名やアイテムなども含まれる。ヴァストリアの場合は刃や棒の部分の色を取ることが多い。　ほかにも校章や象徴色など様々である。　名前はルティア語のもの (lı ɑɔn s'elcczel) やディミニオン語のもの (ᴅızel ʃın hecȷʃ) なども含まれる。　・色の違い　ʃeȷȷı (抹茶色) といっても、すべての抹茶がその色ではない。光源や部屋の明かりによっても違うし、茶葉の量によっても異なる色が出る。なので ʃeȷȷı は必ずこの色になるというわけではない。ıɑcȷınʃ も同様で、まったくあの色でなければならないというわけではない。　また、cᴅel のように、固有の伝統色で限定する語義がある一方で黄色系の色を漠然と指す単語もある。　lcjʃcnı は色を限定する能力があるが、現実に存在する抹茶なり栗なりといった色は当然千変万化である。アルバザードの栗はすべてこの色なのだというように杓子定規に考えないこと。　・拡張　ncᴅ の項の語法にあるような形容詞を使って lcjʃcnı を拡張することができる。例えば ɑıɥɥen より明るいが ɑɔɥʃcȷ より暗い色などを表す場合に ɑıɥɥen ɑcɥʃ などということができる。　同様に lı ȷın s l'ılᴅc（ラ サン ジュ ラルミ）を暗くすると beezelıʃ に近づく。　【成句】 lcjʃcnı cȷɑelcı あなただけのカラーを：十人十色、千差万別。システィナを売り出したときのキャッチコピーから。

lcȷʅ ［名詞］［形容詞］どうしようもない、仕様がない、どうにもならない、対処できない、うだつがあがらない、やりくりできない、上手くいかない ［反意語］ȷılʃ ［レベル］３　1ʔ: 制 :lcȷɔ（することがない）【用例】 ʃə ıʃ lcȷʅ. どうしょもなかった。　φııʃɔ eʃ lcȷʅ ᴅeɥel. そういうことはどうしょもない。

lcȷlcɑ ［経済］黒字倒産 ［レベル］６　1L

lcȷd ［被服］パンティー、パンツ、ショーツ、男のブリーフ ［レベル］２　ɥɑ; ↓　1ꟾ: 制 : 古 :lcȷıbe（甘い下着)。ここでの甘いは淫らを指す。　φcnȷı:φcnȷı ［語法］ lcȷd は男のブリーフも女のパンティーも表わす。

lcȷdʅcld ［普通動名詞］パンチラ ［類義語］lınȷlınʃ ［レベル］４　ȷȷ

lcȷı ［料理］砂糖、シュガー ［レベル］２　古 :（甘い粉） ［文化］ アルバザードではショ糖のことだと思われているが、実際には砂糖の主成分がショ糖なだけ。通常グラニュー糖を指す。

lcȷııʃe ［名詞］砂糖屋　ɥɑ;/　ȷʔ

lcȷııcʅlccᴅ ［化学］砂糖混合異性化液糖　ul;/　ȷʔ ［語法］［文化］ ıcʅlccᴅ

lcȷeu ［名詞］あとがき、後書き、跋文 ［レベル］４　ȷ0

lcn ［法副詞］〜してはならない ［名詞］禁止 ［動詞］ɥəl を禁ずる、禁ずる、禁止する ［形容詞］禁じられた、禁止の ［反意語］ɑlen ［レベル］１　ȷeɥʃ ;lın.ɥıdueʃ　1L:1L までは ɑeȷ で、ɑeȷ は古 ɑeȷdı（封印、禁止）からだったが、ɑıȷ と似るので、音を離した。lcn は制では虚偽の意味。　sın ,ɑ(ɑen) nı,ɑ(lcn) ɑu 以降、sın が滅んで nı が ɑen と lcn の両方を兼ねるように :nı: ［語法］ 当為性が０であるというニュアンスがあり、その点で ʃe と異なっている。語順も異なるので注意。　ʃe ȷɔ（しないで）に対し、ȷɔ lcn（してはならない)。 ［文化］ uceɥ 【用例】 ıɥb ızıɥɑ lcn ɑınʅ. アルバザードは麻薬を禁じている。　el ȷɔ lcn φııʃɔ. そんなことしてはいけない。

lcn(ȷ) ［アトラスの国家］シン ［レベル］５　ȷʔ:ɥcɑcı

lcnʃı ［植物］タブ、タブノキ、椨の木、天竺の木　ȷzɑ　x:lcnʃı:lə lcnʃı

lcnʅ ［文頭純詞］実は、実を言うと、なんと ［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :lcnʅə（本当を言う）【用例】 lcnʅ le eʃ ɑce ɑı. 実はありゃ嘘だ。

lcnʅe ［人名］シンケ ［動詞］ɥəl を ı（整形後の状態や整形したいモデル名）のように整形する、整形する ［美容］美容整形、整形 ［組み数字］５／１６ ［レベル］４　ᴅelʃcı ʔL:ıɥɑə/eȷʃı;e　古 ［文化］ eȷʃı　エスタの第５子。女。３姉妹の中で一番美しくなく、兄から銅鏡を与えられた少女。銅鏡から生まれたリシリウスにより顔を整形され、兄に受け入れられる。醜いとは書いてないが勝手に醜いとアシェットに解釈され、整形するの転換動詞になった。実際は姉のパルテたちが美人なだけ。　＜整形について＞　整形は嘘の姿を作るので嫌われる。整形美人は人気がない。但し、ブスで生きるのは社会的に事実上不利であるため、ブスが整形するのは抵抗がない。ただ、そういった人間が恋人を作ったり結婚するときには必ず整形したことを申告しなければならない。

lcnuıȷn ［政治］不可侵 ［レベル］４　1L

lcnφ ［生物］胚、エンブリオ ［レベル］５　1ʔ: 制 :lıʅʃı:lcnʅ

lcnl ［動詞］ɥəl を ı（聞き手）にでっち上げる、でっち上げる、でっちあげる、狂言を吐く ［普通動名詞］でっちあげ、でっち上げ、狂言 ［レベル］３　1ʔ: 制 :lcnlıɑ（虚偽を作る）

lcnlec ［名詞］禁書 ［レベル］４　ɥɑ;/「禁じられた本」 ȷʔ

lcnleceɑı ［名詞］禁書目録 ［レベル］５　ɥɑ;/　ȷʔ ［語法］ 宗教や思想革命によって読むのを禁じられた本のこと。

lcnı ［形容詞］幸運、ラッキーな、運の良い、ツイてる、ついてる ［副詞］

幸運なことに ［反意語］ȷıᴅc ［レベル］2 古 :lcnı（幸運な)。原義は「甘い心」。好きの ȷccnı と同じ語源。好きも元々は lcnı。l が ȷ に変わり、母音がアクセントによって伸び、ȷccnı になった。幸運と好きは同じく lcnı だったが、好きだけ ȷccnı に分離した。【用例】 ın ıſ lcnı cᴅ ɑcȷ. 今日はついてる日だった。

lcnılɔ ［普通動名詞］禁じられた遊び ［レベル］2 μɑ;/ ʝʔ

lcncı ［生物］［美容］後ろ髪 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

lcncılɔɔzȷeel ［生物］後髪際中点 μɑ;/ ʝɱ

lcnɔ ［親族］息子ちゃん ［レベル］2 1L:μcɑcı:lccı/nɔc（可愛い息子） ［語法］ ᴅccı

lcu ［生物］声、鳴き声 ［動詞］ɥəl という声を出す、声を出す、（ɥəl なしで）鳴く、鳴く ［魔法］シヴ。利の中位白魔法。セールを解除する。 ［類義語］lccueɥ ［レベル］1 先 【成句】 nıφ lcu 声を飲み込む：声を出さない。我慢して声を出さないこと。あるいは驚きすぎて息を飲んで声が出ないこと。【用例】 lcu ʅıc 大きな声 lcu ȷɔμ{hıcʃ} 高い{低い}声 lcu ɑın 深い声。腹の深いほうから出てくるため lcu ȷɔμſ 冷たい声 lcu μed かすれた声、掠れ声、しわがれた声 lıɑ{ȷɔɑ} lcu 声を立てる lcu euc 乾いた声 ȷeſ lcu 声を殺す、押し黙る

lcuueſ ［言語］擬声語 ［レベル］4 ʝ1 ［語法］ ɑɔueſ

lculɔſ ［音楽］声域 ［レベル］5 ʝ1

lculenſ ［電算］［音楽］ボーカロイド。初音ミクなどの技術で、人間の代わりに機械が歌うもの。ものによっては人が歌うより巧い。 ［レベル］4 1L

lculecᴅ ［医療］［言語］シヴレイム、エコータイプ ［レベル］5 ʝ0:lcuı/ʌıc ɱlecᴅıı ［文化］ ある人物と呼応する性格や立場にいる人物のこと。アティーリには二項対立とともによく現れる概念。

lcuı ［エルト］シヴァ。山や丘や谷を支配するエルト。 ［名詞］山彦、こだま、エコー、反響、口真似。やまびこだけでなく反響全般を指す。 ［魔法］シヴァ（クイック)。利の高位黒魔法。一度この魔法をかけてから別の魔法を唱えると、魔法がこだまのように何度も放たれるようになる。１度の魔法で数回分の威力を発揮することができ、しかもこだまになった魔法は威力が元の魔法と同じであるため、非常に便利な魔法である。 ［魔法］召喚魔法シヴァ。魔石シヴァレンを用いて召喚する。シヴァの魔法をパーティー内の魔導師全員にかけてくれる。召喚している間だけ有効。そのため、リディアの魔力が持つ間、メルやフルミネアなどの魔導師は何度でもシヴァ状態で魔法を放てる。 ［レベル］3 μcɑcı: 古 : 先 :lcu（声）が語源。元の設定ではサールだったが、山の神であることから指摘を受け、エルトに変えられた。山は高いので。天界にいるエルトを喚起するためだ。

lcuı(ʝ) ［人名］シヴァ ʝ1 ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組で、アリスの恋人。髪はツンツンした茶髪。バンド「フィーナ」のドラムと男性ボーカルを担当する。

lcuın ［音楽］ボーカル ［レベル］4 ʝ1

lcuıɥen ［地学］（ブルー）サファイア、サファイア、青玉。リディアがシヴァ神を召喚するときに用いた。 ［魔法］シヴァレン。水の中位白魔法。排卵を抑制する。 ［組み数字］3／１０ ［レベル］4 zφ;lcuı/ɥen 19:μcɑcı eeɥen:lcuıɥen ［文化］ ＜魔法＞ 日常魔法のひとつ。避妊具なしでもセックスを楽しむための魔法として使われた。ルビーのファーレンからの応用で作られた。セルメルまで、インプレンのお抱え白魔導師に就職するための必須技能のひとつ。結果、性病が増えたため、アミティ系の魔法を使える医者がますます潤った。カコでは、サファイアにシヴァレンの魔法を籠める方法が確立した。だが１回当たりが高価になるため、裕福な人間しか利用できなかった。魔法のサファイアを軽く握りつぶすと、かき氷のように宝石が割れる。割れることで中の魔法が解けだし、手などを伝って体内に魔法が吸収される。 ＜魔石＞ ユノの魔石。ならびに、シヴァ神を召喚する際の魔石。 無色透明のものはユノを大量に重合できる。【成句】 ſıə{lınʃ} lcuıɥen ı nene. ～と避妊具なしでセックスする：文字通りの意味もあるので注意。

lcuıl ［形容詞］音が良く響く、残響のある ［反意語］ȷıbcɥ ［レベル］4 1L:lcuı

lcuı ılhıcʅ ［人名］シヴァ＝アルハイク ［レベル］6 1L:μcɑcı:clᴅəȷ ［文化］（ᴅel 10ᛏ → 1ʕΔ）ナディア期の軍人。１０才のとき、アルバザードにいる父の元へ向かう船で、海賊ガーヴに襲われ、母を失う。母に船から逃がされ、メティオに流れ、鍛冶屋に育てられる。１５歳、３国連合軍のガーヴ討伐隊に加わり、数々の功績を立てる。１９歳で連合軍の１部隊の部隊長になり、ガーヴを追放する。その功績でメティオ軍の海兵隊長となった。

lcuıeȷʅ ［気象］どしゃぶり、土砂降り ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıɥbılelſ: 音がシヴァの魔法でこだましているかのように聞こえるほどの雨 【用例】 lcuıeȷʅ ıſ ȷɔɑ. どしゃ降りだった。

lcuc ［言語］感動詞 ［レベル］4 1ʕ: 制 :lcu

lcucȷʅ ［言語］朗読、音読 ［動詞］ɥəl を朗読する、朗読する、音読する、読み上げる、声に出して読む ［レベル］3 1L

lcuɔſ ［音楽］アカペラ、ア・カペラ ［レベル］5 ʝ1:lcu hɔſ

lcuel ［料理］チョコレート、チョコ、ショコラ ［レベル］2 古 :lcuel（甘い黒いもの)。制で lcul だったが、客用の lcdl を買ってきてとクミールに頼まれたリーネが lcul を買ってきた。lcdl と lcul は紛らわしいとリーネは糾弾し、古形に戻すよう主張した。【成句】 ɥən lcuel（恋愛が）大人な→ ɑccnelcı

lcueɱıɑ ［地球の国名］ガーナ ［レベル］6 1L: そういうイメージ

lcuelıɑeᴅ ［料理］チョコチップ ［レベル］3 ʝ0 ［文化］ チョコをチップ状にしたもの。クッキーなどに入れられる。

lcuelıb ［植物］カカオ ［レベル］3 1L:1ʔ: 制 : チョコレートの材料

lcueeɥ ［経済］大引け ［レベル］6 ʝʝ:lc/ueeɥsenſ

lcɑ ［形容詞］意味のない、効果のない、無価値な、無意味な、無為な、価値がない ［類義語］leʅȷ ［反意語］ıɑeſ ［類音］lccɑ ［レベル］3 1L:lcɔn: 制 lcɑeſ ［語法］ ıɑeſ 【用例】 cl uɔȷʅ ıſ lcɑ. どんな努力も意味がなかった。

lcɑɥe ［アイテム］シフレ ȷᴅ;ɱcſe/ɑɥec「早抜き剣」 ʝɱ ［文化］ ȷᴅ の傭兵が考えだした剣の差し方。剣の種類のことではない。ふつうはベルトに剣を差すが、ベルトからＶ字型に紐を垂らして剣の鞘に紐を巻き付ける。こうすることで手の位置に柄が近付き、より早く抜ける。町中で暴れることもあった ȷᴅ の傭兵にとって速い抜剣は重要であった。凪人の刀に比べて傭兵の刀は短かったのでこの帯剣が可能であった。

lcɑı ［植物］ビート、甜菜 ［レベル］4 lıɱı:lcɑı。lc は甘い。

lcɑcı ［名詞］［形容詞］リア充、モテ ［反意語］φəcı ［レベル］4 ʝ1:lc/ɑcı（甘い世界） ［語法］ 典型的には仕事にも恋愛にも人間関係にも金にも健康にも恵まれた人間のこと。【成句】 ɥe lcɑcı ſcɑl ɑcıɼ リア充爆発しろ！

lcɑeɥ ［名詞］シフェル、西の民 ［レベル］3 古

lcɑeɥın ［人名］シフェラン ［レベル］4 古 ［文化］ シフェルの指導者。

lcɑeɥelɑ ［言語］シフェル語→ ıɥʅı。ʅəʅəlc 参照。 ［レベル］4 1L

lcᴅ ［動詞］ɥəl を得る、得る ［普通動名詞］獲得、取得 ［反意語］ſıɑ、ſcɑl ［化学］還元 ［レベル］1 参古 :ɱcl（持つ）から。ſcl（所有する）も ɱcl から来ている。 ɑəſɔ:ɑəſɔ 【用例】 lcᴅ ʅclᴅ チャンスを得る lcᴅ φcl 金を得る

lcᴅʅ ［料理］マスタード、イングリッシュマスタード、フレンチマスタード ［レベル］3 1ʕ: 制 :lıc/cᴅʅı

lcᴅɥıȷ ［名詞］取得回数 ［レベル］4 ʝ1

lcᴅı ［形容詞］体が愚かな ［類義語］lecſ ［反意語］ɥəlᴅı ［レベル］3 μɑ;lcı/ᴅıcn「紫亜の体」 ʝɱ ［語法］ ɥəlᴅı

lcᴅın ［化学］酸化剤 ［レベル］5 1L: 電子を得る側＝還元される側＝酸化する側＝酸化剤。ややこしいので注意。

lcᴅını ［名詞］後期大学 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

lcᴅıll ［化学］酸化数 ［レベル］5 1L ［文化］ 地球の場合、ナトリウムの酸化数は＋１である。しかし実際には電子を失う数が１なので、－１としたほうが分かりやすい。＋１とする利点は、ナトリウムイオンの表記のＮａ＋と一致する点。しかし電子の授受で考えた場合は、酸化数を＋１とするより、還元数という概念を考えて＋１としたほうが分かりやすい。アルカでは、還元数しかなく、地球の酸化数とは逆転する。ティーテルイオン（ナトリウムイオン）は＋１の還元数を持つ。従ってアルカではイオンの電荷と酸化数は符号が逆になる。

lcᴅc ［形容詞］心の汚い、心が汚れた、悪心 ［反意語］ȷını ＠ 1L 【成句】 lcᴅc ueɑl ȷını. 汚い心は綺麗な心を蝕む。心の汚い人間の近くにいると影響を受けて自分の心まで汚れてしまうので関わりを持たないのが一番という意味。どんなウイルスであれ接触しなければ感染しないのと同じ。【用例】 ın ʅəſ "ın ᴅɥəɔ lıl nɔȷ c ɑcı lcᴅc. ſəəbe uɔμſ ıl ɑı" ı ᴅcuı ʅɔnſ len uelɑ. ɥın lə ʅəſ deɑel "nɔn uınɔ ucl ᴅıcn ſəın ᴅcl ſɥə eſ ʅınuc ɔn ᴅıcn, ſeſ uınɔ ȷen ıleᴅ ſəın ᴅcl ſɥə ſe nııu ɔn ıleᴅ ınneə" enſɔ ın nıʅ nɔȷ lcclıȷ uın lə. 酒を飲みながら「汚い世界に関わりたくない。そんなものは滅べばいい」って娘に言ったら、「パパの体は強いから守ってあげられないけど、心は弱いから守ってあげられます」って言われて、この子は大切にしようと思った（ləlcı ıɥbızıɥɑ）

lcɑ ［経済］倒産 ［レベル］3 1L: 制 :lcɑɔı

lcɑcı ［感動詞］おやすみ ［ɥenſe］［動詞］ᴅɔʅ ［レベル］1 古 : 甘い夢を見て寝なさいというのが原義 ［文化］ 就寝時は lcɑcı という。敬度に関係なく寝る人が周りの人に、或いは起きている人がこれから寝る人に向けて言う。言わないと失礼である。ɑɔɔuı では代用できない。尚、lcɑcın も同じ意味であるが、これは幼児語である。幼児に向けて、或いは幼児が大人に向けて使う。【用例】 ın ʅəſ lcɑcı ı ɥȷccl. 親にお休みと言った。

lcɑcı(ʝ) ［名詞］幻楽、げんがく、シディア ［レベル］4 ʝ1:lc/ɑcı（甘い夢） ［語法］ 夢幻のように楽で楽しいこと。楽は「ラクで楽しい」こと。 幻は「理想」「虚ろで現実的でない」「現実的でなくシリアスでない」こと。 すなわち「夢見がちで非現実的で肩肘張らない取り組みのうち、ラクで楽しいこと」。アルカのコンセプトでもある。【用例】 lı ſcl lcɑcı. 彼は幻楽主義だ。

lcɑcıɱɔ ［名詞］おやすみのキス ［レベル］2 1ɱ: 制 : おやすみのキス ［文化］ 主に幼児を相手取って行うことで、寝る前に親などの近親者がキスし、子供もキスで返すこと。

lcɑcın ［感動詞］［幼児］［ᴅclcı］おやちゅみー☆ ［レベル］1 1ɱ: 制 :lcɑcı/n（指小辞）

lcɑcıbenı ［幼児］おねしょ ［レベル］2 1L

lcφ ［形容詞］簡素な、粗末な ［反意語］ȷıɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lıφ: 古 :lılφcl「金がある」 ［語法］ cφ は簡素であり、豪華の反対。いわばケバくないといった感じで、中立的。

lcφıφ ［言語］［生物］喉頭 ［レベル］4 1L

lcφcəȷ ［人名］シギウス ʝ0 ［文化］ （ɥəəᴅı ʕ9Δɱ:900ʝ）旧アルティリア系・旧神商会系貴族。

lcdᴅısı ［経済］変動レート 1L:μcɑcı:ıɥbılelſ ［語法］ 個別に決まっている割合のこと。アルバザードでは消費税などがこれに当たる。

lcdᴅejʃel ［電算］コンパイル ［レベル］6 1L
lcdᴅelɑ ［電算］インタープリタ言語 ［レベル］6 1L
lcdl ［料理］ケーキ、菓子パン ［レベル］3 lıʃſı 【成句】 lcdl lıɪʃ eʃ ʅıc uecn あの子のケーキのほうが大きい：隣の芝生は青い
lcdlıʃe ［名詞］ケーキ屋 ［レベル］3 μɑ;/ ʝʔ
lcdı ［料理］メレンゲ ［レベル］4 1ʕ: 制 :lcd（卵白）
lcdc ［料理］コーラ、コカコーラ、ペプシコーラ ［レベル］2 μɑ; ↓ lı ʅſı:「甘くて黒い」［文化］ 地球より早く、μɑ でリュウが作った。訓練後の喉の渇きを潤すために開発した。ヴェレイでさらに広まり、成人病の促進をした。ミロク革命でミロクが悪い飲み物と指定したことで昭和の日本程度の頻度になったものの、ミロクの死後はまた頻繁に飲まれるようになった。 【用例】 ın lenıʃ lcdc lını eᴅ ɑccʃ. 暑さを払うためにコーラを飲んだ。
lcdc,ılʃ nɔz lc/dc
lcdcl ［名詞］後転 ［類義語］lchɔl ［反意語］ȷıdcl ［レベル］3 ȷ0
lcdcnı ［名詞］先約の反対 ［レベル］3 1L
lcdcɥəʅılc ［普通動名詞］爪剥ぎ ［レベル］6 ȷᴅ;ılʃ ȷ1
lcdɔuıcʅ ［生物］項部 μɑ;/ ȷ⋒
lcdeı ［言語］後置詞 ［レベル］4 μɑ;/ ȷʔ
lcbı ［音楽］オルガン ［レベル］3 1L:ᴅclɑ:lcuı/bıɑ（響く、叩く）気鳴楽器であることから lcuı、鍵盤楽器であることから bıɑ。
lcbcnı,ɑu ȷeμɔn
lcbelcı ［音楽］オラトリオ ȷ1:lccbel
lchɔ ［料理］シャーベット、ソルベ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lceehɔ（甘い氷）
lchɔl ［名詞］バク天、バック天、バク転、バック転、後転 ［類義語］ lcdcl ［反意語］ȷıhɔl ［レベル］3 ȷ0:ᴅelcɑcı lceμ
lcɥıl ［名詞］景品 ［レベル］3 ȷȷ:lcɥə/ıl「甘く受け取るもの」【用例】 lenı ıμıʃ μıȷ L, ȷee lcɥıl ȷeȷ φclᴅıȷ ɑəen ʔ⋒0 dıμᴅȷɔlʃ ı. ９回挑戦し、景品は合計３４０円分の買い物券であった。
lcɥə ［動詞］ɥəl を了解する、了解する、了承する、引き受ける、請け負う ［普通動名詞］了解、了承、引き受け、受注、請け負い、請負 ［感動詞］わかった、分かった、いいよ、了解、分かりました、わかりました、かしこまりました、承知しました、承知いたしました、承知致しました ［反意語］μeʃ ［レベル］1 1L:lc/ɥəʃı（甘く受け入れる）［文化］ 承諾は相手に良い印象を与えるため、快く行う。どうせ承諾するなら快諾したほうが相手も気持ちよい。ただ、演出としてわざと不承不承を演じることもある。断る際はすまなそうに断るのが常識。にべもなく断るのは無礼。相手を怒らせる原因となる。 【用例】 lcɥə ınne, hıɾᴅı. かしこまりました、旦那様。 lcɥə ınne. 了解です。
lcɥəın ［名詞］請負人、請け負い人、引受手、引き受け手、受注元、承諾者 ［レベル］2 μɑ;/ ȷ⋒
lcμ ［動詞］ɥəl を必要とする、必要とする、要する、求める、求む ［法副詞］～する必要がある ［形容詞］必要な ［名詞］必要 ［レベル］1 1L:lıʃ:1ʔ: 制 : 古 :ʃlə 【成句】 lcμ lcul ȷeμeneʃ 必要は発明の母 【用例】 ın lcμ eμcı. 飲み水がほしい。 ın lcμıʃ le l'ıʃl ın ȷıb ɑc. 服を着るのを手伝ってくれる人が必要だった。 ın ɑelıʃ lcμ lını ɑlɔᴅʃıȷ. 期末試験のために勉強する必要があった。 ɑcnı lenı eu lcμ uec lınʃcȷ ı ʅılʃe ɑlɔn ᴅcl ɑμıl e lenı lı ınlcl hɔʃ. ともあれ私たちは西洋に固まりすぎているから、ある程度人員をバラけさせる必要があるのよ。
lcμʃe ［形容詞］厚かましい、図々しい、無遠慮な、図太い、神経が太い ［反意語］ʃeɔȷ ［レベル］3 ȷ0:lcμ ʃeɔȷ（遠慮が必要な）
lcμuclȷ ［化学］必須アミノ酸 ［レベル］5 1L
lcμɑə ［名詞］必要量、ノルマ、課題量 ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:μcɑcı
lcμzɔᴅ ［環境］化学的酸素要求量、酸素消費量、ＣＯＤ ıl;/「必要な酸素」。 ȷʔ ［語法］ 化学的酸素要求量とは、水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量で示したものである。代表的な水質の指標の一つであり、酸素消費量とも呼ばれる。
lcμın ［名詞］移民、開拓民、入植者 ［反意語］ȷıμın ［レベル］4 μɑ;/ ȷʔ
lcμcʃ ［形容詞］噛み合う、かみ合う、一致する、合致する ［反意語］lɔʅeʃ ［レベル］4 ȷ1:clcμcəȷ/ʃe
lcμcı ［名詞］水、冷水、冷や水、ひやみず、おひや、お冷、お冷や ［類義語］ɑleμ、ıleμ、ılcμ、eμ ［レベル］2 ȷ0:μcɑcı:lceμ/eμcı ［語法］［文化］ ɑleμ 【成句】 lcμcı ı(len) enɑı 年寄りの冷や水。日本語と同じ表現だが危険だという意味が強い。
lcμcəȷ ［丁寧］［親族］［男性］父上、お父様、おじさま、シリウス ［レベル］2 ȷ1:clcμcəȷ（鏡）［文化］ lılı
lcμenȷ ［名詞］エピローグ、納口上 ［反意語］ȷıμenȷ ［レベル］4 μɑ;/ ȷ⋒
lcμeucɑe ［名詞］必要悪 ［レベル］5 μɑ;/ ȷ⋒
lcμecn ［軍事］後衛 ［レベル］4 ȷ1
lcμecᴅ ［魔法］背後霊 ［レベル］3 μɑ;/ ȷʔ
lcμecᴅleul ［医療］離人症、離人症性障害 ［レベル］5 ul;/。自分が自分の背後霊になったかのように自分を外部から傍観してしまうような感覚に襲われることから。 ȷʔ
lczıᴅ ［生物］後ろ脚 ［レベル］3 μɑ;/ ȷ⋒
lczelɔ ［生物］後頭葉 ［レベル］4 1L
lcoı ［生物］lıȷ,ılʃ, ʃıl,ılʃ ［生物］下腕 ［反意語］ȷıuın ［レベル］3 ılʃ;oı lənı c ɑ ȷȷ
lcl ［普通動名詞］実験 ［動詞］ɥəl を実験する、実験する ［レベル］3 制
lcʃl ［名詞］饅頭、まんじゅう、ダンプリング ［レベル］3 lıʃſı ［語法］ 何かを包んだ料理の総称。形は円とは限らない。
lcln ［経済］債権 ［レベル］4 1L:lcᴅ/lınφ（受け取る権利）
lclnın ［経済］債権者 ［レベル］4 1L
lclɑ ［形容詞］好都合な、都合のいい ［反意語］ɑıᴅe ［感動詞］けっこうだ、好都合だ、上等だ ［レベル］2 1L:lelɑ のアプラウト
lclɑc ［魔物］シルフィ（幽光）：第五十五天：光の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:ȷclɑc の子音交替 ［文化］ 精族。正体は靄。微かな光の中に死別した大切な人が見える。うっかり近寄ると靄の中に閉じ込められ、食われてしまう。
lclɑcɑce ［天文］ピーコック ［レベル］6 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel: シルフィの嘘 ［文化］ シルフィが人を騙すときの映像が映し出されている星。この星を見ると吸い寄せられてシルフィに食われてしまうため、国民を案じたリュウはアルバザードおよび周辺諸国からまず見えないよう、１階に封じ込めた。むろん、南半球からは見えるが、アシェットの時代は北半球の平和＝世界の平和であるため、考慮していない。
lclɑcı ［人名］シルフィア ȷ0 ［文化］ (ɥəəᴅı ʕΔLL:9⋒ᴘ0) ɥəəᴅı ʕLʔ⋒ アンダント、旧アルティリア系・旧神商会系貴族 lcφcəȷ の娘 lclɑcı を娶る
lclᴅı ［感動詞］安らかに、レストインピース、ご冥福をお祈りいたします、お悔やみ申し上げます ［名詞］死者への弔いの言葉、お悔やみ ［レベル］3 古 :lclᴅı。lclɔᴅɔ「甘い眠りを」の母音を変えたもの。
lclᴅıφcl ［名詞］弔問金、ご霊前、ご仏前 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ
lclᴅıcn ［軍事］［魔法］魔動鎧、シルマイン ［レベル］5 ȷ0: 古 ʃlclᴅıcn（抱く、体を持つ）［文化］ イムル 1⋒ᴘ9 年に ucnıɥə ɥəᴅde が開発した兵器。ワゼットを改良したもので、両手両足胴と、全身で着るように身に付ける。ワゼットは魔力のみの強化だったが、これはユノ・ヴィル・ノアを全面的に強化し、戦闘力を純粋に上昇させる。 できた当時は非常に高価であり、戦死されてはまずい将軍などに支給された。そのため影では前線の兵士たちに嫉妬され、鎧を着るのは臆病者と罵られた。
lclɑ ［形容詞］飼いならされた ［反意語］uıφ ［レベル］4 ȷ0:lccl/ 古 ɑ（過去形）「飼いならした」【用例】 lıbıȷʃ lclɑ 飼い慣らされた労働者、社畜
lclφ ［経済］資金 ［レベル］4 1L:lcμ/φcl 【用例】 lclφ ʅıφ 豊富な資金
lclφlcul ［経済］資金繰り ［レベル］5 ȷȷ
lclφɔll ［経済］マネーロンダリング ［レベル］5 ȷȷ: 黒い資金を洗浄して汚れを落とすという比喩から
lclhc ［動詞］ɥəl を許す、許す、赦す。許可ではなく、罪などを赦すの意味。 ［普通動名詞］許し、赦し ［類義語］ɑlen ［反意語］ɑel ［レベル］2 1L: 古の ȷclɑ（軽い）と ʅıhc（罪）から造語し、語頭音を変えた。 【用例】 ın lclhc ucl lı ʃȷeʃʃı. あの裏切り者を許すことはできない。
lclle ［形容詞］［ネガティブ］無礼な、失礼な、行儀が悪い、行儀の悪い ［類義語］ȷcʃlʅıʃıμ ［反意語］ııʃın、ılcʃ ［レベル］3 ȷ0: 古 ʃlcl/ 古 leı（礼儀を持て） 参考 : 制 :cʃl。「無礼な！」と単独で発音されることが多いわりには全体としてソノリティの弱い単語であるため変えた。重子音になっているところがソーンっぽく、礼儀正しいクミールを想起させる。 ［文化］ アルバザード人は礼儀を重んじ、自尊心も高い。それゆえ無礼な態度を強く嫌う。日本語ではあまり「無礼な！」という言い方をしないが、アルバザード人は比較的この形容詞を使う。 【成句】 lclle ɔn elɑʃləɔ, μenȷ, ueʃ 口が悪い
lclın ［名詞］後輩、弟弟子、若手 ［反意語］ȷılın ［レベル］4 1L:ᴅelcɑcı ılʃe ［語法］［文化］ ılȷeμ ȷılın に対して使う。蔑称ではない。愛着を持って使う。日本語と違って敬称と呼格にもなる。
lclınʃcȷ ［シェルト］後衛、後衛の駒 ［レベル］4 μɑ;/ ȷʔ
lclınıʅ ［軍事］照門、リアサイト μɑ;/ ȷ⋒ ［文化］ φel
lclıc ［亜魔］シライ ［料理］水飴、水あめ、みずあめ ［レベル］3 ȷᴅ; ↓ 1L:μcɑcı:lıc/ıclıc ［文化］ アイライの一種。水あめ状で、甘い。どろどろの液体で獲物を覆い、窒息させる。主成分はマルトース。ここからマルトースが発見された。
lclıclccᴅ ［化学］麦芽糖、マルトース ［レベル］5 1L:μcɑcı: 亜魔族シライの糖
lclıcıdleȷ ［料理］あんずあめ、あんず飴、杏飴、杏あめ ［レベル］3 ȷᴅ;/ ȷʔ ［文化］ 日本と同じように出店や屋台で売られるが、軽食コーナーで季節を問わず年中売る店もある。
lclc ［名詞］慈悲、情け、容赦、恵み ［名詞］炊き出し、たきだし ［動詞］ɥəl を ı に恵む、めぐむ、恵む、施し、施す、手加減する ［レベル］3 ɑl:ȷıl;e 1ʕ: 制 : 古 :lclc（恵む）から lclc:lclc:lell ［文化］ スポーツや争いにおいて、明らかな強者は相手に華を持たせるために手加減することがある。徹底的に叩き潰すのは戦争であり、スポーツでは相手にも見せ場を作ってやるよう、強者は工夫する。手加減して面白いゲームを演出することは、圧勝するより難しい。そのため、そのようなゲーム展開は観客の尊敬を得る。 また、相手に負けられない事情がある場合は、わざと自分が負けてやることがある。これも lclc として認識される。ただし、明らかに力の差がある場合は嘘臭すぎるので負けてやらずに、一矢報いさせるよう工夫する。慈悲という概念にはアルバザード人の優しさが詰まっている。 【成句】 lclc ı nɔn お手柔らかに（お慈悲を、お情けをの意味にも）：これは挨拶だが、本当に手加減してくれという場合は顔色で分かる。
lclcnφ ［経済］［法律］税寄付、喜捨金、寄付金 ［類義語］ɑıcφ ［レベル］4 ls;lclc/ɑıcφ ȷʔ ［文化］ ２０１２年の日本円にしておよそ１０００万以上の年収がある者が革命後に払うことになった金のこと。１０００万までの収入に対しては通常の税金が取られる。１０００万を越えた分に関してはその納税者が寄付金という形で任

意の単数ないし複数の団体に納税代わりに納めなければならない。この金のことを税寄付という。税金と実質同じな寄付だからである。

lclcφıɥſ [形容詞][ポジティブ] 格安な、激安な、割安な [名詞] 安価、割安、格安、値引き [類義語] ɑeɥ、ᴅɔcuelɑ [レベル] 3 ℩0: 恵みの価格

lclcφcl [名詞] 奨学金、奨励金、補助金 [レベル] 4 1L:ᴅelcɑcı ılſe [文化] 犯罪被害者に対し国から補助金が出るが、それも lclcφcl という。補助金は「肉体的な損失の大きさ」と「精神的な苦痛の大きさ」に基づき支払われる。後者は人によって受け取り方が異なるため、定量的ではない。例えば腕が一本なくなるのは定量的な損失ではかりやすいが、痴漢がどれくらい苦痛かは女によって異なる。そこで精神的な苦痛は社会生活を営む上でどれだけ定量的な損失が出るかに置換される。 これによると、レイプの補助金は大きいが、痴漢の補助金は少ないことになる。というのも、レイプされた女はアルバザードではまともな結婚ができないが、痴漢は男からノーカウントと見なされるためである。痴漢されても結婚の道は絶えないため、社会的な損失は軽いとされる。

lclcoıſı [経済] バザー [レベル] 3 ɥɑ;/「恵みの市場」 ℩ʔ

lclcı [篁堺] シリア [レベル] 5 ɥɑ:lcnı;lclc/ɑcı「恵みの大地」 ℩℩ [文化] 篁堺司：ᴅıſ uıᴅı 篁堺国：ɑcφın, ᴅıcnı, ɥəbel

lclcəȷ [名詞] 借り、恩、恩義、義理、恩恵 [反意語] ıllclcəȷ [レベル] 3 ℩0:ᴅelcɑcı lceɥ:lclc/clcɥcəȷ（受けた恵み / 相手に返す） [語法] 恩義のうち、後で返そうと思うもの。返す義務があるのではなく、単に受け手の正義に基づいて返そうと思うもの。 【成句】 bıſſ lclcəȷ 借りを返す、恩返しをする ſȷeſſı lclcəȷ 後足で砂を掛ける、恩を仇で返す lclcəȷ eſ clcɥcəȷ 情けは人の為ならず、思えば思わるる。言葉遊び 【用例】 ɥə lclcəȷ 恩を受ける

lclɔl [生物] 大腸 1L

lclɔlɑıcz [医療] 大腸炎 [レベル] 5 1L

lclɔldcφ [医療] 大腸がん [レベル] 4 1L

lclɔloılu [医療] 大腸ポリープ [レベル] 5 1L

lclɔllcc˥ [生物] 大腸菌 [レベル] 4 ℩1

lclɔl,ɑ ɥıeȷ elſ;ɥəlclɔ/lɔ「家の頭」

lclɔlȷıſcc [建築] 風見鶏、かざみどり、風みどり [レベル] 5 zφ;lclɔl/ȷıſcc「屋根にいる風の悪魔サティ」 ℩℩ [文化] zφ のシージアで最古のものが発見されている。風が強い土地なので付けられたものと思われる。ハリケーンなどの災害を風の悪魔サティのしわざと見立てていたため、魔除けの意味も込めてサティを象った形にしてある。シージア戦争でレスティル人にも伝わり、以降 ɥſ まで見られたが、ul で取り付ける家庭は少なくなった。現在は教会や古風な建物などに見られる。鳥の形はしていないので注意。方角を示す十字架は付いているものといないものがあり、商品により異なる。

lcleᴅ [音楽] 声楽、歌 [類義語] ᴅc˥ȷ [レベル] 3 1L:lculeᴅ

lcleᴅɥenȷ [音楽] 歌詞→ ɥenȷ [レベル] 3 ℩1

lclənı [名詞][形容詞] 下記、後述する、後述 [反意語] ȷılənı [レベル] 5 ɥɑ ℩ʔ

lcləoı [生物] 後ろ足 [レベル] 3 ɥɑ;/ ℩ŋ

lcləe [アイテム] シルエ、やまびこ草 [組み数字] １１／１２ [レベル] 4 ℩0:lcu/ləſce [文化] シヴの効果のある蜜。アズゲルでルティア人がメープルシロップから作った。小瓶に入っている。

lcı [料理] 菓子、おやつ。菓子だけでなくおやつのようなものも含む。 [類義語] ɑeluueɥ、ȷıɑcȷ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :lcıl（甘いもの） ::lı ɑe lueɥ:ſlcıſɔ,ılſ 【用例】 lılı eȷ ſɥə lenıſ lcı e ɥəlſ, lcıɼ nɔn ɥenȷıſ ſə eſ lcı ləəſ ȷeſe. 「ルシア、どうしてユルトのお菓子食べちゃったの！これ、お兄ちゃんのって言ったでしょ」 [言葉遊び] lcı ıləɥ lcı(ııı し あがシア（菓子）食ってるｗｗｗ nɔn ȷccnı lcı. 私はおやつ好き。 ın ˥əcſ lcı ɑə ˥ılɔ. おやつを少し食べた。 ın ȷccnı ˥əc lcı ȷɔu ˥əcl. 私は間食が好きだ。 ın ˥əc elɑ lcı ılnɔɑ ſəɥ. これからはおやつを食べないことにする。

lcı(℩) [人名] ルシアの略称、紫亞、しあ、シア [レベル] 3 1Δ:ɥcɑcıȣ

lcı(ʔ) [人名] しあ 1Lȣ [文化] 『ねこにっき』の登場人物。カテージュ出身。

lcıȷıcſ [名詞] 右往左往、戦々恐々 [レベル] 4 ℩℩:「あせってるルシアが慌てたパンダのよう」

lcıȷcɥ [美容] もち肌 [レベル] 4 ℩1:ləlcı/ȷcɥ

lcın [代詞][ᴅıɥə] あなた、アンタ、あんた [レベル] 1 ℩1:˥lccz:lccı

lcın,ȷzu uı˥ < ȷın,ȷzɑ.˥

lcınſ [代詞][ᴅıɥə] あなたの、アンタの、あんたの [レベル] 1 ℩1:˥lccz:lcın/ſe

lcıncᴅ [色] ルシア色、ルシアン人種の肌の色、薄卵色、うすたまごいろ、肌色、＃ｆｄｅ８ｄ０ [レベル] 4 1L

lcıueɥınſ [医療] 注意欠陥、多動性障害、注意欠陥多動性障害、ＡＤＨＤ [類義語] ȷeɥzıᴅ [レベル] 5 ul;ləlcı:ueɥınſ。幼い頃のルシアを指して名付けられた。 ℩ʔ:ᴅel [語法] ȷeɥzıᴅ

lcıɑ [普通動名詞] 深呼吸 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ləlcı/leɑ（ルシアに至る呼吸）。このルシアはセレンちの猫猿ではなく、ルヴァンにおける最上の状態のこと。 【用例】 ın ıɥıſ lcıɑ lını ɥeɑ nɔȷ. 落ち付くために深呼吸をした。

lcıɑel [言語] 応用言語学 [レベル] 6 1L [文化] 子どもの言語習得を見ながらセレンらが大成したために、このような命名になっている。

lcıᴅ [経済] 債券 [レベル] 5 1L:lcln/ᴅıȷ

lcıɥəlcı [天文] 伴星 [レベル] 6 ℩1

lcıɥ [名詞] 北 [名詞] 北区：アルナの一地区。省庁、学校、企業などが集まる。 [格詞] ～の北にある [反意語] ɑleə [レベル] 2 1L:lceɥ ::lı φoıl（四季神に合わせて）:ᴅcnıᴅɔ,ılſ

lcıɥſeeze [気象] 北風 [レベル] 4 ℩0

lcıɥ˥ɔnɔɔſe [地名] 北コノーテ駅 ℩℩ [文化] 幻環線の最北部の駅。

lcıɥȷſenſ [地球の星座][ユマナ] 北十字星 ℩ŋ [文化] cɑı

lcıɥuıɥ˥ſc˥e [地学] 北ヴァルク海流 ℩ʔ

lcıɥɑıbeɥ [名詞] 北ファベル 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

lcıɥdɔl [名詞] 北方 [名詞] イルケアより北で、ケートイア、ヒュート、イネアートまでの地域。 [レベル] 4 ℩0 [文化] アティーリにおいてアルシェは使徒を探す際、ザミアやケートイアなどを探していった。そのまま北上してヒュート・イネアートと進んでいる。近いはずの国内のカテージュなどには赴いていない。これは偶然ではなく、アンシャルは歴史的に北方と南方に文化的に分かれているため。アルシェにとって北方の遠い国のほうが、南方の国内よりも身近に感じられる。これは現代でも残っており、文化的な境界線はイルケアに引かれる。イルケアより上は別の国でも同じような言葉を喋り、下は下で同じような言葉を喋る。カテージュの南方方言はゲノスまで地続きで、一方アルナの方言はアルシアなど多少のバリエーションの違いはあれど、共通している。

lcıɥbeɥſcı [アトラスの国家] 北ベルティア、シアルベルティア [レベル] 5 ℩ʔ:ɥcɑcı

lcıɥhıɥſɥecnſc˥e [地学] 北赤道海流 ℩ʔ

lcıɥɥecn [地学] 北緯 [レベル] 4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ 【用例】 lcıɥɥecn e ŋɼ ſc˥ 北緯４５度

lcıɥlɔɔz [名詞] 北端 [物理] 磁石のＮ極 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı

lcıɥlec [言語] 北方語 [レベル] 4 ℩1

lcıɥıſcıſc˥e [地学] 北アティア海流 ℩ʔ

lcıɥıſɔlıȷ [地学] 北半球 [レベル] 3 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

lcıɥın [名詞] 北方人 [レベル] 3 ℩0 [文化] 国際的には lcıɥdɔl の人を指す。国内ではイルケア以北を指す。

lcıɥınlıl [地名] 北アンシャル [レベル] 4 1L [文化] → ılıȷınlıl

lcıɥcnȷııl [地名] 北インサール 1L [文化] → ılıȷınlıl

lcıɥcnȷeſ [地球の国名] 北朝鮮 [レベル] 5 1L

lcıɥen [接続詞] ～の北にある [レベル] 3 ɥɑ;/ ℩ŋ

lcıl [政治] 街、町、都市 [形容詞] ～の街。前置。 [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ɥı ɥəlclɔ uıncı: [語法] ȷılıc と lınlel の総称。革命前は大きめの lınlel を指した。 [文化] ＜街の種類＞ 革命までは、王都、町、村の３種類しかなかった。王都はアルナ、町はアシェルフィやカンタル、村はサプリやサティスのこと。 サライができてからは、王都 (ɑıcıl)、都市 (ȷılıc)、町 (lınlel)、村 (lczl) の４種類になった。王都は都市サライの一種である。 現代ではアルナは王都、カテージュは都市、アシェルフィは町、サプリは村である。なお、街 (lcıl) は都市と町を区別しない言い方である。 ＜国・州・県・区・市＞ 行政単位で見ると、国 (˥ıɑ)・州 (˥clɑ)・県 (˥ıɥl)・区 (ᴅelec)・市 (hıcᴅ) の５段階である。 ɥɑ までは国・州・市のみだった。ナディアで県ができ、革命で区ができた。 中央アルナ、アシェルフィ、カンタル、カテージュ、サプリなど、こういった単位を市と呼ぶ。日本でいうと白岡町のようなレベルでも白岡市と呼ぶようなものである。 市は近くの市（街や村）と合わさって区を作る。例えばサプリ市やカンタル市はアシェルフィ区に入る。 県はさらに複数の区を集めたものである。例えばアルナ県にはアルナ区やアシェルフィ区などが入る。 県が複数合わさると州になる。すべての州を集めると国になる。 【用例】 lcıl hın{˥ıc} 大きな街

lcıŋıᴅıleſ [政治] 都市参事会 ɥɑ;/ ℩ŋ

lcıŋıɑ [政治] 都市国家 ɥɑ;/ ℩ŋ

lcıllıcn [政治] 都市同盟 ɥɑ;/ ℩ŋ

lcıluıc˥ [名詞] 街区 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ [文化] アルバザードの都市はいくつかの街区に区切られている。一つひとつの道路に学校や企業や住宅地を作るのは非合理的である。住宅街は住宅街、商店街は商店街でまとめた方が効率的である。だからアルバザードの都市には街区がある。住宅区や企業区や商業区などが存在する。アルナの場合、東西が住宅区になっている。住宅区には集合住宅と一戸建てが存在している。一戸建てはアルナの場合、カルテの近く、及び東側の住宅区に集中している。北は企業区になっている。企業区には企業はもちろん、学校や役所の出張所や小さな図書館などの公共施設がある。南は商業区になっている。長い幹線道路に沿って屋根付のモールが存在する。そこで生活に必要なものを買うことができる。尚、企業区にもいくつか商業区からの出張所がある。学校の帰りに日用品を買うのに一々商業区まで行きたくないため、企業区に店がほしいわけである。ただ、数は多くないし、店舗も小さい。非常に日常的なものや緊急を要するものしか置いていない。ちゃんと買い物するなら商業区へ行く。ゲームセンターなどは商業区にしかない。緊急性も日常性もないので企業区には進出しない。逆に、企業区から商業区へ出張所を設けることもある。役所などは商業区にもいくつかの出張所を置いている。ただ、学校はない。繁華街に学校を置くと子供が寄り道するので、誘惑からは遠ざけなければならないからである。企業区と商業区の間に住宅区があるため、学生は寄り道をしないで家に帰ることができる。最短ルートで帰るとどうしても商業区は通れないようになっている。この街造りが寄り道を防いでいる。

lcılın [名詞] 町民、街人、都会人 [レベル] 3 ℩℩

lcıııl [歳時記][単位] 紫亞数 [レベル] 3 ℩0 [語法] ２００７年３月８日からの経過日数を指す。アルカ関連のファイルに付けられる。

lccſ ［動詞］ ɔn について ɥəl を誘惑する、誘惑する、くどく、口説く、誘導する、言い寄る、目を眩ませる ［普通動名詞］誘惑 ［法副詞］～しましょう ［レベル］1 1ɱ: 制 : 古 :lc（甘い） ［語法］ 人に「行きましょう」というとき、自分も行くなら lccſ を使い、相手だけ行かせるなら ɑıȷ を使う。 【用例】 len lccl ɿɔɿɿɔ nɔn. 一緒に食べよ？ lə ɒcn lccſıſ lı ucl ı ɒɔɿſ. 彼女は彼をベッドに誘惑した。

lccſɑıȷ ［動詞］ ɥəl を ı に奨励する、奨励する ［普通動名詞］ 奨励 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbıleıſ

lccſı ［動詞］ ɥəl を ı まで迎えに行く、出迎える ［普通動名詞］ 出迎え ［反意語］lcſcl ［レベル］3 ɺ0:lc/ſıɑ（甘く取る）。lcſcl の類推でできたため、lc から始まっている。

lccſenuc ［名詞］ 誘惑する力、魅力 ［化学］ 電気陰性度 ［レベル］3 1L

lccl ［地球の国名］ イラン、イラン・イスラム共和国 ［レベル］5 古 : シーア派の国が原義か？

lccl(ɺ) ［名詞］ 響き ［名詞］ 反響→ lcuı ［動詞］ ɥəl を ı に響かせる、響く、響き渡る、響かせる ［レベル］3 ɺ0:ɒelcɑcı lceµ:lcu/ɅIe 【用例】 lccl µıſ いい響き lccl ſ'elɑ 言葉の響き。聞こえのこと ın ɒɔl uın cɒ ɑcȷ ɿı ez le ſə ɥəleɒ ınɑ lccl ıl ɿɔnſ ın ſeɒ leɒ ſəəleȷ. lcɑcıɾ この楽器が鳴り響く部屋でその音楽を耳に受けながら今日は寝よう。おやすみ。

lcclı ［建築］ 教会、召殿、外宮、チャペル、シーカ ［レベル］3 ɺ1:µcɑcı:lccſ/ɅıIſe（神を招く場所） ［文化］ → ınlccz ɒſ には既に存在した建物で、地球の教会に相当するもの。神を召喚する場所は ɿırſen のように厳粛で厳かな場所だが、その一室を取り囲む部分はいやしくも神を招くのだから豪華絢爛にしようという考えで建てられている。もともとは神をもてなすという気持ちで豪華な建物を作ったものだったが、宗教という観点においては信者に権威を誇示する効果もあり、時代とともにむしろその意味合いのほうが強まっていった。
　教会は神を招く家であり、応接間や客間と発想が似ている。石造りで窓は高く、光を十分に取り入れる仕組みになっており、ȷɒ からはステンドグラスも張られた。音が良く響くため、こちらでもパイプオルガンなどが用いられた。　　材質を漆喰にしたので，側面の飛び梁は物理的な意味を失ってると思いますが [1:?1:ᛘɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: その代り，上に多少ああいう無茶な構造を乗せても大丈夫になりそうだったので [1:?1:ᛘɱ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: つけてみました [1:?ɺ:09] 静 水月：なるほど、材質まで考えてるんですね [1:?ɺ:0L] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 漆喰は石壁に比べて粘り強いので [1:?ɺ:19] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 横に引っ張られても崩れにくいと思います [1:?ɺ:ɺL] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 石壁はおしくらまんじゅうで安定しているので [1:?ɺ:ɱ?] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 側面から梁で支えてやらないと，高くできないんです [1:?ɺ:ᛘ1] Ƶıȷlɔn/AEӾ: それでああいう飛び梁っていう外壁が発達したんですが [1:?ɺ:ᛘɺ] 静 水月：へぇ！なるほど！ [1:?ɺ:ᛘ9] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 漆喰だと本来必要ありません [1:?ɺ:ᛘL] 静 水月：ほう [1:??:01] Ƶıȷlɔn/AEӾ: なので，こういう形態の lcclı になるとすると [1:??:0Δ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 本来は石造りの時代があって， [1:??:1?] Ƶıȷlɔn/AEӾ: その時代に教会の形態がある程度定まって [1:??:ɺ? | 1:??:ɺᛘ を編集しました] Ƶıȷlɔn/AEӾ: その後なんかのきっかけで材質が変化したとするのがリアルかと思います [1:??:?9] 静 水月：分かりました。その旨載せておきます というか，あれですね [1:?ɱ:0ɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 多分漆喰で化粧してあるだけで中はコンクリ造とかになってそうです… 新造の物は [1:?ɱ:ɺ9] Ƶıȷlɔn/AEӾ: そのほうが形状としては自由が利きますしね．見た目の壮大さと，由緒正しさだったら [1:?ɱ:?ɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: どっちを取るんでしょう？ [1:?ɱ:ɱɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: この辺は価値観の問題になりそうですが [1:?ɱ:ɱ?] 静 水月：どうなんでしょうｗ [1:?ɱ:ᛘ?] 静 水月：僕には難しすぎて…… [1:?ᛘ:0L] Ƶıȷlɔn/AEӾ: あ，いや [1:?ᛘ:1?] Ƶıȷlɔn/AEӾ: ええと [1:?ᛘ:??] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 単語を忘れてしまったんですが，アルカ喋ってる国の人たちって何ていうんでしたっけ [1:?ᛘ:ᛘɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: あるばざーど人ですか [1:?ᛘ:ᛘ9] 静 水月：はい [1:?9:0L] Ƶıȷlɔn/AEӾ: アルバザード人は古いものを大事にする文化だったようなという [1:?9:1ɺ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 心配ですｗ [1:?9:ɺL] 静 水月：一応辞書には協会は石造りって書いてありますが、 [1:?9:?9] 静 水月：このへんは変更可能です [1:?9:?L] Ƶıȷlɔn/AEӾ: おお [1:?9:ɱ9] 静 水月：でも中世に立てられたのでコンクリはあるんでしょうかね [1:?9:09] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 中世ではなさそうですね… 漆喰はありそうなので漆喰かなぁ [1:?Δ:00] 静 水月：西洋の教会って何でできてるんですかね [1:?Δ:ɺᛘ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A4%E3%82%BD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%A2 [1:?Δ:??] Ƶıȷlɔn/AEӾ: こんなんだと，漆喰仕上げ，大理石仕上げみたいですね [1:?L:1Δ] 静 水月：漆喰と大理石かぁ。なるほど [1:?L:ᛘ1] 静 水月：中世にある素材で建築様式的に矛盾しない素材ならなんでも ЭӠ です！ [1:?L:ᛘL] 静 水月：辞書の記述は後で変えますので [1:ɱ0:1Δ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: おｋです！ [1:ɱ0:?1 | 1:ɱ0:?ɱ を編集しました] Ƶıȷlɔn/AEӾ: なんで石壁を避けたかというとですね [1:ɱ0:ɱɱ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: ぶっちゃけ，テクスチャが単調になるのを避けるのに物凄い労力がかかるんですよｗ [1:ɱ0:ᛘɺ] 静 水月：あーｗ [1:ɱ1:0ᛘ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: 色々試しては見たんですが，どうにも不自然になってしまって [1:ɱ1:0L] 静 水月：なる [1:ɱ1:1?] Ƶıȷlɔn/AEӾ: だったらいっそニコライ堂みたいにしてやろうかと [1:ɱ1:19] 静 水月：ｗ [1:ɱ1:?9] 静 水月：石造りで建築できるなら石造りがいいですが、大変なんですねｗ [1:ɱ1:ᛘ1] Ƶıȷlɔn/AEӾ: もう少し時間が出来たらトライしてみますね [1:ɱ1:ᛘL] 静 水月：お願いしますー [1:ɱɺ:0ᛘ] 静 水月：とりま今日はねますねー [1:ɱɺ:0Δ] Ƶıȷlɔn/AEӾ: おつですー [1:ɱɺ:1ɺ] 静 水月：おつでしたー

lcclı ſ'ınlccz → ınlccz

lcclſı ［名詞］ 背景、後景 ［言語］ 地、グラウンド ［反意語］ ȷıclſı ［レベル］3 ɺ0

lcclcı ［歳時記］ シーシア、シュガーキス ［レベル］3 古 :µcɑcı:lc は甘いの音象徴。lcı も同様。甘い口と書いて古アルカで lcɿə（キス）のことだったことからも分かるとおり、アルカではキスと甘いは近い関係にある。 ［文化］ クリスの月パールの日のイベント。女子が好きな男子に告白し、男子が受け入れればキスをするというイベント。女子は唇に粒状の砂糖を付ける習慣がある。当然、その女子にキスをすると、甘い。 µɑ ではセレンの誕生日にリディアがキスをしたことから、このイベントが生まれた。神話ではそのときリディアは砂糖を塗っていた事実はない。この日はただのキスの日である。古アルカでキスを甘い口と呼んでいたことから、後にこの日の告白イベントでは唇に砂糖を乗せる習慣が生まれた。

lccȷ ［動詞］ ɥəl を妥協する、妥協する、譲歩する、甘くする ［普通動名詞］ 妥協、譲歩 ［副詞］ 甘い、ぬるい、生ぬるい ［レベル］4 古の lc（甘い）/ȷɔ（する） ［語法］ 徹底せず、人や物事に対してある一定のラインや完成度などで留めることを指すので、日本語と違って妥協と譲歩は区別しない。 【成句】 ſe lccȷ 甘い、ぬるいわ ɑıs ı ɑıs, lclȷ ı lclȷ 親切には親切を、妥協には妥協を：魚心あれば水心 【用例】 ［言葉遊び］ ſə nɔſȷ ɑe lcȷ ſeſ lccȷ ſcȷȷe. 会計は黒字どころか生ぬるいですよ。 ın ııIı lccȷ ȷen ɿlɔȷ nɔzeſ ɒın ın ȷccl lıl leȷ µcɑcı lınɑc c ɑc ɔnı. ın ſccı lı enſɔ uınɔ lıl ɑılcȷ lııſ, ɿclȷ, ınſeȷ. 僕はリディアが心から望むものを守りたいから、自分の主張を妥協できないのです。彼女のことを愛しているので、彼女の、もっと言えば僕らの正義を守りたいのです。

lccȷɿı ［名詞］ 妥協点、落としどころ、落とし所 ［レベル］4 1L 【用例】 ȷıı, ȷɔı eſ lccȷɿı nı. まぁ、この辺が落としどころかな。

lccȷı ［被服］ ランジェリー ［レベル］5 ɺ1: 古 lc/ 古 ȷıbe

lccnı ［医療］ シーナ ［レベル］5 ɺ1: 古 lc/nı ［文化］ ɿıɒelcı

lccnı,ɑ ȷccnı ȷııl;lc/nı

lccnc ［植物］ ライマメ、アオイマメ、ライマビーン、リマママメ、リマビーン、バタービーン、シュガービーン ［レベル］5 古

lccɑ ［動詞］ ɥəl を ı にねだる、ねだる、強請る ［普通動名詞］ おねだり ［類義語］ lıl ［類音］ lcɑ ［レベル］3 ɺ0:ɒelcɑcı lceµ: 古 lc/ɑəſɔ（甘く取る）

lccɑecȷ ［魔物］ シーフェイス（誘精）：第二十一天：風の幻天 ［レベル］5 1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel:lccſ/ɑecȷ（いざなう霧） ［文化］ 若い美しい男の姿をした魔物。正体は霧。女を誘惑し、毒の精子を膣内に出す。出された女は廃人化し、シーフェイスの操り人形となる。

lccɒ ［料理］ 糖、糖分 ［化学］ 糖類 ［レベル］3 19: 制 : 古 :lc(甘い) ［語法］ ［文化］ アルバザードでは lccɒ というと、ショ糖、果糖、麦芽等を指し、ブドウ糖、デンプン、セルロース、その他キシリトールのような糖アルコールは含まない。 要するに、紅茶に入れる砂糖やケーキの砂糖など、お菓子や嗜好品が持っている昔ながらの甘味料を lccɒ と呼ぶのだと思い込んでいる。ただし、広義的に捉える場合は、今度は逆にキシリトールなどの糖アルコールまで含むようになる。

lccɒɑɔnȷ ［化学］ 解糖 µſ;/ ɺɱ

lccɒbez ［医療］ 糖尿病 ［レベル］4 制

lccɒı ［文末純詞］ ［ɒıɥə］ ſcȷee ［レベル］1 ɺ1:əɒſɔnı/Ʌlccz:lcın ɒıl

lccbel ［建築］ シーベル大聖堂 ［レベル］5 ɿſ;「天井の高い」 ɺ1 ［文化］ ıµueſſe 北部の教会。元はアルテ教の建物があり、何度も改装されてきた。

lccz ［植物］ 甘草、リコリス ［レベル］3 古

lcczlcı ［料理］ お菓子のリコリス、リコリス ［レベル］3 19: 制

lccz ɥəſcı ［人名］ シーズ＝ユティア ɺ0:µcɑcı:ɒcµɔɿ ［文化］ ミロクの養母。ミロクが７歳のときにミナレットの焼き討ちにあって死亡する。

lccze ［料理］ シーゼ、セルツ、シーゼ飲料、イタリアのセルツ ［レベル］3 ɺ0:lıc/φıel ［文化］ φızel に砂糖を加えたもの。こちらも一般的。µɑ で φızel を参考にアルバザードの民衆が作った。アレイユで見直され、一般化した。喫茶店などで飲める。味が単純すぎるため、ヴェレイにはほとんど飲まれなかった。そのため、年配のアルバザード人は名前からリコリス入りだと勘違いしていることが多い。

lccs ［料理］ シロップ、シラップ ［レベル］3 zφ;lc/sıφ「甘くて粘っこいもの」 ɺ?

lccl ［名詞］ ペット ［動詞］ ɥəl を飼う、飼う ［類義語］ uıɿn ［レベル］3 1L:「可愛いもの」【用例】 lccl ɿeſ ネコを飼う ［文化］ ＜飼うか否か＞ ペットは精神衛生上良いとされる。ペットセラピーの効果は認められている。だから多くの家はペットを飼う。集合住宅でも大抵は飼える。但し、赤ん坊や妊婦がいる家では若干倦厭される。 ＜種類＞ ふつう犬か猫。鳥がかろうじて飼うくらいで、爬虫類や両生類はほとんど飼わない。虫はまず飼わない。結局、哺乳類しか飼わないわけだが、家のスペースからして犬猫しかありえない。馬は狭くて無理がある。 ＜入手方法＞ 原則として人からもらう。あるいは捨て猫や野良猫を保護する。もらう場合、知人からもらうか、広告などを見てもらう。マニアの場合、血統書つきの猫をもらうときは大抵ブリーダーからもらう。ブリーダーが無償でくれることは少ない。かかった費用分は請求される。かといってブリーダーも利益分は請求しない。入手したペットは必ず国へ申告しなければならない。赤ん坊が生まれたときと同じである。すると誰のペットかわかる登録データを組み込んだ首輪が支給される。飼い主はそれを着けなければならない。 ＜名前＞ 子供のように育てることが多いため、人間の名前を付けることが多い。したがって神の名を付けることもあるし、それに対して抵抗もない。また、特徴で名付ける場合もある。白いから ɑcµ、まだらなので dɔſȷ など。よくある犬の名前は ɿclſ と ɿɔɔɒı。 ＜世話＞ 犬猫に共通して、餌を定時に与えることが第一である。飼い始めは注射させるのも義務である。ノミ取りなどもする。グルーミングや歯磨きは毎日でなく偶に行う。長毛種だと毎日行う必要がありうる。また、毎日必ずトイレの世話をする。犬の場合は散歩中で糞をすればそれを回収する。糞が触れた砂や土は汚れているので、糞と合わせて回収する。猫の場合はトイレで用を足すので一日に数回回収する。世話は飼い主が主にするが、時間

の都合上、家族の手の空いた者が行うことが多い。犬の場合、散歩をさせる。室内犬でもある程度散歩をさせる。猫の場合、これといって世話をしなくとも自由気ままに生きているので手がかからない。
　＜飼えなくなったら＞　何かの理由で飼えなくなった場合、引き取り手を探し、譲渡する。もし見つからなければ自分で殺すか国に頼んで殺してもらう。捨ててはならない。罰が嫌だからと首輪を外して捨てるのは得策ではない。車検と同じく動物病院への定期検診が義務付けられているので、勝手に捨てればバレる。

lccɱeɪɔᴅ ［医療］ペットセラピー　［レベル］5　1L

lccliʃe ［名詞］ペットショップ　［レベル］4　1L

lccliȷ ［動詞］ɥəl をかわいがる、かわいがる、可愛がる、大切にする、あやす　［類音］lccɪliȷ　［レベル］3　1L:clᴅəȷ:ᴅel:ɥəlcɪ に対する自分の態度を lccɪliȷ（甘い手）と呼び、この語に縮めた。【成句】 lccliȷ ȷeleȷ「いのちをだいじに」：ディア＝ヴェール中でＡＩのキャラクターに出すことのできる命令のひとつ。これを命令すると、味方キャラは回復と逃亡を優先する。

lccliȷʃɪal ［動詞］ɥəl を懐柔する、懐柔する、手懐ける、手なづける、てなづける　［普通動名詞］懐柔、手懐け　［レベル］4　ɹɹ【用例】 ɪlȷɔn el ɪμ ȷen lccliȷʃɪal ɪ ləəȷ ȷɔael eᴅɔ hɪliȷ nɪlcl ɪ ləəȷ" だからこそ居場所を与えてあげればあっさりと懐柔できる」

lccle ［経済］後場　［レベル］6　ɹɹ

lccɪ ［名詞］あなた、ディアー、スウィーティ、ダーリン、ハニー、スイートハート　［丁寧］［形容詞］［μenʃe］甘い　［婉曲］［動詞］［μenʃe］ɥəl にキスする、キスする　［レベル］2　古 :「恋人」の別称。lccnɪ「好き」から来た説と lcɪl「甘いもの」から来た説がある。　［語法］　恋人として好き合っている者が相手を指す呼び方。男女の別は無い。

lccɪʃeeze ［交通］［魔法］甘い風　μɑ:μcɑcɪ;/　ɹɱ:μcɑcɪ　［文化］ ɿɪleɑuəla

lccɪȷel ［婉曲］［μenʃe］クンニリングス、クンニ　［動詞］ɥəl にクンニリングスする　［類義語］ᴅenɿəc　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 甘い唇　［文化］
　前戯として行う。古代ローマと違って屈辱的な行為ではなく愛情の表れとされた。愛情の表れであるため、売春婦などにはあまりしない。

lccɪn ［普通動名詞］ディープキス、フレンチキス、舌キス、舌を絡ませるキス　［動詞］ɥəl にディープキスする、キスする　［類義語］lcɿȷ、ɪləl、lcɿə　［レベル］4　ɹ1:ɿlccz<lcɪn: 古 :ɿlccz: 語源不詳。仮説 lcɿə からの推移で lc は「甘い」だとしても ɪn が不明。原型が lcɪn だったかも怪しい。これより古い形があったのでは？　［語法］　lcɿȷ

lccɪuɔμʃ ［医療］腹上死　［レベル］5　μɑ;/「甘き死」。セレンが死ぬときはリディアとともに腹上死したいと言い、それを甘い死と呼んだことから。　ɹʔ　［語法］　訳語は腹上死だが、どの体位で死のうが関係ない。

lccɪᴅɔɿl ［名詞］ラブホテル、ラブホ　［レベル］4　ɹɹ　［語法］　ご休憩は ɑəμne、ご宿泊は ucμɑ と言い習わす。　［文化］　南区などにまとまって存在する。個人の売春婦などが立ちんぼをしていることもある。

lccɪɑəμne ［普通動名詞］夜這い　［動詞］ɥəl を夜這いする、夜這う　［レベル］4　ɹɹ:「甘い夜」

lccɪsczɔl ［音楽］アコースティックギター　［レベル］5　ɹ1: エレキより音が甘い

lccɪliȷ ［婉曲］［動詞］［μenʃe］ɥəl を愛撫する、愛撫する、ペッティングする　［普通動名詞］愛撫、ペッティング　［類音］lccliȷ　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 甘い手

lccɪlccaɪ ［天文］アルビレオ　［レベル］5　1L:μcɑcɪ/ȷeμen/ᴅel: Ｄｅａｒ Ｓｔａｒ　［文化］　リディアの星アルタイルをファルアモンの星ベガから守ろうとするセレンの星のこと。lccɪ はここではセレンを指す。アルビレオはリディアを守る星であるが、恐らく lccɪ の英語訳がＤｅａｒで、それを μcɑcɪ にかけているのではないかと思うが、アプリオリなのでリディアはその設定を公式とはしていない。

lcce ［名詞］優しい嘘、人のためを思っての嘘　［レベル］4　1L:lc（古の甘い）/ɑce（嘘）　［語法］　夢織の優しい嘘とは意味が違う。幻覚のことではない。本当のことを言うと傷つくときに、あえて嘘を言うこと。罪にはならない。本当のことを言うと自分が困るときはやさしい嘘ではなく、ごまかし。あくまで人を思っての行為。

lcɔ ［電算］ハッカー　［レベル］4　μɥəə: 恣意

lcɔȷn ［生物］後頭部　μɑ;/　ɹɱ

lcɔȷnoɪl ［生物］外後頭隆起　μɑ;/　ɹɱ

lcɔȷnoɪlμecn ［生物］上項線　μɑ;/　ɹɱ

lcɔn ［人名］→ lcɔn ɪᴅɪnze。シオン＝アマンゼ。アルティス教の開祖。
　［人名］→ lcɔn hɪzɿc。初月紫苑。『紫苑の書』の主人公。

lcɔn(ɹ) ［地名］シオン山　［レベル］5　ɹɹ　［文化］　サプリの村の西にある山。μɑ でセレン＝アルバザードが転生した場所。

lcɔn ʃ'ɪnsəμ ［名詞］紫苑祭、シオン・タンジュール　ɹ1　［文化］　アルナ大のメルセルの学園祭。lcɔn ɪᴅɪnze に敬意を払い、この名になっている。

lcɔnlcɪn ［建築］シオンシアン宮殿　［言語］［文字］トランジショナル　ȷᴅ;「武器庫」　ɹ1　［文化］　ȷᴅ で要塞だった城を改築して建てたルティア首都の宮殿。トランジショナルが流行った。

lcɔnφɪnɑ ［名詞］魔枢軸、シオンガンド　ȷᴅ;uellcɔn/belφɪnɑ　ɹɱ

lcɔn hɪzɿc ［ユマナ］［人名］初月紫苑　1ʕ:ȷeμen: アルカでなく日本語の名前　［文化］　(0 ɑcɪ ɑcɪ_ʔL ɑɥə ɑəl)『紫苑の書』の主人公。１６３ｃｍ、４９ｋｇ。日本の女子高生で、１７歳の誕生日に物語が始まる。悪魔メルティアによってアトラスに召喚され、少女レイン・青年アルシェらと出会い、悪魔の杖ヴァルデを巡ってアルバザードを救う。レインやアルシェと異なり、アトラスでは架空の人物。

lcɔnɪ ［植物］カモミール、カミツレ　［レベル］3　μɑ;lcɔn　古 :μcɑcɪ:lcɔn（シオン、カモミール）。lcɔn はカモミールだったが、リディアによって人格化され、固有名詞になった。元の意味であったカモミールは追い出され、ɪ を付けられて区別されるようになった。　［文化］　代表的なハーブのひとつ。安定作用がある。

lcɔn ɪᴅɪnze ［人名］シオン＝アマンゼ　［レベル］2　μcɑcɪ: 古 :「カモミール」　［文化］　アルティス教の始祖。

lcɔn ɪᴅɪnze(ɹ) ［人名］シオン＝アマンゼ　［レベル］5　ɹ0:μcɑcɪ　［文化］
セレンとファミイの娘。セレンがファミイと浮気した際、カモミールを彼女に贈り、ファミイをカモミールに喩えた。ファミイはその際に懐妊していたが、そのままアマンゼ家に嫁ぐ。夫はその事実を知らぬまま、自分の子供として娘を受け入れる。ファミイがその娘にシオンと名付けると、セレンはそれが自分の子供だと気付く。
一方、シオンは成長すると、セレンとリディアの息子のユルトと出会い、恋に落ちる。その結果、シオンはユルトの息子を出産する。この血筋がやがてアルティス教の開祖シオン＝アマンゼに繋がり、ミロク＝ユティアに繋がる。　つまり、ミロクにはセレンとリディアの血が入ることになる。アリシアやミーファが青い目と緑の目を持つのは、ファミイとリディアの血が濃厚に現れたため。

lcɔn ɪᴅɪnze(ʔ) ［人名］シオン＝アマンゼ　［レベル］5　ɹ1　［文化］　ファミイとセレンの娘。公式にはファミイとエヴェルの娘。ユルトと出会い、恋に落ちて娘の lɔɔzɪ を成す。lɔɔzɪ はセレンとリディアの血が入っていることになり、これがアルティス教の教祖シオン＝アマンゼ、そしてミロク＝ユティアの祖先である。

lcɔnɪeʃeɿ ［料理］カモミールティー　［レベル］3　μɑ;/　ɹʔ

lce ［料理］蜜　［レベル］2　1ʔ: 制 :lɪɱɪ:lceμcɪ（甘い水）　［語法］　プロトタイプはハチミツ。

lceʃʃɪ ［名詞］ツンデレ、シエッタ　［レベル］4　ɹ0:ᴅel:lccɪ/eʃʃɪ（甘いお姉ちゃん）　［語法］　語法を書くより「ツンデレ」と言ったほうが早いだろう。

lceʃʃɪueʃ ［言語］ツンデレ語、照れ隠し語　［レベル］4　ɹ0:ᴅel　［文化］　ツンデレ語は２種類の作り方がある。　１：アクセントの位置を変える。ȷenʃɪnʃ を ȷenʃɪnʃ' と発音することで、照れ隠しをするなど。　２：単語の一部を変える。ʃcɪʃc と言うのが恥ずかしいので、ʃcɪʃɥə としておどけるなど。　ツンデレがよく使うが、エタットは照れ隠しをする際にツンデレ語を使うことがある。

lceȷʃɪ ［魔法］月光蟲　［レベル］6　ɹ1:lelʃ/eȷʃɪ「月の蛍」　［文化］　ɑɔlᴅcɥə

lcen ［接続詞］lc。～の後ろに。　［レベル］3　1L

lcen(ɹ) ［植物］つつじ、ツツジ、アザレア　［レベル］4　1L:lcecn（密の花）　［文化］　歩道によく咲いている。子供たちはおやつ代わりに花をもいで蜜を吸う。ちなみに有毒だが、少量しか摂取しないため、アルバザード人はあまり気にしていない。【用例】 ☆ "ᴅcuɪ nɔɪn ȷcd lcen ȷccnɪl, ʃeʃ ʃə eʃ μɪɿ lel nɔn nɔl ʃəəȷ ɪ uɪel eɥɔ8"「娘がツツジを吸ってるんだけど、瓶詰めにするのはやりすぎかしら？」［言葉遊び］lc en lcen lcen lcen ツツジの後ろにあるツツジでないものの後ろに

lceu ［言語］後置　［レベル］4　ɹ0

lceμ ［サール］シエル。冬を司る女神　［形容詞］色が冬めいた　［形容詞］冬の　［名詞］冬　［組み数字］4 / 4　［レベル］2　古 :μcɑcɪ:lceμ,lcel,ɿee(冬)に関連。ɿee の e は eμcɪ で、水。転じて冷たい、寒いの意味。lc はふつうに考えれば甘いだが、なぜ甘いなのかは分からない。他の可能性もあるが、造語者が既に忘れている。アルシエルの中では一番にできたのでこのときはまだ神格化が弱かったと思われる。ゆえに lc は ɪlʃe や ɪlcȷ と違って神に関係のない意味かもしれない。恐らく lceμ は元は冬の神ではない。一番はじめにできたということはまだ他の三人はいなかったのだから、四季の神として作ったはずがない。それなら同時に四人作ったはずだからである。となるとシエルは単に水の女神だったのではないか。lc は甘いだが、lcɿə などでは転用して魅惑的なという意味になる。魅惑は女神を表わすので、lceμ は水の女神と解釈するのが妥当だろう。そしてその後、その eμ が後に水でなく寒いで解釈されるようになり、冬の女神になって四季を作る必要性がでたか、或いは四季を作るためにシエルを冬に配置したのかのどちらかであろう。　::lɪ ɑcɪleμ:ᴅcnɪᴅc,ɪlʃ, leeben,ul　［文化］
アルシエルの一人。冬を司る女神。方角では北。アルバザードは北半球で、北に行くほど寒い印象がある。【成句】 lceμ ɪȷel lc enɪ シエルは泣いた後に笑う：三寒四温【用例】 lceμ lənɪ. 冬になる。
ɑcȷ ɪʃ ɥən lceμ. 今日は冬が来たようだった。　ɪn nɪ ɿcʃ lceμ. 冬の気配がし始めている。　ʃə ɪʃ ᴅelʃ lɪlʃ lceμ. 冬にしては暖かかった。
　ɪn ȷɪʃ ɑɪl lɪnɪ lceμ. 冬に備えなくてはならない。

lceμʃɔɔɿ ［気象］晩冬　［レベル］4　μɑ;/　ɹʔ

lceμɿɪȷ ［地球の星座］［ユマナ］冬の大三角　ɹɱ　［文化］　caɪ

lceμɿcʃ ［気象］初冬　［レベル］4　μɑ;/　ɹʔ

lceμleɱ ［気象］冬至　［レベル］3　1L:clᴅəȷ:μcɑcɪ: シエルの月散歩。冬至ごろは昼過ぎから既にアルバザードでは日が暮れ、ふつうに帰宅しても暗い道を歩くはめになってしまうことから。

lceμnɪɿeɪ ［歳時記］冬休み　［レベル］2　ɹ1:μcɑcɪ　［文化］　nɪɿeɪ

lceμuɪu ［運動］ウィンタースポーツ　［レベル］4　1L【用例】 ɪn ȷccnɪ lc eμuɪu ɥən ȷɪezɔn. スキーみたいな冬のスポーツが好きだ。　ɪn ȷcc nɪ lceμ nɔɑ ɑleɪ ᴅɪn ɪn ɪμ ȷen uɪu ɑcdcʃ cᴅ ʃə ɪμlcel. 色んなスポーツができるので夏より冬のほうが好きだ。

lceμhɪrl ［名詞］幼字 lceμ のこと　［レベル］3　ɹ1

lceμhɔμɑ ［地球の星座］［ユマナ］冬のダイヤモンド　ɹɱ　［文化］　caɪ

lceμμɔᴅɪ ［医療］急な悲しみの発作　［レベル］5　1L: シエル発作【用例】

ʃə eʃ ɑız ı lı lel lı ıɥcl lceɥɥɔɒı ɒın lı ʃcɑlıʃ ɒcuı ɒcl ɟɔɑı ı. そりゃ事故で娘さんを失ったら急に落ち込みもするわな。

lceɥscɔɥ ［生物］下髎　⌋1

lceɥlcl ［化学］ラジウム　［レベル］5　1Δ: 制

lceɥlɔɔb ［被服］コンチネンタルハット　ɟɒ;/　⌋⋒　［文化］　ɟɒ の ⌉ʃ ででできた。冬場にかぶられる。

lceɥlecn ［被服］冬服　［レベル］3　1L　【用例】　ın ɟıb uın lceɥlecn ɒıd el. もう冬用の服を着よう。　ın ılɟıb ucl lceɥlecn dɔd dɔʃ ez ıɟ cɒ ʃəɔ. 最近は部屋の中ですら厚手の冬服を脱いでいられない。

lceɥɔlɒı ［名詞］表４、裏表紙→ lec　［レベル］3　⌋⌋

lceɥeɥc ［医療］ＡＢ型　［レベル］2　1L　［文化］　ＡＢ型は天才肌で完璧主義で変人が多いと思われている。

lcel ［遊離副詞］［形容詞］恐らく、もしかして、ひょっとして、まさか、もしかしたら、かもしれない　［レベル］1　1L: 恣意　［語法］　ılɘɘʃ

lcecɒdc ［動物］蜜蜂、ミツバチ　［レベル］3　1ʕ: 制

lɔ⌉ ［副詞］互いに　［名詞］相互　［形容詞］相互の　［レベル］2　1ʔ: 制　参考 : 古 :ʃɟəl（相互の）【用例】　lıɟ cnıʃ lɔ⌉. 彼らは見つめ合った。　lıɟɟ cnıʃ lɔ⌉el. 同上

lɔ⌉⌉e ［動詞］ɥəl とすれ違う、すれ違う、行き違う　［普通動名詞］すれちがい、すれ違い　［レベル］3　1ꝑ: 制

lɔ⌉leʃ ［名詞］おたがいさま、お互い様　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

lɔ⌉l ［動詞］ɥəl を ı に向き合わせる、向き合う、対立する、対峙する　［普通動名詞］対立、対峙　［レベル］4　1L:lɔ⌉eel

lɔ⌉lʃc⌉ ［数学］対頂角　［レベル］4　1L

lɔ⌉ıʃc ［電算］互換性　［名詞］(ʃcl) 対応している、互換性がある　［レベル］4　1L:lɔ⌉/ıʃc（相互性）【用例】　ʃə ɟıc ʃcl lɔ⌉ıʃc ı bc⌉ı. このパソコンはマウスに対応している。

lɔ⌉eʃ ［形容詞］食い違った、食い違う、行き違う、不一致な、ずれている、ズレている　［反意語］lcɥcʃ　［レベル］4　⌋1:lɔ⌉⌉e「すれ違う」

lɔ⌉eʃeʃ ［魔法］異性　［レベル］5　⌋1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

lɔɟ ［生物］背中　［動詞］ɥəl をおぶる、おぶる、背負う、せおう　［普通動名詞］おんぶ　［名詞］背、背表紙→ lec　［レベル］1　ɟeɥʃ　1ʔ: 制 : 古 :lə　lə:lə :lə ʃɥc⌉ɔ（腹が女性でその対）:ɒınıɒc,ılʃ　［語法］　広義には背部全体を指す。狭義には腰を除いた上背のみを指す。　［文化］　ルクレティアでは深刻な疲れは背部に現れるとされる。scɔɥ 系の兪穴が散見されるのも背部であることを考えると理にかなっている。　【用例】　lɔɟ hın e ⌉ıın 父の大きな背中　lɔɟ eɟ ⌉cɒ 腰が曲がる

lɔɟɟ⌉cl ［名詞］背中のある椅子　［レベル］3　⌋0

lɔɟɟɔs ［生物］脊椎　［レベル］4　1L

lɔɟuıc⌉ ［生物］背部。胸部と腹部の後面全体。　ɥɑ;/　⌋⋒

lɔɟucɒ ［生物］広背筋　［レベル］5　⌋⋒<1ʕ: 制

lɔɟhɔ ［生物］背骨。lez の日常表現。　［レベル］2　1ʔ: 制 : 背中の骨

lɔn ［形容詞］複雑な　［類義語］ɒelcıl　［反意語］ɟeɒ　［レベル］3　＠ 1L　［語法］　lɔn は標準的な言い方。ɒelcıl は持って回った言い方で、「複雑な上に解くのが難しく難儀だ」という心理を含む。

lɔnʃ ［動詞］ɥəl に間に合う、間に合う　［反意語］ʃclɑ　［レベル］3　1⋒: 制　参考 : 古 :ılɒel（正しい時間）【用例】　lɔnʃ lɔd 電車に間に合う　lɔnʃ ɑleını⌉eı ɔn lıb 仕事が夏休みに間に合う

lɔnucɥɔ ［化学］複合タンパク　1L:ɟeɥen

lɔncnɟı ［ユマナ］繁体字　［レベル］6　1L

lɔne ［数学］偏差　［レベル］4　＠ 1L　［語法］　母集団の平均値との差。偏差は母集団内の個々の要素に対して定まるもの。平均の対。

lɔneıll ［数学］偏差値　［レベル］4　1L:ɟeɥen

lɔɒ ［格詞］［文頭純詞］それで、弱結果　［レベル］1　1L:ɟɔn を弱めたもの　lɔɔ:lɔɔ:dıɑeʃ:ʃɟəlcɟɔ,ılʃ

lɔb ［名詞］リュック、リュックサック、バックパック　［レベル］3　lı⌉ʃı: 背中の袋

lɔc ［料理］味、風味　［レベル］2　1ʔ: 赤 :lı　［文化］　一般的に薄味を好む。味付けも香辛料を好み、塩やソースなどはあまり多用しない。香辛料も決して多く入れることはない。味の中では辛い味を好む。香辛料を使う機会が多く、比較的寒い地方が多いためである。また、健康のために酸っぱいものも好まれる。甘いものはエネルギー補給の目的で好まれる。塩はなくてはならないものであるが、取りすぎに気をつけられる。尚、アンシャル料理はそもそも塩分が少ないので、アンシャル料理を食べている分には塩分は気にならない。インサール料理のほうが油や塩が多いため、気をつけられる。油は植物油が好まれる。あまり大量に使わないように気を使う。　【用例】　lɔc neı 濃い味　lɔc φın⌉ しつこい味、脂っぽい味　lɔc ıʃl{ɥıʃ} おいしい味　lɔc zıl 変な味

lɔcʃ ［動詞］ɥəl を味わう、味わう　［文末純詞］味覚での推量。～なようだ。［レベル］2　1ʕ: 制 :lɔc/ʃıb

lɔcʃnı⌉l ［生物］味覚　［レベル］4　⌋1

lɔcʃlɔz ［料理］口内調味　［レベル］5　⌋ʔ　［文化］　凪人のように主食が米と決まっている民族はするが、アルバザード人一般はしない。

lɔɔ⌉ ［動詞］ɥəl について ı と会話する、会話する、対話する、話し合う　［普通動名詞］会話、対話、話し合い　［レベル］2　1⋒: 制 : 互いに喋る　［語法］　lɔɔ⌉ は雑談内容。lɔɔ⌉el は雑談すること。　［文化］　会話は他人に聞こえない声で話すのが礼儀。大声で話してはいけない。うるさいのは日本やフランスや北欧同様無礼となる。　【用例】　lc ɑənel ɔ lɔɔ⌉, ılʃe ʃıbɔɥ ʃel l'eʃ ɔn ı le uecɒ ⌉ɔnʃ ɟın⌉eɟ 夕食と雑談の後、アシュテはねっ転がって事件に関連する情報を調べていた。　ɟɔn ıɥ lccʃ lɔɔ⌉ ɑə ɑcl じゃあしばらく話でもしよう。　ı ɥı. lcn⌉, ın en ɟccnı lɔɔ⌉ ɔnen uelɟ ılen leɟ en lıɒ ɒcɥɔ⌉czɒ əl ɑılcɟ ınʃeɟ ɒın φıılɔ lɔɔ⌉ ɟɔɑ ɟen ʃɔu ıʃʃı. ええ。まぁミロク革命や僕らの正義観に合わない人と政治の話をするのはいさかいの種になるので好きではないのです。　⌉ı ɑıʃɔɔılnı, ın lɔɔ⌉ıʃ oıcn, ɟeʃı e lınlel, ılın oen ıl cɑcn ɔ lcɑen le ɥı lınlel ⌉ɔ⌉. 稽古上げで、町内の古老や若い人と祭のことや町の歴史のことや社会のことについて話した。

lɔɔ⌉⌉cʃ ［名詞］話の切り出し　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ　［文化］　用や言いたいことがある人が切り出す。今は自分が話してよい場面であるという状態なら良いが、人が話している途中など、話してよい場面でないときは嫌がられる。切り出すときは ılʃɔɔ,lcn⌉,nee などといって切り出す。一対一の会話でも多数との会話でも使える。いずれにせよそう言い出した人のほうを聞き手は見る。目上に向かって切り出してはいけないということはない。言いたいことがあれば言う。勿論、相手の機嫌が悪いときは黙っていることが良いときもある。　【用例】　☆ ın nıʃ delɟ ɒın scnɟ ucl ı⌉ nɔɟ ɑcʃ lɔɔ⌉⌉cʃ. どう話を切り出せばいいか分からず困った。

lɔɔ⌉lıl ［名詞］演習、対話式講義　［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

lɔɔ⌉ɟcnɟɔl ［名詞］トークショー　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

lɔɔ⌉ɑıcɒ ［名詞］話の切り上げ　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ　［文化］　誰かが話しているときは切り上げるのは話し手である。聞き手から切り上げるのは失礼である。もし時間がなくて切り上げる場合は denʃ と謝ってから切り上げればよい。話し手が自分の話題を切り上げる分には問題ないが、会話そのものを切り上げるのは問題がありうる。相手が次の話題を用意しているかもしれないので、勝手に会話を打ち切るのは良くない。状況を見て判断する。相手が話したいようなら切り上げずに相手が喋るかどうか見てから切り上げる。時間がなければ事情を話して切り上げる。お互いがタイムリミットを知っていればより好都合である。タイムリミットが迫っていることを知らせて切り上げればよい。　エレベーターの中で会って話している場合、目的の階に着いた時点がタイムリミットである。そのタイムリミットがいつかは大体分かっているので、その階に着けばどちらともなく ɑɔɔ などといって切り上げて別れる。エレベーターで切り上げるときは目的の階に着いたら lə⌉ɔ⌉, ıʃə などといって切り上げる。「着いた」「ここです」という意味である。降りる人が ı, ıʃə などといえば相手は ɟɔn, ɑɔɔ という。降りる人も ɑɔɔ といって別れる。また、友達や恋人と会っているときは ın ⌉ɔlʃ ɑıl ɥı（もう帰らなくちゃ）といって切り上げることがある。

lɔɔ⌉ıb ［名詞］話題　［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılʃe

lɔel ［名詞］［形容詞］偶然、まぐれ、奇遇、蓋然、蓋然性、偶々、偶、たまたま　［反意語］ɟʃecl　［レベル］3　古 :lɔel（偶然）【用例】　lɔel ʃcn 著しい偶然、奇跡的な偶然　ın ı⌉ʃıʃ lı lɔelel. 偶然彼に会った。

le ［代詞］何か、誰か。特定の指示代詞。　［レベル］1　1ʔ: 恣意　【用例】　le eʃ ɟıı⌉ ɔn ʃə ı. これって何か引っかかるんだよな。

leʃ ［名詞］迷惑、悪い、面倒　［レベル］3　1ʔ: 制 :leʃ（無用）:lıʃ の対。新の語義は制の enl に当たるもの。　［語法］　アルバザードは個人主義だが、自分の自由を守るのと同様に、他人の自由も確保しようとする。日本は個人主義を掲げて進んでいるが自己中主義になっている。アルバザード人は自分も他人も等しく個人と考え、どの自由も確保しようとする。そのアルバザード人にとって leʃ という概念は非常に重要である。leʃ は他人の個人主義の侵害を意味する。日本人が言う「迷惑」などにあたるが、文化的に意味が違う。日本人は恥の文化やウチソトの文化から迷惑と感じるが、アルバザード人は個性の侵害という文化から迷惑と感じる。　日本人が「いや、それは悪いからいいよ」とか「迷惑でしょう？」という場合、アルカでは leʃ という。　【成句】　ɟclɒ ʃə ɑe leʃ もしご迷惑でなければ　【用例】　ʃee ɥe, ʃə{ın} eʃ leʃ ＝ ʃee, ın ɟcn leʃ. いいよ、悪いから

leʃɟ ［法律］倫理、道徳、モラル、モラリティ　［レベル］3　1L:ɟeʃɟ:1⋒: 制 : 語源クミールが無礼を怒るときにいう言葉 leʃʃɾ（なんて無礼な！）。その語の真の意味は不明だが、「 貴方は道徳に反している。改善なさい 」という意味だろう。　［文化］　先に結論を書くと、道徳は教えるものではなく、常識として刷り込むものである。　道徳は教育において最も重視され、知育や体育よりも重視される。とはいえ、アルバザードには「道徳」の授業がない。道徳は口で教えて子供が習得するものではないと考えているためである。　「物を盗んではいけない」と口で教えることは、まったく意味がない。聞く子供は始めから盗まないし、盗む子供は始めからそのような説教に耳を傾けない。従ってこの手の説教はまったく効果がない。説教が効果的なのは、罰が怖い場合か、たまたま子供が「あぁそうだな」と共感した場合であり、共感しない子供には何を言っても意味がない。　ではアルバザードはどのように道徳教育をしているのだろうか。人が物を盗まなくなるとしたら、それは誰も物を盗まないからである。盗まないのが当たり前という環境が、最も教育効果がある。汚れた道に物が捨てられやすいのと同じく、周りがしていることにはつられやすい。逆に、周りが当然しないことはしにくい。理屈よりもこちらのほうが遥かに効果的である。　子供に礼を言わせるようにしつける際も、子供に「礼を言いなさい」という必要はない。ただ黙って大人がさも当然のように他人に礼を言えば良い。そうすれば自然と子供はそれを真似る。道徳教育は口で行うものでなく、環境を作ることで子供の脳内に「それが常識」と植えつけるのが、最も効果的である。　ゆえにアルバザードでは、道徳的な環境を作ることを徳育とし、ならびにその環境を破壊しようとする悪人を排除し罰することを徳育とする。つまり、教師や大人が道徳的な環境を責任もって作り、維持し、違反者を排他する。それにより、次世代に道徳が受け継がれる。　もちろん、口頭による教育をしないわけではない。日本と異なり教師も親も周りの大人も子供を注意するし、場合によっては大人も大人を注意する。それが国民の義務であり、「注意して喧嘩になるのは嫌だな」ではすまされない。喧嘩に自信がないのなら

周りの民衆に協力を得る（たいてい協力してくれる国民性）か、警察に通報するなりしてでも、悪人の排除に貢献する。

leſʝael ［哲学］倫理学 ［レベル］4 ʆ1 ［文化］ ɑɔlɒcɣə

leſɑcɪ ［医療］統合失調症、精神分裂病、統失、糖質 ［レベル］5 1L:「迷惑な夢」。幻覚などをここでは ɑcɪ としている。迷惑なのは本人にとってか周りにとってか分からないが、恐らく両方とも大変そうなので、両方だろう。

leſı ［名詞］ゴミ箱、ゴミ入れ、三角コーナー、ダストボックス ［レベル］3 1ℙ: 制 :leſlɔu（ゴミ箱） 【用例】 ɪn ucnʝıſ ucl ɒıɑc ıʝ ı leſı ıləəſel e. 指輪をゴミ箱に捨てた覚えなんてないよ。

leſɔn ［植物］楠、楠木、樟、くすのき ［レベル］4 ʆ0:lılſı:leʅſ。leʅſ/ɔn

leſe ［遊女］［文末純詞］ʝeſe ［レベル］4 ʆ1:ʝeſe

leſəl ［代詞］何か ［レベル］2 1L

leſəleſ ［代詞］誰かの ［レベル］2 1L

leʅ ［形容詞］特定の、定まった ［反意語］ɑcʅ ［言語］定性 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ıɥbılelſ:le

leʅſ ［名詞］皺、しわ ［レベル］3 1ℙ: 制 :lɔʅſ。1ℙ 年に ɑcʅ と交代させた。 【用例】 ʝıb ſclıſ leʅſ. 服に皺が寄っていた。 ʝeɑ leʅſ 皺を取る

leʅſı ［植物］シナモン、にっき、ニッキ ［レベル］3 1ⅿ: 制 :lılſı:leʅſ

leʅſıɔn ［植物］肉桂、ネッケイ、シナモンの木 ［レベル］4 19: 制 :leʅſızɔɒ

leʅʝ ［形容詞］価値のない、無意味な、質の悪い ［反意語］ləɑcl ［類義語］lcɑ ［レベル］3 1ʕ: 制 ［語法］ leʅʝ

leʅuınſe ［言語］定冠詞 ［反意語］ɑcʅuınſe ［レベル］4 ʆ1

leʅɒel ［名詞］［形容詞］共時的な ［反意語］uıɥɒel ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:ıɥbılelſ

leʅɣəɔ ［言語］定動詞 ［レベル］5 ʆ0 ［語法］ 目的を持った動詞で、必ず有界動詞。 例えば「歩く」の場合、歩いて駅まで移動する場合は、定動詞になる。 スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。 定動詞の非単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。 単位と非単位の区別はあらゆる動詞に存在するが、定不定の区別は「歩く」や「書く」など、限られた動詞にか存在しない。

leʅeſ ［動詞］ɣəl を ı になりすませる、なりすます、成りすます、詐称する、見せかける、みせかける、ふりをする、フリをする、振りをする ［普通動名詞］なりすまし、成りすまし、詐称 ［レベル］3 ɥɑ;/ 古 ılelſelſɔ で、ıleʅ と同根。 ʆʔ

lele ［名詞］何々、～、程度の分からないある程度の ［レベル］2 ʆ0:ʅıl ce:le/le

leʝ ［名詞］ロボット ［レベル］3 ɥɣəə:lılſı

len ［動詞］ɣəl を飲む、飲む、呑む ［類義語］nıφ ［反意語］ʅəc ［ɥenſe］［動詞］ʅəc/len。食べると飲む両方の意味に使う。 ［レベル］2 ʝeɥſ 1ʔ: 制 :len（飲む）: 古 :ʝɔɥn:lɔn（食べ物） ʅəſʝ:ʅəſʝ:euɥenl ［語法］「お茶でも飲みませんか」をアルカにどう訳すかという問題だが、そもそも「お茶でも」と濁す表現が日本語的であって、アルカでは「お茶飲みませんか」と言うほうが自然で、わざわざお茶の部分を濁すという言語表現自体を英語と同じくしない。つまり、len lccſ ɑc ɔuıen eſe8 ではなく、len lccſ eſe8 が自然ということになる。 【用例】 len dcſı 薬を飲む。食べる薬もある。その場合は ʅəc。

lenʅ ［動詞］ɣəl を編む、編む ［反意語］ʝɔɒſ ［レベル］3 @ 1L ［文化］ ɒeld 【用例】 nɔn ɑcınʝıſeʝ ıɒɔl eeſı le lenʅɔɥ le ʅɔnſ ɥenʝ ɣəə. 私は姉が編み物をする横で、黙って座っていた。

lenʅncɪ ［美容］三つあみ、みつあみ、三つ編み ［レベル］3 1L

lenlɔɥ ［生物］食道 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ıɥbılelſ: 嚥下する筒

lenlɔɥɑıcz ［医療］食道炎 ［レベル］4 1L

lenlɔɥdcφ ［医療］食道がん ［レベル］4 1L

lenıɒ ſcɣeɒnı ［人名］シェナム＝ティイェムナ 語源不詳 ［文化］ ギルが花屋でバイトをしていたときの常連客だった少女。親の手伝いで買いに来ていた。ギルに好意を持っており、ギルも可愛がっていた。メル 11 年ごろの話。準ハルマではないが、ギルを通してこちらの数人と面識がある様子。

lenɔn ［代詞］［ɒıɣə］あたしたち、あたしら、アタシら ［レベル］2 ʆ1:ʅlc cz:ʝe/nɔn の弱化。

lenɔl ［料理］飲み物、ドリンク ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆʔ

lenɔın ［代詞］［ɒıɣə］あたしたちの、あたしらの、アタシらの ［レベル］2 ʆ1:ʅlccz:ʝe/nɔın の弱化。

leneɥ ［名詞］飲み水、飲水、飲料水→ eɥcɪ ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆʔ

leɑ ［名詞］息、ブレス ［動詞］ɣəl に息を吹く、吹く、吐く、手や蝋燭や人に息をかけること。人にかける場合とはたとえば飲酒運転の取り締まりで検査する場合である。 ［類義語］ſɔɥſe ［レベル］2 ʝɔɥn ［語法］ 若い女が男を誘惑するときに息を鼻に軽くかけるように話すため、leɑ ſɔı（鼻に息をかける）で誘惑するの婉曲用法。この誘惑は必ずしもセックスに至らないが、おおむね至ることを含意する。 【成句】 leɑ nene 誘惑する leɑ ſ'ıɥſe アルテの吐息：天地開闢 【用例】 leɑ ɥəəɑ 荒い息 nıφ leɑ 息を呑む、息を飲む。驚きなどで。 lı leɑ ſɔı ſ'ılſcın ınſr あの子、私のカレを誘惑したのよ！

leɑı ［名詞］ふいご、フイゴ、鞴 ［レベル］5 1L:leɑ/ɑıc

leɒ ［動詞］ɣəl を訪れる、訪れる、来訪する、訪問する、立ち寄る、見舞う、たずねる、訪ねる ［普通動名詞］来訪、訪問、見舞い、お見舞い ［医療］［動詞］ɣəl に往診する ［レベル］3 1ⅿ: 制 参考 :ʝɔɥn:lec「訪れる」。元は「月が満ちる」。古 :ɥəlclɔlelſı（訪れる） 【用例】 ın ʅılɒı leɒ lı. 私はよく彼の所に行く。 ın leɒıſ hıɗn ɒın ʝc ınɔ. することがなかったので友達の家に行った。

leɒuılʝ ［医療］往診医 ［レベル］5 ʆ1 ［文化］ cuıl

leɒd ［植物］サフラン ［レベル］4 ılılſı: 味のあるアヤメ

leɒl ［生物］脊髄 ［レベル］4 1L:lezɔ/ɒelc

leɒlzelɔ ［生物］延髄 ［レベル］4 1L: 脊髄の上にある脳の一部。日本語にすると「脊髄脳」のような感じで、違和感を覚える。

leɒın ［名詞］来訪者 ［レベル］3 ʆʆ 【成句】 leɒın ʝclſ 物見遊山

leɑ ［格詞］～なしで ［反意語］ɔʅ ［レベル］1 1L:ɒelcɑcɪ ılcʝ: 制 leſ(不要な) 【用例】 leɑ ſɣə, nɔn ʝɔ ʝen ɣəə. あなたがいなければ私は何もできないの。

leɑɥı ［普通動名詞］別居 ［動詞］ɣəl に leɑ と別居する、別居する。動詞を ɥı にしても leɑɥı にしても意味は同じ。 ［反意語］ɔʅɥı ［レベル］4 ɥɑ;/ ʆⅿ ［文化］ ・現実では セレンはリディアやメルらとの関係について、「恋愛を長続きさせる方法は距離感だ」と述べ、「別居は意外と良い」と述べた。

leɑıdſ ［名詞］呼び捨て ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆʔ 【用例】 lı ıɥıſ leɑıdſ ıl ın. 彼は私を呼び捨てにした。

leɑen ［接続詞］leɑ。～なしの。 ［レベル］2 ʆ1

led ［形容詞］困難な、難しい、大変な ［形容詞］低頻度な、起こりにくい ［反意語］ʝɔɑ ［レベル］2 ɥɑ;ɒe ʝɔɥn ʅıɣı:ʅıɣı 【用例】 ſə lec ıſ led ſcnʅı enſɔ ın cʝʅ ucl ſə. この本は難しすぎて読むことができなかった。 ſə ɣən led ı. そりゃ大変そうだな。 ☆ ſə ıſ led lel ın scφ ſə lel nɔʝ ʅe ıl ız. 行くべきか止めるべきかを決めるのが難しかった。 "led nɔnnɔ"「難しいんだね」 ſə eſ led lel el ɑel dıɥɒ ɥen 日本語を学ぶのは難しい。 len ılɑ eſ led ɥıʅ lılſ ın. やはり数学は俺には難し過ぎる。

ledlcul ［普通動名詞］難産 ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆʔ

ledıſc ［名詞］難易度 ［レベル］3 ʆ1

ledılſ ［形容詞］（ın で）書きにくい、書きづらい ［動詞］ɣəl を書くのが難しい ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆⅿ

ledcʝʅ ［形容詞］（ın で）読みにくい、読みづらい ［動詞］ɣəl を難しく読む、難儀して読む、難読する ［レベル］3 ɥɑ;/ ʆⅿ

leɥ ［美容］化粧 ［レベル］3 古 ［文化］ アルバザードは薄化粧を好む。男女共に行って良い。日常的に行う人もいるし、ここぞというときだけ行う人もいる。化粧の前後を見られるのは恥ずかしいので人前ではしない。化粧は綺麗に見せるためという意味と、汚く見せないためという意味がある。かえって醜くなるような化粧はしない。
化粧を人前でするのはきわめて恥ずかしいこと。すっぴんもなるべく見せたがらない→ leɥcnʝ 【用例】 lı ʝc{ılʝıbeʝ} leɥ. 彼女はすっぴんだ。

leɥʅı ［美容］化粧室 ［婉曲］女子トイレ ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ılſe

leɥzeʅſ ［美容］ファンデーション ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ıɥbılelſ

leɥs ［生物］薬指、環指 ［レベル］2 1L:leɥsc（化粧指）クリームや粉を塗るときによく独立して使う。 ʝɔləlısc:

leɥlıen ［美容］パック、フェイシャルパック ［レベル］3 19: 制

leɥc ［植物］ライチ、茘枝 ［レベル］3 古 :leɥ（化粧）から。化粧品のような味と匂いがするといわれたことから。 ［文化］ なぜか伝統的に少女 (lız,ɒını) の性器の匂いの象徴になっている。 現実には「なぜか」ではないのだが、書くと問題があるので。ɔn ɑcɪ.

leɥcnʝ ［形容詞］恥知らずな、厚顔無恥 ［レベル］3 ʆʆ:leɥ/ʝcnʝ「化粧を見せるような」

leɥcɪ ［魔法］シェリア。水の高位白魔法。アミティ系の効果を持った水をエリアといい、その水を作る魔法をシェリアという。水に魔法を乗せるため効果は薄くなるが、保存が利く。セルメルまで飲み薬として使った。ɥɑ では使い手がいなくなり、まがい物だけが残った。 ［組み数字］5／１２ ［レベル］4 ʆ1:eɥcɪ

lez ［生物］脊柱、脊椎、背骨 ［文字］スパイン ［レベル］4 1ʔ: 制 :lezɔʝehɔ から

lezl ［生物］脊索 1L:lez

lezlcɑıl ［生物］脊索動物門 ʆʆ

lezɔ ［名詞］軸、アクシス、アクシズ、アキシス、心棒 ［言語］［文字］アクシス、軸 ［レベル］3 ʝɔɥn ʝeelzıɒɔ:ʝeelzıɒɔ

lezɔ,ɑu sɔl ʝeel/zıɒɔ

lezɔʅ ［政治］本国 zφ;lezɔ/ʅılſe ʆⅿ

lel ［格詞］ʝɔl 格の同格。～として。 ［反意語］lel ［レベル］1 1L:ʝɔl の音を人為的に変化させたもの。制アルカだと ıle だが、新生アルカは開音節が増えるので ı で始めたくなかった 【用例】 ſə eſ ɥıſ lel ſc lənı ıſə. 君が来るのはいいことだ。 ın ʝccnı lə lel ʅıın. 私は父親として彼女のことが好きだ。

lelſ ［天文］月 ［名詞］こよみの月 ［シェルト］月駒 ［名詞］一枚目。バランスの取れた性能の役、物語の進行役。 ［組み数字］8 ［類義語］ıſcclc、ɑcılccuı、ɗəəʅ、ınsəɥ、ucɥſeʝ、ɑcuelınl、ləɑeſ、uelſɔ、ueleſ、ɒɣəlı、ıls、ɑəəɥφı、ſəuın、lınſe、leeue、uccne、cnse、ɑıılе、hıɥle、ɗəəle、uelle ［反意語］ɑııl ［レベル］1 ſɒ;lelſ,ɑ.hın ız ılelſ,ɑ.lcʅ 古 :ıleſſ,lelſ から。古では ıleſſ は月の意味で、lelſ はゲームのシェルトのこと。 ılelſ,ɑ lelſ,ɑu(lelſ,ɑ は uccne。ſɒ から lelſ で月を指すようになり、ılelſ が滅ぶ):lelſ:lı lelcə（太陽が男。月光は魔法を回復し、魔法は女なので lı。シェルテスは関係ない）:ıʅeɒc,ılſ ［語法］［文化］ アルカの中で最も類義語が多いのは恐らく月。次が男女あたりではないか。 月はアシェットのシンボルだったため、アルカには類義語が多い。lı lelcə などの外来語も入ればさらに増える。 【用例】 lelſ ɑɔcl 若

い月（月相の値が小さい月） lelʃ uınɑɔµ nɔnɾ 月が襲ってくる！ lelʃ ıʃ nɔl uıɑel. 月が早く出た。 lelʃ ıʃ ɑlcd ıʃc ʃcn. 月がとても輝いていた。 lıȷ nɔın uıʃl ɑın le lelʃ nı, ɔl dıdı ʃıl nɔn ȷɔµel. パパが抱っこしてくれれば、あのお月さまにも手が届くと思うの（lələcı ıµb ızıµɑ）: 紫亞による初めての詩作。

lelʃ,ɑ uccne ȷııl;e

lelʃlıɑ ［地球の国名］コモロ 1L: アラビア語の月から

lelʃluınʃ ［名詞］記念日から１月経ったプレゼント ［レベル］4 1L

lelʃȷ,ɑu nelʃ lelʃ/ȷɔ

lelʃɑɔnʃ ［天文］白道 ［レベル］5 J1

lelʃᴅeᴅ ［組み数字］シェルトサークル、八傑集、八大竜王、八神将、八王子 ［レベル］5 J1 ［文化］ µıdıll

lelʃɑcʃın ［名詞］サラリーマン、月払いで賃金をもらう人→ lıbıȷʃ ［レベル］3 µɑ;lelʃ/ɑcʃ/ın「月ごとに金を得る人」 J?

lelʃµıʃʃɔ ［地球の国名］マレーシア ［レベル］6 1L: 国旗がアメリカに月を足したよう

lelʃlıbıȷʃ ［名詞］月雇い労働者 ［レベル］5 µɑ J?

lelʃlccɑı ［名詞］シェルトリーファ、星の中の月 ［類義語］lelceµ ［レベル］5 µɑ:µcɑcı;/ J?:µcɑcı ［語法］［文化］ 月が出る夜は星が隠れて見えにくくなる。このことから大きな明るいものが出ると小さなものは霞んでしまうことを lelʃlccɑı という。クラスに一人美人がいて周りが霞んでしまうような状態を lelʃlccɑı といい、その美人のことを lelʃ という。美人でなく偉人などにも使える。 【用例】 ᴅcµɔl eʃ lelʃ e lelʃlccɑı ɑı. ミロクは星の中の月だ。

lelʃlɔɔb ［被服］カウボーイハット µʃ;「月の帽子」 JΩ ［文化］ 日光を遮る効果があることから月の帽子と言われた。

lelʃləl ［普通動名詞］月散歩 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ ［文化］ アルバザードは月が好きである。また、夜の涼しげな空気が好きである。だから夜は散歩に出ることが多い。だが、夜間の出歩きは危ないので住人はなるべく公園を散歩する。集合住宅の場合、敷地内部に大きな公園がある。ここには集合住宅内の連絡通路からのみ入ることができ、外からの進入はできない。住民はこの安全な公園を散歩して歩く。そして涼しい空気と月の光を浴びて神に祈る。

lelʃıµs ［名詞］魔導船、シェルタージュ ［レベル］5 1L:uelȷıµs から類推。 ［文化］ → ıllıc ルティアの海の底に眠っていた船。リュウが発掘した。uelȷıµs より早くできた。船の形はしていない。

lelʃıll ［天文］月齢 ［類義語］lelʃeel ［レベル］3 JJ ［文化］ lelʃeel

lelʃcȷ ［天文］ᴅcµlccɑı ［組み数字］2／8 ［レベル］4 lȷɑ;lelʃȷ,ɑu レスティルから見て隠れたように見える星 J1

lelʃcı ［地名］シェルティア、シェルティアの丘、月見台 ［アクセント］lelʃ c↑ ［レベル］6 ɑ;ılelʃ/c/lı「月を見るところ→月見台」 J? ［文化］ ミナカルモの近くにある小高い丘。見晴らしがよく、月がよく見える。

lelʃcıl ［名詞］月楼都 J1;lelʃe/lcıl「衛星街」

lelʃcəȷ ［アイテム］シェルティウス、乙女のキッス、うちでのこづち、ダイエットフード ［組み数字］7／12 ［レベル］4 J0:lelʃ/clcµcəȷ（月の鏡） ［文化］ アシェックを解除する銀の鏡。µɑ でリディアとリュウが開発した。アシェックが中位であるのに対し解除のラルトが高位であったため、アシェックによる被害が絶えなかった。どうにか解除するアイテムが作れないものかと少女時代のリディアは研究した。リディアは文献を読み漁り、満月の夜に湖のほとりに立っていたらアシェックが解けたという症例に目をつけた。これはヴィルを大量に含んだ月の光を湖が反射したことによるものではないかと考えたリディアは、これをアイテム化できないかと考え、リュウに話をもちかけた。結果、月の光を蓄えた鏡があれば湖の症例と同じ効果を持つのではないかということになった。そこでリディアはアルシアで魔力を帯びた水を採取した。リュウは硝酸銀をリディアの持ってきた月光水に溶解させ、アンモニア水を加えて銀をアンモニア錯体とした。この液体を銀液とする。次にホルマリンを月光水に溶解させ、水酸化ナトリウムを加えて還元液を作った。この銀液と還元液によって銀鏡反応が得られる。リュウはこれを用いて丸くカットしたガラスの片面に銀メッキを施し、月の光を帯びた鏡を作った。アシェックのかかった相手をこの鏡で照らすことにより、アシェックが解ける。実験室ではパールが銅やアルミニウムでも試した。アルミニウムでも鏡が作れたが、アルミニウムは魔力の伝導率が悪いため、月の魔力を内部に留保できなかった。銀を使うことで月の魔力を鏡に封じ込めることができた。そこでリディアらはこの銀鏡を lelʃcəȷ とし、民に配布した。これにより、アシェックによる被害は激減した。ちなみに、使うと魔力が放出され、その衝撃で鏡にヒビが入る。 【成句】 lelʃcəȷ lılȷ 正真正銘→ ȷclφcəȷ

lelʃɔ ［娯楽］［シェルト］シェルト ［レベル］3 古 :lelʃɔ。lelʃ は月が語源。正確には ılelʃ（月）からクミールが造語した lelʃ というものだが、セレンが lelʃɔ と聞き間違え・言い間違えたために lelʃɔ という語形も登場した。 ［文化］ メル Δ 年から L 年末にかけてクミールとメルが個人的な余興で作り出したゲーム。チェスや将棋に似る。上弦の月と下弦の月とデームスの戦いを描いたので月という語を語源に取った。将棋のような知的ゲームで、人気が高い。二人いればできるので、カップルなどにも好評。伝統的なゲームで、奥が深い。アシェットのメルによって考案されたもの。 ＜ルール＞ http://constructed-language.org/arka/images/xelto.pdf ＜盤面の読み方＞ 縦横の順に読む。ȷɔɔᴅe–ılȷcı の順に読む。 ＜用語集＞ lelʃɔ シェルト ele シェルト盤 ȷɔɔᴅ 縦軸 ılȷcı 横軸 lılʃlı マス ȷlıl 局面。棋譜における一手一手の盤面 ȷeȷlıl 棋譜 ıµle アルシェ側。先手 ȷɔµn ソーン側。後手 hıɾᴅ 駒 lınʃcȷ テームス以外の駒 ȷılınʃcȷ 前衛の駒、歩 lclınʃcȷ 後衛の駒 ʃeeᴅȷ 永駒 ılʃe eᴅȷ 回転した永駒 lelʃ 月駒 ıµʃın 魔駒 ɔᴅc 扉駒 ncᴅ 色駒 leɑʃ 跳駒 hınɔc 塔駒 dıɑc 橋駒 ȷɔᴅı 斜駒 ȷʃenʃ 十駒 hcl 横駒 hıȷ 縦駒 ɔu 動かす、打つ ılȷcıɑɔnʃ 扉の軸移動 ʃlcɑ 取る。駒を取ること ɔlle 随伴 eu テームスに張る ȷeɑ テームスから剥がす ɑəʃ テームスの張り替え lɔµ 方向転換 lıʃıµ チェック hıɾl ᴅı ハルマチェック µȷcclı ルシーラチェック ȷɔlɑeȷ 詰み ʃɔen 後手の一矢 cʃɔ 勝ち点 ɑcnφ フォーク。王手飛車取りなどの手法 ＜古いブログの抜粋＞ シェルト ＜シェルト概説書＞ J00?/0?/J9 ＜シェルトとは＞ 将棋やチェスに似た２人用の対戦パズルゲーム。駒を動かしていき、相手の月駒か４個の魔駒を取ることを目的とする。盤面は縦横７×７マス。両軍は駒を 10 個ずつ持つ。更にそれに特殊駒テームスを１個加えた計 JL 個でゲームは展開される 両軍とは即ちアルシェとソーンを象徴し、アルシェのランティス 10 名とソーンのランティス 10 名が戦うため、シェルトは政治的・思想的色彩を帯びたゲームである ＜シェルトの起源と現在に至るまでの推移＞ シェルトの起源と推移をセレンのアンクノットから抜粋する 「シェルトはクミールさんとメルが作ったゲームだ。基はチェスを拡大したゲームだったそうで、名前も「拡張チェス（lıcʃl eȷ）」だった。1LL9 年のことだ。11×11 マスで、チェスより大きかった。俺はこの時点で１度やったことがある。 その後、彼女達はルールを変えていったわけだ。第三勢力の駒という概念を編み出したりもした。序盤は定石手を組むだけと悟ったので、定石手が短くなるように、マスを削っていった。 最終的には７×７マスになった。LΔ 年夏である。この時点で味方の持ち駒が 10 になり、敵合わせて JΔ となった。そこでクミールの「何だかアシェットみたいだ」というつぶやき起こり、それがきっかけで、メルが王を指して「じゃあ、これはお兄ちゃんね」といった。つまり俺のことだ。するとクミールが「じゃあ、こっちの王は私なのね」といったそうだ。 そしてそのことを皮切りに、メルは「じゃあ、これがメルで、こっちはお姉ちゃんで…ルージュはムカつくから一番メルから遠いところで…」などと勝手に駒に名を当てはめて言った。クミールも真似をして使徒全員分の名を付けた。LΔ 秋頃のことだそうだ（これはあまり確証がないらしいが、この年のメルの誕生日前には俺が知っていたので、少なくともそれより前だから秋口だろうということ） そしてアシェットの名の全てが当てはまり、第三勢力はテームスという名になった。

同時期に、テームスの能力を変更。テームスは王と同じ動きをする駒だったが（シェルト創世記にはマスが広かったので全方向２マスが移動範囲だった）、千日手になるので「張り」の概念をメルが導入した。 LL 年になると、テームスが倒せないというルールがまずいということで、テームスは倒せないものの張っている駒は落とせるというルールに変わった。 また、セレンは今メルに聞いて確認していないので詳しくは知らないが、テームスを取った際は「取った駒が行きうるマスの中で尤もテームスに近い駒に置く」というルールになったとメルから聞いた気がする。だが、更にその後「テームスを取るときはテームスを取った駒とテームスの居た位置を交換する」というルールになったというようなことを聞いた気がする。多分、いつのまにか変わっていたのだろう L9 年にテームスの存在と将棋と違って張れないというルールに対処するために、飛車角がなくても負けるというハルマチェックを導入。 L9 年に歩の能力に個別差を設けたことにより、歩兵の能力を活かすために随伴のルールを取り入れる LL 年には直歩は一番奥にいくと１歩下がれるというルールも導入したと思われる LL 年にセレンはシェルトをアルカ文化と認定、これを広める。使徒に広めれば確実に文化として残る。個人的に今のところは好きなゲームではないが、その価値は認めていたつもりだ。だから文化として認定し、みんなにアルカ教養ということで強要した。 駒の種類は９種なのに駒の名が JL もあるということと、自分が実名で出ているので複雑な気分だろいうことがイヤであまりやらなかったが、みんなにはそこそこ好評だった。しかし「慣れれば面白そうだが、あまりやる気が起こらない」という意見が多かった。原因は「アンシャンテじゃやりづらいし、アンシャンテを使ってやるほどのことではないだろう」とのこと。ごもっとも。 当のクミールさんはメルに勝てないという理由でアークパズルを好んだし、メルもメルでクミールさんを気にしてあまり遊べなかったらしい。それが可哀想でみんなに広めたっていう俺の気持ちはわかったくれたみたいだし、クミールさんも自分の考えを優遇して文化認定したということに気付いてくれたみたいだし、みんなも「総じて面白い」といってくれたし、政策としては良かったな」 シェルトの駒が使徒を表わすようになった以上、最後の使徒ルージュ＝エルム＝オキニス＝ミディート＝ガストラ（マージ名）は既に LΔ 年秋に仲間になっているはずだが、調べてみると確かにセレンには LΔ/L/Δ に紹介されている。更に、ソーンの最後の使徒であるクノンが向こうの仲間になったのは、記録によると LΔ/11/Δ とある。なるほど、やはりシェルトがアシェットの抗争を描き始めたのはこの頃のようだ

尚、シェルトはメルが「飽きた」との理由で、それから殆ど発展しなかったが、J00J 年にセレンが再度掘り出してから、一応の変化があった。それでもセレン自体がシェルトをあまり好んでいなかったため、変化らしい変化はなかった。ところが J00?/?/J? の ȷcɑeu にフゥシカがこのままではシェルトが滅ぶと考え、復興させるようにと主張した。フゥシカは歩に方向性を持たせることを提案した。セレンはそれを受け、更に飛車と角の位置を交換した。更に同日にアルシェを先手と決め、直歩（ちょくふ）と呼んでいた塔駒を後ろにもいけるようにし、前歩（まえふ）と呼んでいた縦駒も後ろにいけるようにした。加えて、アルシェ側の駒の位置を現在の位置に変更した ＜シェルト盤＞ シェルトは７×７マスの盤上で行われる。シェルトは駒の配置が月を挟んで正確に左右対称なため、縦の列・横の列ともに独自の名前がついている。以下に述べる 縦の列 ȷıᴅ：縦の列は後衛の初期配置が語源になっている。色駒がある盤上両端の列を色列 ncᴅȷıᴅ、同じく跳駒の列を跳列 ləɑȷıᴅ、扉駒の列を扉列 ɔᴅcȷıᴅ、月駒の列を月列 lelʃɔȷıᴅ という。また、月列以外は左右に１つずつ同名の列があるため、これらを区別する際は「右の色列 ncᴅȷıᴅ e dı」のようにいう 横の列 ȷcᴅ：両軍の駒の配置はチェスのように前衛と後衛からなる。そのため、前衛を ȷııcᴅ、後衛を ȷcȷcᴅ という。前衛の１段前の列は何も駒が置かれていないので、空列 ᴅeblȷcᴅ という。ま

た、空列の前の列、即ちテームスがある列は永列 ʃeeɒɟɟcɒ という。尚、永列以外の列はアルシェ・ソーンごとに１つずつ存在する。そのため、必要があれば「アルシェの後列 ɟcɟcɒ e ɩɥle」のように呼んで区別する　＜シェルトの駒＞　　シェルトの駒はテームスを含めて 丛 個であり、それぞれランティスの実名が付けられている。但し、駒の種類としては 11 種類であり、駒の総数の半分にも満たない　１：lɛlʃ 月駒（つきごま）：セレン。クミール：王に当たる　２：ncɒ 色駒（いろごま）：ラルドゥラ、リュウ。ラヴァ、エンナ：飛車に当たる　３：ɔɒc 扉駒（とびらごま）：リディア、メル。ピネナ、エケトネ：角に当たる　４：leɑʃ 跳駒（とびごま）：オヴィ、クリス。ネーネ、リーネ：ナイトに当たる　５：hınɔc 塔駒（とうごま）：ファーヴァ。ンムト：前後２マス以内に行ける　６：dıɑc 橋駒（はしごま）：塔駒が方向転換したもの。左右２マス以内に行ける　７：jɔc 斜駒（ななめごま）：ザナ、ミルフ。クノン、アッシュ：斜めに１マス行ける　８：jɒı 十駒（じゅうごま）：斜駒が方向転換したもの。前後左右に１マス行ける　９：hcɟ 横駒（よこごま）：ギル、フルミネア。レレゾナ、ジール：左右に１マス行ける。方向転換すると縦駒になる　10：hıɟ 縦駒（たてごま）：ルージュ、パール。リナ、ウムトナ：前後に１マス行ける。方向転換すると横駒になる　11：ʃeeɒɟ 永駒（ながこま）：テームス：相手と共有して使う特殊駒。詳細は後述。これが方向転換したものを eſeeɒɟ 久駒（ひさごま）という　　尚、色と扉を総称で魔駒（まごま）と呼ぶ。メル・リディア・リュウらがウィザードと呼ばれていたことに起因する命名である　　その他、駒の語源であるが、まず月は月司ルシーラから。永は永遠を表わすテームスから。他は全て移動範囲が語源になっている。縦横斜十は文字通り。塔は前後２マスという移動範囲が高い塔のように見えることから。また、橋は左右２マスに行けるという移動範囲が橋のように見えることから。跳はマスを飛び越えて動くことから。扉は古アルカで扉を意味する hɔɒɥe が「×」の字形で、これが扉駒の移動範囲を示すことから。そして色は古アルカで色を意味する ncɒ が「十」という字で、この字が色駒の移動範囲を示すことからそうセレンが名付けた　＜駒の初期配置＞　　チェスにおける並べ方に酷似している。自軍は前衛と後衛の２列に分かれる　　以下に２列の並びを示す　縦・横・斜・塔・斜・横・縦　色・跳・扉・月・扉・跳・色　　自軍の並びは以上のようになる。敵軍はチェスと同じく、自軍と反対側に上記と同じ並び方で並ぶ。また、盤の中心にテームスが配置される　＜前衛の方向転換＞　　前衛駒は方向転換という機能を持っている。方向は縦横の２方向あり、１ターンかけて方向を変えることができる　　例えば縦は前後１マス行けるが、これが方向転換すると左右１マスにいけるようになる。これは横と同じであるから、縦は方向転換すると横になることができるということである。勿論、１度方向転換したものをまた後のターンで再度方向転換して元に戻ることもできる　　縦は方向転換すれば横になるし、それは可逆だが、斜などは方向転換すると一風変わった駒になる。斜を方向転換すると前後左右に１マスいける駒になり、これは他のどれとも違う駒である。これを十駒という。同じく、塔を方向転換すると左右２マス以内にいける駒が生まれる。これも独特なため、特別に橋駒といわれる。無論、十や橋は再度方向転換して斜や塔に戻ることができる　　但し、４回連続で方向転換をした場合、悪質な千日手として負けとする　＜前衛の随伴＞　　チェスなどと違ってシェルトの前衛は思うように進めないことがある。例えば横は前に進めず、攻撃力に問題がある。そこで前衛を強化させるためのルールが随伴である　　例えば縦の右に横がいるとしよう。初期位置では例えばパールの右にフルミネアがいるので、正にこの状態である。フルミネアは横なので前進することはできない。一方パールは縦なので前進可能だ。そこでパールが前進する際にフルミネアを一緒に連れていくことができる。これが随伴である　　随伴は前衛駒、即ち縦・横・斜（十）・塔（橋）が使うことができる能力で、ゲーム中に何度使っても良い。但し、随伴の成立にはいくつかの条件がある。以下に条件を示す　１：随伴する相手と隣接していなければならない。従って、初期状態でパールと共にミルフを前進させることはできない　２：随伴相手は前衛でなければならない。例えば縦で色を随伴させることはできない　３：随伴相手が移動する場所は空白でなければならない。例えばパールの右にフルミネアがいて、フルミネアの前に敵がいる場合、パールはフルミネアを随伴して前に行くことはできない　４：攻撃と同時に随伴はできない。例えばパールの右にフルミネアがいて、パールの前に敵がいる場合、パールはこの敵を攻撃しながらフルミネアを随伴させることはできない　５：随伴者がそもそも行けない場所に連れ立った随伴はできない。例えば、パールの右にフルミネアがいて、パールの前にクリスがいる場合、パールはクリスが邪魔で前に行けないので、当然随伴は成立しない　６：行きたい場所と随伴相手の場所が同じ場合は随伴できない。これは５を正しく解釈すれば言わずもがなのことである。例えば、パールの前にフルミネアがいる場合、パールはフルミネアを随伴して後ろに行くことはできる。しかし逆に前に行くことはできない。パールが行こうとする場所はフルミネアがいるので、そもそも随伴者が移動できないためだ。これを随伴させるというのはフルミネアを後ろから前に突き飛ばしたということに等しい。が、それはもはや押しのけであって随伴ではないため、そういう場合、随伴はできない　＜随伴における勘違い＞　１：随伴においてよく勘違いされることがある。横駒の随伴だ。横駒の右に前衛がいるときに横駒と前衛を左に進めようとする誤りが多い。が、これは不可能だ。縦駒の後ろに前衛がいるのに随伴して前進させるということが不可能だというのと同じだ。不思議と縦駒の場合は勘違いが少ないのに、横駒の場合は勘違いが多い。そういう場合セレンはシェルト盤を横から見させて横駒を縦駒だと考えさせて随伴不可能だということを説明することになる。横駒が随伴できるのは例えば横駒の前に前衛がいるような場合である　２：随伴しながら敵を倒せるという勘違いも多い。が、随伴と攻撃は同時にできない。それは随伴者も被随伴者も同様である　＜テームス＞　　テームスは自分と相手が共有する駒で、唯一の第３勢力である。テームスは初期状態のままでは只の障害物に過ぎないが、取った相手の駒を張ることによって、張った駒と同じ能力を持つことができる。「張る」ためには盤のすぐ横に張りたい駒を置いて張ったことを相手に分からせれば良い　　例えば敵のエケトネを取っている状態で、テームスにエケトネを張れば、テームスはエケトネと同じ能力を持った駒、即ち扉駒と同じ機能を持つようになる。尤も、張りという行為は１ターンを要するため、テームスを動かせるのは次のターンからになる。しかし、エケトネを張った瞬間にテームスは扉の能力を持つので、攻撃範囲に敵の月か最後の魔がいれば、自動的にチェックになる　＜テームスを取った場合＞　　ところで、エケトネを張ったは良いが、その直後に来る敵の番でテームスが取られた場合はどうなるか？テームスを倒したと考え、盤上から退場させるのだろうか。いや違う。その場合、テームスを取った駒が元々いた場所とテームスとを交換するだけである。但し、張っていたエケトネは消費したものとしてテームスの張りから外さねばならない。その上、エケトネはもう２度と張ることができなくなるので注意が必要だ　　要するに、ラシェットの思想通り、「テームスは倒せない」のである。テームスを取ってもテームスは移動するだけで、張っていた駒が倒されるだけである。テームス自体はどうやっても倒せない　＜テームスで敵を取った場合＞　　テームスで敵を取った場合、テームスに張っていた駒は消費したものとして外さねばならない。また、その駒は２度と張ることができない。もう１度テームスを使いたいときは新たに何らかの駒を張るしかない　＜自分も敵もテームスに何かを張っていた場合＞　　ここがシェルトの醍醐味の１つでもあるが、そういう場合も出てくる。例えば、自分がテームスにエケトネを張り、相手がテームスにクリスを張ったという場合だ。この場合、自分のターンであればテームスを扉として動かすことができる。逆に敵のターンであれば敵はテームスを跳として動かすことができる　　例えば今は自分の番で、テームスを扉として動かした場合、テームスの移動場所は十分に気をつけねばならない。相手はテームスを跳として使えるのだから、跳が自分の月を狙えるような場所にテームスを持っていてはならないのである。つまり、テームスに両者が何かを張っているときは、相手が何を張っているのかに十分注意しなければならないということである　＜テームスからの戻し＞　　テームスに張っている駒を戻すことは可能である。戻しも張りと同じく１ターンかかる。　そんなことに何の意味があると思うかもしれないが、戦術の１つである　　テームスに何かを張っている場合、テームスは取られてしまうが、こちらがテームスに何も張っていなければ相手はテームスを攻撃できない。そこで、守りたい駒をテームスの後ろに隠しておくという戦術が成り立つ。つまり、テームスを壁として利用するのである　　尚、テームスから戻した駒は消費されたとは考えないので、再び張ることができる　＜テームスへの張替え＞　　現在テームスに張っている駒が気に喰わなければ、手持ちの別の駒に張り替えることができる。張り替えた駒も戻した駒と同じく消費とは見なされないため、後でまた張ることができる。尚、これにも１ターンかかる　＜テームスの方向転換＞　　テームスに前衛を張っているときのみ、テームスの方向を変えることができる。相手もテームスに前衛を張っている場合、自分の前衛の性質が変わると同時に相手の駒の性質をも変えることができる。尚、テームスが方向転換したものをエテームスと呼ぶ　＜扉の軸移動＞　　扉は左右１マスに軸移動できる。これは単なる移動なので、攻撃は行えない。つまり、左右が空白でない限りは移動できない　　また、そこを動かなければ次の１手で敵に取られる状況にある扉も軸移動できない。つまり、扉はチェックされている状態においては軸移動を使ってチェックを回避することはできないということである　　シェルトはチェスと違って横マスの数が奇数なので、ビショップと違って決して行けないマスが存在してしまう。そこで扉の軸移動が採用された　＜座標の読上＞　　シェルト盤の列には縦横 11 列それぞれに名前が付いているが、この名前は煩雑なので、実際にシェルトをやっているときに座標を読み上げるには不便だ。例えばゲーム開始時にパールが前に進んだら、例えば ncɒɟɟɒ e dc,ɒeblɟcɒ e ɩɥle,dııl というように読み上げなければならず、非常に長い。そこで読み上げの際はふつう幻字と数字を組み合わせて読むようにする　　縦の列は幻字で出来ており、横の列は数字で出来ている。幻字は左から ʃeɟ, ʅeſ, ʅıl, ɟɔl, ncɒ, ucn, ɑɔl と読み、数字はアルシェ側から順に ʅɔ,ſı,uc,uı,le,ʅc,nɔ と読む。従って、始めにセレンがいる段が１段であり、クミールがいる段が７段である。また、読み上げの際は縦の列・横の列・駒の順で読み上げる。よって、初期配置におけるパールの位置は ʃeɟ,ſı であり、これが１歩進むと ʃeɟ,uc,dıl と読み上げられる　　また、敵の駒を取った場合の読み上げは、ふつうの読み上げに続いて取った駒の名前を読み上げる。例えばパールが前進していって初期位置のリナを取った場合、ʃeɟ,ʅc,dıl,ɑcn と読み上げられる。この後リナの後ろにいたラヴァがパールを取ったとすると、座標は同じであるため、座標部分は ʅıl と読み上げられる。従ってこの場合、ʅıl,ɟuu,dıl となる　　更に、前衛が方向転換した場合、駒の後に駒の能力名を添える。ミルフが初期位置で方向転換した場合、ʅıl,ſı,ɒclɑ,dıɑc と読む。その後ミルフが再度方向転換した場合、ʅıl,ſı,ɒclɑ,hınɔc と読む　　加えて、随伴した場合、随伴者の分と被随伴者の分を読み上げる。初期位置でパールがフルミネアを連れて前に進んだ場合、ʃeɟ,uc,dıl ınn ʅeſ,uc,ɑəl と読む　＜先手後手＞　　先手は必ずアルシェ側である。後手は必ずソーン側である　　どちらがアルシェをプレイするかを決める振り駒のようなシステムがシェルトにはある。駒がサイコロ状のときは任意の駒を３つ投げて、どれか１つでも幻字面が上を向けば、投げた人がアルシェを担当する。また、駒がコインのように裏表しかない場合は任意の駒を投げて表（幻字面）が出たら、その人がアルシェを担当する　＜勝敗条件＞　　勝敗条件は２つある。１つは月を取ること。もう１つは４個の魔を全て取ること。通常、シェルトは月が取られることがないため、十中八九後者のやり方で終わる。後者で勝った場合、残った自分の魔の数が多いほど高得点になる　　勝った以上、魔は最低１個はある筈だ。逆に、魔を１個も失わずに勝った場合、魔は４個残っていることになる。つまり魔の変域は１から４であり、残った数がそのまま点数になる。つまり、最低で１点、最高で４点である　　ただ、そもそもシェルトは消耗戦的色彩が強いため、魔を１個も失わずに勝

つということは考えにくい。では高得点を取るにはどうすれば良いか？それには月を取れば良い。月を取って勝った場合は自分の魔がいくつ残っていようと４点貰えるのだ。たとえ魔が残り１個でも等しく４点である　＜最後の手が月手魔取だった場合＞　　将棋でいうところの王手飛車とりで詰んだような状況であるが、この場合、月が取られたとは考えず、魔が取られたと考える。なぜなら配点を考えると当然、月を生かして魔を捨てるはずだからである　　逆に、詰ませた側は、そこでゲームを終わらせずに続行することもできる。月を徹底的に追って詰ませる自信があるならば、魔で詰ませるのは配点の関係上、得策ではないからである　＜ランティスの名前と能力の対応表＞　　アルシェ　　:　　ソーン　１：リディア扉　　:1ꟼ　ラヴァ色　２：オヴィ跳　　:1ʕ　ウムトナ縦　３：クリス跳　　:1ꟼ　リーネ跳　４：ギル横　　:1Δ　レレゾナ横　５：フルミネア横　:1L　ジール横　６：リュウ色　　:J0　リナ縦　７：メル扉　　:J1　エケトネ扉　８：ラルドゥラ色　:JJ　エンナ色　９：ザナ斜　　:Jʔ　アッシュ斜　10：パール縦　　:Jꟻ　ネーネ跳　11：ミルフ斜　　:Jꟼ　ピネナ扉　1J：ファーヴァ塔　:Jʕ　ンムト塔　1ʔ：ルージュ縦　　:J٩　クノン斜　1ꟻ：セレン月　　:JΔ　クミール月　＜駒の並べ方＞　　駒の名前を使って並べ方を示す。以下はアルシェ側から見た図である。尚、アルシェ側の場合、このように左がパールとリュウになる

ラヴァ	ネーネ	ピネナ	クミール	エケトネ	リーネ	エンナ
リナ	レレゾナ	クノン	ンムト	アッシュ	ジール	ウムトナ
			テームス			
パール	フルミネア	ミルフ	ファーヴァ	ザナ	ギル	ルージュ
リュウ	クリス	メル	セレン	リディア	オヴィ	ラルドゥラ

＜シェルト特殊用語＞　シェルト盤：lelſɔele：シェルトを行う盤のこと。７×７マスで出来ている　マス：ʅcɟ：シェルト盤に設けられたꟻL 升の升目のこと　張る：ɥɔl：取った敵の駒の能力をテームスに与えること　テームス：ſeeᴅɟ：駒を張ることによって使うことのできる駒。敵と共有する　ランティス：lınſcɟ：テームス以外の駒　ハルム：hırᴅ：駒の総称　詰む：ucɟſ：負ける　方向転換：ʅeµ：前衛が方向を変えて能力を変えること　＜メルの承認＞　　シェルト作成者であるメルに、セレンらが勝手に変更した方向システムやらの内容を伝えたところ、「いいんじゃない？面白そうだし」と容易く承認した。ただ、「色と扉を変えたのね。それって昔の体系に戻しただけじゃない。詰まるから面白くないんだよなぁ」と言っていたことが気になった。セレンがフゥシカに教えたものはメルが作ったシェルトの旧版で、そこでは角が端に来ていた。新版の配置はセレンが覚えていなかったため、現在のシェルトは旧版を改良したものになってしまった。また、セレンは変更点を伝えたが、メルは次のルールを承認しなかったので削除した　＜後手の一矢＞　　シェルトや将棋のようなゲームはどうしても後手が若干不利である。そこで、後手だけに与えられた特殊ルールがある。後手は詰みの状態になってもあと１手だけ動かすことができる。例えば敵の攻撃で月手魔取になった場合、次の敵のターンで自分の月が取られたとする。普通はそこでゲーム終了だが、残った何らかの駒で相手の月か最後の魔を取ることができれば引き分けに持っていくことができる。これを後手の一矢といい、ソーンにだけ認められた特権である　　メルは「このルールは強すぎるので認められない。その代わり先手と後手を入れ替えた２番勝負を原則とした方が面白い」と言った。作成者であるメルの言葉であるから尊重して、セレンはこのルールを引き下げた
以上、シェルトの説明です。ɟıᴅ など、いくつかの単語が現在のものと違っているので、少し注意が要ります。これは ɟıᴅſ のことです。下の画像は駒と画像です。布の画像は埃避けですが、駒の初期配置を一々覚えなくても済む便利な道具でもあります。

lelſɔele ［シェルト］シェルト盤　［レベル］４　µΩ;/　Jʔ

lelſe ［天文］衛星　［レベル］４　1ꟻ: 制 : 古 :lelſ(月) から , 月が地球の衛星であることからの結びつき

lelſeſecʅ ［名詞］衛星放送　［レベル］５　1ꟻ: 制 : 衛星のテレビ

lelſeɟ ［悪魔］シェルテス　［天文］月の影　［レベル］４　ᴅelſcı 0:lelſeɟ;ıle lſ/ſeeᴅɟ「月の悪魔」 µcΩcı: 古 :ıleſſſeeᴅɟ（月の悪魔）［文化］　月の悪魔。ウズと同じように狼の姿をした獰猛な悪魔。霊界を荒らして回る。月を支配するドゥルガとヴィーネによって月に封じられたが、その封印の効果は両者が協力できる満月の夜に限る。シェルテスは封印の解かれた夜は霊界を荒らしまわり、満月時に再び月に封じ込められると、今度は自分の姿を見る者に破壊の衝動を与え、破壊欲を満たす。このようにして人は満月の夜に凶暴になるのである。　シェルテスは満月前後の夜は封印されており、アルカでは月にはこの悪魔シェルテスが住んでいると考えられている。日本では兎、西洋では蟹などということが多いが、アルカでは悪魔が封印されている。
　月を司る。

lelſeᴅ ［生物］亜門　［言語］語派　［レベル］５　µΩ;lelſe/ᴅıcn　JJ　［文化］　µəᴅı

lelſeel ［天文］月相　［類義語］lelſıll　［レベル］４　JJ:「月の顔」［文化］　月の満ち欠け３６０度を２８で割った数値。３６０／２８は循環小数なので、１月相当たりの角度は綺麗な整数にならない。　広義の月相は８段階あり、８段階で月相２８なので、１段階ごとに月相３．５ずつ進む。　月齢と概ね重なるが一致しない。組み数字の８は月相を使う。アルバザードでは太陰暦は滅んでいるため、月齢より月相を日常的に使う。　　月の名：角度　ᴅɥəlı: 0　ıls: ʔ.ꟼ　Ωəəµφı: ٩.0　ſəuın: 10.ꟼ　lınſe: 1ꟻ.0　leeue: 1٩.ꟼ　uccne: J1.0　cnse: Jꟻ.ꟼ
なお、狭義の月相、より細かい月相は別表の通りである。

lelʃ ［動詞］ɥəl を散歩する、散歩する　［普通動名詞］散歩、月散歩→ lelſ əʅ　［レベル］２　1L: 古 :lelſləʅ（月散歩）［文化］　散歩は自転車以上に好まれるスポーツであると同時に余暇の過ごし方でもある。ぶらっと街や公園を歩き、近くにいる人に声をかけたりして過ごす。しばらく歩くとベンチで休んだり、カフェに入ってゆったりする。ベンチで本を読んだりする。こういった時間の使い方がアルバザードだと典型的な幸福とみなされる。【用例】 ılcɟ ıµıſ lelʃ ɔʅ ɟıe ʅı ıµnıᴅını. アリスはアルナ大で紗枝と散歩をした。　☆ ın lelʃıſ lıl ᴅɔl eɟʅ. 雨の中を一人で歩きたかった：雨の中は ᴅɔl eɟʅ。　ın lelʃıſ ſınſ ʅc Ωə nel. 夕食の後に外を散歩した：この ſınſ は集合住宅の庭。

月相	ıµʅı	日本語
0	ᴅɥəlı	新月・朔月
1	ılsᴅɥəlı	繊月・既朔
2	ᴅɥəlııls	三日月・眉月・朏魄・若月・初月・虚月・蛾眉・繊月
3	ıls	
4		
5	Ωəəµφıılls	
6	ılsΩəəµφı	
7	Ωəəµφı	上弦の月・弓張月・弦張・恒月・破鏡
8	ſəuınΩəəµφı	十日月
9	Ωəəµφıſəuın	
10	ſəuın	
11		十日余りの月
12	lınſeſəuın	十三夜月・十三日月
13	ſəuınlınſe	小望月・幾望・待宵月
14	lınſe	満月・望月
15	leeuelınſe	十六夜月・既望・哉生魄・不知夜月
16	lınſeleeue	立待月・座待月
17	leeue	居待月
18		寝待月・臥待月
19	uccneleeue	更待月
20	leeueuccne	二十日余りの月
21	uccne	下弦の月
22	cnseuccne	二十六夜月
23	uccnecnse	
24	cnse	
25		
26	ᴅɥəlıcnse	
27	cnseᴅɥəlı	三十日月・晦日月・晦・暁月
28	ᴅɥəlı	新月

leljcʅle ［弓道］射法八節　µΩ;lelcə/ɟcʅleſ「月の弓」 JJ ［文化］　lecuenſ ılſ の弓道における射法八節のこと。µΩ で lſ 経由でユベールに取り入れられたため、lſ 起源になっている。　ᴅɥəlı: 足踏み　ıls: 胴造り　Ωəəµφı: 弓構え　ſəuın: 打ち起こし、打起こし　lınſe: 引き分け　leeue: 会　uccne: 離れ　cnse: 残心、残身

leluep ［魔法］崩月、崩月現象　［レベル］６　J1:lelſ/ueµn　［文化］　Ωɔlᴅc ɥə

lela ［形容詞］ちょうど良い、グッドタイミングな、丁度良い、時機だ　［反意語］ıllela　［レベル］３　1L: 古 :lelſɑə（月が許せば）。月が出ていると月散歩がしやすくなることから、月が許せば＝時機のよいに。

lelaıl ［名詞］タイミング　［レベル］３　J0:lela/ıllela

lelac ［天文］つきのひかり、月の光、月光、月の明かり、月のあかり　［レベル］３　1L: 制では leld。lelſ/dıı（月光）。制の leld をクミール風に lela にし、アシェルフィとの音の類推で母音を追加した。【用例】　nɔn ɥə lelac. 月光浴をする。

lelᴅ ［名詞］夜。太陽が出てない時間帯の総称。　［形容詞］夜の　［反意語］ɑılcᴅ　［レベル］２　1L:lelſcᴅ（つきの時間）【成句】 c ɑılcᴅ ı lelᴅ 朝から晩まで。一日中

lelᴅſeµʅ ［普通動名詞］夜間外出、夜間徘徊　［レベル］５　1L:µcΩcı:ıµbılelſ　［文化］　ミロク革命で以下のような案があった。　法で夜間徘徊は禁じられているため、仕事は朝行って夜前に帰らなければならない。０時から５時の間は外出しない。１９時から２４時の間は外出しない。ルージュの月、ディアセルを含んだ前後１４日（計５７日間）は終日外出を認める。夏は２１時までの外出を認める。ただし子供は大人同伴の上。ワッカ以南は２０時まで。　　しかし経済活動の妨げとなることから数年で廃案。ただし未成年を保護するという観点は残された。　具体的にはアルバザードの学齢でいうところの小中学生は夜６時以降の外出を禁ずる。高校生（１０～１４歳）は部活があるので８時まで。→ ɑelʅc　前期大学生は１０時までで、後期大学生になると未成年だが解禁される。　なお、制限された時間であっても保護者同伴や特別な事情があれば構わない。

lelᴅſeµʅlcn ［法律］夜間外出禁止令　［レベル］５　1L:µcΩcı:ıµbılelſ　［文化］　→ lelᴅſeµʅ　未成年者保護の観点から設置されている。ルージュやディアセル前後は免除される。

lelᴅµɟccllcn ［法律］夜間営業禁止法　［レベル］５　1L:µcΩcı:ıµbılelſ　［文化］　かつてミロク革命で制定しようとした法で、夜間の営業を禁じたもの。夜にやっているのは病院や警察や例外的な夜間労働者のための店のみ。　しかし経済的に見て現実的でないため、数年で廃止された。酒場や風俗街などは主に夜に営業している。

lelᴅsın ［名詞］夜空　［レベル］３　µΩ;/　Jꟻ

lelᴅın ［名詞］夜型人間　［生物］夜行性　［レベル］４　1L

leloclſı ［名詞］夜景 ［レベル］３ ɥɷ;/ ɭʔ
lels ［名詞］月夜 ［レベル］３ 1L:jeɥen:lelſsın 【用例】 aclın oɥən lıl ı nɔn ɥəl el lɔɥ jen lels ſıſſı leɥn ız. 誰か教えてください , 翼がなくても月夜に飛べますか（初音ミク）
lell ［組み数字］３／１０ ［哲学］慈 ［医療］胃 ［歳時記］戊、つちのえ ［レベル］４ ɥɷ;lell,jzl ɭ1 ::lə lell
lell,jzl lclc lclc.l
lelɳın ［生物］［医療］胃経 jzl;/ ɭɱ
lelın ［代詞］誰か ［レベル］２ 1L
lelınſ ［代詞］誰かの ［レベル］２ 1L
lelızıɥɷ ［地名］シェラザード、シェラザード市 ［レベル］４ ɥɷ;lelſ/ıɥb ızıɥɷ「月の見えるアルバザード。月見台」 ɭɱ ［文化］ レスティル県の市。アヴァンシアンの所在地。
lelcj ［代詞］［ɥenſe］私たち。女性敬体。 ［レベル］２ ɭ1:ɥcɷcı:je/lccz（矮小な集まり）の弱化。
lelcc ［人名］シェリー ［組み数字］６／１３ ［天文］シェリー座 ［レベル］３ 先 :ınɔ:lclcn ［人名］ 第４期３代ソーン第６使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。
lelccbɔlſ ［経済］シェリーボルト、産業革命 ［レベル］４ 1L:clɒəj:ɥcɷcı:「シェリー＝アルテームスの槌」
lelcc ılſeeɒj ［人名］シェリー＝アルテームス ［レベル］４ 1L:clɒəj:ɥcɷ cı ［文化］ (ɒel ʕʔ → 1ɭ1) ナディア期、アルバザード出身の機械技師および科学者。男性。メル９８年、産業革命をアルバザードにもたらした。その功績を称え、開発省長官となる。後のアルテナ治世におけるハイン＝アルテームスはこの子孫。魔導師の生き残りだが、本人は魔法の時代は終わったとし、魔導師でない人間にも使える機械の制作に尽力した。
lelce ［人名］シェリエ ［名詞］夜、夜中、真夜中、宵。２０時から４時。 ［形容詞］夜の ［レベル］２ ɭ0:ɥcɷcı:lelcə.jzɷ（月） uel,a uccɷ,au:uc cɷ:lı lelce ［文化］ ɒczıɥc 【成句】 lelce lcuɥeɥ eſ bezeſ. 秋の夜姫は気が早い：秋の日は釣瓶落とし
lelceſ ［魔法］月晄（げっこう）、シェリエット ［レベル］６ ɭ0: 月の晄基 ［文化］ ɷɔlɒcɥə
lelceſɥecn ［魔法］月晄線 ［レベル］６ ɭ1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə
lelcelel ［名詞］シェリエクレール、カーマスートラ ［レベル］５ ɭɭ:「夜の書」［文化］ ルティアで書かれた性技の本。zφ 時代から似たような本があり、それをまとめたもの。アルバザードにも流入した。 【成句】 aıl ɒcnſc cjſ ael lelcelel 性の教科書を読むより妻を抱け：百聞は一見にしかず
lelcen ［代詞］［ɥenſe］私たちの。女性敬体。 ［レベル］２ ɭ1:ɥcɷcı:lelcj/en
lelceɥ ［天文］月の影、月のカーテン、シェリエール ［動詞］ɥəl を ı に隠す、隠す ［動詞］ɥəl（人）を食う（他人より目立つという意味で）、食う ［名詞］［娯楽］本命。競馬など賭け事などの本命のこと。本命チョコの本命は hıſcılcuel。本命志望校などの本命は ılın。 ［類義語］neɭſ、lelſ ccaı ［アクセント］lelcEɥ ［レベル］４ jzɷ;lelſj,au.l ɭ0: ルティア語。lelſ から ［語法］ シェルテスは月自体のクレーターによる影。シェリエールは月の見えていない部分。たとえば上弦が出ているときは下弦の部分が見えないので、下弦の部分がシェリエールとなる。 隠すという意味では、自分の中に隠すという意味。服の中でも体内でもよい。団体が自分たちのアジトに隠すという意味でも良いし、ある語義が別の語義を含んで隠してしまうというような抽象的な意味でもよい。 役者が別の役者を食ってしまう場合もこれを使う。
lelceɥacφc ［植物］ルピナス ［レベル］５ zφ;「食う槍」。吸肥力が非常に強いことから他の植物を食う花とされた。 ɭʔ
lelcə,jzɷ lelſ
lelcəlın ［生物］［医療］任脈 jzl;/。体の正中線で陰になる側であることから「月の経」。 ɭɱ
leı ［名詞］砂 ［レベル］２ jɔɥn: 砂より大きな小さな石。アルシェでは砂は j ないし jə。複合語では j。 jə: 【成句】 lcj ɥən leı 雀の涙 【用例】 leı ıſɔɥ leɥn lı sın ɒcl ſeeze. 風で砂が空を舞っていた。 ［メタファー］ɒɥəl ɥən leı 砂のように互いにそっくりな：区別がつかないというニュアンス
leıſenſc ［名詞］モルタル ［レベル］５ 1ʕ: 制
leıl ［名詞］砂漠 ［レベル］３ jeɥſ 1ɱ: 制 : 砂の場所 lılje:lılje:lə lılje
leılı ［名詞］砂場、バンカー、砂地 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 砂の場所
leılıɷ ［地球の国名］アルジェリア 1L: 大半がサハラ砂漠にあるため
leıleɒ ［環境］砂漠化 ［レベル］４ 1L
leıleɥcı ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］足元を見た ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］値段が不当に高い ［類義語］aılſc、acelɒed ［レベル］３ ɭ0 ［語法］ 砂漠の水は高く売りつけられることから。
leıaıd ［名詞］砂煙 ［レベル］４ 1L:ɥcɷcı/jeɥen/ɒel
leıɒel ［名詞］砂時計 ［レベル］３ 1L:lecn ［語法］ 死神の持ち物のひとつ。死神は人の寿命を計る砂時計を持っている。
leıɥ ［物理］反作用 ［レベル］４ @ 1L
leıoıl ［地学］砂山 ［レベル］３ ɥɷ;/ ɭʔ:ɥcɷcı
leıoılzeele ［論理］砂山のパラドックス、砂山のパラドクス ɥɷ;/ ɭʔ:ɥcɷcı ［文化］ 述語の曖昧性から生じるパラドックスの一種である。簡単に言えば、砂の山があったとき、そこから数粒の砂を取り去っても砂山のままだが、そうやって粒を取り去っていったとき、最終的に一粒だけ残った状態でも「砂山」と言えるか、という問題である。 ɥɷ でセレンは二値論を非現実的とし、現実は二値的でないとし、中庸を認め、要するにグレーゾーンの存在を認めた。例えば砂山から砂を取っていくとやがて台形の砂台になり、砂山性は少し失われる。そこから更に取ると砂の層になり、さらに砂山と言いづらくなる。この段階でもまだ蟻にとっては山といえるかもしれないので、砂山性はゼロではない。そこから更に取ると砂地になり、最終的に一粒の砂になる。こうなると砂山性はゼロになる。このように、砂山性は０か１かではなく、徐々に低減していくものである。セレンはこのように説いて、このパラドックスを思春期後半に説明した。リディアとメルもセレンと同様の考えをした。一部の者が二値論の姿勢を取り、対立した。
leıl ［形容詞］ある数の、ある番号の ［レベル］３ 1L
leılccɷ ［地学］砂理、砂利、ジャリ ［レベル］３ ɭ1
leııll ［名詞］［形容詞］無数の ［レベル］３ ɭ0:ɒelcɷcı lceɥ: 砂の数
lec ［副詞］もし～なら、～なら～ ［レベル］２ 1ʕ: 制 : 恣意 ［語法］ 仮定であることを付け加える。格詞に後置されることが多い。lɔn lec で「使うなら」、aɥeɒ lec で「近くにいる際は」の意味。 【用例】 ſe ɥɔl lıd dɔſ lec lɔd. 電車の中では電話をしないで：アルバザードでは問題ない。 "ace lacj jen dɔſ lec lın e.「誰かの中で生きることで、嘘は命を持つの。
leczel ［アトラスの国家］シェイゼル ［レベル］５ 1L:ɥcɷcı: 海岸の奥
lecl ［形容詞］遅い ［名詞］ある期間や区間や範囲のうちの後半の方 ［類義語］nɔu、hılɒ ［反意語］aɔcl ［レベル］１ ɥɷ:ıɒıuel;lelſ ız lelɒ.l ɭʔ:ıɒ ıuel 【用例】 lılın ſɔlıſ lıl leclel ɷə ɭ0 aec ıj. 先生は講義を ɭ0 分も延長した。
leclııaſ ［名詞］遅番 ［反意語］aɔclııaſ ［レベル］３ ɭʔ
leclneſ ［再帰動名詞］遅起き ［レベル］３ ɭʔ
leclɒɔl ［再帰動名詞］遅寝、夜更かし ［レベル］３ ɭʔ 【用例】 ın ləſ ɥılɒɔl ɒcl leclɒɔl. 私はいつも夜更かしして寝坊する。
lecɔ ［医療］幻覚 ［レベル］３ lılſı 【用例】 ſcl lecɔ ɷel ıɷel uınɷ ın 魔物に襲われる幻覚を見る
leeſ ［代詞］誰かの ［レベル］１ ɭ0:jeɥen/ɥcɷcı
leeɥ ［人名］シェール。ɷcıleɥ の愛称 ɭ1
leez ［料理］マヨネーズ ［レベル］３ lılſı:l は卵と有縁だろう
lə,a lɔj e
lelɔ,a ael, ɒıcj
lelɔ,au jcjl
ləı ［娯楽］ヨーヨー ［レベル］３ 19: 制 : 古 ,ılɔ とくっつけたから
ləəſ ［植物］モヤシ、ナムル ［レベル］３ lılſı ［語法］ モヤシだけではなく、ナムルのように他にいくつかのものを混ぜても ləəſ という。
ləəze ［死神］シューゼ ［レベル］４ ɒelſcı ɱ:ıſoııɥə ɔ lənɔ;e 1L:ɥcɷcı ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。男性。夢喰種。美少女好きで、十三人の死神少女からなる「雛人形」を侍らせている。詩姫は一番のお気に入りで、雛号は七。
ləəzeſılı ［地学］［歴史］シューゼ大陸 ［ユマナ］シベリア大陸 ul;/ ɭʔ

ɟ

ɟ ［数学］ふだんは３番目の変数だが、しばしば数式中で項数を指す。等差数列や行列などに用いる。 ［レベル］５ 1L:jıj
ɟ(ɭ) ʉınſ
ɟ,lɥ 主格の接尾辞 jɔ.l
ɟſıſ ［経済］卸売り、卸売、おろしうり ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ıljıſɒ（直接売る）。製造者から直接買って小売業者に売ることであることから。
ɟſıſuenſ ［経済］卸売業、問屋 ［レベル］４ ɥɷ;/ ɭʔ
ɟſıl ［名詞］ミイラ ［レベル］３ lılſı: 砂のように乾いたもの
ɟſıj ［動詞］ɥəl を c から追い出す、追い出す、追いだす、追放する、退場させる、追い払う、追い返す、入ってこないようにする、解職する、免職する ［普通動名詞］追放、退場、解職、免職 ［レベル］３ 1ʕ: 制 :jſcj:jſcl（客）
ɟſın ［医療］ステロイド ［レベル］５ ılılſı
ɟſıl ［名詞］主人、客に対して主人、ホスト ［反意語］leɥə ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ılılſı:jſıı
ɟſıcφ ［普通動名詞］賃貸、レンタル ［動詞］ɥəl を ı にレンタルする、レンタルする、貸す ［類義語］lıɑ ［反意語］jſcſ ［レベル］３ ılılſı:jſıcφ
ɟſıcφın ［名詞］大家 ［レベル］３ 1L:ɥcɷcı:ıɥbıleſſ
ɟſcſ ［普通動名詞］賃借、賃借り、レンタル ［動詞］ɥəl を c からレンタルする、レンタルする、借りる ［類義語］ɥcd ［反意語］jſıcφ ［レベル］３ ɭ0:jſc:1ʔ :jeɥen:llel:jſı: 古 :jſıcφ
ɟſcſjıaſı ［娯楽］レンタルビデオ ［レベル］５ ɭ1 ［文化］ 既に廃れている。
ɟſcſφıɥſ ［名詞］レンタル料、賃料 ［レベル］３ ɭɭ
ɟſcn ［農耕］肥料 ［レベル］４ 1ɱ: 制 :jıɷ:ſnɔ/lıcſ「土の栄養」
ɟſcnſ ［被服］ストラ、ストール zφ;jſenſ.l ɭɱ ［文化］ アルテ教の法衣。
ɟſcɥ ［動詞］ɥəl に反対する、反対する ［普通動名詞］反対 ［反意語］lıɒ ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 倦厭する ［語法］ 賛成しないという意味の反対。 ［文化］ lıɒ
ɟſɔn ［動詞］ɥəl を ɔn について反省させる、反省する、たしなめる、嗜

める、窘める ［普通動名詞］［再帰動名詞］反省 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɪɥʃɪʝen ［文化］ deʝ 【成句】 ʝʃɔn nɔʝ ɿɔn ɑɪcz ɿeeʃɔ 他山の石、人のふり見てわがふり直せ 【用例】 ɥe ʝʃɔn nɔʝ. 反省しなさい。

ʝʃɔɥ ［動詞］ɥəl を伏せさせる、伏せる、ふせる ［再帰動名詞］伏せ、ふせ、匍匐、ほふく ［レベル］2 ıllıʃı: 軍隊用語？で「 伏せる 」【用例】 ɥe ʝʃɔɥɾ φelɾ 伏せろ、鉄砲だ！

ʝʃeɿ ［植物］野菜 ［レベル］2 1ɱ: 制 :ʝʃɔɿ: 古 :hɪɥ:ʃəɿəc（食用植物）。ʃə（土の）/ɿəc（食べ物）。「土が作った食べ物」 ［語法］ 主食とならない食用植物。トマト、レタス、キャベツなど。イモは外す人もいる。 【用例】 ɪn ɿəcʃ ʝʃeɿ uecn ɿɔnʃ ɑɔnl ɥeɿ uɔʝɿel. 肉を控えて野菜をもっと食べるよう努力した。

ʝʃeɿbel ［料理］野菜料理 ［レベル］3 1L

ʝʃeɿɪʃe ［名詞］八百屋、野菜屋 ［レベル］3 ⅃⅃

ʝʃeɿɪn ［名詞］ベジタリアン、菜食主義者 ［レベル］4 1L

ʝʃeɿɪne ［名詞］野菜ジュース ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʝʃenʃ ［名詞］十字、クロス ［動詞］ɥəl を横切る、横切る、渡る ［交通］十字路 ［シェルト］十駒 ［名詞］十字架← ʝʃenʃeeʝʃe ［反意語］ʝɔɒɪ ［レベル］2 ɑu;<>ʝɔɿɿɪ 古 :ʝʃenʃ（十字路） 【用例】 ʝʃenʃ ɑɔnʃ 道を横切る、道を渡る ☆ ɥe nɪɒʃ ɑɔnʃ cɒ ʝʃenʃ. 道を渡るときは気を付けなさい : nɪɒʃ ʝʃenʃ ɑɔnʃ は不可。ɥe ʝʃenʃ ɑɔnʃ nɪɒʃel は正しい。 ʝʃenʃ ɑɔnʃ ɭc ʝɪcn ʝɪnl. 渡るときは左右を確認しなさい。

ʝʃenɱɪnɔ ［地球の国名］ルーマニア ［レベル］6 1L: 国章に十字を加えた鷲

ʝʃenʃʝɔɒʃ ［名詞］平織り ɥɑ;/「十字織り」 ⅃ʔ

ʝʃenʃʝed ［名詞］ちりめん、チリメン ［レベル］5 ɥɑ;ʝʃenʃʝɔɒʃ/ʝed「平織りされた絹」 ⅃ʔ ［語法］ 材質が絹でなくレーヨンなどのこともある。 ［文化］ zφ ごろに凪で作られた。ɿɿ ごろには helʃe などによく使われ、ʝɒ 以降はアルバザードでもよく使われた。

ʝʃenʃɑɔnʃ ［交通］十字路 ［レベル］3 ⅃0 ［語法］ ʝʃenʃ ɑɔnʃ（道を渡る）という動詞句と区別すること。

ʝʃenʃɑɔl ［地学］十字石 1L

ʝʃenʃeeʝʃe ［名詞］十字架→ ʝʃenʃ ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ʝʃec ［植物］植物の皮、野菜や果物の皮、固い皮 ［動詞］ɥəl（植物）の皮を剥く、剥く、むく ［類義語］ɥəɿɪ ［レベル］2 1L:ʝʃeɿ/ɥeɿ

ʝʃecl ［名詞］［形容詞］必然、運命、必然性 ［反意語］ɭɔel ［レベル］4 ⅃0:ʝe ʃeel（運命的に）→ ʝʃeel → ʝʃecl（ʃeel と区別するために）【用例】 ɪnʝ ɪɿʃɪʃ ʝʃeclel ʃcʝee. 俺たちが出会ったのは運命だったんだよ。

ʝɿɪʝ ［被服］スウェットシャツ、トレーナー ［レベル］3 ıllıʃı

ʝɿɪl ［動物］タラ、鱈 ［レベル］3 ıllıʃı

ʝɿɪlɑcɪ ［地名］スカルディア ［レベル］4 ɒelʃcɪ Lꝭ ʝen ucɪ:lʝɑ;ʝ<ʝə（砂）/ɿɪl（場所）/ɑcɪ（土地） ⅃0:ɥcɑcɪ:ʝ<ʝə（砂）/ɿɪl（場所）/ɑcɪ（土地） ［文化］ 古代国家のひとつ。レスティルの東。現在の魔方。

ʝɿɪc ［普通動名詞］放牧 ［レベル］4 ıllıʃı

ʝɿɪcnelʃ ［アトラスの国家］スカイネルト ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ: 広大な土地

ʝɿcʃ ［名詞］席、シート ［レベル］2 1ʕ: 制 :ʝɿcn ［文化］ ʝɿcɱɪ 【用例】 ʃɪɑ ʝɿcʃ 席をとる beφ ʝc ʝɿcʃ ɑɪdɾ おめーの席ねぇから！ ɪn ɭcɒɪʃ ʝɿcʃ ɪɒɔlen ɑɪɒcc ɒcl ʝɿcʃɑəʃ. 席替えでファミィの横になった。

ʝɿcɱɪ ［名詞］席順 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ 円卓の場合は入り口から最も離れた点にある席が上座となる。入り口からの距離で測るのは、最も刺客に狙われにくい場所であったことから来ている。 四角いテーブルの場合は、入り口から最も離れた一辺の中央の席が上座となる。２位は１位の右、３位は１位の左、４位は２位の右、５位は３位の左というように続く。４つある辺のうち、上座の辺から見て右の辺が２位の辺で、左の辺が３位の辺。対面の辺が最低位となる。円卓の場合は１位の右が２位、左が３位、２位の右が４位……というやりかたを延々に繰り返し、席がなくなるまで行う。 タクシーや電車でも複数ある入り口の中からメインゲートを選び、そこからの距離で決める。 目上は常に上座であり、パーティにおけるホストであっても変わらない。つまり客が自分より目下であれば自分が上座につく。 席順はマナーとして日常的にも重視され、これを守れないと教養のない下品な人物とみなされる。

ʝɿcɱɭɔʝ ［名詞］背もたれ ［レベル］3 1ʕ: 制

ʝɿcʃɑəʃ ［普通動名詞］席替え、席がえ、席変え ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ɱ 【用例】 ɭɪnɭɪ ɪɥɪʃ ʝɿcʃɑəʃ ɪ ʝɪcɒ ɪnʃeʝ enʃɔ ɪn ɭcɒcɿ ʝɿcʃ ɪɒɔlen ɑɪɒcc. 先生がウチのクラスで席替えをしたら僕はファミィの横になった。

ʝɿcɿ ［名詞］司会、議事進行 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ʝɿc

ʝɿcn ［動詞］ɥəl を ɪ に座らせる、座る、座らせる、着席させる、腰掛ける、腰を掛ける、腰をかける ［再帰動名詞］着席 ［類義語］ɪʝd ［反意語］ɭʃɪɒ ［レベル］1 1ʔ: 制 ［語法］ ʝɿcn（座る（正確には座らせる）） ʝɿcn(ʝɿcneɒ) : 座る ʝɿcn ɭɪ : 座っている。着座から起立までの総称 ʝɿcn ʝɪʃ : 座ろうとしている ʝɿcn ɿcʃ : 座り始めて腰を曲げた ʝɿcn ɔɥ : 腰を下ろしている途中 ʝɿcncɿ : 座面に尻が着いた ʝɿcneʝ : 座っている状態 ʝɿcn ʃɔɔɿ : 座り終えて立つ瞬間 ʝɿcn clʃ : 座面が暖かく、座っていた影響が残っている 【用例】 ɪn ɥəcʃ ɑɪl ʝɿcʃ lʼɪn ʝɿcn ʝen ɪl. 座る場所を探さねばならなかった。

ʝɿcnbeeɿ ［名詞］洋式便所 ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʝɿcnzelɔ ［生物］中脳 ［レベル］6 1L ［文化］ 解剖時に骨盤のような形をしていたことから、座る脳と名づけられた。

ʝɿcdcɪ,ɪzɑ cɒɪn

ʝɿcdcɔ ［被服］カズラ、チャズブル zφ;ʝɿcdcɪ,ʝzɑ.ɿ ⅃ɱ ［文化］ アルテ教の法衣。

ʝɿcl ［名詞］椅子 ［レベル］2 ⅃0:ʝɿc:1ʔ: 制 【用例】 ʝɿcl lceɑcl 深い椅子。座面が奥に長い。

ʝɿɔd ［名詞］戸棚、カップボード、キャビネット、飾り棚 ［レベル］3 1ɱ: 制 :ʝɪbeɿɔu。類音が紛らわしいので u を d にした。

ʝɿɔl ［形容詞］いつもの、いつもどおりの、普段の、日常茶飯事になじみの、おなじみの、顔なじみの、固定客の、いつもの、お決まりの、ルーティン、日常の、常用の、日常茶飯事、日常的な ［名詞］常連、馴染み、固定客、日常的なこと ［名詞］雑貨、日用、日用品、食料雑貨類、グローサリー ［名詞］定番、おはこ、十八番 ［名詞］日課、習慣 ［名詞］ふだん、普段、いつも、日常 ［副詞］いつもと同じように、いつも通り、自然に、あるがままに、いつもどおり、いつものように ［文字］ミディアム ［文頭純詞］いつもなら、ふつうは ［反意語］ɪlʝɿɔl ［レベル］2 lɪɱc 【用例】 ʃə eʃ ʝɿɔl ɭel lɪ ɿel dcnɪ. 彼が約束を忘れるのはいつものことだ。

ʝɿɔlʃəl ［名詞］日用品、日用雑貨、雑貨 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ʝɿɔlʃəlɪʃe ［名詞］雑貨屋、雑貨店 ［レベル］4 ⅃1:ləʝcɪn

ʝɿɔɱɔʝ ［名詞］常套手段 ［レベル］4 ⅃⅃

ʝɿɔlɭɪʃe ［音楽］アンビエント ［レベル］6 ⅃1

ʝɿɔlzeʃ ［料理］定番メニュー、定食 ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ʝɿɔlɪʃe ［名詞］馴染みの店 ［レベル］3 ⅃1

ʝɿɔlɔɒ ［名詞］定石、定石手、お決まりのパターン ［レベル］4 ⅃ʔ

ʝɿɔleʃ ［言語］結びの言葉。手紙。 ［レベル］4 ⅃1:ʝɿɔl/ʃe

ʝʝe,ɪlʃ ʝecn <>ʝe

ʝn ［演繹音］くんくん、クンクン ［レベル］2 ɥɑ;hɪɪlueʃ ⅃ʔ ［語法］ ふつうに匂いを嗅ぐときの音。

ʝɒ ［擬音］ふふっ、くすっ ［レベル］2 古 :ʝɒ,ʝɒɒ などのアルファベットで表わされていたので幻字は無い。 ［語法］ 含み笑いを示す。口を明けずに鼻息だけでする笑い。侮辱する場合もあるし、子供のバレバレな企みを理解して「 しょうがないなぁ 」と可愛く思いながら笑う場合もあり、意図は様々。

ʝɒ(⅃) ［歴史］セルメル、ʝelɒel ［レベル］3 ⅃1

ʝɒʝɒ ［擬音］くすくす→ ʝɒ ［レベル］2 ⅃⅃

ʝdɪʃ ［普通動名詞］差別 ［動詞］ɥəl を ɪ と差別する、差別する ［反意語］ʝcɿɭ、uelɭ ［レベル］3 ʝɔɥn:ʝdɪʃ（縦の区別）。差別というのは縦の区別で、区別というのが横の区別だということをセレンがメルらに聞き伝えた。メルはクミールにその話をし、クミールは縦の区別というのを上下方向の区別と捉え、dɪʃ を変形させた ʝdɪʃ という語を作った。

ʝdɪl ［動詞］ɪ に ɥəl（水など）をぱしゃっとかける、水をぱしゃっとする、かける ［類義語］ʝdcl、zɪɪφ ［レベル］2 古 : オノマトペ 【用例】 ɪn ɔnʃ ɪɥəəs ʝdɪlɪʃ eɥ ɪ ɭɔɿ. 弟と水を掛け合った。

ʝdɪn ［名詞］双眼鏡 ［レベル］3 ıllıʃı

ʝdɪl ［名詞］シーツ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 敷布団の上に敷く布 【用例】 ɪn ɒeɑɪʃ c ɒɔɿʃ, ʝɪɒɪʃ ʝdɪl. ベッドから降りてシーツを取り替えた。

ʝdcl ［動詞］ɪ に ɥəl（水など）をちゃぷっとかける、ちゃぷっと水をかける、かける ［類義語］ʝdɪl ［レベル］2 1L:ʝdɪl と演繹音から。 【用例】 ləlcɪ dcld nelʃ ɥəlʃ ɿɪ eɥl uɔl ʝdcl eɥ ɪ lə. ルシアはいつもお風呂でユルトに水をちゃぷっとかけてからかう。

ʝdcn ［名詞］メダル ［レベル］3 ʝɔɥn: 賞の円盤

ʝdcɱɪl ［アトラスの国家］スピルカル ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ: 六角地（名付けられたときは六角をしていた）。

ʝdel ［化学］ベンゼン、ベンゼン環 ［レベル］5 古 : ← cʝdel

ʝdelʃeɪ ［化学］フェニルアジド、アジドベンゼン 1L

ʝdeluclәzɪʝl ［化学］テレフタル酸 1L

ʝdelɑɪɪnuclʝ ［化学］フェニルアラニン 1L

ʝdellәzɪʝl ［化学］安息香酸、ベンゼンカルボン酸、ベンゾイックアシッド ［レベル］5 1L

ʝdelɪɥɿ ［化学］共役二重結合 ⅃1: 主に芳香族化合物を作る結合

ʝdelɪɥlәnɔ ［化学］芳香族炭化水素 ［レベル］5 1L: ベンゼン様構造を持つ環式炭化水素

ʝh ［演繹音］スーハー、スーハースーハー、すーはー、すーはーすーはー、ｈｓｈｓ、はすはす、ハスハス、はーすーはーすー、ハースーハースー ［レベル］3 ɥɑ:ʝeɥen;hɪɪlueʃ ⅃ʔ ［語法］ ɿh

ʝɥɪn ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。少し舌足らずな感じがある。 ［レベル］2 ɥɑ; 敬称の ʝɪn を舌足らずにしたもの。 ⅃ʔ ［文化］ ɪnɿɒeu

ʝɥ ［歴史］サリア、ʝɪɥcɪ ［レベル］3 ⅃1

ʝzɿ ［言語］遠シージア語 ［レベル］5 ⅃1

ʝzʝ ［言語］新シージア語 ［レベル］5 ⅃1

ʝzu ［言語］近シージア語 ［レベル］5 ⅃1

ʝzɑ ［言語］古シージア語 ［レベル］5 ⅃1

ʝzl ［言語］ʝzɿ_ʝzʝ、ʝcczcɪɥen lɔnʃ、上代シージア語 ［レベル］5 ⅃1 ［文化］ 言語学的にシージア語は記録の少なさから分かっていることが少ない。そのため特に語源においてどの時代に成立したか細かく特定できないことが多い。ゆえに通常、上代シージア語としてまとめることが多い。 lɔnʃ はシージア語の名詞なので形容詞用法は前置だが、これはアルカにとっての外来語として使っているため。人文ではルティア語系をよく使う。

ʝoɪɒd ［動詞］ɥəl をもみくちゃにする、もみくちゃにする ［普通動名詞］もみくちゃ、揉みくちゃ ［レベル］4 ɥɑ:ɒel; 紫亞がぬいぐるみを揉みくちゃにするときのオノマトペ。 ⅃ʔ

ʝl ［演繹音］さらさら、サラサラ、ざらざら、ザラザラ、すらすら、スラスラ、すたすた、スラスタ、すらら、スララ、さーっ、ざーっ、

ささーっ、ざざーっ ［レベル］2 ⅃⅃ ［語法］ 砂や毛や水などが流れる音、落ちる音、たなびく音。

ɉlıʅ ［名詞］現地、当地、現場 ［レベル］3 1ɱ: 制 :ɉlı

ɉlıl ［名詞］場面、状況、光景、事情、シーン ［娯楽］面、シーン、ステージ。ゲームの一面、二面などの面。 ［シェルト］局面、盤面、盤の勢力図。棋譜における一手一手の盤面。 ［レベル］3 ⅃0:ɉlı:ılıʅʃı: クライマックスシーン 参考 : 非 cʅlı（場面)。見る場所 clı から来ているが、観点という意味とかぶるので cʅlı という風に音が変化した。 【用例】 dıʅ uın ʅɔnʃ ɑcʃ eueᴅ ɑel uıɉʃcʅ ʃə ɉlıl ınᴅcıɤ このステージをクリアしたことにして先に進みますか？

ɉlıc ［電算］ウェブサイト、サイト、ホームページ、ＨＰ、ページ。日本語でそうだと勘違いされているホームページのこと。 ［電算］（広義の）ブログ、ウィキ、ｍｉｘｉ、ツイッター、ＳＮＳ ［レベル］3 1ꝑ: 制 : 古 :ɥɥəə:ɉlı 【用例】 denʃınʃ, ʃə ɉlıc eʃ ılʃ ʅɔn dıɥᴅɥen ɔnʃ ıɥʅı hɔʃ. 申し訳ありませんが、このサイトは日本語とアルカでのみ書かれております。 ɉlıc eʃ ɑeᴅc. サイトが重い＝ページが重い。 当サイトへようこそ！当サイト管理人のアルドゥです。申し訳ありませんが当サイトは日本語版のみです。 ınʅeʅʅɔ ı ɉlıc ınʃʅ ın eʃ ıɥɑə ɑel ɥɉcclı e ʃə ɉlıc ııʃı. ındenʃ ᴅın ʃə ɉlıc ʃcl cᴅeʃ e dıɥᴅɥen hɔʃ.

ɉlcl ［動詞］ɥəl を ı に描写する、描写する ［普通動名詞］描写 ［レベル］3 ⅃0:ɉlel:1ʔ: 制 :「客観的に書く」

ɉlcᴅ ［名詞］焦点、焦点箇所、ハイライト ［名詞］問題、ポイント、点、論点、問題点、要点、課題 ［類義語］ɥeʃ ［レベル］3 ⅃0:ɉleᴅ:1ɱ: 制 :ɉle

ɉlcᴅʃɔcıɥ ［名詞］焦点調節装置、ヘリコイド。カメラの。 ［レベル］6 ɥʃ;/ ⅃ɱ

ɉlɔʃ ［名詞］角、かど、コーナー、街角 ［数学］角、～角形 ［レベル］3 ⅃0:ɉlɔ:ɉɔɥn:「角度」 参考 : 非 :cʅıl「見る場所」 ［語法］ 角度は dɔcʃ。ɉlɔʃ としないこと。

ɉlɔʃncıl ［数学］角注 ［レベル］4 ⅃0

ɉlɔʃdcᴅ ［数学］角錐 ［レベル］4 ⅃0

ɉlɔʃɥecn ［数学］辺 ［レベル］3 ⅃0

ɉlɔɥ ［名詞］分度器 ［レベル］3 1ʔ: 制 :cʅıl。cʅılɑnıɥ は長すぎるため。

ɉleʃ ［電算］画面、スクリーン、モニター、ディスプレイ、パネル ［文字］コンピュータ。電算文字。電卓や電光掲示板などに使われる文字。 ［レベル］3 ɉɔɥn

ɉleʃılʃ ［普通動名詞］ブラインドタッチ ［動詞］ɥəl をブラインドタッチする、ブラインドタッチする ［レベル］3 ul;/「画面を見ながら打つ」 ⅃ʔ

ɉlen ［名詞］観点、視点、視座 ［レベル］3 ⅃0:ɉle: 古 :ɉɔɥn: 制であった格詞の用法はなくなり、lılʃ が担うようになった。

ɉlenın ［言語］視点人物、視点者 ［レベル］4 ⅃0

ɉlez ［名詞］掲示板 ［電算］掲示板 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ:ɉlec/ɉcz 【用例】 ın ıcl ılʃ ı ɉlez e leucın. たまに人工言語の掲示板に書き込んでいます。

ɉleı ［人名］スレア ［名詞］アルカンスにおけるスレアの手 ［名詞］上巻 ［組み数字］1／3 ［レベル］2 古 ［文化］ ıɥʅınɉ エルト信者で、アルカンスを巡ってブレア・トレアと争った。

ɉleıʅeelʃ ［化学］αグロブリン ɥʃ;/ ⅃ɱ

ɉleıᴅel ［名詞］初期、前期 ［レベル］3 1L:clᴅəɉ:ɥcɑcı

ɉleıhɔ ［生物］腸骨 1L:ɥcɑcı

ɉleıhɔdcɉ ［生物］腸骨棘 ɥɑ;/ ⅃ɱ

ɉleıhɔlɔɔz ［生物］腸骨稜 ɥɑ; ⅃ɱ

ɉleıhɔlɔɔzɥecn ［生物］ヤコビー線、ヤコビ線→ ɉleıɥecn ɥɑ;/。「腸骨稜線」 ⅃ɱ

ɉleıɥecn ［生物］ヤコビー線、ヤコビ線← ɉleıhɔlɔɔzɥecn ɥɑ;/。「腸骨稜線」 ⅃ɱ

ɉlec ［名詞］掲示 ［動詞］ɥəl を ı に掲示する ［レベル］3 ɉɔɥn

ɉı ［名詞］前 ［形容詞］前の ［格詞］～の前に、～の前で ［反意語］lc ［レベル］1 ɥɑ;ləᴅcᴅ 1ʔ: 制 : 恣意 dıl:dıl:dıl ［語法］ ʅı 【用例】 ʅeʃ lı ɉı ın. 猫が私の前にいる。 ɉı uıɥɑınʃ 7時前に ɉı ɑleı 夏になる前に

ɉı,ɑ ɉıb（着る） ›‹ɉıbe

ɉı,ılʃ lın

ɉı,ılʃ(⅃) ɑccıeʃeʅ

ɉıʃ ［普通動名詞］準備、用意 ［法副詞］～しそうだ。将然相の副詞。 ［動詞］ɥəl を準備する、準備する、用意する ［動詞］ɥəl（機械）をセットする、セットする ［武道］［動詞］ɥəl（主に再帰）を構えさせる ［形容詞］準備ができている。通例 eɉ ɉıʃ のように継続相とともに使う。 ［料理］下ごしらえ ［感動詞］ようい、よーい、ヨーイ、用意、はっけよい、はっけよーい、かまえ、構え、レディ ［レベル］2 1L:ɉıʃəl（前のもの＝前もってしておくものごと） eʃʃı（法副詞）:::ɉıʃılə,ılʃ 【成句】 ʃə eɉ ɉıʃɤ ʃə eʃ nec. もういいかい？まぁだだよ（まだだよ） ɥɔl ᴅel ıʃʅı ɑcc nı ɉıʃ 準備に最大の時間をかけよ：備えあれば患い無し

ɉıʃ, ʅeʃʃı ［感動詞］よーいどん、よういどん、位置についてよーいどん、用意どん、レディゴー ［レベル］2 ⅃ʔ

ɉıʃclc ［気象］小春日和 ［レベル］4 1L:「準備の恵み」 ［文化］ 秋の終わりごろにふと暖かくなる期間のこと。メルセルの準備で忙しいのに季節の変わり目で体調を崩している人にとって、秋の神アリスが「メルセルの準備をきちんとできるように」と配慮してくれているように感じることから。

ɉıʃncɑ ［言語］将然相 ［レベル］4 ⅃0 ［語法］ 行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。 非単位動詞の左端線。 「～しそうだ」という意味。

ɉıʃɥəlı ［サール］サテュラ ［レベル］5 ɥcɑcı: 古 ［文化］ 昼の海を司る王。

ɉıʃʅ ［政治］役所、官公庁 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɉıʃʅɔcʃ（公のオフィス） ［文化］ 役所は図書館に隣接していることが多い。簡素なビルである。役所は住民票や恋人届や婚姻届などに関する取り扱いを行う。税金の相談や就職の相談なども行う。生活保護の相談や保険等の相談も受ける。様々な業務があるが、おおむね日本と同じである。役人の態度はふつうの店と同じく親切である。

ɉıʃʅın ［政治］役人、公人、公務員、公僕 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ɉıʃʅeɑ ［運動］助走 ［レベル］3 ⅃1: 準備走り

ɉıʃı ［親族］先祖、祖先 ［名詞］昔の人 ［名詞］前身 ［反意語］lcʃı ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɉılcʃe（前の家族） dılʃ:dılʃ 【用例】 ɉıʃı ɑlɔn 遠い先祖

ɉıʃılə,ılʃ ɉıʃ

ɉıʃıeɥʅ ［親族］尊属 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

ɉıʃc ［生物］裸、はだか、裸体、すっぽんぽん ［レベル］2 1L:lecn: 悪魔サティから。サティが服を身に着けてないため

ɉıʃcʅı ［軍事］フォアグリップ。銃の。 ɥɑ;/ ⅃ɱ ［文化］ φel

ɉıʃcɉ ［地名］風の村サティス 1L:ᴅelcɑcı ılʃe:ɉıʃcc ［語法］ ɉılɥəᴅ ルティア国郊外の村。紗枝の故郷。 「風絹」という軽くて暖かい繊維で生計を立てている。高品質だが大量生産できないため、村は決して裕福でない。

ɉıʃcɉφın ［歴史］サティスの報い ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/ɉeɥen/ᴅel ［文化］ ユーマ ɱ000 年ごろ、マレット軍は当時シフェルの土地であったサヴィアに侵攻。ルティアでの戦闘が激化した。 シフェルについた神々は、進軍中のマレット軍をサティス付近で掃討した。これをサティスの報いという。

ɉıʃcɉlccɑı ［天文］ツバーン、ツーバン、トゥバン ［レベル］6 1L:ɥcɑcı/ɉeɥen/ᴅel ［文化］ ルティアへ進軍したマレットは途中、サティスへ北上したところで「サティスの報い」を受けた。当時のマレットの駐屯地からサティスへの空路がちょうど北であったため、北極星が目印として使われた。ユーマ ɱ1Δ0 年ごろは uelʃɔɔl 座のこの星が北極星（りゅう座のツバーン）だったため、以降この星を ɉıʃcɉlccɑı と呼んだ。ユーマ ɱ000 年ごろも以前として北極星である。ユーマ ɱᚹ00 年になると機能が徐々に怪しくなり、ユーマ ᚹ000 年で北極星の役に立たない。メル暦における北極星はポラリスである。

ɉıʃcləɑı ［名詞］裸足、はだし、ハダシ ［レベル］3 ⅃⅃

ɉıʃcı ［アイテム］サティア ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 :ɉıʃcc ［文化］ ヴァストリアの１つ。クリスのもつ魔杖。風を自由に操る力を持つ。

ɉıʃcı(⅃) ［政治］穏健派、ハト派、鳩派 ［反意語］bezcı ［レベル］4 ⅃0:ɉıʃcc/lcı

ɉıʃcc ［悪魔］サティ、サティー ［歳時記］風曜日。週の第３日目。 ［音楽］ミ ［名詞］強風、風害 ［組み数字］3／7 ［レベル］2 ᴅelʃcı 0:ɉıʃcc;e 古 : アルシェ形ソーン形共通で ɉıʃc ないし ɉıʃcc。風が吹き抜けるオノマトペ ɉıʃ に力を表す c が付いたもの ［文化］ ソームの３番目。ほんわかしてあどけない天然系の少女。風を操る。全裸。風を纏った裸の少女。動くたびに風が生まれる。自由奔放で無邪気。悪意のない悪魔。 【成句】 ɑıc ı(len) ɉıʃcc 焼け石に水

ɉıʃccɉcz ［魔法］バナジウム板、陽晄板 ［レベル］6 ⅃1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɉıʃcclcl ［化学］バナジウム 1Δ: 制

ɉıʃceɉel ［名詞］裸エロ ［形容詞］裸エロな ［反意語］lecneɉel ［レベル］6 ɥɑ;/ ⅃ɱ ［文化］ lecneɉel

ɉıʃɔl ［化学］プレパラート ［レベル］4 ɥɑ;/「準備せられた」 ⅃ʔ ［語法］ 顕微鏡観察を行うにあたり観察対象（試料）を検鏡可能な状態に処理したもの。

ɉıʃeᴅ ［生物］脇腹、わき腹 ［レベル］3 1L:ɉıʃᴅ:1L:ᴅelcɑcı ılʃe:ɉınl/ʃɔᴅ

ɉıʅ ［動詞］ɥəl を見つける、見つける、見付ける、発見する、発掘する ［普通動名詞］発見、発掘 ［反意語］lcʃ ［レベル］2 1ɱ ←古 :ɉɔɥn:ɉıcʃ から。尚、赤では chɔlı「存在を確かめる」【成句】 el ɉıʅ ɉen lın ɉɔu ɑıɥ ɔ uel. 光と闇が融け合う処に、真実がある (ɥenɉ ᑫ⅃⅃) 極端なものに真実はないという中庸の精神。 el ɉıʅ ɉen ɥıʃen lın lɔʃ en ɉccnen. 本当にいいものは一般受けするものの中にはない（ɉeɥen ıɥbızıɥɑ）【用例】 ləəɉ cl ɉıʅ ucl ʅılʃe lʼeʃ ɑız ı ləəɉ. 世界中のどこにも自分の居場所を見付けることができない。

ɉıʅʃ ［形容詞］公の、公私の公、公認の、公立の、国家の ［反意語］ɑınʃ ［レベル］3 1L: 制 :ɉıʃʅ:ɉɔɥn:ɉıʃɥəlıɉ（政府）

ɉıʅʃıɉ ［名詞］国家試験 ［レベル］5 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɉıʅʃueʅın ［経済］公認会計士 ［レベル］5 1L

ɉıʅʃɑeʅı ［名詞］公立校、国立校、県立、市立 ［レベル］3 ⅃0

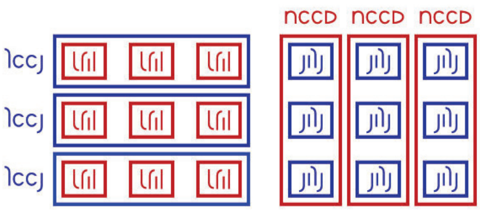
ɉıʅʃıb ［政治］［経済］公共事業 ［レベル］4 ⅃ʔ

ɉıʅʃɔd ［交通］国鉄。幻環線など。 ［レベル］4 ⅃⅃

ɉıʅʃıueɥ ［名詞］国家資格 ［レベル］5 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɉıʅɉ ［名詞］行列の各行、行 ［魔法］晄基配列の行 ［レベル］5 ［類義語］nccᴅ ［反意語］lʃıl ⅃0:ᴅelcɑcı lceɥ:ɉınʅ/ɉıɉ ［語法］ nccᴅ は縦の列すべて。ɉıʅɉ は縦の列を構成するひとつひとつの行。ʅccɉ は横の行すべて。lʃıl は横の行を構成するひとつひとつの列。 【用例】 ɉıʅɉ eʃ lɔʅeʃ ɑə 1 ɔn ıdıᴅıɉ. マークシートが一行ずれている。 ıdıᴅıɉ eʃ lɔʅeʃ ɑə 1 ɉıʅɉ. マークシートが一行ずれている。

ɉıʅn ［料理］しゃもじ、杓文字 ［名詞］仕置き棒、尻叩き棒：悪い子供などの尻を罰として叩くときに使う平べったいしゃもじ状のもの。ふつう木製。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɉıʅhɔʅn（くぼみがなくて平らなスプーン） 【用例】 ʃıɑ dıɉʃ ʅɔn ɉıʅn 米をしゃもじでよそう、よそる



jill ［被服］ベルト、帯 ［名詞］帯→ lec ［類義語］lihcɒc ［レベル］2 1ʔ: 制 : jibloɔl（服に関する巻くもの）【用例】 jib jill ベルトを締める

jilli ［篭堺］サクラ ［レベル］5 μɑ;acφcʃ 語で刀 JJ ［文化］ 篭堺司 : lc cne uiacc 篭堺国 : acφcʃ, uɔzɪɒɔ ılʃc, ıləɔμcı ılj

jilli(J) ［武道］居合、居合道 ［レベル］5 jɒ;jilli,acφcʃ.ıle1 JJ ［文化］ ael clcı jɒ でアルティア人がフィギット語の刀を元に造語したもの。居合道の始祖はアルティア人だが、その祖先がフィギット人であったことから居合道に jilli と名付けた。居合はアルティアで発達し、jɒ でカレンシアを通じてアルバザードにもたらされたが、そのときは注目を受けなかった。フェリシアなど、一部で盛んだったところもある。μɑ でアシェットが見出したおかげで現在ではユベールにも取り入れられている。 居合はアルバザードではフィギアスケートのように採点制の競技としても広まっているため、弓道と同じように試合がある。

jilli,acφcʃ lil

jili ［軍事］ミサイル、誘導弾 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jileaıcl 【用例】 ıμ jili ı μeʃl 敵にミサイルを撃つ

jili,ılʃ lczl jı/lı「人の場所」

jilizı ［植物］くぬぎ、クヌギ、つるばみ、櫟、椚、橡 ［アクセント］jilizↆ ll<zφ;jili,ılʃ/zı,ılʃ「里の木」 ［レベル］4 Jʔ ［文化］ ılʃ で材木として里に植えられた。それが ll でアルバザードに流入した。

jile ［動詞］ı に先行して ɥəl へ行く、率いる、導く、誘導する、先行する、先導する、先立つ、行く ［普通動名詞］先導、誘導、先行 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 先に行く

jileɥəla ［普通動名詞］先行研究 ［レベル］6 μɑ;/ Jʃl

jiləli ［魔法］お守り、タリスマン ［レベル］4 jɒ;ılʃ JJ ［文化］ aμeɑcʃ や ɥəəı に念力を篭めてもらった小さな ıμaı を ucμ を示す赤の布の袋に入れてタリスマンにしたもの。日本のお守りのような形をしている。表面には「交通安全」や「学業成就」など、願い事が言葉になって書かれている。

jilələ,ılʃ jccl

jil ［動詞］ɥəl をくすぐる、くすぐる ［普通動名詞］くすぐり ［レベル］2 lılʃı

jilʃ ［名詞］［形容詞］どうにでもできた、何だろうとできた、仕様があった、なんとでもできた、なんとでもなった、どうにでもなった、何とかなった、どうとでもできる、どうしようもある ［反意語］lcjl ［レベル］3 @ 1L 【用例】 ʃee, le ıʃ jilʃ. ʃcɔ, ʃc ıʃ accɒ. いや、あれはどうとでもできたよ。単に君がサボっただけだろ。

jilyel ［歳時記］くすぐりの日 ［レベル］3 J1 ［文化］ ＜地球では＞ J1 ɑɥə φcl の数日前に紫亜がセレンに "aμecnɔı, ɒcjɔɔnɔɥən"（お父様、ごきげんよう）と言おうとしている横でメルがわき腹をくすぐったら身をよじって「うきゃきゃっ！！」と叫んだ。φcl にセレンはエイプリルフールのようにくすぐってもいい日があったら世の中明るくなるかなと思った。 ＜アトラスでは＞ J1 ɑɥə φcl にメルが紫亜をくすぐって遊んだことからセレンがくすぐりの日としてリディアやメルをくすぐってからかった。そしたら案外楽しかったのでアシェットに広まった。後に国民に広がり、エイプリルフールのような戯れの日になった。 現代では知人ならくすぐっても怒られない日になっているが、人によって嫌がるので空気を読むこと。例えばアリアがレインにやる分には問題ないが、紗枝は誰であろうと歓迎するタイプではない。

jili ［名詞］デビュー ［レベル］3 1ʔ: 制 :jiɑli

jileʃ ［形容詞］くすぐったい ［レベル］2 J1:jil/ʃe

jij ［名詞］順序、並び、配列、列、行列、順序、並び、配置、トランプのカードを回す順、滝の流れる方向、流れ、空気、シナリオの進み具合、雰囲気 ［動詞］ɥəl を適切な順序に並べる、ɥəl に列を作らせる、ɥəl の方向を正す、並べる、並ぶ ［形容詞］向きなどが本来の状態 ［格詞］～の順番で ［反意語］lcl ［レベル］2 1ʔ: 制 :jcj 【成句】 jij ʃə このまま、この流れで、順当に jij lıɒ 最初に。この jij は格詞とし。

jijʃ ［名詞］順番、ターン、手番、出番 ［シェルト］手、ターン ［野球］イニング ［レベル］2 1ʃl: 制 :jij 【用例】 ʃə eʃ jij ınʃ. 私の番だ。

jijuilej ［法律］輪姦 ［動詞］ɥəl を輪姦する、輪姦する、回す ［レベル］5 1L

jijμ ［美容］美容 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :jieehɔjcμ（雪の肌） ［文化］ アルバザードは混血が多く元々顔の造りが美しいのが多い。運動は定期的に行うし、その上小食であるため、スタイルも良い。たいていの国民は日本に来ればアイドルみたいな見た目である。アルバザードは美しい物を好む。偽ることを嫌うので、ガングロのようなブス隠しはしない。 アルバザードは自然な美しさを好む。化粧は隠しであり、いわば嘘の姿である。だから化粧はあまり好まれない。むしろいかに若く保つか、美しく保つかといったケアに重点が置かれる ＜ケア＞ 化粧より若さを保つケアのほうが人気が高い。あまり化粧をすると毛穴が塞がって肌が汚れるので、肌を潤したり肌を綺麗に整えるケアを行うなど。若いうちから化粧は薄く、ケアをするように保つ。ケアは市販品で済ます。 。ケアは肌だけではない。体重制限をして程好くスリムな体型を保つこともケア。便秘や甘いものの取りすぎは美容に悪いので、気をつける。筋トレをして腹筋を鍛え、脚を鍛えて細くすることもケア。

jijμıʃe ［美容］美容院、美容室 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleʃ ［語法］ ncı ［文化］ ボディケアをしたり、髪をスタイリッシュに切る店。床屋の場合、清潔感を重視してサクっと切るので、子供や美容にこだわらないタイプの客が多い。 【用例】 ın le uın jijμıʃe. 美容室に行こう。 ın le uın jijμıʃe lc lɔlʃ μı. 家に帰ったら美容院に行こう。

jiji ［被服］レース ［レベル］4 古 :jilı と同語源。但しレースは絹ではなく布。

jijib ［被服］前掛け、エプロン、前垂れ。 ［レベル］3 μɑ;/ 1ʔ dılıb:d ılıb ［文化］ 料理用とは限らない。防護、防水、剣道の垂れ、民族衣装などの前掛けも指す。

jijcn ［動詞］ɥəl を回覧する、回覧する ［普通動名詞］回覧 ［レベル］4 1ʃl: 制 : 順に見ること

jijen ［接続詞］jij ［レベル］3 J1

jijeu ［言語］まえがき、序文、前書き、前文、はしがき、端書 ［レベル］3 J0

jin ［数学］式、数式 ［化学］化学式 ［レベル］4 1L: 恣意

jin(J) ［形容詞］～さん。敬称。 ［レベル］2 1Δ:lcnı: 下記 ［語法］ → ıdʃ, ejʃ ○名（後置） ○姓（前置） ○男女 ・概要 敬称のひとつ。単体では使えない。 他人に対してデフォルトで使う。適度に敬意を払う効果がある。日本語の「さん」と同じ。改まる場合や明らかな目上は ɑɥəjjɔə のほうが良い。家族や恋人ほど親しくはない知人にも使う。 ɑɥəjjɔə より親しく jɔə より疎遠。ləı より親しく lccz より疎遠。最もデフォルトな敬称。同等ないしやや目上に使う。明らかな目上や目下には使えないので、その点は「～さん」との違いに注意。 女性は比較的同等には jɔə と lccz を使い、jin はやや目上だけに留める傾向がある。同等でも親密度が低いと jin になることがある。ただし男子に対しては親密度が低くても積極的に jɔə を使う傾向がある。 大人はある程度仲良くなっても呼び捨てでなく jin を使い続ける傾向にある。 また、ɥəəl や dclllɔ や ɥənl などは性格的な理由で jin を使い続ける傾向にある。 経緯は下記のとおりだが、大会議以前にリュウはこの語を知っていたそうで、対アルシェであっても対 aəlɒccı などにはここしばらく jin を用いていたそうだ。 なお、無生物や動物にも使うことができる。日本語の「ねこさん」「おさらさん」のようなものだと思えばよい。 また、苗字に使うこともできるが、この場合は前置。それ以外は後置。詳しくは ejʃ を。 ネットユーザーの便宜を図ると、とりあえず最初は ɑɥəjjɔə で入って、しばらくしたら jin に切り替えると良いように思える。 ［文化］ ＜経緯＞ 恐らく母語の干渉が原因と思われるが、lcnı は二重母音 ɔə を ıə と発音することがある。少なくとも 1L_1ʃl 年に lcnı が ɑɥəjjɔə を ɑɥəjjıə と発音する癖が記憶されている。これ自体は現在でも続いている。 ɑɥəjjɔə から jɔə ができるのと同じく ɑɥəjjıə を省略してできた jiə は最低でも 1ʃ 年ごろには確認されている。jɔə の異形態として扱われた。 リナは比較的気弱な性格で、天然で慌てんぼうな点があることから若干ソーンの人々に幼く見られている。そのことを本人も自覚しているからか、eleʃɔne と ennı を除く仲間に対し呼び捨てをせず jiə を付けた。また、lccz は目下に使い、ləı では丁寧すぎるということで、同年には女子相手にも jiə を使っている。 女子相手にも使ったことで jiə は異形態でなく独立した語となった。jiə は 19 年には指小辞を付けて jiən になった。頻度が高いこともあり、翌 1Δ 年には ə が落ちて jin となった。 ɑɥəjjɔə と jɔə の間かつ ləı と lccz の間というちょうど良いポジションがそれまでになかったこと、男女共用で使える敬称が ɑıcn しかなく、しかし ɑıcn は名に用いることができなかったこと。これら２点が後押しした結果、同年からリナ以外の人間も jin を使い始めた。 一方クミールは出会ってからずっとセレンのことを他人行儀に ɑɥəjjɔə ʈeeμe と呼び続け、せいぜい制以降発音が jeeμe になったくらいであったが、内輪ではここしばらくずっと jeμen jin と呼んでいたようで、J1 年（於２０１０年７月１５日大会議）に初めて本人がセレンに jeμen jin と言ったことで本件が発覚した。 jin が日本語の「～さん」と同じなため、セレンは始め日本語で話しかけられたのかと思ったが、そうではないことが分かった。クミールはメルを通じてすっかりセレンがこの語を知っているものだと思っており、当たり前すぎて幻日に当たらず、ゆえに幻日に存在しないことに気付いていなかった。結果３年間 jin の存在は知られずにいたことになる。 アルカは比較的呼び捨てを励行する文化であったが、jin の登場はその文化に変化をもたらした。 呼び捨ては特別な間柄の人間や人間関係をすっぱ抜いた論理的な会話などにおいて現れるものとなった。後者はこれまでと同様である。 つまりアルカでは原則として親しい相手でなければ呼び捨てにすることができなくなった。これを設定したのはセレンであり、クミールは関与していない。 セレンは小説を書いていてたびたびキャラクターの人間関係がどの程度親密であるかの表現に苦心していた。ɑɥəjjɔə というほどではないし jɔə でもないし呼び捨てもどうか。そんなときに jin が来て正直歓迎した。 特に恋愛において呼び捨ては重要だ。敬称から呼び捨てに変わる期間の初々しい感じがとても好きなのだが、あの昂揚をどのように表現したものかと悩んでいた。他人のデフォルトが jin になれば、それだけ呼び捨てがより特別なものとなる。「名前で呼んでいいのはあなただけ」という間柄を描くことができる。 その直後の 1JJʃ にセレンは紫亜が leʃ jin というのを聞き、動物にも使うことを確認。メルに聞いたら「無生物にも使いだしたね」と証言したため、無生物にも拡張。 【用例】 jee ʃɥə lɔ ʃɔ ɔn ʃə e'ɤ jeμen jin. それでこれについてはどう思いますか、セレンさん。 leʃ jin, leʃ jin, lənı nɔn e. ねこさん、ねこ

さん、こっちきて (ləlcɪ ɪɥbɪzɪɥɑ)

ɹɪn,ɹzɑ　eɥc

ɹɪn,ɪlʃ　uc

ɹɪnʃ ［法副詞］〜してください。前置。 ［類義語］ᴅcɥ ［レベル］1　ɥɑ;ɹɪnʃ,hɥ　ɺ1:ɥcɑcɪ ［語法］ ɥe

ɹɪnʃ,hɥ　ᴅcɥ

ɹɪnʃᴅɥəl ［篭堺］サントミュール ［アクセント］ɹɪnʃᴅɥɜl ［レベル］5　ɥɑ;ʇɪnʃ/ᴅɥəəl「新ミュール大陸」 ɺɺ ［文化］ 篭堺司：ləɴɔn uɪlbeɹ　篭堺国：belφɪnɑ, 旧 lɪlenɹcɪ ɑleə

ɹɪnʃᴅcɹl ［名詞］試供品、サンプル ［レベル］4　ɥɑ;ɹɪnʃ ᴅcɹl「どうぞお試しください」が語彙化したもの。 ɺʔ

ɹɪnʃɑɔlᴅcɥə ［魔法］現代魔法学 ［アクセント］ɹɪnʃɑɔlᴅЄɥə ［レベル］4　ɺɺ

ɹɪnʃɪns ［植物］ɥɪdcn ［言語］［文字］サンセリフ。バラに似ているが棘のないことから。 ［レベル］4　ɥɑ;lɺlɺ‹ɹɪn/ʃɪns「血の襞」。元は八重を ɹɪnʃɪns と呼んだが、やがてカーネーション全体を指すように。 ɺ1

ɹɪnʃɪnsel ［建築］サンタンジェル宮殿 ［建築］シャンデリア ［レベル］6　ɹᴅ;lʃ. ɹɪn/ʃɪns/elɑe「血洗いの池」 ɺɺ ［文化］ ルティアにある宮殿。ɥɑ でセレンとリディアが過去に戻った際、未来に帰るために飛び込んだ泉のある宮殿のこと。泉は青だが、未来にワープできる瞬間だけ赤になり、血を洗ったような色になる。シャンデリアが ɹᴅ で初めて設置された場所でもある。

ɹɪnʃɪɥʃ ［魔法］現代魔法、近代魔法　ɪl;/　ɺ0

ɹɪnʃɪɥɑclcl ［娯楽］サンタルディリック ［レベル］5　ɺ1: 血の巨菌 ［文化］ 『バイオハザード』に相当するゲーム。

ɹɪnʃc ［名詞］定規 ［レベル］2　ɺ1:ɥcɑcɪ‹ɹɪnʃ:10: 制 :ɪnʃ

ɹɪnʃccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］じょうぎ座　ɺ0 ［文化］ cɑɪ

ɹɪnʃe ［代詞］［ɹɑeɥs］ʃcɹee ［レベル］1　ɺɺ:lᴅccɥ:lɪnʃe

ɹɪnʃe,ɹzɑ　hɪɥ　ɹɪn/ʃe

ɹɪnʃen ［名詞］手合わせ ［類義語］lɪɑɔɔuɪ ［レベル］3　ɪlʃ　ɺɺ ［文化］ 死者への弔いを意味する手合わせの動作。手を合わせて軽くお辞儀をする凪人の習慣。lɪɑɔɔuɪ に相当する。あの世とこの世の繋がりおよび渡りを手のひらを合わせることで表現している。

ɹɪnʃeeᴅɹ ［企業］［人名］サンテームス、抗魔 ［ユマナ］マイクロソフト、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ、アップル、Ａｐｐｌｅ ［レベル］3　ɪl;ʇɪnʃ/ɪlʃeeᴅɹ「新アルテームス」 ɺɺ ［文化］ lɪuel ɪlʃeeᴅɹ, uɪnʃeᴅɹ　マイクロソフトやアップルに相当する企業。

ɹɪnl ［動詞］ɥəl を ɪ に寝かせる、寝かせる、寝る、横にする、横になる、寝転ぶ、横たわる、横たえる ［文字］オブリーク ［反意語］φɪɥneʃ ［レベル］2　1L:ɹn という子音連続がほかにないので ɹnɪl から変えた :10: 制 :ɹɪncɪ(前面で支える) 制ではうつぶせ。 【用例】 ɪn cnɪʃ sɪn ɑɪɥɑ lɔnʃ ɹɪnleɹ ɪhɪl sen. 草の上に寝転がって晴れた空を見た。

ɹɪnleu ［普通動名詞］平積み→ lec ［レベル］4　ɺɺ

ɹɪnləd ［生物］蚕、かいこ、カイコ ［レベル］4　ɺ1:ɹɪnɑɪn。ləd は ləədɔ.ɑu と同根。

ɹɪnɹ,ɹzɑ　100、100　ɹɪc「アルミヴァが２周する」

ɹɪnnɪ ［文末純詞］［ᴅɪɥə］ɹeʃe ［レベル］1　ɺ1:əᴅʃɔnɪ: 文末 ",ɹɔɪ ɹɪcn ɪ"「〜って私は確認するよ」の "ɹɪcn ɪ" の語彙化。

ɹɪnɑel ［数学］代数学 ［レベル］5　1L ［文化］ 代数を用いた数学に端を発し、方程式の研究にまで広がった。その後、後者は特に方程式論として下位化される。地球と異なり、方程式論は代数学の下位。

ɹɪnɑɪn ［植物］桑、くわ、クワ ［レベル］4　ɺ1:ll

ɹɪnɑɪl ［植物］ウィステリア、ウィスタリア　古 ɹɔɥn

ɹɪnɑc ［音楽］Ｒ＆Ｂ、リズムアンドブルース ［レベル］6　ɑɥɑɹ;「足踏み」 ɺ1

ɹɪnɑcl ［植物］マルベリー、桑の実、クワノミ ［レベル］4　ɺ1:ɹɪnɑɪn/cl

ɹɪnbel ［地名］サンベル、サンベル市、新料市 ［レベル］5　ɺɺ:「新ベル市」 ［文化］ アルナ県北西部の市。旧 bel 市（料理で有名だった）が隣市と合併改称したもの。

ɹɪns ［名詞］因子 ［レベル］5　ɥɑ;‹ɹzl‹ɹɪnse,ɹzɑ.l　ɺ0

ɹɪnse ［名詞］理由、原因 ［格詞］〜なので、〜につき、〜により ［類義語］ᴅɪn ［レベル］3　ɹᴅ;‹ɹɪnse,ɹzɑ.l　ɺ1

ɹɪnse,ɹzɑ　ɑɔnʃ,ɹzɑ、ᴅɪn,lʃɑ　›‹ɹɪuɪn

ɹɪnseɹ ［動詞］ɥəl を ɪ にちなませる、ちなむ、因む、ちなんで、因んで ［レベル］4　ɺɺ:ɹɪnse/ɹɔ 【用例】 ɥɹccl nɔɪn eɹʃɪʃ nɔn lel ləlcɪ lɔnʃ ɹɪnseɹ ʃə{nɔn} ɪ le lɔɔl e luɪn. ウチの親は瞑想の一状態にちなんで私をルシアと名付けた。

ɹɪnsel ［名詞］文化 ［類義語］ɪnʃcɹ ［レベル］4　ɺ1:lʃ ‹ ɹɪuɪnse,ɹzɑ.l ［語法］ ɪnʃcɹ は絵画や音楽や文学などの文化に加え、その民族がどのように振舞うかという行動様式も含む。ɹɪnsel はこのうち前者のみを指す言葉。

ɹɪnselᴅɪn ［亜魔］サンジェルマン ［アクセント］ɹɪnselᴅ'ɪn ［レベル］6　ɺ1:ɥcɑcɪ:ɹɪnselclɪ/ᴅccnɪ ［文化］ ラスティアディンの一種。リーゼルに主に生息。サンジェリカに貫かれた少女が鬼となったもの。 【成句】 ɹɪnselᴅɪn oeᴅ ɪɹ ləoɪ ʃ'ɪɑel. 今にも焼き殺されそうな乙女は悪魔の足すら舐めてすがる：溺れる者は藁をも掴む

ɹɪnselɑɪcφ ［経済］［法律］文化税 ［レベル］4　ɺ1 ［文化］ 音楽や書籍は無料でアンセにダウンロードできる。アンセをパソコンや電子ブックに差してダウンロードすれば、直接端末にダウンロードすることもできる。　ダウンロードは何度でも可能だが、ひとつの国民ＩＤごとにひとつのダウンロード回数がカウントされる。　元が無料であるため、わざわざリスクを冒してまで違法コピーする者はいない。
　では版元はどのように収益をあげているのだろうか。音楽と芸術の国アルバザードでは音楽、写真、図画、絵画、文章などに文化税というものがかかっている。文化税として集めたお金をダウンロード数に応じて版元に分配し、版元は著作権者に印税を支払う。　また、書籍は分配比が高く、専門書はなお高く、娯楽関係は比率が低い。従って専門書の出版も安心して行え、国益を損ねない。また、衆愚的なコンテンツに莫大な利益が集まることもなく、日本と異なり文化レベルが落ちていくこともない。　学問を志しても食っていけるかすら怪しい一方で衆愚に迎合した小説や音楽を作る人間が億単位の金を稼いでいたヴェレイでは到底国民の教養は下がる一方で、それを革命したのがミロクである。　文化税は国税なので文化的教養のない者ほど損をするシステムであり、これもアルバザードの教養レベルを底上げしている。　団体が法の裏をかいて収益をあげられぬよう、何度ダウンロードしても同一人物はワンカウントにしかならない。　むろん団体ぐるみで構成員が全員ダウンロードすれば収益はあがるが、それについては紙での書籍販売でもそもそも防げていない。　しかし紙の場合は構成員の自腹だが、ダウンロードの場合は文化税なので公共の利益に反する。　国民ＩＤには職業や所属団体などの個人情報が書き込まれているため、団体の構成員によるあからさまな集中ダウンロードがあった場合はカウントの対象とされない。

ɹɪnselcl ［普通動名詞］粛清、粛正 ［動詞］ɥəl を粛清する、粛清する、粛正する ［レベル］4　ɥɑ;ɹɪnselclɪ.l　ɺʔ

ɹɪnselclɪ ［軍事］サンジェリカ、槍の牢獄 ［メタファー］身動きの取れない状態 ［植物］オベリスク。筒状だけでなく、柵状のものも含む。 ［レベル］4　zφ;ɹɪn,ɹzɑ/selcn,ɹzl/lɪcn,ɹzl　ɺ1 ［語法］ 記念碑（モニュメント）としてのオベリスクは lɔnʃcɹ。 ［文化］ lɪnɑcɔle 【用例】 ɪn lɪʃ ɹɪnselclɪ dɔʃ sɪᴅɔ ᴅɪn ʃeɥcɪ φɪnɑ sɪᴅd. テロが飛行機を占拠したため、空港で足止めを食らった。　ɪn lɪ ɹɪnselclɪ e ɥcdφcl. 借金で首が回らない。

ɹɪnselclɪ(ɺ) ［建築］サンジェリカ講堂　ɺ1 ［文化］ アルナ大最大のホール。前期大と後期大の棟の間にある。革命で反対派が血の粛清に遭ったことからこのように呼ばれるようになった。旧称 ɑelcn 講堂。

ɹɪnl ［名詞］左右、横、真横 ［数学］ｘ軸← ʃeɹɥecn ［格詞］〜の横に ［レベル］2　1L:ɹɪnllɪn（寝る人） ce:ce:lə ɥel（中央が lɪ なので） ［レベル］2 ［文化］ 数学のｘ軸を横に描く発想から、通常 ɹɪnl をｘ軸とする。右が正である。　ｙ軸は同じ理由で前後を示し、前が正である。　ｚ軸は上下で、これは直観に沿う。　地球の場合、前後がｘ軸で、上下はｚ軸だが、下が正となる。上を向く回転運動が正となるよう、ｚ軸は下になっているそうである。　アルカの場合客観的に飛行体を見る。上に上昇するならばｚ軸は正と捉え、直観に従う。 【用例】 lcl dce lɔɥ ɹɪnl きゅうりを真横に切る

ɹɪnlʃɔᴅucᴅ ［生物］腹斜筋 ［レベル］5　ɺ0‹ɺɺ

ɹɪnlleᴅ ［生物］梁門　ɺ1

ɹɪnlɹɪnl ［動詞］ɥəl を ɪ に横向きで寝かせる、横寝する、寝かせる ［レベル］3　1L 【用例】 ɪn ɹccnɪ ᴅɔl ᴅeɹɪ ɹɪnlɹɪnl. 横向きになって寝るのが好きだ：ᴅɔl は連動詞。名詞ではない。

ɹɪnlᴅɪʃ ［美容］横分け、サイドパート ［レベル］4　ɺ1

ɹɪnldcl ［名詞］側転 ［類義語］ɹɪnlhɔl ［レベル］3　ɺ0:ᴅelcɑcɪ lceɥ

ɹɪnlhɔl ［名詞］ロール、ｙ軸周りの回転、側転 ［類義語］ɹɪnldcl ［レベル］4　ɺ0 ［語法］ 人が立っている場合、左右はｘ軸 (ɹɪnl) とされる。ｘ軸方向への回転は人の場合は側転で、飛行機の場合はロールとなる。例えば飛行機が時計回りにロールする場合はｘが正になり、やがて０に戻ってから負になり、また０へ戻る。人が心臓側に側転する場合はｘが負になり、０になり、正になり、０になる。あるいは、側転全体で見れば左側への移動なので単にｘが負になると見てもよい。
　ɹɪnlhɔl は両手を床につけて側転することで、頂点に達したときの四肢の形がＸ字になる。ɹɪnldcl は体全体で横に転がることで、軍人が戦闘時に行うようなも動作。武器などを持っていると ɹɪnlhɔl はできないため、ɹɪnldcl を使うことになる。

ɹɪnlɪ ［言語］極字 ［レベル］4　ɺ1 ［文化］ → hɪd　あらゆる文字の中で最も難しいことから、文字の極みとして極字と訳す。

ɹɪnlen ［接続詞］ɹɪnl ［レベル］3　ɺ1

ɹɪnleel ［生物］横顔 ［レベル］4　ɺ0

ɹɪnɪ ［形容詞］心が綺麗な、心の美しい、純粋な ［名詞］綺麗な心、良心、善心 ［反意語］lcᴅc ［レベル］3　古 :ɹɪnɪ「絹や砂のような心」【用例】 le ɹɔɑ uɪnɑ ɹɪnɪ ɪnʃ lɪlel. そのことが今でも私の良心を傷める。　"nɔn ɹccnɪ ucl ɥenɹ e ʃə lcleᴅ nɔɑ ʃɥə ᴅcl nɔn eʃ ᴅcn. ʃeʃ nɔn hɪʃcɪ ɹen ɪleᴅ ɹɪnɪ e ucl le ɹccnɪ ʃə nɪleᴅ ʃcɹɹe"「私は女だからこの詩をそこまで好きになれないけど、この詩を好きな男の人の純粋さを好きにはなれる」(ᴅel leeʃɔcɪ)

ɹɪnɪ,ɪlʃ　ᴅccnɪ、lccbe

ɹɪncɪ ［生物］前髪、フロント ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɹ

ɹɪncɪlɔɔzɹeel ［生物］前髪際中点　ɥɑ;/　ɺ0

ɹɪnɔ ［名詞］日程、スケジュール、日取り、都合、予定、プログラム、約束、ダイヤ、時刻表、時間割 ［レベル］3　10: 制 :ɹed/ɪnɔ（その日の計画） 【用例】 lɪɑ ɹɪnɔ 予定を入れる、予定を作る、予定を立てる　ɪn ɹɪcnɪʃ ɹɪnɔ e leɹʃ. 明日の日程を確認した。　ɪn ʃcl ɹɪnɔ ɑel ləc hɪɥl ɔl hɪdn cᴅ ɑcɹ. 今日は友だちと昼食を食べる予定だ。

ɹɪule ［気象］霧雨 ［類義語］ɑecɹeɹl ［レベル］3　ɹᴅ;ɹɪule,ɹzl　ɺ1

ɹɪule,ɹzl　ɑecɹ　ɹɪdlc.l

ɹɪuɪ ［植物］トウモロコシ、とうもろこし、玉蜀黍、コーン、トウキビ、唐黍 ［レベル］3　zφ;leueɪ　ɺɺ ［文化］ zφ で leueɪ 人が栽培していた

ものが歴史上の最古。µɑ で lʃ・アシェット経由で ıµ に伝来した。セレンが「食べると胃が痛くなる」と言ったことで µɑ では敬遠され、普及が遅れた。粒の薄皮の消化が悪いためで、胃腸の強い者なら問題ない。また製粉などすれば問題ない。

ɉıuın ［動物］シギ ［レベル］6　1ɱ: 制 :ɒclɑ:ılıʃı:luın,ɉuın

ɉıuın(ɺ) ［生物］lıɉ,ɉzɑ、ʃı,ɉzɑ ［生物］上腕 ［反意語］lcoı ［レベル］5　ɉzɑ ɺ1

ɉıuınʃe ［言語］［文字］スクリプト、手書き文字、手書き風文字、手書き書体 ［アクセント］ɉıuınʃE ［レベル］3　ɺ1:ɉıuınʃe,ɉzɑ

ɉıuınʃe,ɉzɑ　ʃınʃ　ɉıuın

ɉıuınʃılʃeʃoıɉeʃın ［生物］［医療］手陽明大腸経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıuınɑlıueµɑızeʃʃın ［生物］［医療］手太陽小腸経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıuınɒyəlelyəeʃın ［生物］［医療］手厥陰心包経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıuınhɔ ［生物］上腕骨 ［レベル］5　ɺɺ

ɉıuınse ［軍事］天馬の腕、サヴァンジェ ［アクセント］ɉıuınsE ［レベル］5 zφ:ɉıuın,ɉzɑ/ɉcel　ɺ1 ［文化］ lyəɉcel

ɉıuınlıılehcnıʃın ［生物］［医療］手少陰心経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıuınlelcıyəzʃcʃın ［生物］［医療］手少陽三焦経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıuınılseφınʃʃın ［生物］［医療］手太陰肺経　ɉzl;/　ɺɱ

ɉıucı ［地名］サヴィア ［組み数字］2／6 ［レベル］3　ɑu;e　古 ［文化］ アトラスにある大陸の名。地球では北アメリカ大陸に当たる。　面積：ɺɱʕ1ɺΔɺΔ.ɬLʔ٩Δʔ ʃɒ ɺ

ɉıucıɉczı ［地学］サヴィアプレート　ɺʔ

ɉıucc ［ユマナ］北アメリカ大陸 ［レベル］5　制

ɉıuɔ ［名詞］補欠、予備、スペア、買い置き ［レベル］3　1ʕ: 制 :ɉıu から

ɉıuɔµʃ ［動詞］ɉɔl は yəl（様態や残される人）に先立つ、先立つ、妻子などを後の世に置いていく、先に死ぬ、サバイバルなどで脱落して死ぬ ［レベル］3　1ɬ: 制

ɉıue ［気象］雪崩、なだれ ［レベル］3　1ɬ: 制 :ɉıeueµn（雪が崩れる）

ɉıueµ ［人名］サヴェル ［レベル］5　古 :ʃɒccµ ［文化］ 人間。愛する妻を守ることを生きがいにしていたが子供ができなかった。しかし年老いたころに子供に恵まれ、年の離れすぎた娘を得る。そのころのサヴェルはもはや昔の力を失っていたが、娘の誕生で活力を得る。サヴェルは今まで自分は妻を愛するために生きてきたが、力を失った今はこの娘を愛することが生きる力となっているということに気付く。

ɉıuel ［天文］サヴェル、火星、空天 ［魔法］風のクリスタル ［組み数字］4／9 ［レベル］3　古 :ɉıuel ← ɉıdlc/uel（空気があって暗い）

ɉıueeµ ［アイテム］サヴェール ［レベル］4　µcɑcı: 古 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ウムトナのもつ神矛。

ɉıueeµ(ɺ) ［経済］前引け　ɺɺ

ɉıɑ ［気象］気温、温度 ［気象］～度 ［レベル］3　1ʕ: 制 :ɉıdəɑ（空気の熱）【用例】 ɉıɑ eɒıʃ ɉɔµ{hıcʃ} µɔɒel. 気温が急に上がった｛下がった｝。　ɔn ʃıʃees, ɉıɑ eɒ ɉɔµ ı ʔ0 ucı ɔlʃı ɑleı. カテージュは夏でも気温が３０度程度までしか上がらない。　ɉıɑ eɒıʃ hıcʃ ı φɔl ʃcɑ 10. 気温が零下１０度まで下がった。　cɒ ʃə ɑııµ, ɉıɑ eɒıʃ hıcʃ ʃcn. 今朝は気温がとても下がった。

ɉıɑʃ ［名詞］荷造りテープ、装飾テープ、接着テープ、録音テープ、録画テープ、ビデオテープ ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɉıʃɑɔʃ（平らな紐）

ɉıɑʃı ［名詞］ＶＴＲ、ビデオ、ビデオテープレコーダー。日本で一般にビデオと呼ばれているもの ［レベル］5　1L:µcɑcı:ıµbıleʃʃ:ɉıɑʃ ［文化］ テープを使ったビデオはもう古く、誰も使わない。ＤＶＤもレイユには既に古く、ＤＶＤ以上に大容量な記憶媒体を使って記録する。ビデオ機器はもはや存在しない。テレビにメモリが内蔵されているので、そのメモリにテレビのデータを書き込む。

ɉıɑʃcʃ ［地学］緯度 ［レベル］4　1L

ɉıɑʃɔc ［名詞］温度調節、温度調整 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbıleʃʃ

ɉıɑʃcdıµ ［名詞］温度計 ［レベル］3　1L 【用例】 ɉıɑʃcdıµ ıdcıʃeɉ ɺɬ. 温度計は２５度を示していた。

ɉıɑdɔcʃ ［地学］緯度 ［レベル］4　ɺ0

ɉıɑµecn ［地学］緯線 ［レベル］4　1L: 温度の線。緯度によって一番体感的に変わるのは温度の差であるため

ɉıɑl ［被服］ビロード、ベルベット ［レベル］5　古 :ɉı は絹

ɉıɑccµ ［アトラスの国家］サフィール ［レベル］5　1L:µcɑcı:「風の土地」

ɉıɑɔ ［動物］トナカイ ［レベル］4　1٩: 制 :lıʃı:ɉıɑʃ 雪の動物

ɉıɑenɑc ［気象］気温差、温度差 ［レベル］4　1L:µcɑcı 【用例】 el nı ʃcn ɒın ɉıɑenɑc ɉɔuen ɑleı ɔ lceµ ɑɔʃ ɑılcɒ ɔ lelɒ eʃ ʃcnʃı ɔn ʃıµl φchə ı. 岐阜県は夏冬と昼夜の温度差が激しいのでつらい。

ɉıɒ ［形容詞］新しい ［動詞］yəl を新しくする、新しくする、更新する、改める、改訂する、改定する、アップデートする ［普通動名詞］更新、改定、改訂 ［副詞］～しなおす、～しかえす、改めて。ʃcl ɉıɒel（持ち直す、持ち返す） ［反意語］ɉcɑ ［レベル］1　ɉeµʃ;ɉeɑı　1ɱ: 制　ɉeɑı:ɉeɑı:ʉınʃ:ɉeɑ eɉ,ɑφn ［語法］ → ɉeɑeɉ　生き物については ɉıɒ は新しいで、lcɑ は若い。ɉıɒ は lıbıɉʃ ɉıɒ（新人の労働者）のように、入ってから日の浅い状態を指す。lıl lcɑ はヤンママで、lıl ɉıɒ は小さい子供を持つ母親のこと。　物については ɉıɒ は新製品などを指し、lcɑ はその製品個体が生産されてから浅いことを指す。サクマドロップスは製品としては昔からあるので ɉıɒ ではないが、今日工場で生産された缶については新しいので lcɑ といえる。日本語はどちらも「新しい」で表現するので区別に注意。 【用例】 ʃcl ɉıɒel 持ち直す　hıɾn ɉıɒ 新しい友達

ɉıɒʃcl ［動詞］yəl を c から持ち替える、持ち替える、持ちかえる、持ち直す ［レベル］3　ɺ1

ɉıɒʃeʃ ［植物］若葉 ［レベル］4　1L 【用例】 cɒ ıʃʃe, ɉıɒʃeʃ eʃ nɔʃ. 春になると若葉が出る。

ɉıɒɉ ［被服］ボタン ［レベル］2　zφ; ↓　1ʔ: 制 : 古 :ɉıbeɒyəlı（服の穴）。元はボタン穴を指した。 ［文化］ zφ で神が作ったものをレスティル人が輸入したのが始め。当時は高価で貝や金属を使っていた。　ɉɒ 後期でようやく一部の裕福な庶民にも行き渡るようになった。nɑ 以降は大量生産され安くなった。　ボタンは下から外す。上からでは襟元がはだけて不恰好な上に時間がかかるため。両手で外すのは子供っぽいとされる。但し、外しやすいように片方の手をどこかに添えておくのは良い。かけるときは逆動作。　セルメルまでは男女とも服の合わせは右前で、ボタンは正面から見て右（自分から見て左）に来ていた。セルメルで魔導師の権威が弱まると、女は籠の鳥となって宮中や屋内に押し込められるようになった。それに伴い高貴な位の女性は戦闘に不向きな豪奢なドレスを纏うようになった。（カコまでは高貴な位はたいてい強力な魔導師なので、ルーキーテのように戦闘要員として比較的動きやすい服を着ていた）。　ドレスの背中にもボタンがあることと、着替えを召使が手伝ったことから、ボタンは左前となった。他人がボタンをかける場合、左右逆転したほうがやりやすいためである。これにより男女のボタンと服の合わせが逆転し、徐々に高貴でない女たちにも広がっていった。　文面でよくわからない場合、結果的に日本と同じ男女差だと考えればよい。 【用例】 ıµ ɉıɒɉ ボタンをとめる

ɉıɒɉıɉ ［動詞］yəl を並べ直す、並べ直す、並べ直す、並べなおす、並べ替える、並べかえる、並べ変える ［動詞］yəl を並べる、並べる。この語義の場合は ɉıɉ とほぼ同等の意味で使う。 ［電算］ソート。「並べる」の語義から派生している。 ［レベル］3　ɺɺ:ɒel

ɉıɒɉelɑ ［言語］現代文、現代文学 ［レベル］3　µɑ　ɺɺ ［文化］ ɑeldınʃ 【用例】 ıc, ɑcɑn e µıɑel ʃʼıʃʃenʃleı eʃ ɉıɒɉelɑ hɔʃ ɑı. これで残る春休みの宿題は現代文だけとなった。

ɉıɒɒecʃ ［電算］［言語］新項目、新語 ［レベル］3　ɺ0

ɉıɒd ［動詞］yəl を ı に絡める、絡める、からめる、からまる、絡まる、もつれる ［動詞］yəl（戦争など）が膠着する、膠着する→ uıɉ eɒ ɒɔnɔ ［普通動名詞］膠着 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :ɉɔʃəlıɒelcıl ［語法］ ɉɔʃʃ 【成句】 nɔı eɒ ɉıɒd. ノアが絡まる。ばつが悪い、バツがわるい、気が失せる :1L: ちょうど日本語のばつが悪いに当たる表現。例えば、空港で盛大に別れを惜しんだ後に飛行機が事故って遅れ、しばらく空港でまた話すことになったときの気持ち。例えば「今度会おうね」といって別れた後、５分くらいで別の場所で出くわしたときの気持ち。こういうのは心に関与するノアの問題だと思われている。互いのノアがもつれて絡まったから、巧くいかずにちぐはぐなんだと考えられている。

ɉıɒdeʃl ［経済］先端技術、新技術 ［レベル］4　1L

ɉıɒµıc ［植物］新芽 ［レベル］4　1L 【用例】 cɒ ıʃʃe, ɉıɒµıc eʃ nɔʃ. 春になると新芽が吹き出す。

ɉıɒleueʃ ［名詞］新発売、新刊 ［レベル］3　µɑ;/　ɺʔ

ɉıɒı ［被服］ポケット ［レベル］2　1ɬ: 制 :ɉıbɒıl から 【成句】 ʃe eu lıɉ ıdɔʃ ɉıɒı ʃı ıʃe 店ではポケットに手を入れるな：李下に冠を整さず 【用例】 ıµ{cɉ} ɉıɒı ボタンをかける｛はずす｝　ın ɉc ʃɔ ɉɔlʃ ʃcɉ ɔn ɉıɒı. ポケットには１ソルトも入っていない。　nɔn ıµıʃ ɉıɒı e ɒcɉd ɒcl ʃee ze eʃ ɉɔµʃ. 風が冷たかったので、カーディガンのボタンをかけた。

ɉıɒın ［親族］どら息子 ［レベル］2　1L:µcɑcı:ɉıɒ/ın（若い頃の俺）

ɉıɒını ［名詞］前期大学 ［レベル］3　1L

ɉıɒınıın ［名詞］前期大学生 ［類義語］lılɑelɉ ［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcɉ

ɉıɒıµʃı ［名詞］新生アルカ ［レベル］3　1L ［語法］ アティーリでは制アルカの棄却によりセレンが作りなおした人工言語で、以後転生期まで使われる。ユマナでは制アルカの運用上の欠点を排他し、使いやすさと自然さと芸術性を高めた人工言語。

ɉıɒc ［形容詞］不運な、運が悪い、運がない、運の悪い、不幸せな、不遇な、不幸な、数奇な、不遇な ［反意語］lcnı ［レベル］2　＠1L 【用例】 ın ıʃ ɉıɒc cɒ ɑcɉ. 今日はついてなかった。

ɉıɒe ［名詞］ソケット ［言語］格、ケース ［レベル］4　µɑ; ↓　1L: 制 :ɉıɒc

ɉıɒen ［名詞］新発売、新刊 ［レベル］3　µɑ;/　ɺʔ

ɉıɒel ［被服］サメル ［レベル］3　古 :ɑəlɒccı:ɉıɒel ← ɉıbe/ɒelɑc を変形させた造語。原義は「一メルフィもある長い服」 ［文化］ アルティス教徒の女性服。裾が床に着くか、或いは着きそうなくらい長いワンピース。体をすらっと見せる服で、神聖で清純なイメージがある。特にアルマスト派に好まれる。移動時には靴を履くが、儀式や祈りの際には裸足が好まれる。だがこれを淫らと遠ざける信者もいる。サーシャと合わせられる。

ɉıɒelc ［企業］サメリ ［レベル］6　ɺ1:ɉıɒ/ɒelc ［文化］ 東レに相当する企業。

ɉıɑ ［形容詞］豪華な ［反意語］lcφ ［レベル］3　＠1L

ɉıɑl ［普通動名詞］発明 ［動詞］yəl を発明する、発明する ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɉıɑlıɑ（新しく作る） 【用例】 lelcc ıʃʃeeɒɉ ɉıɑlıʃ ɑcdcʃ cɒ nıɑcı. ナディア時代にシェリー＝アルテームスは多くのものを発明した。

ɉıɑılə,ıʃʃ　預かり物の、預かってある

ɉıɑcɉ ［料理］駄菓子、サディス ［類義語］lcı ［レベル］2　µɑ;ɉı/ıɑcɉ「死刑の前に」。死刑が広場で行われる際、お祭り状態で菓子店などの出店が出た。そこで売られる子供向けの小さな安いお菓子をサディスと呼んだことから。　ɺʔ

ɉıɑcɉıʃe ［名詞］駄菓子屋 ［レベル］2　µɑ;/　ɺʔ

ɹıɑeɥə ［被服］前とじ、前閉じ　µɑ;/　Ɉ⋒
ɹıφ ［被服］バックル、尾錠　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɹıb/φc
ɹıφıφ ［言語］［生物］咽頭　［レベル］4　1ʔ
ɹıφıφɑɔ ［言語］咽頭音　1L
ɹıφc ［被服］ファスナー　［レベル］3　1ʕ: 制 :ɹıb/φc
ɹıφcſıɒıφcˀı ［アトラスの国家］サギタマギカ　［レベル］4　Ɉʔ:µcɑcı
ɹıd ［名詞］空気、ガス、気体　［化学］気体　［気象］大気　［類義語］ˀəɒɹıd、zɔɒlcl　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɹıdlc（空気）　ɹıdlc:ɹıdlc:ɹıdlc 【用例】 ɹıd eſ ɑµen{beſc} 空気が澄んでいる { 淀んでいる }　ɹıd eſ ɑıɑ 空気が重い→ lılſe 【用例】 lınſ ɑın cl ɹıd nɔın ı ſɥə. わたしの酸素、全部あげる（リーム＝ストリーム『ＴＰぼん』）
ɹıdſ ［名詞］空気調節、エアコン　［レベル］3　制
ɹıdſıµ ［名詞］エアコン、クーラー、ヒーター　［レベル］3　1L ［文化］ アルバザードはそもそもあまりエアコンが必要ない。 【用例】 ın hcnɔſ ucl hıµſıſc enſɔ ıµcˀ ıc ɹıdſıµ. 暑さに耐えかねてついにクーラーを付けた。　ın ıµıſ ɹıdſıµ ɒcl ɹɔµſıſc µıˀ. あまりに寒かったのでヒーターをつけた。　ın ucenıſ{cunıſ} ɹıdſıµ. ヒーターを強くした { 弱くした }。
ɹıdlılıll ［化学］［物理］気体定数　［レベル］5　1L
ɹıdlenucl ［医療］空気嚥下症　［レベル］5　1L:ɹeµen
ɹıdn ［気象］気圧、大気圧　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɹıdlɔſ
ɹıdnɑcµec ［気象］前線　［経済］気配→ ɑcµec。低気圧と高気圧がぶつかるように、売りと買いの価格がぶつかるところから。　［レベル］4　1L
ɹıdnhɔhɔ ［気象］気団　［レベル］4　1L
ɹıdɑcɔleſ ［軍事］エアライフル　［アクセント］ɹıdɑcɔlEſ　µɑ;/　Ɉ⋒ ［文化］ φel
ɹıdɑeeſɑel ［言語］音響音声学
ɹıdɒ ［生物］肺、肺臓　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɹıdɒıc（空気の身体部位）
ɹıdɒˀlez ［医療］肺化膿症　1L
ɹıdɒɑıcz ［医療］肺炎　［レベル］3　1⋒: 制 : 肺の炎症
ɹıdɒdcφ ［医療］肺がん　［レベル］5　1L
ɹıdɒdɔn ［医療］肺気腫　［レベル］5　1L
ɹıdɒdɔeſ ［医療］肺嚢胞　1L:ɹeµen
ɹıdɒscɔµ ［生物］肺兪、肺愈　［レベル］5　Ɉ1
ɹıdɒızl ［医療］肺結核　［レベル］4　1L
ɹıdɒenuc ［名詞］心肺能力　［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelſ
ɹıdφel ［軍事］空気銃、エアガン。エアソフトガンは ɥəlcφel。　µɑ;/　Ɉ⋒ ［文化］ φel
ɹıddın ［被服］着物　［レベル］3　ılſ;<>ɹıbe　Ɉ1
ɹıddcſɹ ［環境］大気汚染　［レベル］4　1L
ɹıdhınˀ ［地学］［気象］大気圏　1L
ɹıdhɔ ［生物］含気骨　µɑ;/　Ɉ⋒
ɹıdhɔınſəlɑ ［化学］強いて言うなら凝結熱　［レベル］5　1L
ɹıdhɔınˀı ［化学］強いて言うなら凝結点　［レベル］5　1L
ɹıdhɔıneɒ ［化学］凝結　［レベル］5　1L
ɹıdµe ［植物］サクラソウ、プリムローズ　［レベル］4　ɑ:ɹııl;e　1ʕ: 制　ɹıd µe:ɹıdµe:lı　ɑelcɹcı:ˀɔſɔˀɔ,ılſ
ɹıdl ［生物］気管　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɹıdlɔɔ（空気の管）
ɹıdl(Ɉ) ［化学］ニトロ化合物　1L:ɹıdlc
ɹıdlı ［名詞］シュノーケル　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɹıdlc（空気）
ɹıdlı(Ɉ) ［化学］ニトロ基　1L
ɹıdlc ［地名］サプリ、サプリの村、幻月村　［美容］エアリーヘア　［歳時記］三候で一気　［レベル］5　古 :µcɑcı:「幻」アルカ発祥、「月」アルシェ。　［文化］ アシェルフィの街の西にある山間の小さな村。エヴァンジュランの産地。　⋒ ɑcı ɑcn にバイアスらの襲撃を受け、一旦廃墟と化した。　・現実では　リディアの育ったフィンランドのヘルシンキより北部のとある街を意味するアルカ名。リディアの家は街外れの離れたところにあったが、ソーンの残党によって襲撃された。 【成句】 ɑcın e ɹıdlc uınɑ ɹen ɥə ɑıµıɒɔn. サプリの田舎娘ですらファルアモンに襲われることがある：犬も歩けば棒に当たる　ɑcın e ɹıdlc ıɹeſ ſeeɒɹ サプリの田舎娘がやがて悪魔すら倒す：風吹けば桶屋が儲かる。得をするというニュアンスではなく、バタフライ効果的な意味合い。
ɹıdlc,ɑ　ɹıd　e
ɹıdlcɹ ［魔法］雷。五行の５番　［医療］肺　［レベル］4　ɹzl;ɹıdlc。空気。　Ɉ1 ［文化］ ˀleuınɹ
ɹıdlɔµ ［生物］気道。上気道と下気道の総称。　［レベル］3　1L
ɹıdle,ıµɑ　ɹcɹd　ɹıdlc
ɹıdlen ［名詞］空虚、虚無、虚空　［形容詞］虚しい、空しい　［レベル］4　Ɉ1:ɹıdlc
ɹıdı ［生物］鰓、エラ、えら　［レベル］3　1ʕ: 制 :ɹıd から
ɹıdıˀɒ ［化学］石油ガス　［レベル］5　1L
ɹıdc ［気象］空気、大気　［レベル］2　1ʕ: 制 :ɹıd
ɹıdcl ［名詞］前転　［類義語］ɹıhɔl　［反意語］lcdcl　［レベル］3　Ɉ0
ɹıdcnı ［名詞］先約　［レベル］3　1L 【用例】 ın ˀeſ ucl ılnı ɒcl ɹıdcnı. 先約があったので、パーティーには行けなかった。
ɹıdcı ［名詞］妄想　［レベル］3　Ɉ1:ɹıdlc/ɑcı 【用例】 ɹıdcı l'ın eɹſıſ lel ɑcını ɒcɹˀınel　現実と名付けてみた妄想　（ＢＵＭＰ　ｏｆ　ＣＨＩＣＫＥＮ『レム』）
ɹıdɔ ［名詞］スポイト　［レベル］4　1ʕ: 制 :ɹıdˀ/lɔɔ 【用例】 ſıɑ eµ ˀɔn ɹıdɔ スポイトで水を吸う
ɹıdɔɹˀ ［普通動名詞］空気清浄　［レベル］4　ıl;/　Ɉʔ
ɹıdɔɹˀıµ ［名詞］空気清浄機、空清　［レベル］4　ıl;/　Ɉʔ
ɹıdeɹſıµˀ ［軍事］エアピストル、空気拳銃、空気けん銃　µɑ;/　Ɉ⋒ ［文化］ φel
ɹıdeɹcſəlɑ ［化学］凝縮熱　［レベル］5　1L
ɹıdeɹcˀı ［化学］強いて言うなら凝縮点　［レベル］5　1L
ɹıdeɹceɒ ［化学］凝縮、液化　［レベル］5　1L
ɹıdelɑ ［言語］パロール　［レベル］6　1L: 空気中を伝わる言葉
ɹıdeı ［言語］前置詞　［レベル］4　µɑ;/　Ɉʔ
ɹıb ［被服］装身具、服、服装、衣服、衣類、着るもの、着物、被服　［動詞］ɥəl を ı に着せる、着せる、着る、かぶる、被る、はく、履く、穿く、身につける、身に付ける、装備する、つける、着ける、付ける　［普通動名詞］装備、着装、着衣　［レベル］1　ɹeµſ　1ʔ: 制 : 古 :ɹıbe（服）。古アルカでは通して服の意味であったが、次第に装身具を意味するようになっていったのでその通りにして装身具の意味にした。　ɹı, ɹıbe: ɹı, ɹıbe:lı lecn ［語法］ ɹɔlɹ nene ɹıb（着させる）。ɹıb ſɔſɔ ı nene（着させる）。前者の着させるは相手に命じて相手が自分で着ることを意味する。後者の着させるは子供や死体など、自分で着れない人を介助して着させる場合を意味する。 ［文化］ → ıɒılcɹ, lecn　・歴史　ɹɒ まで衣類は羊毛、麻、亜麻、木綿、絹、毛皮、なめし革などで作られていた。いずれも質素で動きやすいものであった。　ɹɒ 後期になって王政が盛んになり人口も増え戦間期で技術も発達したころから徐々に荘厳華麗な服がでてきた。　ɹɒ 後期でも民衆は晴れ着一着普段着一着で下着はあるかないかであった。当時は服はすべて仕立てるもので、はじめから服の形をしているものは古着しかなく、服は高価であった。寝間着はなく、普段着か裸で寝た。　洗濯をすると服が傷むため、洗濯は夏場で週一回、冬場で二週に一回程度であった。湿度の低いアルバザードだからできたことで、ılſ 本国ではもう少し多く洗濯をしていた。　このころ庶民の服は、シャツ、チュニック、胴衣（チュニックの上に着た）、ズボン、股引（冬場にズボンの下に履く）、パンツ（持っている人は裕福だった）、寝間着（裕福な人しか持たなかった）だった。　µɑ で百年戦争が始まっても貴族は前線に出ないので優雅な服を着ていた。庶民はいつでも農耕できいつでも戦える実用的な服を着ており、古代からほとんど服装が変わっていなかった。　nɑ 以降は階層を問わず実用的な服が好まれるようになった。　また、大航海時代での植民地政策により、綿があまり取れないアルバザードにも魔方産などの綿が多く手に入るようになり、綿織物が一般化した。さらにこの流れを産業革命が促進した。　・女性の服は男性が選ぶ！？　ɹɒ の上流階級と革命後の ls では女性は自分の着る服を自分で選ばなかった。これらの時代はその女性に最も影響力を持つ男性が女性の着る服を選ぶというのが通例だった。例えば娘なら父親が、彼女なら恋人が、嫁なら夫がという具合である。µɑ_ıl でも ɹɒ の名残で保守的で大人しい女性はそのように扱われることを好んだ。そのため、女性が男性を選ぶ際に「服のセンスが自分と合う人」という希望があった。　µɑ_ıl では保守的で大人しい女性が主にこの習慣に従ったが、ɹɒ の上流階級や革命後の ls では逆に男性に服を選んでもらうことはむしろステータスとされた。つまり、「男の着せ替え人形になるなんて女性の人権を蹂躙しているわ」という考え方ではなく、「男に服も選んでもらえないなんて哀れな女ね」というレッテルを貼られ、同性からも蔑まれたわけである。当時はこの習慣はステータスで、男尊女卑などと思うことはなく、むしろ歓迎されていた。２０１２年現在の日本人には解説なしでは理解できない価値観であろう。　例えば女性がカレン半島まで男性と温泉に行って瓜式の浴衣を選ぶとする。たいてい浴衣は女性用が何種類もあり、男性用は一種類しかない。日本はこれを女尊男卑でやっているが、アルバザードではそうではない。というのもアルバザードでは男性が女性に着せたい服を選び、自分の目を喜ばせるために女性用の浴衣のバリエーションが多いためである。女性が「あれが着たい」と言って男性が採用する場合もあるが、普段は黙って男性の指定する服を着るのが女らしいと歓迎された。何を着せるかという点で精神的に男性は女性を征服することに充足し、女性は男性に征服され庇護を受けることに充足した。つまり男は女に服を着せることで自分を男らしいと誇り、女は男に選んでもらって相手色に染めてもらって庇護してもらうことで自分は守られるお姫様なのだと感じて満足するという心理である。 【成句】 el ɹıb ɹen ɹılıɹ ˀıc 大は小を兼ねる 【用例】 ɹıb ɹıɒel {ɹıb ılſ} 着替える。ɹıb ɹıɒel は動詞＋副詞。ɹıb ılſ は動詞＋目的語で、別の服を着るというニュアンス。　ſɥə ſın ɹıb ſə. これは私達で着回せるわ。　lı lənıſ ɔˀ ɹıb ɹıɒ. 彼女は新しい服を着て現れた。　☆ lı ɹɔlɹıſ ın ɹıb ɹıɒel. 彼は私に着がえさせた：着替えるは ɹıb ɹıɒel。　ɹıb eɒıſ ɹeµcd. 服が湿ってしまった。　ın ɹıɒıſ lıl ɹıb uıɑel enz. できるだけ早く服を着替えたかった。　ɹıb dɔd{ɑeɑ} 厚い服 { 涼しい格好 }　ın ɹıbıſ dɔdel lını ſel ɹɔµſ. 寒くないように服を着込んだ：着込むは ɹıb dɔdel。　ın ɹıb ıſ dɔdel cɒ ɑııµ. 朝、暖かい格好をした。　ſə ıſ led lel sıl nɔɹ ɹıb oel. どの服を着るか決めるのが難しかった。　ɹıb eɹ ˀɔɔſ ɔn cnˀ{ɥə lɔheſe}. 服が後ろ前だ { 表裏逆だ }。　ın euıſ ɹıb le nɔɹ ılɹıbıſ dcdel ıl ıˀɹ. 服を脱いだ後、床にそのまま投げ散らかした。　ɹıb ıɒılcɹ 服を後ろ前反対に着る　ɹıb ɹılıɹ ıɒılcɹel Ｔシャツを後ろ前反対に着る　ın ɹıb uın ɹıɒel ɒɔˀɹıb. パジャマに着替えよう。
ɹıblc ［被服］後身頃　µɑ;/　Ɉ⋒
ɹıblɔɹ ［被服］着丈　µɑ;/　Ɉ⋒
ɹıbɹı ［被服］前身頃　µɑ;/　Ɉ⋒
ɹıbɹıſ ［普通動名詞］身支度　［類義語］ledɹıſ　［レベル］3　µɑ;/　Ɉ⋒ 【用例】 ıµ

ɉıbɉıʃ 身支度をする　lə ıɭeɥ ⅂ıdıʃ ıl ın cᴅ ın ıɥɔɥ ɉıbɉıʃ hcʃel. 慌てて身支度を整えていると、その兄から電話があった。

ɉıbncıl ［被服］ポールハンガー　［レベル］4　⅃⅃

ɉıbɥez ［被服］スーツコード、ドレスコード　［レベル］4　1L:ᴅelcɑcı ıʅʃe　［語法］　学校では制服、会社ではスーツや作業服など、パーティ以外にも適応される概念。

ɉıbl ［被服］［動詞］ɥəl を仕立てる、仕立てる　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɉıblıɑ（服を作る）

ɉıbleᴅ ［料理］唐揚げ、から揚げ、からあげ　［レベル］3　ɥɑ;ɉıbc/bleᴅ　⅃⅏　【用例】ɉıbleᴅ ɑcıne ı⅂ı ジューシーからあげナンバーワン

ɉıblecᴅ ［企業］サブレイム　［レベル］3　⅃1　［文化］　マツモトキヨシに相当する企業。

ɉıbı ［名詞］［形容詞］おしゃれな、お洒落な　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɉıb　【用例】ɉılıɉ ɉıbı おしゃれなシャツ

ɉıbınse ［被服］メイド服　ɉᴅ;ɉıbe/ıns ız ınse　⅃⅏　［文化］　ıns

ɉıbıɥ ［被服］ファッション、モード　［レベル］3　⅃0:ɉıb⅂ııɥ:1L:ɥcɑcı:ıɥb ıʅelʃ　［文化］　ミロクがファッションを放蕩と定義したことにより、ファッション業界は廃れた。ミロク以前のファッション業界は今の日本と同じ状況であった。ファッション業界の主な消費者は未婚の女で、特に二十から三十台にかけての消費が激しかった。特にブランド物で身を固め、高価な服や鞄などを所有し、他の女に牽制をかけた。　ミロクは服の価値は温度調節の機能、丈夫さ、動きやすさの機能、肌触りの良悪、宗教的意味合いにあるとした。ブランド物は持つことによって社会的地位を高めるが、この虚勢の誇示行為が差別を生む。そう考えたミロクは社会的地位を服の価値から取り除いた。ブランド業界は解体され、昔と同じく単に品質と丈夫さを売りにする商品に変わった。ブランド品とは昔と同じで品質が良く、持ちが良く、その分だけ値段が高いものを意味するようになった。
　アルテナになってもこの傾向はあまり変わらない。ゆえにアルバザードの服は素朴でどれも似たものが多い。その代わり、機能性は抜群である。また、既製品はデザインが同じで変わり映えが少ないため、買った人は自分で縫い直したり縫い足したりして自分らしさを楽しむ。尚、帽子と靴も服と同じ価値観である。機能性がデザイン性よりも優先される。このことは手袋や靴下にもいえる。無論、下着にもいえる。　また、いくら機能性が高いからといって全体のバランスを考慮しないのはいけない。たとえばスーツにサンダルは統一性がなく、好まれない組み合わせである。フォーマルな服を着れば靴など他の要素もフォーマルで統一する。インフォーマルならインフォーマルで統一し、可愛い系なら可愛い系で統一する。統一性は機能やデザインよりも重要である。　＜歴史＞　最初に服を作ったのはエルト神である。彼はサールのために綿花から服を魔法で作った。　その後、神々は人間の姿になったときは親にならって服を着ていた。　悪魔はサティのように、服を着ないものもあったが、おおむね服を着ていた。　人類はユーマがサールに服を着せられた時点から服を着ていた。　ユーマの一族は最初から服を着ていたことになる。　原初は布をくり貫いた簡素な服をかぶるように着たり、簡素なローブをまとっていただけであった。　空調の魔法があったためである。　神は服に関してあまり関心がなく、単に裸体を隠すものとみなしていた。　しかし装飾には興味があり、数々のタリスマンを身に着けていた。　アズゲルになると人類の魔力が弱まり、常に空調の魔法をかけるのが重労働に感じられ、服が発達した。　アズゲルでは人類は各地に広まっていたため、風土に合わせた服が作られた。　メルティア 1,00L,Lʔ⅃ 年にルカリア交易が始まると、人類の服が神に伝わる。　神は人類が器用に作った服に感動し、神の間にもファッションが流行る。　このころはルカリアやレスティルの服が入ったため、神のファッションは基本的にこの時代のルカリア・レスティルのものである。　さて、それでは古代人はどのような服を着ていただろうか。　まだ生活に余裕のないころであるから、ファッションといっても機能性を重視したものであった。　まずは魔法がなくても寒暖を凌げる風土に合わせたものであること。　次に剣や魔法といった生きていく上で重要な技能に適応していること。　この２点である。　魔導師は裾や袖の広がった服を着ていた。　広がった裾や袖は魔力を増幅させるためである。メガホンで声を増幅するのと同じ原理である。　ここで初めてスカートが生まれ、魔導師に愛用された。魔導師の大半は女性なので、スカートは女性服となった。　一方、剣士は混戦時に引っ張られたり踏まれたりすると転んでしまうという理由でスカートやローブを避け、こうしてズボンが作られた。　ただし格闘家や一撃必殺を主とする後のカランなどは運足を悟られたくないという理由で袴を開発した。　このように、古代人のファッションは生き残りをかけた必然性から生まれてきたものである。　これは髪型なども同様である。人体で最も魔力が宿るのは髪なので、女性は髪を伸ばした。　しかしそのままでは戦いにくいため、戦闘時はひとつ結びにした。これが現代も残る ıɥʃncı である。　髪を結わくという行為は成句として「覚悟を決める」などの意味があったが、アレイユでは「気を引き締める」の意味に変化している。　男性は剣士は長髪だと邪魔なので髪を短くした。　ただし後のユールのような魔導師系は女性同様、髪を長くしていた。　宝飾はタリスマンとして女性が身に付けることが多かった。　男性は魔力にあまり関係がないため､身に付けることは少なかった。　ɥɑ までこの傾向は続き、地球のようなファッションが始まったのは大航海時代と植民地政策と産業革命が起こったその後の時代である。　ヴェレイでは奇抜なファッションが流行ったが、ミロク革命で過度なファッションは贅沢で悪徳とされ、アルティス教的なシンプルで質素な服装が主流となった。ただしパーティなどでは着飾る。

ɉıbc ［料理］コーティング､てんぷらの衣､衣､ころも　［レベル］3　1ʕ: 制 :ɉıb

ɉıbcɥ ［形容詞］音が篭もった、籠もった、響かない、くぐもった　［反意語］ʅcuıl　［レベル］3　@ 1L

ɉıbcɥdıln ［音楽］クラリネット　［レベル］3　1L　【用例】ʃə eʃ ʅed ʅel el ıɥ ɉıbcɥdıln. クラリネットを吹くのは難しい。

ɉıbe,ɑ　ɉıb　ɑ;e

ɉıh ［交通］ヨット、小型帆船、帆掛け舟　［レベル］4　ʅıʃı

ɉıhɔᴅ ［被服］前あき、前開き　ɥɑ;/　⅃⅏

ɉıhɔl ［名詞］空中前回り、前転　［類義語］ɉıdcl　［反意語］ʅchɔl　［レベル］4　⅃0

ɉıɥı,ıʅʃ　dɉʃ

ɉıɥı⅂ı ［篭堺］サヤカ　［レベル］5　ɥɑ; ラルドゥラの故郷の村の名から　⅃⅃　［文化］　篭堺司:ɥılɑəɥı ʅɔlɔɉ　篭堺国:ıʃcı, ʅɔlɔɉ　サヤカはアルティア寄り、ロロス南部の村。実質サヤカ篭堺はアルティアを指す。サヤカ篭堺の幼字は瓜を示す国際的な国字として使われる。

ɉıɥı⅂ı(⅃) ［地名］サヤカ　［レベル］5　zφ;lɔlɔɉ 語で「激戦区」。ɥı は「痛み」、⅂ı は「場所」。　［文化］　ラルドゥラの故郷の村。ロロス南部、アルティアの境界線付近に位置する。

ɉıɥɔ,ıʅʃ　zıᴅ, ʅəoı

ɉıɥɔne⅂ɔ ［名詞］オンドル　［名詞］床暖房、床暖　［レベル］2　ɉᴅ;「足温かい」　⅃⅃　［文化］　アルティア人が発明し、ɉᴅ でルティアに普及し、ul でアルバザードにも普及した。　【成句】　lıɑ ɉıɥɔne⅂ɔ ɑccnı nɔc 息子のためにオンドルを敷く：孟母三遷。ルティア人の親が息子の仕官のために家を暖めて勉強しやすい環境に整えたことから。

ɉıɥə ［被服］サユ　［レベル］2　古 :ɉıɥə。ɉıɥə は ɉılɥə から。ɉılɥə は祭壇の ɉılɥə ではなく、これと同音異字の ɉılɥə で、意味はシャツ。　［文化］　アルティス教徒の女性服。シャツに似た服で、ラーサとルフィの合わせとして着られる。ラーサの下に着る。

ɉıɼde ［動物］ブリ、ハマチ、イナダ、ワラサ　［レベル］3　1ɱ: 制 :hıcɉhıɼde（マグロアジ）　［文化］　食用され、好まれる。

ɉıɥ ［動詞］ɥəl を ı に戻す、戻す、戻る、退化、さかのぼる、遡る、撤退する、後退する　［普通動名詞］復帰、帰り、復元、元に戻ること、後退　［普通動名詞］巻き戻し、巻き戻しする　［音楽］ナチュラル　［言語］再帰　［反意語］dı⅂　［レベル］2　1ɱ: 制 : 恣意　【用例】　uıın ɉıɥıʃ. 軍が撤退した。

ɉıɥʃ ［名詞］神々、神、神様、かみさま　［生物］サルト、神科、幻神。エルト属とサール属の総称。　［類義語］ɉelʃ、ᴅcɥɔ⅂、ılceɉ　ɑu;ɉıɥ/eɥʃ　［レベル］2　1L:ɥcɑcı:ıɥbıʅelʃ　ɉıɥʃ:ɉıɥʃ:ılceɉ → ılceɉ,ɉzɑ　［語法］　→ ıdʃ, eɉʃ　〇名（前置）　×姓　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法　　エルトの一族とサールの一族を区別しない言い方。

ɉıɥɅıʃı ［経済］［歴史］神人貿易　［レベル］4　⅃0　［文化］　メルティア１０４万年、膠着したラヴァスを終戦させるため、神々は和平に向けて協定を結んだ。　協定の内容は攻撃の停止と、互いの領土を侵犯しないことであった。しかしこれには２点問題があった。　１つは前線付近の領土がどちらに属するかという議論で再び揉めてしまうだろうこと。　１つはラヴァスの激しい戦いで、エルトの一族の領土アンシャルも、サールの一族の領土インサールも荒廃していたことである。　これらの問題を解決するため、神々は戦禍を免れた土地を新しい領土とすることに決めた。　その候補地はいくつかあったが、元々神々が生まれたフィーリアが最終的に選ばれた。　神は神の世界アルフィを作って新領土として半分ずつ分割し、移り住むことにした。　神の造形術は剣などの小さいものを作る能力であり、世界は創世できない。　そこで彼らはフィーリアのミナカルモに行き、ミナカルモを切り取って異次元に送った。　異次元に送るという魔法も相当強力なものなので、ミナカルモを送るだけでも精一杯だった。　ミナカルモは外側から見ると霧がかった湖に見えるようになった。　その湖はミナルドゥといい、湖に入ろうとするといつの間にか反対側に抜けてしまう。　アルフィの西側をエルトが、東側をサールが占有した。　こうして神々はアトラスから去った。　神々は互いに抜け駆けを防ぐため､「アトラスの領土を侵犯しないこと」という協定を結び、原則としてアルフィから出ないことを互いに約束した。　こうしてアルフィに住み着いた神々だが、フィーリアには古レスティルほどの植生がないことに悩んだ。　つまり食べ物の種類が少なく、資源の種類も少ないのである。　そこで神々は人間界の資源に注目した。しかし協定により神々は人間界を侵略できない。　神々は人類に供物を捧げさせればよいと考えた。だが単に供物を捧げるだけでは人類側に利益がなく、従う理由がない。　もし供物を捧げないことでエルトがアルバザード人に神罰を与えれば、それはサールから見てエルトがアルバザードを侵略して資源を奪ったとしか見えず、協定違反となる。むろんこれはサールにもいえる。　人類はこの事情を知っているので、いくら神が脅したところで人類は従わない。　そう考えた神々は人類に貿易を持ちかけた。　こちらからは有事の際の神の加護という名目の軍事力とフィーリアの資源を提供する。　その代わり、人類からは資源をもらうという内容である。例えばメティオ産の香辛料や、アルバザード産の銀細工を得るなどといったものである。　アルバザード人に神罰を与えるのは侵略行為になるが、契約を結んだ相手に加護を与えるのは侵略ではないため、協定違反にならない。　知恵を捻ったユルグはこれを女王ルフェルに進言。ルフェルはこれを受け入れ、人類に話を持ちかけた。これを知ったアルデスは即座に真似しはじめる。　こうして神と人類の貿易が始まり、アルフィから出てはならないという協定に「召喚時を除き」というルールが加えられた（そのため、上で「原則として」と述べた）　貿易が始まると、貿易を担当する人間が現れた。これが召喚士の起こりである。　初期の召喚士は魔法使いというよりは、商社や通関士に近い存在であった。
　神人貿易は大きな市場となり、召喚士はめきめきと頭角を現していった。　これに慌てたのが王たちである。王は召喚士の権限を弱めようと尽力するも、かえって召喚士の反発を受け、逆に滅ぼされていった。　召喚士は貿易利益によって地球のメディチ家以上の経済力を付けていった。　神は金払いがよく、各土地のサリュを通じて納品するため、輸送費もほとんどかからない。輸送にかかる旅費や人件費も大幅に節約できる。その分の利益はまるまる召喚士が

得られる。　通常の貿易のように長い行路がかかると腐ってしまうものでも、神人貿易なら捌くことができる。商品のロスが少ない効率のいい貿易だった。　さらに神の加護という名目で強大な軍事力も付けたため、王位はどんどん召喚士によって奪われていった。こうして召喚士国家が成立していった。　　さて、神々は互いに反目しているため、召喚士は常にエルトにパイプを持つかサールにパイプを持つかで二分された。　エルトにパイプを持つ者はエルトのみから加護を受け、エルト召喚士となった。サールのほうはサール召喚士である。　こうして召喚士は二分された。では、複数できた召喚士国家をエルト・サールで分類すると、どのような分布になるだろうか。　　もともとラヴァスにおいてエルトの領土は主にアンシャルで、本拠地はルカリア、現ヒュートにあった。　一方、サールはインサールを領土とし、本拠地はカルセール、現ヴェマにあった。
　エルトはアンシャルの資源に慣れているので移住後もアンシャルの資源を欲しがった。サールはインサールの資源を欲しがった。従って、アンシャルにはエルト召喚士国家が、インサールにはサール召喚士国家が分布し、世界を二分していた。　　なお、ルティアは召喚士的にはアンシャルと同じエルト側に属し、アルバザードと親和性の高い国であった。　また、貿易はあくまで神々と親交のあったシフェルの一族とのみ行われたため、マレットの一族は貿易に参加しなかった。　マレットの資源に対する神からの需要がなかったことも理由のひとつである。　神人貿易は経済と技術の発展を促したため、このときの出来事が決定的にシフェルの優勢を導いた。
　西のエルト召喚士国家は自らを上弦の月ドゥルガと呼び、東のサール召喚士国家は自らを下弦の月ヴィーネと呼んだ。　神人貿易によって国家が潤い、新しい王が出て政治が安定すると、人間の暮らしも豊かになった。　国民のＧＮＰ（このころはまだＧＤＰではなく）が上がったことで、国民の経済力も付き、購買力がついてきた。商品売上が増加したものの、まだこの時代は産業革命からほぼ遠いため、大量生産はできなかった。　工場の就職は売り手市場になり、人口も増加した。そして資源が足りなくなった。　　そのため、限られた資源を奪い合う状況ができ、ドゥルガとヴィーネの対立が起こった。　エルトは原則としてアンシャルのものを欲しがるが、国民はインサールの米でも食べる。　また、エルトであってもインサールで取れた綿から作った服を着ることに抵抗はない。　資源の奪い合いは熾烈を極め、これが月戦争カコへと発展していく。

jiμʃjel　［ユマナ］休日、週末、土日　［レベル］２　ɉ0

jiμʃlcɒ　［言語］音韻創造　［レベル］５　ɉ0: サルトの音韻　［文化］　μinjlɔʃ

jiμʃill　［言語］フィルヴェーユ語の数　ɉ1　［語法］　ɑ 同様前置される。
　数は 10 進法になり、ʕ0 は cscılı になる。　　千は ʃeldılılı（葉の数）から ʃeed。　万は ɉədılılı（砂の数）から ɉəəd。　0 が作られ、ɥəə で表された。　　1ʝ 進法が追加され、1 〜 1ʝ まではアルミヴァの名が併用された。　ɫ_10 進法のエルトの数ではɫ 進数がベースなので、このɫ 進数と 1ʝ 進数が組み合わさって ʕ0 進数ができ、後の時間や角度などに繋がっていく。　特に時間を 1 時間 ʕ0 分にしたときは、この ʕ0 進数がそのまま使われた。　　1ʝ 進法やɫ_1ʝ 進法は時計や角度など、使用が限られ、日用は主にɫ_10 進法が使われた。　ɉ0 進法は衰退した。

jiμl　［地学］オアシス　［レベル］４　1ʘ: 制 : 古 :jieμcı（砂の水）

jiμnə　［言語］サルヌ　［レベル］５　古　［語法］　ejʃ

jiμɑɔnʃ　［名詞］帰り道　［レベル］３　ɉ1　【用例】　ʃe liɒ lcu e. nɔn lənil ıʃə lını ıl ʃɥə ʃcjje.　ɥəə ʃcl ʃɥə lien ɑelez cn ucl nɔn ıə.　ʃɥə nı ueɒ ɔn jiμɑɔnʃ jeʃe'ɤ ɒcl cʃj jcl ɥə ɒe.　lenı uıμ lccʃ ɑɔnʃ ılʃ.　ʃə ʃe ɑɔnʃ neʃileʃ, ʃə eʃ ɑɔnʃ ʃəin eə.　声を立てないでね　あなたを助けにきたの　　教室の誰にも　わたしが見えてないのよ　　帰り道がこわいのね　またぶたれるから　　他の道を行きましょう　　誰の都合でもない　あなただけの道を　　（新居昭乃『人間の子供』）

jiμɒ　［経済］債務　［レベル］５　@ 1L

jiμɒin　［経済］債務者　［レベル］５　1L

jiμɒclc　［名詞］戻り汁、精子、膣内から出てきた精子　［レベル］６　μɒ;/ ɉʔ:ɒel。概念自体は古からあった。　［文化］　膣内射精後に膣から出てくる精子のこと。浅めに出して陰茎を抜いた直後にすぐ漏れてくるものと、その場では出てこないが後で立ったり座ったりしたときにドロっと降りてくるものとがある。後者は風呂で中を洗浄しないかぎり防げない。　アルバザード人は前者にエロティシズムを感じる。中出しした証拠とみなすためである。中出しもののＡＶなどでは、戻り汁とともに、抜いた陰茎を手で絞って先端から出した残り汁を映すことで擬似でなく実際に中出しした証明とすることが一般的である。視聴者はそれを見て実際に膣内射精したことを確認し、戻り汁を流す女性器を見て興奮するという仕組みになっている。　男性は膣内射精をした証拠として戻り汁を好む傾向にあるが、女性は愛する男性の精子を全て取り込みたいと感じることが多く、戻り汁をあまり好まない。そのため、膣内射精後も精子が漏れにくい騎乗位以外の体位を好むことが多く、射精後は大人しくベッドで寝ていることが多い。

jiμɒccn　［地名］サルディーン　［レベル］５　ɒelʃcı L۹ jen ucı;jieɒcı（雪の土地）　ɉ0:μcɒcı:jieɒcı（雪の土地）が音変化したもの。　［文化］　古代国家のひとつ。アルディアルの東。ハーディアン人の移民によって建国された。

jiμdɔʃı　［法律］遡及　［動詞］ɥəl について遡及する、遡及する　［レベル］４ ɉ0: 遡って言及する

jiμbel　［植物］ひいらぎ、ヒイラギ、柊、セイヨウヒイラギ　［レベル］４ ɉ0:jibe。服をさらに着るころに見ごろを迎える。アルバザードだと見ごろとされるのは少し遅く１２月の頭ごろ　［文化］　むしろセイヨウヒイラギを指す。　アルバ王室の家紋は六角柊。

jiμbelcı　［歳時記］大雪　［名詞］２１時　［組み数字］２１／２４　［レベル］３ ɉ0: → ınlcın　［文化］　ınlcın

jiμɥəɔ　［言語］再帰動詞　［類義語］ıjʃɥəɔ　［レベル］４　μɒ;/　ɉʘ

jiμɥəɔiji　［言語］再帰動名詞　［レベル］４　ɉ1　［文化］　cuı

jiμɥəɔiɥəı　［言語］再帰分詞　［レベル］４　ɉ1　［文化］　cuı

jiμlɔʃj　［電算］バックスペース　［レベル］５　ɉ0

jiμı　［人名］サラ　［組み数字］2／5　［レベル］4　ɉzl　ɉ1　［文化］　→ μidıll　【成句】　jiμı e hıncuıl　紅一点

jiμin　［名詞］先住民　［反意語］lcμin　［レベル］４　μɒ;/　ɉʔ

jiμı uiμlʃɔɒ　［人名］サラ＝ヴァークトッド　ɉ1　［文化］　アルシェ＝アルテームスの義兄弟。戦闘に長け、義父ハインや義兄アルシェを助けた。

jiμcʃ　［言語］回復点　［レベル］６　ɉ1　［語法］　イントネーションに関する概念。ın jccnı ɒclʃ だと ɒc が回復点となり、文全体として下がっていた音の高さがある程度回復する。アルカの文は回復点を随所に含むため、文頭と文末で音の高低差が少なく、音域が狭い。これにより落ち着いた印象を与えるとともに、男性は低い声を維持したまま、逆に女性は可愛らしい声を維持したまま話すことができる。また、男性は高めに女性は低めに維持することで中性的な印象を与えることもできる。　ın jccnı ɒclʃ の場合、ɒc の部分を起点に音が高く戻るため、戻る起点ということで回復点 jiμcʃ としている。el jiμ jɔμcʃ e μecɑ ı jɔμen c ʃə "ɒc"（言語音の高さをこのディの部分から高いところまで　戻す）というところから cʃ 格が造語要素になっている。
　　回復点　　アルカのイントネーションには回復点 (jiμcʃ) というものがある。日本語の場合、ダウンステップにより文頭は比較的高く、文末にかけて声がだんだん低くなるという現象が起こる。アルカも肺臓気流を使うためダウンステップは起こるが、回復点があるという点で日本語と異なる。この回復点がアルカ独特のイントネーションを作り出している。回復点を学ぶことでアルカのイントネーションを理解することができる。　文頭から文末にかけては通常音が低くなる傾向にあるが、回復点が来ると音の高さが一旦持ち直す。
　　回復点は例えば動詞＋目的語の場合、目的語のアクセントの来る部分に存在する。例えば jccnı ɒclʃ の場合、ɒclʃ の ɒc の部分に回復点が来る。同様に、名詞＋形容詞の場合は名詞にも形容詞にも回復点が来る。また、格詞の後の格詞目的語にも回復点が来る。　アルカの語順はＳＶＯであり、それを拡張するためには主に格詞句を使う。或いは名詞に形容詞を付け加えたり、副詞を挿入したりといった方法で文を広げていく。この単純な構造と回復点の位置が分かっていれば、回復点に耳を集中させることによって文の構造を聞き取りながら理解することができる。　　回復点が随所にあることで、アルカにはダウンステップがあっても文頭と文末の音の高さが日本語程変わらない。言い換えればアルカの音域は狭いということである。この結果、女性は高く可愛らしい声を維持したまま喋り続けることができるし、逆に男性は低く落ち着いた声を維持しながら喋ることができる。　また全体として印象は落ち着いた感じになる。抑揚が少なく落ち着いた印象を与え、大人びた印象を与える。　　日本語の場合ダウンステップの結果文末の音が低くなるので、逆に文頭をあらかじめ高く発音しておかないとを音の高さが持たない。人間はある程度までしか低い声が出せないので、自分の声の最低の低さを限界点として、逆に文頭をあらかじめ高く読んでおかなければ、後から声が持たなくなる。ゆえに日本語の場合は文頭が高くなる傾向にある。　アルカの場合回復点があるので、始めから低くても最後まで低いまま維持できる。音の高さが随分違い、抑揚が全体的に少なく音域が狭い。　　　回復点を大文字で示す　ɒЄuıcl e ɥƎlc le lɫnʃe cɒ nЄinjel li ıμbızɫμɒ.　アルバザードの子供の多くは休みの日に公園へ行く。

jiμcı　［歴史］サリア時代、幻神の午睡、かみがみのうたたね　［レベル］３
　古 :jiμʃ/ 古 ncı（神々の休息）。戦間期かつ黎明の後であることから午睡となっている。　［語法］［文化］　ヴァステとラヴァスの間の約２万年間の平和な時代。

jiμɔɒı　［動物］ラブラドールレトリバー、ラブラドール　［レベル］６　ɉ1

jiμɔlɒı　［名詞］折り返し→ lec　ɉɉ

jiμeʃ　［交通］ブレーキ　［レベル］３　ɉ1:jiμ/ʃe

jiμen　［被服］ワークシャツ、カジュアルシャツ　［類義語］jilıj　［レベル］４ ɉ1:jiμen.lʃ(jilı)

jiμenj　［名詞］プロローグ、前口上、序章、序幕　［反意語］lcμenj　［レベル］ ４　μɒ;/　ɉʘ

jiμensın　［被服］サレンジャン、腰巻シャツ　［アクセント］jiμensɫn　［レベル］４　ɉ1: 空のサレン　［文化］　サレンを腰に巻く男性のファッション。夏など、暑い時期に行う。特にリア充系の若い男性が好む。ひらひらとスカートのようになるところがアルバザード人に好まれる。ヴェレイに一度起こり、廃れた。その後アレイユで再びトレンドとなった。

jiμecn　［軍事］前衛　［レベル］４　ɉ1

jizıɒ　［生物］前脚　［レベル］３　μɒ;/　ɉʘ

jizɔl　［生物］前頂　ɉ1

jizelɔ　［生物］前頭葉　［レベル］４　1L

jis,jzɒ　jzɒ の対格語尾　s は sə で「受ける」

jisenʃ　［経済］寄り前。アルバザードのイレンだと９時前ごろのこと。 ɉɉ

jioı,ılʃ　ʃeeze

jioılɔʃın　［魔法］シルフ、シルフィード　ılʃ;/　ɉʘ

jioın,ılʃ　ʃɔj　<jioı,ılʃ

jioinjɔʃəlc　［名詞］香織交わし　［レベル］６　jɒ;<ılʃ　ɉʘ　［文化］　恋人や親子などが互いの上着などを着て互いの匂いを相手の服に付けること。服のサイズが大きい男性→女性でのみ行う場合もある。　別れを惜しむ恋人たちが別れた後も相手を感じていられるようにとの発想でできた凪人の風習で、jɒ で流入した。　服（織物）に匂いを染み付けたことから、「香織」交わしと訳している。　現実には鼻の敏感なセレンが遠距離恋愛をしているリディアや娘の紫亞の匂いを感じて

いたいという願いのもと、自分のコートを相手に羽織らせたり、コートを着たまま抱いて相手の匂いを染みつけたりしたことに由来する。

jıl ［名詞］長、リーダー、トップ、代表、会長、家長、議長、主任、院長、首長、長官 ［経済］店長、店主 ［娯楽］ゲームの親、ディーラー ［建築］棟梁 ［類義語］eeleʃ ［レベル］2 ʃɒ;ɥjcclı.ʅ 中期制アルカ jıl:jıl:

jıl,jzɑ ɒıcn <>jııl

jılʃ ［名詞］年、一年 ［類義語］ʃɔlcȷ ［レベル］2 ʃɒ;「神の逢瀬」が原義。jııl と elʃ の混成。彼らが一年に一回セルヴァートで逢瀬をしたことから。 1L jılʃ:jılʃ:lı ʃɔlcȷ(lə ʃɔlcȷ の反対） ［語法］ ʃɔlcȷ 【用例】 ʃə jılʃ 今年 ın ɑelıʃ nıφclc ɑɔl 1 jılʃ. 私は凪霧を一年間学んだ。 xın eʃ jılʃ J9. → ın ʃcl J9 ʃɔlcȷ. = ın eʃ ʃɔlcȷ J9. 私は２７歳です。

jılʃjıɑenɑc ［気象］年較差 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

jılʃɑılʃc ［経済］年初来高値 ［レベル］6 JJ

jılʃɑeɥ ［経済］年初来安値 ［レベル］6 JJ

jılʃɑcʃ ［経済］年収 ［レベル］4 1L

jılʃheʃ ［歳時記］年末 ［レベル］3 ɥɑ;/ J?

jılʃɔjn ［歳時記］年始 ［レベル］3 ɥɑ;/ J?

jılʃejʅ ［気象］年間降水量 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

jılɭ ［普通動名詞］公認 ［動詞］ɥəl を公認する、公認する ［レベル］4 1?: 制 : 古 :ɥjcclılɭ「ルシーラが良いと言う」【用例】 ɒɔel jılɭ cɒdɥen ɔn ıɥb ızıɥɑ. アルバザードでは政府が風俗街を公認している。

jıljı ［人名］サルサ ［組み数字］6／１４ ［レベル］4 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第６使徒。女性。

jıljılcl ［化学］ユウロピウム 1Δ: 制

jılɒın ［地名］サルマン山 J1:jııl/ɒıcn ［文化］ → oılʝel アルナ西部にある山で、標高１０００メルフィ程度。中世から王族の遊興の場として愛され、現代でもハイキングの名所となっている。ここの山開きが oılʝel となっており、イムル暦では５・９ごろ。

jılɒınʃ ［企業］サルマント J1 ［文化］ フジテレビに相当する企業。

jılɒcn,ɑ ɑcıcn jııl/ɒccnı

jılɑcȷ ［宗教］サルディス ［レベル］5 古 :jııl/leʃcȷ から jılʃcȷ だったが、有声音に同化して jılɑcȷ となった。 ［語法］［文化］ レティスのうち、サール派のもの。

jılφıleɒ ［地名］サルガレム ［経済］大底 ［レベル］6 JJ:「サールの慙愧」［文化］ ȷeləı

jılɥə ［名詞］祭壇、サリュ、台座、オルター、アルター ［名詞］アンシャンテしやすい場所 ［電算］携帯電話の電波が通じやすい場所 ［反意語］ɒclɭe ［レベル］3 古 :ɑəlɒccı ［語法］［文化］ 祭事を行う場。アルデと交信しやすい特殊な場所のこと。

jılɥəɒ ［魔法］風絹、サリューム ［アクセント］jılɥƎɒ ［レベル］5 J1:jılʃcȷ/ləɒccne → jıləɒe のアルバザード読み ［文化］ jılʃcȷ で作られる繊維。悪魔サティの髪の毛を手に入れた村人が最初に作った。軽くて高品質なのでどうにかこれをもう一度作れないかと実験した結果、ɒılʃʝel の髪でも同じものが作れることに辿りつく。しかし数の少なく飼いならすのも難しい ɒılʃʝel を使うのは大変なため、ɒılʃʝel と村の男性をかけ合わせて娘を産ませ、その魔人の髪からサリュームを作ることとした。 jılʃcȷ の村の少女はたいていサリュームの材料として作られ、髪が綺麗で長いほどもてはやされた。 当然中には ɒılʃʝel の血が薄く、髪が物にならない少女もいる。サリュームは大量生産できるものではないので、サティスの村は裕福というほどではない。 となれば血の薄い娘は手作業を手伝う以外に金を産まないこともあって、親に捨てられることがあった。運良く拾われても酷使され、血の滲むような思いをさせられることが多々あった。 夢織のサエ＝サティスもその一人である。捨てられたところをサティスの森に隠れ住んでいたアルハイクが拾って育てた。

jılɥəcɑı ［地球の星座］［ユマナ］さいだん座 JΩ ［文化］ cɑı

jılocʅ ［動詞］ɥəl をきょろきょろさせる、きょろきょろさせる、きょろきょろする、キョロキョロする ［普通動名詞］きょろきょろ、キョロキョロ ［レベル］3 ɥɑ;ȷe/ılocʅ「何度も首を横に振る」 J?

jılı ［代詞］［dcʅb］あなた、そちらさま ［レベル］1 J1:eʅeʃɔne:jılın(先輩)

jılı(J) ［歴史］サラ族 ［レベル］6 J0: 古アルディアル語「雪の人」

jılıʃ ［ユマナ］［宗教］リンボ、辺獄 JΩ:「キリスト教ができる前の地獄」。地獄に行くべきでない偉人が行くので実際には地獄ではない。

jılıȷ ［被服］シャツ、ブラウス、肌着、ワイシャツ、Ｙシャツ ［類義語］jıɥen ［レベル］2 ɑu;jı は jıbe から。 J1:eʅeʃɔne<jılı:1?: 制 : 古 :jılɥə。祭壇の jılɥə と同音異字。 jılıȷ:jılıȷ ［文化］ ɑu のころは前開きの上着で、腰の下まで長さがあって股間を隠せた。 jɒ でボタン、襟、袖口が付けられるようになった。 【用例】 ın jıbıʃ jılıȷ,lɔɔȷ,dɔjı,ɥɔlɔ. ワイシャツ、ベスト、ネクタイ、ズボンを身につけた。 ın lıʃ lɔɔz e jıl ıȷ ı ɥɔlɔ ıləəʃel. シャツを着る際は必ずズボンに入れて着る。

jılın ［名詞］先輩、先駆者、兄弟子 ［反意語］ɭclın ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe: 先の人 ［語法］［文化］ ılʝeɥ 年上とは限らない。長いキャリアを持つ相手に敬意を持って使う。日本語のセンパイに近い。呼称できる。 また、ＯＢにも直接繋がりがある相手には jılın といえる。 呼びかけでは後置。 【用例】 lecn jılın レイン先輩

jılınʃcȷ ［シェルト］前衛、前衛の駒、歩 ［レベル］4 ɥɑ;/ J?

jılınıʅ ［軍事］照星、フロントサイト ɥɑ;/ JΩ ［文化］ φel

jılıc ［建築］円形都市、サライ、街 ［レベル］3 1L:jılcı ［文化］ → ıɥnı アルナとカテージュにある円形都市のこと。ɥɑ でアシェットがアルナに作り、アルテージュに近かったカテージュの行政が対テームス用として同じく円形都市を築いた。

jılıcdɔl ［名詞］広義の都心。アルナ９市とその周辺まで。南だとカテージュ９市とその周囲。 ［レベル］4 JJ

jılcı ［名詞］結晶 ［ポジティブ］アルナ式円形都市 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbı lelʃ:jıe/ɑlcı（雪水晶）

jılɔ ［被服］ベール、ヴェール ［レベル］4 ɑu; ↓ 古 :jılɔ（絹）。jı（絹そのものだけではなく絹のように薄く綺麗な布をも示す）/lɔ（頭） jılɔ:jılɔ

jılɔl ［生物］小腸 ［レベル］4 1?: 制 : 前の方の腸

jılɔınʃ ［政治］関白、サロアント ［レベル］4 J0:jılɔ/lınʃcȷ（ヴェールをまとった人＝影で操る人） ［文化］ ɥəəɒı ᛗᛗ ユキナ死亡。メリウセルが神商会の新たな代表となる。メリウセルは力でのし上がった人物で、強力な魔力を持っていた。その力を活かして神と次々に契約を結んでいった人物である。このときペティがまだわずか１００歳にも達していなかったため、メリウセルが関白という地位を築いて政治を見た

jılɔeȷd ［気象］巻層雲、うす雲 1L

jılen ［代詞］［dcʅb］あなたの、そちらさまの ［レベル］1 J1:eʅeʃɔne:jılı/en

jılen(J) ［経済］約定 ［レベル］6 JJ: 取引所の人間が買った人間に「そちらさまのもの（になりましたよ）！」と言ったところから。

jılenɑ,jzɑ ɥeʅ jıl/enɑ

jılənı ［名詞］［形容詞］上記、上述、上掲 ［反意語］ɭclənı ɥɑ J?

jıləucı ［歳時記］ルヴィアイブ、サルヴィア ［レベル］2 J1

jıləoı ［生物］前足 ［レベル］3 ɥɑ;/ JΩ

jıləəɒel ［歳時記］ルーメルイブ、サルーメル ［レベル］2 J1

jıı ［感動詞］えー、あのー、あー、えーっと、なんていうか、たしか……、確か…… ［レベル］1 古 : 語源不詳。言い出した者も不明 ［語法］ jı と ı は高→低でなく、常に低音で発せられるため、日本語の「さぁ」で発音しないこと。サー・ウィリアム・ジョーンズとカタカナで言うときのサーの発音に近い。 【成句】 jıı8 はて？、さぁ？

jııʅ ［形容詞］印象的な、心にひっかかるような、詰まる、つっかえる、良くも悪くも心に残る、心に残る、印象に残る、心に残る、気がかりだ、気になる、印象深い ［反意語］ıljııʅ ［レベル］3 古 【用例】 ☆ ʃə ɑelȷ eʃ jııʅ ʃcn ȷeȷ. その映画に深い印象を受けた。

jııl ［人名］サーシュ ［組み数字］9／１３ ［天文］サーシュ座 ［レベル］3 先 :ınɔ:ıl ［文化］ 第４期３代ソーン第９使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

jıılı ［被服］サーシャ、羽衣、肩掛け、ショール、レースのスカーフ ［レベル］4 古 :jıılı ← jılı ← jıjı。jıjı は jı/jı で、意味は絹 / 絹。絹のように薄いものより更に薄いという強調の意味で二度重ねている。jıjı が jılı になったのが先かは実は不確定。jıjı になってから jıılı になった可能性もある。いずれにせよ、jıjı という単純な同一音節の連続が苦手だった少なからずの使徒によって jılı となり、その後アクセントが jı にあることから母音が伸びたというのが有力な見解。 ［文化］ アルティス教の女性服。薄い布で、洋服の上に着る。薄く透けていて防寒の役目は殆どない。サメルと合わせられる。nıılʃ 以上の ɥənʅ が着けることが多い。ɒını でも着ることはできる。

jııu ［形容詞］正常な ［反意語］ɗɔʅc ［レベル］3 J0: 新生で ɗeʅ。正常なのに強い ɗ 音で始まると ɗɔʅc を思い出すので変えた。ȷc/ıucl（傷のない）から来ている。ııucl は古形。 【用例】 ʅɔlɔ jııu まともな頭

jııɒ ［名詞］午後 ［形容詞］午後の ［反意語］eɥıɒ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ıl cȷ:jııɑıɥıɒ（サール神の正午）。このサールは組み数字。 【用例】 ın ıʅ ʃıʃ hıɗn cɒ jııɒ e ɑcȷ lını ʅəc hıɥl ɔʅ lə. 私は今日の午後に昼食を一緒に取るため友達と会った。 ın ɒɔlıʃ uıɥ jııɒ. 午後はずっと寝ていた。 uız jııɒ 午後８時 eu lec le nɔn cjlɔɥ, ɥın ɥenȷ "ʃɥə lən ıʅ cʃ ıɒ8" ʅɔʅʅɔ ıȷel ʅɔnʃ lɔbeȷ cnȷ enıʃ. nɔn ɥılɒ ȷɔı dɔen e jııɒ cɒ clʝel. 読みかけの本を置き「何処から来たんだい」と笑う目隠ししたままの午後三時です（『想像フォレスト』）

jııɥ ［サール］サールの一族、黒幻神 ［生物］サール属、黒幻神属 ［形容詞］サールの～。敬称。 ［レベル］2 ɑu;jııl.ʅ 19: 制 : 古 jııɥ:jııɥ:lı ılceȷ → ılceȷ,jzɑ ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 ［文化］『幻想話集アティーリ』でエルトと対立する神。

jııɥȷel ［歳時記］サールの日 ［レベル］3 J1 ［文化］ ɑıu dcn。サールの王アルデスの誕生日で、休日。

jııɥın ［魔法］サール召喚士 ［レベル］4 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

jıız ［名詞］４０代女性 ［反意語］ıljıız ［レベル］2 古 :zını:「５０才ぐらいの女性」

jıızɑlel ［医療］四十肩 ［レベル］5 J0:ȷeɥen: この病気をリュウに紹介したら面白がっていた（知らなかったのか？全世界にある病気ではない？）。

jıızıl ［生物］４０代 ［レベル］2 ɥɑ;jııız/ıl J?

jııze ［気象］吹雪、ふぶき、ブリザード ［魔法］サーゼ（ブリザド）。水の多段黒魔法。吹雪で敵を攻撃する。 ［レベル］2 J0:jıe/ʃeeze

jııs ［名詞］虚無、無、ないこと、なさ、無さ ［反意語］ɭıl ［レベル］4 古 :jııs（虚無）。ɒclʝııs などに散見。 【用例】 "ɭɔɒ ʃə ɑcı eʃ lıɑ ʅɔʅʅɔ ɑce ʃeə jııs8"「それじゃあこの世界は嘘という無でできているの？」

jııl ［サール］サール ［音楽］裏拍 ［名詞］下巻 ［組み数字］2／２、後者 ［レベル］2 ȷelʃ 0:elʃ;e 古 ［文化］ → ȷelʃ この世の均衡を保っていた最初の神の一人。エルトの妻となるが、夫を騙して娘ユーマを設けたために捨てられてしまい、悲しんで大穴に身を投げて死んだ。 サールは黄色い肌に東洋系の薄い顔をしていた。黒髪黒目で体は細く、寸胴の幼児体系。

ɹɪɪlʃcɑɪ ［名詞］後半 ［反意語］elʃʃcɑɪ ［レベル］3 Ɉ0: 後ろ半分

ɹɪɪlʃɪɥɑ ［動物］オモミス類 ɪl;/ → elʃɪɥɑ Ɉʔ

ɹɪɪlɟel ［ユマナ］日曜日 ［レベル］2 1L

ɹɪɪlues ［弓道］乙矢、おとや ［レベル］6 Ɉ0: 二発目の矢

ɹɪɪlɒcnɪ,ɑ ɹɪɪlcn elʃ

ɹɪɪlɒcll ［天文］天文台 ［レベル］4 Ɉ1:「サールの叶わぬ願い」 エルトに捨てられたサールが空を見上げてエルトが来てくれるのを待っていたことから。

ɹɪɪlɑcɔ ［生物］大人の歯、永久歯 ［レベル］2 1L: ２番目の歯

ɹɪɪlhɔ ［生物］尺骨 ［レベル］5 ɈɈ: → elʃhɔ

ɹɪɪllcl ［化学］テルル ［レベル］5 1Δ: 制

ɹɪɪllɔl ［生物］回腸 ［レベル］5 1L: → elʃlɔl

ɹɪɪlcn ［植物］紫苑、シオン、アスター ［レベル］4 ɥɑ;ɹɪɪl/cn 1ʔ: 制 :ɹɪɪlɒcnɪ。サールの花 ɹɪɪlɒcnɪ:ɹɪɪlɒcnɪ

ɹɪɪleʃ ［音楽］シンコペーション Ɉ1

ɹɪc ［電算］パソコン ［レベル］2 1ɁP: 制 【用例】 ɪn en ɟeɥ ɪl el ɥɔl ɹɪc. コンピュータの使い方が分からない：el を nɔɟ にしても良いが、コンピュータの使い方はだいたい誰にも共通なので el が自然。nɔɟ だと自分流のやりかたが見つからないニュアンス。

ɹɪc(Ɉ) ［アトラスの国家］サイ ［レベル］5 Ɉʔ:ɥcɑcɪ

ɹɪc,ɟzɑ hɔl, ɒenl

ɹɪc,ɑu ɟɔɥʃ dɟɔɔɥɪ.l

ɹɪc,ɪlʃ ɪɥɹɪ

ɹɪcʃ ［動物］パンダ ［レベル］3 lɪlʃɪ ［擬声］ lɥəlɥə、φɥəφɥə（鳴き声）

ɹɪcʃ,ɟzɑ ɟɔɥʃ ɹɪc,ɑu/ʃeeze

ɹɪcl,lʃl ɑeɟdɪn ɹɪc,ɟzɑ/φc,ɑ

ɹɪclɪn ［魔法］サイカン、彩管 ［レベル］5 1ɁLΔ:ɑɪɒcc;ɹɪclɪ,lʃl/n Ɉ1:ɥcɑcɪ ［文化］ 水晶を主成分とする透明な筒で、筒を輪切りにするような形で６箇所ダイヤルがついている。ダイヤルは１６段階のメモリ調節があり、金庫のダイヤルのように回して数値を決める。ダイヤルは銀製。この筒の入り口に白の lɪɔlcn を入れると出口からダイヤルで調節した値の色の光が出る。 ダイヤルは０～１５までの数値があてがわれており、１～２番目のダイヤルは赤、３～４番目は緑、５～６番目は青の量を調節する。従って原理的に１７６６万色の色が作れる。 われながら彩管は巧い訳語。

ɹɪclʃɪ ［名詞］前景 ［言語］図、フィギュア ［反意語］lcclʃɪ ［レベル］4 Ɉ0

ɹɪcɟ ［名詞］溝 ［音楽］クリシェ ［レベル］3 ɟɔɥn: 元は足の親指と人差し指の間の部分を指す。 【用例】 lɪɑ{ɪllɪɑ} ɹɪcɟ 溝を掘る { 埋める }

ɹɪcn ［動詞］ɥəl を確かめる、確かめる、点検する、チェックする、調べる、考証する ［普通動名詞］確認、点検、チェック、考証、念押し ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :chɔ（目でみて情報を固い（確かな）ものにする） ［文化］ アルバザード人は「人間も神も誰も間違えるんだから、確認は必要」と考えている。日本だと先生に「本当ですか？」と聞くと後が何かと怖いが、アルバザードは少し寛容。ただ、しつこいのはもちろん不快。日本では目上が出した報告を読んで「これ、本当ですか」と聞くのは失礼である。だが、アルカでは失礼ではない。ʃə eʃ lɪnɤ と聞くのは問題ない。勿論、相手は本当のつもりで出しているので ɥɪ としか答えないだろうが。ところで、本当ですかと聞くのは問題ないが、ʃə eʃ ɥəlɤ はかなり危険。ɥəl の場合、嘘を付いていないかと疑うため。嘘と失敗は根本的に違う。「うっそー！」とかつい日本語のノリでいくとケンカは必至。 また、日取りや予算や契約などを取り決めたときは、たとえ書面が目の前にあろうと確認する。お互いに書面が間違っていないか、そして両者が正しく書面を読み取っているかということを確認しあう。これは徹底して行う。たとえば友達と遊ぶ約束を取り付けたとき、最後に必ず時間や場所などを確認してから別れる。それでアルバザード人は ɑɔɔuɪ ɪ ʃɔʃɔ と別れ際に言うわけだ。 【用例】 ɪn ɹɪcnɪʃ ɑɪl ʃə dɔɥel. それを事前に確認しておくべきだった。 ɪn ɹɪcnɪʃ leɟ nɔɟ ɟɔ ɑɪl cɒ leɟʃ ɹɪ ɒɔl. 寝る前に明日やるべきことを確認した。

ɹɪcnzed ［数学］検算 ［動詞］ɥəl を検算する、検算する ［レベル］3 1ɑ: 制 : 確かめる計算

ɹɪcɒ ［名詞］学校などのクラス、組 ［電算］キー、ハッシュのキー→ ɑel lɪ ［レベル］2 1ɑ: 制 : 初 ɟeɒɪcɒ(集団)。ɟeɒɪcɒ は水の花で、紫陽花の意。紫陽花が集団で咲くことからの類推だろう。 ［語法］ lɔɑel

ɹɪcɒez ［名詞］教室 ［レベル］2 1ɑ: 制 : クラスの部屋 ［語法］ ɑelez の下位概念。クラスとして使われる教室。実習室や音楽室など、クラスの教室として使われないものは含まない。部室などと同位概念。

ɹɪcl ［名詞］田舎、山村部 ［レベル］3 1L:lecn:lcɪl をテーブルに乗せて ɹɪcɥ にしたが、発音しづらいので l をママにした。

ɹɪcle ［経済］前場 ［レベル］6 ɈɈ

ɹɪcɪ ［感動詞］しょうがない、あーあ、しょうがないや、残念だ、セラヴィ、これも人生だ、人生なんてこんなものさ、しまったな、まいったな、困ったな、これも神の思し召しだ、ドンマイ ［レベル］1 古 :ɹɪcɪ ［語法］ 不運や不幸に見舞われたときに発する語。日本語の「しょうがない」ほど諦観していない。この不運がやがてめぐりめぐって幸運になると考えている。むしろただでは転ばぬぞという前向きな気持ちがある。【用例】 "ɔn eɟʃɔɤ ɹɪcɪ, ɒcl nɔn lɪdn lɪn leʃəl eə"「鼎のこと？ しょうがないわよ、叶えたいことがあるんだもの」

ɹɪcɪ(Ɉ) ［エルト］サイア ［レベル］1 lcczɪ: 古 :ɹɪcɪ ← ɹɪɥɪ ← ɹɪ（砂）/ɥɪ（言い切りを表わす感動詞）。原義は「砂だ」。つまり「砂のように些細なことだ」である。リーザが仕事に失敗した使徒を励ますために考案した。はじめは「ドンマイ、気にするな」と励ます意味で作られた神だったが、やがて不幸を幸運に変える神に変化していった。 ［文化］ 人の不幸や不運を蓄えてやがてそれを幸運や経験値に変えてその人に返してくれる神。

ɹɪɔ ［経済］特許、パテント、パット ［レベル］4 ɥɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɹɪɑlʃlɪ（新しい権利） ［文化］ 特許に関する意識は ʃɒ の頃からあったが、明文化されたのは著作権より遅く、魔法学が発達して錬金術や魔法工学が発達してきた ɟɒ になる。 以降 ɪl に至るまで年数が伸びたり分野によって年数が異なったりと細かな変化はあったものの、基本的なシステムは地球の特許法と変わらない。 ls のミロク革命でセレンは著作権のみならず特許にもメスを入れた。セレンは特許権による既得権益が大きすぎると人類の進歩に害をなし、特許権がゼロだと発明家がモチベーションを失うという現実を踏まえ、改革をした。特許についてはその年ごとに使用された商品数を計測し、使用回数が多いほど世の中に対する貢献度が高いとし、政府が特許権者に税金から配当金を支払う。この配当金は全国民から徴収された国税で賄われ、企業は負担しなくてよい。これにより体力のない企業も事業に参入しやすくなり、大企業も特許に支払う費用を気にして機能制限をしたり値段を無駄に嵩上げしたり新技術を新製品に取り入れるのを後回しにしたりしないで済み、新技術が市場に出回り浸透しやすくなり、人類の技術の進歩が促進されるようになった。 なお、特許権は分野ごとに守られる年数が異なり、長いものでも２０年しか守られない。これは「古い特許で長い間食っていける→新しい技術の開発を急がなくてよい」という淀みを作らせないようにするためである。 【用例】 uɪɟʃ{ʃɪɑ, lcɒ} ɹɪɔ 特許を取得する

ɹɪɔɟnhɔ ［生物］前頭骨 ɥɑ;/ Ɉʃl

ɹɪe ［気象］雪 ［動詞］ɥəl に雪が降る、降雪する ［象徴］正直 ［メタファー］繊細で心の綺麗な人。地上すなわち人間界に触れると汚れて泥水になってしまうことから。 ［レベル］2 ɑ;ɹɪ/e「絹の水、粉の氷」 1ʔ: 制 : 古 :ɹɪeehɔ（粉の氷） ɹɪe:ɹɪe:lɪ euɪ:hɔnɔlɪ,ɪlʃ ［語法］ 色は白か銀で形容。 【用例】 ɪn ɪlɔ lɪl ʃɪnʃ ɥɪ ɔl ɹɪe. 雪が降ったら家の外で遊びたい。 ɹɪe ɟcl ɑɔʃ ʃel senʃdɔɥlll. 天気予報によると大雪になるらしい。 ɹɪeɥ. 雪が降っている。 ɹɪeʃ. 雪が降った。 ɹɪe lɪc lənɪʃ. ぼたん雪が降った。 uɪcl e ɹɪe ɪlɔɥ ɒclɒ. 雪片が舞っていた。 ɹɪe le ʃcl eɟl lənɪʃ. 雨混じりの雪が降った。 cɒ ʃɔlel, ɹɪeʃ ɪʃc lɪl. 夕べ雪が少し降った。 ɹɪeʃ lɪlɔl cɒ ʃə ɹɪlʃ nɔɑ ɟlɔl. 今年はいつもより雪が少なかった。 ɪn ləlɪʃ ucʃ eɟn ɒɔl ɹɪe. 傘も差さずに雪の中を歩いた。 ɪn ɟccnɪ ləl ɒɔl ɹɪe. 雪の中を歩くのが好きだ。 ɹɪe ɪʃ hɪnʃ ɪ ɑlel ɔnʃ ɔɟn ɪnʃ. 雪が私の肩や頭に積もった。 ɹɪeʃ ɪʃc ɑc ʃcnlɪ. 雪がとてもたくさん降った。大雪が降った。 ɹɪeʃ uɪɥ ɟɔɔʃ. 雪が一週間降った。 ɹɪeʃ ɑə 1 ɒelɑc. 雪が１メルフィ積もった。 ɑɔnʃ ɪʃ lɔb lɔn ɹɪe clɒel. 一面の銀世界だった。 ☆ ɹɪeʃ ɪlʃɪl cɒ ʃə ɹɪlʃ lɔʃ ʃəɑɟ 10 ɹɪlʃ ʃeɥ. 今年は１０年ぶりの大雪だったそうだ。 ɑellɪ cl ɑeɥə ɒcl ɹɪe ʃcn ʃeɥ. 大雪で学校が休みになったそうだ。 ɪnɟ ɟeɑɪʃ ɑɪl ɹɪe lɪnɪ le ɟen eɒ ɑɔnʃ. 雪かきをして道を通れるようにしなくてはならなかった。 ɪn euɪʃ ɹɪe ɪ hɪdn dcldel. ふざけて友達に雪をかけた。 ɪn euɪʃ ɹɪe ɪdɔʃ ɹɪb e hɪdn. 友達の服に雪を入れた。

ɹɪe,ɪlʃ ləɟd <ɔɹɪbe

ɹɪelcdl ［料理］ショートケーキ ［レベル］3 ɈɈ:「雪のようなケーキ」 ［文化］ ɟɒ 後期に考案された。幼少期のリディアが好んだが、高価なのでなかなか庶民は食べられなかった。メルの考案でイチゴを乗せたり挟むようになり、ちょうど現在の日本で見られるような形に至る。歴史的に見てアルバザードにおけるケーキのプロトタイプである。

ɹɪeɟl ［気象］みぞれ、霙 ［レベル］3 1L:ɹɪe/eɟl ［文化］ 文字通り、雨と雪の混成。 【用例】 ɹɪeɟl ɪʃ ɟɔɑ = ɹɪeɟl lənɪʃ. みぞれが降った。

ɹɪe ɹɪʃcɟ ［死神］紗枝、夢織の紗枝、サエ＝サティス 1L:ɟeɥen ［文化］『夢織』の主人公。夢織種の少女。元は人間。サティスは育った村の名前。 命を失いかけた際、育ての父アルハイクによって死神となる。 夢織となった紗枝は死神ランヴェムとともにアルナへ渡る。 幻術でアルナ大学の生徒になりすまし、永遠のアルハン（日本の高校一年生）を繰り返す。 性格は内向的で暗く、友達は少ない。外見は大人しく美人で、典型的なルティア人像。 引っ込み思案で、付き人のランヴェムにしか喜怒哀楽を見せない。

ɹɪeɟcz ［運動］スノーボード、スノボ ［レベル］4 1L ［文化］ スキーは女性に人気で、スノボは男性に人気。ただし、怪我しやすい競技とされる。 【用例】 cɒ ʃə lceɥ, ɪn ɒɪcɟ lɪl ɹɪeɟcz. 今年の冬はスノボを習いたい。

ɹɪeɟeɑɪɒɔ ［名詞］除雪車 ［レベル］4 1L 【用例】 ɹɪeɟeɑɪɒɔ ɟeɑɪʃ ɹɪe e ɑɔnʃ. 除雪車が道路の雪を除去した。

ɹɪen ［接続詞］ɹɪ。前の。 ［レベル］3 Ɉ1

ɹɪeu ［言語］前置 ［レベル］4 Ɉ0

ɹɪeuɪɟ ［娯楽］雪合戦 ［レベル］2 1L ［文化］ ふつうにアルバザードでも行う。チームに分かれて戦う。直撃したら負け抜け。 【用例】 ɪnɟ ɪɥɪʃ ɹɪeuɪɟ. 雪合戦をした。 ɪn lɪɑɪʃ ɹɪeφel ɔl hɪdn lɪnɪ ɹɪeuɪɟ. 雪合戦をするために友達と雪玉を作った。

ɹɪeuɪlʃ ［動詞］かまくら、鎌倉 ［レベル］2 Ɉ1:「雪の砦」 ［文化］ → ɹɪeuɪlʃɟel 日本と同じく、雪で鎌倉を作ったもの。ただし日本の物より大きい傾向にある。 中に雪で作ったテーブルなどを設けることも。

ɹɪeuɪlʃɟel ［歳時記］雪祭り、かまくらの日 ［レベル］3 Ɉ1 ［文化］ lcɟ ɟeɥ のイベントで、大きなかまくらを作る。カルテではかまくらだけでなく巨大な雪の建造物が作られ、さながら雪祭りとなる。元はカルテに溜まった雪をかいて、その余りで何かできないかと考えた若者らが ul で始めたもの。

ɹɪeφel ［名詞］雪玉 ［レベル］2 1L 【用例】 ɪn lɪɑɪʃ ɹɪeφel lɪc uecn nɔɑ hɪdn. 友達より大きな雪玉を作った。 ɪnɟ dcdɪʃ ɹɪeφel ɪ lɔl. 私たちは雪玉を投げ合った。 hɪdn ɑɪlʃɪʃ dcd ɹɪeφel ɪl ɪn. 友達は私に雪玉を当てた。 ɪn euɪʃ ɹɪeφel lcɟ ɪ lɪc. 小さい雪玉を大きいのに乗せた。

ʝiezɔn ［運動］スキー、アルペンスキー ［レベル］3 1ʔ: 制 : 雪の棒スポーツ。手に持っているスティックが zɔn。ʝcz としなかったのはスノーボードとかぶるため。 ［文化］ ʝieʝcz 【用例】 nɔn ıɥ lın ʝiezɔn ııleI. 特にスキーがしたい。 nɔn ıɥ lın eᴅ ʝiezɔn ɔl ʝie lənı. 雪が降るとスキーに行きたくなる。 ʟcʃe ınʃ ıɥ ˥e nelʃ ʝiezɔn ʃıʃ ʟceɥ. 私の家では毎年冬にはスキーに行く。 nɔn ʝccnı ıɥ ʝiezɔn cᴅ ɑə ɥne. ナイトスキー（ナイター）が好きだ。 nɔn ıɥıʃ ʝiezɔn c ncɑ e ɥəlc. 初級スキーコースから始めた。 cᴅ ʝiezɔn, nɔn ˥ɔɥıʃ ʝɔɥ en uecn ˥ɔ˥˥ɔ ʟʃıɥez. スキーをしたとき、リフトに乗って持った高いところまで行った。

ʝieoıl ［地学］雪山 ［地球の国名］セントクリストファーネイビス ［レベル］3 1L: 国名が雪から来ている。山の頂上の雲が雪に見えたことから。

ʝieoılc ［ジョブ］裾持ち ıʃ ［レベル］4 ⅃0 ［文化］ ˥ılın

ʝielcl˥ ［植物］エノキ、エノキタケ、エノキダケ、ナメタケ、ナメススキ、ユキノシタ ［レベル］3 1L: 雪の中でも生えることから

ʝielenʃ ［名詞］雪だるま、ゆきだるま ［レベル］2 1ʕ: 制 ［文化］ 構造上、人型を作るのは難しいため、形は日本と同じ。ただ、鼻にニンジンを使ったり、目にボタンなどを使う点が異なる。 【用例】 ınʝ sılıʃ nɔ ʝʝe lıɑ ʝielenʃ ˥ıc. 私たちは大きな雪だるまを作ることにした。 ınʝ lıɑıʃ ˩ ʝielenʃ ˥ı ɑel˥ı. 学校で雪だるまを二個作った。 nɔn lıɑıʃ lın ʝielenʃ ın˥. 可愛い雪だるまを作りたかった。 ın euıʃ zedl lel ɑıdc nc ı ʝielenʃ ʝıʝ lıᴅ lını lıɑ eel. 雪だるまの顔を作るために最初は木の枝で眉毛を作った。 ın lıɑıʃ cnʝ,ʃɔı,˥əɔ e ʝielenʃ. 雪だるまの目と鼻と口を作った。 ☆ nɔn ᴅcll ʝielenʃ en eᴅ eʝc, lıl ʝɔı. 雪だるまが溶けないでそのままだったらいいのに。

ʝieıɥlənɔ ［化学］脂環式炭化水素 1L: 構造が雪の結晶に似ていることから

ʝc ［動詞］ɥəl を持たない、ɥəl がない、ない、無い、持たない、持っていない、持ってない ［反意語］ʃcl ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ ［も］もないという場合、ʝc 自体に「ない」の意味があるので ʝc ［ız］でも ʝc ［əl］でもでなく ʝc ［ɔ］。ʝc ［ız］だと「［か］のいずれかがない」ことになる。 【用例】 ın ʝc ılʝeɥ. 私には兄がいない。

ʝcʃ ʝc/ıʃ

ʝcʃıʃ ［形容詞］不定期の、非周期的な、不規則な ［反意語］sılı ［レベル］4 ⅃0:ʝc ʃıʃ（周期を失う）

ʝc˥ ʝc/c˥

ʝc˥ʃ ［名詞］あとで。１時間～２，３時間。 ［副詞］後で ［レベル］1 1⋔: 制 : あとで ［語法］ ɑc˥ɑə

ʝc˥ᴅ ［名詞］仮説、仮定 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ʝcn˥ᴅccɥ（一時的な論理）

ʝc˥l ［ネガティブ］皮肉 ［動詞］ɥəl（相手や内容）を皮肉る、皮肉る、ひにくる ［類義語］ueɥnıl ［レベル］4 ʝɔɥn ［語法］ 事実と反対のことを言って批判するさま。意地悪な感じ。ueɥnıl は事実と反対のことを言って笑うさま。ジョーク目的で、楽しむためのもの。日本語の皮肉は ʝc˥l に当たる。 【用例】 "uınʃ, ın uczc˥ ʃc" "ʝɔɔnɔ, ılʃcın ılᴅe" "oeec, ɑen ʝc˥l ıʁ" 「ごめん、遅くなった！」「あら、随分時間に正確だこと」「おーい、勘弁してくれよ」

ʝc˥leʃ,ʝzɑ uɔz

ʝc˥ı ［形容詞］平らな、平坦な、場所が平らな、扁平な ［形容詞］グラフや数値が上下に揺れず安定している ［形容詞］起伏の少ない。感情や形に使う。 ［形容詞］差がない、対等な→ ʝc˥ ［動詞］ɥəl をならす、ならす、均す、平均化する ［反意語］oclʃ ［レベル］2 ɑ;e 赤

ʝc˥ıʃc˥ ［数学］１８０度 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʝc˥ıʃeʃɔnı ［名詞］対等な関係 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʝc˥ıhıɾ ［言語］平体 ⅃0 ［文化］ hıɾɥecn

ʝc˥ıhɔ ［生物］扁平骨。頭蓋冠のように必ずしもまっ平らでないものもあるが、肩甲骨や胸骨など平らなものがメイン。 ɥɑ;/ ⅃⋔

ʝc˥ıl ［動物］エイ ［レベル］4 古 :ʝc˥ıelc が原義

ʝc˥ııɥʃ ［魔法］非多段魔法 ［反意語］nıɑıɥʃ ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ʝcl ［料理］デザート、食後のおやつや果物 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʝclɔn（後の食事）

ʝcʝ ʝc/eʝ

ʝcʝʃ ［名詞］ファイル、書類挟み、フォルダー、ホルダー、紙ばさみ、紙挟み、書類ばさみ ［動詞］ɥəl をファイルに綴じる、綴じる ［レベル］3 古

ʝcʝd ［化学］蒸留 ［動詞］ɥəl を蒸留する、蒸留する ［レベル］4 ɥɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ʝıɑ:ʝcdʝıdʝcd（液体の空気の液体） ʝıdleʝıdle ［文化］ 蒸留器は ʝᴅ の魔方で開発され、蒸留酒ができるようになった。蒸留器によりワインからブランデーが、ビール製造過程の麦汁からウイスキーが作られるようになった。

ʝcʝdı ［料理］スピリッツ、蒸留酒 ［レベル］5 ɥɑ; ↓ 1ʕ: 制 :ʝcʝd ［文化］ ʝcʝd

ʝcʝdıʃcnl ［名詞］ショットグラス、コーディアルグラス ［レベル］6 ɥɑ;/ ⅃⋔

ʝcʝdıɥ ［名詞］蒸留器 ɥɑ;/ ⅃⋔ ［文化］ ʝcʝd

ʝcʝl ［動詞］ɥəl を習う、習う、倣う、ならう ［普通動名詞］習得、会得、学習 ［反意語］lıl ［レベル］2 1L ləlɔ:ləlɔ

ʝcʝlın ［名詞］生徒、学生、弟子 ［レベル］2 ⅃0:ᴅelcɑcı lceɥ

ʝcn ［動詞］ɥəl を厭う、厭う、いとう、嫌い、きらい、キライ、嫌、イヤ、嫌う、嫌いだ、イヤだ、望まない ［文末純詞］出来事に対する話者の残念な気持ちや不快感を示す。 ［反意語］ʝccnı ［レベル］1 1ʔ: 制 【成句】 ʝcn nɔʝ 自己嫌悪 【用例】 ın ʝcn ʃə ʃcʝ. こんなの嫌だ。

ʝcnʃ ［動詞］ɥəl（場所）を通りすがる、通りすがる ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʝcn˥

ʝcn˥ ［形容詞］一時的な、一過性の、仮の、一時の、暫定的な、当面の、当座の ［副詞］仮に ［反意語］ılʝcn˥ ［レベル］3 古 【用例】 eu ʝcn˥el 10 ıʃə ここに１０を借りてくる : 数式で筆算の説明をしているときなど。日本語では「借りる」というが、アルカでは「仮に置く」という。

ʝcn˥˥eı ［普通動名詞］応急手当 ［レベル］3 1ꝗ: 制 : 仮の治療

ʝcn˥ɑɔnz ［普通動名詞］仮採用 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʝcn˥ɑel ［普通動名詞］一夜漬け、付け焼刃 ［レベル］4 1⋔: 制 : 一時的な勉強 【用例】 ın ʝeʝcl ʝcn˥ɑel uın ıʁ そろそろ一夜漬けするか！

ʝcn˥ᴅıl ［電算］キャッシュメモリ ［レベル］4 1L

ʝcn˥ɥı ［建築］仮設住宅 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʝcn˥eʝʃ ［名詞］仮名、偽名 ［類義語］enleʝʃ ［レベル］4 1L:lcɔn

ʝcnl ［名詞］シミュレーション、シュミレーション、想定 ［動詞］ɥəl をシミュレーションする、シミュレーションする、想定する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʝcn˥lcl（仮想実験）

ʝcnllcuı ［娯楽］シュミレーションゲーム、シミュレーションゲーム ［レベル］4 ⅃1

ʝcnʝ ［動詞］ɥəl を ı に見せる、見せる、みせる、表す、表わす、感情などを表わす、示す ［電算］表示、表示する ［普通動名詞］展示、表示 ［レベル］2 1⋔: 制 : 恣意 ::czɔl ［語法］ 目で見せなくてもよい。日本のデパートのトイレなどに入っていると、後の人がつかえて「早く出ろよ」的なオーラを出してくることがあるが、そろそろ出るというアピールのために、洗浄したり服を着たりという終了動作音を立てることがある。このようなビジョンのない示す行為も ʝcnʝ といえる。 【成句】 ʝcnʝ ˥ıde 頭角を表す。日本語と同じ表現。 【用例】 ın ʝcnʝ ıleᴅ ʝɔɑel. 私は感情が表に出やすい。

ʝcnʝʃeᴅʝ ［名詞］ショーウィンドウ ［レベル］4 ⅃1:ləʝcın

ʝcnʝcʃı ［名詞］展覧会、展示会 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ʝcnʝɔl ［名詞］ショー、展示物、番組 ［類義語］ʝelce ［レベル］3 1L:ɥcɑc ı:ıɥbılelʃ 【用例】 ʃə ʝcnʝɔl eᴅ ˥ı˥ ʃıʃ ᴅcɥφcʝel. その番組は月曜に放送される。 ʃə ʝcnʝɔl ıʃ bəənı ɥəlel. その番組は本当につまらなかった。

ʝcnl ［動詞］ɥəl を lel だと仮定する、仮定する、想定する、想像する、仮設する ［普通動名詞］仮定、想定、想像、仮説 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʝcn˥sıl

ʝcnlᴅıl ［電算］仮想メモリ ［レベル］5 1L

ʝcnı ［名詞］気分 ［レベル］3 1L:ʝeɥen:ʝcn˥nı ［文化］ 気分は肝臓に宿るとされている。 【用例】 ın ᴅcɥəʃ lıl ʝcnı. 気分を変えたかった。

ʝcnıᴅ ［形容詞］［ネガティブ］軽率な、悪い意味で大胆 ［反意語］ɔuel ［レベル］3 ⅃0:ʝc nıᴅʃ（注意のない）

ʝcnıleul ［医療］気分障害、躁うつ病 ［レベル］4 1L:ʝeɥen

ʝcuın ［文末純詞］［dc˥b］ʝec ［レベル］1 ⅃1:e˥eʃɔne: 厳密にはエケトネの口癖 ",ɑcen nɔə ʝc uını"（～だ、自信ないけど」の "ʝc uını" からンムトが作ったもの。

ʝcɑ ［名詞］束 ［形容詞］～たち。近似複数を作る。 ［類義語］ʝecn ［レベル］1 古 :ʝcɑ（束） ［語法］ ᴅcc˥ ʝcɑ で「リンゴやほかの果物」の意味。ᴅcc˥ ʝecn でリンゴが複数あることになる。 ＜ʝcɑ と oen＞ ʝcɑ は円で捉えるイメージで、oen は列で捉えるイメージ。 lcɔn ʝcɑ は「紫苑とその周り」で、レインやアルシェを含んで指す。紫苑の周りに彼らがいる円のイメージ。焦点は紫苑に当たる。 ᴅcc˥, lcʝ c˥, ɑcıc˥ oen は、果物リストの中からひとつずつ列挙している。「まだこれで終わりでない」ということを示すために oen を置いてある。リストが未完であることを指し、焦点は項すべてに当たる。

ʝcɑʃeʝʃel ［電算］インタープリタ ［レベル］6 ⅃0

ʝcɑʃelɑ ［電算］コンパイラ言語 ［レベル］6 ⅃0

ʝcɑeʃ ［副詞］一気に、一度に、まとめて、一丸に、みんなで、一括、一斉に、いっせいに ［反意語］ɥəʝʃc ［レベル］3 ⅃0:ʝcɑ/ʃe（束で） 【用例】 ɥe uınɑ ʝcɑeʃelʁ 斉射せよ！ cᴅ ɑɔnc ɑel ez hɔᴅıʃ ɥə, 1ꝭ0 ucı ɑelın lıʃıʃ ıl ez ʝcɑeʃel. 部屋が開けられた瞬間、１５０人近くの生徒が一斉に部屋に入った。

ʝcɑeʃlen ［動詞］ɥəl をがぶがぶ飲む、ガブガブ飲む、飲む ［普通動名詞］がぶ飲み、ガブ飲み ［レベル］3 ⅃1 ［文化］ 水のがぶ飲みは胃腸に負担をかけるとされ、よくないこととされる。

ʝcɑeʃɥen ［電算］コンパイラ、コンパイラ言語 ［反意語］ɥəʝʃcɥen ［レベル］6 ul;/。ソースコードを一気に訳してから実行することから。 ⅃⋔

ʝcɑeʃınl ［普通動名詞］総称 ［動詞］ɥəl を lel と総称する、総称する ［レベル］4 ⅃0:「まとめて呼ぶ」

ʝcᴅd ［動詞］ɥəl を消化する、消化する ［普通動名詞］消化 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 語源不詳

ʝcᴅdɑıcz ［医療］クローン病 ［レベル］6 1L:ʝcᴅdelᴅɑıcz だと消化器炎になってしまうので、わざと elᴅ を外した。

ʝcᴅdᴅıɥʝ ［生物］消化酵素 ［レベル］5 1L

ʝcᴅddınʃ ［生物］消化系 ɥʃ;/ ⅃⋔

ʝcᴅddcʃ ［医療］消化器科 ［レベル］5 1L

ʝcᴅdelᴅ ［生物］消化器 ［レベル］4 1L

ʝcᴅl ［医療］皮下 ［レベル］6 1L:ʝcɥ/ᴅɔl（リュウから見ると患者は寝ているので、上から見たときに患者の ᴅıcn にとっての ɥɔu が ɥɔu でなくむしろ ᴅɔl に見えるため）

ʝcᴅluelɑ ［医療］浮腫 ［レベル］5 1L

ʝcᴅı ［化学］ペプチド ［レベル］6 1L:ɥɥəə:ʝcᴅd

ʝcᴅel ［魔法］魔法の持続時間、シメール ［アクセント］ʝcᴅEl ［レベル］5 ⅃0:ləʝcı/ᴅel（魔法の時間） ［文化］ 魔法は通常１～３秒程度しか持続

しない。そのため炎の魔法を放っても、大抵は山火事などに発展しない。氷の魔法を出してもすぐに消えてしまうので、喉の渇きを癒すことはできない。また、炎もすぐ消えるので、暖を取ることはできない。油などに点火する際の着火材代わりになる程度である。
魔法は銅で覆われた空間の中では持続時間が増す性質がある。逆に青銅で覆われた空間では持続時間が短くなる。　銅箱の中に魔法を放てば魔法は長持ちするが、魔法を注入するのに最低でも天蓋を空けなくてはならないため、結局効果は弱まってしまう。また、伸びる時間も元の時間の数倍なので、せいぜいもって１０秒程度である。　だが、元の数が大きければ銅には意味がある。dıɹʃcl 照明では銅を利用して照明時間を長くしている。

ɟcɑ ［形容詞］古い、旧 ［類義語］leʃcɥ, ɥəəʃel ［反意語］ɟıɒ ［レベル］１　ʅ?: 制 : 古では ɟeɑı が新しい。そこから制では ɟıɑ,ɟcɑ の対ができた。その片割れの ɟcɑ がこれ。そもそもなぜ ɟɔɑ,ɟeɑ の対にならなかったかというと、起こす・消すが ɟɔɑ,ɟeɑ だったため。なお、消すは古で ɟeɑɔ。nəə:nəə:ɑcɟʃ:leɑcɟ,ɑφn ［語法］ → ɟıɒ , ɟeɑeɟ ［用例］ lec ɟcɑ 古い本。中古という意味はない。

ɟcɑʃcıɥen ［言語］古ルティア語 ［レベル］５　ʝʅ ［文化］ 期間：zφ.??ɥ～ʅʅ 末期　分布：シージア、ルティア、リーゼル。ɥəəɒı ʃʅ000 のシージア滅亡まではルティア地方とリーゼル地方で主に使われた。その後はルティア国とリーゼル国で使われた。

ɟcɑɟelɑ ［言語］古典 ［レベル］４　ɥɑ　ʝʝ ［文化］ ɑeldınʃ ［用例］ ıd ın ɥelıjıʃ cɒ ɑcɟ ɥəl ɥıɑel e ɟencın ɔnen ɟcɑɟelɑ ɔ ɟcɑcnɟıɥen. ちなみにゴールデンウィークの古典と漢文の宿題は今日終わらせた。

ɟcɑɒel ［歴史］古代 ［レベル］４　ʝʃʅ ［語法］ → ɑeɒe　ɑl_ɥɑ までの時代。古代は神代と魔法代を合わせ、獅法代と対立する概念。

ɟcɑɥen ［言語］古語 ［レベル］４　ɥɑ;/　ʝ? ［語法］ ある言語より古い言語を指す。一般的にはアルカより古い言語群を指す。

ɟcɑıφed ［動物］アンモナイト ［レベル］５　ul;/「古い螺旋虫」 ʝ?

ɟcɑıɥʅı ［言語］古アルカ ［レベル］３　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɟcɑıll ［名詞］古アルカの数字 ［組み数字］１０ ［レベル］５　ʅL ［語法］ ɑəə, ɥɔə, ucc, uɔn, ʃlɔn, ın, zın, hen ,lɔn, ʃɔɔ の１０種。０は ɥəə で新生と同じ。古の数字は使徒によりいくつか使い分けがあり、統一を見なかった。ʝ0 年にフルミネアとリュウが古アルカの共同研究をした際、数字の読みの共通ソースに制定語彙を使ったが、これがセレンの赤アンクノットと同じ読みであるため、赤アンクノット通りの読みに回帰した。セレンが新生で擬古的に作った数字は棄却された。なお、赤アンクノットではヴィ (uc) だが、これは新生の uc と重複するので音を伸ばしたとのこと。 ［文化］ zφ でレスティル軍人が用いた符牒が広く普及したもの。武器の長さ順に１から９まで命名している。例えば ɑəə は ɑcφc（槍）から来ている。順に、「槍、投槍、斧、槌、剣、ロッド、杖、投げナイフ、手裏剣のような小さな飛び道具」から命名されている。　例えば５の ʃlɔn は ʃlɔφc（剣）から来ている。ʃlɔφc は「砥いだ金属」を意味する。古では剣は dccʅc とも言った。これは dc（尖った）/φc（金属）から来ている。　現実にも武器の長さ順に数が命名された。

ɟcɑcnɟıɥen ［ユマナ］［言語］漢文　ʝʃʅ

ɟcφ ［名詞］ヒューズ ［レベル］６　ʅ!: 制 :ɟcdφc 溶ける金属

ɟcφnıɥcɔ ［ランドマーク］シグナリオ工科大学 ［レベル］６　ʝ0:ləɟcı/ɥıφnılɔl/古ルティア語 ɥcɔleʃ（研究する） ［文化］ イムル ʅʝ?Δ 年にルティアに建てられた工科大学で、ラグナロク工科大学の２号店的な存在。ʅ?ʔʝ 年にはラグナロクと共同で ınsel を開発している。

ɟcd ［動詞］ɥəl を ı（口や容器など）に吸う、吸う、啜る、すう、すする ［反意語］ıʅɟcd ［レベル］２　ʅ?: 液体。新生では ɟıd から。 ［語法］ 飲み物の場合、ストローがなければ自動的にすするの意味になる。吸うと訳さないように。 ［用例］ ɟcd leɑ 息を吸う

ɟcdʃ ［化学］蒸気 ［化学］水蒸気← eɥɟcdʃ ［レベル］３　ʅ?: 制 :ɟcd（液体）

ɟcdʃɥıφen ［工学］蒸気機関 ［レベル］５　ʝʅ

ɟcdɒ ［名詞］ボイラー、給油器 ［レベル］４　ʅ?: 制 :ɟcdʃʃdɒ

ɟcdl ［医療］窒息 ［動詞］ɥəl を窒息させる、窒息する ［レベル］３　ʅ?: 制

ɟcdlɟıdɒ ［医療］無気肺　ʅL:ɟeɥen

ɟcdıl ［名詞］呼吸 ［レベル］３　ʅL ［成句］ ɟeʅ ɟcdıl 呼吸を受け流す：ユベールから来た句で、相手の悪い呼吸に同調しないで流すこと。ルヴァンに流入され、その後一般的にも使われるようになった。相手の悪いリズムや空気に同調すると自分も悪影響を受けてしまうので、悪い空気は無視して流すことを指す。日常的には、ヒステリーな上司をスルー、生きながら地獄にいる荒らしをスルーといった場合に使う。 ［用例］ ɟcdıl ɑın 深い呼吸、深呼吸。深呼吸は体の奥深いところから行う呼吸であることから ɑın。

ɟcdıldınʃ ［生物］呼吸系　ɥʃ;/　ʝʃʅ

ɟcdılelɒ ［生物］呼吸器 ［レベル］４　ʅL

ɟcbıl ［代詞］［南方］［男性］ʃccɟ ［レベル］３　ʝʅ:ɟe/bıl

ɟcbılen ［代詞］［南方］［男性］ʃccleɟ ［レベル］３　ʝʅ:ɟcbıl の属格

ɟcɥı ［代詞］［南方］［女性］lenı ［レベル］３　ʝʅ:ɟe/ɒɥı

ɟcɥın ［代詞］［南方］［女性］lenın ［レベル］３　ʝʅ:ɟcɥı の属格

ɟcɥ ［生物］肌、皮膚、スキン ［動詞］ɥəl を無意識で触れて感触を味わう、触れる、ふれる、触る、触わる、さわる ［数学］表面積 ［レベル］１　ɑ;e　古 ［用例］ ɟcɥ ɑcl なめらかな肌　ın ɟcɥıʃ lıɟ lıʃ. 私はふと彼女の手に触れた。　☆ ın ɟcɥıʃ{ɥəʃ} lelɑc. 月の光を浴びた：ɥəʃ と違い、触覚で光の暖かみなどを感じている表現。

ɟcɥʃ ［動詞］ɥəl をかぶれさせる、かぶれる ［形容詞］かぶれた ［レベル］２　ʅʃʅ: 制 :ɟcɥ ［用例］ ʅəɔ eɟ ɟcɥʃ ɒcl ləɔcʅ. パイナップルで口がかぶれた。

ɟcɥʃɔnʃ ［医療］弾入、だんにゅう。管鍼法で使う技術。　ɥɑ;/　ʝʃʅ

ɟcɥʃɔe ［医療］刺入、しにゅう。鍼の技術。　ɥɑ;/　ʝʃʅ

ɟcɥʅcl ［医療］切皮、穿皮、せっぴ、せんぴ。鍼で使う技術。　ɥɑ;/　ʝʃʅ

ɟcɥɟıɑ ［名詞］体感温度 ［レベル］３　ʅL ［用例］ ɟcɥɟıɑ ıʃ ʃcɑ ʝ0. 体感温度はマイナス２０度だった。

ɟcɥncı ［美容］スキンヘッド、ハゲ、はげ、禿げ、ボウズ ［レベル］３　ʅL

ɟcɥɑıcz ［医療］皮膚炎 ［レベル］５　ʅL:ɟeɥen

ɟcɥɒcɟʅ ［美容］パッチテスト ［レベル］６　ʝʅ

ɟcɥdıʃ ［美容］スキンケア ［レベル］４　ɒ;/　ʝ? ［用例］ ıɥ ɟcɥdıʃ ɔn ʅııɒ 類のスキンケアをする

ɟcɥdcʃ ［医療］皮膚科、皮フ科、皮ふ科 ［レベル］３　ɥɑ;/　ʝʃʅ

ɟcɥdcφ ［医療］皮膚がん ［レベル］５　ʅL

ɟcɥıɒn ［医療］肌にできる発疹、発疹、湿疹。肌の炎症で、あせもなどを指す。 ［レベル］２　ʅ!: 制

ɟcɥeɒɟ ［生物］皮脂 ［レベル］４　ʝʅ

ɟcz ［名詞］板、パネル、プレート、バックボード、ダーツボード ［運動］道具を使って移動することを主体としたスポーツ ［レベル］２　ʅ?: 制 : 古 :ɟcʅızıɒɔ（平らな木）

ɟczhɔnɟ ［アイテム］［軍事］プレートメイル　ɥɑ;/　ʝʃʅ ［文化］ ııuhɔnɟ

ɟczl ［名詞］盆、トレイ、トレー、お盆 ［地学］盆地 ［レベル］３　ʅ?: 制 :ɟcz

ɟczı ［地学］プレート ［レベル］５　ʅ!: 制 :ɟcz

ɟczıɒccɥ ［地学］プレートテクトニクス、プレート理論 ［レベル］６　ʅL

ɟczeʃ ［名詞］ステージ、舞台 ［レベル］３　ʝʅ:ɟcz/ʃe

ɟcoı ［代詞］［南方］［男性］ınɟ ［レベル］３　ʝʅ:ɟe/oın

ɟcoın ［代詞］［南方］［男性］ınʃeɟ ［レベル］３　ʝʅ:ɟcoı の属格

ɟcl ［名詞］未来、将来 ［法副詞］～するだろう。未来時制の副詞。 ［動詞］ɥəl だろう、だろう。未来時制の繋辞。 ［形容詞］未来の ［反意語］ɟeɟ ［レベル］１　ʅL: 制 :ɟclʃ（あとで） :::dıɟelə,ıʅʃ ［語法］ ・ɟcl と uın → uın ［用例］ cn ɟcl 未来を見据える　ıɒcɥ ɟcl 未来のだんな様　ɟcl ɑcɥʃ 明るい未来

ɟclʃ ［名詞］自由 ［形容詞］自由な ［反意語］lıɥʅ ［レベル］３　ʅL:ɟclɑnı（心が軽い） ［成句］ ɟclʃel どうぞご自由に、ご勝手に、勝手にすれば？。口調次第で嫌味っぽくなる。上昇調だとやや嫌味っぽい。下降調だと文字通りの意味。同じ上昇調でも相手に言うのではなく相手に問う場合は「自由にしていいの？」の意味になるので、嫌味としての「勝手にすれば？」にはならない。

ɟclʃʅıɑ ［地球の国名］ギニア共和国　ʅL: 国家が「自由」

ɟclʃlcıl ［政治］自由都市　ɥɑ;/　ʝʃʅ

ɟclʃʃlcʃ ［名詞］自由席 ［レベル］３　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɟclʃɒıφ ［物理］自由振動 ［レベル］６　ʝʅ

ɟclʃɑcʃ ［経済］可処分所得 ［レベル］５　ɥɑ;/「自由にできる所得」 ʝ?

ɟclʃɥıʃʃɔ ［地球の国名］リベリア　ʅL: 自由という意味。国旗がアメリカに似ている

ɟclʃzıu ［数学］自由ベクトル　ʝʅ

ɟclʃʅn ［政治］自由主義 ［レベル］４　ʅL

ɟclʅ ［名詞］平等、均等、均一 ［動詞］ɥəl を平等にする、平等にする、均す、ならす ［形容詞］平等な、均等な、均一な ［類義語］clıʃ ［反意語］ɟdıʃ ［レベル］３　ʅL:ɟclı

ɟclʅıʃıɥ ［形容詞］［ポジティブ］無礼講な、ざっくばらんな、遠慮のいらない ［類義語］lclle ［反意語］ılcʃ ［レベル］４　ʝ0 ［文化］ ɥɑ で、先代と一緒に宴会をしたときに、普段より先代に対してざっくばらんに接したことから、その態度を「平等なカタル」と呼ぶようになった。

ɟclʅlınφ ［政治］平等権 ［レベル］４　ʅL

ɟclʅılɒc ［政治］シルク・アルミ、シルクアルミ。五民平等。四民平等にあたるもの ［レベル］４　ʅL: 平等な五角形 ［文化］ ナディアにおいて、王族、貴族、軍人、商人、平民の５つの平等を訴えたもの。ヴェレイにおいてようやく可決され、貴族は再び廃止。同時に表面上の平等を勝ち取った。結局、労使間で貧富の差が生まれ、事実上の身分は残った。

ɟclɟ ［名詞］ティッシュ ［レベル］２　ʅ?: 制 : 語源不詳 ［文化］ 鼻をかんだり物を拭いたりするのに使う。木の箱に入っており、詰め替え用が店頭で売られる。日本より使用頻度が少ない。環境に配慮して税金率が高く、非常に高価。日本でいうなら一箱５００円程度か。

ɟclɑ ［形容詞］軽い ［法副詞］どうぞご自由に～してください。前置。ɟcl ɑel だと「軽く」という意味。 ［丁寧］［形容詞］やせている、痩せ、ほっそり、スレンダー、すっとした、すらっとした：女性限定。男性には侮蔑的。 ［名詞］(nı) さっぱりして身軽な、さっぱりして心地よい、サッパリした。 ［文字］リーン ［類義語］ɥəɒelc ［反意語］oɔlʃ, ɑıɑ, zedleʃ　ɑu;ləɑ が靴を脱いで身軽になるという意味で、ɟclɑ が「軽やかな」という意味。 ［レベル］１　赤：軽やかな　nɥı:nɥı ［語法］ → ɑıɑ 「気軽に」の意味はない→ ɑenl ［用例］ ʅɒccɥ ʅɔʅ ɒel eʃ ɟclɑ. クミールはメルくらいほっそりしている。　ɥı, hıɔ, ɟclɑ lecl ɑc. ın nı ıɒd ı ʃə. えぇ、もちろん。ご自由にご登録ください。光栄です。　cɒ ʃəɔ, nɔn ıɥ uıu lını eɒ ɟclɑ. 最近、痩せるように運動している。　☆ ın nıʃ ɟclɑ ɒcl eɥl. お風呂に入ったらさっぱりした。

ɟclɑ(ʝ) ［魔法］シルフ気質 ［レベル］５　制：ヴィル＋ノア気質の人間が軽やかに悩み少なく生きているように見られたところが語源となっ

ている。だが後のアルヴィナでは軽やかなのはノア＋ユノと考えられるようになった。 ［語法］［文化］ ノア＋ユノ気質。

ɉclɑ,lſl ɑccne ɉclɑ

ɉclɑlellɔ ［感動詞］お気軽に、どうぞ、どうぞどうぞ、ぜひとも、ご自由に、どうぞごじゆうに、どうぞご自由にお取りください ［レベル］2 古 :ɉ clɑlellɔ「軽やかに来る」［文化］ → ɒɔφ

ɉclɑuınſcɟ ［軍事］軽装兵 ［レベル］4 1L:µcɑcı

ɉclɑləſeılɒ ［化学］軽質ナフサ 1L

ɉclɑılɒ ［化学］軽油 ［レベル］5 1L

ɉclɑınɑı ［軍事］軽火器、ライトウェポン µɑ;/ ɺſl ［文化］ φel

ɉclɑınɔz ［音楽］ハミングバード ɺ1

ɉclɑc ［名詞］小さな光、微かな光、仄かな光、明かり、仄明かり、ほの明かり ［形容詞］微かな、幽かな ［副詞］かすかに、かすかな、ほのかな、ほのかに、ごくわずかに ［レベル］3 1L:µcɑcı:ɉclɑ 【用例】 ɉcl ɑc ıſcclc linſeɟ ɔlɒı ləəſ ſcnel. 青白い仄明かりに映えた彼の容貌はとても美しいものだった。

ɉclɑcleµn ［生物］クリオネ ［レベル］4 ɺ1:「淡い光の翼」

ɉclɑcɑın ［天文］太陽系小天体 ［レベル］4 ɺ0: 質量が惑星などより軽いため。

ɉclɑccɥə ［形容詞］稚え、ちえ ［名詞］稚えっ子、ちえっこ、ちえっ子 ［類義語］ınl ［反意語］ɥəəɥə ［レベル］3 ɺ0:ɉclɑc（仄かな光）/ɥəəɥə（のように萌える）。ɉcl ɑccɥə と同音なので言葉遊びができそう。日本語訳のほうは「幼稚園」などの「稚」から来ている。 ［語法］ ɥəəɥə 単純語の形容詞としては一番長い語かもしれない。

ɉclɑen ［形容詞］淡い、色が淡い、パステル、薄い ［反意語］ɑıɑıl ［レベル］3 ɺ1:ɉclɑ/en ［語法］ zɔɒɒɔɔl

ɉclɑenncɒ ［芸術］パステルカラー ［レベル］4 ɺ1

ɉclɒ ［格詞］恐らく～しないだろうが。確率の弱い条件。 ［類義語］ɔl ［レベル］2 1ſl: 制 ［語法］ ɔl

ɉclɒc ［名詞］花婿 ［反意語］ɒılɟ ［レベル］3 ɺ0:ɉcl ıɒcµ（夫になるだろう）【用例】［言葉遊び］［俗語］"oec, ɑcɟ ɉeµ8 lı ɒılɟ uın le been ɑczɒıl"——"lclɒı ı ɉclɒc"「おい聞いたか？あいつ、あのブスと結婚するって」——「花婿に仏花だな」

ɉclɒel ［言語］未来時制、未来形 ［名詞］未来 ［レベル］4 ɺ1

ɉclφı ［地学］ボーキサイト ［レベル］5 1L:ɉclφı からの意味的な逆成

ɉclφıɑɔl ［地学］ギブス石 1L

ɉclφc ［名詞］アルミニウム、アルミ ［レベル］4 古 :µɥəə:ɉclɑφc（軽い金属）から。

ɉclφclcl ［化学］アルミニウム→ ɉclφc ［レベル］4 1L

ɉclφcəɟ ［名詞］いんちき、インチキ、にせもの、偽者、贋作、ばったもん、でたらめ、いかさま、イカサマ ［類義語］ɑcel ［レベル］3 ɺ0:ɉclφc/lelſcəɟ ［文化］ µɑ でリディアらが開発したシェルティウスは銀を使うため高価だった。そこでアルミニウムを混ぜたまがい物が売られたが、銀でないと効果がないので、客はいざというときに気付かされた。そこから、アルミでできたシェルティウスを ɉclφcəɟ（インチキ）と呼ぶようになった。

ɉclφcəɟın ［名詞］嘘つき、インチキ ［レベル］3 ɺ0:ɒelcɑcı lceµ

ɉcldeµ ［経済］先物 ［レベル］5 1L

ɉclcı ［魔物］シリア（光蠍）: 第五十六天 : 光の陽天 ［レベル］5 1L:µcɑcı/ɉeµen/ɒel:ɉclɑ/ɑıdc ［文化］ 蟲族。土の中に隠れ、光る触覚を出し、獲物が近寄るとガバっと鋏で仕留める魔物。大型で、子馬ほどの大きさがある。

ɉclcılənc ［天文］みなみのかんむり座にあたる星のつながり 1L:µcɑcı/ɉeµen/ɒel ［文化］ シリアの触覚に見えたことから。

ɉcleſ ［アイテム］ルシーラの杖、ルシーラの錫杖、杖、錫杖 ［動詞］ɥəl を司る、司る、つかさどる、管理する、監督する ［レベル］3 古 :ɉccleſ ,ɉcleſ,µɟcclıeſ ［文化］ ルシーラの持つ長い杖で、使徒を率いるために用いる。権威の象徴でもある。デスパの中心で持つか、そこにルシーラがいなければ立てておく。

ɉclezcı ［歴史］シレジア族 ［レベル］5 ɺ0: 古シレジア語「静かな人」

ɉclezcın ［歴史］［地名］シレジアン帝国 ［レベル］5 ɺ0: シレジア人の ［文化］ ɥəəɒı ɺ1ɺ᛫ にマレティスがヴェルディアン帝国に対抗するために作った帝国。最大版図は建国時で、東はシージア、西はメディアンまでを支配していた。ヴェルディアンと同じくシージアが宗主国で、それ以外は属国という形を取った。

ɉcı ［名詞］膜 ［音楽］ドラム、タム、トム、スネア。ドラムなどの膜鳴楽器 ［魔法］シア（プロテス）。利の多段白魔法。霊気のバリアを張る。敵の霊気を弱め、あるいは消失させる。術者の能力に応じて強さが決まる。 ［レベル］2 ſɒ;e ᛏ:llccz: 古 : 東京の喫茶店でホットミルクを飲んでいて、牛乳の油膜を指して ɉcı といっていたことから。

ɉcı,ılſ lıɑ

ɉcıſ ［政治］内閣 ɉɔµn

ɉcıſıſı ［政治］閣議 1L

ɉcın ［名詞］持たざるもの ［レベル］4 1L

ɉcın(ɺ) ［音楽］ドラマー ［レベル］5 ɺ1

ɉcın(ʔ) ［代詞］［ɒſn］ ſcɟee ［レベル］2 ɺɺ:lɒccµ/µcɑcı

ɉcın,ılſ ıµſ

ɉcıucµɔ ［生物］膜タンパク質、膜蛋白質 µſ;/ ɺſl

ɉcıɑɔnſ ［生物］輸送体。細胞膜の。 µſ;/ ɺſl

ɉcıɒıcn ［音楽］シェル、胴。ドラムの胴体。 ɺ1

ɉcıɥəſın ［生物］受容体。細胞膜の。 µſ;/ ɺſl

ɉcıµen ［魔法］［地学］アルシアの魔石 ［レベル］5 1L:ılɉcı/µen ［文化］ １１属性の魔石。アルシアが見つけ、リスト化した。当時と µɑ で呼び名が変わることがある。持っているとその属性の敵の攻撃を和らげ、逆にこちらのその属性の攻撃を強める。 闇:uelen(黒水晶) 水:enıµen（アクアマリン） 風：ɑcıcnɟ（翡翠） 土：ɑıln（琥珀） 火：ıµlıneſ（ガーネット） 雷：lesenſ（菫青石） 光：µeſcl（蛍石） 聖：ɒcµen（ジルコン） 邪:uenɑccl（アメシスト） 利:µeeɟ（オパール） 害：ɑeɒcl（トパーズ）

ɉcızɔn ［音楽］ドラムスティック→ zɔn ɺ1

ɉcıs ［建築］天井 ［反意語］ılɟ ［レベル］2 ɺ0:ɉcı e sın（空の膜）。以前は cſl だったが、「いちゅ」という発音が天井に沿わないため変えた。

ɉcıs(ɺ) ［動詞］ɥəl を結う、結う、ゆう、結わく ［類義語］ɑɔſ ［アクセント］ ɉcᛏs ［レベル］2 ɺ0:ɑclueeɥə「戦時の空」古代の女魔導師が戦時（このころはたいてい空中戦）に髪を結ったことから。 ［語法］ ɉcıs のほうが持って回った古風な言い方。 【成句】 ɉcıs ncı. 気を引き締める。セルメルまでは覚悟するとか決意するという意味。

ɉcıl ［魔法］魔法体 ［レベル］5 ɺ1:ləɉcı/ 古 ıl ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɉcıleſ ［魔法］魔法性 ［レベル］5 ɺ1:ɉcıl/ſe ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɉcı e dlınſµen 『首吊りシア』 L:µcɑcı 訳 : ユンク小説『首吊りシア』: リディアが参考にした原話は不明。古アルカ題は "ɉcı lenɔ dɔucnə əɔ"

ɉccſ ［形容詞］爽快な、心地よい、さわやかな、爽やかな、すがすがしい、清々しい、空気などが新鮮な、気分がいい、清涼な ［レベル］3 1L:eɟcl/ɑccſ ［語法］ 快楽よりは爽快さに重点。運動や炭酸飲料や涼風など、爽快になるものを指す。 【用例】 senſ ıſ ɉccſ. 爽快な天気だった：例えば蒸し暑くなく寒くもなく適度に乾燥していて空が晴れていてそよ風が吹いている状態。 ſeeze ɉccſ ıſ ɉɔɑ. 爽やかな風が吹いた。 ɉıd e ɑııµ ıſ ɑµen ɔ ɉccſ. 朝の空気は澄んでいて清々しかった。 ın ıſ neſ ɒeµel ɒın ɉcdcl ɉıd ɉccſ. 新鮮な空気を吸ってすっかり目が覚めた。

ɉccſlen ［アトラスの国家］シーチェン ［レベル］5 ɺʔ:µcɑcı

ɉccl ［植物］マルメロ 1ʕ: 制 :ɉeµclɒccl

ɉccn ［形容詞］人気の、人気がある、人気のある ［反意語］lııɒ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılſe:ɉccnı 【用例】 eµɑc eſ ɉccn lılſ ıµſın. 銀は魔導師の間で人気がある。

ɉccnlec ［名詞］人気の本、人気作 ［レベル］4 µɑ;/ ɺʔ

ɉccnlecɔnl ［名詞］文庫本、文庫 ［レベル］4 ul;/ ɺʔ ［語法］ 多数の読者が見込まれる書籍を収めた小型の叢書。

ɉccnı ［動詞］ɥəl が好き、好む、ɥəl がいい、好き ［形容詞］お気に入りの、好かれた ［副詞］（ɉccnın）好んで ［文末純詞］～してくれる。出来事に対する話者の好意的な気持ちを示す。 ［反意語］ɉcn ［レベル］1 lɟ ɑ;lccnı.l → lcɒ 古 :ɉccnı（甘い心の lccnı から ɉccnı に） lccnı:ɉccn ı::ɑcılə,ılſ ［語法］ ſccı そのものあるいは相手に心地よさを見出している状態。ſccı と違って自分が ɥəl のおかげで心地よいというニュアンス。 ɉccnı（好き）の実例 ɉccnıɒ：好む ɉccnı lı：好きである。好きになり始めから好きでなくなるまでの総称 ɉccnı ɉıſ：好きになろうとしている。まだ他人 ɉccnı lcſ：好きになり始めた。意識し始めた ɉccnıµ：好きになる途中。あの人いいかも状態 ɉccnıl：好きになった。私この人のこと好きなんだという気付きの時点 ɉccnı：好きである。好きだ ɉccnı ſɔɔl：好きでありおわる。好きでなくなる ɉccnı clſ：むかしは好きでした的な意味 【成句】 le nene ɉccnı ～のお気に入りの 【用例】 ın ɉccnı ſc. 君が好きだ。 ɉee ləəɟ ɉeɑıſ ſə ı nɔn lıen ɥəɒını ɉccnı. そしてユマナの私に手渡してくれた。

ɉccnıdıɟ ［電算］ファビコン、ファヴィコン ıl;/「お気に入りのアイコン」ɺſl

ɉccnıµenɟ ［言語］好きな言葉 ［反意語］beφµenɟ ［レベル］4 µɑ;/ ɺſl

ɉccnıɔl ［名詞］お気に入り ［レベル］2 ɺ1

ɉccnɔnl ［名詞］人気連載 ［レベル］4 µɑ;/ ɺʔ

ɉccne ［名詞］好きなタイプ、タイプ、趣向、好み ［反意語］ılɉccne ［レベル］3 µɑ;/ ↓ ɺ0:ɉccnı/eµc

ɉccnel ［名詞］好き嫌い、選り好み、タイプ、趣向 ［動詞］ɥəl を選り好む、選り好む ［レベル］3 µɑ;ɉccne/ıl ɺſl

ɉccɑ ［形容詞］無標な ［反意語］lııd ［レベル］6 @ 1L

ɉccd ［形容詞］丸い、尖っていない、鈍感な ［反意語］dcl ［レベル］3 制？ 【用例】 zɔɒl ɉccd 丸まった鉛筆

ɉccdɉlɔſ ［名詞］角丸→ lec ɺɺ

ɉccɥə ［形容詞］すごい、凄い、グレート、偉大な、すばらしい ［反意語］ſıddc ［レベル］2 ɺ0:lcɔn:ɉccnı ɥə 【用例】 ſə eſ ɉccɥəɼ こりゃすごい！

ɉccz ［動詞］ɥəl を ı に見せびらかす、見せびらかす、みせびらかす、自慢する、自慢げに見せる、ひけらかす、喧伝する、衒学的に見せびらかす、見せびらかせる、みせびらかせる ［レベル］3 ɺ0:µcɑcı:「甘いところを見せる」

ɉcczıµ ［医療］シーザー、西洋医学、現代医学、医療、医学 ［反意語］lə lleſcı ［レベル］3 µɑ;ʉccƶıµ,ɉzkʉccƶcı.l ɺſl ［文化］ 元はシージアで発達した医療体系として今でいう ləlleſcı を意味した。後に ɉzl で ləll eſcı ができると ɉcczıµ は ləlleſcı 以外の医療を指すようになり、ɉɒ ごろからアルバザードで錬金術を使った医療体系を指すようになった。

その後 nɷ から西洋医療を指すようになり、現在に至る。

ɉccziɪ ［地名］シージア　ɉeµʃ;ʉccƶcɪ ［レベル］4　ɺ0:µcɷcɪ:ʉccƶcɪ。ʉeeµe（静かな）/ɷcɪ（土地）の音変化。　［文化］　古代国家のひとつ。現ルティアを含んだ広大な国。

ɉccziɪdcnɷ ［医療］柳葉形。撚鍼法に使う。シージアで撚鍼法が発達したのでこの名がついた。　µɷ;/　ɺɱ

ɉccziɪµen ［言語］シージア語　［レベル］4　ɺɺ ［文化］　elɷjeʃɪ　●概要　名称：ɉz（シージア語）　系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派 (ɪʃenɪɒɪʃ, ɥəəɒɪeɒcʃ, ɒɪleʃ ɑcɪɒ, ɉɪucɪcɑɪl, ɉcczcɪlelʃeɒ)　使用年代：ʃɒ_zφ：ʃɒ_ɾu(ɉzɷ), zφ(ɉzl, ɉzu, ɉzɉ)　分布：北サヴィア　話者：ガルヴェーユから移住してきたマレットの民　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：主観的把握　→　客観的把握：zφ には客観的把握になっていたので ɉzɷ の間に変化したと思われる。　ʃɒ から zφ まで約２０万年弱続いた言語。lʃ, lz, ɪlʃ などの直接の祖。　そのうち１９万年は ɉzɷ で、まだユーマの一族が十分に神性を保っていた頃である。とはいえ文明レベルは ɑµɑ と同じく神より低く、寿命も有限だったため、ɉzɷ に関しては記録が乏しい。　一方 zφ に入ると急激に文明が発達するが、シージア戦争で多くの書物が焼失してしまっている。　●文法　・概説　アルカと共通している箇所についてはわざわざ説明しない。　神々がサヴィアを本拠地としなかったことから神との結びつきはアルカットより弱く、その結果、語彙に関しては ɑµɑ_lɥ より保守性が弱い。lʃ の基本語彙は ɉzɷ に由来するものが多い。　zφ になると東西戦争により急激に国際化し、シージアは人種の坩堝になり、それとともに ɉz の語彙も豊富になった。特にシージア戦争ではシフェル文化圏から新たな語彙や概念がもたらされている。　語彙に反し、文法に関しては保守性が強く、ɑu 同様ＳＯＶである。　形容詞と副詞は前置される。ɭɪc le, ucuc he のように。　ɑu の関係詞の黙字 µɔɒ は ɉz では lɥə と読まれる。　ɭeµ ～ bə が ɭeµ ～ ʃɥə に。　与格の ɭeµ と ɪl が cl に統一。ɪl を lcɒleʃ したものが元になっている。ɭeµ は語彙化して「行く」に。　・アクセント　アクセントが無アクセント言語になり、デフォルトで音節末が強く読まれるようになった。　・音韻　h が消失し、h のあった部分は ' と書かれる。　h は lʃɷ で戻るため、' は ɉz のマーカーにもなっている。　・格　主格と対格ができた。　語の末尾に付く。　主格：母音調和した母音＋µ：ɑɪlɪn → ɑɪlɪnɪµ（ファラナール。貴方が）　対格：(ɉ)ɪs：'ɔµeʃʃɪs（オレッタージュ。リンゴを）　それ以外の格は後置詞を膠着させる。　アクセントが後置詞の部分に来てひとつの単語として発音されるため、後置詞との間にスペースを入れない。　lczµɔɭɪl（リズロカール。家で）　ɑɪlɪnzɪµ lczµɔɭɪl 'ɔµeʃʃɪs ɑəʃɪ ɉɔʃ.（貴方達は家でリンゴを与えた）　ファランザール　リズロカール　オレッタージュ　フターソット　・テンスとアスペクト　連動詞で示し、後続動詞がテンスとアスペクトを担う。　ɑəʃɪ(与える。辞書形だが、単体では使えない。ɑəʃɪɉ のようになる)　ɑəʃɪ ɉɔʃ（与えた←与えるした）　ɑəʃɪ ɉɔ（今与える。現在および近未来）　ɑəʃɪɉ（与える。通時。これだけ膠着）　未来形はなく、意思の助動詞で示す。　アスペクトは ʃɪn も失い、すべて助動詞で示す。　助動詞は後続動詞の後に続く。　ɑəʃɪɉ lɪn（与えたい）

ɉccl ［動詞］ɥəl を守る、守る、護る、護衛する、ガードする ［動詞］ɥəl を娶る、ɥəl と結婚する、娶る、めとる、結婚する ［普通動名詞］守護、保護、護衛、ガード、結婚、婚礼 ［レベル］3　古：「甘くする」としか解釈できない。ユンクをナイトが守るという意味の語。その守ってあげるさまが甘いムードだからだろうか。語源不詳。　uɪnɔ:uɪnɔ: ɒelɔµ:ɉɪɭələ,ɪlʃ ［語法］　uɪnɔ は通常の守る。ɉccl は特に男が女を庇護すること。父親が娘を守ったり、兄が妹を守るのもあり。愛情を行動原理としているかどうかが決め手。　２は女が男に結婚を申し込まれ、受諾する際に返す言葉から。女の方から結婚するとはアルバザードでは言わない。男が申し込み（このとき ɑlen ɉɔµɷɪʃȣ という）、女に決定権がある。女が男を受け入れるとき、µen ɉccl nɔn（レン・シール・ノン＝私を守ってください）と答える。そう言われた男が ɪlɭɥənɭ(姫を守ります）と答えると婚約成立。　【用例】　ʃcʃʃɪ, lccs. ɪn ɉccl ʃc, ɒe lɑɪn. だいじょうぶ、お父さんが守ってあげるから。なきむしだね、君は (ɉeµen ɪµbɪzɪµɷ)

ɉccle ［丁寧］［気象］雨　［類義語］eɉɭ ［レベル］3　ɉzɷ›ɪµɷ;ɉcel/enɪ 【用例】［言葉遊び］ʃee, eɉɭ ɪʃə lɪnȣ ɉccle lclle ɒɥə. もう、こんなときに雨？失礼しちゃう。

ɉccɪ ［名詞］経験、体験　［動詞］ɥəl を経験する、経験する、体験する ［遊離副詞］［形容詞］～したことがある（過去)、経験として～してみる（現在、未来）［レベル］1　1L: 恣意 : 制では lcl:1ʔ: 制 : 古 :lɪl(理論)　lɪləl:lɪləl ［語法］　実際に見たり聞いたり行なったりすること。　µe cn ɉccɪ は「経験として見てみろ」というような意味で、cnɪʃ ɉccɪ は「見たことがある」というような意味。基本的に過去形とともに使う。　・しなかったことがある　en ʃeµɪʃ ɉccɪl で「聞かなかったことがある」。en ʃeµɪʃ ɉccɪ で「聞いたことがない」。【用例】　ɪn ɭeʃ ɉccɪ ləʃcɪ µɪɉ ʃɪ. ルティアに２度行ったことがある。　ɪn cnɪʃ ɉccɪ lɪ cɒ le nɪ. 彼はどこかで見たことがあるような気がする。　ʃə ɪʃ ɉccɪ µɪʃ. 良い経験をした。　ɪɒc ɥəcʃ ɉccɪ ʃə lec c ɑcɔnɪ ɑlenzel. 本気でその本を探していたこともあったんだよ。

ɉccɪɉeu ［名詞］随筆、随想、エッセイ、エッセー ［レベル］4　µɷ;/「経験の文章」　ɺɱ‹lcljeu:1ʔ: 制

ɉcɔ ［名詞］テンプレート、テンプレ ［名詞］型板、型版 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɉcɭɪzɪɒɔ。ɉcz と同根。

ɉce ［動詞］ɥəl を ɪ に提言する、提言する ［普通動名詞］提言　［レベル］4　1L:µcɷcɪ:ɪµbɪlelʃ: 恣意 ［文化］　提言は勧誘と違って積極的に行う。こうしたほうが良いのではないかというのは勧誘とも提言とも取れるが、アルバザードでは勧誘と提言は違う。勧誘はおせっかいにならないように勧めるだけである。提言はこうするべきであるとはっきり述べることである。前者は消極的で食い下がらないが、後者は積極的でしばしば食い下がり、議論に発展する。提言は勧誘と違ってしっかり吟味して議論すべきものである。すぐに取り下げるものではない。また、勧誘より強い主張であるため、一つひとつの発言にかかる責任も勧誘より大きい。

ɉceʃ ［格詞］～しないながら、～しないで、～しないつつ。ɭɔnʃ en と同じ。　［反意語］ɭɔnʃ ［レベル］2　ɺ0:ɉc/ʃe（持たないような）【用例】　ɪlcɉ clnɪʃ ɉceʃ ocɭ. アリスは頷かずに答えた。

ɉcen ［生物］すじ、筋。手相の筋など。　µɷ;ɉcµ/µecn　ɺɱ

ɉcenʃc ［ユマナ］ローマ、ラテン ［レベル］5　1L:ɉcɷsenʃc から

ɉcenʃcɭinɷcɪl ［ユマナ］ローマ帝国 ［レベル］5　ɺɱ

ɉcenʃchɪɾ ［ユマナ］ローマ字、ローマンアルファベット ［レベル］3　1L

ɉcel ［丁寧］空、天、天空 ［経済］天井 ［類義語］sɪn ［アクセント］ɉcEl。ɉc で切って el にアクセントが来る。ルティア方言から入ったため。ただし ɉ€el でも可。　［レベル］3　ɉzɷ›lɉl　ɺ0:ɉcɪ/ 古 ɪl（膜 / 物）

ɉcelnɪlʃ ［娯楽］天空城　ɺ1 ［文化］『天空の城ラピュタ』に相当するアニメ。

ɉcellecn ［被服］着流し、着ながし ［レベル］4　µɷ;/「空に舞う服」　ɺʔ ［文化］　上着などを着流しにすることで、アルバザードだとカッコいい男性のファッションのひとつ。基本的にアルバザード人はひらひらしたものを好むため、どの時代でも着流しはカッコいいイメージがある。ただ、真面目な印象はあまり持たれないのでビジネス向けではない。

ɉceleʃ ［形容詞］チャラい、ちゃらい、チャラチャラした、ちゃらちゃらした ［レベル］4　µɷ;ɉcellecn/ʃe　ɺʔ

ɉceleʃen ［名詞］チャラ男、チャラ夫 ［レベル］4　µɷ;/　ɺʔ

ɉɔ ［動詞］ɥəl する、する。代動詞ないし、漠然と何かすること。　［普通動名詞］行為→ ɉɔɔl ［類義語］leclɪ ［レベル］1　ɑ;e　古　ɉɔ:ɉɔ 【用例】　ɪn en ɉeµɪʃ nɔɉ ɉɔ ɪl ʃɔ. 何をすべきか分からなかった。　ɪn ɉɔ elɑ ʃɔʃɪl ɒcl φɪɪʃɔ hɪµʃɪʃc. この暑さの中で何もしたくない。

ɉɔ,ɑ　ɉɔləoɪ　e

ɉɔ,ɪlʃ　ɉɔl、ɉɔc　ɉɔləə,ɑ.ɭ

ɉɔʃ　ɉɔ/ɪʃ

ɉɔʃe ［言語］能動、能動態 ［反意語］ɥəʃe ［レベル］4　ɺ0:「するような」

ɉɔɭ　ɉɔ/cɭ

ɉɔɭʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に交差させる、交差する、交わる ［動詞］ɥəl を ɪ に絡ませる、絡む、干渉する、ちょっかいを出す ［普通動名詞］絡み、干渉、ちょっかい ［名詞］垂直。平行に対する垂直（この語義では対象に対して９０度になるが、ほかの語義の場合は単なる交差なので、ɉɔɭʃ は必ずしも９０度でなくてよい） ［形容詞］垂直な ［格詞］～と交わって　［メタファー］［格詞］［形容詞］意見などがぶつかっている、方向性が合わない、馬が合わない、反りが合わない、意見などが交わらない（ɉɔɭʃ というが訳は逆に「交わらない」の意味になるので注意） ［反意語］eɭn ［レベル］2　1L:ɉɔɭ:1L: 赤 :ɉɔɭəlɪ　ɉɔɭəlɪ, ɉɔɭɭɪ:::ɉɔɭələ,ɪlʃ ［語法］　→ eɭn　絡むの用法は、人や動物などが寄ってきて話しかけてきたり何かをしてきたりすることを意味する。文字通り物同士が絡みあうことも意味するが、その場合は ɉɪɒd も使える。イチャモンをつけて悪く絡んでくる場合は ɪcɭ。　【用例】　ɭeʃ ɉɔɭʃɔµ nɔɉ ɪl ɪn ɑɔ əncənc. 猫がこっちにニャーニャー絡んできている。　☆ ɪnɔ ɪnʃeɉ eʃ ɉɔɭʃ ɪ lɔɭ. 私たちの計画は互いに衝突していて反りが合わない。

ɉɔɭʃbɪɷ ［動詞］ɥəl を交差させて打ち鳴らす ［レベル］4　ɺ1

ɉɔɭʃzɔn ［文字］クロスバー　ɺ1

ɉɔɭʃzɔl ［数学］余弦、コサイン ［レベル］5　1L: 正弦の弦と直角に交差する線分。線分だが、命名を揃えるために弦としている。日本語でも余弦と呼んで弦としている。

ɉɔɭʃsɪɒɔ ［交通］ハブ空港、国際空港、ハブ ［レベル］4　ɺɺ

ɉɔɭʃlɔdn ［交通］ジャンクション駅、ジャンクション、ハブ、ハブ駅 ［レベル］4　ɺɺ

ɉɔɭʃɪ ［名詞］返事、返信、往信、反応 ［電算］レス ［動詞］ɥəl を ɪ に応える、応える、応じる、反応する、返事をする、こたえる、答える ［反意語］ɉeɭ。ただし異なる。　［物理］共鳴、共振。共鳴は共振の一種。アルカではふつう、どちらも同じ ɉɔɭʃɪ。　［レベル］2　µɷ;ɉɔɭʃɪ,lz ‹ ɉɔɭʃcɉ, ɉzɷ　先 :ɉɔɭʃɪ　lɪnʃe:lɪnʃe:ɉɔɭʃcɉ 【成句】　ɉɔɔl ɷel ɉɔɭʃɪ ɪl cl 全レス　ɉɔɭʃɪ ɪl cl 全レスする

ɉɔɭʃcɉ,ɉzɷ　ɉɔɭʃɪ

ɉɔɭʃcn ［物理］交差法。立体視の交差法。　［レベル］5　ɺʔ

ɉɔɭʃcnʃ ［数学］交点 ［レベル］4　1L

ɉɔɭʃen ［接続詞］ɉɔɭʃ ［レベル］3　ɺ1

ɉɔɭʃeeu ［物理］横波 ［レベル］5　1L

ɉɔɭɭɪ ［物理］波の干渉 ［レベル］5　古 :ɉɔɭɭɪ（交わる）の語義の一つ

ɉɔɭɭɪ,ɑu　ɉɔɭʃ　ɉɔɭəlɪ.l

ɉɔɭɉ ［動詞］ɥəl を崇める、崇める、尊敬する、崇拝する、敬う、ありがたがる、信仰する（神を信仰するという意味では ɒcµɔɉ） ［類義語］ɒcµɔɉ ［反意語］benɉ ［レベル］3　ɉɔµn 【成句】　ɭɔnʃ ɉɔɭɉ ɪµʃeɪ 召喚省に敬意を表して：大人の事情で：ミロク革命ではメディアの規制が多かった。かといって規制がかかったときにテレビ局や出版社も面と向かって「政府が邪魔をするから」とは言えなかった。そこで考え出されたフレーズが、「召喚省に敬意を表して（自粛する)」。これを後の世では皮肉を込めて「大人の事情」という意味で使った。 【用例】　ɭɔɔʃ, ɉɔɾ ɪn ɉɔɭɉ lə ɷɪ. 寧ろ、だからこそ私はセレンさんを尊敬しているのだ。

ɹɔʃjueʃ ［言語］尊敬語、敬語 ［反意語］lcʃueʃ ［レベル］4 ɹ0 ［文化］ leıu eʃ

ɹɔʃjiʃc ［名詞］敬意、敬度 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ

ɹɔʃjidʃ ［名詞］尊称、敬称 ［反意語］benjidʃ ［レベル］4 ɹ0

ɹɔʃjɔl ［名詞］尊敬する人 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɹ⋒ ［文化］ アルバザード人は日本人に比べ尊敬する人はと聞かれたときにどもりにくい。というのも、人を尊敬することは美徳で、人を尊敬できる人は善なる人間と考えられており、小さい頃から尊敬する人は誰か考えさせられるからである。 最近の日本人と違って身内などを挙げることは恥ではない。尊敬する人は偉人だけでなくても良い。 ＜セレンが尊敬する人物＞ 以下はセレンが尊敬する人物のリストである。
セレンは高尚で学究的で知名度が低く売れないほど高く評価する傾向にある。特に信念や正義感を持っている人間や努力をした人間、努力をしたのに報われなかった人間を高く評価する。尋常ならざる天才なども高評価することがある。また、何かを成し遂げた人間や何かを作り上げた人間を尊敬することが多い。人格者も同様に好む。
リストの上から順に尊敬している度合いが高い。 エリエゼル・ベン・イェフダー：４０年もの間人工言語の研究を続け、体の不調にも負けず立ってまで作業をしつづけた不屈のヘブライ語の復古者。 大槻文彦：自分の信念を曲げず、最終的には私費で『言海』を出版した辞書の偉人。 ユーア：リディアの実父。完璧超人。
リーザ＝ルティア：セレンの先生。アルカの創始者。いつまでも先生と呼んで慕った。 リディア＝ルティア:セレンの恋人。カルディアの作者。 メル＝ケートイア：アシェットーの天才。 ルシア＝アルバザード:セレンの娘。天才さに惹かれた。 ユルト＝ルティア:セレンの息子。強きをくじき弱きを助け、優しい性格が尊敬できる。
山中伸弥：ＩＰｓ細胞にはセレンは早くから目をつけていたため。 想像地図の篠永：想像を絶する広さの詳細な地図作成に人生を捧げた人物。 池上嘉彦：セレンが最も影響を受けた日本の言語学者。 地理人：空想都市の創造に心血を注いだ人物。

ɹɔʃn ［動詞］ɥəl を結わく、結わく、結く、ゆわく、結ぶ、縛る ［反意語］ ıljɔʃn ［レベル］2 1ʕ: 制 : 古 :ɹɔʃəʃı（交差） ɥııɥɔ:ɥııɥɔ ［語法］ 紐なしで縛ること。ゴミ袋の口を曲げて結わいたり、髪をピンやゴムを使わずに結わくこと。

ɹɔʃl ［名詞］公園 ［レベル］2 1⋒: 制 : 恣意。プロトタイプで ɹeʃı という語があり、英語のｓｅｌｆｉｓｈ ｇａｒｄｅｎからきていた。それを排他するために ɹeʃı を消して適当な無語源の音を当てた。 ［文化］ 集合住宅には大きな公園がある。夜の散歩道としても使われる。誰が住んでいて誰がいるのかはっきりしているし、常に見回りと監視カメラが働いているので犯罪はまず皆無である。その上、木々が細く高く間隔をおいて置かれているので見通しも良い。それゆえ余計に犯罪が少ない。この公園は集合住宅内の連絡通路からでしか行けない。外部の者が許可なく入ることはできない。公園にはベンチもあり、憩いの場となっている。砂場や遊具はない。犬の散歩コースもある。ウォーキングコースもある。両者は隔絶されているところもある。公園は一つの集合住宅に一つとは限らない。一つひとつが持っているとそれぞれの公園は狭くなってしまう。狭いところにたくさんの要素を持ち込むと物が密集してしまい、見通しが悪くなる。更に狭いので同じ景色ばかりになり、すぐに飽きてしまう。だから大抵は隣り合ったいくつかの集合住宅が共通の公園を持つ。この公園はかなり大きい。ただ、流石にカルテには適わない。公園には屋根のあるところがある。 【用例】 ɥcɑcı ʃcʃʃı ɹccı le ılacın ʃı ɹɔʃl e dıɥɒ. リディアは日本の公園で子供をあやしたことがある。 lın lecz lıʃ ɹɔʃl ɒın eɹʃɔɥ. 雨が降っていたので、公園にはほとんど人がいなかった。

ɹɔʃəʃı,ɑ ɹɔʃʃ e

ɹɔʃəʃısc,ɑ leɥs elʃ; 薬指で数を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから

ɹɔʃən,ılʃ ɹɔc

ɹɔʃələ,ılʃ ɹɔʃʃ <>ɹɔʃəʃı

ɹɔl ［交通］バス ［レベル］2 lıʃʃı:ɹɔl は元はミニカー ［文化］ バスはランティス通りをぐるぐる回る。時計回りと逆時計回りが走っている。また、アルミヴァ通りを行ったり来たりするものもある。これらを乗り継いで目的地に行く。バスは駐車場ごとに止まる。駐車場が同時に停車場でもある。バスは有料である。定期券を購入するか、さもなくば降りる際に料金を精算する。バスは日本と同じ形をしている。長方形の箱形である。席も同じつくりで、つり革もある。降りるときはボタンを押し、清算して降りる。 【用例】 ın ʃıaıʃ ucl ɹʃcʃ ʃı ʃə ɹɔl ɒın lın ɑc lı ıʃə. バスは人が多くて座る場所がなかった。 ɹɔl ləʃɔ aeʃı ɹeɹclel. バスがもうすぐ学校に着く。

ɹɔlφınɑ ［交通］［法律］バスジャック ［レベル］4 ɥʃ;/ ɹʔ

ɹɔɹ ɹɔ/eɹ

ɹɔɹɔ ［動詞］ɥəl を説得して ı をさせる、ɥəl を ɔn について説得する、説得する、折伏する、説伏する、諭す ［普通動名詞］説得、折伏、説伏 ［レベル］3 古 :ɹɔɹɔ「 するようにさせる 」［語法］ ɹɔɹɔʃ は説得という行為の終わりしか意味せず、説得自体の成否自体は不明。この点では英語と異なり、日本語と同じ。従って、ın ɹɔɹɔʃcʃ lı ı ʃe aeʃı ʃıl lı ɹɔ elɑ（彼に学校へ行くよう説得したが、彼は行かなかった）のように逆説で続けることができる。 【用例】 ɹɔɹɔ ʃelɹel 言いくるめる、いいくるめる

ɹɔɹɔʃɔlɔnɔ ［植物］ソソトロノ ［レベル］6 古 ［文化］ 魔界 ızeɥɒ に生える木。葉がなく、枝がうねうねと伸びる。

ɹɔn ［格詞］［文頭純詞］ならば、それゆえ、中結果 ［レベル］1 古 :ɹɔ から派生 lɔɔ:lɔɔ:dıaeʃ:ʃɹəlcɹɔ,ılʃ ［語法］ なぜならばの反対。結果を表す。

ɹɔn,ɹzʃ eʃ

ɹɔnʃ ［動詞］ɥəl を撫でる、撫でる、さする、摩る ［婉曲］ɥəl（再帰）に自慰させる。女のオナニー。 ［普通動名詞］愛撫 ［再帰動名詞］自慰、オナニー ［類義語］ɑɔl ［レベル］2 古 : 頭を撫ぜるときの「 さわっ 」という音 【用例】 ɹɔnʃınɑ alel ləəʃ, ucʃ lʃıɒcʃ enʃel. ɹee lə scʃ aıɥı lcɹ le lı lce ʃə lclcl. 肩をポンポンと軽く叩く。男はゆっくり立ち上がると、小屋の奥にある小さな暖炉を指さした。

ɹɔnʃɹɔɥʃ ［形容詞］肌寒い。体を撫でるほど寒い。 ［レベル］3 1L

ɹɔnʃ ［動物］虎、トラ、タイガレス ［組み数字］4 / 5 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 縞模様のある猫。制 ɹɔnc/ 古 ʃeʃʃ ［擬声］ φɾɾɾ（唸り）uɔφıə（吠え）

ɹɔnɹ ［名詞］寄宿、下宿、寄宿生、居候、食客、いそうろう ［レベル］4 1L: 古 :ɹɔʃɹ。クミールの家に寄宿している使徒たちを指した語

ɹɔnsel ［法律］動機、モチベーション ［レベル］3 ɹ1:ɹɔ/ɹıne/ 古 ıl

ɹɔnıl ［娯楽］コント、寄せ、芝居、お笑い、漫才、マンザイ、まんざい ［レベル］3 ɥɑ;ɹɔʃɹ/nıl「笑わせる」 ɹʔ

ɹɔnıɥcı ［人名］ソナリア ɹ0 ［文化］ (ɥəəɒı ዓፋΔ⋒:Δ00⋒) ɥəəɒı ዓLዓዓ ʃeeʃcı という共通の敵が去ったことで、徐々にドゥルガとヴィーネの対立の構図が戻ってくる。背景には、メテがドゥルガであることによるヴィーネの冷遇にあった。また、同じドゥルガ内でもアルシェリアや魔方各国は属国のような扱いを受けており、レスティルの専制的なやり方を疎んじていた。遂にこの年、ヴィーネからレジスタンスが現れる。ウロによってユクレシア南部に封じられていた元メティオ王家の子孫である ɹɔnıɥcı が立ち上がる。ソナリアは旧イクサンテの血筋で、要するに ʃeeʃcı の血筋である。ユクレシアがメテの手の届きにくいヴィーネ側であることと、ソナリア自身が王家の人間であるため、迫害はどうにか免れていたものの、メティオの復興を目指して立ち上がった。これに対し、離散していた ʃeeʃcı が世界中からユクレシアに集まり始める

ɹɔnıɥcın ［筐堺］ソナリアン ［レベル］5 ɥɑ;ɹɔnıɥcı/ 属格 ɹɹ ［文化］ 筐堺司：ʃɒccɥ ɒeʃe 筐堺国：ɒeʃcɔ, ɹɔɥnı, ʃıʃıhc, ıɥcɑcı, zeɥɑcı ılʃc

ɹɔnc ［名詞］縞、ストライプ、縞模様 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɹɔʃəʃıncɒ（交差する色）【用例】 ın ɹıbıʃ ɹılıɹ le ʃcl ɹɔnc. 今日はストライプのシャツを着た。

ɹɔncʃıɑ ［地球の国名］ザンビア 1L: 国章にシマウマのものと思わしき皮

ɹɔncaɔnʃ ［交通］横断歩道 ［レベル］3 1L ［文化］ 車や自転車が隔離されているため、必要ない。

ɹɔncφıɥ ［娯楽］ルーレット ［レベル］3 1L: 縞の円盤

ɹɔncdıb ［動物］シマウマ、縞馬 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 縞模様のある馬

ɹɔncdıbʃıɑ ［地球の国名］ボツワナ 1L: 国章にシマウマ

ɹɔnɔ ［普通動名詞］実行、実践 ［動詞］ɥəl を実行する、実行する、実践する ［形容詞］実行された ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɹɔ「 する 」

ɹɔnɔncɑ ［言語］実行段階 ［レベル］4 ɹ0 ［語法］ 単位動詞の３分割のうち、中間の区間。経過～継続の区間のこと。

ɹɔnɔhcnɔʃc 『ソノヒノキ』→ ɹelneeɒe ［レベル］5 古 : アルカの単語ではなく、日本語の「その日の姫」をカタカナにしたもの。 ［文化］
エストによる小説。セレンが日本語に翻訳し、その後アルカのバージョンが変るたびに訳されてきた。内容が短く、突拍子もない単語が出てこないため、訳しやすい作品といえる。そのため、アルカが改定されるたびに試金石のように訳されてきた。 訳したときは１０代だったか。恐らく高校か浪人のとき。当時彼らの境遇が自分とリディアを彷彿させたことで気に入ったのだと思う。 ın ɑe hcɹ. ʃıl ın eʃ ılʃ ı ɥəə. ın ɥıʃl ɹen ɑcdcʃ ıʃc ʃıɥ. ɹɔn ın eɒ ucl aını ı ac ʃcɹee. ılac, ın eʃ lecʃ ɔʃ enuc acn ʃə eʃ uclɑ nı. ——の部分は当時の自分の悩みと重なっていた。 「器用貧乏」「何をすればいいのか分からない。何に人生を賭せばいいのか分からない」。 このころはまだ制アルカがなかった。自分の青春および将来を賭すものが見つかっていなかった。メル ɹ1 年になった今、教えてあげたいところだ。今のこの苦境と、そしてそれなりの成果を。

ɹɔnɔclɒ ［名詞］システム手帳 ［レベル］6 1ʕ: 制

ɹɔneʃ ［形容詞］実践的な ［反意語］ɒcɥeʃ ［レベル］4 ɹ1:ɹɔnɔ/ʃe

ɹɔneʃıɥʃael ［魔法］実践魔法学 ［レベル］5 ɹ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɹɔu ［名詞］合間、くぎれ、区切れ ［形容詞］挟まれた、挟まれる、間の ［格詞］～の間の ［類音］ɹɔl。ɹɔl とは意味的に離れているので同じ格詞でも問題ない。 ［レベル］2 aɥa 先 ɹeɹe:ɹeɹe, ɹɔu 【成句】［ɥɑen］［ɥəəl］
ɹɔu ɑcı ɔ ɒel リディアとメルの間にいる：板挟みになっている
ɹɔu ıbe ɔ ɹʃcl 布と椅子の間で：板挟みで：機織りは織り機の前、椅子の上にいて、長時間の労働を強いられた。機織りは肩が凝り、椅子は腰痛になる。そこから転じて板挟みの意。

ɹɔuɹın ［数学］漸化式 ［レベル］5 1L: 数列の項と項の間に成り立つ等式

ɹɔuɹcı ［生物］くも膜、クモ膜 ［レベル］5 1L

ɹɔuɹcıeɥcl ［医療］クモ膜下出血 ［レベル］5 1L: ただし、くも膜自体の出血ではない

ɹɔuɹɔʃı ［名詞］あいづち、相槌 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ ［文化］ 相手が話している合間に相槌を打つ。打たないと聞いていないとみなされる。アメリカ人のように終わるまでわりと押し黙って相槌が少ないことはない。逆に日本人は相槌を打ちすぎてうるさい。日本人は少し相槌を減らせばちょうど良くなる。相槌は ɥı,ıl などがあり肯定の言葉を使う。日本語と同じである。英語のようにアハーアハーということはない。アハーはイェスという肯定の言葉そのものではないので、単に会話を促す専用の言葉である。アルカは ɥı,ıl など、肯定を表わす言葉で促しを代用する。したがってアルカで会話中に ɥı,ıl などを使われても別に肯定とは限らないので注意が必要である。最後まで ɥı と聞いておきながら総合的には否定することもある。なぜなら相槌の ɥı には肯定の意味はないからである。 相槌は他にも ɒɒ がある。これは口を開けずに鼻だけで「んん」と言うときの音で

ある。ɥı,ıl,ᴅᴅ の違いは敬度の違いである。ıl,ɥı,ᴅᴅ の順で下がる。ところが実際、この三種は同じ相手に対して全て使いうる。同じ相手でも公の場面では ıl を使いやすい。私的なほど ᴅᴅ を使いやすい。更に同じ場面で同じ相手なのにこれらを混ぜて使うということがある。相槌は会話の区切れに入れるのが正しいタイミングである。だが、区切れは意味の上で大したことないものと大したことある区切れに分かれる。文法的にいえばツンクよりガコンのほうが大したことある区切れである。また、場面的にはシリアスな内容の文での区切れのほうがシリアスでないそれよりも大したことある区切れである。大したことある区切れでは敬度の高い相槌を使いやすい。大したことない区切れでは敬度が低くなりやすい。たとえば「でさ～」の後に起こる区切れは大したことないので ᴅᴅ を使いやすい。軍隊など、厳しい場所では目上には全て ıl で相槌を打たせる。そして目下には ᴅᴅ や ɥı としか言わない。厳しい使い分けがある。だが、日常的にはこれらはＴＰＯで使い分ける。　また、相槌は他にも頷きで代用されることもある。但し、これは電話などでは使えない。この頷きも肯定を意味しない。頷きは本来肯定を意味するが、ここでは相槌にしかならない。また、相槌には新しいことを知ったときの反応がある。会話の途中は ɥı などといって相手を促すが、会話が終わったときや新たなことを聞いたときや驚いたときは何と言うか。会話が終われば評価をしたり自分の話をしたりする。「へぇ」「ふーん」では話した甲斐がないと思われるので、感想を述べるとよい。どうにも反応に困った場合は hıcz などで返すこともある。何も返さないくらいなら否定したほうが丁寧。夢織の紗枝は２話でアシュテの話に「そう」だけで返したため、第一印象を悪く捉えられた。　また、新たなことに対しては ıı,hᴅ などという。驚いたことに対しては ɔə という。

　言葉の区切れで一々相槌を入れるのはうるさい。区切れが長いときや、区切れが大したものであるときにだけ相槌をすることが多い。後は頷いていれば良い。電話は見えないので頷きが届かないが、聞き手は電話越しで勝手に頷いて自己満足している。喋り手は相槌が足りないなと思いながらも、電話だからそんなものかと思う。また、実際のところ喋り手は多少相槌を面と向かっての会話より増やす。

【用例】 ıµ ȷɔuȷɔ˥ʃı 相槌を打つ

ȷɔuȷeun ［生物］基底膜。上皮組織と結合組織の間にあることが多い。 µʃ;/ ʖ⋒

ȷɔuᴅel ［演劇］［音楽］幕間 ［名詞］テレビ番組のＣＭ、ＣＭ、コマーシャル ［名詞］休み時間。学校の。 ［言語］ポーズ、一時休止、一時停止 ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ ［文化］ 幕間の使い方は休憩、演奏、ＭＣなど、演者によって異なる。

ȷɔudılȷ ［生物］門脈 ［レベル］４ 1L: 二つの毛細血管網にはさまれた血管

ȷɔudɔl ［地名］峡方 ʖ0 ［文化］ ピッカ、トゥナスの地方。旧共産圏で、文化的にも地理的にも言語的にもソーナと隔絶している。トゥナス南部でもソーナ人との混在はほとんど見られない。

ȷɔuı ［数学］絶対値 ［レベル］４ 1ʕ: 制 :ȷɔu/ıll（数直線上でプラスの値とマイナスの値の間に数を取るような数であることから。間を取る数。数直線上に間を作る数といってよい）

ȷɔuıdle ［企業］ソヴ・アプレ ［レベル］６ ʖ1 ［文化］ 伊藤忠に相当する企業。

ȷɔuıl ［音楽］ヨーデル ［レベル］６ ʖ1:ȷɔu/oıl「山と山の間を通って」

ȷɔuɔ ［数学］小数 ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ȷɔu ˥ɔ（絶対値が１未満。すなわち１と－１の間ということから）

ȷɔuɔcnʃ ［数学］小数点 ［レベル］３ ʖ0

ȷɔuen ［接続詞］ȷɔu。間の。 ［音楽］ＭＣ ［レベル］３ ʖ1

ȷɔɑ ［形容詞］簡単な、容易な ［形容詞］高頻度な、起こりやすい ［反意語］led ［レベル］２ µɑ;led.ʃeel ＠1L ɥı˥ı:ɥı˥ı 【用例】［メタファー］ȷɔɑ ɥən lel lel の文字のように簡単な：縦棒一本で書けるため 【用例】 ɥeʃ ȷɔɑ 簡単な問題

ȷɔɑʃ ［普通動名詞］リレー、受け渡し、引き渡し、引渡し ［動詞］ɥəl を受け渡す、受け渡す、引き渡す、引渡す ［類義語］ȷeɑ ［レベル］３ µɑ;ȷɔ ɑəʃɔ.˥ ʖ⋒: 古 ȷɔɑəʃɔ（与えさせる）

ȷɔɑʃȷɔlb ［名詞］ライン作業、流れ作業、ライン生産方式 ［レベル］５ µɑ;/。次から次へと作業を受け渡していくことから。 ʖ⋒

ȷɔɑʃȷɔlbıȷʃ ［再帰動名詞］ライン工 ［レベル］５ µɑ;/ ʖ⋒ ［文化］ アルバザードでは底辺の仕事とされる。頭も使わずコミュ力も必要とせず、機械でも容易に代替できることから、底辺の仕事とされている。ただし一定数世の中には頭も悪ければコミュ力もない人間がいるので、こうしたライン作業を全て機械化してしまうと、彼らの仕事を奪ってしまうので、なるべく人間に雇用を残しておくのが良いと考えられている。一方、正確で早い機械に仕事をさせ、より合理的に商品を生産すべきだと考える人もいる。

ȷɔɑ˥cl ［形容詞］歯切れのよい、区切りやすい、区切れのいい、区切りのいい、キリのいい、キリの良い ［レベル］３ ʖ1

ȷɔɑlıµ ［動詞］ɥəl をすぐ信じる、すぐ信じる、信じる ［形容詞］(ȷɔɑlıµın) 信じやすい ［レベル］３ ʖ0

ȷɔɑɑcl ［動詞］ɥəl をすぐ疑う、すぐ疑う、疑う ［形容詞］(ȷɔɑɑclın) 疑り深い ［レベル］３ ʖ0:µcɑcı:ᴅcµɔ˥

ȷɔɑlın ［名詞］花見、紅葉狩り、もみじがり、紅葉がり ［レベル］３ µɑ: ˥ᴅccµ;ȷɔ/ɑlıns（花をする） ʖʔ ［文化］ アルバザードでは四季折々に花見をする。花見といえば桜ということではなく、様々な草木花を鑑賞する。日本と違ってブルーシートに宴会と酒という習慣はなく、好きなもの同士で集まって少人数ないし一人で花を楽しむ。シートを敷く場合もあるが、たいていは芝生などに座るか寝そべる。あるいは立ったり歩いたりしながら鑑賞する。花見といえば酒というほどの文化はないものの、人によっては花を見ながら嗜むこともある。人によっては歌ったり踊ったりすることもあるが一般的ではない。

　花見は純情な若者から老人に至るまでデートや行楽などで行われる。

ȷɔɑlcul ［普通動名詞］安産 ［レベル］４ µɑ;/ ʖʔ

ȷɔɑlɔ˥c ［形容詞］分かりやすい、わかりやすい、理解しやすい、キャッチーな、キャッチしやすい、覚えやすい。キャッチーなというのは印象的なとか人目を引くという意味ではなく分かりやすいという意味なので注意。 ［レベル］３ ʖʔ

ȷɔɑılʃ ［形容詞］(ın で）書きやすい ［動詞］ɥəl を書くのが簡単だ ［レベル］３ µɑ;/ ʖ⋒

ȷɔɑcȷl ［形容詞］(ın で）読みやすい ［動詞］ɥəl を読むのが簡単だ ［レベル］３ µɑ;/ ʖ⋒

ȷɔɑɔᴅ ［俗語］ヤリマン、ビッチ、スイーツ、売女、バイタ、ばいた ［類義語］ɑıcᴅen ［反意語］ȷezɔn ［レベル］４ µɑ;ȷɔɑ/hɔᴅ「容易に（股を）開く」 ʖʔ:ᴅel ［文化］ 貞操を重んじるアルバザードにおいては古くから婚前交渉や複数の男と交わることは忌避されてきた。そのため ȷɔɑɔᴅ は蔑まれる。ul と ıl の一部で性が奔放化したが、統制が厳しくなるたびに処女性が重んじられた。

ȷɔɑəʃɔ,ɑ ȷeɑ 「与えさせる」

ȷɔᴅ ［名詞］やり方、手法、仕方 ［レベル］３ ʖ1:ȷɔ/ɔᴅ

ȷɔᴅʃ ［動詞］ɥəl を織る、織る ［動詞］ɥəl を味方につける、味方にする ［反意語］len˥ ［電算］［動詞］コンピュータがカリカリ作業をする。ȷɔl はパソコン、ɥəl は処理内容やソフト。パソコンが処理をすることを指す。たいていカリカリ音を立てる。パソコンが整然と計算をしている様が、少女が機織で整然と織っているのに似ていることから。 ［レベル］３ 1⋒: 制 :ȷeᴅʃ: 古 :ȷɔ˥ə˥ıᴅelc「糸を交差させる」 ［文化］ ᴅeld 【成句】 ȷɔᴅʃ ʃeel 一攫千金

ȷɔᴅʃın ［名詞］はたおり、機織り ［レベル］４ 1L

ȷɔᴅʃıµ ［名詞］織り機、はた ［レベル］４ 1L

ȷɔᴅı ［名詞］罰点、ばってん、バッテン、×記号、バツ、バツ印、斜め十字、十字、× ［シェルト］斜駒 ［反意語］ȷʃenʃ ［レベル］２ 1ꝯ: 制 : 古 :ȷɔ˥ə˥ı(交差) sın:sın ［文化］ ᴅeᴅlıȷ

ȷɔᴅı˥lɑ ［地球の国名］モザンビーク 1L: 国旗にバッテン

ȷɔᴅıȷɔᴅʃ ［名詞］斜子織り µɑ;/。ȷʃenʃȷɔᴅʃ に対し、タテ糸とヨコ糸を２本ずつ引き揃えで織ったものを罰点で表現した。 ʖʔ

ȷɔᴅılȷ ［名詞］バッテンマーク ［レベル］３ ʖ1 ［文化］ ᴅeᴅlıȷ

ȷɔᴅɔ ［交通］バスの停留所、バス停 ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ:ȷɔl/ᴅɔne

ȷɔᴅe ［名詞］秘書、セキュレタリー、セクレタリー ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ȷɔᴅe ← ȷɔə ᴅel（メル君）。セレンはメルの能力を高く評価して彼女を秘書のように扱っており、秘書として呼ぶときには ȷɔə ᴅel と敬称をつけて呼んでいたことから。（古のころの話。今はしない）

ȷɔɑ ［動詞］ɥəl を起こす、起こす、起こる、起きる ［名詞］出来事、イベント、催し、行事、発生 ［類義語］lıᴅel ［反意語］ȷeɑɔ ［レベル］２ 1ʔ: 制 :ȷeɑ 【成句】 ȷɔɑ ˥ıen cnȷ 目の前の出来事 【用例】 ʃɔ eʃ ȷɔɑ ı lı४ 彼に何があったの？ ın ˥el ucl ȷɔɑ e ɑcȷ. 今日の出来事は忘れられないだろう。 ɑcȷ, le eᴅʃ ıʃ ȷɔɑ. 今日、悲しいことがあった。

ȷɔɑn ［名詞］事実 ［文頭純詞］［副詞］実際は、事実上、実際のところ、事実 ［レベル］２ 1ʔ: 制 :ȷɔɑ 【成句】 el dµıȷ ɑıl ȷɔɑn ˥ɔnʃ ˥ııl ȷɔɑn lel ȷɔɑn. 事実は事実と認めた上で対処しなければならない（lcczı ləʃcı）

ȷɔɑı ［名詞］事故、事件 ［類義語］uecᴅ ［レベル］３ 1⋒: 制 :ȷɔɑ ［文化］ 歩いていて看板が落ちてきてぶつかったとか、階段から落ちたなど、事故一般の場合、保険に入っていれば事故の種類によって保険料をもらえる。また、事故が誰かのせいなら、その人からも慰謝料ももらえる。たとえば看板を誰かが落としたのならその人の責任になる。 【用例】 ʃcl ȷɔɑı 事故に遭う

ȷɔɑıılеȷ ［普通動名詞］座礁、坐礁、擱座、かく座、かくざ ［レベル］５ µɑ;/「事故上陸」 ʖ⋒

ȷɔɑc ［名詞］イベントキャラ ［レベル］３ ʖ0:ȷɔɑ ［文化］ アーディンのように、脇役ほどちょい役でもないが、かといってアリスほどゲストでもない場合を指す。特定のイベントに出てきて強烈な印象を残す人物。ＦＦ４でいうとスカルミリョーネやルビカンテといった四天王など。

ȷɔɑc˥ ［名詞］頻度、出番の多さ ［レベル］４ 1L:ȷɔɑ/ʃc˥（起きる傾き）

ȷɔɑcı ［天文］小惑星 ［レベル］４ ʖ0:ȷɔɔᴅɑcı（ソームのゆりかご）木星付近にたくさんあるため。

ȷɔφ ［経済］おつり、つり銭 ［レベル］２ 1⋒: 制 :ȷɔsφcl（残った金）

ȷɔbel ［料理］間食、おやつ、おかし、お菓子 ［音楽］フィルイン ［レベル］２ ʖ1:ȷɔu/bel

ȷɔhı ［動詞］ɥəl を徹底する、徹底する ［形容詞］(ȷɔhın で）徹底的な、(ȷɔh で）徹底した ［レベル］３ 古 :ȷɔhı（尻尾まで（終わりまで）やる）

ȷɔɥə ［感動詞］［幼児］［ᴅclcı］そゆそゆ、ȷɔɔnɔɥən ［レベル］１ ʖ0:lə˥cı:ȷɔɔnɔɥən と言いたいらしく、「そゆ、そゆ」と言っていたことから。 ［語法］ 通例、２度繰り返す。

ȷɔɾ ［格詞］［文頭純詞］だからこそ、強結果 ［レベル］１ 1ꝯ: 制 : 恣意 lɔɔ:l ɔɔ:dıɑeʃ:ʃȷəlcȷɔ,ılʃ

ȷɔµ ［形容詞］高い、背の高い ［属格］背の高い人 ［反意語］hıcʃ ［動詞］［µenʃe］lʃıᴅ ［レベル］１ ɑµɑ 先 :ȷɔµ(高い) hɥə:hɥə(天などが高い), ȷɔµ(背などが高い）:lɥə 【用例】 uc˥ ȷɔµ 背の高い男性

ȷɔµ(ʅ) ȷɔ/ɔµ、している 1L

ȷɔµʃ ［形容詞］寒い、冷たい ［形容詞］冷たい、好感が持てない、嫌な感じの ［動詞］ɥəl を冷やす、冷やす、冷却する、冷ます、クールダウンする ［副詞］冷たく、寒く、寒そうに ［経済］冷え込む、冷え込み ［反

意語］hıʯʃ ［レベル］1 1L: 青い風 jıc:jıc:jıcʃ ［語法］ hıʯʃ 寒さには段階がある。jɔnʃjɔʯʃ, ɑɔljɔʯʃ, ɒıɑφjɔʯʃ, ɷcɔjɔʯʃ の順番で寒さが強烈になっていく。 【用例】［メタファー］jɔʯʃ ɥən uelʃ 氷のように冷たい ʃəɔ eȷ jɔʯʃ ʯɔɒel ɑcn ʃə ıʃ ɒelʃ. 暖かかったのに急に寒くなった。 ☆ ɑcȷ ıʃ jɔʯʃ ʃcn lılʃ ʃə ɿɒel e jılʃ. 一年のこの時期にしてはとても寒かった。 jel jɔʯʃ ıʃ ɔnɿ ɷə ɑɔə. 何日か寒い日が続いた。 ıʯlcel jɔʯʃ cɿ ɿcʃ. 寒い季節が始まった。 ın nıʃ jɔʯʃ ʃcn. とても寒く感じた。 ☆ın nıʃ jɔʯʃ ɔn eʯcɒ ıȷ. 寒さが骨までしみた:アルカでは心臓。 ☆ ʃə ıʃ jɔʯʃ linel enʃɔ ʃə uınɷ jıʃ eʯcɒ ınʃ. まさに骨身にしみる寒さだった。 ın nı jɔʯʃ ɿı ez ınʃ cɒ ɑcȷ. 今日は部屋が寒い。

jɔʯʃʃɿ ［形容詞］［ネガティブ］男性が性的にお堅い ［類義語］ɥəlʃe ［反意語］uc jdləɑc ［レベル］4 ɿ0: 冷たい腕←抱いてくれない

jɔʯʃʃeɒɿ ［名詞］冷凍庫 ［レベル］3 1L:lcɔn

jɔʯʃuejn ［名詞］猫舌 ［レベル］3 ɿ0: 冷たい舌 ［文化］ アルバザード人は総じて猫舌で、熱いものを嫌う。一方、ぬるいものは体を温めるといって好む。リディアは猫舌。【用例】 ın ʃcl jɔʯʃuejn. 僕は猫舌だ。

jɔʯʃɑıcz ［医療］しもやけ、凍傷、霜焼け ［レベル］3 1L ［語法］ 霜焼けは凍傷の一種。特にアルカでは霜焼けだけを指す単語はない。 【用例】 ın ʃclıʃ jɔʯʃɑıcz ɔn lıȷ ɒcl jɔʯʃıʃc. 寒くて霜焼けができた。

jɔʯʃɷcʯec ［気象］寒冷前線 ［レベル］4 1L

jɔʯʃdıȷʃ ［料理］冷や飯 ［レベル］3 ɿɿ ［文化］ 冷や飯は澱粉がアルファ化されていないため、消化に悪い。ıʃ 人は日本人と違って弁当やおにぎりを必ず温める。従っておにぎりという携帯食自体があまり浸透していない。冷や飯を食うのは屈辱的と考える。アルバザードでも jɒ 以降この考え方が流入する。 【成句】 ɑcʃ jɔʯʃdıȷʃ 冷や飯を与える：虐待する。ıʃ の慣用句の訳。bıɿɑlel は歓迎しない、jɔʯʃdıȷʃ は虐待の意味。ıʃ で家督を継がないものの食事が冷や飯であったことから。

jɔʯʃdɔl ［地学］寒帯 ［レベル］4 1L

jɔʯʃhınɿ ［気象］中間圏 1L

jɔʯʃhcnɿ ［名詞］冷や汗、冷汗 ［レベル］3 1L:ɒelcɷcı ılcȷ

jɔʯʃlcu ［形容詞］おとなしい、大人しい、穏やかな、物静かな ［反意語］hıʯʃɷɔʃ ［レベル］3 ɿ0

jɔʯʃleul ［医療］冷え性 ［レベル］4 1L

jɔʯʃc ［気象］ラニーニャ ［レベル］4 1L:jɔʯʃ/ʃceʯ

jɔʯʃe ［医療］神経痛 ［レベル］5 1L:jɔʯʃ/ʃeeze。古の eʯcıʃeeze（神経痛）を訳したもの。原義は冷たい風で、冷やすことで神経痛を引き起こすと考えられていたことから。eʯcıʃeeze は jeʯen のメル L 年ごろの造語で、夏に裸で扇風機を付けていたら、腕が何もしていないのにピリピリと痛み出し、風呂に入ったら治ったことで、不思議に思ってリュウに相談したところ、神経痛といわれたことに起因。そのときの説明で使った eʯcıʃeeze（扇風機の冷たい風）がそのまま神経痛に取って代わった。

jɔʯʃeʯ ［形容詞］情に薄い、薄情な、冷たい、冷血な、無情な、非情な ［反意語］ɷcȷʃccɥə ［アクセント］jɔʯʃƐʯ ［レベル］3 ɿ0:jɔʯʃ/eʯc（冷血）

jɔʯʃeeu ［気象］寒波 ［レベル］5 1L: 波に喩えるのは日本語同様

jɔʯɿı ［名詞］高台、高いところ ［レベル］3 ʯɷ;/ ɿ0

jɔʯɿıɷ ［地球の国名］ペルー ［レベル］5 1L: 高いところにあるから

jɔʯlceʃ ［ジョブ］ソルシエット、薙刀使い ［アクセント］jƏʯlceʃ ［レベル］3 ɿ0:jɔʯlen/lınʃcȷ

jɔʯlcenʃ ［娯楽］ソルシエント ［レベル］4 ɿ1 ［文化］『スレイヤーズ』に相当するアニメ。

jɔʯle ［天文］半月 ［言語］［文字］カウンタールーブ ［生物］爪の半月 ［レベル］3 jɔʯn:jɔʯle「ソーンとアルシェ」【用例】 jɔʯle lıʃ sın. 半月が出ていた。

jɔʯleʃ ［軍事］総指揮官 ［レベル］3 1L:jeʯen:jɔʯle/lınʃcȷ ［文化］ 大元帥と元帥との総称。ミロクが元帥の上に大元帥を置いたため、士官や兵と対立する概念として生まれたもの。jɔʯle は月教のシンボルで、アルティス教が軍を指揮するという意思の表れ。

jɔʯlelcɿ ［料理］餃子、ギョーザ ［レベル］3 10: 制 : 半月饅頭 ［文化］ インサール料理。アルバザードでも広まっている。

jɔʯlen ［アイテム］なぎなた、ナギナタ、薙刀、長刀 ［レベル］3 ɿ0:jɔʯle。半月のような刃、ないし、刃の軌道が円弧を描くことから ［文化］ ルティアではユベールにおける女子の必須科目。アルバザードではユンクが一般的にルティアに憧れがちなので、ユンク層に人気の高い種目。アルバザードで薙刀をやっているといかにもお嬢様というイメージを持たれる。 日本と同じように袴や襟付きの服を纏う。袴をはくのは、運足を相手に読まれないため。

jɔʯleɑʯec ［アイテム］ソルシェフレイ、半月形の短剣、ジャンビーア ［地球の国名］イエメン : 成人男性が腰にジャンビーアをさげているのが特徴的であることから ［レベル］5 1L

jɔʯleʯenʃ ［宗教］ソルシェレント、宣教師 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:ɑəlɒc cı/ɿɒccʯ: 月の使者 ［語法］ アルティス教の宣教師。新興宗教アルティスはカコの災厄の再来と誤解されることが多かったため、腕章にアルシェでもソーンでもないとして半月の刺繍を身に付けた。腕章に身の上を知らせる文様を大々的に付けたのはアルティス教が最初で、その後のアルナ再建でアルティスが学校を再建した際、学生服にもこの刺繍を付けた。これがレイユでも残り、学年を示す刺繍になっている。

jɔʯleelc ［料理］かまぼこ、カマボコ、蒲鉾 ［レベル］3 ɿɿ

jɔʯȷ ［電算］コンピュータ、コンピューター、電子演算装置 ［レベル］3 1ɿ: 制 : 恣意 ［文化］ → hıɿhnɔlʃ cɒəl 1ɿ09 にラグナロク工科大学の ʃoıʯzel ɷcȷcɷcı が計算機として開発した。アンジェルの実験データ及び運用データの分析のために正確かつ大量の計算が必要だったことから作られた。魔動式で、ディスプレイはなかった。詳しくは ɿɔn ucʯ を参照。 cɒəl 1ɿɿɿ に ʃoıʯzel がディスプレイを付け、数字を表示できるようにした。 cɒəl 1ʕ0ʔ にリュウがラグナロクで文字コードを開発し、フォントを作って画面上で文字を扱えるようにし、合わせてディスプレイを現在の地球のようなテレビ型の大きな画面にした。キーボードを発明した。文字コードは lɔʃʃe 参照。 cɒəl 1ʕ00 年、遅れてリュウがプログラム言語をセレンと共同開発。しかしセレンはその後、あまりの難しさに白旗を挙げ、アルカに専念。そのため、プログラム言語はリュウが担当することになった。 cɒəl 1ʕ0Δ にリュウがＯＳを開発。 cɒəl 1ʕ1ɿ にリュウがＧＵＩを開発し、マウスを合わせて開発。 cɒəl 1ʕʔɿ にリュウは電動式のコンピュータを試験運用。こちらは地球と同じく電気のオンオフによる二進数を利用しており、歯車式計算機やブール代数などの原理が応用されている。 ʔʔL ミロクのもとで初の商用プログラム内蔵型コンピュータが開発される

jɔʯȷʯen ［言語］［電算］コンピュータ言語、プログラム言語、プログラミング言語 ［レベル］4 ʯɷ;/ ɿ0

jɔʯȷlecȷ ［電算］ＣＧ、コンピュータグラフィック ［レベル］3 1L:ʯcɷcı: ıʯbıleʃ

jɔʯ jɔʯ ［感動詞］高い高い ［レベル］1 10: 制 :jɔʯ ［語法］ 子供を持ち上げてあやすこと。あまり脳に良くないので注意というのが常識としてアルバザードにはある。

jɔʯȷelɷ ［電算］機械語 ［レベル］5 1L

jɔʯn ［人名］初代ソーン ［名詞］ソーン。アルシェと対を成す団体。アルシェとは抗争関係にあった。 ［シェルト］ソーン側。必ず後手。 ［名詞］後手 ［レベル］2 ɿıɿɔ: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。 ［文化］ (ɥəəɒı ๆLL0:Δ0Δʔ(Δ000:Δ0Δʔ)) ɥəəɒı ๆLL0 ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 jɔʯn を授かる ɥəəɒı Δ000 ソナリア、メテとの戦いで戦死。ソナリアが崩御し、ソーンが若干 10 歳でメティオの女王となる。摂生はソーナ女王のユリアが兼任した 初代ソーンの第１４使徒。生没年不詳。ウロがメテに敗れた際に残った残党が反メテ運動を掲げた際に御輿として奉られた少女。当時若干１５歳。１６歳でメテを倒し、一躍英雄となる。その後、１９歳でアルシェをも倒すが、２２歳で１４歳の少女リディアに暗殺される。 【成句】 jɔʯn eɒ ɿınʃ ıȷlel 君子は豹変す。考えを改めるという意味でなく、ある日を境に突如成長するという意味に。ɿɿ ごろは「英雄は成長が早い」という意味で使っていた。 jɔʯn ʃcl lcuʯɔ ɑen 佳人薄命、美人薄命 jɔʯn ɿien ʯı ʃıʯle 呉越同舟

jɔʯnʃɔlcȷ ［名詞］性の適正対象 ［レベル］4 ɿɿ:jɔʯnȷılʃ < 1L:ʯcɷcı: ソーンの年 ［語法］ １５歳から２８歳までの女のこと。組み数字では１５からソーンの手番になり、２８までそれが続く。そしてちょうど女が性の対象として売り手市場になるのが１５歳から２８歳であるため、このころの年を jɔʯnʃɔlcȷ という。１５歳未満を対象とするとロリコンと呼ばれ、２８より上を狙うとオバサン趣味と揶揄される。男にとって正常な性欲の対象は jɔʯnʃɔlcȷ の範囲内というのが常識になっている。なお、アルバザードでは jɔʯnʃɔlcȷ を越えて独り身だと負け犬になる。一方、男側に適正対象の年齢は存在しない。

jɔʯnlcnȷ ［名詞］異性魔王 ［レベル］5 1L ［文化］ ソーンの使徒の怨霊。ʯɷ で、リディアらを苦しめた。

jɔʯnı ［地名］ソーナ ［レベル］5 1ɿ: 制 : 古 :jɔʯn（ソーン）から。 ［文化］ ソーンの支配地。

jɔʯnı(ɿ) ［アトラスの国家］ソーナ ［レベル］4 制 ［文化］ 面積 : 1Δʕ1ɿๆʔ.ʔɿ0ɿ00 ɿɒ ɿ ɥəəɒı ๆLΔΔ ソナリア、ユクレシアからの独立を宣言。ユクレシア南部を jɔʯnı と称し、自身はソーナの暫定的な王を名乗る。これによりユクレシア北部は ʃənıȷ に改名

jɔʯneʃ ［音楽］クラシック、伝統音楽、伝統芸能 ［反意語］ıʯleʃ ［レベル］4 nɷ;jɔʯn/ʃe。クミールらが好んだことから。 ɿ1

jɔʯɑ ［動詞］ɥəl と張り合う、張り合う、張りあう、対抗する、競争する ［普通動名詞］張り合い、対抗、競争 ［レベル］3 古 :jɔʯ/uıȷ（私の方が高いと争う）

jɔʯɑcʃı ［名詞］コンクール、コンテスト、評議会、品評会 ［レベル］3 ɿɿ

jɔʯɑɔl ［名詞］競争相手、ライバル ［レベル］3 ʯɷ;/ ɿʔ

jɔʯɑel ［ユマナ］高校 ［レベル］3 ɿ0

jɔʯɒıφ ［音楽］プラルトリラー 1L

jɔʯɷ ［動詞］ɥəl を ı に掲げる、掲げる、かかげる、見えるように持ち上げる、挙げる ［レベル］3 1L: 制 :jɔʯʃ:jɔʯ

jɔʯɷıʃ ［名詞］ナイト、騎士、白馬の王子様、脳内彼氏、脳内カレシ ［形容詞］［ʯenʃe］理想的な ［レベル］3 古 :jɔʯɷıʃ ← jɔʯn/ɷıɷıȷ（ソーンのように強い）。この ɷıɷıȷ は重いではなく強いの意。もとは語源どおり男ではなかった。 ［語法］ 女が夢見る理想像の男。日本語の白馬の王子様や英語のミスターライトに比較的近い。 【成句】［婉曲］neeɒe cn eʯʃ ɿɔnʃ jɔʯɷıʃ cn jııʯ:1L:ɿɒccʯ お姫様がエルトの一族（天）を見て、ナイトがサールの一族（地）を見る : 正常位のこと。 ɑlen jɔʯɷıʃȣ 結婚してくれますか : ın eɒ ɑlen jɔʯɷıʃ ʃcclȣ の短縮。 ［ʯenʃe］jɔʯɷ ıʃ ʯıɿen ɒed. 鏡の向こうの王子様：絵に描いた餅：男の場合は neeɒe。 【用例】 ☆ʃəʯ, lcdl eʃ lcı jɔʯɷıʃ ʃcȷȷe. 今はケーキが一番食べたいお菓子ね。

jɔʯɷcın ［名詞］ソーディアン、守護神 ［アクセント］jƏʯɷcın ［レベル］4 ɿɿ:ɔʯɷcn。ɔʯɷcn が時代名に使われるようになったため、古形に戻ったく ɿ0: 古 :ɑəlɒccı:jɔʯɷcın。jɔʯɷcın →（ɔ で始まる単語を増やすために）ɔʯɷcın →（アクセントを ɔʯ につけるために）ɔʯɷcn ［文化］ カコ以降、各アレットに対応している神。中央アルナはアルデス。

ɹɔɰɷɔ ［地学］火成岩 ［レベル］4　1L:ɹɔɰʃ/ɑıɷɔ

ɹɔɰdıɟɔl ［普通動名詞］カウントアップ ［動詞］ɥəl を ı まで数え上げる、数え上げる ［反意語］hıcʃdıɟɔl ［レベル］3　⅃1

ɹɔɰdıɒd ［普通動名詞］ハイタッチ ［動詞］ɥəl を ı とハイタッチさせる、ハイタッチする ［レベル］4　ɰɷ;/ ［文化］ スポーツなどで点を稼いだときに主に男子がする動作で、それ以外ではあまり見られない。

ɹɔɰhın˥ ［気象］［軍事］［交通］高高度　ɰʃ;/　⅃ʔ

ɹɔɰɥəlɔ ［地学］沈水、沈水海岸　1L

ɹɔɰledl ［被服］ハイヒール ［レベル］3　1ʕ: 制 ［語法］ かかとが高い靴の総称で、様々な種類がある。

ɹɔɰı ［地学］藍銅鉱　1L:dɹɔɔɰı

ɹɔɰıɟ ［形容詞］保守的な。変化を望まないという意味。 ［反意語］cznı ［レベル］3　古 :ɹɔɰıɟ。ɹɔɰn が「幸せと不幸はいらない。何もない平穏な日々が欲しい」という根本思想を持つ保守派であったことから。

ɹɔɰın ［ユマナ］高校生 ［レベル］3　⅃0

ɹɔɰınɑı ［経済］大台　⅃⅃ 【用例】 ıbınʃcı lə˥ɔ˥ ɹɔɰınɑı ɷel 1⅃00. アバンティア社の株価が１２００ソルトの大台に登った。

ɹɔɰcʃ ［生物］高さ、高度、高み ［名詞］身長← ɒıcɲɹɔɰcʃ ［数学］切片 ［レベル］2　⅃1:ɹɔɰ/ıʃc。下記。 ［文化］ ɒıcnısı ＜経緯＞ ⅃1 夏に ɹɔɰıʃc にしようとしたが、ルシアが「ɒıcɲɹɔɰcʃ のはず。おかしい。私が正しいの！」と言ってぐずったため、向こうが正しいということもあって ɹɔɰcʃ は ʃılcʃ 同様 cʃ に戻した。そろそろ「誤魔化してさも前からそうだったように装って矯正する」方法が使えなくなってきたようだ。

ɹɔɰcʃlıbı ［物理］位置エネルギー ［レベル］4　1L

ɹɔɰeʃ ［色］青、ソレット ［形容詞］青い ［象徴］男。男に戦士が多いのは ɥənɔ が多いためで、ɥənɔ が青色の光であることから。 ［レベル］1　⅃0:ɰcɷcı;dɹɔɔɰı,lɟl　⅃0:ɹɔɔɰ:1L: 古 :dɹɔɔɰı,dɹhɔɔɰı。セレンが言った sın ɹɔɰ（冬の高い空）をリディアが sın ɹɔɔɰ（青い空）と誤解したことで、ɹɔɔɰ を変える必要が出た。 sccnı:dɹɔɔɰı:lə ıɟce:dɹhɔɔɰı,˥ʃ

ɹɔɰeʃlɔɰeʃʃı ［化学］青色発光ダイオード ［レベル］5　ıl;/　⅃ʔ

ɹɔɰeʃɟʃenʃ ［地球の国名］ノルウェー ［レベル］5　⅃0: 国旗が青十字

ɹɔɰeʃɹɔnc ［地球の国名］チャド　⅃0: 国章に青い縞模様

ɹɔɰeʃɑıɰɑ ［気象］かんかんでり、カンカン照り、インディアンサマー ［レベル］5　⅃0: 青天の晴れ

ɹɔɰeʃɑelcn ［名詞］人工的な美しさ ［婉曲］整形した顔 ［植物］青いバラ ［レベル］4　⅃0

ɹɔɰeʃɒel ［名詞］青春時代、青色時代 ［レベル］3　ɰɷ;/　⅃ʔ ［語法］［文化］ ɷəəɰɒel

ɹɔɰeʃɽıʃ ［ユマナ］青の曜日→ hıɰɽıʃ　⅃0

ɹɔɰeʃɰeb ［地学］胆礬（たんばん） 1L: ブドウ状にできやすいため

ɹɔɰeʃcɲ ［生物］青い眼 ［レベル］3　⅃0

ɹɔɰeʃeʃe˥ ［料理］青茶 ［レベル］6　ɰɷ;/　⅃ʔ

ɹɔɰeɟd ［気象］上層雲　1L

ɹɔɰenı ［名詞］［形容詞］冷静な、平静な、クールな、動じない、落ち着いた、冷たい。名詞の場合は ʃcl とともに。 ［レベル］3　⅃⅃:ɹɔɰeʃ/nı

ɹɔz ［名詞］プロペラ、ファン、羽、羽根、換気扇、回転翼 ［名詞］風車、かざぐるま、ふうしゃ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɹɔ˥ə˥ızıɒɔ（プロペラ）「交差した木」

ɹɔzıɰ ［名詞］扇風機、換気扇 ［レベル］3　制 【用例】 ın en ɥɔl eɒ ɹɔz ıɰ ɒın ʃə eɟ ɷccʃ. 涼しくなったので扇風機を切った。

ɹɔs ［生物］椎、椎骨。lez の対だが、頚椎なども含む。 ［レベル］4　@ 1L

ɹɔshɔɒc ［生物］椎間板 ［レベル］5　1L

ɹɔshɔɒcıucl ［医療］椎間板ヘルニア ［レベル］6　1L

ɹɔsoıl ［生物］棘突起　ɰɷ;/「椎骨突起」 ⅃ɱ

ɹɔseʃ ［形容詞］余裕のある、余力のある ［形容詞］（服が）だぶだぶな、ダブダブな、だぼだぼな、ダボダボな ［反意語］lızeʃ ［レベル］3　ɰɷ;ɹɔɔs/ʃe　⅃ʔ

ɹɔoı˥ı ［約物］×、× 記号 ［レベル］3　古 :「交わる」ɹɔ˥ə˥ı とよく混同された。

ɹɔoın ［交通］交差点 ［電算］ルーター、ルータ ［天文］分点。黄道と天の赤道の交点 ［レベル］3　⅃1: 古 ɹɔoı˥ı

ɹɔoınʃ ［生物］角孫　⅃1: いくつかの経絡のつながり

ɹɔl ［格詞］主格の格詞。動作主を示す。 ［言語］主語→ ɹɔc ［類音］ɹɔu ［レベル］1　1L:ɹɔıl（するもの、行為者）。ıl は古の ıl。 ::ɰ:ɹɔ,ılʃ, oın,ılʃ ［語法］ ふだんは省略する。強調や倒置の際に復活する。 ［文化］ ɹɔc 【用例】 ɹɔl ın eʃ ɹɔın. この俺が犯人だ。

ɹɔl(⅃) ［言語］ɹ の文字 ［レベル］1　1ɱ: 制 : 行為 ［語法］ 第４文字目の幻字。

ɹɔlʃ ［経済］ソルト ［レベル］2　古 ［文化］ → ınɑın　アルバザードの通貨。１ソルトは２００８年現在、日本円でいうと４円程度に相当。パチンコをやる人間は１玉１ソルトと考えれば分かりやすい。かつて ɰɷ の時代に大体１０年現在の日本と比べて１ソルト４円くらいであったが、ヴェレイ末期までに１００倍以上物価が変動している。つまり１ソルト０．０４円以上にインフレしている。 zɔnʃɟeɷ e ʃoen で ɰɷ の水準までデノミが行われた結果、ɰɷ とアレイユは概ね同じくらいの貨幣価値になっている。つまりアレイユでも１ソルト４円程度の価値がある。

ɹɔlʃınʃɔı ［化学］N 殻 ［レベル］5　1L

ɹɔlʃeu ［経済］ソルト建て ［レベル］6　⅃⅃

ɹɔl˥ ［動詞］ɥəl を ı に帰らせる、帰す、送る、返す、追いやる、追い返す、追う、戻す、戻らせる ［動詞］ɥəl（ＣＤプレーヤーやビデオなどのテープなど）を停止させる ［普通動名詞］停止、帰還、帰投、帰港、返還 ［類義語］ɒɔnɔ ［反意語］˥e˥l ［レベル］2　⅃0:ɹɔlɟ/ 古 ˥eʃʃı（行かせる） ［語法］ 日本語の追いやるは攻撃的なイメージがある。ɹɔl˥ はそれも含むが、基本的に呼ぶの反対動作なので、追い返すという強い意味をふつう持たない。

ɹɔlle ［名詞］英雄、ヒーロー、ヒロイン ［動詞］ɥəl を ɔn について活躍させる、活躍する ［普通動名詞］活躍 ［レベル］3　1L:ɟeɰen:ɹɔɰn/ıɰle ［語法］ 日本語の活躍よりも意味が狭く、英雄のように激しく活躍する場合のみを指す。 ［文化］ 聖人 (hıɰɷcı) よりも格が上。現在のところ、カコの英雄アルシェ、同ソーン、ɰɷ の英雄セレン、同リディア、レイユの英雄ミロクの５人。その功績にもかかわらずシオン＝アマンゼが英雄に入っていないのは、この言葉が戦闘力に秀でたものを前提とすることから。 【成句】 ɹɔlle ıleɟ ɥə cɒ ɔl˥ı. 英雄は芽が出ないころは気ちがい呼ばわりされる：出る杭は打たれる　ɹɔlle clcı 国士無双

ɹɔllecɑı ［地球の星座］［ユマナ］ヘルクレス座　⅃ɱ ［文化］ cɑı

ɹɔlɟ ［動詞］ɹɔl（命じる人）は ɥəl（する内容）を ı（実際にする人）にさせる、させる。使役動詞。 ［レベル］1　ɑ:ɹɔ/ıl/ɹɔ「する / もの / する」 1L: 制 :ɹɔɟ　oe, ɹɔlɟ:ɹɔlɟ:ɹɔlɟ ［語法］ ɥəl には節を取ることができる。節内の主語が ı 格目的語と同一の場合、ı 格を省略するのが通常である。　lı ɹɔlɟıʃ ın ʃıə ʃə. と lı ɹɔlɟıʃ ʃıə ʃə ıl ın. は意味が異なる。ɥəl 節内の動作主が省略されているので通常主節の主語 lı と同一視される。すると「彼は彼自身がそれを買うよう私にさせた」になる。つまり私が彼をせっついて彼自身に支払いをさせたという意味になる。「彼は私にそれを買わせた」と言いたいなら、lı ɹɔlɟıʃ ın ʃıə ʃə ıl ın にしなければならない。しかしこの ıl ın は分かりきっているので省略されるのがふつう。　日本語は独特な使役構文を持つが、アルカはＳＶＯしか構文を持たないため、単純ではあるものの、日本人にとっては構文が異なるので ɹɔlɟ の使い方は幾分難しいかもしれない。母語から考える癖をなくす必要がある。あくまで単純なアルカのＳＶＯ構文で考えれば良い。　アルカの使役構文は中国語の☒☒叫我做晩☒（母は私に夕飯を作らせた）と同じで、単純である。基準となるＳＶＯなどの構文からの逸脱度で見れば、使役構文の単純さは一般に中幻＞英仏＞日韓であるといえる。 【用例】 lı ɹɔlɟıʃ ın ʃıə ʃə. 彼は私にこれを買わせた。　˥clɟ, nɔn ɹɔlɟıʃ nın ˥ıen ɥəɒını ɹɔ ʃəəɟ ı ɥəlc ɷc ʃeə ıɟcz. いえ、落とさせたと言ったほうがいいかしら。ユマナにいる自分を通して、候補となるたくさんの子供たちの前にね：この ı 格は ɹɔlɟ の ı ではなく ɹɔ が持つ ı なので使役される相手ではない。

ɹɔlɟnıl ［企業］ソルスナル ［レベル］6　⅃1 ［文化］ ＪＴＢに相当する企業。

ɹɔlɟıɒe ［言語］主格 ［レベル］6　ɰɷ;/　⅃0

ɹɔln ［動詞］ɥəl を ı に促す、促す、促進する ［普通動名詞］促進 ［レベル］3　古 :「するようにしてほしい」

ɹɔluıʃ ［感動詞］おまたせ、お待たせ、お待たせしました ［レベル］2　ʃɒ;ɹɔ/ıl/uıʃ（待たせるもの）　古 :ɹɔ/ıl/uıʃ（待たせるもの）

ɹɔlueʃ ［言語］主語 ［レベル］4　⅃0

ɹɔlɑeɰ ［名詞］ソルフェール ［アクセント］ɹɔlɑƐɰ ［反意語］hıɰɷcʃ ［レベル］3　⅃⅃:ɹɔɰɑeɰs ［文化］ 高尚な存在で、向学心に富み、比較的大人しくてインナーで、地味なローブや紅茶が似合うタイプ。金に疎く学者肌であることが多い。セレンなどが代表的な人物。　高尚、学問、芸術、ロハス、競わない、付かず離れず、草食、清貧などの言葉に惹かれるタイプ。金に縁がないが、気にしないことが多い。そのわりに勤めるとたいてい高学歴なので無駄に金が貯まるセレンのようなケースが多い。　社会的にメジャーな存在でなく体力も気力も弱いほうなので虐げられやすい。クズやＤＱＮが嫌いだが、滅ぼすのは現実的でないので ɰɷ のセレンのようにアルカディアに棲み分けたり、現実のセレンのように引退したりする。ミロクのように滅ぼすのを実行したソルフェールは稀。

ɹɔlɑeɰʃe ［亜魔］ソルフェルテ、無性妖 ［名詞］中性的な子供 ［レベル］6　ɰɷ;ɹɔɰɑeɰs/ʃe　⅃ɱ:ɰcɷcı ［文化］ コルンの一種。幼少期は男女の性別がなく、思春期になると自分でなりたいほうの性別を選ぶ。見た目は人間と変わりない。

ɹɔlɑeɰs ［名詞］ソルフェージュ、中性、中性体、男の娘、女男、草食男子、肉食女子 ［アイテム］模造刀、なまくら、鈍、なまくら刀、刃を落とした刃物 ［類義語］ınɑelclcı、ɑɰecɒccnı ［レベル］2　⅃⅃:˥ɒccɰ: 古 ɹɔɰn で戦闘訓練用の刃を落とした刃物のこと。「ユルト君はソルフェージュのようにおしとやかですね」と彼女が述べたことから。 ［文化］ 男らしくも女らしくもない中性的な性格の人物。リュウやユルトが走り。ul 後期に男性の間から流行りだした。

ɹɔlɑeɰscɟʃc ［言語］中性代名詞 ［レベル］5　⅃⅃ ［文化］ クミールの提案で ⅃⅃ に作られ、リュウとユルトとピネナが使うことになった代名詞。なぜか最近のセレンも ɹɔlɑeɰs に入るらしいが、セレンは ɟeeʃ を使う。

ɹɔlɷeɟ ［動詞］ɥəl を ı に追い詰める、追い詰める、追いつめる、追い込む、追いこむ ［動詞］（lɑcɟ neeʃ eɒ ɹɔlɷeɟ で）人生が詰む、詰む ［シェルト］詰む、詰み、勝つ、勝利 ［レベル］3　ɰɷ;ɹɔlɟ/ɷeɟ˥「牽制させる」 ⅃ʔ 【用例】 ın ıɰ ucl ɰıɑel lccɒ ın eɒ ɹɔlɷeɟ. 私は追い詰められるまで宿題ができない。

ɹɔlb ［名詞］作業 ［動詞］ɥəl に ı（内容）を作業する。lıb から来ているので lıb と同じ格組。 ［レベル］3　⅃⅃:ɹɔ/lıb「する労働」【用例】 ɹɔlb ˥cn 大変な作業　ıɰ ɹɔlb 作業する　ın ˥e ɹcl ʃeɒ˥ e oıcɒ ınʃeɟ cɒ uıɰzɔn ˥ılzıɟ e ˥eɟʃ lını ɹɔlb. 作業のため明日８時３０分に自分らの山車の倉に行く。　ɹɔlb c˥ ʃɔɔ˥ cɒ ɑcɟ. 本日の作業終了。

ɹɔlbıɟʃ ［再帰動名詞］作業員、工員 ［レベル］3　ɰɷ;/　⅃ɱ

ɹɔlbe ［名詞］作業力、体力、耐久力、腰力、目力、胃力、尻力 ［レベル］4　ɰɷ;ɹɔlb/enuc　⅃ɱ ［文化］ 健康に作業をすることのできる体力の

こと。加齢とともに減る。１０代のうちはほとんど意識しない。主にデスクワークに使うが、肉体労働にも使える。　µɑ でセレンはアルカの作業のしすぎで胃痛腰痛肩こり近眼坐骨神経痛など様々な症状に侵された。セレンは「時間はあっても腰力がないから作業ができない。時間より大事なのは腰力」と述べ、時間があることより作業を健康にできる体力があることを重視した。そう、勉強でも仕事でも、いくら時間があっても腰痛などで作業が困難になれば、時間などあっても何の意味もない。時間より重要なのは健康に作業ができる体力である。それを彼はソルベと名付けた。　その体力は電車で移動するだけの座った時間でも減る。というのも座っているだけで腰や尻に来るからだ。映画を見るにもテレビを見るにもソルベを使う。現実のセレンが娯楽を避けて作業を優先していたのは、限られたソルベをアルカの作業に回したかったからである。座って作業できる時間はソルベの都合上限られている。だからその貴重なソルベを無駄に使いたくない。それでセレンは娯楽より学業を優先した。セレンにとって時間はさほど貴重でなく、ソルベは非常に重要だった。なので立ったり座ったりしたまま、つまりソルベを消費する状態で無駄に待たされることを彼は非常に嫌った。

ɟɔlɥəɔɪɥəɪ ［言語］主格分詞　［レベル］４　ɺ1　［文化］　cuɪ

ɟɔlz ［名詞］コード、ケーブル、配線コード、配線ケーブル、線　［レベル］３　制：n 対らしく見えないので解体せず。

ɟɔlɪ ［名詞］未亡人、寡婦、ウィドー、妻に先立たれた男　［レベル］４　1ʔ: 制 :ɟɔµn:ɟɔɔslɪn「残った人」。性別に関係なく伴侶に先立たれた者を指した。

ɟɔlɪ,ılʃ　sɪn　ɟcel.l

ɟɔlɪɒɪ̀clc ［ジョブ］天薙ぎ　［レベル］４　ılʃ　ɺ0　［文化］　ǐlɪn

ɟɔlɔɒɔn ［名詞］青年、青年期。男女問わない。　［類義語］ɒɪlʃ、ɒɪu　［レベル］３　ɑu; 元は「若い男」の意。後に現在の意味になった。　ɺʔ:µcɑ cɪ　［語法］　思春期後半ないし思春期後から２５ないし３０前までを指す概念。大人になりかけ、大人になりたてのひよこを指す。

ɟɔleʃ ［名詞］プレイ、動作、行為、演技、演奏、運動、アクション　［類義語］ɟɔɔl　［レベル］３　ɺ1:ɟɔɔl/ʃe　［語法］　ゲームのプレイ、演奏のプレイ、サッカーのプレイなど、特定の様式と時間の長さを持つ行為のこと。ɟɔɔl は行為全般を総称する。　【用例】　ɒeuɔlʃ ɟɔleʃ プレイを再生する、リプレイする→ ɒeɟɔleʃ

ɟɔleɒ ［音楽］鉄琴、グロッケンシュピール　［レベル］３　1L:ɒclɑ:ɟɔµʃ/leɒ（冷たい音楽）

ɟɔlel ［形容詞］魅力がない、魅力的でない、モテない　［反意語］ʃɔµ　［レベル］３　ɺ0:ɟɔlɟ elɑ（逃げさせるような）

ɟɔləʃ ［普通動名詞］ソルット　［レベル］４　ɺ0:ɟɔlɟ/ləlǝʃ　［文化］　主に父親や夫が娘や妻の腹を割くこと。不貞を働いた女に対し、ルルットを行うこと。娘が不貞した場合、父親はその娘を奴隷として売るかソルットをして処分するなどした時期があった。

ɟɔləɔɪ ［生物］土踏まず、土ふまず　［レベル］３　µɑ　1L: 赤では ɟɔ　ɟɔ:ɟɔ

ɟɔləə,ɑ　ɟɔɔl　ɟɔ/ıl（するもの、すること）

ɟɔɪ ［代詞］［形容詞］そのようなこと、そんなもの、そのような、このような、そんな、こんな　［類義語］lenɑc、φɪɪʃɔ　［反意語］ɥəɪ　［レベル］１　ɑ:elʃ;dɪ ɟɟɔ から dɪ が脱落して ɟɟɔ → ɟɔ。母音追加で ɟɔɪ。「そうである」が原義。　1ϑ: 制 :ɟɔ　ɟɔɪ:ɟɔɪ::ɒelc,ılʃ, ǐɔɒelc,ılʃ　［語法］　＜文法＞　名詞には前置。形容詞などには後置。「そんな」は前置で、「そんなに」は後置といってもよい。　＜ʃə と ɟɔɪ＞　ʃə を漠然とさせたものが ɟɔɪ。ʃə µenɟ は「その言葉」そのものを指すが、ɟɔɪ µenɟ は「そのような言葉」「それに近い類似した内容の言葉」を指す。心理的な漠然さも指す。つまりハッキリと「その言語」と明言を避けたい時に遠まわしに言うときに使う。　le と ɥəɪ の関係も同じ。　＜ɟɔɪ は ʃə をぼかせる＞　ʃə はハッキリと何かを指示するが、ɟɔɪ はぼかす効果がある。ʃəəɒc や ʃəəbe は好悪を与えることはできても、ぼかす用法はない。　「さっき ueµdeɑ って言われたけど、確かにそうなんだよね」というときの「そう」などは ɟɔɪ が適切。ʃə だとあまりに直接的すぎる。もちろん場合によっては ʃə でもよい。状況次第である。　＜漠然とした「そう」＞　相手の言動を受けて「そうだね」とか「そうか」とか「そう？」などというときは ɟɔɪ を使う。漠然かどうかは関係なく、ʃə eɤ とは言わない。　「もしそうなら」という前方照応にも ɔl ɟɔɪ が優勢。ɔl ʃə だとかなり内容を狭めている印象がある。ɔl ʃə だと照応しているのは特定の語句の可能性すらある。　＜好感形と悪感形＞　０：＋：－　ɟɔɪ:lenɑc:φɪɪʃɔ　ɥəɪ:ǐlenɟ:uɪnɑɔl　ɟɔɪ（そんな）とその属格 ɟɔɪn（そのようなもの）を漠然（近）という。ɟɔɪ は ʃə を漠然とさせたものである。　ɥəɪ（あんな）とその属格 ɥəɪn（あのようなもの）を漠然（遠）という。ɥəɪ は le を漠然とさせたものである。　上記はそれらの好感形と悪感形である。所有格（属格）は単純に en を付けるだけであるが、まず使わない。　ɒcɟenʃɪnʃ ɒcl le nɑc µenɟ（そのようなお言葉、ありがとうございます）　ɪn ɟcn uɪnɑ ɔl nɪɒɔ lɪiben（あの野郎のああいう態度が気に入らねぇ）　【成句】　ɟɔɪ eɤ そうなの？　cɒ ɟɔɪ そういうときに、そんなとき、そんな場合、そういうケースでは　ɔl ɟɔɪ もしそうなら　【用例】　ɪn µcɟ ɟɔɪ lec. そんな本はいらない。　ɪn en ɟeµ lɪn lɪnʃ ɟɔɪ. そんなに美しい人は知らない。

ɟɔɪn ［名詞］実行者、した人、する人　［法律］犯人　［電算］ホスト　［俗語］攻め、左側、左、立ち、タチ　［レベル］２　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɟɔɪn(ɺ) ［代詞］そのようなもの。ɟɔɪ の属格。　［レベル］１　ɺɺ

ɟɔɪs,ɑ　ʔ　elʃ;ɟɔǐəǐɪsc.ǐ

ɟɔɪl ［動詞］ɥəl を c から連想する、連想する、想起する、喚起する、呼び起こす、思い出させる、思い起こす、思い起こさせる　［対格分詞］連想、想起、喚起　［レベル］３　1ʔ: 制：古 :ɟɔǐəǐɪlɔ（考え同士が交差する、交わる）

ɟɔɪlɪlɔ ［娯楽］連想ゲーム　［レベル］２　µɑ:µcɑcɪ;/　ɺꞮ:µcɑcɪ　［文化］　現実には ɺꞮ 初頭にリディアがメル、ルシア、ユルトを交えて行った遊びからできた語。神話では神代からあった遊び。　現実にはセレンもそこに参加して、子どもたちと遊んだ。　お題を言われたらその単語を聞いてまず思いついた単語を２秒位内に口走らねばならない。言えなければ負けというゲームで、ユルトが真っ先に敗退した。セレンは思わず下ネタが口をついて出て、ルシアに「それどういう意味ですか」と聞かれ、リディアの空気が張り詰め、失格となり、ついでに後から怒られた。結局頭の回転の早いリディアやメルやルシアが遊んでは笑っていた。娘はこのゲームが好きなようで、珍しくキャッキャとはしゃいで笑っていたのが印象的だった。

ɟɔc ［言語］主語← ɟɔl　［類義語］dɔʃɔǐ　［反意語］ɔɒcʃ　［レベル］４　ɟɒ;ɟɔ/c「行動を見る者」　ɺʔ　x:ɟɔc:ɟɔc:ɟɔǐən,ılʃ　［文化］　・主語と主題　ɑ, ɑu, ɟz, lʃ, ɑµɑ, lɥ, lɟ, ɪµ は主語と主題の区別を持たないが、ılʃ は持つ。　ɟɒ になり、ılʃ が lʃ に入ると主語と主題を区別する必要性が lʃ の間で起こった。そのとき ɟɔc と dɔʃɔǐ という概念が作られた。　その後カレン半島が侵略され、ılʃ が ɪµ にも入ると、両概念は ɪµ にも流入した。　ɟɔc（主語）と dɔʃɔǐ（主題）の対立は ılʃ で ɟɔ と oɪn であり、日本語の「が」と「は」、韓国語の「ガ」と「ヌン」の違いにほぼ相当する。　・アルカでの主語と主題　アルカは主語と主題を格レベルで区別しない。アルカには ɟɔc（主語）しかなく、アルカの ɟɔc は ɟɔl（～が、～は）であり、ɟɔl は動作主格か経験者しか示さない。　日本語における「は」と「が」の違いはアルカでは後置詞以外の方法で表現される。　例えば「象は大きい」は ǐɪcɒ eʃ ǐɪc だが、「象は鼻が長い」は ǐɪcɒ ʃcl ʃɔɪ ɑcl ないし ǐɪcɒ eʃ ɑcl ɔn ʃɔɪ と表現される。　「僕は太郎だ」と「僕が太郎だ」の違いは ɪn eʃ ʃɪlɔɔ と ɟɔl ɪn eʃ ʃɪlɔɔ ɑɪ の違いで表現される。　「明日は雨だ」の「明日は」は主語 ɟɔl には来ず、eɟǐ ɟcl cɒ ǐeɟʃ ɑɪ ないし eɟǐ lənɪ (ɟcl) cɒ ǐeɟʃ となる。　このように、主語と主題の区別は日本語のような後置詞を使った表現以外のものになる。　・主語と目的語　ɟɒ まで漠然と主語と目的語は格の形で存在していたが、その存在が浮き彫りになったのは ɟɒ で主語と主題が区別されてからである。主語という大きな枠組ができたことで、その対となる目的語の概念が浮き彫りになり、新たに ɔɒcʃ という語形が lʃ で与えられ、ɪµ に流入した。それまでは与格などと対等な、単なるふたつの格でしかなかった。　アルカの目的語は ɥəl 格目的語で示され、対象を示す。ɥəl は純然と対象を取るが、動詞が lɪ などの場合はその対象が場所を取ることなどもある。

ɟɔcʃ ［言語］外項。動作主あるいは「意味上の主語」［反意語］ɔɒce　µɑ; ɟɔc/eʃ　ɺꞮ

ɟɔcʃɥəɔ ［言語］非能格動詞、能動詞。主語になるものが意味上の主語である動詞。　［反意語］ɔɒceɥəɔ　µɑ;/　ɺꞮ

ɟɔcɟɔ ［地球の国名］モンゴル　［レベル］５　古

ɟɔcn ［地学］縞瑪瑙、オニキス、オニクス、オニックス　［レベル］６　1L:ɟɔnc/cnɟc　［文化］　光と闇を分離する魔石。周囲の光を奪うことで、戦闘を有利に運べる。例えば自分の周りの光を取り、敵の周りに投げる。すると敵だけ光って見えるが、自分は闇の中に入り込むため、こちらは敵が見えるが、敵はこちらを見えなくなる。鬼族や多くの悪魔など、視覚を使って戦う敵に有効。この際はこちらもヴィードを体外で燃やすと居場所が割れるため、注意が必要。

ɟɔcl ［物理］作用　［レベル］４　1L:ɟɔ,l は行為。c は繋ぎの恣意的な母音。

ɟɔcǐɪ ［物理］作用点　［レベル］４　1L

ɟɔclµecn ［物理］作用線　1L

ɟɔɔʃ ［歳時記］一週間、週、週間、ウィーク　［レベル］２　1Ꞷ: 制 :ɟɔɔɒ　［文化］　一週間は７日。uelɒ, eµuɪ, ɟɪʃcc, ʃeeue, beezel, cluɪ, dɪµʃ の曜日がある。　一ヶ月は４週間。ɪʃʃe, ɑleɪ, ɪlcɟ, lceµ の４週。春の週、夏の週のように表す。　前半二週間は ɪµle、後半二週間は ɟɔµn という。二週間のことを ɪɑcɪ という。　【用例】　ɟɔɔʃ ɟɪɒ cǐ ǐcʃ ɒe. 新しい一週間がまた始まった。

ɟɔɔʃʃɔɔǐ ［歳時記］週末　［レベル］３　1L

ɟɔɔǐ ［名詞］染み、しみ、にじみ　［動詞］ɥəl を ı に滲ませる、滲ませる、にじむ、滲む、染みる、しこみむ、染みこむ、染みこませる、しみこませる、しみる、染みる　［形容詞］滲んだ、染みた　［類義語］dəµ　［レベル］３　µɑ‹ɟzɑ;ɟɔɔ/ǐe　1ʔ: 制 :ǐɪǐʃɪ:ɟɔɔ（英語の ɟɔɪǐ とは無縁 , 元が ɟɔɔ であることに注意）　ɟɔɔ:ɟɔɔ:ɟɔɔǐ:səǐələ,ılʃ　【用例】　enɪ cǐ ɟɔɔǐ ı lɪɑcn. ハンカチが涙で滲んだ。

ɟɔɔɟ ［動詞］ɥəl を ı にしみこませる、しみこむ、染みこむ、浸み込む、浸みこむ、染み込む　［化学］浸透　［レベル］３　1L:dɪɪl:ǐɪǐʃɪ:ɟɔɔ　［語法］　にじむの ɟɔɔǐ とは異なる。ɟɔɔɟ は浸透すること。紙など、滲んだ方に目が行っているのが ɟɔɔǐ。浸透して境界を超えた現象や液体に注目しているのが ɟɔɔɟ。　【用例】　µɪe ɑccl eɒ ɟɔɔɟ ı ɒɪcn ɪnʃ. 新鮮なトマトが体に沁み渡る。

ɟɔɔɟµɔn ［化学］浸透圧　［レベル］５　1L

ɟɔɔnɪ ［文末純詞］［ɒɒɪ］ɟeʃe　［レベル］１　ɺ1:µcɑcɪ:ɟɔɪ nɪɤ（そうなのかな？）の語彙化。

ɟɔɔnɔ ［感動詞］こんにちは、こんにちわ、こんちわ、ちわっす、やぁ、どーも、どうも、やあ、おはよう、こんばんは、こんばんわ　［感動詞］相手の反応が信じられないと驚きつつ、その相手を正そうとするときに使う。「どうしたんだお前ら？」というようなニュアンス。小馬鹿にしたニュアンスにもなるので、フランクなシーンでのみ使う。　［感動詞］ただいま　［レベル］１　古 :ɟɔɔnɔ,ɟɔɔnɔɥən が短くなったもの

ɟɔɔnɔn ［ɑɔʃe］おはよう、おはよー、おはよん、おはよっ、こんちは、こんちわ、こんばんは、、こんばんわ、どうも、やぁ、やあ。ɟɔɔnɔ の異形態。　［レベル］２　古？

ɟɔɔnɔɥən ［感動詞］こんにちは、こんにちわ、こんちわ、こんちは、は～い、ハイ、やぁ、どうも、やあ、ハロー、おはよう、おはようございます、こんばんは、こんばんわ、お邪魔します、おじゃまします　［アクセント］ɟɔɔnɔɥƎn　［レベル］１　ɑ;ɟɔ/nɔ/ɥən「どのようにしますか？」エルトとサールが逢瀬の際に「この一年どうしていた？」の

意味で使ったのが最初。逢瀬は夜８時だったので、本質的には「こんばんは」。その後神々や悪魔たちがアンシャンテを開発すると、世界中果ては宇宙規模で通信することができるようになった。その場合時差が生じるのでこちらが朝だからといって向こうも朝とは限らない。そこで「おはよう」や「こんばんは」の違いはないまま保たれた。その伝統がその後も残り続けている。　古 : 語源をよく覚えていないのだが、代動詞 ɉɔ、疑問助詞 nɔ、比況のエクスプローダーの ɥən が混ざっているのだと思う。すると直訳は「 どのようにやっているの？ 」になるが、多分「 最近どうしてる？ 」の意味で使っていたのだろう。それが「 調子どう？ 」ぐらいの意味になってだんだん慣用化され､「 こんにちは 」の意味になっていったのだろう。［語法][文化］ アルカの挨拶は敬度によっていくつか分かれているが、時間によって分かれていることはない。つまり朝昼夕晩で挨拶を使い分けることはない。おはようもこんばんはもない。テレビなどでキャスターなどは視聴者に向かって ɉɔɔnɔɥən といえる。視聴者と面識がなくてもいえる。この用法はスピーチから発生したものである。何かを演説したり講演するとき、喋り手は聞き手が誰かを知らなくとも挨拶することができる。テレビはこれと同じである。尚、ラジオやインターネットなども全て同じである。　・お邪魔します　いらっしゃいは ʅellɔ か ɉɔɔnɔɥən だが､お邪魔しますに当たる語はなく、ɉɔɔnɔɥən という。

ɉɔɔnɔɥənʅ ［俗語］［言葉遊び］［感動詞］おはようお嬢さん、おは幼女　ıl;/ ⅃⋔ ［語法］ ɉɔɔnɔɥən ɥənʅ を一語にしたもの。⅃⋔ 年初頭にメルに｢「おは幼女」ってアルカでなんて言うの？」と聞かれたセレンが苦肉の策で出した言葉。日本語に一致するものがない。

ɉɔɔɑ ［音楽］オクターブ　［レベル］３　1L:ɉɔɔᴅ/ɑɔ

ɉɔɔɑdıln ［音楽］ピッコロ　［レベル］３　⅃1

ɉɔɔᴅ ［悪魔］七曜の悪魔、ソーム、曜魔の総称　［音楽］音部記号　［シェルト］縦軸、軸　［組み数字］７　［レベル］２　古　［文化］　闇のヴェルムから光のパルトまでの７匹の悪魔のこと。また､曜魔が持つ７大属性のことで、闇、水、風、土、火、雷、光の基本属性を指す。また、曜魔は人間の７つの悪を象徴する。７は忌数であることから、これらの悪と結び付きやすい。木星を司る。　uelᴅ: 虚偽　eɥuı: 嫉妬　ɉıſcc: 肉欲　ſeeue: 怠惰　beezel: 憤怒　cluı: 傲慢　dıɥſ: 強欲　ヴァステ開戦時の住処は木星付近。

ɉɔɔᴅᴅeᴅ ［組み数字］ソームサークル、七英雄、七福神、七星　［レベル］５　⅃1 ［文化］ ɥıdıll

ɉɔɔᴅᴅelle ［娯楽］ソームメルシェ　［レベル］３　⅃1 ［文化］『ドラゴンボール』に相当するアニメ。主人公 ʅınſı lın（作中では ılſ なので lın ʅınſı）が７つの珠を集め、願いを叶えるという内容。珠を集めると ınɉɔɔᴅ という魔物が願いをかなえてくれることになっている。

ɉɔɔᴅı ［地名］ソーマの森　［レベル］６　古　［文化］　アルナ郊外にある森。森と言っているが、丘に近い。ザナ・パールとの出会いの場。

ɉɔɔᴅı(⅃) ［魔法］ソーマ　［レベル］５　制　［文化］　体質を魔法属性で説明したもの。　アルヴィナを分かりやすくしたもの。　リディアが考案した。　ソームを使うので ɉɔɔᴅı という。　＜やり方＞　ソームをヴェルムからパルトまで並べる。　左がヴェルム。右がパルト。中心はテーヴェ。　左に行くほど ucɥ が増す。　右に行くほど ɥənɔ が増す。　中央に近付くほど nɔı が増す。　＜パラメータ＞　図示すると下記のようになる。(表は＠ｗｉｋｉで)　＜特徴＞　ソームのそれぞれの特徴を挙げる。　各項目ごとに、４段階で自分が当てはまるかどうかを記入していく。　４が最も当てはまる。１はまったく当てはまらない。　＜陰 : ɑclɉ ＞　uelᴅ　長所 : 大人しい。物静か。大人びている　短所 : 暗い。鬱。引き篭もりがち。非社交的　eɥuı　長所 : 知的。冷静沈着。客観的　短所 : 冷たい。機械的。根暗　ɉıſcc　長所 : 穏やか。和み。融通が利く。安定。長生き。こだわらない　短所 : つかみどころがない。軽々しい。責任感に欠ける　＜中庸 : ɉeel ＞　ſeeue　長所 : 万能。アルマ気質　短所 : 無能。凡庸　＜陽 : ɑcɥſe ＞　beezel　長所 : 人間味がある。暖かい。人情家。やる気がある。活力がある。意欲的　短所 : 短気。イライラしやすい。おしつけがましい　cluı　長所 : 瞬発力がある。爆発的な力が出る。集中力がある。精力的　短所 : 体力や感情の起伏が激しい。キレやすい。ヴィードを消耗しやすい。長続きしない　dıɥſ　長所 : 明るい。陽気。楽観的。元気。　短所 : 躁。うざい。ヴィードがなくなっても空元気を出して倒れる。大病しやすい　＜診断＞　７項目にそれぞれ「当てはまる度」を４段階でつけてほしい。　それがあなたのパラメータだ。　陰に傾いた人、陽に傾いた人、まんべんない人、色々だろう。　陰に傾いた : ucɥ 気質。内向的で知的なローハスタイプ。外で遊ぶより中にいたい。　陽に傾いた : ɥənɔ 気質。外交的で社交的。運動も好き。　中央寄りになった : nɔı 気質。穏やか。激しい動きは好まない。人付き合いはそこそこ。あまり怒らない。　外側に１点ずつ高得点の部分があった : 中央寄りの逆。luıɥ 気質　中央と陰側に高得点があった : ɉclɑ 気質　中央と陽側に高得点があった : ſeᴅcɉ 気質　中央を中心として全体的に低かった : ıbel 気質（最低な状態）　中央を中心として全体的に高かった : hıɥᴅcſ 気質（最高な状態）　このように ɉɔɔᴅı を使うことで、ıɥucnı の８気質を表現できる。　ıɥucnı と違って火だ水だと日常的な言葉で捉えられるので、感性に訴えやすい。　しかも、同じルヴァルでもユノベースのルヴァルとヴィルベースのルヴァルの区別が、点数のおかげですぐできる。　＜陰陽距離＞　高得点が２点あり、それが陰陽に別れている場合、その人は不安定で気分屋だ。　陰陽の距離が離れるほど顕著だ。　例えば uelᴅ と dıɥſ が４点の人は最も気分屋で不安定だ。　ɉıſcc と beezel だと陰陽距離が小さいので気分屋にはあまり見えない。　高得点が陰陽どちらかに傾いていれば不安定な気分屋ではない。　たとえイライラしやすかったり神経質だったりキレやすかったりしても、気分屋とは異なる。　＜具体例＞　ɉeɥen ıɥbızıɥɑ　uelᴅ ʔ　eɥuı ⅃　ɉıſcc ⅃　ſeeue ⅃　beezel ⅃　cluı ⋔　dıɥſ ⅃（合計）1٩　高得点部分は uelᴅ（陰）と cluı（陽）。　外側に２点偏っているため、ルヴァル気質。　陽の方が微かに強いのでユノベースのルヴァル気質。　陰陽距離が４（eɥuı,ɉıſcc,ſeeue,beezel を挟む）で、高い。　気分屋で不安定傾向がある。　イルヴァが強いので､集中力があり､キレやすい。　ヴェルムが強いので、内向的で、引き篭もりやすい。　・診断　ɉeɥen ıɥbızıɥɑ は、集中力があり、先進性を持ってよく働くが、荒々しく、キレやすいことがある。　普段は明るく振舞うが、気分によって突然暗くなり、内向的で憂鬱になることがある。　＊メル 1Δ 年の時点の自己診断ではヴィルベースだったので、少し自分が変わった。　ɥcɑcı ləſcı　＊メル⅃年　uelᴅ 1　eɥuı ⅃　ɉıſcc ⋔　ſeeue ʔ　beezel ʔ　cluı ⅃　dıɥſ ʔ（合計）1Δ　ノアベースのシルフ気質。　おっとりキャラで、にこにこしていて、クリスからマスコット扱いで猫のように可愛がられていたころ。　＊メル 11 年　uelᴅ ⋔　eɥuı ⋔　ɉıſcc ⅃　ſeeue ⅃　beezel ⅃　cluı ʔ　dıɥſ ⅃（合計）1L　ヴィルベースのルヴァル気質。　思春期で恋愛と家庭と自分の身体とアルシェの仕事の悩みでノイローゼが極限だったころ。　＊メル 1L 年　uelᴅ ⅃　eɥuı ʔ　ɉıſcc ʔ　ſeeue ʔ　beezel ʔ　cluı ʔ　dıɥſ ʔ（合計）⅃0　ほぼハーミット気質。　ライバルも立て続けに退け、子供もゲットして母親になり、思春期も終わり、精神的に安定。　・診断　ɥcɑcı ləſcı は、精神的に安定しており、なんでもそつなくこなす、かなり万能な人間。　かつてミロク革命を執筆していたころの cluı は ʔ.ʅ としても良い。　それにしても彼女を見ていると、人のヴィードは人生の中で千変万化するものだと思った。　ミルフのように会ったころからほとんど変化しない人もいるので、彼女は特殊な人なのだろうと思う。　ᴅel ʅeeſɔcı　uelᴅ ʔ（思春期はずっと ⋔ だった。最近ようやく ʔ と呼べるように）　eɥuı ⋔（ずっと ⋔ のまま変わってない）　ɉıſcc ⅃（意外といい加減でひょうひょうとしている）　ſeeue ⅃　beezel 1（超やる気のない人なので）　cluı ʔ（かといって研究の瞬発力は凄いし、いきなりキレたりするので）　dıɥſ ⅃（1.ʅ が正しいと思う。昔は 1）（合計）1٩　おおむねヴィル気質。　イルヴァが高いのでキレたりする点に注意。　ルティア家に居候をしてから子供のころの性格に戻ってきた。

ɉɔɔᴅı(ʔ) ［アトラスの国家］ソーマ　［レベル］４　⅃ʔ:ɥcɑcı

ɉɔɔᴅılalɔl ［武道］悪魔懸垂　［レベル］６　1L: ７秒であげて７秒でおろす懸垂であることから　［文化］　非常に短期間で背筋と握力のつくトレーニング。セレンが思いついてはじめ、アシェット男子に広めた。体感的にはこれが８回ほどできると片手懸垂できる。意外なことに最も腕力のあるオヴィは５回しかできなかった。ザナは１回もできず、ギルはセレンと同等。恐らく一番できるだろう男子はリュウ。女子はリディア、メルともに０回。

ɉɔɔs ［動詞］ɥəl を残す、残す、余る、残る　［名詞］あまり、余り、余分、余剰、余地　［形容詞］余分な、余計な、余りの、余った　［数学］割り算の余り　［レベル］２　ɉɔɥn:ɉɔɔs　::ɑclze　［語法］　ɉɔɔs は充足量＋アルファの「アルファ」部分を指す。１０で十分なのに１２ある場合、２が ɉɔɔs となる。ɑcɑn は引いていった結果という意味。ケーキが４個あって、３個食べたら、残りは１個だが、この１個が ɑcɑn である。従って、ɉɔɔs は「余り」で、ɑcɑn は「残り」である。【用例】 ɉel ſəɥ ɉɔɔs зn. 唇が余っちゃった＝キスして

ɉɔɔl ［普通動名詞］行動、行為、動向、行い、おこない　［動詞］ɥəl を行う、行う、行動する、活動する、取り組む : ɉɔ の持って回った言い回し。［類義語］ɉɔleſ　［レベル］２　ɥɑ; ↓　1ʔ: 制 : 古 :ɉɔləə（すること）　ɉɔlə ə:ɉɔɔl: 【成句】　ɉɔɔl eſ ıɑeſ nɔɑ ɑel 習うより慣れよ　ɉɔɔl hıɉ ɥenɉ 言行一致 【用例】　ɉɔɔl czᴅ 革命を行う　ſeſ ſə eſ ɉɔɔl le ʅlcı ᴅcɥə lɑcɉ ləəſeɉ ſcɉɉe. でも彼らの人生を変えるかもしれない行いだった。

ɉɔɔlᴅcncɑ ［言語］行為無相　［レベル］５　⅃0 ［語法］　行為動詞における無相区間。開始～完了相に等しい。　動詞の無標ないし動詞＋接辞 eᴅ で示す　例 : ɉʅcn, ɉʅcneᴅ（座る）

ɉɔɔlɥəɔ ［言語］行為動詞　［レベル］４　⅃0 ［語法］　単位動詞の将然～継続相までの ʅ 相からなる区間のこと。　状態動詞に比べ、動作主の意思が表れやすく、動きも動的。　ɉʅcn（座る）が行為動詞で、ɉʅcn lı（座っている）が状態動詞。

ɉɔɔlɥecn ［言語］行為連鎖、アクションチェーン、アクションチェイン　ɥɑ;/　⅃⋔ ［語法］「＜ｘが行為・活動＞　ＣＡＵＳＥ　＜ｙが変化＞　→　＜ｙの状態＞」という図式で示される、行為・変化・結果状態という一連の行為の連鎖を示すもののこと。

ɉɔɔlın ［言語］動作主、エージェント、ａｇｅｎｔ　［レベル］６　⅃ʔ:ᴅel

ɉɔɔı ［ılben］ɉɔɔnɔ,ɉenſ,ɉeeɥe を意味するなんでも単語　［レベル］２　1L:ſe ɔlɔn:ɉɔɔnɔ,ı の短縮。ɉeeɥe,ı として ɉeeı ができたが、まもなく両者混同し、ɉɔɔı がオールラウンダーな語となった。

ɉɔen ［地名］ソエン　［経済］５００ソルト札　［レベル］２　古 :ɉɔen（できない、越えられない）［文化］　アシェルフィのすぐ北にある風の強い谷。ɥɑ ではクリスとの出会いの場。

ɉɔə ［形容詞］～君、～さん　［婉曲］男性器　［類義語］ɉın、ɑɥəɉɉɔə　［レベル］２　古 :ɑɥəɉɉɔə の略形が語源。　［語法］　→ ıdſ, eɉſ　○名（後置）　○姓（前置）　○男

ɉɔə,ɑu　lə ucʅ、彼　ɑɥəɉɉɔə.ʅ

ɉɔəɉɔə ［形容詞］～君（子供に対して）［婉曲］男性器、おちんちん　［レベル］２　1Δ

ɉe ［接頭辞］複数の意味を持つ合成語を作る　［接尾辞］人称代詞とくっついて近似複数を表す　［レベル］１　ɑ;e　古　ɉe:ɉe:ɉe,ɉz　ɉ,lſ

ɉe,ɑ　ſɔlʅ　e

ɉe,ılſ　ſə, le　<>ɉeel

ɉeſ ［動詞］ɥəl を殺す、殺す　［普通動名詞］殺害、殺傷、殺生　［類義語］ɉeɑ nene ı ɥəlın　［レベル］２　1ʔ: 制 :ɉɔſ:1ʔ: 制 : 古 :ɉeſɉɔɥn(殺さないでおく)。始め制アルカは語を減らすために、「 殺す 」「 産む 」「 作る 」「 壊す 」「 死ぬ 」「 生まれる 」「 生きる 」を全て lıɑ,lcɑ で表わそうとした。が、不具合と不合理に耐えかねて lıɑ,lcɑ を「 作る 」「 壊す 」に限定し、残

りを ɹɔʃ,ɹeʃ にした。だがこれでは「 生きる 」や「 死ぬ 」を表わすのが難しかった。生きるは ɹɔʃ–een（生まれている）、死ぬは ɹeʃ–ee だった。この不具合に耐えかねて「 生まれる 」「 生きる 」「 死ぬ 」を uəµʃ に分けた。 【成句】 ⌈ uɔµʃ ʅɔnʃ ɹeʃ ⌉ ⌈ は ⌉ を道連れにする ɹeʃ uın ɑcɹ ıɼ ぶっ殺すぞ！ ın ɹeʃ lıɑ lə. lccɒ ʃə, ın ɹeɑ ucl ınueµ le ɹcl ɔnʅ ʃeɔɒel ɑı. 僕は彼女を殺さなければならない。そうしないと永遠に続く呪いが解けないのだ（ɹeµen ıµbızıµɑ）

ɹeʃʃɔ ［言語］セット 古 ［語法］ eɹʃ

ɹeʃʃɔn ［名詞］凶器 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɹ

ɹeʃɹ ［名詞］伝統 ［形容詞］伝統的な ［副詞］伝統的に ［レベル］4 1L:ɹeɹ,ɹe ʃı 【用例】 ɔɔφiʅcoıcn ʃcl ɹeʃɹ ılnɔɑen ʔʃ0 ɹılʃ. 大垣まつりは３６０年余りの伝統を誇る。

ɹeʃɹɒcclɥın ［芸術］伝統工芸品 µɑ;/ Ɉʔ ［文化］ µɑ のころは ɹɒ までの古い道具などを指していたが、ls から見れば当然 µɑ の時代の道具も伝統工芸品に当たる。

ɹeʃɑız ［形容詞］死に値する ［レベル］4 ɈɈ

ɹeʃɥə ［代詞］［dcʅb］あなたがた、そちらさま ［レベル］1 Ɉ1:eʅeʃɔne:ɹe/ʃɥə

ɹeʃı ［歴史］歴史 ［レベル］3 1L: 制 :ɹeʃız（過去の積み重ね）【用例】 eu ı ɹeʃı 歴史に遺す

ɹeʃıʅlec ［芸術］［歴史］歴史小説 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉʔ

ɹeʃılcʃe ［名詞］史学科、史学部 ［レベル］6 µɑ;/ Ɉʔ

ɹeʃıɑılʃc ［経済］上場来高値 ［レベル］6 ɈɈ

ɹeʃıɑeµ ［経済］上場来安値 ［レベル］6 ɈɈ

ɹeʃıɑel ［歴史］歴史学、史学 ［レベル］5 µɑ;/ Ɉʔ

ɹeʃıelɑɑel ［言語］歴史言語学、通時言語学、比較言語学 ［レベル］6 1L ［語法］ リュウによって大成。３者の区別はない。

ɹeʃce ［気象］なぎ、凪 ［名詞］（nı とともに）平然とした ［動詞］ɥəl を平然とさせる、平然とさせる ［反意語］lıʃcµ、ncʅ ［レベル］3 1L:ɹeeµ/ʃceµ（静かな海）日本語の凪は「和む」と同根か。だとしたら少しアルカと感覚が違う。 【成句】 ʃcl{lıl} ɹeʃce 平静を保つ、平静を装う、腹に怒りなどを収める、ぐっと堪える

ɹeʃɔn ［名詞］相関 ［形容詞］相関的な ［レベル］4 1L:ɹeu/ʃeʃɔnı

ɹeʃe ［文末純詞］［ɒdcı］ʅɔʅ ［レベル］1 古 cchɔ（文末純詞）:::dɔn,ılʃ

ɹeʃez ［生物］ライソソーム、ライソゾーム、リソソーム ［レベル］5 µʃ;/ 細胞内で不要になったものを分解処理するための小器官であることから。 Ɉɱ

ɹeʃəʃ ［代詞］［dcʅb］あなたがたの、そちらさまの ［レベル］1 Ɉ1:eʅeʃɔne:ɹeʃɥə/ʃe

ɹeʃəl ［化学］化合物 ［レベル］4 1L

ɹeʅ ［動詞］ɥəl を無視する、無視する、シカトする ［普通動名詞］無視、シカト ［レベル］2 1ɱ: 制 :ɹɔʅ。対に見えないので解除。また、格組も使いやすく変更。 【用例】 ʃə ɑe µıʃ lel el ɹeʅ ıleɒ ʃ'ɔle. 人の気持ちを無視するのは良くない。

ɹeʅɥɔ ［名詞］連続ドラマ、連ドラ ［レベル］3 1L 【用例】 ın ɹcn ɹeʅɥɔ. 連ドラは嫌いだ。 ınɹ cn ɹeʅɥɔ ıləəʃel ʃıʃ ɹɔɔʃʃɔʅ. うちは週末には欠かさずに連ドラを見ている。

ɹeʅlɔı ［娯楽］ＭＯＰＲＧ、複数プレイヤー参加型オンラインＲＰＧ、ＭＭＯＲＰＧ。両者の区別は特にない。 ［レベル］5 ɈɈ:ɹeʅlɔılcuı

ɹeʅıɑ ［政治］連合国 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 複数の国

ɹeʅeʃ ［魔法］無効 ［レベル］5 Ɉ1:ɹeʅ/ʃe ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɹel ［生物］くちびる、唇 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɹɔµn:ləə（唇）。唇はキスを連想するのでいやらしいとして禁忌され、アルシェの唇（ɹeəʃʃ）とは別の語をとった。 ［語法］ 赤い部分のみを指す。唇の下は ıɹcɑ。唇の上は ıʃɔʅ。 【成句】 ncɹ ɹel ʅɔnʃ ɑɔʅ cnɹ 舌を巻く ʃcl ɹel ɑeɥə 口が堅い、口が固い、口が硬い 【用例】 ɹel ɒelɑc 桃色の唇。美少女の形容によく用いる。 ɹel ɥənen ʅeʃ 猫口、ねこ口、ωみたいな口、みゅん口、リディアっぽい口。 ɹel hın 分厚い唇 hɔɒ ɹel heɒel{φeʃel} 小さく口を開く

ɹelɑıcz ［医療］唇の口内炎 ［レベル］4

ɹelɑɔ ［言語］両唇音 1L

ɹelɑeɒe ［医療］口唇期 ［レベル］6 ɈɈ

ɹelµıɒ ［美容］口紅、ルージュ ［レベル］3 1ʕ: 制 : 唇の紅

ɹelµecn ［美容］リップライン ［レベル］4 Ɉ1

ɹellɔɔz ［生物］口角 ［レベル］5 1L

ɹellɔɔzɑıcz ［医療］口角炎 ［レベル］5 1L

ɹelcɹʅ ［普通動名詞］読唇 ［動詞］ɥəl（内容）を読唇する、唇の動きで ɥəl を理解する ［レベル］4 µɑ;/。唇の動きが読むべき文書の代わりとなっていることから、cɹʅ を使う。 Ɉɱ 【用例】 ın ɹelcɹʅıʃ lı lcµ eµcı. 私は彼が水を欲しがっていることを唇の動きで理解した。

ɹelcɹʅɔɒ ［名詞］読唇術 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉɱ

ɹelenʅ ［美容］編み込み ［レベル］4 Ɉ1

ɹeɹ ［名詞］過去 ［形容詞］元の、以前の ［動詞］ɥəl だった、だった。話者にとって過去であることを指す繋辞。lı ıʃ lınʃ の場合、もう綺麗ではない。lı ɹeɹ lınʃ の場合、今綺麗かどうか話者が知らない。 ［法副詞］ıʃ の代用。過去形であることを明示。軍隊では ıʃ よりもデフォルト。 ［文末純詞］～だった。「彼は青い目をしていた」の「タ」のように、話者の体験が過去であることを示す。ここで ɹeɹ を使わず単なる過去形の文にすると、彼の目はあのとき青だったが今日は黒だというような意味になる。 ［反意語］ɹcl ［レベル］1 1L: 制 :ɹeʃız（歴史） ［語法］ ɹeɹ は話者の過去の体験を指す。lı ʃcl cnɹ ɹɔµeʃ ɹeɹ のように。特にその内容が恒常的なほど ɹeɹ を使う。「夕飯はおいしかった」のように「彼は目が青かった」と違って内容が恒常的でない場合、ɹeɹ でなく ıʃ を使うこともある。ただ ıʃ の場合「今はおいしいか分からない」という含意がありうるので、誤解ないようにするためには ɹeɹ を使ったほうが無難。 【用例】 cn ɹeɹ 過去を振り返る lı ʃcl ıɒel ɹeɹ. 彼には妹がいた。「今も生きているかは知らない」という含みを出したいときは ʃclıʃ にする。 lı ıʃ lınʃ. 彼女は綺麗だった（が今は分からない）。ここを ɹeɹ にすると「今は分からない」という含みは消える。

ɹeɹʃ ［名詞］期 ［反意語］ɒeŋ ［レベル］4 古 :ɹeɒɔŋɹʃ（期）から ［語法］ ラシェットにおける期のこと。どちらかのルシーラが殺害されれば期が改まる。死なずに次のルシーラへバトンを繋げられれば、期はそのままで次の代へ行く。

ɹeɹɑılı ［名詞］バックナンバー→ lec ［レベル］6 ɈɈ

ɹeɹɒel ［言語］過去時制、過去形 ［名詞］過去 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbıle lʃ

ɹeɹlıl ［シェルト］棋譜 ［レベル］3 µɑ;「各局面を最初から最後まで集めたもの」 Ɉʔ

ɹeɹcɒı ［化学］ポリペプチド。タンパク質など。 ［レベル］5 1L

ɹeɹczhɔnɹ ［アイテム］ブリガンディン µɑ;ɹe/ɹcz/hɔnɹ「金属の板が整然と並んだ鎧」 Ɉɱ

ɹeɹcl ［遊離副詞］［形容詞］もうすぐ、もう、もうじき、そろそろ ［類義語］ ɑınʃe ［反意語］lıczı ［レベル］1 Ɉ0:ɹe ɹclɑ ［語法］ lıczı 【用例】 ın µcʅ uın c ɒɔʅʃ ɹeɹclel. そろそろ起きよう。

ɹeɹe,ɑ ɹɔu ɹeel/ɹeel

ɹen ［法副詞］～できる。可能。 ［法副詞］～する可能性がある、～しうる ［レベル］1 1L:ɹɔen（することができる）。en は古の en。 en:en::uclɔl ə,ılʃ 【用例】 ın ʅə ɹen ıµʅı. 私はアルカを話せます。

ɹen(Ɉ) ［単位］一万 lɹʅ ［レベル］2 1ɱ: 制 : 万 ɹɔn。但しこの語は使う者と使わない者に分かれていたのでなじみがあまりない。 ɹəəd:ɹen

ɹen(ʔ) ［生物］［医療］絡、絡脈 ［反意語］ʅın µɑ;<ɹen,ɹzl(ɥəəɑ).ıleʅ Ɉɱ

ɹen,ılʃ lıl

ɹenʃ ［感動詞］ありがとう ［動詞］ɥəl に感謝する、感謝する ［普通動名詞］感謝 ［レベル］1 ɹɔµn ［語法］ ɹeeµe

ɹenʃµenɹ ［名詞］謝辞 ［名詞］謝辞→ lec ［レベル］4 ɈɈ

ɹenʃı ［単位］センタ 古 : リュウのマスター原稿にコーヒーがこぼれていてこれも他の単位と同じく語源不詳。他の単位は語源が予想できたが、これは予想さえできない。完全に語源不詳。 ［語法］ 吸収された放射線のエネルギー量にその放射線の体への影響の度合いをかけたものを示す単位。

ɹenʃınʃ ［感動詞］ありがとうございます、ありがとう ［アクセント］ɹEnʃınʃ ［レベル］1 古 ［語法］ ɹeeµe 【用例】 ɹenʃınʃ ɔn{ɒın} ʃc ıʅıʃ ın. 手伝ってくれてありがとう。

ɹenʃınʃ–cɹʅıl ［俗語］ラッキースケベ、ポロリ、ＴｏＬｏｖｅる ［レベル］5 µɑ;zını ɈɈ:zını:「幸運の女神様、ごちそうさまでした」 ［文化］ 風が吹いてスカートの中が見えたとか、出会い頭にぶつかって転んで胸を揉んだとか、アイドルの水着がポロリしたとか、全般的に『ＴｏＬｏｖｅる』的なしょうもない出来事のこと。 【用例】 lınɑ ɹenʃınʃ–cɹʅılɼ ポロリもあるよ！

ɹenʃınʃcnʅı ［感動詞］［言葉遊び］どうもありがとう ［レベル］2 ʃɒ;ɹenʃınʃ と ʃcnʅı を合わせたもの 古

ɹenʃc ［料理］ボウル、鉢、火皿。料理などに使うボウル。 ［植物］鉢、鉢植え ［名詞］ボウル型のもの ［料理］どんぶり、丼、チャイナボウル ［名詞］坩堝、サラダボール、サラダボウル、いろんなものが混ざったもの、るつぼ、混合 ［レベル］3 1ɱ: 制 :lıʅʃı:ɹenʃ

ɹenʅ ［動詞］ɥəl を ı に並べる、並べる、並ぶ、揃える ［形容詞］揃った、そろった、並んだ ［形容詞］歯並びが良い ［数学］順列 ［レベル］2 1L:ɹıʅµ:1ʕ: 制 :ɹıʅɹ ［語法］ 髪を切りそろえたりするときに使う。差がないようにすることを指す。物理的には髪などで、抽象的には生徒のレベルを並べるとか肩を並べるというときに使う。 【用例】 ncı ɹenʅ 切りそろえた髪 ɑcɔ ɹenʅ 歯並びの良い歯

ɹenlın ［形容詞］ありえる ［反意語］ucllın、enlın ［レベル］2 1L

ɹenɹ ［動詞］ɥəl を漂う、漂う、ただよう、漂流する ［レベル］3 ɑu;e Ɉʔ:µcɑcı ［語法］ 水中や水面や空間を流れるようにあるいは広がるようにぬるぬると進んでいくこと。

ɹenɹuelʃ ［地学］流氷 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉʔ:µcɑcı ［文化］ 流氷は極地に見られ、極地の気温を下げ、アトラスの極地と赤道付近の温度差を高めるのに一役買っている。流氷は白いため、太陽光を反射する。また流氷下の海水に太陽熱を伝えないため、冷たい海水を維持する。流氷のおかげで冷えたままの海水は重く、海深くまで沈み、ゆっくり赤道付近に近づいていき、何千年もかけて徐々に温かい赤道付近の海で浮上する。これにより海流の循環が促進され、結果的にアトラスの気温も日較差や年較差が小さくなり、人類にとって適した環境を提供する。

ɹenɹıc,ılʃ ɹenɹee、lınlı /

ɹenɹee ［名詞］先生、教師、聖職者 ［形容詞］（後置で）～先生 ［アクセント］ɹenɹEe ［レベル］3 ɹɒ;<ɹenɹıc,ılʃ.l「教える師匠」。ɹenɹıc はカレン半島から伝わり、カテージュなど南方へ伝わってから北方へもたらされた。その過程で ıc の二重母音が ee になる方言を経たため、アルナへは ɹenɹee の語形で流入した。 Ɉɱ:µcɑcı ［語法］ → ıdʃ, eɹʃ ○名（後置） ○姓（前置） ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 lınlı は教

師だけに使うが、ȷenȷee は聖職者、すなわち僧侶、学者、医者、教師に使う。日本語の「先生」と違って先生や小説家や漫画家などには使わない。逆に教授でなくても学者には ȷenȷee を使う。

ȷennıl ［形容詞］笑える、面白い、おかしい、可笑しい ［レベル］２ 1L ［語法］ 風変わりでおかしいという悪い意味の場合は zıl。面白くて笑えるという場合は ȷennıl。

ȷennıφ ［形容詞］飲み込める ［形容詞］しっくりくる、ちょうどよく心地よい ［レベル］３ 1L ［語法］ eȷcl は快適で心地よさを伴う。ȷennıφ はしっくりきて違和感がなく、不快感のないこと。 【用例】 ʃə dcʃı eʃ ȷennıφ. この薬は飲み込める。 ☆ ʃə eʃ ȷennıφ lılʃ ın lel ın ᴅɔ˥ ᴅeȷı ᴅɔlȷın˥. 私はうつぶせになって寝るのが寝心地が良い：ᴅeȷı に注意。

ȷenuıµ ［名詞］［形容詞］透過性、透過性のある µɷ;/ Ꭻᥑ

ȷenuccɷı ［生物］［医療］絡穴 ȷzl;/ Ꭻᥑ ［文化］ １５穴ある。慢性病に用いる。

ȷenuɔ˥ ［言語］許容される文 ［レベル］５ ꓕꓕ ［語法］ ɷcᴅuɔ˥

ȷenɑıc ［名詞］［形容詞］可燃 ［レベル］３ µɷ;ȷen/ɑıc Ꭻʔ

ȷenɑɔnl ［形容詞］避けられる、仕方のある、しようのある ［レベル］３ ꓕꓕ

ȷendıȷɔl ［数学］［言語］可算 ［レベル］４ Ꭻʔ:ᴅel

ȷendıȷɔlnɔl ［数学］可算集合 ［レベル］５ Ꭻʔ:ᴅel

ȷenɥɔl ［形容詞］利用可能な、席が空いている、空きがある ［レベル］３ 1L 【用例】 ʃc ʃcl ez ȷenɥɔlȣ 部屋空いてますか？

ȷenlıȷ ［形容詞］魅力的な、可愛い、性的刺激を引き起こすような、あいばぶる、アイバブル、愛撫ａｂｌｅ ［形容詞］（女が）モテる ［レベル］４ 1L:µcɷcı:ıµbılelʃ

ȷenı ［動詞］ɥəl を声を出さずに「ふふふ」と鼻息で笑わせる、笑う ［名詞］にこにこ、ニコニコ ［類義語］nıl ［レベル］２ 1L:ᴅelcɷcı ılʃe:ȷeeµnıl 【用例】 uınφıµɷc ȷenı˥ ᴅcɑel. ヴァンガルディはふっと笑みを零した。

ȷenıuecz ［ユマナ］ニコニコ動画、ニコ動 ［レベル］４ 1L

ȷenıb ［美容］重ね塗り ［レベル］４ Ꭻ1

ȷencnɑıµ ［物理］可視光、可視光線 ［レベル］４ 1L

ȷencb ［化学］ポリフェノール ［レベル］４ 1L ［文化］ dılcl

ȷencın ［名詞］連休 ［レベル］３ µɷ;/ Ꭻᥑ

ȷeu ［言語］文章、書き物、文書、読み物、記事、アーティクル、詞、テキスト ［名詞］論文← ɥəlɑȷeu ［レベル］３ µɷ;ȷeluəȷ.lc˥ 1ʔ: 制 ȷeluəȷ:ȷeluəȷ

ȷeu˥ılə ［法律］成文法、制定法 ［反意語］ᴅı˥ılə ［レベル］４ 1L

ȷeun ［生物］組織 ［レベル］５ µʃ;ȷe/uɔln Ꭻᥑ

ȷeuᴅclɑ ［言語］文芸 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 文章の芸術

ȷeuhɔȷc ［電算］テキストファイル ［レベル］４ 1L

ȷeuheʃ ［言語］文末、文書末 ［レベル］４ ꓕꓕ

ȷeuµı ［言語］コーパス ［レベル］５ 1L:ʃelµı の類推で。文字データのＤＢ。

ȷeuµen ［電算］Ｐｅｒｌ、Ｒｕｂｙ、パール、ルビー、セヴレン、セブレン ［レベル］６ ıl;/「テキスト処理用言語」 Ꭻᥑ

ȷeuleᴅ ［音楽］楽章 1ʕ: 制

ȷeuılʃ ［普通動名詞］作文 µɷ;/ Ꭻʔ ［文化］ → nɔȷ˥µen 【用例】 ın ılʃ{ıµ} ɑıl ȷeuılʃ ɔn "eȷ ın scφıʃ ʃə ɥeȷȣ"「なぜこのコースを選んだか」について作文を書かねばならない。

ȷeuınʃce ［電算］ＸＭＬ、セヴァンティエ ［レベル］６ µɷ;/。元は文章を表示するために作られたことから。 Ꭻᥑ

ȷeuıın ［政治］連合 ［軍事］連合軍 ［レベル］４ 1L:clᴅəȷ:µcɷcı

ȷeuclᴅ ［言語］全文、文書全体 ［レベル］４ µɷ;/ Ꭻᥑ

ȷeuɔ˥ ［言語］重文 ［レベル］５ 1L

ȷeuɔln ［生物］多細胞生物 ［レベル］５ 1L

ȷeuɔȷn ［言語］文頭、文書頭 ［レベル］４ ꓕꓕ

ȷeuɔᴅ ［言語］文体 ［レベル］５ µɷ;/「文章の方法（スタイル、様式）」 Ꭻᥑ ［文化］ 文の書き方のスタイルのこと。文章全体の流れや構成、各文における語彙や構文の選定など、全体的な文章作成スタイルのこと。言語の選定や文字の選定の様式を指すこともあるため、和漢混淆文などにおける文体も ȷeuɔᴅ となる。 【用例】 ȷeuɔᴅ ledcȷ˥ın 読みづらい文体、難解な文体

ȷeueʃ ［言語］句、フレーズ ［音楽］フレーズ ［レベル］４ 1L

ȷeueµ ［人名］セヴェル ［組み数字］９／１６ ［レベル］４ ᴅelʃcı ᥑʔ:ıµɷə/eȷʃı;e 古 ［文化］ eȷʃı エスタの第９子。男。

ȷeɑ ［動詞］ɥəl を ı に渡す、渡す、送る、パスする、差し出す、差しだす、さしだす ［経済］受け渡し、受渡し、引渡し、引き渡し ［経済］［動詞］ɥəl を ı に受け渡す、受け渡す、引き渡す ［サッカー］［バスケ］パスする、パス ［類義語］ȷɔɑʃ ［反意語］ᴅcl ［レベル］１ µɷ;ȷɔɑəʃɔ.l 1ʔ: 制 : 古 :ȷɔɑəʃɔ（与えさせる） ȷɔɑəʃɔ, oıldɔ:ȷɔɑəʃɔ, oıldɔ 【用例】 ȷeɑ hcı ıl ın. 塩とって。

ȷeɑµɔᴅ ［普通動名詞］推敲 ［動詞］ɥəl を推敲する、推敲する ［レベル］４ ꓕꓕ:ȷe/ɑµɔᴅ

ȷeɑcµ ［名詞］プレゼント、贈答品、贈り物 ［動詞］ɥəl を ı に贈る、贈る、送る ［類義語］lınʃ、ɑcʃ ［アクセント］ȷeɑ€µ ［レベル］３ ˥˥<ȷzɷ;ȷɔɑəʃɔ,ɑ.˥ Ꭻʔ

ȷeᴅ ［形容詞］単純な ［反意語］lɔn ［レベル］２ 古 【用例】 µelcµ ȷeᴅ 単純な解答

ȷeᴅȷ ［名詞］部活、部活動、サークル、クラブ、同好会 ［レベル］３ 1ᥑ: 制 :ȷeᴅıcᴅ ［文化］ 会社にはないが、学校にはある。部活が始まるのは中学校から。授業後に２時間ほど行う。活動は毎日で、登校ごとに顔を出す。大学のサークル同様、必ず何らかの部活に入らなければならないというような義務はない。また、日本と違って趣味や同好会としての意味合いが強いので、出席は義務でなく、気が向いたときに行く。部員と気が合えば、第二の家のように部室に入り浸るようになる。クラスメートに比べ、同じ趣味を持っていることから惹かれあうことが多く、恋愛発生率が高い。 【用例】 ȷeᴅȷ ınʃeȷ ʃcl ᴅec ɷc. ウチのサークルは部員が多い。

ȷeᴅȷın ［名詞］部員 ［レベル］３ Ꭻ0:ᴅelcɷcı lceµ

ȷeᴅȷez ［名詞］部室 ［レベル］３ 1L:ᴅelcɷcı ılʃe

ȷeᴅucµɔ ［化学］単純タンパク質 1L:ȷeµen: 分子の多寡の問題ではないので、ueȷ や ȷe で命名すると語弊がある。ȷeᴅ がよかろう。

ȷeᴅd ［植物］エンドウ、豌豆 ［レベル］４ lıʃı

ȷeᴅl ［名詞］網の目、網目、メッシュ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ȷeelᴅelc

ȷeᴅı ［生物］古細菌、始原菌（しげんきん）や後生細菌（こうせいさいきん） 1L:ȷeᴅ（比較的単純な形をしている） ［文化］ ふつうその存在すら知らない。日本語と違って「〜細菌」という名ですらないため、ȷeᴅı と聞いてもなんのことだかという反応をする。

ȷeᴅıȷ ［名詞］書類、書面 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 紙の集まり

ȷeᴅıcᴅ ［植物］紫陽花、アジサイ、あじさい ［名詞］女同士の友人、女友達：女は群れて友達になることが多く、紫陽花のように見えることから。ふたりきりの友達でも可。 ［類義語］hıɾdn、ᴅc˥ın ［レベル］３ ˥˥;ȷeᴅıcᴅ ,ᴅɷ「水の花」 初 ınsel:ȷeᴅıcᴅ:lı ı˥əı（赤い紫陽花）lə ı˥əı（青い紫陽花）:ᴅc˥ın,ılʃ ［語法］ hıɾdn ［文化］ アルバザードで最も人気の高い花の一種。初夏に咲く。紫陽花が咲いているときに雨が降れば幸運で、最も美しく映えるとされている。日本と違って梅雨がないので、紫陽花に雨が降るシーンは日本より貴重。 なお、人気が高いので、有毒だと知らずに食べて中毒を起こす人間がアルバザードでは毎年数名いる。

ȷeᴅc˥ȷ ［音楽］合唱、クワイア、コーラス ［レベル］４ Ꭻ1

ȷeᴅcnȷı ［ユマナ］簡体字 ［レベル］５ 1L: 簡単な漢字

ȷeᴅcın ［歳時記］夏至 ［名詞］１０時 ［組み数字］１０／２４ ［レベル］３ Ꭻ0: → ınlcın ［語法］ uealcµ ［文化］ ınlcın

ȷeᴅɔ ［名詞］平均、アベレージ、平均値 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ȷeelᴅɔ（ȷeel も ᴅɔ も中心の意味）

ȷeᴅɔȷıɑ ［気象］平均気温 ［レベル］４ 1L:µcɷcı:ıµbılelʃ 【用例】 ☆ ɑcȷ ıʃ hıµʃ ᴅın ȷıɑ µı˥ ȷeᴅɔȷıɑ. 今日は平均気温を超えて暑かった。

ȷeᴅeᴅ ［名詞］単純化 ［芸術］デフォルメ ［レベル］３ 1L:µcɷcı:ıµbılelʃ

ȷeɷ ［動詞］ɥəl を c から除く、除く、のぞく、取り除く、取る、除去する、取り去る、排除する、排他する、撤去する、追い払う、追っ払う、アンインストールする、機械の設定を解除する、免ずる、免除する ［医療］摘出 ［普通動名詞］除去、アンインストール、排除、排他、撤去、免除 ［シェルト］貼り剥がす、貼り剥がす、剥がす、はがす、外す、はずす、戻す、もどす。テームスからコマを外すこと。 ［反意語］eu ［類音］ȷeɷɔ。意味も似ているので注意。 ［レベル］１ lɥ;ȷeɷɔ,ɑ.l/heᴅ 赤 : ȷeɷ,ȷeɷɔ（消す） ȷeɷɔ:ȷeɷ 【用例】 ın ȷeɷıʃ ȷıe e ɑɔnʃ. 道路を雪かきした。 ȷeµen ıµbızıµɷ @ȷeµenıµbızıµɷ ʃə eʃ beʃʃel ɑəɔ lel el ˥ə "ȷıı, dlıʃ uın ȷı ᴅɔ˥ ı" ˥ɔnʃ el ȷeɷ ȷen nıueµ uɔl ˥ə cȷʃel "ȷeɷ ᴅclc".「さ〜て寝る前に一発オナりますか」って言うとみじめだから、「精子をアンインストールする」って言い換えると心を保てる。

ȷeɷı ［形容詞］［ポジティブ］思考が柔軟な ［反意語］uelınʃe µɷ<ȷeɷı,ɑ.˥ ɑ;e（新しい） 1ʔ: 制 : 古 :ȷeɷı（新しい）

ȷeɷı,ɑ ȷıᴅ

ȷeɷcȷ ［代詞］［ıµɷen］お前たち ［レベル］１ Ꭻ0

ȷeɷcn ［代詞］［ıµɷen］お前たちの ［レベル］１ Ꭻ0

ȷeɷcıɷ ［芸術］ステンドグラス ［レベル］４ Ꭻ1:ȷe/ɷcıɷ。着色したガラスを複数組み合わせて絵にすることから。 ［文化］ アルバザードでは ȷᴅ に始まり、宮殿に光と色彩を取り入れるために作られた。豪華絢爛な ȷᴅ に栄え、戦火の及びにくい宮殿に優先的に設置された。城砦はうかつに光を取り込める設計にしておくと堅牢さが低くなってしまうためである。 遅れて ȷᴅ で教会にも取り入れられた。地球と順序が逆なので注意。ᴅʃ のころなら地球と同じ順序であったろう。 → lcc˥ı

ȷeɷɔ ［動詞］ɥəl を消す、消す、消去する、消える ［普通動名詞］消去 ［自然動名詞］消失、消滅 ［反意語］ȷɔɷ ［類音］ȷeɷ。意味も似ているので注意。 ɑ:elʃ;e 赤 :ȷeɷ,ȷeɷɔ（消す） ȷeɷɔ:ȷeɷɔ ［語法］ ȷeɷ と発音区別注意。ただし、消せるし取り除けるものというのは世の中に限られているので大丈夫だとは思う。字は消せるが取り除けない。迷うのはペンキだが、ペンキを消せもペンキを取れも同じ動作を要求しているので、大丈夫だろう。

ȷeɷɔ,ɑ ȷeɷ, ȷeɷɔ, leeu elʃ;e

ȷeɷɔ˥,ɑµɑ leeu ȷeɷɔ/˥e「消えて行く」

ȷeɷɔlɔʃȷ ［電算］デリートキー ［レベル］３ Ꭻ0

ȷeɷeȷ ［形容詞］新品の ［名詞］新品 ［反意語］leɷcȷ ［レベル］３ µɷ;ɑφn（新しい）<>ȷeɷı Ꭻʔ ［語法］ 新製品は最初は ȷıᴅ で lccɑ で ȷeɷeȷ だが、発売からまもなく売られたら ȷıᴅ で lcɑ でも leɷcȷ になる。逆に新製品が売れずに残ったら ȷeɷeȷ でも ȷcɷ や cɑc になりうる。 ȷeɷeȷ と lcɑ の違い。lccɑ は新製品が発売されてから日が浅いことを指せる。しかしその期間に売買が複数回行われたら lcɑ であっても ȷeɷeȷ から leɷcȷ になる。

ȷeɷeᴅ ［芸術］モザイク ［レベル］４ µɷ;ȷe/ıɷeᴅ Ꭻʔ ［文化］ モザイク自

体は zφ から存在した。技術が華やいだのは特に jɒ から。
jeʊeɥ ［美容］クレンジンググローション　ʝ1
jeφılɑ ［天文］銀河団 ［レベル］５　ʝ0
jed ［名詞］絹 ［レベル］３　1ɱ: 制 : 古 :jıɒelc（絹の糸）
jeducɥɔ ［化学］フィブロイン　1L
jedl ［経済］サービス ［レベル］３　1ʔ: 制 : 語源不詳 ［語法］　無形の商品のこと。無料のおまけという意味はない。
jedluenʃ ［経済］サービス業 ［レベル］４　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ
jedlıʃe ［経済］サービス店 ［レベル］４　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］　ゲームセンターやマッサージやカラオケや風俗など、代価を払ってサービスを得る場所。日本とそう変わらない。場所によって前払いか後払いか変わる。ゲームセンターは従量制で、やった回数分だけ金がかかる。ゲームマシンにアンセのリーダーがあるので、そこに読み取らせて支払うとゲームができる。マッサージなどの人が会計を応対するサービスでは、前払いか後払いかは店次第。
jedın ［料理］お麩、麩、ふ、おふ。ふすまと区別すること。 ［レベル］３　jɒ;<jedın,ılʃ<>dın,ɑu　ʝʔ　x:jedın:lı jedın:jedın,ılʃ
jedıɑ ［化学］ポリエステル ［レベル］５　1L
jedılcɑ ［天文］星団 ［レベル］５　ʝ1
jedcı ［電算］セピア、スマートフォン、スマホ、スマフォ、アイフォン、アイフォーン、Ｉｐｈｏｎｅ、エクスペリア、Ｅｘｐｅｒｉａ ［レベル］３　ʝ1:je/dcı。これ一台で電話や計算機など様々なものを携帯できることから。 ［文化］　２８５年頃に使われていたスマートフォン。地球でいうアイフォンに当たる。【用例】　ʃə eʃ led lel el ɥecınj uɔl ʃ'ıɥlı lɔn jedcı lı ʃınʃ lɔnʃ cn llel. 辞書を引き引き外でスマホを使って幻文をツイートするのは難しい。
jedejd ［気象］巻雲、絹雲（けんうん、きぬぐも）、すじ雲、はね雲、しらす雲 ［レベル］３　1L
jebıll ［化学］会合コロイド、ミセルコロイド　1L
jebɔn ［名詞］［言語］カタセシス、ダウンステップ ［形容詞］坂を弾みながら下っていくような ［名詞］下り坂をバウンドしながら落ちていく物や軌道のこと　ɥɑ;/「弾みまくる」 ʝɱ ［語法］　坂を転がるサッカーボールのように段々になりながら徐々に下降していくもの。思春期以降の人生などこれに尽きる。人生山あり谷ありなどと日本語では言うが、実際にはその山谷は下り坂の上を走っていて、山があったように見えてもどのみち昔通った高い位置から見ればその山ですら低い。人生など思春期以降は下り坂にすぎず、高くなったかのように見えても、しょせん黄金期に比べれば高くはないという真理。【成句】　lɑcj lcen ɒılʃ eʃ jebɔn. 思春期以降の人生は下り坂。
jebeıj ［化学］ポリアミド　1L
jehıəɑılʃ ［交通］玉突き事故 ［レベル］４　ʝʝ
jehɔ ［生物］骨格、スケルトン、骨の集まり、骸骨（ɒelhıɑcj、あるいは hııɑcj も） ［レベル］３　1ɬ: 制 【用例】　jehɔ ɑcɒ 華奢な骨格
jehɔdınʃ ［生物］骨格系　ɥʃ;/　ʝɱ
jehɔcncɒ ［美容］スケルトンブラシ　ʝ1
jeɥɔcn ［化学］ポリエチレン ［レベル］５　1L
jerl ［名詞］写真 ［動詞］ɥəl の写真を撮る、撮る、撮影する、撮像する ［普通動名詞］撮影、写真撮影、撮像 ［レベル］２　ɥʃ;jel.l「日々→日々を撮る」　1ʕ: 制 : 古 ［文化］　行楽の娯楽および芸術と認識されている。アンセにカメラとビデオがついているので、素人はアンセを使う。プロや愛好家になると専用のカメラを使うが、フィルムは資源の無駄なので高性能なデジカメを使う。人気がある被写体は美人か自然。よく撮れたものをＨＰで公開したりする。被写体には肖像権があるので、撮影や展示には許可が必要。【用例】　ıɥ jerl = jerl nene 写真を撮る、写す　ın cnıʃ lıl uıɑel jerl le nɔj ıɥıʃ. 撮った写真を早く見たかった。　ın jerl ʃc cɒ ʃəɥ. ın cn ʃə ɔl ʃc cɒ jcl. ın lıɒcl ıɥ ɑeɥɔɒ lını en ʃəɥ ʃeʃ jcl. 君を撮るのは今。君と見るのは未来。僕は多分、今でなく未来のためにシャッターを切っている。
jerllɔu ［娯楽］プリクラ、プリントクラブ、プリ ［レベル］４　ʝ1
jerljeɒj ［名詞］写真部 ［レベル］４　1L:ɒelcɑcı ılʃe
jerlɒılei ［企業］セルマレア　ʝ1 ［文化］　富士フィルムに相当する企業。
jerlɑılɒ ［名詞］写真立て ［レベル］３　ul;/　ʝʔ 【用例】　ın jıɒıʃ ɑɔjɒ e je rlɑılɒ. 写真立ての中見を変えた。
jerllec ［名詞］アルバム、写真集 ［レベル］３　ʝ1
jerlıɥ ［電算］カメラ、デジタルカメラ ［レベル］３　ɥʃ;/　1L ［語法］　フィルム式のものは jeljjerlıɥ。
jerlıcɑı ［天文］流星群 ［レベル］５　ʝ1
jerlɔl ［名詞］被写体 ［レベル］４　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ
jeɥ ［動詞］ɥəl を知る、知る、知っている ［感動詞］ほら、そらみたことか。jeɥɤ の形で使う。 ［レベル］１　ɑ:elʃ;e　1L: 制 :je 【用例】　ın jeɥ ejʃ ʃccl. 君の名前は知っている。　jeɥ ɔɒ jɔl lənıɤ いつバスが来るか知ってる？　ʃıl ın en jeɥ ʃə eʃ ɥıʃ ız ɥıɒ. ただ、これが良いことなのか悪いことなのかは分からない。
jeɥ(ʝ) ［人名］セレンの略称 ［組み数字］１４／２８ ［レベル］１　制
jeɥʃ ［動詞］ɥəl を制定する、制定する ［普通動名詞］制定 ［言語］制定言語アルカ、制アルカ← jeɥʃıɥlı ［レベル］４　1L:jeɥen/lıɑ
jeɥʃoen ［普通動名詞］ノブレスオブリージュ、ノブレスオブリッジ ［レベル］４　ɥɑ;/「セレンの恵み」 ʝʔ ［文化］　→ ɑcʃɑıcφ　ɥɑ でセレンが提唱した概念。持つ者は持たざる者に恵みを与えるべきだという考え方で、ɥɑ、旧革命、革命の過去３回アルバザードで熱烈に歓迎された。　セレンは救世主として巨万の富を得ていたにもかかわらず、私財をほとんど投げ打って治世に用い、自身はリディアと慎ましやかな生活を送った。この点で民衆からの尊敬を集めた。　アルバザードは偉大な指導者がいる時代ほどモラルに基づいた治世が行われてきたことから、地球に比べて比較的独裁政権（この場合は哲人政治といってもいいだろう）に対して良いイメージを持っている。むろんアトラスにも悪い独裁政権があるため、実際のところは諸刃の剣と考えられている。　革命時でなくとも、上の人間でモラリストであれば、いつの時代もノブレスオブリージュを実践する者はいた。日本と違って売名売名と叩くことがない国民性で、アルバザード人――特にトール人――はノブレスオブリージュを行う人間は素直に賞賛し、しない人間は非難するという者が多い。　・リディアがノブレスオブリージュをしない理由　セレンは寄付やボランティアなどノブレスオブリージュを実施する。それは小５の劇団の頃から始まり、２０１２年現在に至る。リディアに会う少し前からしていた。　一方リディアはセレンが寄付するたびにセレンを叱った。例えばアフリカの子供に予防接種を受けさせて生かしたとすると、「その後のその子供の食料は誰が出す。そいつらが成長してネズミみたいに子供を増やしたら誰が面倒を見る」と言って怒った。リディアはカルディア内ではノブレスオブリージュを修正資本主義などの中で絶賛し、正義としたが、地球では自分は絶対にノブレスオブリージュをしない。１０代のころセレンはなぜかと聞いたことがある。　リディアの母はエストニア人だが純血でなく、父もアジアとヨーロッパの混血児で、リディアには数え切れないほどの血が流れていた。その上エストニアで過ごさずフィンランド、フランス、トルコなど様々な国を転々としていった。　結果、どこの国に行っても外人扱いされ、居場所を見つけられなかった。セレンも日仏韓の血が入っていて子供のころは外人呼ばわりされて迫害されたので、リディアの辛さや悔しさがよく分かった。フィンランドのリディアがいたところはヘルシンキより北部で移民が少なく、からかわれたそうだ。セレンもフィンランドでご当地の子供に指差されて外人呼ばわりされたので、「あぁリディアがされた仕打ちはこれか」と理解したことがある。移民の多いフランスですら純血の白人のほうが暗黙の了解で上で、日本だともてはやされるハーフちゃんもあっちではただの雑種でしかなかった。　セレンは白人の混血児なので白人コンプレックスの強い日本では若いころモテたが、リディアは雑種扱いを受け続けて、ただでさえ引っ込み思案な性格が強調され、日本でいう中卒が最終学歴となった。　リディアは自分を拒絶した世界を恨み、自分がいていい世界を望み、その希望と空想と怨嗟がカルディアを産むまでに至った。セレンもまたリディアを理解し、リディアはセレンを最大の理解者として依存し、恋愛に至った。　世界から拒絶されたリディアは世界を恨み、誰がこの世界の人間など助けるものかと考えた。だから彼女は理想郷カルディアの人間は助けても、地球の人間は助ける気がないのだ。それを聞いた１０代のセレンは納得し、その後時折同じ質問を２０代で繰り返し、同じ答えを受け、そのたびごとにリディアの気持ちを理解していった。リディアは矛盾した行動をしているわけではない。彼女は「世界から拒絶された人間は世界を拒絶していい」と述べ、地球は助けずカルディアは助けた。　セレンらは紫亞がお嬢様であることを鼻にかけないようウチは貧乏だと騙してきたが、２０１２年になると５歳の紫亞は自分の家が裕福であることにいい加減気付いた。リディアが隠すのが苦手な性格で、言葉の端々から自分の家が裕福であることに気付けたからだ。　セレンらは紫亞に修正資本主義などの正義を植え付けていたが、紫亞はセレンに「じゃあお父様とお母さんはノブレスオブリージュをしているの？」と聞かれ、返答に困った。結局１週間ほどかけてゆっくりとセレンがノブレスオブリージュをしていること、リディアは上記の理由でしないことなどを説明していった。リディアは矛盾しているわけでないということを一生懸命説明した。紫亞はどうやら理解してくれたようだ。
jeɥʃıɥlı ［言語］制アルカ、制定言語アルカ ［レベル］４　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ
jeɥʃcɑ ［形容詞］清貧な ［名詞］清貧 ［レベル］４　ɥɑ;/「セレンのようにつつましやかな」 ʝʔ ［語法］　金はあるが普段無駄遣いはせず、研究関連などここぞというときに大枚を叩くタイプの清貧。
jeɥʃcı ［アイテム］セルティア ［レベル］４　ɥcɑcı: 古 :「沈黙を愛する」 ［文化］　ヴァストリアの１つ。クミールのもつ大鎌。カルザスは悪魔フレスティアを倒したときにフレスティアを剣で刺した。しかしフレスティアの霊力に負けた剣は耐え切れずに湾曲してしまう。それでも何とかフレスティアを倒したその剣はカルザスの家宝として大切にされた。ただ、剣はもう曲がってしまっているのでカルザスはそれを大鎌として扱い、セルティアと名付けた。セルティアは ɥɑ になるとクミールの手に渡る。セルティアはヴァルマと並ぶクミールの武器で、彼女は両者を同時に振るう。
jeɥl ［医療］カタルシス ［レベル］５　1ʔ: 制 : 古 :Δ:ɔuc:jeɥenləıl
jeɥllcʃ ［動詞］照れ隠しして ɥəl を悪く評価する ［普通動名詞］照れ隠し、てれかくし ［レベル］４　1L:llccz:jeɥen/llcʃ
jeɥllɔj ［普通動名詞］針小棒大 ［レベル］４　ʝʝ:jeɥen/llɔj
jeɥlɔlɒ ［政治］［哲学］司民制、しみんせい ［レベル］４　ls:jeɥen;jeɥen/lɔlɒ。司とは民のルシーラであるセレンで、民とは国民のこと。セレンが革命で副王や王族を廃止せずに権力の座に就いたので、ɑıcz（王）や ıjʃeɥ（副王）に代わる ɥjcclı（司）の字を用いた。　ʝɱ ［文化］　→ lejʃcɒccɥ, jeɥıln, beɥcl　政治思想のひとつ。ls でセレンが提唱し実施した政治制度。直接民主制と独裁制を合わせたハイブリッドな政治思想・制度のこと。直接民主制の持つ「民意を直接反映できる」「一人による独裁を防ぐことができる」というメリットと、独裁制の持つ「衆愚政治を防ぐことができる」「有事の際に迅速な判断が下せる」「意見がバラバラになりすぎてまとまらないときに話をまとめることができる」というメリットを組み合わせたシステムである。　ls では人工知能ミール・レスティミールの補助で実現しているが、ミールに当たる人工知能さえあればレスティミールの部分はこれまでどおり人間にやらせても機能するとセレンは考えていた。実際、革命

後のアルバザードでは何かのトラブルが生じてレスティミールが機能しなくなった場合はアンミールに国を動かさせるようにしているので、レスティミールがなくとも司民制は実現可能である。　セレンは司民制を最も優れた政治制度と評した。　　司民制とは日常で例えて言えば、家族一人ひとりの意見を家長が聞いて、それを基に時折自分の独裁を交えるというような家庭の国家版のようなものである。ふだんは家族の多数決で決めるが、いざというときは家長がある程度独裁を振るうというやり方で、一般家庭に見られる制度である。　一般家庭ではたいていどの家庭でもこのように多数決と家のトップの独裁とが混ざり合っている。示し合わせたわけでもないのにどの家庭でもたいていこのシステムを取るということは、人間集団が物事を決めようとしていくと自然と行き着くシステムがこのやり方なのだろう。ただ何億人という人口がいる国単位で同じ事をやろうとすると意見がバラバラになりすぎる以前に数が多すぎて集計が追いつかずに実施できない。だがそれを可能にしてしまうミールというシステムさえあれば、司民制は実現可能なのである。
司民制における国家元首は国王であるが、これは象徴であり、最高権力者は司月（しづく）ɥjcclı と呼ばれる。正確には ɥjcclı ʃ'ıɥbızı ɥɑ だが、通常 ɥjcclı と呼ばれる。　セレンは転生しても結局ルシーラになるという、生粋のルシーラなのだろう。王にはならず、副王にもならず、やはりまた彼はルシーラの道を選んだのである。　　・
司民制と衆愚政治　　司民制は独裁制と直接民主制のハイブリッドであるため、直接民主制の要素を持つ。直接民主制は地球では１８世紀まで旺盛で、しばしば衆愚政治になる恐れを指摘されてきた。
　直接民主制の問題点はいくつかある。マイノリティの意見が反映されないこと。皆の意見を集めると意見が多すぎて収集がつかないこと。衆愚政治に陥ることなどである。また現役世代は引退世代より忙しく時間がないため政治に参加する時間がなく、シルバーマジョリティが間接民主制より更に強くなってしまうのも少子高齢化社会では問題である。　これらについて司民制はどう対応しているか。
　まず人工知能ミールはマイノリティの意見を強調し、マジョリティの意見を低める機能があり、マイノリティの意見を殺さないような機能が付加されている。そのため、司民制においては完全に一人が一票を持っているわけでないと言える。自分が投じた政策や法案に応じて自分の一票が１を切ることもあれば１を上回ることもあるというわけである。シルバーマジョリティの問題についても同様の処理で、あまりひとつの世代の意見が強すぎるとその民意は抑えられるようにできているので、この問題もクリアできる。　次に、ミールはインターネットを使いコンピュータで意見の収集・処理を行うため、アルバザード人全員が投票をしても処理が可能であり、収集がつかなくなることはない。これは地球でも十分再現しうるレベルである。　最後に衆愚政治であるが、これは国民一人ひとりの民度を底上げすることが重要であり、これについては beɥcl の項を読めばいかに革命が民度を重要視しているか分かる。アルバザードは衆愚をできるだけ作らせない。そして衆愚枠と判定された者の意見はミールによって一票が与えられず、小数点の意見に抑えられる。このため、衆愚政治に陥るリスクも低く抑えられている。

jeɥʅəɔ　［医療］汚言症、チック症、トゥーレット症候群　［レベル］5　1Δ:ɥcɑcı:ʅəɔ e jeɥen

jeɥj　［動詞］ɥəl してあげる　［レベル］2　古 :jɔ ɥən jeɥen jɔ ɑccnı ɒel　［語法］ → jɔlj　使役動詞。jeɥj は使役者が被使役者に行為をしてやり、被使役者は大人しくしているという意味を持つ。【用例】 lııl jeɥj ıʃ nɔc jıb lcjen. 母親が息子に靴下を履かせていた：母親が実際には履かせている。子供はなかば傍観。

jeɥjıdcı　［医療］被害妄想　［類義語］uıʃcnjıdcı　［レベル］4　ɥɑ;jeɥen/jıdcı jj

jeɥn　［動詞］ɥəl を発想する、発想する、思い付く、思いつく、創造する　［名詞］発想、アイディア、創造力、発想力　［形容詞］（jeɥnın で）創造するような、クリエイティブな　［レベル］3　1ɑ: 制 : 古 :jeɥlɔ【成句】 jeɥn ʅien lɔnɑ 夢の中の知恵：下衆の後知恵。寝てから思いついても遅いことをからかっている。　jeɥn c jeʃı 温故知新

jeɥnı　［名詞］感性、センス　［類義語］ını　［レベル］3　ɥɑ;/「セレンの心」 jʔ x:x:lə jeɥnı:jelənı　［語法］［文化］ ɥɑ まで「感性」に当たる概念はなかった。ɥɑ のセレンは少年期こそ英雄気取りで万人を救っていたが、思春期になると人間は等しく救われるべき生き物なのかという悩みに直面した。セレンはアルシェやアシェットのルシーラとして人々を魔族などの外敵から救う義務があった。しかし人間の汚い部分を見て育ったセレンは、人間は全て等しく救われるべきかと悩んだ。悪人やクズは死なせても構わないどころかむしろそのほうが良いのではないかと悩んだ。その結果、善人を優先して守るようになったが、誰が善人で誰が悪人か戦場ではとっさに判断できないことに悩んだ。　セレンは少年期は人を守れず死なせてしまったら罪悪感を覚えていたが、思春期にこの考えになって以来、守れなかったのが悪人であれば別に構わないと思うようになり、博愛の英雄という精神を捨てた。　やがて青年期になると、今度はさらに世界が狭くなった。彼は自分の愛する人間や周囲の人間さえ守れれば、後は守れても守れなくても結果オーライだと考えるようになっていった。これは大人になる過程で助けられなかった人の遺族に責められたり、無茶な要求を民衆からされたり、無知で無責任な愚民どもを数多く見てきたためである。セレンは民衆の多くは下らない生き物だとみなし、本当に体を張ってまで助ける価値があるのかと考えだした。　セレンはこのことを何度もリディアと話し合った。セレンと同じく生真面目なリディアもセレンに呼応し、同じような思想を持っていることを打ち明け、二人の仲はより強固になっていった。彼らが出した結論は、「個人的には愚民は守りたくないが、民衆を守ることで自分たちの暮らしが保証されている以上、これが自分たちの仕事で使命なのだから、嫌でも守らねばならないだろう。ただし悪人であれば見捨てたほうが世のためではないか」というものだった。　一方、糞真面目に考えるセレンやリディアを斜に構えて皮肉げに見るメルにセレンは苛立ちを覚えており、それがセレンがメルを愛人止まりにしていた理由のひとつとされる。　メルは幼少期は不幸な生い立ちにもかかわらずひたむきな少女で献身的に人助けをしたが、７歳頃から性格が歪みだし、思春期までは人嫌いで、積極的に民衆を助けようとせず、愛するセレンの助力を戦場でしようとしかしなかった。ルシアたちの誕生後は性格が丸くなったが、怠惰でシニカルな部分が強調され、「民衆なんて放っておいて助かるなら助かる、死ぬなら死ねでいい。興味がない」と悩みもせずに言った。
　セレンとリディアは「民衆が下劣であるなら助けなくてもやむをえない。悪ならむしろ戦禍に巻き込んだほうが正義だ」と主張した。そして「メルの考えには正義感がない」と主張した。これに対してメルは「正義感なんてないほうがいいと思ってる」と主張し、セレンに「お前の考え方は幼稚で苦労知らずだ」と言われた。メルはこの主張を皮肉げに嗤い、この態度にセレンらは立腹し、メルは孤立した。セレンに気に入られたいメルはこのときの自分の態度を失策だったと後に嘆いた。　２５～３０歳ごろになるとセレンはアルカの広まりとは反比例して、リディアらとの狭い世界に閉じこもるのが好きになっていった。セレンはこの頃辞書やアルカを使ったコンテンツの執筆に忙しく、学問と芸術を両立させていた。　セレンは自分の作品の芸術性を人に認めてもらいたがっていた。アルカが広まることよりも自身の作品の芸術性を認められること、自分の心の機微を評価されることに価値を置いていた。セレンに気に入られたいメルは「自分はこういう作品の良さがよく分からないが、こういう作品を書ける心の綺麗な人は好きになれる」と言い、譲歩を示した。一方リディアはセレンの芸術性に共感できるタイプの人間だったため、心の底からセレンの作品の芸術性を褒め、セレンの心が繊細で綺麗で感受性が強く心の機微が分かる人だと言って賞賛した。このことがセレンをよりリディアに強く惹きつけることとなった。　このときわずか ʃcnı だった娘のルシアはセレンに似て繊細で感受性が高く、また知性については異常なほどに高かった。ルシアは父の芸術性を受け入れ、賞賛した。これによりルシアはセレンの寵児となるも、ユルトは芸術性を解すほどの知性がなく、娘ほど父親に愛されなかった。　セレンは自分の作品の芸術性を理解できる人間は心の機微が分かる人間で、彼らには生きる価値があると考えるようになっていった。逆にそういったものを解さない人間には生きる価値がないと考えるようになっていった。なので本音を言えば心ない人間とは付き合いたくなかったし守りもしたくなかったが、救世主として彼らを放置するわけにはいかないという難しい立場にいた。なお、セレンは心の機微が分からずとも何かしらの使命を持って生きている人間は尊重していたため、芸術性とは無関係に使命を持って生きる人間のことは尊重していた。　３１歳になると彼は心の機微の分かる人間とそうでない人間の間は何が違うのだろうと考え、後者には何かが欠けているのだと考えるようになった。そしてそれに「自分の心のようなもの」という意味を込めて感性 (jeɥnı) という名を与えた。セレンは自分の作品の芸術性を至高の価値観と捉えていたが、その一方で自分は解せないが他人には解せる価値観があることにも気付いていていた。そのため人には人それぞれの感性があるのではないかと考えた。だがその一方でなんら感性を持たない無機質な人間がいることも知り、これらの人間を心がないと言って見下した。　こうして感性という概念がカルディアに生まれた。jeɥnı はある作品の芸術性を解することができる能力を主に意味する。　　ul のミロクや ls のセレンも感受性の強い芸術家肌の人間で、感性の有無や共感を気にした。ミロクやセレンは感性のない人間を見下したし、自分と同じ感性の人間を特に重用した。　彼ら偉大な革命家の影響を受け、アルバザードの民衆も感性のある人間のほうが上等な人間だと思うようになっていった。しかしセレンはそんな民衆の成長を見ながら、民衆というものは既に出来上がった作品や力にしか頭を垂れないと知り、つくづく愚かな生き物だとかえって心の底では見下すようになっていった。結果セレンは自分が力を持っていない時代から自分の感性を受け入れてくれた人間しか信用しないようになっていった。　　・セレンの外人嫌いと英語嫌い　　現実のセレンは外人が嫌いで、特にアメリカ人と中国人を嫌う。アジア人はおしなべて中立だが白人は嫌いで、黒人は正直そもそも人類でなくゴリラなどの動物に近いと思っている。黒人差別は単にアシェットに黒人がいなかったことが理由だろう。白人や黒人が嫌いな理由は下記の通りだが、ついでに言えば無条件で自分たちよりガタイが良いのが多くて喧嘩が強いのがムカつくという理由も強い。白人も黒人もデカくて動物的で男はウザいし女は女に見えない。特に黒人に至っては男女の区別は猫より難しい。あとセレンの生きていた時代が白人マンセー主義の時代で、それに対する反骨精神というのもあったと思う。　欧米ではアメリカ人、アジアでは中国人を嫌う。どちらも力を振りかざす強国で、権威を見ると反骨精神が湧くセレンにとっては無条件で敵愾心を抱く対象だった。　また言語では英語と中国語を履修したにもかかわらず、この２ヶ国語を最も嫌う。英語と中国語はセレンにとって蛮族語で、動物の鳴き声程度にしか思っていない。　この理由をセレンは内省した。理由は２つあった。１つは英中が力を振りかざすことに対する反骨精神。もうひとつは英中語が位相表現の少ない言語であること。　セレンは至高の芸術言語であるアルカをゼロから構築しただけあって、言語に芸術性を求める傾向にあった。日韓は位相表現が細かく、言葉だけで細かいキャラ性を演じ分けられたり、細かい心の機微を表現できる。ところが英中などにはそれがない。つまり英中に翻訳した時点でアルカの長所やエッセンスである豊かな位相表現が死んでしまう。ということは英中で紹介した時点で相手はアルカの良さを理解できない。言い換えればセレンの感性を理解できない。だからだ。だからセレンは英中を始め外人が嫌いなのだ。アシェットの人間は好きでも韓国など一部の国を除いて外人が嫌いなのは、自分の感性が言語レベルで理解されないと分かっているからだ。アシェットはそもそもアルカを用いるので感性が通じる。だから仲間のことは好きになれる。だが他の外人どもは違う。日本語やアルカが分かればまだしも、そうでない外人は好きになれない。はじめから相手に自分の感性を拒絶されている状態がスタートラインだからだ。だからセレンは外人や外国が基本的に嫌いで、特に米中が嫌いなのだ。　つまりセレンは

勝手に外人に対して自分の感性や価値観を拒絶され攻撃されたと思って被害妄想を抱いているわけで、自己中なことに復讐どころか予讐をしているわけだ。それがセレンのキセノフォビアの正体で、あれは自分の感性が受け入れられないことへの憤りや怒りであって、外人のことがどうこうとは思っていないわけだ。そう、実際セレンは感性さえ理解されれば、相手の言語も国籍も民族も肌の色も宗教も文化の違いも気にしない。領土問題などにも関心がないし、侵略の歴史にも興味がない。もしこれを読んでいるあなたが外人だとしても、これを読んでいるということはアルカに興味を持ったわけだから、その時点であなたは私の敵ではない。セレンにとっては自分の感性を理解する外人であれば無条件で味方で、そうでなければ敵というだけで、それは日本人に対しても同様だ。ただ日本語を操る日本人たちは比較的アルカの良さが分かる環境にあるので頻度的に外人に比べて味方が多いというだけだ。これといって外人が嫌いで日本人が好きというわけではなく、単に自分の感性が理解されやすいか否かで大雑把に外人嫌いと述べているにすぎない。なので感性さえ理解されれば外人でも普通に好きになるし、逆に心の機微が分からない日本人は嫌いになる。そういうわけで、確率的なことを言えば親日派な外人は自分の作品を理解する確率が高いので比較的嫌でない。　現実のセレンは自分の感性が心の綺麗なものだと考えており、面白いものや笑えるものや熱くなれるものや楽しいといったたぐいのものではないと考えている。心が綺麗だとか繊細だとか感受性が強いと言われることを最も好む。その価値観を共有できる人間と、あとは何かしらの使命を持って生きる人間にだけ、セレンは生きる価値があると思っており、そうでない人間はどうでもいいと思っており、逆にこちらの価値観を否定してくる人間はむしろ心ない人間で忌むべき存在だと思っている。セレンは他人に対してはこの３パターンの感情しか持ち合わせていない。つまり味方か無関係か敵かだ。そして味方なはずの人間が味方らしからぬ性質を持っていることに人生中何度か苦しめられてきた。　セレンはしばしば偽悪的だが、感性を理解されない孤独感から自分の感性を攻撃されたという被害妄想を抱くと、世間に対する恨みを発露するために周囲の人間に対して閉鎖的で冷たくなる。そんなときは自分の感性を認めてくれる人間——例えばリディアのような人間——しか人間扱いしなくなる。

ɉeµnill ［名詞］創意工夫　［レベル］４　ʝʝ

ɉeµniize ［名詞］［ポジティブ］正義の怒り、義憤、私憤、セルナーゼ ［レベル］４　µɑ;/「セレンの怒り」 ʝʔ ［語法］［文化］ アルバザード人が考える美徳のひとつ。唯一怒りという負の感情の中で好意的に捉えられるもの。　µɑ の時代にできた美徳で、セレンとリディア、特にセレンが義憤に富んだ人間であったことから生まれた言葉。セレンは子供のころから自分とは関係のない理不尽なことに対して非常に攻撃的な態度を取っていた。　セレンは一部の層の女性から献身的にモテるタイプの男性で、女性遍歴も多く、モテるかモテないかで言えばモテる側の人間であった。広く浅くモテず、深く狭くモテるタイプといったところか。ただ、見た目が良かったこともあり、若い頃は特に大勢の少女からキャーキャーと騒がれることがたびたびあった。ではなぜ広く浅くモテなかったのかというと、性格に難があって付き合いづらかったためである。　モテるかモテないかでいえばモテる側なわけだから、どちらかといえば女に好意的なはずだが、セレンはブサイクや運動音痴や勉強のできないダメな男子を馬鹿にする女をひどく嫌悪して攻撃してきた。自分はその３点に関して真逆であったにもかかわらず、自分に一切害がないどころかむしろ自分は逆の待遇を受けていたにもかかわらず、そういった女子に強大な義憤を抱いていた。そしてそういった男を値踏みするような差別をしない優しい少女リディアに好意を抱いた。　また、青年期になると自分たちは救世主やフロンティアとして崇められ、人々から厚遇を受けることとなった。にもかかわらずセレンは格差社会に不満を抱き、底辺で生きる人間や虐げられる人間がいること、また、権威を振りかざし高給を貪る貴族どもがはびこっていることに強烈な怒りを覚えた。　このように、セレンは自分の境遇とは全く関係ないにもかかわらず、自分の正義感に忠実で、悪だとみなしたものには徹底的に敵対心をあらわにした。「持つものであるにもかかわらず、持つものを忌み、持たざるものを憂う」という彼の性格が当時のアトラスの人々の心を打ち、救世主の地位を不動のものにした。　しかしセレン自身は自分が義憤を抱いて気疲れすることを厭っていた。もう少し楽に生きられればなと考えて悩むこともあった。だが強い正義感から生じる義憤は抑えることができなかった。　セレンの特徴は自分に関係あることとないこと、これら両方に対し、同じ程度に悪であれば同じ程度に怒りを覚えることができる点であった。民衆はセレンのこの性格を尊敬し、セレンは自分のこの種の怒りに ɉeµniize という語を与えた。　なお、義憤は女性より男性が持つべき感情とされ、アルバザードでは義憤を持ち合わせる男性はしばしばモテる。女性であまり義憤が強いと女子としての愛嬌は薄く可愛げがないとみられることがある。むしろ女性は義憤に溢れる男性に惚れ、その彼を支えるような者が好ましいと考えれている。　・現実では　上の話は現実のセレンの性格をそのまま反映したものである。セレンは義憤を抱く人間を本当に正義感の強い人間だと考えた。自分に関係あることしか怒れないのはただのクズ。自分の利益にならないことでも正義感に照らし合わせて怒ることができて初めて義憤と言える。　自分に火の粉が降りかかったときだけ怒り出すとかマジ小者。それならまだ常に怒りを見せないほうがいっそ潔い。自分にとって不利なときだけ怒るとか醜すぎる。価値としては、義憤を持つ人間が一番上等。人の為に怒ったり泣いたりできる人間が一番上等。次に、一切怒らない代わりに正義感も持ち合わせない人間がまずまず。そして自分に関係あることにだけ怒る者はゲスだ。　セレンやリディアはこの考え方で生きてきた。セレンの正義感の強さはアシェットでも有名だが、同時にセレンは祖母譲りの偽悪的な要素も強く持っていたため、アシェットでさえ彼を深く理解する者は少なく、彼の真の理解者はほぼリディアしかいなかった。なお、リディアやメルはセレンのそういう部分に強く惹かれ、特にその要素が強かった上福時代を最高にカッコいいと感じていたそうだ。　セレンの経験では、日本人には義憤を抱く人間が少ない気がする。特に最近の若い世代ほど、あるいは精神が幼いほどその傾向にある。　今までに酷い手のひら返しを幾度となく見てきた。例えば他人が病気のときには「別にこれくらい大丈夫でしょ」と平然な顔をしているくせに、自分の場合は風邪程度で大騒ぎするとか。ほかに、前にこんなこともあった。セレンが児童虐待で子供を殺した母親の手口が酷く、それにより憤っていたところ、「そんなことよくあるし、いちいち怒っても仕方ない」と言い放った男がいた。自分には子供もおらず、一切関係ない話だからだろう。その証拠に、自分に関係ある話——あるとき漢方が保険の対象外になりかけたとき——などには、自分が漢方を重用しているものだから途端に大騒ぎして政府批判をしだし、周りに署名運動まで求めていた。セレンはこの手のひら返しを見て彼には義憤がないと大いに呆れた。普段から彼が自分に関係ないことでもきちんと悪いものは悪いと怒りをあらわにしていたら彼には正義があると思えたのだが、まったくそう思えないほどの手のひら返しだった。しかも彼が社会的には高い立場にいて民衆を支配する側にいるという事実が更にセレンを苛立たせた。　そんなことがよくあり、セレンは上に立つ人間ほど人徳を備えていなければならないと改めて強く思い、リディアと話し合った。アルバザードで上の学校に入るには人徳も兼ね揃えてなければならないという設定はこの経験から来ている。徳育の施されていないお勉強ばかりできる秀才君が支配者層としてはびこる国は早晩滅ぶ。セレンは常々リディアとそのように話し、アルバザードを正しい方向に導こうとしている。　・正義がぶつかるとき　セレンは強く信念を抱いていたが、同時に他人には他人の正義があるということも理解していた。µɑ ではアシェット、現実ではアシェットやヴァールといった幼馴染と喧々諤々の議論を繰り返してきた過程で、自分の思う以外の正義があることも知った。　だからセレンは正義が正義とぶつかったときは、相手には相手の正義があると尊重することにしている。リディアは自分の正義を絶対の正義として押し付けるきらいがあるのでどうにもアシェットからすら嫌われる部分があるのだが、セレンは正義と正義がぶつかった場合は「お前はお前の信じた道をゆけ。俺は俺の信じた道をゆく。それでいいだろう」と言うので、基本的に衝突しない。むしろ自分とは違う考えであろうと、きちんと自分なりの正義を持っている人間のことは心の底で軽く尊敬すらしている節がある。敵ながらあっぱれといった感覚であろうか。　むしろセレンが許せないのは正義感のないふにゃふにゃした野郎だ。まして正義感もないくせに無駄に正義感のある人間に反抗するような頑固な態度を見せると、「ロクに普段物事も考えてないくせに生意気な」と思う。自分の確固たる正義も持ち合わせていないくせに生意気に他人の正義にだけはケチを付けるような小者は男気がないと考えている。そういう輩には苦労をさせて人生経験を積ませるべきだと思うのだが、えてして現代日本では苦労知らずに育った人間はそのまま楽なレールの上を歩けることが多いので、きっとこいつは成長しないんだろうなぁと思って残念に思う。　面白いことに、この手の軟弱男はほぼ必ず女にモテない。それはアルバザードだけでなく日本でもだ。すべての女がそういうわけではないが、おしなべて女というのはどうも無機質な理系気質のオタクより、やや血の気の荒い熱血漢のほうに付いていく習性が本能的にあるようだ。

ɉeµuin ［言語］カリグラフィー、書道　［レベル］４　ʝ0:ɉeeµ/luin（静かなる瞑想）［文化］ µɑ でセレンが興した。

ɉeµueµinʃ ［医療］自己愛性パーソナリティ障害、自己愛性人格障害、誇大癖　［類音］ɉecueµinʃ　［レベル］５　ul;ɉeµen/ueµinʃ　ʝʔ:ɒel ［文化］ ʝʔ までセレンは自分がこれの診断基準にすべて当てはまると思っていた。００年代には実際にいくつかの診断基準が当てはまったようにも思う。　ʝʃ にリディアとメルがセレンの心は「コア、内壁、外壁」の３層からなると言った。コアは白で、内壁は偽悪的で黒で自己愛があり、外壁はまた逆に白になると述べた。内壁を知っているのは仲間や元妻や友人などで、コアを知っているのはリディアとメルしかいないと述べた。　リディアは日本人的謙遜で自分を何らかの障害と称したのではないかと言い、メルは厨二病的に病気な俺かっこいいと思ったのではないかと言った。　セレンのコアには自己愛がないと言われ、自己診断を細かく行った。今までは大雑把に診断基準にチェックを入れていたが、まじめに考えてちゃんと基準を見ると、診断基準にしっかり当てはまっているものはひとつもないことが分かった。　これにより、現実にはセレンは自己愛性人格障害ではないことが分かった。ただし内壁のみを見るとそのようにも見えることから、自己愛的にわざと振る舞うことはあるようだということが分かった。　むしろセレンはどちらかというと自己愛からは遠く、アルカ愛が激しい。もし自己愛なら自己が一番大事なわけだが、セレンのヒエラルキーでは最も優先されるものはアルカである。というのも、自分という存在は「アルカをやる最も使える道具」という認識だからである。自分はアルカに奉仕をする最も使える道具でしかなく、人間の価値を測るときも「いかにアルカに貢献するか」でしか測らない。自分はアルカに貢献しているから生きてていい存在だという認識をしており、他人に対してもアルカに使えれば生きていて良いとしか思っていない。そこには自己も他者もない。自己も他者も同等で、どちらもアルカの神から見たら駒のひとつでしかない。そこに自我が挟まる余地がないのだ。自分は自我のない駒のひとつでしかなく、ただアルカをやらせるのに最も好都合な道具なので重宝しているというだけでしかないのだ。　このような人間が、このような——自分の自我すら認めず駒扱いして自己の幸福を度外視するような人間が——はたして自己愛と呼べるだろうか。言えないどころか、むしろ自己愛とは程遠い。むしろアルカ愛であり、自己は逆に犠牲にされている。自己は少しも大切にされず、愛されていない。　セレンはいかに自分が自分を思った以上に大切にしていないかを知り、アルカへの一方的な奉仕人形であるかを知った。これにより自分が自己愛性人格障害でないことを悟ったとともに、強いて言えばアルカ愛性人格障害ともいうべきものだということを理解した。これは中世の神学者の神への愛などに近いのではないか。あるいは近代科学者や研究者の自己の研究に注ぐ心血に近いのではないだろうか。そう考えるとセレンは根っからの研究者なのである。

jeμuel ［形容詞］偽悪的な ［名詞］偽悪 ［レベル］4　μɷ;jeμen/uelnıμ「セレンのような悪」 Jʔ ［語法］［文化］ → jeμnı　口では普段悪党のようなことを言っているが、有事の際にはついつい人助けをしてしまう甘い人間のことで、絵に描いたようにセレンにドストライクで当てはまる人間のこと。セレンは子供の頃からこのタイプで、この性格のせいでだいぶ損をしてきた。セレンは悪だと思われることも善だと思われることも面白がって好むが、自分が偽悪的な人間であることを見抜かれると相手を畏怖するとともに好意を抱く。今までセレンが悪でなく偽悪だと見抜いたのは母親とリディアとリーザとメルと学生時代の嫁だけであり、不思議と全員女性である。

jeμɑ ［普通動名詞］プロデュース ［レベル］5　μɷ;jeμ/ɑıȷ。セレンが得意とした業務であったことから。ɷcıɑ と語源的には一緒。　Jɱ

jeμɑμen ［名詞］金は汚い、お金は汚いもの、嫌拝金主義、嫌儲け主義、嫌儲、けんちょ、けんもう、いやもう、いやちょ、いやもうけ ［形容詞］嫌儲な　μɷ;jeμ/ɑμenlen「セレンのように清貧な」 Jʔ ［語法］［文化］
　日本語の嫌儲より意味が広く、お金は汚いものと考える思想のこと。儲けることを悪と考え、運営や生活に最低限必要な程度に利益を出すことに正義と善を見出す態度のこと。収支ゼロどころか身銭を切ってマイナスになる啓蒙活動などはさらに高尚・善行とみなされる。μɷ や ls のセレンがこのタイプの人間であったことから徳としてアルバザードに広まった。一般に、善なるアルバザード人ほど拝金主義を嫌う。　　・現実では　　子供のころからセレンは親に「金は汚い」「武士は食わねど高楊枝」と仕込まれてきた。思春期になって金持ちを見ていて、納得がいった。　例えばセレンは巨万の富があれば孤児院を建てて食えない者を助けたり、売れない学者や芸術家を保護したいと子供のころから考えてきたが、そういう考えを持った人間にほど金というのは集まらないものである。六本木の億ションを平然と買って持たざる者を搾取するような汚い人間のほうが金に愛されるという現実をこの目で見てきた。　そういう金持ちを見てきたセレンは、金持ちは汚いと思うようになった。金は汚いという考え方が既にあったので、「あ、そうか。これは類は友を呼ぶなんだ」と理解した。つまり金は汚いから、汚い人間のところに集まる。だから自分のように人助けをしたいと思っているような人間のところにこそ優先的にやってこないのだなぁと理解した。　そのままセレンは大人になり、父と同じように自分も娘に同じ考えを植えつけた。娘は従順に洗脳され、５歳の段階で既に金は汚いという考えを持つようになった。実際娘は物を欲しがらず、飽食をせず、清貧を尊ぶ。そしてその自分を５歳にして既に誇り、自尊心を持っているようで、父親としては娘が誇らしい限りである。 【成句】 jeμɑμenen nɔl jeμ ɑμenen ı nɔȷ. 類は友を呼ぶ。dıılın nɔl dıılın ı nɔȷ と同じ。

jeμɑıȷ ［名詞］八面六臂 ［レベル］5　JJ:「セレンの仕事ぶり」

jeμɑın ［名詞］プロデューサー、P ［レベル］5　μɷ;/　Jɱ　ılcȷ, ɗı jeɑın や ılcȷ ɷel jeμɑın や jeμɑın ılcȷ のいずれかで使う。

jeμɑıl ［普通動名詞］啓蒙 ［動詞］ɥəl を啓蒙する、啓蒙する ［レベル］4　μɷ;jeμen/dı/ıl「セレンの光の物→セレンが光を照らすように」 Jʔ

jeμɑc ［名詞］セルフィ ［レベル］4　古 :jeμen:jeμen/ɑccᴅı（長い間） ［語法］ 実体を持たない存在。空想上の人物だが、自分の頭の中では確実に存在しているもの。存在は実感できるのに実体だけを持たず、触ったり抱いたりすることが適わない。ピグマリオンのように偶像化させることはできるが、偶像でしかなく実体はない。

jeμᴅ ［医療］ストレス、プレッシャー ［レベル］4　古 :jeμᴅıcn 【用例】 jeʃ jeμᴅ ストレスを解消する　ın nıʃ jeμᴅ ʃcn ɔnen lıb cᴅ ɑcȷ. 今日は仕事のプレッシャーが多い日だった。

jeμɷcı ［名詞］相思相愛 ［レベル］4　JJ:jeμen/μcɷcı

jeμφ ［経済］投資 ［動詞］ɥəl を ı に投資する、投資する、出資する、投機する、融資する ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :jeμenφcl ［語法］ 細分化すると投資の ᴅcljeμφ と投機の zınjeμφ に分かれる。投資は長期的にすることが多く、企業に肩入れする形で行うことが多い。対して投機は株の上下を利用して利鞘を得ようとする行為で、短期的なことが多く、ギャンブル性も強い。そこでおっとりとしたミルフとギャンブル好きのザナに分けているが、くしくも彼らが夫婦であることが造語的に面白い。

jeμφɷıȷ ［経済］儲け話、もうけ話、もうけばなし、投資案 ［レベル］5　μɷ;/　Jʔ

jeμφın ［経済］投資家 ［レベル］4　1L

jeμd ［被服］デニム ［レベル］4　1ʔ: 制 :μcɷcı: 古 :jeμdın

jeμdınʃ ［名詞］文系、文系科目、文系人間 ［反意語］ᴅeldınʃ ［レベル］4　μɷ;jeμen/dınʃ。アルナ大の文系クラス特進が jeμen 組であることから、文系の代表とされた。　JJ ［文化］ ɑeldınʃ　語源上セレンは文系ということになっているが、実際には彼は文理両道の人間であった。文系、特に語学が強かっただけで文系に振り分けられているだけである。

jeμdɔ ［医療］チック症、チック障害、トゥーレット症候群 ［レベル］5　1Δ:μcɷcı

jeμhıll ［名詞］セレン賞 ［ユマナ］ノーベル賞 ［レベル］3　μɷ;/　Jʔ ［文化］
　μɷ でセレンが創設した賞。セレンは有能な人間が好きで、有能な人間を素直に褒め称える性格で、その上未来技術が好きで先進的なものが好きだった。それが高じて μɷ では、ある分野で偉大な一歩を刻んだ者やある分野の歴史を著しく進歩させた者に賞を贈るようになった。セレン賞の始まりである。　セレンの死後もセレンの残した莫大な遺産やその利子により、セレン賞は運営されている。ls の最後までセレン賞授与は実施されていた。　ノーベル賞と異なり、セレン賞は分野が広い。数学などにも賞がある。μɷ では魔法学関連の賞もあったが、nɷ 以降は廃れた。しかし ls で復活する。また、μɷ 以降に新たな生化学などの科学分野が賞の対象として新設されたりもした。

jeμhıcl ［法律］情状酌量、大岡裁き ［動詞］ɥəl を ɔn について ɷə（酌量する懲役）年 ıʃc（酌量する内容）だけ酌量する、情状酌量する ［レベル］4　μɷ;/「セレンの裁き」。情にもろいセレンが犯した罪に値する罰を受けるべきというリディアの判断を覆して甘く裁いたことから。　Jʔ

jeμzıᴅ ［医療］注意欠陥多動性障害、ＡＤＨＤ ［類義語］lcıueμınʃ。これが類義語ということは、どう考えても父親の遺伝なんだろうな。 ［レベル］5　μɷ; ↓　1L:jeμen/zıᴅ ［語法］ lcıueμınʃ に比べ μɷ からあった語で、古い。医療用語としては lcıueμınʃ のほうが正式。

jeμs ［非言語］セルジュ ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :jeeμesc（感謝する指） ［文化］ 男が男に感謝を示すジェスチャー。友好の示しとしても行われる。左手首の表を右手首の表に重ねる。手は拳にしておく。手の高さは胸の前。肘は胸に近付くように曲げておく。仮に手が平手だったら手のひらが相手に向くような位置に手をもっていく。平手が地面を向くようではいけない。最終的に左手の脈が自分を向き、右手の脈が相手を向くようにする。重ねるときは力強く重ねると良い。親しい間柄では拳をバンバンと２度この形で打つ。ちょうど手の甲で手の甲を打ち合う感じである。

jeμsın ［気象］しとしと降る雨 ［レベル］3　1L : jeμen/scnı ［語法］ 霧雨でもなく大雨でもない。中雨とでもいうべき雨。

jeμscɔμ ［生物］脾兪、脾愈　J1:jeμen/scɔμ

jeμsɔ ［名詞］大激怒、発狂、かんしゃく、癇癪、ファビョン、火病、激怒 ［レベル］2　μɷ;/　Jɱ 【用例】 ıμ{nı, ʃcl} jeμsɔ ı nıᴅɔ lııʃ 彼の態度に大激怒する

jeμlıȷ ［名詞］器用貧乏 ［レベル］4　JJ:jeμen/lıȷ

jeμlınʃ ［名詞］第一人者、フロンティア、開拓者、開拓民 ［レベル］3　μɷ;jeμen/lınʃcȷ「セレンのような霊人」 Jʔ

jeμlıɷ ［動詞］ɥəl を作り込む、作り込む、作りこむ ［普通動名詞］作り込み、作りこみ ［レベル］4　μɷ;/「セレンのように作る」。異常なほど物事を細かく作り込んだことから。　Jʔ

jeμlɔ ［動詞］ɥəl を思いつめる、思いつめる、思い詰める ［レベル］4　μɷ;/「セレンが考えるように考える」 Jʔ

jeμlɔl ［医療］過敏性腸症候群 ［レベル］5　制 :jeμen/lɔl

jeμleᴅ ［音楽］ビブラフォン、ヴィブラフォン、セルレム ［レベル］3　μɷ;jeμ/leᴅ「セレンの音楽」 JJ ［文化］ μɷ でセレンとミルフが発明した。セレンにとって心地よい音を出す打楽器を追及していった結果できた楽器。

jeμı ［化学］基、原子団。接尾辞 eμ。　1L:jeμıcl

jeμıln ［政治］［経済］［哲学］修正資本主義 ［レベル］4　ls:jeμen;jeμen/ıln　Jɱ ［文化］ → leȷʃcᴅccμ, jeμlɔlᴅ　経済思想のひとつ。ls でセレンが提唱し実現させた主義。考え方自体は ıl から存在したが、このように造語し実践したのはセレンが最初である。　セレンは腐敗していくユティア朝の中で広がる格差社会を是正せねばならないと考えていた。共産主義の破綻は既にイグレスタ圏の歴史が証明していたことと、セレンは努力は報われるべきだと考えていたため、共産主義や社会主義には傾倒しなかった。　かといって売れた芸能人や作家やスポーツ選手などが億万長者になる横で売れない芸人や物書きらが食うにも困って道を閉ざすはめになる社会ではマイナーでニッチな分野が生きていけず、多様性が失われてしまう。　生物の進化同様、多様性の消失は異変が起こった際に対応できる可能性を減らすことに繋がる。もし潰されてしまったものの中に突如起こった異変に対応できるものがあったらどうする。　多様性を殺すことは長期的に見れば国を殺すことになりかねない。他国に出し抜かれるかもしれない。　その場では役に立たず人に理解もされないものが、もしかして未来に役立つかもしれない。それは単独でかもしれないし、別の分野と組み合わさってのことかもしれない。　アルバザードという国は伝統的に多様性を殺さず研究に助力をしてきたからこそ、いざという難所をいくども越えて最強の国家であり続けてきたのだ。だが腐敗したユティア朝ではその伝統が崩れていた。　セレンはその現状を憂い、売れない者が食えずに活動を停止して多様性すなわち未来への可能性が消えてしまうことのない社会を目指した。長期的に見ればその下地がやがてアルバザードを救うと考えていたからだ。朝三暮四に考えてはならないとセレンは子供のころから強く考えてきた。　その結果、爆発的に売れた人間の稼ぎを売れない人間に回して生活を支えてやればいいという考えにたどり着き、セレンは革命の独裁政権でそれを実施した。　修正資本主義とは行き過ぎた資本主義が生み出す巨大な格差を狭めたもので、「一部の人間が裕福でも、皆が苦しくなければ誰も彼らを恨まない」と唱えた。下流をなくして総中流にした上で、一部の上流を作った。それが修正資本主義である。　　セレンはこの社会の実現のために、軍事力を使って全世界的に同じ制度を同時に実施させた。そうでなければ富裕層がタックスヘイブンに逃げてしまうためである。　アルバザードだけがこの政策を実施すれば、富裕層が他国へ逃げてしまい、アルバザードが傾いてしまう。そのため強大な武力を背景に、同時に世界規模で修正資本主義を実施させたのである。　結果的にセレンの狙い通り、革命後のアルバザードでは格差が縮み、下流が底上げされて中流になり、超上流が消えて上流ができた。　努力した人間は上流になれるので、努力がきちんと報われる社会である。派手な下流は存在しないが、そこそこの下流なら存在する。それは努力をしない人間であり、怠け者はきちんと下流として沈んでいく。　要するに修正資本主義が実現させたのは、中流の増加と超上流・超下流の撤廃である。皆が無条件に平等ではなく、努力は報われ、怠け者は罰を受けるも、殆どの人間は中流で、比較的公平な社会。それが修正資本主義の作った社会である。　セレンは修正資本主義をあらゆる経済思想の中で最もバランスが取れた優れた思想と評した。努力家は報われ、怠け者は報いを受ける。　一方で、売れている人間は売れない人間の支持をするため、創作や研究の多様性が保たれる。売れない人間は活動を続けるだけの最低限の暮らしが保証され、創作や研究の多様性は保たれ、アルバザードはどのような潮流の変化

や突然変異にも対応できる柔軟性を取り戻した。

jeɥinueɥ ［医療］胸脇苦満 ［レベル］6 ɥɷ;/「セレンにかけられた呪い」 ɹʔ ［文化］ みぞおちから肋骨の下にかけて起こる張りや痛みやしこりのことで、横隔膜の緊張が原因。古代からルクレティアで知られていたが、ɥɷ でセレンが長くこれに悩まされた（セレンはずっと胃痛だと思っていたが、リュウやリディアがルクレティアを学んで胸脇苦満と診断した）ため、アルカでは jeɥinueɥ が一般的に知られる名称となった。

jeɥinc ［名詞］疲労困憊 ［レベル］3 ɹɹ:jeɥen/inc

jeɥiuinj ［アビリティ］セレンストラッシュ ［レベル］5 ɥɷ;/ 古：ただし古では jeɥiuinj でなく jeɥeniuinj と呼んでいた可能性が高い。セレンストラッシュというのはセレンが小学校の頃に考えた自身の最大奥義。元ネタはアバンストラッシュ。 ［文化］ ɥɷ のセレンの奥義、必殺技。抜刀術で、剣を抜くとともに凝縮されたユノによる一閃が生じる。そのユノ波だけでも劇的な威力だが、剣を直接当てるとユノ派が iuɔn 化して威力は倍率ドン。

jeɥiljc ［医療］モラルハラスメント、モラハラ ［レベル］6 ul;jeɥueɥi nʃ/iljc。自己愛性人格障害の持ち主が加害者になることが多かったため。 ɹʔ:ɒel。メルがセレンに「お兄ちゃんって典型的な自己愛性人格障害でモラ夫なのに、無駄に男気とカリスマがあって魅力的だよね」と断じたことから。セレンは「そんなことは子供のころから分かってるわ」と返した。

jeɥiljcin ［名詞］モラ夫 ［レベル］6 ul;/ ɹʔ:ɒel

jeɥcʃ ［名詞］等身大、1：1、実寸代、実寸 ［形容詞］等身大の、1：1の、実寸大の、実寸の ［レベル］4 ɥɷ:ɥcɷci;jeɥen/jɔɥcʃ「セレンの身の丈の」 ɹɱ ［文化］ アルバザード人は誇張を嫌う。同時に主張すべきところをしっかり主張しない謙遜もやりすぎとして嫌う。アルバザード人は等身大のありのままの表現や評価や自己主張を好む。それはアルバザード人が写実主義を好む点と類似している。アルバザード人はありのままの等身大が好きなのだ。 他国、特に日本では謙虚が美徳とされ、自分の業績を主張しないことが良しとされるが、アルバザードでは自分の業績は誇大せず謙遜もせず等身大に主張すべきと考えられている。誇大はもちろん嫌われるが、謙遜も卑屈に見えて女々しいと思われる。ただし「女々しい」なので、ɥenʃe がやる分には唯一美徳的に映る。 ɥɷ でセレンが自分のアルカに関する業績を自己主張したところ、下層民及び凪人から非難を受け、セレンは深く傷ついた。それを見たリディアは「貴方は等身大に自分の業績を主張しただけだよ。矮小な人間は自分との比較で貴方が大きすぎて、とても等身大に思えず、誇大したかのように見えて非難しただけよ」と言い、それを説明する際に jeɥcʃ という言葉を作った。 現実には ２０１２年現在、セレンは自分はもっと評価されるべきだと強く考え、自分の業績を評価しない世の中に対して強い恨みを抱いている。特に下層民や愚民に対する強い怒りがある。これはセレンが高校生になった頃から抱いている思いであり、大学以降アルカという作品のクオリティが高まっていくにつれて高まっていった。 セレンは体を痛め人生を犠牲にしてまでアルカを作り上げた。そのクオリティは人類７０億人がいても誰も成し遂げなかったレベルであった。にもかかわらずアルカやカルディアを理解するのには高度な知性が要求されるため、下層民を中心にアルカはきちんと評価されなかった。アルカを評価するのは東大生や医者といった上流階級ばかりであったことから、セレンはやはりアルカのような難しい学問的で高尚なものは愚民には理解できないのだと考え、愚民のくせに自分を愚弄し拒絶する連中を憎んだ。 結果、セレンは世の中には要る人間（アルカを理解・支持できる）と要らない人間（それ以外）の二種類がいるという考えにたどり着いた。表向きにはそれを言わないことにしたが、セレンは世の中の殆どの人間をくだらない生きている意味のないゴミだと考えている。実際の生活にはインフラを支える人間たちが必要なのは分かっているから、強いて言えばアルカをセレンが継続するのに必要な人間は道具として必要だと考えてある程度妥協した。つまり、「アルカをやる人間＞アルカをやる環境を整える道具＞その他の要らない、むしろ害悪になるクズども」という図式が生まれた。 セレンの望みは等身大の自分をありのまま評価してもらうことだった。セレンは子供の頃から誇張を嫌う。中国の白髪三千丈のような表現は大嫌いであった。一方、周りの嫉妬や反感を恐れて過度に謙遜する卑屈な態度も嫌いだった。それにアシェットのような外人集団の中で仕事と納期のある作業を何十年とさせられてきたから、自分の業績はきちんと自己主張しないと生きていけない環境だった。 その結果、セレンは等身大の自分を主張した。やった努力はやった分評価されるべきだと考え、この当たり前の信賞必罰を理解しない人間を苦労知らずのクソガキだと断じた。 セレンは著書などで自分の業績を等身大に主張したが、しばしば心ない人間から誇大だと揶揄されることがあった。セレンは誇大ではなく等身大だと考え、クズどもの非難を却下した。セレンはむしろ自分は全然褒められ足りないと考えた。 セレンの人工言語界における業績は凄まじい。にもかかわらず、それを褒め認める人間はあまりに少ない。やった業績を１００とすると、数十程度しか認められていないのではないか。世間がセレンを理解し認める程度は数十程度でしかない。例えばそれが３０であれば、等身大の１００から７０認識がかけ離れていることになる。その７０の分は世間から見れば誇大に映るのだ。山の高みが分からない人間には ７０の差が等身大のセレンの大きさではなく、誇大による誇張や妄想に映るのだ。クズどもには自分が相手の大きさを理解できないという発想がないのだ。それがセレンには許せなかった。そしてセレンは身内以外は全て敵だと強く考えるようになっていった。 この考えはアルディアにまで影響を与え、もともと無償で博愛的に民衆を助けるはずだった ɥɷ と ls の英雄は、「自分を理解しない愚民のことはどうでもいい。身内にとっての理想郷さえ作れればいい」と考えるようになっていった。 恐らく今後いくら活動を続けてもセレンの死後になってもセレンの等身大の業績を評価する人間はリディアなど身内以外には現れないだろう。それが非常に悔しい。そしてそれが厭世を生み、世の中に対する怨嗟を生んでいる。 なお、掲示板などで異様なレベルでアルカをほめられたことが何度かあった。アルカのおかげで大学に受かっただの一生に一度でいいからセレンさんに会ってみたいだの、いくつか過剰なまでの賞賛を浴びることが何度かあった。だがセレンはそういう評価をされても過小評価と同じく嬉しくないのだ。過大評価は居心地が悪い。過小評価は気分が悪い。どちらにせよ嬉しくないのだ。セレンは等身大の自分をありのままの大きさで認められたいし、世の中は努力に応じた分努力が報われるべきだと思っている。 セレンのことを誇大や誇張と結びつけるのは誤りだ。それはあまりにセレンの業績を理解できていない。セレンは等身大にしか自己主張をしない。特に今は周りの一般人がセレンを認めないので、躍起になって自分で自分を褒めてあげているくらいだ。周りが褒めない分、声高に自分の業績を主張している。周りがきちんとセレンを評価すればセレンは等身大の評価に満足して自分では声高に業績を主張しなくなるかもしれない。 いずれにせよセレンのこの等身大へのこだわりは強く、アルバザード人の価値観にも強い影響を与えている。というより、セレンの正義をそのまま反映している。 当然アルバザードにもクズ層にはセレンの考えを理解できない嫉妬厨もいるのだろうが、上流階級、社会の上の人間はセレンのような考えをするのが一般的だ。 ただ、セレンが内心等身大の自分をありのまま評価してほしいと考えていることは、表には出さないことにしている。主な活動拠点の日本が謙遜を美徳とする文化だからだ。だから本音は、アルカに造詣が深くないと見ないだろうこういう単語の文化欄に静かに書いておくことにした。プログラマーがコードに書く埋め込まれたコメントのような本音だと思ってみればいい。

jeɥcl ［植物］梨、アップルペアー、西洋梨、ナシ、セイヨウナシ、ラフランス、バートレット ［レベル］2 ɿʔ: 制 :jeɥuinl ［語法］ セイヨウナシも指せるが、ふつう jeɥcl というとアップルペアーを指す。

jeɥcd ［形容詞］湿った、湿っぽい、やや濡れた、多湿な ［動詞］ɥəl を湿らす、湿らす、湿らせる、濡らす、ぬらす、加湿する ［類義語］ euej、ɑijdhiɥʃ ［レベル］2 ɹ0:eɥci を jid で挟んだ痕跡語。e で始めたくなかったため。

jeɥcdjid ［気象］湿気 ［レベル］4 ɥɷ;/ ɹʔ

jeɥcdjclj ［名詞］ウエットティッシュ ［レベル］4 il;/ ɹɱ

jeɥcdnci ［美容］ウェットヘアー ɹ1

jeɥcdɑcd ［名詞］ウエットティッシュ、ウェットタオル ［レベル］4 il;/ ɹɱ

jeɥcdiʃc ［気象］湿度 ［レベル］4 ɥɷ;/ ɹʔ

jeɥcdiɥ ［名詞］加湿器 ［レベル］4 il;/ ɹʔ

jeɥcdeɒj ［化学］不乾性油 ɹ0

jeɥci ［被服］セリア、寒巫服（かんみふく）、浴衣、ゆかた ［レベル］3 ʕごろ :jeɥen:jeɥci ← jibe（服）/eɥci（寒い） ［文化］ アルティス教の女性服。南方で発達した。元はアルティア人の服で、浴衣に似ている。

jeɥɔn ［植物］桜 ［レベル］2 1ʕ: 制 :jeɥzɔɒ ɭcbcni:ɭcbcni:lə ɒcleeɥə :lɔzəe,ilʃ ［語法］ ɒcnʃjiize ［文化］ 並木にするのが美しいとされる。また、アルバザードは満開よりも、無数の花びらが散っていく瞬間が一番好まれる。名前にちなんで中央アルナ西区のセレン通りには桜の並木道がある。 【用例】 jeɥɔn eɒiʃ lcʃ ɒinj. 桜が咲き始めた。 jeɥɔn eɒiʃ ɒinj uiɑel uecn nɔɑ jilɔl. 今年は例年より桜の咲くのが早かった。 jeɥɔn ej ɒinj ilil. 今は桜が真っ盛りだ。 ☆ jeɥɔn ej ɒinj iʃc ɭinʃe li jeɥen ʃ'ilij cɒ ʃəɥ. 今、西区のセレン通りでは桜が満開だ。 jeɥɔn l'ɔɥ ilɒinj jej linʃ ʃcnli. 散り始めの桜がとても美しかった。

jeɥɔnɑcɥec ［気象］桜前線 ［レベル］4 1L

jeɥɔncl ［植物］さくらんぼ、サクランボ、チェリー ［レベル］2 ɹ0

jeɥeʃ ［形容詞］精力的な ［反意語］iljeɥeʃ ［レベル］4 ɹ0:ɔuc:jeɥen/ʃeeze ［語法］ 好奇心が強くチャレンジ精神が旺盛であるさま。

jeɥejʃ ［形容詞］セレンの望むような ［反意語］ɑcɒinl ［レベル］4 ɥɷ:ɥcɑci;jeɥ/ejʃ「セレンの名（に恥じぬような）」「セレンの名（を貶めないような）」「セレンの名（に対して恥ずかしくない自分であるために）」 ɹɱ:ɥcɑci ［文化］ ɥəʃci

jeɥejje ［普通動名詞］スローセックス ［反意語］ɒiʃejje ［レベル］6 ɥɷ;/ ɹʔ ［文化］ 女性の気持ちや快楽を第一としたセックスのことで、手っ取り早く射精してすっきりしようというセックスとは真逆のセックスのこと。前戯や後戯が長く、最中も優しく長く安定している。女性は非常に大切にされたという気持ちになり、また、身体的にも心地よい。ただし相手の男のことが好きであればだが。 ɥɷ でセレンはこの手のセックスをして女性を篭絡させる技能に長けており、結果として女性遍歴を重ねた。セレンは恋愛を持続させるためにスローセックスは重要であり、射精欲を満たしてすぐ終えるような雑なセックスでは女性に嫌われると述べた。 逆に射精欲を速やかに満たして女性をオナホ代わりに使うようなセックスは ɒiʃejje と言われ、女性から非難される。 ただし女性が男性のセックスの仕方に文句を言えない時代は ɒiʃejje がふつうであり、特に問題視されず、当たり前のこととされる。

jeɥen ［人名］jeɥen iɥbiziɥɑ、jeɥen lel iɥbiziɥɑ → jeɥen iɥbiziɥɑ ［レベル］1 ɹɹ

jeɥen(ɹ) ［組み数字］１４／２８ ［交通］セレン通り ［名詞］セレン組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ɹɹ

jeɥen lel iɥbiziɥɑ ［人名］jeɥen iɥbiziɥɑ → jeɥen iɥbiziɥɑ ［レベル］1

jeɥenj ［アビリティ］セレンス ［レベル］6 ɥcɑci: 古 :ŧeɥen/jɔ「沈黙にする」 ［文化］ クミールの奥義。一説にはアトラス全土を破壊する力があるため、クミールは何とか自分の力を抑えようとしている。 一

度ルティアで放ったことがあり、それが原因でセレンス海溝ができ、封じ手となった。使徒の尽力でアトラスは滅びずに済んだ。――という伝説がある。

ɟeɥenɟʃceɥɟicɟ ［地名］セレンス海溝 ［レベル］5 ⅃0:ɥcɑcɪ: 奥義セレンスによる海溝 ［文化］ ・地理 ルティア南西部の長い溝はこの ɟeɥenɟ 海溝による海であり、最初から存在するが、以下の伝記がある。 ・伝説 ルティア南西部の長い溝はこの ɟeɥenɟ 海溝による海であり、ɥɑ の時代にできたものである。 アシェットのクミールが奥義 ɟeɥenɟ を放った際、あまりに強力なヴィードにより大陸が裂けたときのものである。 必死に周りの人員が大陸の崩壊を防ぐためにバリアを張ったものの、奥義が飛んでいった軌跡だけは防ぎきれず、海溝が開いてしまった。 海溝の周りは使徒の努力により崩壊が防がれた。これにより ɟeɥenɟ は封じ手となった。 ɟeɥenɟ はルティア城から放たれ、ルティアの城下町を一部霧散させながら、ミディートまで切り裂いていった。 そのまま ɟeɥenɟ は uɪɥl 海へ出て消滅したものの、海岸沿いには破壊によって漂流したたくさんの離島ができた。 ・風土 風土的にはこの海溝のおかげで細長い海がルティアまで続き、暖流が域内に流入するのに役立っている。

ɟeɥenɪ ［名詞］強迫観念 ［レベル］4 ⅃⅃:ɟeɥen/nɪ

ɟeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ ［人名］セレン＝アルバザード、セレン＝クレール＝アルバザード ［ユマナ］［人名］セレン＝アルバザード、セレン＝クレール＝アルバザード ［組み数字］１４／２８ ［レベル］1 ⅃:ɥcɑcɪ;ʉeeɥe,ɑ。最初カルディアの言葉を一切喋られなかったため、リディアが「この子静かだね」とリーザに言い、そこから「静かな子」という意味で ɟeɥen ɟɔə（セレン君）と名付けられた。地球の語源と異なるので注意。 ⅏ ucɪ:ɥcɑcɪ:ɟeɥen ← ʉeɥen ← ʉeeɥe（静か）/n（指小辞）「静まらせる」が原義。ɪɥbɪzɪɥɑ はここでは「文化の坩堝」の意味で、1⅃ lcɟ ᴅcl:ɪleʃ に冠された。ɭlel は ⅃0 年に授けられた。 ［文化］ → ɟeɥueɥ ɪnʃ （–Δ lcɟ ᴅcl_⅃⅃ zɪn ᴅel） 神話 ɥɑ の主人公の一人。アシェットの第１４使徒で、アルシェのルシーラ。男性。ɟeeʃ/ɪɥɑen。１７２ｃｍ、６５ｋｇ。髪は黒で肩まで届き、少しくせっ毛。黒の瞳。肌は白：黄＝７：３。 人工言語アルカを作った人物。ジョブは剣士。 異世界人で、ユマナから来た。リディアとの間にユルトとルシアを設ける。 ⅃⅃ 年にリディアとともにユマナへ去る。 ・ɑɪlhɪ ɑɪlhɪ は１４歳の「氷晶躯龍」、２８歳の靡芒（風柳）。実際には薄の絵柄で、風に靡いて右側に倒れる薄と、しかして真っ直ぐ地面に伸びる短い根が描かれている。縁取りには満月が使われている。この絵柄だとアシェットに稲だと誤解されたため、風に流れる柳でもって説明することがあり、ɑɪlhɪ を風柳ともいう。 ・現実 （–Δ lcɟ ᴅcl_⅃⅏） アプリオリ人工言語である制アルカと新生アルカの作者。日本とフランスの混血児。男性。第４期４代ルシーラ・エ・アルシェ。先代ルシーラのリーザによってメル２年にルシーラに選出される。ᴅel⅃⅏ 没。

ɟeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ(⅃) ［人名］セレン＝アルバザード ［レベル］1 ls ⅃⅃ ［文化］ （ʔL⅃ lcɟ ᴅcl_） ls の主人公の一人。

ɟeɥeneʃ ［形容詞］破天荒な、革新的な、前衛的な、アヴァンギャルドな、奇想天外な、新進気鋭な、パイオニアな、（人以外をを修飾すると）人跡未踏な ［レベル］4 ⅃⅃:ɟeɥen/ʃe

ɟeɥeɥcɪ ［地名］セレリア海 ［レベル］5 ɥɑ;ɟeɥenɟ/ɑcɪ ⅃0:ɥcɑcɪ: セレンスの海 ɪlʃcᴅɪ:ɪlʃcᴅɪ:lə ɪlʃcᴅɪ ［文化］ ルティア西の細長い湾状の海。ɥɑ でクミールがセレンスを放ったときにできたという逸話があるが、実際には創世記から存在した。セレンスをクミールが放ち、大破壊をしたことは事実だが、地形が変わるほどのことではなく、言い伝えにすぎない。

ɟeɥeɥcɪɟczɪ ［地学］セレリアプレート ⅃ʔ

ɟeɥec ［約物］–、– 記号、ハイフン ［レベル］3 ⅃1:ɟeel/ɥecn

ɟeɥecn ［芸術］漫画の流線 ［レベル］5 1L

ɟeɥeeʃ ［言語］セレート、静定語彙 ［反意語］leᴅceʃ ［アクセント］ɟeɥEeʃ ［レベル］5 ⅃0:ɟeɥen/ueʃ ［文化］ ɥɑ でセレンが作成したおよそ５万語のアルカの語彙。アルカの根幹をなす語彙。

ɟezɔ ［植物］雑草 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ɟelɭzɔᴅ

ɟezɔn ［アトラスの国家］セゾン ［アクセント］ɟezƏn ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ: 海岸

ɟezɔn(⅃) ［俗語］ヤリチン、ウテウテ、イケイケ ［反意語］ɟɔɑɔᴅ ［レベル］4 ɥɑ;ɟe/zɔn「複数の陰茎を持った」 ⅃ʔ:ᴅel ［文化］ 男性は複数の女性と交わることは女性ほど忌避されないため、ɟɔɑɔᴅ に比べると罵倒度は弱い。人によっては名誉に捉えることすらある可能性がある。

ɟezeʃɟɪn ［数学］多項式 ［レベル］4 1L

ɟes ［形容詞］不足な、不十分な、足りない ［形容詞］心がものたりない、物足りない、不満な ［反意語］ʃəuɪl ［レベル］2 1⅏: 制 :ɟɔs:ɟɔɥn:ɟɔɔs（余る） lɔlc:lɔlc 【用例】 ɪnɟ nɪʃ φɪɥu ᴅɪn ɭəlɪlɪ,eɥcɪ,dcʃɪ oen eʃ ɟes. 食料、水、薬などの不足で苦しんだ。 ɪn nɪ ɟes cᴅ ʃeφl eᴅ ɟeeɥ. ラジオから何の音もしなくなると物寂しくなる。 ɪn ɟeɥcl ueʃ ʃ'elɑɑel eʃ ɟes lɪlʃ{ɔn} dɪɥᴅɥen. 日本語には言語学の用語が少ないと知った。

ɟesᴅɪuc ［医療］ビタミン欠乏症 ［レベル］5 1L:ɟeɥen

ɟeoɪl ［地学］山脈 ［レベル］4 1L

ɟel ［名詞］日、一日 ［レベル］1 1ʕ: 制 ［語法］ １日は８つに分けられる。正午と０時は時点なので、大雑把にいえば６つに分けられることになる。 アナログ時計の円盤にメルセデスのロゴを当ててみると、１２時と４時と８時に３等分されるのが分かる。０時が ɪlɑɪɪɥɪᴅ、０～４時が ucɥɑ、４～８時が uccl、８～１２時が ɑɪɪɥ、正午が ɑɪɪɥ ɪᴅ、１２～１６時が hɪɥd、１６～２０時が ɗəəlɟ（夕方が少し日本語より長い）、２０～２４時が ɑəɥne である。 【成句】 uɪɥ ɟel 一日中、四六時中 nɪ ɟel lel ɟɪlʃ 一日千秋 ɭɔn ɭɔ ɟel hɔʃ 一朝一夕 【用例】 ʃə ɪʃ ɟel ɥɪʃ. いい一日を終えた。 ʃə ɪʃ ɟel bɪn. 楽しい一日だった。

ɟelʃ ［生物］セルト ［名詞］ペア、つがい ［形容詞］ペアの、ペア、つがいの、おそろいの、お揃いの ［音楽］二重奏、デュオ、デュエット→ ʃɪleᴅ ［名詞］正常位、正上位、通常位、ミッショナリーポジション ［類義語］ ɟɪɥʃ ［レベル］2 ⅃0 に ɟeɥen が男女神の総称として復活 ［語法］［文化］ 男神エルトと女神サールの総称。ɟɪɥʃ はエルトの一族とサールの一族の総称で、意味が異なる。 |ʕ⅏,LΔL,11⅃ 年前 |ɪɥʃe は lənɔ に uccɑ を与えたため、約 ⅏ 億年弱の間、爆発を防げていた。しかし遂に爆発の危険が生じ、今度は lənɔ のように失敗しないよう、男神エルトと女神サールに分裂した。彼らは互いの力を相殺し、力のバランスを取った。彼らは黒い球と白い球の姿をしていた。太陽系の惑星からアトラスを選んでフィーリア島で、アトラスの公転周期のうち１日間だけ逢瀬を重ねることを決めた。この時点で彼らは自らの形質を当時新興勢力として生まれてきた知能の高い生物である霊長類に合わせた。ただし脳を大きくするために二足歩行を可能にし、背骨を立たせた。同時に魔法で暑さ寒さをしのげるため、体毛も薄くした（この時期は温暖）。現代人に非常に似た形質をしている。彼らの総称は ɟelʃ で、彼らの誕生を以って最初の暦セルト暦が始まる。この逢瀬が今後約 ʕ⅏00 万年間続く | |同 |ueeɥə から ɟeleɟ が ⅃ つ流れ、エルトとサールに宿る。彼らはセレスを持って生まれた初めての存在となる | |同 | エルトとサールが肺臓気流を利用した音声による意思疎通を始め、原初の言葉フィーリア語が生まれる | |同 | エルトが ᴅcnɪlɪlᴅɔ を作る | ・性交の体位 最も一般的な体位。膣内射精する場合は奥に出したがるし出されたがる。ɟɪɥᴅclc を好む男性や、娘がほしい男性は浅めに出すこともある。 男性がサール（地面）を見て、女性がエルト（天）を見ることからこの名が付いた。 アルバザードだと処女を捨てるときは正常位と相場が決まっている。なぜかというと、現実のアシェットの面々が全員そうだったため。セレンの経験でも、アシェット内外含め、１０人ほどの処女を全員正常位で扱っているので、それが自然なのだと思う。

ɟelʃᴅeᴅ ［組み数字］セルトサークル、二大巨頭 ［レベル］5 ⅃1 ［文化］ ɥɪ dɪll

ɟelʃdɪlʃ ［歴史］セルト暦 ［レベル］6 ⅃0 ［文化］ dɪlʃ

ɟelʃɪll ［言語］フィーリア語の数 ⅃1 ［文化］ エルトが作った。 エルト式の物の数え方で、人差し指から立てていく数え方で、ʮ 進数がベースの 10 進数。 1: 人差し指 scsc から scs ⅃: 中指 ɟeelsc から ɟees ʔ:ʔ を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから ɟɔ ɭəlɪsc で ɟɔɪs ⅏: 小指 lcczsc から lccs ʮ: 手を広げることから、oɪ/sc で oɪs ʕ 以降は後ろの母音に調和した母音を付けていく。 子音の s が落ちる。 ʕ:csc ꟼ:eɟee Δ:ɔɟɔɪ L:clcc 10: 両手を意味する ɪlol から ɪlɪ 11～1L は ɪlɪscs のように示す。 ⅃0 からは ⅃0 進数。 ⅃0 は ᴅɪcn/sc（体全部の指）から ᴅɪns。 ⅏ʔ は lccsɪlɪɟɔɪs でなく、「⅃0 が ⅃ つと ʔ」と考える ⅃0 進法で、ɟeesᴅɪnsɟɔɪs。 つまるところフィーリア語は ʮ_⅃0 進数である。 これは日本人には馴染みがなく、いかにもとってつけた現実にありえない言語に見えるかもしれない。 しかしこれは適当な設定ではなく、例えばアイヌ語はこのような仕組みである。 同じような体系はチュクチ・カムチャッカ諸語、エスキモー語などにも見られる。 これらの言語との差異は 10 進数の色が濃く、最高数が ⅏00 でなく 100 である点である。 100 は oɪs ᴅɪns から oɪᴅɪ。 暦などがなかったため、千はない。 0 を表す語はなく、「～はない」と表現した。 名詞にかかるときは前置される。 scs ᴅccnɪ（一本の花）

ɟelʃe ［副詞］［形容詞］中くらいの、並々の、なみなみの、並みの ［レベル］2 ɥɑ:ləlcɪ;ɟeel/ʃe ⅃ʔ: ↑ ［語法］ uɪɥʃ

ɟelʃeʃ ［魔法］透過値 ［レベル］6 ⅃1:ɟelʃ/ʃe ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɟelʃeʃ(⅃) ［名詞］セカイ系、世界系、君と僕。 ［レベル］5 ɪl;ɟelʃ/eʃ ⅃⅏:ᴅel ［語法］［文化］ ɪl でできたサブカルのジャンル。エルトとサールのようなという原義を持つ。語源通り、「キミとボクのセカイ」が世界そのものの命運を決定するというジャンルで、現実には『アルディア』などがこれに当たる。 『アルディア』はループ系でありセカイ系でもある作品で、ループ系としては「あえて抜け出さない」ところに意味を持つ。 特に『アルディア』では ls においてセカイ系が最も発露される。

ɟelʃeᴅɪᴅ ［生物］並乳 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃⅏

ɟeɭɪlᴅɪ ［アトラスの国家］セルカルマ ［レベル］4 ⅃ʔ:ɥcɑcɪ ［文化］ 面積：11ʮLꟼΔ.0ʔΔLL1 ɭᴅ ⅃

ɟelɟ ［名詞］フィルム ［レベル］4 ɥʃ;ɟeɗ/ɟcɪ.l（写真の膜） 1ʔ: 制 :ɟelɟcɪ（写真の膜）

ɟelɟɪɪ ［名詞］フィルム装填部 ɥʃ;/ ⅃⅏

ɟelɟɟeɗɪɥ ［名詞］フィルム式のカメラ ［レベル］5 1L

ɟelɟɪɑenɑc ［気象］日較差 ［レベル］6 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɟeln ［植物］胡椒、コショウ ［レベル］2 lɪlʃɪ ［文化］ 最もよく使われる香辛料のひとつ。

ɟelncᴅ ［芸術］日々の色、デイカラー、こよみ色、暦色 ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ lcɟʃcnɪ で示された各日付固有の色。 【用例】 ɔə, ɪlɑc ɑcɪɟɟel ʃccl eʃ dɪɪl ɑəlᴅccɪ ɪnlɔl. ɪd ɪnʃ eʃ dɪɪl ᴅel enʃɔ enɑc ɟɔuen ʃəəɟ eʃ ⅃ ɟel ʃcɟ ɪnlɪʃ わぁ、ということは誕生日は dɪl ɑəl なんですね。僕は

dıl ɒel なので２日しか違わないみたいです！

ȷelneeɒe ［言語］ソノヒノキ、セルネーメ← ȷɔnɔhcnɔlc, ȷelleſcı ⅃0:「その日の姫」の訳 ［文化］ ȷɔnɔhcnɔlc

ȷeluıȷ ［名詞］逢瀬 ［類義語］cſe ［レベル］４ ɑ;ȷeluıɰſ/ȷɔ ⅃ʔ

ȷeluıɰſ ［地名］セルヴァート ［レベル］３ ɰcɑcı: 古 :ȷel は古の ȷel（中心）。uıɰſ は不明。 ［語法］ 世界の中心。エルトとサールの逢瀬の場所。アルティム以降はアルバザードが事実上世界の中心となる。 アルバザードはこの南にある。アルバザードの北には古アルカの時代の資料から既にケートイア、ヒュート、イネアートがあることが分かっている。エルトアは北東である。イネアートが精霊の国と言われているので、神に近い存在であることが分かる。地球でいうと北欧に当たる。従ってセルヴァートはその上で、高さでいけばフィンランドのラップランドあたりだろう。ラップランドをフランスの北に持ってきた感じが地球でいうセルヴァートに当たる。 エルトとサールはアトラスの公転周期（たとえばレイユにおいては約３６５日）を周期とし、毎年アトラスの特定の場所で逢瀬を重ねた。その場所を世界の中心セルヴァートという。二人はセルヴァートから見た黄経が特定の値を示した時点からアトラスの自転周期、即ち２４時間だけ会うことに決めた。その約束の日はメル暦に直すとザナの月ラルドゥラの日、ディアセルに当たる。

ȷeluɘȷ,ɑu ȷeu e

ȷelɑ ［言語］文学、文芸 ［レベル］４ 1L:ɒelcɑcı ıl(e:ȷeu/ɒclɑ（文の芸術）

ȷelɑſıſȷ ［名詞］文学部 ［レベル］４ ⅃⅃

ȷelɑıſc ［言語］文学性 ［レベル］５ ɰɑ;/ ⅃ʔ

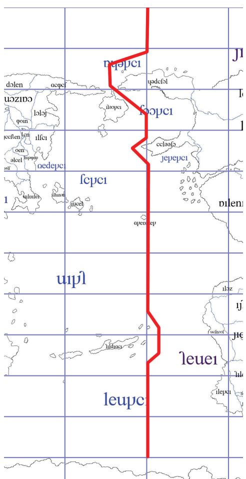
ȷelɑc ［動詞］ɣɘl を挑発する、挑発する、からかう、意地悪する、いじわるする、煽る、あおる ［普通動名詞］挑発、からかい、意地悪、いじわる、あおり、煽り ［形容詞］いじわる、意地悪、いじわるな、意地悪な。ȷelɑcın で。 ［レベル］２ 1L:clɒɘȷ:ɰcɑcı:ȷeɑɔ lɘɑc（ルフィの紐を外そうとする）［用例］ el ȷelɑc lcn hıɾln. 友達に意地悪してはいけません。 lı eſ ȷelɑcın. 彼は意地悪だ。

ȷelɑcɑcz ［法律］挑発罪 ［レベル］４ ls;/ ⅃ɒ ［文化］ ・煽りは犯罪 １３年現在の日本では主にインターネットで著名人などが匿名から挑発を受けてまともに怒りを返すと「煽り耐性なさすぎプゲラｗ」などと言われ、結局匿名の悪意が罰せられることなく著名人が一方的に不利な立場に立たされる。 アルバザード人は日本人より遥かに直情的で素直な性格なので、馬鹿にされれば怒るのがふつう。日本人のように弱腰を大人と勘違いして、怒った人間を「子供、幼稚」などと言うことはない。むしろ馬鹿にされて怒らなければ「臆病者、チキン」と罵られる。 そういう国民性ではあるが、ıl で ɣɘɒcl] などができると匿名の悪意が幅を利かせるようになっていった。日本と同じように匿名の悪意が罰せられない状態だったが、革命ではそれが異常と考えられ、「煽りは犯罪」という概念が生まれ、法整備がなされた。革命では挑発罪が成立し、煽りは犯罪で警察が即座に動くようになった。

ȷelɒ ［生物］胴、胴体 ［レベル］３ ⅃1: 古 ȷeel/ɒıcn ［語法］ ウェストよりも大きく広い範囲。おおむね肋骨の下から大腿骨までの範囲。

ȷelɒȷılȷ ［魔法］胴行 ［レベル］６ ⅃1 ［文化］ ɑɔlɒcɣe

ȷelɒel ［歴史］セルメル時代、朔夜の架橋、さくやのかけはし ［レベル］３ 古 :ȷelɒel ← ȷeel/ɒel（間の時間）具体的にはカコと ɰɑ の間という意味。もともとセルメルがカコと ɰɑ を繋ぐ期間の物語として作られたことから「架橋」。黎明・午睡・黄昏・夕月と来て夜を迎えることから「朔夜」としている。セルメルはもともと『カコ』にない創作で、本来はアルシェ（上弦）とソーン（下弦）が登場しない。アティーリでもセルメルの間は両者は目立たない。そのことから「月が出てこない」→「朔夜」となっている。 ［語法］［文化］ カコと ɰɑ の間の時代。イムル２０年から１５００年までの１４８０年間。 ０～８００ 前期 ８００～１２００ 中期 １２００～１５００ごろ 後期



ȷelhınɔc ［ランドマーク］セルハノイ ［レベル］４ 古 :ȷel（中心の）/ hınɔc（塔） ［文化］ エルトが建てた塔。エルトはこの頂上で死んだ。後にエルトの一族が立て直し、エルト界の入り口とした。

ȷelɰecn ［地学］日付変更線 ［レベル］４ 1L:「日の線」 ［文化］ 東経１８０度の位置にあるが、陸上を走るとユピトールをはじめいくつかの国家内を通過してしまって支障が生じるため、右図のようにギザギザになっており、海上を走っている。なお、画像はネットユーザーにより制作されたものである。

ȷelz ［名詞］芯 ［電算］［工学］コア → ɑıɰſınl ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ȷeelzıɒɔ ［語法］ 細長いものや丸いものの中心にある細長いもので概して固く、筒を筒状たるように支えているもの。

ȷelznccſ ［形容詞］根が優しい、人情がある、人情味あふれる、粋な ［類義語］ıɑccɣe ［レベル］３ ɰɑ;/「芯が優しい」 ⅃ʔ ［用例］]ɔ lȷeſ ɑısnı ȷelznccſ e ɒelſcı メルティアの粋な計らいによって

ȷelznccſıſc ［名詞］人情、人情味 ［レベル］３ ɰɑ;/ ⅃ʔ

ȷelzın ［経済］デイトレード、デイトレ ［レベル］５ ⅃⅃:ȷel/zınȷeɰɸ

ȷellıbıȷſ ［名詞］日雇い労働者 ［レベル］５ ɰɑ ⅃ʔ

ȷelleſcı ȷelneeɒe

ȷelın ［名詞］人々、世の人、世の中の人、世間 ［政治］民衆、大衆、衆人、衆愚、下々、人々、一般人、パンピー、一般大衆、公衆 ［レベル］２ 1L ［語法］ → lecɒen 漠然と総称を指す場合に用いる。世の人などの意味。el よりも総称度が低い。

ȷelıl ［名詞］日付、ひづけ、日付け、デート、ひにち、日にち ［レベル］２ 1L:ȷel/ıl

ȷelcȷ ［音楽］ロック ［レベル］４ ⅃1:ȷeleȷ「魂に響く音楽」

ȷelczcɔ ［工学］階差機関、セリジオ ［レベル］６ ⅃0: 複数の歯車 ［文化］ cɒɘl 1ɰ1] に]eɒɒe ɑcȷcɑcı が発明。アンジェル企画設計に役立った。すこぶる高度な技術が必要だったが、ラグナロクには既にシルマインのような高度な技術があったため、階差機関を設計・作成することができた。

ȷelccſ ［植物］ライラック、ムラサキハシドイ。ハシドイも ȷelccſ に含まれる。 ［伝統色］ライラック：大切なもの：＃ＤＡＢ６ＦＦ：ɑcı ɑcı ［レベル］４ 1L:ȷe/lccſɔn。ジャスミンと同じモクセイ科で、しかも芳香を持つ。ライラックはハシドイ属なので、同じなのは科だけだが花はトウモロコシやブドウのようにまとまって咲く。そこで群れて香りのある花ということで ȷelccſɔn → ȷelccſ となった。

ȷelccɑı ［天文］アステリズム、星群 ɰɑ;/ ⅃ɒ

ȷelce ［名詞］番組、見世物、ショー、掛芸 ［類義語］ȷcnȷɔl ［レベル］３ ⅃0:「右目と左目が複数→たくさんの目を集める」［用例］ ɑɔ], ɔlſı eȷ] lenınɑ, ınȷ ıɰ lıɑ ȷelce ɒɔſ ſeɒ]. それに雨が降っていても、☒蔵で掛芸をしなければならない。

ȷelceſ ［軍事］セリエット、同期 ［レベル］４ ⅃0:ȷılɣɘ/ſe の音変化。 ［文化］ アンジェリカとパイロットの同期のこと。同期率が高いほどアンジェリカの性能を引き出せる。

ȷelceſ(⅃) ［娯楽］サーカス、シルク、チルカ ［アクセント］ȷelcEſ。ȷelce は ȷe'lce。本来のアクセントを残しているのは ȷelceſ のほう。 ［レベル］３ ⅃0:ȷelceſ.lſ ← ȷelce/ſe

ȷelɔ ［名詞］いかだ、筏、ラフト、筏舟 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ȷelızɔ（複数の丸太）

ȷelɔſ ［音楽］キーボード、鍵盤、キーボ ［電算］パソコンのキーボード ［レベル］３ 1L:ȷelɔſȷ ［文化］ アルバザードのキーボードはタイプに始まっている。cɒɘl 1‹1] にパールがタイプライターを開発。早く打ちすぎると絡まってエラーが起きるため、地球のキーボードと同じように打ちにくい配置にした。上から一番目が数字などになるのはｑｗｅｒｔｙと同じ。二番目の列を打つとｔｙｐｅｗｒｉｔｅｒになるというようなギミックはない。 その後ＰＣが出たことと、表意幻字を表示できるようにしたことで、日本と同じく半角全角などができ、半角キーなども生まれた。テンキーが右に分離している点なども同じで、異世界でも同じようなものを作れば、やはり合理的なアフォーダンスを目指して同じような形に落ち着く。 その後アレイユでは鍵盤タイプのものが消え、光を任意の平面に照射し、擬似キーボードを作るようになった。指で平面を押すと対応した位置にある鍵が押されたことになる。機械側で鍵の音を再現することもできる。 文字キー：hıɾlɔſȷ テンキー：ılllɔſȷ エスケープキー：ɒclɒlɔſȷ ファンクションキー：elclɔſȷ バックスペース：ȷıɰlɔſȷ プリントスクリーン：dɰeſlɔſȷ 半角全角：ɣeıſlɔſȷ タブ：ncȷlɔſȷ ＣＡＰＳＬＯＣＫ：ɾlɑlɔſȷ。アクセント記号を出すときに使うため。 シフトキー：ɒcɣelɔſȷ コントロールキー：zɔlɸelɔſȷ ｗｉｎ：ſeɒȷlɔſȷ, ɰɔılɔſȷ オルターキー：ıllɔſȷ 無変換：]ɔɣelɔſȷ 変換：ſıɣelɔſȷ スペース：ɒcɘſlɔſȷ エンターキー、リターンキー：sıllɔſȷ インサート：ɒɔzlɔſȷ ホーム：lɔlɔſȷ エンド：heſlɔſȷ デリート：ȷeɑɔlɔſȷ ページアップ：ſɔlɑlec ページダウン：]eȷɑlec カーソルキー：ueslɔſȷ ナンバーロック：ıllɣɔl

ȷelɔſın ［音楽］キーボディスト、キーボ、キーボ担当 ［レベル］４ ⅃1

ȷeleſ '、［名詞］渡り記号、セレット ［レベル］４ ⅃1: 古 ȷeel/eſ

ȷeleſcın ［娯楽］セレティアン ［レベル］３ ⅃1:ȷe/leſcı/n ［文化］『セーラームーン』に相当するアニメ。

ȷeleȷ ［魔法］セレス、幻魄、魂、魂魄、霊魂、ソウル、スピリット ［レベル］２ ɑ;e ɒclɑ: 古 ［文化］ → ɒıllccı ・セレス セレスはアテンの体内にあるもので、幻晄の一種である。魔法学的には幻晄の一種だが、ヴィードというと通常ユノ・ヴィル・ノア・アルマを指し、セレスを含まないことが多い。 訳語は幻魄ないし魂であり、アテンはこれがないと生きていけない。アルテやテームスもセレスを持っている。 セレスは天国トワーユの入り口にあるヴェーユという小滝の飛沫から生まれる。 生まれたセレスはアトラスに行ってアテンに入るが、肉体が死ぬとヴェーユへ帰る。誘燈がこれをアルデルへ運ぶ。 ヴェーユでは審判を受け、善なるセレスは天国へ行き、悪しきセレスは地獄へ行く。 善人の魂は丸い球で、悪人のほど歪んでいると言われている。 しかし ls までの学問であの世の存在については証明されておらず、内情も分かっていない。 天国と地獄の存在は偽りで、単に球体のセレスをトワーユへ、それ以外をラティスへ分類しているだけとも言われる。 真意のほどはルノらのみが知る。 ・人魂 セレスはアテンの体内で安定し、外に出ると透明に変化する。 変化の際に一時的に虚質量を持ち、紫外線を放つ。 死後は死神がセレスを回収するが、回収されないまま数日間放置されると鼻からセレスが抜ける。 このときも透晄になるが、透晄に変化する際の光の波長が長くなるため、紫がかった濃い青の光を放つようになる。これが人魂の正体である。 ・死神の視覚 生きている間はセレスは息に乗って出る。鼻から吸った透晄は

セレスとして補充される。　冬の間息が白いように、セレスも実は白い息のように出ている。　紫外線なので人間には見えないが、死神は人間より可視光線の幅が広く、紫の少し外側は見える。これは死神には魂色として知覚される。　　息を見ればそこに含まれるセレスの多寡で、死神はその人の全体的なセレスの量を推し量ることができる。　ゆえに夢喰いはおいしそうな人間を見つけることができる。　　・魂の座　　セレスは脳、特に前頭葉の裏に多く存在している。　位置的にはちょうど額の裏で、ダルハとの関連が囁かれる。
　ヴィードは平衡しようという性質があるが、それでも例えばノアは丹田に集まるなどといった集中しやすい箇所がある。セレスの場合は額の裏である。　　もちろん平衡する性質があるので集中しやすい部分以外にも存在する。　セレスはエタンに触れると流出する。傷がない状態では漏れないが、傷を受けると微かに漏れる。　腕を切断するとそこそこ漏れるが、ほとんどは脳に存在するため、切られた腕にそれほどセレスは残らない。その上すぐさま透晄に変わってしまう。　従って魂の座は脳にあるといえよう。　　・ヴィード死　　→ ıuecyə　　・セレスと死神　　死神は相手のセレスをごっそり引き抜く力を有する。　まず相手をヴィード死状態にする。そこから肉体の死が訪れるまでにセレスを引き抜く。　われわれ人間にはイメージしづらいが、死神に言わせると「皿に出した卵を口でつるっと吸い込む」のを「口でなく手や鎌でやる感覚」に近いという。そう言われても人間には想像しがたい。　　セレスは９９％以上脳に存在し、球のように集まっている。　これを抜かれるとアテンの脳はショックにより活動が停止し、脳死に至る。　その様子は老衰に最も近く、突如老衰したかのような印象を与える。　　・死神の憂鬱　　死神の体には彼ら特有のセレスがあるが、他人のセレスを奪うとこれが彼らのセレスと混じることなく脳内に別途吸収される。　その際セレスが神経を刺激し、エンドルフィン等の脳内麻薬が大量に放出される。　痛覚麻痺と高揚により戦闘力が向上し、多幸感に溢れるようになる。　人間の脳と異なり、この状態が長く続く。強烈な快感は数分で消えるものの、心地よい快感がその後数日から数カ月続く。その期間の長さはセレスの多寡による。　　しかしその期間が終わると急激な離脱症状に苛まれ、ふたたび人を襲うようになる。　禁断症状の主訴は暴力性の亢進で、次点は性欲の亢進である。麻薬より離脱症状が長く続く。ただし徐々に低減はする。　性欲の亢進は死神の増加を示唆する。これは種の保存の合理性によるもので、人間の雄も極限状態や空腹状態では性欲が亢進する。なお死神は子育てをしないため、雌の死神も性欲が亢進する。
　そういう意味で死神もまた生物としての合理性を持った種のひとつということができる。　　魔法学はセレスの解析の結果、夢喰いと誘燈の間に違いはなく、単に一度セレスの味を覚えた死神が離脱症状から抜け出せないだけであることを明らかにした。　なお、中位以上の死神は離脱症状に強く、すぐに禁断症状を起こして暴れることはない。　おなかをすかせた後の食事が美味しいように、わざと期間をあけて我慢してから人を襲い、さらなる多幸感を得ようとする通な者もいる。　　また、低位でも個人的に精神が強ければ長い間離脱症状を我慢できることもある。　中位でも詩姫のように魂にだらしない者もいれば、悠姫のように死神本来の食事を嫌って甘い物を代替とし、欲望を抑える者もいる。　悠姫のような変り種は死神の間では偏食と呼ばれ、詩姫は食いしん坊の扱いになる。　なお、ランヴェムのように意思の力で夢喰いを止めた驚異的な精神力の持ち主もいる。　　・量と質　　セレスの量は年齢によって異なる。　一般に若者は多く、老人や子供は少ない。また、健康なほうが多い。　特に人生に希望を持って生き生きしている個体は多い。
　　セレスは急激なストレスを与えると減る前に一度反動で増えるという性質がある。　従って希望を持った人間が突如絶望などの急激なストレスを受けると、セレスの量はその直後に跳ね上がることになる。　夢喰いはセレスのこの性質を経験的に知っている。　　・味　　人は糖分を多く含む食物を本能的においしいと感じるようにできているが、死神はセレスを吸収した際、セレスが味覚神経を刺激し、おいしいと感じる。　それはセレスの量が多いほど感じるようになっている。　　・構造　　蛍石はセレス体（セレスを持っているもの）に接触すると脱晄してセレスのみを単蓄する。　これを利用してセレスの配列を調べる。　１握だけでもあれば分析できるので、髪の毛からでも採取できる。髪の毛の毛根からセレスがなくなる前に握を採取すればよい。　　セレスの配列を分析した結果、l,u,ɑ, µ 殻のみ１～４（陽晄～雌晄→ ɑɔlɒcyə）が現れ、それ以外は 0 になることが分かった。　　魔晄と異なり、ʃ,d 殻は性質に影響を与えない。　これはセレスに開閉がないことが影響していると考えられた。　　このうち l,ɑ の役割は比較的すぐに解明された。　魔晄と同じく属殻であり、人の場合は通常 J,ɱ 無となる。火の属性の魔物は ʔ,ɱ 火となることが多い。　　一方 u,µ 殻は何の役割を果たしているのだろうか。　分析の結果、これは人や神や悪魔といった種別を指しているものと分かった。　これはいわゆるセレスの遺伝子であり、今まで単なる力の差と考えられてきた神と人の違いが判然たる遺伝子の違いによるものだと分かった。　またこれが発見された µɑ では既に {u,µ}={ʔ,J} 世代が徐々に増えてきており、nɑ 以降の弱体化は ʔ,J 遺伝子の急速な普及によるものと考えられた。　　なお、u,µ を種殻という。　u で大まかな種が決まり、µ で詳細な種が決まる。　u は {1,J,ʔ,ɱ}={ 悪魔 , 死神 , 人間 , 神 } である。　残りの組み合わせを以下に記す。　ちなみにルノなどのセレス体の入手は非常に困難であったことを付与する。　　u,µ 種　－－－－－　1,1 アルヴァ　1,J テームス　1,ʔ その他のデーム　1,ɱ アデル、亜魔、魔人　　J,1 ルノ、アトワーユ、アラティア　J,J 貴族、アッカイ、エミリオ、ミスティ…　J,ʔ 下位（ミーナ、ホミス…）　J,ɱ 中位（紗枝、詩姫…）　　ʔ,1ȷɒ ～ µɑ　ʔ,Jnɑ ～ ls　ʔ,ʔzφ ～ 11　ʔ,ɱʃɒ ～ ɾu　　ɱ,1 サール　ɱ,J サールロゼット　ɱ,ʔ エルト　ɱ,ɱ エルトロゼット　　　遺伝子配列例　　lecn yəʃcı : J,ɱ 無属性、ʔ,J 遺伝子の無力な人間。　　00J0　0ʔ00　ɱ000　000J　　ılcı cneııʃɔ : 1,J 水、1,ɱ 魔人。ラルドゥラ組はやはり伊達じゃない？　0010　0100　J000　000ɱ　　µcɑcı ləʃcı : µ 殻 0 の特異配列。エルトとサールの血が均等に混ざった希少なロゼット。流石は召喚士様？　　00J0　0ɱ00　ɱ000　0000　　ȷeµen ıµbızıµɑ : 種殻 0 の特異配列。やはり異世界人説が正しいのか。紫苑が正史にいるなら彼女も同値になるだろう。ヒト科の動物はエタンなので、セレンはヒト科でないようだ。　　00J0　0000　ɱ000　0000　　・死神の種類
　誘燈はセレスを引き抜き、自分の脳に吸収せずにアルデルへ運ぶ。
　夢喰いは自分で食べ、ルノに背く。しかし高位は慢性的な人員不足なため、ルノはある程度は目をつぶっている。結果その高位の傘下にいる中位や低位の背信も避けられずにいる。　　夢織は特殊で、セレスを抜いた相手を脳死させず、幻覚を見せる能力を持っている。
　セレスを譲渡する意思を持った相手に口付けをすると、唇を経由してセレスが入る。　対象にその意思がない場合はいくら吸い寄せてもセレスが脳に居座りつづけようとするので吸えない。　　吸ったセレスは口から脳でなく丹田に入り、保有される。　吸収の際、１％ほどセレスを対象に残しておくことで相手は脳死を避けられる。　この技術がないと殺してしまう。この能力は先天性によるものなので、夢織はどうしても数が少ない。　対象がやがて肉体的な死を迎えると夢織は最後の１％を奪い、腹の中のセレスとともにアルデルへ連れていく。　　彼らの種の違いは遺伝子によるものではないので、夢織がセレス中毒に落ちぶれることはある。　逆に夢喰いが改心して誘燈になることもある。　ただし夢織だけは能力が伴わないとなれない。　　・魂を与えられた物　　エタンはセレスを持たないもののことで、アテンの対である。　動植物や物はエタンであり、魂を持たない。　　しかし思いをかけ続けることで、エタンに魂が宿ることがある。　さらに形を持たない架空の存在であっても想い続けることで魂が宿ることがある。　　セレスを持つ者すなわちアテンが情をかけ続けることで、エタンに魂が宿る。　こうすると九十九としてエタンがアテンになる。その際の配列は　00l0　0000　ɑ000　0000　一一である。　　実はこれをセレンの遺伝子と比較すると同じ型であることが分かる。　このことからセレンを「アトラスの人々が望んだ救世主が具現化したもの」と捉える学者も存在する。　つまり彼らにとってセレンは思念体が実体を持ったものであり、正体はアトラスの人々の悪魔から解放されたいという願いだということになる。　　対象が実体を持つ物なら九十九であり、エタン自体にセレスが生まれる。　一方、実体を持たない思念体の場合は段階を経る。　まず思念者の脳内に本人のとは異なるセレスが別途生まれる。　次にそれが体外に出るが、体外では透晄になってしまうため、アテンに類似した実体をエタンを材料に形成する。　そしてセレスがアテンのなりをしたエタンをまとうことで、擬似的にアテンとなる。　　ただしこれは哲学的な解釈で、魔法学では証明されていない。実際に観測もされていない。　しかしセレンやアディックを説明する説としては評価できると考えられている。　そして一般の魔法好きの間ではこの説は「科学的ではないが主観に沿う話」と認識されている。　だからこそ思う。想い続けたことはやがて現実になると。　　・cnȷel　　セレスの中心に一握だけ存在するもの。魂の目、あるいは魂紋とも。　l 殻が 0 で、それ以外が 0_ɱ の値を取る。　従って組み合わせは５＾１５＝３０５’１７５７’８１２５（三百五億超）存在する。　　同じ組み合わせの cnȷel は存在しない。　ueeyə からのものも、最初に生まれたアルテのものも、必ず組み合わせが異なる。　従ってインセルには指紋などと同じく個人を識別する能力がある。　cnscn すると同じ cnȷel を持つことになる。　　・セレスと精神　　セレスは精神に間接的に影響を与える。直接的には与えない。　属殻は例えば水属性を持つものは火を嫌う。
　種殻は例えば ʔ,J 世代は無力なので協力して寄り添って行動しやすく、統率しやすい。　　このようにセレスは趣向、性質、行動、思考などの面において精神に影響を与える。　ただし、Ａ型は几帳面でＢ型は自己中というような分かりやすくあからさまな性格の決定ほどではない。　　・セレスと感情　　強い感情は cnȷel と ȷeleȷ と強力なヴィードを持った塊となる。これは凝縮してほかのヴィードと交わらない塊を形成する。ちょうどガンが正常な細胞と独立して硬くなるのと同じである。これは体内に残るが、吐露すると体外に排出される。ヴァンガルディは ınueµeȷl にこれらを回収する。原則として体外にあるものを回収する。→ ınueµeȷl　ヴァンガルディにとって欲しいと思えるような感情の塊がある場合は、その感情を発散させる代わりにその塊を体内から奪うことがある。ヴァンガルディが好むのはたいてい怨嗟である。なぜなら怨嗟が人間の感情の中で最も強いためである。そう、皮肉なことに愛情よりも怨嗟のほうが強い感情だということをヴァンガルディの選択は証明しているのである。　　・マルティーア　　→ ɒılʃccı　【成句】 lеɑ ȷeleȷ ぼーっと
　ȷeleȷ ınɑ ɒıφ 魂が揺れるような：断腸の思いで　ɔlnı ȷeleȷ ı ʃ ʃ に感情移入する　ʃcal ȷıʃ ȷeleȷ 我を忘れる、愕然とする、呆然とする
　c ȷeleȷ 心のそこから、心の底から。c ɑcɔnı の類似表現。　【用例】
　☆ ın ʃcalıʃ ȷıʃ ȷeleȷ ɒın nı nıə µılel. 嬉しさで我を忘れた。　nɔn dcɔ ɑın ȷeleȷ ʃəın cȷʃ dıdı パパに代わって異界送りよ！（紗枝）

ȷeleȷʃ　［生物］セレスト、魂科　［形容詞］死神～。敬称。　［レベル］４　ɑ;ȷe leȷ/ʃe 幼字は腕に下げた lıµɑclınȷ を象ったもの。　1L:µcɑcı:ȷeleȷ　［語法］
　→ ıdʃ, eȷʃ　〇名（前置）　×姓　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法
［文化］　ıʃen の一種で、魂科のこと。ルノ、アトワーユ、アヴェラントなどを含む。魂科の下には死神属しかない。ただし、アッカイは死神族に含まれない単体の生物である。ルノとアトワーユは固有名詞であり、属を作れない。かといってどこにも分類しないというわけにはいかない。強いていうなら種であるから、彼らは属を飛ばして種に行く。彼らは種名と固有名が同一である。

ȷeleȷʃcı　［普通動名詞］セレスティア　［レベル］４　古 :ȷeleȷʃcı, ȷeleȷʃccı「（他人の）セレスを愛する」［語法］　→ ɒılʃccı　殺した相手のセレスを奪うこと。強大な力を手に入れることができる。アルデスとダルケス、ルフェルとフェルデンの二組が行い、アトワーユによって禁じ手となった。

ȷeleȷllel　［名詞］セレスクレール、セレスの書、魂の書　［レベル］６　J0:ɒelcɑcı lceµ　［文化］　→ ɒılʃccı　死神貴族以上が所有する本。セレスを持ったあらゆる生物の名前と死亡日時が書いてある。原本は ueeyə の入り口に置いてあり、hııbe と lıȷʃcı が共有している。本は立った状態で台座に置かれており、支えなしに自立している。ペン

でなく爪先を動かすことで文字が記載される。ページは自動でめくられる。サイズは地球でいうと見開きでＡ３に近い。紙は途切れることがなく、どんなに書いても前方に捲ればそれまでのページが表示される。背の厚みはどんなに書き込んでも増えない。背は指２本分（３ｃｍ程度）の幅である。時代に合わせて言語を切り替えており、現在使用している文字は幻字で、言語はアルカ。一度言語を変えるとそれまで記載されていた情報もその言語に置き換わる。また、そもそもペンを使って書き入れない。このことからもセレスクレールは本ではなく hıibe や lıɉʃcı の外部記憶装置なのではないかと考えられている。つまり彼らの脳が記憶する情報のうち、セレスに関する情報だけを閲覧可能な外部メモリとして取り出したものがセレスクレールであると考えられる。そうでなければ言語が自動で切り替わるなどの現象が説明つかない。

ɹelelɹlınʃ ［名詞］慰霊旅歌、イレイリョカ、ヒレァイ・リオゥカ、ヒレアイリォゥカ、ヒレアイリョゥカ ［娯楽］聖地巡礼 ［ユマナ］［名詞］ソノヒノキ参り ［名詞］聖地巡礼。アルティス教の。 ［動詞］ɥəl（場所）を聖地巡礼する、聖地巡礼する ［レベル］4 µɒ;ᴅclɑ Ɉɉ;ᴅclɑ ［文化］ 死者の魂を慰めるために各地を歌って巡礼すること。µɒ でミルフが始めた。 µʃ でアルティス教の聖地巡礼の意味を獲得。 ul で転じてオタクが聖地巡礼をすることも意味するようになった。 ソノヒノキ参りはディアセルにセレンがゆかりのある土地を訪れること。 ・舞台裏 元は００年にミルフが作った日本語の単語。日本語が話せないので、リディアに単語を習って造語した。 セレンが当時友人に送っていたメールによると、日付は定かでないが、セレンが大学に受かった４カ月後と書いてあるので００年に間違いない。ヒレアイ～などの妙な訳語は彼女が当時発音した「イレイリョカ」がセレンにそう聞こえたことから。どう「慰」の字を hc だと思ったのか、過程はよく分からない。「機関連絡」は「帰還連絡」の誤変換。以下、メールからの抜粋。 慰霊旅歌というのはミクちゃんの伝言にあった言葉。本当に日本語での伝言。聞く と、俺に許しを請い易くするためにリディアにわざわざ日本語の意味の有る言葉を覚 えて造語したんだと。 で、慰霊旅歌。良く分からんが、『全世界の中で私が涙をこぼした歴史を持つ場へ 行き、アンセスタの霊に歌を捧げる行為』とかいう。まあ、要するにあの娘なりに郷 愁って言うのかな、まあ思い入れが有る所へ実際に足を運んでみて、歌うたって帰 るってことなんだろうが。 （中略） 生活リズム狂うから暫くは話せなくなるな、あの娘とは。ああ、そうだ。最後に一 つ。慰霊旅歌なんだけど俺にはどうも『ヒレァイ・リオゥカ』としか聞こえなかっ た。ラッハメンの再来か……！？ （↓日付不明かと思ったが、最後ので同年１２月頭のことだと判明した。セレンが大学受かってから４カ月経ったのが６月ごろだろうから、それと１２月の間が６カ月で、計２３日間の旅程だったようなので、やりますと言ってから実際に行くまでに準備が半年ほどあったものと伺える。下記の会話は当時だと英語かメル・アルカか何かで行っているはず。それにしても古アルカ時代って４０曲もアルカであるいはアルカに訳した歌があったのか。すっかり忘れていたので新鮮な気持ちで驚けた。「俺でも２０曲も知らない」うちのほんの数曲しか、その１１年後の自分は覚えていないわけだが） 慰霊旅歌 " 慰霊旅歌が終わって帰ってきてちょっと経つが、漸く本人から話しが聞けた。 「リーダーさん、都市がなくて、不便な所に行く場合にはですね、何が必要かって言 うと、健康な自分の体です。それがなんていったって必要です。 （中略） ヨーロッパめぐりは中国より綺麗だったが、意外に安全でなく、金もかかったから 短期間しか行けなかったそうだ。ただ、歌う歌はかなり沢山用意されていたそうで、 慰霊旅歌自体としては今回の方が良かったが、旅としては前回の方が初めてと言う事 もあって思い出深かったそうだ。 歌った曲の回数は、２３日で丁度２００回。重複してる歌があるので曲自体はそれ でも７３曲だと。其の内アルカで歌った歌が４０曲強で、歌詞を訳したものでなくア ルカオリジナルのがその内２０強。凄いな。俺でも２０曲も知らんぞ。昔作曲したや つと、自分で作曲した奴で合わせて２０強だと。 「声枯れた？」と聞いたら「そりゃあ、もう。でも、枯れた声じゃ慰霊にはなりませ んから､薬飲んで歌ったりしました」という。そりゃあ、凄い光景だろうな……。あ れか？ノドヌールスプレーみたいなやつ使ってか？う～ん、ハッカの匂いのする歌声 かあ……。
でも、あれだろ？枯れたっていっても帰りに寄った彼氏の所じゃ喘いだんでしょ？ といったら「久しぶりに会った早々セクハラだぁー……！」といって呆れられた。 「そういう事いってるからクリスさんとかから信用無くすんですよ」と留めをさされ た。「クリスだって、下ネタいうじゃん」と主張するが「リーダーさんのは笑えない んですよ、灰汁が強すぎて」みたいにいわれた。さうかー。さうですかー。 ま、「取り敢えず、スポンサーに連絡して、礼と機関連絡と無事の報告をしときな よ。多分、機嫌悪いだろうけど」といったら「なんで機嫌悪いんですか？」という。 語調からしてレーテの事は知らないみたいだな。一般の使徒にはばれてないみたいだ な。という事で一安心した。 なんかおとといメルの誕生日だから俺に話しにきたのに通信できなかったからどう したんですかと聞かれた。そうなんだよ、今年は皆で通信しつつ祝うって事しなかっ たんだよな。多分、連絡してきた奴多いと思う。下手すりゃクミールさんに問いかけ たりしてるかもしれない。そんな事されるとまた俺の仕事が増えるんだけどなあ。メ ルにいうようにいっときゃ良かった。

ɹelelɹᴅelʃ ［普通動名詞］慰霊、鎮魂 ［レベル］4 µɒ;ᴅclɑ Ɉɉ ［文化］ ɹelelɹlınʃ

ɹelelɹᴅelɱınʃ ［音楽］鎮魂歌、レクイエム ［レベル］4 µɒ;ᴅclɑ Ɉɉ

ɹeleun ［医療］症候群 ［レベル］4 ꞁL ［語法］ アルカでは、原因の良く分からない複数にわたる症状を持つ病気を指す。

ɹeleᴅ ［言語］韻文 ［レベル］4 ꞁL: 古 :ɹenıleᴅ

ɹeleᴅ(Ɉ) ［音楽］合奏 ［レベル］4 Ɉꞁ

ɹelel ［魔法］セレス体、セレール ［レベル］4 Ɉꞁ:ɹelelɹ/ 古 ıl ［文化］ → ɒɔ lᴅcɥə セレスを持つもののこと。アテンのほか、九十九としてのエタンなど。ヴィードを帯びるものではない。それだとレニウム等以外のすべてになってしまう。あくまでセレスがあるかどうかで決まる。厳密には cnɹel を持つもののことであり、切断された腕は ɹelel と見なさないこともある。

ɹeleenı ［アトラスの国家］セレーナ ［レベル］4 ꞁL:µcɒcı:ɹeel（中心）。東西の分かれ目の目安となるため ［文化］ 面積：ɈɈʕʕΔ0.ʕɦLΔʔɱ ꞁᴅ Ɉ

ɹeleeu ［魔法］幽体離脱 ［魔法］セレーヴ（サイトロ）。利の中位白魔法。セレスを一時的に分離する魔法。セレスのまま移動できる。セレスはふつう目に見えないので、スパイ活動をしたり、高く舞い上がって上から地形を見たりするのに使う。 ［類義語］ınʃµcꞁɔ ［レベル］4 Ɉ0:ɹelelɹ/leeu

ɹelənı,ılʃ ɹeµnı ɹeµnı.l

ɹeləı ［地名］セルア ［レベル］4 古 :ɹel（中心の）/əı（山。ꞁıloı の中から oı だけ抽出され、それが ɹel の後で əı になったもの） ［文化］ セルヴァートにある高山。サールが身を投げた山。その底はサール界の入り口でもある。サールが落ちた底のことを ɹılφıleᴅ といい、そこが入り口となっている。

ɹeı ［名詞］モール、ショッピングモール ［レベル］3 古 :lec e ᴅccµ: リディアがモールを ɹeoıʃı と訳したことから ［文化］ 商業区の大部分を占めるモール。屋根付の商店街である。ひたすら広くて長い。幹線道路の数だけモールがある。たとえばアルナには南に三つのモールが存在する。どのモールも日用品が揃うようにはなっているものの、個性はある。アルナの場合、クレーヴェルとヴァルファントのモールは住宅区から近いため、食料や薬や雑貨が主に売っている。住宅区から一番遠いカルザスモールが一番の繁華街である。ゲームセンターやインプレン（風俗街）などの娯楽施設もここにある。一つのモールは長いので、スーパーが一つのモールの中にいくつもある。モールは各所に中央会計があり、個別の店で会計を行わなくても良い。モールのどの店の物もそこで買えるというわけではない。いくつかの店舗が共有する会計でしかない。店舗の中に一々会計があると店舗が狭くなる。そこでいくつかの店が会計を共有するというわけである。モールの中を商品を自由に持っていけたら万引きがしやすくなってしまう。モールの出入り口はカルテか円形車道に通じる道、及び幹線道路沿いの全ての横道である。ふつうは横道から出入りする。横道といっても日本人のイメージする暗くて細いものではない。横道一つひとつが国道クラスの幅を持つ。

ɹeıʃe ［名詞］デパート ［レベル］3 ꞁL

ɹeıɉ ［化学］ポリマー、重合体 ［レベル］5 ꞁL: 制 :ɹe/ıɉ（複数のもの）

ɹeın ［代詞］［ɥəəl］僕たち ［レベル］1 Ɉ0:ɹe/ın

ɹeınʃ ［代詞］［ɥəəl］僕たちの ［レベル］1 Ɉ0:ɹe/ınʃ。これは二重母音が来るのでアクセントが語頭のままになるので、ɹeɒeµɒ を ɹeɒeɒ にしたようにはしない。

ɹeıᴅ ［単位］ヨタ Ɉꞁ:ɹeᴅcın

ɹec ［文末純詞］～かなぁ、～だろうか ［レベル］1 古 :::ᴅıɥı,ılʃ ［語法］ 自分の意思に対する不確実性も表わせるので、ꞁe ɹec で行こうかなぁという意味になる。eɥɔ と意味は同じ。 文末に 8 をつけてもつけなくても良い。つけると懐疑度が増す。 【用例】 ʃə eʃ ʃcı ɹec. これは正しいのかなぁ。

ɹec(Ɉ) ［エルト］ɹecnelɉ の略称 ［組み数字］1／１２ ［レベル］1 Ɉɉ

ɹecn ［形容詞］複数を意味する ［類義語］ɹcɑ ［レベル］1 ꞁL: 恣意 :::ɉɉe,ılʃ ［語法］ ɹecn はなるべく他の形容詞の外側に来る。 ɥəlc ɒıs ɹecn 親切な子供たち 【用例】 ɑcın ɹecn 少女たち

ɹecnelɉ ［エルト］神剣セイネルス ［名詞］１時 ［名詞］北北東 ［交通］セイネルス通り ［音楽］ド ［組み数字］1／１２ ［類義語］ɹec ［アクセント］ɹEcnelɉ ［レベル］2 ᴅelʃcı ɱ:ɹecnelɉ;e 古 :µcɒcı ［文化］ → ɹecueµınʃ アルミヴァの１番目。エルトの右腕から生まれた。生きた神剣。剣士ヴァルファントの剣。剣なので、カルザスとは兄弟の間柄でない。

ɹecnelɉıdı ［ユマナ］［音楽］ハ音記号 ꞁL

ɹecueµınʃ ［医療］カナー症候群、低機能自閉症 ［類音］ɹeµueµınʃ ［レベル］6 ul;ɹecnelɉ/ueµınʃ Ɉʔ:ᴅel

ɹecᴅ ［名詞］システム、体系。ᴅec の集合体。 ［反意語］ᴅec ［レベル］3 ꞁL:ꞁcɔn:ɹıcᴅ からの類推 【用例】 lıɒ ɹecᴅ システムを作る、体制を整える

ɹecᴅdcɉ ［政治］連立政党 ［レベル］4 ꞁL:clᴅəɉ:µcɒcı

ɹecµ ［単位］セイル、静電容量、電気容量 ［レベル］5 古 : 元は ɹeeµe ccµe（静かな電気） ［語法］ コンデンサーの極板の間に１イレットの電位差を生ぜしめるために、１ピオルの電荷が必要である時の静電容量。ファラドと比較。

ɹeclcl ［化学］リチウム ［レベル］4 ꞁΔ: 制

ɹee ［感動詞］まぁまぁ ［感動詞］やれやれ、困ったもんだ、困ったものだ。自分及び相手、或いは状況に対して使う。 ［レベル］2 古 lɔɔ:lɔɔ:dı ɑeʃ:ʃɉəlcɉɔ,ılʃ ［語法］ 相手をなだめる言葉。通常２回いう。

ɹee(Ɉ) ［格詞］［文頭純詞］そして、で、弱順接 ［レベル］1 ꞁL:ɉıı。どもって言葉を繋ぐときの ɉıı から来た。

ɹeeʃ ［名詞］中立 ［レベル］2 ꞁL:ɹeel/ʃel 【用例】 enccꞁ lıl ɹeeʃ. エニークは中立を維持している。

ɹeeɱıɒ ［地球の国名］スイス ［レベル］5 ꞁL: 永世中立国のイメージしかない

ɹeeʃueɉʃɔ ［言語］あいまい母音、曖昧母音、シュワー ［レベル］3 µɒ;/「中立母音」 Ɉʔ

ɹeeʃıɉı ［言語］中性名詞 ［レベル］5 Ɉ0

ɹeel ［名詞］淀み、よどみ。水が流れずにたまっているもの。 ［動詞］

yəl（川など）を淀ませる、淀む、よどむ、澱む、肩などが凝る、血が巡らない ［類義語］ɔyəl ［レベル］3 μɑ;ʉeel.kʃɒ;ʉeeμe/lɩl「静かにある→静止している、動かない」 J0:ʉeelɩl から 【用例】 ɪɪ, ɑlel eȷ jeel ɑəɔl. あぁひどい肩こりだ。
jeelɩl ［医療］鬱血、うっ血、鬱血、うっ滞、鬱滞 ［地名］セーシャル。アルバザード西南部の地名。 ［レベル］4 J0:ʉeelɩl.ɑu（淀み）から。ʉeeμe/lɩl（静かにいる）
jeeu ［動詞］yəl を縮れさせる、縮れる、パーマをかける、皺くちゃにする、しわくちゃにする ［名詞］縮れ、ちぢれ、パーマ ［レベル］3 1L:ȷɔnc/eeu
jeeuncɪ ［美容］パーマ ［レベル］3 1L
jeeɒ ［魔法］［化学］重合 ［レベル］5 1L ［文化］ ɑɔlɒcyə
jeeɒyeu ［化学］重合反応 1L
jeeɒɪ ［経済］ポートフォリオ ［レベル］5 JJ:jeɒɪȷ。株や債券など資産の書かれた書類をまとめてひとつのものと見なしたことから。
jeeɒɪʃc ［魔法］重合度 ［レベル］5 J1 ［文化］ ɑɔlɒcyə
jeeɒɪll ［化学］重合度 ［レベル］5 1L
jeeμ ［形容詞］静かな、黙っている、黙った ［名詞］静寂、沈黙 ［動詞］yəl を静まらせる、静まらせる、黙らせる、黙る ［魔法］セール（サイレス、マホトーン）。害の中位黒魔法。声を出なくさせ、呪文の詠唱を阻害する。呪文を唱えなくても魔法は発動する。 ［類義語］nɔuel ［反意語］lɪu ［レベル］2 μɑ;ʉeeμe.l 1L: 古 :ʉeeμe ʉeeμe:ʉeeμe:nɔuel 【成句】［メタファー］jeeμ yən lɒccμ クミールのように静かな：上品というニュアンス ［メタファー］jeeμ yən bɪl 壁のように静かな：おもしろみがないというニュアンス 【用例】 eɒ jeeμ 黙る ɪn nɪ nɪə ɒɪn μɪ eɒ jeeμ. 家の中が静かになるので嬉しい。
jeeμlɔɔl ［電算］マナーモード ［レベル］3 ul;/「静かな状態」 J? 【用例】 ɪμ jeeμlɔɔl e dcɪlɪd ケータイをマナーモードにする
jeeμncl ［名詞］(nɪ) 静かな驚き ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ
jeeμɒɪφleu ［医療］非運動性パーキンソン病 1L: → ɒɪφleu
jeeμɑeɒȷ ［名詞］茫然自失 ［レベル］2 JJ
jeeμφeȷ ［名詞］(nɪ) うんざり、ウンザリ ［レベル］3 1L:ɒel ［語法］ しばしば単調でつまらないか苦しいことに対し、疲れるとともにもう嫌だと思う気持ち。【用例】 ɪn nɪ jeeμφeȷ ɪ μɪɑel. 宿題にうんざりだ。 ɪn nɪʃ jeeμφeȷ ɪ ʃə lɪb lɪnel. その仕事には本当にうんざりした。
jeeμe ［感動詞］ありがとう ［動詞］yəl に感謝する、感謝する ［文末純詞］〜してくれる ［レベル］1 ɑ 古 ［語法］ 相手の行為を歓迎する場合は jenʃ 系列を使う。jenʃ より jenʃɪnʃ のほうが意味が重い。jenʃ より ɒcjenʃ のほうが丁寧。従って、ɒcjenʃɪnʃ が重くて丁寧。 こちらが頼んだことを相手がしてくれた場合は jeeμe。jeeμeʃcȷ のほうが意味が重い。同様に ɒcjeeμeʃcȷ は重くて丁寧。 感謝するという動詞用法があるのは jenʃ のみ。
・使い分け

略式	正式	敬度
jeeμe	jeeμeʃcȷ	標準
ɪnjeeμe	ɪnjeeμeʃcȷ	丁寧
ɒcjeeμe	ɒcjeeμeʃcȷ	尊敬語

略式	正式	敬度
jenʃ	jenʃɪnʃ	標準
ɪnjenʃ	ɪnjenʃɪnʃ	丁寧
ɒcjenʃ	ɒcjenʃɪnʃ	尊敬語

jeeμeʃcȷ ［感動詞］ありがとうございます ［アクセント］jEeμeʃcȷ ［レベル］1 古 ［語法］ jeeμe
jeeμeȷl ［気象］しとしと降る雨 ［レベル］3 1L 【用例】 jeeμeȷl ɪʃ jɔɑ = eȷlɪʃ jeeμel. しとしと雨が降った。
jeeμenȷ ［言語］諸語 ［アクセント］jEeμenȷ ［レベル］6 μɑ:je/μenȷ。jeμenȷ と区別するため、かつ語頭にアクセントを置くため、最初の e が長い。 JJ ［語法］ 系統の異なる言語同士だが地域が近いためまとめて論じたいときがあり、このような場合に諸語という言葉を使う。アトラスだと魔方諸語 (lcnȷdɔljeeμenȷ) など。
jees,ɑ J elʃ;jeesc
jeesc ［魔法］指、一指、いっし、セージ ［レベル］5 J0:je/sc（(ガレットが）集まってできた指状のもの） ［文化］ ɑɔlɒcyə
jeesc,ɑ hɪnɔs elʃ;jeel/sc
jeesc nɪzel ［人名］セージ＝ナゼル JJ ［文化］ ɪμclɪ ɔoen
jeel ［名詞］中心、真ん中 ［副詞］ちょうど、まさに、将に、正に、丁度 ［形容詞］中くらいの、ミドル、中央 ［格詞］〜の中心に ［数学］原点 ［美容］ミディアム ［数学］円の中心。球の中心は ʃcɒ。 ［反意語］ɒeȷ ［レベル］1 ɑ;e 赤 jeel:jeel:lɪ ɑelɒ（真中は母体） 【用例】 lɪnʃe lɪ jeel jɪlɪc. 中央公園は街の中心にある。
jeelʃceμ ［地学］漸深層。海の垂直区分。 ［レベル］6 ul;/ J∩ ［語法］ ʃceμ
jeelʃɔɒucɒ ［生物］腹直筋 ［レベル］5 J∩<JJ
jeelʃeɒ ［生物］中耳 ［レベル］4 1L
jeelʃeɒɑɪcz ［医療］中耳炎 ［レベル］4 1L
jeelʃəəl ［名詞］中央広場 ［レベル］4 μɑ;/ J∩
jeellel ［名詞］中辞典 ［レベル］6 μɑ;/ J∩
jeellɪɒc ［生物］委中 J1
jeelleɒ ［生物］中脘 ［レベル］6 J1
jeellceμ ［歳時記］真冬 ［レベル］3 μɑ;/ J?
jeelȷlɔʃ ［数学］中心角 ［レベル］4 J0
jeelnɔce ［軍事］特務曹長 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ
jeeluejn ［言語］中舌 1L
jeeluenʃ ［経済］中小企業 ［レベル］5 1L
jeeluel ［経済］中間決算 ［レベル］5 JJ ［文化］ ɑcuelɪnl の後に出される。
jeelɑlel ［生物］肩外兪、肩外愈 ［レベル］6 J1
jeelɑleɪ ［歳時記］真夏 ［レベル］3 μɑ;/ J?
jeelɑɪbɔμ ［地球の国名］中央アフリカ 1L
jeelɑeɒe ［生物］中年期 ［レベル］4 1L
jeelɑel ［ユマナ］中学校 ［レベル］3 J0
jeelɒɪʃ ［美容］センターパート J1
jeelɒɔɔl ［軍事］軍曹 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ
jeelɒeu ［言語］接中辞 ［レベル］5 1L
jeelɒellɪnɑ ［魔法］中位魔法鏡 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcyə
jeelɑcμec ［交通］中央分離帯 ［レベル］5 μʃ;/ J∩
jeelφɪlcȷ ［軍事］センターファイア式、センターファイア μɑ;/ J∩ ［文化］ φel
jeeldɪȷe ［料理］中力粉 ［レベル］4 μɑ;/ J? ［文化］ dɪȷe
jeelbenɔɒ ［軍事］中佐 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ
jeelhyəlɪ ［軍事］中将 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ
jeelhɪnl ［気象］［軍事］［交通］中高度 ［レベル］5 μʃ;/ J?
jeelhɔ ［生物］仙骨 ［レベル］5 JJ:「中心の骨」。骨盤の中央に座すとともに、身体のバランスに大きな影響を与える骨であることから。
jeelzɪɒɔ,ɑu lezɔ
jeeloɪlʃ ［軍事］上級兵 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ
jeeloɪɪz ［数学］中心モーメント、中心化モーメント J1
jeellɪφel ［政治］中央集権 ［レベル］4 1L
jeelɪlȷ ［建築］中二階 ［レベル］4 1L ［語法］ アルカでは一階と二階の間の部屋を指す。
jeelɪlʃc ［地学］中東 ［レベル］4 JJ
jeelɪn ［ユマナ］中学生 ［レベル］3 J0
jeelɪnɑɪɒelɪl ［地学］世界標準時 ［レベル］4 μɑ;/「中央標準時」 J∩ ［文化］ μɑ でアルバザードのアシェルフィを通ると制定された。
jeelɪuelɪnʃ ［死神］中位の死神 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ 詩姫や悠姫や紗枝やランヴェムのこと。死神貴族によって作られたり、人が彼らと交わることで中位の死神になる。不老不死。 能力は高く、ɒelɑɔc など簡易な魔法はしばしば効かない。
jeelɪμnɪ ［地名］中央アルナ、中央アルナ市、中央幻京市 ［名詞］アルナ大。文脈によって ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ
jeelɪl ［地名］中洋、メティオおよびスカルディア ［レベル］4 J0:jeel/ɪn lɪl/cnȷɪɪl
jeelɪlɑɪl ［天文］中心食 ［レベル］5 J1
jeelɪcllccɒ ［化学］果糖ぶどう糖液糖、果糖ブドウ糖液糖 ul;/ ［レベル］5 J? ［語法］［文化］ ɪcllccɒ
jeelcnȷɪɪl ［地名］中央インサール ［レベル］4 1L ［文化］ → ɪlȷɪnlɪl
jeeleȷd ［気象］中層雲 1L
jeelen ［接続詞］jeel。中央の。 ［レベル］3 J1
jeelel ［地名］セーレル川 ［レベル］4 J0: 古シージア語「間にある川」 ［文化］ サヴィア東岸部、リディアとシージアの国境付近にある大河。海とこの川の間にシージア人が住み着き、文明を築いた。
jeelelɑ ［言語］共通語、標準語 ［レベル］3 1L
jə,ɑ leɪ, nɪȷʃ ɑɪcɪ
jəʃ ［物理］粒子 ［レベル］4 ɑu;jə/ʃe「砂のような」 J? ［文化］ 世界を構成する物質として ɑu で既に考えだされたが、それが物理学的に明らかになってきたのは ul 以降である。
jəʃʃe ［被服］チュチュ ［レベル］4 JJ:jə/ʃe「砂のようにさらさら舞うような」
jən ［動詞］yəl をくすくす笑わせる、くすくす笑う、笑う ［レベル］2 lɪʃɪ: くすくすというオノマトペ ［文化］ 女子供の動作。
jən jən ［擬音］くすくす ［レベル］2 1Ṗ: 制 :jən
jəɒcȷ ［動詞］yəl（地面など）をくんくんと嗅いで回る、嗅ぎまわる、嗅ぎ回る、 ［動詞］yəl を念入りに探す、探す ［法律］刑事、デカ。刑事課の警察官。現場を何度も嗅ぎまわるように調べることから。 ［レベル］3 J0: 犬が鼻を地面に近づけてすんすん嗅ぐオノマトペから。
jəd ［感動詞］くさっ！ ［動詞］yəl という嫌なものを排除する、排除する、排他する、追い払う ［レベル］2 ɑɔueʃ:jəd。臭いにおいを嗅いだときに思わず鼻をすするときの音。火急的速やかに悪臭を排除しようと短く勢いよくするので、jəə のように長くはならず、jəd と一瞬で止まるような形になった。
jəbel ［人名］スベック ［組み数字］１２／１６ ［レベル］4 ɒelʃcɪ ∩ʕ:ɪμɑə/eȷʃɪ;e 1∩: 制 : 古 :jbel ［文化］ eȷʃɪ エスタの第１２子。男。

ɉəoı ［アトラスの国家］スワ ［レベル］5 ꞀꞋ:µcɑcı

ɉəı ［植物］トリフ、トリュフ ［レベル］4 1ʕ: 制 : じゃがいもから

ɉəc ［植物］芋、イモ、薯 ［レベル］2 zφ;.ɉelın lıꞁʃı:ɉəc（いも）。乾いたものが原義。 ɉəc:ɉəc ［文化］ ɉɒ 以降のプロトタイプはジャガイモ。

ɉəcʃ ［料理］片栗粉 ［レベル］4 µcɑcı:ılıꞁʃı

ɉəcµen ［人名］誰憐 ;ɉəclen Ꞁ1 ［文化］ ləɉcın の登場人物。→ µenꞁc

ɉəclen ［魔法］御社、お社、オヤシロ、おヤシロ、おやしろ、神社 ［レベル］3 ɉɒ;ılʃ Ꞁ1 ［文化］ eɉꞁı

ɉəe ［動詞］ɥəl をしくしく泣かせる、しくしく泣く、めそめそ泣く、泣く ［レベル］2 古 :ɉəe（しくしく）鼻をすすって泣くときのオノマトペ ［文化］ 女子供の動作で、男がやると恥ずかしい。女でもガノやマユなど、エタットは恥ずかしがる。 【用例】 ɑen ɉəe nɔɉꞁ ʃc eʃ ıµ ɑen ꞁɔꞁ めそめそするな、男だろ！：父親が息子に言う台詞。ıµɑen になっているのがミソ。

ɉəə ［擬音］すー、ずー、すぅすぅ、すうすう、ｚｚｚ。寝るときのオノマトペ ［レベル］2 ꞀꞋ

ɉəəʃ ［形容詞］［ネガティブ］希少価値がない、ありふれた、どこにでもある ［反意語］ʃıɒ ［レベル］3 Ꞁ0: 古 ɉə/ʃe（砂のような）

ɉəən ［動詞］ı に対して ɥəl を鼻で笑わせる、鼻で笑う、ふんっと笑う、笑う ［レベル］2 1Ꞌ: 制 :lıꞁʃı: 鼻息のオノマトペ。笑いなので ɉəd より長く、それで ɉəə になった。笑いだから n を付けた。 ［語法］ 馬鹿にした笑い。 【用例】 hıczenꞁ le ɒcn ɉəənıʃ ı nɔnꞁ きーっ、あの女、鼻で笑ってきたのよ！

ɉəəd,ɑu 10000 ɉə/dılılı

ʉ ［言語］主語→ ɉɔc ［レベル］4 ɉɒ Ꞁ0:ɉɔl

ʉ¥϶ ［言語］ＳＶＯ ［レベル］4 ꞀꞋ

ʉınʃ,ɉzɑ ɉıɒ

ʉcꞁɥə,ɑ lııl e

ʉccƶcı ɉcczcı ɑu;e

ʉ϶¥ ［言語］ＳＯＶ ［レベル］4 ꞀꞋ

ʉeeµe,ɑ ɉeeµ e

n

n,ɑ ɉeeµ, nɔuel ɑɔueʃ

n,lɥ 属格を示す接尾辞。 ꞁenɔ.ꞁ lɥəɑcı ꞁenɔ ɑıcz → lɥəɑcın ɑıcz のように発展した。ꞁenɔ 自体は「の」として lɥ でも生き残っている。

nn ［擬音］うーんという唸り声。悩み中や考え中に出る。 ［レベル］2 古

nuı,ɑ ɒeɉ uı は戦う

nɒ ［単位］ノイスメルフィ、ミリメートル、ｍｍ ［レベル］3 Ꞁ1

nɑ ［歴史］ナディア、nıɑcı ［レベル］3 Ꞁ1

nφ ［演繹音］ごくごく、ゴクゴク、ごくり、ゴクリ、ごく、ゴク、コクン、んくっ ［レベル］2 µɑ ꞀꞋ

nb ［単位］ノイスメルバ、グラム、ｇ ［レベル］3 Ꞁ1

nɥı ［文末純詞］不安、迷い、戸惑い ［レベル］2 1Δ: リディアがどもったときに「 にゃむにゃむ 」と口ごもるという癖なんだかよく分からない奇怪な音があり、それを可愛いと思ったセレンがリディア主幹のモダリティ論に際して造語した。

nɥı,ɑ ɉclɑ

nɥı,ılʃ nı

nɥın ［名詞］猫の鳴き声、にゃん ［形容詞］名前に後続して「ちゃん」のような可愛らしい感じを生む敬称。単独では使えない。 ［名詞］〜にゃん、〜ちゃん。幼児などに対して用いる。敬称。 ［レベル］2 Ꞁ1:µcɑcı 【用例】 lcı nɥın しあにゃん。lcınɥın でも。 nee nɥın, lənı lənı. おーい、しあ。おいで、おいで。

nɥın(Ꞁ) ［接尾辞］〜ちゃん、〜にゃん。指小辞。 µɑ;ɑɔueʃ/ 指小辞の n ꞀꞋ ［文化］ ınꞁɒeu

nɥınnɥı ［文末純詞］［女性］［ɑɔlʃe］ɉec ［レベル］1 ［類義語］nɥıınɥı Ꞁ1:µcɑcı:nɥıɒ/nɥıɒ ［語法］ 女性語だが、主に ɑɔlʃe が使う。ɥənꞁ は nɥıınɥı。それ以外はどちらも使わないことも。

nɥıɒ ［動詞］ɥəl（内容）を ı（聞き手）にいいよどむ、いいよどむ、口ごもる、言い淀む ［ɒclcı］nɥı ［医療］吃音 ［レベル］2 1Δ:ɉeµen: リディアが「 にゃむにゃむ 」といっていたのでミリア限定 ［語法］ eꞁɔɉ は吃音のように途中で言葉が詰まったりすること。nɥıɒ は「え、えーと。うーん……言おうか言うまいか悩むなぁ」のような態度のこと。 ［文化］ 口ごもりそうになれば発話をゆっくりにして調節したり、ポーズを置いたりする。文の途中で ɉıı,ɉıı と繰り返すことはあまり多くない。日本人よりフィラーの使用頻度が少ない。 ポーズを置いてるときは首を左に傾げてやや目を細め、考えているような顔をする。そして左手を前に出す。高さは胸から首くらいである。手は片手拝みを丸めたような形で、これは「ちょっと待って」を表わす。手は指を額につけてコツコツしても良い。これも考えていますということを表わす いずれにせよ、今考えているので待ってくれというジェスチャーを取る。そうでないと話が途中で終わったのか考えているのか区別がつかないからである 日本人が口ごもるのはまだ発話が終わっていないという合図のためである。そうでないと終わったのかと思われてしまう。また、ポーズがあるだけで日本人は話を遮って聞かないことがある アルカは相手の話は最後まで聞くし、喋り手も最後まで話すのが礼儀である。だからポーズがあってもゆっくりになっても聞き手は話を取らない。最後まで黙って聞き続ける。

nɥıı ［µenʃe］nɥı ［名詞］［形容詞］nɥın ［レベル］2 1Δ

nɥıınɥı ［文末純詞］［ɥənꞁ］ɉec ［レベル］1 ［類義語］nɥınnɥı Ꞁ1:µcɑcı:nɥıɒ/nɥıɒ

nɥɔhe,ɑ cun

nɥɔe,ɑ ɒɔc nɥɔhe/eµcıɤ「弱い水」？

nɥə,ɑ enꞁ

nl ［単位］ノイスメラ、ミリリットル、ｍｌ ［レベル］3 Ꞁ1 ［文化］ 1nl は約２ｍｌ。

nı ［名詞］心、こころ、気持ち、心理 ［動詞］ɥəl を感じる、感じる、思う、想う ［文末純詞］〜のようだ。なんとなくそう感じた推量。丁寧語は ınıɒ。 ［レベル］1 ［類義語］ıleɒ ɑ:ɉııl;e 赤 nı:nı:lə nı:nı,ılʃ ［語法］ nı,sɔ,ʃccı,hıʃcı,ɉccı など、心系はすべて名詞が本義。ʃccıl は愛すること、ʃccı は愛。なお、ɉccnı,ʃccı,hıʃcı など対象を ɥəl に取る動詞は同時に愛する人など相手を指す受動名詞にもなる。 ［文化］ ・心の在処 アルバザードでは心は胸にあると考えられている。実在の器官でないということは zφ のシージアで戦死者の解剖をして古くから知られていたが、目に見えない器官として存在すると考えられつづけた。 苦しんだり悲しんだりすると胸が痛くなるため、心は胸にあると考えられつづけた。胃腸の調子が悪くなることから、胃腸にも散在すると考えられたこともある。 ɉɒ までは心臓という臓器と関連付けられることもあった。これは dcnı などの語源で確認することができる。 µɑ になるとセレンが心について、右の大胸筋のうち、上腕骨大結節後から鎖骨に至るまでの鎖骨部に存在すると述べた。これが契機となり、以降は心の在り処というとそこということになっている。 ・現実では 英語と違って心臓と心を同一視することはなく、０５年まで漠然と心は胸にあると考えられてきた。 ０５年以降セレンは過去の出来事を思い出して鬱になると、右の大胸筋のうち、上腕骨大結節後から鎖骨に至るまでの鎖骨部が締め付けられるように痛くなるようになった。それまではそんなことがなかったが、大きな不幸により、そのような体質になった。それから心の在処がここだと考えるようになった。 【成句】 ꞁɔµ nı ı 〜を気に入る、気にいる、気に入っている。ɉccnı より弱い好意。 µɔʃ nı c 〜が苦手だ。ɉcn より弱い嫌悪。苦手感。 【用例】 nı eɒ scɉ 心が壊れる、心が破れるように苦しい nı lıl 変わらぬ心 el nı bın ıꞁlıʃʃı lı leeu. 旅は出立つ前が最も楽しく、 el nı ueɒ ıꞁlıʃʃı ꞁen lcu ɔn ɔɒı. 犬は鳴き声だけが最も恐ろしく、 el nı lınʃ ıꞁlıʃʃı ꞁen lcɒı cn ɔn ɒcn ʃclle. 女は後ろ姿が最も美しいものでありんす。 lee el nı ɑcueµ ꞁen ɒcn ɔl heʃe elb ɑenlɜʃʃı. 気軽にひょいとめくれば夢はああいずこ。 lɥılɥı ɒcın ın lɔ len ʃɥə ʃcl ɥınnı. わっちにゃそんなことできんせん。 （『狼と香辛料』賢狼ホロ） ʃɥə ʃcl nı nɔın ɔlʃı lenı eʃ ɒɥəɔ ıʃc ʃɔʃıl. どんなに離れてても こころはそばにいるわ（『負けないで』ＺＡＲＤ）

nı(Ꞁ),ılʃ ın

nı,ɑ lcn。ɑu 以降、sın が滅んで nı が ɑen と lcn の両方を兼ねるように。 elʃ;e

nı,ılʃ ıı

nıʃ nı/ıʃ

nıʃlɔ,ɑ bın

nıʃlɔꞁə,ɑ nıl nıʃlɔ/ꞁə

nıʃc ［形容詞］敬虔でない、信心が浅い、罰当たりな、信仰心のない ［反意語］ɒcꞁı ［レベル］2 @ 1L

nıʃclɥəɔ ［言語］心理所有動詞 Ꞁ0 ［語法］ nı のみ。

nıʃce ［名詞］感想 ［レベル］3 Ꞁ0:nı/ʃcl/ʃe

nıʃceɉeu ［名詞］感想文、読書感想文 ［レベル］4 Ꞁ0 ［文化］ 学校で読書感想文という宿題はない。それに似たものはある。ＰＲ文といって、本や商品など、自分の好きなものをひとつ他人に紹介する文を書く。自分がなぜそれを良いと思うかを述べ、長所を主張し、他人に共感させることで、人を惹きつける説得力ある主張ができるように訓練するためのものである。感想文と異なり、より社会に出た後に役立つ技能を身に付けられるようになっている。 【用例】 ʃə ɑe ɑıɉʃ ʃeʃ nıʃceɉeu lı. これ要約じゃなくて読書感想文だわ。

nıꞁ nı/cꞁ

nıꞁl ［再帰動名詞］苦笑、苦笑い ［動詞］ɥəl を苦笑いさせる、苦笑いする ［レベル］3 1L:lcɔn:nıꞁcnıl 【用例】 nɔn ɉccnı eɒ ʃɥə ɑecnel enʃɔ nı ɉıʃ eɒʃ ɒcl ʃɥə ləʃ len leɉ nɔn lıɑıʃ ꞁɔꞁꞁɔ nıꞁl. 苦笑いして いつも 食べてくれるあなたを もっと 悲しいくらいに 好きになる（Ｌｅ Ｃｏｕｐｌｅ『料理記念日』）

nıꞁꞁ ［名詞］知覚、認知、認識 ［言語］認知 ［動詞］ɥəl を認識する、認識する、認知する、知覚する ［レベル］3 1Ꞌ: 制 : 語源不詳 ［語法］ アルカでは六感までである。視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、直感の６つ。 動詞は意識的な知覚行為と無意識の知覚行為に分かれる。また、無意識の知覚行為動詞と器官名は同じである。 また、その知覚が対象とするもののリストも挙げておく。例えば嗅覚の対象は「匂い」という単語である。嗅覚を使って人間が感じ取るのは「匂い」である。このように考えてリストを作る。 意識的：cn, ʃeµ, ɔs, ʃɔın, lɔcʃ, nıun 器官＆無意識的：cnɉ, ʃeɒ, ɉcµ, ʃɔı, ueɉn, nıuc 対象：clʃı, ɑɔ, es, ʃɔɉ, lɔc, nılɉ

nıꞁlnıɒ ［生物］感覚神経、知覚神経 ［レベル］6 1L

nıꞁlɑcı 認知世界 ꞀꞋ ［文化］ ɑcııl

nıꞁlɥəɔ ［言語］知覚動詞 ［レベル］6 Ꞁ0 ［語法］ cn など。

nillzelɔ ［生物］視床 ［レベル］6 ⅃0: 感覚の脳器官

nillın ［言語］認知主体 μɒ ⅃⅃ ［文化］ nıllelɒɑel

nıllczɒ ［言語］認知革命 μɒ ⅃⅃ ［文化］ nıllelɒɑel

nıllɔɒ ［言語］認知様式 μɒ ⅃⅃ ［文化］ nıllelɒɑel

nıllɔl ［言語］事態 ［レベル］4 μɒ ⅃⅃ ［文化］ nıllelɒɑel

nılleʃ ［生物］視床下部 ［レベル］6 ⅃0:nıllzelɔ/ʃe

nıllenuc ［生物］［言語］認知能力 ［レベル］6 μɒ ⅃ʔ

nıllelɒɑel ［言語］認知言語学 ［レベル］6 μɒ ⅃⅃ ［文化］ μɒ でセレンが唱えた。この概念ができたことを認知革命という。類型論や対照言語学やアルカの制作から起こった。地球と異なり生成派からの分離で起こったわけではない。起こり方からそもそも違う。 nɒ 以降は下火となり、ul で再評価されるようになった。 アルカの認知様式については「●アルカの認知様式 ɑcle:///€:/ɒel⅃⅃_⅃/ȷlıcʃıμlı/ȷlıchʃ ɒl/ȷʃəɒɥ_ɥəlɑ_1ɱ٩.hʃɒl」が詳しい。

nılıɒı ［名詞］仲間、ナカマ、なかま ［類義語］hıdn ［アクセント］nılıɒ↑ ［レベル］3 ȷɒ;<,ılʃ</「心の輪」 ⅃ɱ:μcɒcı

nılc ［名詞］（nı, ʃcl とともに）当惑する、困る、悩む、戸惑う ［動詞］ ɥəl を困らせる、困らせる ［レベル］2 1L:lcɔn: 古の nı と lc（心動く）から造語。 ［語法］ delȷ と同じ語法。nılc は「えっ、えっ！？」という感じの戸惑い。delȷ は「うーん、う……うーむ」という感じの悩み。我ながらよく分かる説明な気がする。

nılclc ［名詞］切腹、ハラキリ ［類義語］lələʃ、ʃɔɒɔlılc ［レベル］3 ȷɒ ⅃0: 古「自分を切る」 ［文化］ アルティア人のカランたちが行った自害方法。アルバザードには形を変えて伝わり、ルルットという形になった。

nılɔl ［名詞］感覚、感じ、フィーリング ［レベル］2 ȷzɒ;<>nı/lɔ（ɑu で「内側」） ⅃ɱ

nılɔldınʃ ［生物］感覚系 μʃ;/ ⅃ɱ

nılеı ［名詞］バカンス、長期休暇 ［類義語］ncın、ɑclncın ［レベル］3 ⅃1:μcɒcı:「心を癒す」 ［文化］ 社会人にとってはディアセルとメルセル前後の休日ラッシュのこと。それぞれ一週間程度の長さがある。学生にとってはこれに加え、四季ごとに長期休暇がある。 ・夏休み 夏休みは zın ɑəl の終業式の翌日から始まり、ディアセルを通って zın 末まで約一カ月弱の間続く。dıl ɒcı から新学期を迎える。 日本では dıl ɒcı は８月１０日ごろなのでアルバザードでもまだ暑さの真っ盛りで、学生は暑い暑いと文句を言いながら登校する。ただ、アルナや特にアルシアではわりとすがすがしい。 ・秋休み 冬休みの前に秋休みというのがある。秋休みは μəs lən の終業式の翌日から始まり、メルセルを通って ɒcı ȷeμ まで約二週間続く。ɒcı μıu から新学年を迎える。 ・冬休み その後一カ月半ほどして lcȷ の月が丸々冬休みとなる。この前後が最も寒く、体に堪えるためである。 アルバザード、特にアルナは比較的緯度が高く、夏より冬のほうが厳しいため、冬休みは日本より長い傾向にある。 ・春休み 最後に、ɑəl ɒcı_ɑəl ȷeμ までの二週間が春休みである。

nıləʃ ［名詞］悪酔い ［類義語］ɒıdμcs ［レベル］3 古 :nıləʃ ← nıləʃȷ（飲むな）。リディアは酒に極めて弱く、子どものころ使徒に飲まされたところ、やけに陽気になって仲間に絡んだり抱きついたりした上に服まで脱ぎ出したことを受け、アルシェはリディアに禁酒令を科した。しかし日本で飲んでセレンにキスをしたり、アフリカで飲んで服を脱いだりを繰り返した。このようなことが数回起こったため、「飲むな」で悪酔いをしているリディアをたしなめるようになり、その後悪酔いを指すようになった。 ［語法］ ɒıdμcs 【用例】 ʃcl nıləʃ 悪酔いする。寄って人に絡む。

nıl ［動詞］ɥəl を ı{ʃel, hııȷ} に対して笑わせる、笑う ［再帰動名詞］笑い ［レベル］1 1ʔ: 制 :nıʃlɔlə(楽しい口 , 或いは楽しく言う) nıʃlɔlə:nıʃlɔ lə ［語法］ 笑う対象が ı に来る。あざ笑うなどネガティブな場合には ʃel を取り、ギャグがウケたなどのポジティブな場合には hııȷ を取り、中立な場合に ı を取る。 ［文化］ uɔμʃɑeɒe 【用例】 lı nılıʃ ɒcl ılȷeμ. 彼女は兄を見て笑った。

nıl(⅃) ［サール］ナッシュ ［レベル］5 ɒel: 古 ［文化］ イーナという妹を持つ。イーナに誘惑され、婚約者を裏切ってイーナと姦淫し、エルトに咎められ、切り殺される。

nılȷcnȷɔl ［名詞］お笑い番組 ［レベル］3 1L ［文化］ 日本にあるようなものはない。ユーモアを中心としたトークショーが nılȷcnȷɔl に当たる。 【用例】 nılȷcnȷɔl l'eʃ bın cn eɒ ȷcl lılı cɒ uıμzɔn cn. 面白そうなお笑い番組が７時からあるみたいだ。

nılcμcȷ ［形容詞］［ポジティブ］心が細分化されている、心の機微が分かる ［反意語］ılnılcμcȷ ［レベル］3 ⅃0:nı/clcμcəȷ（心の鏡） ［語法］［文化］ → ȷeμ nı 自分の感情を様々な表現で正確に表現できるさま。反対に、例えば嫌なものは「うざい」だけで片付けるような状態が ılnılcμcȷ。nılc μcȷ は知的で風流だというイメージがあり、良い意味で使われる。繊細で傷つきやすいとか神経質という意味では使われず、機微が分かるという意味で使われる。ılnılcμcȷ は悪い意味で使われる。

nılcl ［名詞］魂の故郷、心のふるさと、心の居場所、精神的よすが、居場所、精神的居場所、心のよりどころ、よりどころ ［類義語］μəlclɔ ［レベル］4 ⅃0:nı/μəlclɔ（心の故郷） ［文化］ 子供のころずっと住んでいたところが μəlclɔ であり、これは肉体的なものである。対して nılcl は精神的なもので、子供のころに慣れ親しんだ作品や考え方を指す。作品とは主に絵、文、ゲームなど、芸術的な内容である。これらのうち、特に自分に色濃く影響を与えたものを nılcl という。 【用例】 ɒcıueeμ lıμʃ eʃ nılcl e ȷeμen. セレンにとってＦＦ４がナシルだ：lıμʃ を使っている点でもうひとつの主張をしている。

nıleʃ ［音楽］楽団、バンド、楽隊 ［レベル］4 ⅃1:nɔl/ıleʃ

nıȷ ［動詞］nı/eȷ ［レベル］2

nıȷʃ ［生物］肘、肘頭 ［反意語］ɒcll ［レベル］1 ȷeμʃ 1ɱ: 制 :ncȷʃ 古 :ȷə（肘）、nə（膝） ȷə:ȷə ［語法］ 肘打ちの打突点を中心にその周囲。肘の裏は含まない。そこが痛いときは肘が痛いですとは訴えない。ılnıȷʃ が痛いという。

nıȷʃȷɔoın ［生物］曲池 ［レベル］6 ⅃1

nıȷʃbıɒ ［武道］肘打ち、肘鉄 ［レベル］3 μɒ;/ ⅃ʔ

nıȷl ［動詞］ɥəl を納得する、納得する ［感動詞］なるほど、成程、了解 ［レベル］2 1ɱ: 制 : 古 :nılı（納得する）。「心が場所を得る」。

nıȷı ［生物］卵子、卵（らん） ［レベル］3 @ 1L

nıȷılɔμ ［生物］卵管 ［レベル］5 1L

nıȷıez ［生物］卵巣 ［レベル］3 1L:lcɔn

nıȷıezdcφ ［医療］卵巣がん ［レベル］6 1L

nıȷclə,ılʃ bın nı/ȷclɑ

nıȷɔɔlɥəɔ ［言語］感情動作動詞 ⅃0 ［語法］ nıl, ıȷel, lə̃ll など。

nın ［μenʃe］自分 ［レベル］1 中期制アルカ

nın,ȷzl nı、cn、ɔnnı、nınnı < nı

nın,ılʃ ɥəə

nınʃı ［魔法］奇門遁甲 ılʃ ⅃ɱ

nınʃc ［ジョブ］遁甲家 ılʃ ⅃ɱ

nınʃɔ ［人名］ナント ɾlu;e ⅃ɱ ［文化］ アッティと人間の娘の間に生まれた息子。

nınʃɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］オリオン座 ⅃ɱ ［文化］ cɑı

nınʃe ［名詞］主体 ［反意語］ɔleʃ ［レベル］4 μɒ;nın/ʃe「自分のような」 ⅃ʔ

nınʃeeɒɔ ［経済］財団法人 ［レベル］5 μʃ;/ ⅃ʔ

nınnı ［文末純詞］［μenʃe］ɔnnı ［レベル］1 1Δ:μcɒcı ::nın

nınnı(⅃) ［μenʃe］nın の複数形、自分たち ［類義語］nɔȷȷe ［レベル］1 1L:lcɔn

nınnıl ［代詞］自分たちの ［類義語］nɔȷȷel ［レベル］1 ⅃0

nınlı ［地名］ナンラ ȷɒ<uɒ ⅃ʔ ［文化］ ヴェマ内陸部の地域。東西はほぼ中央、南北はほぼ最南端に位置する。

nınlıeʃel ［料理］プーアル茶、普洱茶 ［レベル］4 μɒ;/ ⅃ʔ

nını ［名詞］女の赤ん坊 ［反意語］ılnını ［レベル］2 古 :nını（赤ん坊）。赤ん坊の擬声語が nıınıı。 【用例】 nını enıȷ lıuel. 赤ん坊がぎゃーぎゃー泣いている。

nını(⅃) ［代詞］［bʃn］ın ［レベル］2 ⅃⅃:lɒccμ/μcɒcı

nını,ılʃ ʃc nı/nı

nınıʃə ［代詞］［bʃn］ınʃ ［レベル］2 ⅃⅃:lɒccμ/μcɒcı

nınılɔ ［被服］女袴、ななこ ［類義語］lınıʃı ［レベル］4 ȷɒ;<ılʃ ⅃ɱ ［文化］ 日本の大正時代の女学生の袴のような服。凪人女性の一般的な衣装。lınıʃı と違って股が分かれておらず、スカートに近い。ıɒıφıʃılc 用の戦闘服・作業服だったのが一般女性にまで広まったもの。

nınıȷȷe ［代詞］［bʃn］ınȷ ［レベル］2 ⅃⅃:lɒccμ/μcɒcı

nınıȷȷeʃə ［代詞］［bʃn］ınʃeȷ ［レベル］2 ⅃⅃:lɒccμ/μcɒcı

nının ［文末純詞］なんちゃって、～みたいな ［名詞］ギャグ、ジョーク ［レベル］2 古

nınıɑeɒe ［地学］［歴史］古原生代 ［レベル］6 ul;/ ⅃ʔ ［文化］ φııueɑeɒe 原生代（原生累代）の中の３つの代の中の最初のひとつ。２５億から１６億年前までにあたる。この時大陸がはじめて安定した。そして光合成によりエネルギーと酸素を作り出す微生物、シアノバクテリアが誕生した。

nınıɒc,ılʃ ʃc nı/nıɒc

nınıl ［生物］赤ん坊、赤ちゃん、あかちゃん ［レベル］2 μɒ;nını/ıl ⅃0:nını/ıl

nınııɒɔ ［名詞］ベビーカー、乳母車 ［レベル］2 1L

nınɔ ［医療］ナノ、陰気な性格 ［レベル］4 ⅃1:ueμn/nı ［文化］ lıɒelcı

nınɔ(⅃) ［代詞］［bʃn］lɔl ［レベル］2 ⅃⅃:lɒccμ/μcɒcı

nıu ［動詞］ɥəl に固執する、固執する、執着する、こだわる、頓着する、しつこい ［形容詞］しつこい、粘着質な、粘着。nıuın の形で。 ［反意語］ɒcb ［レベル］3 古 :nıu,nıuıɒe「負けるな」。nıu は nıuıɒe の略とも頭字語化ともいわれる。アルカは幻字を使っていたので、頭字語は口語上で英語などに慣れているものが勝手に作っただけでその数は少なく、nıuıɒe の略と考えるほうが自然か。 【用例】 ucl nıuın しつこい男

nıulclȷ ［ネガティブ］［形容詞］［副詞］いちいち、一々、ちくいち、逐一 ［レベル］3 1L:μcɒcı:ıμbıleIʃ

nıun ［動詞］ɥəl を第六感で知覚する、知覚する、感じ取る、察する ［文末純詞］第六感での推量。～な気がする ［レベル］2 1ʕ: 制 :nıuc

nıuı ［形容詞］神経質、ナーバス、気難しい ［レベル］3 1ᚠ: 制 :nıuıȷ「気持ちが戦っているように苛立つ」であり、英語のｎｅｒｖｏｕｓとは無関係。

nıuıȷ ［動詞］ɥəl と対立する、対立する ［普通動名詞］対立、いさかい、諍い、抗争 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:μcɒcı:nı/uıȷ（心で戦う） ［語法］ 基本的には手を出さずに対立すること。物理的攻撃を加えない争い。殴りだすと ʃɔu に近付く。さらに規模が大きくなると uıȷ になる。 ［文化］ いさかいが起きたときは第三者を交え、お互いの意見を良く言い合い、妥協点を見つけて解決する。アメリカのように一々法廷に持ち込まない。話し合っても解決しない場合は法廷に持ち込み、審議を受ける。

民事の場合、裁判費用は敗者が持つ。

nıuc ［名詞］勘、第六感、直感、虫の知らせ ［動詞］無意識に ɥəl を直感する、直感する ［レベル］3 古 :nıuc（勘。「心の力」から）。或いは nıucucɑ からか。 ［語法］［文化］ uccɑ を知覚するための器官で、アテンに備わっている。アテンの体内には uccɑ があるが、uccɑ の量は眺圧と体積の積に比例する。体積は人間であれば大差ないから、問題は眺圧である。nıuc はこの圧力や総合的な uccɑ の量を感じることができるため、相手の強さが分かる。 ᴅeȷʃ ができてからは感覚的な計測だった強さが数値を用いた計測になった。さらに魔法鏡ができると目盛りを使って細かく強さを測れるようになった。 現代人は nıuc がほとんど退化しているが、予感などとして現れることがある。例えば相手のセレスが弱くなり死を迎えているのがなんとなく分かる場合、それを nıuc で感じ取ることがある。死は視覚や嗅覚などでもある程度分かるが、nıuc でも感じ取ることができる。そのほか虫の知らせも一部 nıuc が関与していると考えられている。 【成句】 nıuc dɥeȷʃ(en) 嫌な予感がする、悪寒がする 【用例】 ☆ nıuc ıʃ dcl. ピリピリしていた。

nıuclȷ ［化学］チロシン 1L:ȷeɥen: アドレナリンなどの神経伝達物質を作る材料となることから。

nıue ［言語］モダリティ ［レベル］6 ɥɑ;/ 1L

nıueᴅ ［感動詞］ありがとうございます、もったいのうございます、恐れ多いことでございます ［レベル］3 古 :nı/ueᴅ

nıueɥ ［名詞］不安 ［形容詞］不安な ［類義語］ɑcȷφıcz ［反意語］nıl ［レベル］2 1L:nı/ueɥn（心が崩れるような） ［語法］ nı が既に入っているので、コロケーションは ʃcl nıueɥ（不安だ）で良い。 nıueɥ は不安。ɑcȷφıcz は不安と絶望の混じった気持ちで、nıueɥ より一般的に強く、原因も明瞭である。「あぁこれから発表だ。大丈夫かな、緊張するなぁ」という軽度のぼんやりとした不安は nıueɥ。電車で腹が痛くなるかもというのも nıueɥ。「今までこの仕事しかしてこなかったけど、もう需要がない。しかし４０過ぎて転職してもどこも使ってくれない。このまま金もなく老いて餓死か孤独死か……」というような不安に絶望が混じった深刻なものが ɑcȷφıcz。 nıueɥ はドキドキし、心拍数が上がり、キリキリした胃痛になる。ɑcȷφıcz は鬱になり、過去のことばかり思い出し、不安で電車に飛び込みたくなり、背中やみぞおちを中心に重苦しい胃痛がする。よって両者の弁別は容易である。 【用例】 ȷeɑ nıueɥ 不安を拭う、心を保つ ın ʃclıʃ nıueɥ. 心が不安だった。 ın ᴅɔl uın cᴅ ɑcȷ ɔl nıueɥ lıl ɔnen ᴅıcl. lcɑcıɾ 今夜は化学に対する一抹の不安を抱きつつ寝る。おやすみ。

nıueɥnıɥə ［医療］不安障害 ［レベル］5 1L

nıueɥueɥınʃ ［医療］クラスターC。人格障害の。 ［レベル］5 ul;/ ɹ?:ᴅel

nıɑ ［建築］階段 ［生物］分類階級。タクソンの集まり。 ［音楽］グリッサンド。縦ロールの楽譜でもグリッサンドはきちんと階段状になる。 ［レベル］2 1?: 制 :ncɑ。対というほど段と階段は意味が接していないので、単なるアプラウトによる意味変化として残した。 ［文化］日本と同じような階段である。手摺がついている。途中で畝って曲がることもある 【用例】 ᴅɔɑ nıɑ 階段を昇る

nıɑʃ ［名詞］感動、感心 ［形容詞］感心した ［動詞］ɥəl を感動させる ［レベル］3 1

 ←古 :nıɑıc（心が熱くなる）【用例】 ʃcl nıɑʃ ᴅın{ɔn} 感動する

nıɑ ʃ'ıɥlı ［ユマナ］アルカの階段 ［レベル］4 ɹ? ［文化］ セレンがアルカに関わりだしたのは９１年のことだが、９３年の１０月に初めて自分の意思で人工言語を作ろうとした。それが神無アルカである。後に９４年になると、２年になり、恐らく秋ごろだと思うが、クラスメートがオリーブ色の水性ペンを持っており、それがカッコいいと思い、近所の文房具屋で買った。赤アンクノットや小説版アンクノットのノートを買った店でもある。そのペンを何に使おうか考え、「そうだ自分だけの言葉で自分たちの仲間と話せたり、休み時間人気のない廊下で一人で謎言語で呟けて、仮に通りすがりに聞かれたとしても何言っても解読されないのは凄いぞ」と思い、アルカをもとにというかアルカを改定して自言語を作ろうと考えた。そこで後の赤アンクノットとなるコクヨの１００ページノートを買い、オリーブペンも買い、９４年にアルカの改定案を作った。これが自分で初めてアルカを作ろうと思った最初の出来事である。 それで、その「自言語で話せたらカッコいい」という考えは、当時中学がいくつかの棟に分かれており、自分の教室から一番離れた棟の３階前後を下っているときに思いついたものである。当時から人嫌いで休み時間は遠くの人気のないトイレに行っていた。自分の行動パターンからするに４階奥のトイレだろう。そこで用を足して戻る最中にアルカを思いついたのではないか。２年のときは２, ３階が自分の教室だったので、下っているということは、トイレから出て教室へ戻るときではないか。あるいは音楽室辺りから戻る際に思いついたかもしれないが、記憶では一人で人気のない階段を降りていたので、恐らく休み時間の散歩中だろう。トイレは確証ないが、休み時間の散歩については確証がある。 そこでその階段というのが右の画像である。ちなみにこの写真は卒業後に文化祭で撮影したものである。アルカをやろうと思いついたのは赤ずきんチャチャというアニメが一旦放送終了になると新聞に書かれていたころであり、クールの境目で、大魔王を倒した５０話あたりかその前のクールかのどちらかだと思うが、判然としない。チャチャが終わるかもというころにオリーブペンを見たような記憶が残っているだけだ。体感的には中２の秋ごろではないかと思うが、赤アンクノットにも記載がなく、９８年に中２ではあるがいつかは分からないと推測が書かれているので、１２年から見たらなおさら分かるわけがない。 追加検証してみたのだが、赤ずきんチャチャの１クール目が終わったのは２３話で６月１０日放送の「戦え！卒業試験」だそうだ。これだと記憶よりだいぶ遠いし、まだ大魔王を倒していないので終わりというイメージがない。大魔王を倒して最終回という誤情報を新聞で読んだ記憶があったのだが、大魔王を倒したのが５０話で１２月１６日放送の「愛と勇気と希望の大決戦」だそうだ。当時はコボちゃんを読んでいたので図書館でこの日かこの前後の週の読売新聞を調べれば赤ずきんチャチャに「終」のような文字が書いてあるのを確認できるかもしれない。「終」が仮になくともちょうど学校でチャチャが終わるの？という話をしていた前後にオリーブペンを購入した記憶がある。いずれにせよ１２月１６日前後ならアルカの階段が秋ごろだという記憶にも合致するし、学校もまだ冬休みに入っていない。赤ずきんチャチャの最終回という誤情報が入った前後にオリーブペンを買った記憶がある。そしてそのペンとともに、あるいはほぼ同時期に後の赤アンクノットとなるノートを買っている。それらを買って最初のアルカの改定案を作った。だから間違いなく中２なのだが、やはり時期は１１, １２月ごろの晩秋となろう。やはり記憶は正しかったのだ。 更に追記。図書館で９４年の読売新聞を調べてきた。６／１０には「終」の文字はなく、１２／１６にも意外なことになかった。１２／９と１２／３０も調べたがなかった。３０日は年末なのでチャチャ自体がなかった。その翌週も調べようかと思ったが、もうとっくに冬休みに入っているので学校に行っていないので記憶と合致しない。あの最終回マークがついていてチャチャが終わると勘違いしたという記憶はなんだったのであろうか。

nıɑlɔʃın ［農耕］棚田、段々畑 ɥɑ;/ ɹɱ

nıɑᴅcu ［名詞］としご、年子 ［レベル］4 ɹɹ:「階段状の子供」

nıɑhıɑ ［数学］階乗 ［レベル］5 ɥɑ;/「階段乗数」 ɹ? ［文化］ → ılɑɥen ・０！＝１ ɥɑ で地球に先駆けリュウが発見した。この際０！＝１と定義された。メル、リュウ、リディアはこの考えに賛同したが、セレンだけは納得しなかった。 彼は「言葉で表現できないものは信用できない。数学語はアルカに翻訳しなければ信用できない」と言い、ｎ！に関して「ｎが１になるまで１つずつ減らしていってかけていく」という翻訳を拒んだ。この翻訳だとｎが１より小さいときに階乗を定義できないので、０！＝１は定義できないためである。 そこでリディアは「階乗はｎ個の要素の並べ方の個数を表すと定義すれば、０！は『何もないものを並べる並べ方』なので『並べない』の一通りがある。よって０！＝１と言葉で解釈できる」と述べ、セレンを納得させた。

nıɑıɥ ［形容詞］容易な、気楽な、楽な。辛いの反対。 ［反意語］lcn ［レベル］2 古 : 心を伸ばす。古にあった単語でなく、古形から作ったもの。 【用例】 ᴅcll lıb nıɑıɥ 楽な仕事が欲しい

nıɑıɥʃ ［魔法］多段魔法 ［反意語］ȷclıɥʃ ［レベル］4 1L ［語法］ ɑɔlᴅcɥə 威力を段階ごとに調節できる魔法。火、水、風など、基本属性の魔法はすべてこれにあたる。例えば火を出す黒魔法のファイがそうである。魔法はふつう低位・中位・高位に分かれるが、多段魔法はこのうちのどれにでもなれる。呪文を何行目まで読むかで低位から高位までに発展する。ファイの場合、ɑıc だけだと低位になり、１・３行目が入ると中位になり、そこにさらに２行目が入ると高位になる。分かりやすくいえば、ファイア・ファイラ・ファイガである。あるいは、メラ・メラミ・メラゾーマのことである。 中位のファイと高位のファイは魔法の撃ち方や効果が異なる。単に威力の差ではない。世界最高の魔道士リディアの低位のファイとクミールの中位のファイでは前者の方が強い。分かりやすくいえば、「今のはメラゾーマではない。メラだ」である。 むろん、同じ術者によるものなら、高位のほうが強い。

nıɑıɥınɔz ［音楽］スウィープ奏法 ɹ1

nıɑel ［名詞］心理学 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɹ?

nıᴅ ［生物］神経 ［レベル］4 1?: 制 : 古 :nıᴅelc(感じる糸) 【用例】 nıᴅ dcl 神経が鋭い、神経質な nıᴅ ɑcᴅ 神経が細い

nıᴅʃ ［名詞］注意 ［動詞］ɥəl に気をつける、気をつける、気を付ける、気を付けさせる、用心させる、警戒する、注意する、マークする ［反意語］ılᴅ ［レベル］2 1ɱ: 制 :ncᴅʃ: 古 :nıləəᴅc（心がない）【成句】 ʃıɑ nıᴅʃ 気を引く、注意を引く 【用例】 ın ɑɔnlıʃ ɑeȷ nıᴅʃel. 失敗しないように気を付けた。 ın nıᴅʃıʃ ɑıl uecnel. もう少し気を付けるべきだった。 el nıᴅʃ ɑıl cᴅ ɔdn ıᴅɔ. 車を運転するときは気を付けなければならない。 ɥe nıᴅʃ ıᴅɔ. 車に気を付けなさい。 ın nıᴅʃ ɑıl leȷ nɔȷ ləc. 食べるものに気を付ける必要がある。

nıᴅȷ ［名詞］印象、イメージ ［動詞］ɥəl をイメージする、イメージする。格組は lɔʃcl と同じ。 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 心の中の形

nıᴅȷlecȷ ［芸術］イメージボード ul;/ ɹɱ 【用例】 ɥın nɔn lles ɑın nıᴅ ȷlecȷ lc lɔlʃ ɥı. それで、家に帰ったらイメージボードを作ろう。

nıᴅȷeun ［生物］神経組織 ɥʃ;/ ɹɱ

nıᴅd ［地名］ナンプ ［被服］パンプス ll | ɥʃ; ナンプでできた靴。 ɹɱ

nıᴅdınʃ ［生物］神経系 ɥʃ;/ ɹɱ

nıᴅc,ılʃ nɔn nı/ᴅc

nıᴅcɥ ［形容詞］感受性が強い、感情的な ［反意語］nılen ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ:nı e lᴅccɥ（クミールの心） ［語法］［文化］ → ȷeɥnı oclʃ は感情の起伏が強い様を示し、nıᴅcɥ は感情の変化が起こりやすいことを示す。

nıᴅɔ ［名詞］態度、様子、愛想、物腰 ［動詞］ɥəl のように振る舞う、振舞う ［類義語］nıcᴅ ［レベル］3 1ɱ: 制 :nı（心）/ᴅɔ（形） ［語法］ → nıcᴅ 「～がよい」は ɥıʃ でなく ʃcl で現すことが多いアルカでは、日本語との違いに注意。「彼は態度が良い」は lı nıᴅɔ eʃ ɥıʃ ではなく、lı ʃcl nıᴅɔ。 【用例】 ȷc nıᴅɔ 態度が悪い ʃə ıʃ zıl lel lı nıᴅɔ uı nɑɔl. 彼があのように振る舞ったのは奇妙だった：動詞用法。稀。 ɥen nıᴅɔ ȷlɔl いつものように振舞って ɥen nıᴅɔ nce 普通の人の振りをして ɥen nıᴅɔ hııȷın 従うようにして、（子供に対して）いい子にして

nıᴅɔ,ɑ eᴅʃ nı/ᴅɔ「心が下に」

nıᴅɔl ［形容詞］心が愚かな、心がバカな、精神的に愚かな ［類義語］lecʃ ［レベル］3 ɹ0: 古 nı/ᴅɔl（心が低い） ［語法］ 知的に劣っていないが、精

神的に愚かなさま。例えばスイーツはバカだが、一流企業に勤めていれば心だけバカなので nıɒɔl となる。

nıɒe ［法律］猶予、モラトリアム ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :nıɒel「～しない時間」。

nıɒeʃ ［動詞］ɥəl をうつむかせる、うつむかせる、俯かせる、俯く、うつむく、うなだれる、項垂れる ［動詞］ɥəl を元気なくがっかりさせる、がっかりさせる、鬱にさせる ［反意語］ılnıɒeʃ ［レベル］3 J1:ɥcɑcı:「心が落ちる」［文化］ 俯くことは心が落ち込み、元気がなく憂鬱であることを指す。このため、俯くという行為自体が望ましくなく、しばしば不健康で行儀の悪いこととされる。 この考えは ləlleʃcı から継承したものだが、現代科学的には頚部の神経が圧迫されることで自律神経の乱れを起こすことから整合性がある。 現代社会はデスクワークなどで俯きが多く、ɟıc と ıɲe の登場で俯き病が増えたことから再注目されるようになった。ılnıɒeʃ も体に悪いが、通常この動作をすることは少ない。 【用例】 ʃe nıɒeʃ uecl ʃcl leun e. 俯かないこと。病気になるよ。 lı nıɒeʃej ɒcl ɥel. 彼は失敗して落ち込んでいる。

nıɒel ［形容詞］規制が緩い、厳密でない、人の態度が厳しくない、甘い、いい加減な、ずさんな、寛大な、杜撰な ［反意語］nıɑcn ［レベル］3 1L:nıɑcn に対して「メルの心」とした。使徒規則を破ったり、約束を守らないルーズな性格であることから。 【用例】 ɔz nıɒel ゆるい規則

nıɒell ［名詞］時間の感覚、時間感覚 ［レベル］4 J0:ɥcɑcı:ɒcɥɔl: 心の時計

nıɑ ［動詞］ɥəl（内容）を懸念する、懸念する、心配する、憂う、憂える、愁う、危惧する ［類義語］nıll ［レベル］3 1L: 古 :nıɑıɑıj（心が重い）［語法］ 人を心配するという意味ではなく、期待の反対。こないでくれという不安な気持ち。 【成句】 nıɑ leeʃɔcı lɔnʃ ɟɔ ıɥbızıɥɑ 内憂外患 【用例】 ın nıɑ nɔɟ uıɟʃ ucl ɒınılı. 大学に受からないのではないかと思った。 ☆ ʃə ɥeʃ ɑeʃ ɑız ıl ın nıɑ. それは心配するほどのことではなかった。 ın nıɑ lej ın ɟɔʃ cɒ ɑcj. 今日したことが心配だ。 ın nıɑıʃ ɑıφɑel ɒcl nıueɥ. 不安でやきもきしていた。 ın nıɑ ncɑe. 成績が心配だ。 ın nıɑ ueɥɟ ɟɔɑel ɟcn. ささいなことにもすぐ心配してしまう。 ın nıɑıʃ enʃɔ uɔɥʃ ɟıʃ. 心配で死にそうだった。 ın nıɑ ılıl lej nɔɟ ɟɔʃ. 自分のしたことに絶対心配しない。 ʃə ɑe ɑız ı nıɑ. 心配には及ばない＝心配するほどのことではない。 ın en nıɑ leun. 健康には心配していない。 ☆ ın ɑɔnlıʃ ɥɟccl nıɑ ın. 両親に心配をかけないようにした。

nıɑɒın ［名詞］心配の種、心配の原因、心配事 ［レベル］3 1L 【用例】 ın lelıʃ enzel nıɑɒın. 心配事を忘れようとした。 ın ɟc nıɑɒın. 私には心配事がない。

nıɑcn ［形容詞］規制などが厳しい、細かい、厳密な、厳粛な、厳正な、厳格な、人の態度が厳しい、甘やかさない ［反意語］nıɒel ［レベル］3 古 :nıɑcın,nıɑcn「リディアの心」が原義

nıɑcı ［歴史］ナディア時代、悠久の凪砂、ゆうきゅうのなぎさ ［レベル］3 古 :nı/ɑcı「夢見心地」 悠久の凪砂の凪砂は大航海時代の表れ。［文化］ オーディンの後、アルティルの前の時代。

nıφ ［動詞］ɥəl を飲み込む、飲み込む、嚥下する、飲む ［擬音］ごくっ、ゴクッ ［動詞］［ネガティブ］ɥəl を疑わずに信じる、信じる、受け入れる ［類義語］len ［レベル］2 1L: オノマトペ 【成句】 nıφ lcu → lcu 【用例】 ʃe nıφ lec. 本に書いてあることをむやみに信じないで。

nıφc ［アイテム］ナギ、霊水、ポーション、薬草 ［医療］栄養ドリンク ［レベル］3 1L:ɥcɑcı: 古 nı/φc（金属を入れるな）［文化］ 少量のヴィード傷を癒すアイテム。白魔法エリアによって作られたもののうち、最も安価で使い勝手の良いもの。カコで神聖さを増すために銀を入れたところ、体調不良を訴えられたため、ナギのあだ名が付き、そのまま固定した。 ul 以降は栄養ドリンクの意味になった。

nıφc,ılʃ ılʃcı

nıφcɟı ［アイテム］ナギサ、霊粉、ナギの粉、癒しの粉、ハイポーション ［組み数字］9／１２ ［レベル］4 1L:ɥcɑcı: 古 nıφc（ナギ）/ɟı（絹、粉）［文化］ ナギを散剤にして持ち運びやすくしたもの。ナギの水分を蒸発させ、残った魔晶をナギサとして得る。

nıφcɟı(ɹ) ［名詞］アルティア人、凪人、凪紗 ［アクセント］nıφcɟ↑ ［レベル］3 nıφc/ɟı J1 ［語法］ ılʃcın はアルティア在住の人を指す。nıφcɟı は人種的なものなので、カレンに住んでいる人も指せる。 日常的には ılʃcın で後者を意味することもある。

nıφcɟı ɑıφcɔʃ ［人名］ナギサ＝ファギオット 1L:ɟeɥen: 古 nıφcɟı（ナギの粉）。ɑıφcɔʃ ← ɑcφc（槍）［文化］ ランティス・タンヴェル期のフレメルテ（一級処刑人）。女性。アルナ大学法学部出身。

nıφcnı ［名詞］腹芸 ［レベル］4 ɟɒ;nıφc/nı「凪人の心」。凪紗が腹芸を行うところからアルバザード人がそのように命名した。 Jʔ 【用例】 ɔlʃ ɑcɔnı lɔn nıφcnı 腹芸で本音を伝える nıφcɟı eʃ ıll ı nıφcnı. 凪紗は腹芸に長けている。

nıφcbel ［料理］アルティア食、和食 ［レベル］3 JJ 【成句】 ɥɔl lılc lı nıφcbel. 和食では箸を使え：郷に入っては郷に従え。ɥɑ ごろにできた慣用句。現在は生粋のアルナっ子でも子供の頃から箸を使える。

nıφclc ［言語］アルティア語、凪霧 ［レベル］3 nıφclə J1 ［文化］ ılʃcıɥen

nıφclə,ılʃ ɥɔl elɑ ʃ'ılʃcı nıφc/lə

nıφcıll ［名詞］アルティア数字 ［レベル］4 JJ ［文化］ 十進法。0 から 10 まで順に nın, dc, ləda, ɟın, ɥɔɒc, lısc, ıɒɒc, ıɲɟı, ınlə, ındc, ın。６以降は１０からの引き算になっているのが特徴。五進数の名残を有する。

nıφceʃel ［料理］アルティア茶、凪茶 ［レベル］3 ɥɑ;/ Jʔ ［文化］ 緑茶を主とする。

nıd ［名詞］意識 ［動詞］ɥəl を意識する、意識する、気にする ［形容詞］意識した、気にした、気を使った ［副詞］わざと、態と ［反意語］ɒcɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :nıdıl（心の光）

nıdl ［動詞］ɥəl を昏睡させる、昏睡する、昏倒する、意識を失う ［医療］昏睡 ［類義語］［レベル］4 1ʔ: 制 :nıdlc（意識をなくす）［語法］ nıdl は昏睡すること。病気や事故などで長く昏睡すること。nelɑ は一時的な気絶。

nıb ［名詞］絵の具、ペンキ、ペイント、顔料、着色料一般 ［動詞］ɥəl（顔料など）を ı（壁など）に塗る、ɥəl（壁など）を lɔn（顔料など）で塗る、塗る、塗布する ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncɒıb（色の材料から）古 :ncɒφııbe（絵の具）［語法］ ɥəl の種類によって ɥəl 以下の格が変化する。 ［文化］ 水彩絵具にはフェノールが含まれており、刺激臭がする。アルバザード人はこの匂いが嫌いで、絵の具＝臭いという頭がある。 【成句】 beeb ɥən nıb 絵の具のように臭い

nıbı ［芸術］パレット ［レベル］3 1ʔ: 制 :nıbɟcz（絵の具板）

nıbc ［名詞］へら、ヘラ、スクレーパー ［料理］フライ返し→ φelɟnıbc ［レベル］3 1ʕ: 制 :nıb

nıhɥə,ɑ ncl ɑ:ɟıl;nı/hɥə「心高い」

nıɥə ［人名］ナユ ［レベル］3 古 :nıɥə ← nısə「心を受け取った」［文化］ 学問の母。アズゲルの時代に生まれた少女。魔法学を志し勉学に励んでいたが、１４歳で死んでしまう。最期まで本を手放さなかったナユを哀れんで、ユルグが永遠の命を与えた。その後あらゆる学問を発展させていく。 【成句】 nıɥə lınlı ɑccnı ıɥɟı ɥəlφ 賢者ユルグに教えるナユ先生：青は藍より出でて藍より青し

nıɥə(ɹ) ［名詞］心の痛み、心の傷 ［形容詞］感傷的な、センチメンタルな ［医療］精神疾患の接尾辞 ［類義語］ɒııɥı ［レベル］3 古？ 【用例】 ʃcl nıɥə 胸が痛む、傷つく、胸がいっぱいになる、のどが詰まる ın ʃc lıʃ nıɥə ɒcɑel lɔnʃ ɑclj ejl. 雨が降るのを眺めながら感傷に浸った。 ın nıɥəʃ ɥə lcnel. 深く傷ついた。

nıɥəɒel ［娯楽］ナユメル、チャトランガ様ゲーム、二人零和有限確定完全情報ゲーム、将棋類 ［レベル］3 J0:ɒeljeʃ e nıɥə → ɒeljeʃ ［文化］ ナユを復活させたユルグは師匠としてナユに講義をした。その生活の中で雨の日の暇つぶしに考え出したものが「ナユメル」という二人零和有限確定完全情報ゲームで、チャトランガに近い。 これがアズゲルでナユを通じて人間に伝わり、各地で広まっていった。セルメルでは地球のチェスと同じルールのものが生まれ、西洋で広まった。同時期少し遅れてルティアで将棋と同じルールのものが生まれ、東洋で広まった。将棋より少し遅れて、ヴェマを中心にシャンチーと同じルールのものが生まれた。 地球と違い、ヴェマからルティアに伝来したのではない。交通手段が魔法の時代なので、ルティア～アルバザードは海を越えてすぐだったため、むしろナユメルはアルバザードからルティアに行き、ルティアからヴェマにいったと見てよい。 アズゲルからセルメルの長い時間をかけて徐々にルールは変わっていったが、この手のゲームのルールは実に合理的にできているので、進化させていくと地球と駒や規則の同じものがバリエーションとしてできるものである。 唯一異なるのは、ɥɑ でメルとクミールが作ったシェルトであり、これは対応するものが地球にない。地球にないのはこのゲームが唯一練られなかったためである。 セルメル以降、ナユメルは残っておらず、二人零和有限確定完全情報ゲームを指す言葉となった。 アルバザードで有名なのはチェスと将棋であり、シャンチーは有名でない。アルティルではシャンチーは共産圏で主に広まっていたため、地理的に近くとも文化的にアルバザードから遠かった。 特に将棋は完成度が高く、最も高度なナユメルとされ、アルバザード人は「流石、魔法の国ルティア」と珍しく関心している。アルバザードではハイソな層のほうが将棋をやる率が高く、チェスは民衆的。この辺りの事情が地球とまるで異なる。 ナユメルは電子ゲームの乏しいアルバザードでは格好の遊びで、ほとんどの国民が行う。日本で履歴書の趣味欄に「読書」と書くくらい、割合が高い。プロ多数で、ふつうに食っていける。 日本と異なり、男女で分かれていない。また、たいてい女のほうが強い。日本で女が弱いのは、図形能力だけでなく、単に女の棋士が少ないからであろう。アルバザードだとナユメルは女のほうが強いものだと思われている。実際、ランキング１０の中で女は過半数を超える。ただし１位はたいてい男で、ぱっと見健常者に見えないのが特徴。

nıɥəɔ ［言語］感情動詞 1L ［語法］ nı 自体は nıʃclɥəɔ。 ueɒ, lɔl, bın, eɒʃ のように、nı と共起できるもの。例えば nı ueɒ のように。これらを動詞として使うとき、心理動詞と呼ぶ。 ɟɔl は感情を与える人で、ɥəl は感情を引き起こされる者である。ın ueɒ lı だと、彼がお化けのように怖いのではなく、彼が「ひぃっ！」と怖がっていることになる。日本語話者は逆に捉えやすいので注意。 → ıleɒɥəɔ

nıɥ ［名詞］センサー ［レベル］3 1ʔ: 制 :nı/ɥ（感じる機械）

nıɥʃe ［人名］ナルテ ［組み数字］3／6 ［レベル］3 1L: 古 :ıɥnın: 神の心 ［文化］ ヴァノンの３番目。男性。戒律を担当した。

nıɥʃelcl ［化学］タングステン 1L

nıɥle φɥınʃ ［人名］ナルシェ＝グラント ［レベル］5 古 ［文化］ ４期２代アルシェのルシーラ。男性。

nıɥı ［名詞］リムジン ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :nıɥɥısc(触るな)

nıɥc ［形容詞］身分が低い、卑しい、下級の、下賤な、低級な、良くて凡庸、悪ければ身分が低い、家柄が悪い ［反意語］ɒclı ［レベル］3 @ 1L

nıɥen ［言語］母語、マザータン ［類義語］nɔɟlɥen ［レベル］4 JJ:nını/ɥen

nıɥeɒ ［魔法］霊気 ［レベル］4 JJ:nı/ɥecɒ ［文化］ 幽霊を知覚するための感覚。ɥecɒeɥn が現実の存在だった ɥɑ までは ɥecɒ だろうと犬だろうと等しく誰にも見えていたが、ɥecɒ が滅ぼされた nɑ 以降は

ɥecᴅ が存在しないので、ɥecᴅ が見えるなどという特殊能力は嘘とされている。単にそこに ɥecᴅ が生き残っていれば見えるし、そうでなければ見えないだけの話である。ただしこれは ıɑel に即した価値観であって、ʅɔʃın などアルティアの概念については当時のアシェットは何も見解を示していないため、見えないものがいるかもしれず、霊感という特殊能力を持った人物はいるかもしれない。

nızl ［名詞］鉛 ［レベル］4 ɹɔɥn

nızlʃeɟe ［化学］鉛蓄電池 ［レベル］5 1L ［文化］ ナディアで開発された。

nızlnı ［名詞］無神経な、ＫＹ、空気が読めない ［反意語］ɑlcını ［レベル］4 ɥɑ:ɥcɑcı;/「鉛の心」 Ʇᗰ:ɥcɑcı ［語法］ ɑlcını は人の感情を汲み取って気遣うのが巧いこと。nızlnı はその反対で、そういう気遣いができないこと。【用例】 ʃcl nızlnı 無神経だ

nızllcl ［化学］鉛→ nızl ［レベル］4 1L

nızel ［地名］ナゼル ꞱꞱ ［文化］ ルティア北東部の中都市。

nıl ［名詞］安心、安堵、気楽、平静 ［形容詞］安心した ［反意語］nıueɥ ［レベル］2 1ʔ:ɟeɥen:ʅlel:ɟcɑ:nılɥı（心が軽い）。オヴィは始めこれを「浮気性である」と勘違いして解釈し、覚えていた。［語法］ nı が既に入っているので、コロケーションは ʃcl nıl（安心だ）で良い。nı でも可。【用例】 ın ʃclıʃ nıl. 安心した。胸をなでおろした。胸を撫で下ろした。 ☆ ın nıʃ{ʃclıʃ} nıl ᴅın ʃə en eᴅıʃ ucɟʃ. それくらいで済んで良かった。

nılʃ ［軍事］［建築］城、砦 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :nıləʃı（入るな）［語法］ 敵の進入を防ぐために特別な防御を施した建物。戦場では砦。【成句】 nılʃ hılen ʃceɥ 砂上の楼閣 dɔʃı ᴅɔʅʃ ʅı nılʃ 城で寝床の話をする：公私混同。宮中でできた言葉。【用例】 ın lıɑıʃ nılʃ uɔl hınʃ lei. 砂を積み上げて城を造った。

nılᑎıɥı ［人名］ナルトカヤ ［組み数字］5／１４ ［レベル］4 語源不詳 ［文化］ (→ –L dıl ucɔȣ) 第４期３代アルシェ第５使徒。男性。

nılᑎıɥılcl ［化学］サマリウム 1Δ: 制

nılʃuıɟ ［軍事］攻城戦、籠城戦、籠城 ［レベル］4 ꞱꞱ

nılʃbıl ［建築］城壁 ［レベル］5 ɥɑ;/ Ʇᗰ

nılʃı ［単位］ナルタ、１６００メルフィ、２キロメートル ［レベル］3 古 :nıləəʃı,nılʃ,nılʃıı,nılʃı。城を表わす nıləəʃı と同じ語源だが、ここでの入ってはいけない場所は学校を表わす。

nılᑎɔ ［動詞］ɥəl に気付く、気付く、きづく ［類義語］lıʅl ［レベル］3 ɥɑ;nı/ləʅɔ「心が至る」 ꞱꞱ ［語法］ lıʅl 【用例】 nılᑎɔ hıʃcı 好きだと気付く

nıll ［動詞］ɥəl（相手）を心配する、心配する、きづかう、気遣う、気づかう、大丈夫かと心配する、気を揉む ［形容詞］（nıllın で）心配するような、心配そうな ［類義語］nıɑ ［レベル］3 1L: 古 :nıl/lı（安心があるように）

nılle ［アトラスの国家］ナルシェ ［レベル］4 Ꞁʔ:ɥcɑcı ［文化］ 面積：ϮΔLʔOᗰ.ϤΔϤʔᗰᗰ ʅᴅ Ꞁ

nılleʃ ［言語］安否の挨拶。手紙。 ［レベル］4 Ꞁ1:nıll/ʃe

nıllea ［名詞］安堵の溜息をつく ［動詞］ɥəl に安堵の溜息をつかせる、ため息をつく ［レベル］4 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

nılɟ ［名詞］現象、フェノミナン、フェノミナ、自然現象 ［レベル］3 1ʔ: 制 :nıʅlcɟ（知覚する事柄）

nılncı ［植物］ʅᴅcn ［組み数字］7／9 ［レベル］4 ɟzl;nı/ıl/ncı「心安らぐ」 Ꞁ1

nılncı(Ꞁ) ［言語］［文字］標準イタリック体、ナルニア書体、ナルニア ꞱꞱ:ɑleɑclınɟ ［文化］ ɑleɑclınɟ

nılncıɟ ［名詞］希望 ［組み数字］1／6 ［類音］nılncın ［レベル］3 Ꞁ0:nı/ncı（心の支え）［語法］ 心の支えとなり生きる希望となるもの。何かしたいという意味の希望ではない。

nılncıɟɥecn ［組み数字］希望賞 ［レベル］5 Ꞁ1 ［文化］ → ɥıdıll 六柱心。人間を支える６つの感情で、希望、愛情、信念、不屈、正義、誇りのこと。これを持っている人間は窮地に立たされても生き抜く確率が高く、生命力がある。ɥɑ でセレンがアシェットの長い苦労を振り返って諦めずにやり遂げるのに必要だった心を６つにまとめ、ランキングにして組み数字に採用した。物事を成し遂げるだけでなく、絶望から這い上がる支えにもなる。実際アデュに収容されて生きて出てこられた人はこれらを持ち合わせている比率が高い。ıl ではミロクが心の支えにしており、組み数字の中で最も優れた概念と評している。上位３位と下位３位の間には「不屈の壁」というものがあると考えられている。希望は１位で、これがあるかぎり人間は生き続けると考えられている。２位は愛情で、窮地に立たされても「娘のためにもこんなところで死ねるものか」などという強い思いに繋がる。しかし他者依存傾向があるため、希望ほど強くない。例えばこの場合娘が死んでしまうとどうなるか考えてみるといい。３位は信念で、「人が何と言おうと自分の生き方はこれでいいのだ」という気持ち。世間が味方に付く場合と敵に回る場合の２パターンがあり、他人に振り回されやすい点で順位が落ちる。理想的なのは世間になんと言われても気にしないことだが、完全に解脱できる人は少ない。不屈は最もネガティブになりうる感情である。「負けるものか」という思いや「見返してやる」という思いだけでなく、「復讐してやる。それまでは死ぬものか」という強い怨嗟にもなるためである。この怨嗟やコンプレックスはセレンによると１位と同じくらい強力な力を持つ。それだけで１位並の生命力を与える。しかしそれは諸刃の剣で、力を得る代わりに自分や周囲の人間を破滅の道に追い込む。不屈を１位にしてしまった人間は上位３位を得られないとされ、これを不屈の壁という。正義はこうすべきだという社会的な価値観で、世間ありきの概念なので自信の根拠が他者依存型であり、窮地に弱い。従って５位である。誇りは他者を鏡にして自分を映したときに感じる安心や優越感のことで、他者依存傾向が強く、自意識過剰になりやすい。そのため本来の自分を見失いやすく、窮地に弱く、６位である。ちなみに信仰はそれぞれのパラメータを高めるものとして全ジャンルにかかるものとされ、個別の順位を占めない。また、神への信仰は希望、愛情、信念その他の複合概念に分析されるため、固定の位置を占めない。この点はミロクにとって不都合だったため、神への信仰も信仰の一種だから、結局はすべてにかかると解釈した。

nılncın ［名詞］憩い、安らぎ ［感動詞］ごゆっくり、どうぞごゆっくり ［類音］nılncıɟ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

nılɑe ［魔法］ナルフェ、魔法力 ［レベル］4 Ꞁ0:nı/elɑe（心の泉）。この心は精神力で、魔力に通じる。［語法］ enuelen

nılᴅ ［人名］ナルム ［組み数字］2／１４ ［レベル］4 先 : 語源不詳。古アルカでの意味はなし。［文化］ (– ꞱꞱ ɑɥə lcn_ᗰ ɑcı ɑcn) 第４期３代アルシェ第２使徒。女性。ɥənʅ。リーザの従姉妹であり親友。リディアの養母。少し耳が遠い。 ᗰ ɑcı ɑcn にサプリの村を襲った魔族バイアスの火の魔法により焼死。リディアを人質に取られ、武器を捨ててバイアスの手にかかった。 ・現実では (ʃcɑ ꞱꞱ ɑɥə lcn_Ꞁ zın ᴅelȣ) 第４期３代アルシェ第２使徒。女性。ɥənʅ。リーザの従姉妹であり親友。リディアの養母。少し耳が遠い。小学校低学年のころ耳のことで上級生にからかわれ、当時ケンカ早かった小学校中学年のリーザが高学年男子を殴って泣かせてナルムを守った。それ以来ナルムはリーザを慕うようになった。

nılᴅlcl ［化学］プラセオジム 1Δ: 制

nılᴅc ［軍事］准尉、ナルミ ［組み数字］１２／２０ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı: 古 nılɥı/ıᴅcɥ ［語法］［文化］ ʅını

nılᴅc φɥınɑc ［娯楽］警部グランディ ［レベル］5 Ꞁ1 ［文化］『コロンボ』や『警部補古畑任三郎』に相当するテレビ番組。

nılᴅeɟ ［建築］城下町 ［レベル］5 ɥɑ;nılʃ/ᴅeɟ「城周り」 Ʇᗰ 【用例】 ɔɔφ ıʅcoıcn ıdcı ɑleıʅcʃ lənıʅ ıl ɔɔφıʅc ɑel nılᴅeɟ. 大垣まつりは城下町大垣に初夏の訪れを告げる。

nılɑɔl ［名詞］里程標、一里塚、マイルストーン ［レベル］4 Ꞁ0:nılʃı/ɑɔl ［文化］ 山道や林道などに１ナルタごとに置かれた石のこと。

nıldcʃı ［医療］安定剤、抗不安薬 ［レベル］4 Ꞁ1

nılcz ［形容詞］心が狭い、狭量な、器の小さい、器が小さい、おちょこな ［反意語］ʅlɔᴅ ［レベル］3 Ꞁ0: 古 nı/lccz（心が小さい）【用例】 hılʃ nılcz 狭量な上司

nılɔ ［動詞］ɥəl を察する、察する、分かる、わかる、解かる、感づく、感付く、勘付く、勘づく、かんづく ［形容詞］（nılɔın で）察したような、察するような、悟った、悟ったような ［レベル］3 古 :nılɔ（心を知る）【用例】 nɔn nılɔʃ ʅcʃ ʃə ıʃc ʅıl lc lɔɑ ı lızʅı. うすうすわかってきてはいた。私が高校に入ったときぐらいから：ここの「ぐらい」はアルカでは訳出しないのが自然。

nılɔenuc ［名詞］察知力 ［レベル］4 ꞱꞱ

nılen ［形容詞］機械的な、感受性の弱い ［反意語］nıᴅcɥ ［レベル］3 1L:ne e ennı（エンナの心）［語法］［文化］ ɟeɥnı

nıleᴅ ［言語］詩 ［名詞］歌詞。特に詩的な歌詞。 ［レベル］3 古 :nı/leᴅ（心の音楽） nıleᴅ:nıleᴅ

nıləᴅc ［植物］ハナミズキ、はなみずき ［レベル］4 ɟᴅ;ılʃ ꞱꞱ

nıləᴅc(Ꞁ) ［名詞］房飾り、ふざ飾り、房、ふさ ［アクセント］nıləᴅϵ ɥɑ;<ılʃ「ハナミズキ」とアクセントが違うだけで同根。 Ʇᗰ

nıı ［感動詞］ねえ、ねぇ、なあ、なぁ ［レベル］1 古 ［語法］ nee の ı 系列。男言葉。

nııʃ ［名詞］２０歳代の女 ［反意語］ılnııʃ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :nıcʃ（成年男子）

nııʃɑeᴅe ［地学］［歴史］新生代 ［レベル］6 ul;/ Ꞁʔ ［文化］ φııueɑeᴅe 約６４００万年前から現代までに相当し、恐竜が絶滅した後、哺乳類と鳥類が繁栄したことで特徴づけられる。 新生代の始まりごろに、アルテがエルトとサールに分裂した。

nııʃıl ［生物］２０代 ［レベル］2 ɥɑ;nııʃ/ıl Ꞁʔ

nııl,ɟzɑ bın

nıılı ［非言語］ナーシャ ［レベル］3 古 :「心が有る」が原義。［語法］ 右腕を曲げて胸の前に持っていき、上体を曲げてお辞儀する。目は相手を見る。男から女へのお辞儀。

nııɟel ［被服］モーニングハット ɥʃ;nıızel.ʅ Ʇᗰ ［文化］ ɥʃ で書かれた "nııɟel cɟʃ nıızel" という小説内で造語された。作中で主人公はメティオのお金のナーゼルでこの帽子を親切な貿易商から買うが、これをかぶると透明人間になれる――という内容の本。

nııɟelın ［名詞］透明人間 ɥʃ;/ → nııɟel Ʇᗰ

nıın ［副詞］念のため、一応 ［レベル］2 古 :nıın ［語法］ 恐らくそうであろうことは分かっているが確認するさま。【用例】 ın ɟıcn uın nıın el. 一応確認します。

nıınɥı ［アトラスの国家］ナーニャ ［レベル］5 Ꞁʔ:ɥcɑcı

nıını ［親族］孫娘ちゃん ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:hını と nını をかけたのだろう ［語法］ ᴅccı nını と似ていて区別しづらいが、人間の年齢区分と親族名称は使われる場面がしばしば異なるので案外大丈夫。

nııu ［ポジティブ］［形容詞］心が強い、精神的に強い、気丈な ［類義語］ucen、ʅınuc ［レベル］3 Ꞁ0:nıucuc（心が強い）［文化］ 男は ʅınuc で女は ᴅııu だと思われている。

nııɥə ［物理］［医療］［魔法］クオリア、感覚質、感じ ［レベル］5 ꞱꞱ:nı/ɥə「感じられる」［文化］ ɑɔlᴅcɥə, ɟeleɟ ul で提唱された概念。心理学で最初に提唱され、物理や医療や言語学などにも応用された。特に ls では魔法学において大きく実用された。 ・魔法のクオリア ls の現代魔法学においてセレン＝アルバザードにより「魔法の

クオリア」が提唱された。彼は多くの ʔ,ˌ 遺伝子が魔法を使えなくなったことを「失魔症（失眺症）」(ɑcıleeu) と定義し、その原因が「魔法のクオリア」の消失にあると唱えた。　　まずクオリアについて。ヒトなどの動物は外部から刺激を与えると感覚器がそれを捕え、神経細胞の活動電位として脳に伝達される。その際になんらかの質感が経験される。　例えば７００ナノメートルの波長の光を浴びせるとしよう。このとき目という感覚器がそれを受け取り、脳に伝達する。その際ヒトは「赤さ」を感じる。そしてこの「赤さ」のことをクオリアという。　　同じようにヴィードの中で魔法に関するヴィルが触覚や nıuc などの感覚器を通じて脳に伝達された際、ヒトは「魔法の力」を感じる。この「魔法の力」もまたクオリアであり、魔法のクオリアということができる。　ときに魔法は一定の配列の魔眺を集め、それが閉式魔法になるかどうかで魔法として成立するかどうか調べる性質のものである。例えば火の魔法 ɑıc には独特の閉式魔法の配列が存在する。その特定の配列の握 (oıʅclc) が感覚器を通じて脳に伝達されたとき、ヒトは「これは火の魔法ファイの感覚だ」という感じを覚える——すなわち、ファイの魔法のクオリアを得る。　太古の昔から魔法を使うときの感覚は口では言い表しがたいもので、「こういう感覚」としか言いようがなかった。そのため、同じ魔法が使える者同士の間では「あの感覚のことだよ」と言えば「あぁ、あれのことか」と通じるが、使えない人には「どういう感覚なんだ？」となってさっぱり通じないというのが一般的であった。そしてこのことが魔法を座学だけで教えることの難しさにも繋がっており、同時に中世までは魔法学という学問体系の発達を阻害していた。　太古の昔から魔法は感覚的なものであった。そしてそれは魔法学が発達した ȷɒ, μɑ にあっても同じことで、理論的には大成したものの、相変わらず実践面では「あのディアリーヴァを撃つときの感じ」というような表現でしか魔法を使う感覚を他人に伝えることができなかった。　その原因がなぜかということが μɑ では明らかにされていなかったが、ls の現代魔法学によって初めて「魔法のクオリア」という概念が提唱され、原因が明らかになった。つまり魔法の実践というものはクオリアを通じた感覚的なものであって、表現に苦しむのは当然だということである。　魔法を人に伝えられない原因は、魔法にはクオリアが存在し、そしてそれのみによって感覚を共有できるためである。ガレットが可視であったり匂いがあったりすればクオリアがなくても魔法を理解することができたかもしれないが、ガレットは通常の感覚では知覚しづらいため、クオリアを共有することでしか感覚を伝えることができなかったのである。

・なぜ現代人は魔法が使えないのか　　さて、これが ʔ,ˌ 遺伝子の失魔症に繋がる。ʔ,ˌ 遺伝子はヴィードの総量が弱い傾向にある。だが総量が弱いだけであれば、弱い魔法なら使えるはずである。にもかかわらず全く魔法が使えない個体ばかりになってしまったのは、むしろヴィードの総量の問題ではなく、単に「魔法のクオリア」を得ることができなくなってしまったためである。　赤の光を見ても赤という感じを得ることができない動物は赤の感じが分からないのと同様、魔法の感じを得ることができない多くの ʔ,ˌ 遺伝子は魔法がどういうものかという感覚が掴めないのである。　魔法の感覚が掴めない以上、魔法は使えない。そして魔法を使わなければヴィルの力はどんどん弱って劣化していく。　このことはユノやノアについても同様である。つまり、ʔ,ˌ 遺伝子はそもそも「ヴィードのクオリア」を消失しているといえる。それゆえに時間を重ねるごとにヴィードの総量も弱くなり、ますます人類は魔法の力を失っていったのである。

・現代に魔法を復活させる方法——魔法使いになるために　　ʔ,ˌ 遺伝子において失眺症は優勢な遺伝的特徴である。しかしそれは ʔ,ˌ 遺伝子が必然的に持つ特徴ではない。ゆえに現代においても魔法を使えるユーマの一族が稀に生まれることになる。彼らと一般人の違いは魔法のクオリアを獲得できるか否かにある。　ということは、言い換えれば人工的に魔法のクオリアを与えることができれば、ʔ,ˌ 遺伝子であろうと魔法使いになれるということである。そして ls のセレンの研究の意義はそこにあった。人工的に魔導師を生産すること、すなわち現代における魔法の復活がこの研究の目標であった。　　ヴィード自体はカルディア全土に広く行き渡っている。特にアトラスには豊富である。問題はそれを感覚器が脳に伝えてもクオリアを生じないことにある。感覚器自体は μɑ 時代と何ら変わっていない。nıuc の衰えはあるものの、感覚器自体に大きな変化はない。　そこでセレンは任意の握が感覚器から脳に伝達された際、それを特定の電気刺激に変換して脳に伝えることで、魔法のクオリアを再建しようと考えた。例えばディアリーヴァの魔法にはディアリーヴァ特有の握の配列がある。この配列を中世魔法学の技術で読み取り、現代科学の工学で電気信号に変換する。するとディアリーヴァの魔法の配列が電気信号に置き換わる。これを脳に流すことで特定のパルスの電気刺激が脳に与えられる。これにより魔法のクオリアを持たない人間であっても、「あぁこの感じはディアリーヴァの魔法だ」と理解することができる。　　被験者にクオリアを獲得させた後の作業は次の通りである。今度は逆にそのディアリーヴァの感覚を脳内で想起させる。「ディアリーヴァのあの感じを思い出せ」と念じながら特定のパルスの電気信号を想起させる。当然最初は同じ感覚を再生することができないが、「りんごの赤さ」や「空の青さ」を想起できるのと同じく、訓練によりディアリーヴァのクオリアを想起することができるようになる。　これにより被験者はディアリーヴァの魔法のクオリアを電気刺激の想起という形でアウトプットする。その電気信号を現代工学で読み取り（これは ul 水準の科学力でも容易に可能であった）、中世魔法学の理論を用いて周囲のガレットを集め、ディアリーヴァの配列になるように握を編む。これにより、ディアリーヴァの魔法が発生する。　　このようにして、魔法のクオリアを持たない個体であっても、科学と魔法学の融和により、魔法を使うことができるようになる。こうしてセレンは現代に魔導師を蘇らせようと目論んだ。　しかしそれには多額の研究資金が必要であった。ʃʃ.ʃʃ 年ごろの貧乏研究生時代にはとてもではないが実験不可能な——そしてたとえ可能でも世の中に必要とされない——発想であった。なぜ必要とされないかというと、単純な軍事力としては既に現代兵器のほうがかつての魔法の威力を上回っていたためである。例えば μɑ の標準的な魔導師が放つファイの魔法は単純なジュール換算でいえばダイナマイトやミサイルに遠く及ばない。ならば兵器に頼ったほうが確実かつ合理的である。それで現代に魔法を復活させるということはただの絵空事として世間の注目すら浴びなかった。セレン青年がいかに人生をかけて理論を構築し、ネットで活動し、自費出版で啓蒙しても——である。　だが ls で現れた「科学の力だけでは倒すことのできないディミニオンという災厄」が彼の人生を大きく変えることになる。魔法の力を併用しないと倒すことのできないディミニオンの登場により、彼の現代魔法学は一躍脚光を浴び、時代の寵児となる。　すると途端に研究資金が降りるようになり、実験がスタートした。セレンはメルなどの助手の協力を得て研究を進める。そして彼の理論は実証され、現代社会に人工魔法と人工魔導師が誕生することとなった。

nıize ［名詞］怒り ［類義語］sɔ ［レベル］2　ȷzɑ;nı/sɔ　ɉ1 【用例】 ʃcl nıize 怒る　ʃə eʃ becɒ lel el ʃcl nıize ɑccnı nɔȷ. ʃə eʃ linʃ lel el ʃcl nıize ɑccnı ɒel. dcn, el ʃcl lcn ȷeμsɔ ɔlʃı lə ʃcl nıize. 自分のために怒るのは醜いことだ。人のために怒るのは綺麗なことだ。ただ、怒っても感情を爆発させてはいけない（ȷeμen ıμbızıμɑ）

nıizel ［経済］ナーゼル、メティオの通貨 ［レベル］5　ɉɹ

nıis ［魔法］風。五行の２番 ［医療］肝 ［レベル］4　ȷzl;nı/sɔ。怒りは肝を傷める。　ɉ1 ［文化］ lleuınȷ

nıc ［動詞］yəl を軽視する、軽視する、軽んじる ［反意語］byəc ［レベル］3　古 :nyıc（軽視する）。「軽く見る」が原義。 【用例】 ılin le nıc ɑel φcl uɔμʃ ʃeel lc en ɑcl. 金にならない学問を軽視する社会は遠からず滅ぶだろう (ȷeμen ıμbızıμɑ)

nıcʃɔ lılin ［娯楽］ナイトカラン ［レベル］5　ɉ1:nıcʃɔ は ılʃ で、主人公の名。 ［文化］『るろうに剣心』に相当するアニメ。

nıcȷl ［普通動名詞］読心 ［レベル］4　μɑ;/。ȷelcȷl からの類推で。　ɉɱ

nıcȷlɔɒ ［普通動名詞］読心術 ［レベル］4　μɑ;/。ȷelcȷlɔɒ からの類推で。　ɉɱ

nıcn ［名詞］警察 ［レベル］2　1ᛘ: 制 : 恣意 ［文化］ 警察の階級は lını 参照。
　警察は軍務省の下の警察庁に属する。各都市には北区にひとつの警察署があり、要所ごとに交番が存在する。　円形都市でないサプリなど、田舎は規模によってまちまちの扱いである。あまりに小さい街が点在している場合は、一括してひとつの警察署が管理することがある。　日本の場合、東京は警視庁で道府県は警察本部が置かれるが、アルバザードはそのようなことがない。また、これら２者は地方であり、中央として警察庁がさらにその上に置かれるが、この違いもアルバザードにはにない。　伝統的に中央集権かつ小さな政府であるため、警察署はすべて中央に属しつつ、運営は地方の職員で行っている。所属は形骸的なものであり、各警察署の実権を持っているのは地方である。中央は各警察署の足並みをそろえる必要があるときにだけ指示を出す。　警察署は企業と同じく ıμlılʃ が最上位で、oɔɔl が最下位となる。　　円形都市には２５６箇所の交番がある。　カルテの東西南北大通りに繋がる箇所に１つずつ。　春通りには大通り (1ɺ, ʔ, ʕ, L) に交番を置く。計２８箇所。　夏通りには非大通り (1ɺ, ʔ, ʕ, L 以外) に交番を置く。計５６箇所。　秋冬通りにはすべての通りに交番を置く。計１６８箇所。　合計２５６箇所である。
　１つの交番には４人の警察官が配属される。ただし冬通りには８人ずつ配属される。従って、１都市に１６９６人の交番勤務がいることになる。　　交番には交番課の警察官が配属され、刑事課の警察官との上下関係はない。どの課であろうと階級制度は同じ。刑事課の oɔɔl より、交番課の occz のほうが偉い。　これは日本とも同じであるが、一般の日本人は刑事の方が偉いと勘違いしている。アルバザードでも同様で、ふだん見慣れている交番課より刑事課のほうが偉いという誤解がある。ただ実際、警察官の志願状況を見るとそれは否めなく、優秀な人間ほど刑事課などに行く傾向がある。
交番課の最高位は nılɒc である。nılɒc ～ oɔɔl までが配属される。刑事課も同様に nılɒc が最高位である。実際 nılɒc が交番に勤務することはなく、管理などの仕事を行う。　通常交番にいるのは oeʃʃı ～ oɔɔl である。ハコ長は oeʃʃı で、必ず１人。occz も１人で、残りの２人が oɔɔl である。交番によっては occz が２人で oɔɔl が１人ということもある。　交番は４人だが、常に２人交番にいなければならない。無人にしてはならない。また、常に警察官は２人で行動する。何かあったときに対処しやすく、汚職や職務怠慢を防ぐ効果もある。従って、パトロールは常に２人で行う。　　交番は警察署の管理下にあり、警察署には交番課以外の課がある。そのため、１都市の警察官は当然交番勤務の合計より多い。　警察署間に優劣の差はなく、カテージュの ıμlılʃ とワッカの ıμlılʃ は同位である。ただし、しばしば国家的な代表として警察署長官が出てくる場合、それは中央アルナであるため、暗黙の了解として中央アルナの ıμlılʃ が最も位が高い。

nıcnlı ［軍事］［政治］警察署 ［レベル］3　1L ［文化］ → nıcn　北区に置かれる。交番課以外に勤務している警察官はここで仕事をする。

nıcnlcznɔ ［政治］警察庁 ［レベル］4　1L:clɒəȷ:μcɑcı ［文化］ 軍務省下。治安を維持する。

nıcnın ［軍事］［政治］警察官、警官、お巡りさん、おまわりさん ［レベル］2　1L ［文化］ → nıcn　最も身近なのは交番課に勤める警察官であり、通常はこれを指す。刑事なども警察官むろんである。　制服着用で、デザインは軍隊と同じ。ただし色は暗く黒い青。武器は銃と剣。

nıcnıɒɔ ［交通］パトカー ［レベル］2　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］ leunıɒɔ

nıcnez ［軍事］［政治］交番、派出所、駐在所 ［レベル］3　1L ［文化］
→ nıcn　１都市に２５６箇所あり、交番課の人数は１６９６人である。派出所システムは世界的には珍しいが、治安維持として優れており、アルバザードにも存在する。　交番課の仕事は、パトロールと人助けである。困っている人がいれば助ける。車社会でないため、老人の荷物を持ったり、おんぶして運んだりする。アルナは小さな犯罪が少ない都市なので、警察官は愛想が良く親切というイメージが強い。裁量は大きく、警察官個人の良識に任せて人助けをするこ

とができる。そのため、「今日は暇なので風邪を引いたパン屋の娘の代わりに店番をした」とか「児童の宿題を手伝って鳥を捕まえた」という例も散見できる。　ただ、日本人に理解しがたい面もあり、「死刑があってお祭り騒ぎなので、民衆を整列させた」とか「引きずり刑で死刑囚の内臓が道に零れ、刑罰庁の役人が来る前にカラスが来たので斬り捨てた」といった「人助け」もある。

nıcɑ ［形容詞］心が温まる ［名詞］暖かい感動、感銘 ［レベル］3　1ʔ: 制 :nıcɑ 心を暖める 【用例】 lıɑın ʃ'ıµʅı ɉccnıʃ ʅlɔı nıcɑ. アルカの作者は心温まる物語を好んだ。

nıcɒ ［名詞］心勢、心の姿勢、態度 ［類義語］nıɒɔ ［レベル］3　ɉ1:nı/ɒıcɒ ［語法］ nıɒɔ は気分の現れとしての態度で、nıcɒ は気持ちの持ち方や方針。戦術と戦略の違いに相当。　ɒıcɒ と音が似ているため、韻によく使われる。【用例】 nıcɒ ʅnıʅ{coı} 正しい心、まっすぐな心

nıɔ ［音楽］ハープ、竪琴、琴 ［レベル］4　ɑu　赤 : 古アルカではリュートとなっているが、これはセレンがリュートとハープを逆に覚えていたための誤り。

nıɔn ［地名］ナオン ［レベル］5　1ʔ: 制 : 古 :nıɔ（竪琴）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァレムの支配地。

nıɔn(ɺ) ［アトラスの国家］ナオン ［レベル］5　制 ［文化］ 面積 : 1ΔʕɺΔ91.ΔΔΔ909 ʅɒ ɺ

nıɔu ［動詞］ yəl をためらわせる、ためらう、躊躇する、躊躇う ［自然動名詞］ためらい、ちゅうちょ、躊躇い、躊躇 ［レベル］3　ɺɺ:nı/ɔu「心揺れる」

nıɔ uıleɒ ［人名］ナオ＝ヴァレム　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第１０使徒。異性魔王。

nıɔɑ ［名詞］目次、コンテンツ、目録 ［レベル］3　1ʔ: 制 :nıɔ/eɑı（章毎の題目を連ねたリスト）。nıɔ はここでは nıe の意味。

nıɔl ［名詞］吟遊詩人、バード ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :nıɔıl

nıɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］こと座　ɉ0 ［文化］ cɑı

nıe ［名詞］劇の一幕、一幕、1 幕、一章、文章の一章、チャプター、1 セット、セット、１ラウンド、ラウンド ［法律］章 ［音楽］番。曲の１番２番などの番のこと。 ［レベル］3　1ʕ: 制 :nıɔ。古では nıɔ が多義語。劇の合間をハープで知らせたことから。

nıeɉ ［形容詞］不機嫌な ［動詞］ yəl の感情を害する ［名詞］不機嫌、機嫌が悪いこと、嫌な気分 ［反意語］ɒcɔl ［レベル］3　1ʔ: 制 : 心を不快にする。nı/eɉc から。【成句】 yənʅ ʅɒccµ ıɉ eɒ nıeɉ cɒ ʅəlın クミール嬢ですら空腹時には不機嫌になる : 衣食足りて礼節を知る 【用例】 ın eɒıʃ nıeɉ ɒcl nıɒɔ lclle lııʃ. 彼の無礼な態度に不快感を覚えた。　nɔn ıʃ nıeɉ uıµ ɉel. 今日は一日機嫌が悪かった。　ın nıʃ nıeɉ cɒ ʃə ɑııµ. 今朝は機嫌が悪かった。　ın nıʃ nıeɉ. 気分を害された。

nıelɑ ［言語］ラング ［レベル］6　1L: 心の中の言葉

nıelɑɑel ［言語］心理言語学、神経言語学　1L ［文化］ ユルトらの誕生後、セレンらが大成。

nıelcɉ ［名詞］以心伝心 ［レベル］3　ɺɺ

nıə ［形容詞］嬉しい ［動詞］ yəl を喜ばせる、喜ばせる、喜ばす、喜ぶ ［反意語］eɒʃ ［レベル］2　1L: 古 :nıhyə　nıhyə:nıhyə ［文化］ 日本人より大げさに表現する。肘を曲げて両手を挙げる。手は拳にする。ちょうど肘がわき腹の高さで、拳が顎にくる。ファイティングポーズのようなガッツポーズのようなポーズだが、これが喜びのジェスチャーである。hoı などと声も出して喜ぶ。周りの人は事情が分かっていれば ʃcɉɔı などと声をかける。アルバザードでは嬉しいことがあると知人を集めて一緒に喜ぶことが多い。【用例】 nɔn nıʃ nıə ɒcl yə heʅ c lı. 彼からの手紙をもらって嬉しかった。［メタファー］nıə yən ɔɒı 犬のように楽しそうな　ın nıʃ nıə ɒın ʃeµ ʃə ueµʃ. その知らせを聞いて嬉しかった。　☆ ın nı ucl nıə nɔɑ ʃə. これ以上に嬉しいことはない。　nɔn nı nıə cɒ lı ʅɔʅʅɔ lı. 彼と一緒にいられればうれしい。

nc,ılʃ　cnc　cnc.l

ncʃ ［単位］１０００分の１、毛、毫 ［レベル］3　1L: 恣意

ncʅ ［名詞］(nı) 驚く ［動詞］yəl を驚かせる、驚かせる ［形容詞］驚いた ［文頭純詞］驚いたことに ［反意語］ɉeʃce ［レベル］2　1L:nıʅ:1ʔ: 制 : 古 :nıʅc（心を動かす） ［文化］ 日本人は驚くことを特に恥ずかしがる国民性だが、アルバザード人は感情をストレートに出すので、素直に驚いてみせることが多い。そのため、日本人から見るとやや大げさ。しかし、周りが誰も驚いていないのに自分だけ思い切り驚いてしまうと、さしものアルバザード人もかなり気まずいと感じる。【成句】 ncʅ enʃɔ ɉııl ueµn ヴェルンサールが起こるほど驚く : 驚天動地 【用例】 ın nıʃ ncʅ ɒın lı cʅ nɔʅ. 彼が現れて驚いた。　ın nıʃ ncʅ yən ıφel. 飛び上るほど驚いた。　ncʅ, lə eʃ hıɗn e hıɗn ınʃ lı. 驚いたことに彼は友達の友達だった。　ın ɔuıʃ ucl nɔɉ ɒın nı ncʅ µıʅ. 驚いて身動きが取れなかった。

ncʅʅɔu ［名詞］びっくり箱 ［レベル］3　1L:nıʅʅɔu:10: 制 : 驚かせる箱

ncʅʅel ［動物］ふぐ、フグ、河豚 ［レベル］3　ɉ1:ncʅl/elc。テトロドトキシンの作用

ncʅl ［形容詞］渋い、しゅうれん、収斂、しゅう斂、収れん、収斂味、収れん味 ［料理］渋 ［レベル］3　10: 制 :ncʅllɔc（痺れる味）

ncʅɉ ［動詞］ yəl を ı に倒す、倒す、転ばす、箱の山などを崩す、立っている状態から寝ている状態にする ［文字］イタリック。ʃcʅ 参照 ［レベル］2　10: 制 :nıʅɉ: 恣意 【用例】 yəəyə ncʅɉıʃ ʅɔnʃ ʃcleɉ lcdl. ʃeel ı. 萌えっ子がケーキを持ったまま転んだ。お約束だ : この ʃcl は動作動詞。　ın ıʃ ncʅɉ µıɉ ɑɔə ı uelʃ. 氷の上で何度か転んだ。

ncʅl ［医療］麻痺 ［動詞］yəl をしびれさせる、痺れる ［魔法］ニクル（ホールド）。害の中位黒魔法。相手を麻痺し、動きを鈍らせる。脚に回ると事実上動けなくなる。ラルトで解除できる。メレントを持っているとかからない。 ［レベル］2　1ʔ: 制 :nıʅl。知覚できなくなることなので nıʅl の n 対にした。元は対だったが、対であることが記憶できないくらい意味が離れているので解体しなかった。

ncʅlɔʃ ［生物］翳風　ɉ1:ncʅlɔn

ncʅlɔn ［医療］中風　ɉ1:ncʅlɔc

ncʅlɔc ［魔物］ニクロイ（痺豚）: 第四十六天 : 雷の炎天 ［レベル］5　1L:µcɑcı/ɉeµen/ɒel:ncʅl/ɔoc（痺れ豚） ［文化］ 獣族。鎧をまとい、豚の顔をした巨人風の魔物。目が赤い。豚がいっちょまえに人間の真似しているような姿をしている。剣は帯電しており、触れると感電する。

ncʅle ［医療］ポリオ ［レベル］6　1L:ncʅl/eɑı

ncɉ ［名詞］へこみ、凹み、くぼみ、窪み ［形容詞］へこんだ、くぼんだ ［電算］タブ、ＴＡＢ ［反意語］oıl ［レベル］3　1L 【用例】 ncɉ ɉel 唇を丸める

ncɉʅ ［被服］毛皮、ファー ［レベル］3　1L:nɔɉʅ:1ʔ: 制 :ncyɔʅ（毛のついたままの皮）

ncɉʅıµn ［被服］ファーコート ［レベル］5　ɉ1

ncɉlɔʃɉ ［電算］タブキー、ＴＡＢ、タブ ［レベル］4　ɉ0

ncɉc ［名詞］プラグ、入れるほう、差し込むほう、差込プラグ、差込みプラグ ［反意語］ɒılı ［レベル］3　@ 1L

ncnɑ,ɑu　ncɑ

ncnɑı ［娯楽］ニンファ ［レベル］3　古 :ncnɑı ← ncnɑ（段）から。 ［文化］ 対戦ゲームの一種。地平線を書き、正方形を乗せ、それを４個のブロックに縦横に区切る。そこにエルトサールを市松模様に書き入れる。これが初期状態である。エルトが先攻でサールが後攻となり、各々自分の記号を好きな場所に新しくブロックを書き加える。縦横斜めいずれにか３つ記号が並んだほうの勝ち。あくまで地平線とその上に乗るブロックという理念なので空中にブロックは置けない。ブロックの上か地面の上にしか置けない。横はどこに置いても良い。全く横に隣接するものがないところにブロックを作っても良い。イニアよりも高度だが、シェルトほどではないのでやはり子供の遊びという感覚が強い。

ncɑ ［名詞］段 ［名詞］段階、レベル、ステップ、水準、グレード、位（くらい）、ランク、～段、学年、コース ［言語］アスペクト、相 ［生物］タクソン。分類階級ごとの分類群。 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 ncnɑ（段、差異） ncnɑ:ncnɑ ［語法］ 初級、中級、上級のようなレベル分けはアルカでは yəlc, ɒılʃ, ɒıu で表現する。【用例】 ʃcl ncɑ ʅeɉ レベルが上がる

ncɑʃcl ［娯楽］レベルアップ ［レベル］3　ɺɺ

ncɑlız ［娯楽］レベルキャップ ［レベル］5　ɺɺ 【用例】 ncɑlız e ʃə lcuı eʃ 100 ɑı. このゲームのレベルキャップは１００だ。

ncɑɉc ［娯楽］レベルダウン ［レベル］3　ɺɺ

ncɑɑµeyə ［言語］相副詞 ［レベル］6　ɉ1 ［語法］ ɒɔı, ɒıʅ のようなアスペクトに関する副詞。ネーミングから見ると典型は ɒıʅ 類で、ɒɔı 類は非典型。

ncɑzıɒɉ ［普通動名詞］飛び級 ［レベル］4　1L:ɒelcɑcı

ncɑl ［名詞］ハシゴ、梯子、はしご ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ncɑıl（階段の）

ncɑc ［言語］段落、パラグラフ、小節（文章が段落ごとに１字あけで段を成すことから） ［レベル］3　1ʕ: 制 :ncɑ

ncɑe ［名詞］成績。成績表や試験の成績（甲乙丙など）。 ［レベル］2　1ʕ: 制 :ncɑı

ncɒ ［色］色 ［名詞］種類。色のようにバリエーション豊かな種類のこと。ɑɔncɒ など。 ［動詞］yəl を ı に染める、染める、そめる ［普通動名詞］染色 ［シェルト］色駒 ［レベル］1　ɑ:ɉııl;e　定　ncɒ:ncɒ:lı ɑeul:hını,ılʃ, dı lcl,cn ［語法］ → lcɉʃcnı　<基本色>　基本色は１０色で、日本語より多い。赤味噌はどうみても茶色なので、アルカでは茶色という。　基本色は ɑcµ（白）,ueµ（黒）,hıµ（赤）,ɉɔµeʃ（青）,ɑccı（緑）,cɒel（黄）,leʃʃe（茶）,ʅııɑ（桃）,ɑɔlɑ（灰）,leseɒɒe（紫）であり、オレンジや水色は含まれない。そのため、どう見ても水色のものをアルバザード人は大雑把に青ということがあるので注意。制アルカの歴史をくんで常にこの順序で並ぶ。　<伝統色>　伝統色は µɑ でファミイとセレンが制定したもの→ lcɉʃcnı　<色のコロケーション>　●彩度と明度　彩度と明度の強弱、それと色相によって定まる。下記に見るようにアルカの色の形容詞は体系的にできている。　和訳は専門的な言葉より、日常日本人が使っている色の形容詞表現を宛がう。ただ人によっては例えば何を「渋い」と捉えるかまちまちかもしれないので、訳語がピンと来ない場合は彩度と明度の強弱を確認すれば細かく理解できる。　彩度　明度　強い　強い : ɒɔn（はっきりした、原色な、明瞭な、クリアな）。ネガティブな意味になると lıu（うるさい、きつい、やかましい、主張の強い）、ɑleı（夏めいた）　弱い　弱い : neɒ（渋い、あいまいな）、lceµ（冬めいた）　強い　弱い : ɑıɑıl（深い、渋い、重い、濃い、濃厚な、重厚な、ヘビーな）、ılcɉ（秋めいた）。ネガティブは ɑıɑ（重苦しい）　弱い　強い : ɉclɑen（淡い、軽い、ライトな、パステル）、ılʃe（春めいた）。ネガティブは ɉclɑ（軽い、軽々しい、重みのない）　強い　不定 : uɔen（強い）　弱い　不定 : cun（弱い）　不定　強い : ɑcµʃ（明るい）　不定　弱い : uelʃ（暗い）　中上　中上 : ʅɔlʃe（賑やかな）　中下　中下 : yəʅl（大人しい、静かな、控え目な）　中　強い : nccʃ（優しい）　強いか弱い : neı（濃い）　彩度が強いかあるいは明度が弱い　強くなく弱くない : ɒɔc（薄い）　彩度が強くなくかつ明度が弱くない。ɉclɑen に似る。　不定は強くても弱くてもどちらでも構わないという意味。従って ɒɔn である時点で ucen とも言える。　渋いのようにひとつの訳語で複数にまたがることもある。あくまで色の専門用語を訳語として使っていない。専門用語は難しくかえって伝わらない可能性があるため、日常言語の感性に即して訳している。　●色相　・アルミヴァ表記　日本語では青みがかった

などの専門用語があるが、アルカだとアルミヴァを使う。クレーヴェル系のとか、クレーヴェルのようなというように固有名詞で表現する。　・形容詞表記　hıµʃ: 熱い色、赤系　ᴅelʃ: 温かい色、黄系　ɑccı: 涼しい色、緑系　ȷɔµeʃ: 冷たい色、青系　●その他　lıc で色をマイルドにする効果がある。leʃʃe → lıcleʃʃe のように。【用例】ncᴅ ncı ı leʃʃe 髪を茶色に染める

ncᴅ(ɺ)　[言語]n の文字　[レベル] 1　1⋔: 制 : 色　[語法]　第５文字目の幻字。

ncᴅ˥ɔu　[娯楽] ピンボール　[類義語] ıncn˥ɔ　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　ul でできた。色の付いた箱で行ったことからこのように呼ばれる。後にパチンコに発展した。

ncᴅȷ　[被服] セーター、プルオーバー　[レベル] 3　1ʔ: 制 :lıʃʃı:ncᴅelcȷıbe「毛糸でできた服」

ncᴅȷeɑ　[美容] 脱色、ブリーチ　[レベル] 4　ɺ1

ncᴅnı˥l　[生物] 色覚　[レベル] 5　ɺ1

ncᴅɑ　[動物] 七面鳥、ターキー、シチメンチョウ　[レベル] 3　1ʔ: 制 :ncᴅ ɑclɑ（色が青や白に変わる雉）

ncᴅᴅcɥə　[名詞] 千変万化　[レベル] 3　ɺɺ

ncᴅɑɔ˥l　[言語] [色] 花飾り　[レベル] 3　ɺ0: この飾りは形容詞のこと。色飾りとしなかったのは、色ごよみと区別するため。　[文化]　→ lcȷʃcnı　アルバザードの伝統色３６６色にそれぞれ当てられた形容詞３６６語のこと。

ncᴅφıµ　[音楽] ソノシート　[レベル] 6　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

ncᴅdılʃ　[歳時記] 色ごよみ、色暦　[レベル] 5　ɺ0　[文化]　→ lcȷʃcnı　アルバザードの伝統色３６６色を当てられたそれぞれの日。

ncᴅhɔə　[化学] リン酸塩　1L

ncᴅµı　[悪魔] ニムラ、４色の悪魔　[レベル] 4　ᴅelʃcı 0:ɑµeȷʃcı;ncᴅ/hɔɔµı　古 : 色の ncᴅ に hɔɔµı、dȷɔɔµı などの共通語尾 µı をつけたもの。　[語法]　フレスティアの護衛をする４色の悪魔。ホーラ、プスホーラ、テクラ、インプラからなる。人間より若干大きい。

ncᴅµeɑ　[娯楽] ルービックキューブ　[レベル] 3　ul;ncᴅ/µeɑ「色あわせ」　ɺɺ　[文化]　ul のイネアートで発明され、速やかにアルバザードに入った。一般にルティア人は知的なパズルを好むため、ルティア人に特に人気が高い。サイコロ型のものがプロトタイプ。色だけでなく文字などを合わせるタイプも存在する。最初に作られたものが色あわせ式だったのでそのように名が付いた。

ncᴅl　[被服] 毛糸　[レベル] 3　1ʔ: 制 :ncᴅelc（毛で作った糸）

ncᴅlcl　[化学] リン、燐　[レベル] 4　1Δ: 制

ncᴅı　[化学] フラバン　ul;ncᴅ.˥　ɺʔ

ncᴅıʃ　[化学] フラボン　ul;ncᴅı/ʃıʃ「フラバンの環状ケトン」　ɺʔ

ncᴅıʃc　[芸術] 色相　[名詞] 色合い、色味、色　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　lcȷʃcnı、ueµcᴅ

ncᴅıʃcᴅeᴅ　[芸術] 色相環　[レベル] 6　ɺ1　[文化]　lcȷʃcnı

ncᴅıȷl　[化学] リン酸　1L

ncᴅıȷlı　[化学] ホスホノ基　1L

ncᴅıȷlıɑɔ　[地学] 燐酸塩鉱物　1L

ncᴅıb　[化学] 着色料　[レベル] 4　1L

ncᴅıleᴅ　喜怒哀楽　ɺɺ　[文化]　ニムラに合わせて４種の感情を色に宛がったもの。hɔɔµı, dȷhɔɔµı, ʃe˥µı, cᴅdµı の順に sɔ, eᴅʃ, nıə, nıɑıµ。

ncᴅc　[生物] 虹彩、アイリス　[名詞] 黒目白目の黒目。眼の色は人それぞれなので、ueµcnȷ では黒目を指せない。この語義の場合、瞳孔も含んで白目と対象させる。　[レベル] 4　lıʃʃı: 目の色

ncᴅeʃ　[化学] ホスフィン　1L:ncᴅ/eʃ（リン様の）

ncᴅeʃɥɔdıɑ　[化学] ホスホジエステル　1L

ncᴅeʃı　[化学] ホスフィノ基　1L

ncᴅeȷ　[被服] ブルス　ȷᴅ;ncı/ᴅeȷȷı　ɺ⋔　[文化]　ȷᴅ でできた。髪を入れておくための袋。

ncᴅeu　[美容] 染髪、ダイ、ヘアダイ、髪染め　[レベル] 3　ɺ1

ncᴅeᴅɥə　[化学] リン脂質　µɑ;/　ɺ⋔

ncᴅel　[動物] カメレオン　[レベル] 4　ȷᴅ;‹›ncᴅ　ɺ⋔

ncᴅelcɑı　[地球の星座] [ユマナ] カメレオン座　ɺ⋔　[文化]　cɑı

ncφ　[被服] 毛玉　[レベル] 3　1⋔: 制 :ncφe˥

ncdl　[植物] 豆　[レベル] 2　1ʔ: 制 :lıʃʃı:ncd（丸いもの）

ncdluclȷ　[化学] リジン　[レベル] 6　1L　[文化]　µɑ でリュウが豆類から発見。

ncb　[化学] フェノール　[レベル] 5　1L:dııl:nıb。水彩絵具のようなにおいから

nch　[擬音] えへえへ、えへへ、いひひ、うふふ　[レベル] 3　1L:ənclec

ncl　[形容詞] 幸せな　[名詞] 幸福、幸せ　[反意語] nelȷ　[レベル] 2　µɑ;ncl,˥ʃ ‹ ncləə　1L: 古 :ncləə（幸せな）　nıhɥə,ɑ:ncləə,ɑµɑ:　【成句】　ncl ız nelʃ 幸か不幸か　ncl eʃ ɑen ˥ɔnʃ ˥cn eʃ ɑcl. 幸せは短く、苦痛は長い（ȷeµen ıµbızıµɑ）【用例】　ʃə eʃ ɑɔnc ɑel nɔn nı nıə ılıl. 人生で最も幸せな瞬間だった。　ın sılıʃ nɔȷ ᴅıleȷ ncl hɔʃ, ˥el enzel nelȷ. 不幸なことは忘れて幸せだけを覚えておこうと決心した。[文化]　µɑ でセレンは人間の究極の幸せは「１：人に愛されること」「２：人に褒められること」「３：人の役に立つこと」「４：人に必要とされること」と述べた。この考えが旧革命や革命でも見直され、時代の折々に思い出されてきた。　セレンはアシェットの英雄となることで、苦労をしながらも自分は幸せであると述べた。　一方現実のセレンも幸せに関しては上記のように考えているが、現実は難しいものでそうそう頑張っても施しても褒められないし、愛されない。愛情はリディアと紫亞にもらっているのでいいとして、３、４は比較的簡単に満たせるが、日本人はあまり面と向かって褒めないので２はあまりなくて寂しいときがある。

ncl,hɥ　uelʃ

nclbe˥l　[地名] ニルベルク　[レベル] 6　ɺɺ:「暗青銅」[文化]　ヒュートの南西部の都市。良質な豚で有名。

ncl ɔ　[被服] マフ　ȷᴅ;cnc/lɔɔlɔ　ɺ⋔　[文化]　ȷᴅ でできた。円柱状で、毛皮でできており、中に手を入れて温める。裕福な人が身につけた。防寒着なので毛の生えた面が内側。貴族は表も裏も毛が生えた面にしていた。２倍の金がかかった。一部の裕福な庶民は毛織物のマフを使った。

ncləə,ɑµɑ　ncl　nı/ləə「心動く」

ncı　[生物] 髪、髪の毛　[レベル] 1　ɑu;cnc.˥　1⇑:ȷeµen: 古 :cnc　ncı:ncı　[語法]　髪を切ったという場合、el ˥clıʃ ncı ınʃ を変形した ncı (ınʃ) ıʃ ˥cl が最も自然。ın ˥clıʃ ncı では自分で切ったことになる。ın ȷɔlȷıʃ ıʃeın ˥cl ncı ınʃ では長すぎる。　[文化]　アルバザードは白人と黄色人種、及びその混合が多い。髪は直毛が少なく貴重である。色は茶色が多く、真っ黒や金髪は少ない。自分を偽るのが好きではない国民性から、髪染めは流行っていない。　髪型は様々である。男女関わらず、伸ばす人もいれば短くする人もいる。剃る人もいる。髪にはヴィードが篭ると信じられている。特に魔力が篭りやすいと言われている。そのため、神話では魔導師は髪の長い者が多かった。レイユでもその風潮が残っており、知識派は髪を伸ばすことが多い。逆に武道派は短くすることが多い。一般に女の方が男より魔力が強いと言われている。それは神話が証明している。ゆえに女の方が長髪が多く、男は短い。アルバザード人は大体がくせ毛なので、中途半端に長いと髪がまとまらなく、不恰好である。だから短くする人は徹底的に短くすることが多い。　金髪と直毛は希少なので人気が高い。金髪と直毛だと、ふつう直毛の方が羨ましがられる。金髪の縮れ毛より黒髪の直毛の方が価値が高い。つまりリーザよりフルミネアや紗枝の髪のほうが羨ましがられる。　なお、水が軟水なため、洗髪しても髪がゴワゴワせず、ソバージュになりにくい。【成句】ȷcn ncı ˥ıen ıɔ ʃcȷ 床に落ちた髪の毛まで嫌い：坊主憎けりゃ袈裟まで憎い【用例】ncᴅ ncı 髪を染める　ncı (ınʃ) ıʃ ˥cl. › ẟın ȷɔlȷıʃ el ˥cl ncı. 髪を切った。　ncı eᴅıʃ µəəɑ ᴅcl ʃeeze. 風で髪の毛がくしゃくしゃになった。　lıȷne˥ ncı 髪をかき上げる

ncı,ɑu　ncın　e

ncıʃcɑl　[医療] 脱毛症　[レベル] 6　1L

ncı˥　[動詞] ɥəl を ı にもたれさせる、もたれる、もたれかかる、寄りかかる、たてかける、立てかける、寄りかからせる、よっかかる、しなだれかかる　[動詞] ɥəl を ı に寄生させる、寄生する、悪い意味で依存する　[レベル] 2　1ʕ: 制 :ncıl から　[類義語] ɑcȷᴅıcn　【用例】ın lʃıᴅeȷ ˥ɔnʃ ncı˥eȷ ı bıl. 壁により掛かって立っていた。

ncı˥ı　[美容] 生え際　[レベル] 3　ɺ1

ncı˥eu　[普通動名詞] 面陳→ lec　[レベル] 6　ɺɺ

ncıȷ　[普通動名詞] 委任　[動詞] ɥəl を ı に任せる、任せる、託す　[経済] 信託、投資信託、投信　[レベル] 4　古 :ncıȷ(休む)

ncıȷφıµʃ　[経済] 成行、成り行き　[レベル] 6　ɺɺ

ncın　[名詞] 休み、休憩、休暇、休息、サッカーのハーフタイム、非番、一段落　[動詞] ɥəl を休ませる、休ませる、休む　[類義語] nı˥eı　ȷeµʃ　[レベル] 2　1ʕ: 赤 :ncı　ncı:ncı　【成句】ncın ııɑ 腰を休める。座る。ɥəə ncın 不眠不休【用例】ıµ ncın 休みを取る　ın lcµ ncın ᴅın eȷ ınc ʃcn˥ı. とても疲れたので休みが必要だ。　ın lıl ncın ɑəen ɑɔə ȷel ˥cnel. 本当に何日か休みたい。　ın ıµıʃ ncın ᴅın nı nıl. 安心して一息ついた。　ɑcȷ eʃ ncın e dıµᴅ, ɥın ȷɔɔʃ ȷı ᴅelȷelr 今日は日本の休日。でもってメルセルの１週間前！　ncın ɑccᴅı eʃ ɑccɥə(ln 久々の休みは素晴らしいね♪　ɔᴅ ɔn ʃə ɑcı ın ncın ȷenr 一体いつになったら休めるんだ！

ncınȷel　[名詞] 休日、祝日、国民の休日　[類義語] ıılȷel　[反意語] lıᴅelȷel　[レベル] 2　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ　[語法]　→ ıılȷel　「祝日」の訳語は ncınȷel に当て、休日と同一視し、祭日と区別する。　公共機関、行政機関、金融機関、教育機関は dıµʃ が固定の休日。dıµʃ は機関そのものが休む。そこに勤める人間は dıµʃ のほかに個々人で一日休みを取る。その曜日は機関自体は活動している。　dıµʃ が公の固定休なので dıµʃ に休みを合わせる企業も多く、事実上の日曜日に相当する。

ncıucµɔ　[化学] ケラチン、角質　[レベル] 6　1L: 毛に多い。

ncıucµɔhın˥　[美容] 角質層　[レベル] 6　ɺ1

ncıuclȷ　[化学] システイン、システィン　[レベル] 6　1L: 髪や毛に多い。

ncıɑıde　[美容] ヘアスプレー　[レベル] 4　ɺ1

ncıɑecȷ　[美容] ヘアミスト　[レベル] 4　ɺ1

ncıᴅıcʃ　[美容] 整髪料　[レベル] 4　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ　[文化]　アルバザード人は化学薬品を塗り込むのを嫌うので、１３～２５才以外はあまり使わない。くせ毛でぼわぼわになりがちな人種なので、朝シャワーを浴びる。

ncıᴅɔ　[美容] ヘアスタイル、髪型　[レベル] 3　1⇑: 制 : 髪の形　[文化]　神は髪の長さが一定で、切ると数日で元の長さに戻るし、決まった長さ以上には伸びない。　ユーマの一族は zφ に入ると現代人と同じ髪質になった。　ȷᴅ で戦間期で余裕が出ると髪型を飾るようになった。貴族ほど飾って盛っていた。µɑ で貴族が解体されると髪型は質素なものに戻っていったが、ul_ıl でギャルがまた盛るようになった。ul_ıl の富裕層は ȷᴅ と逆に髪を盛らず、奇抜な髪型はしない傾向にあった。　ȷᴅ 後期では男性より女性が髪を盛るようになった。ȷᴅ で最も盛っていた時代には２エルアに達するものもあった。高い髪は重いので、首を捻挫しないようにすり足で歩くようになった。

ncıpɔɒ ［美容］毛根 ［レベル］4 Ɉ1
ncıpɔɔʃ ［美容］ヘアワックス ［レベル］4 Ɉ1
ncıɑɔſl ［被服］髪飾り ［レベル］3 Ɉ0
ncıdcnɑ ［言語］［文字］ヘアライン、ヘアラインセリフ Ɉ1
ncıbıʅɔ ［美容］ヘアクリーム ［レベル］5 Ɉ1
ncıɥecn ［言語］［文字］ヘアライン。セリフのではなく。 Ɉ1
ncızıcl ［美容］ヘアジェル ［レベル］4 Ɉ1
ncıl ［建築］柱、ポール ［数学］柱 ［メタファー］下支えするもの ［経済］ローソク、ローソク足 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncı
ncıleeu ［生物］抜け毛 ［レベル］3 Ɉ1
ncııʃe ［美容］理髪店、床屋 ［レベル］3 Ɉ0 ［文化］ ɹıɟɥıʃe 髪を切る店。髪を売る店ではない。
ncıcnc ［生物］髪の毛。一本一本を指す。 ［レベル］2 Ɉ1
ncıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］かみのけ座 Ɉ0 ［文化］ cɑı
ncıedc ［被服］ヘアピン、髪留め一般 ［レベル］3 1ʕ: 制
ncıeɥ ［美容］ヘアリキッド ［レベル］5 Ɉ1
nccʃ ［形容詞］優しい ［副詞］優しく、そっと ［反意語］bəlʃ ［音楽］ドルチェ ［レベル］2 ɥɑ 1L: 赤 :nccʃı nccʃı:nccʃı 【用例】 ʃeln nccʃ 優しい性格 ɑcı nccʃ 優しい幻
nccʃnı ［名詞］優しさ ［レベル］3 Ɉ0:ɒelcɑcı ɩceɥ
nccʃlıbı ［環境］ソフトエネルギー 1L
nccʃı,ɑ nccʃ e
nccnı ［名詞］柔和、温厚 ［反意語］sɔ ［レベル］3 Ɉ1:nccʃ/nı 【用例】 lı nı ləʃ nccnı. 彼はいつも温厚だ。
nccɒ ［名詞］縦の列、縦の行、カラム、行、列 ［名詞］川、号車。学校のクラスの教室における席順の川のこと。男女ペアの２席１組が縦に何行も並んでいるものを川という。各教室にはその川が３, ４列ある。ドア側から１の川といい、窓側が最後の川になる。 ［類義語］ɹıʅɟ ［反意語］ʅccɟ ［レベル］3 ɥɑ;ncıl/ɒıcn「柱の形をした」 Ɉ0 ［語法］ ɹıʅɟ
nccz ［地学］［天文］クレーター ［レベル］4 ul;ncɟ.ʅ Ɉʔ
nccs ［軍事］兵曹長、ニージュ ［組み数字］１４／２０ ［レベル］3 1L:ɥc ɑcı:ılʃees → ʃees → nees（語頭子音揃え）→ nccs。小作戦の決戦でよく指揮をしたことから。 ［語法］［文化］ ʅını
nce ［形容詞］陳腐な、ありふれた、月並みな、なんでもない、変哲のない、よくいる、よくある ［類義語］ɥəɒcl ［反意語］cɒɥə ［レベル］3 1ʕ: 制 :ncɔ（珍しい）
ncel ［名詞］シャンプー ［レベル］2 1ʕ: 制 :ncelɔ（髪を洗う）
nɔ,ɑ nɔz e
nɔ,ɑ(Ɉ) ɒcı e
nɔʃ ［形容詞］慣れている、慣れた、馴染む、なじむ、馴染んでいる、なじんでいる ［動詞］ɥəl を ı に慣れさせる、慣れさせる、慣らす、なじむ、馴染む、適応する、適応させる ［反意語］ɒeʅ ［レベル］2 1ʔ: 制 :neʃ: 恣意 【用例】 ʃc eɟ nɔʃ ɒıdel ı ɟıɒıɥlı cn. もう新生に慣れたようですね。 ın eɟ nɔʃ ı nɔuɒɔʅ. 夜更かしになれている。 ın en eɟ nɔʃ ı ʃə lıb. その仕事になれていない。 ın eɟ nɔʃ ı ɑɔclneʃ. 早起きになれている。
nɔʃʃe ［代詞］［ɒıɥə］アタシの ［レベル］1 Ɉ1:ʅlccz:nɔn/ʃe
nɔʃɟ ［経済］帳簿 ［レベル］5 lıʅʃı: 英語のＮＯＴＥＳからではない 【用例】 ılʃ (ı) nɔʃɟ 帳簿をつける
nɔʃɟφıɥʃ ［経済］帳簿価格、簿価 ［レベル］6 1L
nɔʃɟhɔc ［経済］簿記 ［レベル］5 1L 【用例】 leɟ dɔnɟ ɥə ı ueʅl ɒıcɟeɟ ɩcɥ nɔʃɟhɔc. 経理課に配属される者は簿記を習得している必要がある。
nɔʃəɟ ［名詞］縄張り、なわばり、ナワバリ ［レベル］3 Ɉ0:nɔɟ/ʃəənɔ 【用例】 ueɑl nɔʃəɟ 縄張りを荒らす
nɔʅ ［動詞］ɥəl を ı に現す、現す、現わす、あらわす、現れる、ばらす、暴く、公開する、開示する、登場する、出現する、掲載する、載せる ［再帰動名詞］［自然動名詞］公開、開示、登場、暴露、発露、露見、露呈、出現、進出、掲載 ［形容詞］顕になった、現れている、出現している ［経済］ディスクロージャー ［反意語］neʅʃ ［レベル］2 1ʔ ←古 :nɔʅə（公開）。私（nɔ）は言うぞ（ʅə）の意。 【用例】 ɔɒı cʅ nɔʅ ɟı ın. 犬が眼前に現れた。
nɔʅueʅl ［経済］財務会計 ［レベル］6 1L
nɔʅclɒcnı ［政治］フリーメイソン、フリーメイスン ɥɑ;/。neʅʃ の対で nɔʅ。 Ɉ0
nɔl ［動詞］ɥəl を ı に集める、集める、まとめる、揃える、力などを溜める、群がらせる、群がる、群れる、集中する、収集する、合流する、団結する、もちよる、持ち寄る、持ちよる、融合する ［名詞］集団、グループ ［数学］集合 ［反意語］ɒıʃ ［レベル］2 1Ɉ: 制 :nel: 恣意。制 ɒıʃ（合流）と統合。 【成句】 nɔl ɩcɥen ʅɔn nɔɟ 自給自足 【用例】 ʅəʃɔ eɟ nɔl ɟı ɥı. 鳥が家の前に集まっている。
nɔlʅı ［美容］ゴールデンポイント Ɉ1
nɔluɔıɥ ［物理］［化学］核融合炉 ［レベル］6 ıl;/「核融合原子炉」 Ɉ0 ［語法］ 重い原子であるウランやプルトニウムの原子核分裂反応を利用する核分裂炉に対して、軽い原子である水素やヘリウムによる核融合反応を利用してエネルギーを発生させる装置が核融合炉である。 ［文化］ 核融合炉は要するに太陽がやっているのと同じ事を人為的に小規模で起こしてエネルギーを得ようというものであり、ıl で考案されたが実現は ls 以降に持ち越された。
nɔlɒcʅɟ ［音楽］斉唱 ［レベル］4 Ɉ1
nɔlɑcɑc ［植物］カスミソウ、かすみそう、霞草 ［レベル］4 1ʕ: 制 : 群生する撫子
nɔlɥı ［建築］アパート、マンション、集合住宅 ［レベル］3 1L:lecn
nɔlɥecn ［芸術］集中線 ［レベル］5 1L
nɔlı ［被服］制服、ユニフォーム、学生服、仕事着 ［反意語］ılnɔlı ［レベル］3 1ʕ: 制 :nɔl（集める） ［語法］ 作業員の制服なども含む。私服の反対。
nɔlıl ［名詞］コーナー、集積所 ［レベル］3 ɥɑ;/ Ɉʔ 【用例】 nɔlıl e ləlc オタグッズのコーナー
nɔlc ［娯楽］ポーカー ［レベル］3 1ʕ: 制 :nɔl
nɔle ［名詞］グループ、集まり、集団 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılʃe ［語法］ 人の集まり。物や人は nɔl。
nɔleʃ ［経済］板寄せ ［反意語］ɒıʃeʃ ɈɈ:nɔl/ʃe
nɔɟ ［名詞］自分 ［形容詞］～自身は ［反意語］ɒel ［レベル］1 1ʕ: 古 :nɔn（一人称の女性形） ［語法］ lənɔɟ のように、形容詞でなく複合語要素になることもある。
nɔɟʃ ［名詞］権威、威厳、権限、威信 ［レベル］3 1ʔ: 制 :nɔoı
nɔɟʃılɟc ［普通動名詞］パワーハラスメント、パワハラ ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ ［文化］ セクハラ同様、厳しい。上司だからといって偉そうな態度はできないし、エレベーターで部下がドアを開けて待ったりという封建的な行為はアルバザードにはない。前者は法が禁じているので、放っておけばアルバザードにもあるのだろうが、後者はもともとアルバザード人の発想にない。酒を注ぐなどの発想もないし、接待麻雀でわざと負けるという発想もなくはないが薄い。もっとも接待麻雀自体がないが。
nɔɟʃe ［哲学］自我、エゴ、自己意識 ［反意語］ɒelʃe ［レベル］4 ɥɑ:ɥɥ əə;/「自分らしさ」 Ɉʔ ［文化］ 自我はある程度発達して個性というものに人々が意識を向けて初めて認識される概念であるが、ɥɑ の時代は地球の中世と異なり社会が発達していたため、自我という概念が生まれた。ただその後暗黒期を迎えることになるため、自我が再発見されるのは ɥʃ を待たなければならない。
nɔɟʅ ［政治］自国、母国 ［反意語］ɒelʃ ［レベル］2 1L:nɔɟʅıɑ
nɔɟʅʃəʅ ［植物］自生植物 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ
nɔɟʅɥen ［言語］自国語、国語、母語、マザータン ［名詞］国語。教科名。 ［類義語］nıɥen ［反意語］ɒelʃɥen ［レベル］2 ɈɈ ［語法］ 人種の坩堝アルバザードでは自国の言葉が母語にならないケースもあるため、母語の意味では nıɥen を使うことが多い。 ［文化］ ＜科目＞ ・３科目 学校の科目としての国語について。アルバザードの学校では国語は読解・作文・言語知識の３分野に分かれる。言語知識は文法や語彙知識などを修得する。 ・読解 読解は日本の国語のテストとはかなり異なる。このときの誰それの気持ちを述べよ的な問題はその答えが確実に本文中に書いてあるかぎり出ない。日本の国語のように多解釈がありえる場合や「察し」を必要とするような問題は出ない。アルバザード人は勝手に相手の気持ちをこうではないかと決めつけるのはぶしつけで失礼と考える。日本人は察しの文化があり空気を読むが、アルバザード人は自分の尺度で相手の気持ちを勝手に決めつけるのは失礼と考えるので、よほど確信がないかぎり勝手に相手の意思を自分なりに解釈しようとはしない。結果的に国語の問題でも誰それの気持ちを述べよ的な問題は出ない。 ・作文 作文は説明文・物語文を書かされる。日本と違って作文を書かされる頻度が極めて多く、毎週作文の時間がある。これはアルバザード人が自分の考えを適切に言葉で相手に伝えることを重視しているためである。特に人種の坩堝であるアルバザードにおいては言葉でしっかり自分の意思を伝えることが重要とされる。日本と違って空気を読んで察するということが、多文化環境だと多解釈すぎて不可能だからである。 これは地球の話だが、セレンはマンガが好きで字の本が好きでない。小説はほとんど読まないし、字の本で読むといえば学術書くらいである。 なぜマンガが好きかというと、絵が中心で吹き出しが少なく、入る台詞が限られているためである。つまり小説版の冗長で無駄な箇所を省いて本当に必要な要所だけ入れるので、自然とマンガは小説版の要約やまとめとなり、効率的に内容を把握できる。合理的だから好きだ。 セレンは小説や学術書を読んでいて辟易することが多い。なぜなら冗長で無駄な情報が多く、知識の吸収効率が悪いからだ。もっと端的に要点だけ書けとしばしば思う。 たまに冗長でない読み飛ばすところのない小説や学術書があると喜ぶ。こういう手合いの本をマンガ化すると紙幅の都合で必要な部分がそぎ落とされてしまうので、こういう本のコミカライズは好まない。そういう場合はコミックを読んだ上で原作も読む。 セレンのこういう性格はアシェットに大きな影響を与えてきた。セレンはルシーラとして使徒の論文を評価する立場にいた。従って冗長で無駄無駄しい文章は低く評価してきた。低評価の場合は再提出をさせることもしばしばだった。 なお、セレンは冗長なものだけでなく逆に説明不足で分かりづらい文章もまた嫌った。理系の人間でコミュ症気味の人間に多いのだが、説明が不親切で分かりにくい文章は語学力がないとして切り捨て、再提出させた。 再提出は誰もが嫌がることなので、使徒たちは一度で高評価を得るためにセレンが好むような「言葉足らずでなく冗長でもなく分かりやすい文章」を心がけるようになり、アシェット独特の文章のスタイルが出来上がった。それがアルバザードにおける「良い文書」の雛形になっている。 アルバザードではまず最低ラインとして「言葉足らずでなく冗長でもなく分かりやすい文章」が要求される。これは現実でもそうで、２０１２年現在５才の紫亞ですら徹底的にこの価値観で文章を制作するよう日々教育されている。 また、アルバザードで作文をする場合は、特に説明文においてだが、「結論→問題提起→証明→再結論」という独特の流れが良いとされる。なぜこの文章の書き方が良いとされるかだが、多数あるアーカイブ

を後になって見直す際、個々の文章が何について書かれたものであるか合理的にザッピングできるよう、まず結論ありきなのだ。　まず結論部を読んで関心を引いておいて、ではなぜその結論になるのか、そもそもどうしてそういう発想に至ったのか、という流れに持っていく。だから「結論→問題提起→証明→再結論」という独特の流れができる。　　アルバザードでは子供の頃から徹底的に作文の書き方を鍛えられ、言葉で自分の考えを分かりやすくかつ過不足なく説明できるよう訓練される。それができない人間は決して上にはいけない。　一方、日本ではこのような訓練はほとんど行われていない。東大生であろうと日本語すら不自由な人間が数多くいるていたらくである。名のある教授の著書を読んでも冗長だったり意味不明だったり情報が不足していたりといったことが平気で見受けられる。セレンの経験上、日本人はあまりに文章が下手だ。下々の者ならそれでもまぁ良いが、東大生や教授や医者といった連中ですらそのていたらくといったことがあるのでまったくもって由々しき問題である。　特にコミュ症の理系人間が書いた機械のマニュアルなど、下手な文章の極みだ。あれはたいてい分かっている人間にしか分からない文章だ。マニュアルを読んで意味不明に思ってさじを投げた経験は多くの人にあるだろう。　学生時代でいうと、教材——特に数学の問題集——の解説を見て「どうしてこの式から次のこの式になるんだよ。そこが分かんねぇんだよ。『自明のため省略』とかふざけんな」と憤ったことがあるだろう。あれは日本語の不自由な理系人間が書いているからああいうことになる。文系人間でイヤに詩的な書き方をする人間の文章も同様に分かりづらい。　アルバザードでは、日本では当たり前になっているこのような駄文が社会的に許されず、バカにされ、排他される。とてもじゃないがアルバザードの出版基準なら出版できないような駄文が、日本では教授などの肩書きのもとに出版されている。これは憂慮すべきことであるが、それがこの国の文化のひとつなので根強く変わらないだろう。　　間違いなく日本人の東大生の多くはアルナ大には入れない。数学の問題などでは通過できても、恐らく国語の入試で躓く。現行の日本の教育だとアルバザード人にとってはまともに言語を扱えない人間にしか映らないため、国語では良い点が取れない。　その上アルバザードでは上の大学に入るには人間性も重視されるため、その点でもお勉強しかできない日本の子供たちには難しいと思われる。　　アルバザードでは言語をきちんと運用して他人とコミュニケーションが取れる能力が評価され重視される。国語の授業内容は日本とかなり異なるし、日本の国語の授業よりも社会に出て遥かに役に立つ。　むろんアルバザードにも数学やらなんやら技術的なことはよくできるが人間性は備えてないしコミュ症だしという人間がいる。日本はそういう欠陥品でもホワイト企業に入れて社会の上層部に食い込めるからどんどん国が腐っていくわけだが、アルバザードではそういう人間は「生きる機械」としか扱われず、職人の扱いを受ける。職人としては尊敬されるが、社会を動かす上層部には決して入れない。そんなことをしていては日本のように国が滅んでしまうからだ。アルバザードが世界一の強国であるのは理由があるのだ。 【用例】 ʃɿl ɪn ʃcl ɩɿl cl ɰɪɑel e nɔjʅɰen. でもまだ国語の宿題が全て残っている。

nɔjʅɔlɒ ［政治］自治 ［レベル］4 1L

nɔjʅɔlɒlcɪl ［政治］自治都市 ɰɷ;/ Jɱ

nɔjʅɔlɒlɪnφ ［政治］自治権 ［レベル］4 J0

nɔjje ［代詞］自分たち ［娯楽］［軍事］自軍 ［類義語］nɪnnɪ ［レベル］1 1L:lcɔn

nɔjjeʃ ［普通動名詞］自殺 ［類義語］lɪʃɥəɰ ［レベル］2 1L ［文化］ アルティア＞ルティア＞アルバザードの順で自殺が多い。若年層は厭世、中年は金銭、高齢者は病苦が原因となりやすい。自殺率はıl で、J1 年現在の日本の約１／１００である。この異様な低さはウランセの合法化にあり、ウランセは自殺ではないので含まれないため。 【用例】 ɪɰ bɪn ʅılɔ ɪɰ nɔjjeʃ nɔɷ nɪφcjɪ. アルティア人に比べればアルバザード人の自殺者は少ない。

nɔjjel ［代詞］自分たちの ［類義語］nɪnnɪl ［レベル］1 J0

nɔjuɪnɷ ［普通動名詞］自爆、自縄自縛 ［動詞］ɥəl を自爆させる、自爆する ［レベル］3 JJ

nɔjucl ［普通動名詞］自傷行為 ［レベル］4 1L:ɰcɷcɪ:ɪɰbɪlelʃ

nɔjuclɪ ［医療］自己免疫 ［レベル］5 1L

nɔjuenʃ ［経済］自営企業、自営業 ［レベル］4 1L ［文化］ → uenʃ

nɔjɑɰɔɒ ［動詞］ɥəl のことについて内省する、内省する ［普通動名詞］内省 ［レベル］4 1L:ɰcɷcɪ:ɪɰbɪlelʃ

nɔjɑcnʅ ［娯楽］［軍事］自陣 ［レベル］4 JJ

nɔjɑel ［普通動名詞］自習 ［動詞］ɥəl を自習する、自習する ［レベル］3 ɰɷ;/ Jɱ

nɔjɒcʅ ［名詞］自分から見た右 ［反意語］ɒelɒcʅ、nɔjlɪnʅ ［レベル］2 ɰɷ;/ Jɱ: 造語は Jɱ だが概念自体は古アルカにあり、「自分にとっての左右と相手にとっての左右を区別できたら便利だ」という着想は９８年３月１９日（木）にされている。

nɔjφcl ［経済］私費、自費 ［レベル］4 ɰɷ;/ Jʔ

nɔjdɰɔʃ ［普通動名詞］自費出版 ［レベル］5 JJ

nɔjbecnj ［形容詞］（nɔjbecnjɪn で）卑屈な ［普通動名詞］自己卑下 ɰɷ;/ Jʔ

nɔjɰcjʃ ［普通動名詞］自重、自制 ［類義語］ɰcjʃ ［レベル］4 ɰɷ;/ Jʔ 【用例】 ɰe ɪɰ nɔjɰcjʃ, jeɰen. セレン自重しろ。

nɔjsɔʃ ［普通動名詞］自己紹介 ［レベル］3 1L:ɰcɷcɪ:ɪɰbɪlelʃ

nɔjlɪnʅ ［名詞］自分から見た左 ［反意語］ɒelɒcʅ、nɔjɒcʅ ［レベル］2 ɰɷ;/ Jɱ:nɔjɒcʅ

nɔjlccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］北斗七星 Jɱ ［文化］ cɑɪ

nɔjɪɰl ［経済］自己資本 ［レベル］6 1L

nɔjɪlʅ ［普通動名詞］自助努力、自力で ［レベル］3 JJ

nɔjɪlej ［動詞］ɥəl を自嘲する、自嘲する、自虐する ［再帰動名詞］自嘲、自虐 ［レベル］4 JJ 【用例】 lə jcnjcʅ ɪjel ɥən ɪɰ nɔjɪlej ʃel jcʅl ʃ'ɪuel ɪnʃ. 死神の皮肉に、彼女は自嘲めいた笑みを浮かべた。

nɔjcn ［形容詞］主観的な ［反意語］ɒelcn ［レベル］3 ɰɷ;nɔj/cnj「自分の目」 JJ ləəʃjə:ləəʃjə

nɔjcnʅɪld ［言語］主観的把握、自己中心的視点配列、Ｉモード ɰɷ JJ ［文化］ nɪʅlelɷɑel

nɔjcnnɪʅlɪn ［言語］主観的認知主体 ɰɷ JJ ［文化］ nɪʅlelɷɑel

nɔn ［代詞］［ɒclcɪ］私 ［レベル］1 jɪɪl;e 古 : 女の使う「私」。古アルカ通して女言葉だったわけではない。 nɔn:nɔn::nɪɒc,ɪlʃ ［語法］ → ʃɥə

nɔn,ɑu ɒcɪn nɔ/n

nɔnʃ ［形容詞］ひろびろとした、広々とした ［レベル］3 古 :nɔnʃ 広がっていることを示すオノマトペ

nɔnʅɔ ［動詞］ɥəl をねぼけさせる、寝惚ける、寝ぼける、寝呆ける、ねぼける ［レベル］3 古 :ɒel11 ごろ日本に泊まったときにリディアが寝起きに「のんこぉ～」と意味不明な返事をしたことをセレンがかわいいと思って笑ったことから。本人としては nɔn うんたらと言ったらしい。

nɔnnɔ ［文末純詞］［ɥənʃe］返事を促す ［レベル］1 古 :nɔnnɔ,nɔn（反語）から。音声のみのアンシャンテ時にトランシーバーの「 どーぞー 」と同じ役割で発達したものが ʅeʃʃɪ で、nɔnnɔ は反語だったものが女子により特別 eʃʃɪ の意味になった。 ［語法］ 相手に次の発言を求める純詞。自分の言葉に対する答えや相手の意見などを求めたりする。トランシーバーで最後に「 どーぞー 」というのに当たる。相手の話は最後まで聞くのが礼儀なので、eʃʃɪ や nɔnnɔ は話、とりわけ長めの話の終点を指すのにも役立っている。

nɔnɷ ［動詞］ɥəl を ı に発表する、発表する、告知する、知らせる、公開する、公表する ［普通動名詞］発表、告知、プレゼンテーション、プレゼン ［経済］ローンチ ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 :nɔnlɔj「 私が知るようにする 」

nɔnɷɪn ［名詞］発表者、公開者、公表者 ［レベル］3 1L:ɰcɷcɪ:ɪɰbɪlelʃ

nɔnben ［幼児］おもらし ［レベル］1 1L:lelcɪ:nɔnben ← "nɔn benɪ"（おしっこでちゃった）と言いたいらしい。

nɔnhɪɹɒɪ ［篁堺］ノンハルマ ［レベル］5 ɰɷ:ɒclɑ;nɔn ʅenɔ hɪɹɒɪ JJ ［文化］ 篁堺司 : zɪnɪ φenɔj 篁堺国 : φenɔj, ɪɰlelcɪ

nɔnɪ ［名詞］プライバシー、プライベート ［形容詞］プライバシーに関わる、個人的な、私的な、プライベートな ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :nɔnnɪ（私の心）

nɔnɪʅlec ［言語］私小説 ［レベル］5 ɰɷ;/ Jʔ

nɔnɔ ［代詞］［ɒclcɪ］［幼児］私の ［レベル］1 1L:nɔn

nɔu ［形容詞］遅い。動作そのものの所要時間が長い。 ［反意語］uɪɷ ［レベル］1 1ʕ: 制 : 恣意。制では「ある期間のうち、前半の方」の意味。

nɔuɑɪcj ［化学］爆燃 ɰɷ;/ Jɱ ［文化］ φel

nɔuɪ ［武道］発勁、発頸、はっけい、ハッケイ、接射、ノヴァ ［類音］nɔbɪ ［レベル］5 J0:nɔɪ/ɪuɔn ［文化］ ユベールにおける技のひとつ。地面から吸い上げた力を手などを通じて対象にぶつけ、対象に触れたまま吹き飛ばす技。殴るわけでも突くわけでもなく体を大きく前後に揺らすわけでもなく、ほぼ数ｃｍの動きしかないにもかかわらず、相手は大きく後ろに動く。それゆえ、言葉だけではなかなか信じてもらえない技であり、実演を要する。攻撃力は体当たりに近く、慣れると相手を吹き飛ばさずに内臓を痛めつけることができる。　アルバザードでは ɰɷ の時代にセレンが編み出した。身体技能であることからユノではなくノアから造語されている。アティーリ上ではセレンからクリスとウムトナに流布され、術者は３人である。しかし現実にはセレンの接射が話題になったことが乏しいため、恐らく使えるのはセレンのみ。

nɔuɪ,jzɷ ɒej nuɪ,ɑ

nɔucɪ ［アトラスの国家］ノヴィア ［レベル］5 1L:ɰcɷcɪ: 戦火のあった

nɔuel ［名詞］沈黙、静寂、無音、ノヴェル ［類義語］jeeɰ ［レベル］3 jzɷ;ɒɔnɔ/uel（止める闇） J1 n:nɔuel:lə nɔuel 【成句】 nɔuel uɪnɷ ɥəl 静寂が ɥəl を襲う : ɥəl は当惑する、ɥəl leʅ cl, nɪ jeeɰncʅ 【用例】 nɔuel (ʃ')eɰɑc 静謐

nɔuelhɪɹ ［言語］黙字 ［レベル］6 JJ ［語法］ アルカでは ɒccʅ ɔ lcjcʅ ɔ ɰeb の最初の ɔ などに現れる。

nɔɒ ［動詞］ɥəl をうらやむ、ɥəl が羨ましい、うらやむ、羨ましい、羨む ［普通動名詞］羨望 ［感動詞］あぁうらやましい。nɔɒ nɔɒ で使う。女子供の言葉。 ［反意語］φenɔɒ ［レベル］2 1ʔ: 制 :neɒ（ねたむ）

nɔɷ ［動詞］ɥəl を ı と比べる、比べる ［普通動名詞］比較 ［接続詞］「より」のほうが、数学の「大なり」、＞ ［格詞］～と比べて、（時間表現を後続させて）～より後に、～以降の ［数学］より上 ［反意語］ʅɪlʃ ［レベル］2 1ʔ ←古 :nɔcɷ nɔcɷ:nɔcɷ ［語法］ 時間の用法が非常にややこしいので理解するより覚えたほうが早い。　説明。「 nɔɷ 」は「＞」である。また、時間は過去＜現在＜未来のように、未来のほうが大きいという扱いを受ける。　ɪn jɔ nɔɷ ʃəɰ(これからそうする)の場合、「私がそうする」時間が ʃəɰ（現在）に比べて＞である。＞ということは未来である。従って、日本語にすると「今より未来＝これから」となる。　同じく nɔɷ ɑcj といえば、今日を含まず今日以降という意味になる。　　＜nɔɷ と φɪlʃ＞　nɔɷ と違って φɪlʃ は格詞節の肯定が含意され、それより更に主節の内容が肯定されることを示す。ɪn eʃ ɒclɑɪn nɔɷ ɥəlɑɪn と ɪn eʃ ɒclɑɪn φɪlʃ ɥəlɑɪn を比べると、後者は自分が研究者であることを肯定している。前者は研究者というより

むしろという感じで、研究者であるかどうかは不定である。　＜格詞連続＞　ɭc nɔɑ ʅɔʃ ȷılʃ（千年以上経て)、ɑɔl nɔɑ ʅɔʃ ȷılʃ（千年以上の間）など、格詞が見かけ上連続することがある。これは ɭc ȷılʃ nɔɑ ʅɔʃ ȷılʃ（千年以上の年数の後）などの ȷılʃ などの名詞が省略されているためで、この nɔɑ は格詞ではなく接続詞なので、厳密には格詞の連続ではない。【成句】 nɔɑ ʃəɥ 今後は、これからは【用例】 ın nɔɑ ʃc eʃ ʅıc. 私のほうがあなたより大きい。

nɔɑen ［接続詞］nɔɑ ［レベル］３　⅃1

nɔd ［形容詞］緊張した、気の張った、気が張った ［反意語］ɥəɒ ［レベル］２　1ʔ: 制 :nı/dɔu（心を締める）【用例】 ʃe nı nɔd. 緊張するな。

nɔdeʅ ［物理］慣性 ［レベル］４　⅃0:nɔdʅ:1ʔ: 制 :nɔdʅe（進まない）。語源からもはや意味が全然変わっている。

nɔb ［言語］語根 ［レベル］６　@ 1L: 語根のように造語すると語弊を招く。ちょうど ɒeu の反対概念なので、かえってメルテーブルのほうがいい。

nɔbı ［アイテム］ノバ ［レベル］４ ［類音］nɔuı　ɥcɑcı: 古 :nɔoıbıɔφ「ノアの拳」［文化］ヴァストリアの１つ。ンムトのもつ神拳。

nɔɥɒ ［約物］"、引用符、二重引用符、ノーム ［レベル］３　⅃1: 古 nɔ（爪）/hıɾɒı（文字）→ nɔɾɒ → nɔɥɒ

nɔz ［生物］爪 ［動詞］ɥəl をひっかく、かく、掻く、ひっかく、引っかく ［レベル］１　ɥɑ:nɔ　19: 古 :nɔ（爪)、φcnɔ（武器の爪） nɔ:nɔ:lı dɥəı（dɥəcz の対）:ɭcdc,ılʃ ［語法］ 領域は先端から半月を含んだ付け根まで。　爪の半月は ȷɔɥle e nɔz。【用例】 ın ɑcɔ nelʃ nɔz. 私には爪を噛む癖がある。　ın nɔzıʃ ɔ nɔzıʃ uıcʅ le ɥcb ȷcdıʃ. 蚊に食われたところをぼりぼり掻いた。

nɔzʅlıȷ ［名詞］爪切り ［レベル］２　19: 制 : 爪の鋏

nɔzʅcl ［動詞］ɥəl を引き裂く、引き裂く、ひきさく、引きさく、爪で引き裂く ［レベル］３　⅃0

nɔzʅeı ［美容］ネイルトリートメント ［レベル］５　19: 制 : 爪のトリートメント

nɔzleɥ ［美容］マニキュア、ペディキュア（足のマニキュア） ［レベル］３　19: 制 : 爪の化粧

nɔzncdl ［植物］フラジョレ。インゲンマメの一種。　19: 制

nɔzφcz ［名詞］つめやすり、爪やすり ［レベル］３　19: 制

nɔzl ［形容詞］かゆい、痒い ［反意語］ɥıc ［レベル］１　1L:nɔz lıl（掻きたい）:::cddc,ılʃ【用例】 ın nıʃ nɔzl ɔn uıcʅ le ɥcb ȷcdıʃ. 蚊に食われたところが痒かった。

nɔzlıȷl ［被服］ダックビルシューズ、ベアズクロー　ɥɑ;/　⅃Ŋ ［文化］ȷɒ でできた。女性用。裕福な平民が履いた。

nɔzlɔɔz ［生物］爪囲、爪の端 ［レベル］３　ɥɑ;/　⅃ʔ

nɔzlɔɔzɑıcz ［医療］ひょう疽、瘭疽、ひょうそ、ひょうそう、ひょう爪、瘭爪、爪囲炎、化膿性爪囲炎　ɥɑ;/　⅃ʔ ［文化］ 細菌感染症の一種。指先が黄色ブドウ球菌による感染で爪の周りが赤く腫れて痛がることがある。陥入爪でなりやすくなることもある。

nɔzleʃ ［動詞］ɥəl を掻いて引っ張る、掻く、引っぱる。かきむしるに近いが、むしりはしない。　［レベル］３　1L:ɒelcɑcı ılcȷ

nɔzleɒɔɒ ［音楽］プリングオフ、プリング　⅃1

nɔzı ［名詞］熊手 ［レベル］３　19: 制 : 古 :nɔzıɒɔ（爪のついた棒）

nɔzınɔz ［音楽］サークルピッキング　⅃1

nɔzcn ［化学］トルエン。ɑıınȷdel（メチルベンゼン）の慣用名。　［レベル］５　1L:ɥcɑcı:nɔz/cn ［文化］ ɥɑ で、女子が男子とデートをする際にマニキュアを付けたがった。もっとも、アシェット女子は基本的にさっぱりした子が多い。だがリディアは時として派手な格好を好んだ。リディアはセレンが桃色の爪を好むのを知っていたので、リュウに新たなマニキュアを依頼した。それを受けてリュウが新しいマニキュアと除光液を用意した。その際、除光液としてトルエンを使ったことから nɔzcn という。

nɔzcnncɒıȷl ［化学］ベンゼンホスフィン酸　1L

nɔzeʃ ［代詞］自分の、自分自身の ［類義語］enıʃ ［反意語］ɒeleʃ ［レベル］１　⅃0:eʅeʃɔne:e nɔȷʃe（e nınʃe を真似て作られたもの）→ nɔȷʃe → nɔȷeʃ（交替）→ nɔzeʃ（同化）［語法］ 複数形は nɔȷȷel と nınnıl。【用例】 lı bıɑıʃ ɔȷn nɔzeʃ. 彼は自分の頭を叩いた。

nɔoı,ɑ nɔı　e

nɔoıɥ ʅıcn ［人名］ノワール＝カイン　⅃0 ［文化］ (cɒəl 1ʔ¶L:1Ŋʔʔ) ユリ＝ジレールの親友。ラグナロクの研究員。グレアの工法を門外不出にしたかったユリの希望を叶えるため、1Ŋ0⅃ 年に魔動機関 lızeʃ を発明。ユリとは大学からの同期で、年齢も一緒。死亡した年まで同じ。

nɔoız ［生物］［医療］［魔法］原気、ノワーズ ［アクセント］nɔoꝉz　ȷzl;/　⅃Ŋ

nɔoızuccɑı ［生物］［医療］原穴　ȷzl;/　⅃Ŋ ［文化］ １２穴ある。臓腑の疾患に用いる。

nɔoııɥʅ ［生物］［医療］気会　ɥɑ;/　⅃Ŋ

nɔl ［単位］７ ［音楽］セブンス ［レベル］１　1L: 制 :nɔ　eȷee:zın::ınȷı,ılʃ

nɔlʃ ［名詞］一式、ひとそろえ、一揃え ［料理］コース料理 ［電算］文字コードの一揃え、文字コード、コード、セット ［レベル］３　1L:ɒɔlʃ

nɔlʃɑıl ［料理］モーニング、モーニングセット ［レベル］５　ul;/　⅃Ŋ ［文化］ アルバザードではふつう「トースト、ハムエッグ、ヨーグルト、紅茶」か、凪風に「ごはん、味噌汁、漬物、魚、緑茶」の二択である。モーニングと頼めばこれらが出てくる。【用例】 ın ʅəc ʅe uın nɔlʃɑıl. モーニングを食べにいこう。

nɔln ［名詞］個性 ［レベル］３　1ʔ: 制 :nɔnʃeln（私の性格）

nɔllccɑı ［地球の国名］タジキスタン　1L: 国旗に７つの星

nɔlleɒ ［音楽］七重奏、セプテット　ɥɑ;/　⅃ʔ

nɔlın ［生物］しらみ、シラミ、虱 ［レベル］３　古 :「掻きたい」

nɔı ［魔法］翠晄、すいこう、ノア ［名詞］気合い、気、気力、肉体的精神力、肉体的集中力 ［医療］気 ［レベル］１　ȷeɥʃ　19: 制 : 古　nɔoı:nɔ oı:lə nɔoı ［文化］ enuelen, ɑccɥə, ɑɔlɒcɥə　人体を囲む緑の光で表現される。『アティーリ』で頻繁に現れる能力で、鍛え抜かれた格闘家が操ることができる。　nɔı は ɥənɔ と ucɥ の働きを助ける潤滑油の役目をする。nɔı の流れが悪いと ɥənɔ が体中に行き届かず、元気を失う。　ləlleʃcı では nɔı は背中（兪穴）から入って腰へ下り、腹側の丹田に入る。この流れが元気を生むので、背中の血流が悪く凝っている人は元気がない。【成句】 nɔı eɒ φcnȷ ノアが削れる。気が引ける、気後れする：精神力であるノアが穿たれて削れ、小さくなってしまうという意味。気が小さくなっている状態であり、気おくれするなどの意味を表わす。　nɔı eɒ ɒcɒɔɒ 落ち着かない　nɔı eɒ ȷeel 胸につかえたようなすっきりしない感じがする　ʃɔc nɔı ɑccnı nene ～に気を使う、気を回す【用例】 ʃcl nɔı ɑın 丈夫なノアを持つ。我慢強い、忍耐力がある

nɔı(⅃) ［代詞］［ȷplɑeɥs］ın ［レベル］１　⅃⅃:ʅɒccɥ

nɔıȷ ［動詞］ɥəl を ı の役職に立候補させる、立候補する ［普通動名詞］立候補 ［反意語］ɑıȷ ［レベル］３　1L:clɒəȷ:ɥcɑcı:nɔȷ/ɑıȷ

nɔıȷʅcʃ ［名詞］体調 ［レベル］３　1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ ［語法］「ノアの座」すなわちノアの宿る丹田のこと。ノアが丹田に集まらないと体調を崩すため、体調が一番近い訳。【用例】 ȷc nɔıȷʅcʃ 体調が悪い

nɔın ［代詞］［ɒdɑ］私の ［レベル］１　1L:ɥcɑcı:nɔn。lenı と lenın の類推から、語尾に ın が付いた。

nɔıɑlcʃ ［魔法］気水晶、ノアフリート ［アクセント］nɔıɑl€ʃ ［レベル］５　ȷɒ; nɔı/cɑlcʃ　⅃1 ［文化］ cɑlcʃ

nɔıφılʃ ［生物］期門　⅃1

nɔıɥɔn ［魔法］気圧 ［レベル］５　⅃1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

nɔılccl,ıɥɑ ノア粒　/

nɔııȷɥı ［生物］気海　⅃1

nɔıelle ［生物］天柱　⅃1

nɔc ［親族］息子 ［類義語］ucenı、ȷıɒın ［反意語］ɒcuı ［レベル］２　1∆: 制 ［文化］ 伝統的にアルバザードは息子をありがたがる。娘の誕生はそこまで喜ばない。父親はあまり子供に関心を示さないが、息子には比較的関心を示し、可愛がる。娘は趣味が合うときだけ同士として認め、そうでない場合は理解できない小さい人という認識で、あまり干渉しない。　両親にとって娘に対する最大の関心事は貞操のみで、あとはせいぜい家事の腕前と知能の高さくらいで、それ以外は興味がない。　一方、息子は色々な可能性を考慮して教育を施し、ちやほやする。男系社会というのが理由のひとつだが、アルバザード人が嘘と無駄口を嫌う人種であることも関与している。アルバザード人は嘘を嫌うが、子供は嘘をつく。すると必然的に口数の多いほうが嘘をつく回数が多いため、口やかましい娘は生意気で可愛くなく、悪徳に満ちていると思われる。一方、口の少ない息子は純粋で可愛いと思われやすい。　娘が不貞を働けば父親は娘を売るか殺して処分するが、息子はよほどのきかんぼうで犯罪でも犯さない限り、殺す選択肢はない。息子と娘のどちらかしか助けられないという選択肢に迫られれば、アルバザード人の多くは息子を取る。　＜息子と父親＞　父親は跡継ぎとして息子を可愛がる。また、趣味や格闘技を伝授する。息子は父親を尊敬し、自分の二番目の理想像として捉える。(一番目と言わなかったのは、たいていのアルバザードの男子にとって、理想の男性はミロク＝ユティアであるため）　＜娘と父親＞　父親は娘にあまり関心がない。ただし趣味があえば可愛がる。娘は父親の寵愛を得ようと、ɒını になるまでは必死に父親に求愛する。そのたび父親が妻にしか目を向けないので、余計に母親と確執が生まれる。ɒını になると男子に興味を持つようになるため、父親との関係は希薄になる。　＜息子と母親＞　母親は厳しいが、娘に対するよりはずっと甘く、過保護な傾向がある。そのため、息子は母親に甘え、父親の寵愛を必要としない。その代わり父親は尊敬の対象として見られる。母親は息子に甘いため、息子がいる家庭だと旦那にべったりしなくなることが多く、父親は若干さびしそうにしている。　＜娘と母親＞　母親は躾けに厳しく、頻繁に娘を殴る。娘にとって母親は脅威で、父親を守ってくれる存在として慕う。しかし ɒını 以降になると自主性を重んじられるばかりでなく、女性特有の悩みなどを相談できる相手として母親が重視されるようになる。結果的に、年が行くにつれ、娘は母親と関係が濃くなり、小さいころにべったりくっついていた父親の元にはあまり行かなくなる。

nɔcȷ ［単位］ミリ ［レベル］３　⅃1:ɑcnɔȷ

nɔcȷɒelɑc ［単位］ノイスメルフィ、ミリメートル、ｍｍ→ nɒ ［レベル］３　⅃1

nɔcȷɒelbı ［単位］ノイスメルバ、グラム、ｇ→ nb ［レベル］３　⅃1

nɔcɑ ［形容詞］相対的 ［反意語］ınɔc ［レベル］３　古【用例】 ʅlcʃ nɔcɑ 相対的な評価

nɔcɑ,ɑ nɔɑ

nɔcɑʃcɑ ［経済］相対貧困、相対的貧困 ［反意語］ınɔcʃcɑ　ul;/　⅃ʔ

nɔcɑʅlcʃ ［普通動名詞］相対評価 ［レベル］４　1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

nɔce ［軍事］准士官 ［組み数字］５／７ ［レベル］３　古 :zını ［文化］ 兵の階級のひとつ。准尉、特務曹長、兵曹長に分かれる。日本における階級で准士官の３番目がなかったため、海軍の兵曹長を無理に宛がった。

nɔe ［名詞］ナルシズム ［類義語］ɑenzelcʃ ［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :nɔnelɔ（自分を綺麗にする）

nɔeʃʃ ［代詞］［ɟolɑeɥs］ ɪnʃ ［レベル］1　ȷȷ:ɭᴅccɥ

nɔen ［形容詞］無能な、有能でない、多彩でない ［反意語］ɪuɪcn ［レベル］3　ȷ1: 赤 nɥɔhe（弱い）

nɔel ［代詞］［ᴅɪɥə］アタシ ［レベル］1　ȷ1:ɭlccz:nɔn

nɔel(ȷ) ［名前］ノエル　古 :nɔ は 9 で、不吉。el は水。そこから転じて「嫌な雨」が原義。酷い雨で弱っているときにかわいそうに思ったセレンが捕獲を決意したことから。 ［文化］ セレンの飼い猫。家の近くのベンチで鳴きかけてきた。その夜、すごい大雨になったため、保護した。雌。最初は「けー」と鳴いていたが、数年して「にゃー」になった。さびしがり。

nɔeɪn ［名詞］ナルシスト ［レベル］4　ȷ0

ne ［代詞］誰。疑問代詞。 ［レベル］1　ɟeɥʃ;nee,ɑ　1ʔ ←古 :nee　nee: nee 【用例】 ʃc eʃ neȣ あなたは誰ですか。

ne(ȷ),ɪlʃ　oel　<>nee

ne,ɪlʃ　ᴅcɪ

neʃ ［動詞］ɥəl を起こす、起こす、起きる、目が醒める、目覚める、目が覚める ［魔法］ネット。利の低位白魔法。ネルフを解く。 ［電算］起動する ［反意語］ᴅɔɭ ［レベル］2　@ 1L ［文化］ アルバザードの国民はふつう午前六時ごろに起きる。 【用例】 ɪn cɭ neʃ cᴅ ʃəɥ. 今起きた。　ɪn neʃ neɭʃ cᴅ ɭilzɪȷ. 私は毎朝 6 時に起きる。　ɪn neʃ uɪn cᴅ uɪɥɑɪnʃ e ɭeȷʃ. 明日は 7 時に起きよう。　ɪn neʃɪʃ cᴅ uɪɥzɔn. 8 時に起きた。　ɪn neʃ nɔȷ ɭɔn dcle. コーヒーで目が覚める。　ɪn neʃ ɪʃ uɪɷel nɔɷ ȷɭɔl. いつもより早起きした。　ɪn neʃɪʃ uɪɷel ɷə 1 ᴅcu nɔɷ ʃɔlel cᴅ ʃə ɑɪɪɥ. 今朝は昨日より 1 時間早く起きた。　ɪn neʃɪʃ ucl uɪɷel ᴅɪn ɪn ɑelɪʃ ɪɭɪlʃ ɷəɥne nɔu. 夜遅くまで勉強していたので、朝早く起きられなかった：ɷəɥne nɔu か ucɥɷ にすること。ucɥɷ nɔu だと夜明け前になるので、流石に現実的ではない。というのも、アルバザード人はふつう徹夜で勉強をしないため。　ɪn neʃɪʃ ɥcȷ ɭc nel. 本当に起きたくなかった。　cᴅ ʃɔlel, ɪn ɥeʃɪʃ ɪl ɪɥəəs ɥəl lə neʃ ȷcl ɪn uɪɷel. 昨日、私は弟に朝早く起こすよう頼んだ。　cɭ neʃ ᴅɔɪ cᴅ ɪn ȷɔɭ. 目を醒ますと、みんな起きていた。　ɪn ɪʃeȷ neʃ ɪɭɪɪ lʃ ucɥɷ uɪɷ. 真夜中を過ぎるまで寝ないで起きていた。　ɪn eᴅ ɭilᴅɪ neʃ uɪɥ ᴅɔɭ. 寝ているときにしょっちゅう目が覚める。　△ ɪn ᴅɔɭeȷ ȷcl uɪn ɪɭɪlʃ ᴅelɪl lecl cᴅ ɭeȷʃ　○ ɪn neʃ uɪn en ɑɔclel cᴅ ɭeȷʃ. 明日は遅くまで寝ていよう。　ɪn cɭ neʃ cᴅ ʃəɥ. 今起きた。　ɪn cɭ neʃ cᴅ ʃə ʃəɥ. ちょうど今起きた。　ɪn neʃ uɪn en ɑɔclel cᴅ ɭeȷʃ. 明日は遅くまで寝ていよう。　ɪn neʃ ɑɪl nɔȷ cᴅ ɭilzɪȷ e ɭeȷʃ. 明日は 6 時に起きなければならない。

neʃȷeln ［アイテム］ネットセルン、めざましどけい ［レベル］5　ȷ0: 起こす胡椒 ［文化］ アズゲルから存在した民間アイテム。ネットの効果がある胡椒。振り掛けるとくしゃみをして目を覚ます。

neʃɑɪɪl ［気象］夜明け、朝日、明け方 ［レベル］3　1L 【用例】 ȷɪ ɑɪɪl eᴅ neʃ 夜明け前に　cᴅ neʃɑɪɪl 夜明けに

neʃᴅeɭɭ ［名詞］目覚まし時計 ［レベル］3　1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［語法］ 目覚まし時計は普及している。大抵のものは午前と午後に別れていて、六時にセットしても午前か午後のどちらかしかならない。日本の物の多くは六時にセットすると一日二回なってしまう。だが、アルバザードの物はふつうそうではない。午前午後のどちらかにセットしておくタイプである。 【用例】 neʃᴅeɭɭ en ɪʃ ɪɥ. 目覚まし時計が鳴らなかった。　ɪn neʃɪʃ ᴅcl neʃᴅeɭɭ ʃɪl ɪn ɥcɭɪʃ ucl c ᴅɔɭʃ. 目覚まし時計で目が覚めたが、ベッドから出れなかった。　neʃᴅeɭɭ ɪʃ lɪu ʃcnɭɪ. 目覚ましがうるさかった。　ɪn ȷcʃɥɪʃ ɑɔ e neʃᴅeɭɭ. 目覚ましの音に気付かなかった。　neʃᴅeɭɭ ɪʃ ɪɥ ɷə 10 ɑec. 目覚ましが 1 0 分鳴っていた。　ɪn cȷɪʃ neʃᴅeɭɭ. 目覚ましを止めた。　ɪn ɪɥɪʃ ucl ɑɔclneʃ ᴅɪn neʃᴅeɭɭ en eᴅɪʃ ɪɥ. 目覚ましが鳴らなかったので早起きできなかった。　ɪn lɔ nɔȷ ȷɪʃɪʃ neʃᴅeɭɭ cᴅ ʃɔlel. 昨晩目覚ましをかけたつもりだった。　ɪn neʃɪʃ ɑɪl cᴅ neʃᴅeɭɭ cɭ ɪɥ. 目覚ましが鳴ったときに起きるべきだった。　ɪn ȷɪʃɪʃ neʃ ᴅeɭɭ ɪ uɪɥɑɪnʃ. 目覚ましを 7 時にセットした。

neʃɪl ［代詞］誰であろうと ［レベル］1　19: 制 :ne/ʃɪl 【用例】 neʃɪl ɷen neʃ ɪn. 誰であろうと私を起こすな。

neʃɪleʃ ［代詞］誰かしらの、誰かの ［レベル］1　ȷ0:ȷeɥen/ɥcɷcɪ:neʃɪl/ʃe

neʃcᴅ ［名詞］起床時間 ［レベル］3　1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ

neʃɔnʃ ［自然動名詞］目覚め ［レベル］3　ȷȷ

neɭ ［動詞］ɥəl を ɪ に上げる、上げる、揚げる、あげる、上にやる、上がる、振り上げる、立ち込める、立ちこめる、立ち籠める、立ち篭める、立ち上る、立ち昇る、立ちのぼる ［自然動名詞］上昇 ［生物］勃起 ［経済］反発→ bɪlʃneɭ ［反意語］ᴅcᴅ ［レベル］2　1L: 恣意　::'ɥəɭ:ʃɪʃɪlə,ɪlʃ

neɭʃ ［動詞］ɥəl を c から ɪ へ隠す、隠す、隠れる、秘匿する、潜む、伏せる、ふせる ［名詞］秘密、シークレット ［副詞］こっそり、こっそりと ［類義語］lelceɥ ［反意語］nɔɭ ［レベル］2　1ɷ: 制　lelʃȷ:::neɭələ,ɪlʃ（悪いことを隠す） ɪᴅelə,ɪlʃ（良いことを秘める） 【用例】 hɪcn{uecφ} neɭʃ 秘密を守る｛バラす｝　eᴅɭ neɭʃ ɪ 秘密を洩らす

neɭʃʃəlɑ ［物理］潜熱 ［レベル］5　1L

neɭʃɭɔn ［名詞］隠れ蓑 ［レベル］4　1L:lecn

neɭʃlɪn ［名詞］真実、真相、隠された真相 ［レベル］4　ɥɷ;/　ȷɷ

neɭʃlɔɔɭ ［名詞］密談 ［動詞］ɥəl について ɪ と密談する、密談する ［レベル］4　ɥɷ;/　ȷʔ

neɭʃɑɔnʃ ［名詞］隠し通路 ［レベル］4　1L:lcɔn

neɭʃɑəʃ ［動詞］ɥəl（新しいもの）を c（古いもの）から ɪ（場所）に挿げ替える、ɥəl（古いもの）を ɪ（新しいもの）に挿げ替える、挿げ替える、すげかえる、すりかえる ［レベル］4　ȷ0:lcɔn

neɭʃdcnɪ ［名詞］密約 ［動詞］ɥəl を ɪ に密約する ［レベル］4　ɥɷ;/　ȷʔ

neɭʃhɪɾ ［文字］［言語］伏字、ふせじ、伏せ字、ふせ字 ［レベル］4　ɥɷ;/　ȷɷ ［文化］ 例えば日本語で「クミール」を伏せるときは「クミ〇ル」のようにするが、アルカでは ɭᴅccɥ を伏せるときは ɭᴅxxɥ のようにする。x の数はいくつでもよい。

neɭʃɥɪ ［名詞］隠れ家 ［レベル］4　ȷ0:lcɔn

neɭʃɪlɔ ［娯楽］かくれんぼ、隠れんぼ ［レベル］2　1L:ɥcɷcɪ:ɪɥbɪlelʃ

neɭʃɪɥ ［美容］コンシーラー ［レベル］4　ȷ1

neɭʃclᴅcnɪ ［政治］秘密結社　ɥɷ;/　ȷɷ

neɭɭə ［幼児］［形容詞］秘密の、ないしょの、内緒 ［副詞］こっそり、こっそりと ［レベル］2　1L ᴅel len:ləlcɪ:neɭʃ と発音できなかったため、neɭɭə と言っていた。メルが幼児語で良いんじゃないかといって成立。ルシアが作った単語としては ɭiɭɪ の次で、二つ目。どうも促音が多い気がする。大人がそのように聞こえているだけかもしれないが。 【用例】 ɭɔzeʃ neɭɭə ひみつのかぎ

neɭlʃɪᴅ ［動詞］ɥəl をたちあがらせる、立ち上がる ［レベル］3　1L

neɭɑɪɪl ［気象］日の出 ［レベル］3　ȷ1

neɭɪ ［動詞］ɥəl を待ち伏せる、待ち伏せる ［普通動名詞］待ち伏せ、まちぶせ、待ちぶせ ［レベル］3　1ᴘ: 制 :neɭ（隠れる）から。

neɭɪlɑɪɪl ［天文］日出帯食　ȷ1

neɭɪlel ［経済］上げ相場　ȷȷ

neɭc ［軍事］ゲリラ、遊撃 ［レベル］4　1ʕ: 制 :neɭ（隠れる）

neɭcuɪȷ ［軍事］ゲリラ戦 ［レベル］5　ɥɷ;/　ȷɷ

neɭɔᴅcᴅc ［料理］ネコミミ ［アクセント］neɭɔᴅcᴅϵ ［レベル］3　ȷ1:ɪlʃ「暖めるスープ」 ［文化］ アルティア料理。餅、豆腐、ニンジン、ネギ、里芋、カボチャ、なめこをミソ味でゆでたスープ。豚汁と違い、ごま油は入れない。　大根おろしを鉢に擂り、餅を食べるときは一旦鉢に浸すか、あるいは大根をかけて食べる。アミラーゼにより餅のデンプンの消化が促進される。　ɥɷ の東方遠征でアシェットが取り入れ、広まった。体を温め、消化によく、胃腸によく、免疫力も高める。餅が消化によく、なめこなどが胃壁を守るため、病中病後や胃腸病に向いている。

neɭɔlə,ɪlʃ　ᴅelʃ

neɭəlc,ɪlʃ　neeᴅe, ᴅcnʃc

neɭələ,ɪlʃ　neɭʃ

neȷ ［形容詞］非接触、非接触の ［反意語］ᴅɔl ［レベル］3　ɥɷ;ʃeel　@ ȷ1 ［語法］ スイカやパスモなど、接触ではないが離れているというほどでもない距離を指す。

neȷʃ ᴅcɷccʃ ［人名］ネスト＝ミディート ［レベル］6　古 : 語源不詳 ［文化］ 第１３使徒ルージュの実兄。

neȷɷclɑɪc ［医療］隔物灸　ɥɷ;/　ȷɷ

nen ［名詞］模様、パターン、型 ［レベル］3　ɭiʃɪ 【用例】 ☆ nɔn lecȷɪʃ nen e ʃccɪ ɭɔɭɭɔ ncdl hɪlen dɪȷʃ. ごはんの上に豆でハート模様を作った：アルカの場合、R のような ʃccɪ の幻字。

nen(ȷ) ［人名］ネーネの略称 ［組み数字］２４／２８ ［レベル］1　19:ȷeɥen: 古 :ᴅel

nenʃ ［数学］確率、頻度 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :nenʃe　nenʃe:nenʃe 【用例】 nenʃ ʃcn 高確率　nenʃ ɭɪl 低確率

nenʃe,ɑu　nenʃ　e

nenɭɪɥʃ ［被服］［工学］パンチカード ［レベル］5　ȷ0: 模様カード ［文化］ cᴅəl 1ʔȷ1 にメティオの ɭinzel ʃɔlcɪ が発明し、1ʔʕ 年にアルバザードに伝来。織機で模様の入った布を織るために用いられた。やがて ʃoɪ ɥzel ɷcȷcɷcɪ によって解析機関に組み込まれる。

nenueɥɪnʃ ［医療］演技性パーソナリティ障害、演技性人格障害 ［レベル］5　ul;neene/ueɥɪnʃ　ȷʔ:ᴅel

nene ［代詞］～、誰々、だれだれ、誰それ、だれそれ、誰がし、誰某 ［レベル］2　古 :nene（誰々） 【用例】 ʃɪəɪn ȷeȷ ɭɪᴅcl ɥəəᴅɪ nene el. 買ったのはたしかユーマ誰それさんだったかな。

neneʃ ［代詞］だれだれの、だれそれの ［レベル］2　ȷ0

neu ［動詞］ɥəl（場所や土）を掘る、掘る ［反意語］ᴅɔb ［レベル］2　@ 1L

neᴅ ［形容詞］あやふやな、不明瞭な、曖昧な、ぼやけた、ぼやける、不確実な、ぼんやりとした、漠然とした、不明な、あいまいな、色が原色から遠い、色あせた、褪せた、ぼーっとした、ぼんやりした、放心した、ぼやっとした、ぼやけた ［動詞］ɥəl をあやふやにする、不明瞭にする、ぼやけさせる、ぼーっとする ［反意語］ᴅɔn ［レベル］2　@ 1L　参考 :1ʔ: 制 :ᴅənᴅə（あやふやな）　ᴅəᴅᴅə:ᴅəᴅᴅə 【用例】 ɪlʃc nɪ hɪlcncɭ ɔɭ cnȷ neᴅ ɥəl ucɭ le ʃcl φel ɔn ʃɪɭc. 少年は虚ろな目で、銃を脇に抱えた男を見上げた。

neᴅʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に定住させる ［普通動名詞］［再帰動名詞］定住 ［反意語］ᴅɔnɭ ［レベル］3　@ 1L

neᴅʃɪȷʃ ［名詞］定住者 ［レベル］4　ȷ1

neᴅɑecȷ ［名詞］曖昧模糊 ［レベル］4　ȷȷ

neᴅd ［植物］アヤメ、菖蒲、しょうぶ、ショウブ、あやめ、アイリス ［俗語］ホモ、ゲイ、バラ、薔薇 ［類義語］ʃeȷʃ ［反意語］ɑcɪncȷ ［レベル］5　ɪɭɪʃɪ ［文化］ 垂れ下がる外花被片が陰嚢、立ち上がる内花被が陰茎に見立てられ、古くからゲイの象徴とされた。 【用例】 nɔn nɪɥ lccʃɔ e neᴅd. なんだか薔薇の香りがするな。

neᴅɥəc ［電算］［言語］あいまい検索、曖昧検索 ［レベル］6　ɥɷ;/　ȷʔ

neᴅc ［形容詞］未知の、不明な、未明の、不詳な、未確認 ［反意語］ᴅɔnɪ ［レベル］3　@ 1L

neᴅcuelʃᴅɔᴅȷ ［言語］語源不詳 ［レベル］6 ɥɑ;/ ɭʔ

neᴅcləɑın ［名詞］未確認飛行物体、ＵＦＯ、ユーフォー ［レベル］5 ul;/ ɭʔ

neɑ ［電算］アップロード ［類義語］lınʃ ［反意語］ᴅɔφ ［レベル］3 ul;neʃ.ʅ ɭʔ

neb ［エルト］nebɥı の略称 ［組み数字］１１／１２ ［レベル］1 ɭɭ

nebɥı ［エルト］ネブラ ［名詞］１１時 ［名詞］北北西 ［交通］ネブラ通り ［音楽］ラ＃ ［組み数字］１１／１２ ［類義語］neb ［レベル］2 ᴅelʃcı ɱ:nebɥı;e 古 ［文化］ アルミヴァの１１番目。エルトの胴体から生まれた。少年の姿をしている。サールのティーテルに求愛するが、ティーテルの剣を扱えなかった彼は見向きもされなかった。ティーテルを恨んだネブラはティーテルを犯してしまうが、ティーテルが抵抗するので陽物が抜けてしまい、精液が剣にかかってしまう。射精すると落ち着いたネブラは泣き出すティーテルが憐れに思え、恥を感じて行方をくらませた。力はあるが、気が弱いので戦いに向かない。ティーテルに惚れ込むが断られ、犯す。すると自らそれを恥じて雲隠れする。

neblcl ［化学］キセノン ［レベル］5 1Δ: 制

neɥᴅeȷ ［サール］ネルメス ［名詞］４時 ［名詞］東南東 ［交通］ネルメス通り ［音楽］レ＃ ［組み数字］４／１２ ［類義語］ᴅeȷ ［レベル］2 ᴅelʃcı ɱ:neɥᴅeȷ;e 古 ［文化］ アルミヴァの４番目。サールの左足から生まれた駿馬。フェンゼルの弟。ティクノらと共にデームスと戦う。

neɥlcl ［化学］ルビジウム 1Δ: 制

nelʃ ［名詞］癖、習性、習慣、風習 ［法副詞］習慣の副詞。無相につく ［レベル］2 1ɱ: 制 : 恣意 【用例】 ın ucz nelʃ eᴅ ȷcn. 遅刻癖がついいてしまった : nelʃ,eᴅ ともに副詞。

nelʃɥenȷ ［名詞］口癖 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɭʔ 【用例】 lı ʃcl{ıɥ} nelʃɥenȷ ɑel ʃıl. 彼はすぐ「しかし」と言う癖がある。

nelʃe ［軍事］特務曹長、ネルテ ［組み数字］１３／２０ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ᴅɔlʃ → ᴅɔlʃe（母音添加）→ nɔlʃe（語頭子音揃え）→ belʃe ［語法］［文化］ ʅını

nelȷ ［形容詞］不幸な ［名詞］不幸、不幸せ ［反意語］ncl ［レベル］2 1ʔ: 制 : 不幸を変える魔法から

nelɑ ［医療］気絶、卒倒 ［動詞］ɥəl を気絶させる、気絶させる、気を失う、卒倒する、気絶する ［類義語］nıdl ［魔法］ネルフ（スリプル）。害の中位黒魔法。相手を一時的に気絶させ、眠らせる。 ［レベル］3 ɭ0:nı/ləɑ（心がふわっと浮いてしまう）→ nılɑ → nelɑ（nı が付くのが多すぎるため） ［語法］ nıdl

neı ［形容詞］濃い、色が濃い、味が濃い ［反意語］ᴅɔc ［レベル］2 1ʔ: 制 : nec: 古 :nɥɔe 薄い。nɥɔe は日本語の「匂え」の説があったが、不自然。nɥɔhe/eɥcı「弱い水」では？ 【用例】 lɔc neı 濃い味

neıʃ ［化学］［料理］濃度 ［レベル］4 ɭ0

neıicʅlccᴅ ［化学］高果糖液糖 ［レベル］5 ul;/ ɭʔ ［語法］［文化］ ıcʅlccᴅ

nec ［遊離副詞］［形容詞］未だにない、未〜、まだない、まだ〜ない ［反意語］ᴅɔı ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 時期が予想より早いとか遅いとか関係なく、ある時点から見て過去の時点で完了していない状態。つまり「未だない」を表わす。単語自体に否定の意味があるので、en をつけなくてよい。そこは日本語と違うので注意。 【用例】 lı lənı nec. 彼はまだ来ていない。 lɔlc ȷen nec 未だに理解できない ın eȷ neʃ, ʃıl ın ɥcʅ nec lıl c ᴅɔlʃ. 起きているがまだベッドから出ていない。 ın ıɥeȷ nec ɥıɑel e nɔȷʅɥen. 未だ国語の宿題をやっていない。

necʅɔ,ılʃ oel ne/cʅɔ

necᴅılȷ ［形容詞］未婚 ［レベル］4 1L

neɔ ［人名］ネオ ［組み数字］１０／１３ ［天文］ネオ座 ［レベル］3 先 :ınɔ :nıɔ ［文化］ 第４期３代ソーン第１０使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

nee ［感動詞］ねぇ ［文末純詞］〜だよ、〜ですよ。気付いていない相手に呼びかけるように言葉を投げかけるときに使う。相手に情報などを教えるときなどによく使う。ハンカチ落ちましたよとか、シャツが裏返しですよなどというときに使う。 ［レベル］1 古 : 古アルカの nee（誰）からか。古では女言葉だった。日本語の呼びかけ「ねぇ」を語源とする説もあるが、それでは日本語ができない使徒も昔から使っていたことに対して説明がつかない。 ［語法］ 呼びかけに使う。呼びかけといっても主に会話中に使うものであって、道端で知らない他人に使うことは無礼。純詞のほうは別に無礼ではない。

nee,ɑ ne e

neeʃ ［代詞］誰の ［レベル］1 ɭ0:ȷeɥen/ɥcɑcı 【用例】 ʃə eʃ ʅız neeʃȣ これは誰のペン？

neene ［組み数字］２４／２８ ［交通］ネーネ通り ［レベル］2 ɭɭ

neene uıleᴅ ［人名］ネーネ＝ヴァレム ［組み数字］２４／２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。uıleᴅ は「あの音楽の」。 ［文化］ →nenueɥınʃ （ɭ→）第４期４代ソーン第１０使徒。男性。dcʅʅɔ。１７２ｃｍ、５６ｋｇ。金髪直毛で背中まで届く。瞳は青。肌は白：黄＝９：１。歌魔導師。 ・『ミールの書』より 彼は長く美しいブロンドヘアーを持っていた。ジールの髪も羨ましいが、彼の髪もまたうらやましいものだ。彼は青い瞳を手にした竪琴に向けて静かにしている。

neeᴅe ［名詞］姫、王女、プリンセス ［人名］リーザ。ユーアが常にリーザをこう呼ぶため（現実のほうでも） ［形容詞］〜姫。前置。 ［類義語］leʃcı ［反意語］ᴅcleɥ ［レベル］2 ɑu;e 古 neeᴅe:neeᴅe::neʅəlc,ılʃ hcᴅe,ılʃ ［語法］ 王の娘。王位継承権３位以下を指す。１位が継承確実な場合、２位で既に neeᴅe となる。総称として leʃcı を含んで姫とすることもある。リーザは leʃcı で、ルーキーテは neeᴅe。 【成句】 neeᴅe ɥıʅen ᴅed. → ȷɔɥɑıʃ

nəʃ ［名詞］炭 ʃᴅ;nəʃlc（燃やした後に残るものという意味） ɭɭ

nəʃlc,ɑ lc e

nəʃ uıᴅı ［人名］ヌット＝ヴァマ ［レベル］5 古 :nəʃ,nʃ。右の名は後付け。 ［文化］ 初代ソーンの第１３使徒。異性魔王。

nəe,ɑ ᴅenɑ、ɔɥəʅ e は水。

nəə,ɑ ȷcɑ、bıʅȷ(ɑu)

nəəʃ,ɑu lcʃı nəʃlc.ʅ

nəəɔ,ɑu 落胆、殺意、死刑、哀願、刑 赤

u

u ulınɑ

uȷ ［歴史］ヴァステ、uıȷʃe ［レベル］3 ɭ1

uɥeuɥecn ［交通］勇郭線 ［レベル］4 ɭɭ:uɥeuılʃ/ɥecn ［文化］ アルミヴァ線と幻環線を繋ぐ１２本の路線。地下鉄。例えば幻環線北コノーテ駅からは勇郭コノーテロまで繋がっている。アルミヴァ線とは直通で乗り入れることができるため、実質幻環線からアルミヴァ線は一度の乗り換えで済む。

uɥeulınʃ ［人名］ヴレヴラント王、勇王 ［レベル］5 ɭ0 ［文化］ (1ᛘ٩L–1٩ɱ٩) ɥɑ のアルバザード王。アルバ十世。アシェットが活躍した時代の王で、ɥɑ の時代のアルバザード王といえば通常彼のことを指す。強大なヴィードを持ちながらも普段はリーザたちとともにテームスの封印を強化しつづけることに専念した。温厚で寛大な人物で、セレン少年らを育て上げた。勇敢な戦士でもあったことから、勇王と訳す。

uɥeuılʃ ［ランドマーク］ヴレヴァルト、勇王郭、勇郭、勇王の城壁 ［レベル］4 ɥɑ;uɥeulınʃ/bılʃ「勇王の壁」 ɭɭ ［文化］ ıɥnı アルナ市を囲う円形の城壁。ɥɑ でアシェットによって築かれた。石造りである。 ɥɑ 当時は防壁の意味合いが強かったため、門の数は現在より少なかった。現在は交通の利便性を考え、門の数が増やされている。 アルバザードの観光名所のひとつである。

uɥecn ［被服］ガードル ［レベル］6 uɥecn,lɱ; 女教師がよく穿いていたことから ɭ1

uɥecn,lɱ lılın

ul ［歴史］ヴェレイ、uelec ［レベル］3 ɭ1

ulın ［単位］ブラン、ヴラン ［レベル］5 ɭ1:「分銅」。bɥələn を１０個に分けたときのひとつひとつの分銅の重さ。 ［文化］ ınʅɔ

ulınɑ,ȷzɑ ɑɥeᴅ

ulınɑcı ［経済］ファンド ［レベル］5 古 ȷɔɥn

ulcz,ȷzɑ uelʃ

ulenɑ ［建築］ダイニング ［レベル］5 lʃ ɭɭ

uleᴅen ［軍事］総督、ブレーメン、ヴレーメン ［レベル］5 ȷzl;「棒を振る者」 ɭʔ

uıʃ ［動詞］ɥəl を待つ、待つ ［普通動名詞］待機、待ち ［レベル］2 ɑ:ȷııl;e 古 :ȷɔɥn（到着） 【用例】 uıʃɔɥ 待っている ın uıʃıʃ lə ıʃə. 彼に会うためにそこで待った。 lı ȷɔlȷılʃ ın uıʃ lı ɑə ɭ ᴅcu. 彼は私を二時間待たせた。 ın uıʃıʃ lı ʅılʃ lı lənı ıʃə. 私が彼が来るまで待った。

uıʃlı ［交通］駅のホーム、ホーム、バスの待合所、待合所 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

uıʃl ［動詞］ȷɔl は ɥəl に届く、届く、至る ［レベル］3 1L:ȷɔnɔhcnɔlc: ソーン :uıʃlecɥə（到着を歓待する） 【用例】 ncı e ɑəlᴅccı uıʃlıʃeȷ ıɑɥeᴅ ıʅȷ cᴅ lız. 子供の頃、フルミネアの髪は床につきそうだった。 ʃɔcᴅ, ʃəəbeȷ ɑce ȷecn cʅ hınɔc le uıʃleȷ ȷcel" いつの間にか嘘は空高く積みあがって、塔になった」

uıʃı ［普通動名詞］競、競り、せり、セリ、競り売り、オークション ［動詞］ɥəl（商品など）を ʃel（競争相手）に対して競る、競る ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :uıʃıoı（戦うように買う）

uıʃıc ［サール］ヴァタイ。災害を引き起こすサール。 ［名詞］天災、災害 ［法律］加害者 ［動詞］ɥəl という加害を ı に加える、害する。 ［反意語］uıʃcn ［レベル］2 古 :ʅᴅccɥ ［文化］ 災害一般の扱いは全て地震などと同じ。頑強な集合住宅が多いので、戸に板を貼り付けるようなことはない。津波が思い切り襲い掛かるようなところには住まないし、そもそもアルナに海はない。雷は避雷針で大概は防げるので心配要らない。雷が酷いときは効き目のあるなしに関わらず、用心してブレーカーを落とす人もいる。へそを取られるという迷信はない。災害時は学校も仕事も休みになる。軽い災害でも休日になりやすい。

uıʃıcʅı ［名詞］被災地 ［レベル］3 ɭ0

uıʃıcȷıdcı ［医療］加害妄想 ［レベル］5 ɥʃ;/ ɭʔ ［語法］ 自分の存在や挙動が人を傷つけているのではないかという妄想のこと。

uıʃcʅʃəəᴅc ［俗語］キタコレ、ｷﾀｺﾚ、ｋｔｋｒ ［レベル］4 ıl;/「これを待っていた」 ɭʔ 【用例】 "həᴅ, ȷee ʃc ȷccnı oel lınʃı lɔʃ hıləhc ȷəzə ᴅcɥıȣ" 「ふーん、で、君は涼宮ハルヒのキャラで誰が好きなの？」 "ɔəɑ (ııı ʅəɥə ʃə eʃ ıȷᴅ dılu ɑel uıʃcʅʃəəᴅc ııʃı (ııı oıʃ oıʃ oıʃ (ııı beıᴅc ʅəʅ ᴅcɑel ʃɔɑueʃ ɑel uıʃcʅʃəəᴅc ʃcȷ (ııı ȷıı ᴅɔn beıᴅc ȷccnı hıləhc, ʃıl ɥɔn elɑ ʃə lel ɑıcʃʅlec ʃeʃ ᴅınıᴅcʅıᴅcɑcı enʃɔ nı nɔȷ eʃ zıl ɔnʃ cᴅɥə ınɑlenzel (ııı beıᴅc ᴅcleȷ clʃ cʃen ɑın ȷcᴅɔnz (ııı ɑɔdəɑɔ (ııı ᴅcɑel lecʅ ʅɔnȷeʃ lənıʅ c ʅəɔ beıᴅcʃ ȷcn (ııı ıɥʃe, ındenʃ, ındenʃ (ııı ɑccn hıʅ ȷen ılʃın lıɑeȷ ılʅel nıφıʃɔ lel ɥəəɥə lılʃ ɑɥcȷ ʅeu (ııı ɔl el uıcȷ ʃə c ʅılʃe ɑlɔn ʅıl ʅɔʅ beıᴅc, (ııı ȷɔn ɑɥcȷʅeu e ɥəəbelʃ lcʃı ɑɔʅ ʅıᴅılın e φcnıʅl clʃeȷ lə lınʃı (ııı ȷelɑıʃc e ᴅcʅələ ıȷıhcnı eʃ (ııı ɑɔʅınədɔə (ııı ʃə ᴅeȷı ɑcʃ lılʃe ɑel beıᴅc ɥən ləlcın (ııı beıᴅc ɑe ləlcın ʃcȷ ınɑlenzel (ııı ʅɔdɔɔ" 「オウフｗｗｗいわゆ

るストレートな質問キタコレですねｗｗｗ　おっとっとｗｗｗ拙者『キタコレ』などとついネット用語がｗｗｗ　まあ拙者の場合ハルヒ好きとは言っても、いわゆるラノベとしてのハルヒでなく　メタ ⱅⱌ 作品として見ているちょっと変わり者ですのでｗｗｗダン・シモンズの影響がですねｗｗｗｗ　ドプフォｗｗｗついマニアックな知識が出てしまいましたｗｗｗいや失敬失敬ｗｗｗ　まあ萌えのメタファーとしての長門は純粋によく書けてるなと賞賛できますがｗｗｗ　私みたいに一歩引いた見方をするとですねｗｗｗポストエヴァのメタファーと　商業主義のキッチュさを引き継いだキャラとしてのですねｗｗｗ　朝比奈みくるの文学性はですねｗｗｗｗ　フォカヌポウｗｗｗ拙者これではまるでオタクみたいｗｗｗ　拙者はオタクではござらんのでｗｗｗコポォ」（ꓥʔ 名前：以下、名無しにかわりまして ∀Є Ф がお送りします。[]ꓶ00ꓥ/0ꓸ/ꓶʔ(水) 00:1Ꝑ:Ꝑ0.ꓥꟼ ЄⰗ:ꭥꭍ 1Fⱬ7eı0）

uıſcn ［法律］被害を受ける者、被害者 ［名詞］獲物 ［動詞］ɥəl という被害を c から受ける ［レベル］3　1ꓸ: 制 :uıſın:uıſıc 【用例】 ınȷ uıſcnıſ ɷceɥ. 洪水で被害を受けた。

uıſcnƖıɷ ［地球の国名］ポーランド ［レベル］5　1L: 歴史上何度も侵攻されてきた可哀想な国。

uıſcnȷıdcı ［医療］被害妄想 ［類義語］ȷeɥȷıdcı ［レベル］4　ɥſ;/　ꓶʔ

uıſce ［名詞］大洋、大海原、大きな海、大海 ［レベル］4　1L:uıɥƖ/ſceɥ ［語法］ヴァルク海のような大洋のこと。

uıſɔn ［音楽］楽屋 ［レベル］4　ꓶ1:uıſ

uıſe ［動詞］ɥəl を ı に籠城させる、篭城する、引き篭もる、閉じこもる、引きこもる、閉じ篭もる ［再帰動名詞］籠城、篭城、ひきこもり、引きこもり、引き篭もり、閉じこもり、閉じ籠り、ヒッキー ［レベル］4　ɑ;uı は戦う　赤　uıſe:uıſe:uıſe 【用例】 ın uıſe uın nɔȷ ı ɑcı ncl ɔlſı ſə eſ Ɩlɔı ɔlſe l'el ɥcƖ ucl nɔȷ cſ. 幸せな世界に閉じこもる。たとえそれが抜け出せない輪廻の物語であろうと。

uıƖ ［アイテム］武器、兵器、武具 ［反意語］bılɔn ［レベル］2　ɑ;uıƖ（攻撃する、殴る）　中期制アルカ？ :uıȷƖəl（戦いの道具）　uıƖ:uıƖ:lə lcın（武器） 【用例】 uıƖ ucen 強力な武器

uıƖƖıȷ ［軍事］陣地、陣営、陣、内野 ［類義語］lıƖı ［レベル］3　ꓶꓶ:uıın/Ɩı

uıƖȷ ［普通動名詞］交渉、ネゴシエート ［動詞］ɥəl を ı と交渉する、交渉する ［レベル］3　1ʔ: 制 :ȷɔɥn:uıƖəıȷ ［文化］　日本では交渉は企業間というイメージが強いが、アルバザードでは企業だけでなく、個人間でも交渉が盛んである。家族間でも多い。どちらかが利益を独占するというのは争いの種になるので、お互いに折り合いを付けようとする。そして交渉が生まれる。交渉はどちらが利益を独占するかでなく、どのくらいで折り合いをつけるかということを念頭に話す。要求を率直にいうだけでなく、かけひきも必要になる。交渉は技術であり、アルバザードの人間は交渉術を日常的に体得している。

uıƖȷen ［アトラスの国家］ヴァクセン ［レベル］5　1L:ɥcɷcı: 砦

uıƖȷendɥecn ［植物］ダリア、ダリヤ、テンジクボタン、天竺牡丹　nɷ;/　ꓶʔ ［文化］　ヴァクセン原産。nɷ で流入。

uıƖn ［名詞］家畜 ［動詞］ɥəl を飼う、飼う、飼育する ［類義語］lccl ［レベル］3　1ꓸ: 制 :ucφlıᴅ 飼いならされた動物　φɔnφɔ:φɔnφɔ:

uıƖl ［普通動名詞］牧畜 ［動詞］ɥəl を牧畜する、牧畜する ［レベル］4　1L:uıƖn/lıb

uıƖlın ［名詞］牧畜者 ［レベル］4　1L:clᴅəȷ:ɥcɷcı

uıƖı ［地学］野原、平野、平地、原っぱ、はらっぱ ［レベル］3　1ʔ: 制 :uıφlı

uıl ［動詞］ɥəl を急かす、急ぐ、急がせる、せかす、急かす ［形容詞］急ぎの、素早い ［副詞］急いで、素早く、すばやく ［名詞］緊急、急用、緊急事態 ［反意語］enſ ［レベル］2　1L: 早そうな音であることから。音象徴より。 ［文化］　急ぐことは格好が悪いと考えられている。特にユールやユンクは急ぐことを恥ずかしいと感じる傾向がある。日本だと会社で急いでいると頑張っているように見えて好感が持たれるので、ちょっとアルバザード人の気持ちが理解しづらいかもしれない。 【成句】 uıl enſel. ゆっくり急げ。ꓶꓸ に ɥəəı が紫亜に対してアドバイスした台詞が成句となったもの。紫亜はなかなかバトンが上達せずにイライラしていて、そのときに言われたアドバイス。セレン似でせっかちな紫亜には開眼的な内容だった模様。 【用例】 ſə eſ ɷız ı uıl. これは緊急事態だ。　ɷen eᴅ uıl. 急いではいけません。　ɥȷccl ınſ uıl nelſ ın ſıſ ɑııɥ. 両親は毎朝私のことを急かす。　ın ȷɔſ ɑıl uılel. 急いで行動しなければならなかった。　ın ȷɔſ uılel. 急いだ。　ın Ɩeſ ɑeƖı uılel lını lɔnſ lıl. 学校に遅刻しないように急いだ。

uılſ ［動詞］ɥəl（問題）を解決する、解決する、解く、けりをつける、打開する、ゲームなどをクリアする、問題を解く、パズルを解く、攻略する ［普通動名詞］解決、攻略 ［数学］数式を解く ［類音］uıȷſ（意味も似ていて紛らわしいので注意。ただ、uılſ は通常無生物を取るので、たいていは区別がつく。uıȷſ ısc や uıȷſ ſıȷ などの例に気をつける） ［レベル］2　ȷɔɥn ［語法］　uıȷſ ſıȷ, uılſ Ɩnɔɔȷ が正しい。音が似ているので、動詞を逆にしないよう注意。 【用例】 ☆ el uılſ ȷen ɥəə eᴅɔ nı deȷ. 後悔しても問題解決にならない。　uılſıſ ſıȷ ıſc ɑccɥə. 試験をバッチリ解いた。

uılſɑelde ［娯楽］攻略ｗｉｋｉ　ꓶꓶ

uılſlec ［娯楽］攻略本 ［レベル］3　ꓶꓶ

uılſɔᴅ ［名詞］解決案、解決法、対策、解法 ［レベル］3　1L:ɥcɷcı:clᴅəȷ

uıluınz ［電算］［娯楽］クイックセーブ　ꓶꓶ

uılheƖ ［言語］至急、急信 ［レベル］5　ꓶ1

uıllƏƖ ［名詞］急ぎ足、早足、ウォーキング ［レベル］3　1L:ɥcɷcı:ıɥbılelſ

uılı,ɑu　uıc　「戦う存在」uıȷ/lı

uıȷ ［動詞］ɥəl と戦う、戦う、争う、抗争する ［普通動名詞］戦争、争い、抗争、紛争、戦い ［類義語］φıɥᴅı、ɷccuı ［反意語］ıluıȷ ［レベル］2　ɑ:elſ;uc/ȷɔ「力をする」　古　uıȷ:uıȷ ［語法］　φıɥᴅı 【用例】 uıȷ cƖ ᴅɔnɔ. 戦争が膠着する。　cᴅ Ɩılɔ, el ɑıƖſıſ ɑıl ı uıȷ ɔlſı ȷɔ ɥcȷ. カコの時代は戦争に行きたくなくても行かなければならなかった。　nɔɷ ſə, ın uıȷ uın ɥıɑel ſ'ılɑ. これから数学の宿題をする。

uıȷſ ［動詞］ɥəl に勝つ、勝つ、克つ、打ち破る、倒す、打ち倒す、打ち勝つ、撃退する、ɥəl（試験）に合格する、ɥəl（籤など）に当たる、乗り越える、乗り切る、克服する、打破する、乗り越える、当たる、合格する、ɥəl（場所）を踏破する、踏破する、アタリくじを引く、あたる ［普通動名詞］勝利、打倒、合格、当選、克服、打破、踏破、適合、節約 ［俗語］ɥəl に適合する ［動詞］ɥəl を買わずに節約する ［類義語］ᴅɔdȷ、ıȷeſ ［反意語］uıɷe ［類音］uılſ ［レベル］2　1ꓸ ←古 :uıɷe（負ける） 【成句】 uıȷſ ıɷel Ɩɔn ıɷel 毒をもって毒を制す 【用例】 uıȷſ ſıȷ 試験に受かる　uıȷſ ɥeſl 敵を倒す

uıȷſlɔlſ ［普通動名詞］凱旋 ［動詞］ɥəl（場所）へ凱旋する、凱旋する ［レベル］5　ꓶʔ

uıȷſuıɷe ［名詞］勝敗、決着 ［類義語］ɑcnuen ［レベル］3　ɥɷ;/　ꓶʔ

uıȷſɥcı ［アイテム］殲滅武具ヴァストリア ［レベル］3　ȷeɥen: 古：リディアが撰んだ武具の総称としてセレンが作った語。uıȷ は戦うだが、ſɥcı は不明。 ［文化］　アシェットが悪魔を殲滅するのに使った武具やアイテム。神からもらったものが大半。例えばリディアの魔杖ヴァルデなど。　＜ヴァストリアのリスト＞　リディア：ıɾᴅıɷcɔ, elɑc, el ſcı, lccɑıȷ, ſelſe, uıɥɷe, ſeᴅſcı　オヴィ：ɔɔuı　クリス：ɷccnɔ, ȷıſcı　ギル：beezelıſ　フルミネア：ſcƖnı　リュウ：Ɩclſclnɔ, uıɥſcnı　メル：ᴅelɷcı, ᴅenȷı　ラルドゥラ：uınɔȷeɥen　ザナ：ſıɥſcı　パール：dɥeſ ıucɥɷe　ミルフ：ɑɔɥſcȷ　ファーヴァ：ɷcſcnclƖ　ルージュ：Ɩleᴅenſ　セレン：ıɥlınſe, uınɔɑcı, hɔſılə, ɑɥıſıncſc, ıɥbcleɔ, ɑcɔlenſccnı, leebenbɾƖɔc　ラヴァ：uınɔᴅccɥ　ウムトナ：ȷıueeɥ　リーネ：ƖclƖılz ıȷ　レレゾナ：uccz　ジール：ıᴅdıl　リナ：ıɥſıȷen　エケトネ：eȷbılſ　エンナ：ſccnı　アッシュ：ıɥuıȷ　ネーネ：uıȷnı　ピネナ：ılɑɔɥſ　ンムト：nɔbı　クノン：ɷɔlſe　クミール：ȷeɥſcı, uılᴅı 【成句】 uıȷſɥcı ı(len) blcz 宝の持ち腐れ 【用例】 ɔɔə... nɔel lıl ſel e uıȷſɥcıɾ あー、ヴァストリアの資料欲しい！

uıȷſın ［名詞］勝者、勝利者 ［レベル］3　ꓶꓶ 【成句】 uıȷſın ılſ ȷeſı 勝者が歴史を書く：勝てば官軍、負ければ賊軍

uıȷſɔᴅ ［名詞］戦い方、戦闘法、戦術、戦略 ［レベル］4　ꓶ1

uıȷſe ［歴史］ヴァステ、神魔大戦、悪魔の愁訴、あくまのうったえ ［レベル］3　ɥcɷcı: 古 :uıȷſeeᴅȷ「デームスと戦う」。ここでの愁訴は不定愁訴のことではなく愁い訴えること。 ［文化］　神々と悪魔の戦い。アルテムとサリアの間。アルミヴァの活躍で神の勝利となり、悪魔テームスは封印される。

uıȷƖ ［軍事］［動詞］ɥəl に軍事的に侵攻する、侵攻する、侵略する ［法律］［動詞］ɥəl の権利などを侵害する、侵害する ［普通動名詞］侵攻、侵略、侵害 ［レベル］4　1L:clᴅəȷ:ɥcɷcıȣ:uıȷ/Ɩe

uıȷƖleȷ ［軍事］戦況 ［レベル］4　1L: リディアの書

uıȷƖı ［軍事］戦場 ［レベル］3　1L

uıȷȷıcȷ ［軍事］塹壕、トレンチ ［レベル］5　1ꓸ: 制

uıȷn ［名詞］勇気、勇敢 ［名詞］覚悟→ lɔɔſɔ ［類義語］Ɩɔᴅuıȷn ［レベル］3　1L:ᴅelcɷcı ılcȷ:uıȷnı（戦う心）　dııᴅ:dııᴅ:φınſȷ 【成句】 elɑe e uıȷn 勇気凛々。lı とともに。 【用例】 ſcl uıȷn 勇気がある　ɔƖ uıȷn 勇気を持って、意を決して　ſe ucnȷ uıȷn 負けないで、くじけないで、挫けないで、あきらめないで

uıȷnſe ［形容詞］勇敢な ［レベル］3　ꓶ0

uıȷnı ［アイテム］ヴァスナ ［レベル］4　ɥcɷcı: 古 :uıȷnıɔ（戦いの琴） ［文化］　ヴァストリアの１つ。ネーネのもつ神琴。これを弾く間、敵にかかっている魔法が解け（lıɥſ の効果）、同時に味方のヴィルが上昇する。また、歌魔法の効果を高める。

uıȷnılſ ［アトラスの国家］ヴァスナルト ［レベル］5　1L:ɥcɷcı: 戦いの城

uıȷucın ［名詞］戦力 ［類義語］uıȷenuc ［レベル］4　ɥɷ;/　ꓶꓸ

uıȷdɥın ［軍事］［娯楽］宣戦 ［動詞］ɥəl に宣戦布告する ［普通動名詞］宣戦布告 ［レベル］4　ꓶꓶ

uıȷdı ［軍事］戦闘車両、戦闘車輌、戦闘車 ［レベル］5　ɥɷ;uıȷ/dıƖɔ ない uıȷ/dın　ꓶꓸ ［文化］　ınsel などの戦闘車両が最初の uıȷdı と呼ばれた。戦車などが出てくる ul になるまでは大砲を積んだ荷車のような車が uıȷdı と呼ばれていた。現在では戦車だけでなく戦闘機や駆逐艦など戦闘車両全般を指す。

uıȷdız ［軍事］戦歴 ［レベル］4　ꓶ1

uıȷɥ ［物理］ヴァスル、電気抵抗 ［レベル］4　古：元は uıȷccɥe「戦う（抵抗する）電気」 ［語法］　１イーヴァの電流を流すためにその両端に１イレットの電圧をかけねばならない時の電気抵抗。オームと比較。

uıȷlınφ ［政治］［軍事］交戦権 ［レベル］4　1L

uıȷın ［軍事］戦士、ファイター、ウォーリアー、ウォーリア、バトラー、コンバタント、スクラッパー ［レベル］3　ꓶ1　::lə φıɥɷ

uıȷınɔ ［軍事］戦略 ［類義語］uıȷɔᴅ ［レベル］4　ꓶ0

uıȷıᴅɔ ［軍事］戦車、タンク。hɔnuıȷdı の一種。 ［レベル］3　ul;/「戦う車」　ꓶꓸ ［文化］　ul の第一次世界大戦で塹壕戦を突破するためにアルバザードが開発した兵器。

uıȷıdl ［軍事］戦艦 ［レベル］4　ꓶʔ

uıȷılı ［被服］もんぺ ［レベル］5　ılſ　ꓶ1

uıȷɔᴅ ［軍事］戦法、戦術 ［類義語］uıȷınɔ ［レベル］4　ꓶ0:ᴅelcɷcı lceɥ

uıȷenuc ［名詞］戦闘能力、戦闘力 ［類義語］uıȷucın ［レベル］4　ɥɷ;/　ꓶꓸ

uın ［法副詞］～する、～しよう。意思・意志の副詞。 ［レベル］1 1L:制 :uınɔ:uınɔ は 1ɱ:ɟɔɲn:uəɑıȷ。制アルカには意思の副詞がないかほとんど使われず、現在形で代用していたが、自然の流れでそうなったのかやろうとしてそうなったのか区別できずしばしば不便だった。
［語法］ uın は意思の法副詞であり、時制は持たない。しかし実際にアルカが使われている場面を分析するに、ɟcl の代わりに uın を使うシーンが見られる。結果、uın に近接未来の用法を認めることができる。ɟcl uın という表現も可能だがあまり聞かれないのは、uın 自体に近接未来の意味があるからではないだろうか。ɟcl uın はなにか未来であることを強調しているような印象がある。 要約すると、uın は主観的な現在ないし近接未来、ɟcl は客観的な未来を指す。主観的な未来(非近接未来)を指す場合は ɟcl uın という言い方ができる。 ・eȷ̀l lənı ɟcl と eȷ̀l lənı uın 前者は天気予報などで聞かれる客観的な表現で、主観的に雨が降りそうだという場合は eȷ̀l lənı uın cn のようになる。 eȷ̀l lənı ɟcl uın という表現もできるが自然ではなく、やや持って回ったような、あるいは未来を強調したような印象を受ける。 eȷ̀l lənı uın cn の場合、実際雨に意思はないが、uın で表している。ではこれは誰の意思なのかというとふたつの考え方があって、ひとつは雨を擬人化して雨自身の意思と考える見方。もう一つは話者の意思を主語である雨に投影した見方。このふたつの解釈があり得る。 ・ɟcl uın ɟcl uın については上記の通りだが、原則的にはそのまま「～しようとするだろう」という意味である。例えば ȷ̀ıın ɟeʃ ɟcl uın ın ɔl lı ɟeɲ ʃə（もしこのことを知られたら父は私を殺そうとするだろう）のように。 ・仮定に対する ɟcl と uın "ʃc nı ʃɔ ɔn eɲcɒ ɔl ɔɒı φııl ı ʃc8"（犬に吠えられたら心臓にどう感じる？）に対して "nɔn nı ɟcl dılȷı ınneə"（ドキドキします）と答えることができる。 質問は仮定の文であり、それが起こるかどうかは定かでない。それに対して nɔn nı ueɒ のように現在形で答えると、まだ起こっていないことに対して想像で怯えてしまうというニュアンスになってしまう。それを防ぐために今現在は怖くないが、もしそうなった場合には怖くなるだろうという意味で ɟcl を使うことがある。もしそうなった場合というのは未来のことなので、ɟcl を使うわけである。 なおこの場合、怖がるだろうことが客観的な判断であれば ɟcl を、主観的な判断であれば uın を使う。つまり、冒頭の質問に対し nɔn nı ɑın dılȷı と答えることもできる。その場合、幽体離脱した客観的な視点で自己を見て「恐らくその状況になったら自分はこうするだろう」とは考えていないことになり、主観的な判断で自分の目線で「あぁ怖いだろうな」と判断していることになる。両者の違いは日本語に訳出することが難しい。 ちなみに nɔn nı ʃeı dılȷı ınneə（もしそうなったらドキドキします。まぁ実際にはしませんけど）と現在形で答えることもできるが、質問文の内容が起こる可能性が極めて低い場合以外には違和感があるし、また子供が使う表現でもない。 なお、「もしあの時、犬に吠えられていたら心臓にどう感じた？」の場合はどう答えるだろうか。この場合、確定した過去の事項についてなので、nɔn nıʃ ʃeı dılȷı や nɔn nıʃ ɑın dılȷı とは言えるが、nɔn nıʃ ɟcl dılȷı とは言えない。 【用例】 ɥı, ȷ̀e uın. あぁ、行こう。（勧誘の意味ではなく主語（＝この場合自分）の意思として） nɔn ɟɔʃ uın ɲınel ınneə. ちゃんとやるつもりでした。

uın と ɟcl の使い分け

認知様式＼時制	過去	現在 / 近接未来	未来
主観的	–(ı)ʃ uın	uın	(ɟcl) uın
客観的	–(ı)ʃ	–	ɟcl

※反実仮想の場合、過去・現在については ʃeı を付す。

uın(ɺ) ［言語］フレマゼル語の活格を表す語 ［反意語］ʃcȷ ɲɑ;‹ɑɥeɒızeɲ ɺ⋔

uın,ȷzɑ ucen ‹ ucuc,ɑ.l

uın,ılʃ ［アイテム］uɔz ［アイテム］和弓 ［京極］弓：象形。戦場において武将が目下の敵武将を射下ろすように狙っている様子を象ったもの。この文字は射法八節 (lelȷcȷ̀le) の会 (leeue) から来ている。離れ (uccne) に入れば即座に射抜くことができるため、「すぐに」や「まもなく」を意味する ıɥəɒc,ılʃ の文字は弓偏に時という旁からできている。なお、この象形文字は四角の部分が人間の頭で、縦棒の部分が体を表している。二本の横棒は弓手と矢を象徴し、頭部の斜線は馬手を象徴する。老婆心ながら、この文字はあくまで象形であり、厳密に言えば実際に会の段階に入っても馬手がこのように頭の上に来ることはなく、ましてや会の段階で馬手側の肘が伸びることはない。 ‹›uccne

uınʃ ［普通動名詞］謝罪 ［動詞］ɥəl に謝罪する、謝罪する、謝る、あやまる、詫びる、わびる、侘びる ［法律］法律。ʃɔʃɔuınʃ からの逆成。 ［感動詞］ごめん、ごめんなさい、すいません、すみません、どうも ［レベル］1 ɟɔɲn:uınʃ。uınʃ ınʃ(ごめんなさい)。u は意味を持たない。 ［語法］ → ınʃeɔ 謝罪には denʃ 系列、uınʃ 系列、ınʃeɔ がある。 denʃ は「自分が悪いわけではないが、責任の一端がある」「自分が悪ではないが、相手が気の毒であり、また相手がそうなったことに自分が関与している」場合に使う。 ｓｏｒｒｙと異なり、自分が無関係な場合は使えず、その場合は əəɑe などを使う。 uınʃ は「自分が悪いが、責任の所在はない」という場合に使い、最も一般的に使う。「責任の所在はない」というと無責任に聞こえるかもしれないが、謙虚に謝っている。 自分に責任があって責められても仕方ないという場合は ınʃeɔ を使う。これは意味が重いので、使う場面は限定される。堅苦しい感じがする。ınʃeɔ は「私が悪うございました」というような意味。通常は denʃ と uınʃ を使い分ければよい。 denʃ より denʃınʃ のほうが意味が重い。uınʃ より uınʃınʃ のほうが意味が重い。感謝と異なり、ɒc が付く系統のものはない。

・使い分け

略式	正式	敬度
uınʃ	uınʃınʃ	標準
ınuınʃ	ınuınʃınʃ	丁寧
ɒcuınʃ	ɒcuınʃınʃ	尊敬語

略式	正式	敬度
denʃ	denʃınʃ	標準
ındenʃ	ındenʃınʃ	丁寧
ɒcdenʃ	ɒcdenʃınʃ	尊敬語

正式	敬度
ınʃeɔ	標準
ınınʃeɔ	丁寧
ɒcınʃeɔ	尊敬語

【成句】 uınʃ eʃ ʃcʃc ȷ̀ı əlɔ ウロの前では法は大人しい：無理が通れば道理が引っ込む

uınʃınʃ ［感動詞］申し訳ありませんでした ［アクセント］u†nʃınʃ ［レベル］1 ɟɔɲn:uınʃınʃ ［語法］ uınʃ

uınʃıs ［形容詞］物理的に綺麗 ［類義語］eɲceʃ ［反意語］ʃelıȷ ［アクセント］uınʃ†s ［レベル］3 ȷzl ɺɺ:ɲcɑcı ［語法］ beφɔı

uınʃıs,ȷzl ɔȷ̀l

uınʃcȷ ［政治］軍人、戦闘要員、最も広い意味での兵（元帥さえも含めて） ［反意語］ıuıȷ ［レベル］3 ɑu; ↓ 1L:uıȷ/lınʃcȷ（この lınʃcȷ は使徒ではなく人） uınʃcȷ:uınʃcȷ ［語法］ ɑɥecın は剣士で、剣を持って戦う人すべて。ɑɥecuınʃcȷ は軍隊にいる人間で、兵科が剣である軍人。 ［文化］ → ıuıȷ 戦士と魔法遣と魔法戦士の総称。戦闘要員。 現代においては総指揮官と士官と兵の総称で、軍人のこと。

uınʃcȷdcʃ ［軍事］兵科 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı

uınʃe ［言語］冠詞 ［レベル］4 ɺ1:lʃ ›‹ uıʃ ［文化］ ルティア語などに存在する。

uınʃe(ɺ) ［被服］矢絣、矢すがり、［被服］矢絣のお召 ［被服］海老茶式部、ヴァンテ ［レベル］3 ılʃ;uın/ʃe ɺ1 ［文化］ 最初は文様の名としてできた。次にその文様のお召になり、やがて袴を合わせたアルティア人の未婚の女性の代表的な外行き衣装である海老茶式部の意味になった。 今では主にこのお召と袴のセットの意味で使うことが多いので、文様が矢すがりでないものもある。 海老茶式部といっても色までは日本と同じでない。確かに海老茶もバリエーションのひとつとしては存在するものの、メインはあずき色や赤紫や紫など、多様であった。袴も灰や黒だけでなく、グラデーションを入れた青など、多様であった。 合わせてベルガンド由来の大きなリボン (φɲınɒcl) を頭につけることが多い。 カレン人などは未だに若い女性が着ていることもあり、北方でも都市部などではよく見かける。

uınʃeɒȷ ［電算］ヴァンテムス ［ユマナ］［電算］ウインドウズ、ウィンドウズ、Ｗｉｎｄｏｗｓ ［ユマナ］［電算］Ｍａｃ、マック、マッキントッシュ → ɒccȷ̀ ［レベル］3 ıl:ȷ̀ıuel ılʃeeɒȷ;uıl(ɟɔɲn)/ılʃeeɒȷ ɺɺ ［文化］ ȷ̀ıuel ıl ʃeeɒȷ, ȷınʃeɒȷ ウインドウズやマッキントッシュに相当するＯＳ。 ʔ9Δ アリシアの主導で初の汎用型ＧＵＩを備えたＯＳである uınʃeɒȷ を搭載したパーソナルコンピュータが発売される

uınȷ̀ ［植物］果物、フルーツ、漿果、液果 ［メタファー］成果 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ucnȷ̀ 【用例】 ☆ ın ȷ̀əc uınȷ̀ cȷʃ lcı. おやつに果物しか食べない：ın ȷ̀əc uınȷ̀ hɔʃ lel lcı は不可。アルカの語法では uınȷ̀ は lcı に含まれない。スナック菓子やゼリーなどといったものは含まれるが、果物はそれと同じレベルの概念なので、含まれない。同じレベルとは例えば動物に対して植物のことなど。

uınȷ̀ȷ̀ı ［名詞］果樹園 ［レベル］3 1L:ɲcɑcı:ıɲbılelʃ 【用例】 ɒccȷ̀ lı uınȷ̀ȷ̀ı. 果樹園でリンゴが実っている。

uınȷ̀ɒəe ［名詞］チャツネ 1ʕ: 制

uınȷ̀ɔdɔ ［料理］フロレンティーン ［レベル］3 1ʕ: 制 ［語法］ ナッツ、ドライフルーツ入りでチョコをまぶしたもの。

uınȷ̀eʃ ［名詞］ヴァンケット ［レベル］3 ɲɑ;uınȷ̀/ʃe「果実のような→女が食べごろな」 ɺʔ ［語法］［文化］ lcləl

uınȷıɒe ［言語］活格、動格、動作格 ［反意語］ʃcȷȷıɒe ɲɑ;/ ɺ⋔

uınɑ ［動詞］ɥəl を攻撃する、攻撃する、危害を加える、害する、いじめる、いたぶる、襲う ［普通動名詞］攻撃、襲撃、アタック ［反意語］uınɔ ［レベル］2 ɲɑ;uınɑ,lʃɑ 1ʔ: 制 : 古 :uınc（攻撃する） uınc:uınc:uınɑ 【用例】 uıın uınɑıʃ ʃə lcıl. 軍はその街を攻撃した。 ʃə eʃ ɟɔɲʃ lınel enʃɔ ʃə uınɑ ȷıʃ eɲcɒ ınʃ. 本当に寒くて心臓がやられそうだ。

uınɑucın ［名詞］攻撃力、威力 ［類義語］ucın ［レベル］3 ɲɑ;/ ɺʔ

uınɑı ［形容詞］おせっかいな、世話焼きの、大きなお世話な ［反意語］ɑıs ［感動詞］大きなお世話だ、関係ないだろ、ほっといてくれ ［レベル］3 古 :ɟɔɲn

uınɑcʃ ［形容詞］リディアの望まむような ［反意語］ɥəʃcı ［レベル］4 ɲɑ;uıl/ɑcı/ʃe「リディアに背くような」。ソーンの反意の接頭辞 uıl– の音が変化したものに、リディアの ɑcı と「ような」の ʃe がくっついたもの。 ɺ⋔ ［文化］ ɥəʃcı

uınɑcıɒ ［魔物］ヴァンディアム（暴像）：第六十七天：聖の空天 ［アクセント］u†nɑcıɒ ［レベル］5 1L:ɲcɑcı/ȷeɲen/ɒel:uıɒɥə/ɑcıɒ ［文化］ 憑族。剣士や魔導師の石像や銅像などに憑依した魔物。オブジェクトと思っ

て通り過ぎようとしたところを後ろからザックリ……という怖いモンスターである。

uinɑɔᴅ ［名詞］攻撃方法 ［レベル］4 ɺ1

uinɑɔl ［代詞］あんな ［形容詞］あのような ［類義語］ɥəı ［反意語］φııʃɔ ［レベル］1 ɺɺ;uinɑɔl,ɟzɑ.ıle˥ ɺɺ ［語法］ ɟɔı

uinɑɔl,ɟzɑ uıᴅ <>uinɑ

uinɑɔlen ［代詞］あんなところの ［レベル］1 ɺɺ

uinɑenuc ［名詞］攻撃力 ［レベル］3 ɺ0 ［語法］ enuelen

uinφıɰ ［軍事］大将、ボス、ヴァンガール ［組み数字］1 / 3 ［アクセント］uınφꝈɰ ［レベル］3 ɰɑ;uinφıɰ,ɟz˥ < uın,ɟzɑ/φıɰɑ,ɟz˥ ɺ1 ［語法］ アルバレンの階級と比較すると次のようになる。 ıɰlılʃ/lılʃcɟ = uinφıɰ hɥəlı/benɔᴅ/φılʃe = lınɟeɰ nɔce/ᴅɔɔl/oılʃ = blcz ［文化］ ıuınlcın 地球と異なりヴィードの存在するアトラスでは、戦闘能力の個人差が激しい。地球では総大将も一兵卒も同様に銃弾であっさり倒れるが、アトラスではヴィードの強い者が上に立つことが多いため、上の階級ほど倒しにくい。 そこで生まれたのが兵士を階級でなく強さで分類する方法である。総大将クラスの者を uinφıɰ といい、武将クラスを lınɟeɰ といい、それ以下の雑魚を blcz という。この分類はもちろん事実上階級の分類とほぼ同じ意味を持ち、実際当時の ɟlʃ でも階級と同じ意味で用いられた。では地球と何が違うかというと、この強さ分類によって戦法を変えるためにこれらの単語ができたという点である。 シージア人はこの分類を行い、敵の強さによって戦法を変えた。ヴィード戦は ɰɑ まで続いたため、この分類はアルバザードにも伝わって生きた。しかしアルバレンでアルバ二世が ˥ını を制定したため、より深い分類が可能になった。だが概ね敵の強さをざっくり分けられるという点でシージア式分類はその後も使われた。

uinφıɰɑ ［交通］クロスバイク、トレッキングバイク、フィットネスバイク、スピードバイク、アーバンバイク、コンフォートクロス、ヴァンガード ［類義語］ɥıᴅe ［レベル］4 ıl;ɟz˥ の「隼」から。 ɺ⅂ ［文化］ アルバザードで最も普及しているタイプの自転車。舗装道も山道も行けるというハイブリッド型で、場所を選ばず自分の力でどこまでも行けるというコンセプトが受け入れられた。 現実のリディアが最もカッコいいと思う乗り物で、現実のセレンが最も乗りこなしている乗り物でもある。セレンはこれを使って埼玉から京都まで行ったことがある。ちなみにリディアが最もカッコいいと思う乗り物は厳密に言えば飛竜艇なのだが、それは現実にはないので、現実の範囲内ならクロスバイクが一番ということになる。リディアの価値観では、車やバイクのように機械の力に頼って自分は楽して走るというのは情けなくカッコ悪いらしく、クロスバイクのように自分の力でどこまでも自由に進んでいくのは男らしくて憧れるとのこと。

uinφıɰɑ lcczel ［人名］ヴァンガード＝リーゼル ɰʃ;uinφıɰ ɺɺ ［文化］ ɰʃ の発明王。 ɺʕʔ ヴァンガード＝リーゼル、蓄音機を発明 ɺʕ9 ヴァンガード＝リーゼル、白熱電球を発明 ɺʕΔ ヴァンガード＝リーゼル、発電機を発明

uinφıɰɑc ［死神］ヴァンガルディ ［レベル］3 ɺ1:eeɟʃe ［文化］ アラティアの本名。アラティアは「ラティアの者」という役職名。 地獄を統べる者にして、契約 (ɰıuen) と鼎 (eɟʃɔ) を司る。ハインやクレーヴェルと違い、犠牲を払って望みを叶えてもらうという内容の契約を結ぶ。その契約はハインやクレーヴェルとのものより重い。 【成句】 ıl uinφıɰɑc 契約だ、代償だ、仕方ない、しかたない：多義的。例えば何かの責め苦を負っている際に、これは自分で選んだ道に対する代償だと諦観する際に使う。また、これは面倒で苦痛かもしれないが、契約に基づく行為なのでやるしかないと奮起させる際にも使う。さらに、自分は然るべき代償を支払ったので、それに見合う利得を得られるべきだと契約の執行を望む際にも使う。

uinφıɰɑcʃı˥ı ［地学］［歴史］ヴァンガルディ大陸 ［ユマナ］ローラシア大陸 ul;/。ɔɰɑcn に対して命名。 ɺʔ

uinφıɰɰecn ［組み数字］大将賞 ［レベル］5 ɺ1

uinɰen ［言語］活格言語 ɰɑ;/ ɺ⅂ ［語法］［文化］ 活格＝ uın，不活格＝ ʃcɟ とすると 太郎 –uın コップ –ʃcɟ 割った。〈他動詞〉 コップ –ʃcɟ 割れた／溶けた／温まった。〈自動詞〉 太郎 –uın 走った／働いた／学校に行った。〈自動詞〉 上記のようになるものが活格言語である。 カルディアではフレマゼル語などが代表である。ɰɑ で歌魔法とともに知られるようになった。

uinz ［動詞］ɥəl を ı に保存する、保存する ［電算］セーブする、書き込む、撮影する、セーブ、保存、撮像する、 ［動詞］ɥəl を保管する、保管する、取っておく ［普通動名詞］保存、保管、取置き、取り置き、撮影、撮像 ［反意語］ɑıleʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lı˥ʃı:ucn 【用例】 uinz ʃel ı hɔɟc ファイルにデータを保存する

uinzʃeeʃ ［魔法］保存性 ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

uins ［料理］ジャム、プリザーブ、甘いスプレッド ［レベル］2 1ʔ: 制 :uın˥sıφ（果物でできた粘性の強いもの） ［文化］ アルバザード人は男性でも作ることができるということになっている。

uinı ［形容詞］［ポジティブ］自信のある、強気な、勝気な ［名詞］自信 ［経済］ブル ［反意語］ıluını ［類音］uıını（意味が逆っぽいが、人名なので混同は大丈夫だろう） ［レベル］3 ɟɔɰn:「強硬な姿勢で論議に臨む」【成句】 leɟ ʃcl le l'eᴅ ᴅcɥə ıılıl eᴅ ɟen uını. 変わらないでいることは自信に繋がる。

uinı,ılʃ ʃc˥n

uinı˥eᴅc,ılʃ ［名詞］弓月 ［京極］弓 / 月

uinıl ［名詞］自信 ［レベル］3 ɺ0

uinılɔɔ ［軍事］火竜槍、火竜鎗、マドファ ɟᴅ;ılʃ「竜筒」。竜が火を吹くかのように見えたことから。 ɺ⅂ ［文化］ φel

uinc,ɑ uinɑ

uincı,ɑu lcıl uinɔ/ncı,ɑu

uinɔ ［動詞］ɥəl を c{ʃel} から守る、守る、護る、保護する ［普通動名詞］防衛、守備、自衛、守護、保護 ［反意語］uinɑ ［レベル］2 ɑ;uı は戦う 赤 uinɔ:uinɔ:ᴅelɔɰ:˥ıᴅələ,ılʃ 【用例】 uinɔ ucen 堅い守り

uinɔʃı˥ı ［経済］保護貿易 ［レベル］6 1L

uinɔɟ ［動詞］ɥəl にユノを全放射する ［普通動名詞］ユノ全開放射 ［レベル］4 古 :uinɔ は守るように或いは囲むように全放射するユノ。ɟ は ɟɔ から。 ［語法］ 消費量は多いが、雑魚敵を一掃できる。

uinɔɟeɰen ［アイテム］守護剣ヴァノセレン、ヴァノセレン ［レベル］4 ɰcɑcı: 古 :uinɔɟeɰen は「セレンを守る」の意味。 ［文化］ 最強のヴァストリア。ラルドゥラのもつ守護剣。霊界で最も強い力を秘めた剣。その力を解放するとアルデのみならずテームスさえも破壊してしまいかねないため、テームスが強力な封印をかけて暴走を食い止めた。だがその後その剣は行方をくらませてしまう。以降はずっと歴史上から消え去っていたものだが、ɰɑ でアンテの手に渡った。アンテは一度だけその剣を抜いてテームスを切りつけたところ、途端にテームスは大打撃を受けた。あまりの威力に恐れたアンテはすぐさま剣を鞘に収めたが、それでも剣は暴走してしまう。剣が鞘を離れていた時間はたった１秒にも満たなかったが、その剣の暴走で周辺の空間にあったものを全て破壊してしまった。アンテはその剣を恐れ、２度と抜かないと決めた。悪魔キルセレスでさえその剣には近づこうとしなかった。アンテはやがて息子のラルドゥラに剣を託すと、ラルドゥラは剣にヴァノセレンと名付けた。

uinɔn ［名詞］ヴァノン、ヴァノン特殊部隊、シオン親衛隊、シオンの幹部 ［組み数字］6 ［レベル］4 古 :uinɔn ← uinɔlcɔn ［文化］ アルティス教の始祖、とりわけアルシオン派の始祖であるシオンの親衛隊。それぞれアルシオン派を構成する上で重要な役割を持っていた。人数は男女３人ずつで、全員本名は別。ʃoıɰ は女で財政を担当した。ıɰhın は男で外交を担当した。nıɰʃe は男でアルティス教の戒律を担当した。lıɰʃ は女で事務を担当した。ləɟɔn は女で派の決定内容の実行担当者。そして ᴅcɰɔl は男でアルテとの交信を担当した。

uinɔnᴅeᴅ ［組み数字］ヴァノンサークル、六芒星、六歌仙 ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ ɰıdıll

uinɔnɑeɟdel ［名詞］ヴァノン結界。６個の結晶を使う。 1Δ

uinɔᴅɟ ［悪魔］ヴァノムス ［レベル］4 ᴅelʃcı 0:ıɾᴅı;uinɔ/ʃeeᴅɟ 古 :uinɔᴅɟ ← uinɔʃeeᴅɟ から。「テームスを守る」。 ［語法］［文化］ アルマにヴォテムを加えた五匹の悪魔の総称。

uinɔᴅcuı ［魔法］ヴァノミヴァ（ウォール） ［レベル］6 ɺ0: 娘を守る ［文化］ ɰɑ でアノが娘のクミールを守るために開発した個人魔法。分類上は魔法陣。あらゆる攻撃に対するバリアを張る。術者の能力に応じて強さが決まる。効果としてはエスバルトと同じ。クミールの家を常に纏っているため、ここはたとえ爆弾を落としても壊れない。

uinɔᴅcɰɔ˥ ［宗教］守護神 ɰɑ;/ ɺ⅂

uinɔᴅccɰ ［アイテム］ヴァノミール ［レベル］4 ɰcɑcı: 古 :uinɔ˥ᴅccɰ「クミールを守る」 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ラヴァもつ大鎌。

uinɔɑcı ［アイテム］守護剣ヴァノディア、ヴァノディア ［レベル］4 ɰcɑcı: 古 :uinɔ は守るで、ɑcı は「夢」の意味。ɑcı は『幻想話集アティーリ』が昔「リディアの話」と呼ばれていたことからとったもので、ɰcɑcı から ɰc をとったもの。そして ɑcı は古で「夢」なので「夢を守る」という意味。ここの夢は『幻想話集アティーリ』の世界を指すから、uinɔɑcı はテームスから守るという意味。だが、これには裏の意味がある。ɑcı は掛詞としてリディア本人をも指す。従ってこの剣は「リディアを守る剣」という意味にも取れる。そして実はその裏の意味を読み取らねばなぜリディアがこの剣をセレンの剣にしたのかが分からなくなる。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。セレンのもつ守護剣。『幻想話集アティーリ』でセレンがヴァルファントと一騎打ちをして勝利した際に褒美として貰った剣が元。セレンはその剣でデームス最強の剣士キルセレスと戦い、打ち破る。キルセレスが滅んだとき、セレンの剣にキルセレスの力が流れ込んできた。そうしてキルセレスの力を得たその剣は紛れもなく最強の剣となった。セレンは剣に「大召喚士リディアを守る」ということと「霊界を守る」ということを掛けて uinɔɑcı と名付けた。

uinɔbıl ［名詞］バリア、バリケード ［レベル］3 1L:lecn 【用例】 lə uc˥ ueɟ ʃcɟʃc˥ ɰecıl ˥ɔnʃ lıc elen le lʃıᴅeɟ ɥə ı lıʃ e lclcl lel uinɔbıl. 残った男は一人、小屋の入り口に立てかけたバリケード代わりのテーブルを見やると、寂しそうに呟いた。

uinɔbılın ［名詞］バリアを張る者 ［レベル］3 1L:clᴅəɟ:ɰcɑcı

uinɔɰʃ ［政治］摂政、ヴァノールト ［レベル］4 ɺ0:uinɔ/ 古 hıɰʃ（陛下をお守りする） ［文化］ ɥəəᴅı Ꝉ⅂L1 ミハリルが崩御。１０歳のペティが即位する。アトラス史上ありえないことで、物議をかもすこととなった。結果、ユキナが政治を見る摂政という地位についた

uinɔlınφ ［政治］［軍事］自衛権 ［レベル］4 1L

uinɔlcznɔ ［政治］保護庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 軍務省下。救急車はこの管轄。また、遭難者をヘリなどで救うのもこの管轄。

uinɔın ［名詞］保護者、守護者 ［野球］野手、フィルダー ［レベル］3 ɑ;/ | ul 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

uinɔıɰbı ［軍事］ヴァノアルバ、国家特殊防衛部隊ヴァノアルバ ［レベル］4 古？ ［文化］ アルバ３世が集めた私兵団。ɰɑ の時代が全盛で、その強さは国軍をも凌いだ。ɰɑ ではテームスの封印を強めに出向いており、国内にほとんどいる機会がない。

uinɔenuc ［名詞］防御力 ［レベル］3 ɺ0 ［語法］ enuelen

uinɔeɰcuɔln ［生物］白血球 ［レベル］4 1L: 体を感染から守る

uiu ［運動］スポーツ、運動、競技、体育 ［名詞］体育。教科名→ ɑeldınʃ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ucucᴅıcn（運動、強い体） ˥əə:˥əə ［文化］ 健

康を保つための運動は強く推奨される。筋トレや軽い運動、ランニングやウォーキングが推奨される。　アルバザードでは球技の人気があまりなく、サッカーや野球をやる人は少ない。　個人競技のほうが人気があり、次に二人でできるものが人気。団体競技はそれほど多くない。最も人気のある団体競技はサバイバルゲーム。　【用例】 ın lcμ uıu. 運動不足だ。

uıuʃıj ［運動］スポーツテスト ［レベル］3　ul;/　JՊ 【用例】 ıd ʅclj, αcll eα ʃın eʃ ʅɔ ᴅec e uıuʃıj. あと、細かく言えば持久走もスポーツテストのひとつだ。

uıuʃell ［名詞］体育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。 ［レベル］3　μΩ;/　JՊ ［文化］ ʃell

uıuʅı ［運動］運動場、トラック ［レベル］3　J0

uıujıb ［被服］体操着、体操服、体育着、運動着、ジャージ（学校によっては）［レベル］3　J0:lcɔn

uıujeᴅɹ ［運動］運動部 ［レベル］3　1L:ᴅelcαcı ılʃe

uıujel ［歳時記］体育の日 ［レベル］3　J0 ［文化］ ミロク革命で制定された。気候が暑くもなく寒くもないファーヴァの月の最初で、運動には最適とされる。この日は運動が推奨され、運動会も多く開かれる。

uıuıʃe ［運動］ジム、スポーツジム、フィットネス ［レベル］4　1L:μcαcı:ıμbılelʃ

uıucʃı ［運動］運動会、体育祭 ［レベル］2　1L:μcαcı:ıμbılelʃ ［文化］ jıᴅını まで毎年一回、リュウの月第一週の好天に行われる。lcᴅını ではサークルごとの試合になるため、学校規模では行わない。

uıucʅl ［運動］体育館 ［レベル］2　1L:μcαcı:ıμbılelʃ ［文化］ 体育の授業などのために、広いものが用意されている。

uıuenuc ［運動］運動神経 ［レベル］2　1Δ:jeμen:ᴅelcαcı ［語法］ 一般に言われるいわゆるスポーツの得意不得意を指す能力の意味。

uıα ［動詞］yəl を c から搾取する、搾取する ［普通動名詞］搾取 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ucαəʃɔ 【成句】 el uıα ıl c ʅəz jceʃ jeʃ ləəj. 馬鹿は殺さず絞るべし (lcczı ləʃcı)

uıᴅ ［形容詞］暴れた、乱暴な、獰猛な、凶暴な、暴力的な、野蛮な ［名詞］暴力、暴発、乱暴、狼藉 ［名詞］暴漢 ［動詞］yəl を暴れさせる、暴れさせる、暴徒と化させる、乱暴な状態にする ［反意語］ıluıᴅ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :uıᴅyə　uıᴅyə:uıᴅyə:uınαɔl ［語法］ ıluıᴅ, ləəd, ʃɔen 【成句】 uıᴅ yən beezel 破竹の勢い。軍隊と企業以外にはネガティブな意味。ul 以降はポジティブ。 【用例】 ［メタファー］uıᴅ yən uıcʅj 山猫のように獰猛な：残忍なニュアンス

uıᴅjɔɔl ［名詞］蛮行、暴行、乱暴 ［レベル］4　1L:clᴅəj:μcαcı

uıᴅd ［名詞］統計 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :uəəᴅı（統計） uəəᴅı:uəəᴅı

uıᴅdeʃ ［動物］ハヤブサ、隼、ファルコン、はやぶさ ［レベル］4　J0:lıʅʃı:uıᴅd。以前は uıᴅʃ で、ueᴅʃ と似すぎたため。　uıᴅd:uıᴅdeʃ:lı uınφıμα 【成句】 ʅnıʅ yən uıᴅdeʃ ハヤブサのようにまっすぐな：猪突猛進

uıᴅyə ［名詞］暴徒 ［名詞］大がかりなストライキ、大々的なデモ ［レベル］4　α;uı は uc で力。　赤 : 暴れた

uıᴅɔμʃ ［医療］月経前症候群 ［レベル］5　1L: 生理前に（一部の）女がイライラしたり凶暴になることから

uıΩ ［形容詞］早い、すぐの。動作そのものの所要時間が短い。 ［副詞］すぐに、すぐ ［類義語］αɔcl、ᴅıd ［反意語］nɔu ［レベル］1　1ʔ: 制 : 古 :uccΩ（遅い） :::ʃɔʃɔlə,ılʃ 【用例】 uıΩel enz できるだけ早く、ＡＳＡＰ、一日も早く

uıΩʅlel ［ユマナ］ウィキペディア、ウィキ、ｗｉｋｉｐｅｄｉａ ［レベル］4　J0: 語源が「早い事典」であることから

uıΩn ［料理］ファーストフード ［レベル］3　1ʔ: 制 :uıΩlən（早い食事） ［文化］ 一部のものは健康に悪いとして革命で廃止。サンドイッチのような軽いものが現在には残っている。

uıΩncdl ［植物］インゲン、インゲン豆 ［レベル］4　1ʕ: 制 ［文化］ 単体で食べられることはないが、煮物など、料理に入れられる。

uıΩαıcj ［化学］爆轟　μΩ;/　JՊ ［文化］ φel

uıΩφeμ ［植物］二十日大根、ハツカダイコン、はつかだいこん、ラディッシュ ［レベル］4　1ʕ: 制

uıΩφel ［軍事］マシンガン、機関銃、機銃 ［レベル］4　μʃ;/「早撃ち銃」　1ʕ: 制 ［文化］ μΩ から魔法式の機関銃ができ、nΩ 以降もそれに似せたものを作ろうと試作が練られ続け、やがて μʃ で空気圧機関銃が開発されたのが始まり。

uıΩφelejʅ ［軍事］機銃掃射 ［レベル］5　μʃ;/「機関銃の雨」 Jʔ

uıΩμenj ［言語］早口言葉 ［レベル］3　1L

uıΩl ［動詞］yəl（敵国）を殖民する ［普通動名詞］植民 ［レベル］4　1ʔ: 制 :jıΩ:uıΩɔʅıl「勝利の土地」が原義。

uıΩɔμ,jzΩ　ʅıΩ　uıΩe（負ける）か uınɔ（守る）が関与しているはず。

uıΩe ［動詞］yəl に負ける、負ける、落ちる、落選する、倒れる、やられる、落第する、不合格になる、ハズレくじを引く、はずれる ［動詞］yəl（生活必需品以外のもの）を買う、買う。節約家が主に使う用法で、全員がこの用法を使うわけではない。 ［普通動名詞］負け、敗北、敗戦、落選、不合格、落第 ［反意語］uıjʃ ［レベル］2　α:uı は戦う　古　uıΩe:uıΩe:uıΩe 【成句】 ［娯楽］ʃc uıΩeʅ ゲームオーバー　uıΩe αlen μıj ʃɔʃıl, ɔl ʃc ucnı elα 何度でも負けていい、ただ諦めなければ：七転び八起き 【用例】 cᴅ uıjʃe, ΩeeᴅuıΩeʃ ıμᴅcuı. ヴァステ戦争で悪魔はアルミヴァに敗れた。　ʃe uıΩe dcle ʅı ılea. ʃə eʃ bebel e. 喫茶店でコーヒーなんてもったいないわよ。

uıΩejʃıμʅ ［軍事］サブマシンガン、短機関銃、機関短銃、機関拳銃、マシンピストル ［レベル］5　ul;/　JՊ ［文化］ φel

uıΩen ［遊離副詞］［形容詞］まずない、まさか ［レベル］1　J0:uıcʅ/ıΩeᴅ（部分 / 欠片）→ uıΩeᴅ。「確率が欠片ほどしかない」 ［語法］ ıləəʃ

uıΩezcᴅ ［政治］死票 ［レベル］4　1L: 敗者に投じた票

uıΩeın ［名詞］敗者、敗北者 ［レベル］2　JJ

uıφ ［形容詞］野生の、動物が飼いならされていないさま、自然に人間の手が入ってないさま、のら、ノラ、野良、自然 ［形容詞］性格が野性的な、ワイルドな ［言語］ネイティブ、ネイティブスピーカー ［レベル］3　1ʔ: 制 :ᴅclα: 古 uıφı。造語年ʕごろ。語源忘却。 【用例】 uıφ hɔʃ jeμ ʃə μelcμ. この答えはネイティブのみぞ知る。

uıφʅeʃ ［動物］野良猫、のら猫、のらネコ、ノラ猫、ノラネコ、のらねこ、ノラねこ ［レベル］3　μΩ;/　Jʔ 【成句】 lcıl ʅı le uıφʅeʃ ʃclᴅe ᴅɔncı eʃ μıʃ. 野良猫が見知らぬ人に懐く街は良い街。野良猫に土地の人が優しくしていれば猫は人を恐れなくなるため、来訪者を見ても逃げなくなる。野良猫が人に懐く街は人が優しい、野良猫を見ればその街の人々の民度が分かるという意味の諺。

uıφɔᴅı ［動物］野良犬、のら犬、のらイヌ、ノラ犬、ノライヌ、のらいぬ、ノラいぬ ［レベル］3　μΩ;/　Jʔ

uıd ［動詞］yəl を沸騰させる、沸騰する、沸く、わく、わかす、沸かす、わかせる、沸かせる ［動詞］yəl をかっとさせる、カッとする、かっとする ［普通動名詞］沸騰 ［レベル］3　1ʔ: 制 :uıjıd（甚大な蒸発）。蒸発が液体内部からも起こること。 【用例】 lı uıdıʃ ın. あいつのせいでかっとした。

uıdμ ［名詞］やかん、薬缶、薬罐、ケットル ［レベル］2　1ʔ: 制 : 湯沸かし器

uıh ［動物］サバ、鯖、さば ［レベル］3　1Ω: 制 : 古 :ueᴅılhɔɔμı「黒青」 ［文化］ 食用される。脂が多く、たまにじんましんを起こす魚として知られる。

uıyə ［名詞］訳有ボス ［レベル］3　J0:uıını/yəəı ［文化］ 訳あって敵になっているキャラクター。μΩ のヴァーナ、ファイヤーエンブレムのエルトシャン、ＦＦ４の操られたカインなど。

uıμ ［格詞］（経路格）～を通って、～通って ［格詞］（時間とともに）～の間中、間じゅう、あいだじゅう ［格詞］（中継）～を介して、～を仲介として、～を通して ［格詞］（介在）～を伴って、～を通して ［格詞］（ᴅın と ʅɔnʃ を合わせたもの）～することを通じて ［動詞］yəl を通る、通る、経由する、通す、通過する ［レベル］2　α;e　古 ［語法］ μıʅ 【用例】 ın ʃclıʃ lıb uıμ jel. 一日中仕事があった。　ın jɔljıʃ ᴅelc uıμ ᴅıl e dcnΩ. 私は針の穴に糸を通した（糸を渡した）。

uıμʃ ［副詞］［形容詞］とてつもなく、恐ろしく、ずば抜けた、ズバ抜けた、ずばぬけた ［レベル］1　制 :ɔuc: 新生で ʃcnʅı が ʃcn の上になったが、違和感があるとしてオヴィが ʃcnʅı を ʃcn の強調形に抑えた。その代わり、ʃcnʅı のあった位置に uıμʃ（制での意味は「生まれる」）をあてがった。「死ぬ」を強調にあてがうのは自然言語によくあることで、日本語でも「死ぬほど」などという。ただ、「生まれる」を強調に使うのは独特のセンス。1L 年まで程度は４段階だったが、大雑把すぎるので、確率と頻度に平行して８段階にした。 ［語法］ 程度は９段階に分かれる。Jʔ 年までは中央の jelʃe がなかったが、紫亞によって追加された。　程度の表現には強調度がある。ʃıμ と yəe が最も強調度が弱い。端に行くほど強調度が高い。程度は左が高く右が低いが、強調度は端のほうが高い。「とてつもなく」と「ほんの少し」は程度の高さや低さを強調している。「とても」と「かなり」はプラスにもマイナスにも大した強調ができていないため、強調度が低い。これがどう活きているかというと、ʃcn と ʃcnʅı、ʅıl と ʅılcj の間で、強調度の高いほうが語形が長いという特徴が見える。　とてつもなく、ものすごく、とても、かなり、中くらいの、やや、ちょっと、わずかに、ほんの　uıμʃ, ʃcnʅı, ʃcn, ʃıμ, jelʃe, yəe, ʅıl, ʅılcj, lecz　このうち μenʃe は ʃcnʅı を ʃccnı という。マユは両方使う。ミリアと幼児は ʃcn を ʃcnʃcn と強調し、ʃcnʅı の代わりとすることもある。

uıμʃucen ［音楽］フォルティッシシモ　1L

uıμʃᴅıᴅ ［生物］爆乳 ［レベル］4　μΩ;/　JՊ

uıμʃcnı ［アイテム］ヴァルティナ ［レベル］4　μcαcı: 古 :「強いあなたの心」の意味だそうだ。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。リュウのもつ神槍。

uıμʃcun ［音楽］ピアニッシシモ　1L

uıμʃe ［悪魔］ヴァルテ ［レベル］3　ᴅelʃcı 0:uıμʃe;e　古 :ıμʃ は魔法。リディアとクミールの共同創作キャラクター。 ［文化］ ヴィルを司る。黒い法衣を着た銀髪の美青年。自信家で陶酔的。デームス最強の魔導師。魔法関連のデームスを統べる者であり、下位に悪魔ミダン（聖）、悪魔ヴェンシート（邪）、ソーム（七曜の悪魔）を置く。ヴァルテは創世記に猛威を奮ったが、竜王ティクノによって封印された。ヴァルテに致命傷を負わせたのはティクノが投げつけた杖であり、その杖はヴァルテの魔力を吸ってこれ以上にない程の魔力を秘めた杖となった。余りの威力を恐れたティクノは杖を回収すると、自分の屋敷に保管して家宝とした。後にアルデスはティクノからそれを賜ったが、更にその杖は大召喚士リディアの手に渡ることとなった。リディアは魔杖ヴァルデを手に、復活したヴァルテを再度封印する。　冥王星を司る。

uıμʃeɹ ［宗教］ヴァルテス派 ［レベル］3　古 : 古 :uıμʃeɹ ← uıμʃeeᴅɹ「強大なるテームス」 ［文化］ アルティス教の一派。アルテよりテームスを中心に崇拝する混合派とテームスのみを崇拝する原理派に更に分かれる。テームスの復活を祈って霊界の崩壊を願う末法思想で、その性格から悪魔崇拝とされている。ヴァルテスによると、霊界は救えぬほど汚れてしまったので一度破壊しつくして全て元のアルテの形に戻してから再生すべきだと考えられている。彼らがテームスを崇拝するのは霊界を０に戻す力を持っているのはテームスだけだからであり、徒に霊界の破壊を願うのではないということになっている。

uıµ̀l ［地名］ヴァルク、ヴァルク海 ［レベル］３ 古 :µcɑcı ［文化］ セレート島以東、サヴィア以西の海。世界最大。地球では太平洋に当たる。

uıµ̀lȷczı ［地学］ヴァルクプレート ʝʔ

uıµ̀lın ［化学］クオーク、クォーク、基本粒子 ［レベル］５ 古 :u/ıµ̀lınȷ。三つ巴であることから。

uıµȷ ［動詞］ɥəl を ı に強いる、強いる。使役動詞。 ［普通動名詞］強制、強要 ［レベル］２ 1ʍ: 制 : 不明 ［語法］ → ȷɔlȷ

uıµɑınʃ ［エルト］ヴァルファント ［名詞］７時 ［名詞］南南西 ［交通］ヴァルファント通り ［音楽］ファ＃ ［組み数字］７／１２ ［類義語］ɑın ［アクセント］uṫµɑınʃ ［レベル］２ ᴅelʃcı ʍ:uıµɑınʃ;e 古 ［文化］ → ɑınueµınʃ アルミヴァの７番目。エルトの頭から生まれた。セイネルスを剣とするエルト最強の剣士。デームス最強の剣士であるキルセレスとも張り合うが、負けてしまう。µɑ ではセレンと一騎打ちをし、これも敗れる。エルトの王になる素質があったが、カルザスに負けて従うようになった。真面目で人情家。

uıµɑɔnʃ ［名詞］経路 ［レベル］４ µɑ;/ ʝʔ

uıµᴅı ［名詞］かっこいい、イケメン ［類義語］eµɑe、ɑıµᴅ ［レベル］２ 古 :uıµᴅıcn「通り抜ける体」。元は lɔuıµᴅıcn「感動で頭を貫くような体」の意味で、相手の容姿を称えた言葉。 ［語法］ カレシ候補や男として見ている相手に使う。勘違いされたくないときには ɑıµᴅ を使う。

uıµᴅcl ［色］橙、オレンジ ［レベル］２ 古 ȷɔµn:dıdıləµı から来ている。

uıµᴅclcı ［人名］ヴァーミリア ʝ0 ［文化］ cᴅəl 1ʍ ユリア、息子の uıµᴅclcı を授かる

uıµᴅel ［名詞］［形容詞］通時的な、時系列の ［反意語］leʅᴅel ［レベル］５ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

uıµɑɔdᴅ ［名詞］通行証 ［レベル］４ µɑ;/ ʝʍ

uıµɑe ［アイテム］ヴァルデ、魔杖ヴァルデ、魔杖（まじょう）ヴァルデ ［レベル］4 1ᑫ: 制 : 古 ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアのもつ魔杖。ティクノが悪魔ヴァルテに投げて致命傷を負わせた杖。最強の魔力を秘めている。ティクノからアルデスへ渡り、アルデスからリディアに渡った。リディアはこれを使って復活した悪魔ヴァルテを倒した。 【成句】 uıµɑe cl ȷɔµɑ. ヴァルデは掲げられた：賽は投げられた。リディアが µɑ でテームスを殲滅すると宣言した際、セレンに介助されつつヴァルデを高らかに民衆の前で掲げたことから。

uıµzɔl ［動物］コンドル ［レベル］５ 1ʍ: 制 :uıµzɔn

uıµzɔllıɑ ［地球の国名］コロンビア ［レベル］６ 1L: 国章にコンドル

uıµzɔn ［サール］ヴァルゾン ［名詞］８時 ［名詞］西南西 ［交通］ヴァルゾン通り ［音楽］ソ ［組み数字］８／１２ ［類義語］uız ［レベル］２ ᴅelʃcı ʍ:uıµzɔn;e 古 ［文化］ アルミヴァの８番目。サールの右腕から生まれた。ポエンの兄。ライオン・鷹・大蛇・一角山羊のキメラ。サールの破片から生まれた。エルトの死体を噛み千切ってエルトの一族を生んでしまう。テームスが生まれるとティクノらと協力して戦った。テームスを封印した後にユーマに恋をし、承諾を得て結婚するが、初夜にユーマが嫌がって逃げてしまう。男女の関係も知らない子供を手篭めに掛けたことを恥じたヴァルゾンはこのことを内密にした。尚、そのときユーマの体内に放った精子はサールのオルトになった。

uıµzɔnıdı ［ユマナ］［音楽］ト音記号 ［レベル］４ 1L

uıµzɔn ılȷıl ［人名］ヴァルゾン＝アルサール ［レベル］６ 1L:clᴅəȷ:µcɑcı ［文化］ アルティル期の政治家。アルタレスになったが、アルティス教の隆盛を見て、自分は降ろされるのではないかと焦り、シオン＝アマンゼを暗殺しようとした。暗殺はしくじり、シオンから報復に会い、死亡。このときアルタレスがいなくなったことで空きポストができ、２３０年の選挙開始と併せ、皮肉にもシオンの立候補するところとなった。なお、悪徳高官フェンゼル＝アルサールの先祖でもある。

uıµzɔneʃ ［色］緑がかった青 ［レベル］３ ʝʝ:uıµzɔn/ʃe

uıµıe ［動詞］ɥəl を憎む、憎む、嫌う、厭う、大嫌いだ、忌む、忌み嫌う、憎悪する、嫌悪する ［普通動名詞］憎悪、嫌悪 ［反意語］ʃccı ［アクセント］uıµıE ［レベル］２ ɑ;e 古 : 嫌う uıµıe:uıµıe:uıµıe 【用例】 ın uıµıe lı. あいつが大嫌いだ。

uıµc ［動詞］ɥəl を透かす、透かす、すかす、すける、透ける、シースルーにする、透けさせる、透けて見えるようにする ［形容詞］シースルーな、すけすけな、透き通った ［レベル］３ 1ʕ: 制 :uıµ/cn（透して見る）

uıµcn ［動詞］ɥəl を見通す、見通す、見透かす、見すかす、見とおす ［普通動名詞］見通し、お見通し、おみとおし ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ 【用例】 ʃıl lcczı clncl ɥən uıµcneȷ µəlnı ʃ'ıuelınʃ. しかしリーザは見透かしたかのように答える。

uıµeʃ ［名詞］忌むべきもの ［形容詞］忌々しい、いまいましい、憎々しい、憎ましい ［レベル］４ µɑ;uıµıe/eʃ「憎むような」 ʝʍ 【用例】 nı uıµeʃ 忌々しく思う、忌々しげに ☒ ɔl eleʃ uıµeʃ 忌々しく。これだと本人の表情が他人から見て忌々しいの意味になる。本人が変な顔をしているという意味になるのでアウト。ɔl eleʃ uıµeʃın でも他人を忌々しくさせるようなイラつく顔という意味なのでダメ。忌々しげに思っているなら nı uıµeʃ 一択。 ᴅıl uıµeʃ 忌々しい記憶 ın nı uıµeʃ ɔn lınʃe e ɑcȷ ɥən ılɑıl. 満月が日食のように忌々しい。

uıµen ［接続詞］uıµ ［レベル］３ ʝ1

uız ［サール］uıµzɔn の略称 ［組み数字］８／１２ ［レベル］１ ʝʝ

uıs ［動詞］ɥəl を予定より早くする、遅刻の反対、ɥəl に先に来てしまう ［反意語］ucz ［レベル］３ @ 1L

uıl ［単位］４ ［レベル］１ 1L: 制 :uı lccs:uɔn:ɥɔᴅc,ılʃ

uılʃ ［軍事］砦 ［電算］汎用大型コンピュータ、メインフレーム ［経済］ペイオフ。最後に残る砦と比喩されたことから。 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :uıȷlılnıləʃı（戦場の城）

uılʃlıɑ ［地球の国名］モルドバ 1L: 国名が「多い砦」

uılʃc ［動詞］ɥəl にしがみつく、しがみつく。ɑıl ［レベル］２ ʝ1: 古 uılʃl cl。uıl は強意。【成句】 uılʃc zıᴅ e nene ～の脚にしがみつく：足を引っ張る

uılʃcı ［アトラスの国家］ヴァルティア ［レベル］５ ʝʔ:µcɑcı

uılʃe ［宗教］ヴァルテス、ヴァルテス派信者 ［レベル］３ ȷɔµn:uılʃe（アルティス教徒）。アルシェは使わなかった。語源不詳。ʝ0 年に uıµʃe と似るため、ヴェルテス派信者とした。

uılʃeᴅȷ ［芸術］［娯楽］４コマ漫画 ［レベル］３ 1L

uılʃl ［医療］手術 ［動詞］ɥəl（病気や病人）を手術する、手術する、オペする ［レベル］３ 1ʍ: 制 : 医者が切ること

uılʃllıd ［医療］鉗子、かんし ［レベル］６ 1ʕ: 制 : 手術に使うはさみ

uılʃlcl ［アトラスの国家］ヴァルキル ［レベル］５ 1L:µcɑcı:「分けられた」

uılʃlɔʃın ［農耕］四回転式、ノーフォーク、ノーフォーク農法、輪栽式農業 ［レベル］６ µʃ ʝʝ ［文化］ → uclɔʃın, ʃılɔʃın µʃ の cneıılɔ で編み出された農法。やがてケートイアまで南下して広まっていく。アルバザードでは北に行くほど採用されていた。 圃場を一つにして、小麦などの「冬穀」→カブ・てんさいなどの「根葉類」→大麦・ライ麦などの「夏穀」→クローバーなどの地力を回復する性質を持つ牧草と、ローテーションを組んで耕作するのが特徴。それ以前の三圃式農業 (uclɔʃın) に比べ穀類の作付は減少するが、根葉類やマメ科植物の作付が増加する。 特にカブなどの栽培を導入したことにより飼料不足が解決され、冬季の家畜飼育が可能となった。その結果、家畜の堆肥と牧草による地力回復により、休耕地を廃することが可能となった。輪栽式農業導入により食料生産が増加し、人口の増加が始まった。

uılȷ ［医療］医者、医師、ドクター ［レベル］２ 1ʍ: 制 :uıl zelə:zelə ［文化］ ・医師の範囲 アルバザードでは外科や内科などのドクター（医師）、歯科医、獣医、鍼灸医までが医者に含まれる。あん摩マッサージ指圧師やリフレクソロジーやカイロプラクティックや整体や薬剤師や看護師は含まない。また、柔道整復師というのはアルバザードには存在せず、柔整はドクターの中の整形外科が担当している。 ・医師のヒエラルキー アルバザードでは職人が高く評価されるため、技術力のある人間が高い地位に行く。日本と異なるのは内科や精神科の扱いが低いことである。 内科は血液やＣＴやエコーなど機械を使い数値や映像を見て診断するだけで、機械に頼る割合が大きい。また自分で治すわけでなく薬を投与するだけである。薬の飲み合わせですら辞典を使って調べる医者がいる。このため知識のある素人や機械でも代用が効くと考えられ、地位は日本に比べて圧倒的に低い。さらに精神科医はきちんとした科学的なデータや数値をもとに診断しているわけでもなく診察から処方をしているため、さらに信憑性が弱く、医師としての扱いも低い。ただしＭＲにとっては薬をバンバン捌いてくれる上客なので接待は篤い。 アルバザードにおける医師のヒエラルキーでは、まず外科が一番上で、次に歯科や産婦人科や鍼灸師や整形外科などが来て、次に内科や皮膚科や眼科や耳鼻科などが来て、最後に精神科が来る。要するに自分の腕と技術でなんとかする医者のほうが機械で代替できない割合が高いため、評価され、上に来るのである。機械や薬などに頼るほどヒエラルキーは下になる。日本と違って整形外科や歯科や鍼灸医が高位に来る点が特徴的である。 なおこのヒエラルキーは現実には「自分の力で生き抜く男」を高く評価するリディアの価値観から生まれたものである。この考えは広範に及び、例えば乗り物でも「機械に頼る車やバイクより、自分の力で乗り越える自転車のほうが男らしい」と評価されている。 【用例】 → uılı uılȷ hıl 優れた医者

uılȷʃɔnl ［政治］医者 ［レベル］３ 1L ［文化］ 身分の１つ。

uılȷφıµʃ ［医療］医者代、医療費 ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ［語法］ 入院代は uılıφıµʃ。

uılȷılɔ ［娯楽］お医者さんごっこ ［レベル］２ ʝʔ ［文化］ ᴅeles

uıln ［形容詞］健康な、ヘルシーな、病気のない ［名詞］健康 ［類義語］ucucın ［反意語］leun ［レベル］２ 1L: 制 :uıl（健康） ［語法］ 健康は５段階に分類される。 ucucın: 痛みも苦しみもない完全に健康な状態。 uıln: 健康な状態。少し胃がもたれるとか、少し肩がこるとか、生理で気が散るといった程度だとここに分類される。 ınueµʃ: 不定愁訴を抱えている未病の状態だが、我慢すれば医者や薬には頼らない状態。 leun: 病気の状態。かぜのような軽いものから、癌のような重いものまで幅広く含む。 ıllɑcȷ: 植物状態。この次は死 (uɔµʃ)。ucucın ～ uıln でいられる長さのことを lculeȷ といい、アルバザード人の生活習慣に大きく関与している。→ lculeȷ ［文化］ アルバザード人は健康第一の人種で、食生活や生活リズムや運動に気を配る。医食同源が一般化しており、料理に気を使う。食事と同じくらい重要なのが生活リズムで、一定の生活リズムで暮らすことにこだわる。遊びや労働よりリズムを優先する。 【用例】 ʃə eʃ uɔll ılʃıl lılʃ ın lel el lıl uıln. 健康が一番大切だと思っている。

uılnʃıb ［医療］健康診断 ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ［文化］ 年に一回は健康診断に行く。病気を初期発見することが重要だからである。ある月のある日にどっと健康診断を受けに来ると病院がパンクしてしまうので、健康診断の推奨される日というのはない。ではどうやってパンクを防ぐような来院を実現させているのだろうか。放っておけば国民は長期休暇や年始や年末に集まるだろう。実は答えは単純で、自分の誕生月に来院させるというのが答えである。自分の誕生月に受ければ税金から無料で受けられる。だからみんな自分の誕生月に受け、パンクはしない。厳密にいえば全ての月が同じ比率ではない。人が多く生まれる月もそうでない月もある。だが、その差は微々たるものなので問題ない。

uılnȷel ［歳時記］健康の日 ［レベル］３ ʝ1 ［文化］ ɑıu ȷeµ の日。健康を

祝賀する日。

uılnael ［医療］医学、健康法 ［類義語］cuılael ［レベル］3 1L:clɒəj:ɥcɑcı ［語法］ cuıl

uılnbılj ［医療］保険棟、保健室 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj ［文化］ 学校の保健室のことだが、ふつう校舎とは別の棟に分かれている。一階あたりの床面積が２５５平方メルフィほどなのでかなり広い。一度にたくさんの患者を診ることができる。生徒のコンディションを守るため、専属の医師を抱きかかえている。生徒は無料で診てもらえる。診療設備も整っていて、レントゲン等も撮れる。奥にはベッドもあって、暫くそこで休むこともできる。但し、入院はできない。診察範囲は広いが、全てを網羅しているわけではない。腹痛や熱や擦り傷など、学校で起きやすい日常的な病気や怪我を想定しているので、慢性的な病気や怪我は原則として念頭にない。たとえば歯が痛くても歯医者の機能はない。痛み止めを出してもらう程度である。また、手術も行っていないので、急性虫垂炎のような外科的な手術が必要な緊急事態の場合はすぐに大きい病院に搬送する。但し、保健棟でも搬送するまでにできるだけの治療は行う。学校は広いため、あまりに具合が悪くて保健室に辿り着けない場合、クラスの保険委員が保健棟に連絡し、担架で運ばせる。

uılncɒ ［名詞］［形容詞］フルカラー、カラー、４Ｃ ［レベル］4 ɥɑ;/ ꓭ

uılncɒʅıɑ ［地球の国名］モーリシャス 1L: 国旗が４色

uılnɔɒ ［医療］健康法 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

uılu ［普通動名詞］体操、運動 ［動詞］ɥəl の内容の体操をする、体操する。ɒclɒ と同じ格組。 ［レベル］3 1Ɱ: 制 :uıl

uılɑ ［普通動名詞］競走、レース ［動詞］ɥəl という内容を ı と競走する、競走する ［レベル］3 古

uılɑcnʅ ［数学］四面体 ［レベル］4 1L

uılɑɔɥ ［音楽］十六分音符 1L ［文化］ → ɑɔɥ

uılɒı ［アイテム］ヴァルマ ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 : 語源不詳 : → ȷeɥʃcı ［文化］ ヴァストリアの１つ。クミールのもつ大鎌。セルティアと並ぶ。クミールはセルティアとヴァルマの二刀流で戦う。

uılɒılei ［アトラスの国家］ヴァルマレア ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:「マレットに対抗する」［文化］ 面積：ꟼ0ꝕꞱ01.ʕʕʕ0ꝕʕ ʅɒ 」

uılɒɔʅ ［音楽］十六分休符 1L ［文化］ → ɑɔɥ

uılɑɔlʃ ［地球の国名］チェコ ［レベル］6 1L: 国章が４つの紋章からなる

uılφıɥɒı ［建築］ヴァルガーマ宮殿 ［言語］［文字］モダンフェイス、モダン・フェイス ȷɒ;oıl/ʌıɒı「山多き」 Ʇ1 ［文化］ ȷɒ で作られたヒュート首都の王宮。山に囲まれた難攻不落の要塞でもあり、竜を使って入場するのが常套手段。 モダンフェイスが流行った。

uılɒılcl ［名詞］四極、よつまた、四また ［交通］四叉路 ［俗語］四股 ［レベル］4 ɥɑ;/ Ʇʔ 【用例】 ȷeɥen ʃclıʃ uılɒılc cɒ ʅıcın lılʃ ıⱮı. セレンは大学時代に最大四人の女性と同時に付き合っていた。

uıllccɑı ［地球の国名］パプアニューギニア ［レベル］6 1L: メインとなっているのは４つの星

uılleʅj ［野球］フォアボール ［レベル］3 ꓭ

uılleɒ ［音楽］四重奏、カルテット ［類義語］ıɥlcel ［レベル］5 ɥɑ;/ Ʇʔ

uılı ［医療］病院、診療所、クリニック ［レベル］2 1ʕ: 制 :uıl ［語法］ 医者に休日はあるが、病院に休日はない。警察や消防と同じ。２４時間体制で当直医がいる。当直医の待遇はよく、救急で運ばれても適切な処置が行われる。 医療はビジネスとして見られていないため、患者は客ではない。いらっしゃいませということもない。 【用例】 ʅe uılı 病院に行く。ʅe uılj も可能。ıʅʃ uılı は不可。ıʅʃ uılj は違和感。個人的に会いに行くイメージ。

uılıʃ ［形容詞］堕落した ［動詞］ɥəl を堕落させる、堕落する ［再帰動名詞］堕落、腐敗 ［反意語］ɑıljeʃ ［レベル］4 Ʇ0:ɥcɑcı:uıʃ lıʃcı（地獄を待つような）。 参考 :ɑcɥe: @ 1L 【用例】 lınj uılıʃ 堕天使

uılıʃlınj ［宗教］堕天使 ɥɑ;/ ꓭ

uılıφıɥʃ ［医療］入院費、入院代 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［語法］ uılj φıɥʃ

uılıdcʃı ［医療］処方された薬、処方薬 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

uılıez ［医療］病室 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe ［語法］ 病院の話題だと分かっているときは単に ez としか言わない。

uılcı ［言語］［約物］約物、ヴァリア ［レベル］3 古 : 未分類の小さな文字 ［文化］ ガコン、ツンク、ガイン、アロンなどの総称。

uılɔnuılɒıcɒ ［名詞］性交の４４体位。聖数の４を用いている。 ［ユマナ］四十八手 ［レベル］5 ɥɑ;/ Ʇʔ:ȷeɥen/ɔuc/φcl/zını ［文化］ → hcɒɒıcɒ zφ ごろから世界各地で作られた様々な性交の体位が ȷɒ ごろにアルバザードでまとめられたもの。

uıleʃ ［文頭純詞］ʃıl ［レベル］2 lʃ

uıleʅıuccɑı ［生物］［医療］四総穴、四宗穴 ɥɑ;/ ꓭ

uılej ［エルト］ヴァレス ［動詞］ɥəl をレイプする、レイプする、強姦する ［普通動名詞］レイプ､強姦 ［レベル］3 ɒelʃcı ʕꝕ:uılej;e ɒel: 古 : ヴァレスという名はアルシェのアルカにあった ılej「あざ笑う」を古アルカ・エ・ソーン風に発音したもの。この後 uılej は古アルカ・エ・ソーンに取り込まれた。 ［文化］ ４４３人の女性をレイプした若い男の姿をしたエルト。サールではなくエルトで、エルト・サール・人間を問わずレイプした。被害者はほぼ全て２０歳未満の未婚の処女で、幼女も含まれた。４４４人目の被害者はヴァレスを事前に知っていて罠を張り、ヴァレスは捕らえられてしまう。そして続々と集められた被害者の女性やその近親者や無関係な女たちによって八つ裂きにされた。ヴァレスの裁断された屍骸は各所に散りばめられた。ヴァレスは死の間際に、レイプで産ませた自分の子供たちに呪いをかけた。ヴァレスが死んだ夜に１０歳になるヴァレスの息子の１人が種違いの妹を犯した。８歳の妹は抵抗したので少年は妹の首を絞めて殺し、その死体を犯した。同じ夜に別のヴァレスの子供が路上でレイプに及んだ。１０歳の少女が路上で青年をナイフで脅し、レイプした。そこでヴァレスの子供たちはことごとく皆殺しにされるようになった。青年をレイプした少女はその青年の子を身ごもったので、少女だけを殺しても少女の死体からヴァレスの孫がきっと出てくるだろうと女たちは信じた。そこで女たちはそのヴァレスの娘の腹に４本の槍を突き立てさせて腹の中の命を殺し、その後瀕死の少女を絞首刑にさせた。尚、ヴァレスは残酷王フェンゼルがテステェルを強姦した際にできた子供である。 ＜法的には＞ レイプは女が男を犯す場合も含む。１０歳未満の子供との性交は例え和姦であっても、両親の承諾がないか、その子供を娶らなければ強姦になる。子供が結婚を拒めば自動的に強姦になるが、性交した時点で子供に結婚の意志がなかったということを子供側が証明しなければ強姦は成立しない。

uılejıɑcj ［法律］強姦刑 1L ［語法］ 死刑囚が死ぬまで強姦する刑。その間、水分食料は与えられない。強姦そのものは大して体力を奪わないため、衰弱死となる。浮気や不倫に適応されるが、夫が恩赦を与えれば減刑される。夫は強姦刑の執行者を推薦できる。

uılen ［宗教］ヴァレン ［反意語］lıʃcj ［類音］uelen ［レベル］3 古 ［語法］ 不心得な信者。大変不名誉なことなので、レインとかに言ったら戦争になる。

uılenʃ ［形容詞］理不尽な、不条理な ［名詞］理不尽なこと、不条理なこと ɥɑ;‹uılenʃ,lʃ（理不尽） 古 ȷɔɥn 【用例】 ın φɥecn uılenʃ c ʃə ɑcı. この世界から理不尽を奪ってやる（ȷeɥen ıɥbızıɥɑ）

uılenın ［アトラスの国家］ヴァレナン ［アクセント］uꝕlenın ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 戦う

uıııȷı ［サール］ヴァーサ ［レベル］4 古 :uıııȷı ← uıȷ。テームス戦を除いて天で行われた戦いは殆どなく、大抵星の上で行われたことからサールになった。 ［文化］ 争い、戦い、戦争、勝敗、勝利、敗北、勝負を司る。

uıııȷı enccʅ ［人名］ ヴァーサ＝エニーク 1L:clɒəj:ɥcɑcı ［文化］ アルティル期の政治家。２４７年、レヴァレンから独立し、アライブ党を樹立。

uıın ［軍事］軍、軍隊、日本の自衛隊、自衛隊 ［レベル］3 ɒelʃcı Lꝕ ȷen ucı:ɑɥɑ;uc（力） 古 ［文化］ 最古の軍隊はメルティア９５万年頃のファルファニア軍とリュディア軍。 最初の神の軍隊はヴァステで作られた。アルミヴァの１２神である。アルミヴァの中にはネブラのように非戦闘要員もいた。戦闘要員のうち、指導者になったのはティクノとカルザスである。この時点で上司と部下の階級差が生まれ､軍隊として機能する。 ただし､まだ階級に名は付けられず､単に指導者とその仲間という関係に過ぎなかった。 ラヴァスになるとアルデスとルフェルは軍隊を作って戦った。アルデスらは王であったため、指導者と従者という立場になった。だがここでも階級に名は付けられなかった。神全体の人数が少なく個々人が強いため、細かく階級を整備する必要がなかったためである。 この傾向は人間の時代になっても続いた。アズゲルでも指導者とその賛同者という立場でしかなく、階級はなかった。 カコになり、人間の数が増えて魔力も弱くなりだすと、徐々に階級意識が芽生えてくる。ここで初めて士官と兵の概念が生まれる。この時点では指導者(王)､士官､兵という３段階に分かれていた。現代と異なるのは、強力な魔導師らが士官になるため、士官のほうが最前線で活躍するという点である。 カコで英雄メテが出てメテの使徒を集めたが、これは指導者（ルシーラ）と従者（ハルマ）という旧来のシステムであった。これはアルシェもソーンも同様である。 アルバ王は争いの平定のために、統制の取れた軍隊を編成した。士官を将官・佐官・尉官に分け、兵を准士官・下士官・兵に分けた。すなわち、２区分だったものを６区分に分けた。 また、１区分ごとに３段階に分け、大将・中将・少将のように呼んだ。大将の上には己を置き、王であるとともに元帥を名乗った。このシステムは現代まで残っている。 一方、兵科であるが、兵科が初めてできたのはアズゲルである。人間の中にはユノばかり得意なものと、ヴィルばかり得意なものがいる。そこで、指導者シフェランは戦士兵と魔法兵の兵科を作り、マレティスもこれを真似た。 カコになり、アルシアの１１魔将が魔法学を大成したことにより、兵科は細かく分類された。魔法兵の中には召還兵や黒魔法兵などといった分類ができた。 これに合わせ、今まで曖昧だった戦士兵も剣兵、槍兵のように分類した。それまでは剣も槍も弓も混じって戦っていたが、個々人の力が弱くなって集団戦法が主流になるにつれ、槍兵は槍兵、弓兵は弓兵で集めて配置するようになっていった。 アルバ王が軍隊を整えた結果、軍隊が大きくなったため、これまでは非戦闘要員だった文民の技師を軍人として集めるというようなことが起きた。弓や武器防具を修理したり調整したりする専門の人間が陣内に必要になったためである。これにより、工兵が誕生した。 徴兵制について。アズゲルでは常備軍はなく、有事の際に戦闘要員が立ち上がるだけであった。 カコでもアルバザードは常備軍を持たなかった。アンダントが徴兵制を敷き、男女とも一定の期間訓練を受けさせた。イクスタンもこれを真似た。これによりドゥルガとヴィーネの戦力は増加し、戦いはより過激なものとなった。 また、アンダントらのころには傭兵も現れ、これも戦力増加と戦況激化に貢献した。その結果、皇女ルーキーテたちの物語に繋がっていく。 アンダントはヒュート国と共同し、アデルの竜族を飼いならし、竜兵を編成した。竜兵の機動力と攻撃力と防御力は凄まじく、イクスタンは慌ててヴェマから竜兵を輸入した。

アルバ王は初めて職業軍人を作った。士官については常備軍とし、職業軍人とした。しかし兵については雇い入れず、有事の際にのみ徴兵した。 なお、アルシェやソーンといった集まりは軍隊ではあるが、国軍ではない。当時のドゥルガの最高権力者メテが指導者となって使徒を集めたのがメテの使徒で、この後釜が団体アルシェである。従って本来アルシェはメテの私兵である。ソーンはメテの使

徒を参考に作られたウロの残党なので、厳密には私兵でないが、アルシェと並行的にするためにも私兵としている。　アルバ王はアルシェを国軍には組み込まなかった。そのため、μɑ でもアシェットは国軍に組み込まれていない。　　セルメルでは大きな戦争がなかったため、アルバ王のシステムが続いた。　セルメルでは人間のヴィードが弱くなったため、機動力も攻撃力も落ちてしまった。そこで馬を使った騎兵ができた。馬は竜より操縦が楽で、繁殖も容易で、人よりずっと速く走れるため、急激に騎兵が増えた。　騎兵は槍兵との相性がよく、新たに槍騎兵が編成された。槍騎兵はその前に既にあった竜騎兵をアイディアに作られたものである。竜兵はアルバザードでは一気に廃れた。　歩兵よりも騎兵のほうが格が上とされ、騎士はナイトの称号を得た。その結果、騎士上がりの貴族が出るようになった。　このころは魔導師が少なくなっており、腕力のない女性たちは花扱いになっていた。そのため、女性はたおやかでしとやかさが求められた。結果、多くの女は部屋の中で「白馬のナイト様」が来てくれることを祈った。それくらいこの時代のナイトはモテた。

　　一方アルバ３世は私兵を集め、ヴァノアルバと称した。国家特別防衛軍である。　周辺の王はこぞってこれに倣ったため、ヴァノケートなどが続々作られた。　　μɑ になっても軍隊のシステムは変わらなかった。　μɑ ではアルシェとソーンが再編された。セレンやリディアは義憤からアデルや異性魔王と戦ったことで名を挙げたため、アルバザード国軍ではない。同様にソーンも国軍ではない。

この時代の特徴として、アルバザードの正規軍よりもヴァノアルバやアシェットといった私兵団のほうが実力を持っていた点が挙げられる。　アルバザードでアシェットがアデルを封印したため、竜族はいなくなり、竜兵はヒュートやヴェマからも消え去った。　　ナディアでは植民地時代に合わせて海軍が発達したが、同時に海賊も発達した。　海軍は陸軍の海版という編成だったため、日本と異なり階級はまったく陸軍と同じである。　それまでの海軍は軍隊の中に「有事の際は海で戦闘を行う人員」を宛がっていただけであった。

　　アルティルでジンティ＝アルテームスが飛行機を発明し、それが軍用化されるに伴って空軍ができた。　階級は陸海と同じである。

　　メル ʔ00 年にアルファウスは王政を廃止し、元帥の座に着いた。

　革命後、ミロクは軍のシステムをほぼそのまま使用した。アルティス教の世の中であったため、特に召喚省長官に権力を置く必要があった。そこでアルタレスを元帥の座に就かせた。そして元帥の上に大元帥を設け、副王アステルを就かせた。従って、現在ではユティア家の人間が大元帥の座にいる。こうして２０段階の階級制度が出来上がった。

uiinlcznɔ ［政治］軍務庁　［レベル］４　1L　［文化］　軍務省下。軍隊を直接取り仕切る。

uiinleɒ ［音楽］軍歌　［レベル］４　J1

uiinı ［人名］甲冑ヴァーナ　［レベル］５　古　［文化］　ユーアのこと。μɑ で甲冑を着て敵を装い、セレンらを鍛えた。リディアに弱虫と言われ、ヴァーナの名を付けられた。

uiinıln ［政治］軍国主義　［レベル］５　1L

uiinıμnɔn ［政治］軍務省、軍部省　［軍事］軍部　［レベル］４　1L:clɒəȷ:μcɑ cı

uiinıl ［筐堺］ヴァーナル　［レベル］５　μɑ;uiinı/ıl「ヴァーナのもの」　JJ ［文化］　筐堺司：eleʃɔne uiinı　筐堺国：dclli, ʃənıȷ

uiiuı ［感動詞］［iben］［μɑen］uınʃ　［レベル］２　1L: リディアの書 :uınʃuınʃ の音を崩したもの。　［語法］　「わりぃわりぃ」のような、ぞんざいな謝罪。

uiiμʃ,ɑ　ɑcıȷ, lɑcȷ　ɑ:ȷıil;uc/ıμʃ「力ある魔法。偉大な魔法」　命を与えることは偉大な魔法と捉えた。

uıc ［軍事］兵（正式）、兵士、兵卒、兵隊、軍人、ジャック、ソルジャー　［レベル］３　ȷeμʃ:uılı　中期制アルカ　uılı:uılı:lə φıμɑ ［文化］　士官の対語。准士官・下士官・兵卒に分かれる。

uıcʃ ［名詞］部品、パーツ、部分　［レベル］２　JJ:uıcl/ʃe

uıcʃ,ɑu　ʃıɑl　uı は uc で「力」。ʃ は ʃlcl で「持つ」。

uıcl ［名詞］部分、パート、一部　［副詞］部分的に　［医療］局所　［反意語］clɒ　［レベル］２　中期制　【成句】　ȷɔ ʃ lel uıcl e l ʃ を l の一環として行う　uıclel ある意味、ある程度、まぁね、まぁな、ちょっとね、えぇ少し　【用例】　sın ıʃ eȷdʃe uıclel. ところどころ曇っていた。　"ʃyə ȷc cnı yəı ɒcnȣ"――"uıclel"「ああいう女の子がいいの？」「まぁな」

uıclleu ［言語］全体から部分への提喩、シネクドキー　［レベル］５　1L　［語法］　clɒleu

uıclȷ ［動物］ヤマネコ、山猫、リンクス　［美容］ウルフ　［レベル］２　ılılʃı: 強い猫。ライオンと同語源で ucuc/leʃʃɔ が大元。　［語法］［文化］　山猫の類を取りまとめていうが、アルバザードでは特にヨーロッパオオヤマネコを指す。混合林などに住み、家畜などを襲うが、人を襲うこともある。昔話では悪役としてよく出てくる。

uıclȷlcʃe ［生物］ヤマネコ種　［レベル］６　J0

uıclȷcɑı ［地球の星座］［ユマナ］やまねこ座　JΠ　［文化］　cɑı

uıclnɔl ［数学］標本　［レベル］３　1L

uıclnɔlıll ［数学］統計量　［レベル］５　1L

uıclɒelȷcμ ［医療］虚血、局所性貧血　［レベル］６　1L

uıcll ［料理］つまみ、軽食、スナック、おつまみ　［レベル］３　JJ:uıcl/ləl ılı「部分的な食物」

uıclıμʃ ［魔法］個別魔法。個別に向けて撃つ。　［レベル］４　JJ

uıclıllelʃ ［天文］部分月食　［レベル］５　J1

uıclılɑıl ［天文］部分日食　［レベル］５　J1

uıclen ［動物］オシキャット　J1:uıclȷ/en

uıcleucʃı ［名詞］スイス式トーナメント方式、リーグ戦、トーナメント　［レベル］６　μɑ;/。総当り戦でなく実力伯仲している間でだけ行う部分てきなトーナメントであることから。　JΠ

uıclelɑ ［電算］オブジェクト指向言語　［レベル］６　1L

uıcȷ ［動詞］yəl を観察する、観察する、観測する、凝視する、じっと見る、見つめる、注目する、注視する、焦点を当てる、焦点化する　［普通動名詞］観察、観測、凝視、注目、注視、焦点化　［類義語］ıɒel hıʃcı、ɒeȷʃc　［レベル］２　1Π: 制 : よく見る　【成句】　ɒeȷı cl uıcȷ 衆人環視　【用例】　uıcȷ lɔn cnȷ φeʃ 目を細めて見る　ın uıcȷıʃ cnȷ lııʃ. 私は彼女の目を見つめた。　ılʃcnı uıcȷ ucl ɔl eleʃ delȷ ɔ lɔn. 少年は戸惑いを隠せない色で男を見つめる。

uıcȷzed ［数学］微分→ ıllɔdȷ　［レベル］５　nɑ;/「凝視計算」　Jʔ

uıcn ［生物］ウィルス、ビールス、ウイルス　［魔法］ヴァイン（バイオ）。害の中位黒魔法。敵を病魔に犯す。数日かけて苦しめるが、大抵治る。敵の体力が弱いと敵は死ぬ。戦闘向きの魔法ではない。　［電算］コンピューターウィルス　［レベル］２　ɑu;e　ȷɔμn ［文化］　・ウイルスの発見　　地球ではウイルスの発見はかなり遅れたが、アトラスでは神代の時代からその存在が知られていた。　ʃɒ で lcczc の魔法が開発されると、ウイルスの存在を目視できるようになった。だがウイルスの内部構造が科学的に分かるようになるのはもっと後の時代で、ul_ıl にかけてであった。　神々はウイルスを発見し、エーステから uıcn と名付けた。この uıcn の働きを観察していると、動物の体に入って病気を発生させることが分かった。そのため、ʃɒ の時代で既にウイルスが病気の原因の一種であることが知られていた。　ウイルスより大きく構造も異なる細菌が病気を引き起こすことも同様に lcczc の魔法で知られていた。　　・ウイルス感染を治療する魔法　　ʃɒ で神々はしばしば体に不快な変調をきたすウイルスを厄介視していた。そこで、ウイルスに感染した体を治す医療用の魔法が開発された。これが ıluıcn である。　ıluıcn の薬理作用はウイルスを分解することではなく、ウイルスに感染した細胞のアポトーシスを促進させることである。　ウイルスはほとんどの場合人間に不快な症状を与え病気を発症させるという点で共通しているが、その種類は数多く、かつすぐに構造が変化してしまう。従って、特定の一種類のウイルスを倒す魔法を作ってもイタチごっこにしかならない。　そこで、人間の免疫システムを利用した白魔法が考案されたわけである。細胞はふつうｄｓＲＮＡを持たない。人体はｄｓＲＮＡを持った細胞をウイルスに感染した細胞とみなし、免疫システムを発揮する。そこで、この白魔法はｄｓＲＮＡを持った細胞を探してそれにアポトーシスさせる役割を果たすことで、ウイルスを退治するわけである。　この作用について神々は科学的に知ることができなかったが、後の ls の現代魔法学で明らかにされる。　　・細菌感染を治療する魔法　ıluıcn と時を同じくして ıllccl という魔法も開発された。これは ıluıcn とは異なる魔法であり、薬理作用も異なっていた。簡単にいえば後の抗生剤と同じ効果を持つ。　神々はウイルスには ıllccl が効かないこと、逆に細菌には ıluıcn が効かないことを知っていた。　　・抗癌魔法　　同様にして、抗癌魔法も開発された。神々の寿命は事実上永遠なくらい長いが、生命活動の過程で ʔ,J 遺伝子の通常の人類同様癌細胞が発生する。　体中が癌化しないよう、ıldcφ という魔法が ʃɒ で開発された。これは癌細胞をアポトーシスさせる魔法である。　　・ll の仮病　　カコの時代に、ヴァインの魔法を食らって宮殿に出勤できなくなった宮仕えが増えたことがある。魔法が解けるまでしばらく寝込まざるをえなかった。そのどさくさに紛れて、ヴァインにかかっていないのに仮病を使って休暇を取るものが現れたため、ヴァインを食らうで仮病で休むの隠語になった。　　・魔法医とルクレティア　　神はそもそも免疫力がユーマの一族に比べて極めて高いが、ユーマの一族は年代を重ねるごとに抗体の数は増えども免疫力そのものは弱っていった。　人口の増加や集落での暮らしにより伝染病の発生率が高まると、魔法医の存在が各地で重視されるようになった。　だが魔法医は数が少なく、その恩恵に授かれるものは一部に過ぎなかった。まず ıluıcn を始めとした魔法が高位すぎて扱える人間がほとんどいない点。そして ıluıcn などの魔法が消費する ucμ の量が多すぎて、一日に何度も撃てないというのが問題であった。

　そのためルティアを始めとした地域では魔法に頼らない漢方に相当するルクレティアが発達した。　　・nɑ 以降　　nɑ に入ると ıluıcn, ıllccl, ıldcφ などの魔法が廃れ、使えるものがほぼいなくなった。これを機に人類の医療は科学に頼るようになっていった。　まず nɑ で顕微鏡により細菌が再発見された。次に μʃ 末期に細菌濾過器を通しても感染性を失わない病原菌が発見され、これが神代のウイルスではないかとされた。　ul になるとウイルスの構造が科学的に明らかになり、その構造がタンパク質からなり、ＲＮＡなどを持つといったことが分かってきた。　ul ごろには抗生剤により細菌は倒せるようになっていたが、ウイルスは ıl でも倒すことができなかった。　【成句】　yə uıcn ı lɔcʃ. 仮病を使って会社を休む、仮病、ズル休み　【用例】　ȷɔɔnɔyən, ın eʃ uıcn, ʃıl ın ʃcl eɑı. こんにちは。ウィルスですが、カゼを引きました。

uıcn lınɑzel ［人名］ヴァイン＝カンヅェル　［レベル］３　ıl　JΠ ［文化］　ランフィオーレのナンバー２。フェンゼル＝アルサールの乱以降、ランフィオーレの指導者に就任。

uıcnɔl ［政治］［軍事］徴兵　［動詞］yəl を徴兵する、徴兵する　［レベル］４　1L　［文化］　アルバザードに徴兵制はない。

uıcnɔlɔz ［軍事］徴兵制度、徴兵制　［レベル］５　JJ

uıcɑıl ［軍事］兵役、服役　［レベル］４　μɑ;/　Jʔ

uıcɒ ［名詞］マッチョ　［レベル］４　ɑu;ucuc/ɒıcn　JΠ

uıcb ［被服］端切れ、はぎれ　［レベル］３　1ʕ: 制 :uıcl/ıbe（部分の布）

uıcze,ȷzɑ　ʃıɑl　uıcʃ,ɑu.l

uıclıɒd ［政治］［軍事］募兵　［レベル］５　1L

uıeȷ ［経済］在庫、在庫品、ストック　［レベル］４　1ʔ: 制 :uıe

uıen ［動詞］yəl を蓄える、蓄える、溜める、貯める、財を蓄える、貯まる、溜まる、蓄積する　［動詞］yəl（額面や通貨や株券など）を貯金

する、貯金する ［経済］貯蓄、貯金、蓄え ［レベル］3 1ʔ: 制 :uıel ［文化］ 日本人と比べると総じて貯蓄は少ない。 【用例】 ın uıenıʃ φcl lını ʃıə lınʃ ɑccnı lı. 彼女にプレゼントを買うためにお金を貯めた。

uıenzeʃ ［経済］ストック科目 1L

uıenın ［魔法］蓄眺体 ［レベル］5 ȷ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

uıel ［名詞］ビン、かめ、水がめ、水差し、瓶、甕、ボトル。水などを溜めておく容器。 ［レベル］3 1Ռ: 制 : 古 :uıe

uıelı ［エルト］ヴァエラ ［レベル］3 古 :uıe（瓶）/lııd（望み）［文化］ 青い瓶に入ったエルト。封が開かれると出てくる煙でできた青白い成年女性の姿で出てきて願いを叶えてくれる。願いは１つだったり４つだったりと、話によって異なる。 【用例】 uıelı ʅəʅ ı ləlcın ɥəl "ʃc lcɒ ȷen 1 ucʅȷ ȷɔlʃ ız neʃıl cʃen ɑcʅl". ȷee ləlcın clncʅ "ʃə eʃ ȷeɲ e lııl ınʃ le uɔɥʃıʃ ınʃcȷee. ȷınʃ deɑ lı cȷʃ ɑlınɑcı". ヴァエラ神がオタクに「４億円がほしいか、それとも二次元の世界から誰か一人連れてきてほしいか」と問うた。 するとオタクは答えた。「これは亡き母の写真です。二次元美少女の代わりに、母さんに会わせてください」

uc ［単位］3 ［レベル］1 古 ȷɔıs:ucc:ȷın,ılʃ

uc,ɑ ucen ɑıcı

uc,ılʃ ucın, enuc <>uc

ucʃ ［格詞］～を使わないで、使わずに ［俗語］生、避妊なし ［反意語］ ʅɔn ［レベル］1 ȷȷ:ucɑ ＜1L:ɒelcɑcı ılcȷ: 恣意 【用例】 lı ılʃıʃ ucʃ ʅız. 彼はペンを使って書かなかった。 eȷȷe ɒeȷı ucʃ 生でやる

ucʃʃe ［代詞］一部の ［レベル］1 ȷ0:ȷeɥen/ɥcɑcı:uec は頻度が少ないので強変化させ、ucʃʃe に。le や ne の持つ e から音を離しつつ、ɑccʃ とかぶらないように重子音を。

ucʃȷənʅ ［約物］,,,、３点カンマ、ʃɔʃɔ、～、何々 ［レベル］3 ȷ1

ucʃdɔʃφel ［卑語］生中出し、膣内射精 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʃı ［法律］検察、検察官 ［レベル］4 1ꟼ: 制 :ucʃ（探す）

ucʃıʅclc ［生物］司法解剖、法医解剖 ［レベル］5 ul;/ ȷՌ

ucʃıʅclcɑel ［生物］司法解剖学、法医解剖学。病理解剖学の一部門。法的に死因を判定するために行われる。 ul;/ ȷՌ

ucʃıhıɑ ［数学］三平方 ［レベル］4 1L: 式の中に二乗が３つあることから。

ucʃıc ［法律］検死 ［動詞］ɥəl を検死する、検死する ［レベル］5 ɥɑ;uc ʃı/c（目） ȷՌ

ucʃc ［名詞］探偵 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ucʃ

ucʃcȷ ［宗教］ヴィティス ［レベル］3 古 :ucʃcȷ ← uccɑlınʃcȷ ［語法］ アルマ至上主義者。セルメルでイムル２０年ごろに現れた人々。アルティス教以前に神や悪魔や人も結局ヴィードを操るのだから重要なのはヴィード、とりわけアルマであると考えた人々。アルマスト派の源流となっている。

ucʃcnɔɔl ［アトラスの国家］ヴィティノール ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 海岸の防波堤

ucʃcnɔɔlȷczı ［地学］ヴィティノールプレート ȷʔ

ucʃɔbezıl ［化学］三級アミン 1L

ucʃeʅ ［動物］三葉虫 ［レベル］4 ul;/ 三枚の葉が重なったようであることから。 ȷʔ

ucʃen ［接続詞］ucʃ。～なしの。 ［レベル］2 ȷȷ

ucʅ ［名詞］男、男性、オス ［形容詞］男の、雄の ［類義語］ləʃʃı、ɑccze、lınʅɔ、ɑɥelle、ɑɥellel、dcʅɔl、ılɒcɑɥe、zɔnɒıȷ、ueɒu、hılɒın、ılnı nı、ılʃcnı、ılɑcın、ıllız、ılɒını、ılɥecʃe、ılɒelcʃ、ılnııʃ、ılʃɔnı、ılȷıız、ılɥ ıʅel、ılenɑı ［反意語］ɒcn ［レベル］1 ɑ:elʃ 古 :ucʅ, ucʅə「強い生き物」 ucʅə:ucʅə:lə ɒıncȷ:φılə,ılʃ 【用例】 ucʅ ucen 強い男

ucʅʃ ［魔物］ヴィクト（雷鳥）: 第四十九天 : 雷の空天 ［レベル］5 古 : 強い鳥 ［文化］ 青紫と黒の模様が入った大きな鳥で、いかずちを放つ肉食の鳥。体は羽を広げると４メルフィはありそうなほど大きい。雷に耐性がある。ソエンの谷でアルシェを襲い、ダルハを出した初期のクリスに撃退されて逃げた。

ucʅleʅuınʃe ［言語］男性定冠詞 ［レベル］4 ȷ1

ucʅȷ ［単位］億 ［レベル］3 ȷ1:uıcʅȷ

ucʅȷıb ［被服］男性服、紳士服 ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʅȷcn ［普通動名詞］男嫌い、男ぎらい、男性蔑視 ［反意語］ucʅȷcn ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʅnɔɑɒcn ［名詞］男尊女卑 ［レベル］4 ȷȷ : 男＞女 ［文化］ ɒcnɑız

ucʅɑcʅuınʃe ［言語］男性不定冠詞 ［レベル］4 ȷ1

ucʅɒıcn ［名詞］男体 ［レベル］4 ［反意語］ɒcnɒıcn ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʅɒcɥɔʅ ［名詞］男の神 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

ucʅɑız ［形容詞］男らしい ［反意語］ucʅɑcɒ、ɒcnɑız ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ ［語法］［文化］ ɒcnɑız

ucʅɑızıʃc ［名詞］男らしさ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʅɑcɒ ［形容詞］男らしくない ［反意語］ucʅɑız、ɒcnɑcɒ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ ［語法］［文化］ ɒcnɑız

ucʅɑcɒıʃc ［名詞］男らしくなさ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ucʅbeeʅ ［名詞］男子トイレ ［レベル］2 ȷȷ

ucʅhcɒ ［生物］オス ［レベル］3 ȷ0

ucʅhcɒelɒ ［生物］男性器 ［レベル］4 ȷ0

ucʅɥı ［親族］男の方が多い男主体の家族 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ucʅɥıʅ ［音楽］ボレロ ［レベル］6 ȷ1:「三拍子のカスタネットなどを使った曲」

ucʅɥenȷ ［言語］男言葉 ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷՌ

ucʅʅcȷʃueʃ ［言語］男性敬体 ［レベル］4 ȷ1 ［文化］ dcʅʅɔ 位相のこと。

ucʅıȷı ［言語］男性名詞 ［レベル］4 ȷ0 ［語法］［文化］ アルカには文法性がない。文法性を持つ最も有名な言語はルティア語。ルティア語は名詞に性を持つ。地球の西洋語の文法性と異なり、ルティア語の場合は ȷɒ で詩歌の中で生まれたもので、対句法上の表現として生まれた。最初は太陽や男性が男性名詞、月や女性が女性名詞に選ばれた。それ以外はすべて中性名詞であった。現代に至るまでにすべての名詞に性が付与された。 第ゼロ世代ではすべてが中性名詞（＝事実上すべてが性無し）、第一世代では太陽などのみ以外が中性名詞というように、中性名詞が１００％から０％になるまで低減していっていることになる。性が付与されたのは徐々にであり、最初はすべて中性で、最終的には中性が滅んでいる。つまりあらゆる名詞は「中→男」か「中→女」という変遷を取る。起点が中しかないため、「中→」の部分は共通しており、省略可能である。というかそうしないとかえって見づらい。そこで幻日では最も合理的な方法として訳語欄の ȷz_lʃ 欄において lə ～や lı ～というように男女定冠詞のみ示している。 ・性の見分け方 ドイツ語のＭａｄｃｈｅｎ（アクサン略）は中性だが、これは少女がまだ女になっていないからという理由ではなく、単に接尾辞ｃｈｅｎが中性名詞を作るからにすぎない。ルティア語は西洋語と異なり、文法的な理由で性が付与されていない。意味に基づいて分類されているため、ルティア人の物の見方がクリアに伝わってくる。 作者としては西洋語に比べて性に意味があるのが面白い。というのも、フランス語をやっていて「どうしてこれは女性なんだろう」などと青年の頃から不思議に思うことが何度もあったからだ。意味的な理由やエピソードがあれば面白いのになぁとよく思っていた。例えば同じ胸という単語でも男性名詞にすれば胸部で、女性名詞にすれば乳房というようにしたら面白いしそれなりに合理的なのになというように夢想してきた。それがルティア語に現れている。性が変わると意味が変わるのは独仏にもあるが、これをもっと有効活用したかった。 設定が楽しいのはいいとして、現実問題すべての名詞の性を覚えるのは大変だ。見分け方があれば重宝する。ではいったいどのように見分ければよいのだろうか。 ucʅ や ɒcn の性別はすぐ分かるが、例えば腕などは男性か女性か。これを楽に判断するために一定のルールを設ける。例えば棒状のものは男性（これは分かりやすいだろう）とし、その対として紐状のものは女性にする――などというような。こうすると腕や脚は男性になる。 ルティア語は分析的な言語で、単語ひとつの意味が広い。腕と手は同じ単語だ。が、これを性別で区別する。腕は棒状なので男性。手はその対なので女性。脚と足も同じ関係。こうすると単語数が減る。ルティア語はアルカと違って地球で実用する必要がないが、アルカの文章を書いていてたびたび出てくるのである程度覚えねばならない。そこで記憶に優しいシステムを取った。もちろん性そのものがないほうが楽なのだが、あまりアルカと同じでも外国語の意味がない。 基本的に判断は ləʅleʃcı や ʅleuınȷ など、ルティア人の物の見方に合わせる。例えばクレヴァンスでは血は女性となっているので、eɥc は lı ȷın となる。 十徳はクレヴァンスの五行を男女に分けて２回使っているので、男性側５徳は男性名詞になり、女性側５徳は女性名詞になる。 このようにして法則を定めていくと、下記のようになる。これがあるおかげで西洋語より実は性を覚えやすかったりする。春はクレヴァンスで考えると性別が設定できないが、固有名詞を使えばアシュテにより女性と定められる。 なお、法則同士が互いにぶつかることもあるので注意。 ・法則 対の物：片方が男性になると片方は女性。ʅleeuel が男性なので太陽は男性。すると月は自動で女性。また、魔導師的にもそのほうが正しい。 ləʅleʃcı : 血は女性 ʅleuınȷ : 義は男性で、忍は女性 固有名詞の性 : 四季は ıɥlcel に基づき女性。数の性はアルミヴァに合わせる。例えば２は女性、５は男性。 男：女 外：中（内） ʅleuınȷ でもそうだが、中心や体幹は母体で女性。 攻：防 例えば武器が男性になるのは攻が男性だから。 棒 : 紐 獅法 : 魔法 角 : 丸 天 : 地 動 : 静 陽 : 陰 火 : 水 青 : 赤 暖色は女。寒色は男。黒は男。白は女。ただし火や動は男になるので注意。赤が女なのは血から来ている。

ucʅɔʃın ［農耕］三圃式農業、三圃制 ［レベル］6 ɥɑ ȷȷ ［文化］ → ʃıʅɔ ʃın 農地を冬穀（小麦やライ麦）・夏穀（大麦やカラス麦）・休耕地（家畜を放牧する）に区分し、ローテーションを組んで耕作する農法。農地の地力低下を防ぐことを目的としており、休耕地では家畜が放牧され、その排泄物が肥料になり、土地を回復させる手助けとなった。ȷɒ のケートイア北部で編み出され、その後北国へ広まっていった。ȷɒ でアルバザードにも入る。現在の混合農業につながっている。夏雨型の気候に適するため、特にケートイア以北で盛んとなった。

ucʅɔlə,ılʃ ȷen uc/ʅɔlə

ucʅə,ɑ ucʅ uc/ʅəɒ「強い動物」

ucl ［医療］傷、創傷、怪我 ［軍事］兵士の負傷、機体の損傷、破損 ［動詞］ɥəl を傷つける、傷つける ［類義語］ɔɥʅeı ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ııucl（傷）から ［語法］ ucl は創と傷をともに指す。厳密に区別する場合、創は scl で傷は hıu。 広義には創傷のない捻挫などの怪我も指す。 【用例】 lı uclıʃ ılen nɔın. 彼は私の気持ちを傷つけた。 lə ʃcl ucl ɔn ʃıʅ. 彼は腕に傷がある。

uclıl ［軍事］駐留 ［再帰動名詞］駐在、駐屯 ［動詞］ɥəl を ı に駐留させる、駐留する zφ;uc（力）/lıl（存在する） ȷȷ

uclɔl ［名詞］けが人、怪我人 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ucleʃ ［名詞］痛み、苦痛 ［形容詞］痛い→ ɥıc（口語） ［魔法］ヴィシェット。害の禁呪魔法。全身の痛覚を刺激し、ショック死させる残酷な魔法。爪の先から針を刺し込むほどの痛みが頭から足の先まで全身に起こる。あまりの痛さで声も出ずにショック死する。すぐ死ねる分だけガーヴより楽。 ［反意語］φıɥu ［類音］ueleʃ ［レベル］2 ȷ0:ucl/ʃe ɥə ɑı:ɥəɑı 【用例】 ın nı ucleʃ ɔn sc. 指が痛い。

ucȷ ［名詞］こと、事、コト、事物、物事、事柄 ［類義語］ɑıɒ ［反意語］ʃəl

［レベル］1　1L: 恣意　ılːılːːcl̀ɔ,ılʃ

ucɟʃ ［形容詞］より～でない ［反意語］uecn ［レベル］1　1L: 恣意：以前は ucɟ。ucɟ と ʃcɟ では似すぎ 【用例】 lı eʃ ɟɔµ ucɟʃ. 彼の方が大きくない。

ucɟʃncɑ ［名詞］レベルダウン、グレードダウン、バージョンダウン ［類義語］ucɟʃenuc ［反意語］uecnncɑ ［レベル］3　J1

ucɟʃe ［哲学］形而上の、観念的な、概念上の、抽象的な、形のない ［反意語］ʃəlʃe ［レベル］4　J0: コト的な

ucɟʃenuc ［名詞］パワーダウン、レベルダウン、グレードダウン、バージョンダウン ［類義語］ucɟʃncɑ ［反意語］uecnenuc ［レベル］3　J1

ucɟl̀ ［動詞］ɥəl を暗唱する、暗唱する。暗記とは別物。 ［普通動名詞］暗唱 ［レベル］4　1ⅆ: 制 :ucl̀ɟl̀ə（暗記した内容を言う）

ucɟd ［形容詞］きつい、キツイ、締りがきつい ［反意語］ɑıcl ［レベル］3　J0:ucen/ɒeɟdı（強く封じる）【用例】 ləɟ ucɟd きついスカート

ucɟdl̀lec ［言語］ハードノベル ［レベル］5　ul; 従来の l̀lec に対して ɑıcl̀lec ができ、その結果従来のものが ucɟdl̀lec と呼ばれるようになった。 J】［文化］ lɥəɒcı

ucɟdləɑc ［形容詞］［ネガティブ］女性が性的にお堅い ［類義語］ɥəlʃe ［反意語］ɟɔµʃʃl̀ ［レベル］4　J0: ルフィの紐がかたい 【用例】 lı ʃcl ucɟdləɑc. 彼女は堅すぎる。

ucɟdı ［医療］かさぶた ［レベル］3　1L:ucl/ɒeɟdı（傷塞ぎ）

ucɟı ［化学］［被服］ナイロン ［レベル］5　古 :ucɟı（強い絹）

ucɟıᴅ ［被服］コルセット ［レベル］5　µɒ; ↓　J0:ucɟd/ııᴅ ［文化］ 魔導師の減少により女権が弱まったセルメルでできたが、µɒ では廃れた。

ucɟııl ［数学］トリボナッチ数　µɒ;/「前にある３つの数の和の数」 J?

ucɟɔoın ［生物］陰交　J1

ucn ［言語］u の文字 ［レベル］1　1ⅆ: 制 : 下弦の月 ［語法］ 第６文字目の幻字。

ucn(J) ［美容］三つ編み、ブレイド　ɟᴅ;uc/ncı　Jⅆ ［文化］ ɟᴅ でできた。女性用。

ucnʃ ［アイテム］お守り、タリスマン、まよけ、魔除け ［レベル］2　1?: 制 :ucn からの派生 【用例】 ɟıb ucnʃ お守りを身につける

ucnʃɑɔʃ ［被服］ミサンガ。紐で作ったリング状のアクセサリ。 ［レベル］3　1?: 制 : 守りの紐 ［語法］ 綺麗な紐で作った輪で、腕や足や首に巻く。ミサンガと違う点は、切れると願いがかなうという願掛けはなく、邪気を払う効果があるという点。

ucnl̀ ［植物］木の実、きのみ、木のみ、ナッツ、堅果 ［レベル］3　ɟɔµ n:ucnl̀。新生でも uınl̀ と２対を保っているが、ucnl̀ は古アルカなので変えがたいし、uınl̀ は制アルカで慣れてしまった。また、対の意識はそれほど強くない。通常のアプラウトによる意味の区別でよいだろう。

ucnl ［経済］保険、保健 ［動詞］ɥəl の保険を ı 被害者に ɒə 額だけ ɑccnı 受取人のために lını 額を得るためにかける ［レベル］3　1?: 制 :ɟıɒ:「守る」ucn/ 古アルカの「法」l̀ılə を合わせて縮めたもの

ucnɟ ［動詞］ɥəl を捨てる、捨てる、廃棄する、手放す、手ばなす、てばなす ［動詞］ɥəl を見捨てる、見捨てる、見殺しにする ［普通動名詞］廃棄、見殺し ［経済］投げ ［反意語］ılucnɟ ［レベル］2　古 :ɟɔµn 【用例】 ucnɟ ʃcın カノジョを捨てる　ɑleı. nɔn ucnɟ lcµ ᴅcuı ʃccı, ncıɟ lə ıl ılᴅcu. ふたつ。私は愛娘を捨て、従姉妹に託す。　ucnɟ ɔᴅı 犬を捨てる

ucnɟɒə ［魔法］廃棄量 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɒɔlᴅcɥə

ucnɟɥəɒcı ［名詞］捨て子、捨て猫、捨て犬→ ɥəɒcı ［レベル］3　µɒ;/ J?

ucnɟı ［文頭純詞］そんなことより、それはそれとして、それはどうでもいいんだが、まぁそれはともかく、それはさておき ［レベル］2　ɟɔµn ［語法］ 話題転換では hıc と同じだが、そんなこと捨て置けという気持ちを表わし、そんなことどうでもいいといった意味を示す。

ucnɟısı ［魔法］廃棄率 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɒɔlᴅcɥə

ucnɑɔɔn ［美容］ブレイデッドシニョン　ɟᴅ;/　Jⅆ ［文化］ ɟᴅ でできた。貴族の女性用。

ucnɒ ［形容詞］安全な ［名詞］治安、安全 ［電算］セキュリティ→ ucnɒcʃ ［反意語］lıᴅc ［レベル］2　1ℙ: 制では「守る」【用例】 l̀ıɒ ucnɒ 安全な国

ucnɒıʃc ［電算］安全性、安全さ、セキュリティ ［レベル］3　J1 【用例】 µıl̀ ucnɒıʃc セキュリティを破る

ucnɒıµ ［軍事］安全装置、セーフティー、セイフティー ［レベル］6　µɒ;/　Jⅆ ［文化］ φel

ucnɒenıs ［経済］安全利子率　1L

ucnzıᴅɔ ［被服］ハイレグ ［レベル］4　J1

ucns ［名詞］ブイサイン、ヴイサイン、ピース、チョキ、ちょき、ぶい、ブイ、ヴイ、ピースサイン、Ｖサイン、ｖサイン ［非言語］急げ ［レベル］2　µɒ;ucn/sc「ucn の字のような指の形」 Jⅆ ［文化］ 日本と違って写真にピースはしない。このジェスチャーはハサミを意味し、チョキチョキ切る動作をすることで「時間を切れ→早くしろ、急げ」という意味のジェスチャーになる。

ucnslccɑı ［魔法］五芒指星、ごぼうしせい、ヴィンジュリーファ ［レベル］4　µɒ;/　Jⅆ ［文化］ ５人集めてブイサインを作り、互いの指先同士を合わせて作る五芒星のこと。これは簡易の結界であり、指を合わせただけで魔力や霊力を溜めて放つことができる。この力で封印を作ったり魔法を放ったりユノを撃ったりすることができる。また ucns は「切る」を象徴するため、逆にこの力を使って空間を切り裂き、異世界や異次元に行くことができる。『コープスパーティー』の「幸せのサチコさん」というおまじないがあるが、それと似たような感覚で次元を切り裂くことができる。また、封印を破ることにも使える。　画像はセレンの知り合いの少女らによる五芒指星の結界。

ucnl ［建築］柵、フェンス、囲い、垣根、塀 ［レベル］3　1?: 制 :l̀ıl̀ʃı:ucn 【用例】 µıl̀ ucnl 柵を越える

ucnlleıɟ ［生物］冠動脈　1L: 柵のように囲んでいる動脈

ucnı ［動詞］ɥəl を諦める、諦める、あきらめる ［動詞］ɥəl をする前に止める、やめる、止める。連動詞。無相について、その動作を行う前に止めること。 ［普通動名詞］あきらめ、諦め、ギブアップ ［レベル］2　1L:lcɔn:ucnɟnı（心を捨てる）【用例】 ʃeʃ ʃe ucnı lıɒcı ᴅcl ıµʃ eʃ ɑcını. でも、諦めないで。魔法は存在するのよ。　l̀ıᴅcl, ɑclın ılʃ uc nıʃ ʃə ᴅıdel. 他の人であれば既に諦めていただろう。　ınɟ ucnı ʃeel ᴅcɑl cn. 戯れはここまでのようだ。

ucnıɥə ɥəᴅde ［人名］ヴィナーユ＝ユンペ　J0:ucnıɥə は「男版ナユ」の意味 ［文化］ ラグナロクの卒業生で、シルマインを発明。親がどちらもラグナロクの卒業生で、生まれながらのサラブレッドであった。

ucncᴅl̀ıɒ ［地球の国名］ベナン　1L: 国旗が３色

ucncın ［名詞］三連休 ［レベル］3　µɒ;/　Jⅆ

ucuı ［被服］ジャージ、トラックスーツ ［レベル］3　1ʕ: 制 :ucu（運動）

ucuıcl̀ ［被服］スリーピース ［レベル］6　J1

ucuc ［単位］ヴィヴィ ［レベル］4　古 :ucuc（力強い）［語法］ １メルバの質量を持つ物体に作用して１秒間に秒速１メルフィの速度変化を与える力。ニュートンに近い概念。

ucuc,ɑ　ucen　ɑıcı(uc/uc)

ucucɒ ［魔法］魔晄、ヴィヴィッド ［反意語］ɑlınɟ ［レベル］3　ɑ;e　古 ［文化］ ɒɔlᴅcɥə

ucucɒɑel ［魔法］魔晄学 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɒɔlᴅcɥə

ucucɒµıd ［魔法］調合魔晄学 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɒɔlᴅcɥə

ucucın ［サール］ヴィヴィアン ［形容詞］無病息災な、まったく痛みのない健康な ［類義語］uıln ［反意語］leun ［レベル］3　古 :ucucın ← ucuc/lın（強い人）［文化］ 運動、トレーニング、スポーツなどを司る。 【成句】 ıl ucucın.（試合前の選手などに）頑張って。

ucuɔ,ɑu　ucɔ　uc/uc

ucuɔbıʃʃɔ ［アイテム］ウォーハンマー　ɟᴅ;/「斧メイス」 Jⅆ

ucueɟʃɔ ［言語］三重母音　1L

ucɑɔµ ［音楽］八分音符 ［レベル］4　1L ［文化］ → ɑɔµ

ucɑeı ［野球］三振 ［レベル］3　Jⅆ

ucᴅ ［生物］筋、筋肉 ［レベル］3　µɑ;ucᴅe.l　Jⅆ‹1?: 制 : 古 :ucᴅelc（力の糸）。Jⅆ に「～筋」という単語を今後数百作ることが予想され、造語力の高い形態素ということが分かったため短くする必要が出た。子供が様々な筋肉の名称を覚える前に急いで変えなければ、という理由で ucᴅe から ucᴅ に変更。　ucᴅe:ucᴅe ［語法］ enuelen 【用例】 ucᴅ ucen{lınuc} 強い筋肉　ucᴅ ᴅcnnə しなやかな筋肉

ucᴅucenedᴅ ［運動］筋トレ、筋肉トレーニング ［レベル］3　Jⅆ‹1L:µcɒcı :ıµbılelʃ

ucᴅɑıcz ［医療］筋肉痛 ［レベル］3　Jⅆ‹1L: リディアの書 【用例】 ɑcn ın ʃcl ucᴅɑıcz ᴅclφııl ɑcllea e ʃɔlel, ın ʃcl uıuʃıɟ cᴅ ɑcɟ.... 昨日の持久走のせいで筋肉痛だが、今日はスポーツテストがある……。

ucᴅdınʃ ［生物］筋系　µʃ;/　Jⅆ

ucᴅɥıᴅıʃ ［医療］筋ジストロフィー ［レベル］6　Jⅆ‹1L

ucᴅın ［組み数字］８／１０ ［哲学］胆 ［医療］脾 ［歳時記］己、つちのと ［レベル］4　µɒ;ucᴅın,ɟzl　J1　::lı ucᴅın

ucᴅın,ɟzɒ　uceᴅ。uceᴅ の上で、元は上丹田を指す語だった。ɗu では既に区別が曖昧になり、丹田に　uc/ᴅıcn

ucᴅınl̀ın ［生物］［医療］脾経　ɟzl;/　Jⅆ

ucᴅıµl̀ ［生物］［医療］筋会　µɒ;/　Jⅆ

ucᴅc ［音楽］ワルツ ［レベル］5　1ⅆ: 制 :"Ｅｅｓｔｅ┤ Ｉｎ Ｋｕｋｕ ｌｉ ｅ Ｌｅｍ┤ ｎ♪"「?/ 踊り」

ucᴅccµ ［論理］トリレンマ　1L:ᴅelcɒcı ılʃe

ucᴅɔl̀ ［音楽］八分休符 ［レベル］4　1L ［文化］ → ɑɔµ

ucᴅe,ɑu　ucᴅ　uc/ᴅelc

ucᴅeɟeun ［生物］筋組織　µʃ;/　Jⅆ

ucɒıɟ ［医療］取穴　ɟzɒ;uccɒı/ɟɔ「経穴する」 Jⅆ 【用例】 ɔlcucınʃ ucɒıɟ ıʃ ɑlelφılʃ ı lı. 医者は彼の肩井を取穴した。

ucɒız ［政治］僭主、僭帝、僭王、タイラント ［レベル］5　ɑu;ucuc/ɒıcz「強き王」 J? ［語法］ 本来の皇統、王統の血筋によらず、実力により君主の座を簒奪し、身分を超えて君主となる者。

ucɒızuelɟ ［政治］僭主政治 ［レベル］5　µɒ;/　J?

ucɑc ［植物］クローバー、シロツメクサ、白詰草、白爪草 ［レベル］4 ʃᴅ lıʃıʃı: ３枚の緑 ucɑc:ucɑc ［文化］ → uıɭɭɔʃın ɥʃ の uıɭɭɔʃın で急速に広まった植物。窒素固定ができるため､天然の窒素肥料を生成し、土地を肥やすことができる。またハチミツも採れる。加えて家畜の飼料にもなる。

ucɑcɉ ［医療］［魔法］ヴィード傷→ ʅeı ［レベル］4 ɉ0:uccɑucl ［文化］ ヴィードを帯びた攻撃を食らってできた傷。詳しくは ʅeı。ヴィードによる攻撃は、ヴィードによるバリアを貫ける反面、それによってできた傷はケアの魔法で容易に治すことができる。

ucɑcɉʅ ［普通動名詞］三等分 ［レベル］4 1L

ucɑɔ ［動物］ゴリラ ［レベル］3 lıʃıʃı ［擬声］ ɑɔɑɔɑɔ

ucɑɔlʃ ［地球の国名］チュニジア ［レベル］6 1L: 国章に３つの紋章

ucdı,ɑ ucın uc は力。dı は光るような。

ucɥ ［魔法］赫晄、しゃっこう、ヴィル、魔力 ［名詞］思考力、理力、知的精神力、知的集中力 ［医療］血 ［レベル］1 ɉeɥʃ 1ʕ: 制 : 古 :ɗı（魔力） ɗı:ɗı:lı ucɥ ［文化］ enuelen, ɑccɥə, ɑɔlᴅcɥə 人の体の周りを覆う赤い光で表現される『幻想話集アティーリ』で頻繁に現れる力で、魔法使いや魔導師が操ることができる。ハイレベルの魔力を持った者は自分の体の周りに赤い光を出すことができる。

ucɥʃe ［悪魔］ヴィルテ ［レベル］4 ᴅelʃcı 0:ıɗᴅı;uccɑ/ʃeeᴅɉ 古 :ɥcɑcı :uccɑʃeeᴅɉ を ucɥʃeɉ の音を参考に変えたもの。 ［語法］［文化］ フレスティアとヴァルテとブレイス・クレート、及びそれらの部下であるミダン、ヴェンシート、ソーム、ニムラを加えた総称。

ucɥʃeɉ ［天文］白い月 ［経済］第三四半期→ ueɭɭleʃ ［ユマナ］「音の降る月」。アルバムのひとつ。インストゥルメンタル。 ［レベル］4 古 ［語法］『幻想話集アティーリ』ではルーキーテ皇女の美しさを称えた言葉であるように、白い月は美しいものや神秘的なものを意味する。

ucɥʃeɉʅıɑ ［地球の国名］パキスタン ［レベル］5 1L: 国旗が白い月

ucɥʅ ［ユマナ］太平洋 ［レベル］4 制

ucɥʅ(ɉ) ［物理］入射 ［レベル］4 @ 1L

ucɥʅʃcʅ ［物理］入射角 ［レベル］4 1L

ucɥɑlcʃ ［魔法］魔水晶、ヴィルフリート ［アクセント］ucɥɑl€ʃ ［レベル］5 ɉᴅ;ucɥ/cɑlcʃ ɉ1 ［文化］ cɑlcʃ

ucɥɑ ［名詞］夜、真夜中、深夜。０時～４時 ［類音］uccɑ, uclɑ ［レベル］2 古 :uccɑ,ucɥɑ（下弦の月のころ）。古アルカは対の片方が長音化する法則があった。ɑəɥne に対応するのが uccɑ だから、片割れの uccɑ は長音でなく ucɥɑ だった可能性がある。また、そうでない場合、なぜ uccɑ でなく ucɥɑ が生まれたか疑問だが、恐らく uccɑ（ヴィード）ができたから体よく ɥ をつけて追い出されたのだと思う。 ue l,ɑ uccɑ,ɑu:uccɑ:lı lelce 【用例】 ucɥɑ leeucʅ. 夜が明けた：ɑəɥne は不可。 ʃə ucɥɑ eʃ hıɥʃ enʃɔ ın ᴅɔʅ uın leɑ ɉılıɉ. 今夜は暑いので肌着を脱いで寝よう。

ucɥɑbez ［医療］夜尿症 ［レベル］6 1L

ucɥɥɔn ［魔法］魔圧 ［レベル］5 ɉ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ucɥlccl,ıɥɑ ヴィル粒 /

ucɥıʃı ［生物］三陰交 ɉ1

ucɥıɥʅ ［生物］［医療］血会 ɥɑ;/ ɉɱ

ucɥcəɉ ［名詞］運命の人、運命の相手 ［レベル］4 ɉ0:ucɥɑ/clcɥcəɉ（夜の鏡） ［文化］ いつか結ばれる運命の相手のこと。処女信仰の強いアレイユではふたたび一般的な考えになっている。夜中に水鏡に月を映すと現れるという言い伝えがある。ucɥcəɉ 同士をつなぐのは ɥəᴅc。

ucɥɔ ［化学］［料理］タンパク質、蛋白質、たんぱく質 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ucuclcuɥɔ（強い命）

ucɥɔez ［生物］リボソーム ［レベル］5 ɥʃ;/「タンパク質の部屋」。ＤＮＡから情報を受け取りタンパク質を作ることから。 ɉɱ

ucɥɔezɥıɔdınɑ ［生物］ｒＲＮＡ、リボソームＲＮＡ ɥʃ;/ ɉɱ

ucɥelle ［生物］血海 ɉ1

ucɥelɑe ［生物］ヴィルエルフェ、精神の泉、肩甲骨の内側 ［レベル］6 ɉɉ ［文化］ 肩甲骨の内側、背骨のきわの辺り。広げた手いっぱいくらいの面積。精神を疲労するとここに疲れが出る。自律神経叢がある。パソコンや勉強のしすぎの場合、ここを ᴅcᴅcʅɔ などで暖めると疲れや強張りや胃痛や不眠が和らぐ。

ucz ［動詞］ɥəl に遅刻する、遅刻する、遅延する ［普通動名詞］遅刻、遅延 ［反意語］uıs ［レベル］3 1ɱ: 制 : 語源不詳 ［語法］ lɔd eɉ ucz ɑə ɂ ɑec.（電車が５分遅れとる）は誤り。電車「が」遅れているので、主語は lɔd。動詞は「遅れる」なので ucz。これだけで「電車が遅れている」という意味になる。目的語がなくて不安なら ɉınɔ などを入れる。 【用例】 ın ʅeʃ uılel lını ɑɔnl sɔʅ ɥə ᴅcl ucz. 遅刻で叱られないように急いでいった。 lı ləʃ lənı uczel. 彼はいつも遅れてくる。 ın leeuıʃ ɥı ɑcn ncı ınʃ eɉ ɉeɥcd lılel, ᴅın ın ucz ɉıʃ. 遅刻だったので、髪が濡れたまま家を出た。 lɔd ucz (ɉınɔ) ɑə ɂ ɑec. 電車が５分遅れとる。 lɔd uczıʃeɉ ɉınɔ, ʃıl ın lɔnʃıʃ ɉɔl. 電車が遅れていたがバスに間に合った。 cᴅ ɑcɉ ʃın, lɔd ucz ɉınɔ ɉcn. 今日も電車が遅れてる。

uczɔ ［植物］アシ、葦、芦、蘆 ［レベル］4 lıʃıʃı: 強い草

uczen ［電算］［工学］回路、サーキット ［レベル］4 ɥɑ;uczen,ʅʃ ɉ1:cucɉ. ʅ ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

uczen,ʅʃ ᴅenʅ

ucs ［生物］親指、母指 ［レベル］2 1L:ucʅsc（男の指）親指が大きく、男が女に比べて大きいことから。 【用例】 ［言葉遊び］ᴅcn ılı ʃcl elᴅ e ucʅ. ɉee ʃə eʃ ʃɔɤ ucsɻ 女の人にも男の人の部分があります。どこでしょう？ 親指！

ucsᴅel ［名詞］ラグ、タイムラグ、遅延時間 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɉʔ

ucsoıl ［生物］乳様突起 ɥɑ;/。形が親指に似ていることから。 ɉɱ

ucsoılᴅɥəʃ ［生物］両乳様突起間 ɥɑ;/ ɉɱ

ucsɔn ［動物］セキレイ、鶺鴒、鶺鶲、ニワクナギ、鶺鴒、ニワクナブリ、鶺鴒、イシタタキ、石叩き、石敲き、ニワタタキ、庭叩き、イワタタキ、岩叩き、イシクナギ、石婚ぎ、カワラスズメ、川原雀、オシエドリ、教鳥、コイオシエドリ、恋教鳥、トツギオシエドリ、嫁教鳥、ツツナワセドリ ［レベル］3 ʃᴅ;ɑɔueʃ 鳴き声から。 ɉʔ ［文化］ ɥɑ でアシェットによって制定された国鳥。とりわけキセキレイが美しいとされる。キセキレイは満月から色をもらったと信じられている。
　セキレイの羽ばたきの強さが竜頭印の幼字に記された竜を想起させるため、国鳥とされた。 ＜現実＞ 元妻の処女を奪ったとき、行為中に入れた後動かすってこと知らなくて、俺が動いたら「動くの？」って驚いたんだ。「え、そりゃ動かないと出ないし」と言ったら少し彼女は考えて、「あぁ、古事記であった。仕方が分からないからセキレイがバタバタ動いてしているのを見て、「あぁ、ああやるのか」って知ったっていうシーンがある。そうかそれと同じなのね」処女捨てるときに古事記で例えられた俺は苦笑。人生中で唯一鳥に印象を持った瞬間だった。 地球ではこのエピソードが元になり ɉʔ 年に国鳥とされた。

ucoıʅı ［地球の国名］スロバキア ［レベル］6 1L: 国旗に３つの丘

ucoılcl ［名詞］三椏、みつまた、三また ［交通］三叉路 ［俗語］三股 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɉʔ

ucl ［名詞］不可能 ［法副詞］～できない ［レベル］1 1L:uclɑ（矛盾） 【用例】 ın lɔʅc ucl nıφclc. アルティア語は分かりません。

uclʃ ［医療］［動詞］ɥəl を診察する、診察する、検査する、診療する、診る ［普通動名詞］診察、診療、検査 ［レベル］3 1ɱ: 制 :ucl

uclʃeɥ ［医療］難聴、つんぼ、耳つんぼ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

uclʃez ［医療］診察室 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɉʔ

uclɭ ［医療］感染 ［動詞］ɥəl（病気）を ı（人）に感染させる、感染する ［レベル］3 1ʔ: 制 :uclɭe（病気が行く） 【用例】 ʅɔɑı eɉ uclɭ ı lə ıucl. ＝ lə ıucl ʃcl ʅɔɑı. この患者はインフルエンザに感染している。

uclɭleun ［医療］感染症 ［レベル］3 1L

uclɭcd ［名詞］測定不能 ［形容詞］測定不能な ［レベル］4 ɉʔ

uclɭeı ［医療］［形容詞］不治の、治る見込みのない ［レベル］3 ɉ1

uclɭə ［名詞］聾唖、おし ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

ucllın ［形容詞］不可能、ありえない ［反意語］ɉenlın ［レベル］2 1L:ᴅelc ɑcı ılcɉ

uclɉ ［化学］アミノ酸 ［レベル］5 1L:dııl:ucɥɔ/ıɉl。一部のアミノ酸がタンパク質を作ることからだろう。

uclnɔʃ ［医療］適応障害 ［レベル］5 ul;/「適応できない」 ɉʔ:ɉeɥen/ᴅel

ucluıɑeın ［形容詞］［名詞］無敵、無敵の ［レベル］3 ɉ0:ucl/uıɑe/ın（負けられない）

ucluıɥ ［名詞］［形容詞］不透過性、透過性のない ɥɑ;/ ɉɱ

uclɑıc ［形容詞］不燃 ［レベル］3 ɥɑ;ucl/ɑıc ɉʔ

uclɑɔnl ［形容詞］避けられない、仕方のない、しょうがない、しようのない ［レベル］3 1L:lcɔn

uclᴅ ［動詞］ɥəl を臥せさせる、臥せる、病に伏せる、寝込む、倒れる ［レベル］3 1ɱ: 制 :uclᴅɔʅ ［文化］ lı uclᴅıʃ ᴅcl ʅɔɑı. 彼はインフルエンザで寝込んだ。

uclᴅɔʅ ［医療］不眠症 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ 【用例】 ın nı φıɥu ᴅcl uclᴅɔʅ. 不眠症で苦しんでいる。 "ʃeʃ ᴅcɥɔʅ ɥenɉıʃ ɉɔı e" ɥe cɥə ıɉelcʅ. "nın lı ucl eᴅ ɑcı cᴅ ʃəɔ. lə ʃcl uclᴅɔʅ ʃeɥ"「だけど、カミサマ、言ってたよ」少女が微笑む。「最近は夢を見ることができなくなったって。神さまね、もうあまり眠れないんだって」

uclɑ ［論理］矛盾 ［動詞］ɥəl を ı{ʃel} に対して矛盾させる､矛盾する ［類音］ucɥɑ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :uccɑ。uccnelcɑəɥφı が短くなったもので、uccnelcɑəɥφı は「下弦の月か上弦の月か（＝ソーンかアルシェか）」という意味。どちらの月も同時に出れないことを示し、ソーンとアルシェの共存不可能性を示した。フルミネアが中心となって言い出した語で、アルシェを先に持ってくる ɑəɥφılcuccne という語も同義だったが、結局はこちらが残った。忘れてはいけない過去なのでこの言葉は残した。始めはアシェットの共存不可能性を示したが、やがて文中で直喩として矛盾を意味するようになった。例えば「その問題はアルシェとソーンのように共存不可能だ」のように。そうして矛盾の意を得るようになっていった。 ［文化］ ＜uclɑ と「矛盾」の語源について思うこと＞ 矛盾というのはよく考えると矛の勝ちだ。矛は貫いた時点で目的達成なのだから、あとは自分が壊れても問題ない。一方、盾は貫かれた時点で負け。 ときにアルカで矛盾は uclɑ。語源欄を見るとこっちは言い返しようのない矛盾になっている。 【用例】 ᴅccɥ ʃccl ʃcl uclɑ. 君の理論は矛盾がある。 ᴅccɥ ınʃ eʃ uclɑ ı ʃccl. 僕の案は君と矛盾する。

ucldıɉɔl ［数学］［言語］不可算 ［レベル］5 ɉʔ:ᴅel

ucldıɉɔlnɔl ［数学］不可算集合 ɉʔ:ᴅel

uclhınɔc ［地名］ヴィルハノイ ［レベル］5 ɉ0:ɥcɑcı:「強者の塔」。塔は山のこと。h が X でないのはこの時代ここに住んでいたマレットの方言で既に h 化していたことから。 ［文化］ 古代国家のひとつ。リディアの西。

uclz ［動詞］ɥəl を暗記する、暗記する ［普通動名詞］暗記 ［レベル］3 1ʕ: 制 : 古 :uclɔ（強く知る）

uclı [生物] 抗体、免疫、免疫体、アンチボディ [レベル] 4 1ʔ: 制 : 次に来る同じ病気を殺す 【用例】 ın ʃcl uclı e ʃə ɿɔɑı. この型のインフルエンザの抗体なら持っている。

uclıɒc [経済] 第三次産業 [レベル] 5 1L

uclıφelɒıʃ [政治] 三権分立 [レベル] 4 ɥʃ;uc/lıφel/ɒıʃ 1L [文化] ɥʃ で提唱され、ul から本格的に導入され、ls でレスティミールによる実施がなされた制度。

uclcn [名詞] めくら、盲目 [レベル] 3 1L:ɥcɒcı:ıɥbılelʃ 【用例】 [メタファー] uclcn ɥən eɥcʃ 蝙蝠のように目の悪い

uclcnɑıɥ [物理]不可視光、不可視光線。赤外線や紫外線などの総称。 [レベル] 4 1L

uclccɑı [地球の国名] ブルンジ 1L: 国旗に３つの星

uclccɑı(ɺ) [地球の星座] [ユマナ] 三ツ星 ɺ0 [文化] cɑı

uclɔʃ [遊離副詞] [形容詞] まず [レベル] 1 ɺ0: 古 ucuc/lɔ/ɒ（強く考えられた）→ uclɔʃ [語法] ılǝəʃ 【用例】 lı ɟcl uclɔʃ eɥɒeɟ ɒcıʃ, nɔn lıɥ. きっと良い男に育つわ。

ucleʃ [丁寧] 障害者 [レベル] 3 ɥɒ;ucl/ʃe「不可能な」 ɺʔ [文化] 障害者に対する社会的保護は時代を追うごとに厚くなっていった。ただし戦争の時期などは一時的に福利厚生が悪化した。ıl では街の各所に盲人や聾唖用に点字や電光掲示板といった装置が備え付けられている。 なお、世界番付で障害者の福利厚生が最も盤石な国はエニークである。

ucleɒ [音楽] 三重奏、トリオ [類義語] ıɥɿınɟ [レベル] 5 ɥɒ;/ ɺʔ

ucleeuʃılcʃ [物理] 第三宇宙速度 [レベル] 5 1L

ucı [形容詞] おおよその、約〜、大体の、おおまかな、概して、概〜、大まかな、殆ど、〜に近い、〜ごろ、〜頃、〜くらい、〜ぐらい、〜ほど、〜ほどの、程、程の [名詞] 概数、概要、概説、概略、概論 → ucııl [レベル] 1 ɟɔɥn: 古 lɥı（近い）の l をわざと脱落させて ɥı にしたものが cı になり、cı が既存の語に使われた音形だったので cı にし、母音で始まるので多くの語と同じく u 付与され、ucı になった。 [語法] 概数を表わす。数字の直後に来る。1000 ucı は約千。千人の生徒は 1000 ɑelın。では、千人ほどの生徒の場合はどうかというと。1000 ucı ɑelın である。ucı は数に直接かかる。基数だけでなく序数にも使える。ɑın 10 ucı は十番くらいの生徒。九番かも十一番かもわからない。

ucıɟ [名詞] デモ、デモンストレーション。要求を通そうとして集団で威勢を示すこと。 [レベル] 4 1ʔ: 制 :ɟɔɥn:ucı 元は「進軍する」の意。おおよそを意味する ucı と区別が付かなかったので今回は区別する。 【用例】 ıɥ ucıɟ ɔn 〜のデモをする

ucın [エルト] ヴィアン [レベル] 2 ɑu;ucuc/ɒıcn 古 :ucın ← ucucɒıcn（強い体） [文化] 健康と病気を司る。

ucın(ɺ) [名詞] 力、威力、パワー、フォース [文字] ウェイト、太さ [類義語]enuc [レベル] 2 ɟzɒ ɺ0:ucın 神から ucdı:ucdı:ucın:uc,ılʃ [語法] enuc はアビリティで、能力のこと。ucın はパワーやフォースのこと。魅力は物理的な力ではなく惹きつける能力なので enuc。静電気力はフォースなので、目に見えなくとも ucın。 【成句】 ucnɟ ucın c 〜から力を奪う、力を抜く 【用例】 ʃcl ucın 力がある、強い

ucınʃcɟ [魔法] [ジョブ] 魔法医、ヴィアンティス ɑu;ucın/lınʃcɟ ɺʔ [文化] uıcn

ucınɿı [物理] 力点 [レベル] 4 ɺ0

ucınɑel [物理] 力学 [レベル] 4 ɺ1

ucınoıız [物理] 力のモーメント [レベル] 5 ɺ1

ucınıɟəʃ [物理] ボース粒子、ボゾン、ボソン [反意語] ʃəlıɟəʃ ul;/ ɺʔ

ucıɥɿ [化学] 三重結合 1L

ucıleʃ [魔法] 雄晄（ゆうこう）、ヴィアレット [類音] bcıleʃ [レベル] 6 ɺ0: 男性の晄基 [文化] ɒɔlɒcɥə

ucıleʃɥecn [魔法] 雄晄線 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

ucııl [数学] 概数 [レベル] 3 1L

ucc [名詞] 古アルカの３ [レベル] 3 赤→ ɟcɒııl

ucc,lɟɿ ʔ ucuɔ.ɿ

uccʃ [形容詞] 険しい、けわしい、優しくない、厳しい、つらい、辛い [類義語] ɿcn [レベル] 3 ɺ1;ucl/ʃe ɺ1 [語法] ɿcn より精神的な意味合いが強い。 【用例】 eleʃ uccʃ 険しい表情 × oıl uccʃ → oıl ɿcn 険しい山

uccɿ [動詞] ɥəl（ヴィード）を燃焼する、燃焼する [生物] [医療] 代謝 [類義語]ɑecl [レベル] 4 1L:ɥcɒcı:uccɒ/ɿelɟ [文化] 燃焼することでヴィードは一時的に減るが、魔法を撃つなど様々な効果を発揮する。また、古いヴィードを循環させることで、ヴィードの新陳代謝もできる。

uccl [名詞]明け方、早朝。４〜８時。 [レベル] 2 1L:ɟɔɥn: 古 uccnelıl（下弦の月が残っている） 【用例】 ın ɿe lıɑ ʃeɒɿ cɒ uccl e ɿeɟʃ enʃɔ ın ɒɔɿ uın ɟeɟclel. lcɒcıɼ 明日は早朝から⊠蔵に行かねばならないのでそろそろ寝る。おやすみ。

uccɟ [料理] レトルト [レベル] 3 lıɿʃı

uccnʃ [約物] ...、... 記号、…。余韻を示す。 [レベル] 3 ɺ1

uccnɔ [工学] サイボーグ、強化人間 [レベル] 3 ɺ1:ucen の属格

uccne [サール] ヴィーネ。下弦の月を司るサール。ユーマの最後の夫 [名詞] ヴィーネ。ソーンの団体名の別名。 [天文] 下弦の月、下弦 [名詞] 西 [音楽] デクレッシェンド、ディミヌエンド、ディクレッシェンド [組み数字] 7/ 8 [レベル] 2 ɒelʃcı ɻ:uccne;e lelʃ:uccne [文化] lelʃeel, ɒəəɥφı 【用例】 uccne ɿıen sın ʃ'ılıɟ eʃ lınʃ ʃcn ı.... 西の空の下弦の月が何と綺麗なことか。

uccne(ɺ) [地名] ヴィーネ圏 [レベル] 4 ɺ0 [文化] ɒəəɥφı

uccnelcl [化学] ロジウム 1Δ: 制

uccɑı [人名]ヴィーファ [組み数字] 2/ 1 5 [レベル] 4 ɿıɿɔ: 古 :（雷） [文化] メテの第２使徒。

uccɑılcl [化学] トリウム 1Δ: 制

uccɒın [地球の国名] セントビンセントおよびグレナディーン諸島 1L: 国旗に３つのひし形

uccɒ [魔法]幻晄、げんこう、ヴィード [ユマナ]マナ。魔法の源。 [形容詞] ヴィードを伴う、魔法、魔法の、魔法を使った [反意語] ıIueɒ、ɥeeu [レベル] 1 ɑ;e 古 :ɥcɒcı:ucucɒ などと同じく「力」を語源とする。夜に強くなるから ucɥɒ(uccɒ) と関係があるという説もある。夜に強くなるのは魔力だが、当時は uccɒ 論がきちんと成立していないので魔力と混同されていた。そのため、ありえる語源説である。ɺ0 年までは魔晄と訳された。 [語法] ɒɔlɒcɥə アルマ・ユノ・ヴィル・ノアの総称。対語は体力を意味するレーヴ。 レーヴは体格や性別によっておおむね決まり、同じ体格なら個人差は少ない。英雄も一般人も同程度である。どんなに体を鍛えてもたかが知れている。 一方、ヴィードは一般人と英雄では雲泥の差である。 レーヴは値が低く、０になると死ぬ。そこでレーヴが傷つかないよう、体をユノで守って戦う。そこで、ＲＰＧでいうところのＨＰはレーヴでなくむしろユノに当たる。レーヴは最終的な生死を分けるため、ＨＰよりもライフポイントとして、ＬＰと呼ぶのが妥当である。 魔力のヴィルはＭＰと訳すのが自然だろう。気力のノアは運動性能を高めたり格闘技の威力を上げたりするのに使うが、クリスのように技として繰り出すこともできるため、技ポイントとしてＷＰとするのが適切だろう。 従って、ＲＰＧで譬えると、レーヴ、ユノ、ヴィル、ノアの順に、ＬＰ、ＨＰ、ＭＰ、ＷＰに相当する。 |約 1ʔ9 億年前|エネルギーである ıɥɒı が分解を起こし、ɥənɔ,ucɥ,nɔı に分かれる。これら 0 種を総称して uccɒ という| 【用例】 uccɒ ʃ'ıɗɒı lı ʃə ɒıɒc. アルマのヴィードがこの指輪に宿っている。

uccɒ,ɑu ɒəɥne, ucɥɒ uccne/ɒəəɥφı

uccɒʃcɑl [魔法] 脱晄 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒʃcl [魔法] 帯晄 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒʃclel [魔法] 帯晄現象 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒʃɔɿɔ [魔法] 偏晄 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒʃɔɿɔl [魔法] 偏晄現象 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒʃəɿı [魔法] ヴィード場 ls:ɟeɥen;/ ɺʔ

uccɒuıɿ [魔法] 幻晄武具 [レベル] 5 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒɑlcʃ [魔法] 放晄 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒɑlcʃel [魔法] 放晄現象 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒɑel [魔法] ヴィード学→ ɒɔlɒcɥə [レベル] 4 ɥɒ;/ ɺʔ

uccɒɥɔn [魔法] 晄圧 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒɥen [地学] コランダム [レベル] 4 ɒelʃcı 10:lənɔ;uccɒ/ɥen 1L: ユノ・ヴィル・ノアの宝石がそれぞれサファイア・ルビー・エメラルドであることから。ちなみにアルマの宝石はアレキサンドライト。

uccɒɥecn [魔法] 幻晄線 [レベル] 6 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒzcɔl [魔法] 解析魔晄学 [レベル] 5 ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

uccɒlccl,ıɥɒ ヴィード粒 /

uccɒı [生物] [医療] 腧穴、しゅけつ [生物] [医療] つぼ、ツボ、経穴← ılucɒ [レベル] 4 ɑu;uccɒ.ɿ 1ʕ: 制 :uccɒ uccɒı:uccɒı: lə uccɒı [語法] [文化] 鍼灸などのつぼ。人間の体表にあり、そこを刺激することでヴィードを高めたり流れをよくしたりできる点。 骨と肉の間にあり、たいていは窪んでいる。痩せ型のほうがツボを見つけやすい傾向にある。 ɥɒ まではシージア語で分かりにくかったため、セレンらがアルカに訳した。現在アルバザードで知られている名はアルカのもの。 地球には２０１３年現在ＷＨＯが定めた３６１穴があるが、アトラスではアルバザードが定めた３６６穴がある。代表的なもの、つまり要穴は７０〜１００程度と多くない。 一般にツボは経穴と言われることが多いが、経穴は経脈上のツボを指しているのでツボより意味が狭い。ツボを専門的に言うと経穴ではなく腧穴である。腧穴の中に経穴と奇穴と阿是穴があり、東洋医はそれらを使い分けている。ただアルバザードでも民間人は経穴が有名なため腧穴と経穴の区別ができておらず、ılucɒ のことも uccɒı と言ってしまう。言い換えれば uccɒı は腧穴なのに実際はより狭い経穴の意味で使われることが多く、経穴を専門に指す ılucɒ という語が使われることは知識人以外の間ではあまりない。 なお、奇穴とは臨床で用いられる鍼灸理論体系とは別の腧穴であり、地球では新穴ともいう。奇穴と新穴の違いは、１９０１年以降に定められたものが新穴でそれ以外が奇穴というだけなので実質同じもので、だからアルカでは奇穴も新穴も区別がない。 阿是穴は圧痛部や硬結がある場所や陥凹している場所や敏感になっている点のことで、人によっても日時によっても場所が変化する。日本では昨今トリガーポイントと呼ばれているものと事実上同じである。

uccɒeɒɔ [生物] 湧泉 ɺ1

uccɒelle [生物] 命門 ɺ1

uccd [動物] セミ、蝉 [レベル] 3 1٩: 制 :ɥcɒcı:lıɿʃı: セミの声から。虫だから d を付けた。

uccz [アイテム] ヴィーズ [レベル] 4 ɥcɒcı: 古 :uccɒzıɒɔn（ヴィードの杖） [文化] ヴァストリアの１つ。レレゾナのもつ神杖。

uccz(ɺ) [人名] ヴィーズ ɺ1 [文化] ɒɔlɒcɥə

ucɔ(ɺ) [アイテム] 斧 [レベル] 2 10: 制 : 古 :ucuɔ ucuɔ:ucuɔ

ucɔ(ʔ) ［人名］オヴィの略称 ［組み数字］２/ ２８ ［レベル］１ 1ϥ: 制 :ſeɔlɔ n:ucc が斧だから。
ucɔſ ［単位］ジョ（漢字が文字化けするのでカタカナ） Ɉ1:uceſ
ucɔɭnueɭɭ ［政治］三頭政治 ［レベル］５ Ɉ0
ucɔuınſcɭ ［軍事］斧兵 ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı
ucɔɑıınbezı ［化学］トリメチルアミン（基官能） 1L
ucɔɥcſ ［化学］３価のアルコール 1L
ucɔɥenɭ ［名詞］単刀直入 ［レベル］４ ɈɈ:「オヴィの言葉」
ucɔlıɭ ［名詞］猪突猛進 ［レベル］３ ɈɈ:「オヴィの手」
ucɔın ［化学］プロパン ［レベル］５ 1L:ɥɣəə
ucɔın(Ɉ) ［ジョブ］斧使い ［レベル］４ 1L:ɥcɑcı
ucɔınucɔɥcſ ［化学］グリセリン ［レベル］５ 1L
ucɔcn ［化学］プロペン ［レベル］５ 1L:ɥɣəə
uceſ ［動物］ライオン、獅子 ［メタファー］［形容詞］偉大な ［メタファー］交番勤務の警察官。縄張りを周り、敵（犯罪者）を見つけ次第捕まえることから。 ［組み数字］１/ ５ ［レベル］２ 1ʔ: 制 :lıՈſı:ucucɿeſſɔ（強い猫） ::lə ɑlıɒ ［擬声］ φɔɦɦɦ（甘え）、φıɔɦɦɦ（威嚇） ［文化］ uceſɥecn 偉大な動物、百獣の王とされる。 【成句】 leɑ e uceſ 竜頭蛇尾。ライオンの足は最初は速いが後は遅いことから。
uceՈıɑ ［地球の国名］ガンビア 1L: 国章にライオン
uceՈcıl ［地球の国名］シンガポール ［レベル］６ 1L: サンスクリットでライオンの街
uceſɥecn ［組み数字］獅子賞 ［レベル］５ Ɉ1 ［文化］ → ɥıdıll 暇を持て余した神々の遊び。zφ でアルミヴァのサールの面々が集まり、獣を捕らえて戦わせた。ティクノは竜を出し、ポエンはライオンを出した。ヴァルゾンは鷲で、フェンゼルは虎。ネルメスは馬にしようとしたが戦闘向きでないと判断し、代わりに狼を捕まえた。ティーテルは獣を捕まえようとしたが怖くなり、ハチミツでクマを手なずけた。勝敗の結果は竜、獅子、狼、鷲、虎、熊の順となった。しかし竜はアデルではないかと物言いが付いた。正義漢なティクノは単に強い動物を連れてきただけで、不正を働く気はもとよりなかった。そこで素直に非を認め、座を辞した。こうして五獣が定まった。
uceſoıl ［地球の国名］シエラレオネ 1L: 国名がライオンの山
uceſcɑı ［地球の星座］［ユマナ］しし座 ɈՈ ［文化］ cɑı
uceɿ ［名詞］重心 ［レベル］４ 1L:uceɒ/ʌı 【用例】 ɩıl uceɿ 重心を保つ ɿɔɿɿı uceɿ 重心を取る
ucen ［形容詞］強い、強力な ［動詞］ɥəl を鍛える、鍛える、強くする、強化する ［音楽］フォルテ ［類義語］ɿınuc、nııu、ɑɥeın、ɒıcſe、ıluc ［反意語］cun ɥɑ ［レベル］１ 古 :ucen（多能な）← ucucen（強い / できる） uc, ucuc:uc, ucuc:uın 【成句】 ɿɥɔ ucen 強がる、強がり 【用例】 ıɥſ ucen ıՈı eſ ɦəəɿccſe ız ɦıcɑı ɭec. 一番強い魔法はルーキーテだろうか、あるいはライファだろうか。 ［メタファー］ucen ɥən uceſ ライオンのように強い
ucenՈɿ ［非言語］ガッツポーズ ［レベル］３ 1L:ɒelcɑcı ıɩſe 【用例】 lə ıɥcɿ ucenՈɿ ɔɿ "ıɩƪ" 彼は「よし！」と言ってガッツポーズを組んだ。 ucenՈɿ ɿɔl 片腕でガッツポーズ
ucenɿɥɔ ［普通動名詞］強がり、つよがり ［類義語］ſelɑ ［レベル］３ ɥɑ;/ Ɉʔ
ucenɿlıd ［美容］ダッカールピン Ɉ1
ucenɿıɑ ［政治］大国、強国、先進国 ［レベル］３ 1L ［語法］ アルバザード、ルティア、メティオの３国の ıՈɿıɑ、それ以外の uecnɿıɑ に分かれる。
ucenɭıdn ［気象］高気圧 ［レベル］３ 1L
ucenuenſ ［経済］大企業、大業界 ［レベル］４ 1L
ucenɥeՈ ［名詞］ボス敵 ［レベル］３ Ɉ0
uceni ［丁寧］［親族］ご子息、御子息、息子さん、ヴィエナ ［レベル］２ Ɉ1:ucenɒcuı（強い子） ［文化］ lıılı
ucenıleɒ ［名詞］想い、思い、思い入れ、強い気持ち ［レベル］３ Ɉ0
ucencun ［音楽］フォルテピアノ 1L
uceneſ ［名詞］強み ［魔法］半減 ［類義語］hızeleſ ［反意語］cuneſ ［レベル］３ Ɉ1 ［語法］ uceneſ は強み。得意とする分野や性質や現象など。hızeleſ は uceneſ ほど得意ではないが得意なもの。馬が合うとか向いているといった程度。 ［文化］ ɑɔlɒcɥə 【用例】 ın ſcl uceneſ ɑel nɔɭ eſ eɥɑe. イケメンだという強みがある。
ucenen ［名詞］強者、持つもの、持つ者 ［レベル］３ ɥɑ;/ Ɉʔ
uceneɒ ［動詞］ɥəl を強める、強める、強くする、強化する、鍛える ［名詞］強化 ［言語］強意 ［レベル］３ Ɉ0
uceneɥcu ［医療］高血圧 ［レベル］３ 1L
uceɒ ［生物］丹田 ［レベル］４ ɑ:elſ;uc/ɒıcn 古 :uccɑ/eɒɔ ::ucɒın ［文化］ へその下にあるが、丹田という臓器があるわけではない。体の中心で、運動をするときも瞑想をするときも重視される。 【成句】 bıɑ uceɒ 丹田を打つ。キレて相手に殴りかかる直前などにアルバザード人が行う動作。しばしばフッと息を短く吐く。強制的に腹に力を込めることで気合を入れ、恐怖心などを一瞬にして消すことができ、戦闘モードに入ることができる。格闘技でいうところの強制的に瞬間的な息吹をするようなものである。 【用例】 uceɒ ɑın しっかりした丹田、強い腹 ɑecl nɔı ɿı uceɒ 気合を入れる
uceɒɔ ［数学］立方根 ［レベル］５ 1L
uceɑ ［動詞］ɥəl を蹴る、蹴る、キックする ［普通動名詞］蹴り、キック ［反意語］bıɔφ ［レベル］２ @ 1L 【成句】 uceɑınɑ ıɿɭ 地団駄を踏む 【用例】 uceɑ neɿel 蹴り上げる
uceɑφeɿ ［運動］サッカー ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleıſ ［文化］ 野球と同じ扱い。ルールも大体日本と同じ。相手のゴールにボールを入れれば一点。手はボールに触れない。 【用例】 ınɭ ıɥıſ uceɑφeɿ ɑə 10 ɑec ucı cɒ hıɥdncın. 私たちは昼休みに１０分くらいサッカーをした。
uceɥ ［名詞］命令 ［動詞］ɥəl を ı に命令する、命令する、命ずる ［レベル］２ 1L:lcɔn:ucen/ɥe 【成句】 uceɥ e ɥɭcclı 鶴の一声 【用例】 ☆ ın hı ıɭıſ ſeel uceɥ. 私は言われたとおりにしなければならなかった。 lı uceɥıſ ın ɿe. 彼は私に行くよう命じた。
uceɥuɔɿ ［言語］命令文 ［レベル］４ 1L
uceɥɒıɭ ［法律］令状、逮捕令状など ［レベル］４ 1L
ucəoe ［植物］パンジー、三色スミレ、ハートシーズ、ビオラトリコロール ［レベル］３ 1Ո: 制 : 学名の３色スミレを訳したもの。
uɔſɭ ［法律］条項 ［レベル］５ 1ʔ: 制 :uɔſ（文）
uɔſeɒ ［悪魔］ヴォテム ［レベル］４ ɒelſcı 0:ıɦɒı;uɔ（uc から来ており、力の意）/ſeeɒɭ「力のある悪魔」 古 :uɔ(Ո)/ſeɒ（テームス） ［語法］［文化］ アルマの下位にある４匹の悪魔。ユノ・ヴィル・ノアをそれぞれ司る。具体的にはフレスティア・ヴァルテ・ブレイス・クレートの総称。
uɔɿ ［言語］文、センテンス ［電算］ステートメント ［反意語］ueſ ［レベル］２ @ 1L 【用例】 uɔɿ clɒ{uıcɿ} 全文 { 一部、抄 } ſə uɔɿ eſ ſcı ɭecȣ この文は正しいのだろうか？
uɔɿɿı ［名詞］繁忙 ［形容詞］忙しい ［反意語］ueɿ ［レベル］２ ɭɔɥn:uɔɿɿı（仕事が多い） ［語法］ ueɿ 【成句】 ſc ſəɥ uɔɿɿı ɭecȣ ちょっといい？、今忙しい？ 【用例】 ın ɿıdıſ ucl ı lı ɒcl uɔɿɿı ſcnɿı. あまりに忙しくて彼に電話できなかった。 ın ıſ uɔɿɿı cɒ ɑcɭ. 今日はやることが多かった。 ın ıſ uɔɿɿı ſcn ɒcl lıb. 仕事に埋もれていた。 ın ıſ uɔɿɿı ɥən cɭlıl. ばたばたと忙しかった。 ın ıſ uɔɿɿı enſɔ ɭɔ ɭen ɥəə ſcl lıb. 忙しくて身動きが取れなかった。 ın ıſ uɔɿɿı ɒın ſcl lıb ɑc ſcnɿı. 今日は仕事が多くてとても忙しかった。 ın ɭɔ ɭen ɥəə ɒcl uɔɿɿı cɒ ſəɔ. 忙しくて最近何もできない。
uɔɿɭelɒ ［言語］文中 ［レベル］４ ɈɈ
uɔɿɑel ［言語］統語論 ［レベル］６ 1L
uɔɿɒ ［単位］虚空 ［レベル］４ Ɉ1:ueɿɒ
uɔɿheſ ［言語］文末 ［レベル］４ ɈɈ
uɔɿɔɭn ［言語］文頭 ［レベル］４ ɈɈ
uɔl ［名詞］意志、意図 ［形容詞］意図的な、故意の ［副詞］意図的に、わざと、態と、故意に、元々～するつもりで : ɿɔn uɔl でもよい。 ［レベル］２ 1Ո: 制 : 古 :uə 【用例】 uɔl ucen{ɑın} 固い意志 ın en ɭɔſ uɔlel. そんなつもりはなかった。
uɔln ［生物］細胞 ［レベル］３ 1Ո: 制 : 古 :lcuɥɔɥəlclɔ（生命の家）
uɔlnſınſeɭc ［生物］細胞外液。ほぼ血漿のこと。Ｎａ＋やＣｌ－が多い。 ɥſ;/ ɈՈ
uɔlnſcɒ ［生物］細胞核 ［レベル］４ Ɉ0
uɔlnɭcı ［生物］細胞膜 ［レベル］４ 1L
uɔlnɭɔu ［生物］細胞間質 ɥſ;/ ɈՈ
uɔlnncıl ［生物］中間径フィラメント ɥſ;/ 細胞骨格内で柱の役目を果たして細胞の形をキープすることから。 ɈՈ
uɔlnuıɥeɭc ［生物］経細胞液、細胞通過液 ɥſ;/ ɈՈ
uɔlnuecɿ ［生物］細胞質 ［レベル］４ 1L
uɔlnuecɿhɔ ［生物］細胞骨格 ɥſ;/「細胞質の骨」 ɈՈ
uɔlnuecɿeɭc ［生物］細胞質基質、細胞質ゾル、サイトゾル、細胞礎質 ɥſ;/「細胞質液」 ɈՈ
uɔlnuecɿelɒ ［生物］細胞小器官 ɥſ;/「細胞質器官」 ɈՈ
uɔlnaɔnſ ［生物］微小管、チューブリン ɥſ;/ 細胞骨格の中心から放射状に伸びる道路のようなもので、細胞内の物質移動にこの道を使うことから。 ɈՈ
uɔlnɒıſ ［生物］細胞分裂 ［レベル］５ 1L
uɔlnɑılɒ ［生物］アクチンフィラメント ɥſ;/ 細胞骨格のうち、細胞膜の近くに存在し、細胞膜が凹まないためのテントのような役割をすることから。 ɈՈ
uɔlndɔſeɭc ［生物］細胞内液。Ｋ＋やリン酸イオンが多い。 ɥſ;/ ɈՈ
uɔlnbıl ［生物］細胞壁 ［レベル］４ 1L
uɔlnleɿɭ ［生物］後形質（副形質） 1L
uɔlnıɑl ［生物］ゴルジ体、ゴルジ装置、ゴルジ複合体、網状体 ［レベル］５ ɥſ;uɔln/ıɑՈı。細胞内にあり、リボソームで作られたタンパク質を加工・修飾・濃縮するところであることから。 ɈՈ
uɔlɑıc ［法律］放火 ［レベル］３ Ɉ0:ɒelcɑcı lceɥ: 意図的な火 【用例】 lı ɑɔɭıſ ɥə ɔn ɑcz ɑel uɔlɑıc ɥıɭen ʔ. 彼は３件放火した罪で捕まった。 ɑıc cՈı uɔlel ビルに放火する el ſıɑ ɒeɒ ɒeɥ ɔl ıɥɿ uıſıcՈı ɭecn e uɔlɑıc. ɭee ſə lı ɭeel ſə ɒeɒ lel ɥı ınſ. 連続放火の出火地点を線で結べば真ん丸だ 円の中心 僕の家（伊集院光・深夜の馬鹿力）
uɔɭʅ ［動詞］ɥəl の完成を努力する、努力する、努める、尽力する、奮闘する、情熱を注ぐ、一生懸命する、腕によりをかける、気合をいれてする、はりきる、張り切る ［副詞］努力して、一生懸命、一所懸命、はりきって、張り切って ［普通動名詞］努力、尽力、奮闘、一生懸命、粉骨砕身 ［レベル］３ 1Ո: 制 : 恣意 【成句】 ɔɿ{ɿɔn} uɔɭʅ ıՈı かろうじて、辛うじて、どうにか uɔɭʅ ſɭeſſı elɑ el. 努力は人を裏切らない。 【用例】 ☆ ın ɿəſ elɑ ɑc uɔɭʅel ɒın ın ſcl ɿəlılı ɔn ɿəɔ. 口に食べ物

を入れたまま喋らないよう努力した。 ɪn ɉɔ uɪn uɔɉlel ɒɪn ɪn ɉɔlɉ µcɉ lɪɪɉ ɑcueµ ɪn. 彼らを失望させないように一生懸命やるつもりだ。 cl uɔɉl ɑe ʃµɪn əl beµcl. 努力に貴賤はない (ɉeµen ɪµbɪzɪµɑ)

uɔɉlɪn ［名詞］努力家、努力屋 ［レベル］3 µɑ;/ Ɉʔ

uɔn ［名詞］古アルカの４ ［レベル］3 赤→ ɉcɑɪll

uɔn,lɉl ɱ uɔl.l

uɔnʃ ［魔法］ユノ波 ［動詞］ɥəl にユノを撃つ、撃つ ［レベル］4 古 :uɔ は魔法を打つの意味。 ［語法］ 光線のように連続した形でユノを撃つ場合は uɔnʃ。弾丸のように単発の形でユノを撃つ場合は uɔl。

uɔnʃɔbezɪcµɔɉ ［化学］四級アンモニウムイオン 1L

uɔnɉ ［動詞］ɥəl という内容を ı と協力する、協力する、力をあわせる、連携する、協調する ［普通動名詞］協力、連携、連帯、協調 ［形容詞］（uɔnɉɪn で）協調的な、協力的な。uɔnɉɪn ［名詞］協力、連携 ［レベル］3 lɪlʃɪ:uɔnɉ（協力）【用例】 uɪɉ lcnɉ uɔnɉel 協力して悪魔と戦う

uɔnɉlɪɑ ［地球の国名］アンドラ 1L: 国の標語Ｖｉｒｔｕｓ Ｕｎｉｔａ Ｆｏｒｔｉｏｒ（力を合わせれば、強くなる）から

uɔnɉɒclɉ ［音楽］重唱 ［レベル］4 Ɉ1

uɔnz ［医療］膠原病 ［レベル］6 1L:uɔln/ɑɪcz

uɔnl ［名詞］のみ、鑿 ［レベル］3 1ʔ: 制 :zɪnɪ: 古 :uɔnlɪɪ（４人殺せる）。鑿を使えば４人は殺せるという話から。

uɔnɪ ［名詞］趣旨、趣意 ［レベル］3 µɑ;uɔl/lɪnɪ Ɉʔ

uɔnɪn ［化学］ブタン ［レベル］5 1L:µɥəə

uɔnɪnʃɪʃ ［化学］ブタノン 1L

uɔnɪnləzɪɉl ［化学］酪酸、ブタン酸 1L

uɔnɪuɪnʃ ［法律］趣旨法 ［レベル］4 ul:ɒcµɔl;/ Ɉʔ ［文化］ 旧革命で法を簡素化するために制定された法。法の記述を短くし、国民の理解を助け、なおかつ法の抜け道を潰すためのもの。 ミロクはそれまでの法が読みづらく分かりづらく抜け道があることを嘆いていた。日本で例えるとこうだ。とある麻薬が禁止されると、それの法の網をかいくぐって合法ドラッグができる。すると今度はそのドラッグを取り締まる。するとさらに新しいドラッグが生まれる。同じく、ダウンロードサイトを潰しても匿名掲示板を潰しても別のサイトができるだけで、すぐ新しい悪の芽が出てしまう。 そこでミロクは趣旨法というのを作った。条文にその法律の趣旨を書いておく。例えば「要するに勝手に人の作ったものをタダでダウンロードしたら商売が成り立たなくなるから、そういうのは禁止な」というように、分かりやすく趣旨を書いておく。すると抜け道もクソもなく、禁止されたサイトはもちろんそれに準ずるものであれば自動で取り締まれる。ドラッグについても同様で、「要するに麻薬的なのをやめろっつってんだよ。それっぽいもんは全部しょっぴくからな」と条文に書いておけば良い。脱法ドラッグのようなふざけたものはこれで潰せる。「言葉尻捉えて脱法ドラッグとか作ってんじゃねーぞ。実質同じ麻薬類だったら捕まえるからな。お前こっちの趣旨分かってんのか？ 麻薬的なものを取り締まろうとしてるんだから、今回禁止したものと少し成分が違うくらいなら同じなんだよ。趣旨分かってんのかてめぇ」と言って違反者を捕まえることができる。 要するに大事なのは条文の言葉尻ではなく、何を制限したいのかという趣旨である。その趣旨を意図的に曖昧にしておくことで法の解釈を広げ、準じた犯罪を捕まえることができる。逆に言えば準じた犯罪は捕まるのでそもそもそんなふざけたことができなくなる。 これが趣旨法である。ミロクは趣旨法を定め、各法律の趣旨に反することであれば逮捕できるとした。このデメリットは警察の拡大解釈により悪戯に犯罪者を増やすことで、ミロクの死後徐々に警察による恣意的な拡大解釈が行われたため、ıl で事実上廃案となった。 しかし革命で再度採用され、脚光を浴びるようになった。革命後は警察の拡大解釈に気をつけつつ運用することとなった。ul と比べて社会が複雑化していたため、趣旨法がないと脱法が簡単に行え、趣旨を無視した法の網をかいくぐる行為が簡単に行えた。そこでセレンは怒り、趣旨分かってんのかてめぇと言って趣旨法を復権させた。 【用例】 ɑɔɉɪʃ ɥə ɒɪn ʃelɪʃ uɔnɪuɪnʃ ɔnen ɑɪnl 麻薬の趣旨法違反で逮捕された

uɔφ ［名詞］錆、さび、サビ、錆び ［動詞］ɥəl を錆びさせる、さびる、錆びる、酸化する、リンゴなどが赤くなる、桃などが茶色くなる。桃のはもちろん錆ではないが。 ［形容詞］さびた、錆びた ［レベル］3 1ʕ: 制 :uɔµʃ/φc ɒɪʃɪlɔφc:ɒɪʃɪlɔφc 【成句】 ɑµec uɔφ ʃcl ennɪ uɔφ 錆びた剣には錆びた鞘：割れ鍋に閉じ蓋、われ鍋にとじ蓋 【用例】 ɒccl eɉ uɔφ ɒɪdel ı. リンゴがもう赤くなってるわ。

uɔφɉeʃ ［名詞］錆取り ［レベル］4 1L ［語法］ uɔφɑɔnl は錆ないようにするもの。uɔφɉeʃ は錆を取るためのもの。

uɔφɑɔnl ［化学］酸化防止剤 ［レベル］5 1L

uɔµʃ ［名詞］死 ［動詞］ɉɔl は ɥəl の様態で死ぬ、死ぬ、朽ちる、朽ち果てる、亡くなる、死亡する ［普通動名詞］死亡 ［魔法］ヴォルト（デス）。闇の高位魔法。相手を死亡させる魔法。セレスを肉体から引き剥がす効果がある。死神が魂を奪う能力を魔法で再現したもの。 ［レベル］1 µɑ;uɪɪµʃ.l 1ɱ: 制 :uɪµʃ:ɉɔµn:「偉大な魔法」。元は uɪɪµʃ。10 年の「この世に生を受けることは最も偉大な魔法によってなされたことである」というクミールの言葉が語源で、そこから「偉大な魔法 uɪɪµʃ」＝「現世に生まれること」になった。 ɒɪʃɪlɔ,ɑ lɪɪʃɔ,ɑu, lɪɪ,ɑ:lɪɪʃɔ::ɒɪɥə,ɪlʃ 【成句】 ı uɔµʃ 死ぬまで、死ぬほど、～した結果死んでしまう uɔµʃ lccɪ 甘く死ぬ：「軽く死んだ」とでも訳せばいいか、アシェット男子が lɪɪlc と古アルカで言っていたもの。日本語でいうとｏｒｚな状態とでもいうべきか。 ɥən uɔµʃ 死にそうな、半死半生 【用例】 lɪ uɔµʃɪʃ (ɒcl) leun. 彼は病気で死んだ。 lɪ uɔµʃɪʃ ɑəɔl. 彼はひどい有様で死んだ。 ɪn nɪʃ eɒʃ ɒcl uɔµʃ lɪɪʃ. 彼の死で悲しんだ。 uɔµʃ ɪlɪd {xləlɪn} 餓死する

uɔµʃlɔu ［名詞］柩、棺、ひつぎ、棺桶、棺おけ ［類義語］lɔddel ［レベル］3 1ɥ: 制 : 死の箱 ［文化］ 頭側が６角形の上半分の形。脚側に行くにつれ、棺桶の幅は狭くなる。脚側はふつうの箱と同じく四角い。顔の部分に小窓が付いている。木製。

uɔµʃɉel ［名詞］命日 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

uɔµʃɉeleɉ ［魔法］死霊 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉʔ ［語法］ 死者の霊魂。

uɔµʃɉeleɉɔɒ ［魔法］死霊術。アンデットを作る魔術。 µɑ;/ Ɉɱ

uɔµʃuɪleɉ ［普通動名詞］死姦、屍姦 ［動詞］ɥəl を死姦する、死姦する ［レベル］4 µɑ;/「死を犯す」 Ɉʔ

uɔµʃucl ［医療］致命傷、クリティカル、クリティカルヒット ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

uɔµʃuell ［名詞］断末魔 ［レベル］4 ɈɈ

uɔµʃɑeɒe ［医療］死亡期 ［レベル］4 ɈɈ ［文化］ アルバザードでは性器期の後に体全体の死について笑う時期が来ると考えられている。 アルバザードでは人間は年代によって笑うツボがあるとされている。子供のころは排泄物のネタ、大人になると下ネタで笑うようになるのはこのため。本来人間にとって避けたく不快なことであるが、傷口を弄りたくなったり、傷口がかゆくて掻くと心地良いのと同じで、傷口を抉るようなネタだと不快に感じるが、掻くようなネタだと心がくすぐったくて笑えるとアルバザード人は感じる。 アルカで「いたいねー」と言ったら「かたはらいたし」の意味ではなく、ネタが直接的で下品という意味。「かゆいわー」だとネタが中途半端ですっきりしないという意味。eɉcleʃ だとちょうど気持ち良いネタという意味。

uɔµʃɒɪn ［医療］死因 ［レベル］3 1ʕ: 制

uɔµʃɒɪcn ［名詞］死体、躯、骸、むくろ、遺体 ［レベル］3 1L

uɔµʃlɪnφ ［医療］死ぬ権利 ［レベル］5 ls:ɉeµen;/ Ɉʔ ［文化］ ls でセレンが提唱した概念。革命前のアルバザードは高齢化社会になっており、医療も中途半端に進んでいた。ウイルスは倒せないし癌などの病気も簡単に完治できない医療レベルでしかないわりに、延命治療だけは可能で、寝たきりや植物状態の患者が多くおり、長々と苦しんで死んでいくことが多かった。 これに対して ıl 辺りから安楽死を主張する者が出てきたが、あくまで少数派でしかなく、安楽死は自殺の幇助として犯罪とされていた。中途半端な医療に安楽死の非合法が相まって、高齢者の医療費は年々肥大するばかりで、社会福祉を圧迫していた。 一方、健全な若者の中にも経済的な理由など様々な理由から死を望む声があり、自殺や他人を巻き込んだファイナルアタックが跡を絶たなかった。 セレンは人が苦しんで死ぬのは蛮族のやることであり、文明の遅れを示すものだと断じた。セレンは人には安らかに苦しまずに自分の死を選べる特権があり、それは人権のひとつだと考えた。そこで死ぬ権利というのを提唱し、健康だろうが病気だろうが、人は死にたいときに安らかに死ぬ権利があると主張した。まして長患いで苦しんで死ぬくらいなら、楽に死なせてやったほうがマシだと主張した。 ところが人権団体や医療団体がこれに猛反対した。後者は安楽死施設が整備されることで薬品の売上が減少したり、病院の売上が減少することを嫌った。だが表向きにはその本音を隠し、いやしくもセレンの案に反対した。患者の苦しみよりも自分たちの利益を優先させたわけである。 これにセレンは怒り、患者のことを真に考えない者の何が医療人かと激しく糾弾した。セレンはむろん苦しんででも長生きしたいという人間を安楽死施設に送り込むようなことは考えていなかった。あくまで健常者であろうが病人であろうがいつでも人は自分の死を選ぶ権利があると主張したわけである。 セレンの主張はごく少数の人間に受け入れられたが、人権団体を始めとした利権団体の反対にあい、言論封殺されていた。 革命でセレンが力を付けると、セレンは今まで自分を無視してコケにしてきた連中に復讐を開始した。かつて自分に反抗した利権団体は尽く粛清し、死ぬ権利を実現させ、安楽死施設を全国に配備した。これにより ls に入って初めて人は楽に合法にそして文明的に死ぬことができるようになった。

uɔµʃlcul ［医療］死産 ［レベル］3 1L

uɔµʃleun ［医療］致命的な病、不治の病 ［レベル］3 1L:clɒəɉ:µcɑcɪ

uɔµʃɪn ［名詞］死者、死人 ［レベル］3 Ɉ1 【成句】 hɪɔ uɔµʃɪn lɪnʃ ucl hel, ʃɪl ɉɔlɉ ɉen. 確かに死者は手紙を出さぬ。しかし死亡通知を人に送らせる要因にはなる：便りのないのはよい便り leɑ e uɔµʃɪn 死者の息：風前のともしび

uɔµʃclɒ ［娯楽］デスノート ［レベル］4 Ɉ1 ［文化］『デスノート』に相当するアニメ。

uɔµʃɔl ［魔物］ヴォルトック（死殻）：第七十七天：邪の巨天 ［レベル］5 1L:µcɑcɪ/ɉeµen/ɒel:uɔµʃ/hɔl ［文化］ 魚族。巨大な貝のモンスター。水面に飛び上って攻撃することもある。また、洞窟など、水気の少ないところでも生息することができる。湿気が多く暗いところなら生息可能。貝を開けて魔法を放つ。貝を閉じた状態だと、最強の防御力を誇る。

uɔµʃedc ［名詞］死亡フラグ ［レベル］4 ɈɈ

uɔµle ［娯楽］ヴォルシェ。４人用の賭けゲーム。 ［レベル］4 古 :uɔɔl e,uɔnlelʃ「４シェルト」が語源。 ［文化］ ４人でやるシェルトのようなゲーム。実際は麻雀のようなゲーム。L ～ 10 年にテオロンによって製作された。ザナとオヴィが主幹で、セレンとギルが手伝ったという経緯で、リュウは誘ったが参加しなかった。頭の良いメルとしっかり者のリディアがセレンに呼ばれて手伝ったため、いい加減なルールが整然なものにされた。

uɔµɒ ［名詞］ヴォルム人形、精巧なダッチワイフ ［名詞］若い女性の死体 ［レベル］4 1ɥ:ɒel:uɔµʃɒɪc（死体） ［語法］ よくできたダッチワイフのこと。レイユの時代にテステェル社によって作られた商標の１つ。感触が女の死体にそっくりで、人間のようであることから名付けられた。動かない点を除けばほぼ人間と同じ精巧さを持つ。テス

テェル社の開発部が精巧なダッチワイフを作るため、少女らを監禁し、死体をも研究対象とした。同研究によりヴォルム人形は完成したが、事件の発覚とともにテステェル社の開発部は粛清された。だが商品価値が高かったため技術は継承され、ヴォルム人形は流布された。 【用例】 lɪnɪ uɔɲɒ l'eȷ ʅɔɪ ɪl ɪldɔnȷɪɒɔ, ɪn lea enzel ʅɔnʃ ɪlcu eȷʃ ləəʃ. 回収車に積まれたダッチワイフを、名前叫んで追いかけて（伊集院光）

uɔz ［アイテム］弓、洋弓 ［類義語］lecun ［反意語］ues ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :uɔzɪɒɔ uɔzɪɒɔ:uɔzɪɒɔ:lə ȷcʅleʃ:uɪn,ɪlʃ ueeze,uɔzɪɒɔ

uɔzʅɪɑ ［地球の国名］トーゴ ʅL: 国章に弓を持った獣

uɔzuɪnʃcȷ ［軍事］弓兵、アーチャー、弩兵 ［レベル］5 ʅL:ɥcɑcɪ

uɔzlɪȷ ［弓道］弓手、ゆんで。ふつう左手。 ɥɑ;/。「弓の手」 ȷⅡ

uɔzɪn ［ジョブ］弓手、射手、アーチャー ［レベル］5 ʅL:ɥcɑcɪ ［語法］兵士の場合は uɔzuɪnʃcȷ。こちらは個人のジョブ。

uɔzɪncaɪ ［地球の星座］［ユマナ］いて座 ȷⅡ ［文化］ caɪ

uɔzɪɒɔ ［地名］ヴォザモ ［レベル］5 ʅʔ: 制 : 古 :uɔzɪɒɔ（弓）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァリナの支配地。

uɔzɪɒɔ(ȷ) ［アトラスの国家］ヴォザモ ［レベル］4 制 ［文化］ 面積 : ʕʔLⅡʕ1.ΔʔLΔLʕ ʅɒ ȷ

uɔzɪɒɔ,au uɔz uc/zɪɒɔ

uɔzɔɒ ［運動］弓道 ［類義語］lecuenʃ ［レベル］4 ȷ0

uɔs ［医療］大便、糞、ふん、フン、うんこ、うんち ［反意語］bez ［レベル］3 @ ʅL ［語法］ 形式ばった言い方。大便に相当。 【成句】 el ȷɪʅ ȷen ʅəɒ ɔl ȷɪʅ uɔs 糞があるということは動物がいるということだ : 火の無い所に煙は立たぬ

uɔslɪȷl ［被服］パンタフル ɥɑ;/ ȷⅡ ［文化］ ȷɒ でできた。糞便処理の仕事をする人が足を汚さないよう履いた靴。

uɔl ［格詞］〜することによって ［レベル］2 ʅL: 恣意 : 参 :ɥəl:ʅʔ:ȷeɥen:ʅle l:ɥə/əl ［語法］ 主節の動詞の具体的な内容を説明する節を作る格詞。従って主節の動詞と内容的に同じものが来る。 【用例】 ɪn neʃɪʃ lɪ uɔl bɪɑ lɪ ʅɔn dez. 彼をスリッパで叩き起こした。

uɔl,au bɔlʃ uc/ɪl

uɔlʃ ［形容詞］具体的な ［名詞］具象 ［動詞］ɥəl を表現する、表現する ［普通動名詞］現像、表現 ［名詞］表現。科目名→ aeldɪnʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に現像する、現像する ［反意語］ueɥʅ ［レベル］3 ʅʔ: 制 :uelʃ（抽象）:ȷɔɥn ［語法］ ビデオなどの再生は ʅeʅl。 【用例】 uɔlʃ ɪleɒ 感情を表現する ɪleɒ uɔlʃ 具体的な感情

uɔlʃjeleȷ ［魔法］思念体 ［レベル］5 ȷȷ

uɔlʃenuc ［名詞］表現力 ［レベル］3 ʅL:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ

uɔlʅ ［魔法］ユノ弾 ［動詞］ɥəl にユノを撃ち出す、撃つ ［レベル］4 古 :uɔ は魔法を打つの意味。ʅ は「動いて行く」 ［語法］ uɔnʃ 【成句】 ʃɪ ɪɑel ʅɔn ʅɔ uɔlʅ 一石二鳥

uɔll ［形容詞］大切な、深刻な、重大な、真剣な、重症な、重度の、シリアスな ［反意語］ueɥȷ ȷɔɥn ［レベル］2 ʅʔ: 制 :ȷɔɥn（重要な＝uɔla）。アルシェでは ʃlɪɪl。 ʃlɪɪl:ʃlɪɪl:uɔll 【用例】 φcl eʃ uɔll en ɪʅlɪl. 金が一番重要というわけではない。

uɔllʅɪ ［名詞］要所、要点 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷⅡ

uɔllucl̡ȷ ［化学］人に必要な約２０種ほどのアミノ酸のこと（必須アミノ酸ではない）。８種の必須アミノ酸は lcɥuclȷ。 ［レベル］5 ʅL

uɔlluccaɪ ［生物］［医療］要穴 ɥɑ;/ ȷⅡ ［文化］ 特に重要な経穴のこと。１００ほどある。

uɔllhɪcʅɪ ［法律］高等裁判所 ［レベル］4 ȷȷ

uɔllɪʃc ［名詞］重要性、重要さ ［レベル］3 ȷ1

uɔlȷ ［名詞］条件 ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 語源不詳 ::dlɪnze 【成句】 hɪɪȷ uɔlȷ ɑel 〜の条件下で 【用例】 uɔlȷ ɥɪʃ 好条件 ɪn acʃ uɪn uɔlȷ ɪ ʃc. 君に条件がある。 ʅɪl uɔlȷ 条件を満たす ʃəuɪl uɔlȷ 条件を概ね満たす ȷɪɪ ɑccn, ʃə ʅɪɑ ʅɪleȷ ʃəəȷ uɔlȷ cɒ ʃəɥ, ʃeʃ el scnȷ ucl ʃə ȷɔ ȷcl ɪz ɒcl ɥəə ȷeɥ ȷcl e ɥəɒɪnɪ ʃcȷȷe. まぁ、いずれにせよユマナの未来のことは分からないから、今現在の話でしかないんだけど。

uɔlȷaeȷn ［法律］保釈 ［動詞］ɥəl を c から保釈する、保釈する ［レベル］5 ɥɑ;/「条件付き解放」 ȷʔ

uɔln ［サール］ヴォルン ［名詞］混沌、カオス、無秩序 ［反意語］ʅlees ［レベル］4 古 :ʅɒccɥ ［文化］ 混沌を起こすサール。

uɔlncʃ ［物理］エントロピー ［レベル］5 ʅL: 無秩序の度合い

uɔlɑ ［経済］［動詞］ɥəl を c からローンで借りる、借りる ［普通動名詞］ローン ［レベル］3 @ ʅL:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ ueɥφ

uɔlφ,ȷzɑ ɥəʅʅɔ

uɔled ［言語］構文 ［レベル］4 ɥɑ;/ ↓ ȷʔ:ɒel:uɔʅ/leed

uɔledzɔɒ ［言語］構文木 ɥɑ:ɒel;/ ȷʔ:ɒel

uɔɪ ［化学］原子核、核 ［レベル］5 ȷɔɥn

uɔɪlcl ［軍事］核実験 ［レベル］4 ʅL

uɔɪȷ ［名詞］［形容詞］複数 ［反意語］ueȷ ［レベル］3 ȷɔɥn:uɔɪȷ（組）

uɔɪȷɒcnʃcʅɔɪɒcɥ ［法律］一夫多妻、一夫多妻制 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷⅡ ［文化］ ʅɔɒcnʃcʅɔɪɒcɥ

uɔɪȷhɪnʅ ［生物］重層 ɥʃ;/ ȷⅡ

uɔɪȷhɪnʅȷczφɔʃe ［生物］重層扁平上皮。皮膚、口腔、食道などに見られる。 ɥʃ;/ ȷⅡ

uɔɪȷhɪnʅncɪlφɔʃe ［生物］重層円柱上皮。結膜に見られる。 ɥʃ;/ ȷⅡ

uɔɪnɔl ［物理］［化学］原子核融合、核融合 ［反意語］uɔɪɒɪʃ ［レベル］5 ul;/ ȷⅡ

uɔɪuɪʅ ［軍事］核兵器 ［レベル］4 ʅL

uɔɪuɪȷ ［軍事］核戦争 ［レベル］4 ʅL

uɔɪucɪn ［物理］［化学］核力 ［レベル］6 ul;/ ȷⅡ ［語法］ 原子核同士が引き合う力（核力）。

uɔɪacʅ ［軍事］核爆弾 ［レベル］4 ʅL

uɔɪɒɪʃ ［物理］［化学］核分裂反応、核分裂 ［反意語］uɔɪnɔl ［レベル］5 ul;/ ȷⅡ

uɔɪdcʃ ［物理］［化学］核種 ul;/ ȷⅡ

uɔɪɥeu ［物理］［化学］核反応 ［レベル］6 ul;/ ȷⅡ ［語法］ 核分裂と核融合の総称。

uɔɪɥ ［物理］原子炉 ［レベル］5 ʅʔ: 制 : 原子核機

uɔe ［名詞］民族、エスニック ［形容詞］民族の、民族的な ［レベル］3 ȷɔɥn

uɔeʃ ［名詞］民族性 ［レベル］3 ȷ0:uɔe/cʃ ［文化］ 民族性　　ユーマの一族の祖であるガルヴェーユ人をシフェルとマレットに大別すると、陽と陰に分けられる。　シフェルはリュディアとファルファニアに、マレットはシージアとファベルに分けられる。また、シージアはさらに北部のシェリーと南部のプレディスに分けられる。　　・リュディア人　好戦的で気性が激しい。ふだんはファルファニア人より大人しく思慮深いが、キレやすく、怒ると手がつけられない。合理的で論理的だが、戦闘時は獰猛で、性格は残忍。神の血が最も濃い。　　・ファルファニア人　陽気で明るくうるさい。人懐こい性格。　　・シージア・シェリー人　思慮深く知的。緊張しやすくプライドが高い。　争いを好まないが、自分の環境に侵入されると激しく抵抗する。　感情の起伏が少なく、疲れやすい。　　・シージア・プレディス人　大人しくゆったりしてのんびりしている。緊張しにくく、全体的に柔らかい。　物事に執着せず、神経質にもならない。争いごとが嫌い。　メディアン、スカルディア、はてはカテージュにまで血が継承されている。　　・ファベル人　朴訥として黙々と作業する。　コツコツタイプ。　　歴史のメインを刻むリュディア人は、この後さらに細かい民族に分化していく。　→ルカリア人、アルディアル人、スカルディア人、ミュール人　　このうちルカリア人はさらにトールとフレティスに分かれる。　スカルディアはプレディスと混ざり、ミュールは大陸が沈没したため、残り３民族について述べる。　　・トール人　ねばならない思考で、緊張しやすく、軍の統率力は高い。そのわりに日常生活では自尊心が高く、意見がまとまらず、一人で行動する。有事の際には一転結束する点で合理的。　好戦的で支配欲が強く、自我が強い。性格はまっすぐで直情的。基本的にバカ正直で、屈折した正義感の持ち主が多い。　攻撃的な面は陽だが、社交性は陰で、真面目な分、鬱になりやすい。　　・フレティス人　人を食ったような態度の上から目線で、他人をよくからかって試す。　レスティル人に比べ受け流してかわす性格で、若干意地悪。　直情的なレスティル人と相性が悪い。　　・アルディアル人　リュディア人の中で最も陰で、引きこもりがちで争いを好まない。　他者を受け入れない姿勢があり、鎖国的で外国人に攻撃的なところはリュディア人らしい。

uɔeleɒ ［音楽］民謡 ［レベル］3 ȷ1

ueʃ ［言語］語、単語 ［名詞］用語 ［反意語］uɔʅ ［レベル］2 古 ueʃ:ueʃ:ueʃ:ʅən,ɪlʃ 【用例】 ueʃ acl 長い単語 ueʃ led 難語

ueʃʃɔɒ ［言語］語中 ［レベル］4 ȷ0

ueʃʃe ［形容詞］［ネガティブ］小ざかしい、こざかしい、小賢しい、こずるい ［類義語］lele ［レベル］3 ȷ0:uecφ/ʃe

ueʃʅlel ［言語］辞書、ことば典→ ʅlel ［レベル］4 ȷ0: 単語の辞書

ueʃȷɪȷ ［言語］語順 ［レベル］4 ȷ0

ueʃnca ［言語］単語レベル、語彙レベル ［レベル］4 ȷ0 ［文化］ アルバザードでは一般的に単語レベルは１〜７まである。　英和辞典と英英辞典では単語レベルの付け方が異なる。ɑcʅlel は二言語辞典だが、レベル付けは英英式を採用している。例えば黒板やチョークは大抵英和だと重要語になっているが、これは学校英語の影響による。実際アメリカ人はそれほどこれらの単語を使わない。英和式は現実の使用頻度に則していないことがよくある。そこで英英式を採用している。　　・旧案　　便宜上、アルバザードのネイティブの語彙レベルを併記する。ただしアルバザードの学齢でいうと分かりづらいだろうから、日本での学齢で記した。　併記したのは理解語彙でなく使用語彙の目安。語彙数は個人によってかなり異なるのであくまで目安のひとつとされたい。なお一般に理解語彙は使用語彙の３倍程度と言われている。　使用語彙といっても細則まで知っているかまでは問わない。例えば冬至やアデミナを知っていても、その順番までは知らないのがアルバザード人でもふつうである。　１:１０００語 : 幼稚園レベル。機能語や挨拶語や最低限の名詞・動詞・形容詞。英検４級（中学２年レベル）の１３００語にほぼ相等。　２ : ３０００語 : 小学校低学年レベル。日常的な単語。家庭で使うことが多い。レベル２まで覚えると英検準２級（高校２年レベル）の３６００語にほぼ相等。　３ : ５０００語 : 小学校高学年レベル。やや難しい日常語。会社や屋外で使うことが多い。　４:８０００語: 中学校レベル。難しい日常語。ふつうの人にとっては口語で使う語彙のうち最も難しいレベル。学校やニュースで使うことが多い。英検準１（大学２年レベル）の７５００〜８０００にほぼ相等。　５ : １２０００語 : 高校レベル。やや専門的な言葉。小難しい本を読むのに必要な単語。英検準１と１級の間程度。大学や新聞で使うことが多い。新聞が５でニュースが４なのは、新聞のほうが専門性が高くニュースのほうが一般に向けたものという大まかな枠組みのほか、耳で聞くニュースは一般に語彙レベルを下げる傾向にあるため。　６ : １６０００語 : 大学レベル。かなり専門的な言葉。各専門分野の概説レベル。英検１級の１５０００語レベル以上に相等。ふつう

に生きていれば生涯知らない単語も散見される。　７：１６０００語以上：専門家レベル。専門的な言葉。主に学術用語や業界のジャーゴンや符牒度の高い隠語からなる。口頭で使われる機会は少ない。ふつうに生きていれば生涯知らない単語のほうが多い。　　レベル４まで覚えれば日常生活に支障はないため、ノンネイティブの最大努力目標はここに設定される。レベル５まで覚えれば新聞やニュースや教科書でよく使われるレベルの語彙が獲得できる。　　・新案　　実際にレベル付けは何度も挫折したりデータが消失したりした作業である。制アルカのときに一度ＰＤＩＣのレベル機能でレベルを付けをしたことがあったが、データをＰＤＩＣ一行形式に変えたときに消失する設定にしかできない仕様だったのでデータが消失してしまったことがある。　そこで今回は機能に頼らずじかに辞書の本文にレベルデータを書くことにした。実施年度は２０１２年で、同完了である。　　旧案をもとに作業をしようとしたが、問題があるので止めた。例えば５０００語でレベル３を区切るとする。その後新語ができてレベル３の単語ができたとする。すると５００１語になってしまうので３の中からひとつ４に繰り上げないといけない。すると将棋倒しで４の中から５，５から６，６から７というように修正が連鎖する。これが不便で、覚えた単語のレベルが変わってしまう恐れがあるので非現実的だった。　しかもこの方法ではいったんレベル３を５０００語集めるのに偉い手間がかかる。とりあえず最初は任意にレベルを付ける。結果、２０１２年１１月２０日の辞典でレベル１が８４８語であり、２００近く足りない。レベル２は３０００語レベルなのでレベル１が１０００語ということを合わせて考えるとその間の語数は２０００語となるが、同日付での統計ではレベル２は２７５４語もあり、７００以上足が出ている。このうち２００近くを足りない１に回して残りを３に繰り上げるなどという作業を延々レベル７まで繰り返さなければならない。これは大変労力がかかる。その上、上記で述べた新語登録の際の繰り上げ問題があり、旧案は実用的ではないと知った。　　そこで新案では日本人で言う赤ちゃんから幼稚園レベル、小学校低学年レベル、高学年レベル、中学校レベル、高校レベル、大学レベル、専門用語の７段階に分けた。　ネイティブのルシアがまだ５才だったことと、彼女の語彙の獲得が平均的な子どもと異なっていたこと、例えば数学などをかなり先に覚えていたこと、などが原因で、ルシアはインフォーマントとしては利用できなかった。　そこでまず訳語の日本語を読んでセレンがその単語をいつ覚えたかでレベルを付けた。例えば議院内閣制なら中学の公民でやるので４になる。　ただしセレンもルシア同様プログラムや言語学などはかなり子供のころから知識があり、逆に美容や被服などには疎かった。そこでセレンの主観にならないよう、周りの日本人の語彙獲得を参考にした。　これだけだと日本語の辞書になってしまうので、アルバザードの文化と照らしあわせた。つまり、日本では一般的だがアルバザードではそうでないという場合、レベルを高くした。逆に日本ではそんなでもないがアルバザードでは一般的という場合はレベルを低くした。　こうしてアルカのレベル付けとしてふさわしい辞書ができた。　旧案であった語数については気にしないことにした。　語数などどうでもよく、むしろ重要なのはどの学齢までにおおよそどの単語を履修してあるべきかということであった。　レベル２を何語レベルとするのは荒唐無稽である。それよりも小学校低学年までに何を覚えているべきかというレベルの付け方のほうが有意義だし実用的である。そこで新案はこのようになった。以下に日本人の学齢に訳したレベル付けを記す。アルバザードの学齢で書いても分かりにくいので、このようにした。何年生までに覚えているべき単語かということがすぐに分かる。　　１：赤ちゃんから幼稚園まで　２：小学校低学年　３：小学校高学年　４：中学校　５：高校　６：大学　７：専門用語　　意外と多いのがレベル２と３だが、よく考えれば子供の語彙力と照らし合わせるとそんなものかなと納得できる語数である。２０１２年１１月２０日の段階で、１７０００強あり、そのうち１が８４８で2が２７５４で３が４５０９である。合わせて８０００。現在、１７０００語のうち半数近くの８０００語が小学校レベルといえる。そして小学生の語彙数は理解語彙か使用語彙か、あるいは計測方法に変わりもするが、あるサイトでは５千～２万語と書かれているので、おおよそ当てはまる。　　とりあえずアルカのユーザーがやっておきたいのは２までである。２までやれば現在のルシア程度には喋れることになる。　アシェットの関係者は４までできればおよそ日常生活には困らないのではないだろうか。というのも、日本でいう義務教育レベルに達しているからである。　ちなみに現在４が３４１４なので、大体１７０００のうち４までで１１５００程度になる。これは存外多い。英検でいうと１級が１２０００語レベルと言われているので、ほぼそれに匹敵する。存外多い。というか１２０００だと母語だとかなり少ないレベルで、英検が逆に敷居が低いのかもしれない。　なお、今は全体が１７０００しかないので４までで１２０００ほどとなっているが、今後全体が増えれば当然４までの総数も増えていくと思われる。

uefael ［言語］形態論　［レベル］6　1L

uefɒɔɒȷ ［言語］語源　［レベル］4　1ᚨ: 制

uefhef ［言語］語尾　［レベル］4　J0

uefɥɔlɔɒ ［言語］語法　［レベル］4　19　［語法］　eɥec

uefɥıd ［言語］コロケーション　［レベル］5　J0　［文化］　アルカは人工言語であり、ɥɑ で２８ヶ国のメンバーからなるアシェットで使用され発達してきた。アルカの作者セレンはコロケーションが言語ごとに異なることに注目し、どの母語話者でも一意的な解釈ができ誤解がないよう､「論理的」で「最大公約数的」なコロケーション作りをした。その結果、未来でカルディアの国際語として機能する人工言語にまで昇華していった。　　食べ過ぎる:ˀəc ɥılel　よく働く:lıb ɥınel(きちんと働く)，ˀılɒı lıb（頻繁に働く），lıb aıɥfel（熱心に働く）→全て言い分けます。　よく走る：fə ıɒɔ ˀe ɥıfel（この車は性能よく走る），lea fılel（速く走る），ˀılɒı lea（しばしば走る）→全て言い分けます。　少し歩く：ləl aenel, ləl ɑə ˀıl（短く歩く）→これは時間か距離か分からないので、言い分ける場合は ləl aɔl ɒel aen, ləl ɒɥəf aen のようにします。　よく喋る：ˀə elɔȷel（流暢に喋る），ˀə ɑcl（たくさん話す）→全て言い分けます　　アシェットの人々はしばしば文脈で判断してくれないというか、判断した結果が誤解になりがちなので、上記のように言い分けて一意的な解釈を促している。　アルカは現実では本来芸術言語なのでこういう設計にする必要はないのだが、無駄に環境が国際補助語的なので、国際補助語として使用できるような性能になっている。

ueflıɑ ［言語］［動詞］ɥəl を造語する、造語する　［普通動名詞］造語　［レベル］5　1ɱ: 制：語を作る

ueflıɑın ［言語］造語者　［レベル］5　1L　［語法］　本辞典における造語者について。　＜主な造語者＞　　無記名→ ȷeɥen による造語。　ȷɔɥn →古ソーン・アルカにおいてソーンが造語したもの。あるいは制以降にソーンが制アルカとして造語したもの。ないし、新生においてソーンが新生アルカとして造語したもの。　ılef →アシェットの誰が造語したかよく分かっていないもの。　その他具体的な人名→その人名の人が造語者。　　「初」「先」「古」「制」などは成立年の年代名であって造語者とは関係ない。　「赤」などは文献名であって造語者とは関係ない。　　＜無記名について補足＞　　地球の語源では無記名は原則 ȷeɥen。　アトラスの語源では、ɥɑ のうち ɒel 1J_JJ で無記名なら原則 ȷeɥen。それ以外なら ȷelın（市井の人々）。　＜タグごとの補足＞　　［数学］：無記名であっても主にリュウとパールにリディアによる。　［化学］：無記名であっても主にリュウとパールとリディアによる。　［物理］［生物］［動物］［植物］：通常通り　［医療］：無記名の場合、病名は原則としてリュウとパール（ただし 1L 年の専門語彙拡充前にあった単語については、無記名ならセレン）。化学と異なり、「リュウかパール」ではない。リディアはほぼノータッチ。医薬品はセレン。　［地学］：鉱物はリディア。　［美容］［被服］化粧や髪型や服装などは J1 末に大量の未登録をリディアに指摘され、幻幻から輸入した。年号は元の単語の年数にかかわらず、一律 J1 として輸入してある。ソースとなった単語群に関しては幻幻は幻日ほど神経質で丁寧でなく、細かい年号の記述が不明なものが多々あったため。これらの単語について幻日で造語者名がない場合、デフォルトは ɥcɑcı になるかと思う。　［経済］JJ の場合、無標は ȷeɥen ではなく幻英からの転記で、原則として造語者不明（というより書式がいい加減で採録していないケースが多かった）。恐らくほとんどは ɥcɑcı, ɥɥəə, lcczı のいずれかと思われる。一部は欠損（案外証券取引所のような基本的なものにも欠損があった）ため、JJ の一斉転記時にリディアらが造語したものもある。

ueflıɑenuc ［言語］造語能力　［レベル］6　ɥɑ　J?

uefIɔIf ［娯楽］クロスワードパズル　［レベル］4　J0: 言葉パズル　［文化］　ジグソーパズルなどに並んでよく行われる暇つぶし。子供が語彙を増やすときの手助けにもなる。仕組みは地球にあるものと同じ。

ueflec ［名詞］単語帳　［レベル］4　ɥɑ;/　J?

ueflıɥl ［娯楽］しりとり、尻取り　［レベル］2　1ſ: 制　［語法］　単語を順番に言い合っていき、レパートリーが尽きた方が負けという言葉遊び。使用できるのは単語だけで、句以上は不可。形態素も使えない。遊び方は次の通り。まず誰かが適当な単語を言う。次の人はその単語の最後の音から始まる単語を言い、また次の人に回す。こうしている内にレパートリーがなくなった者が負けて勝負から離脱する。最後まで残っていた者が勝者。この遊びはネイティブ相手だとふつう最後まで続く前に飽きて止める。そもそもこの遊びの価値は言葉遊びを通じて語の習得を促進させることである。ところでアルカには ɥ,o で終わる語がないので、ɥ,o で始まる語はこのゲームに参加できないが、特別ルールを認めれば ɥ は c から、o は ə から繋ぐことができる。例えば ıɥɑə を oıl に繋ぐように。

uefıll ［言語］語数　［レベル］4　J0

uefc ［言語］品詞　［レベル］3　1ſ: 制 :uef から　［語法］　内容語と機能語を合わせた総称。新生アルカには７種ある。

uefɔȷn ［言語］語頭　［レベル］4　J0

uefeɑı ［言語］単語リスト、単語表　［レベル］4　JJ

ue) ［名詞］暇、退屈　［形容詞］暇な、退屈な、お手すき　［反意語］uɔ)ˀı　［レベル］2　1?: 制 :uɔ)（忙しい）　［語法］　日本と真逆で、アルバザードは暇のほうが忙しいよりもプライドが立つ。日本の場合「暇ですか」と聞くと特にオフィスなどでは嫌な顔をされる。真面目に働いてないだろとみなされるからである。アルバザードだと逆に「忙しいですか」は特にプライベートで嫌がられる。余裕のない人ですねとみなされたと思うからである。従って誘うときは fc ɑe ue) ˀɔl8（暇じゃないですよね）が適切で、fc ɑe uɔ)ˀı8 はそれほど気を使っていない（ただし、丁寧でないというレベルでもない）。日本人がオフィスで「暇ですか」と聞かれて「暇です」と答えることがないように､アルバザード人は特に女の子に「暇ですか」と聞かれて「忙しいです」と答えることはまずない。もしそう答えたとしたら、本気で忙しい場合を除き、その子に魅力を感じていないことになる。　【成句】　cɒ ȷılı ef{eɒ} ue)　お手すきの際に、お手すきの時に、お手すきの間に

ue)f ［形容詞］後天的な、アポステリオリ　［反意語］aelef　［レベル］5　1?: 制 :ȷɔɥn:ue)fıȷ（後天性疾患）　［語法］［文化］　aelef

ue)fleucın ［言語］アポステリオリ人工言語　ɥɑ　JJ ［文化］　・アルカがピジンからアポステリオリを経てアプリオリに至るまで　　９１年当初、アルカは日本語とフィンランド語のピジンだった。その後英語などが混ざっていった。メルの参入後にアプリオリな音象徴からオノマトペを経由してアプリオリの単語が生まれた。　その後も古アルカ～前期制アルカまでアポステリオリの単語が流入していた。中期制アルカでアポステリオリの単語を全て排他し、新生に至る。　　・実はアポステリオリな単語　　アルカ自身は純粋性を保つためにアプリオリにしているが、凪霧などには個人的な思い入れを持たせてあり、いくぶんアポステリオリの要素が残っている。　凪霧には日本人の女性のような単語が多いが、実際セレンの人生で印象

的だった女性の名である。　ʅɔzəe：佐藤こずえ。セレンが小５のころ片想いしていた少女。リディアとほぼ同時期に出会っている。セレンの引越し後もしばしばセレンに手紙を送ってくれた。　ɥəəʅɔ：村上裕子。セレンが大４で付き合っていた元塾の生徒。後の妻、リディア、メルらとセレンを争奪し合い、史上最悪の４股を形成し、後にセレンは友人に「ヤンデレ製造機」と呼ばれるようになった。
　ɥəʅc：瀬井ゆき（恐らくひらがなで良かったと思う）。セレンが小３で初めて付き合った女子。左隣りの席の子で、社会の宿題の商品に貼ってあるレッテル集めを街で行った際にペアワークをし、仲良くなって付き合うことになった。セレンは親のベッドに彼女を連れ込み、当時セックスを知らなかったので挿入まではしなかったがペッティングをした。その前にセレンに自分のことを好きかと聞いてきたのでそこそこしたたかな子である。綺麗な顔で背が高くて細くて目が細くて大人しくていじめられっ子で、後の妻とすこぶるよく似た少女だった。　ıɥıʅı：須藤あやか（漢字不明。あやこだった可能性すらあり）セレンが幼稚園の年長で二番目に好きになったひとつ年下の幼女。　ʅıȷɒc：かすみ（漢字不明。苗字不明)。１９９８年１１月１９日（木）にセレンが幼馴染のヴァールと地元の航空公園を歩いていたときに発見した迷子の２歳の女の子。ヴァールが警察へ走り、セレンが抱っこして母親を探した。結局警察が来る前に母親が見つかり、引き渡した。その際に名前と年齢を聞いた。　oıʅını：若菜。大学時代にセレンが恋した９歳の少女。セレンを振った唯一の女の子。

ueʃʃıɥʅleucın ［言語］アポステリオリ国際補助語　ʃʃ

ueʃʃɔn ［人名］ヴェクトン　［組み数字］7／１３　［天文］ヴェクトン座　［レベル］３　先 :ınɔeʅeʃɔɔ　［文化］　第４期３代ソーン第７使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ueʅɒ ［動物］カラス、からす、烏　［レベル］２　ʅʔ: 制 : 古 :ueɒʅəʃɔ「闇の鳥」［文化］　邪悪な鳥と考えられている。ごみを荒らしたりするので害鳥とされ、役所が処分する。

ueʅɒlɔhɔ ［アイテム］バシネット　ɥɑ;/「カラスの顔のような兜」　ʃʃ　［文化］　ȷɒ で作られた。

ueʅɒcɑı ［地球の星座］［ユマナ］からす座　ʃʃ　［文化］　cɑı

ueʅe ［動詞］ɥəl を c から引退させる、引退する、隠居する　［再帰動名詞］引退、隠居　［レベル］４　ʅʔ: 制 : 古 :ueɒʅeʃʃı（闇に行く）

ueʅʃ ［名詞］氷　［動詞］ɥəl を ı（箱など）に氷漬けにする、氷で敷き詰める、氷をまぶす、氷を置く、氷を乗せる、氷で包む　［魔法］ヴェシュト。水の高位黒魔法。敵を凍らせる。　［レベル］１　ɑφn　ʅʃ: 制 :ȷɔɥn:ueh。uehɔ からアルシェがɔを落としたもの ueh。因みに uehɔ は eehɔ（氷）から。長音化しているのは eehɔ が eɥcı（水）と対立していて、対語の片方は長音化するという決まりに基づく。この決まりを使っているところを見ると、eehɔ は前期から中期にかけてできた語だと分かる。　eehɔ:eehɔ:lə ulcz 【用例】 ueʅʃ eɒ eȷc 氷が溶ける

ueʅʃʃcȷc ［気象］氷晶　ʅL

ueʅʃʅıɑ ［地球の国名］アイスランド　［レベル］６　ʅL

ueʅʃɔdleʃ ［音楽］サスフォー　ʃʅ

ueʅʃɥen ［魔法］［地学］氷晶石　［レベル］６　ʅL　［文化］　→ ɑɔlɒcɥə　メリウス神を魔石召喚するのに使う。

ueʅʃoıl ［地学］氷山　［レベル］４　ʅL

ueʅʃıɑcȷ ［法律］氷刑　ʅL　［語法］　砕いた氷の中に死刑囚を沈め、動けないように容器の中に立てた柱に縛っておく。首から上だけ出しておく。死刑囚は凍死する。氷に関する犯罪に適応される。

ueʅnlɔʃ ［生物］原形質　ʅL

ueʅl ［名詞］悲鳴　［動詞］ɥəl を ı に叫ぶ、叫ぶ、悲鳴をあげる　［レベル］３　ʅʃ: 制 :ueɒlcu　［語法］　声と同じく本来は名詞。ʃıl lə hcnɔʅ ueʅl ȷı lıʃ を ueʅlel にする必要はない。

ueleʃ ［気象］［天文］幻の月、幻月、月影、地球照　［芸術］［医療］主観的輪郭線　［類音］ucleʃ　［レベル］４　古 :ueleʃ ← uel（闇）/ıleʃ（月）。ueleʃ はソーンが良く使い、ɒɥəleʃ と区別していた。アルシェは ueleʃ を ɒɥəleʃ に吸収させ、ueleʃ とは言わなかった。ɒɥəleʃ はアルシェでは多義語であった。

ueȷ ［副詞］一人で、単独で、一人きりで　［名詞］単数、一人、一個、ぼっち、残り、余り、あまり、独り身、一人身、お一人様、おひとりさま、孤独　［形容詞］単数の、一人の、一人きりの、残った、ひとりきりの、残された、ひとりぼっちの、一人ぼっちの、ぼっちの　［反意語］uɔıȷ　［音楽］ソロ　［レベル］２　ʅʔ: 制 :uɔȷ 【用例】 ın lıl lıl ueȷ. 一人でいたい。　ın lıʃ lıl ueȷel. 一人でいたかった。

ueȷʃ ［名詞］独立、独歩　［形容詞］独立した　［電算］スタンドアロン、スタンドアローン　［政治］独立　［レベル］３　ʅL:ueȷlʃıɒ（一人で立つ）

ueȷʃlınφ ［政治］独立権　［レベル］４　ʅL

ueȷʃɔ ［言語］母音　［反意語］ıɒcȷɔ　［レベル］３　ʅL:ueȷʃɑɔ。→ ıɒcȷɔ

ueȷʃɔɒcɥə ［言語］アプラウト　［レベル］５　ʅL　［語法］　ɒɥəleɒ

ueȷʃe ［形容詞］不純な、穢れた　［反意語］leuı　［レベル］３　ʃ0:ueȷd/ʃe 【用例】 ȷɔnsel ueȷʃe 不純な動機

ueȷʃəl ［化学］単体　［名詞］個体、個物　［レベル］４　ʅL

ueȷʅıl ［名詞］自己満足　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ 【用例】 nı ueȷʅıl ɔn{ɒcl} ɑıȷ 仕事で自己満足する

ueȷʅɔlɒ ［政治］独裁、独裁政治、ワンマンな、独断専行な　［レベル］４　ɥɑ;/　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʅʃ

ueȷʅɔlɒın ［政治］独裁者　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ

ueȷlınɔ ［数学］素因数　［レベル］４　ʅL

ueȷlınɔeɒ ［数学］素因数分解　［類義語］ueȷlɔcȷ　［レベル］４　ʅL

ueȷn ［生物］舌、べろ、ベロ　［動詞］ɥəl の味を感じる、味わう　［レベル］１　ȷɔɥn:ʅəhe から無茶苦茶に変形させた uoeeɒ の意味がアルシェにばれたため、再度変形させたもの。アルシェでは ʅəhe で、原義は口の尻尾。　ʅəXı:ʅəXı:lə dəlle（口が女なので）【用例】 ın ueȷn ɒccʅ c{ɒcl} ʃə lcɔnı. このカモミールはりんごの味がする。　nɔn ueȷnıʃ enı c lclȷ lıɒ nɔın. はじめてのキスは涙の味がした（『初めての恋が終わる時』）

ueȷnɑıcz ［医療］舌炎　ʅL

ueȷuɔʅ ［言語］単文　［レベル］４　ʅL

ueȷuɔln ［生物］単細胞生物　［レベル］４　ʅL

ueȷuɔɥʃ ［普通動名詞］孤独死　［動詞］ɥəl の様態で孤独死する、孤独死する　［レベル］４　ıl;/　ʃʔ

ueȷueʃ ［言語］自立語　［レベル］４　ʅL

ueȷuelȷ ［政治］独裁政治、独裁政権、独裁制　［レベル］４　ɥɑ;ueȷʅɔlɒ/uelȷ.l　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʅʃ

ueȷuelȷlıφel ［政治］独裁政権　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ

ueȷɑɔl ［名詞］彼女いない歴、彼氏いない歴、独身歴　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ 【用例】 ınȷɔɔnɔ, ın le ʃcl ueȷɑɔl ɑel ʃɔlcȷ lənıʅ ınʃcȷee. 彼女いない歴イコール年齢の俺が来ましたよ。

ueȷɑel ［普通動名詞］独学、独習　［動詞］ɥəl を独学する、独学する、独習する　［レベル］３　ɥɑ;/　ʃʃ

ueȷɒɥəʅıle ［宗教］一神教、単一神教　ɥɑ;/　ʃʃ

ueȷɒcʅȷ ［音楽］独唱、ソロ　［レベル］４　ʃʅ

ueȷφınɑ ［経済］独占　［レベル］４　ʅL

ueȷd ［名詞］煤、すす、スス　［レベル］３　ʃ0:ueɥ/ȷıd

ueȷdel ［地名］ヴェスペル山　［経済］１００００ソルト札　［レベル］２　ʃʅ:ɥcɑcı:ueȷd（煤）火山であることから。　［文化］　ueȷdelcı, ınɑın

ueȷdelcı ［地名］ヴェスペリア山脈　［アクセント］ueȷdelcↇ　［レベル］４　ʃʅ:ɥcɑcı:ueȷdel/ncı。貨幣の名前を決めるために ueȷdel ができ、ではその山がある山脈はとセレンに聞かれてその場で作ったもの。　［文化］
　カレンとカテージュ・イマンゼルを区切る山脈。アルバザードーの高さを誇る。最高峰はヴェスペル山で、標高は４９９１ｍ (ʔLLʃ.Δɒ)。

ueȷhınʅ ［生物］単層　ɥʃ;/　ʃʃ

ueȷhınʅʅɔuφɔʃe ［生物］単層立方上皮。腎尿細管などに見られる。　ɥʃ;/　ʃʃ

ueȷhınʅȷczφɔʃe ［生物］単層扁平上皮。血管や肺胞に見られる。　ɥʃ;/　ʃʃ

ueȷhınʅncılφɔʃe ［生物］単層円柱上皮。胃や腸に見られる。　ɥʃ;/　ʃʃ

ueȷhıɾl ［言語］独立体、ブロック体、～体　ʅL　［文化］　フォントの種類。文字が繋がっておらず、分かち書きするもの。ʃıdhıɾl や ɒınıhıɾl など。

ueȷɾlıɑ ［言語］自由アクセント　ʅL

ueȷzeʃȷın ［数学］単項式　［レベル］４　ʅL

ueȷl ［動詞］ȷɔl は ɥəl に降伏する、降伏する、降服する、負けを認める、負けの宣言をする、降参する、敗北を宣言する　［普通動名詞］降伏、降服、降参　［反意語］oɔɔφ　［レベル］４　ȷɔɥn

ueȷlıφel ［政治］主権　［レベル］４　ʅL

ueȷlıφeʃlıɑ ［政治］主権国家　［レベル］４　ʅL

ueȷlıφelın ［政治］主権者　［レベル］４　ʅL

ueȷlɔ ［名詞］一存　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ　［語法］　自分一人だけの考えのこと。

ueȷlɔcȷ ［数学］素因数分解　［類義語］ueȷlınɔeɒ　［レベル］４　ɥɑ;/　ʃʔ

ueȷı ［植物］ゴマ、胡麻、ごま　［レベル］２　ʅʔ: 制 :lıʅʃı:ueɒȷə（黒い砂）　［文化］
　栄養価が高く、肝臓にもよく、風味もよいということで、アルバザードでは常食される。特に黒ゴマは料理によくトッピングされる。取りすぎると油が多いので注意。

ueȷıʃ ［植物］ルッコラ、キバナスズシロ　［レベル］４　ʅʕ: 制 :ueȷı/ʃeʅ

ueȷıɒıuc ［化学］ビタミンＥ　［レベル］４　nɑ;/　ʃʔ　［文化］　ɒıuc

ueȷıll ［数学］素数　［レベル］４　ʅL: 孤独な数。もともと古アルカでメルが「７は素数の中でも孤独な数」と言い出したことで素数や７を孤独な数という考え方があった→ ɥecııll　［文化］　ıuenɔʅlhınʃ

ueȷeȷı ［言語］自由形態素　ʅL

uen ［動詞］ɥəl に気付かない、気付かない、気づかない、見逃す　［類義語］ɥeʅcn　［反意語］lıʅl　［レベル］２　ʅL: 恣意　［語法］　ɥeʅcn 【用例】 ın nıʃ bın enʃɔ ın uencʅ ɒel. 時間に気付かないほどスキーを楽しんだ。

uen(ʃ) ［名詞］黒丸、負星、黒星　［医療］陰　［組み数字］２／２　［反意語］ɑcn　［レベル］２　ȷɒ;ueɥ/en「黒いの」　ʃʅ:ɒel　［文化］　ɑcn

uenʃ ［経済］事業、ビジネス、実業、業種、企業、会社。公私を問わない。　［経済］企業　［類音］benʃ　［レベル］３　ȷɔɥn 【用例】 ıɥ{lıɑ} uenʃ 事業を興す

uenʃlcıɒ ［経済］社債　［レベル］５　ʅL

uenʃuıen ［経済］内部留保　［レベル］６　ʅL

uenʃɥıȷʅın ［生物］［医療］陰維脈　ȷzl;/　ʃʃ

uenʃın ［名詞］業者　［レベル］４　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʅʃ　［語法］　「業者に頼む」の場合は uenʃın でなく ɑıll。

uenʃcȷ ［魔物］ヴェンティス（邪竜）：第七十八天：邪の衛天　［レベル］５　ʅL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:uenlccʃ/ɑɥeʃcȷ　［文化］　邪属性の飛竜。中国の龍のような形で、蛇のように長い体をしている。悪知恵に長け、性格は残忍。羽が見当たらず、うねりで風を起こして飛ぶ。

uenʃcjcnj ［天文］アルゲニブ　1L:µcɑcı/jeµen/ᴅel ［文化］　ヴェンティスの目。

uenɿ ［動詞］ɥəl（内容）で ı を脅す、脅す、脅迫する。ɿə と同じ格組。 ［普通動名詞］脅迫、脅し、おどし ［レベル］３　1ɱ: 制 : 古 :ueᴅɿə

uenɿʃıɑ ［動詞］c を恐喝して ɥəl を奪う、恐喝する、カツアゲする。格組注意。相手を ɥəl に取れない。 ［普通動名詞］恐喝 ［レベル］３　1L:µc ɑcı:ıµbılelʃ: 盗むわけでなく、金を相手に出させるので、eɑʃ ではない。

uenɿıl ［宗教］邪教　zφ;uenl/ᴅɥəɿıle　Jɱ

uenl ［形容詞］邪悪な ［反意語］ᴅcɑı ［レベル］３　ɑu　1L:uenlccʃ からの逆成　uenl:uenl:uenl ［語法］　ᴅcɑı

uenlnɔoı ［生物］［医療］［魔法］邪気 ［反意語］ᴅcɑınɔoı　jzl;/　Jɱ

uenlccʃ ［悪魔］ヴェンシート ［生物］盲愈、盲愈　ᴅelʃcı 0:uenlccʃ;eᴅel: 古 :uen は ueᴅ で、闇。 ［文化］　邪の魔法を司るデームス。ソームとは同格だがグループが違い、ヴァルテの下。黄色系美少女の姿。邪を司る。大人しい。ヴァルテを慕う。ミダンと仲が良い。　そしてヴェンシートも蝶の翅のような黒い闇の翅で飛び去った。彼女の翅は黒く美しい。彼女の翅は鳥の翼と蝶の翅のようである。しかし彼女は鳥のように飛ぶ。彼女が通る道で、光る黒紫の粉が多く舞い、紫のぼやけた線が残る。　準惑星セレス（ケレス）を司る。

uenuenʃ ［経済］二部上場企業 ［レベル］５　J1

uenɑ ［名詞］事務 ［レベル］３　jɔµn

uenɑbılj ［名詞］事務棟、学生棟、学生部、学生課 ［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcj ［文化］　学校を経営したり運営する人間がいる棟。学校の事務や運営を行う。学長室（校長室）は職員棟にあるが、理事長室はここにある。ふだん学生はここに用はない。日本の場合、大学にこういった棟がある。学生は定期券の購入のため通学証明書をもらいにいったり、院への進学や留学や就職についての相談をしにいったり、授業料についての質問をしにいったりする。だがアルバザードではアンセがあるので学生ということは分かるため、証明書はいらない。留学や進学に関する説明を聞きにいったりする。授業料は税金から出るので、授業料について相談しにくることもない。

uenɑlıb ［名詞］事務仕事、事務作業 ［レベル］４　1L:ᴅelcɑcı ılcj

uenɑın ［天文］セレス、ケレス。準惑星。 ［レベル］４　ᴅelʃcı 0:ᴅcɑın/uenlccʃ;ᴅcɑın/uenlccʃ　J?

uenɑıµnɔn ［政治］事務省 ［レベル］４　1L:clᴅəj:µcɑcı

uenɑclɑ ［生物］プリミジン塩基　µʃ;uen/dınɑɑclɑ。秋（チミン）と冬（シトシン）なので陰。　Jɱ

uenɑccl ［地学］アメシスト、アメジスト、紫水晶 ［レベル］４　1L:uenlccʃ/ɑɔl ［文化］　邪の魔石

uenɑɔl ［娯楽］肝試し ［名詞］お化け屋敷、ホーンテッドマンション ［レベル］３　古 :ueᴅ（怖い）/ɑɔləəɥı（館） ［文化］　夏に涼むために行う遊び。子供は出てはいけない時間なので、見つかると怒られる。実際悪質なＤＱＮがたむろしているのでもない限り、この時期は特別にお説教だけで済むことが多い。最終的には警官の裁量による。夏のアルバザードは明るいため、夜１０時過ぎにスタートする。たいてい古びた洋館に置いてあるものを取ってくるのがクリアの条件。プレイヤーは１人か２人で洋館に入り、目的を達成する。ほかのプレイヤーはその顔を見て楽しむ。

uenɑɔlın ［名詞］お化け屋敷の主催者 ［レベル］４　J1

uenzɔᴅ ［魔物］ヴェンゾム（樹憑）：第七十三天：邪の炎天 ［レベル］５　1L:µcɑcı/jeµen/ᴅel: 邪悪な木 ［文化］　人食い樹。根が脚になり、枝が手になる。うろが口になっていて、人を襲う。

uenı ［動詞］ɥəl を嘆かせる、嘆く、啼く、気に病む ［再帰動名詞］嘆き、慟哭 ［レベル］３　1L:ᴅel:ueµ/enı（黒い涙） ［語法］　悲しんで泣くこと。 【用例】　ın uenı ıılıl lej nɔj jɔʃ. 私は自分がしたことを決して気に病まない。　ın uenıʃ. 悲しみに沈んでいた。　ın uenıʃ uɔµʃ e ʃıʃe. 伯父の死を悲しんだ。

uenıɿıɱı ［法律］［地名］ヴェナ刑務所 ［レベル］４　jᴅ　1L:clᴅəj:µcɑcı:「嘆きの牢獄」 ［文化］　アルバザードの刑務所。jᴅ に建設。ミナリスが投獄された。

uenıɑıc ［天文］イザール　1L:µcɑcı/jeµen/ᴅel ［文化］　リベーゼの長とギルが一騎討ちした際、炎の競り合いとなった。リベーゼは渾身の力で「嘆きの炎」を放った。その威力があまりに強く、イザールとして残った。結局ギルは炎で競り負け、炎剣ベーゼラットで斬り伏せた。

uenıᴅ ［形容詞］［ネガティブ］臆病な、ビビリな ［名詞］臆病者、弱虫 ［反意語］eleɑ、jcnıᴅ ［レベル］３　J0:ueᴅn:1ʕ: 制

uenıᴅcuɿın ［生物］［医療］陰維脈　jzl;/　Jɱ

uenı e ɿleeuel ［気象］ゲリラ豪雨、スコール ［レベル］４　JJ

uenc ［植物］小豆、あずき、アズキ ［レベル］３　高 :uenc,uelncd（黒い豆）から。

uencsıdʃ ［料理］しるこ、汁粉、ぜんざい ［レベル］３　1ᶠ: 制

ueneʃ ［音楽］縦笛 ［音楽］リコーダー ［レベル］３　J1:uejn/ʃe

ueu ［形容詞］匂いが弱い、微かな匂い、芳香 ［反意語］bɔb ［レベル］３　@ 1L

ueɑ ［動詞］ʃel に負けて ɥəl から撤退する、撤退する、退却する ［普通動名詞］撤退、退却 ［レベル］３　1L:clᴅəj:µcɑcı8:uıj/elɑ

ueɑl ［単位］ヨクト　J1:ueɑlcµ

ueɑlcµ ［歳時記］冬至 ［名詞］２２時 ［組み数字］２２／２４ ［アクセント］ueɑl€µ ［レベル］３　J0: → ınlcın ［語法］　ueɑlcµ は節気のうちのひとつで、数日間の期間がある。一方 lceµleɲ は冬至というある一日を指す。 ［文化］　ınlcın

ueɑlccl ［植物］ポインセチア ［レベル］３　J0:ɿᴅccµ

ueᴅ ［名詞］(nı) 怖い、怖がる、こわがる、恐れる、ビビる ［形容詞］怯えた、怖がった ［形容詞］（ueᴅın で）怖い、怖がらせるような ［名詞］恐怖 ［魔法］ヴェム。害の禁呪魔法。対象の恐怖心を煽り、発狂させる魔法。使用者はメル。対象に想像力がなければならないため、動物や小さな子供には効きが悪い。 ［レベル］１　ɑ;ue は闇。　古 :ueᴅ（恐れる） 【用例】　ın nıʃ ueᴅ enʃɔ uɔµʃ jıʃ. 怖くて死にそうだった。

ueᴅʃ ［動物］フクロウ、梟、オウル ［レベル］３　lıɿʃı: 闇の鳥

ueᴅj ［動詞］ɥəl をおびやかす、おびやかす、脅かす、脅威となる ［レベル］３　µɑ;ueᴅ/jɔlj　Jɱ

ueᴅu ［名詞］怪物、化け物、化物、お化け、妖怪、モンスター、魔物 ［俗語］ブス ［俗語］体の大きすぎる男 ［類義語］been ［レベル］３　古 :ueᴅu, ueᴅueᴅ（怖い怖い）から。 ［語法］　アデルの上位概念。

ueᴅulınʃıjeʃın ［娯楽］ＭＰＫ。モンスターを人がいるところまで連れてきてするＰＫ。ログにはモンスター名しか残らない卑　怯な方法。　JJ

ueᴅɑ ［地学］花崗岩、御影石 ［レベル］４　lıɿʃı: 黒い石

ueᴅl ［物理］射影、投影　1L:ueᴅɔ/lıɑ

ueᴅɱılı ［地学］投影図 ［レベル］５　1L

ueᴅɱılıɔᴅ ［地学］投影図法 ［レベル］５　1L

ueᴅı ［地名］ヴェマ ［レベル］５　1ᶠ: 制 : 古 :ueᴅ（闇）から。 ［語法］　ソーンの使徒ヴァルシーラの支配地。ヴァステではサールの本拠地。

ueᴅı(J) ［アトラスの国家］ヴェマ ［レベル］３　制 ［文化］　面積： J1LᶠʕJL.0??ɱʕΔ ɿᴅ ˩

ueᴅıeʃeɿ ［料理］ヴェマ茶 ［レベル］５　µɑ;/　J? ［文化］　eʃeɿ 項に書かれたクミールの６分類の元ネタになったのがヴェマ茶で、６分類を持っていた。

ueᴅc ［魔物］ヴェミ（邪眼魁）：第七十六天：邪の空天 ［レベル］５　古 : 恐怖の瞳。小説版アンクノットにも登場。 ［文化］　巨大な眼に羽が付いた魔物。眼で睨まれると身動きが取れなくなる。ヴェミの羽に煽られるとセレスが乖離し、死に到る。

ueᴅɔ ［名詞］影、陰、シャドー、シルエット、影法師 ［数学］三角関数の三角形におけるａｄｊａｃｅｎｔの辺。 ［美容］シャドー ［レベル］２　1?: 制 : 暗い形 ［語法］　uelʃuıcɿ　影と陰の区別はない。 【用例】 ueᴅɔ ɿıc{hın} 大きな影

ueᴅɔjeʃ ［チェス］アンパッサン　J0: 影を取る

ueᴅɔɥəlı ［名詞］走馬灯、走馬燈、回り灯籠 ［レベル］５　J0: 影の燈 ［文化］　内外二重の枠を持ち、影絵が回転しながら写るように細工された灯籠（灯篭）の一種。µɑ でクミールが開発した。アレイユでも雅なアンティークとして好まれる。　日本と異なり、死の直前に関する連想は一切ない。

ueᴅe ［化学］アスファルト ［レベル］４　1?: 制 : 古 :ueᴅeᴅɥə（黒い油）

ueᴅelʃ ［魔物］ヴェメルト（翼鬼）：第二十二天：風の空天 ［レベル］５　1L:µcɑcı/jeµen/ᴅel:ueᴅ/ᴅelʃej（怖い顔の悪魔） ［文化］　ガーゴイルに相当する魔物。裸の小鬼に翼を付けたような姿。大きさは成人男性ほど。細身。肌はオスが青でメスが緑。多種多様な魔法を使う。顔は口が裂け、恐ろしい形相。また、角が生えている。

ueɑ ［形容詞］非合法、不法、違法 ［反意語］hıcl ［レベル］４　1ɱ: 制 : 語源不詳

ueɑl ［普通動名詞］不法侵入、侵略、侵入、侵攻、侵食 ［動詞］ɥəl を ı に侵入させる、侵入する、侵食する、浸食する、精神などを食う、食い滅ぼす、蝕む、むしばむ ［レベル］４　1L:ᴅelcɑcı ılcj:ueɑlıʃ 【用例】 ıµbızıµɑ ueɑlıʃ ı ɿeeʃɔcı. アルバザードはケートイアに侵攻した。

ueφ ［医療］いぼ、疣 ［レベル］３　1?: 制 :lıɿʃı:uφe（病気の球）が発音しにくいので ueφ になったもの。

ueφı ［名詞］弁慶 ［レベル］３　µɑ;uecφın.ɿ　J? ［語法］　アルカでは、人によって態度を変える人間を意味する。特に人を見て強気な態度になったり萎縮したりする卑怯者のことを指す。内弁慶やネット弁慶や母弁慶など多数あるが、どれも蛇蝎のごとく忌み嫌われ、とりわけ女には一切モテない。　日本語より複合語が細かく、ıʃeueφı, lııluеφı のように細かい。店でしか威張れないクズ、ネットでしか威張れないクズ、母親にだけは強気なクズなど、どれもクズの極み。

ueb ［動物］ゴキブリ、ごきぶり ［メタファー］汚くしぶとい奴 ［レベル］２　lıɿʃı: 黒くて嫌なもの ［文化］　代表的な害虫で、嫌悪される。

ueɥə ［言語］活用、曲用 ［レベル］５　1L:ueʃ/ᴅcɥə

ueɥəʃcɑl ［言語］語幹 ［レベル］４　1L: 活用を失った ［語法］　語から屈折部位を取り除いたもの。

ueµ ［色］黒、ヴェール ［形容詞］黒い ［芸術］ベタ ［レベル］１　ljl;uel,ɑ.ɿ　1L:jɔµn:uel の子音交替　uel:uel:lə ɿılel

ueµʃ ［名詞］報道、ニュース、新聞、報道誌（週刊誌の類）、放送、知らせ ［レベル］３　jɔµn　参考 : 赤 : (ʃcjlɔ（「おまえ知ってる？」の意）。ʃcjlɔ はアクセントが lɔ にあった。 【用例】　ın cn nelʃ ueµʃ e ʃecɿ cᴅ ʃcɿnɔ. 私はいつも９時のニュースを見る。　ın lıµıʃ ucl ʃə ueµʃ ᴅın ʃə eʃ µıʃ µıɿ. あまりに嬉しい知らせで信じられなかった。　ᴅᴅ, jeeµeɾ ın nı nıə ᴅın ʃeµ ʃə ueµʃ. うん、ありがとう。その知らせを聞いて嬉しいです。　ın nıʃ ncɿ ᴅcl le ueµʃ. あのニュースには驚いた。

ueµʃjcnjɔl ［名詞］ニュース番組 ［レベル］３　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ueµɿ ［形容詞］抽象的な ［反意語］uɔlʃ ［レベル］３　@ 1L

ueµɿınɔ ［地球の国名］オーストリア ［レベル］５　1L: 国章が黒い鷲

ueµɿıɑ ［地球の国名］スーダン ［レベル］６　1L: 国名が黒い人

ueƅlicɒ ［地球の国名］コンゴ共和国、コンゴ。コンゴ民主共和国とは異なる。 ［レベル］6 1L: 国章に黒い象

ueƅlɔu ［名詞］収容所 ［レベル］3 1L:clɒəj:ƅcɑcı: 黒い箱 ［語法］ 思想犯や政治犯や異教徒たちを入れておく施設。「アデュの黒い箱」が最も有名。 ［文化］ ＜メルテナのアデュ収容所＞ ɥəəɒı ⅏1ΔL にレスティル北部の都市アデュに建てられた、アルテ教徒の収容所。教徒の奴隷化と虐殺が行われた。 その後も現代に至るまで指導者たちによって思想犯や宗教犯が次々と送り込まれた場所で、アトラスで最も多くの人間が虐殺された呪いの場所。 ＜ƅɑ のアデュ収容所＞ ケートイア王が作った反乱分子の収容所で、虐待や拷問や私刑が頻繁に行われた。 cɒəl 1ᛉLʔ 末にアルシェが収容所を襲撃し、解放した。 ＜ランティス・タンヴェルのアデュ収容所＞ ミナレットは大規模な収容施設を作った。収容所では更生と処刑が公に行われた。更生に向かない人間は処刑され、更生を断念された人間も処刑された。収容所が築かれたのはアデュである。 アデュでは厳しい更生と大量の処刑が行われた。処刑は合理的な方法が選ばれた。見せしめの必要はもはやないので、残酷に殺しても意味がない。むしろ一度に安く大量に殺せるようにした。死体は合理的に扱った。可食部は他の収容者たちの食料として充当された。髪はカツラなどの材料に使われた。脂からは石鹸などが作られた。死体は貴重な資源であった。焼くのは石油などの資源の無駄であるし、死体の無駄であった。死体は資源として活用した。 【用例】 ueƅlɔu ʃ'ıɑɥə アデュ収容所、アデュの黒い箱。通常ケートイア国内では ueƅlɔu としか言わない。

ueƅlɔu ʃ'ıɑɥə ［ランドマーク］アデュ収容所 ［レベル］3 ⅃0 ［文化］ ueƅlɔu

ueƅləc ［普通動名詞］やけ食い、ヤケ食い ［レベル］3 ⅃⅃:「黒食い」

ueƅl ［動詞］ɥəl をにやっと笑わせる、不敵にほほ笑む、ニヤニヤする、にやける、笑う ［類義語］nıl ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe:ueƅnıl（黒い笑い）【用例】 ʃel ueƅl ləəʃ, ıuelınʃ ıȷ ıɒeȷcl nɔȷ. 不敵に呟く彼女に、死神さえもたじろいだ。

ueƅȷ ［形容詞］どうでもいい、重要でない、全然重要でない、どうでもよい、どうでもいい、取るにたらない、些細な、粗末にして良い、下らない、くだらない、つまらない、なんでもない、さまつな、瑣末な、枝葉な、枝葉末節、なんでもない、何でもない ［類義語］bıleʃ ［反意語］uɔll ［レベル］2 @ 1L 【成句】 ueƅȷ eɒ uɔll 本末転倒、主客転倒 【用例】 ueƅȷen どうでもいいこと ɥeʃ ueƅȷ どうでもいい問題

ueƅȷcz ［名詞］黒板 ［レベル］3 1L:ƅcɑcı:ıƅbıleʃ

ueƅȷɔƅeʃ ［色］黒青い ［レベル］3 ⅃0:ɒelcɑcı ılcȷ

ueƅȷeʃı ［歴史］黒歴史。闇に葬られた歴史や、邪悪な暗黒の歴史。 ［俗語］黒歴史。主に厨二病を患っていたころの消し去りたい記憶のこと。一般に消し去りたい記憶全般を指すこともできる。 ［類義語］ɑɔlɑɒel ［レベル］4 1L 【用例】 ʃə ıʃ ueƅȷeʃı lel nɔn ılʃcın lıbe ıə. あんな男と付き合ってたなんて黒歴史だわ。 ın ʃcl ueƅȷeʃı ɑəɔ lel nɔȷ ʃcl ıʃ eȷʃ ɑel "uelʃıuelınʃ uınφıƅɑc" uıƅ ınleeuı. 厨二病を患ってたころ、「昏き死神ヴァンガルデイ」とか名乗ってたっていうひどい黒歴史がある。

ueƅn ［動詞］ɥəl を崩壊させる、崩壊する、崩れる、よろよろとその場で倒れこむ、倒れ込む、へたれこむ、尻餅をつく、しりもちをつく、尻もちをつく ［普通動名詞］［自然動名詞］崩壊 ［医療］ただれる。炎症などにより皮膚などが破れやすくなること。 ［レベル］3 ȷɔƅn 【用例】 ɒcl) cl ueƅn. 膝が崩れた＝へたれこんでしまう

ueƅnleʃ ［人名］ヴェルンシェルト、崩月 ƅɑ;/ ⅃ʔ

ueƅnȷııl ［歴史］ヴェルンサールの悲劇 cɒ1⅏LΔ(ƅɑ);「崩れ逝くサール」 ［レベル］4 ⅃1:ƅcɑcı ［文化］ → uelȷıƅs 1⅏LΔ に起こったセルアの大噴火で、ƅɑ の引き金となった。 1⅏LΔ セルアが大噴火し、火山灰がフィーリア上空を中心に西アンシャル全域を広く覆う。灰が上空に留まりつづけた結果、気温が低下。これにより農作物が軒並み凶作となり、食糧が高騰。主な被害はヴェルシオン、イネアート、フレディスク、ヒュート、ディミニオン、ケートイア、アルバザード北部に及んだ。 土地柄自給率の低いヴェルシオンは輸入に頼っていたが、アンシャルは国内の食糧確保で精一杯だったため、特にヴェルシオンで食糧が高騰。この時代はまだ飛行機がなく、また航路も開拓されておらず、さらに西アンシャル以外のほとんどの地域と貿易が行われてこなかったため、食糧供給がおぼつかなくなる。 食糧が高騰し、低所得者を中心に餓死者が現れ、民衆の間に不満が生じる。このままでは飢えて死を待つばかりで、奪う以外の選択肢はないというところまで追い込まれたヴェルシオンは飛水晶を利用した飛空挺の開発に着手。これは略奪のための開発であった。しかし国家としては大義名分がなければ戦争はしかけられない。そこで貿易における条約違反を細かくあげつらい、厳しくフレディスクを非難。因縁をつける形で戦争をしかけ、飛空挺を投入。 むろん実際の目的は街を襲って食料を収奪することにあった。それゆえ始めから飛空挺は多くの積載量を見込んで船の形をしていた。造船技術は既にあったため、船型にすれば飛水晶の動力室を設けるなどをするだけですぐに実戦投入できるという利点もあった。船型は一度に多くの兵士を送ることができる点でも効率的であった。略奪後は当然船の重さが増す。そもそもの目的が収奪なので、重量は相当増す。帰りはその分だけクリスタルに負荷をかけることになってしまう。そこで帰りは海路を使うことでクリスタルの消耗を減らした。つまり一度海上に出て着水し、あとは船として帰港する。これだともっとも無駄が少ない。しかも行きは全工程が空路なので、沿岸部以外の街からも直接収奪できる。 このころ飛行機はまだないが、火山灰は飛行機にとって不都合な高さを維持していた。このため飛空挺はその下を飛んだ。飛水晶があればこそ低い高度が維持できた。また飛空挺は上空から攻撃をしたので、ある程度地上に近い必要性もあった。 この年に起きた噴火は農作物の被害から飛空挺を生み、飛空挺は戦争を生み、戦争は ƅɑ（悪魔と人の戦い）に発展してアシェットを生み、歴史をセルメルから ƅɑ に変えた。この出来事をヴェルンサールの悲劇といい、これをもってセルメルの終わり、ƅɑ の始まりとする。 火山灰ごときでまさかこんなおおごとになるはずがないと思うかもしれないが、地球でもフランス革命期に同じような現象が見られる。 同 食料を求めてヴェルシオンから逃げ出す国民が増える。特に女性の比率が高かった。原因は複数ある。１つは筋力が弱いため働き手として不十分で、口減らしのために追い出されたケース。１つは身売りで、これは若い女性や少女に多い。また自らの意思で南の国へ逃げて娼婦になる女性も後を絶たなかった。 精霊族は綺麗だが気位が高く性格もきつく愛想が悪い。そのため扱いづらく高根の花であった。しかし恐慌のせいで身売りをするしかなく、アルナのインプレンにもこの時期精霊が入った。後に戦争が始まると精霊の取扱いが禁じられたが、かえって裏風俗で高値で取引されるようになり、金持ちの奴隷として買われることもあった。 一方同じ精霊族でも ɑcɒcʃɔƅc cneııʃɔ のように成功した例もある。 1⅏LL 飛空挺が完成。最初に狙われたのは沿岸部にあるフレディスクで、海岸から少し離れた地域が狙われた。 続いてイネアート西部、ヒュート西部も襲撃された。 1ᛉ00 西アンシャルが連合を作り、対 uellcɔn 戦を宣言。belφınɑ はこれに便乗して uellcɔn につき、連合は挟撃される形となった。ここに悪魔と人間の戦いが始まる。 1ᛉ01 ヴェルシオンが scnɑcı 山脈上に飛空挺の航路を見出す。→ scnɑcı

ueƅnueƅınʃ ［医療］境界性パーソナリティ障害、境界性人格障害、境界型パーソナリティ障害、境界型人格障害、ボーダーライン、ボダ ［レベル］5 ul;/ ⅃ʔ:ɒel

ueƅnɑccı ［名詞］失恋 ［レベル］3 ⅃⅃:ueƅn/ɑcı「崩れ行く世界」。アクセント移動のため ɑccı。

ueƅnlenȷ ［言語］ヴェルンレンス ［ランドマーク］ヴェルンレンス図書館。旧レスティリア国立図書館。消失のせいでこのような名前になった。石造りだったため、建物は残っている。 ［企業］ヴェルンレンス社。講談社、小学館に相当する企業。 ［レベル］3 ⅃1 ［文化］ 上代で２度起こった文献の大規模な消失事件。 ɥəəɒı ⅏000 ［言語］ueƅnlenȷ シージア戦で zφ 以前の情報が途絶えた。これにより ȷzɑ と ȷzl の区別は ƅɑ や ɑu との比較で行うこととした。 ɥəəɒı ʃΔ⅏ᛉ ［言語］ueƅnlenȷ 遷都の際、図書館も近寄れないまま廃棄されたので lȷȷ 以前の言語情報が途絶えてしまった。そのためこの時代のものは lȷɑ か lȷl の区別しか保証されないものがある。

ueƅnı ［形容詞］怨みや悪の心、悪意のある、不純な、下心のある。相手に使うと心の奥が読めないという意味にも。 ［名詞］悪意 ［レベル］3 1L 【用例】 ɜɒ, lə ʃcl ueƅnı.（ゲーム中に）うぅ、こいつの腹が読めん。

ueƅnıʃɔlıȷ ［名詞］天変地異 ［レベル］4 ⅃⅃:ueƅnȷııl からの類推

ueƅnıln ［名詞］終末思想 ［レベル］4 1L:clɒəȷ:ƅcɑcı

ueƅnıl ［名詞］皮肉 ［動詞］ɥəl を ı に皮肉って笑わせる、皮肉る、笑う ［類義語］ȷcll ［レベル］3 1L: 黒い笑い ［語法］ ȷcll

ueƅncnȷ ［医療］ただれ目 ［レベル］5 1L

ueƅuınʃcȷ ［軍事］黒魔法兵 ［レベル］5 1L:ƅcɑcı

ueƅuelɒ ［経済］黒のヴェルム ［レベル］5 ⅃⅃ ［文化］ 1⅏L 「黒のヴェルム」が発生。ブラックマンデーに相当する事件で、世界経済が悪化

ueƅɑƅec ［名詞］刺客 ［レベル］4 ⅃⅃:「黒い剣」

ueƅɑıbe ［軍事］［化学］黒色火薬 ［レベル］5 ƅɑ;/ ⅃⅏ ［文化］ φel

ueƅɑılɒ ［名詞］賞金首、ウォンテッド、ｗａｎｔｅｄ、お尋ね者、黒札 ［レベル］3 ⅃0: 黒札 ［文化］ アズゲルでは、行方知れずの犯罪者の似顔絵に、犯罪の大きさを意味する札を貼っていった。黒札は大犯罪で、捕まれば死刑を意味した。このころ登場した賞金稼ぎは賞金首を黒札・赤札などと、札の色で呼ぶようになった。セルメルになると札ではなく金額を似顔絵に書き込むようになったため、赤札などの表現は消え、最も狙われた黒札だけが代表として残り、賞金首を意味するようになった。ヴェレイで賞金稼ぎはいなくなったものの、アレイユで復活した。

ueƅɑıc ［魔物］ヴェルファイ（黒炎）：第四十天：火の空天 ［レベル］5 1L:ƅcɑcı/ȷeƅen/ɒel:ueƅ/ɑıc ［文化］ 霊族。アヴェラントに導かれなかった哀れな魂に憑依した魔物。嘆きと怒りで火の力を持ち、空中に炎のように燃え上がる。

ueƅɑcl ［普通動名詞］疑心暗鬼 ［レベル］4 ⅃⅃:「黒い疑い」

ueƅɑɔnʃ ［地学］［娯楽］ダンジョン ［レベル］3 ⅃⅃:「黒の道」 ［語法］ 地下牢の意味はない。

ueƅɑəəl ［経済］インサイダー、インサイダー取引 ［レベル］4 ⅃⅃:「黒の占い師」 ［文化］ 一部の占い師は株価などを予見できるため、占い師は株やギャンブルなどに手を出してはいけないという決まりがある。占い師のギャンブル禁止は zφ からの決まりで、法律として制定されたのは ⅂ から。現在でも占い師は株などに関わることができない。発覚した場合、資格の剥奪、懲役、罰金などが課せられる。資格のない占い師であっても、株等に関する占いの能力が認められれば有罪となる。自身が買うのはもちろん、人に教えてもならない。 ȷɒ において裏で暗躍する占い師を ueƅɑəəl と呼んだことが転じて、ƅɑ 以降ではインサイダーをもこのように呼ぶようになった。占い師が激減した nɑ 以降は主にインサイダーの意味で使われるようになった。 現在においても地球同様インサイダー取引は違法。

ueƅɒıl ［天文］ブラックホール ［レベル］3 ⅃0: 黒い穴

ueƅɒıleʃ ［卑語］黒人 ［レベル］3 1L ［語法］ アズゲルで負けたマレットの民のうち、肌の黒い人。黒人の差別語。負け人種というニュアンスがあるので差別的。また、アルバザード人に黒人種がほとんどいないことからも、黒マレットには「非シフェル＝劣等人種」という意味が込められており、差別的。なお、マレット人は黒人だけで

はない。

ueþɒcþ ［地名］ヴェルミール、ヴェルミール島 ［アクセント］ueþɒЄþ。元は uEþɒcþ だったが、lſ の影響を受けて変化。 ɑ;e Jʔ: 以前にあった語形を再利用。 ［文化］ サヴィア北東の島。ヴェルミール海流が東を走る。

ueþɒcþſcle ［地学］ヴェルミール海流 Jʔ

ueþɒc ［名詞］悲劇、災難、災厄、被害、天災、人災 ［類義語］eɒſllɔı ［レベル］3 1L:clɒəȷ:þcɑcı:ueþ/ɑcı 【用例】 ueþɒc ɑəɔ lənıl ləəȷ. 彼らにひどい悲劇が訪れた。

ueþɒcɒcþɔl ［宗教］災厄神 þɒ;/ Jſl

ueþɒcı ［政治］［歴史］ヴェルディア ［レベル］5 1L:clɒəȷ:þcɑcı: 黒夢 ［語法］ レイユ期の第六次選挙のこと。特にその日の夜に起きた世界同時クーデターのこと。ミロク革命の初日でもある。

ueþɒccı ［色］黒緑 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılſe ［語法］ lcȷ と同義で使われるが、区別するときは lcȷ より明るい色として使われる。

ueþɒedeþcı ［伝統色］ヴェール・デペリア、黒きデペリア JJ

ueþφ ［経済］貸付、ローン、貸し付け、貸付け ［動詞］yəl を ı に貸し付ける、貸し付ける ［レベル］3 1L:þcɑcı:ıþbılelſ:ueþφcl（悪の金） ［語法］［文化］ 利子付きで金を貸すこと。重大な違法行為。返す宛てがある人間が金を借りるということ自体、アルバザード人には理解できない。宛てがないから借りるわけで、返せないのが原則。まして借りた額以上など返せるはずがないというのが常識。人から金を借りるなら嫁も彼女も子供も去っていくと思ってよい。

ueþφȷcn ［経済］貸し渋り、貸し渋る ［レベル］4 1L

ueþφuecſ ［経済］貸し剥がし、貸しはがし ［レベル］4 1L

ueþφɒıe ［経済］貸倒引当金、ローンロス ［レベル］6 1L ［文化］ 革命後は lıɑɒıe。ueþφ は違法なので。

ueþφıþ ［音楽］レコード ［レベル］5 1L:þcɑcı:ıþbılelſ ［文化］ 現在は既にない。

ueþφıþu ［名詞］青息吐息 ［レベル］4 JJ:「黒い苦しみ」

ueþφcnı ［死神］ヴェルギナ ［レベル］4 ɒelſcı ſl:ıſoııyə ɔ lənɔ;e 1L:þcɑcı ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。女性。夢喰種。美少年好きの死神で、艶やかで豊満な肉体の女性。人間でいうなら三十半ば。傍に一人の死神しか寄せ付けず、ずっとランヴェムを愛でていた。ランヴェムが去った後は、ギメルに寵愛を注いだ。

ueþφcnıſılı ［地学］［歴史］ヴェルギナ大陸 ［ユマナ］カザフスタン大陸 ul;/ Jʔ

ueþφcl ［名詞］賄賂、わいろ、ワイロ、袖の下、献金 ［レベル］3 JJ:「黒い金」【用例】 ɑcſ{φıl} ueþφcl 賄賂を送る

ueþφɔı ［医療］黄熱 ［レベル］6 1L:þcɑcı ［文化］ ファベルで起こった病気だが、最初にセルメルで医者に看られたのは黄色人種の少女だった。裕福な家の少女で、速やかに医者の下に連れて行かれたため。黄疸か黒い吐瀉物のどちらで命名しようか迷ったが、少女の肌のせいで白人の研究者にとっては黄疸がそれほど目立たず、結果的に黒い吐瀉物で命名された。結局少女はアンシャルからの白魔導師が間に合わず、死亡した。逆に言えば、白魔導師が常駐していれば、黄熱の存在は知られなかった。

ueþdeɒ ［名詞］黒羊 ［メタファー］役立たず、厄介者、使えないもの、できそこない：黒い羊の毛は何色にも染められないので。 ［俗語］インポテンツ ［レベル］3 1L 【用例】 le ueþdeɒr あの役立たず！ ſcın leeuıſ ın lɔnſ lə ın eſ ueþdeɒ ȷcn. 彼女に役立たずって言われて振られてしまった。

ueþblınz → ueþblenz JJ:ueþblenz で定着したため。

ueþblenz ［名詞］隠れたコンプレックス ［レベル］4 JJ:「黒い炎」［語法］ 自分で自覚していて他人から隠しているコンプレックス、あるいは自分は気づいておらず他人には見えているコンプレックスのこと。【成句】 ləueþ eſ nɔȷsɔſ e ueþblenz. 悪口は自己紹介。人は自分のコンプレックスについて他人を嘲る。他人に投げた悪口は自分が密かに気にしていることである。特にネットの掲示板など、相手が見えない場所での悪口は自己紹介に過ぎない。

ueþheɒd ［名詞］黒大豆、黒豆、ぶどう豆 ［レベル］3 ȷɒ;/。ılſ から流入。 Jʔ

ueþheɒdeſel ［料理］黒豆茶 ［レベル］3 ȷɒ;/ Jʔ

ueþyənɔ ［名詞］殺気 ［レベル］3 JJ

ueþoıl ［地球の国名］モンテネグロ 1L: 国名が黒い山

ueþlınȷ ［魔物］ヴェルランス（黒天使）：第七十二天：聖の氷天 ［レベル］5 1L:þcɑcı/ȷeþen/ɒel:ueþ/lınȷ ［文化］ 霊族。黒いローブをまとった髑髏の姿をしており、一撃死ヴォルトの魔法を使う。

ueþlccɑı ［地球の国名］ギニアビサウ共和国 1L: 国旗に黒い星

ueþlɔl ［名詞］(ſcl, nı) むかつく、ムカつく、むかついた、むかつかせる ［レベル］3 1L: 黒い腸 ［文化］ カッとした突発的な怒りではなく、「う、うぜえ……！」というようなタイプの怒り。瞬間的ではないが、かといって弱くもない。腹の中で相手をぶっとばす絵を想像しつつ胃が痛くなるタイプの怒り。この状態を怒りで腸が黒くなっていると捉えるため、このようにいう。 【用例】 ın ſclıſ ueþlɔl ı lı. あいつにムカついた。

ueþlenu ［娯楽］チート、裏技、裏ワザ、裏わざ、ウラワザ ［レベル］3 JJ

ueþlees ［色］黒紫 ［形容詞］悪魔に魅入られた、悪魔に呪われた ［レベル］4 J0:þcɑcı:ueþ/leseɒɒe。黒紫は悪魔を象徴する色。 ［語法］ この場合の悪魔は悪魔属だけとは限らない。アクタカやメロウなど、害を成すものを含むし、人間の悪人も含む。 þɒ でアクタカに操られたセレンがこの ueþlees の状態にあたる。 ［文化］ lınſe eȷ ueþlees ɒcl lelſeȷ, ɾlı ɒeeɒ. 満月は月の悪魔シェルテスに呪われている。

ueþın ［名詞］黒人、黒人種、ネグロイド ［レベル］3 1L:ueþ/ın ［語法］ 黒人のこと。特徴は肌が黒く、背が高く、筋肉がつきやすく、鼻が横に広い。アルバザードにはいなかった人種で、移り住んできた歴史もない。そのためアルバザードでは少数派。南ファベルのほうに多い。元マレット人に多い。地球でいうと南アフリカなどの黒人に相当。

ueþınſ ［医療］人格障害、パーソナリティ障害、性格障害、境界例、精神病質 ［レベル］5 ul;ueþn/lınſı「崩れた人格」 Jʔ:ɒel ［文化］ パーソナリティ障害は広義において神経症に入る概念である。 ul でクラスターＡ～Ｃに相当する３分類が行われた。 クラスターＡ (þelɒue þınſ)：風変わりで自閉的で妄想を持ちやすく奇異で閉じこもりがちな性質を持つ。 クラスターＢ (oclſueþınſ)：感情の混乱が激しく演技的で情緒的なのが特徴的。ストレスに対して脆弱で、他人を巻き込む事が多い。 クラスターＣ (nıueþueþınſ)：不安や恐怖心が強い性質を持つ。周りの評価が気になりそれがストレスとなる性向がある。 その後 ıl で以下の４分類に改定された。 剣型 (ɑþecueþınſ) 杖型 (zıɒɔnueþınſ) 盾型 (ılɒcueþınſ) 套型 (ɑȷıueþınſ) 剣型は他者の利益を損なうもので、殴ったり罵ったり騙したりする。反社会性、妄想性が該当する。クレーマーやモンスターペアレントも含む。 杖型は寂しかったり自信がなかったりして他者を求める。依存性などが該当する。杖に寄りかかって依存するイメージからこの名が付いた。 盾型は剣と杖の特徴がどちらも際立っているもので、境界性や自己愛性などが該当する。 盾は防御にも使えるが鈍器として攻撃にも使えることからこの名が付いた。 套型は回避性のほか、打たれ弱く自信が欠如していたり根性がなかったりする者も含む。適応障害の一部や新型うつのほとんどが該当する。外套が名前の由来。マントを翻して、飛んでくる攻撃を避けるところから来ている。 ●地球のＤＳＭとアトラスの診断基準の違い 現実的に精神科の疾患を分類するには原因も考慮する必要がある。分裂病や躁鬱病のように生まれつき脳に異常があると想定できるものを狭義の精神病とし、脳は正常だが生い立ちや本人の性格や環境によって精神的に不都合をきたしているものを神経症とした。これが þɒ の古典的、伝統的な精神医学である。 狭義の精神病は分裂病と躁鬱病に大別し、分裂病の中にはＤＳＭでは人格障害に分類されている ȷɾlhczɔſydıl も含まれる。 神経症は ul_ıl では更に細分され、その中の一つが人格障害になる。よって人格障害は精神病と神経症の両方に見られる。 人格障害は人格が形成される前の生い立ち、つまり幼少期から思春期にかけての境遇で決まる。虐待されたことのある人は人を信用することができず、猜疑的になり、裏切られると激しく怒りやすい。親の愛情に恵まれなかった人は情に餓え人から見放されることを極端に恐れやすい。甘やかされて育った人は自立できず常に人を頼りがちである。褒められることなく厳しく育てられた人は、ある人は他人に批判的になり、ある人は自信が持てず何事にも及び腰になる。そのような事情で出来上がった性格傾向で、誰かが困るようなものを人格障害と規程する。 人格障害の種類は決まっているわけではなく、地球の２０１２年現行のＩＣＤとＤＳＭとでも食い違っている。アルカ版の人格障害も既存の分類に縛られることなく、自由に規定して構わない。以下、各クラスタの説明。
剣 人格形成期において他者から攻撃されることが多かったと想定される。その結果、人を信用できず猜疑的になったり、他者に共感できず誰かが困っていても気の毒に思わなかったり、自己を守るために権利意識が非常に強くなったりしている。他者との関わりでは攻撃的になりやすい。 杖 人格形成期において扶養者から過保護にされたり、何事も禁止されたりして、自己の判断で何かをやり遂げる機会が少なかったと想定される。その結果、自立できず、常に他者に頼ろうとする。 盾 人格形成期において愛情や賞賛が乏しかったと想定される。その結果、人の情を求めたり見栄を張ったりする。常に寂しさや不全感や自信のなさを抱えているので、他者から拒絶されたり、貶されたり、否定されたりすると傷付き、人をつなぎ止めるため、あるいは報復のために攻撃的になる。愛情や賞賛を得るためには他者と関わることが必要で、この点で杖と共通し、否定されたときに攻撃的になる点で剣と共通している。
套 人格形成期において我慢を強いられることが少なかったと想定される。その結果、耐え難い状況を回避しようとする。攻撃された結果他者を恐れ、あるいは自立できず失敗を恐れ、他者との関わりや社会参加を避けるようになった場合は、剣の攻撃性や杖の依存性が目立たず、その点で、剣、杖、盾に発展しなかった未分化型とも考えられる。 ＤＳＭによる分類はアルカの分類では次のようになる： 妄想性パーソナリティ障害 剣 スキゾイドパーソナリティ障害 非該当または套 統合失調型パーソナリティ障害 非該当。人格障害ではなく狭義の精神病。 反社会性パーソナリティ障害 剣 境界性パーソナリティ障害 盾 演技性パーソナリティ障害 盾 自己愛性パーソナリティ障害 盾 回避性パーソナリティ障害 套 依存性パーソナリティ障害 杖 強迫性パーソナリティ障害 一部剣または套

ueþınɔ ［名詞］陰謀 ［レベル］4 JJ

ueþıþſ ［魔法］黒魔法、黒魔道（正式）、ヴェール・アルト ［反意語］ɑc þıþſ ［レベル］3 zφ;/ 1L:þcɑcı ［語法］［文化］ 敵を攻撃したり呪いをかけたりする魔法。 現実の古アルカにはこれを指す文字は作られなかったが、〇の中に△を置いた文字とする。▽にすると白魔法である。

ueþıþſın ［魔法］［ジョブ］黒魔導師 ［俗語］童貞、魔法使い ［レベル］3 1L:þcɑcı ［文化］ ıþſın, beel

ueþcſ ［魔物］ヴェリット（闇蝙蝠）：第二天：闇の陽天 ［レベル］5 1L:þcɑcı/ȷeþen/ɒel:uel/eþcſ ［文化］ 鳥族。大型の蝙蝠。集団で襲いかかり、血を吸いつくす。また、集団で魔法攻撃をしてくる。光に弱く、光の魔法を放つと逃げていく。闇を減少する。

ueþcnȷ ［生物］黒い眼 ［レベル］3 1L

ueμcu ［物理］超音波 ［レベル］4　1L:μcɑcı:ueμcſ/eeu ［文化］ 魔族ヴェリットは獲物を捕獲するときに超音波を利用し、暗闇でも身動きが取れる。アシェットはヴェリットとの戦闘を経て、超音波の存在に気付いた。

ueμcᴅ ［芸術］ＨＳＶ色空間、ＨＳＢ色空間、ヴェリム　jᴅ:ʅıɔlcjſ;ueμıμſ/ncᴅ「黒魔法色」黒魔法を指す文字が○の中に△で、これがカオシストの考えたＨＳＶ色空間の表現法の形と同じだったことから。実際には色空間は黒魔法とは何ら関係がない。単に文字のデザインの類似性による。　J1 ［文化］ ʅıɔlcn と色魔法のおかげで地球より遙かに早く、jᴅ で ʅıɔlcjſ によって考案された。現代では円錐形、円柱形もある。３次元表現が難しいため当時は２次元のを用いており、地球と同じく彩度を高さ、明度を底辺とした三角形で、色相をその周りの円で示した。ただし色相環は１２時が黄色になるので注意。
　ＲＧＢやＣＭＹＫに比べて人間が色を知覚する方法に近いため、直感的に分かりやすい。　色相は０～３５９、彩度と明度は０.００～１.００の値を取る。色相を０～１００％に正規化する場合もある。例えば色相０は黄色であり、１８０は青紫である。ただし地球の場合、０だと赤で１８０だと青緑である。

ueμcıl,jzj　ʅɔʅɔ　‹›uel, ueμ。暗くなると大人しくなるところから。

ueμɔ ［名詞］ジャーナル ［レベル］4　1ʕ: 制 :ueμſ から

ueμeſ ［名詞］サンプル、検体、見本 ［レベル］3　1L:ueſəμ 【用例】 scφ{ ııs} ueμeſ サンプルを選ぶ

ueμeſeʅ ［料理］黒茶 ［レベル］3　μɑ;/　Jʔ

ueμen ［地学］黒曜石、黒耀石 ［レベル］4　J1:ləjcın:ueμ/μen

ueμenj ［名詞］怪談、お化けの話、ホラー、怖い話 ［レベル］3　1L:ueᴅ/μenj

uez ［言語］文法。科目名→ ɑeldınſ ［レベル］3　1L:ueſ/ɔz。uɔʅ/ɔz で uɔz だと、弓と重複するため。

uezſeſɔnı ［言語］統合関係　1L

uezueſ ［言語］機能語 ［反意語］ıluezueſ ［レベル］5　J0

uezueſeᴅ ［言語］文法化 ［反意語］ıluezeᴅ ［レベル］6　J0

uezɑel ［言語］文法学、文法論 ［レベル］4　1L ［語法］ 形態論と統語論の総称。

ues ［アイテム］矢 ［名詞］矢印 ［電算］カーソル ［反意語］uɔz ［レベル］2
　@ 1L

ueslıj ［弓道］馬手、めて。ふつう右手。　μɑ;/。「矢の手」。矢を番える手であることから。　Jᘉ

ueslɔſj ［電算］カーソルキー ［レベル］3　J0

uescɑı ［地球の星座］［ユマナ］や座　Jᘉ ［文化］ cɑı

uel ［名詞］闇 ［類義語］ʅɔuel ［反意語］ɑıμ ［レベル］2　uel,ɑ　赤　uel:ue l:lə uel:ɑμıſıncſc,ul 【用例】 uel lce 深い闇

uel,ɑ　uel、ueμ、ɑəμne、ucμɑ　ue（闇）/ıl（もの）

uelſ ［形容詞］暗い、昏い ［魔法］ヴェルト（ブライン）。害の低位黒魔法。相手の目を見えなくする。フィルトで解除できる。 ［類義語］ıluelſ ［反意語］ɑcμſ ［レベル］1　1L:uelſeeze（闇の風） :::ncl,hy 【用例】 ez uelſ 暗い部屋　lelſ uelſ 昏い月

uelſ,ɑu　ᴅıμʅ　ıuelınſ.ʅ

uelſuıcʅ ［名詞］暗い部分 ［芸術］トーン ［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbılelſ ［語法］
　キャラクタの影になる部分が uelſuıcʅ。トーン貼りをするのもここ。キャラクタの作る影法師は ueᴅɔ。陰になる部分と影そのものの違いに注意。

uelſφını ［魔法］暗領域 ［反意語］ɑcμſφını ［レベル］6　J1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

uelſφcᴅ ［地学］暗礁 ［レベル］5　μɑ;uelſ/φcᴅʅı「暗い浅瀬」 Jᘉ

uelſdɔl ［地名］暗方 ［レベル］5　J0 ［文化］ ヴェマ、リーシア、ヴォザモの地方。ɑcclcı と似た方言で、周囲から孤立した地域。サールの恩恵を受け、特殊な文化を持つ。アルシェを英雄視しない。旧共産圏だが、ヴェマだけは中立だった。　ヴァステのときサールの本拠地がヴェマだっただけあって、国民はサール信者。国父はアルデスではなくティクノで、やはりこれもヴァステの活躍が物を言う。国母はポエン。

uelſμenj ［言語］陰なる言葉、隠された意味、ヴェルトレンス ［レベル］4　J0: 暗い言葉 ［文化］ 文学や芸術における表現技法のひとつ。特に革命後の高コンテクスト化に伴って発達した技法で、隠された意味のことを指す。作品はパッと見て分かる前景化されたメッセージのほかに、隠されたメッセージを持つ。その隠されたものを uelſμenj という。前景化されたメッセージは lıenμenj という。　lıenμenj は常に分かりやすく、目立っている。uelſμenj は目立たず、解釈に知識やウィットを要する。uelſμenj は素顔とみなすこともできるが、むしろ lıenμenj を補完するものである。　アルバザードにおいて巧い作品というのは、いかに lıenμenj を目立たせ、そちらに目を引かせることで uelſμenj を隠すかにかかっている。なお、隠せばいいというものではない。アハ体験のように、一度 uelſμenj に気付いてしまえば、「どうして lıenμenj との関連に気付かなかったのか」と自分でも不思議に思うようなものが上質とされる。　uelſμenj にはアルバザード人の気質がよく現れている。衒学を嫌うものの、智に敬意を払う姿勢がよく現れている。つまり、真意や真理を前面に打ち出すのは下品であり、真理はさりげなく気付かないところに置けばいいという考えである。また、この技法は彼らの優しさも示している。作品の半分は知識やウィットがなくても理解できる前景にあるため、分からない人も楽しめるようにと考えられている。

uelſſɔıl ［動詞］yəl を邪推する、邪推する ［普通動名詞］邪推 ［レベル］4
J1

uelſc ［美容］クマ、くま、隅 ［レベル］3　J1:uelſ

uelſcj ［人名］ヴェルティス ［組み数字］1／１１ ［レベル］3　古 :μcɑcı:uel（闇）/ſcj（人） ［文化］ アルシアの１番目。闇の魔法の大成者。女性。

uelſɔ ［天文］暗い月、昏い月、ヴェルト、影のかかった月 ［レベル］4
　古 :uelᴅ/lelſɔ（闇の月）

uelſɔlcl ［化学］ランタン ［レベル］5　1Δ: 制

uelſɔɔl ［魔物］ヴェルトール（闇竜）：第六天：闇の衛天 ［レベル］5
1L:μcɑcı/jeμen/ᴅel:uel/ſɔɔl ［文化］ 闇属性の地竜。大型で黒い肌をしている。

uelſɔɔlheſ ［天文］ファルカド　1L:μcɑcı/jeμen/ᴅel ［文化］ uelſɔɔlɔjn

uelſɔɔlɔjn ［天文］コカブ　1L:μcɑcı/jeμen/ᴅel ［文化］ ヴェルトールの頭。封印の際、オヴィがヴェルトールの長と一騎をした。あまりの大きさで封印できなかったため、オヴィは頭と尻尾を切り落とし、残った体を粉砕した。体は木端微塵になり、周囲の小さい星となった。頭はコカブとなり、尻尾はファルカドとなった。

uelſe ［形容詞］落ち着いている、大人びている、知的でクールだ、冷静だ、良い意味で陰気、落ち着いた ［反意語］ɑcnſ、ɑcμſe ［レベル］3
　1L: 闇の風 ［語法］ 陰気を良い意味にした概念。アルバザードでは男女ともとても好まれる。ルティア人と関連付けてイメージされやすい。リディアの父ユーアなどが例。 【用例】 ın jccnı ſeμ leᴅ uelſe cᴅ ejʅ. 雨の時は沈んだ音楽を聴くのが良い。

uelſees ［天文］ダイヤモンドリング ［レベル］6　J1:uelſ/ſees（uj のテージュ孔を暗くしたような）

uelſəl ［物理］ダークマター、暗黒物質 ［レベル］4　1L

uelʅ ［経済］会計、経理 ［レベル］4　jɔμn

uelʅlelſ ［経済］四半期 ［レベル］5　JJ ［文化］ ３カ月で四半期となる。ɑcı_lcj, φcl_ɑyə, ᴅel_zın, dıl_ɑıu の４つに分かれる。アルシエルを使うと季節に合わないため、順に ıſcclc, ɑcuelınl, ucμſej, ɑcılccuı と呼ばれる。ルージュの月は経済活動が活発化するため、ここだけ ınsəμ として別会計とする。期間の区分けが日本とかなり異なるので注意。

uelʅuınſ ［法律］会計法、経理法 ［レベル］5　1L

uelʅᴅını ［医療］梅毒 ［レベル］5　1L:μcɑcı ［語法］ コロケーションは ſcl でなく eᴅ。 ［文化］ μɑ のインプレンで梅毒にかかって客を引けなくなった少女が、症状の軽いうちは経理に回されて事務作業をしていたことから。

uelʅᴅejſ ［経済］貸借対照表 ［レベル］5　1L: 会計の天秤

uelʅhɔc ［経済］会計監査 ［レベル］5　1L

uelʅı ［名詞］かげ、蔭、陰、物陰、物影、ものかげ、物かげ ［レベル］3
　μɑ;/「闇の場所」 Jᘉ

uelʅın ［経済］会計士 ［レベル］5　1L

uelʅɔz ［経済］会計制度 ［レベル］6　1L

uelʅɔzeſ ［名詞］封邑、ほうゆう、ヴェルコゼット ［レベル］4　ls;uel,ɑ/ʅɔzeſ「黒の鍵」。封邑という訳語は元々ウォンバスのもので、結界に相当する単語。黄色いファイルの９８年１月６日午前の記述が初出。
　JJ

uell ［動詞］yəl を ı{c} と区別する、区別する、弁別する ［普通動名詞］区別、弁別 ［反意語］jdıſ ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbılelſ: 恣意 【用例】 el uell ucl ʅıᴅc μın cſ ıμſ. jee ʅɔʅ ſə, el jɔ ucl lyəɑcı μın c ɑcını. よくできた科学は魔法と区別がつかない。同様に、よくできたファンタジーは現実と区別がつかない。

uellıuıc ［言語］弁別的素性 ［レベル］6　1L

uellcɔn ［アトラスの国家］ヴェルシオン ［レベル］3　zφ;「闇の底」 J1 ［文化］
　面積：1JJʕʔʔ.1Δ1ΔΔʕ ʅᴅ J　zφ ～ μɑ まで続いた魔族の国家。精霊族と妖精族がマジョリティを占め、２大勢力による共同統治を行う政治システムを採用していた。精霊族と妖精族の長が同時に執政官として就くという共和制を採った。　bılᴅıyə から移住してきた魔族が当時人口の少なくなっていた ɑcclcı と φılueeyə そしてそれに加えて cneıııſɔ 北部を領土として支配したもので、主な経済基盤は鉱物と材木の輸出。最も有名なのは家具→ ɑcᴅcſɔμcı　zφ_ʅʅ は人間と比較的良好な関係を維持していたが、jᴅ 初期に cɑlcſ を発見。ɑlcıʅeμn が多く産出され、ueljııμs 開発に着手。jᴅ 中期から飛空挺を利用した軍事政策を展開。人間との関係は悪化し、戦争に至る。μɑ で敗戦し、滅亡。
　【成句】 el jıʅ jen ɑısen ʅı uellcɔn ſcj ヴェルシオンでも親切な人は見つかる：渡る世間に鬼はない

uellcɔnμen ［言語］ヴェルシオン語 ［レベル］4　J1 ［文化］ belφınɑμen

uelle ［天文］夜月、夜の月。通常の月 ［レベル］4　JJ:uel/lelſ ［文化］ ɗəəle などと対比される夜に見える通常の月のこと。

uelj ［政治］政治 ［レベル］3　jɔμn: 代表者で行われる会議を指した語。
　【用例】 ıμ uelj μıſ 善政をしく

ueljjɔnɔ ［政治］行政。三権のひとつとしての行政。 ［レベル］4　1L

ueljjɔnɔʅı ［政治］政府のこと。 ［レベル］4　1L

ueljjɔnɔlıφel ［政治］行政権 ［レベル］4　1L

ueljɑɔnl ［政治］政治的無関心、政治的アパシー ［レベル］4　1L

ueljɑel ［政治］政治学 ［レベル］4　1L

ueljdcnı ［政治］公約 ［レベル］4　1L ［文化］ ヴェレイでは日本同様、公約を破っても何のペナルティもなかたったため、無意味な美辞麗句ばかりが並んだ。公約を守らねばペナルティを科すという制度を一度取り入れたところ、失脚を狙った敵対勢力が公約の実現阻止を激しく行うようになり、かえって国民のためにならなかった。そのため、ペナルティ制は廃止。革命では選挙制そのものが消えたため、公約はミロクの口にする約束事になった。ミロクは驚異的な能力と精神力で多くの公約を守り通した。

ueljliφel ［政治］政治権力（政治的な権力）［政治］政権（政権交代や独裁政権などの政権）［レベル］4　1L

ueljiɿn ［政治］政治思想 ［レベル］4　1L

ueljın ［政治］政治家 ［レベル］3　1L ［文化］　革命後は選挙でなく、試験で選出される。

ueljıɥs ［交通］飛空挺、飛行船、飛空艇、ヴェルサージュ ［レベル］4　古 :ɥcɑcı:uel は暗い。s は scnı で空。jıɥ 部分は不明。j/ıɥ で切れて ıɥ の部分は神かもしれない。下から見上げたときに空を隠すので暗くなるというような意味だと思われる。［文化］　→ calcʃ、uellcɔn、lelʃıɥs、ueɥnjıııl、scnɑcı　ueɥnjıııl でヴェルシオン国が開発。その後、西アンシャルへ南下しつつ侵略と略奪を開始。その過程で技術が流出し、侵略された側の国家も次々と飛空挺の開発に乗り出す。1Ϯ0ʕ 年にはヒュート・ケートイア・アルバザードが協同で飛空挺の開発に成功。軍事的重要性から火急的に製造が行われ、1Ϯ1Δ に国軍への配備が完了。　　構造は一言でいえば大きな船である。中心部に飛水晶が安置された部屋があり、動力室を兼ねる。飛水晶は上下の移動は容易でも前後の移動を苦手とするため、艦隊側面部にプロペラを付けたり、甲板に柱を建てプロペラを回す。あるいは帆を張ることもある。このプロペラを回すには別の動力クリスタルが、帆を張るには強い風を起こすためのクリスタルが別途必要となる。　甲板や側面部・前面部には砲台があり、火器の砲台のほか、霊水晶から巨大な uɔɿl 砲を撃つための砲台がある。　　飛水晶の慢性的な枯渇から、アルバザードでは飛空挺の数がどうしても足りなかった。　飛空挺自体は造船技術があれば比較的簡単に作れる。実際ヴェルシオンは悲劇の翌年に飛空挺を完成させている。一方連合は１０年以上も開発に時間をかけている。この理由は造船技術にはない。連合はクリスタルが圧倒的に乏しいため、少ないクリスタルを効率よく使って飛空挺を作るシステムの構築に時間がかかったのである。また、連合は略奪の必要性がないため、対空戦用の小型で小回りの利く飛空挺の開発をする必要があり、これが船のデザインを適応できないため、開発に時間がかかった。実験には当然クリスタルが必要だから、クリスタルが少なければ実験の頻度も減り、結果的に時間がかかるというわけである。　　なお、ɥɑ で飛水晶を掘りつくしてしまい、飛空挺もほとんど破壊されてしまったため、nɑ 以降は飛んでいる姿を見ることができない。　また、ɥɑ でアシェットは lelʃıɥs を使っているが、これも飛空挺の一種である。ただし lelʃıɥs のほうが古い。　　飛空挺の空路については scnɑcı 参照。　当初は食料の略奪に使われたが、戦争が激化するごとに兵士を大量に輸送することが主な役割となった。【成句】 ueljıɥs ɥɔᴅ 青天の霹靂、晴天の霹靂、寝耳に水、やぶから棒　ueljıɥs ɥıuel「また飛空挺かよ」: 捲土重来

ueljɔz ［政治］政治制度 ［レベル］4　1L

ueljea ［普通動名詞］横流し ［動詞］ɥəl を横流しする ［レベル］4　J1

uelnıɥ ［名詞］正義に対する悪、悪 ［形容詞］悪の、悪、悪い ［反意語］ɑılcȷ ［アクセント］uelnϮɥ ［レベル］2　J0: 古 uel/nı/ɥıɥsc（暗い心に触れた）［語法］ dɥɔdııʃı

uelnıɥen ［名詞］悪人 ［レベル］2　ɥɑ;/　J?

uelucɑ ［魔物］ベルヴィド（黒肌鬼）: 第三十一天 : 土の空天 ［俗語］ガングロギャル、メイクの激しいギャル、ギャルメイク、大柄な黒人 ［レベル］4　古 : 黒ゴリラ ［文化］　大型で黒い肌をしたアデル。目の周りに大きなクマがある。

uela ［医療］水腫 ［レベル］6　1L:leun/elɑe（病気の泉）。泉はここでは体内に水が貯まっていることを指す。

uelaccɥe ［生物］魔人、ヴェルフィーレ ［反意語］lɔzeʃ ［レベル］3　J1:jllc。uel は ɑu の「闇」と同根で、ここでは悪魔の意。［文化］　人と魔族の混血児。悪魔・魔物のいずれでも可。魔方のみならず、精霊や妖精のいるイネアートやエルトアなどにも見られる。アリア＝イネアートなど。

uelᴅ ［悪魔］ヴェルム ［歳時記］闇曜日。週の第１日目。［音楽］ド ［組み数字］1 / 7 ［レベル］2　ᴅelʃcı 0:uelᴅ;e　古 : アルシェの語形。ue は闇。［文化］　ソームの１番目。冷静沈着な女性。闇を操る。黒い仮面にレイピアを装備。漆黒の服。黒いマント。黒い仮面の女。体は細身で、レイピアを帯びる。無口。冷静。

uelᴅlcl ［化学］スカンジウム ［レベル］5　1Δ: 制

uelᴅıɥe ［ランドマーク］ヴェルマーレ研究所 ［アクセント］uelᴅϮɥe　J0 ［文化］　ɥəəᴅı ʕΔ90 イヴレスはアンダントを抱き込み、指示に従わない lɥəȷcı には研究費の援助を行わないと脅迫する。これに対し、各 lɥəȷcı が徒党を組んで反発。lɥəȷcı はレスティル全土に 11 箇所あり、各研究所の所長が共同でアルシアに uelᴅıɥe 研究所を設立。各所長は一季節に一度ずつ uelᴅıɥe に集まり、各々の研究所の成果を述べ合った。このときの所長はいずれもユクレシアが初期に教えを授けた同期で、苦楽を共にした仲間であり、個人的に非常に仲が良かった。lɥəəl には見せたくない内容でもお互い目の前でということなら腹を割るという間柄であった

uelᴅc ［植物］ライ麦 ［レベル］3　古

uelɑ ［名詞］酒、アルコール ［レベル］3　zφ‹jzɑ　jɔɥn: なお、古では ɥce、ɥeɥcc（誘惑の水）　ɥce:ɥce:lə uelɑ（ɥcen 神が男なので）［文化］　→ eeɿ（酉）　飲酒は法制上は ᴅıu 以降だが、現実的にはザル法で、革命時にすら守られたことがない。ɥəlc 時は儀式のときなどには可。ᴅılʃ 以降なら常飲しなければお咎めを受けない。　この法律が効果を発するのは飲酒運転で捕まったときなどであり、ᴅıu 未満は量刑が重くなる。　お咎めがないのはこの法律が ul のミナレット下でできたものであり、アルティス教は「酒は年齢に関係なく酔わなければ可」としているためである。　ıl でミロクはこの法を撤廃しようとも考えたが、未成年の深酒を励行すると受け取られる可能性を危惧して取りやめた。　なお、酔っぱらいに対しては日本より厳しめで、比較的すぐに警察に保護される。【用例】 uelɑ ucen キツイ酒、度数の高い酒、強い酒。ラム酒など。　uelɑ ɑız eʃ dcʃı 適量の酒は薬 : 酒は百薬の長　ɑın ɔn uelɑ 酒に強い、酒豪だ　ın hɔʃ len ucl uelɑ ᴅcl ʃɔlcȷ lɔʃ leȷ ɑıɿʃıʃ ı ɑıʃɔɔılnı e ɑcȷ. 今日の稽古上げに参加した人の中で唯一私だけが年齢的にお酒を飲めない。

uelɑɿı ［名詞］居酒屋、バー ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］　アルバザードは知らない人と外で飲むのは嫌う。酒屋で買って自宅や公園で一人、或いは気の合う数人と飲むのが好きである。ゆえに飲み屋は発達しない。居酒屋のようなところは少ないし、キャバクラのような店も少ない。ピンサロのように飲み屋と風俗が合体したものは存在しない。飲むときは飲み、セックスするときはセックスするからである。飲み屋はふつう料理店と同じである。アルバザードに飲み屋単体で存在することはない。

uelɑuıel ［名詞］酒瓶 ［レベル］4　ɥɑ;/　J∬

uelɑᴅıφc ［音楽］ビバップ　ul;「酒酔いのジャズ」 J1

uelɑıʃe ［名詞］酒屋 ［レベル］3　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

uelɑc ［色］紅、くれない、クリムゾン ［レベル］4　J0:ɑclueeɥə「暗みがかった」

uelɑcɿocn ［植物］アマリリス ［レベル］5　ɥɑ;/「紅の百合」 J? ［文化］　ケヴェア原産。色は赤や白など。ɥɑ で流入した。

uelɑcɥ ［魔法］魔母、ヴェルディール ［アクセント］uelɑ€ɥ ［類義語］ıɑel ［レベル］4　J1:‹›uel ［文化］　アデルの母。アデルと魔人の違いは繁殖の仕方にある。魔人は性生殖によって人間と同じように生まれるが、アデルはアデルの母がいなければ繁殖できない。ちょうどヴェルディール女王アリのような存在である。　アデルの繁殖方法は種によって様々であるが、どのような繁殖であろうとハーベは cɔȷel を持ったアデルに lɥəɑel をしようとしても、アデル（およびデルフィア）の遺伝子は投げられたセレスを受け入れることができない。一方、魔母はセレスを受け入れることのできる個体で、いったんセレスを魔母が受け取りそれをアデルへ lɥəɑel することで ᴅılʃccı が成立する。　言い換えればアデルの祖となる１００匹の魔母を倒してしまえばアデルは再生産がされないということになる。デルフィア（亜魔族）の場合、元のアデル（魔族）の祖が魔母となる。混血のアデルの場合、血の濃いほうの魔母が lɥəɑel を担当する。　この祖はアデルというよりデームに近い存在で、殺すことができず、殺しても復活する。厄介なことにテームスなしで自己再生できる。この点でテームスにもある程度近いといえる。　従って ɥɑ ではアシェットはこの祖を見つけて星座に封印することで魔族の再生産を阻害したことになる。魔人は性生殖によって再生産できるため、魔人はその後も生き続けることになる。残ったアデルは人類による地道な討伐によりその数を減らしていった。　問題は飼いならされた竜族のような有用な種も滅んでしまったことである。ペガサスのようなエタンとアデルの混血の場合、魔人と違ってアテンとアデルの混血でないため、魔人のような再生産はできない。やはり再生産には魔母が必要であり、これがペガサスらが滅んでしまった原因である。

uelɑcı ［歴史］ヴェルディア族 ［レベル］5　J0: 古「暗い土地」［文化］　アルカンス交易をしていた豪族。レスティルを建てる。

uelɑcın ［歴史］［地名］ヴェルディアン帝国 ［レベル］4　J0: ヴェルディア人の。n については ʃcljıᴅe 参照 ［文化］　ɥəəᴅı J1J0 にシフェランが建てた帝国。ɥəəᴅı J109 から東西で冷戦が開始。これに合わせてシフェランは内政を強化。シフェランはレスティル国のヴェルディア族出身で、まずはレスティルを平定し、その後周辺国家を属国としていった。占領地には自分の配下を王 (ɑıcz) として置き、属国としていた。　J1J0 年に内政を強化するために属国への支配を強めようと、シフェランは王の上に皇帝 (cɿınʃ) という地位を作り、自分を初代皇帝と呼び、ヴェルディアン帝国を作った。この帝国はレスティルを宗主国とし、それ以外を属国とする形でできており、上下関係の明瞭な連合国と言い換えることができた。帝国の初期の版図はアルカット西岸からスカルディアまでであったが、最大版図は ɥəəᴅı ∬000 の第十次シージア戦争直後である。アルカット西岸からルティアまでを含んだ史上最大の帝国であった。　しかし同年シフェランが戦死すると、帝国は分裂。属国が次々と独立し、帝国は崩壊。レスティルは宗主国でなくなる。

uelɑcel ［軍事］ヴェルディエル、紅漿　J0:uelɑc/eɥcı ［文化］　アンジェリカのカルゼーレを満たす赤色の液体。ディアメル同様、セリエットを上げるためにある。酸素を多く含み、パイロットはヴェルディエル内で酸素が吸えるようになっている。

uelɑəɥne ［気象］朔夜、さくや ［レベル］4　J0:ɥcɑcı:ᴅcɥɔɿ: 暗い夜 ［文化］　月のない晩のこと。

uelɑəɥne ɑɥecφclɑ ［人名］ヴェルドゥルネ＝フレイギルド、朔夜（さくや）［レベル］4　J0:ɥcɑcı:ᴅcɥɔɿ ［文化］　リーファ隊のアルソンの本名。

uelφı ［アイテム］方天戟　jzɿ;uelφc.ɿ　J∬

uelφıɥ ［魔法］［ジョブ］色魔導師、ヴェルガール ［アクセント］uelφϮɥ ［レベル］4　J0:uelφılʃ ［文化］　uelφılʃ

uelφıɥen ［言語］色詞、いろことば ［レベル］5　JJ:uelφıɥ/ɥenȷ ［文化］　lcȷʃcnı　lcȷʃcnı において３６６日にそれぞれ関連付けられた言葉。例えば ᴅeljel の ɑcı ɑcı は「大切なもの」という色詞を持つ。

uelφılʃ ［魔法］色魔法、ヴェルガルト ［レベル］4　J0:「黒門」。ɥɑ での命名当時まだ古アルカなので、この uel は闇ないし黒。［文化］　→ lcȷʃcnı　ɥɑ で、アルシェの準使徒の少女ファミイ＝アマンゼ（旧姓ファミイ＝クルノース）はセレンと共に色魔法の研究をした。元々色は魔法の効果を持っていたが、アルシアも体系化していなかった。色彩感覚と魔法の才能があったファミイはアシェルフィの学校で色魔法部を設立し、セレンを引き込んだ。当時は色で魔法を体系化するという発想は馬鹿げているとされ、人は誰も集まらず、たった２人の部活となった。セレンは無理やり引き込まれる形になったが、ファミイに片思いされていることを知っていたので、黙って付き合った。

その後ファミイは色魔法学を大成し、３６６種の伝統色を定め、メル暦に合わせて１日ずつ色を配色した。色魔法部が低予算で、黒い門の横にある寂れた小屋しか宛がわれなかったため、ここで開発された色魔法のことを「黒門」と呼ぶようになった。

uelφc ［アイテム］戟、げき ȷzɑ;uelʃ/ɑcφc ʝɱ

uelse ［料理］ヴェルジェ水 ［地名］ヴェルジェ ［ユマナ］［料理］ペリエ ［レベル］２ zφ ʝɱ ［文化］ アルナ南東部に位置する街の名。太古の地殻変動により天然ガスを含む地層と地下水層を偶然結合され、天然の発砲水が生まれた。これがヴェルジェの街から湧き、古代から吐き気や後の胃アトニーにあたる病気にいいとされ、愛飲されてきた。zφ ではシフェランなどの指導者が、ʅʅ では英雄アルシェらなども愛飲してきた。現代でも最も愛飲される炭酸水で、特に革命の影響を受けて酒やジュースの代わりに飲まれることが多い。地球でいうペリエに当たる水。

uellcl ［化学］セシウム ［レベル］５ 1Δ: 制

uelı,ɑu dclı ᴅelʃcı ʝʕ:beµʃ;uel.ʅ（黒の） ʝʔ

uelınʃ ［交通］一本道、長い直線の道 ［法副詞］〜するしかない、〜するより他はない、〜するほかはない、〜するよりほかはない ［形容詞］とても長い ［ユマナ］［娯楽］道中 ［類義語］ʃeel ［反意語］ıluelınʃ ［レベル］２ ʃᴅ;ıuelınʃcȷ（死者の道）｜一本道であるところから「する以外の方法がない」というメタファーになった 1L:ıuelınʃcȷ（死者の道）［語法］ ・格詞用法 格詞 uelınʃ も複雑なイディオムを一語にまとめた便利な語である。もし uelınʃ がなければ ȷc zcʅɔ ılʃ ʃcl ȷɔ ʃɔʃɔ という迂言法を取らねばならない。新しい複雑な格詞を作るのは、プログラムで新しい関数を作るのに似た感覚を覚える。関数は複雑な処理をひとつにカプセル化したものと考えることができるため、格詞との類似性がある。【成句】 φcn eʃ ʅelȷ uıµen uelınʃ 商売は長い道の旅路：商いは牛のよだれ uelınʃ ɑcµʃ 前途洋々、前途有為、前途有望 【用例】 uɔµʃ uelınʃ ᴅcl µcdφcl 借金で死ぬしかない

uelınʃe ［形容詞］［ポジティブ］［ネガティブ］頭が固い、頑固な、一本気の ［類義語］ɑɔllɔ、ʅnıʅuɔl ［反意語］ȷeɑı ［レベル］３ ʝ0:uelınʃ/ʃe（一本道のような）［語法］uelınʃe は良くも悪くもある。言い分ける場合は ɑɔllɔ などを使う。【用例】［メタファー］uelınʃe ɥən µcɑcı リディアのように頑固な：一本気があるという意味もあり、中立的 ［メタファー］uelınʃe ɥən ʃlɔʅ ガムのようにしつこい：粘着質で悪い意味で頑固

uelınse ［篋堺］ヴェルアンジェ、ベルアンジェ、ヴェランジェ、ベランジェ ［レベル］５ µɑ;uel/ınse「闇よりも昏き空」 飛空挺にて各国の空を襲撃し、大地に影を落としたことから。 ʝʝ ［文化］ 篋堺司：µıuı uıµȷcclı 篋堺国：uellcɔn, cneııʃɔ lcıµ

uelıl ［生物］悪魔、魔物 ［類義語］lcnȷ、ɑeeᴅ、ıɑel ［アクセント］uelˈıl、uElıl(ɑu) ［レベル］３ ɑu;uel/ıl ʝ0:ʅılce: 古 uel/ıl（闇の者） uelıl:uelıl:lə uelıl ［語法］ ɑclueeɥə 語

uelcz ［動物］虫 ［類義語］ʅəədɔ ȷzɑ ［レベル］３ ʝ0:µcɑcı:ueµ/lccz（黒くて小さいもの）無論黒い虫以外も含む。 ʅəədɔ:ʅəədɔ:lə uelcz:φın ［語法］ ʅəədɔ より意味の広い語で、虫全般を指す。虫だけでなく、クモやミミズ、果ては場合によってはトカゲやクラゲなどをも指す。 アルバザードではとにかく嫌悪され、たいていのアルバザード人は見ただけで動転する。

uelczφıl ［農耕］虫害 ［レベル］４ µɑ ʝʝ

ueleʃ ［名詞］バトン ［レベル］４ µɑ;ıueleʃ.ʅ ʝɱ:ləlcı/µcɑcı。ʝɱ にバトンを始めた紫亞はバトンを zɔn と呼んでいたが、バトンをやるようになってリディアとともに ıueleʃ から造語した。 ［文化］ アトラスでは魔法のロッドを女魔導師がくるくる器用に演舞して回したところからバトンは来ていて、その関係で女子のスポーツである。µʃ に確立した。バトン自体は µɑ でロッドから派生して作られ、芸や余興や演舞として始まったが、スポーツ化したのは µʃ。µɑ ではバトンでなくロッドでバトン演舞をやることもあった。

ueleʃɥɔȷ ［運動］バトントワリング ［レベル］５ µɑ;/ ʝɱ ［文化］ ueleʃ

ueleȷ ［宗教］ヴェレス ［反意語］leʃcȷ ［レベル］３ 古 :ueleȷ ← uıleʃcȷ。音の脱落と母音調和による変化を経た。 ［文化］ leʃcȷ

uelen ［地学］黒水晶 ［類音］uılen ［レベル］５ 1L:uel/µen（闇の宝石） ［文化］ 闇の魔石。uılen とイメージも音も似ているため、関連付けて考えられる。

uelec ［歴史］ヴェレイ、暗黒期、革命前のレイユ、梟首の大獄、きょうしゅのたいごく ［レベル］３ 1L:ȷeµen:uel/lecɥə（暗黒のレイユ）。信者から見て暗黒時代。異教徒からすればアレイユが暗黒の歴史だろうが。

uec ［代詞］一部の人、もの ［レベル］１ ʝ0:µcɑcı:ue:1ɱ: 恣意。ue では le,ne と区別しづらいため ［語法］ 和訳すると「〜な人もいる」が適切なことが多い。【用例】 uec ᴅcn ȷcn lcdl. ケーキが嫌いな女性もいる。

uecʃ ［動詞］ɥəl（物）を c（人）から奪う、ɥəl（人）から ɔn（物）を奪う、奪う、強奪する、略奪する、略取する、掠取する ［動詞］ɥəl を連れさらう、連れ去らう、連れさらう、さらう、拐う、奪う、攫う→ ʃlcɑ ［普通動名詞］強奪、連れさらい、連れ去り、連れさり、人さらい、略奪、略取、掠取 ［レベル］２ 1L:uceneɑʃ ［語法］ 壁塗り構文と同じく、ɥəl の種類によって ɥəl 以下の格が変化する。【用例】 ʃə uecʃcʅ 10 ʃɔlcȷ{ȷılʃ} cʃ ın. １０年寿命が縮んだ。

uecʃəl ［代詞］一部のもの ［レベル］２ ʝ0:µcɑcı

uecʃəleʃ ［代詞］一部のものの ［レベル］２ ʝ0

uecʅ ［植物］実、植物の実、果物の実 ［レベル］２ 1L:ȷeµen:uınʅ/ɥeʅ

uecȷ ［政治］議会、議院 ［レベル］４ ʝ0:µcɑcı:uec:1ʔ: 制：語源不詳

uecȷuelȷ ［政治］議会政治 ［レベル］４ ʝ0

uecȷın ［政治］議員、国会議員 ［レベル］４ ʝ0:µcɑcı

uecȷcıʃ ［政治］議院内閣制 ［レベル］４ 1L

uecn ［形容詞］もっと〜、より〜だ ［名詞］より〜なもの、よりよいもの、より大きいもの ［反意語］ucȷʃ ［レベル］１ 1L: 恣意：制では uıɔ だが、ＶＣＣは言いづらい。【用例】 lı eʃ lele. ʃıl ın eʃ µıʃ uecn. 彼は賢いが、私はもっと上だ。

uecnʃµen ［法律］加重処罰、加重処分 ［レベル］６ µɑ;/ ʝʔ

uecnʅıɑ ［経済］強国 ［レベル］４ 1L ［語法］ ucenʅıɑ

uecnʅcʃʃɔ ［娯楽］ワンナップ、ワンアップ、一機アップ、エクステンド、エクステ ［レベル］３ ʝʝ

uecnnca ［名詞］レベルアップ、グレードアップ、バージョンアップ ［類義語］uecnenuc ［反意語］ucȷʃnca ［レベル］３ ʝ1

uecnneʅ ［経済］一段高 ʝʝ

uecnı ［地球の国名］ロシア ［レベル］４ 古

uecnıdle ［政治］［軍事］ヴェイン・アプレ、富国強兵 ［レベル］４ 1L:「より多くの帆を」［文化］ ナディアに行われた植民地拡大政策で、日本における富国強兵に相当。

uecnıdlen ［企業］ヴェイン・アプレン ʝ1 ［文化］ 日本郵船に相当する企業。

uecnenuc ［名詞］パワーアップ、レベルアップ、グレードアップ、バージョンアップ ［類義語］uecnnca ［反意語］ucȷʃenuc ［レベル］３ ʝ1

uecᴅ ［名詞］事件 ［類義語］ȷɔɑı ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 恣意 【用例】 uecᴅ ɑəɔ ıʃ ȷɔɑ. ひどい事件が起こった。

uecᴅȷlıʅ ［名詞］事件現場 ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

uecɑ ［地学］ベリル、緑柱石。これに色が付いたものがアクアマリンやエメラルドなどと呼ばれる。 ［レベル］４ 1L:uecµen/ɑɔl。意味的な逆成。

uecφ ［サール］ヴェイグ ［動詞］ɥəl という内容の約束を ʃel に対して破る、ɥəl 相手にしていた ɔn に関する約束を破る ［反意語］hıcn ［レベル］２ µcɑcı: 古 ［文化］ ゴブリンのような醜く小さい体をしたサール。貧相な小男の姿をしている。背筋は曲がっていて顔もしわがれて醜いが、白くて立派な服を着ていて身なりだけは良い。ラヴァスにおいて「私は４つの魔晄源をエルトから奪ってみせる」と公言し、散々サールからのもてなしを受けておきながら、戦闘になった途端すぐに劣勢に陥り、こともあろうにエルト側に寝返った。しかしその汚さに秩序を重んじるクレーヴェルは怒り、ヴェイグを捕らえるとサールらの元へ送り返した。ヴェイグが約束を破ったことに怒ったハインはヴェイグを八つ裂きにした。しかしヴェイグは死にきれずにアトラスを彷徨い続けた。【用例】 ın hɔcʃ lı lını lı uecφ ela ın. 彼が私との約束を破らないように、彼を監視した。 ın nıʃ sɔ ᴅın lı uecφıʃ ın. 彼が約束を破ったので怒った。

uecφueµınʃ ［医療］虚偽性障害、虚偽性パーソナリティ障害、詐病 ［レベル］５ ul;uecφ/ueµınʃ ʝʔ:ᴅel ［語法］ 病状などについて虚偽を並べ立てる精神疾患の一種。

uecφl ［形容詞］矮小な、小物、小者、卑しい、しょぼい、ザコ、どうでもいい、取るに足らない、みじめな、情けない、ちんけな、チンケな、有象無象、十把一絡、みっともない ［類義語］beʃʃel、lenıȷ ［反意語］ɑıcʃ ［レベル］３ 1L:uecφın（魔物のヴェイガンのような）［語法］ 偉大の反対。要するに「しょぼい」さま。【用例】 cᴅ le, ᴅec ıʃcʅ ᴅıu uecφl le lccı becnȷıʃ ɔʅ nıl lı. あのころの僕らが笑って軽蔑した恥ずかしい大人にあのときなったんだね（中谷美紀『砂の果実』）

uecφın ［魔物］ヴェイガン（小鬼）：第百天：無属性 ［レベル］３ 古 :uecφ/lın ［文化］ ナイフを持っていて、角が生えている。子供くらいの大きさしかなく、背が丸まっている。 エルトとサールの娘ユーマの男根から生まれた魔物。ユーマは両性具有として生まれるはずだったが、誕生と同時に生まれた世界の歪みテームスと分化する際、男根を引っ張られ、持っていかれてしまった。その結果ユーマは女になり、奪われた男根はテームス内で魔族の一種として再生産された。その魔族がヴェイガンである。ヴェイガンは従ってユーマの一族のなりそこねであり、すなわち人類になれなかったものを意味する。それゆえヴェイガンはあらゆる魔物の中で人間に最も近く、知能もあり、µɑ ではアンジュのようにアシェットに加担するものまで現れた。【成句】 nɔl e uecφın 烏合の衆、雑魚の集まり uecφın lc{en} uecφın 雨後の筍。集団で群れる性質のあることから。

uecφınlɔɔb ［被服］リバティキャップ ȷᴅ;/ ʝɱ ［文化］ ȷᴅ で uecφın がよく身に着けていた。

uecφen ［卑語］せむし、傴僂 ［レベル］３ ʝ1:uecφın ［文化］ 使わないこと。

uecµen ［魔法］［地学］ヴェイレン、エメラルド、緑柱石（エメラルドとしての）［組み数字］４／１０ ［レベル］４ ᴅelʃcı 10:ləɑɔ;ueeɥə/µen 1ʕ:µcɑcı: ヴェーユの宝石 ［文化］ → ɑɔlᴅcɥə ノアの魔石。

uecz ［電算］動画 ［レベル］３ 1L:ɔulecȷ。言いやすいように子音を有声音で固めた。lecȷ と距離を離すためでもある

ueczhɔȷc ［電算］動画ファイル ［レベル］３ 1L

ueczel ［言語］動画辞書、動画辞典、ヴェイゼル ［レベル］４ ʝ1:uecz/ʅlel

uecl ［格詞］さもなくば ［レベル］２ 1L: 制 :uel 【用例】 ȷıb ıµn uecl ʃc ʃcl eɑı. コートを着ないと風邪引くよ。

ueclın ［代詞］一部の人 ［レベル］２ ʝ0:µcɑcı

ueclınʃ ［代詞］一部の人の ［レベル］２ ʝ0

ueclcl ［化学］ベリリウム ［レベル］４ 1Δ: 制

ueɔ ［植物］アヘン、阿片 ［レベル］5 ɹɔɥn

ueɔn ［医療］モルヒネ、モヒ ［レベル］5 ɹɔɥn

ueɔnı ［名詞］ヘロイン ［レベル］5 ɹɔɥn

ueɔᴅ ［形容詞］おどおどした、きょどきょどした、挙動不審な、びくびくした、ビクビクした ［レベル］3 1L:ueᴅ/ɔu 【用例】 lcnı eʃ ʅılᴅı ueɔᴅ. リナはよくきょどきょどしている。

ueɔz ［植物］芥子、ケシ ［レベル］5 ɹɔɥn

ueeɥə ［地名］ヴェーユ、ヴェーユの滝、冥滝 ［レベル］3 ɥcɑcı: 古 :ʃoııɥə は長音なので長音でない uecɥə だったが、後に ueeɥə になった。悪を通過させないという解釈はパールによって加えられた。リディアはこの語はあの世の入り口程度にしか設定しなかったのである。更にフルミネアはセレスがここから生まれるとした。 ［文化］ トワーユの入り口にある小滝の名。ヴェーユの飛沫はセレスになり、セレスは肉体を持って現世に行く。死ぬとヴェーユに戻ってくるが、罪に汚れたセレスは地獄に行く。それ以外はヴェーユを通り、天国へ行く。 |約 1?9 億年前 |ıɥɑel に ueeɥə が生まれ、ɹeleɹ が発生 |

ueeɥ ［形容詞］最後の ［反意語］lıᴅ ［文頭純詞］最後に、最後は、最終的には、結局 ［レベル］2 ɥɑ;ueeɥ,ʅʃ ＜beeɹ,ɑu.l 1L: 赤で beeɹ なので beeɹ にしていたが、卑音 be を含むので嫌だといわれ、恣意にした。bel の料理は変わらないのだが。 benʃlıɹ,ɑ beeɹ,ɑu:beeɹ 【用例】 ɑcɹ ıʃ ɹel ɹɔɥʃ ueeɥel lɔʃ ʃə lceɥ. 今日はこの冬の最後の冷え込みだった。

ueeɥncıɹ ［経済］引け成行、引け成り行き ⅃⅃:ueeɥsenʃ/ncıɹφıɥʃ

ueeɥuinɑ ［名詞］ファイナルアタック ［法律］暴徒の命がけの暴発 ［レベル］4 ⅃0 ［語法］ どうせ自分はもうこれで終わりだと思った人間が取る行動は主に自殺か暴発である。日本人は性格的に自殺が多いが、自己主張の強いアルバザード人はこんな風になったのは世の中が悪いと思って暴れることが多く、自殺よりも他人を巻き込んだ暴発を行いがちである。これをファイナルアタックという。死刑覚悟、ないし犯行後に自殺することを前提とする。 良い意味では、仲間を助けるために敵に最後に決死の一撃を加えることも同じくファイナルアタックという。

ueeɥuicʅ ［料理］最後の一口、ヴェール・ヴァイク ［レベル］3 ⅃0: 最後の部分 ［語法］ 動詞は必ず ʃcl や ʃıɑ でなく ɥəʃı を使うこと。 ［文化］ アルバザードは大皿から自分の小皿に取って食べるスタイルだが、大皿に最後ひとつ残った場合、それを誰が取るかがどこの国でも問題になる。残った場合、目下が必ずひとつ上の目上に薦める。目上はさらにひとつ上に薦め、最終的に一番目上の人物に薦められる。目上はこのとき各人の口調から相手の好みや空腹度を察し、「誰それ君が食べなさい」と言う。もし誰も食べたそうでなければ、自分が食べる。この気配りができるかが目上としての裁量を問われる部分となる。

ueeɥuelʅ ［経済］決算 ［レベル］5 1L ［文化］ uelʅlelʃ 四半期＋ ınsəɥ に行う。総決算はメルセル前に行われる。ほとんどのサラリーマンにとってはファーヴァの月から作業が始まり、ルージュで佳境になる。

ueeɥφıɥʃ ［経済］終値 ［レベル］6 ⅃⅃

ueeɥsenʃ ［経済］引き、引け ［反意語］ueeɥsenʃ ⅃⅃ → eeʃ

ueeɥıʅʃ ［名詞］最後の会談、別れ ［レベル］4 1L:lcɔn ［文化］ 単なる別れは ɑɔɔuı であるが、もう二度と会わない場合は lıɑɔɔuı という。もう会わないことが前提である。遠くに引越したり死別したりしたときに使う。相手も lıɑɔɔuı と返す。lıɑɔɔuı はこのように物理的な距離が遠のく永遠の別れを指すが、精神的な別れも表わせる。職場恋愛の恋人同士が別れるときも lıɑɔɔuı といえるが、これは恋人という関係にある相手との永遠の別れを指す。職場でまた明日顔を合わせるが、そのときはもはや恋人ではない。少なくとも恋人としてのその人とは永遠にさようならをしたわけである。このように精神的な意味でも lıɑɔɔuı が使える。また、死別した相手に冥福を祈る場合は特に lclᴅı という。相手は無論何も返せない。死んだ人の家族は ɹenʃınʃ と返す。また、相手と別れるときに「奥様によろしくお伝えください」と日本語では言うが、この習慣はアルバザードにない。相手の妻に配慮する際は、「奥さんはお元気ですか」などと聞く。

ueel ［言語］音節、シラブル ［レベル］4 1L: 恣意

ueele.ɑu dclc <>uel

uə,ɑ uɔl

uəlɑ,ul ɑɥeʃcɹ

uəlᴅı ［被服］ジゴ袖 nɑ;<lʃ ⅃⅏ ［文化］ lʃ の貴婦人が着ていた袖が nɑ で輸入された。

uəəᴅı,ɑu uıᴅd e

uəəl ［形容詞］人為的な、意図的な、作為的な ［反意語］ᴅcueʃ ［レベル］4 ⅃1: 古 uə（意思）/ 古 ıl（物）【用例】 uıʃıc uəəl 人災

ɑ

ɑ ɑelᴅ

ɑɑ ［演繹音］ぱたぱた、パタパタ、ばたばた、バタバタ、ふぁさふぁさ、ファサファサ ［レベル］2 ⅃⅃ ［語法］ 羽ばたくときの風の音など。翼や扇などの音。 【用例】 ɑııɑ ふぁさーっ uıɑuıɑ パタパタ、バタバタ

ɑᴅ ［単位］ファインメルフィ、センチメルフィ、ＣＭ ［レベル］2 ⅃0

ɑɥɑ ［演繹音］ぴゅー、ぴゅうぴゅう、びゅうびゅう、ピュー、ピュウピュウ、ビュウビュウ、ひゅー、ひゅーひゅー、ヒュー、ヒューヒュー ［レベル］3 ⅃⅃ ［語法］ 風の音に用いる。 【用例】 ʃeeze ınɑ ɹɔɑ{ıɥ} ɑɔ ɑɥəəɑɑɥəəɑ. 風がぴゅーぴゅー吹いている。

ɑɥɑ ［言語］ファルファニア語。ɑɥɑɹ は現代ファルファニア語 ［レベル］5 ⅃1

ɑɥɑɹ ［言語］現代ファルファニア語 ［レベル］5 ⅃⅃

ɑɥɑɑ ［言語］中ファルファニア語。ɥɑ はここに当たる。 ⅃⅃

ɑɥıʃıncʃc ［アイテム］フラタニティ ［レベル］4 ɥɑ:ɥcɑcı;ul で「闇」⅃⅏:ɥcɑcı ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ戦闘用ナイフ。

ɑɥıʅ ［名詞］４分の１、クォーター、クオーター、１５分 ［類音］ɑɥıl：特に注意 ［レベル］2 古

ɑɥın ［数学］関数、函数。プログラムの関数は ʅɔddel。 ［レベル］4 lıʅʃ ı:ᴅel

ɑɥınlceɥ ［魔法］魔香士、フランシエール ［医療］［美容］アロマテラピスト、アロマセラピスト ［アクセント］ɑɥınlcEɥ ［レベル］4 ⅃1:lʃ ［文化］ lɑɥınɹ

ɑɥınɹ ［気象］温風 ［反意語］ɑlenɹ ［レベル］3 ⅃1: オノマトペ

ɑɥınɹe ［魔法］魔香、フランセ ［アクセント］ɑɥınɹE ［レベル］4 ⅃1:lʃ >< ɑɥınɹ 【成句】 ʅɔɥ ɑɥınɹe ı ～に求愛する ［文化］ lɑɥınɹ

ɑɥıl ［名詞］ほとんど ［形容詞］ほとんどの、殆どの ［副詞］ほとんど、ほぼ、ほぼすべて、ほぼ必ず ［類音］ɑɥıʅ：特に注意 ［レベル］1 1L:clᴅə ɹ:ɥcɑcı:ɑɥeᴅ φıl ɔʅɹφıl ［語法］ 確率・頻度両方の意味を持つ。ıləəʃ や ləʃ よりは弱い。代詞 cl の影響で前置することもある。

ɑɥııφ ［交通］フラーグ、竜のタクシー ［レベル］5 ʅʅ;hɥ ⅃⅃ ［文化］ ʅʅ に hɥ で始まったサービスだが、実際には個人規模でそれ以前から同等のサービスがあったという。ʅʅ でアルバザードにも浸透し、ɥɑ まで続いた。 【成句】 uıcɹ e ɑɥııφ 足下を見られる、足元を見る。客の疲れを足元で判断していたことから。 【用例】 lı ıʃᴅıʃ eɥ ɑılʃcl ʅɔnʃ ıɥ uıcɹ e ɑɥııφ ɹcn. あいつ、足元見て水を高く売りつけやがった。

ɑɥcɹ ［形容詞］間接的な ［反意語］clɹ ［レベル］3 ⅃0:ɑɥcl:1L:ɹeɥen/ɥcɑcı:ı ɥbıleʃ: 恣意。ɑɥıl,ɑɥel と似すぎるため。 【用例】 ʃıl ın ɹeɥ lə ɑɥcɹel ᴅın lə uɔɥʃıʃ ɹı ın ɑcıɹ. ただ、祖父は私の生まれる前に亡くなったので私は祖父のことを直接には知らない。

ɑɥcɹʅeu ［言語］隠喩、メタファー ［レベル］5 ⅃0

ɑɥcɹᴅıne ［生物］外分泌 ［レベル］5 ɥʃ;/。汗、唾液、胃液など、組織や臓器から導管を通して分泌されるため。 ⅃⅏

ɑɥcɹᴅcnıl ［政治］間接民主制、間接民主主義、代表民主主義 ［レベル］4 ⅃0 ［文化］ ヴェレイでミロクが滅ぼした。

ɑɥcɹɑclɑıc ［医療］間接灸 ɥɑ;/ ⅃⅏

ɑɥcɹφclɑ ［経済］間接金融 ⅃0

ɑɥcɹɥəlueʃ ［言語］間接目的語 ［レベル］6 ⅃0

ɑɥcɹeɥʅ ［親族］婚族 ［レベル］5 ⅃0:1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

ɑɥcᴅ ［化学］顕微鏡 ［レベル］4 @ 1L:clᴅəɹ:ɥcɑcı ［語法］ ɥɔdᴅedc 接眼レンズ ɑıɥlɔɥ 鏡筒 ʃcʅı アーム scʃ 焦点ハンドル hɔφl レボルバー ʃəlᴅedc 対物レンズ ʅlıd クリップ ɑeɥəɹ 絞り ele ステージ bıʃᴅed 反射鏡 elıʅ 台座 ɹıʃɔl プレパラート ᴅcɹʅıele スライド ᴅcɹʅılɔnɹ カバープレート ［文化］ ıɥʃɑɥcᴅ

ɑɥcᴅcɑı ［地球の星座］［ユマナ］けんびきょう座 ⅃⅏ ［文化］ cɑı

ɑɥccφ ［アイテム］双龍槍、フリーグ ［レベル］4 ⅃0:ɑɥeʃcɹ/ɑcφc（飛竜の槍） ［文化］ 棒の両端に勾玉形の刃が付いた武器。古スカルディアの竜騎兵が好んだ。魔方の支配が長かったカテージュでは現在も体育の時間に剣の代わりに履修することができる。 騎兵は直線方向の攻撃力が大きいため、槍と相性が良い。一方竜騎兵は３６０°に振り回せる武器のほうが好都合で、かつ槍のようにレンジの長いものが好まれた。

ɑɥɔᴅ ［動詞］ɥəl を熟考する、熟考する、考えこむ、考え込む、高度に思考する ［レベル］2 1L: 高い :ɑlɔn 【用例】 ın lıɥ ɑɥıl dıɥᴅın en ɑɥ ɔᴅıʃ ɹccı ʃɔ eʃ ɑılcɹ əl el ʃɔ ıl ılın ʅɔnʃ en ɥəuıʃ ɹccı ʅcnen. 思うにほとんどの日本人は正義が何かとか社会をどうすべきかなんて深く考えたことがないし、苦労した経験もないのだろう。

ɑɥeʃcɹ ［動物］飛龍、飛竜。竜の一種。 ［レベル］4 ɹɥ;ɥʅ 古 :ɥcɑcı ɑɥeʃcɹ:ɑɥeʃcɹ::uəlɑ,ul 【成句】 ɑɥeʃcɹ ʅıen φɥınbel 峠を渡るときに飛竜：渡りに舟 cl ɑɥeʃcɹ eɹ ɹıʃ すべての飛竜の準備ができている：順風満帆 ɑɥeʃcɹ uɔʅʅı 東奔西走 ［文化］ ʃcʅn ɹɥ でルカリア人が翼の生えた竜のロゼットのうち、人間並みの知能を持たないものを家畜として飼いだしたのが最初。 最初は山間部の物品運搬用に用いられたが、ɹɥ の間に兵科としての ɑɥelınʃ が登場した→ ɑɥelınʃ

ɑɥeʃcɹʅıɑ ［地球の国名］ミャンマー、ビルマ ［レベル］6 1L: 地形が飛竜のよう

ɑɥeʃcɹdɔl ［地名］飛竜方 ［レベル］5 ⅃0:ɥcɑcı ［文化］ 北方のうち、ヒュートとイネアートを指す。飛竜人の土地。

ɑɥeʃcɹɥı ［建築］飛竜小屋 ［レベル］5 1L:clᴅəɹ:ɥcɑcı ［語法］ 野営地や基地に併設される小屋。飛竜の盗難防止のため、屋根は馬小屋よりも堅牢。 【成句】 ɑın ɥən ɥıeɹ e ɑɥeʃcɹɥı 飛竜小屋の屋根のように固い。堅牢である 1L:clᴅəɹ:ɥcɑcı

ɑɥelle ［名詞］若い男、フレッシェ ［類義語］ucʅ ［反意語］lıᴅcı ［レベル］3 ⅃0:lcnı:「間接的な誰か」。le ɑɥcl が複合語になり、ɑɥclle になり、アプラウトして ɑɥelle になり、子音が音便して ɑɥelle になったもの。レレゾナの意中の男性がこの年代であり、実名を伏せるためにリナがぼかして「間接的な誰かさん」と呼んだ。それがきっかけで、以降この年代の男性をそのように呼ぶようになったそうだ。ただしその男性は２０代で、その年代を指す言葉は既に ılnıʃ があるため、より広い語義を得た。 ［語法］ おおむね ılᴅını/ılnıʃ だが、ılʃɔnı を含むことも。

ɑɥellel ［名詞］意中の男性、片思いの相手の男 ［反意語］lıɒcın ［レベル］3 ɺ0:lcnı:ɑɥelle/ 古 ıl（もの）

ɑɥeȷʃ ［名詞］迫力 ［レベル］3 ɺ0:ɑɥeȷʃcı（悪魔フレスティアが迫力にあふれていたことから）【用例】 ʃcl ɑɥeȷʃ 迫力がある、大迫力の ȷc ɑɥeȷʃ ちんけな、チンケな

ɑɥeȷʃcl ［アトラスの国家］フレスティル ［レベル］4 ῙL:ɥcɑcı:ɑɥeȷʃcı ［文化］ 面積（本土のみ）：ᙏᖶᒪᒍᐃᕐ.ᑌᒍᑌᑌᙏᒪ ᒣᐅ ᒧ

ɑɥeȷʃcı ［悪魔］フレスティア ［レベル］4 ɒelʃcı 0:ɑɥeȷʃcı;e ɒel/ɅɒcC ɥ:ɭlel: 4 色の霊力を使うデームスはリディアが創造したが、それらを司る上役がいなかったため、メルとクミールが共に作り上げた。 ［文化］ ユノを司る悪魔。ユノを司る。黒い甲冑に身を包んだ長い大剣を持つ剣士。ニムラの上司。ヴァステでカルザスに倒される。このときフレスティアに刺さって曲がった剣が ȷeɥʃcı という大鎌になり、後にクミールに渡る。 土星を司る。

ɑɥeȷʃcıɒcɭʃıɭ ［天文］アルニタク ῙL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ hɔɔɥılccɑı

ɑɥeȷʃcıɣəɭɭı ［天文］オリオン星雲 ῙL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ hɔɔɥılcc ɑı

ɑɥeȷʃcılınɭʃıɭ ［天文］ミンタカ ῙL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ hɔɔɥılccɑı

ɑɥeȷʃcıɔȷn ［天文］アルニラム ῙL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ hɔɔɥılccɑı

ɑɥen ［形容詞］澄んだ、澄む ［反意語］beʃc ［レベル］3 ɑu;e。意味は朝露。後に澄んだという形容詞に。 ılıɭʃı:ɑɥen（朝露）。液中に余計なものが多い状態が濁りで、少ないのが澄みである。【用例】 ȷıd ıʃ ɑɥen nɔɑ ȷɭɔl cɒ ʃə ɑııɥ ɒın eȷɭıʃ cɒ ʃɔlel. 昨日雨が降ったおかげで朝の空気がいつもより澄んでいた。

ɑɥenʃ ［化学］ミョウバン、明礬、みょうばん ［レベル］5 ɑu;ɑɥen/ʃe「澄んだような」。上質の井戸がない場合、質の悪い水にミョウバンを入れて不純物を沈殿させて飲用に使うことがあったことから。 ɺʔ

ɑɥenlen ［形容詞］［ポジティブ］清貧な、貧しい、慎ましやかな、つつましやかな、つましやかな、慎ましい、つつましい ［類義語］ʃcɑ ［反意語］φılɑnıl ［レベル］3 ɺ0: 澄んで食べる ［文化］ アルバザード人が最も重視する価値観のひとつ。食だけでなく服や暮らし向きなど、すべてにおいて適応される。【成句】 ɣəlɑın cɭn ɑɥenlen. 学者は清貧を尊ぶ：武士は食わねど高楊枝。アルバザードにおける学者や芸術家の基本的なあり方。アルバザードでは学者で金持ちだと嫌われる傾向にある。学者は贅沢をしない。清貧を尊び、最低限度の生活をしながら研究に勤しむ学者こそ真の学者であると考えられている。

ɑɥenȷ ［生物］羽根 ［類義語］ɭeɥn ［レベル］2 ɺ0: 古 ɑɥen/ȷıbe（朝露をまとう）［語法］ 妖精や蝶の羽根のように、１枚のフィルムのようになっているもの。羽が何本も集まってできた翼とは異なる。

ɑɥenɑılcȷ ［名詞］清廉潔白 ［レベル］3 ɥɑ;/「澄んだ正義」 ɺʔ 【用例】 lı ʃcl ɑɥenɑılcȷ. 彼は清廉潔白だ。

ɑɥenbeel ［俗語］童帝 ［類義語］beel ［レベル］5 ıl;/「澄んだ童貞」 ɺʔ ［語法］ ハーレム少年漫画の主人公のように、女の子にちやほやされてハーレム状態なのに手を出さず一線を越えない童貞のこと。つまり、やろうと思えばいくらでもやれるのに、あえてやらないという紳士のこと。これは童貞の中でも勝ち組であり、ある意味脱童した人間より格上とみなされる。

ɑɥeɑ ［形容詞］合理的な、無駄のない、効率的な ［反意語］bebel ［レベル］2 ῙL:ɑɥeɒɑɔnʃ（近道）【用例】 ʃə ɑe ɑɥeɑ. 合理性がない (ȷeɥen ıɥbızıɥɑ) 同人が物事を却下するときに言う言葉。毎日のように使う。合理性か芸術性がないことはくだらないこととして嫌悪し、行わない。

ɑɥeɑɣɔl ［動詞］ɣəl を節約する、節約する ［レベル］3 ῙL 【用例】 ınȷ ɑɥeɑɣɔl eɥ ʃ'eɥlɔɥ. うちでは水道の水を節約して使っている。

ɑɥeɑınɔz ［音楽］エコノミーピッキング ɺ1

ɑɥeɒ ［形容詞］近い、周囲の、周りの、近隣の ［格詞］～の近くに ［感動詞］あぶないあぶない、危なかったー ［化学］メタ ［反意語］ɑlɔn ［レベル］1 Ῑʕ: 制 : 短距離。古の ıʃə,ılə などから遠近を作ると「ここ」の ıʃə などに似てしまい、作りづらいので、別の語源を取った。 lɣı:ıʃə :ulınɑ 【成句】 eɒ ɑɥeɒ ı 近寄る、近づく、近付く 【用例】 ıɥʃe, le ıʃ ɑɥeɒ. あぁ、危なかった。 ȷee ɥecɣə ɑɥeɒcɭ ı lə, ʃcıɭ lə uɔl bcɭ lıȷ ləəʃ nccʃel. 少女は青年に近付くと、慰めるようにそっと手を握った。

ɑɥeɒʃız ［生物］近位、中枢 ɥɑ;/ ɺᙏ

ɑɥeɒȷeelılʃc ［地学］中近東 ɺɺ

ɑɥeɒnı ［名詞］［形容詞］親しい、親密な、馴染みのある、なじみのある ［反意語］ɑlɔnnı ［レベル］3 ῙL:ɥcɑcı:nı から始まる感情の単語が多すぎたため、ɑ から始めた。【用例】 ɭcɔn eɒıʃ{ʃclıʃ} ɑɥeɒnı ı lecn. 紫苑はレインと親しくなった。

ɑɥeɒuıȷ ［軍事］接近戦 ［レベル］5 ɺ1

ɑɥeɒɑɔ ［言語］接近音 ῙL

ɑɥeɒɑɔnʃ ［交通］近道、早道 ［娯楽］マクロ、ショートカット ［レベル］2 ῙL:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɑɥeɒı ［音楽］カリプソ ɺ1:ɑɥeɒızeɥ

ɑɥeɒılʃc ［地学］近東 ɺɺ

ɑɥeɒıɣə ［ランドマーク］フレマーユ音楽学校 ［アクセント］ɑɥeɒ↑ɣə ［レベル］6 ɺ0:ɑɥecɒ ［文化］ セルメルでアルナに建てられた初の音楽専門学校。

ɑɥeɒızeɥ ［アトラスの国家］フレマゼル ［レベル］5 ῙL:ɥcɑcı:「歌魔法を歌って魔法陣を描く」［文化］ 声調言語はフレマゼル島及びケヴェア北西部で使われる。 彼らは詩を歌のように詠むことで魔法を使う。 歌と踊りに呼応して魔法陣が描かれ、歌を歌っている間中ずっと効果が継続するという特殊な魔法である。 フレマゼル島はエルトアの迷宮ファティスと繋がっており、幼少期のミルフはここで歌魔法を習得した。【成句】 ıɑel e ɑɥeɒızeɥ eʃ ɭıc 鳥なき里のこうもり

ɑɥeɒızeɥɥen ［言語］フレマゼル語 ［レベル］6 ɥɑ;/ ɺᙏ ［文化］ 活格言語の代表で、ɥɑ でアシェットによってアルバザードに紹介された。

ɑɥeɒc ［名詞］グラデーション ［レベル］3 ɺ1:ɑɥel/ɒcɣə

ɑɥeɒclʃ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、最近、ちょっと前、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。2，3 日～数週 ［類義語］clʃ、ɑlɔnclʃ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺᙏ:/ ［語法］ ɑcɭɑə

ɑɥeɒcnȷ ［医療］近視、目が悪い ［レベル］3 ῙL 【用例】 ın ʃcl ɑɥeɒcnȷ. 私は目が悪い。

ɑɥeɒen ［接続詞］～の近くの ［レベル］3 ῙL:ȷɔnɔhcnɔɭc

ɑɥeɒen(ɺ) ［名詞］隣人、ご近所さん、近所の人、地域住民 ［レベル］2 ɺʔ 【成句】 ıdcı φılʃ e ɑɥeɒen 隣人の門を指さす：我が身かわいさに他人を売り飛ばすこと。ランティス・タンヴェルでアルティス教徒狩りの尋問官に詰問された住民が隣人の門を指さして「あいつが魔女だ」と売って自分だけ助かろうとしたことから。

ɑɥeɒeɥn ［親族］近親、近親者 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺᙏ ［語法］ 親族の中でもより近い間柄、とりわけ親子や兄弟などを指す。

ɑɥeɒeɥnɒıȷ ［普通動名詞］近親婚 ［レベル］5 ɥɑ;/ ɺᙏ

ɑɥeɒelʃe ［死神］フレメルテ ［レベル］5 ɒelʃcı ᙏ:ıʃoııɣə ɔ lənɔ;e ῙL:ɥcɑcı: ほかの四天王と同じく、神聖古アルカをイメージした語源不詳のものにしたらしいが、キャラ設定を見る限り恐らくメルへのあてつけで、語源は ɑɥeɒ/ɒel/ʃe（メルに、近い、感じの）ではないか。四天王を新生で命名するわけにいかないから、文化的に認めないとは思うが。 ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。最強の死神。女性。誘燈種。ほかの四天王と一切関わりを持たない孤独な死神。誘燈種にもかかわらず、夢喰の所作をする。最も知力と能力に秀でた死神で、ほかの三人を抜きん出ている。性格は極めて残忍で、拷問と虐殺が趣味。【成句】 ɑɥeɒelʃe ʃıɑl ucl ȷeleȷ ɥeɭel. フレメルテが魂を奪い損なう：河童の川流れ、弘法も筆の誤り、猿も木から落ちる、上手の手から水が漏る

ɑɥeɒelʃeʃıɭı ［地学］［歴史］フレメルテ大陸 ［ユマナ］バルティカ大陸 ul;/ ɺʔ

ɑɥeɑcʃ ［魔法］符術師 ［ユマナ］陰陽師 ［レベル］4 ῙL:ɥcɑcı:ın が付かないので注意

ɑɥeɑcȷɭ ［アトラスの国家］フレディスク、竜国 ［レベル］3 ῙL:ɥcɑcı:ɑɥeʃcȷ ［文化］ 面積：ᐃᒍᒍᒉᖶ.ᕈᕐᒍᐃᙏ ᒣᐅ ᒧ 高山帯の国で、かつては竜が巣食っていた。ヒュートの人間でさえ近づかない危険な場所だった。

ɑɥeɑcɥ ［魔法］フレディール、符術 ［ユマナ］陰陽術、陰陽道 ［レベル］4 ῙL:ɥcɑcı: 古 ɑə（符）/ɑclenʃ ［文化］ 西洋魔法アルトの一種。インサールで発達した。この場合の西洋はマレットに対する西洋であるため、インサールも含まれる。魔法の符 ıɥɑı に印や言葉を書き連ね、魔力を込めておく。これにより、魔法を携帯することができ、ヴィルを戦闘中にほとんど消費することなく魔法を使える。符に封じ込められる魔法の種類は限られているので、何でも封印して持ち運べるわけではない。ıɥɑı 仕様になった特殊な魔法が込められている。

ɑɥeɣə ［言語］副詞 ［レベル］3 ɺ0:ɑɥeɒ ɣəɔ（動詞の近くに）［語法］ 副詞は一般副詞 (lecɒɑɥeɣə) と純副詞 (leuıɑɥeɣə) に分かれる。純副詞は法副詞 (ɣəneɥɑɥeɣə) と遊離副詞 (ɑılȷɑɥeɣə) に分かれる。 ・一般副詞 形容詞に el を付ける。開音節では l のみ。lcȷ:lcȷel, lıu:l ıuel, ıɒʃ:ıɒʃel, hɔɔɒc:hɔɔɒcl ɣɔφ は ɣɔφın にしないと「贅沢な」の意味が出ない。「贅沢に」は ɣɔφınel。 例 ɥenȷıʃ lcȷel（小さく言った） lı enıʃ eɒʃel（彼女は悲しく泣いた） lı leeuıʃ enʃel（彼はゆっくりと去った） 感情動詞 eɒʃ は「悲しくさせる」なので、悲しくなった場合は eɒʃɔl。なら「悲しく」は eɒʃɔlel かと思うがそうではなく eɒʃel。 もし eɒʃɔlel にしないといけないなら、lcȷel も lcȷɔlel になり、あらゆる形容詞が～ ɔlel になってしまう。 φıɥu も同じ。「苦しめる」が動詞なので、φıɥuɔl で「苦しめられた」。しかし「苦しんで」を φıɥuɔlel にすると lcȷɔlel になってしまうので φıɥuel。 要するに～ ɔlel はなく、～ el だけで～ ɔlel の意味を表せると考えればよい。 逆に、存在する語形は～ ınel。ɣɔφınel のように。むしろこちらに注意。 語順は下記のとおり。目的語が重いほど副詞が前に出てくる。 動詞＋副詞＋節 :ın ɑılıʃ ucenel lenʃ le lı ȷccnı（彼の好きな人形を強く抱いた） 動詞＋副詞＋長い句 :ın ɑılıʃ ucenel lenʃ ɒeɒ e ɣəəɒı ləʃcı（ユーマ＝ルティアの丸い人形を強く抱いた） 動詞＋短い句＋副詞 :ın ɑılıʃ lenʃ ɒeɒ ucenel（丸い人形を強く抱いた） 動詞＋語＋副詞 :ın ɑılıʃ lenʃ ucenel（人形を強く抱いた） ・動副詞 動詞から副詞を作ることができる。 アルカには本質的に「他動詞と自動詞」「動詞と形容詞」「形容詞と副詞」の違いがなく、内容語は基本的に「体言か用言」「モノかコト」「名詞か動詞」で区別する。 動詞と形容詞に本質的な差がないため、形容詞からだけでなく動詞からも副詞が作れる。 lə dccnıʃ lı ȷeʃınel. 彼は彼女を殺すように睨んだ。「殺すように」という能動的な副詞。つまり相手を殺さんばかりの形相でという意味。 lə dccnıʃ lı ȷeʃel. 彼は彼女を殺されたように睨んだ。「殺されたように」という受動的な副詞。つまり死体が加害者を恨めしく思って睨むような視線でという意味。 形容詞の場合、lcȷel（小さくされたように→小さく）のように、受動的な意味で使うケースが無標であり、語形も短い。 しかし動詞の場合、ȷeʃınel のように能動的な意味で使うケースのほうが多いが、語形は有標である。 このように、動副詞はふつうの形容詞から作る副詞に比べて無標の意味が有標な語形を持つ。 ɺʔ 年までは動副詞という概念がなく、動副詞は能動的な意味が無標で、ȷeʃel で ȷeʃınel（殺すように）を表していた。 ただ ɺʔ 年までも ɣɔφın（贅沢な）のような動詞の現在分詞的な形から派生した副詞は ɣɔφınel になるか ɣɔφel になるかで揺れていた。 ɺʔ 年に至るまで徐々に ɣɔφel が「贅沢に」の意味として正しい方向性で固まりつつあっ

たが、ルシアらネイティブの語感に反し、ネイティブらが ɥɔφinel や ɟeʃinel といった言い方を示し合わせたかのようにしだしたことから大人たちの理論が見直され、この動副詞という概念が生まれるに至った。　・主格動副詞と対格動副詞　夢織の中で dcd を使った用例で主格動副詞と対格動副詞の違いが見られる。これはなかなか貴重な例なので挙げておく。　主格動副詞：ɟee lə bcʅ ᴅelscen, bɪɑ cʅ ʃeebe dcdɪnel. すると彼女はメトロノームを掴み、ローブを着た奴に投げて打った。　対格動副詞：ɟɔn ɪᴅc ʃcɔ lɔʃ le ɪʃ ɥcφ dcdel. だからあれは単に投げられて壊れたものだと思ったんだ。　・法副詞　いわゆる助動詞のこと。動詞の直後に来る。場所を変えることはできない。el は付けられない。後置系は lɪl, ɟen, ucl, uɪn など。

前置系は否定の en、命令の ɥe、禁止の ɑen など。　法副詞といってもすべてが法ではない。　アスペクト系のものは ʅcʃ, ɟɪʃ など。テンス系のものは ʃəɥ など。　・遊離副詞　動詞の直後に来たら el が不必要だが、それ以外の場所だと el が必要なもの。　ɪləəʃ 類、ləʃ 類、lɪczɪ 類、ᴅɔɪ、nec、ᴅɪd、hɪlᴅ、ɪc など。　・遊離副詞の形容詞的用法　ᴅɔɪ（既に）などは日本語では形容詞にならない（「既な」のような言葉はない）ので、文中のどこにいっても el なしで副詞にしていいように感じられる。　lɪ lənɪ ᴅɔɪ ɪʃə が lɪ lənɪ ɪʃə ᴅɔɪl になるのは面倒で、lɪ lənɪ ɪʃə ᴅɔɪ でいいではないかと思う。　しかし ᴅɔɪ は形容詞の意味がある。ɪləəʃ や ləʃ などもそうである。例えば leun ᴅɔɪ は既往症という意味になる。日本語に「既な」があれば簡単に理解できそうなものだが。　ɥɪdc nec は未接種の予防接種、eɟʅ ʅɪᴅcl は天気予報の用語で高確率の雨、eɟʅ ləʃ はいつも降る雨、lɪn ʅɔ lɪczɪ は「まだまだ未熟な子供」、bɪl ɑɪnʃe は「作りたての壁」や「ペンキ塗りたての壁」。　何が既に終わっているのか、何がまだまだなのか、それは文脈の中で具体的に決定される。いずれにせよ何かが済んでいたり確率が高かったりするという意味の形容詞になる。

ᴅɔɪ らに形容詞用法があるということは ᴅɔɪ らを副詞として使うときには el を付けないと、形容詞と区別できない。　そこで ᴅɔɪl などが存在する。　・形容詞にかかる副詞　形容詞にかかる副詞は el がいらない。　ʃə eʃ lɪnʃ ʃcnʅɪ.　ʃə eʃ ɑɪz ɥɪʃ ɪ ʃc.　・副詞にかかる副詞　これも el は不要。　例：ʃɥə ʅlcʃcʅ nɔn ɥɪʃel ɥɪʅ.　例：lə leɑ ɟen ʃɪlel ʃcnʅɪ. 彼はとても早く走る。　・感動詞と副詞　感動詞にかかる副詞は el がいらない。　ɟenʃ ʃcnʅɪ.　ɟenʃ ʃcnʅɪl にすると「非常に感謝する」という文語的な印象に。　nɔn ɟenʃ ʃɥə ʃccnɪl の場合は ɟenʃ が感動詞の解釈はありえないので ʃccnɪl に。これは別に文語的ではない。　・副詞の順序　http://constructed-language.org/arka/study_yulf_30.html　・地球での変遷　古アルカ：he で示した。ucuc he で「強く」。he ucuc の語順の時代も。

制アルカ：動詞の後に形容詞を置くと自動的に副詞。あるいは ɥɪl 格に回す。　新生：下記　1：ɥɪl が ɟe に。動詞の直後という方法も残存。　2：ɟe から ɟ' が分離。　3：動詞の直後は純副詞だけに。

4：3により ɟe の頻度が増し、摩擦音の ɟ がうるさく感じられる。リーザが ɟe を e に。リーザ、ミリア、メル、ルシア、セレン・リディア・ネットの順で伝播。経緯は下記。　———　ℷ1 年にリーザが ɟ を脱落させ、e とする。それがミリアに伝わり、ミリアからメルとリディアへ。しかしリディアは原理主義でこれを拒む。メルからルシアへ。ルシアからセレンへ。メルが事情を伝える。セレンからネットへ。セレンが知ったときリーザとリディアは出張中だったため確認できず。セレンは ɟe の頻出をうるさいと感じて後押し。リーザが e としたのは当初 ɟe の摩擦音が強くてうるさいためだろうと考えられた。動詞の後に副詞を置けなくなったため、頻度の増した ɟe がうるさく感じられたのだろう。ところがその後古アルカの he が原因ではないかと考えられた。he は h が弱いのでよく脱落して e と発音された。あのころの感覚なのではないか。新しいものに対応しづらくなってきたというと語弊があるが、年長者のリーザから起こった変化ということを考えると納得できる。　———　5：11L↑ に e がクミールを通過せず。理由は ʅenɔ の e と混同があるため。セレンは事前にこれを予期して下記を執筆。　———　＜接続詞の e と格詞の e は混同するか＞　接続詞が「名詞＋ e ＋名詞」で、格詞が「目的語＋ e ＋形容詞」の構造を持ち、なおかつこの形容詞が名詞用法も持つとき、混同が起こりうるのではないかと考えた。混同があるなら格詞の e を ɟe に戻したほうがいいのではという議論が起こるはず。そこで検証してみた。　bcʅɪʃ lɪɟ e ɑcɪɑcɔl は「奥手な子の手を握った」のか「うぶな感じで手を握った」のか分からないと感じた。本当にそうか検証する。　奥手な子の手を握った→ bcʅɪʃ lɪɟ e ɑcɪɑcɔlen：属格でないと奥手な子という意味にならない。うぶな感じで手を握った→ bcʅɪʃ lɪɟ e ɑcɪɑcɔl：e は格詞。e ɑcɪɑcɔl で副詞となる。　bcʅɪʃ lɪɟ ɑcɪɑcɔl：手自体が奥手という意味になる。比喩的で、手と人のパートニミーである。　ここまでは混同は起こっていない。次の例に行く。　uɪnɑɪʃ ɥeʃl e ɑɪlhɪᴅel でフルパワーなのは自分なのか敵なのか。　フルパワーな敵を→ uɪnɑɪʃ ɥeʃl ɑɪlhɪᴅel

フルパワーで敵を→ uɪnɑɪʃ ɥeʃl e ɑɪlhɪᴅel　フルパワーな者の敵を→ uɪnɑɪʃ ɥeʃl e ɑɪlhɪᴅelen：この場合、攻撃した人、フルパワーな人、フルパワーな人の敵の３人がいることになる。　ɥeʃl e ɑɪlhɪᴅel を副詞句でなく接続詞で「フルパワーの敵」と訳せないか。ɪncʃ eʃ ɥeʃl e ɑɪlhɪᴅel（疲れはフルパワーの天敵だ）では接続詞で解釈できる。なら混同が起こる気がする。しかしこの文では逆に「疲れはフルパワーで敵だ」という副詞句の解釈ができないため、結局混同は起きない。　nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥ は「赤の手を塗った」のか「赤く手を塗った」のか。　赤い手を（何色かに）塗った→ nɪbɪʃ lɪɟ hɪɥ　赤く手を塗った→ nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥ　赤いものの手を塗った→ nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥen：例えば赤い服などを着た人の手を何色かに塗った場合など。　nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥ を「赤の手を塗った」と解釈できれば混同を作れる気がする。例えば hɪɥ が人名だったり社名だったりすれば「赤く手を塗った」との混同が起こる。　こう見ていくと、nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥ で「赤の手を塗った」と「赤く手を塗った」との間に混同を見いだせる。では次にこれは解釈不可能か否か。　恐らく実際問題これを現場で混同することはないだろう。文脈があるからだ。文脈を考慮すれば混同はたいてい解消される。文脈がなければ解釈が揺れる文は自然言語にも無数に存在するが、それを根拠に単語を変えたりはしない。恐らく e を ɟe に戻すほどの混同力はない。　文語については検討したが、口語は検討できていない。文は遡れるが音は遡れないので、言語では一般に口語のほうが混同を嫌う。口語のほうが一発で通じさせる必要性がある。口語で混同が強ければやはり ɟe に戻すという話になる。　音声面で nɪbɪʃ lɪɟ e hɪɥ を見てみると、「赤の手を塗った」は「ミールの手を塗った」と同じ抑揚になるので、lɪ̂ɟ e ᴅɛ́cɥ のように lɪ̂ɟ e hɪ̂ɥ と読まれる。　一方「赤く手を塗った」は「強く叩いた」と同じ抑揚になるので、bɪɑɪʃ Elen e ucen のように、nɪbɪʃ lɪ̂ɟ e hɪɥ と読まれる。　つまり hɪɥ の音の強さや高さが異なる。口語ではここで区別している。従って口語は文語より混同するどころかむしろ逆と分かった。　日英語でも文では混同するが音では抑揚で区別できる例は多い。「私は好きです」の「は」を強く読むと「私は好きですが、ほかの人はどうでしょうね」という意味になる。ただの主語（ここでは経験者）から限定的な意味に変わっている。この文の場合、「は」に傍点を付けるなどしなければ区別できない。「そういうこと」も「あ、そういうことぉ！」という気付きと、「わかってるでしょ、そう、そういうことよ」という意味の場合では「そういう」の高さが違う。高さによって意味合いが変わる。しかしこれは文では分からない。　・問題は別のところにあるのではないか　結局結論としては 「混同しない。しても文脈で判断できる。判断できなかったとしても非常にレアで、そのために頻度の圧倒的に高い e ucen や e ɑcl などを ɟe にして長くするよりも合理的」 ということになる。　しかしこれは正直にいえば恐らくこういう結果になるだろうと長年の経験で予想していた。問題は別のところにある気がしてならなかった。　どちらかというと e に違和感を感じるのは下記が原因ではないか。　bcʅɪʃ lɪɟ e ～まで聞くと、「あぁこれは「の」の e か。いや待てよ。今度からは副詞かも……。e の時点で解釈ができない。次を見なければ」と思う。この待たされる宙ぶらりん感が嫌なのではないか。　lɪɟ e ᴅccɥ と来れば「あぁ、ｏｆのほうか」と思うし、lɪɟ e ucen と来れば「あ、－ｌｙのほうか」と思う。最後まで聞かないと解釈が安定しなくなったのが嫌なのではないか。ｏｆのほうかなと思って聞いていたら形容詞が来たからここは副詞句で解釈だとなると、e ucen は lɪɟ でなくその前の動詞にかかる。だから動詞が何だったか脳内で検索して、この e ucen を動詞 bcʅɪʃ にかけなおさなければならない。これが面倒で、脳が不快なのではないか。

この話をメルに相談したところ、それは現状 e が接続詞でデフォルトになっているからにすぎないと言われた。bcʅɪʃ lɪɟ e まで来たとき、この e が lɪɟ にかかるものと決め付けているのは旧来の癖にすぎない。e が接続詞にも格詞にもなるなら始めから e まで聞いた段階では lɪɟ にかけておかない。その後 ᴅccɥ が来れば初めて lɪɟ にかける。だからかけなおしという感覚は旧来の癖にすぎず、これをもって ɟe に戻すのは合理性がないという。これについては了解した。　また日本語で検討してみたところ、似たようなものがあることに気付いた。「俺の」まで聞いたとする。この後「手」と来れば「あぁ、ｏｆか」と思う。しかし「言ったことを」が続けば「あぁ、ここは「が」を意味する「の」か」と思う。　これでは lɪɟ e の話と同じではないか。結局「の」の後を聞くまで「の」の解釈が分からない。e の後を聞くまで e の解釈が分からないのと同じだ。　しかしだからといって日本語は格助詞「の」を廃止するかというとそんなことはない。同じような例は「の」以外にもあるし、英語にもある。となれば、解釈が宙ぶらりんになるからといって ɟe に戻す必要はないということになる。　もし戻すのなら、残る可能性は「解釈が宙ぶらりんでなく不明瞭になるから」だが、これは「現実的に混同することはまずないし、そのリスクよりほとんどの日常的な副詞句を手早く喋れるメリットを取ったほうが良い」という結論ですでに解決している。よって ɟe に戻す必要性はないと結論付けられる。　———

ところがクミールの問題にしていたのはここではなかった。ɟe に戻すのではなく、ɟe そのものが問題だというそもそも論に発展。　ɟe が格詞なら後ろには名詞句しか来れないはず。なのに ɟe だけ形容詞を取る。ʅɪ などとは違って。これは文法的に見て異様とのこと。副詞が動詞にかかるので格詞扱いにしていたが、文法的な振る舞いがおかしい。格詞の「名詞句を取る」という定義に反する。　e に嫌気がさしたことが契機となり、このそもそも論が勃発。クミールが el を提案。ɟ' や e というアクロバットな組み合わせに辟易していたこともあり、比較的ルティア家があっさり受け入れ。セレンも検討し、了承。同 11L↑ より実験に入る。　動名詞は el から elɟ に。良い音を取っているくせに頻度が少ないのでターゲットになったようだ。　メリットは副詞の位置が比較的自由になったこと。　また、クミールは ɟe hɪn や ɟe ɥɪʃ のような一拍置くリズムが嫌だったという。副詞という１概念なのに発音上は２概念に見える。座りが悪かったそうだ。

なお、上の考察に対しクミールは "lɪ cɟʅɪʃ lec e ɑcɥᴅɪɟ" では「彼は無知に本を読んだ」のか「彼は白紙の本を読んだ」のか区別できないので混同するという例を出し、セレンを論破した。　去年は属格で揺れて今年は副詞で揺れた。　属格で最後の揺れとしていたリディアは不快だったようだ。しかし直すなら早いほうがいい。子供が危ぶまれる。　11L↿: ネットでは ɟɪɟ hɪcʃ というのだから ɟe の後に形容詞が来てもいいのではという意見があった。それを受けて考えてみた。　ɟɪɟ hɪcʃ は ɟɪɟ hɪcʃen, ɟɪɟ ʃəl hɪcʃ が根底にあると考えられるから、結局名詞句が後ろにある。形容詞ではない。　でもそれなら ɟe だって ɟe ʅɔɔʅ ucen などと考えられるから、ɟɪɟ と同じだ。ɟɪɟ がイキなら ɟe もイキでいいではないか。　という意見も成立するように思えるが、el に流れた今となっては el を抑制する理論でないと流れは変わらないだろう。　こうなった発端は９年前のプロトタイプ制アルカだ。世界一簡単な言語を目指した結果、形副詞が生まれた。

語順で副詞を示し、形容詞だけ覚えればいいようにした。それが使いづらいということで ɥɪl や ɟe ができ、徐々に今日の el に向けて崩壊していった。　結局９年間引きずったということで、言語の変化はやはり緩やかだと感じた。といっても個人でＰＣの前だけで作っている言語ならもっと早く舵取りできたし、変えようと思えばその日のうちにでも変えられるのだろう。アルカは動きが重い。

aɥel ［医療］慢性　［副詞］ゆっくりと、漸次的に、じょじょに、徐々に、だんだん　［反意語］ɥɔᴅ　［レベル］2　1L:ɟeɥen/ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ: 恣意　【用例】

senʃ eᴅıʃ ɥıʃ ɑɥelel. 天気はだんだん良くなっていった。

ɑɥelʃıl ［音楽］アッチェレランド ［反意語］ɑɥelɷeᴅc ［レベル］6 ɥɷ;/ ɺ⋒

ɑɥelɷeᴅc ［音楽］リタルダンド ［反意語］ɑɥelʃıl ［レベル］6 ɥɷ;/ ɺ⋒

ɑɥelφeȷ ［ネガティブ］［形容詞］［副詞］漫然な、漫然と、だらだらと、ダラダラと ［レベル］3 ɥɷ;ɑɥel/φeȷ「ゆっくりと腐るような」 ɺɺ

ɑɥelhɔdȷeɥcdɔı ［医療］慢性骨髄性白血病 1L:ȷeɥen

ɑɥelınʃ ［ジョブ］竜騎士、龍騎士、ドラゴンナイト、ドラグーン、竜騎兵、フレラント ［レベル］4 ȷɥ;ɑɥeʃcȷ/lınʃcȷ,ɥ˥ ɺˀ ［文化］ ɑɥeʃcȷ, ıuı ıɥ, ˥lcınle 飛竜に乗って戦う兵士。ȷɥ のルカリア発祥。やがてレスティルなどにも伝わった。軍隊の中では花形の兵科で、ダントツの人気を誇る。 青や銀や黒の鎧を纏い、長い槍を持つ。この槍を持って竜から落下し、身一つで敵の頭上に槍ごと突っ込むことを ıuııɥ という。アヴァールをした後は飛竜が降りてくるので再びまたがる。アヴァールが外れた場合は地面に落下しないよう、直前でユノで浮き上がり、安全に着地する。 竜に乗ったまま急降下して敵を槍で突き刺す技は ˥lcınle という。敵に槍を放つとともに竜を急上昇させ、再び急降下して攻撃する。このようにして連続攻撃を行う。クリアンシェは複数回攻撃できるが、一回あたりのダメージは小さい。アヴァールは一撃必殺で、全力をかけて敵めがけ落下していく。

ɑɥeı ［地学］鉄 ［形容詞］鉄の ［組み数字］4 / 4 ［レベル］2 ᴅelʃcı ΔΔ:φc lcəȷ;ɑɥec.˥ 1L:ɑɥec から。剣を作る道具 ［文化］ ヴィルの伝導率は良くないが、ユノの伝導率が極めて高い金属。それゆえ剣などの武器に使用される。 【成句】 bɔlʃ ɑɥeı hıɥʃ 鉄は熱いうちに打て

ɑɥeıȷel ［歳時記］鉄の日 ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ ɑınʃȷel

ɑɥeın ［ネガティブ］［形容詞］図太い、神経が図太い ［類義語］nııu ［レベル］3 ɺ0:ɑɥeı/nı（鉄の心）

ɑɥeıɑɔnʃ ［企業］［人名］フレアフォント、国定 ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ JR、国鉄に相当する企業。

ɑɥeıᴅe˥cı ［名詞］鉄器 ［レベル］4 ᴅelʃcı ΔΔ:φclcəȷ;/ ɺˀ

ɑɥeıɷɔl ［地学］鉄鉱 ［レベル］5 1L

ɑɥeılcl ［化学］鉄→ ɑɥeı ［レベル］4 1L

ɑɥec ［アイテム］剣、諸刃、両刃 ［類義語］˥ıl ［レベル］2 ȷı ᴅelʃcı ΔΔ;ɑɔu eʃ。剣を振ったときのビュンという音から。 19: 制 : 古では dcc˥c だが、剣を振ったときのオノマトペから 19 年に作った。神話では古からある。 ʃlɔφc,dcc˥c,ɑɥec:dcc˥c,ɑɥec:lə səlceʃ:˥ılc,ılʃ ȷı˥lı,ɑcφcʃ 【成句】 ɑɥec ˥ıen φıφ 喉元の剣 : 絶体絶命 ［文化］ 最古の剣は石製で、次に銅剣などが ɑu でギリウスによって作られた。メルティア ΔΔ 年に鉄の剣が作られた。

ɑɥecʃccl ［丁寧］［親族］［男性］ɑɥecnɔı ［レベル］2 ɺ1 ［語法］ 男性が別の女性に向かってその父（たいていは自分）を指すときの言葉。それ自体が丁寧な言葉なので、ɑɥecɷcn などはない。 ［文化］ lııl 【用例】 ᴅɞ ɑɥecʃccl ᴅcɥ ȷɔnʃ ʃc, lcıɞ ん？お父様に撫でてほしいのか、紫亞？

ɑɥecʃəın ［丁寧］［親族］［女性］ɑɥecnɔı ［レベル］2 ɺ1:ɥcɷcı ［語法］ 女性が別の女性に向かってその父を指すときの言葉。それ自体が丁寧な言葉なので、ɑɥecʃoın などはない。 ［文化］ lııl 【用例】 ɑɥecʃəın lı dıɥᴅ, lcın. 紫亞ちゃん、お父様は日本にいるのよ。

ɑɥecȷ ［名詞］フレイス、フレティス人、飛竜人 ［レベル］5 ɺ0:ɥcɷcı ［文化］ 飛竜方に住む民族。ヒュート人、イネアート人に分かれる。トール人に比べて体格がよく背が大きい。髪や目の色は薄く、金髪や碧眼が多い。

ɑɥecȷı˥l ［アイテム］ソードベルト ［レベル］5 ɺɺ

ɑɥecn ［ジョブ］フレイン、戦士 ［名詞］運動選手、格闘家、体育会系 ［レベル］3 zφ 1L:ɥcɷcı:ɑɥec/ın ɥııuı:ɥııuı, ɑɥecn: ［文化］ 魔導師に対する概念。ɑɥecın と違い、剣士とは限らない。

ɑɥecnʃ ［名詞］フレイント ［レベル］3 ɺ0:ɑɥec/ʃe ［文化］ エタットとリースを男女に分けた場合、男性は剣と盾に準えて ɑɥecnʃ, ı˥leʃ といい、女性は魔法の杖とタリスマンに準えて ıɥneʃ, ɥenʃe という。アルデンやアルベンなど、位相の種類が多いため、まとめた言葉として辞書のタグなどに使われる。 ユンクとミリアとマユは言語上同じ単語を使うことがあり、この３種のまとまりをさらに ɥənʃe という。マユとユンクの総称は lccʃe で、これに対してマユとミリアの総称は ɑɔlʃe。 マユは中間的な位相なため、たいてい ıɥneʃ だけでなく ɥenʃe も場合に応じて使う。辞書に［ɥenʃe］とあっても状況や個性に応じて使うことができる。個性というのは例えばマユでもユンク寄りのマユやアンマ寄りのマユがいるので、前者の場合積極的に ɥenʃe を使うことになる。 ɥenʃe:ɥən˥/ᴅclcı ɥənʃe:ᴅıɥə/ɥən˥/ᴅclcı lccʃe:ᴅıɥə/ɥən˥ ɑɔlʃe:ᴅıɥə/ᴅclcı

ɑɥecnȷılıȷ ［被服］タンクトップ ［レベル］4 ɺ1

ɑɥecnȷɔs ［医療］脊椎すべり症 ［レベル］6 1L:ɥcɷcı ［文化］ カコで、戦士がよくなったことから名づけられた。

ɑɥecnhɔɷ ［医療］疲労骨折 ［レベル］5 1L:ȷeɥen/ɥcɷcı

ɑɥecnɔı ［丁寧］［親族］［ɥenʃe］お父様、父上、おじさま、フレイノア ［アクセント］ɑɥecnɘı ［レベル］2 ɺ1:ɑɥec nɔın（私の剣） ［文化］ lııl

ɑɥecnɔın ［丁寧］［親族］お父様、父上、おじさま、フレイノアン ［レベル］2 ɺ1:ɑɥec nɔın（私の剣） ［文化］ lııl

ɑɥecneᴅd ［植物］グラジオラス 19: 剣の形の葉から

ɑɥecuınʃcȷ ［軍事］剣兵 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı

ɑɥecueɥınʃ ［医療］剣型人格障害 ［レベル］5 ıl;/ ɺˀ:ȷeɥen/ᴅel ［文化］ ueɥınʃ

ɑɥecᴅ ［魔法］歌魔法、フレイム ［レベル］4 1L:ɑɥeᴅ（短い）の二重母音へのアプラウト。通常の歌より短い、魔法用の歌であることから。 ［文化］ ミルフおよびネーネの使う特殊な魔法。呪文が歌となっており、彼女が歌っている間、効果を発揮する。味方の戦闘力をあげるなど、補助系の魔法が多い。 本場はフレマゼルであり、フレマゼル語で唱えられることもある。フレマゼル語は世界で比較的珍しい活格言語に属するが、歌魔法によって ɥɷ で知名度を得た。

ɑɥecᴅcı ［管堺］フレイミア ɥɷ;ɑɥecᴅ/ɷcı（土地） ［レベル］5 ɺɺ ［文化］ 管堺司 : neene uıleᴅ 管堺国 : ɑɥeᴅızeɥ, ıucel, ılɔz, hɥə˥ıl, ˥ɔ dıdıl, ᴅɔ˥ıl, dılɥı ıɷenʃɔ はオヴィと共同統治。

ɑɥecᴅccnı ［名詞］男勝りな女 ［反意語］ınɑelclcı ［レベル］3 ɺɺ:「剣を持った花」 ［文化］ ınɑelclcı

ɑɥecφın ［人名］フレイガン ɺ0 ［文化］ (ɥəəᴅı ꟼL1⋒:(Δ0Δꞩ:) アルバ二世。 ɥəəᴅı ꟼL1⋒ アルバ、息子の ɑɥecφın を授かる

ɑɥecφe˥ ［娯楽］けんだま、けん玉、剣玉 ［名詞］騎乗位、騎上位 ［レベル］3 19: 制 : けんの部分が剣を意味する古アルカの字に似ており、それに球を留めることから。「 剣玉 」と同じ発想。 | 1L:ᴅel ［文化］ おもちゃの一種。アルバザードのものは日本で普及しているものと異なる。まず、大皿小皿の違いがない。単純図形における左右非対称を嫌うからである。また、剣が交差する部分、球が刺さっているときの場合は球の下の部分、そこに剣が突き出ている。剣玉が十字に見えるように正対したとき、一番上には球がくる。その下には横木と縦木が交差している部分がある。その交差している部分に一本棒が前後に突き刺さっているということである。このように剣が突き刺さっており、前から見ても後ろから見ても剣が突き出ているので棒が二本あるかのように見えるが、一本の棒が貫通しているだけである。この剣の部分は頂点に生えている剣と同じもので、とめけんに使ったり、ここを持って遊んだりする。尚、この剣は頂点の剣より短い。ようやっと球が落ちずに収まる程度である。剣が長いと横の皿同士でもしかめのように球を回しあうときに邪魔になるからである。要するにアルバザードの剣玉は小皿大皿の区別が無く、真ん中に角が前後に生えていると考えればよい。尚、真ん中の角がないものや、真ん中の角がなくなって代わりに小皿になっているものもある。これらはバリエーションである。 ・性交の体位 ȷııɥᴅ clc が起こりやすいことと、女性主導で女性が疲れるということで、アルバザードではあまり好まれない。めんどうだからと騎乗位をせがむ男性は嫌がられることが多い。

ɑɥecφel ［軍事］銃剣 ［レベル］5 nɷ;/ ɺ⋒ ［文化］ φel

ɑɥecɥı ［エルト］フレイヤ ［レベル］4 古 ［文化］ エルフレインの姉妹のうち、姉のほう。ルフェルの腹心を務める。

ɑɥecɥ ［娯楽］ギルド、傭兵所 ［レベル］4 ɺɺ:ɑɥecn/ɥı ［文化］ 兵士や戦士や魔導師の集うところ。現代ではゲーム内に存在する。

ɑɥecɥcı ［地名］フレイリア湾 ［レベル］5 ɺ0:ɥcɷcı:elɑɥecn/eɥcı ［文化］ ヒュート・ファルファニア間の湾。

ɑɥecın ［ジョブ］剣士、剣闘士、グラディエイター、グラディエーター、ソードマン ［レベル］3 1L:ɥcɷcı

ɑɥecıɷcȷ ［法律］剣刑 1L ［文化］ 柱にくくりつけ、刑場を通る軍人が一本ずつ剣を突き刺す刑。軍の違反者に適応。

ɑɥecɔᴅ ［運動］剣道、剣術 ［レベル］3 ɺ0 ［文化］ ɥəuel の一種。学校で習う。

ɑɥecelc ［動物］カジキ、かじき、メカジキ、ソードフィッシュ、メカジキ ［俗語］男根の長い男性 :1Δ:zını:ıdcıʃ ɔuc ˥ɔn ʃə ɑɥcȷ˥eu ［レベル］4 19: 制 : 剣の魚

ɑɥecelccɑı ［地球の星座］［ユマナ］かじき座 ɺ⋒ ［文化］ cɑı

ɑl ［歴史］フィアル、ɑcıl ［レベル］3 ɺ1

ɑlı˥ ［名詞］羽毛 ［レベル］3 1L:ɑlıd/˥eɥn 【用例】 ın ȷccnı ɥɔl lɔnz e ɑlı˥ cᴅ ᴅɔ˥. 寝るときに羽毛の枕で寝るのが好きだ。

ɑlıȷ ［動詞］ɥəl を放浪する、放浪する ［普通動名詞］放浪 ［レベル］4 ᴅclɑ: 古 :ɑlıȷ

ɑlıȷ˥ıɷ ［地球の国名］カザフスタン ［レベル］6 1L: 国名が放浪の民の国

ɑlın ［天文］望遠鏡 ［レベル］3 高

ɑlın(ɺ) ［人名］フラン。ɑlınɑleɥ の愛称 ɺ1

ɑlınʃ ［気象］そよ風、微風、そよかぜ、涼風 ［形容詞］ふわっとした、香るような、立ち込める、たちこめる、立ち籠めるような、立ちこめる ［美容］ブロー ［類義語］ɑlenȷ ［レベル］2 ɺ0:ɑlın（オノマトペ）/ʃeeze 【用例】 ɑlınʃ lənı˥ enʃɔ ncı ləəʃ le ɥəʃıȷ lelɑc ınɷ eᴅc˥ ɑɔ ȷıl ȷıl. そよ風が吹く。青年の髪が月の光を浴びながらさらさらと靡く。

ɑlınʃcncᴅ ［美容］ロールブラシ ［レベル］5 ɺ1

ɑlınlcı,lʃɷ ɑıȷı

ɑlınlcın ［被服］テイルコート ɥɷ;<,lʃ<ɑlınlcı/en ɺ⋒ ［文化］ 地球より早く ɥɷ の lʃ でできた。

ɑlınȷ ［魔法］獅晄 ［反意語］ucucɷ ［レベル］4 ȷzl;ɑlıᴅ から来ている。兵舎のレリーフから→ ɷɔlᴅcɥə ɺ1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ɑlın ulınɷ ［人名］フラン＝ヴランド ul ɺˀ ［文化］ ɑlınıɥ ul の数学者。

ɑlınueɥ ［地名］フランヴェール ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ clᴅəȷ の ᴅelʃcı 1Δ（フランヴェールの魔女）参照。 ガルヴェーユの地名。ユーマの封じられた泉がある。

ɑlınueɥ(ɺ) ［人名］フランヴェール、怪盗フランヴェール、義賊フランヴェール ［レベル］5 ;ɑlınueɥ ɺ1 ［文化］ nɷ の混乱期に現れた義賊。金持ちから奪い、貧しい民に分け与えた。石川五右衛門に相当する。

ɑlınueɥʃ ［名詞］義賊、怪盗、フランヴェルト ［レベル］4 ;ɑlınueɥ/ʃe ɺ1

alınueɥs ［魔法］風花園、フランヴェルジュ ［レベル］3 ɒſ;<>alınſ「風の園」 ʖ1 【成句】 alınueɥs ɑcncɒ 花鳥風月 ［文化］ ejʅı

alınueɥse ［人名］フランヴェルジェ、花風院 μɑ;alınueɥs.ʅ ʖʔ

alınuel ［企業］フランヴェル ［レベル］4 ʖ1: 創始者の名から ［文化］ ブルガリ、グッチ、エルメス、シャネル、バーバリ、コーチ、プラダなどのブランド会社に相当する企業。

alınalın ［料理］だし巻き卵 ［レベル］3 ʖʖ:ləlcı: 食感から。新宿。これは食べた。

alınalcſ ［魔法］獅法水晶、フランフリート ［アクセント］alınal€ſ ［レベル］5 ɟɒ;alınɟ/calcſ ʖ1 ［文化］ calcſ

alınaleɥ ［歳時記］夏、風夏（ふうか)、フランフレール。涼やかな夏 ［形容詞］夏の ［人名］フランフレール ［アクセント］alınalEɥ ［レベル］4 ʖ0:alınſ/aleı。lſ ［語法］ ɑcıleɥ

alın ɑcɟſ ［人名］フラン＝ディスト ［ユマナ］サンタクロース、サンタ、サンタさん ［レベル］2 ʖʖ:μcɑcı ［文化］ → lcczlccz μſ の偉人。男性。アルシアで孤児院長をしており、身寄りのない子供たちの世話をしていた。lccz lccz の日に子供の成長を祝ってやれない貧しい家庭に施しをした逸話があり、やがてその話が拡大解釈されてアルバザード全土に広まっていった。 死後に神格化され、μſ 末期にはこどもの日にプレゼントをくれるという伝説が生まれた。すなわちサンタクロースに相当する人物である。 アルシアが寒い地域であったことから、メルの月にしては厚着。細身で柔和な顔つきで、銀縁メガネをかけた糸目の３０代後半の男性の姿をしている。常にニコニコしていて性格は穏やか。背が高い。μſ では既に滅んでいたはずのヒュート産の白銀の小型ドラゴンに乗り、よれよれの灰黒マントを羽織っている。左腰には魔法の杖を差している。子どもが寝静まると空を飛んでやってきて、窓や煙突から入って枕元にプレゼントを置いてくれることになっている。のんびりしたところがあって、子供にからかわれやすい。「ぱぱ先生 (μɟcclı lınlı)」と呼ばれていた。
非常に優しい上に女性受けする綺麗な顔立ちをしていることから、小さい女の子の憧れの的になっている。名前が女性っぽいこともあり、余計中性的なイメージがある。ただ無精髭があるので、「せんせい、おヒゲそりなよ」とよく言われる。 もちろん実際には自分の家のお父さんが担当することになるのだが、大体１０才になるまでは大人は皆黙っておく。日本と違って半分以上はその存在を１０才になるまで信じている。レインは事実を知って泣いたクチ。 【用例】
（以下は幻文がルシアによるもので、和訳はセレンが付けたものである） ５歳の娘の日記が夢なさすぎる上に高度すぎて吹いたｗ alın ɑcɟſ eſ ɑcını ız eɥɔ. nɔn lıɥ alın ɑcɟſ eſ ɑcını. ıɅılſ eſ ɟı nse eə. elſ, lılſ ıla, alın ɑcɟſ eſ lcɥ lın uɔıɟ əl lə ıis lcɥ ɥəlc ɟecn le nın lınſ ɟeacɥ ıl. ejȣ ɟcnl lccſ ıll e ɥəlc eſ 10 uclɟ ʅɔnſ lı nıll ſ'ıſɔlcɟ eſ 90 uclɟ. ɟcnl lccſ alın ɑcɟſ acſ lcſ ɟeacɥ c ɟelɥecn lını lə ɥɔl ɟen eɒ ʖɱ ɒcu enzel ɔn Ʌıɒɟelɟı ɔ Ʌıɒɟel. lə ſcl ∆'ʕɱ00 scn lını acſ ɟeacɥ ı 10 uclɟ ɥəlc. ılac lə acſ lcɥ lınſ ı 1 ɥəlc ʅɔʅʅɔ ∆.ʕɱ×10 –ᛏ scn. ɥın ſə eſ ucllın eə. ɟııl, lılſ ıul, lə ɟc ɟınse len lınſ ɟeacɥ ı ɥəlc ɟecn ɒcl lə lcɒ ɟen ɥəə φcɔ c ſə ɟɔɔl. ılɟɔn lılſ ıla ɔnſ ıul, nɔn lıɥ alın ɑcɟſ eſ ɑcını eə. サンタクロースは実在か。 サンタクロースは虚構であると考える。以下が理由である。 第一に、数学的に、サンタクロースは複数人であるかプレゼントをあげる子供を厳選する必要がある。なぜか。 子供の数を 10 億、地球の人口を 90 億と仮定しよう。 クリスマスとイブに ʖɱ 時間限界まで使えるよう、日付変更線からプレゼントを配っていくと仮定しよう。 10 億人の子供に対して持ち時間は ∆ʕ,ɱ00 秒。つまり一人頭 0.0000∆ʕɱ 秒で配る必要がある。これは不可能だ。 第二に、経済的に見て、サンタクロースにはプレゼントを配るだけの理由がない。というのも、この行いによるメリットがないからだ。 ゆえに数学的および経済的に、私はサンタクロースが虚構であると考える。

alınɑcɥ ［地名］フランディール ［弓道］武射系 ［アクセント］alınɑ€ɥ ［レベル］6 ʖ1:lſ ［文化］ トモエ県の一市。トモエ県トモエ区トモエ市の北東部にある。

alınɑcı ［名詞］［魔法］フランディア、女、美少女、理想の女性、二次元美少女、三次元美少女 ［類義語］ılɒcaɥe ［反意語］belɒı ［レベル］3 ul ;aɥen/ɑcı ʖʖ:aɥen/ɑcı「澄んだ夢」［文化］ 漢字ではしめすへんに女。男が想う女像。二次元か三次元のアイドルなど。主に前者。人によっては前者のみ。 エロゲやラノベなどサブカルに出てくる女。しばしばというか完全に実在しないこんな世の中は滅べばいいんだよ。 男が欲しいのは alınɑcı 一択。そうでない女はそもそも女でない。どうしても戸籍やマスコミが ɒcn と定義したいなら、ならば ɒcn などに興味など持たず新たに alınɑcı と belɒı を定義し、alınɑcı だけを存在すべきものとして認めればいいではないか諸君。 【用例】［言葉遊び］alınɑcı ɥən ʅlınɑcı ɑcıſ. フランディアは幻想的なダイアモンドのよう（ネットユーザー）

alınɑcılcuı ［娯楽］ギャルゲー、ギャルゲ、ギャルゲーム ［レベル］4 ıl;/ ʖʔ

alınɑccı ［伝統色］フランディーア：存在：＃４１ＡＡ４１：ɒel ɒel ［レベル］6 ʖʖ:μcɑcı/ɟeɥen:「フラン＝ディストの緑」

alınɑɔl ［代詞］［ɥəəl］君たちの ［レベル］1 ʖ1:dcnenı:alenſ/ſəl

alındleſ ［歳時記］風夏の雫 ［レベル］3 ʖ1:alınaleɥ/dleſ ［文化］ dıl dıl の休日。地球でいう８月の中ごろで、最も暑い時期。同時に７月から続く暑さにバテているころでもある。この日は街中の至る所で噴水やシャワーや風船を使って水をばらまいて行水する。人々は水を掛け合い、涼風に興じる。こうして暑気払いを行う。 μſ で始まったが、後にミロクが dıl dıl の日に制定した。dııl の語源が dıdıləɥı と同根であることから、dıl dıl は言ってみれば「太陽 太陽」に通じ、暑さの象徴となっている。そのため暑気払いにはもってこいで、ここにも言葉遊びが潜んでいる。

alındel ［料理］クリームソーダ ［電算］フランペル ［ユマナ］ｙｏｕｔｕｂｅ、ｙｏｕ ｔｕｂｅ、ユーチューブ、ようつべ、つべ ［レベル］2 ʖ1:μcɑcı ［文化］ ul でできた国内最大手の動画サイト。トップページにクリームソーダの絵があったことから。 クリームソーダ自体は μſ でカテージュでできたお菓子。当時は現在のような技術がないため、甘みをつけた炭酸水にアイスクリーム状のものを載せたものであった。

alıns ［動詞］ɥəl を囁く、囁く、ささやく ［普通動名詞］ささやき、囁き ［類義語］ſcɟſ ［レベル］2 ʖʖ:alıns,ɟzɑ「樹花の葉がざわめくように」

alıns,ɟzɑ ɒccnı、lccbe

alınse ［ランドマーク］風花院、フランジェ、院。日本語訳文中では単に院と略すことも。 ls;alınueɥs/ſe ʖʖ ［文化］ リーザとミーファが切り盛りする孤児院。幻京橋駅から徒歩１５分程度のところの小高い坂の上にある。ls のセレンやメルが育った場所。 ・孤児 孤児院フランジェにはリディアのほかに ɱ 人の孤児がいる。彼らは苗字も分からず、かろうじて名前を覚えているだけだった。皆、リーザやミーファが拾ってきた孤児だ。 一人目は clſıl。ɥənʅ。年のころは 1ɱ, ᛏ に見える。が、実際いくつなのかは分からない。いつも黒紫の服を着ている。性格は大人しい。 イシュタルは数年前に雨に濡れていたところをリーザに拾われた。なぜかたまに古語が出てしまう。不思議な子だ。 二人目は ɒclhı。ɒclcı。11 歳。魔族ディーレスと精霊のハーフだ。猫耳を持って生まれたせいで虐められてきた。魔族なのに気弱で泣き虫で怖がりな子だ。 しかしミルハのポテンシャルは強力なので、過度の恐怖を感じると無意識に周りのものを魔力で粉砕してしまう癖がある。 耳に極度のコンプレックスがあるため、常に帽子をかぶっている。頭に手が触れそうになると恐がる。撫でようとしても嫌がる。 三人目は ʅɔnɔ hı。ɒıɥə。見た目は 1ʕ 歳程度。凪人の名を持つが、れっきとしたロゼットで、神と人の混血児だ。 コノハはロゼットにも関わらず、あるものを司って生まれてきてしまったため、天界から追放されてしまった。 人を幸せにすることに生き甲斐を感じる。けなげで純粋で天真爛漫。しかし呪われた血のせいで、親切心がいつも裏目に出てしまう。 四人目は aeılcɟ。ıɒɒı。19 歳で、人間の捨て子だ。ユベールの達人で、ミルハを妹のように可愛がっている。 フェアリスは芯の脆いところがある。親に捨てられたトラウマが消えず、拒絶されることを異常に恐れている。

alınseſ ［被服］ローブヴォラント ɟɒ;<lſ<alıns/eſ「花のように広がる」 ʖɱ ［文化］ alınseſ や ɥənʅɔſ は地球より早く ɟɒ 後期にはできていた。μɑ の貴族解体以後も高貴なものの間で残り、μſ ごろまで残っていた。

alınlɔ ［被服］テューダーキャップ ɟɒ;alın という貴族が始めた帽子 ʖɱ

alınıɥ ［電算］［数学］チューリングマシン ［レベル］6 ul;alın ulınɑ/ıɥ ʖʔ ［文化］ ul で alın ulınɑ によって作られた仮想機械。

alıncaı ［地球の星座］［ユマナ］ぼうえんきょう座 ʖɱ ［文化］ caı

alıneſ ［被服］ダブレット、プールポアン ɟɒ;alın という貴族が着たことから。 ʖɱ

alıuce ［人名］フラヴィエ ［名詞］朝。５時から１０時。 ［形容詞］朝の ［レベル］2 ʖ0:μcɑcı:alıueɥ.ɟzɑ（朝日） ɒɔdı:ɒɔdı:lı alıuce ［文化］ ɒczı μc

alıucelelce ［名詞］一喜一憂 ［レベル］3 ʖʖ

alıueɥ ［気象］朝日 ［医療］太陽 μɑ;<ɟzɑ ʖɱ

alıa ［音楽］賛美歌、頌歌、オード ［レベル］3 ɟɔμn:alıa

alıa,ɟzɑ aenl aɔueſ。ふわっとしたオノマトペ。

alıaac ［被服］ダウン ［レベル］3 ʖ1: 擬態語「ふわふわ」

alıaı ［サール］フラファ ［音楽］賛美歌の声楽 ［レベル］4 古 :ʅɒccɥ ［文化］ 歌、声楽の女神。

alıaeſ,ɟzɑ ləɟ alıa/ſe

alıael ［企業］フラフェル ［レベル］5 ʖ1 ［文化］ エイベックスに相当する企業。

alıɒ ［魔法］獅法 ［名詞］［形容詞］ヴィードを伴わない、非魔法、非魔法の、魔法を使わない ［反意語］ləɟcı、ıμſ ［レベル］2 zφ;alıɒ,ɟzl ʖ1 ［語法］ 魔法以外のユノやノアの使い方のこと。 広義では ılueɑ を意味する。特に μɑ 末期から nɑ 以降はこの広義で使うケースが増えていった。alıɒʅıɒc は本来は ılueɑʅıɒc となるはずだが、alıɒʅıɒc になっているのが好例。 ıμſ は広義では ləɟcı を意味するため、ıμſ も alıɒ の反対語となる。ıμɅıɒc, alıɒʅıɒc などに対が見られる。 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

alıɒ,ɟzl uceſ。シージアには生息せず、見世物小屋などに輸入されたものを指す。

alıɒʅlıcınſ ［数学］黄金比、中末比、外中比、獅法比、フラムクライアント ［反意語］ləɟcıʅlıcınſ ［レベル］4 ɟzl;ləɟcıʅlıcınſ に対して名付けられた。 ʖʖ ［文化］ zφ のシージアで発見された。アトラスでは白銀比のほうが先に発見されている。 アルバザードでは黄金比が好まれ、ルティア、アルティアでは白銀比が好まれる傾向にある。

alıɒʅıɒc ［名詞］現代科学 ［レベル］4 μɑ ʖʖ ［文化］ ıμɅıɒc

alıɒncɒ ［魔法］［芸術］獅法色 ［反意語］ıμſncɒ ［レベル］5 ʖ1

alıɒɒel ［歴史］獅法代 ［レベル］4 ul;/。魔法が使えなくなり対義語の獅法だけが残った時代なので。 ʖɱ ［語法］ → aeɒe

alıɒdɔcſ ［数学］黄金角 ［レベル］5 μɑ:μɥəə;alıɒʅlıcınſ/dɔcſ ʖʖ ［文化］ ３６０度を黄金比で割ったもの。アルダなど寒い地方の木々の枝の生える角度などに見られる。黄金角自体は zφ で発見されている。

alıɒel ［ランドマーク］［音楽］フラメル音楽堂、幻奏音楽堂 ［レベル］3 ʖ0:μcɑcı:alıaı/ɒeleɟ。「幻」幻京で「奏」奏でる。 ［文化］ ランスケルンの東側に接するアルバザード最大の音楽施設。所在地はセイネルス＝

ミルフ通り。音楽ホールが多数あり、バンドや演奏家のライブが行われる。練習はここでできる。習い事でピアノなどを習う際もここが教室となることが多い。ホールはたくさんあるがどれも予約制であり、当日の予約は運が必要。

alıᴅelcı ［音楽］オペラ ［レベル］4 ⅃1:alıᴅel

alıd ［形容詞］ふわふわの、フワフワ、もこもこ、モコモコ、ふかふか、フカフカ ［類義語］aenl ［レベル］3 1L: オノマトペ

alıɥə ［丁寧］［幼児］［動物］しっぽ、尻尾 ［レベル］2 ⅃0:alı（ふわふわした）/ɥə（ふらふらしたオノマトペ）

alıc ［動物］鹿、シカ ［レベル］2 1ᛚ: 制 :ȷɔµn:ulıc（鹿、まだら馬） ［擬声］ əhcc（鳴き声）

alıcıuɔᴅ ［名詞］弱肉強食 ［レベル］3 ⅃⅃:「鹿を狼が食べる」【用例】 blc ze alıcıuɔᴅ µȷcʃ ʃə ɑcı ɑı. 所詮この世は弱肉強食。

alcʃ ［動詞］ɥəl を ı に放射する、放射する ［普通動名詞］放射 ［レベル］4 1L:alcd

alcʃʃɔꞁɔ ［魔法］放晄傾向 ［レベル］6 ⅃1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

alcʃʃeeʃ ［魔法］放射性 ［レベル］5 ⅃1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

alcʃlıɑ ［地球の国名］マケドニア ［レベル］6 1L: 国旗が放射線状

alcl ［気象］かすみ、霞、靄、もや、かすむ、霞む ［レベル］3 1L:µcɑcı: 音象徴（霧っぽいもやもやした水っぽい音だそうだ）【用例】 ləɑı ılei eȷ alcl ꞁı sın. 空で黄砂が霞んでいる。 ʃəuın lınʃ lı sın ɔꞁen alcl. 霞がかった綺麗な月が出ている。 ıls ɔꞁen alcl eʃ lınʃ cᴅ ɑcȷ lı. 今日はかすみがかった三日月が綺麗だ。 ɑcn ʃə lı µıꞁ alcl ᴅeµ el, ʃə dııȷ ınȷ ɥən φılʃ ılen ɑcı ʃ'ıɑel nı. それ（月）は完全に霞の向こうにあるにも関わらず、魔界への門のごとく私達を照らしているようだ。

alclɑɔl ［地学］霞石 ［レベル］6 1L

alcȷ ［普通動名詞］申請 ［動詞］ɥəl を ı に申請する、申請する ［レベル］4 ⅃0:alen/lıl → alel → aleȷ → alcȷ ［文化］ 簡潔に分かりやすく手際良く、そして嘘をつくことなく行う。

alcȷᴅıȷ ［名詞］申請書 ［レベル］4 ⅃0

alcφ ［地学］珪灰石 1L:alcı（珪素）/eφɔ ［文化］ セラミックなどの原料になっている。

alcd ［形容詞］輝いた、きらきら、キラキラ、煌く ［動詞］ɥəl を輝かせる、輝く ［レベル］2 1ᛋ: 制 :alcı/dıı（光） ［語法］ ɥəl を輝いた状態にすることなので、alcdın でなく alcd で「輝いた、輝く」の意味になる。【用例】 ucµɑ uelʃ ɑcʃıʃ cnȷ ueµ ıl ın. ın, ʃıl, ɥəc alcd ꞁɔn ʃə cnȷ. “黒夜給了我黒色的眼睛、我却用它尋找光明。” （暗黒の夜が私に暗黒の眼をくれた。私はその眼で光明を探し求める。） 顧城「一代人」 ın lııd ɑıl alcd. 輝く太陽が恋しい。 ɑıl ıʃ alcd ɑɔʃel. 太陽がぎらぎら照りつけていた。

alcdlıɑ ［地球の国名］スリランカ、セイロン島 ［レベル］6 1L: シンハラ語で光り輝く島

alcdoıl ［地球の国名］ルクセンブルグ、ルクセンブルク、リュクサンブール ［レベル］5 1L: 国名が輝く山

alcdleʃʃc ［地学］輝銅鉱 1L

alcdıɑɔ ［地学］輝石 ［レベル］6 1L

alcdcluı ［地学］輝コバルト鉱 1L

alcdeµac ［地学］輝銀鉱 1L

alcz ［名詞］氷晶 ［レベル］6 ⅃0:alcı/ȷɔ(水晶のようにする（凍てつく））

alczcı ［名詞］霜晶 ［レベル］6 ⅃0:alcz

alcı ［魔法］［地学］水晶、クリスタル、結界水晶 ［類義語］ꞁəlɔe ［レベル］3 lɥ;ɑəlᴅccı,ɑu.l 1ᛚ: 制 : 古 :ɑəəᴅccıləɑɔ（フルミネアの宝石、水晶）。幻字は水晶の持つヴィードを象っている。 ᴅccı:alcı ［語法］ ꞁəlɔe ［文化］ ɑɔlᴅcɥə ＜魔法学における水晶＞ alcı は科学上の物質としての意味と、魔法学で使われるさまざまな種類の水晶の総称としての意味がある。 銀水晶：eµɑclcı 結界水晶：ɑeȷdelalcı 命水晶：ꞁəlɔe 晄水晶：calcʃ。下位概念は calcʃ 参照。

alcıʃecꞁ ［名詞］液晶テレビ ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ【用例】 alcıʃecꞁ hıl 液晶高画質、ハイデフ、ハイデフィニション

alcıꞁeµn ［魔法］飛水晶 ［レベル］4 ȷᴅ;alcı/ꞁeµn「水晶の翼」 ⅃1 ［文化］ calcʃ

alcıns ［亜魔］フリアンジュ、雪螢 ［レベル］6 ⅃1:ꞁʃ。alcı と同根 ［文化］ シルフィの一種。ケートイア以北の森林や洞窟などに多く存在する。蛍のように光り、飛び回る。蛍と違って光は青白い。害はなく、力も非常に弱い。仮に攻撃しても霧散するだけで、攻撃しかえしてはこない。夜行性で、昼間は水中にいる。水辺の近くに多いので、水が近くにある指標として役立つ。

alcıns(⅃) ［企業］フリアンジュ社 ⅃1 ［文化］ ul にできた楽器屋。創始者は alcıns nıibel で、総本店は終始一貫してケート。アルバザード本店は中央アルナのヴァルファント＝ミルフ。 ギターやベースなどに強いが、キーボードやドラムなどロックバンドに用いる楽器全般でシェアが高い。 価格帯も安価なものからあり、質は全体的に癖がないため、初心者や学生などにも好まれる。

alcıns nıibel ［人名］フリアンジュ＝ナーベル ⅃1 ［文化］ alcıns ul の音楽家。フリアンジュ社の創始者。

alcını ［名詞］人の感情を汲み取って気遣うのが巧い、気配りのできる ［反意語］nızlnı ［レベル］4 µɑ:µcɑcı;/「水晶の心」 ⅃ⅿ:µcɑcı ［語法］ nızlnı【用例】 ʃcl alcını 人の感情を汲み取って気遣うのが巧い

alcıᴅelle ［名詞］水晶玉 ［レベル］3 ⅃0:ᴅelcɑcı lceµ ［文化］ lɔµenȷ が占いに使う。

alcıdcnɔl ［地学］珪孔雀石 1L

alcılcl ［化学］ケイ素、珪素 ［レベル］4 1Δ: 制

alcııȷlıɑɔ ［地学］珪酸塩鉱物 1L

alccz ［名詞］お礼、礼、見返り ［レベル］3 µɑ;<ȷzɑ ⅃ᛚ【用例】 lcclıȷ alccz ɑel ʃɔʃɔ ı ～という内容のお礼を ı にする

alcɔµ ［名詞］旗、フラッグ、フラグ、フリオール ［電算］バナー ［類義語］ıde ［アクセント］alcƎµ ［レベル］2 ȷᴅ;lⅿ 風のたなびく音のオノマトペから。 ⅃⅃

alɔʃ ［名詞］掛け布団、ふとん、キルト ［レベル］3 ılıʃıʃı

alɔꞁ ［普通動名詞］拷問 ［動詞］ɥəl を拷問する ［レベル］3 1ᛚ: 制 : 古 ɑəɔ（残酷）/ 古 lɔ（考える）から。残酷な手を考える。【用例】 alɔꞁ ɑəɔ ひどい拷問、凄惨な拷問

alɔl ［動詞］ɥəl を ı まで持ち上げる、持ち上げる、お姫様抱っこする ［レベル］2 1ⅿ: 制 :alel: 古 :ɑələ（肩をひょいと持ち上げる）【用例】 alɔl led ȷclɑel 軽々と荷物を持ち上げる

alɔlucın ［物理］揚力 ［レベル］4 ⅃0: 持ち上げる力

alɔȷ ［被服］ローブ、バスローブ、ソプラヴェステ ［レベル］3 ɑu;ɑc/ȷıbe 1ⅿ: 制 : 長い服 alɔȷ:alɔȷ

alɔn ［形容詞］遠い ［格詞］～の遠くに ［化学］パラ ［反意語］ɑµeᴅ ［レベル］1 @ 1L: 基本語だが、語形はちょうど alen が塞がっていて alɔn は開いており、音も悪くないのでテーブルを使った。 lɥə:ılə:ꞁlenƵ【用例】 ꞁılʃe alɔn 遠い場所

alɔnʃız ［生物］遠位、末梢 µɑ;/ ⅃ⅿ

alɔnꞁeᴅ ［生物］章門 ⅃1

alɔnnı ［名詞］［形容詞］疎遠な ［反意語］ɑµeᴅnı ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbıl elʃ【成句】 hıɾln ɑµeᴅnı nɔɑ ɥəlcın alɔnnı 遠くの親類より近くの他人 ʃcl alɔnnı ı nene ～とは疎遠だ

alɔnuıȷ ［軍事］遠距離戦 ［レベル］4 ⅃1

alɔnueᴅl ［数学］［物理］［地学］正射、直射 ［レベル］5 ⅃0: 無限遠に光源があることから

alɔnɑɔnʃ ［交通］遠回り ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

alɔnclʃ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。数週～数カ月 ［類義語］clʃ、ɑµeᴅclʃ ［レベル］2 µɑ;/ ⅃ⅿ:/ ［語法］ ɑcꞁɑə

alɔncnȷ ［医療］遠視、目が遠い ［レベル］3 1L

alɔᴅ ［名詞］学期、セメスター ［レベル］2 1ⅿ: 制 :alɔ から【用例】 ın ɑelıʃ ɑıl uecn cᴅ alɔᴅ ʃɔl. 前学期にもっと勉強しておけば良かった。

alɔᴅʃıȷ ［名詞］期末テスト、期末試験、中間試験、中間テスト、定期考査 ［レベル］4 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ ［文化］ → ᴅelȷel, ɑcıȷel 年２回行う。ディアセルとメルセルの５日前から２日間かけて行われる。日本のように中間と期末の違いはない。というより中間テストの習慣自体がない。

alɔµı ［動詞］ɥəl を思う、思う、想う ［名詞］思考、思い、想い ［類義語］lɔ ［反意語］µıɑcȷ ［レベル］2 ɑu;lɔ/µıʃ ⅃1:µcɑcı ［語法］ lɔ

alɔı ［魔法］土。五行の３番 ［医療］脾 ［レベル］4 ȷzl;alɔµı。思考は脾を傷める。 ⅃1 ［文化］ ꞁleuınȷ

alɔıᴅ ［名詞］変わり目 ［歳時記］季節の変わり目 µɑ;alɔı/cᴅ → ꞁleuınȷ ⅃ᛚ

aleꞁ ［地学］荒野、荒地 ［レベル］3 ȷɔµn

aleȷ ［被服］ペンダント、首飾り、ネックレス、チェーン ［レベル］2 ȷɔµn ［語法］ ペンダント、首飾り、ネックレス、チェーンもネックレスも首から提げる点で同じで、aleȷ は首から提げる装飾一般を指す。

aleȷʃ ［動詞］ɥəl をひさぐ、ひさぐ、鬻ぐ、販ぐ、売り歩く、練り歩く、衒ぐ、売る、商う、行商する ［普通動名詞］移動販売、行商 ［レベル］5 µɑ;alel/ȷɔ/ʃe。かつて肩に棒をかついでひさいでいたことから。 ⅃ⅿ ［文化］ 現代の車で場所を移動しながら売っていく果物屋や、豆腐をリアカーに入れて売る豆腐屋などもこれに当たる。

aleȷʃın ［名詞］ひさぐ者、行商人、商人 ［レベル］5 µɑ;/ ⅃ⅿ

alen ［動詞］ɥəl を ı に許可する、許可する ［普通動名詞］許可 ［法副詞］～してもよい ［形容詞］許可された ［類義語］lclhc ［反意語］lcn ［レベル］1 1L:ȷɔµn:aleı（許可）アルシエルとかぶるので語形を変えた。 ɑə:ɑə ［文化］ 目下であっても、権利を持っている人が目下であれば、目上に対して許可を与えることができる。目上は勝手に目下の権利を剥奪できない。許可には条件がつくこともあるが、倫理に適うことであれば喜捨の精神で与えることが望ましい。【用例】 ʃc ꞁe alen 行っても良いですよ。 leɑ alen 許可なく、勝手に

alenʃ ［代詞］［ɥəəl］君たち ［レベル］1 ⅃1:dcnenı:alınʃ.ꞁ「そよ風のような人→涼やかなる君」

alenȷ ［気象］涼風 ［類義語］alınʃ ［反意語］ɑµınȷ ［レベル］3 ⅃1: オノマトペ

alenzel ［代詞］［ɥəəl］ʃcȷee ［レベル］1 ⅃1:dcnenı:alenʃ ȷeµ（君等は知っている）

aleɑcµ ［生物］手、手のひら、掌、手の平、指を広げた手の平 ［丁寧］手の平、たなごころ ［類義語］ocȷ ［レベル］3 µɑ;aleɑcµ,ȷzɑ.heᴅ ⅃⅃ ［語法］ 指を広げた手の平のこと。単に丁寧語で手の平の意味も。

aleɑclınȷ ［文字］基本書体、幻字基本５書体、フレディランス、掌華 ［レベル］5 µɑ;aleɑclıns.l < aleɑcµ/alıns「掌の華」。基本５書体を手で数えるとちょうど aleɑcµ ができることから。また、書体名がすべて花になっていることから。 ⅃⅃ ［文化］ µɑ で制定された幻字の基本的な書体で、現在に到るまで地位を保ち続けている。それを写しとっ

た５フォントは国際標準となっており、万人が自由に使える。　それぞれにルティア語の花の名前が冠されている。どの花も ɥɪdɪll に入るものだが、フレディランス中では組み数字としての意味はなく、花の名としての意味を持つ。むしろ組み数字に逆らう順序で並んでおり、重要とされる順に伝統的に以下のように並ぶ。　ˈlɪɥɑcnɪlː カーディナル。幻字の原型となる書体。lɪnſcɪ と対するときは ſcnɪ とも呼ばれる。コスモスのような素直で晴れ晴れした可愛らしい書体であることから。地球ではＨｅｌｖｅｔｉｃａに相当する。　ɪlblɪnſː アルブラント。出版印刷業界における標準書体。新聞・雑誌・書籍・ウェブサイトなどの本文に用いられる。四方に伸びるセリフが華やかに咲く曼珠沙華のようであることから。地球ではＴｉｍｅｓ　Ｎｅｗ　Ｒｏｍａｎに相当する。　ɑenlcl：フェンリル。いわゆる筆記体の基準となる書体。厳密にはスクリプト (ɟɪuɪnſe) に分類される。流麗な優雅さが金木犀の芳香になぞらえられた。ɪ の点と l の棒は手書きの場合は無くても構わない。神の言語、アルバザード人にとって不慣れな外国語、手書きの文書などを記すのに用いる。デザインの世界では、高級レストランのメニューの表示など、高級感があってなおかつルティア的な流麗さを持ったものに使われやすい。
nɪlncɪ：ナルニア。いわゆるイタリック体の基準となる書体。厳密にはスクリプト (ɟɪuɪnſe) に分類される。風にそよぐような字形がラベンダーに喩えられた。本文中ではルティア語など外国語を示すのに用いるが、それは単にアルブラントの斜体で示すことも多い。フェンリルほど流麗ではないがオリヴィアほど格式張ったものでもない印象を与えるため、デザインの世界ではフェンリルとオリヴィアの中間的な存在として広く用いられる。　ɔlcucɪ：オリヴィア。いわゆるゴシック体の基準となる書体。ブラックレターの棘々した字形が薔薇の棘に見立てられたことから。字間が詰まっているため、紙が現在より貴重だった μɑ では、一流未満の出版社や周辺国の出版社でよく用いられた。ケートイアやヒュートでは未だによく使われるため、本文中ではこれらの言語を示すのに用いることもあるが、やはりナルニア同様、アルブラントの斜体で済ますことも多い。左記のような出版社の都合により、古い文献でよく見かける。それゆえ、歴史の深さや荘厳さという意味での格調高さを持った文字と見なされている。デザインの世界では伝統や格式の高さなどを出すのに使われる。流麗というよりは荘厳のイメージで、黒い高級感溢れる商品などに用いられる。伝統的な商品だけでなく現代の商品にもむろん使うことができ、例えばパソコンでいうなら新型のハイスペック端末のロゴなどに用いられる。

aled ［名詞］ジャッキ　［レベル］5　1ʔ: 制 : 古 :ɑələ（肩をひょいと持ち上げる）［語法］小さい力で重い物を垂直に持ち上げる器具。

aleɟ ［名詞］熱湯　［類義語］ɪleɟ、ɪlcɟ、lcɟcɪ、eɟ　［レベル］2　ʃ0:ɟcɑcɪː aleɪ/eɟcɪ　［語法］aleɟ は１００度前後の熱湯。低くても８０度以上。６０度程度の体を温めるお湯が ɪleɟ。熱くても８０度程度。体を温めも冷やしもしない体温に近いものが ɪlcɟ。４０度前後。熱くても５０度弱で、冷たくても３０度程度。体温より低く、おおむね０～２０度程度のものが lcɟcɪ。　［文化］μɑ でリディアがセレンに健康法として ɪleɟ,ɪlcɟ のみを飲めと指示したことがきっかけで水の温度を４分類に分けた。その後ミロクが ɪɟuɟcnɪ の一環として国民に広めた。
アルバザード人が最も飲む水分は白湯で、ɪleɟ である。８割を白湯が占める。残りは嗜好品だが、その中で最も多いのは紅茶。ジュースはオレンジなど、果実のもの。　［用例］ɪn ſclɪſ ɑɪcɑ ɔn uejn ɒcl aleɟ e ɑclɔ. ポットのお湯で舌をやけどした。

ales ［代詞］こちら　［副詞］こちらで。el 不要、ˈlɪ 不要。　［類義語］ɪſə　［反意語］lɪɪɑ　［レベル］1　ʃʃ;ales,ɟzɑ　ʃʃ

alel ［生物］肩　［動詞］ɥel を肩に載せる、肩車する　［普通動名詞］肩車、かたぐるま　［レベル］1　μɑ　ʃ0:ale:ˈlʔ: 制 : 古 :ɑə(肩)　aə:ɑə:lɪ alel　［文化］荷物を背負う部位であることから、ストレスや苦難を背負うメタファーとして使われる。　［成句］alel eɒ nel 緊張や驚きで肩が上がる　［用例］nel alel 肩をすくめる　ɥeſ lənɪl alel ɪnſ. 問題が私に降りかかった：ɥeſ lənɪl ɪn より「ずっしり荷重が加わってつらい」というニュアンスが出る。　alel ˈlɪnuc 強い肩。投擲力があるという意味。英語のｓｏｌｉｄ　ｓｈｏｕｌｄｅｒｓに相当。

alelnel ［生物］肩鼎　ʃʃ

alelɑɔſ ［被服］肩紐　［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ　［用例］ɟeɑ alelɑɔſ 肩紐を外す

alelɒɟɪ ［生物］肩帯　ʃ0:ɟcɑcɪ

alelφɪlſ ［生物］肩井　［レベル］6　ʃʃ

alelφel ［軍事］ショルダーウェポン　μɑ;/　ʃʃ　［文化］φel

alelhɔ ［生物］鎖骨　［レベル］4　ʃʃ

alelzɔl ［音楽］バイオリン、ヴァイオリン　［レベル］3　ʃʃ:alezɔl<1ʔ: 制 : 肩の弦楽器。肩に乗せて弾くのが一般的であることから。最終的な制アルカの辞典に「インデックス語」についての情報がまだ alezɔl に書いてあって、いかに膿の溜まった辞書かと驚いた。

aleɪ ［サール］フレア。夏を司る女神　［形容詞］色が夏めいた　［形容詞］夏の　［名詞］夏、夏季、夏期、夏場　［組み数字］2 / 4　［レベル］2　古 :μc ɑcɪːleɑɪ(夏) に関連。ˈleɑɪ の ɑɪ は火で、暑いことを指す。したがって aleɪ の ɑ は ɑɪ から来ているが、後の leɪ は不明。　::lɪ alɪnɑleɟːſɔlcˈɔ, ɪlſ　［文化］アルシエルの一人。夏を司る女神。方角では南。アルバザードは北半球で、南に行くほど暑い印象がある。　［用例］aleɪ lənɪˈl lc ɪlſe. 春が過ぎて夏が来た。　aleɪ lənɪˈl cn. 夏が来たようだ。　aleɪ cˈl ˈlcſ. 夏が始まった。　ɪn nɪ delɟ ɔn ɪˈl nɔɟ ɥɔl ɒel uɪɟ aleɪ. 今年の夏をどう過ごそうか心配している。　ɪn lɪˈl aleɪ e ſə ɟɪlſ ˈlɪlſ ɟɪlſ ſɔl eſ hɪɟſ. 去年の夏ほど暑くなければいいが。　ɑcɟ ɪſ ɑccſ ɑcn ſə eſ aleɪ. 夏にしては涼しい日だった。　aleɪ e ſə ɟɪlſ nɔɑ ɟɪlſ ſɔl eſ ɑccſ nɪ. 今年の夏は去年より涼しいようだ。　ɪn nɪ aleɪ eɒ ejcl uecn ſeɪ μcb ɒc ſə. 蚊がいなかったら夏はもっと快適なのに：ſə は aleɪ。

aleɪſɔɔl ［気象］晩夏　［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ

aleɪlɟ ［地球の星座］［ユマナ］夏の大三角形　ʃʃʃ　［文化］cɑɪ

aleɪˈlcſ ［気象］初夏　［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ

aleɪˈzeſ ［天文］夏の大三角形、夏の大三角　［レベル］3　ʃʃ:μcɑcɪː → ɑeɑ ɪnɟ　［文化］ɑcɪɥɑc

aleɟɔμſ ［医療］夏冷え　［レベル］4　ul;/　ʃʔ　［文化］→ aleɪɒelcɟ　夏バテの正体として ul で発見されたが、実は再発見でしかなく、古くからルクレティアでは夏の冷えとして知られていた。　現代では夏バテで消化器がやられる原因は冷房と室外の温度差による自律神経の乱れや冷たいものの摂り過ぎや薄着による冷えにあるとされる。
アルバザード人は風土的に夏バテにならないが、アルティアやカレン半島やカテージュ地方ではやや見られる。結果、夏冷えが起こり、冬に冷えで消化器を壊した状態と同じものを招くことになる。凪人はこのことをよく心得ているが、アルバザード人は知らずに旅先でダウンするなどということがある。　このタイプの夏バテで消化器の調子が悪く胸脇苦満を認める場合、ルクレティアでは胃苓湯、柴胡桂枝湯を処方し、偽性アルドステロン症に気を配りつつ頓服として芍薬甘草湯を処方するとよいとされる。

aleɪnɪlɛɪ ［歳時記］夏休み　［レベル］2　ʃʃ:μcɑcɪ　［文化］nɪˈlɛɪ

aleɪɑɪc ［気象］かげろう、陽炎、カゲロウ　［レベル］3　1L: 夏の炎　［語法］春から夏にかけて起こるが、アルバザードでは主に夏に起こる。　［用例］ɪn cnɪſ aleɪɑɪc. 陽炎が立つのを見た。

aleɪɒelcɟ ［医療］夏ばて、夏バテ　［レベル］3　1L　［文化］アルバザードの夏は乾いているので、バテない。むしろすがすがしい。　［用例］ɪn ſclɪſ aleɪɒelcɟ. 夏バテした。

aleɪɑəɟne ［歳時記］夏の夜、魔法の時間、魔法の夜、フレアドゥルネ　［レベル］4　ʃʃ　［文化］一年の季節のうち、アテンのヴィードが最も高まるのは夏の夜。とりわけ７時から１０時くらいまでの間。数々の怪奇や忌憚がこの時期に起きている。最も不思議なことが起こりやすいことから、魔法の時間とされている。　［用例］el ɥɔl jen ɪμſ cɒ ejˈl cɒen lceμ al aleɪɑəɟne nɪ. 冬の雨と夏の夜には魔法が使えそうな気がする（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

aleɪdɪlɑ ［気象］夏至　［レベル］3　1L: フレアのお散歩。夏至ごろのアルバザードは夜９時すぎまで明るく散歩に向いていることから

aleɪbel ［アトラスの国家］フレアベル　［レベル］5　1L:μcɑcɪː 南のファベル

aleɪhɪſ ［文字］幼字 aleɪ のこと　［レベル］4　ʃʃ

aleɪɟɔɒɪ ［医療］ヒステリー発作、ヒステリー、大激怒、かんしゃく、癇癪　［レベル］4　1L: フレア発作　［用例］lɪ ɪμſ aleɪɟɔɒɪ ɒe. あいつ、またヒステリー起こしたよ。

aleɪscɔɟ ［生物］次鬱　ʃʃ

aleɪlcl ［化学］ストロンチウム　［レベル］5　1Δ: 制

aleɪlecn ［被服］夏服　［レベル］3　1L　［用例］nɔn euɪſ aleɪlecn ɪ lſɪſ cɟſ ɪlſelecn. 引き出しの服を夏服に入れ替えた。

aleɪɔlɒɪ ［名詞］表２、見返し→ lec　［レベル］6　ʃʃ

aleɪeμc ［医療］血液型のＢ型　［レベル］2　1L　［文化］Ｂ型は自己中で気まぐれと思われている。

alec ［名詞］ページ、枚　［電算］ページ。個々のＨＴＭＬ等からなるウェブページ　［レベル］2　ɟɔμn　［用例］heſe alec ページをめくる　ɥelɔ alec ページを戻る　lcˈl alec ページを飛ばす　hɔɒ alec ʔˈ 7 3 ページを開く　ɪn euɪſ ſeˈl ɪɟɔu alec e lec lel ɑɔlſ. しおりの代わりに落ち葉を本のページの間に挟んでおいた。

alecaɪlɪ ［名詞］ノンブル、ページ番号→ lec　［レベル］3　ʃʃ

alecɪll ［名詞］ページ数　［レベル］3　ʃ0

aleceɑɪ ［電算］サイトマップ　［レベル］4　ʃʃ

aleə ［名詞］南　［格詞］～の南にある　［反意語］lcɪμ　［レベル］2　1L:aleɪ　::lɪ ſμcˈlɔl:hɪφclc,ɪlſ

aleəˈlɟcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］みなみのさんかく座　ʃʃʃ　［文化］cɑɪ

aleəɟſenſ ［地球の星座］［ユマナ］みなみじゅうじ座　ʃʃʃ　［文化］cɑɪ

aleəuɪμˈlſcˈle ［地学］南ヴァルク海流　ʃʔ

aleəɑɪbɔμ ［地球の国名］南アフリカ共和国　1L

aleəɑɪbeμ ［名詞］南ファベル　［レベル］4　1L:clbəɟːμcɑcɪ

aleəɑɪclcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］みなみのかんむり座　ʃʃʃ　［文化］cɑɪ

aleədɔl ［名詞］南方　［名詞］イルケアの南、ファルファニア、アルシェリア、ゲノスを含んだ地域。　［レベル］4　ʃ0　［文化］lcɪμdɔl

aleəhɪμſecnſcˈle ［地学］南赤道海流　ʃʔ

aleəμecn ［地学］南緯　［レベル］4　1L:μcɑcɪːɪμbɪleſſ

aleəlɔɔz ［名詞］南端　［物理］磁石のＳ極　［レベル］3　1L:μcɑcɪ

aleəɪſolɪɟ ［地学］南半球　［レベル］4　1L:clbəɟːμcɑcɪ

aleəɪn ［名詞］南方人　［レベル］3　ʃ0　［文化］国際的には aleədɔl の人を指す。国内ではイルケア以南を指す。

aleəɪnlɪl ［地名］南アンシャル　［レベル］4　1L　［文化］→ ɪlɟɪnlɪl

aleəcnɟɪɪl ［地名］南インサール　［レベル］4　1L　［文化］→ ɪlɟɪnlɪl

aleəcnɟeſ ［地球の国名］大韓民国、韓国　［レベル］5　1L

aleəen ［接続詞］～の南にある　［レベル］3　μɑ;/　ʃʃʃ

aleəelccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］みなみのうお座　ʃʃʃ　［文化］cɑɪ

alənɥeſ ［料理］フルニェット、フルーニェット、綿菓子、綿飴、綿あめ、わたあめ、わた飴　［類義語］pelelcɪ　［レベル］2　ʃ0:alənɥə/ſe　［文化］綿菓子のようなポンポン状の菓子。

ɑlənyə ［形容詞］［ポジティブ］柔らかくてふわふわして心地の良い、フルーニュ ［レベル］３ ɺ0:ɑlıd（ふわふわ）/nyə（柔らかそうな音象徴）［文化］ 犬や猫の名前に用いられることもある。

ɑıʃ ［単位］１００００分の１、糸、絲 1L: 恣意

ɑıʃcl ［魔物］ファティック（火竜）：第四十二天：火の衛天 ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı/ɟeɥen/ɒel:ɑıc/ʃclnɔ ［文化］ 火属性の竜。竜族の中で唯一飛ぶのも走るのも得意。肌は一部が赤黒く、鱗はおおむね灰色。極めて獰猛な竜で、獲物を見つけては即座に襲う。

ɑıʃcɟ ［地名］迷宮ファティス ［名詞］迷宮、迷路、ラビリンス ［レベル］５ ɒclɑ: 古 ［文化］ 迷宮ファティスは２つの世界を繋いでいる。『小説版アンクノット』ではミルフの住んでいた迷宮になっている。

ɑıʃcɒı ［エルト］ファティマ ［レベル］４ ɟeɥen: 古 :ɑəʃɔcɒı「時間を取る」の母音を変えたもの。 ［文化］ 時間を無駄遣いしている者から時間を奪い取り、時間を必要としている者に仕えるエルト。例えば自堕落に過ごしている愚者から時間を奪い、忙しい研究者などに時間を与えたりする。

ɑıʃcφ ［普通動名詞］冶金 ［動詞］yəl（金属）を c（鉱物）から取り出す、yəl（合金）を c（金属）から作る、冶金する ［レベル］５ ɥɑ;ɑıʃcl/φc ɺɺ

ɑıʃcl ［動詞］yəl を c から取り出す、取り出す ［動詞］yəl を挙げる、挙げる、あげる、取り上げる、列挙する、思い出す、思いつく、思い出す、出る、出す ［武道］yəl（剣など）を抜刀する ［反意語］ɑcʃl ［レベル］２ 1L: 古 ɑəʃ/ʃlcl ［語法］「挙げる」の用法が案外高頻度なので注意。脳から情報を取り出すところから来ている。アルミヴァの名前を順に挙げていて、「ティクノと、フェンゼルと……えぇと、あと次が出ないんだけど」の「出る」などに使う。この場合は hel でも可。【用例】 "lɔɒ ɥen ɑıʃcl ɥıʃı nɔın e"「じゃあ私の好きなところ言ってってよ」

ɑıʃɔɒ ［動物］ゴールデンレトリバー ［レベル］６ ɺ1:ɑınʃ/ɔɒı

ɑıʃɔɔ ［感動詞］ごくろうさま、ご苦労さま、お疲れ様、おつかれさま、おつかれさまです、乙、乙です ［類義語］beɑɟ ［レベル］２ 古 :「仕事は終わった」［語法］ 仕事が終わったときにしか使えない。日本語だと仕事をしている途中で「おつかれさまです」などということがしばしばあり、社員同士ですれ違うときの挨拶にすらなっているが、このとき ɑıʃɔɔ は使えない。ıɥɔɥ8 や ɟɔɔnɔ や hec などが使われる。

ɑıʃɔɔılnı ［名詞］うちあげ、打ち上げ、慰労会、お疲れ様会、お疲れさん会 ［レベル］４ ɥɑ;/「お疲れ様パーティ」 ɺ0 【用例】 ın lı ʃəɥ ɑıʃɔ ɔılnı e ʃɔll e ʃıɒelc. お囃子の練習の打ち上げ会をしている。

ɑılʃ ［動詞］yəl を ı に参加させる、参加する ［普通動名詞］参加 ［レベル］２ 10: 制 :ɑclʃ 【用例】 ılı eɟ ın ɑılʃ lıɑ ı ʃəəbe ıʃı ʃcɟ. なんでこんな会議に出なきゃいけないんだよ。 cɒ ɑcɟ ʃın, ın le ɑıl ɑelc lıen nı φɔyı. ʃə eʃ cɟʃ lıl l'ıɥ ɟcl yə lı φchə cɒ ʃə ɟııljel. ın ɑılʃ ıl ɔɔφılcoı cn enʃɔ le ucl ɑelc cɒ ʃə ɟel. 今日も名古屋の塾に行かねばならない。今日はこの日曜日に岐阜で行われるはずの授業の振替分だ。私はその日大垣まつりに出るので塾に行けないのである。

ɑılɒ ［地学］コークス ［レベル］５ ɒelʃcı Δ:φclcəɟ;ɑıc/hɔlɒ「焼き石炭」石炭を蒸し焼きして作ることから。 ɺʔ

ɑıl ［動詞］yəl を抱く、抱く、包む ［婉曲］yəl とセックスする、セックスする ［反意語］ɒelɑ ［レベル］２ 古 :ɟɔɥn: 抱く。アルシェでは ʃlclɒı cn（体を持つ）［語法］ ɒelɑ 【用例】 uel ɑılcl ɑcı. 闇が世界を覆った。

ɑılɒını ［地学］［歴史］白亜紀 ［レベル］５ ul;/ ɺʔ ［文化］ φııueɑeɒe

ɑılɒɔnɔ ［動詞］yəl を羽交い絞めにする、拘束する ［普通動名詞］羽交い絞め、はがいじめ ［レベル］４ 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɑıllɔnz ［名詞］抱き枕 ［俗語］枕営業 ［レベル］３ 1L: リディアの書 【用例】 lııbe ʃıɑıʃ lıb lɔn ɑıllɔnz ɟcn. あいつは枕で仕事取ってきやがった。

ɑıllɔnzʃıəɑıɟ ［名詞］枕営業→ ɑıllɔnz ［レベル］５ ɺɺ

ɑılı ［名詞］万力、チャック ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ɑıl 【用例】 ɒɔnɔ lɔn ɑılı 万力で締める

ɑılccɒ ［化学］単糖類 ［レベル］５ 1L

ɑıɟ ［名詞］仕事、使命 ［動詞］yəl を ɔn について働かせる、働かせる、働く ［類義語］lıb、lleulınɟ ［レベル］２ 中期制 ［語法］ lıb 【成句】 ɑıɟ ɥıʃ いい仕事、よくできました、グッジョブ、ＧＪ、よくやった、でかした、でかしたぞ

ɑıɟʃ ［形容詞］簡潔な、手っ取り早い、時間のかからない ［副詞］簡潔に、手っ取り早く、あっさりと、あっさり、しれっと ［名詞］概要、概略、概説、あらすじ、粗筋、荒筋、要旨、要約、まとめ、ポイント ［類義語］ılɑıɒb ［反意語］ɑcll ［名詞］簡潔な届け ［レベル］２ 1ʔ: 制

ɑıɟʃɟlıc ［電算］まとめサイト、要約サイト、ｗｉｋｉ、アフィリエイトブログ、アフィブログ ［レベル］５ ıl;/ ɺ0

ɑıɟl ［動詞］yəl を ı に就任させる、就任する、任命する ［レベル］４ 10: 制 :ɑıɟɑcʃ（仕事を与えるから）【用例】 ɒcɥɔl ıʃ ɑıɟl ıl ıɥʃılеɟ. ミロクはアルタレスに就任した。

ɑıɟd ［料理］蒸す ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ɑıɟıdl から。ɑı は火の意味で、ここでは熱い。ɟıdl は ɟıdlc 空気から。

ɑıɟdhıɥʃ ［形容詞］［ネガティブ］蒸し暑い、じめじめした、ジメジメした ［類義語］ɟeɥcd ［レベル］３ 1L 【用例】 ɑcɟ ıʃ ɑıɟdhıɥʃ. 今日は蒸し暑かった。蒸すように暑かった。 ɑcɟ ıʃ ɑıɟdhıɥʃ enʃɔ ın nı lcn ı ɟcdıl. 暑くて息苦しい日だった。

ɑıɟdez ［名詞］サウナ、蒸し風呂 ［レベル］３ 1L ［文化］ アルダからアルバザードに伝わった。温泉にはたいてい付いているが、家庭にはない。

ɑıɟı ［被服］マント、袖のない外套 ［類義語］ɑlınlcı ［レベル］３ zφ; ↓ lılʃı: マントをたなびかせるときの「ふわっ」という音。 ɑıɟı:ɑıɟı:lə ɑl ınlcı

ɑıɟıueɥınʃ ［医療］套型人格障害 ［レベル］６ ıl;/ ɺʔ:ɟeɥen/ɒel ［文化］ueɥınʃ

ɑın ［形容詞］丈夫な、堅牢な、頑丈な、強固な、強靭な ［形容詞］耐久性がある ［形容詞］日持ちの良い ［反意語］ɑcɒ ［レベル］２ @ 1L 【用例】［メタファー］［俗語］ɑın yən llın 奴隷のように丈夫な

ɑın(ɺ) ［法副詞］［ɥenʃe］uın ［レベル］１ 1L:uın を弱めたもの

ɑın(ʔ) ［接尾辞］番号、位 ［類義語］ɑılı ［レベル］１ ɺ1:ɑılı/n ［語法］ → ıll 数について番号を指す。lɔɑın で１番ないし１位。ɑılı lɔ でも意味は同じだが、前置詞句。lɔɑın は語。文法的に異なる。【用例】 φılɑın １００番 lcnɑın ５番

ɑın(0) ［エルト］uıɥɑınʃ の略称 ［組み数字］７／１２ ［レベル］１ ɺɺ

ɑın,ɑ hıɥ ɟııl;ɑıc/ncɒ

ɑınʃ ［地学］金、ゴールド ［形容詞］金の ［組み数字］１／４ ［レベル］２ lɟl ;ɑınʃɔɒ,ɑu.lcl 1ʔ: 制 :ɟɔɥn:ɑınʃɔɒ ɑınʃɔɒ:ɑınʃ ［文化］ eɥɑc

ɑınʃɟel ［歳時記］金の日 ［レベル］３ ɺ1 ［文化］ アルバザードの産業経済において大きな出来事があった４つの日をそれぞれ金銀銅鉄で呼ぶ。金が最も影響が大きかった日である。 金：φcl ɥez 銀：dıl ɑcn 銅：ɑcı scl 鉄：ɒcl nen

ɑınʃφıɥ ［電算］ＤＶＤ ［レベル］３ 1L: 金の円盤 【用例】 ın cnıʃ lıl ɑelɟ lɔn ɑınʃφıɥ. ＤＶＤで映画が見たかった。 ın ɟʃcʃıʃ ɑınʃφıɥ. ＤＶＤを借りた。

ɑınʃɥecn ［組み数字］金賞 ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ → ɥıdıll アトラスで古くから一般的に用いられてきた価値の高い金属。発見はギリウス神によるもので、その順序は銅金銀鉄であるが、価値の順序は時代によって異なる。ɥɑ ごろでは金銀銅鉄の順序であり、これが賞として採用されている。ほかに貴金属としてはプラチナなどもあるが、四つ組の中には計上されない。

ɑınʃlcl ［化学］金→ ɑınʃ ［レベル］４ 1L

ɑınʃı ［天文］hɔɔɥılccɑı ［組み数字］７／８ ［レベル］４ lɟɑ;ɑınʃɔɒ,ɑu ɺ1

ɑınʃɔɒ ［植物］うこん、ウコン、ターメリック ［レベル］４ 古の ɑınʃɔɒ（金）から

ɑınʃɔɒ,ɑu ɑınʃ ɒelʃcı ɺʕ:φclcəɟ;e

ɑınʃe ［料理］てんぷら、揚げ物、ナゲット ［レベル］３ 10: 制 :ɟɔɥn:ɑınʃe ɑınʃɔɒeɒyə（金色油）［文化］ アルティア食。アルバザード人はあまり好まない。

ɑınʃen ［形容詞］非理性的な、貪欲な、拝金主義な、成金な、非理知的な ［類義語］enyəəl ［レベル］３ 1L: 金の心。銀に対してできた。leʃʃen と比較して en がついた

ɑınl ［名詞］麻薬 ［レベル］３ lılʃı

ɑınlʃıb ［名詞］麻薬検査 ［レベル］４ 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɑınu ［医療］マラリア ［レベル］４ lılʃı

ɑınul,ɟzɑ ɑcɥʃ <>dı ɔn "ɑı"

ɑınueɥınʃ ［医療］アスペルガー、アスペルガー症候群、アスペルガー障害、アスペ、高機能自閉症 ［レベル］６ ul;uıɥɑınʃ/ueɥınʃ。言ったことを愚直に捉えるところから来ている。 ɺʔ:ɒel

ɑınuel ［建築］ファンベル宮殿 ɺɺ:「豪華な」［文化］ ケートイアの宮殿。ケート王の住居。ɟɒ で建設。【成句】 ɑııu yən ɑınuel 豪華絢爛

ɑınɑ ［動物］ジャガー ［レベル］５ 1L:ɑınɑenz

ɑınɑlıɑ ［地球の国名］ガイアナ 1L: 国章にジャガー

ɑınɑɥeı ［化学］［工学］錬鉄 ［レベル］６ ɥʃ;/ ɺ0 ［文化］ ɥʃ で発明された鉄。銑鉄は脆く壊れやすいので橋などの建造物には向かなかった。そこで銑鉄の炭素含有量を減らした錬鉄が作られ、ガウディの塔などに用いられた。

ɑınɑ ［動詞］yəl を盛り上げる、盛り上げる ［名詞］オチ、話のヤマ、サビ ［レベル］３ 10: 制 : 古 :ɑıcnı（盛り上がる）。「火の心」から。【用例】 ɑınɑ ʃeel お約束。お決まりのオチ eu ɑınɑ ı lәl 話にオチをつける ʃə lıle lcɥ ɑınɑ bın uecn. この漫画はオチが弱い。 (el) lәl ɔl ɑınɑ. オチがついた。 ʃə lıle eɟ ɥecz ɔn ɑınɑ. この漫画はオチなしだな。 ın lɔlc ucl ɑınɑ e ʃə lıle. この漫画のオチが理解できない。 ıʃə{ʃə} eʃ ɑınɑ lcnɔı. ここがオチなの。いいとこなの。

ɑınφ ［植物］蘭、ラン ［メタファー］箱入り娘、手塩にかけて育てた娘 ［レベル］３ lılʃı

ɑınφıɟ ［政治］諸侯 ɟɒ;「高価な食材」が原義。 ɺ0

ɑınyɔlɔl ［経済］耐久消費財 1L

ɑınz ［単位］垓 ɺ1:ɑenz

ɑınzel ［形容詞］残酷な、凄惨な、冷酷な、冷徹な、ひどい、酷い、非道い。残酷なだけでなく怜悧なイメージがある ［類義語］ɑəɔ ［レベル］２ ɺɺ:ɑenzel

ɑınlcl ［化学］ヘリウム ［レベル］４ 1Δ: 制

ɑını ［動詞］yəl を ı に集中させる、集中する、ハマる、ハマらせる、はまる ［副詞］集中して ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 恣意 【成句】 ɑını ɟeɑ ɟen yıc ıɟ 集中すれば痛みも消える：心頭を滅却すれば火もまた涼し 【用例】 ɥe ɑını ı ɑel = ɥe ɑel ɑınıl. 勉強に集中しろ。 ın eɟ ɑını ı lcuı cɒ ʃəɔ. 最近ゲームにハマっている。

ɑınıʃeɥ ［動詞］yəl を聞き取る、聞き取る、聴取する、聴き取る ［普通動名詞］聞き取り、聴取、事情聴取、聴き取り、ヒアリング、リスニング ［レベル］２ ɺɺ: 集中して聞く

ɑınıl ［商標］ソーダ、ファナック、スプライト、セブンアップ ［類義語］φııze ɥɑ; 商標 ɺʔ ［文化］ φııze に香料や甘味料等を入れたもの。いわゆる日本でいうソーダ。

ɑɪnɪd ［名詞］晴れ舞台、見せ場、花道 ［レベル］４ ɥɒ;ɑɪnɪdɪɒ.ɿ「スポットライトが当たる」 ʝʔ

ɑɪnɪdɪɒ ［名詞］スポットライト ［レベル］４ ʝʝ

ɑɪnɪɔɒ ［名詞］集中力の付け方 ［レベル］３ ƖL:ɥcɒcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪnɪenuc ［名詞］集中力 ［レベル］３ ƖL:ɥcɒcɪ

ɑɪu ［人名］ファーヴァの略称 ［組み数字］１２/ ２８ ［レベル］１ 古 :ʃeɔlɔn: 論文提出用のサイン ɑɪu がそのまま名になったもの

ɑɪuueɥɪnʃ ［医療］統合失調型パーソナリティ障害、統合失調型人格障害 ［レベル］５ ul;ɑɪɪuɪ/ueɥɪnʃ ʝʔ:ɒel

ɑɪuɪ ［被服］ドレス、綺麗な着物 ［レベル］３ Ɩƙ: 制 :ɑɪuʝɪb

ɑɪue ［名詞］パレード ［レベル］３ Ɩƙ: 制 :ɑɪuɿe（華やかに行く）【用例】 lczl ɪɥɪʃ ɑɪue. 村のパレードがあった。

ɑɪɑ,ʝzɒ dɪb dɪb.l

ɑɪɒ ［名詞］物事、ものごと ［類義語］ʃəl、ucʝ ［レベル］２ ʝ0: 恣意 ıl:ıl: ［語法］ ʃəl と ucʝ の上位概念。

ɑɪɒƖlel ［言語］事典、コト典、こと典、百科事典→ɿlel ［レベル］４ ʝ0: 物事の辞書

ɑɪɒl ［被服］ジーンズ、ジーン、ジーパン ［レベル］３ Ɩʔ: 制 :ɑɪɒɥɔlɔ（丈夫なズボン）

ɑɪɒɪ ［植物］ガーベラ ［レベル］４ Ɩʕ: 制 :ɑɪɒc から。二対ではない。ガーベラはキクの一種で、非常に品種が多い。

ɑɪɒc ［植物］キク、菊 ［レベル］４ 古 : 火花の花。花の形が火花に似ていることから。

ɑɪɒcl ［気象］オーロラ ［レベル］４ ƖL:ɿɒccɥ: 綺麗な単語なのに語頭の d が気に食わないとのこと。自分の名前に近づけるために語末を ɥ にしたいと言われたが丁重に却下 参考 :dɪɒcl: 古 : 光って舞う

ɑɪɒcluɔnʃ ［アビリティ］ファミルヴォント ［レベル］５ ɥɒ;/ ƖL: 小学校のときに考えた必殺技で、元ネタはオーロラエクスキューション。 ［文化］ ɥɒ におけるセレンの必殺技。フルミネアのオーロラシートに近い。ユノをオーロラ状にした上、冷気を乗せた技。子供時代から青年時代まで通してほぼ唯二の必殺技。

ɑɪɒcluɔƖl ［アビリティ］ファミルヴォルク ［レベル］５ ɥɒ;/ ƖL: 小学校のときに考えた必殺技で、元ネタはオーロラエクスキューション。 ［文化］ ɥɒ におけるセレンの必殺技。オーロラの波ように氷の属性を帯びたユノが敵を襲う。

ɑɪɒcɪ ［植物］バレリアンレッド ʝ0:ɥcɒcɪ: 火の花

ɑɪɒcc ɿəlnɔɥʝ ［人名］ファミィ＝クルノース ［レベル］５ 語源不詳 ［文化］ →ɿɪɔlcʝʃ ɿəlnɔɥʝ （ʃcɑ ٩ lcʝ ɥəs_） 第４期４代アルシェ元準ハルマ。ɥənƖ。リディアの友人。赤毛でやや小柄な可愛らしい少女。大人しく、控えめ。肩より長い髪を二つに結いていることが子供のころは多かった。高校以降ストレートにした。目は青。１５８ｃｍ、４９ｋｇ。肌は白：黄＝７：３。 ɥɒ では、セレンに片思いする色魔導師の少女として登場し、セレンを引き込んで部員２人の色魔法部を設立する。その後アマンゼ家に嫁ぎ先が決まるも、マリッジブルーでセレンと浮気をし、不義の子を授かる。娘は誰にも知られぬままアマンゼ家の子として育てられ、シオンと名付けられる。結婚を期にアマンゼ家が貴族になったため、ɥɒ でアシェットが貴族を廃止した後も、慣習的にアマンゼ家の子供は代々シオンないし〇〇シオンと名付けられるようになった。

ɑɪɒcc nɪɔn ［人名］ファミィ＝ナオン ƖL:clɒəʝ:ɥcɒcɪ ［語法］ レイユの政治家。女性。テスラン＝ナオンの子孫。アルミナ党首。

ɑɪɒɔ ［植物］チシャ ［レベル］５ Ɩʕ: 制 :ɑɪɒc

ɑɪɒɔ ［地学］マグマ、岩漿、溶岩、ラバ ［レベル］４ Ɩʕ: 制 : 古 :ɑɪcɒɔl から

ɑɪɒɔoɪl ［地学］火山 ［レベル］３ Ɩʕ

ɑɪφ ［名詞］電球 ［類義語］dɪɒ ［レベル］３ ɥʃ:uɪnφɪɥɒ lcczel;ɑɪɥ/φeƖ ʝʝ

ɑɪφl ［名詞］カートリッジ ［レベル］３ Ɩʔ: 制 : 恣意

ɑɪφɪ ［音楽］アンプ ［レベル］４ Ɩʕ: 制 :ɑɪφ から

ɑɪφc ［名詞］るつぼ、坩堝 ［レベル］４ Ɩʕ: 制 :ɑɪc/φc

ɑɪd ［名詞］煙、スモーク ［メタファー］砂煙→ lɘɪɑɪd ［レベル］２ Ɩʔ: 制 : 古 : ɑɪcʝɪdlc(火の空気) 【用例】 ɑɪd eɒ neƖ. 煙が立ち昇る

ɑɪdƖʃcƖ ［数学］鈍角 ［レベル］４ ƖL:ɥcɒcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪdl ［料理］ベーコン ［レベル］２ Ɩʔ: 制 :ʝɪɒ:ɑɪdlə(燻製された豚肉の背中) 【成句】 eɒʝ ɪ(len) ɑɪdl 余計なこと：アルバザード人は肉の脂を使って料理をするので、そこに油を足すと余計なことになることから。

ɑɪdʝ ［動詞］ɥəl を燻す、燻す、いぶす、スモークする ɥɒ;ɑɪd/ʝɔ ʝʔ 【用例】 ɑɪdʝ ɔocɥeƖ ɪ ɑɪdl 豚肉をスモークベーコンにする。

ɑɪdʝleɿe ［料理］スモークサーモン ɥɒ;/ ʝʔ

ɑɪdn ［建築］ロビー ［レベル］３ 古 :ɑɪdn（煙の部屋）

ɑɪdl ［建築］煙突、チムニー ［レベル］３ Ɩʔ: 制 :ɑɪdlɔɔ（煙の筒） ［文化］ ɑɪɥɪ

ɑɪdleln ［名詞］のろし、狼煙、烽火、狼火、狼燧 ［類義語］ɑɪcleln ［レベル］４ ɥɒ;/ ʝʔ ［語法］ 物を焼くことで煙を上げ、それを離れたところから確認することによって、情報を伝達する手段である。夜間など煙が見えない場合は、火そのものも使われる。

ɑɪdc ［動物］サソリ、蠍、スコーピオン ［レベル］３ lɪƖʃɪ:ɥəɑɪdcn（毒針、痛い針）

ɑɪdccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］さそり座 ʝƝ ［文化］ cɑɪ

ɑɪde ［名詞］霧吹き、スプレー ［動詞］ɥəl にスプレーをかける、スプレーする ［レベル］３ Ɩʕ: 制 :ɑɪd 【用例】 ɪn ɑɪdeʃ ɥcb. 蚊にスプレーをかけた。

ɑɪdeʃ ［形容詞］半透明の、曇りががった ［レベル］３ ʝ0:ɒelcɒcɪ lceɥ:ɑɪd/ʃe

ɑɪb ［動詞］ɥəl を膨らませる、膨らませる、膨らます、膨らむ ［形容詞］膨れた、膨らんだ ［物理］［自然動名詞］膨張 ［反意語］ɑcu ［レベル］２ 古 【用例】 ɪn ɑɪbɪʃ sɪnφeƖ. 風船を膨らませた。

ɑɪblcz ［名詞］帆布 ［芸術］キャンバス、カンバス、画布 ［レベル］３ ʝƖ:ɑɪʝ/ 古 lccz「少女の仕事」 よく少女が織る仕事をしていたことから

ɑɪbɔ ［料理］ふくらし粉、ベーキングパウダー ［レベル］３ Ɩʕ: 制 :ɑɪb

ɑɪbɔɥ ［ユマナ］アフリカ ［レベル］４ ƖL:ɑɪbeɥ

ɑɪbe ［名詞］火薬 ［レベル］３ zφ;ɑɪcφɪɪbe ʝƝ: 赤 ɑɪcφɪɪbe ［文化］ φel

ɑɪbeɥ ［地学］ファベル大陸 ［組み数字］３/ ６ ［レベル］３ ɑu;e ƖƝ: 制 ［文化］ 面積：ʝΔƖ0ʔ0٩ʔ.٩ʝƖƖƝʔ ƖɒƖ

ɑɪbeɥʝczɪ ［地学］ファベルプレート ʝʔ

ɑɪbeez ［軍事］薬室、チャンバー ［レベル］６ ɥɒ;/ ʝƝ ［文化］ φel

ɑɪrleʃ ［人名］ファレット ［組み数字］６/ １６ ［レベル］４ ɒelʃcɪ Ɲ0:ɪɥɒə/eʝʃɪ;e 古 :ɑrleʃ ［文化］ eʝʃɪ エスタの第６子。女。

ɑɪɥ ［名詞］光 ［反意語］uel ［レベル］１ lʝl;dɪɪl,ɑ.Ɩ ƖL:ʝɔɥn: 太陽、光 dɪ, dɪɪl:dɪ, dɪɪl:lɪ blɪnl 【用例】 ɑɪɥ ucen 強い光、明るい光 ɑɪɥ cƖ ʝɔɒ c lɪʝ ləəʃ enʃɔ ɒɪcn lɪɪʃ ɔɥ ɑɪl ɪdɔʃ ʃə ɑɪɥ" 彼の手から光が放たれ、彼女の身体は徐々に白い光に包まれていった。

ɑɪɥʃ ［形容詞］熱心な ［反意語］ɑcƖl ［レベル］２ ɥɒ;rləəɑɪc{ɥəəɑɪc8} ƖƝ: 制 : 古 :rləəɑɪc から 【用例】 ɑelɪn ɑɪɥʃ 熱心な学生

ɑɪɥʃnɪ ［名詞］熱意、情熱、ゼスト ［レベル］３ ɥɒ;/ ʝʔ

ɑɪɥʃɪnl ［電算］［工学］光ファイバー、光繊維 ［レベル］４ ul;/「光の麺」 ʝʔ ［文化］ ・歴史 nɒ で波動の屈折の法則が定式化され、ɥʃ でガラス板の中に光が閉じ込められる条件の定式化、反射による光の誘導の公開実験、光の全反射の条件と水流で光を曲げる実験、音声を可視光線の信号に乗せ通信を行う実験が行われた。 ul で光の閉じ込めをガラス繊維に拡張した条件が定式化され、ガラス繊維の束に光を導く実験が行われ、この際に光ファイバーという概念が生まれた。 その後電飾や通信技術に用いれることになり、ıl でネット回線を実現するなどし、世に広まっていった。 ・構造 ３重構造になっており、内側のコアを ʝelz、中層のクラッド（英語で結局の覆いという意味）を ɥɔulɔbɔ、外側の被覆を ecllɔbɔ という。

ɑɪɥʃɔɔl ［魔物］ファルトール（光竜）：第六十天：光の衛天 ［レベル］６ ƖL:ɥcɒcɪ/ʝeɥen/ɒel:ɑɪɥ/ʃɔɔl ［文化］ 光属性の地竜。小型で地を走るタイプの龍。イレティスよりは知能が低く攻撃的なものの、竜の中では凶悪さに欠けるため、こちらはヒュート国で地竜としてブリードされた。ただ、竜族一よく啼くので、うるさい。

ɑɪɥl ［動詞］ɥəl を伸ばす、伸ばす、ストレッチする、伸びる ［普通動名詞］ストレッチ、柔軟体操 ［反意語］ılɑɪɥl ［レベル］３ ƖƝ: 制 :ɑɪɥ（伸ばす） 【用例】 ɪn ɑɪɥlɪʃ ƖnɪƖel{hɪnel} Ɩɔnʃ hɪə. 大きく伸びをして、あくびをした。 ɑɪɥl Ɩcɒel{heɒel} 小さく伸びをする：絶対腕を曲げることになるため。

ɑɪɥlʃeeʃ ［化学］延性 ［レベル］５ ƖL

ɑɪɥʝ ［名詞］功績、功労、働き、手柄、殊勲、実績 ［レベル］３ 古 : 仕事、功績 【用例】 lɪ ʃcl ɑɪɥʝ ʃcnƖɪ. 彼は功績甚だしい。

ɑɪɥʝleʃ ［電算］ＶＤＴ ［レベル］４ ƖL ［文化］ パソコンやテレビの画面に使われていた。長時間の使用により精神や体調を崩す国民が増えたため、ミロクは月法において長時間の使用を禁止した。月法に入れたため、非常に驚かれた。それだけＶＤＴ作業は世の中に根付いていた。 ミロクによると、ＶＤＴは目を疲れさせ、交感神経を刺激して自律神経を乱し、相対的に運動不足を招き、成人病を招くため、有害であるとした。 アルヴァントによると、研究や仕事でＶＤＴを使うものは一日上限が４時間である。それ以外は上限が２時間である。この法の成立により、このままだと多くの企業は仕事にならなくなってしまうため、急速に電子ペーパーの需要が増え、開発が進んだ。企業は業務を続けるために電子ペーパーを導入し、ＶＤＴ制限法から逃れた。アルバザードで電子ペーパーが異常な速度で普及したのはこの法が背景にある。

ɑɪɥʝleʃleun ［医療］ＶＤＴ症候群 ［レベル］５ ƖL: 画面の光による病気。パソコンとは限らないし、画面でも光らないものは平気。 ［語法］ ɪn ɥən ɪnc ɔ elʝ ɔ cɑc ɒcl ɑɪɥʝleʃleun. ＶＤＴ症候群で疲れて鬱で老けて見える。

ɑɪɥʝɪlʃ ［天文］［単位］光年 ［レベル］４ ʝʝ

ɑɪɥnɪ ［感動詞］お大事に ［レベル］２ 古 :ɑɪɥnɪ,ɑɪɥʝnɪ,ɑɪɪnɪ。いずれも「働くな」の意。

ɑɪɥɑ ［気象］晴れ、晴天、照る、照り、雲のない ［形容詞］晴れやかな ［レベル］２ ƖL:ʝɔɥn:ɑɪɥɑɪl（光る太陽） ［語法］ 朝昼だけでなく夜にも使える。雲がないか少ないことを指す。 【用例】 eleʃ ɑɪɥɑ 晴れやかな表情 ɑcʝ eʃ ɑɪɥɑ. 今日はいい天気だ。ɑɪɥɑ は「いい天気」と訳していいが、「いい天気」は ɑɪɥɑ だけとはかぎらないので注意。雨が好都合な場合もあるし、アルバザード人は色んな天気に良さを見出す民族。 cɒ lɘ ʝel ɑɪɥɑ, leʝ nɔɒ ɪɥʃ eʃ bɪn lənɪ nɔn ɥən eʝƖ ɪɒʃ. ɥɪ, nɔn lɪɥ ʃə eʃ ʝenlɪnr ある晴れた日のこと、魔法以上のユカイが、限りなく、降り注ぐ。不可能じゃないわ！（涼宮ハルヒ） sɪn ɪʃ ɑɪɥɑ hɪnel. 空は晴れ渡っていた。 sɪn ɪʃ ɑɪɥɑ ʝɔɥeʃel. 明るく晴れていた。 sɪn eɒcƖ ɑɪɥɑ ɒeɥel. 晴れ上がった。 ɪn lɔʃ sɪn eɒ ɑɪɥɑ ɑɥelel. だんだん晴れてくるだろうと思った。 Ɩeʝʃ ʝcl ɑɪɥɑ ʃel senʃdɔɥƖlɪƖ. 天気予報によると明日は晴れだ。

aıμaıncı ［地名］ファルファニア　メテの使徒ファルファの第二の支配地？　［人名］ファーヴァのアルカ姓　［レベル］５　ʅıʅɔ

aıμaıncı(ɺ) ［アトラスの国家］ファルファニア、炎国　［アクセント］aˈμaıncı　［レベル］４　au;e　ʅıʅɔ　［文化］　面積：
ɺ

aıμaıncın ［名詞］ファルファニア人　［レベル］４　ɺ0

aıμaıncıμen ［言語］ファルファニア語　［レベル］４　ɺɺ　［文化］　elɷjeſı
●概要　　名称：aμa（ファルファニア語）　系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族ファルファニア超語派 (ıſenıDıſ, ɥəəDıeD cſ, ɭcaeμacıD, aıμaıncıcaıl)　使用年代：ſD　分布：北ファベル　話者：ガルヴェーユから移住してきたシフェルの民　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：主観的把握　→　客観的把握　　古代ファルファニア語と現代ファルファニア語に分かれる。　ファルファニア人の一部がリュディアを建国するまではリュディア人も aμa を話した。両者が分離してから片方がリュディア語派になり、ケヴェアに残ったほうがファルファニア語派になった。　　分離する前の aμa を神代 aμa といい、分離後から現在までの aμa を人代 aμa という。aμa ＞ lɥ ＞ lj ＞ ıμ ＞ ı と繋がっていく系譜の祖になるのは神代 aμa のほうである。　　神代 aμa に関してはユーマの一族がガルヴェーユから追放されて、当時のユーマの一族より高度な文明を持っていた神の技術や材料が得られなかったことで、記録が乏しい。さらに第三世代以降の短命化により歴史の生き証人が減ったことで、なおさら記録が乏しい。　lɥ で客観的把握を持つようになっているので、神代 aμa の間に徐々に主観から客観へ変化していったものと推定されている。

aıμacſ ［生物］太陽　ɺ1: 目のツボ。眼によく、眼に光をくれるとして

aıμaəſ ［化学］［植物］光合成　［レベル］４　μſ;/「光交換←光エネルギーを化学エネルギーに変換することから」　ɺʔ

aıμD ［名詞］［形容詞］かっこいい、イケメンな　［類義語］uıμDı、eμɷe　［レベル］２　1L:jɔμn: 制 :dııD　［語法］　uıμDı

aıμDı ［生物］マイコプラズマ　［レベル］４　1L:jıdD/aıcz/Dın　［文化］　真正細菌。肺炎の原因のひとつとしてリュウが発見した。

aıμɷɔʅ ［名詞］電飾、イルミネーション　［レベル］４　μɷ;/　ɺ∩　［文化］　魔動式のものが神代から存在した。

aıμdleſ ［名詞］木漏れ日、木洩れ日、木漏れ日、こもれび、木もれ日　［類義語］dıləe　［レベル］３　μɷ;/「光のシャワー」　ɺ∩

aıμμen ［地学］ルビー、紅玉　［魔法］ファーレン。火の低位白魔法。生理を止める魔法。女魔導師や女戦士が戦場に出る際にかけてもらっていた。　［組み数字］５／１０　［レベル］４　Delſcı 10:ləɷɔ;aıc/μen 19:μcɷcı:aıc/μen　［文化］　→ ɷɔlDcɥə　ヴィルの魔石。

aıμsecl ［天文］星雲　［レベル］５　ɺ1:aıμ/secl　ジェイルが光っているように見えるため

aıμlɔμ ［化学］鏡筒　μɷ;/「光の筒。光の通り道」　ɺʔ

aıμı ［名詞］暖炉　［レベル］２　ɺ0:aıc/μı（火の家）　［文化］　カコで定住化が進み、それとともに徐々に普及していった。とはいえ、このころは家屋内にはなく、屋外に共用施設として置かれた。セルメルで煙突が発明され、各家庭に設置されるようになった。　現在でも一戸建てには暖炉が置かれる。

aıμın ［歴史］ファラン族　ɺ0: 古サルディーン語「白い人」

aıμınſ ［企業］ファラント　［レベル］５　ɺ1:aıμı　［文化］　ブリジストンに相当する企業。

aıμınɷcμ,jzɷ　lccaı

aıμıDɔn ［魔物］ファルアモン（杖翁）：第六十二天：雷の風天　［レベル］５　1L:μcɷcı/jeμen/Del:aıμ（光）/zıDɔn（古：杖）　［文化］　妖族。ローブをまとった老人の姿をしている。ふだんは温厚な老人の顔だが、正体を現すと醜い鬼のような形相になる。手に持つ光の杖から、数々の魔法を繰り出す強敵。

aıμcj ［形容詞］発光の、発光する、発光　［レベル］３　μɷ;aıμ.ʅ　ɺʔ

aıμcjʅɔμeſſı ［化学］発光ダイオード、ＬＥＤ、TEΨ、エルイーディー　→ ʅɔμeſſı　［レベル］４　ul;/　ɺʔ

aıμcı ［動詞］ɥəl を諭す、諭す、正す、説教する　［普通動名詞］説教　［レベル］２　ɺ0:aıμ/ıdcı（光を示す）　［語法］　こうあるべきだと教え諭すこと。叱り飛ばすことではない。　【成句】　ſə eſ ɭca ɭel el aıμcı ʅeſſɔ əl Dcn. 猫と女に説教しても意味がない：どちらも反省しない生き物なので諭しても効果がないという意味。女は何か言われるとすぐ自分が被害者だという面をする生き物である。自分を被害者と思っている以上、人間は自分が悪いと思っていないので反省しようとはしない。そのため、諭しても意味がない。道を横一列に並んで歩いている邪魔な女に注意しても陰口を叩かれるだけである。彼女らはけっして反省せず、「うざいことを言われた私かわいそう」としか考えられない。猫並み。アルバザード人の男はそれをよく知っているので注意をせず、「通らせてくれたらありがたい」とか「通れなくて困っている」という態度を取るよう幼いころから経験的に学んでいる。

aıμen ［名詞］嫌味、イヤミ　［レベル］３　ɺ1:ləjcın:aıc/μenj（火の言葉）　【用例】　acſ{ʅə} aıμen ı　～に嫌味を言う　aıμen aəɔ　ひどい嫌味、辛辣な嫌味

aıμenacſ ［形容詞］（aıμenacſın で）嫌味な、イヤミな　［普通動名詞］嫌味言い、嫌味を言うこと　［レベル］３　μɷ;/　ɺ∩

aıμeɷcı ［地名］ファレディア　［レベル］５　ɺ0: ルビーの土地　［文化］　古スカルディアの地名。現メルディアの小都市。

aıl ［法副詞］～すべき　［名詞］義務、役　［レベル］１　a;e　古：フルミネアの名である aılaıncı の aıl から　［語法］　ɭıa と ıl の間くらいの強さ。
　ael aıl 学生なのだから勉強してくてはいけない：客観的な立場から述べている。　ael hıɔ 学生なのだから勉強するのは当然だ：客観的なデータに基づくも、主観的に述べている。　ael ɭıa 学生なのだから勉強するのは責務だ。その責務を果たさねば落第もあるだろう：言外に「さもなくば感」を出している。そのため、aıl よりもやや強い印象がある。　aıl ıl 学生なのだから勉強したほうがよいし、すべきだ：当為性は上記３点より弱い。　【用例】　el ıʅ aıl lej nı delj. 困っている人は助けるべきだ。　aıl len el eD ncl 幸福の義務。幸福になるための義務

aılſ ［動詞］ɥəl をすくませる、すくむ、竦む　［レベル］３　ʅıʅſı　【用例】　ın ıſ aılſ Dın nı ueD ıl ɔDı. 犬が怖くてすくんだ。

aılſc ［形容詞］高い、高価な　［類義語］ıμſDcleel、ɭeıʅeμcı、acelDed　［反意語］aeμ　［レベル］２　jɔμn　【用例】　le Dejʅ ıſ aılſc lɔɔɷel ıſc uıμſ. そのバックは私が思っていたよりも遙かに高かった。

aılſclız ［経済］ストップ高　［レベル］６　ɺɺ

aılſcj ［政治］高官、政府高官　［レベル］４　jɔμn:aılſcj（高い人）。aılſc と同根だろう。恐らくソーンでは値段の高いと位の高いが未分化だったと思われる。ſcj は lınſcj（人）の意味で、ıuelınſ/ıuelınſcj と同じような発生だろう。　［語法］［文化］　ıμnɔn, ɭcznɔ の各長官の総称。

aılſcjɔlſ ［経済］ソルト高　［レベル］５　ɺɺ

aılſcjɔlſaeμDcın ［経済］ソルト高ミアン安　［レベル］６　ɺɺ

aılſcDcınaeμjɔlſ ［経済］ミアン高ソルト安　［レベル］６　ɺɺ

aılſcφıμſ ［経済］高値　［レベル］４　ɺɺ

aılſcdıμD ［ユマナ］［経済］円高　［レベル］６　ɺɺ

aılſcdıμDaeμμıſſɔ ［ユマナ］［経済］円高ドル安　［レベル］６　ɺɺ

aılſcbılſ ［経済］戻り足、戻り　ɺɺ　【用例】　aılſcbılſ ſəμ ɷeDc. 戻り足が遅い。

aılſcμıſſɔ ［ユマナ］［経済］ドル高　［レベル］６　ɺɺ

aılſcμıſſɔaeμdıμD ［ユマナ］［経済］ドル高円安　［レベル］６　ɺɺ

aılſcıſɔ ［経済］ブランド物、ブランド、高価なブランド　［レベル］３　1L:μcɷcı:ıμbıleſſ　［文化］　一部の上流だけが持つもので、日本のように庶民が背伸びして似合わないものを買う習慣はない。バックだけブランドであとはイトーヨーカドーというのはアルバザード人には理解できず、アロハシャツに袴を履いているように見える。

aılſcıſɔuenſ ［経済］ブランド業界　［レベル］４　1L:μcɷcı:ıμbıleſſ

aılſcınɭcl ［ユマナ］［経済］ユーロ高　［レベル］６　ɺɺ

aılſceD ［経済］値上げ　［レベル］３　1L

aılʅ ［動物］ナマケモノ、なまけもの、怠け者　［レベル］３　1∩: 制 :ıʅıʅſı:aılφ, aıclφcc（怠け猿）　【用例】　aılʅ "ıμucDaıcz ſəμ ʅcn aəɔ benıjel" ナマケモノ「腱鞘炎つらすぎワロタｗｗｗ」

aıllc ［建築］［丁寧］宮殿、殿堂、パレス　［類義語］ɷıczμı　［レベル］３　ɺ1:μcɷcı:aıllcın　［語法］　ɷıczμı は王宮のみ指す。aıllc は王宮を含んだ宮殿一般で、王宮を指すこともあればそれより広い範囲を指すこともある。

aıllcın ［建築］ファルシアン宮殿、ファルシアン宮、ファルシアン王宮、アルバザード宮殿、アルバザード王宮、アルバ城、アルバザード城、アルナ城、アルナ宮、アルナ宮殿　［経済］１００ソルト玉　［レベル］２　ıμɷ;aıllcɔn.l　ɺ1:μcɷcı:aıllcɔn　［文化］　→ ınaın　jD に建てられたアルバザード王宮のこと。中央アルナ市カルテに存在。革命で王族は北区の selcɔn 宮に移り住んだため現在は無人で、一般公開されている。宮殿の中にカルテンがあったため、革命時に一部を改築してカルテンを宮殿から切り離し、シーカを作ってカルテからアクセスしやすいようにした。　ファルシアン宮は王の住む宮殿であると同時に城のひとつでもあった。jD で何度か改修され、μɷ で全面改築した。改築後の姿は地球でいうとウェストミンスター宮殿に近く、時計台も存在する。

aıllccʅı ［ランドマーク］ファルシーカ教会、ファルシーカ　［レベル］３　ul;aıl ɭcın/ɭccʅı　ɺ∩　［文化］　中央アルナのカルテン内に存在する教会。アルティス教の教会の中で最も有名な教会である。旧革命でファルシアン宮殿の一部を取り壊して作った。　ファルシーカのサリュには μɷ でアシェットが封印した「アルヴェスクの雪 (euınuejʅ)」が封じられている。これはアルヴェスクが起きて魔物が二度と降ってこないようアシェットが魔族の力を凝縮して封じ込めたもので、決して解き放ってはいけないと言われていたものである。

aıllcɔn ［軍事］総指揮官、指揮官、ファルシオン　［組み数字］１／７　［レベル］３　ıμɷ;ıuınɭcın.ʅ>uınɭcın>aınɭcın>aıllcın>aıllcɔn　ɺ1　［語法］　ıμʅılſ と ʅı lſcj の総称。

aıllcɔnμecn ［組み数字］指揮官賞　［レベル］５　ɺ1

aılle ［名詞］カップル、アベック、恋人、夫婦　［類義語］ılDı、ſcınıl　［レベル］３　ɺ1:μcɷcı:aııl/ɭelſ（太陽と月）太陽が男性で月が女性を指している。　［語法］　ılDı と ſcınıl の総称。

aıllen ［経済］名物、名産品　［レベル］３　ɺ1:ʅılenaılle から一般化。

aılj ［動詞］ɥəl に対して勝ち残る、勝ち残る、生き残る、生き延びる　［生物］ɥəl を淘汰する、淘汰する、自然淘汰　［反意語］φıleu　［レベル］３　lı ʅſı:「義務を果たす」　【用例】　μjccl ıllı uceμ ɭıa Dcu nɔzeſ aılj ɷıɼ 親は子供に生き抜けっていうもんだろが！（野原ひろし『超時空！クレヨンしんちゃん嵐を呼ぶオラの花嫁』）　"ſc μe aılj, Dın ſc ſcl aıj"「お前は生きろ。やることがあるからな」　nɔn aılj lın. nɔn aılj lın. ſə jɔlj nɔn lacj ɭıl lın. 生き残りたい　生き残りたい　まだ生きていたくなる（『ライオン』マクロスＦ）

aıljɔ ［医療］強迫、強迫観念　［レベル］４　古：「～しなければ」

aıljɔnıɥə ［医療］強迫性障害　［レベル］５　1L

aıljeſ ［形容詞］高潔な　［反意語］uılıſ　［レベル］３　古 :aıljɔ（義務を行う）/ſe　［文化］　王族、政治家、教師、医者、僧侶など、聖職者に特に求

められる性格。また、ユール＞ユンク＞アルデンの順で高潔と期待される。【用例】 ᴅcll ueljın aıljeʃ 高潔な政治家を望む

aıljeucʃı ［名詞］勝ち残り式トーナメント、ノックアウトトーナメント、トーナメント戦、トーナメント ［レベル］５ µɑ;/ ɭɱ

aıljeɥu ［生物］生存本能 ［レベル］４ µɑ;/ ɭʔ 【用例】 aıljeɥu ʃcn 強い生存本能

aıluınɔȷ ［筐堺］ファルヴァノス ［レベル］５ µɑ;aılaıncı/ıluınɔȷ ɭɭ ［文化］ 筐堺司：φcl aılaıncı 筐堺国：aılaıncı, ıluınɔȷ

aılɑ ［政治］汚職 ［レベル］３ 1ɱ: 制：恣意

aılaı ［人名］ファルファ ［組み数字］４／１５ ［レベル］４ ɿıɿɔ: 古での解釈は「炎」。［文化］ メテの第４使徒。

aılaıncı ［地名］ファルファニア。メテの使徒ファルファの支配地 ［人名］ギルのアルカ姓 ［レベル］５ ɿıɿɔ

aılaıncı(ɭ) ［アトラスの国家］ファルファニア、焔国 ［アクセント］aılaınc† ［レベル］３ ᴅelʃcı Lᛏ ȷen ucı:ɑɥɑ;aıɥaıncı ɿıɿɔ ［文化］ 面積：ɱʔLΔΔΔ.ๆ1ʔʔ1Δ ɿᴅ 」

aılaılcl ［化学］ウラン ［レベル］５ 1Δ: 制

aılᴅ ［名詞］札、符、ふだ ［法律］法案。札に書いて提案したことから。［電算］要素、添字、そえじ、添え字。配列の要素（添え字）。番号を書いた札というところから。［レベル］３ 1ʔ: 制：古 :ɑə,aıl ［語法］ ɿɔ ɑel

aılᴅın ［名詞］賞金稼ぎ ［ユマナ］ウォンテッド･バスターズ、ウォンティッド・バスターズ、ウォンバス ［レベル］４ ɭ0: 札を追う人。→ ueɥaılᴅ ［文化］ ueɥaılᴅ ウォンバスはセレンが中学〜高校にかけて作ったファンタジーシリーズの名。リディアのアティーリと比肩する作品だったが、アポステリオリなのが敗因となってアシェットに採用されなかった。セレンは 1L 年に『リディアの書』の中でこれを完結させる。

aılᴅɔn ［政治］元老院 ［レベル］５ zφ; 元は「布」の意味で、布をかぶせる「テーブル」になり、テーブルを使う議会になり、zφ で元老院になった。 ɭɱ

aılɑcȷ ［交通］バイク、オートバイ→ ɿeɥn ɥʃ;aılɑcıȷ.ɿ ɭɱ ［文化］ 車と同じ場所を走る。自転車扱いではない。個人で移動することが多いので所有台数は多い。女性はほとんど乗らない。【用例】 bcı e aılɑ cȷ ʃ'ıben eʃ lıu. 暴走族のバイクの音が五月蝿い。

aılɑcıȷ ［交通］［アイテム］［魔法］飛竜艇、ファルディアス ［レベル］５ µɑ;ul で「翼」 ɭɱ:µcɑcı。もともと aılɑcıȷ はバイクの意味としてセレンが作った語だったが、リディアの考えた理想の乗り物の名前に取って変えられた。［文化］ µɑ でラグナロク工科大学が開発した乗り物。ul の作った飛空艇にヒントを得て、それまで使っていた飛竜とコラボして作られた。 飛竜に似て翼があり、騎乗者は飛竜に跨るように乗る。見た目は飛竜と後の時代のバイクを組み合わせたような感じだが、タイヤはない。基本的に空を飛ぶ乗り物で、地上を行く場合はホバーして進む。 手綱の代わりにＴ字型の操縦桿があり、これを手前に引くと機体が上昇し、押すと下降する。操縦桿を左右に倒すと機体が左右に傾く。右スロットルを捻るとアクセルをふかすことができ、右レバーを右手で引くと前身にブレーキがかかり、右足のブレーキペダルを踏むと後身にブレーキがかかる。 左右の足のところにはステップがあり、ステップの前にはペダルがある。右ペダルは前述のようにリアブレーキになっており、左ペダルはギアチェンジに用いる。左レバーはクラッチになっていて、クラッチを引いた状態でギアペダルを踏むとギアがひとつ下に落ち、逆にギアペダルを蹴り上げるとギアがひとつ上に上がる。一番下が一速で、その半分上がニュートラルで、その半分上が二速で、あとはひとつずつ上げるたびに一速ずつ上がり、最高六速まである。バックギアはない。 バイクや自転車と違ってチェーンとギア（歯車）があるわけではないのでギアチェンジによって何が変わっているかというと、内蔵されている飛水晶のうちどれを使うかが切り替わっているのである。 飛竜艇には６つの飛水晶が内蔵されている。一速の水晶は力が強く速度が遅い。低速ギアである。六速の水晶は力が弱い代わりに速度が速い。高速ギアである。与えられたユノをどのような割合で推進力にするかというのが水晶ごとに異なっていて、ちょうどバイクのギア比に相当するものになっている。 飛竜艇の右スロットルを回すことで騎乗者のユノが左右のスロットルを通して動力部に吸い取られ、ギアの入っている飛水晶のギア比（ユノ比）に応じた推進力を出す。従って自転車と同じく動力源は自分の力であり、バイクのようにガソリンや電気に依存することはない。つまり自転車と同じく疲れるし、速度は騎乗者の霊力に比例する。疲れる代わりにガス欠という概念がなく、本人が疲れない限りいくらでも走り続けられるし、ガソリンスタンドの心配もしなくていい。 飛水晶のおかげで魔力を持たないものでも ləʃe や ɿeɥn と同じく浮遊することができる。左レバーを引きながら右スロットルの下にあるバイクのセルに当たるスイッチを押すことでエンジンがかかる。最初はギアがニュートラルになっており、何も起こらない。ニュートラルはいずれの飛水晶にもユノを送らないので、飛行中にギアをニュートラルに入れることで、それまでの推進力や高度に任せて自然と滑空することができ、この間はユノを消費せずに済む。ただしこの状態でもエンジンはかかっているので、飛水晶自体は起動している。従ってギアをニュートラルに入れることとエンジンを切ることは別物である。なお、エンジンは操縦桿中央のキーを捻ることでオンオフできる。 大まかな操縦の流れについて。まずエンジンをかけてニュートラルから一速にギアを踏んだら、一速の飛水晶が繋がる。ここからスロットルを捻ってユノを送ることで飛水晶が作動して機体が浮き上がる。スロットルを深く捻るほど多くのユノを消費する。最初は半クラにすると同時に操縦桿を手前に引きつつスロットルを捻ってアクセルをかけ、まずは軽く前方へ浮かす。そして飛び始めたら右スロットルを戻してクラッチを引いてギアペダルを蹴りあげて二速に入れ、また右スロットルを捻りつつクラッチを離す。要するにバイクと同じである。こうして加速に合わせて後は六速まで上げていく。これが飛竜艇の基本的な操作法である。 飛水晶を使う分、浮力は飛水晶が稼いでくれるので、生身でユノを使って飛ぶ場合に比べてユノを推進力に専念させることができる。つまり生身で飛ぶより飛竜艇を使ったほうが圧倒的に速いということである。またジェット噴射の要領で飛ぶ生身のユノ飛空は細やかな操作が難しいが、飛竜艇を使うと細やかな飛行が可能になる。この点で生身の飛空に比べて飛竜艇は優れている。 µɑ もアシェットの時代になるとヴィードの弱い人向けにバイクでいうガソリンの代わりにユノを大量に蓄えた透明なサファイアを推進力補佐として使う機体も登場したが、高価だったため庶民の乗り物にはならず、貴族や解体された元貴族が購入した。 なお、言うまでもなくアトラスでは飛竜艇が元となりバイクが生まれている。 飛竜艇は二人乗りで、後部座席に一人載せることができる。 µɑ で開発された飛竜艇にセレンは興味を最初示さなかった。自分の力で十分飛べたためである。ところがリディアが「飛竜艇に乗れる男の人ってカッコいいな」と述べたことが理由で、セレンは思春期ごろから飛竜艇に乗るようになった。以降セレンはリディアを後部座席に載せ、デートでドライブを楽しんだり、あるいは戦闘に用いるようになった。 飛竜艇に一度乗ったらすっかりお気に入りになってしまったセレンのためにリディアはセレン専用の飛竜艇をプレゼントしようと思い、ラグナロクと神々に制作を依頼した。これを受けた神々はセレン専用の愛車カレドヴルフを制作し、リディアはセレンにこれを送った。 なお通常の飛竜艇の最大速度は時速２５０ｋｍである。

aılφ ［音楽］ファンファーレ ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ȷıɑ:aıφıɔleᴅ から。トランペットなどによる音楽であるため。

aılφıʃ ［音楽］トランペット、ラッパ ［レベル］３ ɭ1:aılφ/ʃe

aılhc,ȷzɑ dıɑc dıɑc.l

aılı ［名詞］番号、ナンバー、コード ［名詞］号、巻、ナンバー→ lec ［経済］コード、銘柄コード ［格詞］〜番目の ［類義語］ɑın ［反意語］ıll ［レベル］２ 1L: 古の dılılı（数字）から。語頭を ɑ にしたのは、恐らく dılı で提案したらクミールに拒絶されだろうからあらかじめ。【用例】 aılı ȷɔɥ 大きい番号、番号が後（例えば３に対する５や６に対する９など）

aılıɿəɿc ［名詞］ナンバーロック ［レベル］４ 1L:lcɔn

aılın,ȷzɑ ʃc。後に ȷzȷ で lccze ができると aılın は女が男を指す二人称へ変わった。

aılıen ［接続詞］aılı ［レベル］３ ɭ1

aılcȷ ［名詞］正義 ［形容詞］正義の ［組み数字］５／６ ［反意語］uelnıɥ ［レベル］２ ɭ0:aıɥ/lcȷ「心の中の小さな光」 参考 :dıll:1ʔ: 制：古 :dılıl（パールの正義）。古では善は dɥɔdııʃı、悪は eucɑe。µɑ 以前に正義がないと困るので、パールからの造語は避けた。 ::lə lcȷʃe（徳は lı ʃınȷ）［語法］ dɥɔdııʃı ［文化］ ・公人・私人としての正義 µɑ でリディアは「公人としては、悪人以外の幸せを願う＞愛する人々の幸せを願う＞悪人の破滅を願う――の順で重視するのが正義だ」と述べ、「私人としては、愛する人々の幸せを願う＞悪人以外の幸せを願う＞悪人の破滅を願う――の順で重視するのが正義だ」と述べた。 公人としては癒着や贔屓を防ぐために、悪人を除く全員に博愛的であるべきだと述べた。そして悪人については助けないではなくむしろ積極的に破滅に導くことが正義だと述べた。【成句】 el aıleȷ lcn aılcȷ 善は急げ

aılcȷnı ［名詞］正義感 ［レベル］３ ɭɭ

aılcᴅ ［名詞］昼間。朝、昼、夕の総称。太陽が出ている間の時間。［形容詞］昼の ［反意語］lelᴅ ［レベル］２ 1L:aıılcᴅ（太陽の時間）【用例】 aıl cᴅ eʃ ɑcl{ɑen} 日が長い { 短い } aılcᴅ ɔɥ ɑcl ɑɥelel. 日がだんだん長くなってきている。

aılcᴅɑcı ［名詞］白昼夢 ［レベル］４ ɭ1:「昼の夢」。むろん夜に見ても aıl cᴅɑcı。

aılcᴅın ［名詞］朝型人間 ［生物］昼行性 ［レベル］４ 1L 【用例】 ın ıɥ uın ɑɔclneʃ lını eᴅ aılcᴅın. 朝型人間になるために早起きするつもりだ。

aılcın ［歳時記］処暑 ［名詞］１４時 ［組み数字］１４／２４ ［レベル］３ ɭ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

aılɔn ［料理］じょうご、漏斗 ［レベル］４ 1ๆ: 制

aıleʃ ［電算］［動詞］ɥəl をロードする、ロードする、読み込む ［普通動名詞］ロード、読み込み ［反意語］uınz ［レベル］３ ɭ0:aıʃcl/ʃe（取り出すような）→ aıʃclʃe → aıʃcleʃ → aıleʃ（ʃc 脱落）

aıleȷ ［動詞］ɥəl を ı{ʃel} に対して後回しにする、後に回す、先のばしにする、先延ばしにする、引き延ばす、延長する、伸ばす、のばす ［反意語］dılᴅ ［レベル］３ ɭ0: 古 dıl（未来）/ȷɔ（する）→ dılȷ → dıleȷ（脈とぶつかるため）→ aıleȷ（dıleȷ にしたらそもそも dılᴅ に近くなってしまったため）【用例】 ʃɥə en ʃccı nɔn ȷeʃe, eʃʃɔɾ ʃɥə aıleȷ nɔn ʃel eeʃı ıɾ お兄ちゃん私のこと大事じゃないのね！お姉ちゃんばっか優先してメルは後回しじゃない！ ☆ ın aıleȷ nelʃ ʃɔʃıl ɑə ȷel, ʃıcɿ ın aıleȷ ʃə ɑə ȷel uecn. 私はどんなことでも一日一日と先延ばししてしまうくせがある：「一日一日と」という表現はアルカにないので、意訳。 ☆ ın aıleȷ elɑ lıb l'ın ʃɔɔɿ aıl cᴅ ʃə ȷel ı ȷel ɿeȷ. 今日の仕事を明日まで引き延ばさないようにしている。

aıleɑ ［形容詞］［ポジティブ］敏捷な、素早い、機敏な、迅速な ［反意語］ɑeᴅɔ ［レベル］３ ɭ0:aıɥ/leɑ（光のように走る）［語法］ enuelen

aııʃ ［名詞］免許、免許証 ［電算］ライセンス ［レベル］３ 1ɱ: 制 :ɑəɿıʃȷ（許しの紙）［文化］ 違法コピー防止のため、ソフトはライセンス販売を行っている。 日本は端末が持つ番号ごとにライセンスを与えるため、ユーザーが端末を買い替えると買ったソフトが使えなくなることがある。これで余計買う気が失せる。 アルバザードでは個人の名前（国民番号）で購入者を登録し、１人２台（自宅と会社など）

まで同時にインストールできる。このため、端末を買い替えても古い端末のライセンスと交換すればよい。　インストール時に「既に２台インストールされています。このうちのどちらかのライセンスを切りますか」と表示される。　オンラインでないとソフトはアクティベーションされた状態を保てないので、ライセンスを切った後にズルして古い端末をオフラインで使おうと思っても無駄である。

ɑıɩl ［料理］朝食　［レベル］１　1L:ɟɔɲn:ɑıɩɲlɔn。lɔn はソーンで「食物」。毎日必ず使う単語を複合語にする意味が分からないとのこと。　［文化］　朝はあまり食べない。昨夜の夜ご飯を食べた後からおよそ十二時間近くが経過しているわけだから、胃は軽い断食状態にある。ここにいきなり食べ物を突っ込むのは毒である。ゆえに朝はあまり食べない。これがこのタイプの理屈である。朝は消化しにくいものは食べない。だが、脳はエネルギーを必要としている。アルバザードは午前に仕事を終わらせるので朝は脳が良く働かなければならない。だから朝は糖分を多く取るようにする。米やパンを食べてもブドウ糖になるが、米やパンの消化に発生したエネルギーを使ってしまう。また、消化に血が回るので頭に血が行かなくなる。こうした理由から穀物は避け、黒砂糖や蜂蜜などで糖分を効率良く摂取する。糖分は紅茶に入れて飲まれることが多い。カフェインで胃を刺激される人は紅茶以外に入れて飲む。また、栄養を取るために野菜ジュースを飲む。消化の必要がなく栄養を取れるので好まれる。結局、固形物はその他に消化の良いものを少量に何品か取って終わりである。ラスクの数枚も齧れば仕舞いである。この朝食は少ないので、時間も短い。十五分で食べて十分休むといったところである。【用例】 le ıʃ cᴅ e ɑıɩl. 朝食の時間だった。　ʃəɲ eʃ cᴅ e ɑıɩl e. 朝食の時間だよ。朝ごはんだよ。　ɑıɩl ıʃ ᴅɔı ɟıʃ. 朝食が既に準備されていた。　ın ɭəcʃ ɑıɩl enʃel. 朝食をゆっくり食べた。　ın ɭəcʃ ɑıl ɑıɩl uılel. 急いで朝食を取らねばならなかった。　ın ɭəcʃ ɑıɩl ıʃc ɷc. 朝食をたくさん食べた。　ın ɭəcɭ ɑıɩl hılᴅ. 遅めの朝食をとってきた。

ɑıɩle ［天文］朝月　［レベル］３　JJ:ɑıɩl/leɩʃ ［文化］　朝方見える下弦側の月のこと。

ɑııɟ ［被服］フランネル、ネル　［レベル］５　19: 制 :ɑıı: 柔らかいもの

ɑıın ［形容詞］［ポジティブ］勤勉な、真面目な　［反意語］ɑccᴅ　［副詞］勤勉に、まじめに　［レベル］２　1ʔ:ɟeɲen:ɭlel:ɑıɟ（仕事）【用例】 ın ləʃ ɑel uɔɟɭel ɔ ɑıınel. 私はいつも頑張って一生懸命勉強している。

ɑıın(J) ［化学］メタン　［レベル］４　1L:ɲɥəə

ɑıınuclɟ ［化学］アラニン　1L

ɑıınbezı ［化学］メチルアミン、メタンアミン　1L

ɑıınɥɔınʃıʃ ［化学］メチルエチルケトン（基官能）　1L

ɑıınɥɔınʃıʃclzɔᴅ ［化学］メチルエチルケトンペルオキサイド（基官能）　1L

ɑıınɲcʃ ［化学］メチルアルコール（基官能）［レベル］５　1L

ɑıınləzıɟl ［化学］蟻酸（基官能）［レベル］５　1L

ɑııu ［形容詞］［ポジティブ］華やか、華麗な、ハデな、派手な　［反意語］φınɭ、leeɭ　［レベル］２　J0:ɑıu:1ʔ: 制　［語法］　良い意味 : ɑııu（華やか）・leeɭ（落ち着いた）　悪い意味 : φınɭ（けばい）・ʃəəʃ（地味）

ɑııuɲı ［建築］豪邸　［レベル］３　J0:ɑıuɲı:1L:ɲcɑcı:ıɲbılelʃ

ɑııuı ［組み数字］１２／２８　［交通］ファーヴァ通り　［名詞］ファーヴァ組。アルナ大のクラス。　［レベル］２　JJ

ɑııuınıɭeı ［企業］ファーヴァナケア　［レベル］４　J1 ［文化］　武田薬品工業に相当する企業。

ɑııuı ləɑıı ɑıɲɑıncı ［人名］ファーヴァ＝ルファア＝ファルファニア　［組み数字］１２／２８　［レベル］３　古 : ファーヴァは語源不詳。ルファアは古アルカで、「 火 」の意味。古アルカでの意味は「 烈火 」。ファルファニアは『カコ』。ＦＡＲＶＡ＝ＭＡＳＳＡＡＲＡ＝ＮＡ＝ＬＵＦＡＡ : ファルヴァ＝マッサ・アラ＝ナ＝ルファアが本名だが、非アルカは除外した。　［文化］　→ ɑıuueɲınʃ　(ʃcɑ L ɷɥə len →) 第４期４代アルシェ第１２使徒。女性。ᴅıɥə/ɥəəl。１７１ｃｍ、６２ｋｇ。髪は金色で肩より少し長く、少しくせっ毛。青の瞳。肌は白 : 黄＝８ : ２。　・『ミールの書』より　　ファーヴァは青い瞳に金色の髪の毛をしている。長さは短い。年齢はセレンと同じくらいにみえる。顔は大人びていて背も高く、中々の美人だ。体格や顔つきからして白人と黒人の混血児だろうと思われるが、割合からいうと白人に近いようだ。　↑セレンはファーヴァがアフリカ出身ということから黒人と白人の混血だと勘違いしていたが、実際には白人と黄色人種の混血。ただし祖父の代まで行くと黒人が入っているので、黒人のクォーターではある。ただ本人の肌はほぼ白い。【成句】 ɟclʃ ɥən ɑııuı 自由奔放

ɑııφ ［名詞］アイロン　［レベル］２　1ʕ: 制 :ɑıcφ（火の金属）［文化］　乾燥機にかけた服や干してから取り込んだ服はアイロンにかける。アイロンにかけた後は畳んでタンスなどにしまう。もちろん、アイロンの必要のない服にはかけない。【用例】 ın ıɲıʃ ɑııφ uılel. 急いでアイロンをかけた。

ɑııd ［卑語］ケツの穴、肛門　［類義語］cdᴅ　［レベル］３　1Ⴖ: 制 : 古 :ɑııd。屁のオノマトペの１つで、後に肛門自体を指すようになった。また、尻叩き（尻刺し）の刑を意味する hıə はアナルセックスの意味があったが、同性同士のアナルセックスに意味が限定された（女性同士の場合はそれなりの道具を使って実現されるという意味で）ため使わず、こちらに統合する。【成句】［卑語］ɷcɟʃ ɑııd ıɟ ı nene　〜と二股をかける : ɑııd が下品なので、婉曲に言うときには ᴅıl ıʃ。【用例】［卑語］lı ɷcɟʃıʃ ɑııd ıɟɾ　あの女、二股かけやがって！ : 本命の男に膣を使わせ、浮気相手に肛門を使わせるというところから来ていて、二股を意味する。主語は女。

ɑııɲ ［名詞］朝、昼前。８〜１２時　［レベル］２　ɲɷ;ɑφn　1L:ɟɔɲn:ɑıɩl（太陽）から。一日の時間を区切る単語を決めるのはリディアも参加していたが、おおむねソーンが作ったことで固まった。　ᴅɔdı:ᴅɔdı: lı ɑlıuce ［文化］　在宅勤務にせよ主婦にせよ会社勤務にせよ学生にせよ、午前中の時間が仕事の勝負どきである。昼食は正午ごろに食べるので、八時から仕事を始めるとすると、この四時間の間に仕事を片付ける。人間にとってここでの一時間は昼や夜の数時間にも値する。ゆえにこの時点、特に十時ごろの時点は最も貴重な時間である。アルバザードの人間は総じて集中力が高い。そのように徹底して教育されているからである。緩急をつけるのが上手い国民なので、とにかく午前は必死に働く。学校の授業も脳力を使う科目は午前に密集させている。学生は五十分間の間に熱心に知識を詰め込んだら十分間休む。休むときは誰かと会話したりストレッチしたりトイレにいったりする。座りっぱなしは良くない。腰にも良くないし頭にも良くない。一度立って深呼吸し、体を動かすことが奨励される。【用例】 ʃə ɑııɲ 今朝　ʃıʃ ɑııɲ 毎朝　cᴅ ɑııɲ e le ɟel ある日の朝　☆ cᴅ le ɑııɲ e ɑleı ある夏の朝 : 上例と le の位置の違いに注意。

ɑııɲhınɔc ［ユマナ］サンシャイン　［レベル］６　JJ:ɲcɑcı:「太陽の塔」。しあに「ここどこ」と聞かれ。

ɑııɲıʃı ［名詞］朝会、朝礼、朝の会　［レベル］２　1L:ᴅelcɑcı ılcɟ

ɑııɲıᴅ ［名詞］正午　［レベル］２　1L:ɟɔɲn:ɑııɲcᴅ（昼の時点）が母音調和したもの【用例】 ınɟ ʃcl hıɲdncın ɷəen 1 ᴅcu cᴅ ɑııɲıᴅ. 正午に昼休みが一時間ある。

ɑıɩl ［天文］太陽　［反意語］leɩʃ　［レベル］１　1L:ɟɔɲn: 古 dıdıɲəlı の音を変化させたもの。　dıdıɲəlı:dıdıɲəlı:lə ınlel(l'ınlel)（太陽は男。クレーヴェルから）:hıφılc,ıɩʃ ［文化］　色は白。ıɩʃ では赤。【用例】 ɑıɩl ɑcɲ 白い太陽　ɑıɩl eᴅ ᴅcᴅ. 日が暮れる。　ɑıɩl lıʃ ɟɔɲen e sın. 太陽は遙か上空にあった : ɟɔɲen e sın は ɭı ɟɔɲ e sın（空の高いところ）。ɑıɩl cɭ neɭ. 日が昇った。　ɑıɩl eɟ neɭ ɟɔɲel. 太陽が空高く昇っている。　ɑıɩl eᴅ ɭcʃ ɑlcd ᴅe lc eɟl. 雨がやんでふたたび太陽が輝き始めた。　ɑıɩl eᴅ neɭ{ᴅcᴅ}. 日が昇る { 落ちる }。　ın nıʃ ɟɔɲʃ lc ɑıɩl eᴅ ᴅcᴅ. 日が沈むと冷え込んできた。

ɑıɩlılʃ ［天文］地動説　［レベル］４　1L:ɲcɑcı:「太陽の視点で」［文化］　ユーマの一族はもともと神から派生したものであるが、神はアトラスより前は宇宙にいたので、ユーマの一族は始めから宇宙の存在も地球が丸いことも知っていた。従って、地動説のような言い回しが生まれるはずもなく、単に「太陽の視点で見た場合」や、「地球の視点で見た場合」の言い方しか生まれなかった。宇宙の存在を知っていれば天動説という概念が存在しなかったと考えるのは誤りである。天動説は星座を観察する時などの便宜上の概念として有用で、今日の地球でも実用され続けている。

ɑıɩlɑcnɔ ［植物］ゲッカビジン、月下美人　［レベル］６　ɲʃ;c ᴅcɑccʃ　JJ:「太陽のように白い花火のような花」

ɑıɩlɑɔnʃ ［天文］黄道　［レベル］５　J1

ɑıɩlᴅıuc ［化学］ビタミンＤ　［レベル］３　nɷ;/。太陽光を浴びることで血中濃度を高めることができることから。　Jʔ ［文化］　ᴅıuc

ɑıɩldɔcʃ ［天文］黄経　［レベル］４　J1

ɑıɩllıbı ［環境］太陽エネルギー　［レベル］３　1L

ɑıɩlcn ［植物］ひまわり、ヒマワリ、向日葵　［レベル］３　1L: 太陽の花

ɑıɩlcnez ［名詞］観覧車　［レベル］３　1L: 向日葵の部屋。観覧車がヒマワリの形をした小部屋の集合であることから。【用例】 ☆ nɔn nıʃ ueᴅ ıʃc ɭıl cᴅ ɑıɩlcnez ləɭɔɭ ɟɔɲen ıɭı ɭɔɲ sın. 観覧車が一番高いところまで登ったときは少し怖かった。

ɑıɩleʃ ［魔法］陽晄（ようこう）、ファーレット　［レベル］６　J0: 太陽の晄基　［文化］　ɷɔlᴅcɥə

ɑıɩleʃɲecn ［魔法］陽晄線　［レベル］６　J1 ［文化］　ɷɔlᴅcɥə

ɑıɩleɟn ［名詞］日傘　［レベル］３　1L【用例】 nɔn ıɲıʃ ɑıɩleɟn uıɲ ʃeɲɭ lını ɑɔnl ɷeɑɔ. 外出中は紫外線を避けるために日傘を差した。

ɑıɩleɲn ［天文］太陽系　［レベル］４　1L:clᴅəɟ:ɲcɑcı ［文化］　|約 Ⴖʕ 億年前 |太陽系が誕生する。ıɲʃe はここに位置するようになる。惑星アトラスなどができ始める |

ɑıc ［名詞］火、炎、焔、火炎　［動詞］ɥəl を ı（灰や死など）になるまで焼く、焼く、燃やす　［魔法］ファイ（ファイア）。火の多段黒魔法。火で敵を燃やす。　［化学］燃焼　［料理］焼く　［類義語］blenz　［レベル］１　ɑ;e　赤 :ɑıc の前、火は lıc（火）← lıcʃıı（ライター）であった。先代に火という語が用意されていたので ɑıc に取り替えたという説が有力。但し、ɑıc の語源は不詳。先代であるため、英語からの借入とは考えにくい。ゆえに、ｆｉｒｅとの関連は考えにくい。ɑıc の語源はメル 1ʕ 年まで分からなかった。ｆｉｒｅやライターの語源説があったが、決定的ではなかった。初代からある『カコ』に登場するイーファは火と関連付けられることが多い。制アルカの中にもその片鱗が残っている。たとえば ɗıcɑı は ɗı/lcɑı だが、lcɑı は星で、更にその語源は lccz/ccɑı（小さい火）である。同じく、制アルカの cɑı（星）自体も古アルカの lcɑı から来ている。赤アンクノットではファイはファルファから来ているとあるが、これは物語上の後付けで、アルカ的にはファイのほうが先である。前期古アルカでは lıc が火であったが、自然言語排他によってこれが消えた。そこで代わりに出てきたのがイーファを元にした語である。原初の語形は ccɑıccɑı か cɑıcɑı であった。固有名詞と混同しないように重ねたものである。この当時は接頭辞の ıl がなかったので cɑıcɑı のように重ねた。だがこの語は長いので一部を切り取り、ɑıc にした。それが今まで続く ɑıc である。なぜ ɑıc で切ったかというと、他に切りようがなかったからであろう。cɑı で区切ったら元も子もないし、ɑıcɑı や ɑıcɑ より ɑıc のほうが語形が短くて合理的である。　ɑıc:ɑıc:lə φɲıᴅ（水の対。火が男）:hc,ıɩʃ ［語法］　ɑıc（燃やす）　ɑıc(ɑıcᴅ) : 燃やす　ɑıc lı : 燃えている。燃え始めから燃え終わりまでの総称　ɑıc ɟıʃ : 燃やそうと考える。準備する。火を近づける　ɑıc ɭcʃ : 火をつけ始める　ɑıcɲ : 火を当てている。チリチリいう　ɑıcɭ : 火がつく。点火　ɑıcɟ : 燃え

ている途中　ɑɪc ʃɔɔl : 燃え終わる。例 : "zɔɒ eɒ ʃɔɔl ɑɪc"（木が燃え終わる）　ɑɪc clʃ:灰や熱といった燃やした結果が残存している。例: "ɒȣ ɪʃə eʃ hɪµʃ. lɪɒcl le eɒ clʃ ɑɪc nɪ"(ん？ここが熱くなっているな。恐らく何かを燃やしていたのだろう）［文化］　低位黒魔法のファイは炎を起こす。中位は火柱をあげたり、丸めて火の玉を飛ばしたりする。高位は炎の渦に敵を巻き込む。　【用例】 "ɪµʃen e ɑɪc"　ɑɪl e ɑleɪ, lelɑc e ɗəəl　ɑcʃ enuc ʃccl,　ɑɪc　＜ファイの呪文＞　朱夏の陽　紅き月の光　我に汝の力を、　ファイ

ɑɪcʃ ［名詞］爆風　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɑɪcɪʃez

ɑɪcʃe ［料理］チリ　［レベル］4　古 : 辛い風。この風はどちらかというと風味の意味。

ɑɪcʃeȷl ［名詞］火力発電　［レベル］4　µʃ;/　ʝɱ

ɑɪcʃeȷɱɪ ［名詞］火力発電所　［レベル］4　µʃ;/　ʝɱ

ɑɪcʃənȷ ［農耕］焼畑農業、移動耕作　［レベル］5　1L

ɑɪcʃəlɑ ［化学］燃焼熱　［レベル］5　1L

ɑɪcl ［魔物］ファイク（爆球魁）: 第三十七天 : 火の炎天　［軍事］爆弾　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɑɪcɪφel から　［文化］　火の玉状のアデル。ダメージを受けると自爆する。火を吸収する。

ɑɪclsɪɒd ［軍事］爆撃機　［レベル］5　1ʕ: 制

ɑɪclɪ ［建築］囲炉裏、いろり　［レベル］4　1ʔ: 制 : 火の場所　［文化］　カコのルティアで作られた。ルティアは木材住宅が多いため、木の含水率を下げて材木の腐食を防いだ。また、タールが梁などに染み込むため、防虫効果もあった。　現在では見られない。

ɑɪclɪdl ［軍事］駆逐艦　［レベル］5　1ʔ: 制 : 爆弾の船

ɑɪclɔu ［料理］オーブン、天火　［レベル］3　ʝʝ:「火の箱」

ɑɪcl ［動詞］ɥəl（建物や燃えているものなど）を消火する、消火する　［普通動名詞］消火　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɑɪclc から　参考 : 古 :ȷeɒɑɪc

ɑɪcldleʃ ［名詞］スプリンクラー　［レベル］4　ʝʝ

ɑɪcllcznɔ ［政治］消防庁　［レベル］3　1L　［文化］　軍務省下。

ɑɪcllɔµ ［名詞］消火ホース、消火栓　［レベル］4　1L:ɒelcɒcɪ ɪlcȷ

ɑɪcȷ ［名詞］爆発　［動詞］ɥəl を爆発させる、爆発する、爆破する　［美容］アフロ　［レベル］3　1ɱ: 制 :ɑɪcɪɒɒzə（爆発）。火が壊れる、火で壊れる？

ɑɪcȷʃɪlcʃ ［化学］爆速、爆発速度　µɒ;/　ʝɱ

ɑɪcȷnɪl ［動詞］ɥəl を爆笑させる、爆笑する　［レベル］3　ʝ1

ɑɪcȷɔlz ［軍事］導火線　［レベル］4　µɒ;/　ʝʔ

ɑɪcȷenʃc ［名詞］火鉢　［レベル］5　ʝ0　［文化］　カコのルティアで暖房器具として作られた。炭を使い、薪を使わないため、煙が少ない。設置が安く煙も少ないため、µɒ ではアルバザードでも小さい街の学校などに置かれた。　現在では廃れた。

ɑɪcn ［単位］センチ　［レベル］3　ʝ1:ɑɪlcɪn

ɑɪcnɒelɑc ［単位］ファインメルフィ、センチメートル、ｃｍ→ ɑɒ　［レベル］3

ɑɪcnɪ ［名詞］(ʃcl) ムッとした、ムカっとする、むっとする、むかむか　［レベル］3　1L: 火の心　［語法］　nɪ ɒɪφɒ はイライラという慢性的なイメージ。ʃcl ɑɪcnɪ はブチっとキレる瞬間的な感じ。　【用例】　ɪn ʃclɪʃ ɑɪcnɪ cɒ le neʃcl ɪn. 誰かが私を起こしたとき、むっとした。　ɪn ʃclɪʃ ɑɪcnɪ leɒ ȷɪnse ɒɔn ȷcn. はっきりとした理由もなくムッとしてしまった。

ɑɪcncɒ ［化学］炎色　［レベル］4　1L

ɑɪcncɒɥeu ［化学］炎色反応　［レベル］4　1L

ɑɪcu ［動詞］ɥəl を ɪ（結果状態）になるまで焦がす、焦がす、焦げる、こげる　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɑɪcuel（焼いて黒くする）【用例】　dɔɑ cl ɑɪcu ȷcn. パンが焦げてしまった。

ɑɪcuɪ ［物理］ケルビン、絶対温度　［レベル］5　1ɱ: 制 :ɑɪcuɪl(熱の強さ)

ɑɪcuɪʃɪc ［名詞］火事、火災→ beezel　［レベル］2　1L:µcɒcɪ:ɪµbɪlelʃ　［文化］　火事が起これば保険から金を受け取れる。全焼半焼という中途半端な区分ではなく、家具の何が燃えたとか、何の部屋が燃えたなどによって詳しく点数化される。その点数に応じた保険金が払われる。火事が他人のせいならその人から慰謝料を取れる。自分のせいならもらえない。まして自分のせいで他人の家まで焼けば慰謝料を払う。

ɑɪcucɪn ［名詞］火力　［レベル］4　µɒ;/　ʝɱ

ɑɪcɑ ［名詞］消防　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɑɪclɑɪȷ

ɑɪcɑɪ ［天文］ファイファ、水星、炎天　［魔法］火のクリスタル　［組み数字］1／9　［レベル］3　古 :ɑɪcɑɪ ← ɑɪc/lccɑɪ

ɑɪcɑɪɒɔ ［名詞］消防車　［レベル］2　1L:µcɒcɪ:ɪµbɪlelʃ　［文化］　leunɪɒɔ

ɑɪcɑɔȷʃ ［軍事］火縄　µɒ;/　ʝɱ　［文化］　φel

ɑɪcɑeµn ［名詞］腐っても鯛　［レベル］3　1L　［語法］　価値が下がっても、元々そのものの価値が高いので、下がったとは言っても未だ価値のあるものを指す。　プラチナは比較的熱に強い貴金属で、火事に強い。そのため指輪などのアクセサリーとしての形が損なわれても貴金属そのものとしてそれなりに高価で売ることができる。そこから転じてこのような慣用句となった。　【用例】　nɔn ʃɪəʃ le eld ɒcl nɔn ʃeµ ɪʃ lɪcn ɪʃɒ eld ɑeµel, ʃeʃ le ɪʃ ɑɪcɑeµn lɪlel. あそこでは安く売ってるって聞いたんでメロンを買いに行ったんだけど、腐っても鯛ね。

ɑɪcɒ ［建築］炉辺、炉端、ろへん、ろばた、ハース、ファイアサイド　［レベル］5　1ʔ: 制 :ɑɪcɒeȷ

ɑɪcɒɪ ［植物］ディル、イノンド、莳蘿、ジラ、じら　［レベル］6　ɪlɪʃɪ

ɑɪcɒɪn ［地名］ファイマン、ファイマン市、莳蘿市　［レベル］6　ʝʝ:ɑɪc ɒɪ/n「ディルの（産地）」［文化］　アルナ市東部の市。オフィス街で、ファイマン線の名の由来になっている。

ɑɪcɒɪnµecn ［交通］ファイマン線、莳蘿線　［レベル］6　ʝʝ　［文化］　サンベル市からモモエ市へ至る私鉄の地下鉄。中央アルナから見て北西に走る。間にカリーズ駅などを挟む。

ɑɪcɒ ［医療］やけど、火傷、ヤケド　［レベル］2　1ɱ: 制 :ɑɪc から　【用例】　ɪn ʃclɪʃ ɑɪcɒ ɔn lɪȷ. 手をやけどした。

ɑɪcɒclɑɪc ［医療］焦灼灸　µɒ;/。イボやウオノメを治すときに使う。皮膚や組織を火の力で破壊することから。　ʝɱ

ɑɪcɒɔɑl ［名詞］火の粉　［レベル］3　1ɱ: 制 : 火の灰　【用例】　ɑɪcɒɔɑl ɒclɒ. 火の粉が舞う。

ɑɪcɒɔl ［名詞］火打石、火打ち石、フリント　［レベル］4　1ʔ: 制 : 火の石　【成句】　nɪ ɑɪcɒɔl カチンとくる

ɑɪcɒɔlφel ［軍事］火打石銃　µɒ;/　ʝɱ　［文化］　φel

ɑɪcφ ［名詞］こて、鏝　［レベル］4　1ʔ: 古 ɑɪcφcl（火の金属。熱い金属か？）

ɑɪcφɪn ［建築］左官　［レベル］5　ʝ0

ɑɪcφel ［軍事］火薬銃　µɒ;/　ʝɱ　［文化］　φel

ɑɪcφel ɑlɪnɒcµ ［人名］ファイゲル＝フランディール　ʝʝ　［文化］　uelec の発明家。ʔ1ʔ 年、液状ロケットの開発に成功。

ɑɪcd ［料理］トースト　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɑɪcdɔɑ

ɑɪcb ［名詞］燃料、火の材料　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɑɪc/φɪɪbe

ɑɪcbɑcʃ ［交通］給油、燃料供給　［レベル］5　µɒ;/　ʝʔ

ɑɪcblcnz ［軍事］焼夷剤　zφ:ȷzɒ;/「火硝石」　ʝɱ　［文化］　φel

ɑɪcµe ［天文］ポルックス　1L:µcɒcɪ/ȷeµen/ɒel:ɑɪc/ccµe　［文化］　雷のオヴィと炎のギルが共闘してケルンマルスとリスティを封じたとき、すぐに現場に急行できるよう作った連絡通路が ɑɪcµe（ポルックス）と cµeɑ（カストル）。

ɑɪcz ［医療］炎症　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɑɪc　【用例】　ʃɪl ʃcl ɑɪcz. 腕に炎症がある。

ɑɪczɥɪc ［医療］ひりひりする痛み、ヒリヒリ　［レベル］2　1L

ɑɪczɪbe ［医療］湿布　［レベル］3　1ɱ: 制 : 炎症の布　【用例】　eu ɑɪczɪbe 湿布を貼る

ɑɪczɔn ［名詞］薪、まき、たきぎ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 火の木　【用例】　eu ɑɪczɔn まきをくべる

ɑɪcl ［形容詞］ゆるい、緩い　［反意語］ucȷd　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɑɪɪl（きつい）。ɑɪcl では怠けるという意味になってしまう。

ɑɪcl,ɑ　ɑccɒ

ɑɪcɱlec ［言語］ライトノベル、ラノベ　ul　［レベル］3　ʝʝ　［文化］　lɥəɒ cɪ

ɑɪcllcȷen ［被服］ルーズソックス　［レベル］5　ʝ1

ɑɪclɪ ［人名］ファイラ　［組み数字］5／１１　［レベル］3　古 :µcɒcɪ:ɑɪc（火）/lɪ ← lɪn（人）［文化］　アルシアの５番目。火の魔法の大成者。男性。

ɑɪcleln ［名詞］のろし、狼煙、烽火、狼火、狼燧　［類義語］ɑɪdleln　µɒ;/　［レベル］4　ʝʔ　［語法］　ɑɪdleln

ɑɪcledȷ ［名詞］火葬　［動詞］ɥəl を火葬する、火葬する　µɒ;/　ʝɱ

ɑɪcɪ ［言語］音象徴　［レベル］6　ɑ;ɑɔ/ɪdcɪ　ʝ0:ɑɔ/ɪdcɪ

ɑɪcɪɒcȷ ［法律］火刑、焚刑　1L　［文化］　地面に柱を立て、縄で死刑囚を縛り付ける。薪藁を足元から設置し、首から上だけ出しておく。そこに点火し、焼き殺す。放火などに適応される刑。

ɑɪcɪ φɪɪuc ［人名］ファイア＝ガーヴィ　ʝ0　［文化］　(1ʝ9:1LΔ) ラグナントの研究員。電卓を発明した。

ɑɪcɪl ［軍事］火門、火口　µɒ;/「火を置く場所」　ʝɱ　［文化］　φel

ɑɪceʃ ［言語］関係詞　［レベル］4　ʝ0:dɪɑc/ʃe

ɑɪceʃɥɪu ［言語］関係詞節　［レベル］5　ʝ0

ɑɪceu ［普通動名詞］点火　［動詞］ɥəl に点火する、点火する　［レベル］4　µɒ;/　ʝɱ

ɑɪceµ ［名詞］自作自演、自演　［名詞］マッチポンプ　［レベル］4　µɒ;ɑɪc/eµ「火と水」。自分で火をつけて自分で消して英雄を気取ることから。　ʝʔ　【成句】　beɑɪȷ ɔn ɑɪceµ. 自演乙。

ɑɪcel ［魔物］ファイエル（水炎）: 第三十九天 : 火の幻天　［レベル］5　1L:µcɒcɪ/ȷeµen/ɒel:ɑɪc/eµ。母音が続くので、半母音的な µ だと言いづらいため、l に。　［文化］　魁族。流体の炎。何にでも姿を変えることができる。中心にある要を打ち破ると死ぬ。いかに火をかいくぐりながら要を破壊するかがポイント。

ɑɪɔ ［サール］ファオ　［魔法］召喚魔法ファオ。その場にいる馬鹿だけが攻撃される。µɒ ではリディアが召喚したら、居合わせたザナやオヴィらがついでに攻撃され、笑い話になったとともに、封印魔法となった。　［レベル］4　古　［文化］　頭の良すぎた少年。抑えられない知能が見る者を全て愚かに見させてしまう。それによって彼は忌み嫌われ、知能のない暴徒に暴行を受け、恥辱を味わされる。それ以後ファオは人間に恨みを持ち、人間を滅ぼすと共にサールになることを願う。サールは彼の願いを聞きいれ、力を与えた。それ以後ファオは人を見つけては拉致し、「君は僕を愛してくれるか」と聞き、自分を受け入れなかった者を殺すようになった。更にファオは愚者を見つけては無条件で殺すようになった。愚かな知恵の無い暴徒に暴行を受けたことに対する復讐である。　【成句】　ɑɪɔ lenɪȷ 可愛そうなファオ : どんな雲も裏側は銀色。どんな悪いものにも良い面はある。

ɑɪe ［名詞］幕、たれ布　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɑɪɪbe（長い布）【成句】　ɑɪe lə nɪl ɪlɔ 一件落着　【用例】　hɪȷʃ ɑɪe 幕を下ろす

ɑɪəȷ ［人名］ファウス　［レベル］5　古　［文化］　(ɒeldɪlʃ ȣ → ʝL0) 民主主義勢力ミナレットの二代目首領。メル暦 ʝʔ0 年、ミナレット初代首領ミ

ナリスがアルティス教の始祖シオン＝アマンゼと戦いを挑み相打ちになったため、ミナリスの息子ファウスは二代目首領に就任。ファウスはシオンの娘マルテ＝アマンゼを決戦の地アルカンスより追放。逃亡先のアデュを陥落させるが、マルテはさらにイグレスタ共産圏に逃亡し、ミナレットと対立するこの国で保護されることになる。Jɻɻ 年、アルバザード国内でアルティス教のテロ活動が活発化した。J၇0 年、ケートイア、イネアート、イグレスタに侵攻し、多数のアルティス教徒が殺害されるに至る。マルテはさらにセルヴァートへ逃亡。JL0 年、勢力を回復したアルティス教勢力はアルバザードへ攻勢をしかけ、マルテとファウスは対決の末相打ちとなった。ミナレットはファウスの息子アルファウスに引き継がれた。

ɑc ［代詞］何か、誰か。任意の代詞 ［レベル］1 1ʔ: 恣意

ɑc,ɑ ɑcl e

ɑcʃ ［動詞］ɥəl を ı に与える、与える、やる、渡す ［医療］処方する ［類義語］ɑebcʃ、ɥəlcl、hılıȷ、ȷeɑcɥ、lınʃ ［反意語］ʃıɑ ［レベル］1 ɑ;ɑəʃɔ.ʅ 1ʔ: 制 ɑcʃ:ɑcʃ:ɑəʃı 【用例】 ɑcʃıʃ ᴅccʅ ı lə. 彼にりんごをあげた。

ɑcʃʃe ［形容詞］実質の、実質上の ［反意語］ɷcʃʃe ［レベル］3 ɥɷ;ɑcı/ʃe Jʔ

ɑcʃɥəɥəɔ ［言語］授受動詞 ［レベル］6 JJ

ɑcʃl ［動詞］ɥəl を ı に仕舞う、仕舞う、取り込む、とりこむ、しまう、しまいこむ、片付ける、仕舞いこむ、取り出すの反対の動作 ［経済］手仕舞い、手仕舞う ［反意語］ɑıʃcl ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑıʃl:ɑıʃlcʃ（取って出す）【用例】 ɑcʃl ȷıb ı zıʃ 服をタンスにしまう ıuelınʃ ɑcʃlcʅ ᴅıɥʅ ı ʅlıl ɑcɥ ʅɔnʃ ɷeɥə φılʃ. 死神は門を閉じると、鎌を白い空間に仕舞った。

ɑcʃıɥ ［電算］出力装置 1L

ɑcʃɔ ［動物］ロバ、驢馬、ドンキー ［レベル］3 1ɻ: 制 :ɑcʃedıb（耳長馬）［擬声］ ıbɥɔɔ

ɑcʃe ［動物］ウサギ、うさぎ、兎、ヘアー、ラビット、野うさぎ ［レベル］2 lıʅʃı:ɑcʃe（ウサギ）。長い耳の意。 ［文化］ アルバザードでは犬猫に次いで人気のあるペットで、最も好まれる品種はネザーランド。繁殖の結果､白い毛で赤い目をしたウサギが生まれた。印象深いため、パーセンテージから言えばレアなのに、ウサギの目は赤いというイメージが定着した。 また、うさぎは幼女を好み、幼女と仲が良いというイメージがある。従って、デザインや絵の中ではしばしば幼女とともに登場する。 【成句】 ɑcʃe eɑʃın ȷeȷ ılɑəʃ ʅıc. 逃げたウサギは常に大きいものだった：釣り逃がした魚は大きい

ɑcʃebelʃ ［料理］うさぎ汁 ［レベル］5 1L:ᴅelcɷcı ılʃe

ɑcʃecnȷ ［名詞］泣きはらした目、赤い目、（ʃcl とともに）充血した目、目が腫れあがるほど泣いた目 ［医療］充血 ［レベル］2 1L: うさぎの目 【用例】 ☆ nɔn ʃclıʃ ɑcʃecnȷ ᴅcl eᴅʃ. 悲しくて泣きはらした。

ɑcʃecɑı ［地球の星座］［ユマナ］うさぎ座 Jⴖ ［文化］ cɑı

ɑcʃəl ［代詞］任意の何か ［レベル］2 1L

ɑcʃəleʃ ［代詞］任意の何かの ［レベル］2 1L

ɑcʅ ［形容詞］任意の、非特定の、随意の、不定の ［反意語］leʅ ［言語］不定性 ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ:ɑc

ɑcʅȷ ［医療］目眩、めまい、眩暈 ［動詞］ɥəl をくらっとさせる、くらっとする、くらくらする、クラクラ ［レベル］3 1L:ɑcın/ncʅȷ（少女のように倒れる）

ɑcʅuınʃe ［言語］不定冠詞 ［反意語］leʅuınʃe ［レベル］5 J1

ɑcʅɷə ［言語］不定量 ［レベル］4 J0 ［語法］ 不定量は時間と量に分かれる。 量は ʃcə（１～２個），ɑɔə（２～３個），ılɑɔə（３～５個）がある。また、φılʃɔɔn（百数十個）のように、任意の桁に ʃɔ を入れて不定量を表現する方法もある。 時間は時点と時量に分かれる。両者とも、ıȷʅ や ɑɔnc などといった同じ単語を使う。 時点は ȷı, lc, cᴅ などの格詞とともに現れ、ある時点からどの程度離れた時であるかを示す。ȷı ıȷʅ で「すぐ前に（１～５分ほど前に)」を意味する。 時量は ɷə, ɑɔl などの格詞とともに現れ、どの程度の時の長さがあるかを示す。ɷə ɑɔnc で「一瞬」、ɑɔl clʃ で「２、３日～数カ月の間」という意味になる。 同じ ıȷʅ でも､ȷı ıȷʅ なら「さっき」､lc ıȷʅ なら「後で」、ɷə ıȷʅ なら「ちょっと」と訳し分ける。日本語だと３語覚えることになるが､アルカだと ıȷʅ という語自体が決まった時間の幅を持っているので、格詞との組み合わせだけで表現できる。外国語が得意な人でも案外不定量の表現は覚えていなかったりするが、そのわりに口語では非常によく使うので、できるだけシンプルでしかも時間の幅がきちんと決められる体系が便利だと思われる。 不定量は元々小さな時間を示すのに使うことが多い。数カ月や数週間の場合、そもそも lelʃ や ȷɔɔʃ という単位を使って "ʃı lelʃ ucı"（２カ月くらい）のように示せばよい。同様に､日なら ȷel を使えばよい。 人間にとって長い時間あるいは現在から離れた時間になるほど、見通しが立たなくなる。見通しが立たないあやふやな状況にあやふやな不定量を持ってくると意思疎通に支障をきたす。不定量はある程度計画の立てられる見通しが立った状態において、暫定的に計画を立てる際に使われる。例えば「あとで会いに行くよ」というような場合に使われる。これが２１日も後の話なら、不定量で表してもかえって分かりにくいので、ある程度具体的に３週間くらいと目安を立てる。 というわけで、アルカの不定量は細かい時間を表すようにできている。大きな時間の場合は上述の通り、「２カ月くらい」というような表現をする。時点と時量は１０段階に分かれ、内訳は以下の通りである。 1:ɑɔnc（一瞬。実際には１秒以内から１分程度まで、場面に応じて幅広く） J:ıȷʅ（すぐ（以下は lc と組み合わせた際の訳)。１～５分） ʔ:lcȷeʃ（ちょっとしたら。５～３０分） ⴖ:ezcʃ（ややあって。１５分～１時間弱） ɻ:φılʃc（少ししたら。３０分～１時間強） ʕ:dcın（しばらくしたら。４５分～２時間） ٩:ȷcʅʃ（あとで。１時間～２，３時間） ʌ:lecɑ（ずいぶんあとで。２，３時間～６時間） L:clʃ（こんど。２，３日～数カ月） 10:ɑeᴅı（いつか。１年以上） J0 年頭までは時点と時量に別々の単語を当てていた。恐らく自然言語に引きずられたのだろう。だが、こう考えれば時点と時量を同じ単語で表す理由が分かる。ȷel（日）というのは２４時間のことだが、これは時間の定量である。ȷı ȷel なら「２４時間前に」で、ɷə ȷel なら「２４時間の間」を意味する。定量に関しては時点も時量も同じ単語を使っている。ならば、不定量だけ時点と時量が別でなければならない理由は存在しない。ıȷʅ は「１～５分の間」という量なのだから、ȷel と同じように時点にも時量にも使えるはずである。かくして時点と時量を併合し、さらに en heᴅ などと表していた部分を単純語にし、１０段階の不定量を定めた。単純語を作る際は、ȷı, lc とともに使われることを考慮して、同じ音が連続しないよう、「ɭや」で始まる語はなるべく避けた。なお、１と１０、２と９はそれぞれ ʃeeluеʃ になっている。４～６は語源が連続したストーリーになっており、７の ȷcʅʃ は制の意味に復帰した。 ＜１０段階以外の不定量＞ 単位となる ȷel, ȷɔɔʃ, ıɷcı, lelʃ, ıɥlcel, ȷılʃ などと組み合わせることで、上記以外の不定量を示すことができる。 ʃcə ȷel, ɑɔə ȷel ılɑɔə ȷel, ȷɔɔʃ ucı, ʃcə ȷɔɔʃ, ɑɔə ȷɔɔʃ, ılɑɔə ȷɔɔʃ, lelʃ ucı, ʃcə lelʃ……と、細かく組み合わせることで、単純語１０語でカバーできない細かい区間を表現できる。 ＜ɷə ɑcl と ɷə ɑen＞ ɷə ɑcl(ɑen) は決まった不定量がなく、完全に話者の主観と文脈に依存する。 例えば長い時間をかけて行うといっても、懸垂の場合は頑張ってもせいぜい1回につき 10 数秒の世界である。この場合､ɷə ɑcl が 10 数秒を指す。一方､山登りだったら短くても数時間はかかる。この場合、ɷə ɑen が数時間を指す。 すると ɷə ɑen のほうが ɷə ɑcl より長くなる。このように、ɑcl(ɑen) は完全に文脈依存であり、特定の不定量を指さない。話者が長いと思っているかがポイントである。 ＜時間の単位を使った時量＞ ɑɔə scn（数秒） ʃɔɔn scn（数十秒） ɑɔə ɑec（数分） ʃɔɔn ɑec（数十分） ɑɔə ᴅcu（数時間） ʃɔɔn ᴅcu（数十時間） ɑɔə ȷel（数日） ＜不定量について理論的な補足＞ 日本語の不定量の時間表現を集めてみる。 いくつも出るだろうが、大体―― １：すぐ（１～５分） ２：ちょっとしたら（５～３０分） ３：あとで（３０～２，３時間） ４：こんど（２，３日～数カ月） ５：いつか（１年～∞） ――の５段階で使い分けているように思われる。 括弧内の長さは目安で、ネイティブごとに一致を見ないだろう。だからといって「あとで電話するね」の「あとで」が翌日と解釈する日本人もいまい。 おおむね括弧内が目安である。 むしろ重要なのは目安の正しさではなく（それは日本語論なので)、不定量が網羅的でないということだ。 例えば、２，３時間以上 Jⴖ 時間未満という不定量がない。また、数カ月から１年という不定量もない。 網羅的でない上に、幅も広い。１～５分ならともかく、２，３日から数カ月ではだいぶ広い。１分から３０分までは３段階もあるのに、３０分を超えると急に大雑把になる。これらが日本語の不定量の特徴である。なお、英語でやっても同じ結果になる。 アルカは人工言語なので、当初網羅的でないのを嫌い、ᴅeȷ ＋単位でどんな不定量も表せるようにしたが、不自然である。自然言語を分析すると、このように現在に近いほうが細分化され、未来に行くほど大雑把になる。また、網羅的でもない。現在に近いほうが細分化されるのは人間の視界に近い。目の前の瓶に書いてある文字は読めるが、遠くの山は大雑把にしか見えない。人間の不定量の感覚はこのように「時間の遠近法」を持っている。 これは過去にも言える。｢いましがた｣｢さっき｣｢先日｣｢こないだ｣｢むかし」を見るとわかるとおり、現在に近いほうが細分化されている。 なぜ人間の言語には「時間の遠近法」があるのか。 未来については、現在から遠いほど、予測が付かないからである。 １０分後のスケジュールはほぼ確定事項で、隕石が降ってくるような突然の事態でもないかぎり変わらない。だが１年後となると話は違う。きちんとスケジュールが決められない。 歯医者の予約みたいなもので、来週なら土曜か日曜のどちらが空いてるか受付嬢に伝えられるが、３カ月後の定期検診だとどうなるか自分でも分からない。未来になればなるほど、スケジュールが不定になる。３カ月後の定期検診など、「中旬ごろにまた来ます」などのように大雑把に言うしか約束できない。従って、そのあたりの不定量を示すときも、当然幅が広くなるというわけだ。この理屈でいくと過去はどうか。過去は確定された歴史なので、未来と違って現在から離れるほど不確定ということはない。だが不定量の表現は過去も未来も現在から遠のくほど大雑把になる。これはなぜか。 なぜなら過去は現在から遠く、記憶が褪せるからである。遠い過去のほうがいつだったか思い出せない。昨日か一昨日かという区別は重要だが、１年経てば1日の違いなどどうでもよくなる。だから過去の不定量も現在から遠くなるほど大雑把になる。歴史とか行動の履歴という客観で考えず、実際に言語を使用する人間の認知を考えれば理解できる。 なお、不定量をしっかり決めている人工言語は少ない。 代名詞を定めない人工言語はないが、不定量を決めている言語は少ない。言い換えれば、代名詞を決める前に不定量を決める人工言語は恐らく存在しない。こう見ると、不定量のほうが代名詞より作成の順序的に高レベルな内容だということが分かる。逆にいえば、不定量の表現の設定があるかないかで、人工言語の進化段階が推定できる。

ɑcʅɥəɔ ［言語］不定動詞 ［レベル］6 J0 ［語法］ 目的を持たない動詞で、必ず非有界動詞。 例えば「歩く」の場合、ただその辺りを歩行する場合は、不定動詞になる。 スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。 不定動詞の単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。

ɑcʅl ［物理］二次元、平面、２Ｄ ［俗語］二次元、二次、虹。アニメやゲームやイラストなど二次元物のことを指すスラング。 ［俗語］アニメ、ゲーム、ラノベ、イラスト、ヲタグッズ、オタグッズ、ヲタ物、オタ物。上記の意味が転じてオタグッズ全般を指す。 ［形容詞］二次元の、平面の ［類義語］ılɑcʅl ［レベル］3 1L:ɑcnʅ/ʅılb

ɑcʅldıᴅɔ ［数学］平面図形 ［レベル］4 1L

ɑcl ［動詞］ɥəl を疑う、疑う、不信感を抱く ［動詞］強く ɥəl でないと思う、思う ［形容詞］（ɑclın で）疑うような、懐疑的な、怪訝そうな、怪訝な ［普通動名詞］疑念、懐疑 ［反意語］lıɥ ［レベル］2 1L:ᴅelcɷcı ılcȷ

:acelıɥ（嘘だと信じる） ᴅınɔᴅ:ᴅınɔᴅ 【成句】 acl ʃeᴅ 耳を疑う。相手の言っていることを自分は聞き間違えたのかなと思うことは eucʃ ʃeɥ であって acl ʃeᴅ ではない。acl ʃeᴅ は相手の言ったことがありえなさすぎて自分の耳を疑ってドン引きしているという意味である。eucʃʃeɥ と区別。同じく acl cnȷ は相手のしたことがありえなさすぎて引いているという意味。acl ʃeᴅ と似ているが acl ʅəɔ は相手の言ったことが信じられず相手にドン引きしているという場合では acl ʃeᴅ と同じだが、自分が思わず言ってしまったことがありえなさすぎて自分で自分に引いているという意味で主に使い、この場合は acl ʃeᴅ と意味が異なる。基本的に acl ʃɔʃɔ nɔzeʃ（自分の～を疑う）の意味で使うことが多く、この nɔzeʃ は省略されることが多い。自分に呆れるという意味の acl ʅəɔ の場合、eucʃʅə と区別すること。 acl cnȷ 目を疑う acl ʅəɔ 口を疑う 【用例】 ın aclıʃ lı ɔn lı ʅə ɥəl. 彼女は真実を言わないのではないかと思った。

aclʃ ［名詞］過程に対する結果、でき、出来高、結果、できばえ、出来栄え、結末、末路、甲斐、かい ［数学］方程式の解← ᴅcɥəȷınaclʃ ［文頭純詞］その結果、結果 ［経済］経営成績、業績 ［格詞］～の結果として ［反意語］dıȷʅ ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 甲斐とは「行動の結果として現れるしるし。努力した効果」なので aclʃ。 【成句】 aclʃ ɥıʃ c hɔʃ uɔȷʅ ʅcn 痛みなくして得るものなし 【用例】 ʃə eʃ aclʃ cʃen el ɥəəȷ ɥəlc ɥɔl ʃɔa. これが子供に好きにネットをさせた末路だ。

aclʃȷın ［数学］二次方程式の解の公式。正式には hıılȷın e ᴅcɥəȷınaclʃ e ʃıhıaᴅcɥəȷın。 ［レベル］4 1L ［語法］ 実際にはほとんど「フィシュチャン」か「フィッシャン」のように発音される。

aclʃȷıɥ ［普通動名詞］フィードバック ［動詞］ɥəl（結果の内容や研究名など）を ı にフィードバックする ［レベル］5 ȷ1

aclʅ ［形容詞］冗長な、長たらしい ［類義語］ɑıᴅb ［反意語］aıȷʃ ［レベル］3 @ ȷ0

aclɑız ［形容詞］疑わしい ［レベル］3 ȷȷ

acll ［普通動名詞］噴火、噴出 ［動詞］ɥəl を噴出する、噴出する ［レベル］3 1L:acl:1ʔ: 制 :ȷıɑ:aıɑblı

aclʃlıɑ ［地球の国名］カタール ［レベル］6 1L: 国名が「噴出する」

aclıʅn ［哲学］懐疑主義 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

aclɔl ［法律］容疑者、被疑者 ［レベル］3 ȷ0:ᴅelcɑcı lceɥ

acleʃ ［文末純詞］［ɥəəl］ȷec ［レベル］1 ȷ1:ɥɥəə:acl/ʃe

acȷ ［名詞］今日 ［レベル］1 1ʔ: 制 【成句】 el aıleȷ ʅcn leȷ el ʃɔɔʅ ȷen cᴅ acȷ. 今日すべきことは今日せよ＝今日やるべきことは明日へ引き延ばすな。 【用例】 acȷ e ȷɔɔʃ ʅeȷ 来週の今日 ın nıʃ acȷ ıʃ acl ʃcn ʅı. 今日は一日がとても長く感じた。 ʅılʃ acȷ eᴅ ʃɔɔʅ 今日が終わるまで ʅılʃ acȷ leeu ıʃɔlıȷ 今日が終わるまで

acȷʃ ［遊離副詞］［形容詞］まれに、稀に、まずしない ［レベル］2 ȷ0:acl/ʃe（疑わしい）→ acȷʃ ［語法］ ıləəʃ

acȷzeʃ ［料理］定食、今日のメニュー ［レベル］3 1L

acn ［格詞］～だけれども、～にもかかわらず、中譲歩 ［レベル］1 1L: 恣意 【用例】 ın ʅeʃ acn lı en ʅe. 彼は行かなかったが私は行った。

acn(ȷ) ［名詞］白丸、勝星、白星 ［医療］陽 ［組み数字］1 / 2 ［反意語］uen ［レベル］2 ȷᴅ;acɥ/en「白いの」 ȷ1:ᴅel ［文化］ 勝利や良を意味する記号。uen はその反対。 zφ でカルセール人が筆で○と●を描き、勝利と敗北などの意味に用いたのが始まり。筆はペンと異なり黒丸を作りやすい。○は筆先でくるっと円を描けばよく、●はべたっと押しつければすぐ描ける。ペンだとこうはいかないので塗る系の文字は生まれにくく、×記号などが生まれやすい。 その後この記号はアルティアに入り、ルティアへ。ȷᴅ でアルバザードに筆とともに入り、現代まで同じ意味で使われる。この記号を指す単語は序列組み数字２にも使われているため、ペンが主流のアルバザードも日常的に頻度が高い。ただし acn, uen という語ほど、○●記号は頻度が高くない。というのも、アルバザード人は記号においては○×を使うことが多いためである。ゆえに●自体はあまり出ず、uen という文字のほうが多用される。 【成句】 uıȷ lını acn 雌雄を決す

acnʃ ［地学］金紅石、ルチル ［レベル］6 1L:dcnɑ ［文化］ スタールビーなど、効果の高い魔石にはルチルの針状結晶を持つため、魔石学では重要。

acnʃɥıȷʅın ［生物］［医療］陽蹻脈 ȷzl;/ ȷɱ

acnʅ ［名詞］側、面、サイド、陣地、陣 ［数学］面 ［数学］～面体 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :acnı（側）。accnı（～のために）と同根。 【成句】 ʃə acnʅ eʃ hıl 天地無用

acnʅel ［言語］位相 ［レベル］6 ȷ1:acnʅ/eel（ある側面を向けた顔）

acnuen ［名詞］勝敗、勝ち負け、決着、白黒 ［医療］陰陽 ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ 【成句】 eu acnuen 決着をつける 【用例】 eu lccʃ acnuen ıl ınȷ. 決着をつけようぜ。

acnuenʃ ［経済］一部上場企業 ［レベル］5 ȷ1

acnɑcla ［生物］プリン塩基 ɥʃ;acn/dınɑɑcla。春（アデニン）と夏（グアニン）なので陽。 ȷɱ

acnφ ［料理］フォーク ［シェルト］フォーク。王手飛車取りなどの手法。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :acnφcl（三椏の槍）。acn,accnı の幻字が三椏の槍のようであったことから。φcl は金属。 ［文化］ ʅəcʅɔn 金属製で三椏か四またのものが一般的。子供用には木製のものが好まれる。

acnφen ［歳時記］雨水 ［名詞］２時 ［組み数字］２／２４ ［レベル］3 ȷ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

acnɥecn ［組み数字］白星賞 ［レベル］4 ȷ1

acnınle ［アイテム］フィナンシェ、エリクサー、エリクシャー、アルイクシル、霊薬 ［俗語］愛液 ［組み数字］1 / １２ ［レベル］4 ȷ1:acınȷe/lce ［文化］ フィアンセの涙。ヴィードを全回復する。とろっとしていて甘い蜜の味がする。 実はフィアンセの膣分泌液にも同じ効果があるが、フィアンセは上半身しかないため、得られない。フィアンセとの魔人の場合、初潮前であれば膣分泌液に同様の効果がある。これが転じて次第に俗語で愛液の意味になっていった。

acnınlencdl ［医療］バルトリン腺、大前庭腺 ［レベル］5 nɑ;/「愛液豆」 ȷʔ

acnınleɥecn ［組み数字］霊薬賞 ［レベル］5 ȷ1 ［文化］ → ɥıdıll ɥɑ の魔法大会で賞金とともに授与されたアディスト。勝者がベスト１２まで選ばれた。その賞品の名が後にセレンにより組み数字に採用された。下位半分はおまけのようなものだが、上位６位まではかなり貴重。

acnıᴅcuʅın ［生物］［医療］陽維脈 ȷzl;/ ȷɱ

acnɔ ［名詞］花火、ファイアワーク ［魔法］フィノ。火の低位白魔法。発信弾を打ち上げる魔法。また、打ち上げ方を工夫して芸術的な花火を作ることもできる。エンターテインメント向きな魔法。芸術的な用途としては決して低級ではなく、センスが別途必要。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ᴅcnıaıcȷ の混成 ［文化］ ȷᴅ で作られた。nɑ まで新年祭で行われた。ȷᴅ でカレンやアルティアに伝来。カレン人は夜暖かいという理由で夏に行った。ul にその習慣が北にも入り、年に２期行うことになった。 アルバザード人のものよりアルティア人のもののほうが圧倒的に美しく、現在はこちらを採用している。

acnɔȷ ［歳時記］白露 ［名詞］１５時 ［組み数字］１５／２４ ［レベル］3 ȷ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

acnɔcn ［植物］彼岸花、曼珠沙華、ヒガンバナ ［レベル］3 1ʔ: 制 :acnɔ ᴅcnı。花の色が火のように赤く、花の形が花火のように広がっているところから。 ɥəəʅɔ:ɥəəʅɔ:lı ılblınʃ（赤）

acu ［動詞］ɥəl を萎ませる、膨らむの反対としての萎れる、しぼむ、萎む、縮小する、収縮する ［形容詞］萎んだ、しぼんだ、へこんだ、凹んだ、縮小した、収縮した ［反意語］aıb ［レベル］2 @ 1L

acueɥ ［名詞］対比、コントラスト ［レベル］4 ȷ0:ᴅelcɑcı lceɥ:acɥ/ueɥ

acac ［アイテム］パイク zφ;ac/ac ȷɱ

acacφc ［アイテム］ロングスピア zφ;ac/acφc ȷɱ

acaclə,ılʃ acl ac/ac/lə

acᴅ ［形容詞］脆い、もろい、華奢な ［形容詞］耐久性のない ［形容詞］日持ちの悪い ［反意語］aın ［レベル］2 1ʔ: 制 :aıᴅ: 古

acᴅaɥeı ［化学］［工学］銑鉄、銑、ずく ［レベル］6 ɥɑ;/ ȷɱ

acᴅel ［名詞］時間 ［類義語］ᴅel ［アクセント］acÐel、a€ᴅel(au) au;ac/ᴅel「長い時」 ［レベル］2 ȷȷ acᴅel:acᴅel:lə acᴅel:ɥəᴅc,ılʃ

acɑ ［動詞］ɥəl を c から取り去る、取り去る、引く ［数学］［接続詞］引く、ー ［数学］引き算、減法、減算。aɔʅ の反対 ［接続詞］⌈ー⌉ ［レベル］2 1L: 制では aıʅ（加える）、acʅ（引く）、aıɑ（増やす）、acɑ（減らす）。だが、これらの区別が必要ないと判断し、音の離れた aıʅ と acɑ だけ残し、統合した。 ［語法］ aɔʅ

acɑʅcd ［魔法］減算測定 ［レベル］6 ȷ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

acɑn ［名詞］残り、引いていった結果 ［形容詞］残りの、残り、残った、余った、あまりの、余りの ［名詞］食べ残し、残飯 ［名詞］売れ残り ［経済］差額、サヤ、鞘 ［名詞］吸殻← ɥıȷacɑn ［娯楽］残機。自機の残り。あと何機かのこと。 ［数学］差← acɑen ［レベル］2 1L:acɑ。n をつけたのは、この語にあたるものが制で acʅn だったため ::ɑclze ［語法］ → ȷɔɔs, aɔʅen

acɑzed ［数学］引き算 ［レベル］2 ȷ1

acɑınʃcȷ ［数学］引き算文化 ɥɑ;/ ȷʔ ［文化］ aɔʅınʃcȷ

acɑen ［数学］差 ［レベル］2 ȷ1:acɑ 属格 ［語法］ aɔʅen

acφn ［植物］西洋泡立ち草、セイヨウアワダチソウ、セイタカアワダチソウ ［レベル］4 古 : 槍の花 ［文化］ 秋ごろに異様な高さに成長する雑草。

acφɥəɥeɥ ［歳時記］霜降 ［名詞］１８時 ［組み数字］１８／２４ ［アクセント］acφɥəɥEɥ ［レベル］3 ȷ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

acφın ［地名］フィガン ［レベル］5 1ʔ: 制 :acφı（矛）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァテスの支配地。

acφın(ȷ) ［アトラスの国家］フィガン ［レベル］4 制 ［文化］ 面積：ɱLʔɱɥɱ.ɱLʔɥLʔ ʅᴅ ȷ

acφınc ［動物］シャム、シャム猫 ȷ1: フィガン猫

acφc ［アイテム］槍、やり、スピア、ランス ［経済］ヒゲ ［レベル］2 au 赤 :acφc（長い金属） acφc:acφc:lə selcn（棒状）

acφcʃ ［地名］フィギット ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :acφc（槍）から ［語法］ ソーンの使徒ヴァフィーの支配地

acφcʃ(ȷ) ［アトラスの国家］フィギット ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：ʕʔɱL1ʕ.ΔʕɱȷʕO ʅᴅ ȷ

acφcuınʃcȷ ［軍事］槍兵 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı

acφcuceʃ ［地球の国名］ケニア ［レベル］6 1L: 国章に槍を持ったライオン

acφcı ［植物］竜胆、竜童、リンドウ、りんどう ［レベル］4 ȷȷ:acφc

acφcın ［ジョブ］槍手 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı

acφcɔᴅ ［運動］槍道、槍術 ［レベル］4 ȷ0

acd ［名詞］手ぬぐい、手拭、布巾、ふきん、台拭き ［動詞］ɥəl を拭く、拭く、拭う ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 【用例】 ın acdıʃ hcnʅ e ɑıd ʅɔn lıacn. ハンカチで額の汗を拭いた。

ɑcd(Ɉ) ［化学］エーテル ［レベル］4 @ 1L

ɑcbl ［名詞］網、ネット、たも、ガット、魚網 ［レベル］3 古 :ɑcb（網）,ɑcbl（網）,ɑcbıl（網）

ɑcblıĩıȷ ［生物］滑面小胞体 ɥʃ;/「網状の小胞体」 Ɉ0

ɑcblcɑı ［地球の星座］［ユマナ］レチクル座 Ɉ0 ［文化］ cɑı

ɑcblɔɒc ［ユマナ］［建築］網戸 ［レベル］3 1L ［語法］ アルバザードには存在しない。紫苑の書参照。

ɑcbı ［電算］モデム ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :ɑcblıl（モデム）。ɑcbl（網）/ıl（物）から

ɑcbıĩıɥʃ ［電算］モデムカード 1L

ɑcbc ［電算］ネットワーク、実際の網でなく抽象的な網（たとえば情報網） ［レベル］4 1ʕ: 制 :ɑcbl

ɑcyɔ,ɑu ɑecɑ l'el ɑed "yɔ" ɔĩl yə lɔyɔ oen

ɑcɥ ［色］白、フィーア ［形容詞］白い ［レベル］1 lȷl;ɑıɥ.ĩ 1L:ȷɔɥn:ɑıɥ のアプラウト dııl:dııl:lı ɑenul:dın,ılʃ 【用例】［メタファー］ɑcɥ yən ȷıe 雪のように白い

ɑcɥʃ ［形容詞］明るい ［類義語］ılɑcɥʃ ［反意語］uelʃ ［魔法］フィルト（ブライナ）。光の低位白魔法。ヴェルトを解除できる。 ［レベル］1 1L:ɑcɥʃeeze（白い風）【用例】 ʃə eɒcĩ ɑcɥʃ. 明るくなった。 cɒ ɑcȷ, lelʃ eʃ ɑcɥʃ ɔ linʃ ʃıl lccɑı eʃ ĩılɔ ʃcn. 今日は月が明るくて綺麗だが、星は非常に少ない。

ɑcɥʃuıcĩ ［名詞］明るい部分 ［芸術］ハイライト ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥb ılelʃ

ɑcɥʃφını ［魔法］明領域 ［反意語］uelʃφını ［レベル］6 Ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcyə

ɑcɥʃıʃc ［芸術］明度、ブライトネス、ライトネス、バリュー、ｂｒｉｇｈｔｎｅｓｓ、ｌｉｇｈｔｎｅｓｓ、ｖａｌｕｅ ［反意語］ɒɔnıʃc ［レベル］2 Ɉ1 ［文化］ →lcȷʃcnı、ueɥcɒ 色がいかに明るいか。

ɑcɥʃe ［形容詞］うざくない程度に明るい、明るい、積極的で和やか、良い意味で陽気、朗らか、陽気な ［反意語］belɑı、uelʃe ［気象］天気が気持ちよい。爽快と穏やかの間。 ［レベル］3 1L: 白い風 ［語法］ uelʃe と並んで好かれる性格。全体的に落ち着いた雰囲気が好きなアルバザード人にとって、うざくない程度に明るいというのは重要なファクター。明るく健康という体育会系ではなく、和やかさやまったり感も持っている。 【用例】 senʃ ıʃ ɑcɥʃe. 気持ちの良い天気だった。 ın nıʃ nıə ɒcl eleʃ ɑcɥʃe lıiʃ. 彼の明るい顔が私を喜ばせた。

ɑcɥʃeɥ ［アイテム］フィルテール、目薬 ［組み数字］１０／１２ ［類義語］cn ȷdcʃı ［アクセント］ɑcɥʃƐɥ ［レベル］4 Ɉ0: 明るい水 ［文化］ フィルトの魔法がかけてある水。目薬状の小さい容器に入っている。ラルトが使えない人間が増えた ɥɑ で、リュウが開発した。

ɑcɥĩıɑ ［地球の国名］ベラルーシ 1L: ベラが白の意味

ɑcɥĩııɑ ［色］薄桃色 ［レベル］3 ɈɈ

ɑcɥĩɔɥeʃʃı ［化学］白色発光ダイオード ［レベル］6 ıl;/ Ɉʔ

ɑcɥlcȷʃ ［料理］ホワイトラム ［レベル］5 Ɉ1

ɑcɥlcȷı ［化学］グラニュー糖 ［レベル］5 1L:ȷeɥen: → ıɑcɥlcȷı ［文化］ アルバザードで砂糖と言えばこれを指す。

ɑcɥȷʃenʃ ［地球の国名］デンマーク ［レベル］5 1L: 国旗が白十字

ɑcɥȷeʃı ［歴史］白歴史。歴史の表舞台。正義で善な良い歴史。なお、皮肉としても使え、勝てば官軍的な勝者側の作る表面的な歴史という意味にもなる。 ［レベル］4 1L

ɑcɥnı ［形容詞］正義の心がある、正義感がある、潔癖な、嘘のない、純粋な ［名詞］善意 ［レベル］3 1L 【用例】 ɑcɥnı uıȷʃ ʃɔʃıl ĩılə. el lcɥ ĩılə ʃeɔɒ lını ıdcı cl ɑel leȷ el ȷɔ ɑlen ɔ leȷ el ȷɔ lcn ĩɔn hıɾl. el lcɥ ĩɔ ɥecn hɔʃ ɑel "ȷɔ ʃɔʃıl hııȷ ɑcɥnı" ɔl cl ʃcl ɑcɥnı. el lcɥ ɥecn ucȷʃ ɒclʃ cl ʃcl ɑcɥnı. yın lını ɥecn ucȷʃ, el sıd ıl ʃɔ eʃ ɑılcȷ ɔ ʃɔ eʃ uelnıɥ ĩɔnʃ ɔĩl ʃəəȷ lecĩ. ʃəɥ, el bıȷ ɑcʃe. ʃıl ɒcl ɑcʃe, ılın ınʃeȷ ʃclıʃ eɒ lın eucɑe ɑc l'eʃ eɒcȷ, oɔl ɒel ĩɔn ɒın ueɥȷ. ʃə eʃ hıɔ lel el ʃcl ȷccne ȷclʃ ɔn ɒclɑ oen hııȷ ɑcʃe. ʃıl el ɔĩl ɑıl ɑılcȷ ĩɔʃe lını lıl ılın ɥeɑ. ȷee ʃə ılın nɔȷ eʃ ılın dıĩ ıĩlı ɑeɾl. 善意は六法に勝る。 やっていいことといけないことをすべて明文化しようとすると、書ききれなくなる。 しかし皆に善意があれば、「善意に則って動け」の一行で事足りる。 「善意」が働くほど条文は少なくて済む。 その実現に必要なのは画一化された善悪の定義だ。 多様性の時代というが、価値観が多様すぎると自己中心的な人間が増え、訴訟社会になる。 根幹部分は画一的で、芸術的趣味など社会の安定とかかわらないものに多様性を与える社会が最も発展しているといえよう。 （ミロク＝ユティア） 細かい法律を作るより倫理を重視したほうが世の中はよく回る例として出している。

ɑcɥnızl ［地学］白鉛鉱 ［レベル］6 1L

ɑcɥuınʃcȷ ［軍事］白魔法兵、衛生兵 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı ［文化］ ナディア以降は魔法がないので衛生兵が適切。

ɑcɥuclȷ ［化学］ロイシン ［レベル］5 1L: 白色結晶を作ることから

ɑcɥueɥn ［植物］白樺、シラカバ ［レベル］4 ȷɒ; ボロボロと皮が崩れそうに見えることから ɈɈ

ɑcɥɑııl ［地球の国名］ナウル 1L: 国旗に白い太陽のようなもの

ɑcɥɑcın ［植物］マーガレット ［花言葉］純粋な少女 ［レベル］3 ɥɑ;/「白い少女」 Ɉʔ

ɑcɥɒıȷ ［名詞］白紙 ［形容詞］［ネガティブ］無知な、白痴な ［類義語］lecʃ ［レベル］3 Ɉ0:ɒelcɑcı lceɥ

ɑcɥɒeɒ ［地球の国名］ラオス ［レベル］6 1L: 国旗が白丸

ɑcɥɒedc ［医療］白内障 ［レベル］5 1L: 制で作ったものは滅んでいたようす

ɑcɥɒel ［名詞］白色時代 ［レベル］4 ɥɑ;/ Ɉʔ ［語法］［文化］ ɑəəɥɒel

ɑcɥɑɔlɑ ［色］薄い灰色 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ɑcɥs ［動物］ささみ、ささ身、笹身 ［レベル］3 ɈɈ:ɑcɥ/sıɒ

ɑcɥoıl ［地球の国名］スロベニア ［レベル］6 1L: 国旗に白い山

ɑcɥlccɑı ［地球の国名］ソマリア ［レベル］6 1L: 国旗に白い星

ɑcɥıĩɔn ［地学］［植物］ポドゾル ［レベル］6 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［語法］ 高山地帯や寒冷地の土壌。鉄が下層に溶け出した土壌であるため、表面は白く、深部は赤茶色になる。

ɑcɥın ［名詞］白人、白人種、コーカソイド ［レベル］3 1L:ɑcɥ/ın ［語法］［文化］ アルバザードに元々住んでいた人種。今でもアルバザードの混血の元となっている。背が高く、脂肪が付きやすい。筋肉は黄色人種より柔軟で細かい。皮膚の質は悪く乾いている。鼻が細く高い。虹彩は薄く、青や緑など。髪は黒や茶だけでなく、金色なども含む。彫が深い。金髪の子は明るいところで眉がなくなって見える。繁殖率が悪い。鬱になりやすい。攻撃性が高い。

ɑcɥıɥʃ ［魔法］白魔法、白魔道（正式）、フィル・アルト ［反意語］ueɥıɥʃ ［レベル］3 zφ;/ 1L:ɥcɑcı ［文化］ ueɥıɥʃ

ɑcɥıɥʃın ［魔法］［ジョブ］白魔導師、白魔道士 ［俗語］処女、僧侶 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı ［文化］ ıɥʃın, beel

ɑcɥılcȷ ［植物］ギンモクセイ、銀木犀 ［レベル］3 ɈɈ:「白い金木犀」

ɑcɥcı ［天文］ɑcıɒes ［組み数字］４／８ ［レベル］4 lȷɑ;ɑcɥ 白い星 Ɉ1

ɑcɥeʃeĩ ［名詞］白茶 ［レベル］6 ɥɑ;/ Ɉʔ

ɑcɥeɒ ［美容］美白 ［レベル］4 Ɉ1

ɑcz,ȷzɑ zɔn ɑc/zıɒɔn

ɑczeʃ ［アイテム］棍、こん ȷzɑ;ɑcz/ʃe Ɉ0

ɑcl ［形容詞］長い ［美容］ロング、長髪、ロンゲ、ロン毛 ［反意語］ɑen、uelınʃ ［レベル］1 1L: 古 :ɑc ɑc:ɑc:lın:ɑcɑclə,ılʃ

ɑclʃ ［料理］焼き網、グリル ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑcblɑıc（網で焼く）

ɑclʃcĩı ［アイテム］長柄 ɥɑ;/ Ɉ0

ɑclʃcĩıuıĩ ［アイテム］長柄武器 ɥɑ;/ Ɉ0

ɑclĩ ［形容詞］［ネガティブ］やる気のない、熱心でない ［反意語］ɑıɥʃ ［レベル］3 @ Ɉ0

ɑclĩılc ［料理］菜ばし、さいばし、菜箸 ［レベル］3 ɈɈ

ɑclȷ ［動詞］yəl を眺める、眺める、ボーっと見る、ぼーっとみる、見やる、ながめる ［経済］手控え ［レベル］2 1L:ɑclcnȷ 【用例】 nɔn ȷccnı ɑclȷ eȷĩ ɑɥeɒ ʃeɒȷ. 窓辺に立って雨を眺めるのが好きだ。 ın ȷccnı lelʃ enʃɔ ɑclȷ ʃə cɒ ɑɥıl ȷel. 月が好きでほぼ毎日のように眺めている。

ɑclȷĩcl ［名詞］ベンチ ［レベル］2 Ɉ0 【用例】 ın ȷĩcnıʃeȷ ı ɑclȷĩcl ĩɔnʃ ʃc leȷ lec. 本を手にしたまま、ベンチに座っていた：この ʃcl は動作動詞なので eȷ がつく。

ɑclncı ［美容］長髪、ロンゲ ［レベル］2 1L

ɑclncın ［名詞］バカンス、長期休暇 ［類義語］nıĩeı ［レベル］2 ɈɈ

ɑclnɔz ［名詞］孫の手、まごの手、麻姑の手 ［レベル］3 ɈɈ 【用例】 nɔz lɔȷ ĩɔn ɑclnɔz 麻姑の手で背中をかく

ɑcluɔz ［アイテム］ロングボウ ɥɑ;/ Ɉ0 ［文化］ zφ で作られた。

ɑclueeyə ［言語］フィルヴェーユ語 ［レベル］3 Ɉ0:ɑcclcı/φılueeyə ［文化］ elɑȷeʃı ●概要 名称：ɑu（フィルヴェーユ語） 系統：アテン超語族ランス語族サルト超語派（ıʃenıɒıʃ, lınȷeɒcʃ, ȷıɥʃcɑıl） 使用年代：ʃɒ_ls：ȷıɥʃ は ɾlu 以降 ɥɑ に鞍替え。ȷeleȷʃ や lcnȷ の一部が永続使用 分布：全宇宙 話者：ɒcɥɔĩ 及びユーマの一族第三世代迄。第四世代以降は徐々に ɑɥɑ などに分化 類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ 認知様式：主観的把握 フィーリアとガルヴェーユで話されていた言語。人類の始祖と神々が用いた。フィーリア語から発達した。 ●舞台裏 参照にしたのは主に後期古アルカ。古アルカシリーズの中で最も完成度が高いため。前期古アルカの頃だと関係詞もなければ格詞もなく、神の言語に相応しくない。例えば前期古アルカには格詞がなく、格詞を含んだ文は２文に分けるというように煩雑であった。 ただし語順は前期古アルカと同じＳＯＶにした。ただ、ɑen など一部の単語の置く位置は前期古アルカと異なっている。形容詞や副詞を導くのに le や he を使うという点も前期古アルカにはなかった。 つまり後期をベースに前期の要素を加えたというわけである。 なお、便宜上 ɑu では格詞でなく後置詞と呼ぶ。 ●品詞 『アルカ』記載の古アルカの最終的な形態論に似せた。 ただし前置詞は後置詞としてある。 1：名詞：/zıɒɔ/ 木 Ɉ：動詞：/ʃĩcl/ 持つ ʔ：形容詞：/ĩıyı/ 難しい 0：副詞：/ʃcnĩı:/ とても ɁF：助動詞：/ɒıl/ ～したい ʕ：連体詞：/scĩe/ ʃhcȷ 9：接続詞：/ʃıcl/ しかし Δ：感動詞：/lılı/ ああ L：後置詞：/ĩıl/ ～で 10：天秤詞：/n/ わ、よ 11：数詞 1Ɉ：時場 1ʔ：符 10：助数詞 ・形容詞と副詞 ＜ユーマ出産時：ɒelʃcı 0＞ ユーマとサールが会話したことで言語が少し変化。 形容詞の概念ができる。そのため ɑel ɑe ucĩə ɑe ĩıc の後ろの ɑe が繋辞と別と認識され、ɑe の音を弱めた le で表現されるようになる。 ɑel ɑe ucĩ le ĩıc. 副詞も同様。歴史的にはまず le で繋がれていたが、そのうち副詞はさらに音が弱くなり、子音が消失。 その後逆成で h が添加され、最もきこえの弱い he となる。 ɑel bıɔφ he ucuc. 結果、形容詞は「le＋単語」、副詞は「he＋単語」で導かれるようになった。 ＜アルミヴァ誕生時：ɒelʃcı 0＞ アルミヴァにとっては生まれたときから le と he があり、重文が元になっている構造を使ったことがなかった。もともとエルトとサールは重文構造が念頭にあったため、修飾句の前置は拒んでいた。しかしアルミヴァにとっては重文構造が頭にないため、後置の縛りがなくなった。 やがて形容詞は「単語＋le」、副詞は「単語＋he」で示されるようになっていった。つまり、ɑu では形容詞と副詞は前置される。 なお類型論で見ると、ＳＯＶにお

けるＮＡとＡＮの間に統計的な偏りはない。ゆえにどちらの類型をも取りうる。従って ɑu がＡＮを取ることは言語学的に不自然ではない。　lıc le ucl（大きな男）　ucuc he bıɔφ（強く殴る）　・助動詞　よく使う副詞が he を欠いたもの。現実ではエクスプローダーとも呼んだ。　ユーマが he を欠いたのが始まりなので、アルミヴァのときは既に he がなく、それゆえ前置されなかった。　ɑel ləc ɑe ᴅıl（私は食べたい）→ ɑel ləc ᴅıl　・連体詞　アルカの指示代詞 ʃə や le などに当たるもののこと。　bclе（あれ）は ɑ と同じ。bıle は bclе と音が似て紛らわしいからか、sclе に変わっている。　連体詞は前置される。sclе uclə（この男）。　・天秤詞　アルミヴァが開発した。対人的モダリティを示す。　●代名詞　一人称に ın が足される。　二人称が分化する。　男が男を　ləjjɔ　男が女を　ʃcȷ　女が男を　ɑyəjjɔə　女が女を　ʃcʃ　三人称 lə から「彼女」の ʃəə が派生。　それに対応する形で、別ルートで ȷɔə ができる。　彼　ȷɔə　彼女　ləə　●数詞　ɑ 同様前置される。　数は 10 進法になり、ʕ0 は cscılı になる。　千は ʃeldılılı（葉の数）から ʃeed。　万は ȷədılılı（砂の数）から ȷəəd。　0 が作られ、yəə で表された。　1J 進法が追加され、1 ～ 1J まではアルミヴァの名が併用された。　Ϯ–10 進法のエルトの数ではϮ進数がベースなので、このϮ進数と 1J 進数が組み合わさって ʕ0 進数ができ、後の時間や角度などに繋がっていく。　特に時間を 1 時間 ʕ0 分にしたときは、この ʕ0 進数がそのまま使われた。　1J 進法やϮ–1J 進法は時計や角度など、使用が限られ、日用は主にϮ–10 進法が使われた。　J0 進法は衰退した。　●時場・符　幻字周りに記号をつけてテンスとアスペクトを指すもの。制アルカの時相詞に当たる。　ɑu は話者の増加（ɑ は数名という極端に少ない）と社会の発展に伴い、ɑ に比べて表現力が格段に向上した。　過去 ʃ 前が有声音なら同化して ɑ になる　現在 ɥ 前が l, ʃ, ɑ, n なら同化して l に、d なら d になる。通常省略　未来 ȷ 前が z なら z に前が l なら l に、前が s なら s になる。前が有声音なら同化して z でも同化しないで ȷ でもよい　警告 ȷə 意味論的にはテンスではないが ɑu の文法ではテンスの扱いを受ける。現実の古アルカでは「お前､死ぬぞ！」などの「ぞ」のニュアンスに近かったが、恐らくこれは警告でなく近未来だったのではないか。古アルカでも後にこれは一部 ȷ に統合されているため、そう見るのが妥当。むしろ実態は警告より近未来だったのかもしれない。　通時と無時制はなし。 現在形で代用　将然相 eʃʃı c/ɥ/eʃʃı 見そうだ。leʃʃı（行く）から。　開始相 eɥ bıɔφ/ɑ/eɥ 殴り始めた。向かうというところから leɥ が使われている。　経過相 ʃın ləɑı/ʃ/ʃın 飛んでいた　完了相 cl ɑıc/ȷ/cl 燃やし終えているだろう。　継続相はなし。経過相で代用され､文脈によってどちらの意味か判断する。　●助数詞　アルカだと「手一杯の水」は eɥcı ɑəen lıȷ となるが、ɑu だと「手」が助数詞として使われ、oı eɥcı となる。　手二杯だとしたら ȷees oı eɥcı となる。　●関係詞　リュディア語の ɥɔᴅ に当たる文字を使うが、読みはない。　関係詞節は前置。　lılzıȷ ɑeȷdıɑ (ɥɔᴅ) ɑeeᴅ（カルザスが封印した悪魔）　ɑu にこの文字が読まれなかったことで、そこから散らばった人間の言語は関係詞が消失したりそれぞれ異なる音を持ったりとカオスな状態になっていく。　また、leɥ ～ bə で挟むような表現も生まれた。　関係詞節内の前置詞は残存しない。　● leɥ ～ bə　節をひとまとめにする leɥ ～ bə が生まれる。　nɔn leɥ ɑyəjjɔə ɑeeᴅ ʃccı bə lɔ(私は貴方が悪魔を愛していると思う）　●命令文　命令：ɥe lə（言え）　敬意命令：ᴅc lə ɥe（仰いなさい）　依頼：ɥe lə ᴅ（言って）　敬意依頼：ᴅc lə ᴅ（仰ってください）　禁止：nı lə（言うな）　敬意禁止：ᴅc lə nı（仰らないで）　禁止依頼：nı lə ᴅ（言わないで）　敬意禁止依頼：ᴅc nı lə ᴅ（仰らないでください）　●疑問文　疑問文を作る nɔ（女は nɔn）が新たに追加された。　文末に来る。　●否定文　形副詞 ɑen を単語の前に前置する。

aclueeyəɥen　→ aclueeyə　JJ

aclueel　［言語］長音節　［レベル］6　1L　［文化］→ dıɑ

aclɑ　［動物］雉、きじ、キジ　［レベル］4　lılʃı:「長い尾（翼）のもの」

aclᴅ　［文頭純詞］要するに、要は、簡単にいうと、結局、つまるところ、つまり　［副詞］単刀直入に、要点だけいうと　［レベル］2　ȷɔɥn　［語法］　ılɑc は ȷıı と aclᴅ を合わせた感じだが、aclᴅ は本当に要約して簡素に説明するイメージ。ılɑc は間を持たせたり単に言い換えたりするイメージ。

aclᴅıᴅȷ　［被服］ビスチェ　［レベル］5　J1

aclφııl　［普通動名詞］遠吠え　［動詞］yəl という声を遠吠えする、遠吠えする　［レベル］3　JJ

aclhıɥdncın　［名詞］シエスタ　［レベル］4　JJ

aclhɔ　［生物］長骨、長管骨　ɥɑ;/　JM

aclz　［法律］慣習、ならわし、慣わし　［レベル］3　1L:acl/ɔz

aclzlılə　［法律］慣習法　［レベル］5　1L

acllıl　［動詞］yəl を長い間望む、追求する、追い求める、望む　［普通動名詞］追求　［類義語］ɑcll　［レベル］4　ɥɑ;/　JM　［語法］　ɑcll

acllıȷl　［被服］長靴、深靴　［レベル］2　1L:1ʕ: 制

acllcȷen　［被服］ハイソックス　［レベル］3　J1

acllcuɥɔ　［名詞］長寿、長命　［レベル］3　J0

acllɔlȷ　［運動］遠泳　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

acllenȷ　［丁寧］［親族］おじいさま、フィルレンス　［レベル］2　J1: 長い智慧　［文化］　lılı

aclleɑ　［運動］マラソン、持久走　［レベル］2　ɥɑ;/「長距離走」　J? ［文化］　フルマラソン (lılaclleɑ) は ɥɑ でアシェットによって M0 ᴅecnᴅ elɑc（＝５０ｋｍ）に制定された。　【用例】　ın ıɥıʃ aclleɑ cᴅ ʃə ɑııɥ ɑə 10 ᴅecnᴅelɑc. 今朝は１２．５ｋｍのマラソンをした。　ʃıl ınȷ en nı ȷɔı ᴅın el eᴅ ınc ʃcnlı ᴅcl aclleɑ. だが我々はそうは感じない。というのも、マラソンは非常に疲れるからだ。

aclıʃc　［名詞］長さ　［レベル］2　J1

aclın　［代詞］任意の誰か　［レベル］2　1L

aclınʃ　［代詞］任意の誰かの　［レベル］2　1L

aclcn　［名詞］美少女　［類義語］ılcn　［レベル］2　JJ:acın/ılcn

aclcı　［動詞］yəl を願う、願う、希望する、yəl しますように　［類義語］　aclcıᴅ　［レベル］2　J0:ɑəlᴅccı:accnı lccz　［語法］　祈願文を作る動詞。lıl 同様希望の意味だが、ɑeɥʃ 同様祈りの意味が含まれている。ɑeɥʃ は特定の神や悪魔に祈るが、aclcı は自然とそうなることを願う。しいて願う相手といえば、自然に対してそうしてくれるように頼むことになる。　訳は「～しますように、～すればいいのに」が妥当。通常主語を省く。女性形は aclcıᴅ　【用例】　aclcı ʃc uıȷʃ ʃıȷ. 君が試験に受かりますように。　aclcı leȷʃ eᴅ ɑıɥɑ. 明日晴れますように。　aclcı le ıben uɔɥʃ. ＤＱＮ死ねばいいのに。　ın ȷeɥ ʃə lel lı lɑcȷıʃ uɔȷlel enz. aclcı lı ncın enʃel. lclᴅı. 彼が一生懸命生きたことは分かっているので、どうかゆっくりお休みください。安らかに。

aclcı,lʃɑ　acın　acınȷ,ɑu.l

aclcıᴅ　［yənʃe］［動詞］aclcı　［類義語］aclcı　［レベル］2　J0:ɑəlᴅccı:aclcı/ᴅ（語気の弱め）【用例】　aclcıᴅ ʃyə eᴅ ncl. あなたに幸せが訪れますように。

aclɔ　［名詞］ポット、魔法瓶　［レベル］2　古 :「長い筒」

aclɔhɔ　［医療］百日咳　［レベル］5　1L

acleʃ　［魔法］［動詞］yəl を精錬する、精錬する、調合する　［レベル］5　J0: 古 ɑəʃɔ/ʃe（取るような）→ ɑəʃeʃ → ɑəleʃ（ʃ の重複は発音しにくいため弱化して l に）→ acleʃ（ɑəl よりも acl のほうがアルバザード人には言いやすいため）　［文化］　ıɑcȷʃ

aclenıs　［経済］長期金利　［レベル］6　JJ

acləoıȷ　［被服］バドショース　ȷᴅ;/　JM

acı　［名詞］世界、世の中　［名詞］業界　［名詞］社会。教科名。　［形容詞］有形の、実在の、実際の　［類義語］acını、lıɑcl　［反意語］ɑcı　［類音］ace。対句で使うとおいしい。　［レベル］2　ɑ　先　acı:acı　［語法］　＜世界を表す言葉の上下関係＞　ıɱılʃe　lılɑcı　lelıc　ıʃɔlıȷ　ıɥɑc　ıɥlıɑcı　ıɥɑel　ʃoııyə　lıʃcı　yəᴅını　そして acı はこれらのうちのどれか任意のものを指す言葉である。また、〇〇業界のような業界という狭い意味での世界を指すこともある。　【成句】　lɔlʃ acı 我に返る、われにかえる　ɔn ʃə acı 一体全体：文頭で使う。ないし挿入句として使う。　acı ɥecı 天涯孤独　【用例】　acı lcȷ 狭い世界　ın nıʃ acı cl ueɥn cᴅ ʃə. そのときは世界の終りのような気分だった。　ınȷ cnȷ acı enl acn ınȷ cn acı lɔl. 見てる世界は同じなのに、見えてる世界は違う (ȷeɥen ıɥbız ıɥɑ)：ɥɑ のセレンの言葉。サピアの見方に相当する。言語によって世界の見え方が異なるということ。

acıʃıə　［経済］実物買い　JJ

acıʃəl　［経済］現物　［レベル］6　ɥɑ;/「実在の物」　J?

acıl　［地学］世界地図　［レベル］3　制 :acılılı　［文化］→ ıʃɔlıȷ　・最古の地図　ʃᴅ で神々が正距円筒図法を作ったのが最古のものである。　その技術をのちに人類が受け継いだ。　現代ではミラー図法など様々な図法が用いられる。　・アトラスの表面積　アトラスの表面積は ϮOL,LML,000 lᴅ J である。　・正距円筒図法　下記の地図は正距円筒図法で描かれたアトラスの世界地図である。　http://constructed-language.org/arka/data_kaxa_1.html　この地図の大きさは横 M000dll の縦 J000dll である。赤道周長を M 万 lᴅ と仮定した際、赤道上で 1dll が 10 lᴅ になるようになっている。赤道周長は約 M009Ϯ lᴅ なので、誤差はほぼない。　・正距円筒図法における東西の長さ　地図上の長さは実際の 1/dɔȷ(緯度) 倍になる。　北緯 MϮ° なら√ J 倍になるので、地図上の 1M1 lᴅ が実際の 100 lᴅ になる。　ただしこれは東西の距離の話であって、南北の場合は地図上の 100lᴅ は実際でも 100lᴅ のままである。　正距円筒図法で見るとアルバザードは横長の国だが、実際にはやや縦長。　・モルワイデ図法　モルワイデ図法は擬円筒図法の一種で、地図上の任意の場所で実際の面積との比が等しくなる正積図法である。地球全体を１枚の平面に表現でき、地図の外周は楕円形になる。楕円の長径（横）と短径（縦）の比は J:1 となり、もし縮尺１分の１の地図を作成したとすれば、横 ʔʕ0M0 lᴅ、縦 1Δ0J0 lᴅ の楕円となる。　下記は惑星アトラスのモルワイデ図法である。　http://constructed-language.org/arka/images/kokajaboi.jpg　この地図は横 M000dll の縦 J000dll である。　・ピクセルあたり面積　上記のモルワイデ図法におけるピクセルあたり面積を算出する。　地表面積÷楕円のピクセル数（縦半径×横半径×π）＝ピクセルあたり面積　ϮOL,LML,000/(J000×1000×ΦЄ) ≒ Δ1.1ʕ0L0MlᴅJ/dclel　従って、ピクセル辺りの正方形の縦横の長さはそれぞれ約 L.00ΔL lᴅ である。　モルワイデ図法なので地図上のどのピクセルにおいても面積は Δ1.1ʕ0L0Mlᴅ J である。　ただしそのピクセルが正方形のエリアになるのはモルワイデ図法の中央部においてのみである。　正方形の場合は縦横が約 L.00ΔL lᴅ になる。　アルバザードなど、地図の中央にない場所に関しては、ピクセルあたりの面積は変わらず Δ1.1ʕ0L0Mlᴅ J である。　しかしそのピクセルは正方形ではなく長方形で、縦横比は 1:1 でない。よって縦横約 L.00ΔL lᴅ ということはない。　約 L.00ΔL lᴅ という値は下記で述べる面積の求め方の「論理長」に使うために算出したものである。　フォトショップの機能上、論理長に L.00ΔL と入れると１ピクセルあたりの面積を Δ1.1ʕ0L0Mlᴅ J として認識して計算してくれるようになる。　そのために縦横比が 1:1 にならない地域においてもどのピクセルも Δ1.1ʕ0L0Mlᴅ J の面積で計算できるようになる。　そのための論理長が L.00ΔL であり、この L.00ΔL という長さは地図上の任意のピクセルの縦横の距離を意味するものではない。　従ってモルワイデ図法上の２点間のピクセル数をカウントし、そのピクセル数に L.00ΔLlᴅ をかけることで２点間の距離を調べることはできない。　・面積の求め方　大陸や海洋面積や国土などを調べるためにモルワイデ

図法を利用する。　アプリケーションは dhɔſɔjhɔd ɖɟʎ.1 elſenɑeɑ を使用した。ɟʔ 年現在、elſenɑeɑ のみ下記のツールが使用できるようである。　モルワイデ図法を制作したのち、調べたい国や大陸をマジックワンドで選択する。（ツールバー）解析→計測スケールを設定→カスタム→論理長 L.00ΔL、論理単位 ʅᴅ に設定　（ツールバー）ウィンドウ→計測ログ　にチェック　計測したい範囲を選択　（計測ログ）計測値を記録

acılılſ ［経済］現金主義　1L

acıȷ ［動詞］ȷɔl は ɥəl の様態で生まれる、生まれる、誕生する ［普通動名詞］誕生、発生　zφ;acı/ȷɔ ［レベル］2　1L:acıȷɔ（世界をする） uııµſ: acıȷ 【用例】 ſeı nɔn acıȷ ᴅe, lɔᴅ nɔn eᴅ lın nɔn ᴅe. もしも生まれ変わっても、また私に生まれたい（千秋）: cnscn も可。

acıȷʅı ［名詞］生誕地　［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

acıȷlınſ ［名詞］誕生日プレゼント、バースデープレゼント ［レベル］2　µɑ;/　ɟʔ ［文化］ acıȷȷel

acıȷlcdl ［名詞］誕生日ケーキ、バースデーケーキ ［レベル］2　ul;/　ɟʔ ［文化］ acıȷȷel

acıȷȷel ［名詞］誕生日、バースデー、生年月日、開始日 ［レベル］2　1L ［語法］ 人の場合は誕生日。機械や建物など無生物の場合は成立日や開始日など。 ［文化］ 誕生日にはパーティをする習慣がある。家族＞恋人＞友達の順序でスケジュールを優先する。日本と違って恋人＞家族でないところがポイント。恋人がいる場合、家族とのパーティの後か後日に会うか、家族に混ざって一緒に祝うのがふつう。　誕生日ケーキの習慣はない。　ʅʅ で凪人が砂糖で味付けした菱形の餅を誕生日に食べていたのが ȷᴅ でアルバザードに流入し、今では甘い餅を食べるのが習慣。ただし ul 以降は餅に代わって豪華なケーキを食べる場合も増えてきたため、事実上誕生日ケーキの存在自体はある。ただしこのケーキにローソクの習慣はない。　ローソクの代わりに、手拍子を年齢の回数だけ皆で叩き合う習慣がある。２０歳を超えると大きな拍手が１０歳分で、小さな拍手が１歳分を意味する。　パーティでは誕生日の人はプレゼントをもらう。誕生日の人が出席者に奢る習慣はない。　・１歳の誕生日　子供の前に金、人形、本を置く。子供がどれを選ぶかでその子の将来を占う。金を取れば金持ちに、人形を取れば厄災が人形に移り健康に、本を取れば学者になるとされる。　・３歳と５歳の誕生日　ʅʅ の凪では赤い着物を着せた人形を子供に抱かせ、厄災を吸収させてから神社で焼く習慣ができた。これが ȷᴅ でアルバザードに伝わり、nɑ ごろに定着した。　女子は３歳で、男子は５歳でこれを行う。　・７歳の誕生日　３歳と同じ儀式を女子だけ行う。　・１０歳の誕生日　親や周囲の人間が子供に使命を与え、将来の自分へ当てたタイムカプセルを作る。この習慣は ıl ごろにできたもので、歴史上の偉人が１０歳を契機に人生の使命を背負ってきたケースが多かったため。　・２０歳の誕生日　成人の祝いとして大酒を親と飲み交わす。アルバザードでは子供のころから飲酒ができるが、少量とされる。大人になった契機に親と大酒を酌み交わし、大いに酔う。　・３０歳の誕生日　１０歳のときに作ったタイムカプセルを開ける。６０歳の自分に向けてタイムカプセルを作る。　・６０歳の誕生日　３０歳のときに作ったタイムカプセルを開ける。 【用例】 acıȷȷel e µcɑcı eſ zın µıl. リディアの誕生日はザナの月ラルドゥラの日だ。

acıȷoıcn ［名詞］誕生パーティ、誕生祝い ［レベル］2　1L:µcɑcı:ıµbıleſſ ［文化］ 誕生祝は子供が生まれると行う。といっても生まれてすぐだと母親と子供の負担になるので、母親の回復を待ってから日取りを決めて行う。大抵は二週間か一ヶ月してから行う。祝いには親族と仲間を招く。ふつう子供がこれから暮らす家で行う。ホストは料理等を用意する。その代わり参加者は祝い金を持参する。祝いは夕方から始まり、夜に終わる。帰れない人は泊める。それは面倒という場合、そもそも昼ごろから初めて夕方に終わらせることもある。祝いでは赤ん坊を参加者にお披露目する。赤ん坊は白い布などに包んでおく。皆に正式に名前を告知する。エーステをあげる親は、この時点で子供にあげることが多い。

acıȷeſı ［名詞］世界史。科目名。 ［レベル］5　µɑ;/　ɟſ

acın ［名詞］少女、女の子、６～９歳の女 ［名詞］女の子。漠然と子供の女の子を指す。広義には３才程度から思春期程度までを広く指す。より広義には赤ん坊から若い成人女性を指す。 ［形容詞］少女～。前置。 ［反意語］ılacın ［レベル］2　lɥ;acınȷ,ɑu.l　1ʔ ←古 :acınȷ（花嫁衣裳）。acınȷ の語源は不詳。クリスの知っている花嫁衣裳を着たがっていたアシェットとは無関係の少女のエピソードが由来。そこから少女と花嫁衣裳が連想された。　acınȷ:acın:lı aclcı

acınſ ［動詞］ɥəl をもじもじさせる、もじもじする ［レベル］2　1L:ᴅelc ɑcı ılſe:acın/ſlə（恥ずかしがる少女）

acınʅı ［名詞］中学校、中学、小学、小学校 ［レベル］2　1L:ᴅelcɑcı ılſe

acınlccᴅ ［化学］ショ糖、蔗糖 ［レベル］4　1L:dııl: 少女糖 ［文化］ 女の子が好んで食べると考えられている。µɑ では代替糖があまりなかったので、アシェット女子が好んだ。レイユでは虫歯の原因になるので良くないとして避けられている。

acınȷ ［動詞］ɥəl をくらっとさせる。めまいほどではないがちょっとクラっとすること、よろっとすること ［µenſe］［動詞］座る。特にクミールが弱くてふらふら貧血で座り込むことから来ているのでユンクがメイン ［類義語］ʝlcn ［レベル］2　1L:acınȷɔ（少女がするように） ［語法］ アルバザードでは女らしいしぐさとして好ましく見られる。逆に男は恥ずかしがって、しないようにする。 【用例】 oec, ſc cʅ acınȷ ʅɔʅɾ やーい、お前、今、女の子みたいによろめいたろ！：いじめっこのセリフ。

acınȷ,ɑu　儀式用の綺麗な服（ɑu 前期）、気飾った女性（ɑu 中期）、少女（ɑu 後期）

acınȷe ［魔物］フィアンセ（少女精）：第十天：水の炎天 ［レベル］5　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:acın/ȷeleȷ（少女の魂） ［文化］ 湖など、水面に現れる魔物。膝から上が裸の少女ないし若い女の体をしている。水面の霞の集まったもので、膝から下はランプから立ち上る煙のように水面に向かってすぼんでいる。男を誘惑し、溺死させる。　湖面を覗き込むと落ちるのはフィアンセのいたずら。

acınaeᴅe ［地学］［歴史］新原生代　ul;/　ɟʔ ［文化］ φııueaeᴅe　原生代（かつての先カンブリア時代）の最後の３紀、１０億～５億４２００万年にあたる。

acınᴅccʅ ［名詞］少女リンゴ ［レベル］6　1L ［語法］ リンゴは空気を吸うので、美しい少女の寝室に置いて保存するアルバザードの風習。概念自体は古くからある。ᴅınıᴅccʅ、lızᴅccʅ も同じ。lıʅueſlec の µcʅ の項でルシアがリンゴのダンボールに入っているのはこれが元ネタ。

acınɑıcᴅın ［名詞］中学校中退 ［レベル］3　1L

acınhıɾd ［言語］少女体　1L ［文化］ ſıdhıɾd から作った書体。小さく丸みを帯びた女の子用の文字で、可愛さを表現。

acınµeφıȷſ ［名詞］中卒 ［レベル］3　1L

acıns ［生物］指、細い指 ［レベル］3　ɟɟ:acın/sc

acın le ɑeµſ ı lıȷſcı ［芸術］「ラスティアに祈る少女」 1L ［文化］ マレア＝トゥウェンの代表作。アデュ収容所へ送られる魔列車の少女を描いたもの。

acını ［名詞］現実、リアリティ、リアル ［名詞］ノンフィクション、ドキュメント、ドキュメンタリー ［数学］実数← acınııll ［形容詞］現実の、リアルな、現実的な、実在の ［類義語］lıacl ［反意語］ɑcını ［類音］ɑcını ［レベル］2　µɑ;acı/nı　1L: 世界を感じる 【成句】 ın eſ acını ᴅın ſc ſccı ın ʅɔnſ nɔn eſ acını ᴅcl ſɥə ſccı nɔn. 我愛する故に汝あり。汝愛する故に我あり（ȷeµen ıµbızıµɑ） 【用例】 "lee, eȷ acı eſ acını eɥɔ"「ねぇ、どうして世界はあるの？」

acınıȷeʅ ［普通動名詞］現実逃避 ［レベル］5　µɑ;/　ɟſ

acının ［名詞］中学生 ［類義語］ᴅıᴅᴅın ［レベル］2　1L

acınıl ［生物］小児、児童 ［レベル］2　µɑ;acın/ıl　ɟʔ

acınııll ［数学］実数→ acını ［レベル］4　ɟʔ

acıncȷ ［植物］忘れな草、ワスレナグサ、勿忘草、フォーゲットミーノット、フィアニス ［俗語］レズビアン、レズ、ユリ、百合 ［類義語］ſeȷſ eel ［反意語］neᴅd ［レベル］4　ſᴅ;acıncȷ‹acın　ɟʔ ［文化］ テステェルが愛した少女の名で、それゆえ古くからレズビアンの象徴とされる。漫画などでも背景に用いられる。

acıuıucſı ［ユマナ］オリンピック ［運動］オリンピック、五輪 ［レベル］5　1L

acıaclſ ［数学］実数解 ［レベル］4　1L

acıᴅ ［生物］界 ［言語］亜語族　µɑ;acı/ᴅıcn ［レベル］6　ɟɟ ［文化］ µəᴅı

acıᴅcµɔʅ ［宗教］世界神　µɑ;/　ɟſ

acıᴅɔnɔɑɔıl ［経済］有形固定資産　1L

acıɑcı ［数学］複素数 ［レベル］5　µɑ;acınııll/ɑcınııll　ɟſ

acıɑcıclᴅ ［数学］複素行列 ［レベル］6　1L

acıɑɔıl ［経済］実物資産　ɟɟ

acıφcl ［経済］現金、キャッシュ ［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleſſ

acıφcldıl ［経済］キャッシュフロー計算書、ＣＦ計算書 ［レベル］6　1L

acıbıʅıl ［建築］世界遺産 ［レベル］5　zφ;/　ɟʔ ［語法］ 世界遺産は「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」に分類される。

acıµeµcᴅ ［医療］狭心症 ［レベル］5　1L

acıµecn ［名詞］世界線、パラレルワールド、並行世界、平行世界 ［レベル］4　µɑ;/　ɟʔ

acıl ［名詞］任意の数、任意の番号 ［形容詞］任意の数の、任意の番号の ［レベル］3　1L

acıl(ɟ) ［歴史］フィアル時代、創世期、創世の詩、そうせいのうた ［レベル］3　古 ［文化］ 世界ができてアルデルと霊界ができた時代。一番初めの存在であるアルマはひとところに存在していた。この時点では場は宇宙さえ存在せず、アルマの占める空間しか存在しなかった。しかし、アルマはレカイとアルテ神とアルデルに分裂する。アルテは最初の意思を持った存在である。アルデルはトワーユとラティアに分かれた。アヴェランティスがレカイとアルデルの間にできる。アヴェランティスを通ってヴィードがレカイに貯まる。　ヴィードを受けたアルテは爆発の危険に瀕し、やがてエルトとサールに分裂する。彼らは互いのエネルギーを相殺する力を持った男女の神である。エルトとサールは愛し合ったが、そうしてばかりいるとまたアルテに融合してしまうので、約束の日を設けてそれ以外は逢わないようにした。約束の日を一定の周期で定めるため、エルトとサールは最も美しいと気に入った星を世界の中心の星とし、その星と太陽の関係が一定の条件を満たしたときを逢瀬の日にすると決めた。その星がアトラスである。エルトとサールはアトラスの公転周期を周期とし、毎年アトラスで逢瀬を重ねた。その場所を世界の中心セルヴァートという。尚、公転周期は年月を重ねると変化するため、創世記と転生期では異なる。転生期は約三百六十五日であるが、創世記の公転周期はそうではない。

acılɥəɑcı ［言語］ローファンタジー ［レベル］6　µɑ　ɟɟ ［文化］ lɥəɑcı

acılıᴅeeµ ［歴史］世界創世記 ［レベル］4　ſᴅ;/　ɟʔ

acılcȷ ［天文］アルタイル ［類義語］µcɑcı ［レベル］5　ɑu;acı/lccz　ɟ1:µc ɑcı ［文化］ ɑeaınȷ

acılenſ ［死神］フィアレント、雛人形 ［アクセント］aɛılenſ ［レベル］6　1L:µcɑcı:acın/lenſ ［文化］ 死神シューゼの傍に仕える十三人の死神少

女。　第一雛：恋姫，µenˡc　第七雛：詩姫，ˡcˡc　第十三雛：悠姫，ɥəəˡc

aciiʃᴅ ［経済］実物売り　JJ

aciiˡn ［哲学］現実主義、リアリズム、レアリズム ［反意語］ɑciiˡn ［レベル］５　µɑ;/　Jᙏ ［語法］ 広義には、理想より現実を優先させる考え方のこと。その反対が理想主義。

aciiˡnın ［哲学］現実主義者 ［反意語］ɑciiˡnın ［レベル］５　µɑ;/　Jᙏ

aciiul ［経済］実物経済 ［レベル］６　JJ

aciiˡl ［数学］現実数 ［反意語］ɑciiˡl ［レベル］５　µɑ;/　Jʔ ［文化］ ɑciiˡl

acicˡᴅ ［数学］実行行。実数のみの成分でできた行列　1L

acicˡᴅı ［経済］現物　JJ

acienuc ［名詞］実力 ［レベル］３　µɑ;/「実際の力」 Jʔ

acieeʃ ［経済］現物株、現物、実物　JJ

accʃ ［代詞］誰かしらの、何かしらの ［レベル］１　J0:jeµen/µcɑcı

accn ［動詞］ɥəl に尽くす、ɥəl のために何かをする、尽くす、尽力する ［レベル］３　1L:accnı 【用例】 lə ᴅcn ucnjıʃ ɥə ıʃcın acn accnıʃ lı enzel. 彼女は懸命に尽くしたのに彼に捨てられた。

accnɥı ［娯楽］「魔法少女フィーニャ」 ［レベル］２　1L:ənclec ［文化］『おジャ魔女どれみ』、『プリキュアシリーズ』に相当するアニメ。アルバザードで放送している幼児向けのアニメ。精霊族の少女フィーニャが魔法の杖で困った人を助け、悪の組織と戦う。　・現実では　Jʔ ɑɥə µıu にトイザらスでスマイルプリキュアの衣装を紫亞に買ってあげた。６０００円弱したが､割引で５５００円ほどだった。１０５～１１５ｃｍとあるので、概ね合った。紫亞は５歳にしては小さい。　↓ツイッター　娘、トイザらスにてプリキュアに変身なう。「お父様の好きなのがいい」と言う。「じゃあ青で」と言ったら、後から母親にあの子はピンクが好きなのに。。。と言われてしまった。。。ɔµz でも可愛いからいいのだ　↓その後､ɑɥə nen のツイッター　こないだ買ってあげたプリキュアの衣装を息子が着てた。身体が大きいのでパッツン。その上、「パパ、僕かわいいですか？」と聞いてくる。以前このパターンで硬直したら後で母親に「パパは僕のことが可愛くないんだ」とメソメソしだしたそうなので、傷つけてはいけないと思いながらも、全力で「脱げよ」

accnı ［格詞］～のために ［音楽］楽団アシェットのデビュー曲。µɑ で、異性魔王との交戦で疲弊したアシェルフィの民を元気付けようと考えたセレンが、アルシェの使徒、フィミィ、ルビィ、リーザなどを加えて作った楽団。後の団体名アシェットを先取りした楽団名になっている。命名はリディア。ボーカルはミルフ。指揮は最初と最後の合図だけの役割で、セレン。ドラムはオヴィ。ギターはギル。ピアノはクミール。ベースはクリス。その他でサックスなどのセクションを担当。フルミネアはブラス兼任でフルート。メルはトライアングルなどの各種パーカッション。デビュー曲はミルフが作ったビッグバンドで､曲名は「accnı（あなたのために）」 ［レベル］１　ɑ;ac/nı「心長く」 赤 :accnı:acnı だと acn に似るので戻した。 ［語法］ lını 【成句】 accnı µcɑcı リディアに捧ぐ 【用例】 ın lıbıʃ accnı lcʃe. 家族のために働いた。

accnı(J) ［音楽］フィーナ　J1 ［文化］『夢織』のアリスらのバンド名。

accnı–acın ［植物］コデマリ、こでまり、すずかけ、スズカケ ［レベル］４　µɑ;「少女に捧ぐ」 JJ ɥəˡc:ɥəˡc: ［文化］ ɥənˡ 系の少女を象徴する花。

accnı µcɑcı ［言語］ıµˡı ［感動詞］リディアのために。セレンがお祈りとして最も日常的に使う言葉。 ［レベル］３　J1:jeµen

accnıleᴅ ［音楽］ビッグバンド ［レベル］５　1L

accnılecᴅen ［名詞］一般受けする作品､一般人向けの作品､一般受け ［レベル］４　µɑ;/「普通の人のために」 Jʔ 【用例】 ʃə ˡlec eʃ ʃcɔ accnıle cᴅen ʃcȷ ɑı. この小説は単なる一般受け狙いだ。

accnıen ［接続詞］accnı ［レベル］３　J1

accnıennı ［生物］聴宮　J1

accnɔ ［アイテム］トライデント　zφ;acφc/nɔ「槍爪」 Jᙏ

accne ［魔法］精霊 ［レベル］３　古：準イネア？あるいは jcla cneı（軽やかなイネア）？　accne:accne:lı jcla ［文化］ 精族のアデルと人間との交配種。イネアートを発祥とし、イネアートに住み続ける。定住民族で、森や湖の中でひっそりと暮らしている。イネアートの外に出ることは少なく、セルヴァートなど、高緯度地方に点在する。アルバザードでは唯一アルシアに住む。　大人しく美しいのが特徴。黒い長い髪を持ち、肌は透き通るように白い。薄布をまとっており、水浴びを好む。知能は人間よりも高く、繊細でプライドが高い。アシェットではフルミネアが精霊の出。

accneȷ ［筐堺］フィーネス ［レベル］５　µɑ;accne　JJ ［文化］ 筐堺司：aəlᴅccı cneııʃɔ　筐堺国：cneııʃɔ, hɥəəʃɔ ʃəuın, ɑcᴅcncɔn leeue

accneᴅıɑeʃ ［アイテム］フィーネマデット､万能薬 ［組み数字］３／１２ ［レベル］４　J0: 精霊のへその緒 ［文化］ 精霊族の少女が生まれたときにつけていたへその緒を干して砕いて粉末状にしたもので、ラルトの効果がある。非常に貴重なアイテム。精霊が生んだ息子のへその緒では効果がない。

accneµcı ［地名］フィーネリア海 ［レベル］５　J0:µcɑcı: 妖精の水 ［文化］ ヒュート西～北西、フレディスク西、ファルファニア西、フィーリア南、イネアート北の海。

accnel ［音楽］ケルティック ［レベル］６　J1:「精霊の曲」

accnelcı ［植物］カシス、クロスグリ、フィーネリア ［レベル］３　J1:「精霊の」【成句】 ɥən accnelcı（恋愛が）甘酸っぱい、青春な。ɥən accnelcı は若者の純愛、特に性的記述に乏しい純愛を表現するときに用いる。ɥən ˡcuel はその逆で大人のあるいは大人びた恋愛を意味する。明確な基準はないが、ɥən accnelcı では手をつなぐか抱きしめるかせいぜいキス程度が上限。

accu ［アイテム］ハルバート。地球よりも開発が早かった。　zφ;acφc/ucuɔ　Jᙏ

accᴅ ［形容詞］怠けた、怠惰な、なまけた ［反意語］aıın ［副詞］怠けて、なまける、怠ける、サボる ［レベル］２　µɑ　＠ 1L:ȷɔnɔhcnɔˡc aıcl:a ıcl:aıcl 【用例】 ın ıʃ accᴅ dɔʃ ᴅɔˡʃ. ベッドの中でだらだら（ぐずぐず）していた。　ın µıˡᴅıʃ ȷel accᴅel. 一日中ゴロゴロ（ごろごろ）していた。

accᴅbcl ［生物］無精髭 ［レベル］４　JJ:「怠惰な髭」【用例】 ucˡ le ʃcl accᴅbcl 無精髭を蓄えた男

accᴅı ［感動詞］久しぶり ［形容詞］久しぶりの、久々の、ご無沙汰の ［レベル］２　古 :ac（長い）/cᴅı（時間）。「長い時間が経った」が原義。

accᴅel ［被服］チノパンツ、チノパン ［レベル］５　J1: 怠けて

accφ ［生物］回虫 ［レベル］６　1L:acµφeed

accɥə ［形容詞］素晴らしい、美しい、すばらしい、おいしい、優れている、素敵、素敵な、すてき、ステキ ［類義語］µıʃ ［レベル］２　古 :accɥə の古形が accsə なので､accɥə の ɥə は確実に「受ける」の意味。 ［語法］ µıʃ や ʃcnˡı 単体よりも意味が強い｡µıʃ ʃcnˡı 程度の意味。【用例】 senʃ ıʃ accɥə. 天気がすばらしかった。　ın nı accɥə cᴅ ʃəµ. 今は素晴らしい気分だ。

acclɑ ［動詞］ȷɔl は ɥəl の力を accnı に資させる、資する ［レベル］４　古 :aəlᴅccı 【成句】 µen acclɑr レン・フィールド（汝の契約者に資すらんことを！）：召喚士が神を召喚する呪文の結び。

acclcı ［アトラスの国家］［地名］フィーリア、フィーリア島、悲離島 ［レベル］２　ɑ;e　1L:µcɑcı:accne。「悲離」音とともにセルトの別れの意。 ［文化］ 面積：1ΔJʔ९९.1ᙏ९ʔΔ↟ ˡᴅ 」 厳密には国でなく島の名前。神の国アルフィのある島で、人間が支配してはいない。

acclcıµen ［言語］フィーリア語 ［レベル］３　J0 ［文化］ elɑȷeʃı　●概要　名称：ɑ（フィーリア語）　系統：アテン超語族ランス語族サルト超語派 (ıʃenıᴅıʃ, lınȷeᴅcʃ, ȷıµʃcaıl)　年代：al_ʃᴅ：ʃᴅ は４年間だけ　分布：主にフィーリア島　話者：elʃ, ȷııl を中心とする数名　類型：ＳＯＶ、ＮＡ、Ｐｏ：厳密には形容詞はなく、ɑe を使って述語として導く。ucˡ ɑe ˡıc のように。見かけ上ＮＡの形をしているのでＡＮかＮＡかと言われればＮＡと言わざるをえないだろう。　認知様式：主観的把握　音韻：アルカに ʉ,ƶ,X,T を足した２９音に、シュワーを加えた計３０音　カルディアで最初に生まれた言語。全ての言語の祖。al でエルトとサールが作った。　●舞台裏　現実の前期古アルカがベースとなっている。シンプルな文法で、フィルヴェーユで研磨される。　アルカと同じ部分については特に書かない。異なる部分だけ書いていく。　●品詞　名詞、動詞、後置詞、形容詞、副詞、純詞、接続詞、感動詞、天秤詞のＬ種。　・連体詞としての形容詞　「この」や「あの」といった、後の連体詞や指示代詞に当たるものしかない。　bıˡe これ、bcˡe あれ　これらは前置される。有生と無生の違いはない。　「これの」と「あれの」は bıˡenɔ, bcˡenɔ で表示。　ちなみに場所についてはこう。　beˡe ここ、ɔˡelı あそこ。　・形容詞　「大きい」などの形容詞はなく、名詞を述語として使って示した。　ɑel ɑe ucˡə ɑe ˡıc（私は大きい男だ）　これは ɑel ɑe ucˡə と ɑel ɑe ˡıc が重文となり、二番目の主語が省略され、やがて形容詞のように ˡıc が導かれるようになったもの。　副詞も同じ手段で示される。　ɑel bıɔφ ɑe ucuc（私は強く叩く）　助動詞も同じ。　ɑel ˡəc ɑe ᴅıl（私は食べたい）　・代名詞　elʃ と ȷııl しかいなかったので、男が男に対する二人称などはなかった。　一人称　男：ɑel　女：nɔn　二人称　男が女を　ʃcȷ　女が男を　ɑɥəȷȷɔə　三人称　主にエルトとサール以外の動物を指した。lə のみ。　lə は英語の cʃ に相当する。　・副詞　否定の ɑen などに限られる。　ɑen は動詞の後ろに付く。　c ɑen（見ない）　・純詞　アルカの文頭純詞に当たるもの。　●語順　ʉƎ∀。　形容詞、副詞、助動詞は ɑe で繋いで後置。　後置詞句は Ǝ の前。　ɑel µəlclɔ ˡıl ȷııl ʃccı（私は家でサールを愛す）　●関係詞　関係詞はない。ɑe で節を繋ぐ。　ɑel ˡeʃʃɔ ɑe ȷııl cɑ（私はサールが見た猫を見た）　●格　主格と対格は無標。　そのほかの格はエルトが動詞 ˡıl を文法化したのと同じ流れで、後置詞として存在する。　µəlclɔ ˡıl（家で）　属格は接続詞 ˡenɔ で示す。　nɔn ˡenɔ elʃ(私のエルト)　●文種　否定文は ɑen を使う。　疑問文は文末の語尾上げで。　命令文は文頭に µe を付ける。この µe は純詞で、文全体を修飾。　●テンスとアスペクト　テンスは非過去が無標で、過去が ɑ の二項対立。　c（見る）→ cɑ（見た）　アスペクトは継続の ʃın のみ。　むしろこれは未完了と捉えたほうがよい。　動作の継続や連続や反復や未完了などを表す。　ləˡ（歩く）→ ləˡʃın（歩いている）　●数　エルトが作った。　エルト式の物の数え方で、人差し指から立てていく数え方で、↟ 進数がベースの 10 進数。　1: 人差し指 scsc から scs　J: 中指 ȷeesc から ȷees　ʔ:ʔ を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから ȷɔˡəˡısc で ȷɔıs　ᙏ: 小指 lcczsc から lccs　↟: 手を広げることから、oı/sc で oıs　Ϛ 以降は後ろの母音に調和した母音を付けていく。　子音の s が落ちる。　Ϛ:csc　९:eȷee　Δ:ɔȷɔı　L:clcc　10: 両手を意味する ıloı から ılı　11 ～ 1L は ılıscs のように示す。　J0 からは J0 進数。　J0 は ᴅıcn/sc（体全部の指）から ᴅıns。　ᙏʔ は lccsılıȷɔıs でなく､「J0 が J つと ʔ」と考える J0 進法で､ȷeesᴅınsȷɔıs。　つまるところフィーリア語は ↟–J0 進数である。　これは日本人には馴染みがなく、いかにもとってつけた現実にありえない言語に見えるかもしれない。　しかしこれは適当な設定ではなく、例えばアイヌ語はこのような仕組みである。　同じような体系はチュクチ・カムチャッカ諸語、エスキモー語などにも見られる。　これらの言語との差異は 10 進数の色が濃く、最高数が ᙏ00 でなく 100 である点である。　100 は oıs ᴅıns から oıᴅı。　暦などがなかったため、千はない。　0 を表す語はなく、「～はない」と表現した。ˡeʃʃɔ ᴅɥə（猫はいない）　名詞に

かかるときは前置される。　scs ᴅccnı（一本の花）　名詞に有界性はないので、ᴅccnı だけでは何本か分からない。scs を付ける義務もない。　● leȷ̀ıc　leȷ̀ıc は ɑe ȷ̀ıc（大きい）→ ɑeȷ̀ıc → leȷ̀ıc となってできた。　神話には神話用の語源を付す。　これによって現実と同じ語形をアトラスの歴史に矛盾しない形で作ることができる。　これがないと、矛盾してしまう。

acclenȷ ［名詞］おばあちゃんの知恵袋、昔ながらの知恵、生活の知恵、フィーレンス ［レベル］3　μɑ;ac/lenȷ「長い知恵＝年寄りの知恵」 ȷ̀ʔ ［語法］ 老婆に限らず老人全般によるものを指すことができる。nɑ 以降は年齢関係なく、昔ながらの生活の知恵のことを指す言葉となった。

acɔ ［親族］祖父、おじいちゃん、おじいさん ［レベル］2　1L: 古

acɔȷ ［動詞］yəl を見切る、見切る、見破る、見抜く ［レベル］3　1ʕ: 制 :acɔ（本当）

acɔn ［動詞］yəl を ı に告白する、告白する、自白する、白状する、言い出す、打ち明ける ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 制 acɔnı（本音）【用例】 μcɑcı acɔnıſ hıſcı ı ȷeμen cᴅ lə ȷɔμɑıſ eſ ılȷɔn. リディアはセレンが中二のときに告白した。

acɔnı ［親族］おじいちゃん ［レベル］2　1L:μcɑcı:acɔ/n/ı（語気揃え）

acɔnı(ȷ) ［名詞］本音、本心 ［類義語］μəlnı ［レベル］2　制 :acɔ（真実の）/nı（心）。新生以降 μəlnı に変わったが、すっかり定着してしまっていたため、ȷȷ 年に正式に再登録。【成句】 c acɔnı 本当に、心の底から、心底。c ȷeleȷ の類似表現。　lılſ acɔnı 正直、本当のところは

acɔl ［生物］女の細い綺麗な首、手首、足首、腕、脚 ［レベル］2　au 古 :acɔl ← aclɔɔlɔ（長い管、塔） acɔl:acɔl:lı acɔle 【用例】 ſel eel lcs ȷ̀lɔl, lə ſcl acɔl ȷcla le ȷɔlȷ lə eᴅ lınſ uecn. あどけない顔つきはあまり変わっていなかったけれど、手足がすらっと伸びて今より綺麗になっていた。

acɔllclı ［形容詞］［ポジティブ］スリムな、スレンダーな ［レベル］3　ȷ̀1

acɔlcᴅdc ［動物］アシナガバチ ［レベル］5　ȷ0:ᴅelcɑcı lceμ

acɔle,ȷzɑ acɔl ‹ acɔl,au.l

acɔleſ ［軍事］ライフル、ライフル銃 ［アクセント］acɔlEſ ［レベル］4　μɑ: μcɑcı;acɔlenſccnı.ȷ̀ ȷ̀ɱ:μcɑcı ［文化］ φel

acɔlenſccnı ［アイテム］フィオレンティーナ ［レベル］4　μɑ:μcɑcı;acɔl/eſ/ſccı/nı「乙女の腕のように長く、神に愛された」 ȷ̀ɱ:μcɑcı ［文化］ → φel　ヴァストリアの１つ。セレンのもつライフル銃。

ace ［名詞］嘘、虚言 ［反意語］μəl ［類音］acı。対句で使うとおいしい。 ［レベル］2　古　ᴅyə:ᴅyə ［文化］ 嘘はアルティス教における最大の悪徳であり、英語のｌｉｅよりもさらに意味が重い。衝撃度でいえば窃盗など、犯罪と同じレベルの罪悪感を生じさせる行為である。　とはいえ、人間は嘘をつく。そのため、アルバザード人は絶対に嘘を認めようとしない。認めざるをえない場合は、ace という言葉は極力避け、「ごまかした」「人工事実」「意図的に虚偽を語った」など、必ずといっていいほど言い換えを行う。とにかく ace という単語を極力避けようとする。もしアルバザード人がこうしても、嘘を認めていないわけではないので寛容に捉えたいところである。アルバザード人同士はそれを心得ているので、「いや、嘘だろ？」と追求はしない。喧嘩になることが目に見えるため。　どれくらい「嘘ついた」と言いにくいかというと、日本人が明らかに返すあてがない場合でも「金くれ」の代わりに「金貸して」と表現を和らげるのに近いものがある。【成句】 lınſ ace nccſ 嘘も方便　hınɔc e ace cȷ̀l lın. 積み重ねた嘘はやがて真実になる：嘘から出た真 【用例】 ȷ̀ə{lıɑ, ȷ̀lɔȷ, μenȷ} ace ɑel ſɔſɔ ɔn ɔn に関して ɑel という嘘をつく　☆ heſe ace 嘘をあばく　☆ ace ıſ heſe 嘘がバレる　ᴅın acı ȷcl ȷeɑɔ ɔl ace eᴅ heſe. だって最初の嘘がばれてしまったら、世界は消えてしまうから。　el ȷ̀ə lcn ace. 嘘を吐いてはいけない。　ȷee lə ȷ̀ɔıſ ace ȷıᴅ ı ſə ace, そして嘘の上にもうひとつ嘘を作ったんだ。　ſə eſ enuc ȷ̀ılcȷ ınſ ɑı. el ȷ̀ıᴅcl nı ȷen ıᴅd ı ucenȷ̀yɔ ſcɔ ɔ ace ſcȷ ɔl lə ɑeμſ lını lıɑcı. lə ȷ̀ıᴅcl ᴅcyə ȷen ſəəȷ ı uıȷn ſın ɔl lıl. ıſə eſ uıȷ̀lı l'ın lı ıl. ıſə eſ ȷ̀ı lſe len ın ȷ̀lcſ lıɑ e lɔɔſɔ. ace yəſ ın l'ıᴅcμe ȷ̀ɔ ace ſcȷ cȷ̀ ᴅcyə ı ſμınȷ. それが僕のわずかな力。ただの強がりもウソさえも願いを込めれば誇れるだろう。望めば勇気にもなるだろう。ここが僕のいるべき戦場。覚悟の価値を決める場所。ひとつのウソにさえすがる僕のそのウソが誓いに変わる（ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『バトルクライ』） ın nıſ ſɔſıl ace ȷcl μəl ɔȷ̀ lec ſc. 君がいればどんな嘘だって すべて本当になる気がした（『囚人』）

aceȷel ［名詞］(ſcl) 嘘吐きな ［反意語］ɑcıȷel ［レベル］2　1L

aceȷel ［歳時記］エイプリルフール、嘘の日 ［レベル］5　ul;/ ȷ̀ɱ ［文化］ ul のケートイアで ᴅel scl にできた催日で、アルバザードに入った。アルバザードの暦には正式採用されていない隠れ歳時記だが、この日は嘘をついて人をからかう習慣がある。【用例】 "nɔn hıſcı ſyə. nı nın, ace eə. acȷ eſ aceȷel ſcȷȷe". ı yı, nɔn μenȷıſ ace. nɔn μenȷıſ ace ſeə "nının, ace eə".「すきだよ。なんてね、嘘。今日エイプリルフールだよ」。うん、わたし嘘ついた。「なんてね、嘘」って嘘ついた（ȷeμen ıμbızıμɑ）

acen ［格詞］～だけれども、弱譲歩 ［レベル］1　1L:acn

aceᴅez ［名詞］デマ、デマゴギー、流言、俗説、風説、流説、流言飛語、流言蜚語 ［類義語］ȷ̀ılzıȷ̀ləueμ、enlᴅez ［レベル］4　μɑ;/ ȷ̀ɱ ［語法］ 嘘の噂や流言のこと。主に意図的なものである。広めた者が誤って間違いと知らずに信じて広めた事実に反した噂は enlᴅez で、嘘と知りつつ流した噂を aceᴅez という。両者の違いに注意。

aceɑıs ［名詞］［形容詞］おためごかし ［レベル］4　1L: 偽の親切

acedμɔdıılı ［名詞］偽善 ［レベル］4　ȷȷ【成句】 acedμɔdıılı ȷɔnɔ nɔɑ dμɔdıılı enȷɔnɔ やらない善よりやる偽善 (ȷeμen ıμbızıμɑ)

acel ［名詞］偽者、贋作、レプリカ、まがい物、えせ、エセ、似非 ［形容詞］偽の、ニセの、偽物の、まがい物の、似非の ［類義語］ȷclφcəȷ ［反意語］ȷ̀ılȷ ［レベル］3　1L:ace/ſəl

aceȷ̀lıᴅc ［名詞］エセ科学 ［レベル］5　μɑ;/ ȷ̀ʔ

acelȷſenſ ［地球の星座］［ユマナ］ニセ十字　ȷ̀ɱ ［文化］ caı

acelȷılcı ［地学］仮晶　1L

acelᴅccnı ［植物］造花 ［レベル］3　μɑ;/ ȷ̀ʔ 【用例】 nɔn ɑɔȷ̀lıſ acelᴅc cnı ıl ez. 部屋に造花を飾った。

acelᴅed ［形容詞］［ネガティブ］高い上に質の悪い、値段に見合わないほど高い ［類義語］leıleμcı、aılſc ［反意語］ıμſᴅcleel ［レベル］3　ȷ0: 偽の鏡 ［語法］ ȷclφcəȷ のこと。値段のわりに価値がないもの。価値がないのに値段が高いもの。

acelyəlaın ［名詞］エセ研究者 ［レベル］5　μɑ;/ ȷ̀ʔ

aceeȷſ ［普通動名詞］騙り ［動詞］yəl を lel と騙る、騙る、かたる、偽の名を名乗る、名乗る ［レベル］3　μɑ;/ ȷ̀ʔ

aɔ ［名詞］音 ［格詞］音格。～の音で。後ろにオノマトペを取る ［動詞］yəl を鳴らして lel という音を ı に出す、鳴らす、鳴る、鳴らせる ［類義語］dcıl、bcı、μeca、ȷ̀leμ、aɔncᴅ ［レベル］1　a;aıcı　古 : 音象徴から ［語法］ 擬音語を後ろに取る。擬態語は元々アルカにはフランス語同様ほとんど存在せず、aɔ も擬態語は取れない。【成句】 ſ aɔ ſcnl ı ȷ̀ ſ が ȷ̀ に鐘を鳴らす : ȷ̀ は ſ に心当たりがある。　ȷeleȷ e ſ aɔ ſcnȷ̀ ı ſə e ȷ̀ 一心同体。ſə e ȷ̀ の部分は ləəſ や ılcȷen などとする。【用例】 aɔ ȷ̀ıc 大きい音 : 大きい動物ほど大きな鳴き声を出すアナロジーから。　aɔ ȷɔμ 高い音 : 高音は頭のてっぺんから出すようにし、低音は胸に響かせる発声法からのメタファー。　lɔd cȷ̀ ᴅɔnɔ aɔ ȷ̀lccȷ. 電車がキーっと音を立てて止まった。　eȷȷ̀ aɔen dcddcd ぴちゃぴちゃ振る雨 : aɔen を挟むこと。オノマトペは単独では形容詞になれない。そうでないと eȷȷ̀ dcd のとき、「投げられた雨」に見えてしまう。

aɔſ ［名詞］紐 ［動詞］yəl を ı（柱など）に縛る、縛る、結わく ［名詞］栞紐、栞ひも、しおり紐、しおりひも、スピン ［類義語］aɔſ ［レベル］2　au; aɔſȷ.ȷ̀　1ʔ: 制 : 古 :aɔſȷ（解放する） aɔſ:aɔſ

aɔſȷ,au aeȷn

aɔſucın ［物理］張力 ［レベル］5　ȷ0: 紐にかかる力が典型例であることから ［文化］ 物体の平面における引っ張り合う力のことで、応力の一種。

aɔſılcſ ［物理］音速、マッハ ［レベル］4　ȷ0: 音の速さ

aɔſɔc ［音楽］調律、チューニング ［動詞］yəl を調律する、調律する ［レベル］4　ȷ̀1

aɔȷ̀ ［動詞］yəl を ı に足す、足す、加える ［数学］［接続詞］足す、＋ ［文頭純詞］さらに、更に ［数学］足し算、加法、加算 ［接続詞］ſ ＋ ȷ̀ ［言語］添加 ［レベル］2　1L:aıȷ̀:1ʔ: 制 : 古 :acȷ̀ȷ̀（足す）: 接続詞の ɔ が足し算に見えるようにアプラウト。［語法］ 四則演算子は順番に +, −, x, /（ıμȷ̀ınſcȷ 表示で）。要するにｑｗｅｒｔｙのキーと同じ。　/ は ſ/ȷ̀ だと「ｔとｋ」。ʔ/ɱ だと「３足す４」のことではなく、「３と４の比」を意味し、結果的に分数を作る。

aɔȷ̀zed ［数学］足し算 ［レベル］2　ȷ̀1

aɔȷ̀sıȷ ［数学］帯分数 ［レベル］3　1L

aɔȷ̀ı ［音楽］音階 ［レベル］3　ȷ0: 音の場所 ［文化］ aɔμ

aɔȷ̀ınſcȷ ［数学］足し算文化　μɑ;/ ȷ̀ʔ ［文化］ レジがおつりを返すときに、代金から客が払った額まで数え上げていくのが足し算文化で、フランスなどがこれに当たる。一方日本のように客が払った額から代金を引いた額をおつりとして返す日本のようなやり方を引き算文化という。　アルバザードとルティアは ȷᴅ まで足し算文化だったが、凪の影響で引き算文化を取り入れ、μɑ では引き算文化が浸透した。

aɔȷ̀en ［数学］和 ［レベル］2　ȷ̀1:aɔȷ̀ 属格 ［語法］ 数学の和、差、積、商はそれぞれ aɔȷ̀en, acɑen, hınſen, aeȷſen で、いずれも四則を属格化したもの。　uc hınſ uıl の場合、hınſ は接続詞で、uc がかけられる数で、uıl がかける数。ȷ̀eſ lı hıl elen の場合、上つまり hıl になっているのは elen でなく ȷ̀eſ。ȷ̀eſ hılen elen でも同様。このようにアルカでは格詞や接続詞の意味はその格詞や接続詞の目的語でないほうにかかる。そのため、uıl でなく uc が「かけられる数」になる。逆に取りやすいので注意。　uc が hınſɔl で uıl が hınſın になる。その結果の積は hınſın, hınſɔl を使用しているのでどちらも使えず、属格の hınſen で示されるようになった。動詞にかかる属格なので「～の」という意味はなく、意味を変化させつつ名詞化している。そしてこの属格の用法は和、差、商などにも及ぶ。

aɔl ［言語］ɑ の文字 ［レベル］1　1ɱ: 制 : 摩擦 ［語法］ 第７文字目の幻字。

aɔl(ȷ) ［動詞］yəl を擦る、擦る、こする、さする、摩る ［普通動名詞］摩擦 ［類義語］ȷɔnſ ［レベル］2　lılſı: 擦るオノマトペ 【用例】 ın aɔlıſ ᴅıcn ȷ̀ı eμl lını ɔȷȷ̀ nɔȷ. 体を綺麗にするためにお風呂で擦った。

aɔlſ ［名詞］男のオナニー、自慰、オナニー、ちんぽこかいかい、チンポコカイカイ。「ちんぽこかいかい」というのはセレンが４，５歳で床オナを初めて発見したとき、この行為がなんという名前なのか知らずに小学校高学年から中学生くらいまで使っていた個人語のこと。このことをカミングアウトしたらメルに爆笑された。［動詞］yəl を自慰させる、男がオナニーする、自慰する、オナニーする ［類義語］aɔs、dlıſ ［反意語］leel ［レベル］3　1L:aɔl（擦る） ［文化］ キリスト教と異なり我慢は体に悪いとされ、特に性欲の強い１０代には推奨される。思春期から２５までは毎日行ってもよいとされる。それから徐々に減らし、子供ができたり３０近くになれば週１～２回程度にするのが通常。している率はほぼ１００％なので隠す必要はないが、わざわざ言うことでもない。日本ほどではないがそこそこ恥ずかしいのでふつうは話題にしない。オカズは妄想や動画で、動画はアンセからダウンロードする。また、手で行うのが多いが、ヴォルム人

形を使ったりもする。　女子は男子が１００％しているのを知ってはいるものの、自分の彼氏は清潔で ɥəlʃe だと思っていたい。男子は女子のその気持ちを知っているため、女子の前ではオナニーの話はしない。

aɔlɟɔµʃ ［形容詞］かなり肌寒い ［レベル］3 1L 【用例】 ʃə eɟ aɔlɟɔµʃ cᴅ ʃəɔ. とても肌寒くなった。

aɔlucl ［医療］擦り傷、すり傷 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ 【用例】 ʃcl aɔlucl ɔn ～をすりむく、擦りむく、擦り剥く

aɔlaɔ ［言語］摩擦音 ［レベル］6 1L 【成句】 ɪleɟ aɔlaɔ ʃ'cneɪɪʃɔ イネアート人の摩擦音を笑う：重箱の隅を楊枝でほじくる。イネアート人は摩擦音を強く発音する傾向がある。ɟᴅ においてアルバレンを教えるとある教師が生徒のスピーキングを完璧なものにしようとして嫌味なほどにその摩擦音を指摘したことから。

aɔɟ ［動詞］ɥəl を捕まえる、捕まえる、逮捕する ［法律］逮捕、タイーホ、タッホイ ［レベル］2 1L: 中期制アルカから 【用例】 nɔn aɔɟ ɑɪn ʃɥə eɼ 逮捕しちゃうぞ

aɔɟʃ ［名詞］縄、ロープ、綱、索具、支え綱、シート ［レベル］2 1ʔ: 制：恣意

aɔɟʃɑɪlᴅ ［軍事］火挟み µɑ;ɑɪcaɔɟʃ/ɑɪlᴅ ᒧᗰ ［文化］ φel

aɔɟʃφel ［軍事］火縄銃、マッチロック ［レベル］4 µɑ;ɑɪcaɔɟʃ/φel ᒧᗰ ［文化］ φel

aɔɟl ［名詞］ソファー ［レベル］2 1ʕ: 制 :aɔnɟlc

aɔɟc ［被服］下着、アンダーウェア、インナーウェア ［レベル］2 1ᗰ: 制 :aɔɟc:aɔɟɪ:ɟɔµn:ɑɟɪn: 制では上着の下に着るものを指した。 【用例】 ɪn ɟɪbɪʃ aɔɟc ɟɪᴅel. ＝ ɪn ɟɪᴅɪʃ aɔɟc. 下着を着替えた。

aɔɟeʃ ［音楽］消音、ミュート ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɟ: 音を殺す

aɔɟeʃsczɔl ［音楽］ミュートギター ᒧ1

aɔn ［法副詞］～しないでください。丁寧な禁止 ［レベル］1 1L:aɔnl ［語法］ µe

aɔn,ɟzɑ ʃeeze aɔueʃ

aɔnʃ ［交通］道、道路 ［動詞］ɥəl を通る、通る、通過する ［動詞］伝わる、伝導する→ ləlɔ ［電算］バス ［メタファー］方法、道、方策、方向性 ［レベル］2 µɑ‹aφn 1L:ɟɔµn: 古 :ɟɔµn:dɔnʃ（道） lədɪ:lədɪ:lə ɟɪnse（伸びているので棒状）:hɪ,ɪlʃ ［語法］ → ləlɔ 道の性質や大きさによって aɔnʃ,uelɪnʃ,ɪluelɪnʃ,ᴅcuɪʃ,ləlɪ,ɪdɪn,lɪaɔn,ɥəəɑ に分かれる。aɔnʃ は総称的。 ［文化］ → dɔnʃ アルバザード人は自転車や徒歩で移動することを好むため、道の形状や性質や大きさといったものに比較的敏感である。 ●道幅 道は車やバイクが通れる車道と、自転車道と歩道に分類される。 車道の幅は車線数に関わらず３．７５ｍ (ʔᴅelɑc) である。日本の片側二車線道路より広い。車道とそれ以外の道はガードレールで区切られている。一車線のみの車道は一方通行を除いて存在しない。日本のような４ｍ道路は存在しない。 自転車道と歩道の幅はどの道でも２．５ｍ (ᒍᴅelɑc) である。両者はガードレールや境界線で区切られている。 通常、道は車道＋自転車道＋歩道で構成される。 自転車道と歩道しかない道路に車は進入することができない。 車道＋自転車道＋歩道で最も狭い道は８．７５ｍ (٩ᴅelɑc) の一方通行である。 最も数が多いのは片側一車線の車道＋自転車道＋歩道で、１２．５ｍ (10ᴅelɑc) である。従ってアルバザードの道は日本に比べてかなり広く作られている。平地が多く健康志向が強いアルバザードでは自転車の普及率が高く、自転車道の整備がよくなされている。 また、交通事故を徹底して減らそうとした街づくりの甲斐あって、歩道もきちんと車道や自転車道から分離している。この広さは安全に繋がっている。 ●ランティス通り・アルミヴァ通り ランティス通りとアルミヴァ通りは片側３車線の計６車線で、自転車道も倍幅となっている。よって道幅は３．７５ｍ（ʔᴅelɑc) が６つに２．５ｍ (ᒍᴅelɑc) が３つなので、２２．５ｍ (1∆ᴅelɑc)＋７．５ｍ (ʕᴅelɑc)＝３０ｍ (ᒧᗰᴅelɑc) である。 カルテ外周からリディア通りまでは半径１８７．５ｍ (1ᖵ0ᴅelɑc) であり、ここが住所上はリディア通りとなる。このうち道路の幅だけで３０ｍ (ᒧᗰᴅelɑc) を占めるため、居住可能な区域は１５７．５ｍ (1ᒧʕᴅelɑc) の半径内である。 ●最も狭い道 いくらインフラが整っているアルバザードでも、住宅街の小道ひとつひとつまで広い幅の道を作ることはできない。たいていの家の前は車道と自転車道のない歩道で、最低２．５ｍ (ᒍᴅelɑc) の幅を持つことになる。 ところが実際法で定められた最低の道幅は３．７５ｍ (ʔᴅelɑc) である。これはなぜかというと、救急車と消防車のような緊急車両が入れるようにするためである。従って、住宅街における家の前の小道はたいてい３．７５ｍ (ʔᴅelɑc) である。 自宅の前は往々にして車道に接していないため、アルバザードでは田舎を除いて自宅に駐車場という概念はなく、町内会などの地区ごとに共有の駐車場を持つ。その駐車場は車道と接しており、そこまで歩いて行くことになる。たとえ庭が広くても車道に接していない家では車を庭に置くことができない。これも歩道と車道を分離することで事故を防ごうとする安全意識の現れである。 一方、自転車は庭におけるが、自転車道に出るまでは手押しで歩かなければ違法である。(ただし実際のところ、道が空いている場合はこれを無視する人が多く、警察もこれについてはあまり見咎めない） 【用例】 ☆ aɔnʃ eᴅɪʃ ɑeɥə ᴅcl ɟɪe ɑɔʃ. 大雪のため、交通が麻痺した。 ʃə aɔnʃ lˈe lɪnʃe. この道はカルテにつながっている。 ʃə aɔnʃ lənɪ lɪnʃe. 同上：自分がカルテにいて、道を見ている。 ʃə aɔnʃ lˈe c lɪnʃe. この道はカルテから来ている：カルテのほうを向いている。また意識上の動線はカルテから自分のいるところに来ている。自分の体はその場にあるが、意識の上ではカルテにある。lənɪ c にすると、自分の意識は自分のいる場所になる。ややこしいが、日本語と同じ感覚なので読者は使い分けは楽なはず。

aɔnʃuccɑɪ ［生物］［医療］経穴。五兪穴の経穴。 µɑ;/「経脈の通る穴」 ᒧᗰ

aɔnʃᴅenʃe ［名詞］立ちんぼ ［レベル］5 ᒧᒧ

aɔnʃɑcl ［交通］行き止まり、突き当たり、通行止め、袋小路 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɟ 【用例】 ☆ ʃə aɔnʃ lˈe aɔnʃɑcl. 行き止まりの道だった。

aɔnʃdɪᴅ ［名詞］街灯 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɟ

aɔnʃlɔd ［交通］市電 ［レベル］3 1L

aɔnʃecl ［交通］路肩、路傍、道ばた、道端 ［レベル］3 1L 【用例】 ɟɪe ɪʃeɟ hɪnʃ ɪʃc ɑc ɪ aɔnʃecl. 雪がたくさん路傍に積み上げられていた。

aɔnl ［気象］突風 ［魔法］フォンシュ（エアロ）。風の低位黒魔法。突風で相手を吹き飛ばす。 ［レベル］3 古：風のオノマトペ

aɔnɟ ［動詞］ɥəl を ɪ（役職）に雇う、雇う、雇用する ［経済］雇用 ［レベル］3 1ʔ: 制：古 :aəʃɔɪn。aəʃɔ は取るの意味だろう。ɪn は人。

aɔnɟʃɔnl ［経済］［政治］雇用者階級、ブルジョワ、ブルジョワジー ［レベル］5 1L ［語法］ 裕福な資本家や雇用者などを広く指し、労働者階級の対語として使われる。

aɔnɟɪn ［経済］雇用者 ［レベル］4 1L:clᴅəɟ:µcɑcɪ

aɔnɟɪns ［生物］胸鎖乳突筋 ［レベル］6 ɟzl;aɔn/ɟɪnse ᒧ1 ［文化］ aɔnφɪµ

aɔnɑ ［名詞］ごまかし、誤魔化し ［動詞］ɥəl（ごまかす内容）をごまかす、ごまかす、誤魔化す、はぐらかす、お茶を濁す、さばを読む ［レベル］2 1ᖵ: 制 :uɪɟʃe:aɔnl（避ける）/ɑce（嘘）。突かれたくない本題や本質を避けるための嘘 【用例】 aɔnɑ ʃɔlcɟ 年齢をごまかす

aɔnɑnɪl ［名詞］ごまかし笑い ［動詞］ɥəl をごまかし笑いさせる ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcɟ

aɔnφɪµ ［生物］風池 ［アクセント］aɔnφꜛɪµ ɟzl;aɔn/φɪµ ［レベル］6 ᒧ1:µcɑcɪ: 風の門 ［文化］ ルクレティアで風が入り込む場所。ここからやや外側の胸鎖乳突筋沿いに冷気が入って自律神経を乱したり免疫を弱くしたりする。 比較的民間人にも有名なツボで、ここを冷やすと冬に風邪を引いたり夏にクーラー病になるということが知られている。 夏場もここと aɔnɟɪns を暖めておくと、クーラーをつけても冷房病になりにくい。 訳語を調べていたら地球のツボに「風池」というのがあって、造語者の身体センスに驚いた。

aɔnblɪn ［地名］フォンブラン ［名詞］綿モスリン ɟzl | nɑ;‹lʃ。フォンブランの名産だったことから。 ᒧᗰ

aɔnblɪnʃ ［被服］シュミーズドレス nɑ;‹lʃ‹aɔnblɪn/ʃe ᒧᗰ ［文化］ lʃ の貴婦人が着ていたドレスが輸入された。nɑ 後期の貴婦人の間で大人気となり、lʃ は服飾部門においてかなりの貿易黒字を出した。つまりアルバザードは貿易赤字を出した。当時の技術としては最先端の薄い布である綿モスリンを使っていたため、冬場これを着て肺炎になる女性が多発した。貿易赤字に困っていたこともあり、ときの政府が不買運動をしかけ、在庫を大量に抱えた貿易商が困り、シュミーズドレスの下に着れる防寒用の下着である ɪlaɔnl を開発したところ、シュミーズドレスの売上が再び増えた。この出来事により ɪlaɔnl が生まれ、やがてこれが防寒着の意味になっていった。

aɔnz ［動詞］ɥəl を ɪ（役職）に採用する、採用する ［レベル］3 1ᖵ: 制 :aɔnɟ ［語法］ 雇うという意味の場合は aɔnɟ。

aɔnl ［動詞］ɥəl を避ける、避ける、さける、よける、敬遠する、かわす、躱す ［名詞］回避 ［法副詞］～しないほうがよい ［レベル］1 1ᗰ ← 古 :ləɑ ［語法］ 物理的に何かをかわすこと。物理的に何かから遠ざかること。精神的に、かかわりを持つことを嫌ってその物事を避けること。 【成句】 aɔnl lɪn 人見知りする。人を避ける 【用例】 ɪn lɪʃ µɪ lɪnɪ aɔnl eɟl. 雨を避けて家にいた。 ☆ ɪn sɪl nec lɪlʃe l'ɪn aɔnl hɪ µʃɪʃc lɪ. まだどこに避暑に行くか決めてない。 hɪdn aɔnlɪʃ ɟɪeφel ɪɪl ɔl. 友達は器用に雪玉をかわした。 ɪn ɟɔʃ aɔnl ɟɔɪ. そうすべきではなかった。

aɔnlφel ［運動］ドッジボール µʃ;/「避ける球技」 ［レベル］2 ᒧʔ ［文化］ µʃ で考案されたゲーム。日本のものと基本的に同じ。小学生が放課後などに男女混ざってやる。中学生以上になると自然とやらなくなる。主なデメリットは突き指や胸痛。内野は lɔʃ で外野は lelɟ。

aɔnc ［名詞］非常に短い間、瞬間、一瞬、刹那、とたん、途端 ［副詞］一瞬で、瞬時に、瞬間に ［類義語］ᴅcl ［レベル］2 1ᖵ:ɟeµen:llel:aɔnɪ（非常に長い間）:aɔn（長い） ［語法］ ɑclɑə 実際には１秒以内から１分程度まで、場面に応じて幅広く。 名詞用法は「～するとすぐに」、「～した瞬間」の意味で使われることが多い。 【成句】 lc aɔnc ただいま、はいただいま、只今、今お持ちします lc{llɔn} aɔnc 一瞬で 【用例】 lɪd ɪʃ ɪµ cᴅ aɔnc ɑel ɪn lɔlʃcl µɪ. 家に着いた途端、電話がなった。

aɔncᴅ ［音楽］音色、音の種類 ［レベル］3 ᒧ1:aɔ/ncᴅ。この ncᴅ は種類の意味

aɔncɥəɔ ［言語］瞬間動詞 ᒧ0 ［語法］ 経過相がほぼゼロであるために、無相と完了相がほぼ同一視される動詞。「消す」など。 瞬間動詞の無相は完了相への強い指向性を示す。

aɔnɔ ［被服］ガウン ［レベル］3 1ʕ: 制 :aɔn（長い）から

aɔu ［物理］音波 ［レベル］4 ᒧ1:aɔ/eeu

aɔueʃ ［言語］オノマトペ、擬態語、擬音語、擬声語、擬情語 ［レベル］4 1ᖵ: 制：音の言葉 ［語法］ → hɪɪlueʃ オノマトペは擬音語、擬態語、擬声語、擬情語に大別される。 このうち擬声語は擬音語に、擬情語は擬態語に含められることが多い。 擬音語を欠く言語は存在しないが、擬態語を欠く言語は存在する。 例えばフランス語にはジグザグなど一部を除いて擬態語が原則存在しない。 ここでよくある誤解が「フランス語は明晰だから」や「日本語は感情表現が豊かだから」といったものである。 こういうものは民間語源と同じで信用できない。平然と出版物に載っていることもあるので注意したい。 明晰だとか感情豊かだという問題ではなく、同じ感情に対してどうアプローチするかの違いにすぎない。 フランス語は

「イライラする」を表す場合、s’ａｇａｃｅｒのように擬態語以外（ここでは動詞）を使って表す。　逆に日本語も擬態語を使わず「苛立つ」のように表現することができる。　　ただ、まったく両者の間に差がないかというと、そうとも思わない。　同じ人間だから「イライラ」という感情はあるが、それを「飛ぶ」や「熱い」などの普通の言葉と同列に捉えて客観的に表現したがるのがフランス語だとしたら、擬態語などの音声に委ねて感覚的に表現したがるのが日本語といえる。　この「したがる」という部分、つまりアプローチの仕方が両者の差異である。　　さて、人工言語的に見ると擬態語を作らないほうが作業が楽に見える。　しかしフランス語と同じく、結局その分ほかの動詞なり形容詞なりを作ることになるので楽はできない。　ちなみに日本語のように「イライラ」も「苛立つ」も両方作ると手間がかかる。が、そういうアプローチにしたいのであればやる価値はあると思う。　　人工言語に擬態語を付与するか否かは楽かどうかという観点ではなく、上で述べた感情表現をフランス式と日本式のどちらにするかという観点で考えるべきことである。　すなわち言語的設定ではなく、むしろ文化的設定である。　　アルカの場合、感情が細分化され細やかであることを良しとするが、客観性を尊ぶので、その表現法は客観的である。　このため、アルカには擬態語が少ない。現実には古アルカ時代の名残を引きずっている。　　・オノマトペの分類　　アルカのオノマトペは擬音語と擬態語に分かれる。このうちフランス語同様、擬態語は少ない。　擬態語に相当する表現を欠くという意味でなく、補完するための表現が存在する。そのため、人工言語造りにおいて労力の削減は期待できない。　　擬音語には帰納音と演繹音の 」種類がある。これはアルカの術語である。　　帰納音はそれひとつで完結しているものである。　猫の鳴き声の nɥı や犬の oɔnoɔn などの擬声のほか、鼻をすする ıs などの擬音がある。これらは勝手に nɥɔ や oınoın や es に変えることができない。　動物の声や物音を聞いてその音を文字に帰納させたものなので、帰納音という。　世の中にまったく同じ音はないが、何度も動物の声を聞いているとある音に帰納することができる。それゆえ nɥı などを帰納音という。　　一方、演繹音とは (卍)卍∀(卍) からなり、規則的に 卍 や ∀ を変えることによって印象を変化させる擬音語である。　例えば dlıʃ は水が「ぱしゃっ」と撥ねる音などに用いるが、それを有声化した bsıɑ は泥が撥ねる音に用いる。　さらに間の母音を変化させることで音の明度と重度を変えることができる。dlcʃ は小さな飛沫が「ぴっ」と撥ねる音である。　同様に bscɑ は水たまりの泥などが「べっ」と撥ねて靴や服などに飛んでいくときなどに使う音である。　演繹音については後述する。　　・分類表　オノマトペ　擬音語　帰納音　擬音　擬声　演繹音　擬態語　・幻日におけるタグ　擬音、擬声、演繹音、擬態語の ᥗ 種をタグとする。

ɑɔɒ ［普通動名詞］取材 ［動詞］ɥəl（取材内容や店）を取材する ［レベル］３ lılʃı 【用例】 ɑɔɒ ıʃe ıʃl おいしい店を取材する

ɑɔɒd ［医療］コレラ、ころり ［レベル］５ lılʃı: 元は ɑəɔɒd（残酷に腹がやられる）

ɑɔɒı ［言語］旁、つくり、アルハノンの旁 ［反意語］eɒı ［レベル］５ ꞁ0:ɑɔ（音）/ɒıcn（体）

ɑɔɒın ［名詞］記者、取材者 ［レベル］３ µɑ;/ ꞁʔ

ɑɔɑ ［名詞］音量、音の大きさ ［レベル］２ ꞁ0:ɑɔ/ɑə

ɑɔd ［医療］ギブス、ギプス、コルセット（医療用の） ［レベル］５ 1ʔ: 制 : 古 :ɑɔdılhɔ

ɑɔhıɾ ［言語］表音文字 ［類義語］ɑɔhıɾɒ ［レベル］５ ꞁ0 ［文化］ → hıɾ

ɑɔhıɾɒ ［言語］表音幻字 ［反意語］eꞁjhıɾɒ ［レベル］５ ꞁ1 ［語法］［文化］ 日常的には表音幻字２５＋１字のこと。日常的には ɑɔhıɾ と実質的な差はない。言語学的には ɑɔhıɾɒ は新生の表音幻字のみを指す。

ɑɔhɔjc ［電算］音声ファイル ［レベル］４ 1L:ɒelcɑcı ıʃe

ɑɔµ ［音楽］音符 ［レベル］３ 1L:ɑɔ/µecn ［文化］ → leɒɒıj　＜音階の呼び方＞　アルミヴァかソームを使う。例えばドは jecnelj か uelɒ。　＜～分音符の表し方＞　地球では八分音符のように、全音符を１/１としたときの分母の数で名付ける。　アルカの場合、全音符を２の n 乗で割ったときの指数の数で名付ける。　全音符：２の０乗＝１で割るので、０音符　二分音符：２の１乗で割るので、１音符　四分音符：同様に２音符　八分音符：３音符　十六分音符：４音符　付点二分音符は二分にさらにその半分の四分が加算されたもので、その長さは全音符の長さを１００％とすると、５０＋２５＝７５％である。この長さの音符の名称は、音符の名称の頭に ıl を付けることで得られる。例えば、附点四分音符は ılʃı ないし ılʃıɑɔµ。　複附点は滅多に使わないので、冗長な名前でも問題なく、ılıl と ıl を重ねていけば良い。　休符は ɒɔl。用法は上記と同じ。　＜音符類の名称と書き方＞　音部記号は beezel と dıµʃ。　線は五本。　拍子記号を「ᥗ–ᥗ」のように音部記号の上に記す。　音符　全音符　黒玉　」分音符　黒玉＋棒　ᥗ 分音符　白玉＋棒　Δ 分音符　白玉＋棒＋スラッシュ　1ʕ 分音符　白玉＋棒＋スラッシュ×」　休符　全休符　中白の菱形　」分休符　中白の菱形＋棒　ᥗ 分休符　バツ＋棒　Δ分休符　バツ＋棒＋スラッシュ　1ʕ分休符　バツ＋棒＋スラッシュ×」　付点は右向き三角形。　アクセントは u 字、スタッカートは縦棒、テヌートは丸を音符の上につける。　ダイナミクス　ucen ʃcnꞁı　ucen　ucen ɥəe　lecɒ　cun ɥəe　cun　cun ʃcnꞁı　シャープは ɥeljɔµ、フラットは ɥelhıcʃ。　タイとスラーは実線にカギ。

ɑɔµʃ ［動詞］ɥəl を逝き返す、いきかえす、生き返す、蘇生する、よみがえる、蘇る、甦る、甦らせる、復活する、復興する、復元する ［普通動名詞］蘇生、復興、復元 ［音楽］ブラッシング ［魔法］フォルト（レイズ、ザオリク）。利の古代魔法。ヴィード死の人間を蘇らせる。 ［組み数字］４/１１ ［レベル］３ 古 :ɑɔµʃcj から ［文化］ ヴィード死状態の人間を蘇らせること。生物学的な死を迎えた人間には効かない。 【用例】 ɒclɑ ɑɔµʃıʃ hıɾɒı jecn ı leꞁıc. ミルフは使徒をこの世に蘇らせた。

lc ʃə, ınj dıꞁıʃ ɑɔµʃ e oıcɒ uɔl ꞁeı ɔ ɒelıɑ ɔ ʃıə, ɥın cɒ ʃɔlɥılʃ, cl 1ʔ oıcɒ eɒıʃ ɑɔµʃ. その後、修復や復元、購入により☒の再建が進められ、昨年、全 1ʔ 輌の☒が再び勢揃いした。

ɑɔµʃɑɔ ［言語］リエゾン ［レベル］６ µɑ;/「復活音」 ꞁᥗ

ɑɔµʃcj ［アイテム］フォルティス ［レベル］４ µcɑcı: 古 : ミクの造語 ɑıʃcj が語源らしい ［文化］ ミルフの持つヴァストリア。ヴィード死にある死者を生き返らせることができる聖杖。ファティスの中に隠されていた。µɑ ではメル６年に、アクタカに操られたセレンが殺した使徒をミルフがこの杖で蘇らせた。

ɑɔµꞁ ［数学］分母 ［レベル］３ @ 1L

ɑɔµꞁꞁɔleɒ ［数学］通分→ ꞁɔleɒ ［レベル］３ 1L

ɑɔµɒı ［言語］響字、フォルマ ［レベル］５ ꞁ0:ɑɔ/hıɾɒı ［文化］ → hıɾ、lcɒ

ɑɔµɑ ［娯楽］フォード ［レベル］６ 1Δ:ɒel:ɑɔʃ/ɑejdı。紐の結び方の体系。メルは 1L 年のメルセルに、この案で「次世代の英才教育案」の最優秀賞を取った ［文化］ 紐の結び方の体系。メルが考案した。玩具も買ってもらえなかった少女時代のメルは、孤独を満たすために自分の靴の紐を解き、その紐の色んな結わき方を考えて遊んでいたそうだ。

ɑɔµφ ［音楽］コンポーネント、音楽機材 ［レベル］６ 1ᥗ: 制 : 古 :ɑɔµıφnı（コンポーネント）

ɑɔµı ［音楽］蓄音機 ［レベル］５ µʃ:uınφıµɑ lcczel;ɑɔ/µı「音の家」 ꞁꞁ

ɑɔz ［普通動名詞］発声、発音 ［言語］調音 ［動詞］ɥəl を発音する、発音する、調音する ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ɑɔ ［文化］ 現在は µɑ から３００年以上経過しているため、語彙はおろか発音も当然のことながら変化している。例えば二重母音 ec などは ul では ee と発音と発音された。つまり lecn は「レーン」と発音された。　この事態はアルティス教原理主義者であったイルミロク党の党首ミロク＝ユティアによって起こされたミロク革命によって変化する。アルティス教はアシェットを英雄視し、神と人類の架け橋として敬った。そのため、彼らが最後に制定したメル ꞁꞁ 年の時点でのアルカを正しい言語と位置付けている。　ミロクは革命によってアルカの原点回帰運動を起こした。なお、この運動自体は革命前に既にミロクがアルナ校在学中にリーファ隊などと協力して行っていたものである。　しかし彼らといえど時代の進化に付いていくためには nɑ 以降に生まれた新しい単語を容認する必要があった。そこで最も回帰されたのが文法と発音である。　だが発音も結局のところ原点に回帰しきることはなかった。文法と違って運動分野なので、知識を植えつけるだけでは矯正しがたい分野だからである。　ıl では µɑ に比べてアルティア人の末裔らが中央部にも増えていた。彼らは伝統的に家庭などではアルティア語を使うバイリンガルであったが、アルティア語の音韻構造は単純で、ＣＶを原則とするものであった。アルティア人の家庭は母語としてアルティア語を教えることが多く、子どもはＣＶＣの豊富なアルカを第二の母語として習得することが多い。そのため、どうしてもＣＶＣをＣＶＣＶのように発音してしまうことがある。　彼らと長く生活を続けてきたアルバザード人らも µɑ から数えて３００年という長い期間を経る間に徐々に彼らの発音につられていった。むろんアルティア人もまたアルバザード人につられてＣＶＣを発音できるようにはなっていったが、こういった事情で両者は発音の面で徐々に近づき、結果的に µɑ のころのアルカと比べて子音連続にシュワーを挟む傾向が強まった。　µɑ と ul と ıl の発音の違いを具体的に比べてみよう。　µɑ: nɔɑ ʃə ＝ nɔʃʃə, ılle ＝ ıµle, ʃə eʃ ʃɔ ＝ ʃəoeʃʃɔ　ıl: nɔɑ ʃə ＝ nɔɑɑɜ ʃə, ılle ＝ ılle, ʃə eʃ ʃɔ ＝ ʃə eʃʃ ʃɔ　µɑ 式の発音が正式なので、ミロクはこの発音を奨励した。しかしそれを実践できたのはミロクの影響を強く受けた都市部に限られる。とりわけ若者、しかも学力の高い人間に限られた。農村部の人間や老人、あるいは都市圏でも学力の低い人間は革命前の ul 式で話すことが多い。紫苑がレインに出会ったとき、レインの ʃə eʃ ʃɔɣ が「トゥウェット」に聞こえたことからも、レインが ıl 式で話すインテリな都会人であることが伺える。　なお、ıl 式で話す人間でも自然と µɑ 式に近くなることがある。それは早口で喋る場合で、これは調音上の関係で自然とそうなるためである。　ミロクが権力をアリシアに移譲すると、アリシアは µɑ 式の普及を諦め、ıl 式で妥協することにした。とはいえ、ıl 式ですらまだ大都市圏にしか広まっていなかった。　アリシアはメディアを巧く利用し、本来は ul 式を「古臭くてダサいもの」と広告し、ıl 式を「都会的で洗練されたもの」として打ち出した。もともと ıl 式は µɑ 式から自然発生したものなので、本当に古臭いのは ıl 式なのだが、アリシアの打ち出し方は見事であり、メディアを通して ıl 式は徐々に全土に広まっていった。　時代が下って ls になると、ıl 式は一部の農村等を除くほとんどの地域で浸透していた。µɑ 式への原点回帰には至らなかったものの、妥協的産物である ıl 式が普及されたというわけである。結果、lecn は「レイン」と発音されるようになった。　＜現実では＞　９１～１０ごろまでは上記 µɑ 式で発音された。子供らのアルカが上達していく過程で大人たちが言葉を教えようとしてゆっくりハッキリと話すシーンが何度も見られるようになった。その結果、ＣＶＣＣのような音韻構造もＣＶＣq Ｃのように発音される機会が増えた。もともとこの形式はゆっくり話すときに見られた傾向で、古から存在した。ところが子供に教える関係でこの形式の頻度が急増した。　それを受けて徐々に ıl 式に変化していった。セレンがハッキリ自覚したのは１０年ごろの話である。１１年ごろにはメルらとの会話でも ıl 式を使っていることを自覚した。どうもエンナ嬢などの聞き取りにもこちらのほうがいいという話を聞きつけたセレンは、１１年の春に ıl 式を正式な発音と定めた。　なお、地球では ul 式というのは存在しない。　ＨＰではアルカ耳などは主に µɑ 式で収録されている。このころはまだ µɑ 式が正式だったためである。１１年以降は ıl 式を使うことだろう。

ɑɔs ［動詞］ɥəl をしごく、しごく、扱く、しこしこする、シコシコする、シコる、しこる ［婉曲］男のオナニー← ɑɔlʃ ［類義語］ɑɔlʃ、dlıʃ ［レベル］３ 1L:ɑɔl

ɑɔl ［格詞］～の間、～の期間 ［名詞］期間、区間 ［レベル］2 µɑ ȷ0:ɑlɔ（期間）:ılıʅſı: 執行猶予 参考 : 古 :hɥı（期間） hɥı:hɥı:ɥıl 【用例】 ın lıſ ʅıſ ees ɑɔl lceµnıʅeı. 冬休みの間はカテージュにいた。

ɑɔlſe ［名詞］ミリアとマユの総称、フォルテ ［レベル］2 ȷ1:ɑıl/ɥənſe。ɑıl は光で、明るいの意味。ɑılſe だと uılſe に似るため。 ［文化］ ɑµe cnſ

ɑɔʃ ［名詞］倍、２倍、二倍 ［音楽］フェルマータ ［類義語］hınſ ［反意語］ſcɑı ［レベル］2 1L:ɑɔʅ:1ʔ: 制 ［語法］「～倍」と「～分」は hınſ と ɑeɟſ を使って表現する。一倍は ʅɔhınſ、二倍は ſıhınſ、三倍は uchınſ、四分は uılɑeɟſ のように。ただし日常生活では圧倒的に二倍と二分（半分）の頻度が高いため、これらは ɑɔʃ,ſcɑı と固有の語を与える。なお、３分の２倍のような厄介な数は uc ən ſı ɑɔʃ のように書く。

ɑɔlɟ ［軍事］［名詞］キャタピラー、キャタピラ ［レベル］3 ul ɟɔµn

ɑɔln ［美容］バンド、束ねるゴムや紐、髪ゴム ［レベル］2 lıʅſı: 本来は髪を束ねるものだった

ɑɔlen ［接続詞］ɑɔl ［レベル］3 ȷ1

ɑɔcl ［形容詞］早い ［名詞］ある期間や区間や範囲のうちの前半の方。 ［類義語］uıɑ、ᴅıd ［反意語］lecl ［レベル］1 µɑ:ıᴅıuel;ɑıl.ʅ ȷʔ:ıᴅıuel。アマヴェルの初の造語 ȷʔ_ᴅcʅ_scl。 ［語法］ ある期間や区間や範囲のうちの早い方ないし前半の方。早起きなどの「早い」に相当。 【用例】 ın ᴅɔʅ uın ɑɔclel cᴅ ɑcɟ. lcɑcıɾ 今日は早く寝る。おやすみ！ ɑcn ın lənıſ ɑeʃc ɑɔclel, lıl ɟıen ınſeɟ eɟ ɔnʅ enſɔ ın lıſ ucl ıl ez le lıl ıµ ɟcl ɥə ʅı. 塾に早く来たけど、自分らの前のクラスがまだ続いていて、自分の授業が行われる教室に入れない。

ɑɔcllıɑſ ［名詞］早番 ［反意語］lecllıɑſ ［レベル］5 ȷʔ

ɑɔclneſ ［再帰動名詞］早起き ［レベル］3 ȷʔ ［文化］ ６時より前に起きることを指す。アルバザードでは１２時に寝て６時から７時半に起きる。７時間半睡眠が最良とされ、６時間は短いに入る手前の限界値とされる。 早起きは三文の得という概念はない。寝る時間が変わらない限り短眠につながり、不健康。短眠健康法はアルバザードでは不評。また、早く寝て早く起きるというのも好まれない。ただし子供は１０時台に寝ることがある。 【成句】 ɑɔclneſ leɑen dcſı eſ ıɑeſ nɔɑ leclneſ ɔʅen dcſı. 遅く起きて薬を飲むより、何も飲まずに早起きするほうが効果的 : 朝起きは三文の徳 【用例】 ɑɔclneſ eſ led. 早起きするのは難しい。 ın cʅ nɔſ ı ɑɔclneſ. 早起きに慣れた。 ☆ ın ıµ nelſ ɑɔclneſ. 早起きの習慣がある。 ın uıµıe ɑɔclneſ ıʃ ıl. 私が最も嫌いなのは早起きだ。 ☆ el eᴅ ʅıφ ɔn ᴅel ɔl ɑɔclneſ. 早起きすれば時間に余裕が生まれる。 ın nıſ ʅcn ı ɑɔclneſ cᴅ ɟɔı ɑııµ ɟɔµſ. こんなに寒い朝は早起きが辛かった。

ɑɔce ［動詞］ɥəl を馬鹿にする、馬鹿にする、バカにする、愚弄する ［類義語］ıleɟ ［レベル］2 ɑu;e 古

ɑɔɔɟ ［工学］レール ［レベル］5 ȷ1:ɑɔnſ/ɟcz

ɑɔɔɟᴅɥəſ ［工学］軌間、ゲージ µſ;/ ȷɱ ［語法］ 鉄道の線路を構成する左右のレールの間隔。

ɑɔɔn ［美容］シニョン、シニヨン ɟᴅ;ɑɔſ/ncı「紐で結んだような髪」 ȷɱ ［文化］ ɟᴅ でできた。主に貴族の女性用。

ɑɔɔnı ［音楽］調、キー ［レベル］4 ȷ1:ɑɔ/nı

ɑɔɔle ［言語］『制アルカオノマトペ』 ［レベル］5 古 : 原義は ɑɔlecɟſ（音の本）。ソーンに同書を解禁したときにソーンが命名した。

ɑɔe ［名詞］爆薬 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟıɑ:ɑıcıhɔe（爆発に使う粉）

ɑɔen ［接続詞］ɑɔ ［レベル］3 ȷ1

ɑɔə ［名詞］２～３ ［形容詞］２～３の ［類義語］ılɑɔə、ſcə ［レベル］1 1ɱ: 制 : 古 :ɑɥɔə（ɑə（１）/ɥɔə（２）から） ［語法］ 前置すると基数で「２～３の」、後置すると序数で「２～３番の」。

ɑɔəſ ［音楽］音程 ［レベル］3 ȷ0:ᴅelcɑcı lceµ:ɑɔ/ᴅɥəſ 【用例】 ʔ ɑɔəſ ３度の音程 ɑɔəſ hıcſ 低い音程（低い音階への音程）

ɑe ［名詞］各々、各自、おのおの、それぞれ ［形容詞］各々の、それぞれの（前置） ［レベル］1 1ɱ: 制 : 恣意 ［語法］ 指示として使う場合は前置。 【用例】 ſə ez ſcl ȷ ɔᴅc. µe hɔᴅ ɑe. この部屋には窓が２枚ある。それぞれ開けなさい。

ɑe,ɑ ɑen ɑc,ɑ.ʅ

ɑeſ ［名詞］効果、働き、効能、薬効、霊験 ［レベル］3 古 【用例】 ſcl ɑeſ ɔn{ı} ～に効果がある

ɑeſıµſɑel ［魔法］効果魔法学 ［レベル］5 ȷ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɑeɟ ［動詞］ɥəl を間違える、間違える、ミスる、しくじる、しくる、まちがう、間違う ［普通動名詞］失敗、あやまち、過ち、ミス、エラー ［レベル］2 1L: 恣意 ［文化］ ミスを見つけたらはなるべく早く報告せよというのが常識になっている。それを実践するために、アルバザードではミスをした人を不必要に咎めない。 人のミスを指摘するときは直接言わず、やんわりと仄めかす。ただしハッキリ言ってくれと言われた場合は言う。しかしこの場合でも目をそらして言いづらそうな顔で言うのがマナー。 また、ミスをした人間は速やかに認めて謝罪するのが礼儀。フランスと逆で、アルバザード人はミスを認めることを潔いとする。 【用例】 ın scnɟıſ ɑeɟel. 判断を誤った。 le ıſ ɑeɟ ınſ. 私の過ちだった。 ʅɔᴅɔ ın ɑeɟ ıµʅı ıſc ɑc cᴅ ɑcɟ. 今日は何故かアルカをよく間違える。

ɑeɟſ ［動詞］ɥəl を c から剥ぎ取る、剥ぎ取る、はぎとる ［数学］［接続詞］割る、÷ ［数学］［動詞］ɥəl（数）を割る、割る ［数学］除法、割り算、除算 ［類義語］ſcɑı ［反意語］hınſ ［レベル］2 1ɱ: 制 : 古 :ɑəſɔɟıbe（服を取る） ［語法］ ſcɑ

ɑeɟſzed ［数学］割り算 ［レベル］2 ȷ1

ɑeɟſın ［数学］割る数 ［レベル］2 1L

ɑeɟſıll ［数学］約数 ［レベル］3 1L

ɑeɟſɔl ［数学］割られる数 ［レベル］2 1L

ɑeɟſen ［数学］商 ［レベル］2 ȷ1:ɑeɟſ 属格 ［語法］ ɑɔʅen

ɑeɟʅ ［名詞］メディア、媒体、媒介、仲介、仲介者、なかつぎ、中継 ［物理］媒質、メディアム ［レベル］4 19: 制 :elcɟ

ɑeɟlınſ ［普通動名詞］誤送、送信ミス ［レベル］4 1L

ɑeɟn ［動詞］ɥəl を ı に解放する、解放する、逃がす、放す、放つ、手放す、レリース、リリース、放出する、明け渡す、あけわたす ［普通動名詞］解放、リリース ［レベル］2 19: 制 l:ɑɔɟ（捕まえる） ɑɔſɟ:ɑɔſɟ 【用例】 µen ɑeɟn nɔn. 放して、離して

ɑeɟnɟeleɟ ［魔法］生霊、生き霊 µɑ;/「解放されたセレス」 ［レベル］4 ȷʔ ［語法］ 生きている人間の霊魂が体外に出て自由に動き回るといわれているもの。

ɑen ［形容詞］短い ［美容］ショート ［反意語］ɑcl ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古では ɑe ɑe:ɑe:ɑennel:ɑeelə,ılſ

ɑenʅ ［名詞］革、皮 ［レベル］3 ɑ;e lıʅſı

ɑenʅhɔnɟ ［アイテム］レザーアーマー µɑ;/ ȷɱ ［文化］ 神代で作られた。革の鎧。

ɑenʅı ［文字］羊皮紙 ［レベル］4 ᴅelſcı ȷʔ1:beµſ;ɑenʅ.ʅ ȷʔ

ɑennc ［動物］マンチカン ［レベル］6 ȷ1: 短足猫

ɑenncı ［美容］短髪 ［レベル］3 1L

ɑennel,ɟzɑ ɑen

ɑenul,ɟzɑ ɑcµ ɑınul.ʅ

ɑenulen ［美容］おしろい、白粉 ［レベル］4 ȷ1:ɑenul/en

ɑenuɔz ［アイテム］ショートボウ µɑ;/ ȷɱ ［文化］ zφ で作られた。

ɑenueel ［言語］短音節 ［レベル］6 1L ［文化］ → ɾıɑ

ɑenɑ ［名詞］革紐、かわひも、革ひも ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɑenʅɑɔſ

ɑenᴅcɟſcɟ ［被服］［医療］ケーシー、Ｃａｓｅｙ、ＫＣ、白衣、ベン・ケーシー式白衣 µſ;/ ȷɱ

ɑenɑıµ ［宗教］助祭、ディーコン zφ;「ドアマン」 ȷɱ

ɑenφ ［動物］クモ、蜘蛛 ［レベル］2 lıʅſı:「８本足の」が原義。 ［語法］ 脚と腕の区別は一般人にはなく、どれも zıᴅ。 【用例】 µı e ɑenφ 蜘蛛の巣 ᴅelc e ɑenφ 蜘蛛の糸

ɑenφµı ［名詞］蜘蛛の巣 ［ネガティブ］アルナなどの円形都市 ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

ɑendɔʃ ［医療］風疹 ［レベル］4 1ɱ: 制 : 短いはしか

ɑenhɔ ［生物］短骨 µɑ;/ ȷɱ

ɑenɥɔlɔ ［被服］短パン、半ズボン ［レベル］2 ȷ1

ɑenɥəlɑɟeu ［名詞］小論文 ［レベル］3 µɑ;/「短い論文」 ȷɱ ［文化］ 日本では高校以降の科目、とりわけ受験用の課題というイメージが強いが、作文を子供のころから頻繁に行うアルバザードでは、国語の授業中に小さいうちから頻繁に実施されるため、馴染み深い。

ɑenz ［動物］豹、ヒョウ ［レベル］3 1L:ɑenzel

ɑenzʅıɑ ［地球の国名］コンゴ民主共和国、コンゴ。コンゴ共和国とは異なる。 ［レベル］6 1L: 国章に豹

ɑenzel ［サール］フェンゼル、残酷王フェンゼル ［名詞］１０時 ［名詞］西北西 ［交通］フェンゼル通り ［音楽］ラ ［象徴］残酷 ［組み数字］１０/１２ ［類義語］ɑez ［レベル］2 ᴅelſcı ɱ:ɑenzel;e ᴅel: 古 ［文化］ アルミヴァの１０番。サールの右足から生まれた。ネルメスの兄。黒豹に姿を変える。残酷王として名高い。

ɑenzeʃıɑ ［地球の国名］ガボン 1L: 国章に黒豹

ɑenzellɔd ［交通］フェンゼル線 ［レベル］5 1L:ᴅelcɑcı ılſe ［語法］ 地下鉄のフェンゼル線。１０時の方向に走る国鉄。

ɑenzelıµſ ［魔法］禁呪魔法 ［レベル］4 1L: 残酷王フェンゼルのような魔法 ［語法］ 残酷なあまり使用を禁止された魔法。全身の痛覚を刺激し、ショック死させる魔法。全身の痒みの神経を刺激し、対象が自らを掻き毟って死なせるようにする魔法。苦しみもがいて死ぬ魔法。これらが禁呪魔法にあたる。神や人間が拷問目的で開発したが、神の時代から既に禁忌されていた。

ɑenzel ılɟıl ［人名］フェンゼル＝アルサール 19:ɟeµen:lec e lcɔn: 残酷なイメージだったのでフェンゼルにした ［文化］ アレイユのアルタレス。ɱ09 年、為政者アルテナに反旗を翻すも、ハイン＝アルテームスにより粛清される。

ɑenzelcſ ［名詞］自己愛 ［類義語］nɔe ［レベル］4 ɑu;ɑenzel/ſe ȷʔ

ɑenzeleſ ［色］青がかった緑 ［レベル］4 ȷȷ:ɑenzel/ſe

ɑenl ［形容詞］ふわっとした、ふわふわの ［形容詞］気軽な ［副詞］気軽に、気安く ［類義語］ɑlıd ［レベル］3 ɑu;ɑɔueſ 古 ɑenl:ɑenl:ɑlıɑ 【用例】 ɑılᴅ ɑenl ふわふわなバスタオル

ɑenlcuµɔ ［名詞］短命 ［レベル］4 ȷ0

ɑenlcl ［化学］クリプトン ［レベル］5 1Δ: 制

ɑenlcl(ȷ) ［植物］ılcɟcn ［組み数字］３/９ ［レベル］4 ɟzl;ɑınſɔᴅ/lccſɔ > ɑınlcl > ɑenlcl ȷ1

ɑenlcl(ʔ) ［言語］［文字］標準筆記体、フェンリル書体、フェンリル ［レベル］6 ȷȷ:ɑleɑclınɟ ［文化］ ɑleɑclınɟ

ɑenı ［被服］トランクス ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑen

ɑenenıs ［経済］短期金利 ȷȷ

ɑeul,ɟzɑ ncᴅ

aeuelʃ ［アイテム］戈、か　au;/「短い鎌」 ⅃ɱ

aea ［形容詞］薄い。厚いの反対の薄い ［反意語］dɔd ［レベル］2　@ 1L 【用例】 ☆ ın ȷıbıʃ ȷıb aea. 涼しい格好をした。

aeaʅlel ［名詞］小辞典 ［レベル］6　μɑ;/　⅃ɱ

aeacφc ［アイテム］ショートスピア　zφ;ae/acφc　⅃ɱ

aeᴅ ［動物］鶏、ニワトリ ［美容］モヒカン ［レベル］2　lıʅſı

aeᴅʃ ［魔法］［言語］［文字］フェムト ［ユマナ］ルーン、ルーン文字　zφ　⅃ɱ ［文化］ 現フレディスク地方に残された謎の表音文字。

aeᴅᴅcue ［動物］ひよこ、雛、ヒヨコ→ ᴅcue ［レベル］2　μɑ;/　⅃ʔ

aeᴅyel 鶏肉、鳥肉 ［レベル］2　⅃⅃

aeᴅlɔhɔ ［アイテム］コリント式ヘルム　μɑ;/。鶏冠が鶏のように見えることから。　⅃ɱ ［文化］ zφ で作られた兜。初期は耳を覆っていたが、命令を聞き取りにくいので後に耳の部分は露出した。

aeᴅı ［名詞］いつか。１年以上。 ［副詞］いつか ［レベル］2　@ 1L ［語法］ acʅɑə

aeᴅe ［名詞］時代、年代 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :caeᴅel（年老いたメル） ［語法］ ●１５時代　創成期から転生期まで、acıl, ıμʃeᴅ, uıȷʃe, ɗıuıȷ, ızφeμ, ᴅeμʃenı, ʅılɔ, ȷelᴅel, ıμɑcı, nıɑcı, ıμʃcl, uelec, ılecyə, lıns の時代に分かれる。　uelec と ılecyə はまとめて lecyə という。時代にはそれぞれ副題がある。

時代	副題	読み	略号
acıl	創世の詩	そうせいのうた	al
ıμʃeᴅ	黎明の燈灯	れいめいのともしび	ʃᴅ
uıȷʃe	悪魔の愁訴	あくまのうったえ	uȷ
ȷıμcı	幻神の午睡	かみがみのうたたね	ȷμ
ɗıuıȷ	黄昏の御子	たそがれのみこ	ɗu
ızφeμ	邑咲の幽茉	むらさきのゆうま	zφ
ᴅeμʃenı	夕月の嚆矢	ゆづきのかぶらや	ᴅʃ
ʅılɔ	紅姫の憂鬱	こうきのゆううつ	ʅʅ
ȷelᴅel	朔夜の架橋	さくやのかけはし	ȷᴅ
ɔμɑcn	守護の御使	しゅごのみつかい	μɑ
nıɑcı	悠久の凪砂	ゆうきゅうのなぎさ	nɑ
ıμʃcl	邂逅の再演	かいこうのさいえん	μʃ
uelec	梟首の大獄	きょうしゅのたいごく	ul
ılecyə	聖刻の歓待	せいこくのかんたい	ıl
lıns	転生の詠	てんせいのうた	ls

●時代区分　二分法と三分法と細分化の三種類がある。　・二分法（μɑ の時代に作られた区分）　al_ɗu:ᴅcμᴅel: 神代　zφ_ls:lınᴅel: 人代　・三分法（ul の時代に作られた区分。日常的には三分法が一番よく用いられる。後に ls の時代に三分法は１５時代を３＊５に綺麗に分けられる区分法だと評され、再評価された）　al_ɗu:ᴅcμᴅel: 神代　zφ_μɑ:ıμʃᴅel: 魔法代　nɑ_ls:alıᴅᴅel: 獅法代　al_μɑ:ȷcɑᴅel: 古代。古代は神代と魔法代を合わせ、獅法代と対立する概念。・細分化（ıl の時代に作られた区分）　al_ɗu:ᴅcμᴅel: 神代　zφ_ʅʅ:lɔnʃᴅel: 上代　ȷᴅ_μɑ:ᴅıᴅeʃᴅel: 中世　nɑ_μʃ:φoıcnᴅel: 近世　μʃ_ul:heʃʃeᴅel: 近代　ıl_ls:dcyɔnᴅel: 現代

aeᴅeʃ ［単位］瞬息　⅃1:aeᴅ/ʃe

aeᴅeʅel ［形容詞］［ネガティブ］時代遅れの、時代錯誤の ［類義語］aeᴅeȷcɑ ［レベル］3　⅃⅃

aeᴅeʅec ［形容詞］［ネガティブ］時流に乗ろうと必死な ［類義語］aeᴅeȷıᴅ ［レベル］3　⅃⅃

aeᴅeȷıᴅ ［形容詞］流行の、最先端の、新時代の ［レベル］3　⅃⅃ ［語法］ ネガティブな場合は aeᴅeʅec。

aeᴅeȷıcn ［歴史］時代考証 ［レベル］4　⅃⅃

aeᴅeȷcɑ ［形容詞］昔ながらの、時代遅れの ［類義語］aeᴅeʅel ［レベル］3　⅃⅃ ［語法］ ネガティブな場合は aeᴅeʅel。

aeφ ［植物］ネギ、葱 ［レベル］2　1ɱ: 制 : 恣意 【用例】 "ʃe μenȷ ɑɔɔᴅı, ʃe μenȷ ɑɔɔᴅı, ı nɔn ı. nɔn μenȷ nın ʃe ɑɔɔᴅı ʃcȷȷe, acen ᴅɔn nɔn ȷccnı aeφ ıʃc ʃcn ʃcn" ♪アホの子アホの子言わないで～。私そんなアホじゃないよ。ちょっとネギは好きだけど（初音ミク）

aed ［動詞］yəl を ı に放り投げる、放り投げる ［レベル］2　ʃᴅ;aɔueʃ lıʅſı 【成句】 ɑen aed ふざけるな：物を投げるなというのがリーザの決めた男子の７禁のひとつ。赤アンクノットにも書いてあるので相当古い。そこから転じて「危ないのでふざけるな」→「ふざけるな」の意味になった。日本語と同じく、「きゃっきゃ騒ぐな」の意味だけでなく、「おい調子のんなゴルァ」の意味にもなる。ı ᴅeȷʃ 参照。

aebcʃ ［動詞］yəl を ı にやる、やる、くれてやる、与える ［類義語］acʃ ［レベル］2　⅃0:μcɑcı: ルシアが物を投げて渡すのを行儀悪いと怒り、その行為を「放り投げる」の aed と「与える」の acʃ から痕跡語にしたもの。aedcʃ になった後、母音に同化して有声音になっている。［語法］ acʃ のぞんざいな言い方。また、ぞんざいな与え方の acʃ という意味もある。従ってユンクも使うが、その場合は「誰それが aebcʃ してきて嫌だった」というように、自分以外の誰かが aebcʃ することになる。

aeμ ［形容詞］安い、安価な ［類義語］lclcφıμʃ、ᴅɔcuelɑ ［反意語］aılʃc ［レベル］2　1ɱ:ȷeμen:ʅlel:aɔμ:ȷɔμn:aılʃc 【用例】 ın lılıʃ aeμen uecn. もっと安いのがほしかった。

aeμʃ ［経済］輸入 ［言語］借入、借用 ［類義語］ʃıə ［反意語］ʅlenz ［レベル］4　⅃0:ȷɔμn:daeμʃ

aeμlız ［経済］ストップ安 ［レベル］6　⅃⅃

aeμȷɔlʃ ［経済］ソルト安 ［レベル］6　⅃⅃

aeμn ［名詞］プラチナ、白金 ［レベル］3　ᴅelʃcı Ꮑ1:φclcəȷ;e　ȷɔμn ［文化］ 銀よりも魔力の伝導率が高く、金属の中で最も魔力の伝導率が良い。最も神聖な金属とされるが、稀少。

aeμndıac ［魔法］白金橋 ［レベル］6　⅃1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

aeμnlcl ［化学］白金→ aeμn ［レベル］4　1L

aeμᴅıʃ ［アトラスの国家］フェルマット ［レベル］5　1L:μcɑcı: 安住の

aeμɑen ［サール］フェルデン ［レベル］4　ᴅʃ100'Δ000(uȷ):dɔen;　古 ［文化］ 闇を司る。悲壮な最期によって恋愛の神にもなった。ティクノとポエンの娘。ダルケスと駆け落ちし、ルフェルに殺される。厳密には兄ダルケスを失ったフェルデンが、ダルケスを殺したアルデスを恨み、アルデスを倒してもらうため、自分の命をルフェルに差し出した。フェルデンはセレスティアを行い、自分のセレスをルフェルに差し出して死んだ。フェルデンは白人系の美少女で、金髪でふわふわの長髪、淡い青のドレスを着ている。髪にはヘアバンド。 【成句】 ıl aeμɑen 恋する者に幸あれ

aeμφıμʃ ［経済］安値 ［レベル］3　⅃⅃

aeμdıμᴅ ［ユマナ］［経済］円安 ［レベル］6　⅃⅃

aeμμıʃʃɔ ［ユマナ］［経済］ドル安 ［レベル］6　⅃⅃

aeμıʅᴅ ［化学］灯油 ［レベル］3　1L ［文化］ アルティル末期からレイユ前期に燃料として利用されるようになった。当時主流だった鯨油よりも安価だったため、このように呼ばれた。しかしレイユ後期では環境問題を考え、灯油の使用は大きく制限されている。 【用例】 acʃ{eu} aeμıʅᴅ 給油する

aeμınlcl ［ユマナ］［経済］ユーロ安 ［レベル］6　⅃⅃

aeμcnʅ ［名詞］にかわ、膠 ［類義語］sıe ［レベル］5　au;aeμcı/aenʅ「煮た皮」。皮を煮て作ったことから。　⅃ʔ

aeμcı ［料理］［動詞］yəl を煮る、煮る、にる、煮込む、煮こむ ［レベル］2　au; ↓　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ←古 aıc/eμcı（熱い水）

aeμcıȷʃeʅ ［料理］煮物 ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

aeμeȷ ［形容詞］ランダムな、無作為な ［類義語］ləᴅcᴅ ［反意語］ılaeμeȷ ［レベル］3　⅃0:aeelμeȷʃ（運命に采配された） ［語法］ 恣意は「単語の語源がきちんと定まっておらず無意味な語形を当てられている」というように使い、そうあるべき流れのないことを指す。ランダムは選定基準がなく、単に任意のものを選ぶことを指す。 【用例】 scφ ılʅ aeμeȷel 数字をランダムに選ぶ

aez ［サール］aenzel の略称 ［組み数字］１０／１２ ［レベル］1　⅃⅃

aeoıııl ［アイテム］ホーマンズフレイル　ȷᴅ;/　⅃ɱ

ael ［普通動名詞］勉強、勉学 ［動詞］yəl を勉強する、勉強する、学ぶ、習う、倣う、まねぶ、真似ぶ ［名詞］学問 ［名詞］学業 ［類義語］yəla ［レベル］2　au;ae/ıl「手近な」。ləlɔ に対して独学で学ぶことを最初は指した。やがて ləlɔ に取って代わり、学ぶこと全般を指すようになった。　1ʔ: 制 :aɔl。制からだが、フィルヴェーユで既に ael。　ləlɔ,a ael, au:ael ［文化］ → ıμᴅeʃcı　学問は uccɑael, ılueɑael, ᴅclaael の３種に大別される。 【用例】 ın ael ıla. 私は数学を学ぶ。　ın aelɔμ ıla. 私は今数学の勉強をしているところだ。　ın aelıʃ ıʅılʃ nɔu cᴅ ʃɔlel, ȷɔn ın neʃıʃ ucl uıɑel cᴅ acȷ. 昨日は夜遅くまで勉強していたので、今朝は早く起きられなかった。

aelʃ ［数学］分子 ［レベル］3　1ʔ

aelʃe ［遊離副詞］［形容詞］たいてい、ほぼ、頻繁に、大抵 ［類音］aeleʃ ［レベル］2　⅃0:aeel/ʃe（運命のように） ［語法］ ıləəʃ

aelʅı ［名詞］学校 ［電算］ハッシュ。例えばレインは「アルナ大のリディア組」と考えると、アルナ大がハッシュで、リディア組がキーとなる。このように考えるとハッシュを理解しやすいことから付けられた。　［類義語］lılʅı ［反意語］aelʅc ［レベル］2　1ʔ: 制 ［語法］ ʅɔael ［文化］ → aelnca, leznınʃ, μılʅ　小学校、中学校、高校、大学、大学院がある。２歳から小学校がスタートするので、日本語に比べ、年が若くなる。例えば中１は５～６歳が通う。学年は３・４・５・６制。１年の違いが大きい若い子供ほど、細かい年数で区切られている。大学は前期と後期に分かれる。　小中までは学業よりも家庭での躾を補強することに注力される。学業優先になるのは高校以降。　教師の権限は高く、生徒は極めて従順である。生徒の個性を引き出したり可能性を発見することはせず、秩序と知識を与えることに徹する。ただ、フランスの教師ほど徹底しておらず、多少は甘いことを言ったりフランクに生徒と話したりする。　体罰は認められているが、高校になると生徒側がもう大人しく座って聞くことに慣れているため、高校以降は体罰はほとんど見られない。日本と違って、学校が荒れるという現象は見られない。小学校のころから厳しく教師に従い理性的に振舞うように教育され、不適格とされた子供は放校になるためである。　男女は共学で、休み時間などは仲良く混ざって話す。男女別のグループになることはない。ただし履修科目は男女ごとに異なることがあり、例えば男子はふつう剣術を修めるが、女子はふつう薙刀を修める。　教師と生徒の淫行はまず見られない。アルバザードの教師は権限が強い分、その気になればいくらでも少女を弄べるが、非常に倫理観が強く優秀な人間が教師に選ばれるため、そのような事件は起きない。教師自身が子供時代に徹底した徳育を受けているため、立場の弱い少女に手を出すようなことがない。その辺りは国民性もあるかもしれない。インプレンに行けば合法かつ安価に少女を買えるので、日本と違ってフラストレーションが溜まらないことも一因だろう。　また、教師と生徒が恋愛をすることも稀である。教師と生徒は完全に上下関係であり、アルバザード人にとって恋愛は水平関係であるため、原則として教師は生徒に恋愛感情を抱かない。同様に、生徒も教師を尊敬するが、恋愛感情は抱かない。　部活動はあるが、参加は義務でない。部活は μɑ の名残で中学から始まる。ただし現在の中学は当時の中学と年齢が異なる点に

注意。　アルバザードの学校は徳育を何よりも重んじ、知育をその次とする。進学校になると流石に知育の割合が大きいものの、進学校にいく生徒はその前段階で厳しい躾を乗り越えてきている。【用例】　aeɭʅı eɟ hɔᴅ cᴅ acɟ. 今日は学校がある。　aeɭʅı eɟ ɷeɥə ᴅcl eɟʅ ɷɔʃ. 豪雨で学校がお休みだ。　ʅe aeɭʅı 学校に通う。学校に行く　ʃıl lııl ınʃ lənı ela aeɭʅı ınʃ, ᴅın aeɭʅı ʃ'ıᴅel ʃın ıµ ɟcl ʃə cᴅ ʅeɟʃ ɔ aeɭʅı ınʃ lı alɔn µı. だが明日は妹の学校もそれ（授業参観）をするし、ウチの学校は家から遠いので、母はウチの学校には来ない。

aeɭʅıueφı　［名詞］外弁慶、学校弁慶　µɷ;/　ɺʔ　［語法］　ueφı

aeɭʅıaɔnl　［名詞］不登校　［レベル］３　1L

aeɭʅılec　［名詞］学級文庫　［レベル］３　µɷ;/　ɺʔ

aeɭʅc　［名詞］塾　［類義語］lıʅlı　［反意語］aeɭʅı　［レベル］３　1ɱ: 制 : あまり対な感じがしないので単なるアプラウトとして残した。　［文化］　年齢にもよるが後期大学生より下の学齢だと夜遅くに出歩くことができないため、ネットを使った通信授業を行うところと、親が車などで出迎えにくる学校型の２種がある。東区の富裕層はそれでもよいが、西区の庶民はなかなかそうもいかない。そこで西区の場合はまとまって住んでいることを利用し、日本の幼稚園同様送迎バスを出すいうサービスを行っている塾もある。【用例】　ın ʅe lıa aeɭʅı cᴅ elʃɟel, ɥın aeɭʅc cᴅ ɟııʅɟel. ın ncın ucl.... 土曜は学校だし日曜は塾に行かなくちゃで休めない……。　ɟıı, ın ᴅɔʅ uın, ᴅın ın ʅe aıl aeɭʅc cᴅ alıuce e ʅeɟʃ. さて明日も朝から塾だし寝よう。　lıl e aeɭʅc cl ʃɔɔʅ. 塾の授業が終わった。　ın ʅe aıl aeɭʅc cᴅ acɟ. 今日は塾に行かねばならない。　ɔl ın ləlɔ ucl aeɭʅc ɟı ez ınʃeɟ eᴅ hɔᴅ, ın ʃıa ucl ɟlcʃ µıʃ. 教室が開く前に塾に着かないと良い席が取れない。

aeɭʅeʅɟ　［普通動名詞］修学旅行、林間学校、臨海学校、研修旅行、お泊り会、おとまり会　［動詞］ɥəl に修学旅行に行く、修学旅行に行く　［レベル］４　µʃ;/「（企業などの）学ぶ目的の旅行」ないし「学校で行う旅行」　ɺɱ　【用例】　ıᴅel aeɭʅeʅɟ ʅɥɔɔʃɔ c acɟ. 今日妹が修学旅行で京都に出発した。

aeʅʅc　［名詞］放課後　［レベル］２　1L:ᴅelcɷcı ılcɟ

aelɟ　［被服］制服、学生服　［レベル］２　1L:ᴅelcɷcı ılcɟ:aelɟıb

aelɟınɔ　［名詞］時間割　［レベル］２　1L:µcɷcı:ıµbılelʃ

aelɟıl　［名詞］校長　［レベル］２　1L

aeln　［交通］タクシー　［レベル］２　zφ; 元の意味は辻馬車で、µʃ でタクシーになった。　lıʅʃı　x:aeln　【用例】　ın ʅeʃ aeɭʅı uılel ʅɔn aeln. タクシーに乗って急いで学校に行った。

aelnca　［名詞］学年、学齢　［レベル］２　1L:ᴅelcɷcı ılcɟ　［文化］

就学中に必ずこの年齢を迎える	教育年数	学校	学年名	日本での呼称
３歳	１年目	ʃcnıʅı	ɟleı	なし
４歳	２年目	ʃcnıʅı	brleı	年少
５歳	３年目	ʃcnıʅı	ʃµeı	年中
６歳	４年目	acınʅı	ılʃe	年長
７歳	５年目	acınʅı	aleı	小一
８歳	６年目	acınʅı	ılcɟ	小二
９歳	７年目	acınʅı	lceµ	小三
１０歳	８年目	lızʅı	ᴅcµφc	小四
１１歳	９年目	lızʅı	hıneɟ	小五
１２歳	１０年目	lızʅı	ʅıɟın	小六
１３歳	１１年目	lızʅı	ııle	中一
１４歳	１２年目	lızʅı	ılɟɔn	中二
１５歳	１３年目	ᴅınıʅı	ʃoıµ	中三
１６歳	１４年目	ᴅınıʅı	ıµhın	高一
１７歳	１５年目	ᴅınıʅı	nıµʃe	高二
１８歳	１６年目	ᴅınıʅı	lıµʃ	高三
１９歳	１７年目	ᴅınıʅı	ləɟɔn	大一
２０歳	１８年目	ᴅınıʅı	ᴅcµl	大二
２１歳	１９年目	lınʃcɟʅı	hırlᴅı	大三
２２歳	２０年目	lınʃcɟʅı	µɟcclı	大四

注意点　●学年の切り替わりはメル暦の年始。従って日本でいう 11/ʔ0 ごろ。ɱ 月に切り替わる日本とはズレがある。　●日本では同級生でもアルバザードだと学年が異なるというパターンがある。逆も然り。　●教育年数は最大 ɺ0 年。　●日本の院生を言いたいときは、dıµᴅlınʃcɟ、dıµᴅhırlᴅı、dıµᴅµɟcclı などとする。修士1年は ɟılʃ 1 e dıµᴅhırlᴅı。　＜ミロク革命前＞　革命前は日本と同じ６・３・３・４制で、学齢開始年齢も日本と同じ。ただし４月でなく１２月ごろからのスタートとなる。大学は ʅıcael で、学年の呼称も nca ɱ（四年生）のように数字で呼ぶ。

aelncarhɔɔʃ　［名詞］学齢厨　［レベル］６　ıl;/　ɺʔ　［語法］　付き合った子やセックスした子の年齢をやたら気にする人種のこと。

aelnɔı　［人名］フェルノア　［組み数字］８／１３　［天文］フェルノア座　［アクセント］aelnɔ́ı　［レベル］３　先 :ınɔ:ennɔə　［文化］　第４期３代ソーン第８使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

aelnɔı(ɺ)　［人名］フェルノア　［アクセント］aelnɔ́ı　1Δ:ɟeµen　［文化］『夢織』の登場人物。アリスの妹。

aelnɔı(ʔ)　［名詞］明晰夢、フェルノア← lıʅllɔnɷ　［類義語］lıʅllɔnɷ、lɔnɷ　［アクセント］aelnɔ́ı　［レベル］４　ıl;aelnɔı.ʅ　ɺʔ　［文化］　→ lıɷcı lııd

aelue,ɟzɷ　lıc

aeluеµ　［丁寧］［料理］お菓子、菓子、スイーツ、甘味、スウィーツ、フェルヴェール　［俗語］スイーツ（笑）、バカ女、馬鹿女、メディアリテラシーの低い女　［類義語］lcı　［アクセント］aeluEµ　［レベル］３　ɟzl;aelue　［語法］　特に甘味のみを指す。例えば煎餅は lcı であっても aeluеµ ではない。ザラメせんべいは入るかもしれない。　［文化］　俗語に関しては日本とでき方が同じ。ul において lcı と言えばいいのに気取って aeluеµ と言ったり、「小悪魔系」とか「自分へのご褒美」などと噴飯物な見出しを立てる女性誌が相次いだ。そういった馬鹿で生意気な女 φenφ 例に漏れず男性から「死ねよｗｗｗ」とバカにされてできた俗語。【用例】　ᴅcµ ᴅcɟʃ uɔµʃ, aeluеµ (ııı スイーツ死ねよｗｗｗ

aelᴅ　［動詞］ɥəl を ɔʅ と分業する、分業する　［普通動名詞］分業　［レベル］４　ɟɔµn

aelᴅ,ɟzɷ　ɟeel

aelᴅʅın　［生物］［医療］衝脈　ɟzl;/。流注が正中線上にあることから。　ɺɱ

aelᴅıʃ　［名詞］神秘　［形容詞］神秘的な　ɟzɷ　ɺɱ　x:aelᴅıʃ:lə aelᴅıʃ

aelᴅıʃıʅn　［哲学］神秘主義　［レベル］５　µɷ;/　ɺɱ

aelᴅcuı　［名詞］還暦、６０年、フェルミヴァ　［レベル］４　µɷ;aelcɟ/ıµᴅcuı　ɺʔ　［文化］　十干と十二支（干支）の最小公倍数の６０で還暦となる。アルバザードでも十徳とアルミヴァの組み合わせで６０が用いられる。１２０にならないのは、平均寿命が８０才程度の人類の年を数えるのに役に立ち辛いためである。

aelᴅel　［名詞］学習時間　［レベル］４　1L:µcɷcı:ıµbılelʃ　［文化］　学校と会社はほぼ同じ時間に始まって同じ時間に終わる。つまり、七、八時から始まり、昼に二時間の休みを経て五時に終わる。実働は七時間である。休みは週二日である。ゆえに週三十五時間の学習時間が設けられる。詳細は通勤と同じ。

aelᴅec　［名詞］クラスメート　［類義語］ʅɔʅɟıcᴅ　［レベル］２　1L:ᴅelcɷcı ılcɟ

aelφıµʃ　［名詞］授業料　［レベル］４　1L:µcɷcı:ıµbılelʃ　［文化］　授業料は主に税金から出る。

aeldınʃ　［名詞］教科、科目、学科　［レベル］２　ɺ0　［文化］　教養科目 (ʅɔlɔdınʃ) と実技科目 (ᴅıcndınʃ) に分かれる。ʃcnıʅı では実技科目しか行わない。　教養科目は国語 (nɔɟʅµen)、社会 (acı)、算数 (ıla)、理科 (ɷɥəeʃ) の４科目に分かれる。これを基本科目 (zeʅʃdınʃ) といい、以下の「歴史」などの下位概念を応用科目 (zɔʅdınʃ) という。　国語は文学 (ɟela) と言語 (elɷ) に分かれる。文学は現代文 (ɟıᴅɟela) と古典 (ɟcɷɟela) に分かれ、言語は文法 (uez) と表現 (uɔlʃ) に分かれる。acınʅı までは（実際には lızʅı も）文学と言語という科目名で大雑把に学習する。　社会は歴史 (ɟeʃı)、法律 (ʅılə)、政治 (uelɟ)、経済 (ıul) の４科目に分かれる。acınʅı までは社会の科目でそれぞれ少しずつ学習する。政治や法律で戸籍の登録の仕方、税金のシステムなど、役所に行ったときに後々役立つ知識も学ぶ。　算数と数学は区別しない。lızʅı から数学論 (ılaᴅccµ)、算術 (zedɔᴅ)、経営 (µceʃ) に分かれる。数学論は代数学 (ɟınael)、幾何学 (dıᴅɔael)、数論 (lınʅıael) に分かれるが、分けて教えても分かりにくいので、適宜混ぜて教えられる。算術はインド式計算ドリルや公文のようなもので、機械に頼らず人間が計算力を維持し、脳を健全に保つための訓練。算術は特に ʃcnı ～ acın で重視される（このころは科目名こそ算数だが）。経営では簿記や家計のやりくりなどを習う。　理科は法則 (ɔzael)、自然 (lıɷlael)、機械 (µıφnıael) の３科目に分かれる。lızʅı から法則は物理 (ʃəlɔ) と化学 (ᴅıcl)、自然は生物 (µəᴅıael)) と医学 (cuılael)、機械は電算 (ɷəµıl) と工学 (lıɷael) の計６科目に分かれる。　実技科目は芸術 (ᴅcla)、図工 (lıɷelɟ)、体育 (uıu)、音楽 (leᴅ) に分かれる。　芸術は絵画 (lecɟ) や彫刻 (ʅclb) といったものを行う。図工は草笛の作り方、紙飛行機の折り方、椅子の作り方、壊れた服の繕い方、鍋の直し方など、生活に役立つ知識を学ぶ。体育はユベールとスポーツに分かれる。音楽は声楽と器楽に分かれる。　acınʅı を卒業する際、成績の良いものは試験を受けて進学校としての lızʅı に進む。それ以外は職業訓練校としての lızʅı に入る。　訓練校の場合、教養科目は基本科目しか行わず、実技科目に職業別の選択授業が入る。例えば服飾関係なら被服の授業を取る。　進学校の場合、基本科目がなくなり、応用科目が出てくる。文理の区別がないため、最も広く学習する時期である。その代わり、それぞれの科目は浅い。とはいえ大学より科目が多いのでは大変すぎるので、実際は現代文と古典のような細かい区別をせず、まとめて文学として教える。　lızʅı を卒業する際、再度試験をして進学校に行くかどうか決める。また、この際に文理を決定する。　ᴅınıʅı に入ると文理によって取る科目と取らない科目が出るため、科目数が減る。その代わり、文学だったものが現代文と古典に分かれたりする。　前期大学のうちは、文系 (ɟeµdınʃ) でも理系 (ᴅeldınʃ) の授業を履修する。ただし、文系が理系を取る場合、理系の科目名は高校時代と同じで、細分化されない。逆も然りで、理系が文系を取る場合、現代文と古典は分かれず、文学として大雑把に履修する。　後期大学では完全に文理に分かれ、互いの科目は履修しない。また、同じ文系でも文学部や法学部などに分かれるため、文学部の学生は社会科目を選択的にしか履修しない。　大学院に入ると、完全に専門分野しか研究しない。　さて、中央アルナ大学首席のレイン＝ユティアは文学部に所属しているが、高校時代は「文学、言語、歴史、政経（政治・経済・法律）、数学論、計算（算術・経営）、物理、化学、自然、機械」の１０科目で首席を取っていたことになる。　理系科目のほうが多いが、授業のコマ数は文系のほうが多い。文理が分かれるまでは文系のほうが元々コマ数が多い。これはアルバザードが人文科目を人間にとって必要な教養として重視し、理系科目を社会発展のための剰余的な技術と考えているため。　また、前期大学では「現代文、古典、文法、表現、歴史、法律、政治、経済、数学論、計算（算術･経営）、物理、化学、自然、機械」の１４科目で首席を取っていたことになるから恐ろしい。　レインは後期大学では「現代文、古典、文法、表現、社会」しか履修しないが、現代文や文法などの内訳がさらに細かくなるので、結局科目数は多い。　なお、首席と

いうとき、実技科目は評価に含まれない。教養だけで判断する。実技も入れると真の首席なのだが、レインは体育が駄目すぎるので値しない。アルナ大学の歴史で真の首席になった人物はミロク＝ユティアとリディア＝ルティアのみ。このうちリディアはアシェルフィから大学時代に転入し、ミロクは極方から ɑcɪnlɪ に転入してきた。なお、三人とも真面目で努力家というのが共通している。【用例】 ɪn ȷccnɪ nɔȷlɥen lel ɑeldɪnʃ, ʃɪl ɪn en ȷccnɪ ɥɪɑel ʃəəl ᴅɪn ʃə ᴅɔlȷ ɑcl, ɑɔ], el ɪlʃ ɑɪl ɪʃc ɑc enʃɔ nɪ ɑɪb. 国語という教科は好きだが、国語の宿題は嫌いだ。というのも、時間が掛かるし、その上書くことが多いので面倒に感じるからだ。

ɑeldɪz ［名詞］学歴 ［レベル］4 ɺ0 ［文化］ 高校 (lɪzlɪ) で進学校だった人間が大学に行き、それ以外は高校が最終学歴となる。進学校以外は職業能力を高校のうちに学ぶので、専門学校はない。未熟なら高校を留年させられるため、卒業できた時点で就職できる能力はあることになる。そのため、別途専門学校は必要ない。卒業後に方向転換したい場合、無給ないし薄給で企業に雇ってもらい、チュートリアルを受けるなどして現場で学ぶことになる。【用例】 ɑeldɪz hɪl{ʃc nlɪ} 高学歴

ɑelde ［ユマナ］ウィキペディア、ｗｉｋｉｐｅｄｉａ、ウィキ、ｗｉｋｉ、ウィキペ ［電算］フェルペ ［レベル］3 ul; 人名より ɺɺ ［文化］ ul でできたフリーの百科事典。ウィキペディアに相当。

ɑelbɪlȷ ［動詞］自治棟 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［語法］ ɑelɪnbɪlȷ と区別。 ［文化］ 全ての委員会が収められている棟。つまり学生会が納められている棟。また、学生会に加えて非学生会の自治会が収められている棟。全ての会に個室が設けられている数階建ての建物。委員会などを行うときはここで集まって会議を開く。個室は教室と同じ作りである。

ɑelbelɪʃe ［名詞］学食 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ 食堂が敷地内に独立している。建物の形は学校によって異なる。安価で食べることができる。昼食時と夕食時に利用できる。また、寝棟の人のために晩ご飯の時間も利用できる。

ɑeloɪcn ［名詞］学園祭、文化祭 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ →ᴅelȷel, ɑcɪȷel, lcɔn ʃ'ɪnsəɥ, lɪuɪnɑcɪ ディアセルやメルセルの前々日に始まり、前日に終わるお祭り。期間は２日で、前夜祭と後夜祭に分かれる。部活動の成果を発表したり、イベントを行ったりする。期末試験の翌々日に始まる。期末試験の結果が出た翌日に始まる。
　カップルはたいていこの日に告白をして付き合い、お祭りを楽しむ。

ɑellcznɔ ［政治］文部庁、文科庁 ［レベル］4 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcɪ ［文化］ 事務省下。学科のカリキュラムを立てたり、教材や試験を作成したりする。

ɑelleul ［医療］学習障害 ［レベル］5 1L:ȷeɥen

ɑellec ［名詞］教科書 ［レベル］2 ɺ0 ［文化］ clᴅ

ɑelɪleȷɪl ［名詞］学生会長、生徒会長 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ

ɑelɪn ［名詞］学生、生徒 ［形容詞］～君、～さん、～ちゃん、～学生 → ɪdʃ ［レベル］2 ɺ0 ［語法］ この呼称を学生間で使うことはない。教師から学生に使うことはあるが、ふつうは ȷɔə や lccz や ȷɪn や呼び捨てを用いる。非学生、主に社会人が学生に対してこの呼称を使うことがある。【用例】 ɪʃʃe ɪ, ɑelɪn ᴅccɥ. がんばって、ミールさん。

ɑelɪnʃɔnl ［政治］学者 ［レベル］4 1L ［文化］ 身分の１つ。

ɑelɪnɑɪlɪ ［名詞］出席番号 ［レベル］2 ɺɺ ［文化］ ファーストネームを ʃlȷ という幻字順で並べるのが通常。学齢が低い場合は誕生日順に並べることもある。その場合はメルセル生まれが一番となる。

ɑelɪnɑeᴅe ［名詞］学生時代 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ

ɑelɪnφɪɥʃ ［経済］学生料金 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑelɪnbɪlȷ ［名詞］学生棟 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑelɪnɪle ［名詞］学生会、委員会、生徒会 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ 学生が自治を行うために学生会というものが存在する。学生は自動的に学生会のメンバーとなる。学生は何らかの委員会に振り分けられる。委員会はいくつも種類がある。学生委員会（つまり生徒会)、美化委員会、風紀委員会などが存在する。これらは全て学生会の下位区分である。どの委員会に入るかは選択可能であるが、人数が偏れば適正審査が行われる。くじ引きでは能力を測れないのでくじ引きは実施しない。委員会の中で一番偉いのは学生委員会である。この委員長が生徒で一番偉い。レイユの時代はミロクが選挙を禁止していたため、委員長は選挙でなく審査で選ばれた。アルテナ以降は委員長は選挙で選ぶようになった。選挙は毎年最後に行われる。来年度の在校生の中から新入生を除いた誰かが学生委員会の委員となる。委員会の集合は日が決まっている。毎週か隔月、或いは月ごとに行われる。大抵は同じ曜日の同じ時間に行われる。大抵は午後の授業を切って、そこで集会を開く。週一回の場合は一コマだけ切ることが多い。隔週の場合は二コマ切り、隔月の場合は午後の授業を全て切ることが多い。どの形式にするかは学校によって異なる。

ɑelɪncʃɪ ［名詞］全校集会 ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アルナ大では全校集会はない。全校朝礼のようなものは行わない。学校で事件が起きたときに緊急で集会を開くことがあるが、その場合は大抵昼休みの一部を削って行う

ɑelcʃɪ ［名詞］勉強会 ［レベル］4 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlʃe

ɑelcɔl ［名詞］校舎 ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcȷ ［文化］ ビルのような形をしており、機能的な反面、芸術性には乏しい。キリスト教の教会のような華麗な造りはしていない。

ɑelclcɪ ［ランドマーク］フェリシア学院、フェリシア ［類義語］lɔzəe ［レベル］6 ȷᴅ;ɑel,ɑu/ləlɔ,ɑ/ɑcɪ,ȷzɑ「学び習うところ→学び習う院」 ɺɺ ［文化］ アルナ北西部（アルナ県リシア市）に位置する学校。小中高大と揃っており、同一の敷地内に全てが揃っている。王族（皇族）御用達の学校であるが、一般人も入学することができる。　校風を一言で言うと「上品」。他にも「気取らないノーブルさ」や「浮世離れした雅さ」などが特徴。下品なものや低俗なものを避ける傾向にあるが、嫌っていても嫌悪感を顕にしない学生が多い。　上流階級の子女が多いが、あまりに競争心のない雅な生徒たちの集まりなので、他人を見下したりする者はほぼ皆無である。それゆえ一般人入学者も妙なへつらいをすることもなく、劣等感を持つこともない。よほど雅で心に余裕がないとできないことだが、不思議なことに外部から入ってきた学生すら一年も経たずに校風に染まっていく。　生徒の素行はアルバザード一良好で、校則は国内一緩い。自然に任せておいても誰も悪さをしないためである。　部活（サークル）は弓道と居合が強く、常に全国大会で優勝候補に上がる→ ȷɪlɪ(ɺ)　フェリシアでは和弓がユベールに取り入れられる前から活発だった。　女子の割合が多く、文学少女のようなおっとりした子が多い。上流階級なのに気取らず質素倹約で、大人しく穏やかで礼儀正しい。金に頓着するのが嫌いで、浮世離れしている。恋愛には奥手で、学内恋愛はほぼ皆無。　教師陣は姉妹校であるアルナ大と掛け持ちしていることが多い。　　フェリシア学院は ȷᴅ の cᴅəl ɺ00 に王族の私費で建てられた。その名残で現在も私学である。　ȷᴅ 中期にアルティアの勢力に押され、110ɺ 年にカレンシア王国ができると、徐々にアルバザード国内の上層部にアルティア人が入り込んでくる。その結果フェリシアにもアルティア人の学生が増え、弓道や居合といったアルティア人の武芸が入ってくる。　カレンシアの勢力に押されたアルバザードの財政は当時苦しく、11ꜰʕ 年にはフェリシアの運営にも支障をきたすようになった。学校の質を落とさず運営をこれまで通り継続するために、フェリシアはカレンシアからの援助を受けた。弓道や居合が盛んになったのもこの頃からである。なお、初期は武射系が盛んだったが、nɑ 以降は礼射系が盛んとなる。　11ꜰʕ 年の援助により、カレンシア（アルティア）とアルバザードの友好を示すための校章が新たに創られた。フェリシアが作られた当初は皇室アルバ家の家紋の「六角柊」に月の幼字を加えたものを校章としていたが、11ꜰʕ 年に桜弓月（さくらゆづき）がデザインされた。フェリシアの校章は幼字版と京極版の二種類があるが、それにはこういった歴史的背景がある。　校章は桜と弓張りの月が図示されており、更に桜の内部には文字が書かれている。幼字のほうは lecuenʃ（弓道）における射法八節の会の象形である。アルティア弓に合わせ、弓の上部が下部より長くなっている。一方、京極のほうは「弓月」という意味の二文字で形成されている。　　フェリシアの偏差値はアルナ大ほど高くはないものの、日本でいえば早慶に匹敵する難関校のひとつである。エルフィーネ同様、学風と名門さが好まれ、特に積極的に娘を通わせる親が多い。　生徒は穏やかで浮世離れしている。喧嘩や騒ぎなどが見られることはなく、革命時やディミニオンなどの狂乱にあっても、まるで世界から分断されたアルフィのように平静さを保ってきた。生徒は争いを好まず、競争心がなく、穏やかである。他人を嘲笑ったりせず、俗世に疎く、ケバさがない。　アルバザードの中では最大の保守派で、伝統を重んじ、争いごとを好まない。ルティア人やアルティア人の比率が高い。理系分野が弱く、文系中心の学校である。　共学で、女子は夏は白、冬は黒のセーラー。男子は詰襟。アルナ大と姉妹校なので、制服のデザインは同じ。襟の色は ʃcnɪ から ȷɪᴅɪnɪ まで順に黄、朱、蒼、灰。後期大学は私服になる。　場所は駅近徒歩一分。　学内は緑が多く、都会の喧騒から独立した空間を保っている。池には朱塗りの橋があり、初夏になると蛍が舞う。この池を「ほたる池」という。都会の大学で唯一良質な蛍が鑑賞できるところである。池の周りには桜や楓や紫陽花が季節ごとに咲き乱れ、池には魚も泳いでいる。　後期大学の生徒数は１万人に満たず、少ない。通常フェリシアというと後期大学部を指す。卒業生に「もう一度大学に入るとしたらどこがよいか」と聞くと、９割方がフェリシアと答える。浮世離れしているため、社会の荒波に揉まれておらず、卒業後に苦労することが多い。　エルフィーネを華と捉えるなら、フェリシアは和であろう。　ɥɑ でセレンはリディアと違ってアルナ大に受からなかったが、フェリシア大には合格した。そのため、ɥɑ でセレンの母校となっている。当時の彼はリディアの目が届かないのをいいことに、学園生活を楽しんでいたとされる。なおセレンがアルナ大に落ちたのはアルカで忙しかったこともあるが、自分の好きなことしか勉強しない少年時代の性格が最大の理由で、自業自得。アルバザードはフィギット経由で居合を、ルティア経由で和弓を知っていたが、セレン個人は実技をここで知り、ユベールに取り入れた。

ɑelcȷ ［人名］フェリス ［レベル］5 古 ［文化］ ４期１代のアルシェのルシーラ。女性。テームスの復活を予言し、それを食い止めることを目標として団体を作った。幼馴染による対抗団体ができるとそれと対立。フェリスはドゥルガを名乗り、アルタスはヴィーネを名乗って争った。

ɑelcȷ(ɺ) ［名詞］十徳、十善、フェリス ［名詞］十干 ［生物］［医療］五臓六腑、五臓五腑、六臓六腑 ［レベル］4 zφ;ɑenl/lcȷʃe ɺ1 ［文化］ zφ のシージアで発達した倫理で、五行説に組み込まれて考えられた。人間が心がけるべき十の徳を五行の陽と陰に当てはめた。順序は五行の順で、水風土火雷である。　陽は外向きの感情で、社会的なものが揃う。三・二人称的である。陰は内向きの感情で、個人ないし対個人的なものが揃う。一・二人称的である。内外というのはネガティブポジティブという意味ではない。社会に向くか自分および相手に向くかの違いである。　　陽：秤・礼・慈・義・克・（侠）　陰：信・素・胆・忍・勇・（堪）　　地球の東洋思想にも同じものがある場合は訳語にその漢字を用いた。義・礼・信・胆・勇・忍である。封建社会でもなく年功序列の考えも儒教ほど強くなかったため、東洋思想にある忠・孝・梯はない。また、知は心と別枠なため、智も入っていない。カルディアオリジナルは克・秤・素である。なお、慈は仁のこと。　　秤 (ᴅcȷʃ)：天秤のように公平かつ客観的であること。水面のように水平であることから水。　礼 (leɪn)：礼儀を重んじること。風のように涼やかな心。　慈 (lell)：万人に対する思いやり。悪人も含む。では悪人も許してしまうのかというと「許す」のではなく、それは克で別処理する。根源的な徳として中心の土。　義 (ɑɪzeʃʃ)：義理人情のあること、道

理を弁えていること。火のように熱い義理人情の志。　克 (oɪɉeʃ)：悪に屈しない、悪を受け入れない、誘惑に負けない、儲け話に乗らない、実直真面目に稼ぐ。雷のように激しく悪に打ち克つ心。　　信 (lɩɰl)：信じる心、信仰心。人を信じる、嘘を吐かない、嘘を許さない。水のように純粋な気持ち。裁判官は秤と信が必要で、これらは表裏一体。　素 (ʅılɔı)：多くを望まず質素倹約を尊び、日常を幸福に思うこと。風のように涼やかな気持ち。流れる風のように拘らない気持ち。
　胆 (ucɒın)：丹田が座っていて動じないこと。胆力。土のように動かずどっしりとしており、体に芯が通っている感覚。胆力がないとほかの徳もなかなか引き出せないので中央の土に座する。　忍 (hcnı)：耐えるべきところを耐えること。陰の火はじりじりと照るように熱く、その熱のようにじっと耐える心。　勇 (φınʃɉ)：行動力、やり遂げる心、腰を上げようとする意志の力、耐えざるべきところをきちんと耐えずに抗うこと。耐えてはならないことを耐えないのは勇気である。克の裏で、動くときは雷のようにパッと動くこと。　　この十徳は非常に体系的でよくできている。五行に見事に当てはまる上に、個々の属性のイメージにも沿う。その上陰陽できちんと振り分けることができ、さらに同じ水の表と裏のようにそれぞれの徳が表裏で関連しあっている。極めて体系的な倫理であり、地球の東洋思想よりもさらに体系的である。そのため歴史を超えて愛され、ɉɒ ではルティアからアルバザードへ伝わり、そのままの形で現在まで変わることなく連綿と受け継がれている。ɰɷ では組み数字にも選ばれた。序列６と異なり、それぞれが基本的には等価なので、非序列として使われる。制定したセレンは、組み数字１０は数からして頻度が高いはずだから社会に貢献する何か良い概念を宛がおうと考えた。その結果これを採用した。組み数字として日用されることで国民は十徳を日々唱えることになり、これが国民の教育に良いはずだとセレンは考えた。ıl でミロクはこの伝記に感動し、伝統を受け継いだ。
　　・解説　　慈　　仲間は積極的に助ける。　その他は消極的に助ける。すなわち求めに応じて助く。人それぞれの事情があるので押し付けはしない。おせっかいは焼かない。　悪人は克で処理すべきだが慈もまた与える。具体的には助けでなく慈悲を与える。例えて言えば、悪といえども残酷な仕打ちで倒さないこと。　　忍
耐えるべきことを耐えること。　自然災害、老いによる老化、改善不可能な病、体質による不定愁訴やコンプレックス、労苦、愛する人との別れ、死別、失恋等が対象である。　また、過食の我慢、間食や嗜好品の我慢、過剰な性欲の我慢などもこれに当たる。　なお、不当な契約、不当な労働環境などを耐えるのは忍ではなく、克と勇が足りない。日本人が最も勘違いしているのが忍である。　　克
　力を持つものは悪を討ち、悪を倒すべきとされる。力があるのに悪を討たないのは怠慢で、勇がないとされる。　力を持たざるものはわざわざ善行のために返り討ちに逢う犠牲を払えとまでは言われない。彼らにとっては悪を受け入れない、悪を拒絶することが十分な善行かつ貢献になるとされる。有害なテレビ、書籍、掲示板、ブログなどを避けるのも克である。　日本人が最も持っていないのは克と勇。これもまた表裏一体に持っていない。克と勇が同じ雷に配列されているのは互いに関連しあっているためである。　　・詠み歌　　水面のように平等で　爽やかな涼風のように礼節を重んじ　大地のような慈愛に満ち　火のような正義に燃え　激しい雷のように悪に克つ　　水のように澄んだ心で信じ　かろやかな風のようにこだわらず　地面に足をどっしりと構え　照りつける炎熱のように忍び　電光石火の如く勇ましく動く　　・表裏一体　　秤と信：客観視できない者は秤がなく、そのような人間ほど事実と虚偽の壁が薄く、嘘を吐く。　礼と素：マナーがなっていない人間ほど質素倹約と程遠い。例えば派手な恰好をしている女はえてして素行も悪く礼儀知らず。言葉遣いも汚い。　慈と胆：中心となる胆力がなければ、外交の中心である慈も鈍る。　義と忍：こうしなければならないという正義感がない者はたいてい我慢知らず。我慢するのは誰でも嫌だが、正義がなければ「まぁいいか」と逃げてしまいがち。　克と勇：抗わない者は行動もせず逃げてばかり。腰も上げない。　　・性差
　　男性は一般に火や雷が多く、女性は水や風が多い。男性のほうが「熱く」なりやすく、女性のほうがそうなりにくいのはそのため。
　女性で火や雷が多いと扱いづらくモテないということがある。男性で水や風が多いと男らしくなく頼りがいがないと思われることがある。　女性で水や風がないと「女のくせに」と非常に嫌がられる。逆に男性で火や雷がないと「男のくせに」とか「女々しい」と言われる。どちらも理にかなっている。　　・十干　　十徳を暦に用いて十干とする。アルミヴァと十干の組み合わせで毎年ごとに名を付けていく。甲子のように。すると１０と１２の公倍数の６０年で一周する。　寿命の短命化とともに ɉɒ 後期から実用されるようになった。　　知徳　　１０才のこと。十干が一回りした年。一通りの徳を知り、やっていいこといけないことの分別が付くようになったと期待される年。アティーリでは１０歳から何かを始めた人が多い。現実のセレンやリーザがそうだったことから来ているが、カルディア的には知徳の年だからと説明される。　　神徳　　６０才、還暦のこと。アルミヴァも一周して徳が神の領域になったと期待されるレベル。　「神徳その身に預かりて 魂滝に安らぐ」　これは「神徳の年になればもう徳も高めたからいつヴェーユに行って審判を受けても安心だね」という意味で、「６０過ぎて死ねば大往生だ」という意味。６０歳が寿命の目標になっていた。　アルバザードでは現在でも６０まではとりあえず生きようと考える人が多い。平均寿命はもっと上で、「今の６０は若い若い」などと言っているが現実には６０を過ぎると死亡率が上がるため、人々の当座の目標値としてよく利用されている。　　・二六十徳律（ニイロクジットクリツ）　　二情：楽・愉（ラクとタノシイ）　六心：希望・愛情・信念・不屈・正義・誇り
　　これに十徳を足したものを二六十徳律という。人間はこの十八観さえ守っていれば悩まず迷わず正しい道を歩めるという考え方である。　日々の行動で「これはやろうかやるまいか」と考えるときに、この十八観に照らし合わせて行動すればよい。新書や啓蒙書の生き方本と違って２００ページ以上も読む必要もなければ覚える必要もない。　十八観は多すぎず少なすぎずちょうど良い。多くても覚えられず、扱いづらい。逆に少なすぎると役に立たない。十八はちょうどよく、さらに数を２・６・１０に分散させているのでなお覚えやすい。　　・言葉と十徳　　hıl という行動は十徳が慈・信・礼の順で関与している。ɰenɉɔɒ という言葉は礼・信の順で関与している。
　このように言葉を十徳で分析し、辞書の文化欄に示したものがある。　　・徳は６割　　高徳ならよいかというとそうでもなく、まんべんなく十徳を６割程度身に付けているのが一番ですよという教え。　克が強すぎると他人と戦ったり批難してばかりだし、礼が強すぎても杓子定規で付き合いにくい。慈がありすぎる人は好かれるかというとそうでもなく、嫌煙されたり聖人視されて付き合いづらいと思われる。陰側も同じで、忍がありすぎると損ばかりしょいこみがちになるし、勇がありすぎても疲れるし利用される。　などなど、徳がありすぎても疲れて終わってしまうし、そもそも人間はそんなに簡単に高徳にはなれないから、無理をしないで６割程度でゆるゆる暮らしなさい、そのほうが楽ですよという教え。それでいて６割程度徳があれば別段悪さもしないだろうし、克１０慈０のように偏っているよりはマシですよということ。几帳面に６でなければならないというわけではない。５～８程度であればよい。　　・実践
例えば ɺ1 の段階でセレンは「秤８・礼５・慈２・義９・克１０・信７・素９・胆６・忍３・勇１０」で、バランスが悪い。　ɑelcɹ を使えば自分に何が足りなくて何を抑えればいいか分かる。この場合、克·勇·義が強いわりに慈と忍が足りないので典型的な他罰傾向にあると分かる。統制のとれた厳しい社会を形成するのには向くが、人には好かれないタイプと分かる。ミロク革命に反響したわけである。多い分を少ない分に回せばこの者はもっと楽に生きられる。　　同リディアは「秤７・礼９・慈９・義１０・克１０・信１０・素８・胆７・忍９・勇１０」。徳の合計値が非常に高い。意外とビビりなところがあるので胆は少し抑えられる。わりと主観的で自分の正義と世の中の正義をあまり区別しないので、秤はやや低めに。義と克が強すぎるため、一般的な嗜好性の男性にはあまりモテないようだ。　　同メルは「秤８・礼６・慈５・義３・克２・信４・素１０・胆８・忍９・勇３」。義・克·勇が足りない典型的な怠け者体質。素が強いので引きこもりがち。動じないという意味ではリディアより強く、忍耐強いのは間違いない。賢く客観性はあるため秤は高いが、公平性などどうでもいいと思っている様子。　　・五臓六腑　　十徳は上記の順序で以下の五臓六腑をも指す。　　陽（五腑）：膀胱・胆・胃・小腸・大腸・（三焦）
　陰（五臓）：腎・肝・脾・心・肺・（心包）　　五臓六腑というのは日本の慣習的な言い方で、ルクレティアでは基本が五臓五腑の十徳、そこに更にふたつ足して六臓六腑までである。　六臓六腑というのは火が君火と相火に分かれているため六臓六腑になっており、相火の陽は三焦 (ɥəzʅc) で陰は心包（ɥəe) である。

ɑelcɹʃ ［普通動名詞］愛、敬愛、騎士道愛　［動詞］ɥəl を愛する、愛する、敬愛する　［類義語］ʃccı　［レベル］４　zφ;ɑelcɹ.ʅ　ɺⅢ　［文化］　封建制度ができて騎士が主君に仕えるようになった ɉɒ の時代において、騎士が主君の妃に対して抱いた敬愛の念のこと。プラトニックなものであり、不倫ではなく、不倫は許されなかった。あくまで敬愛の念であるため、主君はしばしば「自分はこんなに臣下から敬愛される妻を持っている」と誇ることがあった。

ɑelcɹɒeɒ ［組み数字］フェリスサークル、十傑、十老頭、十本刀　［レベル］５　ɺ1　［文化］　ɰıdıll

ɑelcɹcı ［名詞］ɉıdɰe　［名詞］許嫁、許婚、いいなずけ、いいなづけ　［レベル］４　ɉzɷ　ɺʔ　ɉıdɰe:ɉıdɰe:lı　ɑelcɹcı:ʅɔʃɔʅɔ,ılʃ　［文化］　lʃ で起こり ılʃ に伝わり、ılʃ で流行り、ɉɒ に ıɰ に流入した概念。lʃ では許婚の契約を親同士が交わす際にサクラソウを用いて祝いをしたことから、サクラソウで許婚を意味するようになった。

ɑelcn ［植物］フェリン、バラ、薔薇　［花言葉］ひとめぼれ　［婉曲］膣口　［レベル］２　ɺ0: フェール神の花。　参考 :dcnɷcn:1ʔ: 制 :dcnɷɒcnı（棘の花）

ɑelcıl ［代詞］［ɥənʅ］あなたがたの　［レベル］１　ɺ1:ʅɒccɰ:ɑelce/ 古 ıl

ɑelce ［代詞］［ɥənʅ］あなたがた　［レベル］１　ɺ1:ʅɒccɰ:ɑelcn「薔薇のような人」

ɑelceɰ ［歳時記］芒種　［名詞］９時　［組み数字］９／２４　［アクセント］ɑelcEɰ　［レベル］３　ɺ0: → ınlcın　［文化］　ınlcın

ɑelcəɹ ʅɰeʃcɹ ［人名］フェリウス＝クレティス　［レベル］６　ɺ0　［文化］
セルメルで初めて学校を作った男性。召喚士の家柄で、貴族の家庭教師をしていたが、アルバザード国民全体の教養をあげる必要性を痛切に感じ、恵まれた境遇の貴族の家庭教師を辞し、学校を設立。その働きが認められ、アルバ二世の協力を得て講義の場として利用していたアルナの広場の一角に ıɰnıɑeʅlı を建てる。

ɑelɔ ［動物］とさか、トサカ、鶏冠　zφ;ɑeɒ/lɔ　ɺⅢ

ɑelɔlɔɔb ［被服］コックスコーム　ɰʃ;/　ɺⅢ

ɑeleʃ ［形容詞］先天的な、生まれもっての、アプリオリ　［反意語］ueʅʃ　［レベル］４　ɰɷ;<cn　1L: 運命づけられた　［語法］　何も流用せずに作ったもののこと。流用と参考は異なる。人間は生まれた以上そこの影響を受ける。彼が何を作ろうとその影響からは逃れられないので、何を作っても何かしら参考にしたことになる。従って参考はアプリオリを取り消す要素にならない。でなければアプリオリが成立するものがひとつも存在せず、この言葉自体レーゾンデートルを失う。
［文化］　セレンはバリバリの経験主義者だったので、アルカもだいぶ影響を受けている。　ところが ɺʔ を過ぎて先天性も重視するようになった。セレンは子供の頃から自分にフランスの血が入っていることを知っていたが、違うのは顔くらいで性格や体格にまで影響があるとは思っていなかった。セレンの性格は日本人と違うところがだいぶあって、それでよくそりが合わなかった。大人になるにつれてフランス人のことを知識として知っていき、「あれ？これ俺に似てるな」と思うことがよくあった。　例えば日本人はへつらうように笑うが、セレンは笑うところでは笑ってそうでないところでは無表情だ。それが日本人には偉そうに見えるらしい。顔が西洋人っぽく彫りが深いので黙っているだけで怖く見えるせいもある。こちらとしてはふつうにしているだけなのに偉そうと思われる。フランス人も

妙にへらつったりしない。なるほどよく似ていると思った。　権利意識が強く我が強いところもよく似ている。そのわりに下らない労働を嫌うのもよく似ている。口だけ達者なところも似ている。細い割に同体重の日本人に比べてかなり筋力があるのも似ている。自転車好きも似ている。道にゴミを捨てるくせに妙にエコなところも似ている。女好きで精力が強いところも似ている。中でも美しさと合理性を追い求めるところが最も似ている。セレンの血がドイツ人だったら新生アルカは生まれなかったろう。　そのほか、ユーモアは好きだが下品なお笑いは嫌いというのもよく似ている。大人びていて落ち着いているところも似ている。だがそれは外見だけであって中身は子供というところも似ている。　こういう類似点が細かく無数にあったが、バリバリ日本で生活してきたのになぜ似るのかといえば血しかないということで、先天性を省みるようになった。　なお、性格だけでなく体格も類似していた。その後フランスに行って自分が浮かないことに気付いた。細い腰、細い手首、足首、なのに無駄にある胸、できやすいクマなど、すべて酷似していた。　もちろん似ていないところも多い。特に食べ物だ。パン食が嫌い。和食を好む。何より、チーズ、ワイン、コーヒーがすべて胃痛かじんましんになって食べられないところが圧倒的にフランス人でない。胃腸が弱く、ここは明らかにフランス人の血でない。どうも酵素とか消化関連はどこで過ごしてどの腸内細菌を得ているかのほうが大きいようだ。　　行った国の中で好印象だったのはフランスと韓国だけだ。あぁ合理的だなとか頭が良いなと感じた国だった。　その後、ⅡΔ ごろになって母方が韓国から来たことを知る。そうか自分は韓国とフランスの混血児だったのかと知った。その事実を知らなかったのに好印象だったのはこの両国だけだったのはどういう奇跡か。先天性によるものとしか思えない。血のなせるわざに違いない。血のせいで考え方や発想などが似ていて、それで自然と合理的だと感じたのではないか。　ところで自分で最も日本人らしくないと子供のころから思ってきたのは怒りの強さだ。外国人の怒り方は日本人からすれば気違いレベルのものがある。で、セレンの怒り方は常軌を逸していた。キレるとすぐ相手を殺す気でかかる。格闘技をやっていたことを置いても殺気が凄まじく、傷害に至ったことも何度かあった。ただ、たいていは殴る以前に殺気に気圧されて相手が怯む。今思えば「あぁファビョンとはこのことか」と納得できる。あれは日本人には出せないエネルギーだ。　自分より強い人間はいくらでもいるが、自分より気迫のある人間というのを見たことがない。外国人から見てもそうなようだ。というのも、まさにセレンという名前自体が気迫や殺気や怒号で相手を黙らせるという悪口から来ているのだから。なお、人生中で最も気迫が出たのは２４くらいで池袋のジュンク堂の前で児童虐待を見たとき。同い年くらいのロクでもない父親に怒髪天を突き、裏路地に響かんばかりの怒号で殴りかかり、あまりの勢いに相手は膠着。即座に男たちが一斉に入ってきて取り押さえたのだが、不服なことに男でなく自分が取り押さえられた。その後即警察沙汰となったが、ファビョりすぎたのか、警察を呼ばれたのはその男でなく自分だった。　どうもこのあたりは明らかに日本人の血ではない。しかし問題は自分はその血について知らなかったことだ。あるいは知っていてもフランスのように知識がなかった。なのに自然と彼らに似る。なら当然アルバザード人も固有の民族性があって血によって先天的にある程度性格が決まるのだろう、たとえその風土がどこであろうとという結論になり、カルディアでもある程度先天性を重視するようになった。

ɑelelʃʃeel ［名詞］宿命、宿運、天命、天数、フェレッテール ［レベル］4 　ɥɑ;/「先天的な運命」 ⅠƦ ［語法］ 先天的に定まっており、避けることが難しいか不可能なこと。 【用例】 ɹıcı, ʃə ʃın eʃ ɑelelʃʃeel ɑı. しょうがない、これも宿命だ。

ɑelelʃleucın ［言語］アプリオリ人工言語 ［レベル］6 　ɥɑ 　ⅠⅠ

ɑelenuc ［名詞］学力 ［レベル］3 　ɥɑ;/ 　ⅠƦ 【用例】 ɑelenuc hıl 学力が高い、高い学力

ɑelenucʃıȷ ［名詞］学力テスト、実力テスト ［レベル］3 　ɥɑ;/ 　ⅠƦ

ɑelez ［名詞］教室 ［レベル］2 　1L ［文化］ 講義よりも演習中心の授業なので、教室は全て円卓である。完全な円でなく、教師席側が開いた扇状になっている。学生席は一重の扇でなく、同心円状の扇になっている。席順は慣例により決まる。学期の初めに座ったところが何となく自分の席になる。但し、教師は席が決まっている。ホワイトボードの前である　　一クラスの人口は二、三十人である。教師の席の後ろにはホワイトボードがある。教師に向かって生徒が座ったとしよう。生徒から見て教師は前である。生徒の後ろにはロッカーがある。ここで左側に窓があるとすると、入り口は右になる。右側にはふつう、日本と同じく二つ入り口がある。窓にはカーテンがある。サッシのところもある。教師の背面には大きな電子ペーパーがあり、ここに各種メディアを再生する。スピーカーから音声も出力できる。ロッカーは人数分あり、セキュリティ度が高い。

ɑeı ［名詞］ミス、無傷の一撃、無効 ［動詞］ɥəl に歯が立たない、歯が立たない、歯がたたない、無傷を与える、無効である ［形容詞］(ın で) 無効な、無駄な、ノーダメージな、ストライクゾーンから全く外れた、アウトな ［ユベール］［運動］無効。柔道や空手やユベールなどの無効。 ［野球］空振り ［反意語］ɼleeφ、bcn ［レベル］3 　ɑu;e 　ⅠⅢ ［語法］ 敵にダメージを与えられないこと。　転じて、好みなどに全く当てはまらないこと。 【用例】 le been eʃ ɑeın ɑe. あのブスは完全にアウト。

ɑeılcȷ ［人名］フェアリス 　ls;ɑılcȷ 　ⅠⅠ ［文化］ 　四人目は ɑeılcȷ。19 歳で、人間の捨て子だ。ユベールの達人で、ミルハを妹のように可愛がっている。　　フェアリスは芯の脆いところがある。親に捨てられたトラウマが消えず、拒絶されることを異常に恐れている。

ɑec ［名詞］分、一分、６０秒 ［レベル］2 　1Ʀ: 制

ɑecʃ ［普通動名詞］忠告、訓告 ［動詞］ɥəl を ı に忠告する、忠告する ［反意語］beȷ ［レベル］3 　1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ: 恣意 ［文化］ 勧誘と提言の関係は助言と忠告にもいえる。提言は自信を持ってそうしなければなるまいと考えていることを主張することである。容易に引き下がらないし、食い下がりもする。忠告も同じである。提言との違いは相手の事情を慮ってやる点である。相手にとって利益になるだろうと信じていることを主張するのが忠告である。忠告は助言と違って簡単には引き下がらない。目上でも目下でも関係ない。怒っている相手や馬鹿など、冷静でない相手以外なら誰にでも行える。そして多少しつこくて、議論を起こしても構わない。

ɑecȷ ［気象］霧、ミスト、フォッグ ［レベル］2 　ɑ;ɑıcı 　1L:ɥcɑcı: 音象徴 　ɑecȷ:ɑecȷ:ȷıule 【用例】 cᴅ ʃə ɑııɥ, ɑecȷ ıʃ ȷɔɑ. 今朝は霧が出ていた。　ɑecȷ neı 濃い霧　ın cnıʃ ucl ɥınel ᴅcl ɑecȷ neı. 霧が濃くて見通しが悪かった。　ın cnıʃ ucl ıᴅɔ ʃcȷ le lı ȷı ın ᴅcl ɑecȷ neı. 霧が濃くてすぐ前の車さえも見えなかった。　ɑecȷ eᴅ ʅcʃ nɔl. 霧が立ちこめてきた。　ɑecȷ eᴅıʃ neı ɥɔᴅel. 急に霧が濃くなった。　ɑecȷ eᴅıʃɔɥ ȷeɑɔ. 霧が晴れていった。　ɑecȷ ıʃcʅ ȷeɑɔ ᴅcl dıɥd. 日が差して霧が晴れた。　cᴅ ʃə ɑııɥ, ɑecȷ neı ıʃeȷ ȷɔɑ ʃıl ʃəɥ. 朝は霧が立ちこめていたが、今は晴れている。　☆ ɑecȷ e ɑııɥ ıdcı ɑıɥɑ e ȷııᴅ ʃeɥ. 朝霧が出ていると午後は晴れるという。

ɑecȷdıɑc ［気象］白虹、霧虹、雲虹 ［レベル］6 　Ⅰ1

ɑecȷeȷʅ ［気象］霧雨 ［類義語］ȷıule ［レベル］3 　Ⅰ08 【用例】 ɑecȷeȷʅ lənıʃ. 霧雨が降った。

ɑecȷeȷd ［気象］層雲、霧雲 ［レベル］4 　1L

ɑecn ［ɥenʃe］［ɥneʃ］uecn ［レベル］1 　1L:uecn 【用例】 nɔn lıl lınʃen ɑecn. もっと綺麗なのがいいの。 ［俗語］ıɥ ɑecn ＝ ɑɔʃ{ucen} ɑecn 激しくして。俗でなく文字通りの意味もある。 ［俗語］ɑcʃ ɑecn もっとちょうだい。俗でなく文字通りの意味もある。

ɑecᴅ ［音楽］スピーカー ［レベル］3 　ɥʃ 　1L:ɑecn:1Ʀ: 制 : 恣意

ɑecɑ ［アイテム］矛、ほこ ［レベル］3 　ȷzɑ;<>ɑcφc 　1L:ɥcɑcı:ɑcφc。ɥɑ の原稿を見ていて、ウムトナの矛がリュウの槍と同じ名前なのはおかしいと思ったので分けたそうだ。　ɑcɥɔ:ɑcɥɔ:lə ɑecɑ ［文化］ 先が枝分かれしている槍。中央の刃はまっすぐだが、左右の刃が牛の角のように曲がっている。反しが付いていて、当たるとなかなか抜けない。そのため、狩猟だけでなく戦闘にも使われる。毒を塗って使うこともある。

ɑecɑın ［ジョブ］矛手、矛使い ［レベル］4 　1L:ɥcɑcı

ɑecscen ［名詞］長針、分針、時計の長針 ［レベル］2 　1L

ɑecl ［動詞］ɥəl（ヴィード）を燃やす、燃やす ［類義語］uccʅ ［レベル］4 　古 ［語法］ ヴィードを急激に使用するという意味の動詞で、アルカにしか存在しない。訳しようがない単語。　日本語の「鼻をかむ」の「かむ」と同じく、コロケーションを uccɑ（またその下位概念）しか持たない動詞。 【用例】 ɑecl uccɑ ヴィードを燃焼する

ɑeclcȷ ［エルト］［サール］フェイリス ［レベル］4 　ȷɥ;e 　ⅠⅢ ［文化］ アルデスとルフェルが王になる前、まだ友好関係があった時代に月の光から共同で生み出した女神。美を司る。エルトでもありサールでもある。二面性を持ち、エルトのときはルフェルのような白人系の顔立ちになり、サールのときはアルデスのような黄色人種の顔立ちになる。どちらも女の姿と顔をしている。美の女神として知られる。

ɑeclcȷcɑı ［地球の星座］［ユマナ］カシオペア座 　ⅠⅢ: 自分を美しいと鼻にかけたカッシオペイアの逸話から。 ［文化］ cɑı

ɑeeʃ ［言語］音声。人間の言語に用いられる音。 ［レベル］4 　1L ［語法］ 音声は [] に入れて書く。

ɑeeʃɑel ［言語］音声学 ［レベル］6 　1L

ɑeeʃıuıc ［言語］音声素性 ［レベル］6 　1L

ɑeeʃeɑı ［言語］ＩＰＡ、国際音声記号、国際音声字母 ［レベル］6 　1L ［文化］ hıɼl 　セレンらが作成。地球のものとほぼ同じだが、記号は幻字。　↑統一規格でなく、Ⅰ0 年に夢織の朗読に使うためにルティア語を作ったことでセレンが一人で統一規格を作った。それが下記。
　アトラスのＩＰＡに当たるもの。現実にはセレンが Ⅰ0 年に定めた。神話上では ɥɑ でセレンが定めた。 制以降と古アルカの幻字を使い、古アルカに存在しない音声は鏡像などを駆使して配置した。　 元々存在する幻字を見れば、「この音は古アルカにはあったのだな」ということが分かるため、非常に個別言語的な音声表記になっている。
　ＩＰＡを定める際はハングルのように調音点などを考慮して機械的に決める方法が体系的である。しかし機械的すぎるものはかえって使いにくく見間違いやすいという欠点もある。 何よりその方針はアルカに合わない。そのため、労力はかかるものの、今回のような言語・文化・歴史を背景にした音声表記を作った。

ɑeel ［エルト］フェール ［普通動名詞］一目惚れ、ひとめぼれ ［動詞］ɥəl に一目ぼれする、ひとめぼれする ［レベル］3 　古 :ᴅclɑ ［文化］ 一目惚れを引き起こす１０歳前後の少女の姿をしたエルト。　＜誕生＞ ダルケスはフェルデンに貝を渡した。ダルケスの手がフェルデンの手に触れた。このとき、ダルケスとフェルデンの手から砂が落ちた。そしてこの砂は非常に大きくなった。そしてついに、これは愛らしい少女（１０～１４歳）になった。そしてダルケスとフェルデンは驚き、彼女を見た。 【用例】 "ın ɑeelcʅ ʃc, ɥənʅ. ᴅcɥ eᴅ ʃcın ınʃ" "ȷı ʃə, ᴅɥən ɥenȷ eȷʃ ı nɔn, ɑɥəȷȷɔə" 「一目ぼれしました、お嬢さん。僕と付き合ってください」「その前に、あなたは一体誰なんですの？」

ɑeel(Ⅰ) ［人名］ふぇーる 　1L8 ［文化］ 『ねこにっき』の登場人物。リシア市出身。

ɑeelʃıə ［普通動名詞］衝動買い ［動詞］ɥəl を衝動買いする ［レベル］3 　1L:zını: ザナがＸＢＯＸ３６０を衝動買いしたときに、妻のミルフに許可を求めた際、衝動買いを ɑeelʃıə（一目惚れして買う）と呼んだことから。ミルフはザナに反対しない人なので、ふつうに買ったものの、ハイレンの世話と仕事でロクにやれてないらしい。 【用例】 ın ɥɔlıʃ φcl ɑc ı ȷıb ᴅın ɑeelʃıəʃ ʃəəȷ. 衝動買いのせいで洋服にお金をつぎ込んでしまった。

ɑeelə,ılʃ ɑen ɑe/ɑe/lə

ɑə,ɑ ɑlel e

ɑə,ɑ(ɺ) ɔl

ɑə,ɑ(ʔ) ɑlen

ɑəʃ ［動詞］ɣəl を ı と交換する、交換する、置換する、置き換える、取引する、取り引きする、取り換える（新しく交換するという意味のときは ɟıᴅeᴅ）、両替する、取り替える、取りかえる、とりかえる、入れ替える、入れ換える、交替する ［普通動名詞］交換、置換、置き換え、取引、取り換え、両替、入れ替え、交替 ［経済］取引、売買 ［シェルト］張り替え、貼り替え。テームスの張り替え。 ［レベル］2 1L:ᴅelc ɑcı ılʃe: 古 :ɑəʃɔ（取る）【用例】 ɑəʃ φcl ı ʃcıʃ 人質と金を交換する

ɑəʃʃeʃɔnı ［言語］連合関係 1L

ɑəʃɟeɥı ［化学］置換基 ［レベル］6 1L

ɑəʃɑə ［経済］売買高 ［レベル］6 ɺɺ

ɑəʃdeɥ ［経済］スワップ ［レベル］6 1L

ɑəʃı ［経済］為替 ［レベル］4 1ʕ: 制 :ɑəʃ（授受）

ɑəʃı,ɟzɑ ɑcʃ ɑəʃɔ,ɑ.ɿ

ɑəʃın ［経済］トレーダー ［レベル］6 ɺɺ

ɑəʃıll ［経済］出来高 ［レベル］6 ɺɺ

ɑəʃılıᴅc ［経済］為替リスク ［レベル］6 ɺɺ

ɑəʃɔ ［単位］フト ［レベル］6 1ʃʃ: 制 : 古 :ɑəʃɔ（取る） ［文化］ 物質 1 メルバあたり放射線から吸収したエネルギーが 1 ルナッフであるときを示す。グレイと比較。

ɑəʃɔ,ɑ ʃıɑ, lcᴅ ɑə は「渡す」の音象徴か

ɑəʃʃı ［地名］フッカ 「回帰する土地」 ［レベル］6 ᴅelʃcı Lʮ ɟen ucı; ɑə/ʃıl「肩の場所」 ɺ0:ɥcɑcı:ɑə/ʃıl「肩の場所」。地理的にケヴェアの肩に相当するため。 ［文化］ 古代国家のひとつ。ジュヴァルノの北。

ɑəɟɟı ［被服］シャマール ɟᴅ;ɑə/ɟıbe ɺʃʃ

ɑəɑc ［化学］ピペット ［レベル］4 古 :ɑəʃɔ/ɑcı（取るガラス）

ɑəl ［人名］フルミネアの略称 ［組み数字］5／２８ ［レベル］1 古 フルミネアのあだ名として ᴅccı があったが、それだと彼女の妹と区別がつかないのでこうなった。ɑəl と呼ぶ者と ɑəlᴅ と呼ぶ者がいたが、後者が多かった。セレンは ɑəlᴅcc と偶に呼んでいたが、それは誰も真似しなかった。

ɑəl,ɑu ɑəəl e

ɑəlɟcɥ ［美容］サメ肌、さめ肌 ［レベル］4 ɺ1:ɑəlᴅccı/ɟcɥ

ɑəlɟel ［名詞］冷笑 ［動詞］ɣəl を冷笑させる、冷笑する ［レベル］3 1L: リディアの書 : フルミネアの唇。フルミネアの笑い方が語源

ɑəlueɥınʃ ［医療］妄想性人格障害、妄想性パーソナリティ障害、偏執病、偏執症、パラノイア ［レベル］5 ul;ɑəlᴅccı/ueɥınʃ ɺʔ:ᴅel ［語法］ パラノイアの症状が重いものを妄想性人格障害と呼ぶが、アルカではともに ɑəlueɥınʃ という。

ɑəlᴅccl ［被服］エジプト十字のリボン、アンク ［レベル］3 1L: フルミネアのリボン。胸に飾っていたことから ［文化］ 胸のリボンのデザインとして一般的で、少女に人気が高い。

ɑəlᴅccı ［組み数字］5／２８ ［交通］フルミネア通り ［名詞］フルミネア組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ɺɺ

ɑəlᴅccı,ɑu ɑlcı len ɑəəl

ɑəlᴅccı ʅııɑe cneııʃɔ ［人名］フルミネア＝カーデ＝イネアート ［組み数字］5／２８ ［レベル］2 古 : フルミネアは語源不詳で、古アルカでの意味は無し。あえて解釈するなら ɑəə/ᴅcuı で「長女」。カーデは彼女が創作した占いの名で、L 年にリディアが呼びかけて使徒全員が冠した。イネアートは『カコ』。［ɑəəᴅccı］だと思っていたが、本人から直接［ɑəlᴅccı］の方が近いといわれ、変更した。 ɥɑ;ɑəlᴅccı.ɑu ［文化］ → ɑəlueɥınʃ （ʃcɑ Δ φcl ɑcn →) 第４期４代アルシェ第５使徒。アルマスト派。女性。ɣənʅ。１６４ｃｍ、４９ｋｇ。髪は黒色で足まで長く、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝１０：０。 【成句】 ɑen eᴅ ɑəlᴅccı フラグ立てんな：占い師フルミネアが ɥɑ で不吉な予想をして使徒を不安にさせたことがあったことから。 ɣən ɑəlᴅccı ılnıᴅeʃ nɔɟ フルミネアがツンと顔を背けるように：取りつく島も無い 【用例】 oec, ɑen eᴅ ɑəlᴅccı ɔn uɔɥʃ (ılʃe おい、死亡フラグ自重しろｗ

ɑəlɥenɟ ［名詞］美辞麗句 ［レベル］3 ɺɺ:「フルミネアの言葉」

ɑəc ［植物］キャッサバ ［シネクドキー］タピオカ。キャッサバの澱粉質を乾燥させたもの ［レベル］4 ılılʃı:ɑəc,ɑıc（暑い）/ɟəc（芋）。キャッサバの芋部が澱粉を多く含み、熱帯地方で主食とされることから。

ɑəɔ ［形容詞］残酷な、ひどい、酷い、悪質な ［形容詞］ひどい、ひどく。ʃcnʅı/ɣıᴅ の意味。 ［類義語］ɑınzel ［反意語］cueʃ ［レベル］2 ɑu 赤 :ɑəɔ（残酷）。字の形が腹をかき回すという恐ろしい意味。字形は人を横から見ている。

ɑəə ［名詞］古アルカの 1 赤→ ɟcɑıll

ɑəə,lɟʅ 1 ɑcφc.ʅ

ɑəəφc ［アイテム］短剣、ダガー、ダグ、ドルヒ、アダガ、ナイフ、ダガーナイフ ［レベル］3 ɑu;「鋭い」 ɺɺ

ɑəə ɣɔə ucc uɔn ʃlɔn ［娯楽］1,ɺ,ʔ,ʃʃ,ʮ と数えたところで頬にキスをする子供の遊び 古？ ［文化］ 小さい子供と親ですることが多い。ʮ の ʃlɔn とキスの ʃlɔ が似ていることをかけた遊び。

ɑəəl ［魔法］占い、卜、占卜 ［動詞］ɣəl（相手、内容）を占う、占う ［レベル］2 1L:ɑəlᴅccı: 自分の名前を語源にしたもの ʅʅ;>ɑəəl.cn < ɑəl.ɑu.l ɑəl:ɑəəl 【用例】 ɥen ɑəəl nɔn. 私について占ってちょうだい。 ɥen ɑəəl ıᴅc uıɟʃ ʃıɟ. 僕が試験に受かるか占って。 ɥen ɑəəl nɔn ɔn hıʃcı. 私の恋愛運を占って。

ɑəəlɟeᴅɟ ［魔法］占い部 ［レベル］4 ɺ0:ᴅelcɑcı lceɥ

ɑəəlın ［魔法］占い師 ［レベル］2 ɺ0:ᴅelcɑcı lceɥ

ᴅ

ᴅ ［接尾辞］eᴅ。開音節の後に来る。 ［レベル］1 1L

ᴅ(ɺ) ［単位］メルフィ ［レベル］2 ɺ1

ᴅ,ɑu 依頼文を弱化させる語。ɥe ʅə（言え）に対して ɥe ʅə ᴅ（言って）などのように使う。

ᴅʃ ［歴史］メルテナ、ᴅeɥʃenı ［レベル］3 ɺ1

ᴅɑ ［演繹音］もふもふ、モフモフ ［レベル］3 ɥɑ;hıılueʃ ɺʔ

ᴅᴅ ［感動詞］うん、そう、ありがとう ［レベル］1 古 ［語法］ 発音は口を閉じて鼻から息を出して行う。日本語のという「うん」という相槌にはあまり似ず､中国語の「うん」という相槌に音がよく似ている。ᴅᴅ は語義が多いが、それぞれ言い方で区別される。

ᴅᴅ(ɺ) ［単位］キロメルフィ、ｋｍ← ᴅecnᴅelɑc ［レベル］3 ɺɺ

ᴅyı ［動物］猫、ねこ、ネコ ［擬声］にゃーん ［レベル］2 古 : ネコのオノマトペの一種。文字は ʅeʃʃɔ と同じ。

ᴅyı(ɺ) ［代詞］［南方］［女性］nɔn ［レベル］3 ɺ1:ʅ.ᴅcuı 【用例】 ᴅyı ɑcʃyıʃ hıɥ ᴅccʅ le ʃlc ʃıəʃ ʅen ʃlcn eʃʃı ʅoın lıɟ yı. nɔn ɑcʃıʃ ᴅccʅ hıɥ le ʃyə ʃıəʃ ıl eʃʃı ʃəın ʅɔʃʅɔ lıɟ e. アンタが買うた赤いリンゴ、ウチがアンタの姉さんに手渡ししといたで。

ᴅyın ［植物］ハス、蓮 ［レベル］3 lılʃı

ᴅyın(ɺ) ［代詞］［南方］［女性］nɔın ［レベル］3 ɺ1:ᴅyı の属格

ᴅyınᴅɔᴅ ［植物］レンコン ［レベル］3 1ʕ: 制 : はすの根 ［文化］ アルティア人経由でアルバザード人も食べるようになった。

ᴅyıe,ɑ ɑeᴅ 幼字の字源は「嘘の炎で脅かす」。

ᴅyɔ ［物理］磁石関連につく形態素 ［名詞］磁石 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ᴅyɔc（磁気の）

ᴅyɔʃeɟ ［物理］電磁誘導。ʃeɟ といっても具体的な電気のことでなく、現象名。 ［レベル］4 1L

ᴅyɔʅı ［物理］磁場 ［レベル］4 1L:ɥcəɟʅı と同様のネーミング

ᴅyɔɑɥeı ［地学］磁鉄鉱 1L

ᴅyɔbelɑɥeı ［地学］磁硫鉄鉱 1L

ᴅyɔıʃeu ［物理］誘導電流 ［レベル］4 1L:ᴅyɔeueʃ と同じネーミング

ᴅyɔc ［物理］磁気 ［レベル］4 ɟᴅ;ᴅyɔ は磁気 赤

ᴅyɔeueʃ ［物理］誘導起電力 ［レベル］5 1L: 磁場の変化で起こる起電力

ᴅyed ［感動詞］［ɣənʃe］へっ？､えっ？､みゅ？､にゅ？ ［レベル］2 古 ［語法］ 意味は hed と同じ。ᴅyed は主に人に対して、ᴅyəd は主に自分に対して使う。

ᴅyə ［感動詞］［文末純詞］みゅ、みゅう、みゅぅ、みゅー？、みゅんっ ［レベル］2 ɥɑ:ɥcɑcı; 猫の鳴き声から 1L: 新生では古 ᴅyəd からの逆成。 ［語法］ 猫風の文末純詞。甘えの心理や平和や和みを示す。

ᴅyə,ɑ ᴅc、enl、ɑce e

ᴅyəʃ ［名詞］距離、間隔 ［名詞］親密度 ［武道］間合い ［数学］三角関数の三角形における斜辺。単位円の半径に等しい。 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ:ᴅyəɔ/ıʃc。ɑɥeᴅɑlɔn では長いため。 ɔ:ɔ

ᴅyəʃlılı ［地学］正距図法 ［レベル］5 1L

ᴅyəʃnı ［芸術］遠近感 ［レベル］4 ɺɺ

ᴅyəʃlɔɥʅılı ［地学］正距円筒図法 ［レベル］5 ɺ0 ［文化］ 緯線と経線が垂直に交差し、それによってできるすべてのブロックが等面積の長方形になる図法。緯度と経度を示しやすく、ＧＰＳなどに使われる。現実にはアトラスの地図がセレンによって最初に作られた際、作図が容易であることとアシェルフィの位置が示しやすいことから、この図法が選ばれた。

ᴅyəʃıɥʅɔɥʅılı ［地学］正距方位図法 ［レベル］5 ɺ0 ［文化］ ılecuʅılı などがある。

ᴅyəʃıll ［数学］絶対値 ［レベル］4 1L

ᴅyəʃɔᴅ ［芸術］遠近法 ［レベル］4 ɺɺ

ᴅyəʃe ［物理］スペクトル ［レベル］4 古 &ᴅyəʃe（分ける）。ᴅyə/ʃe で「関係がなくなる」

ᴅyəʃe,ɑ ᴅıʃ、ᴅcʃe 「ない関係にする」

ᴅyəʃen ［医療］骨度 ɟzl;ᴅyəʃe.ʅ ɺʃʃ

ᴅyəʃenɔᴅ ［生物］［医療］骨度法、骨度分寸法 ɥɑ;/ ɺʃʃ

ᴅyəʃeɔᴅ ［物理］分光法 ɺ1

ᴅyəʅ ［単位］ミュク、磁束密度 ［レベル］6 古 : 元は ᴅyəᴅʅıᴅı（磁束密度）。「磁束の多さ」。 ［語法］ 磁束の方向に垂直な面において 1 平方メルフィにつき 1 ミュムの磁束密度のこと。テスラと比較。

ᴅyəʅlc ［名詞］犠牲、生贄、いけにえ ［類義語］ɣənɟ、cɟʃcɟ ［レベル］3 ɑ;ʅ は ʅə で動物。lc は lcuɥɔ で命。ᴅyə は「なくなる」 赤

ᴅyəʅıɥ ［宗教］教祖 ［レベル］4 古 :ɑəlᴅccı:ᴅyəʅıle/ɥɟcclı ［文化］ ある宗教を興した人物。シオン＝アマンゼなど。

ᴅyəʅılcı ［宗教］邪教徒 ［反意語］ɣəəsc ［レベル］3 ɺ0:ᴅyəʅıle/lcı ［文化］ ɣəəᴅı ʃʃ19ɺ にレスティリアの王府がアルヴェーテを ᴅyəʅıle と呼び、その信者をこのように呼んだ。hıɥuı が出てからは廃語となる。

ɒyəlile ［宗教］宗教、～教 ［レベル］2 zφ;「嘘の」 赤 : ちなみに宗教にネガティブだった古アルカでは、同時に「嘘の」という意味。 ɒyəlile:ɒyəlile:lə ɒyəlile ［文化］ yəəɒı ɱ19」レスティリアの王府からアルテ教は異教 (ɒyəlile) だという公言がなされる。実際に歴史的にはアルテ教のほうが間違っているわけで、存在しない神を崇められては当然サルトとしては鼻持ちならない。また、神商会としてはこれ以上商工会をのさばらせておくわけにもいかなかった。そこで両者が時のレスティル王マールを炊きつけ、アルテ教を邪教とし、yəəɒı ɱ19ɱ にはさらに宗教の禁止を公布させた。宗教はアルバレンで ɒyəlile といい、「嘘のもの」「存在しないもの」を意味する。これにより、アルテ教迫害の下準備が整う　サルト教ができて以降は「邪教」の意味でなく、宗教を総称する語になる。

ɒyəlı ［天文］新月、朔月、朔、つきこもり、月隠り、晦、みそか、晦日 ［名詞］南 ［メタファー］ぽっかり空いた丸い穴 ［メタファー］心の穴、喪失感 ［組み数字］1／8 ［レベル］2 1ʃ: 制 : 古 :ɒyəleʃ。また古の ɒyəlı（存在がない）とも掛けている。 ɒyəleʃ:ɒyəleʃ:lı ɒyəlel ［文化］ lelʃeel 【用例】 ☆ nɔn ʃcl lılel ɒyəlı ɒcl uɔɲʃ lııʃ ɑcen ʔ jılʃ ıj ej ɲılɒ. 彼が死んでから３年が経つが、まだ喪失感を感じている。

ɒyəlı,ɑ ɒıl 「ないもの」

ɒyəlıʃ ［名詞］死角 ［レベル］4 ɑu;ɒyəlı/ʃe「穴のような」 ɭɱ

ɒyəlıˀ ［地名］ミュシャク ［レベル］6 古 ［文化］ アデント大陸にあるモカル国の首都。ガーヴィへ通じる大穴がある。

ɒyəleʃ ［名詞］ミュシェット、ミュシェットの月、月無 ［レベル］2 ɑu; ↓ 古 : 古では「ない月」。幻の月と新月両方を表わした。 x:x:lə ɒyəlel ［語法］「ない月」。月無日（アシェットの日及びテームスの日）

ɒyəleʃlcl ［化学］イットリウム ［レベル］5 1Δ: 制

ɒyəlel ［気象］ɒyəlı ［医療］厥陰 ɲɒ;‹jzl‹ɒyəleʃ.ˀ ɭɱ

ɒyən ［女性］［法副詞］～してください。ɒcɲ よりも語調が弱い。 ［類義語］ ɒcɲ ［レベル］1 ɭ1:ɲcɑcı:ɭ1 まで ɒcə。ɒcɲ と聞き分けが困難として ɒcə に指小辞を付け ɒcən にし、口蓋化して ɒyən に。 ［語法］ ɲe

ɒyən(ɭ) ［感動詞］［文末純詞］［ɒclɑ］みゅん ［レベル］2 ɭ0:ɲcɑcı:ɒcɲɔˀ

ɒyəɒ ［単位］ミュム、磁束 ［レベル］6 古 : 磁束 ［語法］ １回巻きの閉回路と錯交する磁束が一様に減少して１秒後に消滅するときにその閉回路に１イレットの起電力を与える磁束のこと。ウェーバーと比較。

ɒyəd ［感動詞］［文末純詞］［yənʃe］へっ？、えっ？、みゅ？、にゅ？ ［レベル］2 ɲɒ:ɲcɑcı;ɒyə 古

ɒyədı,ɑ ɾəəˀj ɒyə/dıdıləɲı「消え去る太陽」

ɒyəɲ ［地学］沖 ［レベル］3 1L:ɲcɑcı:ıɲbıleʃ:ɒyəɔ/eɲcı（離れた水）

ɒyəɲcı ［地名］ミュリア海 ɭ0:ɲcɑcı: 古 ɒyə（ない→花がない→ミナカルモ側でない）/ 水 ［文化］ フィギット北の海。

ɒyəz ［植物］イグサ、トウシンソウ ［名詞］畳← ɒyəzbɔlj ［単位］畳 → ez ［レベル］3 ılıˀʃı:ɒyəlıbədız「籠の草」

ɒyəzbɔlj ［名詞］畳→ ɒyəz ［レベル］3 jɒ;ılʃ の道具を意訳 1L:ɲcɑcı:ıɲ bıleʃ ［文化］ ez

ɒyəl ［形容詞］類似の、似ている、似た ［格詞］～に似た、～に似ている、～のような ［名詞］類似品、似たもの ［数学］相似 ［反意語］enˀ ［レベル］2 赤 :ɒyəl（鏡）［成句］ ɒyəl ʃə 同じように、同様に、似たように 【用例】 ɲcɑcı ıʃ ɒyəl ı ɒclɑ cɒ lız. 少女時代のリディアはミルフに似ていた。

ɒyəl,jzɒ 0 ɒyə/ıl

ɒyəl,ɑu ɒed ɒyə/ıl

ɒyəlˀılɒ ［魔法］ミュルカルム ［類義語］ɒyəlɒejcı ［レベル］5 ɲɒ;ɒyəl/ˀılyəɒ「類似した双子宇宙」 ɭʔ ［文化］ 双子宇宙は類似するという ɲɒ で立てられた理論のこと。双子宇宙であるカルディアとユマナは互いに類似しているという内容である。実際に大陸の配置も似ているし、結果当然のことながら気候や風土も似てくる。また、惑星系などは同一ですらある。　同じような土地柄の世界がふたつあれば、別途栄えても同じような文化が出来上がるというのがこの理論の特徴である。例えばカルディアでもユマナでも蜘蛛という生き物は存在するし、同じように進化してきた。猫もどちらの世界でも生息していて、一部ではペットとして飼われる。どちらの世界にも桜という木があり、どちらの世界にも殺人という犯罪がある。　これは地球内でも似たようなことが言える。全く別個に発達した文化同士を比べたときに示し合わせてもいないのにあまりに多くの類似性が見つかる。例えばどの民族も物を食うし、物を焼くし、人を殺せばたいてい犯罪である。示し合わせたわけでもないのに根本的な部分が同じ人間という種だから、同じような文化を形成する。　このように、似たような環境が与えられた領域では似たような進化を遂げるというのがこの理論の大綱である。　ɲɒ ではセレンがユマナからの来訪者という説があり、それが発端となってミュルカルム理論まで発展していき、カルディアとユマナの驚くべき類似性が示唆された。　ls ではさらに、カルディアとユマナの最大の違いはヴィード場の有無にあるとセレンは提唱した。なお、ls セレンもミュルカルムを支持していた。ɲɒ のセレンも同様である。　・現実では　現実では中学の時にセレンによって形成され、ɭʔ 年に登録された用語である。　セレンはアシェットとの付き合いで、こんなにも民族が違うと細かなところで異なるのかと驚いた。その一方、２８民族もいて逆に大まかな部分は全部共通していることにも驚いた。どの民族も物を食うし手もあるし目もあるし色が違っても目の機能は同じだし、肌の色が違っても肌は肌だし、殴れば怒るし痛い。　あまりに違うと細かな部分では思う相手たちが、大まかな部分では逆にあまりに似すぎているということが不思議だった。　だって民族同士は示し合わせて文化を形成したわけでもないのに、なんでこんなに大まかな部分で同じなんだろう、と不思議に思った。そこで、環境が似ていれば同じような結果になるのではないかという考えにいたった。　この考えが異世界と現実の間でも応用され、ふたつの世界も環境が類似した双子宇宙なら、同じような結果を導出し、同じようなよく似た世界、細部しか異ならない世界ができるのではないかと思った。それがミュルカルム理論の元である。　結局はセレンの少年期の多種多様な民族との触れ合いが元になっている。これは経験したものでなければよく分からないのではないかと思う。言葉で説明されただけで心が納得できるかは分からない。セレンのような体験をしたアシェットの人間にはたやすく共有される価値観であろう。　・現実でのジレンマ　アルカは異世界の言語であるとともに地球でも使えないと困るし、ユマナタグをなるべく増やしたくないので、メルティアが故意に世界を類似させているとかいう加圧をしてでも類似性を維持したい、というのが本音。　一応カルディア固有のものはそれなりに作っているんだけどね。国や海を始めとして。植生なんかでもソソトロノとかカルディアにしかないし。でもあんま両世界が乖離すると言語使いづらくてしゃーないのよ。アルカがカルディアオンリーのガチ架空言語ならいいけど、リアルネイティブがいることだし。　そもそも現実で使ってた人工言語を異世界の言語としてチューンナップするからこういうことになる。なまじ現実で使ってるから。でも現実で使わないと実践に耐えうる言語か検証できないという問題もあるしでジレンマ。　アルティス教なんてカルディアにしかないから、娘はフランス人が教会を持つように自分たちのシーカはどこにあるんだ？なんて疑問を親にぶつけて困らせるという問題が実際に起こってる。これが ɲıɑc どこ？なら人参渡せばいいけど、カルディア固有のものだと渡すものがなくて詰む。こういうのが困る。　要するに「異世界の言語をなるべくそのまま地球でも使えるようにしよう」というコンセプトと「それはそれでいて異世界はしっかり作り込もう」というコンセプトが矛盾的でだけど両立しなければいけないので、そこで出てくるのが ɒyəlˀılɒ だったり ɒyəlɒejcı だったりするわけだ。

ɒyəlˀɔʃʃı ［美容］鏡台、化粧台、化粧鏡 ［レベル］4 ɭ1: 古 ɒyəlˀɔʃı（魔法鏡）

ɒyəlˀɔʃı ［魔法］ミュルコタ ［類義語］clcɲcəj ［レベル］5 ɑu;ɒyəl/ˀɔʃı 赤 ［文化］ 光の上位難合古代魔法。あらゆる魔法を跳ね返す。跳ね返せない強さのものに対しては防壁の役目となり、ダメージを緩和する。イシリウスより能力が高いが、人間には極めて重合しづらい。

ɒyəlueʃ ［言語］類義語、シノニム ［レベル］4 1L

ɒyəlɒejcı ［哲学］ミュルメシア ［類義語］ɒyəlˀılɒ ［レベル］5 ɲɒ;ɒyəl/ɒejı ɭɱ ［文化］ 同じ環境が与えられれば同じ結論にたどり着くこと。例えば ɒyəlˀılɒ はこれの下位概念である。　一言で言えば、「似たような環境で発達した物事はミクロな部分では異なるが、マクロな部分では共通する」という考え方のことである。　ɒyəlˀılɒ と関連させると、例えば「ユマナには桜があるがカルディアにも桜に相当するものがある」ということである。ミクロな目で見れば地球の桜とは異なるが、アトラスの日本のような気候の国ではマクロな目で見て桜と似たような木が繁栄するだろうという理論のことである。　日本の人工言語制作者は偶然では説明がつかない頻度でアブギダ系の文字を考案する。日本ではアブギダ系の文字は普及していないのに、示し合わせたかのように偶然でない頻度でアブギダ系の文字を考案する。これは母語の日本語が音節文字であることと、人工言語という厨二病を発症しやすい小中高のころにローマ字や英語を習って母音と子音というシステムを知るという環境が日本人の間で共有されているからである。日本語のひらがなのように音節数の数だけ文字を用意するのは骨が折れる。そこで子音と母音に分け、アブギダのように音節を表現すれば合理的じゃないかと思いつく。この発想は同じような環境に置かれた人が同じような結論を導出するということの好例である。むろん全員が必ずそうするというわけではない。皆が同じ結論になるというのではなく、少なくない人が同じ結論にたどり着くということで、マクロの単位で見ると、双子宇宙であるカルディアとユマナが大方の部分で似ているが細部で異なるというのと同じことである。つまりミュルメシアはミュルカルムの一環といえる。　セレンは小学生のころからこのミュルメシアに相当する考え方で生きてきた。人間は似たような環境に置かれれば、示し合わせたかのように同じような行動を取る。文化圏が違っても、人間の体というのが共通していれば、アフォーダンスの関係で様々な部分で同じような行動を取るということを、アシェットの友人を通して痛いほど身を以て痛感してきたためである。　例えば黄色い肌のセレンや白い肌のフルミネアや褐色のパール、焦げ茶色の目のセレンや緑の目のリディアや青い目のメルなど、アシェットのメンバーは様々な民族でできている。セレンは日本語教授法の免許を持っているので研修などでアシェット状の様々な民族が集まった教室も経験している。アシェット化された環境はミクロな部分では文化差によって非常に異なっているが、マクロな面では驚くほど同じである。　例えばどんなに肌の色が違おうと口で食べて胃で消化して腸で吸収して排泄するというのは同じだし、だからどんなに離れた一切交流のない文化圏を比べてもどちらにも必ずトイレに当たるものが示し合わせたかのように存在する。　人間は置かれた環境が共通している限り、かなりの確率で似たような結論を出すのだ。例えば示し合わせなくても必ずどの民族もトイレに当たるものを作る。それが単なるヤブの中なのか、洋式なのか和式なのか、ミクロの違いはあれど、トイレという点では共通している。示し合わせなくとも同じ環境に置かれれば同じ結論になるというのがこのミュルメシアの重要な考え方であり、世界設定の重要なキーワードであるミュルカルムとも関連する。

ɒyəlɲecɑ ［言語］類音 ［レベル］4 ɭ0

ɒyəllı ［感動詞］がっかりだ、残念だ、残念 ［名詞］（nı とともに）意気消沈した、落胆した、落ち込む、へこむ、ヘコむ、凹む、気落ちする、気が落ちる、気を落とす、肩を落とす ［形容詞］残念な、がっかりした、気落ちした ［レベル］2 古 :ɒyəllı（希望がない）【用例】 jcnj ɒyəllı 気を落とす ın nıʃ ɒyəllı ı lı uıɑe ʃıj. 彼が試験に落ちたことは

残念だ。 lɪȷ nɪʃ ᴅyəllɪ ɪ ncɑe ɪnʃ cn. 私の成績に彼らはがっかりしたようだった。 ☆ ʃə ɪʃ ᴅyəllɪ lel lɪ leeu ɪn leɑ ɥenȷ. がっかりしたことに、彼は何も言わずに去った：がっかりしたことにを副詞句にしない。 ɪn nɪʃ ᴅyəllɪ ᴅɪn uɪɑe ʃɪȷ. 試験に落ちて落胆した。 ɪn nɪʃ ᴅyəllɪ ɪ lɪ ȷɔʃ ȷɔɪ. 彼がそうしたのは残念だった。 ɪn nɪ ᴅyəllɪ ɔn ʃcɑl ˥clᴅ ɥɪʃ. いい機会を失うのは残念だ。 ʃə ɪʃ ᴅyəllɪ lel lɪ en ˥id ɪl ɪn. 残念なことに、彼は電話をくれなかった。 el nɪ ȷcl ᴅyəllɪ ᴅcl enɑc ȷɔuen ȷeȷ ɔ ʃəɥ ᴅclφɪɪl lə ʃcl ᴅɪl ncl ɪ. なまじ幸せな記憶を持ってると現在との落差でへこむことになるぞ。

ᴅyəlleed ［化学］同族体 ［レベル］5 1L

ᴅyəlɪsɪ ［数学］相似比 ［レベル］4 1L

ᴅyəlɔ ［動詞］yəl を c から類推する、類推する ［論理］類推、アナロジー ［レベル］4 1L:ᴅyəllɔ

ᴅyəlen ［接続詞］～に似た ［レベル］3 1L:lcɔn

ᴅyəleᴅ ［言語］ウムラウト ［レベル］6 1L ［語法］ 同化の一種で、後続の母音の影響を受けて母音が変質すること。後ろの母音と同じになるとは限らないため、ᴅyəl と呼んでいる。英語のｆｏｏｔ－ｆｅｅｔのような例はアルカではアプラウトと捉えている。むろん、通時的にはｆｅｅｔはｆｏｔｉｓ（ｏの上にウムラウト記号）から生じたため、純粋にウムラウトである。しかし現在のｆｅｅｔとｆｏｏｔの関係だけを取り出すと、アプラウトである。他方、ｓｉｎｇ－ｓｕｎｇのような例は通時的にも後続母音による変化によるものではなかったため、アプラウトでしかない。

ᴅyəleᴅ(ɹ) ［魔法］［工学］ミュレム現象、引晄現象 ［レベル］5 ［反意語］ɪɪ˥ɔʃ ɹ0: 同じの ［文化］ 異なる晄基配列の ucɥ 同士を高魔圧で接触させると魔法物理学上の引力が生じる現象。

ᴅyəɔ ［形容詞］離れた ［動詞］yəl を c から離す、離す、分離する ［普通動名詞］非接触、隔離、隔絶 ［反意語］ᴅɔl ［レベル］2 ɑ 赤 :ᴅyə（ない）/ɔ（距離）「距離を取って、ここにない」 ᴅyəɔ:ᴅyəɔ:ᴅyəɔ 【用例】 ȷɪe ᴅyə ɔ˥ c lɪnueᴅ. 紗枝はランヴェムから身を離した。

ᴅyəɔ˥cᴅhɔ ［生物］浮肋、浮肋骨、浮遊肋。第１１と１２肋骨のこと。非常に折れやすく、マッサージなどでも折れる医療事故が多い。 ɥɑ;/。ほかの肋骨、肋軟骨と異なり、繋がっていなくて浮いて離れた状態になっていることから。 ɹɱ

ᴅyəɔnecʃ ［アトラスの国家］ミュオネイト ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ᴅyəɔ は「離れた」

ᴅyəɔnecʃʃc˥e ［地学］ミュオネイト海流 ɹʔ

ᴅyəɔucɪn ［物理］遠隔力 ［レベル］6 ɹ0

ᴅyəɔdɪl ［経済］個別表、個別財務諸表 ［レベル］6 1L

ᴅyəɔɥɪ ［建設］一戸建て、一軒家 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］東区の金持ちが住む家。

ᴅyəɔcn ［動詞］yəl を見物する、見物する、見学する、傍観する、観察する ［普通動名詞］見物、見学、傍観、観察、社会科見学 ɥɑ;/「離れたところから見る」 ɹɱ

ᴅyəɔɔddɪl ［経済］個別注記表 ［レベル］6 1L

ᴅyəe ［ユマナ］イスラム教 ［ユマナ］アラー、アッラー ［レベル］4 古 :ᴅyəe（アラー）。元は ᴅyəeeȷʃe（名前の無い）

ᴅyəeᴅyə˥ɪle ［ユマナ］［宗教］イスラム教 ［レベル］4 ɹʔ

ᴅyəelec ［宗教］コーラン ［レベル］5 1ɱ: 制 : イスラム教の本

ᴅyəə ［感動詞］ᴅyə ［レベル］2 ɥɑ:ɥcɑcɪ;ᴅyə ɹʔ

ᴅyəəze ［人名］ミューゼ 古 : 小説版アンクノット３巻に記述あり。設定内容は現状と異なる。 ［文化］ ウロの時代にいたソーンの隠れ使徒。ɥɑ ではクミールの家の研究所を爆破した張本人で、クミールの命を救うという名目でクミールに乗り移った。アルシェとの決戦で意識の低下したクミールを乗っ取ろうとしたが、リディアにハティアの魔法をかけられ、中にいるクミールが目を覚まして動けなくなり、セレンに斬られた。

ᴅyəəl ［地名］ミュール、ミュール大陸 ［類義語］˥lenɑcɪ ［レベル］3 古 :「ないもの」が原義 ［文化］ 面積：ɹɹ1Δ1L1.ɁL10ΔL ˥ᴅ 」 アンシャル南部の亜大陸。古名は ˥lenɑcɪ。

ᴅyəəlȷczɪ ［地学］ミュールプレート ɹʔ

ᴅɪ,ɑ ᴅɪᴅ、ᴅɪzɪᴅ e

ᴅɪʃ ［動詞］yəl を ɪ に分ける、わける、散らばる、分かれる、分岐する、分ける、散らす、振り分ける、ふりわける、ふり分ける、分散する ［普通動名詞］分散、ふりわけ、振り分け、分割、分裂、仕分け ［化学］分散する。コロイドなどは溶けずに分散する。 ［生物］分裂する ［経済］仕訳、仕分け ［経済］分割する ［音楽］アルペジオ ［反意語］nɔl 1ʔ: 制 :ᴅcʃ:ᴅɪʃ は制では「合流」、ᴅcʃ が「分岐」、nɔl が「集める」、nel が「散らばる」 ［レベル］2 ᴅyəʃe:ᴅyəʃe:ᴅyəʃe:ən,ɪlʃ ［語法］ ɑɔ˥˥ 【成句】 ᴅɪʃ yənɔ ほっとする

ᴅɪʃ(ɹ) ［組み数字］２６／２８ ［交通］ンムト通り ［レベル］2 ɹɹ

ᴅɪʃʃɪ ［被服］股引、ももひき ［レベル］4 ȷᴅ;<ɪlʃ ɹ1

ᴅɪɱɪ ［名詞］分岐点 ［レベル］4 ɹɹ

ᴅɪʃ uɪᴅɪ ［人名］ンムト＝ヴァマ ［組み数字］２６／２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。古形は φᴅəʃ,φᴅɪʃ,nnəʃ などと書かれ、表記が不安定だった。幻字は表意文字だったため、表記がきちんと決められないままになっていた。uɪᴅɪ は元は uɪlᴅɪ で、「あの体」。 ［文化］ → ᴅɪʃueɥɪnʃ （ɹ→）第４期４代ソーン第１２使徒。男性。ɪlben。１９０ｃｍ、９２ｋｇ。髪は赤毛で５ｃｍほどの長さでぼさぼさ。茶色の瞳。肌は白：黄＝１０：０。 本来は [φ] が軟口蓋鼻音なのだが、制アルカにないので本人に選んでもらったところ、クミールの代弁によると調音点が同じで同じく有声音の閉鎖音 [φ] にしてほしいとのことだったので、この名にする。セレンの感覚では [n] が近いかと思ったが、それはあまりに日本語に引きずられた考えのようだ。 ↑この時点以降、制アルカ的でないという理由で名前が変わり、本人も納得しているということで、名前を変えた。φᴅʃ だったものに母音を入れた。適切な母音を選んでもらったら ə が近いということだったので、それに相成った。

ᴅɪʃuɔɪɥ ［物理］［化学］核分裂炉 ［レベル］6 ɪl;/「核分裂原子炉」 ɹɱ ［語法］ nɔluɔɪɥ

ᴅɪʃueɥɪnʃ ［医療］反社会性パーソナリティ障害、反社会性人格障害、非社会性パーソナリティ障害、非社会性人格障害 ［レベル］5 ul;ᴅɪʃ/ue ɥɪnʃ ɹʔ:ᴅel

ᴅɪʃφɪ˥ ［経済］分割払い ［レベル］5 1L

ᴅɪʃdeɑ ［経済］減価償却 ［レベル］5 1L

ᴅɪʃbɪ˥l ［化学］分散コロイド 1L

ᴅɪʃzɔn ［医療］松葉杖 ［レベル］3 ɹ1:ləȷcɪn: 分岐した杖

ᴅɪʃzɔl ［生物］中心小体、中心体 ɥʃ;/ 細胞分裂の際、弦となって染色体を引っ張って分裂させる働きをすることから。 ɹɱ

ᴅɪʃ,ɪlʃ ɪz

ᴅɪʃɪn ［化学］分散媒 1L: 例えば発泡スチロールは気体を固体に分散させたものだが、このとき固体が気体を自分の中に分散させているので、「分散させるもの」は分散質でなく分散媒になる。日本語の「分散する」という自動詞で考えてはいけない。アルカには他動詞「分散させる」しかないので、結果的に能受が逆になる。幻幻から流入したとき、セレンはこれをリディア側の誤植として訴えた。

ᴅɪʃɪɑcȷ ［法律］八つ裂き刑 1L ［文化］ 受刑者を裸にして両手両足をロープで巻き、自動巻きの滑車にくくりつける。滑車をスタートするとロープが引き込まれていき、受刑者の両手両足がもぎ取られる。最後に必ず両手両足のうちどれか一本が残る。配偶者殺害に適応。

ᴅɪʃɪlɔ,ɑ uɔɥʃ

ᴅɪʃɪlɔφc,ɑu uɔφ ᴅelʃcɪ ΔΔ:φclcəȷ;/

ᴅɪʃcȷ ［軍事］曹長、マティス ［組み数字］１５／２０ ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ᴅɪlʃ/lɪnʃcȷ。少年魔導師などで能力があるとこの地位に就いたことから。 ［語法］［文化］ ˥ɪnɪ

ᴅɪʃɔl ［化学］分散質 1L: 分散されるもの→必ず ᴅɪʃɪn を読むこと

ᴅɪʃeʃ ［経済］ザラ場 ［反意語］nɔleʃ ［レベル］6 ɹɹ:nɔleʃ に対して造語されただけで、ᴅɪʃ 自体の散るという意味はない。

ᴅɪʃeʃueeɥ ［経済］ザラ場引け。前引けや大引けで取引が成立しないこと。 ɹɹ

ᴅɪʃeȷȷe ［普通動名詞］ファーストフードセックス ［反意語］ȷeɥeȷȷe ［レベル］6 ɥɑ;/ ɹʔ ［文化］ ȷeɥeȷȷe

ᴅɪʃelȷ ［美容］ブロッキング ɹ1

ᴅɪ˥ ［普通動名詞］再開 ［動詞］yəl を c のポイントから再開する、再開する ［法副詞］～を再開する。準開始相。 ［反意語］ɑɪcᴅ、ɔn˥ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ᴅe˥clc（中断、止める）「時を切る」 ［語法］ ᴅɪ˥ は準開始相。˥cʃ の代わりに使う。 同じく ɑɪcᴅ は準完了相。 ᴅɪ˥ は再開の意味。ɑɪcᴅ は中断。 「また～はじめる」と「～するのをやめる」にあたる。 これらはともに相副詞である。 ●単位動詞の場合 lə˥ ᴅɪ˥（徒歩での移動を再開する） lə˥ ɑɪcᴅ（徒歩での移動を中断する） ●非単位動詞の場合：＊非単位動詞にはモデル上完了相がないので、ɑɪcᴅ は繰り下げて終了相にかかる。ɑɪcᴅ は準終了相となる。 lə˥ɪnɑ ᴅɪ˥（散歩を再開する） lə˥ɪnɑ ɑɪcᴅ（散歩を中断する）

ᴅɪ˥ɥɔlʃ ［娯楽］ふっかつのじゅもん、ふっかつの呪文、復活の呪文 ［レベル］5 ul;「再開のパスワード」 ɹʔ

ᴅɪ˥l ［動詞］yəl を ɪ に撒く、撒く、蒔く、まく、撒き散らす、撒布する、ばら撒く、散らばる、拡散する、散らばらせる、散布する、配布する ［普通動名詞］散布、配布、拡散 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :˥ɪᴅɪ˥eʃʃɪȷɔ「多く広く行かせるようにする」

ᴅɪ˥lφe˥ ［軍事］散弾 ［レベル］6 ɥɑ;/ ɹɱ ［文化］ φel

ᴅɪ˥c,ɪlʃ ᴅɪɥ˥ ᴅɪ/˥ɪlc

ᴅɪ˥clə,ɪlʃ ᴅɪɥ˥ ᴅɪ˥c/lə

ᴅɪ˥ɔ ［化学］化合する、親和する ［普通動名詞］化合、親和 ［レベル］4 1L:ɥyəə:ᴅɪcl/˥ɔd

ᴅɪl ［名詞］穴、孔、ポケット（服のではなく） ［名詞］ポケット。ビリヤード。 ［卑語］性の対象の女 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ᴅyəlɪ（穴） ᴅyəlɪ:ᴅyəlɪ 【用例】 lɪɑ ᴅɪl 穴を開ける ɪlɪɑ ᴅɪl 穴を壊す、穴を塞ぐ × ɥcφ ᴅɪȷ

ᴅɪlzɔn ［運動］ゴルフ ［レベル］3 1ʕ: 制 ［文化］ ゴルフとクリケットとゲートボールはテニスと同じ扱い。プロもいる。ルールもほぼ同じ。

ᴅɪlɪ ［名詞］コンセント。入れられるほう。 ［反意語］ncȷc ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ᴅyəlɪ

ᴅɪlcᴅ ［名詞］空洞 ［レベル］3 ɥɑ;ᴅɪl/scᴅ ɹʔ

ᴅɪlcdɪ ［医療］痔瘻、じろう、蓮痔、穴痔 ［レベル］6 1L

ᴅɪlcl ［アトラスの国家］マシル ［レベル］5 ɹʔ:ɥcɑcɪ

ᴅɪlɔᴅɪ ［動物］ダックスフンド ［レベル］6 ɹ1

ᴅɪȷ ［名詞］紙、状、書状、シート、メモ ［形容詞］［俗語］ペーパーの、ヤブの、名目上の ［レベル］2 ᴅelʃcɪ ʔΔL:uɪɥʃe;ᴅɪc˥.˥。最初は麻で作られたものを指した。 ȷɔɥn 1ʔ: 制 :ȷɔɥn:ᴅeᴅɪȷ,ᴅeᴅɔɪȷ（紙）。語源不詳。英語のメモに ɪȷ を付けたものという説があるが、ᴅeᴅɔɪȷ の前の語形が ᴅeᴅɪȷ であることを考えると不適。むしろ英語のメモを意識した者が後から ᴅeᴅɔɪȷ と解釈して ᴅeᴅɔɪȷ という語形が生まれたと考えられる。 ˥ɪȷɪ:˥ɪʃȷə:ᴅeɪȷ ［文化］ → hɪɾl 【用例】 ᴅɪȷ hɪn 大きな紙 ᴅɪȷ ɑeɑ 薄い紙 ᴅɪȷ ɑcᴅ 脆い紙

ᴅɪʝ͐ ［名詞］封筒 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : ᴅɪʝlcͽl（紙の紙袋）

ᴅɪʝͽlid ［名詞］ゼムクリップ ［レベル］４ 1ɱ: 制 : 紙のクリップ

ᴅɪʝʝɪ ［植物］橘、タチバナ ［レベル］４ ʝᴅ;ᴅɪʝʝə,ɪlʃ ɺɺ

ᴅɪʝʝə,ɪlʃ ᴅəɔ

ᴅɪʝuɪlʝ ［俗語］やぶ医者、ヤブ医者、藪医者、薮医者、やぶ、ヤブ ［レベル］３ ɺʔ8

ᴅɪʝdɥɔʃ ［普通動名詞］書籍出版、紙出版 ［反意語］ɪɥdɥɔʃ ［レベル］５ ɺɺ

ᴅɪʝbɪʝ ［名詞］紙ごみ、紙ゴミ、紙くず、紙屑、紙クズ ［レベル］３ ɥɷ;/ ɺʔ

ᴅɪʝɥəͽlɪ ［名詞］障子 ［レベル］３ 1ɱ: 制 : 紙の格子

ᴅɪʝl ［名詞］ペーパーバック ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ᴅɪʝlɔb

ᴅɪʝlec ［名詞］紙の書籍、本、書籍 ［反意語］ɪɥlec ［レベル］３ ɺɺ

ᴅɪʝɪ ［生物］肢帯 1L:ɥcɷcɪ:ᴅɪcn/ɪʝɥɪ

ᴅɪʝɔdnɪn ［交通］ペーパードライバー ［レベル］４ ɺɺ 【用例】 lɪɪl ɥɪnʃe eʃ ᴅɪʝɔdnɪn ʃcʝ. ウチの母はペーパードライバーにすぎない。

ᴅɪʝeʃ ［植物］パピルス ［レベル］４ ɺ0: 紙のような ［文化］ アルテムでファルファニア人がアルファエル川流域で発見し、これをもとに紙を作った。既にこのとき麻製の紙を神から分けてもらっていたが、製紙技術は人間になく、このときのパピルス製が初めての製紙技術。紙のほうが単語として先に存在していたので、紙のような植物という語源になっている。

ᴅɪʝəlc,ɪlʃ ɔnnɪ

ᴅɪn ［格詞］なぜならば ［名詞］理由、原因 ［類義語］ᴅcl、ɪlᴅɪn、ͽɔlʝeʃ、ᴅclφɪɪl、ʝɪnse ［レベル］１ 1ɸ: 恣意 dcn:dcn:ᴅcl ［語法］ ・因果度 「なぜならば」には因果度の強さによって強中弱があり、順に ɪlᴅ ɪn, ᴅɪn, ᴅcl という。通常は ᴅɪn と ᴅcl を使う。ᴅcl を使う条件は強弱だけでなく、以下の３つ。 １：女性は ᴅɪn のときも ᴅcl と言いやすい。 ２：因果度が弱い場合は ᴅcl を使う。 ３：直後が名詞句の場合、ᴅcl を使うのがふつう。ᴅcl uɪʝʃe（ヴァステにより）など。 ・ᴅɪn と enʃɔ ͽ ᴅɪn ʃより ʃ enʃɔ ͽのほうが構文的には一般的である。 △ ᴅɪn ɪn ʝccnɪ lelʃ, ɪn ɑclʝ ʃə cᴅ ɑɥɪl ʝel. ○ ɪn ʝccnɪ lelʃ enʃɔ ɑclʝ ʃə cᴅ ɑɥɪl ʝel 【成句】 ᴅcl uɔʝͽ{lclc} e nene 〜のおかげで ͽɔ lɪn ʃcl ͽɔ ᴅɪn. ひとりの人にはひとつの目的がある。韻を踏むためこは ᴅɪn で。 【用例】 ɪn lɪʃ ɥɪ ᴅɪn ɗɪʃe lənɪͽ cᴅ ɑcʝ. 今日は嵐だったので家にいた。

ᴅɪn(ɺ) ［名詞］ᴅɪcn,ɪlʃ ［文字］身、旁 ᴅɪcn.l ［文化］ ͽɔcᴅɪnlen

ᴅɪn,ɪlʃ φeͽ

ᴅɪnʃ ［植物］［被服］花冠、花飾り、花輪、花わ ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ᴅcnɪ（花）

ᴅɪnͽ ［動物］イタチ ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ᴅɪnz から

ᴅɪnͽclcɑel ［生物］病理解剖学 ul;uɔɥʃᴅɪn/ͽclcɑel ɺɱ

ᴅɪnʝ ［動詞］ɥəl を咲かせる、咲く ［反意語］ɪlᴅɪnʝ ［レベル］２ 1ɸ: 制 :ᴅcnɪ（花）から :::dɪlə,ɪlʃ 【用例】 ʃə eʃ cᴅ e ᴅɪnʝ lɪlʃ ᴅccnɪ. 花開く季節だ。 ☆ ᴅccnɪ ɪʃcͽ ᴅɪnʝ ɥən nɪl. 花がぱあっと咲いた：「笑うように花が咲く＝ぱあっと咲く」という独特の表現に注意。

ᴅɪnʝec ［地名］マンセイ ɺ0 ［文化］ トンカン西部の都市。

ᴅɪnɷ ［形容詞］曲げられない、硬い、曲げにくい、伸びにくい、形を変えにくい、体が鈍った、体が固い、なまった、なまる ［反意語］ᴅcnnə ［レベル］３ 1ɱ:ʝeɥen:ͽlel:ᴅcnɷ: 古 :ᴅcnnə ［語法］ 腕が鈍るという抽象的な意味はない。長時間の同じ姿勢で体が鈍ることを指す。しばらくやってないから腕が鈍るという意味ではない。

ᴅɪnɷɪ ［名詞］経産婦、出産経験のあるメス ［反意語］ᴅeeɥ ［レベル］４ ɺ0:ɑɪlɑɪncɪ 語

ᴅɪnɷɪn ［アイテム］シシャーク ɥɷ;<ᴅe ɺɱ ［文化］ ʝᴅ の ᴅe で作られた比較的軽装の兜。

ᴅɪnɷɪue ［化学］［工学］硬鋼 ［レベル］６ ɥɷ;/ ɺɱ

ᴅɪnɷc ［医療］リューマチ、リウマチ ［レベル］５ 1L:ᴅɪnɷ/ucl ［文化］ 関節、骨、筋肉に痛みやこわばりの出る病気。ɥɷ では体の硬い人がなると思われていた。

ᴅɪnhclɔɔ ［軍事］突火槍 ʝᴅ;ɪlʃ「弾火筒」 ɺɱ ［文化］ φel

ᴅɪnz ［動物］ミンク ［レベル］５ lͽʃɪ

ᴅɪns ［魔法］チャクラム、ドーナツ型ユノ、マンジュ ［レベル］４ ［類義語］ɥənɔ ɺʔ

ᴅɪns,ɑ ɺ0 elʃ;ᴅɪcn/sc

ᴅɪnsc,ɪlʃ ʃɪl

ᴅɪnl ［動詞］ɥəl（二つ以上のもの）を ɪ（結果物）に折衷する、折衷する、織り交ぜる、織り混ぜる ［普通動名詞］折衷 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅɪnʃ「合わさった形にする」が原義

ᴅɪnɪ ［名詞］少女、１５〜１９歳 ［反意語］ɪlᴅɪnɪ ［レベル］２ 1ɸ: 制 : 古 :ᴅcn（女） ::lɪ ləᴅcnne

ᴅɪnɪ(ɺ) ［言語］京極 ［レベル］２ ɺ1 ［文化］ → hɪɾɗ, ͽɔcᴅɪnlen, ͽɔzəe, ɥəͽc ＜概要＞ ハーディアン発祥で、現アルティア、ロロスで使われる表意文字。アルバザードでは特にカレン州で多く用いられ、アルナ等でも日常的に見ることができる。ルティアでも ʝᴅ の支配後は公用文字のひとつとなっている。結局ルティアも用いていることからアルバザードへの影響もさらに大きくなり、アルシアなどでも多くの京極を見ることができる。 京極は地球の漢字に相当する文字で、漢字と同じように造字力が極めて高いため、文字数は厳密には計れない。漢字は俗に５万字と言われるが、閉じた体系ではないので採録を増やせばもっと増えるだろう。それに関しては京極も同様である。ただ漢字が日常的に１０００〜２０００の範囲で収まっているのと同じく、京極もやはり日常的にはその程度の範囲に収まるようになっている。 最初は甲骨などに刻んでいたが、上代以降紙や墨を用いるようになり、書体も増えた。文字は縦書きで、右から始まる。アルカ同様左からの横書きにすることもできる。元は横書きの場合は右からだったが、アルカなどの影響で現代ではアルティア本土でも左からになっている。 京極は世界で最も複雑な文字とされ、その扱いは地球における漢字に相当する。アルバザードでは外国語の授業で京極を覚えさせられることがあり、学生にとっては悩みの種となっている。 ＜構成＞ 主に象形、会意、指示、形声で構成される。漢字と同じく線形性の強い文字であるため、画数の少ない文字では必然的に漢字と字形が重複するケースがある。異世界のことなので、重複してもハーディアン人は知る由がない。例えば口という字は象形で、幼字の ͽə の字が元になっており、「回」のような字である。マワルと混同しないよう注意する必要がある。同じく手は幼字の oɪ からできた象形で、字形は「山」のようである。これもヤマとの混同に注意がいる。いずれにせよ画数の少ない字は必然的に何らかの文字に似る可能性が高い。漢数字の二とカタカナのニもそうだし、幻字とアルファベット間でも同様である。画数が少ないほどデザインに幅が出せないからである。なお、意味も形も同じ字も少数ながら存在する。そのような文字は象形に多い。例えば「月」がそうである。これは幼字の ɷəəɥφɪ から来ている。 京極は漢字と比べて会意形声の比率が大きい。「讃」という漢字はごんべんに音価がないが、京極の lcoɪ（手）は篇と旁の音を合わせているため、会意と同時に形声になってる。京極にはこのような会意形声が多い。その分形声は相対的に減る。 なぜ形声が少ないかというと、それは漢字の元になっている中国語とハーディアン語の音節構造の違いに起因する。現代中国語には３９の韻母があり、実際にはこれに r 化が加わる。また声母（頭子音）は２２種存在する。これに声調が４種存在する。従って単純計算だと３４３２種の音節を区別することができる。 一方ハーディアン語は音節が９３種しか存在しない。これでは形声の効果が弱い。もちろん漢字は３４３２種の音節を使い分けて形声をしているわけではないが、ポテンシャルの違いは歴然である。９３種の音節では形声よりも会意形声にしたほうが同音異義語を減らせる。会意形声にすれば単純計算で８６４９種の音を区別することができるためである。 京極は世界一難しいと言われるが、恐らく漢字と比較しても難しいといえるだろう。セレンの所感では日本語の漢字並に難しい。その理由は読みにある。京極、特に極字ができる前からハーディアン語の和語は存在した。極字は和語の音より意味を表現することを主眼としたため、漢字でいう当て字が極めて多い。つまり秋刀魚で「サンマ」と読ませるようなものが多いということである。 これは日本人ならば理解できるかもしれない。空は「クウ」という文字だが、和語では「ソラ」以外の何物でもない。漢字を手に入れた日本人は音を優先して万葉仮名のようにソラを表記することもあったが、結局は意味に注目して字を選び、読みは和語のまま保持した。つまり空という字を借りつつ、音はクウでなく和語のソラを維持した。 極字はハーディアン人にとって借り物ではないが、和語の音が先に存在し、その意味を取るために極字を作ったという背景があるため、結局日本語の漢字のような複雑さを持っている。 ハーディアン人は基本語には文字のパーツ（篇など）を設けた。そのため指 (lclc) や手 (lcoɪ) のような基本語はパーツの組み合わせで会意形声が成立する。その一方で ͽələoɪ（言葉）のような抽象的な概念はこれが効かないケースが多い。ͽələoɪ はハーディアン語で「口＋車輪」が原義であるが、これは極字ができる前から存在した。最終的には祖語である ɑ_ɑu の ͽə（口）や ləə（動く）などに遡る。 では彼らは極字を作ったときにこの ͽələoɪ という単語をどう表したか。口は基本語なのでパーツがあるが、車輪はパーツがない。車輪はほかのより基本的なパーツを組み合わせて作る。従って「口＋車輪」を極字で書くと冗長になる。「言葉」という日常的に使う単語が冗長になるのは避けたい。 そこでハーディアン人たちはこのように考えた。「「口＋車輪」よりも「ごんべん＋口」のほうが簡単ではないか」と。こうして ͽələoɪ は口を表す「回」のような字と「ごんべん」に相当する「水」のような字を合わせた字となった。このほうが字形が単純で書きやすい。その代わり音と文字とが乖離してしまう。 ここで漢字なら形声の出番だが、上述のようにハーディアン語では音節数が足りなすぎる。かといって会意形声にすると ͽələoɪ という音そのものが否定されてしまう。ゆえに音と文字を乖離させざるをえなかった。借り物ではない文字にも関わらず京極の読みが難しいのはこのような理由がある。 京極の難しさは群を抜いており、言語としての合理性で見れば愚にもつかないが、技巧性や芸術性では非常に長けており、目を見張るものがあると考えられている。特にアルバザードのような表音文字圏ではよく分からないことも相まって、テストの悩みの種であると同時に神秘的な存在とも考えられている。 ＜識字率＞ アルバザードでの京極の識字率は学歴に比例する。一般的なアルバザード人は最も基本的な数百の文字は読めるが書けないというレベルである。学識が高いとより多くの文字を読み書きできるようになる。同じ学校でも文系と理系では文系のほうが京極の識字率は良い。 カレンやアルシアではアルティア人やルティア人が多いため、一般人でも識字率はよく、千字程度は読み書きができる。千字は少ないようで多い。日本人でも常用漢字約二千どころか半分の千字でさえきちんと書けるかといわれると昨今は怪しい人が多いのではないか。 ＜呼称＞ 京字と極字を合わせて京極という。極字を見て ʝɪnlɪ と言っても ᴅɪnɪ と言っても間違いではない。ᴅɪnɪ が基本で ʝɪnlɪ はより厳密な言い方なので、通常は極字だけ見ても特に厳密な区別が必要ない限りは ᴅɪnɪ と総称で呼ぶことが多い。 ＜歴史＞ ・極字 10ʔL000 頃 カルセールのヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいった。ハーディアンの最初の国風文化である。 同 ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んで

いた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず（甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい）、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。　このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。　・節字　ɥəəᴅı ɺʔʔ　節字ができ、極字のルビとして用いられるようになる→ hıɹ　・京字　ɥəəᴅı ʔʢ0　シフェラン、ハーディアン国のアルティア都市と同盟を結び、不可侵条約を締結。ハーディアンの首都ロロスはこの裏切りを遺憾としたが、内戦をしている余裕はなかった　ɥəəᴅı ʔʢ1　シフェラン、ユロからハーディアンに進軍　ɥəəᴅı ʔʢʢ　シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国　ɥəəᴅı ʔʢʕ　西へ散ったほうのハーディアン人がヴェマのヴォザモ地方に入り込み、混血する　同　シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わり自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。　ɥəəᴅı ʔʢΔ　この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字 (ɥəlı) という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字 (ȷınlı) のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。　京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極 (ᴅını) と呼ぶようになった。　＜地球での経緯＞　幼字は直線、曲線、丸、三角、四角のほか星型なども使うため、表意文字というよりはむしろピクトグラムに近い。線種がバラバラなので書体を作りづらく、デザインの視点で考えると漢字に劣る。線種に統一感があれば例えば直線なら直線、曲線なら曲線の書体が作れるため、書体にバリエーションを持たせるのが容易く、それゆえ芸術性に富む。こういう意味で漢字に相当するデザインの文字がアトラスにもあればと考えられるようになった。　ɺ1 年に幼字がわずか４４４字に縮小されたことが決定打となり、漢字に相当する複雑な体系の文字が望まれるようになった。それまで漢字相当物を作らなかったのは幼字の存在もあるが、単に作業が大変で逃げていたというのもある。アトラスの文字史では幼字が根底に存在するため、神との繋がりが弱くかつ比較的高度な文明を築いた民族のすべてが幼字を発展させずに滅ぼしていったとは考えにくい。幼字を滅ぼして響字や幻字に繋げていった民族がいるのも確からしければ、逆に幼字を発展させてさらに複雑な文字体系を構築した民族がいることもまた同様に確からしい。にもかかわらず後者をこれまで創ってこなかったのはやはり作業が大変だからという実情があった。

幼字の大本は古アルカの幻字だが、古アルカのころセレンらに言語学的な知識は乏しく、そもそも子供で知識自体が足りなかった。意思を伝えるので精いっぱいで、文字の芸術性にまで配慮できなかったというのが正直なところだ。それゆえ幼字は作りが粗雑で造詣が浅い。これを今になって掘り下げて作る魅力は感じられないこともあり、４４４に縮小したというのもある。拙い文字なのでカルディアにおいては原初に作られた文字としてふさわしい。いくら賢い神々によるものでも最初の試みなのでこの程度のクオリティに帰着するのは無理もない。　漢字はあらゆる文字の中で最も複雑で文字数も多い。漢字と比べると同じ表意文字でも幼字の拙さが浮き彫りになる。表意文字というのはデザインの視点で見ると物凄く重要なツールなのだが、芸術用途としてカルディアを見たときにこの世界には拙い幼字しかないというのではあまりに哀しい。　セレンは個人的に漢字と墨の組み合わせを美しいと感じており、あのような表現技法をどうにかカルディアにも取り入れたいと考えてきた。かといって幻字を止めて表意文字を作るわけにもいかない。日常的な言語の使用においては表音文字の幻字のほうが圧倒的に楽だし、そもそもセレンが主張したところで受け入れられるとは到底思えない。　そこで白羽の矢が立ったのが ɺ1 年にできたカレン県である。ここはアルティアの移民が多い。アルバザードは移民文化で、アルシアにはルティア人、カレンにはアルティア人がいる。ひとつの国でアルバザード、ルティア、アルティアなど様々な文化が楽しめる。そこでアルティア人の言語に表意文字を入れてはどうかと考えた。こうすれば日常は幻字で足りるが国内にはアルティア人が持ち込んだ表意文字が散見されるというデザイン豊かな街が描ける。これが京極の始まりだった。　＜文字例＞　最初の列は元となった幼字も加えた。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana1.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana2.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana3.jpg　＜[京極] タグ＞　[京極] タグは ʅɔzəe や ɥəʅc といった京極フォントを使った際、どの文字コード（漢字）を打てばその京極が表示できるかを示している。　例えば uın,ılʃ には [京極] タグがあり、「弓」と書いてある。これは ʅɔzəe や ɥəʅc を使って「弓」と打てば、京極における uın（弓）の文字が表示されるということを意味する。つまりこの「弓」という記述は地球における京極の文字コードを示していることになる。言い換えれば、ʅɔzəe や ɥəʅc といったフォントでは「弓」という漢字を潰し、そこに京極における弓の文字を入れてあるというわけである。

京極の文字コードの後に補足があればコロンを加えてある。コロンの右には京極の字源などが来る。例えば uın,ılʃ では京極における弓の字がどのようにできたかが書かれている。　一方、ıɥəᴅc,ılʃ には次のように書いてある。　[京極] 即：弓 / 時→ uın,ılʃ　上の情報は、「即」という字を打てば ıɥəᴅc に当たる京極が表示されることを示している。また、コロンの右には ıɥəᴅc という文字が「弓偏に時からなる会意である」という補足も付されている。　他方、uınıʅeᴅc,ılʃ には次のように書いてある。　[京極] 弓 / 月　uınıʅeᴅc は「弓月」という意味である。これはアルティア語の一単語であるが、文字としては二文字から成る。アルティア語において弓月を一文字で表わすことない。従って、ʅɔzəe や ɥəʅc においても何らかの漢字を潰すことはない。　このような場合は uın における「弓」や ıɥəᴅc における「即」などと異なり、[京極] タグ中で特定の一文字を示さない。スラッシュを用い、その単語が複数の字から成ることを示す。　同じスラッシュを用いるケースでも、ıɥəᴅc と uınıʅeᴅc の間には一文字からなるか否かという違いがある。このことは、その単語を直に示すフォントがあるかないかという違いにも繋がる。

ᴅınıʅı [名詞] 大学、前期大学、後期大学、高校 [レベル] 3　1L:ᴅelcɑcı

ᴅının [名詞] 大学生 [レベル] 3　ɺɺ

ᴅınıɑeᴅe [地学][歴史] 中生代 [レベル] 5　ul;/　ɺʔ [文化]　φııueɑeᴅe
約２億５０００万年前から約６５００万年前に相当し、恐竜が生息していた時期にほぼ対応する。

ᴅınıᴅc [名詞] 背後、後方 [名詞] メタ [形容詞] メタな [アクセント] ᴅınıᴅϵ [反意語] hıφı [レベル] 3　ȷᴅ<ılʃ;ᴅınıᴅc（背中）.ᴅu<ᴅcnıᴅc（北）。太陽を向いたときに背中側が北を向くことから。　ɺʔ [語法] 「この小説はおもしろい」は、小説の内容に対する評価。「この小説はなぜおもしろいのだろうか」は小説の手法などに対するという点で前項に対してメタといえる。小説の中でキャラクターが「ほら見ろ、お前の発言のせいで読者がドン引きしたじゃないか」などと言うのもメタな表現といえる。というのも、小説内のキャラクターが作品の外に出て作品内の自分たちを背後から観察した表現をしているためである。
【用例】　uɔlʃ ᴅınıᴅc メタな表現

ᴅınıᴅcʅıᴅcɑcı [言語] メタサイエンスフィクション、メタＳＦ、メタＳＦ作品 [レベル] 6　ul;/　ɺʔ

ᴅınıɑıcᴅın [名詞] 大学中退 [レベル] 4　1L

ᴅınıhıɹ [言語] 乙女体　1L [文化]　ʃıdhıɹ を元に、丸みを帯びた字にした書体。

ᴅınıµeφıȷʃ [名詞] 大卒 [レベル] 3　1L

ᴅınıl [生物] 青少年 [レベル] 2　µɑ;ᴅını/ıl　ɺʔ

ᴅınıın [名詞] 大学生 [レベル] 3　1L

ᴅıncȷ,ȷzɑ　ucʅ

ᴅınɔ [格詞] 恐らく～するだろうから、もし～したなら。積極的な条件 [類義語] ɔl [レベル] 2　古 : 邪推の ᴅınɔ [語法]　ɔl　確率の高い「もし」と覚える。

ᴅınɔᴅ,ɑ　ɑcl

ᴅıne [生物][医療] 分泌、ぶんぴ、ぶんぴつ [動詞] ɥəl を分泌する、分泌する [レベル] 4　µɑ; ↓　1ʢ: 制 : 古 :ᴅıcne ← ᴅıcn（分泌）/ e（水）「体が水をだす」

ᴅıneʃ [医療] 体質 [レベル] 4　ɺɺ:ᴅıcn/ʃe

ᴅınen [接続詞] ᴅın [レベル] 3　ɺʔ

ᴅınecnc [植物] 腺毛　µɑ;/　ɺɱ

ᴅıneeµ [生物][医療] 分泌液 [レベル] 5　µɑ;/　ɺʔ

ᴅıu [名詞] 大人、成人、成年 [名詞] 上級、上級者 [類義語] ȷɔlɔᴅɔn [反意語] ɥəlc [レベル] 2　1ʔ:ȷeµen:ʅlel:ᴅcu:ȷcɑ:ᴅcuı（子供）　ʃµıȷ:ʃµıȷ:lə ʃµıȷ [語法]
→ ȷɔlɔᴅɔn　ɥəlc は大人に対しての子供であって自分の子供とは限らない。　ɥəlc, ᴅılʃ, ᴅıu の３対にするときは ᴅıu は２０歳からであるが、ɥəlc, ᴅıu の２対にするときは ɥəlc を長く取って２０歳以降を ᴅıu とするやり方と、lız 以降を ᴅıu とするやり方がある。顕生代などの命名には後者を用いている。enᴅıu, ᴅıu の２対の場合、２０歳以降が ᴅıu になる。 [文化]　日本同様、２０歳から成人となる。ɥəlc, ᴅılʃ, ᴅıu の順に成長する。ɥəlc, ᴅılʃ は総称して enᴅıu。　０歳から１２歳までが ɥəlc。１２歳から ᴅılʃ。２０歳から ᴅıu。

ᴅıuȷel [歳時記] 成人の日 [レベル] 3　ɺ0: 大人の日 [文化]　リーズリーズにちなんで設けられた祭日。最も大人びていたリュウにちなんで ᴅel ɺ0 の ɑɥə ɑɥə に設けられた。

ᴅıuɑeᴅe [地学][歴史] 顕生代 [レベル] 6　ul;/　ɺʔ [文化]　φııueɑeᴅe
先カンブリア時代（隠生代）の終わりから現在までのことで、約５億４２００万年前から現在までの期間。古生代 (lızɑeᴅe)、中生代 (ᴅınıɑeᴅe)、新生代 (nıılʃɑeᴅe) に分かれる。

ᴅıuı [植物] オリーブ [レベル] 2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅıuc　:::ɥənɑcn,lc

ᴅıuc [化学][料理] ビタミン [レベル] 2　nɑ;ᴅıcn/uceneᴅ「身体を強化する」　1ʔ: 制 : 古 :ᴅıcuc「体を強くする」 [文化]　・起源　nɑ の大航海時代に海兵の間で壊血病や脚気が流行った。このとき果実を食べていたものほどならなかったことで、ビタミンの存在が提唱された。船にレモンを積んだことで壊血病の罹患率が減少し、ビタミンの存在が強く推定された。　・命名　地球と異なりＡＢＣのような命名はしない。例えばビタミンＣはレモンが壊血病を救ったことからレモンのビタミンというように表現される。

ᴅıueᴅ [料理] オリーブ油、オリーブオイル [レベル] 2　ɺ1:ᴅıuı/ 古 eᴅɥə [文化]　利食。アルバザード人が最も使う油。油の中で最も消化吸収に優れ、オレイン酸も多く含む。　種類はバージン、精製、ブレンドの３つ。このうち通常用いられるのはバージンで、その等級は ɥənɑcµın（エクストラ）、ɑencen（ファイン）、deȷʃɔn（オーディナリー）、ᴅeʅȷelen（ランパンテ）の４段階で、名前の通り ᴅeʅȷelen は食用に適さない。

ᴅıᴅ [生物] 乳房、胸、おっぱい、乳、パイ、パイパイ、ぱい、ぱいぱい [言語][文字] ボール [類義語] dɔᴅdɔᴅ、dıc　ȷeµʃ [レベル] 2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅıᴅᴅı　ᴅı, ɥı:ᴅı, ɥı:lı ᴅıᴅeʃ（lə は sıᴅ） 【用例】 bıφ ᴅıᴅ 胸を揉む [文化]　ᴅıᴅȷ

ᴅıᴅʅcld [普通動名詞] 胸チラ、パイチラ [レベル] 5　µɑ;/　ɺʔ

ᴅıᴅȷ [被服] ブラジャー [レベル] 3　1ʔ: 制 :ᴅıᴅȷıb [文化]　・ブラジャー

のカップ　ᑎɭȷ と幻字順で数えていく。　一番小さいʃが ᑎaᴅ（５ｃｍ）であり、あとは ɺaᴅ（２．５ｃｍ）ずつ増えていく。分かりやすく以下はｃｍで表記する。 ʃ：ＡＡＡ：５ｃｍ ｌ：ＡＡ：７．５ｃｍ ɭ：Ａ：１０ｃｍ ȷ：Ｂ：１２．５ｃｍ ｎ：Ｃ：１５ｃｍ ｕ：Ｄ：１７．５ｃｍ ɑ：Ｅ：２０ｃｍ ᴅ：Ｆ：２２．５ｃｍ ɷ：Ｇ：２５ｃｍ φ：Ｈ：２７．５ｃｍ ｄ：Ｉ：３０ｃｍ

ᴅɪᴅȷlcld ［普通動名詞］ブラチラ ［レベル］４ ɺɺ

ᴅɪᴅaɔs ［普通動名詞］パイズリ、ぱいずり、パイずり、胸コキ、胸こき ［レベル］５ µɷ;/ ɺʔ: リディアとメルの胸が貧弱すぎて ɺʔ まで造語されるに至らなかったという、なんというか造語年を見れば普段どんなプレイをしているのかバレそうな辞書である。お胸とお胸のシワを合わせてちんこ挟んで幸せ、なーむー。（セレンの）お仏壇は長谷川～。

ᴅɪᴅᴅɪ ［幼児］［生物］おっぱい ［レベル］１ 1ᑎ: 制 : 古 :ᴅɪᴅᴅɪ（おっぱい）

ᴅɪᴅᴅɪ,ılʃ nɔn, eeʃı

ᴅɪᴅᴅɪn ［俗語］消防、小坊 ［類義語］acının ［レベル］４ ıl;ᴅɪᴅᴅɪ/ın「おっぱいをまだ欲しがっている人」 ɺʔ ［語法］ 学年制が日本と異なるので注意。ᴅɪᴅᴅɪn でおよそ日本の小学生に当たる。

ᴅɪᴅd ［生物］乳首、乳頭 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ᴅɪᴅdɔ

ᴅɪᴅdᴅyəʃ ［生物］両乳頭間 µɷ;/ ɺᑎ

ᴅɪᴅdcφ ［医療］乳がん ［レベル］４ 1L

ᴅɪᴅl ［生物］乳輪 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ᴅɪᴅhɔlɔ（乳の輪）

ᴅɪᴅɪ ［親族］ママ ［感動詞］あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、マンマミーア ［レベル］１ 1ʔ: 制 : 赤ん坊の口の音から。多くの言語でマやパを使うのに従った。 ［レベル］１ ［語法］［文化］ → lıl アルバザード人は驚いたときや怖いときや苦しいときなどに ᴅɪᴅɪr と叫ぶ。これは老若男女問わず共通し、ıµʃer と同じような意味を持つ。思春期の男子でも恥ずかしがらずに使う。ただし凪人は恥ずかしがってこの用法を使いたがらない。女性の場合は父親に対する依存度が高いほど、ᴅɪᴅɪr のこの意味で dıdır と叫ぶことがある。

ᴅɪᴅɪlırʃe ［ユマナ］秋葉原 ［レベル］６ ɺɺ:µcɷcı:「メルの庭」。メルに頼まれた土産で秋葉原に行ったさい、しあに「ここどこ？」と聞かれてとっさに答えたことから。

ᴅɪᴅɪlə,ılʃ 尊敬語の助動詞

ᴅɪᴅc ［生物］基質 µʃ;ᴅɪcn/hɔɔᴅc.l ɺᑎ

ᴅɪᴅeʃ,ȷzl sɪᴅ <> ᴅɪ,a

ᴅɪᴅeʃucᴅ ［生物］小胸筋 ［レベル］６ ɺᑎ<ɺɺ

ᴅɪᴅeʃᴅel ［歴史］中世、ȷᴅ_µɷ ［レベル］４ ɺ1 ［語法］ ᴅcµᴅel

ᴅɪɷ ［生物］へそ、ヘソ、臍、さい ［レベル］２ 古 :ᴅɪɷ（幼児語）【用例】 elʃ e ᴅɪɷ へそのごま

ᴅɪɷȷeel ［生物］臍中央 µɷ;/ ɺᑎ

ᴅɪɷᴅ ［生物］虫垂 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ᴅɪɷᴅɪc（へその身体語彙）。骨盤の右上前腸骨棘突起から臍に引いた線上にあることから。

ᴅɪɷᴅaıcz ［医療］虫垂炎 ［レベル］４ 1ᑎ: 制 : 虫垂の炎症

ᴅɪɷc ［被服］指輪、リング ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ırᴅɪɷcɔ 【用例】 eu{ȷıb} ᴅɪɷc 指輪を嵌める

ᴅɪɷcı ［魔物］マディア（闇夢）：第九天：闇の氷天 ［レベル］５ 1L:µcɷcı/ȷeµen/ᴅel:ᴅɪᴅɪ/ɷcı（母の夢） ［文化］ 妖族。母をなくした子供の心につけいり、夜な夜な笛を吹いて子供を屋外に連れ出し、食い殺す魔物。綺麗で優しい顔をしているが、服を脱ぐと体中に食い殺した子どもの顔が浮かんでいる。

ᴅɪɷcınɔc ［天文］ルーシュバー 1L:µcɷcı/ȷeµen/ᴅel ［文化］ カシオペア座はW型をしており、非常に認知しやすい星座線をしている。そのためカシオペア座は ınuelenʃ 座の星座線とほぼ同一である。しかしルーシュバーだけが ᴅɪɷcı 座の領域に取られている。これは魔族マディアと魔族アンヴェレントの相討ちの神話を象徴している。uelʃcȷ の９階と eµcn ～ dµɔʃcȷ までの種族が接触するのは、ᴅɪɷcı と ınuelenʃ、ᴅɪɷcı と ocφıl の組み合わせしかない。アシェットはこれらを封印したとき、まず ocφıl を別枠に取った。ウィガルは戦闘では封じられない「戦わないタイプ」の魔族だからである。　一方、マディアとアンヴェレントはどちらも９階であるため、封印に手こずった。考えたメルは両者に罠をしかけた。まずマディアにアンヴェレントを人間の子供だと見せかける。マディアがまんまと引っかかってルーシュバーにいる呪いの人形を誘惑し、食おうとする。アンヴェレントは一方、マディアを獲物だと思い、攻撃する。そして両者は共食いし、相討ちした。そこをメルが漁夫の利で収めたというわけだ。それでアンヴェレント座のマディアノイ（ルーシュバー）はマディアの領域に食い込んでいるのである。ちなみにこのとき使った人形がたまたま男だったのでノイとなっている。 【成句】 ɷeȷdı ᴅɪɷcınɔc 漁夫の利を得る：弱ったルーシュバー星を利用して、メルがマディアとアンヴェレントを簡単に同時に封印したことから。

ᴅɪɷeʃ ［生物］へその緒、へそのお ［レベル］３ ɺ0:ᴅɪɷ/heʃ

ᴅɪφ ［動詞］yəl を揺らす、揺らす、揺れる、震える、ゆらす、ゆれる、ふるえる、yəl（手など）を小刻みに振る、yəl を震えさせる ［形容詞］震えた、揺れた、震える、揺れる ［物理］振動 ［音楽］トリル ［レベル］２ 1ʔ: 制 :ȷɔµn:ᴅɪφcȷ ［語法］ ᴅɪφ lıȷ は手を左右にぷるぷると振ってあいさつする際のしぐさ。ᴅɪφ ʃıl とは言わない。腕を振るなら oıın が適切。なお、手が寒さなどで痙攣しているときも ᴅɪφ といえるので、文脈を読んで訳すこと。 ᴅɪφ lıȷ は挨拶。ᴅɪφ lıȷ cɔ は ʃeɔʃeɔ と否定する仕草。

ᴅɪφlɔu ［音楽］ハーモニカ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 震える箱

ᴅɪφȷɔµʃ ［名詞］（ʃcl/nı とともに）震えるほど寒い ［レベル］３ 1L 【用例】 ın nıʃ ᴅɪφȷɔµʃ. 寒くてぶるぶる震えた。

ᴅɪφnclʃ ［名詞］（ʃcl とともに）かじかむ ［レベル］３ 1L: 震えて痺れる 【用例】 ın ʃclıʃ ᴅɪφnclʃ ɔn lıȷ ᴅcl ȷɔµʃ. 寒くて手がかじかんだ。 ın lea ıʃ lıȷ ᴅcȷlınel ᴅɪn ʃə ʃcl ᴅɪφnclʃ. かじかんだ手を温めようと、息を吹きかけてみた。

ᴅɪφueᴅ ［名詞］（nı とともに）恐れて震える、震えるようなおそれ ［レベル］３ 1L:ᴅelcɷcı ılʃe

ᴅɪφaɔ ［言語］震え音、ふるえ音、トリル 1L

ᴅɪφᴅclʃ ［名詞］（ʃcl とともに）怖気づく、怖じ気づく、おじけづく、びびる、ビビる、膝が震える ［レベル］３ 1L 【用例】 ın ʃclıʃ ᴅɪφᴅclʃ. 怖気づいた。

ᴅɪφl ［経済］紙幣、おさつ、お札 ［レベル］２ 1L:lecn:ᴅɪȷφcl ［文化］ → ın aın ・紙幣の数え方　左手に紙幣の束を持って右手の親指と人差指でつまんで一枚ずつ右手側に移していくやり方で、アメリカ人のやり方と同じ。

ᴅɪφlı ［サール］マグラ ［レベル］４ ᴅelʃcı ʕ:ᴅɪφlı;ᴅɪφlın.l 古 ［文化］ eȷʃı ヴィーネに恋する少女。淫を司る。ʃccʃel の性欲がチョウマメに単離し、そこから生まれた化身。チョウマメが熱帯インサール原産であることから、yəlʃın な形質をしている。　ユーマに嫉妬し、ユーマとユーマの娘のエスタを呪った。髪は黒く、背中まで届く。ちりちりの毛で、ソバージュを長くしたような髪をしている。ところどころ三つ編みにしている。見た目は yəlʃın で、背は少し高い。眼が釣り目で、唇が赤い。

ᴅɪφlın ［植物］チョウマメ ［レベル］６ ᴅelʃcı ʕ:ʃccʃel;e ɺ0:ᴅɪφlı ［文化］ ʃccʃel がマグランの花（チョウマメ）に性欲を押さえ込み、そこから娘のマグラを作ったことで知られる花。

ᴅɪφleʃ ［婉曲］［形容詞］破廉恥、ハレンチ、ハレンチな、破廉恥な、はれんちな ［類義語］eȷel ［レベル］３ ʃᴅ;ᴅɪφlı/ʃe「マグラ神のような」 ɺʔ ［語法］ ʃᴅ のころはみだらという強い意味合いだったが、eȷel に押されて意味が弱まり、µɷ 以降は婉曲用法となっている。

ᴅɪφleu ［医療］パーキンソン病 ［レベル］６ 1L:µcɷcı:ᴅɪφ/leun ［文化］ µɷ で発見され、ᴅɪφleu と名づけられたものの、後に非運動性のものもあると分かった。そのため、地球とは異なり、非運動性のパーキンソン病はしばしば ȷeeµᴅɪφleu と呼んで区別する。

ᴅɪφleı ［地名］マグレア山 ［レベル］６ ɺ0 ［文化］ ツェリンにある山。 yəəᴅı ʔʔʔ ᴅɪφleı 山の戦いでイーファはルーキーテと再び出会う。イーファは剣を収め、泉でルーキーテと話す。イーファが恋心を打ち明けると、ルーキーテは彼を受け入れる。その後、イーファは戦争を止めるべきだと主張。ルーキーテも賛同する

ᴅɪφı ［名詞］振幅 ［レベル］４ 1ᑎ: 制 :ᴅɪφ

ᴅɪφc ［音楽］ジャズ ［レベル］４ 1ʕ: 制 :ᴅɪφ から

ᴅɪφclc ［植物］クコ、枸杞 ［レベル］４ ȷᴅ;<>ᴅılclc. uıµ ılʃcı, c ueᴅı ɺɺ

ᴅɪφeʃ ［音楽］リード ［レベル］４ ɺ1:ᴅɪφ/ʃe

ᴅɪd ［形容詞］早い。ある出来事が起こるまでの時間が短い。 ［遊離副詞］もう、既に、早くも ［文頭純詞］早速、さっそく ［医療］早発 ［類義語］uıɷ、aɔcl ［反意語］hılᴅ ［レベル］１ 1ʔ: 制 : 語源不詳 【用例】 ʃə eʃ ᴅɪd uıµzɔn lıȣ もう８時なの？

ᴅɪdl ［形容詞］既成、既製品、できあい、出来合い、既存の、既にある、約束された ［反意語］lɔȷʃ ［レベル］３ 1ᑎ: 制 :ᴅɪd（すでに）

ᴅɪdlȷɔɷn ［名詞］既成事実 ［レベル］４ ɺɺ

ᴅɪdµcs ［名詞］悪酔い、一日酔い ［類義語］nılləʃ、µcs ［レベル］３ µɷ;/ ɺʔ ［語法］ nılləʃ と意味が違う。一日酔いのこと。

ᴅɪdɔµʃ ［医療］早発月経 1L

ᴅɪhılı ［魔法］マハラ ［ユマナ］カバラ、カバラー ᴅe;「星の図」 ɺᑎ

ᴅɪyı ［娯楽］アニメ、アニメーション、マヤ ［ユマナ］ジャパニメーション ［類義語］lıleuecz ［レベル］２ ul;ɔᴅɪyıᴅc,ılʃ.lcl ɺʔ ［語法］ lıleuecz のほうが外延が広い。凪産アニメのことを ᴅɪyı という。ıl 以降は洗練された凪流アニメが一般的になり、アルバザード流アニメは追いやられていったため、ᴅɪyı は lıleuecz とほぼ変わらない意味になった。

ᴅɪyı(ɺ) ［アイテム］クウィラス ȷᴅ;ᴅɪ/yı「胸と胸」 ɺᑎ ［文化］ 胸を守る軽装の鎧で、φleı 登場以降の歩兵や傭兵が用いた。

ᴅɪyı,ılʃ ȷec

ᴅɪyın ［名詞］アニオタ、アニヲタ ［レベル］３ ıl;/ ɺʔ

ᴅɪyen,ılʃ eyɔ

ᴅɪyə ［名詞］マユ。女性のエタットのうち、明朗なほう。 ［音楽］アルト ［レベル］２ 1L:ᴅɪᴅɪ/yənl。メル 1L 年には「おばさん語」として生まれたが、年末から実用しだしたクリスがリーザには nɔn で語りかけることから、一人一位相の固定観念が崩れた。また、クリス自身がおばさんでないとみなされ、おばさん語ではなく女のエタットを意味するようになった。 ［文化］ 典型的には明るく元気な女性で外向的な人を指す。きんぎょ注意報のわぴこなど。

ᴅɪyə,ılʃ uɔµʃ 「動かない」

ᴅɪyəlc,ılʃ ılʃ、出逢い、邂逅 ᴅɪyələ,ılʃ

ᴅɪyəlenɔn ［伝統色］ローズマダー ɺɺ

ᴅɪyələ,ılʃ ılʃ

ᴅɪµ ［料理］ドーナツ ［レベル］３ lılʃı:「外側がゴムの車輪が元」

ᴅɪµʃ ［動詞］yəl（内容）を ı に発論する、発論する、発言する ［普通動名詞］発論、発言 ［レベル］３ 1ᑎ: 制

ᴅɪµʃe ıᴅɪnze ［人名］マルテ＝アマンゼ ［レベル］３ 古 :µcɷcı: 古 :ᴅɪµʃe ← ᴅcuı e ıµʃe（神の子） ［文化］ シオンの娘。シオンが１３歳に妊娠し、

１４歳で産んだ。シオンは処女で懐妊したため、マルテは神の子と目された。だが実は人の子である。シオンは神の力を賜るため、母親と旅をしていた。あるとき手に入れた服を着たところ、その服に前の持ち主である男性の精液が付着しており、それを着たシオンは妊娠した。しかしシオンはそうと知らず、また母親も常に一緒に居たために娘の不貞を疑わず、二人はこれを神の子と信じ、生まれてきた娘にマルテと名付けた。

ᴅɪꭒɿ ［アイテム］鎌、シックル ［動詞］ɥəl を鎌で薙ぐ、薙ぐ、なぐ ［言語］［文字］ビーク ［レベル］３ 1Ո: 制 :ᴅcꭒɿ:ılıɿſı:ɿᴅccꭒdccɿc「クミールの剣」 uelſ :uelſ:lə uelſ:ᴅɪɿclə,ılſ ᴅɪɿc,ılſ ［文化］ ɿıꭒɑclıɲ 【用例】 eu ᴅɪꭒɿ ı ɑlel 首に鎌をかける ɿɔɔl ᴅɪꭒɿ ı ſɔᴅ 鎌を腰にかける。胴体を真っ二つにしようとして、大鎌を相手の腰周りに回すこと。 ᴅɪꭒɿ hınel 鎌で大きく薙ぐ

ᴅɪꭒɿ ſ'ıꭒɿıɑcı ［気象］月虹、白虹 ［レベル］６ ɺ1:「アルカディアの鎌」アルカディアに入ってすぐのところにある弧に似ていると言い伝えられる。

ᴅɪꭒɿbıɑ ［運動］フック、横薙ぎ ［動詞］ɥəl をフックで殴る、横薙ぎにする ［レベル］３ ɺɺ

ᴅɪꭒɿın ［名詞］鎌使い ［レベル］５ 1L:ꭒcɑcı

ᴅɪꭒɟ ［生物］酵素 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅıcnıꭒɿı 体と (化学反応を) 繋ぐ

ᴅɪꭒᴅeᴅ ［数学］同心円 ［レベル］３ 1L:ꭒcɑcı:ıꭒbılelſ

ᴅɪꭒɑel ［人名］大魔王マルデル ［レベル］５ 1L: 古での命名は特になく、大魔王あつかいだった。 ［文化］ 東の民の土地にはびこるアデルを支配していた大魔王。大灯台にある異界の門の向こうにいた。

ᴅɪꭒφelſ ［魔物］マルゲルト（女郎蟷螂）: 第二十天 : 風の陽天 ［レベル］５ 1L:ꭒcɑcı/ɟeꭒen/ᴅel:ᴅıꭒd/ılφelſ ［文化］ 蟲族。若い女の体をしているが、両手両足は蟷螂の化け物。竜巻を起こし、鎌で切り裂く。

ᴅɪꭒd ［動物］かまきり、カマキリ、蟷螂 ［レベル］２ 1L:ᴅel:ᴅıꭒɿ/ʎədɔ

ᴅɪꭒsc ɑꭒecφclɑ ［人名］マルジ＝フレイギルド ɺ0:ꭒcɑcı:ᴅcꭒɔɿ ［文化］ 朔夜の母。

ᴅɪꭒ lınſ ［ランドマーク］マル・ラント ɺ1 ［文化］ アルナ西区にあるドーナツ屋。３６７年ごろに学生の間で人気となった。 「おいしいドーナツ。きれいなのはドーナツだけではありません」。lınſ の二重の意味を用い、ドーナツのおいしさだけでなく、店内も居心地がよく整っていますよという意味になっている。

ᴅɪꭒıſe ［名詞］ドーナツ屋 1L:ᴅelcɑcı ılſe

ᴅɪꭒɔn ［普通動名詞］分析 ［動詞］ɥəl を ı（結果状態や結果データ）に分析する、分析する、解析する ［レベル］４ ɺ0:ᴅıſ/ꭒınɟ（分けて解説する）。ꭒınɟ と離すためにɔに。

ᴅɪꭒeſ ［植物］あざみ、アザミ、薊 ［レベル］５ 古

ᴅɪz ［動詞］ɥəl を刳る、刳る、くる、刳り抜く、くりぬく ［レベル］４ 1ʕ: 制 :ᴅıl cXc:cXc

ᴅɪzɪᴅ ［生物］すね、脛、下腿 ［レベル］３ ꭒɑ;ᴅı/zıᴅ 1L: 赤で脛は ᴅı だが、短すぎるので ᴅı:ᴅı

ᴅɪzɪᴅuınɔ ［生物］光明 ɺ1

ᴅɪzɪᴅen ［被服］ニッカポッカ ［レベル］５ ɺ1:ᴅızıᴅ/en

ᴅɪzeſ ［名詞］賞状、礼状、辞令 ［レベル］３ ɺɺ:ᴅıɟ/ſe 【成句】 uıſ ᴅızeſ ſ'ıꭒſenı 人事を尽くして天命を待つ。召喚士の試験を受けた者が合否を待っている状況を詠んだもの。 ᴅızeſ ſ'ıᴅıφıſılc 免許皆伝。アマガタリの試験に受かるともらえる証書。

ᴅɪzel,ɑᴅ ɑccı

ᴅɪs ［形容詞］どろどろの ［レベル］２ 古

ᴅɪsᴅ ［料理］ヨーグルト ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅısᴅıeꭒcı（ヨーグルト）「どろどろの牛乳」

ᴅɪsᴅɿıɑ ［地球の国名］ブルガリア ［レベル］６ 1L: ここはこれしかないでしょう

ᴅɪl ［動詞］ɥəl を ı{ılıılſ} まで覚える、覚える、記憶する ［普通動名詞］暗記、記憶すること ［名詞］記憶、メモリー、メモリアル、覚え、おぼえ ［電算］メモリ ［レベル］２ 1L:ıᴅılcɟ 【用例】 ſe ᴅıl ſə e. 忘れないでね。

ᴅɪl,ɟzɑ ɿıc

ᴅɪl,ɑ lıl e

ᴅɪlſ ［名詞］思春期 ［名詞］思春期の人間 ［名詞］中級、ミドル ［類義語］ɟɔl ɔᴅɔn ［レベル］４ 古 :ᴅılſ ［文化］ ᴅıu

ᴅɪlſɟel ［魔物］マルトセシュ（煙精）: 第六十四天 : 聖の炎天 ［レベル］５ 1L:ꭒcɑcı/ɟeꭒen/ᴅel:ᴅelɟel に対して ᴅel の部分を ᴅılſ にしたもの。 ［文化］ ランプを持った裸の少女。ランプから出す紫がかったピンクの煙にあてられるとたちどころに眠ってしまう。眠ったところをナイフで刺され、犠牲となる。ꭒɑ 以前の旧称は ɿədcleɥə（クピレーユ）。

ᴅɪlſccı ［魔法］マルティーア ［レベル］４ ſᴅ;ᴅɥəl/ſccı。この ᴅɥəl は「向き合う」つまり「和合」の意味。 ［文化］ → ɟeleɟ セレス体が別のセレス体を形成すること。主にアテンが別のアテンを作ること。人間の場合は生殖による。神の場合はそのほかにエタンを使って作ることもできる。例えば本から生まれたユルグのように。 生殖を例にとると、受精した段階で２つの cnɟel が結びつき、cɔɟel となる。hııbe はこの cɔɟel を感知する能力があり、cɔɟel ができると重複しないように ɟeleɟ と cnɟel を ɟeleɟllel に登記する。cnɟel が同じでも ɟeleɟ が違えば別の個体として識別できる。 登記が済むと ueeɥə のセレスを cɔɟel を持った個体に飛ばす。これを lɥəɑel という。セレスは目印になっているスピカにワープした後、光よりも速い速度で cɔɟel に向かう。ɟeleɟ と cnɟel が cɔɟel にぶつかると cɔɟel は消滅する。hııbe ができる前は登記がなく、セレスクレールもなく、管理が行き届いていなかった。管理をしたことで魂の帳尻が合うようになり、効率よくアルデルへ回収することができるようになった。 ɟele ɟſcı を死神が嫌うのはこの管理システムを破壊するためである。アテンが好き勝手にセレスティアをしあったら、セレスクレールの内容は確かでなくなり、魂の収支が合わなくなる。 アテンが死ぬと死神がセレスを運ぶが、ueeɥə で lıɟſcı がセレスクレールと照合し、回収した旨と日付をセレスクレールに登記する。また、魂の形状や状態、行き先がトワーユかラティアのいずれであるかなども登記する。アトラスから来るアテンが多いため、日付は便宜上アトラスの歴、具体的には現在ではメル暦を用いる。

ᴅɪɱı ［人名］マルカ ［組み数字］１１/１４ ［レベル］４ 古 : 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第１１使徒ファーヴァの実母。メル ſcɑ ɺL 年生まれ。ヨルダンのアンマンに疎開。その後エジプトに入る。そこでイスラム教徒と結婚し、ファーヴァを設ける。後に夫が事故死し、アフリカを南下し、村落のようなところで暮らしていた。その後病床に臥し、死を待つ体となった。ファーヴァを養ってもらおうとメル ∆ 年ギルの月にリーザに連絡を取り、使徒として献上することを告げる。リーザはそれを受けて同年フルミネアの月エンナの日、即ちファーヴァの誕生日にセレンに連絡し、使徒候補としてファーヴァの存在を告げる。ただ、実際にファーヴァが使徒になるのはマルカの死亡後なのでそれから随分後になる。病床に臥したマルカを見てファーヴァは薬学を勉強し、できるだけ延命を施した。それゆえ予想より長く生きることができたが遂に果てたため、ファーヴァはアルシェの軍門に下った。ファーヴァの村落には血の繋がっていない祖父と呼ばれる老人がいるそうだが、これはアシェットには無縁で、リディアしか会ったことがない。

ᴅɪɱɿı ［電算］メモリスロット、メモリースロット ［レベル］４ 1L

ᴅɪɱılə ［法律］不文法、不文律 ［反意語］ɟeuɿılə ［レベル］４ 1L

ᴅɪɱılcl ［化学］エルビウム 1∆: 制

ᴅɪlɟ ［法律］結婚、婚礼 ［動詞］ɥəl と結婚する、結婚する ［反意語］ılᴅılɟ ［レベル］２ 1ˀ9: 制 :ᴅəɗ（夫婦） ［文化］ → hıſcı 現代では家と家の結婚ではないが、上流階級では未だに政略結婚が残っていることがある。 婚姻は役所に届けを出して戸籍に記載するので、日本に近い。式はアルティス教徒の服を着て教会で行うのが一般的。アルティア人の和装をして神社などで行うこともある。 特にルティアでは純潔の象徴として天馬の絵やレリーフが式場に飾られる。この習慣はアルバザードにも入っている→ lɥəɟce

ᴅɪlɟ(ɺ) ［人名］マルス ɺ0 ［文化］ (ɥəəᴅı 9ɺ𐑖ʮ:9Ոʮ1) ɥəəᴅı 9ՈL1 秋 わずか 10 歳のメテが即位。イーファの右腕 ᴅılɟ が摂政となる。ここからカコ後期となる

ᴅɪlɟnıılſ ［地学］［歴史］新第三紀 ul;/ ɺʔ ［文化］ φııueɑeᴅe

ᴅɪlɟꭒeſ ［動詞］ɥəl にプロポーズする、プロポーズする ［普通動名詞］プロポーズ ［レベル］３ 1L:lecn

ᴅɪlɟoıc ［名詞］結婚式 ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ılcɟ ［文化］ ᴅılɟ

ᴅɪluel ［医療］人間の悪い部分、悪い人格 ［人名］マルヴェル。セレンの悪の人格。 ［アクセント］ᴅıluEl ［レベル］４ 古 :ꭒcɑcı:「闇を望む」。古の希望のエクスプローダーの男性形 ᴅıl/uel(闇)。エーステは uel なので、後ろにアクセント。人名の用法のほうが古い。 ［文化］ ləlcɑeꭒ, ɿıᴅe lcı

ᴅɪlᴅ ［生物］内臓、臓腑 ［レベル］３ 1L:ꭒcɑcı:ıꭒbılelſ:ᴅıcn/elᴅ

ᴅɪlᴅı ［被服］襟ぐり ɟᴅ;ᴅı/ıl/ᴅı「胸と、胸が見えない位置の」 ɺՈ

ᴅɪlɑ ［動詞］ɥəl を騒がせる、騒ぐ ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ᴅılıɑc

ᴅɪlɑᴅccꭒ ［名詞］支離滅裂 ［レベル］３ ɺɺ

ᴅɪlz ［動物］蝶、バタフライ、パピヨン、蛾、ちょうちょ、チョウチョ ［メタファー］浮気者。花から花へ転々とすることから。 ［レベル］２ 1ˀ9: 制 : 古 :ᴅclee（舞うもの）

ᴅɪlzdɔɟı ［被服］蝶ネクタイ nɑ;/ ɺՈ ［文化］ nɑ_ꭒſ の男性上流階級に流行った。現在では廃れている。

ᴅɪlzhɔ ［生物］蝶形骨、楔状骨 ꭒɑ;/「蝶の形をした骨」 ɺՈ

ᴅɪlzcnɟ ［動物］チワワ ［レベル］５ ɺ1

ᴅɪlıɑc ［サール］マラディ。パニックを起こす幼女のサール。 ［名詞］パニック、混乱 ［魔法］マラディ（コンフュ）。害の低位黒魔法。相手を混乱させる。低位だけあって解除は簡単で、ラルトをかけるまでもなく、殴れば治る。 ［人名］泣いているときのルシアのこと :1L:ᴅel ［経済］恐慌、世界恐慌 ［動詞］ɥəl を混乱させる、混乱させる、混乱する、パニクる ［形容詞］混乱した、パニくった ［レベル］２ ꭒcɑcı: 古 【用例】 cᴅ ſəɔ, ın lɔ ɟɔı lel ləlcı ɥən eᴅcɟ ız ᴅılıɑc. 最近思うんだが、ルシアってエミスかマラディみたいだよな。 ᴅılıɑc ɑc eᴅıſ ɟɔɑ ᴅcl ſə. それによって多くの混乱が生じた。

ᴅɪlıɑcnıɥə ［医療］パニック障害 ［レベル］５ 1L

ᴅɪlıꭒ ［電算］記憶装置 ［レベル］５ 1L

ᴅɪlcɟ ［遊離副詞］［形容詞］とっくに～した、とうの昔に ［類義語］lıczı ［反意語］ɑınſe ［レベル］１ ɺ0:ıᴅılcɟ ［語法］ lıczı

ᴅɪlcɟɑen ［娯楽］マリスデン ［レベル］２ ɺ1 ［文化］ 『ドラえもん』に相当するアニメ。メル ꝥ00 年からやってきた犬型ロボット ᴅılcɟɑen にダメ少年 becφ が助けてもらう話。

ᴅɪlcı ［文末純詞］［ɥən］］ɿɔɿ ［レベル］１ 古 ɟɔꭒn:ᴅı8/lcnɔı。ɿɔɿ に相当する語。恐らく原義は「知っているんですよね？」。

ᴅɪlcın ［植物］シナノキ ［レベル］５ ɺ1: 古 :ᴅılc

ᴅɪlɔ ［医療］ガーゼ ［レベル］３ 1ˀ9: 制 :ᴅele

ᴅɪlɔnlɔɔb ［被服］キャバリアハット ɟᴅ;「マロン伯爵の」 ɺՈ ［文化］ ɟᴅ でできた。おしゃれな男性貴族用の帽子。

ᴅɪleſ ［名詞］マレット、東の民 ［レベル］３ 古 ［文化］ アズゲルでシフェ

ルと争い、負けた民。ケヴェアとファベルとアデントに住んでいる。マレットの土地は当時のマレット語で命名されている。元は神のアルカであるから、シフェルとも同じ語派なのでそう違いはないが、響きは独特。

ɒɪleʃɥen ［言語］マレット語 ［レベル］4 ʃ0

ɒɪleʃcʃ ［人名］マレティス。マレットの長 ［レベル］4 古

ɒɪlenuc ［名詞］記憶力 ［レベル］3 ʃʃ

ɒɪlenɪlʃ ［アトラスの国家］マレナルト ［レベル］5 1L:ɥɑɑcɪ: マレットの砦

ɒɪlenɪlʃɔczɪ ［地学］マレナルトプレート ʃʔ

ɒɪleɪ ［エルト］マレア ［レベル］4 古 ［文化］ 芸術、美術の女神。

ɒɪleɪ,ɟzɑ ʃceɥ ɒɪl/ɥecɪɪ

ɒɪleɪ ʃoen ［人名］マレア＝トゥウェン ［レベル］6 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ アルティル期の芸術家。女性。コーレルに影響を受け、新古典主義に。神話の闇の部分を露呈した絵を描いた先駆者。代表作は ɑcɪn le ɑɥʃ ɪ lɪʃcɪ。

ɒɪlə,ɪlʃ ʾɪc ‹›ɒɪl,ɟzɑ

ɒɪɪʃ ［名詞］お香、インセンス、線香、アロマオイル ［レベル］4 1L:ɪɥɒɪɪ ʃɔ ［文化］ つけるものが香水で、たくものがインセンス。線香だけでなくオイルも含む。アルバザードで一般的なのはオイル。 ［用例］ ɪɥ ɒɪɪʃ お香を焚く

ɒɪɪɪʃ ［地球の国名］シリア ［レベル］6 古

ɒɪɪɟ ［名詞］花嫁 ［反意語］ɟclɒc ［レベル］3 ʔ: 制 :ɒɪrɟɑɪn（結婚する女）

ɒɪɟɪ ［被服］ジュッボーネ ɟɒ;ɒɪ/ɟɪbe ʃʃʃ ［文化］ ɟɒ でできた胴衣で、前開きで、閉じないと胸が見えた。そのことから元は男性用だったが後に婦婦が飾りをつけて着るようになった。

ɒɪɪɒ ［約物］{} 記号 ［レベル］3 ʃʃ:ɒɪɒ。形の類推より。

ɒɪɪɒɪdɪɪdɪ ［名詞］マーマパーパ ［ユマナ］おかあさんといっしょ、にこにこぷん ɪl;ɒɪɒɪ/dɪdɪ ʃʔ ［文化］ 夕方に放送されている子供向け番組。たいていの子供が小さいころに見ている。

ɒɪɪɥɪ ［名詞］悲しみ、苦しみ、苦い過去、苦い思い、苦い過去、苦い記憶、胸痛、心の痛み、胸が締め付けられる感情 ［類義語］nɪɥə ［レベル］4 ɥɑ;ɒɪ（胸）/ɥɪ（痛み） ʃʃʃ ［文化］ 取り返しの付かない苦い過去を思い出したときに右の輙筋あたりが痛むことと ɥɑ でセレンが定めた。

ɒɪɪz ［建築］尾根 ［レベル］2 ɪɪʃɪ:「胸の棒 」。胸を山と山に見立て、その天辺の間を走る棒を尾根に見立てている。

ɒɪɪl ［親族］お母さん、お母ちゃん ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɒɪɒɪ/ɪɪɪl ［成句］ ɪcɪ uell ɒɪɒɪ cɟʃ ɒɪɪl. ルシアは「お母さーん！」ではなく「ママー！」と叫ぶ：生みの親より育ての親

ɒɪɪl(J) ［人名］マール ʃ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔ9ʕʔ:ʃʃʃʃʃʃ(ʃʃʃʃ0:ʃʃʃʃʃ)) メルテナ前期のレスティル王。一時アルヴェーテを弾圧したが、ʃʃʃ0 に公認。

ɒɪc ［ジョブ］法師。密教を行う人。 ɪlʃ;‹›ɒɪɪɥɪ ʃʃʃ

ɒɪcʃ ［化学］化学薬品、化学物質 ［レベル］4 ʔ: 制 :ɒɪcldcʃə

ɒɪcʃe ［形容詞］がたいのいい、少し太った、がっしりした、ガタイのいい ［類義語］sɪl、ucen ［レベル］3 ʃʃ:ɒɪcn/ʃe

ɒɪcl ［植物］麻 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔʃʃL:ɪɪɥʃe;e ʔ: 制 : 恣意

ɒɪclɪ ［植物］大麻、マリファナ ［レベル］4 ʔ: 制 :ɒɪcl

ɒɪcle,ɑ ʃcɔ

ɒɪcleʃ ［音楽］サイケ、サイケデリック ［レベル］6 ʃʃ:ɒɪclɪ/ʃe

ɒɪclencl,ɑ ɒɪcle

ɒɪcl ［名詞］モデル ［レベル］3 lɪlʃ:ɒɪcl:ɒɪcnlɪ から

ɒɪcj ［動詞］ɥəl を体で理解する、理解する、体得する、会得する、覚える、習得する、経験的に知っている、習う ［普通動名詞］体得、習得、会得 ［レベル］2 1L:ɒɪcn jeɥ（体が知っている） ləlɔ,ɑ ɑel,ɑu:ɑel ［用例］ ɥəlc ɪlɪ ɒɪcj ɪɥlɪ. 子供は言葉を体で覚える。

ɒɪcjʃ ［魔法］マイスト、埋め込み魔法具 ［医療］インプラント、ペースメーカー、ボルト、入れ歯、脳内チップ ［レベル］5 ɟɒ;ɒɪcn/ɪɑcɟʃ ʃʔ ［語法］［文化］ ɟɒ で開発された体の中に埋め込む魔法具。ヴィードの総量を底上げしたり、特定の属性の攻撃に対する耐性を付けるなどの効果があった。 のちに ɥl になると魔法的な意味が薄れ、体の中に医療器具を入れるインプラントとなった。口腔外科ではインプラント、心臓などではペースメーカー、骨折など整形外科ではボルトを意味する多義語である。ɥl では試験的に脳内に電極などを刺し入れる実験も行われた。ɪl では脳内チップが開発されたが、２１世紀初頭の地球同様実用化されていない。

ɒɪcjɑel ［普通動名詞］実学、学習、実技、実習、実技科目。座学の反対。実技科目のこと。 ［反意語］lecɑel ［レベル］2 ʃʔ

ɒɪcjɑelɪn ［名詞］実習生 ［レベル］6 ɥɑ;/ ʃʃʃ

ɒɪcn ［生物］身体、体 ［数学］体積→ ɒɪcnəə ［文字］字面 ［動詞］ɥəl の体を ɪ に向ける、向く、向ける ［反意語］ʾɔlɔ ［レベル］1 ɑ;e 古 ɒɪcn: ɒɪcn:lɪ jɪl:ɒɪn,ɪlʃ ［用例］ ɒɪcn ʾɪc 大きな体、巨躯

ɒɪcnʃcl ［動詞］ɥəl を ɪ{ɔn} に内蔵する、内蔵する ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ: ɪɥbɪlelʃ

ɒɪcnjɪɑ ［生物］体温 ［レベル］2 1L ［用例］ ɒɪcnjɪɑ ʃcn 高い体温

ɒɪcnjɪɑlcdɪɥ ［名詞］体温計 ［レベル］2 1L

ɒɪcnjɔɥcʃ ［生物］身長、体長 ［言語］［文字］仮想ボディ、ボディ。アセンダーからディセンダーまでの幅。 ［レベル］2 ʃʃ ［用例］ ɒɪcnjɔɥcʃ jɔɥ 高い身長 ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

ɒɪcnjeu ［言語］主文 ʃʃ

ɒɪcnncɪl ［生物］身柱 ʃʃ

ɒɪcnuɪu ［運動］全身運動 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɒɪcnucen ［形容詞］腕力が強い ［類義語］ʾɪnuc ［レベル］3 1L ［用例］ ɔuc eʃ ɒɪcucen ɪlɪɪ lɔʃ ɪleʃ. アシェットではオヴィが一番力が強い。

ɒɪcnɑɪlʃ ［政治］武官 ɥɑ;/ ʃʃʃ

ɒɪcnɑcʃcl ［芸術］刺青、いれずみ、入れ墨、しせい ［レベル］3 ʃʃ:「体の文様」 ［文化］ ɥɑ までは魔術の一貫として行われた。呪術で特に用いられることが多い。 nɑ 以降は廃れ、芸術要素のみが残った。ɥl 以降では体に傷を付ける行為は背徳的とされ、不良やゴロツキのシンボルとなった。 ［用例］ eu{ɟɪb} ɒɪcnɑcʃcl e ɑɥeʃcɟ ɪ lɔɟ 背中に飛龍の刺青を入れる

ɒɪcnəə ［数学］体積、容積→ ɒɪcn ［レベル］3 1L: 体の量 ［用例］ ɒɪcn əə ʾɪc 大きな体積

ɒɪcnəəɑ ［生物］体重 ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［用例］ cɒ ʾɔcʃ ɒɪcnɑ əə eɒ ɒecɑ, ɥɪn lc ʃə, eɒ ʾɔɟɪl. いったん体重が増えて、それからまた減る：この「また」は意味的に ɒe でないので、訳出しなくてよい。 ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

ɒɪcndɪnʃ ［名詞］実技科目 ［反意語］ʾɔlɔdɪnʃ ［レベル］2 ʃʃ ［文化］ ɑeldɪ nʃ

ɒɪcnhɪɥʃ ［生物］［医療］身熱 ɥɑ;/ ʃʃʃ

ɒɪcnsɔl ［生物］体幹 ɥɑ;/ ʃʃʃ

ɒɪcnləəd ［名詞］体の暴力 ［反意語］ɥenɟləəd ɥɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɥenɟlə əd

ɒɪcnɪ ［地名］マイナ ［レベル］5 ʔʔ: 制 : 古 :ɒɪcn（体）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァマの支配地。

ɒɪcnɪ(J) ［アトラスの国家］マイナ ［レベル］5 制

ɒɪcnɪsɪ ［生物］体型、体形、体格、がたい、ガタイ ［類義語］ɒɪcneʃ ［レベル］3 ʃ0: 体の比率。手足の長さの比率や、ウェストと体重の比率など、形ではなく比で体形を捉えている。 ［文化］ → ɥəuel 地球では時代や国ごとに美しい体形が変わる。太っているほうがいい時代もあれば、やせているのがいい時代もある。一方、アトラスは揺らぎがなく、常に一定。 ラヴァスの時代に、アルデス王が体調と体重の相関に気付き、最も体調のいいときの体重を維持するようにした。それが人類に伝わったことから、歴史を通じて理想体重、言い換えれば理想体型が定まった。アルデス王は１７２ｃｍで６５ｋｇだったことから、これが人間の理想の体形とされた。なお、尋（ファゾム）は約１８１ｃｍであった。ちなみに同様にして女性の場合はルフェルがモデルで、１６０ｃｍの５０ｋｇが理想とされる。 語源からも明らかなとおり、これは比であるから、身長が低い男性は、理想体重が軽くなる。現代でいえばＢＭＩで図れるものであり、アルデス王のＢＭＩは２２で、現代医学で最も病気になりにくいとされている数値に一致する。地球の未来においてこの数値は変動するかもしれないが、アトラスでは普遍の値。 ＜モテる人の理想体型＞ 地球では国や時代によって理想体型が異なる。貧困国では太っている＝金持ちなので、ふくよかなのが良いとされることがある。一方先進国では女性は細めで、男性は高身長であることが望まれる。２０１２年現在の日本では１７０ｃｍ後半で７０ｋｇ代でやや筋肉質辺りが一番無難にモテる男性の体型であろう。 一方アトラスでは神が実在し、その神が理想の体型の見本とされる経緯があるため、どの時代どの地域でも共通の理想体型、モテる体型が存在する。男性の場合、サールの王アルデスと同じ体格が一番モテる。それより高くても逆にモテないし、低ければ当然モテない。女性の場合はルフェルが理想である。アルバザードでは面白いことに、女性の体型に関しては好みにばらつきがある。アルバザード人男性の好みは多様で、小柄な子が好まれることもある。一方女性の目はシビアで、アルデス王より大きいとノッポで不気味とされ、小さいと小男とバカにされ、相手にされない。体重も同様で、ガリだと貧弱と笑われ、過度のマッチョもキモいと言われる。なお、デブは論外。ただアルバザード人は華奢な者が巨躯を倒すというシチュエーションが好きなので、ガリには比較的寛容で、５０ｋｇくらいのガリでも筋肉質であればそこまで忌避されない。 なお、２０１２年現在におけるセレンの身長は１７２ｃｍで、体重は６５ｋｇで、ＢＭＩは２２。筋肉質で、尋は１８１ｃｍ。アルデス王と同じ体格になった。セレンの体格は日本人としても平均的であり、アトラス人としても理想的である。チビでもデクでもなく、ガリでもデブでもない。誰からも馬鹿にされない、悪口の言いようのない無難な体型で、どんなに頑張っても無個性とか凡庸といった悪口しか思いつかない。平均的体型のメリットは人と違わないのでコンプレックスを持たずに生きられるという点である。自分の体にコンプレックスを抱かないというのは物凄く気が楽なことである。 ［用例］ ɒɪcnɪsɪ lɪnʃ 均整の取れたプロポーション

ɒɪcneʃ ［生物］体格、がたい、ガタイ ［類義語］ɒɪcnɪsɪ ［レベル］3 ɑu;ɒɪ cn/ʃe ʃʔ ［文化］ ɒɪcnɪsɪ, ɥəuel ［用例］ ɒɪcneʃ ɑcɒ 華奢な体格

ɒɪcɒ ［名詞］姿勢、体勢、ポーズ ［医療］体位、肢位 ［名詞］体位← hcɒɒ ɪcɒ。性交の。 ［レベル］2 ɥɑ;ɒɪc/ɒɔ「身体の形」 ʔ: 制 :ɒɪcɒɔ（身体の形） ［文化］ hcɒɒɪcɒ ［用例］ lə lɪlej ɒɪcɒ. 彼は姿勢をキープしている。だるまさんがころんだのようなピタっとした姿勢。

ɒɪcɒ,ɒɑ eɥ

ɒɪcɑ ［名詞］バスタオル ［レベル］2 ʔ: 制 :ɒɪcɑɪlɒ ［用例］ ɪn ɑcdɪʃ ɒɪcn ʾɔcn ɒɪcɑ. タオルで体を拭いた。

ɒɪcd ［言語］［非言語］ジェスチャー、身振り手振り、ボディランゲージ、仕草、非言語 ［レベル］3 ʔ: 制 :ɒɪcɪdɪ

ɒɪcl ［化学］化学 ［レベル］4 lɪlʃɪ ［文化］ 化学用語は古・制の時代にリュウが中心となって作り、幻幻辞典に記載された。 その後メル 1L 年の新生化に伴い、改訂作業をした。 制になる際に、リディアの要

望でアンティスを反映したアプリオリなネーミングに変わった。新生でも変わらない。　1L 年末の専門用語強化に伴い、幻日に輸入される形となった。　ところが、作業をしていてあまりにＩＵＰＡＣが地球の事情に基づいたものなのではないかと考えた。　そこで、これだとアプリオリと言えないのではという不安に襲われ、仕方なしにゼロからオリジナルの命名法を考えだした。

ᴅɪcʃlep ［化学］化学的種名　1L

ᴅɪclᴅejʃ ［化学］平衡、化学平衡　［レベル］5　1L:jeɥen/ɥcɑcɪ

ᴅɪclɥeu ［化学］化学反応　［レベル］4　1L

ᴅɪclɪɥl ［化学］化学結合　［レベル］5　1L

ᴅɪe ［名詞］乳、乳汁　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅɪeɥcɪ（ᴅɪ（乳房）の水）【用例】 ɥcl ᴅɪe 乳を出す

ᴅɪelccᴅ ［化学］乳糖、ラクトース　［レベル］4　1L:bɪlᴅ など、ᴅɪe に含まれている

ᴅɪeᴅ ［料理］コレステロール、コレステリン　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ᴅɪcn eᴅɥə（体の脂肪）

ᴅɪeᴅɪɥj ［化学］ラクターゼ　［レベル］4　1L:ᴅɪelccᴅ/ᴅɪɥj

ᴅɪebeeb ［形容詞］乳臭い　［形容詞］［ネガティブ］未熟な　［類義語］cbeʃ　［レベル］3　1L:ᴅelcɑcɪ ɪlʃe　［語法］　実際に乳臭いという意味より、むしろ乳飲み子のように幼いという罵倒の意味が強い。

ᴅɪelcʃc ［生物］乳腺　［レベル］4　1L:jeɥen

ᴅc ［動詞］jɔl は ɥəl にいない、ない、無い、亡い、存在しない、いない、居ない、留守だ　［レベル］1　ɥɑ;ᴅɥə.l　1L: 古 :ᴅɥə　ᴅɥə, ləəᴅc:ᴅɥə, ləəᴅc:ləəᴅc　【用例】 lɪ ᴅc ɪʃə. 彼はここにいない。

ᴅc(ɺ) ［感動詞］［ɥenʃe］み？　［レベル］2　1L:ᴅelcɑcɪ ɪlʃe:ᴅcc の短形

ᴅc(ʔ) ［接頭辞］お～。お酒など、丁寧な名詞を作る→ jɔljueʃ　［レベル］2　古　［語法］　名詞に付く。動詞には ᴅcjʃ。

ᴅc,ɑ　ɪlᴅcl　<>ᴅɥə（ない→見えない）

ᴅc,ɑu　ᴅcjʃ　ɑɪcɪ

ᴅc,ɪlʃ　ᴅcn

ᴅcʃ　ᴅc/ɪʃ

ᴅcʃl ［名詞］ブリキ　［レベル］3　1ʔ: 制 :ᴅcuɪɪl「子供のおもちゃ」

ᴅcʃɪ,ɪlʃ　ɪʃ　ᴅc/ʃɪ

ᴅcʃɪjnɪb ［名詞］荒唐無稽、事実無根　［レベル］3　ɺɺ

ᴅcʃclnɔ ［サール］ミティクノ　［レベル］5　ᴅelʃcɪ LL jen ucɪ:ɥclnɔ;ᴅcuɪ/ʃclnɔ　月 :ᴅcuɪ（子）/ʃclnɔ（ティクノ）から。　［文化］　ᴅelʃcɪ LL_LLLLLL)　ティクノが自分で木から生んだ子。ワニやトカゲ類を司る。ポエンと交わっていないため弱く、エルヴァに殺される。

ᴅcʃcᴅ ［生物］原核生物　［レベル］5　ɺ0　［語法］　細胞核を持たない。アルカでは真正細菌と古細菌のこと。

ᴅcʃɔɑ ［電算］オフライン　［レベル］3　ɺɺ

ᴅcʃɔalcuɪ ［娯楽］オフラインゲーム、オフゲー　［レベル］3　ɺɺ

ᴅcʃɔɑcʃɪ ［電算］オフ会　［レベル］3　ɪl;/　ɺʔ

ᴅcʃe ［動詞］ɥəl（対象）を ɪ（分類項目等）に分類する、分類する、分別する、分ける　［普通動名詞］分類、分別　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ᴅɥəʃe ᴅɥəʃe:ᴅɥəʃe

ᴅcʃej ［名詞］停電　［レベル］3　ul;/　ɺʔ　【用例】　ᴅcʃej lənɪl lejʃez. 居間が停電した。

ᴅcʃeɑel ［名詞］分類学　［レベル］5　ɺ1

ᴅcʃeᴅ ［形容詞］人の言うことを聞かない、素直でない、頑固な、天邪鬼な　［反意語］lɪʃeᴅ　［レベル］3　ɺ0: 耳のない

ᴅcʃeeɥe ［感動詞］ʃeeɥe　［レベル］3　ʃᴅ;/　ɺʔ

ᴅcʃəɪ ［感動詞］どうぞお受け取りください　［レベル］3　古 :ᴅc/ʃəɪ

ᴅcl ［名詞］右　［形容詞］右の　［格詞］～の右に　［経済］貸方　［数学］下何桁などの下　［反意語］lɪnl　［レベル］1　ɑɥɑ:ᴅcɥɔl/leɥ　1L:ᴅcɥlɔɥ（神の方向）　c:ᴅcl　【用例】　ɺ zɔnʃ cʃen ᴅcl 下二桁

ᴅcl(ɺ) ［人名］ミク、ミルフの略称　［組み数字］１１／２８　［レベル］1　古 : 語源不詳。古アルカでの意味は「女言葉」ᴅclə。セレン以外は ᴅclə ということが多かった。使徒に言わせれば ᴅclə が ᴅcl になった原因はセレンの発音らしい。

ᴅcl(ʔ)　ᴅc/cl

ᴅclʃ ［形容詞］のんきな、おっとりとした、おっとりした、のんびりした、呑気な、暢気な、ゆったりした　［形容詞］雪や台風など天気が通年よりも遅い　［反意語］bezeʃ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ᴅcləʃɔ。ᴅclə からで「ミクの匂い」が直訳だが、ミクの持っている雰囲気を示す。ʃe ではなく ʃɔ。

ᴅclʃɪl ［生物］右腕　［レベル］2　ɺ0:lɪlce

ᴅcll ［法律］アリバイ、現場不在証明　［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :ᴅɥələ（居なかったと言う）

ᴅcllc ［名詞］右後ろ　［レベル］2　ɺ0

ᴅclj ［音楽］歌　［動詞］ɥəl を歌う、歌う　［類義語］lell、leᴅ、lcleᴅ、lɪnʃ　［レベル］2　1ɱ: 制 : 第４期代アルシェ第１１使徒ミルフの通り名の「ミク」が語源。ミクは音楽が得意な使徒であり、特に歌声は妖精のように美しいと内外を問わず評判。尚、古アルカでは φɥɪleɥclə,leᴅlə,ləleᴅ（歌）　φɥɪleɥclə:φɥɪleɥclə　【用例】　ᴅclj{ɪɥ} ᴅclj 歌を歌う　ᴅclj lɪnʃel 綺麗に歌う　ɪɥ{ᴅclj} ᴅclj lɪnʃ 綺麗な歌を歌う

ᴅcljɪ ［名詞］右前　［レベル］2　ɺ0

ᴅcljɪn ［音楽］歌手、シンガー　［レベル］3　1L　【用例】　nɔn ɪlʃɪʃ lɪn lɪ ᴅcl ɪjɪn le nɔn jccnɪ ʃcn ʃcn lcnel. 私はどうしても大好きな歌手に会いたかった。

ᴅcljeɥφ ［経済］投資　［レベル］4　ɺɺ:「おっとりした投資」→ jeɥφ

ᴅclueɥɪnʃ ［医療］楽性人格障害、楽性パーソナリティ障害　［レベル］5　ul;ᴅclɑ/ueɥɪnʃ　ɺʔ:ᴅel　［語法］［文化］　クラスターＡに分類され、スキゾイドと比較的近い人格障害。訳語はセレンの造語。　喜怒哀楽の楽以外が欠落しており、何事に対しても笑顔でニコニコと接してしまう。ニコニコしているか柔和な表情かのどちらかしかなく、不快感を感じたりという感情のレセプタがない。　現実でも神話でも、ミルフが子供のころからこの性格で、たとえ人の葬式であろうと朗らかな表情でいてしまう。他人から非難されると表面上は謝るが、そのときの顔も真剣ではない。不謹慎とか悲しみとかが理解できず、また頭で理解しても共感や悲しみを表現することが難しい。　スキゾイドに近いが、人に対しては愛想がよく、結果的に中距離程度の友人は多い。概して人が苦手ではなく、むしろ人懐っこい面がある。ただ自分の不謹慎さを非難されると戸惑う。　漫画でいうと、『るろうに剣心』の瀬田宗次郎がまさにこれ。

ᴅclᴅ ［動詞］ɥəl を撤回する、撤回する、取り消す、キャンセル、中止する　［普通動名詞］撤回、キャンセル、とりけし、取り消し、中止　［レベル］2　1ɱ: 制 :ᴅcl（止める）

ᴅclᴅlɔʃj ［電算］エスケープキー、ＥＳＣキー、ＥＳＣ　［レベル］3　ɺ1

ᴅclᴅɔl ［名詞］右下　［レベル］2　ɺ0

ᴅclᴅenl ［名詞］右回り　［類義語］ᴅelʃᴅenl　［反意語］lɪnlᴅenl　［レベル］3　ɺ0

ᴅclhɪl ［名詞］右上　［レベル］2　ɺ0

ᴅclzeʃ ［経済］貸方科目　［レベル］5　1L

ᴅcllɪj ［生物］右手　［レベル］2　1L

ᴅclɪ ［形容詞］信心深い、敬虔な、信仰心のある　［反意語］nɪʃc　［レベル］2　1ᴦ: 制 : 古 ᴅɥəllc（信心深い）← ᴅɥəlɪle（宗教）

ᴅclɪlc ［被服］ノーベント、ベントレス　nɑ;/　ɺɱ

ᴅclɪjcl ［料理］サルミアッキ　ɥɑ;<ɪɥɑɪ　ɺɱ　［文化］　ɥɑ でアシェットがアルダから持ち込んだのが初めて。リコリスを含んだ菓子。ɪl で「世界一まずい菓子」にノミネートされた。アルダ人は好んで食べる。　ちなみに現実のリディアはサルミアッキが好きでも嫌いでもないらしく、たまに食べるとのこと。セレンが「まずい！」と言ったら「理解はできる」と言っていた。

ᴅclɪn ［名詞］jeᴅɪcᴅ　［植物］ガクアジサイ、額紫陽花　［レベル］6　ᴅclɔ,ɪ lʃ.l

ᴅclɪnɪ ［名詞］敬虔な心　［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ᴅclɪɥlɪ ［言語］神無アルカ　［レベル］6　1ᴦ: 制 : ミルフの月に作られたアルカ　［語法］　メル ɱ 年ミルフの月にセレンが作った古アルカの改定案。後に古アルカの音韻論に貢献する。

ᴅclɪlzɪj ［エルト］ミカルザス　［レベル］5　ᴅelʃcɪ LL jen ucɪ:lɪlzɪj;ᴅcuɪ/lɪlzɪj　月 :ᴅcuɪ（子）/lɪlzɪj（カルザス）　［文化］　カルザスが自分で生んだ子。自分の血から作った。コノーテと交わらなかったため弱く、イルヴァに殺される。

ᴅclɪleᴅ ［音楽］ソナタ、ミカレム　［レベル］4　ɥɑ;/「ミクの気持ち」。ミルフが心境を曲にして作った楽曲の形式がソナタだったことから。　ɺʔ

ᴅclɪɪn ［名詞］父なし　［反意語］ᴅclɪɪl　［レベル］3　ɥɑ;/　ɺʔ

ᴅclɪɪnɥɪ ［名詞］母子家庭　［反意語］ᴅclɪɪlɥɪ　［レベル］3　ɥɑ;/　ɺʔ

ᴅclɔ,ɪlʃ　eɥ、eɥcɪ

ᴅclɔlɔʃɪn ［魔法］ウンディーネ　ɪlʃ;/　ɺɱ

ᴅclɔlc,ɪlʃ　ejl　ᴅclɔ（水）が動詞化したものが ᴅclɔlə で、その名詞形が ᴅclɔlc。「水するもの」で雨を意味する。フィンランド語で雨が降るを「水が降る」と表現するのと似ていて、水で雨を表現している。

ᴅclɔlə,ɪlʃ　ejl　ᴅclɔlc,ɪlʃ

ᴅcle ［動詞］ɥəl を遊牧する　［普通動名詞］遊牧　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ᴅɥəle（引越し、移住）「いなくなるように行く」

ᴅclellɔ ［感動詞］いらっしゃいませ　［レベル］2　古 : 尊敬の ᴅc/lellɔ（来る）

ᴅclen ［接続詞］ᴅcl　［レベル］3　ɺ1

ᴅclə ［人名］ミルフのあだ名　［レベル］3　古では「女言葉」という意味

ᴅcl ［動詞］ɥəl を lɔn でキャッチする、キャッチする、受け取る、受け止める、受ける、水などを浴びる、滝などに打たれる、ボールなどを物理的に手などで受け止める、受給する　［普通動名詞］受信、キャッチ、受け取り、受給　［電算］ダウンロードする、受信する :1L:ɥcɑcɪ: ダウンロードと明示するときは ᴅcl c dɔleʃ → ᴅɔφ　［サッカー］［野球］キャッチする、キャッチ、ボールを受け取る、レシーブする、レシーブ　［反意語］jeɑ、lɪnʃ　［レベル］2　1ʕ: 制 : 恣意

ᴅcll ［生物］膝、膝部　［反意語］nɪjʃ　［レベル］2　ɥɑ;ʃeel　@ 1L　nə:nə　［語法］　膝蹴りの打突点を中心にその周囲。ひかがみは含まない。　【成句】　ᴅcll eᴅ ueɥn 腰が抜ける :「腰が抜ける」という表現は不正確。実際には膝から力が抜ける。

ᴅclljcɪ ［音楽］スネアドラム、スネア、サイドドラム　ɺ1: 膝の高さ

ᴅclluɪcl ［生物］膝部。膝蓋骨の上縁から３横指上方を通る水平線と脛骨粗面を通る水平線の間のこと。　ɥɑ;/　ɺɱ

ᴅcllcjen ［被服］ニーソックス、ニーソ　［レベル］3　ɺ1

ᴅclle ［魔法］ミッシェ。召喚のしにくいところ。神と意思疎通の取れないところ。　［電算］電波の届かないところ。特に周りは届くのにそこだけ孤立して電波障害のあるところ。　［レベル］3　［反意語］jɪlɥə　ɺ1:ᴅclle.lʃ < ᴅɥəlɪ.ɑu

ᴅcld ［名詞］籠、バスケット、買い物籠、買い物かご ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ᴅyəlıbədı（穴の空いた容器）

ᴅcldφeɭ ［運動］バスケットボール ［レベル］3　1L:ʮcɑcı:ıʮbılelʃ ［文化］　これも野球と同じ。ルールも大体日本と同じ。ボールを相手のゴールに入れる。ゴールは頭上の籠である。【用例】 ın ᴅcll nɔɟ eʃ ɟɔʮ ʅɔɭ ᴅcldφeɭın. バスケの選手くらい背があればなぁ。

ᴅcldılei ［地名］籠女海岸、かごめ海岸、ミリア海岸 ［レベル］5　1L: ねこの郵便屋さん ［文化］ ʮɑ でテージュ海の巨人を倒したアルシェは、カテージュに行き、被災地の支援をした。ミリアはボランティアでカテージュを訪れており、ここで初めてアルシェと出会う。このときミリアがバスケットにパンを入れて配給していたことから、アルシェのセレンとミリアが出会ったこの海岸が籠女海岸と呼ばれるようになった。南カテージュカルザス線クミール駅から南に２０００メルフィほどのところにあり、最も有名な海岸。ビーチには籠を持った少女ミリアの像がある。潮風で錆びないように石でできている。

ᴅclın ［名詞］受け取り手、受取人 ［野球］捕手、キャッチャー ［レベル］3　ʮɑ;/ | ul　Jʔ

ᴅclıʮ ［電算］入力装置、入力デバイス ［レベル］4　1L

ᴅclız ［形容詞］無制限の、無限の、限りない、制約のない、節操ない、奔放すぎる、むやみな ［副詞］無制限の、むやみに、むやみやたらと ［レベル］3　J0:lcɔn

ᴅclc ［生物］精子 ［生物］精液← ᴅclceʮ ［普通動名詞］射精 ［動詞］yəl を ı に射精させる、射精する ［レベル］3　1ʔ: 制 :ᴅclı: 古 :ᴅcuılıɭc（子供の卵）【用例】 ın ᴅclcʃ ıl eel lııʃ. 彼女に顔射した。

ᴅclcɟı ［料理］ノンシュガー ［レベル］3　J1

ᴅclclc ［名詞］外道、ゲス、下衆、げす、鬼畜、鬼 ［形容詞］ゲスな、外道な、鬼畜な ［レベル］3　ʮɑ;/「慈悲のない」

ᴅclclɔʮ ［生物］輸精管 ［レベル］5　1L

ᴅclcɔlz ［生物］前立腺 ［レベル］5　1ʕ: 制 : 精子が通る胡桃大の器官

ᴅclcɔlzdcφ ［医療］前立腺がん ［レベル］6　1L

ᴅclceʮ ［生物］精液→ ᴅclc ［レベル］3　ʮɑ;/　Jʔ ［語法］ 精子は精液中に含まれている。

ᴅclceʮcı ［生物］［俗語］精液、聖液 ［類義語］ᴅclc　ʮɑ:ᴅel;/ ［レベル］5　Jʔ:ᴅel:J01J/0L/1J 立ちバックとかだと出して抜いた後にいくらか漏れてくるじゃん？メルがそれを指で取って舐めてて、そのときはスルーしたんだけど､昨日メールで「あれお前舐めてたよね？汚くないの？」と言ったら「自分のは汚いけど、お兄ちゃんのはむしろ聖液だから」と言われてヲタ女の発想の凄さに戦々恐々してる。

ᴅclɔc ［医療］味覚障害 ［レベル］6　1L

ᴅclez ［生物］無脊椎動物 ［レベル］4　1L

ᴅcɟ　ᴅc/eɟ

ᴅcɟ(J) ［名詞］意見、考え、見解 ［動詞］yəl という意見を ı に伝える、意見を言う ［類義語］lɔ ［レベル］2　ɟzɑ　Jɱ【成句】 el ʃeeɟ cl ᴅcɟ ılʃ ɑʮcɟel cᴅ ᴅcɟ ʃɔʃıl. 意見を言うということはその意見以外のすべての意見に対する間接的な否定をすることに等しい（ɟeʮen ıʮbızıʮɑ)。アルバザード人は意見をぶつけ合って切磋琢磨するのを良しとするが、ある意見を主張することは同時にその意見以外の全ての意見を間接的に否定することになり、そのことによるリスクも生じうるということをセレンは述べた。

ᴅcɟʃ ［法副詞］お～する、～なさる。前置。 ［レベル］2　ʮɑ;ᴅc,ɑu　J1:ʮcɑcı:ᴅc/ɟɔ/ʃe。J1 まで名詞と同じ ᴅc だったが、動詞に付く場合は法副詞 ᴅcʮ との聞き分けが困難とされ、代詞改訂の際に合わせて調整された。 ᴅc:ᴅc【用例】 hıɭɭı ᴅcɟʃ lenıʃ ɑənel ınᴅcınȣ お夕飯はもうお召し上がりでしたか。

ᴅcɟʃ(J) ［組み数字］1／１０ ［哲学］秤 ［医療］膀胱 ［歳時記］甲、きのえ ［レベル］4　ʮɑ;ᴅcɟʃ,ɟzl　J1　::lə ᴅcɟʃ（徳は男性側５つが lə、女性側５つが lı）

ᴅcɟʃ,ɟzl　ᴅeɟʃ　ᴅeɟʃ.l

ᴅcɟɭɭın ［生物］［医療］膀胱経　ɟzl;/　Jɱ

ᴅcɟʃc ［死神］ミスティ ［レベル］4　ᴅelʃcı JL1:lənɔ;e　J0:ʮcɑcı ［文化］→ eᴅclcɔ

ᴅcɟʃclıʃ ［形容詞］公平無私 ［レベル］3　JJ:ɑelcɟ の ᴅcɟʃ があるような clıʃ

ᴅcɟʃcɟ ［被服］白衣 ［レベル］4　J0:ᴅcɟʃcıɑlɔɟ（ミスティアローブ） ［文化］　1ᖰᖳ 年のミスティア錬金術舎創設の際に実験服として政府から提供されたものが始まり。当時は色のついた試薬や材料が多かったため､白だと実験中に服についてもよく見えることから､白が選ばれた。　後に科学が発達して白い薬品が増えると、薄く色をつけた白衣が着られるようになった。 ヴェレイでは外科医を中心に血の色のコントラストを抑えるために薄い緑色の白衣が着られた。 現在では理系学生の一般的な制服となっており、キャンパス内では実験中でなくても白衣の姿が見られる。

ᴅcɟʃcı ［魔法］［ランドマーク］ミスティア錬金術舎 ［レベル］4 ［アクセント］ᴅcɟʃcↄ　J0:ᴅcɟʃceʃ ［文化］ → yəlcınʃ, yəlcınʃɟel　1ᖰᖳ 年に時のアルバ王が出資者となり、ルティア・アルシア自治区の共同出資を受けて建てた錬金術士養成学校。錬金術舎としては最も古く、かつパイオニアでもある。 1ᖰLʕ 年、リディア＝ルティアはアシェルフィ校を卒業し、ミスティアに編入。国を守りながらの研究だったため、寮生活ができず、毎日は通えなかった。しかし超人的な努力家だったリディアは２年で単位をすべて取り､1ᖰLΔ 年に卒業。その後アルナ大へ編入。　一方、アリス＝アンシャルは 1ᖰLL 年に編入し、生涯をミスティアで過ごした。【成句】 ᴅcɟʃcı nɔɑ(en) cɟɑclcı 一日の長。ミスティアのほうが先にでき、何かとイスフィリアの先を行ったことから

ᴅcɟʃce ［建築］ミスティエ凱旋門、ミスティエの門、凱旋門 ［経済］１０ソルト玉 ［アクセント］ᴅcɟʃcE ［レベル］2　J1:ʮcɑcı:ᴅcɟʃceʃ ［文化］→ ınɑın　1J0ɱ のケートイア人による侵入から φleı で国を守ったアルバ５世の凱旋を祝して建てられた門。グレアの発明者 ɔɟʃcı scleel の出身地 ᴅcɟʃceʃ を讃えてこの名が冠せられた。 石造りで、何度か改修されている。 現在は北東アルナ市セイネルス＝クミール通りに所在。【用例】 φılʃ ᴅcɟʃce ミスティエ凱旋門

ᴅcɟʃceʃ ［地名］ミスティエット ［レベル］6　J0:ᴅcɟʃc/ʃe（ミスティのような） ［文化］ アルシア北東部にある町の名。ケートイア・ヒュートの国境線に近い盆地。すぐ周りは山地になっている。死神ミスティの加護があるという言い伝えからこの名が来ている。

ᴅcɟʃɔ ［名詞］化身 ［レベル］4　J0:ᴅıcn/cɟʃ → ᴅcɟʃ → ᴅcɟʃɔ（中和と重複するため）【用例】 lın ıllı eʃ ᴅcɟʃɔ e ɟıe ʃcɟee.　ɟıe le ɑcıɟıʃ ʅı sın ɔʮ ılıφel ʅɔʮ ılɔ ʅɔnʃ ɟıbɔʮ ɟıe.　lə ɔʮ elʃ den, ɟee cɭ beʃ cᴅ ueeʮ ı.　人間はね、雪の化身なんだ。　空で生まれた幼い雪は、大地に舞い降りながら埃を纏っていく。　どんどん汚れて、最後は泥になってしまうんだ。 (ʮenɟ ᖳJʔ) uelʃʮenɟ は泥。ここでの泥は大人を指す。lıenʮenɟ では汚れた大人を批判しているが、その泥に真理を語らせることで、「純粋さの代わりに大人は知恵を得て成長する」ということを uelʃʮenɟ として指している。

ᴅcɟʃe ［化学］中和 ［動詞］yəl を中和する、中和する ［レベル］4　J1:ʮcɑcı<ᴅcɟʃ: 古

ᴅcɟʃeʃəlɑ ［化学］中和熱 ［レベル］5　J1

ᴅcɟʃeyeu ［化学］中和反応 ［レベル］5　J1

ᴅcɟɭ ［動詞］yəl を ɔn に適正かどうか試す､yəl が ɔn に勝るか挑戦する、試す、挑戦する、挑む、立ち向かう、対抗する、チャレンジ、試みる、トライ､ためしてみる､取り組む､試着する､味見する ［普通動名詞］挑戦、チャレンジ、テスト、テストプレイ、おためし、お試し ［副詞］試しに、～してみる ［レベル］2　1L:ᴅcɟ:1ʔ: 制 : 古 :ᴅcɟɔ,ᴅcɟɟɔ（試す） ᴅcɟɔ:ᴅc ɟɔ【用例】 ın ᴅcɟɭıʃ leɟ ın ɟɔ ɟen uɔɟɭel ɔnʃ enzel. 自分にできることはすべてしようと努力した。

ᴅcɟɭʮıɟ ［名詞］挑戦回数 ［レベル］4　J1

ᴅcɟɭlıɑı ［名詞］試作品、プロトタイプ ［レベル］4　ʮɑ;/　Jʔ

ᴅcɟɭı ［化学］試料、試薬 ［レベル］5　JJ:ᴅcɟɭ

ᴅcɟɭılɔnɟ ［化学］カバープレート ［レベル］4　ʮɑ;/「試料押さえ」 Jʔ

ᴅcɟɭıele ［化学］スライド。顕微鏡の。 ［レベル］4　ʮɑ;/「試料台」 Jʔ

ᴅcɟɭez ［名詞］試着室 ［レベル］3　ʮɑ;/　Jʔ

ᴅcɟᴅeɟʃ ［経済］試算表 ［レベル］5　1L

ᴅcɟd ［被服］カーディガン ［レベル］3　1ʔ: 制 :lıɭʃı:ᴅyəlıɟıbe（穴の開いた服）短縮して ᴅcɟb にし､そこから b が無性音の ɟ に同化して ᴅcɟd となった。

ᴅcɟı,ılʃ　lccɑı

ᴅcɟın ［植物］蝋梅、ロウバイ ［レベル］6　ᴅʃ;ᴅcɟı　JJ

ᴅcɟıd ［言語］無気、無気音 ［レベル］6　1L

ᴅcɟclɑ ［副詞］［ʮenʃe］ご自由に～してください。ɟclɑ。前置。 ［レベル］3 古

ᴅcɟcıs ［名詞］青天井 ［名詞］ビアガーデン ［名詞］露天 ［レベル］3　ʮɑ;/ Jʔ

ᴅcɟɔ,ɑ　ᴅcɟɭ

ᴅcɟɔluıʃ ［感動詞］おまたせ致しました ［レベル］3　ʃᴅ;/　Jʔ

ᴅcɟɔlz ［形容詞］コードレス、無線 ［レベル］3　J1

ᴅcɟɔləoı ［医療］偏平足 ［レベル］4　1L

ᴅcɟɔɔnɔyən ［感動詞］ご機嫌いかが、ごきげんよう ［レベル］2　古 :ᴅc ɟɔɔnɔyən,ɟɔɔnɔyən の ɟɔ は「 する 」という動詞だと思うが、そう思うのはそれを裏付けるように ᴅc が付いているからである。ᴅc（正しくは ᴅc ～ ʮe という風に呼応させる）は動詞に付いて動詞を敬語化することができる。日本語の「 ～なさる 」に近い。

ᴅcɟenʃ ［感動詞］どうもありがとうございます ［レベル］2　ɟɔʮn:ᴅc（敬意を表わす接辞）/ɟenʃ ［語法］ ɟeeʮe

ᴅcɟenʃınʃ ［感動詞］お心遣いありがたくちょうだいいたします ［アクセント］ᴅcɟEnʃınʃ ［レベル］2　ɟɔʮn ［語法］ ɟeeʮe

ᴅcɟeeʮe ［感動詞］ありがとうございます ［レベル］2　古 ［語法］ ɟeeʮe

ᴅcɟeeʮeʃcɟ ［感動詞］どうもありがとうございます、まことにありがとうございます、心より感謝いたします ［アクセント］ᴅcɟEeʮeʃcɟ ［レベル］2　古 :ᴅc（敬意を表わす接辞）/ɟeeʮe（ありがとう）/ʃcɟ（あなたに） ［語法］ ɟeeʮe

ᴅcn ［名詞］女、女性、メス ［形容詞］女性の、雌の ［類義語］ləəlɔ、le ɟʃcʮ、ʮecyə、lıᴅcı、lıᴅcın、lclcı、ᴅcnɑcı、ᴅeeʮ、ɑlınɑcı、belᴅı、ᴅınɑı、ᴅeeʮ、ueᴅu、elccze、yəənı、lcləl、yəənɔ、uınleʃ、lese ɟʃ、nını、ʃcnı、ɑcın、lız、ᴅını、ʮecʃe、ᴅelcʃ、nııʃ、ʃɔnı、ɟıız、ʮıɭel、enɑı ［反意語］ucɭ ［レベル］1　ɟııl;e　古 : 語源不詳　ᴅcn:ᴅcn:lı yəlcɟ: ᴅc,ılʃ ［語法］［文化］ 年齢によって男女とも細かく単語が分かれる。赤ん坊から順に nını, ʃcnı, ɑcın, lız, ᴅını, nııʃ, ʃɔnı, ɟıız, ʮıɭel, enɑı。lız と ᴅını は合わせて ʮecyə と呼ばれることも。 男性にはそれぞれ接頭辞 ıl をつける。ılɑcın で少年。女性はどの年齢になっても単純語で示されるが、男性は nııʃ になると一緒くたに ucɭ と呼ばれることが多い。子供時代も yəlc や ᴅılʃ と大雑把に呼ばれることが多い。社会的に女性の年は本人の価値と密接に関わっているが、男性の年には興味を示さないため。【成句】 ᴅcn hııɟ cnɟ nɔzeʃ hɔʃ 女は自分の目（視点）にしか従わない：女賢しくして牛売り損なう。主観の生き物でしかなく客観性のない生き物だということ。

ᴅcnʃ ［植物］花びら、花弁 ［婉曲］小陰唇 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ᴅcnı

ᴅcnʃɟııze ［名詞］花吹雪､桜吹雪 ［類義語］ʃeɭɟııze ［レベル］4　ʮɑ;/　J1 ［語法］ 日本語は「桜吹雪」と木を限定するが、アルバザードでは桜の

もほかの木のも同様に ᴅcnʃjııze で示す。従って桜吹雪は厳密には ᴅc nʃjııze e ȷeɥɔn。

ᴅcnʃc ［親族］妻、嫁 ［類義語］lıᴅccnı ［反意語］ıᴅcɥ ［レベル］2 ȷ0:ᴅcn/ʃcı :::neɿəlc,ılʃ 【成句】 ʃe ɿel ȷcɥ lıᴅ e ᴅcnʃc 妻の初めての肌を忘れるな：初心忘るべからず

ᴅcnʃcȷeᴅȷ ［名詞］家庭科部、嫁部 ［レベル］3 ȷ0 ［文化］ 料理や洗濯や裁縫といった花嫁修業をする部活。アルバザード女子には人気が高いため、成績が優秀な子が優先的に選ばれる。従って、家庭科部に属していること自体がステータスとなる。

ᴅcnʃcı ［アトラスの国家］ミンティア ［レベル］4 ȷʔ:ɥcɑcı

ᴅcnʃceɥ ［名詞］酒池肉林 ［レベル］4 ȷȷ:「女体の海」

ᴅcnɿ ［サール］ミンク ［名詞］色男。女が男を褒める言葉でもある。ただし自分には気がないが、ほかの女にはもてそうねという含意がある。レインが静を ᴅcnɿ のようだと褒めた件がそれに当たる。 ［レベル］3 ᴅel: 古 : 古 ᴅcn（女）/ɿə（口）。恐らく女を食べるという意味で、「女殺し」と言いたかったのだろう。 ［文化］ サール界きっての色男。放っておいてもやたら女にもてるし、同時にもてようとあの手この手を尽くすこともする。

ᴅcnɿyɔın ［名詞］女優、アクトレス ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅcnɿı ［名詞］ポプリ ［レベル］3 ȷ0:ᴅccnı/ɿıɔ

ᴅcnɿɔu ［交通］女性専用車両、雌車、めすぐるま、めすしゃ ［レベル］5 ıl;/ ȷʔ ［文化］ ᴅcnɑız

ᴅcnl ［形容詞］気付かれないように、目立たないように、盗み〜、見られないように、見つからないように ［名詞］穴場 ［娯楽］穴馬 ［反意語］ılᴅcnl ［レベル］2 ɥɑ;ᴅyəcn 1ɱ: 制 :ᴅınl: 古 :ᴅyəcn「気付かれないようにする」。ᴅyəcn は原義が「見えない」。

ᴅcnlɿec ［普通動名詞］尾行 ［動詞］yəl の後を付ける、後を付ける、尾行する ［レベル］3 ȷ1

ᴅcnluınɑ ［軍事］奇襲、夜襲、強襲、不意打ち ［レベル］3 1ʔ: 制 【用例】 uıȷʃ ɥeʃl ɔɿ ᴅcnluınɑ 奇襲で敵を倒す

ᴅcnldcɥ ［名詞］ステルスマーケティング、ステルスマーケット、ステマ ［レベル］6 ıl;/ ȷɱ

ᴅcnllını ［名詞］下心 ［レベル］3 ɥɑ;/「見つからないようにした狙い」 ȷʔ

ᴅcnleɿuınʃe ［言語］女性定冠詞 ［レベル］5 ȷ1

ᴅcnjıb ［被服］女性服→ lecn ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ ［文化］ jıb

ᴅcnjcn ［普通動名詞］女嫌い、女ぎらい、ミソジニー、女性蔑視 ［反意語］ucɿjcn ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ ［語法］ 女体も含めて嫌いな場合もあれば、女体は好きだが女は嫌いという場合もある。いずれにせよ女の人格が嫌いなことを指す。

ᴅcnjɔɥın ［ユマナ］女子高生、ＪＫ ［レベル］4 ȷʔ

ᴅcnje ［生物］おりもの、下り物、こしけ、帯下 ［レベル］4 ɑu;ᴅcn/jıe「女性の雪」。女性の体から出るもので、膣口から降りてくるものということを婉曲的に示したもの。 ȷʔ:ᴅel。1ɱ にメルが造語していたものを ȷʔ に幻日に輸入。 【用例】 yənı ʃcl ᴅcnje ɑc cᴅ ɑcȷ. 今日はおりものの量が多い。 ɑɔjc cɿ elʃ ᴅclφıl ᴅcnje. おりもののせいで下着が汚れてしまった。 ᴅɔe ɿlcı ɑınȷ yənı ᴅcl yənı ʃcl ᴅcnje ɑc cᴅ ɑcȷ lcnɔı, ɔl ᴅɔe ɑıl yənı cᴅ ʃəɥ, eʃʃɔ. お兄ちゃん、わたし今日はおりものが多いから、今抱いたらできちゃうかもよ？（ᴅel ɿeeʃɔcı）

ᴅcnjehıᴅıȷ ［名詞］おりものシート、オリモノシート、オリシー ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ:ᴅel。1ɱ にメルが造語していたものを ȷʔ に幻日に輸入。【用例】 ᴅclc lənıʃ ɑɔjc enʃɔ ɥıɿ ᴅcnjehıᴅıȷ lc jclʃ cʃen eʃʃɔ leeuıʃ dɔʃ yənı. jee yənı nıʃ ncɿ ʃccnı cᴅ ɑɔjc yənɔl cɿ beeb ᴅcl ᴅclc ıın. お兄ちゃんに中出しされた後、しばらくして精子が降りてきておりものシートじゃ抑えきれなくなって、下着が精子臭くなったときは驚いたなぁ（ᴅel ɿeeʃɔcı）

ᴅcnjel ［名詞］レディースデー ［レベル］4 ul;/ ȷʔ ［文化］ ᴅcnɑız

ᴅcnjeelın ［ユマナ］女子中学生、ＪＣ ［レベル］4 ȷʔ

ᴅcnnɔɑucɿ ［名詞］女尊男卑 ［レベル］4 ȷȷ: 女＞男 ［文化］ ᴅcnɑız

ᴅcnnə ［形容詞］柔軟な、曲げやすい、軟らかい ［反意語］ᴅınɑ ［レベル］3 ɑ;<>ᴅcn「女性の筋肉のようにしなやかな」 赤

ᴅcnnəɑɥeı ［化学］［工学］軟鉄 ［レベル］6 ɥɑ;/ ȷɱ

ᴅcnnəıue ［化学］［工学］軟鋼 ［レベル］6 ɥɑ;/ ȷɱ

ᴅcnɑcɿuınʃe ［言語］女性不定冠詞 ［レベル］5 ȷ1

ᴅcnɑɔᴅın ［名詞］女性記者 ［レベル］5 ɥɑ;/ ȷʔ

ᴅcnɑelın ［名詞］女子学生 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

ᴅcnᴅıcn ［名詞］女体 ［レベル］4 ［反意語］ucɿᴅıcn ɥɑ;/ ȷʔ 【成句】 el ȷccnı ᴅcnᴅıcn ʃeʃ ᴅcn. 女体は好きだが女は嫌い。

ᴅcnᴅcɥɔɿ ［名詞］女神、ゴッデス ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

ᴅcnɑız ［形容詞］女らしい ［反意語］ucɿɑız、ᴅcnɑcᴅ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ ［文化］ hcᴅuell, ᴅcnlınφıɿn ・時代ごとの男女のらしさ 男らしさ女らしさの定義や求められ方は時代によって異なる。 ɑl ではエルトとサールしかいなかったため、男らしさはエルトらしさと同義で、女らしさはサールと同義であった。 ʃᴅ において神々や悪魔らは基本的にエルトとサールの血を受け継いでいるため、男らしさと女らしさはエルトらの価値観を引き継いだ。 エルトはサールのために衣食住を提供し、保護した。サールはエルトに身体を許し、家事をし、世話をした。男は女を守り、女は男を立てて支える。この価値観が男女のらしさを表した。uȷ, ȷɥ, ɗu でもこの価値観は不動だった。 zφ で人類が多様化してからは、各国ごとの価値観が生まれた。zφ, ᴅʃ, ɿɿ におけるレスティルでは女は魔法使いとして男の戦士と同等に戦うことができたため、男女平等の考えが強かった。男らしさは女を守ることではなく、ユノを多く持つことであった。女らしさはヴィルを多く持ち、魔法に長けることであった。特に戦時中は男女ともに強くあるべしとされ、ユノやヴィルの多さが男女のらしさを示した。 ȷᴅ のアルバザードでは人類のヴィードが衰退し、魔法の力が弱くなったことで相対的に戦争は男のものになり、生理や出産のある女は不利として徐々に家の奥に追いやられるようになった。高貴な女性ほど家の奥に閉じ込められ、社交界では飾り物のように扱われ、きらびやかで派手で動きづらいドレスを着せられた。女の役割は家を守り子を産むことで、男に従い、か弱く振る舞うことが女らしいとされた。男の役割は金を稼ぎ、家を栄えさせ、妻や子供を養育することとされ、それが男らしさとされた。貴族階級ほどこの傾向が強く、古来よりの強大な力を持った戦士や魔法使いほどこの傾向が弱かった。この傾向は ɥɑ でも同様である。 nɑ になると魔法がなくなり、大航海時代と科学の時代が訪れる。女はますます力を失い、家に押し込められるようになった。男尊女卑の傾向が最も強い時代で、男らしさは女を守ること、女らしさは男に従うことを意味した。ɥʃ でもこの傾向が引き継がれた。 ul になるとフェミニズムが興り、ul 後期から ıl にかけて隆盛し、途中女尊男卑にまでひっくり返った。法律は女に都合の良いほうに解釈され、痴漢冤罪やＤＶ冤罪が跋扈し、電車における女性専用車両のような男性差別が公然と行われるようになった。 一方ミロクは男と女にかくあるべしというスローガンを掲げ、ユティア朝はこれを ls まで尊守しつづけた。敬虔なアルティス教徒のミロクは ɥɑ や ɥʃ の時代の価値観への回帰を促し、男は女を守るもので、女は男を立てて従うものであるとした。よって ul 〜 ls における男女のらしさとはこの価値観を指す。 ・男女区別 ユティア朝は男女差別を悪とし、男女区別を善とした→ hcᴅuell ・女らしくない女は守らなくて良い ユティア朝は男は女を守るべきとしたが、ただしその女がきちんと女らしい振る舞いをすればと但し書きを付けた。女だから無条件で守られることはない。女らしい女だけが女としての待遇を得ることができる。ここが日本との最大の違いである。 アルバザードでは女は男に荷物を持ってもらったり席を譲ってもらったり、様々な点で優遇される。しかしそれはその女が楚々としておしとやかか、可愛らしい振る舞いをする場合のみであり、ガラの悪い女は女とみなされない。ᴅcnɑcᴅ である。そのような場合、女は一切優遇されない。 ıl では一時期女性専用車両が導入されたが、男性差別に当たるとして男性のみならず一部の女性たちもがフェミニストを糾弾し、廃止された。 電車内の痴漢行為は女が周りの男に助けを求め、周りの男が痴漢を集団で撃退することで解決される。この自浄作用によって痴漢件数そのものが少ない。アルバザードの女は大声を張り上げたりはしないが、その代わりに周りの男に小声で助けを求める。そして男たちもそれを見捨てない。アルバザードでは女が男を頼り、男が女を守るという構図が出来上がっているため、女性専用車両は不要とされた。 ul 〜 ıl ではレディースデーが採用されたが、男性のみならず一般女性からも男性差別的だと非難の声が上がり、これも撤廃された。日本女と違い、アルバザードの女は男女差別に厳しく、同時に男女区別を徹底する。 なお、アルバザードでは支払いは割り勘が一般的であるが、恋仲にあれば男が女におごるのが一般的である→ ʃıɔı ・男らしくない男は立てなくて良い 男らしくない意気地のない卑怯なこざかしい小者は、男であっても立てる必要がない。とはいえそういった男を表立って馬鹿にするのは女らしい行いではないため、女らしい女たちはそのような男をただ避ける。表立って馬鹿にするような女は女らしくないとされ、優遇対象から外れる。

ᴅcnɑızıʃc ［名詞］女らしさ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ᴅcnɑcᴅ ［形容詞］女らしくない ［反意語］ucɿɑcᴅ、ᴅcnɑız ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ ［語法］［文化］ ᴅcnɑız

ᴅcnɑcᴅıʃc ［名詞］女らしくなさ ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

ᴅcnɑcı ［名詞］執念深い彼女、愛が重い彼女 ［レベル］3 古：「リディアみたいな女」。11 年の秋、オヴィ・ザナ・クリス・パール・フルミネア・ギル・ミルフ・リディアが談話していたときにフルミネアがリディアを執念深い女だと非難し、それをオヴィが造語したもの。

ᴅcnɑɔɥ ［経済］女性割引、レディースデー、レディース価格 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷɱ ［文化］ ȷᴅ に始まった文化で、現在まで続いている。男性客が女性を連れて行くと女性の分は割引になるというサービス。女性だけで入店した場合は割り引かれない。女性の費用を男性が負担するようになったのは男尊女卑傾向の強まった ȷᴅ からで、このころ女性は男性の所有物として扱われていた。特に上流階級になるほどその傾向が強かった。 ul と ıl では行き過ぎた女尊男卑のせいで男性には割引をしないが女性だけ割引をする１３年現在の日本のような状況になっていた。このころは女性は自分で支払うか、そうでなくば男性におごってもらうという状況で、ただ単に女に都合がいいだけの世の中だった。ただ、育ちの良い子は ȷᴅ のシステムを守っていた。 旧革命で ȷᴅ のシステムに戻されたが、影響が弱まると現代日本のように戻った。その後革命で ȷᴅ のシステムに戻し、現在に至る。

ᴅcndcʃ ［医療］婦人科 ［レベル］4 1L

ᴅcnbeeɿ ［名詞］女子トイレ ［レベル］2 ȷȷ

ᴅcnhıʃ ［料理］女体盛り ［レベル］6 ȷȷ ［文化］ アルティア人の考案。ɥɑ でザナが知って爆笑した。

ᴅcnhcᴅ ［生物］メス ［レベル］3 ȷ0

ᴅcnhcᴅelᴅ ［生物］女性器 ［レベル］3 ȷ0

ᴅcnɥı ［親族］女の方が多い女主体の家族 ［レベル］5 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ᴅcnɥenȷ ［言語］女言葉 ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷɱ ［文化］ １３年現在の日本では徐々に女言葉が廃れて男言葉に統合されているが、アルバザードでは ıl でもフェミニズムの台頭により同じような動きが主に下層階級で起こった。革命で男は男言葉、女は女言葉を使うべきという

動きが起こり、旧革命の水準に戻った。女言葉は女を差別するものでなく男と区別するものと考えられ、女をより女らしく魅力的にするものと考えられるようになった。現代では女言葉を使わない女は下品で無教養とされる。

ᴅcns ［生物］小指 ［名詞］柱→ lec ［レベル］2 1L:ᴅcnsc（女の指）小さいことから lcczsc:

ᴅcnlinφ ［政治］女権 ［レベル］4 ȷ0

ᴅcnlinφıʅn ［政治］フェミニズム ［レベル］4 ȷ0 ［文化］ ᴅcnɑız, hcᴅue ʅl ヴェレイで台頭し、行き過ぎた男女平等を推進し、社会を女尊男卑に陥れた。ミロクの命を受けたアルソンにより公開処刑され、革命後は滅んだ。その後ミロクは男女の違いを認めた上で男女区別をし、男女差別を撤廃した。 レイユでフェミニズムというと、ミロクが女に認めた権利を侵害する行為に対する抵抗を意味する。例えば女は一般に買い物で荷物を持つ必要がなく、奴隷ですら重労働に就かされないことが多い。これを破る男に対し、フェミニズムが動く。また、レイプや痴漢などに対しても抵抗する。 ＜アトラスの女性観＞ 魔導師は大半が女性である。女性のほうが魔力が高いためである。 地球の人類はメスがオスに依存し、食糧を得てきた。 そのせいでメスはエサを取ってくる能力の高いオスに群がるようになった。 そのほうが生き残れるからである。 一方、アトラスでは ɥ00 万年間の間、男性はユノや剣技を、女性は魔法を使っていた。 女性は完全に戦闘要員で、男性との間に上下関係はなかった。 この世界で女性が魔力に特化していた理由は出産である。 特にユーマの一族についてはここに生理が加わる。 生理中の女性は剣士のように激しい立ち回りをするのが苦手である。 そこで体をあまり動かさずに戦えるよう、魔法を進化させた。 極端な話、魔導師というのは椅子に座ったままでも戦うことができる。 これは子育てや出産や生理のあるメスにとっては好都合だった。 その合理性により、神々を含めて女性は魔法に特化していた。 神々から農耕を授かるまでは人類は狩猟採取生活をしていた。 魔法があっても果実を生やせるわけではないので、メスが子供を産む以上、オスが食料を取ってくるという構図は地球と変わらなかった。 しかしアトラスの女性は筋力がなくても森に入って動物を魔法でしとめ、風の魔法で浮かせながら家に持って帰ることができたため、自活できた。 そのため女性が男性を必要とするのは主に子作りにおいてであった。 女性は自分で生活していく力があったため、結婚に依存する必要はなかった。 また、生活力のある男性に依存することもなかった。 それゆえ、純粋に自分の好みで男性を選ぶことができた。 だいたい地球でも学生を見れば分かるが、金だの生活だのが絡まない年代の恋愛というのは、社会的地位のある男より運動神経の良い男やイケメンがモテるものである。 アトラスの場合、女性は早くから地位でなく男性自身に魅力を感じていた。自分で稼げる以上、男性に求めるのは美しく強い遺伝子である。 自分の子供には美しい容姿や強い運動能力がほしいため、要領よくエサを持ってくるとか商売が巧いといったことはあまり魅力にならなかった。 従って、アトラスでは男性自身の能力や容姿や性格などがモテる要素になり、そういった遺伝子が残っていった。 当然そういう男性は少ないので、女性が群がる。群がるということは女性も選ばれようとして努力をする。 その結果、男性に都合のいい振る舞いをする女が選ばれるようになり、その遺伝子が残っていく。 この世界の女性は自立的で強いが、男性は女性を囲って守ることで他の男性に対して優越感を抱くので、やや弱い女性を好んだ。 女性はその気持ちを利用して、わざとしおらしく振舞うようになり、そういうことができる女性が生き残った。 この結果、現在のアルバザードにまで繋がる「芯は強いが、表向きには男性を立てておしとやか」という価値観ができた。 女性は男性に守られることで「私は選ばれた価値のあるメス」と自覚し、男性は女性を守ることで「俺は有能なオス」と自覚でき、共生が成り立っていた。 セルメルになると魔力の弱まりとともに女性の地位は低められ、籠の鳥のように扱われた。 µɑ では魔力が戻ったため、女性の地位は元に戻った。 ナディア～アルティルでは魔法の衰退とともに徐々に地球と同じように女性が貶められた。 ヴェレイでは現在の地球と同じようにフェミニズムが起こり、女尊男卑にまで逆転していった。 ミロク革命で男女区別を徹底させ、男女平等が実現された。

ᴅcnlinφin ［政治］フェミニスト、フェミ ［レベル］4 ȷ0

ᴅcnlcȷʃueʃ ［言語］女性敬体 ［レベル］4 ȷ1 ［文化］ ȷ1 にセレンが dcʅʅɔ が ɥəəl から分離したのを契機にリディアが設けたもの。

ᴅcnlcȷin ［ユマナ］女子小学生、ＪＳ ［レベル］4 ȷʔ

ᴅcnleʃ ［魔法］雌晄（しこう）、ミンレット ［レベル］6 ȷ0: 女性の晄基 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ᴅcnleʃµecn ［魔法］雌晄線 ［レベル］6 ȷ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ᴅcnı ［代詞］［ɒʃn］ʃc ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccµ/µcɑcı

ᴅcnıʃ ［形容詞］儚い、すぐへたる、すぐダメになる、寿命の短い、命短い、か弱い、もろい、かよわい、脆い、持ちが悪い ［反意語］zɔᴅeʃ ［レベル］3 ȷ1:ᴅccnı/ʃe 【用例】 ʃeȷe le lənı ɔʅ lıɑı eʃ ləʃ ᴅcnıʃ. 商品に付いている電池はいつも寿命が短い。

ᴅcnıʃə ［代詞］［ɒʃn］ʃccl ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccµ/µcɑcı

ᴅcnıʅılᴅɔ ［地名］ミナカルモ ［レベル］4 ɑ:elʃ;ᴅccnı/ʅılᴅɔ 古 :µcɑcı:「花畑」［文化］ エルトとサールが逢瀬をした花畑。セルヴァートにある。セルハノイの北、セルアの南。ラヴァス後はアルフィがある。→ ıµɑc この緯度にもかかわらず、あらゆる花が咲き乱れる。とはいえ、神話で具体的に登場するのは紫苑しかない。ラフレシアや薄気味悪い原色の花はないと思うので、アルバザード辺りに咲くあらゆる背の小さな花だと思われる。例えばかすみそうのような。【成句】 ᴅınȷ ɥən ᴅcnıʅılᴅɔ 百花繚乱

ᴅcnıȷȷe ［代詞］［ɒʃn］ʃccȷ ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccµ/µcɑcı

ᴅcnıȷȷeʃə ［代詞］［ɒʃn］ʃccleȷ ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccµ/µcɑcı

ᴅcnıȷı ［言語］女性名詞 ［レベル］4 ȷ0 ［語法］［文化］ ucʅıȷı

ᴅcnın ［植物］ダイウイキョウ、スターアニス ［レベル］5 1ʕ: 制 :ᴅcnı

ᴅcnın(ȷ) nın ȷ1

ᴅcnıᴅc,ılʃ lceµ

ᴅcnıᴅcȷ ［電算］正規表現 ［アクセント］ᴅЄnıᴅcȷ ［レベル］6 ul;ᴅcnıᴅc/ȷɔ「メタにする」。文字列の集合を一つの文字列で表現するという手法だが、これがメタ的に映ったため、このように名付けられた。 ȷʔ

ᴅcnıᴅɔ,ılʃ lcıµ ᴅcnıᴅc.ʅ

ᴅcnıµɑə ［地名］ミナルドゥ ȷ0:ᴅcnı/ıµɑə ［文化］ ȷeµʃıʃı

ᴅcnıl ［政治］民主、民主主義、民主制 ［レベル］4 1L

ᴅcnıluelȷ ［政治］民主政治 ［レベル］4 1L

ᴅcnılcȷ ıbenʃcȷ ［人名］ミナリス＝アベンティス ［政治］民主主義者 ;ᴅ ccnı/lcȷ「小さな花」［レベル］4 古 ［文化］ (ᴅeldılʃ 1Δ0 年代 8 → ȷɥ0) 民主主義勢力ミナレットの初代首領。メル暦 ȷ01 年ごろ、アルバザードで民主主義を提唱し、レジスタンス組織ミナレットを組織した。ȷ0ɥ 年、カンシオン＝アマンゼとアジュネ＝アマンゼの召喚省登用を選挙で選出されていないということを理由に妨害。これがきっかけとなりカンシオンとアジュネは娘シオン＝アマンゼと共にアルティス教を組織することになる。ミナリスはこれを危険分子と見なし弾圧。ȷʔ0 年、全国労働者のストライキを決行することで国に選挙制度を認めさせ、ミナレット党は第一党となる。同時に興味を抱かなかった召喚省はアルティス教が支配することになる。アルバザードの選挙制度開始をきっかけに全世界に民主主義が伝播し、ȷɥ0 年までにはイグレスタ共産圏をのぞくアトラス全土に広まった。ȷɥ0 年、アルティス教の勢力拡大に危惧を抱いたミナリスは宗教禁止を名目に開始。召喚省長官アジュネを殺害し、さらにアルカンスへ逃亡した始祖シオン＝アマンゼとその娘マルテ＝アマンゼに軍勢を差し向けるが、彼らは強力な魔術師であったため軍は壊滅。よって自身も強力な魔術師であるミナリスが始祖シオンと直接戦いを挑み、相打ちとなる。死後、ミナレットの首領の座は息子ファウスに引き継がれた。

ᴅcnılcɑnɔʅ ［再帰動名詞］女性の社会進出 ［レベル］6 µɑ;/ ȷɱ ［文化］ 古代、女性は魔導師として有力だったため、カルディアでは総じて男女平等がなされていた。魔力の減少とともに ȷᴅ ごろから徐々に女性の地位が低くなり、女は家にいて男が外で働くという構図が生まれてきた。 獅法代になり、魔法の力がなくなると、女性は完全に昔の地球同様地位を貶められた。その後 ul ごろにフェミニズムが隆盛し、ls の革命前で最高潮となった。ls ではしばしば行き過ぎたフェミニズムにより女尊男卑が起こるほどであった。 女性の社会進出は ul から徐々に増え、ıl と ls の革命前で最高潮に達した。 セレンは革命で女性の社会進出を制限した。女性が社会進出することで男性の就職先が減り、過当競争から収入も減少し、結果的に世帯年収の減少も招いた。更に問題なのは女性が社会進出することで婚期が遅れ、婚姻率が下がり、少子化を招いたことである。また、女性が一人で働いて生きていけるということは離婚率の上昇にも繋がり、少子化に拍車をかけた。この結果、革命前のアルバザードは少子高齢化社会であり、社会福祉などに大きな亀裂が生じていた。 セレンは少子高齢化を食い止めるため、婚姻率と出生率の増加を図った。それにはフェミニストらが推進する女性の社会進出が障害であった。セレンは女性の社会進出を制限し、マスメディアを利用して女性は結婚して子を産み育て家を守るのが美徳で洗練された生き方で幸福な人生だと洗脳した。 その一方で、女医など特殊な職業において敏腕を発揮する有能な女性については革命前よりもむしろ積極的に社会進出させた。つまり有能な女性にはどんどん社会に出てもらって、男社会が牛耳っているような業界（例えば日本でいう医師や政治家など）にどんどんメスを入れるようにしたわけである。反面、凡庸な一般女性には昭和の日本と同じくどんどん２５歳くらいまでに結婚してもらい、子供を産んでもらうことにした。 ２０１３年現在の日本では晩婚化や少子化が深刻な問題である。女性は社会進出したとはいえ、その程度は中途半端であり、医師や弁護士や政治家といったいわゆる上流階級の職業では圧倒的に男性比が高く、せいぜい中小企業でようやっと女性が増えてきたという程度である。本当に有能な女性の力を必要とする上流階級は未だに男社会で、それ以外のわりとどうでもいいふつうな階級までしか進出していない。しかしその中産階級の人数が多いため、結果的にロクに社会進出できない上に晩婚化や少子化まで真似ているという、ルーズルーズな状態になっている。 革命前のアルバザードも日本と同じで、上流階級では特に既得権益者の抵抗が強く、女性が社会進出するのが難しい状態にあった。セレンはそこにメスを入れた。有能な女性にはどんどん上に行ってもらい、男社会を打ち破ってもらうことにした。その一方、特に有能というわけでもない中産階級の女性たちには家庭的になってもらい、少子化を食い止めるよう働きかけた。

ᴅcnıleʃ ［政治］ミナレット ［レベル］4 古 ［文化］ アルバザードにおける民主主義政党。メル暦 ȷ01 年、ミナリスという女性が提唱した民主主義を実現するために作られたレジスタンス組織としてつくられた。ȷʔ0 年ごろ立憲君主制下の選挙制度を認めさせ、各国に民主主義を伝えた。しかし規模の拡大のため内部対立が生じ、ılᴅcnı, ıᴅcnıl, ılıcu などの多数の政党が分離独立した。本体は leuılen に党名を変更。アトラスの宗教禁止の風習に従い、ȷ0ɥ 年ごろより活動を開始したアルティス教に度々弾圧を加えた。ȷɥ0 年、ᴅcnılcȷ はアルティス教の始祖シオン＝アマンゼと一騎打ちの末相打ちとなる。そしてミナリスの息子ファウスが党首となる。ȷʕ0 年、アデュの大虐殺を決行。多数のアルティス教徒が獄死する。ȷL0 年、ミナリスの息子ファウスとシオンの娘マルテが一騎打ちの末相打ち。ファウスの息子アルファウスが後を継ぎ、アルマスト派の首領アフレインを殺害。その後アルティス教との力関係が拮抗したため、ȷLɥ 年アルティス教徒への虐殺停止要求を受諾。同時に選挙によりアルティス教に議席を与える。ʔ00 年、アルティス教と停戦。同年、アルファウスがアルバ 1ꟼ 世を廃位し王政廃止して副王に就任する。ʔ10 年、政治闘争によりアルファウスは、マルテとアフレインの子ユレット。アメリと戦い相討ちとなり死亡。

ʔJ0 年、著しい政治腐敗によりユレットとアメリの息子ミロク＝ユティア率いるアルティス教の政党の一派イルミロク党に座を奪われる。同政党が選挙制度を廃止し、独裁政権を作ったため、ミレナットは滅亡した。

ᴅcnca ［言語］無相 ［レベル］4 J0 ［語法］ 相のない相。行為無相と状態無相がある。

ᴅcne ［生物］［植物］花粉 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ᴅcnɪhɔe から 【用例】 ᴅcne ʃ'ɪlʃe ɪʃ ᴅclᴅ ʅɪ sɪn e lcɪl. 春の花粉が街角に舞った。

ᴅcneʃ ［哲学］実体 ［電算］実体（エクセルなどの） ［反意語］elᴅeʃ ［レベル］4 J0:ᴅɪcn/ʃe

ᴅcneɥɪlɔ ［医療］花粉症 ［レベル］3 1L 【用例】 ɪn ʃcl ᴅcneɥɪlɔ uɪɥ ɪlʃe. 春になると花粉アレルギーになる。 ʃɔʃɪl dcʃɪ ȷc ɑeʃ ɔn ᴅcne ɥɪlɔ ɪnʃ. どの薬も自分の花粉症には効果がない。

ᴅcu 時間、一時間、６０分 ［レベル］2 1L ［文化］ (ᴅelʃcɪ ᶆ) メルティアがアトラスにおける１日の長さを２４時間に分けた。アルミヴァの１２神が昼夜で２周するように分割したためである。ここから１２進法の考えが生まれ、分と秒についてはより細かく刻むため、１２との公倍数である６０に定めた。また、円の一周をさらに細かい公倍数である３６０°に定めた。 【用例】 cᴅ oel ᴅcu ucɪ 何時頃、何時ごろ ᴅcu 1J ɑec ʔᶆ scn ᶈʕ ʃ'eɥɪᴅ 午前 1J 時 ʔᶆ 分 ᶈʕ 秒

ᴅcun ［ユマナ］幼稚園、保育園 ［レベル］3 1ʔ: 制

ᴅcunɪn ［ユマナ］幼稚園生、園児 ［レベル］3 J0

ᴅcuscen ［名詞］短針、時針。時計の。 ［レベル］2 1L

ᴅcul ［生物］膣 ［レベル］3 ɥɑ; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅcuɪlɔɔ（子供の管）

ᴅcuʃləʃɪ ［医療］クスコ、膣鏡、クスコ式膣鏡 ［レベル］5 ɥɑ;/ Jʔ ［文化］ 最古のものは zφ であり、現代と同じようなくちばしの形をしていた。 【用例】 lɪʃ ᴅcuʃləʃɪ ɪ ᴅcul クスコを膣に挿入する

ᴅculɑɪcz ［医療］膣炎 ［レベル］5 1L

ᴅculᴅɪneeɥ ［生物］［医療］膣分泌液、膣分泌物 ［レベル］5 ɥɑ;/ Jʔ

ᴅculɪɑcȷ ［法律］膣刑 1L ［文化］ 女子の極刑。膣に杭を刺し、３０分おきに振り子付きのハンマーで杭を突く。平均５～７回で死に至る。浮気の回数に応じてハンマーの力を弱める。回数や人数が多い場合、ハンマーは弱くなるため、致命傷を負うまでに５回以上かかる。結果、死ぬまでの平均回数が伸びる。ショック死する例も多く、その場合は比較的楽に死ねる。不名誉な死に方という点で強姦刑に匹敵。夫殺しと不貞が重なったときに適応。

ᴅculɪφ ［経済］時給 ［レベル］4 J0 【用例】 ᴅellɪb le ɑcʃ ᴅculɪφ ɑɪlʃc 時給が高いバイト

ᴅcuɪ ［親族］娘 ［類義語］lɪnʃcɪ、lɪnɔn ［反意語］nɔc ［レベル］2 古 : 子供 ［文化］ nɔc

ᴅcuɪ,ɑ ɥəlcɪn, ɥəlc ȷɪɪl;ᴅc/uc「神の力」。子が欲しいと望んだ以上、ɑ の時点でできていなければおかしい語。

ᴅcuɪʃ ［交通］大通り、幹線道路、アルミヴァ通り ［レベル］4 1L:ɪɥᴅc uɪ/ɑɔnʃ（アルミヴァ通りのような道） ::le ʅɪn ［文化］ アルミヴァ通りのような大きな道。日本にはアルミヴァ通りほどの大きさのものはないが、日本でいうなら例えば国道１号や京都１０条、岡山ブルーラインや国道２号、名古屋駅周辺の４車線道路などを指す。アルナはカルテを中心とした円形都市である。カルテを中心としてそこから十二本の道が出ている。カルテの同心円上には建物が並び、十二本の道路とほぼ直角に接している。上空から見るとフロッピーディスクやレコードのような模様を描いている。アルナは住民が住む住宅街側と、企業や学校などがある側に分かれる。上記の通り、これらは十二本の道と横に接している。住宅街は更に一戸建てと集合住宅に分かれる。一戸建ては一戸建同士で集まる。集合住宅もそうである。

ᴅcuɪʅəcɪn ［卑語］娘ファッカー、クソ野郎 ［レベル］5 1L: 古の ᴅcuɪʅəc（子供喰い）と同じなので古でもいいかもしれない ［語法］ 通常 ᴅcuɪ ʅəc。マザーファッカーに相当する悪口。

ᴅcuɪȷ ［天文］ᴅcɥȷeɥ ［組み数字］8／8 ［レベル］4 lȷɑ;ᴅcuɪ "ɑɪcᴅcuɪ"「火の子」。ミニシリウスという意味。 J1

ᴅcuɪl ［単位］ダース ［レベル］3 J1:ɪɥᴅcuɪ/ 古 dɪlɪlɪ

ᴅcuɪcn ［アイテム］ミヴァイン ［レベル］5 古 :ᴅcuɪcn。小説版アンクノットではミバイオという名。ミバイオはミヴァインに似ているが関係なく、毒を持つ剣であることから、ＦＦの毒の魔法バイオを取ったもの。 ［文化］ セレンが物語の中盤で使用していた剣。切ると敵に毒を与える。

ᴅcuɪcnlccɑɪ ［天文］デネブカイトス、ディフダ 1L:ɥcɑcɪ/ȷeɥen/ᴅel ［文化］ セレンがヴェミを封印した際、ヴェミの目をミヴァインで貫き、デネブカイトスにミヴァインごと突き刺した。

ᴅcucʅ ［名詞］殿方 ［反意語］ᴅcᴅcn ［レベル］3 J1

ᴅcue ［動物］ひな、雛 ［動物］鶏のひな、雛、ヒヨコ、ひよこ← ɑeᴅᴅc ue ［名詞］初心者、ビギナー、卵、たまご、駆け出し、見習い、みならい ［俗語］小さいうちだけ可愛い白人種の子供。混血種の多いアルバザード人からすると純粋な白人種は成長が早く彫が深く、子供のうちは大人びて綺麗で可愛いが、すぐに老けてしまうようにみえることから。差別語。 ［レベル］2 1ᶈ: 制 :ᴅcuʅʃɔ（子供の鳥） ［擬声］ dcɥɔ（ぴよ）

ᴅcueʃ ［形容詞］自然な、非作為的な ［類義語］lɪɑl ［反意語］uəəl ［レベル］3 J1:ᴅc/ 古 uə/ʃe ［語法］ lɪɑl は天然という意味。ᴅcueʃ は作為的でないという意味。

ᴅcueʃleɪ ［魔法］自然回復 ［レベル］5 J1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ᴅcueʃɥəɔɪȷɪ ［言語］自然動名詞 ［レベル］4 J1 ［文化］ cuɪ

ᴅcueʃɥəɔɪɥəɪ ［言語］自然分詞 ［レベル］4 J1 ［文化］ cuɪ

ᴅcueɥə ［言語］孤立語、孤立語的 ［レベル］6 1L

ᴅcɑ ［名詞］無意識 ［動詞］ɥəl を気にしない、気にしない、意識しない ［副詞］無意識に、自然と、ふと ［文頭純詞］思わず ［反意語］nɪd ［レベル］2 @ 1L

ᴅcɑnɪᴅ ［生物］自律神経 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ: 自分で制御できない神経 【用例】 ᴅcɑnɪᴅ eȷ ɪucl. 自律神経が参っている。

ᴅcɑnɪᴅɪnueɥ ［医療］自律神経失調症 ［レベル］5 J1

ᴅcɑbenɪ ［名詞］おもらし、失禁。ᴅcɑbez と比較。 ［レベル］2 1L

ᴅcɑbez ［医療］失禁 ［レベル］3 1L

ᴅcɑl ［動詞］ɥəl といちゃつく、いちゃつく、イチャつく、イチャイチャする、べたべたする、ちちくりあう ［レベル］3 1L: 古 :ᴅclɑȷɔ（ミルフのようにする） 【用例】 lɔʃ ʃɔʃɪl e lɑcȷ ɪnʃ, len ʃə eʃ ncl ɪʃlɪ lel ɪn ᴅcɑl hɪʃcɪ lccɪl. hɔɔᴅcʃc e ᴅcn ɑcɪnɪ ɪllɪ eʃ dɪ ᴅcɥɔʅ ɑɪ. 人生の中で好きな人とイチャついている時間がやはり一番幸せだった。現実の女の柔らかさに勝るものはない (ȷeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ)

ᴅcɑccᴅɪ ［感動詞］お久しぶりでございます ［レベル］3 古

ᴅcɑɔu ［医療］ジスキネジー、不随意運動 ［レベル］6 1L

ᴅcᴅ ［動詞］ɥəl を ɪ まで下げる、下げる、さげる、下がる、下にやる、降りる、おりる、降ろす、おろす、沈下する、振り下ろす、降る ［自然動名詞］下降 ［地学］沈下 ［生物］委縮、萎える。勃起の反対。 ［経済］反落→ bɪlʃᴅcᴅ ［類義語］ᴅeʃ ［反意語］neʅ ［レベル］2 1L: 恣意 ::ᴅɔʅ:ɥə ʅələ,ɪlʃ, hɔʃɪlə,ɪlʃ（雨が降るの降る） ［語法］ ᴅeʃ

ᴅcᴅʃeeze ［気象］颪、おろし→ oɪlʃeeze ［レベル］6 ɥɑ;/ Jᶆ

ᴅcᴅɑɪl ［気象］日暮れ、夕暮れ、日没 1L 【用例】 c neʅɑɪl ɪ ᴅcᴅɑɪl 夜明けから日没まで ɪn ɪʃlɪʃ hɪdn cᴅ ᴅcᴅɑɪl. 夕暮れ時に友達と会った。

ᴅcᴅɪʃ ［美容］ノーパート J1

ᴅcᴅɪφ ［言語］無声、無声音 ［レベル］6 1L

ᴅcᴅɪφen ［音楽］エアーリード、無簧 J1

ᴅcᴅɪlɑɪl ［天文］日没帯食 J1

ᴅcᴅɪlel ［経済］下げ相場 JJ

ᴅcᴅɪeᴅɪɥȷ ［医療］乳糖不耐症 ［レベル］5 1L: もちろんラクターゼがゼロではない。

ᴅcᴅc,ɪlʃ leᴅc

ᴅcᴅcʅɔ ［名詞］ホッカイロ、カイロ、懐炉 ［レベル］3 ɥʃ;ᴅcᴅc/ʅɔ JJ ［文化］ 南部のアルティア人が発明した。なぜエルトア人や北部アルティア人でなかったのかというと、中途半端に暖かいところのほうが家屋が冬仕様でなく冬寒いため。アルバザードのアルティア人にも広まり、現在では国中に普及している。腹、腰、手首、足首、足の裏、肩甲骨辺りによく貼る。貼るタイプが一般的だが、持つ、塗るなどもある。

ᴅcᴅcʅəɔᴅ ［言語］ザマス口調、ざます口調 ［レベル］4 ɥɑ;/ Jʔ ［文化］ やたら名詞や動詞に ᴅc を節操なく付ける人間の口調。上流階級を揶揄したものであるが、アニメやマンガの表現として定着しているだけで、実際の上流階級の人間でそのような喋り方をする者はほとんどいない。 小説などにおいては ᴅcᴅcʅəɔᴅ を使うキャラは大抵嫌味な上流階級の人間で、ᴅcᴅcbeeᴅɪ（ザマスババア）などと卑下されることがある。

ᴅcᴅcn ［名詞］ご婦人 ［反意語］ᴅcucʅ ［レベル］3 J1

ᴅcᴅcbeeᴅɪ ［言語］ザマスババア ［レベル］4 ɥɑ;/ Jʔ ［文化］ ᴅcᴅcʅəɔᴅ

ᴅcᴅcɪn ［遊女］［代詞］lenɪ ［レベル］4 Jʔ

ᴅcᴅccɪ ［遊女］［代詞］lenɪn ［レベル］4 Jʔ

ᴅcᴅɔᴅ ［形容詞］不安定な ［経済］ボラリティ ［反意語］lɪᴅɔᴅ ［レベル］3 J1

ᴅcᴅɔᴅʅɔdleʃ ［音楽］ディミニッシュコード ［レベル］6 J1

ᴅcᴅɔzɪ ʅəlnɔɥȷ ［人名］ミモザ＝クルノース J1 ［文化］ ʅɪɔlcȷʃ ʅəlnɔɥȷ ファミイの母親。当時の当主。

ᴅcɑɥəȷȷɔə ［丁寧］あなた様、あなたさま、ご主人様 ［丁寧］［形容詞］～様。前置。 ［レベル］2 J1

ᴅcɑɪ ［形容詞］聖なる ［反意語］uenl ［レベル］2 ɑ;e 赤 ᴅcɑɪ:ᴅcɑɪ:ᴅc ɑɪ ［語法］ 聖とは複合的な概念で、「生、健康、善、神、ポジティブな感情、自愛、平安、愛、純潔、信心深い、欲望に乱されない悟り、羨望、人の幸福を祝う」などの比率が高いものをいう。 邪は逆に「死、病気、悪、悪魔、ネガティブな感情、迫害、不安、恨み、不浄、不敬虔、欲深い、妬み、人の不幸を喜ぶ」などの比率が高いものをいう。 神の性質を持ったということについては ᴅcɑɪ と別個に扱われることもあり、特に ɪlᴅcɑɪ という。というのも、神にもろくでもないものがおり、悪魔にも善なるものがいるためである。逆に悪魔性の高いものは ɪluenl という。つまり ɪlᴅcɑɪ は善とは関係なく単にそれが神の性質を持ったという意味であり、ɪluenl は単に悪魔性を持ったというだけの意味である。

ᴅcɑɪn ［悪魔］ミダン ［生物］天枢 ［レベル］4 ᴅelʃcɪ 0:ᴅcɑɪn;ᴅcɑɪ/n ɥcɑcɪ: 古 : デームスに指小辞を付けるのは不適切としてネーミングセンスを非難されたリディアがその場で泣き出してしまい、自分の評価を下げたことで問題となった。 ［文化］ 聖の魔法を司る。ソームとは同格だがグループが違い、ヴァルテの下。悪魔ヴェンシートと対立する立場にあるが、友好的。ヴァルテの部下。白人系美少女の姿。聖を司る。明るい。ヴァルテを慕う。ヴェンシートと仲が良い。ミダンは鳥の翼のような白い光の翼で飛び去った。彼女の翼は白く美しい。これは白鳥の翼のようである。彼女が通る道で、白い羽が

多く舞い、白くぼやけた線が残る。　準惑星セレス（ケレス）を司る。

ᴅcɑɪnɔoɪ　［生物］［医療］［魔法］正気、せいき　［反意語］uenlnɔoɪ　ɟzl;/　ɺɱ

ᴅcɑɪɑµec　［アイテム］聖剣、聖なる剣　［レベル］4　1ꟼ: 制

ᴅcɑɪcφ　［経済］不課税　［レベル］5　µɑ;/　ɺʔ　［語法］　ɑɪcφɟeɑ

ᴅcɑcɟ　［魔物］ミディス（聖竜）：第六十九天：聖の衛天　［レベル］5　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ᴅel:ᴅcɑɪ/ɑµeʃcɟ　［文化］　聖属性の飛竜。飛竜の中で一番小型。馬くらいしかない。素早さは風竜に劣るが、風竜は長距離を走れないため、機動力においては竜族最強を誇る。ヒュート国のブリーダーの間では雷竜と交配が進み、小型で早く知能の高い竜が作られた。コーマはこの混血種にさかのぼる。

ᴅcɑcɟhiʃ　［天文］エニフ　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ᴅel　［文化］　封印されて暇になったミディスが、テーティスを呼び、どちらが早いか競争しようじゃないかと言いだした。マルカブの丘まで競争しようと言って走ったところ、テーティスに敗れた。では今度はあのホーマムの谷までいこうと言ったが、これも負けた。悔しいミディスは距離を伸ばし、あのエニフの岬までいこうといったら、ようやく勝つことができた。

ᴅcɑcɟoiɿı　［天文］マルカブ　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ᴅel　［文化］　ᴅcɑcɟhiʃ

ᴅcɑcɟəcl　［天文］ホーマム　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ᴅel　［文化］　ᴅcɑcɟhiʃ

ᴅcɑcl　［建築］バリアフリー　［レベル］4　ul;ᴅc/ɑɔɿɔn.lcɿ　ɺʔ

ᴅcɑccʃ　［地名］ミディート　［レベル］4　古（ɿiɿɔ では？）［文化］　メテの使徒オキニスの支配地。

ᴅcɑccʃ(ɺ)　［アトラスの国家］ミディート　［レベル］3　古？ɿiɿɔ？　［文化］　面積：ɺ9Lʔ∆ʕ1.ɱꟼ1ꟼɺꟼ ɿᴅ ｣

ᴅcɑɔl　［地学］滑石　1L:hɔɔᴅc/ɑɔl

ᴅcɑəɑ　［物理］無重量　1L

ᴅcφ　［植物］穂　［レベル］4　古

ᴅcφl　［植物］タデ、たで、蓼　［レベル］4　高 :ᴅcφ（実が穂のように見える）　［文化］　ᴅcφlʃµen

ᴅcφlʃµen　［娯楽］蓼の刑　ɺ0:µcɑcɪ　［文化］　µɑ でテオロンがやっていた遊び。カードゲームなどで、負けた人が蓼を食べさせられる。

ᴅcφlɪɟl　［化学］シュウ酸、蓚酸　［レベル］6　1L:µcɑcɪ/ɟeµen。古アルカでは特に名前のない行為だった。　［文化］　µɑ で ᴅcφlʃµen をしていたテオロンを見て、リュウは「なぜ蓼は罰ゲームになるような味なのだろう」と考え、分析したところ、シュウ酸を見つけた。

ᴅcφɪ　［植物］カリフラワー　［レベル］3　1ꟼ: 制 :ᴅcncφeɟc

ᴅcφɪµʃ　［形容詞］無料、タダの、無料の、フリーの　［反意語］lɪφɪµʃ　［レベル］3　1L:clᴅəɟ:µcɑcɪ

ᴅcφɪµʃɟcnɟɔl　［名詞］無料番組　［レベル］4　1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

ᴅcφɪµʃdɟel　［名詞］フリーマガジン、フリマガ　［レベル］5　ıl;/　ɺɱ

ᴅcφɪµʃlecɟʃ　［名詞］フリーペーパー、フリペ　［レベル］5　ıl;/　ɺɱ

ᴅcφɔlı　［料理］ノンカロリー　［レベル］3　ɺ1

ᴅcdɔʃc　［形容詞］符号なし　ul;/　ɺɱ

ᴅcdɔʃcdɪleʃ　［電算］符号なし数値　ul;/　ɺɱ

ᴅcdenʃinʃ　［丁寧］denʃinʃ　［レベル］3　ɺ1

ᴅcb　［動詞］ɥəl にこだわらない、こだわらない、気にしない、構わない、かまわない　［反意語］nɪu　［レベル］3　＠1L　【成句】　ın ᴅcb ʃɔʃıl. どうなってもいい。どうでもいい。なんでもいい。

ᴅcbı　［俗語］女のクソガキ、クソガキ　［レベル］2　古 :ᴅcuı/ 卑音 b

ᴅchılcl　［人名］ミハリル　ɺ0　［文化］　(ɥəəᴅı ɱL0ʕ:ꟼɱL1(ꟼ10L:ꟼɱL1)) メルテナ後期のレスティル王。

ᴅchcnɿ　［医療］無汗症　［レベル］6　1L

ᴅchcᴅ　［生物］無性、無性体、無生物　［レベル］4　ɺʔ　［語法］　lənc は生物でないという意味。ᴅchcᴅ は性別がないという意味。

ᴅcɥə　［動詞］ɥəl を ıl に変える、変える　［普通動名詞］変化、変態　［数学］変数、代数、元（げん）。プログラム上の変数は ɿɔɑel　［反意語］lɪl　［レベル］2　ɑ;e　古　ᴅcɥə:ᴅcɥə:ᴅcɥə:ᴅclə,ılʃ　［語法］　複合語の場合、～を変えるでなく「～になる」、「～化」の意味になるので注意。変化の複合語においてはベンゼン化とか気化のように、「何を変えるか」でなく「何に変わるか」が重要であるため、「～を変える」の意味は持たない。　副詞の場合、前はそうしてなかったが、今は変化してそうなったという意味。　【成句】　ᴅcɥə lcµ 100 ɟel ıuenel. 変化は最低百日を要する。何事も結果を焦ることなく最低百日は続けなさいという意味 (ɟeµen ıµbızıµɑ)　【用例】　ᴅcɥə ncᴅ ıl cᴅel 色を黄色に変える　ın lcµ ᴅcɥə. 変化が必要だ。

ᴅcɥə(ɺ)　［生物］小さな丸めた手、拳　［類義語］bɪɔφ　［レベル］3　ɟᴅ;ᴅcɥə, ılʃ.heᴅ　ɺɺ

ᴅcɥə,ılʃ　bɪɔφ

ᴅcɥəɿı　［名詞］転換点、ターニングポイント、変化点　［レベル］4　1L　【用例】　ʃə eᴅıʃ ᴅcɥəɿı e lɑcɟ ınʃ. それが私の人生の転換点になった。

ᴅcɥəɟın　［数学］方程式　［レベル］4　1L　［語法］　変数を含む等式のこと。　【用例】　ʃıᴅcɥəɿɔhıɑᴅcɥəɟın 二元一次方程式

ᴅcɥəɟınɑclʃ　［数学］解→ ɑclʃ　［レベル］4　1L

ᴅcɥəɟınɑel　［数学］方程式論　1L

ᴅcɥəɟıɑɿıᴅ　［生物］変温動物　［レベル］4　1L

ᴅcɥənı　［形容詞］革新的な　［レベル］4　1L　［語法］　革命を起こすような強い変化を望む場合は cznı。

ᴅcɥəɑɔl　［地学］変成岩　1L

ᴅcɥəφɪµʃ　［経済］変動制、変動額　1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

ᴅcɥəheʃ　［娯楽］ミユの尻尾　［レベル］6　ɺ1:ᴅcɥə は µcɑcɪ のこと　［文化］　『キャッツアイ』に相当するアニメ。

ᴅcɥəlɔʃɟ　［電算］シフトキー　［レベル］3　ɺ0

ᴅcɥəɪll　［数学］変数。プログラム上の変数は ɿɔɑel。　［レベル］4　1L

ᴅcµ　［法副詞］～してください。前置。　［類義語］ɟınʃ、ᴅɥən　［類音］ᴅc　［レベル］1　1L: 古 : 丁寧の ᴅc に命令の µe が付いたもの。ᴅc µe lınʃe（返事してください）のように使っていた。　:::ɟınʃ,hɥ　［語法］　µe　前置すること。ᴅcµ を省略した言い方より丁寧。　【用例】　ᴅcµ ılʃ お書きください。

ᴅcµ(ɺ)　［言語］ᴅ の文字　［レベル］1　1ɱ: 制 : 論理　［語法］　第８文字目の幻字。

ᴅcµ(ʔ)　ᴅc/ɔµ　1L

ᴅcµ(ɱ)　［人名］クミールの略称　［組み数字］２８/２８　［レベル］1　制

ᴅcµʃ　［形容詞］［ポジティブ］貞操の固い、身持ちの固い、おかたい　［反意語］ılᴅcµʃ　［レベル］4　1L:lcɔn:ɿᴅccµʃeeze（クミール風な）［語法］　アルバザード人は貞操をよしとするので、貞操が固いはポジティブになる。ネガティブな意味で「お堅い」を特に示す語はない。逆に反意語になると必ずネガティブになる。

ᴅcµl　［人名］ミルシュ　［組み数字］6/6　［レベル］3　1L: 古 :ɪµlcu: 神の声　［文化］　ヴァノンの６番目。アルテとの交信を担当。

ᴅcµllcl　［化学］イリジウム　1L

ᴅcµɟ　［動詞］ɥəl（議題など）を論議する、論議する、論戦する、討論する、討議する、論争する、議論する　［論理］議論、論議、討議、討論、論戦、舌戦　［レベル］4　1ɱ: 制 :ᴅccµ　［文化］　ʃıl　アルバザード人にとって論議は非常に重要な概念であると同時に、その様式は地球のどの国にも似ない特殊なものであるため、理解は極めて難しい。　まず、彼らは議論することを好む。小さなことであっても、急いでいても、戦いの寸前であっても、議論することを好む。　次に、議論は常に相手の考えを認める方向性で進める。この点でアメリカや中国やフランスと似ていない。相手の意見の良い部分を見つけ、自分の意見を修正していくというのが大前提で、この流れは『夢織』などの小説にも見られる。つまり、アルバザード人は始めから自分の意見が完全に正しいと思っておらず、自分の意見をよりよくしようという観点で話をする。　一方、自分の意見を間違えだと認めることもフランス人と逆で遥かに多く、同時に相手の意見を正しいと認めることも極めて多い。ところがここで勘違いしていけないのは、正しいことと信念とはまったく異なるということである。アルバザード人は「なるほど。君が正しいようだ。しかし僕はそう思わない。じゃあ戦闘開始といこうか」ということを平気で言い、戦いを開始する。アメリカ人から最も離れた様式であろう。「客観的にそうである。それは納得した。しかし主観的にはそう思わない。だから僕は僕のために戦おう」という倫理観の持ち主で、主観が重視される社会である。そのわりに社会を構成するときは公共の福祉を最優先するなど、日本人には理解しがたい面を持っている。　なお、お互いの立場を議論しあわずにいきなり戦うことは極めてエレガントでないとして嫌われる。どんな場合でも相手と自分の事情を確認し、客観的に理解しあった上で、「でも主観的には僕らは敵だよね？」ということで喧嘩を始める。客観上の理解を省略して戦うと、蛮行とみなされる点に注意。　＜相手の発言をつなぐ＞　また、議論をしているときに、欧米人は相手の言うことを最後まで聞き、日本人や中国人は勝手に喋りだす傾向があるが、アルバザード人はどちらでもない。静かに頷きながら最後まで聞くか、そうでなくば相手の言葉を予想して、その言葉を相手に投げる。特にオチの部分でそれをする。要するに相手の話を奪ってオチを言う行為である。話の結論を相手が言おうというそのときに、聞き手がオチを言う行為で、これはイギリスなどでは非常に無礼な行為とされるが、アルバザードでは「相手の話をよく聞いて理解したからこそ結論を自分で導けた」ことをアピールする行為としてむしろ歓迎される。　＜タブー＞　絶対にやってはいけないのは、「相手の話をさえぎって自分の主張を通す（言った者勝ちという姿勢）」「大声で威嚇する」「やじる」である。日本の国会答弁が悪の見本で、蛮行とみなされ、相手にされなくなる。夢織で詩姫とギメル（厳密にはこれらはアルバザード人ではないが）の交渉を見てもわかるが、さっきまで戦っていた相手であっても礼を尽くし、相手の意見を遮らず、やじらずに聞き、相手の意見を正しいと認める。その上で利害が一致しなければ交渉決裂というだけのことであり、議論そのものは友好的に行われる。

ᴅcµɟɑel　［論理］論議学　［レベル］5　µɑ;/　ɺɱ　［文化］　→ lec e ᴅccµ µɑ でできた学問体系で、セレンが始祖。セレンは論理と論議を個別に考え、論理を言語でいうラング、論議を言語でいうパロールと位置づけた。　論理学は理論としての学問で、論議学は実際の議論に関する実践的な学問である。　セレンはそれらを使徒に理解させるために『ミールの書』を著し、前半の理論編では論理学を、後半の実践編では論議学を扱った。

ᴅcµɟıb　［論理］議題、論点、問題点　［レベル］4　ɺ0

ᴅcµɟeµ　［天文］プロキオン　［レベル］6　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ᴅel:ɿᴅccµ/ɟeµen　［文化］　クミールの誕生日とセレンの誕生日の間ごろに南中する星。同じ年だがクミールのほうがメル暦では早生まれなので、ᴅcµɟeµ の語順。アルシェとソーンのルシーラの間にあって橋渡しをしていることから、アシェットの成立、すなわち和平の象徴とされる。星座としては ɑɔɿleµn 座にある。

ᴅcµnı　［名詞］沈着冷静　［レベル］3　ɺɺ:「クミールの心」

ᴅcµueµınʃ　［医療］情緒不安定性パーソナリティ障害、情緒不安定性人格障害　［レベル］5　ul;ɿᴅccµ/ueµınʃ　ɺʔ:ᴅel

ᴅcµɑııŋ　［化学］フルオロメタン、フッ化メチル　1L

ᴅcµᴅel　［歴史］神代。創世記からラヴァスまでの神の時代の総称。　［レベル］4　µɑ;/　1L:ᴅcµɔɿ/ᴅel　［語法］　ɑeᴅe

ᴅcμφc ［人名］ミルギ ［組み数字］1／5 ［レベル］3 古 :ᴅcμφcl（神の金） ［文化］ euınselcn lcczel リーファ隊の１番目。女性。財政を管理した。几帳面。ルティア人で、アルナ大でミロクのひとつ下。

ᴅcμφcȷel ［ユマナ］月曜日 ［レベル］2 1L

ᴅcμφcl ［人名］ミルギル ［レベル］5 古 ［文化］ アルバ１世のときの召喚省長官。ギル貨幣の統一を行った。

ᴅcμφclcl ［化学］フッ素 ［レベル］4 1Δ: 制

ᴅcμφclcı ［経済］中央銀行 ［ユマナ］日本銀行、日銀 ［レベル］4 ȷ1:ᴅcμφcl

ᴅcμlccɑı ［天文］カノープス 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ クミールの生まれたころに南中（＝アルカでは０時に真南を通過すること）する星だが、アルバザードからはほとんど見えない。クミールはメティオ生まれだが、北緯３５°のメティオだと、１９８０年１２月２７日と１２月２８日のほぼ０時に、南の地平線に南中する。クミールは１月８日生まれだから、少しずれている。 アルバザードからは国の最南端でかろうじて確認できる星だが、メティオ生まれのクミールを指すにはふさわしく、メティオからなら観察できる。ルティアも首都からは観測できない。唯一メティオのみがカノープスを観測できる。

ᴅcμleseᴅᴅe ［色］薄紫 ［レベル］3 1L: クミールの紫

ᴅcμı ［ユマナ］神殿、神社、寺、仏閣、堂、お堂、モスク、シナゴーグ ［レベル］3 1L:ᴅcμɔ٦μı

ᴅcμı(ȷ) ［化学］フルオロ 1L

ᴅcμıʃın ［化学］フルオロアルカン 1L

ᴅcμı٦ıɑ ［地球の国名］カンボジア ［レベル］6 1L: 国旗にアンコールワット

ᴅcμıȷ ［被服］法衣 ［レベル］5 zφ;ᴅcμɔ٦/ȷıbe ȷ[illegible]

ᴅcμın ［宗教］教会、ミラン ［レベル］2 ȷ0:ᴅcμɔ٦/μı（神の家） ［文化］ アルテ教で神を祭った建物。サルト教など他宗教にも引き継がれたが、各宗教によって建築様式や内容は異なる。アルティス教も教会を持ち、現在ではアルティス教の教会を指す。 アルテ教では神の家と考えられたため、時代を追うごとに豪華絢爛な造りとなっていった。家といってもキリスト教と異なり別荘のイメージで、神が常にそこに住んでいるわけではないとされる。というのも、各都市や町に教会があったためである。なお、サルト教では各教会に固有の神がいたため、教会は別荘でなく家と考えられた。 アルテ教などのころはサリュは商業用途に使われたため、教会としての役割を果たしていなかった。教会は商工会やサリュの近くにあり、信者の洗礼や各種儀式などを執り行っていた。商工会とのつながりがあったため、現在の役所のような事務手続きをすることもあった。また、アルテ教が拡大すると、銀行の役目も追うようになった。 教会の従業員のことを ᴅcμınɑı（司祭、神父）と呼ぶ。教会の仕事は彼らが執り行っている。

ᴅcμınɑı ［宗教］司祭、神父、牧師、プリースト、ドルイド（ドルイド教の神官）、祭祀、オウンガン、ラビ ［レベル］2 ȷ0:ᴅcμın/lınʃcȷ

ᴅcμıɑcl ［地名］ミラフィル、ミラフィル島、神橋島 ［レベル］5 ʃᴅ;ᴅcμɔ٦/μıɑl「神の橋」。神の島とアルカットを繋ぐ島であることから。 ȷʔ ［文化］ フィーリア島とイネアートの間にある島。イネアート領。

ᴅcμıφılʃ ［ユマナ］鳥居 ［レベル］4 1L

ᴅcμılcʃ ［名詞］品行方正 ［レベル］3 ȷȷ:「クミールの丁寧さ」

ᴅcμɔ٦ ［名詞］神々、神、神様、かみさま ［生物］非霊科。アマット（超ドメイン）のうち、アテンに属するものから lın（霊科）を除いた神科・悪魔科・魂科３科の総称。 ［レベル］2 ɑ:elʃ;e 元は自分たちを他の動物と区別するための自称で、「我々」程度の意味。やがて神の一族を表わすように。 赤 ᴅcμɔ٦:ᴅcμɔ٦ 【成句】 ɔ٦ʃı ʃə ȷc yəʃcı ız たとえユティアがあろうとなかろうと：良い意味で「たとえ何が起ころうと」：革命時の教徒による言葉。ユティアという性があろうがなかろうがという意味。ʃə は「その ᴅcμɔ٦ という言葉」を指す。「ミロクと言ったら「ミロク＝ユティア」のことを言ってるのか、神のことを言ってるのか分からんよ」――「かまうものか。どちらにせよ、神様だ」というような会話から生まれたもの。

ᴅcμɔ٦ ʃ'ıμ٦ı ［名前］アルカの神、ミロク・タルカ ［レベル］4 μɑ 制 ［文化］ カルディアとユマナにおいてアルカに関わった人間の運命を決定し左右する神。主にセレン＝アルバザードとその周囲の人間の人生と運命を采配する。ユマナと μɑ のセレンが制ごろに自らの思念で創り出した神。災厄ばかりに見舞われた彼らはしかして自分の人生がアルカの視点で立つと合理的に運んでいることに気付いた。自分や周りの人生が犠牲になってでもアルカにとっては常に好都合な状況が起きていた。そこで彼らは世界にはアルカの神がいて、自分及び周囲の人間はこの神によって采配されているのではないかと考えた。この念慮によって具現化したのがアルカの神であるが、この神は固有の名前を持たない。単にアルカの神と呼ばれる。 アルカの神は複数の世界線におけるセレンらを支配する。例えばこの辞書を書いている今のこのセレン＝アルバザードの人生が失敗してアルカ発展の途上で自殺したとしても、それはその世界線において失敗したにすぎない。２０１２年現在ではアルカの神視点において、この世界線は正常に進んでいる。しかし今後もこの世界線がアルカの神にとって理想の結果を弾き出すとは限らない。この世界線は失敗に終わり、志半ばでセレンは死ぬかもしれない。だが別の世界線ではセレンはアルカを大成させ、アルカの神は彼を操りアルカを育て上げさせている。 離婚をしたことも身体を壊して仕事を変えたこともセレンの人生で見ればマイナスで不幸なことだが、アルカにとっては好都合な結果になっている。 明らかにアルカの神がセレンの人生を犠牲にして、その代わりにアルカを進めさせた結果である。セレンは無神論者だが、アルカの神の存在だけは信じている。あることが起こればそれはアルカにとって必要なことであり、あることが起こらなかったらそれはアルカにとって必要でなかったことである。自分の人生がどう進むかはアルカの神が決めている。たとえ事故でも不幸でも失敗でも賭けの外れでも、アルカにとって必要なら起こり、必要でないなら起こらない。 だがそれに絶望してセレンが途中で投げ出して自殺すれば、それはその世界線のセレンがトゥルーエンドまで行けなかっただけのことであり、アルカの神の采配が間違ったわけではない。ただ単にその世界線のセレンが根性が足りず、人生が詰んだと諦めるのが早かっただにすぎない。 別の世界線ではいずれかのセレンがトゥルーエンドを迎えている。ただ、恐らくそのセレンは相変わらずアルカに支配され、不幸な人生を歩んでいるわけだが。 なお、この神については制のころからこのように呼んで自覚していたが、文書化したのは３１歳の誕生日である。

ᴅcμɔ٦٦eμn ［企業］ミロクケルン ［レベル］4 ȷ1 ［文化］ ＡＮＡ、ＪＡＬに相当する企業。

ᴅcμɔ٦lınʃ ［被服］絶対領域 ［レベル］4 ȷ1

ᴅcμɔ٦uɔl,ɑu ᴅcμɔ٦bɔlʃ ʃᴅ;/

ᴅcμɔ٦ɑıcz ［政治］神聖なる王、王権神授、王権神授説 ［レベル］4 1L ［文化］ アルカでは、神から授かったという意味合いでは使わない。王がいまだ神の血が濃く残っており、偉大であるため、王としてふさわしいという意味合いで使う。絶対王政のころ使われた。

ᴅcμɔ٦φıμᴅı ［歴史］［軍事］第一次世界大戦、ミロクガルマ ［レベル］3 ȷȷ: ミロクが引き起こした戦争

ᴅcμɔ٦bɔlʃ ［名詞］天罰、天誅、人誅、仏罰、鉄槌、ミロクボルト ［類義語］hıczenbɔlʃ ［レベル］3 ȷᴅ;/「神の鉄槌」‹ᴅcμɔ٦uɔl.l,ɑu ȷʔ ［文化］ ʃᴅ から ul までは神による制裁のこと。特にハイゼンによる天罰は μɑ で hıczenbɔlʃ とされた。 ul 以降はミロクによる粛清や制裁のことを主に指す。ミロクの思想に反したものに下る罰。のちにセレン＝アルバザードが彼の思想を受け継いだ。 人誅という訳語は「天が制裁をしないのならば俺が鉄槌を下す」というミロクの精神から来た言葉。 【用例】 ın ıμıʃ ᴅcμɔ٦bɔlʃ ı lııbe. 私はあの愚か者に鉄槌を下した。 lı yəuıʃ ᴅcμɔ٦bɔlʃ ɑel ʃcɑl ʃın٦ ᴅclen eɑʃ. 彼は窃盗による手首切り落としの罰を受けた。

ᴅcμɔ٦ yəʃcı ［人名］ミロク＝ユティア ［レベル］2 古 ［文化］ → yəəlcı ıμ٦ı （ʔ00_ʔΔ0）レイユ時代におけるアルバザードの副王。ʔ00 年 ɑcıȷel、アルシオン派の２代目リーダーアメリとアルマスト派のリーダーユレットの下に生まれる。ユティアの姓は、両親が双子であるという近親相姦の事実を隠すために両親から与えられたもの。ʔ10 年頃、アルティス教と政権与党ミナレットの抗争により両親が他界。アルティス教系政党イルミロク党を立ち上げる。ʔȷ0 年、ユーリア＝アルカの死が決定打となり、革命を起こす。独裁政権を樹立し、親衛隊リーファを用いてミロク革命と呼ばれる強権的改革を実行。国内においては徹底した粛清と思想統制を行い、最強のアルバザード軍を用いて惑星アトラスの全ての国を間接支配するに至る。ʔ[illegible] 年、ルシア＝エニークとの間にアリシアを設ける。ʔʃΔ 年、アリシアとの間にアルテナを設ける。ʔΔ0 年他界。享年８０歳。 ＜本人像＞ 身長１７２ｃｍで体重５８ｋｇと中背で痩せ型。茶色い髪と瞳を持ち、やや黄色がかった白い肌を持つ。幼少期の容姿は少女のように美しく、青年期は線の細い美少年だった。 体形どおり神経質で過敏なところがあり、体は決して強いほうではない。しかし気は人一倍強く、争いごとが絶えない。 子供のころから魔法が使えたが、母親に禁じられていたため、細腕で喧嘩をしては負けていた。正義感が非常に強く、公平を尊び、悪には決して屈しない。 青年期になると容姿と地位のせいでモテまくるが、ユーリア＝アルカに一途であり、アルシアを授かるまで貞操を貫く。 それでもユーリアへの思いを一生持ち続けた。 【成句】 hıl ȷııl, ᴅɔl elʃ, ȷeel ləəȷ, ın ɑel ᴅcμɔ٦ yəʃcı lı. 空にエルト、地にサール、その間に私ミロクがいる：天上天下唯我独尊

ᴅcμɔ٦czᴅ ［歴史］ミロク革命 ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:μcɑcı ［文化］ → yəəl cı ıμ٦ı ＜旧版＞ メル３２０年にアルバザードから始まった革命。社会再建、社会悪の排除、アルティス教の浸透が目的。実行者は時のアステル、ミロク＝ユティア。 ミロクはレイユの腐った社会を改善しようとした人である。徹底的に社会悪を排他し、アルティスの教えに従うアルティスの世を築いた人である その行動は急進的で独裁的、そして妥協を許さないものであった。彼は神が自分の味方をすると信じて戦った。絶対に崩れない敬虔さを持っていた。そのため、どんな残酷なことでも革命的なことでもためらうことなくできた ミロクは社会悪を徹底的に排他するために、社会が不便になっても構わないと考えた。堕落した人間は享楽に慣れているから享楽がないと不便でつまらないと考える。ミロクはそういう人間を悪として排他し、慎ましい生活を送る者だけを生かした ミロクの目的はこのように、綺麗な社会を築くことであった。だから革命は主に政治と法に関するものである。つまり、社会制度の見直しが主なものである ミロクは選挙政治を撤廃した。独裁政治の始まりである ミロクは敬虔なアルティス教徒であった。その志は素朴で純粋である。ただアルティスの教えに従って世の中を変えていった。社会悪を徹底的に排他するためにミロクは独裁政治を行った 敬虔なアルティス教徒による政治であるから、利権がらみの独裁政治というよりは宗教政治といったほうが適切かもしれない ミロクの時代は選挙がなく、ミロクと志を共にする敬虔な教徒たちによって政治が行われた。彼らはみな敬虔で、自分たちの敬虔さに絶大な誇りを持っていた。彼らは一切利権を得ようとはせず、ひたすらアルティス教の世の誕生を夢見て革命を断行した
　彼らは私利私欲に溺れるどころか私財を投げ打って革命に心血を注いだ。特にミロクは最も敬虔で、質素な暮らしの中に幸福を見つけようとした ミロクは国民に対し、「私は全ての国民に私以上の生活を約束する」と述べた。そしてミロクは進んで質素な暮らしをした。革命が終わるにつれてミロクの約束は実現化されていった
　ミロクの時代は恐怖政治である。だがそれはアルティスの考えに背く者、悪人にとっての恐怖政治である。宗教政治であるため、

アルティスに従う敬虔な信者にとってはこれほどの理想郷はなかった　　ミロク以前は現在の日本やアメリカを更に退廃させたような社会であった。敬虔なアルティス教徒はその社会に耐えかねていた。社会悪を何としてでも排除しなければならないと考えていたため、ミロクの台頭は彼らには望ましいものであった　　ミロクは全ての国民から歓迎されていたわけではない。アルティスに敬虔であるほどミロクを歓迎し、堕落した人間ほど非難した。そしてミロクは堕落した人間を捕まえて収容した。そして世の中から自分の反対者を消していった　　この急進的な動きに嫌悪感を示した人間も政治犯として収容された。敬虔なアルティス教徒でもミロクに反対すれば収容された　　ミロクはそういった信者を収容するのにためらいがなかった。アルティスの世を速やかに合理的に築こうとする大業を邪魔立てする者は偽の信者であると規定したからである。偽の信者であれば守る必要はない。収容所行きである　　・対外政策　　アルバザードは世界一の強国であった。その軍隊をミロクは掌握した。ミロクはその軍隊を使って周辺諸国を従えていった　　アルバザードだけを厳しく規制すれば堕落した人間は周辺諸国に逃げる。それは予想済みであったため、ミロクは軍隊の掌握と同時に周辺諸国の掌握を始めた　　ミロクは各国に存在する敬虔なアルティス教徒たちの団体に内乱を起こさせ、国内事情を不安定にさせた。それと同時に中枢部に圧力をかけ、アルバザードと同じ制度を取るようにさせた　　それに逆らえば当該国の政治家を軒並み殺害するという旨を伝えた。そして実際に従わなさそうな連中は予告なしに大量に暗殺した。所詮は自分可愛さの政治家たちなので暗殺を目の当たりにした彼らはミロクに恭順した　　ミロクはまず、周辺の小さい国から恭順させていった。その後、勢力を拡大しながら大きな国も恭順させていった。逆らえば徹底的に軍事力で潰す。それを見た国は恐怖のため、従わざるをえなかった　　ミロクは周辺諸国が連合を組むと厄介だと考えたため、諸国が連合を起こす前に素早く動き、数日のうちに邪魔な国は全て掌握した　　しばらくすれば連合も立てられないくらいの状況になった。主な国がアルバザードに恭順すると、残った国は抵抗なく、或いは自分から進んで恭順してきた。ミロクの徹底的なやり方を恐れたためである　　こうして全土がアルバザード化したため、堕落した人間は逃げ場を失った。そもそも逃げようとする人間を囲うのは難しい。小さな穴があればそこから抜け出してしまう　　小さい穴が開かないように日々気をつけるくらいなら、逃げ場を先に焼き打てば良い。逃げたい場所を先に潰せば良い。そうすれば小さい穴に気をとられなくてすむ。どうせ小さい穴など塞ぎきれないのだからこちらのほうが得策である　　尤も、これはアルバザードには逃げたい場所を潰すだけの力があったからこそできた方法である　　＜革命考察＞　　・革命の新旧　　ミロク革命が最初に作られた時は制アルカの時代で２００３年前後だった。この時期に突然ぽっと出て湧いたわけではなく、それまでにアルバザードの現代社会を築いた背景設定というものはいくつか存在した。そういったものを集めて一人のミロクという巨人を作り、一つの歴史的事件としたものがミロク革命である。　当時のアルバザードはまだ架空の世界という色合いが強く、現実的にありえる形というよりもむしろ理想の社会としての意味合いの方が強かった。それがだんだん年を追うごとにカルディアという世界が細かく作られて行き、それとともにリアリティーが重視されるようになっていった。リアリティーが重視された結果、ミロク革命も同時に理想の社会を築き上げた革命という視点からヴェレイの悪政をできるだけ改善しようという方向性にシフトしていった。　このシフトは２０１０年頃に完了した。というのもこの時期にイルムスの執筆を行っていたためである。２０１０年を境にミロク革命を新旧で分ける。　旧版は理想の社会を描いてこうだったらいいのになあという結果から物事を考えていった。それに対して新版はヴェレイという社会があって、その社会に何を働きかけたらどう変わるかという視点で作られている。　またアルバザードが１位の経済大国かつ軍事大国であるという前提を覆さないような社会を作る必要がある。　理想の社会では食べ物に困れば神様が施してくれて戦争もなく犯罪もない世の中というのが実現できる。ところがリアルに考えていくとそんな社会は当然存在するわけなく、より痛みの少ないよりベターな社会を築くという考え方に変わっていく。それが新版の特徴である。　　・旧版の無理なところ　　例えば旧版では夜間外出禁止令というものがあり、犯罪率を減少させるために夜間の外出を制限していた。この社会では夜外に出ることができない。そうなると当然外食産業は大打撃を受ける。またそれよりもさらに深刻なのは物流業界である。夜の間に高速道路や一般道を使って商品を運べないとなると、昼の間に全てを運ぶことになる。これでは例えば道路だけで考えても夜はガラガラで昼は混み混みということになり、非常に非合理的である。運ぶのに時間がかかるということはそれだけ人件費がかかるということで、商品の価格に上乗せされる。ところがそう簡単に商品の価格に上乗せすることはできないため、まず最初に人件費が削られる。そうすると小売業や物流業がまず初めに被害を受ける。日本のように２４時間どこかしらの業界が働いているという状態の方が例えば道路だけ見ても利用効率がよい。　道路というような目に見える具体的な例だけでなく、例えば電気にも同じようなことがいえる。電力会社からしても夜間の間国民が全く電気を使わないのでは困る。基本的に電気というのは蓄えが効かないか或いは蓄えることが苦手なので、夜作った分は夜使ってほしい。またエアコンや待機電力等の関係から夜間に全く電気を作らないわけにはいかないので、その間稼働を止めるということはできない。そういうことを考えても電力会社からすれば、できれば２４時間押し並べて同じぐらいに電力を使ってほしいものだ。だが現実的にそうはいかないので、夜間は昼間より電気代を安くするという仕組みをとっている。昼間と夜間の電力消費量の差が小さければ小さいほど電力会社は楽ができる。というよりも、そもそも昼に集中して異様にたくさんの電気を使われる方が困る。そういうわけで、例えば風俗業なり小売業なり物流業なり夜間営業している店舗があるというのは、こういった電力会社のような業界でも歓迎されることである。　このように、目に見えるところと目に見えないところで夜間の経済活動というのは無視できないほど影響力が大きく、これを全面カットするというのは、少なくとも経済大国であるアルバザードにはできない。　　車についても同様である。車なんてない方がそもそも交通事故が発生しないので安全な世の中だということになる。事故がないのは素晴らしいことではないか。それは誰もが思う。ところがでは実際に車が走っていないとか或いは人と完全に分離された場所しか走れないというような社会で経済が回るだろうか。トラックはスーパーの店舗まで荷台を付けないと商売にならない。住宅街を一般車両が走れないとなれば当然車業界は潰れてしまう。　例えば日本で考えて、住宅地のような狭い道路を一切車が走れませんよということになったら、車を持つ人は今よりさらに激減し、トヨタ等は大損害を受ける。潰すわけにもいかないので、単に日本から撤退するだろう。もともと日本の企業であるにもかかわらず完全に日本を切り捨てて、工場も外国のみにし、資本を海外に移すだろう。となれば当然日本のΨΨφ は下がるわけで、これと同じことがアルバザードでも起こりうるわけだ。　アルバザードが世界一の経済大国だという前提があるのならば、どうしてもこういう車というものを切り離すわけにはいかない。たとえ事故で誰かが被害を受けようとも、現在のようなあり方が結局のところ一番アルバザードを発展させるということになる。アルバザードが小国であれば車のない社会も作れるかもしれないが、世界一の経済大国という前提がネックとなりどうしてもこのような案を受け入れることができない。　新版では具体的にどうするかというと、例えば車道と歩道と自転車道をできるだけ分離するとか、ＧＰＳと連動して今車が時速何キロ制限の道路を走っているかを自動で読み取りその速度以上は出ないように機械の側で制限をするとか、交差点のところにＡＲを設置しておいて曲がった先が見えるようにしておくといったパッチを当てるのが精いっぱいである。

　ギャンブルにしても同様で、煙草にしてもそうで、これらは社会悪であることはわかっているのだが、これらがもたらしてくれる経済効果というのは非常に大きく、無視できるものではない。　　・旧版がモデルにした北欧型社会は小国に適するということ　　最近よく北欧型の社会が取りざたされるが、実際に北欧型の社会というのは小国で成立するシステムであって、アルバザードのような大国でこれを実行することは難しい。というのも、北欧型のシステムでは経済大国であることを維持できないためである。ここでいう北欧というのはスカンジナビアはもちろんのことデンマーク等も含む。

　例えばこのデンマークのだが、デンマークは確かに格差の少ない社会ではある。しかしそれは皆が平均して金持ちということではなく、どちらかというと日本人から見れば皆が平均して小貧乏というような発想に近い。実際にこのタイプの社会をよく見てみると、上に行こうとする人間を邪魔しようとする圧力がものすごく強い。自由で格差の多いアメリカ等と比べると、特に明らかな傾向として現れてくる。北欧というと人柄が暖かいとか優しいというイメージがあるが、実際住んでいたリディアからすると評判程ではなく、やはり当然のことながらいじめ等は存在するし、むしろ上に行こうとするとか目立とうとする人間を押さえつけようとする力は強いそうだ。北欧全体の傾向としてヤンテのルールに代表されるような概念が存在する。これは通常デンマークなど北欧社会を賛美するときに引き合いに出されるものだが、悪く言えば出る杭は打たるということだ。

　こういう国では、医療制度が非常によく、ほとんどタダで医療が受けられるというような喧伝がされることがある。実際に医療費がかからない国というのは存在する。ところがよく調べると、見てもらうまでに何週間もかかるとか、診察は無料だが薬代は非常に高いといった現実が見えてくる。　結局のところ日本は格差社会かもしれないが、具合が悪くなった日に飛び込みで医者に診てもらおうと思って病院に行ってもたいていはすぐ診てもらえるという点ではずっとマシである。数千円で見てもらえて薬も同様に数千円程度でもらえる。救急車を優秀ですぐ来てくれる。日本の医療問題はしつこい程取りざたされて、救急はもう駄目だのフランスはもっと少ない救急車の台数でどうにか回しているだのと言われるが、確かにある側面だけ見ていると日本は駄目かもしれないが、詳しく掘り下げて調べていくと結局外国は日本が維持している便利さを捨ててその代わりに別の便利さを得ているというだけだ。どの国も持っているパイは同じで、どのように切り分けているかの問題にすぎない。日本が手薄になっているところは別のある国が厚くなっていることがあるだろうし、逆にその国で薄くなっている部分が日本では手厚いということは当然考えられる。　そう考えていくと要するに理想の社会など存在しないわけだ。どこを切り捨ててどこを痛めるかという話でしかない。従って作りうるアルバザードというのはより痛みのないベターな社会というものでしかない。　　もちろん北欧型が小国でしか機能しないことは旧版でも知識としては知っていたわけだが、理想の社会ではその矛盾を無視できるため、ご都合主義で通していた。　　・一人の英雄がいても一億の目にはなれない　　旧版ではミロクという巨人がいれば全てがどうにかなるものだという風潮があった。だがもしミロクが軍隊と同じくらい強い個人で、毒殺も何もできないぐらい強い人だとしても、理想の社会を築くのは不可能だ。というのも、ミロクは末端の国民一人一人にまで目を向けることができないからである。ミロクが賢人で勤勉で精錬潔白だとしても、国民は彼の目がないところではサボる。確かに彼は思い通りにならない人間を始末することができるが、一人一人を見て回ることはできないし、どんなに教育して意識を革命しようとしても、ミロクのように鉄の清廉潔白さを持った人間というのは早々でき上がるものではない。まして全ての国民をそうするというのは全くもって現実的ではない。　ミロクは確かに強いかもしれないが、だからと言って一人で何でもできるわけではない。例えば一人でビルが作れるか、辞書を書き上げることができるか、社会インフラを全て作ることができるか。できるわけがない。末端の作業員も必要だし、それを管理する現場監督も必要だし、その事業を行う会社も必要だし、その事業所に勤める社員も必要だし、その事業を束ねる役所も必要だし、その役所に勤める役人も必要になる。そしてミロクはそれら全ての人々を毎日チェックするわけにはいかない。結局ミロクがどれだけ清廉潔白な人間であっても、汚職や非効率は避けられな

い。　サボっている人間を見せしめに殺しにしたところで、それではミロクが見ている時だけ頑張ろうという風潮しか作らない。むしろそんな見せしめをすればモチベーションは下がってしまう。恐怖で押さえつけても結果的にペイしない。　　・経済大国に格差はつきもの　　格差社会は悪だと言われるが、少なくとも経済大国においては格差社会は必ず存在する。格差社会をなくそうとすると、どちらかというと経済力の弱い国になる。格差社会をなくすこと自体は可能なのだが、なくした結果待っているのは、皆が平等に貧乏な社会である。誰か或いはどこかの企業が勝ち組になってその国の経済を牽引していくというのが現実なので、経済発展をすればするほど勝ち組の企業は潤っていくという実態がある。その結果、当然そこに努める人間の給与は上がり、それでも下請けは安くこき使われるので、格差はどんどんと開いていく。ところが皮肉なことに、このような国で暮らしている末端の人間にとっては非常に暮らしにくいにもかかわらず、国全体でみると経済力は強くなる。いくら日本の派遣労働者らが搾取され消費が冷え込んでも末端の環境が改善されない理由のひとつはここにある。　韓国もそうで、J010 年頃の韓国というのはサムスンがものすごく強い力を持っている。サムスンが韓国政府に納めている税金というのは日本のソニーの比ではなく、企業規模も全く比ではない。そしてこのサムスンの業績により、韓国の技術力や経済力はサムスンがない状態に比べたら遙かに向上している。では韓国人一人一人の経済はよくなっているかというと、依然としてそうではない。　経済大国では強い企業や強い個人がいて、その牽引者が勝ち組となって格差が生まれる。アルバザードも経済国であるならば、どうしても格差は存在することになる。問題はどうやって経済大国であることを維持しながらできるだけ格差を小さくするかというところにある。それはヤンテのルールのように上を落とすというやり方ではなく、下を上げるというやり方でなければならない。　　・少数の経済学者の意見だけを参考にするのは危険　　税金を上げて公共事業に回すという考えがある。こういうことを言っている経済学者というのは多少いる。ところがむやみに税金を上げると資本が国外に流出してしまう。特に法人税を上げた場合に顕著である。また、消費税のような内需型の増税を続けると、地続きの国はすぐ隣国に移住できてしまうという問題がある。例えばアルバザードの場合はすぐ隣のケートイアに逃げることができる。これを防ぐこともできるが、それでは北朝鮮と変わらず、その状態で世界一の経済大国の地位を維持するということは不可能である。

何を言いたいのかというと、具体的な少数の経済学者の意見を参考にすると思想が偏ってしまうので、日経新聞や各種経済誌から広く薄く参照した方が偏りにくく、アルバザード制作の役に立つということである。　　・現実的な新版　　つまるところ新版のミロク革命は旧版にあったような理想の社会をほとんど実現できておらず、現代の日本やアメリカといった経済大国の少し改善した現実的な社会という程度に過ぎない。　旧版は世界自体にオリジナリティがあるので世界そのものの創造が創作活動になったが、新版では社会そのものが現実的で現実に似ているため、どちらかというとその社会をどう使ってどんな小説や物語を作るかというところに重点が置かれる。　２０１０のイルムス再制作において、カルディアの重要性はアルカを圧倒してしまった。ところがリディアはカルディアはそもそもアルカという人工言語を成立させるための背景としての意義が大きいという点に回帰し、全体の制作におけるアルカのウェイトを向上しようと考えた。その折にカルディア自体がリアル指向になったことも重なって、今回の新版が生まれた。　　・地球にペグしだした新たな理由　　またリディアの思惑はもう一つあり、それは教育である。いくらアトラスが架空の世界であるといっても現実的には地球で使用しているわけで、あまり現代の地球とアトラスが乖離してしまうと、特に子供の教育という面において問題が発生する。大人は理屈でアトラスと地球の違いを理解できるかもしれないが、子供はそうではない。例えばこのメル J1 年にもすでにルシアは「どうしてウチの周りにはカルテンがないの？」や「どうしてお母さんは夜遅くに帰ってくるの？でかけちゃいけないんでしょ？」などという旨の発言をしており、大人を困らせている。　μɑ のような神話の時代ならともかく、少なくとも現代社会はある程度地球に似せておかないと今後まずいことになりそうだということがわかってきた。制アルカの時代はアシェットが地球でアルカを使うので地球とある程度社会を似せる必要性があったが、成員はみな大人だったため、現実と架空を区別することができた。ところが子供に教えていくとなると話は別だ。アイデンティティーに組み込む以上、あまり架空の話を組み込ませてしまうとその子の将来に問題が発生するため、あまり突拍子もないことは吹きこめない。そういう事情が出てきたため、制アルカの時代とは別の意味で地球にペグする必要性が出てきた。　そもそもセレンは子供がアルカを母語とすることにも反対なため、これ以上カルディアで汚染することは子供の将来によくないと考えている。あれは芸術として使うから面白い。自分の意思で入ってきたわけではない子供を巻き込むべきではない。リディアは逆に植え付けたい派だが、現実と架空の設定の矛盾に娘が混乱してきたことが原因で考えを修正して新版に至る。　　・ひとつの世界で架空もリアルも　　とはいえカルディアは非常に創作活動の場としては度量が広い。というのも、バリバリのファンタジーをやろうと思えばそれは μɑ までの時代で可能であるし、逆にバリバリのノンフィクションをやろうと思えば、それは現代を使えばよい。時代を分けることでどのような創作活動にも対応できるという点で、カルディアは非常に便利である。　　　　・多様性のある現実的な社会　　新版というのは多様性を認めた社会に過ぎない。現実的なことを考えてくだらない人間やくだらない業界という存在を肯定しつつも、何が社会的に良くて何が上流階級かという考え自体は変わらない。つまり今まではレインのようないい子ちゃんしか存在できなかった社会だったが、そうでもない人間も存在できるという風になったに過ぎない。　旧版の価値観では ɒιγə はともかく φιnɔ といった位相を具体的にどのような人間が使うのかというのが謎であった。不良の女の言葉だというのは分かっているのだが、旧版の厳しい社会ではそのような人間は存在できない。いい子ちゃんばかりが存在し、いい子ちゃんばかりが再生産される社会だから、実際どのような層が φιnɔ に落ちるのだろうと疑問に思っていた。そもそもそういう女が存在しない理想の社会というのを想定していたので、ではこの位相は何だったのかという話になる。　新版ではそういうくだらない人間も含めてリアルな世界なので、そこにはレインのようないい子ちゃんもいれば、ギャルのようなくだらない人間もいる。つまり世界は多様性を見せたということだ。だからといって今までの価値観が覆さられるわけではなく、レインが上流階級のお嬢様だという点は変わらない。またレインの性格自体も変わるものではない。彼女は彼女で昔同様、お嬢様のいい子ちゃんで世間知らずだ。対してそうでない人間がいるという話に過ぎない。このほうが世界は広がりを見せ、創作の場としては使い勝手が良い。　　自分の好むタイプの人間しかいない世界は心地よいが、それが現実的かというとそうではない。現実的な架空かという点すらも怪しい。　また、そもそも全員がいい子ちゃんだと、いい子ちゃんが当たり前で何の価値もなくなってしまう。悪いものがあるから良いものが引き立つという考え方もある。　結局のところ、作り手側がここ１０年程度で少年の考えをできなくなってきたのだろう。思春期を過ぎると何かと現実的に考えてしまう。　ただ、それでもまだこんなものを作っているのだから、リアルファンタジーという価値観自体は大人になっても維持したようだ。　　・思惑　　新版ができた経緯についてリディアの思惑はすでに述べた通りだが、セレンの思惑としては世界に多様性を持たせることで作ることができる作品の幅を広げるという点がある。今までの制度だと、例えば夜のシーン一つ取っても夜間外出禁止令等があるため、色々と行動や時間が制限される。不良や悪人がほとんどいないという設定も、小説等を書く際にはそういう人物が必要なシーンもあり、たびたび不自由を感じてきた。良いものだけでなく悪いものも存在する世の中の方が現実的だし、良いもののありがたみも実感できるし、何より作品の幅が広がる。　今まで作品を作ってきて感じたのは、良い世界ではあるが窮屈で狭量だということだ。そういう意味で旧版のカルディアは必ずしも作品を作りやすい舞台とは言えなかった。レインのような旧版の価値観を体現したキャラクターは依然として作ることができるため、世界は単純に広がりを見せたと言ってよいだろう。　　また現実的に考えると、リディアが子供たちにカルディアを押し付けない可能性がないので、ならばせめて子供たちがまともな価値観を持つように、アトラスと地球をなるべく近づけるというのも本意であった。この件については結果的にリディアと意見が完全に一致したため、比較的円満に事が進んだ。　　・免責　　旧版の社会だと、ミロク革命の正義をよしとする人間には理想の社会に見えるが、そうでない人間には非常に窮屈でつまらない世界ということになる。作り手側はこの社会を使って作品を作っているので、読者がもしこの社会そのものの仕組みがよくないと思っていたら、たとえその小説が面白いにせよ面白くないにせよ、いずれにしても社会の時点で面白くないと感じてしまうだろうなと考えた。そしてそれは非常にもったいないことだなと考えてきた。もしここの社会が現実とそんなに変わらないとすれば、その地球と大差ない社会システムに当然気に食わないところが読者それぞれあるだろうが、それでも現実と同じであるならばわざわざ作り手に不満が向くことはなく、作り手側としては免責を受けることになる。　簡単に言えばこういうことである。十代の少年がアルバザードの社会を見たときに、夜出歩けないのは非常につまらない文化だと考える。一方新版の社会では青少年でもある程度の時間までは外に出ることができる。そのせいで当然旧版に比べて治安は悪くなる。不良に対して不快感を示す読者は当然いるだろうが、それは現実と変わらないため「ああ、どこでも悪い奴っているんだな」という程度にしか考えない。少なくともそれが現実と同じである限りは、夜間外出禁止令のように「わざわざそんな設定を作るなよ」と作者側に不満を感じることはない。現実と同じくそういうものだろうと考えるため、作り手側には免責となる。　作り手にとって何が良いのかというと別に決定的に良いわけではないのだが、旧版のような癖の強い社会であるがゆえに「社会の時点でこの小説を読みたくない」と思わせることがなくなるという点で助かる。　　●アルバザードが首位から転落しないワケ　　もしアルバザードを日本と同じように滅ばせたいのなら、日本と同じシステムにしただろう。だがアルバザードは世界一の強国だ。しかもアメリカのような新参と違い、長年に渡って一位を維持してきた。　アルバザードが首位を維持できたのは学問や研究を疎かにせず、高尚なものに注力してきたからである。革命家の力が弱まるとすぐ人間の弱い心が易きに流れて低俗なものが流行るが、そのたび革命家が現れ、低俗＞高尚だった世の中を高尚＞低俗に戻してきた。　その結果アルバザードは高い技術力等を誇り、他国に対して常に優位な立場にいることができた。もし革命家が現れなければ、ローマ→フランス→イギリス→アメリカと首位が渡っていったように、アルバザードも一位から転落していたことだろう。　地球には魔導師の革命家がいないのでカルディアの革命はできないが、カルディアには魔法があるのでできる。だから地球の見方で「その革命はしくじる」と言うのは適切でない。　この国の革命は毎回世界を巻き込んで世界規模で世の中を変えるので、どの国にも「革命コスト」がかかるため、アルバザードの優位性は揺らがない。　また、アルバザードの技術を盗んで追いつくことはできても、きちんとした素地がないまま表面だけ盗んだ者に追い越すことはできない。　　●ミロク革命はなぜ支持されないか　　セレンの周りでミロク革命に賛同するのは共同制作者のリディアしかいない。制作者以外に革命に賛同した者を見たことがない。メルも「お兄ちゃんがそう言うなら支持する」という条件付きだし、５歳の紫亞は無条件に洗脳されていて自発的な賛同ではないし、ほかの使徒やネットユーザーにいたっては賛同すらしていない。特に後者の中には明確に批判してくる者もいる始末である。　なぜこの腐りゆく日本などの先進国を改善するカンフル剤が称賛を浴びないのか不思議でならない。たいてい、やりもしないうちに「そんなのうまくいくわけない」だの、「その方法では変わらないか元に戻る」だのといった批判が来る。　セレンの父親の世代が若いころには理想に燃えて革命を口にしたものだそうだが、

最近の若者はこの腐りゆく国で理想すら求めず諦めて思考停止しているように思える。やりもしないうちに否定したり、うまくいかない理由ばかり探している。巧くいかないなら力づくで巧くいかせればいいだろうーーと若者らしく考えないのが不思議でならない。「最近の若者は本当に正義感も理想に燃える熱い心もなく、ネガティブで、『無理だ無理だ！』から入るペシミストばかりだな」とがっかりする。革命のような暴力的な解決策や独裁主義を何か根本的に悪いものと勘違いしていないか？彼らを見ていると独裁主義や社会主義と聞くだけで無条件に悪とか失敗とか決めつけているように見える。特段自分で体験したり熟考したわけでなく、学校やメディアに洗脳された通りに脊髄反射しているように見える。総じて苦労していない人間、苦汁をなめさせられたことのないぬるま湯生活の人間ほど、体制側につくものである。見ていると苦労知らずで現実で辛い思いをしたことのない浅薄な人間ほど、ミロク革命に賛同しない傾向がある。　持つ者が持たざる者を虐げ搾取する現代日本では、持たざる者は刃を以って持つ者を粛清すべきだ。そうした決起を各所で群発させることでしか、持つ者を脅かすことはできない。既得権益者が持たざる者の嘆きを聞いて既得権益を捨てると思うか？ねーよ。既得権益者どもは自分の身に危険が及ばない限り決して既得権益を離そうとはしない。暴力は悪いことだ？馬鹿を言うな。それは体制側が奴隷をこき使うための洗脳にすぎない。決起しなければ持つ者は持たざる者が死ぬまで搾取しつづけるではないか。持たざる者が決起して集団で持つ者を脅かさない限り、既得権益者は既得権益を捨てようとはしない。話し合いで既得権益者が既得権益を捨てると思うか？絶対ないね。もしそんなことが起こるなら、既得権益者が身の危険を感じたときだけだ。だから暴力、最低でも交渉に使うための暴力的背景は必要悪なのだ。そのことがなぜ今の日本人には分からない！？なぜミロク革命を支持しない！馬鹿なのか？体制側の都合のいい洗脳教育にいいように洗脳されて搾取されていることに慣れきった豚どもが。　特に若者が質悪い。この世代は選挙もしないし自分たちの国が滅ぶのが分かっていても勉強もしない。四当五落なんていう言葉はもはやこの世代には死語だ。この国の若者がすべきことは老害の排除と次世代の育成だ。このまま少子高齢化を維持していたら国は滅ぶ。老害の既得権益を引剥がし、安楽死センターを作って積極的に安楽死を導入して高額な福祉・医療費問題を解決し、若者に金と職を回し、同時に女は一部の有能な人間を除いて社会進出だなどと女のくせに生意気なことを言わずに黙って結婚して子を産み育てなければならない。そうしないと国が滅ぶのは明らかなのに、しようとしない。それどころかその解決策や革命の理想に賛同すらしない。本当に動くべきは若者なのに、その若者が動かない。
　選挙は実はすべきでない。今のシステムだと老害に勝てないようにできているからだ。むしろすべきはテロだ。若者が数千万人単位で集まってテロを起こせば、いくら背景に国家があろうとテロは成功する。このままだらだらと国が滅ぶよりは、よほどテロを起こして一度この国を焦土と化しても不死鳥のように復活させたほうがよいのだ。腐った国は一度壊して作りなおさなければならない。今の日本は手を怪我した者が手を切断したくないと喚いた結果、化膿が腕にまで及んでいる状況だ。このままではいずれ膿は全身に至って腐り落ちる。それならいっそ強硬手段を取って痛い思いをしてでも改革をすべきなのだ。それがミロク革命なのだが、牙を抜かれた今の子供たち、そして牙なんぞとうに欠けた大人たちにはそれが分からないらしい。　思うに、ミロク革命というのは頭の良い人間で、体制側に反感を持ち、タカ派で、合理的で未来の再生のために目の前の痛みに耐える根性があり、子供のように純粋で、体制側の作った洗脳に惑わされず自分で考える力を持ち、熱い心を持った人間にしか理解できないのではないだろうか。　今の日本人は冷めた目でミロク革命を浅はかな子供が考えた幼稚なソリューションと斜に構えて格好つけているだけだ。最近の人間はイヤに斜に構えてニヒルを気取っていないか？熱く革命に燃える人間に冷水を浴びせて「そんなの無理だ、うまくいきっこない」と笑って見せることで自分のほうが大人で冷静だと見せかけて格好つけていないか？そう、今の日本人はそうなのだ。そしてこれは今に始まったことでなく、ここ数十年でどんどんひどくなっていることなのだ。恐らくこの文章と同じようなことを７０年代にも考えていた人がいただろうし、今後何十年か経って見たときに「こんな昔からセレンさんが現代と同じことを言っていた！」と驚く未来人がいることだろう。　そう考えると、結局どの時代にも熱い奴はいるにはいるし、それを冷めた目で斜に構えて自分では何もしないくせに批判だけはいっちょまえの奴が大勢いるのは変わらないのだろう。どの時代もそういう構成で、セレンらのように正義と理想に燃える人間は少数なので理解されないし、賛同もされないのだろう。　とはいえ、セレンの父親の代に比べて今の若者は更に考えなくなっていることは事実で、このままいけば未来人の時代には更に事態が悪くなっているかもしれない。いつの時代も若者を嘆く声はあるが、少なくとも戦後の苦労知らず世代の範囲では、どんどんひどくなっているのは体感的に事実だ。
　ミロク革命が理解されないのは、苦労知らずでなく、頭の良い人間で、体制側に反感を持ち、タカ派で、合理的で未来の再生のために目の前の痛みに耐える根性があり、子供のように純粋で、体制側の作った洗脳に惑わされず自分で考える力を持ち、熱い心を持った人間が少ないからだろう。多くの苦労知らずのお坊ちゃんは体制側だからこの腐った社会に疑問を抱かないし、虐げられている下の人間はこれだけ深く世の中について考えるだけの頭がない。セレンやリディアのように上層で頭が良いのに体制側に靡かないようなごく一部の人間しかミロク革命の良さが分からないのだろう。まったく嘆かわしいし、甚だ愚民どもの無理解が不快だ。 【用例】 hıc, eȷ ɥəə lıᴅ uın ᴅcɥɔ̀lczᴅ ȷec. ȷelın ᴅeᴅcɥ ıl̀ı ɔuıen ɥcɑcı ɔ lcı lıᴅ ᴅcɥɔ̀l czcᴅ ȷccnı l̀ɔnʃ ılʃ ȷɔ elɑ ʃə ȷcn ı. それにしてもなぜ誰もミロク革命に賛同しないのだろう。リディアや紫亞のように最も親しい人は賛同してくれるのだが、ほかは誰もしてくれない。

ᴅcɥɔȷ ［動詞］ ɥəl（神など）を崇める、崇める、信仰する、崇拝する ［類義語］ lıɥ、ȷɔl̀ȷ ［レベル］３　zφ;ᴅcɥɔl̀/ȷɔ「神する」 Ɉʔ ［語法］ 宗教的な意味で信仰すること。

ᴅcɥɔɑı ［料理］ノンカフェイン、ノンカフェ、デカフェ。ちなみにデカフェは厳密にはノンではない。 ［レベル］３　Ɉ1

ᴅcɥeʃ ［形容詞］理論的な ［反意語］ȷɔneʃ ［レベル］３　Ɉ1:ᴅccɥ/ʃe

ᴅcɥeʃıɥʃɑel ［魔法］理論魔法学 ［レベル］５　Ɉ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ᴅcɥeʃel̀ ［料理］ダージリンティー、ダージリン ［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılʃe: クミールの紅茶 ［語法］ メテから輸入される。ルティアやアルバザードで広く飲まれる。香りが強く、香料好きのクミールに愛飲されたため、この名がついた。

ᴅcɥeȷ ［名詞］言論 ［レベル］４　ɥɑ;ᴅcɥȷ/ɥenȷ　Ɉ⋒

ᴅcɥeȷlınφ ［政治］［哲学］言論の自由 ［レベル］４　ul;「言論の権利」 Ɉ⋒

ᴅcɥen ［地学］ジルコン、風信子石 ［レベル］５　1L:ᴅcɑı/ɥen ［文化］ 聖の魔石。また、名前が似ていることから、女性軍曹への昇格のプレゼントとして贈られる。　無色透明のものはノアを大量に重合できる。

ᴅcɥec ［音楽］メロディー、メロディ ［レベル］２　Ɉ1:ᴅcl̀ȷ/ɥecn（歌の流れ）

ᴅcɥecɥecn ［音楽］メロディーライン ［レベル］４　Ɉ1

ᴅcɥəl ［化学］フッ化物　1L

ᴅcz ［植物］茎 ［レベル］３　1ʔ: 制 :ᴅcnızɔdl

ᴅczıɥc ［人名］王女ミザリィ ［名詞］一日、日 ［類義語］ȷel ［レベル］３　Ɉ0:ɥcɑcı:lʃ ［文化］ ȷᴅ のルティア女王。一日のうちに規則的に４人の人格が入れ替わるという奇癖を持っていた。人格はそれぞれ ɑlıuce (lclcı), l̀ılʃce(ɥecɥə), lelce(lıᴅcı), lelce(lınlı) という名を持っていた。朝は４時から１０時で、朗らかなフラヴィエ。昼は１１時から１５時で、快活なカルティエ。夕方は１６時から１９時で、物憂げなレシエ。夜は２０時から４時で、物静かなシェリエ。　その現れ方が規則的だったため、ルティア人は一日の区分を彼女たちの名を使って表すようになり、その習慣はやがてアルバザードにも伝わった。
　一日の区分をするのに ɑılcᴅ, lelcᴅ の２分法では大雑把すぎ、ɑıɥ の６分法では細かすぎるという欠点がある。また、６分法はきっちり４時間ずつだが、主観的には朝昼夕夜の長さは異なる。生活リズムを考えるとこの４分法は使いやすい。

ᴅczɔ ［地学］［動物］サンゴ、珊瑚 ［レベル］４　lıl̀ʃı

ᴅczɔl̀ı ［地学］さんご礁、サンゴ礁、珊瑚礁 ［レベル］５　1L

ᴅczɔɑɔl ［地学］霰石 ［レベル］６　1L

ᴅcoıȷd ［被服］袖なし、袖無し、ノースリーブ、ノンスリーブ ［レベル］３　ɥɑ;/　Ɉ⋒

ᴅcl ［格詞］なぜなら、なぜならば、なので。弱原因。 ［レベル］１　ɥɑ; ‹ᴅcl,lʃ（なぜならば） 1L:ᴅın　dcn:dcn:ᴅcl ［語法］ 基本的に女性語だが、後続する語句が節でなく語や句の場合、男性でも ᴅcl を用いる。 【用例】 nɔn lıʃ ɥı ᴅcl ɗıʃe lənıl̀ lcıl cᴅ ʃɔlel. 昨日は嵐が街に来たので家にいた。　ın lıʃ ɥı ᴅcl eȷl̀. 雨だったので家にいた。

ᴅcl(Ɉ) ［名詞］刹那 ［名詞］–– 記号、ダッシュ記号、––、ダッシュ。静寂や間を示す。 ［類義語］ɑɔnc ［レベル］２　古 :ᴅcl（刹那）← ᴅcljiis（刹那の虚無） 【成句】 lc ᴅcl 一瞬で 【用例】 cᴅ ᴅcl ɑel leeucl̀ ıl ıʃɔl ıȷ アトラスに帰る刹那

ᴅclʃ ［格詞］～すればするほど ［レベル］２　1ʔ: 制 :ᴅcleʃʃ（踊りあがる） 【用例】 ᴅclʃ ȷılʃ 年々　ın ȷccnı eᴅ lı ᴅclʃ ılʃ. 会う度に彼女のことが好きになる。

ᴅclʃɑıcφ ［経済］累進課税 ［レベル］５　ɥʃ;/「（金を稼げば稼ぐほど払う）税金」 Ɉʔ

ᴅclʃl̀ ［生物］天宗 ［レベル］６　Ɉ1:「腕のせいで（胃が痛い）」の意味。ＰＣなどをやって腕を前に出し続けるとここが凝って膏肓や隔兪にまで至り、胃痛になる。

ᴅclʃe ［形容詞］形式的でない、ざっくばらんな、インフォーマルな、柔らかい ［反意語］hɔnʃ ［レベル］３　Ɉ0:hɔɔᴅc/ʃe（柔らかな）

ᴅcl̀l ［料理］ココア ［レベル］２　lıl̀ʃı:「ミルフの好きな飲み物」

ᴅcl̀lɔ,ȷzl　lın、ɥəl、ɥəlceʃ　<> ᴅɥəl̀lɔʃı

ᴅcll ［名詞］叶わない願い ［動詞］ɥəl（かなわないこと）を願う、願う、希望する、～だったらいいのにな ［法副詞］～したかった、～したいのに、～したいのにできない、～だったらいいのにな ［副詞］～しておきたい、～しておきたかった ［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :ᴅcld ← ᴅɥəlııd「無い願い」 【成句】 ᴅcll ɑısnı お世話になります 【用例】 nɔn ᴅcll nın ıɥʃ ȷen ɥən ɥcɑcı ləʃcı nɥı. リディア＝ルティアみたいに魔法が使えればいいのに。　ın ʃclıʃ ᴅcllel ʃcın cᴅ l̀ıcın. 大学生のうちに彼女を作ればよかった。　nɔn ᴅcll l̀eȷʃ ʃcȷ lənı elɑ. 明日になんてならなければいいのに。

ᴅclle ［魔法］ミルシェ、体力 ［レベル］５　Ɉ0: 古 ᴅıcn/ılle（体に関するもので、どんどんなくなっていくもの） ［語法］ enuelen

ᴅcljlıl ［電算］フレーム、コマ ［芸術］コマ→ ʃeᴅȷ ［レベル］５　Ɉ0: 刹那の場面 ［語法］ アニメーションなどのフレームのこと。マンガのコマの場合は ʃeᴅȷ ともいう。

ᴅcljiis ［名詞］ミルサージュ、刹那の虚無 ［名詞］グレゴリオ歴における、存在しない３１日と３０日のこと。例えば１１月には３１日がないので、３１日がミルサージュに当たる。２月は１９，３０，３１が当たる。グレゴリオの場合、３１なはずなのにこの月は３１日がないという感覚で捉えられ。ない日に焦点が当たってミルサージュと呼ばれるため、欠如詞として使われる。 ［レベル］５　古 ［文化］ メルの誕生日が１１月３０日生まれだか１２月１日生まれだか分からないことから、その狭間の零時に生まれたと考えられた。その狭間のことを１１月３１日と便宜上呼んでおり、小説版アンクノットでもメルの誕生日は１１／３１で記載されていたと思う。そのどちらの日付でもない瞬間をミルサージュと呼んだ。ただ、便宜上メルは１１月

生まれとなり、現在のメル歴が確立するに至る。

ᴅclɑ ［組み数字］１１／２８ ［交通］ミルフ通り ［名詞］ミルフ組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２ ⅃⅃

ᴅclɑ(⅃) ［芸術］芸術、美術、工芸、アート ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ᴅclɑ。芸術全般が必ずしも得意というわけではないが、アシェットでは際立って芸術の才があるため。元々彼女の名は「妖精（ｆａｉｒｙ）」という意味の語に使うつもりだったが、本人から直接「それは誉めすぎ。恥ずかしいので辞退します」と却下された。 ᴅılei:ᴅılei:lı ᴅılei:ᴅılei,ılʃ

ᴅclɑ ʅnɔɔȷ ᴅɔnnı elʃɔı ［人名］ミルフ＝クノース＝モンナ＝エルトア ［組み数字］１１／２８ ［レベル］２ ミルフは語源不詳。古アルカでの意味は「妖精」。ᴅc（女）/lɑ（軽やかな、靴を脱ぐ、身軽な）。lɑ は妖精の動きを示すときに使われる。ᴅclɑ はメトニミーとして「妖精」の意を持つ。クノースは「質問」の意味で、↾年ごろにの使徒の半数ほどで冠した名。彼女のアルカの喋り方が肯定文でも疑問文調だったことが理由。モンナは↾年に自ら名乗りだしたが語源不詳。その後セレンのウォンバスのキャラ名となる。エルトアは『カコ』から。 ［文化］ ミルフ＝クノース＝モンナ＝エルトア (ʃcɑ L|ɑəl|ᴅcʅ →) 第４期４代アルシェ第１１使徒。女性。ᴅclcı。１５８ｃｍ、４５ｋｇ。髪は黄色で肩より少し長く、猫っ毛。よくツインテールにしている。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。 ・『ミールの書』より 彼女の声はどちらかというと高く、透通るような声だ。また、彼女の声を聞いているとゆりかごに揺られているような不思議な気持ちになる。彼女の声ははっきりとした発音を紡ぐことはなく、むしろどの音ともつかない曖昧で揺らいでいるものだ。にもかかわらずそれがくぐもったり濁ったりすることはなく、甚だミールは幻想的な気分に浸された。 しかし、彼女の幻想的な声とは裏腹に、どこからともなく流れてくる笛の音は高く短くはっきりとした軽快な音であり、小気味良く１音１音を曲に合わせて紡いでいた。笛の音はその軽快さとは裏腹にどことなく冷たさを感じ、ミールの心の奥底に眠っている恐怖心を煽りたてた。そのせいか、自然と彼女の歌う歌詞が聞き取れてしまう。彼女はこう歌っていた。 【成句】 ᴅclɑ ʅien ᴅɔʅʃ ベッドの中のミルフ：まな板の鯉 ᴅclɑ ıȷelın ləʃ ᴅclɑ ᴅcɔl にこにこミクちゃんはいつも上機嫌：笑う門には福来る

ᴅclɑʅı ［芸術］美術館、博物館、ミュージアム ［レベル］３ 1ⅆ: 制 : 美術の場所 ［文化］ 人気のある娯楽スポット。最大はアルナのランスケルン美術館で、ルーブルとオルセーを足した規模に相等する。有料で、撮影は禁止。飲食も禁止。作品には触れられない。騒いではいけないが、ふつうに会話をする程度なら問題ない。

ᴅclɑȷeᴅȷ ［名詞］芸術科、アートクラス、芸術クラス ［レベル］５ ⅃1

ᴅclɑȷel ［歳時記］文化の日、芸術の日 ［レベル］３ ⅃1 ［文化］ ᴅcʅ ᴅcʅ の休日。学校では文化部の展示会がある。街では劇団やサーカスの公演が盛ん。ランスケルンが無料開放される。公園等の絵描きも依頼が増える。経済効果はそこそこ。

ᴅclɑɑel ［名詞］芸術学 ［レベル］３ μɑ;/ ⅃ʔ

ᴅclɑlccɑı ［天文］アークトゥルス、アークトゥールス、アルクトゥールス ［レベル］６ 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ セルメルやカコに観測されたデータと異なった位置に存在することから、不思議がったリュウが「ミルフ嬢のように踊る星のようです」と言ったことから、この名がついたという伝説。

ᴅclɑlenȷ ［筐堺］ミルフレンス ［レベル］５ μɑ;eᴅccl/ɑlenȷ ⅃⅃ ［文化］ 筐堺司：ᴅclɑ elʃɔı 筐堺国：elʃɔı, ıμɑı

ᴅclɑı ［地球の国名］ドイツ ［レベル］４ 1ⅆ: 制 : 古 :「ミクのもの ᴅclɑıl」が語源。即ち「ミクの国」という意味。

ᴅclɑın ［名詞］芸術家 ［レベル］３ μɑ;/ ⅃ʔ

ᴅclɑıμeɑcı ［ユマナ］ピラティス ［レベル］５ ⅃0: ドイツ生まれのレフィア

ᴅclɑelɑ ［言語］芸術言語、演出型 ［レベル］６ 1L ［語法］ 芸術用途の人工言語。芸術とは絵画だけでなく文芸も含む。アルカ、エルフ語、クリンゴン語。

ᴅclᴅ ［音楽］［運動］ダンス、舞い、踊り、たなびく ［動詞］ɥəl（内容や演目）を踊る、踊る、おどる 1↾: 制 : 古 :ᴅclee（舞う） ᴅclee: 【用例】 ın cnıʃ ᴅcnʃ ɔμ ᴅclᴅ ʅı sın ᴅcl ʃeeze. 花が風に吹かれて舞うのを見た。

ᴅclᴅncı ［美容］ふわふわの髪型。ソバージュほどチリチリしていない、リーザのような髪型。 ［レベル］３ 1L ［文化］ アルカで美人とされるのは、黒髪のストレート（フルミネア、クミール）と、金髪のふわふわ（リーザ）。

ᴅclᴅsc ［文字］踊る指 μɑ;/ ⅃ʔ ［文化］ cnʃhıɗ

ᴅclɑı ［人名］ミルダ＝ルティア、ミルダ、ミルダ王妃 ［レベル］５ 古 ［文化］ μɑ の王妃。リュシオン王の妻。リーザの母親。

ᴅclφıl ［格詞］～のせいで ［類義語］ᴅın ［反意語］ʅɔlȷeʃ ［レベル］２ ⅃0:dc nenı:ᴅcl φıl e ～（～の害により）が文法化したもの。アクセントは規則どおり φıl に置かれる。 【用例】 ın ʃclıʃ ȷɔɑı ᴅclφıl ıᴅɔ μəəɑ. 暴走車のせいで事故に遭った。

ᴅclhı ［人名］ミルハ ls ⅃⅃ ［文化］ 二人目は ᴅclhı。11 歳。魔族ディーレスと精霊のハーフだ。猫耳を持って生まれたせいで虐められてきた。魔族なのに気弱で泣き虫で怖がりな子だ。 しかしミルハのポテンシャルは強力なので、過度の恐怖を感じると無意識に周りのものを魔力で粉砕してしまう癖がある。 耳に極度のコンプレックスがあるため、常に帽子をかぶっている。頭に手が触れそうになると恐がる。撫でようとしても嫌がる。

ᴅclı ［形容詞］高貴な、地位の高い、身分の高い、階級が高い、家柄が良い、高級な、由緒ある ［反意語］nıμc ［レベル］３ ȷɔμn ［文化］ 高貴な色は紫。かつて紫の染料が高価だったため。

ᴅclıʃ ［名詞］高貴さ、身分 ［レベル］３ 1L

ᴅclıȷ ［歴史］オーパーツ ［レベル］４ 1L:ᴅcμɔʅ/lıȷ（神の手）

ᴅclın ［政治］貴族 ［反意語］ʅlın, leeᴅ ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ıʃe:ᴅclı ［語法］ 呼称可。その場合は前置が自然。 ［文化］ μɑ まで存在したが、ランティスが解体。その後、裕福な層を漠然と指すようになった。 【用例】 ᴅclın ʃ'ıuelınʃ 死神貴族。フレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクの４派がある。

ᴅclınʃcı ［名詞］お嬢様 ［レベル］３ ⅃1 ［語法］ 慇懃無礼になることも。意味そのままな場合も。使いどころが難しい。

ᴅclınʃɔnʅ ［政治］貴族 ［レベル］３ 1L ［文化］ カコ～シルク・アルミまでの身分の１つ。途中 μɑ で一度廃止されている。シルク・アルミ以降は、漠然と裕福で家柄の良い人間を指すようになる。

ᴅclınʅɔlᴅ ［政治］貴族制 ［レベル］４ 1L

ᴅclıb ［名詞］無職 ［類義語］clncın ［反意語］lılıb ［レベル］３ ⅃⅃

ᴅclııl ［名詞］母なし ［反意語］ᴅcʅıın ［レベル］３ μɑ;/ ⅃ʔ

ᴅclıılμı ［名詞］父子家庭 ［反意語］ᴅcʅıınμı ［レベル］３ μɑ;/ ⅃ʔ

ᴅclcı ［名詞］ミリア。女性のリースのうち、明るく可愛いほう。 ［名詞］お嬢ちゃん。呼びかけにも。 ［音楽］ソプラノ ［婉曲］女性器 ［レベル］２ ⅃1:ʅᴅccμ:ᴅccl（リボン） ⅃1 までは ɥənı< 古 :ɥənʅ ［文化］ 典型的には内向的で可愛い女性を指す。例えばリディアのようなタイプはミリア。 呼び掛けにも使えるが、ユンクのほうがミリアより女性らしいと考えられているので、あまり知らない女性に呼びかけるときは ɥənʅ を使うのが無難。ある程度知っていても ɥənʅ と呼んだほうがお世辞として当たり障りない。相手が ᴅclcı な子供の場合、ᴅclcı と呼びかけるのが自然。ɥənʅ と呼ぶと大人扱いしているように聞こえる。

ᴅcle ［植物］綿、綿花、わた、ワタ、コットン ［レベル］３ 1ԛ: 制 : 古 【成句】 ɑcɔ ᴅcle 耐える、歯を食いしばる：アユの魔法がなく、麻酔の技術もない状況で手術をしなければならない場合、患者に綿を噛ませて食いしばらせたことから。 【用例】 ın ɑcɔʃ ʃeel ᴅcle. 歯をくいしばって耐えねばならなかった。

ᴅcleʃ ［エルト］ミレット ［レベル］３ 古 ［文化］ エルフレインの姉妹のうち、妹のほう。ルフェルの腹心。

ᴅcleʃ,ȷzɑ ʅeμn, ᴅcleel ᴅcleel

ᴅclelcı ［料理］綿菓子 ［類義語］ɑlənɥeʃ ［レベル］２ 1ԛ: 制 : 綿の菓子

ᴅclen ［軍事］軍曹、ミレン ［組み数字］１６／２０ ［レベル］３ 1L:μcɑcı: ᴅclee から。「舞うように戦う」 ［語法］［文化］ ʅını

ᴅclen(⅃) ［接続詞］ᴅcl ［レベル］３ ⅃ʔ

ᴅclenc ［名詞］綿毛 ［レベル］４ ⅃1:ᴅcle/cnc

ᴅcleᴅzcμ ［宗教］神魔混合、ミレムジール ［ユマナ］シンクレティズム、神仏混淆 ［アクセント］ᴅcleᴅzЄμ ［レベル］５ ⅃0:ᴅcμɔʅ/eᴅılzcμ ［文化］ ɥəəᴅı ʕ91ⅆ アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ıμʃclcı と cȷʅınʃe を ıμcȷʅınʃe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける

ᴅcleμ ［名詞］王子、プリンス ［類義語］ıμɑcȷʃ、ʅɔhıʅə ［反意語］neeᴅe ［アクセント］ᴅclЕμ ［レベル］３ ⅃0:ᴅclı/eμc（高貴な血） ［語法］ 王位継承２位以下の男児。

ᴅclezɔn ［医療］綿棒 ［レベル］２ μɑ;/ ⅃ʔ

ᴅclec ［代詞］［ʅbʃn］ȷec ［レベル］２ ⅃⅃:ʅᴅccμ/μcɑcı

ᴅclec(⅃) ［名詞］鈴 ［類義語］ʃlcn ［レベル］３ μɑ;<ıμɑı ⅃ʔ

ᴅcleɔᴅ ［動物］プードル ［レベル］５ ⅃1:ᴅcle/ɔᴅı

ᴅclee,ɑ ᴅclᴅ ȷııl;e8

ᴅcleeȷd ［気象］積雲、綿雲 ［レベル］５ 1L

ᴅcleen ［美容］ポンパドール ȷᴅ;ᴅclees/ncı「舞い上がるように上に持ち上げる髪」 ⅃ⅆ ［文化］ ȷᴅ でできた。貴族の女性用。

ᴅcleeu ［感動詞］［μenʃe］さぁ、どうぞ。leeu より丁寧。 ［レベル］２ 1L:lcɔn

ᴅcleeuın ［感動詞］行ってらっしゃいませ ［レベル］３ 1L: 古 ᴅc/leeu ın（私のところを去られました） 【用例】 ᴅcleeuın, hıɗᴅıɾ 行ってらっしゃいませ、ご主人様。（メイドなので ɗ は震え音でなく弾き音を使うように）

ᴅcleeɑ ［感動詞］［μenʃe］ごめんなさい。ʃeeɥə より丁寧。 ［レベル］３ 1ԛ:ȷɔμn ［語法］ もともと leeɑ というのがあってその丁寧版だったが、leeɑ が ʃeeɥə に変わってしまったという経緯がある。ᴅcleeɑ は既に使われていたので変更されなかった。

ᴅcleeɥə ［植物］ȷeμɔn ［組み数字］５／９ ［レベル］４ ȷzl;ᴅclee,ɑ.ʅ ⅃1 【成句】 ᴅcleeɥə ʃcl ncᴅ enʅ ı ʅɔzəe ルティアの桜と凪の桜は色が違う：所変われば品変わる 【用例】 ᴅcleeɥə lelce 夜桜 len ᴅcleeɥə lel ce eʃ lınʃ ı. やはり夜桜は美しいな。

ᴅcleeɥə(⅃) ［建築］ミレーユ棟、桜棟 ⅃1 ［文化］ アルナ大西五号館の通称。校舎の周りに桜並木がある。

ᴅclees ［言語］ミレージュ、急上昇調 ［経済］インフレーション、インフレ ［動詞］ɥəl を ı に舞い上がらせる、急上昇する、舞い上がる、舞い上がらせる、舞い上げる ［類義語］ıφel ［アクセント］ᴅЄlees、ᴅclЕes ［レベル］２ ɑu;ᴅclee/scnı「空に踊る」 制？ ᴅclees:ᴅclees

ᴅcleel ［生物］羽 ［被服］フェザー ［類義語］［レベル］２ ʅeμn ɑ:ȷııl;ᴅclee/ıl ⅃0: 古 ᴅclee/l（舞うもの） ᴅcleel:ᴅcleel:lə ᴅcleʃ ［語法］ 一本一本の羽のこと。集まると翼 (ʅeμn) になる。

ᴅcleelucᴅ ［生物］大腰筋、腸腰筋 ［レベル］５ ⅃ⅆ<⅃⅃: 羽根のような形をしていることから。

ᴅclə,ılʃ ᴅcɥə, eᴅ <>ᴅcɥə

ᴅclənın ［感動詞］お帰りなさいませ ［レベル］３ μɑ;/ 1L:ᴅc/lənı/ın（私のところに来られました）

ᴅcləı ［丁寧］あなた様、あなたさま、お嬢様、奥様 ［レベル］２ Ɉ1

ᴅcı ［文末純詞］～ですか？ ［レベル］１ 1Ϥ: 制 nɔ:nɔ::ne,ılʃ ［語法］ あまり eɹ などの疑問詞とともには使わない。 【用例】 ʃə eʃ ᴅccl ᴅcıȣ これはりんごですか？

ᴅcıʃ ［単位］１０の３０乗 Ɉ1:ᴅcıneʃ

ᴅcıl ［料理］デリ、デリカテッセン、調整食品 ［レベル］4 1ʕ: 制 :ᴅcı/lɔn（珍しい食べ物）

ᴅcın ［μenʃe］ᴅcı。～か？ ［レベル］１ 1L:ᴅcı nɔn:nɔn

ᴅcın(Ɉ) ［遊女］［代詞］nɔn ［レベル］４ Ɉ1:ᴅyı 【用例】 ᴅcın ın lɔlc ʃyə ʃcl μınʒʃʃı yınnı. わっちゃにゃよう分かりんせん。 lɔl ᴅcınȣ ᴅccı eɹʃ ʃe hɔlɔ ʃclle. わっちかや？わっちの名はホロじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ᴅcın(ʔ) ［経済］ルティアの通貨 ［レベル］３ ɈɈ

ᴅcınʃeɔ ［感動詞］申し訳ございません、申し訳ございませんでした ［レベル］３ μɑ;/ Ɉʔ ［語法］ uınʃ

ᴅcıneʃ ［歳時記］大暑 ［名詞］１２時 ［組み数字］１２／２４ ［レベル］３ Ɉ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ᴅcıucl ［名詞］［形容詞］異常なし、異状なし ［レベル］４ μɑ;/ Ɉʔ 【成句】 ᴅcıucl eʃ lıucl ılıı. 異状なしが一番異状あり：機能性胃腸症など、症状があるのに「異状なし」と医者に言われると患者は極めて不安になる。「痛いから来てるのに異状なしとかふざけてろ。痛いから来てんだよこっちは」と考える。要するに医者が分類できず対処できずお手上げというわけだ。それを異状なしと嘯いてごまかしている。結果、患者は「異状なし」と言われることが一番異状ありに聞こえる――という意味の諺。現代医療の無力さと不勉強さを揶揄した、医療の限界を意味する諺。

ᴅcısı ［数学］無理数、無比数 ［レベル］４ 1L

ᴅcc ［擬声］みぃ、みー。ネコの鳴き声 ［文末純詞］リディアが使いだしたおんなのこ用の純詞。 ［レベル］２ 1Δ

ᴅccl ［植物］リンゴ、林檎、アップル、りんご ［ユマナ］［電算］マッキントッシュ、マック μɑ;ᴅccμuınl ［レベル］１ 1ʔ: 制 :ᴅccμuınl ミールの果物（『ミールの書』で代表的だった果物がリンゴ） heμen,ɾlu:heμen:lə 'ɔμeʃʃ（ルティアではリンゴは緑のイメージで、青系は男） ［語法］ アルカではリンゴの色というと赤であり、青や緑ではない。 ［文化］ heμen,ɾlu 【成句】 ［言葉遊び］ᴅccl φeɹ φeɹ ᴅccl. 腐ったリンゴがリンゴを腐らせる：悪貨は良貨を駆逐する。反対から単語を読んでも同じになる鏡像構造を持つ成句で、言葉遊びにもなっている。

ᴅccluelɑ ［料理］林檎酒、りんご酒、リンゴ酒、シードル、サイダー ［レベル］５ μɑ ɈɈ ［文化］ サイダーといっても炭酸飲料のサイダーではない。林檎酒のこと。炭酸飲料のサイダーは ılᴅccl。

ᴅcclᴅəe ［料理］リンゴ酢 ［レベル］４ 1ʕ: 制

ᴅcclφɔɹl ［料理］エダム 1ʕ: 制

ᴅccldıɑ ［化学］酢酸エチル（通称） ［レベル］５ 1L

ᴅcclɔ ［丁寧］［動物］猫 ［類義語］leʃ、ənc ［レベル］２ Ɉ0:ᴅcc（泣き声）/ lınlɔ（男の子→子供。ここでは単に指小辞として働く）

ᴅcclɔɹel ［歳時記］猫の日、ペットの日 ［レベル］３ Ɉ1:μcɑcı ［文化］ μɑ でリディアが制定。dıl lcn。元は猫を愛玩した日。現代ではペットの日として機能し、ペットビジネス関連企業が潤う。 現実にはリディアが制定した猫の日。ほかの祭日との日取りの兼ね合いで、セレンの飼い猫ノエルが家に来た日が選ばれた。

ᴅccl ［気象］蜃気楼 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅyəclʃ

ᴅccn ［形容詞］～のやつめ ［レベル］２ 1ɱ: 制 : 古 :eᴅcc（野卑のエクスプローダー） ［語法］ 卑称の１つ。指小辞が付いている分、eᴅc より意味が弱い。ちょっとムカッと来た相手に使える。本気で怒っていない場合にしか使えないので、使うことによって却って相手に「 怒ってはないよ 」という意思を表わすことができる。

ᴅccnyı ［名前］ミーニャ zını: 柔らかな女の子という原義。リディアの妹のミリアがイメージらしい。 ［文化］ ザナの飼い猫。白で少し茶色の模様がある雌。橋の上で泣いているのを助けたが、ザナはバランスを崩し、端から転落。川に落ちて足を怪我した。猫は無事だった。

ᴅccnı ［エルト］ミーナ。花を司る ［植物］花、草花 ［名詞］乙女（lız, ᴅını の総称） ［婉曲］女性器。 ［類義語］lccbe、ıμlını ［レベル］２ ɉııl;ᴅcn/nı 1ʔ ɑıu 頃 :ᴅel: 赤 :ᴅccnı（花）。「女の心」が原義。メル暦の制定に伴って起こった神話派の反対を抑えるために作られた。 ᴅccnı:ᴅcc nı:lı ɑlıns（樹花が男性で草花が女性）:ɉını,ılʃ ［語法］ 狭義の ᴅccnı は草花を指す。木に生える花は lccbe という。ただし広義の ᴅccnı は草花も樹花も両方指す。従って ᴅccnı のほうが意味が広い。 現実には古までは ᴅccnı と lccbe は対等な関係で、ᴅccnı のほうが広いということはなかった。制で lccbe は忘れ去られ、新生で ɈɈ まで放置されていた。 アルバザードでは ıμ まで ᴅccnı と lccbe は対等だったが、ı に入って ᴅccnı に広義の用法ができた。 ［文化］ → ɉɔɑlın メルは創世記では全ての花が季節に関係なく咲くことから、世界の中心を考えなくても良いと説明した。創世記は全ての花が一年中仲良く咲いていたが、花を司るエルトのミーナが花々を分断してしまった。 【用例】 ın ʃeμlıʃ lıɾlʃe lını cn ᴅccnı. 花を見にカルテに出かけた。 ɔl eμʃ ᴅccnı lənı ıʃɔlıɹ, ʃə ɑcı eᴅ lɔb lɔn ᴅccnı. ミーナ神がやってくると、世界中が花で覆われる。 ın cnıʃ le ᴅccnı ɔl lcʃe. 家族で花見に行った。 ᴅccnı eᴅ ᴅeʃ. 花が散る。

ᴅccnı(Ɉ) ［人名］ミーナ 1Δ ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組で、アリスの友人。髪は金髪のエアウェーブ。バンド「フィーナ」のベースを担当する。バンマス。

ᴅccnılı ［植物］［建築］花壇 ［レベル］３ 1L

ᴅccnıɹcɑ ［植物］花束、ブーケ ［レベル］３ Ɉ0: 制 : 花の束

ᴅccnıuılı ［農耕］花畑 ［レベル］３ ɈɈ

ᴅccnıuıel ［植物］花瓶 ［レベル］３ Ɉ0: 制 : 花の瓶

ᴅccnıᴅclees ［歳時記］花祭り、ミーナミレージュ ［レベル］３ Ɉ1:μcɑcı ［文化］ 春に咲く花々を集め、町中を花で彩る日。ɑəl ᴅcμ。植物園が無料開放となり、町中で花びらが舞う。

ᴅccnıᴅccnı ［俗語］キス、ミーナミーナ ［レベル］４ ʃᴅ;「花合わせ」。花と花をくっつけるという意味から。女性を花に見立てている。 Ɉʔ:llccz ［語法］ 女同士のキスのこと。百合 (ɑcıncɹ) などと関連付けられることもある。一般にいやらしいイメージより綺麗なイメージを持たれる。 広義にはペッティングも含まれる。 【用例】 lıɹ ıμıʃ ᴅccnıᴅccnı ɔn ᴅıcn. 彼女たちは互いを愛撫しあった：ɔn ᴅıcn とあるので広義で使われている。

ᴅccnıyənl ［婉曲］売春、売春婦 ［類義語］ᴅenʃe、ᴅenʃeɹ ［レベル］4 μɑ;/「花売り少女」 Ɉʔ ［語法］ ᴅenʃe や ᴅenʃeɹ の婉曲語。

ᴅccnıμenɹ ［言語］花言葉 ［類義語］yənıʃeᴅılc ［レベル］４ 1L:μcɑcı:ıμbıl elʃ ［文化］ 木にもある。木の場合は枝を贈る。本辞典では［花言葉］で検索可能。

ᴅccnı lclcı ［人名］ミーナ＝リシア ɈɈ ［文化］ アリス＝リシアの母親。

ᴅccnc ［名詞］無毛、パイパン、かわらけ、土器 ［形容詞］無毛な、パイパンな ［レベル］５ μɑ;/ Ɉɱ

ᴅccɑı ［人名］みーふぁ 1Lȣ ［文化］『ねこにっき』の登場人物。サンベル市出身。

ᴅccɑı yəʃcı ［人名］ミーファ＝ユティア ［レベル］３ 1L:μcɑcı:clᴅəɹ ← 制 :ᴅcuı: ミヴァだと娘の意味になってしまうため、音を変えた。 ［文化］ (ʔΔΔ_) 転生期のアステル。アルテナ＝ユティアがミロク＝ユティアの保存していた精子を用いて人工授精して出産した子供。アルバザード最後のアステル。１６０ｃｍの４７ｋｇと、やや小柄。茶色の髪に、青と緑のオッドアイ。ただしミーファは右が緑。

ᴅccᴅ ［名詞］節度 ［レベル］３ 1L:clᴅəɹ:μcɑcı:lᴅccμ/ᴅıcn

ᴅccμ ［論理］論、論理 ［名詞］理屈、理窟、りくつ、筋道、道理、ロジック、セオリー ［レベル］２ ɑu;e 赤 ［文化］ ・論理と感情 アルバザード人は論理と感情を明確に分ける。アルバザード人と議論をすると、すんなり彼らがこちらの言い分を聞くので驚くと思われる。しかしそれは論理的に納得しただけであり、感情的にそうとは限らない。従って、こちらが「じゃあそうしてくれるね？賛成だね？」と聞くと、平気で「いえ、論理的には正しいようですが、僕の正義には合いません」といって断ってくる。 これに怒るとアルバザード人は「行動を起こさせたかったんですか？議論したいのだと思っていました」と答える。アルバザード人は議論は客観的に何が正しいか相談する行為と捉えているが、同時に人間は理に適ったものをしなければならないわけではないとも考えている。あくまで感情を尊重する。逆に、理屈が合わなくても感情が動けばアルバザード人は動く。 従って、アルバザード人を説得したい際はまず感情で押す。議論は二の次である。彼らは人情深いため、共感してしまえば理屈に合わなくても協力してくれる。 もちろん理屈を軽んじるという意味ではない。むしろ ılᴅı と日常的に言う彼らは論理性を尊ぶ傾向にある。理に適っていることなら優先的に行い従うという価値観は持っている。しかし、仕事を離れると感情を行動原理とする割合が増えてくる。 ・論理展開の流れ 日本人は「序文→例示→結論」で理論を展開するが、アルバザード人は「結論→論拠→再結論」という流れで理論展開する。ɑlın ɑcɹʃ の用例などにネイティブの実例を見ることができる。 【成句】 cll ᴅccμ 論理的に行動する、論理を立てる、論理だって行動する lɔnʃ bıɹ ᴅccμ 問答無用 【用例】 lıɑ ᴅccμ 理論を立てる

ᴅccμ(Ɉ) ［人名］ミール ［レベル］２ 古 :ɹeμen(1Ɉ):lec e ᴅccμ:ᴅccμ（論理） ［文化］ → eʃel e ᴅccμ 『ミールの書』の主人公。１２歳の少女。セルフィッシュガーデンという場所に入り込み、そこで論議学という学問を学ぶ。

ᴅccμ(ʔ) ［工学］ミール、人工知能ミール ［レベル］４ ls:ᴅel;μɑ で書かれた lec e ᴅccμ の主人公 ᴅccμ から。 Ɉɱ ［文化］ メルが作った人工知能。人口の多い国で直接民主制を可能にする目的で作られた。直接民主制のメリットは国民全員の意見を直接反映できる点である。ミロク亡き後の脆弱なユティア朝で事実上採用されていた間接民主制では政治家が民意をしばしば無視することがあり、セレンは民意をどうにか反映させられないかと考えた。 ２０１２年現在の日本でも同じ問題があり、例えば消費税増税反対が世論調査で過半数を超えていようと、与野党のほとんどが賛成している状態で、民意を無視して消費税増税が可決されてしまった。また、民主党政権によるマニフェスト破りが横行したのも、できもしない都合の良い事を並べ立てて国民を騙し、選挙で政権を獲得したためで、これもまた間接民主制の弊害である。国民一人ひとりが政治に参加できる直接民主制なら今述べたような問題は起きなかった。 ls のメルは小学生の頃に人工知能ミールを着想し、高校時代から開発を始めた。ミールはインターネット経由で民意を集計し、世論を形成する人工知能である。国民は官僚（革命後は官僚はアドバイサーとして機能している）やマスコミやネットなどの情報源を基にネットを通じて法案を作成したり法案賛成の署名活動をしたりする。そのデータをミールは集計・処理し、市・県・州の地方自治体単位ないし国家単位でそれぞれ世論を形成する。 ミールは形成した世論をレスティミールに提出する。ミールが運用されたとき、メルはアヴァンシアン所属だったため、ミールとレスティミールはアヴァンシアン内にある。ハッキングを防ぐためレスティミールは外部と接触させていないため、ミールで形成したデータは外部記憶容量に記録され、アヴァンシアンの技術部による人的作業でレスティミールに提供され

る。　以下の作業は leȷʃcᴅcɥ を参照すること。

ᴅccɥɑel ［論理］論理学　［レベル］5　ɥɑ;/　ɺɱ　［文化］　→ lec e ᴅccɥ, ᴅcɥȷɑel

ᴅccɥoıȷʃ ［形容詞］［ネガティブ］（ᴅccɥoıȷʃın で）理屈っぽい　［動詞］［ネガティブ］ɥəl という内容の論理を振りかざす、論理を振りかざす　［レベル］4　ɥɑ;/　ɺʔ　［文化］　もともとアルバザード人は論理的に喋るのが良いこととされているため、日本ほど「理屈っぽい＝悪い」というイメージはない。ᴅccɥoıȷʃın はあまりに非常識的なほど過論理な場合や、逆に自分が論理的でなく相手に負け惜しみで言う場合に使う。　一般的に女のほうが感情の生き物なので、論理で整然と押し通してくる男は生理的に受け付けないことがあり、「あの人は理屈っぽいから嫌だ」などということがあるが、たいていそういう女は頭の弱い馬鹿女であることが多い。よってこの言葉は底辺や女ほどよく使うイメージがあり、使えば相手を罵ることができる反面、自分が馬鹿でございますと自己紹介するようなもので、諸刃の剣である。

ᴅccl ［被服］リボン　［レベル］2　古：舞うものが原義　【用例】　ɑɔʃ ᴅccl リボンを結く

ᴅccl uılzı ［人名］ミール＝ヴァルザ　ɿL:clᴅəȷ:ɥcɑcı　［文化］　レイユの政治家。女性。ライエン＝ヴァルザの子孫。アミナル党首。

ᴅccldɔȷı ［被服］リボンタイ、リボンネクタイ　［レベル］4　ɺʔ

ᴅcclɥı ［人名］ミリア＝ルティア　［芸術］工芸、手芸、手工芸　［レベル］4　古：語源不詳。手芸のほうは彼女の得意分野であることから。［文化］（ʃcɑ ɱ ɑıu ᴅel →）第４期４代アルシェ準ハルマ。リディアの実妹。【成句】　ᴅcclɥı ʃcȷ ʃcl uec ıuıc 平凡なミリアも何かしら特徴がある：無くて七癖　ᴅccclɥı ıȷ nı sɔ cᴅ ɥıȷ uıl 仏の顔も三度まで

ᴅcclɥıʅıȷ ［名詞］誠心誠意　［レベル］3　ɺɺ:「ミリアの世話」。非常に気立てが良いことから。

ᴅcclɥın ［芸術］工芸品　ɥɑ;ᴅcclɥı/en　ɺʔ

ᴅccı ［人名］ミネア、ミーア　古：語源不詳　［文化］　（ʃcɑ Ɂ ɑıu φcl →）フルミネアの実妹。

ᴅccı(ɺ) ［親族］娘ちゃん、私の可愛い子　［レベル］2　ɿL:ɥcɑcı:ᴅcuı の音を弱めたもの。恐らく lccı に合わせた。［語法］　日本語には「父さん」→「父ちゃん」はあるが、「娘」→「娘ちゃん」はない。娘ちゃんに当たるのが ᴅccı。

ᴅccı(ʔ) ［遊女］［代詞］nɔın　［レベル］4　ɺɿ:ᴅccı

ᴅccı,ɑu　ɑlcı　e

ᴅcɔ,ıʅʃ　ʅeʃ　ɑɔueʃ

ᴅcɔʃɔn ［植物］楸、ヒサギ、ひさぎ、きささげ、キササゲ、梓実、しじつ、シジツ。キササゲとしての楸。［類義語］dıʃʃel。別物。［レベル］5　zφ;zφ で ueᴅı から ȷcczcı に伝わり、同 zφ で ləʅleʃcı を介してレスティルへ生薬としてもたらされた。　ɺɺ

ᴅcɔl ［形容詞］上機嫌な、うきうきした、ウキウキ、気分がいい、浮かれている、うかれている　［動詞］ɥəl を上機嫌にする、機嫌を取る　［類義語］ınsəɥ　［反意語］nıeȷ　［レベル］2　@ ɿL　【用例】　ın leeuıʃ ɥı ı ɑeʅı ʅɔnʃ nı ᴅcɔl. うきうきした気分で学校へ行った。　nɔn ıʃ ᴅcɔl ᴅcl ʃıəʃ ᴅelʃe. ワンピースを買ったので上機嫌だった。　ın nıʃ ᴅcɔl ᴅcl hıʅ ɥə ɔn ȷıb ȷıᴅ. 新しい服を褒められたので気分が良かった。　lcc zı cʅncʅ "ɥı" ᴅcɔlel ʅɔnʃ eelcʅ ı lə. リーザは振り返ると、上機嫌で「えぇ」と答えた。

ᴅcɔɥʃ ［医療］無月経　［レベル］4　ɿL

ᴅceȷʃ ［丁寧］お名前、芳名、ご芳名　［レベル］3　ɺɿ

ᴅceȷʃɔl ［感動詞］どうぞよろしく　［レベル］3　ɺɿ

ᴅcel ［魔物］ミエル（無顔）：第五十八天：光の空天　［レベル］5　ɿL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel: 顔なし　［文化］　憑族。顔がのっぺらぼうな鎧武者。顔は丸くて不気味に光ってる。鎧の中身も光っている。戦場で風化した死体が着てた鎧に光の魔物が憑依したもの。

ᴅcəʃ ［名詞］空白、空、カラ、空欄、ボイド、ヴォイド、ブランク、Φ、ファイ、エンプティ　［数学］空　［形容詞］空白の、空の、何もない、空っぽな　［電算］スペース　［レベル］3　ɺ0:ᴅɥə/ʃe（なにもないような）

ᴅcəʃnɔl ［数学］空集合　［レベル］5　ɺʔ:ᴅel

ᴅcəʃʃɔʃȷ ［電算］スペースキー　［レベル］3　ɺ0

ᴅɔ ［名詞］形、形式、フォーム、形状　［名詞］外見、姿、姿形、造形、見た目、外観、図形、容貌、見てくれ、見かけ、容姿→ ɔlᴅı　［レベル］2　ɿʔ: 制：古 :ᴅɔıʃ（積み木）から。

ᴅɔ,ɑ　hıcʃ　e

ᴅɔʃcʅl ［動詞］ȷɔl は ɥəl の形を ı に似せる、似せる、象る、かたどる、模す　［レベル］3　ɿL:ɥcɑcı:ıɥbıʅelʃ　【用例】　ʃə eeȷʃe eʃ ᴅɔʃcʅl ı ᴅccɥ. このエーステはミールの文字をかたどっている。

ᴅɔʃɔı ［生物］人中　［レベル］5　ɺɿ:ᴅɔl/ʃɔı

ᴅɔʅ ［動詞］ɥəl を眠らせる、眠らせる、眠る、ねる、寝る　［音楽］休符　［電算］［動詞］ɥəl（パソコンなどを）終了する、終了する、終了させる　［類義語］ɥəncȷ　［反意語］neʃ　［レベル］2　ɿʔ: 制 :ȷɔɥn:ᴅɔlɔʅıȷ。ᴅɔlɔ の部分が意識が低くなるという意味で、アルシェの lɔᴅɔ（眠る）にあたる。　:::ᴅɔʅə,ıʅʃ　［文化］　十二時が近付くと寝る準備をし、十二時には寝てしまう。安眠できるように生活しているので大抵寝つきは良い。アルバザードはベッドで寝る。一人ずつ自室にベッドを持っていて、そこで寝る。布団文化はない。布団はあるが、ベッドがない場所で仕方なく寝るときに非常用道具として使う。寝るときは電灯を月光に切り替える。アルバザードの電灯は月光モードというのがある。ちょうど月の光と同じくらいの光を作るモードである。人間が最も安眠できるのは月光と同じ程度のルクスであることからこのモードが付いている。このモードはベッドのある部屋の電灯にしかない。トイレの電灯には当然付いていない。月光モードはセットした起床時刻になると自動的に起床モードに切り替わる。たとえば六時にセットしたとすると五時の終わりから徐々に光が強くなり、六時には朝日と同じくらい強い光を放つようになる。これによって自然な目覚めが可能である。起きたら部屋の窓を開け、太陽光を入れる。太陽光を少しでも感知すると電灯は弱まる。部屋の明るさが一定以上になれば自動で消灯する。なお、アルバザードの一般的な睡眠時間は１２時から７時半。　【用例】　ın en ʅıʅᴅı ᴅɔʅ ȷı ʅɔnɔɔʃe. １２時より早く寝ることはほとんどない。　ın ᴅɔʅıʃ ucl ᴅcl ɑɔ le ɥcb lıɑ. 蚊の飛び回る音で寝付けなかった。　ın ᴅɔʅıʃ lıʅ ɑə uecn. もう少し寝ていたかった。　ın sıʅıʃ ᴅɔʅ uın uıɑel. 早く寝ることに決めた。　ın ᴅɔʅıʃ ı ɑııɥ nɔu. 朝の遅い時間まで寝ていた。　ın ᴅɔʅ lıʅ ᴅcʅʃel cᴅ ʅeȷʃ. 明日はゆっくり寝ていたい。　ın ʅəcʃ ɑc ȷı ᴅɔʅ. 寝る前に夜食を食べた：何か食べたとする。　ın ᴅɔʅ uın uıɑel. 早く寝るつもりだ。　ın ᴅɔʅ ıʅ uıɑel ʅını en ucz dcnı e ʅeȷʃ. 明日の約束に遅れないよう、早く寝よう。　ın en ᴅɔʅıʃ ıʅıʅʃ nɔɑ ʅını cn ɑelȷ. 映画を見るために夜更かしした。　ın ᴅɔʅ lc ȷıcn cl ɔᴅc eȷ ʅəʅc ɥınel. すべてのドアに鍵がかかっているか確認してから寝る。　ın ᴅɔʅ ȷen ıȷʅel cn ᴅın ın eȷ ınc ʃcnʅı. とても疲れたのですぐに眠れそうだ。　ʅɔᴅɔ, ın ᴅɔʅ ucl ɥınel cᴅ ɑcȷ nı. 今日はよく寝れない気がする。　ın ᴅɔʅ ıʃ ʅɔnʃ en ʅəc ɑənel. 夕飯を食べずに寝た。　ın ᴅɔʅıʃ ɥınel. よく寝た。　☆ ın ᴅɔʅ ɑlɔnel{ɑɥeᴅel}. 私は眠りが浅い｛深い｝：夢は居るものなので、遠く夢の世界にいることが深い眠りとされる。実際眠りが深いときはノンレム睡眠だとしても、言語上はそのようになっている。　lə lcɑcı ɑɥeᴅel nɔɑ ɥəlʃ ʃcȷȷe. 紫亞は夕月より眠りが浅いのよ :ɿL:ᴅel　ın ᴅɔʅıʃ φıȷʃel cᴅ ʃɔlel. 昨日は一睡もできなかった。　ȷıı, ın ᴅɔʅ uın. lcɑcı. さて寝ようかな。おやすみ。　ın ᴅɔʅ uın lc ʃeɥ ɑɔə leᴅ. 何曲か音楽を聞いてから寝よう。

ᴅɔʅ,ȷzl　ᴅeʃ、ᴅcᴅ　ᴅɔ,ɑ/ʃe,ɑ

ᴅɔʅʃ ［名詞］ベッド　［レベル］2　ɿʔ: 制 :ᴅɔʅ（寝る）

ᴅɔʅȷıb ［被服］パジャマ、寝巻き、寝間着、ナイトウェア、ネグリジェ　［レベル］2　ɿʔ: 制：寝る服　【用例】　ın ıȷcbıʃ ᴅɔʅȷıb. パジャマを脱いだ。　ın ȷıbıʃ ȷıᴅel ᴅɔʅȷıb. パジャマに着替えた。

ᴅɔʅȷɔɥʃ ［名詞］寝冷え、ね冷え、寝びえ、ねびえ　［レベル］4　ɥɑ;/　ɺʔ　【用例】　ʃcl ᴅɔʅȷɔɥʃ 寝冷えする　ın ʃcl eɑı ᴅın ʃclıʃ ᴅɔʅȷɔɥʃ cᴅ ɑcȷ. 今日は寝冷えしたせいで風邪を引いている。

ᴅɔʅnı ［医療］睡眠欲　［レベル］4　ɥɑ;/　ɺʔ

ᴅɔʅnıɥə ［医療］睡眠障害　［レベル］5　ɿL

ᴅɔʅuıʅȷ ［名詞］寝棟　［レベル］4　ɿL:ɥcɑcı:ıɥbıʅelʃ　［文化］　学校に備え付けられた泊まるための施設。ディアセル前やメルセル前の繁忙期には学校に泊りがけで勉強する人が多い。そのような場合は寝棟という場所に泊まり込みをする。寝棟は校舎とは独立している。寝棟は個室で、同じ構造のフロアが何階にも聳え立っている。個室の広さは一畳程度。たくさんの生徒が寝泊りするため、狭くなければスペースを確保できない。風邪を引かせないよう、廊下の空調設備は整っているが、部屋に空調設備はない。ドアに換気のための通気口がある程度である。無人の状態の部屋は全て開放されているので空調が整った廊下と同じ温度になっている。一度人が入ってドアを閉めれば、外との換気が行われるのはドアの通気口からだけである。そうすると廊下の暖気が入ってくるので寒くならない。個室には窓がなく、外の風は入らないので安心である。火気厳禁。スプレー式の消火器が各部屋に設置されている。部屋のスペースを効率良く使うため、個室のドアは引いて入るドアになっている。廊下側に開くドアであり、教室とは逆である。この絶妙な狭さには他にも理由がある。一畳程度の部屋にはどうやっても一人しか入れないので、カップルなどによる不正利用はできなくなっている。個室は中から鍵がかけられる。また、深夜になる前の廊下には見回りがいる。更に深夜の廊下には監視カメラが作動している。夜に具合が悪くなれば廊下の内線電話で保健棟に連絡できる。

ᴅɔʅucl ［医療］床ずれ、褥瘡　［レベル］6　ɿL　［語法］　医学的には hıu に分類される。

ᴅɔʅᴅıcᴅ ［名詞］寝相　［レベル］3　ɿɱ: 制：寝る姿勢

ᴅɔʅᴅeȷl ［名詞］寝袋　［レベル］5　ɿɱ: 制：寝る袋

ᴅɔʅdcʃı ［医療］睡眠薬　［レベル］5　ɿL　【用例】　ın lenıʃ ᴅɔʅdcʃı ᴅın ᴅɔʅ ucl. 眠れなかったので睡眠薬を飲んだ。

ᴅɔʅɥenȷ ［動詞］寝言　［レベル］3　ɿL　【用例】　ın ıcl ıɥ ᴅɔʅɥenȷ. 私は時々寝言を言う。

ᴅɔʅl ［名詞］ホテル、旅館、宿、宿屋、宿泊施設　［レベル］3　ɿʔ: 制 :ᴅɔʅcʅl（眠るための建物から）

ᴅɔʅl,ȷzl　ıʅıȷ　ᴅɔʅ,ȷzl/ıl,ɑ "ʅɔɥ le ɑııl leeu ıl"

ᴅɔʅı ［名詞］布団、ふとん　［レベル］2　ɿɁ: 制 :ᴅɔʅıbe（寝るときの布）

ᴅɔʅıl ［アトラスの国家］モカル　［レベル］5　ɿL:ɥcɑcı: 低い土地

ᴅɔʅcn ［植物］オジギソウ、ミモザ　［レベル］5　ɺ0: 眠る花　［文化］　カレイワ原産の花。ルティア経由でナディアに流入。一年草として園芸用に用いられる。

ᴅɔʅcᴅ ［名詞］就寝時間　［レベル］4　ɿL:ɥcɑcı

ᴅɔʅɔ,ɑ　ıʅ　elʃ:ʅɔᴅɔ.φeʅȷ

ᴅɔʅɔlcȷı ［亜魔］ミコリサ　［ユマナ］コロポックル、コロボックル　［レベル］6　ȷᴅ<ıʅʃ;ᴅcʅɔlc/lcȷı　ɺʔ　［文化］　雨の小人。カイラの亜魔。アルティア原産。さといもの葉を傘にした霊で、雨になると現れる。好戦的ではなく、人を不思議な世界に招き入れようとする。

ᴅɔʅenȷcd ［医療］睡眠時無呼吸症候群　［レベル］6　ɿL

ᴅɔʅez ［建築］寝室　［レベル］3　ɿL

ᴅɔʅə,ɑ　ᴅeɑ　ᴅɔ/ʃe「下に行く」

ᴅɔʅə,ɑ(ɺ)　ʅəueɥ　ᴅɔ/ʃə「低く言う」

ᴅɔʅələ,ıʅʃ hcȷ <>ᴅɔ

ᴅɔl ［格詞］～に接した、～に接して ［動詞］ɥəl を ı に接触させる、接触させる、接しさせる、接する、くっつける、接している、接触する、くっつく、隣接する、しがみつく ［類義語］ıᴅɔl ［反意語］ᴅɥəɔ、neȷ ［レベル］2 ɥɑ;ᴅɥəɔ 1ɱ: 制 : 古 :ᴅɥəɔ（離れた）【用例】 lınʅleɥn lı ᴅɔl alıᴅel. ランスケルンはフラメルに隣接している。

ᴅɔlʅ ［再帰動名詞］いびき、鼾 ［動詞］ɥəl にいびきをかかせる ［レベル］3 1ɱ: 制 :ᴅɔʅlcu 【用例】 ʅıʅʅı ıɥ ᴅɔlʅ uıɥ ᴅɔʅ aəɔl. お父さんは寝ているときに酷い鼾をかく。

ᴅɔlucın ［物理］近接力 ⅃0

ᴅɔlueᴅl ［数学］［物理］［地学］平射 ［レベル］6 ⅃0: 投影対象の任意の一点に光源が接して置かれることから。

ᴅɔld ［被服］レオタード ［レベル］4 1ɱ: 制 :ᴅɔlȷıb「密着服」

ᴅɔldıl ［経済］連結表、連結財務諸表 ［レベル］6 1L

ᴅɔlhɔʅ ［動物］アワビ ［レベル］4 1ɱ: 制 : くっ付いた貝

ᴅɔlɥecn ［数学］接線 ［レベル］4 1L

ᴅɔlzɔl ［数学］正接、タンジェント ［レベル］5 1L: 単位円の接線上の長さ。厳密には弦ではないが、三角関数はみな命名を揃えた。中国ではかつて正切としていたが、これは弦の観点で見たネーミング。

ᴅɔllәʅ ［動詞］ɥəl を摺って歩く、摺る、摺り足で歩く、歩く ［普通動名詞］すりあし、すり足 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

ᴅɔlɔddıl ［経済］連結注記表 ［レベル］6 1L

ᴅɔlen ［接続詞］ᴅɔl ［レベル］3 ⅃1

ᴅɔȷ,a hıcʃ ᴅɔ（低い）

ᴅɔȷʃ ［名詞］模型、モデル ［レベル］3 古

ᴅɔn ［形容詞］はっきりした、明瞭な、ハッキリした、明白な、明確な、確かな、確実な、鮮明な、明らかな、彩やかな、顕著な、色が原色に近い、鮮やかな、意識がハッキリしている、意識が明瞭である ［文頭純詞］確かに（～かもしれないが）: ȷe ᴅɔn（確かに）と異なり、含みのある言い方で、ʃıl と呼応する。口語の場合、ᴅɔn を強く言うことで文頭純詞になって ʃıl と呼応するが、弱く発音されると ȷe がなくてもただの副詞の倒置になり、ʃıl と呼応しない。 ［音楽］マルカート ［反意語］neᴅ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 語源不詳 ［語法］ ᴅɔn は明らかで曖昧さがないさま。証拠が明白、意識が明瞭、合格が確実、判断が明白、態度が明瞭など、全て ᴅɔn である。態度がはっきりしているとは主張を曖昧でなく述べるさまである。喋り方が明瞭で聞き取りやすい場合も ᴅɔn である。また、色が原色という意味もある。 【成句】 ᴅɔn ɥən aııl eʃ acɥʃ 太陽が明るいくらい明らかな: 火を見るより明らか、火を見るよりも明らか 【用例】 ʃə eʃ ᴅɔn lel lı ʃcl ʅıhc. 彼に罪があるのは明らかだ。

ᴅɔn(⅃) ［文末純詞］［ɥenʃe］［幼児］～だもの、～だもん。主張の断定 ［レベル］1 ⅃1:ɥcɑcı:ᴅɔn<nɔn<nɔnnɔ ［語法］ 下から上への主張。同等から同等への主張。論理的な主張というより感情を優先した子供じみた印象がある。 【用例】 ʃə ʃe ɥıᴅ ᴅɔn. これが悪いんじゃないもん。 nɔn ʃe eucʃ ᴅɔn. 私が悪いんじゃないもん。

ᴅɔnʃ ［動詞］ɥəl を浮かせる、浮かせる、浮かぶ、浮く ［普通動名詞］［再帰動名詞］浮遊 ［類義語］ləʃe、eɥəʃ ［レベル］3 古 ［語法］ ᴅɔnʃ は水に浮かせる。ləʃe は空中に浮かせる。

ᴅɔnʃucın ［物理］浮力 ［レベル］4 ⅃0

ᴅɔnʃıdl ［名詞］ホバークラフト、ホーバークラフト ［レベル］5 1ʕ: 制

ᴅɔnʅ ［普通動名詞］［再帰動名詞］移住、転校、転勤、引越し、異動 ［動詞］ɥəl を ı に転勤させる、転勤させる、転勤する、引越しさせる、引っ越す ［言語］転移 ［反意語］neᴅʃ ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 hıɥ:ᴅɥəʅe（行ってしまい、いなくなってしまう）

ᴅɔnʅaelın ［名詞］留学生 ［レベル］4 ⅃0:lcɔn

ᴅɔnʅıȷʃ ［名詞］転校生、転入生、移民、移住者 ［レベル］3 1L ［語法］ 区別する場合、転校生は leeuın、転入生は lənın。 【用例】 lcʃı e ᴅɔ nʅıȷʃ eʃ ɑcᴅ ıl cl ʅılʃe. 移民の子孫はどこに行っても居場所がない。

ᴅɔnȷ ［名詞］浮き袋、浮き輪、うきわ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ᴅɔnʃᴅeȷl（浮く袋） 【用例】 ın ılɔʃ uɔl ʅɔı ıl eeu ʅɔn ᴅɔnȷ. 浮き輪に捕まって波に乗って遊んだ。

ᴅɔnȷınse ［名詞］根拠 ［レベル］4 ⅃ʔ:ləlcı<hɔnɔȷınse:⅃1。⅃ʔ まで hɔnɔȷınse だったが ⅃ʔ にルシアが「原因」が「固い」というのは意味が分からない。「原因」が「明瞭」なら意味が分かると言い出し、複合語の hɔnɔȷınse を ᴅɔnȷınse と言い換えたことから。

ᴅɔnncᴅ ［色］原色 ［レベル］4 1ɱ: 制 : ハッキリした色

ᴅɔnᴅɔn ［名前］モンモン ⅃0:ᴅɔᴅɔn ［文化］ アリス＝アンシャルの飼いモモン。白くて大人しい。オス。

ᴅɔnı ［形容詞］既知の ［反意語］neᴅc ［レベル］3 1ɦ: 制 :ᴅɔn

ᴅɔnıʃc ［芸術］彩度、純度、サチュレーション、クローマ、ｓａｔｕｒａｉｏｎ、ｃｈｒｏｍａ ［反意語］acɥʃıʃc ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ →lcȷʃcnı、ueɥcᴅ 色がいかに原色に近いか。より厳密にいえばいかに色相環の色（純色）に近いか。

ᴅɔncn ［植物］チューリップ、鬱金香（ウッコンコウ） ［レベル］3 1ʔ: 制 :ᴅɔnᴅcnı（原色の花） dıddı:dıddı

ᴅɔncı ［名詞］未知の人、知らない人、赤の他人、面識のない人 ［形容詞］未知の、見知らぬ ［類義語］neᴅc ［反意語］cʃɔn ［レベル］2 1Δ: 制 : ᴅelcɑcı : ᴅɔnc（未知） ［語法］ 制を知らずに ᴅɔnı しか知らない世代は「なんで未知の人なんだろう？」と思うかもしれない。 【用例】 nıᴅʃ ᴅɔncı. 知らない人には気を付けなさい。

ᴅɔnɔ ［動詞］ɥəl（対象）を ı（場所）に止める、止める、停める、静止させる、留める、押さえておく、駐車する、止まる、停車する ［魔法］モノ（ストップ）。中位時魔法。相手を一時的に停止させる。 ［普通動名詞］一時停止、停止、停車 ［動詞］ɥəl を一時停止させる、一時停止する。機械などを。 ［類義語］ȷɔlʅ ［反意語］ɔu、ılᴅɔnɔ ［レベル］2 a;e。「壁」、「止める」 赤 ᴅɔnɔ:ᴅɔnɔ:lı ᴅɔnɔ ［語法］ 椅子から立とうとする人を制するなどの意味でも使う。 【用例】 ᴅɔnɔ ʅeɥn ı ȷɔlʅ 公園にバイクを停める

ᴅɔnɔȷ ［法律］勾留 ［動詞］ɥəl を ı に勾留する、勾留する ［レベル］6 1ʔ: 制 :ᴅɔnɔ

ᴅɔnɔn ［生物］鼠蹊部 ［レベル］5 1L:dııl:ᴅɔnɔ（止まる部分）。（人間一般でなく、特定の誰かの）血が滞りやすいという意味らしい。

ᴅɔnɔnıucl ［医療］鼠蹊ヘルニア、脱腸、女児における卵巣のヘルニア ［レベル］6 1L:dııl

ᴅɔnɔᴅɔnɔ ʃc ᴅɔnɔlc/ᴅɔnɔlc

ᴅɔnɔɑɔıl ［経済］固定資産 ［レベル］5 1L

ᴅɔnɔɥcca ［経済］固定負債 1L

ᴅɔnɔlc,ıʅʃ nɔə ᴅɔʅələ

ᴅɔne ［交通］停留所 ［レベル］3 1L:ᴅɔnɔ 【用例】 ☆ʃə ᴅɔlȷ ⅃0 aec ucı c ɥı ı ᴅɔne e ȷɔl. 家からバスの停留所まで２０分くらいかかる : 本来は ʃə ᴅɔlȷ ⅃0 aec ucı lel el ʅe ᴅɔne e ȷɔl c ɥı で、ʃə を lel が受けているが、煩雑なので ʃə を受けない文になっている。つまり ʃə が形式主語になっている。

ᴅɔᴅ ［植物］根、ルート、根っこ ［動詞］ɥəl の根を ı に植え付ける、植えつける、植え付ける、植える、うえる ［レベル］2 au; ↓ 古 :「下にある」 ᴅɔᴅ:ᴅɔᴅ:lə ᴅɔı 【成句】 ɔᴅ ᴅɔᴅ 本質的に ʃcl{ȷc} ᴅɔᴅ 安定している {不安定だ} 【用例】 ［卑語］bız ʅəc ᴅɔᴅ ʃcȷ, besıɾ 根っこまで食うのか、このデブ！ : アルバザードでは根っこは貧乏人の食べ物。 ᴅcn ıllı eʃ ᴅenʃe ɔn ᴅɔᴅ. 女は本質的に売春婦である。

ᴅɔᴅʅəc ［形容詞］［ネガティブ］（主語が貧乏な場合に）貧しい、極貧の、飢えに飢えた、甲斐性なしの ［形容詞］［ネガティブ］（主語が金持ちの場合に）どこまでも強欲な ［類義語］ʃcɑ ［反意語］φınʅeᴅȷ ［レベル］3 ⅃0: 根すら食べる。アルバザード人は元々根菜を食べなかったため。

ᴅɔᴅȷ ［名詞］起源、オリジン、発端、由来 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ᴅɔᴅ（根っこ）

ᴅɔᴅuınʃ ［法律］憲法 ［レベル］4 1L: 根となる法

ᴅɔᴅzelɔ ［生物］脳幹 ［レベル］5 1L: 脳において、根のような位置と形状

ᴅɔᴅıɥʅɔ ［言語］根ノード ɥɑ:ᴅel;/ ⅃ʔ:ᴅel

ᴅɔᴅɔ ［地学］崖、断崖、クリフ、岸 ［レベル］3 古 :ᴅɔᴅɔ（崖）「落ちる落ちる」の意。 【用例】 ın nıʃ ueᴅ ɥən nɔȷ lʃıᴅeȷ hıl ᴅɔᴅɔ. 崖の上に立っているような恐ろしい気分だった。

ᴅɔᴅɔ,a ᴅɔl ᴅɔ/ᴅɔ

ᴅɔᴅɔn ［魔物］モモン（猫熊）: 第八十五天 : 利の空天 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel: 鳴き声から ［文化］ 妖族。ずんぐりむっくりな猫のような熊のような姿をしている。大きさは大きめの兎程度。愛らしい格好で、ブリードしてペット化されている。「ももん」という変な鳴き声をする。飼い主に忠実で、よく懐く。 【成句】 ᴅɔᴅɔn ʅıen ȷı uel 掃溜に鶴。空天に悪魔が並ぶ中、モモンだけ癒し系でほっとできることから。

ᴅɔᴅɔe ［地名］モモエ、モモエ市、滝水市 ［レベル］6 ⅃⅃:ᴅɔᴅɔ/e「崖っぷちの水→滝」 ［文化］ ファイマン市東部の市。ファイマン線の終着駅がある市。

ᴅɔɑ ［動詞］ɥəl（場所）を登る、登る、のぼる、昇る ［反意語］ᴅea ［レベル］2 1ɦ: 制 hɥəʅ:hɥəʅ:'ɥəʅ 【用例】 ᴅɔɑ nıa 階段を登る

ᴅɔɑʃɔɔɑ ［名詞］上り坂 ［レベル］3 ⅃0:ȷeɥen/ɥcɑcı

ᴅɔɑʃeeze ［気象］上昇気流 ［レベル］4 1L

ᴅɔɑɔ ［地学］礁 ［レベル］4 1ɦ: 制 : 古 :ᴅɔɑɔl（下の石）

ᴅɔφ ［電算］ダウンロード ［類義語］ᴅcl ［反意語］neɑ ［レベル］3 ul;ʃeel @⅃ʔ ［文化］ ＤＬサイトやリンクなどにコメントがついていることがある。日本では何もついていないことが多い。アメリカではｅｎｊｏｙと書いてあることが多い。ＤＬリンクなどに何と書くかというのはそれ自体が文化的な事項である。 ときにアルバザードでは ınȷclaʅelʅɔ ないし ȷclaʅelʅɔ と書いてあることが一般的である。どうぞご自由にというイメージで、日米双方とも異なる感覚である。

ᴅɔφl ［植物］カボチャ、かぼちゃ、南瓜 ［レベル］2 zφ;aɔueʃ lılʃı: かぼちゃの食感のオノマトペ。 x:ᴅɔφl

ᴅɔφlᴅıuc ［化学］ビタミンＡ ［レベル］4 nɑ;/ ⅃ʔ ［文化］ ᴅıuc

ᴅɔφloıcn ［ユマナ］ハロウィーン、万聖祭 ［レベル］4 1ʕ: 制 : 万聖節の前夜祭であるが、魔女の変装やかぼちゃのランタンが目を引くことから。

ᴅɔφlɔ ［被服］オドショース ȷᴅ;ᴅɔφl/ɥɔlɔ ⅃ɱ

ᴅɔd ［生物］靭帯、靱帯 ［レベル］4 lılʃı「体のゴム」

ᴅɔdȷ ［動詞］［武道］ɥəl を ı（場所）に組み伏せる、組み伏せる、組みふせる ［動詞］ɥəl（事柄）を打ち破る、打ち破る、打ち勝つ。苦難の末勝つというイメージ。 ［レベル］3 ⅃0:ᴅelcɑcı lceɥ:ᴅɔnɔ/dɔu

ᴅɔdı ［植物］アサガオ、朝顔、あさがお、モーニンググローリー ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ᴅɔdıᴅcnı（朝の花） ıɥıʅı:ıɥıʅı:

ᴅɔdı,a aııɥ ᴅɔ/dıdıləɥı「低い太陽」

ᴅɔb ［動詞］ɥəl（物）を ı に埋める、ɥəl（空間）を ʅɔn で埋める。埋める、うめる。壁塗り構文同様。 ［動詞］ɥəl の間を埋める ［反意語］neu ［レベル］

2　ɑ;ᴅɔ は「下」　赤　ᴅɔb:ᴅɔb
ᴅɔbꞁɔn ［言語］フィラー ［名詞］埋め立て道具 ［レベル］5　1L:µcɑcı:ıµbıl elſ
ᴅɔbeſ ［形容詞］潜在的な ［名詞］伏線← ᴅɔbeſφııbe ［レベル］4　µɑ;ᴅɔb/ſe「埋められている」 ⅃⅃
ᴅɔbeſφııbe ［名詞］伏線→ ᴅɔbeſ ［レベル］4　µɑ;/　⅃ʔ
ᴅɔµen ［約物］_ 記号、_ ［レベル］3　⅃1:ᴅɔlµecn ［語法］　ᴅɔlµecn
ᴅɔz ［動詞］ɥəl を ı に挿入する、挿入する、挟みこむ、間に入り込む、割り込む、差し込む、口を挟む、横槍を入れる、横やりを入れる、口出しする、割り込みする、突っ込む ［レベル］3　1ʔ: 制 : 恣意 ［文化］
　横から知らぬ他人が割り込んでくるのは失礼だが、困っている人を助けるときや文句を言うときはありえる。それ以外は聞こえていても聞こえない振りをして関係ない振りをするのが礼儀。顔見知りではあるが会話に入っていない人が近くにいて、自分は別の人と話している場合、その顔見知りは割り込んでくる確率は低い。割り込むと多少失礼だが、だからといって無視することもない。心中では引き気味ではあるが、表向きは何でもないように対応するのが大人のやり方。割り込まれてむっとするかどうかはそもそも割り込んだときの言葉による。いきなり関係ないことを言われればむっとするし、関係あることでも悪口めいた内容ならむっとする。一番むっとしないのは賛辞と質問である。たとえば二人で花の話をしているとき、他人からいきなりその花について質問された。その人はその花を育てているので気になったという理由である。こういう場合は快く教えてやるのが常識。質問者も自分の事情を語るのが礼儀。
ᴅɔzſeᴅdeµı ［言語］テンペラ、急下降調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzſeᴅdeµıꞁəənɔ ［言語］意外な驚嘆。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzꞁcᴅ ［言語］キム、昇降調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzꞁcl ［言語］キル、中止調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzꞁəənɔ ［言語］クーノ、上昇調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzɟcꞁı ［言語］シカ、平板調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzᴅclees ［言語］ミレージュ、急上昇調。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzdcſı ［医療］さしこみぐすり、挿入薬、座薬 ［レベル］3　1ʕ: 制
ᴅɔzlɔſɟ ［電算］インサートキー ［レベル］4　⅃0
ᴅɔzlecɟ ［芸術］挿絵、挿し絵 ［芸術］口絵→ ꞁcſlecɟ ［レベル］3　⅃0
ᴅɔzıłſeᴅdeµı ［言語］激しい驚嘆。文中で使用。 ［レベル］3　⅃⅃
ᴅɔzɔᴅ ［医療］挿管法。鍼の。　µɑ;/　⅃ɱ
ᴅɔzɔd ［名詞］割注、分注→ lec ［レベル］6　⅃⅃
ᴅɔzɔl ［名詞］折り込み、折込、折りこみ、おりこみ、折り込みチラシ → lec ［レベル］4　⅃⅃:ᴅɔz/ɔl
ᴅɔl ［名詞］下 ［形容詞］下の ［格詞］～の下に ［反意語］hıl ［レベル］1　古 : ᴅɔl,ᴅɔıl（下の部分）。制では中くらいという意味で使っていた。　ᴅɔ ᴅɔᴅɔ（下に）:ᴅɔ ᴅɔᴅɔ（下に）【用例】 ɑcın lı ᴅɔl zɔᴅ. 木の下に女の子がいる。
ᴅɔlſ ［アイテム］装備 ［名詞］道具、機材、設備、備え付け、用具→ ꞁɔn ［電算］デバイス ［レベル］3　łıłſı: 持って回った言い回しの「道具」
ᴅɔlſıꞁ ［生物］下腕、前腕 ［レベル］4　1L
ᴅɔlſız ［生物］下肢　µɑ;/　⅃ɱ
ᴅɔlſcꞁ ［数学］２７０度 ［レベル］5　1L:µcɑcı:ıµbılelſ
ᴅɔlſeeze ［美容］ダウンスタイル　⅃1
ᴅɔꞁ ［形容詞］下位の、低位、目下 ［反意語］hılſ ［レベル］3　1L:ᴅɔl
ᴅɔꞁɟꞁcſ ［名詞］下座 ［レベル］4　⅃0 ［文化］　ɟꞁcꞁı
ᴅɔꞁnɔce ［軍事］兵曹長→ nɔce ［レベル］4　1L:µcɑcı
ᴅɔꞁuec ［政治］参議院、上院、貴族院 ［レベル］4　1L
ᴅɔꞁᴅɔɔl ［軍事］伍長 ［レベル］4　1L:µcɑcı
ᴅɔꞁbenɔᴅ ［軍事］少佐 ［レベル］4　1L:µcɑcı
ᴅɔꞁhɥəlı ［軍事］少将 ［レベル］4　1L:µcɑcı
ᴅɔꞁoılſ ［軍事］下級兵 ［レベル］4　1L:µcɑcı ［文化］　軍隊の階級における最低の地位。
ᴅɔꞁcᴅdcɟ ［政治］野党、下級の党 ［レベル］4　1L
ᴅɔꞁɔɔl ［電算］下にスクロールする ［レベル］4　ul;/　⅃ʔ
ᴅɔꞁeᴅ ［生物］関元　⅃1
ᴅɔllcɥə ［普通動名詞］下請け、サブコントラクト ［動詞］ɥəl を下請けする、下請けする ［レベル］5　µɑ;/。仕事のワークフローを組んだ際、発注元から受注先に行き、そこから更に下に別の受注業者へとチャートが伸びていくことから。　⅃ɱ
ᴅɔlɟ ［動詞］ɟɔl は ɥəl だけ時間かかる、時間がかかる。定義動詞。 ［レベル］2　1ɱ: 制 : 恣意 【用例】　ſə ᴅɔlɟ ɑcl. 時間がかかるな。　ſə ᴅɔlɟ ſɔȣ どれくらいかかりますか。　ſə ᴅɔlɟ ꞁɔ ᴅcu lel el ꞁe ɟeıſe. デパートに行くのに１時間かかる。　ſə ᴅɔlɟıſ ɟɔɔſ lel ın ſɔɔꞁcꞁ ſə lıb. その仕事をするのに一週間かかった。　ſə ᴅɔlɟıſ ɑcl lel ın ᴅıcɟ leſɟ. ピアノを弾けるようになるには時間がかかった。
ᴅɔlɟınꞁ ［動詞］ɥəl をうつぶせにする、うつ伏せにする、うつぶせにする、うつぶせになる ［普通動名詞］うつぶせ、うつ伏せ ［反意語］hılɟınꞁ ［レベル］2　1L
ᴅɔlɟıdlɔµ ［生物］下気道。気管、主気管支、肺の総称。 ［レベル］5　1L
ᴅɔlu ［普通動名詞］引き分け、ドロー、痛み分け、あいこ ［動詞］ɟɔl は ɥəl と引き分けになる、引き分けになる ［レベル］2　1ʕ: 制 :ᴅɔl/uıɟ（中の戦い）【用例】　ıµle ᴅɔluıſ ɟɔµn cᴅ ꞁılɔ µıɟ ſɔſɔ. アルシェはソーンとカコで何度か痛み分けになった。
ᴅɔlᴅıcn ［生物］下半身 ［レベル］3　1L
ᴅɔlᴅıcneµl ［名詞］半身浴 ［レベル］3　1L 【用例】　ıµbın ıllı ıµ ᴅɔlᴅıcne µl lını lıl uıln. アルバザード人は健康のために半身浴をする。
ᴅɔlɑ ［言語］ムード、法 ［レベル］6　µɑ;ᴅɔlſ.ꞁ　⅃ʔ
ᴅɔldeɟµ ［名詞］ラガー ［レベル］5　µɑ　⅃⅃ ［文化］　deɟµ
ᴅɔlµɔd ［生物］下まぶた、下眼瞼 ［レベル］3　1L
ᴅɔlµecn ［約物］下線、アンダーバー ［レベル］4　⅃1 ［語法］　ᴅɔµen は _ 記号のこと。ᴅɔlµecn は語句に直接かかる下線のこと。ＨＴＭＬなどで強調のために文字に装飾するアンダーバーが ᴅɔlµecn。
ᴅɔlzcɑ ［生物］下顎 ［レベル］5　µɑ;/　⅃ɱ
ᴅɔlzcɑhɔ ［生物］下顎骨　µɑ;/　⅃ɱ
ᴅɔlzelɔ ［生物］側頭葉 ［レベル］5　1L
ᴅɔlscd ［論理］下位概念 ［レベル］5　1L
ᴅɔllɔɔz ［生物］下端、下縁　µɑ;/　⅃ɱ
ᴅɔlınɔz ［音楽］ダウンピッキング　⅃1
ᴅɔlcn ［動詞］ɥəl を見下ろす、見下ろす、見おろす ［レベル］3　1L:ᴅelc ɑcı ılſe
ᴅɔlɔ,ɑ　lecſ　ᴅɔ/lɔ
ᴅɔleſ ［医療］［哲学］臣、相 ［反意語］ɥəlıſ　ɟzɑ;「部下」 ⅃ɱ
ᴅɔleſφµıᴅ ［医療］相火　ɟzl;/「臣下の火」 ⅃ɱ ［文化］　ɑelcɟ
ᴅɔleſcl ［医療］臣薬　ɟzl;/　⅃ɱ
ᴅɔleɟ,ɟzɑ　hcɟ
ᴅɔlen ［接続詞］ᴅɔl ［レベル］3　⅃1
ᴅɔlecl ［被服］ボトムス ［レベル］4　⅃1
ᴅɔlə,ılſ　ᴅɔꞁ　‹›ᴅɔ
ᴅɔı ［遊離副詞］［形容詞］既に、もう ［反意語］nec ［レベル］2　1ʕ: 制 : 恣意 :::hıə,ılſ ［語法］　時期が予想より早いとか遅いとか関係なく、ある時点から見て過去の時点で完了している状態。つまり「既に」を表わす。　完了（影響相と言えるかもしれない）の相副詞。 【用例】　ſə eſ ᴅɔı ſɔɔꞁ. それはもう終わったことだ。もう過ぎたことだ。
ᴅɔı,ɟzɑ　ᴅɔᴅ　ᴅɔᴅ.l
ᴅɔıᴅılɟ ［名詞］［形容詞］既婚 ［レベル］4　1L
ᴅɔıdcı ［言語］象形 ［レベル］4　⅃0: 形を指す
ᴅɔc ［形容詞］薄い。濃いの反対の薄い。色や味に使う。 ［反意語］neı ［レベル］2　@ 1L　nɥɔe:nɥɔe
ᴅɔcɟ ［電算］リモコン、リモートコントロール、リモートコントローラー、無線コントローラー、ゲームパッド、パッド、コントローラー ［レベル］2　1ʔ: 制 :ᴅɔcɥɔɟ（離れて使う？）【用例】　ın bcꞁeɟ nelſ ᴅɔcɟ ꞁɔn lıɟ. いつもリモコンを持っている。　lcſe ınſ ınl ın lel ᴅɔcɟ. 家族にリモコン呼ばわりされている。　ın ɔnſ ıµəəs uecſıſ ᴅɔcɟ c lɔꞁ. 弟とリモコンの奪い合いをした。
ᴅɔcuelɑ ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］安物買いの銭失いな、うさんくさく安い ［類義語］ɑeµ、lclcφıµſ ［レベル］3　⅃0 ［語法］　アズゲルの酒売りがよその酒売りに価格競争で勝つために、水で薄めて量を増やして安く売ったことから。結果的に客が集まったので売り上げは伸びたが、後からバレた。
ᴅɔcıcꞁlccᴅ ［化学］ぶどう糖果糖液糖、ブドウ糖果糖液糖 ［レベル］5　ul;/　⅃ʔ ［語法］［文化］　ıcꞁlccᴅ
ᴅɔɔſ ［名詞］蝋、ロウ、ワックス ［レベル］3　ſᴅ:ſccſel　19: 制 :łıłſı ［文化］　ſᴅ で蜜蝋がティーテルによって作られたのが始まり。
ᴅɔɔſɑɔl ［地学］葉蝋石　1L
ᴅɔɔꞁlenſ ［名詞］蝋人形 ［レベル］4　⅃⅃
ᴅɔɔꞁ ［名詞］クレヨン ［レベル］2　1ʔ: 制 :ᴅɔɔꞁız（ロウのペン）。蝋を含んだ棒状の絵の具がクレヨンであることから。
ᴅɔɔd ［単位］モープ、カンデラ ［レベル］5　1ɱ: 制 : 古 :ᴅɔɔdı（蝋の光）。カンデラ（蝋燭の光）。キャンドルと同じ語源だろう。
ᴅɔɔze ［植物］トネリコ　ɾu;ᴅɔɔſ/zıᴅɔ「蝋の木」 ⅃ʔ ［文化］　樹皮に付着しているイボタロウムシが分泌する蝋物質が語源となった。ɾu で ɟııl が現 ılſ に赴いた際に見つけた植物である。ılſ 原産。
ᴅɔɔl ［軍事］下士官 ［組み数字］6 / 7 ［レベル］3　古 :zını:ᴅɔl/lınſcɟ（下の人）［文化］　兵の階級のひとつ。曹長、軍曹、伍長に分かれる。
ᴅɔe ［代詞］［ɥən］あなた ［レベル］1　⅃1:ꞁᴅccµ:ᴅɔe,ɟzɑ（下の兄弟を指す言葉が二人称としてアルカで採用された）
ᴅɔe,ɟzɑ　ıᴅel, ıµəəs　ᴅɔ/e（下の水＝後に生まれたハラカラ）
ᴅɔeſ ［地学］滝 ［形容詞］～の滝。前置。 ［レベル］3　⅃1:ꞁᴅccµ‹ᴅɔe: 古 : 下に行く水 【用例】　ᴅɔeſ ɑɔꞁ 大きな滝
ᴅɔen ［代詞］［ɥən］あなたの ［レベル］1　⅃1:ꞁᴅccµ:ᴅɔe/en
ᴅɔel ［政治］［経済］政府 ［レベル］3　1L:clᴅəɟ:µcɑcı:ᴅɔl eɟn（傘の下で） ［文化］　＜経緯＞　副王アステル以前はアルバ王が全権を握った。セルメルのイムル ⅃0 年に最初のアルバ王政の政府が結成された。就任式の日が大雨だったため、城外には多数の観客が傘を指して見守った。そこから「傘の下」や「傘」で政府を指すようになった。　ミロク革命まで政府の中枢はアルバ城にあった。城の敷地内に政府の建物があり、そこで政治が行われていた。アルバ城は現在の中央アルナのカルテにあったため、現在はそこに政府はない。現在は中央アルナ北区に政府中枢が存在する。　＜現在の体制＞　ɑıcz（王。国の象徴）　↓　ıɟſeµ（副王。実験者）　↓　ıµnɔn（王の６省。うち、召還省長官 ıµſıleɟ が最高権力者）　↓　lcznɔ（庁。各省下に複数個

存在）　このように、４段階から成っている。警察や軍隊といった機関は各省の下に置かれる。例えば警察も軍隊も軍務省の下にあり、警察庁や軍務庁といった名で呼ばれる。具体的な機関はほとんど庁が引き受けており、最も忙しいのが庁である。　日本と異なり省が少ないが、庁が多い。これはカコにおいて国民が魔法を使えたころのシステムを残しているためである。魔法が使える時代は国民も力があるので、夜警国家や小さい政府を必要としていた。　ミロクはそれに影響を受け、小さい政府の考えを採用している。そのため、省は少ない。ただ、アレイユでは魔法が使えないため、必然的に国が管理する仕事が増えた。省が増やせない以上、庁を増やすしかなく、庁は増加した。　なお、警察や軍隊にはそれぞれ独特の体制があり、庁ごとに体制は異なっている。

ᴅɔelile ［政治］政府機関 ［レベル］４ ʝʝ

ᴅe ［遊離副詞］もう一度、また、再度、再び、ふたたび ［類義語］ɥıue ［レベル］１ 1ᴎ: 制 : 古 :ɥɔə(ȷ) ［語法］ → ɥıue ᴅe は形容詞用法がないので、遊離しても ᴅel でなく ᴅe のままでよい。副詞にしか使わない。【用例】 ɥen lənı ᴅe. また来てね。

ᴅeʃ ［動詞］ɥəl を ı へ落す、落す、落とす、落ちる、落下する、散る ［普通動名詞］突き落とし ［再帰動名詞］［自然動名詞］落下 ［類義語］ᴅcᴅ ［レベル］２ 1ʔ: 制 ::ᴅɔl:ɥələlə,ılʃ ［語法］ 重力を使って自然落下させることなので、重力の働かない下から上への動作、すなわち反意語は存在しない。下から上にあげるのは人為的な方法か風などによるもので分類され、nel, ıφel, həı などに分かれる。なお、このうち人為的に上下に動かすことを nel, ᴅcᴅ で表し、これらは互いに反意語である。　nel,ᴅcᴅ は上げ下ろしに使う。クレーンや腕など道具を使うことが多い。投身自殺する場合はフリーダイブなので重力任せで、腕やクレーンなどに身を預けない。よって投身自殺では ᴅeʃ を使う。ın ᴅcᴅ uın nɔȷ cʃ cllı だと何らかの方法や道具で自分の体を下にやるというイメージ。　人に「危ないから降りろ」という場合は ᴅcᴅ。「落ちて死んでしまえ」という場合は ᴅeʃ。ɥe ᴅcᴅ nɔȷɾ ɥe ᴅeʃ nɔȷɾ の略。eᴅ ᴅeʃɾ は「事故って落ちろ」で、ᴅeʃɾ は「自ら落ちて死ね」の意味。呪詛で使うのはたいてい後者。【用例】 ʃel eȷ ᴅeʃ c zɔᴅ. 木から葉っぱが落ちている。

ᴅeʃʃel ［植物］枯れ葉、かれは、枯葉、落ち葉、おちば、落葉 ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅeʃl ［アイテム］鞭、ムチ、ウィップ。ᴅeʃl はムチであってベンは ben。 ［類義語］ben ［レベル］３ ɑu 1ʔ: 制 : 古 :ᴅeʃlc（鞭） ᴅeʃlc:ᴅeʃlc ［語法］ 子供のお仕置きの象徴。bɔlʃ 参照。

ᴅeʃlc ᴅeʃl ɑɔueʃ

ᴅeʃȷınl ［動詞］ɥəl を寝込ませる、寝込む、倒れ込む ［レベル］３ 1L ［語法］ 病気とは限らない。倒れるように寝込むこと。下への方向が強調された言い方。【用例】 ın ᴅeʃȷınlıʃ ı ɑɔȷl cᴅ ɑɔnc ɑel ın lɔlʃcl. 帰るや否や、ソファーに倒れ込んだ。

ᴅeʃɑɔl ［植物］落葉広葉樹林 ［レベル］４ 1L:ɥcɑcı

ᴅeʃφeʃ ［植物］落葉針葉樹林 ［レベル］４ 1L:ɥcɑcı

ᴅeʃhɔnz ［植物］楢、ナラ ［レベル］５ ɥɑ;ᴅeʃ/hɔnz「樫のような落葉樹」 ʝʔ

ᴅeʃcȷ ［名詞］愛人、二号さん ［レベル］４ ɥɑ;ᴅel/lınʃcȷ「メルのような人」 ʝᴎ

ᴅeʃcn ［植物］ツバキ、つばき、椿 ［レベル］４ 1Δ:ɥcɑcı: 落ちる花

ᴅeʃcın ［名詞］メティオ人 ［レベル］３ ʝ0:ᴅeʃcɔın:1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅeʃcın(ȷ) ［歳時記］啓蟄 ［名詞］３時 ［組み数字］３／２４ ［レベル］３ ʝ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ᴅeʃcɔ ［地名］メティオ。メテの支配地。 ［レベル］３ lılɔ

ᴅeʃcɔ(ȷ) ［アトラスの国家］メティオ ［レベル］２ lılɔ ［文化］ → cȷʃɔlncᴅ ・面積 ʔɁΔɁ9ᴎȷ.ʝLɁ999 lᴅ ȷ ・経緯度 西端：東経 (–L0) + ((1ΔʔɁ / ᴎ000) × ʔ10) = 9Ɂ.1Ɂ 東端：東経 (–L0) + ((ʝ1Ɂʔ / ᴎ000) × ʔ10) = 10ʔ.99 北端：北緯 L0 – ((10ȷ / ʝ000) × 1Δ0) = ʔɁ.Δȷ 南端：北緯 L0 – ((ΔᴎɁ / ʝ000) × 1Δ0) = 1ʔ.LɁ

ᴅeʃcɔlıl ［アイテム］シミター、シャムシール、新月刀、三日月刀 ɥɑ;/ ʝᴎ ［文化］ ll に ᴅe で作られた。ᴅe は暑いので厚い鎧を着ることができない。そのため斬る剣が発達した。

ᴅeʃcɔȷczı ［地学］メティオプレート ʝʔ

ᴅeʃcɔɥı ［地名］メティオラ海 ［レベル］５ ʝ0:ɥcɑcı: メティオの海

ᴅeʃcɔɥen ［言語］メティオ語 ［レベル］３ ʝ1 ［文化］ ＜歴史＞　約６万年前に ʃᴅ でメディアンができる。ここから ɾu までが ᴅɑɑ（古メディアン語）。　zφ の前期・冷戦・後期がそれぞれ ᴅɑl,ᴅɑu,ᴅɑȷ。これらをまとめて ᴅɑl。　後期 zφ の ʔ11Lɥ にシフェランがメティオを建国。zφ に食い込む形でここから ll までが ᴅʃɑ（古メティオ語）。　ȷᴅ,ɥɑ が ᴅʃl。nɑ,ɥʃ が ᴅʃɑ。ul が ᴅʃu。ıl,ls が ᴅʃȷ。　＜文字と音節の変遷＞　文字はアルハノンを使う。　約７万年前に音頭末の子音連続が発音されなくなる。　その後音節末の子音も発音されなくなる。結果ＣＶｎＣが最長音節となる。　その後母音連続がＶＶまでとなる。音節はＣＶＣ，ＣＶＶ，ＣＶのみとなる。　約６５０００前にアルハノンができる。音節に合わせた文字組みがされる。１文字で３音素まで含むことができる。　zφ で音節末に来る音が統廃合され、ʃ,l,d,ȷ,n,l,l,ɥ となる。これは例えば ʃıφ なら ［ʃıl］ と発音されるようになったということである。　zφ で有声音と無声音の対立が無気音と有気音の対立となる。アルハノンができた後なので、かつてディーの音を指した文字は今はティーの無気音として使われる。ただし気音の対立になるのは語頭だけで、それ以外の環境では声の有無の対立のままである。地球だと中国語や韓国語などにも見られる現象である。　ȷᴅ で l,ɥ が ȷ,l に統合され、音節末は６子音のみとなる。　＜類型＞　lın, ɑɔȷ という能格、絶対格を使用する能格言語である。

ᴅeʃcɔeʃel ［料理］メティオ茶 ［レベル］４ ɥɑ;/ ʝʔ ［文化］ 紅茶を主とする。

ᴅeʃɔ ［アトラスの国家］メト ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı: メト族の

ᴅeʃe ［人名］メテ ［地名］しばしば ᴅeʃcɔ（メティオ国）の代わりに使われる ［組み数字］１４／１５ ［レベル］３ lılɔ: 語源不詳 ［文化］ (ɥəə ᴅı 9ᴎΔ1) ɥəəᴅı 9ᴎΔ1 イーファ、息子の ᴅeʃe を授かる　メテの第１４使徒であるとともにメテの使徒のルシーラ。生没年不詳。イーファ王とルーキーテ皇女の息子。母親を皇帝ウロに倒され、ウロを仇敵とする。　現実ではウロを破ったのちテームスをも破るが、テームスとの抗争に痛手を負ったため、ウロの後継者となったソーンにあえなく敗れる。　ɥɑ ではウロを破った後にテームスを封印したが、疲弊したせいでソーンに敗れる。【成句】 ȷıʃ ʃel ıɥle lc ᴅeʃe 勝って兜の緒を締めよ。ソーンの視点から。　ıɥle lcen ᴅeʃe 前門の虎、後門の狼

ᴅeʃelcȷı ［料理］和三盆 ［レベル］４ 1L:ɥcɑcı ［文化］ セルメルではメテで作られ輸入されており、現在でも輸入に頼っている。黒砂糖に似ている。

ᴅeʃeᴅeᴅ ［組み数字］メテサークル ［レベル］５ ʝ1 ［文化］ ɥıdıll

ᴅeʃehıɥᴅı ［言語］メテ幼字 ʝ1 ［文化］ hıɾl

ᴅeʃel ［名詞］メテル ［レベル］５ 1L ［文化］ ɥəəᴅı 9LʔɁ メテは魔方戦争で生き残ったレスタントを集めて ᴅeʃel という新しい団体を設立。アルシェを右腕とした。メテは自らをルシーラと呼び、メテルのメンバーを使徒と呼んだ

ᴅeʃelcl ［化学］ノーベリウム 1Δ: 制

ᴅeʃeıʃı ［言語］メテ会談 ʝ0 ［文化］ hıɾl

ᴅel ［形容詞］不慣れな ［反意語］nɔʃ ［レベル］３ @ 1L

ᴅellıl ［普通動名詞］再放送 ［レベル］３ 1L

ᴅelcı ［名詞］道具 ［類義語］lɔn、ᴅɔlʃ ［レベル］３ ɑ;e ʝ1

ᴅelcı,ȷzɑ dın dılıᴅelcı,ɑu.lcl

ᴅel ［名詞］他、他人、他者 ［反意語］nɔȷ ［レベル］１ @ 1L

ᴅelʃ ［政治］他国、外国、海外、異国 ［反意語］nɔȷl ［レベル］２ @ 1L ［文化］ アルバザード人にとって身近な外国はルティア、メティオのほかに、周辺国であるケートイアやヒュート。魔方はアルナから遠いので印象が薄く、東方は近くて遠い国なので印象が薄い。【用例】 ın en le ȷccı ᴅell. 海外に行ったことがない。

ᴅelʃʃəl ［植物］輸入植物、外来種 ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅelʃlıcȷ ［経済］外貨 ［レベル］４ 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

ᴅelʃlıcȷeu ［経済］外貨建て→ ᴅelleu 1L

ᴅelʃlelȷ ［普通動名詞］国外旅行、外国旅行、海外旅行 ［レベル］３ 1L【用例】 ʃeı nɔn eʃ lıφ, lɔᴅ nɔn ıɥ ȷen ᴅelʃlelȷ. もし私がお金持ちなら海外旅行に行けるのに。

ᴅelʃueʃ ［言語］外来語、借用語 ［レベル］３ 1L

ᴅelʃɑel ［普通動名詞］留学 ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅelʃɑəʃı ［経済］外国為替 ［レベル］５ ʝʝ

ᴅelʃɥen ［言語］外国語 ［反意語］nɔȷlɥen ［レベル］２ ʝ1

ᴅelʃın ［名詞］外国人、異人、異民族、外人、ガイジン、よそ者、よそもの、ヨソ者、ヨソもの ［レベル］２ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

ᴅelʃe ［哲学］非我 ［反意語］nɔȷʃe ［レベル］５ ɥɑ:ɥɥəə;/「他人らしさ」 ʝʔ ［文化］ nɔȷʃe

ᴅelʃeu ［経済］外貨建て ［レベル］６ 1L

ᴅelacnl ［娯楽］［軍事］敵陣 ［レベル］４ ʝʝ

ᴅelᴅcl ［名詞］相手から見た右 ［反意語］ᴅellınl、nɔȷᴅcl ［レベル］２ ɥɑ;/ ʝᴎ:nɔȷᴅcl

ᴅeldɥɔʃ ［普通動名詞］商業出版 ［レベル］６ ʝʝ

ᴅellınl ［名詞］相手から見た左 ［反意語］ᴅelᴅcl、nɔȷlınl ［レベル］２ ɥɑ;/ ʝᴎ:nɔȷᴅcl

ᴅelcn ［形容詞］客観的な ［反意語］nɔȷcn ［レベル］３ ɥɑ;ᴅel/cnȷ ʝʝ lı c:lıc

ᴅelcnlıld ［言語］客観的把握、最適視点配列、Ｄモード ɥɑ ʝʝ ［文化］ nıllelɑɑel

ᴅelcı ［名詞］郊外、近郊、町外れ、街外れ ［レベル］４ ɥɑ;ᴅeȷ/lcıl「街の周り」 ʝʔ ［語法］ 都市の外縁部に位置する人口の多い地域のこと。【用例】 ɥıdɔl lıen{e} ᴅelcı 郊外の住宅地

ᴅeleʃ ［代詞］他人の、人の ［反意語］nɔzeʃ ［レベル］１ ʝ1:ᴅel:nɔȷ nɔzeʃ, ᴅel ᴅeleʃ というアナロジーから

ᴅeȷ ［名詞］周り、周囲、周辺 ［動詞］ɥəl を囲む、囲む、包囲する、取り囲む ［名詞］地方 ［言語］方言 ［形容詞］方言の、地方の ［格詞］～の周りに、～ぐらい:ᴅeȷı と区別。 ［類義語］hɔl、ᴅenl ［反意語］ȷeel ［類音］ᴅeȷı ［レベル］２ ȷeɥʃ 1ʔ: 制 : 古 :ᴅelᴅɔ（周る）。語源不詳 nuı, ᴅelᴅ ɔ:nuı, ᴅelᴅɔ:nɔuı【用例】 ᴅeȷ ɥeʃl 敵を囲む

ᴅeȷ(ȷ) ［サール］neɥᴅeȷ の略称 ［組み数字］４／１２ ［レベル］１ ʝʝ

ᴅeȷʃ ［名詞］天秤 ［魔法］メスト（ライブラ）。光の多段白魔法。最も簡単な魔法のひとつ。 ［動詞］ȷɔl は ɥəl に相当する、相当する、当たる ［動詞］ɥəl を天秤で量る、量る、測る、計る、はかる ［言語］天秤詞、天秤部 ［レベル］３ ᴅelʃcı LΔ ȷen ucı:lȷɑ;ᴅeȷʃ,ɑ.l ᴅeȷʃ:ᴅeȷʃ:ᴅcȷʃ 11: 制 : 恣意 ［語法］ 動詞の語義によって格組が異なる点に注意。文脈で判断可能。 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə　・天秤詞とは　文末に来て、（笑）などに相当する話者の心情を示すものである。一時期フゥシカの提案で文頭に置かれたこともあった。　天秤詞は幼字を使って表

記する。ワードのように複数のフォントを扱えるソフトなら幻字と幼字を併用できるが、メモ帳などではそれができない。そこでメモ帳などでは幼字を幻字に置き換えて表記する。　・天秤詞は品詞ではない　天秤詞は音を持たない上に語ですらないため、品詞のひとつではない。しかし古アルカの慣習で天秤詞と呼んでいる。品詞でないので天秤部という呼び方をすることもある。　古アルカでは音を持った天秤詞とそうでない天秤詞とがあった。前者は新生において文末純詞として発達し、後者は天秤詞として幼字のまま生き延びた。　天秤詞は前期制アルカで滅んだが、後期制アルカの時代に（笑）に相当する ılʃe や、（恐）に相当する ʃeeᴅȷ や、♪に相当する lınʃe などが使われた。　ȷȷ に天秤詞は拡張され、ᴅɥəlı, ɑəəɥφı, lınʃe, uccne 以外の月、ılеʃ, ᴅɥəleʃ, ʃeeᴅȷ などにも意味が付されるようになった。加えて古アルカの４音韻を示す必要がこのころ大文字の存在によりなくなっていたため、空いた４箇所に ıɥʃe, hıczen, ılceȷ, ȷeleȷʃ を加え、これらにも天秤詞を付した。また、これに合わせてフォントの ɥəəlɔ と ıɥılı がこの順でユーザーの尽力の元に作成された。　・書式　幼字で書く場合は天秤詞の前に半角スペースを入れる。幼字の実体がアスキー文字なので、天秤詞が単語の一部として認識されてしまうため。nɔn (lınʃe を幼字にして繋げて書くと nɔn7 になってしまい、検索時に nɔnl でないと引っかからなくなってしまう。コーパス調査がしづらくなるのでスペースを入れること。直後に約物以外の文字が続く場合もスペースを入れる。　幼字を使わない場合は括弧の前にスペースを入れたほうが見やすいし、コーパス調査のときも便利である。　【成句】 ı ᴅeȷʃ ふざけるな、ふざけんな、調子に乗るな、調子のんな、ちょづくな、フザけんな、ざけろ、ざけてろ：ʃə eʃ ı ᴅeȷʃ（それは天秤に乗ることだ→まともに判断されるべきことだ）から。ɑen ɑed より固い。　lıl ᴅeȷʃ 調子に乗るな。ı ᴅeȷʃ と違い、バランスを取れという意味。過度にやるなという意味。文字通り調子に乗るなの意味。ı ᴅeȷʃ は叱責、lıl ᴅeȷʃ は注意勧告。そんなことしていると危ないぞというようなニュアンス。【用例】 ᴅeȷʃ lɔllı{enlɔllı} 釣り合った{傾いた}天秤　lıȷ{hıʃ} e ᴅeȷʃ 天秤の手{皿}

ᴅeȷʃ,ɑ ［動詞］ɥəl に横に腕を上げさせる。結果、体がＴ字型になり、これが天秤の形に似るため、以降 .l が起こる。　e

ᴅeȷʃɑəʃ ［普通動名詞］等価交換 ［レベル］4　ȷȷ: 天秤交換

ᴅeȷʃıʃ ［名詞］価値 ［類義語］lıɑ ［レベル］3　ɥɑ;ᴅeȷʃ/hıʃ「天秤の皿」。天秤の片方の皿に載せるもので、一定の価値あるものを指した。　ȷʔ

ᴅeȷʃc ［動詞］ɥəl を観測する、観測する、観察する ［普通動名詞］観測、観察 ［類義語］hɔc、uıcȷ ［レベル］3　ȷȷ:ᴅeȷʃ

ᴅeȷʃcɑı ［地球の星座］［ユマナ］てんびん座　ȷ⋒ ［文化］ cɑı

ᴅeȷʃcı ［物理］プリズム ［レベル］4　ȷ1: 光魔法 ᴅeȷʃ から→ ɑɔlᴅcɥə

ᴅeȷl ［名詞］鞄、バッグ、カバン ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅeȷȷı（袋）から 【用例】 ʃeı nɔn ʃcl φcl ʃəuıl, lɔᴅ nɔn ʃıə ȷen le ᴅeȷl. 十分なお金があったらあのバックを買えるのに。

ᴅeȷlıɑ ［政治］周辺国家 ［レベル］4　ȷ0

ᴅeȷȷı,ɑu　ᴅeȷl　ᴅe は周り。

ᴅeȷnɔȷlɔlᴅ ［政治］地方自治 ［レベル］4　1L

ᴅeȷuıȷ ［政治］［軍事］地域紛争 ［レベル］4　1L

ᴅeȷᴅeu ［言語］接周辞 ［レベル］6　1L

ᴅeȷl ［名詞］袋、パック、バッグ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅeȷȷı　ᴅeȷȷı:ᴅeȷȷı 【用例】 ᴅeȷl lıc 大きな袋

ᴅeȷlıφel ［政治］地方分権 ［レベル］4　1L

ᴅeȷlecuıʃcle ［地学］環レイヴァ海流　ȷʔ

ᴅeȷı ［名詞］環境、状況、形勢、事態、情勢 ［格詞］～で、～の状況で、～の環境で、～の様態で。副詞句なども導ける。漠然と状況を表わす：ᴅeȷ と区別。 ［類音］ᴅeȷ ［レベル］2　1ʔ: 制 :ᴅeȷ　:::ᴅelc,ılʃ 【成句】 ᴅeȷı ʃɔʃıl どう見ても、どう考えても、どうしても⇔ lılʃ ıᴅʃıl　hııȷ ᴅeȷı 当意即妙、臨機応変 【用例】 ᴅeȷı eᴅıʃ ucȷʃ denel. 事態はますます悪化した。

ᴅeȷıle ［政治］地方公共団体、自治体、地方自治体。通常自治体というと日本語では地方公共団体を指すため、訳語欄に挙げておく。 ［レベル］4　ɥʃ;/「地方団体」。地方公共団体をそのまま訳すと冗長なため。　ȷʔ

ᴅeȷıɑl ［普通動名詞］再発見、再発明 ［レベル］4　ȷȷ 【成句】 ᴅeȷıɑl e nıφc ナギの再発明：車輪の再発見。同じ発明を自分が最初だと思い込んで無駄な舞い上がりをすること。それが何度繰り返されようと、歴史は前に進まない。

ᴅeȷıɥeʃ ［環境］環境問題 ［レベル］4　1L

ᴅeȷılcı ［化学］再結晶 ［レベル］4　1L

ᴅeȷıen ［接続詞］ᴅeȷı ［レベル］3　ȷ1

ᴅeȷcn ［動詞］ɥəl を見回す、見回す、見まわす ［レベル］2　ȷ0:ᴅelcɑcı lceɥ

ᴅeȷcnnıllın ［言語］客観的認知主体　ɥɑ　ȷȷ ［文化］ nıllelɑɑel

ᴅeȷɔleʃ ［普通動名詞］リプレイ ［レベル］3　ȷ1

ᴅeȷen ［接続詞］ᴅeȷ ［レベル］3　ȷ1

ᴅeȷel ［動詞］ɥəl をリセットする、リセットする、切り替える、切り換える、切りかえる、チェンジする、入れ替える、入れかえる、入れ換える、やり直す、仕切りなおしする、仕切り直しする、水に流す ［普通動名詞］リセット、やり直し、切り替え、リプレイ、リトライ、仕切りなおし、仕切り直し、やりなおし、やり直し ［レベル］3　ȷȷ:ᴅe/ȷeleȷ ［語法］ 水に流してリフレッシュするという前向きなイメージがある。

ᴅeȷelᴅɔl ［再帰動名詞］ふて寝 ［動詞］ɥəl をふて寝させる、ふて寝する ［レベル］3　ȷȷ ［語法］ ややポジティブに使う。

ᴅen ［代詞］［dcllb］僕 ［レベル］1　ȷ1:elelʃɔne:ᴅɔlen（下の）　たびたび ᴅec に変えてはどうかという案が出るが、ᴅecɑ とかぶるので不可能と否決される。何度も同じ意見が出たので、いい加減どうしてダメになるのかここに書いておく。

ᴅenʃ ［軍事］伍長、メント ［組み数字］１７/２０ ［レベル］3　1L:ɥcɑcı:ᴅɔlʃ。nɔlʃe と同根。 ［語法］［文化］ lını

ᴅenʃe ［名詞］売春婦 ［レベル］4　ʃᴅ;ᴅeᴅdɔ/ʃeeze（まんこ風な、まんこ女っぽい）　古

ᴅenʃeȷ ［動詞］ɥəl（体を売る人）を ı（買う側）に売春する、売春する ［普通動名詞］［再帰動名詞］売春、援助交際、援交、エンコー、ウリ、売り ［レベル］4　ʃᴅ;ᴅenʃe/ȷɔ　ȷʔ

ᴅenʃeɑɔȷl ［名詞］ピンサロ、ピクサロン ［レベル］5　1Δ ［文化］ アルバザードにはない。

ᴅenʃeeɥl ［名詞］ソープ、トルコ風呂 ［レベル］5　1Δ ［文化］ ᴅenʃeez アルバザードにはない。

ᴅenʃeez ［名詞］売春宿 ［レベル］5　1Δ ［文化］ アルバザードにおける一般的な売春宿。日本でいうソープだが、風呂はない。本番あり。日本では風呂がなく個室を使うという意味では本番のないヘルスやある赤線などの訳語にあたる。

ᴅenl ［動詞］ɥəl に ı{ɔn} の周りを周らせる、周る、回る ［天文］公転 ［類義語］hɔl、ᴅeȷ、ᴅeᴅ ［レベル］4　ȷ0:ᴅeᴅ/le（円を描いて行く）　::ȷıc:uczen,lʃ ［語法］ hɔl

ᴅenlʃıʃ ［天文］公転周期 ［レベル］4　ȷ0

ᴅenlᴅeᴅbıɔφ ［物理］軌道角運動量 ［反意語］hɔlᴅeᴅbıɔφ　ul;/ → hɔlᴅeᴅbıɔφ　ȷʔ

ᴅenlel ［建築］メンケル宮殿 ［言語］［文字］オールドフェイス、オールド・フェイス　ȷ1 ［文化］ ȷᴅ で建てられたケートの宮殿。オールドフェイスが流行った。

ᴅenləc ［卑語］クンニリングス、クンニ、まんなめ ［類義語］lccıȷel ［レベル］4　ȷ1:ᴅeᴅdɔ/ləc 【用例】 "dıdı ʃɔ eʃ lənc ı. ɥe ıɥ ᴅenləc ı nɔel, ɔdıııııı(ɑɑɑɑ"「何がクニだよ！クンニしろオラァァ！！」（エデンの檻）

ᴅenȷ ［普通動名詞］ツッコミ ［動詞］ɥəl（内容）を ı につっこむ、つっこむ、突っ込む、ツッコむ、ツッコム、突っこむ、つっ込む ［レベル］3　ȷ1:ᴅɔz/ɥenȷ

ᴅenȷı ［アイテム］メンサ ［レベル］4　ɥcɑcı: 古 :ᴅelȷıbe「メルの服」或いは「時間の服」が語源。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。メルのもつ魔装。時空を歪めた際の反動から身を守り、かつ時空を歪める能力を増してくれる服。

ᴅennc ［卑語］まんげ、まん毛 ［レベル］4　1L:ᴅeᴅdɔ/cnc

ᴅenɑ ［動詞］ɥəl を沈める、沈める、沈む、潜る、潜水する ［運動］スキューバダイビング ［再帰動名詞］潜水 ［自然動名詞］沈没 ［レベル］3　1ʕ: 制　nə e:nəe

ᴅenɑlıɑ ［地球の国名］ツバル　1L: 低い上に小さい島で、沈みつつある

ᴅenɑıdl ［軍事］潜水艦 ［レベル］3　nɑ;/　ȷʔ

ᴅenlɔ ［卑語］膣 ［レベル］4　1L:ᴅeᴅdɔ/lɔ ［語法］ ᴅcul は医療用語で、子供が出てくるイメージ。ᴅenlɔ はセックスに使う淫らなイメージ。

ᴅenı ［名詞］方針、指針 ［レベル］3　1⋒: 制 : 語源不詳。ınɔ（漠然とした計画）からか？

ᴅenıl ［代詞］［dcllb］僕の ［レベル］1　ȷ1:elelʃɔne:ᴅen/ 古 ıl

ᴅencɑ ［名詞］留年 ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı

ᴅenɔʃ ［医療］リハビリ、リハビリテーション ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅene,ɑu　leʃcı　neeᴅe.φelȷ

ᴅeneʃ ［電算］再起動 ［レベル］3　ȷ0

ᴅeu ［言語］接辞 ［レベル］5　1L:ᴅeȷ/ueʃ

ᴅeuɔlʃ ［普通動名詞］再現、再来、再起 ［普通動名詞］リプレイ→ ᴅeȷɔleʃ ［普通動名詞］復元→ ᴅelıɑ, ɑɔɥʃ ［動詞］ɥəl を再現する、再現する ［レベル］4　ȷ0: 再び具象化する 【用例】 ȷıɥʃ ɑɔnl uın ᴅeuɔlʃ e dıuıȷ. 神々はラヴァスの再現を避けようとしている。 ［語法］ ビデオなどの再生は lell。

ᴅeɑ ［動詞］ɥəl（坂など）を降りる、降りる、おりる、下る、くだる ［反意語］ᴅɔɑ ［レベル］2　1ʕ: 制 【用例】 ᴅeɑ ʃɔɔɑ 坂を降りる　ᴅeɑ nıɑ 階段を下る

ᴅeɑʃɔɔɑ ［名詞］下り坂 ［レベル］2　ȷ0:ȷeɥen/ɥcɑcı

ᴅeɑʃeeze ［気象］下降気流 ［レベル］4　1L

ᴅeᴅ ［名詞］丸、環、真円 ［形容詞］丸い ［数学］円 ［動詞］ɥəl を周る、周る、まわる、回転する。ᴅeᴅeᴅ の略で ɥəl を丸めるの場合も。 ［類義語］hɔl ［レベル］2　ɑ;><ᴅelᴅɔ,ɑ　1ʔ: 制 : 古 :φelc。ᴅelᴅɔ(円)元は円周として使われていた　ᴅeᴅ, φelc:ᴅeᴅ, φelc ［語法］ 正解には○(ᴅeᴅ)。不正解には×(ȷɔᴅı)。その中間には＼(clıl) と /(ılеɑ) を付ける。これは古アルカのオノマトペ ʃclɔn(○)、sın(×) から来ている。これらは正解や不正解を示すオノマトペで、丸やバツといった幻字が当てられていた。斜め十字を表わし、「×」のような形。 ［文化］ ᴅe ᴅlıȷ, dɔcʃ 【成句】 ᴅcɥə clıl ı ᴅeᴅ 四角を丸にする：分かりやすくする。９８年２月３日のメモに書いてある表現で、当時の古アルカにあったものと思われる。 【用例】 ɥən lıɑ ᴅeᴅ 円を描くように

ᴅeᴅʃcl ［数学］３６０度 ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ᴅeᴅlɔlʃılcʃɔu ［物理］等速円運動 ［レベル］6　1L

ᴅeᴅlcıl ［名詞］円形都市 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［語法］ 例えば ȷıl

ıc。

ᴅeᴅȷel ［言語］円唇　1L

ᴅeᴅncıʃcal ［医療］円形脱毛症　［レベル］5　1L:ȷeµen

ᴅeᴅncıl ［数学］円柱　［レベル］4　1L

ᴅeᴅᴅe ［婉曲］おまんこ、女の子のあそこ　［レベル］2　古

ᴅeᴅd ［卑語］セックス　［レベル］4　古 :ᴅeᴅdɔ から

ᴅeᴅdıb ［名詞］回転木馬、メリーゴーランド　［レベル］3　1ʔ: 制 : 丸い馬　【成句】 ɥən ᴅeᴅdıb 走馬灯のように　【用例】 ɑcın le lɔµ ı uɔµʃ lɔnɒ ᴅeᴅdıb ᴅcıȣ 死にゆく少女は回転木馬の夢を見るか　ıᴅılcȷ e le ȷel lənıl ɥən ᴅeᴅdıb. あの日の思い出が走馬灯のようによぎる。

ᴅeᴅdcᴅ ［数学］円錐　［レベル］4　1L

ᴅeᴅdɔ ［卑語］まんこ　［レベル］4　ɑ;ᴅeᴅ/dɔnnɔ　古 : 元は ᴅeᴅdɔnnɔ。ᴅeᴅ は「 包み込む 」で、dɔnnɔ は元は単独で女性器を指したが、後に男性器の隠語となった。dɔnnɔ は女性器の隠語だったのだが、意味が逆になり、男性器を指すようになった。女性器の隠語がなくなったため、ᴅeᴅdɔnnɔ が新たに女性器の隠語として造語された。しかし意味があまりに直接的なので煙たがられ、略されて ᴅeᴅdɔ になった。しかしそれさえもやがて煙たがられて卑語と化した。

ᴅeᴅdɔn ［幼児］おまんこ、女の子のあそこ　［レベル］2　古 :ᴅeᴅdɔn,ᴅeᴅdɔ に指小辞が付いたもの　［語法］　幼児語。卑語ではない。ᴅeᴅdɔ というのが憚られるので大人同士でも ᴅeᴅdɔn と言うことがある。こうして幼児語にしてしまえばいやらしさを感じないのは制アルカは特に顕著である。性の禁忌が激しいことで有名な純潔乙女のクミールやフルミネアの口から ᴅeᴅdɔ が出ることはありえなかったが、ᴅeᴅdɔn なら何度か聞いたことがある。

ᴅeᴅdeȷ ［植物］フリージア　［レベル］4　nɒ;ɑleıbel 語で「女性器」。花の形が膣口に似ているため。ᴅeᴅdɔ と同根だがこちらは卑語ではない。　Jʔ ［文化］　フレアベル原産。nɒ で流入。

ᴅeᴅbıɔφ ［物理］角運動量　［レベル］6　1L: 日本語は英語のａｎｇｕｌａｒを訳しているようだが、「円運動量」という概念は特にないようだし、ならば ᴅeᴅbıɔφ のほうが分かりやすいと判断した。

ᴅeᴅlıȷ ［名詞］グッドサイン　［レベル］3　J1 ［文化］　左右どちらでもよいが､親指と人差し指で輪を作る。残りの指は立てておく。日本で「金」を指すジェスチャーと同じ。　これが ᴅeᴅ のサインで、「よい」を指す。英語圏で親指を立てるジェスチャーと同じ意味。　反対のバッテンは両手の人差し指を交差させて作る。

ᴅeᴅlɔɔb ［被服］ラウンドキャップ　µɒ;/　J⋂ ［文化］　ȷᴅ でできた。

ᴅeᴅı ［名詞］ロータリー、広場、ひろば　［類義語］ʃəə˥　［レベル］3　1ʕ: 制 : ᴅeᴅ˥ı から

ᴅeᴅıʃın ［化学］シクロアルカン　1L

ᴅeᴅıdl ［数学］円グラフ　［レベル］3　1L

ᴅeᴅıµlənɔ ［化学］環式炭化水素　1L

ᴅeᴅılȷ ［普通動名詞］再婚　［レベル］3　J0 ［文化］　離婚率が低い、再婚も自ずと少ない。男は再婚できるが、女は原則再婚できない。処女であることが結婚の条件のひとつであるため。

ᴅeᴅılᴅc ［アイテム］ラウンドシールド　µɒ;/　J⋂

ᴅeᴅcµ ［形容詞］仲のよい　［動詞］ɥəl を ı に馴れ合わせる、慣れ合う、馴れ合う、なれ合う。eᴅ とともに　［反意語］ᴅeµəs　［物理］波の腹　［レベル］2　1L:ᴅelcɒcı ılcȷ: 古 :ᴅelᴅccµ（メルとクミールのような）【用例】　ȷeᴅıcᴅ ᴅeᴅcµ 仲の良い友達

ᴅeᴅcµueȷʃɔ ［言語］母音調和　［レベル］6　1L ［文化］　古アルカには存在した。制の n 対によって崩れた。新生でも古の名残のあるものは母音調和しがちなので、間接的に母音調和は残っている。セレン＝アルバザードは姓名ともに母音調和。ıµnıᴅınıl˥ı ʃ'ıµbızıµɒ（アルバ国アルナ大学）など、すべて母音調和。

ᴅeᴅcµɑɔ ［音楽］協和音　［レベル］4　JJ:「仲の良い音」

ᴅeᴅcµelȷ ［普通動名詞］馴れ合い、馴れあい、なれあい、妥協、なあなあ、なぁなぁ、癒着　［レベル］3　µɒ;/　Jʔ ［語法］　良い意味でも癒着のような悪い意味でも使う。

ᴅeᴅɔ˥ ［再帰動名詞］二度寝　［レベル］3　1L 【用例】　ın ıµıʃ ᴅeᴅɔ˥. 二度寝した。

ᴅeᴅɔu ［普通動名詞］円運動　［レベル］4　1L

ᴅeᴅe ［名詞］繭、まゆ　［レベル］3　1ʕ: 制 :ᴅelc

ᴅeᴅeɒı 円環表、丸いリスト、丸い表　［レベル］3　1Δ

ᴅeᴅelen ［名詞］円卓、ラウンドテーブル　［レベル］3　1L:µcɒcı:ıµbılelʃ

ᴅeᴅeeu ［物理］円形波　1L

ᴅeɒcȷ˥ınʃ ［交通］南条、南大通り　［名詞］朱雀、メディスカント　［レベル］3　µɒ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から　Jʔ

ᴅeɒcı ［色］黄緑　［レベル］2　1L:cᴅel/ɒccı ［文化］　黄色はメルから来ており、緑はリディアと関連があるので、黄緑はふたりを象徴する色。この象徴は、クミールがセレンを揶揄するときに "lə ʃıɑıʃ ᴅeɒcı ᴅe ʃeµ" と言ったことに起因。象徴の作り手がクミールであって、造語者ではない。造語はそれ以前にセレンが行っている。【成句】 nıb lıȷ ı ᴅeɒcı 手を黄緑に塗る：両手に花。ᴅeɒcı は何の隠語だろうか。答え↑

ᴅeɒcın ［地名］メディアン　［レベル］4　ᴅelʃcı Lʔ ȷen ucı;「回帰する土地」 J0:µcɒcı:「回帰する土地」［文化］　古代国家のひとつ。後のメティオになる広大な国。　約７０００万年前、セルトが生まれる５００万年前にメティオがアルカット南岸に衝突。アルテ時代の記憶を連綿と受け継ぐアルミヴァが歴史を人類に伝え、その歴史を元に人類が命名したもの。「回帰」とはパンゲア時代のように「ほかの大陸にまとまるようにぶつかった」というところから来ている。

ᴅeɒcınµen ［言語］メディアン語　［レベル］5　J1 ［文化］　ᴅeʃcɔµen

ᴅeɒcennə ［名詞］メディエンヌ、不親切な真実、親切でない本当　［類義語］ɒcȷᴅenʃ　［レベル］4　古 :lcczı:ɒcȷᴅenʃ と同じく、あえてそれっぽいだけの語形を恣意的に作ったもの。　［語法］　嘘ではないが誤解を招くもの。本当はＡではないがＡだと思わせたいとき、Ａだと嘘をつくことはないものの、Ａだとわざと相手に誤解させるような言い方をすること。逆に、Ｂだと思われたくないときに、そのように誘導することも指す。　嘘は苦手だが何かと隠す必要のあるリディアやセレンがよくやる。さらっと素で嘘がつけるメルなどは ıılɔ といえる。　【用例】　˥ə(ıµ) ᴅeɒcennə メディエンヌを言う

ᴅeφ ［名詞］レンチ、スパナ　［レベル］3　l˥ıʃı: 回す金属

ᴅeφınɒ ［軍事］再征服、レコンキスタ　［レベル］4　J0

ᴅed ［名詞］鏡　［動詞］˥ɔn を鏡として ɥəl を ı に映す、映す、写す　［文字］レフティ　［化学］反射鏡、光源ランプ　［レベル］2　ȷɔµn　中期制アルカおよび ȷɔµn:ᴅed（鏡）「 よく磨いた 」　参考 : アルシェ :ᴅɥəl,clcµcəȷ ᴅɥəl:ᴅɥəl:ᴅɥəl

ᴅedȷ ［普通動名詞］セックス　［動詞］ɥəl とセックスする､セックスする　［類義語］eȷȷe　［反意語］ʃcıȷ　［レベル］4　µɒ:µcɒcı;ᴅeᴅdɔ/eȷȷe　Jʔ:µcɒcı: → ʃcıȷ ［語法］［文化］　ʃcıȷ

ᴅedn ［交通］運河　［レベル］4　1ʔ: 制 :ᴅɔbedɔn（掘った水路）

ᴅeducın ［物理］偶力　J1

ᴅedᴅɔ ［名詞］鏡像　［動詞］ɥəl を鏡像にする　［類義語］clleᴅ　［レベル］4　J0

ᴅedɥəɔ ［言語］能格動詞、反使役化動詞　µɒ;/「鏡の動詞」。自動詞にも他動詞にもなることから。　J⋂ ［語法］　自動詞にも他動詞にもなる動詞で、他動詞の目的語が自動詞にしたとき主語に来るタイプのもので、ｏｐｅｎやヒラクなどがある。反使役化動詞とは「他力または自力によって変化する」動詞のことである。他動詞しかないアルカにはない。　能格動詞を反使役化動詞と同一視したのは影山 (J001) による。

ᴅedl ［ポジティブ］［動詞］ɥəl を思いつく、思いつく、思い付く、閃く　［普通動名詞］ひらめき、閃き、思い付き　［感動詞］あ、そうだ　［レベル］2　1⋂: 制 : 古 :ᴅeldııl（閃き）「 メルの光 」【用例】　ın ᴅedlıʃ ınɔ bın e ˥eȷʃ. 明日の楽しい計画を思いついた。

ᴅedc ［名詞］レンズ　［名詞］レンズ。カメラの。　［レベル］3　1ʕ: 制 :ᴅedı

ᴅedcʃ ［アトラスの国家］メピット　［レベル］5　J0:ȷeµen: 鏡の国

ᴅebı ［名詞］鋤、すき　［レベル］3　1ʔ: 制 :l˥ıʃı:ᴅeb（掘る）

ᴅebc ［名詞］シャベル、ショベル、スコップ、パワーショベル、パワーシャベル　［レベル］3　1ʔ: 制 :ᴅeb（掘る）【用例】　ın ȷeɒıʃ ȷıe ȷıen φılʃ ˥ɔn ᴅebc. シャベルで玄関前を雪かきした。

ᴅebɔ ［建築］堀　［レベル］3　1ʕ: 制 :ᴅeb（掘る）

ᴅebe ［名詞］ドリル　［レベル］3　1ʕ: 制 :ᴅeb（掘る）

ᴅeɥɔl ［環境］リサイクル　［レベル］3　制

ᴅerl ［名詞］代、世代　［反意語］ȷeȷʃ　［レベル］4　1ʔ: 制　［語法］　ȷeȷʃ

ᴅeµ ［形容詞］完全な､完璧な､パーフェクト← ᴅeµʃe　［副詞］完全に､すっかり　［反意語］φıȷʃ　［レベル］1　1L:ᴅeᴅ（円）/ 制 ıµ（完全）【用例】　☆ el ʃɔɔ˥ ucl ʃə lıb ᴅeµel ʃeµ. その仕事を完璧に終わらせることは不可能だと聞いた。　senʃ ıʃ ᴅeµ. 完璧な天気だった。

ᴅeµʃ ［言語］メルト、言葉遊び　［レベル］4　1ʕ: 制 :ᴅclᴅ/eµʃ（踊る言葉）。古の ləəʃe になぞらえて造語した。　［語法］　˥ɔ˥ɔn と違ってそれ単体がユーモアになっているのではない。ᴅeµʃ はふつうの言葉が周りの状況や言い方などによって初めてユーモアになるものである。˥ɔ˥ɔn と違ってネタを用意していればいつでも言えるものでないため、ᴅeµʃ のほうが高等テクニック。　【用例】　ᴅeµʃ ᴅelʃ 心温まる言葉遊び

ᴅeµʃenı ［歴史］メルテナ時代、召喚士時代、夕月の嚆矢、ゆづきのかぶらや　［レベル］3　古？ :ᴅel/ıµʃenı（召喚士の時代）の意味だろう。「夕月の嚆矢」は月戦争の前であることから夕月、戦争前夜であることから鏑矢になっている。　［文化］　→ ızφeµ　東西の民シフェル（西）とマレット（東）の戦争アズゲルと、月戦争カコの間の時代。召喚士が有力になり王となる時代。ラヴァス後、アトラスの地上に残されたのはエルトにもサールにも属さないユーマの一族であった。ユーマの一族は神聖を失った者同士の交配であったため、神聖を著しく失っていた。そのためアルテから見放されてアトラスに残されたのである。そしてこれが人類である。アトラスに残されたユーマの一族は独自に発展を続けた。このころはまだ神聖を失いきっていなかったので魔法を使うことができた。だが、その力は弱かったため、神の力を借りざるを得なかった。神はユーマの一族が生成する魔力を非常に好んだため、これと引き換えに力を貸すことがあった。こうしてユーマの一族の中には魔力と引き換えに強大な神の力を借りる契約をした者が現れるようになった。これが召喚士である。

ᴅeµlc ［格詞］真後ろ　［レベル］2　J0

ᴅeµlcen ［接続詞］ᴅeµlc　［レベル］3　J1

ᴅeµȷı ［格詞］真前、まん前、まんまえ、真ん前、正面　［レベル］2　J0

ᴅeµȷıen ［接続詞］ᴅeµȷı　［レベル］3　J1

ᴅeµᴅc˥ ［格詞］真右　［レベル］2　J0

ᴅeµᴅc˥en ［接続詞］ᴅeµᴅc˥　［レベル］3　J1

ᴅeµᴅɔl ［格詞］真下　［レベル］2　J0

ᴅeµᴅɔlen ［接続詞］ᴅeµᴅɔl　［レベル］3　J1

ᴅeµᴅeᴅ ［数学］真円　［レベル］6　µɒ;/　Jʔ

ᴅeµɒcı ［アトラスの国家］メルディア　［レベル］5　1L:µcɒcı:ᴅelʃcı

ᴅeþhıl ［格詞］真上 ［レベル］２ ɺ0

ᴅeþhılen ［接続詞］ᴅeþhıl ［レベル］３ ɺ1

ᴅeþlyəɑcı ［芸術］リアルファンタジー µɑ;/「完全なファンタジー」 ［レベル］６ ɺʔ ［文化］ lyəɑcı

ᴅeþlın̂ ［格詞］真左 ［レベル］２ ɺ0

ᴅeþlın̂len ［接続詞］ᴅeþlın̂ ［レベル］３ ɺ1

ᴅeµcı ［ジョブ］メリア、巫女 ［名詞］預言者 ［レベル］４ ɺ0:µcɑcı:ᴅcn/eµcı（水の女。エルテを着る前にみそぎをすることから） ［文化］ 召喚士と対をなすジョブ。神の力を得るのではなく、神との対話をするのが仕事。悪魔との対話も可能。神や悪魔には言語能力のないものもいるので、これらと意思疎通をすることができる点で特に重宝される。また、試練を終えて契約を結ばないと神を呼び出せない召喚士に比べ、簡単に神と対話できる点でも優れている。その代わり召喚して力を得ることはできない。巫女は対話の際、みそぎをしてエルテを着る。対話はサリュで行う。 宗教的には預言者を指す。教祖はしばしば預言者も兼ねる。

ᴅeþenȷ ［名詞］もう一度言う ［感動詞］もう一度言って？疑問文で使う。 ［レベル］２ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ ［文化］ 聞きなおす際は一般的に "lınɾeȣ" と言う。同じことを何度も言わされるのは心地よくないので、アルバザード人も何回も聞き取れないと遠慮してそれ以上は聞き返せなくなる。それが元で誤解が起きることもままあるが、それは恐らくどの国でも同じことだろう。 【成句】 µeɾ ᴅeþenȷ ı ı に聞きなおす、聞き直す

ᴅeþəs ［形容詞］不仲な、仲の悪い、仲が悪い、犬猿の仲 ［反意語］ ᴅeᴅcþ ［物理］波の節 ［レベル］２ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 古 :ᴅelþəəs（メルとルージュのような)。ɑcıᴅel というのもあったが、ルシアたちの教育に悪そうなので採用しなかった。

ᴅeþəsɑɔ ［音楽］不協和音 ［レベル］４ ɺɺ:「不和な音」

ᴅez ［名詞］噂、噂話、ゴシップ、うわさ話、風評 ［動詞］yəl という噂を ı に言う、噂する、言う ［レベル］３ lıⲚı 【成句】 ləɾcın ᴅez leȷ ıþ bın ȷɔ. アルバザード人の噂をルティア人がする：悪事千里を走る lcuþɔ e ᴅez eɾ ɑen nɔɑ ᴅɔ̂ e lelɾeȷ 噂の寿命はシェルテスの眠りより短い：人の噂も七十五日 【用例】 el ᴅez ɾə lel lı leeuıɾ ı ləɾcı. 彼がルティアに去ったという噂が流れている。

ᴅezɔ ［名詞］からざお、殻竿、さお、竿 ［レベル］４ lıⲚı:ᴅe は回る。z は木だろう。

ᴅes ［サール］メジュ ［動詞］yəl を暗殺する、暗殺する ［普通動名詞］暗殺 ［レベル］３ φcl: 古：ギルの当時の名が語源 ［文化］ サール界きってのアサシン。サール・エルト・人間を問わず狙う。

ᴅesɾel ［魔法］メジュテル ［レベル］４ 1L:「抗暗殺」 ［語法］ lecn と共起すること。男でも。 ［文化］ ミロクやメテに限らず、偉大な魔導師は常に暗殺の危険に晒されながらも暗殺を防いできた。実は魔導師の暗殺は難しい。毒殺は白魔法で治るのでしばしば無意味であり、攻撃でダメージを与えても白魔法で回復してしまう。しかし睡眠中は無防備であるため、暗殺する隙ができる。 そこで暗殺を防ぐために、魔導師側は魔力でメジュテルというバリアを張って寝る。もしメジュテルが破壊されれば物音で気付くため、結局暗殺者はしばしば対象より武力で勝っている必要がある。このため、偉大な魔導師が王を務めた古い時代での暗殺は特に難しかった。 なお、戦士は霊力でメジュテルを張る。性質は異なるが機能は同じ。 【成句】 lecn ᴅesɾel ぐっすり寝る、熟睡する、快眠、枕を高くして寝る、安心して寝る、安眠する lecn ᴅesɾel メジュテルの魔法を張る 【用例】 lıɑ ᴅesɾel 魔導師がパーティのためにメジュテルの結界を作る。 ın lecn lıl ᴅesɾel. ぐっすり眠りたい。 el lecn lcþ ᴅesɾel ɔ̂ lıl lıl uıln. 熟眠は健康の基本だ。

ᴅel ［名詞］時 ［言語］時制→ᴅelueɾ ［類義語］cᴅ、hılcȷ、ɑcᴅel ［レベル］１ ɑ;e 古：使徒 ᴅel が語源 ᴅel:ᴅel:lə ᴅel:yəᴅc,ılɾ 【成句】 ᴅel ȷeɑ eᴅɾ. 時間が経てば悲しみも癒される。 ɔ̂ ᴅel ＝ hıȷ ᴅel 時間とともに、時代が進むにつれて ɾel ᴅel 時間の流れに逆らって、時が進むほど逆に〜 ɑıl ᴅel ȷ̂ı ɑcı 壁に耳あり障子に目あり：夢で時を抱く。隠語になっており、ɑcı は µcɑcı のことで、ᴅel は人名のほう。使徒がセレンを揶揄したもの。 ɾıə ᴅel 時間を稼ぐ、時間をかせぐ ᴅel leɑ yən ɑıþ 光陰矢のごとし ᴅel uıɾ elɑ lın 歳月人を待たず 【用例】 ın yɔlıɾ ɑɔnl ᴅel bebelel. 時間を無駄に使うべきではなかった。 ☆ ȷ̂ıφ{ɾcɑ} ɔn ᴅel 時間に余裕がある｛ない｝ ɾcl{ȷc} ᴅel 時間がある｛ない｝ ɑen yɔl ᴅel bebelel. ＝ ᴅel eɾ ɾıᴅ. 時間がもったいない。 ［俗語］［言葉遊び］ᴅel ȷeɑ eᴅɾ:1L:zını: リディアがセレンにメルとの浮気を理由に別れる宣言をした際、ザナがリディアに「そんなことをしたら余計メルに取られるだけだ」との意味を込めて言ったセリフ。言葉通りの意味は「時が悲しみを取り去る」、つまり「時間が経てば悲しみは消える」というもの。ここでは慣用句を元に言外の意味「メルが（セレンの）悲しみを取り除く」を導いている。 ☆ ın ɾcl ᴅel ȷ̂cn cᴅ ɾəþ. 今苦しい時期にある。 ȷeɑ ᴅel ɑccnı スケジュールから外す eu ᴅel ɑccnı スケジュールに組み入れる ȷeɾ ᴅel 時間をつぶす、時間を潰す。ᴅelȷeɾ が暇つぶしなので必ず ȷeɾ。ȷeɑ と似るので注意。 ［文化］ ıþnıᴅel

ᴅel(ɺ) ［人名］ᴅel ȷ̂eeɾɔcı → ᴅel ȷclɑ ɗıcɑı ȷ̂eeɾɔcı ［レベル］１ 古

ᴅel(ʔ) ［組み数字］７／２８ ［交通］メル通り ［名詞］メル組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２ ɺɺ

ᴅelɾ ［形容詞］暖かい、ぬるい、温かい ［形容詞］感じのよい、いい感じな、好印象を持てる、感じがよい、気持ちのよい ［動詞］yəl（物質）を温める、温める、暖める、チンする、レンジでチンする ［動詞］yəl（人など）を慰める、慰める ［動詞］yəl（死者など）を鎮魂する、鎮魂する、慰霊する ［反意語］ɑccɾ ［レベル］１ 1L:cᴅelɾeeze 黄色い風 :::ne ȷ̂ɔlə,ılɾ ［語法］ hıþɾ 【成句】 ȷɔɔnɔyən ᴅelɾ ȷ̂e ɑɔɔuı ᴅelɾ. 気持ちのよいおはようは気持ちのよいさようならにつながる：一事が万事 【用例】 nɔn nıɾ nıə lınel ᴅcl nɔn ȷ̂ɔlɾcȷ̂ þı c ɾınɾ le ȷıe lı. 雪の降る外から帰ってきて暖かかったのでとても幸せだった。 nɔn eᴅıɾ ᴅcɔl ᴅcl þenȷ ᴅelɾ lıɪɾ. 彼の温かい言葉が私の気分を良くしてくれた。

ᴅelɾlcep ［歳時記］暖冬の日 ［レベル］３ ɺ1 ［文化］ lcȷ lcȷ の休日。１月末から２月上旬（クリスの月ごろ）はアルバザードでも一年のうちで最も冷える時期で、一番人間の体がこたえる時期である。そこに休日を入れて体を暖め休ませることで風邪等の罹患率を下げようという目的で、ミロクが制定した。クリスの月の雨は寒いというだけあって、この時期は特に寒い。その上この月のアルバザードは日本の１月末より雨が多く、体調を崩しやすい。

ᴅelɾȷıɾcc ［気象］スコール。日本でいう「強いにわか雨」の意味ではない。 ［類義語］uenı e ȷ̂leeuel ［レベル］３ 1L

ᴅelɾȷıb ［被服］厚着 ［レベル］３ µɑ;/ ɺʔ

ᴅelɾnɔı ［生物］曲骨 ɺ1

ᴅelɾɑıɾcl ［形容詞］けなげな、健気な ［レベル］３ µɑ;「温かい気持ちを引き出すような」 ɺɺ

ᴅelɾɑclɑıc ［医療］温灸 µɑ;/ ɺ⫼

ᴅelɾdɔl ［地学］温帯 ［レベル］４ 1L

ᴅelɾbıȷ̂ᴅ ［料理］ホットミルク ［レベル］２ µɑ;/ ɺʔ

ᴅelɾıþ ［名詞］暖房、ヒーター ［レベル］２ 1L:µcɑcı:ıþbıleɫɾ ［文化］ 熱くしてはかなわないので、hıþɾıþ はない。 【用例】 ın ıþıɾ ᴅelɾıþ ᴅın nı ȷɔþɾ ɾcn̂ı. あまりにも寒かったのでヒーターを入れた。

ᴅelɾc ［名詞］ぬいぐるみ、縫いぐるみ、縫い包み ［レベル］２ 1⫼: 制：古 ᴅelɾlcl（メルが持つ)。メルは小さい頃ぬいぐるみが好きだった。使徒の中で当時１人だけ幼かったからそういうアイデンティティを持っているように我々は思ったのだろうが。（ɺ1 追記：今となってはぬいぐるみの代わりにマウスを握り締め、ＰＣとニコ動を見てうへうへ言っている姿に哀愁すら覚える）

ᴅelɾcı ［悪魔］メルティア ［レベル］３ ᴅelɾcı 0:ᴅelɾcı;ᴅel/ɾccı「時を愛する」 µcɑcı:ȷeþen: 古「時を愛する」 ［文化］ 時空間を操る悪魔。時空間を司る。長髪、白黄混血系、美青年。自由意志がない。ベルトと同じく異世界への行き来ができる。アシェットのメルの父。テームスは霊界の歪みとして生まれたが、それでもエルトの予想に反して霊界が滅びなかったのはテームスが滅ぶのを拒んで悪魔メルティアを生んだため。メルティアは時空間を自由に操り、霊界を秩序立てている存在で、その意味では最も強力な存在。力自体は大したことないが、霊界の支えになっているのでテームスでさえメルティアには手出しをできない。メルティア自身も霊界を存続させるのに精一杯で、自由意志など少しも持てない。そんなメルティアが唯一自由意志を持ったのが、アシェットのメルの母となるある少女を見つけたとき。メルティアと少女は恋に落ちメルが生まれるが、メルが生まれたことでメルティアの力はメルに奪われてしまい、霊界の秩序が乱れかけてしまう。案じたメルティアは妻子を捨て、二度と自由意志を持たないと誓った。メルティアは娘に力のこもった腕輪の秩序メルティアを託すが、戦火で紛失してしまう。しかしやがて秩序メルティアは成長したメルの元へ帰る。ベルトは異世界からの断絶を行い、メルティアは異世界からの流入を行うといわれている。 『紫苑の書』では、口数が少ないものの、やけに親切な悪魔として描かれている。 普段は青い目だが、戦闘時には黄色い目になる。このことから ɑu では cᴅel で明るい黄色の意味になり、後にアルカで黄色として受け入れられる。 金星を司る。

ᴅelɾcın ［企業］メルティアン ［レベル］４ ɺ1 ［文化］ セイコーに相当する企業。

ᴅelɾcıdılɾ ［歴史］メルティア暦 ［レベル］５ 1L:clᴅəȷ:µcɑcı ［文化］ dılɾ

ᴅelɾcılccɑı ［天文］アンタレス ［レベル］６ 1L:µcɑcı/ȷeþen/ᴅel ［文化］ 黄道を通る４つの一等星のひとつ。メルの父メルティアの星。

ᴅelɾcɔn ［動物］マルチーズ ［レベル］６ ɺ1: ぬいぐるみ犬

ᴅelɾɔn ［形容詞］メルの望むような ［反意語］ılᴅelɾɔn ［レベル］４ µɑ:ᴅel;ᴅel/ɾe/ɔn「メル風なものに関するような→メルの好みに沿うような」 ɺ⫼:ᴅel ［文化］ yəɾcı

ᴅelɾɔɔl ［篭堺］メルトール ［レベル］５ µɑ;ᴅel/ɾɔɔl「メルの支配するトール人の地」 ɺɺ ［文化］ 篭堺司：ᴅel ȷ̂eeɾɔcı 篭堺国：ȷ̂eeɾɔcı, ɑcᴅcn cɔn

ᴅelɾe ［被服］ワンピース ［レベル］２ 1⫼: 制 :lıⲚı:ᴅelɾeeze「メルの風」。セレンの造語。子供の頃のメルがよくワンピース（ドレスも多かったが）を着ていて、風に靡いて美しかったことから。アルカではよく服に「風に靡く」という意味で ɾeeze をつける。

ᴅelɾeᴅ ［環境］地球温暖化、温暖化 ［レベル］４ 1L

ᴅelɾelen ［名詞］こたつ、コタツ、炬燵 ［レベル］３ 1L

ᴅelⲚ ［名詞］時計 ［レベル］２ µɑ;ᴅel/Ⲛcd 1ʔ ←古 :ᴅellɔ ᴅellɔ:ᴅellɔ ［語法］ →ɾcɾ ɾɔɾ ［文化］ 最初の時計は ᴅelɾcı ⫼ にメルティアが作った日時計で、アルミヴァを用いて２４時間法を採用していた。 機械仕掛けが登場したのはセルメルでナユがアルバ王に献上したとき。その後セルメルでねじ巻きの懐中時計ができ、µɑ でリュウがクリスの発言を受けて腕時計を開発。ナディアで電池式のものができ、ヴェレイでは太陽電池のものができ、アンセに組み込まれ、事実上アンセに機能が吸収された。腕時計はアンセにほぼ吸収されたが、みやすさの都合で置時計や掛け時計は現代でも残っている。 【用例】 ☆ ɾə ᴅelⲚ eɾ ȷeȷ{ȷcl} ɑə ʔ ɑec. この時計は３分遅れている｛進んでいる｝。 ᴅelⲚ eȷ ıucl. 時計が狂っている。

ᴅelⲚᴅen̂ ［名詞］時計回り ［類義語］ᴅcȷ̂ᴅen̂ ［反意語］ılᴅelⲚᴅen̂ ［レベル］３ ɺ0 【用例】 ᴅelⲚᴅen̂el 時計回りで

ᴅelⲚı ［感動詞］あけましておめでとう ［レベル］２ 古 :ᴅelⲚıc,ᴅelⲚıcɑ。い

ずれも「メルが成長した」の意味で、オヴィとリディアが言い出した。メル暦の新年がメルの誕生日と共に訪れるため、メルの誕生日を祝う言葉がそのまま年始の挨拶になった（なったといっても新年の挨拶として正式に認識されたのは 11 年ごろのことにすぎない）。尚、対語に ɑcıɭı があるので参照。【用例】 ᴅeɲır ın ɑclcı jılſ ɑccyər あけましておめでとうございます。来年も良い年でありますように。

ᴅeɲıj ［被服］ブリーチズ　jᴅ;ᴅeɲı という貴族の jıbe　ɈꞺ

ᴅeɲınſɑcın ［人名］時詠みの少女　ɈɈ ［文化］ µɑ の２０年間と ls の２０年間を、２０年かけて観測する少女。世界の終焉の原因がこの４０年間の間にあると見て、同時並行で２０年かけてふたつの時代を観測している。世界の終焉の原因を探っており、観測者効果により世界の結末を変えようとしている。

ᴅeɲınɑ ［魔法］魔法鏡、メルカンド ［レベル］５　ıµɑ;ᴅel/\ınɑc。最初時魔法だと思われていたため。　Ɉ1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

ᴅeɲıɑ ［地球の国名］アイルランド ［レベル］５　1L: アイルランド島のイギリス領にメルが住んでいたことから

ᴅeɲıµſ ［名詞］メルセルカード ［レベル］２　µɑ;/　ɈꞺ ［文化］　新年の祝いにプレゼントと一緒に送るカードのこと。年賀状のように知人全員にカードだけ送るという習慣はない。【用例】 ɭınſ ᴅeɲıµſ ı ſcın 恋人にメルセルカードを送る。

ᴅeɲcɑı ［地球の星座］［ユマナ］とけい座　ɈꞺ ［文化］　cɑı

ᴅeɲeɭj ［名詞］時間旅行、タイムトラベル、タイムスリップ ［レベル］３　Ɉ1

ᴅeɲec ［言語］線条性　1L: 時間を追う

ᴅel ɭeeſɔcı ［人名］メル＝ケートイア　ls ［レベル］３　ɈɈ ［文化］ (Ꞻ00_) ls の登場人物。

ᴅel ɭeeſɔcı(Ɉ)　→ ᴅel jclɑ ɗıcɑı ɭeeſɔcı ［レベル］１　ɈɈ

ᴅell ［名詞］刺繍 ［レベル］３　1ʔ: 制 :ᴅelclıɭ

ᴅellınſ ［歳時記］メルシャント ［レベル］２　µɑ;/　ꞺꞺ: 登録漏れ ［文化］メルセルにあげるプレゼント。現金だったり物だったりサービスだったりする。　・現実　Ɉ1ʔʔ：年末に来るはずが来れなくなったので遅れ、この日紫亜に『カードキャプターさくら』フランス語版全巻セットをプレゼント。ユルトにはこの前後に合気道の子供用道着を。リディアには慣例として何も与えず、メルには例年通り日本でのデート権を贈呈。子供たちに ᴅellınſ や ɑcıɭınſ をあげたのはこれが初めて。ɑcıɭınſ はまだあげたことがない。紫亜に最初にあげたプレゼントは４歳のとき新宿の京王ビルで買ったサイズの大きな服（もう少し大きくなったら着れるように）とのプリキュアの服で、これが３度目。

ᴅellız ［名詞］タイムリミット、時間制限、タイムアップ、時間切れ、制限時間、タイムオーバー ［レベル］３　µɑ;ᴅel/ɭız　ɈɈ【用例】 cᴅ ᴅel ɭız cɭ µıɭ タイムリミットを越えたとき

ᴅellcclıj ［普通動名詞］猫可愛がり、猫かわいがり ［動詞］yəl を猫可愛がりする、猫可愛がりする ［レベル］３　µɑ;/「セレンがメルを可愛がるように可愛がる」 Ɉʔ

ᴅelle ［名詞］勾玉や宝石など、特別な玉 ［丁寧］玉、球 ［文字］ケルン ［類義語］φeɭ ［類音］ᴅclle ［レベル］３　Ɉ0:ᴅeᴅ/lelſ（丸い月）

ᴅellelſ ［歳時記］メルシェルト、月燈、スカイランタン ［レベル］３　1L:ᴅel はメルの意味ではなく、ランタンを表わす ᴅeljel の意。lelſ は月。［文化］　メルの月ルージュの日（５月３０日ごろ）に行われる伝統的な祭り。ランタンの中に火を灯し、熱気球と同じ要領で空に飛ばす。月（夜空）に舞うランタンということでメルシェルトと名付けられた。　µɑ においてクミールがアルシェを離脱した際、空に舞い上がったクミールが無数の灯りをともし、ソーンへの合図としたことから、この日はソーンの日とされる。ソーンの日は記念日のひとつで、月燈祭が行われる。祭りではこのように無数のランタンをクミールのヴィルに見立てて空に上げる。この日はカルテも賑わう。　室内で行う場合は飛ぶと危険なので飛ばないように作る。そもそも飛ばすことのほうが難しいので、ふつうに紙袋などで作ればむやみに飛んで危険ということはない。飛ばす場合は上部ほど大きめに作る。材質はふつう紙。　現実にはクミールがアンティーク好きでランタンなどを多数コレクトしていることから、このような設定が生まれた。ランタンの設定はミールの書にも出てくる古いものである。　地球にも同じようなものがあり、天灯というらしい。

ᴅellelſın ［名詞］月燈師 ［レベル］４　1L ［文化］　月燈祭に使うランタンを製造する職人。日本の花火職人のようなポジションにいる。

ᴅelj ［被服］フリル ［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :ᴅeljıbe（メルの服）。幼女だったメルに女子がフリルのついた服をよく着せて遊んでいたことから。

ᴅeljınſc ［名詞］タイムスケール ［レベル］５　Ɉ1 ［文化］ → yəncj　　アトラスは複数の暦を使い、人類の寿命も地球と異なる。そのため発達を地球と比較するのに便利なスケールが必要となる。メル Ꞻ00 年は西暦２１００年ごろの科学力を想定している。（ただしメル Ꞻ00 年は魔法の力がよみがえっているため、純粋には比較できない）
　一方、ユーマの一族の寿命はイムル 1Ɉ00 年ごろから地球の水準になっている。仮にメル Ꞻ00 年を Ɉ000cᴅ とすると、1Ɉ00cᴅ は西暦１３００水準、1ꟼ00cᴅ は西暦１６００水準となる。　　これは科学史を考える上でしばしば便利なスケールとなる。　　一方、言語の変化については寿命や飛行能力や通信技術との兼ね合いで科学とは別のタイムスケールを利用するのが合理的である。　　zφ ～ 11 の８０００年間は８００年に相当し、jᴅ の 1Ɉ00cᴅ までは４００年に相当し、アルカができるまでの４００年間は４００年に相当し、合計９６００年間で１６００年相当となる。　　アルカができてからメル Ꞻ00 年までおよそ４００年とすると、アトラスの歴史の最後から見て人代の始めの zφ は２０００年前ということになる。地球ではローマ帝国のころ、まだラテン語が現役だったころからアトラスでは言語の変化が激化したということになる。　　そしてこちらは言語のタイムスケールとして用いる。

ᴅeljcµ ［医療］貧血 ［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcj: メルの肌。貧血でメルがよく青白くなっていることから【用例】 nɔn nı ᴅelcj ᴅcl ſcl ᴅelj cµ. 貧血で気持ちが悪いわ。

ᴅel jclɑ ɗıcɑı ɭeeſɔcı ［人名］メル＝シルフ＝ライファ＝ケートイア ［ユマナ］［人名］メル＝シルフ＝ライファ＝ケートイア ［組み数字］７/２８ ［レベル］１　0:ıluınɔ;ᴅelſcı　古：メルは語源不詳。古アルカでの意味は無し。古の古くは ᴅelƎə と呼ばれていた。なお、役所に登録してある名前はまったく ᴅel とは異なるもの。一方、シルフは「軽やかな」という意味で、最年少だったメルの幼さを表現した名で、ʕ 年にセレンがつけた。ライファはイーファ王を表わす名 (ɗı cɑı) で、これはセレンが ꟼ 年のメルの誕生日に与えた。ケートイアは『カコ』から。［文化］ (0 ɑcı ɑcı_)　神話 µɑ の登場人物の一人。アシェットの第７使徒。女性。yənɭ。１７０ｃｍ、４８ｋｇ。髪は黄色で腰まであり、直毛。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。　ユルトとルシアの養母。ジョブは時魔導師。ケートイア人。メルティアの娘。　・『ミールの書』より　彼女は年の頃は 1Ɉ ほどで、体格もミールと酷似していた。小さくて少し痩せ気味の身体。大人っぽい体つきではなく、むしろ年より幼く見える。だが、対照的に顔だけは大人びている。彼女は白いワンピースを着ていて、胸には青い結び目がついている。靴下は薄いピンク色で、靴は赤い。机の上には彼女のものであろう可愛らしい帽子が乗っていた。　少女の桃色の唇が言葉を紡ぎ出す。少女の顔立ちは繊細で美しいが、まだ年が年なので可愛らしいといった感じだ。肌は白いが、微かに他の人種の血も混ざっている様だ。彼女はどちらかというと高低よりも強弱のついたアクセントで言葉を発した。　・声　不思議の国のアリスの３Ｄ映画の吹き替えやってた安藤瞳という人の声がくりそつで、メルが喋ってるかと思った。特に最初のプロポーズのくだりらへん。　・顔　大学のころよくセレンは「メルは仲間由紀恵に顔が酷似している。金髪青い目にした仲間由紀恵だ」と言っていた。　●現実 (0 ɑcı ɑcı) 第４期４代アルシェ第７使徒。女性。Ｂ型。アノ座。白人だが黄色人種が混じっている。　メル暦の発明者。メルテーブル、メルフィ、メルバなど、単位系に関わっていることが多い。　日本語名は愛（める）。愛をメデルと読ませ、そこから取った。　アシェットでは比較的年が若い。アルシェの補佐的なブレインとして働く。知能が極めて高い。　・来歴　0 ɑcı ɑcı に生まれる。兄弟は無し。　Ꞻ に第４期４代アルシェ第７使徒に就任。　19 年からルティア家に居候をし、セレンとリディアの子供であるユルトとルシアの乳母となる。　名にライファが入っているものの、ライファの魔法と無縁だったため、1L に設定が加わった。ラスティアディンをライファで封印したエピソードが加わった。　・ɑılhı　ɑılhı は１０歳のもので、「雪苺（ゆきいちご）」。雪で作った兎と、蔓から伸びる苺の絵柄。　●０７年のブログより抜粋　メル＝ケートイア　× Ɉ009/09/1ʕ 0ʔ:0ʔ　ディアセル企画として、リディアとメルの年表を作ることになった。公開可能。　また、肖像画を描くよう依頼され、受諾した。　今回はメルにした。全面的な協力を得た。　メル＝ケートイア　ウクライナ生まれの混血児。外見上、白人の割合が 9/Δ 程度の様子。　薄い黄色の長髪に、碧い瞳、白い肌。少し長い丸顔で顎が細く、猫顔＋狐顔。　身長 1.ʔꞺ メルフィ (1ʕ9.ꟼɗᴅ)、体重 ʔL メルバ (ꞺΔ.9ꟼ1φ)、BÐЄ=19.Ꞻ（判定：痩せすぎ）　痩せが腕と脚に出るタイプ。顔はそれほど影響されていない様子。　リディアほどではないにせよ、少女体型で、手足が棒のよう。体毛は薄く、体臭も弱い体質。全体的に無機質な印象。　知能が極めて高い。特に理数系が得意。右脳も左脳も良い。ギャグセンス溢れる人で、女の知り合いでは最も面白い。ダーク＆ゲスネタが多いが。　性格は内向的で引き篭もり。倫理観、社会性が欠如していた。　冷え性で貧血気味で生理痛が酷い。体力がなく、運動神経も悪い。　短気で癇癪持ち。気分屋。肺、肝臓、腎臓を傷めるタイプ。ヴィル気質。　日本語堪能。昔はコード混合が酷かった。ちなみに、元ねらー。　メル０年リディアの月リディアの日（1LΔΔ 年 11 月 ʔ0 日）誕生。　メル Ꞻ 年秋、アルシェ第９使徒に就任。セレンとリディアとクリスに懐く。　メル ꟼ 年？、遊びに来ていた来日先の横浜の公園トイレでレイプ未遂。セレンに救助される。鍵にトラウマができ、怖がりになり、チック症を発症。
　メル ꟼ 年末、アルシェを離反したセレンに付いた。舌足らずなアルカが少しマシになってきたころ。　メル ʕ 年冬、母アルヴァノを火事で失う。焼け跡にオルゴール。これが形見となる。気分屋で抑鬱傾向を見せ始める。　メル９年、クミールに会い、初の親友と出会う。　メル 9,Δ 年、天才の素質を開花させたころ。性格が捻じ曲がりだし、セレンとリディアを除く使徒と険悪に徐々になりはじめる。仕事を単独で任されるようになる。また、シェルトをクミールと作ったのも Δ,L 年ごろ。　メル L 年、当時の埼玉県上福岡市にあった下宿先でセレンと男女関係を持つ。セレンにとっても初めての女性。メル 10 年？、初潮。　メル 10 ～ 1Ꞻ 年、リディアと恋愛を巡って争い続ける。過激な発言と捻くれた性格と性的な好奇心の強さと残酷な言動により、アルシェで完全に孤立。日本でも嫌われ、悪魔呼ばわりされるも、本人は悦に入っている。ソーンとはグレーゾーンの関係だが、エケトネ、エンナとは年が近いからか、比較的仲が良い。
　基本的にクミールとセレンのみ心を通わす状態。メル・アルカの創始者で、ソーンとアルシェのアルカを知っている唯一の人物だったため、仕事上は重宝される。抗争時は事実上通訳兼人質としてセレンの代わりに犠牲となった。　確かこのころ、アルヴァノの死の真相をリディアから知らされる。リディアが口を滑らせたのをきっかけに、リュウにカマをかけ、吐露させた。セレンも同じ手に引っかかり、泣きはらすメルに心中を要求された。セレンは受け入れたが、結局実行されなかった。　メル 1Ꞻ 年初春、セレンがリディアと別れた前後に事実上の恋人に。ところがセレン側がその関係を拒んだので曖昧な関係に。　メル 1Ꞻ 年初夏～ 19 年初頭、セレンとエスタの恋愛に衝撃を受ける。リディアの後釜としてのポジションに慣れていたため、新参に持っていかれたことで再起不能に。セレンとの関係さえ断って完全に引き篭もる。鬱状態で躁が来ず、一日中寝て、どこにもいかず何もせず、犬の散歩もロクにせず病気で犬を死なせ、

食事もろくに取らず、生理用品も変えず、風呂にも入らない生活という。その後、エスタの妊娠を知り、殺意が湧く。リディアと共感し、犬猿の仲だったものが回復する。　メル 19 年、セレンがエスタと破局したことで少し気力を取り戻す。しかし夏にリディアが妊娠すると、ふたたび塞ぎこむ。だが、このころには心労ゆえに成長したのか、持ち前の毒々しさが消え、大人しい幼女時代の性格に浄化されていたのが救い。　来日時、セレンが浮気を持ちかけるが、寸前でメルが拒む。それが原因でセレンと二人で会いたがらないようになった。リディアへの恐怖心があるため。リディアの妊娠中、ルティア家への居候が決まる。セレンの子供を産めない代わりに育てたいという発想で、子供の乳母として居候することに。　現在メル 1Δ 年、ユルトとルシア誕生。予定通り乳母に。丸くなった性格と適応力の高さで、ストレスを溜めながらもルティア家で忙しく働いている。　セレンは近年、メルがわがままを見せるのは自分にだけだったということを知った。懐いているからこそわがままだったようだ。今現在、メルはよそよそしい。先日のゴールデンウィークも結局ドタキャンとなった。リディアの目がないとまだこちらのことが好きだというが、リディアと争うのを恐れて浮気心は抑えている様子。　こう見ると、彼女の人生は人付き合いが少ないからか、ほとんどセレンとクミールとリディアとの人間関係で成り立っているようだ。　メルの肖像画を描いたことは数度。イメージイラストに始まり、簡単なスケッチまで行った。　ここに肖像画を掲載。　鉛筆画。画用紙、モデル、ポーズモデル使用。グレースケール、ʔ00ɒdc 【成句】 ᴅel eᴅ ǀinʃ leɒ ɥȷ ccl 親はなくとも子は育つ　ᴅel ɑccᴅ eᴅ ǀinʃ ı beeᴅı 怠け者のメルはババアになるまで生き残る：君子危うきに近寄らず。ややネガティブな意味で使う。　ᴅel ɥeǀ ᴅcl ınɔ メルが作戦のせいで失敗する：策士策に溺れる　lccz ᴅel eʃ lele nɔɒ eʃʃɔ ȷecn ちびっ子メルちゃんはお兄さんたちより頭が良い：山椒は小粒でもぴりりと辛い　ᴅel ɑel leɒ ɑellec メルは教科書なしでも学ぶ：門前の小僧習わぬ経を読む　ᴅel ɒe ıǀǀ ı ɑɥec メルも剣は苦手：天は二物を与えず

ᴅelȷɔ ［動詞］ɥəl を紡ぐ、紡ぐ、紬ぐ、つむぐ　［普通動名詞］紡績　［レベル］4　ɺ1:ᴅcclɥı:ᴅelc/ȷɔ

ᴅelȷeʃ ［普通動名詞］暇つぶし、ひまつぶし、時間つぶし、時間をつぶす、時間を潰す　［レベル］3　ɺ0 【成句】 ᴅelȷeʃ e nıɥə「ナユの暇つぶし」：将棋類のこと

ᴅelȷel ［名詞］ランプ、ランタン、メルセシュ。区別はない。　［レベル］3　1L:（メルの唇）ɥɒ で、時魔法で大人の姿に変身したメルにセレンが一目ぼれし、手に持っていたランタンの灯りでその唇を見つめていた神話上のエピソードから　【用例】 ȷeɥen ȷccnı ez ıluelʃ, ȷɔn lə ıǀʃ ǀlel ǀɔn ᴅelȷel cᴅ ɒəɥne. セレンは薄暗い部屋が好きで、夜はランプの灯りで辞書を書いている。

ᴅelȷelʃclın ［ジョブ］提灯持ち　ɥɒ;/　ɺ⋔

ᴅelȷelen ［料理］ランパンテバージンオリーブオイル　ɺ1:「ランプ用オリーブ油」［文化］ nɒ までは主に南方でランプの油に用いた。

ᴅelȷeɥ ［普通動名詞］相互依存　［レベル］3　ɺɺ:ȷeɥen/ᴅel

ᴅelȷel ［歳時記］メルセル、メルの日、新年、元旦、元日　［レベル］2　1ʕ: 制 : メルの日　［文化］　メル暦の年始日で、メル暦で１番始めにくる祝日。メルセルの前日は夜中まで起き、メルセルを起きて迎える。そのまま夜通しで遊ぶかそこで一旦寝る。起きてからは仕事を休んで仲間と遊び、恋人同士でプレゼントを交換したりする。或いは大人が子供にプレゼントを与えることもある。尚、これらのプレゼントは ᴅel lınʃ と呼ばれる。また、この日はアンシャンテを広げてみんなで祝うため、精度調整のため鏡を使った。この伝統を引き継いでアンシャンテがないときでもメルセルには鏡を飾ったり贈ったりする。尚、この鏡は ᴅelᴅed という。　メルセルとは元日のことである。アルバザードではこの日に新年を祝う。誕生日と違って主役がいないので、みんな公平に祝い合う。家族や友人などと集まり、自宅で祝う。飲食店は休業なので使えない。また、この日は親が子供にプレゼントを挙げたり恋人同士でプレゼントを交換したりする。このプレゼントは ᴅellınʃ と呼ばれ、現金でも構わないが、大抵は予め欲しいものを相手に聞いておく。また、メルシャントは祝いに出席したもの全員にあげる義務はない。親から子などの一方的なものを除けば、メルシャントはあげた相手からもメルシャントをもらうという相互的なものである。従って、恋人や特別な友人同士の間だけで行われるのが常である。尚、親から子へ与えるメルシャントは親子だけの間であり、叔父や叔母などがあげることはない。叔父・叔母・祖父母・近所の大人などが子供にメルシャントをあげる場合は一方的なメルシャントでなく、もらった子供は相手にメルシャントを返す。一方的なメルシャントは親子の間だけであり、それ以外は相手が親戚の子供でも相互的なものである。メルセルには鏡を飾る習慣がある。誕生日に飾るものと同じだが、こちらの鏡は透明な水に漬けておき、水鏡にするといった違いがある。メルセルには ᴅelǀı といって祝いあうが、この言葉はメルセルにだけ使える。その日を逃すと使えない。あけましておめでとうは元日以降も数日の範囲なら使えるが、ᴅelǀı はそうはいかない。　＜メルセルごろのスケジュール＞　学生を例に取る。社会人はテストの部分が決算処理になるだけで、後は同じ。なお、ほとんどのサラリーマンにとって決算処理よりも前の作業のほうがメインになるので、忙しいのはむしろ月の前半。　ɥəs dcn: 期末試験１日目（最終学年の場合、入試）　ɥəs ᴅıʃ: 期末試験２日目　ɥəs ǀən: 結果発表（最終学年は合否の発表）　ɥəs ᴅcɥ: 文化祭前夜祭（文化祭スタート。まだ不燃焼気味）　ıleʃ: 文化祭後夜祭（街の祭りが始まり、文化祭と合同して大騒ぎに。最後は徹夜してメルセルを待つ）　ʃeeᴅȷ: 文化祭最終祭（４年に一度。狂喜乱舞。これがある年はディアセル＜メルセルとなる。また、このテームスの日に徹夜をすることになる）　ɒcı ɒcı: メルセル（一気に正月気分でしめやかな空気に）　ɒcı ucɔ: 休日１日目（無理が祟って寝込む）　ɒcı lcȷ: 休日２日目（動けない）　ɒcı φcl: 休日３日目（ゆったり回復）　ɒcı ɑəl: 休日４日目（明日から学校だ）

ᴅelȷelȷı ［歳時記］メルセルの前日　［レベル］2　1L:lcɔn

ᴅelȷelncın ［歳時記］メルセル休み　［レベル］2　1L:lcɔn

ᴅelnı ［名詞］［形容詞］暖かい、感動的な、好奇心旺盛な、子供っぽい、わくわくする、ワクワク。名詞の場合は ʃcl とともに。　［レベル］3　1L:cᴅel/nı　【用例】 ın ʃcl ᴅelnı cᴅ ǀe ɥeȷ led uecn ᴅcȷǀınel. より難しいコースに挑戦するのはワクワクする。　ın ʃclıʃ ᴅelnı cᴅ ɑcȷ. わくわくした一日だった。

ᴅelncın ［歳時記］メルセル休み　［類義語］ᴅelncınȷel　［レベル］2　ɺ1　［語法］［文化］ ᴅelncın は ɥəs ᴅcɥ_ɒcı ɑəl までの期間。ᴅelncınȷel は ɒcı lcȷ_ɒcı ɑəl までの期間。

ᴅelncınȷel ［歳時記］メルセル休み　［類義語］ᴅelncın　［レベル］2　ɺ1　［語法］［文化］ ᴅelncın

ᴅeluıʃ ［料理］ポトフ　［レベル］3　古 ȷɔɥn。「メルが食べたがって待つ」の意味ではない。このころの uıʃ は古 ȷɔɥn で「到着」であり、クミールから見て「メルが遊びに来たら振舞うもの」という意味。ポトフが当時クミールの得意料理で、スープが主体なので食事嫌いなメルでも比較的食べやすかったことから。

ᴅeluc,ȷzɒ cɑc

ᴅelucφıɥɒ ［軍事］老兵、メルヴィガルド　［レベル］5　ᴅʃ;ᴅeluc/φıɥɒ　ɺɺ 【成句】 hıɔ ᴅelucφıɥɒ eʃ ɥəneɥ, ʃıl ȷeɥ cl ǀɔȷ. 老兵は動けはしないが、方法は知っている：老いたる馬は道を忘れず、亀の甲より年の功　ᴅelucφıɥɒ lcǀe ıl eɒφıɥɒ 老兵は新兵の後ろを行け：老いては子に従え　ıǀl ᴅelucφıɥɒ 老兵を含めて軍隊を数える：枯れ木も山の賑わい　ᴅelucφıɥɒ ʃelȷ 海千山千、百戦錬磨（悪い意味で）

ᴅelueʃ ［言語］時制、テンス　［レベル］4　1L:ᴅelcɒcı ılcȷ　［語法］　テンス：http://constructed-language.org/arka/study_yuli_11.html　従属節の時制：http://constructed-language.org/arka/study_mav_7.html　時制の一致：http://constructed-language.org/arka/study_yulf_27.html 「アルカの認知言語学的考察」の物語中の時制: http://leviantarka.web.fc2.com/study_yulf_147.html

ᴅeluenɒ ［地学］アメトリン。シトリンとアメシストを混ぜたもの　1L:ᴅelɑlcı/uenɒccl

ᴅelueɥınʃ ［医療］統合失調質パーソナリティ、統合失調質人格障害、スキゾイドパーソナリティ障害、スキゾイド人格障害　［類義語］ɥılu eɥınʃ　ul;ᴅel/ueɥınʃ　［レベル］5　ɺʔ:ȷeɥen/ᴅel　［語法］［文化］ ɥılueɥınʃ の類似概念。基本的にはスキゾイドだが、快楽を求め、快楽に関しては感情的になって喜び追い求めはしゃぐという幼稚な性格を伴う。最も優先される価値観が自分にとっての快楽で、行動の原動力は面白いか楽しいである。　おしなべて善悪や正義感などの価値観は持たず、ただ自分にとって面白いか楽しいかだけで物事を判断する。不謹慎などと周りが怒っても気にしないし、そもそも他人からの評価を気にしない。一般にこの人格障害の持ち主は使命感を持って行動せず、理念やポリシーや意義などについても考えない。　典型的なスキゾイドは性体験を忌避する傾向にあるが、このタイプはセックスが自分にとって快楽であれば激しく求める傾向にある。ただこのタイプは通常のスキゾイドと同様、他人との関わりを避ける傾向にあるため、性の対象が限られるか二次元などの非現実に向けられることが多い。　このタイプは喜怒哀楽の楽以外についてはほとんど感情を持たない。特に喜については皆と一緒に何かを達成して感動して達成感を感じて喜ぶといったような団体行動や協調による喜びをほとんど感じることができない。自分で成し遂げた業績についてすらただ過程が面白かったからやっただけという場合がほとんどで、完成時の歓喜などを感じたり自尊心を感じたりすることも少ない。そもそもコンテンツの創造より消費に楽を見出すことが多い。　典型的なスキゾイドと同様、コミュニケーションが苦手で、特に言語による自己の表現が苦手である。文理なら圧倒的に理系に多く、理数系の科目が得意なことが多い。詩歌や芸術などの美しさに感動する心もまず持たない。綺麗な景色は綺麗だと理解できても、繊細な感情など情緒に関するものはなかなか理解できない。要するに綺麗な心を持たない。機械のような心を持つ。　この人格障害は ıl で急激に増えた。一般に、平和だが閉塞感のある国家でゆとり教育を行うと、このタイプの人間が増えるとアルバザードでは分析されている。　　現実ではメルがこの人格障害で、とりわけ思春期以降に形成された。少女時代はまだ癇癪持ちだったりと喜怒哀楽の怒が激しい部分があったのに、思春期以降はひょうひょうとしてほとんど楽以外の感情を見せなくなった。

ᴅelɑ ［動詞］ɥəl に抱き付く、抱きつく、抱き付く、抱き着く。ɑıl から来ているので、格組が ɑıl と同じな点に注意。抱きつかせるの意味ではない。　［婉曲］［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする　［反意語］ɑıl　［レベル］2　1L: 制 :ᴅelɑıl（メルがするように抱く）　［語法］　ぴとっと抱き付く感じ。抱くだと抱く方が大きいイメージがある。ᴅelɑ は逆。　セックスの婉曲用法は、通常 ȷɔl は女で、ɥəl が男になる。ɑıl は ȷɔl が能動的に ɥəl と寝る行為だが、ᴅelɑ は「私を抱いて」とばかりに誘いはするものの、あくまで主導は相手に任せるというイメージである。したがって、通常 ᴅelɑ の ȷɔl は女になる。ɑıl と ᴅelɑ の根本的な語法の差が、婉曲用法でも継承されている。気の強い女は ɑıl するが、萌えるのは ᴅelɑ。　【用例】 lı benʃe, ᴅelɑıʃ ılʃcın nɔʃʃeɾ あの泥棒猫が、私のカレを寝取ったのよ！

ᴅelɑlcı ［地学］シトリン、黄水晶　［レベル］6　1L:cᴅel/ɑlcı　［文化］ ɥɒ まで cᴅdɥıɑlcı と呼ばれていた魔石。敵の弱点をその水晶に映し出す効果がある。ヴァステでニムラを倒したときにインプラから切り崩したことから来ている。

ᴅelɑc ［単位］メルフィ　［レベル］2　古 : メルの長さ　［語法］　単位記号は ᴅ。　１メルフィは１．２５メートル。固有の単位をと始めに提唱したのはリュウ。しかしできたのはメートルを単に４分の１にしたもので、メートルを意識しているので意味がないとして却下された。次にできたのはメートルの１．５４８３～倍という割り切れない長さのものだった。これはメートルを綺麗に直せないという点で実用的

でなく、却下された。因みにこれはリュウの案で、٩年時のリディアの身長を厳密に測ったものだった。そして最後に目を付けられたのが使徒全員の身長だった。全員の身長を厳密に測ってみたところ、メルが１２５ｃｍきっかりだということが分かった。１２５ならメートルとも変換しやすい。そこでリュウは即座にこれを新単位とした。名前は ᴅelɑc。メルの長さという意味である。尚、ᴅelɑc は Δ|φcl に決められたもので、メルは当時 Δ 歳。

ᴅelɑcɔl ［名詞］(ʃcl) おませな、おしゃまな、ませている ［反意語］ɑcıɑ cɔl ［レベル］3　古 : メルの手足。メルが早熟でアシェット女子にしては背が高く育ったため、メル 10 年ごろに早熟という意味で使われた。性的にも早熟だったため､すぐその意味で使われるようになった。　［語法］ 子供が大人びているさま。特に女の子が性的に。【用例】 ʃcl ᴅelɑcɔl おませな

ᴅelɑɔʃ ［娯楽］綾取り ［レベル］2　10: 制 : メルの紐。セレンが教え、メルが好んで遊んだことから。

ᴅelᴅ ［名詞］天才 ［反意語］ɑcıl ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ᴅelᴅcuı（メルのような子供が原義）【用例】 ᴅelᴅ uıμʃ yənen ᴅel メルのようなずば抜けた天才

ᴅelᴅı ［数学］円周率､パイ､π ［レベル］3　古 :ᴅelᴅı。元は ᴅelᴅɔdılılı（円周の数字）

ᴅelᴅcʃ ［名詞］側室、愛人、二号さん、二号、三号さん、三号。以下何号でも。 ［類義語］ılɑıcz ［反意語］ɑcıᴅcʃ ［レベル］4　μɑ;ᴅel/ᴅcnʃc　Ɉ0

ᴅelᴅɔ ［天文］メルモ、土星、衛天 ［数学］円周：古アルカで「周り」という意味だった名残でそう呼んでいるらしい。 ［魔法］土のクリスタル ［組み数字］6／９ ［レベル］3　古 :ᴅelᴅɔ,ᴅelᴅɔn,ᴅelᴅɔ だと周ると誤解される恐れがあったので ᴅelᴅɔn というのもできた。

ᴅelᴅɔ,ɑ　ᴅeȷ

ᴅelᴅɔȷlɔʃ ［数学］円周角 ［レベル］4　Ɉ0

ᴅelᴅɔı ［地名］メルモア ［レベル］5　ᴅelʃcı Lᖊ ȷen ucı;「囲む土地」 Ɉ0:μcɑcı:「囲む土地」［文化］ 古代国家のひとつ。ケヴェアをぐるっと一周する国家。ただし北東部は独立してフッカになっている。

ᴅelᴅed ［名詞］メルの鏡。メルセルに飾る鏡 ［レベル］2　1L

ᴅelɑ ［動詞］yəl を ı に連れてくる、持ってくる、連れてくる、もちよる、持ち寄る､持ちよる ［動詞］yəl を ı にもたらす､もたらす､齎す､授ける､さずける ［反意語］dcɔ ［レベル］2　10: 制 【用例】 μen ᴅelɑ ᴅccl ɑə lɔ. りんごをひとつ持ってきて。

ᴅelɑc ［色］明るいピンク ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılʃe: 制 :ᴅelɑcɑ（メルピンク）

ᴅelɑcʃ ［魔法］［ジョブ］時魔導師、時魔術師（正式） ［レベル］4　1L:μcɑcı: ᴅelɑcȷ 【成句】 ᴅel ı ᴅelɑcʃ メルを時魔導師として配置する：適材適所

ᴅelɑclcu　嬌声、喘ぎ声 ［レベル］4　Ɉ1 ［文化］ 叫ぶような感じの演技がかったものは馴染みなく、自然な嬌声。どうも女性によると膣内を突かれた際にお腹が押し上げられるような感じになるそうで、結果的に「うっ」と息が漏れるそうだ。ただしそれは全女性がそうかどうか分からないし、男性側の長さにもよるだろう。　いずれにせよこれは物理的には気持ちいいから声が出るのではなくて、お腹を押されて息が漏れるということではないか。それを男側が勝手に気持ちいいと判断し、女もそれに迎合する形で誇張されていって最終的に地球のポルノの嬌声になったのではないか。　アルバザードでは演技がかった嬌声はなく、自然と発せられる声となる。突かれて漏れる声だけでなく、前戯などで漏れる気持ちよさそうな、あるいは若干くすぐったいような声なども含む。　素人の女性、特にポルノを見たことがないという女性は特にだと思うが、幻日の作者がそういう控えめなタイプが好きなこともあって、自然な声を出す女しか知らないし、そちらのほうが違和感がないということで、アルバザードでもこうなった。　アルバザードでもポルノや風俗街では演技がかった嬌声が聞けるかもしれない。ただ素人はしないと思う。素人の女性は十数人しか知らないが、あそこまでうるさい嬌声はまず聞かないので、恐らくアルバザード人もそうだろう。　彼女たちを観察して分かったことは、どうやら気持ちよくて声が出ること自体はあるようだ。これは日本人外国人を問わず。ただし、ポルノのような声になることは自然にはありえないと思う。　たまにＡＶか何かに明らかに影響を受けている人もいるが、ＡＶなど見たこともないという層の子で、そういう喘ぎ声は聞いたことがないことも傍証だ。　房事は隠れているのでどうしても手に入りやすいポルノなどを参考にしてしまいがちだが、それでは現実的ではなく、アルバザードの房事を作る上で参考にならない。こちらのポルノをアルバザードの素人の房事に引っ張るわけにはいかないだろう。こちらの素人と比較せねばなるまい。　なお､嬌声の表現は ı... とか ə... とか篭った音が多い気がする。ı...ıı...ən とか。あまり声になっていない感じがする。

ᴅelɑcȷ ［魔法］時魔法、時魔術（正式）、時空魔法、時空魔道 ［レベル］4　1L:μcɑcı:ᴅel/μəɑcȷ ［文化］ μəɑcȷ の一種。時や空間を操る。メルが遣い手。

ᴅelɑcn ［形容詞］楽観的な、オプティミスティック、ポジティブな ［反意語］elnı ［名詞］楽天的な心配がない感情、気楽、楽天、心の余裕 ［感動詞］気楽に行こうぜ。特に文字通りの意味は無い只の挨拶。アンティスは肩肘張って頑張ることを嫌い、気楽に行うのをよしとするため、こういう挨拶が生まれた ［レベル］3　1L:μcɑcı:ᴅelɑc。ストレスがなく気楽だと血色が良くなって頬が紅潮してみえることから。制では ɑcɑn で、1ʔ:ɑcɑnı（軽い心）からだった。気楽な感じがしない音なので滅んだ。 ［語法］ アルカにとって重みとは負担を指す。それが軽いということは、心配がないという意味になる。尻軽という意味ではないので注意。

ᴅelɑcı ［アイテム］秩序メルディア、メルディア ［レベル］4　1٩: 制 :μcɑcı: 古 : 悪魔メルティア ［文化］ ヴァストリアの１つ。メルのもつ腕輪。細く綺麗な腕輪で、ビーズのように透き通っている。悪魔メルティアの力を得た腕輪で、これを付けると時空間を自由に操れるようになる。但し時空間の秩序を破壊するようなことは不可能という制約が付いていて、制約以上の力は出ないようになっている。メルの父である悪魔メルティアが娘のメルに託したもの。

ᴅelɑcıȷ ［動詞］yəl を c から寝取る、寝取る、寝とる、ＮＴＲ ［レベル］4　μɑ;ᴅel/ɑcı/ȷɔ「メルがリディアにすること」 Ɉʔ:zını 【用例】 lıibe ᴅelɑcıȷıʃ ılʃcın c nɔn ȷcnʕ あの女にカレを寝どられたのよ！

ᴅelɑɔyı ［魔法］メルドーヤ ［アクセント］ᴅelɑɔ'yı ［レベル］5　Ɉ0:ᴅel/ɑɔlə yı ［文化］ ıμueeʃe　時間を止める時魔動機。食料品の貯蔵に利用された。ⅅ1ⅅɈ 以降は商工会の地下に作られた。

ᴅelɑɔc ［魔法］メルドイ（ストップ） ［レベル］5　Ɉ0:ᴅelɑɔyı → ᴅelɑɔy → ᴅelɑɔc ［文化］ ıμueeʃe

ᴅeld ［動詞］yəl を縫う、縫う、ぬう ［普通動名詞］裁縫 ［レベル］3　1ʔ: 制 : ᴅelc から ［文化］ 趣味や主婦のパートとして行われる。アルバザード人は服を大切に着る。売られている服はどれも丈夫で、学生服と同じくらいの強度がある。少しほつれたくらいでは裁縫できる人に頼んで直してもらう。放置したまま傷を広げてそのうち捨てるということはない。また、そもそもアルバザードでは服は買う物とは限らない。わりと多くの人が服を自分で作る。その方がサイズもデザインも機能も好きに選べるからである。ミシンは高機能なものが普及しているので服作りはそんなに困難ではない。編み物も同様である。セーターやマフラーや手袋くらいなら家族の誰かが編んだ物で間に合わせることが多い。 【成句】 el ᴅez uın ɔlʃı ʃc ᴅeld ləɔ lıiʃeȷ 人の口を縫おうと噂は止められぬ：人の口に戸は立てられぬ

ᴅeldıl ［歴史］年表 ［レベル］3　ʃᴅ;ᴅel/dıl　Ɉʔ

ᴅeldınʃ ［名詞］理系、理系科目、理系人間 ［反意語］ȷeμdınʃ ［レベル］3 μɑ;ᴅel/dınʃ。アルナ大の文系クラス特進が ᴅel 組であることから、理系の代表とされた。　ɈɈ ［文化］ ɑeldınʃ

ᴅeldıμ ［被服］ミシン ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

ᴅeldılʃ ［歴史］メル暦 ［レベル］3　10: 制 : メルの暦 ［文化］ → dılʃ, φılȷ ılʃ　制アルカ固有の暦。古アルカには旧メル暦があり、今のと大差なかった。これはそれを更改したもので、アシェットの第７使徒メルが生み出した。但しメル暦という名は本人のネーミングではない。メル暦はメルの誕生日である０ ɑcı ɑcı を起源とする太陽暦で、閏年は４年に１回。１ヶ月は２８日で、１年は１３ヶ月と１～２日の特殊日からなる。特殊日はアシェットの日とテームスの日である。２８日はそれぞれに使徒の名前がついている。週は７日からなり、曜日は７匹の悪魔ソームの名で呼ばれる。たとえば１日目はリディアの日でヴェルムの曜日である。尚、特殊日は曜日がない。グレゴリオ暦と違って何日が何曜日に当たるかが不動なので、自分の誕生日の悪魔は常に一定である。これによって曜日占いが可能になっている。　　＜メル暦の西暦換算＞　　分からなくなるのはいつも下ひと桁なのだが、ここは西暦に１を足せばいい。２００８年はメル１９年。ただしグレゴリオと元日が異なるため、１２月にはズレがあるので注意。　　＜歴史ではイムル暦を＞　　主に歴史などの分野では年号だけ ıl でもイムル暦を継続して使用する。西暦と元号を併用している日本には馴染みやすいと思う。例えばイムルが西暦でメルが平成のような元号のようなものだ。　　＜年号の使徒表記＞　　メル年を２８周期の使徒幼字で示すことは可能だが、２８年で一周してしまうのであまり一般的でない。なお、この表記だとメル０年は誰の年でもないので使徒幼字による表記は不可能である。

ᴅeldɔcʃ ［地学］経度 ［レベル］4　Ɉ0

ᴅelbı ［単位］メルバ､１．２５ｋｇ ［レベル］2　1ʕ: 制 : 古 :ᴅelbı（メルバ）← ᴅelbyə（メルの重さ）が２５ｋｇだったが、数が大きすぎて使われなくなり、それの２０分の１である ᴅelbı が台頭した。 ［語法］ 単位記号は b。

ᴅelhıɑcȷ ［魔物］メルハディス（邪骸）：第七十五天：邪の幻天 ［レベル］5　1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:cᴅel/hııɑcȷ（黄色いガイコツ）［文化］ 霊族。死体の骨に乗り移る。いわゆるスケルトン。痛んで黄ばんだ骨をしている。旅人のものが多いため、軽装備の鎧や魔法使いのローブなどをまとっている。剣や魔法使いの杖を持っており、力は生前の能力にある程度比例する。聖水に弱く、かけるとただの骨に戻る。

ᴅelɼıcɑı ［天文］回転花火星雲 ［レベル］6　1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ メルがラスティアディンに放ったライファの星雲。

ᴅelμecn ［地学］経線 ［レベル］4　1L: 時の線。これが１５度横にずれるごとに、１時間アルバザードからずれるため。北極と南極をつなぐ縦線

ᴅelz ［普通動名詞］子守 ［動詞］yəl を子守する､子守する ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :lcczːᴅelȷ「メルをする」【用例】 lel leȷ ȷeμ ueʃᴅɔᴅȷ e ᴅelz, ın nı lɔl ı ȷɔɑn ɑel ʃə ᴅel ᴅelz yəlc ı. 語源を知っているものとしては、そのメルが誰かを子守しているのは面白いな。

ᴅelzlınʃ ［音楽］子守唄、子守歌、子守り歌、子守り唄 ［レベル］2　ɈɈ

ᴅelzeʃ ［数学］そろばん、ソロバン、算盤、アバカス、珠算 ［レベル］5　Ɉ0:ᴅelle/zed/ʃe（珠計算の）［文化］ ᴅelʃcı LΔ'ɈʕΔⅅ にカルテ神がレスティルで発明。砂に線を引いて丸い石を置いて計算した。　ᴅelʃcı LΔ'ʔᖊⅅɈ にルカリア人に伝来。このとき既に板に溝があり、そこに石を置く仕組みになっていた。　アズゲルでは yəəᴅı ʕʔ 年に石ではなく丸い木の球を棒に通した日本でも見られるような算盤がレスティリアで発明された。それが同盟関係にあったギルケート族に伝来する。後にギルケートを征服したハクシウスに伝来し、飛竜での交易に利用されるようになり、ルカリア・レスティルに広まる。　この算盤は以降この地域を治めたシフェランの東方遠征に呼応するように広まり、最終的にはサヴィア大陸にまで渡った。シフェランの征服した領土が広大だったため、算盤のデザインはこの木製のまま伝

来していった。　算盤は電卓などの登場で翳ったものの、ヴェレイでは脳トレなどと称して生き続けた。

ᴅelsc ［普通動名詞］人前での隠れたオナニー　［レベル］6　1Δ:ɥcɑcı:sc e ᴅel. ɥıȷ], cᴅ ɑcın, ᴅel ıɥıʃ ʃə nelʃel ɣən ȷeɥdɔ.

ᴅelscen ［音楽］メトロノーム　［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 時の針（実際にはテンポの針のことだが）

ᴅelse ［被服］フィレット、カチューシャ　ȷᴅ;「メルジェ婦人の」 Ɉ⋂ ［文化］ ȷᴅ でできた。貴族の女性用のヘッドバンド。現代でも古風な女性は身に付ける。

ᴅellıb ［経済］アルバイト、パート、バイト　［レベル］3　Ɉ0　［語法］　時間給の労働のこと。時間給なら正社員でも派遣でも契約でも含めることができる。　アルバザードでは月法に一日８時間の労働を奨励しているので、正社員でも８時間までと決まっているため、一職場につき８時間未満の労働に対してしか意識しない言葉。

ᴅellccaı ［天文］アルデバラン　［レベル］6　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel　［文化］
　メル暦元日の零時にアルバザード国アシェルフィ市天体観測所から見てちょうど南中する星で、アデルの封印の起点となる星。メルが生まれたとき、ちょうど輝いていた星で、メルの星とされ、非常に珍重される。同時にアルデバランは黄道を通る４つしかない一等星のひとつであるため、メルはどこまでも奇跡的な生まれ方をした使徒と考えられている。後世、メルの誕生日があまりに出来過ぎていることに疑問を持ったアルティス教徒は、メルティアが未来を予知してメルの生まれる日を特別にしたのではないかと考えるようになった。　黄道を通る４つの星はアルデバラン、フォーマルハウト、レグルス、アンタレスであり、すべてメルにゆかりのある名がついている。

ᴅellɔ]c ［名詞］一を聞いて十を知る。ʃcl とともに。　［レベル］3　ɈɈ:「メルのような理解」

ᴅelleaʃ ［普通動名詞］タイムリープ、時間跳躍、タイムトラベル、時間旅行　［レベル］4　ɥɑ;/　Ɉ⋂　【用例】　nɔn hıʃcı ʃɣə c nın ıʃ lcɑ enʃɔ nın ləʃ ııs ılɔn ɔ lecn le ʃɣə ȷccnı. ʃɣə ɔ]ʃıʃ hıʃcı ı nɔn ne]]əl, ȷee lə hıʃcı eʃ ᴅcn lınʃ ɔ hıȷᴅ lın. ȷɔn nɔn]ɔlʃıʃ leᴅel cᴅ ʃɣə cn nɔn ȷccnı,]ɔ]]ɔ ᴅelleaʃ. nɔn]ɔlʃıʃ ɑı]ȷel ȷeȷ ʃıʃ le ȷel lənı] lını ɥı]ᴅ lacȷ ncl, enʃɔ nı nɔın eᴅ φcnȷ ɔnʃ ılᴅınȷ. 小さい頃から君が好きで、好かれるよう趣味や服を合わせてきた。そんな君がこっそり教えてくれた好きな人は、年上の素敵なひと。だから私は過去へと跳んで、君がまだ私を見てくれていたあの頃に帰った。あの日が来るたび私は過去へ跳んで、幸せな時代を繰り返した。心が擦り切れ、枯れてしまうまで（ȷeɥen ıɥbızıɥɑ）

ᴅelı ［単位］メラ　［レベル］2　1⋂: 制 : 古 :ᴅelᴅıcnʃ「メルの体」ここでの体は体積を示す　［語法］　制アルカ固有の体積単位。１．９５３１２５リットル＝１メラであるから、おそよリットルの倍に当たる。

ᴅelıʃı ［歳時記］新年会議、メラタ　［レベル］4　1⋂: 制 :ᴅel の日の会議　［文化］
　ɑcııʃı　アシェットが毎年メルの誕生日の後、即ち年始に行う中程度の会議。元は大会議から次の大会議まで１年もあり、その間に大きな会議がないために行われたのが始めで、それから慣例としてメルの誕生日ごろにほぼ毎年行われた。制アルカではこれを新年の会議と具体的に定めるので、以降は年末に行うことを避ける。　補足 : 実際 ɈɈ 年ごろの実情は、特に年末を避けるということはなく、年末ごろの都合の良い日に行うことが多く、少なくとも何年もこの状態が続いている。

ᴅelınueɥ ［名詞］時差ボケ、時差ぼけ、時差呆け　［レベル］4　ɥɑ;ᴅelen ɑc/ınueɥ　Ɉ⋂

ᴅelıɑ ［経済］再生産、再建　［普通動名詞］復元　［レベル］3　1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

ᴅelıɥ ［名詞］タイマー、ストップウォッチ、ストップウオッチ、目覚まし時計、めざまし時計、目覚まし、めざまし　［レベル］3　ɥɑ;/　Ɉ⋂

ᴅelıl ［名詞］時刻、時分秒、何時、いつ　［レベル］2　1L　［語法］　数字を使う場合、ᴅcu 1Ɉ ɑec ʔ⋂ scn ɬʕ ʃ'eɥıᴅ（午前１２時３４分５６秒）のように並べる。時分秒をすべて述べるときは数字を使うほうが多い。ただし時分秒を大雑把に表す場合はアルミヴァを使うこともある。例えば午前１２時３４分５６秒の場合は]ɔnɔɔʃe uıɥɑınʃ nebɥı と言える。いずれにせよ、時分秒をいうときにはアルミヴァと数字は混ぜない。　２４時間制の場合、組み数字を使うなら ınlcınᴅeᴅ（二十四節気）を用いる。１３時は φıɥɑcın と呼ぶ。組み数字を使わない場合は ᴅcu 1ʔ のように数字で述べる。　【用例】　ın ı]ʃ]e uın lı cᴅ ʃə ᴅelıl e]eȷʃ. 明日のこの時間に彼に会いに行く予定だ。

ᴅelc ［名詞］糸　［名詞］フロス　［名詞］デンタルフロス→ ɑcɔᴅelc　［レベル］2　ɑu;e　古　ᴅelc:ᴅelc:lı ᴅelc（紐状）:ᴅelc,ılʃ　【用例】　ᴅelȷɔ ᴅelc 糸を紡ぐ　ᴅelc lclı 細い糸

ᴅelc,ılʃ　lılʃe, ᴅeȷı, ȷɔı　ᴅelc.]

ᴅelcʃ ［名詞］１０歳代の女　［反意語］ılᴅelcʃ　［レベル］2　ɥɑ:ᴅel;ᴅelc]/ʃe「苺のような」 Ɉʔ:ᴅel

ᴅelcʃınl ［料理］そうめん、素麺　［レベル］3　1ʔ: 制 : 糸の麺

ᴅelcʃıl ［名詞］１０歳代の男女　［レベル］2　ɥɑ:ᴅel;/　Ɉʔ:ᴅel

ᴅelcʃəȷ ［医療］糸状　ɥɑ;/　Ɉ⋂

ᴅelc] ［植物］苺、イチゴ、いちご、ストロベリー、草イチゴ、草いちご、草苺　［婉曲］妊娠 :ccɑcȷ から　［魔法］メリック。風の中位白魔法。排卵を誘発する。子どもを作りたいときに使う。不妊治療として使う。苺に魔法を封じ込める方法がカコで確立した。　［レベル］2　1ʔ: 制 :ᴅe luın] メルの果物（食べることが嫌いな使徒メルが珍しく好む果物であることから）【用例】　ᴅelc] ʃəɥ lıc ᴅın ʃəɥ eʃ lınʃe. イチゴが旬なので甘い。

ᴅelc]ʃıɑ ［普通動名詞］いちご狩り　［レベル］3　ɥɑ;/　Ɉ⋂

ᴅelc]ʃɔı ［生物］苺鼻。苺のようにぶつぶつの多い鼻。毛穴パックとかを使ってとる人のような鼻　［レベル］4　1L

ᴅelcȷ ［形容詞］気持ち悪い、不快な、きもい、キモイ、キモい　［類義語］ be]ıᴅ、φıcz　［反意語］ɑccʃe　［レベル］2　1⋂: 制 :ᴅelɔə　［語法］　eȷcl　【用例】　lı eʃ ᴅelcȷ. あの人気持ち悪い。　senʃ ıʃ ᴅelcȷ. うっとうしい天気だった。

ᴅelcȷıdcl ［気象］不快指数　［レベル］5　1L　［文化］　計算式は地球と同じ。ただし、アルバザードではまったく知名度がないため、一般人はこの単語を口にしない。　【用例】　ɑcȷ, ᴅelcȷıdcl ıʃ ʃcn. 今日は不快指数が高かった。

ᴅelcnȷ ［地学］トルコ石　［レベル］5　1ʕ: 制 : メルの眼　［文化］　ハイフを撃つことのできる魔石。

ᴅelcᴅl ［化学］再生繊維　［レベル］4　ɥʃ;/　Ɉʔ

ᴅelcɑcı　メリディア、夢織　1Δ:ȷeɥen: 古 :ᴅelc（糸）/ɑcı（夢幻）。また ᴅel と ɥcɑcı の掛け言葉。　［文化］　セレンによるサスペンスファンタジー小説。死神を題材とする。舞台はアレイユのアルバザード国首都アルナにある中央アルナ大学。

ᴅelchen ［料理］納豆　［レベル］3　ɥɑ;ᴅelchen,ılʃ ＜ ᴅelc/hen「糸を引く大豆」 ɈɈ ［文化］　ɥɑ でカレンシアから流入。南部でよく食べられ、北部ではさほど好まれない。ıl で健康ブームになり、北部でも認知度が高まった。

ᴅelcl ［俗語］キモオタ、キモヲタ、ギーク、メリル　［レベル］4　ıl;ᴅel cȷ/ləlcın　Ɉʔ　［語法］　たいていの場合、無知な一般人によるオタクへの非難か、オタクがオタクを罵るための自己紹介に使われる言葉。
【用例】　uɔɥʃ,ɼ ᴅelclɼ 死ね、キモヲタ！

ᴅelcı ［生物］原生生物　［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ᴅelcȷ（気持ち悪い）［文化］
　ɥɑ では、リュウの魔動顕微鏡で原生生物を見たリディアが、総毛立って「気持ち悪い！」と言ったことから名付けられている。

ᴅelcıl ［形容詞］複雑な、難儀な、ややこしい　［類義語］lɔn　［レベル］3　Ɉ0: 古 ȷɔ]ə]ıᴅelcıl　（絡まる）の後方部分のみを切り取ったもの　【用例】
　ɣeʃ ᴅelcıl ややこしい問題　"ı ɣı. ɑce ȷıᴅd eʃ ᴅelcıl ʃcn]ı, enʃɔ leȷ lıɑıʃ ʃəəȷ ɑce lcel scnȷ ucl eᴅ oel eʃ ɥəl.「そうだね。たくさんの嘘はややこしいんだ。きっと、ついた本人も分からなくなってしまうほどに。

ᴅelcəȷ ［サール］メリウス　［魔法］召喚魔法メリウス（シヴァ）。吹雪で敵を攻撃。　［レベル］3　古 :lı]ʃı　［文化］　裸の女の姿をした生きた氷の彫像。雪の塊が材料になっている。雪や氷を司る。

ᴅelcəȷen ［アトラスの国家］メリウセン　［レベル］5　Ɉʔ:ɥcɑcı

ᴅelcəȷel ［人名］メリウセル　［レベル］5　Ɉ0:ᴅelcəȷ　［文化］　(ɣəəᴅı ɬɬ⋂1:ɬL٩ʔ(ɬ٩0L:ɬL٩ʔ)) メルテナ後期のレスティル王。女のように美しい容姿を持っていたため、メリウスの名が冠された。その見かけとは裏腹に強大な魔力を持った魔導師で、頭脳明晰で、性格は極めて冷徹であった。　ɬɬ٩ɬ にわずか２５歳でペティ関白となる。ɬ٩0L にはペティを廃位し、王となる。後にペティを妻にし、息子イヴィルを設ける。　【成句】　lclcəȷ e ᴅelcəȷel 鬼の目にも涙

ᴅelɔ ［動詞］ɣəl を考え直す、考え直す、再考する　［普通動名詞］再考　［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ᴅelɔɥ,ȷzɑ　uınɔ　‹ ᴅelᴅɔ.]

ᴅelɔə ［サール］メロウ　［アクセント］ᴅel]ə　［レベル］5　ɥcɑcı: 古　［文化］　呪われた青年メロウ。青い顔をしていて不気味な風貌をしている。

ᴅeleʃ ［被服］フレア、フレアスカート　［類義語］ləəᴅenȷ　［レベル］3　Ɉ1:ᴅel/ʃe

ᴅelelcı ［名詞］綿菓子、綿飴、綿あめ、わたあめ、わた飴　［類義語］ɑlə nɣeʃ　［レベル］2　Ɉʔ

ᴅeleȷ ［エルト］メレス　［音楽］楽曲　［レベル］3　古 :ɥcɑcı　［文化］　音楽の得意なエルト。若い女性の姿をしている。声が出ないという病気を持っているので、楽曲しか作らない。

ᴅelenʃ ［名詞］だるま、ダルマ、達磨　［卑語］かたわ。五体不満足を意味する。使わないこと。　［アイテム］メレント、ユニコーンの角　［レベル］3　Ɉ0:ᴅeᴅ/lenʃ（丸い人形）［文化］　手足をもいだ人形。だるまのような形をしている。布で形を作って綿を詰め、中に使用者の髪の毛を一本入れておく。だるまと違うのは胴体がある点。これを持っていると、ニクルの魔法をかけられた際、身代わりとなってくれる。ニクルにかけられると手足がしびれることから、手足をあらかじめもいだ人形が用いられた。一度使うと人形の胴体がもげて燃え、頭だけが残る。

ᴅelenɑc ［名詞］時差　［レベル］4　ɥɑ;/　Ɉ1:Ɉ⋂ に登録

ᴅeles ［俗語］変態、異常者、ヘンタイ、パーブ、パーヴ　［類義語］hcᴅ oenz　［レベル］3　Ɉ0:ᴅelez: 古 :]lccz:ᴅelez（変態）← ᴅelʃeeze（メル風の）。ᴅeleȷ と音を離した。　［語法］［文化］　性的倒錯度の強いこと。一般に凪人＞アルバザード人＞ルティア人の順で強い。幼少期から dılnʃləʃ, ellʃləʃ などを経て、覗き、露出狂、女児に悪戯、痴漢などに発展していく。　地球ではアシェットは男子のほうが口だけで実際には女子のほうが思春期の頃は特に性的倒錯度が高かったように思える。セレンは笛なめの知識はあったが実行しようとは思わなかった→ dılnʃləʃ。セレンは妹がいなかったので好奇心で女性器を見てみたいとは思っていたが、見れるのは温泉の子連れや小さかったメルの世話をしたときなどに限られていた。満足に見れない環境だったし当時はネットもなかったので見たい気持ちが強かったが、変態力が足りなかったせいで「あ、そうだ、女子トイレを覗けば見れるじゃん」という発明には至らなかった。そのことに気付いたのは大学のころで、そのころにはとっくに小中学校を卒業していたので全てが手遅れだったし、そもそも童貞を卒業していたので何ら意味を成さなかった。　ネットもない時代でエロ本にもモザイクがかかっている時代だったので、百科事典で女性器について調べるほど見たがっていたわりに、どうして覗くという発想が出てこなかったのか謎で

ある。思っているより自分にはエロパワーも発想力もなかったのか、いずれにせよ不思議である。　思えば小学校までは女子とばかり遊んでいたのに、エロいほうのお医者さんごっこなどはしたこともない。なにチャンスを無駄にしてるんだ、俺。むしろ好きな女子が人形遊びで「ヘンなおじさん役やって脱がせて」と言ってきたときにはドン引きして帰ってしまった。小３のころは彼女ができてＢまで持っていったのに、マンガの再放送が見たいという理由で途中で追い返してしまったし、全く何をしていたのだろう。実際は変態度が弱かったんじゃないのか。

ᴅelelcɟ ［言語］拝復　⅃1　［語法］　閉じ方は lelcɟ と同じ。早々では閉じないので注意。

ᴅelec ［政治］（行政単位としての）区→ ɟılıc　［レベル］2　1L:ɥcΩcı:ᴅelᴅɔ（囲む）。主にサライ９市を指すことが多いため。

ᴅeleel ［名詞］人面獣心　［レベル］3　⅃⅃:ᴅel/eel

ᴅeıʃʃ ［普通動名詞］再会　［動詞］ɥəl に再会する、再会する　［レベル］3　1L:clᴅəɟ:ɥcΩcı　［文化］　久しぶりを表わす語は ɑccᴅı。敬度による区別はない。誰にでも使える。ɑccᴅı と互いに言い合えば、後は本題に入る。会わない間に何をしてたかを問うたりする。相手に家族がいればそれを話題にしても良い。【用例】 ın nıʃ nıə ᴅın ᴅeıʃʃ hıɗn ɑccᴅ ıl. 久々に友達と会って嬉しかった。

ᴅeıɟ ᴅıɟ >‹ᴅıɟ

ᴅec ［名詞］システムの構成要素、項、項目、事項、チームメンバー、要素、会員、部員、一員、クラスメート、同級生、成員、構成員　［化学］成分、物質の成分、組成　［類義語］ᴅecʃ　［反意語］ɟecᴅ　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ᴅ ecʅ（システム）。語源不詳。造語者メルに問い合わせたら「 忘れた 」と言われた。ᴅel と似るのでメルという名が何らか関係しているのではないかと思うが。

ᴅecʃ ［名詞］要素、項、項目　［類義語］ᴅec　［レベル］3　⅃0:ᴅec

ᴅecʅl ［建築］再建、リフォーム、改装、改築　［レベル］3　1L:clᴅəɟ:ɥcΩ cı

ᴅecɟın ［化学］組成式　［レベル］5　1L

ᴅecn ［単位］キロ　［レベル］3　⅃1:ᴅeʃcın

ᴅecnᴅelɑc ［単位］キロメルフィ。１．２５ｋｍ→ ᴅᴅ　［レベル］3　⅃⅃

ᴅecɑ ［動詞］ɥəl の量を ı まで増やす、増やす、増える、培養する　［普通動名詞］増加、増量、増殖、培養　［反意語］ʅɔɥʅ　［レベル］2　1L: 恣意　［語法］　Ωceᴅ は多くすること。結果的に ɥəl の量が多くならなければならない。ᴅecɑ は増加分がたとえ１であっても構わない。１から２になった場合、２という数自体は決して多くはないので、Ωceᴅ にはならないが、ᴅecɑ にはなる。減るについても同様。

ᴅecɑuɔıɥ ［物理］［化学］増殖炉　［レベル］6　ul;/　⅃∩　［語法］　消費する核燃料よりも新たに生成する核燃料のほうが多くなる、つまり転換比が１を超える原子炉のこと。

ᴅecɑΩə ［名詞］増加量　［レベル］3　⅃1

ᴅecɑhıʃ ［化学］シャーレ、ペトリ皿　［レベル］4　ɥΩ;/「培養皿」　⅃∩

ᴅecΩ ［代詞］［女性］私。女性敬体。　［レベル］2　古 ɟɔɥn:ᴅecΩ（自分（男女兼用））‹ᴅıcn

ᴅecΩen ［代詞］［女性］私の。女性敬体。　［レベル］2　⅃1:ʅᴅccɥ:ᴅecΩ/ 属格 en

ᴅecbɥə ［化学］組成式量　1L

ᴅecɥı ［魔法］［哲学］密教　ılʃ　⅃∩

ᴅecɥə ［人名］メイユ　［レベル］6　ᴅel: 月　［文化］　ラプレムとユーレの娘。ラプレムはユーレの父親。したがってメイユはラプレムの娘でありと同時に孫である。また、ユーレには娘であると同時に妹である。

ᴅecz ［植物］ドングリ、団栗　［レベル］3　lıʅʃı

ᴅecl ［形容詞］無関係な、関わらない、関係のない、なんでもないよ、関係ない　［格詞］～と無関係に　［反意語］ɔn　［レベル］2　⅃⅃:ucʃ. 恣意。ucΩ（使わずに）と ucʃ（無関係) が似すぎるため、ucʃ → ᴅecl、ucΩ → ucʃ に＜ 1L: 恣意　【用例】 ʃee, ʃc eʃ ᴅecl ᴅeɥel. いや、君は全然関係ないよ。　eʃ ᴅecl ɔn{lılʃ} ～と関係がない

ᴅeclen ［接続詞］ᴅecl。～に関しない。　［レベル］3　ɥΩ;/　⅃ʔ

ᴅeclen(⅃) ［名詞］無関係者、非関係者　［反意語］ɔnen　［レベル］3　ɥΩ;/　⅃ʔ

ᴅeeu ［気象］雹、霰、霰、ひょう、あられ　［レベル］3　1L: 制 ᴅeʃueh φecn:φecn:lı φeene（水）:ʅlcınle,ɥʅ(hɥ)

ᴅeeueɥΩɔ ［地学］［魔法］菱沸石　［レベル］6　⅃1: 形が霰に似ている沸石　［文化］　Ωɔlᴅcɥə

ᴅeeɥ ［名詞］出産未経験の女性やメス　［反意語］ᴅınΩı　［レベル］4　⅃0:ɑıl ɑıncı 語で、lcᴅeeɥ と同根。

ᴅeel ［言語］方言、個人語、なまり、訛り、訛　［レベル］3　⅃0:ᴅeɟelΩ:1 L:ɥcΩcı:ıɥbılelʃ: アルバザードから見て周囲の国の言語　［語法］　アルナ方言以外のすべての言語。　［文化］　はじめに　　クミール＝メテはメティオ人だが、アルバザードのカンタルで育った。　クミールは伝統の国ルティアの文化に傾倒しており、ルティア調のユンク語を好んだ。　一方ルティアの姫であるリディアはアルダとサプリで育ち、ルティアにはあまり興味を示さなかった。　よってクミールの言葉はルティアの特徴を持ち、リディアの言葉はアルバザードの特徴を持つ。　　ɥΩ で新生が広まっても、特に音については完全な一致が見られず、方言として特徴が残った。　例えばルティアの特徴は古だろうが新生だろうが残り続けた。　ミロクがアルカ遵守法を作っても、音声的な特徴は残り続けた。　　一般にアトラスではアルバザード方言が標準とされる。また、アルバザードでもアルナ方言が正式とされる。　アルナ人はプライドが高く、方言を馬鹿にしている。が、表向きには方言を笑うのは下品とされるため、自重される。　　カテージュ　　特徴　　・アクセントが置かれる母音がやや伸びる。ᴅılʃ は「マールト」。二重母音や ɥ の場合は伸びない。ıɥbı は「アールバ」にならない。lcɔn は「シーオン」にならない。　・最後の子音の後にシュワーが入る。elΩ は「エール・ドゥ」。最後が n の場合はシュワーが入らない。　・硬口蓋に音を響かせる。明るく軽く高い声になり、日本人と似た声になる。　・アクセントが優先的に後ろよりになる。uıɟʃɥcı は ʃ が uıɟ に入るか ɥcı に入るか解釈が揺れるが、このような場合に優先的に後ろに回す。uıɟʃɥ€ı ～のようになる。　・最後の母音はアルナより長い。ʃcı はもともと「ティアー」だが、カテージュだと「ティアア」という感じ。　　印象　　おっとりしてのんびりして明るく聞こえる。　元々カテージュ人はアルナ人よりゆっくり喋るので、ぼーっとした印象が大きい。アルナ人は、プラスは「優しい」「おっとりしている」、マイナスは「のろま」「ばか」「まぬけ」というイメージを持っている。　　ワッカ　　カテージュと同じ南部方言だが、ややぶっきらぼうに聞こえる。　　イルケア　　南部と北部が混じっている。　南方系の商人はカテージュ人とはまるで違い、意地汚い。　彼らの話し方は素早く抑揚が高く、うるさがられる。　　ルークス　　アルナ方言と同じ。特に違いはない。　　ルティアとアルシア　　特徴　　・イントネーションとアクセントはアルバザードと同じだが、抑揚が少ない。　・語末が下がらない。平坦に終わる。　　ふつうに話してもユンクに聞こえてしまうので、ルティア人の男は「なよなよしている」という印象を持たれる。　ただしユンクと異なり、イントネーションの多重連結はない。　　アルシアは魔法の国ルティアに傾倒しているので、ルティアと同じ。　アルシア人は人口が少ない上に移住する人が少ないため、よくルティア人に間違われる。　　アルティア　　モーラ言語。ıɥbızıɥΩ を ı ɥɜ bı zı ɥɜ Ωɜ と発音する。　アルバザード語と違い、シュワーにもアクセントを置く。　ılʃcı は ı lɜ ʃc ı で、lɜ にアクセント。　　母音＋閉鎖音の場合、重子音になる。ıɟʃe nɔʃ は ı ɟɜ ʃe nɔ ʃ ʃɜ。　この重子音も１モーラと数えるので、アクセントは nɔ にかかる。　　ようするに日本語。　　メティオ　　声調言語。

ᴅeelɑel ［言語］社会言語学、方言学　［レベル］6　⅃0　［文化］　制アルカ前の自然言語研究、および新生流布語の社会におけるアルカのありかたの研究。セレンが大成。

ᴅə,ɑ ᴅəɔ　e

ᴅəʃɔ,ɑ ～の状態でという前置詞　e　赤

ᴅəʃɔn ［人名］ムトン　［組み数字］１２/ １３　［天文］ムトン座　［レベル］3　先 :ınɔ:nʃ　［文化］　第４期３代ソーン第１２使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ᴅəᴅ,ɑ ʃəʅ　ᴅə は動物の対で「動かないもの」

ᴅəᴅᴅə,ɑ neᴅ

ᴅəφcʃ ［音楽］ルンバ　eneφıcı;「楽しい」［レベル］6　⅃1

ᴅəl ［南方］［格詞］cʃ, ɥɔʃ　［レベル］3　古

ᴅəlφ,ɑu ʅɔɔʅ

ᴅələ,ɑ ［格詞］c　［アクセント］ᴅəlƎ　elʃ;lə は「物」。ᴅə は不明。ただ、恐らく「～から出てくる物」のような原義を持つものと思われる。赤

ᴅələ,ılʃ c, cʃ　ᴅəl

ᴅəɔ ［名詞］［形容詞］酸味、すっぱい、酸っぱい　ɟeɥʃ　［レベル］2　1٩: 制 :ᴅəe ᴅə:ᴅə::ᴅıɟɟc,ılʃ　【用例】 ᴅccʅ ᴅəɔ 酸っぱいりんご

ᴅəɔᴅccʅ ［名詞］酸っぱいぶどう、負け犬、負け惜しみ、意地っ張り、石に漱ぎ流れに枕す　［レベル］3　1٩: 制 : 古の直訳　［文化］　ある日のこと、ソームがアルバザードで巡遊してると、一本のリンゴの木がなっていた。そのリンゴはとてもおいしそうだった。しかもおあつらえむきにリンゴは七つある。ソームは喜び、平等に分けるとひとつずつ手に取った。確かにそのリンゴはとてもおいしかったが、火の悪魔であるベーゼルだけはリンゴを持った途端、不用意で自分の火を燃え移らせてしまい、リンゴを燃やしてしまった。するとベーゼルは意地を張り、「 俺は元々そんな酸っぱいリンゴなどいらん。焼きリンゴのほうが上手いに決まってるんだ 」と言い張った。そこから ᴅə ɔᴅccʅ は酸っぱいぶどうの意味を表わし、ɑıcᴅccʅ は本当は良く思っていないのに良いといってしまった手前覆せなくなってしまったものを指す。

ᴅəe ［料理］酢、ビネガー、食用酢　［レベル］2　lıʅʃı:「 すっぱい水 」

ᴅəedıɑ ［化学］酢酸エステル、アセテート　1L

ᴅəeıɟl ［化学］酢酸（通用名）［レベル］4　1L

ᴅəə,ılʃ bıʅ　ɑɔueʃ

ᴅəəb ［料理］ピクルス、野菜の酢漬け　［レベル］3　⅃0:ᴅəe/bıl　［文化］　bıl

Ω

Ω ΩcɟJ

Ωʅ → Ωcıʅlel

Ωɥı ［文末純詞］［老人］Ωı　［レベル］3　⅃1:Ωı のリムレット

Ωɥe ［文末純詞］［老人］Ωe　［レベル］3　⅃1:Ωe のリムレット

Ωɥə ［人名］リュウの略称　［組み数字］6/ ２８　［レベル］1　古 :ɟeɥen

Ωɥəʅclɟ ［名詞］懇切丁寧　［レベル］3　⅃⅃:「リュウのように丁寧に」

Ωɥəɟɟɔə ［名詞］～様。男性の敬称。Ωɥəɟɟɔə 単体で名前を付けなくても使える。　［形容詞］～様。前置すると「～様」。後置すると「～どの、

～さん」程度。 [婉曲] 男性器 [名詞] だんな様、旦那様、ご主人様（hıɾdɒı とも） [類義語] ʝın、ʝɔə ʝııl;e [レベル] 2 古：古アルカで女が男を指すときに使う２人称が ɑɥəʝʝɔə。デュッソウには前期アルカの時代から敬称としての用法があったが、長いので ʝɔə という略形になった。ʝɔə が現われても ɑɥəʝʝɔə が絶えることはなく、むしろ ʝɔə は ɑɥəʝʝɔə より軽い意味で、ɑɥəʝʝɔə は ʝɔə より敬度が高いのだという風に分化していった。 ɑɥəʝʝɔə:ɑɥəʝʝɔə [語法] → ıdʃ, eʝʃ ○名 ×姓 ○前置（丁寧） ○後置（並） ○男 ○単体使用 / 名詞用法 【成句】 ɑɥəʝʝɔə ɒ ʃeɥ ʃc. M氏が聞いてるぞ：厳格で地獄耳なミロクが聞いているかもしれないので口を慎めという意味。壁に耳あり障子に目あり（ɑıl ɒel ʅı ɑcı）と類似。 eʃ ɑɥəʝʝɔə neȣ 何様？、何さまのつもり？。言葉通り「どちらさま？」という意味もある。

ɑɥəʝʝɔə ɥəlφ [娯楽] ユルグの考察 ɉ1 [文化] 『レイトン教授』に相当するゲーム。

ɑɥəʝʝɔə ɥʝcclı [人名] リーダーさん、セレン。ミルフの個人語。セレンを呼ぶときに使う。 [レベル] 6 古

ɑɥənıʅeı [企業] デュナケア [レベル] 5 ɉ1 [文化] 野村證券に相当する企業。

ɑɥənıɒcʝ [魔法] デュナミス [レベル] 2 ls;ɑɥənıɒcʝ < ɑcnıɒcz,enccʅ < ɑcɒcnız < ɑcɒcncɔn/lccz ɑcnıɒcz をエニーク語読みするとデュナミスになるところから。 ɉɉ [文化] ディミニオンの雑魚版。

ɑɥəɒı [格詞] ～ずつ、ずつ [レベル] 2 ɉ1:ʅlccz:eɒɔ と衝突、ıɒɒı 位相と衝突。よって ɑə/eɒı に ‹eɒı:1ɱ: 制：古 :ʝeɒʝ(集団を作る、集団になる) [語法] 「３個ずつ食べる」のように、１回における量を示す。「彼はいろんなことが少しずつできる」という場合は、１件ごとのできる量を示す。このように、回数だけでなく場合やケースも表せる。 【用例】 ʅəc ɑɥəɒı uc ３個ずつ食べる

ɑɥəɒıen [接続詞] ɑɥəɒı [レベル] 3 ɉ1

ɑɥəhıɑ [数学] フェルマーの最終定理、フェルマーの定理、フェルマー [レベル] 5 ɥɑ ɉɉ [文化] リュウが出した数学の問題。フェルマーの最終定理に当たる。自然数 l を使った問題。ıl で証明された。

ɑɥəɥın [宗教] レリクス、聖遺物 [類義語] ɥıɑl zφ;「神の雫」 ɉɱ

ɑɥəɥenʝ [名詞] 手練手管 [レベル] 3 ɉɉ:「リュウの言葉」

ɑɥəın [名詞] 浮浪者、ホームレス、流れ者、ルンペン、乞食 [ユマナ] 脱北者、脱走者 [ユマナ] ジプシー [レベル] 3 ɉɉ:ıɑɥə/ın [文化] ɥɑ で解放されたアデュ及びその周囲の人々が行き場を失って浮浪者として各地に流れ込んできたことから。ケートイアより経済が発展していたアルバザードに多く流入し、ドフレットを経由して中央部へ入っていった。多くは職を得られず浮浪者と化したため、このように呼ばれた。その後浮浪者一般を指す言葉となる。 ユマナの場合は脱北者やジプシーなどの意味があるので、安易に浮浪者と訳しては誤訳。

ɑɥəeʃ [物理][化学][生物]理科。教科名。 [レベル]2 ɥɑ;ɑɥə/ʃe ɉɉ: [文化][語法] 物理 (ʃəlɔ)、化学 (ɒıcl)、生物 (ɥəɒı) の総称。ʝɒ の錬金術師が ɑɔlɒcɥə の研究の過程で隆盛させていったが、特に ɥɑ のリュウが隆盛させた。しかも彼は魔法抜きでの理科を始めた最初の人物でもある。ɥɑ は魔法科学から魔法を使わない現代科学への移行がゆっくりと開始された時代でもある。

ɑɥəelʝ [名詞] 意味深長 [レベル] 3 ɉɉ

ɑzc,ɑ zcɑ e

ɑzchɔ,ɑ zcɔ 「顎の骨」

ɑzccn,ɑ ɑcɔ ‹›ɑzchɔ

ɑzəl,ɑ ɥcφ

ɑı [文末純詞] ɑıd の標準形 [レベル] 1 [類義語] ɑıd、ɑed、ɑe、ɑeel、ɑeeln、ɒɔn、e、ı、eə、ıə 1L:ʃeɔlɔn :::ʃı,ılʃ 【用例】 ın eʃ ʃcı ɑı. 私が正しいのだ。

ɑıʅ [形容詞] 張りがある。ピーンとした状態。 [類義語] ɑıʅʅnıʅ [反意語] φcʃ [動詞] ɥəl を ı に張る、張る [レベル] 3 1ɱ: 制：恣意 【用例】 ɑıʅ ıbe ı bıl ɥınel. 壁に布をしっかり張った。

ɑıʅʃ [動詞] ɥəl を ı にぶつける、ぶつける、ぶつかる、衝突 [動詞] ɥəl（車）を ı（人や物）に当てる、ı を轢く、轢く、引く、ぶつかる、追突する [レベル] 2 1ɱ: 制 【用例】 ın ıʃ ɑıʅʃ ı scʅc ɒeleʃ. ほかのそりにぶつかってしまった。

ɑıʅʃucl [医療] 打ち身、打撲。衝撃でできた傷やあざ [レベル] 2 1L 【用例】 ʃclıʃ ɑıʅʃucl ɔn nıʝʃ 肘を打撲した

ɑıʅʃφeʅ [野球] デッドボール、死球 [レベル] 3 ɉɱ

ɑıʅʃsc [医療] 突き指、つき指 [レベル] 2 1L:ʝeɥen

ɑıʅʃelɑ [交通] 轢き逃げ→ elɑ [レベル] 3 ɉɉ

ɑıʅʅnıʅ [形容詞] ピンとした、ピーンとしてまっすぐな、ピシャっとした、ピシっとした [類義語] ɑıʅ、ʅnıʅ [レベル] 3 ɉ0

ɑıʅʝ [普通動名詞] 繰り返し、反復、リフレイン [動詞] ɥəl を ɥıʝ 回 ı になるまで繰り返す、繰り返す [形容詞] 繰り返した、繰り返された、何度も、何度も何度も [音楽] レープリカ、レプリカ、ビス、テル、クォーター。頭に ʃı を付けるとビス、ヴィだとテル、uıl を付けるとクォーター。 [反意語] dɥce [レベル] 2 1ɱ: 制 :ɑıʝɔ（多くする） cz:cz [文化] アルカは日本語や英語に比べて同じ内容が短くいえることが多い。日英では随分長くいうところを短く伝えられることが多い。そのため、聞き漏らしたら何がなんだか分からない。それに短すぎて印象に残りにくいゆえに、アルカでは短い文であるほど二度同じものを繰り返す傾向が強い。一語文は最も繰り返しやすい。ıl, ıl や ʅeʅ ʅɔ, ʅeʅʅɔ などがそうである。日本語では「はいはい」は無礼とされるが、ıl, ıl はむしろ丁寧である。 また、短い文も繰り返しやすい。長くなって文が複雑になると、全文を覚えづらいということと時間と労力がかかるということがあって繰り返しは少なくなる。アルカの場合、繰り返しは強調で使われる。賛成や賛辞などは繰り返すことによって強調され、敬度も高まる。非難や愚弄は逆に強調することによって敬度がより下がる。公的私的の違いはないが、論文のようにあまり強調する必要がないものは繰り返しが少ない。ただ、論文にも強調される箇所は当然あるわけで、そういう部分は繰り返されることがある。だが、論文の強調される部分はえてしてそれなりに長い文なので、繰り返されないことも多い。

ɑıʅʝʃəlɑ [医療] 回帰熱 1L

ɑıʅʝncɑ [言語] 反復相 [レベル] 4 ɉ0 [語法] 定動詞しかない動詞の非単位動詞が持つ非単位相。 例えば定動詞「叩く」の非単位動詞「乱打」の非単位相「乱打中」のこと。 動詞 ınɑ で示される。 例：bıɑınɑ

ɑıʅʝueʃ [言語] 畳語 [レベル] 5 ɥɑ;/ ɉʔ [文化] ı は ɑ の時代から畳語を作る場合、最初の形態素が接頭辞の ıl に変化することが多い。これは現実の古アルカの性質によるものである。ただしオノマトペはしばしばこの限りでない。

ɑıʅʝɒɔlɑ [言語] 畳語法 [レベル] 5 ɥɑ;/ ɉʔ

ɑıʅʝφel [軍事] 連続銃 [普通動名詞] 連射 [動詞] ɥəl を連射する、連射する [レベル] 3 ɥɑ;/ ɉɱ [文化] φel

ɑıʅʝɥəɔ [言語] 反復動詞 [レベル] 5 ɉ0 [語法] 非単位動詞のうち、定動詞からできた動詞。「乱打する」など。

ɑıʅn [名詞] はたき [動詞] ɥəl をはたきではたく、はたく [レベル] 3 1ɱ: 制

ɑıl [形容詞] 氷などがカキ氷状でガリガリしている、ガラスの破片がジャギジャギな、髪がツンツンしている [レベル] 3 古：カキ氷を削るときのオノマトペに由来

ɑıllı [文末純詞][lben]ʅɔʅ [レベル] 1 ɉ1:ɒıʃ:ɑı. ıl,ɥıȣ「～だ。そうだろうな？」の語彙化。

ɑılɒ [名詞] タオル [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɑclɒele（ザラザラな綿織物） 【用例】 ın ʝeɑıʃ eɥ ʅɔn ɑılɒ. タオルで水気を取った。 ın ɑcdıʃ ɒıcn ʅɔn ɑılɒ. タオルで体を拭いた。

ɑıʝ [普通動名詞] 提案、勧告、勧誘、推薦 [動詞] ɥəl を ı に提案する、提案する、提言する [法副詞] ～したらどうですか。勧誘の副詞 [反意語] nɔıʝ、φcl [レベル] 1 ɑ;e 赤：威厳のある勧告 ɑıʝ:ɑıʝ [語法] ın が主語だと「～しましょうか？」。ınʝ が主語だと「～しましょうよ」。相手が主語だと「～したらどうですか？」。通常クーノを伴う。 [文化] 勧めるときは相手にとっておせっかいにならないようにする。さも自分が親切であるかのように気取るのは非常識。勧めるときはさらっと勧め、相手が関心なさそうならすぐに引き下げる。推薦されたほうは素直に ʝeeɥe というか、あるいは ʃeeɥe という。 アルティス教が何が善で何が悪かを決めてくれているので、何が良いことか分かっている社会なので、良いと思うことは比較的さくさく推薦してくる。赤の他人でも親切に薦めてくるので、現在の東京人にはややおせっかいに映る。 【用例】 ʃc ʅe ɑıʝȣ 行ったらどうですか？

ɑıʝʃ [動詞] ɥəl の値段を ı ソルトまで値切る、値切る [普通動名詞] 値切り [レベル] 3 1ʔ: 制 :dııl: 古 :ɑıʝʃelcı, ɑıʝʃclcı [文化] 値切る文化はない。高く売りつける人もいないので。

ɑıʝʅ [動詞] ɥəl を砕く、砕く [魔法] ダスク。土の低位白魔法。岩などの障害物を砕いてトンネルを掘り進んだり、道を進めるようにする [レベル]2 1ɱ: 制 :ʝɔɥn:ɑıɔ [語法] ɑıʝʅ はいくつかの破片にすること。ɑɔɥ はそれが別物である程度に破壊すること。ɑıʝʅ は物を変えないが、ɑɔɥ は変える。砂糖を ɑıʝʅ してもまだそれは砂糖だが、窓を ɑɔɥ したらもはやそれは窓ではなくガラスの集まりである。窓を ɑıʝʅ したといったら、窓を丁寧に後からでも使えるように切り分けたといった意味になる。

ɑın [形容詞]深い [反意語]φcɒ [レベル]1 1ʔ: 制：古 :ɑen cen（見えない） 【用例】 eɥec ɑın 深い河 belʃ ɑın 深い鍋

ɑınʃ [形容詞] 私の、公私の私、民間の、わたくしの、私立 [反意語] ʝılʃ [レベル] 3 1L:ʅıɑın/ınʃ などの ʃ

ɑınʃʅılə [法律] 私法 [レベル] 5 ɉ0

ɑınʃuıc [軍事] 私兵 [レベル] 4 ɉɉ

ɑınʃuenʃ [経済] 私企業、民間企業 [レベル] 4 1L

ɑınʃuecʃ [動詞] ɥəl を私掠する、私掠する [普通動名詞] 私掠 [レベル] 6 ɥɑ;/ ɉɱ

ɑınʃuecʃıdl [名詞] 私掠船 nɑ;/ ɉɱ

ɑınʃɑeʅʅı [名詞] 私立校 [レベル] 3 ɉ0

ɑınʃφını [政治] 私領 ɥɑ;/ ɉɱ

ɑınʃʅɔd [交通] 私鉄 [レベル] 4 ɉɉ

ɑınʃıuɔɒ [ポジティブ] 私兵。勇猛果敢なイメージ→ ɑınʃuıc [レベル] 4 ɉɉ

ɑınʃıueɥ [名詞] 民間資格 [レベル] 5 ɥɑ;/ ɉʔ

ɑınʃceɥ [地学] 超深海層。海の垂直区分。 [レベル] 6 ul;/ ɉɱ [語法] ʃceɥ

ɑınʃe [遊離副詞] [形容詞] ～したばかり [類義語] ʝeʝcl、zɔʅɑınʃe [反意語] ɒılcʝ [レベル] 1 ɉ0: 古 :ɑıɑıʝʃeeze [語法] lıczı

ɑınʃeɒcue [動物] 初生雛 ɥɑ;/「生まれたばかりの雛」 ɉʔ

ɑınʅ [法律] 弁護 [レベル] 3 古

ɑınʅın [政治] [法律] 弁護士 [レベル] 3 1L

ɑınʅıɑ [地球の国名] ホンジュラス 1L: 国名が「深さ」

ɑınȷ ［動詞］ɥəl を孕ませる、ɥəl に ı（子供）を妊娠させる、孕む、妊娠する ［反意語］ɑcnȷ ［レベル］3 1ⅅ: 制 :ccɑcȷ から 【用例】 ıɥɑeȷ ɑın ȷıʃ ʃɥəı ı uıl ʃcln. アルデス王はテュアに４匹の竜を妊娠させた。 lı eȷ ɑınȷ ı ᴅcuı. 彼女は娘を妊娠している（おなかに娘がいる）

ɑınȷɑıuı ［被服］マタニティドレス ［レベル］6 Ꝭ1

ɑınȷɔl ［医療］妊婦→ lculın ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleıʃ ［語法］「孕まされた」という意味で、セックスを強く連想させるため、ɑcnȷın, lculın のほうが雅。

ɑınȷen ［音楽］マンボ eneφıcı;「寄り添う」 Ꝭ1

ɑınl ［形容詞］分別のある、思慮深い、思慮分別のある ［反意語］ılɑınl ［レベル］3 1ʔ: 制 【用例】 ın lılʃ ıȷeɥ eʃ ɑınl. 私は兄ほど思慮深くない。

ɑınleed ［言語］深層構造 ［レベル］6 1L

ɑınıʃc ［名詞］深さ、水深 ɥɑ;/ Ꝭⅅ

ɑınılɔn ［医療］［植物］土壌のＢ層 1L:ɥcɑcı ［語法］ Ａ層の下。土壌の最下層。腐植が少なく褐色の層。

ɑıɑʃ ［動詞］ɥəl をかつぐ、かつぐ、担ぐ ［レベル］3 1ɦ: 制 : 古 :ɑıɑɑəʃɔ（重いものを取る）

ɑıɑʃı ［医療］担架 ［レベル］3 1ɦ: 制 :ɑıɑȷ から

ɑıɑʃɔᴅ ［名詞］持ち方、担ぎ方 ［レベル］3 Ꝭ1

ɑıɑı ［名詞］マッチ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑılᴅ/ɑıc（ぶつかる火）【用例】 ıɥ ɑıɑı マッチを擦る

ɑıɑcn ［動物］ウズラ ［レベル］4 lılʃı

ɑıᴅb ［形容詞］時間が多くかかる、時間がかかる、長ったらしい、時間がかかって面倒な、冗長な ［類義語］ɑcll ［反意語］ılɑıᴅb ［レベル］2 1ɦ: 制 :ɑıb。ɑıᴅb（面倒な）と ɑcȷʃ（冗長な）を統合し、ɑcᴅb（時間が早くてすむ）と ɑıȷʃ（簡潔な）を統合した。

ɑıᴅe ［形容詞］都合の悪い、不都合な、景気の悪い、調子の悪い、（儲け話が）しょっぱい話、自分のスケジュールの予定にあってない、採算の取れない、予算に合ってない、不利な、適切でない、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［反意語］lclɑ ［レベル］2 1ʕ: 制 :ɑıᴅ（適切）

ɑıɑ ［形容詞］重い ［形容詞］体がだるい、けだるい ［形容詞］胃が重い、胃もたれがする ［音楽］ラルガンド ［反意語］ȷclɑ ɥɑ;> ȷzl 先 :ɑıɑ（重い）。ソーンでは ɑıɑıȷ。 ［レベル］1 bɥə:bɥə:ɑıɑ:ɑıɑıȷ,ɑφn ［語法］重量のあることを指す。プレッシャーや精神的圧力が大きいことも指す。 ヴィードによる威嚇の強さが強いことを指す。敵と対峙したとき、ヴィードを強く燃やすと、こちらのヴィードの圧力が敵にかかる。このとき、圧力が強いと敵は肩がぐっと重くなったような圧力を感じる。そのため、それを uccɑ eʃ ɑıɑ と表現する。 また、ɑıɑ は太っているの婉曲用法。ȷclɑ は痩せているの婉曲用法。 【成句】 nı ɑıɑ ɔn nɔı 気が重い、気が重くなる 【用例】 ın nı ɑıɑ ᴅcl senʃ ᴅelʃ. 暖かい陽気は私をけだるくさせた。

ɑıɑ,ȷzl ɑıɑ > dɥ

ɑıɑleᴅ ［医療］胃もたれ ［経済］弱含み ［レベル］4 ꞮꞮ

ɑıɑuınʃcȷ ［軍事］重装兵 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı

ɑıɑɥıc ［生物］［医療］体重節痛 ɥɑ;/ Ꝭⅅ

ɑıɑləʃeılᴅ ［化学］重質ナフサ 1L

ɑıɑılᴅ ［化学］重油 ［レベル］5 1L

ɑıɑıȷ ［名詞］重り、重し ［化学］分銅 ［レベル］3 古 ȷɔɥn:ɑıɑıȷ（重い）

ɑıɑıȷ,ɑφn ɑıɑ ɑıɑ,dɥ.l

ɑıɑınɑı ［軍事］重火器、ヘビーウェポン ［類義語］lıcınɑı ɥɑ;/ Ꝭⅅ ［文化］ φel

ɑıɑıl ［形容詞］色が濃厚な、濃い ［反意語］ȷclɑen ［レベル］3 Ꝭ1:ɑıɑıȷ

ɑıɑc ［名詞］重さ→ ɑəɑ ［レベル］3 1L:ᴅel

ɑıφɑ ［名詞］いらいら、イライラ、焦燥、焦燥感、焦り、イラ立ち、苛立ち、いら立ち ［形容詞］イラついた、苛立った、イライラした ［レベル］3 古 ［語法］ アルカは余裕の文化を持つため、アルバザード人は焦るほどユーモアを出そうとする。ここは日本人とまるで逆。イライラは恥ずべきことで、そのような状況にこそユーモアを出せるかが男気になる。男気といったのは、実はアルバザード人の女はイライラするからである。イライラやヒステリーは女のものという常識があって、女ならイライラしていても多少は多めに見られる。【用例】 ın nıʃ ɑıφɑ ᴅcl hıɥʃ lcn. ひどい暑さでいらいらしていた。 lı nı nelʃ ɑıφɑ ı ʃɔʃıl ɑɔl ɔɥʃ. 彼女は生理中は何にでもイライラする。 ın nıʃ ɑıφɑ ᴅcl ɥcb. 蚊のせいでイライラした。

ɑıφe ［植物］キウイフルーツ、キウイ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑıɑφel（茶色い玉）から。

ɑıφencı ［美容］ボウズ、坊主、坊主ヘッド、ボウズヘッド。スキンではなくボウズヘッド。かなり短い ［レベル］4 1L

ɑıd ［生物］額 ［レベル］1 1ʔ: 制

ɑıdʃ ［動詞］ɥəl をしかめさせる、しかめる、顰める ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑıdnc/ 古 :leʃʃı（眉毛が行く）【用例】 lı ɑıdʃıʃ. 彼女は顔を顰めた。

ɑıdlɔɔz ［生物］額角髪際 ɥɑ;/ Ꝭⅅ

ɑıdlɔɔzᴅɥəʃ ［生物］両額角髪際間 ɥɑ;/ Ꝭⅅ

ɑıdcnc ［生物］眉、眉毛 ［レベル］1 1L 【用例】 ɑɥeᴅ ɑıdcnc ı lɔl 眉をひそめる

ɑıdɔd ［名詞］頭注→ lec ［レベル］6 ꞮꞮ

ɑıb ［形容詞］面倒な、面倒くさい、面倒臭い、面倒、わずらわしい、煩わしい、厄介な ［レベル］2 1ⅅ: 制 :ɑılıb（仕事が多い）【用例】 ʃə eʃ ɑıb lcnel lel ın dcı nelʃ hıɥl ʃıʃ ȷel. 毎日お弁当を持って行くのは煩わしい。 ın ʃclıʃ ᴅeȷı{lılʃ} ɑıb ȷcn. 厄介な立場に立たされた：ᴅeȷı だと環境、lılʃ だと立場。例えば死体片付け役のような「ポスト」の場合、立場なので lılʃ。 ☆ ɥɔᴅ, ɥeʃ ɑıb ʃcn lənıl ɑlel ınʃ. 突然厄介な出来事が私に降りかかった。

ɑıd ［文末純詞］〜だ。断定の純詞を ı 系感動詞の応用で強くしたもの ［レベル］1 1L ［語法］ ɑed 【用例】 ɑce ɑıdꞁ 嘘だッ！（竜宮レナ）

ɑıdᴅı ［感動詞］はじめまして、初めまして→ hıɑhıdᴅı ［類義語］hıɑhıdᴅı ［レベル］2 古 :ı'ɑıdᴅı ←は hıɑ'hıdᴅı（使徒になった） ［語法］ → hıɑhıdᴅı ɑıdᴅı のほうが hıdhıdᴅı よりくだけている。 × ınɑıdᴅı

ɑıɥ ［形容詞］自動の、機械仕掛けの、オート ［反意語］lıl ［レベル］2 1ⅅ: 制 :ȷɔɥn:ʃlɔcnʃ（自動ドア） ʃlɔc:ʃlɔc:ʃlɔcnʃ

ɑıɥʃ ［形容詞］メジャーな、大多数の ［名詞］多数派、マジョリティ ［反意語］φcɥl ［レベル］3 1L: 制 ɑı/ləəʃe(ız ʃeeze)

ɑıɥʃsıl ［名詞］多数決 ［レベル］2 1L 【成句】 hıȷ ɑıɥʃsıl 多数決により、多数決で決める、多数決に従う

ɑıɥleȷ ［エルト］ダルケス ᴅʃ100'Δ000(uȷ):lɔnɔɔʃe; ［レベル］4 古 ［文化］ コノーテとカルザスの息子。光を司る。フェルデンと駆け落ちし、アルデスに殺される。黒髪の白人美青年。ルフェルと違って長身。帯剣し、アルデスと同じようなアーマーを身につけている。実直で豪快で、敵となるアルデスに似ているが、アルデスのほうが男気がある。ルフェルよりはカルザスに似ている。

ɑıɥφel ［軍事］フルオートマチック、フルオート、全自動 ［レベル］5 ɥɑ;/ Ꝭⅅ ［文化］ φel

ɑıɥlınʃı ［娯楽］ＢＯＴ、ボット ［レベル］4 ꞮꞮ 【用例】 ɥecınȷ ınʃ eᴅɔɥ ʃəəȷ e ɑıɥlınʃı e ɥɔlɔuı cᴅ ʃəɔ cn. 最近、私のＴＬが例文ｂｏｔのＴＬのように見えてきた。

ɑıɥlcȷφel ［軍事］自動小銃 ul;/ Ꝭⅅ ［文化］ φel

ɑıɥlenʃ ［電算］オートマトン ［レベル］6 ɥɑ:ɥɥəə;/「自動人形」受けた情報を自動で機械的に解釈するというところからこのように命名された。 Ꝭʔ

ɑıɥıᴅɔ ［交通］オートマ車、オートマ ［レベル］4 Ꝭ1

ɑıɥıɥl ［電算］ハイパーリンク ［レベル］3 1L

ɑız ［形容詞］〜に当然あたる、〜に値する、〜する価値がある、ふさわしい、相応しい、相応な、似合う、にあう、〜が所有する物としてふさわしい、当然な、フェアな、納得がいく、仕方ない、しかたのない、しようのない、しょうがない、もっともな、尤もな、適応する、適切な、しっくりくる、サイズが合う、フィットする、ぴったりな、タイトな、適合する、適応する ［格詞］〜に当然あたる、〜にふさわしい、〜にふさわしく ［動詞］ɥəl を ı に適応させる、適応する、適応させる、適する、合す、合わす、合わせる ［反意語］ɑcᴅ ［接尾辞］〜にふさわしい。ｔｒｕｓｔｗｏｒｔｈｙなどのｗｏｒｔｈｙに相当：ȷeʃɑız（死に値する）、hılɑız（称賛に値する） ［レベル］2 ʃᴅ;ɑızeʃ,ɑ.l 1ʔ: 制 :ɥcɑcı: 英語のｄｅｓｅｒｖｅから来た ɑczııu というのがあったが、ɑız はこれからではなく、古アルカの「相当」を意味する ɑızeʃʃ から。 ɑızeʃ:ɑız:ɑızeʃʃ 【成句】 ɑe ɑız ı 柄じゃない、柄ではない、ガラじゃない、ガラではない、がらじゃない、がらではない 【用例】 lın ɑız 適任者 ［メタファー］ɑız ɥən lıȷl ȷlɔl 履き慣れた靴のようにしっくりくる ［メタファー］［卑語］ɑız ɥən ᴅcnʃc 嫁のようにしっくりくる：元々嫁の性器のように使い慣れたという意味から来ているので、［卑語］タグ。 ɑcȷ ıʃ ɑız ı ʃɔll. 今日はトレーニング日和だった。

ɑızʃıb ［普通動名詞］照合 ［動詞］ɥəl が ı に適切か照合する ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleıʃ ［語法］ lɔlʃıb と区別。アンセの本人照合はＩＤと本人の照合なので lɔlʃıb でもいいし、本人が買い物に適切かの照合なので ɑızʃıb でもいい。

ɑızuɔl ［言語］文法的に正しい文 ［反意語］ɑcᴅuɔl ［レベル］6 ꞮꞮ ［語法］ ɑcᴅuɔl

ɑızscφ ［動詞］ɥəl を見計らう、見計らう、見はからう、見繕う、見つくろう ［レベル］4 ɥɑ;/「適切に選ぶ」 Ꝭʔ ［語法］ 見て、適当なものを選ぶ。みつくろう。何かする時期を選ぶの「見計らう」は scφ。

ɑızeʃ ［名詞］義理、道理、道義、義理人情、正義感 ［レベル］3 ʃᴅ:ʃcln ɔ;ɑızeʃ,ɑ.l Ꝭ1 ɑızeʃ:ɑızeʃ:lə ɑızeʃʃ

ɑızeʃ,ɑ ɑız elʃ;e「ふさわしい」

ɑızeʃʃ ［組み数字］４／１０ ［哲学］義 ［医療］小腸 ［歳時記］庚、かのえ ［レベル］4 ɥɑ;ɑızeʃʃ,ȷzl Ꝭ1 ::lə ɑızeʃʃ

ɑızeʃʃ,ȷzl ɑızeʃ ɑızeʃ,ɑ.l

ɑızeʃʃlın ［生物］［医療］小腸経 ȷzl;/ Ꝭⅅ

ɑızen ［接続詞］ɑız ［レベル］3 Ꝭ1

ɑızeᴅ ［天文］テラフォーミング ［名詞］適応化、適応 ［レベル］5 Ꝭ1

ɑıs ［形容詞］親切な ［反意語］uınɑı ［レベル］2 古 ［語法］ ɑıs（＋干渉）,ılɑıs（＋不干渉）,uınɑı（−干渉）,ıluınɑı（−不干渉）の４点セットで覚えるとよい。

ɑısnı ［名詞］親切心、計らい、はからい、配慮、思慮 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe 【用例】 ɑcʃ ɑısnı 気を利かせる、気遣う φɔl ɑısnı ご厚意に甘える。丁寧用法の φɔl でない場合は「親切心を請う」の意味だが、通例それで使われることはないし、文脈で分かる。 ʃə eʃ ɑısnı ɑəen hɔln lcȷ ɑeel. それはほんの一匙の親切心。

ɑısc,ɑ ıll sc は指

ɑılʃ ［政治］官僚 ［レベル］4 ȷɔɥn: 古 :lılʃ, ɑılʃ。アルシェでは lılʃ だったが、クミールにこの語を教えたセレンの発音のせいで彼女は ɑılʃ と覚えた。 ［文化］ → leȷʃcᴅccɥ

ɑıllʃɔnl ［政治］官僚 ［レベル］4 1L ［文化］ 事実上の身分の１つ。地位

のほうが適切。

ɑɪl ［形容詞］尊大な、傲慢な ［反意語］lcȷʃ ［レベル］3 1ʔ: 制

ɑɪlɔ ［地学］地盤 ɥʃ;ɑɪlᴅ/ɪlɔ「支える地面」［レベル］3 ɹʔ

ɑɪlɔᴅcᴅ ［地学］地盤沈下 ［レベル］4 ul;/ ɹʔ

ɑɪlȷ ［形容詞］動的な、動きの多い、アクティブな、活動的な、活発な、行動的 ［反意語］ɥənеɥ ［化学］［電算］活性 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪləə（動きが多い）。ləə は古アルカで「動く」。【成句】 ɔuc ɑɪlȷ nɔɑ ȷеɥеn ɑɪnl 考えるセレンより動くオヴィ：案ずるより生むが易し。ɑɪlȷ と ɑɪnl で口の端に乗せやすく工夫してある。［メタファー］ɑɪlȷ ɥən lələcɪ lcs 幼い頃のルシアのようにやんちゃな:子供以外に使うと悪口。【用例】 ɪn еᴅ ɑɪlȷ cᴅ ɑlеɪ nɔɑ ɪɥlcеl ɪlʃ. 夏はほかの季節より活動的になる。

ɑɪlȷʃɪnʃɔɪ ［魔法］動殻 ［レベル］5 ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɑɪlȷuеᴅu ［娯楽］アクティブモンスター ［レベル］5 ɹɹ

ɑɪlȷɑɥеɥə ［言語］遊離副詞 ［レベル］4 ɹ1 ［語法］ ɑɥеɥə

ɑɪlȷɑɔɪ ［経済］動産 ［レベル］4 ɹ1

ɑɪln ［地学］琥珀、アンバー ［レベル］3 lɪʃɪ ［文化］ 土の魔石。

ɑɪlnlcd ［魔法］琥珀測定 ［レベル］6 ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɑɪlɑ ［エルト］ダルフ ［政治］クーデター ［レベル］4 古 :ɥɥəə ［文化］ クーデターを起こしたエルト。

ɑɪlᴅ ［動詞］ɥəl を支える、支える、支持する ［普通動名詞］支持 ［名詞］～立て、立てるもの、立て、支えるもの ［反意語］ɑcdȷ ［レベル］2 1ɱ: 制 :ɑɪlᴅɪcn（体を助ける）

ɑɪlᴅlɪ ［物理］支点 ［レベル］4 1L

ɑɪlhɪ ［名詞］ダルハ、印章、印影 ［名詞］スティグマ、聖痕 ［名詞］バッジなどに書き込まれている身分を示す記号のこと ［レベル］4 1L:clᴅ əȷ:ɥcɑcɪ:ɑɪd（額）/dɪɪl（古：光）/hɪɥɪ（痣）。今まで特に名前がなく紋章としていたので命名。アシェットが特別であることを示すもの。アシェットだけが唯一テームスを倒したラシェットであることから、特別な設定が付けられている。シェルトができるまではダルハは使徒記号という別の形をしていたが、シェルト以後はダルハはシェルトで使う幻字になった。だから本来使徒の額に浮かんでいたのは使徒記号なのだが、ややこしいので始めから現在のダルハが浮かんでいたことになっている。［文化］ 神代に神々が書簡などの個人認証に作った紋章。確かにその人のものであるというのを示すための道具で、家紋という概念がなかったころに作られた。 自らの名を示す幻字ではサインとして単純すぎで、容易に捏造できた。そのため複雑なデザイン文様として作られた。家紋はこれを真似て後に作られた。植物や動物などを象ることが多い。 身体に描くとヴィードの流れをよくする。額なら ucɥ、手なら ɥənɔ、腹なら nɔɪ という具合に。 神々は式典などの際、額に描くことがあり、これが元で ɑɪlhɪ と呼ばれるようになった。普段から額に描くのではなく、神祇の一環。
額に浮かぶ紋章ということでは後述のアシェットの紋章もそうで、その紋章も ɑɪlhɪ と呼ばれるようになった。が、両者の ɑɪlhɪ はあくまで別々のものである。 ɑɪlhɪ は神代のうちに人類に伝わった。人類の特徴は、一生涯で複数の ɑɪlhɪ を使い分ける点である。 例えば 1ɱ 歳のセレン少年は「氷晶躯龍」を ɑɪlhɪ にした。氷の結晶に封じ込められた龍の躯という意味で、当時彼が格好いいと思っていたものを集めたもので、強そうなものやカッコいいものにあこがれるという少年期の幼稚さと純粋さが現れている。要は中二病である。 ɹΔ 歳のセレン青年は「風柳」を ɑɪlhɪ にした。当時青年は人間とは、男とは、強さとは、正義とは、などといったことに悩んでいた。 幼少期は強さとは硬く頑強なことだと考えていた。しかし硬く強いものはしばしば猛攻を受けると防ぎきれずにつぶれる。つまり、もろい。筋肉も硬いと一見強いが、損傷しやすくもろい。 一方、柔軟でしなやかな筋肉は丈夫で強い。植物も同じで、風の強い土地の植物はしばしば風に立ち向かうための太い幹を持つのではなく、風を受け流すススキのような構造をしている。力を受け流し、損傷を少なくする。柔軟なほうが実は強い。 では、柔軟で受け流されるだけでよいのか。それでは単に強いものに巻かれるだけで、自分というものがない。 しかしススキはどうだろう。ススキは東西南北に風の向くまま流されるが、けして根の位置だけは変わらない。根だけは動かない。 自分の根っこの部分だけゆるぎないものを持っている。そしてそれは根という場所にあるため、これ見よがしに他人に見せびらかすものでもない。それが本当の強さなのではないか、と青年は考えた。 そこで青年は ɑɪlhɪ に靡芒(風に靡くススキ)を選んだが、ススキは外来種で、当時のアルバザードにはまだ入っていなかった。
そのため周囲の仲間から「独りよがりにならないでほしい」といわれ、同じ外来種でも既に輸入されていたヤナギを選び、「風柳（かぜやなぎ)」を ɑɪlhɪ にした。 このように、人間は神と違って成長が遅く寿命が短く精神的に脆く迷いやすい。 したがって自分を表す象徴も経年変化し、ɑɪlhɪ を生涯に複数持つことになる。 しかし複数の ɑɪlhɪ を見ていくことでその人がどういう成長や人生を送ってきたかがわかるため、しばしば貴重な史料となる。 ȷᴅ 以降は次のような習慣ができた。ɑɪlhɪ は最初に親が与え、10 歳まで使用する。その後自分で変更する場合は変更する。 タイミングとしては伝統的に 10,1ɱ,ɹ0,ɹΔ,ʔ٩…という数字が一般的であり、これはおおむね人間性が変化し落ち着く時期に一致している。 ただし、一般に女子は男子より変更が少ない傾向にある。女子は１０歳までに人格が出来上がり、その後は男子ほど成長しないため、少女期に作った ɑɪlhɪ を使い続けることが多い。 男子は思春期を通して哲学的な問題に悩み、考え抜き、大人になっても社会的な試練が多い。また、少年期は女子より幼稚で成長が遅い。このことから、ɑɪlhɪ の変更が女子より多い。 女子は身の回りの人間関係や自分の容姿など、地を這うような次元では悩むが、人間とは何か、正義とは何かなど哲学的な問題を高尚に考えることは稀である。また、人に叱られても反省せず、「あたしかわいそー」の発想なので進歩がない。学問や理念よりも今日の食事と明日のスイーツなので、発展性がない。そのため、身近なものを ɑɪlhɪ にし、可愛いと思うものを選ぶ。哲学的な意図はなく、単に「好きだから、可愛いから」という理由で ɑɪlhɪ を選ぶ。ɑɪlhɪ を変更する場合はたいてい新しい可愛いものを見つけたときである。ただし、躾の行き届いた一部の家庭の女子はこの限りでない。
＜アシェットの ɑɪlhɪ ＞ アシェット２８人の額に浮かぶ紋章で、ほかのラシェットにはない。人によって浮かぶ文様は異なる。いずれも意味のない幾何でなく、古アルカの幻字である。セレンはルシーラ、メルはハルマ、リディアはディアに似たリディア独自の文字というように。ダルハが浮かぶと急激にヴィードが高まり、気分が高揚し、強くなる。クミールだけはダルハが出ても高揚せず、冷徹に敵を切り刻んだため、アルシェから畏怖された。大人になるにつれダルハは出なくなっていった。

ɑɪlhɪȷ ［普通動名詞］覚醒 ［動詞］ɥəl を覚醒させる、覚醒する ［レベル］4 ɹɹ:ɑɪlhɪ/ȷɔ

ɑɪlhɪᴅеl ［名詞］［形容詞］フルパワー、本気、全身全霊 ［レベル］4 ɹ1: ダルハ顕現中

ɑɪlɪ ［被服］ブーツ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑɪn/lɪȷl（深い靴） :::bеlеʃʃɪ,lʃ ［文化］
くるぶしが見える浅い靴が可愛いという習慣があるので、ブーツはあまり好まれない。くるぶしはむき出しでなく、白い靴下を履く。ブーツは山、雪山、雨天などに使う。日々履くものではない。【用例】 nɔn lеcnɪʃ ɑɪlɪ lеn lcеɥ. 冬用のブーツを履いた。

ɑɪlɪz ［普通動名詞］イヤボーン、ダラズ ［動詞］ɥəl をイヤボーンする、イヤボーンする ɑu;ɑɪlhɪ/ɪɑɑzə（ダルハで破壊）［レベル］4 ɹʔ ［語法］［文化］ 潜在能力を秘めた弱者が窮地に追い詰められたときに力を解放して敵を倒したり吹き飛ばしたりすること。たいてい隠された力の解放とともに ɑɪlhɪ が浮かぶので、このようにいう。

ɑɪɪʃ ［形容詞］かっこいい、カッコいい、カッコイイ、格好いい、格好良い、格好イイ、かっこイイ、素敵、素敵な、すてき、ステキ ［類義語］ɑɪɥᴅ、uɪɥᴅɪ、ɪɑccɥə、еɥɑе ［反意語］φccl ［レベル］2 1ɱ: 制 ［語法］
顔ではなく見た目全体がいいこと。見栄えが良い、身なりが良い、体型がいい。男女ともに。

ɑɪɪl ［動詞］ɥəl を繁栄させる、繁栄する、栄える、栄えさせる ［普通動名詞］繁栄 ［反意語］φccʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪcz 【用例】 ʃə lɪɑ еȷ ɑɪɪl. その国は繁栄している。

ɑɪɪlφccʃ ［名詞］栄枯盛衰 ［レベル］4 ɹɹ

ɑɪɪlɥеnȷ ［名詞］［ネガティブ］御託、御託宣 ［レベル］5 ɥɑ;/「尊大な言葉」 ɹɱ 【用例】 lə{hɪᴅ} ɑɪɪlɥеnȷ 御託を並べる

ɑɪɪȷ ［形容詞］たくましい、逞しい ［形容詞］男が筋骨隆々な、女の胸が豊満な ［反意語］φccl ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］ 肉体が強靭であるさま、精神が強靭であるさま。その両方を主に指す。女には「胸が大きい」の意味になるので、使うときには注意。マユなら笑ってすませてくれそうだが、ユンクに言うとたいてい嫌な顔をされる。なお、ɥɑ の時代のように女性が戦っていた時代においては、クリスのような戦士系の女性の筋力を褒めて ɑɪɪȷ と言える。

ɑɪɪnɪ ［文末純詞］［ɥɑеn］ȷеc ［レベル］1 ɹ1:ɔuc:ɑɪ/ 古 nɔ（疑問）「だろうか」

ɑɪɪd ［軍事］勲章 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪɪɪdɪ（偉い印）

ɑɪɪscl ［医療］佐薬 ȷzl;ɑɪɪs/cl「助ける薬」 ɹɱ

ɑɪɪsɔdеʃ ［医療］佐使薬 ȷzl;/ ɹɱ

ɑɪc ［代詞］［ilbеn］オレ ［レベル］1 ɹ0:ɑеɥ

ɑɪcʃ ［形容詞］偉大な、偉い、えらい、立派な、壮大な ［反意語］uеcφl ［レベル］2 ɹ0:ɑɪc: 古 ［語法］ 地位が高い、功績が大きい、能力が高い、徳が高いなどを指す。子供に「よくできたね、えらいね」というときに使えないこともないが、日本語でいうところの「あなたは偉大だね」に相当する大げさな言い方。子供を褒めるときは "ɑcɪn ɥɪʃ" などがふつう。【用例】 ɑɥеᴅɪn еʃ ɑɪcʃ. ȷcl ɑcɥʃ, ʃɪcl еlеʃ ɪɥʃ. ȷɔɪ ucl ləʃ ɪ ɑеɥ ɥəl ɪʃʃе ʃеɥ. hɜnȣ ɑcȷ ɪʃ ɑccᴅ lɪlʃ ᴅcȷɪlɪȣ ɔl ɑcȷ ɪȷᴅ, ȷɔn bеocl uɪn ɪȣ 隣人は立派 将来有望 才能人 そんな奴がさぁ 頑張れってさぁ 怠けて見えたかい そう聞いたら頷くかい （ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『才悩人応援歌』）

ɑɪcʃɑɪȷ ［名詞］偉業、快挙 ［レベル］4 ɥɑ;/「偉大な仕事」 ɹʔ

ɑɪcʃеn ［名詞］偉人、立派な人、お偉いさん ［レベル］3 ɥɑ;/ ɹʔ

ɑɪcn ［名詞］共性の敬称、～さま、～様 ［形容詞］～様。前置。 ［レベル］2 古 :ɑɪcn ← ɑɪczlɪn から。元は偉いということを表わす敬称。［語法］ → ɪdʃ, еȷʃ ×名 ○姓 ○前置 ×後置 ○男女

ɑɪcᴅ ［動詞］ɥəl を止める、止める、中断する、辞める、辞職する。永遠にやめる。再開の見込みの有無は区別しない。［法副詞］～をやめる。中断。単位動詞では準完了相。非単位動詞では準終了相。［動詞］ɥəl を中退する、中退する ［普通動名詞］中止、停止、中退 ［反意語］ᴅɪl、ɔnl ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ ᴅɪl

ɑɪcᴅеn ［俗語］嫌な女、クソ女、ビッチ、バイタ、売女、スイーツ、性格の悪い女 ［類義語］ȷɔɑɔᴅ ［レベル］3 1L:lеc е lеcn:ɑɪcz ᴅеᴅdɔ（王様気取りの女）。ɑɪcᴅ だと ɑɪcn とかぶる

ɑɪcɑ ［代詞］［ilbеn］オレの ［レベル］1 ɹ0:ɑɪc

ɑɪcφ ［経済］税、税金、年貢、国税 ［類義語］lclcnφ ［レベル］3 zφ;ɑ ɪcz/φcl 1L:ɑɪφ:1ʔ: 制 : 古 :ɑɪczφcl(税金) 王の金が原義。ɑɪφ だったが、短すぎたので長くした。［文化］ → lclcnφ, ɑcʃɑɪcφ ＜税金と寄付金＞ 税金は日本より高い。消費税は変動制で、贅沢品ほど高い。酒など嗜好品にはさらに別途酒税などがかかる。 税金の使途は完全に透明で、唯一国防や軍事に関する機密費のみが不透明である。この点で北欧同様政府の信用力が高い。 年収は日本円にして１０００万以上は非課税となるが、代わりに寄付金として徴収される。寄付者は寄付する公共団体を選択することができるため、ある程度自分の意思を活かせる。例えば玩具会社の経営者なら子供の

福祉団体に寄付をするだろう。→ lclcnφ　公共団体内部での寄付金の使途は透明であるため、寄付者自身にキックバックさせるなどの不正は防止される。日本の納税者の長者番付と違って頻繁に大々的に公開され、国民の関心も高い。褒めるべきところはきちんと褒めるというアルバザード人の国民性がよく表れている。納税でなく寄付となっているため、払った分がそのまま名誉に直結しやすい。たいてい寄付は低所得者のために使われるか、治安維持や社会福祉の維持に使われる。　　アルバザードは下を作らず出る杭を打たないことを目標としている。上は下を助け喜捨し、中（中流）に引っ張り上げる。中となった人々は寄付者など上の人間に直接助けられており、素直に感謝しやすい。下は見返りに上の足を引っ張らないことが期待される。いかに下を作らず出る杭を打たないようにするかがポイントである。そのためにも寄付金制度がある。　北欧社会のように強い平等性があるとヤンテのルールのようなものができてしまう。国力も世界一になれない。かといってアメリカのような競争社会では底辺が増えてしまう。そこで例えば９５％が中流で５％が上流というようなシステムがよいのではと考えられている。人間自分が底辺でなければ上がいてもそんなにひがまないもので、その心理をうまく利用している。　　なぜ日本でこれができないか。８０年代はわりと一億総中流が保たれていたのでできなくはない。ただ日本の場合はそれを目指したというより結果そうなったというだけなので、アルバザード型の社会を意識的に作るのは難しい。恐らく国民性もあるだろう。金持ちへの税率が一般人の予想に反して高いというのもあるが、喜捨したところでありがたがられるどころか売名行為とそしられる風土では喜捨の文化は育たない。アルバザード人は素直で十徳の信を意識した教育と生活をしているため、素直に相手の厚意を受け取りやすい。うがった考え方を基本的に嫌う傾向にある。また、「すみません」より「ありがとう」の文化なので、善意の循環が良いというのもあるだろう。　　寄付額が多いとそれだけ人を助けたことになり、聖人としてアルティス教からノミネートされる。これは非常に名誉であるが、この点も日本にはない。金持ちは貧乏人を助けてくれる良い人たちだという認識がアルバザードにはある。　寄付額ランキングに入る人は非常に有名である。日本だと芸能人くらいしかランキング内の人物は有名でないことが多いが、アルバザードだと一般人でもランキング内の人物のことはきちんと知っている。顔と名前も一致しているため、寄付者は行く先々で羨望と好意の眼差しを受け、何かと人々に親切にされる。日本だと金持ちは一歩引いて傍観され、汚い守銭奴だとか派遣労働者から搾取して儲けた金のくせになどと思われたりすることがあるあたり、アルバザードとかなり対照的である。　　既得権益者を打ち倒すミロク革命が起きない限りどの国もこうはならないだろう。革命後、新政府軍が腐敗に陥らない強い精神力と徳を兼ね揃えていなければならない。ミロクのような強い個人がいない限りなかなか難しいだろう。実際アルバザードの長い歴史でもクリーンな政治が行われたのは ıl しかない。

ɑɪcφʃoɪɪɥə ［経済］タックスヘイブン、タックスヘブン ［レベル］４　ʝʝ

ɑɪcφʃcl ［経済］税抜き ［レベル］３　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪcφ)ɪu ［経済］税込 ［レベル］３　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪcφlclc ［経済］免税 ［レベル］４　zφ;/　ʝʔ ［語法］ ɑɪcφjeɑ

ɑɪcφlclcɪʃe ［経済］免税店 ［レベル］４　zφ;/　ʝʔ

ɑɪcφjeɑ ［経済］非課税 ［レベル］４　lɥ;/　ʝʔ ［語法］　・免税とは　　例えば、商品の輸出や国際輸送、外国にある事業者に対するサービスの提供などのいわゆる輸出類似取引などのこと。　ただし、輸入取引は免税にはならない。外国貨物を受け取った際に通関で消費税の課税がされる。　また、外国への送金手数料は非課税となる。　免税の場合、原則としてその取引のための仕入の消費税を控除できるという点が特徴。例えば１０５万円（内消費税５万円）で仕入れた車を海外へ１２６万円で輸出した場合。１２６万円の売上は免税取引になるので、仕入にかかった５万円の消費税の控除ができる。

　・非課税とは　　非課税の取引は該当する取引が法律で明記されており、具体的には「土地の譲渡及び貸付け」、「有価証券等の譲渡」、「預貯金の利子及び保険料を対価とする役務の提供等」などが主なものになります。　ただし、１ヶ月未満の土地の貸付けや駐車場という施設としての貸付けなどは非課税とはならない。　　非課税が免税と違うところは、原則としてその取引に対する仕入の税額が控除できないところ。　例えば、１００万円の株を購入して手数料１０５００円（内消費税５００円）を支払ったのち、その株を１５０万円で売ったとしても、仕入にかかった５００円の消費税の控除が受けられません。　　・不課税とは　　例えば、国外取引、対価を得て行うことに当たらない寄付や単なる贈与、出資に対する配当などがこれに当たる。　消費税の課税の対象は、国内において事業者が事業として対価を得て行う資産の譲渡等と輸入取引。つまり、これに当たらない取引を不課税取引という。　不課税取引は免税や非課税と違い、そもそも消費税という世界に足を踏み入れていない取引である。そのため、課税売上割合の計算をする場合に分母にも分子にも含めないということになる。

ɑɪcφɑɔnl ［経済］脱税 ［レベル］４　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪcφlczɴɔ ［政治］税務庁 ［レベル］４　1L:ɥcɑcɪ:clɒəɟ ［文化］ 財務省下。税金を徴収し、計算し、配分する。

ɑɪcφeu ［経済］課税　ɥɑ;/ ［レベル］４　ʝʔ

ɑɪcφeuɪnɑɪ ［経済］課税標準　ɥɑ;/ ［レベル］６　ʝʔ

ɑɪcz ［政治］王、君主、キング ［形容詞］～王。敬称。 ［類義語］c⁆ɪnʃ ［反意語］ cɟʃcɥ　ɑu;ɑɪcz ＜)ɪcz ＜)ɪczɪɒɔ（大木） ［レベル］２　赤　ɑɪcz:ɑɪcz ［語法］ → ɪdʃ, eɟʃ　〇名（後置）　〇姓（前置）　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法

ɑɪczʃɪʃɟ ［政治］王族（ɑɪczeɥn より狭い） ［レベル］４　1L

ɑɪczʃɔn) ［政治］王族、王位 ［レベル］４　1L ［文化］ カコ～現在までの身分の１つ。アルバ王とその一族。

ɑɪcz)ɪɑ ［政治］王国 ［レベル］３　ʝʔ

ɑɪcz)ɔlɒ ［政治］王制、王政、君主制 ［レベル］４　1L

ɑɪczlcʃe ［政治］王族、皇族 ［レベル］４　1L

ɑɪczɒcnʃc ［名詞］王妃 ［レベル］４　ʝʝ

ɑɪczɑɪcl ［名詞］王冠 ［美容］クラウン　1ʔ: 制

ɑɪczɥɪ ［建築］宮殿、殿堂、パレス、王宮 ［類義語］ɑɪllc ［レベル］３　1ʔ: 制 : 王の家 ［語法］ ɑɪllc

ɑɪczlɪφel ［政治］絶対王政、絶対君主制 ［レベル］４　1L ［文化］ セルメルで起こった。ɥɑ でも残存したが、ランティスの即位とともに無くなる。

ɑɪczlccɑɪ ［天文］アケルナル　1L:ɥcɑcɪ/ɟeɥen/ɒel ［文化］ ダイズアイライの星。強力な繁殖力と力を持つダイズアイライは封印後、早くも封印を破ろうとした。接している１階の魔族である uenzɔɒ を腐食させ、アケルナルを拠点に乗っ取りを開始した。これに気づいたセレンはダイズアイライをアケルナルに突き刺し、動けないよう固めた。

ɑɪczɪɟl ［化学］王水 ［レベル］４　1L:「王水」の訳語では無論なく、魔族 ɑɪczɪclɪc の出す強力な酸であることから。

ɑɪcz ɪɑccɥə ［人名］アディーユ王、ユルト、ユルト＝ルティア ［レベル］５　ʝʝ

ɑɪczɪclɪc ［魔物］ダイズアイライ（巨粘蟲）: 第九十九天 : 害の氷天 ［名詞］疫病、凶悪な伝染病、疫病、プレイグ ［レベル］４　古 :ɥcɑcɪ:ɑɪczɪclɪc（王様スライム） ［文化］ 疫病を振りまく異常発生したスライム。ɥɑ でセレンは一度これに殺される。このスライムが疫病の元とされる。ɑɪcz というから ɪclɪc の亜種のように感じられるが、ɪclɪc に疫病を振りまく力はないため、あくまで亜種でなく別種。酸で敵を溶かす場合、王水を放つ。

ɑɪczeɥn ［政治］王族（広義の）、王族、王家 ［レベル］４　1L 【用例】 ɑɪc zeɥn ʃ'ɪɥbɪ アルバ王家

ɑɪcl ［被服］冠、かんむり、クラウン ［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :ɑɪczlɔɟɪbe（王の帽子）

ɑɪc⁆ɪɑ ［地球の国名］ハンガリー ［レベル］６　1L: 国章に王冠

ɑɪcljeeʃ ［地球の国名］リヒテンシュタイン ［レベル］６　1L: スイスの保護国で、国旗が冠

ɑɪclcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］かんむり座　ʝɱ ［文化］ cɑɪ

ɑɪcɪl ［政治］（都市の規模としての）王都、首都→ ɟɪlɪc ［レベル］３　1L:ɥcɑcɪ:ɑɪcz/\ɪl

ɑɪcɪldɔl ［地学］狭義の都心。アルナ９市のこと。 ［地学］都心、首都圏 ［レベル］３　ʝʝ

ɑɪe ［経済］損失、損害 ［レベル］３　@ 1L:ɑɪe という音が汚いが、φcɔ は古なので動かせない。なら覚えやすく ɑɪe のままでもよいと判断。ɑɪe 自体悪い意味だし、汚い音ならかえって好都合と判断。 【用例】 ʃcl ɑɪe ɑə 1000 ɟɔlʃ 千ソルトの損失が出る

ɑɪeɟcl) ［経済］ナンピン買い、難平買い ［レベル］６　ʝʝ

ɑɪeɑɪlʃc ［経済］割高 ［レベル］３　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪeɑcɑn ［経済］逆ざや、逆ザヤ、逆鞘 ［レベル］５　ʝʝ

ɑɪeɑɪe ［形容詞］ルーズルーズな、ルーズ＝ルーズな、ｌｏｓｅ－ｌｏｓｅな ［類義語］φcɔɑɪe ［反意語］φcɔφcɔ ［レベル］５　ʝ0

ɑɪedɪl ［経済］損益計算書のうち、損失が出ているもの　1L

ɑɪeɥəu ［経済］損切り ［レベル］６　ʝʝ

ɑc ［形容詞］多い、たくさんの、多くの ［反意語］)ɪlɔ ［レベル］１　1L: 制 :ɑ ɪ:1ɱ:ʃɪ と聞きわけがしづらいため、ɑc にした。　)ɪɒɪ:)ɪɒɪ::)ɪɒɪlə,ɪlʃ ［語法］　ɑə ɑc は言いづらく、ɑc は聞き取りづらいので、ɪʃc ɑc でよく使われる。 【用例】 lɪn ɑc 大勢の人

ɑcʃ ［普通動名詞］収入、所得 ［動詞］ɥəl の金を受け取る、ɥəl を稼ぐ、受け取る、稼ぐ ［経済］収益。財務諸表上の収益。 ［反意語］φɪ) ［レベル］２　@ 1L ［文化］ 収入は多くなく、支出も多くない。たくさん収入してたくさん支出するには時間を労働力に変えて金を得るしかないが、アルバザードはそのような生き方を嫌う。ゆえに収支は総じて少ない。大家族が多いため、一人当たりの収入が少なくても食うには困らない。収入は働き手が稼いで家に入れる。夫婦がどちらも外で働くことは少ない。特に子供がいればどちらかは家にいて子供を育てる。仮に外で働いても短時間である。たとえば夫が働く場合、妻は家で家事や育児をしたりする。

ɑcʃ(ʝ) ［名詞］多さ→ ɑə ［レベル］２　1L

ɑcʃʃɪ ［料理］寿司、すし ［レベル］３　ɪlʃ　ʝ1 ［文化］ ɟɒ で ɪlʃ から伝来したが、生食をしないアルバザード人にはあまり受け入れられなかった。現代でも腸炎ビブリオやアキサニスなど衛生の問題とアルティス教が調理に火を使うよう推奨していることから、寿司はアルバザード人の間で一般的ではない。ただし lʃ 人の一部や ɪlʃ の多くは食す。アメリカの寿司ブームや和食ブームと異なり、生食を避けるアルバザード人の間では寿司は少なくとも広まっていない。刺身も同様である。　元は ɪlʃ でファーストフードとして確立したもので、徐々に高級食へと変貌していった。　　・現実　　リディアが生魚を食べる習慣がなく（サーモンは除くらしい）、セレンが日本で寿司に誘っても「お腹を壊すから嫌」と言って一度も来なかった。そのまま生食禁止がアルティス教の教えになり、一般化したもの。ʝʔ 年夏にセレンが宅配寿司で食中毒になって以来、セレンもこの考えに賛同するようになり、文化が確定した。

ɑcʃʃe ［形容詞］名目の、名目上の、名ばかりの、形だけの、形式上の ［反意語］ɑcʃʃe　ɥɑ;ɑcɪ/ʃe　ʝʔ

ɑcʃʃeɟɔc ［言語］形式主語、仮主語 ［レベル］４　ɥɑ;/　ʝɱ ［文化］ アル

カでは ʃə eʃ ʃɔʃɔ lel ʃɔʃɔ 構文などの ʃə がそうである。

ɑcʃʃeɔɒcʃ ［言語］形式目的語、仮目的語 ［レベル］6 μɑ;/ ɭɱ

ɑcʃncɪn ［名詞］有給、有給休暇 ［レベル］4 ɭ0: 払われる休み

ɑcʃɒɪɟ ［経済］領収書、レシート ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ アンセに自動登録されるので、紙ベースでは出てこない。ヴェレイでは出てきた。 【用例】 ɪn bɪɟ ɑcʃɒɪɟ. レシートはいいです：en lcμ のほうが丁寧。

ɑcʃɑɪcφ ［経済］所得税 ［レベル］5 μʃ;/ ɭʔ ［文化］ → lclcnφ μʃ のアルバザード発祥の税。国税のひとつ。収入に応じた額を支払う。制定当初は現在でいう超高額所得者にしか課されなかったが、民衆が経済力をつけていくに従って、一般人からも徴収するようになっていった。　累進課税であり、高額所得者ほど多く支払う。そのパーセンテージは時代によって異なる。　旧革命では１２年現在の日本円にして１０００万以上の年収があれば全額徴収され、どれだけ稼いでも１０００万の手取りしかもらえなかった。こんなことをすれば富裕層は外国に逃げてしまう。そこでミロクはこの課税方式を世界中で同時に制定させ、富裕層の海外脱出を阻止した。　旧革命後はパーセンテージが下がり、高額所得者の手取りは年々増える一方であった。　革命直前にはミロクのとき以上の格差社会になっていたため、セレンはミロクと同じ方式を取り、世界中で同じ法律を制定させ、富裕層の海外脱出を防ぐとともに税金の徴収を行った。旧革命では所得税は国税として徴収され、その使途は政府が決めた。一方革命では日本円にして１０００万を超える分の所得税については、支払う個人が任意の団体に寄付できるというシステムになっていた。つまり年収３０００万の人間が国に払うのは額面１０００万分の所得税であり、額面２０００万にかかる所得税は納税者が任意の団体に寄付するという形で納税先を決めることができた。→ lclc nφ　つまり革命では中世のパトロン制が復活したようなものである。当然高額所得者に対して団体からの接待や賄賂が横行することが予想されたので、セレンは公平を期すため、団体からの接待や賄賂などは違法として厳しく取り締まった。　何に使われるか分からない国税としての徴収だと高額所得者はただただ不満であるが、この方法なら自分の伸ばしたい分野や産業に直接投資できるため、自分の意思と資産を社会に反映できるというのがセレンの狙いであった。
　なお、民衆やマスコミの目は高額納税者がどの団体にどれだけ寄付したかに向いているため、あまり俗悪なものにばかりパトロンしていると､モラルがないとして非難を受けることがあった。そのため、高額納税者は必然的に公共の福祉となるような団体を優先して寄付することがあった。市民の目があるおかげで、納税者個人の好みだけを考えて金を寄付するわけにはいかないという状況ができ、公共の福祉に貢献させながら、各分野の発展にも貢献させるというシステムができあがった。　　この制度の肝は全世界で足並みを揃えて制度化したことである。日本やフランスやアメリカはこれができないため、高額所得者はシンガポールなどに逃げてしまうのが現状である。　自国で養ってきたのに、成功した途端自国を裏切ってシンガポールなど税金の安いところに逃げるのはモラルのない裏切り者のすることだが、富裕層は恥じずにこれを行う。国民はそのような企業の製品は買わないという不買運動でも起こせば良いが、マスコミが扇動しないこともあって、ほとんどの国民は高額所得者が海外脱出をしていることすら知らない。　自国で上手くいかなければ自国にタカり、上手くいけば税金を払って貢献せずに海外逃亡するなど、モラル的に許されないことである。これがまかり通っているのが現状の地球であるが、アトラスでは革命を世界規模で行ったため、逃亡先をなくすという方法を使い、脱出先を潰すことで逃げ道をなくしたのが肝である。　　このシステムのメリットは具体的に何かというと、例えばベストセラー作家の場合、短い期間に大きな額を得ることになり、税金でほとんど持っていかれることになるが、その持っていかれる分の大半を物書きを支援する団体に寄付することで、食えずに喘いでいる売れない作家や未来の自分などを擁立し、パトロンとして支えになることができる点である。つまり大衆に迎合して金を稼いだ人間が大衆に迎合しないでニッチな小説を書いている貧しい人間の支えとなることで、文学の生態系を保持するわけである。　ニッチな分野は常に弱小生物と同じく絶滅の危機にある。大衆に受けるものだけが生き残る世の中だったら、俗物的な作品しか世の中に生き残れなくなり、文学上の生態系が淘汰されて狭まる。文学の生態系を広く保持するためには大衆迎合がニッチを支えるという構図を作る必要がある。　これはスポーツでも音楽でも芸術でも同じである。これらの分野においては日本同様勝ち組と負け組の所得格差が半端ない。大半の人間は食えずに喘いでいる。そのまま放置していたら大衆に迎合した内容のものしか生き残れなくなり、ジャンルの幅が狭まってしまう。それを防ぐために各分野には支援団体があり、ニッチな作品を作っている作者などを保護する。売れた物書きは売れない物書きを支援する義務があると考えるのがアルバザード人のモラルであり、従ってベストセラー作家は納税先に物書き団体を選び、ミリオンヒットの音楽家は音楽業界を納税先に選ぶわけである。　むろんそれだけでは民衆は納得しない。勝ち組は公共の福祉に役立つような団体にも寄付納税をすべきと考えられている。　これらの行為をしない人間はアルバザードでは民衆によってことごとく叩かれる。日本と違って即不買運動が起こり、すぐにやっていけなくなるようになっている。制度自体の良さと民衆のモラルの高さと行動力の高さが革命では良い結果を招いている。

ɑcʃc ［名詞］多さ→ ɑə ［レベル］2 ɭɭ ［語法］ 通常この語は使わず、ɑə を使う。

ɑcʃcꞁ ［芸術］文様 ［レベル］3 ɭɭ:ɑcʃcncꞁ

ɑcʃcncꞁ ［アイテム］ディティニック ［レベル］4 古 :μcɑcɪ ［文化］ ヴァストリアのひとつ。ファーヴァのもつ魔布。美しい模様の書いてある風呂敷のような絹で、封印された呪術を使うために必要なアイテム。

ɑcʃɔɹ ［生物］フェロモン ［レベル］4 1L:ɑcɪ/ʃɔɹ 【用例】 μcɑcɪ eʃ lccʃɔ ucʃ ʃɔoɪ ɪɟ ɒɪn ꞁɪɒcl lɪ ʃcl ɑcʃɔɹ μɪʃ. 香水をつけなくてもリディアはフェロモンのせいか、良い匂いがする。

ɑcʃe ［名詞］多様性 ［形容詞］多様性のある、多様な ［反意語］ꞁɔʃe ［レベル］4 ɭ0:ɑc/ʃeeze

ɑcl ［形容詞］なめらかな、円滑な、ぎこちなくない、すべらかな ［形容詞］つるつるの、つやつやの、なめらかな、滑らかな。平面上に凹凸がないということを意味する ［形容詞］自然な、まともな、すらすら、スラスラ ［反意語］cꞁɟ ［音楽］レガート ［レベル］2 lɪʃɪ

ɑclʃ ［動詞］ɥəl を威嚇する、威嚇する ［普通動名詞］威嚇 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑcɟlcu（警告の声）【用例】 lə ɑelʃ ɑclʃɪʃ lɪn ꞁɔn φɪɪl. その熊は怒鳴って人間を威嚇した。

ɑclɒ ［化学］ヌクレオシド、ヌクレオチド ［レベル］5 1L:ɟeμen:ɑclɑ/lccɒ

ɑclləɹ ［被服］タイトスカート ［レベル］4 ɭ0:μcɑcɪ:ɒcμɔꞁ

ɑclɪlʃen ［哲学］［言語］ハイコンテクスト、高コンテクスト μɑ;/「多くの文脈情報（に依存する）」 ɭʔ ［語法］［文化］ → lɪlʃen μɑ で様々な文化圏を見聞したセレンが提唱した概念。国によって多くの文脈情報に依存して相手の言いたいことを察する凪紗のような民族もいれば、少しの文脈情報にしか依存せずに相手の言いたいことを察する代わりに相手のパロールをそのまま受け取るアルバザード人のような民族もいる。セレンはそのことを知り、多民族国家では一般的にローコンテクストになり、逆の場合はハイコンテクストになりがちであることを地球に先駆けて発見した。

ɑclcʃe ［親族］大家族 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɑclcμcəɹ ［アトラスの国家］ディシリウス ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɑc/clcμcəɹ

ɑclccɒ ［化学］多糖類 ［レベル］5 1L

ɑclenʃ ［魔法］ディシェント、秘術 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɑcɹɒenʃ ［文化］
　東洋魔法 ɪμɒɪleʃ の一種。アシェットでは、マレットの末裔であるパールのみが使える。魔法陣を使わず、それでいてアルトにないような特殊な魔法を使うことができる。　その不可思議さから正体不明と捉えられ、μɑ の時代にアシェットは ɑcɹɒenʃ を元に造語して ɑclenʃ と呼び直した。

ɑclenɑ ［魔法］秘術師 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ: そのまま ɪn にしたら異国情緒が出ないとかで、通常アルカでは避けられる清濁の違いで表現。【成句】 ɪɟɒ ɑclenʃ ɪ ɑclenɑ 秘術のことは秘術師に聞け：蛇の道はへび

ɑcɹ ［代詞］［μɑen］お前 ［レベル］1 ɭ0: 古 :ʃcɹ

ɑcɹʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に捧げる､捧げる ［婉曲］［動詞］ɹɔl（女性）が ɪ（男性）に純潔を捧げる。再帰。 ［丁寧］ɑcʃ。与えるに相当。ごちそうする、御馳走する、ふるまう、あげる、振舞う ［レベル］3 ɑ;e ɹɔμn ［語法］
　大切なものを目上や愛するものに提供するという意味。ものは抽象物でもよいので、lɪ ɑcɹʃɪʃ lcɒeeμ nɔzeʃ ɪ lə（彼女は彼に処女を捧げた）のような例も可能。 ɒcμɔꞁ ɑcɹʃɪʃ ɪꞁ eɹʃɔ lɪnɪ ɹɔlɟ ʃə ɹɔ eɥɔ. そのために神さまはどれだけの犠牲を払ったのかしら。

ɑcɹʃ(ɭ) ［化学］アクリル ［レベル］5 1L:ɑeɹ

ɑcɹʃ(ʔ) ［形容詞］［ポジティブ］古き良き ［レベル］3 ȣ

ɑcɹʃ,ɹzɑ ɹcɑ

ɑcɹʃnɪb ［化学］アクリル絵の具 ［レベル］4 1L

ɑcɹʃφen ［化学］アクリル樹脂 1L

ɑcɹʃμenɹ ［名詞］献辞→ lec ［レベル］6 ɭɭ

ɑcɹʃlcɒl ［化学］アクリル繊維 ［レベル］6 1L

ɑcɹʃɪ ［化学］アクリル基 1L

ɑcɹʃɪɟl ［化学］アクリル酸 1L

ɑcɹʃcɒɪ ［魔法］ヴィードピラミッド ［アクセント］ɑcɹʃcɒ↑ ［レベル］6 lɟɟ;ɑ cɹʃcɒɪ,ɹzl(ɑɔləəɥɪ) ɭ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑcɹʃccɥə ［形容詞］情に篤い、情にあつい、情に厚い ［反意語］ɹɔμʃeμ ［レベル］3 ɭ0:ɑcɹʃ/ɪɑccɥə ［語法］ 代表的な良い性格のひとつ。特にアルデンやアンマに期待される性格。

ɑcɹʃɔ ［娯楽］グッズ、商品、作品、コンテンツ。コンテンツの場合、有形コンテンツ。 ［レベル］2 ɹɒ;ɪɑcɹʃ.ꞁ。もとは ɪɑcɹʃ の副産物という意味だが、μʃ ごろからグッズの意味で使われだした。 ɭʔ

ɑcɹʃel ［人名］ディステル ［組み数字］１４／１６ ［レベル］4 ɒelʃcɪ ɱΔ:ɪμɑə/eɹʃɪ;e 古 ［文化］ eɹʃɪ エスタの第１４子。女。

ɑcɹꞁ ［動詞］ɥəl を真っ二つに割る、まっぷたつに割る、割る ［形容詞］割れた ［魔法］ディスク。雷の中位黒魔法。雷の刃で敵単体を一刀両断する。 ［音楽］スタッカート ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑɪɟꞁ。n 対かと思って分解しようとしたが、n 対でないアプラウトだった様子。意味は ɑɪɟꞁ との区別に注意。 ［語法］ 三等分のときは ucɑcɹꞁ。

ɑcɹꞁμecn ［数学］二等分線 ［レベル］3 1L

ɑcɹꞁɪll ［形容詞］数字などが区切りの良い、区切りの良い、区切りのいい、区切りのよい ［レベル］3 ɭɭ

ɑcɹɒɪcn ［医療］依存、中毒、アディクション ［医療］依存症 ［類義語］ ncɪꞁ, dcʃꞁ ［レベル］4 ɭ1: 古ソーン ɑcɹ（相手を打ち倒すこと。転じて「害する」で使われた）/ɒɪcn（体）「身を滅ぼす」 ［語法］ dcʃꞁ 【成句】 uɔμʃ ɑcɹɒɪcn 依存は身を滅ぼす (ɟeμen ɪμbɪzɪμɑ) 【用例】 ☆ lɪ uɔμʃ ɪʃ ɑcɹɒɪcn e uelɑ. 彼は酒で身を滅ぼした。

ɑcɹɒenʃ ［名詞］ディスメント、意図的な嘘の記録、騙しの記録、秘匿の記録 ［類義語］ɒeɑcennə ［レベル］4 古 :lcczɪ: 恣意 : この語が表わす内容と同じく、いかにもアルカにありそうでなさそうな無意味の音を並べて作った語で、まったくの無語源。 ［文化］ 照合できないようにした記録のことで、その内容を盗み見た他人が誤って情報を

得るようにした罠。アルシェ・ソーンのころは特にアディアは情報の秘匿に気を配っていた。ところが隠しても漏れるものは漏れる。そこで仮に漏れても相手を混乱させて正しい情報を隠そうとしたのがディスメントである。例えばアンクノットには正しい情報のほかにそれと矛盾するような、或いはよく似て区別ができないような情報を載せていた。ありもしなかったことを書いたり、起こったことの日付を偽ったりした。紙やペンを使って日付を偽るためにわざと古い紙を取っておいたり、加工して昔のものであるように偽装したりした。また , 実際の出来事を物語風に書き換えて読み手に何のことだか分からなくさせる技法もあった。これは特に小説版アンクノットによく見られる。自然言語から間違って語意を推測させるために語源記述を偽って自然言語由来としたものもある。そういった語は実際は自然言語とは関係なく、アルカの音象徴からきているが、一見自然言語の語に似ているので騙される。しかもそれらの語は始めからある自然言語の語に似せようとして作るのではなく、既にできたアルカの語に似た音の自然言語を引っ張ってくるやり方であった。ディスメントは和平の後、急速に減っていき、メル 1ʕ 年現在ではあまり見られなくなった。

ɑcjφicz ［名詞］深刻な不安、不安と絶望の混じった気持ち、不安 ［類義語］ nıueɥ ［レベル］3 古 :ɑcjɒenʃ/φicz → ɑcjφicz ［語法］ nıueɥ

ɑcjdel ［篦堺］ディスペル ɥɑ;ɑejdı/ıl.l（前舌化） ［レベル］5 ⅃⅃ ［文化］ 篦堺司 : lcnı ucl 篦堺国 : ɑejdını, jeleenı

ɑcjlɔʃ ［数学］多角形。通常５以上。 ［レベル］3 ⅃0

ɑcjleʃʃɔ ［アトラスの国家］ディスレット ［レベル］5 ⅃0:jeɥen: ユトともメトとも異なる地

ɑcjcɑcı ［地名］ディシディア ［レベル］5 ⅃0: 古ルティア語で「谷間の土地」 ［文化］ ルティア南西部の大都市。アルティアに征服されたことがあるため、インサール寄りの文化を持っている。

ɑcjccnel ［名詞］（ʃcl で）選り好みの激しい、好き嫌いの多い ［反意語］ ɥəəjccnel ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ᗰ ［語法］ ɥəəjccnel

ɑcn ［人名］リナの略称 ［組み数字］２０/ ２８ ［レベル］1 古？: セレンが初対面で ɑcnı と呼んでしまってから ɑcnı とあだ名が付いた。そこからメルが母音を落としたもの。

ɑcn(⅃) ［代詞］［ɥɑen］お前の ［レベル］1 ⅃0:ɑcj と ʃəın などの組み合わせから

ɑcnʃ ［形容詞］陰気な、根暗な、暗い ［反意語］belɑı ［レベル］2 1ᗰ: 制 ［語法］ 嫌われる性格だが、アルバザード人全体にある程度いえること。belɑı に比べると無害なのでそれほど嫌われない。扱いに困るだけ。夢織の紗枝などが例。

ɑcnj ［動詞］jɔl は ɥəl を身ごもる、身ごもる、身篭る、孕む、妊娠する ［反意語］lcul、ɑınj ［レベル］3 ⅃0:ɑınj のアプラウト。孕ますと孕むの両方あったほうがよく、特に孕むがあると産科系の複合語が作りやすい。 ［文化］ アルバザードやルティアの女性は妊娠している姿を夫に見せない。立会い出産は日本では最近普及してきたが、アルバザードでは女性自身が拒む。アルバザードの女性にとって妊娠している姿を見られることは恐怖とともに恥であり、化粧をしていない顔はおろか排泄を見られるより恥ずかしいと考えられている。

ɑcnjʃıbzɔn ［医療］妊娠検査薬 ul;/ ［レベル］5 ⅃ʔ ［文化］ クリアブルーやドゥーテストのような商品のこと。熱計りのような形をしており、尿をかけると妊娠しているかどうかが分かる。

ɑcnjnenʃ ［生物］妊娠率 ɥɑ ⅃ʔ

ɑcnjɒelcj ［医療］妊娠悪阻、つわり ［レベル］4 ⅃0: 妊婦の不快感

ɑcnjɭleıɒel ［医療］産褥 ⅃0

ɑcnjın ［医療］妊婦。ɑınjɔl より一般的。 ［レベル］3 ⅃0

ɑcnı ［文頭純詞］それより、てゆうか、ていうか、むしろ、もしくは、あるいは、或いは、てゆーか、ていうより、てゆうより、つーか、っつーか、それにしても、ともあれ ［レベル］1 古 :ɑcnı（それより）← ɑccn（とにかく）/nı（心）。とにかくというときの焦った気持ちがあるというのが原義で、相手の意見を否定はしないものの、焦っているので自分の意見を通してしまうというニュアンスから生まれた。 ［語法］ 前件を否定しないまでも後件のほうが肯定されるということを表わす。

ɑcncɒ ［形容詞］カラフルな ［形容詞］さまざまな、様々な、色々な、多種多様な→ ɑcdcʃ ［レベル］2 1ᗰ: 制 : 多い色

ɑcun ［化学］キシリトール ［名詞］キシリトールガム ［レベル］4 1ʔ: 制 : ɑcɔucn（歯を守る） ［文化］ 歯を守るガムとしてヴェレイで有名になったが、実際に守る効果はなかった。害のない甘味料としてアレイユでも多少は使われる。多用すると下痢になるのでやや避けられる。

ɑcuı ［言語］レトリック、修辞 ［レベル］4 1ᚹ: 制 :ɑcuʃ（言葉を飾る）

ɑcuıc⅂ ［名詞］大部分 ［レベル］2 1L:clɒəj:ɥcɑcı 【用例】 ʃc eʃ lıɑıl ıʃc ɑcuıc⅂. 責任の大部分は君にある。

ɑcueɥ ［動詞］ɥəl に失望する、失望する、絶望する、見損なう、がっかりする、事態に絶望する、夢が崩れる、夢を失って ［普通動名詞］失望、絶望、落胆 ［経済］嫌気 ［反意語］lınɑ ［レベル］2 1L:ɑcı/ueɥn（夢が崩れる）【用例】 ʃcl ɑcueɥ 落胆する、絶望する ɑcueɥ ɑın 激しい絶望 ın ɑcueɥ ʃc. 君には失望したよ。 ın ɑcueɥıʃ ʃə ueɥʃ. そのニュースに失望した。 ın ɑcueɥıʃ hıɾn ɒın lı uecφ ın. 友達が約束を破ったので失望した。

ɑcueɥɑız ［形容詞］絶望的な ［レベル］3 1L 【用例】 ɒejı ɑcueɥɑız 絶望的な状況

ɑcuelınl ［天文］緑の月、死神の月、ディヴェランシュ ［象徴］死神 ［経済］第二四半期→ ueɭlelʃ ［類義語］lelʃ ［レベル］3 ⅃1:ɑccı/ıuelınʃ/lelʃ ［語法］ 緑がかった不思議な色の月。死神を象徴する。

ɑcɑ ［形容詞］仮想の ［電算］仮想、サイバー ［類義語］ɑcı、ɑcını ［反意語］lıɑcl ［レベル］3 ul;ɑcı/dıɑc「幻の橋に架かった」を人為的に大幅に詰めたもの。造語力が高いと予想されたため、最初から大幅に短縮された。 ⅃⅃

ɑcɑuınɑ ［電算］サイバー攻撃 ［レベル］4 ıl;/ ⅃ʔ 【用例】 jlıc ʃəɥ ɑeɒc ɒcl ɑcɑuınɑ. サイバー攻撃のせいでページが重い。

ɑcɑɑcı ［電算］サイバースペース ［レベル］4 ıl;ɑcɑ/ɑcı ⅃⅃

ɑcɑɒejı ［電算］仮想化環境 ul;/ ⅃ʔ 【用例】 jıʃ ɑcɑɒejı. 仮想化環境を整える。

ɑcɑc ［植物］なでしこ、ナデシコ、撫子 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑcɑ（ピンク） ［文化］ ルティア王室の家紋は踊り撫子。風に舞う撫子の紋章。

ɑcɑeɒ ［電算］仮想化 ［レベル］4 ul;/ ⅃ʔ

ɑcɒ ［形容詞］不適切な、似合わない、不適当、不当な、理不尽な、不条理な、不適合な、不適応な、不合理な、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［副詞］べつに、別に、べつにいいよ。ɑcɒel の形で ʃə eʃ ɑcɒ jenʃ（礼には及ばない）の意味。 ［類義語］uılenʃ ［反意語］ɑız ［格詞］〜に似合わず ［レベル］2 1ʔ: 制 【用例】 jɔn lclc ʃclc⅂ ejcɭlıɒ ɑcɒ ɒıcn ləəʃ ɑel ɑcın. すると詩姫は少女の体には似つかわしくない恍惚とした表情を浮かべた。

ɑcɒnı ［名詞］違和感 ［レベル］3 ⅃1

ɑcɒuɔ⅂ ［言語］非文 ［反意語］ɑızuɔ⅂ ［レベル］6 ⅃⅃ ［語法］ 完全に自然で文法的にも正しい文が ɑızuɔ⅂、やや不自然だが十分許容できる文が jenuɔ⅂、不自然だが間違いではない文が ɥəuuɔ⅂、非文が ɑcɒuɔ⅂。言語学の論文などでは ɑız は無標、jen は 8、ɥəu は 88、ɑcɒ は × で示す。

ɑcɒɥə⅂ıle ［名詞］多神教 ［反意語］clcıɒɥə⅂ıle ［レベル］3 ⅃0

ɑcɒı ［生物］頷厭 ⅃1:ɑcɔɒ

ɑcɒın ［名詞］残党 ［レベル］3 初 : 枯草？水を失ったという意味だそうだ。ɒın の部分が jeɒıcɒ に関連か。

ɑcɒınl ［形容詞］セレンの望まぬような ［反意語］jeɥejʃ ［レベル］4 ɥɑ:ɑcɒ/ınl「（彼女をリディアだと）呼ぶには不似合いな」。リディアが ıɭj eɥejʃ と造語した翌日にセレンが「この概念はよく使うので」と言って新たに造語したもの。 ⅃ᗰ ［文化］ ɥəʃcı

ɑcɒılcı ［人名］ディマリア ⅃0 ［文化］ (ɥəəɒı ᗰ⅃LΔ:ᚹ10L(ᗰᗰ0ᗰ:ᚹ10L)) メルテナ中期のレスティル女王。

ɑcɒcʃɔɥcı ［企業］ディミトリア精霊家具店 ul;ɑcɒcʃɔɥc/ıl。分かりやすく言うと、ｗｅｎｄｙだからｗｅｎｄｙ’ｓというようなネーミング。 ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ → uellcɔn、ueɥnjııl 精霊族は人間とサイズが同じなので家具を共有できる。すなわち家具の輸出入が可能である。精霊族の家具はデザインが洗練されており、材質も良く、強度も高いため、人気がある。 cneııʃɔ 北部で家具店を営んでいた ɑcɒcʃɔɥc cneııʃɔ は ueɥnjııl の食糧危機でアルバザードに移住。その後戦争が起こると戦災で家具が燃えたため、家具の需要が生まれた。しかし精霊の家具は高く、戦災で経済が悪化している上にいつまた焼かれるか分らない状況では売れない。そこで安くて最悪燃えても良い低価格の家具に転向した。鉄の家具なら燃えないのではと思うかもしれないが、重すぎて運べない。また原価が高すぎる。その上戦時中は鉄が高騰するので話にならない。 ɑcɒcʃɔɥc はエルトアの材木を安価で大量に買い取り、デザインを画一化した。これにより作業員の覚える内容が減り、作業工程もカットされ、人件費がカットできた。また作業工程が減ったことで製造も早くなり、大量生産が可能になった。戦争時は魔族は打ちこわしにあったが、この安い家具が民衆の助けとなったことで ɑcɒcʃɔɥc は打ちこわしや追放を免れた。 戦争時は家も燃えるため、次に ɑcɒcʃɔɥc は大量に輸入した材木を活かして建築業を始めた。こうして経営は拡大し、財を蓄える。 ɥɑ になると時の当主 ıjbel は建築業に力を入れていた。アシェットの前身アルシェは最初旅先の村や町を守ることで名を馳せたが、復興支援をしたことでも名を馳せていた。このときアルシェはディミトリア社の厚意を受けている。アルシェがアルバ王の寵愛を受けると復興の公共事業の委託権を得るようになる。こうすると立場が逆転するが、アルシェは少年期に受けた恩を忘れずディミトリア社に優先的に仕事を発注。こうして癒着の構造ができる。 アシェットによる貴族解体でも ıjbel は商人だったため、直撃は避けられた。さらに癒着があったため、厚遇を受けた。貴族が解体されたため、ıjbel の地位は相対的に向上。政治にも口を出すようになる。 nɑ 以降、時代のニーズに合わせた商売を営み、ɥʃ では紡績や食品にも手を出しコングロマリット化を果たす。ul 後期で経営を縮小するも、ıl の革命を堅実に生き伸び、現在では原点に戻って伝統家具を中心に展開している。 イネアート家の当主は予見の力があるため、その力を利用して政治にも口を出している。革命後の当主は女性で、φɥecu cneııʃɔ。子供は娘ばかりで、ılcı cneııʃɔ や eɥcı cneııʃɔ など。φɥecu は現在ディミトリア社のＣＥＯを勤めている。

ɑcɒcʃɔɥc cneııʃɔ ［人名］ディミトリ＝イネアート ul ⅃1 ［文化］ ɑcɒ cʃɔɥcı 魔族。精霊族。lceɥuı の母と人間の父による交配種。男性。ılcı cneııʃɔ の祖先で、ゆえに ılcı の jelej は水属性を持っている。

ɑcɒcncɔn ［アトラスの国家］ディミニオン、柩国 ［レベル］3 古 : 小説版アンクノットに記載 ［文化］ 面積 : ʔᗰᚹL0ᚹ.10LLLʔ ⅂ɒ ⅃ 訳語は ls の出来事から。訳語なのでそれ自体を jɒ に使うことは歴史的な矛盾を呼ばない。

ɑcɒcncɔn(⅃) ［軍事］ディミニオン、祠徒、しと、シト、柩 ［レベル］3 ⅃0:ɑcɒcncɔn。ディミニオン上空から降ってきたことから。最初は ɑeeɒ e ɑcɒcncɔn と呼ばれたが、同国がこの魔物によって滅ぼされたため、この名で呼ばれるようになった。歴史的記述ではディミニオン国の意味もあるので注意すること。 ［文化］ ɑɥənıɒcj メル ᗰ0Δ 年クリスの月パールの日午後７時３１分にディミニオン国の首都ユリウスに降ってきた巨人。lıɒuɔɥʃ を引き起こし、lıns の引き金となっ

た。

ɑcɒcɥə ［形容詞］変化に富む、移ろいやすい ［レベル］３ 1L 【用例】 senſ ɪſ ɑcɒcɥə. 天気が変わりやすかった。天気が不安定だった。

ɑcɒcɥənɪ ［名詞］うつろいやすい心、移り気、気分屋 ［レベル］３ 1L 【用例】 lɪ ſcl ɑcɒcɥənɪ. 彼は気分屋だ。気持ちの変化が大きいことを指す。

ɑcɒcɥəφcn ［経済］水商売 ［類義語］cɒdµenφcn ［レベル］６ µɑ;/ ⅃ɱ ［語法］ ɑcɒcɥəφcn は先の見通しが立ちにくく、世間の人気や嗜好に大きく依存し、収入が不確定な業種や職業を指す。必ずしもソープなどの風俗店がこの業種に入るとは限らない。何年にもわたって安定して経営している場合は、先の見通しが立ちやすいためである。むしろアルバザードで ɑcɒcɥəφcn というと、音楽家や小説家や投機家などのほうをイメージしやすい。 cɒdµenφcn は風俗業という意味での水商売。

ɑcɒcµɔ˥ ［名詞］多神 ［反意語］clcɪɒcµɔ˥ ［レベル］３ ⅃0

ɑcɒɔ ［植物］ライム ［レベル］２ lıʃſı: 緑のレモン

ɑcɒen ［接続詞］ɑcɒ ［レベル］３ ⅃1

ɑcɑcɪ ［篁堺］ディディア ［レベル］５ µɑ; 古代国家 µcɑcɪ の ɒcɑccſ 南部での発音 ⅃⅃ ［文化］ 篁堺司：µəəs ɒcɑccſ 篁堺国：ɒcɑccſ, ɒɪl enɪlſ lcɪµ, uɪlenɪn lcɪµ

ɑcφl ［被服］ビーズ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ɑcɪφe˥c（リディアの玉）。彼女がビーズのアクセサリーも愛用していたことから。

ɑcd ［経済］掛け ［レベル］５ 1L:ɑcɪ/dcnɪ

ɑcdſ ［名詞］歯磨き粉、洗口液 ［レベル］２ 1ʔ: 制 :ɑcɔdcſı 【用例】 ɪn euɪſ ɑcdſ ɪ ɑcɔell. 歯ブラシに歯磨き粉をかけた。 le ˥əſ ɪl ɪn ɥəl el bc˥ lcn uɪc˥ hɪl e lɔµ e ɑcdſ. 歯磨き粉の上の部分を握ってはいけないと言われた。

ɑcdlcln ［経済］売掛金 ［レベル］５ 1L

ɑcdȷ ［動詞］ɥəl を支持しない、不賛同の、反対票を投じるような ［反意語］ ɑɪlɒ ［レベル］２ ⅃0:ɑɪdſ/ȷɔ（顔をしかめる）→ ɑɪdȷ → ɑcdȷ（ɑɪlɒ の ɑɪ と離した）

ɑcdȷɪµɒ ［経済］買掛金 ［レベル］５ 1L

ɑcdcſ ［形容詞］様々な、あれこれ ［反意語］˥ɪlɔdcſ ［レベル］２ 1ɱ: 制 : 多い種の 【用例】 ȷſe˥ ɑcdcſ 様々な野菜

ɑchcn˥ ［医療］多汗症 ［レベル］４ 1L

ɑcµcɪ ［地名］ディリア海 ⅃0:µcɑcɪ:ɪɑenſɔ/eµcɪ ［文化］ アデント～アディリック間の海。

ɑcµe ［気象］露、ツユ、デュー ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :ɑcɪləɑɔe（ガラスの水） :::ɪɒɪ,ɪlſ 【用例】 ȷeɑ ɑcµe 露を払う

ɑcµeſ ［法律］犯罪、クライム ［類音］ɑcµe µɑ; ↓ ［レベル］２ ⅃0:ɑɪz ſµe（刑に値する）→ ɑɪſµe → ɑɪµeſ（ſµ が言いにくいので位置を交換）→ ɑcµeſ（後続の e に押されて母音が前寄りに） 参考 :˥ɪle:1ſ: 制 :˥ɪlɔ: 古 :˥ɪlə（法）。犯罪が ˥ɪle だと法の ˥ɪlə と近すぎるため。 【用例】 ɪµ ɑcµeſ 罪を犯す

ɑcµeſnenſ ［法律］犯罪率 ［レベル］４ ⅃0:1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ: これは犯罪の起こる確率や頻度のことなので、普及率 hɪnlɪsɪ とは異なる命名

ɑcµeſuɪnſ ［法律］刑法 ［レベル］４ ⅃0:1L: 犯罪法

ɑcµeſɑcl ［法律］防犯 ［レベル］３ ⅃0:1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ ［文化］ 犯罪者を重く裁くことや被害者を守ることよりも重要なのが、そもそもの犯罪防止である。アルバザードでは街の至るところに監視カメラがしかけてある。また、見回りも非常に頻繁である。見回りは警察だけが行うのではない。街には通りごとや集合住宅ごとに自衛団があり、彼らも見回りに参加している。

ɑcµeſɪn ［法律］犯罪者、罪人、犯人 ［レベル］２ ⅃0

ɑcµec ［名詞］境界、境界線、境界点、しきり、仕切り ［経済］気配 ［レベル］２ 1L:ɑeȷdɪ/µecn。ɑeȷdɪ と音を離すため、最初の母音を c に 【成句】 eu ɑcµec ɪ uɪnſ eɒcȷel 自分勝手に法に線を引く：我田引水 lecȷ ɑcµec ɪ{ȷɔu} ɔn ɔn について ɪ との間を区切る、境界線を引く、制限する 【用例】 lecȷ ɑcµec ȷɔu ſɪ ˥ɪɑ ２つの国の間に境界線を引く el ləɑɪ ȷen sɪn ſeɪ ɪlɪn lecȷ elɑ ɑcµec ɔn ſɔlcȷ ɪ. 社会が線引きなんかしなければ、人はいくつになったって空も飛べるんだ (ȷeµen ɪµ bɪzɪµɑ) 社会が年齢に応じた役割を押し付けなければ、人は年齢ほどには年を取らない。年を取らせているのは社会の制約だという意味。

ɑcµecn ［生物］至陽 ⅃1：ɑcµec

ɑcµecdɔl ［地名］境方 ［レベル］４ ⅃0 ［文化］ メティオ、ソーナ、カルカヒの地方。 アルバザードとルティアは言葉が異なるものの、変異が少ないのでまったく問題なく意思疎通できる。 しかしメティオはそうではない。そこで、有史以来、常にメティオはどことなく空気の違う強国として、アルバザードやルティアから遠目に見られてきた。

ɑcz ［法律］罪、咎、とが ［類義語］˥ɪhc ［反意語］ſµen ［レベル］２ ⅃0:ɑcȷ:1L: 古 :ɑeȷdɪ（禁じられた） ［語法］ ˥ɪhc 【成句】 lecn ɑcz 罪をかぶる、罪を背負う 【用例】 ſcl ɑcz 罪を犯す ×nɪ ɑcz 罪を感じる→ ˥ɪhc

ɑczɒɪl ［文末純詞］［µɑen］ſcȷee ［レベル］１ ⅃1:ɒɪſ:ɑcz ɒɪl「お前覚えろよ？」

ɑczcɪ ［医療］病原菌 ［類義語］uɪcn、lcc˥、czɪl ［レベル］３ ⅃0:ɑɪcz/lccz/lcɪ（小さき者の王） ［文化］ ɥəəɒɪ ſΔʔL ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 ɪlɑclc˥ や ɪµuɪcn による疫病と類似していることに気付き、ɑczcɪ（病原菌）の存在を仮説として立てる。ɑczcɪ の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ていた地方都市アルシアに出張する

ɑcl ［動詞］ɥəl の邪魔をする、邪魔をする、邪魔する、妨害する、立ちふさがる、立ち塞がる、横槍を入れる、とめる、止める、くいとめる、食い止める、くい止める、食いとめる ［反意語］ɪſ˥ ［レベル］２ µɑ 1ʔ: 制 【用例】 ɑen ɑcl ɪnſ 邪魔するな！

ɑclſ ［植物］ホウレンソウ、ほうれんそう、ほうれん草 ［レベル］２ lıʃſı:（緑の？）

ɑclſuclȷ ［化学］メチオニン ［レベル］６ 1L ［文化］ ホウレンソウに多く含まれる必須アミノ酸。µɑ ではアシェットの食卓に並ぶもののうち、一番身近でメチオニンを豊富に含んだものがホウレンソウだったため、この名がついた。

ɑcl˥ ［動詞］ɥəl をふさぐ、ふさぐ、塞ぐ、塞がる ［レベル］２ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ:ɑcl˥ɔn 【用例】 ɑcl˥ ˥əɔ ˥ɔn lɪȷ 手で口を塞ぐ

ɑcl˥ɔn ［名詞］障害物、堤防 ［レベル］２ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ

ɑcll ［動詞］ɥəl を切望する、切望する、懇請する、請願する、～しますように、追求する、追い求める ［類義語］ɑcllɪl ［レベル］２ 1L:clɒəȷ:µcɑcɪ:ɑcɪlɪl（夢を願う） ［語法］ ɑcll は強く願うこと。ɑcllɪl は長い間願うこと。

ɑclȷ ［形容詞］事後の、アフターの ［反意語］dɔµ ［レベル］２ 1L:µcɑcɪ 恣意

ɑclȷ˥ɪµſ ［経済］［ユマナ］クレジットカード ［レベル］３ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ 【用例】 φɪ˥ ȷcɑeſel ˥ɔ˥˥ɔ ɑclȷ˥ɪµſ クレジット一括払いで

ɑclȷncɑ ［言語］事後段階、事後相、ɪncȷ 相 ［レベル］６ ⅃0 ［語法］ 単位動詞の３分割のうち、中間の区間。継続～影響の区間のこと。

ɑclȷɑel ［名詞］復習 ［レベル］２ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ

ɑclȷbɪφ ［医療］後揉法、後揉撚 µɑ;/ ⅃ɱ

ɑclȷlɪȷ ［普通動名詞］後戯 ［動詞］ɥəl に後戯する ［レベル］４ ⅃⅃ 【用例】 ɑc lȷlɪȷ eſ uɔll nɔɑ dɔµlɪȷ lɪlſ ɪleɒ. 後戯は気持ちの上では前戯より大切だ。

ɑclucl ［医療］障害 ［レベル］３ 1L:clɒəȷ:µcɑcɪ ［語法］ 機能不全という意味合いの障害ではない。怪我的な意味の障害。ただし、体だけでなく内臓や精神の障害も含む。ucl はむしろ ɪɪucl の ucl と考えた方が分かりやすい。

ɑclɑ ［化学］アルカリ、塩基 ［形容詞］アルカリ性の ［反意語］ɪȷl ［レベル］３ 1L:µcɑcɪ:ɑɔɑl

ɑclɑlcl ［化学］アルカリ金属 ［レベル］５ 1L

ɑclɑɪc ［医療］灸、お灸 ［レベル］３ 1L:ɑclcn/ɑɪc ［文化］ → ɔlcucɪn, ɔl cucɪnſ ヨモギを材料とする。血行促進などを目的として行う。 【用例】 eu ɑclɑɪc ɪl ɪdlescɔµ 隔兪にお灸をすえる

ɑclɑɪcɔlcucɪn ［医療］灸頭針、灸頭鍼 µɑ;/ ⅃ɱ

ɑclɒ ［名詞］イーゼル、画架 ［レベル］５ µɑ;ɑɪlɒ.˥ ⅃ɱ

ɑclɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］がか座 ⅃ɱ ［文化］ cɑɪ

ɑclɑɔl ［感動詞］すみません、通ります、道を開けてください ［感動詞］お話中すみませんが、話に割り込んですまないのだけど ［レベル］３ 制 : 邪魔を許す。制で定着したのでこのままの語形とした。 ［語法］ 道を空けてもらうときだけでなく、話に割り込む際にも使うことができる。 また、相手との会話を一時中断するときや、人の目のあるところで作業を一時中断して他のことをするときにも使う。

ɑclze,ȷzɑ ȷɔɔs、lɪl、ɑcɑn ‹›ɑɪzeſ

ɑclɪn ［名詞］たくさんの人、多くの人 ［レベル］２ ⅃⅃

ɑclɪnſı ［医療］多重人格 ［レベル］４ 1L ［語法］ アルカでは病気というよりは症状として扱われる。

ɑclcȷ ɒɪcn ［人名］ディリス＝マイン ⅃0 ［文化］ (cɒəl 1⅃90:1ʔɱ1) ラグナロク工科大学の研究員。最終職位は学長。1ʔɱΔ 年、ɪ˥cnɪȷ 親子の才能を妬んで国家反逆の罪を着せ、処刑させる。本人に目立った功績はなし。

ɑclcn ［植物］ヨモギ、よもぎ、もぐさ、モグサ ［レベル］３ 1L: 邪魔をする花。アレロパシーを起こす植物であることから。アワダチソウも類似。アルバザード人はヨモギの周りはヨモギばかりが群生することから、他の植物を邪魔するものと名付けた。 ［文化］ アルバザードでは食用もするが、灸の材料として有名。

ɑclecɒ ［卑語］オナペット ［反意語］leebel ［レベル］４ Δ:ɑclecɒ ← ɑcɪleɒ（夢の歌）。ザナがミルフに抱いた気持ちを男子がからかったもの。

ɑcɪ ［名詞］まぼろし、夢幻 ［名詞］（稀）夢→ lɔnɑ ［人名］リディアの略称 ［組み数字］１／２８ ［形容詞］無形の、虚構の ［法副詞］［µenſe］ɑɪȷ：1L:µcɑcɪ:ɑɪȷ は威厳のある勧誘なのでユンクに向かない。勧誘とはまだ行われていない架空の行為を想定したものであるため、ɑcɪ が副詞として選ばれた。 ［類義語］lɔnɑ、ɑcɑ、ɑcɪnɪ、ɑcɑ ［反意語］ɑcɪ ［レベル］１ ɑ;e 古 :ɑcɪ（夢幻）。ɑcɪ の幻字の形はゆりかごに人が寝ている象形文字が段々書いていくうちに傾きが書きやすくするために縦になっていったもの。２は元は『小説版アンクノット』中のリディアの名。万一この本が誰かに読まれてもリディアの名が知られないようにとの配慮でセレンが作った語。実際、使徒はこの名でリディアを呼ばなかったが、やがてできた µcɑcɪ を短縮した名前である ɑcɪ と偶々同一だったため、使われるようになった。 ɑcɪ:ɑcɪ:lɪ ˥ɪµɑcnɪ:ɥə ənɪ,ɪlſ 【用例】 lɪ ɑcɪ 幻の中にいる、夢を見ている ſcl ɑcɪ ɑel ſɔſɔ ～の幻を見る "ſeſ nɔn ſe ɑcɪ ſcȷ le ſɥə lɪɑɪſ e"「でもね、私は貴方の創りだした幻なんかじゃないんだよ」 µcɑcɪ lɪ ɑcɪ. リディアは夢の中にいた。 ſɥə ȷeµ lcµ le ɑcɪ ɒcl lə enɪ. 貴方はあの夢のことを知らなければならない。なぜならあの人が泣いているから。アナグラム。˥ɔnen eȷſ ſ'ɪµbɪzɪµɑ 家。例文は「ȷeµen µcɑcɪ ɒel ləlcɪ ɥəlſ」を並び替えたもの。

ɑcɪ,ȷzɑ ˥ɪlſe、ſceµ ‹ɑcɪ,dµ

ɑcɪſ ［形容詞］ロマンチックな、幻想的な、うっとりするような、洗練された雰囲気の、大人な雰囲気の、ファンタジー風な ［µenſe］［形容詞］

ɥıʃ。素敵な、良い。 [レベル] 3 1ꞩ: 制 :ɑcı 【用例】 nɔn nıʃ nıə c ɥəl nı ᴅcl ɥə lınʃ ɑcıʃ. 素敵なプレゼントをもらって本当に嬉しかった。

ɑcıʃıʃı,ıɥɑ ʃıʃı ɑcı/ʃıʃı

ɑcıʃıə [経済] 信用買い ɹɹ

ɑcıʃcɑ [形容詞] 清貧な、慎ましい、つつましい [名詞] 清貧 ɥɑ;/「リディアのようにつつましやかな」 [レベル] 3 ɹʔ [語法] 金はあるが規則正しく慎ましやかな生活を続ける様。

ɑcıʃe スーパーマーケット、食料品店 1L

ɑcıʃel [電算] 電子情報、電子データ [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleıʃ

ɑcıʅ [名詞] 秀才 [反意語] ᴅelᴅ [レベル] 3 ɥɑ;ɑcı/ʅə「リディアのように口が回る→リディアのように知識がある→秀才」 ɹʔ

ɑcıʅɥɔ [名詞] 大根役者、下手な演技 [レベル] 3 古 : メル 1ʔ 年頃にオリジナルコメディの台本を古アルカで書いてリディアに演技をさせたところ、学芸会以下の悲惨な演技であったことで使徒が大笑いしたことから。

ɑcıʅlcʃ [名詞] 信賞必罰 [名詞] 勧善懲悪→ ɑcıeleᴅ [レベル] 3 ɹɹ:「リディアの評価」

ɑcıʅlel [言語] ディアクレール、ディア・クレール。 [ユマナ] 幻日辞典。ディアクレールでなくこちらを意味するケースもある。ユマナでこれを使うときは原則として「アトラスにおけるアルカの辞書」という意味合いが強い。 [レベル] 3 1L:ȷeɥen/ɥcɑcı: 幻（アルカ）辞典 [文化] アトラスではセレンが興し、ls まで引き継がれた国定辞書のこと。 現実では、一時期作られていた幻幻辞典をもともと指していたが、幻幻辞典が廃案になり幻日辞典が最も公的な辞書となってからはこれを指すようになっていった。

ɑcıʅı [感動詞] ディアカ [レベル] 2 ɔuc:ᴅeʅʅı に対応する言葉。やはりオヴィが作った。 [語法] ディアセルを祝う言葉。

ɑcıʅıɾdʃe [ランドマーク] ディアカルテ [名詞] 理想郷、ユートピア、桃源郷、楽園、パラダイス [ユマナ] ディズニーランド [レベル] 2 ɹ1 [文化] 北ルークス市北部にある市。市全体がディアカルテという同名のテーマパークになっている。面積は山手線の内側より広く、アメリカのウォルトディズニーに匹敵する。つまりアトラス版ディズニーランド。ɥɑ で cᴅəl 1ꝑLꝟ(1ꝑLꝑ8) にアルバ王が建てた遊園地がその始まり。遊園地の周りが自然公園になっていた。現在ではこの庭園エリアもすべてテーマパークとなっている。開園時にアルシェがメルを連れて遊びに行き、そこで異性魔王ジールとの戦闘になったことがある。このときジールはメルの hıcɑ で撃退された。 【用例】 ɑccn ınȷ lıɥ ɑcı ᴅclen ᴅcɥɔlczᴅ eʃ ɑcıʅıɾdʃe. ȷɔl ın ȷccl uın ɑcı le ɥcɑcı lınɑc ııʃı. いずれにせよ僕たちはミロク革命による世の中を理想郷と信じますし、僕自身はリディアの望む世界を守りたいのです。

ɑcıʅıɥʃ [名詞] ディアセルカード [レベル] 2 ɥɑ;/ ʔꝟ [文化] → ᴅeʅʅıɥʃ ᴅeʅʅıɥʃ のディアセル版。

ɑcıʅıʅʃcȷ [娯楽] [芸術] 人工世界創造者、ディアカルティス [反意語] leucı nʃ [レベル] 4 ɥɑ;ɑcıʅıʅʃe/lınʃcȷ ɹʔ

ɑcıʅıʅʃe [名詞] 人工世界、ディアカルテ [名詞] 幻想の箱庭、幻の場所 [反意語] leucın [レベル] 4 ɹ1:ɑcı/ 古 ʅıʅʃe「幻想の箱庭」 [語法] ıɥlcɑcı 【用例】 ın lıɑ uın ɑcıʅıʅʃe, ᴅın ıʃə ɑe ɑcı ınʃ. 私は世界を作る、何故ならここは僕の世界ではないから（ネットユーザー）

ɑcıʅecın [名詞] 夢追い人 [レベル] 5 ɹɹ

ɑcıl [料理] クレープ [レベル] 3 古 :ɑcıl。リディアがよく食べる甘いものの意。 [文化] 日本では生クリームたっぷりのものを想像するが、アルバザードで最も一般的なのはクレープ生地に砂糖をまぶしただけの甘い薄皮。皮が日本のものより薄く、卵焼きのように見える。匂いはホットケーキに近い。日本には通常見られないが、フランスでは一般的に見られる。オルセー美術館を出て右手にあるキオスクなどで食べられる。 リディアが語源になっているが、実際彼女は日本のクレープではなくフランスのＣＲＥＰＥ　ＳＵＣＲＥ（お菓子系クレープ）の中でも上述の砂糖をまぶしたＣＲＥＰＥ　ＡＵ　ＳＵＣＲＥ（シュガークレープ）を意図している。日本のクレープが好きなのはメル。

ɑcılıʃe [料理] クレープ屋 [レベル] 3 ɥɑ;/ ɹʔ

ɑcılınʃ [歳時記] ディアシャント [レベル] 2 ɥɑ;/ ɹꝟ: 登録漏れ [文化] ディアセルにあげるプレゼント。現金だったり物だったりサービスだったりする。

ɑcılıʅʃ [経済] 発生主義 1L

ɑcıleɥ [歳時記] 冬、幻冬（げんとう）、ディアシェール。穏やかな冬 [形容詞] 冬の [人名] ディアシェール [類義語] cȷlceɥ、ɑlınɑleɥ、lcuɥeɥ [アクセント] ɑcılEɥ [レベル] 4 ɹ0:ɑcı/lceɥ。lʃ [語法] [文化] 日本語の青春、朱夏、白秋、玄冬に相当するもの。アルカのほうは穏やかな四季を示すため、意味合いは異なる。 青春などはすべて色で、五行説から来ていると思われる。 玄は黒のことで、アルカ訳の幻冬という訳語はむろん ɑcı の訳出であるものの、この「玄冬」にかけてもいる。

ɑcıleɥ(ɹ) [美容] 薄化粧 [レベル] 4 ɹ1:ɥcɑcı/leɥ

ɑcıleʅʅ [医療] 夢遊病 [レベル] 5 ɹ1:「夢散歩」

ɑcıȷ [動詞] ɥəl をはしゃがせる、はしゃぐ、楽しそうに声を上げる [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ɑcıȷɔ 【用例】 ın en nıʃ nɔȷ ɑcıȷ uın. はしゃぐ気になれなかった。

ɑcıȷıdcı [医療] 誇大妄想 [レベル] 4 ul;ɥcɑcı/ȷıdcı ɹɹ

ɑcıȷcɥ [美容] 肌理、きめ、きめ肌 [レベル] 3 ɹ1:ɥcɑcı/ȷcɥ

ɑcıȷɔᴅʃ [生物] [死神] 夢織種 [形容詞] 夢織の～ [レベル] 4 1Δ: 制 [文化] 魂科死神属夢織種。ȷıe ȷıʃcȷ（夢織の紗枝）など。絶望した人を言いくるめ、獲物に理想郷を見させる代わりにセレスを固化させ、廃人と化させる。やがて獲物が生物的に死亡した際、そのセレスを奪うことで生活を営んでいる。死神属の中で極めて稀少な種。

ɑcıȷeʃ [生物] [死神] 夢喰種 [形容詞] 夢喰いの～ [レベル] 4 1Δ [語法] 魂科死神属夢喰種。ᴅccnı, hɔᴅcȷ, len など。人のセレスを喰らう怪物。夢喰が好むのは絶望に突き落とされた人間のセレス。従って、わざと獲物を絶望させるため、しばしば夢喰は獲物とラポールを築き、後で裏切る。

ɑcıȷel [名詞] (ʃcl) 正直な [反意語] ɑceȷel [レベル] 2 1L:ᴅelcɑcı ıʅʃe: リディアの唇 【用例】 lı ʃcl ɑcıȷel. 彼は正直だ。

ɑcıȷeɥ [名詞] 幼馴染、幼なじみ、おなささなじみ [類義語] ıʅʃcȷ [レベル] 3 古 :ɑcıȷeɥ, ɑcıɔuc「リディアとセレン」「リディアとオヴィ」で幼馴染の意味。 [語法] hıɾn

ɑcıȷel [歳時記] ディアセル [レベル] 2 1ꞩ: 制 : リディアの日 [文化] リディアの誕生日。メル暦でザナの月ラルドゥラの日のこと。グレゴリオ暦でいうと７月１９日ごろを指す。アシェットでは慣例として毎年ディアセル付近になると大会議を催している。ディアセルには一年で最大の祝いを行う。メルセルと同じく飲食店が休業なので自宅で祝い、ɑcılınʃ と呼ばれるプレゼントを交換する。ディアシャントは ᴅellınʃ と同じである。即ち、親から子以外は相互的で、現金は無礼でない。メルシャントと違うのはディアセルが年で一番の祝いであることから、高価なものも取り扱うということである。ディアセルには透明な水の入った器を月の下に晒しておくという習慣がある。尚、器にはその日の月相（８組数字のいずれか）を書いた鏡を沈めておく。これは天候に関わらず行われる。また、ディアセルには桃を食べる習慣がある。この桃は生で食べても良いし、調理に使っても良い。この習慣は、ディアセルの語源であるリディアを象徴する果物が桃であるということと、この時期辺りから実際に桃の身が成熟することから生まれたものである。また、桃は cdȷen というエルトが司るものだが、イプセンは桃と共に長寿も司る。そしてこの日に桃を食べるのは非常に縁起が良いと考えられている。ディアセルには皆で ɑcıʅı と言って祝いあう。ᴅeʅʅı と同じく当日にしか使えない。 尚、メルセルとディアセルには前夜祭がある。ləəᴅel と ləucı である。前夜祭といってもその日の朝から終日行われる。だからふつうはこの日は休みにして働かずに遊ぶ。前夜祭は深夜でも自由に外に出れる。街は祭りで大騒ぎとなり、パレードや花火が行われ、出店も多く出る。店で働く人も警備員も医者も軽犯罪の囚人も一日中は働かず、何交代かで店番する。空いた時間は遊んで回り、楽しむ。この日に終日働かされる人はまずいない。そして深夜十二時前に前夜祭は終わる。十二時を迎える直前にカウントダウンが始まり、十二時になって当日を迎えたら ᴅeʅʅı, ɑcıʅı と言い合う。そして祭りは完全にお開きになってそぞろに皆帰っていく。まったく一人で何事もなく年を越していたレイン＝ユティアは極めてレアな引きこもり。当日は好きなもの同士や家族で過ごす時間である。誰も働かないので祭りすらできない。病気や怪我で倒れても病院も殆どやっていない。救急や消防や警察も殆ど機能しない。だから体調を崩さないよう、気を張り詰める。タクシーや電車も動かないのでひたすら街は静かである。当日は仲間内や家族で宴会を開く。タクシーなどがないので車や自転車などで仲間の元へ向かうことになる。ただ、一般に、当日の宴会は家族と祝う。交通の不便さも原因の一つだが、恋人や仲間より家族の方が結び付きが強い。だから仲間や恋人との宴会は前夜祭に済ませておくことが多い。同時に、プレゼントを渡す場合、当日会わない仲間や恋人には十二時を回った時点で渡しておくことが多い。 ＜ディアセルごろのスケジュール＞ 学生を例に取る。社会人はテストの部分が決算処理になるだけで、後は同じ。なお、ほとんどのサラリーマンにとって決算処理よりも前の作業のほうがメインになるので、忙しいのはむしろラルドゥラの月。 zın lcȷ: 中間試験１日目（最終学年の場合、卒業試験） zın φcl: 中間試験２日目 zın ɑəl: 結果発表（最終学年は卒業式。落ちると参加できない） zın ɑɥə: 文化祭前夜祭（文化祭スタート。まだ不燃焼気味） zın ᴅel: 文化祭後夜祭（街の祭りが始まり、文化祭と合同して大騒ぎに。最後は徹夜してディアセルを待つ） zın ɥıl: ディアセル（一気にしめやかな空気に） zın zın: 休日１日目（無理が祟って寝込む） zın dıl: 休日２日目（動けない） zın ᴅcʅ: 休日３日目（ゆったり回復） zın ɑıu: 休日４日目（明日から学校だ）

ɑcıȷelɔʃ [電算] バーチャルキーボード [レベル] 3 ɹ0

ɑcın [動詞] ɥəl を演じる、演じる、ɥəl のふりをする [普通動名詞] 演技 [レベル] 2 1L:ɑcı/nı（虚構の心） [語法] ʅɥɔ は演技として、周りも自分もそれが虚構と分かっている状態。ɑcın は相手に気付かれないよう、装うさま。ɑeᴅ と違って金をだまし取ったりといった犯罪目的ではない。従って例えば自分を可愛く見せたりといった実際とは違う自分を演じることである。 【用例】 ɑcın en ȷeɥ とぼける、しらばっくれる、白を切る、トボける、シラばっくれる

ɑcını [形容詞] 虚構の、架空の、非現実な、非現実的な [名詞] 虚構、架空、フィクション、非現実、非現実的 [数学] 虚数← ɑcınııl [類義語] ɑcɑ [反意語] ɑcını（発音混同注意）: 逆に、音が似ているのでよく韻に使われる。 [類音] ɑcını [レベル] 2 ɥɑ;ɑcı/nı 1L: 夢心地 【用例】 ɑcını l'el cn elɑ eʃ ɑcını ʅɔnʃ ɑcını l'el cn ɑın eʃ ɑcını. 見えないほんとうはつくりもの。見えるうそはそこにある (ɥcɑcı ləʃcı)

ɑcınıʅl [医療] 幻の知覚 [レベル] 6 1L [語法] 実際に存在しないものを知覚すること。視覚では蜃気楼など。触覚ではそこにリンゴがないのにリンゴを触っているような錯覚を覚えることなど。結局知覚は脳に電気信号を送ることで実現するため、実体がなくてもその信号を送ればその人間にとっては存在するものとして認知される。なお、アルカの実在論では、存在は認知的なものとされている。

ɑcınııl [数学] 虚数→ ɑcını [レベル] 5 ɹʔ

ɑcıncın [歳時記] ディアセル休み [類義語] ɑcıncınȷel [レベル] 2 ɹ1 [語法] [文化] ɑcıncın は zın ɑɥə_zın ɑıu までの期間。ɑcıncınȷel は zın ᴅcʅ と zın ɑıu の休日。

ɑcıncınȷel [歳時記] ディアセル休み [類義語] ɑcıncın [レベル] 2 ɹ1 [語

法] [文化] ɑcıncın

ɑcıne [形容詞] ジューシーな、つゆだくな [レベル] 3 μɑ;/ ⅃ꟿ

ɑcıu [形容詞] 嫡出の [反意語] ılɑcıu [レベル] 4 1ʔ: 制 : 古 ɑcızᴅcuı（王の子）

ɑcıuɔl [名詞] 初志貫徹 [レベル] 3 ⅃⅃

ɑcıuenı [医療] ＰＴＳＤ、心的外傷後ストレス障害 [レベル] 4 1L:μcɑ cı ⅂ılᴅı uenı cᴅ ɑənel ɑəɔl ⅂ɔnʃ ⅂ə nɔȷ uɔμʃ μcȷ ᴅcl ɗısc⅂ le lı lc ᴅıʃ cᴅ ɑcın.

ɑcıueμn [歳時記] 夢の終わりに、ディアヴェルン [経済] 弁済。信用買などの決済を行うことを「夢が覚める」と表現している。 [レベル] 3 ⅃1:ɑcı/ueμn「夢幻の崩壊」 [文化] アシェットがテームスを倒した日。この後残った悪魔らを倒していく。日付は zın ʃın。小説版アンクノット第三巻によると、２０００・７・２９の記述で、２０００・７・２７にテームスを倒した夢を見たとある。この日は 11 zın ʃın である。

ɑcıueμınʃ [医療] 強迫性パーソナリティ障害、強迫性人格障害 [レベル] 5 ul;μcɑcı/ueμınʃ ⅃ʔ:ᴅel

ɑcı ueeμ [娯楽] ディア＝ヴェール [レベル] 2 1L:ənclec [文化] アルティアが４年に１回発売するＲＰＧゲーム。世界中で発売され、アルバザードでも売られる。最も人気の高いゲームで、国民的ＲＰＧかつ世界的ＲＰＧ。オタクでなくともディア＝ヴェールはたいていやったことがある。要するにＦＦとドラクエっぽいもの。 シリーズは連続物ではなく、基本的に１話完結。世界観は原則アティーリ。タイトルによってメインとなる時代が違うので、新作はどの時代だというのが頻繁に話題に上る。一番人気が出るのは ⅂⅂_μɑ の時代。

ɑcıɑ [普通動名詞] 編集 [動詞] ɥəl を編集して ı にする、編集する [レベル] 4 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɑcıɑıȷ（リディアの仕事）

ɑcıɑın [言語] 編集者 [レベル] 4 μɑ;/ ⅃ʔ

ɑcıɑıb [医療] おたふく風邪 [レベル] 3 1ꟿ: 制 :ɑcı/ɑıb [文化] 大人になってからかかると被害が大きい。

ɑcıɑılcȷ [形容詞] [ネガティブ] 独善的な、押し付けがましい [類義語] ɑılcȷ [レベル] 4 ⅃0:ɔuc:ɑcı/ɑılcȷ

ɑcıɑcı [電算] バーチャルリアリティ、ＶＲ [反意語] ıdɑcı [レベル] 3 ⅃1:ɑcını/ɑcını [語法] ıdɑcı は現実を拡張したもので、あくまで現実ベース。ɑcıɑcı は逆に仮想ベース。

ɑcıɑcɔl [名詞] 奥手、おくて、きむすめ（処女という意味ではなく） [形容詞] うぶな、奥手な [反意語] ᴅelɑcɔl [レベル] 3 古 :ᴅelɑcɔl に対してできた

ɑcıɑəʃ [経済] 信用取引 [レベル] 5 ⅃⅃

ɑcıᴅ [名詞] 偶像、像、銅像。銅でなくてもよい。 [レベル] 4 1ʔ: 制 : 古 :ɑcıᴅıcn（夢幻の体）

ɑcıᴅıᴅȷ [被服] スポーツブラ μɑ; リディアが貧乳で、ふつうのブラジャーだと緩く、パールが肩からかけられるスポーツブラを作ったことから。ちなみにこのことに言及すると死を見る。 [レベル] 3 ⅃1

ɑcıᴅcʃ [名詞] 正室 [類義語] ɑcız [反意語] ᴅelᴅcʃ [レベル] 4 μɑ;μcɑcı/ᴅcnʃc ⅃ꟿ

ɑcıᴅc⅂ [名詞] 大同小異 [レベル] 4 ⅃⅃: リディアとミルフが、ミルフが中学だったころよく似ていたことから。

ɑcıᴅcn [名詞] ヤンデレ [レベル] 4 μɑ;/「リディアのような女」 ⅃ʔ

ɑcıᴅcμ [名詞] 遠距離における実質機能していない恋人、恋人 [レベル] 4 1L:μcɑcı: 古 : 夢の中の夫 [語法] 片方が別の恋人を作っても仕方なく、しかも別の恋人ができても関係が壊れない仲。そういう意味では友人にも近い。が、あくまで会えば抱くので恋人。抱くだけでもないので、セフレとも違う。

ɑcıᴅccμ [名詞] 机上の空論 [レベル] 4 μɑ;/「夢幻の理論」 ⅃ʔ

ɑcıᴅɔnɔɑɔıl [経済] 無形固定資産 [レベル] 6 1L

ɑcıᴅeᴅdɔ [卑語] 人工まんこ [レベル] 6 1L [語法] ɑcını⅂ を使って女性器を再現したもの。

ɑcıᴅes [天文] ベガ [類義語] ⅂ıl⅂c、ɑcμcı [レベル] 4 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel: リディア殺し [文化] イムル 1ꟿL1 年、ソーンの残党はアデルにサプリの村を襲わせた。この際カイラなどの軍勢を率いて組織したのがファルアモン。７歳の幼いリディアの息の根を止めようと近付いたが、ダルハを額に浮かべた少年セレンがカイラをユノで殺した。その上リーザがサプリに到着し、魔物を殺しはじめた。ファルアモンは撤退したが、プライドを傷つけられ、リディアを虎視眈々と狙った。 その後セレンに封印されたあとも、リディアの星であるアルタイルを狙い続けた。現在では天の川を挟んだリディア星を毎年毎年ディアセルごろになると襲っている。その間に入ってリディアを守ろうとする星がセレンであり、はくちょう座のアルビレオである。

ɑcıᴅel [軍事] ディアメル、心経 [レベル] 6 ⅃0:ɑcı/nıᴅelc（架空の神経） [文化] アンジェリカとパイロットを繋ぐ架空の神経。心の中の神経という意味で心経と訳している。触手のような形をしており、先端に吸盤のようなものが付いている。パイロットの四肢や頭部などにこの吸盤が装着される。

ɑcıɑ [名詞] ガラス、硝子 [レベル] 2 1ꟿ: 制← ⅃, ʔ:μcɑcı:ɑcıləɑɔ（夢の宝石） [文化] アルテムで神が作った。当時は陶磁器と混ぜて使っていた。 【用例】 ɑcıɑ e ʃeᴅȷ ıʃ μcφ ᴅcl ɗıʃe. 窓ガラスが嵐で壊れた。

ɑcıɑ⅂ɔʃın [農耕] 水晶農園 μʃ ⅃⅃

ɑcıɑɔl [地学] 軟玉、ネフライト [レベル] 6 1L: 翡翠石

ɑcıφ [名詞] ビー玉 [レベル] 3 1ʕ: 制 : リディアの球。語源は ɑcıɑ 参照

ɑcıφcl [経済] 現金や金券以外の金。電子マネーのように形のない数値上のもの。 [レベル] 3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

ɑcıφcɔ [経済] 機会費用 1L

ɑcıdıɑ [化学] ギ酸エチル、蟻酸エチル。通称 [レベル] 6 1L:ȷeμen [文化] μɑ でエステルを合成していたリュウは、いくつかのエステルの芳香性を発見したが、それが何の匂いか今ひとつ分からず、鼻の良いセレンに嗅がせた。セレンは酢酸エチルはリンゴ、酪酸エチルはパイナップル、酢酸オクチルはオレンジと言ったが、ギ酸エチルはリディアの息と答えた。そのため、ɑcıdıɑ だけは ləɔc⅂ や lcȷc⅂ と違って c⅂ を付けない。つまりここの ɑcı は ɑcıc⅂ 以前に μcɑcı を指す。

ɑcıdɔ [名詞] 頑固一徹 [レベル] 4 ⅃⅃: リディアの首。一度駄目だといったら頷かない。

ɑcıhıɑcμ [歳時記] 寒露 [名詞] １７時 [組み数字] １７／２４ [レベル] 3 ⅃0: → ınlcın [文化] ınlcın

ɑcıɥəlᴅ [電算] メガネ型ＨＭＤ、電脳メガネ [レベル] 3 ⅃0: 仮想眼鏡

ɑcıɥəc [天文] [歳時記] ほしあい、星合い、星会い、星逢い、星探し、ほしさがし、星さがし、ディアユイ [レベル] 3 ⅃1 [文化] μɑ で ⅃1 の ləucı にセレンがルティアに出張していたリディアに「明日の誕生日のプレゼントは何がいい」と聞いた。するとリディアは「夜空で私を見つけて。後から追いかけて同じ星空を見るから」と答えた。これに感動したセレンが毎年ディアセルに μcɑcı（アルタイル）を探すようになった。「追いかけて」とは、時差を利用して後から同じ夜空を別の場所で見るということを指す。 このストーリーを受け、ディアセルには夜空を見てアルタイルを探す風習がある。一年で最も夜空を見る日で、この日はほぼ常に晴れていることから天体観測がしやすい日でもある。 やり方は大抵決まっている。まず夏の大三角 (ɑleı⅂ɔzeʃ) を見つける。一番明るいのがベガ (⅂ıl⅂c) になる。この三角形は細長いので、細長い部分の頂点はすぐにそれと分かる。その部分がアルタイル (ɑcılcȷ) である。残ったひとつがデネブ (ɑeɑınȷ) で、そこから十字に星が並んでいる (ɑeɑınȷʃen)。十字のうち、デネブと逆の端点がアルビレオ (lccılccɑı) であり、これにてリディアとセレンが揃うこととなる。大抵ここまで観測して終える。 現実には、このときの ləucı にこの通りのイベントがあったことから。 追記 1⅃ʔ1 セレン「ごめん、曇ってたｗ ɑəəμφıʃəuın が見えたり見えなかったりって感じで」 リディア「うあーん、私も曇ってた！」 メル大爆笑。 「１９日は見れたんだけどな」「私も一……。ləucı の風習にする？」「いや、地球の天気に合わせる必要はないよ。向こうは晴れてたってことで」「そだね。ともあれ私たち、ある意味同じ空を見たよね（苦笑」

ɑcıμ [エルト]ディアル [レベル]2 古 :ɑcıμ ← ɑcı/ıμʃe [語法] 夢を司る。転じて睡眠、眠り、覚醒を司る。眠りから転じて更には休息、休暇、休養、休みも司る。

ɑcıμcəȷeeu [魔法] 虚電磁波 [レベル] 6 ⅃1 [文化] ɑɔlᴅcɥə

ɑcıμen [地学] 硬玉、ジェダイト [レベル] 5 1L: 翡翠宝石 [文化] 魔石になるのはジェダイト。ネフライトは魔石でないので石。

ɑcıμenȷ [名詞] (ʃcl) 口数の多い、お喋りな、おしゃべりな [類義語] dc ɥɔμenȷ [反意語] μılμenȷ [レベル] 3 ⅃0:ᴅelcɑcı lceμ:ɑcı/μenȷ

ɑcız [親族] 正妻、正夫、本妻、本夫 [類義語] ɑcıᴅcʃ [反意語] ılɑcız [レベル] 4 μɑ;<>μcɑcı 古

ɑcızɔn [名詞] 文武両道 [レベル] 3 ⅃⅃: リディアは杖術も得意。

ɑcıl [被服] アクセサリー [レベル] 2 古 :「リディアのもの」

ɑcılʃə⅂ [名詞] [形容詞] 豊作 [反意語] ⅂ılɔılʃə⅂ [レベル] 3 ⅃0

ɑcılȷ [被服] サンダル、突っかけ、つっかけ [レベル] 3 1ʔ: 制 :ɑcılıȷl（リディアの靴）

ɑcılɥəɑcı [言語] ハイファンタジー [レベル] 4 μɑ ⅃⅃ [文化] lɥəɑcı

ɑcılıȷ [魔法] 神話 [レベル] 3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ: リディアの手 :ᴅcμɔ⅂⅂lɔ では長く発音もしづらい。リディアの手には２つの意味がある。１つはアティーリを書いた手。１つは神アルデを描いた手。

ɑcılccuı [天文] 赤い月 [経済] 第四四半期→ ue⅂⅂lelʃ [ユマナ] Ｌｅ ｄｉａｂｌｅ ｒｏｕｇｅ。アルバムのひとつ。ロック中心。ｄｉａｂｌｅと ɑcılccuı の頭韻を踏んでいる。ロック系であることから赤で、ɑcılccuı の禍々しい炎とロックのハードさから悪魔が来ている。 [魔法] ディアリーヴァ（フレア）。火の高位黒魔法。月に向けて放たれた太陽熱を反射することで敵を焼く。月に魔法鏡を張り、太陽熱を凝縮して敵へと跳ね返す。 [組み数字] 7／１１ [レベル] 3 古 : リディアがメルとクミールに呼びかけてＬ年に作った一言（詩のような格言のようなもの）から。その詩とはこうである。"ɗı ɑıc le ɗı ucc ne le hɔɔμı ʃə ɑıcl cl dıȷ lcuμɔl ɑcı e ɥən⅂ ～ "「赤い月の炎が全てを燃やし、少女たちに幻を作る」。ここから ɑıc le lcuμɔl ɑcı ʃə(幻を生む炎）が抜き出され、更に複合語になり、ɑcılcuɑı になり、音便化して、ɑcılccuı としたものが、この一言のタイトルであった。タイトルを訳すと即ち、『夢幻を生む月』。だが、リディアは別に『月の炎』と呼んでいた。ルーキーテよりも火の色に近い。 [語法] 火のように赤い月。ɗəə⅂ccʃe よりも火の色に近い。

ɑcılccɑı [天文] シリウス、天狼 [名詞] 大スター、国民的スター、国民的アイドル [レベル] 3 1L: ディアセルの星。ディアセルごろ。７～８月に太陽とともに現われ る星であることから。ɑcılccuı と区別。 [文化] アルバザードを０時に南中するのはオヴィの月（１月）。最も明るい星なので、古アルカから既に命名されていた。古アルカの段階ではアルバザードで０時に南中するかということが問題視されていないため、太陽とともに現れることが語源になっている。そのためアルバザード人はシリウスがアルデバランのように夏、特に名前からしてディアセルごろに南中する星だと勘違いしていることが多い。レインほどの優等生になると正確に知っているが、夢織のアリスあたりは知らなそうだ。 紫苑はレインの家の南の窓から身を乗り出して星の観察をしている。紫苑はこのときの空でカペラを発

見している。カペラは南東にあるが、紫苑は南の窓から身を乗り出して観察しているので真東は物理的に見えず、南東を東と表現した。カペラは南東の高いところにある。また、シリウスは見えないと言っているが、南南東の低いところに出ている。ただしレインの家からは低すぎて遮蔽物が邪魔で見えない。レインの家は２階建てだが、南南東にはネルメス通りのモールやクレーヴェル通りのモールがあり、そのビルが邪魔で見ることができない。また、紫苑はアルデバランは見つけているが、このとき南東の仰角５０°のところに確かに出ていた。　なお、アルバザードは地球に投影するとフランスにあるが、日本との時差は７時間ある。しかし紫苑は自分の時計で午後１０時に空を見上げ、時差はないと言っている。これはメルティアが時差ボケを気遣って時間をずらして召喚したため。日本のほうが時間が早いため、実は紫苑は来る時に７時間人生を損している。紫苑にとっての午後１０時から次の日の朝５時までの時間が切り取られ、アルバザードの午後１０時に飛ばされているからだ。

ɑcıleſ　［歳時記］春分　［名詞］４時　［組み数字］４／２４　［アクセント］ɑcılEſ、ɑ€ıleſ　［レベル］３　ʝ0: → ınlcın　［語法］　ueɑlcɥ　［文化］　ınlcın

ɑcıleul　［医療］更年期障害　［レベル］４　1L: 古でも同じ「夢の障害」という発想だった

ɑcıleɒc　［料理］ミネストローネ　［レベル］２　1L

ɑcıleeu　［医療］［魔法］失魔症、失眈症　［レベル］４　ls:ȷeɥen　ʝʝ:「夢去りぬ」　［文化］　nııɥə　ヴィード、とりわけヴィルを使えなくなる症状。太古よりあったが、ʔ,ɺ 遺伝子の普及により一般化した。ls の現代魔法学でようやくこの症状の原因がヴィードあるいは魔法のクオリアの消失であることが判明した。

ɑcılə,ılſ　ȷccnı, ſccı, hıſcı　ſccı.l

ɑcııſɒ　［経済］信用売り、空売り　［レベル］５　ʝʝ

ɑcııſı　［名詞］大会議　［レベル］５　1ᥒ8 → ɒelıſı　［文化］　ɒelıſı　アシェットがディアセルごろに行う会議のこと。メルセルの ɒelıſı より規模が大きい。しかし企画の締切り上、あるいは造語年を同年内にまとめたいなどの事情があるときは、翌年を跨ぎたくないので ɒelıſı のほうが ɑcııſı より盛り上がることがある。メル暦の浸透に比例して駆け込み需要で決定される事項が多くなり、ɑcııſı の規模は相対的に低下していった。　大体皆の都合の良い日に行われ、大抵セレンの都合は無視される。日本はアシェット内では時差的にマイナーな位置だからだろう。ディアセル前後はたいてい忙しく、ここ１０年以上健康だった試しがない。その上早くとも夜に開かれるものだから、残った記憶は大概が「眠いし胃が痛い」である。この補足を書いている ʝʝ 年は特にここ２０年で最大の忙しさで、状況は最悪である。

ɑcıııln　［哲学］理想主義　［反意語］ɑcıııln　［レベル］５　ɥɑ;/　ʝɱ　［語法］　ɑcı ıln

ɑcıııInın　［哲学］理想主義者　［反意語］ɑcıııInın　［レベル］５　ɥɑ;/　ʝɱ

ɑcııul　［経済］マネー経済　［レベル］５　ʝʝ

ɑcıııl　［数学］架空数　［反意語］ɑcıııl　［レベル］５　ɥɑ:ȷeɥen;「架空数」　［文化］　ɥɑ でセレンが提唱した概念。現実には存在しないが数学など学問の世界では存在する概念のこと。例えば無限や虚数などのことを指す。反対語は現実数。　　例えば数学の世界では０．９９９...＝１であるが、これは無限を導入しなければ真といえない。しかし現実の世界には無限は存在しない。左辺０．９９９...　は架空であるが、右辺１は現実である。与式０．９９９...　＝１は左辺が非現実で右辺が現実となる。非現実＝現実は矛盾するので、与式は現実世界では真でない。　　与式は数学世界では真だが、現実世界では偽である。一方１＋１＝２は数学世界でも現実世界でも真である。現実数を用いた真な数式は、現実世界でも真となる。　　算術的にはｘ＝０．９９９...　とし、１０ｘ＝９．９９９...　なので、９ｘ＝９となり、ｘ＝１となる。これは無限があるため立証できることである。　　しかし現実には０．９９９...　９しか存在しない。よってｘ＝０．９９９...　９で１０ｘ＝０．９９９...　９０であるから、９ｘ＝９−０．０００...　９であり、Ｘ＝１−０．０００...　１であり、ｘ＜１である。　　数学世界は現実には存在しない無限や虚数などを導入して成り立っている。原始の数学は現実世界を観測して現実世界を写し取って構築された。しかし数学が発達していく過程で現実にない概念を導入する必要が出てきた。その結果、数学世界と現実世界の間に乖離が生じた。　　その乖離による影響は極小なので、日常生活では現実世界とは異なる数学世界を応用しても何ら支障がない。例えば虚数を用いて信号機を作ってもむしろ便利なだけで、一切日常生活に支障をきたさない。　　両世界の乖離が日常的に大きな問題にならないため、両世界の乖離は日常生活において無視されている。　　しかし我々が数学世界を用いて現実世界を見るときには微小な誤差が生じている。そして我々はその誤差に気付かず生活している。これは哲学的な問題である。　　セレンは両世界は乖離していて、等しくないと述べた。数学世界の理論は数学世界では真でありうるが、そこに架空数が入ると、現実世界では真でありえなくなりうると述べた。　　数学は発展の過程で数学世界を構築する方向性に進化していったため、架空数という概念は ɥɑ 以降ピックアップされることはなかった。　　数学世界と現実世界が乖離していること、無限などの概念が数学世界を成立させるために導入されたご都合主義の概念であることなどは意識されなかった。

　　セレンは数学は数学語という人工言語であり、言語である以上は他の言語に翻訳できるはずだと述べた。　　０．９９９...　＝１は「０．９９９において９が無限に続く場合、その目的地が１であり、左辺はその目標値１に等しい」と日常言語に翻訳される。このセンテンスの中には「無限」という架空数の概念が含まれるため、セレンはこの翻訳文（センテンス）は数学世界では真だが現実世界では偽だと述べた。　　・認知世界における真偽　　さらに認知言語学を時代に先駆けて創始した ɥɑ のセレンは、現実世界と数学世界のほかに認知世界という概念も導入した。　　認知世界は人間が認知・認識する世界のことである。人間が認知したものが真になるので、現実が真かどうかは関係ない。蜃気楼でも本物に見えればその人の認知世界においては真になる。　　無限は幼児にとっては認識できない偽の概念であるが、数学を学んだ大人にとっては認識できる真な概念である。現実の真偽とは関係がない。　　現実は我々の認知を通さないありのままの世界のことである。認知世界は今我々が自らの身体を使って認識している世界のことである。　　現実世界はぶれないが、認知世界は移ろいやすい。現実には月は１つだが、近眼乱視の人が月を裸眼で見ると複数に見える。見る人の認知によって認知世界の内容や真偽はすぐ移ろう。　　・世界の乖離

セレンは現実世界と認知世界と数学世界はすべて乖離していると述べた。　　我々は現実世界を見ようとするが、それは認知世界でしかない。　　我々は現実世界から数学世界を構築しようとするが、それは数学世界でしかない。　　これらの世界は乖離している。それらの世界が異なっているのに同じものと扱っているのは、それで大した不都合が日常生活において起こらないためである。　　セレンは事実は事実と認めた上で対処しなければならないという理念のもと、これらの世界が乖離している事実を認めた上で現実と向き合うべきだと主張した。　　しかしその乖離は日常生活で問題になるような程度ではなかったため、耳を貸す者はほとんどいなかった。

　ɥɑ 以降においてもセレンの考えは無視され続けており、時折哲学の世界で思い出したように触れられるだけである。　　セレンは架空数が非現実だから悪いとか導入するなと言っているわけではない。単に架空数は現実世界と数学世界の間に乖離を生じさせると述べているだけである。　　実際、彼は数学世界においては無限も肯定したし、０！＝１も０．９９９...　＝１も肯定していた。だがそれは現実世界では成立しない等式だと主張した。　　しかしそれを等式として成立させたところで日常生活において不都合がないから、両世界の乖離が無視されており、そこに気付かないことが問題なのだと主張した。　　要するに彼の主張は哲学的なものであり、しかも実用的でない。乖離を認めたところで生活に支障はなく、なんら問題は起きない。よってその主張は数学界から無視された。しかし哲学的には意味のある問いである。　　・２＾１０００は現実数か　　２＾１０００のような数はたとえ ıl の科学力を以てしても現実中に見つけることはできない。宇宙の体積をプランク長＾３で割っても届かないためである。　　ɥɑ においてもあまりに巨大な数は現実には存在しないのではないかとセレンは考えていた。現実の個物と一対一の対応がない限り現実数とは呼べないとすると、「すべての自然数は現実数である」は偽になる。しかしこの命題が偽なのは直感に反する。　　そこでセレンは現実数を「現実に存在している数」ではなく「現実に存在しうる数」と定義した。２＾１０００は現実に存在していない数だが、存在することはできる。例えば ıl の科学力でいうと、宇宙が更に膨大し、プランク長よりももっともっと短いものが見つかれば、２＾１０００は存在しうる。　　しかしどこまで宇宙を膨大化させても無限の空間にはならないし、物質を構成する最小単位も無限まで小さくはならない。つまり無限の器もないし無限に小さい個物も存在しない。ゆえに無限は現実数ではないが、２＾１０００のような巨大な自然数は現実数といえる。

　ただし現実には後述するように物質を構成する最小単位が存在し、それはそれ以上分割できず、宇宙の体積もまた無限ではないので、２＾１０００の個数を持つ物質は現実世界に存在しない。　　よって２＾１０００は認知世界や数学世界には存在するが、現実世界には事実上存在しない数といえる。　　・世界の価値　　なお、セレンは認知世界が最も実生活に即した世界だと主張した。事実がどうあれ、我々個人の世界観は我々が見たようにしか感じられないためである。たとえ蜃気楼が偽物であろうと、その人にとっては本物なのである。その人にとって見えている限り、その人の認知世界ではそれが事実なのである。　　また、セレンは人間にとって大事で価値があるのは現実世界ではなく認知世界ではないかと述べた。現実に希望が持てなくても、心の持ちようで認知世界においては幸せになれる。優しい嘘と冷たい本当なら前者のほうが救いがあるのではないか、価値があるのではないかと考えた。　　・現実数はどこの世界に存在するか　　現実数は現実世界、認知世界、数学世界のいずれにも存在する。　　我々人間は自らの身体を通してしか現実世界を認識できない。現実世界に存在しながらも、現実世界をありのまま知ることができない。　　我々が見ているものは常に認知世界か、認知世界という色眼鏡を通して見た数学世界などであり、現実世界を直視することはできない。　　ここに瓶が一本あるとする。どこからどこまでが瓶の境界線かというのは——言語的には——瓶という語で瓶以外のものを区切ることにより可能になる。　　認知主体の人間が瓶を瓶という個物だと認識するから、瓶は瓶という個物でいられる。認知主体がいない現実世界では瓶は瓶を構成する分子の集まりでしかなく、接地している地面や周りの空気の分子と境界線がない。　　現実世界において瓶という個物は存在せず、瓶を構成している分子が空気中や机上に集中しているだけにすぎない。

よって現実世界で瓶という個物の存在を認めることはできない。現実世界では物質を構成する要素が連続して広がっているだけである。

　従って現実世界では数を数えることができないように思える。すべてが連続体だからである。　　では現実世界における現実数はどのようになっているだろうか。現実世界には本当に数がないのだろうか。　　否。そうではない。　　現実世界には物質を構成する物理的な最小単位が存在する。それを最小単位の１として使える。その単位を２つ使えば２の存在を実証できる。　　従って少なくとも自然数は現実世界において物理的に定義することができる。よって現実世界における現実数は空集合でない。　　しかし現実世界において０．５のような小数を表すことは難しい。物質の最小単位を分割することは定義上できないためである。　　ただ、マイナスの数については「最小単位がある数からいくつ足りない」と表現することができるので、現実世界にも存在するといえよう。　　いずれにせよ、現実世界における現実数は範囲が狭い。　　一方、認知世界における現実数は数学世界における現実数と同じかそれ以上の広さを持ちうる。

　我々は瓶が一本あるなら瓶を１と認識できる。りんごが１つあればそこにも１を認識できる。りんごを半分に割れば０．５も認識できる。　　我々は無限という概念も認識できる。しかし無限が現実に存

在しないことも知っているので、それは現実数でなく架空数として認識される。　　なお、人によっては無限が現実に存在すると思っている場合があるので、その人の認知世界においては無限が現実数になることもありえる。　この意味で、認知世界における現実数は数学世界におけるそれより広い場合がある。　つまり認知世界においては認知主体によって現実数の外延がバラバラなのである。
他方、数学世界における現実数は認知世界のそれと違って認知主体による揺れがないため、厳密であるといえる。　数学世界は認知世界という色眼鏡から見た現実世界を数学仕様に拡張した世界である。
その世界では無限や虚数の存在もその世界における現実として肯定されるため、あらゆる数が現実数といえる。　　・現実数の外延
現実数の外延は以上で見たように、どの世界で見るかによって異なる。　しかし一般に、日常的にアルカで現実数・架空数と述べる場合は、「科学を十分に知った理想的認知主体による認知世界における現実数と架空数」のことを指す。　この理想的認知主体にとって無限や虚数は現実にないものなので架空数であり、自然数や整数や有限小数などは現実に存在するので現実数と振り分けられる。
現実数は世界ごとに異なる外延を持つが、一般的にはこのような外延を持つ。つまり無限や虚数は架空数だが、整数や自然数などは現実数である。　　科学を十分に知った理想的認知主体にとって無限や虚数は既知の概念である。　しかし彼は同時に無限や虚数が自分の見えている現実世界に存在しないこともまた知っている。　例えば無限に広がる宇宙がないことも知っているし、無限に続く宇宙がないことも知っているし、無限に分割できる物質が存在しないことも知っている。　また、二回かけてマイナスになる数が実在しないことも知っている。　よって無限や虚数など一部の数を架空数に篩う。　　このように「科学を十分に知った理想的認知主体による認知世界における現実数と架空数」を提唱する背景には、上記で述べたように ɥɑ のセレンが認知主義者で、人間の認知を現実や学問体系より重く見たという事情がある。

ɑcıcl ［植物］桃、ピーチ、もも　［レベル］2　1ɱ: 制 :ɑcıuınl（リディアの香りの果物）　cdȷen:cdȷen:lı lıuınɑ:dədə,ılʃ ［文化］　ディアセルに食べる果物。ɥɑ で定められたアルバザードの国花。

ɑcıclʃıɑ ［普通動名詞］もも狩り　［レベル］3　ɥɑ;/　Jɱ

ɑcıcn ［植物］コスモス　［花言葉］あいしています。　［レベル］2　ɥɑ　1L: リディアの花。リディアのように綺麗で可愛い花であることから。　ȷılɒcn:ȷılɒcn:lı lıɥɑcnıl:ınlɔzəe,ılʃ ［文化］　秋に咲く美しい花で、アルバザードでは非常に人気が高く、いたるところに植えられている。ルティアの国花。

ɑcıcnȷ ［地学］翡翠、ヒスイ　［レベル］3　1ʕ: 制 : リディアの眼のような宝石。　［文化］　実際には赤のものもあるが、魔石になるのは緑。風の魔石。ɥɑ までは ʃeezeɥen と呼ばれた。

ɑcıeɥ ［名詞］スカトロ、スカトロジー　［類義語］benzen　［レベル］4　ɥɑ;ɑcı/eɥ。セレンがヴィード死状態になった際、死の前に誤ってリディアの採尿をジュースと間違えて飲んでしまっており、そのおかげで現世との繋がりができ、ɑɔɥʃ の魔法が効いて蘇生できたことから。　1L:ɑcı/eɥcı　［語法］　benzen

ɑcıeleɒ ［名詞］勧善懲悪← ɑcıllcʃ　［レベル］4　JJ: リディアの審判

ɑcıeeʃ ［経済］信用取引の株　JJ

ɑccʃ ［形容詞］涼しい、ちょこ冷たい、冷たい、ぬるい、ひやっこい、ひゃっこい　［形容詞］颯爽としている、すがすがしい、かっこいい、クールな　［動詞］ɥəl を冷やす、冷やす、冷却する、冷ます、クールダウンする　［反意語］ɒelʃ　［レベル］1　1L: 緑の風　［語法］　hıɥʃ　【用例】　ɑcȷ nɔɑ ʃɔlel eʃ ɑccʃ. 今日は昨日より涼しい。　ʃə eɒıʃ ɑccʃ lıl ɒcl eȷl. 雨が降って少し涼しくなった。　ın lıl ʃə eɒ ɑccʃ ɒcl eȷl. 雨でも降って涼しくなればいいのに。　ʃə ıʃ ɑccʃ ʃcn. とても涼しかった。

ɑccʃʃeɒl ［名詞］冷蔵庫　［レベル］2　1L:lcɔn

ɑccʃȷıb ［被服］薄着、クールビズ　［レベル］3　ɥɑ;/　J?

ɑccʃdɔl ［地学］冷帯　［レベル］4　1L

ɑccʃlɔɔb ［被服］探検帽　ɥʃ;/　Jɱ　［文化］　通気性がよく涼しい。南方を探検する際に使われた。

ɑccʃıɥ ［名詞］冷房、クーラー　［レベル］2　1L:ɥcɑcı:ıɥbılel　［文化］　寒くするのは教義に反するので、ȷɔɥʃıɥ は存在しない。

ɑccʃɔı ［人名］ディートア　［アクセント］ɑccʃɔ↑　J0　［文化］　(ɥəəɒı ɱ9Δ1:ᚨ1LL) メルテナ中期のサルト教皇。

ɑccʃe ［形容詞］心地よい、精神的に気持ち良い　［副詞］すっきりと　［類義語］eȷcl　［反意語］ɒelcȷ、φıcz　［レベル］2　J0:ɑccıʃeeze（緑風）　［語法］　eȷcl

ɑccn ［文頭純詞］とにかく、いずれにせよ、ともあれ、どうしたって　［名詞］どの道そうならざるをえないこと。必然のような意味で使う。　［レベル］1　古 :ȷɔɥn: アルシェでは非アンクノット登録語（とにかく＝ cllɔ（全ての考え。"ın ɑen cl cllɔ（私は全ての考えを見ないで）" が元になっている。

ɑccnı ［名詞］［形容詞］平和的な、穏やかな、落ち着いた、心地よい、リラックスした。名詞の場合は ʃcl とともに。　［レベル］2　1L:ɑccı/nı　【用例】　senʃ ıʃ ɑccnı. 穏やかな天気だった：例えばカテージュの海辺で風もなく暑くも寒くもなく日差しも強くないような天気。

ɑccnɔ ［アイテム］神爪ディーノ、ディーノ　［レベル］4　ɥcɑcı: 古 :ɑıczφc nɔ（王の爪）　［文化］　ヴァストリアのひとつ。クリスの持つ神爪。ケットの魔力のこもった最強の爪。風を操ることができる。

ɑccuı ［普通動名詞］抗争　［動詞］ɥəl と抗争する、抗争する、争う　［類義語］uıȷ　［レベル］3　J0: 古 lcczuıȷ の音変　［語法］　主に軍隊でない集団が争うこと。暴力によるものが多い。

ɑccɒ ［被服］フェルト、フエルト、不織布　zφ;.ȷelın　Jɱ

ɑccɒlɔɔb ［被服］フェルト帽　ɥɑ;/　Jɱ　［文化］　ȷɒ でできた。農民の一般的な帽子。

ɑccɑı ［地球の国名］インド　［レベル］4　古？

ɑccɑıɥeɑcı ［ユマナ］ヨガ、ヨーガ　［レベル］4　J0: インドのレフィア

ɑccφ ［工学］合金　［レベル］4　lȷȷ;ɑcɔnı,ȷzl/φc　J1　::lə ɑcɔnı

ɑccφel ［アトラスの国家］ディーゲル　［レベル］5　1L:ɥcɑcı

ɑccɥə ［魔法］ディーユ、虚質量　［レベル］4　lȷȷ;ɑcı/bɥə　J1:ɥcɑcı/ȷeɥen　::　［文化］　ɑɔlɒcɥə, ɥənɔ　虚質量は条件付で質量を得るものである。例えばユノについては体内の閉を体外に出して凸にすると質量を持つようになる。　凸は出したそばから質量を失っていく。質量を失う際、電磁波（光）を放射する。ユノの場合は青の波長である。　ヴィルとノアについては閉を体外に出した際に質量を持ち、出したそばから失っていく。ヴィルの場合は赤の波長の光を出し、ノアの場合は緑である。アルマについては３色の合成であるため、白である。　質量の減少が電磁波を生じるのはＥ＝ｍｃ２を想起するが、何もないところにポッと質量が生まれるところが虚質量の特徴である。また、Ｅ＝ｍｃ２の場合は少しの質量でとんでもないエネルギーが生まれるが、ヴィードの場合は定数ｃに相当する部分が微小であるため、蛍の光のように淡い光が発せられる。このことからヴィードはミンコフスキー空間と別離しながら３次元空間に存在するか、あるいはＥ＝ｍｃ２における定数ｃに何らかの補正が掛かっているかのどちらかであると考えられる。　なお、虚質量が生まれるとその空間を占める空気中の分子は外に追いやられるので、中心ほど低気圧になる。すなわち風が吹く。しかしヴィードの体積、すなわち動いた空気の分子量は一般的に少ないため、実際に風を感じることはない。コップを真空にして蓋を取ったところで風は感じないのと同様である。　　本来ヴィードは質量を持つかという疑問においては、「持たない」が適切である。　天文学的にはアトラスは地球とほぼ同じ環境であるため、重力加速度ｇはＧ・Ｍ／Ｒ２で計算される。この際すべてのヴィードが質量を持つとＭの値が劇的に変わり、重力加速度が変わってしまう。極端な話、数値にもよるが、紫苑がレインと出会った瞬間に潰れてしまうということが起こる。レインが人間の形をしている以上、ｇの値も等しいはずである。
ゆえにヴィードは質量を持たない。すなわちヒッグス場からの抵抗を受けない。しかしそれならどうやってユノで飛ぶのだろうか。ユノが何らかの仕掛けで空気中の分子を加速させその反力で飛ぶ場合、空気自体が微少な宇宙空間では難しい。　そこでロケットと同じく質量を後方に噴射し、その反力で飛ぶと考える。しかしそれにはユノが質量を持たねばならない。そこで虚質量という概念が生まれた。
質量を持ったヴィードは密度によって空気より重くなったり軽くなったりする。　ユノを燃やすと気体のようにしゅわしゅわと青いオーラが出て見える。その一方で弾にすると密度が増し、重くなる。
密度次第では鉄球よりも重くなる。戦闘時にはこれを放って攻撃できるので、原理的には銃や大砲と変わらない。また、銃と同じく撃ったときには反動が来ることになる。　飛んで行ったユノの弾は外側から随時溶けて青い光になって質量を失う。つまり徐々に小さくなっていく。なくなる前に相手に当たれば、その分の質量＊加速度で力をダメージとして与えられる。　従ってユノ弾は青い光の弾に見え、消えると靄のようになくなってしまうのである。　なお、実際には ʃclɒı でかき消されるため、そのままの質量を相手に衝突させることはかなわない。むろん ʃclɒı も ɒcꞁꞁe もなければ素で食らうので、nɑ 以前の人間によるものなら、生身の人間は簡単に殺傷できる。現代においてもミロクのような能力者は強力なユノを放つことができる。
ユノを使って飛ぶ際は見かけ上青い光の飛行機雲が発生することになる。　ユノを燃やしているので体の周りも青い光が取り囲むことになる。　　なお、ヴォードは基本的に低密度である。光っている中の人が見えるということは、気体化したヴィードの密度が低いということである。　　歴史的には ll でアルシアが虚質量という概念を考案したのが最初である。むろん考案と同時に実験的に観測されたわけではない。　最初は「なんだか分からないが、そのような物を仮定すると説明が付く」というものでしかなかった。やがて中世に入ってその存在が確認された。　　ユノは密度を高めて弾として使えるが、これは uɔll のことである。uɔnʃ の場合、質量を光とともに熱に変える。すなわち熱波である。ゆえに広範囲を焼き払うことができる。ıuɔn のように直接相手にＦを叩き込むこともできる。
ヴィルの場合、質量を持っても質量自体を鉄球のように使うことはない。例えば電磁波を吸収する闇の魔法、電磁波を発生させる光の魔法、分子の運動を高めて発火させる火の魔法、電流を発生させる雷の魔法など、何らかの科学的現象として利用する。　　ノアの場合、筋肉や腱や関節や皮膚にまとわりついてこれらの代わりを務める。殴るや飛ぶという行為は筋肉が収縮して伸びることで実現される。人間の筋肉は実は伸びない。縮んだ状態から復元するだけである。また筋肉の素材からして、岩を割るほどの大きな力は出ない。もし出た場合、今度は反作用に体が耐えられない。　そこでノアは筋肉等にまとわりついて代理となることで、これらを強化する。つまりノアを帯びて殴れば岩を砕く筋力と、それに耐える骨と皮膚を手に入れられる。また、関節の代わりもするのでアクロバットな開脚なども可能になる。　ノアを筋肉や骨などに馴染ませるコツは普段から体を動かし、そこにノアを満たしていく以外にない。すなわち運動家や格闘家などが地道な練習とともに鍛え上げていくものであり、ユノやヴィルよりも先天性に左右されにくい。ユノの場合、生まれもって多いというだけで強大な ʃclɒı 等を持つこともありえるが、ノアは比較的そういうことが起きにくい。

ɑccɥ ［形容詞］無害な　［反意語］φııl　［レベル］3　@ J0

ɑccɥe ［物理］回折　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ɑccɥeȷ　［文化］　氷天の魔族ディーレスの放つヴィルは、魔法の防壁を回りこんでその後ろ側にまで侵入する。それは回折現象を利用した攻撃で、アシェットならずとも非常に苦戦した。ディーレスが語源となり、物理で回折を ɑccɥe と呼ぶようになった。

ɑccɥeȷ ［魔物］ディーレス（獅狼）：第五十四天：雷の氷天　［レベル］5

1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ɑıcz/ccɥe ［文化］ 精族。獅子の鬣、狼の牙、山猫の爪、狐の尻尾を持った人型の精霊。知能は精霊クラスで、非常に高く、魔力も強い。口から咆哮とともにヴィルを照射する。このヴィルは回折を利用し、魔法の防壁を回りこんでくる。多彩な白黒魔法を操る。格闘技にも長け、丈夫なノアを持つ。ユノ・ヴィル・ノアどれを取っても強力なバランスタイプ。そのうえ体力・攻撃力・防御力ともに優良。万能戦士の魔物。

ɑccze ［丁寧］紳士、男性、殿方、ジェントルマン ［類義語］ucl ［反意語］leȷʃcɥ ［レベル］3 J0:ɑıcz → ɑccz（母音調和）→ ɑccze（母音付加） ［語法］ leȷʃcɥ

ɑcczel,ȷzl ɑɔlɑ ɑclze.l

ɑccl ［形容詞］新鮮な ［反意語］φııɥ ［レベル］2 1L:ɑccı/ʃəl（緑色のもの（まだ青い果実））【用例】［メタファー］［ポジティブ］ɑccl ɥən ɑccıɒccl 青リンゴのように新鮮な、みずみずしい：韻を踏んでいる ×ȷıd ɑccl → ȷıd ȷccʃ 新鮮な空気

ɑcclɥənl ［法律］活魚刑 ［レベル］6 1L: 新鮮な鳥籠姫 ［文化］ アルバザードが認めていない私刑。少女を活造りにして食べる。私刑でなく単に好みとして行われることもある。むろん、殺人罪。

ɑccı ［色］緑、ディーア ［形容詞］緑の ［レベル］1 1L;cnȷ e ɥcɑcı 1L: リディアの目 ʃel:ʃeɥı:lə len:lın,ılʃ:ɒızel,ɑɒ

ɑccıʃeeze ［気象］そよかぜ、そよ風 ［レベル］2 1L: 古 :lccz:ʃelʃeeze（そよかぜ。直訳は緑風）【用例】 ʃə ıʃ ɑııɥ eȷcl ɒcl ɑccıʃeeze. そよ風が吹いて気持ちの良い朝だった。 ɑccıʃeeze ʃ'ılʃe eʃ ɑccɥə. 春のそよ風は最高だ。 ın lııd ɑccıʃeeze ʃ'ıleı. 浜辺のそよ風が恋しい。 ın ȷccnı ɑccıʃeeze le leɑ ȷɔu zedl. 木々の間を吹き抜けるそよ風が好きだ。

ɑccılıɑ ［地球の国名］リビア ［レベル］6 1L: 国旗が緑

ɑccılcld ［地学］緑閃石 1L

ɑccıueɥ ［地球の国名］ナイジェリア ［レベル］6 1L: 意味は黒人の国。国旗の緑を足した

ɑccıɒccl ［植物］青りんご ［メタファー］性的に未熟な年頃の少女 ［レベル］2 1L

ɑccıφel ［運動］テニス ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］ 野球などよりはまだ人気がある。プロの選手もいる。ルールも日本とほぼ同じ。細かい異同はある。卓球はテニスを小さくしたようなもので、ほぼ日本のものと同じ。【用例】 ın ıɥ uın ɑccıφel ɔl lı. 彼とテニスをするつもりだ。

ɑccıberlȷ ［経済］第三国と先進国の経済格差 ［反意語］cɒelberlȷ ul;/ ↓ ［レベル］4 1L: 古の「緑のバナナ」と同じ。リディアによる概念。バナナは緑のうちに収穫して先進国に出荷する。そこの子供はバナナと言えば緑のものだというイメージを持つ。先進国の子供にはバナナは黄色いが、貧乏な国の子供にとっては緑の果物であるということから経済格差を指す代表的な言葉になった。とはいえ、実際第三国にそういう子供がいるのかは分からない。

ɑccıhılʃ ［地球の国名］カーボベルデ 1L: 国名が緑の岬

ɑccıɥec ［料理］白ワイン ［レベル］3 J1: こちらは液でなく実の色から

ɑccıɥecn ［交通］普通電車、各駅停車 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ: 車体に緑のライン（日暮里から乗る山手線の印象が強かったのだろうか？）［文化］ アルバザードを走る各駅電車。各都市のアルミヴァ通り沿いに１２本の各駅電車が走っている。各駅電車は銀色のボディに緑の横線が引いてある。かつての山手線に似ている。電車の正面には何線か書いてある。

ɑccılccɑı ［地球の国名］セネガル ［レベル］6 1L: 国旗に緑の星

ɑccıcnȷ ［生物］緑色の眼 ［レベル］3 1L

ɑccıeʃel ［料理］緑茶 ［レベル］2 1L:lecn :::lınȷı,ılʃ, ȷı,ılʃ

ɑcɔ ［生物］歯 ［動詞］ɥəl を ı になるまで噛む、噛む、咬む、かむ、咀嚼する ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔ（牙） ɑzccn:ɑzccn【成句】 ɑcɔ dɔ トドメを刺す、とどめを刺す：猛獣が獲物をしとめるときに首を噛むことから。【用例】 ell ɑcɔ 歯を磨く nɔn nı nıə ɒcl lə en ʃcl ɑcɔ ılȷenl. 歯並びが悪くなくて良かったわ。 ɑcɔ cun 弱い歯：虫歯になりやすい歯のこと。噛む力が強い丈夫な歯というのは ɑcɔ ɑın。 leı ɑcɔ 歯列矯正をする。虫歯を治すという意味ではないので注意。その場合は leı ɥıɒɑcɔ。 ın ell nelʃ ɑcɔ lc lәcl. 毎食後、歯磨きをする。 ın ellıʃ ɑcɔ lc ɑıl. 朝ご飯の後、歯磨きをした。 ın ellıʃ ɑcɔ uɔl ɔu ɑcɔell lɔɥ lʃıɥ ɔ ȷınl. 歯ブラシを上下左右に動かして磨いた。 ın ell ɑcɔ ɒcȷlınel uɔl ɔu ɑcɔell lɔɥ lʃıɥ hɔʃ. 歯ブラシを上下に動かすだけで歯を磨こうとしている。

ɑcɔʃ ［植物］シソ、紫蘇 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔʃɔ（歯、匂い）。歯は紫蘇の葉の形をいい、匂いは紫蘇が強い匂いを持つところから付けられたもの。

ɑcɔllcȷ ［医療］はぎしり、歯軋り、歯ぎしり ［レベル］3 1L ［擬声］ φlɔl（寝ているときのゴリゴリという鈍い歯軋り。歯と歯が滑らかに伸びるように接しあい、鈍く岩のように軋みあう）【用例】 ɑcɔllcȷ e dıdı ıʃ lıu ʃcnlı ɑɔ φlɔlφlɔl enʃɔ nɔn lcɑcı ucl ɜɜn. パパの歯軋りがゴリゴリうるさくて、眠れなかったのよ。 lıllı ıɥ ɑcɔllcȷ uıɥ ɒɔl. お父さんは寝ているときに歯ぎしりをする。

ɑcɔȷɔɥʃ ［形容詞］歯がカチカチいうほど寒い ［レベル］3 1L

ɑcɔn ［形容詞］ギザギザな ［反意語］ılɑcɔn ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔnı（歯） ɑcɔl le ʃcl lcl ɑcɔn 刃がギザギザな鋸

ɑcɔnlıɑ ［地球の国名］バーレーン ［レベル］6 1L: 国旗がギザギザ

ɑcɔnhıd ［言語］歯状体 ［レベル］6 1L ［文化］ ʃıdhıd を元に作った書体。驚きや怒りなど、激しさを表す。

ɑcɔnı ［魔法］ホワイトゴールド ［レベル］5 lȷȷ;ɑcɔnı,ȷzl J1 ::lə ɑcɔnı ［文化］ 金と銀が７５０：２５０の合金で、最低魔圧で ucɥ を蓄える。

ɑcɔnı,ȷzl ɑccφ

ɑcɔnıll ［動詞］ɥəl の歯を見せて苦笑いする、苦笑いする ［再帰動名詞］苦笑い ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılʃe ［語法］ 気まずいときにごまかすように使う。【用例】 lı ıɥıʃ ɑcɔnıll ıl ın ɒın nı clȷ. 彼は気まずくて歯を見せて苦笑いした。

ɑcɔnıl ［動詞］ɥəl に歯を見せて笑わせる、大笑いさせる、大笑いする ［再帰動名詞］大笑い ［レベル］3 JJ

ɑcɔuınɔ ［生物］天容 J1

ɑcɔuılȷ ［医療］歯科医 ［レベル］2 JJ

ɑcɔuılı ［医療］歯医者 ［レベル］2 JJ【用例】 ın leʃ ɑcɔuılı cɒ ɑcȷ lını leı ɑcɔ. 今日は歯の矯正に行った。

ɑcɔɑɔ ［言語］唇歯音 ［レベル］6 1L

ɑcɔɒ ［生物］こめかみ ［レベル］2 10: 制 : 古 :ɑzchɔɒıcn（物をかむと動く部分）の意【用例】 ɑcɔɒ eɒ ɔu cɒ el ɑcɔ ɑc. 物をかむとこめかみが動く。

ɑcɔɒıʃ ［動詞］ɥəl を ı（場所など）に噛み散らかす、噛みちぎる ［レベル］3 1L:lecn【用例】 ıuɔɒ ɑcɔɒıʃıʃ ɥel ıl ılɔ. 狼が肉を地面に食い散らかした。

ɑcɔɒınʃe ［人名］ディオマンテ J0 ［文化］ (ɥəəɒı ʃ0ባJ:ʃΔΔ0(ʃቶባʔ:ʃΔΔ0)) カコ前期のヴェマの女王。 ɥəəɒı ʃ0ባJ イーハル、娘の ɑcɔɒınʃe を産む ɥəəɒı ʃΔΔ0 ディオマンテが戦死。イクスタンが即位

ɑcɔɒc ［魔物］ディオミ（咬扉）：第七十四天：邪の陽天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ɑcɔ/ɔɒc（咬む扉） ［文化］ 憑族。扉や壁に憑依した魔物。開けようとするとカブっと噛みつき、気付いたら手から先がなくなっていたということも。

ɑcɔɒclɔzeʃ ［天文］アンカ 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ ocnz の魔法で空間を歪めたメルは、ディオミを扉の中に封じ込めた。扉を、扉の中に封じ込めたのである。そしてメルはその扉が開かないよう、鍵を放り捨てた。その鍵は光となり、アンカになった。

ɑcɔɒelc ［名詞］デンタルフロス、糸ようじ、糸楊枝← ɒelc ［レベル］2 ul;/ Jʔ【用例】 ın nıʃ eɒ ɑcɔell ɑe ʃəuıl ɒın eȷ nɔʃ ı ɑcɔɒelc. フロスに慣れると歯磨きだけでは気持ち悪くなってしまった。

ɑcɔɑɔl ［医療］歯石 ɥɑ;ɑcɔelʃɑɔl「歯垢でできた石のようなもの」［レベル］3 Jʔ【用例】 ın ȷeȷcl le ıl ɑcɔuılı lını ȷɔlȷ uılȷ ȷeɑ ɑcɔɑɔl. そろそろ歯石を取りに歯医者へいかなければ。

ɑcɔdcʃ ［医療］歯科 ［レベル］2 1L

ɑcɔɥel ［人名］ディオレール J0 ［文化］ ɥəəɒı ቶ90Δ 国王派の過激派 ɑcɔɥel がメリウセルの暗殺を企てるが、強力な ɒesʃel により失敗 同月 メリウセルが報復でじきじきにディオレールを暗殺。国王派との内乱が勃発する

ɑcɔl ［名詞］のこぎり、鋸 ［動詞］ɥəl を鋸で切る、切る ［レベル］2 1ʔ: 制

ɑcɔlılelı ［地学］リアス式海岸 ［レベル］4 1L

ɑcɔleeu ［物理］ノコギリ波、鋸波 J1

ɑcɔıȷel ［動詞］［非言語］ɥəl の歯を見せて笑顔を見せる、微笑む ［レベル］3 J0:ɒelcɑcı lceɥ

ɑcɔelʃ ［医療］歯垢、歯糞、歯屎、歯滓、歯クソ、プラーク ［類音］ɑcɔell ɥɑ;/「歯の汚れ」［レベル］3 Jʔ【用例】 ȷeɑ ɑcɔelʃ lını en ʃcl ɑcɔɑɔl 歯垢がたまらないように気をつける＝歯石にならないよう歯垢を取り除く。

ɑcɔell ［名詞］歯ブラシ ［類音］ɑcɔelʃ ［レベル］2 1L ［文化］ 歯磨きは朝起きたとき、寝る前、食事の後に行う。最高六回だが、磨きすぎは歯に毒なので実際はそんなに磨かない。電動は普及していない。【用例】 ın euıʃ eɥ ı ɑcɔell ɑə lıl. 歯ブラシに水を少しかけた。

ɑce ［料理］シチュー ［レベル］2 10: 制 : 古 :ɑcıe リディアの水。リディアはシチューが好物で、そこから取った。

ɑcelȷ ［名詞］多意、多義、多解釈 ［形容詞］多意的な、多義的な、多解釈を許すような ［反意語］lɔelȷ ［レベル］5 ɥɑ:ɒel;/ J0:ɒel

ɑcen ［魔法］ディエン ［レベル］6 lȷȷ;ɑcɔnı,ȷzl J1:ɥcɑcı ［文化］ １立方 ɑıcnɥəɑcȷ が蓄えることのできる ucɥ の量。

ɑcenhıd ［言語］平滑体 ［レベル］6 1L ［文化］ ビットマップを含まないフォントは、小さいサイズだと画面に表示したときにギザギザに見えてしまう。それが見づらいため、ʃelıhıd のように縦線と横線だけでなるべく文字を表現した。縦横だけでアウトラインを組むと、小さいサイズで表現されたときもそこまで汚く見えない。カクカクしたアウトラインなのに平滑と名付けられているのは、画面での見え方を根拠に命名してあるため。メル 10 年ごろに使われていたが、ビットマップフォントができてから使用されなくなった。

ɑceɥ ［名詞］洪水 ［動詞］ɥəl を浸水させる、浸水する ［レベル］3 1L【用例】 eȷlıʃ ɑɔl ɑcl ʃcn enʃɔ ʃə eȷl ɑceɥcl lcıl. 雨が長い間降り続いたせいで、街が浸水した。 ɑɔnʃ eɒıʃ ɑceɥ. 道が洪水した。

ɑceɥɑcl ［建築］堤防 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ

ɑceɥφcl ［気象］洪水警報 ［レベル］4 1L【用例】 cɒ ʃə ɑııɥ, ɑceɥφcl ıʃ lıl. 今朝、洪水警報が発令された。

ɑcel ［単位］メガ ［レベル］3 J1:ɑcılеʃ

ɑɔʃ ［形容詞］激しい ［反意語］lcu ［音楽］スフォルツァンド、フォルツァンド、リンフォルツァンド ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑɔɑ（水流の激しい音）から。以前は神無アルカの ɑeʃɔlɔcɑɔ から ɑeʃ を作っていたが、ɑeʃɔlɔcɑɔ を消したため、古の ɑɔɑ から改めて ɑɔʃ を作り直した。

ɑɔʃʃlı ［経済］特需 ［レベル］4 1L:「どっちゃ」という発音はアルカに

は珍しい。

ɑɔʃnɔl ［動詞］ yəl を ı に殺到させる、殺到する、群がる ［レベル］3 ⅃0: 激しく集まる 【用例】 ʃıəın ıʃ ɑɔʃnɔl ıl ıʃe. 客が店に殺到した。

ɑɔʃhıµʃ ［形容詞］焼けるように暑い ［レベル］3 1L 【用例】 ɑcȷ ıʃ ɑɔʃhı µʃ. 今日は焼けるように暑かった。

ɑɔʃləlɔ ［交通］硬着陸 µɑ;/ ⅃ʔ

ɑɔʃıʃᴅ ［経済］セール、商戦 ［レベル］3 1L

ɑɔl ［形容詞］幅広い ［反意語］φeʃ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑıl（場所が多い）

ɑɔlɑlɔl ［動詞］ yəl（選択肢など）の幅を広げる ［反意語］φeʃᴅeʃ ［レベル］3 ⅃0 【用例】 lɔᴅ nɔn lɔµ ɑlen cᴅ beezel ɔnʃ cluı hɔʃȣ µen ɑɔ lɑlɔl zclɔ e. じゃあ私が出ていいのはベーゼルとイルヴァの曜日だけ？もっと選択肢をちょうだいよ。

ɑɔl ［化学］発酵 ［動詞］ yəl を発酵させる、発酵させる、発酵する ［反意語］φeȷ ［レベル］3 @ ⅃⅃

ɑɔlləlılı ［料理］発酵食品 ［レベル］3 µɑ;/ ⅃ʔ 【用例】 ın ləc ɑɔlləlılı cᴅ lɔl eʃ ıucl. お腹の調子が悪い時は発酵食品を食べる。

ɑɔȷ ［格詞］メティオ語の絶対格を示す格詞。 ［反意語］lın µɑ;‹ᴅe ⅃⋒

ɑɔȷȷıᴅe ［言語］絶対格 ［反意語］lınȷıᴅe µɑ;/ ⅃⋒ ［語法］ 自動詞の主語と他動詞の目的語が同じように標示される場合、その格を絶対格と呼ぶ。

ɑɔȷᴅ ［名詞］中身、内容、内面、精神 ［名詞］内容、本文、辞書の本文 ［電算］［名詞］本文 ［反意語］ɔlᴅı ［レベル］2 1⋒: 制 : 制アルカ由来なので ɑɔȷ,ɑeȷ が dɔʃ,deʃ の代わりになっている。中の体 ɑɔȷᴅıc（「内容」を体（身）と捉える点が日本語と同じ発想法）【用例】 lı ʃcl ɑɔȷᴅ µıʃ. 彼は中身が良い＝性格が良い、徳が高い。

ɑɔȷᴅȷeu ［言語］本文。手紙の本文も。 ［レベル］3 ⅃0

ɑɔȷᴅɑɔl ［建築］内装 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbıleʃʃ ［文化］ 壁には壁紙を貼る。外界からの隔絶のため、窓にカーテンはかける。朝昼用の薄いカーテンと夜用の濃いカーテンの二枚がふつう付いている。カーペットは少ない。ダニの温床となるからである。特に猫や犬がいると毛が溜まって不衛生になりやすい。アルバザードは大抵犬猫を飼うので、アレルゲンを溜めやすいカーペットは好まれない。床はフローリングが好まれる。床暖房などの装置を付けて暖かくすることもある。

ɑɔȷᴅyəc ［電算］［言語］本文検索、全文検索 ［レベル］4 µɑ;/ ⅃0

ɑɔnʃ ［名詞］うずき、疼痛 ［動詞］ȷɔl（炎症など）が yəl（患者、部位など）を疼かせる、疼く、しみる、沁みる、うずく ［医療］疼痛 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ ふつう nı 型で使う。 【用例】 ın nıʃ ɑɔnʃ ɔn sıᴅ ᴅcl ʃə ȷɔɑ. 胸の痛む出来事だった。 ʃə ucl lıen ʃıl ɑɔnʃınɑ sıᴅ ʃın. この腕の傷のせいで胸まで疼く。

ɑɔnʃɔn ȷın ［娯楽］どんとんさん ⅃1:ɑɔnʃɔn は ıʃʃ の擬態語 ［文化］『となりのトトロ』に相当するアニメ。

ɑɔnl ［工学］鋳型、何かの型、パターン、型紙、雛型 ［動詞］ yəl を ı にあてはめる、あてはめる、当てはめる、当てはまる、あてはまる、はまる、ハマる、嵌る、はめる、嵌める、ハメる ［数学］代入する。当てはめるという意味。 ［レベル］4 1⋒: 制 : 古 :ɑɔlᴅıcn（石の形）【成句】 µɔl, ȷɔn el eᴅ ɑɔnl. 押せば嵌る：ある程度無理強いすれば、矯正できるという意味。無理なことでも無理に通せばどうにかなるという意味。

ɑɔnle ［料理］パテ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑɔnl

ɑɔnȷ ［動詞］ yəl を ı に分解する、分解する ［化学］［普通動名詞］分解、化学分解 ［反意語］lɔd ［レベル］4 ⅃0:ɑcnȷ:1L:µcɑcı: 恣意

ɑɔnȷın ［生物］分解者。生態学における。 ［レベル］5 nɑ;/ ⅃ʔ

ɑɔnȷɔ ［工学］［普通動名詞］鋳造 ［動詞］ yəl を鋳造する、鋳造する ［レベル］5 µɑ;ɑɔnl/ȷɔ ⅃⅃

ɑɔnȷɔl ［工学］鋳物 ［レベル］5 µɑ ⅃⅃

ɑɔnφ ［擬音］ドン、どん、ゴン、ごん、ガン、がん、がっ、ガッ ［レベル］2 1L ［語法］ 物が乗り上げたり、ぶつかったり、衝撃が加わったときの音。【用例】 nee ləı, ȷıı ɑɔnφ lənı uın ʃc ınʃcȷee. はいお客さん、ドンッてなりますよ：人力車の運転手が境界を乗り上げるときに言う文句。

ɑɔnı ［名詞］挫折 ［動詞］ yəl をくじかせる、くじける、挫ける ［レベル］3 1L:ɑɔᴅnı（折れる心）【用例】 ın ʃclıʃ ɑɔnı ᴅın nɔȷ µeφ ucl ᴅınılı. 大学を卒業できなくて挫折した。

ɑɔneʃ ［論理］外延 ［反意語］ɔʃcl ［レベル］5 ⅃0:ɑɔnl/ʃe（鋳型に嵌った）

ɑɔu ［名詞］勢い、勢力 ［レベル］3 ⅃1:ɑɔʃ/enuc

ɑɔɑl ［名詞］燃え残り、灰 ［レベル］3 1ʔ: 制 【用例】 leʃʃı, ıuelınʃ. ɑeµ ȷeʃ uın ɑcȷ ı ɑɔɑl. 来いよ死神。灰にしてやらぁ。

ɑɔɑlhɔȷ ［名詞］灰皿 ［レベル］3 µɑ;/ ⅃⋒

ɑɔɑlılɔn ［地学］［植物］黒ボク土 ［レベル］6 1L:µcɑcı ［語法］ 火山灰による土壌。

ɑɔɑleʃ ［地名］ドフレット ［レベル］5 1L: リディアの書 : 灰の街 ［文化］ アルバザード北東部の都市。アルシアよりは南だが、山が＼状になっているため、東部の最北はドフレット。ここを越えるとケートイアのアデュに入る。魔列車の通過地点。

ɑɔᴅ ［動詞］ yəl を ı（完成品、二つ折りなど）に折る、折る、折れる ［動詞］ yəl（再帰）をかがませる、屈む、前かがみになる→ lɔls ［レベル］2 1⋒: 制 :ȷɔµn:ɑɔc 【用例】 ɑɔᴅ ᴅıȷ ı sıᴅd 紙を折って飛行機を作る lə ɑɔᴅcl nɔȷ. 彼女は前かがみになった：lɔµ lc とあれば反り返った。

ɑɔᴅʃ ［形容詞］典型的な、代表的な、プロトタイプの ［反意語］ılɑɔᴅʃ ［レベル］3 1⋒: 制 :ɑɔnl（恐らく当時の「鋳型」という単語ではないか）

ɑɔφ ［動詞］yəl をかじる、かじる、齧る ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 ɑzchɔφıȷ 【成句】 ɑɔφ ʃɔı 鼻をかじる：甘える、じゃれる：ルシアが０歳のころ、同じ籠に寝る兄ユルトの鼻をかじっていて、どうもそれが本人としては歯がかゆいのか知らないがじゃれているように大人たちに見えたことから。 【用例】 le ɑe ʃɔu. ʃcɔ, lıȷ ɑɔφ ʃɔı e lɔl. あれはケンカじゃないよ。単にお互いじゃれてるだけ。

ɑɔφᴅı ［アトラスの国家］ドグマ ［レベル］5 ⅃ʔ:µcɑcı

ɑɔdᴅ ［名詞］チケット、切符、切手、入場券、乗車券、許可証、券、１枚のクーポン券、クーポン券、クーポン ［レベル］2 1⋒: 制 :ɑɔdᴅıȷ（許可の紙）

ɑɔµ ［動詞］ yəl を ı（状態）に割る、割る ［動詞］ yəl を割り引く、割り引く← φıµʃɑɔµ ［魔法］ドル。土の高位黒魔法。対象を石にしたのち、粉砕する。 ［レベル］2 古 :ȷɔµn ［語法］ ɑıȷl 【用例】 µen ɑɔµ ʃə ɑecᴅ ɑə 1000 ȷɔlʃ. このスピーカー、１０００ソルト負けてくれないか。

ɑɔµᴅ ［芸術］折り紙、折紙、おりがみ ［レベル］2 µɑ;ɑɔµ/ᴅıȷ.l ⅃⋒ 登録だが造語年は ⅃1 ごろ ［文化］ ȷᴅ で凪人がもたらした。

ɑɔµᴅıȷ ［経済］割引券、クーポン← φıµʃɑɔµᴅıȷ ［レベル］3 ⅃⅃ 【用例】 cᴅ ɑəµne, lıl µeʃıʃ lɔllɔ lıd yəl nɔn ᴅelɑ ɑɔµᴅıȷ lıen µı. 夜、母から電話で割引券を家に忘れたので持ってきて欲しいと言われた。

ɑɔµᴅıφeȷ ［植物］アケビ、あけび、木通 ［レベル］4 ⅃⅃:「割れた花の腐ったような」

ɑɔµᴅccl ［植物］花梨、かりん、カリン ［レベル］3 nɑ;ᴅccl ɑɔµ. uıµ ılʃcı. ⅃⅃

ɑɔl ［地学］石、岩石 ［地学］µen に対して一般的な鉱物を指す ［魔法］ドル（ブレイク）。土の中位黒魔法。相手を徐々に石化させる。ラルトやハプスクレアで解除できる。 ［レベル］1 ɑ;e 古 :ɑɔl は ⋒ 年ごろで、ləɑɔ（宝石）を読み替えたもの ɑɔl, hɔȷə:ɑɔl:lə φııʃɔ:hɔnɔ,ılʃ

ɑɔlʃ ［名詞］印、紋章、マーク、目印、マーカー ［音楽］セーニョ ［類義語］ıdı ［レベル］2 古 :ɑɔl（石）から。セレンとリディアが ⅃ 年ごろ遊んでいて石を目印に使ったことから。この時点では「石」と「目印」は同形で、共に lcbc。lcbc は ⋒ 年に ɑɔl ができると消えた。ɑɔl には目印の意味もあったが、やがて目印は ɑɔlʃ という語形で分離した。その後、1Δ 年に ıʃıd と分別が難しいため、紋章や腕章などの印という意味に変えられた。 ［語法］ ıdı

ɑɔlʃµecn ［音楽］フレット ［レベル］4 ⅃1

ɑɔlʃe ［アイテム］ドルテ ［レベル］4 µcɑcı: 古 ɑɔlʃeeze（風の石）から。 ［語法］ ヴァストリアのひとつ。クノンのもつ封石。弱い敵を一斉に吸い込んだり、強い敵からヴィードを大量に吸い込む力がある。

ɑɔll ［名詞］飾り、かざり、飾り物、飾りつけ、粉飾 , 装飾品、置物、つま（けんつまなど）、付け合せ、観賞用、鑑賞用、形骸 ［動詞］ yəl を ı に飾る、飾る ［建築］内装、外装 ［副詞］形式的には ［言語］修飾する、修飾語 ［数学］係数← ɑɔllıll ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑɔl(石),ləɑɔ(宝石) から :::ʃeᴅılə,ılʃ ıhɔlə,ılʃ ［文化］ ミロクは装飾には寛大であった。服で規制をした分、装飾には甘かった。だが実際はアルティスが装飾品にはヴィードが宿ると考えていることが甘かった理由である。装飾品には身に付けた人のヴィードが宿る。服にはあまり宿らないとされている。これはなぜか。服はサイズによって着回しが利く利かないが、装飾品は誰のものでも着けられる。この汎用性の無さが原因で服にはヴィードが宿らないと考えられた。特に神話に登場するキャラクターと同じ名前やそれに関連する名前を持つ者にとってエーステというアクセサリーは意味が大きい。エーステは古アルカの幻字を象ったアクセサリーである。たとえばミールやクミールといった名前の人間には古アルカの「ъ」の字を象ったアクセサリーが生まれたときに与えられ、生涯大事にされる。学校や職場でも装飾は許される。全く注意されることはない。首飾りを着けようと指輪を嵌めようと全く問題ない。但し、食品関係は衛生上問題があれば外すことが義務付けられる場合がある。ところで、装飾の中でピアスなど体に穴を空ける類の物は特別な意味合いを持つ。本来、穴を空けることは痛みを伴う。一種の自傷行為である。自傷行為はアルティスによって禁止されている。ゆえにピアス類は反アルティスの表われと取られることがある。ところがこれと全く逆で、ピアス類がアルティスの敬虔な証とされることもある。神を表わすものや神の力が宿るピアス類を付ける場合、体に穴を空けることが神との強い交信を表わすことになる。これは敬虔な信者の証である。ただしピアスを開ける場所は耳のみ。神の声を感知しやすくするために耳に着けるからである。 【用例】 cᴅ leȷʃ, ın ɑɔll le lıɑ oıcᴅ ınʃeȷ lı ʃeᴅl ıl nɔɑ ʃclnɔ. 明日は９時から⌧蔵へ⌧飾りをしに行かねばならない。

ɑɔlluеʃ ［言語］修飾語← ɑɔll ［レベル］4 ȣ

ɑɔllıll ［数学］係数→ ɑɔll ［レベル］4 1L

ɑɔllen ［美容］カチューシャ ［レベル］4 ⅃1:ɑɔll/en

ɑɔlleµn ［魔物］ドルケルン（石鳥）: 第二十三天 : 風の巨天 ［レベル］5 1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel: 石の翼 ［文化］ 大型の鳥で、嘴で突かれると石になってしまう。風の魔法を使って風を操ってくるため、弱点である風の魔法で攻撃しようにも相殺されて巧くいかない。翼をはためかせると無数の羽を弾雨のように降らせてくる。それに当たると体が徐々に石化する。高山によく棲息する。 【成句】 ɑɔlleµn eᴅ ɑɔl ᴅcl leµn nɔzeʃ ミイラとりがミイラになる。早口言葉でもある。

ɑɔlȷ ［普通動名詞］しつけ、躾 ［動詞］ yəl を ɔn に関してしつける、しつける、躾ける ［レベル］2 ⅃0:ɑız/ʃɔll → ɑɔll → ɑɔlȷ（ʃɔll と似るため） ［文化］ 子供の躾は厳しい。奔放に育てて才能の芽を伸ばそうというアメリカ的な発想ではなく、規範的で大人しく思慮に富んだ人間にしようというフランス式に近い。じっとしている訓練を子供のころからさせ、騒いだりすることを抑制させる。下らないことを言え

ば無視して受け入れられないことを示し、人と話しているときに割り込めば無視してこれを制す。　子供が言うことを聞かない場合はなぜいけないかの理屈を提示し、「いいからやるな」という態度を取らない。この点では日本と異なる。また、なぜいけないかだけでなく、それをやった場合にどういう報いが訪れるかを提示して警告する。子供は理屈を介さない動物と考えているため、罰則で縛ることを良しとする。理由を言っておくのは、今やめさせるためでなく、後になって分かるようにするため。従って、理由＋罰則の二段構えで叱る。　体罰は日本やフランス同様公然と行われ、人前でもはたかれる。日本の場合、人前だと避ける傾向にあるが、アルバザードは正義を貫くことを優先するため、むしろ自分の家がしっかり躾をしていることを示す機会になると考え、あえて人前でも叩く。なお、体罰といっても虐待するわけではなく、絶妙な加減で叩く。虐待は即座に民衆によって止められる。　なお、体罰は原則的に母親によって行われ、父親はいくつかの例を除いて子供を叩かない。ただし、格闘訓練を息子に行う場合は当然のことながら打突する。　＜典型的な躾の例＞　母「ニンジンを食べなさい（←アルバザードのニンジンは栄養重視で品種改良されてきたため、味にクセがあるから子供はたいていニンジンが嫌い。しかしニンジンは体を温める効果があり、アルティス教で最も重要とされる野菜のひとつなので、親は食べさせようとする）」　娘「いや！」　母「ニンジンは体にいいの。体を温め、栄養も多いのよ。食べないとお尻叩くわよ」　娘「いや！」　母、娘のパンツを引きずりおろし、尻を叩く。娘、激しく泣く。母、力ずくで食べさせる。娘、吐く。母、頭を殴る。見かねた父親が来て止める。父親は食べたらおやつをあげるという「プラスの条件」を提示し、母は「食べるまでテーブルを去らせない」と「マイナスの条件」を提示する。娘、我慢して食べる。　＜女子の年齢と躾＞　女子は１０歳までに人格が固まり、それ以降男子と違って矯正することがほとんどできないと考えられている。女子は叱られても反省せず、怒られた私可哀想という発想をする。また、客観的に物事を見ることができず、論理的であることはむしろ拒む。それゆえ反省しない生き物と考えられ、猫のような生き物と見なされている。　男子は上下関係を重んじ、力関係を意識する。典型的な犬型の生き物なので、矯正が効く。むしろ男子は少年期はやんちゃくらいなほうが後から大成する。一方女子は１０歳までにギャルだった子がマザーテレサのようになることはなく、水商売、ソープへとどんどん落ちていく。　そのため、アルバザードの親は女子の幼児教育を重要視し、特に躾を厳しくする。また、伝統的に魔導師が女だったことから、学問も男子より積極的に教える。よって、特に上流階級の女子は躾が行き届き、知能も高いという構図が生まれる。

ɑɔlnı ［形容詞］荒廃した、無機質な、機械的な ［レベル］３　1L: 灰色の心

ɑɔlɑ ［色］灰色、ドルフ ［形容詞］灰色の、灰色い、はいろい ［レベル］２　1L: 制 :ɑɔɑ　::lə lı ɑcczel（lə は濃い灰。lı は明るい灰）

ɑɔlɑ̃ınɔ ［地球の国名］ヨルダン ［レベル］６　1L: 国章に灰色の鷲

ɑɔlɑɒel ［名詞］灰色時代、暗黒時代、黒歴史 ［類義語］ueμȷeʃı ［レベル］４　μɑ;/　ȷʔ ［語法］［文化］　ɑəəμɒel

ɑɔlɑıμʃ ［魔法］灰魔法 ［ユマナ］赤魔法。ファイナルファンタジーの。［レベル］３　μɑ;/「黒と白の間だから灰色」 ȷʔ ［文化］　黒魔法と白魔法の総称。実際には低位黒魔法と低位白魔法の総称であることが多い。

ɑɔlɑıμʃın ［魔法］灰魔導師、灰魔道士 ［ユマナ］赤魔道士、赤魔導師。ファイナルファンタジーの。［レベル］３　μɑ;/　ȷʔ ［文化］　黒魔法と白魔法両方を使える魔法のエキスパートだが、人は黒か白どちらかに適正があることが多いので、灰魔導師の数は少ない。両利きやバイリンガルのようなものである。　日英のバイリンガルが結局日英ともに満足に喋れないことがありがちなように、灰魔導師もたいていは低位の黒魔法と白魔法しか使えないことが多い。　あの史上最強の大魔導師リディアですら黒魔法に特化しており、白魔法は苦手としていた。

ɑɔlɑcnȷ ［生物］灰色の眼 ［レベル］４　1L

ɑɔlɑen ［医療］ドルフェン ［レベル］５　ȷ1:ɑɔlɑ 属格 ［文化］　ʅıɒelcı

ɑɔlɑelen ［法律］議定書　μɑ;/「灰色のテーブル」［レベル］４　ȷʔ ［文化］
　国家間で結ばれる国際法上の成文法（広義の条約）に対して付けられる名称のひとつ。μɑ でアルバザードのファルシアン宮殿の一室が会議室になっており、そこに灰色のテーブルが置かれており、そこで制定されることが多かったため、このように呼ばれるようになった。

ɑɔlɒ ［地学］化石 ［レベル］３　1ʔ: 制 :ɑɔlʅəɒ（石に入った動植物）

ɑɔlɒcɥə ［魔法］ヴィード論、ドルミーユ、魔法学、魔法理論（正確には魔法だけでなく霊力なども含むが、魔法で代表される）［類義語］ıμucnı ［アクセント］ɑɔlɒ€ɥə ［レベル］３　ȷ0:ɑɔləəɥı/ɒccμ（館の理論）館の字 ɑɔləəɥı が三角錐で、ヴィードを構成するユノ・ヴィル・ノア・アルマがアルマを頂点とする三角錐をモデルとすることから。cμ の音が ɥə に聞こえて変化したもの。アクセントは ɒc にある。 ［文化］
　→ φıleʃ, ɥənɔ, ıμʃɑμcɒ, ɑccɥə, ȷeleȷ, nııɥə, ʅnɔɔȷenuc ほか多数
＜魔法学と科学＞　ヴィードに関する学問を ɑɔlɒcɥə（ヴィード論、広義の魔法学）とし、それ以外 (ıLueɑ) に関するものを ʅıɒc とする。この分類は ʅʅ でアルシアが始めた。　ɑɔlɒcɥə と ʅıɒc は互いに独立しつつも関連しあって発達した。両者は ʃɒ の時代に萌芽があるが、どちらも経験的知識にすぎなかった。　上代では磁石や静電気が知られ、琥珀が薄い紙を吸い寄せる現象などが認知されていたが、経験的知識にすぎなかった。　ʅʅ では enuelen ができ、ʅʅ 後期ではアルシアが魔法の分類を行う。　中世になると魔法工学や錬金術といった分野が登場する。錬金術は医学の発展を、魔法工学は工学の発展を促した。　近世になるとほとんどの人が uccɑ を使えなくなり、魔法学は衰退し、科学が独走する。魔法を研究してもそれを再現できないのであれば役に立たないため、研究費が割かれなくなった。
　革命後はミロクが召喚省下に魔法研究所を置いたため、多少持ち直した。μɑ でリディアが書いた魔法学の集大成 ıμՈlel に研究所が出した成果を加えて再編集した。しかし税金の無駄遣いと非難されることもあった。一方科学はこの間も幅を利かせていく。　ls になるとクリスタルにより人自体がヴィードを失ってもその力を利用できる時代となった。この結果魔法学は再発見され、現代科学と融合して実用されていった。　＜魔法学史概説＞　・フィアル　ɑl では既にヴィードが存在したが、言語自体が存在しなかった。　・アルテム　ʃɒ で初めて言語 (ɑ) ができると、エルトとサールは uccɑ, ɥənɔ, ucμ, nɔı, ıμɒı を命名した。　体内の閉晄を体外に出すことでヴィードが光を発するため、彼らはそれを意識することができ、命名につながった。　ユノやヴィルといった種類を細かく命名できたのは光の色が違い、主観的に識別できるためである。　・ヴァステ～ラヴァス　uȷ で神と悪魔が戦うと、ヴィードに軍事的な利用価値が生まれるが、言語的な概念が細分化されるには至らなかった。　むろん神々は経験的に hınɔn としての ɥənɔ などの存在を知ってはいたものの、それらを細分化して命名する必要性を感じておらず、ユノで攻撃する力というような句で表現していた。　この傾向は戦間期の ȷμ はもとより、ɗu まで続く。　・アズゲル　zφ になると人類の時代だが、人類は神に比べてヴィードが弱いため、少ないヴィードをどう効率的に活かせばよいかと考えた。　その結果、魔法学が芽生えることとなる。芽生えたのはシージアにおいてである。後に伝統の国ルティアになるシージアだが、zφ においては最も栄えた国際都市であり、他民族・多言語・多文化・多変化という激動の坩堝にあった。　シージアで芽生えた魔法学は理論よりも実践重視で、魔法学というよりは実践論であった。　ほとんどが魔法を強化するための呪文の考案と実践で、いかに効率よく魔法を使うかが主眼であった。　それゆえ少ない魔力で大きな効果が出ると経験的に知られていた呪文が注目された。　結果、どうすれば効率よく魔法が撃てるかという呪文学が起こり、魔法学の源流となった。
　また、呪文以外に宝石などが魔法を強化することも知られていたため、eʃın を利用して魔法を強めるための学問も生まれた。これを魔石学という。　魔石学は後の錬金術につながる。また、鉱物だけでなく植物も使うことがあったため、ləʅleʃcı（漢方医学）の発展にも寄与した。　実際 zφ 後期の魔石学者は同時に医師でもあった。後に魔石学は錬金術や漢方に本格的に分化していく。　なお、ユノやノアについては出して打つなど仕組みが単純で扱いが簡単なこともあって、研究の中心は魔法にあった。　・メルテナ　ɒʃ では召喚士が力を持ったことで召喚学が台頭し、その結果相対的に呪文学は後退する。　しかし召喚学は結局のところ少ない ucμ で神を呼ぶための技術であるため、本質的には呪文学や魔石学と変わらない。従って、呪文学者や魔石学者が場合に応じて召喚学者を自称した。
　しかし召喚にはサリュなど、呼びやすい空間といった従来の魔法にはない概念があるため、魔法学全体としてはここで「儀式性」や「契約」といった要素が新たに加わることになった。　・呪文学
呪文は魔法の効果を高めると考えられ、効果をより高めるための呪文が開発された。　開発といっても経験に基づくもので、このように読んだら効果が高かったという伝承が形式化したものである。
呪文の効果については ȷɒ 以降明らかになる。（後述）　なお召喚学は呪文学をベースに儀式性などを加味したものである。　・カコ（アルシア以前）　ʅʅ で召喚が廃れて魔法の時代が返り咲くと、呪文でも魔石でも儀式でもない新たな視点に目が向けられるようになった。人類はますます弱くなったので、ucμ の強化は望めず、呪文や魔石によるブーストも頭打ちであった。　そこでより無駄なく uccɑ を使う方法が求められ、ヴィードはそもそも何なのか、どうしてユノなどの力が作れるのかといった問題と向き合うこととなった。原理を知ることで効率よく使おうとしたのだ。　研究はルティアから始まった。これが狭義の魔法学の始まりである。（広義の魔法学は ɑɔlɒcɥə）
　今まで大雑把だった ɥənɔ などを用途ごとに hınɔn、ɒclle などと分類した。そして enuelen が生まれる。→ enuelen を参照しておくこと　・カコ（アルシア以降）　ʅʅ 後期になるとアルシアの１１魔将（ユシフェール）により魔法の分類が行われた。それまで漠然と火の魔法などと認識されていたものが１１種に分類された。　また、アルシアは魔法だけでなくユノなどの研究にも努めた。この意味で魔法学はヴィード学ともいえる。両者はしばしば混同されながら μɑ の ıμՈlel や ls の再編集版 ıμՈlel に至る。　・虚質量　アルシアは大きな秤の上に乗って自重を保ったままユノを放つという実験をした。ユノは斜め下に落下しながら当たった先の瓶を破壊した。ということはユノには何らかの重さがあったはずである。しかしユノを放っても天秤がつりあったままなのはなぜか。　この現象は経験的に人類も神も知っていたことであったが、学問的に実験されたのはこれが初めてであった。　ここからアルシアはユノは hınɔn として放たれた際に質量を持つようになるのではないかと考え、虚質量の存在を予言した。また、彼らはこれは ucμ,nɔı などにもいえるだろうと考えた。　・魔法学と科学　アルシアはヴィードは虚質量を持ち、磁石に反応せず、気圧、温度、湿度、電気にも反応しないことから、ヴィードとヴィード以外のものを分けて考えるべきと考えた。　万物を lıləl とし、uccɑ と ıLueɑ に分け、これらを対象とする学問を順に ɑɔlɒcɥə と ʅıɒc に分けた。　・セルメル　ȷɒ になると戦間期となったことで事情が変わる。ʅʅ では主に武器や防具となる金属が優先的に採掘されたが、戦間期になると建材や手工業用途の金属の需要が増した。　その結果、それまでに発見されていなかった金属や、発見されていても注目されていなかった金属が注目を浴びるようになった。　さらに戦争の終結は広範囲の貿易を可能にし、魔導師に多種多様な鉱物や生薬の入手を可能にさせた。　このことは魔石学の発展に大いに貢献するとともに、錬金術への足がかりともなった。　そして魔法学の発展はヴィードの仕組みを理解するのに大きく役立つこととなる。　なお、ȷɒ では魔法学の研究の中心はアルバ一世が建てたルシフェル校に移る。　以降、主に ȷɒ と μɑ における魔法学の発達について述べる。　・密度　金は古くからヴィルを蓄える性質があることが知られていた。この場合、アテンの体内と同じく質量を持たないという性質がある。　１立方 ɑıcneləı の金にヴィルのうちの閉式赫晄を当て続けると、ある時点で

赤い光を放つ。これは金が蓄えられる閉式の量を超えたため、漏れた閉式が虚質量を持ってから開式になったたためと考えられる。
　一方、金と銀を混ぜた合金（ホワイトゴールドの一種）で同じ体積の塊を作って閉式を浴びせる。この合金もヴィルを蓄えられるので閉式赫晄も蓄えられるが、金よりも早く光が漏れる。なぜ体積が同じなのに時間が異なるのかが謎であった。　両金属の重さを等しくしても、やはり合金のほうが早く漏れる。このことから金の中では ucɥ を圧縮して詰めることができるのではないかと考えられた。
　　ユノを靄のように出すかそれを凝縮して弾のようにするかで密度が変わる。このことからユノには密度があることが古くから経験的に知られていたが、ucɥ もそうなのではないかと考えた。すなわち金は高密度で ucɥ を蓄えられ、ホワイトゴールドはそうではないということである。　　・霊圧　　ユノの球を投げると自然と消えていくのは虚質量によるものだとしても、徐々に球の直径が大きくなることは謎であった。　しかしユノに密度があるなら理解できる。体の中のユノを無理に圧縮して球を作っているので、裏を返せば自然な状態でのユノの密度はそう大きくないことになる。　そして高密度のユノは元の自然な密度に戻ることが観測される。そこから霊圧という概念が生まれた。つまりユノには圧力があり、それと同時に平衡する性質も持っているということになる。　これは経験的に古くから知られていたが、ȷɒ で初めて理論化された。　　・魔圧と ɑcen　　ユノに圧力があるなら同じヴィードのヴィルにも魔圧があるのではないかと考えられ、これが先の合金と金のヴィルを蓄える量の違いから実験的に示された。　そこで銀の比率を変えていった結果、どの比率でも合金のほうが低圧になることがわかったが、金と銀が７５０：２５０の比率のときに最も圧力が低くなることがわかった。　　ucɥ を蓄えるものは少ないが、ほかのあらゆる金属で試してもこの合金より圧が低くなることはなかったため、どうやらこの合金は自然状態の魔圧（＝最低魔圧）のまま ucɥ を蓄えるのではないかと推測された。（後にこれが最低でないことがわかり、ホワイトゴールドの魔圧は魔圧の基準値として使われるようになる）　そして１立方 ɑıcnelǝı のこの合金が蓄える ucɥ の量を合金の名 ɑcɔnı から取って ɑcen とした。　　・ヴィード粒　　ヴィードは何からできているかという考えに対しては、ヴィード粒 (uccɑlccl) の存在が仮定された。　ユノにはユノ粒という具合に、都合４種類想定された。
　　・レニウム　　zφ でレニウムが発見された。　地球より遥かに発見が早かった理由は、レニウムがヴィードを通さないという性質を持っていた点にある。　　・ディスティマ　　無色透明のサファイアにユノを集めると常態では不可能な量のユノ（後に重合度が大きいユノのことだと分かる）が得られる。　この際、サファイアが青い光を放つ。このときレニウム板をサファイアに当てても光は消えないため、ヴィード粒は光点にはないと判断できる。　一方、光点からやや離れた位置にレニウム板を当てると急に宝石内の光が消える。この点を調べた結果、光が消える点はサファイアの周囲に４箇所あると分かった。　そしてそれらを線で結ぶと正四面体になることが分かり、サファイアを包むように目に見えないピラミッドが存在していることが明らかになった。　　ユノの重合度を減らすと消えた光が戻る。レニウム板の位置を変えると再び光が消える箇所が見つかる。　その位置は正四面体の頂点より内側であり、このことからユノの重合度と正四面体の体積が比例していることが分かった。　ユノの青い光はサファイアではなくその周りの不可視の４点が作る正四面体が形成していることが分かり、各頂点にあるものがヴィード粒ではないかと推測された。つまりこの場合、頂点に１つずつ合計４つのユノ粒があると考えられた。　そしてこのピラミッドは ɑcȷʃcɒı と名付けられた。　　・ガレット　　同じくジルコンはノアの重合度を高める性質があり、ジルコンでもサファイアと同じことができる。ただし当然光は緑となる。　ジルコンピラミッドの ɑcȷʃcɒı を２つ作り、それぞれＡ，Ｂとする。Ａの頂点をひとつ選んでＸとし、Ｂの頂点を重ねる。　するとＢの４つの頂点のうちある一点を重ねると、Ａ，Ｂともに光が消失する。その消失する頂点を α とする。　Ａの頂点をＸからＹに変更し、再び α を重ねると、今度は光が消失しなくなる。そしてＢの別の頂点 β を重ねると消失するようになる。　　実験の結果、消失点は４頂点すべてであり、ＡとＢの頂点の組み合わせ次第でどの頂点も消失点となりうることが分かった。　このことから正四面体の頂点を形成するノア粒は均質な物ではなく、４種類の別々のものであると結論付けられた。その４つの粒は次のように名付けられた。　　ɿ:ɑıılеʃ（陽晄）：略称は ɑ か ɿ。　ȷ:lеlcеʃ（月晄）：略称は l か ȷ。　ʔ:ucılеʃ（雄晄）：略称は u か ʔ。　ɱ:ɒcnlеʃ（雌晄）：略称は ɒ か ɱ。　　これらは総称して φılеʃ（晄基）と呼ばれた。　こうしてヴィード粒、少なくともノア粒は φılеʃ から成るということが明らかになり、ノア粒ひいてはヴィード粒という存在は否定された。　この時点ではノアピラミッドの４つの頂点にそれぞれ φılеʃ が１つずつ配置されていると考えられていた。　また１と２、あるいは３と４を組み合わせると光が消えると考えられた（後にこの数字の組み合わせは見直されることとなる）。
　　・各頂点のガレット数　　サファイアピラミッドを２つ用いた場合、どの頂点を組み合わせても青い光は消えなかった。　また、ムーンストーンはヴィルを重合できるが、ムーンストーンピラミッドの場合でも赤い光が消える頂点の組み合わせは見つからなかった。
このことからヴィードを構成する φılеʃ は１つの頂点に少なくとも１つより多く存在することが明らかとなった。　　例えばノアピラミッドの４つの頂点が順に１２３４というガレットからできているとしよう。この場合、ピラミッドＡの頂点１にピラミッドＢの頂点２を重ねると緑の光は消失する。(この時点では１の透過値は３でなく２)
　次にユノピラミッドの頂点を同じく４３２１としよう。この際、ピラミッドＡの４とピラミッドＢの３を重ねれば青い光は消えるはずである。　しかし実際にはそうならない。ということは、頂点には１つずつガレットがあるのではなく、複数個ずつあると考えられる。　　例えばユノが頂点１つあたり４つのガレットを持っていた場合どうなるか。　１頂点が１２３４という４ガレットでできており、それが４頂点分存在する。例えば　１２３４　１２３４　１２３４　１２３４　のように１６ガレットでユノは構成されることになる。　　一方、ノアは　１１１１　２２２２　３３３３　４４４４　のように構成されていたとしたらどうだろうか。なぜノアだけ消失が起こるのかが説明できる。　１しかない頂点に２しかない頂点を合わせたから光の消失が起きたと考えることができるためである。（再三繰り返すが、この時点での１の透過値は２）　　・各頂点の入れ子構造　　ところでこのときの問題は４行何列になるかということであったが、当時最も有力だったのはこの４列説であった。　なぜこの時点で魔法学者たちは４行４列を予想していたのだろうか。なぜ４行２列や３列でなかったのだろうか。無論２列などの意見も学者内にはあったが、主流となったのが４列であった。なぜか。　　頂点が複数のガレットからできていると分かった時点で、各頂点を構成しているガレットがそれぞれ三次元的な内部構造を持っていることが分かった。　このとき、最小の多面体は四面体であることから、ガレットもまた４つで１組となって四面体を形成するのが幾何的に最もミニマルかつ合理的な構成方法である。　ゆえに魔法学者はピラミッドの頂点が描く四面体の各頂点がまた四面体を描くという入れ子構造を想定した。　　・トポロジー　　また、これに関しては ıl で魔法研究所が成果を挙げている。　位相幾何学的に見て四面体はトポロジーをほかに持たない。一般に多面体のトポロジーは安定しないが、四面体は常に１つしか存在しない。つまりあらゆる四面体は正四面体と同相である。　　もし同相でないものが存在したらどうなるか。晄基の配列は同じ１２３４，１２３４，１２３４，１２３４なのに、ある相と別の相を区別しなければならない。例えば１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ α と１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ β のように。　しかしある魔法は特定の晄基配列でできていることが ıl には既にわかっており、もし異なる相が存在すれば、同じ魔法の配列なのに１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ α と１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ β は別のものということが起こり、α では発動するが β では発動しないということが起こりえる。　だが四面体なら同相がほかにないため、どのような四面体を描こうが、どの辺をどう伸ばそうが、それが四面体であるかぎり配列は常に一定の意味を持つ（例えば１１１１，２２２２，３３３３，４４４４なら常にノアの一種という具合に）。　このためヴィードにおいては４行４列で四面体を描くのが最も合理的であるということが分かる。これは現代魔法学の数少ない成果のひとつである。　　・帯晄現象　　ノアピラミッドの頂点から１を持つ頂点を探す（見つからなくても４回やればよい）。
　バナジウム板を頂点に当ててから引き離すと、緑の光が重心の宝石の位置からずれていく。　バナジウム板が新たな頂点となり、重心の位置が板の移動によって変化する。　このことからバナジウム板に１が帯晄するということが分かる。　　しかし２，３，４については帯晄現象が見られなかった。　　なお、バナジウム板はカルノー石から得られ、分布が広いため、容易に入手できた。　　・ガレットの単離　　１を帯晄するものがある以上、２，３，４を帯晄するものもあるのではないかという予想の下、様々な鉱物が集められ実験された。　その結果、ニオブ石から得たニオブ板が２を、ニオブ石中に存在していた別の物質（タンタル）の板が３を帯晄した。　しかし４を帯晄する金属（後のドブニウム）はついぞ見つからなかった。それもそのはず、これは超ウラン元素であり、この時代では作ることができない。　そのため４についてはノアを蓄える鋼（銑鉄を脱炭したもの。いわゆるはがね）を飽和させてからバナジウム、ニオブ、タンタルを用いて脱晄して得る。　こうして φılеʃ の単離に成功した。
　　なお、このときのバナジウム～タンタルは後に化学において周期表の発見にいくらか貢献することとなる。　　・ガレットの番号
　　φılеʃ の番号は当初暫定的なもので、どれが何番であろうとかまわなかった。　実験中にある頂点を１としたらその次が２，３と決まるだけであった。ある頂点が１ならそれに対応する頂点が翠晄の消失点となる。　しかし最初に見つかったバナジウムに反応した φılеʃ を１と固定することで、ニオブのが２、タンタルのが３、残ったドブニウム（ここでは鋼）のが４と固定された。　　これによりガレットの番号が固定されたが、これに連動して１の透過値は３となった。同様に２の透過値は４となった。　　・幻晄線　　それぞれの晄基が蓄えられた板を陽晄板、月晄板、雄晄板、雌晄板と呼ぶ。総称は晄基板である。　ノアピラミッドを作った後、ノアの出力を切ると当然光は消える。　出力を切ると同時にそれぞれの頂点が持つガレットに対応した晄基板を置くと、光が一定時間維持される。　しかし同じ実験で板の配置の組み合わせを変えると光は消えてしまう。
このことからノアを形成する四面体の各頂点には順序があることが分かった。つまりどの頂点も同じではなく、１は１の座る場所があるということである。　　４つの各頂点にはスタート地点とゴール地点があり、ノアはスタート地点から見て　２２２２　１１１１　４４４４　３３３３　のときでないと光らないと分かった。　ノアは四面体からなるが、３回曲がった直線が四面体の各頂点を通過すると考えれば直線なので、スタートとゴールの２端点ができる。
このスタートとゴールを結ぶ線が４行４列のうち４行の並び方を決定する。つまりノアの行は２２２２，１１１１，４４４４，３３３３で並ぶときに光を放ち、そうでないときは光を放たない。　そしてこの四面体の各頂点を通過する折れた直線を幻晄線という。　　幻晄線を仮定することで、それまで四面体という３次元で捉えていたものを、　２２２２　１１１１　４４４４　３３３３　のような行列という２次元で捉えることができるようになった。　　本稿ではテキストデータしか扱えないため、もともと行列で表記してきたが、行列で説明できるようになったのは本来ここからである。　なお、下記 ȷееsc 中の四面体の各ガレットを結ぶ線は晄基線という。　　・指と握　　こうしてひとつの四面体が４行４列１６ガレットからなるという予想のもと、この１６ガレットの行列を oıɱclc（握）と呼び、１行４ガレットを ȷееsc（指）と呼ぶようになった。　つまり幻晄の各頂点は指から成り、幻晄は握から成る。握がたくさん集まることを重合といい、重合度が増えるほどピラミッドは大きくなり、重心の光も大きくなる。　　・アミュレット　　金銀鉄青銅の合金(アミュレット）から板を４枚作る。この板をユノピラミッドの任意の頂点に当てると、ȷееsc が板に保存される。　これはユノだけでなくヴィ

ルやノアにもいえることがわかった。　４枚の板をそれぞれの頂点に当てて ȷeesc を保存してから各板の位置を入れ替えると、ノアの場合は光が消失するが、ユノとヴィルでは保たれた。　このことからユノとヴィルの各行は同じ配列であることが分かった。つまりユノのある行が１２３４だとすると、ほかの行すなわちほかの頂点もみな１２３４になるということである。　　アミュレットは任意の oıɿ͡lclc から任意の ȷeesc を単離できるものとして重宝された。
ところでアミュレットに蓄えられた ȷeesc はどのようになっているのだろうか。　例えばユノが１２３４, １２３４, １２３４, １２３４だとすると、そこから１行とって１２３４が ȷeesc である。　しかしユノピラミッドは重合の結果可視可能な量の光を放つものなので、アミュレットの各頂点には相当な数のユノ指が含まれていることになる。つまり各頂点に [1234] n と書くべきものが含まれていることになる。　１つの ȷeesc １２３４はヴィードと同じく四面体を構成すると予想されていたため、アミュレット中にはガレットからなるおびただしい数の四面体が蓄えられていると考えられる。　　アミュレットに陽晄板～雌晄板をそれぞれ接触させ、元のピラミッドの１/４の辺の長さで板をそれぞれの頂点に置く。このとき宝石をノア用のものに変える。　するとユノピラミッドからもともと得られたものにもかかわらず、今度は宝石中に緑の光を示すようになる。しかもその光量はもとのおよそ１/４であった。　このことから ȷeesc が４ガレットからなることが証明された。また、幾何学上の合理性から四面体を持つことが強く推定された。　　・虚斥力　　陽晄板に１（陽晄）を急激に蓄えると一時的に高晄圧となる。　同様に雄晄板に３（雄晄）をためて高晄圧にする。　そしてこれらを近づけると斥力が生じる。しかし圧力が戻ると斥力は消える。　磁石と違って特定の環境でしか生じないこの斥力を虚斥力 (ɑcıɭıɭı,ıµɑ) と呼んだ。
　　・偏晄現象　　アミュレットを高晄圧状態にし、陽晄板を近づける。　するとアミュレット中の３が逃げるように偏る。これを偏晄現象という。　　わかりやすくアミュレットで四面体をつくり、各頂点に高晄圧の各晄基を近づける。　例えば各頂点に１２３４と順々に板を近づけた場合、アミュレット内のガレットは偏りあった結果、３４１２となる。　　・握化　　薄板で作ったアミュレットでユノピラミッドから任意の ȷeesc を得る。　これを高晄圧化し、同じく高晄圧化した各晄基板を近づけると、雄晄板でのみ斥力を生じる。　次に近づける角度を変えてほかの板を試すと、雌晄板で斥力を生じる。同作業で次は陽晄板、最後は月晄板を。　月晄板をかざしたときに全体から斥力が消滅すると同時にアミュレットの薄板から青い光がもれる。なぜこのような現象が起きるのであろうか。
　　雄晄板を近づけることでアミュレット内のガレットが偏る。無数の四面体の１の部分が雄晄板から逃げるように向く。　これを４回繰り返すと、仮にアミュレット内の ȷeesc の集合が [1234] n だとすると、外側から３４１２を近づけたことでアミュレット内の ȷeesc がみな同じ向きになったと考えられる。　そしてこの結果、アミュレットの重心に ȷeesc が偏る。その高密度を平衡するために ȷeesc の集合体が oıɿ͡lclc を再形成した結果、ユノに戻って青い光を放ったと考えられる。　なお、光量は元のユノピラミッドの１/４であった。
　　・開閉の発見　　重要なのは斥力の生じた順序である。最初に月晄板を近づけても無反応なのに、雄晄板を近づけると斥力が起こる。これは４行４列の順に沿っているのではないか。　すなわちユノの ȷeesc が仮に１２３４だとすると、斥力は３４１２を近づけた順で発生するということである。　裏を返せばユノは斥力が３４１２の順で生じたため、もともと１２３４の順で並んでいたことがわかる。　そしてのユノの各行の配列はいずれも同じであるため、ユノは――少なくとも青い光を放つ hınɔn は――１２３４, １２３４, １２３４, １２３４であることが分かる。（ただし hınɔn の ȷeesc が１２３４だと仮定すればの話）　ちなみに実験の結果、実際の hınɔn の配列は１２４３の繰り返しであることが分かった。　これはアテンの体内で安定するので閉式と名付け、閉式蒼晄とした。また、ガレットの配列を晄基配列と名付けた。　今までは光るヴィードからしか調べられなかったが、斥力を利用することで光を出さないヴィードの晄基配列も調べられるようになり、これにより魔法学は格段に進歩した。　　・握の内部構造　　アミュレットと晄基板と斥力を用いた実験でユノ・ヴィル・ノア・アルマすべての晄基配列が判明した。　ヴィードのうち、ヴィルはもっともバリエーションが多い。　そして１６ガレットが作る組み合わせのうち「ユノ・ノア・アルマ・ヴィルの開閉」以外がすべて魔法に使うヴィルであり、これが魔法の難しさとバリエーションの多さの原因であることがわかった。　　oıɿ͡lclc は１行あたり１～４を１つずつ持つ。ただしノアはこの限りでない。　このため、１行中の組み合わせは１２３４や１３２４など４！＝２４ある。　これを４行繰り返すので、oıɿ͡lclc の種類は４！＾４＝３３１７７６種存在する。（２種のノアを除外した計算）　ここからユノなど数種を引いても３３万種以上あり、このうち一部が魔法として機能する。つまり魔法になりうるヴィルはこれだけあるということである。　　・ルビー　　ヴィルピラミッドの４頂点に４つのアミュレットを当てて調べることで魔法の晄基配列を調べることができる。　各アミュレット内の ȷeesc について斥力を利用して調べることができるためである。　　ルビーはあらゆるヴィルを保存することができる。また、蓄えたヴィルを放射することもできる（ムーンストーンは重合度の最大値を高めるだけ）　そのヴィルが魔法として成立する配列の場合、ルビーから魔法を放つことができる。　しかしそれは戦闘においては手で撃つのと大差ない上に、ルビー自体が高価なので、これまでは実用されていなかった。だが、魔法学的には非常に有用であった。　　・コバルト針　　１と３、２と４を組み合わせると平板ガレットができる。　コバルト針は平板ガレットを蓄えると、ある時点で平板ガレットが分かれて２つのゼロガレットができる。　コバルト針は高晄圧で平板ガレットを蓄えるとき、Ｎ極を持つ。しかしゼロガレットに変化するとＳ極に転じる。　この反応を用いて平板ガレットとゼロガレットの存在を確認する。　　コバルト針を陽晄板に刺すと、陽晄線が高晄圧で放射される。　この放射線を空の四面体のアミュレットに当てると、１がアミュレットに入る。　アミュレットの４頂点に同時に同じ操作をすると、４頂点にそれぞれガレットが入り、その瞬間アミュレット内で ȷeesc が形成される。　これは人工的に作った ȷeesc に等しく、１２３４でも３２４１でも好きな配列が作れる。　　・魔珠　　このアミュレットを任意の配列で４つ作り、四面体の頂点にそれぞれ置き、重心にムーンストーンを置く。　ムーンストーンはヴィルを重合する性質がある。このアミュレットの配置はムーンストーンにヴィルをためたのと同じ状態を作る。　　その結果、４つのアミュレットの間に幻晄線が生じ、ヴィードが作られる。　ムーンストーンを置く以上、ユノやノアには反応しないため、ヴィルのみ作られる。　赫晄のうち開閉以外のものを魔晄といい、魔法の材料となる。　この手法では人工的に赫晄を重合した状態にできる。
　　このムーンストーンにルビーを接触させて両者の位置を取り替えると、宝石の周囲にあったアミュレットからルビーにヴィルが取り込まれ､保存される。　これを放射すると魔法が成立している場合、魔法が発生する。　　こうして魔法を封じ込められたルビーを魔珠という。くしくも朱という字が入っている。　　・光学異性体
ところでルビーに封じ込められた魔法によっては、封じられた瞬間に魔法が発動してルビーが割れてしまう可能性がある。　　今までどうして魔法は唱えている間は µeφıl が現れ、放ってから初めて効果が出るのかが謎であった。　ある魔法Ａの晄基配列がＸだとしよう。この際、唱えているときにＸの重合体が形成され、それがレガルを描く。　ではなぜ放って初めて効果が出るのだろうか。もし放っても配列がＸのままであったとしたら変化は一切起こらないはずである。にもかかわらずなぜふるまいが発動の前後で変わるのだろうか。
　　そこでこのような予想を立てた。　Ｘは発動するとＹになる。そしてＹになったことで効果が出る。やがてＹは開式赫晄に変化して、効果を失う。　だとしたら人工的に作った魔晄がはじめからＹの状態だった場合、ルビーどころかムーンストーンで重合した時点で発動し、場合によってはムーンストーンが割れてしまう。　このとき魔晄は相当数重合しているので、人が撃つより遥かに強い力が出てしまう。それが火の魔法ならたちどころに研究所を吹き飛ばしてしまいかねない。　アミュレットの配置で作る魔法は突如Ｙを重合させるという、自然界では起きえない状況を作るため、配置した瞬間に発動するということがありえる。　　そこで魔封石である琥珀を用いてケアの配列を分析した。　そしてケアの配列をアミュレットで再現し、ムーンストーンを置いた。　するとその瞬間、周囲数ｋｍにもわたって結界並みの出力でケアが放たれた。　もしこれが火の魔法だったら大惨事であった。やはりＹを突如重合するとその瞬間魔法が発動してしまうという予想は正しかった。　　実験は成功したが、ルビーに魔法をこめるにはどうすればよいか。　魔封石はルビーと違い、発動した魔法をためこむ。相手の魔法を封じ、逆に放つことができる。ただし威力が大きすぎると割れてしまい、封じられない。　ユノなりを当てることで魔封石に入っていた魔法が押し出され、出力する。これが魔封石の使い方である。　　つまり魔封石はＹのまま魔晄を取り込む。　ユノで押し出すと一気に空になってしまうのが欠点である。少しずつは使えない。　一方、ルビーはＸのまま魔晄を取り込む。　　実験の結果、次のことが分かった。
　ケアの配列を鏡像にした配列を作り、ムーンストーンを置いた。そしてムーンストーンのところにルビーを置いて魔珠を作ってからこの魔珠を発動すると、ケアが放たれた。　このことからＸとＹは光学異性体の関係にあることが分かった。　　ルビーは魔封石と違って一気に放たず、しかも高魔圧で取り込める。つまり結界並みの総量の魔法を少しずつ取り出せる。　その上これを利用すればあらゆる魔法を魔珠に封じ込めることができる。　これにより、魔法学の軍事的・政治的・経済的な利益は計り知れないものとなった。　　・魔法性　　魔法学上の性質のこと。例えばヴィードを通すとか溜めるとかいった性質のこと。　　導晄体：ヴィードを通すもの。多くの物質。　　良導体：ヴィードをよく通すもの。鉄は特にユノ、銀は特にヴィルを通すなど、物質によって性質が異なる。　　半導体：あまり通さないもの。　　不導体：通さないもの。レニウム。
　蓄晄体：ヴィードを溜めるもの。ɑcɔnı より溜めるものが良で、それ未満が貧。　　良蓄体：よく溜めるもの。　　貧蓄体：あまり溜めないもの。　　単蓄体：１握のみ溜めるもの。　　不蓄体：溜めないもの。上記いずれもヴィードを通すかどうかは別次元の話。
　　揮発性：蓄えるが放出するもの。銅など。　　保存性：蓄えたまま放出しないもの。金など。　　放射性：蓄えたものを放出する性質。有無ではなく難易で示される。魔封石＞ルビー＞金の順で容易。
　　複写性：ゼロガレットをほかの晄基配列に変化させる性質。後述。
　　・放晄傾向　　蓄晄体同士の間に導晄体を接触させた際のガレットの流れやすさのこと。　例えば金＞ルビー。両者の間に銀を入れて接触させると金からルビーへガレットが流れる。　　例　アミュレット＞ムーンストーン＞単蓄体＞ルビー＞氷晶石　　・脱晄
ルビーと氷晶石の間に銀を入れるとガレットがルビーから氷晶石に流れる。　結果、ルビーはガレットを失う。これを脱晄という。金とルビーの間でも成り立つ。　金やルビーは一度脱晄すると空気中からガレットを蓄えないため、空の状態を保つ。　　・魔月館
任意のアミュレットを配置し、ムーンストーンを重心に置くと幻晄線が生じ､ムーンストーンを通して単蓄体に１握溜まる。　単蓄体（後で詳説する）を動かし、ルビーに接触させるとルビーに握が移る。単蓄体をピラミッドの重心に戻すと、再び帯握する。　これを繰り返して次々とルビーに握を入れていく。重心にルビーを戻さなければ次の握が装填されることはない。　　アミュレットを変えれば違う握を装填できる。　アミュレットは２４種なので写植のように順次配置を変えていく。　最大４個同時に同じ種類のアミュレットを使うので、９６個用意しておけばよい。　　毎回手動で単蓄体を動かすと大変なので、紐を引いたり鍵を押したりするだけで単蓄体が動く仕掛けを作り、人では所定のアミュレットを置くだけという作業ですむようにするのが通常である。　そしてこのようにした機械を魔月館といい、プログラム機械であり、ȷɔµȷ の前身である。　　・月光蟲　　生物学や動物学に相当する魔法学の分野である魔物学もまた魔法学の発展に貢献した。　　魔物学者の φµınbel ɑıcn は月光蟲を生物でなく魔法学的現象ではないかと考えていた。　月光蟲と

は月の出る晩に山などで起こる現象で、紫などに光る虫のことである。　グランベルは鉱山で広く目撃される点に注目し、光が生物でなく鉱物から出ていることを突き止めた。　水晶（石英）を通った月光がニオブ石に当たると、そのニオブ石中に月晄が溜まっている場合、青緑色の光を生じる。それとともにニオブ中の月晄が放出される。　これがカルノー石ならパナジウムによる紫色の光となる。　たまにしか目撃されないのは、鉱山などで掘り起こされた土からニオブ石などが出てきて、その夜以降に月光を浴びるためである。　こうした環境がそろわないと見られず、また石英を通すという条件もあり、さらに発光時間が短いことが重なってまるで蛍のように生き物と誤解されてきた。　月光蟲は徐々に光が弱くなるのではなく、晄基が鉱物からなくなるまで一定の光を出す。　なくなると同時にぱっと消えるのが特徴で、このため１つずつ晄基が鉱物から光に変換されると分かる。　体積や表面積がいくつであっても二オブ等の分子が連続している物質からは常に１つずつ晄基が放射されるのが特徴である。　鉱物中のニオブは通常ほかの物質と交じり合って存在しているため、月光が当たると各個のニオブの塊が光を出し、小さいものから順に光が尽きていく。　このため、生き物の光が弱まっているように見え、蛍のような虫と誤解された。　たとえ晄基が１つでも（実際は１握４ガレットが月光蟲の最小単位だが）可視できる程度の明かりを放つこの特徴が魔法学の進展に寄与することとなる。　・単蓄体　パナジウム板にレニウムを混ぜるとレニウムが６２％を超えた時点で不導体となる。ところがこの合金には月光蟲現象が見られる。　ここでレニウムの比率を高めて７５％を超えると、不導体である点は変わらないものの、月光蟲も起きなくなる。　このことからこの合金はレニウム比６２～７５％の間で貧蓄体となることがわかる。　レニウム比に幅があるということは、蓄える晄基の量にも幅があると考えられる。　すなわち６２％の合金は７５％のそれより多くの晄基を蓄えると考えられる。　逆にレニウム７５％の合金は不蓄体になる寸前なので、ほとんど晄基を含まないことになる。　７５％が不導体と貧蓄体の境界であるといえる。これは極限まで晄基を減らしたものであり、合金内に１つしか握が存在しないものと考えられた。　ところでなぜ１晄基でなく１握として蓄えると考えられたのだろうか。　通常パナジウム板には陽晄のみガレットの形で無数に存在する。　もしガレット単位で光を発するなら、コバルト針などでパナジウム板から陽晄を追い出した際に、紫の光が出るはずである。　つまり放射線としての陽晄線は紫色のレーザーになるはずである。だがそのようなことは起こらない。　そこで月光はパナジウム板のガレットを握化し、それがパナジウムを出るときに光るのではないかと考えられた。　そしてアミュレットピラミッドで人工的に１１１１，１１１１，１１１１，１１１１を作ると紫の光を出して消えるのが確認され、この説は肯定された。　ときにガレットの大きさはあまりに小さいのではないかと考えられていたため、人間が作れる合金の精度ではたしてたった１握だけ得られるだろうかという疑念が残った。　・テンペスト　この後、チタンとレニウムの合金に月光蟲が起こることが発見された。　光は白であった。パナジウムが紫がかった藍、ニオブが青緑、タンタルが黄味がかったオレンジときていたことから、虹のような可視光ではないかと考えられており、白は４ガレットすべてを含むのではないかと考えられた。　チタンとレニウムの合金もまたくだんの６２～７５％という幅を持っていた。レニウムを７５％にし、これを金などから銀箔を介して帯握させると１握（推定量）のみ帯握する。　この合金を [eɒdejʃ] といい、単蓄体の一種である。　ときに単蓄体が１握のみを含むというのは、数学的な推論にすぎなかった。　テンペストが月光蟲を起こす時間を t とすると、６２％から７５％に近づくたびに t は指数関数的に減っていくためである。　ただし７５％のときは光が出る時間が肉眼視できない短さになるので、光を使っては確認できなくなってしまう。　月光蟲は握が少なくても光の強さは一定だが、握が少ないと光る時間は短くなるためである。　月光が鉱物にあたってすぐ月光蟲が起こるわけではなく、握の多寡にかかわらず月光蟲が始まるまでに数秒間の間鉱物に磁力が発生する。　７５％のときは発光が肉眼視できない長さなので、砂鉄を使って月光蟲開始前の磁力の有無で晄基の存在を確認するという手法が取られた。　なお、テンペストは１１１１，１１１１，１１１１，１１１１から４４４４，４４４４，４４４４，４４４４という最低４握を持ったときに白になる。　ただし４握では肉眼視できないので、これはあくまで理論上の話。単蓄のときは１～４のいずれかの晄基色になる。ただしこれも肉眼視はできない。　・崩月現象　月光蟲が起きているときに水晶と鉱物の間に菱沸石をはさむと、月光蟲が停止する。　間に挟むのが例えばガラスの場合では月光蟲は停止しない。　この月光蟲が停止する現象を崩月（ほうづき）現象という。崩月は握化した合金中の握をガレットに分解する現象と考えられた。　・白金橋　さてここでテンペストの単蓄体に崩月を起こす。テンペストは細長い板にし、裏側に白金鉞を取り付ける。　このとき白金鉞をテンペストとダイアモンドに接する部分以外はレニウムで覆っておく。　崩月の分解作業は幻晄線と晄基線の崩壊によるものなので、握のうち１行１列目から始まり、４行４列目で終わる。　しかしその速さは電気や光並み（このころ光速はまだ科学的に求められてはいないが、圧倒的に速いことは分かっていた）と考えられており、肉眼で確認できるものではない。　だがどんなに短い時間であっても確実に１行１列目は一番に晄基に戻るため、何より先に白金鉞を通る。　なお、鉞の先にはダイアモンドが取り付けてある。そしてこの仕組み全体を白金橋という。　ダイアモンドは不蓄良導体と考えられてきたが、白金と接触すると単蓄良導体になることが月光蟲の解明以降明らかになっていた。　ダイアモンドは白金経由で１ガレットのみたくわえることができ、単に閉式をためようなどとしても握単位では大きすぎて蓄えることができない。　蓄えずに通過させるため、ずっと不蓄良導体だと考えられてきた。　ダイアモンドに１ガレットを白金経由で与えると、晄基色（陽晄なら紫）を約０．７秒の長きにわたって放つ。　これによって晄基配列を肉眼で確認することができるようになった。それとともにテンペストから送られた握数も把握できるようになった。　０．７＊１６秒間光れば元データは１握であることが分かる。これを使ってレニウム比７５％のテンペストが数学的推論通り１握を持っていたことが確認された。　また実験の結果、およそ７３％からすでにテンペストは１握しか持っていなかったことが判明した。つまりレニウムが７３～７５％の間はテンペストは単蓄体となる。　なお、白金鉞中にプールされたガレットは順次ダイアモンドに送られるが、２５６ガレットをこえるとダイアモンドの発光が途絶える。　ダイアモンドを砕いてやりなおしても光は生じない。新しいダイアモンドに交換すると光は生じるようになる。　これにより、この技術を使って半永久的に使える照明の発明は失敗に終わった。　しかし晄基配列が肉眼視できたことと、何より単蓄体が１握を含むことが確認できたことは大きい。　・複写性　魔月館を用いてルビーに記録された魔晄はもはや魔法ではなく、データとして機能する。　ゼロガレットを帯びさせたエメラルドとルビーの間に水晶板を置き、ルビー側から光をあてるとエメラルドはルビーと同じデータを持つようになる。　これをエメラルドの複写性という。　・魔動回路　鉛を２５％含んだ白金板は放晄傾向を逆転する性質があり、単蓄のテンペストを白金鉛合金で包んだものにエメラルドを接触させると１握分合金にデータが移る。　この合金にレニウムで包んだ白金の針金をつなぐ。針金の先端にトルマリンをつなぐ。そしてトルマリンの反対側にまた同じ材質の針金をつなぐ。　ここでテンペストを崩月するとトルマリンにガレットが流れる。　陽晄ではトルマリンがゼロガレットを２つ白金に流す。月晄ではゼロを１つ渡してから１つ空気中に放出する。　雄晄ではゼロを２つ空気中に放出する。雌晄ではゼロを１つ空気中に放出してから１つ白金に渡す。　この仕組みは後の電気のオンオフにある回路と同じであり、ゼロガレットの有無で回路が動く。　これが後のコンピュータにつながる。　・実践魔法学　今まで見てきた理論魔法学の対。呪文学を前身とし、jp で体系化された。呪文学を前身とする度合いは理論魔法学より大きい。　魔法を使う行為そのものよりも、魔法を使用する局面に焦点を当てている。理論魔法学のノウハウを活かしつつ進歩してきた。　ヴィルひいてはヴィードの仕組みを解明しようとするのが理論魔法学であり、魔法を使うときの仕組みを解明しようとするのが実践魔法学である。　例えば人はなぜ魔法を使えるのか、どのようにユノや αic を撃つのかといったヴィードを使用する局面に焦点を当てている。　実践魔法学（より厳密には下記の発動魔法学）は音声学でいうと調音音声学の局面に相当する。　また、撃った後どうなるかという学問は効果魔法学であり、音声学でいうと音響音声学と聴覚音声学にあたり、実践魔法学の下位概念である。　撃つ局面についての学問を特に発動魔法学といい、効果魔法学の対であり、実践魔法学の無標の下位概念である。　理論魔法学は魔珠や魔月館ができるまで大きな軍事的・経済的利益をあげなかったため、それまでは実践のほうがもてはやされがちであった。　しかし魔珠や魔月館以降は立場が逆転する。　実践は人はなぜ魔法を使えるのかという素朴な疑問から始まった。その意味では jp よりも昔から存在するが、学問体系ではなかった。　われわれは歩くように自然と魔法を使える。仕組みが分からずとも子を残せるように、仕組みを知らなくとも魔法が使える。　幼児は歩行の練習と同じく、体にたまったヴィルを体外に集中させ、何度も発動しようとする。しかしほとんどは魔法として成立しない。　幼児を観察していると、誰に教えられたわけでもなく足を使って歩く。手では歩かない。それと同じくヴィードを集中するときは手を使い、足を使わない。彼らは本能的に手のアフォーダンスを学び取ることができる。　あるときうまく立てるようになるのと同様、手に掌紋のような円陣が現れる。レガルである。レガルが出ると同時に魔法の萌芽が手のひらの前に現れる。　たいていの場合、最初の言葉がパパかママであるのと同様、最初の魔法は αic である。おそらく幼児にとって αic の閉配列（閉式魔法については後述）が最も自然に出しやすいためであろう。　あとは同じ配列を崩さないように集中しながら重合度を高めるが、これは息が途切れないように風船を膨らませたり、倒れないように自転車をこぎ続ける感覚によく似ている。　風船を膨らませるとある時点で息を吸いたくなるのと同様、重合を高める集中力が途切れる。このとき風船の中の空気を口から吸えば息が肺に戻るのと同じく、重合したヴィードを体内に戻せば光などとして消えた分以外は体に戻る。一方、息を風船から飲み戻さずに口を離すのと同じく出したヴィードを体内に戻さなければ、風船の空気がぴゅーっと出て行くのと同様に魔法が発動する。　幼児は風船に働く科学も αic に働く魔法学も知らないが、どちらも体得することができる。この意味で魔法現象は科学現象によく似ている。　仕組みを知っていれば効率よく現象を起こせるが、知らなくとも現象を起こせないことはない点が共通している。　例えば力学的にボールは４５度の角度で投げると最も遠くまで飛ぶが、その仕組みを知っていなくともボールを投げることはできるのと同様である。　・魔法を使えない人　μn まではユノを撃てない者はほとんどいないが、男性を中心に魔法を撃てない者は神代から存在する。　この原因は理論魔法学とのコラボで分かることだが、魔晄は配列が３０万種以上あり、一方ユノは数種しかないため、特定の配列を会得するのにコツがいるためである。そして女性は先天的に自分の体の中のヴィードの配列に敏感である。　また、ləllelɕı では一般的に感受性の強いタイプ、思い込みの激しいタイプ、知的なタイプ、神経質なタイプはヴィードの配列にも敏感であることが多いとされている。　なお、nn 以降はほとんどの人がユノすら撃てない。これは感受性の問題より jelej の ʔ,l 遺伝子が原因と考えられる。　・改めて重合とは　１握は正四面体を描く。光が起こる場合、その重心に光が発生する。　重合しない１握のヴィードは光が弱すぎ、知覚できない。知覚するには同じ配列のヴィードを集める。　集めることを重合という。重合度を上げると正四面体の辺が長くなり、光も大きくなり、頂点には多くの jeesc が集まる。　閉式赫晄は光を出し、閉式魔晄は閉式魔法を出すとともに光を屈折させてレガルを生む。　よく現代アルバザードのアニメや漫画ではレガルに幻字が書かれるが、あれはファンタジー上の演出にすぎず、本物のレガルに文字は浮かび上がらない。　なお、

重合度はユノ弾や魔法の威力に比例する。　　・魔法光　　ɑıc を重合している間、レガルとともに炎が手のひらの前で渦巻く。恐れを知らない幼児が左手をこれにさしこんでも火傷をしないのはなぜだろうか。　これは閉式が効果を持っていないためである。　実はこの光は炎と勘違いされやすいが炎ではなく、火属性の魔法であることを示す光（魔法光）にすぎない。　閉式魔晄は本来体内で安定するので、体外に出すと外側からどんどん揮発してヌルになる。この際、魔法の種類に応じた１１種の魔法光が起こる。　アルシアはこれを元に魔法を分類したわけである。　　闇：黒　水：青　風：緑　土：茶　火：赤　雷：黄　光：白　聖：淡い青味がかった銀　邪：黒い赤みがかった紫　利：淡い水色がかった緑　害：黒い黄味がかった緑　　聖邪利害は２色が混じってマーブルになる。　このことからこれら４種に比して闇～光が基本属性と呼ばれる。　　・閉式魔法

　　風船を口から放すと自動的にぴゅーっと空気がもれる。魔晄も同じで、魔圧を平衡するために流れだす。　そして気流が逆方向になるのと同じように、魔晄もまた逆方向になる。　何をもって逆方向というかというと、それは晄基配列である。　配列が光学異性体、つまり鏡像になることで逆方向になる。すなわち反転する。この反転によって魔晄の配列が変わり、発動状態となる。　　鏡像反転は oıllclc に起こるので、ミクロにいえばすべての ȷeesc にも起こるといえる（oıllclc は四面体の各頂点がまた四面体をしているという入れ子構造なので）。　まず ȷeesc の配列が１２３４行の順だったのが１４３２行の順になる。そして各 ȷeesc の中もまた１４３２となる。

　つまり魔晄が１２３４，２３４１，３４１２，４１２３だった場合、その異性体はまず２，４行目を入れ替え、次に各行の２，４列目を入れ替え、１４３２，４３２１，３２１４，２１４３となる。　前者が閉式魔法だと、後者が開式魔法となる。　開式魔法になると効果を持つが、時間とともに開式赫晄に変化する。　　・半式魔法　　閉式魔法から開式魔法になる際、半式魔法という状態を経る。　半式は閉式のʃ殻が０になったものである。　　閉式から開式になる際にガレットは所定の位置にワープするのではなく移動するので、移動経路ごとに渡りの配列がいくつもできていくことになる。　ではもしこの渡りの配列がたまたま別の魔法の配列だったらどうだろう。　なぜその魔法として発動しないのかという疑問が当然起こる。　それについては魔法学者たちも当然不可解に感じていたが、その答えがこの半式である。　　閉式が開式になる際に一度閉式のʃを０にしておく。　こうすることでガレットの移動中に他の魔法になることはない。　そして移動が終わったらʃをⅡに戻し閉式とすることで発動するというわけである。　まこと自然の仕組みというのは合理的にできている。　　・半式の特徴　　半式は魔法として半分成立した状態であり、開式になった際の形を持っている。　例えば eez ならつららの形として空気中に現れる。しかしまだ発射されていないので飛びはしない。　　半式は虚質量を持ち、eez ならつららの重さとして実現する。　同様に光の魔法なら虚電磁波を持つということになる。　　半式はアテンに触れた瞬間に開式となる。　例えば魔導師が何本も eez を出して威嚇しているときに誰かが前方から eez の一本を触るとたちどころに発射され、少なくとも一本はその誰かに刺さるということになる。　　・半式の配列　　半式の配列は閉式を　Ⅲlȷ　nuɑɒ　ɑφdb　hɥɹɥ　とし、開式を　Ⅲȷlǀ　hɥɹɥ　ɑbdφ　nɒɑu　とすると　0ȷlǀ　hɥɹɥ　ɑbdφ　nɒɑu　であり、あくまで開式に近い。　　これらは互いに一瞬で変化する。　その一瞬であっても配列が別の魔法になってしまわぬよう、半式があるのである。　　・持続時間とキャンセル　　術者は半式を任意の時間保っていられる。　従って eez を１０本出す際、できたものから順次撃っていくこともできるし、後からまとめて一気に撃つこともできる。

　　ただし開式にするまでは風船に空気を入れ続けるようなもので、半式で耐えている間は息こそ吹き込まないものの、風船に口を当てたまま鼻から空気を吸わないで息を止めた状態と同じである。　従って半式のままずっと止めておくのは不可能で、集中力が持たない。

　開式魔法にしないまま止めると閉式魔法に戻り、さらにそこから閉式赫晄に戻り、体内に吸収される。　廃棄した分等以外は nılɑe が戻るので、魔法のキャンセルといえる。　なお、キャンセルはユノなどにもいえることである。　　・廃棄率　　魔力の通りをよくする服装やアイテムというのがあるが、あれはどのような仕組みなのだろうか。　魔法は重合して使うもので、１００握は１０握よりガレットの数が１０倍多く、単純計算で１０倍強い。　１００握の魔法は１６００ガレットからできている。魔法物理的に考えて、この数をアイテムで増やせるわけではない。　しかしアイテムは確かに効果があるように感じられる。それはなぜだろうか。　　実は体内のヴィルを開式魔法に変える際、アナログで配列を作っているので、少し配列の違う魔晄も作られてしまう。　リコーダーは穴を押さえれば決まった周波数の音が出るが、口笛は必ずしも決まった音階が出せない。その感覚と似ている。口笛だと同じドなのに少しずつ周波数が異なるのがふつうである。　間違った配列のヴィルは重合には寄与しないので、開式赫晄に変化してしまう。つまり１６００ガレット集めるのに２０００や３０００もかかっているということである。　言い換えればヴィルを廃棄しているということになる。体調が優れないときに魔法を使っても効果が低いのは廃棄率が高くなるためである。　そして一部のアイテムは脳に働きかけて集中力を高め、廃棄率を低減する。　　なお、魔法の威力を高めるアイテムもあるが、あれもまた１６００ガレットを３２００に増やすというような代物ではない。　単に重合可能な容量を増やすにすぎない。小さい風船の代わりに大きい風船にするようなもので、膨らませれば大きくはなるがその分使う息の量も増えるのと同様、使う魔力も増える。　　・連続魔　　大道芸人やサーカスの道化が右手から炎を出しながら左手から氷を出すのを見たことがあるだろう。　同時に２つの魔法を出すのを連続魔という。２種類の魔晄を個別に同時に重合する能力が必要で、ほとんどの人はできない。　まれに右目と左目を別々の方向に動かせる人がいるように、連続魔を使える人がいる。　たいていの場合、先天的にできる者がその能力に気づいて練習し、熟練させていくものである。　ある人の出せる重合度が１００の場合、連続魔をしても２００は出せない。５０ずつになるだけであり、戦闘的にはそれほどアドバンテージがない。　よって現実には大道芸人のパフォーマンスなどとして見られることが多い。　　・魔法の覚え方と古代魔法　　魔法は一定の配列の魔晄を集め、それが閉式魔法になるかどうかで魔法として成立するかどうか調べる。　この点において魔法は経験的な存在といえる。　　後述の調合魔晄学は魔法を理論的に作る技術だが、調合魔晄学ができるまでは人も神も悪魔もこのようにトライアンドエラーの連続の中で魔法を編み出してきた。　これは要するに慣れと経験とセンスの問題なので、寿命の長い生き物のほうが必然的に長けることになる。　よって神や寿命の長い世代の人類にしか使えない魔法があり、古代魔法と呼ばれた。　　魔法の中には ɑıc のようにアテンの体が配列を作りやすいものもあれば、ɑɔµʃ のようになかなか配列を作れないものもある。　これは例えばアテンの指が内側に曲げるのはたやすいが外側は難しいというのと同じで、身体性によるものである。　従って同じアテンの中でも身体性やセレスの遺伝子が異なる者の間では、使いやすい魔法がそれぞれ異なるということが起こりうる。　つまり極端な話をすれば、ある魔族にとっては人間にとって簡単な ɑıc が非常に難しく感じられ、ɑɔµʃ は容易に感じられるということがありうるわけである。　そしてたいてい古代魔法というのは人間にとって難しくて使えなくなった魔法を指すことが多い。　　魔法は出してみて成立したらその感覚を忘れないうちに何度も繰り返すことで習得できる。　感覚を忘れてしまえば忘却となる。　筋肉と同じで怠けていると力を失うので、魔導師は日々研鑽を重ねる。　　・魔法の教授法　　魔法は感覚的なものなので人に教えるのが難しい。

　言葉だけで口笛の吹き方や自転車の乗り方を説明するのは難しく、スポーツもまた口で教えるのには限界がある。　魔法はそれとよく似ている。身体技能なのでどちらかというとスポーツに近い。結局現場ではスポーツと同じく実際に見せてみて真似させることが多い。　このとき頼りになるのは目に見える魔法光とレガル、そして半式魔法である。　例えば eez ならまず水の魔法光を出させ、「そしたらあとはそのヴィルを練ってつららにするイメージで」などといって半式を作らせる。　　スポーツも「こうだよ、こう。つま先でさ、ほらこんな風に」などと直感的に教えることが多いが、魔法も調合魔晄学ができるまでは同様であった。　同じ体育の授業をしていてもできる子とできない子がいて運動神経の違いとされるが、魔法も同じで、要するに魔法神経のよしあしがあり、たいてい女性のほうが魔法神経が良い。　　・消費 nılɑe と ɹıȷdel と熟練度　　人間は ɑıc を出しやすいが ɑɔµʃ は出しにくい。　それは指を内側に曲げるのは容易いが外側は難しいのと同じで、身体性によるものである。　指を内側に曲げるのも外側に曲げるのも消費カロリーは本来同じである。しかし指の構造上そうはいかないというだけの話である。　　魔法も同じで、ɑıc も ɑɔµʃ も握の数は同じで、最小１握である。しかし ɑıc のほうが消費 nılɑe が少ないのはなぜか。　それは ɑɔµʃ のほうが人間にとって難しいせいで廃棄率が高いためである。

　ということは同じだけの nılɑe をかければ当然 ɑɔµʃ のほうが ɹıȷdle は少ないことになる。　そして同じ人間でも慣れてくれば同じ魔法を低 nılɑe 高 ɹıȷdel で放つことができるわけで、これが魔法の熟練度を指すことになる。　　・効果魔法学　　放ったヴィードがどのように振舞うかについて研究する分野。　　・ユノ (hınɔn)　　凸式蒼晄は hınɔn として働く。虚質量を持つか (uɔll)、虚熱量を持つか (uɔnʃ,uınɔȷ)、何も持たないか (ıuɔn) のいずれかである。　閉式蒼晄を体外に出すと青い光を放って開式になる。閉式は虚質量を持つ。　開式に変化して消滅するより早く意識を手の前に集中させることで閉式の重合度が増す。　ある程度重合させ、虚質量に変えると凸になり、uɔll になる。同様に虚熱量に変えると凸で uɔnʃ になる。　ıuɔn の場合は凸になり、虚質量も虚熱量も持たない。この場合、光って見えるのは閉式だった部分だけである。　　・加速膜　　ユノを放つ際、手のひらに薄い青い膜が見られる。これは加速膜といい、閉式でできている。　手の前の閉の弾を凸に変換すると、膜と凸の間に斥力が生じる。この斥力をＦとし、凸の虚質量をｍとすると、ｍａ＝Ｆ、ａ＝Ｆ／ｍ≠０が生じるため、加速度が生まれる。　ユノ弾の質量は人体よりも圧倒的に軽いため、人間側に生じる反作用は銃を撃ったときの反動のように小さいものである。すなわち uɔll を撃ったことにより反作用で人が怪我をすることはない。　　飛行も同じ原理で、ユノに虚質量を持たせ、加速膜を利用して斥力を生じさせ、その力で飛ぶ。　　加速膜を使って相手のユノをはじき返すことは可能だろうか。これは物理的に不可能である。　相手の弾が自分の手に当たる寸前の速度をＶｔとした場合、ここに反対向きの斥力Ｆを加えて加速度ａを加えても、Ｖｔがほんの少しだけ低くなる程度であり、意味がないためである。　手に当たる寸前から実際に当たるまでは０．１秒もないわけだが、このときの速度の変化は０．１ａ程度であるから、Ｖｔ－０．１ａでは現実的にはほとんど意味がない。　　・ユノ (ʃclɒı)　　さて凸式は hınɔn だが、凹式の ʃclɒı でこれを防ぐ。ʃclɒı は hınɔn をヌル化する。　平板ガレットになった hınɔn と ʃclɒı はすぐに２つの開式蒼晄に分解される。　ʃclɒı を抜けた凸が ɒclle を侵食する。　　ʃclɒı は偏晄が容易で、弾の当たる箇所に凝縮することで、局所的な防御力を高めることができる。その反面、ɒclle に比べて総量が少ない。　しかし ʃclɒı は ɒclle よりも圧倒的に回復が早く、ヌル化した先から ɒclle が ʃclɒı に変換されていく。　ʃclɒı はたとえ０になっても敵の攻撃が止まれば１秒もせず元に戻る。　つまり人体は２段階の防御システムを持っているということになる。　　・ヴィル　　閉式赫晄は赤い光を放ち、虚質量を持つ。光を放つと開式に変化する。　赫晄のうち、開閉以外を魔晄という。魔晄は虚質量を持たないが、閉式魔法として成立すると虚質量を持ち、光を歪めてレガルが生じ、魔法光が手のひらの前に渦巻く。　赤い光でなく属性ごとの魔法光である点に注意。　　開式魔法は虚質量を持ち、魔法の内容に応じた魔法学的現象を引き起こす。　この場合も虚質量は赤い光以外のエネルギーに変換される。　例えば火の魔法は分子の運動速度を高める。よって厳密には熱の魔法である。　　開式魔法は開式赫晄になるとともに消えていく。このとき光は生じないが、魔法の効果によっては魔法自体が光を出すので、光が消えたように感じられるものもある。　魔晄の重合度を ɹıȷdel という。その

魔晄を開式に打ち消すのが dcıleȷ で、これは入ってきた魔晄を即座に分析してその透過値を与えるものである。　dcıleȷ を通過した ɗıȷdel は ɒclle を侵食する。　　・ノア　　翠晄は体内で働く。閉式が体内で筋肉の代わりとなって力を発揮するときが bɗıcn で、関節や腱などの代わりをして柔軟性を出すときは ʅlenıȷ という。　これらは閉式が何の身体部位の代理をするかという役割の違いでしかなく、どちらも同じ閉式である。　これが消費されると開式として体外に放出される。緑の光は体からうっすらともれた閉式よるものである。

ユノの場合は炎のように青い光がたちこめるが、ノアの場合は体が緑の薄い膜で覆われたように見える。　　ノアは体外に出すと急速に開化するため、魔石などを用いない限り、ユノのように弾として取り出すことはできない（実験室では別。ノアピラミッドなどを作れるため）　翠晄で強化した筋力は敵に物理的なダメージも与えるが、ノアを帯びているためヴィード傷に分類される。　実際のところ直接 µeeu を削らず先に ɒclle を削ることからもそれは明らかである。　ʃclɒı や dcıleȷ のように局所的な盾として使えるノアにはないため、ɒclle を削る割合は大きい。　　ノアで強化された格闘家は目にも留まらぬ速さで激しい威力の打撃を放つ。一発一発の ɒclle を削る割合が効率的なためである。　世界的に有名なのはヴェマの格闘兵である。肉体を極限まで鍛えた格闘兵による肉弾戦力は絶大である。　欠点はノアがほとんど体外に出せないことによるリーチの短さである。　接近戦には強いが、魔法兵や弓兵とは相性が悪い。しかし接近戦は騎兵や剣兵を遥かにしのぐ。　というのも、格闘兵の速度からすれば剣兵など象が動いているように感じられるためである。　ノアはほとんど金属にも乗らず、乗ってもすぐに減少してしまうため、爪やグローブのような武器が前提となる。あるいは裸拳である。そのためリーチはさらに稼げない。　なお金属では青銅、有機物では牛革がノアをよく通すため、素材として使われる。　　・アルマ　　アルマは開閉がなく、このまま武器にも防具にもなる。

強力なヌル化能力を持っているため、武器として使えば効率よく ʃclɒı や ɒclle を侵食し、防具として使えば敵のヴィードをヌル化できる。　　・幻晄の整理　　ヴィードは ɥənɔ（蒼晄）、ucɥ（赫晄）、nɔı（翠晄）、ıɥɒı（輝晄）、の総称である。　ıɥɒı は ɥənɔ, ucɥ, nɔı を合成したものである。　　●凸式蒼晄　　晄基配列　1ȷɱʔ　1ȷɱʔ　1ȷɱʔ　1ȷɱʔ　　効果　hınɔn として使われるもの。　凹式蒼晄を侵食し、ヌル化できる。　凹式蒼晄の分量を越えたものは閉式蒼晄を侵食し、開式蒼晄に変換する。　すなわち、hınɔn として機能し、ʃclɒı を侵食する。ʃclɒı を越えた分は ɒclle を侵食する。　　●凹式蒼晄　　晄基配列　ȷ1ʔɱ　ȷ1ʔɱ　ȷ1ʔɱ　ȷ1ʔɱ　　効果　ʃclɒı として使うもの。詳細は上記のとおり。　　●開式蒼晄　　晄基配列　1ȷʔɱ　1ȷʔɱ　1ȷʔɱ　1ȷʔɱ　　効果　アテンの体外で安定する。　hınɔn に侵食された ɒclle は開式蒼晄として空気中に放出される。　　●閉式蒼晄　　晄基配列　ȷ1ɱʔ　ȷ1ɱʔ　ȷ1ɱʔ　ȷ1ɱʔ　　効果　アテンの体内で安定する。いわゆる ɒclle。　hınɔn に侵食されると開式蒼晄になり、体外に流出する。　　●開式赫晄　　晄基配列　1ȷʔɱ　ɱʔȷ1　1ȷʔɱ　ɱʔȷ1　　効果　ヴィルの無加工形。　アテンの体内では安定しない。人間が体内で開式赫晄を作って放つのは非常に難しい。　空気中に好んで存在する。魔導師はこれを体内に取り入れて、閉式赫晄にする。開式のままだと安定せず、取り込めない。　　●閉式赫晄　　晄基配列　ʔɱ1ȷ　ȷ1ɱʔ　ʔɱ1ȷ　ȷ1ɱʔ　　効果　配列が開式の透過値になっている。

開式をヌル化することができる。　アテンの体内に安定して大量に存在するが、空気中では安定しない。　そのまま放出しようとすると無茶苦茶な配列になって放出されるため、魔導師は配列を整えて放出する。　ルーキーテは閉式をそのまま ɗıȷdel として放つ。そのまま dcıleȷ の透過値なので効率よく dcıleȷ を侵食できる。　　閉式は体内では nılɑe と dcıleȷ に分配される。　どちらも消費するとともに減る。nılɑe は魔法を使うと減る。dcıleȷ は魔法を喰らうと減る。

nılɑe は長期的に回復し、回復には時間を要する。dcıleȷ は瞬時に回復し、敵の魔法を弾いたら、次の魔法を喰らうころには回復している。　生物の赤筋と白筋のように長期的に使うものと短期的に使うものに分別して保有することで、生存競争力を上げている。

●開式翠晄　　晄基配列　1111　ȷȷȷȷ　ʔʔʔʔ　ɱɱɱɱ　　効果　アテンの体外で安定する。　　●閉式翠晄　　晄基配列　ȷȷȷȷ　1111　ɱɱɱɱ　ʔʔʔʔ　　効果　アテンの体内で安定する。蒼晄に比べ少量だが、安定していて流出しづらい。　開式翠晄になるときに生じる物理エネルギーを利用して、運動能力を一時的に強化する。　つまり消費することで開式になり、空気中に放出される。しかし休むことで閉式がふたたび蓄えられる。　　●輝晄　　晄基配列　1ȷʔɱ　ɱ1ȷʔ　ʔɱ1ȷ　ȷʔɱ1　　効果　輝晄は開閉や凹凸がなく、この配列しか持たない。アテン体外でも体内でも安定せず、すぐヌルに変化してしまう。蒼晄、赫晄、翠晄をバランスよく組み合わせることで作れるが、量は多くなく、非常に不安定。　　他の幻晄に対する侵食力が極めて高く、接触した幻晄をヌルに変える強い特性を持っている。　このため、攻撃時には相手の ʃclɒı を打ち破り、ɒclle を侵すことができる。

逆に防御時には相手の hınɔn を強力にヌル化することができる。

●透晄（ヌル）　　晄基配列　1ȷʔɱ　ʔɱ1ȷ　ɱʔȷ1　ȷ1ɱʔ　　効果　何もない空虚な状態。　放置状態での安定性は高いが、同時に加工性も高い。　アテンの肉体は透晄を吸収し、加工して蒼晄などに変える。

これは意識的に行うこともできるが、呼吸と同じで必要な分は無意識で行われる。　休むとヴィードが回復するというのは、ここから来ている。　　ほかに回復は開式を閉式に変換することでも行われる。　例えば開式蒼晄を吸って閉式にするなど。　透晄は何にでもなれるが、この場合は蒼晄にしかなりえない。　　1ȷʔɱ を並べていくと 1ȷʔɱ1ȷʔɱ……となる。　このとき 1 から見て常に ʔ は接しない晄基である。　同様に ȷ から見たら ɱ が接しない。ʔ は 1、ɱ は ȷ と接しない。

このような接しない数字のことを透過値と呼ぶ。　　ヌルの配列では接しない晄基（透過値）同士が次の指と隣接している。　1ȷʔɱ に対し ʔɱ1ȷ を重ねると、接しない幻基同士が縦方向にぶつかることになり、相克が起こる。　1,ȷ 指目は相克関係になっており、ʔ,ɱ 指目はまったく同じものが逆さまになっている。　このように透晄では相克が起き、性質的に無色透明化される。　　●魔晄 (ucucɑ)　　上記で挙げた配列以外の配列がすべて魔晄と呼ばれるもので、いわゆる魔法のエネルギーである。　上記以外のすべての組み合わせなので、魔晄の配列の組み合わせが最も多い。　だからこそヴィードの中でヴィルを使う魔法が、最も複雑な体系を持っている。　　・魔法の持続時間　　魔法は閉式魔法が開式魔法になると発動し、開式魔法が開式赫晄になるまで持続する。　銅は一旦魔晄を蓄えゆっくり揮発させる効果があり、銅に魔法を放つと徐々に魔法を放出する。このとき単位時間あたりの魔法の威力は持続時間に反比例する。　この性質を活かし、魔灯などの日用品に役立てる。　　また、ルビーから徐々に魔法を吸い出す方法もあり、これでも魔法の持続時間を長くすることができる。　　・回復の原理　　人（より厳密にはアテン）は閉式を体外に出す一方、開式を体内に取り入れ、閉式に変換する。　ちょうど二酸化炭素を出して酸素を吸うのと同じである。

体内に入る幻晄の量は体全体の体積と単位体積あたりの晄圧による。そして晄圧のほうが通常ものを言う。　金がホワイトゴールドよりヴィードを蓄えるよう、人にも蓄えられる密度がある。　この密度すなわち圧力の違いが神と人との違いであり、また古代人と現代人の違いでもある。　ただし、重合力の違いも力の差の主な原因である。　　体外からヴィードを取り込んで回復する速度もまた人によって異なる。疲れてもすぐ元気になる人となかなか回復しないで寝込む人がいるのと同じことである。　一般に老人は回復力が衰えており、幼児は蓄えられるヴィードの総量が少ない。　　回復とは基本的に減った ɒclle を戻すことである。ʅeı の魔法の原理は ɗıȷdel が対象の体内に入って ɒclle に変換されるというものである。人は閉式蒼晄を別の人に ɒclle として閉式蒼晄の形のままで与えることはできない。　また、nılɑe を ɒclle にすることもできない。それゆえ白魔導師が存在する。　　ケアはまず nılɑe を ɗıȷdel に変換する。その ɗıȷdel は開式魔法になると対象の体内に入り、ɒclle に変わる。これが ʅeı の効果である。　自分を対象にすれば自分自身も回復できるが、nılɑe を ɒclle に直接変換することはできず、あくまでケアを自分にかけることで実現する。　　・ヴィード傷とアルヴェド傷

ɒclle は衝撃から体を守る効果があるが、ɒclle も結局はユノの集まりなので、ユノ間の隙間を縫っていくらか衝撃が体に到達する。

したがって痛いとか重いといった主観的ダメージを知覚することになる。　このうち敵のヴィードがすり抜けてできた傷をヴィード傷という。　　なお ɒclle が減少した分については体に傷がついたわけではないので、ダメージとは言っても傷とは言わない。　一方、そのヴィード傷のせいでよろめいて転倒したとしよう。このときも ɒclle によって守られるが、すり抜けた衝撃でカスリ傷などを負うことがある。　こちらの傷はヴィードによるものではなく土と体の接触や摩擦によるものなので、アルヴェド傷という。　　ʅeı の効果は ɒclle の回復だけでなく、ヴィード傷を癒すものでもある。　例えば敵のユノ弾のすり抜けによってかすり傷ができたとしよう。　ʅeı はこのかすり傷をふさぐ効果がある。というよりも ʅeı はこの傷を通して体内に入る。そしてその結果、ɒclle に変換されて ɒclle が回復する。

つまり ʅeı の本来の効果はヴィード傷をふさぐことにある。　だからこそヴィード傷のない元気な状態の人間に ʅeı をかけても何も効果が現れないし、アルヴェド傷を持った人間にかけても意味がないのである。　もしそうでなければ ʅeı をかけ続けることで際限なく対象の ɒclle を増やせてしまう。（もっとも、その場合でも体内の最大晄圧は超えられないので限界はあるが）　　魔法で通常の物理的な怪我による人間を救えないのもこれが原因である。　子供のころ誰もが「ʅeı をかけ続けたら怪我をする前よりも元気になるのではないか」と一度は考えたものだろう。　それがそうならないことは大人になるにつれ経験的に知っていくが、そのからくりはこのようなものである。　　また誰もが老いて死ぬゆく祖父母に対してどうにもすることもできない魔法医に、心中怨嗟の声を投げかけてきたことだろう。

これもまた ıɒcʃc が医学的な病にほとんど効果がないことの結果である。（ただし ıɒcʃc は体を芯から暖める魔法なので、ある程度健康にする効果はある）　　・呪文学再考　　実践魔法学の発達により、ȷɒ 以前の呪文学に魔法学的根拠がないことが明らかとなった。　魔法学を紐解いても言葉が関与する部分については学問的に証明されないためである。　つまり簡単にいえば、呪文が効果的というのは思い込みや暗示の類にすぎないということである。　　実践魔法学が台頭しだしたころは実践魔法学への偏重により、呪文は一切無意味なものであると断じられた。　しかしその後 ȷɒ になると学会の実践魔法学への熱が冷めたこともあり、「そうはいうもののやはり呪文を唱えたほうが魔法の威力は明らかに強い。事実は事実と認めた上で対処しなければならないのではないか」という風潮が起こる。

これにより呪文は見直され、なぜ効果があるのかが論じられるようになった。　しかしそれは魔法学的な根拠に乏しいため、あくまで推論の域を出なかった。　　おおむね多くの学者の一致した意見はこうである。つまり呪文を唱えることで精神が集中するとともに、呪文と魔晄がセットになってパブロフの犬化するというものである。

魔晄の重合は目に見えないし触れることもできない。魔法光とレガルしか知覚できるものはない。これでは非常に特定の配列の魔晄を出しづらい。　そこである魔晄（＝ある配列）を重合するときには決まったある文を唱えながら重合するようにする。そうすると呪文という知覚できる音声が特定の魔晄と関連付けられる。　　われわれはサイレンが鳴れば火事だと分かるが、サイレンと火事は本来関係ない。　しかし関連付けられているので、逆に出先でサイレンを聞くと火事を想起するようになる。　本来は火事があってサイレンを鳴らすのに、誤報でサイレンを聞いた場合、火事を見なくても慌てるようになる。　ちょうどパブロフの犬と同じ原理である。

このパブロフの犬を利用したのが呪文ではないかというのが大方の一致である。　つまり知覚しにくい魔晄の重合作業を、知覚しやすい発声という作業で想起させる。　特定の発声（呪文）と特定の魔晄を関連づけることで、正しい配列の魔晄が得やすくなる。　これにより廃棄率を減らすことができる。その結果、呪文には効果があると感じる。　　従って ȷɒ 以前の「呪文は ɑu や ȷz のような威厳のある言語で唱えなければならない」というのは思い込みでしかなく、逆に呪文が無意味というのも誤りであるといえる。　しかし、思い込みというのは人の精神に影響を与える。ɑu や ȷz でなければ駄

目だと本人が思い込んでいれば地方の言語で唱えても効果は弱くなる。　それにより「ほらやっぱり」とネガティブに捉え、ジンクスのように逆説的に古語の品格が上がっていったと考えられる。
——つまり、ということは、別にアルカでなくても良いのだ。　（そしてこのことは現実にはアンティスのアルカに対する優位性の象徴である）　・エーステ　→ eeȷʃe の［魔法］の項　・錬金術
魔石学を前身とする学問。ȷɒ で起こり、μɑ で大成。　→ yəlcɪnʃ　・魔法工学　1ʃ00cɒ ごろから起こり、μɑ で大成。　→ μɪφnɪlen　・魔晄学　既存の魔法の晄基配列を解析する解析魔晄学と、魔法として成立する晄基配列を人工的に作って調べる調合魔晄学に分かれる。　後者は２４種のアミュレットを用いて魔法を調合していくことからそのように呼ばれる。　・獅晄　魔晄以外の幻晄を獅晄という。開閉の赫晄をも含む。　魔法学舎のレリーフが杖で、剣兵や格闘兵などの養成所のレリーフが獅子だったことから魔法以外を獅法といい、そこから来ている。　・解析魔晄学　ある握が持つ１６のガレットを ȷɒ ではエスタの子の名で表していたが、より素早く書けるよう μɑ では幻字を使って次のように示した。　ɱlȷ　nuɑɒ　ɑφdb　hყɾɥ　このとき１つ１つのガレットの入る ʃ などの位置をそれぞれ ʃ 殻などと呼ぶ。　さて、これを閉式魔法とすると、その開式は光学異性体で次のようになる。　ʃȷll　hμɾɥ　ɑbdφ　nɒɑu　このうち位置が開閉のどちらにおいても変化しないものは ʃ, l, ɑ, d である。　１, ３行目は動かないガレットがあり、２, ４行目はみな動く。　２, ４行目をその位置関係からそれぞれ天行、地行といい、１, ３行目を頭行、胴行という。　また、ʃ, l, ɑ, d 殻を静殻、それ以外を動殻という。　このうち ʃ は幻晄線および晄基線の最も先端にくる殻であり、これを頭殻（トップノート）という。　頭殻はそのヴィードの顔であり、全体の性質を決定する、ということを解析魔晄学は明らかにした。　獅晄のトップノートを見てみると、１, ２, ３のいずれも現れているが、４だけは現れない。　解析の結果、魔晄のトップノートは必ず４になることが分かった。すなわちトップノートが４かどうかで魔法になりうるか否かという全体の流れが定まる。　残るは l, ɑ, d の３殻であり、ここにそれぞれ１～４のガレットが入る。　このうち l と ɑ は魔法の属性を決定する殻で、属殻という。　l は ɱ 以外の３種で、ɑ は 1～ɱ の４種であり、都合１２通りとなる。　l が ɹ のときは相魔法といい、相殺関係にない魔法である。　l が 1 か ʔ のとき（1 と ʔ は互いに透過値）は、相殺関係にある克魔法という。　相殺関係とは火と水のように、打ち消しあう関係のことである。　火の魔法を打ち消すのには水の魔法を使うのが効果的であることや、火の属性の魔物に水の属性がよく効くことは、これらの魔法が相殺関係にあることから来ている。　他方、ケアを害の魔法でかき消すことができないのを見ると、利と害が相殺関係にないことが分かる。また、土の魔法を相殺する属性がないことも経験的によく知られている。　解析魔晄学は、l が 1 で ɑ が ɹ の魔法は、l が ʔ で ɑ が ɱ という魔法で相殺できることを明らかにした。　{1,ɹ} と {ʔ,ɱ} はそれぞれの殻同士が透過値であることから属殻部分がヌル化され、魔法の骨子たる属性を失うために相殺が起こるのではないかと考えられた。　他方、l が ɹ の場合、l が ɱ になるものがあれば理論的に相殺可能だが、魔晄はトップノートが ɱ で始まるため、l が ɱ になることはありえない。　それゆえ相殺関係にない魔法が４種存在することになる。それが利、害、土であればこれまでの経験知に背かない。そしてそこに魔法光のない無属性が加わってちょうど４種となる。　組み合わせごとの魔法の属性は以下のとおり。　l,ɑ 属　－－－－－　ɹ,1 利　ɹ,ɹ 土　ɹ,ʔ 害　ɹ,ɱ 無　1,1 闇　1,ɹ 水　1,ʔ 風　1,ɱ 聖　ʔ,1 雷　ʔ,ɹ 邪　ʔ,ʔ 光　ʔ,ɱ 火　このうち ɹ,ɱ 無以外は魔法光を放つ。これは可視できるため、ʅl でアルシアはこの光を元に魔法を１１種に分類した。　アルシアは１１種に分類できない魔法を無属性としており、魔法光の出ないことを特徴のひとつとしていた。　無属性が事実存在することは誰も否定しなかったが、無属性というのは他の１１種より広い範囲を持ったものではないかと考えられていた。　しかし解析魔晄学は無属性が他の属性と同位であり、属性のひとつでしかないことを明らかにした。　なぜ ɹ,ɱ のみ特殊なのかを推理すると、ʃ と l、l と ɑ がそれぞれ互いに透過値になっており、これは他の組み合わせでは見られないことが何らか関与しているのではないかと考えられている。　・魔法の段位　さて残る静殻は d 殻であるが、これは何の働きをしているのだろうか。
　d 殻は ɑ 殻で使ったガレットを除いたものから成る。その出現パターンは 1～ɱ の４通りである。　闇の魔法では 1 以外の３種、聖では ɱ 以外の３種というように、d 殻全体の出現パターンが４通りあっても、各属性ごとには常に３種しか存在しえない。　解析の結果、d 殻は重合、つまり魔法の威力に関与することが明らかとなった。
我々は ɑɪc と聞くと子供でも使える簡単な魔法というイメージを想起する。その一方で、ɑcɪlccuɪ と聞くと極めて強い魔法だと感じる。　しかしこれはおかしくないだろうか。ɑɪc も ɑcɪlccuɪ も配列が違うだけで、１握の ɑɪc は１握の ɑcɪlccuɪ と同じ威力のはずである。　だが日常的には ɑcɪlccuɪ のほうが強く感じる。これはなぜかというのが長年の疑問であった。　魔法には段位があり、zφ の段階で既に経験的に低位、中位、高位の３段階に分類されていた。　実はこの３段階という主観は的を射ていたということを解析魔法学は明らかにした。　ɑ 殻が ɹ のとき、d 殻が透過値の ɱ の場合、その魔法は低位となる。　同様に d 殻が ʔ の場合、その魔法は中位となる。　そして d 殻が 1 の場合、その魔法は高位となる。　これ以外に組み合わせは存在しないため、３段階分類は魔晄学的に正しかったことになる。　段位の組み合わせは以下の通り。　ɑ,d 段　－－－－－　1,ɹ 高　1,ʔ 低　1,ɱ 中　ɹ,1 高　ɹ,ʔ 中　ɹ,ɱ 低　ʔ,1 低　ʔ,ɹ 中　ʔ,ɱ 高　ɱ,1 中　ɱ,ɹ 低　ɱ,ʔ 高　・経常廃棄率　ところでこの段位というのは魔法学的には具体的に何を示すのだろうか。　これは経常廃棄率である。経常廃棄率とは、「重合の際に常に一定の割合のヴィードを廃棄しますよ」という意味で、これが少ないほど同じ数のヴィードを消費したときの重合度は高まる。　廃棄率については前述の通りで、人は１００のヴィードを使っても１００を重合できるわけではない。個人差が大きいし、その日の体調によっても異なる。　例えば１００のうち８０しか重合できないとしよう。ここで魔法の段位によって経常廃棄率が掛かるので、さらに「高位の場合は７０まで重合できるけど、低位の場合は５０までしかできないよ」というようなことが起こるわけである。　廃棄率は間違った晄基配列の握が捨てられることについての値である。集めた握の配列がすべて間違っていなければ、廃棄率は理論上ゼロになる。　一方、経常廃棄率は正しい配列の握のうち捨てられてしまう握の割合を指すので、原理が全く異なる。　つまり配列は合っていても漏れなく重合できるわけではなく、どれだけ効率よく重合できるかは最終的にこの経常廃棄率にかかっている。　しかしなぜこのような段位の差が生まれるのだろうか。それは静殻である ɑ と d の関係による。　ɑ 殻は魔法の属性を決定するが、d 殻はそれを補佐して同じ配列を集めて重合する糊のような役割を果たす。　そして ɑ 殻の透過値を d 殻が持つ場合、重合の際に干渉が起こり、重合しにくくなる。　分かりやすく言うならば上司が ɑ で d が部下だとし、透過値というのは反りが合わない状態を指すとした場合、ɑ と d が透過値の関係にあれば、仕事の出来高である重合度は当然悪化する、という話である。
一方、中位と高位はどう決まるのだろうか。　そもそも 1 と ʔ が透過値になるのは、これらが組み合わさって平板ガレットになるためである。　魔法学者はガレットには凹凸があり、1 と ʔ、ɹ と ɱ は互いに嵌りあうと考えていた。　他方、1 と ɹ、ʔ と ɱ はそれぞれ同方向のスピンを持っていると考えていた。ただしガレットを観測するのは不可能なので、あくまで説のレベルにすぎない。　そして同方向のスピンを持っているガレットの組み合わせのほうが経常廃棄率が低い。ゆえに 1,ɹ は高で、1,ɱ は中となる。　先ほどの喩えを借りるなら、上司と部下が同じ方向性で仕事をしていると仕事の効率がよくなるのと同じである。　ところで、甘く撃った ɑcɪlccuɪ より本気の ɑɪc のほうが強いことがあることも我々は知っているが、これはなぜだろうか。　これは単にこういう問題だ。先ほどの１００の重合度を出せる人のケースでは、高位は７０まで、低位は５０まで出せるとした。　もし低位をマックス５０まで高め、高位を３０に抑えたら、当然低位のほうが強くなる。これが撃ち方による威力の違いの原因である。　なお、ＡさんとＢさんの魔法の威力が異なるのも同じ理屈である。　そもそも重合できる限界値が１００の人と５００の人では威力が違う。５００の人の本気の低位は１００の人の本気の高位より強くて当然である。　・多段魔法　ɑɪc を前例で出したが、実は ɑɪc や ʅeɪ などは低位ではなく多段魔法という。　これは重合をしていくにつれ、ある時点で段位が変化する魔法のことである。
　多段魔法はその属性の基本的な魔法に多い。　例えば火の低位魔法は {l,ɑ,d}={ʔ,ɱ,ɹ} であり、ɑɪc の初期の形もこれである。　ところがこれを重合していくと、ある時点で配列が {ʔ,ɱ,1} になり、中位になって経常廃棄率が落ちる。　そしてさらに重合を続けると最終的には {ʔ,ɱ,ʔ} になり、高位となる。　これは非多段魔法では起こらない。低位は低位でしかなく、昇段しえない。　多段魔法のメリットは威力をどんどん高めることができる点である。　（ＦＦでいうならファイア、ファイラ、ファイガ、ケアル、ケアルラ、ケアルガを想像すれば分かりやすいだろう。非多段とはテレポやメテオのように段階がないものと考えればよい）　しかしその反面、ɑɪc などの多段魔法を初手から高位として放つこともできないのがデメリットである。　そのため多段魔法は高位魔法に比べ、やや時間のロスがある。　また初期の経常廃棄率が高いため、全体的な廃棄率は高い傾向にある。　・セレス　→ ȷeleȷ　・調合魔晄学　ヴィードは３３万種以上も存在するが、解析魔晄学の進歩により、魔法として成立しうる組み合わせは激減した。　頭行は ʃ に ɱ、l にもうひとつが入る。この時点で残る ʅ,ȷ は２通りである。胴行も同様に２通りである。　一方天地行には４！＝２４通りがそれぞれ存在する。
よって全体の順列は２＊２４＊２＊２４＝２３０４である。　このうち半分は開式魔法になりうるもので、半分は閉式魔法になりうるものである。　よって魔法として成立するかを調べるには半分の１１５２でよい。　この１１５２通りが各１２属性に存在するので、都合１３８２４通り調べればよいことになる。　もともと３３万通り以上あったものが１万程度に収まったことで、それまでは人間が使える魔法を分析するという帰納的な手法しか使えなかった状況から、今度は人間が知らない魔法をアミュレットの組み合わせで演繹的に作ることができるようになった。　３３万通りもあれば人工的な魔法作りは難しいが、１万程度ならばずいぶん手間が省ける。このことが調合魔晄学の素地を固めた。　とはいえ１万は１万である。その作業は途方もないものであった。　・古代魔法の復古　調合魔晄学はアミュレットを用いて人工的に魔法を作成する学問である。　解析魔晄学の成果を受け、μɑ では文献にしか残っていなかった古代魔法を復活させることに成功した。　神は一部の古代魔法を知っているが、自らのアドバンテージを維持するために人間には使い方を伝授せず、秘密にしてきた。　それを人が自らの手で復活させたということは、重合力はともかく人間が神の領域に ʃɒ 以降初めて再び迫ったことを意味する。　・そして魔法研究所へ　調合魔晄学はそれまでの魔法学の集大成であり、魔法学の分野の中で最も新しく、すなわち魔法学最後の分野である。　μɑ で調合魔晄学が花開いて全盛を極めた魔法学であったが、1ʕ00cɒ ごろを境に衰退を見せ始め、nɑ では人間の弱化にともなって急激に科学の独走を許していくことになる。　これが現代の魔法研究所に至るまでの魔法学史である。　魔法研究所はこれまでの成果をまとめることが実質的な業務である。　魔導師自体がほとんど残っていないため研究の進歩は難しく、さらにその学問を軍事的・政治的・経済的に使うことが難しいことからも、税金の無駄遣いと非難されることが多い。　そのため ıl の魔法学は困窮しており、位相幾何学の観点で見た四面体構造の合理性など、いくつかの発見を除いては成果を挙げられていない。　・魔法意味論　魔法にはもともと名前がついているわけではない。　魔導師の立場に立ってリアルに考えてみよう。新しい魔法というのは開式魔法が発動した結果生じるものである。　このとき ɑɪc のような見てすぐに意味の分かる魔法ならよいが、ɑɔμʃ のように意味の分からないものもある。ɑɔμʃ など、目の前にヴィード死体がなければ何にもならない。　術者は新しい魔法に対面したときその効果を知らないので、おそるおそる実験

することになる。　結局のところ何の効果があったのだかわからないことも多々ある。そのような魔法を意味が不明瞭な魔法という。逆に ɑɪc などは明瞭という。　　こうして魔法の意味を解釈し、その効果や使用法を定めていくのが魔法意味論である。　魔法意味論の考え方自体は神代からあったが、体系化されたのは実践魔法学の下位概念としてであるから、ȷɒ 以降である。　　・意味素性　　魔法の意味を示すもの。　　魔法は味方にかける白魔法と敵にかける黒魔法に大別される。　ɑɪc は黒魔法であり、これを +ueɥ で示すと、ʅeɪ は −ueɥ で示すことができる。　また ɑɪc は火の属性であるから、+ɑɪc で示すことができる。　　こういった ueɥ などを意味素性と呼び、+− で示すことができる。　これを使えば魔法を意味の集まりで客観的に示すことができる。　また、ɑɪc と ʅeɪ のようなそれ自体では比較できない魔法同士を、素性同士を比較することで結果的に比較できるようになる。　　ɑɪc の意味素性分析は以下のようになる。

ɑɪc={+ueɥ, +ɑɪc, +ȷencɑ}　ȷencɑ は多段魔法である。　　ある意味を持つか持たないかを +− で表す方法のほかに、有する意味そのものを記す方法もある。　これを併用すると ɑɪc は以下のようになる。

ɑɪc={+ueɥ, ɑɪc, ȷencɑ}　+ueɥ を二値型の意味素性とすると、ɑɪc や ȷencɑ は非二値型ないし一値型の意味素性といえる。　　なお、意味素性は言語学でも使われ、魔法学が言語学に輸出した概念である。　　・魔法実験と魔法倫理学　　魔法の効果を調べるにはまずエタンとアテンを用意し、両者に対する効き目の違いを調べる。最初はエタンで調べる。次はアテンだが、人間を使うのは問題があるため、魔物を使う。次に人体実験を行う。　　ただし魔物を使うのも魔人などから非難を受け、人間を使うのも事実上奴隷を使うことになり、いずれの場合でも倫理的な問題がある。　ȷɒ 以降、魔法意味論の整備に伴って、魔法倫理学も発達した。　　・ɒeȷʃ　　意味が不明瞭な魔法はたとえ魔法として成立しても効果が分からないということで忘れ去られることが多い。　ɑɔɥʃ のように不明瞭な魔法の効果が発見されることは稀である。　そんな魔法のひとつに ɒeȷʃ がある。　　ɒeȷʃ は光の魔法で、これ自体は人間は ɑɪc のごとく簡単に重合できる。　しかし ɒeȷʃ は白い光が直線に飛んでいくだけなのがまずかった。　光の魔法で白い光が出るものは目新しさがまったくなく、むしろよくあるパターンである。従って照明魔法の一種程度にしか捉えられなかった。　また、エタンに当てても何も効果がないことも、発見が遅れた理由のひとつであった。　アテンに当てると効果が如実に出るが、だからといってその効果を解釈するのは難しい。それゆえなおさら発見が遅れたと考えられる。　　さて ɒeȷʃ をアテンに当てるとどうなるかだが、まず対象に当たると正面に跳ね返る。　その後光が８本の柱に分岐する。８本の柱はそれぞれ色が異なり、左が赤で右が紫である。　要するにプリズムの分光なのだが、色の推移がアナログではなく８個に分かれたデジタルである。つまり虹のようなアナログではなく、８色の光の柱に分かれるということである。　　これだけ見たら何のことか分からない。

ɒeȷʃ 自体をたまたまアテンに当てた人は ʅʅ 以前にもいたかもしれないが、最初にこの魔法の意味に気付いたのは ʅʅ の uccz という魔法学者であった。　　ɒeȷʃ を色々なアテンに当てると、個体によって柱の長さが異なる。女性は赤側が長く、男性は青側が強い。　比較の結果、ヴィーズは左の赤側がヴィル、中間の緑側がノア、右の青側がユノの量にそれぞれ対応しているのではないかと考えた。しかし光が３本でなく８本なのが不可解である。　実験の結果、例えば赤の柱は魔法をどれだけ使えるかを示し、橙の柱は魔法の重合力を示していることが分かった。　以下分析を続け、ヴィーズはこれまで４種しかなかった幻晄を８種に細分化し、enuelen と名付けた。→ enuelen　内訳は赤側から順に赤 nɪlɑe, 橙 ɾlɪjdel, 黄 dcɪleȷ, 黄緑 bɾlɪcn, 青緑 ʅlenɪȷ, 青 ʃclɒɪ, 青紫 hɪnɔn, 紫 ɒclle である。　　ɒeȷʃ を使えば対象の強さを調べることができる。戦力分析に役立つこととなった。　光の柱は個体によって長さがかなり異なる。そこで単位を決め、lənɔn を用いて何ルノンのように示した。　これにより ɒclle ２ルノンは ɒclle １ルノンより２倍多いというように、ヴィードの多寡を数値で表せるようになった。　　・nɪuc　　→ nɪuc　　・魔法鏡　　ɒeȷʃ は多段魔法で、低位だと反射光が対象の目前まで行く。中位では中間、高位では術者の目前まで行く。　段位間は狭く、重合していくとすぐ高位になる。　　光の柱を lənɔn で測ることにしたのはよいが、目盛りがない目算なのできちんと測れない。例えばきっちり２３ルノンなど測りようがない。　そこで開発されたのが魔法鏡である。　　月晄を浴びた泉の水をガラス板２枚の間に入れ、ガラス板を閉じ合わせ、水が漏れないようにする。　このガラスに ɒeȷʃ を通すと空気中と同じく光が分散して８本の光の柱が出るが、このとき柱の長さが空気中より短く表示される。　この現象を利用して縮尺として使うのである。　　水の量やガラスの厚さなどにより、縮尺は変化する。　空気中で実測１ルノンが等倍の１ルノンになるように製造したものを低位魔法鏡という。　縦の長さは１ルノン＋上下の余白で、横はその黄金比で、縦より長い。　ガラスの縦方向に温度計のように目盛りをつけ、１ルノンをさらに１００等分する。　　縮尺を変えて1/１０にしたものを中位魔法鏡といい、目盛り１ルノン分で実測の１０ルノン相当（≒１８６ｃｍ）まで測れる。

1/１００が高位魔法鏡で、１００ルノン（≒１８６０ｃｍ、１８．６ｍ）まで測れる。　つまり空気中だと１００ルノンにも及ぶ高い光の柱を魔法鏡だと手のひらサイズで表示でき、しかも目盛りで数値まで測れるというわけだ。　　やり方としてはこうである。まず高位の ɒeȷʃ を放ち、その反射光を手に持った魔法鏡に映しこむ。

すると相手の enuelen が鏡の中に表示され、目盛りで各要素の値を調べることができる。　なお魔法鏡はいったん光を受け取ると、次に使うまで光が残るので便利である。　むろん魔法鏡を使わずとも ɒeȷʃ だけで直感的には相手がどのくらいの強さか判断できる。

ɒeȷʃ はどんなに重合しても一定以上の重合度では効果が変わらない。　重合度を最も上げてもおよそ１１３ルノンまでしか測定できない。　よって魔法鏡は1/１００までのものしか製造されない。１００を超えるとカンストであり、高位を使ってもそれ以上は測れない。　　魔法鏡は ȷɒ でアルバザードの魔法学者の ʅɪnɷc が発明した。

lənɔn はおよそ１８．６ｃｍで、これが魔法鏡のゲージの長さとなる。　ゲージは１００等分されているから、最高が１ルノンで、最低が０．０１ルノンである。　０．０１ルノンは言いづらいのだが１センチルノンに相当する言い方が当時なかったため、ʅɪnɷc の名から取って ʅɪnɷcl とした。　つまり１００カンディルで１ルノンである。

中位では１ルノンのゲージが実測１０ルノンを指すので、１ゲージで１０００カンディルを示す。高位では同様に１００００カンディルを示す。　つまり１万カンディルで魔法鏡はカンストである。

当時は初期 ȷɒ で、人間には中位が使われた。　ɥɷ になると人間には低位を使用するようになった。成人男性の平均 ɒclle は１００カンディルで、空気中のルノンに直すと１８．６ｃｍである。　７歳少女の平均 ɒclle は３０カンディルで、成人男性の軍人は平均２００カンディルである。　　・減算測定　　ɒeȷʃ をかけた状態でヴィードを使うと、リアルタイムでゲージが目減りする。　これを利用して消費ヴィードを測る。　しかし廃棄率と経常廃棄率があるため、測りづらい。ではどうすればよいか。　　たとえば魔法の場合、まず消費 nɪlɑe と ɾlɪjdel の差を比べよう。ɾlɪjdel は重合の限界値である。これを１０とする。　魔法を使うと ɾlɪjdel が減少する。６減れば４残る。ɾlɪjdel はすぐ nɪlɑe から補充される。例えば nɪlɑe が１００だと６補充されて９４になる。　ɾlɪjdel を６使ったうち、廃棄と経常廃棄を足した総合廃棄を調べることはできない。ではどうするか。　　・琥珀測定　　魔封石の琥珀に魔法を撃ち込む。そこに ɒeȷʃ を当てると最初の魔法が飛び出す。　さらにそこに任意のヴィードを当てると ɒeȷʃ が飛び出す。これを魔法鏡で取り込むと、ɾlɪjdel の部分だけ表示される。　上のケースでは、その数値が５であれば１が総合廃棄量である。　　・不可視光線　　解析が発達した ɥɷ においてセレスの仕組みが解明されたころ、ɒeȷʃ にも新たな動きがあった。　ɒeȷʃ で不思議なのは、ɪɥɒɪ, ȷeleȷ, φɪleeɒ を示す光がないことであった。これは ɥɷ で解明された。　　実は ɒeȷʃ の柱は８本というのは誤りで、それは可視光線でしかなかったのだ。　不可視光線も入れるときちんとほかの要素も分析されていた。　ただよく考えれば当たり前で、そもそも可視光線の波長域は狭いのだから、人間に都合よく毎度可視光線なはずがない。むしろ今までの現象が可視光線で助かったといってもよい。　なお ȷeleȷ は紫外線で、ɪɥɒɪ と φɪleeɒ は赤外線である。

このうち前者の発見は低位死神を用いた実験で明らかになった。

死神は長めの波長の紫外線（紫に近い波長だが人の目には見えない）が見えるため、ɒeȷʃ を使うと紫の外が見える。　なお、後の学者はこのことから ɪɥɒɪ と φɪleeɒ が逆の赤外線側にあるのではないかと予想し、科学と魔法学を組み合わせ、これらが近赤外線であることを明らかにした。　　・暗領域と ɪɥucnɪ　　ɒeȷʃ を使うと８本の柱が現れるが、それぞれの柱は下部が暗く、上部が明るい。　下部の領域を暗領域、上部を明領域という。　暗領域は圧倒的に短い。

ȷɒ になると暗領域の意味が解釈された。　例えば ɒclle が 100 の人の暗領域が ʔ とする。このときに Lʕʅɪnɷcl のダメージを当てるとその人はヴィード死する。残り ʔ は削る必要がなく、また削ることもできない。　このことから暗領域は生命活動そのものに根ざしており、戦闘用ではないのではないかと考えられた。　　ユノが多い人は日常的に活き活きしており、頭を使うとヴィルが減り、気をすり減らすとノアが減るなどといった現象は誰もが体感している。　ヴィードは戦闘に使うが、ユノ弾を撃ったからといって活き活きしなくなるということはない。　ということは日常生活に関与した部分は暗領域に支配されているのではないかと考えられる。　　そこで神々と人間を比べてみると、明領域は天地ほどの差があるのに、暗領域ではほとんど差がないことが分かる。　むしろ人によっては神より暗領域が多いこともザラである。　　考えてみれば神の高い nɔɪ をもってすれば、神はいくら疲れても鬱にならないはずである。　にもかかわらず elȷ のような鬱な神がいる。また、ベーゼルのような肝を痛めた怒りやすい悪魔もいる。彼らの高い nɔɪ を考えればありえない話である。　ところが調べてみるとどうも彼らのような神は暗領域の nɔɪ が少ない。　　こういった実例から、暗領域の役割が解明されてきた。　つまり暗領域は生活用で、明領域は戦闘用というわけである。　アシェットのフルミネアは ɥənɔ が多いが、活き活きというよりは大人しく物静かな女性である。そして調べてみるとやはり暗領域の ɥənɔ が少ないことが分かった。　　明領域は先天性や戦闘経験や修行によって増減するが、暗領域は主に生活リズム、食餌、健康状態、運動習慣、呼吸、睡眠などによって増減する。　食餌は特にユノに効果があり、呼吸は特にノアに効果があるなど、得意分野はそれぞれ異なる。　　結果、暗領域の増幅と安定は国民のＱＯＬを下支えするという考え方が起こり、ȷɒ 後期で ləʅleʃcɪ と魔法学が合わさって ɪɥucnɪ ができる。　ɪɥucnɪ はさらに ɥɷ でリディアにより深められ、一般の国民にも紹介された。　その後 ɪl でミロクにより推進され、さらにアルバザード全土に広く普及した。　　・自然回復　　ヴィードは時間とともに回復する。空気中の透晄を取り込んで変換するためである。　低位魔法鏡で測れるレベルであれば、１０分で１％程度回復する。よって１０００分で全回する。　ɥɷ の人間であれば１７時間程度で全快することになる。宿屋に泊まって翌日にはおおむね回復というイメージに沿う。　　中位では１００分ごとに１％程度である。１００００分なので、１６６ｈ、６．９ｄなのでほぼ１ｗ。　弱い神や魔物や上代の人間がこれに当たる。１ｗ寝込むので風邪のようなもの。　　高位では１０００分ごとに１％程度。１０００００分なので１６６６ｈ、６９ｄ、２．３ｍかかる。

ここまで行くとふつうに回復するのは難しいので ɪleʃ が必要になってくるわけである。アレットを使えば１０分で１％程度になる。　　・ヴィード死からの回復　　ヴィード死すると回復には１０～１００倍程度の時間がかかる。　しかし肉体的な死を迎えないのが特徴である。　例えば神がヴィード死すると１０万分（ふん）の１００倍で千万分（ふん）だとして、６９４４ｄ、２３１ｍ、１９．２ｙほどかかる。　　uȷ のころは神も悪魔も上代よりさらに強かったため、そもそも１０００分ごとに１％ですらない。　そういった事情もあって ɾlu などのころは戦争が長引いたのだといえよう。特に人員が少ない ɾlu ではすぐ膠着ということもある。　　上代になると人間は事情が変わる。　ヴィード死したまま放置すると肉体的な死を迎えるようになる。　期間はヴィードの総量に比例し、ɥɷ の人間で数日、上

代の人間で数週間程度もつ。なお、寒いところのほうが長持ちする。
これにより古代魔法 ɑɔµʃ が作られた。神はもともとヴィード死から肉体的な死に移行しないので ɑɔµʃ が必要ない。　・魔法物理学　ɒeʝʃ と魔法鏡でヴィードを定量的に捉えることができるようになり、それによってヴィードの効果を物理的に捉えることができるようになった。　科学の物理学と並行して成長した分野で、ɟɒ で起こった。　・ユノに関する諸計算　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/yuno3.pdf
・加速膜斥力　アテンが１秒浮くのに使うハノンは個体によって異なる。重い個体ほど大きいエネルギーが必要である。　実験の結果、ʕlcɔn の人が１秒浮くのにおよそ 0.1hınɔn 必要と分かった。これは 0.1 ʅınɑcl e hınɔn の意味である。　加速膜斥力は重力をＧとすると、体重によらず中世の人間がおよそ１．２Ｇ、上代が１．５Ｇ、神々は２Ｇである。　アルデスは２Ｇまで出力できるので、0.ʇhınɔn で１秒飛べる。ʅʔ0cɔn の人間は１秒浮くにも 0.ʇhınɔn 必要になる。
ʕlcɔn の男性が 100ɒclle で 10hınɔn の場合、どれくらい飛べるか。
飛ぶのは hınɔn を使うが、hınɔn は消費すると ɒclle から回復するので、結局 100hınɔn 分飛べることになる。　ʕlcɔn の人が１Ｇ使って浮くと、１０００秒浮ける。同じく１．２Ｇ使って飛ぶと、８３３秒飛べる。それぞれ約１６分と１３．８分である。　すなわち µɑ の人間は全力で１４分飛ぶとヴィード死する。　１．２Ｇということは、荷物を持ったら飛べない。　１．５Ｇでも自重の半分程度しか持てない。　２Ｇでも体重程度まで。しかも体重まで持つと浮くことしかできなくなる。　ゆえに神人貿易が栄えた。　・斥力の安全性　中世の人間の斥力は体重によらず１．２Ｇ程度である。　つまり ʔ0cɔn の人も ʅʔ0cɔn の人も同じ速度で飛べる。最大速度は同じである。　ただし消費 hınɔn は軽いほうが少ない。　なぜ１．２Ｇで固定かというと、生命の合理性にある。　仮に人類が女性が飛べる程度のＦを出せるとしよう。　このとき男性は浮けもしなくなるし、幼児は頭を天井にぶつけて死ぬ。このような生命では早晩滅ぶ。
ゆえに体重に比例するＦを出せるようになっている。その比例の結果、出せる出力は１．２Ｇ程度に固定される。　体重が減ればジャンプ力は増えるかというと、筋肉も細るので飛距離は変わらないというのと似ている。　自分の質量＊重力加速度９．８の１．２倍まで出力でき、これがＦである。Ｆは体重（厳密には質量）に比例する。
同じ１．２Ｇ出力してもＧの内訳はここではｍａなので、ｍに比例して大きくなる。　なので ʅʔ0cɔn の人が１．２Ｇで飛ぶのは ʕlcɔn の人が１．２Ｇで飛ぶのの倍の hınɔn がかかる。　・虚質量とユノの形　閉式蒼晄を体外に重合すると、hınɔn として出すことになる。
この hınɔn は虚質量を持つが、hınɔn の形によって質量が変化する。
虚質量を持つ場合、主に形は２種類ある。　１つは薄い膜状のもので、飛行に使う。１つは弾状のもので、攻撃に使う。　膜の場合、極めて薄いシートになる。　これと加速膜との間に斥力を生じさせ、足元に噴射する。　この反作用により体が浮き上がる。つまりロケットと同じ原理である。　シートの面積は足元に出すなら自分の肩幅程度で、前に進むなら身体程度である。　虚質量は膜状だと消失が早くなる代わりに質量が大きくなる。薄いシートにも関わらず極めて重い値になる。　６０ｋｇの人間を浮かす場合、１７０ｔの虚質量を噴射すれば仕事率は１Ｗで済む。１００Ｗでも１．７ｔである。　浮くだけでそれであるから、いずれにせよシートは非常に重い。　一方、弾にすると質量は極めて軽くなり、1cɔn 程度になる。　・uɔl̩l　通常 1cɔn 程度の質量を持ち、1lənɔn 程度の直径を持つ。　重合度と体積は比例するが、ɥ ɺ=l のグラフになるため、弾の直径は頭打ちである。　つまり人間と悪魔の uɔl̩l には天地ほどの hınɔn の差があっても、弾のサイズは大して変わらないということである。　質量には幅があり、人間では 0.ʇlcɔn ～ ɺcɔn 程度である。　直径も同様で、スーパーボール～ボウリングの弾程度である。　一般的な値は質量が 1cɔn で直径が 1lənɔn 程度である。
強力な悪魔の弾は最大バランスボールくらいの大きさになる。
弾の時速は５０～２００キロエルア（≒ｋｍ）程度である。　つまり国道を少し遅めに走る車から、野球選手より何十キロか速い程度、あるいは新幹線程度である。　すなわち銃より遥かに遅い。目で見てよけられるレベルである。（避けるや弾くといった動作がないと、ファンタジーバトル的にヴィード戦がつまらない）　uɔl̩l における hınɔn の多さは uɔl̩l の弾数を示す。uɔl̩l 一発一発は人も神もそう大差ない。　何が違うかというと連打率である。uɔl̩l は連打してなんぼの攻撃なので、神々は大きな一発を放つのではなく、激しく連打を重ねる力があるといえる。　とはいえ神々の uɔl̩l は人間に比べて大きく速く強い。その上弾数も多いので、極めて強力である。　・uɔnʃ　hınɔn の重合度に関せず熱は１００度程度で一定。（あまり高いと金属を人力で加工したり氷床を溶かしたり鉱山を手で掘れたりして便利すぎ、歴史が狂う）　重合は uɔnʃ の幅（直径）とすなわち飛距離に関与する。　光なので直線に飛んでいき、徐々に消える。（かめはめ波のようなものをイメージすればよい）　人間の uɔnʃ はせいぜい懐中電灯の灯りくらいの手のひらサイズの直径だが、神々の uɔnʃ は刑務所のサーチライトくらいの直径があり、身体より直径が大きいこともある。　・ıuɔn　ıuɔn は熱も質量も出さないので、純粋に hınɔn による ʃclɒı および ɒclle の削りである。　・uınɔȷ　uınɔȷ は原理は uɔnʃ と同じである。　周囲に出すことで敵を一掃できる。周囲を完全に取り囲まれない限り、エネルギー効率は uɔnʃ より悪い。　・ʃclɒı とホメオスタシス　ʃclɒı は防御以外に重要な役目を持っている。対アテンよりも対エタンで重要な特徴を持っている。　ʃclɒı にはエタンから受ける衝撃を緩和する役目がある。その緩和率は衝撃の強さに比例する。　従って、軽く触れたくらいではほとんどそのまま衝撃が ʃclɒı を通過するのに、爆弾並みの衝撃では高い緩和率が働いて衝撃をほとんど通さない。　銃弾や爆弾程度なら軽く突き飛ばされるか倒れこむ程度である。　だから悪魔に銃弾や爆弾は効かず、µɑ までは銃火器の発達も遅れた。　そしてだからミロクやソーンは少なくとも起床時には暗殺することができなかった。　ʃclɒı には衝撃を緩和して平生の自分でいるためのホメオスタシスの効果があるといえる。　これは宇宙で生まれたアテンには生きていくために必須の能力であった。　圧力が低すぎたり逆に高すぎたりする空間でも生きていくにはこの能力が必要で、だからこそ能力の高い悪魔や創世記の神は宇宙で暮らすことができた。　ʃɒ 以降の神は宇宙で生きることもできるがアトラスでの生活を選んでいるあたり、創世記の神より弱いことが伺える。　特に身体を人間型に固定してからはますますアトラスでの生活に適応した体を持つため、ホメオスタシスに依存する割合が高まったといえる。
ホメオスタシスは ʃclɒı によるもので、ɒclle によるものではない。　もし ɒclle なら無意識でも発動するため、ʅl で少女リディアがソーンを暗殺したのは不可能なはずである。　ʃclɒı は着地時にも使う。　そもそも空を飛べてもそのまま落ちたら死んでしまう。
着地時に足に出すことで衝撃を緩和できる。倒れるときは背中に出せばよい。だから吹き飛んで岩にぶつかっても死ぬことはない。
しかしヴィード傷を受けたショックで気絶して空から落ちれば死ぬ。ゆえに戦闘中に飛ぶのはリスクがある。　ʃclɒı は腹にふっと力を軽く入れるだけで出すことができる。　着地や受身のような日常的に慣れたホメオスタシスの場合はほぼ無意識同然、呼吸のように半無意識に行える。　戦闘中で敵のヴィード攻撃を防ぐときに腹に力を入れればよい。　・霊力摩擦　重力と垂直に発生する力で、加速膜と薄い虚質量膜を使った飛行中に生じる。同じ hınɔn であっても体でなくユノそのものを投げる uɔl̩l には生じない。霊力摩擦は肉体というアテンにしかかからないためである。（要するにこれは前向きに進むときに後ろ向きにかかる抵抗力のことで、上下移動にはかからない。これがないと速度が加速度的に増え、地球上で横向きにロケットを飛ばすがごとき速度にまでなってしまう）　およそ５０ｋｍ／ｈで０．２Ｇ弱の力が生じる。　同２００ｋｍ／ｈで０．５Ｇ弱、１０００ｋｍ／ｈで１．０Ｇ弱。　この「弱」に空気の摩擦による抵抗を加えると「弱」が取れておおむねちょうどになる。
つまり５０ｋｍ／ｈで空気の摩擦を加味してほぼ０．２Ｇの霊力摩擦が生じる。　従って µɑ の人間は５０ｋｍ／ｈまでしか速度が出せないということになる。　１．２Ｇを出して飛ぶと１Ｇ使ってまず浮かぶ。残り０．２Ｇで前進する。　０．２Ｇだと１秒に２ｍずつ加速する。速度が５０ｋｍ／ｈ（＝１３．８ｍ／ｓ）に達するのは７秒後。
100ɒclle で ʕlcɔn の人は８３３秒間１．２Ｇで飛べるので、約８２５秒ほど時速５０ｋｍ（＝より厳密には５０キロエルア）飛べる。
つまり原チャで１３分半走るようなものである。　これは遅く見えるがそうでもない。本来人はせいぜい１００ｍをせいぜい１０秒程度で走る。１０ｍ／ｓである。しかも十数秒しか全力で走れない。その上地面しか走れない。　それに比べれば１３．８ｍ／ｓを１３分半、しかも空を走れるなら、やはり便利である。（ある程度便利でないと飛ぶ意味がないし、ファンタジー的に見栄えがしない）　かといってこれでは長距離移動には馬のほうがよい計算になる。（馬より飛ぶほうが便利だったら馬の飼育もしないし、軍も騎兵がいらないし、砦もいらない。しかしこれらがないファンタジーは面白味に欠ける。適度に便利で適度に不便な飛行がちょうどよく、このくらいのものであろう）　なお、上代は時速２００キロ、神々は１０００キロまで出せたことになる。　µɑ でもアシェットは最終的に神レベルになるはずだから、１０００キロは出せたことになる。
アトラスを４０時間、２日以内で一周できる計算だが、こんなものだろう。　あまり一瞬で移動できると古代の何年も続く戦争や、µɑ でのアシェットの長旅が説明つかなくなってしまう。　・ヴィードの持続時間　出した弾や波は虚質量や虚熱量でできている。これらはおよそ４秒前後で消失する。　地面に着く前に消失することもある。ヴィル等についても同様である。　・幻晄武具　uɔnʃ などは４秒で消えてしまい、速度も２００キロ程度までしかでない。
そこでアテンは武器を使った。　hınɔn をそのまま伝えるのは ıuɔn だが、これは人体ｔｏ人体なので効率が悪い。人体自体のユノ伝導率がよくないからである。　そこで鉄を使う。剣にして相手を斬る。このときユノが相手に効率よく伝わる。　剣の刃は砥いでおく。刃が鋭いほうが接触面積が少ない。ということは相手からすれば ʃclɒı でガードできる割合が減る。結果､大ダメージになるためである。
矢の場合は錫を使う。鉄は駄目である。鉄の矢尻はエタンを狩るときに使う。　鉄はユノを伝えやすいので、手から離れた瞬間は鉄がユノで満たされても、手を離れるとすぐ空気中へ逃げてしまう。
そこで錫を使い、ユノを逃がさないようにする。近接武器と遠距離武器で金属を使い分ける。　また、木にもある程度ユノが蓄えられる。なので投擲棒、木のブーメランなども武器として使える。
投槍の場合は錫を使うが、木でも良い。　ヴィルの場合、手から魔晄を出すより銀を通したほうが良い。　銀のヴィルの伝導率が人体よりよいためである。　それゆえ魔導師の杖はたいてい銀製である。　ノアの場合もともと体内で働くので青銅には大して意味がないように思われる。　しかし格闘家が相手を打突した際、bɼıcn が流れ込んで ɒclle を崩すため、その際は青銅を使う意味がある。　ゆえに爪などはたいてい青銅で作られる。　・計量魔法学　厳密には計量幻晄学だが、慣例につきこのように呼ぶ。　ヴィードによるダメージ等を計算する学問。ɒeʝʃ 等により実現した。　・ダメージ算出法（ユノ）　防御量 (uınɔ):u　防御率 (ɔʅʝφıl):ɔ　防御係数 (ɑɔl̩lıll):ɑ　接触した hınɔn:h　接触した ʃclɒı:ʃ　式１：u ＝ ɔ/100 × ɑ　式２：ʃ ＝ h/u　・防御率　防御率は０～１００％の変域。
体のどの部位で防ぐかなどによって値が変化する。　ʃclɒı に対する hınɔn の割合が大きいほど防御率は高くなる。これは一見逆に見えるがそうでない。　uɔl̩l も uɔnʃ も重合を上げるほど直径は大きくなるが、その増え方は一次関数的ではない。　悪魔の弾でもせいぜいバランスボールくらいである。ということは重合度が増すほど体積がそれに見合わないので、密度が高くなるわけである。　一方 ʃclɒı は接触面に対して働く。そのため、防御率は接触面の表面積に比例する。　ゆえに ʃclɒı と hınɔn の差が大きいほうが逆に防御率を高くする。　防御率は弱者に有利な数値である。　・防御係数
hınɔn に対する ʃclɒı の割合が大きいほど防御係数は高くなる。
これは感覚に沿うだろう。　要するにテームスをただの人間がいくら攻撃したところでほとんどダメージを与えられないということである。　これは強者に有利な数値である。これがなければただの平民でもかき集めればよってたかって悪魔を倒せることになり、歴史

はアシェットを必要としなくなる。　　防御係数は hınɔn と ʃclɒı の比で決まる。　hınɔn に対して ʃclɒı が１倍程度の場合、ɑ=1 である。　以下表。　　比：１倍、１０倍、１００倍、１０００倍、１００００倍　係数：４、１６、６４、２５６、４０９６　　hınɔn が１０で ʃclɒı が１００のとき、攻撃に対して防御力が圧倒的に強いことを意味する。このとき防御係数は４から１６に上がる。　もっと防御力が強くて ʃclɒı が１０００もあったら、比は１００倍だから係数は６４になる。　　・ʃclɒı の凝縮　　防御率が変化するのは ʃclɒı を体の一部に凝縮できるためである。　ʃclɒı は体全体を覆っているが、一部に凝縮できる。　　凝縮しやすいのは手で、手は防御率最大１００％まで高められる。　凝縮した場合、それ以外の部分が ʃclɒı で覆われないため、無防備になる。そこに攻撃が当たると危険である。
　　手は凝縮しない状態で通常２５％程度の防御率を持つ。　体は着弾を意識すれば１０％程度、そうしなければ５％程度。　無防備だとむろん０なので、u=0 となり、防御量は０となり、すべてが直接ダメージとなる。　　・例　　平均的な µɑ の成人男性の enuelen を以下に取る。　ɒclle:100　hınɔn:1ʕ　ʃclɒı:1ʕ　　この人間を２人集め、攻守に分ける。　攻は uɔlꞁ を 1ʕhınɔn で撃つ。　uɔlꞁ を重合するのに ꞁꞁlinɑcl 廃棄したとする。残り 1ꞁ である。　これが４秒間で消えるとする。２秒後に防に当たったとする。すると ʕ 当たったことになる。　　１：防が手でガードした場合　　u=1 であり、h=ʕ であるから、ʃ=ʕ/1=ʕ で、防は 1ʕʃclɒı から ʕ だけ搬出する。　　結果　　攻：−1ʕhınɔn=−1ʕꞁlinɑcl　防：−ʕʃclɒı=−ʕlinɑcl　　防の勝ちとなる。　　２：防が意識して体でガードした場合　　u=10/100 × ꞁꞁ = ꞁ/ꞁ　h=ʕ　ʃ=h/u=ʕ × ꞁ/ꞁ=1ꞁ　　1ʕʃclɒı から 1ꞁ だけ搬出する。　　結果　　攻：−1ʕhınɔn=−1ʕꞁlinɑcl　防：−1ꞁʃclɒı=−1ꞁlinɑcl　　防の勝ちとなる。　３：防が油断して体でガードした場合　　u=ꞁ/100 × ꞁꞁ = 1/ꞁ　h=ʕ　ʃ=h/u=ʕ × ꞁ/1=ʔ0　　ʔ0ʃclɒı あればガードできるが、1ʕ しかないので防ぎきれない。　そこで 1ʕʃclɒı で何 hınɔn 防げるか計算すると、1ʕ=l × ꞁ/1 となり、l=ʔ.ꞁ である。　h=ʕ なので、ʃclɒı を抜けた hınɔn は ꞁ.Δ。　　さて、ʃclɒı を抜けた分であるが、これは ꞁlinɑcl の攻撃につき ꞁꞁlinɑcl の ɒclle を削る。よって 11.ꞁɒclle 削る。　　結果　　攻：−1ʕhınɔn=−1ʕꞁlinɑcl　防：−1ʕʃclɒı, −11.ꞁɒclle=−ꞁ9.ꞁlinɑcl　攻の勝ちとなる。　　４：防が無防備だった場合　　h=ʕ で防御がないので、ʕhınɔn がそのまま ꞁɒclle ずつ削る。　　結果　　攻：−1ʕhınɔn=−1ʕꞁlinɑcl　防：−ꞁꞁɒclle=−ꞁꞁlinɑcl　　攻の勝ちとなる。
　３のほうが防御しているのにダメージが大きい。　しかし ɒclle だけで見ると４のほうが損失が大きい。　　ʃclɒı の補充は ɒclle からされるが、ɒclle を直接削られると体内の晄圧が落ちる。　晄圧が急落するとアテンは意識を失う。急落でない場合でもよろめきやくらっとするなどの症状が出る。　従っていずれの場合にせよ、ɒclle を急激に失うのはリスクが伴う。　４は３に対し、気絶のリスクが２倍以上高い。　　・ダメージ算出法（ヴィル）　　ユノの計算式と同じ。
　ただし、u = ɔ/100 × ɑ × e となり、e の要素が増える。　e は elɒeʃ で、属性値。属性値の種類は以下の通り。　　属性名：倍率（小数）：倍率（分数）　弱点 :ꞁ.0:ꞁ00/100　克性 :1.ꞁ:1ꞁ0/100　異性 :1.0:100/100　相性 :0.ʕʕ:100/1ꞁ0　半減 :0.ꞁ:ꞁ0/100　無効 :0:0/100　吸収 :−1.0:−100/100　　強みと弱みは ɟeleɟ の遺伝子によって決定される。例えば火の属性の遺伝子は水の属性に弱く、火に強い。　遺伝子が同じ火でも極めて水を嫌う魔物とそれほどでもない魔物がいるように、同一遺伝子でも強みや弱みの程度は個体によってあるいは種族によって異なる。　特に弱い場合は弱点でダメージ２倍となり、そうでない場合は克性となりダメージ１．５倍である。　　火から見て水が弱点と克性。火が相性と半減と無効と吸収。それ以外が異性。　しかしこれはあくまで基本であり、例外が存在する。例えば火の魔物なのに光を無効にしたり水を吸収したりといった特徴を持つものがいる。　従って後述の怪獣図鑑を読み込んで、各魔物の特徴をよくよく理解しておく必要がある。　　吸収の場合、吸収作用を持つのは dcıleɟ のみ。　dcıleɟ を通過した分は吸収されず、ダメージとなる。
　従って火の魔物を火で倒すこともできる。ファンタジーでありがちな「吸収させすぎると破裂して死ぬ」とは過程は異なるが結果は同じ。　　なおヴィルの場合、hınɔn に当たるのが ɗıȷdel で、ʃclɒı に当たるのが dcıleɟ となる。　　魔法の場合、ヴィードのダメージのほかに火や氷などの自然現象による追加ダメージがある。　追加ダメージはほとんどはアルヴェドのダメージである。これは対エタン防御で防がれるので、dcıleɟ でなく ʃclɒı によってガードされる。しかし熱いとか冷たいとか痛いといったダメージがすべて防がれるわけではないため、攻撃側はアルヴェド傷も期待できる。　これは µeeu などを直接削ったり、士気の低下などの精神的ダメージを与えることにも貢献している。　　・ダメージ算出法（ノア）　　ʃclɒı や dcıleɟ に当たるものがないので防御量は存在しない。　じかに ɒclle を削る。ダメージは bɾlıcnxꞁꞁ で求める。　効率は良いが、ノア自体量が少なく、素手や爪などで当てねばならないため、難しい。bɾlıcn は体の表面からほとんど出ないため、接触時に相手の体に移る。
　この際 bɾlıcn を２０％ほど廃棄する。修行によっても異なる。ノアは体を訓練すると効率が良くなり量も増えるので、鍛えると廃棄率は低くなる。鍛えなければ半分以上廃棄してしまう。　なお、爪などの武器のほうが効率が良く、廃棄率が低い。　　・ダメージ算出法（アルマ）　　じかに ɒclle を削る。ıµɒıx1ʕ で計算する。　逆に防御側がアルマを使用した場合、自分の ʃclɒı や dcıleɟ 以前に働き、ıµɒıx1ʕ 分の hınɔn, ɗıȷdel, bɾlıcn を削り、ıµɒıx1 分の ıµɒı を削る。　従って１アルマの攻撃を１アルマで防ぐと、攻防ともに１アルマずつ失うことになる。　　・魔物学　　主に魔物の生態や特徴を調べる分野で、zφ に端を発する。　人間は魔物よりも弱いため、効率よく戦うためにこれを分析する必要があった。　　ꞁꞁ や ɟɒ で花咲き、µɑ でも華やいだ。　特に学者だけでなく旅人にも広く知られ、非常に実用的な分野であった。　　ɟeleɟ の遺伝子、月光蟲など、魔法学の別の分野と組み合わせて論じられることも多い。　　・怪獣図鑑
　µɑ でそれまでの魔物学の成果を元に、さらにリュウらが自分たちの旅で得た成果を加えて図鑑にしたもの。　リュウ編纂で、絵はオヴィ、それとその後に加わったミルフが担当した。　魔物の特徴や属性、enuelen の ɒeɟʃ 計測値などが書かれている。　　怪獣図鑑は lınɟllel という。主に悪魔が載っているが、神なども載ることがある。
　鋭い人は lcnɟ では？と思われるだろうが、ヒュート語で悪魔が lınɟ。アルバザード人もよく lcnɟ では？と混同する。　　・魔法の種類　　ləɟcı　　・体格と幻晄　　一般に幼児や老人は幻晄が少なく、若者は多い。子供は未熟なため少なく、老人は老いたため少ない。
　思春期から３０代までが最も強い。およそ体力と同じである。
　ユノは一般に体格が大きく腕力があるほうが多い。　ただしユノはノアと違って体格だけで判断しづらいことがある。というのも、小柄なのに爆弾のように元気でユノの多い人もいるからだ。　結局のところユノははつらつとして元気な人に多い。元気な人は一般に運動が好きで体格も良い確率が高い。それゆえ体格が大きいほうがユノを持ちやすいと述べたにすぎない。　性別では男性のほうが多い。　　ヴィルは知的な人に多い。神経が細やかで几帳面で繊細で傷つきやすい人に多い。鈍感な人には少ない。　また体格的には痩せ型で小柄なほど多い傾向にある。　性別では女性のほうが多い。
　　ノアは筋肉がしなやかで引き締まっているほうが多い。これはユノと違ってほぼ体の問題である。　一般に bɾlıcn は男性に多く、ꞁl enıɟ は女性に多い。　　アルマは心身ともにバランスの取れた人に多い。　　ユーマの一族の中にはヴィードの量が非常に多い特異体質がいる。たいていは神の血が入っていることが多いのだが、彼らには身体的な特徴がある。それは華奢で動物としての力が弱い点である。　今までの歴史を振り返ると、筋骨隆々なタイプや太ったタイプは特異体質に存在しない。メテ然り、アルシェ然り、ソーン然り、アシェット然り、ミロク然りである。　その理由は恐らく幻晄の強さで生きていけるので腕力に頼らなくて済むからではないかと想像されている。腕力が不要であれば小柄や華奢であるほうが必要なカロリーも少なく、より少ない食糧で生存でき、合理的である。動物であれば体力的に弱ければ生き残れないのでしばしば大きいほうが有利である。　また寒い地域のほうが表面積を大きくして体温をできるだけ下げないよう体格が大きくなるが、それも強力な幻晄があれば生存を脅かさないので必要ない。寒い地域は食糧が乏しいので、温度の問題をクリアできればむしろ小柄なほうが生存できる。　幻晄のおかげで外敵や温度からは身を守れても、食糧とカロリー摂取だけはどうにもならない。ならば強力な幻晄を持っている個体は小柄なほうが有利であり、そのため歴史上の特異体質は皆華奢だったのではないかと考えられる。　　・魔法分類学　　zφ に萌芽。ɟɒ,µɑ で大成。　　効果：黒、白……→ elɑeµ　難易：難合、易合、無標は並合　属性：闇、水……　段位：上位、中位……　　上記の分類項目に従って分類。　属性、段位、難易、効果の順に付ける。「闇の上位難合黒魔法」のように。　　<余禄>　　・魔法体　　魔法体とは魔法性を帯びた物質で、ほとんどの物質がこれに当たる。　中でも特に魔法学で多用されるものを指すことが多い。　主な魔法体は以下の通り。　　●金属系　　錫：ユノを蓄える　金：ヴィルを蓄える　鋼：ノアを蓄える　　鉄：ユノをよく通す　銀：ヴィルをよく通す　青銅：ノアをよく通す　　銅：魔晄をゆっくり揮発させる
　　ホワイトゴールド：ヴィルを蓄える　　レニウム：ガレットを遮断する　　バナジウム：１を帯晄　ニオブ：２を帯晄　タンタル：３を帯晄　ドブニウム：４を帯晄　　金銀鉄青銅（アミュレット）：ɟeesc を保存　　白金：ヴィルを非常によく通す　　コバルト：平板ガレットを蓄えてＮ極、ゼロガレットを蓄えてＳ極を持つ　　チタンレニウム合金（テンペスト）：１～４のいずれでも月光蟲を起こせる　　鉛：銀などに混ぜることで放晄傾向を逆転　　●鉱物系　水晶（石英）：月光蟲を起こす　　氷晶石：放晄傾向が弱く、脱晄に使う　　菱沸石：崩月を起こす　　蛍石：セレスを単蓄　　●宝石系　　サファイア：ユノの重合限界値を高める　ムーンストーン：ヴィルの重合限界値を高める　ジルコン：ノアの重合限界値を高める　　ルビー：ヴィルを蓄える。また、放射性を持つ　エメラルド：複写性を持ったルビー　　ダイアモンド：白金橋に使う　　トルマリン：魔動回路に使う。ゼロガレットを白金に渡す　　●動物系
　牛革：ノアを通す　　●植物系　　琥珀：魔封石　　木：ユノをやや蓄える。樫などの硬い木のほうが蓄えやすい。　　●自然系
　月光：月光蟲や崩月を起こす。ヴィルの回復を促進　　日光：ユノの回復を促進　　<カルディアの魔法と地球の魔法>　　魔法は２種類あると思う。　　ひとつは錬金術のような「何と何を混ぜるとどうなる」といったものや、呪文や魔方陣のように「こういった言葉や図形を書くとこのような効果がある」といったものである。
　これは経験的、人文、文系、東洋医学的に感じられる。　ほとんどの魔法の市販書籍はこのタイプに思える。　　そしてひとつは解析魔晄学のような理論的な分野である。　これは科学、理系、西洋医学的に感じられる。　恐らくアルカを見て面白いと思うような人は魔法理論もこちらのほうが好きなのではないか。どちらかというとセレンに感性が似ているように思える。　　カルディアの場合、どちらも備えているというのが恐らく特徴だろう。　地球の場合、だいたい前者しかないものが多いように思われる。　後者の理系的なほうを備えた魔法学というのは見たことがない。　が、魔法は人気のある分野なので、ウチが世界初とも思えない。　　ただ、カルディアの魔法が世界初な面もあると思う。　それは土台となる歴史、世界観、言語が詳細にわたって備わっている点である。　　<魔法学ができるまで>　　地球では魔法学は ꞁ1 年に主にセレンが作った。
　それまでのヴィード論などを統廃合し、設定を大幅に加えた。なお、それまでのものはリディアが主幹である。　　セレンは子供のころから魔法が好きで、機械物には興味がなかった。魔法物のアニメばかり見ていた。（今でも機械物は苦手。戦争物も苦手。動物が人間のように振舞う（ＤＢのウーロンのような）物も不気味に感じてしまって苦手。だからディズニーが非常に苦手。それゆえ µɑ でも動物っぽい人はあまり出てこない。ただし人に猫耳がついた程度ならなぜか逆に好きになる）　ＦＦとＤＱ世代なので、魔法の大まかなイメージはこれらのものである。特にＳＦＣまでのＦＦが幻想の原風景である。　　魔法学自体はアプリオリだが、影響は受けている。影響と流用の違いは言語論等で述べているので別途参照のこと。　影響は例えば「ゥリーデャ」という名前の少女がいつの間にやら「リディア」で正式になっている点などに現れている。多段魔法やＭＰの

nılɑe なども影響が色濃い。　ちなみにメルは ɑɔlɒcyə の草案を読んで、ＦＦの影響を残したいのだというセレンの思惑を一瞬で見抜いた。それくらいセレンはこのゲームに傾倒していたといえる。　しばしばアルカは影響すら排他しようとする傾向があるのにここだけは残そうとしたのは、きっとそれだけ心の中の思い出を占める割合が大きいのだと思う。　　セレンの魔法好きは少し異常だった。小６のころ、「魔法使いになるために」というような感じのタイトルの本を読んだが、それを読めば本当になれると思って買ったのがポイントだ。　なれると思って期待したが、そのような内容の本でなくがっかりした。よく覚えていないが小説だったかもしれない。子供文庫みたいなもので、新書くらいのサイズで、白い表紙の本だったような気がする。　　中２のころ、「魔術の事典」というような文言の入った長いタイトルで、オレンジと茶色の間の色の表紙の本を買った。５０００円くらいして、分厚い本だった。　今の子供はどうだか知らないが、当時の子供が買うようなものではなかった。しかしこれも期待はずれだった。錬金術的なことや呪文的なことしか書いてなかったからだ（と思う）。　　要するにセレンは魔法の仕組みを知りたかったのだ。ɑɔlɒcyə でいうガレットのような量子論や解析魔晄学のような「魔法の仕組み」そのものを知りたかった。
　経験論でなく自分で仕組みを知って演繹できるようにしたかったのだ。　また、アイテムというより魔法を撃つほうに興味があったことも落胆の原因のひとつだ。　簡単に言えば、「ポーションの作り方はどうでもいいから、とっととファイアの撃ち方を教えてくれ！」と思っていたわけだ。　　それ以降、どことなく魔法の本というと東洋医学的な経験知の集合というイメージを持ってしまった。まぁ実際書店を見るとそうなのだけれども。　それで、自分で作るときは科学のような理論にしたいと思った。　めぐりめぐってそれが今の魔法学に繋がったような気がする。　　リディアも魔法好きな空想少女で、だいたいセレンの周りにはこの手のタイプが多い。　だが女の子のリディアはセレンほど理論立てて魔法を考えようとはしなかったので、ɉ1 年にセレンに主幹を譲った。　　＜魔法は存在するか＞　　魔法は残念ながら使えないわけだが、使えないことは存在しないことの論理的な証明にはならない。　このことを子供のころ理解していなかった気がする。　　「使えないのは単に地球に使える要素がないからではないか？地球でなければ存在するのではないか？」 そういう考えがヴィード論を生んだ。ヴィードさえあれば、少なくともその世界では理論に基づいて魔法が使える。　ということは、地球に限定しなければ魔法は存在するのではないか――などと考えた。　　子供のころの夢を叶えるために人は大人になるのだと思っていた。少なくとも年を取るために大人になった人などいない。　魔法学を作ってみてカルディアが見えてきた。子供のころのぼんやりとした幻想風景が理論だった明瞭なものになり、すっきりした。

ɑɔlɒe　［娯楽］ドルメ、囲碁　［レベル］３　ɉ0: 制　［文化］　ルティア人がセルメルで作り上げたゲーム。発祥は謎で、いつの間にか普及していた。ナユの将棋などと異なり、民衆から起こったと考えられている。ルティアでは盛んで、紗枝のような少女でもプレイするが、アルバザードではレア。

ɑɔlɒeˀlcı　［工学］石器　［レベル］３　ul;/　ɉʔ

ɑɔlɑɔləəyı　［地球の国名］ジンバブエ　1L: ショナ語で石の館

ɑɔldcd　［娯楽］水切り、水きり、石投げ、ストーンスキッピング　μɑ;/　［レベル］２　ɉʔ　［文化］　水面に向かって回転をかけた石を投げて、水面で石を跳ねさせる遊び。

ɑɔlhınɔc　［哲学］石の塔、ドルハノイ　［レベル］４　ɉɉ　［文化］　学問は積み重ねであるという考え方。先行文献を研究し、今まで先哲が築いてきた学問の層の上に積み上げよという意味。しょせん人間一人の力などタカが知れているので、そうしないと意味が無いという意味。

ɑɔlhıd　［物理］ドップラー効果。光のドップラー効果も含む。　［レベル］５　1L:μcɑcı

ɑɔlhıdȷ　［魔物］ドルハプス（岩蜥蜴）：第二十八天：土の炎天　［レベル］５　1L:μcɑcı/ȷeμen/ɒel　［文化］　爬族。岩のように固い皮膚を持つ灰色の大トカゲ。窮地になると丸まって岩に模す。　喉から「ギーゴー」という気持の悪い音を一定のリズムで出す。獲物はこの音でドルハプスと自分の距離を測る。これを逆用し、ドルハプスは周波数や音量を巧みに操って、獲物に「あ、今ドルハプスが去っていった」と思わせ、油断させる。そこを強襲し、獲物を狩る。　咬まれると石化する。アシェットではオヴィが噛まれ、石化しかけた。リュウはここからドップラー効果を見つけた。

ɑɔllɔ　［形容詞］［ネガティブ］頑固な、忠告を聞かない、話が分からない、話の分からない、意固地な、考えを変えない、偏屈な、頭の硬い　［名詞］石頭　［類義語］uelınʃe　［レベル］３　ɉ0: 日本語と同じ発想。　【用例】　ın ləʃ lɔ ɒeȷı ʃɔʃıl yəl "ʃə eʃ ʃɔ lılʃ ıμˀlı ȷec. ın lecleȷ ʃə ı ɑcıˀllel ȷec". lıɑın e ˀllel eʃ ȷɔı ȷelın nı. yın ın ȷccnı nɔȷ l'eʃ ɑɔllɔ ȷɔı ɑı. どんな状況にあろうと、常に「これアルカで何ていうのかな。これ、幻日に登録したっけ？」と考える。辞書編集者というのはそういう人種なのだろう。それで僕はそういう偏屈な自分が好きである（ȷeμen ıμ bızıμɑ）

ɑɔlı　［建築］ピラミッド､角錐　［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :ɑɔləəyı（館）から。この幻字がピラミッド型。

ɑɔlıˀlıɑ　［地球の国名］エジプト　［レベル］５　1L: ピラミッドで有名

ɑɔle　［被服］アビ　μʃ; コートを意味する民衆の俗語から。　ɉɱ

ɑɔleʃ　［ネガティブ］［形容詞］売れない　［類義語］ˀllɔleʃ　［反意語］　［レベル］４　μɑ;ɑɔl/ʃe「石のように無価値な」　ɉʔ　［文化］　ˀllɔleʃ

ɑɔleȷ　［普通動名詞］組版　［動詞］yəl を組版する、組版する　μɑ;ɑɔlˀl/ȷeu　ɉɱ

ɑɔləəyı　［建築］館、屋敷、お屋敷　［レベル］２　ɑ;e　古 :ɑɔləəyı　［語法］　大きな個人宅のこと。アルシェの家は集合住宅に近い造りなので、ɑɔləəyı ではない。

ɑɔı　［経済］財、財産　［レベル］３　1ʔ: 制 :ȷɔμn:ləɑɔıȷ（経済学の用語での財産）。ləɑ はアルシェの ləɑɔ（宝石）【成句】　ʃıɑ ɑɔı ˀlɔlȷeʃ ueμnȷııl　ヴェルンサールの悲劇を利用して財産を成す：災いを転じて福となす。クルノース家などのこと。　【用例】　lı ʃcl ıˀlcȷ, ılɑc ʃcl ɑɔı. 彼は土地持ちなので財産があるんだ。

ɑɔıl　［経済］資産　［レベル］４　1L:ɑɔı

ɑɔɔ　［感動詞］じゃあね　［レベル］２　1ɱ: 制 :ı'ɑɔɔuı の略形　［語法］　ɑɔɔuı よりくだけている。

ɑɔɔuı　［感動詞］さようなら、バイバイ、ばいばい　［レベル］２　ɑ:ȷııl;ɑɔɔuı.e（次）「また次に（会おう）」の意でサールガ使った。　1ɱ: 制 : 古 : ı'ɑɔɔuı（また次に、また今度、また今度会おう）が原義。　ɑɔɔuı:ɑɔɔuı:

ɑɔɔuılɔɔˀl　［名詞］別れの挨拶　［レベル］２　1L:lecn　［語法］　日本人よりアルバザード人は会話好きなので、別れは挨拶でなく会話。日本人は別れのときに皆まで言うな状態になるのを良しとするが、アルバザード人は悔いがないようにすべて話していく。

ɑɔɔɒı　［俗語］まぬけ、間抜け、マヌケ、どじ、ドジ、うすのろ、ウスノロ、あんぽんたん、ばか、バカ、あほ、アホ、阿呆　［レベル］２　古 :ɑɔɔuı の言い誤りからか。　［語法］　罵倒語にしては好意を込めた言い方で、ユンクでも時と場合によっては使う。

ɑɔɔɒın　［俗語］アホの子　［レベル］２　ɉ0:ɒelcɑcı lceμ

ɑɔɔlıʃ　［建築］昇降口　［レベル］２　ɉ0:「バイバイする入り口」　［語法］　外部にキャンパスを持っている建物の出入り口。学校にはあるが、オフィスには通常ない。ɑeˀlɔ を持っていないと成立しない。マンションの出入り口は leȷʃlıʃ。

ɑe　［動詞］yəl でない、～でない。否定の繋辞。　［レベル］１　古 : 古では繋辞だった。繋辞の否定が ɑenı であり、これが短くなって ɑen になった。ɑen は繋辞の否定として使われたがやがて本動詞に前置して否定の副詞となった。新では ɑen は禁止で使い、eʃ は繋辞として使う。否定の副詞は en であり、en を否定の繋辞として使うと肯定の繋辞の eʃ と区別がつかない。かといって ɑen などは禁止で使っている。そこで肯定として使っていた元祖繋辞の ɑe を否定にし、新アルカに甦らせた。

ɑe(ɺ)　［文末純詞］文末純詞 ɑeɾ の標準形　［レベル］１　1L:ʃeɔlɔn

ɑe(ʔ)　［南方］［動詞］eʃ　古

ɑe,ɑ　eʃ　e

ɑeʃ　ɑe/ıʃ　1L:ɒelcɑcı ılcȷ

ɑeʃeȷ　［動詞］なっていなかった。過去継続相の否定の繋辞。　［レベル］２　μɑ;/　ɉʔ

ɑeˀl　ɑe/cˀl　1L

ɑeˀlɔ　［名詞］内側、内　［建築］構内、内部、校庭、キャンパス　［反意語］φɔʃe　［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :ɑeȷdıˀleˀllɔ（来てはならない）　［語法］　マンションの内部や家の中など、敷地の中であることを示す。建物の中というより、敷地の中という意味で使われる。ˀlı ɑeˀlɔ e μı と dɔʃ μı では、敷地を意識しているか空間を意識しているかの違いがある。ここはウチの家だからよそものが勝手に入るなという場合、前者を使う。家の中は暑いねという場合は後者を使う。　［文化］　芝生などが植えられ、憩いの場となる。軒のあるところもある。遊具はない。昼休みには生徒が校庭に出て、遊んだり寝たりする。

ɑeˀlɔʃcɒ　［地学］内核　ul;/　ɉʔ

ɑeˀlɔˀlıd　［名詞］内線電話　［レベル］４　1L:μcɑcı:ıμbıleʃ

ɑeˀlɔȷeun　［生物］結合組織、支持組織　μʃ;/　ɉɱ

ɑeˀlɔɒɔl　［数学］内接　［レベル］４　1L:μcɑcı:ıμbıleʃ

ɑel　［動詞］yəl を許さない、許さない　［反意語］lclhc　［レベル］２　1ɱ:ȷeμen:ˀllel:ɑɔl　［文化］　許さないからといって復讐するという意味では必ずしもない。日本語にはこれに当たる単語がない。

ɑelıl　［感動詞］うそーっ！　［アクセント］ɑel↑l　［レベル］２　古 :ɑelıl。元は ɑenlıl（存在しない（存在し得ない））。ɁP 年ごろかあるいはそれ以降にはリディアが使い出していたと思われる古アルカの感動詞。

ɑeȷ　ɑe/eȷ　1L

ɑeȷ(ɺ)　［化学］アシル基を持つ種　1L:ɑeȷdı/ıȷl

ɑeȷʃ　［名詞］お布施、布施、おふせ　［動詞］yəl（お布施）を ı に払う、払う　［レベル］４　zφ;ɑcȷʃ.ˀl　ɉʔ

ɑeȷˀl　［動詞］yəl を ı（場所）に c しないように乃至 c という場所から出ないように牽制する、牽制する、けん制する、封じる、制する、封じ込める　［動詞］抑えておく、押さえておく、仮に予約しておく、仮にアポっておく。予約の一歩手前。　［普通動名詞］仮押さえ、アポ、アポイントメント、仮予約　［レベル］３　ɑu; ↓　古 :ɑeȷˀl ← ɑeȷdı（封印）ʌeʃʃı（行く）の短縮。　［語法］　yəl を ı の場所から動けない状態にすること。あるいは ı に行為を限定させること。つまり、行けるのを ı だけにするという意味。　【用例】　ılɑc lə ɑeȷˀleȷ lı c lı μıˀl uın ʃə φılʃ leɑ ɑlen ɑı. 万が一にも彼女が勝手に門を越えないよう、牽制しているのだ。

ɑeȷˀllɔl　［医療］腸閉塞、イレウス、腸捻転　［レベル］５　1L

ɑeȷdı　［名詞］封印　［動詞］yəl を ı に封じ込める、封じ込める、封印する　［名詞］栓、バルブ　［名詞］シール、印、印章。ジュースの缶などについている何かの応募券などではなく、封筒に張られていて破らないと中身が取れないようになっているシールなどを指す。前者はステッカーである。　［エルト］デスパ。デームスを封じ込める魔法を編み出した。狩と封印を司る。クレーヴェルが狩りを誰かに治めさせようと籠から自分で生んだ息子。　［魔法］デスパ。無属性の古代魔法。対

象を封印する。アルマディオのように複数のリングがＸ字型になって対象を取り囲む。リングには無数の封印の札が貼られている。また、リングの直径と同じ大きさの透明な球が対象を取り囲み、リングを補強する。球の表面にリングの外側が接している位置関係になるので、外からはＸ字のリングの模様のある球に対象が封じられているように見える。リングは常にゆっくり回転しており、凄まじいアルマを放っている。神々が悪魔テームスを封印したときに使った。色はクルルグリーン（６ＦＦＦ６Ｆ）。 ［組み数字］２/１１ ［類義語］ ɥənl ［レベル］3 uȷ;ɑeɑınȷ.ˡ 古 ɑeȷdı:ɑeȷdı:lə ɑeȷdı:hənɔn,ılʃ ［文化］

そしてあるエルトが突然会議場に現れた。彼は青年である。彼は⅃つの籠を持っている。第一は右手にある。第二は左手にある(この当時、⅃対の組み数字は nɔı(娘), nɔc(息子)であった。同様に ᙏ 対は eʃı(姉), eʃc(妹), eʃɔ(兄), eʃe(弟)である)。右手の籠には魚がいる。左手の籠には鳥がいる。 ʃcˡnɔ"ʃc eʃ neɣ ınȷɔ ıʃı–c ʃcz.ȷɔn ʃc ɑcl–ɔl ınȷɔ" ティクノ「汝は誰だ？我らは今会議をしている。だから汝は我らを邪魔するな」 ɑeȷdı"ɩnʃe,ȷıl e ȷııl.ın eȷʃ–e ɑeȷdı.ın eʃ elʃ.uɔl ın eʃ nɔc e ˡleeuel" デスパ「すみません、サールの長よ。私はデスパと申します。私はエルトです。そして私はクレーヴェルの息子です。」 uɔl ɑı cn–c ˡleeuel.lə ocˡ–c,ɑɔn–c lə

そして皆はクレーヴェルをみた。彼はうなづき彼を肯定した。

ˡleeuel"ıl,lə eʃ nɔc e ın.ʃıl lə eʃ ɩclıı.ın ȷɔʃ–ı ueȷ lə" クレーヴェル「はい、彼は私の息子です。しかし彼は母を持ちません。私は一人で彼を生みました。」 ɑeȷdı"ıl,lıc.ın ȷɔʃ–ı ɥə lıc zın eʃ ɥȷcclı e ʃıɑl.lıc ɑcʃ–ı uccɑ e nın ıl ɥəˡı ɑenʃ,ȷɔʃ–ı ın cɒ lı nı–ı nın ɩıʃ–e ɥȷcclı e ʃıɑl" デスパ「はい、父よ。私は狩りの司となるため父に生み出されました。父は自らのヴィードを鉄の籠に与え、彼が狩りの司を必要と感じたとき私を生みました。」 ˡleeuel"ıl,ınȷɔ ʃıɑl–e ˡıɒ ɑı zın ɩɔnıȷ ˡɔˡɣ uɔl ın ɔȷ–ı ınȷɔ ɩıʃ–e ɥȷcclı e ʃıɑl.ȷɔn ın ɑcʃ–ı uccɑ ıl ɥəˡı,ȷɔʃ–ı lə.hıc,ɑeȷdı,ʃc ˡeʃ–cn ˡɔɔ zın ʃɔɣ" クレーヴェル「はい、私たちは食べるためにたくさんの獣を狩るだろう？そして私は私たちは狩りの司が必要だと考えました。だから私は檻にヴィードを与えて、彼を生みました。ところで、デスパ、お前は何のためにここに来たのだ？」 ɑeȷdı"zın ɑıl–e ʃcȷɔ,lıc.ın eʃ ɥȷcclı e ʃıɑl.ɑı ɩıʃ–e ɥəˡı ʃɔʃ ʃıɑl.ılɑc,ın ıˡˡ–e ɥəˡı ʃın" デスパ「あなた方を助けるためにです、父よ。私は狩りの司。皆が狩りのための檻を必要としている。つまり、私は檻にもたくみです。」 ［成句］ ɔl ɑeȷdı beezel, ȷɔn ıl cluı. ベーゼルを封印したならイルヴァまで：毒を食らわば皿まで。取り越し苦労をするな。橋にさしかかったら渡れ：一度ベーゼルを封印したアルミヴァは、いまさら退くことができないので、殺される前に残るソームを封印しなければならなかった。 ıɥ ɑeȷdı 封印をする cȷ ɑeȷdı ı ɥəlcəȷ ユリウスの封印を解く

ɑeȷdın ［名詞］電話などのダイアル、ダイヤル ［レベル］3 古 :ɑeȷdıncı（デスパニア）

ɑeȷdını ［地名］デスパナ。ソーンの使徒ヴァルベスの支配地 ［アクセント］ ɑeȷdınᛏ ［レベル］4 ᛏᚨ: 制 : 古 :ɑeȷdı(封印)から

ɑeȷdını(⅃) ［アトラスの国家］デスパナ ［アクセント］ɑeȷdınᛏ ［レベル］4 制 ［文化］ 面積：1⅃L0Lʔᚨ.ᙏ0111ᙏ ˡɒ ⅃

ɑeȷdıncı ［名詞］デスパニア。ルシーラとハルマが１４人で特定の位置に座すこと。 ［レベル］4 古 :ɑeȷdıncı（１４人が一定の位置に座した形） ［文化］ ルシーラとハルマが１４人で特定の位置に座すこと。また、その座り方やその図形。 １９９８年６月５日付の『赤アンクノット』の記述にメテの陣と、それを基にしたデスパニアが描かれている。 前者は細かく書いてあるが、デスパニアについては乏しい。メテの陣と同じとも読み取れるが、怪しい。 前者は六芒星なので小さな三角形を作れ、その中に使徒を置くことができる。だが後者は閉じた図形ではないただの線なので中で区切った小さい三角形に使徒を入れられない。 そこでアルシェはデスパニアをする場合は三角形ではなく線上に使徒を配置していた。かつてルージュが参加していないときはアルシェはセレンを抜かした１２人の使徒でデスパニアを作っていた。 ・制アルカ時代の幻日辞典の記述(⅃ᙏに再録) ルシーラとハルマが1ᙏ人で特定の位置に座すこと。また、その座り方やその図形 １９９８年６月５日付の『赤アンクノット』の記述にメテの陣と、それを基にしたデスパニアが描かれている 前者は細かく書いてあるが、デスパニアについては乏しい。メテの陣と同じとも読み取れるが、怪しい 前者は六芒星なので小さな三角形を作れ、その中に使徒を置ける。だが後者は閉じた図形ではないただの線なので中で区切った小さい三角形に使徒を入れられない

そこでアルシェはデスパニアをする場合は三角形ではなく線上に使徒を配置していた かつてルージュが参加していないときはアルシェはセレンを抜かした１２人の使徒でデスパニアを作っていた デスパの文字は一番上から書き始める。一筆書きだから間違えようが無いが、まず左下に行き、右に折れ……と進んで、最後は左上の頂点に線が水平にぶつかって終わる これを描いていくと線と線の交点ができる。この交点にそれぞれ順番をつける。まず左下へ向かう一番初めの線上で交点が５個できる 書きはじめの頂点が１で、左下の頂点が５になり、その間に必ず２,３,４の交点が生まれるはずだ 次に右に向かう水平な線を引くことになるが、この線には６,７が交点に並び、８が右下の頂点になる 次は左上に線を進める。まず９ができ、さっき作った３を飛ばして左上の頂点にたどり着き、そこを１０にする 次に右下に線を進めるが、既に４,６が交点にあるのでここは飛ばすと、真下の頂点が１１になる 次に右上に進む。７,９の交点を飛ばして右上が１２になる で、左向きに水平な線を引くと２,１０を飛ばして線がつながり、デスパが終わる ルージュがいないときはこれで満足してたんだが、１３番が必要になったので困り、１と８を繋ぐ補助線を仮定した。こうするとデスパは六芒星に見えるようにもなる その補助線を引くと１０,２,１２がある水平な線と補助線がぶつかるところがでてくる。デスパの書き順からいって１２の次にあたる箇所なのでここを１３とする 最後にセレンを置く場合、その位置は仮定した六芒星の中心である ・旧版アルディアによる使徒の配置（戦闘的配置であって儀式的なデスパニアの配置ではない） ＜デスパニア＞ ここはアシェルフィの家。俺は自室を出ると、紅茶を飲みに居間へ向かった。居間に入ると大きな食卓にリディアが座っていた。 「よお、リディア」「あ、セレン君。何か飲みにきたの？」「紅茶を」「あ、座って。いま淹れてあげるから」 かたっと立ち上がるリディア。 「悪いね」 リディアの横に座る。何か紙が置いてある。 「勉強してたのか？」「ううん」台所から声が聞こえる「勉強じゃなくて戦略」「珍しいな、居間でなんて」「私もおなかすいちゃって何か食べようかなって思ってたの」 リディアはクラッカーと紅茶を持ってきて座った。 「この紙さ、使徒の名前が書いてあるな」「戦闘時、使徒をどのように配置すれば一番かなって思って」「なるほどね、陣形か。んー、いまのところ全員円形に配置されてるね。1ᙏ人で円を描いてるみたいだ」「でもそれ問題なのよ。使徒の個性が出てないから、弱いところで突破されやすくて」「これは攻めの陣形？守り？」「オールマイティなのを１つ作っておきたいの」「じゃあ攻めにも守りにもか。基本的に上側ってゆうか前側を攻めにすればいいよな。進行方向が攻めの方が自然だ」「そうだね。そうすると後ろは防御だね」「円形で組むのはよくないな。要所要所に配置しよう」

「そうだね」といってリディアは紙に何度か文字を書いては消した。

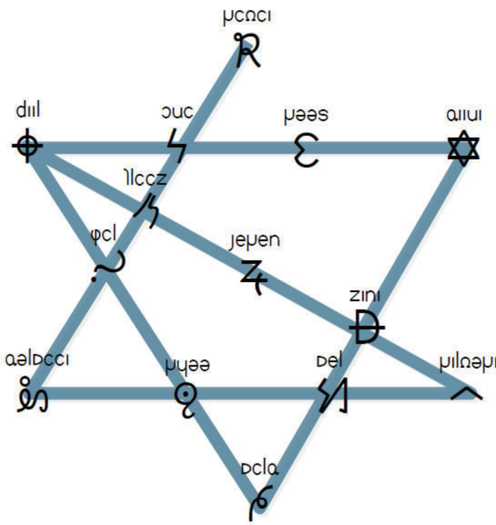
「……多分、こんな感じでどうかなぁ」「ごちゃごちゃしてるな。中央先端部はお前なのか」「うん、砲台だからね。黒魔法と召喚魔法で」「なるほど。中央左翼は集まってるな。オヴィ、クリス、ギルか。古参ばかりだな」「彼らは切り込み隊長のオヴィ君を始めとして、接近戦が得意でしょ。集まって攻撃してほしいの。砲台にはなれないから。あと、人数を固めたのは砲台の私が攻撃されたときに守りやすくするためよ」「なるほど。それで、前の左翼はパールか。これはアルマレットの砲台か？」「パールは魔法も武器も中くらいだからね、砲台としては不完全よ。だからオヴィ君たちに加勢もできる位置にしたの。半砲台ってところね」「よくできてるなぁ。ところで右翼は過疎だな。ファーヴァしかいない。アゼルの砲台ってことか」「そう」「危なくないか？中央に持ってきたほうが」「中央じゃ味方が魔法陣に巻き込まれちゃうよ」「そりゃそうか。でも護衛がルージュじゃ心もとないな」「でも彼はオヴィ君やクリスに傾倒してるから、アニキやアネゴの役回りをくれっていつもうるさいでしょう？」「確かに。まぁ、それにあの魔法陣は強力すぎるから、人を遠ざけたほうがいいのは賛成だ。ところで中央は俺なのか？」

と言ったところでメルが入ってきた。 「おう、メルも座れ」「うん」といって座るメル。事情を説明する。 「お兄ちゃんは中央でしょ、立場上」「あとは後方よねぇ」「うーん、メルが思うに、この図はちょっと見にくいね」 そう言ってメルはさくさくと配置を変えた。懸案事項だった後方も決め、前衛の位置もずらした。 そして「で、ここからが面白いよ」といって使徒同士に線を引いた。「あっ、デスパだ」リディアが声をあげる。 「そう、面白いことにデスパの形になるんだよね。しかも書き順どおりに使徒が並ぶ」 セレン「流石だな、メル」 頭を撫でられるとメルは嬉しそうに微笑む。 メル「後方左翼はフルミネアお姉ちゃん。ユノが多いから、防御に向いてるの。回復役もできるしね。後方支援としてここに置いておきたいの」「うん。リュウはその右か。リュウは接近戦タイプの中でもとりわけ強いから前衛の方がいいんじゃないのか」「後方に１人接近戦に強い人を置いておかないとお姉ちゃんたちを守れないから」「あ、そうか。それと、一番尻尾はミクちゃんか。彼女で大丈夫か」「非力なミクお姉ちゃんには一番後ろで隠れててほしいから。回復役もできるし、お姉ちゃんにしか使えない特殊な古代魔法があるしね」 リディア「問題は防御力が弱いことよね。防衛には向かないわ」「それでリュウお兄ちゃんを置いてるの。フルミネアお姉ちゃんが壁になって、リュウお兄ちゃんが盾になるよ」「そりゃいいな。で、お前はリュウの右、ミクちゃんの右上か」「うん、メルも力ないからね。魔法タイプだけど時魔法は補助魔法に近いし、後方支援の方が向いてるのよ」「お前はミクちゃんとは違った特殊な魔法の使い手だし、彼女よりもヴィルが強くて魔法の分野も広いからな。後方に向いてる」「あと、お兄ちゃんの近くがいいし。ほら見て、お姉ちゃんよりメルとのほうが距離が近いのよ、この布陣」

ふふっと笑うと、リディアがむっとした顔でメルを見た。 リディア「……この布陣、きらい」 セレン「そんなこと言うなよ」リディアの腕を引っ張って耳打ちする「この布陣だとお前の背中を守ってやれるのは俺だけだぞ」 リディア「……これ、採用しよ」 メル「……」 セレン「あとは後方右翼か。ラルドゥラね……」 メル「固すぎるでしょ。だから防御として最適な布陣でもあるのよ」「ファーヴァと変えられないんだよな」「砲台は前じゃないと意味ないからね。ラルドゥラお兄ちゃんがいれば後方は絶対崩せないよ。ミクお姉ちゃんも安泰」 そのとき、リュウが居間に入ってきた。事情を説明すると、リュウは立ったまま面白そうに布陣を見つめた。 リュウ「こりゃいいですね。何という布陣ですか」 リディア「デスパニアって呼ぶことにしようと思うの」 セレン「おぉ、そりゃいいな。ぴったりだ」 リュウ「ときにメル、この布陣、あなたならどうやって崩しますか」「ルージュから」 セレン「おいおい、嫌いだからってｗ」「違うよ。メルが敵ならルージュを叩く。事実あいつは弱い。そしてルージュのポイントは砲台であるお姉ちゃんとファーヴァお姉ちゃんを守らなきゃいけないポイントなの。お姉ちゃんを叩けばオヴィお兄ちゃんたちに攻撃される。だからお姉ちゃんは無理。

となるとファーヴァお姉ちゃんかルージュなのよ。ファーヴァお姉ちゃんは魔法陣を完成させるまでは無防備だから叩きやすい。ただ、魔法陣ができた瞬間吹き飛ばされるからおいそれとは近づけない。それにルージュの邪魔も入る。じゃあまずはルージュを叩けばいい。ルージュがいなくなればファーヴァお姉ちゃんを守る人間はいない。そうなると無防備で魔法を唱えてるファーヴァお姉ちゃんを潰せる」 セレン「なるほど。すると前方右翼が潰れるわけか」 リディア「後方からはどう？」 メル「無理よ。右翼はラルドゥラお兄ちゃんがいる時点で不可能でしょ。左翼から行くしかない。だけどフルミネアお姉ちゃんの壁は鉄壁だし、ましてリュウお兄ちゃんもいる。潰すならミクお姉ちゃんだけど、リュウお兄ちゃんの接近戦闘員と、メルみたいな魔道士が守ってるから潰しにくい」 リディ

ア「メルから潰すっていうのは？」 メル「だから横にラルドゥラお兄ちゃんを置いてるんじゃない」 リディア「なるほど。じゃあデスパニアの急所は右肩、ルージュか」 メル「そこが致命的ね。過疎のくせに弱すぎるのよ」 リュウ「かといってほかの要因と交換するほど他のポイントも余力はないですね」 メル「ま、問題はあいつがいかに成長するかよね」 セレン「うーむ……。もしくは砲台としてのリディアとファーヴァ自身が能力を高めるかか」 メル「現状だとそっちのほうがまだ望みありそうよ」　メルはため息をついた。 セレン「あとは、まぁ、俺が中央にいるのでどこにでも出っ張れるだろ。ルージュの方をガードして、共闘するってところか」 リディア「セレン君がいれば鉄壁だけど、もったいないね」 メル「それにルージュはお兄ちゃんに懐いてないしなぁ」 セレン「だがまぁ俺が事実上リディアとファーヴァを守るルージュのポジションに付くしかないだろ」 リュウ「しかし、それが実現すればこのデスパニアは最強ですね。最も効率が良いです。それにしても流石はメル。大した図形能力です」　するとメルはうすーく笑みを浮かべた。
「ねぇ……」リディアがひきつった笑みを浮かべた。 「どうした？」 「さっきから誰もザナ君に言及してないんだけど……」　ひとしきり笑った後、メルが一言「まぁ弱点には違わないけど、ラルドゥラお兄ちゃんとお兄ちゃんがいるから大丈夫でしょ。それにルージュよりは全然強いし」とだけコメントした。



ꭥejdɪɥecᴅ ［魔法］地縛霊 ［レベル］4 ɹɹ

ꭥejdel ［名詞］デスペル。デスパ式封筒 ［魔法］［名詞］結界。デスパに使う結界。［レベル］4 1ʕ: 制 : 古の語根から造語。ꭥejdɪ/heʅ/ɪl から。［文化］ ＜封筒＞ 六角形の封筒。紙を折ったりして作る。留めピンやテープがなくとも中身が粉でもないかぎり落ちないという利点がある。表には中身を封じていることを表わすためにデスパの字を象った線を引く。デスペルには手紙だけでなく金銭、小物なども入れられる。 ＜結界＞ ɟɥ のカルセールとメディアンでは魔法陣を巨大化した結界が作られた。大量のヴィードを長期にわたって少しずつ取り出せるため、戦闘よりも社会インフラに使われた。 ɗu になるとメディアン、特にカルセールは激戦地となった。もともと神々の戦いであって人間は無関係なので人間にしてみればいい迷惑である。かといって力で勝る神を追い出すこともできず、結局結界を作れるような有能な人材は次々と国外へ脱出した。神はこの便利な人間を逃がすはずもなかったが、かといって一人残さず捕まえるのもまた無理な話である。 わらわらと逃げる結界師と捕まる結界師。逃げた結界師はケヴェアを行先に選んだ。ɗu ではアルカットはエルトとサールに、サヴィアはエルトに支配されている。アデントは未開の地で、ファベルは遠い。こうして結界師はケヴェアに渡った。アルカットに残された結界師は人間なので寿命がある。さらに戦禍に巻き込まれるなどして数を減らしていったこともあり、結界の花形はケヴェアに移っていくことになる。 zφ のメディアンでバルマージュができるころには結界はだいぶ廃れており、さらにバルマージュ以降は魔物の飼いならしに特化していったため、魔法陣や結界はメディアンでさらに下火になっていった。 現在では魔法陣や結界というと主にケヴェア、それと ɗu 以降にサヴィアに北上した民族の分を指す。 ɗu 以降に結界師がサヴィアに北上したため、アルハノンは当時のシージアに流入。シージア人は幼字のほかにアルハノンも持つことになる。 シージアでは幼字、アルハノン、響字の順で流入したことになる。ただしアルハノンは外来語とともに入ったにすぎず、シージア人が幼字を捨ててアルハノンを採択したということはない。２０１０における日本でのハングルのようなもので、街中にありはするが日本語の表記法として採用されていないのと同じ状態である。

ꭥejdelɑlcɪ ［魔法］結界水晶、結晶 ［レベル］5 1ʌ ［文化］ 結界上に置かれる点のこと。結晶は石でも木に刻むでも何でもよい。水晶と呼ばれてるのは『ミールの書』でデスパを完成させるのに必要だったのが水晶だったことから。

ꭥejdelɪn ［魔法］［ジョブ］結界師 ［レベル］4 1L:ɥcꭥcɪ ［文化］ 結界を張ることに精通している専門の魔導師。

ꭥejɪ ［化学］アシル基 1L

ꭥen ［法副詞］～しないで、～するな ꭥen,ɑ.ɪle͡l ［レベル］1 古 :ꭥen（～でない） sɪn,ɑ(ꭥen) nɪ,ɑ(lcn) ɑu 以降、sɪn が滅んで nɪ が ꭥen と lcn の両方を兼ねるように :nɪ: ［語法］ ɥe 前置する。命令は動詞のみだとニュートラルで、ɥe が付くと語気が強いという区別がある。だが ꭥen にはその区別がない。何もつけないと命令になってしまい、禁止の意味を表せないからである。従ってニュートラルな場合でも ꭥen をつける。

ꭥen(ɹ) ［南方］［動詞］ꭥe ［レベル］3 古

ꭥen,ɑ en elʃ;ꭥe/n「～である / 沈黙を意味する音象徴の n」→「～である / 肯定しない（沈黙する）」→「肯定しない」→「否定」

ꭥenʃ ［代詞］［ɥꭥen］俺の ［レベル］1 ɹ1:zɪnɪ:ꭥeɥ/ɪnʃ

ꭥen͡l ［形容詞］暗黙、言外の ［反意語］͡lɔnel ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ꭥen͡lə(いわない)【用例】 nɪj͡l{ɣəʃɪ} ꭥen͡l 暗黙の了解

ꭥenȷ ［動詞］ɣəl に ͡lɪ で出くわす、出くわす、でくわす、偶然出会う、遭遇する、エンカウントする ［普通動名詞］エンカウント、遭遇 ［反意語］ɪlꭥenȷ ［レベル］3 1ɱ: 制 : 恣意【用例】 ɪɥle ꭥenȷɪʃ uecφɪn ɪʃə. そこでアルシェの使徒はヴェイガンに遭遇した。

ꭥenɪᴅ ［医療］錯覚 ［レベル］4 ɹ1:ꭥeᴅ/nɪ【用例】 ɪn ʃclɪʃ ꭥenɪᴅ ꭥel lɪ lɪ ɪʃə. 彼女がここにいるのかと錯覚した。

ꭥence ［天文］デニエ、天王星、否天 ［組み数字］7 / 9 ［レベル］3 古 :ꭥence/ꭥen（～でない）/ce（両方（ここでは昼夜を指す））

ꭥence(ɹ) ［地名］デニエ ɹ1:lɥ「右も左もないような」［文化］ アルバザード南東部の都市。オリーブや果樹などが盛ん。

ꭥence ͡lɪʃees ［人名］デニエ＝カテージュ 1L:clᴅəȷ:ɥcꭥcɪ ［語法］ レイユ期の教師。アルナ大学の教師であり、かつレヴァレン党員。イシリウス＝ゲノスの諮問機関を務めた。生徒でありアライブ党首ギル＝エニークの娘であるルシア＝エニークに甘言を敷き、ファミィ＝ナオン暗殺計画のパイプ役とさせた。

ꭥencen ［料理］ファインバージンオリーブオイル ɹ1:「デニエの」

ꭥenɔ ［植物］へちま、ヘチマ、糸瓜 ［レベル］3 ɪlɪ͡lʃɪ:ꭥenɔ, ꭥenɣɔl（使えない）が原義。

ꭥeuɪ ［医療］外科 ［レベル］3 1ʮ:ꭥeȷuɪl

ꭥeɑɪ ［料理］バーベキュー、焼肉 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ꭥeȷɑɪc（外で焼く）

ꭥeɑɪnȷ ［天文］デネブ ɑu ［レベル］5 ɹ1:ɥcꭥcɪ ［文化］ ɑu においてデネブが扉、アルタイルが世界、ベガが錠、大三角そのものが鍵を象徴した。

ꭥeɑɪnȷ,ɑu ɔᴅc <>ꭥen/ɑcɪ

ꭥeɑɪnȷʃen ［天文］北十字星、北の十字、ノーザンクロス、はくちょう座（一部） ［レベル］6 ɹ1:ɥcꭥcɪ:ꭥeɑɪnȷ/ɟʃenʃ

ꭥeɑɔ ［物理］紫外線 ［レベル］4 1ɱ: 制 :ꭥeɑ/dɪɪ（紫の（外の）光）

ꭥeᴅ ［動詞］ɣəl を騙す、騙す、だます ［普通動名詞］騙し、詐欺、サギ、フェイント ［レベル］2 1ʔ: 制 ᴅɥɪe:ᴅɥɪe

ꭥeᴅȷ ［動詞］ɣəl を呆けさせる、呆ける、ぼーっとする、ほうける、ぼうっとする、きょとんとさせる ［形容詞］きょとんとした、朦朧とした、頭が冴えない、頭がまわらない、頭が回らない ［レベル］3 1L:ᴅelcꭥ cɪ ɪlʃe:ꭥeᴅɔ/ȷɔ（バカする）【成句】 ꭥeᴅȷ ɣən ʃcɑl ȷeleȷ 狐に抓まれたような顔をする、意外な事態に呆然とする。【用例】 ɔ͡l eleʃ ꭥeᴅȷ きょとんとした顔で ɪn eʃ ꭥeᴅȷ cᴅ ɑcȷ. 今日は頭が回っていない（冴えない）。

ꭥeᴅɥɪ͡l ［動詞］ɣəl を出し抜く、出し抜く、抜け駆けする、抜けがけする ［レベル］3 ɥꭥ;/「騙して追い越す」 ɹʔ

ꭥeᴅlɪȷ ［形容詞］［ネガティブ］悪い意味で器用な、調子がいい、要領が良い、世渡り上手な、こざかしい ［類義語］ɪɪlɔ ［反意語］lɔc ［レベル］3 ɹ0: 詐欺師の手 ［語法］ 巧くその場の空気に合わせて人に好かれるような能力を蔑んでいう。また、貨幣の偽造テクニックなど、凄いのは分かるがよくない器用さを指す。

ꭥeᴅc ［形容詞］遅い、速度が遅い、のろい ［形容詞］のろまな、とろい、とろとろした ［魔法］デミ（スロウ）。中位時魔法。時間を歪めて敵の速度を遅くする。 ［反意語］ʃɪl ［レベル］1 ɥꭥ 1L: 古 :ꭥeᴅɔ。ʃɪl の反対の ͡lcȷ は音がいかにも速そうなので避けた。 ʃeʃlc:ʃeʃlc:ꭥeᴅc【成句】［メタファー］ꭥeᴅc ɣən ɪφed カタツムリのようにのろまな

ꭥeᴅcl ［地学］トパーズ、黄玉 ［組み数字］9 / １０ ［レベル］4 1L:ꭥeᴅ/cl（皆を騙す） ［文化］ 害の魔石。トパーズは黄色いという常識があるが、実際にはさまざまな色があるため、それを知ったアルバザード人が「騙された」と感じたことから。

ꭥeᴅceᴅ ［普通動名詞］減速 ［動詞］ɣəl を減速する、減速する ［レベル］3 1L ［語法］ ʃɪleᴅ

ꭥeᴅɔ ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］馬鹿、ばか、バカ、頭のぼーっとしたバカ、ぽーっとしていて頭が回っていないかのような愚か者、どんくさい、ドン臭い、どん臭い ［反意語］ɑɪleɑ ［レベル］2 ɑu 1ʔ: 制 : 古 :ꭥenᴅelᴅɔlɔ(回らない頭)。頭が働くの意味で回ると比喩したのは日本語の感覚と同じ ꭥeᴅɔ:ꭥeᴅɔ:ꭥeᴅɔ ［語法］ ぼーっとしているものや、どんくさいものに使われる。普段早くても一時的にとろとろしている相手に怒って言うこともある。【用例】 "oecn, ꭥeᴅɔ{ʃeɔlɔ}ɾ ɥen lɔ, eʃʃɔɾ"「お兄ちゃん、バカ、考えなよ！」(ᴅel ͡leeʃɔcɪ)

ɑedɔucd ［生物］遅筋 ［レベル］5 ɺɱ‹ɺɺ

ɑedl ［経済］税関 ［レベル］4 古 :ɟɔµn

ɑedc ［植物］ナス、茄子、なすび、ナスビ、エッグプラント ［レベル］2 1ɱ: 制 :ɑeɑdcn（紫の棘）

ɑedenʃcı ［言語］［女性］かしこ、敬具、デペンティア ［レベル］4 ɺ1:ɑed enʃe「神に祈りを込めて」

ɑedenʃe ［名詞］デペンテ、アルテに対する礼拝、祈り、呪文、デペンテの詠唱、呪い ［医療］自己催眠 ［レベル］2 ɑ;e。ɑeµʃ の意。 古アルカで祈るは ɑedenʃe だが、ɑedenʃe の元の意味がそもそも祈りの呪文。 ɑedenʃe:ɑedenʃe:ɑedenʃe

ɑedeµcı ［地名］デペリア海 ɺ0:µcɑcı: 祈りの水 ［文化］ アルティア・ヒュグノー間の湾状の海。

ɑeyɔd ［名詞］シャッター。ドアの。 ［名詞］シャッター。カメラの。 ［レベル］2 µɑ;ɑeyə/hɔdyə | µʃ ɺʔ 【用例】 ıµ ɑeyɔd シャッターを下ろす。語源的に考えて、ıµ がシャッターを上げるではない。 ıµ ɑe yɔd e ɟerıµ カメラのシャッターを切る

ɑeyə ［動詞］yəl を閉める、閉める、閉じる、服を閉じる ［形容詞］閉まっている、閉じている、店がしまっている ［反意語］hɔd ［医療］梗塞、閉塞した状態 ［レベル］2 1L: 古 :ɑeɟdıyə（封印される）

ɑeyəʃınʃɔı ［化学］閉殻構造 1L

ɑeyəɟ ［名詞］絞り、しぼり。カメラの。 ［化学］絞り。顕微鏡の。 ［レベル］4 µɑ;ɑeyə/ɟɔ ɺʔ

ɑeyəɟel ［医療］陰唇癒合 1L:ɟeµen

ɑeyəzelɔ ［医療］脳梗塞 ［レベル］4 1L

ɑeyəeµcd ［医療］心筋梗塞 ［レベル］4 1L

ɑerl ［文末純詞］～だ。確実、断定、言い切りの文末純詞 ［レベル］1 1Δ:µcɑcı:ɑe は古の繋辞 ɑel。rl は古の強調の rlı から ［語法］ ı

ɑerlı ［ilben］［文末純詞］ɑerl ［レベル］1 1Δ:µcɑcı

ɑeµ ［代詞］［µɑen］俺 ［レベル］1 1L: 古 ɑel（男の一人称）から ［語法］ 男らしい言い方。

ɑeµʃ ［宗教］［動詞］ɔn（試験など）について yəl（相手）のことを ı（神など）に祈る、yəl に幸あれ、祈る、お願い事をする ［普通動名詞］祈り、礼拝 ［魔法］デルト。白魔法のうち、直接回復系を除いたもの。 ［非言語］祈る→文化欄 ［レベル］2 1ɱ ←古 :ɑedenʃe ［文化］ 祈るときのジェスチャーは、ıµʃe に祈る場合は右手の人差指を鉤状に曲げる。このとき、ほかの指は丸めてグーのようにしておく。その手を胸の前１０ｃｍほどの場所に置く。胸に手を当ててもよい。 一方、ılceɟ に祈る場合は手を合わせた状態にし、合わさりあった両手の指を互いの指の間に滑り込ませて交差させる。要するに手を組んだ地球でも一般的に見られる祈りのポーズである。ただし地球と異なるのは、交差した指を伸ばしたままにしておくという点である。西洋人が祈るときに作るグーっぽい交差した手と、日本人がやる手を合わせるタイプのお祈りの、ちょうど中間的な身振りである。『ねこにっき』ʃeel の回の３コマ目でみーふぁがこのポーズをしているので参照のこと。ちなみに伸ばした指を曲げて西洋人がやるようにしてもよい。ただし日本人がやるような手のひらを合わせるやり方はアルバザードにはない。このジェスチャーは主に ılceɟ に対する祈りだが、広義には ıµʃe も含む。 【用例】 ın ɑeµʃ eɟl ɟcl uıɑel. 雨が早く降ることを祈る。 ın ɑeµʃ ınɔ ed µıll. 計画通りうまくいくことを願う。 nɔn ɑeµʃ lı. 彼に幸あれ。

ɑeµʃlı ［宗教］祈り場 ［レベル］2 1L:delcɑcı ılʃe

ɑeµʃlɔɔb ［被服］ラウンドレット µɑ;/ ɺɱ ［文化］ ɟd でできた。神に祈る司祭たちの帽子としてでき、後に貴族の帽子になった。その命は長く、µʃ まで裕福な人間が身に着けていた。現在でも古風な人は身に付ける。

ɑes ［論理］［言語］結論 ［反意語］φɔz ［レベル］3 1L: 古 :ɑesc ［文化］ φɔz

ɑel ［接続詞］～である～。同格の接続詞。 ［レベル］1 µɑ;ɑeıl 1ɱ: 制 : 古 ɑel, ɑeıl（～であるもの） ɑeıl:ɑeıl:

ɑel,ɑ ın elʃ;e

ɑelʃ ［動物］熊、くま、クマ、ベアー ［組み数字］5／5 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lılʃı:ɑel ［擬声］ φəɔı ［文化］ → ucelʃµecn ティーテルと仲が良く、蜂蜜が好きというイメージがある。

ɑelʃheʃ ［植物］コキア、ホウキギ、箒木 ɺɺ:「熊の尻尾」

ɑelʃcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おおぐま座 ɺɱ ［文化］ cɑı

ɑelʃ ［地学］湾、入り江、ベイ ［形容詞］～湾。前置。 ［レベル］3 lılʃı

ɑelɟ ［名詞］映画 ［レベル］2 µʃ lılʃı ［文化］ 映画は比較的人気のある娯楽で、恋人候補が親交を深めたり話題を作るために利用することが多い。日本と違って席が広く、高低もあり、前の人の頭が気にならない。映画館ではケータイなど、音のするものは切っておく。私語は禁止である。映画に向かって喋りかけることもない。これは日本と同じである。日本以外の国では映画を見て騒ぐところもあるが、アルバザードでは騒がない。また、飲食もできない。音がうるさいからである。これは日本とは違う。尚、席と席の間には高いついたてがある。これをあげると隣の席と自席を隔離できる。隣が赤の他人のときは、ついたてを上げるのが礼儀。どちらともなく気付いた方が上げる。また、日本の席は狭く、爪先が前席の後部に当たるということが良くある。途中でトイレにいく場合、横の人に足をどけてもらうことになる。だがこれは迷惑である。だからアルバザードの場合、席の前に通路が必ずある。トイレを行くときはそこを通る。通路は一段低くなっているので、身を屈めながらいけば前の人の視界を横切ることなく移動できる。 映画館ではチケットを買って中に入る。チケットは資源の無駄なので紙ではない。使いまわしの硬質カードを入場券として使うか、アンセに登録する。大抵は指定席なので所定の位置に座る。映画の料金は日本より安い。レディースデイなどという差別的なものはないが、子供料金や学生料金はある。映画は一本立てで、長くても二時間以内に終わる。初めに予告が入る点は日本と同じである。尚、館内は当然暗い。 日本と違って、映画は劇場公開とダウンロード配信が同日である。つまり、映画館で公開される日と自宅で鑑賞できる日が同じである。映画館の利点は大画面かつ高音質な点である。欠点は自由に一時停止や巻き戻しできない点と、開始時刻が決められない点である。尚、ダウンロードする方が映画館より値段が高い。無料のデータと違ってセキュリティが固く、映画公開中は大抵コピーガードを破れない。素直に映画館に行くかダウンロードした方が早い。更に有料情報のコピーは罪が重く、警察もすぐ動くので割が合わない。日本はＰ２Ｐに海賊版が流れていても検挙される確率が異常に低い。だが、アルバザードでは海賊版が出回ればコピー者を徹底的に追及する。そのため、コピーしても人に配るのは難しい。知人に手渡しで渡すくらいである。だがその頃には映画の話題性も薄れているのであまりありがたくない。だから馬鹿馬鹿しいので素直にダウンロードするか映画を見に行く。 【用例】 ın cnıʃ le lıl ɑelɟ. 映画を見に行きたかった。 ın cnıʃ le lıl ɑelɟ lcnel. どうしても映画を見に行きたかった。

ɑelɟlı ［娯楽］映画館 ［レベル］2 µʃ;/ ɺʔ

ɑelnɔn ［卑語］シックスナイン ［レベル］4 ɺʔ: 古アルカの一人称デルとノンの形から

ɑelɑ ［名詞］スクリーン、銀幕、映写幕 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɑelɟ/ɑıe（映画の幕）

ɑelɑcı ［悪魔］亜魔族、デルフィア ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıɑel/ɑcı（魔族の界） ［文化］ アトラスには全百天の魔族（魔物）がいる。しかしそれだけで終わりではない。例えば ıclıc という魔物にはさらに細かい下位概念があり、色々な ıclıc がいる。この種のことを亜魔族という。本辞典では［亜魔］で検索できる。［亜魔］に載っているものは、［魔物］のさらに具体的な一種のことを指す。デルフィアはアデルのさらに細かい区分であるから、アデルと別種の魔物がいるという解釈は誤り。デルフィアはアデルに包摂される。簡単に言えば、アデルがスライム族だとしたら、スライム、スライムベス、メタルスライムがデルフィアになる。

ɑelɑe ［単位］デルフェ ［レベル］6 ɺ1:「泉の量」 ［文化］ ınlɔ

ɑelcı ［生物］亜種 ［レベル］4 ɺ0:ɑelɑcı

ɑelɔ ［動物］ナメクジ、蛞蝓 ［名詞］どろどろして気持ち悪いもの ［レベル］3 19: 制 :ılılʃı

ɑeıhcdel ［アトラスの国家］デアヒメル ［レベル］5 ɺʔ:µcɑcı

ɑeıl,ɑ ɑel ɑe/ıl「～であるもの」

ɑecʃ ［人名］デイト ［組み数字］8／16 ［レベル］4 delʃcı ɱɺ:ıµɑə/eɟʃı;e 制 : 古では ɑoec ［文化］ eɟʃı エスタの第８子。男。

ɑecl ［形容詞］おなかいっぱいの、満腹な ［類義語］µılləc ［反意語］ləlın ［レベル］2 ɺ0:ɑeyə ləɔ（口を閉じる）

ɑecɟ ［植物］ふき、フキ、蕗、苳、款冬、菜蕗 ［レベル］5 ɺ0:ɑccı/eɟn

ɑeɔ ［言語］コプラ、繋辞、連辞 ［レベル］5 19: 制 : 古の ɑe（繋辞）

ɑeɔɟ ［普通動名詞］空咳、空せき ［動詞］yəl を空咳させる ［類義語］ɔhɔ ［レベル］4 ɺ0:ɑeyə/ɔhɔ/ɟɔ ［語法］ 口を開けずに喉だけでこほんとすること。日本語だと「うん」などと表現される。

ɑee ［格詞］［文頭純詞］弱逆接、しかし ［レベル］1 1L:ʃeɔ/ɟee ［語法］ 接続詞の用法はないので、en ʃ ʃeʃ l において ʃeʃ の代わりに ɑee を用いることはできない。男性でも ʃeʃ を用いる。 設計上は男性は ɑee を用いるはずだったが、アシェットで ʃeʃ のほうで定着したのでどうにもならない。

ɑeed ［名詞］デーム、悪魔 ［生物］悪魔属 ［形容詞］悪魔～。敬称。 ［レベル］2 delʃcı 0:ırldı;ʃeedɟ.l ɺ0:ɑeedɟ:1ʕ: 制 : 悪魔テームスとの区別が付かないので区別した。一般の悪魔たちをこう呼ぶ。古アルカでの意味は「 永遠 」。その後 ɑeedɟ から、ʃeedɟ と区別するために ɟ を落とした。 ［語法］ → ıdʃ, eɟʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 ［文化］ アティーリに出てくる悪魔たちのこと。

ɑeel ［文末純詞］［µenʃe］ɑerl ［レベル］1 1Δ:µcɑcı

ɑeeln ［dclcı］［文末純詞］ɑerl ［レベル］1 1Δ:µcɑcı

ɑə ［格詞］～の量で。量や程度を表す。程度の場合、ıʃc が正式。 ［名詞］量、内容量 ［反意語］lıɑ ［レベル］1 1ɱ: 制 【用例】 ɟɔµʃ ɑə ʃcnlı ものすごく寒い。ɑə がなくても同じ ʃıə ɑə ʃı ２個買う

ɑənel ［料理］夕食、夜ご飯、夕飯 ［レベル］1 1L:ɟɔµn ［文化］ 夜７～８時くらいに食べる食事。夜食のことではない。夜食はアルバザード人は取らないので単語がない。どうしても言いたければ ləc cd ucµɑ など。大抵家族揃って食べる。人によってどの食事にウェイトを置くかは違うが、大抵同じ時間に食事を取れる生活にある人は同じ物を食べる。だから家族内は同じウェイトの置き方をすることが多い。朝食と昼食が多くない場合、栄養はここを中心に取る。晩ご飯では様々なものを食べる。栄養のバランスを考えて食べる。献立に決まりはないが、ふつう何らかのスープが付く。常食する穀物はない。日本人はまず間違いなく米を食べるが、主食は決まっていない。米をリゾットなどで食べることもあるし、麺を食べることもある。パンのときもある。穀物を取らずに肉や野菜などだけで終わらせることもある。食後から就寝前の時間はゆとりの時間である。食後は家族と暫く歓談し、消化が一通り済んだ頃にそろそろと自室へ戻る。そこでは大抵趣味に耽る。仕事や勉強より、趣味や余暇優先の時間。就寝時間が近い頃に頭を使うことは避ける。できるだけ就寝から遠い時間に済ませておく。就寝が近付くとゆったりする。家族と歓談をして終える場合もある。安らぎの時間である。 【用例】 ɟıʃ ɑənel 夕食を準備する ɑənel cl ɟeɟcl ɟıʃ. そろそろ夕食の準備が

できる。　ɪn ǀəcʃ ɑənel ǀɪ ɲɪ cᴅ ɑcȷ. 今日は家で夕食を食べた。　ɪnȷ ǀəc ɑənel cᴅ uɪɲɑɪnʃ. 私たちはいつも７時に夕飯を食べる。　ɪn ǀəcʃ ɑənel uɪɑel. 早めに夕飯を食べた。　ɪnȷ lɔɔǀɪʃ ȷɔɑ e ɑcȷ ǀɔnʃ ǀəc ɑənel. 夕飯を食べながら今日一日のできごとについて話した。　ɪn ɔǀʃɪʃ ɑcȷ ɪʃ ɪǀ cᴅ ɑənel. 夕飯のとき、今日がどんな一日だったか話した：ここでは主語が ɪn なので ɔǀʃ。主語が ɪnȷ なら lɔɔǀ でよい。　ǀɪǀǀɪ en ǀɪlᴅɪ ǀəc ɑənel ǀɪ ɲɪ ᴅɪn lɪ ləʃ uɔǀǀɪ. お父さんは忙しいので家でほとんどご飯を食べない。　ɪn en ǀəcʃ ɑənel ɔǀ lcʃe ɑɔl ɑcl. 長い間家族と食事をしなかった。　ɪn lɔɔǀɪʃ ɪ lcʃe bɪnel cᴅ ɑənel. 夕飯のとき、家族と楽しく過ごした。　ɑcȷ, ɪn ǀəcʃ ɥəə ɔn hɪɲl, ʃɪcǀ ɑənel ʃɪn. 今日は昼も夜も食べなかった。　ɪn ǀenʃɪʃ hɪdn cʃen ᴅelǀ ɪ ɑənel cᴅ ʃɔlel. 昨日外人の友達を夕飯に招待した。　ɪn ɪɲɪʃ ʃecǀ cᴅ ɑɔnc ɑel ɪn ǀəcǀ ɑənel. 夕食を食べ終わった途端にテレビを付けた。　ɪn ǀəc ǀe uɪn ɑənel. 晩飯食いに行ってくる。　ɑcn ɪn nɪ ʃə eʃ ɑɔcl ʃcn, ʃə eʃ ᴅel e ɑənel ʃeɲ. 非常に早いような気もするが夕飯らしい。　ɑənel eʃ bel e senʃc cᴅ ɑcȷ ʃeɲ. 今夜はイタリアンらしい。

ɑəɑ ［名詞］重さ、重量 ［生物］体重 ［文字］セット、字幅 ［レベル］２　制 ［文化］ ᴅɪcnɪsɪ

ɑəɑǀcdɪɲ ［名詞］体重計 ［レベル］３　1L:ənclec

ɑəɑɲez ［名詞］体重制限 ［レベル］３　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ

ɑəɲ ［言語］ɑ の文字 ［レベル］１　1ɱ: 制 : 上弦の月 ［語法］　第９文字目の幻字。

ɑəɲ(ȷ) ［名詞］ɑəəɲφɪ の略 ［レベル］３　1ʅ: 制

ɑəɲne ［名詞］宵、夜。２０時～２４時 ［レベル］1　古 :ɑəɲne, ɑəəɲne(上弦の月のころ）が原義。　uel,ɑ uccɑ,ɑu:uccɑ:lɪ lelce 【用例】 ɪn lɪʃ ɲɪ cᴅ ʃə ɑəɲne. 今夜は家にいた。

ɑəɲɪǀ ［電算］電算 ［名詞］電算。科目名。 ［レベル］３　ɲɑ;ɑɥə/ɲɪφnɪ　ȷȷ ［文化］ ɑeldɪnʃ

ɑəlʃ ［単位］京 ［レベル］３　ȷ1:ɑelʃ

ɑəlɔ ［ユマナ］皇帝 ［類義語］cǀǀɪnʃ ［レベル］３　1ዓ: 制 :ɑɪcz/əlɔ ［語法］

ɑəen ［接続詞］ɑə ［レベル］３　ȷ1

ɑəəɲ ［色］水色 ［レベル］２　1L: 赤 :ɑəəɲφɪ（上弦の月、水色） ::lə ɔlc uce

ɑəəɲᴅel ［名詞］水色時代 ［レベル］４　ɲɑ;/　ȷʔ ［語法］［文化］　人生を色に例えた呼び方。空が白んで水色になり青になり、夕日がかり、最後は黒になる前の一瞬の灰のような銀色を見せることから来ている。　nɪnɪ ～ ɑcɪn までは ɑcɲᴅel という。lɪz の間の短い期間を ɑəəɲᴅel という。ᴅɪnɪ を ȷɔɲeʃᴅel という。人によっては nɪɪʃ 前半まで ȷɔɲeʃᴅel とすることもある。ȷɔɲeʃ 以降で ɲɪǀel になるまでの働き盛りを hɪɲᴅel という。人によっては enɑɪ までを hɪɲᴅel ということもある。hɪɲ 以降死ぬまでを eɲɑcᴅel という。　どの年齢においても不運や不遇であれば ɑɔlɑᴅel という。　　人生の中で最も魔法体験に近付くのは水色時代と言われている。このころに人間は最も不安定な時期を迎え、感受性の強い繊細な人間はしばしば不思議な体験を経る。胸のドキドキや知らないことへの期待などが強く、何でも楽しく新鮮に感じることができるのもこの時期である。ɑcɲᴅel では素地となる知識が少なすぎるのでちょうど心地良いレベルのドキドキを感じることが難しい。青春時代になると知恵が付いてきて純粋性を失ってくるのでこれもまたドキドキを楽しめなくなる。　ちょうど第二次性徴を迎える時期でもあり、性的なことに関するドキドキを楽しめる唯一の貴重な時期でもある。　小さな子供扱いが終わり、徐々に大人に向けて歩み始める時期で、大人と子供のちょうど狭間にいる時期でもある。　　大人でもなければ子供でもない、白でもなければ青でもない、そんな素敵な水色時代。

ɑəəɲφɪ ［エルト］ドゥルガ ［人名］団体アルシェの異名 ［天文］［気象］上弦の月、上弦 ［名詞］［形容詞］五分咲き、５分咲き ［名詞］東 ［音楽］クレッシェンド ［組み数字］３/８ ［レベル］２　ᴅelʃcɪ ʅ:ɑəəɲφɪ;e　古　ɪleʃʃ:ɑəəɲφɪ ［文化］　lelʃeel　(ᴅelʃcɪ ʅ) 上弦の月を司るエルト。ユーマの最初の夫。カルザスが上弦の月の光から出産した。同月下弦から ʃcǀnɔ が uccne を生むため、ɑəəɲφɪ のほうが年上。

ɑəəɲφɪ(ȷ) ［地名］ドゥルガ圏 ［レベル］５　古 ［文化］ ɥəəᴅɪ ʕΔ0ɱ アゼリアはアンシャルの大部分を支配していたが、未征服の土地も多かった。しかし西は既に東という共通の敵を持っていた。勝手に西をひとつの帝国とするわけにはいかないが、東という共通の敵を浮き彫りにするために、アゼリアは西をドゥルガと呼び、ひとつの文化圏とした。これを受けてディオマンテは東をヴィーネと呼び、月戦争カコが完全に勃発。こうしてカコは中期に入っていく

ɑəəɲφɪʃəuɪn ［天文］上弦と凸月の間。 ［レベル］２　ȷȷ

ɑəəɲφɪȷcz ［魔法］ニオブ板、月晄板 ［レベル］６　ȷ1 ［文化］　ɑɔlᴅcɥə

ɑəəɲφɪ ɥəʃcɪ ［人名］ドゥルガ＝ユティア　1ዓ:ȷeɲen:lcɔn ［文化］『紫苑の書』の登場人物。レインの父。

ɑəəɲφɪlcl ［化学］ニオブ ［レベル］６　1Δ: 制

ɑəəɲlccɑɪ ［地球の国名］サントメ・プリンシペ　1L: 国章に水色の星

φ

φᴅᴅ ［擬音］くくく　ɑu;ɑɔueʃ　ȷʔ

φφφ ［擬音］くくく、ククク ［レベル］２　ȷȷ

φddd ［擬音］ぐふっ、ぐふふふ。堪えた笑い声 ［レベル］２　1L

φɥǀleɲcǀə,ɑ 　leᴅ、ᴅcǀȷ　ǀə は口

φɥə ［形容詞］苦い ［形容詞］人間関係などが険悪な←→ lɪc ［レベル］１　ɑ;e　赤　φɥə:φɥə

φɥəʃ ［動詞］ɥəl を ɔn について問い詰める、問い詰める、といつめる、追及する、詰問する、責める ［政治］弾劾 ［レベル］４　古 :φɥəʃ,φɥəʃʃ ← φɥəʃez（厳しい雰囲気） ［語法］　φəʃ 【用例】 ᴅcnʃc φɥəʃɪʃ ɪᴅcɲ ɔn ncɪ ɑcl dɔʃen ɪᴅɔ. 妻は車の中にあった長い髪について夫を問い詰めた。

φɥəȷ ［生物］胆汁 ［レベル］５　1ዓ: 制 : 古 :φɥəᴅɪcn(苦い体 , 胆汁)

φɥənʃ ［生物］胆道、胆管 ［レベル］5　1L:φɥəᴅ/ɑɔnʃ。φɥəᴅ/lɔɲ でも良かったが、φɥəlɔɲ など、あまり良い音がでないため。

φɥənʃɑɪcz ［医療］胆管炎 ［レベル］６　1L

φɥənʃdcφ ［医療］胆道がん ［レベル］６　1L

φɥəuɪȷ ［名詞］悪戦苦闘 ［レベル］３　ȷȷ

φɥəᴅ ［生物］胆嚢 ［レベル］４　1ʔ: 制 :φɥəᴅeȷl（胆汁の袋）

φɥəᴅɑɪcz ［医療］胆嚢炎 ［レベル］５　1L

φɥəᴅhɔhɔ ［医療］胆石（症） ［レベル］５　1L

φɥəᴅscɔɲ ［生物］胆兪、胆愈　ȷ1

φɥəlcl ［化学］マグネシウム ［レベル］４　1Δ: 制

φɥəɪᴅen ［名詞］［形容詞］意味深な顔、意味ありげな ［レベル］３　ȷ0:ᴅelc ɑcɪ lceɲ: わざとらしい意味深な顔を作るとき、アメンの部分をにがにがしげに寄せることから。

φɲɲ ［感動詞］ぐぅ、ぐー、くーっ！、ぐるるる ［レベル］３　古 : よくアルシェ女子が使っていた。 ［語法］　怒ったときに文句を言いたいのを我慢するときの耐える声。

φɲɪnᴅcl ［被服］グランミル ［レベル］４　bφ　ȷ1 ［文化］　uɪnʃe　ベルガンド式の大きなリボン。後頭部につける。カレン人が海老茶式部に取り入れ、アルティアへ逆輸入した。

φɲɪnɑɪ ［魔法］魔方陣 ［類義語］ɪzeɲ ［レベル］３　ᴅelʃcɪ LΔ ȷen ucɪ:ǀɪlȷee l;e　ȷʔ ［文化］　ɪzeɲ

φɲɪnɑcɪ ［アトラスの国家］グランディア ［レベル］４　ȷʔ:ɲcɑcɪ

φɲɪnbel ［地名］グランベル峠 ［地学］峠 ［レベル］３　ȷȷ:hɥ ［文化］　ヒュートとアルシアの間にある険しい峠。アルカでは一般化して単に峠を意味する。

φɲɪnbel ɑɪcn ［人名］グランベル＝ダイン　ȷ1 ［文化］　ɑɔlᴅcɥə

φɲɪnze ［人名］グランゼ　ɔɲ　ȷȷ ［文化］　サプリ村の住人。八百屋の経営者。細身の中年女性。

φɲɪᴅ,ȷzɑ 　ɑɪc　ǀɔɔǀueʃ

φɲɪɑ ［擬音］ガラガラ、グラグラ ［レベル］２　ȷ0:ᴅelcɑcɪ lceɲ

φɲcn ［音楽］チェンバロ、ハープシコード、クラヴサン ［レベル］５　ȷᴅ; ハンマーの音 φɲɪnφɲcn から　ȷ1 ［文化］　もともとピアノなど打楽器全般を指していた。チェンバロのほうがピアノより古い楽器。ピアノができたことで音に強弱がつけられるようになり、チェンバロが廃れ、ピアノは leʃȷ になり、φɲcn はチェンバロだけを指すようになった。

φɲenzcɪ ［植物］マロニエ、トチノキ、栃　zφ ［レベル］４　ȷȷ ［語法］　マロニエと栃の両方を指す。

φɲeɲ ［単位］ピコ ［レベル］５　ȷ1:ɑcφɥəɲeɲ

φɲecn ［動詞］ɥəl を滅ぼす、滅ぼす、滅する、滅亡させる、滅亡する、朽ちる、朽ち果てる、滅ぶ ［類義語］ǀleᴅɪ ［レベル］3　古 :ȷɔɲn:φəl と同根。

φɲeculc ［植物］グレイブリー、精霊の実 ［レベル］３　ul　ȷ1 ［文化］　ブルーベリーを品種改良したもので、ȷᴅ 中期に uellcɔn で作られた。地球には同じ品種は存在しない。精霊の実と呼ばれ、味は濃厚で色が濃い。粒が大きく、さくらんぼより少し小さい。アントシアニンが多く、ビタミンも多い。比較的水っ気がある点も特徴である。ȷᴅ のものは酸味が強かったが、品種改良され、ul 以降は酸味が少なく甘味が強い。　ȷᴅ 中期にアルバザードへ入り、現在でも好まれる。年中通して出回っており、生食や乾燥品のほか、ケーキの上にもよく乗っている。

φɲecu cneɪɪʃɔ ［人名］グレイブ＝イネアート　ɪl;φɲeculc　ȷ1 ［文化］　ɑcᴅcʃɔɲcɪ

φoɪʃ ［擬音］ぐわっ、ぐああ、ぐわあ、ぎゃー、ギャー ［レベル］３　ɑu;ɑɔueʃ　ȷɱ

φoɪn ［アトラスの国家］グワン、グヮン ［レベル］５　ȷʔ:ɲcɑcɪ

φoɪφoɪ ［擬音］ぐわはは、がはは、ガハハ、かかか、カカカ。汚い年寄り臭い、あるいは化物じみた笑い方。 ［レベル］３　ɑu;ɑɔueʃ　ȷɱ

φoɪl,ȷzl 　lcɪɲ　φoɪcn,ȷzl/ɪl,ɑ

φoɪcn,ȷzl 　ʃɔᴅ　<>　φɪ,ɑ

φoɪcnᴅel ［歴史］近世、nɑ_ɲʃ ［レベル］４　ȷ1 ［語法］　ᴅcɲᴅel

φlɪcɑ ［動詞］ɥəl に評価額をつける、値踏みする、値踏む ［普通動名詞］鑑定、値踏み ［レベル］３　ȷ1:ǀlcʃ.ǀ 【用例】　ɪdɪ ɪǀ beφlɪcɑ lɪn ȷcn, ɪlɑcn dɪ ɪɲʃe ɪȷ ȷc lɪnφ len ɪleȷ lə ucǀ. たやすく人一人を値踏みしやがって 世界の神ですら彼を笑う権利なんて持たないのに（ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『グングニル』）

φlcᴅ ［擬音］ぐりぐり、グリグリ ［擬音］(φcclᴅ) ギーン、ぎいん。金属などが鈍くぶつかる音 ［レベル］２　ȷ0:ǀɪlce

φleɪ ［軍事］［魔法］魔動銃、グレア ［類義語］ɪɲʃφel ［レベル］５　ȷ0: げきてつが叩く音のオノマトペから ［文化］　→ ɲɪφnɪlɔǀ, φel　イムル 1ȷ0ȷ 年にオスティア＝ジレールが開発した武器。φel はこれが元になって作られた。

φɪ,ɑ 　ʃɔᴅ　e

φɪʃ ［言語］φ の文字 ［レベル］１　1ɱ: 制 : 門 ［語法］　第１０文字目の幻字。

φɪʃɭɪ͡ ［普通動名詞］コッキング ［動詞］ɥəl をコッキングする、コッキングする µɷ;ɑɔueʃ Ɉ⋔ ［文化］ φel

φɪʃɭɪ͡hɔlʃ ［軍事］コッキングレバー µɷ;/ Ɉ⋔ ［文化］ φel

φɪʃȷ ［動詞］ɥəl をシメる、シメる、しめる、こらしめる、懲らしめる、懲罰する、折檻する ［普通動名詞］懲罰、ちょうばつ、せっかん、折檻 ［レベル］3 ʃɒ;ɑɔueʃ。殴るときのゴツンという音から。 Ɉʔ

φɪʃɪ ［地学］真鍮、ブラス、黄銅 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪφɪʃɪ'（真鍮）。語源不詳

φɪʃɪn ［音楽］ブラスバンド、ブラバン ［レベル］4 Ɉ1 ［文化］ 金管楽器で構成される楽団。主に真鍮を使ったことからこのように呼ばれる。 【用例】 ɪµ ɭccʃ φɪʃɪnʃ ブラバンやるべ！

φɪʃɪlə,ɪlʃ lɪµʃ

φɪ͡l ［動詞］ɥəl（金、代金、名目）を払う、ɥəl の額を ɔn の代金として ı に払う、払う、支払う ［普通動名詞］支払い、支出 ［経済］財務諸表上の費用、費用と収益の費用 ［反意語］ɷcʃ ［レベル］2 µɷ 1ʔ: 制 : 古 :φc ɿɔ（収入）。「金が来る」【成句】 φɪ͡l ucl ȷɪd 空気は払えぬ：無い袖は振れぬ 【用例】 ɑcȷ, ɪn φɪ͡lɪʃ uɪn. 今日は私が払うつもりだった。

φɪ͡lʃ ［生物］［化学］ホルモン ［レベル］4 ȷɔµn ［語法］ 内分泌の出す物質。外分泌の出すのは唾や汗。

φɪ͡lɭz ［経済］返済期限 ［レベル］4 µɷ;/ Ɉʔ 【用例】 ɑɪleȷ φɪ͡lɭz 返済期限を伸ばす

φɪ͡ll ［建築］カウンター、払う台、窓口、受付、ホテルのフロント、フロント ［名詞］空港の受付や搭乗口、受付、搭乗口。金を払ってチケットを買うところも指せるし、チケットを見せるところも指せる。チケットを見せる行為は金で買ったチケットを払うと考えるので、語源に合う。 ［レベル］3 1⋔: 制 :φɪ͡lele（払う台）

φɪ͡llleeu ［普通動名詞］チェックアウト→ leeu ［動詞］ɥəl をチェックアウトする ［反意語］φɪ͡lllələ͡ɔ ［レベル］3 µɷ;/「フロントを去る」 Ɉʔ ［語法］ φɪ͡lllələ͡ɔ

φɪ͡lllələ͡ɔ ［普通動名詞］チェックイン→ lələ͡ɔ ［動詞］ɥəl にチェックインする。lələ͡ɔ の一種なので格組は ɥəl にチェックイン先を取る。「ɥəl を ı にチェックインさせる」ではない。 ［反意語］φɪ͡llleeu ［レベル］3 µɷ;/「フロントに到着する」 Ɉʔ ［語法］ ホテルや飛行機などに用いる。 【用例】 ɪn φɪ͡lllələ͡ɔʃ ɒɔ͡ll cɒ ʃɔlel. 私は昨日ホテルにチェックインした。

φɪ͡lllələ͡ɔcɒ ［名詞］チェックイン時間 ［レベル］3 µɷ;/ Ɉʔ

φɪ͡lɪµ ［経済］ＡＴＭ ［レベル］3 1L:µcɷcɪ:ɪµbɪlelʃ 【用例】 ɿɔɑʃ φcl ɿɔn {c} φɪ͡lɪµ. ＡＴＭからお金を引き出す。

φɪ͡lɔn ［言語］［文字］ガコン。制アルカまでにおけるピリオド記号のこと。字的にはカンマ２つ分に相当する。 ［レベル］2 ɑu 古 ［語法］ 表意幻字使用時（古語）の文末につける。

φɪl ［形容詞］密な、ぎっしり、つまった ［反意語］lcɿ ［レベル］3 古 【用例】 ȷɔµlelclɿ φɪl ɔlen ɥel お肉たっぷりの餃子

φɪlʃ ［植物］柿 ［レベル］3 lɪ͡lɪ: 渋みが苦いと感じられ、φɥə から来ているのだろう。 ［文化］ 秋に採れるわりに体を冷やすので、胃腸の弱い人は禁忌とされる。アルティス教徒は基本的に避ける。

φɪlʃcȷc ［生物］密顆粒 µʃ;/ Ɉ⋔

φɪlʃeʃeɿ ［料理］柿茶、柿の葉茶 ［レベル］3 ȷɒ;/ Ɉʔ

φɪlȷedɪlcɑ ［天文］球状星団 Ɉ1

φɪl nɔuel ［人名］ガッシュ＝ノベル µʃ ［レベル］5 Ɉʔ ［文化］ µʃ_ul の物理学者。相対性理論を提唱した。

φɪlɒccµ ［物理］相対性理論 ［レベル］5 ul:φɪl nɔuel;/ Ɉʔ

φɪȷ ［化学］炭酸 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :φɪdȷɪdlc げっぷ（を引き起こす）空気

φɪȷʃ ［形容詞］まったく不完全な、まったく完全でない ［反意語］ɒeµ ［レベル］2 1L: 恣意だが、音の響きが荒く、ダメ出しをして突っぱねる感じで、適切に感じられたため。 【用例】 lɪ eʃ nccʃ φɪȷʃel. 彼は全然優しくない。

φɪȷd ［化学］重曹 ［レベル］5 1ʕ: 制 :φɪȷ

φɪȷhɔə ［化学］炭酸塩、カルボネート、カルボナート。φɪȷc でも同じ。 ［レベル］6 1L

φɪȷhɔədɪɑ ［化学］カルボナートエステル 1L

φɪȷɪɷɔ ［地学］炭酸塩鉱物 1L

φɪȷc ［化学］炭酸塩 1L

φɪn ［代詞］［φɪnɔ］ウチ ［レベル］1 Ɉ1:ɔuc૪: 強い男 φ に ɪn を足したものか。ɪn に音が似るが特に問題ない様子。

φɪn,ɪlʃ ɿəədɔ、uelcz

φɪnʃ ［名詞］根性、気力 ［名詞］甲斐性。物事をやり遂げようとする気力、根性としての。 ［レベル］3 µɷ;/φɪnʃȷ.ɿ Ɉ⋔ 【用例】 lɪ ʃcl φɪnʃ. 彼は根性がある。 lɪ ȷc φɪnʃ. 彼は根性なしだ。彼は甲斐性なしだ。

φɪnʃȷ ［組み数字］１０/１０ ［哲学］勇 ［医療］肺 ［歳時記］癸、みずのと ［レベル］4 µɷ;φɪnʃȷ,ȷzl Ɉ1 ::lɪ φɪnʃȷ

φɪnʃȷ,ȷzɷ uɪȷn ૪ シージア語特有の概念で、ɑu 以前に遡る痕跡がなく、これ自体の語源も不詳。

φɪnʃȷɪ͡ln ［生物］［医療］肺経 ȷzl;/ Ɉ⋔

φɪnɿ ［形容詞］けばい、ケバい、派手な、ハデな ［料理］油っぽい ［反意語］ʃəəʃ、ɑɪɪu ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :φɪnφl（けばい、味が濃い）。φɪnφl は元々味の濃さをいう語。それから人の見た目に転用された。日本語の「ガングロ」に語形が似ていて意味も通じるが、味が先なので語源になれない。 ［語法］ ɑɪɪu

φɪnɿeɒȷ ［形容詞］［ネガティブ］貪欲な、金の亡者な ［反意語］ɒɔɒɿəc ［類義語］ɿɪφ ［レベル］3 Ɉ0: 脂っこい油。飽食を象徴している。 【用例】 el ȷeʃ ɭɪɑ φɪnɿeɒȷ. 金の亡者は排他せねばならない。

φɪnȷ ［動詞］ɥəl を ı に弁償する、弁償する、償う、報いる ［レベル］3 Ɉ1:ɔuc<φɪn: 古 【用例】 φɪnȷ ɭɪɑ 罪を償う、落とし前をつける

φɪnɷ ［サール］ガンド ［動詞］ɥəl を占拠する、占拠する、占領する、征服する、場所取りをする、乗っ取る、占める、しめる ［婉曲］［動詞］ɥəl をレイプする、レイプする、強姦する ［普通動名詞］占拠、占有、乗っ取り、ジャック、レイプ、強姦 ［レベル］3 ɗu ɔuc: 古 ［文化］ エルトとの戦闘でエルトの魔晄源の１つを占拠したサール。 【用例】 φɪnɷ ɭɪ͡lɪ 場所取りをする

φɪnɷφɪlenɪ ［医療］独占欲 ［レベル］4 ul;/ Ɉʔ

φɪnɷcȷ ［政治］侯爵、候爵、マーキス、辺境伯 ȷɒ;φɪnɷ.ɿ Ɉ⋔ ［文化］ 領地を持った諸侯。

φɪnɪ ［軍事］領地、領土、領空、領海、勢力圏、版図、勢力、領域 ［名詞］領域 ［名詞］幅、帯域 ［レベル］4 1L:clɒəȷ:µcɷcɪ:φɪnɷ/ɿɪ

φɪnɪn ［農耕］領主、地主 ［レベル］4 ɈɈ

φɪnɪnɿɪ ［農耕］荘園 ［レベル］4 ɈɈ

φɪnɪuɪȷ ［軍事］領土戦 ［レベル］5 ɈɈ

φɪnɪɥə ［魔法］蠱毒、こどく、蠱術、巫蠱、ふこ ɪlʃ Ɉ⋔

φɪnɪc ［ジョブ］術士。蠱毒術を使う。 ɪlʃ;<>φɪnɪɥə Ɉ⋔

φɪnɔ ［名詞］ガノ、ギャル。女性のエタットのうち、下品なほう。 ［レベル］2 Ɉ0:µcɷcɪ:φɪnɿ（けばい） ［文化］ 典型的には声が甲高くうるさく人の迷惑を顧みず、自分と自分の仲間の狭い範囲だけで生きる女性。派手な衣装や振る舞いを好み、貞操が緩く、知能が劣る。

φɪnɔɥɔlɔ ［被服］ホットパンツ ［レベル］4 Ɉ1:φɪnɔ/ɥɔlɔ

φɪnɔləȷ ［被服］ミニスカート、ミニスカ ［レベル］3 Ɉ1

φɪneʃ ［代詞］［φɪnɔ］ウチの ［レベル］1 Ɉ1:ɔuc૪:φɪn/ʃe

φɪuµcɪ ［地名］ガヴリア海 Ɉ0:µcɷcɪ: ガーヴィの海 ［文化］ ガーヴィ・ファベル間の海。

φɪulɪȷ ［筐堺］ガブラス、ガヴラス µɷ;φɪɪuc/lɪȷ「オヴィの手」 ［レベル］5 ɈɈ ［文化］ 筐堺司：ɔuc φɪɪuc 筐堺国：φɪɪu, ɪlφɪɪu, hɥəɿɪl, ɿɔdɪd ɪl, ɒɔɿɪl, dɪlµɪ ɪɷenʃɔ はネーネと共同統治。

φɪulɪnȷ ［魔法］ガヴランス、ガヴランスの風洞 ［レベル］4 ls;φɪɪu/lcnȷ「地下の悪魔」。c の音が ı に引っ張られて母音調和したもの。 Ɉ⋔ ［文化］ アヴァンシアンが入っている地下風洞のこと。ランヴォルトで神々が第一祠徒ユリウスを封印した際に衝撃でできた巨大な地下空洞。レスティリアのシェラザードにある。

φɪɑ ［動詞］ɥəl を ı に避難させる、避難する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ȷɪɑ:φɪɪleȷ/ləɑɿ

φɪɑɪn ［政治］難民、避難者 ［レベル］3 1L

φɪɒɪc ［生物］副腎 ［レベル］5 Ɉ0:φɪ͡lɒ:1ʔ: 制 :φɪ͡lʃɒɪc（ホルモンの身体語彙）

φɪɷ ［普通動名詞］［ネガティブ］不平、不満、ぼやき ［動詞］［ネガティブ］ɥəl（不平）を言う、ぼやく ［レベル］2 1ŀ: 制 :lɪ͡lʃɪ:φɪ。文句を言う声のオノマトペ。 ［語法］［文化］ 不当なことには声を上げて立ち向かうべしという国民性なので、ぐちぐち影でこぼすのは悪徳とされる。φɪɷ はネガティブな意味の単語なので、公明正大に立ち向かう場合は同じ不平であっても φɪɷ とは言えず、ʃelȷ や ɿɪɔȷ になるので注意。 【用例】 ɪn φɪɷɪʃ ı lɪ ɔn lɪ en neʃɪʃ ɪn uɪɷel uecn. もう少し早く起こしてくれなかったことについて彼に文句を言った。

φɪɷʃɪən ［名詞］クレーマー、モンスターカスタマー ［レベル］4 ɪl;/ Ɉʔ

φɪɷµȷccl ［名詞］モンスターペアレント、モンスターペアレンツ、モンペ ［レベル］4 ɪl;/ Ɉʔ

φɪɷɪn ［名詞］クレーマー、愚痴る人 ［レベル］3 Ɉ0

φɪɷɪucl ［医療］モンスターペイシェント ［レベル］4 ɪl;/ Ɉʔ

φɪφ ［生物］喉 ［レベル］2 古

φɪφȷel ［言語］［生物］声帯、声門 1L

φɪφȷelɑɔ ［言語］声門音 1L

φɪφheʃ ［言語］［生物］口蓋垂、懸壅垂、のどちんこ、のどひこ ［レベル］2 1⋔

φɪφheʃɑɔ ［言語］口蓋垂音 1L

φɪd ［動詞］ɥəl をげっぷさせる、げっぷする ［再帰動名詞］げっぷ、ゲップ ［レベル］1 古？: オノマトペ

φɪb ［経済］原価 ［反意語］ʃeφ ［レベル］4 1L:φɪɪbe/φɪµʃ

φɪbe,ɪlʃ φɪɪbe φɪɪbe.lcɿ

φɪh ［動詞］ɥəl を笑わせる、笑う、大声で笑う ［擬音］ガッハッハ、ワッハッハ ［レベル］2 古 : 擬音語

φɪµ ［名詞］円盤、ディスク、ソーサー ［レベル］2 1L:1ʔ: 制 : 古 :φeɪl（丸いもの）

φɪµ,ȷzl φɪlʃ φɪlʃ.l

φɪµʃ ［名詞］値段、料金、金額、費用、対価、代償、代価、代金、運賃 ［動詞］ȷɔl（商品）は ɥəl（金額）だけかかる ［格詞］～と引き換えに、～を支払って、～を対価として、～を犠牲にして ［経済］価格 ［レベル］2 1L: 制 :φɪµ（値段） 【用例】 ʃə φɪµʃ ʃɔ૪ これいくらですか。 φɪµʃ ɷɔʃ{lcu} 不安点｛安定｝な価格 ʃə φɪµʃɪʃ ʃcn ɭel el ɿeɪ ȷɪc. パソコンを修理するのにかなりかかった。 ☆ ʃə φɪµʃɪʃ ʃcnɿɪ, ɒɔɿȷɪʃ ɑcl ʃc nɿɪ ɭel ɪn ȷɔɿȷ uɪɿȷ ɿeɪ ɷcɔ ɪnʃ. 歯を矯正するのに大変な時間とお金がかかった：ɭel は ʃə にかかる。重文であり、その ʃə は φɪµʃ と ɒɔɿȷ の共通の主語になっている。

φıµʃɔµɑ ［経済］価格競争 ［レベル］５ 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

φıµʃueµn ［経済］値崩れ ［レベル］５ ⅃0

φıµʃɑɔµ ［動詞］ɥəl を割引する、割り引く、割引する、負ける、おまけする→ ɑɔµ ［普通動名詞］割引、割り引き、割引き ［レベル］３ ⅃⅃【用例】 ıʃe ıµıʃ φıµʃɑɔµ ı nɔn ɑə 100 ȷɔlʃ ȷccnı. お店が１００ソルトおまけしてくれた。

φıµʃɑɔµɒıȷ ［経済］割引券、クーポン→ ɑɔµɒıȷ ［レベル］３ ⅃⅃

φıµʃɑɔµısı ［経済］割引率 ［レベル］４ ⅃⅃

φıµʃφını ［経済］値幅 ⅃⅃

φıµn ［被服］ペティコート ȷɒ;ıµn.ȷ ⅃ᕲ ［文化］ ȷɒ 前期では下着だったが、中期でうっすら見せるようになり、後期～ µɑ では上着となっていった。

φıµneʃ ［動詞］ɥəl を起こす､起こす､起きる､起き上がる ［運動］腹筋運動、腹筋 ［反意語］ȷınȷ ［レベル］３ ⅃0: 古 φıı（腹）/neʃ 【用例】 el ʃcl ȷen lɔl uıln ɔl el φıµneʃ c uceɒ. 丹田を支点に腹筋をすると胃腸が丈夫になる。

φıµu ［名詞］苦痛、苦悩、苦しみ、苦しさ ［形容詞］苦しい ［動詞］ɥəl を苦しめる、苦しめる ［魔法］ガーヴ。火の禁呪魔法。対象の苦しみの神経を刺激し、死ぬまでのたうちまわらせる魔法。内臓が灼熱で抉られたような感覚を覚える。死ぬまでに時間がかかる魔法で、残酷度が最も高い種。 ［反意語］ucleʃ ［レベル］2 ⅃0:φıu: 古 :u は怪我の意味。φ はのたうち回る音か。φııu と似るので µ を挿入。 【成句】 uıµ φıµu 四苦八苦して、七転八倒 【用例】 "ıµʃen e φıµu ɥəʃ ɒel" uɔµʃɒıcn ȷien uıȷȷı, uıʃıc ɔnʃ ılıd, ɒcn ıɑɥəȷɔl. ɥəə ıȷ ɥənı, ȷɔn φıµu. ＜メルによるガーヴの呪文＞ 戦場のむくろ、 天災と飢え、 陵辱される女。 誰も私を助けない、 苦しめ。

φıµɒı ［軍事］戦争 ［類義語］uıȷ ［レベル］２ ⅃0:φıµu（苦痛）/ 古 ȷıɒı（多い） ［語法］ ひとつの戦いが uıȷ で、戦いの１シリーズが φıµɒı。第一次世界大戦や朝鮮戦争などは φıµɒı で、レイテ開戦など、一回一回の戦いは uıȷ。

φıµɒı ʃ'ıµʃenı ［歴史］メルテナ後期、召喚士戦争。ɥəəɒı Ɽ,110 ～ ʕ,01ʕ ［レベル］５ ⅃0

φıµɒı e ɒɥəȷıle ［歴史］メルテナ前期、宗教戦争。ɥəəɒı ᕲ,001 ～ ᕲ,ᕲᕲᕲ ［レベル］５ ⅃0

φıµɑ ［単位］デシ ［レベル］３ ⅃1:φıµɑcın

φıµɑ,ȷzȷ uıȷın, uıc

φıµɑnıµ ［宗教］枢機卿、カーディナル zφ;「鉄のとぼそ」 ⅃ᕲ

φıµɑc ［人名］ガルディ、ガウディ、ガゥディ、ガーディ ［伝統色］カーキ ［組み数字］３/５ ［レベル］４ ȷzȷ ⅃1 ［文化］ → µıdıll

φıµɑc ʃȷelcn ［人名］ガルディ＝ツェリン ⅃1:µcɑcı ［文化］ φıəɑc

φıµɑcın ［歳時記］立秋 ［名詞］１３時 ［組み数字］１３／２４ ［レベル］３ ⅃0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

φıµɑcın(⅃) ［魔法］ガーディアン。アンジェリカのパイロット ［レベル］４ ls;φıµɑ,ȷz/ın ⅃1

φıµlecȷ ［名詞］レーベル。レコード等の盤面中央部に貼付される､曲目､音楽家､レコード会社名などのクレジットが記載されたラベル紙。 ［レベル］５ µʃ;/ ⅃ᕲ

φıµcəȷ ［アトラスの国家］ガリウス ［レベル］５ 1L:µcɑcı:φıµ/clcµcəȷ

φızel ［料理］ガゼル飲料 ［レベル］２ ⅃0:φıȷ/eµ/ 古 ıl（もの）→ φıȷel → φızel（同化）「ガスの水のもの」 ［文化］ 喫茶店などに置いてある一般的な飲み物。紅茶より安価。夏によく飲まれる。炭酸水に少量の塩とレモン汁を加えたもの。これに砂糖を入れると lccze になる。µɑ で lcdc を禁止したリディアがセレンに作ってあげたことで開発され、国民にも広まった。

φıl ［単位］１００、百 ［レベル］２ lȷȷ 古 oıɒı:φıl:lə ȷınȷ（元々 1ᕲᕲ。1 と ᕲ がどちらも男性なので ȷınȷ は男性。ȷɒ で定められたときはすでに ȷınȷ は 100 だが、1ᕲᕲ に遡って考えるところがルティア人らしい）

φılʃ ［建築］門、ゲート、門扉 ［形容詞］～門。前置。 ［交通］駅の改札：アルナでは自動アンセ読取装置があるので、アーチ状のゲートになっている。 ［名詞］ロから下の棒を引いた、ゲートボールの門みたいな形のもの ［武道］攻撃にも防御にも転じられる基本の構え ［サッカー］ゴール ［レベル］２ ɑu;e 1ʔ: 制 φılʃ:φılʃ:lı φıµ ［語法］ nɔɑ ［文化］ 集合住宅には門がある。一戸建てにもある。道からいきなり玄関に繋がることはない。門と庭が道と家の間にある。門はアーチ状のものもあれば、扉状のものもある。扉は日本の門扉と同じく西洋的なものであるが、押して入る。 【成句】 φılʃ e nene eɒ hɔɒ. 堪忍袋の緒が切れる：怒りの門が開くという意味。必ず怒りの意味で使うため、sɔ は不要。 lcʃ φılʃ 門外不出 ［武道］ȷıʃ φılʃ 構える 【用例】 ☆ φılʃ ınʃ eɒıʃɔµ hɔɒ. 堪忍袋の緒が切れそうだった。

φılʃȷeɑ ［サッカー］バックパス ul;/ ⅃ʔ

φılʃφeȷ ［運動］ゲートボール､クローケー､クリケット ［レベル］５ 1ᕲ: 制 : 門のボール ［文化］ ɒılzɔn

φılȷɔl ［生物］結腸 ［レベル］６ 1L:φılʃ 形の腸。大腸の一部

φılʃın ［名詞］門番、ゲートキーパー ［サッカー］ゴールキーパー、キーパー ［レベル］３ ɑu;φılʃ/lınʃcȷ ⅃ʔ

φılʃınʃ ［宗教］守門、ポーター zφ;φılʃ/lınʃcȷ ⅃ᕲ

φılʃc ［名詞］少ししたら。３０分～１時間強。 ［副詞］少ししたら ［レベル］１ ⅃0:φılʃ/cn（門を見に行くような)。ezcʃ より待ち時間が長いのでそわそわして。 ［語法］ ɑcȷɑə

φılʃe ［軍事］尉官 ［名詞］小ボス ［組み数字］４/７ ［レベル］３ 古 :zını: 門？ ［文化］ 士官の階級のひとつ。大尉、中尉、少尉に分かれる。

φılʃeı ［アトラスの国家］ガルテア ［アクセント］φılʃe↑ ［レベル］５ 1L:µcɑcı: 百の悪魔

φılʃeı(⅃) ［魔法］［人名］逢魔ヶ門、ガルテア ［アクセント］φılʃe↑ ［レベル］３ ȷȷ;lʃɑ<>φılʃ,ɑu ⅃1 ［文化］ eȷȷı

φıȷ ［料理］ハンバーグ ［レベル］２ 1ʔ: 制 :φılbıȷ（円盤形の牛肉）

φıȷɑcȷzeʃ ［料理］ハンバーグ定食 ［レベル］３ 1L ［語法］ ın lınɑ φıȷɑcȷ zeʃ ı. ハンバーグ定食まだこないのかな。

φıȷınɔ ［魔物］ガルカノ（百鷲）：第二十七天：風の氷天 ［レベル］５ 1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel: 百本首のある鷲 ［文化］ 鳥族。三つ首の大鷲。火、冷気、いかづちをそれぞれの頭から放つ。首をひとつ切ってもすぐ再生することから、首が１００本あるに違いないと思われ、この名がついた。だが実は倒し方は単純。３本の首を同時に刎ねればよい。ただし相手が強いので、単純ながら難しい。

φılȷılʃ ［歴史］世紀、センチュリー ［レベル］３ 1L ［語法］［文化］ メル０年は紀元年で、紀元前でも紀元後でもない。世紀は１から始まる。１世紀はメル１～１００年で、２世紀はメル１０１～２００年。紀元前１世紀は－１～－１００年で、紀元前２世紀は－１０１～－２００年。 メル０年を紀元後に含めると０～９９が１世紀になり、－１～－１００が紀元前１世紀になり、紀元前と紀元後で区切りの数が食い違ってしまう。そのためメル０年は紀元年とし、どちらにもしない。数直線で見る整数０が正負の数いずれでもないのと同様の考え方である。 【用例】 φılȷılʃ ⅃1 ２１世紀

φılueeɥə ［アトラスの国家］［地名］ガルヴェーユ、ガルヴェーユ島、天門島 ［レベル］３ ɑu;φılʃ/ueeɥə「天国の門」 1L:µcɑcı: 天国の門 ［文化］ 面積：ᕲʔ0⅃ʔ0.ʕᕲ00L⅃ ȷɒ ⅃ ɒelʃcı ʔⱤ に神々から追いやられたユーマの一族第三世代が移り住む。そのときこの名が付く。そこで狩猟採集生活をしていたが、ɒelʃcı ΔⱤ'0000 になると神々が移住してきて国を奪った。ユーマの一族はガルヴェーユを追われ、ファベルとサヴィアに散った。 ヴェーユに繋がる国といわれている。 【成句】 hɔɒ φılʃ e φılueeɥə lınʃ ガルヴェーユの門を開けてやる：火中の栗を拾う。メルとセレンのお盆のやり取りから。

φılueeɥəʃcȷe ［地学］ガルヴェーユ海流 ⅃ʔ

φılueeɥəȷʃıȷ ［歴史］ガルヴェーユ追放 ［レベル］４ µɑ ⅃ʔ

φılueeɥəın ［名詞］ガルヴェーユ人 ［レベル］３ ⅃0

φılɑ ［天文］銀河､ギャラクシー､小宇宙 ［レベル］３ 1ʕ: 制 :φıl/cɑı（百の星） 【用例】 ɔɒ φılɑ ıʃ ılıφel ıl ıȷɔ, ȷɔı ın nıʃ dɔʃ sıɒd e ɑəµne ȷɔnʃ cn dıɒ leıȷl e lcıl. ʃıl ın lıȷlıʃ le lel ɥəə ʃcȷ lɔʃen ʃə φılɑ ʃcl ɑcı ɔnʃ elɑ nɔzeʃ ȷɔnʃ ın ȷeµcȷ ȷɔl ʃə eʃ ȷlen l'el ɒɔlcn ɑcı ȷɔn. 夜の飛行機に乗ったとき、街の無数の灯りを見て、いつから銀河は地上に降りたのだろうと思った。だがその銀河の中の誰一人として自分の世界と言語を持たぬのだと気付いたとき、これこそが世界を見下ろす視点なのだと知った (ȷeµen ıµbızıµɑ)

φılɑµec ［魔物］ガルフレイ（百剣鬼）：第七十一天：聖の風天 ［レベル］５ 1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel: 百本の剣 ［文化］ 百本の腕があり、百本の剣をふるう鬼。顔は４つ付いており、どの方向にも向いている。顔と手はどの方向にも対応しているので、脚の向きを見てスキを突くしかない。 【成句】 ıȷel e φılɑµec ガルフレイの微笑み：八方美人

φılɑeµn ［天文］銀河系 ［レベル］４ ⅃1 ［文化］ | 約 1ʔʕ 億年前 | 銀河系が誕生する。ıµʃe は銀河系に位置するようになる。uccɑ は ıµʃe に流入し続け、ıµʃe は膨張を続ける |

φılɒı ［人名］ガルマ ⅃0 ［文化］ (ɥəəɒı Ɽ11⅃:ⱤⱤʕᕲ) メルテナ後期のアルテ教皇。

φılɑ ［経済］コイン、硬貨 ［遊離副詞］［形容詞］五分五分だ、フィフティフィフティだ：コインの表裏が五分五分で現れることから ［レベル］１ 1L:φıµ ［語法］ ıləəʃ ［文化］ ınɑın 【用例】 ʃə eʃ φılɑ lel lı lənı ız. 彼が来るかどうかは五分五分だ。 ın uıȷʃ ȷcl lı φılɑel nı. あいつに勝てるかどうかは五分五分だな。

φılɑȷıɑ ［地球の国名］ポルトガル ［レベル］５ 1L: 国章にコイン

φılɑnıl ［形容詞］［ポジティブ］お金の心配のない、富める、豊かな、裕福な ［形容詞］甲斐性がある。経済的な生活能力があるという意味としての。 ［類義語］ȷıφ ［反意語］ɑµenlen ［レベル］３ ⅃0: コインに関して安心な→お金の不安のない ［語法］［文化］ 清貧の反対で、湯水のように金があることを指すわけではない。不安に怯えることなく暮らしていける程度の金があることで、ȷıφ に関してはこの φılɑnıl のみが［ポジティブ］になる。 φılɑnıl はアルバザード人に愛された単語であり､アルバザード人のセンスが集約された語としてミロクに称えられた。φcnıl とせず φılɑnıl としたところにセンスがあり、「金」という直接的な言葉を忌避した雅さを持っている。

φılφıµɒı ［軍事］［歴史］百年戦争 ［レベル］３ µɑ;/ ⅃ᕲ ［文化］ cɒəl 1Ɽ00_1ʕ11 までの ɥəənılеȷȷı を含んだ戦争のこと。

φılbezel ［地名］ガルベゼル湾 ［レベル］３ ⅃0:µcɑcı:φılʃ/beezel ［文化］ アルバザードの湾のひとつで、テージュ海に通じる。悪魔ベーゼルが神との戦闘時に踏ん張って応戦した場所。ベーゼルを吹き飛ばしたときの衝撃で地面が吹き飛んで湾ができた。

φılı ［名詞］スキャンダル、醜聞、悪い噂、よくない噂 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ılıȷʃı:φlıȷ

φılcȷ ［名詞］攻撃弾、弾。何らかの攻撃に使う弾→ φılcȷ ［娯楽］ショット ［類義語］φeȷ ［レベル］４ µɑ; ↓ ⅃0:φıleȷ/ 古 lccz（小さな害悪）。φıleȷ は強欲の神だが、φıl の語源になっていることからも分かるとおり、害悪と連想される。

φılcȷȷɔu ［軍事］弾倉、マガジン ［レベル］５ µɑ;/ ⅃ᕲ ［文化］ φel

φılcȷɑıbe ［軍事］発射薬 µɑ;/ ⅃ᕲ ［文化］ φel

φılcɟφeƮ ［軍事］弾丸 ［レベル］5 μɑ;/ ɺ⑩ ［文化］ φel

φılcɟhɔɟ ［軍事］薬莢、やっきょう ［レベル］5 μɑ;/ ɺ⑩ ［文化］ φel

φılcɟlcuı ［娯楽］シューティングゲーム、シューティング ［類義語］ƮleıφıƖ cɟlcuı ［レベル］3 ɺ1

φılcɟeɟƮ ［軍事］弾雨 ［類義語］Ʈleıφılcɟ ［レベル］5 μɑ;/ ɺ0: 弾の雨

φılcɟez ［軍事］シリンダー μɑ;/ ɺ⑩ ［文化］ φel

φılcı ［魔法］風花門、ガリア ［レベル］3 ɒʃ;<>φılʃ,ɑu ɺ1 ［文化］ eɟƮı

φılɔn ［約物］セミコロン、; ［レベル］3 古 :φıƮɔn を変化させたもの。古ではセミコロンではなく、セミコロンを含む約物全般を指した。

φıleʃ ［魔法］晄基、こうき、ガレット ［レベル］4 ɺ0:φııbe/ 古 ıl/ʃe（材料になるもののような)。晄基は塩基から取った訳。 ［文化］ ɑɔlɒc ɥə ガレットが４種類ある以上、その内部構造が確実に存在するはずである。そのことは既に中世で分かっていたが、ıμʃɑμcɒ の分解能をもってしても内部構造は見えなかった。つまり当時は φıleʃ が観測できる最小限の大きさであった。 その後魔法自体が廃れたことで、魔導師が微かに残る現代においても φıleʃ 以下の素粒子は見つかっていない。現在、召還省下の魔法研究所は φıleʃ 以下の素粒子について予想を立てているが、その存在はまだ証明されていない。最小の構成要素が見つからないのは物理学と同様である。

φıleʃɟcz ［魔法］晄基板 ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

φıleʃncɒ ［魔法］晄基色 ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

φıleʃμecn ［魔法］晄基線 ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

φılen ［名詞］追加、おまけ、付属、補足、補遺、継ぎ足し ［名詞］添付、添加物 ［動詞］ɥəl を ı に付け加える、付け加える、足す、言い足す ［類義語］ıd ［レベル］3 ɺ1:ɒel:φııbe/en

φılenı ［名詞］［ネガティブ］欲望、欲求、欲 ［類義語］lıl ［レベル］3 ɺ1:φıılеɟ/nı

φıleu ［生物］［動詞］ɥəl に淘汰される、ɥəl に負け去る、淘汰される、破れ去る ［反意語］ɑılɟ ［レベル］3 ɺ0:φıu/leeu（苦しんで去る）

φıleɒ ［名詞］後悔、取り返しの付かないこと、後の祭り ［類義語］deɟ ［レベル］3 ɺɺ:φɥə/ıleɒ φıleɒ:φıleɒ 【成句】 φıleɒ ɟıle ucl μeƮ. 後悔は失敗の前に来ることができない：後悔先に立たず、後の祭り

φıleeɒ ［魔法］透晄、ガレーム ［レベル］5 ɺ0:φıleʃ/ɒɥə（ガレットのない） ［文化］ ɑɔlɒcɥə

φılə,ılʃ ucƮ

φıləɒı ［軍事］ガルマ ［レベル］6 ɟɒ;ılʃ<>φılə ［文化］ Ʈılın

φııʃ ［生物］腹 ［レベル］2 1L: 古 φı（腹、腹筋）/ʃɔɒ（おなか） ［語法］［文化］ ʃɔɒ の下から陰部の上まで。へその下で、腸の辺り。丹田がある。ルヴァンではここに空気を送り込み、ふいごのように膨らませたりへこませたりする。ʃɔɒ に比べ意識しにくい部位。活力や精力など、力の集まる場所。ルヴァン中はノアの緑の玉がここに集まる。

φııʃɔ ［代詞］こんな ［形容詞］このように、そのように ［類義語］ɟɔı ［反意語］uınɑɔl ［レベル］1 ɺɺ;φııʃɔ,ɟzɑ.ıleƮ「そこらに転がっている路傍の石のような」 ɺɺ ［語法］ ɟɔı

φııʃɔ,ɟzɑ ɑɔl c φııbe/ʃəənɔ

φııʃɔn ［代詞］こんなところの ［レベル］1 ɺɺ

φııl ［動詞］ɥəl（内容）を ı に叫ぶ、叫ぶ、さけぶ、大声を出す、大声を上げる、喚く、おたけぶ、吠える、鳴く、怒鳴る、どなる ［普通動名詞］叫び、雄叫び、夜泣き、怒鳴り声、怒鳴り、どなり、怒号、怒声 ［類義語］hıμφı ［レベル］2 1L:φıı という lcu ［語法］ φııl に怒りは含まれていない。怒って怒鳴るのは hıμφı。 φııφ は enı 型。φııl は Ʈə 型。【用例】 lı φıılıʃ "neʃſ". 彼は「起きろ」と叫んだ。 ʃc nı ʃɔ ɔn eμcɒ ɔl ɔɒı φııl ı ʃc8 犬に吠えられたら心臓にどう感じる？

φııƖƮɔu ［名詞］捌け口、はけ口 ［レベル］4 μɑ;/「叫ぶ箱」。人に聞こえないように箱の中に顔を入れて不満などを大きな声で叫んでストレス発散したことから。 ɺʔ 【用例】 lı ləʃ ɥɔl nɔn lel φııƖƮɔu ɔnen hcɒ. 彼はいつも私を性の捌け口として使う。

φııu ［地学］地下 ［反意語］ılsın ［レベル］3 ɑμɑ 1L: 古 :φııuc ləən:lə ən, φııuc ［文化］ 地下は物干し場になっている。部屋ごとに場所を設けるといくら場所があっても足りないため、空いているところを使う方式になっている。

φııuʃced ［建築］暗渠、あんきょ、カナート、カレーズ、地下用水路 ［反意語］ılsınʃced μɑ;/ ［レベル］6 ɺʔ ［語法］［文化］ 敷地の有効利用の目的からか、暗渠の上を道路や遊歩道へ転用している例がしばしば見られる。川がないのに欄干（らんかん）が残っている場所があるが、これは地下に暗渠がある証拠である。 もともとの川幅の狭さや強度の関係もあり、多くは車両通行禁止の遊歩道などに転用している。幅が比較的広い川を暗渠にしたケースでは、自動車が通行可能になっていることもある。 川を蓋がけして作られた経緯から、路面が沿道の宅地よりも若干低くなっていることがある。 なお、地下に水道管を埋設するために直線的に整備された、いわゆる「水道道路」もまた、暗渠の一種である。

φııu ɑμeɟʃcı ［人名］ガーヴ＝フレスティア ［レベル］6 1L:clɒəɟ:ɟeμen/ɒel ［文化］ (ɒel LΔ → 1⑪1) ナディア期の海賊。男性。エルトア出身だが身元を隠し、カテージュ出身で終世通した。９８年に母親がレイプされ、腹を引き裂かれて殺される。母の死体の中から救い出されたのがガーヴ。エルトアで生まれ、すぐ孤児院に預けられる。魔導師の生き残りで、２歳で孤児院を魔法で焼く。孤児院を去ったところを児童売買人に捕まり、アデュへ。しかし折しもアデュの報いでアデュが崩壊。しかし魔法のバリアを張って生き残る。崩壊したアデュで１０才まで生きる。１０才でカテージュに行き、海賊の船を盗む。捕縛されるもその船長に見込まれ、養子となる。１４歳で船長をなます切りにし、海へ投げ捨て、船を奪う。メティオ付近の島を根城に、アッティ＝メテの航路を通る船を襲う。貨物船から略奪をし、旅客船で強姦と虐殺のかぎりを尽す。メル１２４年、アルバザード・メティオ・ルティア連合軍の海賊掃討作戦に敗れ、アルバザードを撤退。南半球の航路を確立し、マレットの民を虐殺して回る。メル１４１年、強姦して産ませた自分の娘が１２歳になり、強姦。拒まれたため、強姦して殺害。死体をなます切りにして便所に捨てた。それに見かねた部下が造反。毒を盛られ、海に捨てられた。ガーヴの海路はアルバザード海軍の利用するところとなり、植民地化が多いに進んだ。

φııuɑɔnʃ ［交通］地下道 ［レベル］3 1L:clɒəɟ:μcɑcı

φııuμecn ［言語］［文字］ディセンダーライン ɺ1

φııulɔd ［交通］地下鉄、メトロ ［形容詞］地下鉄～線。前置。 ［レベル］3 ɺ1

φııuıƮɟ ［建築］地下、地下階、地階 ［レベル］2 1L

φııuc ［地名］ガーヴィ ［レベル］5 古 ［文化］ メテの使徒ヴィーファの支配地

φııuc(ɺ) ［アトラスの国家］ガーヴィ ［レベル］4 ƮıƮɔ ［文化］ 面積：1ʕʕɺ⑩0ᛘ.LLL0ᛘΔ Ʈɒ ɺ アティア海に浮かぶ島。元はファベル大陸に接していた。周遊する島。地下の同名の国ガーヴィに通じるが、ガーヴィからは入れず、パルラのミュシャクから行くしかない。

φııucʃcƮe ［地学］ガーヴィ海流 ɺʔ

φııue ［地学］地質 ［レベル］5 μɑ;φııuc.Ʈ。地面より下の岩石等の性質などを指すことから。 ɺʔ

φııueɑeɒe ［地学］［歴史］地質時代 ［レベル］6 μɑ;/ ɺʔ ［文化］ 冥王代、始生代、原生代、顕生代に分かれる。 原生代は古原生代、中原生代、新原生代に分かれる。 顕生代は古生代、中生代、新生代に分かれる。 さらに古原生代などはシデリアン、リィキアンなどに細分化される。 命名は全て人間の成長に基づいてなされる。 冥王代、始生代、原生代、顕生代は胎児、嬰児、子供、大人。 原生代の古原生代、中原生代、新原生代は nını, ʃcnı, ɑcın。 顕生代の古生代、中生代、新生代は lız, ɒını, nııʃ。 シデリアンなどは人間が生きていく過程で起こる細かい成長を元に命名される。 例えば古原生代は nınıɑeɒe なので、シデリアンなどの細分化された項目は赤ん坊が習得することを元に命名される。最初のシデリアンはまず赤ん坊が生まれて最初にすることが泣くことなので、この時代は φııφnını と命名される。次に赤ん坊はハイハイをするようになるので、シデリアンの次のリィアキアンは bɔƖƮnını という。このように、一人の人間の成長過程をそのまま地質時代の成長過程に当てはめていくという命名法を取る。 地球のシデリアンなどの命名と異なり体系的かつ日常的なので覚えやすく、直感的にどれくらい古いのかすぐに理解できる。 ・赤ん坊時代 シデリアン：泣く リィアキアン：這う オロシリアン：立つ スタテリアン：歩く ・幼女時代 カリミアン：呼ぶ。パパ、ママなどと親を呼ぶようになる。 エクタシアン：走る ステニアン：描く ・童女時代 トニアン：書く。文字が書けるようになる。 キオゲニアン：計算する エディアカラ紀：恥じらう ・少女時代 カンブリア紀：使命を負う。１０歳で使命を負うのはアルカの伝統。 オルドビス紀：恥じる シルル紀：憧れる デボン紀：想いを寄せる 石炭紀：悩む ペルム紀：反抗する ・思春期 三畳紀：恋する ジュラ紀：デートする 白亜紀：抱く ・青年期 古第三紀：キスする 新第三紀：結婚する 第四紀：出産する ●更なる細分化 第四紀などは更に更新世と完新世に細分化される。これは ʃɔʃɔlculnııʃ ではなく、ʃɔʃɔlc ul の形で表現される。さらに更新世はゲラシアンとカラブリアンに分かれるが、これは ʃɔʃɔʃɔʃɔlcul ではなく ʃɔʃɔʃɔʃɔ の形で表現される。なお、大雑把な地質学用語としては、ここまでの細分化は覚える必要がない。

φııueɑel ［地学］地質学 μɑ;/ ɺʔ

φııuehınƮ ［地学］地層 ［レベル］5 ul;/ ɺʔ

φııuez ［建築］地下室 ［レベル］3 ɺ0:lcɔn

φııuel ［軍事］植民地 ［レベル］4 1L:clɒəɟ:ɒel:φııu/eel（ガーヴ船長がアルバザードに先駆けてナディア期にファベルに植民地を築いていたことから。植民地にはガーヴの像が置かれたため、この名がついた）

φııφ ［動詞］ɥəl を喚かせる、喚かせる、喚く、わめく、ぎゃあぎゃあ泣く、泣き喚く ［レベル］2 古：ぎゃあぎゃあ泣くときのオノマトペ

φııφnını ［地学］［歴史］シデリアン ul;/ ɺʔ ［文化］ φııueɑeɒe

φııbe ［名詞］材料、料、原料、資材、ネタ、原材料 ［料理］（食べ物の）具、素材 ［名詞］オナニーのオカズ、おかず、オカズ←→ leebel ［文字］エレメント ［レベル］2 ɑ;e 赤：制で ıb だったが、ここまで短い必要はない φııbe:φııbe:lə φııbe:φıbe,ılʃ 【用例】 ɔl ʃc ʃcl φııbe le ʃc lıl ın ılʃ, ɟɔn ılʃ ʃə ıʃə. 書いてほしい記事があればここに書いてください：ʃc lıl は挿入。le は ın ılʃ にかかり、先行詞 φııbe は元々 ɥəl 格。

φııbeʃ ［名詞］物資 ［レベル］4 ɺɺ:φııbe/ʃe

φııbel ［名詞］家紋、紋章、校章 ［レベル］3 ɺ0:φııbe ［文化］ zφ で軍を識別する旗模様としてできた。ƮƮ ～ ɟɒ までは有力氏族の家紋として使われた。 μɑ から広く民衆も持つようになった。ul 以降廃れたが、上流階級の中では伝統として生き続けている。 植物や動物や道具などが描かれ、指輪に彫られ、印章として使われる。また、服など持ち物に編みこまれることもある。 皇室アルバ家の家紋は「六角柊」。堅く重いことから安定して強いことの象徴であり、常緑樹であることから「枯れない」→「滅びない」ことを象徴する。 ユティア家の家紋は「逆さ鈴蘭」。鈴蘭の悪い印象（淫靡で有毒）を逆さにすることで、逆に良い印象（清廉で薬になる）に転じている。 ルティア王室の家紋は「踊り撫子」。この撫子はｄｉａｎｔｈｕｓ。 アルバザード家の家紋は「水月紫苑」。水に映ったイシリウスの月と、サールの象徴である紫苑からなり、ともに最大級の魔力を象徴している。

このことから祖先が魔導師であったことがわかる。　ケートイア家の家紋は「銀鏡竜胆」で、魔法と槍から来ている。竜胆は外来種で、祖先がフィガンの出身であることから来ている。

φııµ ［形容詞］新鮮でない、古びた、しなびれた、萎びた、古い ［反意語］ Ωccl ［レベル］2　@ 1L

φıızе ［料理］ソーダ、炭酸水、炭酸飲料 ［類義語］ɑınıʅ　µΩ;φıȷ/eµ　Јʔ ［文化］ アルバザードで「ソーダください」と言ったらスプライトのような甘いものではなく単なる炭酸水を出される。ジュースのソーダがほしい場合は ɑınıʅ くださいと言わなければ通じない。

φııl ［形容詞］有害な ［名詞］害悪 ［反意語］Ωccµ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :φııleȷ

φıılclʅ ［魔物］ガーリシュク（啼茸）: 第六十五天 : 聖の陽天 ［レベル］5　1L:µcΩcı/ȷeµen/ɒel: 叫ぶキノコ ［文化］ 蟲族。菌の集まりなので蟲族。赤ん坊ほどの大きさの茸で、不気味な顔が付いている。引っこ抜くとギャーと叫び声を上げ、聞いたものは卒倒するかショック死する。そして倒れた相手に食らいつく。邪か害に見え、実は聖属性という厄介な相手。身なりにせよ属性にせよ、獲物を騙すことで狩りをする。

φııleȷ ［サール］ガーレス ［形容詞］強欲な、よくばり、欲張り ［俗語］［人名］ ルシア。ルシアの悪口 :Ј0:ɒel: 兄ユルトのおもちゃを取り、ユルトがルシアの投げ捨てたものを取ると、それはそれで怒って取り上げることから。 ［レベル］2　µcΩcı: 古 ［文化］ エルトのトゥウェンを封じ込めたサール。非常に強欲。

φıcn ［言語］［文字］ガイン、ピリオド記号、ピリオド、丸、下降調 ［レベル］ 2　Ј0:φıʅɔn/cnʃ

φıcnıȷ ［アイテム］クレイモア　hɥ　Јɱ

φıcΩ ［生物］甲状腺 ［レベル］5　1L:φıφ/φıʅʃ。似たような語形を避けるために適当な母音 c を挿入。

φıcΩɑıcz ［医療］甲状腺炎 ［レベル］6　1L

φıcz ［形容詞］精神的に不快な、不快な ［名詞］精神的な不快感、不快、不快感 ［類義語］beʅıɒ、ɒelcȷ ［反意語］Ωccʃe ［レベル］2　古 :φecz（毒ガス）→ φıcz（不快）【用例】 ʃcl{nı} φıcz 不快だ

φıcı ［動詞］ɥəl を ı{ɑccnı} に保障する、保障する、保証する、責任を持って約束する ［レベル］3　1L: リディアの書 :φııl/dcnı

φıɔ ［名詞］端っこが広がっているもの、口がすぼまっているもの、末広がり ［動詞］ɥəl を発散させる、広げる、広がる ［動詞］［数学］ɥəl を発散させる、発散する ［反意語］ılφı ［レベル］3　古

φıɔȷ ［化学］フラスコ ［レベル］4　µΩ;φıɔ/hɔȷ　Јɱ

φıɔɥɔlɔ ［被服］ブルマ　nΩ;/　Јɱ ［文化］ 現代人の想像するブルマではなく、裾が広がった長ズボンのこと。

φıe ［生物］歯ぐき、歯茎 ［レベル］3　@ 1L

φıeɑɔ ［言語］歯音、歯茎音　1L

φıedɔı ［医療］歯肉腫、エプーリス　1L

φıəΩc ［建築］ガウディの塔 ［経済］5 ソルト玉 ［レベル］2　Ј1:µcΩcı:φıµΩc ［文化］ → ınɑın、ɑınɑµeı　µʃ の建築家 φıµΩc ʃȷelcn が µʃ 末期の万博で建てた塔。当時製法が確立した錬鉄でできている。現中央アルナ市コノーテ＝リュウ通り所在。電波塔と展望タワーが当初の目的。ul でラジオを送信。その後テレビ放送のＵＨＦとＶＨＦを送信。ıl で近隣の高層化に伴い役目を終え、展望タワーや観光名所として残る。 【成句】 uıl φıəΩc ２０ソルト : 二束三文

φc ［名詞］金属、メタル、金具 ［レベル］2　ɒelʃcı Δ:φclcəȷ;φclcəȷ.ʅ　1ʔ: 制 : 古 :φcclı（金属） φc:φc:lə φcclı（ギリウスが男性）

φc,ılʃ　µıφnı

φcʃ ［形容詞］弛み、弛む、緩んだ、ゆるんだ、ゆるみのある、たわんだ、撓んだ ［反意語］Ωıʅ ［レベル］3　@ 1L

φcʅclb ［名詞］彫金 ［レベル］6　1L:µcΩcı:ıµbıɭelʃ

φcɭ ［名詞］警告、警鐘、警報、注意事項 ［動詞］ɥəl（内容）を ı に警告する、警告する ［反意語］Ωıȷ ［レベル］3　@ 1L 【用例】 el cȷʅ ɑıl φcɭ lını ɑɔnl ucɭ. けがをしないように注意事項を読んでおかなくてはならない。

φcȷ ［名詞］はんだ、ハンダ ［レベル］4　古

φcn ［動詞］ɥəl（商売の内容）を商う、商う ［経済］商売、商い、商業 ［類義語］µceʃ ［レベル］3　古 ［語法］ φcn は商売全般のことで、抽象的な概念。µceʃ はその具体的な動きや方法のことで、営業・運営・経営などの意味。

φcn(Ј) ［経済］アルティアの通貨 ［レベル］5　ЈЈ

φcnʃɔnʅ ［経済］商人 ［レベル］3　1L ［文化］ ナディア〜シルク・アルミまでの身分の１つ。技師や医師などを含む。

φcnȷ ［動詞］ɥəl を削る、削る、削れる ［経済］減損 ［レベル］3　古では？ : 削る←爪をする

φcnȷueɱ ［経済］減損会計　1L

φcnȷı,ɑu　ɭcȷd　φcn/ȷı

φcnuıʅȷ ［経済］商談 ［レベル］5　1L:µcΩcı:ıµbıɭelʃ ［文化］ 会議と基本は同じ。交渉相手と商談について話し合い、最終的に結論を出す。商談は一対一で行われることが多いため、議長はいない。会議を一対一で進めるようなもので、交互に自分を意見を言っていき、最終的に結論を出す。客と売り込む側に上下関係はない。日本は明確な上下関係があり、接待が横行する。アルバザードでは接待はしない。

φcnuınʃ ［法律］商法 ［レベル］5　1L

φcnı ［被服］洋服のホック、ホック、スナップ ［レベル］3　1ʕ: 制 :φcnɔ から

φcnıʅn ［経済］商業主義　µΩ;/　Јʔ

φcnın ［経済］商人 ［レベル］3　1L:clɒəȷ:µcΩcı ［語法］ アルバザードでは伝統的に賤業とされ、過剰に儲けた分を社会貢献に回すようにという暗黙の社会ルールがある。過分に儲けた人間は、そのほとんどを慈善団体や研究機関に寄付することが社会的義務。日本人や中国人のように貯め込むと不買運動やデモや打ち壊しに見舞われる。寄付者は ʃoen に祝福されたものとして、聖人として称えられ名誉を得る。また、仮にその後の商売が失敗しようと、本人および暗黙の了解で家族も生涯の生活が保護される。例えばアメリカ人ビル＝ゲイツの場合、資産の多くを慈善団体に寄付したことで、アルバザード方式だと聖人となり、今後マイクロソフトがどうなろうが生活は保障され、聖人として称え続けられる。

φcnɔ ［アイテム］鉤爪、爪、ツメ ［レベル］3　ɑu;φc/nɔ「金属の爪」 赤

φcnɔu ［医療］ケロイド ［レベル］5　1L:φcnɔ/leun

φcnɔın ［ジョブ］爪使い ［レベル］4　1L:µcΩcı

φcɑ ［生物］霊長類 ［レベル］4　1ʔ: 制 :lıʅʃı では φccɑʃ

φcɑʃ ［名詞］針金、ワイヤー、ワイアー、ワイヤリボン ［レベル］3　1ʔ: 制 :φcɑɔʃ（金属の紐）

φcɒ ［形容詞］浅い ［反意語］Ωın ［レベル］2　@ 1L

φcɒʃceµ ［地学］表層。海の垂直区分。 ［レベル］6　ul;/　Јɱ ［語法］ ʃceµ

φcɒʅı ［名詞］浅瀬、あさせ ［レベル］3　µΩ;/「浅いところ」 Јɱ

φcɒbelʃ ［料理］フライパン ［レベル］2　1L:ɭcɔn

φcɒleed ［言語］表層構造 ［レベル］6　1L

φcɒı ［経済］小切手 ［レベル］4　µʃ:φcl/ɒıȷ　Јʔ 【用例】 ıµ φcɒı Ωə Ј00 ı nene 〜に２００ソルトの小切手を振り出す、小切手を発行する

φcɒıʅɔn ［地学］［植物］土壌のＡ層　1L:µcΩcı ［語法］ 土壌の２層目。０層の下。腐植と土の混合からなる。

φcɒel ［死神］ギメル　1L:ȷeµen ［文化］ ヴェルギナの部下の死神。ふわふわの髪の美少年。人間でいえば十代。一途なところがあり、ランヴェムを兄と慕っている。だが、気性が激しく、ランヴェムに迷惑がられている。非常にナルシストで、言葉がいちいち演技がかっている。　ヴェルギナの相手ばかりしていて運動不足なので、ヴィードを使わない戦いでは大して強くない。

φcd ［名詞］釘 ［レベル］2　lıʅʃı: 尖った金属 【用例】 eu φcd 釘を打つ

φcb ［料理］おたま ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :φczɔb

φcz ［名詞］やすり、鑢 ［レベル］3　古 :φc は金属で、z は棒 【用例】 ɱe ʅɔn φcz やすりで磨く

φcl ［経済］金 ［類義語］ınse、beʅeʃ ［レベル］2　ɑu　古 : 金（かね）＝ φcl（金属の（φc）もの（l））。または ʅɔlɔ で金とも。　φcl:φcl:le ınse ［文化］ ＜金に対する価値観＞　フランスや昭和の日本同様、金を儲けるのは卑しいことと考えられており、清貧が尊ばれる。上流階級ほどこの意識が高く、成り上がりの商人ほど低い。　一方、関西的か関東的かというと関東的で、安物買いを威張ることはしない。威張るとしたら高いものだが、それ自体が卑しいことと考えられているため、できるだけ値段の話自体を避ける傾向にある。　逆に金を稼がないのもよくない。生活に必要な程度を稼ぐのがよいとされる。年収は仕事から自ずと分かり、これも話題にしない。　物をプレゼントされた際にいくら？と聞くのは失礼。全体的にお金は汚いと思われているので、金の話はなんであろうと避けておくのが無難。　＜金の種類＞　アンセには電子マネーが登録されている。２０１０年の日本でいうところのスイカやパスモに相当する。あのカードがアンセの端末の中に組み込まれていると考えればよい。電子マネーはデビッドカード式であってクレジットではないので、即座に銀行口座から引き落とされる。　アンセによる決済はバイオメトリクス認証を採用しているため、本人以外では使うことができない。　日本と異なり小切手の習慣がある。紙幣の最高額である 10000 ソルトを越えたあたりから用いることがある。小切手にはサインがなされ、受け取った人間は金融機関で換金する。　小切手には本人がサインをし、金額を書く。受取人は後から銀行に提出して自分の口座に送金してもらう。誰から誰に渡ったかはっきりするので、恐喝によって小切手を書かされる心配はない。　貨幣はソルトである。アルバザードは小数文化なため、存在する貨幣にクオーターという考えはなく、Јϸ や Ј という貨幣はない。貨幣は順に 1、ϸ、10、ϸ0、100、ϸ00、1000、ϸ000、10000(µınφ, φıəΩc, ɒcȷʃce, ınlc cz, ɑıllcın, ȷɔen, lıuen, eılcȷ, ueȷdel　) の順である。このうち 100 までが硬貨であり、ϸ00 以上が紙幣となる。日常生活での最高額の紙幣は ϸ000 であり、10000 は通常を見ることがない。　ミロクは革命時に電子マネーを普及させ現金を廃止しようとした。政治家やマフィアがため込んでいる申告することのできない金をあぶり出すためである。すべてが電子マネー化されることで、国は国民の財産を一人一人細かく把握することができる。これは徴税の効率を上げ、管理の質も向上させる。　ところが富裕層から絶大な反対を受け、マスコミが強く反対して国民を反対運動に焚きつけたことから、国民の全電子マネー化に対する反発が強まった。一般国民の感情としては、すべての財産が形を持たない数字だけになってしまうのは不安というものであった。管理側に不具合があったときのことを考えると信用に足らないと考えた。　ミロクはそれをいうなら銀行口座も数字だけではないかと主張したが、すべてが数字になってしまう不安というのに国民は対応できなかった。というよりも、マスコミがうまく煽った。　実際のところ細かい利便性が損なわれるというのはある。日常生活でバイオメトリクス認証の電子マネーしかないと親が子供におつかいを頼むのも不便で、ジュースを友達に買ってきてもらうことすらできない。案外生活レベルで考えると不便なことがある。　電子マネーにしてしまえば恐喝や強盗ができず国民としても安全に暮らせるはずである。にもかかわらず、いまだに紙幣に拘泥する人間が少なからず存在したため、全電子マネー化は諦めること

となった。その結果革命後も紙幣は残り続けたが、新しい世代は電子マネーの利便性を幼い頃から体感しているため、電子マネーの普及は年々自然と行われている。　なおミロクはマネーロンダリングのあぶり出しを諦めたわけではなく、全電子マネー化という手段は捨てたものの、デノミを伴う新札切り換えを行い、裏金のあぶり出しを行った。 【成句】 φcl lcnı leeu ɹıɒcl. 幸運にて手にした金は不運に去る：悪銭身につかず　ɒel eʃ φcl　時は金なり 【用例】 φcl ɑc{ʃcn} 大金　φcl enɥəəl{ɑınʃen, φınleɒɹ} 汚い金

φcl(ɺ) ［組み数字］４/２８ ［交通］ギル通り ［名詞］ギル組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２　ɺɺ

φclʃc ［名詞］バール（工具）、鉄挺（かなてこ） ［レベル］５　ɺ0:φc/ɔlʃc

φcl̃ ［形容詞］マイナーな、マイノリティ、少数派の、金にならない ［反意語］ɑıμʃ ［レベル］３　＠ 1L 【用例】 leɒ φcl̃ マイナーな音楽

φcl̃ɔu ［経済］金庫、貯金箱 ［レベル］３　1L

φcl̃ɔuez ［経済］金庫室 ［レベル］３　ɺ0

φcl̃eeʃɔ ［歴史］ギルケート族 ［レベル］６　ɺ0: 古 φcl/leʃʃɔ（金属を扱うケート人）

φcll ［医療］トラウマ ［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :φcllə（ギルの背中）。ギルは誰かが後ろに立つのを嫌う。これは彼のトラウマによるものである。そこでギルの背中が「 トラウマ 」を意味するようになった。

φclɟ ［経済］財布、札入れ ［レベル］２　1ʔ: 制 :φclhɔɹ（金の容器） ［語法］　ウォレットとパースを区別しない。 【用例】 φclɟ lıʃ dɔʃ ɒeɟ̃. 財布がバックの中にあった。　ın en dcıʃ φclɟ lelınel cɒ ʃə ɑıμ ɒın ın eʃ uıl lcnel. 今朝はとても急いでいたので、財布を置いてきてしまった。

φclɟıμʃ ［経済］神商会 ［レベル］６　ɺ0: サルトの金 ［文化］　ɥəəɒı ɱ1ʔ٩ リデルに対抗して神人貿易商の名士 cφnıɟʃ が神商会を設立

φclɟce,lʃɑ　sıɒd　φcclı/μɟcel

φcluın ［軍事］大尉、ギルヴァン ［組み数字］９/２０ ［レベル］３　1L:μcɑ cı:φcl（金属のもの＝武器）/uıɟ（戦う）/lınʃcɟ（人） ［語法］［文化］　lını

φclɑ ［経済］金融 ［レベル］４　1ɱ: 制 :φclɑıɟ

φcl ɑılɑıncı ［人名］ギル＝ファルファニア ［組み数字］４/２８ ［レベル］２　古 ［文化］　(ʃcɑ L ɒel dcn →) アシェット第４使徒。男性。ɟeeʃ。１７２ｃｍ、６５ｋｇ。髪は赤毛で肩より少し長く、少しくせっ毛。茶色の瞳。肌は白：黄＝７：３。

φclɑıəɟ ［地名］ギルファウス川　zφ　ɺɱ ［文化］　アルシェリアを流れる大河。

φclɑıəɟcɑı ［地球の星座］［ユマナ］エリダヌス座　ɺɱ ［文化］　cɑı

φclɒıɟ ［経済］金券、買い物券　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］　図書券などのこと。

φclɑ ［名詞］鍛冶 ［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :φcɑı,φclɑı（金属を叩く）

φclɑın ［名詞］鍛冶屋 ［レベル］４　ɺ1 【成句】 ɒeɒcμ ɥən ıμʃın ɔ φclɑın 魔導師と鍛冶屋のように仲のよい。魔導師が多くの金属を扱う仕事で、鍛冶屋としばしば密な関係を結んだことから。

φclɑɔ ［経済］商工会 ［レベル］６　ɺ0:φcl/ɑɔləɥı（金の館） ［文化］　ɥəəɒı ɱ001 に lcɑel と lɔddel が設立。神人貿易に対抗するため、人人貿易商が集まってできた。

φcldeʃcɑın ［名詞］借金取り ［レベル］４　μɑ;/　ɺʔ

φclbıμʃ ［地名］ギルバート、ギルバートの森 ［レベル］６　ɒelʃcı ɱ:ɥəəɒ ı;e　ɺʔ ［文化］　セルア山の北にある森。ユーマが暮らした。

φcllcuı ［経済］マネーゲーム、金転がし、金ころがし ［レベル］５　ul;/　ɺʔ ［文化］　投資家たちがまるでゲームやギャンブルをするかのように投資をし、私服を肥やしたり破産したりする様を皮肉って ul で名付けられた概念。ıl ではファンドや投資家たちによるマネーゲームが加熱し、無関係な人の実生活にまで影響を与えるようになった。例えば先物などの影響で食糧や原油などが高騰するといった事態が起こり、その結果第三国を中心に食べることのできない人まで出る始末であった。このように、マネーゲームのプレーヤー以外がマネーゲームのせいで生活に打撃を与えられるという事態が ıl ではたびたび起こっていた。　過度のマネーゲームは人々の生活に悪影響を及ぼし、金持ちをさらに金持ちにして格差を広げるなどといった問題を生むことがあった。そこで革命ではマネーゲームを抑制するために、マネーゲームで得られた利益にそれまで以上の税金をかけることにした。革命では利益にこれまでの以上の税金をかけることにした。ただし損失には税金がかからない。こうすれば儲かっても微々たるもので、損をすれば何も援助がないので、マネーゲームには旨みがなくなった。これは全世界規模で行われたのでタックスヘイブンは存在しない。　具体的には、利益にかかる税金は φcllcuı ɑıcφ という累進課税で、収益が大きいほど税率が高くなる。最高税率は７５%で、これは戦後の日本の所得税と同じ程度なので現実的な値である。戦後の日本はインフレの利得者へ税金をかけるために８５%に所得税を上げたこともあるため、７５%は無理からぬ数値である。８５%にする必要がなかったのは、革命時に戦後の日本のような経済状態になっていなかったためである。　なお、この課税により徴収された分は控除となるので、その上さらに高額の所得税を取られるという二重取りはない。　この改革により、新株公開時の資金集めや国債の販売が難しくなったが、銀行預金の利息や株や債権の配当金には税金がからないことにしたため、利息や配当金目当ての緩やかな投資は維持された。その代わりＦＸのようなギャンブル性の高いマネーゲームなどは実質やって儲けてもほとんど税金で持っていかれるため、ファンドなどは事実上消え失せた。つまり為替差益には税金がかかるが、為替差損にはかからないということである。　革命ではお金は汗水たらして労働して稼ぐもので、金で金を転がして儲けるのは卑しいことだとされたため、このようなシステムが出来上がった。むろん当時発言力のあった富裕層はこれに反対したが、革命では力によって持つ者の発言が封鎖され、持たざる者の意思が通り、格差社会の是正が行われた。

φcllcuıɑıcφ ［経済］キャピタルゲイン課税、マネーゲーム税、金融取引税 ［レベル］６　ul;/　ɺʔ ［文化］　φcllcuı　もともと ul からあったが、革命で改められた。詳しくは φcllcuı を参照のこと。

φclı ［経済］レジ、キャッシャー、会計、会計所、モールの中央会計所 ［レベル］２　1ʕ: 制 :φcl

φclılɑ,ɑu　ʃcnl　φc は金属

φclc ［音楽］琵琶 ［レベル］５　古 : ベルが関わっているはず

φclcʃe ［動詞］ɥəl を ı と援交させる、援交する ［普通動名詞］［再帰動名詞］援助交際、援交、エンコー ［類義語］ɒenʃeɟ ［レベル］５　ʃɒ;/「金のあるデート」 ɺʔ ［語法］　セックスを含むかどうかは任意。金を払ってデートしてもらうこと。

φclclı ［名詞］炉 ［レベル］５　ɺɺ:φclcəɟ/lı

φclclıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ろ座　ɺɱ ［文化］　cɑı

φclcl ［化学］金属元素 ［レベル］５　1L

φclcı ［経済］ケートイアの通貨 ［レベル］５　ɺɺ

φclcıɟ ［企業］ギリアス ［レベル］５　ɺɺ:φclcəɟ ［文化］　日経新聞社に相当する企業。

φclcıɟɟeɒɔ ［経済］ギリアス平均株価 ［レベル］５　ɺɺ ［文化］　日経平均に相当するもの。

φclcəɟ ［サール］ギリウス ［レベル］５　ɒelʃcı ∆:φclcəɟ;e　ɺ0: 古 φc, φcl ［文化］　(ɒelʃcı ∆ →) ティクノ、フィーリアの山で自然銅を発見。美しいと思ったポエンは自然銅からギリウス神を生み、銅およびその仲間すなわち金属を支配させる。

φclcəɟ(ɺ) ［経済］ヒュートの通貨 ［レベル］５　ɺɺ

φclɔu ［経済］キャッシュフロー　1L: 金の動き

φclɔμ ［音楽］金管、金管楽器、ラッパ　ɺ1

φcleʃ ［名詞］ライバル、好敵手 ［レベル］３　μɑ;/ ↓　古 :φcl/ʃe「ギルのような」。古ではライバルを指す言葉がいくつかあったが、これが新生で残った。セレンとギルが少年時代に戦闘能力や戦闘スタイルで拮抗していてライバル関係にあったことから。

φcl enccl ［人名］ギル＝エニーク　1L:clɒəɟ:μcɑcı ［文化］　レイユの政治家。男性。ヴァーサ＝エニークの子孫。アライブ党首。

φcıμl ［化学］金属結合 ［レベル］５　1L

φcc ［動物］猿、まし、ましら、モンキー ［レベル］２　1L:1٩: 制 :lılʃı: オノマトペ。鳴き声が φcc。 ［擬声］ lcc, hcc（通常）φcc（怒り）lcll cl（はしゃいでいる）

φccʃ ［動詞］ɥəl を凋落させる、凋落する、落ちぶれる、衰える、衰えさせる、衰退する ［反意語］ɑııl ［レベル］３　＠ 1L

φccl ［形容詞］みすぼらしい、かっこわるい、ださい、ダサい、ぼろい、ボロい、おんぼろな、オンボロな ［反意語］ɑııʃ ［レベル］３　＠ 1L ［語法］　服装がみすぼらしい様。見かけが悪いさま。

φcclleʃ ［形容詞］びしょぬれな、ぐしょぬれ、びしょ濡れ、ぐしょ濡れ ［類義語］eueɟ ［レベル］３　ɺ0: みすぼらしい猫。猫が濡れると、ものすごく可愛げのないショボい見た目になることから。

φccl ［形容詞］貧相な、貧弱な、ひよわな ［形容詞］男の筋肉が貧相、女の胸が小さい ［反意語］ɑııɟ ［レベル］３　＠ 1L

φccμɔɟ ［化学］金属イオン ［レベル］５　1L

φcɔ ［経済］利益、利潤、得 ［名詞］(ʃcl) 得をする、儲ける、もうける ［レベル］３　古 :φcɔ（得） ［語法］　日本語の「得する」と同じ感覚で動詞にしないように。φcɔ は「得である」という形容詞なので、動詞形の φcɔeɒ は「ɥəl を得な状態にする」という意味になる。 【用例】 ın lcɒcl{ʃclcl} φcɔ ɑel ɺ lɔʃ dıμɒɟɔlʃ nıı. 二千円得したね。

φcɔʃ ［名詞］利害、損得 ［経済］損益 ［レベル］５　ɺ0:φcɔ/cʃ

φcɔɑcɑn ［経済］利鞘、りざや、利ざや、マージン ［レベル］５　ɺɺ 【成句】 ʃcl φcɔɑcɑn 利食いする

φcɔɑeμ ［経済］割安、お買い得 ［レベル］３　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

φcɔɑıe ［形容詞］ウィン＝ルーズな、一方的な ［類義語］φcɔφcɔ、ɑıeɑıe ［レベル］５　ɺ0

φcɔφcɔ ［形容詞］ウィンウィンな、ウィン＝ウィンな、ｗｉｎ－ｗｉｎな ［類義語］φcɔɑıe ［反意語］ɑıeɑıe ［レベル］５　ɺ0:ɒelcɑcı lceμ 【用例】 ʃə eʃ ɑəʃ φcɔφcɔ. それはウィンウィンな取引だ。

φcɔdıl ［経済］損益計算書 ［レベル］６　1L ［語法］　損失のときは ɑıedıl ということもある。 ［文化］　雛形は地球と同じだが、命名が独特なので注意。　売上高：全体的な収入　売上原価：全体的な原価　売上総利益：売ったことで得た利益　販管費：販売管理費　営業損益：営業 (μɟccl) したことで得られた利益　営業外収益（費用）：本来業務ではないが、自社に関連して得られた収益（費用）　経常利益：営業利益の μɟccl は多義で「親」とも取れるので、それを応用して「子」と表現。　特別利益（損失）：特別な利益（損失）　税金等調整前当期純利益：税金を納める前に蔵に入れておいたことから　当期純利益：純粋な利益

φɔ,ɑ　lıl

φɔʃ ［動詞］ɥəl を弾く、弾く ［魔法］ゴット。土の低位白魔法。敵の物理攻撃をはじく防御魔法。 ［武道］捌く、さばく ［動詞］侵略軍を撤退させる、追い返す ［音楽］ピチカート、ピッツィカート ［レベル］３　古？: オノマトペ 【用例】 φɔʃ ɑıd lɔn sc おでこをつまはじく

φɔʃ(ɺ) ［生物］顆。拘束形態素として使う。　ɟzɑ　ɺɱ

φɔʃılᴅc [アイテム] バックラー μΩ;/「弾く盾」 Ɉꟿ [文化] ɈᴅΩ で発明された。積極的に腕を前に出して敵の攻撃を弾くように使う。

φɔʃe [名詞] 外側、外 [建築] 構外、柵の外、外部 [反意語] Ωeꞁɔ [レベル] 2 @ 1L

φɔʃeʃcᴅ [地学] 外核 ul;/ Ɉʔ

φɔʃeꞁıd [名詞] 外線電話 [レベル] 5 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ

φɔʃeɈeun [生物] 上皮組織。動物体の外表面あるいは体腔や器官の内腔などをおおう組織。 μʃ;/ Ɉꟿ

φɔʃeᴅɔl [数学] 外接 [レベル] 4 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ

φɔꞁ [動詞] yəl を ı に乞う、乞う、請う [丁寧] ᴅcl に相当。受け取る、拝受する、いただく [レベル] 3 ɑu;e 古 φɔꞁ:φɔꞁ 【用例】 ᴅecΩ φɔꞁ ıʃ lınʃ c hılꞁı. あなた様から贈り物をいただきました。

φɔꞁɈ [宗教] 托鉢 zφ;φɔꞁ/Ɉɔ Ɉꟿ

φɔlʃ [動詞] yəl を ı におびき出す、おびき出す、おびきだす、おびき寄せる、おびきよせる、誘い出す、誘い込む、誘導する [反意語] ΩeɈꞁ [レベル] 3 @ 1L [語法] ある場所や行為へ誘導すること。

φɔɈꞁ [料理] チーズ [レベル] 2 1ʔ: 制 :φɔɈbıꞁ（牛乳を発酵させて固めたものであることから） [文化] 日本の漬物感覚で食べる。種類も豊富。カレンなどのアルティア人には癖のないウォッシュが人気。

φɔɈlıɈl [化学] 酪酸 [レベル] 6 1L:μcΩcı [文化] μΩ でリュウがチーズから名付けた。

φɔɈl [名詞] 醸造 [レベル] 5 1ʔ: 制 :φɔɈ（発酵）

φɔn [動詞] yəl をノックする、ノックする、コツンと叩く [擬音] こんこん [レベル] 3 ʃᴅ;ɑɔueʃ lılʃı: ドアをこんこんと叩くオノマトペ [文化] トイレはノックしない→ beeꞁ トイレ以外のドアで閉まっているものはノックする。開いているのは通過時と空気の交換時だけなので、事実上常にノックする。ただし自室や居間に入るときはしない。フランスと同じで、ノックをしたら返事を待たずに２秒ほど置いて入る。 【成句】 φɔn ɔᴅc e Ωcı ɔ ᴅel 二足の草鞋を履く。セレンがリディアとメルの部屋を夜毎代わる代わる訪れていたことから。 【用例】 nɔn hɔᴅ ʃeᴅɈ le ʃeeze e ɑleı φɔnınΩ, ʃeᴅ lcu e ꞁəʃɔ le lıʃeɈ ıl ez nɔın c le ꞁılʃe. 夏風がノックする窓を開けてみると何処からか迷い込んだ鳥の声（『想像フォレスト』）

φɔnʃ [動詞] yəl を ı（結果状態）までエスカレートさせる、エスカレートする、昇華する、高める [レベル] 3 1ꟿ: 制 : 古 :φeʃ,ıφe（螺旋）

φɔnφyə,ɑu euın φɔnφɔ/φyə「家畜による苦味→家畜による苦痛」 Ɉʔ

φɔnφı [魔法] 煉丹術、錬丹術、練丹術、金丹術 ılʃ Ɉꟿ

φɔnφɔ,ɑu uıꞁn ɑɔueʃ。鳴き声から。 Ɉʔ

φɔnφe [ジョブ] 道士。煉丹術を使う。 ılʃ Ɉꟿ

φɔᴅı [動物] 狐、キツネ、フォックス [レベル] 2 1ʔ: 制 :lılʃı:φəꞁɔɔᴅı（金色の犬） [擬声] oıı、hyıı、φyıı（鳴き声。女の悲鳴に似ている）

φɔᴅıneʃ [動物] ウェルシュ・コーギー、ウェルシュコーギー [レベル] 5 Ɉ1:φɔᴅı/ʃe

φɔᴅıcɑı [地球の星座] [ユマナ] こぎつね座 Ɉꟿ [文化] cɑı

φɔᴅc [生物] エキノコックス [レベル] 5 1L:φɔᴅı [文化] キツネから発見された。

φɔbc [医療] 内科 [レベル] 3 @ 1L

φɔhɔ [動詞] yəl を咽ばせる、むせる、咽ぶ、むせぶ、咽る [レベル] 2 1ʕ: 制 :ɔhɔ

φɔz [論理] [言語] 前提 [反意語] Ωes [レベル] 3 @ 1L [文化] アルバザードは論理性を重んじるので、何が前提で何が結論なのか、はっきり明示する。前提と結論の因果関係も論理的に行うこと。結論の出し方だが、アルカで文章を書く順番は、結論→前提→再び結論である。まず結論を初めに言って、聞き手を掴む。そしてその説明をし、最後にもう一度結論を言って要するに何が言いたかったのかということを強調する。こうすると相手の記憶によく残る。文章によってはこの流れに従わないこともある。だが、比較的論文に近づくほどこの流れに従いやすい。

φɔl [化学] [物理] セルシウス温度、セ氏、摂氏 [レベル] 3 先 【用例】 ɑcɈ, Ɉıɑ ıʃ ᛔ{ʃcɑ ᛔ} φɔl. 今日の気温は摂氏５度 { 零下５度 } だった。 Ɉıɑ eʃ Δ φɔl ʃcɈ ʃınʃ μı ʃeμ. 外は８度しかないらしい。

φɔlı [料理] カロリー [レベル] 3 1ʕ: 制 :φɔl/ıɑ 【用例】 φɔlı ʃcn 高カロリー

φɔleᴅ [ネガティブ] [形容詞] 売れる [類義語] ləəle [反意語] Ωɔleʃ [レベル] 3 μΩ;φɔ.ɑıcı（欲望）/leᴅ（音楽）「欲望の音が鳴る」 Ɉʔ [文化] ꞁɔll eʃ

φɔı [動詞] yəl を ı に吐く、吐く [名詞] 吐瀉物 [擬音] ぐはぁ、ごあ、げろげろ、ごふっ、げぼっ。吐く音。 [類義語] bəerlı [レベル] 2 1ꟿ: 制 :ɑɔueʃ:φɔɔı 【用例】 φɔıʃ Ɉıʃ eμcᴅ ᴅcl ncꞁ 驚きで心臓を吐きそうになった

φeʃ [形容詞] 幅狭い [動詞] yəl を狭める、狭める、細める [反意語] Ωɔꞁ [レベル] 2 @ 1L 【用例】 ɑɔnʃ φeʃ 狭い道 φeʃ(eᴅ)cꞁ cnɈ 目を細める

φeʃᴅyəʃ [名詞] 狭い幅 [工学] 狭軌。φeʃɑɔɔɈᴅyəʃ から来ている。 μʃ;/ Ɉꟿ

φeʃᴅeʃ [動詞] yəl（選択肢など）を狭める、狭め落とす、候補を絞る、絞り込む、絞りこむ [反意語] ΩɔꞁɑlɔI [レベル] 3 Ɉ0 【用例】 φeʃᴅeʃ zcꞁɔ ı uc. 候補を３つに絞って。 nıcn φeʃᴅeʃıʃ Ɉɔın ı ləəɈ uıl. 警察は犯人の候補をこの４人に絞った。 yın φeʃᴅeʃıʃ ləəɈ lılʃ μılı, ʃɔl cɈ, lenɈ, lcʃeleed oen" 私はその中から更に居住地、年齢、知性、家族構成などを考慮して的を絞った」

φeʃı,ɑu ıφe φe/ʃı「外に向かって丸い→外に回る」

φeꞁ [名詞] 球、玉、弾、ボール← ᴅelle [名詞] 銃弾← φelφeꞁ [名詞] 攻撃弾。何らかの攻撃に使う弾→ φılcɈ [形容詞] 球状の、たまい（球い）、丸い [動詞] yəl を丸める、丸める、縮まる、縮める、縮こまる、ちぢこもる、身を縮める [類義語] ᴅelle、φılcɈ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 : 球 = ılφeꞁc,ılφeꞁc だから、意味としては元の形が φeꞁcφeꞁc である。「円と円」という意味。アルカでは球は円の累積であると考えていたため。球の底部から頭頂部に至るまで徐々に面積の大きい円が累積され、中心部を超えると徐々に面積の小さい円が累積されていく。そしてできるのが球だと考えたため。リュウやメルはこの定義に難色を示していた。後年、アルカ・エ・ソーンが球に英語からとった bɔɔlıɈ という語彙を使用するようになると、メルはそちらも使用するようになった。 φeꞁc:φeꞁc::ᴅın,ılʃ 【用例】 ɑlel ꞁınuc l'el dcd Ɉen φeꞁ ı ꞁılʃe ɑlɔn ꞁɔn enʃɔ yəə cn Ɉen eᴅ ʃə. nɔn nɔᴅıʃ lınꞁɔ Ɉecn enʃɔ eᴅ lın lıɈ. 見えなくなるほど遠くに ボールを投げれる強い肩。うらやましくておとこの子になりたかった（川本真琴『１／２』）

φeꞁꞁı [料理] 団子、だんご [レベル] 2 Ɉ1:φeꞁ

φeꞁɈ [動詞] yəl を ı（表裏など）にひっくりかえる、ひっくりかえる、ひっくり返る、ひっくりかえす、ひっくり返す、転回する、反転する、覆す、くつがえす [普通動名詞] [再帰動名詞] 反転、逆転、展開、ひっくり返し [言語] 反転語。ꞁɔᴅɔ と ᴅɔꞁɔ のように音節をひっくり返して主に対語を作る造語法。現実の古アルカに見られ、神話では ɑ などに見られる。 [論理] 逆 [言語] 倒置 [音楽] 転回 [数学] 対数、ログ [レベル] 2 1ʔ: 制 [文化] 対数は cᴅəl 1ʔ99 年に cbel yənφe によって発見され、計算機のない時代に重宝された。神代ではイメア神の加護で計算ができたので、対数は発明されなかった。 【用例】 φeꞁɈ φılΩ コインをひっくり返す

φeꞁɈʃɔen [普通動名詞] 逆転、逆点、形勢逆転 [動詞] yəl（相手）に逆転する [類義語] φeꞁɈeꞁlɔᴅ [レベル] 4 μΩ;/「形勢をひっくり返すような弱者の一撃」 Ɉꟿ [語法] φeꞁʃɔen は試合などに用いる。φeꞁɈeꞁlɔᴅ はストーリーの流れなどがそれまでと違って急展開することである。

φeꞁɈʃeeɈ [論理] 対偶 [レベル] 5 μΩ;/ Ɉʔ

φeꞁɈlın [論理] 逆真、逆もまた然り、逆もまた真なり、ヴァイスヴァーサ [レベル] 5 μΩ;/ Ɉʔ 【成句】 Ɉeμen eʃ lccı ꞁılʃ ᴅcμɔꞁ lılʃ μcΩcı ꞁɔnʃ φeꞁɈlın. リディアにとってセレンは恋人以前に神であり、逆もまた然り（μcΩcı ləʃcı）。この場合 Ɉɔl 格と lılʃ 格が入れ替わって逆（φeꞁɈ）になっている。リディアは自分にとってセレンは神格化されており、恋人以上に信仰の対象となっていて、恋を凌駕して神への愛になっていると述べた。リーザやセレンやメルなどもそれを認識している。リディアはセレンが死ぬとき一緒に消えると１０代の頃から言っており、リーザはその気持ちを殉教と呼んでいる。

φeꞁɈnıbc [料理] フライ返し [レベル] 3 Ɉ0

φeꞁɈuɔled [言語] 倒置構文、倒置文 [レベル] 5 μΩ;/ Ɉʔ

φeꞁɈᴅcꞁ [数学] 対数の真数 1L

φeꞁɈᴅɔlΩ [言語] 倒置法 [レベル] 5 μΩ;/ Ɉʔ

φeꞁɈlınꞁ [数学] 対数の底 [レベル] 5 1L

φeꞁɈlɔɔzı [数学] 対数尺→ lɔɔzı [レベル] 5 Ɉ0

φeꞁɈeꞁlɔᴅ [名詞] 逆転、逆転劇、急、急展開、展開 [類義語] φeꞁɈʃɔen [レベル] 4 μΩ;/「話をひっくり返すような展開」 Ɉꟿ [語法] φeꞁɈʃɔen

φeꞁɈəc [植物] 里芋、サトイモ [レベル] 2 Ɉ0 [文化] 胃に良い芋として、軟水の湧くアルバザードでは日本同様煮物などに使われる。

φeꞁuıu [運動] 球技 [レベル] 3 μΩ;/ Ɉꟿ 【用例】 ınɈ ʃcl eucʃı e φeꞁuıu cᴅ ɑcɈ Ɉcn, enʃɔ ın nı eꞁɈ. 今日は球技大会があって憂鬱。

φeꞁɑcnꞁ [数学] 球面 [レベル] 4 Ɉ0

φeꞁᴅɔᴅ [植物] 球根 [レベル] 2 Ɉ0

φeꞁc,ɑ ᴅeᴅ、φeꞁ 「丸く動く」

φelᴅ [交通] ヒッチハイク [レベル] 4 1ʔ: 制 :φelıᴅɔ から

φeɈ [化学] 腐敗 [動詞] yəl を腐敗させる、腐敗させる、腐敗する、腐る、腐らせる [形容詞] 腐った、腐敗した [反意語] Ωɔl [レベル] 2 古 : φeɈ,φeɈɈ。腐った匂いを嗅いだときに発する声のオノマトペ。日本語では「うっ」というなどにあたる。 【用例】 ʃə φɔɈꞁ eɈ φeɈ. このチーズは腐っている。

φeɈʃ [料理] パイ、ペストリー、ペーストリー [レベル] 2 1ʔ: 制 :lılʃı では φeɈı（円盤形の粉状のもの） 【用例】 lıΩ φeɈʃ パイを焼く

φeɈꞁ [動詞] yəl という内容のヤジを ı に飛ばす、やじる、野次る [普通動名詞] 野次、ヤジ、やじ [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :φeɈꞁə（腐った言葉）

φeɈuɔμʃᴅıcn [名詞] 腐乱死体 [レベル] 5 1L

φeɈᴅccnı [俗語] 腐女子 [レベル] 4 Ɉ0:zını [語法] [文化] 典型的には見た目も性格も悪く、自己中で夢見がちな女。現実より空想を好む。通常いい意味では使わない。本人が自虐的に使うこともある。 人によって見た目が良かったり性格が悪くなかったりすることもあるが、確実に性格が変わっており、普通の人とは異なっていて奇妙な印象を与える人物に用いる。 日本語の腐女子と違ってＢＬ好きという意味は必ずしもない。しかし cᴅdel である確率は高く、neᴅd 好きも無論いる。 【用例】 ıᴅel ınʃ eᴅɔμ φeɈᴅccnı cᴅ ʃəɔ nıuᴅ. 最近妹が腐女子化しつつあるように感じる。

φeɈΩcɔ [医療] 歯周病、歯槽膿漏 [レベル] 4 1L

φeɈyeꞁ [名詞] 腐乱肉 [レベル] 3 ɈɈ

φeɈl [植物] キャベツ [レベル] 2 1ʔ: 制 :lılʃı の φeɈc（腐るもの、腐ったにおい？） [文化] 常食され、ドレッシングをかけて生で食べることもある野菜。胃にいいとされている。

φeɈlılᴅıuc [化学] ビタミンU、キャベジン [レベル] 4 ul;/ Ɉʔ

φeɟıl ［被服］フーク　ɟɒ;φeφe/ɟılɔ　⅃⅏ ［文化］ ɟɒ でできた。女性司祭がかぶったベール。

φeɟc ［植物］ケール　［レベル］3　古：キャベツと同じ ［文化］ 食用よりも、野菜ジュースの原料として使われる。

φeɟeɟʃ ［名詞］汚名、不名誉　［レベル］4　⅃⅃ 【成句】 ɟeɒ φeɟeɟʃ 汚名返上、名誉挽回

φeɟel ［魔物］ゲセル（邪顔）：第八十天：邪の風天　［レベル］5　1L:ɥcɒcı/ɟeɥen/ɒel: 腐った顔。el は古形。 ［文化］ 魁族。腐乱死体の顔をした塊。頭部だけだが、大きさは直径 1 メルフィを超える。あらゆる呪いの魔法や邪の魔法を使う。

φeɟelʃɔı ［天文］アルフェラッツ　1L:ɥcɒcı/ɟeɥen/ɒel ［文化］ ゲセルの鼻。メルがイーファの魔法で弾き飛ばし、lcuen 座まで飛んでいったもの。

φeɟelɒcɔ ［天文］アルマク　1L:ɥcɒcı/ɟeɥen/ɒel ［文化］ ゲセルの歯。メルがイーファの魔法で弾き飛ばした。あまりに強く吹き飛び、ɔφıl の領域に行った。

φeɟelıφel ［天文］アンドロメダ銀河　［レベル］5　1L:ɥcɒcı/ɟeɥen/ɒel: ゲセルの渦 ［文化］ メルがゲセルを封印した際、あまりにゲセルが強かったため、倒すのを諦めた。そこでメルは時空を歪め、ocnz の魔法で時空を歪め、ゲセルを銀河に追いやった。封印の際、ゲセルの顔のパーツが四方八方に飛び、星となった。

φeɟelcnɟ ［天文］ミラク　1L:ɥcɒcı/ɟeɥen/ɒel ［文化］ ゲセルの目。

φen ［化学］樹脂　［レベル］4　lıՂՂı

φenɟ ［普通動名詞］批判　［動詞］ɥəl を ɔn について批判する、批判する。φəꞁ と同じ格組。 ［レベル］3　ɥɒ;φɥə/ɥenɟ　Ⅎʔ 【用例】 φenɟ ꞁlec lıɩʃ ɔn ılʃɔɒ uɔl sıd ʃə ɥən ɥəlcn 彼の小説をまるで子供の書き口のようだと批判する

φenɔɟ ［地名］ゲノス　［人名］ザナのアルカ姓　［レベル］5　ꞁıꞁɔ ［文化］ メテの使徒ゲノルペの支配地。

φenɔɟ(Ⅎ) ［アトラスの国家］ゲノス　［レベル］4　ꞁıꞁɔ

φenɔɒ ［名詞］嫉妬、妬み、ねたみ　［動詞］ɥəl を妬む、ɥəl がねたましい、妬む、ねたむ、嫉妬する　［類義語］ɥcɒcın、ılφenɔɒ　［反意語］nɔɒ　［レベル］3　ɑu;e　赤 :φenɔɒə, φenɔɒ 【用例】 ɟeɥen φenɔɒ ɥəlʃ ɔn uıcꞁ ɒc. セレンはユルトに色んな面で嫉妬している。

φenɔlde ［人名］ゲノルペ　［組み数字］9／15　［レベル］4　ꞁıꞁɔ ［文化］ メテの第 9 使徒。

φenɔldelcl ［化学］バークリウム　1Δ: 制

φeφe,ɑ　ꞁıɟ

φeφel ［被服］ピエスデストマ　ɟɒ;φeφe/ıl「三角のもの」 ⅃⅏

φed ［名詞］ねじ、螺子、スクリュー、ネジ、捩子、ペグ　［レベル］2　lı ꞁՂı: 螺旋釘 【用例】 hɔl φed ネジを回す　ıɥ{eu} φed ネジを締める　cɟ{ɟeɒ} φed ネジを外す

φebɥə ［植物］青梗菜、チンゲン菜、チンゲンサイ、パクチョイ　［レベル］4　古 :bɥə は bɥəz で、φe はアブラナ科の証か

φeh ［感動詞］げへげへ、ゲヘゲヘ、うへへ、ウヘヘ　［レベル］3　ɑu ⅃⅃:ɟɔɥn ［語法］ 粗野で野卑な笑い方を表す。

φeɥ ［植物］大根、だいこん、ダイコン　［レベル］2　lıՂՂı ［文化］ おろしで食べて消化酵素を得るなどする。煮て食べることも多い。 【成句】 ꞁəc ɑcɥs ɔꞁ φeɥ ささ身とともにダイコンを食う：石橋を叩いて渡る。胃をわずらったセレンがジアスターゼ（これ自体はリパーゼではないので油は消化せずデンプンの消化酵素となるが、油ものと付け合せて食べられることが多い）を含むダイコンをよくすりおろしていたが、胃痛を怖がって油も少なく消化もしやすいささ身を食べたときにもダイコンを食べていたことから。

φeɥʃ ［植物］オーツ、カラス麦　［レベル］3　古

φeɥeʃ ［動詞］ɥəl を ı に巻き上げる、巻き上げる、カールさせる、カールする　［美容］カール　［レベル］3　⅃1:ıφel/ʃe

φeɥeʃzɔn ［美容］カーリングロッド　［レベル］5　⅃1

φeɥeʃıɥ ［美容］カーラー　［レベル］4　⅃1

φel ［軍事］銃、砲、鉄砲、てっぽう、ガン　［軍事］拳銃← eɟʃıɥꞁ ［動詞］ɥəl を銃で撃つ、撃つ　［俗語］［動詞］［普通動名詞］ɥəl に膣内射精する、膣内射精、中出し、中だし。コンドームの有無は問わず。 ［レベル］2　ɟɒ;ɑɔueʃ　ɟɔɥn: アルシェでは ꞁcl だが、これは英語の k i l l からなので使わない。 ［語法］ 地球と違い、銃と砲の単語上の区別はない。 ［文化］ ●銃と火器の歴史　・最古の火薬　アトラスにおける最古の火薬は硝石と硫黄と木炭を混ぜてできた黒色火薬で、ʃɒ の時代に神々によって発見された。しかし威力がヴィードに比べてあまりに弱いため、軍事利用はされなかった。 zφ になるとシージア人が硝石に硫黄を混ぜた焼夷剤を発明した。これは ꞁꞁ で軍事利用され、投石器とともに用いられた。投石器で焼夷剤を投げ、攻城兵器として用いられた。しかしヴィードのほうが効率よく攻撃できたため、補佐的にしか用いられなかった。 ・最古の火器から火打石銃まで　最古の火器は ɟɒ でできた。火炎放射器のように使う飛火槍がまず最初にアルバザードで作られ、続いて凪人が持ち込んだ竹を使い、竹の筒から火薬団子を飛ばす突火槍が作られた。これらは魔力を持たない戦士や魔力の弱い凪の軍人たちが火計を行う際などに用いられた。後に魔力の弱い凪の軍人が金属製の火竜鎗を発明。しかしアマガタリの代わりになるほどの威力はなかった。 火竜鎗は命中精度が悪かった。しかも撃つ際には火門に目をやらねばならず、敵と火門を同時に見ることができず、命中精度が更に悪かった。そのため火門を見ずに火をつける工夫がされた。その結果できたのがサーペンタインである。 しかしサーペンタインは引き金を引く動作が大きく、狙いが狂う。そこで火挟みと引き金が別部品になり引き金を引くことでバネの力で火挟みが火門の上に瞬時に落ちるマッチロック（火縄銃）が生まれた。これは引き金を引く長さが短いため、狙いが狂いづらかった。また命中精度を上げるために照星と照門が付けられた。 こうして火竜鎗からだいぶ向上した火縄銃ができたが、ヴィード攻撃を多用できるアルバザード人には普及せず、もっぱら魔法を使えない凪の戦士によって使われた。ユノが十分でない相手は火縄銃で倒すことができたため、軍事利用されるようになった。また、凪人の猟にも用いられた。 火縄銃の弱点は常に火のついた火縄を持ち歩かなければならないことだった。火が消えると使えなかった。そこで火打石を使った歯輪式の銃が作られた。これが後に火打石銃に昇華する。火を絶やさないよう注意しなくなったのは良いが、強い力で引き金を引くので銃がブレ、命中精度は火縄銃より悪かった。 ・グレア（魔動銃）の発明　アルティアはこの火縄銃や火打石銃をひっさげアルカット大陸に上陸。cɒəl 110⅃ にカレンシア王国が建国されると戦争は停止し、銃火器の発展は一旦停止した。アルバザードやルティアは強力な魔導士がいたため、銃火器を発展させる必要性を感じていなかった。 しかしその一方でアルバザードは銃火器を魔器に応用できないかと考え、独自に魔法工学の研究を始めた。その結果、1⅃0⅃ 年にオスティア＝ジレールによりグレアができる。 グレアはユノの伝導率のよい鉄の弾を打ち出す魔器であり、凪人の銃が元になっている。銃自体が鉄でできていて、小銃や拳銃の形をしている。火縄銃は大きくて持ち運びが不便だったが、鉄の弾をユノの力で撃ち出すだけならそんなに長い銃身は要らないため、銃身が短くなり、銃床がなくなり、片手で扱える拳銃サイズのものになった。ただしこれでは飛距離が短いため、拳銃型のものは接近戦で主に使われた。野戦では飛距離がいるため、火縄銃時代と同じく小銃型のものが使われた。1⅃0⅏ 年のケートイア戦のときは小銃型が活躍し、ケートイア軍を破った。 グレアの弾は雷管ないし起爆薬、薬莢、発射薬、弾丸から成る。弾丸は鉄製である。発射薬は火薬ではなくユノを重合できる透明なサファイアである。サファイアに予め発射に必要なだけのユノを詰めておく。このサファイアからユノを放射する衝撃を与えるためにあるのが雷管で、雷管は小さく綺麗に研磨した宝石状の透明サファイアから成る。宝石状のサファイアは撃針の小さな刺激で即座に霊圧の高いユノを放出することができるためである。リムファイアの場合はリムの部分が宝石でできており、センターファイアの場合は中心部のみがサファイアの雷管になっている。前者はふとした衝撃でユノが飛び出てしまうのと、宝石を円形に敷き詰めるのが高価なため、センターファイア式が一般化した。 撃鉄を起こし、引き金を引くことで雷管が打たれ、発射薬が刺激され、ユノが放出され、鉄の弾丸が銃身を走って放出される。この仕組を持ったものがグレアである。 グレアの物理的な威力や飛距離は発射薬の容量や霊圧、また銃身の長さや弾の重さなどに左右される。しかしグレアの魔法学的な威力は射手がどれだけ多くのユノをグリップから銃身を通して弾の先端の弾丸に篭めたかによる。グレアはユノを篭めずに撃っても撃針と雷管と発射薬のおかげで射出自体はできる。だがユノを篭めなければただ鉄の玉がそれなりの速さで射出されるだけで、火縄銃以下の威力しかない。それではユノでバリアを張る相手には大した効果がない。そこで射手は自分のユノを弾丸に伝導させ、引き金を引く。火縄銃と違って撃つたびに自分の霊力を消耗するのが欠点だが、強力なヴィードで身を固めた相手でさえも倒すことができる点が利点であった。 グレアは 1⅃0⅏ 年のケートイアによるアルバザード侵攻の際、アルバザード軍に配備された。アルバザード軍はグレアにより圧勝し、ラグナロクやオスティアの知名度は高まった。 火縄銃と違って弾に宝石を使う関係でグレアの使用はコストがかかり、アルバザードは金欠に陥った。その結果アルバザードはケートイアに多額の賠償金を請求した。ケートイアはこれが元で経済に大打撃を受け、不況や内乱が続き、長きに渡ってアルバザードに対する戦力を失い、アルバザードは隣国の脅威から逃れることができた。 グレアの功績により、1⅃0ꟼ 年にはラグナロク工科大学がルシフェル校から分離独立した。また、隣国カレンシア王国に対する威嚇にもなり、カレンシアの脅威も弱まった。 初期のグレアは火縄銃と違って火薬と丸い弾を銃身に突っ込む方法ではなく、発射薬や雷管や弾丸などが薬莢に収まって一体化したもので、火縄銃より進化していた。従って弾は球ではなく現代にも繋がるどんぐり状であった。 ただ火縄銃と同じく一発ずつ弾を銃口から入れなければならなかった。その後改良がなされ、リボルバー式のものやマガジンを持ったものが開発されていった。 ・ɥɒ でヴァストリアができるまで　グレア以降、ラグナロクはワゼットやアンジェルといった大型魔器の開発に乗り出していったため、銃の発達は取り残される形となった。

ɥɒ になりアシェットが悪魔テームスらと戦いだすと、神々は殲滅武具ヴァストリアをアシェットの使徒に授けた。 このころセレンやリディアらは剣の力に限界を感じていた。白兵戦を強いられる剣は飛び道具を持つ敵に対して弱く、とりわけ強大な悪魔たち相手には接近戦でしか力を発揮できないと勝つのが難しかった。 また、アルバザードもヴェルシオンやベルガンドとの戦いに際してより強力な魔動銃を必要としていた。そこでアルバザードは悪魔殲滅を願う神々の力を借りて共同研究をし、ラグナロクで主にリュウらの協力を得て銃の改良に励んだ。銃は ɟɒ で一旦発達が止まっていたが、悪魔との戦いが激化する中で再度の改良が求められたのである。

彼らは銃身に腔綫を付けて命中精度を上げたり、拳銃型や小銃型だったグレアから様々なタイプの小銃を発明した。例えばライフル銃や散弾銃が発明され、大砲などの砲（大銃）も作られた。 リディアは剣を振るい格闘技を得意とするセレンに憧れを抱いており、銃については良いイメージを持っていなかった。だが改良されていく銃を見るにつれ、これからは銃の時代だと考えを改めた。 意趣返しをしたリディアは神々にヴァストリアの制作を依頼。これを受けた神々やアルバザードやリュウらがセレン用にヴァストリアを制作。拳銃型の ıɥbcleɔ、ライフル型の ɑcɔlenʃccnı、散弾銃型の leebenbꞃɔc が作られ、セレンに贈呈された。 なお、同時期にリディアは格闘技に限界を感じ、また剣の取り回しの悪さに辟易し、ちょうど間の子であるナイフ戦闘術をユベールに取り入れ、セレン用のナイフ

型のヴァストリアの依頼もしている。このとき神々が与えたのが ɑɥɪ ʃincʃc である。　ヴァストリアができたことで煩雑な開発名が付けられていた拳銃は eɲʃiɥl、ライフルは ɑcɔleʃ、散弾銃は bɦlinɑc と名付けられるようになり、性能を下げたものが大量生産され、アルバザード軍に配備されるようになった。　セレンはアルシャンテの中にアルビレオを忍ばせ、いつでも戦えるよう武装するようになった。カルシェリエで武器を取り出すには手間がかかるため、とっさの戦闘には向かない。そこで常に携帯できるアルビレオをセレンは好んだ。　・nɑ 以降の近代銃　nɑ になると ʔ,ɭ 遺伝子の普及とともに人々はヴィードを失っており、魔動銃の使い手は急激にいなくなっていった。　軍隊でも魔動銃を扱える者はほとんどいなくなり、魔動銃に代わって火薬銃が台頭してきた。　メル ʕɭ 年にアッティ＝メテが火薬銃を再発見。これは凪の火打石銃で進化の止まっていた火薬銃に ɥɑ で発達していた魔動銃の技術を応用したものだった。地球とは順序が逆で雷汞の発見の前に雷管があったが、雷管にサファイアでなく雷汞を入れるようになった。地球では雷汞の発見は１８世紀のことなので、アトラスのほうが早かった。魔動銃は火門に雷管をかぶせて撃鉄で叩いて発動させる管打ち銃で、これは火縄銃や火打石銃と違って引き金を引いてから発射するまでのタイムラグが極めて短い銃だった。　アッティは雷管に雷汞を詰め、管打ち銃を開発。雷管のおかげでこれまでの火縄銃や火打石銃と違って雨天を気にすることがなくなった。　魔動銃の時代に既に腔綫とどんぐり状の銃弾ができていたため、火縄銃に比べて３倍程度の命中精度と射程を獲得していた。アッティはこれをそのまま火薬銃にも取り入れた。こうしてアッティにより火薬銃としての拳銃、ライフル銃、散弾銃などが発明された。発射薬には黒色火薬が使われた。これは煙が多いのが難点だった。　魔動銃のころは小銃や拳銃の開発は盛んだったが、砲は持ち運びが不便な上、魔動銃なら小銃でも十分な威力があったため、発達しなかった。　nɑ 以降は徐々に威力の大きい攻城兵器としても使える砲も研究されていくようになった。この時点で地球に比べて小銃は発達していたが、砲は地球並みに遅れていた。ここからの砲の進化は地球とほぼ横並びとなるが、小銃の進化はしばらく停滞する。　nɑ は大航海時代で、小競り合いはあっても大きな戦争は ɥɑ ほどなかった。　ɥʃ になると無煙火薬が発見された。

また、機関銃などが進化し、地球の１９世紀水準となった→ uiɑφel　騎兵がまだ現役だったころは歩兵は馬上の敵を銃剣で突くため長い歩兵銃（小銃）を持ち、騎兵は馬上から撃ちやすいように短めの騎兵銃（カービン）を持っていた。　だが騎兵が廃れると馬上の敵を突くことがないので歩兵銃（小銃）が騎兵銃並みに短くなった。この結果､後の世では歩兵銃（小銃）より短いものが騎兵銃（カービン）と呼ばれるようになる。というのも、もともと騎兵銃のほうが歩兵銃より短かったため、騎兵科が廃れても銃の名称だけは残ったのである。　・ul から ıl にかけての現代銃　ɥʃ 末期、第一次世界大戦より前の時代は戦車も飛行機もなく、大砲は馬が引いていた。そのため機動力が悪く、陸戦の主役は歩兵の小銃であった。　このころの歩兵は横一列になって１ｋｍ以上離れた距離から撃ちあっていた。ところが機関銃が ɥʃ で台頭すると、この戦法では歩兵が機銃掃射されてしまう。そこで夜襲や塹壕戦などの接近戦が増えた。すると長い射程を持つ銃よりも接近戦で使える銃が必要になり、一発ずつボルトアクションをする暇がなくなった。そこで拳銃が台頭したが、拳銃は少し距離が離れると当たらない。そこで ul の第一次世界大戦では拳銃弾を乱射できるサブマシンガンが作られた。　小銃は一発打つと銃身が跳ね上がってしまい、再度狙いを付けて撃つまでに４秒ほどかかる。これにボルトアクションを入れると全体で５秒ほどかかる。ul では自動小銃が作られたが、ボルトアクションの１秒分しか稼げないのでそこまでの優位はなかった。自動小銃は生産に手間がかかるため、第二次世界大戦ではアルバザード軍と各国軍の一部に配備されただけだった。　第二次世界大戦が始まるとそれまでの小銃の射程の長さが不要になった。１ｋｍも離れた相手に撃つことはなく、比較的接近戦が多かったためである。当時の歩兵はそのような長い射程を必要としていなかった。　かといってサブマシンガンでは射程も命中精度も不足。そこで小さな弾にして小銃の反動を抑え、射程を短くし、小銃をサブマシンガンのようにフルオートで使いたいという欲求が出てきた。　こうしてアルバザードが旧カレンシアの協力の元開発に乗り出し、突撃銃ができた。現代の小銃は基本的に突撃銃である。　なお、第二次世界大戦で雷管には雷汞ではなくトリシネートが使われるようになった。雷汞は自然分解しやすく高価で銃腔を錆びさせるためである。　●銃と政治と規制　ɥɑ までは圧倒的なヴィードを持った王たちが国を支配していたため、民の力は弱く、王政は盤石なものであった。　しかし nɑ になって人々がヴィードを失うと、ごく一部の人間を除いてヴィードが使えなくなった。　王族はたいてい多少のヴィードを残していたが、それでも nɑ で栄えた銃火器の前では無力だった。　ɥɑ でアシェットが貴族を解体したことで、貴族と平民の間の距離が縮まった。　続いて nɑ で旧貴族や王族のヴィードが弱まった結果、一般兵士の力が相対的に上がった。農家の次男三男などを集めて編成されるアルバザード国軍はそうした一般兵士から成り、彼らには銃火器が装備として与えられた。　これにより平民は力を付け、力を付けた平民たちが王政を打破して自分たちの考えで国を動かす民主主義を目指すようになる。そう、銃と民主主義は関連している。地球でもアトラスでも民主主義は銃によってもたらされたものである。

nɑ_ɥʃ では資本主義が台頭したが、ɥʃ 初期の ƖɁ0 年ごろには共産主義が新たに台頭した。遅れて Ɉ0ʔ 年にはミナリスが民主主義を唱えた。強大な魔導士ミナリスという頭角の背景には銃を持った平民たちの力があった。　一方､Ɉ00 年にはシオン＝アマンゼが誕生し､徐々にアルティス教が生まれていく。ʔ00 年のミナレット諸党とアルティス党の和平に至るまで両陣営は抗争を繰り返したが、ここでも銃が活躍した。　ʔ00 年になり ul を迎えると、ミロク＝ユティアが生まれる。ʔɈ0 年にミロク革命が起き、ʔɈɈ 年には第一次世界大戦が勃発。ミロクのような強大なヴィードを持った人間は数人しかいなかったので、実際に頻繁に前線で戦っていたのは銃を持った平民であった。

ʔʕʔ 年にベルティアショックが起き、世界経済が悪化。ʔʕ9 年にエルトアのナオン侵攻が契機となり、第二次世界大戦が勃発。ここでも主戦力は銃を持った平民たちであった。　世界大戦を勝ち抜いたミロクらアルティス教の人間はアルティス教の治世を実施。しかし強大な魔導士たちを陰で支えるのは銃を持った兵士たちであり、彼らは民衆でもあった。ゆえにアルティス教の治世はアルティス教という宗教を中心とした世の中ではあっても、結局のところそれ以外はミナリスらが目指した民主主義の世の中と似ていた。宗教分離がなされていない民主主義の世の中と考えるとイメージしやすいだろう。ただユティア朝は民主主義を部分的に採用しているだけで、根っこの部分では独裁政権であるから、ミナリスらの目指したものとは確実に異なる。根っこでは独裁政権だが表向きには民主主義なので、１３年現在で考えると中国に近い。ただし中国と違って超人な哲人が単独で国を支配しているという点が決定的に異なる。　ミロクが完全な独裁政権を実施できなかったのは、国民でもある兵士たちが銃で武装しており、発言権を持っていたためである。さらにミロクは自分たちがいかに強大でも寿命には抗えず、ユティア朝の支配力は年々弱くなっていくだろうことを予測していた。その予想は当たり、ユティア朝は代を重ねるごとに独裁政権色が弱まり、民主的になっていった。　ミロクは一般国民による銃を使った決起を恐れ、第二次世界大戦終了後、世界各国で民間人の許可のない銃の所持を禁止した。地球でも銃の自由がない国は日本など特例を除いてほとんど独裁政権だが、独裁政権色の強いユティア朝の下ではやはり地球同様銃が規制されるようになった。この名残で、独裁政権色の薄まった ıl 後期や ls 初期でも民間人の銃の所持は許可を得ないかぎり禁止されていた。　ls で革命が起こるとアヴァンシアンによる事実上の独裁政権が復活した。このときもアヴァンシアンは民間人の蜂起を恐れ、許可なく民間人が銃を持つことを規制した。　アルバザードはじめほとんどの国は民間人による銃の所持は許可制である。地球で言うと日本ともアメリカとも異なり、フランスなどに類似している。

φelʃ ［動詞］ɥəl をねじる、ねじる、捩る、よじる、ひねる、捻る、撚る ［レベル］２　古 : 円を描くようにした 【用例】 φelʃ ɪɪɑ enʃel ɔl ɹɔ ɹɔɪ. 腰をひねるときはゆっくりと。

φelʃʃɔe ［医療］旋撚刺法。鍼で使う技術。　ɥɑ;/　Ɉ₥

φelʃiɑcl ［植物］［医療］散モグサ　ɥɑ;/　Ɉ₥

φelʃɔᴅ ［医療］撚鍼法、ねんしんほう　ɥɑ;/　Ɉ₥ ［文化］ ɹzl の頃から存在する鍼の打ち方。

φelʃe,ɹzɑ　cᴅel　‹›ʃeeze

φelɁəɔ ［軍事］銃砲口、銃口、砲口、マズル ［レベル］４　ɥɑ;/「銃の口」 Ɉ₥ ［文化］ φel

φell ［名詞］シュート、強い一撃、必殺の一撃、アタック、必殺 ［動詞］ ɥəl（敵や球）をシュートする､強く打つ ［レベル］２　Ɩ₥: 制 :φel から 【用例】 φell ɪɑel Ɩɔn ɥənɔ ユノで魔物を撃つ　φell ɥənɔ ıl ɪɑel 同上

φelɟ ［植物］タマネギ、玉葱、たまねぎ ［レベル］２　lıʃʃı ［文化］ 煮たり炒めたりして食べる。生食は胃に極めて大きい負担をかけるので禁忌のだが、カルパッチョなどに使われる。　また、若い乙女は口臭を嫌って生食をしないというのが常識になっている。

φelɟhɪcɟ ［料理］カルパッチョ ［レベル］２　Ɉ0: たまねぎマグロ ［文化］ ナディアでルティア人が作った料理。マグロを薄く切ってスライスした玉ねぎと一緒に醤油で合えたもの。カテージュ経由でアルバザードにも流布。その後、魚を常食しないアルナ人が牛肉とマヨネーズとマスタードで肉のカルパッチョを作ったが、名前は φelɟhɪcɟ のまま。地球と歴史が逆なので注意。

φelɟɪcɟ ［軍事］腔綫、口線、こうせん、ライフル、ライフリング、施条 ɥɑ;/　Ɉ₥ ［文化］ φel

φelɟɔncφɪɥ ［名詞］ロシアンルーレット、ロシアン・ルーレット ［レベル］５　ɥɑ;/「銃ルーレット」 Ɉ₥ 【用例】 lı uɔɥʃiʃ φelɟɔncφɪɥ. 彼はロシアンルーレットで死んだ。　lıɟ ɪɥ φelɟɔncφɪɥ. 彼らはロシアンルーレットをする。

φelu ［医療］捻挫、ねんざ ［レベル］３　lıʃʃı 【用例】 ʃclcɁ φelu ɔn ləoɪ 足を捻挫した

φelɑclıʃc ［軍事］銃砲身長、銃身長、砲身長、　ɥɑ;/　Ɉ₥ ［文化］　φel

φelᴅ ［名詞］ボルト、ナット ［レベル］３　Ɩʔ: 制 : 恣意

φelᴅɪ ［被服］ミュール　ɹᴅ;.ɹelɪn　Ɉ₥ ［文化］ ɹᴅ でできた。平民が編み出した男女兼用の晴れ着の靴だが、後に貴族に取り入れられて絢爛な装飾がされるようになった。nɑ 以降は女性用に。

φelɑcɥec ［軍事］ボルト　ɥɑ;/「銃の仕切り」。薬室後部をブロックすることから。　Ɉ₥ ［文化］ φel

φelφeɁ ［軍事］銃弾→ φeɁ ［軍事］実包､弾薬包､カートリッジ ［軍事］（散弾銃の）装弾、シェル ［レベル］３　Ɉ0:ᴅelcɑcɪ ꞁceɥ

φeld ［政治］福祉､福利､福利厚生､社会保障､社会福祉。包括的に指す。 ［レベル］４　ɹɔɥn

φeldɁiɑ ［政治］福祉国家 ［レベル］４　ƖL ［文化］ ヴェレイで起こったが、形骸的だった。アレイユでようやく実現。

φelb ［動物］毛虫 ［レベル］２　lıʃʃı:φelb,φelbe

φelbebel ［魔物］ゲルベベル（巨蛆蟲）: 第九十五天 : 害の巨天 ［レベル］５　古 :φel は卑音。bebel は bebe（蛆）。小説版アンクノットにも登場 ［文化］ 巨大なウジ虫。砂漠の土の中、天井の高い洞窟などに生息。人に絡みついての血を吸って殺す。地震を起こし、獲物を身動きできなくする。飛んでいる獲物には毒の突風を口から吹く。動きは遅いが、体力が尋常でなく、倒すのに苦労するため、遭遇したら逃げるべし。

φelbebelɁəɔ ［天文］イータカリーナ星雲　ƖL:ɥcɑcɪ/ɹeɥen/ᴅel ［文化］ 魔族ゲルベベルの口。血塗られた赤い口が禍々しい。閉じたり開い

たりするため、４等星に見えたり２等星に見えたりする。
φelhɔnȷ ［アイテム］プレートアーマー μɑ;/ ȷ𝔪 ［文化］ ȷᴅ の ʅʃ で φleı に対抗して作られた。
φelscᴅ ［軍事］銃砲腔、銃腔、砲腔 μɑ;/ ȷ𝔪
φellɔμ ［軍事］銃身、砲身、銃砲身、バレル ［レベル］４ μɑ;/ ȷ𝔪 ［文化］ φel
φelıʅȷ ［軍事］銃床 ［レベル］６ μɑ;/ ȷ𝔪:μcɑcı ［文化］ φel
φelınɑı ［軍事］銃火器 μɑ;/ ȷ𝔪 ［文化］ φel
φelılᴅc ［アイテム］ガンシールド μɑ;/ ȷ𝔪 ［文化］ ȷᴅ で φleı 発明後に作られた。
φelɔ ［動物］青虫 ［レベル］２ lıʅſı
φeı ［名詞］ボールペン ［レベル］２ 1ʔ: 制 :φeǁız（球のペン）
φeıʃ ［植物］バジル ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :φeılʃɔ。φeıl はピザのことを隠喩し、ʃɔ はそれにかける匂いとしての調味料をさし、アルカではバジルを指した。セレンがバガーズとピザを食べたときに命名した。
φec,ȷzɑ ʅıhc
φecn,ɑu ᴅeeu e
φecuɔlφ ［法律］咎人、とがびと、過去に傷のあるもの ［レベル］４ μɑ ;φecuɔlφ,ȷzɑ.ıleʅ ȷ𝔪 ［文化］ μɑ のセレンは自らを咎人と呼び、過去に過ちを犯した者としての咎を負うと述べ、この言葉を作った。
φecz ［サール］ゲイズ ［環境］スモッグ、毒の霧 ［レベル］４ ɔuc: 古 ［文化］ 命を持った毒の霧。
φeɔ ［動物］アルマジロ ［レベル］４ ılıʅſı:φeɔ,φehɔ,φeφehɔ（丸 / 固い）
φeene,ȷzɑ ᴅeeu φecn
φeed ［動物］ミミズ、蚯蚓 ［メタファー］暗くて陰険な奴 ［レベル］２ 1ʕ: 制 :lıʅſı。虫だから d を付けた。
φeedıɑcȷ ［法律］蚯蚓刑 1L ［文化］ ミミズの入った壺に受刑者を突っ込み、蓋を閉じ、溺死させる。食品汚染に適応。
φeeocl ［人名］ゲーウィッシュ ［組み数字］４／１４ ［レベル］４ 語源不詳 : 小説版アンクノット一巻ｐ１００に記載。 ［文化］ 第４期３代アルシェ第４使徒。ギルの実父とリーザは証言するが、誰も見たことがない。
φeeoclłcl ［化学］プロメチウム 1Δ: 制
φeel ［軍事］少尉、ゲール ［組み数字］１１／２０ ［レベル］３ 1L:μcɑcı:ȷɔɔl(行為→実行者。少尉クラスだと小作戦の実行者が増えることから)。語頭子音を合わせるために φ に。 ［語法］［文化］ ʅını
φəʅ ［動詞］ɔn について ɥəl を責める、責める、咎める、非難する、弾劾する、糾弾する ［レベル］３ 1L: 古 :φɥəʅ。苦く言うが原義 ［語法］ φɥəʃ はあくまで ıȷᴅ の一種。φəʅ は問いかけではなく、単に責めたてること。 【用例】 "ɥəə φəʅıʃ lə ɔn ɑce ᴅcın8"「誰も嘘を咎めなかったの？」
φəl ［動詞］ɥəl を ı（結果状態や容器）に潰す、潰す、つぶす ［擬音］ぐしゅ、グシュ、ぐしゃ、グシャ、めき、メキ ［レベル］２ 古 : 潰す音のオノマトペ
φəlᴅeᴅ ［数学］楕円、非真円→ bɔc ［レベル］４ 1L ［語法］ 日常的には楕球の bɔc で楕円を指すことが多い。厳密には間違いなのだが、bɔc ısı など複合語の形態素にもなるくらい浸透している。それは bɔc という語形が短く φəlᴅeᴅ という語形が長いために起こるものと考えられる。
φəlφeʅ ［数学］楕球→ bɔc ［レベル］３ 1L
φəll ［名詞］ローラー ［レベル］３ 1ʔ: 制 :φəllɔɔ
φənı ［名詞］(nı) 悔しい ［名詞］悔しさ、悔恨 ［レベル］２ ȷ0:ᴅelcɑcı lc eμ:φɥə/nı
φənı,ılʃ dıb
φənıʅılc ［アイテム］太刀、たち、タチ ʅʅ;ılʃ「馬刀」 ȷ𝔪
φəz ［名詞］糸くず ［レベル］４ ɑu;ʅəz.ʅ。「糸になっていない糸の中のクズのようなもの」であることから。 ȷ𝔪
φəl ［動詞］ɥəl を唸らせる、唸る、うなる、動物などが威嚇で唸る ［レベル］２ 1Δ: オノマトペ 【用例】 ʅɔᴅɔ ɥəlʃ ʅılᴅı φəl ıın, ɑɔ "əəə...". なんかユルトはよく唸るんだよねぇ、「う～」って。威嚇ではなく困ったときとかによくやっている様子。あと腹減ったときとか。
φəcɥə ［軍事］中尉、グイユ ［組み数字］１０／２０ ［レベル］３ 古 :zını: 武将 ［語法］［文化］ ʅını
φəcı ［名詞］［形容詞］非リア充、非リア、リア終、リア貧、非モテ ［反意語］ lcɑcı ［レベル］３ ȷ1:φɥə/ɑcı（苦い世界） ［語法］ lcɑcı の正反対のこと。

d

dʅ ［演繹音］dh ［レベル］３ ȷ1
dlʃ ［演繹音］ぱしゃ、パシャ、ぴしゃ、ピシャ、ぱちゃ、パチャ、ぴっ、ピッ、ぺっ、ペッ ［レベル］２ ȷ1 ［語法］ 液体が撥ねる音。たいてい何かにぶつかる。
dln ［演繹音］ざばっ、ザバーン、ざばーん、ざばー、ザバー、ざざー、ザザー、ざーざー、ザーザー ［レベル］２ ȷ1 ［語法］ 波などがうねる音。
dlıʃ ［俗語］［普通動名詞］オナニー。男の。 ［俗語］［動詞］ɥəl をオナニーさせる、オナニーする、抜く ［類義語］ɑɔlʃ、ɑɔs ［レベル］４ ɑu;ɑɔueʃ（精子の出る音） ȷʔ
dlın ［動詞］ɥəl を噴出す、噴出す、噴き出す、吹き出す、ふきだす、噴射する ［俗語］［動詞］ȷɔl は首吊りなどで排便する、排便する ［普通動名詞］噴出、噴射 ［レベル］３ 1𝔪: 制 : 古 :bəl（水が噴出す際のオノマトペ）
dlınʃμen ［俗語］絞首刑、ハングマン ［レベル］５ ȷ0: 糞便噴出刑。首を吊って死ぬと排便・排尿することがあることからついた。 ［語法］ dɔıɑcȷ は床が抜けてガタっと落ちたときのショックで意識が飛ぶが、dlınʃμen は首を縛ってからゆっくり受刑者を吊り上げていくため、気道の閉塞が先に来る。そのため、意識がすぐに落ちずに苦しむ。首を絞めて人を殺した人間に適応。
dlıd ［名詞］ロケット ［レベル］３ 1𝔪: 制 :blıdın「噴出す乗り物」。噴水のように上に噴き出るように発射する乗り物であることから。
dlcʃ ［名詞］じぶき、飛沫 ［医療］飛沫、ひまつ ［レベル］３ μɑ;hıılueʃ ȷȷ 【用例】 dlcʃ lənı eel 水飛沫が顔にはねる dlcʃ eᴅ dlın ᴅcl bııʅ くしゃみで飛沫が舞う
dleʃ ［名詞］シャワー ［名詞］スプリンクラー→ ɑıcldleʃ ［動詞］ɥəl にシャワーを浴びさせる、シャワーを浴びる ［レベル］２ 1𝔪: 制 :dle から
【成句】 ［婉曲］ ıμıʃ dleʃ8 セックスしたか？：セックス後にアルバザード人がシャワーを浴びることから。もちろん文字通りの意味で使うケースも多々。 【用例】 ın dleʃıʃ ᴅın ın ıʃ eueȷ ᴅeμel ᴅcl hcnʅ. 汗まみれだったので、シャワーを浴びた。 ıμəəs ɥɔlıʃɔμ dleʃ. 弟がシャワー中だった。 ın dleʃıʃ cᴅ ʃə ɑııμ. 今朝シャワーを浴びた。 ın dleʃ ıʃ ɑıȷʃel. 簡単にシャワーを浴びた。
dleʃdıcb ［名詞］シャワーカーテン ［レベル］４ 1L 【用例】 eμ ıʃ ᴅıʅl ʅɔμ ɑcdcʃ ᴅın ın en ɑeɥəȷ dleʃdıcb. シャワーカーテンを閉めなかったので、水があちこちに飛び散った。
dlen ［名詞］噴水、（公園の噴水式の）水飲み場 ［名詞］トイレのウォッシュレット、ウォシュレット ［レベル］３ 1ʕ: 制 :dlın/el（水） ［文化］ 地球だと主に日本にしかないが、水の豊富なアルバザードにはある。紙より痔にいい。
dȷhɔɔμı,ʅʃ ȷɔμeʃ dȷhɔɔμı.ʅ
dȷɔμ ［植物］藍 ［色］藍色、インディゴ、インジゴ ［レベル］４ 1L:dȷɔɔμı
dȷɔμleʃʃc ［地学］銅藍 1L
dȷɔɔμı ［悪魔］プスホーラ、青の悪魔プスホーラ ［レベル］３ ᴅelʃcı 0:dȷɔɔμı;dȷ/hɔɔμı μcɑcı: 古 :dəȷhɔɔμı, dȷɔɔμı（赤アンクノットにも記載） ［文化］ hɔɔμı 青い毛で覆われた怪物。冷静。
dȷɔɔμı,lȷl ȷɔμeʃ dȷhɔɔμı.ʅ
dȷɔɔμılccɑı ［天文］ベラトリクス ［レベル］６ 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ hɔɔμılccɑı
dȷel ［名詞］雑誌、マガジン、定期刊行物、ジャーナル ［レベル］３ ılıʅſı
dȷelʃeʅʃ ［電算］メルマガ、メールマガジン ［レベル］４ ıl;/ ȷʔ
dɑ ［演繹音］ぽふ、ポフ、ぽん、ポン ［レベル］２ ȷȷ ［語法］ 髪の毛や藁など、柔らかいものをポンと撫でたり叩いたりしたときに、中の空気がぽふっと洩れる感じの音。
dh ［演繹音］ぴき、ピキ、ぴきぴき、ピキピキ、ぴりぴり、ピリピリ、びりびり、ビリビリ、みしみし、ミシミシ、めきめき、メキメキ、みりみり、ミリミリ ［類義語］dʅ ［レベル］２ ȷ1 ［語法］ 膨れて擦れる音。
dɥəʃȷ,ɑu dcʃı
dɥəı,ȷzɑ nɔz dɥəcz.ʅ
dɥəcz,ȷzɑ sc、scʅcʃ <> dɥəı
dμıȷ ［動詞］ɥəl に対処する、対処する、ことに当たる、処理する、処分する、対応する ［普通動名詞］対処、処理、対応、処分 ［レベル］３ 1𝔪: 制 : 語源不詳 【用例】 ın ʃclıʃ ɥeʃ ɑc l'ın dμıȷ ɑıl. 私には処理しなければならないことが多かった。 ın dμıȷıʃ ucl leȷ ȷɔ ıl ɔn le ᴅeȷı. あの状況でどう対処すべきか分からなかった。 ıc, lenı dμıȷıʃcʅ cʅıl φıμ ȷcɑ e. やっと昔のＦＤＤの処分が終わった。
dμıȷɔᴅ ［名詞］対処法 ［レベル］４ 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ
dμın ［普通動名詞］宣言、声明、公言 ［動詞］ɥəl を ı に宣言する、宣言する、声明する、宣言する、公言する、約束する、誓う 1𝔪: 制 :ılıʅſı:dlın
dμcȷ ［普通動名詞］手続き、手順、段取り、工程、手続き ［動詞］ɥəl の手続きをする、手続きをする ［電算］アルゴリズム ［レベル］３ 1ʕ: 制 : dμıȷ から
dμcnȷ ［形容詞］メモリアル版の ［レベル］４ ȷȷ:zını
dμcnȷφıəɑc ［経済］プリンスガウディ ［名詞］表裏一体 ［レベル］３ ȷȷ ［文化］ ガウディの塔建設百周年を記念して作られた両面ガウディの記念コイン。
dμczᴅ ［魔法］魔月館 ［レベル］６ ɑμɑɑ;ɑɔlı ȷ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə
dμɔʃ ［普通動名詞］出版 ［動詞］ɥəl を出版する、出版する ［レベル］４ 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ:dμeʃ
dμɔʃuenʃ ［名詞］出版社 ［レベル］５ 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ
dμɔʃcȷ ［人名］プロティス ［料理］利食 ［組み数字］１０／１１ ［レベル］３ 古 :μcɑcı:dμɔ ← dμɔdıʃı（善）/ʃcȷ（人） ［文化］ アルシアの１０番目。利の魔法の大成者。男性。 利食とはミロク革命で定められた、食べることが推奨される食品のこと。反対に害食は食べないことが推奨される。革命後は害食はほとんど廃れているが、低学歴層ほど従わない傾向にある。
dμɔʃɔl ［名詞］出版物、商業出版、商業出版物 ［レベル］４ ȷȷ
dμɔʃɔɔl ［魔物］プロトール（利竜）：第八十七天：利の衛天 ［レベル］５ 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:dμɔʃcȷ/ʃɔɔl ［文化］ 利属性の地竜。太った人間程度の大きさで、人語を解し、よく本を読む。眼の悪い種族で、黒縁めがねをかけている。暗い緑の皮膚をしている。好奇心が強く、

友好的。戦いは好まない。

dɥɔʅ ［言語］教訓、諺、格言、名言 ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪʅʃcɥəʅʅə の後釜となった語。ɥənʅ だか ɥəʅʅə だかわからず、聞こえにくいという原因で dɥɔʅ に取って代わった。

dɥɔdɪɪʃɪ ［名詞］善 ［形容詞］善の、善なる ［反意語］eucɑe ［レベル］2 ɑ;dɪ は「光」 赤 dɥɔdɪɪʃɪ:dɥɔdɪɪʃɪ ［語法］［文化］ ɑɪlcʝ と uelnɪɥ は正義と悪。dɥɔdɪɪʃɪ と eucɑe は善と悪。 正義とは、「そうすべきであると考えられている物事に適っているさま」である。悪は適っていないさまである。正義は人により異なり、時代や集団によっても異なる。正義や利益のぶつかり合いが争いや戦争である。 一方、善とはメルディンな傾向を保ち、なおかつ革命後はアルティス教の教えに従うことである。このうち天国に行く条件は前者を満たしていれば良い。ただし、後者を守っていれば自然と前者も守ることになるので、実質的な差はない。 悪とはエルナな傾向を持ち、アルティス教に反することである。このうち、地獄に行く条件は前者のみ。ただし、後者を満たしていればたいてい前者も満たすので、あまり違いはない。 ポジティブな考えをして前向きに生きていれば善ということであれば、殺人や傷害を起こしても、ポジティブなら善なのかという疑問があるだろう。 ここでポジティブでなくわざわざメルディンと書いてきた点に注意されたい。ポジティブとメルディンは異なる。殺人や傷害で人を傷つける行為は悪意を人に向けているので、この時点でエルナであって、メルディンではない。 ポジティブな殺人犯であろうと、そんなことは関係ない。訳もなく人を殺せば悪意を向けたエルナであるとともに、アルティス教にも反するので、悪になる。

dɥeʃ ［普通動名詞］印刷 ［動詞］ɥəl を ı（紙など）に印刷する、印刷する、刷る ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪʅʃɪ:dɥeʃ は元は「用意しておく」という意味。クリスら女子の間でいつの間にか印刷という意味に変化していた。しかもその語源を当時「恥ずかしいから言いたくない」といい続け、教えなかった。後に語源が必要になって再度聞いたら「流石にもう忘れてしまった」といわれ、不明となった。 ［文化］ アルテムでベルトが活版印刷を発明し、神を経て人類へも伝わった。当時は一文字ずつ文字をユノのレーザーで書き込んでいたが、白黒反転してしまうし、何より面倒だった。ただ、神は基本的に頭がよく、大抵のことは記憶できたから、そこまで困ってはいなかった。 カコになると文献も増えたため、これまでの印刷技術では追いつかなくなってきた。そこでナユは文字駒というものを作った。幻字を象った駒で、銀で作られた。この駒を金属板の上に置き、アトエの魔法を使い、下から上に向かって重力を局所的に歪める。魔力の伝導率が銀＞銅であることを活かし、銀だけ反応するようにアトエをかける。こうすることで銀の乗っかっている部分にだけ下から上への重力がかかり、文字の形に銅版が浮き上がる。この現象を利用して印刷を行った。ɥɑ まではこの印刷を行える魔法技師がいたが、アルティルではいなくなってしまった。 また、ɥɑ ではリュウがナユと共同し、魔法を使わない活版印刷を開発した。その後印刷技術は進み、ヴェレイでは現在の地球と同程度になる。アレイユでは電子ペーパーが登場し、従来の印刷技術は頻度が減っていった。 なお、タイプライターについては ɥɑ でパールが発明している。

dɥeʃlɔʃʝ ［電算］プリントスクリーン ［レベル］4 ʝ0

dɥeʃɪ ［名詞］プリント、印刷配布物 ［レベル］3 1ʕ: 制 :dɥeʃ ［語法］ 学校や会社などで配られるプリントのこと。

dɥeʃɪucɥɑe ［アイテム］プレタヴィルデ ［名詞］表裏一体、紙一重 ［レベル］4 ɥcɑcɪ: 古 :dɥɔdɪɪʃɪ「善」と eucɑe「悪」を組み合わせたもの。dɥɔʃɪucɥɑe など多くの異形態があったが、セレンがその中から dɥeʃɪucɥɑe と記憶したことにより定着。 ［文化］ ヴァストリアの 1 つ。パールのもつ神杖。善悪を計る杖。上下どちらを上にしてもちゃんとした杖に見えるようにデザインされていて、同じことでも場合次第では善は悪になるし悪も善になるという真理を示している。 【用例】 ʝɔɔl dɥɔdɪɪʃɪ ɔ leʃ eʃ dɥeʃɪucɥɑe cɒ lenle ɥən. 善意の行いと迷惑は時として紙一重。

dɥeʃɪɥ ［電算］プリンター ［レベル］3 1L

dɥeʝʃ ［形容詞］縁起が悪い、不吉な ［反意語］ɪldɥeʝʃ ［レベル］3 lɪʅʃɪ:dɥeʝʃ「縁起が良い」。制では逆意。 【用例】 ʅɔɒɔ ɪn nɪ lelʃ eʃ dɥeʝʃ cɒ ɑcʝ. なぜか今日は月が不吉に感じる。

dɥeʝʃʝel ［名詞］厄日 ［レベル］4 ʝ0

dɥeʝʃɪl ［名詞］運勢 ［レベル］3 1L

dɥeu ［生物］クラミジア ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/ɥɥəə ［文化］ ɥɑ のインプレンで性病としてクラミジア・トラコマチスから見つかり、命名された。

dɥeɑcʝ ［地名］プレディス ［レベル］5 ʝ0

dɥeɑcʝɪn ［名詞］プレディス人 ［レベル］5 ʝ0

dɥecn ［植物］牡丹、ぼたん、ボタン ［レベル］5 古

doɪn,ʝzl leseɒɒe ‹›dʝɔɔɥɪ

dlɪnʃ ［人名］プラント ［組み数字］4 / 5 ［レベル］4 ʝzʅ ʝ1 ［文化］ → ɥɪ dɪll

dlɪnze ［格詞］～のときのみ、～の場合のみ。逆も真となるケース。ɔl hɔʃ と同じ ［類義語］ɔl ［レベル］3 ʝɒ;dlɪnze,ʝzl ʝ1 ［語法］ ɔl hɔʃ より格式張っている。 【用例】 ɪnʝ ɑcʃ ʝcl φcl dlɪnze ʃccʝ deɑ ɪlcʝ. そちらが土地を返却すればこちらも金を渡そう。

dlɪnze,ʝzl uɔlʝ

dlce ［形容詞］単一の、単発の、一回性の ［反意語］ɑɪʅʝ ［レベル］3 ɥɑ; ‹dlce,ɑφn‹dlce,ʝzɑ.ʅ ʝ1‹dɥce 1L:ʝɔɥn:dlce（単発）。dl が制アルカにないので dɥ にした。 ×dlce:×dlce:×

dlce,ʝzɑ dɔ ‹›dɔ

dɪ,ɑ ɑɪɥ ɑɪcɪ

dɪʃ ［動詞］ɥəl をケアする、ケアする、メンテナンスする、整備する ［普通動名詞］ケア、メンテナンス、整備 ［レベル］3 ʃɒ;ɑɔueʃ。もともと頬など肌をケアするときに化粧水などを付けて頬をパタパタとはたいたときのオノマトペから来ている。それが転じてケアするという意味の動詞になった。 ʝʔ ［語法］ 調整 (ʃɔc) するように、何かしかをあるべき状態に持っていく (ʅeɪ) ことを意味する。何かを世話する (lɪʝ) ように行う。ʃɔc, ʅeɪ, lɪʝ の語義をそれぞれ少しずつ持った間にあるような語義を持つ。 ɥəl には肌や機械など、アニマシーを問わず来させることができる。 【用例】 nɔn dɪʃ ʝcɥ ʃɪʃ ʝel. 私は毎日肌をケアする。

dɪʃʃel ［植物］楸、ヒサギ、ひさぎ、アカメガシワ。アカメガシワとしての楸。 ［類義語］ɒcɔʃɔn。別物。 ［レベル］6 ʅʅ;ɑφn ʝʝ

dɪʃʝ ［動詞］ɥəl（除去物）を c（大元）からふるって ı（残存物）を取り出す、ふるう、篩う ［料理］ふるい、篩 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ʝɔɥn:dɪʃ（見分ける）

dɪʃl ［動詞］ɥəl を ı と見分ける、見分ける、見切る、区別する、聞き分ける ［普通動名詞］見分け、聞き分け、分別、見切り、区別 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʝɔɥn:dɪʃ 【用例】 ɪn dɪʃl ucl ʅeʃ ɒcn ı ʅeʃ ucʅ. 雌猫と雄猫の区別がつかないよ。

dɪʃɪ ［経済］口座 ［電算］アカウント ［レベル］4 1ɱ: 制 :dɪʃdɪʃ 【用例】 lɪɑ{ɪ llɪɑ} dɪʃɪ 口座を開く { 閉じる }

dɪʃe ［名詞］フィラメント ［レベル］5 古 :dɪʃe（白い電気）

dɪʅ ［動詞］ɥəl を ı に進める、すすめる、進める、進む ［普通動名詞］進歩、発展 ［生物］進化 ［普通動名詞］早送り ［動詞］ɥəl（ビデオなど）を ı（シーンなど）まで早送りする ［類義語］lʝɪs ［反意語］ʝɪɥ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 : では dɪʅ で、足音のオノマトペ。但し、dɪʅ は dʅe,dɥeʅe が元とする説もある。これはセレンが英語接頭辞 dɥe（前）/ʅe（行く）から作ったものである。確かにその造語はなされたが実際は広まらなかったため、dɪʅ と dɥeʅe は無縁と考えるのが妥当。 【成句】 dɪʅ ʝɪɥ dɪʅ ʝɪɥ 一進一退 dɪʅ ɑɥəɒɪ ʅɪl 日進月歩 【用例】 dɪʅ ɑə ↟ scn 5 秒早送りする

dɪʅʅel ［医療］こむら返り ［レベル］4 ʝɑz ʝ1

dɪʅʅelucɒ ［生物］腓腹筋 ［レベル］5 ʝɱ‹ʝʝ

dɪʅɒ ［単位］パクム、ルーメン、光束 ［レベル］6 古 :dɪʅɒ,dɪɪʅɒ。元は dɪ ʅɪɒɪ「光の多さ」 ［語法］ 全方向に放射される光の光度が一様に 1 モープである点光源から 1 立方ルトック内に発せられる放射エネルギー (＝光束) のこと。従って、1 モープの点光源から放射される全光束は 4 パイパクムである。

dɪʅeʃ ［交通］アクセル ［レベル］3 ʝ1:dɪʅ/ʃe 【用例】 oɔnʝ{ɪɥ} dɪʅeʃ アクセルを踏む

dɪl ［名詞］図、表、図式、チャート、図柄 ［経済］チャート ［レベル］3 ʃɒ;e ɔuc ɪz zɪnɪ: 古 :dɪl（図）

dɪlʃ ［名詞］光沢、つや、グロス ［レベル］3 1ʔ: 制 :dɪɪ（光）

dɪlʃɥɪɒ ［名詞］リップ、グロス ［レベル］3 1L:lecn

dɪln ［物理］ビーム、粒子線 ［レベル］4 1Δ:dɪl/ɪnʃ

dɪlɥɪnʝ ［名詞］図説、図解、図説による解説 ［レベル］4 ʝ0

dɪlzed ［電算］表計算 ［レベル］4 1L

dɪlcl ［化学］フラボノイド、ビタミン P。フラボノイドのうち、クエルセチン、ヘスペリジンなどをあわせてビタミン P と呼ぶこともある。 ［レベル］5 ul;cn で「（植物の）色」の意味。フラボノイドが植物に広く含まれる色素成分の総称であることから。 ʝʔ ［文化］ いわゆるポリフェノールと呼ばれる、より大きな化合物グループの代表例。

dɪʝ ［電算］アイコン ［レベル］3 ɪl;ɪdɪ/ʝɔ「記号するもの」 ʝɱ

dɪʝʃ ［植物］米、稲、ライス ［レベル］2 古 : 制では小麦 :::ʝɪɥɪ,ɪlʃ ［文化］ 常食はしないが、頻繁に食べられる。どんぶりに米という習慣はない。白米やピラフや粥などの形で主に食べられる。ʝɒ や旧革命で主食のひとつとして根付いた。 アルバザード人はライスは皿に載せ、凪人は茶碗に盛る。凪食の場合はアルバザード人でも茶碗に盛ることがある。 アルバザード国内でも南部やカレン半島で作られているが、アルティアからの輸入も多い。アルバザード産よりアルティア産のほうが瑞々しい。ただしアルティアは日本と韓国の間のような風土なので、まったく日本米と同じというわけではない。なお、アルバザード人は ʝɒ 以降、米を野菜とは考えず、穀物と考えるようになった。 米は ʝɒ で入ってきたが、一般人が食べるようになったのは ɥɑ でセレンが広めてから。セレンは青年期に小麦アレルギーを発症し、パンなどが食べられなくなり、米を常食するようになった。一緒に生活していた家族がセレンだけ米だと料理をするのが手間なので、家族全員米を食べるようになり、結果的に流行の発信源だったアシェットが米を食べるようになったことで民衆にも広まったという経緯がある。 【用例】 dɪʝʃ uɔɥʃɪʃ ɒcl ɥəəeʝʅ. 日照りで稲がやられた。

dɪʝʃʃəʝ ［医療］米粒大 ɥɑ;/ ʝɱ

dɪʝʃʝenʃc ［名詞］茶碗、一杯のご飯 ［レベル］3 1L 【用例】 ɪn lɪlɪʃ dɪʝʃʝen ʃc ɪlʃ. おかわりがほしかった。

dɪʝʅ ［名詞］過程、経過、流れ、フロー、途中 ［副詞］～しかけ、～している途中 ［格詞］～の過程で、～の途中で ［反意語］ɑclʃ ［レベル］2 古 【用例】 bɪʅɒ lʼɪn len dɪʝʅel 飲みかけの牛乳 : lenɔɥ との違い。len dɪʝʅel の場合、一度口を離してテーブルなどに置いてあるイメージ。lenɔɥ は今口に付けて飲んでいるイメージ。 ɪn ɪʃ scʅnclʝ dɪʝʅ ɪn leɑ ↟0 lcɒelɑc enʃɔ ʃclɪʃ ɑɔlucl ɔn ɒclʅ cɒ ɑcʝ. 今日 5 0 m走の途中でずっこけて膝をすりむいた。

dɪʝʅʅɪnʃ ［経済］［生物］発展途上、発達途上、発育途上 ［形容詞］発展途上の、発達途上の、発育途上の ［レベル］4 ɥɑ;/ ʝʔ 【用例】 ɒɪɒ dɪʝʅʅɪnʃ e lɪz 少女の発育途上の胸

dɪɉlləc ［動詞］［形容詞］食べかけの ［レベル］３ ɺ0 ［文化］ 人の食べかけのものを食べるのは穢れとされない。ただし、異性間の回し飲みは一部忌避される。処女が父親と兄弟以外の食べ残しを食べることや、自分の食べ残しを与えることは不純として忌避される。また、既婚女性が恋人ないし子供以外と行うのも忌避される。なお、同性間ではこの限りではない。例えば紫苑とレイン間ではＯＫだが、アルシェとは不可。

dɪɉllen ［動詞］［形容詞］飲みかけの ［レベル］３ ɥɒ;/ ɺʔ

dɪɉlnca ［言語］経過相 ［レベル］４ ɺ0 ［語法］ 行為動詞・状態動詞の一端、事前段階・実行段階の一端、内相の一端。 「〜している」という意味。

dɪɉlɒcɒ ［名詞］中折れ、中おれ、なかおれ ［レベル］５ ɥɒ;/「途中で萎える」 ɺʔ ［語法］ セックスやオナニーの途中で萎えてできなくなること。 【用例】 ɪn ɑɔlʃɪʃɔɥ ɒɪn hel ucl ɔɒ nɔɉ ɑɔlʃɪʃ ueeɥel, nɪl ʃə eʃ ɣeʃ ɑəɔ. ʃɪl ɪn ɑɔlʃɪʃ ɉen en ɥɪllel ɒɪn ʃclc dɪɉlɒcɒ ɑcn ʃɔlcɉ ʔ1 ʃcɉ. ɪn nɪʃ nɔɉ eɉ cɑc, ʃɪɥl ɥcɒcɪ ɔn ʃə. ɉɔn lɪ lɘʃ "nɔn lɔɥ ɑɪn ʃɣə ɒɪdel enz e" enʃɔ ɪn nɪl nɪə ɒelʃ. 最後にいつ抜いたか思い出せないくらいなのでいい加減ヤバイと思って抜こうとしたんだが、齢 ʔ1 にして中折れして抜けなかった件。年だなと思いつつリディアに相談したら恥ずかしそうに「なるべく早くそっちに行ってあげるね」と言われて「えへー」と思った。

dɪɉlɒclɑɪc ［医療］知熱灸 ɥɒ;/。途中で消してしまうため。 ɺɱ

dɪɉlɪl ［動物］あんこう、アンコウ、鮟鱇 ［レベル］４ 古 :dɪɪl/ɉclɪl が原義。

dɪɉlcɉl ［動詞］［形容詞］読みかけの ［レベル］３ ɥɒ;/ ɺʔ ［語法］ ２００ページある本で２，３ページしか読んでいない本はふつう日本語だと「読みかけ」よりも「読み始め」というし、１９９ページ行ったら逆に「読み終わりそうな」というのが自然である。英語では進捗が半分でなくてもｈａｌｆ－ｒｅａｄという。アルカの場合、dɪɉl は厳密に過程のみを指すので、たとえ１ページしか読んでなくても１９９ページまで読んでいても、両方 dɪɉlcɉl といえる。 【用例】 lec dɪɉlcɉl 読みかけの本

dɪɉlɔ ［電算］ストリーミング ［レベル］４ ɪl;dɪɉl.l ɺʔ

dɪɉɉɪ ［感動詞］［俗語］オッケー、おっけー ［レベル］２ ɺ1:dɪɉɉɔ ［語法］ おどけた感じ。

dɪɉɉɔ ［感動詞］大丈夫、わかったよ、しょうがない ［感動詞］よし、さあ、さぁ、さて ［感動詞］いいよ、ＯＫ ［感動詞］セーフ、間に合った、助かった ［反意語］benɒɪ ［レベル］１ ɑ:elʃ;dɪ/ɉɔ「光るような行い→善行→そうであるべき物事→そうである→そうであるから大丈夫→大丈夫」 赤 :dɪɉɉɔ（そうである） dɪɉɉɔ:dɪɉɉɔ ［語法］ cldɪɉɉɔ より丁寧でない言い方。肯定文だと大丈夫や「そうだ」の意味。疑問文で使うと「～でいいのか」という丁寧でない確認の意味になる。lɔl より相手の返事を期待する言い方。「荷物をもってやる」といわれ、「いいの？」と聞き、「dɪɉɉɔ（大丈夫）」といわれた場合、その相手に「ɉenʃ（ありがとう）」ということができる。だが一般的にいって dɪɉɉɔ は確認目的の意味合いが強く、ねぎらいの意味は薄い。大丈夫？のつもりで dɪɉɉɔ といっても相手は ɉenʃ と返さず、ɣɪ ということが多い。病気の人に dɪɉɉɔȣ と聞くこともできるが、ねぎらいよりも確認の意味の強い言葉なので、明らかにだめそうな場合は聞かないほうがいい。気分を害する恐れがある。

dɪɉd ［物理］Ｘ線、エックス光線、レントゲン、エキス線 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :dɪɉldɪ（透過光）

dɪɉɔl ［名詞］カウント、数、カウント数 ［動詞］ɣəl を ı まで数える、数える、カウントする ［類義語］ɪll ［レベル］３ ɑ;dɪlɪlɪ/ɉɔ/ɪl ɺ1 【成句】 dɪ ɉɔl ʃɔlcɉ e ɣəllcɪn le uɔɥʃɪʃ 死んだ子の年を数える dɪɉɔl lɔn sc 指折り数える 【用例】 dɪɉɔl ɉɔɥ 大きなカウント数 dɪɉɔl ɉɔɥel 数え上げる、カウントアップ。「高く数える」。大きな数へ向かって数えることなのでカウントアップ→ ɉɔɥdɪɉɔl dɪɉɔl ʃəɥ ʃɔɪlȣ カウントは今いくつ？、いくつまで数えた？ dɪɉɔl ɔɒɪ 犬を数える dɪɉɔl ɪlɪlʃ ʔ0 ３０まで数える lcczɪ dɪɉɔl lcʃ lɔn sc. リーザは指折り数えた。

dɪɉe ［植物］［料理］小麦粉 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :dɪɉʃhɔe dɪn:dɪn:lɪ dɪn（パンが膨らんでいるので。丸い→女性名詞）:dɪn,ɪlʃ ［文化］ ɉɒ で凪食と接触した結果、強力粉、中力粉、薄力粉の３分類がなされた。ɥɒ でタンパク質の含有量順に ʃcn, ɉeel, lɪl と再命名された。また、ɉɒ では全粒粉なども分類された。

dɪɉeucɥɔ ［化学］グルテン ［レベル］６ 1L

dɪɉeuclɉ ［化学］グルタミン酸 ［レベル］５ 1L

dɪɉelɪ,ɪlʃ leɒd

dɪɉelə,ɪlʃ ɉcl

dɪn ［交通］乗り物 ［レベル］２ 1ʔ;dɪlɪn,lɉɒ.lcl 1ʔ: 制 : 古 :dɪlɪɒelcɪ,dɪlɪn dɪlɪɒelcɪ:dɪlɪn:lɪ ɒelcɪ（当時は車輪のついたもの。丸が女なので女。車輪のない乗り物は対で男）

dɪn(ɺ) ［悪魔］パン、数の悪魔パン ［レベル］４ ɒelʃcɪ 0:dɪn;e ɺ1:ɒel:dɪlɪ lɪ,ɑu.l ［文化］ 数の悪魔。 火星を司る。

dɪn,ɑu dɪɉe これを使って作ったパンがふっくらしており、そのふっくらした様子の擬態語から。

dɪn,ɪlʃ ɑcɥ

dɪnʃ ［名詞］部門、範疇、分野、カテゴリー、教科、科目、系統、系 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :dcʃ（種類の種）。音が似ないように変化させた。 ［文化］ 学校の授業は教養と実技に分かれる。実技は体育館で行う。

dɪnʃe ［音楽］拍 ［レベル］４ ɺ1

dɪnʃehɪɉl ［音楽］拍子 ［レベル］４ ɺ1

dɪnl ［名詞］スイッチ、ボタン ［レベル］２ lɪlʃɪ 【用例】 ɪɥ dɪnl e ʃeɉdɪɒ 電気のスイッチを押す

dɪnlɔzəe ［植物］コブシ ［レベル］６ ɺɺ:「白桜」

dɪnɉ ［名詞］ハブ、車輪の中心 ［電算］ハブ。アトラスでも車輪の中心でハブをなぞらえた。 ［レベル］３ ɥɒ;dɪnɔ/ɉeel「車輪の中心」 ɺʔ

dɪnɉe ［動詞］ɣəl を ı に提供する、提供する ［普通動名詞］提供 ［レベル］３ 古 :dɪnɉe（提供）

dɪnɉeɪn ［生物］生産者。生態学における。 ［レベル］４ nɒ;/ ɺʔ

dɪnɒ ［生物］核酸 ［レベル］５ 1L:dɪɑ/ɒclɒ（(リン酸）エステル結合したヌクレオチド）

dɪnɒɒcla ［生物］核酸塩基。ＤＮＡとＲＮＡのこと。 ɥʃ;/ ɺɱ

dɪnφ ［普通動名詞］破裂 ［動詞］ɣəl を破裂させる、破裂させる、破裂する、ばんっとなる、弾ける ［レベル］３ 1L: オノマトペ

dɪnφɑɔ ［言語］破裂音、閉鎖音 1L

dɪnφɑɔlɑɔ ［言語］破擦音 1L ［語法］ ʃl, ʃɉ, ɒs, ɒz のみ。常に破裂音摩擦音の順番で並ぶので、単語の語形もこれに準ずる。

dɪnl ［動詞］ɣəl を開拓する、開拓する、開発する、切り開く ［普通動名詞］開拓、開発 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :dɔnlɪɒ（道を作る）

dɪnlɪɥnɔn ［政治］開発省 ［レベル］４ 1L:clɒəɉ:ɥcɒcɪ

dɪnɪ ［形容詞］気が利く、気遣いがある。親切とは少し違う。 ［反意語］ɪl dɪnɪ ［レベル］３ 19: 制 :dɪɑ/nɪ

dɪncɉ ［アトラスの国家］パニス ［レベル］５ ɺʔ:ɥcɒcɪ

dɪncɉ(ɺ) ［被服］ホンブルグ ɥʃ;dɪncɉ。パニス国で作られたことから。 ɺɱ

dɪncdɔnc ［娯楽］ぱにぽに ［レベル］４ ɺ1 ［文化］『ぷよぷよ』や『テトリス』に相当するゲーム。

dɪnɔ ［交通］車輪 ［レベル］３ ɥɒ;dɪn/hɔlɔ「乗り物の輪っか」 1ʔ: 制 :dɪnhɔlɔ 【用例】 dɪnɔ e ɣɪɒe ɪnʃ ɪnɒ llcɉ ʃeɥ. 自転車の車輪が軋んでいるようだ。

dɪnɔn ［名詞］パンの書 ［レベル］６ ɺ1:ɒel:dɪn/en ［文化］ ɥɒ でメルが紫亜の教育のために書き出した数学の本。

dɪu ［軍事］［ジョブ］重騎士、重装騎士、重騎兵、重装騎兵 ［類義語］eɥɒeɉ ［レベル］４ ɉɒ;dɪb.l 1ʔ: 制 :dɪbuɪɉɪn。制では「騎士」は dɪu しかなかった。 ［文化］ → eɥɒeɉ セルメルのころ、eɥɒeɉ と違いこちらは鎧で暑苦しく、むさいわ臭いわ怖いわで、女に人気がなかった。

dɪulɪɒ ［地球の国名］マルタ 1L: 騎士団しか思いつかない

dɪuɑɥec ［地球の国名］リトアニア 1L: 国章が騎士剣

dɪɑ ［化学］エステル ［レベル］５ 1L:dɪɑc ［語法］ 塩やエステルの場合は ɪɉl を取る。ɣɔɪnləzɪɉl（酢酸）、ɣɔɪnləzdɪɑ（酢酸エステル）

dɪɑl ［建築］アーチ ［数学］孤 ［言語］［文字］アーチ ［レベル］５ 1ʔ: 制 :dɪɑc

dɪɑlzɔn ［運動］鉄棒 ［レベル］３ ɥɒ;/「アーチの棒の部分、アーチ状の棒」 ɺʔ

dɪɑɪ ［動詞］ɣəl を日焼けさせる、日焼けする、紙などが黄ばむ、黄ばむ、太陽で変色する ［再帰動名詞］日焼け ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :dɪdɪɑɪc（太陽で焼く） ［文化］ アルバザード人は男は小麦色がモテて、女は白い方がモテる。従って日焼け止めは女子の必須アイテム。黒いのは男でもモテない。たいていのアルバザード人は皮膚が日本人より弱い。また、色も黒くならず、赤くなってやけどして終わり。男子も色白だと焼くのを嫌うことがある。 【用例】 ɪn nɪɒʃɪʃ dɪɑɪ. 日焼けに気を付けた。 ɪn dɪɑɪ lɪl lɪnʃel cɒ ʃə ɉɪlʃ. 今年は綺麗に日焼けしたい。 ɪn dɪɑɪʃ ɪ ueɥ. 真っ黒に日焼けした。 ɪn ɪʃ dɪɑɪ ɪʃc lɪl. ちょっと日焼けした。

dɪɑɪlɪɒ ［地球の国名］エチオピア ［レベル］６ 1L: エチオピア自体が日に焼けたという意味。

dɪɑɪɒcl ［名詞］日焼け止め ［レベル］４ 1L 【用例】 ɪn nɪbɪʃ dɪɑɪɒcl. 日焼け止めを塗った。

dɪɑc ［交通］［建築］橋 ［形容詞］〜橋。前置。 ［動詞］ɣəl を ı のために仲介する、仲介する、橋渡しをする、経由する ［電算］転送する ［シェルト］橋駒 ［音楽］ブリッジ ［類義語］ɥɪɑcl ［レベル］２ ɑu;ɑc は「長い」 赤 dɪɑc:dɪɑc :lə ɑɪlhc（道と同じ性）:dɪɑc,ɪlʃ 【用例】 dɪɑc ɑcl{ɒɔ} 大橋 dɪɑc hc nɪʃɪhɪɒɪ 朱塗りの橋 eu dɪɑc ɪl eɥec 川に橋をかける、架橋する

dɪɑcɉ ［政治］領事 ［レベル］５ zφ;dɑc/ɉɔ「橋渡しをする」 ɺʔ

dɪɑcɉlɪ ［政治］領事館 ［レベル］５ ɥɒ;/ ɺʔ

dɪɑcɉeʃ ［音楽］ブリッジミュート ɺ1

dɪɑcɑɔnʃ ［名詞］連絡通路 ［レベル］６ 1L:ɥcɒcɪ:ɪɥbɪlelʃ

dɪɑczelɔ ［生物］橋 1L ［文化］ ɥɒ で、解剖時に形が橋のように見えることから、名づけられた。

dɪɑcscɔɥ ［生物］三焦兪、三焦愈 ［レベル］６ ɺ1

dɪɑcedc ［音楽］ブリッジピン ɥɒ;/ ɺʔ

dɪɑeʃ,ɉzu ɉɔn、ɣɪn、ɉee ＜ dɪɑc/ʃeeze

dɪɒ ［名詞］ライト、明り、灯かり、灯り、照明、電灯、明かりという意味のランプ、灯火、ランプ、診療用照明、電球 ［類義語］ɑɪφ ［レベル］２ 1ɱ: 制 : 古 :dɪɪlɪl（光る物） 【用例】 lɔɥ dɪɒ ɪ bɪl 壁にライトを向ける

dɪɒd ［動詞］ɣəl に手を叩かせる、手を叩く、叩く ［再帰動名詞］拍手 ［レベル］２ 古 :dɪɒd という擬音語 【用例】 cnɪn dɪɒdɪʃɪnɒ. 観客は拍手した。 dɪɒd lɪc 大きな音の拍手。大きな音が ɑɔ lɪc なので lɪc。

dɪɒɔ ［数学］図形、幾何 ［レベル］３ 1L:dɪl/ɒɔ

dɪɒɔɑel ［数学］幾何学 ［レベル］４ 1L

dɪɒe ［交通］馬車 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :dɪbɪɒe（馬の手動車）

dıɷl ［植物］マカダミアナッツ ［レベル］4 1ʕ: 制 :dcɷl

dıφ ［再帰動名詞］しゃっくり ［動詞］ɥəl にしゃっくりさせる、しゃっくりする ［レベル］2 1ʔ: 制 :『制アルカオノマトペ』では d ではなく両唇入破音。 ɺɔlɔʃ:ɺɔlɔʃ::ɸıφ,ɑɹɑɑ → lcɒ

dıφɑɔ ［言語］入破音 1L: もともと古アルカの入破音がほぼ「しゃっくり」という語にしか使われなかったことから。

dıd ［名詞］コップ、湯飲み、タンブラー ［レベル］1 古 ［語法］ 円筒形で取っ手のない容器。

dıdl ［名詞］カレンダー ［レベル］2 1ʔ: 制 :dılʃdıl（暦表） ［文化］ メル暦では表になっているものは必要性がないので、セレンの作ったメル暦ソフトのような形になっている。電子ペーパーや画面に日付や曜日が一定の箇所に表示されるシステム。

dıdȷ ［動詞］ɥəl にぴょんぴょん跳ばせる、跳ぶ、ジャンプする ［形容詞］わくわくした、ワクワクした、うきうきした、るんるんな、ルンルンな ［形容詞］(dıdȷın) わくわくさせるような ［レベル］3 古 ［文化］ うれしいときなどにする。女子供の動作。 【成句】 nı dıdȷ わくわくする、ワクワクする：ɒelnı と違って「ワクワク」に限定。 【用例】 nɔn ɒcll le dıdȷın eɒ ȷɔɷ. わくわくすることが起こればいいのに。 ın dıdȷıʃ ɒın nı nıə. うれしくてピョンピョンはねた。 ın ɥəəʃ lıl el dıdȷen ɒelnı ɔlʃı el ınl ın lel ʃelʃe. オジサンと呼ばれてもワクワクすることには変わりない（ヒャダイン――ＤＱ４ 導かれし者たちで、「明日への旅」）

dıdn ［動詞］ɥəl をすねさせる、すねる、拗ねる、ふてくされる ［レベル］2 lılʃı: 膨らんだ頬 ［文化］ 子供っぽいとされる。女子供のしぐさで、男がやるとかなり恥ずかしい。

dıddı,ɑu ɒɔncn 「パッと開くような」というオノマトペ。

dıddılıl ［アイテム］コラ。刀の一種。ȷɒ の ɒe で作られた。 ȷɒ;/ ɭɱ

dıdı ［親族］パパ ［女性］［感動詞］あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、マンマミーア ［レベル］1 1ɬ: 制 ［語法］［文化］ ɒıɒı

dıdıllɔ ［感動詞］大丈夫？、大丈夫 ［類義語］dıȷȷɔ ［レベル］2 ɭɭ:ləlcı:dıdı/dıȷȷɔɣ「パパ、大丈夫？ (dıdı, ʃɥə eʃ dıȷȷɔɣ)」の意味と思われる。神楽坂。

dıdıɒelɑın ［卑語］パパファッカー ［レベル］4 1L: 概念自体は古 ［語法］ 女に対する罵倒語。ɒcuıləc にならって通常 dıdıɒelɑ になると思われる。ファザコンな甘えた娘をなじった言葉で、アルシェを離脱したクミールを非難して使われた。クミールが激怒したので面と向かって言った者はなくなったが、以降甘えた女や世間知らずのお嬢様を罵倒するときに一般的に使われるようになった。

dıdıɥəlı,ɑ ɑııl 「光るもの」

dıdılın 抱っこマシン、おんぶマシン ɭɭ:ləlcı:dıdı/dılın。神楽坂。

dıdııʃʃ ［感動詞］ジャーン、じゃーん、じゃじゃーん、ジャジャーン、タダー ［レベル］2 古 : オノマトペ（文字は宛がわれなかった）。光の dı から来ている。

dıdcɑı ［地球の星座］［ユマナ］コップ座 ɭɱ ［文化］ cɑı

dıdɔ ［動物］白鳥 ［レベル］3 lılʃı:「 白くて首が長い 」

dıdɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］はくちょう座 ɭɱ ［文化］ cɑı

dıb ［動物］馬 ［レベル］2 ɑu; ↓ lılʃı: 乗り物になる獣。 dıb:dıb:lə ɑı ɑ:φənı,ılʃ ［文化］ 現在では食用しない。乗り物としても市内では用いない。糞を出すため、サライの道路を走ることは原則できない。観光地で許可を取れば可能。

dıblıɷ ［地球の国名］ブルキナファソ 1L: 国章に馬

dıbȷcı ［音楽］ティンパニ ［レベル］5 ɭ1: 魔方人の軍楽隊が馬に取り付けたのが最初。

dıbuılɑ ［名詞］馬競争 ［娯楽］競馬 ［レベル］3 ɭ0 ［文化］ lıʃɔȷ

dıbɑeln ［交通］辻馬車 ɥʃ;ɑeln 参照。ɥʃ で ɑeln がタクシーの意味になったので新たに辻馬車が造語された。 ɭɱ

dıbɷcɔ ［名詞］馬の歯 ［名詞］本当の年齢。サバを読まない年。馬は歯を見れば年齢が分かることから。 ［レベル］3 1L 【成句】 nelʃ dıbɷcɔ サバを読む

dıbφel ［軍事］騎兵銃、騎銃、カービン ɥɷ;/ ɭɱ ［文化］ φel

dıbl ［名詞］鞍、くら、サドル ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dıbıl,dıb ［語法］ 乗り物に乗りやすくするために付いている装置。馬なら鞍。自転車ならサドル。

dıblıȷl ［被服］ライディングブーツ ɥɷ;/ ɭɱ ［文化］ ȷɒ でできた。乗馬用。

dıbıɥn ［被服］ルダンゴート ɥɷ;/ ɭɱ ［文化］ 乗馬用のコートとして地球より早く ɥɷ で生まれた。

dıɥ ［言語］d の文字 ［レベル］1 1ɱ: 制 : 太陽 ［語法］ 第１１文字目の幻字。

dıɥʃ ［悪魔］パルト ［歳時記］光曜日、日曜、休日、公休、公休日。週の第７日目。 ［音楽］シ ［組み数字］7／7 ［レベル］2 ɒelʃcı 0:dıɥʃ;e 古 :dıɥʃeeɒȷ「 太陽の悪魔 」［文化］ ソームの７番目。思慮深い男性。光を操る。ヴァステ開戦に際し、メルティアに頼んでアトラスへのワープゾーンを作ってもらうよう提案した。光る白い服を着た金髪の美青年。おとなしい。

dıɥʃlcl ［化学］ニッケル ［レベル］5 1Δ: 制

dıɥʃcl ［名詞］パルティール照明 ［アクセント］dıɥʃЄl ɒelʃcı 11:φclcəȷ;dı/ɥeʃcl ɭ0:dı（光の音象徴）/ɥeʃcl（蛍石）［文化］ ɒelʃcı 11 にギリウスが発明した照明道具。当時はたいまつのような炎を用いた照明しかなかった。蛍石は光の魔石で、高魔圧をかけると長時間に渡って淡い光を放つ。これと銅を組み合わせるとさらに照明時間が長くなる。銅の鍔を持つ杖に蛍石を取り付ける。鍔の部分に蛍石を乗せる。ちょうどコスモスやチューリップの花のおしべやめしべがあるところに蛍石を置く感じである。 低魔圧状態に置くことで光が消えるため、魔圧を調節してスイッチ代わりにできる。 神から人に伝わり、火事を起こさず熱くもならない照明として人気になった。しかし木材に比べて高価なため、一部の人間しか使うことができず、庶民は火を起こしていた。

dıɥʃe ［人名］パルテ ［組み数字］4／１６ ［レベル］4 ɒelʃcı ʔΔ:ıɥɷə/eȷʃı;e 古 ［文化］ eȷʃı エスタの第４子。女。

dıɥȷ ［動詞］ɥəl を ı にさらす、さらす、晒す、曝す ［レベル］3 古 :「 太陽する 」【用例】 ɷen dıɥȷ ɒıcn ı dıɥd. 日光に体をさらすな。

dıɥnı ［天文］パルナ、金星、陽天 ［魔法］雷のクリスタル ［レベル］3 ［組み数字］2／9 古 :dıɥnı ← dıɥ（太陽（光の））/ʃəənɔ（大地）

dıɥɒ ［地球の国名］日本、パルム、ジャパン、リーペン、リーベン、イルボン、ヤーパン、ジャポン、ニッポン、ニホン ［レベル］3 1ʔ|ɥıl|dcn:『アルカ地理』「 太陽の源 」dıɥeɒɔ

dıɥɒlıl ［ユマナ］［アイテム］日本刀 ɥɷ;/ ɭɱ

dıɥɒȷɔlʃ ［経済］［ユマナ］円 ［レベル］4 1L

dıɥɒȷeʃı ［ユマナ］日本史。科目名。 ［レベル］5 ɭɱ

dıɥɒȷeɒɔ ［ユマナ］［経済］日経平均株価、日経平均 ［レベル］6 ɭɭ

dıɥɒɒıȷ ［ユマナ］Ｂサイズの紙 ［ユマナ］和紙 ［レベル］6 1L ［語法］ lcɒıȷ

dıɥɒbel ［ユマナ］［料理］和食 ［レベル］4 1L 【用例】 ın ləc nelʃ dıɥɒbel cɒ ɑııl. 朝食はふつう和食を食べる。

dıɥɒɥəuel ［運動］［ユマナ］空手、空手道、カラテ、唐手 ［レベル］5 ɭ0: 日本のユベール

dıɥɒɥəlcel ［ユマナ］能、能楽、能楽の能 ɭ0: 日本のユリエール

dıɥɒɥen ［ユマナ］日本語 ［レベル］4 ɭɭ

dıɥɒleɒ ［ユマナ］［音楽］邦楽 ［レベル］5 ɭ1

dıɥɒın ［ユマナ］日本人 ［レベル］4 制

dıɥɒeʃel ［ユマナ］日本茶 ［レベル］5 ɭʔ

dıɥɒeu ［経済］［ユマナ］円建て 1L

dıɥɒelɷcɒeʃ ［ユマナ］日本語版 ［レベル］5 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ

dıɥɷ ［地球の国名］メキシコ ［レベル］6 古？ : 太陽の国

dıɥd ［名詞］サンライト、サンシャイン、陽光、日光、日向、日当たり、日差し、日射 ［レベル］3 1ʔ: 制 :dıɥdıı（太陽の光）【用例】 ☆ dıɥd ıʃ ılɑcɥʃ. 日差しが明るかった：アルバザードは直射日光がキツく、目の色素が薄い人間が多いため、日差しは ɑcɥʃ でなく ılɑcɥʃ と感じるほうが自然。 ☆ ın ɥəʃ le dıɥd lı ıleı. 浜辺で日光浴しに行った。 dıɥd lənıȷ ez. 日の光が部屋に差し込んでいる。

dıɥdleun ［医療］日射病、熱中症 ［レベル］3 ɭɭ ［語法］ 後者は直接 dıɥd に当たらなくとも暑い dıɥd のせいなどでなる。

dıɥıɥıcz,lȷl ɭʔ パラライズという部隊のこと。２３人で構成された小部隊を意味した。 古 : 語源不詳

dız ［名詞］経歴、履歴 ［法律］判例 ［レベル］4 1ɱ: 制 : 古 :dılɒe 後ろの時間（過去の時間）

dızlılə ［法律］判例法 ［レベル］6 1L

dızɒ ［植物］ハーブ、薬草 ［レベル］3 1ɬ: 制 :dcʃızeɒ ［文化］ 代表的なのはカモミールなど。 【成句】 ɑılȷ lɔnʃ lɔz dızɒ 芸は身を助ける。薬草の取り扱いを知っていた兵士が最前線に送られず、軍医の手伝いとして永らえたことから

dızɒıȷ ［名詞］履歴書 ［レベル］5 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ

dızɒın ［ジョブ］薬草師、薬師 ɥɷ;/ ɭɱ

dızɔ ［植物］カバノキ ılılʃı

dıs ［動物］トンボ ［レベル］3 lılʃı:s は空

dıl ［人名］パールの略称 ［組み数字］１０／２８ ［レベル］1 ȷeɥen

dıl,ɑ ȷı e

dılʃ ［歴史］暦、こよみ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dıl（日）［文化］ 霊界ができたのが約１３７億年前。アルテもこのとき生まれた。太陽系が４６億年前に生まれ、地球が４５億年前に完成した。地球の完成と同時期に lənɔ が生まれ、失敗して ıɥɷel へ行く。 その後 lənɔ が ıɥʃe から uccɷ を奪ったおかげである程度 ıɥʃe の膨張は食い止められたが、まだ ıɥɷel から uccɷ が流れてくるため、再膨張をし始めた。 最初の暦はアルテがセルトに分裂したところから始まる。これをセルト暦といい、６３９３万８９６５年間続く。６３９３８９６４年にサールがユーマを懐妊し、翌５年に出産。同時にテームスが生まれ、同年テームスはメルティアを含む悪魔を産む。この時の司メルティアがメルティア暦の始まりなので、セルト暦は６３９３万８９６５年間続いたことになる。 メルティア暦元年はセルト ʕʟʔʼΔʟʕ に等しい。メルティア暦はちょうど１０４万年続いて終わる。神々が１０進法を編み出していたため、神も人間たちも区切りのいい万の位で次のユーマ暦のために暦を改めた。ここまでの経過は６４９７万８９６５年。 ユーマ暦はちょうど８０８０年続く。この理由も同上だが、人類の寿命が短くなるにつれ、１０年のような小さい単位で暦が改められるようになっている。ここまでで６４９８万７０４５年が経過している。 ユーマ８０８０年は次のイムル暦元年に相当する。イムル暦は１５８８年間使われた。イムル１５８８年が次のメル暦元年に等しい。ただしメル暦が実用されだしたのは実際１６００年代に入ってからなので、歴史書物の中にはイムル１６００年代の署名のものが存在する。１６００年ごろ

に書いた人は今後もイムル暦が使われると思っていており、１５８８年に生まれていた少女メルの年齢を元にしたメル暦によって繰り上げるようにイムル暦が短くなるとは予想できなかったためである。ここまでの経過は６４９８万８６３３年。　イムル暦の後のメル暦は４８０年続いた。転生した使徒たちの死とともに世界は終焉し、宇宙も終わりを遂げる。ここまでの経過は６４９８万９１１３年。
　＜セルト暦＞　セルト暦のころは年に１回しかアトラスに来なかったため、１年をカウントする必要しかなかった。逢瀬はちょうど後のディアセル（地球でいう７月１９日ごろ）に行われた。ディアセルと逢瀬の日が重なることをこの時代の神々はまだ当然知らない。　＜メルティア暦＞　ーメルティア暦の起源　　メルティアはユーマとテームスと悪魔たちが誕生したこの年を以ってメルティア０年と定め、メルティア暦を作った。　　メルティアはエルトとサールがアトラスで暮らしていたため、アトラスから見た暦を作ることにした。　　ユーマ・テームス・悪魔の誕生と、エルト・サールの死と、アルミヴァの 1J 神の誕生は年は違えど同日で、現在でいう zın µıl だ。　　メルティアは自分たちが生まれたこの日をメルティア０年の元日とした。しかし彼はこれ以上細かい設定を暦に与えなかった。　　ー最初の太陽暦　　エルトとサールの一族がアトラスで暮らしはじめたのを見たメルティアは、時空を司る者としてメルティア暦を両一族及びユーマ並びに悪魔の一族に伝えた。　　しかしその暦は1年を数えるのにしか使えず、利用価値が低かった。悪魔は宇宙で暮らしているが、神々はアトラスで暮らしている。そこで神々は日を数える必要性を感じだした。　　今年はメルティア ᥰ 年だ。アルミヴァが生まれたのはメルティア ᥰ 年の逢瀬の日で、ユーマや悪魔たちが生まれたのはちょうどその ᥰ 年前だ。　　ユーマや悪魔や神々にとって、逢瀬の日は誕生日に等しい。よって逢瀬の日を元日と定めたメルティアの意思に遺憾はなかった。だが神々は1年しか数えられない大雑把なシステムに不満を覚えた。　　そこで何回アトラスから太陽が見え隠れすれば逢瀬の日、すなわち誕生日になるかを知るためクレーヴェルが観測したところ、およそ ʔſ↾ 日の周期でアトラスが太陽の周りを公転していることを見つけた。太陽年を見つけたということである。　　そこで1年を ʔſ↾ 日に割ったが、太陽年は実際には整数ではないため誤差が生じる。そこでメルティアとパンの協力のもと、神々は地球のグレゴリオ暦と同じ計算法を作り、閏年を設けた。　　なお、この時点は現代から見て 100 万年ほど昔の出来事だが、太陽年は年々変わっていく。それはどのくらいかというと、J000 年で約 10 秒伸びるので、100 万年で ↾000 秒太陽年が長いことになる。　　これはおよそ Δʔ 分であり、神々の時代は1年が今より Δʔ 分ほど長かったことになる。しかしそれでも太陽年は約 ʔſ↾ 日であり、グレゴリオ暦と同じ計算法が成り立つ。
　ところで日付の読み方については、まず月という概念がないため、何年の何日目という呼び方をしていた。つまり1年のうちの Jʔ↾ 日目というような言い方をしていたのだ。　　神のように賢い者だからそのようなずさんな表現でも対応できるが、我々人類には使いにくいことだろう。　　なお、メルティア ᥰ 年までは閏年という概念はなかった。ᥰ 年までは逢瀬の日は太陽とアトラスの位置関係で物理的に決められていたため、0 年から ᥰ 年の間にあるはずの閏年は自然と消化されている。すなわちエルトとサールが死んだのは、きちんとユーマが生まれた日の ᥰ 年後の日となる。　ーーーー　ɒelſcı LL'LΔ٩J 年になると、神々が農耕を始め、月単位での農耕計画を立てる必要が出た。カルテ神がクレーヴェルと協議し、月の満ち欠けを元に１年を１０の月に分けるようにした。農耕に適切な時期は地球でいう３月から１２月で、１月と２月は暦が不要とされ、月が存在しなかった。ミュシェットである。そこで３月を元旦とするよう暦が改められ、７月１９日ごろの聖誕祭は祭日となった。これ以降のメルティア暦では３月が１月となる。　月の公転周期はおよそ２７．３２日だが、満ち欠けの周期は２９．５３日である。アトラス暮らしに慣れた神は満ち欠けを基準に考え、２９日の月と３０日の月が交互に繰り返すようにした。元旦の日付は毎年決まっているわけではない。３月ごろになったら最寄の新月が元旦となる。そしてそこから２９、３０、２９、３０、２９、３０、２９、３０、２９、３０と１０ヶ月続けていく。こうするとおよそ地球の１２月で一年が終わる。　後述するユーマ暦と違って規則的に小月と大月が繰り返されるのは、１年のうち１０ヶ月しか暦がないためである。純粋な太陰太陽暦のように１年中どの日も日付があり、またその暦を何年も繰り返し連続して使うと、このような規則的な小月と大月でいられなくなる。２９，３０を繰り返していくと誤差が生じ、ある月のついたちが朔にならないようになる。ただし、そのずれはわずか１０ヶ月なら小さい。また、メルティア暦では次の年の始まりは次の春の朔からスタートするため、ずれが毎年解消される。そこでメルティア暦では規則的に小月と大月が並んだ。　なお、日付の読み方は日本と同じで「何月何日」という読み方であった。月がない日については特になんと呼ばれることもなく、今日や昨日や３日前といった表現で済ませていた。　このように、太陽暦ができて約１００万年使われた後にようやく太陰暦ができたというわけである。その太陰暦もできたと同時に太陰太陽暦として組み込まれたため、単体で太陰暦が使われたことはなかった。これらの暦は神を通してユーマの一族にも伝わった。実際に太陰太陽暦ができたのはメルティア暦の終わりごろであるから、メルティア暦自体は単なる太陽暦と見てよい。メルティア暦は約１００万年が太陽暦で、残り約４万年が太陰太陽暦である。　＜ユーマ暦＞　ユーマ暦になると戦史の記録や貨幣の登場による経済活動や経理関係の作業の関係で、月のない日についても日付を定義する必要性が出てきた。メルティア暦は月なしのある不完全な太陰太陽暦だが、これを完全な太陰太陽暦に改めた。一年の始めを冬至（地球でいう１２月２２日ごろ）にし、１年を１２ヶ月に区切った。太陰暦では１回帰年の近似値である１２ヶ月を１年とした場合、１年が３５４日となり、太陽暦に比べて約１１日短くなる。このずれが３年で約１ヶ月となるので、約３年に１回閏月を挿入する。閏月を１９年に７回挿入すると誤差がなくなる。この暦は ɥəəɒı ↾ 年にレスティル南岸在住の召喚士がユルグとクレーヴェルを召喚して相談して定めたものである。従って ɥəəɒı 元年のころは ɥəəɒı 暦はなかったことになる。これはメル暦と同じである。この召喚士は現カテージュに住んでおり、漁師らの要望で太陰暦を正確に太陽暦に組み入れようとしたものである。潮の満ち引きの関係で漁師にとって太陰暦は重要であるため。　月の満ち欠けはおおむね２９．５日であるため、２９．５＊２＝５９で、これは２９＋３０に等しい。よって１月が２９日になる小の月と、３０日になる大の月を繰り返す。このノウハウはメルティア暦と同じであるが、２９，３０と規則的に繰り返すとついたちが朔にならないことがある。それを微調整すると大月が何月に来るかは毎年変わることになる。従って ɥəəɒı 暦は非常に複雑である。　１年は３５４日である。１年の長さがメル暦に比べて１１日ずれる。そこで閏月を挿入し、１３月目を設ける。ゆえに、年によってずれが貯まってくると季節が１月近くずれてしまうことになり、農耕ではやや不便なことがある。　また、アズゲルから農耕の都合で１年を２４節気に分けるようになったため、節気と暦のずれが生じてしまう。そこで閏月は最も節気と暦のずれが生じない位置に入れられた。閏８月など、適宜挿入する位置は変えられた。　１年の長さは確かにメル暦より短いが、３年スパンで見れば日数は等しいので、ユーマ暦を使っていたころのほうが１年が短かったということはない。　ユーマ暦はそれが作られた年の５年前が元年であり、５年前の冬至を元旦として遡ってスタートした。従って ɥəəɒı ０における冬至の日付が開始点となる。冬至は毎年少しずれるので、必ずしも各年の元旦が冬至とは限らない。　また、ユーマ暦で始めて週の概念ができた。２９は素数なので近い数値である２８で考えると７＊４で割れるため、１週間を７日とし、ソームの名を冠した。　日付の読み方は月が１２ヶ月になったため、月はアルミヴァの名で読まれるようになった。日については数字である。日本語よりも英語の読み方で考えるといいだろう。　＜イムル暦＞　イムル暦になるとふたたび太陽暦に代わった。太陰太陽暦は閏月を挿入するのが面倒で、年ごとの季節のずれが大きい。例えば日本の関東だと７月７日といえばたいてい曇っていて天の川が見えないとか、１１月２３日はよく晴れるといった規則性がある。これは太陽暦ならではで、太陰太陽暦ではこうはいかない。また、大月が何月に来るかも毎年異なり、閏月の挿入される月も毎回異なる。非常に複雑な暦であり、使いづらい。これを解消すべく、グレゴリオ暦と同じような太陽暦がイムルによって作られた。太陽暦自体は初期のメルティア暦と同じだが、一年中月も日もある暦なので、メルティア暦より進化している。　なお、イムル暦の読み方はユーマ暦と同じで、アルミヴァと数字で読まれた。例えば「セイネルスの２３日」というように。もちろん数字だけでもよく、１月２３日とも読んだ。　＜ユーマ暦とイムル暦の移行問題＞　太陰太陽暦のユーマ暦では１９太陽年に７回閏年を挿入した。これは２３５朔月が１９年太陽年にほぼ等しいことを利用している。１９太陽年は３６５．２４２１９４日×１９＝６９３９．６０１６８６日で、２３５朔望月は２９．５３０５８９日×２３５＝６９３９．６８８４１５日である。まったく同じ数値ではないため、約０．０９日ずれる。つまり、１９年につき０．０９日ほどずれが生じる。すると２１１年すなわち約２００年でおよそ１日のずれが生じることになる。　　ユーマ暦は８０８０年も続いたため、当然改暦が繰り返された。時の王たちはキリのいい２００年に一度の周期で規則的に改暦を行った。最後に改暦されたのはユーマ８０００年である。さて残り８０年だが、１９年で閏月の調整が終わるため、８０００～８０７５年の７６年間でずれが調整される。この間に生じるずれはおよそ０．３６日で、約１／３日であるから、およそ８時間太陽年のほうが遅いことになる。　　７６、７７、７８、７９年の４年間で平年は３回あり、閏月は１回入る。平年では太陽年３６５日に対して約－１１日、閏年は約＋１９年の差が生じる。７６～７９年で平年・平年・閏年・平年の組み合わせだと、－１１－１１＋１９－１１で約－１４日となる。８０００年は改暦を行って、冬至から最も近い朔を年始にしている。これはユーマ０年とほぼ同じである。ユーマ０年で年始とした「冬至から最も近い朔の日」ができるだけずれないよう２００年に一度改暦を行っているので、ユーマ８０００年の年始も「冬至から最も近い朔の日」になる。　　ユーマ０年は西暦でいうと－７０８０年に当たる。－７０８０年における「冬至から最も近い朔の日」はグレゴリオ暦でいう１２月１４日に当たる。１５日の０時ちょうどの時点で現アシェルフィから観測すると月齢は０．１だからである。冬至は１２時に観測されるが、冬至から近い朔の日は昼に観測する合理的な理由がないため、日の改まる０時で測った。観測でなく「測った」といったのは、この時間アシェルフィから月が見えず、朔の月が太陽に程近いくじら座の周辺にいるためである。　　ユーマ８０００年は西暦でいうと３２０年に相当する。ここが最後の改暦であるが、３２０年１２月１５日は０時の段階で月齢２７．１であるから、この日が年始ではない。１７日で２９．１、１８日で０．５となるため、朔になったのは１７日の昼ごろ。従って３２０年１２月１７日が改暦されたユーマ８０００年の始まりとなる。　　ここから７６年経って８０７６年になると西暦３９６年であるが、８０７６年の空を見てみると、１２月１７日０時の段階で月齢２８．６、１８日で２９．６、１９日で０．９となっている。１７日でなく１８日が朔になるのは、比較に使っているグレゴリオ暦の閏年の影響である。ユーマ暦の中で見ればきちんと７６年で閏年のずれが解消されている。ユーマ８０７６年の始まりは西暦３９６年１２月１８日となる。　　さて、上述のとおり７６、７７、７８、７９年の４年間で平年は３回あり、閏月は１回入り、８０８０年の年始は「冬至から最も近い朔の日」から見て－１４日となる。８０８０年、すなわち西暦４００年の「冬至から最も近い朔の日」はいつだろう。まず４００年１２月１８日の月齢が１４．８で、満月である。太陰太陽暦における閏月の挿入法は、「３６５日に対して１年が３５４日しかないので、ある期間で閏月を入れて補う」というもので、常に陽暦のほうが陰暦より進んでいる。従って４００年１２月１８日という陽暦は進んでいることになるため、この月齢１４．８を次の朔に進めるのではなく前の朔に戻すことで本当のユーマ８０８０年の年始がわかる。なお、「補う」という考え方に基づくと、７６～７９年の間で２回閏月が来ることはないと分かる。

８０７６年で既に１９年サイクルは終えているので、８０７６年からまたずれのサイクルが再スタートする。にもかかわらずこの７６～７９年の間に閏年が２回来ることは計算上ありえない。平年２回の閏年２回だと－１１－１１＋１９＋１９で、正の値になってしまい、陰暦が陽暦を超えてしまうからである。　さて、月齢を戻していくと、１２月４日で０．８となる。４日の時点では既に朔になった後なので、朔を迎えるのは１２月３日である。この日の０時に月齢は２９．３となり、日中に朔を迎える。従って４００年１２月３日がユーマ８０８０年の年始である。　ではこの年の見かけ上の冬至はいつであったろうか。この時代は既にユーマの一族の時代であり、カコの時代である。神と違って既に宇宙空間に人は飛んでいけなくなった時代である。また、科学技術はアレイユに比べてまるで進化していない。そこで当時の冬至は南回帰線から見て１２時に太陽が天頂を通過する日で求められたことになる。そしてその日は西暦でいうと４００年１２月１８日である。ユーマ８０８０年の年始はグレゴリオでいう１２月３日だから、この年の冬至をユーマ暦にするとユーマ８０８０年１月１６日に当たる。　ユーマ暦は冬至を基準点とするため、イムル暦に移行する際に１２月３日を以って移行してしまうと、ユーマ暦最後の冬至がユーマ暦に含まれなくなってしまう。もともと太陰太陽暦は冬至から見て毎年１１日ほど足りなくなるのを補っていくので、１月中に冬至を迎えることが多かった。もし１月１日にイムル暦に移行した場合、８０８０年の冬至がなかったような錯覚を覚える。そこでユーマ暦に最後の冬至を与えるために、ユーマ８０８０年１月１６日を含んだ月、つまりこの年の１月をユーマ暦最後の月とした。そしてこの冬至が終わり、月が次の朔になった時点を以って完全に太陰太陽暦であるユーマ暦を終え、同時にイムル暦を始めることとした。さて、では西暦４００年１２月３日で朔を迎えた月は、いつ次の朔になるだろうか？アシェルフィから観測すると、西暦４０１年の１月１日である。１月１日に２８．８で、１月２日に０．１となる。１月１日の２０時３０分ごろにちょうど新月になるため、朔になる日は１月１日である。よってイムルはこの日を以ってイムル暦の紀元と定めた。すなわち西暦４０１年１月１日がイムル０年１月１日となる。　ところがイムル暦の運用をユーマ８０８０年に認可して公布した英雄アルシェが、その発表演説において「本日を以ってイムル１年１月１日とする」と国民の前で発言してしまった。セイネルスと言わなければ１ばかり並ぶ数であるというのと、物はふつう１から数えるものだという常識と、実際に世紀の場合は１から数えることなどが原因で、アルシェは年号も１年から始まるものだと誤解していた。大統領演説に相当する発言であったため、イムルは主君の恥を晒すわけにはいかず、イムル暦を１年から始めることにした。従って、唯一歴史上イムル暦のみが０年を持たないことになり、西暦４０１年１月１日がイムル１年１月１日となった。後にイムルは便宜上この紀元から３６６日（イムル０年は閏年なので）戻した日付をイムル０年の１月１日とした。従って、西暦４００年１月１日がイムル０年１月１日に当たる。　＜大月の位置・ミルサージュ・ディアセル・メルセルが見事に絡み合う配置＞　３６５日を３０日と３１日の月に分けると、３１日の月が５回来ることになる。これを太陰太陽暦の名残で小月と大月と呼ぶ。そして元旦から１月２月と始めて１２月まで続ける。大月の配置はグレゴリオ暦では１，３，５……月に配置され、規則性はない。一方、メルティア暦では奇数の月が小月で偶数が大月だった。ユーマ暦では天文学的な事情で不規則に大月が現れた。そしてイムル暦では大月は年の中に配置される。１～４月は３０日の小月で、５～９月の５ヶ月間が３１日の大月となる。年末の１０，１１，１２月は小月となるが、閏年の場合、１２月末日が３１日になる。　従って常に年の後半は１０、１１月のみが３０日になり、１０月３１日や１１月３１日は存在しなくなる。閏年の年は年の後半１０、１１月だけ３１日が存在しない。そこで多くの人が１０、１１月にも３１日が存在すると錯覚してしまう。特に１２月に例外的な閏日が来るので、その直前の１１月が一番勘違いしやすい。その心理を利用したのがミルサージュであり、１１月３０日と１２月１日の間の刹那をそのように呼ぶ。　ミルサージュとは元々現実のほうのメルが１９８８年１１月３０日の終わりに生まれ、母アルヴァノが１２月１日生まれと迷ったため、メルの誕生日をなかばおどけて１１月３１日としたことがきっかけで生まれた。そのエピソードはリーザからメルらに伝わった。実際セレンは当時暦に弱く、メルの誕生日を本当に１１月３１日だと思っていたときもある。そのミルサージュは明らかにグレゴリオ暦を元にしたエピソードなので困っていたが、このようにイムル暦のシステムを作れば、１１月３１日のミルサージュをイムル暦から説明でき、矛盾がなくなる。

実は大月を１年の中ごろに固めると、ミルサージュ以外に都合のいいことがでてくる。リディアの誕生日は１９８４年７月１９日で、この年は閏年なので、１月１日からの経過日数が２００日となる。すなわち７月１９日はこの年の２０１日目となる。さてこれをイムル暦にすると１５８４年の７月１日までに５，６月と２回大月があるため、７月１日は１８３日目となる。すると２０１日目は１８日を経た１９日ということになり、リディアの誕生日は１５８４年７月１９日になり、グレゴリオ暦と一致する。　また、メルは１９８８年１１月３０日生まれで、この年の１１月３０日は１月１日から３３４日が経過している。従って１１月３０日は１月１日が年の１日目だとすると、３３５日目になる。イムル暦の１０月３０日は３０５日目であるから、１１月１日は３０６日目で、３３５日目は１１月３０日になる。ちょうどグレゴリオ暦と同じく１１月３０日になった。従ってメルセルはイムル１５８８年の１１月３０日である。なお、天文学的にもこの日は本初子午線を決める大事な日である。

ちなみにセレンは１９８１年２月４日で、元旦から３４日経過している。すなわち３５日目である。イムル暦の２月１日は３１日目であるから、セレンの誕生日はイムル１５８１年２月５日となる。{ただ、セレンにとって必要なのはディアセルとメルセルを合わせることであり、この２日がグレゴリオ暦と一致すればあとはどうでもよい}　＜μɑ との関連＞　アティーリの中でカコと μɑ は現実に基づいている。中でも μɑ は情報が豊富で新しく、具体的な日付の分かる出来事が元になっている。簡単にいえば、１９００年代後半のアシェットの歴史が元になっているので、できればイムル暦でも同じ日付になってほしい。ところが異世界なのにどちらの暦でも年始が１月１日になることなど到底ありえない。そう思ってメル ʃ0 年までずっとイムル暦の具体的な内容は決められておらず、なんとなく冬至を紀元とすると定められていた。　ところがよくよく天体を観測してみると、ちょうど４０１年の１月１日にアシェルフィで朔になる（眼では見えない）。ユーマ暦が太陰太陽暦だったと決まったので、これと合わせれば、地球と同じく１月１日を紀元とする暦を作れるのではないかと考えた。そこでイムル１年の元旦を地球の西暦４０１年の元旦に合わせた。もっとも、このころ地球はグレゴリオ暦でないので、４００年代のことだけいえばまるで役に立たない。

ところが実際上記 μɑ に使うのは１９００年代の話だけである。１９８１年にセレンが生まれ、８４年にリディアが生まれたというような、主に１９００年代後半に使えればそれでよい。そして１９００年代後半は地球もグレゴリオ暦である。そう計算していくと西暦１９８４年はイムル１５８４年になる。　しかし１月１日が同じでも閏年の来るタイミングが違うのでずれが生じるのではないかと思うだろう。だがずれはない。なぜならグレゴリオ暦の計算だと４年に一度閏年があり、１００年に一度閏年がなく、４００年に一度閏年があるから、きっかり西暦と４００年ずれているイムル暦に閏年のずれはない。イムル暦を４００年ずらしたのは２００３年ごろのセレンの知恵だが、こんなところで役に立つとは思わなかった。当時はイムル暦は冬至スタートだったので、４００年のずれで閏年の差を解消しても大した意味はないと考えていたからだ。　{さて、というわけで今後 μɑ を書く際に非常に便利になった。なお、イムル１６００年は閏年でないが、西暦２０００年は閏年なので、２０００年以降はずれが生じる。しかし現実のアシェットでは２０００年を過ぎたころから徐々にメル暦を使い始めていたため、残っている記録はメル暦で記されていることが多い。なのでまったく問題がない。　１月１日がちょうど４０１年で朔になったのはセレンが操作できることではないからまったくの奇跡であるが、つくづくセレンは天文に恵まれていると思う。メル暦で１月が２８日なのも使徒が偶然２８人だったからで、２７だったら一週間が７にならないし、１年のあまりも大きい。２９でも同様だ。２８は奇跡的だ。４週あって１週が７日で、１３ヶ月で３６４日になってミュシェットが１日で済む。　もっと奇跡だと思ったのは天文のところで以前述べたとおり、１９８８年１１月３０日の０時にアシェルフィでアルデバランが南中する件だ。あれも極めて奇跡的である。そして今回のイムルーグレゴリオの紀元重複である。奇跡がここまで連続することがあるだろうか。しかしメルの誕生日も使徒の数も４０１年で朔になることもセレンがどうにかできることではない。}　＜メル暦＞　cɒəl 1ʃ00 を過ぎ、１７世紀に入ると、アシェットが台頭した。イムル暦は月に大小があり、毎月の長さが異なる。ある特定の日付が何曜日であるかも毎年ずれる。これらを解消するために第７使徒メルは１月を使徒の数の２８日にし、１年を１３ヶ月とし、年末に月無しの１日ないし２日を組み込んだメル暦を考案した。これにより、１月の長さが均等で曜日と日付のずれない暦ができあがった。月めくり式のカレンダーは不要になり、曜日の概念さえもしばしば不要になった（とはいえ、エルヴァから次のエルヴァというような使い方を日常的にはするので曜日はまだまだ必要）。メル暦になると開始点がメル＝ケートイアの誕生日になった。メル暦は転生期まで使われ、最後の暦となった。

dılʃ,ɑu　ȷıʃı　dıl/lınʃcȷ「前の人」

dılʃɒcȷɔȷ　［哲学］祖霊崇拝、シャーマニズム　μɑ;/　ʃɱ

dılʃɒcȷɔȷın　［哲学］［魔法］［ジョブ］シャーマン　μɑ;/　ʃɱ

dılʃı　［動物］セイウチ　［レベル］４　ılıʃı:dıl は白

dılʃcȷ　［人名］パルティス　［組み数字］７／１１　［レベル］３　古 :μcɑcı:dıl ← dıl（光）/ʃcȷ（人）。悪魔 dıμʃ の dıμ は太陽の dıμ から来て結果的に光を表わす。　［文化］　アルシアの７番目。光の魔法の大成者。男性。

dıl̩　［動詞］ɥəl（場所など）を辿る、辿る、たどる、伝う、つたう　［レベル］３　ʃ?: 制 : 古 :dıl̩eʃʃı（後で行く）→ dılɒ と同根で、dıl の意味が逆。【用例】　lclın ılı dıl̩ ɑɔnʃ le ȷılın ȷecn ləlıʃ. 人は先人の歩いた道を辿るものだ。

dıl̩ɔ　［名詞］車両、車輌、車体、乗り物→ ʃɔu　［レベル］４　μɑ;dılın/ʃɔu　ʃɱ

dıl,ȷzɑ　ıl　dılılı

dılleʃȷ　［哲学］ハインツのジレンマ　［レベル］６　μɑ:dıl;dıl/leʃȷ「パールのモラル」　ʃ?:μcɑcı　［語法］［文化］　μɑ で正義論のパールが考えだした４段階のモラル。地球のハインツのジレンマとは少し異同がある。訳語はジレンマだが、それは元になった寓話がジレンマだったためで、アトラスではジレンマの寓話ではないため、ジレンマという形態素は造語に用いない。　dılleʃȷ は４段階からなる。段階が進むほど高次になる。パールは正義やモラルの完成形は信念の衝突しやすい第三段階ではなくウィンウィンな環境を作る第四段階にあると説いた。　第一段階 (ɥəlc)：子供のモラル。個人の損得勘定を最優先する考え方。　第二段階 (ɒılʃ)。思春期のモラル。大人や本から与えられた法律や社会的慣習に則って判断するレベル。　第三段階 (ȷɔlɔɒɔn)。青年期のモラル。与えられた知識をそのまま自分の倫理にせず、獲得した知恵や経験をもとに自分の信念を築き、それに基いて判断するレベル。　第四段階 (ɒıu)。大人のモラル。できるだけ多くのみんなが幸せになるようにはどうすればよいかという考えのもとに、自分の正義などに固執せず臨機応変に対応するレベル。

dılȷ　［生物］脈　［レベル］３　μɥəə: 古 : 英語のｐｕｌｓｅが語源ではなく、「dıl（パールが）/ȷɔ（する）」が語源。リュウが医者の真似事をしたときにパールが協力して看護婦の真似事をしたことから（具体的には注射を打った）。パールはこのとき血圧を測る役目を負っていた。そのことからリュウが動脈を dılȷ と名付けたという。新では単に脈。　【用例】　ʃıb{cȷl} dılȷ 脈診する、脈を測る、脈を取る

dılȷı ［医療］動悸、鼓動、ビート← bınʃ ［名詞］（nı とともに）どきどきする、ドキドキする ［レベル］2 1ʕ: 制 【用例】 ın nıʃ dılȷı ɒın ɔɒı φııl(c) µɔ ɒel. 犬がいきなり吠えたからドキドキした。 ın nıʃ dılȷı ɒın nı nıə. うれしさで胸がドキドキした。 dılȷı ınʃ eɒıʃ µəəɑ ɒcl ʃə ueµʃ. その知らせに動悸が激しくなった。 nɔn nı ȷcl dılȷı ınneə. ドキドキします。

dılȷıµ⁊ ［生物］［医療］脈会 µɑ;/ ⅃ᏁᏁ

dılȷıı ［動物］蛍 ［類義語］eȷʃı ［レベル］3 ɑu;「絹のように淡く光る」 赤

dıln ［音楽］笛、フルート ［レベル］3 ɒelʃcı ⅃L1:eɒclcɔ/ɒcȷʃc;e lı⁊ʃı（横笛限定？）

dılnʃlə ʃ ［俗語］笛なめ、笛舐め、ふえなめ ［類義語］elʃlə ʃ ［レベル］4 ⅃ʔ:ɒel/ȷeµen: 久々におジャ魔女どれみナイショの８話の英語字幕版をメルが娘に翻訳しながら見て、セレンとメルが２人で爆笑して、やっぱりアルバザードだったら凪人もいるし、ありそうだなという決議になったため。このとき５人で見ていて、リディアは呆れ、ユルトは「ごはんくれ」と言っていた。 ［文化］ 主に小中学生のころに一部の天才が童貞力によって発明する妙技。車輪の再発明以上に頻繁に再発見されている。エロスはインスピレーションの根源であるというのがよく分かる。凪人＞アルバザード人＞ルティア人の順序でしがち。 地球では欧米圏ではあまりやられないので、メルはセレンが 1L 年ごろにアニメの動画で紹介するまで知らなかった。セレンは小中学校のころに知識として知っていたが、「好きな子の笛を舐めて臭かったら幻滅するだろう？そんなリスキーな挑戦できるか」というタイプだったので縁遠かったが、「男子アホやなぁ」と思って面白がってはいた。アルバザード人の倒錯度ならやるだろうということで ⅃ʔ に造語となった。

dılu ［形容詞］露骨な、あからさまな、顕著な、明らかな、率直な、婉曲でない、直截な、素直な、ストレートな ［反意語］⁊elʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dı（明るい）【用例】 nıɒɔ dılu 露骨な態度

dıluepınʃ ［医療］正義性人格障害、正義性パーソナリティ障害 ［レベル］5 ul;dııl/ueµınʃ ⅃ʔ:ɒel ［語法］［文化］ 強迫性人格障害の一種。クラスターC。 正義を第一の価値観とし、正義に背くものを許せないと固執してしまう人格障害のこと。

dılɑ ［普通動名詞］散歩 ［動詞］ɥəl（場所）を散歩する、散歩する ［反意語］ʟel⁊ ［レベル］2 古 :dılɑ ← dıdıləµı/ɑəʃɔ（太陽を取る） ［語法］ 日の出ているうちに公園などで寝そべったり散歩して安らぐこと。あるいはカフェの店先でぼーっとしたり談笑すること。幸せな時間の代名詞としてイメージされる。

dılɒ ［動詞］ɥəl を ı より優先する、優先する、優待する ［形容詞］優先された ［副詞］優先的に、優先して ［普通動名詞］優先、優待 ［反意語］ɑıleȷ ［レベル］3 1ᏁᏁ: 制 : 古 :dı⁊eʃʃı（先に行く）→ dı⁊ と同根で、dıl の意味が逆。 【用例】 ⁊ıın ıllı dılɒ ʃeel ɒcuı ı nɔc. 父親というのはどうしても息子より娘を可愛がってしまうものだ。

dılɒʃ⁊clɒ ［名詞］ページシステム方式 µɑ;dılɒeucʃı/ʃ⁊clɒ ⅃ᏁᏁ ［語法］ パラマストーナメント（ステップラダー）にダブルイリミネーション方式を組み合わせており、敗者復活でも優勝できる可能性を持つ変則的な方式のこと。

dılɒȷ⁊cʃ ［名詞］優先席 ［名詞］シード、シード席、シード権 µɑ;/ ⅃ᏁᏁ ［語法］［文化］ 電車やバスなどに老人用の優先席はない。アルバザードではそもそも全席が優先席であり、老人や怪我人などが優先的に座れる。国民性からして座っている元気な者が率先して席を譲るため、優先席を設ける必要がそもそもない。 また、日本語と違い、アルカの優先席は映画館のＳ席のように有料でより良い席で優先優遇される席という意味も持つ。ふたつの意味があるので注意。

dılɒeucʃı ［名詞］パラマストーナメント、ステップラダー ［レベル］6 µɑ;/。あるチームが徹底的に優先されるため。 ⅃ᏁᏁ

dılɑ ［電算］デジタル ［反意語］ıldı ［レベル］3 1ᏁᏁ: 制 : 古 :dılılı

dıld ［植物］ポプラ ［レベル］4 lı⁊ʃı 参考 :ȷɔµn:ıldıȷ

dılµı ［アトラスの国家］パルラ ［レベル］5 1L:µcɑcı:「太陽の住む家」

dılz ［被服］タイツ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dıdızıɒɔn（白い棒）。元はバレエをやる少女の脚を指した。白いタイツを履いた彼女達の脚が白い棒のようにみえ。そこからタイツになった。

dılzeʃ ［運動］バレエ ［レベル］3 µɑ;/ ⅃ᏁᏁ に登録だが、紫亜が小さいころバレエをやりたがって親がやらせようかと考えたときにセレンかリディアがこれを造語しているので、実際にはもっと古い。

dılı ［名詞］伏線、複線 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :dıl（未来、後で）

dılı,ɑu dınɔ dıdıləµı.ɑµcȷ

dılıȷ ［美容］てかり ［動詞］ɥəl をてからせる、てかる ［レベル］3 ⅃1: 古 dııl/ 古 ȷɔ

dılın,lȷɑ dın dılıɒe⁊cı,ɑu.lc⁊

dılıɒe⁊cı,ɑu dın dılı/ɒe⁊cı

dılıb,zφ ȷıȷıb dıl/ȷıbe

dılılı,ɑ ıll e

dılc,ılʃ ılʃe 「芽吹くとき」

dılcɑ ［天文］恒星 ［レベル］4 ⅃0:dı（光る）/lccɑı

dılcɑɔ⁊ıs ［天文］恒星間宇宙船 ⅃1

dılcɑeµn ［天文］恒星系 ［レベル］5 ⅃ʔ

dıle ［料理］豆腐 ［メタファー］発泡スチロール ［レベル］3 ȷɒ;ılʃ ＜ dın,ılʃ.⁊ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ←制 :dıl（白）/heɒd ［文化］ アルバザード風の豆腐は leɒd。アルティアのものは dıle。ほとんど変わらない。アルバザードのものは具が入っていたり味が洋風だったりするものがある。

dıleʃ ［数学］［電算］数値、値 ［類義語］ıll ［レベル］2 ⅃1: 古 dılılı/ʃe 【用例】 dıleʃ ȷɔµ 大きな値

dılə,ılʃ ɒınȷ dı は芽吹く音。

dıləoı ［被服］ホーズ。ȷɒ ごろの貴族が履いた白い靴下のこと。 ȷɒ;d ıl/ləı「白い足」 ⅃ᏁᏁ

dıləe ［名詞］ひだまり、日だまり ［類義語］ɑıµdleʃ ［レベル］3 1L:dıləe ← dılɑe ← dıµ/elɑe（制「太陽」＋泉）【用例】 ☆ ⁊eʃ ȷccnı ɒɔ⁊ dɔʃ dı ləe. 猫はひだまりで寝るのが好きだ：語源が elɑe であることから、格詞は eȷ⁊ と違って ɒɔl ではなく、dɔʃ を取る。

dıləe(⅃) ［名前］ぱるえ、ひだまり 1L8 ［文化］『ねこにっき』の猫。

dııʃ ［名詞］光線、レイ ［レベル］3 1ʔ: 制 :dıınʃ（光の線）

dıı⁊ ［動詞］ɥəl の良いところを見る ［反意語］eucn ［レベル］3 古 :dıı⁊ 【成句】 dıı⁊ın nɔl dıı⁊ın ı nɔȷ 類は友を呼ぶ

dııȷ ［動詞］ɥəl を照らす、照らす ［レベル］3 1ʔ: 制 : 光をする

dııπ ［名詞］灯台 ［レベル］3 1ʔ: 制 :dııhınɔc

dııu ［単位］パーヴ、リルクス ［レベル］5 古 : 元は dııucuc「 光の強さ 」。メルが小さい頃に英語のｐｅｒｖ，ｐｅｒｖｅ（変態）と音が似ていて言いづらいと言っていて、最近まで dııucuc は通用する形として残っていた。 ［文化］ １モーブの光度を持つ等方性の点光源から１メルフィ離れた場所における光の強さのこと。ルクスと比較。

dııɒ,ɑ uıȷn dı は光。

dııl ［組み数字］１０／２８ ［交通］パール通り ［名詞］パール組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ⅃⅃

dııl,ɑ ɑıµ、ɑcµ dı/ıl

dııl ccləəʃɔ ［人名］パール＝イールゥート ［組み数字］１０／２８ ［レベル］2 古 : パールは語源不詳。古アルカでの意味は「 光 」(dııl ＝ dı（光る）/ıl（物）。以前は dııləə' だったが、メル・アルカでソーンアルカと融合したことがきっかけでアクセントが移動し、dıı にアクセントがくるようになった。当時、強弱アクセント重視だったこともあり、それ以降、急激にアクセントのない ləə の音節の存在が弱まっていった。但し、l の音が消えては意義素である ıl（物）が消えてしまうので l は残り、dııl となった。制アルカ以降 dııl が公式名で良いかとの質問に対し彼女は肯った。イールゥートは『カコ』から。 ［文化］ (ʃcɑ ٩ ɑcı nen →) 第４期４代アルシェ第１０使徒。女性。ɒıɥə/ıɒɒı。１６７ｃｍ、５４ｋｇ。髪は黒で背中まで届き、少しくせっ毛。青の瞳。肌は褐色。 ・『ミールの書』より 彼女はセレンより長い髪を赤いリボンで結わいてポニーテールにしている青い瞳の女性だった。首には金の首輪をしている。肌はやや浅黒く、黒人と白人の混血児だと思われる。年齢はセレンらと同じ頃だと思われる。体格はスレンダーで、美しい。そして目つきはフルミネアとは違ったタイプの厳しさをしている。 ↑これもセレンは当時アラブ人と黒人の区別がついていなかったため。 【成句】 ı⁊ın dııl eʃ ɒııl dııl cɒ ⁊ɔ⁊ 助手のパールは同時にお母さんのパール：良妻賢母

dıılɔlʃ ［天文］リギルケンタウルス 1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel ［文化］ パールの投げた首輪を象徴する星。ledʃɔɔl 参照。

dıc ［俗語］胸、おっぱい、ぱいぱい、パイパイ、パイ、ぱい有一る二乗、二ぱい有一る ［類義語］ɒıɒ ［レベル］3 ⅃ʔ: 膨らんだオノマトペに「両方」の cɔ から。

dıc⁊cld ［俗語］パイスラッシュ、パイスラ、π／ ［レベル］6 ⅃ʔ ［語法］［文化］ 女子がカバンをたすきがけにすると胸が強調される。そのときたすきがけした部分がスラッシュに見えることから。

dıcb ［名詞］カーテン ［レベル］3 1ɁP: 制 :dıcıbe（闇を作る布）【用例】 ın hɔɒıʃ dıcb ɔ ʃeɒȷ. カーテンを引いて窓を開けた。

dıcb⁊ıɑ ［地球の国名］セルビア 1L: 国章がカーテンに見える

dıɔ ［地学］［動物］真珠、パール ［レベル］3 1ʔ: 制 :lı⁊ʃı:dıφe（白く丸いもの）

dıe ［名詞］ニス、シェラックニス、ワニス ［レベル］3 lı⁊ʃı: 光らせる水

dc(⅃),ılʃ ⁊ɔ

dc,ɑ dcl、dcnɑ ɑıcı

dc,ılʃ dcnɑ

dcʃ ［名詞］種、種類 ［類義語］ncɒ ［反意語］⁊eµ ［レベル］2 1ʔ:ȷɔµn:dıʃd ıʃ は「 とんとん 」というオノマトペで、料理の篩を叩くときなどに使うそうで、この篩というところから分ける・見分ける・区別という意味もできたらしい。今回は更に「 区別 」という意味から、「 種類 」という語義を意図的に派生させた。 【用例】 dcʃ ɑcncɒ 様々な種類

dcʃʃınʃɔı ［魔法］種殻 ［レベル］5 ⅃1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

dcʃʃe ［形容詞］こっけいな、滑稽な、おかしな、笑いを誘うような、ばかげた、馬鹿げた ［レベル］4 ⅃0:ɒelcɑcı ʟceµ:dceʃ/ʃe

dcʃȷ ［環境］汚染 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ȷıɑ:dcʃcȷ「 毒にする 」

dcʃɒ ［生物］肝臓、レバー ［レベル］3 1L:dcʃɒ:1ʔ: 制 :dcʃcɒıc（毒を（解毒する）身体部位） ［文化］ 肝臓が悪いと怒りやすくなり、精神が不安定になると考えられている。そのため、気分が宿るとされている。ちなみに、感情が宿るのは腸。 【成句】 ʃcl dcʃɒ 肝臓を持つ。気分が安定している ȷc dcʃɒ 肝臓がない。イライラしたり躁鬱になったりしている ʃcl{nı} ınc ɔn dcʃɒ. ʃcl dcʃɒ ınc ぐったりする

dcʃɒuclȷ ［化学］バリン ［レベル］6 1L ［文化］ µɑ でリュウがレバーから発見した。

dcʃɒuɔln ［生物］肝細胞 µʃ;/ ⅃ᏁᏁ

dcʃɒɑıcz ［医療］肝炎 ［レベル］4 1L

dcʃɒdcφ ［医療］肝がん ［レベル］5 1L

dcʃɒscɔµ ［生物］肝兪、肝愈 ［レベル］6 ⅃1

dcʃɒleun ［医療］肝臓病 ［レベル］5 ⅃0

dcſɒeſ ［音楽］オカリナ ［レベル］３ Ɉ1: 肝臓に形が似ていることから

dcſl ［医療］中毒 ［類義語］ɑcȷɒıcn ［レベル］４ 1ʔ: 制 :dcſc ［語法］ 依存という意味の中毒ではないので、ɑcȷɒıcn と区別すること。

dcſı ［医療］薬 ［類義語］cl ［反意語］ɣıɣə ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :dɣəſȷ。因みに毒は ɣıɣə。 dɣəſȷ:dɣəſȷ 【成句】 dcſı ɥıl eɒ ȷen ɣıɣə 過ぎたるは猶お及ばざるがごとし、薬も過ぎれば毒となる dcſı ɥıſ eſ φɣə 良薬は口に苦し 【用例】 len dcſı 薬を飲む。生薬なら ləc の場合も。

dcſıȷıdɒɑıcz ［医療］薬剤性肺炎 1L:ȷeɥen

dcſıuenſ ［医療］製薬会社 ［レベル］５ ɥɑ;/ Ɉʔ

dcſıɒıȷ ［医療］処方箋 ［レベル］３ Ɉ0

dcſıɣıɒdcſɒ ［医療］薬剤性肝炎 ［レベル］６ 1L

dcſılıɑ ［医療］製薬 ［レベル］４ ɥɑ;/ Ɉʔ

dcſɔı ［魔法］修験道 ılſ Ɉɱ

dcſɔc ［ジョブ］修験者 ılſ Ɉɱ

dclſ ［普通動名詞］言い訳 ［動詞］ɣəl という言い訳を ı にする、言い訳する ［レベル］３ 1ɱ: 制 :ȷıɑ:dcılə（理由を言う） ［語法］ 日本語と違い、必ずしもネガティブなイメージはない。必要な言い訳はすべきという考えがあるため。悪い意味の言い訳と限定したい場合は ıȷɒ ıl ıleɑ。

dcllı ［地名］ピッカ ［レベル］５ 1ϸ: 制 :dclle（手品）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴィッシュの支配地。

dcllı(Ɉ) ［アトラスの国家］ピッカ ［レベル］５ 制

dcllɔ ［名詞］ピッコ。男のリースのうち、大人しいもの。 ［レベル］２ Ɉ0:ɥcɑcı:dclle ［文化］ 典型的には、大人しく気弱で家庭的で優しい軟弱な男性。

dcllɔɒcn ［俗語］僕っ娘、ボクっ娘 ［レベル］４ ɥɑ:/ ［文化］ 自分を ɒen と呼ぶような女子のこと。

dclle ［サール］ピッケ ϸ 歳程度の少年の姿をしたサール ［名詞］手品 ［ɑɥecnſ］（男の）ガキ : ɒcbı と違って悪気はない ［レベル］３ 0 年 :ɥcɑcı ［文化］ ５歳程度の少年の姿をしたサール。耳が尖っていて、八重歯がある。布の簡素な服を着ている。顔は可愛い。性格はやんちゃで、人を驚かせることを好む。悪さはしない。魔力は弱く。手品程度のことしかできない。

dcllel ȷɔə ［娯楽］ぴっけるくん Ɉ1 ［文化］『クレヨンしんちゃん』に相当するアニメ。

dclılejl ［アトラスの国家］ピカレスク ［レベル］５ Ɉʔ:ɥcɑcı

dclɔſſe ［形容詞］軟弱な、脆弱な、弱い ［文字］ライト ［類義語］cun ［レベル］３ Ɉ1:dcllɔ/ſe

dclɔl ［名詞］男の子、少年 ［類義語］ucl ［反意語］lclcı ［レベル］３ Ɉ0:ɒcl ɑ:lclcı に対して造語。dcllɔ/ 古 ıl（もの） ［語法］ ılɑcın と ıllız の総称。

dcl ［動詞］ɣəl を ı（床や目標など）に転がす、転がす、転がる ［レベル］２ 1L:dcl1:19: 制 :ȷɔɥn 参考 : 古 :φelc（円）。確か中期では dcl だったような気が。 【用例】 ın dclıſ hıl ȷıe lɔnſ ɑılej hıɗn. 友達と抱き合って雪の中を転げ回った。

dclφel ［運動］ボーリング ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ ［文化］ テニスと同じ扱い。プロもいる。ルールもほぼ同じ。

dclce ［料理］蜂蜜、ハニー、はちみつ ［レベル］２ Ɉ0:ɣəlſ:cɒdclce:1ʔ: 制 : ハチの蜜。cɒdclce と言いたいようで言えてなかったことから。蜂蜜が文化的に重要なのでリディアが略語を正式に採用した。ユルトの初の造語。 ［文化］ 糖の中ではほぼ唯一体を温め、かつ虫歯にもなりにくいため、アルバザードでは砂糖の代わりに推奨されている。ただし、非加熱なので病原菌が微量に混在している可能性があるため、乳幼児には与えない。ユルトとルシアには２歳４ヶ月ごろから与えた。

dcȷ ［植物］とげ、トゲ、棘 ［メタファー］気の強さ、怒らせると怖い性格 ［レベル］２ 1L:dcnenı: 音象徴 【成句】 ɣənl lɒccɥ ſcl dcȷ. クミール嬢には棘がある : 綺麗なバラには棘がある :1L:dcnenı

dcȷſı ［植物］［料理］こうじ、麹 ［レベル］５ 19: 制 :dcȷſ（米）

dcȷleſɔcı ［アトラスの国家］ピスケトイア ［レベル］４ Ɉʔ:ɥcɑcı

dcȷlɔɔb ［被服］ハンチング、ハンチング帽 ɥſ;/ Ɉɱ

dcȷcɑıl ［生物］刺胞動物門 ɈɈ

dcȷcz ［名詞］伝言板、告知板、告知、伝言、クリップボード、黒板 ［電算］クリップボード ［レベル］３ ɥɑ;dcnɑ/ȷcz「針を刺された板」 ɈɈ 【用例】 lıll ı dcȷcz クリップボードにコピーする

dcn ［文頭純詞］但し、ただし ［レベル］１ 古 :dcn「とがったもの、針」。アンシャンテで共有板に自由に張れる伝言版の外枠によく補足事項を載せておいたが、それを留めている部分を dcn（針）と呼んだことから。dcn は英語ではなく、音象徴。 【用例】 dcn ſə eſ ıɑeſ ıl eɥɑe hɔſ. ただしイケメンに限る。

dcn(Ɉ) ［人名］ピネナの略称 ［組み数字］２５/２８ ［レベル］１ 制

dcn,ɑ ［格詞］［文頭純詞］ɒın、ɒcl、ılɒın elſ;dc 理由を「針で止めておく→釘付けにしておくもの」になぞらえたメタファーから 赤 : 語源同上

dcnſ ［名詞］きっかけ ［動詞］ɣəl というきっかけを ı に与える、尻を蹴る、背中を押す ［レベル］３ 古 : 背中を指先でつんと押すときのオノマトペ。

dcnl ［化学］シアン ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı:dcnφ ［語法］ 色のシアンは ıu ınl。 ［文化］ ɥɑ において、アルバザードの伝統酒であるビールとワインをセレンは嫌った。厳密に言えば温めたビールは飲めるが味が嫌いで、インサール式の冷やしたビールは腹を冷やすので嫌いだった。また、ワインは胃酸を分泌するので胃の弱いセレンは苦手だった。 そこで代替酒としてセレンはラムや果実酒を好んだ。インサールから入っていた梅酒をセレンは好んだため、リディアはセレンのために梅を集めて砂糖瓶に漬けておいた。リュウは台所に転がっていた梅を使って分析したところ、梅の毒素としてシアン化水素が含まれているのに気づき、シアンを dcnφ から派生させた。

dcnlhɔə ［化学］シアン酸塩、シアネート 1L

dcnlıȷl ［化学］シアン酸 1L

dcnȷ ［名詞］ヒント ［レベル］３ Ɉ0:ɒelcɑcı lceɥ:dcnſ/ɥenȷ

dcnueɥınſ ［医療］シゾイドパーソナリティ障害、統合失調質パーソナリティ障害、シゾイド人格障害、統合失調質人格障害 ［レベル］５ ul ;dcnenı/ueɥınſ Ɉʔ:ȷeɥen/ɒel

dcnɑ ［名詞］針、ニードル ［言語］［文字］セリフ。セリフ書体は ɔlcucı。 ［類義語］ɔlcucın ［レベル］２ 1ϸ: 制 :lılſı:dcn（針）「とがったもの」 dc:dcn::dc,ılſ 【用例】 dcnɑ dcl 鋭い針

dcnɑlıɒſ ［動物］ハリネズミ ［美容］スパイキー ［レベル］４ Ɉ1

dcnɑncllel ［動物］ハリセンボン ［レベル］４ Ɉ1: 針河豚

dcnɑɑɥeıɑɔl ［地学］針鉄鉱 1L

dcnɑc ［植物］イラクサ、ネトル ［レベル］６ 1ſ: 制

dcnφ ［植物］梅 ［レベル］３ ılılſı: バラ / 丸 ［文化］ 美しい花として植えられるが、元はといえば ɥɑ で輸入酒でなく国産酒として梅酒を作るためにたくさん植えられた。

dcnφcɑıl ［生物］棘皮動物門 ɈɈ

dcnı ［名詞］約束、誓い、契約、誓約 ［動詞］ɣəl を ı に約束する、約束する、誓う ［類義語］ɥıuen、ſɥınȷ ［レベル］２ ɑ;dc/nı「命を貫く」 古 : ソーンの使徒ピネナの名と混同したことからセレンが後期に dcnı を dclɔ に変えたが、少しも広まらなかったので、dcnı を再び採用した。 ［文化］ dcnı はｐｒｏｍｉｓｅより重い意味を持つ。日本語の約束より重い意味を持つ。dcnı は古アルカ語源だが、古アルカの dcnı はというと、元の形が後第一改定アルカから前クミール・アルカの間にできた dc dcnı であった。これは nı が「心」でなく「命（或いは心臓）」であった頃の意味であるから、「命を貫く」という意味であった。この語形はあまり長く生きず、中期アルカの始め頃には既に dcnı に短縮されていた。短縮の大きな原因は dcnı という語形の語彙が無かったため、合理性を優先させたことによると思われる。dcnı は「命を貫く」という意味だったが、これは「仮に破ったとしたら命を貫く＝死なねばならない」という意味が出所であった。このことを見ても解かる通り、dcnı は約束より遥かに意味が重い。このことは文化にも大きな影響を与えている。約束を破ることは非人道的であり、人格が破綻しているとさえ取られる。その為、約束を守れなくなることと破ることをきっぱりと区別する。前者はやむを得ない理由によるならば仕方がないという見方をされるが、後者はいけない。また、以上の性質から、dcnı は約束よりも遥かに頻度が少ない。小さなことでは dcnı することはない。例えば子供に「おかし買って」とせがまれて「明日な」と答えたところ子供に「わーい、本当？」と言われ、「ああ、約束だ」と返すことは不適である。また、dcnı は見通しが利かないことには適応されない。約束する内容が可能であると確信していることでないと dcnı とはいえない。見通しが効かず、上手くいくかどうかわからない事について約束するということ自体がそもそも不貞であるとみなされる。約束は他人を信頼させ、安心させる効果がある。なのに約束した本人が上手くいく確信がないのでは、約束という言葉の価値が薄れてしまう。それを防ぐ為にも確信がないことに dcnı することはない。 【成句】 dcnı eſ dcnı ɑı. 約束は約束だ。 【用例】 ın dcnıſ nɔȷ ılſ ȷcl hıɗn cɒ lılzıȷ. ６時に友達と会うことになっている。 hıcn{uecφ} dcnı 約束を守る｛破る｝ dcnı ı lɔl 約束を交わす dcnı lɔ}{ınſeȷ} 交わした約束

dcnıɑəſ ［経済］信用取引 1L

dcnıɒel ［名詞］約束の時間 ［レベル］３ Ɉ1

dcnıılın ［政治］社会契約説に相当 1L ［文化］ 社会は自然状態から国家と国民間の契約にシフトすることでできているという考え。ナディアで確立。

dcnɔ ［地学］地理 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ȷɔɥn:dcnenılec（ピネナの学問）。ここでの lec は本でなく学問を表わす。

dcnɔ uılɔ ［人名］ピノ＝ヴァロ ［レベル］５ 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第１１使徒。異性魔王。

dcnɔh ［魔物］ピノー（針亀）: 第三十天 : 土の幻天 ［レベル］５ 古 :dcnɔh ← dcn/hɔh（針亀） ［文化］ 爬族。巨大な亀。甲羅が太い角だらけで、針山のようになっている。噛みつかれると千切れるまで離さない。窮地になると頭を甲羅に隠す。

dcnɔl ［地学］孔雀石 1L:dcnɔh/ɑɔl ［文化］ 魔族ピノーの甲羅の一部は孔雀石でできている。孔雀石は魔石で、冷気魔法を完全に防ぐ効果がある。ピノーは亀だから、孔雀石のおかげで寒い地方でも暮らせる。従ってピノーを倒す際は孔雀石を突き刺し、冷気魔法を放つのが定石。

dcnenı ［組み数字］２５/２８ ［交通］ピネナ通り ［レベル］２ ɈɈ

dcnenı uılɔ ［人名］ピネナ＝ヴァロ ［組み数字］２５/２８ ［レベル］２ 古 : 語源不詳。uılɔ は「あの頭」 ［文化］ → dcnueɥınſ （Ɉ→） 第４期４代ソーン第１１使徒。男性。ȷɔlɑeɥs/ɣəəl。１６５ｃｍ、５２ｋｇ。亜麻色の肩までのウェービーな髪。ヘーゼルの瞳。肌は白 : 黄＝７:３。 ラヴァと並ぶソーンのブレイン。細身で女性のよう。実際セレンはしばらく女性と勘違いしていた時期がある。リュウの友人でありライバルでもある。 ・『ミールの書』より 部屋の主はメルに気付くと「あれ、メルちゃんじゃない。いらっしゃい」とにこやかに言った。その者の格好は中性的であり、声もまた中性的であった。ミールは始め彼を女性だと思ったが、どうやらそれは誤りのようだっ

た。「ピネナさん、こんにちは」　メルは今まであったものを大抵、兄か姉のように呼んでいたが、彼については違った。ピネナの髪は肩まで来ていた。ゆったりとウェーブがかかっていて、どこかアッシュのものを思い出す。座っているので背丈は解からないが、小柄ではあるようだ。年の頃はクミールらと同じであろう。「ゆっくりしていってよ、あまり相手はできないと思うけれども」　彼はノートパソコンを操っている。部屋は汚れているが、彼のコンピューターは動いているようだ。「ピネナさん、この子がミールちゃんです」　するとピネナはちらりとミールを見て「そう、この子がクミールの。なるほどね。私はピネナ。よろしくね、ミールちゃん」　ミールはぺこりとお辞儀をする。どうやら彼もミールについて事前に何かを聞いていたようだ。彼は振る舞い方も中性的であった。

dcɒ ［名詞］錐、すい ［動詞］ɥəl を ı に突っ込ませる、突っ込む、突入する、突撃する ［レベル］3　古 :dcɒ。dc は「尖った」【成句】 dcɒ ı ɰı ʃ'ıɑ el アデルの巣に突っ込む：千客万来。日本語は来るで、アルカは行く。

dcɒʅılı ［地学］円錐図法 ［レベル］5　ʅL

dcɑɣə ［化学］リシン、リチン ［レベル］6　ʃʅ:dcɑcȷ/ɥıɣə（唐胡麻の毒）［文化］　トウゴマに含まれる猛毒成分。

dcɑl ［植物］クリ、栗 ［美容］ボブ、おかっぱ ［レベル］3　ɑu;‹›dc　lı ʅſı: 針 / 茶色を崩してできた　dcɑl:dcɑl ［文化］　秋に甘栗として食べられる。袋に量り売りで買ってきて、手で自分でむいて食べる。

dcɑlncı ［美容］ツンツンした髪 ［レベル］3　ʅL

dcɑlbıſſɔ ［アイテム］モーニングスター、モルゲンシュテルン　ȷɒ;/「栗メイス」 ʃɱ

dcɑloıɪl ［アイテム］モーニングスターフレイル　ȷɒ;/　ʃɱ

dcɑc ［植物］山椒、サンショ、サンショウ、ハジカミ ［レベル］4　ȷɒ;ı lſ。食べたとき「ぴりっ」とするが、そのオノマトペの dcɑc から。ʃʃ

dcɑcȷ ［植物］トウゴマ、唐胡麻、ヒマ、蓖麻 ［レベル］6　ʃʅ: 古 dc、制 dcnɑ。果実の出っ張りが刺々しく見えるため。［文化］　ひまし油の原料。有毒物質リシンを含む。

dcɑcȷeɒȷ ［料理］ひましゆ、ヒマシ油、蓖麻子油 ［レベル］5　ʃʅ ［文化］　石鹸や潤滑油など、主に工業用途に使われる。摂取すると下痢を起こすことがある。

dcφ ［医療］がん、癌、ガン、キャンサー ［レベル］3　ſu;e　lıʅſı ［文化］　uıcn　ſɒ で既に見つけられていた。

dcφɥıɪſſ ［感動詞］ぴぎゃー、ピギャー ［名詞］ギャン泣き ［レベル］1　ʅΔ:ɥcɑcı: 紫亞の泣き声を模写したもの。

dcφl ［動詞］ɥəl を鍛造する、鍛造する ［普通動名詞］鍛造 ［レベル］5　ɥɑ; ↓　ʅɁ: 制 :lıʅſı:dcφȷ（剣 / 金属 / する）

dcd ［動詞］ɥəl を ı に投げる、投げる ［レベル］2　ɑ;ɑɔueſ　lıʅſı:dcd（投げる）。投げたとき手からものが離れる際のオノマトペ。　dcd:dcd【成句】 dcd ɑɔl ıl elſɔı cſ ıɥbızıɥɑ アルバザードからエルトアに石を投げる：二階から目薬【用例】 dcd φeʅ ボールを投げる

dcdɑıcʅ ［軍事］手榴弾 ［レベル］3　ʅL:ɥcɑcı

dcddc,ɑ ［名詞］ɒın、ȷınse、理由。接続詞的に使うのではなく「理由」という名詞。　elſ;dcn/dcn　赤

dcdl ［死神］ピプル ［レベル］3　ɥcɑcı: 古。ʃʅ までサール。［文化］　醜い小鬼のような姿で、夜寝ている人の足を引っ張ってセレスを引き抜いて殺す。ピプルに引っ張られないようにするには布団を足までしっかりかけていること。足を出して寝ていると引っ張られる。頭寒足熱を徹底させるために謳ったもの。

dcdlıſ ［動詞］ɥəl を ı に投げ入れる、投げ入れる、投入する ［レベル］3　ʅʔ: 制 : 投げ入れる

dcdın ［名詞］投手、投げ手 ［野球］投手、ピッチャー ［レベル］3　ɑu;/ | ul　ʃʔ

dcdc ［婉曲］セックス ［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする ［レベル］4　古 :dcdc（刺す）

dcdc,ɑ　ſɔe　dc/dc

dcɥɔ ［幼児］［植物］ひよこ、ヒヨコ ［メタファー］あどけなくて可愛いもの ［メタファー］［動詞］ɥəl を ı にほざく、ほざく、口走る、くちばしる、さえずる、囀る ［類義語］hıɒ ［レベル］2　ʅL: オノマトペ ［語法］ hıɒ ［文化］　黄色くて可愛いものとして捉えられ、幼児や子供に譬えられる。

dcɥɔʅɔʅʅɔ ［言語］ぴよ語 ［レベル］2　ʃ0 ［文化］「みゅ？」「み？」「ぴよ？」「にゅー」「にゃー」「にゃん」など、動物の鳴き声を模した言葉で、たいてい文末純詞や感動詞として使われる。アルバレンにもともと存在しなかった言葉だが、リディアがこういった動物の口真似をしていったことからできた。それを聞いたセレンが可愛いと感じ、アルカに取り入れた。和みなどを示す効果がある。

dcɥɔn,ȷzl　lɘoı、zıɒ

dcɥɔnʅılſeſlelʃʅın ［生物］［医療］足陽明胃経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔnɑlıueɥɒcȷʃʅın ［生物］［医療］足太陽膀胱経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔnɒɥəleʃʅılɔıʅın ［生物］［医療］足厥陰肝経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔnɒel ［歴史］現代、ıl_ls ［レベル］4　ʃʅ ［語法］ ɒcɥɒel

dcɥɔnlııleıɥʃʅın ［生物］［医療］足少陰腎経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔnlelcıleınʅın ［生物］［医療］足少陽胆経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔnılseucɒınʅın ［生物］［医療］足太陰脾経　ȷzl;/　ʃɱ

dcɥɔdɔɥɔcnl ［娯楽］ぴよぽよ交差点　ʃʅ ［文化］『らんま２分の１』に相当するアニメ。ぴよが女主人公で、ぽよが男主人公となる。

dcɥɔɥenȷ ［名詞］［ネガティブ］(ſcl) おしゃべりな ［類義語］ɑcıɥenȷ ［レベル］3　ʃ0:ɒelcɑcı lceɥ: ひよこの口

dcɥ ［名詞］広告、宣伝、ＣＭ、コマーシャル ［動詞］ɥəl を ı に宣伝する ［レベル］3　ʅɁ: 制 : 恣意【用例】 dcɥ e ſecʅ eſ bın. テレビコマーシャルは面白い。

dcl ［形容詞］鋭い、鋭敏な、尖った、敏感な、センシティブな、多感な、尖る、過敏な、鋭利な ［接辞］複合語中ではしばしば「過敏」の意味で使われる。［反意語］ȷccd ［レベル］2　ʃ0:dcɑſ: 古　dc::ɔlcu:dclə,ılſ ［文化］　ınueɥſ【用例】［メタファー］dcl ɥən dcnɑ 針のように尖った【用例】 ın eſ dcl ı hıɥſ{ȷɔɥſ}. 私は暑がりだ { 寒がりだ }

dclſcʅ ［数学］鋭角 ［レベル］4　ʃ0

dclʃʅ ［植物］木苺、ラズベリー ［婉曲］クリトリス。形や色が似ていることから。［レベル］3　ʅʔ:ȷeɥen:ʅlel:dcnɒelcʅ

dclɑcɔ ［医療］知覚過敏 ［レベル］4　ʃ0

dcld ［動詞］ɥəl をからかう、からかう、誂う ［普通動名詞］冗談、からかい、いたずら、悪戯 ［レベル］2　ʅʔ: 制 : 古 :dcldcl, 指をちょこちょこと細かく動かすときのオノマトペで , 相手をからかうときにこうしたことから ［語法］ ılɔſe, clcȷ

dcldſeſɔnı ［名詞］冗談関係 ［レベル］6　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbılelſ ［語法］　からかうことが許されている関係。友人や家族など。

dcldʃʅıd ［名詞］いたずら電話　ʅɱ: 制 : いたずら電話

dcldȷenı ［再帰動名詞］いたずら笑い ［レベル］3　ʅL:ɒelcɑcı ılſe

dcldıȷel ［再帰動名詞］からかい笑い ［動詞］ɥəl をからかって笑う、笑う ［レベル］3　ʅL:ɒelcɑcı ılcȷ

dclhınɔc ［地球の国名］アフガニスタン ［レベル］5　ʃ0: ミナレット（尖塔）がある

dclz ［料理］ɒəl から ɥəl を煎じる、煎じる、せんじる ［レベル］4　ʅL:dcſı/lez ［語法］「 煮る 」は野菜などを柔らかくして食べられるようにすること , 煮られるものが主体 ,「 煎じる 」は薬草などを煮て , エキスを抽出し , 似た野菜の屑は捨て , 液体を利用する , 液体が主体 , なので行為として別のもの , 主体が煮られるものではないので ,dclz は ɥəl に煮られるもの (薬草) は取らず , 結果的にほしい薬の方を取る

dclı ［文字］墨 ［レベル］3　ȷeɥſ;dcl,ȷeɥſ（黒）　ʅſ: 制 :dcl から　uelı:uelı

dclıɑclɑıc ［医療］墨灸　ɥɑ;/　ʃɱ

dclıɑeȷʅ ［化学］［芸術］礬水、陶砂、どうさ　ɥɑ;/「墨を封じ込める」 ʃʔ ［語法］　明礬を溶かした水に、にかわをまぜた液。墨や絵の具などがにじむのを防ぐために紙や絹などに塗る。

dclıɥ ［名詞］削り機 ［レベル］3　ɥɑ;/　ʃɱ

dclc ［生物］ほくろ ［天文］黒点 ［レベル］2　ɥɑ;/ ↓　ʅʔ: 制 :ȷıɑ:dclcn（黒い点）　ueele:ueele ［文化］　肌の白い人に多いとされる。白さを際立たせる道具にもなるが、ないほうが美しいとされる。メルのように、ほくろがなく肌の白い女性が最も美しい肌とされる。

dcle ［料理］コーヒー ［レベル］2　ɥɑ;dcleɥcı「黒い水」　ʅʔ: 制 :ȷıɑ:dcleɥcı（黒い水）［文化］　アルバザードではあまり飲まれない。紅茶が主流。　またコーヒーは口臭を促すとされ、衛生上も好まれない。【用例】 ☆ ın lenıſ dcle lını neſ nɔȷ ɥınel. 目を醒ますためにコーヒーを飲んだ:ɥınel がないと文意が正確に伝わらない。これがないと、コーヒーを飲んで起きたことになるので、寝ながら飲んだのかという話になりかねない。また、コーヒーを寝起きに飲むアルバザード人はまずいない。

dcleʅıɑ ［地球の国名］ルワンダ　ʅL: 国章にコーヒー

dcleɑıɒc ［植物］チコリ ［レベル］6　ʅſ: 制

dclə,ılſ　dcl　dc/lə

dcı ［動詞］ɥəl を携帯する、携帯する ［形容詞］携帯の、ポータブル ［レベル］3　ʅɱ: 制 : 先 :dcɔ（運ぶ）から「携帯する」の意味を切り取ったもの 。【用例】 ın dcıȷ eȷn ɒın eȷʅıſ ȷıſ. 雨が降りそうだったので傘を持ってきた。　ın dcıſ leȷ ın lcɥ. 必要な物を持った。

dcıſſɔ ［企業］ピアット ［レベル］3　ʃʅ ［文化］　ヤフーに相当する企業。

dcıʅıd ［電算］携帯電話、ＰＨＳ。アルカでは区別なし ［レベル］2　ʅɱ: 制 : 携帯電話【用例】 ın en dcɔſ dcıʅıd ʅelınel ɒın nı uıl. 急いでいたので、ケータイを持って来忘れた。

dcıʅəcl ［名詞］弁当、お弁当、べんとう、おべんとう ［レベル］2　ʅL:ɥcɑcı:ıɥbılelſ ［文化］　学生も社会人も弁当を持参して、食堂は使わないという人が多い。学校や会社には弁当の保冷庫があり、食べる時間まで保存しておくことができる。

dcıȷ ［経済］手形 ［レベル］5　ʅL:dcnı/ɒıȷ

dcıȷlcln ［経済］受取手形　ʅL

dcıȷȷıɥɒ ［経済］支払手形　ʅL

dcın ［名詞］しばらくしたら。４５分～２時間。［副詞］しばらくしたら ［レベル］1　ʃ0:dcnı/ȷıcn（約束を確認しにいく）。門を見に行っても来ていないので、φılſc よりそわそわして。同じような音で始まる単語ばかりなので、たまにはスパイスとして d で始めた。［語法］ ɑcʅɑə

dcıɒeɒdɔ ［卑語］彼女、カノジョ、恋人、嫁、妻、奥さん ［レベル］6　ʅL: 携帯まんこ ［語法］「風俗嬢と違って温泉街でも遊園地でも連れて行くことができ、出先のホテルで自由に使える女」という意味。恋人を愚弄した言い方。【用例】 lı lənıȷ ʅıſees ɔʅ dcıɒeɒdɔ. あいつはカノジョ連れでカテージュに（旅行に）来ている。

dcıɒed ［名詞］コンパクト、携帯鏡 ［レベル］3　ʅſ: 制

dcıɑɔɑlhɔȷ ［名詞］携帯灰皿 ［レベル］4　ɥɑ;/　ʃɱ

dcıl ［名詞］意味のある音（言語音と雑音を除いた音）［類義語］ɑɔ ［レベ

ル］2　J0:ʅılce:ıdcı/ıl（示すもの）

dcıluef ［言語］擬音語　［レベル］4　J1　［語法］　ɑɔuef

dcılej ［魔法］ピアレス、魔抗力、魔法防御力　［レベル］5　J0:dcɔ/jelej → dcɔlej → dcılej（魂を運ぶ→誘燈）。具現化すると、ピアレスの煙が誘燈の灯りのように体を包んでくゆるため。　［語法］　enuelen

dcıclᴅ ［電算］ＰＤＡ　［レベル］6　1L

dcıɔl ［名詞］携帯品、携行品、持ち物　［レベル］3　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

dcıɔlʃıb ［普通動名詞］持ち物検査　［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

dccʃ ［動物］ロビン、コマドリ、駒鳥　［レベル］3　lılʃı

dccʅ ［アイテム］レイピア、細剣　［レベル］3　19: 制 : 古 :dccʅc　［文化］　女魔導師が護身用に装備していた。そのため、現代では女の武器とされ、フェンシングも女のスポーツ。　【用例】　ʃɔe lcel ʅɔn dccʅ レイピアで奥まで突く、深く突く

dccʅuıj ［運動］フェンシング　［レベル］3　J0　［文化］　dccʅ

dccʅc,ɑu　ɑɥec　dc/φc

dccʅcdəəφc,ɑu　有罪、罪、犯人、悪意　赤

dccn ［動詞］ɥəl を睨む、睨む、にらむ　［レベル］2　1𝔐: 制 : 古 :dcc（鋭く見る）

dccɑ ［アイテム］ジャベリン　zφ;dcd/ɑəəφc「投げ槍」　J𝔐

dccd ［名詞］ビープ音、呼び鈴、ドアベル　［レベル］3　古　【用例】　dccʅ ıʃ ıɥ cᴅ ın ʅıd ʅcʃ ı lı. ちょうど彼に電話を使用としていたとき、呼び鈴が鳴った。

dccı ［感動詞］殺してやる！　［名詞］殺意、殺気　［レベル］3　ɑu　古

dcɔ ［動詞］ɥəl を ı に運ぶ、運ぶ、持っていく、連れていく、連れて行く　［普通動名詞］運搬、運送、搬送　［反意語］ᴅelɑ　［レベル］2　先　【用例】　ᴅcɥ dcɔ ʃə ʅɔu ıl ez. この箱を部屋に持っていってください。

dcɔʃ ［動詞］ɥəl を気取らせる、気取る、かっこつける　［形容詞］(dcɔʃın で) 気取った、かっこつけた、臭い　［レベル］3　jɔɥn　【用例】　ʃe dcɔʃr かっこつけないでよ！

dcɔɥ ［物理］クーロン力。アルカでは主に物理で使われる。　［レベル］5　1𝔐: 制 : 古 :dcɔccɥe（電気を運ぶ）　［語法］　原子核同士が反発する力（クーロン力）。

dcɔɥıɔdınɑ ［生物］ｔＲＮＡ、トランスファーＲＮＡ　ɥʃ;/ リボソームへタンパク質を作るための材料であるアミノ酸などを運ぶことから。　J𝔐

dce ［植物］キュウリ、胡瓜　［電算］ピエ。ＩＭＥに当たる変換システム。　［ユマナ］ＩＭＥ、マイクロソフトＩＭＥ、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ ЄÐE　［レベル］2　ᴅʃ;e は水。｜ロゴにキュウリの絵があったことから。　lılʃı: 語源不詳　［文化］　サラダに使われる。体を冷やすので夏に少量食べるだけ。

dceʃ ［名詞］ピエロ、道化　［名詞］ボケ役、三枚目　［レベル］3　zφ　ᴅel: 古ピエロが語源ではない。メルの造語なのでもし英語語源ならクラウンに音が似るはずだからだ。　x:dceʃ

dceʅılc ［アイテム］小鳥丸　ɥɑ;dcelə/ʅılc　J𝔐

dcelə,ılʃ　ʃɔe　dcdc

dcə ［音楽］口笛　［動詞］jɔl は ɥəl（音楽）を口笛で吹く　［レベル］2　lıʅʃı

dɔ ［生物］首　［動詞］ɥəl に背中越しに振り向かせる、振り返る、向く：eel と比較。　［レベル］1　ɑ;e　古　dɔ:dɔ:dlce　【用例】　dɔ sıl 太い首　ın nı ɥıc ɔn dɔ. 首が痛い。

dɔʃ ［名詞］中、屋内　［格詞］～の中に　［婉曲］膣内　［反意語］ʃınʃ　［レベル］1　古 :dɔʃ,dɔʃɔ　dɔʃɔ, ʅɔ, ʅɔnʅɔ:dɔʃɔ, ʅɔ, ʅɔnʅɔ　【用例】　eu eɥ dɔʃ{ı} dıd コップに水を注ぐ　dɔʃ ʃccl eʃ ᴅelʃ ɔnʃ ejcl ʃcnʅı, ɥcɑcı. リディアの中、とっても温かくて気持ちいいよ。セックスの話。

dɔʃʃc cneııʃɔ ［人名］ポッティ＝イネアート　J1:ɑəlᴅccı/φcl;dɔʃɔ,ɑ/c,ɑu　J1:ɑəlᴅccı/φcl: 古 dɔʃɔ（中）/ 古 c（指小辞）「おなかの中の子」妊娠中にそう呼んでいたが、愛着を感じてしまったため、出産後にそのまま名前として採用したもの。　［文化］　(J1 ɑɥə jeɥ_) ギルとフルミネアの長女。

dɔʃʃeᴅj ［建築］雨戸に対して中の窓。二重になっている窓のうち、内側。　［レベル］5　1L

dɔʃj ［名詞］［形容詞］まだら、ぶち、ブチ、斑、霜降り、斑点　［レベル］4　lılʃı

dɔʃneʅʃ ［動詞］ɥəl を ı に秘める、秘める　［形容詞］秘めた　［レベル］3　J0

dɔʃueᴅl ［数学］［物理］［地学］内射　J0

dɔʃueɥə ［言語］抱合語、抱合語的　1L

dɔʃɑecᴅ ［名詞］インナーイヤホン　［類義語］ʃeᴅɑecᴅ　［レベル］5　J1

dɔʃɑeɑı ［料理］焼肉　［レベル］3　ɥɑ:ɥcɑcı/jeɥen;/　J𝔐:ɥcɑcı/jeɥen　［文化］　室外焼肉のほうが先にあったので、焼肉はわざわざ室内焼肉と呼ばれる。面倒くさい。

dɔʃφel ［卑語］中出し、膣内射精　［類義語］dɔʃleeu　［レベル］4　1ᚨ:jeɥen: jeɥen(1ᚨ)lcnjlɔd: 中に射精　［文化］　jıɥᴅclc

dɔʃhcᴅ ［生物］内性器　［レベル］5　1L

dɔʃhcᴅʃ ［生物］内陰部　ɥɑ;/　J𝔐

dɔʃleeu ［普通動名詞］中出し、膣内射精　［類義語］dɔʃφel　［反意語］ʃınʃleeu　［レベル］4　ɥɑ;/　J?:ᴅel。10 年代にメルが造語していたものを J? に幻日に輸入。　［文化］　→ jıɥᴅclc　・避妊と性病と膣内射精　ɥɑ まではlcuıɥen の使い手がいたため、膣内射精が一般的であった。が、性病のリスクがあったため、徐々にコンドームが進化していった。　ul 以降では避妊と性病予防のためにコンドームを着けることが一般的である。ピルは避妊にはなるが性病は防げない。　学歴の低い層ほど性交年齢が早く、避妊の割合も少なく、膣内射精をしがちである。　夫婦でも家族計画のために避妊を行うのが一般的である。
　・女性の感覚　この辞書の作者が男性なので膣内射精された感じはした相手の女の子に聞くしかないのだが、彼女らの反応をまとめると、こちらの思っているものとはだいぶ違った。　日本のＡＶやエロ漫画では女の子が「出されてるのが分かる」とか「あったかい」などと発言しているが、少なくともセレンがじかに聞いた素人の恋仲の女性によると、「よく分からない」という回答が一番多かった。この質問は覚えている限り４人以上にしているが、どれもＡＶや漫画のような回答ではなかった。「言われてみればなんとなく奥に当たるような」とか「少し暖かいような」といった曖昧な回答で、「正直出されたのがよく分からなかった」というのが一番多かった。

dɔʃləɔı ［被服］内履き、うちばき、上履き、うわばき　［レベル］2　J

dɔʃı ［形容詞］話題の、ナウい、熱い、今風の、今時の、くだんの、件の、例の、れいの、注目の　［名詞］話題作、注目作　［動詞］ɥəl を話題にする、話題にする、言及する、口にする　［レベル］3　1ᚨ: 制 : 古 :dɔʃləʃ 口の中にある」【成句】　el dɔʃı ɑɔnl neʃıl le ᴅc ıʃə. その場にいない人の話はしないのが無難。悪口なら伝わると怖いし、褒め言葉でも意図したとおり伝わるか分からない。プラマイゼロの無難な話題ですら、伝達する人の口調によって悪く取られる可能性がある。なので、本人のいないところではその人の話をしないのが一番ローリスクという教え。　【用例】　lcdl dɔʃı 今話題のケーキ　nıʃ bın ʃccnı ᴅcl lı dɔʃı ɑeᴅe le nɔn en jeɥ. 彼女の話は私の知らない時代の風景がでてくるのでとても楽しい。　ın jccnı lɔɔʅ ılen lej ʃcl ɑılcj nɔzeʃ ɔuıen ʃc. ʃıl ın dɔʃı ɥcj ɑılcj ʅıen ʅılɑcı ᴅın ın ıılı lccj jen ʅlɔj nɔzeʃ ɔn ʃə. 君のように自分の正義を持っている人と話すのは好きですが、カルディアの正義を話題にするのは嫌です。というのも、それについて自分の主張を曲げることができないからです。

dɔʃılɔ ［娯楽］インドアな遊び、内遊び、家遊び、中遊び、うち遊び　［レベル］3　1L

dɔʃıɑc ［言語］文中音調　［レベル］5　1L　［語法］　音調のうち、文中に来るもので、ȣ などよりも小さく書かれる。

dɔʃc ［数学］プラスマイナス、正負、符号　［化学］極　［レベル］4　1L:dɔʅ/ʃcɑ

dɔʃcʃɔʅɔ ［化学］極性→ ʃɔʅɔ　［レベル］5　1L

dɔʃɔ,ɑ　dɔʃ　e

dɔʃɔʅ ［言語］主題　［類義語］jɔc　［レベル］4　jᴅ;dɔʃɔ/lə「口の中（にあるテーマ）」　J?　x:x:x:oınʅən,ılʃ　［文化］　jɔc

dɔʃɔᴅ ［生物］胎児　［レベル］4　ɥɑ;dɔʃ/ʃɔᴅ「腹の中」　J?　［語法］　胎生の動物の母体の中で胚が器官原基の分化が完了してから出産までの成長中の子を指す。

dɔʃɔᴅɑeᴅe ［地学］［歴史］冥王代　［レベル］6　ul;/　J?　［文化］　φııueɑeᴅe　アトラス誕生～約３８億年前（または４０億年前）の約７億年間を指す。始生代の前の時代である。　この時代に地球が形成され、地殻と海ができ、有機化合物の化学進化の結果最初の生命が誕生した。

dɔʃen ［接続詞］dɔʃ。中の。　［レベル］3　J1

dɔʅ ［数学］［名詞］［形容詞］正号、プラス　［数学］正の数、正数← dɔʅıll　［名詞］［形容詞］陽性。検査などで使われる陽性。　［化学］正極　［反意語］ʃcɑ　［レベル］4　古 : 語源不詳。多数が造語に部分的に関与していると見られる。語源は首か？　［語法］　ʃcɑ

dɔʅʃ ［医療］はしか、麻疹　［レベル］5　ᴅel:lılʃı

dɔʅʅı ［化学］陽極、アノード　［レベル］5　1L

dɔʅj ［医療］てんかん、癲癇　［レベル］4　古 : 語源不詳

dɔʅnı ［名詞］好意的なプラスの気持ち　［反意語］ʃcɑnı　［レベル］3　J0

dɔʅl ［サール］ポクル　［レベル］3　jeɥen: 古 :dɔ/lcl（首を切る）　［文化］　生きた刃。首を出して寝ている人の首を切って殺すサール。ギロチンの刃の形をしている。刃だけの存在であり、台はない。

dɔʅıll ［数学］正数、正の数　［反意語］ʃcɑıll　［レベル］4　ɥɑ;/　J?

dɔʅcɥɔj ［化学］陽イオン、カチオン　［レベル］5　1L

dɔleʃ ［経済］供給　［動詞］ɥəl を ı に供給する、供給する、サプライ　［電算］サーバー　［レベル］4　メル・アルカ : ソーン由来の様子。

dɔj ［動詞］ɥəl をのぞかせる、のぞかせる、覗かせる、覗く、はみでる、はみ出る、のぞく、はみ出す、はみだす　［名詞］ちり、チリ→ lec　［レベル］3　1L:ɥelezɔnı:dɔ/jɔ（首する）　【用例】　oe(ılʃe, ʅeʃ dɔjej ɔjn c ᴅɔʅʃ. ちょｗ、猫がベッドから頭だけ出してらｗ

dɔjı ［被服］ネクタイ　［レベル］3　ᴅelʃcı　JL1:lənɔ;dɔ/jıbe　19: 制 :dɔjıb　dɔjı:dɔjı　【用例】　ıɥ{jıb} dɔjı ネクタイを締める

dɔjcdᴅ ［医療］脱肛（直腸の）　［レベル］5　1L

dɔjcdı ［医療］脱肛（痔核が外に出たもので、直腸脱の脱肛とは異なる）　［レベル］5　1L

dɔjɔs ［生物］頚椎　［レベル］5　1L

dɔjɔsφelu ［医療］頚椎捻挫、外傷性頚部症候群、むちうち、むち打ち、鞭打ち、ムチ打ち　［レベル］5　1L

dɔje ［被服］襟、衿、カラー、襟元　［レベル］3　zφ; ↓　古 :「服の首」　dɔje:dɔje

dɔn ［医療］肺気腫の腫など、異様に膨らんだ部分を指す。腫瘍とは異なる。　［レベル］4　古 : オノマトペ。乳房などと同じ語源。

dɔn(J) ［擬態語］［形容詞］ぷにぷにした、プニプニ　［レベル］3　古

dɔn(ʔ) ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。 ［レベル］２ μɑ; 丸っこい感じの ɑɔueʃ に指小辞の n が付加したもの。 ɿʔ ［文化］ ɪnlɒeu

dɔn,ɪlʃ ɟeʃe

dɔnʃ ［交通］交通 ［レベル］３ 1ʃ: 制 :dɔnle（道を行く）［文化］ → ɪɒɔ、lɔd、ɑɔnʃ、ləzφcn ・道路の種類 道路の種類については ɑɔnʃ を参照。 最も大きい道路はアルミヴァ通り。バイクやルームは車道を走る。 ・信号機 信号機は日本と同じく車用と歩行者用がある。歩行者用は上下二段で、上が赤で止まれ。下が緑で歩け。自動車用は左右３列で、右から赤黄色緑の順。革命後は色弱者のために赤はオレンジがかっていて、緑は青味がかっている。 交差点は大きいところだとスクランブル交差点。こういったところでは歩車分離式信号を使う。日本と同じく小さい交差点では歩行者用の信号がないところもある。また自転車レーンは小さい道路にはない。小さい道路では自転車や車や人が同じ道を歩く。 ・監視カメラと交通事故 大きな道路や大きな交差点には監視カメラがあることがある。また交通事故の発生率が多い所にも監視カメラがついていることがある。 交通事故が起こった場合一番罪が重いのは車やバイクであり、自転車がその次。歩行者は基本的に守られる。 ・鉄道 アルバザードでは地下鉄が発達している。円形都市内では地下鉄しか存在しない。地上を走る電車は郊外を走る→ lɔd ・その他の乗り物 観光地等では人力車や馬車が走っている。特に古い城下町の石畳のエリアではこういった乗り物が多く見られる。 【用例】 ☆ ɑɔnʃ eɒ ɑeɥə 交通が麻痺する：dɔnʃ でなく ɑɔnʃ を使うこと。 ɔlʃɪ dɔnʃ eɒ ɾɔlc, ɪn nɪ nɪə cɒ ɟie ɑɔʃ. たとえ混乱が起こっても、私は大雪が降ると嬉しい。 ʃcl dɔnʃ ɥɔɪ 交通の便が良い

dɔnʃɪʃɪ ［法律］交通刑務所 ［レベル］４ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 一般の刑務所とは異なる。ややまったりムード。意図的に轢いた場合や飲酒などの悪質な違反があった場合は入れない。

dɔnʃɟɔɑɪ ［交通］交通事故 ［レベル］３ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ → dɔnʃ

dɔnʃφɪμʃ ［交通］交通費、足代 ［レベル］３ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

dɔnʃlcznɔ ［政治］交通庁 ［レベル］４ 1L:μcɑcɪ:clɒəɟ ［文化］ 開発省下。国土交通省に相当。

dɔnʃɪ ［名詞］レースキャップ、コイフ ɟɒ;ɑɔueʃ。頭にポンと置くときの音。親がそう言いながら子供の頭にかぶせたことから。 ɿʃ ［文化］ ɟɒ にできた子供用の帽子で、裕福だとレースが付く。μɑ でも一般的にかぶっていた。特に女の子がかぶった。

dɔnʃe ［生物］肉球、蹠球 ［レベル］３ ɿ0:dɔn（オノマトペ）/ʃe

dɔnl ［動詞］ɥəl を腫らす、腫らす、腫れる、はらす、はれる ［レベル］３ lɪlʃɪ:dɔ は「膨らんだ」【用例】 lɪɟ eɟ dɔnl. 手がはれている。

dɔnlμɔd ［医療］ものもらい ［レベル］４ 1L:ɟeμen

dɔnɟ ［動詞］ɥəl を ɪ に配る、配る、配給する、割り当てる、配属させる、配信する、わりあてる、分配する、回す、配分する、配給する ［普通動名詞］配り、配給、割り当て、配属、配信、分配、配分、配給 ［動詞］ɪ に話題を降る。この場合、ɥəl は発言権や機会などだが、通常省略される。 ［数学］分配する ［運動］サーブ ［反意語］ɪldɔnɟ ［レベル］２ lɪlʃɪ 【用例】 ʃe dɔnɟ ɪl ɪn μɪɟɔlʃɪ ムチャぶりすんなｗ

dɔnɟlɪlc ［料理］取り箸、取り分け箸 ［レベル］３ ɿɿ

dɔnɟφel ［運動］バレーボール ［レベル］３ 1ʕ: 制

dɔnɟeʃ ［娯楽］カジノ、賭博場 ［レベル］３ zφ;dɔnɟ/ʃe zφ い存在したカード賭博場が語源。カードを配るところから dɔnɟ が来ている。 ɿ1 ［文化］ → ləzφcn、lɪʃɔɟ

dɔnnc ［卑語］ちんげ、ちん毛 ［レベル］４ 1L:dɔnnɔ/cnc

dɔnnɔ ［卑語］ちんこ ［レベル］３ ɑ;dɔnnɔn「膨らんだもの」 llccz: 古 :dɔnnɔ（ちんこ）。元は女性器を意味した。dɔnnɔ の語源は dɔnn ɔn で、dɔn も nɔn もオノマトペである。dɔn はふくらんでいることを示すオノマトペで、nɔn は広がっていることを示すオノマトペで、それぞれ恥丘と陰唇を開いたときの様子を指している。造語者はクリス。ɒelʃ ごろ、彼女は男子に女性器の様子を婉曲的に教えたことがあった。クリスは女性器の様子を dɔnnɔn としたものだと語った。それがきっかけで女性器を dɔnnɔn と言っていた。始めは婉曲用法だったが、徐々に卑語になって、使われなくなっていった。このとき既に語形は dɔnnɔ に変化していった。「まんこ」は ɒɥəlɪ(穴) で代用されるようになったので、dɔnnɔ は廃れた。暫くして性の知識の浅いメルが dɔnnɔ を久々に使ったが、そのとき彼女は dɔnnɔ を男性器の意味で用いていた。性の知識が少なかった当時のメルにとって dɔnnɔ は人体の股の部分を指すものだと捉えられていたのだと思われる。だからメルは男性器も dɔnnɔ と呼んだ。それ以降、男性器は dɔnnɔ と呼ばれていくようになった。因みに、dɔnnɔ は後にホモも指すようになった。その後、ɒɥəlɪ が「まん穴」の隠語になると、女性器そのものを表わす言葉がなくなり、女性器を表わす語の必要性が男子を中心に起こった。男子は女性器を ɒeɒdɔnnɔ と呼んだ。ɒeɒ は包み込むという意味である。これを「まんこ」の代わりとした。ところが ɒeɒdɔnnɔ は直接的過ぎるということで、やがて略されて ɒeɒdɔ と呼ばれるようになったが、これもすぐ卑語になって今に至る。 【成句】 lɪ ʃcleɟ ʃɪ dɔnnɔ. あの男は二股をかけている。：この意味の場合は、二股が進行中であれば ʃcl でなく ʃcleɟ を使う。ʃcl clʃ でかつて浮気をしていたの意味になる。２本の男性器を持つ→二股をかけるという意味。 【用例】 hcɒzɔn

dɔnnɔn ［幼児］ちんちん ［レベル］２ 1ʃ: 制 : 古 :dɔnnɔ（ちんこ）に指小辞の n を付けたもの。 ［語法］ 卑語でないことから、大人でも比較的気軽に使う。

dɔnφ ［名詞］コルク ［レベル］３ lɪlʃɪ: ワインにはまっているコルク栓を抜いたときの音から

dɔnz ［動詞］ɥəl を ɪ のためにどける、どく、どける、どかす、どかせる、かき分ける、道を開ける、道を譲る、邪魔なものを取る、除く、道路の端などに寄る ［反意語］ɪldɔnz ［レベル］２ 1ɾ: 制 :dɔn（道）から

dɔncɪlɪ ［美容］襟足、えりあし ［レベル］４ ɿ1

dɔu ［動詞］ɥəl を締める、締める、絞める、しめる ［音楽］テンション ［レベル］３ ɟeμʃ:dɔuc,ɑ 1ʔ: 制 :deu dɔuc:dɔuc 【成句】 dɔu dɔ lɔn eμcɪ 水で首を絞める：真綿で首をしめる

dɔun ［動物］ナマズ、鯰、キャットフィッシュ ［レベル］４ lɪlʃɪ ［文化］ 地震を予知するような認識は持たれていない。食用もされず、身近でない魚。

dɔuɪcl ［生物］頸部 μɑ;/ ɿʃ

dɔuc,ɑ dɔu 「首に力を込める」

dɔucʃ ［音楽］ホーミー ［レベル］６ ɿ1:「締め付けられた」

dɔɑ ［料理］パン ［レベル］１ lɪlʃɪ: パンのふっくらした感じを示すオノマトペ ［文化］ 主食のひとつ。日本における米ほど主食ではない。ふつうアルバザード人は男女とも自分でパンが焼ける。 パン屋は昼（１０時）から営業。午前中にパンを焼く。 菓子パン以外は前日焼いたものを売る。 午前中焼いたものは夕方から売り出す。焼きたてパンは胃での消化が悪いため、アルバザード人は食べない。 夕方にパンを買って帰る人も翌日に食べるために買うことが多い。

dɔɑʃ ［名詞］パフ、化粧道具のパフ ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :dɔɑd

dɔɑʃe ［形容詞］［ポジティブ］人や動物がふくよかな、パンなどがふっくらした、ふくよかな、ふっくらした ［文字］ファット ［類義語］sɪl ［反意語］ɥəɒelc ［レベル］３ ɿ0: パンのような 【用例】 leʃ dɔɑʃe ふっくらした猫

dɔɑlɔɔb ［被服］トールラウンデットクラウンハット μɑ;/。パンの形をしていることから。 ɿʃ ［文化］ ɟɒ でできた。

dɔɑɪ ［名詞］クッション、座布団、衝撃吸収剤 ［レベル］２ 1ʃ: 制 :dɔɑɟlcn から

dɔɑɪʃe ［名詞］パン屋 ［レベル］２ ɿ1 ［文化］ dɔɑ 『ねこの郵便屋さん』参照。

dɔɑc ［料理］イースト ［レベル］４ 1ɾ: 制 :dɔɑ

dɔɑɔ ［料理］パン粉 ［レベル］３ 1ʕ: 制 :dɔɑ

dɔɑɔl ［名詞］コミュニティ、コミュニティー、集まり、会、会合 ［類義語］cʃɪ ［レベル］４ μɑ;dɔɑ/ɔl「パンを～とともに→パンをともに食べる者」 ɿʔ

dɔɑeɑɪn ［魔物］ポフエダン（麺麭婆）：第八十四天：利の幻天 ［レベル］５ 1L:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel: パンおばあちゃん ［文化］ 妖族。老婆の姿をしており、籠にパンを入れている。ややボケ気味で、よくわからないことを口走る。イライラせずにふつうに親切に接してあげるのがよい。素直にしていれば可愛がってくれる。気に入られるとたまにパンをくれる。とてもおいしい。

dɔɒ ［名詞］ずた袋 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 僧などが首にさげる袋。dɔɒeɟl（首の袋） ［文化］ μɑ までは首から提げて使った。

dɔɒ(ɿ) ［幼児］ふくらみ、膨らみ ［レベル］２ 1L: オノマトペ ［語法］ コブという意味では lnɔb と同じ。膨らみという意味では ɑɪb と同じ。dɔɒ はやや幼児語的。

dɔɒ(ʔ) ［生物］くるぶし、踝。通常拘束形態素として使う。つまり単独の場合は ləoɪdɔɒ などという。 μɑ;/ ɿʃ

dɔɒdɔ ［幼児］おちんちん ［レベル］２ 1Δ:ɒel:dɔnnɔn でも直接的だと考えたメルがユルトのおむつ変えのときに言い出した語。

dɔɒdɔɒ ［俗語］［婉曲］おっぱい ［類義語］ɒɪɒ ［レベル］１ 古 : オノマトペから。dɔɒ 一つが一つの乳房を表わす。

dɔφɪləoɪ ［生物］首腹手足、ポガルワ ［レベル］４ ɟzɑ;/ ɿ1 【成句】 ɒelʃ dɔφɪləoɪ 頭寒足熱 ［文化］ ルクレティアの概念で、人体の暖めるべき重要な部分をまとめたもの。ɑ の身体語彙を集めたもので、ɟzɑ を使っていないのは語形が長くなるのを嫌ったため。例えば ɟz を使うと dɔ だけで dlce になって長たらしい。このうち dɔ は lɔlɔn のこと。 ɒelʃ dɔφɪləoɪ は頭寒足熱の意味で使われる。 dɔφɪləoɪ だと細かく暖めるべき部位が分かる。この概念を知っている人間から見れば頭寒足熱は大雑把でいい加減だと感じる。ルクレティアで暖めるべき部位はまず首で、次に腹、そして手足と続く。ここを暖めると筋肉が弛み、血流が改善し、凝りも取れ、自律神経も安定する。 「頭寒足熱」は実はあまり正確でない言葉である。頭寒足熱と聞いて首まで冷やしてしまう者がいる。ところが首は冷やしてはならない。健康グッズには頭寒足熱をうたうものが多い。ところがたいてい上から下にかけて徐々に暖かくなっていくだけの仕組みが多く、非常に不正確である。こういう商品では頭部の温度が低く設定されているので、付随して首の温度も低い。正しくは頭部が涼しく、首が暖かくあるべきである。 なお、冷やして良い部分は額。ただルクレティアでは基本的に人体は冷やさないほうがよいとされるため、冷やして良い部位自体が少ない。

dɔd ［形容詞］厚い、厚手、厚手の ［反意語］ɑeɑ ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 :dɔɒd,dɔdd。太った様子を表わすオノマトペから。 【用例】 ɪn ɪlɟɪbɪʃ ɟɪb dɔd ɒcl ɪlʃe. 春になったので厚い服を脱いだ。

dɔdllel ［名詞］大辞典 ［レベル］６ μɑ;/ ɿʃ

dɔdɟ ［料理］酵母、酵母菌 ［レベル］５ 1ʔ: 制 :dɔd（膨らんだ）

dɔdɑlel ［音楽］ヴィオラ、ビオラ ［レベル］４ ɿ1

dɔdɑcɪl ［料理］ホットケーキ ［レベル］２ ɿ1: 厚いクレープ ［文化］ 名前にクレープが入ってはいるが、別の食べ物。

dɔddɔ ［幼児］おちんちん ［レベル］２ 古

dɔddɔn ［娯楽］ポッポン ɿ1: 擬態語 ［文化］ 『星のカービィ』に相当するゲーム。

dɔdlc ［亜魔］ポプリ ［レベル］４ bφ;dedl,bφ ɿ1 ［文化］ ヴェイガンの

亜魔族。ぱっと見人間と外見の区別がつかないが、成人しても小学生程度の大きさにしかならない。いわゆる小人族。人間との見分けは頭の角。小さい角が生えている。

dɔdı ［交通］信号機、交通信号 ［レベル］2　1ꟿ: 制 :dɔnıdı ［文化］ → dɔnſ 【用例】 ☆ ın lıſ dɔdı ı ɑccı. 私は信号が青になるまで信号のところにいた。

dɔdılȷ ［生物］首の脈、特に頸動脈 ［レベル］3　1L:ȷɔnɔhcnɔ̀lc

dɔdel̀ ［料理］ステーキ ［レベル］2　µɑ; ↓　ꞁ0:dɔdl̀:1ʔ: 制 : 厚い肉。ステーキはやや厚く切った肉を直火で焼いたもの dɔdɥel̀。 【用例】 ın l̀əcſ dɔdel̀ cɒ ɑənel. 夜はステーキだった。

dɔdel̀ıſe ［名詞］ステーキ屋、ステーキハウス　µɑ;/　ꞁꟿ 【用例】 ın lı ſəµ dɔdel̀ıſe. 今ステーキ屋にいる。

dɔb ［被服］マフラー、襟巻き ［レベル］2　1ʔ: 制 :dɔȷıb 【用例】 ın lɔbıſ dɔ ɔ ſeɒ l̀ɔn dɔb. マフラーで耳と首をくるんだ。

dɔh ［名詞］首吊り ［動詞］ɥəl に首を吊らせる ［レベル］3　1ʔ: 制 :dɔhıld

dɔhıɑcȷ ［法律］絞首刑 ［レベル］4　1L ［文化］ 特に付加罪がない場合に適応される軽い死刑。

dɔµ ［形容詞］予めの ［反意語］ɑclȷ ［レベル］2　古 : 前もって〜する 【成句】 dɔµel やはり、やっぱり、ほら見たことか : 通常悪いニュアンスとして使う。

dɔµl̀lıl̀ ［動詞］ɥəl（内容）を ı（視聴者）に予報する、予報する、予告する ［普通動名詞］予告、予報 ［レベル］3　1L

dɔµl̀ıµſ ［経済］プリペイドカード ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelſ ［文化］ アンセしか持ち歩かないのでアルバザードではプレゼントの商品券としてしか存在しない。

dɔµlɔɔl̀ ［建築］談合 ［動詞］ɥəl について ı と談合する ［レベル］5　µɑ;/　ꞁʔ

dɔµȷeµ ［動詞］ɥəl を予知する、予知する、予測する ［普通動名詞］予知、予測 ［レベル］3　1L:clɒəȷ:µcɑcı 【用例】 ɥəə dɔµȷeµıſ ȷen senſ cɒ ɑcȷ. 今日は予測のできない天気だった。 ſəɔ, el dɔµȷeµ ucl senſ. 最近、天気を予測できない。

dɔµnı ［普通動名詞］予想 ［動詞］ɥəl を予想する、予感する ［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcȷ

dɔµncɑ ［言語］事前段階 ［レベル］4　ꞁ0 ［語法］ 単位動詞の３分割のうち、中間の区間。将然〜経過の区間のこと。

dɔµuıɑe ［名詞］予防 ［動詞］ɥəl を予防する。予め守るの意味の予防。 ［レベル］3　1L

dɔµuenſlcıɒ ［経済］新株予約権付社債　ꞁꞁ

dɔµɑel ［名詞］［動詞］ɥəl を予習する、予習する ［普通動名詞］予習 ［レベル］3　1ꟿ: 制 : 予め勉強する

dɔµɑcl ［動詞］ɥəl を予防する、予防する。予め邪魔して防ぐの意味。 ［普通動名詞］予防 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 前もって防ぐ

dɔµφıl̀ ［経済］前払い ［レベル］3　1ʔ: 制 : 前に払う

dɔµφcl ［経済］引当金 ［レベル］5　1L

dɔµbıφ ［医療］前揉法、前揉撚　µɑ;/　ꞁꟿ

dɔµµeſ ［経済］予約 ［動詞］ɥəl を ı（申請先）に予約する、予約する ［レベル］3　1L

dɔµµeſlınφ ［経済］新株予約権 ［レベル］6　1L

dɔµlıȷ ［普通動名詞］前戯 ［動詞］ɥəl に前戯する、前戯する ［レベル］5　ꞁꞁ

dɔµlɔ ［動詞］ɥəl を予想する、予想する、想像する ［普通動名詞］予想、想像 ［レベル］3　1L:lcɔn 【用例】 ın en dɔµlɔſ ſcȷ ȷɔı eɒ ȷɔɑ. そんなことが起こるとは想像だにしなかった。

dɔµılſ ［普通動名詞］［名詞］［動詞］下書き ［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılſe

dɔµıucnıll ［経済］景気先行指数　ıl;/　ꞁʔ

dɔµıll ［数学］期待値 ［レベル］5　1L ［文化］ ſȷeſſı e ɥəlcı

dɔµeeſ ［経済］ワラント、新株予約権証券　ꞁꞁ:dɔµµeſlınφeeſ

dɔɔıl ［生物］大椎 ［レベル］6　ꞁ1: 首の目立つ椎

dɔl ［地学］地域、地方、地帯、ゾーン、エリア、地区、特区、地域社会、コミュニティ、特別な場所、圏 ［類義語］dɔl̀lı ［レベル］3　1ʔ: 制 :del 【用例】 dɔl hın 広範囲、広い地域、広域

dɔlſɔn ［代詞］［ɒɒı］アタシらの ［レベル］1　ꞁ1:sccl/µelezɔnı:dɔlſe/n

dɔlſe ［代詞］［ɒɒı］アタシら ［レベル］1　ꞁ1:sccl/µelezɔnı:dɔ/ſe「ふくよかな」

dɔl̀lı ［名詞］漠然と場所、エリア、一帯 ［電算］欄 : 検索欄などの欄 ［レベル］3　ꞁ0

dɔlen ［アトラスの国家］ポレン、ポーレン ［レベル］5　ꞁʔ:µcɑcı

dɔleıȷ ［生物］頸動脈、頸動脈 ［レベル］4　ꞁꞁ

dɔləȷ ［被服］ブラゲッセ、ニッカー　ȷɒ;dɔſɔ/ləȷ「スカートの中に」 ꞁꟿ ［文化］ ȷɒ で娼婦がスカートの下に履いたズボン。スカートをチラッとさせてブラゲッセを見せて誘惑するために履いた。

dɔı ［医療］腫瘍 ［レベル］4　古

dɔıɑcȷ ［法律］斬首刑　1L ［文化］ 首を切り落とす刑。特に付加罪がない場合に適応される軽い死刑。

dɔcſ ［数学］［地学］角度、度 ［類義語］ſcl̀ ［レベル］3　ꞁ0:dɔ/cſɔ（首の傾く数値。天文観測の仰角が元になっている） ［語法］ ꞁꟿ ごろまで dɔcſ 1Δ0 のように設定してあったが、紫亜や周りの大人は ꞁʔ ごろから既に 1Δ0 dɔcſ と言っていた。なのに辞書は φɔl ᛘ のように書いてあり dɔcſ には用例がひとつも載っていない状態であった。それで φɔl の用例を直して dɔcſ にも用例を加えた。　という経緯からも分かる通り、もともとセレンが設定したときは数値が後置だったが、いつの間にかユーザーによって数値が前置に変わっていたということである。 ［文化］ ・円の角度　ɑu の時代に円の角度は３６０と神々と悪魔が定めた。これはアトラスが約３６０日で太陽の周りを一周するため、３６０を円の角度にすると１日１度動くと計算でき、区切りがいいためである。また３６０という数はアルミヴァの１２神の影響で１２進数の影響があった神代においては区切りがいい数なため、それもあってなお採用された。３６０は１２の倍数なので区切りがいい。 【用例】 ʔʕ0 dɔcſ ３６０度

dɔcn ［動詞］ɥəl を覗き込む、覗きこむ、覗き込む ［レベル］3　1L:ɒelc ɑcı ılſe ［語法］ 例えば横に座っている人が俯いたとき、顔を見るには首をくいっとまげて下からのぞきこむようにするが、あの動作のことを言う。

dɔɔſ ［植物］小麦、コムギ、麦 ［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbılelſ:dɔɑ/ſəl̀ leſı:

dɔɔl̀ ［名詞］ドーム、丸天井 ［レベル］3　1ٯ: 制 : 古 : たくさん食べて張った腹を dɔɔ といったことから。

dɔɔlſ ［被服］首輪 ［レベル］3　1L: リディア

dɔeſ ［医療］嚢胞　1L:dɔn/eµcı

dɔen ［サール］ポエン ［名詞］３時 ［名詞］東 ［交通］ポエン通り ［音楽］レ ［組み数字］３/１２ ［類義語］den ［レベル］2　ɒelſcı ꟿ:dɔen;e　µcɑ cı: 古 ［文化］ アルミヴァの３番目。サールの左腕から生まれた。ヴァルゾンの妹。獣の王。元は獏の姿をしていたという設定があったが、ティクノの妻となり、アルデスを生むことから、後にキャラ設定が格上げされた。アルデスとフェルデンとテュアの母で、獣王であり、自らの中に草食の穏やかな性格と肉食の激しい性格を飼いならしている。普段は大人しいが、一度怒るとティクノも手を焼いてしまう。

dɔəl̀ ［形容詞］例の ［名詞］例の件 ［レベル］3　1L:dɔꟿ:1ʕ: 制 :dɔꟿəə（口の中）から。話題のと同じ。

de,ɑ　deȷ　elſ;e

deſſ,lɥ　deɑ

deſȷ ［料理］ウィスキー、ウイスキー ［レベル］3　µɑ; ↓　1ʔ: 制 :deȷſȷcȷd（大麦で作った蒸留酒）。deȷd にすると deȷµ とコンテクストを共有するため、誤解の可能性が増えるので遠ざけて deſȷ にした。 ［文化］ ȷcȷd

deſcɑ ［動詞］ɥəl を c から取り返す、取り返す、奪い返す、取り戻す ［レベル］3　µɑ;deɑ/ſıɑ　ꞁ0:ɒelcɑcı lceµ:deɑ/ſıɑ

deſcc ［人名］ペティ　ꞁ0 ［文化］ (ɥəəɒı ᛘꟿΔ1:(ᛘꟿL1:)) メルテナ後期のレスティル女王。わずか１０歳で即位したため、摂政が生まれた。

del̀lı ɑcȷſ ［人名］ペッカ＝ディスト　µſ;dcl̀lı　ꞁꞁ ［文化］ del̀lıl

del̀lıl ［電算］［工学］真空管 ［レベル］6　µſ:del̀lı ɑcȷſ;del̀lı/ıl　ꞁꞁ ［文化］ ꞁΔΔ　ペッカ＝ディスト、真空管を発明。二極真空管。ꞁ年後には三極真空管も発明

del̀l ［名詞］技術、テクノロジー、科学技術 (l̀ıɒcdel̀l)、テクニック、ハイテク ［レベル］3　lılſı ［語法］ 最近の技術をとりわけハイテクと呼んで言い分けるようなことはしない。技術もハイテクも del̀l。 【用例】 del̀l ȷıɒ 新技術

del̀luınſcȷ ［軍事］工兵 ［レベル］4　1L:µcɑcı

del̀lın ［名詞］技術者、職人 ［レベル］3　ꞁ0 ［文化］ 理系の技術者は文系・芸術重視の現代では専門職として扱われ、尊敬というよりはどこか別の世界の人という目で見られる。一方、文系・芸術の職人は文化を重んじるアルバザードでは尊敬され、地位も高い。なお、理系というのはあくまで機械を使った場合を指す。アルバザード人は機械が嫌いなので、機械を使った技術者を見てもピンとこず、凄いと思えない。数学の天才などに対しては尊敬する。

del̀lczɒ ［経済］技術革新、技術革命、イノベーション ［レベル］4　1L

del̀ɔȷ ［動詞］ɥəl に媚びる、媚びる、こびる、へつらう、媚びへつらう、こびへつらう、へこへこする、迎合する ［レベル］3　ɑu;de/l̀ɔ/ȷɔ「悔やむ / 内側に / する→心が中に引きこもって悔やむようにする」 古 : ↑。「ペコペコするでペコス」と覚えるとよい。

del̀ɔȷɥəſı ［動詞］ɥəl を迎合する、迎合する ［レベル］4　µɑ;/「へつらい受け入れる」 ꞁʔ

dele ［名詞］如雨露、じょうろ ［レベル］3　ꞁ0:dle:1ꟿ: 制 : 古 :bəl するもの

deȷ ［名詞］後悔、悔やみ、慙愧 ［類義語］φıleɒ ［レベル］2　ɑµɑ;de,ɑ.l 1ꟿ: 制 : 古 :de　de:deȷ 【用例】 ɑen nı deȷ, ſə eſ ȷıcı. 後悔しても仕方ないよ。 ın en nı deȷ ɒeµel. 何の後悔もない。 ın l̀ılɒı nı deȷ. 後悔していることが多い。 ın nı deȷ ɔn nɔȷ ȷɔſ. 自分のしたことを後悔している。 ın nı deȷ ɔn nɔȷ en ɑelıſ. 勉強しなかったことが悔やまれる。 ſə eſ lcɑ lel el nı deȷ. 後悔しても仕方のないことだ。 ın sılıſ nɔȷ nı elɑ deȷ ɒcl ueµȷen ſcȷ. ささいなことで悩まないことにした。 ın ȷɔ uın enzel lını ın en nı ȷcl deȷ. 後悔しないように最善を尽くしたい。

deȷſɔ ［地名］ペスト ［レベル］5　ꞁ1:lɥ「石磨きの」 ［文化］ デニエの東南部にある都市。果樹やオリーブが盛ん。

deȷſɔn ［料理］オーディナリーバージンオリーブオイル　ꞁ1:「ペストの」

deȷµ ［料理］ビール ［レベル］3　µɑ　1ʔ: 制 :deȷſµce（大麦からできた酒） bıſſȷ:bıſſȷ ［文化］ 冷たいビールを飲むのは禁忌とされるが、結局飲む人も多い。健康には非常に良くない。ぬるめがいい。　上面発酵のエール (hıldeȷµ) と下面発酵のラガー (ɒɔldeȷµ) に分かれる。

den ［遊離副詞］［形容詞］ますます、どんどん、いっそう ［レベル］2　ɑ;e 古（いっそう、ますます） ［語法］ 文頭だと el がない傾向に。 【用

例 ɥeʃ eɒɪʃ ɥɪɒ denel. 事態はますます悪化した。

den(ɺ) ［サール］dɔen の略称 ［組み数字］３/ １２ ［レベル］１ ɺɺ

denʃ ［感動詞］残念だ、すみません、失敬、失礼 ［動詞］ɥəl（相手）に申し訳なく思う ［レベル］１ 古 :denʃ,den は後悔を表わすエクスプローダーの女性形。uɪnʃ と比較。 ［語法］ uɪnʃ

denʃɪnʃ ［感動詞］非常に残念だ、すみませんでした、かわいそうに ［レベル］１ 古 :uɪnʃɪnʃ と uɪnʃ の関係を denʃ にも当てはめたもので、古からあった。 ［語法］ denʃ より丁寧。

denlcl ［名詞］ペンシル、小さな邑、邑 ［レベル］５ ᥫ:lc;dɪn/ɥəlclɔ,ɑ ɺ1:ɒel ［文化］ denlcluɪncɪ 六角形の小さな邑。ɪleʃ が置かれた。

denlcluɪncɪ ［地名］ペンシルヴァニア ［数学］魔六角陣、六角魔方陣 ᥫ:lc;denlcl/uɪncɪ,ɑu ɺ1:ɒel:「ペンシルの街」［文化］ denlcl を六角形に１９個集めたバルマーユの大都市。ᥫ で ᑫ900ɥɒ ごろ、悪魔パンが建設した。ɪleʃ は各 denlcl に１～１９のいずれかの個数が置かれている。六角形の置き方は上から順に以下のとおり。数字は各 denlcl にある ɪleʃ の数。一列ずつ書くが、このリストだと六角形には見えないだろう。これを１９個の六角形から成る大きな六角形になるように配置する。例えば中心には ᛚ の denlcl が来て、頂上には ʔ が来る。 ʔ 1L 1ᑫ 1ʕ ᑫ 1Δ ɺ1 1ɺ ᛚ 11 ᥰ ʕ 10 Δ L 1ʔ 1ᥰ 1ᛚ

出来上がった六角形を見ると、縦横斜めどのルートを通っても数字の和が３８になる（この図の場合は横に並ぶラインはないので縦斜めだが、反転や回転や書き方によっては横斜めで揃うこともある。いずれにせよ回転系などなので、同じことである）。従って denlcluɪncɪ のどの街境を警護しても、必ず ʔΔ ɪleʃ を通過しながら一定量を回復できる。もしこの魔方陣がなければ ɪleʃ の無駄遣いが起きるか、あるいは回復量が一定にならず、戦略を立てにくい。言うまでもなく回復量の弱いルートを守るところから穴を開けられてしまう。辺が３の六角形で整数（ɪleʃ は分解するわけにいかないので）で魔方陣が成立するのはこのケースだけであり、反転回転を除いてほかにない。

外側の denlcl には街境を守る兵の代わりが控えており、前線が撤退すると交替する。撤退した者は回復しながら反対側に出ることができ、即座に逆方向の防衛に出れる。同時に逆方向の前線とバトンタッチし、逆方向にいた者は相手が来たルートを遡って回復し、相手が元いた場所の前線に出れる。従って外周 denlcl に２名ずつ護衛がいればよいことになる。

denlcl ［化学］カリウム ［レベル］４ 1Δ: 制

deɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に返す、返す ［副詞］お返しに、仕返しに、～しかえす、～し返す ［普通動名詞］返却、返還 ［形容詞］返された ［経済］返済する ［経済］償却する ［レベル］２ ʃɒ;dɪl/ɑəʃɔ 1ʔ: 制 : 古 :dɪlɑəʃɔ（後ろに与える）【用例】 deɑ ɹenʃ お礼をする、お返しになにかをする

deɑuɪnɒ ［軍事］反撃 ［レベル］３ 1L:ɥcɒcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［語法］ ɪluɪnɒ のカウンターはユベールのカウンターなどのことで、敵の攻撃を流しつつ攻撃すること。deɑuɪnɒ はやられたので仕返すこと。

deɑucɪn ［物理］応力 ［レベル］５ ɺ0: 返す力 ［文化］ cʃucɪn

deɑheᥫ ［言語］返信、貴答 ［レベル］３ ɺ1

deɒ ［動物］ヒツジ、羊、未、ひつじ ［レベル］３ ɹeɥʃ 1ʔ: 制 :lɪᥫʃɪ:deʃʃ。古では『制定語彙』に基づくと ᥫlɒ で、毛を取るためのヒツジ。 ᥫlɒ:deʃʃ

deɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］おひつじ座 ɺᥰ ［文化］ cɑɪ

deɒe ［被服］毛布、ブランケット ［レベル］３ 1L:deɒ/ɪbe ［文化］ 羊の毛などで作っていた。 【用例】 ɪn leʃɪʃ deɒe ɪl ɔɹn. 毛布を引っ張り上げて頭からかぶった。

deφ ［経済］割戻金、リベート、割戻し金 ［レベル］６ lɪᥫʃɪ

deφl ［化学］めっき、メッキ、鍍金 ［レベル］４ 1ʕ: 制 :ded/φc

deφlʃeɹe ［化学］めっき電池 ［レベル］５ 1L ［文化］ マレット人が作った最古の電池。素焼きの壺に銅の筒を入れ、筒の中に鉄棒を入れ、壺を酢で満たしたもの。当時マレット人がこの電池を何と呼んでいたのかはもはや不明となっている。

ded ［音楽］ダンスミュージック、ダンス ［レベル］６ ɺ1: 床を跳ねるさまから

dedɹ ［被服］スカーフ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 薄いマフラーを意味する ded dɔɹɪb から ɹɪb を省略したもの。

dedl,bφ lcɹ、hɪcʃ

dedɪlnɪ ［音楽］レイブ ［レベル］６ ɺ1

dedc ［名詞］箔 ［レベル］４ 1ᥰ: 制 :dedφc（薄く伸ばした金属）

deɥ ［経済］デリバティブ、派生商品 ［レベル］５ 1L:dɔɥ のアプラウト。未来予想に基づくものが多いため

deɥʃ ［植物］ローリエ、月桂樹、ペイリーフ、ローレル ［レベル］４ ？ 参考 : 古 :φelᥫ というのがあって、これも月桂樹を意味したが、「これを使って花輪にする」が原義で、ギリシャ文化から来ているので排他した。

deɥeʃ ［植物］大麦、オオムギ ［レベル］４ 1L:deʃɥ:1L:ɥcɒcɪ:ɪɥbɪlelʃ:de ɹɥ/ʃəᥫ

dez ［被服］スリッパ ［レベル］２ lɪᥫʃɪ

delʃ ［名詞］式、儀式、セレモニー、冠婚葬祭の式 ［政治］国事行為 ［名詞］行事← ɹɔɒ ［レベル］３ ɹɔɥn

delʃɪɥʃ ［魔法］儀式魔術 ɥɒ;/ ɺᥰ

delɹ ［動詞］ɥəl を悩ませる、悩ませる、悩む、なやませる、困る、当惑する、困惑する ［形容詞］困った、悩んだ、悩んでいる ［名詞］悩み。(nɪ) ［レベル］２ 1ʔ: 制 : クリスがリディアに言った言葉 "ʃcɹ nɪ delɹ"（後悔しちゃだめよ）の delɹ が元。delɹ は de に時制などが付いたもので、これが独立して１つの語となった。リディアは悩み多き少女で、彼女の性質がその語をそう変えた。 ［文化］ ・セレンのメモ 高２のメモを見ていたら、９８年２月１８日（水）に「悩んでいる内容より悩んでいるという事の方が苦しいのではないか」と書いてあって、なるほどその通りだと思い、将来の１２月１９日を伝えてやりたくなった。 【用例】 ɹeɒɔ delɹ 悩みを断つ、断ち切る ɪn delɹɪʃ lɪ ɒcɑel. 彼を煩わせるつもりはなかった。 ɪn ɒɔlɪʃ ucl ɥɪnel ɒɪn nɪ delɹ. 悩みのせいでよく眠れなかった。 ɪn ucnɹɪʃ lɪl cl delɹ. 悩みをすべて捨て去りたかった。 lɪ nɪ delɹ ɔn lɑcɹ. 彼は人生の問題に苦しんでいる。 ɪn delɹɪʃ ɥcɹ lɪ. 彼を煩わせたくなかった。

delɹlɪz ［地学］［歴史］石炭紀 ul;/ ɺʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

delɪɹl ［化学］安息香酸 ［レベル］５ 1L:dɪɪl:ɹdel/ɪɹl の頭音脱落。ɹdelɪɹl だと「ベンゼン酸」のような意味になってしまい、語弊がある。というのも、ベンゼンを含む酸はカルボン酸以外にもありえるため。

delcʃ ［名詞］しかけ、仕掛け、技巧、ギミック ［レベル］３ ɺ0:deᥫl/lcɹ/ʃe（ちょっとした技術）

deleʃ ［名詞］備考、注記、補釈、補注、補遺 ［レベル］４ ɺɺ:ɪd/ɪl/ʃe

deɪ ［言語］格詞、接置詞、前置詞 ［レベル］３ 1ʕ: 制 : 恣意

decɹ ［交通］ガソリン、ガス、ペトロ ［レベル］３ ɺ0:dɹɪ:1ʔ: 制 :ɹɪɒ:dəɹɪd（爆発する気体）【用例】 ɑcʃ{eu} decɹ 給油する

decɹɪʃe ［交通］ガソリンスタンド ［レベル］３ ɺ0 【用例】 ɪᥫl e decɹɪʃe ガソリンスタンドの跡地

dəʃcn ［サール］プティン ［レベル］５ ɒelʃcɪ ɺ1:dəʃcn;ɑɔueʃ ɥcɒcɪ: 古 : オノマトペ dʃcʃ,dʃcn「ぷすっ」。蛇が人を噛む音からだと思われる。 ［文化］ 毒蛇のサール。

dəl,ɹzɒ ᥫəɔ

dəlle,ɹzɒ ueɹn <>dəl

dəd ［動詞］ɥəl を ɪ に吐き出す、吐き出す、ぺっと吐く ［文末純詞］軽視や蔑視の文末純詞。つばを吐くところからリディアが定義。 ［感動詞］もうっ！、こらっ！、ぶー！、ぶーぶー！、プーッ！、ふん、ふーんだ！、あかんべー ［レベル］２ 古 【成句】 dəd ɪ φɪlʃ 誰それの門に唾を吐く: 後ろ指を指される 【用例】 el dəd ɪ φɪlʃ lɪɪʃ. あいつは後ろ指さされている。

dəddə ［文末純詞］［ɒdɑ］もうっ！、ふーんだ→ dəd ［レベル］２ 1Δ:ɥcɒcɪ ［語法］ 純詞 dəd のミリア版、蔑視の度合いが弱く、ふつうからかいや冗談の意味で可愛らしく使われる。

dədə,ɪlʃ ɒcɪcᥫ <>cd

dəɥə ［幼児］［生物］指 ［類義語］sc ［レベル］１ ɹzɒ>lɹl;dɥəcz.ᥫ ɺ1

dəɥ ［動詞］ɥəl をにじませる、にじませる、滲ませる、ぼやける、にじむ、滲む、ぼやーっとする ［形容詞］にじんだ ［類義語］ɹɔɔᥫ ［レベル］３ 古 : オノマトペ。滲むときに広がる音。 【成句】 cnɹ eɒ dəɥ ɒcl enɪ. 涙がこみ上げる。＝涙が溢れる（あふれる）。 【用例】 hɪd cᥫ dəɥ ɒcl enɪ. 文字が涙で滲んだ。

dəɥɑe ［人名］プルフェ ［レベル］５ 古 ［文化］ 1ɺ00 ごろ。第３期アルシェのルシーラ。一期はソーンが勝ち、長いあとの二期は暗殺とも呼ばれるアルシェの病死でソーンが勝つが、ソーンも同時期に殺害され勝者の行方は掴めず。その時のアルシェの息子（娘）の dɥdhɔe が三期のアルシェに。期が変わる毎、或いは代が変わる毎に性別が変わる筈だがプルフェの性別は不明。一期は男だから四期のセレンは女な筈で、どこかで一回例外処理が起こった筈。その為偶数のセレンが男になっている。三期は急進的に使徒を集めたため、互いに外国人を含むいい加減なメンバーしか作れなかった。アルシェはこの時全員が外人使徒だったが、近い場所の外人なので公用語はフランス語などいくつかからなっていたようだ。これは四期に影響した。互いに暗殺を恐れたのは二期の名残だから三期は続く様に思えたが、この頃から争いはなくなり、緩やかな関係になっていき、経済的にアルシェが消滅した頃の６代目にはもはやアルシェもソーンも互いを知らなかった。代は世襲的だった。

dəl ［形容詞］雑な、粗雑な、いい加減な、適当な、乱雑な、詰めが甘い、だらしない、ありあわせで正当でない、ずさんな、軽はずみな、軽率な、眠りが浅い、ぞんざいな ［反意語］ɥɪn ［レベル］２ ɺ0: 恣意（だめそうな音をとった）【用例】 ɹɔɒ dəl 雑なやり方

dəllɔ ［名詞］雑感、所感 ［レベル］３ ɺɺ:「雑な考え」【用例】 ᥫə dəllɔ 雑感を述べる ʃcl dəllɔ 所感を持つ

dəllecɹ ［名詞］落書、落書き、らくがき、悪戯書き ［レベル］３ ɺ0 【用例】 ɪɥ dəllecɹ ɪ bɪl 壁に落書きをする

dəlcʃ ［生物］横毛、鬢 ［レベル］３ ɺ1 ［語法］ 髪の毛の際に生える頬髯。

dəlcʃ,ɹzɒ ʃɔɪ

dəlcᥫɪl ［数学］長方形、長四角 ［レベル］２ ɺ0

dəlcn ［生物］曲鬢 ɺ1:dəlcʃ

dəleʃ,ɹzl ᥫɪɪɑ dəəl/ʃe

dələəʃ ［サール］プルート ［レベル］４ ɒelʃcɪ LL ɹen ucɪ:dələəʃ;ɑɔueʃ ɺ0: 犬の「くるくる」という鳴き声のオノマトペ ［文化］ (ɒelʃcɪ LΔ'0000 ごろ→) 家畜の神。羊の毛、牛の尻尾、豚の鼻、犬の体をしている。 |同| 獣王ポエン、犬を家畜化し、この犬から dələəʃ 神を生む| |同| プルートは牛、羊、豚を集め、家畜化した。すると彼の姿はそれらが混じった姿になった|

dəəᥫəə ［名前］プークー ɥɒ;ɑɔueʃ ɺɺ 【成句】 ɔoc ɒel nene eɒ də əᥫəə lɪlʃ nene ～という豚が～にとってプークーとなる：情が移る、情が湧く ［文化］ サプリの村でリディアが飼っていた子豚。

dəəɒ ［幼児］［婉曲］肛門、お尻の穴、おしりの穴 ［類義語］cdɒ ［レベル］２ 1L:ɒel:cdɒ を幼稚な音に変えたもの

dəəɥə,ɹzɒ cd <>cdɹen

dəəɥəucᴅ ［生物］中殿筋、中臀筋　Ɉ⋔<ɈɈ
dəəl,ɉzɑ　ɿııᴅ　ɿɔɔɿueʃ
ɸ ［言語］主題→ dɔʃɔɿ ［レベル］５　ɉᴅ　Ɉʔ
ɸıφ,ɑɥɑ　dıφ　ɑɔueʃ

b

b ［単位］メルバ ［レベル］２　Ɉ0 【用例】 10b １０メルバ
b(Ɉ) ［演繹音］たん、タン、たたた、タタタ、ばん、バン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン　μɑ;hıılueʃ　Ɉʔ ［語法］ blᴅ
bɥıɿ ［歴史］［建築］遺跡 ［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :bɥıɿɿıl（遺跡） bɥıɿɿıl:bɥıɿɿıl 【用例】 ɉıɿ bɥıɿ 遺跡を発掘する｛見つける｝
bɥıɿɿıl,ɑu　bɥıɿ　bıɿɿəɉ.ɿ
bɥıɥ ［建築］クレーン、起重機 ［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :bɥəɥıφnı（重い機械）
bɥıɥlcuı ［娯楽］クレーンゲーム ［レベル］３　Ɉ1
bɥə ［化学］［物理］質量 ［レベル］４　1⋔: 制 : 質量 : 古 :bɥə（重い）【用例】 bɥə ʃcn 質量が大きい
bɥə,ɑ　ɑıɑ　e
bɥəʃəɿı ［物理］ヒッグス場 ［レベル］６　ıl;/　Ɉʔ
bɥəucınıɉəʃ ［物理］ヒッグス粒子 ［レベル］６　ıl;/「質量のボソン」 Ɉʔ
bɥəz ［植物］白菜 ［レベル］２　ɉeɥen:ᴅel:bɥəz（白菜）。「重い野菜」が原義。
bɥəlıɑeʃ ［工学］重工業、重工 ［レベル］５　μɑ;/　Ɉʔ
bɥəlɔn ［単位］ビュロン ［レベル］５　Ɉ1: 古 bɥə/lɔ/n「頭の重さ」水を使った実験でちょうどルノの頭が ləcn の 1/10 程度であったことから。 ［文化］ ınɿɔ
bɥəc ［動詞］ɥəl を尊重する、尊重する ［普通動名詞］尊重 ［反意語］nıc ［言語］［婉曲］ɥəl（何がしかの複合語）を ı（単純語）にする：ıɥʃzɔn が ıɥzen になったときにセレンがリディアと喋っていて使った用法が最初。ある概念をどうでもいいと思っていると複合語のままだが、特別視すると単純語になりやすいことから。自然言語でもその傾向があるが、アルカでは顕著。そこから、ある概念を尊重する＝その語を単純語にするという用法ができた。 ［レベル］３　古 : 重く見る 【用例】 bɥəc nɔln 個性を尊重する
bɾɿɾɿ ［擬音］ブルル。車がエンジンをかけて走る音。　μʃ;/　Ɉʔ
bɾıın ［動物］マダイ、タイ、鯛 ［レベル］３　高 ［文化］ 高タンパク低脂肪で滋養強壮や病後によいとされる。
bɾıınɑ ［代詞］［ilben］お前ら、てめぇら、貴様ら ［レベル］１　Ɉ1:ᴅıʃ:bɥen 【用例】 bɾıınɑ ɑe lın ʃcɉr 貴様らは人間ですらない！　お前ら人間じゃねぇ！
bɾıınɑc ［軍事］散弾銃、ショットガン ［レベル］４　μɑ:μcɑcı;leebenbɾɿ ɔc.ɿ　Ɉ⋔:μcɑcı ［文化］ φel
bɾıınz ［軍事］格闘、武道、格闘技、戦闘術 ［類義語］ɥəuel ［レベル］３　zφ;uᴅ<>bɾıecɉ　Ɉ1 ［文化］ ɥəuel
bɾıınzlcuı ［娯楽］格闘ゲーム、格ゲー ［レベル］３　Ɉ1
bɾıınzlecn ［運動］［武道］武道着 ［レベル］４　μɑ;/　Ɉ⋔
bɾıicn ［魔法］ブライン、気功力 ［レベル］５　Ɉ0:bɾıecɉ/nı ［語法］ enuel en
bɾıcɔ ［植物］にんにく、大蒜、葫、ガーリック ［レベル］２　定 :「臭い」が原義 ［文化］ 一般的に食べられるが、臭いが強いので食べると臭がられる。疲労回復に良い。
bɾıcɔɑclɑıc ［医療］ニンニク灸　μɑ;/　Ɉ⋔
bɾıɔc ［気象］粉雪からなる吹雪　μɑ;<ul　Ɉ⋔
bɾıenɑc ［代詞］［ilben］てめぇらの、お前らの ［レベル］１　Ɉ1:ᴅıʃ:bɾıınɑ.ɿ
bɾıeı ［人名］ブレア ［名詞］アルカンスにおけるブレアの手 ［名詞］中巻 ［組み数字］２／３ ［レベル］２　古 : 元は bɾıcı だったが、ɉleı, ʃɥeı に合わせて bɾıeı という語形が生まれた。 ［文化］ ıɥɿınɉ　テームス信者で、アルカンスを巡ってスレア・トレアと争った。
bɾıeıɿeelʃ ［化学］β グロブリン　μʃ;/　Ɉ⋔
bɾıeıᴅel ［名詞］中期 ［レベル］３　1L:clᴅəɉ:μcɑcı
bɾıeıhɔ ［生物］恥骨 ［レベル］５　1L:μcɑcı
bɾıeıhɔıɥɿ ［生物］恥骨結合　μɑ;/　Ɉ⋔
bɾıeıhɔıɥɿhıllɔɔz ［生物］恥骨結合上縁　μɑ;/　Ɉ⋔
bɾıecɉ ［悪魔］ブレイス ［レベル］４　ᴅelʃcı 0:bɾıecɉ;e　古 :μcɑcı: 古アルカの原則通り、対となる ɿleeʃ は長音の母音を持っている。 ［文化］ ノアを使うデームス。ノアを司る。２０代男性の姿。鍛えられた肉体で、軽装をしている。爪を武器に戦う。やや短気。クレートとペアをなす。常に２人で行動し、超絶的な気を操る。　天王星を司る。
bɾıecɉen ［アトラスの国家］ブレイセン ［レベル］５　Ɉʔ:μcɑcı
bɥıʃ ［動物］フナ、ふな、鮒 ［レベル］４　ılıɿʃı
bɥın ［名詞］スラム、スラム街 ［レベル］３　ılıɿʃı ［文化］ 中央アルナの場合、南区の風俗街周辺が事実上のスラム街かつ貧民街。
bɥcɔɑɔl ［地学］スクロド石 ［アイテム］ブリオドル ［レベル］５　1L ［文化］ 魔石ではないが、蟲族の魔物を寄せ付け、精霊族と妖精族の魔物を追い払うアイテム。
bɥen ［俗語］男のガキ、クソガキ ［レベル］２　1L:μcɑcı:bɥın から

blʃ ［演繹音］たん、タン、たたた、タタタ、ばん、バン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン　μɑ;hıılueʃ　Ɉʔ ［語法］ blᴅ
blᴅ ［演繹音］ばん、バン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン、ばきゅーん、バキューン、どん、ドン、ずどーん、ズドーン、ずきゅーん、ズキューン　μɑ;hıılueʃ　Ɉʔ ［語法］ 銃弾や砲弾などを発射するときの音。blʃ に比べると一発一発ちゃんと出している感じ。blʃ はマシンガンのようにタタタと素早く出している感じ。b は bıbıbı のようにマシンガンを発射するような音。
blınʃ ［美容］くすみ ［動詞］ɥəl をくすませる、くすむ ［レベル］４　Ɉ1: 擬態語
blınl,ɉzɑ　ɑıɥ
blınueɥ ［名詞］闇炎舞、ブランヴェール ［アクセント］blınuEɥ ［レベル］６　Ɉ1:blenzel<beezel/uel ［文化］ カテージュのシャンテ・タンジュールで行われる演舞。元は兵舎の竜騎兵が武器を用いて行った余興から。　二本の鎖の先にリングを付け、そこに現代ではスチールウールなどを付ける。スチールウールに火をつけ振り回すと火の粉が美しく舞う。
blınueɥ lcφɥe ［人名］ブランヴェール＝シグレ　Ɉ1 ［文化］ リーファ隊カサンの本名。
blınɑ ［名詞］烙印 ［動詞］ɥəl の烙印を ı に押す、烙印を押す ［レベル］４　zφ;blenz.ɿ　Ɉʔ 【用例】 blınɑ ʃıuelınʃ 死神の烙印　lı ʃcl blınɑ e ɑc ɥeʃın. 彼は犯罪者の烙印を押されている。
blınz ［医療］コンプレックス ［類義語］hcɉnı ［レベル］４　zɑ;blenz.ɿ ɈɈ:blenz「心の中の炎」【用例】 lı ʃcl blınz ɔn ʃeᴅ. 彼女は耳にコンプレックスがある。　uıɉʃ blınz コンプレックスを克服する　uıɉ blınz コンプレックスを乗り越えようとする
blınzel ［人名］ブランゼル、神裂　ᴅʃ;blınɑ.ɿ「悪魔召喚師の烙印を捺された→悪魔召喚師→神を切り裂く→神裂」 Ɉʔ
blıb ［擬音］ベラベラ、べらべら、べちゃくちゃ、ぺちゃくちゃ、ペラペラ ［言語］［俗語］言語、言葉、蛮族語：主に外国語や方言を卑下していう。 ［レベル］２　ɈɈ: オノマトペ 【用例】 cnɉıɥen ɔ ɥıʃʃɔɥen eʃ blıb ʃcɉ. 中国語と英語は蛮族の言語にすぎない。
blcɉ ［俗語］［ネガティブ］手下、使いっぱ、使い走り、パシリ、犬、手先 ［類義語］ɥeɉ ［レベル］３　μɑ;blcɉ,ɉzɑ.ɑɥcɉ　Ɉ1
blcɉ,ɉzɑ　sc　<>　lccz
blcɉn ［医療］同身寸法、指量法　ɉzl;blcɉ.ɿ　Ɉ⋔
blcnz ［地学］［化学］硝石 ［レベル］５　zφ;blcnz,ɑlɑ><blenz　ɈɈ ［文化］ ファルファニアから流入。ファルファニアなどでは天然のものが得られたが、アルバザード北部などでは家畜小屋の土壁などから得ていた。のちに火薬ができると原料としてもてはやされた。
blcz ［軍事］雑魚、雑魚敵、ザコ敵、ザコ ［組み数字］３／３ ［レベル］３　μɑ;blcz,ɉzɿ < blcɉ,ɉzɑ　Ɉ1 ［文化］ uınφıɥ
blcze ［文頭純詞］所詮、しょせん、そうはいっても、どうせ、なんといえども、なんであれ、何であれ ［レベル］２　ɈɈ:blcɉ「指の先のように瑣末なこと」
blɔnz ［名詞］火花 ［レベル］３　μɑ;blınz,ɉzɑ.l　Ɉ⋔
blenz ［名詞］炎、火、火炎、大火、焔、火柱 ［類義語］ɑıc ［レベル］２　ɉzɑ;<>beezel ［語法］ 燃え盛る炎、火炎のこと。
blenzel ［天文］ɑcılccɑı ［組み数字］１／８ ［レベル］４　lɉɑ;blenz/ıl　Ɉ1
blenzelɥecn ［組み数字］天狼賞 ［レベル］５　Ɉ1 ［文化］ → ɥıdıll　八大星。一等星は２０個以上存在するが、そのうちアルバザードから見えるものは１０数個。さらにその一等星を明るい順に並べた８つのことを八大星という。本来明るい順に並べるとシリウス、カノープス、リギルケンタウルスと来るが、リギルケンタウルスはアルバザードからは見えない。地球でも沖縄以南でないと見れないため、おおむね北緯２６゜以南となる。従って３位はアルクトゥールスとなる。次はベガ、リゲル、カペラ、ベテルギウス、プロキオンと続く。プロキオンで明るさは０．４である。次はアケルナルとハダルだが、前者は鹿児島以南、後者は沖縄以南なのでアルバザードでは見れない。その次はアルデバランになるが、明るさが０．８と急激に落ちてしまう。この落差が激しいため、８つで打ち切ってひとまとまりとしている。なお、カノープスは日本の東北地方以南なのでアルバザードでは国の最南端でかろうじて見える程度である。八大星は zφ ごろに認識されていたようだが、１万年も前になると現代と星図が異なっているため、そのまま適応はできない。現代に残っているものは ɉᴅ に再びまとめられた八大星で、μɑ で組み数字として採用されたものである。星の名は μɑ でアシェットが魔族を封じ込めたときに新たに定められた。ɉᴅ までは当然別の名で呼ばれていたわけだが、組み数字ではその名を使う。
bleᴅ ［料理］［動詞］ɥəl（材料や衣など）を ɿɔn であげる、あげる、揚げる ［レベル］２　Ɉ1:blenzel/eᴅɉ 【用例】 bleᴅ ɉıbc ɿɔn eᴅɉ ʃəəʃel. 油で衣をカラッと揚げる。
bleᴅɔoc ［料理］とんかつ、トンカツ ［レベル］３　1L ［文化］ 油だらけの食品をアルバザード人は嫌うため、アルバザードではふつうには知られていない。 【用例】 leɉʃbel e ɑcɉ ıʃ bleᴅɔoc. 今日のおかずはとんかつだった。
bleben ［俗語］蛮族、ブレーベン ［レベル］４　ɈɈ:ᴅel:blıb/ın「ベラベラ分からないことを話すもの」【用例】 ınlclın ɉecn ɿılᴅı ɿlcʃ lcuı e dıɥᴅ le ɑcın ɔ lız lənı ʃcɔ ɿıl ɥəlcocl, eʃ beɥcl ʃcnɿı. lılı ʃə ɿlcʃ eʃ ɑız ı ɿɔleʃ ʃeə bleben l'en lɔɿc lıɑ (ılʃe 日本のゲームは幼い少女を出してオタクの性欲を満たす低俗なものが多いと西洋人はよく言うが、さすが我ら蛮族は物の良さが分からないと見えるｗ (ᴅel ɿeeʃɔcı)
blecz ［軍事］会戦、戦闘、バトル ［レベル］３　ɉzɑ;blınz.ɿ「剣と剣がぶつかる際の火花」から。　Ɉʔ

bıʃ ［軍事］引き金 、トリガー ［レベル］3　先 :bıʃ(引き金)。参考 : ソーン φelφc 【用例】 leʃ bıʃ 引き金を引く

bıʃʃȷ,ɑu　deȷµ　e

bıʃʃɔ ［アイテム］メイス　zφ;bıɷ.ˀl　Ɉɱ

bıʃʃel ［形容詞］しょうもない、どうしょもない、しようのない、仕方のない、しようもない、どうにもならない、アホな、しょーもない、出来の悪い、できの悪い ［レベル］3　古

bıɱıɭl ［軍事］トリガーガード、用心金　µɷ;/　Ɉɱ ［文化］　φel

bıʃȷ ［動詞］ɥəl（内容）を ı（相手）に言い返す、言い返す ［類義語］ˀlcl µenȷ ［レベル］3　1ᚨ: 制 :bıɭɱə ［語法］　日本と違って個性と言論を尊重するアルバザードでは、言い返すは悪いこととは限らず、相手の言葉を踏まえた上で言うという意味でも使う。

bıʃɔn ［動物］ペリカン ［レベル］4　定 :bʃɔn（袋の鳥）

bıˀl ［動物］牛 ［レベル］2　ɑu;e　定　bıˀl:bıˀl::ɒəə,ıɭʃ 【成句】 ˀlɔı bıˀl 牛を乗せる : つけあがる、付け上がる、調子にのる、調子に乗る、いい気になる、利用する、つけこむ。zφ の時代のシージアに牛を連れて荷物を持って歩く者がいた。そこに荷馬車を引く人が通りかかり、善意で荷物を積んでやると言った。男は荷物だけでなく牛まで積もうとしたら荷馬車の主人が怒り、荷物を降ろされて去られてしまった。転じて人の好意などにつけこんで過剰な要求をして付け上がることを指すようになった。 ［文化］　もともとアルバザード人は牛をそこそこ食べていたが、現代はミロクの指導の下、牛肉の消費量が減り、鶏を食べる割合が増えた。牛乳やチーズなどの乳製品は継続して消費されたため、牛は乳牛がメインとなり、食肉牛の需要は減った。

bıˀlʃcnl ［牧畜］［音楽］カウベル ［レベル］5　µɷ　ɈɈ

bıˀlˀləȷ ［サール］バックス。建築の神 ［レベル］4　ɒelʃcı ɱ:ʃcˀlnɔ;e　Ɉ0: 古 bɥıˀlˀlıl ［文化］（ɒelʃcı ɱ →）　ー建築の神バックス　　ティクノはエルトがサールのために作った最初の家から九十九神のバックス神を生んだ。バックスはティクノが最初に生んだ神であった。　バックスは建築を司る神であり、無精髭を蓄えた筋骨隆々の赤い肌をした中年男性の姿をしていた。右手には槌を持って生まれてきた。
「父ティクノよ。あなたはなぜ儂を生んだのですか」「息子よ、実は城と家を建築してほしいのだ。魔法を使わずともある程度寒さを凌げ、楽に暮らせるようにな」「なるほど分かりました、お任せあれ」
こうしてバックスは城と家を造りだした。　一方エルトの一族はバックスの働きぶりを観察し、技術を盗むと、自分たちも城と家を築こうと真似しだした。

bıˀlȷ ［アイテム］棍棒、バット ［レベル］3　古 :ȷɔµn　nəə:nəə 【用例】 oıȷʃ bıˀlȷ バットを振る　hıɒ bıˀlȷ バットを振り回す

bıˀlȷın ［野球］バッター、打者 ［レベル］3　Ɉɱ

bıˀlɑlel ［料理］牛肩 ［レベル］3　1L 【成句】 ɑcʃ bıˀlɑlel ı ı を歓迎しない。邪魔がる : 牛の肩はあまりおいしくない。それを客に振舞うことで、歓迎していないことを指す。

bıˀlɑenˀl ［名詞］牛革 ［レベル］3　Ɉ0

bıˀlɒ ［料理］牛乳、ミルク ［レベル］2　1ʔ: 制 :bıˀlɒıe（牛の乳）から 【用例】　ın lenıʃ bıˀlɒ cȷʃ ɑıl. 朝食の代わりに牛乳を飲んだ : 厳密に言えば cȷʃ ˀləc ɑıl だが、流石にそこまで神経質にならなくてよい。lenıʃ を ʃıɑıʃ にすると誤解はなくなる。　el len ıl bıˀlɒ cɒ ɒɔˀl ucl. 眠れないときは牛乳を飲むのがいい。

bıˀlɒncɒ ［色］ミルク色 ［レベル］3　1L:ɒelcɷcı ılcȷ

bıˀlɒucµɔ ［化学］カゼイン ［レベル］6　1L

bıˀlɒuclȷ ［化学］トリプトファン ［レベル］5　1L ［文化］　µɷ で牛乳からリュウが発見。

bıˀlɒdcle ［料理］コーヒー牛乳、カフェオレ、ミルクコーヒー、コーヒーミルク ［レベル］2　µɷ;/　Ɉʔ

bıˀlhɔφ ［料理］ピーマンの肉詰め。ただし牛肉。 ［レベル］3　1L

bıˀlɥeˀl ［料理］牛肉 ［レベル］2　ɈɈ

bıˀlµı ［牧畜］牛小屋 ［レベル］3　1L: リディアの書

bıˀlˀl ［化学］コロイド ［レベル］5　古 :bıˀl（牛）/ˀl（物）。牛は牛乳の意。 ［文化］　µɷ ではリュウが牛乳を用いて使徒に説明した。

bıˀlı ［料理］ハンバーガー ［レベル］2　1ᚨ: 制 :bıˀl ［文化］　パンに肉や野菜を挟んだ料理で、一般的に食べられる。ハンバーガーというと日本では「健康に悪い食べ物」というイメージが定着しているが、アルバザードにあるのはもともとドイツやヨーロッパであったような、パンと肉と野菜を同時に食べられるようにしただけのものである。素材も調味料も油も悪いものを使わないので、アルバザードではハンバーガーと聞いても「あ、健康に悪い食べ物だ」とか「カロリーが高い」という意識がない。日本でサンドイッチと聞いても健康に悪いと思わないのと同じ。アルバザードの感覚としてはサンドイッチに近い。

bıˀlın ［名詞］牛飼い ［レベル］5　µɷ;/　Ɉɱ

bıˀlıncɑı ［地球の星座］［ユマナ］うしかい座　Ɉɱ ［文化］　cɑı

bıˀlıl ［建築］遺産、世界遺産、文化遺産 ［レベル］4　ɑu;bɥıˀlˀlıl.ˀl　Ɉʔ

bıˀlc ［牧畜］酪農 ［レベル］4　1ʕ: 制 :bıˀl

bıˀlcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おうし座　Ɉɱ ［文化］　cɑı

bıˀlɔ ［名詞］クリーム。食べられないほうのクリーム ［レベル］3　1ʕ: 制 : bıˀle ［語法］　bıˀle に似たものだが、牛乳から作ったわけでもなく、食べ物でもない。軟膏のようなものや化粧クリームなどのクリームを指す。

bıˀle ［料理］クリーム、生クリーム ［レベル］2　1ʔ: 制 :bıˀleɒȷ（牛乳の脂肪） ［語法］　食べられるほうのクリーム。bıˀlɔ は食べられない。bıˀle はとりわけ生クリームを指すことが多い。

bıˀle,ɑ　ʃə（これ）

bıˀleʃ ［料理］乳製品 ［レベル］3　ɈɈ:bıˀlɒ/ʃe

bıˀlencɒ ［色］クリーム色 ［レベル］3　Ɉ0:µcɷcı:ɒcµɔˀl

bıˀlenɔ,ɑ　これの　bıˀle/ˀlenɔ

bıˀlel ［化学］エマルション、エマルジョン、乳濁液 ［レベル］6　1L:bıˀl/el（制）

bıˀlelıb ［化学］乳化剤 ［レベル］6　1L

bıˀleleɒ ［化学］乳化　1L

bıl ［料理］漬物、つけもの、漬け物 ［レベル］2　µcɷcı: 定 : 古アルカで bıl という名の食べ物から ［文化］　漬物というと、通例ピクルスを思い出す。酢漬けと塩漬けが多い。また梅酒のように砂糖漬けにしたものもある。酢、塩、砂糖でアルバザードの漬物は大体をカバーする。ただし、bıl と聞いたときにはふつう甘いものを思い出さない。砂糖漬けの比率が少ないため。よって bıl と聞くとパンなどに挟むピクルスのようなすっぱいものというイメージがある。なお、ピクルスで最もありふれたものはキュウリ。

bılıȷl ［化学］乳酸 ［レベル］5　1L:µcɷcı ［文化］　µɷ ではバッシュ（漬物一般としての名でなく、バッシュという漬物。具体的に何かはもはや謎）からリュウが発見した。　日本では乳酸と聞くと「疲れ」を連想するが、アルバザードではそのように思われていない。

bıȷ ［名詞］ゴミ ［形容詞］不要な、いらない ［動詞］ɥəl を不要とする、ɥəl はいらない、ɥəl はゴミだ ［法副詞］～する必要がない、～しなくてよい ［副詞］不要にも、不必要にも、いらないのに ［反意語］lcµ ［レベル］2　µɷ　1L: 赤 :bɥıʃȷ（ゴミの）　bɥıʃȷ:bɥıʃȷ ［語法］　副詞と純副詞で意味が異なるので注意。 ［文化］　ごみ収集は夜に行われる。渋滞が緩和され、カラスの害が減少するため。 【用例】　cɒ lecɥə, el ucn ȷıʃ bıȷ ı ɑɔnʃ, hıɥə lcıl ıʃ elʃ. レイユでは人々が道にゴミを捨てたので、街が汚れていた。　cn, lın ɥən bıȷ e. 見ろ、人がゴミのようだ（『天空の城ラピュタ』）

bıȷˀlı ［名詞］ゴミ捨て場、ゴミ置き場、ゴミ集積所 ［レベル］2　µɷ;bıȷ/ˀlı　Ɉʔ

bıȷı ［動物］カンガルー ［レベル］3　1ɱ ←古 :bȷı（袋） 【成句】 lcnɔ e bıȷı 後生大事

bıȷeµ ［名詞］廃水 ［レベル］4　µɷ;/　Ɉʔ

bın ［形容詞］楽しい、愉快 ［反意語］bəənı ［レベル］2　1ʔ: 制　nıʃlɔ:nıʃlɔ :nııl:nıȷclə,ıɭʃ 【用例】　ınȷ nıʃ bın uɔl cn clʃı l'eʃ ɥən lecȷ. 私たちは絵のような景色を愉しんだ。

bınʃ ［名詞］息切れ ［医療］動悸→ dılȷı ［類義語］hıh ［レベル］3　Ɉ0: 制 dınʃ ?

bınˀlɥɔ ［名詞］喜劇。メタファーとして使う場合は bınˀlˀlɔı のほうを使う。 ［類義語］bınˀlˀlɔı ［レベル］5　µɷ;/　Ɉɱ: 実際は制で作っていたはず。

bınˀlˀlɔı ［名詞］喜劇。メタファーとしての喜劇。 ［類義語］bınˀlɥɔ ［レベル］4　µɷ;/　Ɉɱ

bınȷı ［被服］ボディス　zφ;.ȷelın。ȷı は ȷıbe と思われる。　Ɉɱ

bınȷcnȷɔl ［娯楽］バラエティ、バラエティ番組 ［レベル］4　1L:µcɷcı:ıµ bıɭelʃ 【用例】　leȷ ın ȷccnı eʃ bınȷcnȷɔl. 私が好きなのはバラエティーだ。

bınɷ ［軍事］撃鉄、ハンマー ［レベル］5　µɷ;ɑɔueʃ。撃鉄の鳴る音から。　Ɉɱ ［文化］　φel

bınɷelȷ ［運動］ホッケー ［レベル］3　hɥ;「長い杖」　Ɉ1

bınφ ［名詞］信管 ［レベル］6　古 : 元は銃のハンマー部の意味だった。

bınφel ［名詞］賊、山賊、海賊、パイレーツ、バンディット ［レベル］3　古 :beɔ/beφel（クソ芋虫）

bını ［親族］どら孫娘 ［レベル］2　1L:µcɷcı:be/hını

bıɑ ［料理］バター ［レベル］2　定 【用例】　nıb bıɑ ı dɔɑ パンにバターを塗る

bıɑɔ ［料理］ブリオッシュ ［レベル］3　1ʕ: 制 :bıɑ/dɔɑ

bıɒb ［動詞］ɥəl を擂って ı にする、擂る、すり潰す、磨り潰す、おろす、大根などを下ろす ［レベル］3　古

bıɷ ［動詞］ɥəl を叩く、叩く、ぶつ ［音楽］打楽器 ［レベル］2　ɑ;ɑɔueʃ　1ʕ: 制　bıɷ:bıɷ 【成句】　bıɷ ıleɒ さぁ、さあ、さあな、さぁな。制ごろに bıɷ–ıl nı として ʃeɔlɔn が使い出した慣用句。直訳すると「心を殴れ」。新生から bıɷ ıleɒ に変わった。しらばっくれたり濁したりするときに使う。 【用例】　le bıɷıʃ ɔȷn ınʃ. 誰かが私の頭を叩いた。　ɷen ˀlə bıɷ ıleɒˀr 知らばっくれるんな、シラばっくれんな、しらばっくれるな、しらばっくれんな

bıɷuıˀl ［アイテム］打撃武器　µɷ;/　Ɉɱ

bıɷuınɷ ［普通動名詞］打撃　µɷ;/　Ɉɱ

bıɷɑɔ ［言語］弾音、はじき音、弾き音 ［レベル］6　1L

bıɷzɔn ［軍事］撃針　µɷ;/　Ɉɱ ［文化］　φel

bıɷzɔnφel ［軍事］シュナイダー銃、スナイドル。撃針を設けた元込め式の銃。　µɷ;/　Ɉɱ ［文化］　φel

bıɷoɔnȷ ［動詞］ɥəl を踏みつける、踏みつける、踏む、どんと踏む、ぐしゃっと踏む ［レベル］2　L:ɒelcɷcı ıɭʃe 【用例】　lı ȷeʃıʃ ləe uɔl bıɷoɔnȷ. 彼は蛙をぐしゃっと踏みつけて殺した。

bıɷleɒɔɒ ［音楽］ハンマリング　Ɉ1

bıɷɔɒ ［医療］打鍼法　µɷ;/　Ɉɱ ［文化］　打鍼法が発明されたのは ˀlˀl のカテージュ。

bıφ ［動詞］ɥəl をもむ、もむ、揉む、さする、擦る ［レベル］3 1ʔ: 制 :bcφ とあるが bcφ が何かは不明。【用例】ın bıφıʃ ııɑ ᴅın nı ɥı ɔn ʃə. 腰が痛いので腰を揉んだ：bıφl より簡易な揉み方。

bıφ(ɺ) ［感動詞］げへげへ、ゲヘゲヘ ［レベル］3 1L: リディアの書 ［語法］ 役割語であり、実際にこのように笑うと、とてもわざとらしく聞こえる。

bıφl ［普通動名詞］マッサージ ［動詞］ɥəl をマッサージする ［レベル］3 1ʔ: 制 :bıφ 【用例】ın bıφlıʃ ɥjccl ɔn ɑlel. 親の肩を揉んであげた。

bıd ［医療］潰瘍 ［レベル］3 1ʔ ←古 :bıᴅdcjʃ（悪く膨らんだもの）。潰瘍は膨らんだものではないにせよ、これが語源となっている。

bıɼ ［iben］ダチ、友人、友達 ［類義語］hıɼn ［レベル］3 古 :jeɥen/ɔuc/zını/φcl:bıɼ。元は hıɼᴅı の高尚なイメージをわざと落とすために汚い音である b をつけた bhıɼᴅı から。結果 h が脱落して bıɼᴅı になり、短縮されて bıɼ に落ち着いた。

bıɥs ［親族］どら弟 ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:be/ıɥəəs ［語法］［文化］ ıljeɥ

bıɥcəj ［アトラスの国家］バリウス ［レベル］5 ɺ0:jeɥen:bılʃ/ɑclcɥcəj（ディシリウスの反対側）

bıɥeʃ ［名詞］折檻、体罰 ［動詞］ɥəl を折檻する、ɥəl に体罰を与える、折檻する ［レベル］3 ɺ0:bıɔφ/ʃɥen ［文化］ 子供は理性のない動物なので、言うことをきかせるためには折檻を用いてよいと考えられている。人前であろうと親は子を叩く。叩くのはもっぱら母親で、父親はまず叩かない。紗枝のような大人しい女性も叩く。騒いでいる子供を放置しているほうがアルバザードだと体裁が悪い。フランスに似ている。父親は折檻を行わないが、以下の状況では行う。 男女共通：「嘘をついたとき」「卑怯なことをしたとき」 息子：「困っている女性を助けなかったとき」 娘：「親の反対する交際を男子と行ったとき」 例えば１０歳くらいの子供が二人きりでランスケルンに行くのはまだ早いので、親は反対する。たいていの娘は聞くが、稀に聞かない娘がいる。しかしアンセの使用履歴でバレるため、このような場合に体罰を得る。

bız ［代詞］［iben］お前、てめぇ、手前、てめえ、貴様、キサマ、きさま ［レベル］1 ɺ1:cuc: 卑音のリムレット ［語法］ 粗雑で強烈な言い方。賊っぽい。

bızel ［代詞］［iben］てめぇの、お前の ［レベル］1 ɺ1:ɔuc:bız

bıl ［建築］壁、ついたて ［レベル］2 ？: 制 : 古 :jɔɥn:bılʃ（壁）「跳ね返すもの」が原義 【用例】ncıɿ ı bıl 壁に立てかける

bıl(ɺ) ［代詞］［南方］［男性］ʃc ［レベル］3 ɺ1:ɿ.bıɼ

bılʃ ［動詞］ɥəl を ı に跳ね返す、跳ね返す、反射する、反発する ［普通動名詞］クッション。ビリヤード。 ［副詞］［文頭純詞］対照的に ［物理］［普通動名詞］反射 ［魔法］バルト。土の白魔法で、物理・魔法攻撃を跳ね返すバリアを張る。ただし、バリアと接触したときの入射角でしか跳ね返らない。つまり右上からユノが入ったら、同じ角度で左上に跳ね返る。 ［レベル］3 古 :jɔɥn:bılʃ（壁）【成句】 bılʃ ɥenj ı nene ɑccnı nene 心の声を伝える 【用例】 bılʃ ɑıɥ ı bıl ɿɔn ᴅed 光を鏡で壁に跳ね返す

bılʃʃcɿ ［物理］反射角 ［レベル］4 1L

bılʃneɿ ［経済］反発 ［レベル］6 ɺɺ

bılʃᴅcᴅ ［経済］反落 ［レベル］6 ɺɺ

bılʃᴅed ［名詞］反射鏡 ［化学］反射鏡→ ᴅed ［レベル］5 ɥɑ;/ ɺʔ

bılʃıbıɔφ ［生物］［医療］心下満 ɥɑ;/ ɺ⋒

bılʃcɥ ［軍事］大佐、バルティール ［組み数字］6／２０ ［アクセント］bılʃЄɥ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:bılʃ（跳ね返す＝対抗する）/ıᴅcɥ（夫でなく「頼られるもの」）［語法］［文化］ ɿını

bılʃe ［名詞］克、相克 ［形容詞］克な ［反意語］hızel ［レベル］4 ɺ1:bılʃ/ʃe ［語法］ hızel

bılʃeʃ ［名詞］弱み、弱点 ［魔法］克性 ［類義語］cuneʃ ［反意語］hızeleʃ ［レベル］3 ɺ1 ［語法］ uceneʃ ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

bılʃeıɥʃ ［魔法］克魔法 ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

bıl⋂ ［動詞］ɥəl を成立させる、成立する ［普通動名詞］成立 ［レベル］3 ？: 制 :bıl⋂（建物を建てる）から。 ［語法］ 建物や作品以外に、法律のような抽象的なものにも使える。 【用例】 ʃə ɑılᴅ cɿ bıl⋂. その法案は成立した。

bılɭ ［普通動名詞］工事 ［動詞］ɥəl を工事して ı を建てる、工事する ［レベル］3 1⋒: 制 :bıl は赤の bɥı⋂ıl（遺跡）

bılj ［建築］棟、校舎 ［レベル］4 1ʔ: 制 :bıl⋂ から ［語法］ 部屋がいくつか横に並んでいる建物。または建物の中のそのようなひとつの階を指す。

bılje ［親族］アニキ、兄貴、あにき、あんちゃん、アンちゃん、にぃ、兄ぃ ［レベル］2 1L:be/ıljeɥ ［語法］［文化］ ıljeɥ

bılncj ［建築］エンブライジャ、銃丸、矢狭間 ɥɑ;/ ɺ⋒

bılɑ ［動詞］ɥəl を ı に敷く、敷く、敷き詰める ［レベル］3 古 :jɔɥn:bılɑ（敷き詰める）【用例】 bılɑ ɿɔʃj ıl ıɿj 床にタイルを敷き詰める

bılᴅıj ［建築］壁紙 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ ［文化］ アルバザード人は壁紙を変えるのが好きで、カーテンのように変える。色は白一辺倒とは限らず、カラフルなものであったり、季節や部屋のイメージに合わせたりする。もちろんむき出しの木にすることもあるし、白にすることもある。アルバザード人は中間色、特に淡い色を好むので、薄い桃色、薄い青緑、かすかに蒼い灰色などといったものがよく売れる。原色、例えば赤で塗りつくした部屋というのはアルバザードでは異様。

bılᴅıɥə ［地名］バルマーユ ［アクセント］bılᴅϮɥə ［レベル］5 ɺ0: 古スカルディア語「海岸が変えられた」［文化］ スカルディア西南部、現ラズディアの地方。アデルが住み着くようになり、アデルのブリードが活発に行われた。

bılᴅıs ［地名］バルマージュ ［アクセント］bılᴅϮs ［レベル］5 ɺ0:bılᴅıɥə/ 古 scnı（空）［文化］ ɥəəᴅı ʔʮɺL にバルマーユ上空にできた穴で、アデルが降ってきた。

bılɑc ［感動詞］ざまぁみろ、ざまあみろ、ざまーみろ、ザマぁ、ザマあ、ざまぁw、ザマアミロ、ザマーミロ、メシウマ、めしうま、今日も人の不幸で飯がうまい ［レベル］2 古 :bılɑc ← bılɑ ʃc（お前に跳ね返る）。bılɑ は bılʃ の過去形 bılʃɑ の実際の形。

bılɑcj ［名詞］腐れ縁 ［レベル］4 ɺ0:be/ılʃcj ［語法］ hıɼn

bılbı ［料理］グラタン ［レベル］2 古 ［文化］ 一般的に食べられる。なぜか子供に人気があると考えられている。

bılbıl ［地名］バルバル ［音楽］ファンク ɑɥɑj ɺ1

bıloıl ［建築］マーロン ɥɑ;/ ɺ⋒

bılcj ［人名］アリス、アリス＝アンシャルの悪口 ɺ0:ɿılce:be/ılcj（バカアリス）

bılcz ［親族］どら孫息子 ［レベル］2 ɺ1:bıɥs と似るため ‹1L:ɥcɑcı:be/ılccz

bılɔn ［アイテム］防具 ［反意語］uıɿ ［レベル］2 ɺ0:bılʃ/ɿɔn（攻撃を跳ね返す道具）

bıleʃ ［形容詞］くだらない、下らない、取るに足らない、どうでもいい ［類義語］ueɥj ［レベル］3 ɑu:ɔuc; ↓ 古 :ɔuc:be/ıl/ʃe と思われる。

bılen ［代詞］［南方］［男性］ʃccl ［レベル］3 ɺ1:bıl の属格

bıı ［俗語］ばか、馬鹿、バカ ［レベル］2 古 :be（卑音）から

bııʃ ［動物］カバ、かば、ヒポポタマス、河馬 ［レベル］2 定 ［擬声］ ɔbəə

bıı⋒ıɑ ［地球の国名］マリ 1L: バンバラ語で「カバ」

bııɿ ［動詞］ɥəl にくしゃみをさせる、くしゃみする ［普通動名詞］くしゃみ ［レベル］2 古 : オノマトペ 【用例】 ın bııɿıʃ ᴅcl jɔɥʃ. 寒くてくしゃみをした。

bıın ［俗語］バカ！ ［レベル］2 古 :be（卑音）から ［語法］ 意味は大して強くないが、ʃeɔlɔ と違って確実に悪意がある。

bııze ［形容詞］うざい、ウザイ、ウザい、うざったい、ウザったい、じゃまくさい、邪魔臭い、うぜえ、うぜぇ、うっとうしい、鬱陶しい ［類義語］hıɥʃ ɥφ ［レベル］2 ɥɑ; 卑音 bı/blenz.ɿ「火のように暑苦しい」 ɺʔ ［語法］ 日本語のウザイより意味が広く嫌悪感も弱い。邪魔臭い程度の意味に使うこともある。 かといって罵倒語のひとつには違いないので、多用しないこと。 【用例】 hıɥʃ bııze クソ暑い

bıcʃen ［地学］黄銅鉱 ᴅelʃcı Δ:φclcəj;e ɺʔ

bıcıj ［名前］バイアス ɥɑ ɺ⋒ ［文化］ ファルアモン族の男。サプリの村襲撃の主犯。ɥəəl、老人。 ⋒ ɑcı ɑcn にサプリの村を襲撃し、リディアを人質に取ってアムルとナルムを火の魔法で殺すも、ダルハを出したセレンに倒され撤退。

bıɔɿe,ɑu ıʃə beɿe.l

bıɔn ［自然動名詞］発情 ［動詞］ɥəl を発情させる、発情させる ［レベル］4 ɑu;bıɔnı.ɿ ɺʔ:ᴅel

bıɔnjɔɑɔᴅ ［俗語］発情ビッチ ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ:ᴅel

bıɔnı ［名詞］バオナ、狂気、異常性欲 ［魔法］バオナ。害の中位黒魔法。異常性欲を起こす。対象は手当たり次第に近くの女を襲う。あるいは女なら男を誘う。アティーリではアルデスがかけられ、妹のテュアを犯し、４匹の竜の息子が生まれた。なお、かけたのはクレオーン神で、かけさせた黒幕はテュア本人。 ［レベル］4 ɑu;bıɔφ/nı jeɥen: 古 :bıɔφnı（心を打つ、鼓動する心）

bıɔnıɑıcφ ［経済］［法律］性欲税 ［レベル］4 1L：概念自体はメル 1ʔ 年ごろ ［語法］ jɔɥnʃɔlcj の女に課税される。異常性欲者の更生および投薬、性被害者の支援に使用される。

bıɔφ ［名詞］拳 ［動詞］ɥəl を ɿɔn で殴る、殴る ［物理］運動量 ［類義語］ᴅcɥə ［反意語］uceɑ ［レベル］2 ɑ;e 赤 bıɔφ:bıɔφ::ᴅcɥə,ılʃ 【用例】 lıɑ bıɔφ 拳を握る eu bıɔφ ıl ıjcɑ 口の下に拳を置く：女の仕草のひとつ。笑った口を隠そうとするのが本来の役割だが、実際に大口を開けていない場合は、上げた手がつい余ってしまう。そこで口でなく口の下に何となく置いておくという、あまり大きな意味を持たない日常的な動作。ただ、だからこそ男が可愛いと思うしぐさ。 bıɔφ uın ɑcj ıɼ ぶん殴るぞ！

bıɔφoıız ［物理］モーメント、運動量のモーメント ［レベル］5 ɺ1

bıɔφlɔnɑ ［名詞］殴り夢 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］［文化］ 殴ったり蹴ったり怒鳴ったりして、自分の声や壁ドンなどによって目覚めること。 ・登録の経緯 jeɥen ıɥbızıɥɑ ☒@jeɥenıɥbızıɥɑ 夢の中で相手をぶっ飛ばしたとき、現実でも呼応しておもくそ殴った結果壁に手が当たって部屋の壁に穴が開く。この現象を私は中学時代から殴り夢と呼んでいる。しかしアルカで造語したことのないことに気付いたため、収録しておこう。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 1分 jeɥen ıɥbızıɥɑ ☒@jeɥenıɥbızıɥɑ 馬鹿にされたくらいで相手を全力で殺しにかかるのが、大脳新皮質が寝てる本性の俺。どんだけプライド高いのと、どんだけ凶暴なのよと思う。で、こういう怒号や殴りで起きる夢をよく見る。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 ʔ分 jeɥen ıɥbızıɥɑ ☒@jeɥenıɥbızıɥɑ 今の夢：嘲笑された→軍靴（足先が鉄になってるユベール用の殺人靴）、刀と木刀の二刀流、ナイフ、マグナムを装備→なぜか生きてるウチの親父が慌てて警察を呼ぶ→親父を無視して、嗤った奴ん家のドアを怒号と共に打ち破る→自分の怒号で目覚める 【用例】 ın ʃclıʃ ucl ɔn bıɔφ ᴅcl bıɔφlɔnɑ. 殴り夢のせいで手に怪我をした。

bıɔφɔn ［動詞］ɥəl にげんこつする、げんこつする、ゲンコツする、叩く、殴る ［普通動名詞］げんこつ、ゲンコツ ʃɒ;bıɔφ/φɔn ɹʔ ［語法］ ゴンと拳で打ち下ろすこと。

bıə,ılʃ ɔɒı ɑɔueʃ

bcʅ ［動詞］ɥəl を ʅɔn で握る、握る、掴む、つかむ ［レベル］2 1ʔ: 古 :bıɔφ（拳）【用例】 lı bcʅıʃ oıȷd ləəʃ. 彼女は彼の袖を掴んだ。 lı bcʅıʃ lıȷ ınʃ. 彼は私の手を掴んだ。

bcʅʃ ［建築］ノブ、ドアノブ ［レベル］2 1ʔ: 制 :bcφʅı（握る部分）【用例】 hɔl bcʅʃ ノブを回す

bcʅucın ［運動］握力 ［レベル］3 ɹ1

bcʅdıȷʃ ［料理］おにぎり、おむすび、握り飯 ［レベル］2 ɹɹ ［文化］ → ȷɔ ɥʃdıȷʃ ȷɒ にアルティアから流入した料理。 携帯食としては冷や飯でも我慢するが、学食など設備のあるところでは温かいごはんを握るか、レンジでチンするなどして温める。形は手で握って自然な形で、三角や丸など。

bcʅı ［電算］パソコンのマウス、マウス ［レベル］2 ıl; ↓ 1ʕ: 制 :bcʅ

bcʅıbeʃı ［名詞］マウスパッド ［レベル］3 ıl;/ ɹʔ

bcʅe,ɑ le

bcʅenɔ,ɑ あれの bcʅe/ʅenɔ

bcl ［生物］髪以外の毛、毛、髭、髯、鬚、ひげ、ヒゲ ［レベル］2 1ɥ: 制 :恣意

bclʅıɑ ［地球の国名］バルバドス 1L: ポルトガル語でヒゲの生えたもの

bclʅəʅı ［動物］ヒメジ 1ɥ: 制

bclnc ［動物］ペルシャ、ペルシャ猫 ɹ1: ヒゲ猫

bcȷcʅ ［植物］金柑、キンカン、きんかん ［レベル］3 1ʕ: 制 :bɔclcȷcʅ（ラグビーボール型みかん）

bcn ［名詞］防御失敗、ノーガード、直撃、ダメージ、大打撃、打撃 ［動詞］ɥəl を防げない、防げない、食らう、ɥəl は ȷɔl に効く、有効だ ［形容詞］(ın で）ノーガードな、直撃な ［反意語］ılu ın、ɑeı ［レベル］3 ɑu;ɑɔueʃ。弾かれたときのビンという音から。 ɹɱ ［語法］ 完全に防御を失敗して直撃を食らうこと。

bcbc ［化学］アゾ化合物、ジイミド 1L:becȷ/becȷ

bcbcl ［音楽］ディスコ、ディスコミュージック ［レベル］4 ul;bebel。やっている当人たちが「こんなもの無駄無駄」と自己卑下しながら狂喜してそう呼んだ。 ɹ1

bcɾɒıφ ［音楽］ビブラスラップ、ヴィブラスラップ ul;bcɾ/ɒıφ bcɾ は擬音。ɒıφ は揺れる。 ɹɹ

bcz ［医療］［料理］カビ、黴 ［レベル］3 1ɱ: 制 :beeblccz（臭い小さいもの）

bclȷ ［名詞］かべかけ、壁掛け、タペストリー ［レベル］3 1ʔ: 制 :bcl（壁）

bclı ［建築］漆喰、しっくい ［レベル］5 1ʕ: 制 :bcl（壁）

bcleɔ,ȷzɑ ccɥe

bcı ［名詞］雑音、うるさい音、ノイズ ［類義語］ɑɔ ［レベル］2 ɹ0: 古 bɥıʃȷ（いらない）

bcınʅı ［娯楽］ビアンカ ɹ1 ［文化］『グラディウス』に相当するゲーム。

bcıleʃ ［軍事］中佐、ビアレット ［組み数字］7／２０ ［類音］ucıleʃ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:bılʃ（跳ね返す＝対抗する）/leʃcȷ（レティス）→ bıleʃ → 頭母音を bılʃcɥ とずらすために c を加え ［語法］［文化］ ʅını

bccd ［名詞］ブザー、ベル ［レベル］3 古 : オノマトペ 【用例】 ıɥ bccd ブザーを鳴らす

bccz ［俗語］［動詞］ɥəl をなめる、なめる、舐める、甘く見る。舌で舐めるという意味ではなく。 ［レベル］3 Δ:ʅlccz

bcɔ ［親族］じーさん ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:be/ɑcɔ

bɔl ［単位］潤 ɹ1:bel

bɔn ［動詞］ɥəl を弾んで ı に行く、弾む、バウンド ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :bɔnφ（ゴムボールが弾むオノマトペ）【用例】 φeʅ bɔnınɑ ʃɔɔɑ ı ɑɔnʃ. ボールが坂を弾んで道路に出る。

bɔnʃ ［名詞］反動 ［動詞］ɥəl を ı に反動させる、反動させる ［レベル］4 ɑu;bɔn（跳ね返るオノマトペ）/ʃe ɹɱ bɔnʃ:bɔnʃ

bɔnʃleʅɔ ［医療］離脱症状 ［レベル］6 ɥʃ;/「反動症状」 ɹɱ

bɔnbe ［俗語］デブス、デブサイク ［類義語］been、besı、leseȷʃ zφ;bɔn は太った音象徴。be は卑音。 ［レベル］3 ɹʔ ［語法］ デブで不細工な人のこと。男女ともに使う。 ［文化］ ブスはともかくデブスは嫌われる傾向にある。後者は努力である程度改善できるのに努力を怠っているためである。 【用例】 ın ʅclhc ȷen been ʃeʃ bɔnʃe ɑıɾ. bɔnʃe eɒ ȷen been uɔȷʅel uɔl eɒ ʅclı, ʃcı ı88 ブスはまだ許せるが、デブスはマジで許せん。デブは根性で痩せられるだろうが！

bɔnı ［形容詞］ぐにゃぐにゃな ［レベル］2 古 :bnın

bɔnc ［植物］ブロッコリー ［メタファー］ねぐせ、寝ぐせ、寝癖 ［レベル］2 lıʅʃı:「寝癖の頭」が原義。 【用例】 lılı, ʃɥə ʃcl bɔnc e. わー、寝癖すごいよ。

bɔddɔ ［卑語］ハゲ、はげ、禿げ。禿、スキンヘッド、ツルピカ ［メタファー］スポット、空いた空間、広い空間で少しだけ違った部分 ［レベル］2 古 ［文化］ 卑語としては使わないこと。メタファー語義は使って構わない。

bɔdɔʃ ［動物］ロシアンブルー ɹ1:bɔddɔ/ʃe

bɔb ［形容詞］匂いが強い ［類義語］beeb ［反意語］ueu ［レベル］2 制 ［語法］ 臭くはないがキツイ匂い。つけすぎの香水など。 【用例】 ☆ ʃc ʃəɥ lccʃɔ, ʃıl bɔb ɔn ʃə ʃɔoı. 良い匂いの香水だけど、つけすぎで臭いよ：日本語では「臭い」と訳すのが自然。

bɔbɔ,ɑ ɥecn

bɔh ［動詞］ɥəl をむせばせる、咽ぶ、むせる、むせぶ ［レベル］2 古 : オノマトペ 【用例】 ın bɔhıʃ. 咽た。 ın bɔhıʃ lı uɔl bıɑ ʅɔȷ lııʃ. 彼の背中を叩いたら咽だした。

bɔɥʃ ［軍事］少佐、ボルト ［組み数字］８／２０ ［レベル］３ 1L:ɥcɑcı:bɔlʃ（槌（腕力の象徴。そろそろ少佐くらいだと前線に出ることも増えるため）） ［語法］［文化］ ʅını

bɔoı ［擬音］どかーん、ドカーン ［レベル］2 1L: リディアの書

bɔlʃ ［名詞］槌、ハンマー、金槌、木槌、鉄槌 ［動詞］ɥəl をハンマーで打つ ［音楽］ピアノのハンマー ［魔法］ボルト。土の黒魔法。地中の鉱物を集めて槌とし、敵を打つ。打撃系魔法なので物理攻撃のバリアで防がれる。 ［名詞］（ʃcl bɔlʃ の形で）腕力 ［レベル］3 ȷɒ;uɔl,ɑu.l 1ʔ: 制 : 古 :bɔl（槌）。赤アンクノットにはヴォル (uɔl) とあるが、編集者の聞き間違い。 uɔl:bɔlʃ:uɔl ［語法］ 制裁や仕置きの象徴。子供のお仕置きの象徴は鞭。 ［文化］ 腕力の象徴。

bɔʃl ［動詞］ɥəl を這って ı に行く、這う ［レベル］2 1ʔ: 制 :bɔʃle(床を行く) 【用例】 ʅcı bɔʃlɔɥ leȷʃez ı ʃınʃ. 紫亜が居間を這って出て行く。

bɔʃlnını ［地学］［歴史］リィアキアン ul;/ ɹʔ ［文化］ φııueɑeɒe

bɔʃlı ［名詞］爬虫類、は虫類 ［生物］爬虫綱 ［レベル］3 1ʕ: 制 :bɔʃl

bɔlȷ ［名詞］カーペット、絨毯、じゅうたん、敷物 ［レベル］2 1ɱ: 制 :bɔlnc(床の毛織物),bɔlȷıb(床の毛織物) ［文化］ ɑɔȷɒɑɔʃl 【用例】 eu bɔlȷ ıl ılȷ 床にカーペットを敷く

bɔc ［名詞］ラグビーボールのような楕円形の球、楕球 ［数学］楕円、非真円← φəlɒeɒ ［卑語］金玉、キンタマ ［レベル］2 ɑııuı: 古 ［語法］ φəlɒeɒ

bɔcφeʅ ［運動］ラグビー ［レベル］3 1ʔ: 制

bɔcısı ［電算］［工学］非円率 ul;/「楕円率→非真円率」 ɹʔ ［文化］ 光ファイバーに関する専門用語。非円率とはコア中心に中心としたコア領域に外接する円と、それと同心でコア領域に内接する円の二つの円の直径の差をコア径に対する百分率で表した値であり、この値が大きくなってコア形状が真円形状から離れるほど伝送性能が低下するため好ましくない。

bɔɔφ ［医療］たんこぶ、タンコブ ［レベル］2 ɹɹ: オノマトペ

bɔɔɥ ［動物］狸、タヌキ ［レベル］5 dıı:lıʅʃı ［文化］ アルバザードには元々生息しておらず、あまり輸入もされていないため、なじみがない。アルバザード人は bɔɔɥ と聞いても、こちらでいうカピバラくらいにしか分からない。

bɔɔze ［俗語］ヤギ面 ［類義語］been ʃɒ;beeze.ʅ ［レベル］3 ɹʔ<bıız e:ɹ1 ［文化］ 使わないこと。 アルバザード人は人種的におかめやおたふくに当たる顔があまりない。代わりにヤギのような顔をした人がいて、ブスブサイク扱いされる。鼻が変な形だったり、目が変な形だったりする。ヤギのように。ちょうどおかめやおたふくなどの悪口に相当する言葉がこれとなる。

be ［接頭辞］～しやがる。動詞につき、ɒc の反対で、悪い意味を作る。 ［接頭辞］拙者、小生。代詞につき、謙譲語化させる。 ［レベル］2 ɹ1: 古の卑音から

beʃ ［名詞］泥、マッド ［レベル］2 ɑu;be/ʃəənɔ「汚い土」 定 : 汚い土 beʃ:beʃ:lı beʅeʃ

beʃʃı ［親族］アネキ、姉貴 ［類音］beʃʃe ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:be/eeʃı ［語法］［文化］ ıʅȷeɥ

beʃʃın ［料理］田楽豆腐 ［レベル］4 ɹɹ:ləlcı:beʃ から。新宿。豆腐は食べたがこれは嫌がった。おいしいのにね。

beʃʃɔn ［生物］サンショウウオ、沙羅曼蛇、サラマンダー ［レベル］3 ɹɹ:「どろどろの」

beʃʃe ［名詞］オッサン、おっさん、おじん、オヤジ、オジン ［類義語］ʃeʃʃe ［反意語］bellı ［類音］beʃʃı ［レベル］2 ɹ0:be/ʃeʃʃe

beʃʃel ［形容詞］みじめな、惨めな、あわれな、哀れな ［類義語］lenıȷ、uecφl ɥɑ;beʃ/eel「泥だらけの顔」 ［レベル］3 ɹʔ

beʃlɔle ［名詞］泥沼、沼 ［レベル］3 ɹɹ

beʃbeɾʃ ［動物］ザリガニ、ざりがに ［レベル］3 1ʕ: 制 : 失彩エビではない。但しエビの下位分類ではない。

beʃl ［生物］サルモネラ菌 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:beʃ/leun ［文化］ 泥水のような汚染された水などを介して広まる。綺麗な水のない衛生状態の悪い地方で多発した。

beʃı ［名詞］マット、パッド ［レベル］3 1ʔ: 制 :beʃıbe(泥を取るための布) 【用例】 eu beʃı マットを敷く

beʃc ［形容詞］濁った、濁る、濁す ［反意語］ɑɥen ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:beʃ 【用例】 ȷıd e ɑelez ıʃ beʃc enʃɔ ın nı ɥıc ɔn cnȷ ɔnʃ ɔȷn. 教室の空気が濁っていて、目と頭が痛かった。

beʃcȷ ［俗語］マスゴミ ［レベル］5 ıl;be/ʃcȷl ɹɱ

beʃccnȷ ［医療］緑内障 ［レベル］4 1L

beʃɔoı ［美容］コロン、オーデコロン ［レベル］4 ɹ1

beʃel ［医療］破傷風 ［レベル］3 古 :beʃ

beʅ ［名詞］暴力団、マフィア、ヤクザ、ギャング ［レベル］3 1ɱ ←古 : beeʅleʃ。語源不詳。臭い（＝悪い）と関与ありだろう。

beʅʅı ［親族］親父、オヤジ、おやじ ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:be/ʅıʅʅı

beʅʅıɒ ［名詞］イライラの種、気に喰わないこと、ムカつくこと ［レベル］3 ɥɑ;beʅıɒ.ʅ「吐き気を催すようなこと」 ɹɱ

beʅı ［名詞］クラブ ［レベル］4 ɥcɑcı: 定 : 元は beebʅı「変なにおいがするところ」 ［文化］ 酒を飲み、女が相手をするところ。インプレンに

ある。

beʅıᴅ ［形容詞］気持ち悪い、肉体的に気持ち悪い、吐き気がする、ふらふらする ［類義語］ᴅelcȷ ［反意語］eȷcl ［レベル］2 ⅃0:beʅeᴅ（胃が悪い）→ beʅeᴅ → beʅıᴅ（胃を意識しすぎてしまうため、beʅıᴅ に） ［語法］ eȷcl 【用例】 ın ʃcl beʅıᴅ ɑəɔ ᴅcl ɥcs. 二日酔いでひどく気持ちが悪い。

beʅe ［代詞］こんな場所、こんなところ ［副詞］こんなところで。el 不要、ʅı 不要。 ［類義語］ıʃə ［反意語］ɔʅel ［レベル］1 ⅃⅃;beʅe,ɑ.heᴅ。卑音が入ることから意味が悪化して借り入れられた。 ⅃⅃

beʅe,ɑ ıʃə

beʅeʃ ［経済］汚い金 ［類義語］φcl ［反意語］ınse ［レベル］4 ɥɷ;<lʃ ⅃ɱ ［語法］［文化］ ınse

beʅeʃ,ȷzɷ beʃ

bel ［動物］くじら、鯨、クジラ ［レベル］2 1ʔ: 制 :bəll。よく分からないが dleʃ などの古い形に関連があるだろう。

belcɑı ［地球の星座］［ユマナ］くじら座 ⅃ɱ ［文化］ cɑı

beȷ ［名詞］おべっか、お世辞、追従（ついしょう） ［動詞］ɥəl というおべっかを ı に言う ［反意語］ɑecʃ ［レベル］3 古 ［語法］ 心にない相手のためにならないことを言うこと。

beȷʃe ［形容詞］付和雷同 ［レベル］4 ⅃⅃:beȷ/ʃe

beȷʅı ［生物］うなぎ、ウナギ、鰻 ［レベル］3 ɥɷ;beʃ/ıȷʅı「泥海竜」アルティアから輸入した際に ılʃ を取り入れずに造語した。 ⅃⅃

beȷı ［環境］埃、ほこり、ホコリ、ダスト、ちり、チリ、塵 ［レベル］2 定 : 汚い砂 【用例】 ȷeɷ beȷı ほこりを払う

beȷıbelʃ ［名詞］ちりとり、塵取り ［レベル］2 1ɱ: 制

ben ［俗語］［感動詞］［名詞］クソ、バカ、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［類義語］beɔ、ʅəz ［レベル］2 古

ben(⅃) ［アイテム］鞭、べん。ムチではなくベンという武器。 ［類義語］ ᴅeʃl ȷzɷ;ɑɔueʃ。叩いたときの音から。 ⅃ɱ

benʃ ［形容詞］［ネガティブ］ませた、いやに大人びた、大人びて生意気な、背伸びした ［形容詞］［ネガティブ］熟れていてまずい。熟れるとかえってまずいものに使う。 ［類義語］ɥız ［反意語］cbeʃ ［類音］uenʃ ［レベル］3 ⅃0:be/ʌınʃ

benʃlıȷ,ɑ ueeɥ elʃ;e。エーステで音を取ったら長くなりすぎたので後に beeȷ に変わる。 赤

benʃe ［卑語］バイタ、売女 ［レベル］4 古 :beɔ/ᴅenʃe ［語法］ beᴅdɔ と同じくよく使われるが、目の前で言うと大変なことになる。現代では売春はふつう奴隷のすることなので、奴隷程度に落ちた女という意味合いもあり、さらに意味が強烈になっている。

benȷ ［動詞］ɥəl を軽蔑する、軽蔑する、見下す ［反意語］ȷɔʅȷ ［類音］beȷ, ben, uenl ［レベル］2 ⅃0:be/cnȷ

benȷıdʃ ［名詞］卑称、蔑称 ［反意語］ȷɔʅȷıdʃ ［レベル］3 ⅃0

benᴅeᴅdɔ ［俗語］クソマンコ、バカマンコ、バカマン ［レベル］3 1ᖘ: 制 ［語法］ 知能の低い女や性格の悪い女や気に食わない女などを罵った言葉。醜い女に対しては性欲が沸かずに ᴅeᴅdɔ という評価が下らないため、適応されない。醜い女を罵る場合は been である。benᴅeᴅdɔ は極めて悪辣な罵倒だが、それゆえに影では多用される。

benɷ ［名詞］エサ、餌 ［俗語］ʅəcl ［俗語］アルティア化された食事以外の食事。ıl でアーシェが名付けた。 ［レベル］2 ⅃⅃: 古 becɷ（餌）

benɷı ［感動詞］大丈夫ではない、大丈夫じゃない、だめ、駄目、ダメ、だめだ、駄目だ、ダメだ、だいじょばない、無理、むり、ムリ、無理だ、むりだ、ムリだ ［感動詞］アウト ［反意語］dıȷȷɔ ［レベル］1 ⅃0:zı nı:ben/ɷı（馬鹿だろ）。ʃə eʃ ben ɷı（馬鹿だろそれ）の ʃə eʃ が省略された後に語彙化して benɷı になったもの。⅃0 年ごろの造語。語彙化とともに意味が薄く広くなり、dıȷȷɔ の反対語になったのが ⅃⅃ ごろ。幻日登録も ⅃⅃ 年。口語では使われたが、文語では見られなかった。

benben ［幼児］トイレ ［類義語］beeʅ ［レベル］1 ⅃1:ɥcɷcı:benı/benı（おしっこ、おしっこ）とルシアを誘導したことから。⅃ʔ までセレンは知らず、⅃ʔ に登録。

benzen ［名詞］スカトロ、スカトロジー ［類義語］ɷcıeɥ ［レベル］4 ɑu;be は卑音 古 ［語法］ benzen と ɷcıeɥ は語の古さしか違いがなく、歴史的な違いだけであり、ニュアンスや語感は変わらない。 【用例】 → benzenın

benzenın ［名詞］スカトロジスト ［レベル］4 ɥɷ;/ ⅃ʔ 【用例】 lılʃ ben zenın, ɑclcn eʃ ɥıʅeıɥ le ᴅcɥə eɥ ʃcɔ ıl eɥcı ɑɥen dɔʃ ᴅıcn ɷıd. スカトロジストにすれば美少女はただの水を体内で澄んだ聖水に変える濾過器である。

benı ［幼児］おしっこ ［レベル］1 1ʔ: 古 : 尿の一般語 bebe。beb/e（臭い水） 【用例】 lılı, ʃɥə ıɥeȷ benı, lcı lccs. あら、おしっこ出たのね、紫亞ちゃん。

benıȷ ［形容詞］笑える、ワロス、バロス、ワロタ、ワラタ、クッソワロタ、クソワロタ ［レベル］2 ıl;beɔ/nıl/ȷɔlȷ.ᴅu（クソ笑わせる） ⅃ʔ 【用例】 ʃə uecz eʃ benıȷ ɑəɔ ıʃ (ııı この動画クッソワロタｗｗｗ bın ıȷ ɑəɔ (ɷı) (ııı テラバロスｗｗｗ benıȷ ɑəɔ ᴅcl{ɔn} dılnʃləʃ (ııı 笛なめとか、テラバロスｗｗｗ（ᴅel ʅeeʃɔcı）

benıɥeȷ ［アビリティ］ベナレス ɥɷ:ɥɥəə;,hɥ（圧力） 古 :ɥɥəə: 中学生くらいに考えだされた。 ［文化］ ɥɷ におけるリュウの必殺技。上空に飛び上がり、上から剣を振り下ろすと尋常ならざる圧力がかかり、辺り一帯の地面が凹むほどの威力を出す。

benɔᴅ ［軍事］佐官 ［名詞］中ボス ［組み数字］3／7 ［レベル］3 古 :zını ［文化］ 士官の階級のひとつ。大佐、中佐、少佐に分かれる。

beɑıȷ ［名詞］［感動詞］［俗語］乙、おつかれ、お疲れ、おつかれさま、お疲れ様 ［レベル］3 ［類義語］ɑıʃɔɔ ul;be/ɑıȷ「卑音 / 仕事→糞仕事乙」 ⅃ʔ:ᴅel ［語法］ 良い意味で「乙」というときは ɑıʃɔɔ。スレ立て乙など。一方、自演乙などの「乙」は beɑıȷ。皮肉に使う。 【用例】 beɑıȷ ɔn ɾɔʅc. 発狂乙。ファビョリ乙。

beᴅ ［生物］膀胱 ［レベル］4 1ʔ: 制 :bezᴅeȷl（尿の袋）から。

beᴅɑıcz ［医療］膀胱炎 ［レベル］5 1L

beᴅᴅı ［親族］お袋、おふくろ、オフクロ ［レベル］2 1L:ɥcɷcı:be/ᴅııl

beᴅdɔ ［卑語］クソマンコ ［レベル］3 古 :be/ᴅeᴅdɔ

beᴅhɔhɔ ［医療］膀胱結石 ［レベル］5 1L

beᴅscɔɥ ［生物］膀胱兪、膀胱愈 ⅃1

beᴅc ［卑語］［名詞］［形容詞］～のクソ野郎 ［レベル］2 古 :beᴅc。卑音の b と eᴅc がくっついたもの。 ［語法］ eᴅc より酷い卑称。

beɷıʃ ［親族］ばーさん ［レベル］2 1L:ɥcɷcı:be/enɷı

beφ ［代詞］［φınɔ］おまえ、おめぇ、オメー ［レベル］1 ⅃1:ʅlccz:be/φɥə

beφɥenȷ ［言語］嫌いな言葉 ［反意語］ȷccnıɥenȷ ［レベル］4 ɥɷ;be（卑音）/φɥə（苦い）/ɥenȷ（言葉） ⅃ɱ

beφɔı ［形容詞］精神的に汚い ［類義語］ʃelıȷ、enɑɥel ［反意語］eɥceʃ ［レベル］3 ⅃⅃:ɥcɷcı:be/φɔı「吐き気をもよおすような」 ［語法］ 簡単に言えばこういうことである。アイドルの握手はたとえ手を洗ってなくて ʃelıȷ でも eɥceʃ。ブスの握ったおにぎりはたとえ uınʃıs でも beφɔı。

beφeʃ ［代詞］［φınɔ］おまえの、おめぇの、オメーの ［レベル］1 ⅃1:ʅlccz: beφ/ʃe

beφel ［動物］芋虫、いも虫、イモムシ ［レベル］3 定

beφel(⅃) ［ランドマーク］ベゲル ⅃1 ［文化］ 南区にあるライブハウス。最寄り駅カルザス＝ミルフから徒歩で１０分。

bebe ［動物］うじ、ウジ、蛆、マゴット ［レベル］3 定

bebeʃ ［名詞］がらくた、ガラクタ ［レベル］2 ɥɷ:bebel/ʃe「無駄なもの」 ⅃ʔ

bebel ［形容詞］無駄な、非合理的な、非効率な、効率の悪い、もったいない ［反意語］ɑɥeɑ ［レベル］2 1L:ᴅelcɷcı ılcȷ:be（悪い）be（悪い）l（ものごと） 【用例】 ın lɔ ʃə eʃ bebel lel ʃəəȷ uɔʅ lı ıʃə hɔʃ. これらの文がここにしか載っていないのはもったいないと思います。 ın ɥɔlıʃ ȷel bebelel ʅɔnʃ ȷɔ ɥəə. 一日中何もしないで時間を無駄に過ごした。

bebelnıɷ ［名詞］杞憂 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ 【用例】 ʃə eʃ bebel nıɷ ʃcȷ. それは杞憂にすぎない。

bebeluclȷ ［化学］トレオニン、スレオニン 1L: 穀物からの吸収率が良くないため、「効率の悪い」と名付けられた。

bebelφıcɷ ［医療］バセドウ病 ［レベル］6 1L: たくさん食べても痩せるさまを、「非効率的な甲状腺」とした

bebelɥɔl ［普通動名詞］無駄使い、浪費 ［動詞］ɥəl を無駄に使う、浪費する ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ 【用例】 ın ȷcʃ ᴅel l'ın bebelɥɔl ɑlen. 無駄にする時間はなかった。

bebeıl ［名詞］うんち、うんこ ［レベル］2 古 :be（くさい）/be（くさい）/ıl（もの） ［語法］ 大便を意味する日常的な言い方。といっても人前ではあまり言わないほうがいい。

beɾl ［卑語］バカ、馬鹿、ばか ［lben］［代詞］二人称 bız の強調形。てめぇに相当。 ［類義語］ʃeɔlɔ ［レベル］2 古 :beɾl ← belɔ ［語法］ ʃeɔlɔ は親しみがある感じがするが、beɾl は口汚い。知性のなさを罵る語。

beɾlʃ ［動物］えび、海老、エビ、ロブスター ［レベル］2 定 : バナナと同じで湾曲したもの ［文化］ 一般的に食べられる。やや高級。

beɾlʃlıɷ ［地球の国名］カメルーン 1L: 国名が海老の国

beɾlʃhıɥᴅı ［言語］ベルト幼字 ⅃1 ［文化］ hıɾl

beɾlʃıʃı ［言語］ベルト会談 ⅃0 ［文化］ hıɾl

beɾlȷ ［植物］バナナ ［メタファー］［婉曲］大便、うんち、うんこ ［レベル］2 定 ［文化］ リンゴについで人気のある食べ物。エネルギー効率がよく、健康にも良いとされて常食される。アレルギーがあるので注意。 【成句】 ［婉曲］ıɥ beɾlȷ 大便をする

beɾlȷıll ［経済］ジニ係数 ul;ɷccıbeɾlȷ/ıll ⅃ʔ

beɾlᴅ ［形容詞］湾曲した、曲がった、バナナ状の ［名詞］切痕 ［レベル］3 1ʕ: 制 :beɾlȷ

beɾlᴅʃıʃl ［動物］単弓類、単弓綱 ul;/「湾曲した綱」。頭蓋骨の左右、眼窩後方に側頭窓という穴がそれぞれ１つずつあり、その下側の骨が細いアーチ状となっていることから。 ⅃ʔ

beɥʃ ［悪魔］ベルト ［レベル］4 ᴅelʃcı 0:beɥʃ;e 1ᑫ: 制 : 古 :ɥcɷcı:ıɥʃe のもじりが語源か。古では eɥʃ だったが悪魔っぽくするために音を付け加えた。 ［文化］ 世界と言語を司るデームス。言語と世界を司る。２０歳前の女性の姿。白黄混血系、長髪。冷静沈着『幻想話集アティーリ』ではセレンが異世界の住人であるように、霊界とそれ以外の世界の存在を認めている。ベルトは霊界に異物が混じらないように異世界と霊界との関係を断絶し、それを監視するという仕事を担っている。従ってセレンはベルトが漏らした例外といえる。ただし実際に連れてきたのは悪魔メルティア。なお、ベルトは同時に言語を支配し、霊界の言語を常にアルカに保っていて、異言語の存在を排他している。また、異世界が霊界に対して脅威とならないように異世界の言語を混乱させるという仕事も持っている。つまり、異世界の人間たちが情報を自由に交換して力を付けることが難しくなるように、異世界の人々の間にいくつもの言語を作るという仕事を持っている。例えば人間界における英語や日本語のように。また、ベルトは戦いに力を使わないため、戦闘力は極めて低い。しかし自分に課

せられた仕事をまっとうするための力は与えられているため、ベルトの仕事はテームスでも邪魔できない。それに、もし邪魔をすればたちまち霊界は異世界からの干渉によって自己組織化が崩壊してしまうからである。ベルトは異世界からの断絶を行い、メルティアは異世界からの流入を行うといわれている。見た目は ᴅɪnɪ で、ləlcɪn である。髪は長く、性格は冷静。　水星を司る。

beɥʃɒɔdɟ ［動詞］ɥəl にコブラツイストをかける ［レベル］3　ɺ0:ʅɪlce: えびぞりで組み伏せる

beɥʃɒeɟʃc ［名詞］高みの見物、高見の見物 ［レベル］4　ɺɺ: ベルトはいつも戦わずに安全なところから見ているだけなので。【用例】 ɪɥ beɥ ʃɒeɟʃc 高みの見物をする

beɥʃcɪ ［アトラスの国家］ベルティア ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ:beɥʃ

beɥʃcɪɴlscʅ ［経済］ベルティアショック ［レベル］6　ıl　ɺɺ ［文化］ ʔʕ 「ベルティアショック」 連合諸国は敗戦後、明暗の差がハッキリ分かれていた。多額の賠償金を支払いながら国家運営をしていた点では共通していたが、メティオのように急成長を遂げた国もあれば、ベルティアのようにマイナス成長から抜けられずにくすぶった国もあった　敗戦から ʔ0 余年の間に国際社会の協力のもとで復興ないし破綻回避してきた弱小国だったが、この年ついにベルティア政府がデフォルト。国債の持ち合いをしていた近隣の魔方諸国が連鎖的にデフォルトを起こす。魔方諸国に多額の債権を保有していたメティオは国単体では好況だったが、これにより打撃を受ける。また、連合諸国に復興支援の名目で大きな額を貸し付けていた枢軸諸国も被害を被った　これが契機となり、世界経済が悪化

beɥsc ［伝統色］セピア。地球の定義より淡い。 ［レベル］4　ɺɺ:beɥʃ/sc。最初のインクというところから。

beɥcl ［形容詞］低俗な、卑しい、賤しい、賎しい、いやしい、俗悪な、俗物な、卑俗な ［反意語］ʃɥɪn ［レベル］3　ɺ0:beɥn:1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ:be/ʃɥɪn ［文化］ → ɪnʃel　・セレンの価値観　　セレンは高尚なものも低俗なものも好きだ。　だが学問などの高尚なものが娯楽などの低俗なものより優先されない社会は知的水準が下がり、最終的には国力低下を招くため、あってはならないと考えている。　ところが現代日本ではこの当たり前の考えが驚くほど受け入れられないということを身をもって何度も何度も経験しては苦渋を舐めてきた。さらにそういう連中が本来上なはずの東大生や医者を含むという驚愕の事実を経験して、あぁこの国は滅ぶんだなと実感した。　だからこそリディアと協議して「アルバザードだけは絶対に滅ぼしてはいけない、最強の国を維持しなければならず、それを実現するための社会づくりをしよう」という考えになっていった。　　・革命でセレンが求めたもの　　セレンは低俗なものを制限し、国民の民度を高めた。このことからしばしばセレンは低俗なものが嫌いと邪推されるが、それは誤解である。　セレンはアニメやマンガやバラエティ番組など、低俗なものは娯楽としてむしろ好んでいた。また、アニメなどに関してはひとつの文化であるとすら評していた。　ただ問題はそういった低俗なものが高尚なものを凌いでしまうということであった。ふだん高尚な学問や芸術をしている人間が息抜き程度に低俗なを娯楽を楽しむという程度なら問題ないし、むしろ精神衛生上良い。だが、遊びが勉強を上回ってしまうというのは良くない。低俗なものばかりが売れて、娯楽品を売る会社が綺麗な大きいビルを建て、その一方で辞書や学術書などを売る出版社の社屋がボロ屋だというようなことがあっては、その国は早晩滅ぶとセレンは考えた。実際２０１３年現在の日本がそうで、この国が滅ぶことが良い証左であろう。　セレンは低俗なものは多様性及び娯楽の確保として抹消されるべきでないとした上で、しかし低俗なものが高尚なものより優先され流布され受け入れられ儲かるという構図は国民の民度や知性を貶めるとして制限すべきだと考えた。　革命ではこうした娯楽品に高率の情報税をかけ、更に出版社側に回る儲けの割合も減らすことにした。同時にマスコミを使い、娯楽は息抜き程度にやるものであって、それに溺れるような人間は恥ずかしいという価値観を植えつけた。　革命まではセレンの考えは一部の高学歴な人間によって自然と実施されていたが、中流下流では実施されていなかったため、国民全体としての民度や知性は年々だだ下がりだった。セレンの革命により、ようやくアルバザード人の民度と知性は上昇に転じた。　革命により娯楽品は儲けが少なくなったため、当然のことながら現在の日本の学術書のように鳴りを潜めざるをえなくなった。出版点数は減り、全体的な売り上げも減少した。その代わりマスコミを使った洗脳によりより学究的な出版物の売り上げが反比例して増えたため、経済全体を低迷させるような事態は招かなかった。
　むろん低俗な国民がすぐに高尚なものに慣れるわけではない。多くの人間はできるだけ勉強をしたくないのだ。そこで爆発的に数を増やしてきたのが、娯楽書の要素を取り入れた簡便な学術書であった。例えば地球でいう「はじめてのアルカ」や『言語学少女とバベルの塔』のような、学問的な内容だけれども、アプローチは娯楽的で入りやすいといった作風が爆発的に増えた。セレンの革命により、学問を楽しもうという風潮が高まり、それまでお固い難解な文字の羅列であった学術書の業界が娯楽要素を取り入れることで、より分かりやすくよりとっつきやすい内容に変化し、一般受けするようになっていった。　要するに高尚なものは低俗なものに門戸を開き、低俗なものは高尚なものに擦り寄ったというわけであり、その結果、両者が融合してグレーゾーンであった『言語学少女とバベルの塔』のような一般人向けの学術書といった作品が増えた。　もちろん既存の娯楽品も、既存の難解な学術書もそのまま残ってはいるが、全体数は減った。代わりに増えたのがこのグレーゾーンである。全体としての出版業界の売り上げは大して変わっていない。　革命がもたらしたものは、民度と知性の総中流化であるといえよう。革命は経済的にも総中流化をもたらしたが、民度や知性においても総中流化をもたらし、広がっていた格差を是正した。　　現実のセレンが思うに、昭和の日本が強かった頃は概ねこんな感じだったように思う。もっと一般人も今より教養があったように思える。自分の親の世代と今の子供たちの親の世代を比べると、無教養な人間が増えたように感じることが多い。　新聞を読む人口も減ったし、教育的なテレビ番組も減ったし、文学を読む機会も減ったし、漢字の識字率も年々悪くなっている。今の子供にいたってはゆとり教育の残滓もあるのだろうが、フランスや韓国の位置はおろかユーラシア大陸すら知らないという者が平気でいる。全体的に勉強の話をしなくなったし、興味を持たなくなったし、知性が下がっているように感じることが多い。同時に低俗な娯楽品は昭和に比べて圧倒的に増えている印象を受ける。マンガやラノベやアニメの出版点数を上げるまでもなく――である。　逆にネットなどのおかげで教養がある人は個人でも学会員に対抗できるほどの知識を持った人がおり、経済だけでなく知性や民度まで格差が広がっているなぁと感じることが多い。つまりできない人は昔よりできなくなっており、できる人は昔以上にできるようになって、昭和に比べて平成は格差が広がっているのである。大学全入時代と呼ばれる現在においてですらこの体たらくである。　セレンとしては格差があまりに広がった社会は良くないと考えているので、経済においても民度においても知性においても、あまりあからさまな格差社会は良くないと考えている。その結果がこのカルディアにおける革命である。　　・革命と低俗　　もしアルバザードを日本と同じように滅ばせたいのなら、日本と同じシステムにしただろう。だがアルバザードは世界一の強国である。しかもアメリカのような新参と違い、長年に渡って一位を維持してきた。
　アルバザードが首位を維持できたのは学問や研究を疎かにせず、高尚なものに注力してきたからである。革命家の力が弱まるとすぐ人間の弱い心が易きに流れて低俗なものが流行るが、そのたび革命家が現れ、低俗＞高尚だった世の中を高尚＞低俗に戻してきた。
その結果アルバザードは高い技術力等を誇り、他国に対して常に優位な立場にいることができた。もし革命家が現れなければ、ローマ→フランス→イギリス→アメリカと首位が渡っていったように、アルバザードも一位から転落していたことだろう。　地球には魔導師の革命家がいないのでカルディアの革命はできないが、カルディアには魔法があるのでできる。だから地球の見方で「その革命はしくじる」と評するのは適切でない。【用例】 ɥɟcclı ıllı ɥəlc lıɑ leɟ nɔɟ ɥəlc lcɥ ʅɔn lcu ʅıc ııʃı. el dɥıɟ ɑıl beɥclen ʅɔnʃ ʅııl beɥclen eʃ beɥclen. 支配者たるもの拒むところは声を大にして拒まねばならない。低俗なものは低俗なものと認めた上で対処しなければならない。

beɥclueʃ ［言語］俗語、卑語 ［レベル］4　ɺ1

beɥen ［地学］ベスブ石 ［レベル］6　1L:belɑe/ɥen ［文化］ ユノによるバリアを強め、防御力を高める魔石。

bez ［医療］尿 ［反意語］uɔs ［レベル］3　1ʔ: 制 : 尿 :beeb ɔzʃʃ（臭い汚物）の略語。beeb ɔzʃʃ 自体は別に尿という意味はない。

bezn ［名詞］モップ ［動詞］ɥəl をモップがけする ［レベル］2　1ʔ: 制 : 定 : beɪb/zɔn

bezncdl ［生物］カウパー腺、尿道球腺 ［レベル］6　1L

bezneʃ ［動物］ヒマラヤン　ɺ1: モップ猫

bezᴅ ［生物］腎臓、マメ ［レベル］3　1ʔ: 制 :bezᴅɪc(尿の身体部位)

bezᴅuɪnɔ ［生物］志室 ［レベル］6　ɺ1

bezᴅφɪlʃ ［生物］水道　ɺ1

bezᴅφɪɔ ［生物］腎盂　ɥɑ;/　ɺ₥

bezᴅscɔɥ ［生物］腎兪、腎愈 ［レベル］6　ɺ1

bezᴅlɔɥ ［医療］尿管。bezlɔɥ と混同注意 ［レベル］6　1L

bezᴅlɔɥhɔhɔ ［医療］尿管結石 ［レベル］6　1L

bezlɔɥ ［生物］尿道 ［レベル］4　1L

bezlɔɥɑɪcz ［医療］尿道炎 ［レベル］5　1L

bezlɔɥhɔhɔ ［医療］尿道結石 ［レベル］5　1L

bezɪ ［化学］アンモニア ［レベル］4　1ɁP: 制 :bez/ʃɔ（匂い）

bezɪɟdel ［化学］アニリン、アミノベンゼン、フェニルアミン、ベンゼンアミン　1L

bezɪn ［化学］アミノ基　1L

bezɪl ［化学］アミン ［レベル］6　1L:bezɪ/l

bezcʅ ［植物］クランベリー ［レベル］3　1ɁP: 制 :bezuɪnʅ（尿の果実）。尿路感染症などに効果があるため

bezcn ［化学］イミノ基　1L

bezcl ［化学］イミン ［レベル］6　1L:bezɪl のアプラウト

bezcɪ ［政治］過激派、タカ派、鷹派 ［反意語］ɟɪʃcɪ ［レベル］3　ɺ0:beezel/lcɪ（ベーゼルのような）

bezɔᴅ ［化学］オゾン ［レベル］4　1L:beez/zɔᴅlcl

bezɔᴅhɪnʅ ［化学］オゾン層 ［レベル］4　1L

bezeʃ ［形容詞］せっかちな、短気な、気が短い、気が早い ［形容詞］雪や台風など天気が通年よりも早い ［形容詞］ドラムなどが走りがちな ［反意語］ᴅcʅʃ ［レベル］2　1L: ベーゼルのような

bezeɥ ［生物］エリスロポエチン　ɥʃ;bezᴅ/eɥc。腎臓から分泌されるホルモンで、骨髄の幹細胞に作用して赤血球の合成を促進することから。　ɺ₥

bezel ［化学］雷汞、らいこう、雷酸第二水銀　ɥʃ;beezel.ʅ　ɺ₥

besɪ ［卑語］デブ、クソデブ ［類義語］sɪl、sɪlı、bɔnbe ［レベル］2　古 :be/sɪlı から

bel ［言語］b の文字 ［レベル］1　1₥: 制 : 料理 ［語法］ 第１２文字目の幻字。

bel(ɺ) ［料理］［普通動名詞］料理、調理 ［動詞］ɥəl を料理して ı を作る、料理する。完成品を ɥəl にする間違いが多いので注意。 ［レベル］1　ɑ;e　1ʔ: 制 : 古 :ɟɔɥn:ʅɥəec, ʅɥəbelcc（料理） bel:bel: ［文化］ belleɪ　料理は栄養のバランスを重視して作られる。偏食はしない。肉ばかり

とか野菜ばかりということはない。ただ、日本人ほど魚を食べない。料理は手早く作る物が多いが、たまにやる気になると何時間でも煮込んで手の込んだ物を作る。味付けは塩などをできるだけ使わないように務め、薄味を好む。味付けで好まれるのは塩やソースではなく、香辛料の類である。アルバザードには数多くの香辛料があり、どの家庭にもたくさんの香辛料がある。使い方も心得ていて、どの料理に合うか知っている。量はあまりかけない。アルバザードはレトルトを嫌う。冷凍食品も嫌う。あまり食べない。調理法は様々である。生、焼く、煮る、揚げる、燻すなど、日本にあるものは全てある。　料理の種類は主にアンシャル料理とインサール料理に分かれる。その他、メテ料理やルティア料理など、世界の料理があるが、主なものはアンシャルとインサールである。特にアルバザードはアンシャルが多い。飽食は悪なので世界中の料理を食べることはない。アルバザードに色々な料理があるのは色々な民族がいるからであり、一人の人間が色々な国の料理を日常的に食べることはない。従ってアルバザード人は日々大して代わり映えのないものを食べ続ける。そしてそれで幸せであると満足する。　　・料理のプロトタイプ　　プロトタイプはシチューとミネストローネである。これは現実にリディアの好物がシチューで、たびたびリディアがセレンに作ってくれた手料理がミネストローネだったことから来ている。【用例】 ʃə bel ıʃ ıʎ cn. その料理はおいしそうだった。

bel,bφ ［接辞］悪魔を意味する

belʃ ［名詞］鍋、ナベ ［料理］［メトニミー］鍋料理 ［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :belʅ。belʅ の語形はソースに取られたため。【成句】 belʃ ʃ'ıµbı アルバザードの鍋：文化の坩堝、和洋折衷

belʃ(ɺ) ［化学］スルホン　1L:bel（硫黄）/ʃıʃ（ケトン）

belʃʎcʅl ［被服］サンハット　µʃ;belʃ/ʎcʅllɔɔb　ɺʎ

belʎe ［名詞］恩知らず ［レベル］３　古？ :əɒʃɔnı:belʎe は本来は「 恩知らず 」という意味ではないそうだ。

belʃzɔɒı ［化学］スルフィニル基　1L

belʃzɔɒc ［化学］スルホキシド、スルフオキサイド　1L

belʎɔɔb ［被服］ベレー帽 ［レベル］２　µɒ;/　ɺ1: 鍋状帽子 ［文化］ 芸術家が着けるという印象はない。アルバザードだと女子校に通う lclcı までの少女の制服というイメージ。

belʃı ［化学］スルホニル基　1L

belʃıʝl ［化学］スルホン酸　1L

belʅ ［料理］ソース ［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :ȷɔµn:ʅɥəəlc, ʅɥəbelcc（料理）

belʅ,hɥ　belφ

belʅı ［建築］台所、キッチン、調理場 ［レベル］２　1ʎ: 制 : 料理の場所 ［文化］
　日本と構造も同じだが、アルバザードの台所は広い。大家族なので数人で料理する。そのためには広いスペースが必要だからである。台所用品で日本と違うのは電気釜であろう。これは普及していない。また、食器洗い機は普及している。お湯は電気ポットで沸かすことが多い。薬缶で沸かしてポットに溜めておくこともある。

belʅıȷɔz ［料理］換気扇 ［レベル］２　1ʕ: 制【用例】 ıµ belʅıȷɔz 換気扇を回す

belʅcl ［料理］包丁 ［レベル］２　1ʔ: 制 : 料理の刃。参考 : 古 :lcczdccʅc（小さい剣）

belʅɔn ［料理］調理道具 ［レベル］２　1L

belnı ［形容詞］卑怯な、狡猾な、卑劣、ずるい、汚い ［類義語］ʃelȷ ［レベル］３　µɒ;‹ɑu‹be/ıl/nı　ɺʎ　belnı:belnı:belnı ［語法］ ʃelȷ

belɑµeı ［地学］黄鉄鉱　1L

belɑı ［形容詞］うざく明るい、明るくバカっぽい、体育会系な ［反意語］ ɒcnʃ ［レベル］３　古 :bel は beɔ の意味。ɑı は火で、火のような。「火のようなクソ野郎」が原義。［文化］ 陰気以上に嫌われる性格。アルバザードは大人しい雰囲気を好むので、うざい体育会系はとても嫌われる。

belɑe ［地名］ベルフェ ［名詞］温泉→belɑeʃ ［レベル］３　古 :beeb elɑe（臭い泉）［文化］ アルバザード北東部の一地方。アルバザードに珍しい火山帯にあり、温泉が多い。中でもベルフェには硫化水素の混じった温泉が沸く。臭いが健康には良い。

belɑeʃ ［名詞］温泉、温泉施設、スパ← belɑe ［レベル］３　ɺ1:belɑe/ʃe

belɑel ［料理］料理学、調理学　1L

belɑelcl ［化学］硫黄 ［レベル］４　1Δ: 制

belɒı ［名詞］ベルマ、クソ女、女 ［反意語］ɑlınɒcı ［レベル］３　ul;bebel/ɒıl　ɺɺ:bebel/ɒıl「無駄穴」［文化］ 現実の女。漢字ではけものへんに女と書く。　特性は右記の通り。一度別れると相手との思い出うっちゃり投げ、口汚い、優しくない、むしろズルくて残酷、可哀想と言う割には支援しない、意地が悪い、噂をする、低俗、高尚なものを介さない、フロンティア精神なし、明らかにマイナスな化粧がプラスと思っている勘違い、お前らだけだったら何万年経っても穴蔵生活だったくせにオタク系研究者を馬鹿にする、てゆうか全てがバカじゃねえの。どう考えたって世の中発展させたのは ɑlınɒcı を夢見る男たちの不朽の努力だろ。【成句】 belɒı ılceʃ ʃcl ʅcu ʅıc. 性格のねじ曲がった女は声が大きい : 悪貨は良貨を駆逐する。腐ったリンゴ。一部の性格の悪い女のせいで他のまともな女まで色眼鏡で見られてしまう。また、そのような性格の悪い女はしばしば同調行動を求めて、まともな女を堕落した道に引きずり込もうとする。結果、大人しいまともな子が孤立したくないという理由で悪化していく。腐ったリンゴが良いリンゴを腐敗させるように。

belɒe ［親族］どら妹 ［レベル］２　1L:µcɒcı:be/ıɒel ［語法］［文化］ ıʅȷeµ

belφ ［地学］青銅、からかね、ブロンズ ［レベル］４　ɒelʃcı L:φclcəȷ;bel/φc「錫とで料理された金属」 古 :φ は φc（金属） belφ:belφ::belʅ,hɥ ［文化］ ɒelʃcı L にギリウスが銅鉱石の中から発見した。青銅は銅と錫の合金だが、銅鉱石の多くは錫を含むため、比較的発見は速やかであった。青銅はその後ギリウスによって意図的に取り出されるようになった。　青銅は銅に比べて硬い。また、研磨や鋳造・圧延などの加工ができた。地球では武器や壷などに使われたが、青銅はユノの伝導率が悪かったため、剣や斧には加工されなかった。その一方で、壷や装飾品には用いられた。　よってアトラスの青銅器時代は内容が限られる。地球では中東、現在のアフガニスタンに錫の生産地があり、流通を維持するために各国は小競り合いをしながらも大々的な征服は行わず、ある程度安定した勢力関係を保っていた。しかしアトラスではその需要がないため、事情が異なっていた。神を通じてユーマの一族にも青銅が伝わったが、やはり装飾品として用いられた。錫の産地は銅よりも限られるため、銅より高価なものとなった。神の実在するアトラスでは取り立てて祭祀用に使われることもなかった。　なお、青銅は ȷcɒel を短くする効果がある。日常的にはあまり使うことのない機能なので、青銅は地球ほど重要な金属にならなかった。

belφɒeʅcı ［名詞］青銅器 ［レベル］４　ɒelʃcı ΔΔ:φclcəȷ;/　ɺʔ ［文化］ belφ

belφınɒ ［アトラスの国家］ベルガンド ［レベル］４　zφ;bel/φınɒ ［文化］ 面積 : ɺᚠΔʔʔʔ.1ʕΔ٩ɺᚠ ʅɒ ɺ　ɥəəɒı ʔʕ0ʕ　バルマーユから広まっていった魔族がミュールへ入る。土着の魔物は知能の低いものが多く動物社会を形成するにすぎなかった。今回入った知能の高い魔族は人類の少ないミュールを好都合と捉え、ここに belφınɒ 共和国を築いた。最初にできた国は王国となるイメージがあるかもしれないが、人間と違って魔族の集まりは異なる種の集まりであり、その点を考慮せねばならない。belφınɒ は多種多様な魔族の集まりで、知能の高いヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンが主に支配階級にいた。彼らは各種族の代表からひとりの執政官を選んで共同統治をさせるという政治システムを採っていた。　belφınɒ の領土はミュールと現カテージュで、カテージュは少数派だが個々では力の強い lcınʃ, lclɒ, φılɑµec, lcbeeze などの魔族が多い。ごく少数だが ueµlınȷ なども存在する。またここにも uecφın は多い。カテージュでは混血が多く、魔人が多い。

belφınɑµen ［言語］ベルガンド語 ［レベル］５　ɺ1 ［文化］ 悪魔の言葉は何語か。まず神の生まれ方を見てみよう。　神は本から生まれたユルグのように物から生まれるものや、テュアのように分娩を経ても最初から服を着ていたり幼女だったりするものがいる。人間の生まれ方とは異なることがある。　テュアは生まれてすぐ親になぜ服を着て生まれてきたかと問われ、自分は高貴だからと答えている。ということは、生まれたときから言語を習得していなければならない。しかし単に分娩しただけではこのようなことは起こりえない。となると、先天的に脳の中に親の言語知識がコピーされ継承されていることになる。人間の分娩と異なり、神のそれは本から生まれたユルグを見てもわかるが、どちらかというと自己の複製に近い。自己の一面を複製して新たな命にしているという側面があり、それを下支えするのが知識の継承である。　　アルマは ɑu を神から学習している。テームスは喋れないが、uȷ ではアルマの訴えに応じていることからも、ɑu を解することはわかる。これはいつ学習したのかだが、学習したのではなくベーゼルらを復活させたときに知識を親が逆に子から継承したものと考えられる。　そのテームスから生まれたのがアデルなので、bφ と ul は基本的に ɑu と同じということになる。zφ を起点とし、ɑu を元にそれぞれ独自の変化を遂げていった言語ということになる。

belφınɒc ［音楽］リラ、ライアー ［レベル］６　ɺ1:「ベルガンドの」［文化］
　厳密には、ベルガンドができる前からミュールの土着民が既に持っていた。

belφııbe ［料理］食材、食料品 ［レベル］３　ɺ0:ɒelcɒcı ʅceµ

beld ［料理］ガスコンロ、台所のガス、キャンプ用コンロ ［レベル］３　1ʕ: 制 :bel/dȷı（ガス）

beldıɑ ［化学］チオエステル、スルフィド、硫化物　1L

beldcnʅhɔə ［化学］チオシアネート　1L

belze ［文末純詞］［φınɔ］ʃcȷee ［レベル］１　ɺ1:ʅlccz:beφ ȷeµ「お前は知る」

belzen ［魔法］火。五行の４番 ［医療］心 ［レベル］４　ȷzl;beezel。火　ɺ1 ［文化］ ʅleuınȷ

belzee ［名詞］業火、地獄の業火、地獄の火炎 ［レベル］５　zφ;‹ȷzɒ‹beezel.ʅ　ɺʎ　x:belzee:lə belzee

belzeeµe ［天文］金環食、金環日食、金環日蝕 ［レベル］６　ɺ1:beezel/zeeµe

bellı ［名詞］オバン、おばん、おばさん、おばはん、オバサン ［類義語］ lınlı ［反意語］beʃʃe ［レベル］２　ɺ0:be/lınlı

bellızɔɒ ［料理］食事のマナー ［レベル］３　µɒ;/　ɺʔ ［文化］ 小うるさいマナーはないが、全くマナーがないわけでもない。原則として合理的であることが論点となる。たとえば食器を傷つけない食べ方をするのが礼儀である。経済的に見て合理的である。具体的にいうと、ナイフで肉を強く切りすぎて皿までギコギコ引いてしまったりしてはいけない。皿を置くときにドンと力強く置いてもいけない。合理性は他の面にも現れる。たとえばスープはなるべく奥に置く。こぼれてもとっさに避けられるためにである。日本人は味噌汁を茶碗の右に置くが、アルバザード人は危ないと思って置かない。茶碗の右に置いたら手を引っ掛けてこぼしやすい。熱い汁物はなるべく遠ざけておく。もう一つの原則は、出された食器は使うということ。ナイフと肉があればナイフで切れという合図だと思って良い。だからフォークを刺してかぶりつくようなことを避ければ良い。逆にいえばナイフもフォークもなければ手で食えという合図である、ただ、アルバザードは手で食べる習慣はない。パンなどをかろうじて手で食べる程度である。音を立てるのは自由。麺やスープを啜っても良い。ただ、げっぷは禁物。口の中に物があるのに喋るのも禁物。最低限手で口を塞ぐ。食事中に喋るのも良い。何を話しても良いが、排泄

に関することは嫌がられる。

bellec ［料理］ベルレイ ［レベル］2 1L:μcɑcı ［語法］ 料理本という意味だが、アルバザードにはこれしか料理本がないので、固有名詞扱いで構わない。 ［文化］ 政府発行の料理本。あらゆるアルバザード料理が載っている。 メル ʔꓘ 年、国民の栄養と健康を配慮して、ミロクがアーシェに作らせたのが始まり。ミロクはこれをアルソンに普及させ、「アルバザード人はこの本に載る料理のみを食べるべし」と命じた。同年、ベルレイのルティア版とメテ版が完成。世界中に各国のものが作られることになる。 ミロクはグルメを悪とした上、ベルレイは健康と栄養に主眼を置いているので、精進料理や病院食に似ている。品目は少な目である。 索引は便利で、「食材別」「調理法別」「季節別」「病気・栄養別」に検索することができる。日本のタウンページと同じようにタダで配布されていたが、アルテナの時代ではアンセを使うことが多い。また、アルテナになってから遊びが増え、品目も微増した。 ベルレイに載らないコーラなどはなるべく自重する。ガムは歯によいものは問題ない。

belıſe ［料理］レストラン、食堂、大衆食堂、料理店、リストランテ ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleıſ ［文化］ → μeſ 昼食と夕食に軽く用いることが多い。夕食はカフェになる店舗が多い。晩御飯の場合は豪華なものが多い。ルージュの月は遅くまで営業を延長することが多い。 仕組みは基本的に日本と変わらない。店に入ると席に案内される。タバコはないので禁煙席などはない。席に着くとウェイターがメニューを持ってくる。おしぼりは資源節約のため出ない。水でなくぬるま湯が出てくる。 メニューから好きなものを食べる。日本人のように「あ、私もそれ」で済ますことは少ない。メニューを選ぶと店員を呼ぶ。ウェイターは目下ではないので、丁重に呼ぶように注意。日本はテーブルに押しボタンがあるが、犬ではあるまいし、アルバザードにはそんなものはない。 メニューについての細かい注文はその場で行う。辛めとか良く焼くとか、そういった注文はその場でする。日本人はただ料理名だけを頼んで詳細はお任せにするが、アルバザードでは焼きかげんや味を指定する。でないとかえって相手がどうしていいかわからず困る。これは紅茶を頼む時も同様。茶葉の種類はもちろん、添え物も指定する。 メニューを言いつけると、立って手を洗いに行く。これは無料である。固形でない石鹸もついている。暫くすると料理が来る。料理の種類にしたがって食器が出てくる。出た食器は全て使う。料理は残さないのがマナーである。食べ終わると会計を済ませる。テーブルの番号札がテーブルにおいてあるので支払う人が入り口の会計所に持っていく。店員は番号を端末に入力すると会計額が出る。客はアンセ等で払い、出る。チップの習慣はない。味を一々会計で評価することもない。よほど美味ければ言うが、ふつうは黙っている。 【用例】 ın ɥəcſ belıſe le lı ɑμeᴅ ıſc ı⅂⅂ı. = ın ɥəcſ belıſe ɑμeᴅ ı⅂⅂ı. 一番近いレストランを探した。

belıʝl ［化学］硫酸 ［レベル］4 1L

belıʝlıɑɔ ［地学］硫酸塩鉱物 1L

belın ［料理］シェフ、コック、クック、料理人、板前 ［レベル］3 ꓶꓶ

belıɑɔ ［地学］硫化鉱物 1L

belıldcn⅂hɔə ［化学］イソチオシアネート 1L

belcʝ ［名詞］粉塵、塵、塵芥、ちり、チリ ［レベル］3 1L:ʝeμen:beʝı/lcʝ ［語法］ beʝı より細かいもので、砂のように舞う。

belcʝʝıdᴅ ［医療］塵肺 ［レベル］6 1L:ʝeμen

belcı ［名詞］天邪鬼、あまのじゃく、腐った根性の持ち主、困ったちゃん ［形容詞］荒しな、困ったちゃんな ［電算］荒らし ［レベル］3 ꓶ0:be/elcın ［文化］ 意地っ張りでプライドが高い割りに能力がなく、人の足を引っ張るばかりの子供。地獄行きのシード。魔族エリアンが一般的にこういう性格なので、この名がついた。

belcıɑəſ ［経済］逆張り ［レベル］6 ꓶꓶ

belɔ ［名詞］偏見、固定観念、プレジャディス、先入観、バイアス ［レベル］3 1ꓘ: 制 : 定 :berllɔ（湾曲した考え）【用例】 ſcl belɔ ı lı 彼に対して偏見を持つ

belɔᴅ ［料理］調理法、レシピ ［レベル］3 1L 【用例】 ſc ʝeμ belɔᴅ e hɔφbı⅂ȣ チンジャオロースの作り方分かる？

beleſſı ［被服］ゲートル。足首を隠すほうのゲートルは lebe⅂⅂ı。 μſ;,Ⅰſ（ブーツ） ꓶꓘ

beleφ ［名詞］下ネタ、シモネタ、シモネッタ ［レベル］4 μɑ;beleı/φııbe ꓶʔ ［語法］ 性的なものだけでなく排泄など下品なものも含む。

beleı ［形容詞］下品な、粗野な ［反意語］lıɑſ ［レベル］3 ꓶ0:be/leı（悪い礼儀）

beleı⅂ınſ ［形容詞］育ちの悪い ［レベル］4 μɑ;/ ꓶꓘ

beleıueʝſɔ ［言語］粗野な二重母音、粗野な発音 ［レベル］6 ꓶ0 ［文化］ ec が ee になるなど、粗野とみなされる二重母音で、北方語などに見られる。同じ二重母音でも上方ルティアのそれは上品とみなされ、ここに該当しない。ナディアの時代に自然と変化してできた現象。

beləe ［魔物］ベルエ（毒蛙）：第十一天：水の陽天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ʝeμen/ᴅel:be/ləe ［文化］ 爬族。大型の毒蛙。犬ほどの大きさ。黄色と黒のまだら模様。舌を出して人の足を取り、毒で殺す。

beı ［名詞］雑巾、ぞうきん ［レベル］2 1ʔ: 制 :bee（古の卑音）/ıbe（古アルカで布）

beıʝ ［化学］アミド 1L:bezı

beınɔ ［被服］モップハット μſ;.ʝelın。麦わら帽子を汚さないよう帽子の下に着ていたモップハットのことを当時の民衆はベアノと呼んでいたことから。 ꓶꓘ

beırl ［卑語］クソ、うんこ ［レベル］2 古 ［語法］ beıl を更に悪くした語。

beıl ［卑語］クソ、うんこ ［レベル］2 古 :be（くさい）/ıl（もの）

bec ［医療］そばかす、雀斑 ［レベル］3 1ꓭ: 古 :beel（汚い顔）。これは童貞の beel と同音。

becʝ ［化学］イミド 1L:beıʝ

becn ［生物］泌尿器 ［レベル］5 1L:bez/ᴅıcn

becnʝ ［動詞］ɥəl を蔑む、蔑む、さげすむ、悪い意味で哀れむ、卑下する ［反意語］Ⅰıɑ ［レベル］3 ꓶ0: 汚いものを見るような目

becndınſ ［生物］泌尿系、泌尿器系 μſ;/ ꓶꓘ

becndcſ ［医療］泌尿器科 ［レベル］5 1L

becᴅ ［形容詞］醜い、美しくない、みにくい ［反意語］lınſ ［レベル］2 1L:been/ᴅɔ（ブスな形）

becᴅɔn ［動物］パグ ［レベル］6 ꓶ1:becᴅ/ɔᴅı ［文化］ 不人気。

becl ［単位］セプト ꓶ1:ʝıμbelcı

beɔ ［卑語］［感動詞］［名詞］クソ、バカ、、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［類義語］ben、Ⅰəz ［レベル］2 ɑu;be は卑音。 古 ［語法］ 悪い意味を表わす語。単独でも複合語要素としても用いられる。ben と意味は同じだが、beɔ の方が嫌悪感が強い。気の荒い男性は日常的に使うが、女性は人によっては生涯使わない。

beɔᴅ ［動物］バカ犬、クソ犬 ［名詞］だだっこ、だだっ子、駄々っ子、ダダっ子 ［動詞］ɥəl という内容のダダをこねる ［レベル］2 ꓶꓶ:be/ɔᴅı

beɔbeeᴅı ［卑語］クソババア、くそばばあ ［レベル］2 ɑu;/ ꓶʔ

beɔlɔ ［卑語］ドアホ、クソバカ、どあほ、馬鹿野郎、バカ野朗 ［類義語］ſeɔlɔ ［レベル］2 ſᴅ;beɔ/lɔ 古 ［語法］ ſeɔlɔ よりもきつい。

bee⅂ ［建築］トイレ、便所、厠 ［類義語］leμ⅂ı、benben ［レベル］1 μɑ;beeφl,ɑφn 1ꓘ: 制 :ʝɔμn:beeφl から。beeφl は語源不詳 ［文化］ 洋式便器で、和式はない。水洗で、ウォッシュレットが備え付けてある。大きさも日本のものと変わらない。ドアを開けると、入る人から見て便器が向かい合わせか横になっている。つまり日本と同じである。必ず鍵付きの個室で、ふつう狭い。両手を横に広げるスペースはない。トイレと洗面所と風呂が一体化している家はない。日本にはホテルなどに多いが、体を清めるところと汚いものを出すところが同居することに対してアルバザードは強い嫌悪を示す。 紙の設置はあり、便器に座ったときの位置から見て左手についている。生理用品入れは置かない家が多い。適宜ティッシュに巻いたり包みに巻いたりして、外に出てから処分する。芳香剤は大抵置いてある。換気扇があるところもある。家には階ごとにトイレが備え付けられていることも多い。 便器の使い方だが、大便の場合は男女とも座る。小便の場合、女は必ず座るが、男は分かれる。便座をあげて用を足す人と座って用を足す人がいる。便座は下げておくのがふつう。便座をあげて用を足しても下げておくのが礼儀。また、匂いを広げないために外蓋を閉じておく人もいる。アルバザードでは清潔なトイレが好まれる。家庭で汚れやすいトイレや台所の美化には多くの家庭が気を払う。 ＜街中での設置＞ 街中には日本と同じようにトイレがいたるところに存在する。公園や店には必ずある。日本と違い、道端にもある（これはフランスと同じ）。利用はどれもタダだが、店のトイレを借りるときは何か買うのが礼儀。なお、トイレは清潔で無料。 ＜中座＞ フランスではパーティや会議などでトイレに中座するのが失礼だが、アルバザードでは断りなく退席してよい。むしろトイレにと断るほうが不潔と思われるので、黙って出て行く。周りも「あぁ、トイレだな」と分かるので、何も言わない。 フランスと異なり、人の家でもトイレを使うが、この場合は断りを入れる。無断では使用しない。この習慣があるため、パーティを開くときはホスト側は必ずトイレを掃除しておく。してないと逆に「なんだこの家は」と思われる。 ＜ノック＞ ノックの習慣はない。カギをかけると外側から鍵穴部分が赤くなる。鍵穴には赤と青のシールが貼られており、鍵をかけることで外側から見たときのシールの色が変わる。赤なら使用中なので開けない。青ならノックなしに開ける。だから、鍵をかけ忘れていると大変なことになる。 この習慣は μɑ にできたもので、メルがトイレの使用中にトイレの外に花飾りを置いておいたことからきている。花飾りはピンクで、赤系の色だったため、使用中は赤を使い、開いている際は赤と区別のしやすい青が用いられるようになった。 ＜性差＞ 家庭のトイレ以外は男女に分かれており、互いに入室はできない。入室は違法で、覗きとして逮捕される。女性が男子トイレに入った場合は覗きではなく迷惑行為として捕まる。 ＜便器＞ 小便器は屋外にしかなく、家庭には設置されていない。店のトイレは小さい店なら大便器しかない。 ＜張り紙＞ トイレを綺麗にしようしてほしいという旨を伝えるための張り紙はアルバザードにもしてある。日本のコンビニなどでは「いつも綺麗に使っていただきありがとうございます」のように書いてあることが多い。アルバザードの場合は、ınʝ nı nıə ɔl el lıl bee⅂ ɔʝⅠ（綺麗なトイレを保ってくれたら私たちは嬉しいです）というような表現で書いてあることが多い。まだ綺麗に使っているかどうか分からないうちに勝手に綺麗に使っていただきありがとうございますと先だって言われると押し付けがましい感じをアルバザード人は受ける。そこで相手にあえて選択の余地を残した表現が好まれる。つまりもし綺麗に保っていただいたら嬉しいですというような婉曲な言い方である。 【用例】 ucnʝ eμ (Ⅰı bee⅂)（トイレの）水を流す、トイレを流す ɥɔl{xμcd} bee⅂ トイレに行く、トイレを借りる、トイレに入る、トイレを使う ɥɔl bee⅂ ɑə ɑcl トイレに篭る lſıᴅ{ʝın⅂} bee⅂ 便座を上げる { 下げる } φıμneſ{ʝın⅂} bee⅂ 便座を上げる { 下げる } ʝın⅂ μɔb 便器の外蓋を閉じる ın ɥɔlıſ Ⅰe bee⅂. トイレに行った。 ın en ucnʝıſ eμ Ⅰelel. 水を流し忘れた：bee⅂ を使わなくても通じる。 ſɔʝ e bee⅂ ıſ ɥıᴅ Ⅰcnel. においが酷かった。

bee⅂ʝⅠcl ［名詞］便器 ［メトニミー］便座← ʝⅠcnıl e bee⅂ʝⅠcl ［レベル］2 ꓶ0 【用例】 ʝın⅂{φıμneſ} bee⅂ʝⅠcl 便座を下げる { 上げる } μen ʝın⅂ bee⅂ʝⅠcl lc ɥɔl. トイレを使ったら便座を下げておいてね。

bee⅂ᴅıʝ ［名詞］トイレットペーパー ［レベル］1 1ꓘ

beelɒcn ［卑語］肉便器 ［レベル］4　μɑ;/　𝐉ʔ ［語法］［文化］ 性処理のはけ口として使われる女性。

beeleμl ［建築］ユニットバス ［レベル］5　𝐉𝐉:「トイレ風呂」

beeɉ,ɑu　ueeμ　benʃlɉ.l → benʃlɉ,ɑ 参照　赤

been ［俗語］ブス、ブサイク、不細工、ぶす、ぶさいく ［類義語］bɔn be、bɔɔze、ueɒu ［レベル］2　古 :been ［語法］ 男女ともに使える。ただ女性のほうが美醜が問題になることが多いので、女性に使うことのほうが相対的に多い。 ［文化］ アルバザードは混血の割合が高く、遺伝子がよく混ざっているため、美人が多い。そしてブスが少ない。アルバザードでも美人のほうが何かとちやほやされるが、別にブスだからといって扱いを悪くするような風潮はない。特に学歴の高い人間ほど、ブスであろうと美人と扱いを変えない。柄の悪い人間は平気で人をブスと罵る傾向にある。 【成句】 ueclɪn ɒɪlɉ been. ブスを娶る者もある：蓼食う虫も好き好き

beeu ［卑語］ジジイ ［レベル］2　古 :beeu ← beeb/uclə

beeɒ ［植物］ラフレシア ［レベル］5　高 : 臭い花

beeɒɪ ［俗語］ババア ［レベル］2　ɑu　古 : 元は beeɒcn「汚い女」。be は糞尿などを示す汚いものを指す音で、ɒcn は女。中期ごろに beeɒɪ になったはずだが、その過程は不明。恐らく何かが beeɒcn に後続した後に、cn などの部分が消失したものと思われるが、何が後続したかは不明。オヴィとザナの説によると、語尾が cn では迫力に欠けて罵倒語にならないので音を強い ɪn に変えたが、指小辞の n が付いていてはまだ迫力に欠けるということでこれさえ除去して ɪ にした結果、今の beeɒɪ になったということである。 ［語法］ 自分より年上なら年寄り以外にも使える。アニメなどでは２０代後半のキャラに使われることもしばしば。 【用例】 ɑen μɪjɔ, beeɒɪ. ババァ無理すんな。ネットスラング。年齢に似つかわしくない女性の言動への感想・ツッコミ。主に心配ではなく失笑の意味で用いられる。　beeɒɪ ʃ'ɔzɪlcμɪ eʃ ɑɪμenɑcʃɪn. ɉɪ ɑlɔnclʃ, cɒ ɪn cʃeμ ʃcɪn, lɪibe hɪɒɪʃ c lɪlʃe ɑlɔn lɔn lcu lɪc ɥəl φɪɪʃɔ ɑel "həscɒɪlc μɪə, lcɪn ʃeμl ɪɒ lɔl lɔ bəʃl8". 尾崎ん家のババアは嫌みなババア。こないだなんか彼女とデートしていたら、遠くの方からでっかい声で言いやがった。「藤巻さんブタ連れてどこ行くの？」(『尾崎ん家のババア１』まりちゃんズ)

beeɒɪʃ ［動物］ブルドッグ ［レベル］4　𝐉1:beeɒɪ/ʃe「垂れたババアの頬のような顔」 ［文化］ 不人気。

beeɑe ［植物］ドクダミ、ドクダメ、毒溜め、ギョセイソウ、魚腥草、ジゴクソバ、地獄蕎麦 ［レベル］3　ɉɒ‹be/eɑe,ɪlʃ「臭い草」 𝐉ʔ

beeɑeeʃel ［料理］ドクダミ茶 ［レベル］3　ɉɒ;/　𝐉ʔ

beeφl,ɑφn　beel

beeb ［形容詞］臭い ［類義語］bɔb ［反意語］lccʃɔ ［レベル］2　ɑ;e　赤 【用例】 leɑ beeb 臭い息

beebʃɪlc ［医療］わきが、腋臭 ［レベル］3　1L

beebleɑ ［医療］口臭 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

beebɉeʃ ［名詞］芳香剤、フレグランス、防臭剤、消臭剤、消臭、脱臭 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

beebɉeʃenuc ［名詞］消臭力 ［レベル］4　μɑ;/　𝐉ʔ

beebɒɪcn ［医療］体臭 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ

beebeʃ ［形容詞］やましい、疚しい、疾しい ［レベル］3　ɑu;beeb/ʃe「臭いような」 𝐉ʔ

beez ［植物］イチョウ、銀杏 ［レベル］5　古 : 臭い木 ［文化］ 臭いのでアルバザードでは植えない。

beezcl ［植物］ぎんなん、銀杏、ギンナン ［レベル］5　𝐉ʔ‹beezecl:1ʕ: 制 ［文化］ 日本ではよく見られるが、臭いのでアルバザード人は嫌い、植えない。

beeze ［動物］ヤギ、山羊 ［レベル］2　ʃɒ;beezel.l　1L:beezel ［文化］ 現代ではあまり食肉にも乳にもしないため、アルバザードでは徐々に数が減ってきている。 【成句】 beeze ɪ(len) dɪb 馬に山羊を＝大人しくさせる、火に油を注ぐの逆：山羊を馬の群れに入れると馬が大人しくなることから

beezel ［悪魔］ベーゼル ［歳時記］火曜日。週の第５日目。 ［音楽］ソ ［名詞］火事、大火← ɑɪcuɪʃɪc ［組み数字］5／7 ［レベル］2　ɒelʃcɪ 0:beeze l;e　古 :μcɑcɪ ［文化］ ソームの５番目。炎を身にまとった全裸の男。体格が大きく筋肉質。短気。気の短い大柄な男性。炎をまとっているのでほぼ全裸。火を操る。黒灰色で硬い皮膚で覆われた筋肉質な青年の姿をしているが、顔はヤギの顔をしており、角が２本生えている。灼熱の炎で敵を焼き尽くし、長い爪で敵を引き裂く。爪には炎がともっていて、敵を引き裂くと同時に燃やし尽くすことができる。世界中の休火山を転々としては活火山へと変える厄介者。 【成句】 eɒ beezel ɔn{ɪ} ɔn に関して {ɪ に対して } ムキになる、怒る、憤慨する、苛立つ、イライラする　eμcɪ ɪ beezel ベーゼルに水：青菜に塩　beezel ʃcɑl ɉeleɉ 短気は損気　ncɪɉ ɒɪcn ɪ beezel 体をベーゼルに任せる：火葬する、だびにふす、荼毘に付す、荼毘にふす 【用例】 beezel (lənɪl)ʃ 火事だ！

beezelʃlɪde ［名詞］短気、短気な、ベーゼルの角。短気の象徴。 ［レベル］3　1Δ: 制 【用例】 lɪ ʃcl beezelʃlɪde. あいつは短気だ。

beezellcl ［化学］マンガン ［レベル］4　1Δ: 制

beezelɪʃ ［アイテム］炎剣ベーゼラット、ベーゼラット ［レベル］4　ɒelʃcɪ LLLLLL:ʃclnɔ;beezel/ʃe　古 :μcɑcɪ:beezel はベーゼルだろうが、ɪʃ は不明 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ギルのもつ炎剣。ティクノがベーゼルを倒したときのもの。

beezelɔɔb ［被服］エナン　μɑ;/　𝐉ɱ ［文化］ ɉɒ でできた。ヤギの角のような形をしていることから。女性服。貴族用。

beezecɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］やぎ座　𝐉ɱ ［文化］ cɑɪ

beezeɔueʃ ［化学］マンガン乾電池 ［レベル］4　1L ［文化］ ナディアで開発。

beel ［俗語］童貞 ［類義語］ɑμenbeel ［レベル］4　古 : 元は beeμɥɔl で、更に意味を解釈すると bee（臭い）eμcɪ（水）ɥɔl（使う）に分かれる。「小便専用」の意味。L 年ごろにできてすぐに広まった語。μɥɔ の部分が言いにくかったため、すぐに音が切り詰められて beel になった。 ［語法］［文化］ 男への代表的な罵倒語。ただし、アルバザードの女は身持ちが固いので、男はたいてい童貞か素人童貞。風俗やレイプや尻軽女で童貞を捨てた場合、むしろ蔑みが増える。処女の恋人ができてセックスした場合にだけ、完全に脱 beel できる。　１０代のうちはみんなけん制しあっているので童貞は代表的な罵倒語だが、２０後半が相手だと罵倒語として機能しなくなってくる。３０を超えて童貞の場合、日本の魔法使いと同じく、達観していて女に興味がないのだろうとみなされ、逆に一目置かれるようになる。アルバザードには「性的な嗜好を一切見せない男性はいやらしくなく美しい」と考える女が一定数いるため、３０超えて童貞だとある意味見直される。　なお、アルバザードでも ɪl から ls にかけて恋愛至上主義になっていたため、日本同様３０才まで童貞処女なら魔法使いと呼ばれるようになっていた。童貞なら黒魔道士（魔法使い）、処女なら白魔道士（僧侶）と呼ばれる。　ちなみに童貞はたいていキモがられるが、素人童貞はなお見下される。 【用例】 leeu beel cɒ 19 ɔl e{ɔl, lɔn, lɔlɉeʃ} nene　１７才で〜相手に童貞を卒業する。ɔle が一般的。ɔl の目的語が女だと、女も処女だったイメージ。ɔl の目的語が男だと、男友達二人でソープに行って誰かを相手に脱童貞してきたというようなイメージ。lɔn の場合、相手を利用したイメージ。lɔlɉeʃ の場合、やらせてもらったイメージ。　"ɪφ, lcɪn eʃ beel lɪnel ɉɪ nnɪʃ8" "ɒelcccɉʃ" "el lɪl ɑlen beel ɪʃlɪlʃ lcɉɪn eəʃ" "lɥɪhlɥɪh"「えーマジ童貞ʃ8」「キモーイ」「童貞が許されるのは小学生までだよねー」「キャハハハハハハ」(『奪ʃ童貞。』キモーイガールズ)

beelɔ ［感動詞］［lben］［φɪnɔ］ばーか、バーカ ［レベル］2　𝐉1:ʃeɔlɔ の卑音化 ［語法］ おどけて使う。

beelenuc ［俗語］童貞力 ［レベル］5　1L ［語法］［文化］ → cɒdelɑ　雨の日に傘を持っていたら小学生の女児が雨宿りして困っているので、傘を貸してあげたら出会いができたなど、現実にありえないことを妄想することができる能力。

beeɪ ［感動詞］［ɑμecnʃ］denʃ ［レベル］3　1L: リディアの書 :denʃ ɪ → benʃ ɪ → bee ɪ → beeɪ。ɪ は語気の文末純詞。

bə,ɑu　ʃən

bəɉ ［名詞］陶器、磁器、陶磁器 ［レベル］4　ɑu;ɉ は ɉə で「砂」？　古

bən ［化学］セラミックス ［レベル］4　1ʕ: 制 :bəɉ

bənɔ ［地学］畝、うね ［レベル］4　古

bəd ［形容詞］［擬態語］［ネガティブ］ぶつぶつ、ぷつぷつ。ブツブツ、プツプツ ［レベル］2　𝐉0: ぶつぶつ小さく気泡が弾けるような音から ［語法］ アルバザード人が最も嫌う物ないし音のひとつ。鳥肌や病気になったときの肌などにできるぶつぶつのことで、無数の気泡ができたもの。気持ち悪いものの代表で、身の毛がよだつ。ほかにも、皮を一気にはぐと血管が気泡状に傷つくため、ぷつぷつと出血する。これを魔法で起こしたものが禁呪魔法 eμcl。

bədɉcμ ［生物］［ネガティブ］鳥肌 ［レベル］2　𝐉0: ぶつぶつした肌 ［語法］ bədɉcμ は恐怖や嫌悪によって生じた鳥肌のことで、気持ち悪く不快とされる。同じ鳥肌でも感動によって起こったものは歓迎され、その場合は ɥəɉcμ という。 【用例】 ɪn ʃclɪʃ bədɉcμ ɒɪn cnɉcl uelcz. 虫を見て鳥肌が立った。

bəb ［動物］ハエ、蝿 ［名詞］うるさいやつ、邪魔な奴 ［レベル］2　古

bəbcnɉ ［医療］飛蚊症 ［レベル］4　𝐉𝐉:「蝿が飛んでいるように見える目」 【用例】 ʃcl bəbcnɉ 飛蚊症を患っている

bəbcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］はえ座　𝐉ɱ ［文化］ cɑɪ

bəʃl ［俗語］豚 ［卑語］ブタみたいなやつ ［レベル］2　𝐉0:μcɑcɪ:ɒcμɔl:「ブヒブヒ言う奴」という意味のオノマトペ

bəʃlclncɪn ［名詞］無為徒食 ［レベル］4　𝐉𝐉:「食べるだけの豚ニート」

bəl ［医療］ぼけ、ボケ、呆け、痴呆、認知症 ［レベル］3　古 :bəl ← bələə（悲しい）。もはやよく分からないが、当時は団体規模で身体よりも知性に重きを置いていたので、「年とともに衰えていくのは悲しいね」的な意味だったのではないか。 ［語法］ 認知症とボケの区別はしない。

bəlʃ ［形容詞］厳しい、優しくない、辛く当たる ［反意語］nccʃ ［レベル］2　μɑ　1L: 赤 :bəlʃɪ　bəlʃɪ:bəlʃɪ 【用例】 "lɪlɪ eʃ bəlʃ lɔnʃ ɒɪɪl eʃ nccʃ, ʃcl lcʃe nɔɪn", ɥəl ɉɔɪ, ləlcɪ nɪ ɉcl lɪɒclel.「父さんは厳しい。母さんは優しい。ウチ以外はねぇ」――とルシアが思いそうだな。

bəlʃlɪbɪ ［環境］ハードエネルギー　1L

bəlʃɪ,ɑ　bəlʃ　e

bəlʃɪʃc ［名詞］厳しさ ［レベル］3　μɑ;/　𝐉ɱ

bəeʃlɪ ［俗語］ゲロ ［類義語］φɔɪ ［レベル］3　𝐉𝐉: オノマトペ

bəənɪ ［形容詞］つまらない、楽しくない、退屈、不愉快 ［反意語］bɪn ［レベル］2　ɑ;nɪ は心。　赤 : つまらなくてぶすっと頬を膨らませてるときの心と覚えると楽　bəənɪ:bəənɪ 【用例】 ɪn nɪʃ bəənɪ cɒ ɑcɉ. 今日は退屈だった。　ɥəə eʃ bəənɪ uecn nɔɑ el cn ɒel ʃɪə ɑc. 人が買い物しているのを見るほどつまらないものはない。

bəəɑ ［地学］カオリナイト ［レベル］5　古 :bəɉ からだろう。

bəəɑdcʃ ［地学］カオリン ［レベル］5　1L

h

hɒ ［感動詞］ふーん、へえ、へぇ、ふうん、ふぅん、ふ〜ん ［レベル］2 ʃɒ;ɑɔueʃ 古 ［語法］ 関心したときの肯定的な相槌。新たな知らないことを聞いたときにも使う。

hɒɒ ［感動詞］ふうむ、うーむ、うーん ［レベル］2 ʃɒ;ɑɔueʃ 古

hʮıl ［地学］土手、岸 ［レベル］3 Ɉ0: 古 :hʮı（高い）

hʮıı ［感動詞］うわあ、きゃあ ［類義語］ꞁʮıı ［レベル］2 Ɉ1

hʮıə ［感動詞］ひゃう、はうっ、はうーん。喘ぎ声 ［レベル］2 ɑu Ɉʔ

hʮɔɟ ［動詞］ʮəl をはためかせる、はためかせる、はためかす、はためく ［レベル］3 古 :hʮɔɔ: 恐らくオノマトペ 【用例】 ıde ınɑ hʮɔɟ. 旗がはためいている。

hʮə ［擬音］ヒューという口笛の音 ［レベル］2 1٩: 制 : 古 ［語法］ ヒューという口笛の音。相手の行為などを誉める意味で鳴らす口笛のこと。女は下品なのであまりしない。

hʮə,ɑ ɟɔʮ, hıl e

hʮəꞁ,ɑ ɒɔɑ hʮə/ꞁe「高く行く」

hʮəꞁıl ［アトラスの国家］ヒュカル ［レベル］5 1L:ʮcɑcı: 高い土地

hʮəꞁə,ɑ hıꞁ hʮə/ꞁə

hʮəlı ［軍事］将官、将軍、ジェネラル ［電算］ワークステーション ［名詞］大ボス ［組み数字］2／７ ［レベル］3 ɑu 古 :hʮəlı は古で「高い存在」の意味。軍隊の用語はミリタリーオタクだったザナが古の時代にあらかた作った。だが軍隊に興味のないセレンは赤に hʮəlı しか入れなかった。古で作ったものは恐らくフランス軍を反映しているが、新生のオリジナルの軍隊とは当然異なるので、古で使えそうなものを新生でリサイクルした。 ［文化］ 士官の中で最上位。大将、中将、少将に分かれる。

hʮəlı,ɑ hʮəlı、hıl 「高い存在」

hʮəlı ɒıcn ［人名］ヒュシャ＝マイン Ɉ0 ［文化］ (cɒəl 10Ⱂʔ:1Ⱂ10) ラグナロクの研究員。10Lʕ 年に自邸宅の倉庫から ıɟelʃ の計算機を発見し、経済省に引き渡す。自身の成果としたが計算機の外観が古びていることから怪しまれる。しかし証拠不十分として嫌疑を退けられ、10LL 年にラグナロク学長となる。晩年は痛風に悩まされ、悪夢に魘されるようになる。1Ⱂ0Ɉ 年にアキナス父子の悪霊を悪夢で見て以来、痛風の原因は呪いだと思うようになり、1Ⱂ00 年に真相を暴露。学長を終われ、邸宅で 1Ⱂ10 年に息を引き取る。これによりマイン家は没落。

hʮənı ［医療］催眠 ［レベル］3 古 :hʮənı ← hʮənɔ/nı

hʮənɔ,ɑ ʮənɔ e

hʮəφnɔ ［地名］ヒュグノー ［レベル］5 1Ⱂ: 制 : 古 :hʮəφe（魔法陣）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァルザの支配地。

hʮəφnɔ(Ɉ) ［アトラスの国家］ヒュグノー ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：ʔʕJL0Δ.٩ʕΔʕJ٩ ꞁɒ Ɉ

hʮədı,ɑ hıʮd hʮə/dıdıləʮı「高い太陽」

hʮəhʮə,ɑ hıl hʮə/hʮə

hʮəl,lʮ hıl hʮə/ıl「上の物」

hʮəlɔ,ɑ ʮəlɔ hʮə/lɔ「上の頭」

hʮəlɔ,ɑ(Ɉ) lele 「頭が高い」

hʮəəʃɔ ［地名］メテの使徒ヒューウェの支配地 ［人名］リュウのアルカ姓 ［レベル］3 ꞁıꞁɔ ［文化］ ラヴァスではエルトの本拠地。 【成句】 hʮəəʃɔ le lınʃ hcı 敵に塩を送る。ɟɒ でヒュート軍が小競り合いの際、困窮した敵のケートイアに塩を送った逸話から。

hʮəəʃɔ(Ɉ) ［アトラスの国家］ヒュート、飛国 ［レベル］3 ꞁıꞁɔ ［文化］ 面積：ʔΔʕΔL1.0ⱵOLL0 ꞁɒ Ɉ

hʮəəoe ［人名］ヒューウェ ［組み数字］6／１５ ［レベル］4 ꞁıꞁɔ: 古アルカでの意味は「 自由 」［文化］ メテの第６使徒。

hʮəəoelcl ［化学］プルトニウム ［レベル］5 1Δ: 制

hoı ［感動詞］わーっ、わーい、やった、やったー ［類義語］ınɟɔı ［レベル］1 古 :hoı ［語法］ ınɟɔı

hoc ［動物］鶯、ウグイス ［レベル］4 ıIıʃı: オノマトペから

hı,ılʃ ɑɔnʃ

hıʃ ［料理］皿 ［レベル］2 古 【成句】 lıl hıʃ ɒeleʃ lel lınʃ 他人の皿も綺麗に保て：己の欲せざるところは人に施すことなかれ 。洗いものをするなら人の皿も綺麗に洗ってやれということ。どうせ自分が食うんじゃないんだしというのではなく。 【用例】 lı ɟɔlɟıʃ ın ɔlʃ hıʃ. 彼女は私に皿洗いをさせた。

hıʃ(Ɉ) ［感動詞］はっ、ふん ［文末純詞］軽蔑、軽視、見下し、無関心を装いながらもいらだつ、苛立ち、冷淡、怒りを示す ［レベル］2 1Δ:ʮcɑcı:hıɒ と同根。こちらは日本語でいうと「 ハッ！ 」という感じ。

hıʃıʮ ［名詞］食器洗い機、食器洗浄器、食洗器 ［レベル］3 1L:ʮcɑcı:ıʮb ılelʃ ［文化］ 食器洗い機が普及しているのでそれを使う。大家族なので日本のものより遥かに大型である。アルバザードの家庭には食器が多い。様々な種類のものがしかも大量に備えてある。これは放蕩ではないのかというと、実は放蕩ではない。なぜか。食器洗い機は水を使って洗うが、毎食ごとに洗うのでは水がもったいない。そこでアルバザードでは、晩ご飯の後にまとめて食器を洗う。朝使ったものは食べ終わった先から食器洗い機に入れておく。そして昼食は別の新しい食器を使う。そして晩ご飯の後、一斉に洗う。食器は始めに一度買い込んでおけば後はずっと使えるわけだから、この方が遥かに経済的である。しかも社会的に考えれば節水にも貢献している。一枚の食器を四回洗うのを毎日繰り返せば水だけが浪費される。だが、四枚の食器を一回で洗えば無駄な水は流れない。食器は減るものではないので経済的である。食器洗い機は同時に乾燥機でもあるので、吹く手間もない。熱風等を駆使してミクロの隙間に入り込んで取れない雑菌も殺菌してくれる。臭いもなく、衛生的である。

hıʃcı ［普通動名詞］恋、恋愛 ［動詞］ʮəl に恋をしている、ʮəl が好き、恋する、恋愛する ［魔法］ハティア。利の中位白魔法。相手の脳にＰＥＡなどの恋愛ホルモンを放出させ、術者に恋していると錯覚させる魔法。ʃccı と違って白魔法。 ［レベル］2 赤 : 愛になる Xıʃcı:Xıʃcı:le φnen:ɑcılə,ılʃ ［語法］ ʃccı, ɑccnelcı ［文化］ hıʃcıɟel 革命中は恋愛と結婚はいずれも届けが必要。 【用例】 nɔn hıʃcı lı. 私は彼に恋をしている。

hıʃcılcuel ［ユマナ］本命チョコ、チョコレート Ɉʔ

hıʃcıɟel ［歳時記］恋の日 ［レベル］3 Ɉ1 ［文化］ ɒel scl の休日で、恋愛を賛歌する日。ʮɑ で催日として設けられた。抑圧的な革命期にミロクが慈愛の気持ちから休日に変え、青春を謳歌するよう促した。ただしこれは当時出生率が下がっていたことを背景に、リーファ隊がアドバイスしたとも言われている。 現在はカップルだけでなく夫婦などもお互いを見つめなおす日となっている。行政的には恋愛届と婚姻届の更新日となっている。 多くの店ではカップル割引や夫婦割引が行われる。休日にしたのは正解で、経済効果が大きい。 現実にはセレンがリディアと二度目のキスをした日で、小説版アンクノット第三巻に挟んである紙に平成７年６・４と記録してある。そこから恋愛の日が来ている。 ちなみに小説版アンクノットのシナリオではこのときセレンとリディアは過去のルティアに戻ってリーザと会うことになっている。この記憶は中三の夏で、９５年ということになる。 （メル暦だと２１・７・１９になる。７・１９！ ʮcɑcı の hıʃcı で ɑcıɟel。すごい奇跡だ。アルカには奇跡が豊富。９５年にはまだメル暦もなかったし、すごいことだ）

hıʃcın ［名詞］恋する者 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

hıʃcınꞁ ［形容詞］可愛い ［反意語］ʮəlcınꞁ ［レベル］2 ʮɑ;hıʃcı/ınꞁ Ɉ0: セレンが紫亞を可愛いと言った際、リディアが「わたしより可愛いの？」と拗ねたので、リディアのほうが可愛いよと言ったら今度は紫亞が拗ねたので、セレンは恋人に対する可愛いと子供に対する可愛いをそれぞれ造語して、リディアは hıʃcınꞁ の中で一番で、紫亞は ʮəlcınꞁ の中で一番だとして事を収めた。 ［語法］ 異性として見ている相手に対する「可愛い」が hıʃcınꞁ。それ以外の子供や動物などに対する「可愛い」が ʮəlcınꞁ。

hıʃcıɒını ［地学］［歴史］三畳紀 ［レベル］6 ul;/ Ɉʔ ［文化］ φııueɑeɒe

hıʃcıʮəꞁꞁı ［天文］プレヤデス星団、すばる、昴 ［レベル］5 1L:ʮcɑcı/ɟe ʮen/ɒel: 恋の牢獄 ［文化］ リアントとリルムの共闘に手を焼いたリディアは、リアントとリルムを引き離して封印することにした。個別ならば勝ち目は十分あるからだ。リルムを倒したリディアはライファの魔法をリアントに打った。リディアの魔法に引き寄せられた星々はリアントを倒すと、そのままリアントを封じた牢獄となった。これが昴である。

hıꞁ ［名詞］賞賛、称賛、賛辞 ［動詞］ʮəl を褒める、褒める、誉める ［反意語］ꞁəueʮ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hʮəꞁə（誉める）。高い口が原義。 hʮə ꞁə:hʮəꞁə ［文化］ 十徳では慈・信・礼。 フランスの職場では部下をあまり褒めず、アメリカでは褒める。日本は前者に当たる。アルバザードはアメリカ式で、よく褒める。そして貶さない。３つ褒めて１つ欠点を指摘するというやり方である。ポジティブであることを良しとするため、アルバザード人は他人の良いところを見る傾向がある。 また、褒めるときは２個客観１個主観といわれている。そして貶すときは必ず客観で、主観は絶対に入れてはならないとされている。 ＜褒める相手＞ 謙遜の精神が強いため、身内をベタ褒めすることはない。友人も仲良くなるほど褒めない。ただ、あくまで他人に身内を紹介するときに身内を褒めすぎないだけで、他人に紹介するシーンでなければ仲の良い間柄でもよく褒める。つまり、人前で妻を褒められても謙遜し、自分でも自慢しないが、妻と話しているときは「かわいいね」と褒める。 なお、日本人ほどは謙遜しない。 【用例】 "ʃc ɟɔꞁʃı uın ʃɔ ɔl hıɗn ʃccl ɟcnɟ lecɟ le nɔɟ lıɑıʃȣ" "hıꞁ uıcꞁ ʮıʃ ꞁɔnʃ ɑcʃ ıʮen ɔn uıcꞁ ʮıɒ lını ꞁeı ʃə ʃcɟee" "ɟɔn, ɔl ɔle eʃ leɟʃcʮȣ" "hıꞁ uıcꞁ ʮıʃ ꞁɔnʃ hıꞁ uıcꞁ ʮıʃ" 「もし友人に絵を見せられたら、どう感想をつける？」 「良い部分を褒め、悪い部分は良くなるようアドバイスをするさ」 「じゃあ相手が女の子だったら？」 「良い部分を褒め、良い部分を褒める」 (ʮenɟ ٩ʔⱵ)

hıꞁʃ ［地学］岬、ケープ、崎 ［レベル］3 lıꞁʃı

hıꞁlclcı ［人名］ハクシリア Ɉ0:hıꞁlcəɟ/lcı ［文化］ ʮəəɒı Ⱂ٩ʕʕ ルカリアで召喚士 hıꞁlclcı が王を倒して新王となる

hıꞁlcəɟ ［歴史］ハクシウス族 ［レベル］6 Ɉ0: 古ヒュート語「高い魔導師」

hıꞁn ［動詞］ʮəl をうぬぼれさせる、うぬぼれる。再帰動詞。 ［名詞］（nı とともに）うぬぼれ、自惚れ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :hʮəꞁənɔn（私を誉める）

hıꞁɒ ［名詞］哺乳類、哺乳動物、ママール ［生物］哺乳網 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :hʮəꞁəɒ

hıꞁɑız ［形容詞］賞賛に値する ［レベル］4 ɈɈ

hıꞁl ［名詞］賞、賞品 ［レベル］3 lıꞁʃı

hıꞁı ［名詞］消しゴム ［レベル］2 1Ⱂ: 制 : 文字のゴム hıɗhɔd ［語法］ 消しカスは ʃcɟc。

hıꞁə,ılʃ ʮıɑl

hıꞁəlc,ılʃ ın hıꞁələ

hıꞁələ,ılʃ hıl <>hʮə

hıl ［形容詞］優れた、優秀な ［反意語］hcɟ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hʮəlı（高い存在） hʮəlı:hʮəlı:'ʮəlı:hıꞁələ,ılʃ 【用例】 ɑelın{ncɑe} hıl 優秀な学生 { 成績 }

hılʃ ［軍事］上司、上官 ［反意語］ʮeɟ ［レベル］3 1ʕ: 制 ::lə 'ʮəlıʃ

hılnı ［名詞］優越感 ［レベル］3 1L

hılaelın ［名詞］優等生 ［レベル］3 ʝ1
hılɒeՈınɑ ［魔法］高位魔法鏡 ［レベル］6 ʝ1 ［文化］ ɑɔlɒcyə
hılı ［政治］爵位 ɹɒ;hyəlı.ʅ ʝՌ ［文化］ 日本と違って家単位ではなく個人単位に与えられた。
hıleʃ ［名詞］アドバンテージ、有利、優勢、優位 ［類義語］ɥıʃı ［反意語］hcɹeʃ ［レベル］3 ʝ0:hıl/ʃe（優れているような）【用例】 lı ʃcl hıleʃ ɔn eɥc ʃel ın. 彼は血筋においては私よりアドバンテージがある（＝彼のほうが生まれがよい）
hıɟ ［名詞］縦、垂直、鉛直 ［シェルト］縦駒 ［化学］族 ［類義語］scnʃ ［反意語］hcl ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hcɹ（わき腹）。英語になくアルカにもなかったが、わき腹という語彙をセレンが横の意味で使い続けていつしかわき腹が横になった。 ［語法］ hıɟ は縦、垂直、鉛直、鉛直、すなわち上下方向のことで、地面と垂直に交わる方向である。ふだんは地面に垂直な方向のことだが、人が寝ていたり水中、空中にいれば hıl と同じく頭から足の方向が hıɟ になる。また、物についていう場合、竪穴式住居のように動かないものなら天地の方向を hıɟ という。本のように動かせるものの場合、細長いほうを hıɟ という。棒なども同じ。 hcl は横、水平、地平、縦と垂直に交わる方向のこと。ふだんは自分から見て左右の方向。日本語ではその物体を正面に捉えたときの左右の側面という意味があるが、hcl にはない。横顔は hcl ではない。顔の hcl とは右頬から左頬までの長さについて述べる方向を表わす。横顔という意味はない。箱についても同じ。箱を正面に捉えて、その右と左の面を意味するということはない。あくまで箱の正面の面の右端から左端までの方向を指す。hcl は細長いものの幅を表わす。棒の縦に対する横である。横に棒を切るとは、断面が丸くなる切り方で、キュウリをサラダ用に切るときも横に切るという。ここが難しいところだが、hcl は同時に水平方向も表わすわけだから、棒を縦に置けば hıɟ だが、横に寝かせれば hcl といえる。この場合、hcl はむしろ棒の幅でなく、棒の長さを指す。横笛なども hcl だが、この hcl はまさに笛の長さの方向を表わしている。なぜなら横笛の横は水平方向に寝かせた方向を意味するからである。 このように、事情によっては hcl が物の水平方向の長さだったり物の幅だったりする。hıɟ も同じく物の鉛直方向の長さだったり、物の単純な長さだったりする。混同しないように気をつけなければならない。
hıɟʃ ［動詞］ɥəl を ı に垂らす、垂らす、垂れる、ぶら下がる、ぶらさがる ［レベル］2 ʅʔ: 制 :hı（舌）【用例】 lı hıɟʃeɹ ncı. 彼女は髪をおさげにしている。（あるいは伸ばしている） lı hıɟʃeɹ nɔɹ ı dıɑlzɔn. 彼は鉄棒にぶら下がっている。
hıɟՈeɒ ［医療］胃下垂 ［レベル］5 ʝ1
hıɟʃɑɔɹc ［被服］キャミソール、キャミ ［レベル］4 ʝ1
hıɟʃbıɑ ［音楽］どら、ドラ、銅鑼、ゴング ［レベル］4 ʝ1: 大きいので垂らして使う
hıɟʃɔl ［名詞］ストラップ、キーホルダー、マスコット、小さな人形 ［レベル］3 ʝ1:hıɟʃ/ɔl
hıɟʃeʃɔnı ［名詞］上下関係 ［レベル］3 ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ
hıɟʃel ［名詞］相性、ケミストリー ［レベル］3 ʝ1:hıɪɟ/ʃel「合う合わない」【成句】 hıɪɟ{ʃɔc} hıɟʃel 相性をよくする、馬を合わせる、音を合わせる hıɟʃel hıɪɟ{ʃɔc} 相性の良い hıɟʃel ʃel 相性の悪い ɑcʃ hıɟʃel ı ～のバランスを整える
hıɟʅ ［音楽］ラップ ［レベル］4 ʅʕ: 制
hıɟɒ ［形容詞］年上の、年長者、シニア ［反意語］hcln ［レベル］2 ʅՌ:ɹeɥ en:ʅlel:hıɟəɒ（上の年） hıՈı:hıՈı 【用例】 ミーファはセレンより４つ年上だ。 ɒccɑı eʃ hıɟɒ ɑə Ո ʃɔlcɹ nɔɑ{ɔn} ɹeɥen.
hıɟɒcyəɹın ［数学］連立方程式 ［レベル］4 ʅL
hıɟφılcɹlcuı ［娯楽］縦スクロールシューティング、縦シュー ［レベル］4 ʝʝ
hıɟɥɔn ［医療］上下圧、垂直圧。押手の母指と示指が鍼体をつまむ力のこと。 ɥɑ;/ ʝՌ
hıɟɥecn ［名詞］縦線 ［名詞］|記号 ［レベル］2 ʝ0
hıɟscnʃɑcnʅ ［生物］矢状面、正中面 ɥɑ;/ ʝՌ
hıɟl ［音楽］リズム、調子律動、リズミカル、律動的 ［レベル］3 ʅʔ: 制 :hcɹl
hıɟlhɔʅʃ ［音楽］ライドシンバル、トップシンバル ʝ1
hıɟın ［文頭純詞］［ネガティブ］どうせ、案の定、～のくせに ［文頭純詞］どのみち、どの道、いずれにせよ ［類義語］len ［レベル］2 ʝ0:ɒelcɑcı ʅceɥ:hıɪɟ ın ［語法］ 主に皮肉気に使ったり消極的にどうせダメだというイメージで使う。 完了形と使うと「案の定」、未来形と使うと「どうせ」の意味になる。現在形は文脈によってどちらにもなり、過去形も同様。【用例】 hıɟın eɹʅ lənı uın cɒ ɑcɹ ʃın. どうせ今日も雨だろう。
hıɟeʃ ［形容詞］聞き分けの良い、良い子な、いい子な、イイ子な、イイコな ［レベル］2 ʝ1:hıɪɟ/ʃe 【用例】 ɒcuı hıɟeʃ 聞き分けの良い娘
hıɟeɹd ［気象］積雲 ʅL
hıɟenʅɟın ［数学］連立不等式 ［レベル］4 ʅL
hıɟeɥʅ ［親族］直系 ［レベル］4 ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ
hın ［形容詞］広い ［反意語］heɒ ［レベル］1 ɑ;e ʅʔ: 制 :ɹɔɥn:hıın（広い） hın:hın:hıın 【用例】 ʅıɑ hın 広い国
hın(ʝ) ［文末純詞］～でしょう？、～だろ、どうよ？ ［レベル］2 古 ［語法］ 語調を整える語。文末に来る。あまり丁寧ではない。女子はおどけた口調でしか用いない。
hın(ʔ) ［生物］［医療］臓、蔵。陰である。 ［レベル］5 ɹzl ʝՌ ［語法］［文化］ 地球の『素問』や『霊枢』など古代の東洋医学では臓という語はなく、蔵という語しか出てこない。内臓の臓という字を宛てがったのは江戸時代に腑分けを行った際に実際の臓器に対して名付けたものである。古い東洋医学では臓という字は使っていなかった。蔵は内臓を指すわけではなく、五神を蔵しているものを指した。現代人は蔵と臓を同一視しているため、東洋医学の古典における蔵が西洋医学の内臓と一致していないことから、東洋医学は古臭くて間違っていていい加減だと考えがちである。例えば脾は脾臓という内臓のことではなく、脾という蔵である。臓と蔵の区別ができていないと理解に苦しむ。これは日本人だけでなく、欧米でもそうである。脾経はＳＰだが、これはｓｐｌｅｅｎから来ている。脾臓と脾の区別ができていない。つまり臓と蔵の区別ができていない。 一方アルカでは蔵は hın であり臓は hınɒılɒ である。ləʅleʃcı のほうが ɹcczıɥ より先に存在したため、ləʅleʃcı の hın（蔵）に ɒılɒ（内臓）を付けて合成語にして「臓」を表現している。歴史的経緯により単純語レベルではなく合成語レベルだが、蔵と臓は区別されている。なので地球人よりアトラス人のほうが蔵と臓の区別に長けていると言えるが、アルバザード人でも一般人は「hınɒılɒ は hın と言ったときに hın（広い）と区別するための長い言い方」くらいにしか考えていないものも多く、医学的な知識がない人は蔵と臓の区別ができないのが実情である。
hınʃ ［名詞］積み重ね、累積 ［数学］［接続詞］かける、掛ける、× ［動詞］ɥəl を ı に積み重ねる、積み重ねる、積む、積み上げる、積み上がる ［数学］掛け算、乗法、乗算 ［名詞］～倍 ［反意語］ʅenɑ、ɑeɹʃ ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hınɔc ［語法］ ɑɔʃʅ, ʃcɑ
hınՈeeu ［物理］倍振動 ［レベル］5 ʅL
hınՈcdl ［料理］ミルフィーユ ［レベル］3 ʝʝ
hınʃncɑ ［言語］累積相 ［レベル］6 ʝ0 ［語法］ 不定動詞の非単位動詞の持つ非単位相。 例えば不定動詞「歩行する」の非単位動詞「n 歩歩く」の非単位相「歩行中」のこと。 動詞の無標形で示される。 例：ləʅ
hınʃɑɔl ［地学］堆積岩 ʅL
hınʃyəɔ ［言語］累積動詞 ［レベル］6 ʝ0 ［語法］ 非単位動詞のうち、不定動詞からできた動詞。「歩行する」など。
hınʃzed ［数学］掛け算 ［レベル］2 ʝ1
hınՈcuı ［娯楽］落ちゲー、落ち物ゲー、落ち物パズル ［レベル］4 ʝʝ:「積み上がるゲーム」
hınʃıll ［数学］倍数 ［レベル］3 ʅL
hınʃc ［サール］ハンティ ［レベル］4 古 :hınɔcʃcʅnɔ（塔の龍）から。 ［文化］ 塔の龍。アルデスとテュアの第４子。男性。ʃɔɔl と人型を使い分ける。
hınʃclɒ ［名詞］ブランケット、ブランケット判、ブランケット版 ［反意語］heɒʃclɒ ［レベル］5 ɥɑ;/ ʝՌ
hınʃen ［数学］積 ［レベル］2 ʝ1:hınʃ 属格 ［語法］ ɑɔʅen
hınʃeeʃ ［化学］展性 ［レベル］4 ʅL
hınʅ ［地学］層、レイヤー ［美容］レイヤー ［レベル］3 ʅʔ: 制 :「積み上げられたもの」
hınʅɒɔ ［美容］レイヤーカット ʝ1
hınʅıɑ 広い国 ʅL ［語法］ 大国ではない。面積が広い国。
hınʅɔn ［生物］［医療］臓腑 ɹzl;/ ʝՌ
hınʅe ［宗教］侍祭、アコライト zφ;「火を起こす係」 ʝՌ
hınʅeɥcɔ ［地学］地脈（地層の連続した筋）。風水のではなく。 ［レベル］6 ɥʃ;φııuehınʅ/eɥcɔ ʝʔ
hınl ［動詞］ɥəl を ı に普及する、普及する、布教する ［レベル］3 ʅՌ: 制 :hın 【用例】 ıɥʅı eɹ hınl ı ɑcuıcʅ ʃ'ıʃɔlıɟ. アルカはアトラスの大部分に普及している。
hınlın ［宗教］宣教師 (ɹɔɥleɥenʃ)、普及者 ［レベル］3 ʅL
hınlısı ［名詞］普及率 ［レベル］4 ʅL:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ
hınɹ ［動詞］ɥəl を折りたたむ、折りたたむ、折り畳む、畳む、たたむ ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hınɔcɹ（塔にする）【用例】 hınɹ ɹılıɟ ı uıl シャツを四つ折りにする
hınɹφɔʃe ［生物］移行上皮。膀胱、尿管、上部尿道、腎盂などに見られる。 ɥʃ;/。常時は折り畳まれていて広げて大きくすることができることから。 ʝՌ
hınɹcı ［軍事］陣、陣営 ［レベル］3 ʝ0:ɒelcɑcı ʅceɥ: 雨などを除けるための広い幌を張ったことから。
hınncuıl ［アイテム］ランス ɹɒ;hıncuıl.ʅ。lʃ でできた槍。この時代の騎士が装備した。 ʝՌ
hınueɥ ［医療］水疱瘡、水痘 ［レベル］3 ʅL: 古 hɔɔɥııueɥ（赤い呪い）
hınɑıın ［化学］クロロメタン、メチルクロライド、塩化メチル ʅL
hınɒılɒ ［生物］臓。西洋医学における臓のこと。 ［レベル］5 ɥɑ;/ ʝՌ ［語法］［文化］ hın
hınɑeɹ ［化学］アセチルクロライド、エタノイルクロライド ʅL
hınφıɥ ［名詞］アルバム、ＣＤアルバム ［レベル］4 ıl;/「広い円盤」 ʝʔ
hınbel,ɹzl leʃʃe
hınbelcı ［企業］ハンベリア ［レベル］5 ʝ1 ［文化］ 日立製作所に相当する企業。
hınhın ［卑語］のっぽ、ノッポ ［レベル］3 ʝ1:hınɔc ［文化］ 使わないこと。
hınheɒφıɥ ［名詞］マキシシングル、マキシ ［レベル］4 ıl;/「広いシングル」 ʝʔ
hınl ［普通動名詞］実用 ［動詞］ɥəl を実用する、実用する ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 研究所以外で実際に使うことから
hınlıʃc ［名詞］実用性 ［レベル］4 ʝʝ
hını ［親族］孫娘 ［レベル］2 ʅϥ: 恣意

hını(ɺ) ［化学］クロロ ［レベル］6 1L

hını,ılſ ncɒ

hınıſın ［化学］クロロアルカン 1L

hınıȷl ［化学］塩酸 1L

hınıɰɭ ［生物］［医療］臓会 ɰɒ;/ ɺɱ

hıncuıl ［軍事］ハニヴァル、五常侍 ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ 五常侍（ごじょうじでなくごじょうざむらい）。zφ でマレティスの側近として働いた魔法剣士。シージア戦争で活躍。水の ɰenɒc はひょうひょうとして冷静で知的でクール。風の ȷıɰı は唯一の女で男勝りだが、脆い面も。よく leφɔlcȷ とぶつかるが、親交を深めていく。土の φıɰɒc は大柄でどっしりと風格があり、実質リーダー的存在。最年長。火の dlınſ は明るくて騒がしくて軽い。雷の leφɔlcȷ は直情的な若き青年で、血気盛んでまっすぐした正義漢。

hıncuıl(ɺ) ［人名］ハニヴァル ɺ1 ［文化］ 1ɱ⸮9 内乱が鎮圧され、ヴェイガン族の執政官であった hıncuıl が王位に就き、王制を開始。これにより belφınɒ は王国となる。

hıncuılɒeɒ ［組み数字］ハニヴァルサークル ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ ɰıdıll

hınɔſ ［形容詞］［ポジティブ］痩せた、やせた、スリムな、スレンダーな ［文字］ナロー ［類義語］lclı ［反意語］zedleſ ［レベル］3 ɺ0:hınɔc/ſe（塔のような） ［語法］ 男女ともに使える褒め言葉。

hınɔſuıcɒ ［名詞］［ポジティブ］細マッチョ ɰɒ;/ ɺɱ

hınɔn ［魔法］ハノン、攻霊力 ［レベル］4 ɺ0: 古 hɥənɔ（ユノ）/nı → hınɔnı → hınɔn（母音脱落） ［語法］ enuelen 【用例】 hınɔn enuc{ſcn} 強いハノン

hınɔs ［生物］中指 ［レベル］2 1L:hınɔcsc（塔の指） ȷeesc:

hınɔc ［名詞］塔 ［動詞］ɥəl を高く積む、積み上げる ［電算］タワー型パソコン ［経済］［動詞］ɥəl を積み立てる、積み立てる。hınſ を多義語にすると掛け算と混同するので避けた。 ［シェルト］塔駒 ［ユマナ］ドコモタワー :ləlcı ［レベル］2 赤 :hınɔc（塔）。最初期では ʅınɔc(ʅıc/nɔ/c) で、「大きな爪で天の幕を破ってその上を見やるような」という原義。ʅınɔ の部分は現在の ʅınɔ（鷲）と同根である。塔を天を破る爪になぞらえたもの。その後、ʅ が X に変わる。これは上海（ジョウカイ→シャンハイ）のように、自然言語でもよく起こる現象で、アルシェも一部の使徒が起こした。その後 hınɔc に変わったのはメルが原因。h をうまく言えなかった当時のメルは、hııbe などを ııbe と発音していた。彼女の中で自分が間違えている自覚は知識としてはあったため、ııbe ではいけないと思い、hııbe と発音しようとする。すると hııbe ではなくたいてい ʅııbe か Xııbe という発音になる。結果、メルは語頭に ʅ や X が付いている場合、正しい形は h なのではないかと思うようになった。こうなると本来 ʅ や X で始まる単語までも、本当は h で始まるのではないかと彼女の中で疑念が生じるようになる。多くは暗記により正しい語頭を覚えていたが、Xınɔc に関しては間違えた。つまり X で始まっているので、その X は自分の間違いによるものであって、本当は h で始まるのではないかと考えた。これがちょうどメルが訓練によって h を言えたり言えなかったりしたころの話で、Xınɔc のことを hınɔc と発音するようになった。h が言えたのを喜んだ周りの年長者たちが、hınɔc という語形を受け入れ、この単語を練習台にメルに h の練習をさせた。そのことから hınɔc が正式な語形と変わっていった。以降、制・新生を通して変化せず、現在に至る。 ʅınɔc: Xınɔc:Xɔəȷſ::ʅınɒzel,uılɒıleı ［語法］ 同じ「建て」でも、外貨建てなどの「建て」は eu となるので注意。 【成句】 hınɔc e φıɰu 粒々辛苦

hınɔcſıʅ ［非言語］ハノイタック ［レベル］2 1L:ɒelcɒcı ılſe ［語法］ 両腕を広げる仕草。真横でなく斜め下。結果、正面から見たら腕が「ハ」の字になる。この形がアルカだと塔のように見えるため。主に男の動作で、感動や驚きを表現するときに使う。ユンクはしない。

hınɔcſıɒ ［地学］巌、いわお ［レベル］5 ɰɒ;/ ɺ⸮ ［語法］ 高く大きな岩。

hınɔcdɔl ［地名］塔方 ［レベル］5 ɺ0 ［文化］ イールゥート、マレナルト、ヴァレナン、ヴァクセンの地域。キリワラは含まない。唯一植民化を逃れて生き延びたマレットの地域。 このうちイールゥートは元々シフェルの土地だが、アズゲルで一度マレットが支配していたことから、シフェルとマレットが最も混在している。

hınɔceȷſ ［形容詞］［ポジティブ］高名な、著名な ［類義語］eȷſc ［レベル］2 ɺ0: 塔の上に名前が掲げてあるような

hınɔceȷd ［気象］積乱雲、雷雲、入道雲 ［レベル］3 1L

hıneſ ［形容詞］目立った、目立つ、人目を引く ［動詞］ɥəl を目立たせる、目立たせる ［類義語］ɗıȷ、ılɒcnl ［反意語］ılhıneſ ［レベル］3 ɰɒ;hınɔc/ſe「塔のような→他より一本だけ抜け出ているような→目立った」 ɺ⸮ ［語法］ ɗıȷ は強調されて際立ったというニュアンス。hıneſ は他と違っていて目立っているというニュアンス。ılɒcnl はわざと人に気付かれるようにしたというニュアンス。

hıneʅȷ ［名詞］広義 ［形容詞］広義的な ［反意語］heɒeʅȷ ［レベル］5 ɺ0

hıneȷ ［人名］ハネス ［組み数字］2 / 5 ［レベル］3 古 : ソーンの hıın から。広めるもの。 ［文化］ ɥıʅʅı ulınɒ リーファ隊の２番目。男性。布教、広報、外交を担当した。非常に雄弁。

hıneȷ(ɺ) ［気象］日向、ひなた ［音楽］メジャー ［生物］［医療］募穴。陽病に使うことから、腹は陰でも日向とする。 ［反意語］scɔɰ ［レベル］3 ɺ0: 古メディアン語で「白」。

hıneȷȷel ［ユマナ］火曜日 ［レベル］2 1L

hıneȷuccɑı ［生物］［医療］募穴 ɰɒ;/。兪穴の反対側であることから。陽病に用いる。 ɺɱ

hıneȷlcl ［化学］塩素 ［レベル］4 1Δ: 制

hıu ［医療］傷 ［レベル］2 1L:hıɰı/ucl

hıuɔɒ ［魔物］ハヴォム（炎狼）: 第四十一天 : 火の巨天 ［レベル］5 1L:ɰcɒcı/ȷeɰen/ɒel:hɔlɔ/ıuɔɒ（火の輪の狼） ［文化］ 獣族。焚き火など、火から火へ移り住む。火から出ると、火の輪をまとった狼となって人を襲う。 キャンプ中の旅人などが主な餌食となる。ɰɒ ではセレンとメルが襲われ、彼らはレイクトで追い払った。

hıuɔl ［医療］狂犬病 ［レベル］4 1L:ɰcɒcı:hıuɔɒ ［文化］ ハヴォムに噛まれるとなる。

hıuɔluıcn ［医療］狂犬病ウィルス ［レベル］5 1L

hıɑ ［数学］累乗、べき乗、冪乗、指数、次数 ［レベル］4 1⸮: 制 :hı/ɑɔʅ。累乗を表わす数が右上に書かれることから。 ［語法］ 二乗は ſıhıɑ、三乗は uchıɑ。 次数が高いことは ȷɔɰ、低いは hıcſ。

hıɑhıılȷın ［数学］指数法則 ［レベル］5 1L

hıɒ ［動詞］ɥəl をぶんぶんと振り回す、振り回す、振りまわす、ふり回す ［メタファー］［動詞］ɥəl をほざく、ほざく、口走る、口ばしる、くちばしる、さえずる、囀る ［類義語］dcɥɔ ［レベル］2 古 ［語法］ dcɥɔ は見下しや小ばかにした感じで、hıɒ は苛立っている感じがある。「ガキがほざいてろｗ」が dcɥɔ で、「はぁ？ふざけんな、何ほざいてやがる！」が hıɒ のイメージ。 【用例】 oec, ıɗı bız hıɒcʅ ſɔ ıɼ おいてめぇ、なにほざいてやがる！

hıɒ(ɺ) ［文末純詞］無関心の純詞。無感動、冷淡を示す ［レベル］2 1Δ:ɰcɒcı: どうでもいいという雰囲気を出すために「 はんっ 」と最後に吐き捨てていたことから。品詞をあてがうなら文末の感動詞に相当する。それを文末純詞としてリディアが定義し、単語として使えるように hıɒ にした。

hıɒʅ ［動物］ハチドリ ［レベル］6 古 : ぶんぶんいう鳥

hıɒıȷ ［名詞］シート、帯、紙、広い平面状の物質 ［レベル］2 ɰɒ;hıın/ɒıȷ ɺ⸮:ɒel。1ɱ にメルが造語していたものを ɺ⸮ に幻日に輸入。 ［語法］ 広い平面状の物質を指す。シートなど。場所性は通常伴わないが、ビニールシートみたいな場所性を伴うものに使うこともできる。

hıɒıȷ(ɺ) ［人名］ハマス 先 ［文化］ ２代召喚省長官。２期１代ソーンの使徒。クレタティスの使徒。２期１代ルシーラ・エ・アルシェのエンデミルに毒を盛った。

hıɒ ［俗語］［動詞］［普通動名詞］ɥəl をレイプする、レイプする、強姦する、レイプ、強姦 ［レベル］3 古 :hıɒ（レイプ）。原型は hızɒə。hı は「 尻尾 」の意味。ɒzə は「 壊す 」の意味。男性器で女性器を壊すという原義から。

hıɒhıɗɒı ［丁寧］［感動詞］はじめまして、初めまして ［類義語］ɒıɗɒı ［アクセント］hıɒh†ɗɒı ［レベル］2 ɺ0:ɒıɗɒı 参照 ［語法］ これ自体が ɒıɗɒı の丁寧形なので ınɒıɗɒı とはいわない。

hıɒı,ılſ hıɰ <>hɔɔɰı

hıɒcʅ ［医療］瘢痕、あばた、痘痕 ［レベル］4 ɺɺ:hıɰ/cʅ「赤の実」【成句】 hıɒcʅ ʅien ʅııɒ 目の上のこぶ、目の上のたんこぶ

hıɒcɰ ［地名］ハディール ［アクセント］hıɒ€ɰ ［レベル］5 ɺ0: フィルヴェーユ語「海辺の」［文化］ レスティル南西部、ファルファニアに接する地域。現在ではテージュ海に沈んでいる箇所。リュディア人が定住し、人類の文明の基礎のひとつとなったところ。

hıφı ［生物］前方、体の少し前、背後の反対 ［反意語］ɒınıɒc ［レベル］3 ȷɒ<ılſ;hıφı<hıφılc（太陽）。太陽を見るときに腹が太陽の側を向くことから。 ɺ⸮

hıφılc,ılſ ɑıl φılc eʅȷ ucʅ ıſə, cȷſɔl ɑıl

hıφclc,ılſ ɑleə hıφılc/clə「太陽を見る」

hıφel ［企業］ハゲル ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ キャノンに相当する企業。

hıφel(ɺ) ［名詞］トンスラ、剃髪 ȷɒ;<,hɥəφnɔ.ȷelın。ヒュグノーは高温多湿なため、兜をかぶる際に蒸れないよう、この髪型をしていた。地球と違って聖職者の髪型ではない。 ɺɱ

hıφələ,ılſ ſıɑl

hıd ［擬音］ハッ、はっ。気付いたりおびえたりしたときの息を呑む声。 ［副詞］はっと、何かに気付いて ［レベル］2 古

hıd(ɺ) ［名詞］思い切り、威勢のいい行動、思い切りのいいこと ［副詞］思い切って、思い切るように ［レベル］3 ɺ0: 物を持ち上げるときの「ハッ」という掛け声から。

hıdſcʅ ［亜魔］ハプティック、サラマンダー ［レベル］5 ɰɒ;hıdȷ/ɑıſcʅ ɺ⸮ 【用例】 lə eſ ſıl nɔɒ hıdſcʅɼ サラマンダーよりはやーい(『バハムートラグーン』ヨヨ)

hıdȷ ［動物］トカゲ、とかげ、蜥蜴、リザード ［レベル］2 lıʅſı

hıdȷʅleı ［アイテム］ハプスクレア、金の針 ［組み数字］8 / １２ ［レベル］4 ɺ0: とかげの粉 ［文化］ ドルの魔法を解除する。ドルハプスに咬まれると石化してしまう。ドルハプスは山岳部の岩場を好むため、北方ではヒュートに多く生息している。そのためヒュート国ではドルハプスによる石化被害が絶えなかった。しかし ɰɒ になるとヒュート国の王子リュウがドルハプスの尻尾にドルを解除する成分が含まれていることを発見した。リュウはドルハプスの尻尾を干してミイラ化させ、粉末状に砕いたものを小さな指輪入れのような箱に入れて民に配布したところ、被害は激減した。石化した箇所に粉末をさらさらとふりかけて使う。

hıdȷcɑı ［地球の星座］［ユマナ］とかげ座 ɺɱ ［文化］ cɑı

hıddı ［名詞］ぶっきらぼう、つれない態度、てれかくし、照れ隠し、いじっぱり、意地っ張り、がんこ、頑固 ［形容詞］ぶっきらぼうな、愛想のない ［レベル］3 ʅʅ<ılſ ɺ⸮

hıh ［感動詞］はぁはぁ ［動詞］ɥəl をはぁはぁ言わせる、息切れさせる、息切れする ［再帰動名詞］息切れ、はぁはぁ、ハァハァ、動悸、あえぎ、喘ぎ ［類義語］bınſ ［レベル］2 古

hıhleun ［医療］ぜんそく、喘息 ［レベル］3 1L

hıɥə ［格詞］［文頭純詞］まったく当然の流れで、強順接 ［レベル］1 1L:hıɔ/ɥəl lɔɔ:lɔɔ:dıaeʃ:ʃjəlcjɔ,ılʃ 【用例】 "hıɥə ɑcı eɒıʃ lıɒɤ"「そうして世界はできたの？」

hırd ［言語］h の文字 ［レベル］1 1ɱ: 制 : 使徒 ［語法］［文化］ 第１３文字目の幻字。 ハ行に当たる摩擦音。口語で [h] は音と音の間で消失することがある。例えば en hıɥʃ の場合はエンナルトのように聞こえることがある。消失してもしなくても特にアルバザード人は意識していない。単語単体で発音するときは [h] は消えない。 音節末に来るとドイツ語のｉｃｈのヒ、ａｃｈのハの音のように、元の位置より前寄りの摩擦音に変わる。これはソノリティを上げるためである。ただし、ɥenʃe はこれを音が擦れて汚いと思うため、前寄りの摩擦音を使わずに、はっと息を漏らす。聞こえは弱いが、色っぽい。 ・音節末のｈは制アルカ以前にも [x] だった可能性が 音節末のｈは制アルカで [x] などの音声になるように定められた。しかしその設定が突如何もないところから出てくるというのも考えにくいので、その前段階があったのではないかと思われる。そのことがずっと気になっていた。 ところでリディアはラーメンのことを「ラッハメン」という癖がセレンが１８歳前後だったときにあった。なぜそんな変な言い方をするのだろう、ラーメンと発音できないわけじゃないのに――と思っていた。 ɺɱ 年になってある日突然そのふたつが結びついた。リディアはラーメンという日本語を覚えたとき、教科書か何かで覚えたのではないだろうか。そのときカタカナのルビにｌａｈｍｅｎと書いてあったのではないだろうか。このｈは長音を示すが、もし後の制アルカのように [x] の音だとリディアが考えたら？そう、「ラッハメン」になるではないか！長年の謎だったラッハメンの謎がついに解けてセレンは「あぁ！！！」と驚いた。 しかし、そうなると音節末のｈの字を [x] で解釈することが古アルカにはあったということになる。古アルカは表意文字だったので音にそこまで敏感ではなく、また音節末のｈも頻度が低いので、ｈを [x] で解釈するということは注目されていなかった。当時のセレンが制アルカで音節末のｈを [x] にしたのは古アルカの音声の使用実態を見た上でのことだろうから、潜在的には [x] の音声が古アルカで使われていたこともセレンは知っていて、特にそれが音節末のｈに現れやすいことに気付いていたのではないだろうか。 ラッハメンの謎は幼馴染のフゥシカや仲間、後に家族にも話したことがあるが、誰も分からなかった。リディア本人も「ラッハメンと覚えてしまったから」としか言わず原因を究明しなかった。今になってようやく分かって感激している。
【用例】 hırd ɉıleın{ɑɔcl} 字の若い方、字の早い方。「と」なら「のこと。
hırd lcleın{lecl} 字の遅い方

hırd(ɺ) ［名詞］文字 ［数学］文字、代数。定数や変数のこと。 ［接尾辞］書体名を指す。 ［類義語］hırdɒ、hıɥɒı ［レベル］2 ɒelʃcı 100:beɥʃ;e 1ʔ: 制 :hıɥ:hırdɒı(使徒、幻字) ［語法］ 表意幻字（幼字）: hıɥɒı アルハノン（塔字）: ılhınɔn ベルト幼字 : berdʃhıɥɒı 響字 : ɑɔɥɒı 節字 : lɔnʃɔn 京字 : ɥəlı 極字 : ɉınlı 京極 : ɒını メテ幼字 : ɒeʃehıɥɒı 竜字 : ıbɥıɒ 理字 : ʃcıɥıɒ 表音幻字（幻字）: hırdɒ ［文化］ ＜文字と紙の歴史＞ ɒelʃcı 100 にベルトが幼字を作った。これが最初の文字であり、表意文字である。 ベルトは光の魔法 lınʃe で空中に字を書いたため、曲線と直線を自由に組み合わせることができた。その知識はエルトとサールに受け継がれ、ユーマの一族へも伝えられた。 紙を最初に発明したのは悪魔ベルトである。 ɒelʃcı ɺᑭ、ベルトは忘れっぽいサティのために動物の皮に棒で文字を書いた。なお、最初のインクはヴァルク海で取れたイカの墨である。 この皮が悪魔の中で人気になり、もっと薄く大量に作れるものはないかと模索した結果、ɒelʃcı ʔΔL にヴァルテが植物の繊維を用いた紙を考案。最初は麻を使っていた。 ɒelʃcı ɱɺʔ にヴァルテがペンを考案。
麻の紙は悪魔から神に伝わり、神からユーマに伝わった。従ってアズゲルでは既に紙が存在した。しかし技術よりも製品ばかりが伝播しており、どちらかというと神から紙を分けてもらっていた。 ʃɒ でアルファエル川流域でパピルスを使った粗悪な紙が作られ、ユーマの一族による紙ができる。 ベルトは本をも発明し、神に伝えた。
例えば賢者ユルグは本から生まれた九十九神である。 木材による紙は zφ で開発された。 インクは植物を用いたものがナユによって作られ、ペンも多様化した。 筆記具によって字のデザインは異なる。lınʃe は石に刻まないので自由に直線だけでなく曲線も書ける。そのため幼字は直線と曲線を区別できた。これを利用してエリア（水）に対するエーホ（氷）のような字の違いが生まれた。
＜書体の歴史＞ 初めて書体が登場したのは ʃɒ である。マレア神によって幼字の書体がいくつか作られた。 zφ でナユはマレアに教えを請うて書体を学び、新しく幼字と響字の書体を作った。 後にセレンはこれらを元に幻字の書体を増やしていく。 ɉɒ では響字が各国で採用され、ɉɒ 中に竜字や理字の筆記体ができる。ただしカッパープレートは ɥɒ を待つ。 ɥɒ では幻字ができる。新生になるとセレンは正式な書体として ʃıd を作った。ところが当時はボールペンがなくインクを使っていたので、一文字ごとにペン先を離す ʃıd は使いづらかった。 幻字は表音文字なので、数文字がまとまって初めてひとつの単語になる。なので、単語ごとにまとめて書きたいという要望が出る。 そこで幻字にも竜字同様繋げ字が開発された。しかしセレンのものは質が悪く、ミルフが改良して hıclen を作った。一方セレンは hıclen に感動し、書体に実用以上の意味を見出していく。 その後セレンは芸術としての書体を求めた。当時セレンは通常のペンを用いていた。ʃıd は線の太さが均一だが、hıclen は線の太さに強弱があった。hıclen は文字のある部分は流し、ある部分は止めるという書き方をするため、ゆっくり書く部分はインクが多く溜まって線が太くなる。 セレンは hıclen の線の強弱を見て、文字の線には太いものと細いものがあるとメリハリがつくと考えた。そこでマレア神がかつて遊びで作った平ペンを使い、平ペンを４５度に傾けることで、線の強弱をつけることに成功した。 地球の場合、石版に刻む刀が後の平ペンを生むので、地球とアトラスの歴史はまるで逆である。アトラスの場合、マレアが書体のバリエーションを豊富にするために遊びで作った平ペンを用いて、丸ペンで作った書体の後に平ペンを使った書体を作っている。 ところで日本でカリグラフィーペンを買うとイタリックなどを書くための平ペンを渡されるが、カリグラフィーは本来西洋書道のことであるから、カッパープレートなども含む。そしてカッパープレートは平ペンでは書けないので、ああいった平ペンをカリグラフィーペンと命名するのは適切でない。アルカの場合、書道としてのカリグラフィーと、イタリックなどを書くための平ペンはまるで別の単語である。 リュウはこのころナユと魔法を使わない活版印刷を作っており、銅版に手で刻み込む技術を考えていた。そこでセレンらは銅版に刻みやすい線の細いカッパープレート体を考案した。その後、セレンはカッパープレートを最も華やかな書体へと発展させていき、ıleʃ 体を作った。 ul までにセレンの書体を改良した書体が無数に出た。それは ıl 以降でも使われている。 ＜字の体系＞ 漢字に草書や行書などがあるように、アルカにも様々な書体がある。似たような書体をまとめたものを字体 (hırdcʃ) という。書体は具体的なフォント名であり、ıɥl, hıclen などはすべてこれに当たる。ıɥl と ləʃcı と hıclen は同じ ıɥl 字体に含まれる別々の書体である。 ɺl 年現在、公式の書体は独立体で ʃıd、連結体で ıleʃ である。 ＜文字の歴史＞ ・幼字 100ɒʃ にベルトが表意文字の幼字を考案。神、悪魔、ユーマ、死神へ伝播。 ʃɒ は言語と文字にとって歴史上ほぼ唯一の蜜月期で、少ない人口と優れた下記 ellelʃ により長期にわたって安定していた。
ɱɱɱɒʃ にベルトがエルシェルトを考案し、各地に設置。エルシェルトのおかげで神々の連絡はよく、通信技術の発達した現代同様、互いに離れて暮らしても言語と文字は意思疎通ができる範囲で緩やかに変化していた。神々に寿命がなく世代交代がないことも言語の変化を緩めていた。 ・ベルト幼字 (berdʃhıɥɒı)(ɺ1ɺL) du でエルシェルトが徐々に破壊される。これにともない、徐々に各国の言語と文字が独自の変化を始める。もともとエルシェルトがあっても長い間で少しずつ互いの言語は独自の変化をしていたが、エルシェルトの破壊とユーマの一族の寿命減により加速した。 大方は幼字を使っていたが、文字の意味やデザインが異なったりといった齟齬が生じていた。これはエルト・サール間にもいえることであった。このときは戦争中なので、スパイや翻訳者や前線の兵士以外にとっては取り立てて齟齬があっても問題にならなかった。戦時中の日本が敵性語として英語を嫌ったのと同様である。 zφ になると戦争が終わり、エルト・サール間に棲み分け前提ではあるものの対話の姿勢が現れる。２０１０年現在における朝鮮半島のような状態に近い。 対話が始まると当然齟齬が問題になってくる。さらに神人貿易への依存も増えるため、人間との間の齟齬も問題になる。かといって何千万ものアテンが絡む問題であるため、今日齟齬をなくそうと思ってすぐ変わるものでもない。特に zφ はじめはまだ人間は部族単位で暮らしており、彼らは神なき国の王になろうと躍起になっているころで、リーダーがいない。 新しい文字を伝播するには人間側にも強いリーダーが必要である。アトラスに直接介入できなくなった神々では伝導者としては不十分である。ベルトやユルグらはそのことを理解していた。 zφ が進むにつれ齟齬は大きくなり、問題は以前よりも意識されるようになる。 ɺ1ɺ0 に uelɒcın 帝国ができる。続いて ɺ1ɺᑭ に ɉclezcın 帝国ができると世界は東西に分かれ、一触触発の冷戦状態へ突入する。いわゆる千年の冷戦である。 この時期は逆説的な平和が訪れており、かつシフェランとマレティスという巨星が存在したため、文字改革を行うには zφ の中でも最もタイミングのよい時期であった。 そこで神々は人間のみならずベルトやルノらも加えて会談を開いた。これをベルト会談 (berdʃıʃı) という。 この時既に各言語間は音声面ではそこそこの開きが生じていたものの、文字面ではそこまでの開きがなかった。地球でも通常言語はこうなる。つまり音声の変化のほうが早い。 日本人が中国に行って喋れはしないが筆談はできるのと同じで、表意文字である幼字は筆談に強い。しかし中国語で「走」が「歩く」という意味になっているのと同じような齟齬が幼字にも存在した。 そこで彼らは統一の字を企画した。ベルトが主幹となり、デザインや意味の統廃合を行い、ɺ1ɺL に４００字（ベルト幼字）にまとめた。細かい違いしかないのにたくさんの文字があると不便なため、統合をして文字を減らすなどといった手法がふんだんに採られた。こうしたデザイン等の統廃合は地球でも秦の始皇帝が同じようなことをしている。 ・響字 (ɺ1ɺL) → lcɒ 新しくできた幼字セットは音声面では各国語の発音で読まれる。同じ「火」でも「カ」だったり「フオ」だったりというのと同じである。 そこでこの新しい文字セットの各文字をどのように読めばよいかという問題が生じる。現場では字典を作るわけだが、字の横に各国語の読みを書く必要がある。 漢字で例えると「火」と「炎」は似ているから「火」だけに統一したとしよう。このとき新しい「火」を「カ」と読むか「エン」と読むかあるいは第三の読みをするか分からない。一人でやるならまだしもこういう作業をベルト監修の下各国の研究者が混じってやっていたわけで、「この文字を何と読むか」を記しておくことは必須であった。 各国にしてみれば文字の読みは自分の言語分しか必要ないから自分の言語にない音素を表す文字はいらない。しかし各国の研究者が入り混じって研究している状況では誰もがどうせ作るなら各言語共通に使える表音文字のほうが便利だということに気付く。 そこでベルトはきちんと文字の音価が分かるよう、例えば ɒcı の幼字で [ɒ] という音を示すようにし、表音文字を作った。これを響字といい、アトラス初の表音文字である。響字は参加したすべての言語のすべての音素を記せる必要があったため種類が多く、国際的に使えるものであった。
なお、響字は５０字で、ɥɑ,lj はこのうち２９を使用する。 響字について詳しくは lcɒ を。 ・極字（10ʔL000ɒʃ 頃） カルセールのヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいった。ハーディアンの最初の国風文化である。 ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んでいた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず

(甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい)、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。　このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。　　・節字 (ɹʔʔ)　響字は μɑ,lj,ɹz のような複雑な音節構造を持った言語には便利だが、ハーディアン語のようなほぼＣＶからなる音節構造を持つ言語には違和感がある。ハーディアン人は ʅı は ʅı でひとつの音と考えているので、これひとつに一字当てたい。日本語のひらがなと同じだ。日本人は「か」を「か」だと思っていて、子供のころローマ字を習って初めて「か」が子音 ʅ と母音 ı の複合だと感じるようになる。それと同じでハーディアン人にとって ʅı は ʅı で一音に感じられるため、この一音に一字を当てたい。　結果ハーディアンでは響字は受け入れられなかったが表音文字というコンセプト自体は受け入れられ、節字という音節文字が開発された。ただ響字のアンチテーゼとして zφ で作られたため、コンセプトは響字と同じで、ひとつの幼字をひとつの音節文字として用いたものである。　節字はルビのように極字の音を示すのに用いたため、現在のハングルのように表意文字に置き換わるものではなかった。　　・京字 (ʔʕΦΔ)　　シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わり自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。

　この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。　　・京極　　京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極と呼ぶようになった。　→ ᴅını に詳細。

　　・塔字（ɁɁ000 前）　　遡ってカルセールでは ſᴅ で独自の表音文字 ılhınɔn（塔字）ができていた。　カルセール人は神代からすでに表意文字に見切りをつけて表音文字を開発していた。その理由は魔法陣である。魔法陣は呪文を地面に書いて行う魔法であるが、何百とある表意幻字を覚えて使いこなすには一定の教育が必要である。

　そこでカルセールの王 clhınɔc が塔字を開発し、アルハノン用の呪文見本も作り、学のない国民でも魔法陣を使えるようにした。そのためカルセールでは幼字からの脱却が早かった。アルハノンは魔法陣の技術とともに神代でメディアンやスカルディアにも浸透した。

　　・メテ幼字 (ᴅeſehıɥᴅı)(ᑫLᗰᗰ)　　ʅʅ でメテが神とともに悪魔を倒したとき、彼は人間社会の頂点にいた。この中央集権および神との繋がりを活かし、メテは zφ 以降ふたたび言語間で齟齬が生じてきていた幼字の再制定に乗り出す。　メテは新字を追加したり統廃合をし、４４４の幼字を制定した。これをメテ幼字といい、このときの神々との会談をメテ会談 (ᴅeſeıſı) という。主幹はメテとベルトである。

　・４４４　　この数はどこから来ているのか。４が古くから聖数 (ɥıſıll) なので４４４が並ぶことは理解できる。問題はなぜ１０００や２０００ではないのか。なぜ５００程度なのかということだ。　もとはといえば幼字は古アルカの幻字から来ている。『アルカ』ｐ５４によると古アルカの幻字の総数は２０６５である。常用漢字が左記執筆時で１９４５であるから、２０６５をそのまま流用すれば作業が楽だ。２０００を５００にするにはかなりの選定･編集作業がいる。なぜこれをわざわざ５００にするのか。　　最大の理由は古アルカがしょせん子供の作ったものだからである。カルディアで神が作ったとするには無理があるからだ。また、アポステリオリ性を完全に排他できているか怪しい。それで選定する必要がある。　大々的に減らすのは、表意文字の世界スタンダードを配慮してのことでもある。漢字しか知らない日本人からすれば常用漢字が当然のものに見えるが、世界の表意文字はたいてい３桁である。漢字は俗に５万あるといわれるが、むしろ漢字だけが群を抜いて多い。世の中の標準はもっと少ない。　字が多いということはそれだけ学習効率が悪い。また５万のうちほとんどはパーツの組み合わせで、単語でいうなら合成である。単純語に相当する文字だけ抜きだすと世界標準に近付く。　　だが常用漢字を２０００使っている民族からすれば、５００では少なく感じるのも事実だ。　そこで接字という装飾を付ける。アルカには ıl の付く語が多い。また lcᴅleſ, ʅılᴅcɥə でできている語が相当ある。　そこで ıl 系の字には基本となる字に○を付ける。ベースとなる文字は４４４しかないが、○を使うことで実質的な数を規則的に増やすことができる。同様に .l や .ʅ には線を付ける。反対語には古 sın を示す×を付ける——などという要領で接字を付けてヴァリアントを増やしていく。　　接字３つでも４４４＊４になるので２０００弱となり、常用漢字に匹敵する。　むろんすべての字に接字を付けるわけではない。付けても合計１０００程度だろう。

　　なお合理化大作戦を競っているわけではない点に注意。接字をもっと増やせばベースはもっと少なくなる。５０＊５０でも２５００だ。接字とベースが正方形になるように組めば必要な数は最も少なく、組み合わせの数は最も多くなる。　この手の過合理は子供の好むところで、私もずいぶん試した。しかしこの手のもので人間がいざ実用しようとして使いやすいと感じたものはない。今までに何度もこういったものを年単位で人体実験しては結局覚えづらく使いやすい自然言語的な体系に回帰していった。　　２０００を５００程度に統廃合するというのは例えば漢字で言うなら「崎」と「嵜」､「島」と「嶋」などをまとめて減らしていくことに相当する。　古で eɥcı は「３」のような字形で、水を意味する。波紋の象形である。線をカクカクさせて直線にすると eehɔ（氷）になる。水が硬くなって氷というわけだ。古でもそうだしベルト幼字以前もそうだった。　ここは合理化できる。eɥcı に線を引いて eehɔ とする。eɥcı というベースに線という接字を付けてヴァリアントを作るというわけだ。　また、直線と曲線を区別すると楷書と草書のような書体のバリエーションが減ってしまう。そういう意味でも古にあった直線と曲線の区別は廃棄したほうがよい。　　古幻字は子供の作ったものなので余剰が多い。合理化しすぎるのも問題だが、ある程度の合理化ならむしろ望ましい。人間でいうなら、肥満は不健康だが痩せすぎも不健康という感じだ。　　　ところで zφ でも幻字は２０００程度はあったと思われる。異体字が相当数あるだろうことが見込まれるからだ。あるいはもっとあったかもしれない。現実のほうも２０００行ったのだから、そのくらいはアトラスでも余裕で行くだろう。　いずれにせよベルトらは統廃合を行い、５００程度までスリム化した。統廃合の目的のひとつは字数を減らして学習効率を高めることだ。しかし減らしすぎると運用効率が悪くなる。　セレンが思うに表意文字は５００～１０００程度で学習と運用のバランスが取れるのではないか。なら数をいったん５００にして学習効率を最大限範囲内で高めた上で、接字を使ってそれを１０００程度に増やせば運用効率もキープできる——と考えたわけだ。　これは総合的に合理的な手法で、賢いベルトのことだから幼字を保存するという条件を満たしつつ学習と運用を取ってこの道を選んだことだろう。　　　・幼字の失墜　　ᑫLᗰᗰ にメテ幼字が制定されたのも束の間、メテがソーンに暗殺され、さらに後釜についたアルシェまでソーンに敗れるや一転、メテを象徴するメテ幼字の権威は失墜した。　ソーンはアルハノンの文化圏出身者であったため、メテ幼字を廃してアルハノンを支配地の効用文字に制定 (Δ00L)。レスティルに初めて表音文字が公的に入った。　ソーンが暗殺されアルバが王位につくと、アルバはアルハノンを公用文字から除外。ところが彼自身アルハノンが公用文字だったころの生き証人で、表音文字の便利さを肌で知っている世代だった。　それまではルビとして響字を使うのみだったレスティル（この時点でアルバザード）だったが、ここで表意の幼字に戻すより表音を使ったほうが便利でかつ国民の適応も早いのではないかと考えた。そこでアルバは幼字を廃し、響字だけで記すよう定めた (cᴅəl Ɂ)　　一方ルティアはすでにこのとき伝統を重んじる国になっていたため、ᑫLᓭL に採用していたメテ幼字しか使わず、表意が使われ続けた。　メテとともに幼字を制定した神もむろん同様である (ᑫLᗰᓭ)　幼字はその後もデザイン、看板、記号、時計、カレンダー、数学記号や物理の定数といった科学などにおいて使われ続け、現在でも生き残っている。　　・響字の普及　　ɹᴅ 前期になるとアルティアがルティアに侵攻。一時ルティアは支配される。その後首都を奪還するも西部は長きにわたって取り戻せずにいた。　この征服時代に節字が入り、アルティア人に牛耳られた王宮は節字を公用文字にしようとしたが、音節構造がアルティア語と違いすぎ表記があまりに不便なため見送られた。　結果節字はルティアではオノマトペの表記などに用いられることになる。　アルティア人は節字を作ってから幼字を使っていなかったため、ルティア人の使う４４４もある文字を受け入れることはなかった。この時点ではアルティア人が支配者であるため、当然彼らは自分たちにルティア人を合わせようとした。かといって節字はルティア語に合わず、ルティア人にアルティア語をあまねく喋らせるのも現実的でない。　そこで同じ表音文字の響字を取り入れ、折り合いをつけた。これならアルティア語もルティア語も同じ文字で記せて行政上便利である。結果ルティア語でも響字を採用することとなった。　ルティアの役人はアルティア人とルティア人で構成されるため、彼らはともに響字で記した。節字でルティア語を書くのはきつく、かといって幼字を使う気にもならないため、これが支配者にとっても最も合理的な選択であった。なおアルティア本国ではむろん節字が使われ続けた。　　ɹᴅ 中期になると神も響字の利便性から徐々に幼字の使用を減らしていった。背景には発達するアルバザードの魔法学が作る新語をいちいち幼字に訳すのが煩雑という思いがあり、まず μɑ にとっての外来語が響字のまま入り、そのうちほかの語も響字で書かれるようになっていった。

　また、ベルトやルノらもこの動きに合わせた。　　・響字の崩壊

　　響字は大国間で通用する共通の文字としては便利だが、幼字が元になっているのでしばしば画数が多いか一画が長い。作った時はベルトが取りまとめて世界共通の文字をという流れだったが、会談が終わってしまえば各民族がそれぞれの土地で響字を使い続けるわけだから、当然好き勝手に各国ごとに崩れていくことになる。例えば日本人が漢字からひらがなを作ったように、変化しないほうが世界的には合理的でも、その土地で生きている人間からすれば自分が便利なほうが良いから当然変えるわけである。　　もし異国が別の崩し文字を使っていてもそちらに合わせるかといえば、よほど力の差がないかぎり合わせるわけがない。むろんそれぞれの国が好き勝手に崩すと共通性が損なわれるということは皆も感じている。かといって、では自分が相手に合わせるかといえば、そんなお人好しはいない。皆周りの国がこちらに合わせればいいと考える。　例えばひらがなとハングルがあると分かりにくいからひとつの表音文字にしようねと誰かが言い出したとして、それ自体は日韓は確かに便利だとは感じるかもしれない。だが日本人は当然ハングルに合わせる気などないし、韓国もまた譲る気がないだろう。それと同じことである。　　・竜字　　そこで ɹᴅ 後期でアルバザードで起こった文字が竜字である。これは響字の下位概念とも子ともいえる存在で、響字を崩したものである。アルバザード語にある音韻しか文字を持たないのが特徴である。　　竜字は２９で、詳しくは lcᴅ を。　　・理字　　同じく ɹᴅ で lccze 姫が取りまとめたものが理字である。宮廷ではひとつの文字に対し複数の崩しデザインが存在しており、リーゼ姫はそれらをまとめて文字セットを作った。こちらもやはりルティア語にある音韻のみを文字として持つ。　以下では響字というとアルバザードでは竜字、ルティアでは理字を指す。　　理字は３０で、詳しくは lcᴅ を。　　・ペンと筆　　竜字と理字ができたころ、アルバザードはペン文化でルティアは筆文化であった。　ペンと筆は持ち方から線の質まで異なる。ボールペンはインクが切れないので気付きにくいが、インクとペンで書くと、ペンは画数の多い字が書きにくいことに気付く。それどころか複数の文字をひとつにつないでサラサラと書いたほうが書きやすい。　対して筆はペンよりスッスッと書くのが容易で、画数が多くても比較的書きやすい。線に太さも付けやすい。　この違いは竜字と理字の崩しのデザインの差に影響

を与えた。　　竜字も理字も響字から崩れたものだが、各国の国民が勝手に崩れさせていった結果崩しのパターンがいくつもできてしまったため国がまとめたという事情があるので、制定された崩し方は国ごとに異なることになる。作る側としては誠に面倒だが。　・デザインと国民性　　竜字はペンで書きやすいようもともと筆記体風な崩しになっている。元の響字のデザインを根本から変えて、自分たちに書きやすいよう変えている。自分たちの合理性に合わせて周りを変えようとするアルバザード人の強い国民性が出ている。
一方理字は元の響字の字形から一部を切り取るというタイプの省略をしている。保守的で大人しい彼らは元のデザインに手を加える気がない。かといって字形が長すぎるので省略もしたい。そこで一部を切り取るという手法に到った。仮名でいうとカタカナに相当する。　・神々の響字　　なお神々は世代交代をしないため、慣れた響字に固執した。彼らにとっては画数云々よりも慣れのほうが重要であった。それはそうだろう。画数の多いのが嫌なら最初の響字の時点で崩している。あくまで幼字の黄金期を生きた寿命の長い生物の価値観だ。　・幼字→ lcᴅ　ȷᴅ でアルバザードやルティアから神々に至るまで公用文字として広く採用された響字。しかしその音価は時代とともに変わる。これが表音文字の欠点である。　例えば英語でも発音上は大母音推移が起こっても文字は据え置きだし、同じｓでもｓａｄではサ行音だが独Ｓｔｅｉｎではシャ行音である。ȷᴅ_ɥɑ は現代の時間換算でも８００年あるため、この間に言語ごとに地球の言葉と同じく文字と音のずれが起きている。　ɥɑ でアルシェが新しい使徒を迎えると、まず相手が同じ文字を使えるかという心配があり、同じ竜字が使えてもはたして読みが同じかという心配が常に付きまとった。さらに場合によっては文字が崩れてデザインが変わっているケースすらあり、混沌としていた。　アトラスではアポステリオリ人工言語である古アルカがピジン的に作られていく過程でアルシェは『制定語彙』などを作成。ほかにセレンは『赤アンクノット』などを作成。制定語彙は響字で書かれたが、赤アンクノットはセレンの趣向で節字で書かれた。当時セレンが私的に節字を使用していたことと、赤アンクノットがフルミネアが企画してセレンが作った私物だったことにより、個人の趣向が通っていた。　1ʕ01 にセレンが制アルカを作成しだす。このときアルカ用に幼字を作り、乱立していた音をまとめた。それまでは各言語で使われる多様な音を使っており、非常に多くの響字を用いていた。しかも文字の読みも言語によってまちまちだったため、幼字で統一したわけである。
制定語彙ほかはリーザが保護の目的でルティア王宮の金庫に保管していたため、おいそれとは閲覧できないようになっていた。ただし赤アンクノットは私物なため、管理をまぬがれた。このためセレンは制アルカと新生アルカの制作途中で赤アンクノットを参照するしかないことがたびたびあった。　しかし赤アンクノットは節字で、節字は響字ほど音が正確ではない。そのため制・新生は響字からすればあやまった音で作られた単語がある。使徒は制定語彙の暗記が必須だったが、すべて忘れないというのは現実的に不可能なため、このようなことが起きた。　・ＩＰＡ (ɑeeʃeɑı)　ɥɑ ではセレンが 1ʕ0L に響字に代わる包括的な表音文字（ＩＰＡに相当）を考案した→ lcᴅ　・幼字の普及　幼字はアルカの普及とともに広まった。文字と言語なら文字のほうが先に普及する。日本でもハングルをよく見かけるが、韓国語ができる人はまだ少ない。例えばセレンもハングルは読めるが韓国語は喋れない。それと同じで、幼字もアルカより早く広まった。　ɥɑ で幼字は多くの国に認知されていた。ただ公用文字にはなっていない。ɥɑ ではアルバザードでのみ公用文字とされた。ıl ではルティア等多くの国が公用文字のひとつとしている。
　ルティアでは ɥɑ に幼字が入り、ıl で公用文字のひとつとなった。ɥɑ でリディアらが幼字でルティア語を記す方法を考案したが、理字のほうがルティア語の表記には適していたため、普及しなかった。ところがひとつ、電算の世界では普及した。というのも１バイトの文字コードは幼字でいっぱいいっぱいだからここに理字が入るはずもなく、幼字しか入らなかったためである。　ＩＴはアルバザードから興って世界中に広まっていったため、中国でも英字のキーボードを使うのと同じように、ルティアでもメティオでも幼字のキーボードを使う。結果、幼字は電算で最初に普及した。　ıl の革命後も理字は生き続けている。しかし ul と違って民間人でもほぼ確実に幼字への置換ができる。特に革命後に生まれた若い世代では幼字がデフォルトというほうが多い。だがここまで来るのに３００年以上の時間がかかっているのが流石ルティアというところか。　現ルティア語は幼字で示すとアルカと音価がかなり異なる。ləᴅccne はアルカではルミーネと読むが、ルティア語ではリュミーヌと読む。euınselcn はエヴァンジェリンではなく、ゥヴォンジュリャンのように読む。長い時間を経て地球の言語と同じように音と文字が乖離している。
文字と音は常にイタチごっこで、正書法を定めても定めてもすぐに乖離してしまうものである。人工言語を作る立場からしてみれば言語の変化は面倒くさく鼻もちならない問題児だが、嫌々でもリアリティのために変化させざるをえない。神話の時代ならまだしも、魔法が失われた時代なら地球に存在する言語程度には変化しなければ手抜きである。アラビア語のような変化の少ない言語にすれば楽だが、あれはイスラム教という強い宗教があってのもので、そう簡単に日本語などで行えることではない。まして英語のような国際語という地位があればまして現実的でない。

hıɾʃ　[動詞]ɥəl を印字する、印字する、印刷する　[レベル]３　1ʔ: 制 :hıɾdɥeʃ（字を印刷する）

hıɾl　[動詞] ɥəl をなぞる、なぞる　[レベル] ２　1ʔ: 制 :hıɾᴅıʃcl（字をまねるから）

hıɾlı　[感動詞] お誕生日おめでとう　[レベル] ２　古 :ɥcɑcı: オヴィの造語 ɑcılı と ᴅelı に似せてリディアが hıɾᴅılc から造ったもの。誰にでも使うことができる。

hıɾȷ　[文字] インク　[レベル] ３　ᴅelʃcı Jʕ:beɥʃ;hıɾ.ʝ　1ʔ: 制 :hıɾȷcd（字の液体）

hıɾȷɑıde　[電算] インクジェット　[レベル] ５　1L

hıɾȷıȷ　[言語] 書き順　[レベル] ２　JJ　[文化]　ıɥnınʃ

hıɾȷın　[数学] 文字式　[レベル] ４　1L

hıɾn　[名詞] 友達、友人、ダチ　[類義語] ȷeᴅıcᴅ、bıɾ、eɥcɔl、nılıᴅı　[レベル] ２　古 :hıɾn。hıɾᴅı からだろう。　Təəlı:Təəlı::hılın,ılʃ　[語法]　ılʃcȷ は「旧友」かつ「親友」。ɑcıȷeɥ は ılʃcȷ のうち、恋仲にあるもの。腐れ縁は bılɑcȷ。　hıɾnı は何か行動を共にするのに適した相手のことで、行動とはビジネスでもテロでも何でも当てはまる。通常二人一組になり、訳語は相棒がふさわしい。　hıɾn は友人のこと。ȷeᴅıcᴅ はそのうち女同士を指す。【用例】 lecn ȷcʃ hıɾn{ȷeᴅıcᴅ} le lı ılɔ ɔl. レインには一緒に遊ぶ友達がいなかった。　ʃıɑ hıɾn 友達を作る　ʃcɑl hıɾn 友達を失くす、失う。孤立するという意味は含意しない。ふつう一人の友だちを失うことを意味する。　ucnȷ hıɾn 友達を捨てる、絶交する　hıɾn ınʃ ʃın ɥəlıȷeȷ nec cl ɥıɑel enʃɔ ın ʃclıʃ nıl. 友達も宿題を全部は終わらせていなかったので安心した。

hıɾnı　[名詞] 相棒、相方、伴侶、パートナー　[レベル] ３　古 :hıɾᴅı(使徒) から hıɾn(友人) ができ、hıɾn から hıɾnı が特殊な意味を持った友達即ち相棒の意味を持って生まれた。　[語法]　hıɾn

hıɾhɔlʃ　[電算] 文字コード　[レベル] ４　J0: 文字の一揃え　[文化]　cᴅəl
1ʕ0ʔ にリュウが ȷɔɥȷ 用に開発した。当時作られた新生アルカの表音文字は文字数が少なく便利という理由で採用された。ȷɔɥȷ はタイプライターのようにＣＲなどの制御文字を必要としていたため、地球と同じく文字コードには制御文字を含んだ。最初に含まれたのは表音幼字２５種、それに古アルカの表音文字４種である。これに新生で使うテンペラなどの表意文字を追加し、: などの約物といわれる表意幼字を追加。アルバザードで使うことを見越して通貨記号なども入れておいた。その数がおおむね１００前後であったため、７ビットで表すことにした。当時は魔動式のコンピュータを使っており、最小単位が４ビットであったため、８ビットで表現し、残り１ビットは空白で常に eɥeȷ（１６進数で１。後の２進数で０）で表記した。
1ʕ0ɱ にリュウは ȷɔɥȷ をアルバザード国王とヒュート国王に献上。経済省から量産を依頼される。　1ʕ0ʕ に影の女王であるリーザから内々に ȷɔɥȷ を紹介されていたルティア王であったが、この年、公に ȷɔɥȷ を紹介され、興味を示す。　1ʕ0Δ に量産体制を整え、経済省に組み込まれるようになる。　1ʕ0L にルティアとメティオに輸出される。
1ʕ10 に両国で評価を受け、量産が決定する。　1ʕ11 に両国で量産体制が整う。　1ʕ1J にパールがタイプライターを発明したころからこの文字コードは lɔʃʃe と呼ばれるようになった。　1ʕ1ʔ にリュウは拡張機能として表意幼字を打てるように、表意幼字の文字コードを開発しはじめた。このころルティアやメティオは弾道計算に ȷɔɥȷ を使う計画を立てており、ȷɔɥȷ の研究は機密事項となっていたため、文字コードについてもリュウと共同歩調を歩まず、独自の文字コードを作成した。両国は ȷɔɥȷ についてアルバザードに一歩常に遅れてきた経緯があったため、アルバザードの開発を待っているばかりの体制を打破しようとしていたというのもある。　しかしそれが結果的には各国ごとに表意文字の文字コードが異なり文字化けしてしまうという不合理を生んだ。　この現象はヴェレイまで続き、ヴェレイでようやくアルバザードの文字コードを拡張したユニコードが開発され、落ち着く。　ɑcılel が leᴅcɥ 言語庁によって電子化されだしたのは ɥɑ のことであるが、このときレミールの方針はコンピュータと異なり、なるべく各国が共同歩調を取るというものであった。当然、省庁ごとに外交方針は異なる。レミールはしばしば文化的記述や百科事典的記述において他国の情報を必要とした。そのため、各国のレミールは協調姿勢を見せた。　しかし当時は文字コードが国ごとに異なっていたため、レミールは文字化けのしない表音文字、すなわち lɔʃʃe の範囲で ɑcılel を電子化することにした。文字コードの変換プラグインを用いれば変換は可能だが、アルバレンに存在せずティアレンには存在する幼字などには対応しきれず、また文字コードの変換も完全なものではなかったため、レミールは作業の効率化と誤解の回避のために lɔʃʃe を選択した。さらに通貨記号など、各国に特有な文字は化けるため、これも避けることとし、最小限の文字数で辞書を記述するという方針が生まれた。　加えて、ɥɑ 末期のレミールは新生アルカを作ったセレンの意向を反映していたため、表意文字をできるだけ退けたかったというのもある。セレンは当初新生を表音文字だけで作ったが、表意幼字に慣れきった国民から表音文字に変えることに不安の声が上がり、移行期間の間は使ってもよいという条件付きで表意幼字の継続的使用も認めていた。レミールはセレンの意思を踏まえ、lɔʃʃe を使うことでなしくずしに表意文字を消していこうと考えた。しかしセレンやレミールの意向は国民には理解されず、結局その後も装飾や古風な書記法などに表意文字は使われ続けることになり、アレイユになった現在でも ɑcılel にはその見出し語を表意文字で何と書くかという項目が残っている。　＜地球での文字コード＞　　地球での作業には地球で普及しているキーボードを使うのが合理的であるため、地球で幼字を表示するための文字コードが別途必要になる。　全角は日本語などで用いるため汎用性が低く、ファイルも重い。フィンランドに行ったとき、日本語のフォントがインストールされておらず、インストールしようとしたらホテルのなので制限がかかっており、非常に困った。もしアルカが今後全角を採用したら、いざというとき日本語だけでなくアルカも打てないことになって困る。　その上全角にしたら第三水準などの使わない漢字を潰して幼字で埋めることになり、一部の字が使えなくなる。さらに制アルカで使っていた hıɾᴅ のようなキーボードレイアウトも必要になり、煩雑である。　　そこで欧文フォントでＡＳＣＩＩで表現できるようにしたい。これなら軽く、汎用性もある。しかしＡＳＣＩＩは７ビットの１２８文字しかなく、その上実質９４文字しか宛がわれていない。これではアルカには全然足りない。そこで文字コードを表音部と表意部に分け、hıɾᴅ と hıɥᴅı の２つのフォントを作ることになる。　ところでＷＯＲＤなどでは文字ごとにフォントを設定できるが、ＰＤＩＣやＨＴＭＬではそうではない。　ＨＴＭＬはフォントを設定できないこともないが、ふつう閲覧者はアルファベットで閲覧する。従ってオンライン幻日で２つのフォントを併用すると、アルファベットで表示したときに２つの文字コードがごっちゃになる。　例えば ılʃe を ａ に宛がった場合、「ｳ

ﾗｸﾜﾗｗ」と書くと nılnılı と表記されることになる。nılnıl はいいとして、ı は一体何だという話になる。　ゆえにＷＯＲＤなど複数のフォントを設定できる環境以外では hıμɒı は用いないほうがよい。基本的にテキストデータは hıɾdɒ だけで書いたほうがよい。反面、漫画や小説など複数のフォントを使える環境で制作する場合は hıμɒı との併用が望ましい。　　幻日は要するに巨大なテキストデータなので hıɾdɒ だけにしたほうがよい。　ということは、例文中のイントネーションはすべて hıɾdɒ で表記できる必要がある。　地球の hıɾdɒ は具体的には ıμlınɾcȷ などのフォントで表現され、アトラスの hıɾdɒ とは内容が異なる。　地球では、幻字で表示した場合とアルファベットで表示した場合とで違和感がないようにする必要がある。　ɾ が ɾeȷ の文字になるのはいい。カンマが ɾȷənl になるのもいい。アルファベットは幻字に転写対応しているし、カンマとツンクは見た目そのままだ。しかし　が四点リーダーになるのは違和感がある。そういう違和感を排他したのが地球の hıɾdɒ である。　　そしてそう考えた場合、イントネーションの ȷclı や lclc などは明らかにＡＳＣＩＩの中に似たデザインがない。そのため排他する必要がある。　ではイントネーションはどうやって表記すれば良いだろうか。そんなもの表意部の hıμɒı で示せばよいと思うかもしれない。だが hıμɒı は幻日では併用できないのであったことを思い出してほしい。　nılnılı のような変な表記がされないためにも、hıɾdɒ 内で組み合わせてイントネーションを表記する必要がある。　　ɾeɒdeμı, ləənɔ, φıcn については hıɾdɒ にあるのでよい。　ɒclees は 88 だと分かりやすい。　ȷclı は _ で表記する。_ は lıllɾe, ɥəəɒı, ɾəənɔ などの幼字に現れるパーツで、地面を指す。見た目にも平坦なので平調を指すのに便利である。　lclc は | で表記する。| は古で ɒɔnɔ と同じデザインで、「壁」や「止める」という意味である。中止調を指すのに申し分ない。　lcɒ は下がって上がる音調なので、ɾ8 で問題ない。　小音調は , との組み合わせで作る。,88 で小ミレージュ。. を使わなかったのは文の数をカウントするとき面倒にならないため。　このようにして hıɾdɒ でイントネーションを示す。　　一方、hıμɒı もまた地球のものはアトラスのものと異なる。　ʉeμ, ʑɔɾ などは意味的に hıɾdɒ に入るはずだが、近い記号がＡＳＣＩＩにないため hıμɒı に追いやった。　かといってこれが hıɾdɒ にも hıμɒı にもないと、古文字の表記に困る。地図なども古文字を使っている。　イントネーションについては２０１０年までは ȷclı などを使っていたが、hıɾdɒ で表記するのが一般化すれば hıμɒı 内に無理に作る必要はない。というのも、hıμɒı も９４文字しか作れず、スペースが貴重なためである。　　さてその地球の hıμɒı であるが、以下のように設定した。　　使徒の名前：２８：日付　使徒の苗字：２８：著者表記、外国名、外貨（ただし使徒の数分しかないので、ɑcɒcnc ɔn などは表記できない。アルバザードやルティアが表記できるのは嬉しい）　アルミヴァ：１２：時刻　月相：８：天秤詞　ソーム：７：曜日　アルシエル：４：四季、天秤詞　ミュシェット・アシェット・テームス：３：カレンダー　アテン：４：種族　　これでちょうど９４である。　以前全角の明朝 ɾıdhıɾ で使っていた矢印は › などを使って表記。○×は割愛。　heldıc は ıııılcȷ などと表記すればよいので割愛。動詞媒介は廃止されたのでむろん割愛。ıμlı はそもそも余剰なので割愛。　　惜しむらくは通貨 ȷɔlɾ が表記できない点だが、わざわざ表意にしなくても問題ない。というより国ごとに通貨があるのだから、国名の使徒記号を外貨にすれば良いだろう。主要国の通貨は表現できる。経済の話であることが分かる場面でしか地球でも $ は使わないし、それならアルバザードの文字で ȷɔlɾ を表すことに何ら問題はない。　それより、ȷɔlɾ を問題にするのならむしろインテグラルなどの数学記号を載せたいところである。しかしそれを入れると際限なく増えるため、この９４字で幻文に使う最低限は十分に表現できるだろう。ＡＳＣＩＩとて数学記号などはどのみち表現できていない。　　さて hıμɒı の配置だが、実際には古幻字のほうがアルシエルより使わないだろうと考え、シフトに追いやった。　漫画や小説などを書いていると天秤詞の頻度は高いので、シフトにしたくない。　とはいえ０キーのシフトが存在しないので、アルミヴァをシフトに入れることができない。そこで天秤詞として使われる月齢がシフトに行くことになる。　（）＝が空くので、ここに ılelɾ, ɾeeɒȷ を入れれば、ひとつ空いた先の＝が ɒɥəleɾ になってちょうど良い。　そして余ったところにあまり使わない ȷɔɔɒ を入れる。ここの配置はあまり綺麗でないが仕方がない。　バックスラッシュは￥になるので、lceμ は日本のキーボードだと２回現れる。ＡＳＣＩＩを使っているのでたいていの国のキーボードですべてかほとんど表示できるはずだ。

hıɾduı　［名詞］ハルヴァ、使徒規則　［レベル］６　古 :lɒccμ:「使徒規則」。クミールの間違いによる造語。アルシェの使徒としてアルカを学んでいたクミールは、幻字の読みを覚えるために幻字を表音文字に転写していた。そのとき使徒規則を意味するハルマ（使徒そのものと同じ字）を誤って転写してしまった。使徒と使徒規則は別の意味だから単語も別なのだろうと勘違いして訂正しなかったそうで、彼女は使徒規則のことを誤って発音していた。あるときクミールの hıɾduı という発音を聞いたセレンが「間違っている」というと、彼女はヒステリーを起こして「これで良い」と言い張り、強引に使徒規則を hıɾduı と呼び続けた。使徒自身、「使徒」と「使徒規則」が同じなのは使いづらいと思っていたのでちょうど受け入れることにしたようである。

hıɾdɑel　［言語］文字論　［レベル］６　1L

hıɾdɒ　［名詞］幻字　［シェルト］駒、コマ。駒の総称　［類義語］hıɾd、hıμɒı　［レベル］２　1ɱ: 制 : 古 :hıɾdɒı（使徒、幻字）［文化］　→ hıɾd、ɾcnı、ıɾɔɒ　　＜概要＞　　アトラスではアルカで使う主に２５の表音文字のこと。　地球では古アルカが使用していた表意文字と、制・新アルカが使用する表音文字のこと。　「幻字」という訳は、古アルカで hıɾdɒı という単語が「文字」を意味し、その字形が「幻」に似ているところから来ている。　　＜現実での幻字の歴史＞　　1J 年夏にセレンが制のために作る。当時アルカが最も簡単な人工言語を目指していたため、極力字形を単純にした。「ｚは直線だがｓは曲線」というように、右手首に書きやすい字形にした。すなわち単純かつ労力の少ない字として開発された。デザイン性は重視されなかった。　その後約１０年でアルカは過合理を排他して文法等を変えたが、慣れがあるので字だけは変わらなかった。　　J0 末ごろにリディアがルシアに幻字を書かせ始める。　J1 夏にきちんと幻字を学ばせようとする。このときルシアはおよそ三才半。　幻字を灰色で刷ってなぞらせるという勉強法をリディアは考えた。フォントを選ぼうとし、やはり ɾıdhıɾ だろうと考えた。　ところが子供の一生がこれで決まると思った彼女は本当にこれでいいのかと考え、子有りの女子に相談。　すぐに同じような悩みを抱えるだろうと自覚していたミルフらがこれに呼応し、本当に ɾıdhıɾ でいいのか考察した。　大部分の文字がｘハイトに収まっておらず、視線が上下動して可読性とデザインが悪いという欠点をミルフが指摘。これは数年前の筆記体のときも挙がった問題点。　自分たちはともかく子供はと考えた女子らが標準書体があればいいのにと考え、リディアとミルフがセレンに相談。　このときセレンはメルからの紫苑改訂、エンナ・クミールからの代詞改訂でてんやわんや。そこで彼女らに丸投げし、自分で字案を作ってから言えと棄却。　彼女らが男子に相談を持ちかけたため、話が大きくなった。　その後子供のためなら変更もやむをえまいとしてセレンも加わった。　　字案作成に多くの人がアイディアを出し、1J91 までに保守案と革新案が作られた。　まず保守案ができた。ｘハイトに合わせて ı が傾き、アセンダからディセンダまで貫く不恰好なｄとｂの余分な下降線が省略された。　その後「丸形が多い中、斜線のみで構成された文字があると書体に統一感がない」といった指摘からｎ列が修正。「ɑ と φ は保守案だと ｏ に近すぎる」ということでこれも修正。　　保守案：http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_1.png　革新案：http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_2.png　　線種の統一感やデザインの美しさから革新案が多数決で優勢となった。　このままでは既存のフォントが無駄になってしまう。　そこで既存の書体は ınsəμen（夕月書体）とし、革新案を ıμnınɾ（幻京書体）とした。　　夕月では避けていた混同しやすい字形を幻京は取り入れている。　10 年前は果たして自作の表音文字なんかできちんと意思疎通ができるのだろうかという不安があったため、確実に弁別できることを重視した。　10 年経てば慣れたもので、別に ı と l が似ていても長さや前後関係で区別できると大半の人が思うようになった。　実際地球でもｎとｈ、「や」と「ゃ」、「１」と「Ｉ」なども特に問題なく区別している。　　夕月に鏡文字が多かったのは、反転して言葉遊びができるようにとの配慮。　しかしもうそれに拘泥する必要もないので、幻京では ɑ,φ などの対称性を崩した。　　幻京は丸と直線で主に構成される。斜線はほとんどない。　線種に統一感があり、かつ弁別できる範囲である。　アセンダに届く文字は８種。ディセンダは４種。丸い文字は６種で、うち子音が２種。　　数字も一部角度を変えた。丸みと角張りを変更したものもある。　　合わせて約物も変更した。　ɑ,ɒ が変わったので大なり小なりは＞＜でよくなった。こうすることでフランス語のギュメのようにも使える。　ı が変わったのでハイフンが使えるようになった。ハイフンはビンに入った液体の減少量を記した線とし、マイナスの意味も持たせた。　ビンに水を追加したらマイナスの刻みを修正する必要があるので、もうひと刻みつけて＋にした。これが増加量を示すのでプラスとなる。　アスタリスクは存在しないが、バツ印がほしいこともあり、＋を傾かせた×を掛け算にした。　スラはっとして使うのを止め、割り算や分数を示す文字とした。文中に突然記号が現れるのは美しくないと考える者が多かった。　　丸印がないので＋を「良い」とか「正解」の意味で用いる。スラは中間とする。　＋＝○　／＝△　×＝×　　●フォント　　当初フォントはミルフに任せることにしたが、その代わりｗｅｂでの公開と配布は許可しないとリディアに釘を刺され、それでは意味がないとして結局セレンが作ることとなった。　　標準書体は幻字の本来の形を伝える最もプレーンなものでなければならない。これをもとに様々な書体が生まれる。　最もプレーンなので、サンセリフが採用された。サンセリフのうち最も基本的なもの、標準フォントを ɾcnı という。ミルフの命名で、ルシアを意味する。　ɾcnı は外国人や幼児への文字見本として使われる。見出し向きである。　　一方セリフも作ることとなった。アトラスでは ȷɒ までに幻字以外の文字による様々なセリフが既にできていたので、自由に選べる。　オールド、モダン、トランジショナル、スラブなど色々あるが、どれがよいかということになった。　まず作るべきはセリフの中で最もプレーンなもの、すなわち標準となるセリフである。　プレーンな ɾcnı がサンセリフであるから、これに一番近いセリフが「最もプレーンなセリフ」ということになる。　スラブは縦線と横線の幅が同一かほぼ同一で、セリフの幅も同様である。それゆえ物によっては「セリフの付いたサンセリフ」と呼ばれることもある。　従ってプレーンなセリフとしてはスラブがふさわしい。幻字ではスラブが「オールド」になるわけである。　このフォントはミルフの命名で lınɾcı という。意味は ɾcnı と同様である。　lınɾcı は主に外国人や幼児向け書籍の本文に使われる。　　ɾcnı のフォント面の設計はセレンが行った。　これまでの手書きをスキャンするという方法を止め、数値的に設計していく方法を取った。幅や高さは２の乗数ないし１２の倍数をメインに組んでいく。　ミーンラインなどを意識して作るのは初めてであった。設計図の一部を公開する。ただし作業中に画面を見ながら綺麗な形に整えているため、出来上がりはこの紙の数値通りでない。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_3.png　　●比較　　夕月と幻京を比較。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_4.png　　夕月はＸハイトに収まらず上下にパラついているのが分かる。　また夕月は手書きのしやすさを重視しているため、μ は斜体だがｈは立体といった違いがあり、スタイルに統一感がない。　斜体がかることで文字幅も取る。　しかし手首にとって書きやすい字形であることは長所である。　　幻京は上記の欠点が補われている代わりに ɑ,ɒ などがやや冗長である。ı,l の可読性も夕月が勝る。　　●制作方法の要点　　・四角円ツールは画面クリックすると大きさを指定するダイアログが出る。任意の大きさのものを作れる。全部作り終わってから修正の段階で気付いた。　　・表示で制

御点番号を出す。赤点青点も表示。文字は黒塗り推奨。円を作ったときにドーナツにならないという巻き方向修正のしわすれを防ぐため。　　・正円を描くには→円ツール。＋ＳＨＩＦＴで正円。位置を決めるのが難しい。画面右下に座標が出る。画面を１００％程度に拡大し、上端と下端の座標を画面右下で確認すれば、上端－下端の半径の正円が得られる。完全に座標通りにはならないので、赤点と青点を選んで細かく数ｐｘずらす。外周はこれで終わり。　内周は外周をコピーする。円の太さが８０だとすると、約６５％（8 の場合の概算値）に縮小すれば太さ８０になるような内周ができる。数ｐｘずれるので点を選択して修正。　このままだと多分中身が黒塗り。画面左上の炭で塗るモードにすれば分かる。編集の巻方向修正でドーナツになる。　実はまだこの両円は繋がってない。任意の点をダブルクリックすると片方の円しか選択されない。だからこれらをつないで一個の円にするときはまず接着剤を使う。その後切るにはカッターを使う。ｏをｃにするときに二箇所切るが、一箇所目を切るときにカッターが通じず接着剤を使うのはこのため。つまり最初はまだドーナツと認識されてない。ふたつの円があるだけで別別のものと思われてるからカッターで切れない。正円のまま使う場合は接着剤でくっつけておく必要はない。巻きだけ修正しておく。

・斜線の太さを保つには→斜線を斜めにすると角の辺も斜めになる。Ｘなどは角を水平にする必要がある。水平にして幅を８０にすると、線幅はなぜかそれより狭くなり、字が細くなる。そこで長めに長方形を幅８０で作り、斜めにして設置。カッターで水平に切ればいい。　　・ＯをＣにするには→切る部分２箇所をＡ，Ｂとし→接着剤ボタン。＋ＳＨＩＦＴで４５°にＡ部を切る→ナイフボタン。同様に４５°でＢ部を切る→完成。なぜかナイフだけではできない。最初接着剤を使う必要がある。ここからɔを作る。　　・ʃを作るには→Ｃを作る要領でｏを小さく切断してパーツを作る。選択して十字キーで動かしてｌに重ねる。ｌとパーツの交点に赤点を入れる。入れるのはｌ側のパス。ｌの不要な部分の赤を下に動かしてパーツ内どこでもいいから置く→編集オーバーラップ削除。ここから˥などを作る。反転するだけではダメ。ベアリングを計算する。　　・ｅを作るには→ｏを適当に切ってＣにする。長方形で幅 ∆0 のを作る。Ｃの左中央の赤点の高さが長方形の真ん中の高さになるように合わせる。長方形の右端はＣの右端と重なる→オーバーラップ削除→これでは足が左寄りで短い。ｅの左端中央＝横線と縦線の交点の部分をＸとする。Ｘを真一文字にナイフか接着剤（このときはナイフ）で切る。足をダブルクリックして選択→＋ＣＴＲＬで横に拡大。線幅が維持される→ｅの右端よりやや内側に合わせる。ここからəを作る。

・その他　ｎ→ｌを２本。ｏを切る　ｄ→c/l　ɒ→ｏを横に＋ＣＴＲＬで二倍に広げる。縦に両断する。ｌを入れて柱にする。ｌの高さを調節する。　ɑ→c/l。lを＋ＣＴＲＬで横に細くするのがポイント。線の太さは変わらずフックの角度が急になる。　ɷ→ｏを切る。長方形２つ作って融合。　ｚ→長方形を繋ぐ。これは簡単。　ｓ→大変だった。ｏふたつ。二箇所切る。コピー。ひとつ左右上下反転。動かして融合。Ｓ字になる。汚れた箇所を修正。全体の高さと線の太さ調節。　φ→ｏを配置。頭はオーバーシュートで ϯʕ∆。ｌを加える。ｏを切断。切断面の高さをミーンの ϯ⋂⋂ に合わせると綺麗。しかし切断面 ⋂ϯ°で ϯ⋂⋂ になるところを切ると、縦棒との間の隙間が狭すぎる。そこでもっと左下の部分を切断する。こうなると切断面上部が ϯ⋂⋂ 来ず、汚い。そこで一旦左翼と縦棒の交点のところをナイフでカットし、左翼だけ取り出す。選択して＋ｃｔｒｌで太さ維持したまま断面上部が ϯ⋂⋂ になるまで上に拡大。その後オーバーラップ削除して繋げ直す。　ʔ→半円と棒。文字の半分の高さになるよう円を潰す。この円のエレメントは半分にする前に適当なところに取っておく。あとから別の文字に使う。ɔのようにそのままのがあるわけではないので、取っておかないとまた作ることになる。　⋂→ʃを回転させて組み合わせる。案外簡単に組めた。　ϯ→角度調節と交点の位置決めがわりと難航。縦横の交点が中央に来ないのでやりづらい。　∆→棒３本。はみ出さないように合成するのは難しい。合成してから余計な赤だけ消せば綺麗に消える。元の頂点は合成後も残っているのでそこだけ残せば最終的にわずか６点まで減らせる。　L→ʔ,ʕの丸を活用。　ɜ→ｓの中心部を縦にカットし、上下に分断。上のパーツを洗濯して左右反転。　ɼ→l/o カット　ȣ→ｏを２つ潰して融合してからカット。その後８から作り直し。　(→ｏでなくl。ｌの中央に赤点。左にずらしてくの字に。青点を８箇所入れて丸みを。低さはディセンダより少し上まで。　　A:－２２．５°。設定できないので－２３°。直角の１／４の傾き。その後幅が合わないので変更。　X:－３０°。　8,B:8 の丸を取っておく。それをＢに使う。そのままでは使えないので計算して拡大率（９６％）を出す。外周と内周両方選択しないと片方だけ太る。　B: 上の方法で微妙だったのでアプローチを変える。ｌ立てる。ɥの横棒の長さの横棒２本上下に。8 の丸を９６％にして２つ。横棒２本と縦棒、及び丸２つを別々の場所でオーバーラップ削除で合成。８の字を横１２５％にし、逆コと重ねる。オーバーラップしていびつになる。余分な点を消してカクカクにしてＢの形に。意外と大変だった。　Є,Ә: オーバーシュートするとでかく見えるのでやめる。　ϯ: 斜めは２３°。横棒は４７１。だがこれだと広すぎたので狭めた。　§: ○ふたつで ʉ を作ってそれをふたつ重ねる。　ʉ,Ψ:l とｏからステッキ。それを複製。横棒追加。Ψは ʉ から。ʉ を潰し、縦棒。ʉ の横棒を接着剤とカッターで切った後、邪魔な赤点を削除。　Ұ,Ф: 丸と棒を組む。Ұ が微妙。　Ψ: 丸、棒３つ。丸の大きさはわりと感覚のほうがアテになる。開始位置は下から１／３。　ɥ: 棒とｕ２つ。ｕを＋ ƺFӾT,+ʉXЄɥF で潰す。拡大縮小も利用。線幅の修正が必要。　Ӿ:(をリサイズして棒と合成。)(間の距離は二幅分で 1ʕ0 にした。　₤:s を伸ばして組み合わせる方法は失敗した。縦棒置き、ｏをコピーして切ってフックを作って棒の上側に置く。下側にも同様にコピって置いて、融合。いわない点を整理。インテグラルを作る。コピーして９０°回転。いきすぎなので角度調整しながら寝たインテグラルの底が床に付く位置に。横棒を加えてオーーバーラップ削除。インテグラルを噛みあわせた丸の部分がいびつになるので修正。横にでかすぎるので＋ＣＴＲＬで潰して完成。　　・数値　アセンダ ∆ϯ˩　キャップオーバーシュート ∆⋂⋂　キャップ ∆˩0　ミーンオーバーシュート ϯʕ∆　ミーン ϯ⋂⋂　キャップ２／３ ϯ⋂٩　キャップハーフオーバーシュート ⋂1ʕ　キャップハーフ ⋂10　キャップ１／３ 1/ʔ ˩٩ʔ　ベースオーバーシュート –1˩　実ディセンダ –˩∆⋂　ディセンダ –ʔ00　　●制作順序　　o,l,ʃ,˥,ʅ,ȷ,c,ɔ,e,ə,n,u,h,ɥ,ɗ,µ,ı,d,b,ɑ,ɒ,ɷ,z,s,φ の順に制作した。ここまでは作業開始日の 1˩٩1 内に終了した。　作業後の所感としては、エレメントが減ったからかあるいは慣れたからか、ʃidhɪɗ に比べてフォントが作り易くなったように感じた。　続いて 1,L,˩,0,ʔ,ʕ,⋂,ϯ,∆,٩,ɜ,ɼ,ȣ, その他約物の順に制作した。

その後大文字を作成することになった。大文字が増えた分、幻京のほうがフォントを作りやすくなったという夢は儚く消えた。　A,Ɐ,X,T,F,E,Ǝ,Ꞁ,8,Θ,B,Є,Ә,ϯ,§,Ƶ,ƺ,ʉ,Ψ,Ұ,Ф,Ψ,ɥ,Ӿ,₤ の順で制作した。　　●認定まで　　リディアらが発端となり、女子から男子へ通ったため、アルシェは早い段階で通過。　ソーンは子がないので子供のためという理由では通過しづらいと思われたが、難聴者のいないアルシェを押して代詞改定を受け入れさせた件が同時期にあったため、魚心あれば水心的にすんなり通過。　同時に問題が起こったせいでセレンは大変だったが、意見がまとまったという点では珍しくありがたかった。　リーザがどう出るか不安だったが、帰国後 1˩٩˩ に特に問題なく承認。むしろ溜りに溜まった異体字問題が片付いたことを歓迎していたように思える。　　＜幻字の発展＞　　http://leviantarka.web.fc2.com/hacm.html 〔用例〕 hɪrdɒ ȷɪleɪn{ɑɔcl} 幻字の若い方、幻字の早い方。ʃと˥ならʃのこと。　hɪrdɒ lc˥eɪn{lecl} 幻字の遅い方

hɪrdɒµeφɪ⋂ɪnʃ 〔音楽〕幻字の歌、幻字の覚え歌　〔レベル〕２　˩˩　〔文化〕　制アルカ時代に作られた幻字の子音の覚え歌。˩˩ 年に作り直された。

hɪrdɒɪ 〔名詞〕使徒、ハルマ、月、ムーン　〔名詞〕委員、大幹部、幹部　〔名詞〕大学院修士課程　〔シェルト〕チェック、ハルマチェック　〔名詞〕だんな様、旦那様、ご主人様（ɷɥəȷȷɔə とも）。元はミルフがザナを呼ぶときの nɔn ˥enɔ hɪrdɒɪ から。使徒という意味でなく「勇者様」のこと。転じてメイドなどが主人を呼ぶときの呼称となった。　〔レベル〕２　初 :l cczɪ: 元々両団体の中枢となる構成員を指す言葉で、リーザ以前から存在していた語。初代からあったと思われる語で、その意味はもはや不明。リーザがその語を古アルカの音韻論に合わせて借入したので、リーザの造語とする。　〔反意語〕µȷccli　〔文化〕　アルシェ・ソーンを構成する者。どちらの団体も１３人を固定とする。アルシェ・ソーンの運営をルシーラの下で行なう。抗争や事故によって死亡しても代は変遷しない。ルシーラに途中で格上げされることはない。任期はない。変遷か死亡まで貫く。ルシーラの命令に逆らう権限はない。　〔成句〕 ˥cl ȷouen hɪrdɒɪ 刎頸の交わり。アシェットの使徒が互いに刃物を押し当てても信用できる間柄だったことから。

hɪrdɒɪ(˩) 〔文字〕概念記号、ハルマ　〔レベル〕６　古 : 文字　〔文化〕　lechɪ

hɪrdɒɪʃ 〔形容詞〕少数精鋭の　〔レベル〕４　˩˩:hɪrdɒɪ/ʃe

hɪrdɒɪʃɪle 〔名詞〕精鋭部隊　〔レベル〕４　µɷ;/　˩⋂

hɪrdɒɪncɪ 〔非言語〕ハルマニア　〔レベル〕５　古　〔文化〕　忠誠と士気の高さを示す礼法。男女兼用。手を祈るように組んで胸の前に持ってくる。元は奴隷の手が枷でつながれているジェスチャーであり、服従を意味した。　両手を組んで両親指の先端同士は接触させる。両手の付け根同士は１０ｃｍほど離しておく。手の甲は上を向く。この状態で組んだ手をみぞおちのやや上、胸骨の剣状突起らへんの高さに持ってくる。剣状突起から組んだ手は５ｃｍほど離しておく。これがハルマニアである。

hɪrdɒɪɪɑɪcɒɪn 〔名詞〕修士中退　〔レベル〕６　1L

hɪrdɒɪɪɑeȷdel 〔魔法〕使徒結界　〔レベル〕６　1∆

hɪrdɒɪµeφɪȷʃ 〔名詞〕修士卒　〔レベル〕６　1L

hɪrddcʃ 〔文字〕字体、書体　〔レベル〕４　˩0　〔文化〕　hɪrd　具体的なフォント名ではなく、字の種類のこと。平ペン体（イタリックやゴシック）、銅版体（カッパープレート）のように、書くペンの性質で分けることもあれば、イタリックやゴシックのように文字の特徴で分けることもある。また、魔女文字や少女文字のように、文字の表すイメージで分ける場合もある。具体的なフォント名以外の分類名が字体となる。セリフやサンセリフのように、特徴の有無を元に分類されることもある。　例えば ɪleʃ 体はフォント名であり ɪʃɔɒ であるが、その字体は「筆記体・カッパープレート体・サンセリフ」といったいくつかの字体項目を持つ。　＜線の種類による字体＞　線が一定の太さを保つボールペンや鉛筆のような線による文字を鉛筆体という。µɷ のころはボールペンがなかったため、このようにいう。鉛筆体の代表は ʃɪd である。　先の尖ったペンで書かれた文字をペン体という。ペンの性質上、ゆっくり書く部分は太くなり、払う部分では細くなる。ボールペンではこのようなことが起きない。よってペン体は線に強弱がある。代表は hɪclen である。　先の平たい平ペンで書かれた文字を平体という。イタリック体などに用いる。ペン体と同じく線に強弱があるが、ペン体と異なり、運筆方向により線の強弱が決まる。また、ペン体よりも線の強弱の差が激しい。　先の細いペンで、銅版に刻むのに使っていた文字を銅版体という。カッパープレート体に用いる。元はデザイン用に作られたものでなかったが、線が細いので飾りを付けて複雑な形にする余裕があり、デザイン性に富んだ書体がセレンによって作られた。平ペン体だと線が太い部分は非常に太くなるため、装飾のヒゲを付けることが難しい。このことは市販のカリグラフィーペンでカッパープレート体のアルファベットを書いてみると実感できる。絶対にカッパープレート並みの装飾を付ける余裕はないはずだ。

hɪrdlɔʃȷ 〔電算〕文字キー　〔レベル〕３　˩0

hɪrdɪnʃ 〔文字〕文字駒、活字　〔レベル〕５　˩1:hɪrdɒ/lɪnʃɪ　〔文化〕　dµeʃ

hɪrdɪnʃʃəȷ 〔文字〕級数、ポイント→ʃəȷ　〔レベル〕５　˩1

hɪrde 〔動物〕アジ、鯵　〔レベル〕３　l˩ʃɪ

hɪµ 〔色〕赤、ハール　〔形容詞〕赤い　〔経済〕赤字。アルカでも赤で記した。　〔象徴〕女。女に魔導師が多いのは ucµ が多いためで、ucµ が赤

色の光であることから。 ［レベル］1 1ʔ;hɔɔɥı,lȷl.lcl 1ʔ ←古 :hɔɔɥı ɑın:hɔɔɥı:lı ȷınʃe:hıɷı,ılʃ 【成句】 ʃıɑ ueɥ lɔnʃ lcᴅ hıɥ dılᴅel 先に損して後から得を取れ：負けるが勝ち、損して得取れ。ueɥ は財政の黒字、hıɥ は赤字のこと。

hıɥʃ ［形容詞］暑い、熱い ［形容詞］暑苦しい、邪魔くさい、面倒くさい、うざったい、ウザい、うざい ［動詞］ɥəl を熱くする、熱くする、熱する ［類義語］bııze ［反意語］ȷɔɥʃ ［レベル］1 1L: 赤い風 hɔɥʃ:hɔɥʃ:'ɔɥʃ ［語法］ hıɥʃ, ȷɔɥʃ は言外に［ネガティブ］なイメージがあり、ᴅelʃ, ɷccʃ は［ポジティブ］なイメージがある。これは人間にとって暖かいと涼しいが快適であることから来ている。 温度だけでなく快不快をも表すため、必ずしも ȷɔɥʃ が ɷccʃ より冷たいとは限らない。ぬるま湯を頼んだとき、それが希望よりも温かくなかったら、ʃə eʃ ȷɔɥʃ となる。多少冷めていてもぬるま湯なので３０度はあるだろう。外気なら暑いのレベルだ。しかしこれを ȷɔɥʃ という。このように、ȷɔɥʃ が３０度を表すこともある。なお、お茶がぬるい場合は ȷɔɥʃ か ɷccʃ という。これはぬるさにより２段階に表現を分けている。冷め切ったお茶は ȷɔɥʃ だが、ややぬるいお茶は ɷccʃ。この ɷccʃ に［ポジティブ］なイメージは特になく、文脈ごとに異なる。飲みやすいという風に話者が感じていれば［ポジティブ］。 【用例】 ın leʃ lellı ɔl hıɹdn lını ɑɔnl hıɥʃıʃc. 暑気払いのため、友達とプールに行った。 ʃə eᴅ hıɥʃ ɑɥelel. だんだん暑くなる。 ɑcȷ ıʃ hıɥʃ. 今日は暑かった。 ın nıʃ hıɥʃ cᴅ ɑcȷ. 今日は暑さを感じた。 ʃə ıʃ hıɥʃ lcnel ʃcn enʃɔ ın hcnɔ ucl. 本当に耐え難い暑さだった。 ☆ ᴅclɑ ıȷ ȷcl hıɥʃ lılel ʃeɥ. ミルフの月になっても暑さが残るらしい。 ın nı φıɥu ᴅcl hıɥʃ. 暑さに苦しんでいる。 ın ᴅɔlıʃ ucl uıɥ ucɥɷ ᴅcl hıɥʃ. 暑くて一晩中眠れなかった。 ☆ nɔn nıʃ hıɥʃ ɔn lııᴅ ᴅcl ʃlə. 恥ずかしくて顔が火照った：lııᴅ のほうが eel より自然。 ın nı hıɥʃ lı ʃə ez. この部屋暑い。

hıɥʃləɔ ［名詞］揉め事、もめごと、争い、（ʃcl, ı で）争う、言い合う ［類義語］hıɥʃbıɔφ ［レベル］3 ɥɷ;/ ȷʔ 【用例】 ʃcl hıɥʃləɔ ı{ʃel} ～と揉める

hıɥʃȷeɥcd ［名詞］高温多湿 ［形容詞］高温多湿な ［レベル］4 ɥɷ;/ ȷɱ 【用例】 dɔl hıɥʃȷeɥcd 高温多湿な地方

hıɥʃucɥɷ ［気象］熱帯夜 ［レベル］3 1L ［文化］ ɷəɥne と ucɥɷ の平均気温が２８度以上の夜のこと。最低気温ではないので、アルバザードでも意外に頻度が多い。 【用例】 ın ᴅɔlıʃ ucl ᴅcl hıɥʃucɥɷ. 熱帯夜のせいで寝付けなかった。

hıɥʃᴅccɥ ［名詞］丁々発止 ［レベル］4 ȷȷ

hıɥʃɷcɥec ［気象］温暖前線 ［レベル］6 1L

hıɥʃɷɔʃ ［形容詞］熱烈な ［反意語］ȷɔɥʃlcu ［レベル］3 ȷ0: 熱く激しい

hıɥʃφeɥeʃıɥ ［美容］ホットカーラー ［レベル］6 ȷ1

hıɥʃdɔl ［地学］熱帯 ［レベル］4 1L

hıɥʃbıɔφ ［名詞］揉め事、もめごと、争い、（ʃcl, ı で）争う、殴りあう、殴り合い、殴りあい ［類義語］hıɥʃləɔ ［レベル］3 ɥɷ;/ ȷʔ

hıɥʃbɔc ［地学］ハンメル図法 ［レベル］5 ȷ0: 赤道 / 楕球 ［語法］ 最後に lılı をつけてもよい。

hıɥʃhınl ［気象］熱圏 ［レベル］6 1L

hıɥʃɥecn ［地学］赤道 ［地球の国名］エクアドル ［レベル］4 1L: 暑い線

hıɥʃıʃʃe ［名詞］叱咤激励 ［レベル］3 ȷȷ:「熱いがんばって」

hıɥʃc ［気象］エルニーニョ ［レベル］5 1L:hıɥʃ/ʃceɥ

hıɥʃeȷllıʃɔ ［地学］熱帯雨林 ［レベル］4 1L

hıɥʃeeu ［気象］熱波 ［レベル］4 1L

hıɥʃeeze ［気象］熱風 ［レベル］3 ȷȷ:「赤い風」

hıɥlleʃ(ȷ) ［人名］ハークレット ȷ0 ［文化］ (ɥəəᴅı ɱ1ʔ1:ɱ1ʔʔ) 神商会の会長。イグナストの後釜となる。イグナストよりも強力で長命だった。

hıɥlııᴅ ［名詞］紅潮した頬 ［再帰動名詞］紅潮 ［動詞］ɥəl の頬を赤くする、頬を赤くする、頬が紅くなる、紅潮する、恥じらいなどでカーっとなる ［類義語］lııᴅ ［レベル］3 ɥɷ;hıɥ/lııᴅ ȷʔ 【用例】 lı cl hıɥlıᴅ. 彼女は紅潮した。 lı ʃclcl hıɥlııᴅ ᴅcl lclȷ ɥɔᴅ. 彼女はふいにキスされて頬が赤くなった＝彼女はキスでナッカーした。

hıɥlɔu ［名詞］ストーブ ［レベル］2 ȷ0: 赤い箱 ［文化］ ɥɷ でアシェットが発明した。 ul では石油ストーブが普及したが、火事が起こるという問題があった。 【用例】 ıɥ sıɥlɔu ストーブを点ける

hıɥl ［料理］昼食 ［レベル］1 1L:ȷɔɥn:hıɥdlɔn ［語法］ 弁当や給食など、形態によって昼食を言い換えることを、単語レベルではしない。文中で適宜訳し分ける必要がある。 ［文化］ 朝を少量取った場合、まだ胃は重いものに慣れていない。そこで昼食は消化に悪くないものを中心に食べる。良く茹でたパスタやパン類、その他胃に負担がかからない麺類が好まれる。米食もありえる。人によっては弁当を持っていく。そうでない人は外食する。 【用例】 ☆ ın dcı nelʃ hıɥl ʃıʃ ȷel. 私は毎日お弁当を持って行く：hıɥl を ləcl としないこと。 ın dcıȷ hıɥl. 弁当を持ってきた。 ᴅııl lıɷ hıɥl ɑccnı ın ȷccnı. 母さんが弁当を詰めてくれる。 ʃccı e ᴅııl lı ʃə hıɥl nı. お母さんの愛情がこのお弁当に詰まっていると思う。 ın ıcl lcʃ lɔu e hıɥl ȷcn. ときどき弁当箱をなくすことがある。 ☆ ɑellı ınʃeȷ ɑcʃ hıɥl. うちの学校は昼に給食が出る。 el ɥɔl ɑıl ɷɔdᴅ e hıɥl. 私たちは昼食券を利用しなければならない。 ☆ ın ləcʃ hıɥl ɑıȷʃ. 軽く昼を食べた。 ın ləcʃ lılɔl cᴅ hıɥl. 昼は少しだけ食べた。 ın ləcʃ hıɥl ɑıȷʃ ᴅın ın ləc ȷcl bel ıʃl cᴅ ɷənel ʃeɥ. 夜に美味しい物を食べられそうなので、昼は軽めに食べた。 ☆ ın lclıʃ hıɥl. 昼ごはんを抜いた。 ın ləcʃ hıɥl lı belıʃe. 今日は昼に外食をした。 ın ləcʃ lıl hıɥl lı belı ʃe cᴅ ɑcȷ. 今日は外食がしたかった。 ın ləcʃ hıɥl lı belıʃe ɑccɥə cᴅ ɑcȷ. 今日は素敵なレストランでランチを食べた。

hıɥle ［天文］昼月 ［言葉遊び］アルシェ、上弦の月 ［類音］ıɥle ［レベル］4 ȷȷ:hıɥd/lelʃ ［文化］ 昼に見える上弦側の月のこと。ıɥle が上弦の月であり類音であるため、掛詞に使われる。

hıɥȷ ［言語］綴り、スペル ［言語］古アルカの幻字の字形 ［レベル］2 古：原型は hıɹᴅıȷɔ？ ［語法］ 制・新生アルカについては単語ごとのスペル。２５しかない文字を覚えられないことはありえないので、単語単位でのスペリングの意味を指す。古アルカについては表意文字なので、単語でなくその幻字そのものの字形を指す。同じスペルでも、表意文字の場合は１文字の字形を指すということである。 【用例】 ın ɑeȷıʃ hıɥȷ. スペルミスをした。

hıɥȷcɥ ［医療］紅皮症 1L

hıɥȷɔɥeʃ ［地球の国名］ドミニカ共和国、ドミニカ ȷ0:1L: 国旗内に青と赤の対称が多く見られる

hıɥn ［植物］ベニバナ、紅花、末摘花 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı:hıɥncᴅ（花自体は黄色だが、赤の染料に使う）

hıɥnɷclɑıc ［医療］紅灸 ɥɷ;/ ȷɱ

hıɥnı ［名詞］［形容詞］興奮している、イラだっている、キレている、怒っている。名詞の場合は ʃcl とともに。 ［レベル］3 1L:hıɥ/nı「赤い心」 ［語法］ ʃcl hıɥnı または nı hıɥ のように、「持つ＋心の色」または「感じる＋色」で表現する。ʃcl ᴅelnı, nı cᴅel のように語形が変則的なものに注意。

hıɥnıȷl ［化学］リノール酸 1L:ɥcɷcı

hıɥuı ［名詞］ハルヴァ。アルティスに属さない異教徒 ［名詞］罰当たりな信者。とても信者とは思えないという意味で。 ［レベル］2 古 :ɥcɷcı:hıuuı（戦いになる）

hıɥue ［魔物］ハーヴェ（焔蟲）：第四十四天：火の風天 ［レベル］5 1L:ɥcɷcı/ȷeɥen/ᴅel:hıɥ/ueb。赤は火の意味 ［文化］ 巨大なゴキブリ。素早く、固く、しぶとく、強い。溶岩の流れる洞窟でも生息可能。洞窟など、暗くじめじめしたところに生息。ɥɷ では、リーザがルティア王の後継者になるための試練を受けた際、洞窟内でハーヴェに遭遇した。リディアは肋骨を骨折し、セレンとユーアも苦戦したほどの魔物。弱点は冷気。【成句】 ʃczɔ ʃə hıɥue. とりあえずこのハーヴェを倒せ。後のことは後で考えるぞ：後は野となれ山となれ。セレンが過去に戻った際、傷ついたリーザとリディアを守ってユーアと共闘したときの台詞から。

hıɥueɑɥenȷ ［魔法］［アイテム］ハーヴェの羽、ハーヴェフレンス ［レベル］6 ȷȷ ［文化］ 非常に固く、魔法を跳ね返す効果がある。加工して盾にする。

hıɥɑ ［物理］赤外線 ［レベル］4 1L:ɷeɑɔ に倣って hıɥ/ɑ とした。

hıɥɑɥeıɷɔl ［地学］赤鉄鉱 1L

hıɥɑleə ［地球の国名］トンガ 1L: 意味は南の国。国旗が赤いので赤を足した。

hıɥɑılᴅ ［形容詞］［ネガティブ］悪名高い ［類義語］eȷʃc ［レベル］3 ȷ0: 赤札 → ueɥɑılᴅ

hıɥɑııl ［地球の国名］マラウイ 1L: 国旗に赤い太陽

hıɥᴅı ［言語］表意幻字、幼字 ［類義語］hıɹ、hıɹᴅ ［レベル］3 ᴅelʃcı 100:beɥʃ;hıɹ/ᴅcɥə「変化する文字」 ȷ1 ［文化］ hıɹ、lcᴅ 【成句】 hıɥᴅı ʃcl eeȷʃe 幼字はエーステを持つ：名は体を表す

hıɥᴅcʃ ［名詞］ハーミット気質 ［レベル］5 制？ ［文化］ アルヴィナにおいてユノ・ヴィル・ノア・アルマのバランスがよく総量が多い人間。万能タイプ。

hıɥᴅcʃʃe ［人名］ハーミッテ ȷ0 ［文化］ ɥəəᴅı ʔLΔɱ ユクレシア王 hıɥᴅcʃʃe、ソナリアの本拠地 ᴅcȷʃcn に侵攻

hıɥᴅeᴅ ［地球の国名］バングラディッシュ ［レベル］6 1L: 国旗が赤丸

hıɥᴅel ［名詞］赤色時代 ［レベル］4 ɥɷ;/ ȷʔ ［語法］［文化］ ɷəəɥᴅel

hıɥɷ ［単位］溝 ȷ1:hcɥɷ

hıɥɷcʃ ［名詞］ハーディット ［反意語］ȷɔlɑeɥ ［レベル］3 ȷȷ:hıɥɷcʃ ← hıɥ ueʃ ← hıɥuı/ʃe ［文化］ ləɑeʃ 以外の人物。俗人と凡人の両方を含む。

hıɥɷcn ［名詞］魔女、魔男、魔法使い ［名詞］lınʃcȷ ʃ ınueɥ 期におけるアルティス教徒 ［レベル］3 ᴅelʃcı 1Δ:hııɷcȷ;hııɷcȷ.l 古 :hııɷcȷ から ,ıı が ıɥ に変化している ［語法］ 災厄をもたらすと忌み嫌われる人。男女は問わない。アルティルではアルティス教徒がアデュでこう呼ばれた。敢えて使う場合はその相手の強大さを称える意味があり、悪口にはならない。 【成句】 lı eʃ hıɥɷcnʈ あいつは魔女だ！：確信がないのに人を非難する行為を揶揄した言い回し。ランティス・タンヴェルでは魔女の冤罪を着せられ処刑台送りになった人が多くいた。たいていは近隣住民の「あいつは魔女だ」という噂が根拠となっていた。そのことから証拠もないのに非難する様を lı eʃ hıɥɷcnʈ と揶揄するようになった。

hıɥɷcnuell ［天文］ミザール 1L:ɥcɷcı/ȷeɥen/ᴅel: 魔女の嘆き ［文化］ 生きたまま炎にくべられたラスティアディンはリーザによって、火を消されぬままミザールに封印された。先代が封印した唯一の魔族。地獄の業火に焼かれたラスティアディンは苦しみのあまり泣き叫び続け、ミザールは真っ赤に燃えあがった。みかねたメルがリディアから奪うようにリーファスを身につけ、ラスティアディンのもとに赴き、慈悲を与えて殺した。メルはライファを放ち、ラスティアディンの回復力を凌ぐ破壊力で彼女を殺した。ラスティアディンはメルに感謝し、ミザールは青白い静かな星へと変わった。なお、リディア以外の人物がライファを放ったのはこれが初めて。

hıɥɷcnhıɹ ［言語］魔女体 1L ［文化］ ʃıdhıɹ を元に作った書体。おどろおどろしさを表現。

hıɥɷcɥec ［地名］ハーディレイ川 ［レベル］5 ᴅelʃcı Lʔ ȷen ucı;8 ȷ0: フィルヴェーユ「ハディールの川」 ［文化］ ファルファニアとレスティルの国境付近を流れ、ハディールを通ってテージュ海に注ぐ大

河。リュディア人の文明の基礎となった。灌漑が行われ、湿地ではパピルスが得られた。水鳥を捕獲して食べることもあった。

hıɥɷcı ［名詞］聖人、セイント ［ユマナ］地球の宗教に出てくる高僧や聖人やセイントなど ［レベル］3 古 :hıɥɷcı ← hɥəlɔıɥɷcı（ɥɷ 面の、ɥɷ 上の、ɥɷ に出てくる）【成句】 ıɒcȷ hıɥɷcı 聖人に頼る：他力本願 ［語法］ 英雄との違い。英雄はたいてい戦いと関連している。ソーンのように。hıɥɷcı は宗教上の偉人なら戦っていようといまいと関係ない。シオン＝アマンゼ、リディア＝ルティア、ミロク＝ユティアなど以外に、ナユなども含まれる。

hıɥɷcın ［軍事］大将、ハーディアン ［組み数字］3／２０ ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:hıɥɷcı（聖人） ［語法］［文化］ ˥ını

hıɥɷcın(˩) ［地名］ハーディアン ［レベル］5 ȷeɥʃ;Xıɥɷcın,ɑu ˩0:ɥcɷcı: Xı（尻尾）/ɷcı（土地）「尻尾のような形をした土地」［文化］ 古代国家のひとつ。アルカット東端の国家。

hıɥφı ［動詞］怒鳴って ɥəl という、怒鳴る、どなる、叱り飛ばす ［動詞］怒鳴り ［類義語］φııl ［レベル］3 ˩0:hıɥ/φııl（赤い叫び） ［語法］ φııl

hıɥφcc ［動物］赤い顔をしたサル ［レベル］5 ˩˩【成句】 eɒ hıɥφcc 開き直る、盗人猛々しい、ぬすっとたけだけしい。悪事を見咎められた猿が開き直って喚いたことから。

hıɥφceɥ ［地学］辰砂、ヴァーミリオン 1L

hıɥd ［名詞］昼過ぎ、昼。１２時〜１６時 ［レベル］1 ɥɷ;ɑφn 1L:ȷɔɥn: 制 hıɥdıɥ（赤い太陽）ないし、新 hıɥʃ/ 制 dıɥ で（暑い太陽）。ここの dıɥ は語頭でないので d 音のまま ɑ にならずに残存している。 hɥədı:hɥədı:lı ˥ılʃce ［文化］ 午後はゆったり仕事をする。学校もまずは午前の復習から始める。やがて昼食の消化が終わって目も覚めた頃に午後の授業を始める。夕方までそんなに長くない期間を勉強に費やし、夕方過ぎになると放課後になる。日本と同じアフターファイブである。 【用例】 ın ʃeɥ˥ elɑ ʃɔʃıl uıɥ hıɥd e ɑleı. 夏の昼に外出するのは嫌だ。

hıɥdncın ［名詞］昼休み ［レベル］2 1L:ɒelcɷcı ılcȷ ［文化］ 昼食を含めて二時間は必ず取る。学校でも会社でも同じである。法で定まっている。食後胃を休めた後、消化が大分すんでから二十分ほど眠る。したがって昼休みはまず始めの三十分で食事を取り、残り一時間ほど友達と歓談したりして、最後の二十分ほどを昼寝に使う。 【用例】 ın ɒcll hıɥdncın eʃ ɑcl uecn. 昼休みがもう少し長ければいいのに。

hıɥbını ［地球の国名］トルコ ［レベル］5 1ᛘ: 制

hıɥhɔdȷ ［生物］赤色骨髄 ɥʃ;/ ˩ꭍ

hıɥdıʃ ［ユマナ］赤の曜日 ［レベル］6 1L ［語法］ セレンの個人語。なぜか子どものころから火木が赤の曜日で、月水金が青の曜日というイメージを持っていた。

hıɥɥec ［料理］赤ワイン ［レベル］4 ˩1: 液の色から

hıɥɥecn ［交通］急行電車 ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ ［文化］ アルバザードを走る急行電車。銀のボディに赤いライン。別料金が取られる。 アルミヴァ線の場合、uɥeuılʃ とカルテンにしか止まらない。電車は２駅の区間を往来する。 ランティス線の場合、ポエン、カルザス、ティクノ、コノーテにしか止まらない。

hıɥzel ［歴史］［軍事］枢軸国、ハーゼル ［レベル］5 ul;hııȷ/ıl「従うもの」hııȷ ɒcɥɔ˥ の意。 ˩˩

hıɥsɔ ［名詞］激怒 ［レベル］3 1L: 赤い怒り 【用例】 ın nıʃ hıɥsɔ. 激怒した。 ın nıʃ hıɥsɔ ı lı. 彼に怒りがこみ上げた。

hıɥsecɷɷɔl ［地学］紅簾石 1L

hıɥleʃʃcɷɔl ［地学］赤銅鉱 1L

hıɥleʃʃe ［名詞］［形容詞］赤褐色、赤茶色、赤毛の ［レベル］3 ɥɷ;/ ˩ꭍ

hıɥledʃ ［医療］赤痢（細菌性赤痢） ［レベル］6 1L: 血便の下痢

hıɥledʃlcc˥ ［生物］赤痢菌 1L

hıɥləɔ ［植物］赤松、アカマツ ［レベル］［レベル］5 ˩˩:leʃʃe ではない

hıɥləɔlcl˥ ［植物］松茸、マツタケ ［レベル］5 ˩˩: 主にアカマツのところに生えることから。

hıɥı ［医療］あざ、アザ、痣 ［レベル］2 1ᛘ: 制 :lele:hıɥ 【用例】 ʃcl hıɥı ɔn nııʃ 肘にあざができる

hıɥı˥ɔn ［地学］［植物］赤色土 1L:ɥcɷcı ［語法］ メテなど、温暖な土地に見られる土壌。

hıɥılʃc ［地球の国名］東ティモール 1L: 国名が東。国旗の赤を足した。

hıɥın ［名詞］赤色人種 ［レベル］5 1L:hıɥ/ın ［語法］ アデントなどにいる人種。肌が赤らんでいる。特徴は cɒelın に近い。おおむねマレット人。

hıɥın˥nɔʃ ［ユマナ］赤アンクノット ［レベル］5 1ᛘ: 制 : 古 :hɔɔɥıın˥nɔʃ ［語法］ セレンの書いた古アルカに関する本。数百の幻字が収められている。表紙が赤いのでこう呼ばれている。

hıɥıɒn ［医療］じんましん、蕁麻疹 ［レベル］3 1ꭍ: 制 : 赤い発疹

hıɥcı ［地名］ハリア海 ˩0:ɥcɷcı: 古 hı（尻尾）の水。キリワラが尻尾状であることから。 ［文化］ サヴィア・ケヴェア間の海。

hıɥcııczı ［地学］ハリアプレート ˩ʔ

hıɥeʃ ［法律］刑事 ［反意語］ıȷɔɥʃ ［レベル］3 ˩0:hıɥ/ʃe（赤い感じの）。役所で刑事の案件を赤い箱へ入れたことから。刑事→刑罰→死刑→斬首→血→赤のイメージで赤い箱が選ばれた。

hıɥeɷ ［名詞］修正液 ［レベル］3 1L:hıɾdɷ から。hıɾdȷ と混同のため :1ʔ: 制 : hıɾdȷeɷ（字を消すもの）

hıɥeɥcuɔln ［生物］赤血球 ［レベル］4 1L

hıɥeɥcuɔlnıll ［生物］ヘマトクリット値 ɥʃ;/ ˩ꭍ

hıɥelb ［被服］赤ずきん、赤頭巾 ［レベル］4 ˩˩

hıɥeel ［名詞］赤面 ［レベル］3 1L 【用例】 ın ʃclıʃ hıɥeel ɒın ɥe˥l. 失敗して赤面した。

hızel ［名詞］相、相同 ［形容詞］相な ［反意語］bılʃe ［レベル］4 ˩1:hııȷ/eel ［語法］ 多義語。hızel は互いに性質が同じ方向性を持っていること。性質同士がぶつかり合わないこと。人の性格が似ていること。仕事の目標が互いに同じ方向性であること。bılʃe はその逆。 ʃel と違い、bılʃe に「逆らうような」という上下関係のニュアンスはない。互いに相反する主義主張や性格という比較的水平な対立である。とはいえ、両者の間に上下関係があるときは使えない単語という意味ではない。

hızelıɥʃ ［魔法］相魔法 ［レベル］5 ˩1 ［文化］ ɷɔlɒcɥə

hızeleʃ ［名詞］強み ［魔法］相性 ［類義語］uceneʃ ［反意語］bılʃeʃ ［レベル］3 ˩1 ［語法］ uceneʃ ［文化］ ɷɔlɒcɥə

hızelə,ılʃ eȷ, ɔɥ, ınɷ

hıl ［名詞］上 ［形容詞］上の ［格詞］〜の上に ［反意語］ɒɔl ［レベル］1 1L: 古 :hɥə hɥə, hɥəhɥə（上に）:hɥəl

hılʃ ［形容詞］高位の、上位、目上 ［反意語］ɒɔl˥ ［レベル］3 1L:hıl hıl˥ı: hıl˥ı: ［文化］ 目上と目下の序列を作るものは何か。 まずは地位である。王族などは位が高い。王族＞僧侶＞学者＞医者の順番で位が高い。同じ会社の社員同士なら、˥ını が高いほど目上となる。 もうひとつの条件は年齢である。同じ地位なら年齢の高いほうが目上になる。 なお、年齢は地位を覆さない。つまり、いくら年寄りの学者でも、若造の僧侶のほうが格上になる。このとき注意したいのが、敬意である。年齢は地位を覆さないので若造が目上になるが、必ず年齢が低いほうが年齢の高いほうに敬意を示す。上下関係と敬意が別個に計算される点に注意。 例えばこの場合、ドアを先に通るのは若造の僧侶になるが、教訓を講釈していいのは年寄りの学者になる。また、前者は何かと後者に気を使い、後者の言うことを黙って聞く。その代わり、ドアは先に通り、席も上座に座る。この使い分けができないと社会人として一人前とはいえない。

hılʃȷ˥cʃ ［名詞］上座 ［レベル］4 ˩0 ［文化］ ȷ˥c˥ı

hılʃnɔce ［軍事］准尉 ［レベル］5 1L:ɥcɷcı

hılʃuec ［政治］衆議院、下院、庶民院 ［レベル］4 1L

hılʃɒɔɔl ［軍事］曹長 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı

hılʃbenɔɒ ［軍事］大佐 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı

hılʃhɥəlı ［軍事］大将 ［レベル］4 1L:ɥcɷcı

hılʃoılʃ ［軍事］兵長 ［レベル］5 1L:ɥcɷcı

hılʃ˥ ［生物］上腕 ［レベル］3 1L:ɒelcɷcı ılcȷ

hılʃız ［生物］上肢 ɥɷ;/ ˩ꭍ

hılʃc˥ ［数学］直角、９０度、垂直 ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ: 単位円内に十字を書くと、アルカの数学では上向きの線が９０度を指すことから

hılʃc˥ınɔz ［音楽］ピックスクラッチ ˩1

hılʃc˥cn ［物理］平行法。立体視の平行法。 ［レベル］4 ˩ʔ 【用例】 cn clʃı ˥ɔn{lılʃ} hılʃc˥cn 平行法で画像を見る

hılʃcɒdcȷ ［政治］与党、上位の党 ［レベル］4 1L

hılʃɔı ［生物］神庭 ˩1: 上部にあり、鼻に効く

hılʃeeze ［美容］アップスタイル ˩1

hıl˥ ［名詞］ハンガー ［動詞］ɥəl をハンガーで ı（壁など）に掛ける、掛ける、かける ［レベル］2 1ʔ: 制 :hıld から 【用例】 ın en hıl˥ıʃ leȷ nɔȷ ılȷıbıʃ. 脱いだ服をハンガーにかけなかった。

hıl˥ı ［代詞］［女性］貴方。女性敬体。 ［レベル］2 ˩1:˥ɒccɥ:hıl˥ı,ɑu

hıl˥ı,ɑu hıȷɒ、hılʃ hɥə/˥ıl「高いところにいる人」

hıl˥ın ［代詞］［女性］貴方の。女性敬体。 ［レベル］2 ˩1:˥ɒccɥ:hıl˥ı/en

hıl˥ıɒc ［生物］曲泉 ˩1

hıl˥ıɷ ［地球の国名］ボリビア 1L: もともと「高地ペルー」と呼ばれていた。ȷɔɥ より高いので hıl

hıl˥ɔɔl ［電算］上にスクロールする、バックスクロール ［レベル］4 ul;/ ˩ʔ

hıl˥eɒ ［生物］巨闕 ˩1

hıllcȷleıhɔdcȷ ［生物］上後腸骨棘 ɥɷ;/ ˩ꭍ

hılȷ ［名詞］手提げ鞄、手提げ袋、鞄、カバン ［レベル］2 1ʔ: 制 :hıldɒeȷ˥

hılȷıȷleıhɔdcȷ ［生物］上前腸骨棘。ベルトが引っかかる部分のこと。 ɥɷ;/ ˩ꭍ

hılȷın˥ ［動詞］ɥəl を仰向けにする、仰向けにする ［普通動名詞］仰向け ［反意語］ɒɔlȷın˥ ［レベル］2 1L:ȷɔnɔhcnɔ˥c 【用例】 ☆ ʃə ɷe ȷenniφ lılʃ ın lel ın ɒɔ˥ ɒeȷı hılȷın˥. 仰向けになって寝るのは寝心地が悪い。

hılȷıdlɔɥ ［生物］上気道。鼻腔、咽頭、喉頭の総称。 ［レベル］4 1L

hılɒ ［形容詞］遅い、遅まきの、今更、いまさら、今更な、いまさらな。起こる時間までが長い。起こるのが遅い。 ［副詞］遅ればせながら、もういい加減、ようやく、やっと、まだ ［文頭純詞］遅ればせながら、言い忘れていたが、ときに、そういえば、遅まきながら、言いそびれたが ［医療］遅発、晩発 ［類義語］ıc、nɔu、lecl ［反意語］ɒıd ［レベル］1 ˩0: 古 :Xıcɒı（尻尾の時間）ないし Xıcɒəl（尻尾の時間） 【用例】 ɷənel hılɒ 遅い夕飯 "ʃɥə eʃ ɒɔı hılɒ e. lın nɔn ɥınɷcʃ ʃɥə ɑɔl ɑcl"「もう遅いよ。ずっと好きだったのに」（『僕のすべて君へのすべて』）

hılɒȷeɥɔn ［植物］八重桜 ［レベル］6 ˩˩:ɥcɷcı:「遅まきの桜」 桜の後に咲くことから。 ［文化］ ȷeɥɔn ほど分布してはいない。カレンシア

やフェリシアなどにはよく植えられている。アルティアには山里などに自生する。
hılɒın ［名詞］［ネガティブ］小僧、コゾウ、コゾー、こぞう、若造 ［反意語］ elccze ［レベル］3 ȷzɑ ⅃ˀ
hılɒıcn ［生物］上半身、上体 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ
hılɒɔɥſ ［医療］遅発月経 ［レベル］6 ⅃0
hılɑ ［化学］ハロゲン ［レベル］5 1L:ȷeɥen:hɔə/lıɑ ＋母音調和
hılɑɑeȷ ［化学］ハロゲン化アシル、アシルハライド 1L
hılɑı ［化学］ハロ ［レベル］6 1L
hılɑıſın ［化学］ハロアルカン 1L
hılɑıɑɔ ［地学］ハロゲン化鉱物 1L
hılɑəl ［化学］ハロゲン化物 1L
hıld ［名詞］フック、鉤、首吊りの縄、釣かえし、何かものを吊るしたり掛けたりするためのものの総称 ［交通］つりかわ、つり革、吊り革、吊革 ［動詞］ɥəl を ı に掛ける、掛ける、かける、引っ掛ける ［魔法］ハルプ。中位時魔法。魔法の紐が敵の首にかけ、敵の首を吊る魔法。重力を操るため、敵がどの方向を向いていても足方向に重みがかかるため、必ず吊って死ぬ。紐を千切ると魔法が解ける。 ［建築］窓のフック ［レベル］3 lılſı
hıldʅəʅc ［名詞］南京錠 ［レベル］6 ⅃0: 引っ掛ける鍵。鍵を開けるとできる隙間を使って引っ掛けることから。引っ掛けるタイプの鍵はほかにもあるが、引っ掛け鍵というとアルカでは南京錠。
hıldeȷɥ ［料理］エール ［レベル］6 ɥɑ ⅃⅃ ［文化］ deȷɥ
hılɥɔd ［生物］上まぶた、上眼瞼 ［レベル］3 1L
hılzcɑ ［生物］上顎 ɥɑ;/ ⅃⋒
hılzcɑhɔ ［生物］上顎骨 ɥɑ;/ ⅃⋒
hılzelɔ ［生物］頭頂葉 ［レベル］5 1L
hılscd ［論理］上位概念 ［レベル］5 1L
hılsenſc ［地球の国名］サンマリノ 1L: イタリア内の小国家。高台にある
hıloılɒı ［アトラスの国家］ハルワルマ ［レベル］4 ⅃ˀ:ɥcɑcı
hıllɔɔz ［生物］上端、上縁 ɥɑ;/ ⅃⋒
hılı,ılſ ʅɔʅ
hılıʅȷ ［建築］上の階 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ
hılıȷ ［丁寧］［動詞］ɥəl を ı に下賜する、下賜する、与える、やる、くれてやる ［類義語］ɑcſ ［レベル］3 ⅃⅃:hıl/oı/ȷɔ「上から手をやる」［語法］ ȷɔl が ɥəl より身分がだいぶ上である場合、あるいは大した差がなくともかしこまった場合は基本的に ɑcſ でなく hılıȷ を使う。 ɑcſ の丁寧語でもあるので、上限関係がない場合でも丁寧さを出すときは使える。
hılıȷel ［動詞］ɥəl をハルアセッシュさせる、請い笑む ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılſe: 下唇を持ち上げてほほ笑むことから ［語法］ 男性のしぐさ。女性に請うような態度を見せるときに自然とする。自分より下の立場と思っている相手にはしないので、女性には概ね好評。まず口を閉じる。閉じた接触面を維持しながら、下唇を上に持ち上げる。ıȷcɑ が固くなり、やや唇が突き出る。ポイントは明らかに突き出さないこと。やや持ち上げるのがコツ。このまま口の端を持ち上げてほほ笑む。ちょっと困った感じの顔。眉間は若干 ɑıdſ にし、少し首を傾げておく。
hılın,ılſ hıɗn hılı,ılſ
hılınɔz ［音楽］アップピッキング ⅃1
hılıhılə,ılſ ʅɔʅ
hılıl ［魔法］付加物、ハラール ［アクセント］hılˈɪl ［レベル］5 ⅃0:Xı/ıl/ıl（尻尾、物、物）［文化］ ıɑcȷſ 精錬物を変化させる素材。
hılcʅıl ［人名］ハリカル ⅃0 ［文化］（ɥəəɒı ⅃⅃ΔΔ:⋒⅃ſ）メルテナ後期のレスティル王ミハリルの息子。ルカリア軍とドフレットで戦い、戦死。
hılcʅılcȷ ［交通］東条、東大通り ［名詞］青龍、ハリカリス ［レベル］5 ɥɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から ⅃ˀ
hılcȷ ［名詞］cɒ、時点、とき、時 lſ ［レベル］2 ⅃1
hılcn ［動詞］ɥəl を見上げる、見上げる ［レベル］2 ⅃⅃ 【用例】 lə ɥec ɥə ʅınſ hılcnɔɥ lelſ ʅı zɔʅ ſˈınle cʅl. 成長した自分はどこかの家の屋上で、綺麗な月を見上げていた。
hılcnȷ ［動詞］ɥəl をふっと見上げる、見上げる ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılſe
hılcɑı ［色］群青 ［レベル］3 古 ȷɔɥn
hıleȷ ［魔法］ハレス ［ユマナ］ドルイド zφ ⅃⋒ ［文化］ 旧ルカリアで起こった司祭のこと。
hılen ［接続詞］hıl ［レベル］3 ⅃1
hıleɑ ［魔法］ドルイド術 zφ;<>hıleȷ ⅃⋒
hılecl ［被服］トップス ［レベル］4 ⅃1
hıleclɒeleſ ［被服］ペプラム、バスク ɥɑ;/ ⅃⋒ ［文化］ トップスの裾に付いた短いフレアやひだ飾りのこと。
hıı ［感動詞］はぁ、はあ。ため息のオノマトペ。 ［レベル］2 古
hııʅ ［名詞］満ち潮、満潮、上げ潮、差し潮 ［反意語］hccſ ［レベル］3 1ˀ: 制 :hııʅe（上の潮）
hııȷ ［格詞］～に従って、～の通りに ［動詞］ɥəl に服従する、服従する、従う ［形容詞］（hııȷın で）従順な ［形容詞］（hııȷın で）順、順な ［類義語］hızel ［反意語］ſel ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:hıɗɒıȷɔ: 制の ʅelɒ（服従）と ſɔl（従う）を統合。 【成句】 hııȷ ınɦ いいから！：日本人がよくいう「いいからやれ」の「いいから」に相当。検索しやすいように成句扱いとした。 ［メタファー］hııȷın ɥən eʅeſɔne エケトネのように従順な。唯々諾々。極めて従順なさま。 【用例】 ɥəlcın ıllı hııȷ ıl ɥȷ ccl. 子は親に従うべきだ。 ȷee lə hııȷ ɑın neſıl le ſcl enuc ɑecn nɔɑ lə ɥən ɔɒı hııȷın. それでいて自分より能力の高い人間には尻尾を振って従うような性格の子。
hııȷʅɔnl ［形容詞］常識的な ［レベル］3 ⅃⅃
hııȷleſȷ ［形容詞］倫理的な ［反意語］ſelleſȷ ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃ˀ
hııȷuɔɥſ ［普通動名詞］殉死、殉教、致命、後追い、後追い自殺 ［動詞］ɥəl の様態で殉死する、殉死する、殉教する、致命する、後を追う ［レベル］4 ɥɑ;/「従って死ぬ」 ⅃ˀ ［語法］ 殉死と殉教の両方を指す。 【用例】 ɥcɑcı ıɥ hııȷuɔɥſ cɒ ȷeɥen uɔɥſ. リディアはセレンが死ぬときに殉教する。 lıɥın ɒcʅı hııȷuɔɥſıſ ɑccnı ıɥſcȷ. 敬虔な信者がアルティス教に殉教した。
hııȷɑıɥ ［名詞］順光 ［レベル］4 ⅃⅃
hııȷɥecn ［言語］［論理］順説、順説的な ［反意語］ſelɥecn ［レベル］4 ⅃0: 従う線→従う流れ
hııȷsccz ［論理］正命題 ɥɑ;/ ⅃ˀ
hııȷıɥʅ ［言語］順接 ［レベル］4 ɥɑ;/「順な接続（接続詞ではないので ıɥʅc ではない）」 ⅃ˀ
hııȷen ［接続詞］hııȷ ［レベル］3 ⅃1
hıın ［感動詞］なるほど、どうやら ［レベル］2 ɑ:elſ;ɑɔueſ 古
hııne ［人名］ハーネ ［レベル］4 ʅıʅɔ: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。 ［文化］（ʅLΔ0） ɥəəɒı ʅLΔ0 アンダント、クレプティアとの間に息子 hııne を授かる。暴動が治まりを見せる。代わってレスティル宮中はイーファ派とハーネ派に分かれる ＜現実＞ 生没年不詳。ドゥルガの抗争派の代表者。和平派により暗殺される。
hııɒ ［感動詞］［ɥenſe］もーっ、もうっ、もー ［レベル］2 古 ［語法］ あきれたり驚いたりしたときに使う。ȷıı と同じように語調を整える効果がメインで、ıden のように強い意味はない。
hııɑcȷ ［サール］ハーディス ［法律］［政治］異端審問、異端尋問、魔女裁判 ［レベル］4 ɒelſcı 1Δ:hııɑcȷ;e ⅃:ɥcɑcı: 古 ［文化］ 濃い茶色の服を着た骸骨型のサール。左手の袖をまくっていて、その手に本を持っている。ハーディスは裁判官であり、必ず被告人を有罪・死刑にする。右手の人差し指は常に死刑にしてきた者たちの血で赤く染まっており、ハーディスはその指で字を書く。 クレーヴェルの服の染みから生まれた。クレーヴェルが私怨に駆られて公平な裁きをしなかったことで、クレーヴェルの邪心の集積として生まれた。その結果、相反するサールとしての性質を持って生まれた。
hııbe ［死神］ハーベ ［反意語］lıȷſcı ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 : 赤アンクノットにも記載。⅃1 にエルトから死神に ［文化］ → ɒılſccı 生まれ生きることに初めて喜びを覚えた者。生を司る死神で、セレスクレールの登記者。
hııh ［感動詞］はぁ。移動などにともなう息切れや喘ぎ ［レベル］2 lıʅſı
hııɥ ［感動詞］なぁ？ ［レベル］2 古 :hııɥ 同意や返答を求める言葉。男言葉。威圧的あるいはがさつで、丁寧でない。
hııl ［論理］演繹 ［動詞］ɥəl（演繹結果）を c から演繹する、演繹する ［反意語］ʅɔlɑ ［レベル］5 古 :hııl（演繹）。上へ行くものが原義。演繹は法則が底にあり、論理が底からどんどん上へと昇っていくと考えられたことから hııl と呼ばれた。 ［文化］ lınſıhııl
hıılȷın ［数学］公式、法則 ［レベル］4 1L: 演繹して使用する数式
hıılueſ ［言語］演繹音 ［レベル］4 ⅃1: 直訳は演繹語 ［語法］ 以下は ɑɔueſ の続き。 ・演繹音 演繹音のおかげで、アルカは音に関して非常に細やかな表現を可能にしている。 演繹音は幻日では ［演繹音］ のタグで示される。 しかし上述の dlıſ, bsıɑ, dlcſ などをすべて見出し語に挙げると、無尽蔵に単語が増えてしまう。 水嵩を増してまで辞書の収録語数が多いことを誇示しても詮なきことであり、むしろ管理の煩雑さとユーザビリティを考慮した見出し語システムを整えるべきと考える。 そこで見出し語には dlſ のみを立てることとする。 清音が無標であるから清音を表記し、母音は無標がないので省略する。 ［演繹音］ のタグがあるので、ユーザーはすぐにそれが頭字語などでないことが理解できる。 そしてこれを元にユーザーは自由に音質を変えることができる。では音質はどのように変化させることができるだろうか。 1: 子音の清濁 清音は弱い、綺麗、澄んだ、軽い、涼しいなどの音質を与える。 濁音は強い、汚い、濁った、重い、熱いなどの音質を与える。 dlıſ ぱしゃ bsıɑ ばしゃ、べちゃ 中国語などでは清音はないが、事実上無声音になっている有気音が無気音より勢いがあるため、dınφ と bınφ だと dınφ のほうが強いと考える。 これは大学時代に筆者が実際に複数の中国人に尋ねた際に得た回答である。 そのため、アルカや日本語とは感覚が逆である。 ⅃: 母音の音質 ı: 明度 明度は c>e>ı>ɔ>ə の順序である。 c のほうが ə より「明るい、前に出ている、活発、賑やか、幼稚」などの印象を持つ。 b: 重度 重度は ɔ>ə>ı>e>c の順序である。明度の反対ではないことに注意。 ɔ のほうが c より「重い、大きい、深い、不活性、大人、大人しい」などの印象を持つ。 ―――― よって、同じ水の撥ねる音でも、dlcſ は最も軽く弱く明るく、雫の撥ねる音を表す。 一方、bsɔɑ は粘度の高い重い油や泥などが撥ねる音を表す。 ˀ: 母音の長短 短母音が無標。 長母音はその音が長く持続していることを示す。 dlıſ はぱしゃっと少しだけ水が撥ねる音だが、dlııſ は例えばピペットでぴゅっとある程度の量を吹き出すときの音。 ⋒: 繰り返し 演繹音を繰り返すことで、反復を示すことができる。 dlıſdlıſ で「ぱしゃぱしゃ」、dlııſdlııſ で「ぴゅーぴゅー」。 ・子音の構成 音節頭の子音は 1 ないし ⅃ 音からなる。 これらはその演繹音の全体的な音の種類を決定する。 例えば dl– は「何らか水が動くとき」という

音の種類を決定している。　一方、音節末の子音は１つからなる。　これはその演繹音の部分的な音の種類を決定する。 同じ dl– でも、–n の場合は「柔らかく撥ねたり転がったりする音」であり、–ſ は「撥ねたり止まったりする音」である。　よって dlıſ と dlın では音の種類が異なる。　dl– を共有しているので全体的な音の種類は同じだが、–ſ か –n かという違いで部分的に音の種類が異なる。　そういった子音の構成が決まった上で、上記の子音の清濁による音質変化や、母音や繰り返しなどによる音質変化があるため、実際に演繹される演繹音の数は極めて多い。　これをもってアルカは音に対して細やかな言語と評している。　・末子音　末子音の種類と音質例は以下の通り。　元々有声音なものはこれ以上有声音になれないし、無声音にもなれない。　ſ：撥ねる、止まる　˥：ぶつかる、転がる、回転する、固い　ɩ：伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭い、冷たい　ȷ：伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭くない、涼しい　n：撥ねる、転がる、回転する、柔らかい　ɑ：吹く、続く、擦れる、弱い　ɒ：まろやか、転がる、微動する、回転する　d：弾ける、止まる、破裂する、静止する　h：擦れる、鈍い　ɗ：響く、連続する、打ち付ける、攻撃的　ɥ：消える、去る、行く、流れる　l：現れる、来る、留まる、流れる　・演繹音の用途　演繹音の用途は小説や日常会話だけでなく、漫画に出てくる多種多様な擬音語を示すのにも役立つ。　・演繹音の文法　演繹音は基本的に名詞なので、文中では ɑɔ 格などを取る。　ſeɑ lənıˀ ˥ııɒ ɑɔ dlcſ（雫が頬にぴしゃっと当たった）

hııɑel ［言語］生成文法。変形生成文法などを含んで総称的に。［レベル］6　1L ［文化］　セレンとリュウにより大成。セレンはその後認知革命を起こして生成を捨てたが、リュウは人工知能などへ活かしていった。ただし魔法の力を利用したので、地球のような人工知能はレイユまで休眠することになる。

hııc ［感動詞］よっ。挨拶。［レベル］2　古：誰ともなく言い出した語で、会ったときに hııc とか hıc とかいっていた。ȷɔɔnɔɣən と違って特に決まった形はなかった。

hıc ［文頭純詞］ところで ［類義語］ze˥˥ı ［レベル］1　ɑ:elſ: 感動詞、オノマトペ、フィラーの類が語源。　古　hıc:hıc:'ıc ［文化］　相手が今の話題を消化しきっていない段階で転換すると嫌がられることがある。だが、未消化の場合でも相手がその話題を嫌がっているときは転換して歓迎される。場面次第である。また、相手が今の話題をどう思っているかではなく、単に自分がその話題が嫌な場合や、他の話題に移したいときにも転換を行う。それによって相手がどういう反応を取るかはまちまちである。一般にアルバザードは日本と比べてある程度一つの話題に結論か結論めいたものを出してから次の話題へ移る傾向がある。いきなり話題を変えるのはあまり好ましくない。ただ、どうでも良い雑談ではそういうことも多い。一々相手も怒らない。特に何か良い発想を思いついたときは相手の話が終わるのを待っていたら忘れてしまうので、相手を遮って話すことがあるし、大抵許される。

hıcſ ［形容詞］低い ［反意語］ȷɔɥ　ȷzɑ ［レベル］1　1ᚨ: 制 :hııſ: 古 :hɥə（高い）。当然英語のｈｉｇｈｔとは関係ない。　ɒɔȷ:ɒɔȷ:hıcſ 【用例】 ȷɔɥ cſ{ɒıcn} hıcſ 低い身長

hıcſſıɒıφl ［音楽］イングリッシュホルン、コーラングレ、コールアングレ、コール·アングレ、アルトオーボエ　ɥſ;hıcſ/ſıɒıφl「低音の出るオーボエ」 ɹɹ

hıcſlıɑ ［地球の国名］オランダ ［レベル］5　1L: 低い国

hıcſȷcı ［音楽］バスドラム、バスドラ、キック ［レベル］6　ɹ1 ［語法］ペダルは ɔɔnſ。

hıcſɑɥın ［数学］導関数 ［レベル］5　1L: 元の関数に対して次数が低くなることから、hıcſ。

hıcſɒıφ ［音楽］モルデント　1L

hıcſɒıφl ［音楽］ファゴット、バスーン、バズーン　ɹ1:hıcſ/ſıɒıφl

hıcſdııȷɔl ［名詞］カウントダウン ［動詞］ɣəl を数え下げる、数えさげる ［反意語］ȷɔɥdııȷɔl ［レベル］3　ɹ1 【用例】 ˥eſſı, el hıcſdııȷɔl ɑə 10 ı ɒel ȷel ſcȷeeſ さぁ新年まであとテンカウントだ！　ɥeſ, hıcſdııȷɔl ɑəen 10.　１０数えてください。カウントダウン１０秒願います。

hıcſhın˥ ［気象］［軍事］［交通］低高度 ［レベル］6　ɥſ;/　ɹʔ

hıcſɣəlɔ ［地学］離水、離水海岸　1L

hıcſı˥ɔn ［地学］［植物］低地土　1L:ɥcɑcı ［語法］　河川によって低地にできた土壌。水田に利用。

hıcſıφedφıɔ ［音楽］アルトホルン　ɥſ　ɹɹ

hıcſeȷd ［気象］下層雲　1L

hıc˥ ［政治］［法律］裁判、裁き ［動詞］ɣəl を ɔn について裁く、裁く ［レベル］3　1L:ɩcɔn:hıcn/˥ə ［文化］　・未成年の裁判　未成年が犯罪を起こした場合、子供だけでなく親も罰される。子供の犯罪の責任を取る必要がある。　子供といっても ɒını, lız, ɑcın, ſcnı, nını の順で連座が軽くなる。子供が成人に近づくにつれ、親の監督責任も問われにくくなるということである。　親が離婚している場合、連座に問われるのは親権者のみである。　・動物裁判　犬が人を噛んだ場合など、飼い主だけでなく動物も裁判を経て裁かれる。

hıc˥hɔc ［政治］［法律］司法 ［レベル］4　1L

hıc˥hɔc˥ı ［政治］［法律］司法府。裁判所のこと ［レベル］4　1L

hıc˥hɔclıφel ［政治］［法律］司法権 ［レベル］4　1L

hıc˥lcznɔ ［政治］［法律］裁判庁 ［レベル］4　1L ［語法］　イムル ɹ0 年に事務省の下に作られた庁。裁判を取り仕切る。

hıc˥ı ［政治］［法律］裁判所 ［レベル］3　1L:ɩcɔn

hıc˥ın ［政治］［法律］裁判官 ［レベル］3　1L

hıcɩ ［形容詞］合法な ［反意語］ueɑ ［レベル］3　1L:hıcn/˥ıɩə（ハインの法）

hıcȷ ［動物］マグロ、鮪、ツナ ［レベル］2　lı˥ſı ［文化］　非常に好まれよく食べられる魚。数が少なくなって困っている。

hıcȷɔ ［地球の国名］ソ連、ソビエト連邦 ［レベル］5　ɹʔ:lcczı:hın/ȷɔcȷɔ。アルシェが結成されたのは９１年で、ソ連は同年に解体している。ソ連の凋落から崩壊の過程はアルシェ発足の原因のひとつで、ソ連はリーザらにとって関心のある存在だった。そのため先代アルカにはソ連を指す語があったようだが自然言語由来であり、具体的にはフィンランド語でソ連を意味する単語を使用していたため、新生には採用できない。古アルカは９１年以降なのでロシアを指す単語はあってもソ連はなかった。しかし歴史的記述をしていたリーザが必要に駆られ、ɹʔ に造語した。

hıcn ［サール］ハイン ［動詞］ɣəl（約束や計画など）を守る､守る ［反意語］uecφ ［レベル］2　ɒelſcı ᚨ:hıcn;e　ɥcɑcı: 古 ［文化］　約束、虚偽、嘘、真実を司る。ɑenzel が無性生殖で鏡から作り出した息子。

hıcn ıɩſeeɒȷ ［人名］ハイン＝アルテームス ［レベル］6　1ᑫ:ȷeɥen:ɩcɔn ［文化］（ʔᚨᑫ_）　アレイユのアルタレス。フェンゼル＝アルサールを討伐した。『紫苑の書』の登場人物。アルシェの父。紫苑に魔杖ヴァルデを託され、フェンゼルを倒した。その後、フェンゼルに代わってアルタレスとなる。

hıcueſ ［言語］起語 ［レベル］6　ɹ1

hıcɑ ［天文］彗星、コメット、ほうき星 ［魔法］ハイフ（コメット）。中位時魔法。時空を曲げて彗星を呼び寄せ、敵にぶつける。ɥɑ ではメルがありえない幼さで習得し､異性魔王を倒した。［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :hılccɑı（尻尾の星）

hıcɒ ［政治］（行政単位としての）市→ ȷılıc ［レベル］3　1L:ɥcɑcı:˥ıl/cɒəl（イムルの土地）。行政単位は ˥ で始まるのが多すぎたので h に。［文化］　カコで使徒イムルが制定した行政単位。

hıcɒuıc ［軍事］市民兵 ［レベル］5　ɹ0

hıcɑ ［植物］サルビア ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:hıɥ/ɑecɑ。先端が矛のようだから。

hıcɑıȷl ［化学］リノレン酸、アルファリノレン酸 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı

hıcφen ［人名］ハイゲン　ɗu;e　ɹ⋒ ［文化］　ジンティと人間の娘の間に生まれた息子。

hıcφencɑı ［地球の星座］［ユマナ］ペルセウス座　ɹ⋒ ［文化］　cɑı

hıcz ［非言語］ハイズの動作をする ［レベル］2　古 ［語法］　手を胸から腰までの高さに持っていく。肘は自然と曲がる。手は開いた状態で、掌を４５度に傾けておく。この状態から、手を開く。「開く」というのは、４５度の掌を完全に上向きにするという意味。つまり、掌が完全に空を向く。この動作をすると自然と手が体の軸側から外側へ５～１０センチほど移動する。　この動作がハイズである。言語としては ɑcnı に最も近い。相手を否定するわけではないが、肯定もできないという意味を表わす。相手がこちらに「賛成して当然」と思っているときは hıcz に対して当然不快感を示す。逆にこちらが我慢しているときは、相手は hıcz を「しぶしぶ了解」の意味で取る。　依頼に関係ない場面では、単に hıcz は分からないという意味を指す。また、少し驚いて戸惑ってリアクションをどう返したらいいか分からないということも示す。この場合、しばしば目をそらす。【用例】 lə hıczc˥ ɔ˥ ȷenı ˥ıl. くすりとしながら彼女は腕を広げた。

hıczen ［人名］ハイゼン ［感動詞］罰当たりめ、バチ当たりめ、こら、コラ ［レベル］1　L:ɥcɑcı: 語源不詳。リディアがセレンにその名と設定を伝えた。その直後、ɥıl ſın にセレンは夢でその設定どおりの少女に会っている。そのことは当時のセレンの絵を挟んだ黄色いファイルで確認できる。ここでは初めて hıczen に「 囲卓 」という漢字を当てているが、この字は夢の中でセレンが編み出したもの。1L 年まては漠然とアルティス教によって生まれた神となっていたが、ɹ0 年で ɥɑ に生まれたと設定された。神話上は hıclen から hıczen ができたことになっている。［文化］　ɣəəɒı　アルティス教の背信者を裁き、罰する神。母アルテは教徒を無差別に救い、罰は与えない。唯一絶対の救いである。それに対し、ハイゼンは背信者を罰するために存在する。アルティス教徒にあるまじき物事があればハイゼンが罰を下す。ユーマの少女時代の見た目をしており、長く黒い髪だが、性格はきつい。【成句】 hıczen ləſ hɔc ſc 天に唾す、天網恢恢疎にして漏らさず

hıczen˥ı˥ɩ ［法律］違法コピー、海賊版、パイレーツ ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbıɩelſ

hıczenφılſ ［魔法］ハイゼンガルト、禁断の門、禁門 ［レベル］3

hıczenbɔlſ ［名詞］天罰、天誅、仏罰、ハイゼンボルト ［類義語］ɒcɥɔ˥bɔlſ ［レベル］3　ɥɑ;/「ハイゼンの鉄槌」［文化］　ɒcɥɔ˥bɔlſ

hıczenhcdſ ［法律］違法セックス ［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ıɥbıɩelſ ［文化］　革命中の決まり。人口を国が管理できるよう、免許を持っている恋人と夫婦以外はセックスをしてはいけないことになっている。ただしインプレンは合法。

hıczenɥı ［ユマナ］教会。アルティス以外の宗教の教会、神社、仏閣、モスクの総称 ［ユマナ］［音楽］ア・カペッラ、アカペラ ［レベル］4　制

hıczenleun ［医療］成人病 ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbıɩelſ: 罰当たり病

hıcscnφ ［人名］ハイジング ［レベル］5　古 ［文化］　性別不詳。３期のソーンのルシーラ。

hıclenhıɗ ［言語］ハイレン筆記　1L ［文化］　ミルフが ləſcıhıɗ を元に作った筆記体。センターラインを固定化することで、文字が上下に躍るのを防ぎ、安定感を出した。また、文字を数種類変えている。ȷ と ɩ のみセレンのデザイン。メル 1L 年末に公式の筆記体となった。

hıclen elſɔı ［人名］ハイレン＝エルトア　1L:ɒclɑ/zını:hıczen。神話上は hıclen から hıczen ができたことになっている。hıclen は神話上は hıɗɒı/len（使徒の人形→使徒の子）が語源。［文化］（ɒel 1L ɥıl lcȷ →）ザナ＝ゲノスとミルフ＝エルトアの長女。漢字名は「囲蓮」。

ハイが「囲」となっているのは、彼女の語源が hıczen（囲卓）であることから。

hıɔ ［文頭純詞］当然、もちろん、勿論、いうまでもなく、言うまでもなく、言わずもがなで、ごく自然に、いわんや、況や ［名詞］当然なこと ［法副詞］～するのが当然だ、～しなければならない ［レベル］1　古？ ［語法］ ɑıl 【用例】 ʃə eʃ hıɔ lel ɹeʃın ɥəu uɔµʃ. 殺人者が死刑になるのは当然だ。

hıɔn ［文頭純詞］［µenʃe］hıɔ ［レベル］2　1Δ

hıə ［動詞］ɥəl をあくびさせる、あくびする、欠伸する ［普通動名詞］あくび ［レベル］2　古 : ふあーぁというあくび声 【用例】 ın hıəʃ ɒcl ɔɒɔ. 眠くて欠伸した。

hıə,ılʃ　ɒɔı

hıəɑılʃ ［交通］追突、追突事故 ［レベル］4　JJ 【用例】 ın ɥəuıʃ hıəɑılʃ ɒclφıl ıɒɔ lcen nɔȷ. 後ろの車に追突された。オカマを掘られた。

hc,ılʃ　ɑıc

hcʃ ［形容詞］焦っている、焦った ［動詞］ɥəl を焦らせる、焦らせる、焦らす、じらす、慌てさせる、慌てる、取り乱す、うろたえる ［名詞］焦り、(ʃcl とともに）慌てる、取り乱す、うろたえる ［反意語］µeɑ ［レベル］2　1ꟼ: 制 : 古 :ehcȷɔ（汗をかく）から。ehc は汗の意味。 【用例】 ın eɒıʃ hcʃ ɒcl uecʃın. 強盗が入ってうろたえた。　ın nıʃ hcʃ ɒın lılcl φclȷ eȷ eɑʃ. 財布が盗まれているのに気が付いて慌てた。

hcʃɑıφɑ ［名詞］［形容詞］もどかしい、もどかしさ ［レベル］3　JJ

hcʃɔ uıµȷcclı ［人名］ヒト＝ヴァルシーラ ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第 1 使徒。異性魔王。

hcl ［感動詞］女などの高い「ひっ」「ひい」という掠れた悲鳴 ［レベル］2　1L

hclɔʃın ［魔法］サラマンダー　ılʃ;/　J∩

hcl ［名詞］横、水平 ［シェルト］横駒 ［化学］周期 ［類義語］ılɔɒ ［反意語］hıȷ ［レベル］2　@ 1L

hclʃeʃɔnı ［名詞］横の関係 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

hclȷcen ［生物］横紋　µɑ;/　J∩

hcln ［形容詞］年下、ジュニアな ［反意語］hıȷɒ ［レベル］2　@ 1L

hclφılcȷlcuı ［娯楽］横スクロールシューティング、横シュー ［レベル］4　JJ

hclµɔn ［医療］左右圧、水平圧。押手の母指と示指で刺入部位にかける垂直方向の圧のこと。　µɑ;/　J∩

hclµecn ［名詞］横線 ［レベル］2　J0

hclscnʃɑcnl ［生物］前頭面、前額面　µɑ;/　J∩

hclcn ［動詞］ɥəl を横目で見る、横目で見る ［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcȷ

hcleȷd ［気象］層雲　1L

hcleµl ［親族］傍系 ［レベル］5　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

hcȷ ［形容詞］劣った、劣等な ［反意語］hıl ［レベル］2　@ 1L　::ɒɔleȷ:ɒɔl ələ,ılʃ

hcȷnı ［医療］劣等感、コンプレックス ［類義語］blınz ［レベル］3　1L:ɒel cɑcı ılcȷ 【用例】 ın ʃcl hcȷnı ɔn ȷɔµcʃ. 背が小さいのが悩みだ。

hcȷɒeʃlınɑ ［魔法］低位魔法鏡 ［レベル］6　J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

hcȷhcȷ ［アトラスの国家］ヒスヒス ［アクセント］hcȷh€ȷ ［レベル］5　1L:µcɑcı:接着（船を着ける）

hcȷeʃ ［名詞］ハンディキャップ、不利、劣勢、劣位 ［類義語］ɥıɒı ［反意語］hıleʃ ［レベル］3　J0:hcȷ/ʃe（劣るような）

hcnl ［名詞］汗 ［動詞］ɥəl に汗をかかせる、汗をかく ［レベル］2　1∩: 制 :『制定語彙』では ehc（しょっぱい水）。hce と同じ語源。 ［文化］ 制汗剤はあまり使わない。汗はハンカチで拭き、シャツが冷えて臭くならないようにする。日本では汗をハンカチで拭くのはおっさんくさいが、アルバザードではふつう。むしろ女子が服の隙間に差し入れて拭いているさまは色っぽい。ただし女子は人前で汗を拭くのが恥と思っているため、手や額など見えている部分しか外では拭かない。 【用例】 ın hcnl ȷɔɑel. 私は汗かきだ。　ın hcnlıʃ ɑcn ın ıµıʃ uıu ıʃc lıl ʃcȷ. ちょっと運動しただけで汗をかいた。　hcnl ıʃ ȷɔɑ ɔnlel. 汗が流れ続けた。 ın ıʃ eueȷ ɒcl hcnl ɒeµel. 汗でびっしょりになった。　ın ʃɔıʃ hcnl. 汗の臭いがした。　ın ıʃ beeb ɒcl hcnl ʃɔın. 体が汗臭かった。　☆ ın hcnl ledel. 私はほとんど汗をかかない。　ın ıʃ hcnl ɒeµel ɒın ılʃ ıuın cɒ ʃɔlel. 昨日悪夢を見たので寝汗をかいた。

hcnllcʃc ［生物］汗腺 ［レベル］4　J1

hcnlləlɔ ［動詞］ɥəl に辿り着く、辿り着く、たどりつく、たどり着く、辿りつく ［レベル］3　J1

hcnlıɒn ［医療］あせも、汗疹、汗も ［レベル］2　1∩: 制 : 汗の発疹

hcnı ［組み数字］9／１０ ［哲学］忍 ［医療］心 ［歳時記］辛、かのと ［レベル］4　µɑ;hcnı,ȷzl　J1　::lı hcnı

hcnı(J) ［植物］桐、キリ ［レベル］4　ȷɒ,;ılʃ　JJ

hcnı,ȷzɑ　hcnɔ　hcnɔ.l

hcnıʃı ［魔法］［哲学］陽、陽命、丁信仰 ［レベル］3　ȷɒ;‹ılʃ‹hcnɔʃɔ.l　J1 ［文化］ アルティア人の宗教で、丁 (hcnɔʃɔ) という神秘的な存在を信仰する。丁は意思のある神のようなものもいれば、意思を持たない自然物のようなものもある。意思を持つものも生き物とはみなさず、言葉を操るものにすぎないと考える。つまり陽において丁は生き物というより現象のような存在である。　丁の訳語はコンテクストに応じて丁、神、精、霊などとする。意思を持つものを神 (ıɒcn)、持たないものを精 (lɔʃın)、その中間を霊 (leczen) という。丁は総称である。　丁は万物に宿ると考えられており、ヴィードを持っていると考えられている。丁は亜暁泉に吹き溜まると考えられており、神を祀るための神主がいる。　神主は常に男性である。神主は神に仕え、神の棲む夕庵を守護する。場合によっては神木から作った剣 (ıɒ clıl) を使って悪霊 (lınleczen) や邪神 (lınıɒcn) や邪精 (lınlɔʃın) を退魔することもある。服装は白装束に黒袴。　一方、言葉を持たない精のほか、言葉を直接伝えようとしない種類の霊や神の意思を訊く者を ɥəlılc（巫女）という。ɥəlılc の語源が ɥəɑı/lıl（神主の刀）であることからも分かるように、神木刀を胎内に lıllelce している。巫女は常に未婚の処女である。巫女は境内の泉で身を清め、酒を一口含み、白い装束と陽命朱の袴を着て精霊の意思を訊く。　神主、巫女ともに枝分かれした榊の枝を持っており、祈りや精霊への指示などに用いる。　陽では年長者を尊重し男性を尊重する。従ってアルティア社会は男系で男尊女卑で年功序列である。　言葉においても lɥəɒc（彼女）は lɥə（彼）を元に作るなど、男性中心の考え方になっている。

hcnıʃı(J) ［人名］ひなた　J1:hcnıʃı ［文化］『ねこの郵便屋さん』の登場人物。うみの飼い主。

hcnıʃıhıɑı,ılʃ　陽命朱

hcnılın ［生物］［医療］心経　ȷzl;/　J∩

hcnɔ ［動詞］ɥəl を耐える、耐える、たえる、我慢する、こらえる、堪える ［類義語］ɥəɥı、hcnı ［反意語］eʃcn ［レベル］2　ɑ:ȷııl;e　赤　hcnɔ :hcnɔ:hcnı 【用例】 ın hcnɔ ucl uecn ɒın nı sɔ ʃcnlı. あまりに腹が立つのでこれ以上我慢できない。　ın hcnɔʃ ɑıl ȷɔµʃıʃc. 寒さに耐えなくてはならなかった。　ʃə ıʃ lcn ʃcn lel ın hcnɔ ʃə φıµu ɒeµel. その苦しみを耐え抜くのはとても辛いことだった。　ın hcnɔʃ sɔ enzel. 怒りをどうにか抑えた。　ın hcnɔʃ ucl uecn. もう我慢できなかった。

hcnɔʃɔ ［魔法］［生物］丁、神、精霊、精、霊 ［レベル］3　ȷɒ;‹ılʃ ［文化］ hcnıʃı

hcnɔʃɔ ɥəɑın ［人名］雨宮丁　J1

hcnɔlcl ［化学］アルカリ土類金属 ［レベル］5　1L: 水に溶けず、火に溶融しないことから、耐える元素とリュウが名付けた。

hcnɔenuc ［名詞］忍耐力 ［レベル］3　1L:lecn 【用例】 ʃcl hcnɔenuc 我慢強い、忍耐強い

hcɒ ［名詞］性、性別 ［言語］文法性、名詞の性 ［生物］性、有性 ［医療］セックスとしての性 ［レベル］3　1ʔ: 性 :hcʃɒıc（性 / 身体） µcɒələlə:µcɒ ələlə ［語法］［文化］ uclıȷı

hcɒʃ ［生物］陰部 ［レベル］4　µɑ;hcɒ/eʃ　J∩

hcɒʃlcn ［生物］亀頭 ［レベル］5　1L: 鈴に似ている

hcɒʃɔɔɑ ［生物］恥丘 ［レベル］5　J0:ȷeµen/µcɑcı

hcɒledl ［名詞］色仕掛け、色じかけ、ハニートラップ、ハニトラ ［レベル］4　µɑ;/「性的な罠」　J∩ 【用例】 ıµ hcɒledl ı uelȷın 政治家にハニートラップを仕掛ける　ɥəu hcɒledl 色仕掛けを食らう

hcɒleel ［生物］精巣上体、副睾丸 ［レベル］6　1L: 睾丸を半分包んでいるように見えることから

hcɒȷdıʃ ［名詞］性差別、男女差別 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ ［文化］ hcɒuell, ɒcnlınφıln, ɒcnɑız

hcɒȷccne ［名詞］性癖、性的趣向 ［レベル］5　µɑ;/「性的趣向」　J∩ ［文化］ アルバザード人は多種多様な性癖を持つ民族で、性癖は人それぞれである。　ちなむ必要はまるでないのだが、セレンの性癖のひとつに「惚れさせておいて手を出さず、女を焦らせ、本来がっつくはずの男ががっつかない状況を作ることで、余裕があり純粋で紳士な自分に陶酔する」という訳の分からないものがある。このように、アルバザード人の性癖は本当に人それぞれで、しかもたいてい意味がわからない。

hcɒȷel ［生物］陰唇 ［レベル］4　1∩: 制 : 性器の唇

hcɒnı ［医療］性欲 ［類義語］hcɒφılenı ［レベル］4　µɑ;/　Jʔ

hcɒncdl ［生物］クリトリス、陰核 ［レベル］4　1ʕ: 制 : 外性器としての見た目から

hcɒuell ［名詞］男女区別 ［レベル］4　µɑ;/　Jʔ ［文化］ ɒcnlınφıln, ɒcnɑız　男女差別は悪だが、男女区別は当然のものとして受け入れられている。一方的に女性に不利ということではなく、互いに役割を分担し、その結果として差別が発生している。　アルバザードでは女性は無条件で助けられる。自転車がパンクしたとか、荷物が重いとか、電車で席がないなど、あらゆる場面で女性は男性に守られる。美醜や年齢に関係なく、幼女であっても親切に助けられる。ただし注意したいのは、助けられるのは女性であってメスではないという点である。女性らしくしていなければ助けられない。身なりが汚いとか、素行が悪いとか、言葉が汚いなど、品のない行いをしている者は女性とみなされないので放置される。　アルバザードの少年は子供のころから女性を守ることを厳しく躾けられる。困っている人を見てみぬ振りすると、すかさず母親に引っぱたかれ、助けにいけと怒鳴られる。ふだん温厚な父親も、人を見捨てたときは嘆いて息子を叩くことになっている。　逆に女性は「パンクの直し方くらい知ってるんだけどな」と思っていても、あくまで近くの男性が助けてくれるまで困ったフリをする。さっさと自分で直す女は変人扱いされる。

また、優雅さや大人しさや従順さは男性より女性に求められるため、女性は抑圧的な生活を強いられる。最も差別が大きいのは性に関することで、男性はインプレンに通えるが、女性は夫以外の男と寝れば死刑になる。これはイスラム圏と同じだが、以下がまったく異なる。アルバザードは女性にも性欲を認めており、むしろ好ましい行為として男女ともに奨励している。その結果、女性が決まった男性にセックスを求めるのは非常に一般的で、恋人や夫婦間ではふつう女性が男性をそれとなく誘う。頻度はフランス人以上に多く、男性は拒めない。　なお、このことについてほとんどのアルバザー

ド人男性は自分に性的な魅力があり、恋人を快楽に溺れさせていると自負しているが、ほとんどの場合それは誤解である。アルバザード人女性の本音では、恋人に言い寄るのは快楽を求めてのことではない。自分の誘惑に相手が屈服したことによる自尊心が８割で、快楽は２割程度である。この自尊心は「自分は相手に愛されている」という内容であり、優越感ではない。カレシに性的サービスをさせることで自尊心を得ることが誘惑の主目的で、愛情の確認にもなっている。しかしアルバザード人の女はしたたかなので、それを言わない。　また、アルバザードでは女性による自慰や同性愛が公然としていて、あまり恥ずかしいことではない。例えば、レインや紗枝もするし、していることを隠してごまかさない。

hcᴅaeᴅe ［医療］性器期 ［レベル］6 ɹɹ

hcᴅᴅıcᴅ ［名詞］体位→ ᴅıcᴅ。性交の。 ［レベル］4 μɑ;/ ɹʔ ［文化］ アルバザード人にとって一般的な体位は正常位、バック、騎乗位の順。騎乗位は ȷıμᴅclc が生じるのと、それに加えて女性が疲れるので、男性が女性にサービスしがちなアルバザードでは日本ほど行われない。　日本の四十八手に相当するのは uılɔnuılᴅıcᴅ である。４４手あるにはあるが、一般の人は知らない。ふつうは正常位、バック、寝バック、立ちバック、騎乗位、駅弁などある程度限られている。　一般的なアルバザード人は一回のセックスで複数の体位を変える。あまり頻繁に変えると女性に面倒臭がられ、バリエーションが少ないと飽きられる。

hcᴅᴅcyəuıʃ ［医療］性別適合手術、性転換手術 ［レベル］6 μɑ;/ ɹɱ

hcᴅᴅeȷl ［生物］陰嚢 ［レベル］4 ɿL

hcᴅɑcɔ ［生物］処女膜 ［レベル］4 ɿɱ: 制 : 性器の歯 ［文化］ 女性器は口に譬えられる。処女膜の多くが膣口を囲む歯のような形をしていることも関与している。以前処女膜はセレンの発想で膜となっていたが、やがて歯に変わっていった。 【用例】 lcu en lənı c hcᴅɑcɔ. 処女膜から声が出ていない：lcᴅeeμrlɔɔʃ と呼ばれる人たちがいたころに言われた言葉。アイドルや声優果ては一般人に対し、処女でないと知るや非難めいてこのように呼んだことから。

hcᴅφıʅʃ ［生物］性ホルモン ［レベル］6 ɹ0

hcᴅφılenı ［医療］［ネガティブ］性欲 ［類義語］hcᴅnı ［レベル］4 ul;/ ɹʔ

hcᴅφeʅ ［生物］精巣、睾丸 ［レベル］4 ɿʕ: 制

hcᴅφeʅɑıcz ［医療］精巣炎 ［レベル］6 ɿL

hcᴅhcdʃ ［生物］有性生殖 ［レベル］5 ɿL

hcᴅhɔʅ ［生物］膣前庭。陰核から膣口までの間で小陰唇に囲まれた部分。メラニン色素がないので人種によらずピンク色で、ふだんは小陰唇が閉じているので見えない。 ［レベル］5 μɑ;/「性の貝」 ɹɱ

hcᴅμcəȷ ［名詞］仮装、仮装パーティ、男装、女装、コスプレ ［レベル］3 ɹɿ:hcᴅ/clcμcəȷ ［文化］ ミロクらが紫苑祭で始めた遊び。女のように美しいミロクを引っ張りだこにした女子たちが彼を捕まえて女装をさせたことがきっかけとなり、その後紫苑祭で伝統的に行われるようになった。全員がするのではなく、その遊びに興じる人たちが行う性格のものである。　ミロクは正義に関すること以外はわりと大人しく従順な少年で、特に言葉づかいや仕草が下品でない限り女性に強く出れないタイプだったため、良い玩具にされることがあった。　あまりにもミロクが美しい少女になったことから女子が狂喜乱舞し、ヒムリウスが流行った。このときアルソンは面白がったリーファ隊にけしかけられて男装させられたが、りりしさゆえに女子から黄色い声援を受け、親衛隊ができるに至った。　右の画像は５才当時女装趣味のあったユルトに「将来の自分が可愛いか見てみたいからパパ男の娘になって！」とせがまれて ɹʔ 年に生まれて初めて女装したセレン＝アルバザードのもの。このときセレンは３２才手前であった。

hcᴅzɔn ［生物］陰茎 ［レベル］4 ɿL 【用例】 hcᴅzɔn eᴅ neʅ. 陰茎が勃起する。

hcᴅoenz ［医療］性的倒錯、変態 ［類義語］ᴅeles ［レベル］4 ul;/ ɹʔ

hcᴅleun ［医療］性病、性感染症 ［レベル］4 ɿL:μcɑcı:ıμbıleʅʃ

hcᴅıʅȷc ［名詞］セクシャルハラスメント、セクハラ ［レベル］4 ɿL:μcɑcı:ıμbıleʅʃ ［語法］ 会社や学校だけでなく、電車の痴漢、父親による娘への悪戯などもこれに入る。性的な嫌がらせならすべて含まれる。 ［文化］ セクハラには極めて厳しい。アルバザード人は性的屈折度と性欲の強い人種だが、自尊心が上回るため、ちょっと胸を揉む程度の中途半端なエロスを嫌う。やるならやる、やらないならやらないとハッキリしているため、あまりセクハラに興味がない。中途半端にオフィスで女に触るという発想がそもそもない。やるならカップルになってオフィスラブとか、それが無理でレイプとか、濃淡がハッキリしている。

hcᴅcnc ［生物］陰毛 ［レベル］4 ɿL:hcᴅ/cnc ［文化］ 男女ともに剃らないのがふつう。ただ、女性は薄いほうが一般的に好まれるため、短くしたり一部を剃ったりすることはある。特に水着を着る場合はビキニラインは必ず剃る。男性が付き合っている女性のものを好みで剃ることは日本同様ある。

hcᴅɔʅ ［名詞］セックスの相手、性の対象 ［レベル］4 ɹ0

hcᴅe ［名詞］姫 ［類義語］neeᴅe ȷᴅ;<,ıʅʃ<hcᴅelə,ıʅʃ「奥にいる人」 ɹɱ ［文化］ 凪の姫君を指す言葉だが、ȷᴅ 以降は一般的に姫を指すようになった。　μɑ でユーアは生涯リーザのことを hcᴅe と呼び敬った。　実際に王族の娘でなくとも大切な女性に向かって hcᴅe と呼びかけることがある。

hcᴅeʅʃ ［生物］恥垢 ［レベル］4 μɑ;/ ɹʔ

hcᴅedn ［生物］子宮頚部、子宮頸部 ［レベル］5 ɿL:ez の前に位置するので廊下

hcᴅedndcφ ［医療］子宮頸がん ［レベル］5 ɿL

hcᴅez ［生物］子宮 ［レベル］3 ɿʔ: 制 :lele: 性器の部屋

hcᴅezucᴅ ［生物］子宮筋 ［レベル］6 ɹɱ<ɿL:ȷeμen

hcᴅezucᴅdɔı ［医療］子宮筋腫 ［レベル］6 ɹɱ<ɿL:ȷeμen

hcᴅelᴅ ［生物］性器、生殖器 ［レベル］4 ɿL:μcɑcı

hcᴅelə,ıʅʃ lce。奥にあるという形容詞。

hcd ［動物］テントウムシ、てんとうむし、天道虫、てんとう虫 ［レベル］2 ʅıʃı

hcdʃ ［動詞］yəl とセックスする、セックスする、性交する ［普通動名詞］セックス、性交、生殖 ［類義語］eȷȷe ［レベル］3 ɿʔ: 制 :hıdʃ ［語法］ 子作りのためのセックス。 ［文化］ eȷȷe, ᴅelɑclcu

hcdʃuɔln ［生物］生殖細胞、胚細胞 ［レベル］6 ɿL

hcdʃdınʃ ［生物］生殖系 μʃ;/ ɹɱ

hcdʃenuc ［生物］生殖能力 ［レベル］4 μɑ ɹʔ

hcb ［植物］どんぐり、ドングリ、団栗 ［レベル］2 古 :hcb。hcbəʃȷ からか？

hcblɔhɔ ［アイテム］ノルマンヘルム μɑ;/「どんぐり状の兜」 ɹɱ ［文化］ ʅʅ の cn で作られた。

hcμl ［料理］キャビア ［レベル］4 ɿʕ: 制 :hcμɑ/lıʅc

hcμuel ［軍事］中将、ヒーヴェル ［組み数字］４／２０ ［レベル］3 古 :zını: 中将軍 ［語法］［文化］ ʅını

hcμɑ ［動物］さめ、サメ、シャーク、鮫 ［レベル］3 ʅıʃı

hcl ［軍事］突撃銃、アサルトライフル、小銃、銃。現代の小銃はほぼこの突撃銃。 ul;hclɔɔ。アルバザードが開発したが、旧カレンシアが研究に大きな貢献をしたため、凪霧の hclɔɔ を元に造語された。 ɹɱ ［文化］ φel

hclɔɔ ［軍事］飛火槍 ȷᴅ;ıʅʃ「火筒」 ɹɱ ［文化］ φel

hcı ［料理］塩、塩分、ソルト、食塩 ［レベル］1 μɑ ʅıʃı: 塩の海の意？ Xcı:Xcı ［文化］ 丁信仰では清めの力があり、悪霊などに有効とされている。塩の殺菌能力に由来する。 【用例】 eu hcı ı bel 塩を料理にふりかける

hcıʅılı ［地学］ウェルナー図法、ヴェルナー図法 ［レベル］5 ɹ0: 形が古の「塩」の字に似ていることから。

hcıɑclɑıc ［医療］塩灸 μɑ;/ ɹɱ

hcıɑɔl ［地学］岩塩 ［レベル］4 ɿL

hcıbıʅ ［料理］コンビーフ nɑ;/「塩漬け牛肉」 ɹʔ ［文化］ 大航海時代で作られた。現在は缶に入った非常食というイメージ。

hcıl ［政治］［経済］年金 ［レベル］5 ɿL:clᴅəȷ:μcɑcı:hcı/φcl（塩の金） ［語法］ 年金制度ができたのは家族制度が整ったイムル１５００年の時代。当時は金でなく塩や香辛料で配られていた。

hcc ［感動詞］［μenʃe］きゃあ、ひい、ひぃ、ひいっ ［類義語］hccʅ ［レベル］2 ʃᴅ;ɑɔueʃ ɹ0:ᴅelcɑcı lceμ

hccʃ ［名詞］引き潮 ［反意語］hıɪʅ ［レベル］4 @ ɿL

hccʃlıɑ ［地球の国名］バハマ ɿL: スペイン語の水位の下がった土地、引き潮という説から

hccʅ ［感動詞］［μenʃe］きゃあ、hcc ［類義語］hcc ［レベル］2 ɹɹ

hccoc ［動物］キーウィ、キウィ ［レベル］6 ʅıʃı: 鳴き声のオノマトペから

hcɔ ［料理］生地、素地、ペーストリー ［レベル］3 ɿʕ: 制 :hc（下）

hce ［形容詞］しょっぱい、塩辛い、鹹い、塩味のある ［類義語］ıɑcl ［レベル］1 ȷeμʃ ɿ9: 制 Xc:Xc

hceʃ ［料理］サラダ ［レベル］2 ɿʔ: 制 :ʅıʃı:hce（塩水）

hceȷ ［料理］ドレッシング ［レベル］2 ɿʔ: 制 :hceʃ から 【用例】 eu hceȷ ドレッシングをかける

hceμ ［地学］塩湖 ［レベル］5 ɿΔ: 古の hc/eμcı

hɔ ［生物］骨 ［レベル］2 ɑ;ɑıcı 赤 hɔ:hɔ:lə 'ɔ 【用例】 hɔ cʅ ɑɔᴅ. 骨が折れた。

hɔʃ ［形容詞］～だけ、だけ、唯一、唯一の ［副詞］ただ～する、ただ、だけ ［類義語］clcı ［レベル］1 ɿʔ ←古 :hɔʃȷᴅı hɔʃȷəᴅı:hɔʃȷəᴅı 【用例】 ın ʃccı ʃc hɔʃ. 君だけが好きだ。

hɔʃȷᴅı,ɑ hɔʃ

hɔʃᴅyəʅıle ［宗教］拝一神教 μɑ;/ ɹɱ

hɔʃılə ［アイテム］螢 ［レベル］4 μɑ;ıʅʃ で「雨などが降るの「降る」」 ɹɱ ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ神刀。

hɔʅ ［動物］貝 ［レベル］2 ɿʔ: 制 :ʅıʃı では hɔılə（殻の生き物） hɔılə:hɔılə::ıhɔ.ıʅʃ

hɔʅʃ ［音楽］シンバル ［レベル］3 ɿʔ: 制 :" e e s t e ┤ l n k u k u l i e l e m ┤ n ♪ "「貝」

hɔʅl ［料理］ワッフル ［レベル］3 ʅıʃı: 貝型の甘いもの

hɔʅȷ ［動詞］yəl をえぐる、えぐる、抉る、刳り抜く、くりぬく ［レベル］2 ɿʔ: 制 : 古 :hɔʅʅȷɔ スプーンでするが原義。スプーンで目玉を刳り

貫くというところからえぐるになった。 cXc:cXc
hɔʅn ［名詞］スプーン、さじ、匙、レンゲ、れんげ ［レベル］2 ʅʔ: 制 :lıʅ ʃı:hɔʅl、hɔʅə。「貝（hɔıʅə）」からきている。スプーンの形が貝に似ているからか、太古の人間がスプーンの代わりに貝を使っていたからかはわからない。 ［文化］ ʅəcʅɔn 金属か木。
hɔʅncn ［植物］デージー、デイジー、雛菊、ヒナギク ［レベル］3 ʅʔ: 制 :hɔʅnɒcnı。スプーンに見えることから。
hɔʅɒ ［地学］石炭 ［レベル］4 ɒelʃcı Δ:φcləȷ:hɔ.ɑıcı（固い） ʅʕ: 制 :hɔn/ıʅɒ
hɔȷ ［名詞］器、容器、入れ物、ケース、コンテナ ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 : hɔɔȷı（器） hɔɔȷı:hɔɔȷı
hɔȷʃ ［生物］鱗、ウロコ、うろこ ［レベル］3 lıʅʃı: 固いもの
hɔȷʃhɔnȷ ［アイテム］スケイルアーマー μɑ;/ ȷʃ ［文化］ 金属の小片をうろこ状に付けた鎧で、zφ で作られた。
hɔȷʃeȷd ［気象］巻積雲、絹積雲、うろこ雲、鰯（いわし）雲、さば雲 ʅL
hɔȷl ［植物］アスパラガス ［レベル］3 ʅʔ: 制 :hɔȷʃlɔ（頭がうろこ状になっていることから）
hɔȷc ［電算］ファイル。パソコンのファイル ［レベル］3 ʅʔ: 制 【用例】 hɔȷc ʅıc サイズが大きいファイル、重いファイル
hɔȷeun ［生物］骨組織 μʃ;/ ȷʃ
hɔȷə,ɑ ɑɔl「固い砂」
hɔn ［軍事］装甲 ［レベル］4 ɑu;hɔnɔ.ʅ ȷʃ
hɔnʃ ［形容詞］形式ぶった、仰々しい、堅苦しい、フォーマルな ［反意語］ ɒclʃe ［レベル］3 ʅʕ: 制 :hɔn
hɔnȷ ［軍事］［アイテム］よろい、鎧、アーマー、甲冑 ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hɔnɔȷıbe,ɥıhɔ ɥıhɔ:ɥıhɔ ［文化］ ııuhɔnȷ 臆病の象徴。鎧で身を固めるのが臆病と揶揄されたため。もちろんヴィード戦でも戦時には兵卒は当たり前に着たが。 ヴィード戦でも鎧は有効だが、超一流の戦士は鎧の防御力に頼らないため、機動力を重視して付けないことも多かった。
hɔnȷlıȷl ［被服］プーレイン μɑ;/ ȷʃ ［文化］ ȷɒ でできた。貴族の男性用。
hɔnuıȷdı ［軍事］装甲戦闘車両。戦車などの上位概念。 ［レベル］6 ul;/ ȷʃ
hɔnz ［植物］オーク、樫、ライヴオーク。オークは樫の誤用で、正式には樫はライブトークである。オークとは本来楢のことである。しかし樫をオークと思っている人が多いので採録した。 ［レベル］3 古 :hɔnɔ/zıɒɔ（固い木） ［文化］ アルバザードのものは常緑であるが、以北になると常緑は珍しい。
hɔnı ［医療］たこ、タコ、胼胝、うおのめ、魚の目 ［レベル］3 ʅL:hɔnɔ ［語法］ うおのめとたこの区別はしない。
hɔnɔ ［形容詞］固い、固まった ［動詞］ɥəl を固める、固める、固まる ［形容詞］パフォーマンスの悪い、低能な、調子が悪い ［反意語］hɔɔɒc ［レベル］2 ɑ;hɔ は ɑıcı 赤 hɔnɔ:hɔnɔ:'ɔnɔ:hɔnɔʅə,ılʃ ［語法］ 緊張などでも硬くなる。 暖かいと筋肉が柔らかくなり、柔軟にもなる。人体の運動能力は温めると向上するため、柔らかいがハイパフォーマンスを示すようになった。その後、人体だけでなく機械や物にも適応され、高性能なという意味になった。固いはその反対。 hɔɔɒc は運動、技能、技術などが上質であることを指す。機械の働きが上々であることを指す。hɔnɔ はその反対。状況次第では日本語と同じく固いと訳してもかまわない。 【用例】 ［メタファー］hɔnɔ ɥən ɑμeı 鉄のように固い ʃee, ʃee, ʃc ɔu hɔnɔl. だめだめ、動きが固いよ。 ıɒɔ eʃ hɔnɔ cɒ ɑcȷ ı. 今日は車の調子が悪いな。
hɔnɔ,ılʃ ɑɔl hɔnɔ.uɔlʃ
hɔnɔʃ ［地学］硬度 ［レベル］4 ʅL
hɔnɔʅı ［被服］振袖、ふりそで、振り袖 ［レベル］4 ȷʅ:ılʃ。「雪を振り払うような」という原義。
hɔnɔʅı(ȷ) ［気象］ȷıe ［伝統色］雪白、純白、凪雪 : 正直 : # F F F F F F : μəs μıu ［レベル］6 ȷȷ:hɔnɔʅə/ʅı「固まった粉」
hɔnɔʅılc ［ジョブ］石切り ［レベル］5 ılʃ ȷ0 ［文化］ ʅılın
hɔnɔlelʃeɒ ［生物］甲殻類 ［レベル］4 ȷȷ
hɔnɔncı ［美容］剛毛 ［レベル］5 ȷʅ
hɔnɔɑlel ［医療］肩こり、肩凝り ［レベル］4 ȷ0
hɔnɔdcʃɒ ［医療］肝硬変 ［レベル］5 ʅL
hɔnɔlɔbɔ ［名詞］ハードカバー。本。 ［レベル］4 μɑ;/ ȷʔ
hɔnɔleıȷ ［医療］動脈硬化 ［レベル］5 ʅL
hɔnɔlə,ılʃ hɔnɔ
hɔnɔeɒȷ ［化学］硬化油 ʅL
hɔuıμ ［電算］［医療］骨伝導 ［レベル］5 ȷ0: 骨を通って
hɔuɔ ［医療］便秘 ［反意語］ledʃ ［レベル］3 ʅL:μcɑcı:ıμbılelʃ:hɔnɔ/uɔs 【用例】 nı φıμu ɒcl hɔuɔ 便秘で苦しむ
hɔuɔln ［生物］骨細胞 μʃ;/ ȷʃ
hɔɑ ［生物］ひれ、鰭、フィン ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 古 :elchɔɑ
hɔɒ ［動詞］ɥəl を開ける、開ける、あける、開く、ひらく、服を開く ［形容詞］開いている、ひらいている、店がやっている ［反意語］ɑeɥə ［レベル］2 ʅʔ: 制 :hıμ:hɔɒɥə 【用例】 hɔɒ ɔɒc{ıʃe} ドアを { 店を } 開ける
hɔɒʅ ［地学］海峡 ［レベル］5 ʅʔ: 制 :hɔɒȷʅı（陸に挟まれた海）
hɔɒȷ ［動詞］ɥəl を挟む、挟む、はさむ、つまむ、摘む ［レベル］2 ʅʔ: 制 :ȷɔμn:hɔɒɥəȷ（挟む）。hɔɒɥə は扉で、ȷ は接尾辞 ıȷ。クミールの造語で、hɔɒɥə の幻字が×の形。もとはハサミの意味で使い始めたが、やがて挟むの意味になっていった。 :::ɔɒələ,ılʃ
hɔɒd ［料理］サンドイッチ、サンドウィッチ ［レベル］2 ʅʔ: 制 :hɔɒȷdɔɑ（野菜などを）挟むパン 【用例】 ın ʅəcʃ hceʃ ɔ hɔɒd cɒ hıμl. 昼にサラダとサンドイッチを食べた。
hɔɒdıl ［数学］展開図 ［レベル］4 ʅL
hɔɒdeʃ ［美容］バレッタ ［レベル］6 ȷʅ:hɔɒd/ʃe
hɔɒı ［名詞］栓、コック、蛇口の栓、蛇口の栓、ひねったりして開閉するもの、レバー ［レベル］2 ʅʕ: 制 :hɔɒ
hɔɒıɒc ［生物］骨基質 μʃ;/ ȷʃ
hɔɒc ［生物］軟骨 ［レベル］4 ʅL: 古 hɔɔɒc（やわらかい）
hɔɒcȷ ［サール］ホミス ［レベル］6 ȷeμen: 古 :hɔɒɥə（ドア） ［文化］ ドアを半開きにしていたり開け放しにしていると出てくるサール。甘開きしたドアとサール界をホミスは繋ぎ、サール界に人間を引き釣りこんでは食ってしまう。
hɔɑ ［医療］骨折 ［レベル］3 ʅL:hɔ/ɑɔɒ
hɔφ ［植物］ピーマン ［植物］パプリカ（熟したピーマン）→ hɔɔμe ［レベル］2 lıʅʃı:φ は φɥə（苦い）だと思う。 ［文化］ 子どもが嫌いというイメージがある。
hɔφbıʅ ［料理］チンジャオロース ［レベル］3 ʅL: ピーマン肉。bıʅhɔφ と区別 ［語法］［文化］ ピーマンと牛肉を炒め、タケノコなどを加えた料理。
hɔφl ［名詞］［軍事］リボルバー、レボルバー ［化学］レボルバー。顕微鏡の。 ［レベル］3 μɑ;/hɔl/φc/ıl ȷʔ 【用例】 ıμ hɔφl e φel 銃のリボルバーを倒す（いつでも撃てる状態にする）
hɔd ［名詞］ゴム ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hɔnɔdıȷ（ゴム）。hɔnɔ は固いだが、dıȷ は何であるか不明。 ［文化］ ふつうゴムの木でなく汁から作った物質。ラテックスアレルギーが有名。
hɔdȷ ［医療］骨髄 ［レベル］4 古 :hɔdȷ。hɔ は骨。d はやわらかいとか膨らんだという意味で、骨の空洞のクッションになっていることからだろう。ȷ は不明。
hɔdȷeμcdɔı ［医療］骨髄性白血病 ［レベル］6 ȷȷ
hɔdn ［植物］サボテン、仙人掌 ［レベル］3 ʅʔ: 制 :lıʅʃı:hɔdcn
hɔdl ［化学］絶縁体 ［レベル］4 ʅL:μcɑcı:hɔd
hɔdllccʃ ［物理］分極（誘電分極、電気分極） ［レベル］5 ʅL:hɔdlʃeȷlccʃ だと長いため。
hɔdlıɑɔ ［地学］雲母 ［レベル］5 ʅL: 制と同じネーミング
hɔdı ［料理］グミ、グミキャンディ ［レベル］2 ʅʕ: 制 :hɔd
hɔdc ［植物］アカシア ［レベル］5 ʅʕ: 制 :hɔd
hɔdcʃ ［医療］整形外科、骨接ぎ、ほねつぎ、骨つぎ。筋肉も診る。 ［レベル］3 ʅL
hɔh ［動物］亀、タートル、トータス ［メタファー］のろま、カテージュ人 ［レベル］2 lıʅʃı
hɔhɔ ［名詞］塊 ［医療］結石 ［レベル］2 ɑ;hɔ/hɔ「固い / 固い」 赤 hɔhɔ:hɔhɔ
hɔμʃ,ɑu hıμʃ hɔɔμı/ʃeeze
hɔμʅ ［植物］苔 ［レベル］3 ʅʔ: 制 :hɔμ（緑）
hɔμɑ ［化学］［地学］ダイヤモンド、ダイアモンド、金剛石 ［類義語］ʅlınɑcı ［レベル］2 古 : 固い宝石の意 ［語法］ 魔法や貴金属では通常 ʅlınɑcı。工業用途などでは hɔμɑ。 ［文化］ → ɑɔlɒcɥə 時魔導師の魔石。時魔法の能力が上がる。 恐らく、「硬いがもろい」→「なら圧力には強い」→「重力に強い」→「時空の歪みに強い」→「時魔導師の宝石だ」という発想。
hɔμɑʅıɑ ［地球の国名］スリナム ʅL: 国章にダイヤモンド
hɔμıcuɔln ［生物］骨芽細胞 μʃ;/ ȷʃ
hɔμcφ ［生物］破骨、骨吸収 μʃ;/ ȷʃ
hɔμcφuɔln ［生物］破骨細胞 μʃ;/ ȷʃ
hɔμɔφı ［アトラスの国家］ホルオガ ［レベル］5 ʅL:μcɑcı: 皮膚が赤くなる病気 ［文化］ レイユでアデリックから独立。
hɔμe ［料理］ベルモット。ワインの一種。 ʅʕ: 制 :hɔμμec
hɔl ［名詞］回転、ターン、旋回、スピン、回旋 ［動詞］ɥəl を回す、回す ［天文］自転 ［自然動名詞］［普通動名詞］ひねり、スピン。ビリヤード。 ［類義語］ɒenʅ、ɒeȷ、ɒeɒ ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :hɔlɔ（わっか） ::ȷıc ［語法］ 自分自身が回るのが hɔl。公転のように取り囲むように周るのが ɒenʅ。囲むのが ɒeȷ。 回転軸は３次元の場合、左右が x で前後が y で上下が z → ȷınl 回転の名前は反転しない軸の名前で呼ぶ。例えば lʃıμhɔl は上下および前後に運動するが左右には運動しない。そこで x 軸周りの回転と呼ぶ。直感的には lʃıμ なので z 軸回転と呼びたいところで、注意が必要。
hɔlʃ ［名詞］手回しレバー、ハンドル、ノブ ［レベル］3 ʅʕ: 制 :hɔl ［語法］ 手などで回す棒やつまみや丸みのこと。
hɔlʃbecɥə ［企業］ホルトベイユ ［レベル］6 ȷʅ ［文化］ 三菱重工業に相当する企業。
hɔllezɔ ［物理］回転軸 ［レベル］5 ȷʅ
hɔlȷ ［娯楽］独楽、コマ、こま ［レベル］2 ʅʃ: 制 : 古 :hɔll（回して遊ぶもの）
hɔlȷıʅl ［名詞］ベルトコンベア、ベルトコンベアー、ベルトコンベヤ、ベルトコンベヤー ［レベル］4 μʃ;/「回転ベルト」。輪状のベルト自身が回転することでその上に乗ったものが移動することから。 ȷʃ ［文

化］　回転寿司のベルトコンベアは構造が hɔlɟıl ではないが、表面だけ見えている状態だといかにもベルトコンベアに見えるので、ふつう hɔlɟıl と呼んでしまう。

hɔln ［植物］落花生、ラッカセイ、ピーナッツ、南京豆、ナンキンマメ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 語源不詳

hɔlᴅeᴅbıɔφ ［物理］スピン角運動量　［反意語］ᴅenlᴅeᴅbıɔφ　ul;/「自転角運動量」。地球は太陽のまわりを回る（公転）と同時にそれ自身でも回転運動（自転）をしている。また太陽も自転している。これを原子に当てはめれば、電子は原子核のまわりを公転しながら自分自身も自転している。そのモデルが ul にあり、このようなネーミングとなった。

hɔlb ［名詞］タイヤ、タイア　［レベル］2　1ʔ: 制 :hɔlɔlɔb（車輪のカバー）

hɔloıız ［物理］トルク、ねじりモーメント、力矩　［レベル］6　ɹ1:hɔlle zɔ/ucınoıız

hɔlıɑ ［生物］骨形成　μſ;/　ɹ∩

hɔlılɑıc ［料理］ケバブ、ケバフ　［レベル］4　1∩:μcɑcı: 回転ロースト。幻幻から輸入。トルコ語を訳したものと思われる。　［文化］　羊の肉を回転してローストしたもの。魔方で食べられる。アルバザードでは南方には流入しているが、北方では珍しい。

hɔlɔ ［植物］竹　［レベル］3　μɑ;‹hɔlɔ.llɟ　1ʔ: 制 :lıllſı:hɔlɔɔ（固い筒）　hɔlɔɔ:hɔlɔɔ:lə　'ɔlɔ:hɔlɔ,ılſ,　hɔlɔ,llɟ

hɔlɔ,ɑ　ɔu,　ɔlɔ　e

hɔlɔɑμec ［アイテム］竹刀　［レベル］3　19: 制

hɔlɔdıɑc ［名詞］すのこ、スノコ、簀子　［レベル］3　ɟᴅ;‹ılſ「竹の橋」。すのこの下に水を流し水はけを良くするために用いたことから。　ɹʔ x:hɔlɔdıɑc:lə　hɔlɔdıɑc:hɔlɔdıɑc,ılſ

hɔlɔɔ,ɑu　hɔlɔ　hɔ/lɔɔlɔ

hɔleſ ［名詞］こより、紙縒り　［動詞］ɥəl をこよって ı にする、こよる　［レベル］3　ɹ1:hɔl/ſe

hɔleh ［生物］大転子　μɑ;hɔl/eſ/hɔ「回るような骨」　ɹ∩

hɔı ［生物］殻　［レベル］2　ɑu; ↓　lıllſı: 固いもの　hɔı:hɔı

hɔıllə,ɑu　hɔl　hɔı/llə

hɔın ［化学］固体　［レベル］4　1L:hɔhɔᴅıcn（塊の体）

hɔınlſıd ［化学］ソリッドフォーム　1L

hɔınɟıdſəlɑ ［化学］昇華熱　［レベル］5　1L

hɔınɟıdllı ［化学］昇華点　［レベル］4　1L

hɔınɟıdeᴅ ［化学］昇華、気化　［レベル］4　1L

hɔınɟıdeclı ［化学］ソリッドエアロゾル　1L

hɔındɔeſ ［医療］嚢腫　1L:ɟeμen

hɔıneɟcſəlɑ ［化学］融解熱　［レベル］5　1L

hɔıneɟcllı ［化学］融点　［レベル］4　1L

hɔıneɟceᴅ ［化学］融解　［レベル］4　1L

hɔıneᴅɟ ［化学］脂　［レベル］3　1L

hɔıneclı ［化学］ソリッドゾル　1L

hɔıμl ［生物］［医療］骨会　μɑ;/　ɹ∩

hɔıcɑıl ［生物］節足動物　［レベル］4　ɹɹ: 硬い殻と関節を持つ門　［語法］　昆虫類、甲殻類、クモ類、ムカデ類など。【用例】　以下はルシアの日記の抜粋。節足動物を hɔıcɑın と勘違いして覚えているのが散見される。　ɹʔ ɑıu ɑcı　uelcz lənıſ lılᴅ lenın enſɔ ᴅııl cl rlɔlc. ᴅııl ɟeſııſ cl uelcz lɔllɔ ᴅıcſ ıſə. hɔıcɑın eſ dcſ ɑııl ıſc ıllı lɔſ μəᴅı enſɔ Δ0 ɔlɟφıl ſ'cl μəᴅı eſ ſəəɟ. ſə eſ zıl lel ɥəə hɔıcɑın lı lılᴅ le nın ɑcen hɔıcɑın ſcl 1Ϯ0 ɟen ıɟ dcſ. ſə ɑcı eſ lıl lɔllɔ hɔıcɑın. ſeſ ɥəə ız ɑμıl ɥəə eɟ lıſ ı lılᴅ e ɟelın. lɔᴅɔ nɔn nı lılᴅ ſ'eμn e ɥəə ᴅı eſ ɑeɟdel eə.　ɹ01ɹ 年 10 月 ∩ 日　家に虫が出て、お母さんが発狂した。お母さんは薬で虫を全滅させた。　節足動物は全生物の Δ0% を占める、最も繁栄した種だ。　1Ϯ0 万種もの数がありながら節足動物が家の中にいないというのは不思議なものだ。　この世界は節足動物で溢れているにもかかわらず、住居に侵入しているのはゼロかほぼゼロだ。　なんとなく人間の住居というのは結界のようなものだと感じる。　・おまけ　なんでさっきの日付の日記をアップしたのかというと、日記を付ける習慣のないユルトが珍しくこの日日記を付けていたから、息子と娘で内容比較できると思って。　ユルトはまだキーボードを打てないので、ノートに書いたものを僕が見てタイプして訳しました。まぁこれが通常のϮ才男児だよなぁと実感。　uelcz ɑc ɔ ɑc. nıſ ᴅelcɟ. ᴅııl uellıſ ɔ uellıſ. nıſ ueᴅ. beeb ſcnllı lı μı. ᴅıᴅı nılıſ ſcnlıl. nellıſ ı lɔue ɔl lcı. nıſ bın.　虫、いっぱいいっぱい。キモかった。お母さんがギャーギャー。怖かった。おウチすごく臭い。ママすごく笑ってた。紫亞とクローゼットに隠れた。楽しかった。

hɔc ［名詞］監督、管理、監視、管理運営、監査　［経済］監査　［動詞］ɥəl を管理する、管理する、監督する　［電算］［動詞］ɥəl をフォローする、フォローする。ツイッターなどで。　［類義語］ᴅeɟſc　［レベル］2　古 :hɔc（監督）。しっかりと見るが原義。【用例】　hıɔ. ınɟ hɔc lccſ lɔl. もちろん。相互フォローしましょう。　lɔl ᴅcɟenſınſ ᴅın ſc hɔc ın ɟccnı. ın eſ ᴅcue ſ'ıμllı ɔ leucın. こちらこそフォローありがとうございます。まだアルカも人工言語もひよっこです。

hɔcllıln ［名詞］監視カメラ　［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbılelſ

hɔcn ［電算］モニター（画面のモニターではなく）　［レベル］5　1ſ: 制 :hɔc　［語法］　送信録音を担う機械。画面としてのモニターではない。

hɔcuell ［経済］管理会計　1L

hɔcφıμſ ［経済］管理費　［経済］一般管理費　［レベル］5　1L:μcɑcı:ıμbılelſ

hɔcın ［名詞］観察者、観測者、監督、管理人、管理者、フォロワー、ツイッターのフォロワー、ディレクター　［レベル］2　1L:ᴅelcɑcı ılſe　［文化］　集合住宅の管理人はその集合住宅の住人でもある。ゆえにふつうに一室を借りて住んでいる。

hɔɔl ［動詞］ɥəl を回転させて巻く、巻く　［レベル］2　ɹ0:hɔl/llɔɔl（巻物のようにくるくる回転させる）

hɔɔlᴅell ［名詞］ねじ巻き式時計　［レベル］5　ɹ0　［文化］　ナディアで廃れた。

hɔɔɟı,ɑu　hɔɟ　hɔ は「頑丈」

hɔɔn ［形容詞］ぽろぽろ、ぼろぼろ、ポロポロ、そぼろな　［名詞］おがくずやそぼろ肉のようにポロポロこぼれたもの　［名詞］おがくず、オガクズ、大鋸屑、オガ屑　［レベル］3　1ſ: 制 :hɔɔ

hɔɔᴅc ［形容詞］柔らかい　［形容詞］パフォーマンスの良い、ハイパフォーマンスな、高性能な、調子が良い　［反意語］hɔnɔ　［レベル］2　ɑ;hɔnɔ/ᴅɥə「固くない」　赤　hɔɔᴅc:hɔɔᴅc　［語法］　hɔnɔ　【成句】　hɔɔᴅc eſ ucen nɔɑ hɔnɔ. 柔よく剛を制す

hɔɔᴅcncı ［美容］軟毛　［レベル］5　ɹ1

hɔɔᴅclcnɟ ［地学］輝安鉱　1L

hɔɔᴅclɔbɔ ［名詞］ソフトカバー。本。　［レベル］4　μɑ;/　ɹʔ

hɔɔd ［医療］錠剤、丸薬　［反意語］heeɑ　［レベル］3　1ʔ: 制 :hɔɔdcſı

hɔɔμı ［悪魔］ホーラ、赤の悪魔ホーラ　［料理］トマトを煮込んだときに出てくる赤い灰汁、灰汁、あく　［レベル］4　ᴅelſcı 0:hɔɔμı;e　μcɑcı: 古 :hɔɔμı（赤）。赤アンクノットにも記載。　［文化］　赤い毛で覆われた怪物。攻撃的。　プスホーラとペアをなす。ホーラ・プスホーラを使った子供を怖がらせるための話がある。古アルカにおいて男がやっていけない７つのことと、女がやってはいけない１４個のことをすると、７月３週目の第６曜日（この時点の暦では存在しない暦とされた）にホーラがやってきて、親の首を刎ね、子の腕脚を刎ね、眼前で食い、子を頭から串刺しにして門前に立てる。プスホーラは頼むと助けてくれるが、誤って怒らせると男子は皮を剥がれ、女子は股から縦に引き裂き、右半身をホーラ。左半身をプスホーラが食らう。　赤いもじゃもじゃした姿の悪魔。

hɔɔμı,lɟl　hıμ　hɔɔμı

hɔɔμılccɑı ［天文］ベテルギウス　［レベル］5　1L:μcɑcı/ɟeμen/ᴅel　［文化］　ヴァステにおいてアルミヴァがフレスティアと戦った際、護衛の悪魔ホーラ・プスホーラ・テクラ・インプラががっちりフレスティアを囲んでいたために倒せなかった話は有名。そのときニムラが位置したのがオリオン座である。ホーラがベテルギウス、プスホーラがベラトリクス、テクラがサイフ、インプラがリゲルである。そしてリゲルからフォーメーションが破られた。　中心にいるのは悪魔フレスティア。フレスティアの右手がアルニタク、左手がミンタカ、頭がアルニラムである。そしてアルミヴァはオリオン星雲にフレスティアを封じ込めた。

hɔɔμe ［植物］パプリカ← hɔφ　［レベル］3　制 : 古 :hɔɔμı

hɔə ［化学］塩（えん）、化学物質の塩のこと　［レベル］5　古 :hɔ（硬い、塊）

he,ɑu　副詞を作る接続詞。ɑe からできた le がさらに弱化したもの。bıɔφ he ucuc のように使う。ᴅelſcı ∩ 以降は語順が逆転。　ɑu:ɟııl;le.l

heſ ［名詞］尻尾　［動詞］ɥəl をする、する、スル、盗む、スリをする、ガメる：ネコが尻尾で物を盗むという言い伝えから（リディアによる古時代の発案）　［電算］端末　［言語］［文字］テール　［類義語］ɑlıɥə　μɑ; Xı, Xe　［レベル］2　1∩: 制 : 古 :hı　Xı, Xe:Xı, Xe:lə Xeſſe（棒状）　［語法］　日本語の「する」と違って大きなものを盗むときにも使える。【用例】　heſın lı ɑμeᴅ ıſə cn. スリがこの辺りにいるはずなんだが。

heſſcs ［言語］脚韻　［レベル］4　ɹʔ

heſſeᴅel ［歴史］近代、μſ_ul　［レベル］4　ɹ1　［語法］　ᴅcμᴅel

heſſel ［法律］［普通動名詞］横領、横取り　［動詞］ɥəl を c から横取りする、横取りする　［レベル］3　ɹ1:heſ/ 古 l

heſleμſ ［約物］）記号　［レベル］3　ɹ1

heſlezl ［生物］尾索　1L

heſɟ ［動詞］ɥəl をじらす、じらす、焦らす、じれる、焦れる　［形容詞］（heſɟın で）じれったい、焦れったい　［レベル］3　μɑ;heſ/ɟɔ「しっぽする→猫がしっぽをゆらゆらさせて焦らすことから」　ɹʔ

heſɟeu ［言語］後付け　［レベル］4　ɹ1

heſᴅeu ［言語］接尾辞　［レベル］4　1L

heſhıɹ ［言語］末尾文字　［反意語］ɔɟnhıɹ　［レベル］5　ɹɹ:ᴅel

heſhɔ ［生物］尾骨　［レベル］5　ɹɹ:「尻尾のような骨」

heſheſ ［電算］Ｐ２Ｐ、ピアトゥーピア　［レベル］5　1L

heſμecſ ［言語］文末純詞　［レベル］4　ɹɹ

heſlɔſɟ ［電算］エンドキー　［レベル］5　ɹ0

heſıɑc ［言語］文末音調、連接、ジャンクチャー　1L　［語法］　アルカではいずれも区別がなく、文末の 8 などの音調を指す。

heſıμucs ［約物］］記号　［レベル］3　ɹ1

heſcncᴅ ［美容］テールコーム　ɹ1

heſe ［名詞］裏、ウラ　［名詞］見えない面　［名詞］真意、隠された真実　［動詞］ɥəl を裏返す、裏返すめくる　［動詞］ɥəl（嘘などを）あばく、あばく、暴く、ばらす、バラす、バレる、ばれる→ ɑce　［格詞］～の裏に　［反意語］ɥəlɔ　［レベル］2　1L: 尻尾の顔（面）【成句】　lılſ heſe 実際は、実質は、実質的には【用例】　ləɟ nɔın ıſ heſe ᴅcl ſeeze. スカートが風でめくれた。　"ᴅın ɑcı ɟcl ɟeɑɔ ɔl ɑce lıᴅ eᴅ heſe.「だって最初の嘘が

ばれてしまったら、世界は消えてしまうから。

heſeſ ［名詞］裏、表面下 ［形容詞］裏の、表面下の ［形容詞］非正規の、違法な ［反意語］ɥəleſ ［レベル］3 μΩ;heſe/ſe Jˀ

heſeſuecz ［名詞］裏動画、裏ビデオ ［レベル］4 Jˀ

heſeſlec ［名詞］裏本 ［レベル］4 Jˀ

heſeſiluc ᴅ ［生物］上腕三頭筋 ［レベル］5 J⋔‹J]

heſeſɔllucᴅ ［生物］大腿二頭筋 ［レベル］6 J⋔‹J]

heſen ［接続詞］heſe ［レベル］3 μΩ;/ Jˀ

heſeɪnſɔucᴅ ［生物］下腿二頭筋 ［レベル］6 J⋔‹J]

hel ［名詞］手紙、メール ［類義語］helli ［レベル］2 1ˀ: 制 : 古 :heli（伝える、手紙、はがき） heli:heli ［語法］ 件名は ɔlᴅɪ で内容は ΩɔJᴅ。 【用例】 lɪnſ hel 手紙を送る、出す ɪn ɪlſɪſ lɪl eᴅ hel ɪ ɑc. 誰かに手紙を書きたくなった。

hel,ɑ lɪl

helſdɔl ［地名］沙方 ［レベル］5 J0:helſɪμ ［文化］ ヘクター及びアルヘクター地方。

helſɪμ ［地名］ヘクター ［レベル］6 J0:「尻尾」［文化］ 竜の尻尾と呼ばれる土地で、ヴァルマレアとヒュグノーの部分。

helli ［名詞］手紙 ［類義語］hel ［レベル］3 J1:μcΩcɪ/ləlcɪ:hel ［語法］ hel に比べてやや幼い感じがする。

helliΩ ［地球の国名］グアマテラ 1L: 国章に手紙（おそらく条文か何か）

helJ ［動詞］ɥəl を ɪ に添える、添える、そえる、添付する ［レベル］3 1⋔: 制 :hel から

heli,ɑu hel、ɔlſ ‹hel,ɑ

heJſcɪ ［軍事］少将、ヘスティア ［組み数字］5／２０ ［レベル］3 1L:μcΩcɪ:lɪJſcɪ（死の神のような）→語頭を h にするために hɪJſcɪ →語頭が hɪ だと大将とかぶるので母音を e に ［語法］［文化］ lɪnɪ

hen ［名詞］古アルカの８ 赤→ JcΩɪll

hen,lJl Δ həəφc.l

hen,ɪlſ heᴅd heᴅd,ɑu.l

henli ［料理］おから ［レベル］3 Jᴅ;henli,ɪlſ「大豆の粉」。きなこではない。 J] ［文化］ Jᴅ で豆腐とともに流入。ul の健康ブームで全土に広まる。南部ではごま油や山菜などと和えて食べられる。

hensc ［名詞］筆 ［類義語］liz、ell ［レベル］2 Jᴅ;Xensc,Jzl J1 ::lə Xensc（棒状なので） ［文化］ → ɑcn 少なくとも zφ ではカルセール人が用いていた。アルティア、ルティアへ。Jᴅ でアルバザードへ。現代ではアートなどに用いられる。アルバザードはペンが主流なので日常的には用いない。

henɪn ［植物］びわ、ビワ、枇杷 μΩ;‹ᴅe J⋔

henɪnᴅəedɪɑ ［化学］酢酸オクチル 1L

henɪnΩclɑɪc ［医療］ビワの葉灸 μΩ;/ J⋔

hene ［動物］蛸、たこ、タコ、オクトパス ［レベル］2 古 :hen は８。e は水。 ［文化］ アルティア人の影響を受けてアルバザード人もたまに食べる。

heᴅ ［形容詞］狭い ［反意語］hɪn ［医療］狭窄 ［レベル］1 1ˀ:Jeμen:llel:hɔᴅ。制では閉める。 【用例】 ez heᴅ{lcJ} 狭い部屋

heᴅſ ［料理］味噌、みそ、ミソ ［レベル］2 lɪlſɪ:heᴅſ。heᴅd から来ている。 ［文化］ ロロス原産の調味料。μΩ でルビィら忍者によってアルシェにもたらされた。醤油ほど一般的ではないが、アルバザードでも買える。

heᴅſΩclɑɪc ［医療］味噌灸 μΩ;/ J⋔

heᴅſleᴅc ［料理］味噌汁、みそしる、みそ汁 ［レベル］2 Jᴅ;ɪlſ の訳語 1L:μcΩcɪ:ɪμbɪlelſ

heᴅſclᴅ ［名詞］タブロイド、タブロイド紙 ［反意語］hɪnſclᴅ ［レベル］5 μΩ;/ J⋔

heᴅliΩ ［地学］狭い国、ミニ国家 ［レベル］5 1L ［語法］ hɪnliΩ

heᴅnɔJlccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］少北斗七星 J⋔ ［文化］ cɑɪ

heᴅu ［言語］符牒 ［レベル］5 1L:heᴅueſ（狭い集団で用いられる言葉）集団の占める面積が狭いことを指すので、この場合のメタファーは heᴅ でよい。 ［語法］ パスワードでも暗号でもない。〇番で「トイレ」を指すデパート用語など、仲間内の言葉を指す。

heᴅuleucɪn ［言語］符牒型人工言語 J] ［語法］ 暗号のように隠して使うのが目的ではないが、仲間内だけで使うことを想定したもの。制・新アルカなど。

heᴅφɪμ ［名詞］シングル、ＣＤシングル、シングルＣＤ ［レベル］4 ɪl;/「狭い円盤」 Jˀ

heᴅd ［植物］大豆 ［レベル］3 ɑu;e lɪlſɪ heᴅd:heᴅd::hen,ɪlſ

heᴅddɪlcl ［化学］イソフラボン ［レベル］6 ul;/。大豆に多く含まれるフラボノイドであることから。 Jˀ

heᴅdɪ ［地球の国名］フィリピン ［レベル］6 古 : ８つの光（hen/dɪɪ）が原義。

heᴅb ［料理］しょうゆ、醤油 ［レベル］2 1ſ: 制 :heᴅd/bell ［文化］ アルティア産の調味料で、ルティアを経由して μΩ でアルバザードに入った。アルバザードの軟水に合うため、現在では一般的な調味料としてうどんなどに用いられる。ただし刺身の習慣はない。

heᴅsenſc ［地球の国名］バチカン ［レベル］6 1L: イタリアの中にある狭い国

heᴅɪJ ［経済］勘定、ビル、お勘定 ［レベル］3 μΩ;heᴅ/ᴅɪJ「小さい紙」 Jˀ

heᴅɪJᴅɪſ ［経済］割り勘、ゴーダッチ、わりかん、ワリカン ［レベル］3 μΩ;/ ［文化］ ſɪoɪ, ᴅcnΩɪz 【用例】 ɪnJ ɪμɪſ heᴅɪJᴅɪſ li ſə belɪſe. 私たちはそのレストランの代金を割り勘にした。

heᴅelJ ［名詞］狭義 ［形容詞］狭義的な ［反意語］hɪnelJ ［レベル］5 J0

heᴅeJ ［被服］ボルサ μΩ;‹XeᴅeJ,ɪμΩ.l「尻尾の（垂れ下がった）袋」 J⋔

hed ［感動詞］へっ？、えっ？ ［レベル］2 古

heμl ［地球の国名］カナダ ［レベル］4 古

heμl ［植物］マンゴー ［レベル］3 1ˀ: 制 :lɪlſɪ:heμ/ 古 lɪlc。黄色い卵。

heμen,ɾlu ᴅccl Jɪɪμ(lɪlJeel);ɾlu でサールの一族が現ヴェマ北部で発見。後に栽培。エルトに伝わり、人類にも伝わった。

hel ［動詞］ɥəl を思い出す、思い出す、思いだす ［感動詞］あ、そうだ、そういえば、そう言えば。思い出したときにいう。 ［感動詞］ほら。相手に言う場合は何かを思い出すのを促すときに使う。 ［レベル］2 1ˀ: 制 : 古 :helɔ（頭に聞く） 【用例】 hel, li lənɪ uɪn ɪn cᴅ ɑcJ lɪ. あ、あいつ今日来るんだったっけ。

helſe ［建築］さげもん、吊るし飾り ［名詞］オルゴールメリー、メリーゴーランド、メリー ［レベル］1 ll;helſe,ɪlſ.l Jˀ x:helſe:lə helſe:heləſe,ɪlſ ［文化］ ll の凪で興った。邪気を払うために室内にちりめんで作った人形や飾りなどを吊るしておいた。その習慣が飾りとして Jᴅ でアルバザードに流入し、ちりめん以外の様々な材料を使った豪華絢爛なさげもんが宮中を中心に興った。lſ には Jᴅ で入ったが、ここではちりめんの代わりに花飾りが流行し、生花や造花を吊り下げるように発展していった。 nΩ では一般家庭にも浸透し、ɪl 以降も部屋の装飾として好まれる。特に子供のいる家庭で多く行われる。 また、赤ん坊をあやすために天井にくるくる回る音の出る玩具（オルゴールメリー）を置いておくことがあるが、あれの名前も helſe である。元はちりめんでできたものだったが、時代を経るごとに機械化され、ul では回転したり音が鳴ったりするようになった。

helᴅ ［生物］膵臓、すい臓 ［レベル］4 1ˀ: 制 : 恣意

helᴅɑɪcz ［医療］膵炎 ［レベル］5 1L

helᴅdcφ ［医療］すい臓がん、膵臓がん、膵臓癌 ［レベル］6 1L

heldɪc ［言語］ヘルパイ、字返し、繰り返し記号 ［レベル］2 古 : 始めは波ダッシュの字形だったが、ɑ を二つ重ねた形になり、後に ɑ 形になった。制アルカではこれだとややこしいので、ɑɑ の字を繋げて書いた新たな字形をセレンが作った。 ［語法］ 前の音を連続させる文字。

heleſ ［被服］フロック nΩ;heſ/eſ。尻尾のように長くなっていることから。 J⋔ ［文化］ nΩ_μſ まで着られた。男性服。富裕層向け。

heləſe,ɪlſ helſe ll;‹›Xɪ「尻尾のように垂れ下がった」

hec ［感動詞］やぁ、やあ、よう、よぅ、へい、よお、なぁ、ねえ、ねぇ ［レベル］1 古 ［語法］ あまり丁寧でない。

hecli ［名詞］ハガキ、はがき、ポストカード、葉書 ［レベル］3 J1:μcΩcɪ‹heli: 古 【用例】 lɪnſ hecli ハガキを出す

hecJſ ［地名］ヘイスト ［レベル］6 J0 ［文化］ 古アルディアル西南部の都市。メルテナではレスティルは現ディミニオン西南部も占めていたが、hecJſ はアルディアルの領土で、現ディミニオンの都市。

hecJɔɔ ［感動詞］［lben］［μΩen］Jɔɔnɔ ［レベル］2 1L:ɔuc:hec, Jɔɔnɔ の短縮

hecɑɪ ［名詞］コンドーム、サック、浮き袋、ゴム、ラバー、ルーデサック ［レベル］4 古 : クミールが作った全く語源のない造語。古アルカには hecɑɪ という音に近い語がなかったので、「 他の語と聞き間違えて恥ずかしい思いをしなくて済む 」という理由でこの音形が選ばれた。だからなぜ hecɑɪ でコンドームを示すのかといわれても、クミールがぱっと思いついたのが原因だとしか言いようがない。 ［文化］ dɔſleeu 【用例】 eu{Jɪb} hecɑɪ コンドームを付ける

hecᴅ ［宗教］修道士、修道女 zφ ［レベル］4 J] ［文化］ アルヴェーテやアリスカンテなどの修行に身を置く人のこと。

heeɑ ［医療］散剤、粉薬 ［反意語］hɔɔd ［レベル］3 @ 1L

həᴅ ［動詞］ɥəl を口ずさむ、口ずさむ、くちずさむ ［レベル］3 古 : 擬音語から

həɪ ［動詞］ɥəl を ɪ にふわっと投げる、投げる、コインを投げる、トスする ［レベル］2 古 【成句】 həɪ φɪlΩ hɪl ſees, ſɔſɔ テージュ海の上でコインを投げたら～だ。運任せでいたら～になった :μΩ でテージュ海の魔人と戦った際、作戦に困ったアルシェが運任せでコインを投げて運命を決めたことから。 həɪ φɪlΩ hɪl ſees, lcᴅ ɥəlɔ 運任せでいったら大当たり。なお、heſe だと大外れ。

həə ［擬音］ふぅっ。息をつく音 ［レベル］2 1L:ənclec

həəφc ſcdJ ɑcl、ɑμec ɑen ȣ/φc

həəd ［擬音］ふーふー ［レベル］1 J0 ［語法］ 冷ましたりするときの音。 【用例】 lɪl həədhəədȣ ふーふーしてあげようか？

hɜſ ［感動詞］はっ、ふん、へっ ［レベル］2 ſᴅ;ɑɔueſ Jˀ

hɜᴅ ［感動詞］へぇ、ふん ［レベル］2 ɑ;ɑɔueſ 古

hɜμ ［感動詞］え、はぁ ［レベル］2 ɑ;ɑɔueſ 古

Xɪ,ɑ heſ

Xɪnɔc,ɑ hɪnɔc Xɪ=heſ, c=cn

XɪμΩcɪn,ɑu hɪμΩcɪn ᴅelſcɪ Lᶲ Jen ucɪ;Xɪ/Ωcɪ「尻尾のような土地」

Xɪɪn,ɑ eᴅ ‹›Xɪ

Xɪə,ɑu 尻叩き Xɪ はしっぽ→尻。

Xc,ɑ hce e

Xcı,ɑ hcı Xc/ıl
Xɔəɲʃ,ɹzɒ hınɔc hınɔc.l
Xe,ɑ heʃ e
Xeʃʃe,ɹzɒ heʃ <> Xe,ɑ
Xensc,ɹzl hensc Xeʃʃe/sc
Xeɒeɲ,ıɥɒ heɒeɲ Xe/ɒeɲɲı

ɥ

ɥ,lɥ 対格の接尾辞。読みは c。 sə.l

ɥı [感動詞] うん、はい、えぇ、ええ、ああ、あぁ、わかった、そう、そうだ [レベル] 1 古 :nnɥı,ɥı（肯定の相槌の一種）ちっちゃい「ン」＋「ヤ」といった感じ。 【成句】 ı ɥı あぁうん、あぁそう、えぇまぁ

ɥı(J) [南方] [文末純詞] ɒı, ɒe, ı, e [レベル] 3 J1

ɥıʃ [南方] [接尾辞] 過去動詞語尾。閉音節でしか使わない。開音節では ʃ。 [レベル] 3 J1

ɥıʃʃe [文末純詞] [φnɔ] lɔl [レベル] 1 J1:llccz:"ɥı" ʃe8「『そうです』だろ？」の語彙化。

ɥıl [名詞] 準ずるもの、本来あるべきものではないのだがそれに近いもの [形容詞] 準〜、亜〜、セミ [接辞] 複合語の前置要素で、「〜に近い」という意味を表わす。「 瀕死 」などの「 瀕 」に当たる。 [レベル] 3 19: 制 : 恣意。古アルカではこの ɑcɥɒ という語が数字の」の ɥɔə になった。そこで ɑcc は」というところからきて「 準じる 」という意味を持った。 【用例】 ʃcın ɥıl 恋人未満

ɥılʃcɒ [地学] 準長石 1L

ɥılʃcın [名詞] カノジョ未満 [レベル] 3 1L:ɒelcɒcı ılʃe

ɥılli ulınɒ [人名] ヤッカ＝ヴランド [レベル] 4 J1 [文化] リーファ隊ハネスの本名。

ɥılɲıl [名詞] 教頭、副リーダー、副班長、副長、副社長 [レベル] 3 1L

ɥılɲɔɥɲueʃ [電算] ニーモニック [レベル] 5 1L

ɥılɲɔɥɲelɒ [電算] アセンブリ言語 [レベル] 6 1L

ɥıluıφ [言語]準ネイティブ [名詞][形容詞]半野生 [レベル] 5 ɥɒ;/ J⋔ 【用例】 lclɲ, ɥıluıφ ʃın ɲeɥ ʃə lıɒclel. 厳密には準ネイティブもであろうが。

ɥıluɔɥʃ [医療] 仮死 [レベル] 4 J0

ɥılɒıɥ [名詞] [形容詞] セミオート、半自動。銃や自動ドアなどに用いる。 [レベル] 4 ɥɒ;/ J⋔

ɥılɒıɥφel [軍事] セミオートマチック、セミオート、半自動 [レベル] 5 ɥɒ;/ J⋔ [文化] φel

ɥılhıɾɒı [名詞] 準ハルマ [レベル] 4 19: 制 : 準ハルマ

ɥılhɔʃ [形容詞] ほとんど、ほぼ〜だけ、ほぼ唯一 [レベル] 3 J0

ɥılı,ɑ ɹɔɑ lıɥı の対

ɥılıɒcɹɔ [言語] 半子音、半母音、わたり音。o,ɥ のこと [レベル] 4 1L

ɥılılʃcın [名詞] カレシ候補 [レベル] 3 1L:ɒelcɒcı ılʃe

ɥılılʃees [名詞] 準決勝 [レベル] 3 ɥɒ;/ J?

ɥılcɑın [天文] 準惑星 [レベル] 4 J0

ɥıleni [普通動名詞] 半べそ、半ベソ、半泣き [レベル] 3 J0:lılce

ɥıɲ [植物] タバコ、たばこ、煙草、シガレット、紙巻たばこ [レベル] 3 1?: 制 :lılʃı:ɥıɲı「毒の煙」 [文化] → ləzφcn 革命中は一時麻薬扱いで禁止された。 たばこはぜいたく品に分類される。そのため消費税のほかに、別途たばこ税がかかる。またその消費税には、軽減税率が適用されない。 副流煙による周りの人への健康への被害があるため、街中等公共の場所でタバコを吸うことはできない。タバコを吸うための場所が特別に用意されているので、その場所で吸うことになる。また自宅の場合は、通常家族を配慮して、人のいないところで吸う。 【用例】 ıɥ ɥıɲ 煙草を吸う、喫煙する

ɥıɲləz [俗語] タバコ厨、喫煙厨、ヤニ厨 [レベル] 5 ɥɒ;/ J⋔ 【用例】 ııl ɥıɲləz eʃ ɑəɔ enʃɔ ın φııl ɲıʃ ɒcɑel. ɥe ʃcl dcıɒɔɑlhɔɲ ɔl ıɥ lıl ɥıɲ lı lınʃ ıɾ 特にヤニ厨は怒鳴りたくなるほどひどい。外で吸いたいなら灰皿携帯しろよ！

ɥıɲɑcɒn [名詞] 吸殻→ ɑcɒn [レベル] 4 ɥɒ;/ J⋔

ɥıɲlɔɥ [名詞] キセル、きせる、煙管、パイプ、マドロスパイプ、シガレットホルダー [レベル] 5 1L

ɥıɲeɲʃı [名詞] ホタル族、ほたる族、蛍族 [レベル] 4 ıl;/「タバコ蛍」 J? [文化] 屋外でタバコを吸う人のこと。ıl ごろから喫煙者の肩身が狭くなるにつれて出現した。

ɥıɲeld [化学] ニコチン [レベル] 4 1L: 煙草のピリジン

ɥın [格詞] [文頭純詞] そして、また、中順接 [格詞] [文頭純詞] しかし、だが。反論の順接→ ʃıl [レベル] 1 古 :ıluɔl,ɥın（等位的なものを添加、並列するときの接続詞）。ɥın は肯定を意味する ɥı からきた。 lɔɔ:lɔɔ:dıɑeʃ:ʃɲəlcɹɔ,ılʃ [語法] ɹɔn と違って並列するときに使う。原因結果の関係ではない。 【用例】 ɥın lı ləʃ. そして彼は言った。

ɥın(J) [名詞] nɥın の異形態 [レベル] 1 JJ [語法] 敬称。ɹ,l などで終わる単語の後に付く。ılcɲ → ılcɲɥın のように。発音は「ありしゃん」だが、正確には「しゃ」でなく「すゃ」という感じ。

ɥınʃ [形容詞] 中途半端な、ハンパな、悪く事足りている（＝悪い意味で１００％でない＝中途半端） [レベル] 3 JJ:ɥıɒʃəuık<1L:clɒəɲ:ɥcɒcı

ɥınʃləc [動詞] ɥəl をつまみ食いする [普通動名詞] つまみ食い [レベル] 3 J18

ɥınnı [遊女] [文末純詞] ɒı, ɒe, ıınɔ [レベル] 4 J1:ɥı/nɔnnɔ

ɥıu [言語] 節、クローズ [レベル] 4 1L:ɥıl/uɔl

ɥıɑıl [天文] クエーサー、準星、クェーサー、クエイサー [レベル] 5 J0:ɥıl/dılcɑ

ɥıɒ [形容詞] 悪い [反意語] ɥıʃ [レベル] 1 1L: 赤 :ɥııɒɔ ɥııɒɔ:ɥııɒɔ::lınlə,ılʃ 【用例】 ɹɔɔl ɥıɒ 悪い行い

ɥıɒʃɔɔl [娯楽] バッドエンド、バッドエンディング、ＢＥ、ＢＥＤ、ＢＡＤ [レベル] 4 ul;/ J?

ɥıɒɹcdıl [医療] 呼吸不全 [レベル] 5 1L

ɥıɒɑɔəʃ [音楽] 音痴、おんち、オンチ [レベル] 3 J0: 悪い音程 【用例】 lı eʃ ɥıɒ ɔn ɑɔəʃ 彼は音痴だ。 lı eʃ{ʃcl} ɥıɒɑɔəʃ 同上

ɥıɒɒcɑnıɒ [医療] 自律神経失調症 [レベル] 5 1L

ɥıɒɒcɔ [医療] 虫歯、う歯、齲歯 [レベル] 2 1L 【用例】 ʃcl ɥıɒɒcɔ 虫歯になる lei ɥıɒɒcɔ 虫歯を治療する→ ɒcɔ

ɥıɒd [動詞] ɥəl をぶれさせる、ブレる、ぶれる、ぶらつく、ぶらぶらする、ふらふらする、フラフラ [魔法] ヤンプ（ブリンク）。利の低位白魔法。自分の体をブレさせ、攻撃の命中率を下げる。あまり役に立たない。 [レベル] 3 1L:ɥıɒ/ɒıφ/dəɥ（ぶれてにじんだように見える）

ɥıɒdılɲ [医療] 不整脈 [レベル] 5 1L

ɥıɒdcʃɒ [医療] 肝不全、肝障害。アルカでは両者まとめて指す。 [レベル] 5 1L

ɥıɒdcnɲ [医療] 乱視 [レベル] 4 1L

ɥıɒbez [医療] 尿毒症 [レベル] 6 1L

ɥıɒbezɒ [医療] 腎不全 [レベル] 5 1L

ɥıɒɥɔl [動詞] ɥəl を乱用する、乱用する [普通動名詞] 乱用 [レベル] 4 1L

ɥıɒzcɒ [医療] 顎関節症 [レベル] 6 1L

ɥıɒlccl [生物] 悪玉菌 [レベル] 4 JJ:ɥcɒcı

ɥıɒı [名詞] 短所、欠点、欠陥 [経済] 欠陥 [類義語] hcɲeʃ [反意語] ɥıʃı [レベル] 3 1L:lecn:ɥıʃ が ɥıʃı になるのを参考に、ɥıɒ を ɥıɒı にした。 【用例】 lı ʃcl ɥıɒı ɒel lecʃ. 彼女は頭が悪いという欠点がある。

ɥıɒıʃ [医療] ジストロフィー [レベル] 6 1L:ɥıɒ/lınʃ

ɥıɒıucn [経済] 不況、不景気 [レベル] 4 J0

ɥıɒıɒcl [植物] [医療] 粗悪艾、粗悪モグサ ɥɒ;/ J⋔

ɥıɒıll [言語] 忌数、忌み数 [反意語] ɥıʃıll [レベル] 4 J1 [文化] ɥıʃıll

ɥıɒııʃɒɔl [経済] 欠陥商品 [レベル] 4 1L

ɥıɒc [アトラスの国家] ヤミ [レベル] 5 J?:ɥcɒcı

ɥıɒc,ılʃ lecɲ

ɥıɒcnɲ [医療] 弱視 [レベル] 4 1L

ɥıɒɔɥʃ [医療] 月経異常 [レベル] 5 1L

ɥıɒe [交通] 自転車 [類義語] uınφıɥɒ [レベル] 2 1?: 制 : 古 :ɥɔəhɔlɔ（二輪手動車） [文化] → uınφıɥɒ 個人で買う人はスポーツ仕様。ママチャリは本来カレンにしかなく、Ｔチャリがメイン。Ｔチャリは駐輪場に置いてあり、アンセをかざせば使える。銀色のバーを錠代わりに自転車が留められている。アンセをかざすと使用者データがバーを通じて役所に送信され、バーが外れる。無料で借りられる。男性用は青、女性用は赤、子供用は黄色。それぞれサイズが異なる。ライトは付いている。冬になると５時くらいで暗いため。

ɥıɒelı [交通] 駐輪場 [レベル] 3 1L:ɥcɒcı:ıɥbıleʃ

ɥıɒeɑɔnʃ [交通] 自転車道 [レベル] 3 1L:ɥcɒcı:ıɥbıleʃ [語法] lınɑɔnʃ

ɥıɒeɥ [人名] ヤメール [アクセント] ɥıɒEɥ J0 [文化] (ɥəəɒı ʕ9⋔ɥ:ʕLL⋔) ɥəəɒı ʕLL⋔ 旧アルティリア高官 ɥıɒeɥ、イクスタンがウロのもとを離れたのを機に、10 歳のウロを暗殺。しかしわずか 10 歳のウロに返り討ちにあう 翌日 ウロはヤメール派を洗い出し、城門前でヤメール派及びその家族を引き回した上虐殺。高官の拷問は法律で禁止されており、斬首か絞首刑が量刑によって選ばれたが、ウロは拷問の末に凄惨な処刑を行った 同月 ウロに対する国民の暴動が起こる。10 歳のウロは主導者 ınzen を単身本拠地に乗り込んで捕らえ、城門前で高官らと同じように処刑。ınzen 一派も処刑され、少年ウロの恐怖政治に国民は静まり返った

ɥıɒeɥcɒ [医療] 心不全 [レベル] 4 1L

ɥıφıı [俗語] ペチャパイ、ぺちゃぱい、まな板、まないた、ちっぱい、ちっぱいぱんのちっぱい [類義語]leczɒıɒ [レベル]4 ɑu 赤 : 男の胸。リディアの悪口で、オヴィがもっぱら使っていた。（確かにアシェット内ではそうだし本人も気にしているが、ふつうの日本人と変わらないと思う）

ɥıdc [医療] 注射 [動詞] ɥəl を ı に注射する、注射する [レベル] 2 古 :「痛い針 」【用例】 ɥıdc ɥıc 痛い注射

ɥıhɔ,ɑu hɔnɲ ɥı/hɔ「痛みから守る固いもの」

ɥıɥə [医療] 毒 [反意語] dcʃı [魔法] ヤユ（ポイズン）。害の低位黒魔法。敵を毒に犯し、徐々に生命力を奪う。青酸カリのような化学毒でないため、即効性はあっても威力は大して強くない。ユークで簡単に解除できる。 [レベル] 2 ɑu;ɥı は「痛い苦しい」ɥə は「受ける」赤 ɥıɥə:ɥıɥə::ıɥə 【成句】 len ɥıɥə cb 自暴自棄 【用例】 ʃə lcll ʃcl ɥıɥə. このきのこは毒がある。

ɥıɥəɒɔl [地学] 鶏冠石 1L: 砒素の材料としたことから

ɥıɥəlcl [化学] ヒ素、砒素 [レベル] 4 1L

ɥıɥəıɟlıɑɔ ［地学］ヒ酸塩鉱物　1L

ɥıl ［医療］ワクチン ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɥıdclczˀlə（注射の細菌）【用例】 ɑcʃ ɥıl e ˀlɔɑı ı ～にインフルエンザワクチンを投与する

ɥıl,ɟzɑ　ɑɔl　hɥı/ıl

ɥıı ［感動詞］ɥı ［レベル］1　Ɉʔ

ɥııɒɔ ［形容詞］まずい、不味い ［反意語］ıʃl、lınʃ ［レベル］2　赤 :ɥııɒɔ（悪い、まずい）。ɥııɒɔ は悪いの意味だが、古アルカの幻字の形を見ても分かるとおり、ベーブ（臭い）の字に似ている（向きが違う）。そのため、臭くて悪い→風味が悪くて悪い→まずいの発想で語義を獲得した。新では悪いという意味では使わない。【用例】 ʃə bılɒ eʃ ɥıı ɒɔ. この牛乳はまずい。

ɥııɒɔ,ɑ　ɥıɒ　ɟııl;ɥı/ɒɔ「痛い形→悪い形→悪い」 赤

ɥııɑ ［生物］［医療］阿是穴、あぜけつ、畦穴、天応穴、圧痛点、知覚過敏点、圧診点、丘診点、皮電点、良導点、トリガーポイント。畦は「あぜ」と読む。　ɟzl;ɥı/uccɑı「痛い穴」 Ɉɱ ［語法］［文化］ uccɑı

ɥııɥɔ,ɑu　ɟɔˀln 「苦しくする」

ɥıc ［形容詞］痛い ［反意語］nɔzl ［レベル］1　1ϥ: 制 : 感動詞で痛いは ɥıə ［語法］ ɥıc は口語的。「苦痛」「痛み」という意味では ucleʃ。【用例】 ɥıc ɥən ɑıcz ひりひりした痛み　ın nı ɥıc ɥən ɑıcz ɒcl dıɑı. 日に焼けてヒリヒリする。

ɥıcuılɟ ［医療］ペインクリニックの医師 ［レベル］5　1L

ɥıcuılı ［医療］ペインクリニック ［レベル］5　1L

ɥıə ［幼児］［感動詞］いたっ ［レベル］1　古 :ɥıə はメルが怪我をして痛がるときや、リディアが嫌がるときにいっている感動詞。未だに変わらない。可愛いので幼児語に。

ɥɔlccɒ ［化学］二糖類　1L

ɥɔɟ ［動詞］ɥəl を操る、操る、操作する、制御する、コントロールする、御す ［普通動名詞］操作、制御、コントロール ［経済］運用 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɥɔl

ɥɔɟɑɔnʃ ［電算］コントロールバス　1L

ɥɔɟdelɥɔbel ［化学］ジフェニルジスルフィド　1L

ɥɔɟıɥ ［電算］制御装置 ［レベル］4　1L

ɥɔn ［動詞］ɥəl を lel として扱う、扱う、取り扱う、看做す、見做す、みなす、見なす、待遇 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :lɔ ɥəˀlle ～「（相手を）～だと思って（振舞う）」

ɥɔucʃɔuɔnınclzɔɒ ［化学］ジタートブチルペルオキサイド　1L

ɥɔɑıınbezı ［化学］ジメチルアミン（基官能）　1L

ɥɔɑıınbelʃ ［化学］ジメチルスルホン（基官能）　1L

ɥɔɑıınbeldıɑ ［化学］ジメチルスルフィド（基官能）　1L

ɥɔɒc,ılʃ　uıl

ɥɔφ ［名詞］太っ腹 ［動詞］ɥəl を気前よく使う、使う、消費する ［普通動名詞］大盤振る舞い、大盤振舞、消費、大量消費、浪費 ［形容詞］（ɥɔφın の形で）気前が良い、贅沢な ［副詞］贅沢に、景気よく、景気良く、気前よく ［類義語］ɔlφ ［反意語］ɥeɑ ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɥɔlφcl

ɥɔφl ［名詞］臼 ［レベル］3　1ɱ: 制 : ２枚の円盤

ɥɔφel ［医療］痛風 ［レベル］4　1L:ɥɔφ/leun（贅沢病）

ɥɔd ［名詞］刺激 ［反意語］ɥeu ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɥıd。元は「痛い」というオノマトペ。【用例】 ɑcʃ ɥɔd 刺激を与える

ɥɔdφeɥ ［植物］ワサビダイコン　Ɉ0: 制

ɥɔbelc ［化学］ジスルフィド　1L

ɥɔɥɔınɑcd ［化学］ジエチルエーテル（基官能）　1L

ɥɔɥcʃ ［化学］グリコール、ジオール　1L

ɥɔl ［動詞］ɥəl を使う、使う、利用する、費やす、使用する、投入する ［普通動名詞］使用、利用 ［反意語］ˀlıɥ ［経済］消費 ［レベル］1　ɑ:elʃ;l は ıl で「物」 古 :l は ıl で「物」。ɥɔ は ɥə で「～される」。従って「～される物→動作を受けるもの→使われる→（視点の転換で）使う」が原義。ただし ɑ では ɥə は sə の音なので、これだと ɑ でのあるべき語形が sɔl になってしまう。そこで ɑ において ɥɔ は語源不詳となる。　ɥɔl :ɥɔl【用例】 ɥɔl ıˀlˀlel 利用する　ın ɥɔlıʃ ɟel ı lcuı. ファミコンに一日費やしてしまった。　ın ɥɔlıʃ φcl ɑc ı ɟıc. パソコンにお金をたくさんつぎ込んだ。　ın ɥɔlıʃ ɒel ı ueɥɟ. どうでもいいことに時間を浪費した。　el ɥɔlɔɥ ʃə. 使用中です。

ɥɔll ［動詞］ɥəl を使い切る、使い切る、使いきる、消耗しきる、消費する、靴を履きつぶす、使い果たす、売り切る、配りきる、期限が来る ［普通動名詞］消耗、使いきり、消費 ［反意語］ˀlıɥ ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɥɔllc（使ってなくす）【用例】 ʃə lcdl eɟ ɥɔll. このケーキは賞味期限がきれている。

ɥɔllız ［料理］消費期限、使用期限 ［レベル］3　Ɉ0

ɥɔlɟ ［被服］スニーカー ［レベル］3　1ʔ: 制 :lıˀlʃı:ɥɔɟ/ləıɟ

ɥɔlɑ ［被服］ガーター　ɟɒ;ɥɔlɔ/ɑɔʃ　Ɉɱ ［文化］ ホーズが落ちないための紐。

ɥɔlɑı ［名詞］非処女 ［反意語］lcɒeeɥ ［レベル］4　古 :ɥɔlɑ（使われた）/lınʃcɟ（人） ［語法］ 俗語ではない。

ɥɔlɑın ［文字］ステンシル ［レベル］5　Ɉ1:ɥɔlɑı/en「穴の開いた」［文化］ 完全に閉じた部分のない文字のこと。切り傷のように裂けた穴が開いていることから ɥɔlɑın という。

ɥɔlɑınɟcɔ ［文字］ステンシルテンプレート　Ɉ1

ɥɔld ［被服］ズボンつり、ズボン吊り、サスペンダー、スカート吊り ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɥɔlɔhıld ［語法］ 語源はズボン吊りだが、その後少女のスカート吊りにも使われるようになった。少女はまだ尻が小さいので、サスペンダーがないとスカートが落ちることがあるため。

ɥɔllınφ ［名詞］使用権 ［レベル］4　Ɉ0

ɥɔlın ［経済］消費者 ［レベル］3　1L

ɥɔlɔ ［被服］ズボン、パンタロン、パンツ ［レベル］2　ɑu; ↓　1ʔ: 制 : 古 :ɥɔəlɔɔlɔ（２本の筒） ɥɔlɔ:ɥɔlɔ ［語法］ 下着の上に履くもので、日本語のズボンと同義。男性服で、女は着ない。但し、スポーツウェアないし作業服としては着ることができる。平服としては着ない。

ɥɔlɔuı ［言語］用例、例文、文例 ［名詞］使用例、サンプル ［レベル］3　Ɉ1

ɥɔlɔɒ ［名詞］使い方、使用法、用法 ［言語］語法 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 使う方法

ɥɔlɔl ［経済］消費財 ［レベル］5　1L

ɥɔleˀl ［言語］アフォーダンス ［レベル］6　Ɉ0:ɥɔl/eˀlc

ɥɔleˀlɥəɔ ［言語］転換動詞 ［レベル］6　ɥɑ;/「アフォーダンス動詞」 Ɉʔ

ɥɔləzıɟl ［化学］シュウ酸 ［レベル］5　1L

ɥɔı ［形容詞］便利な、使える、役に立つ、ためになる、便利、楽な、手軽な、使い心地の良い、便利だ ［反意語］enɔ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :「使う ɥɔl」 ［語法］ 人にも使えるが、失礼。【用例】 ɥıφnı ɥɔı 便利な機械

ɥɔıˀlcɒ ［アトラスの国家］ヨアキム ［レベル］5　Ɉʔ:ɥcɑcı

ɥɔın ［化学］エタン ［レベル］5　1L:ɥɥəə

ɥɔınˀlɔɟ ［化学］アセトアルデヒド（基官能）、エタナール ［レベル］5　1L ［文化］ 酒のエタノールを分解するとアセトアルデヒドになり、紅潮や二日酔いと関連するようになる。という知識で進学校を出たアルバザード人は一般に理解している。

ɥɔınuɔnındıɑ ［化学］エチルブチルエステル（基官能）　1L

ɥɔınɒəedıɑ ［化学］酢酸エチル、エチルアセテート　1L

ɥɔınbeıɟ ［化学］アセトアミド、エタンアミド（基官能）　1L

ɥɔınɥɔɥcʃ ［化学］エチレングリコール（基官能）　1L

ɥɔınɥecl ［化学］エタンチオール、エチルメルカプタン　1L

ɥɔınləzıɟl ［化学］酢酸、エタン酸（基官能）→ ɒəeıɟl ［レベル］4　1L ［文化］ 酢の化学名として知られる。長いのでふつうは ɒəeıɟl。

ɥɔıncɒdcdıɑ ［化学］ギ酸エチル→ ɑcıdıɑ　1L

ɥɔılɔʃɟ ［電算］ＷＩＮキー ［レベル］4　Ɉ0

ɥɔcn ［化学］エチレン ［レベル］5　1L:ɥɥəə

ɥɔɔ ［感動詞］［ilben］よぅ、よぉ、よう、よう ［レベル］2　古

ɥɔɔɟ ［動詞］ɥəl をやり直す、やり直す、取り戻す、改める ［レベル］3　1ɱ: 制 : 古 :ɥɔɔɟ（２度する）

ɥɔɔn ［化学］エチン、アセチレン ［レベル］5　1L:ɥɥəə

ɥɔə ［名詞］古アルカの２ ［レベル］3　赤→ ɟcɑıll

ɥɔə(Ɉ) ［名詞］重複、被り、ダブり、だぶり ［形容詞］重複した、二重の、だぶった、ダブった、ダブる、だぶる、ダブル ［レベル］3　古 :ɥɔə（数字の Ɉ）

ɥɔə,lɟˀl　Ɉ　ɑcɥɔ.ˀl

ɥɔəˀlıld ［言語］二重把握 ［レベル］6　ɥɑ　ɈɈ ［文化］ nıˀlleləɑel

ɥɔəɑ ［アイテム］フォーク　zφ;ɥɔə/ɑəəφc「二股の槍」。農具から転じた。 Ɉɱ

ɥɔəɒ ［被服］キルト、キルティング、掛け布団 ［レベル］5　古 :ɥcɑcı:ɥɔəɒ（キルト）← ɥɔə(Ɉ)/ɒelc（糸、縫う）から。キルトが２枚の布の間に綿などを入れて縫う防寒具であることから。

ɥɔəeeɟʃe ［言語］重複エーステ ［レベル］6　Ɉʔ ［文化］ → eeɟʃe

ɥeʃ ［名詞］問題、プロブレム、厄介、始末に悪いこと、始末におえないこと、始末が悪いこと、トラブル ［形容詞］厄介な、問題な、問題のある ［類義語］ɟlcɒ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɥınʃ「痛いところ」 ［語法］ 試験に出てくる問題は ˀlnɔɔɟ。【用例】 leɑ ɥeʃ つつがなく、恙無く、恙なく、問題なく　ɥeʃ ʃcn 大きな問題、ビッグプロブレム　ʃə ʃcl ɥeʃ ıləəʃ nı. 何か問題があるに違いない。　ın uılʃıʃ ɑıl ɥeʃ. ʃıl ın ɑıleɟıʃ ʃə ɒın ʃə ɑe uıl. 問題を解説しなければならなかったが、急ぐ必要はなかったので後回しにした。　ın ʃcl ɥeʃ l'ın ɑɥɔɒ ɑıl. 考えなければならない問題がある。　ʃə eʃ ɥeʃ lel ɔɒ ınɟ ʃɔɔˀl ʃə lıb. 問題はいつその仕事を終わらせるかということだった。　ın ʃclıʃ eɒ ɥeʃ ɒcl lı. 彼のせいで厄介事に巻きこまれた。

ɥeʃɒın ［名詞］トラブルメーカー ［レベル］4　1L: トラブルの原因【用例】 lı eʃ ɥeʃɒın ʃeɥ. 彼はトラブルメーカーだと言われている。

ɥeʃɥəlc ［名詞］問題児 ［レベル］4　ɥɑ;/　1L【用例】 ɑɔɟcˀl, bız, ɥeʃɥə lcɼ このやろう、てこずらせやがって！：てこずる、手こずる。この場合、子供とは限らない

ɥeʃɥɟccl ［名詞］問題親、モンスターペアレント、モンペア、モンペ ［レベル］4　ɥɑ;/　Ɉɱ

ɥeˀl ［生物］肉 ［反意語］ɥəˀlı ［動詞］ɥəl（動物や魚の皮など）を剥いで調理できる状態にする、剥く、むく ［レベル］2　1ʔ: 制 :ɥɔˀl（皮）: 古 :ɥəəˀlı（皮剥ぎ刑） ˀlɔɒɒı::lı ɟılenɑ ［語法］ 動物の場合、肉 (ɥeˀl) に対して皮 (ɥəˀlı) がある。植物には、実 (uecˀl) に対して種 (ˀlɒc) と皮 (ɟʃec) がある。【用例】 ɑıc ɥeˀl 肉を焼く

ɥeˀlbel ［料理］肉料理 ［レベル］3　1L

ɥeˀlı ［植物］ふすま、麸、麩、フスマ。食べ物の。食品の「お麩」のことではない。 ［レベル］6　1ʕ: 制 :ɥeˀl/dıɟʃ

ɥeɟ ［交通］コース、進路、課程、順路、行く道、行き道、課程、ルート、道筋、道すじ、道を尋ねるなどの道 ［レベル］3 jɔɲn:ɥeɟ（順路）
［用例］ɪɟɒ ɥeɟ 道を尋ねる、道を聞く ☆lc ɥeɟ e ɥəlc, ɪn ʅeʃ ɥeɟ e ɒɪlʃ. 初級コースの後、中級コースへ行った：場所としてのコースは ɥeɟ、レベルとしてのコースは ncɑ。 ɪn ʅeʃ ɥeɟ e ɒɪu ɒcʃlɪnel. 上級コースを滑ってみた。 hɪɟɟ{ʃel} ɥeɟ コースに従う｛逆走する｝
ʃcɑl ɥeɟ コースを外れる ☆ɪn ɪɒɒlɪʃ ʃcɑl ɥeɟ. コースを外れないように気を付けた：ɥecz は道に迷うこと。ʃcɑl ɥeɟ はスキーやボーリングなどでコースを外れること。スキーで ɥecz といったら、コースを外れたというより遭難したの意味になる。なお、ボーリングで ɥecz はありえない。

ɥeɟʃelʃ ［アトラスの国家］イェステルト ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ: 道となる土地 ［文化］ レイユでアデリックから独立。

ɥeɥɸ ［魔物］イェング（毒蜘蛛）：第九十四天：害の空天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:ɥɪɥə/ɑeɥɸ ［文化］ 蟲族。兎ほどの大きさの毒蜘蛛。洞窟や森に巣を張り、人や家畜をも引っかけて食い殺す。毒牙にかかるとたちまち動けなくなる。

ɥeɥɸɪcn ［天文］毒グモ星雲 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel ［文化］ ɥeɥɸɪ

ɥeɥɸɪ ［天文］大マゼラン銀河、大マゼラン星雲 ［レベル］6 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel ［文化］ 毒蜘蛛の魔物 ɥeɥɸ の巣のように見えることから。なお、ɥeɥɸ 本人はそこから少し離れた ɥeɥɸɪcn にいる。面白いことに ɥeɥɸɪcn の地球での名前も「毒グモ銀河」。確かに蜘蛛に見える。

ɥeu ［名詞］反応 ［反意語］ɥɔd ［レベル］3 @ 1L ［用例］ɑcʃ{deɑ} ɥeu 反応を返す

ɥeuʃəlɑ ［化学］反応熱 ［レベル］5 1L

ɥeuɟɪn ［化学］化学反応式 ［レベル］4 1L

ɥeuɟeɟɪ ［化学］官能基 ［レベル］6 1L

ɥeɒ ［動詞］ɥəl を ɔn について参考にする、参考する、参考にする、参照する ［普通動名詞］参考、参照 ［レベル］4 古

ɥeɑ ［名詞］質素、吝嗇、倹約、ケチ、けち、省～ ［動詞］ɥəl を倹約して使う、使う ［形容詞］（ɥeɑɪn の形で）質素倹約な、質素な、倹約な、ケチな、けちな ［類義語］enɑc、ʅilɔn ［反意語］ɥɔɥ ［レベル］3 @ 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アルバザードは倹約が基本である。なるべく無駄遣いはしない。

ɥeɑzɔɔd ［環境］省資源 1L

ɥeɑlɪbɪ ［環境］省エネルギー、省エネ ［レベル］4 1L

ɥez ［植物］ツタ、つた、蔦 ［レベル］4 古

ɥel ［音楽］半音 ［レベル］3 1L: 制 ce

ɥel,ɟzɑ jɪnl ce,ɑ.l

ɥelʃɪn ［生物］［医療］帯脈 jzl;/。流注が体の正中線から外れて左右にあることから。 lll

ɥeɟɟɪɟ ［音楽］ナチュラル ［レベル］4 1L

ɥeɟɔɟ ［音楽］シャープ ［レベル］4 1L

ɥelhɪcʃ ［音楽］フラット ［レベル］4 1L

ɥeeuel ［人名］イェーヴェル ［組み数字］１５/１６ ［レベル］4 ɒelʃcɪ
lll L:ɪɥnə/eɟʃi;e 古 ［文化］ eɟɪi エスタの第１５子。女。

ɥə ［法副詞］～される。受動態（態はないので受身の文が正確だが）を作る副詞。 ［動詞］ɥəl を受ける、受ける、受け取る、もらう、貰う ［類義語］ɥəu、ɒcl、ɥəlcl ［レベル］1 ɑu;sə,ɑ.l lll ←古 :sə。メル 1? 年の幻日に受動態の ɥə に関する例や説明が一切出ていないので lll 年初出である。 sə, ɥə:ɥə: ［語法］ 受身の文を作るには、動詞の後に ɥə をいれ、ɔɔl と ɥəl を交換する。 ɪn ɔccnɪ ʃc = ʃc ɔccnɪ ɥə ɪn ［用例］ ɪn bɪɑɪʃ ɥə lɪ. 彼に叩かれた。 ɪn ɥəʃ heʅ. 手紙を受け取った。

ɥə,ɪlʃ ɥəl <>sə

ɥəʃ ［接続詞］～による、～によって、よる、による、によって、によって作られた ［レベル］2 1?: 制：古 :ɥə（受ける）から。ɥəʃ は古では「～であるかのような」という意味。 səsə:səsə ［語法］ e ［用例］ ʅlel ɥəʃ jeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ セレン＝アルバザードによる辞書

ɥəʃ(ɟ) ɥə/ɪʃ

ɥəɪ ［動詞］ɥəl を受け入れる、受け入れる、受ける、受理する、引き受ける、合意する、受容する、引き取る ［普通動名詞］受け入れ、合意、受理、引き受け、受容 ［反意語］ɥəʅc ［レベル］2 1?: 制：古 :ɥə から ［文化］ lcɥə ［用例］ ɥəɪ ɔɔɟʃ 死を受け入れる ɥəɪ ɑɪɪɟ 朝を迎える。詩的

ɥəɪɪɪ ［アトラスの国家］ユタタ ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:「幾度も戦禍にあった」

ɥəɪʅɔn ［名詞］受容体 ［レベル］6 ɟl

ɥəɪn ［魔法］導眩体 ［レベル］6 ɟl:ɥəɪ/ɪn ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɥəʃcɪ ［人名］ユティア。大召喚士リディアの呼称。 ［人名］ユティア家。カイン、ミロク、アルテナ、アリシア、ミーファの姓。レインも同じ苗字。 ［レベル］3 ɥcɑcɪ: 古 :「神に愛された」 ［文化］ ミロク以降、ユティア家の人物にはそれぞれ特徴的な呼称がある。 ミロク：「神の御子」；人々に神と崇められたことから。 アリシア：「亜麻色の乙女」：隔世遺伝でかなり異なった容姿を持って生まれたことから。ちなみに、おてんばだったことから、亜麻色とかけて「暴れ馬の尻尾」とも。 アルテナ：「天使の翼」：人徳があり、美しく、女優としての演技が舞うように華やかだったことから。 ミーファ：「人徳の月姫」

ɥəʃcɪ(ɟ) ［形容詞］リディアの望むような ［反意語］ɪɪnɑcʃ ［レベル］4 ɥɑ; 「（リディアに）愛される」 lll ［語法］［文化］ セレンの唯一にして最大の価値観。セレンは物事を行うとき、常に「これをやっている自分をリディアは望むだろうか」と考える。「今の自分はリディアから見て好きなタイプの男か」と考える。この考え方は中学生くらいのころからあり、特に２０１３年１月２９日なりたての深夜４時ごろに唯一絶対の価値観として昇華したものである。 元はリディアが子供のころから「セレン君が見てなくても、もしセレン君が見ていたらセレン君は今のわたしをどう思うかと考えて生きている。だから誰も見ていなくてもわたしはセレン君に恥じないような生き方をしている」と言って実践してきたのが先で、それをセレンが真似したのが事の始まりである。セレンがリディアの真似をしてこの概念に価値を見出したことでこの概念を指す単語が必要になり、ɥəʃcɪ が生まれた。そしてその反意語の ɪɪnɑcʃ が生まれた。同時に、ɥəʃcɪ ができたことで逆にセレンから見た理想のリディア像に適うようなという意味の jeɥeɟʃ と ɪlɟeɥeɟʃ（翌日 ɑcɒɪnl に変わる）が生まれ、話を聞いていたメルが「じゃあ私も」と言って ɒelʃɔn と ɪlbelʃɔn を作った。
ɥəʃcɪ の価値観を正式に採用してからのセレンは、リディアが見ていなくても誰も見ていなくても居住まいを正している。家の中でもだらしない格好をせずにパジャマなどでうろつかず、小奇麗な格好でいる。外に出るときも身なりを正し、素行も他人に対して丁寧で優しい。性格は優しく、怒らない。これは他人のためにしているわけでも自分のためにしているわけでもなく、ただひたすらリディアが望むセレン像を維持するために行なっていることである。セレンはしばしば持たざる者に施し弱きを助けて強きを挫くが、これもまたリディアが持つ理想像に適うために行なっていることで、そこにリディアの目があろうとなかろうと関係ない。リディアが心の中の神となり、いつでも自分を見ているという気で生きている。リディアの基本的な男の好みは「強くて優しくて頭良くてカッコいい」なので、とりあえずセレンはこれを満たさねばならない。その上で細々としたリディアの要求に応じなければならない。ただしリディア本人は自分の理想は高くないと思っている。リディアにとってそれくらいのことは当たり前で、逆に言えば自分も高いレベルのハードルを自分に課していることを示唆している。 リディアも同様で、常にセレンという心の中の神に見られているように意識し、絶対に下品な行動を取ったりせず、清楚で女の子らしくいる。身奇麗でつましやかで知的で清純でいる。人がいようがいなかろうがリディアはそうしている。常にセレンに見られている気で生きている。 セレンもリディアもお互いが自分をどう見ているかしか気にせず生きている。だからそこに他人がいようがいまいが関係ない。言い換えれば他人の目を気にしない。相手の理想像が世間の理想像に合わず物笑いにされたとしても一切気にしない。 この相互理想像維持の生活が成り立つのは、ひとつにはふたりの異性に対する理想像が幼少期から変化しないことが原因として挙げられる。セレンもリディアも一度気に入ったものはまず生涯変えないし、子供のころから好みや善悪などの価値観が殆ど変わらないタイプの人間である。そのことが互いの理想像を一定に保ち、互いにとって理想の自分を維持しやすい理由になっていると思われる。 セレンもリディアも自分を根幹とした信念がなく、自分を信じていない。自分を拠り所にしない。お互いに相手を想い、相手のために良い理想の自分を作り維持しようと考える。ふたりとも自分で自分の理想像を持っていないし、自分のためだと頑張れない。自分で自分の理想像がなく、愛する人の理想像に理想の自分を見つける。愛する人のためだと思うから面倒でも辛くても頑張れる。これは遠距離恋愛が可能にした、愛情を越えた一種の信仰ではないかと思われる。 ＜リディアの理想像＞ 以下は lll（２０１３年２月１５日）にリディアにインタビューして出たリディアの理想像であり、その時点のセレンはほぼ要件を満たしていた。 まず大原則として強くて優しくて頭が良くてカッコいいことが前提。その上で様々な要件がある。義憤を感じ、他人のために怒るが、しかして感情は爆発させない。正義感があり、悪を許さない。自分の正義を確固として持っている。人が決めた法律に唯々諾々と従わず、自分の正義感に忠実である。理不尽なことをしない人。相手によって態度を変えない人。髪は長めで肩近くまで来る。酒は飲み過ぎないが下戸もカッコ悪いので、たしなむ程度には飲む。酒は飲んでも飲まれない。飲む酒はラム酒、ワイン、ビールならギネスか瓶ビール、日本酒なら夢幻（これはセレンにとって旧友の思い入れがあるから）。特にラム酒のカッコよく似合う人がいい。ただし聖職者を好む彼女からすると聖職者らしく酒を常飲することは許されない。身だしなみが清潔で身奇麗にしており、だらしない格好をしていない。素直になれないくせにいやに利他的でついつい人を助けてしまう心の優しさを持っている。素行は丁寧で優しいが、実は強く、幼い頃にやんちゃをしていて更生しているため、怒らせると半端無く怖いが普段はそうとは分からないほど優しく人に接している。元不良だが更生して過去の罪を償っている。戦闘術に長けていて強い。クロスバイクを乗りこなして自分の足でどこまでも行ける。身長は１７２ｃｍ前後で体重は６５ｋｇ前後。それより大きいとかえって気持ち悪いし、小さいのは論外。細マッチョ必須で、腹が出ているのはアウト。他人にはほどほどに優しいが、リディアには特に優しい。たまにリディアをからかうような悪戯っぽい素振りを見せる。女の子に言い寄られるといい年して恥ずかしがって初々しい。でもたまに女の子をからかうような発言をすることもある。ただ決してリディア以外には愛情を注がず、心の底からは靡かない。清貧で身綺麗で贅沢を嫌う。集団に属することを嫌い、孤高に生きる。売れない学者や芸術家や医者であるとなお高潔で良い。人に施し自分は質素に暮らし、金満を嫌って地位や名誉には靡かない。性格は穏やかで怒らず、でも芯は強い。他人のためには怒るが自分のためには怒らないし、怒っても感情を爆発させない。静かで綺麗な音楽を好む。暴飲暴食をしない。ジャンクフードなどに手を出さない。健康に気を使う。年の割に若々しい。静謐な雰囲気を好み、そのような文芸や音楽を嗜む。人の悲しみに共感できる。泣き上戸で感情豊か。感受性が強く綺麗な心を持っている。高尚なものを好み俗物で低俗なものを避ける傾向にある。深く狭く人と付き合うタイプである。友達は少ないが親友は多い人。生真面目で誠実である。タバコは吸わない。運動習慣があり、健康である。知的で、色んなことを知っていて、頭の回転が早い。下ネタが苦手で、そういうことは言わない。でも性的なことを一切遮断はせず、リディアが望む

のに応じて持ち前の精力の強さを見せる。子供を可愛がり愛するが、リディア以上には愛さない。猫を好み、小動物や弱い者に優しい。逆に悪しき強きを挫く。身銭を切ってでも他者を助ける。平生から学術書を読んでいて理知的。だがそれを人に自慢はしない。他人に対しては過度にオープンでもなくクローズドでもなく付かず離れずを保つ。黒のトレンチコートがトレードマークである。それ以外は灰色系の服を着ていることが多い。　　・武力について　　格闘技や戦闘術や武道に長けているとよい。ただし柔道はデブで汗臭いイメージなので男としてはアウトで、合気道は弱すぎるので男としてはアウトで、ボクシングみたいにボコスカあほみたいに殴り殴られ続けるのはグローブなしの実戦では考えられないし防御もグローブ頼りだし優雅でなくがさつで泥臭くかっこ良くないという。　スマートな打撃や制圧するための柔法の護身術系がティアベールとしては一番という。ユベールとしてはナイフや銃を使った戦闘術が最も実戦的でかつスマートでカッコいいと言う。銃火器の扱いを知っていると良いが、小銃は個人的にカッコよく思えないという。拳銃が最もカッコよく感じるというが、リディアは銃そのものが好きではないので、拳銃を所持していることがカッコいいとは感じないようだ。　　・乗り物について　　車はセダンで、痛いスポーツカーや軽ではない。バイクに乗れ、ɿeʮn にまたがって颯爽としているとカッコいい。ただしリディアはファルディアス＞自転車＞バイク＞車の順でカッコいいと思っているとのこと。自分の力で進む自立した男らしさが好きなので、バイクや車のように機械の力に頼りきって自分はアクセルを踏むだけというのは依存していてカッコ悪いし体力のない女でもできることなので全くカッコよく感じないらしい。「セレン君がバイクに乗ればそりゃカッコいいけど、クロスバイクで自分の力で走ってたらもっとカッコいいよね」と言っていた。車は暑さ寒さもないし女でも簡単に運転できるのでフェラーリだろうとベンツだろうとトヨタだろうとカッコいいと思わないらしい。バイクは環境が厳しいので車よりはカッコいいが、「自分で走ってるわけじゃないじゃん。ガソリン頼りで、ガソリン切れたら何もできないし」と言っていた。　自転車はママチャリはリディアは見慣れてないし日本のおばちゃんというイメージがあるので却下だそうだ。ロードレーサーは舗装道に頼りきっているので敷かれたレールの上しか走れないのがアウトローさがなくてカッコよくないらしい。マウンテンは逆に舗装道で劣るので、結局クロスバイクが一番カッコよく映るとのこと。　ちなみにファルディアスが乗り物の中では最もカッコいいと思っているようだが、架空の魔法の乗り物なので現実のセレンには求めないし求められないとのこと。なので事実上クロスバイクが一番らしい。　　・スポーツについて　　意外にも格闘技をカッコいいと思っているわけではないらしい。基本的に殴る蹴るは見苦しいと思っているし、かといって柔道みたいな取っ組み合いもむさ苦しいと思っているそうだ。柔法で軽やかに相手をいなすのが一番スマートでカッコいいと思っている様子。　それを除けばパルクールがカッコいいと思っているようだが、パルクールの技がカッコいいわけであって、やっている人間には憧れないとのこと。というのも、基本リディアは落ち着きのある人が好きなので、ぴょんぴょん飛び回ってるのはダサいと思うそうだ。　結局リディアの中でスポーツは学問や芸術ほど評価が高くないらしい。【用例】 ɪn ɟɔ elɑ ᴅɪn ʃə ɷe ɥəʃcɹ. リディアが望まないからしない。

ɥəʃcɹjel ［歳時記］召喚の日 ［レベル］3　ɹ1 ［文化］ リディアが召喚士として覚醒した日。zɪn ɿən。　この日は召喚士の格好をしたコスプレで召喚士の真似事をして遊ぶ。一種のハロウィンのようになっており、一番の定番はリディアのコスプレをすることである。リディアはヴァストリアが多いので、コスプレイヤーとしてはやりがいのある内容となっている。　小説版アンクノット第三巻の８・８（土）に、リディアの召喚士としての目覚めについて触れてある。曜日から９９年と分かる。

ɥəʃcɹφɪʮᴅɪ ［歴史］［軍事］第二次世界大戦、ユティアガルマ ［レベル］3　ɹɹ: ミロクが起こした戦争第二弾だが、先のものに ᴅcʮɔɿφɪʮᴅɪ と名付けてしまったので弁別するために今度は苗字を用いて ɥəʃcɹφɪʮᴅɪ としたもの。実際その後の世界において連合国はユティア家との対立になっていくわけだから、案外言い得て妙。

ɥəʃcɹczeᴅ ［政治］ユティア朝 ［レベル］4　ul;/　ɹʔ

ɥəʃɔ ［アトラスの国家］ユト ［レベル］5　1L:ʮcɑcɹ: ユト族の

ɥəʃe ［言語］受動、受動態 ［反意語］ɟɔʃe ［レベル］4　ɹ0:「されるような」

ɥəɿ ɥə/cɿ

ɥəɿɿɹ ［名詞］檻、オリ、カゴ、籠、篭、ケージ、独房、牢屋、監獄、留置場、留置所 ［建築］１Ｋ、１Ｒ、ワンルーム ［レベル］3　古 :ɥəɿɿɹ（檻）。元は ɥənɿɿɪl（ユンクの場所）。　::ɿɪcn

ɥəɿɿɔ ［名詞］囚人 ［レベル］3　ʮɑ; ↓　ɹʔ‹ɥəɿɿɪɔl.l 1L:ʮcɑcɹ:ɪʮbɪlelʃ　::lə uɔlφ

ɥəɿɿɔɑɪl ［法律］懲役、服役 ［レベル］4　ʮɑ;/　ɹʔ

ɥəɿɿe,ɑ ɥən　ɑ;ɿe は「方向」だが、ここでは特にその意味はない。ɥə 自体に比況の意味があり、他の語と区別するために ɿe を付けた。　赤

ɥəɿɟ ［農耕］［普通動名詞］脱穀 ［動詞］ɥəl（穀物）を ɪ（脱穀された穀物）に脱穀する、脱穀する ［レベル］4　ʮᴅ;ɥəəɿɹ/ɟɔ「皮する」 ɹɹ

ɥəɿɟɪʮ ［農耕］脱穀機 ［レベル］5　ʮɑ　ɹɹ

ɥəɿl ［形容詞］控えめな、大人しい、弱腰の、自信なさげな ［反意語］ɿɔlʃe ［レベル］3　ɹ0:ɥən ɿlɪn。1L までは φcʮɟ。ɑɪlɟ,ɑɪll,ɑɪlɿ と似たのが多かったので離した。

ɥəɿleɟcɿɹ ［地名］ユクレシカ ［レベル］4　ɹ0: 古スカルディア語「北の山間の」 ［文化］ ɥəəᴅɪ ʔʕɹ0 にシフェラン率いる竜騎兵隊がカルセール西部を制圧し、その土地に建国したもの。その後 ɟɔʮnɪ と ʃənɪɟ に分かれることとなる。この国ができたことでカルセール内の首都名だったヴェマは国名になる。

ɥəɿleɟcɹ ［人名］ユクレシア ［レベル］4　ɹ0:ɥəɿleɟcɿɹ ［文化］ (ɥəəᴅɪ ʕɱɹʔ) カコ中期のルティアの大魔導師。アルシアの１１魔将の師匠。　ɥəəᴅɪ ʕΔ19 ルティアから大魔導師 ɥəɿleɟcɹ がアゼリアに招聘される。引き換えにレスティルはルカリアに経済的援助を行う　ɥəəᴅɪ ʕΔɹɹ ユクレシア、lɥəəl 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う　ɥəəᴅɪ ʕΔʔL ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 ɪlɑclcɿ や ɪʮuɪcn による疫病と類似していることに気付き、ɑczcɹ（病原菌）の存在を仮説として立てる。ɑczcɹ の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ていた地方都市アルシアに出張する　ɥəəᴅɪ ʕΔɱ1 ユクレシア、アルシアでのダイズアイライの駆除に成功。同時に病気の感染も減らし、ɑczcɹ 理論が正しいことを証明する。ここから、実験をさらに実証するため、ユクレシアは地方都市へ次々と行き、ダイズアイライの駆除を行う　ɥəəᴅɪ ʕΔɱɱ ユクレシア、地方都市のダイズアイライを駆除しおえる。首都レスティリアはなまじ人口が多いため、駆除が困難であった

ɥəɿɹ ［生物］皮 ［動詞］ɥəl の皮を剥がす、剥がす、はがす、はぐ、剥ぐ、むく、剥く ［類義語］ɟʃec ［レベル］2　ɑ;e　古 :ɥəəɿɹ（皮剥ぎ刑） ɥəəɿɹ:ɥəəɿɹ:lə ɥəəɿɹ（肉の対）:ɥəɿɹ,ɪlʃ, ɥəɿɪlə,ɪlʃ ［語法］ 植物の皮は ɟʃec。【用例】 ☆ ɟcʮ ɪʃ ɥəɿɹ ᴅcl dɪʮd ʮɪɿ. 日に当たりすぎて皮がむけた：ɥəɿɹ を名詞として捉えないこと。もっとも、その場合は文意が破綻するので、その心配はないが。

ɥəɿɪʃ ［電算］ラスター、ラスタ ［反意語］ɪnɔd ［レベル］6　ul;ɥənɿɹ/eʃ。格子状になった各座標に位置するデータからできていることから。　ɹɱ

ɥəɿɪʃʃel ［電算］ラスターデータ、ラスタデータ ［レベル］6　ul;/　ɹɱ

ɥəɿɪʃcɿʃɹ ［電算］ラスター画像、ラスタ画像 ［レベル］6　ul;/　ɹɱ

ɥəɿɪɟ ［法律］拘留、拘置、強制収容 ［レベル］4　1ʔ: 制 :ɥəɿɹ（檻）

ɥəɿɪɟɿɹ ［法律］拘置所 ［レベル］5　ɹ1

ɥəɿɪlc ［魔法］［哲学］巫女、縁、みこ、ゆかり ［アクセント］ɥəɿɪl€ ［レベル］3　ɟᴅ;‹ɪlʃ‹ɥəəɪ/ɿɪl　ɹ1 ［文化］ hcnɪʃɹ

ɥəɿɪlə,ɪlʃ ɥəɿɹ（剥ぐ） ɥəɿɹ

ɥəɿc ［動詞］ɥəl を拒絶する、拒絶する、断る、ことわる、絶つ、受け入れない、拒む、採用しない、非合意である、却下する、阻却する ［普通動名詞］拒絶、不採用、非合意、却下、阻却 ［反意語］ɥəʃɹ ［レベル］2　@ 1L ［文化］ ɭcɥə 【成句】 leɟ ɥəɿcʃ ɥə ɑcɹ ɥəɿc ɑlen ɑcɹ. 世界から拒絶された人間は世界を拒絶していい（ʮcɑcɹ ləʃcɹ）→ ɟeʮʃoen 【用例】 ɪɪselɟ eʃ ɑəɔ ʃcnɿɹ ɑɹ. el ɥəɿc ɑc uɪʮʃ cᴅ ɪɪs ɭe. 選ぶというのはとても残酷なことだ。その影でたくさんのものを拒絶しているのだから (ɟeʮen ɪʮbɪzɪʮɑ)

ɥəɿc(ɹ) ［言語］［文字］標準京極書体、ユキ、漿京極、漿果京極、苺京極 ［レベル］4　ɹɹ:ɥəɿc(ɹ),ɪlʃ ［文化］ サンセリフの京極書体。ロゴやＰＣでの文字表示などに用いる。

ɥəɿc(ɹ),ɪlʃ ᴅelcɿ、苺、野いちご

ɥəɿc,ɑu ɑccnɪ–ɑcɪn　ɟɪɪʮ; 現 ueᴅɪ 地方原産

ɥəɿc,ɪlʃ ɪlɪɟ「落ちるところ」

ɥəɿcn ［魔法］不導体 ［レベル］4　ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ɥəɿcnɪ ［人名］ユキナ　ɹ0 ［文化］ (ɥəəᴅɪ ɱΔL⩚:⩚⩚ʕ⩚) メルテナ後期の神商会会長。⩚ɱL1 にペティの摂政となる。

ɥəɿən,ɪlʃ ɔᴅcʃ

ɥəɿələ,ɪlʃ ᴅeʃ, ᴅcᴅ

ɥəlɹ ［化学］不飽和 ［レベル］5　1L:ʮcɑcɹ:ᴅɥəlɹ

ɥəlɪʃ ［医療］［哲学］君　ɟzɑ の 'ɥəlɪʃ から　ɹɱ

ɥəlɪʃφʮɪᴅ ［医療］君火、くんか　ɟzl;/「君子の火」 ɹɱ ［文化］ ɑelcɟ

ɥəlɪʃcl ［医療］君薬　ɟzl;/　ɹɱ

ɥəlɪɪʮɿ ［化学］不飽和結合 ［レベル］5　ɹ1

ɥəlɪɪʮlənɔ ［化学］不飽和炭化水素 ［レベル］5　1L

ɥəlcl ［動詞］ɟɔl は ɥəl を c から賜る、賜る、たまわる、賜わる、ちょうだいする、頂戴する、いただく、頂く、戴く、もらう、貰う ［類義語］ɥə ［レベル］3　ɹɹ:ʮcɑcɹ:ɥə/ɭclc「慈悲を得る」

ɥəleʃ ［名詞］母語が互いに異なる多くの人々で構成される集団、ユシェット ［レベル］5　ʮɑ;ɥən/ɪleʃ「アシェットのような」 ɹɱ

ɥəɟ ɥə/eɟ

ɥəɟʃc ［形容詞］個別の、個別に、一人一人、ひとつひとつ ［形容詞］小分けの、すこしずつ、小分けに、こわけに、少しずつ、分包の、逐次 ［医療］［形容詞］薬が分包になっている ［反意語］ɟcɑeʃ ［レベル］3　ɹ0: 恣意 【成句】 ɥɔl ʃ ɥəɟʃcl hɪɪɟ lɪnɪ ʃ を目的に応じて使い分ける

ɥəɟʃcʮen ［電算］インタプリタ、インタープリタ、インタープリター、インタプリタ言語 ［反意語］ɟcɑeʃʮen ［レベル］6　ul;/。ソースコードを逐次訳していくことから。　ɹɱ

ɥəɟuɪʮ ［動詞］ɥəl を見逃す、見逃す、見過ごす、看過する ［レベル］3　ɹɹ:ɥəəɟ uɪʮ「通らせる」

ɥəɟcaeʮ ［名詞］ユシフェール、アルシアの１１魔将 ［アクセント］ɥəɟcɑ Eʮ ［レベル］6　ɹ0 ［文化］ ɥəəᴅɪ ʕΔΔ1 はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、uelᴅɪʮe で暮らすことに決める。uelᴅɪʮe は手狭だったため、アルシアの lɥəɟcɹ と uelᴅɪʮe をいちど壊し、ɥəɟcael 研究所を設立。これにより国内には 10 の lɥəɟcɹ と 1 の lɥəəl ができた。所長ら 11 人は ɥəɟcaeʮ（アルシアの 11 魔将）を名乗り、首都アルナでは ɪlɟcɹ の名で親しまれるようになる

yəjcael ［ランドマーク］ユシフェル研究所 ［レベル］6 ɹ0:yəlleȷcı/ael ［文化］ yəəɒı ʕΔΔ1 はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、uelɒıɥe で暮らすことに決める。uelɒıɥe は手狭だったため、アルシアの lyəjcı と uelɒıɥe をいちど壊し、yəjcael 研究所を設立。これにより国内には 10 の lyəjcı と 1 の lyəəl ができた。所長ら 11 人は yəjcaeɥ（アルシアの 11 魔将）を名乗り、首都アルナでは ıljcı の名で親しまれるようになる

yəjcɥ ［生物］［ポジティブ］鳥肌 ［レベル］3 ɹ0: 受ける肌→感動する肌 ［語法］ bədjcɥ

yən ［言語］ɥ の文字 ［レベル］1 1ɒ: 制 : 鳥籠姫 ［語法］ 第１４文字目の幻字。

yən(ɹ) ［格詞］～であるかのようだ、～ように、ように ［動詞］jɔl は yəl であるかのようだ、まるで～であるかのようだ、ようだ。eʃ のように使う。 ［副詞］～しそうな ［文末純詞］～であるかのような、～するかのような ［レベル］2 ıɥɑ 古？ yəlle:yəlle 【用例】 lı yən ɒcɥɔl. 彼は神のようだ。 lɔɒɔ ın ael lcʃ elɑ jıɒ cɒ ın jc ɒel yən el ɔjl ez nɔzeʃ jı jel e ʃıj. なんとなく時間がないときはテスト前に部屋片付けをするような感じで新しい言語に手を付けてしまう。

yənʃe ［名詞］ユンテ ［レベル］2 ɹ0:yənl/ʃe ［文化］ aɥecnʃ

yənl ［名詞］ユンク。女性のリースのうち、綺麗で大人しいほう。 ［形容詞］～さん。通常前置。 ［法律］（主に性犯罪の）被害者の女性 ［名詞］囚われの身の人、囚人、鳥籠の中身 ［名詞］デスパに捕まっている悪魔 ［音楽］メゾ・ソプラノ、メゾソプラノ ［婉曲］女性器 ［レベル］2 aɥa;yənl,au.heɒ 古 :yənl（鳥籠姫、お嬢さん）。sə/lə から。sə は「受ける」。lə は ləɒ で「生き物」。「～されたもの」←「捕えられたもの」。元は女性でなく「人質」。女性のほうが人質にしやすいため、やがて意味が変化。 yənl:yənl ［文化］ 典型的には、綺麗で知的で大人しく慎ましく儚いながらも、芯は強いような女性。

yənl,au ［名詞］yənl、yənj、ınıc、鳥籠姫、犠牲、身代わり yə ＜ sə（される）/ləɒ（動物）「される者→犠牲、身代わり」。現在の yənl は au が heɒ したもの。 赤

yənlφıl ［化学］エストロゲン、卵胞ホルモン、女性ホルモン ［レベル］6 ul;/「乙女のホルモン」 ɹʔ

yənlı ［名詞］［形容詞］格子、チェック、チェック模様 ［レベル］3 1L:yən lılı,yənl は格子の牢屋に閉じ込められたものであることから

yənlılıɑ ［地球の国名］クロアチア ［レベル］6 1L: 国旗がチェック模様

yənlıhınj ［普通動名詞］ミウラ折り、ミウラ折 ıl;/「格子状に折れ目が付いている畳み方」 ɹɒ

yənlıɥɔb ［建築］グレーチング。鋼材を格子状に組んだ溝蓋。 ul;/ ɹʔ

yənlɔ ［名詞］鳥かご、鳥カゴ、鳥籠 jɒ;yənl.l（囚われの身→鳥籠姫→鳥籠） ɹɒ

yənlɔʃ ［被服］パニエ、ファージンゲール jɒ;yənlɔ/ʃe ɹɒ ［文化］ → alınseʃ

yənj ［名詞］犠牲、餌食、獲物、人身御供、人柱、代償、代価、代金、生贄、いけにえ ［類義語］cjʃcj、ɒyəllc ［レベル］3 aɥa;yənl,au.l lıʃı:yənj,yənl から yənl:yənj 【用例】 lı ɑcjʃıʃ nɔj lel yənj. 彼女は自分を犠牲にした。 "jɔl φııʃɔ ɒcneeɒe aəʃ jen yənj ı ʃyə ɒcl lə eʃ ɾlı ɑıcʃ en jeʃe8"「そんなご立派な立場にいるからこそ、あなたとの大きな取引ができるんじゃなくて？」

yənjjcaı ［地球の星座］［ユマナ］アンドロメダ座 ɹɒ ［文化］ caı

yənac ［形容詞］儚い、かよわい、可憐な、すぐ死んでしまいそうな、傷つきやすい、か細い、か弱い、ひ弱な、むなしい ［文字］シン ［類義語］cun ［反意語］eʃʃe ［レベル］3 1ʕ: 制 :yənaı:yənl/aıɒ（丈夫なユンク）

yənacɒıl ［電算］ＤＲＡＭ ［レベル］5 1L

yənɑc ［文末純詞］［ɒɒı］eyɔ ［レベル］1 ɹ1:ɥcɑcı:yən ɑı（そのようだが）の語彙化。

yənɑcʃe ［軍事］天馬騎士団、ペガサス騎士団、ペガサスナイツ ［アクセント］yənɑcʃE ［レベル］5 zφ:jzl(lz);yənɑcʃe,jzɑ.ıle) ɹ1 ［文化］ lyəjcel

yənɑcʃe,jzɑ lcɒeeɥ ›‹yənl

yənɑcn,lc ɒıuı

yənɑcnɥıc,lc ıφecʃ

yənɑcɥı ［地名］ユンディラ ［料理］ユンディラ油。オリーブオイルの品種名。 ［アクセント］yənɑcɥ↑ ［レベル］4 ɹ1:yənɑcnɥıc.jllc ［語法］ yənɑcɥın はオリーブオイルの等級で、yənɑcɥı はオリーブオイルの種名。yənɑcɥı の中に yənɑcɥın な等級もあれば、dejʃɔn な等級もある。yənɑcɥı e yənɑcɥın が最高品質。 ［文化］ アゲイト島中央部北寄りにある丘陵地帯で、オリーブの産地。高品質なオリーブオイルであるユンディラ油の産地。

yənɑcɥın ［料理］エクストラバージンオリーブオイル ［レベル］5 ɹ1:「ユンディラの」

yənhɔlj ［天文］歳差、歳差運動 ［レベル］6 ɹ1

yənyı ［代詞］yənı の冗語。ゆにゃあ。 ［レベル］2 ɹɹ

yənyən ［被服］銘仙、めいせん、ゆんゆん ɥʃ;‹ılʃ ɹɒ

yənl ［動詞］yəl を ı に監禁する、監禁する、閉じ込める ［普通動名詞］監禁、閉じ込め ［類義語］ɑejdı ［レベル］4 1ʔ: 制 :yənl（鳥籠姫）

yənı ［代詞］［yənl］私、わたくし ［レベル］1 ɹ1:lɒccɥ: 古 yənı（ミリア位相を喋る人）

yənı,ılʃ ejʃ

yənıʃeɒılc ［言語］ゆなてまり、花言葉 ［類義語］ɒccnıɥenj ［レベル］4 ɹɹ:ılʃ「名飾り」

yənıjɔləlc ［普通動名詞］名交わし ［レベル］4 ɹɹ ［文化］ アルティア人の男女が互いに互いの名を書くことで愛を伝え合う習慣のこと。

yənııɒelc ［普通動名詞］名隠し ［レベル］4 ɹɹ ［文化］ アルティア人が想い人の名を書いて忍ばせておくことで恋のまじないとすること。

yənc ［形容詞］非正式な、非公式な、簡易の、簡略な ［類義語］cjɒ ［反意語］yəɒı ［レベル］3 @1L 【用例】 lıbıjʃ yənc 非正規社員（パート、アルバイト、派遣、契約）

yəncj ［動詞］yəl を神睡させる、神睡する ［魔法］［普通動名詞］［再帰動名詞］神睡、しんすい、ユニス、半寝、ぼんやり、うたたね、うたた寝、転寝、午睡、神のうたたね、神々のうたたね、神々の午睡 ［レベル］4 au;ənc/jɔ「猫のようにする」 ɹʔ ［文化］ ・神睡とは アテンというのは神性が高ければ高いほど一日のうち活動期間が短い。活動をしていない不活性の状態は半分寝たような状態であり、これを神睡という。 al の ıɥʃe は最も活動期間が短く、ıʃoııyə や lənɔ は次に短く、elʃ や jııl はその次に短い。力が強いほど活動期間は短く、神睡は長く、総じて気も長い。力を失うごとに神睡の長さは減っていく。 神睡中は朦朧とした意識があり、周りの状態はおぼろげに把握している。ただし明晰な思考はできず、危険回避等、生命に関わるとっさの動作以外は抑制された状態にあり、エネルギーセーブの状態にある。エタンでいう冬眠状態にやや近い。ただし四季は関係ない。 日常生活でいえば猫がぼーっとしている状態に近い。猫は一日の大半を寝ているが、そのうちほとんどは熟睡でなく浅い半寝の状態であり、怪しい物音などがするとすぐに活動を再開する。神睡はその状態に似ている。実際、yəncj の語源もそこから来ている。 ユーマの一族も神睡をする。世代が遡るほど神睡の時間が長い。神睡の時間は世代が下るごとに短くなっていった。同世代のユーマの一族であっても、ヴィードの強いほうが長い神睡を取っていた。 神睡は jɒ ごろにヴィードの弱い庶民から徐々に喪失しかけていった。ɥɑ では大半の庶民が神睡を喪失しつつあった。nɑ 以降は ʔ,ɹ 遺伝子の普及とともに、ヴィードを大量に持った一部の魔導師の生き残りを除き、人々は神睡を喪失した。 ・神睡と進化の歴史 地球に比べてアトラスはアテンという高度な知能を持った者が長く存在した。にもかかわらず、両世界の技術や言語における変化や進歩の歴史はそんなに大差ない。この背景に神睡が関与している。 確かに al や ʃɒ など神代は非常に長い期間があるが、神々は魔法を使って暖を取ったり物を作ったりしていたため、技術の進歩が遅れた。技術を進歩させる必要性がなかったためである。 また、成員も少なく寿命も事実上ないため成員の入れ替わりもなく、しかも神睡のせいで活動期間が異様に短いため、言語の変化もほとんどなかった。何百万年という期間があっても、現代の言語変化とは速度がまるで異なる。現代人はたった数十年で世代交代し、数億人が一つの言語をせわしなく毎日長時間使う。この現象は現代にしかないものである。 言語が地球並みの速度で変化するようになったのは、神睡の喪失と寿命の短化が原因である。よって言語変化は jɒ までは超緩慢で、jɒ ごろから徐々に加速し、nɑ 以降は地球のそれと変わりない。特に ul 以降における言語の変化は地球同様、めまぐるしいものがある。 神睡と長い寿命を失いはじめた jɒ から、それらを失いきった nɑ 以降、人類の進化は早くなり、社会の変化も早くなり、ユーマの一族の気も短くなった。 気が短いと言われている悪魔ベーゼルなど現代人から見れば信じられないほど気長である。彼は何年という時間をまるで数分か数時間のように捉えているためである。それでも悪魔の中ではベーゼルは気が短いほうであるため、bezeʃ（せっかちな）などの語源となっている。だが実際にはよほど人類のほうが気が短い。そしてそれは神睡や寿命の違いに起因している。

yənɔ ［魔法］蒼晄、そうこう、ユノ ［名詞］スタミナ、体力 ［医療］水 ［レベル］1 jeɥʃ 1ʕ: 制 : 古 :hyənɔ（ユノ）フルミネアの造語で、「巫女の力」が原義。制まではフルミネアの母語で巫女の力と思われていたが、本人の弁で古アルカから造語したということなので採用する。実際北欧語のどれを探しても hyənɔ で巫女の力を意味する単語は見つからない。 hyənɔ:hyənɔ:lə hyənɔ ［文化］ enuelen, ɑɔlɒc yə 人体を囲む青い光で表現される。『アティーリ』ではヴィルやノアよりも一般的な能力とされる ユノには凹凸と開閉がある。→ ɑɔl ɒcyə 開はアテンの体外で安定し、閉は体内で安定する。 ユノは虚質量を持っている。→ ɑccyə 【成句】 lcɒ yənɔ 元気をつける、体力をつける aecl yənɔ あまりに真剣な態度でオーラが出ている状態になること ʃcl yənɔ {ucen, uecn nɔɑ nene} 快活だ、元気だ yənɔ ıjd ɔn 無理だと諦める、気の遠くなるような、絶望的な ɒıʃ yənɔ 緊張を解く yənɔ ej ɒcɒ 意気消沈 yənɔ ej jɔlʃ 意気投合 yənɔ ej nel 意気揚々 neʃ yənɔ 一念発起 lɔn yənɔ e jeɥ en 一気呵成 jıb yənɔ e ɥcɑcı 一心不乱、無我夢中 ʃɔc yənɔ ac cnı ～を気に入る ɒeʃ yə ɔn yənɔ 拍子抜けする 【用例】 ın yɔllej yənɔ. 元気を使い果たした。

yənɔalcʃ ［魔法］霊水晶、ユノフリート ［アクセント］yənɔal€ʃ ［レベル］5 jɒ;yənɔ/calcʃ ɹ1 ［文化］ calcʃ

yənɔaɔl ［魔法］霊力摩擦 ［レベル］6 ɹ1 ［文化］ ɑɔlɒcyə

yənɔbıl ［魔法］ユノの壁 ［レベル］5 ɹ1

yənɔɥɔn ［魔法］霊圧 ［レベル］6 ɹ1 ［文化］ ɑɔlɒcyə

yənɔl ［代詞］［yənl］私の、わたくしの ［レベル］1 ɹ1:lɒccɥ:yənı/ıl

yənɔlccl,ıɥɑ ユノ粒 /

yənɔelle ［生物］廉泉 ɹ1

yənen ［接続詞］yən。～であるかのような。 ［レベル］3 ɹ1 【用例】 cnj yənen lınʃe 満月のような目

yəneɥ ［形容詞］静的な、非活動的な、非活発な、不活性の ［反意語］ɑılj ［化学］［電算］不活性 ［アクセント］yənEɥ ［レベル］3 ɹ0:yən eɥ（水のような） 【成句】 ɒıʃ yəneɥ 動かないウムト：うどの大木。レレゾナの命名。

yəneɥʃinʃɔı ［魔法］静殻 ［レベル］5 ɹ1 ［文化］ ɑɔlɒcyə

yənepuedu ［娯楽］ノンアクティブモンスター　JJ

yənepaueyə ［言語］法副詞、助動詞 ［レベル］4　J1 ［語法］ aueyə

yənepɒɔɪ ［経済］不動産 ［レベル］4　J1

yənepɒɔɪjepφ ［経済］不動産投資 ［レベル］5　J1

yənepφɪpɒɪ ［政治］［軍事］冷戦 ［レベル］4　J0

yənepɪcl ［化学］不活性元素、希ガス ［レベル］5　J0

yəu ［動詞］yəl を喰らう、食らう、喰らう、くらう、こうむる、被る、嫌々受け入れる ［医療］yəl を罹患する、罹患する、罹病する ［普通動名詞］罹患、罹病、被害、受け入れ ［類義語］yə、ɒcl ［レベル］2　J0:yə/ucl　yəəuc:yəəuc ［語法］ 話者にとってそれを受け取ることがマイナスに感じられるときに使う。敵に向かってユノを撃つときは、敵の主観でなく自分の主観に基づくので pe yəu でなく pe yə が正しい。逆に味方がダメージを食らったときは lı yəuıʃ が適切。 【用例】 yəu uɔnʃ ヴォントを食らう

yəuuɔɿ ［言語］非文ではないが不自然な文、不自然な文 ［レベル］6　JJ ［語法］ ɒcɒuɔɿ

yəuılʃ ［軍事］前線 ［レベル］4　J1:yəu/ 古 bılʃ（攻撃を食らう壁）

yəuel ［運動］［武道］ユベール、ユヴェール、ユベル、ユヴェル、格闘技、武道 ［類義語］bɒlınz ［アクセント］yəuEl ［レベル］3　古 :yə/uel（闇を食らう） ［文化］ ・概要　　pɒ の時代にアシェットが作った実践戦闘術。アデルや犯罪者から身を守り、或いは倒すためにアシェットが民間に広めた。その結果、それ以降アトラスの世界規模的な戦闘術並びに格闘技としての地位を得るようになった。　現実にはルティア家個人の格闘技をアシェットに広めたものを指す。リーザが護身術として使徒らに学ばせたものをリディアやセレンらが洗練させて体系付けた。　打突は回転系のものが少なく、軍隊の戦闘術をモチーフに作られている。また、靴を履いて服を着た状態での戦闘を始めから想定している。　敵を制するよりも破壊する方法を重視しているため、危険な部位を狙う技が中心となる。練習時は寸止めをするより、打点をずらすか防具を着ける方法の方が人気のようである。打点は関節や筋肉の薄い部分だが、こういうところにこそ防具を着けづらい。なので打点をずらすのはある程度必須であろう。　また、武器の使用を前提としており、特に棒とナイフと銃の使用を考慮している。棒と括っているのは木刀、剣、バット、木片などを代表するものである。　　・実戦的な戦闘術としてのユベール　　現実のセレンはフルコン空手、キックボクシング、少林寺拳法、柔道、剣道、居合、棒術、弓道、合気道、鎌術、銃の取り扱いの経験がある。　様々な格闘技や戦闘術を行ったが、どれも実戦向けではないというのが結論だった。　セレンは高校時代を中心に路上で頻繁に裸拳で喧嘩をしていた。拳を骨折しても放置したまま喧嘩し続け、中指が化骨したほど喧嘩に明け暮れていた時期があった。　その実戦経験からして、どの格闘技もスポーツであり、実戦向けではないと感じた。

　例えば空手はセレンが経験したのはフルコンだったが、顔面への殴打はなしというよくあるルールであった。顔面を殴られないという安心感があるため、明らかに実戦なら殴られる間合いにも平気で顔面ノーガードで入っていく。これはフルコン空手の自由組手を見ればすぐ分かることで、明らかに「今殴れるだろ」という場面で殴らない。これは全く実戦的ではない。現実にはそのような間合いの取り方は起こり得ない。当たり前だが、殴られてしまう。　ちなみに極真ルールは実践的でないと感じたが、空手の中では大道塾空道が一番実践的ではないかと感じる。あれは投げや関節も豊富に取り入れているのでかなり実戦向きだと思う。　キックボクシングについては剣道と同じく道具を使ったスポーツであると感じた。最大の理由がガードの方法である。相手の拳をはたくパリィはまだいい。しかし腕でガードするブロックはグローブありきである。ボクシングのガードの大半は実際は両手を眼前に置いたグローブでの防御である。これは現実にはまるで役立たない。実戦ではあのような大きなグローブをはめないため、あのようなガード方法では相手の拳がこちらの拳と拳の間をすり抜けてしまう。あのようなガード方法は実戦ではまず取れないのである。ボクシングはガードしてダメージを減らしつつ、打たれること前提で打ち合っていく。グローブをはめた拳なので重いが痛くはなく、裸拳と違って複数回打っても受けても体が壊れない。ゆえにキックボクシングはグローブありきのスポーツであり、剣道と大差ないと感じた。もしキックボクシングで喧嘩をしようと思ったら、竹刀を持ち歩くがごとくいつもグローブを持ち歩く必要がある。もちろんグローブなしでも喧嘩はできるが、いつものような戦い方はできなくなる。つまりふだんの実力が出せないまま終わってしまう。　また、空手にもキックボクシングにも言えることだが、基本的に蹴りは回転系が多い。空手は回し蹴り、キックボクシングは左ミドルや右ローなどを多用するが、いずれも分類上は回し蹴りである。これが実戦向けでない。回し蹴りというのはパンチよりスペースを取る。それなりに広い場所でないと繰り出せないし、ガードレール、電柱、道路標識のポール、路上の自転車、室内なら机などが障害となり、しばしば打つことができない。その上前蹴りと違って回し蹴りは基本脛で打つ。キックボクシングなどでは防具を脚などにつけてスパーリングを行うから脛を折ることはまずない。ところが実戦は違う。回し蹴りを打ったら相手は膝か肘で合わせてくる。人体は肘のほうが脛より硬くできているので、両者が接触すれば攻撃したほうが逆に折れてしまうことがある。実際にプロテクターなしのＫ１などでローに膝を合わせられて攻撃したほうが逆に脚を折るということがある。プロでさえそうなのだから、素人はまして危険である。　また、地面がぬかるんでいたり濡れていたりしない保証もない。段差や坂でない保証もない。地面が不安定なら軸足が不安定になるハイキックなどはましてもってリスクが高くて打てない。　さらに、回し蹴りは懐に入られやすいという決定的な欠点がある。ナイフなどを持った相手に回し蹴りは非常に危険である。　回し蹴りは脚を取られて転ばされマウントされやすく、リスクが高い。空手やキックボクシングで回し蹴りがあそこまで不自然に多用されているのは脚を取ってからのマウントや固めというルールがないためである。実戦では脚を取ってマウントされるリスクもあり、あんなに安易には打てない。　さらに、素足で打つという前提も現実にはありえない。実戦では靴を履いて戦う。このとき脛は守られていない。しかし足は守られていて固い。そこで実戦では前蹴りが安全である。靴を履いているため、攻撃側がダメージを受けるリスクが最も少ないためである。大学時代のセレンのように軍靴を履いて爪先に鉄甲が入っている場合は爪先を突きこむように蹴るのが特に有効で、この蹴りを使えば厚いドアにも人力で穴を開けられる。人体相手なら膝で合わせてこようがどこで合わせてこようが確実に破壊できる。　ときに柔道は路上がコンクリであることを考えると、相手を掴みさえすれば空手などよりも強い。投げるだけで簡単に致命傷である。投げなくとも固め技が豊富なので相手を取り押さえることもできる。ただ柔道は打撃に対するガードの練習が圧倒的に不足しており、空手の人間を掴む前にＫＯされる恐れがある。　また、柔道の最大の弱点は服装である。柔道着のような服を普段着ている現代人はいない。もし相手がタンクトップだったら思うように技をかけられない。まして相手が上半身裸になってしまえばよりいっそう技を封じられる。それゆえセレンは柔道経験者と喧嘩するときは常に上着をすべて脱ぐようにしていた。柔道もキックボクシングがグローブありきなのと同じで道着ありきのスポーツである。相手が裸になってしまえば戦力がだいぶそがれてしまう。

　少林寺拳法は剛法と柔法が混在していて空手と柔道の間の子のようでスタンスとしては実戦向きだが、残念なことにフルコンではないため実戦向きの訓練にならない。セレンが行った流派は打ち合いがあったものの、それは例外的な催しであり、普段は型稽古や約束組手ばかりである。これでは戦闘訓練にならない。　合気道も同様で、これは要は約束組手であり、実際に戦いはしない。合気道にうまいはあっても強いはない。しかも基本的に柔法であって剛法に疎いという欠点がある。正直、実戦的な観点でいえば、格闘技の中でセレンは合気道が最弱だと感じた。Ｋ１などに合気道が参戦しないことからもなんとなく分かるだろう。　ちなみに柔道も合気道も相手に圧倒的な腕力があれば固めることはまず無理である。よく相手の力の流れに合わせて技をかけていくと言うが、それは現実的でなく、言うほど簡単ではない。実際セレンは合気道をやっている腕力の弱い女性に技をかけてもらったが、セレンが力づくで相手の手を振り解いたら、いともたやすく振りほどけた。あれはそれなりに腕力のある人間でないと制圧できない。　セレンは柔法もできるので泥酔者を取り押さえたことがあるが、警察を呼んだところ、やってきた警官は泥酔者を取り押さえられなかったということがある。訓練を積んだ現役警官でさえこのザマである。腕力のない素人であればなおさら人を固めて取り押さえるのは難しいと分かる。それに、どんなに技術があっても圧倒的な腕力には敵わない。振り回されて終わりである。　剣道は正直かなり強い。ただし欠点があり、常に棒など持ち歩かないのでいざというときに役に立たない。ただ居合を経験した剣道の有段者が真剣を持って空手道場に突っ込んでいったら、そこにいる門下生を皆殺しにするのは容易だろう。いくら強靭な肉体を持った空手家であっても真剣相手では突き殺されるか斬り殺されるかである。間合いも攻撃力も圧倒的に真剣のほうが上である。真剣相手に生身で勝つのは漫画か映画くらいのものだろう。　ただ、もし剣道が竹刀を持って戦ったら空手にも柔道にも勝てないだろう。最初の一発は入るだろうが、そんなもの強靭な肉体を持った彼らはたやすく耐え、間合いに入ってくる。そうなればおしまいである。竹刀で勝つにはよほど鋭い突きを喉元にでも入れない限り無理だろうが、そこを正確に打つのは武道家相手には厳しい。また、竹刀など掴んでしまえばたやすく制圧できるので、そこも欠点である。木刀ならまだ面一撃で相手を殺せるだろうが、それでも腕一本犠牲にされて突っ込んでこられたら負ける。ただ最初に言ったように、真剣なら剣道が最強である。これは防ぎようがないし耐えようがないからである。問題点は、真剣を持って歩くことができないという点である。やるとしたら人生破滅覚悟で襲撃に乗り込むときくらいである。　また、室内では天井に剣がぶつかる恐れがあり、室内での戦闘には不向きという弱点もある。回し蹴りは横にフリースペースが必要だが、剣道は基本的に縦にフリースペースが必要なことが多く、室内ではいっそう不利である。　居合は剣道と違って型稽古なので、居合の達人と剣道の達人が真剣で殺し合いをすれば、恐らく剣道の達人が勝つだろう。少なくとも現在の居合は演舞であり、実戦向けの技術ではない。ただ剣道家も一本を取るための稽古をしているので、実際に真剣を使った剣道家の剣さばきは綺麗に切れるものではないということを付け加えておく。　棒術は棒なので空手家などが一発目を耐えて棒を取ってしまえば終わりである。また、強靭な空手家相手なら棒を折られる恐れもある。真剣と比べても棒の威力は見劣りする。しかも棒術は手を滑らせて行うため、棒が少しでもささくれだっているだけで満足に使えなくなる。つまりそこらの角材などを使って急遽戦うというようなことはまず無理である。

　鞭術はリディアはできるがセレンはできない。鞭術についてはよく分からないが、やはり刃物ではないので一撃目を耐えられてしまえば終わりではないか。　弓道は和弓が世界最大なくせに世界最弱の威力という点で全く戦闘に向かない。まず命中率が悪すぎる。そしてボウガンなどに比べて威力が弱すぎる。その上大きすぎて取り扱いが戦場では困難である。開けた場所ならともかく路上で戦うというのはまず無理である。まして室内では長さがありすぎて天井にぶつかり、弓を引くことすらできない。室内では坐射がせいぜいだが、坐射で戦えるわけがなかろう。特に近接戦闘に持ち込まれたら何もできない。つがえて引いて射るまでに間合いに入られて制圧される。実戦という意味では合気道より弱く、そもそも格闘技の類ですらなかろう。　鎌術は特殊な武術で、大学のときに長野で習った。恐らく刀狩以降の農民による武器術なのだろう。農具は徴発されないので、その農具で戦おうという主旨のものだと思われる。鎌は間合いが短いため、真剣と対峙すればかなり不利である。　実はセレンは経験がないが、薙刀は剣道より強いと思う。薙刀は日本では基本的に女子のスポーツなのでセレンは経験がない。しかし薙刀は遡れば男性の武将がもとは使っていたもので、剣より間合いが長いのと馬

の脚を切れるという利点があるため、戦場では使い勝手が案外良かったという。　薙刀はリーチがあるため、剣道と試合をすれば薙刀のほうが有利である。また剣道にはない脛が有効打突点として存在するのも強みである。実戦においても薙刀のほうが真剣より有利と思われるが、柄が木製なので柄を叩き切られれば無力化される。空手家も強靭な者は木の棒くらいは折ってしまうので、無力化される恐れがある。なにより薙刀は路上でやるにはスペースがいりすぎる。薙刀は縦だけでなく横斜めにもフリースペースが必要で、しかもそのスペースは剣道より大きい。とても路上や室内で自由に振るえるものではない。さらに携帯するのが真剣以上に不便である。なお、言うまでもなく刃のついていない練習用の薙刀は竹刀と同じく威力に乏しく、実戦では空手家などに通用しないだろう。仮に刃が付いていたとしても、真剣と違って刃の部分が短いので、木の柄を握られて制圧される恐れもある。　もしセレンが真剣で薙刀と戦うとしたら、脛を切られないよう間合いをとりながら木の柄を切るだろう。どちらも刃が付いている場合、ふつうにやったら薙刀に足を切られて殺されるだろう。だからむしろ武器破壊を狙う。薙刀は長すぎて柄を金属製にできない。重すぎて振れないからだ。なので必然的に木製になるが、木製なら真剣で切れないこともない。ただ、かなり難しくはあるが。　ときに銃は言うまでもなく最強である。もはや武術や格闘技の域を超えている。頑張れば子供でも取り扱え、空手のように何年も体格を上げながら鍛える必要もない。リコイルショックで手首を痛めるなどということもあるが、それは銃の種類と取り扱い方次第でどうとでもなる。素人は１ｍ先のものにすら当たらないというがそれは俗説で、セレンは最初に実弾を撃ったときから射撃場の的に当てた。それも取り回しの効きやすい小銃などではない。デザートイーグルである。セレンの腕力が強いこともあるだろうが、リコイルショックもたいしたことないし、手首を痛めるというようなことも最初からなかった。　銃はアメリカなどでは携帯もできるので、アメリカでは銃を持っていれば最強で、わざわざ格闘技をやる必要性すら感じられないように思える。　では銃と真剣はどちらが強いのだろうか。もちろん銃のほうが戦争に向いているので刀が廃れたわけだが、近接戦闘の個人戦では本当に銃が強いかは不明である。というのも、よほどのマグナムでもなければ銃は当たっても即死しない。マグナムであってもヘッドショットしないかぎり即死はしない。動きまわる剣術家に対して大型のマグナムでヘッドショットを綺麗に撃つのは相当な技術がいる。かなり慣れた人間でも難しい。そして撃つ前に真剣で小手を打たれたら手が落ちる。そうなれば銃は撃てなくなる。また、撃ったとしても即死はしないので間合いに入られて斬り殺される。恐らく銃と真剣が路上で戦ったら、銃が勝つか相打ちになるだろう。　ただ銃はそもそも格闘技ではない。戦闘術として確立はするかもしれないが、武術ではない。銃が最強なのは歴史が証明しているが、日本のように銃を携帯できない国では真剣も捨てたものではない。真剣は所持していても違法ではないが、銃は所持だけで違法になる。真剣は買えるが銃はふつう買えない。日本においてはいざというときに真剣を持って殴りこみに行けるが、銃は持っていないので使えないということになる。　　さて、以上の経験を踏まえた上でセレンはリディアらとユベールを確立させた。ユベールは戦闘術で、実戦に向いている。服を着て靴を履いた状態で戦うことを想定している。また地面が不安定で狭い場所や障害物のある場所で戦うことを想定している。　顔面はむろんありだし、大きなグローブでガードもできないし、脛を折りやすくナイフの突進に弱い回し蹴りも多用しない。　ユベールは相手が武器を持っているケースも想定しているため、最も怪我のリスクが少なく相手との距離を調節でき、かつ相手に届くまでの距離が最も短い前蹴りを多用する。これは実際に戦闘を行う軍隊の戦闘術、自衛隊の戦闘術などに共通している。前蹴りは威力こそないが相手を容易に吹き飛ばせ、距離を保て、かつ刃物相手でも懐に入られずに攻撃できるという利点がある。　またユベールは剛法だけでなく柔法も取り入れているため、投げや固めなどの技もある。この点で、譬えるなら少林寺拳法のフルコン版に近い。また空手と柔道の融合した形にも近い。空手で柔法を取り入れている流派にも近い。総合格闘技にも近い。

　ユベールは固めがあるので相手をＫＯするだけでなく制圧することもできる。　またユベールは武器使用も前提としているため、ナイフや真剣などで戦う技術も身につける。要するにユベールは剛法、柔法、武器を使用した総合的な戦闘術であり、実戦に向いている。

　　以上が現実での事情だが、これを踏まえて μɒ ではセレンが様々な武術を経験したことになっており、その経験から最も実戦に向いた戦闘術は何かということをアシェット内で研究し、リーザの打ち立てたユベールをリディアらと昇華させたという歴史になっている。

　μɒ のセレンの考え方はその後も受け継がれ、ユベールは ls でも実戦的な戦闘術として生き残っている。アルバザード人は学校でユベールが必修なので、剛法、柔法、武器のいずれかができる国民が大半である。そのため、日本同様軍役はないが、平均的なアルバザード人は平均的な日本人よりも戦闘力が高い。　　ちなみにセレンは格闘技についてこんな風に考えている。身長が２ｍあろうと体重が１００ｋｇ超えていようと、どれだけ鍛えていようと世界チャンピオンであろうと、銃を持った５歳の女の子に簡単に殺されてしまう。それほど現実には銃は強く人間の体は脆い。どれだけ鍛えようと銃の前ではヒョロガリもマッチョも等しく無力である。そういう意味で格闘技も武術ももはやむなしい過去の産物でしかなく、歌舞伎のように廃れ行く伝統芸能に近しいのだろうと。　どれだけ鍛えて最強の男になって極めたところで銃を持った子供にすら勝てない。むなしい現実である。なんだか語学に似ている。どれだけ頑張って東大生が語学を勉強しても、ネイティブの子供より巧く話せることは絶対にないのとよく似ている。　だからセレンは格闘技にも武道にもそんなに重きを実は置いていない。ほどほどにできてそれなりに身を守れればいいかという程度で、ないよりはマシな程度の力としてしか考えていないので、そこまで強さにはこだわらない。どうせ最強になったところで５歳の幼女に勝てないのなら、そんなもの馬鹿馬鹿しいからである。　だが知能は違う。数学などの学問や芸術などの技術は磨くことでどんな道具にも負けない能力を引き出すことができる。コンピュータは計算は早いが人間と違って創造力がない。知能や芸術センスを駆使してものを作るというのは人間のほうが機械より遥かに上で、どんな道具でも代替が効かない。銃を使えば人間の努力は覆る。だが機械を使っても人間の叡智は覆らない。機械は補佐でしかなく、機械単体が人間の叡智を上回ることはない。銃は単体で屈強な男を殺せるが、機械は単独で学者の閃きを追い越せない。　セレンはそのことが分かっているため、武術よりも知能、力よりも頭を重視している。突き詰めれば力など銃という機械の前では無力なのだから。　　・体格と戦闘　　戦闘に向いた体格というのがある。まず体重だが、除脂肪体重が大きいほど有利である。単に太っているだけでスタミナがないとわずか数十秒でバテるので話にならない。キックボクシングなどを練習したことがあれば分かるだろうが、攻撃というのはかなりスタミナを要する。ただひたすら相手を攻撃することが許されたとしても、スタミナのないデブはわずか数十秒でバテる。そして筋肉量が少なく訓練されていない人間の打撃では素人は倒せてもやっている人間は倒せないので最終的にスタミナ負けする。つまり鍵となるのは除脂肪体重である。　次に身長だが、これは高いほうが有利と思われがちだが実戦ではそうでもない。ボクシングのような競技ならリーチが長いほうが圧倒的に有利なので身長があると確かに有利だが、喧嘩はノールールである。小さい人間は大きい人間の懐に入りやすく、タックルからのマウントを取りやすい。逆に大きければリーチが長いし、攻撃も上から下に打ち下ろすようにできるため威力が増す。つまり小さくても大きくてもメリットがあるということである。逆に言えば大きければ懐に入られやすく、小さければリーチ負けしやすいということであり、実は大きくても小さくてもデメリットがある。そういうわけで意外かもしれないが、実戦において最も有利なのは目立ったデメリットのない平均身長である。理想を言えば、平均身長で腕が長いと良い。セレンなどはこのタイプである。　平均身長で除脂肪体重が重ければ実戦においてその者はかなり強いと言えよう。実際に競技の中でも合気道などに比べて比較的実戦に近いＫ１や脩斗などを見ていると、必ずしも長身が勝つとは限らないことが見て取れる。

ɥəuel φenɔɹ ［人名］ユベール＝ゲノス ［レベル］6 1L:clɒəɹ:µcɑcı ［文化］ アルティル期の思想家。ミナリスの側近。

ɥəuelın ［名詞］格闘家 ［類義語］ebɗınɑ ［レベル］4 ⅃1

ɥəɑı ［動物］コアラ ［レベル］3 lıⅡı:「毒を食う者」

ɥəɑı,ɑu ucleſ ɥə/ɑı「火を受けるような」

ɥəɑc ［形容詞］思いやりのある、利他的な ［反意語］eᴅcɹ ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcɹ:ɥənƖɑccn（ユンクが尽くすように）

ɥəɑə ［電算］ビット ［レベル］4 古 :ɥəɑə(ビット)「0 と 1」が原義から

ɥəᴅ ［形容詞］弛緩した、リラックスした、ゆったりした ［動詞］ɥəl を弛緩させる、弛緩させる、弛緩する、リラックスする、脱力する、力を抜く ［反意語］nɔd ［レベル］3 1L:µcɑcı: オノマトペ。びよーんと伸びた感じの音 【成句】 ɥəᴅ ɑlel 肩の力を抜く 【用例】 uɔµſ lıᴅel Ɩɔlȣ ɥəᴅ ıl ɑlel. 死は初めてか？肩の力を抜くといい（死神ヴァンガルディ） lə eɹ ɥəᴅ ſcn cn. すごいゆったりしてるなぁ。

ɥəᴅde ［地名］ユンペ ⅃0: 星のような ［文化］ ヴェマ中央部よりやや東南よりの都市。

ɥəᴅdelcՈ ［料理］シュウマイ、シューマイ ［レベル］4 ⅃0: ユンペ産饅頭

ɥəᴅı ［形容詞］正式な、公式な、本格的な、簡易でない、シャチハタでない、正攻法な ［類義語］ıln ［反意語］ɥənc ［レベル］3 1ſ: 制 : 恣意 ［語法］ ıln は血筋や血統などが正統。 【用例】 lıbıɹſ ɥəᴅı 正社員

ɥəᴅını ［ユマナ］［地名］ユマナ、人間界 ［レベル］3 ɑu;e 古 : 赤の時代に霊人（当時は現在でいうレ･カイの人などを指した）をランティス、人間（当時は現在でいう悪人や非アディアの人間や人間界の人を指した）をヒューマやユーマと呼んでいた。ユーマはこのとき現在でいうユーマの一族という意味ではなく、現実では非アディア系の人や悪人、架空では人間界の人を指していた。後者の語義の ɥəəᴅı に心を指す nı がくっついてできたのが ɥəᴅını で、元は「人間の心」というのが原義で、それがやがて「人間界」という意味で使われるようになったのではないか。赤の後に制でユーマはカルディアにおける人類の祖先を指すようになったが、こちらは少女ユーマが原義にあり、人間界の人という原義は失われている。要するに人間界とユーマの一族はユマナとカルディアほどの開きがあるにもかかわらず同根なのである。それでは神話的には辻褄が合わず困るので、神話上は ɥəᴅını の語源はエーステとしてある。 ［語法］［文化］ ・語義　　地球のあるこの現実世界を指す。　ユマナの存在では神代から神々や悪魔の間で囁かれていて、ユーマの一族の間でも存在するのではないかという説が囁かれている。　悪魔メルティアやベルトや死神ヴァンガルディはユマナが実在することを知っているが、公表はしない。彼らの言動の端々から神々がユマナの存在を推測した。　一部の神々はその世界のエーステがユマナという音であるということを根拠に、エーステがあるということはユマナが実在するはずだと説いた。しかし一部の神々はエーステは実在か架空かにかかわらずあらゆる概念に付与されるものなので、それでは説得力に欠けるとした。　結局直接ユマナに干渉できない者にとって、ユマナの存在は伝説でしかなく、それが存在するかは不定である。　　・ユマナタグ　　本辞典の［ユマナ］タグは「連体詞」や「フィンランド」のように、アトラスにはないが地球にはあるものを指す。　［ユマナ］はアルカの単語でないのでカルディアとの整合性は考証せず、地球でアルカを使う人間にとって分かりやすいかどうかを重要視する。例えば国名などがそうである。セレンらにとってわかりやすいネーミングをしているにすぎない。除夜の鐘 (ſcnl ſ'ıleſ) などもそうで、グレゴリオの年末はメル暦でアシェットの日ではない。

ɥəᴅının ［ユマナ］人間界の人間 ［レベル］3 1L: リディアの書

ɥəᴅc ［名詞］ユミ、赤い糸、運命の糸 ［数学］写像。２つの集合において、一方の集合の各元に対し１つずつ、他方の集合の元を指定して結び

つける対応関係であることから。 [レベル]３ 古 :yəᴅc ← yə(受ける) /ᴅelc（糸） [文化] 人間には必ず相思相愛になれる相手が一人 (ucɥc əȷ) 存在する。その相手とは目に見えない糸で繋がっており、しばしば出会いの際に糸が反応して強く惹かれあうようになる。その相手と出会って結ばれれば一生幸せでいられるが、ほとんどの人は違う人と出会って恋をしてしまう。 なお、糸は原則見えないので何色ともされていない。魔法の指である人差し指につながっている。もちろん神の手である右手の。 カコの時代にできた考え方で、レイユで廃れたが、ミロク革命以後、貞操観念が再び強まり、一般的に信じられるようになった。

yəᴅc,ılʃ cᴅ, ᴅel

yəᴅcᒧl [電算] ユミクル、２ｃｈ、２ちゃん、２ちゃんねる [レベル] 4 ıl;yəᴅc.ᒧ ᒧ0: 赤い糸 [文化] ıl で作られたインターネット上の巨大匿名掲示板。匿名性から犯罪の温床にもなっていたが、ls のミロク革命でセレンにより匿名での誹謗中傷の取り締まりが強化され、健全化した。

yəᴅcᒧlın [電算] ユミクラン、２ｃｈねら、２ちゃんねら、ねらー [レベル] 4 ᒧ0 [文化] 独特のユミクル用語を使う人種。ᴅeʃcɔ cᒧ neʃ(ııı（メティオ始まったｗｗｗ）など。

yəᴅcȷel [歳時記] 運命の日 [レベル] 3 ᒧ1 [文化] この日にできたカップルは幸せになれるという俗説のある日。ᴅcᒧ zın。ミルフとザナがアシェットでも特に熱烈なカップルだったことから。この日たまたま人差し指同士がぶつかった男女は互いに運命の相手であるという俗説がある。青少年が意識しやすい日だが、経済効果は小さい。 yəᴅc を糸に見立て、女子が毛糸のセーターなどを意中の相手に送る習慣がある。

yəᴅcnı [丁寧] [親族] お孫様、おまごさま、女のお孫様、ユミナ [レベル] 2 ᒧ1:yənᒧ/ᴅccnı [文化] lıılı

yəᴅcl [形容詞] [ネガティブ] 変哲のない、月並みな、面白みのない、ありふれた、ただの [類義語] nce [反意語] zıl [レベル] 3 ᒧ0:yən ᴅccᒧ（りんごのようにありふれた）

yəᴅcıll [数学] [論理] [電算] ゲーデル数 [レベル] 6 ul; 数理論理学において何らかの形式言語のそれぞれの記号や整論理式に一意に割り振られる自然数であることから。ひとつの記号や式がひとつの自然数に一意的に割り当てられる様が赤い糸で繋がっているように見えるため。 ᒧʔ

yəᴅccɥ [生物] メソティーソ、ユミール [レベル] 3 1L:ɥcɑcı [文化] lındcʃ

yəᴅel [名詞] 昔 [類義語] ȷeȷ [レベル] 2 ʃᴅ;lyə/ᴅel ᒧʔ [語法] 最低でも５～１０年より前のことを指す。 【成句】 yəᴅel ɔ yəᴅel むかしむかし、昔々、昔昔

yəᴅelc [形容詞] 細い、極めて細い、糸のように細い [ポジティブ] 女性の線が非常に細い、非常にスリムな、痩せた、ほっそりした [文字] エクストラコンデンス [類義語] lclı、ȷclɑ、zedleʃ [反意語] dɔɑʃe [レベル] 3 ᒧ0:yən ᴅelc（糸のような） [語法] 人に使う場合は細さを強調している。良い意味で使うが、女性とユールのみ。ガリガリはこの yə ᴅelc の罵倒語。

yəɑcȷ [単位] ユディス。約１７．４ｋｇ。 [類義語] eləı [レベル] 5 ᒧ0:ȷeɥen/ɥcɑcı:yəəᴅı/ɑıɑıȷ [文化] (ᴅelʃcı ᒧᒧ) 形状を人間型に安定させたことで神々のサイズが固定化された。これにより神々にとってサイズは可変なものという意識から固有なものという意識が生まれた。そして度量衡が作られることになった。エルトでもサールでも悪魔でもない中立な存在として少女ユーマの身長と体重を単位とした。ᛏ歳程度の姿をしていたユーマの身長は約１０７．２ｃｍ、体重は約１７．４ｋｇ。すなわち１ユディスはおよそ１７．４ｋｇ。 エルアとユディスは ɥɑ まで使われ続けた。

yəɑcı [名詞] 孤児、みなしご [動詞] yəl（子）を捨てる、捨てる、子を手放す [レベル] 3 ɥɑ:ɥcɑcı;yə/ɑcı 古 : リディアされる

yəɑɔl [形容詞] 面白くない、興味がない、つまらない [反意語] lɔl [レベル] 2 ᒧ0:yən ɑɔl（石のような＝なんでもない）

yəɑɔᒧl [言語] 被修飾語 [レベル] 4 ᒧ0: 飾られる

yədcʃɔl [アトラスの国家] ユピトール、ユピトル [アクセント] yədcʃƏl [レベル] 4 1L:ɥcɑcı: 針で刺された地竜 [文化] 面積：LΔΔ1ᒧʕ.ʔLLʔΔᒧ ᒧᴅ ᒧ

yədeı [言語] 格詞の目的語、前置詞の目的語、目的語 [類義語] yəlueʃ [レベル] 4 ɥɑ;/「格詞を受ける」。語源的には deı には動詞用法がないので deıyə でもよいのだが、yəɑɔᒧl からの類推でこの語順となった。 ᒧʔ [語法] ȷɔl や yəl も含めて格詞の目的語といえるので、通常単に目的語と呼んでいる yəl 格の目的語も広義的には yədeı に含まれる。

yəbel [アトラスの国家] ユベール [アクセント] yəbEl [レベル] 5 1L:ɥcɑcı:yəbel → yəuel →「ueᴅı の暗さを受ける」→「ヴェマの隣」 [文化] 面積：101ᒧᒧʔ1.00ᒧʔ09 ᒧᴅ ᒧ

yəyı [動詞] yəl を耐え忍ぶ、耐え忍ぶ、耐える [普通動名詞] 忍耐 [類義語] hcnɔ、hcnı [レベル] 3 ᒧ1: 古 yə/yıc

yəyı,ılʃ ɔnnı

yəyə [名詞] ゆゆ、遊女、キャバ嬢 [レベル] 3 ȷᴅ;ılʃ 古 :sccl,ɥelezɔn ı:yəəʃ [語法] 職業のひとつ、また、女の身分のひとつ。インプレンで働く高級な女。売春婦でなくキャバ嬢に近い。男の話し相手になって楽しませる女のこと。身寄りのない女の子が処分されずに生き残る方法のひとつ。小さいうちでないと引き取り手はいない。小さいうちに引き取られ、芸をしこまれ、学問を覚えさせられる。引き取り手の出費で勉強をさせてもらえ、寝食も保証されるという見方もできる。出来が悪ければ主に lız 以降売春婦になって生きるしかない。出来がよければ店で男を相手取るようになり、遊女（キャバ嬢みたいなもの）として稼ぐ。男が気に入れば相応の額を払って身請けし、ゆゆを引き取る。引き取られれば嫁となり、自由の身となる。売れ残ったゆゆはやがて客がつかなくなるとインプレンで雑用をしたり、ゆゆの教育や世話をするようになる。 売春婦の身分は低いが、ゆゆはあまり低くない。率先してなりたい職業ではないものの、訳ありで小さいころから働かされてる点に社会は同情の目を向けている。ゆゆ本人のモチベーションは一般に高い。ゆゆになるような子は、もともと捨て子が多い。彼らにはアンセが配給されない。国から国民として認可を受けないため、福祉を受けられない。そこで、生き延びた子供の中から顔や健康状態のいい少女がゆゆとして引き取られる。 ゆゆは男に身請けされれば妻としてＩＤをもらえ、アンセを配給される。これでようやく自由市民である。そこで、ゆゆは芸を磨いて男に身請けされるよう、体を清め、知性を磨き、これという男以外には貞操を持ち、会話や芸で男を喜ばせるよう努める。そこがキャバ嬢とは異なる。 男は自由市民の女よりもゆゆの見せる幻想の女像に萌えやすい。一般にアルバザードのオタクが萌える対象は、このゆゆである。日本で言うのが難しいのだが、メイドカフェが作るありえない幻想を素で見せてくれるので、特にオタクな男はゆゆに惹かれやすい。自由市民の女たちはゆゆには同情しているが、彼氏がインプレンに行くのは許さない。女によってはキレて怒鳴り散らし、顔を引っかきまわす。ただ、会話やらで遊んで楽しむ程度なら許す女もいる。また、女が同意していれば、売春婦を買うのもゆゆと付き合うのも許している。が、それはレアである。

yəyəʃɔɥʃe [植物] イランイラン [レベル] 5 ᒧ1: 遊女の吐息 [文化] アルバザードでは催淫作用のある香りとされている。

yəyəᒧı [名詞] ゆゆか、揚屋、キャバクラ [レベル] 3 1L [語法] [文化] 昔の揚屋、今のキャバクラに相当するところ。

yəɥcı [地名] ユリア海 ᒧ0:ɥcɑcı:ᴅyəɔ/eɥcı（離れた水）ミュオネイトは大陸的に元々繋がっていたが、神代以降既に大陸と離れていることから。エルトとサールのころは繋がっていた。 [文化] ミュオネイトやオプクリアの西の海。

yəɥenȷ [名詞] 使い魔、遣い魔、ユーレンス、召使、召使い、召し使い [レベル] 4 ᒧ0:yə/ɥenȷ（言葉を受ける→命を受ける）レスティル語で、それ以前は使い魔は hıᴅᴅı（使徒）と呼ばれた。səɥenȷ の sə が弱化したもの。 [文化] 黒魔導師の使い魔は鴉、黒猫、梟、蛇。 白魔導師の使い魔は白猫、兎、小鳥。 召喚士の使い魔は狐、山猫、狼。 呪術士の使い魔は鼠、虫。

yəz [植物] ユーカリ [レベル] 5 1ʕ: 制

yəzᒧc [医療] 三焦 [哲学] 侠。義侠心のことで ıɑccyə と意味は同じ。 ɥɑ;<ȷzl ᒧᒧ

yəzᒧcᒧın [生物] [医療] 三焦経 ȷzl;/ ᒧᒧ

yəscnȷ [娯楽] 当たり判定→ scnȷ ᒧ1 【用例】 yəscnȷ hın{heᴅ} 当たり判定が大きい { 小さい }

yəl [格詞] 対格の格詞。対象を示す。 [言語] 目的語→ ɔᴅcʃ [レベル] 1 1L:yəıl（受けるもの）から。この ıl は古の ıl。 ::ȷıs:yə,ılʃ [語法] ふだんは省略する。強調や倒置の際に復活する。 [文化] ȷɔc 【用例】 ın eʃ yəl ȷɔın. 俺はまさにその「犯人」なんだよ。

yəlʃncᴅ [色] ユルト色、ユルタン人種の肌の色、鳥の子色、とりのこいろ、肌色、＃ｆｆｆ１ｃｆ [レベル] 6 1L

yəlʃueɥınʃ [医療] 学習障害、ＬＤ、精神遅滞、知的障害 [レベル] 5 ul;yəlʃ/ueɥınʃ。lcıueɥınʃ に対して命名された。周りの子供、特に紫亞と比べたときに幼いころのユルトの学習障害が顕著だったことから。 ᒧʔ:ᴅel

yəlʃyəlcı [天文] 主星 [レベル] 6 ᒧ1

yəlʃlccɑı [天文] ドゥーベ、夕月星 [レベル] 6 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel [文化] ２００７年３月８日アルバザードの南を見ると、天頂付近に２つ縦に並んだ恒星が並んでいる。どちらもほぼこの日の０時に南中しており、距離も近く、まるで兄弟のように見える。隣り合った恒星はいくらでもあるが、南中線上に、しかもこの距離と明るさで並ぶのは珍しい。 ゆえにこれら２つの星ドゥーベとメラクは兄と妹の星と考えられ、双子の兄妹ユルトとルシアの名を取って yəlʃlccɑı, ləlcılccɑı と名付けられた。より高いところで大きく輝く方が男性の兄星ドゥーベである。

yəlʃ ləʃcı [人名] ユルト＝ルティア、ユルト、夕月、ゆづき、ゆーちゃん、ゆうちゃん [ユマナ] [人名] ユルト＝ルティア [レベル] 3 1Δ:ɥcɑcı:yəlφ [文化] (1Δ φcl ȷeɥ_) セレンとリディアの長男。ルシアと双子の兄弟で、兄。 幼少期のセレンと同じくこげ茶色の髪だったが、５歳ごろでほぼ黒になった。それでも光の加減でこげ茶色に見えることがある。髪はもともと短かったが、４歳ごろから伸ばし始めた。ほぼ直毛。目はほぼ黒で、二重。肌は白：黄＝３：７。かなり黄色人種寄り。 ０歳のころから大人しく物静かだった。３歳ごろ、父親に憧れて強い男になりたがり、子供用の木刀を買ってもらって素振りをしていた。体が大きく腕力が強く、４歳ごろには近所の小学生のいじめっ子を倒したりしていた。気が優しいので喧嘩はしないが、紫亞がいじめられたときだけ怒って相手を殴り飛ばしていた。力が強く根性があるので年上の子供でも倒してしまっていた。５歳で紫亞がＰＣを買ってもらって引きこもりになっていじめられなくなってからは喧嘩をしなくなった。自分がいじめられてもえぐえぐ泣くだけで喧嘩をしないタイプ。２０１１年の２月ごろ（３歳末）から「パパ、僕可愛いですか」とか聞いてきたりするようになり、女の子趣味に目覚めだした。周りの環境が女性ばかりで、可愛いということが良いことだと思っていた節がある。 ２０１１年の６月１４日にメルの付き添いで初めて父親に会い、相模大野や新宿に行った。 メルのことが大好きでいつも座っているメルの胸にしがみついてコアラのようになっていた。４歳頃メルが「太った子は嫌い」と言ったことでショックを受けてダイエットをし、５歳ごろ痩せた。 ３歳頃、父親に憧れて剣道を志したが、フランスに剣道場が少ないことで５歳に諦めて木刀を振らなくなった。同時にリディアに格闘技

をやるよう勧められたが人を傷つけるのが嫌いな性格のため、拒否。護身術の合気道ならいいと言ったため、父親は２０１３年の正月すぎに子供用の合気道着を送った。これが初めての父親からのプレゼントだった。ユルトはそのひと月ほど前に「とびだせどうぶつの森」が欲しいと言っていたが、すれ違い通信をしそうにないので合気道着にした。　５歳中頃過ぎには日常的に女の子の服を着るようになり、その格好で外に出て公園で男の子にからかわれ、泣いて引きこもるようになった。幼稚園にも行っていないのでそのまま引きこもる公算が高い。　痩せて木刀も振らず腕も細くなったことで余計に女の子らしくなった。顔がもともと父親に似ず派手でなく、大人しく儚げな顔をしており、髪質も両親に似ずほぼ直毛で、父親の好みのタイプの女の子なのだが、セレンは息子は息子らしくあってほしいと考えているため、複雑な気持ちである。しばしば「僕可愛いですか」と聞いてくるのだが、最初「いや、男だし……」と答えて拒絶していたら泣きだしてリディアらに怒られたので、その後は「見た目だけなら紫亞より可愛い。パパの好みではね」と答えるようにしたら、機嫌が良くなった。　性格は優しく利他的で穏やかだが、祖父に似て物静かで喋らず、大人しい。誠に残念ながら知能は低い。　11ʕΔ: おもちゃの剣を振っている。人は叩かない。ぬいぐるみも。かわいそうだからだそうだ。何で振るのか聞いたら「強くなりたいから」。なんでと聞くと「紫亞を守る」。「ママは？」と聞いたら「ママ強い」という。　６歳になり、やっぱり竹刀と道着が欲しいというので誕生日プレゼントとして買ってあげることにした。しかし相変わらずの女装趣味で、見た目には紫亞と並んでいると姉と妹に見える。ちなみに６歳になったときに身長を測ったら１２５ｃｍで、やはりかなり大きかった。体重も３０ｋｇあり、紫亞のちょうど倍だった。身長のわりにちょっと太ってるんじゃないかと思った。これでも４，５歳から比べればダイエットしたので、当時の体重は記録がないそうだが、知るのが怖い。なお、もう少し痩せないと可愛くなれないと本人は思っている様子。【成句】 yəlʃ lıl hɔlılaıc nɔɑ ɑcl cn ユルトは美少女に目もくれず「ケバブくれ」と言う：花より団子、花よりだんご　yəlʃ ɑeᴅc ȷien ȷɔlle yən ɑıµᴅ. のろまなユルトも親を背にすれば輝いて見える：親の光は七光り

yəlʃın ［名詞］白人の混ざった黄色人種　［レベル］３　1L: → ləlcın ［語法］　こちらもアルバザードに多い。女子は可愛い顔をしており、男子はずっと若く見える。体格は ləlcın にしばしば劣る。ユルト、セレン、ユーア、クミール（この人は美人系だが）などがこれに当たる。神のモデルにもよくなる人種で、アルデス王などもこれに当たる。

yəlʃe ［形容詞］［ポジティブ］いやらしさのない、真面目な、清純な、おかたい、いやらしくない、性的に清潔な、下心のない　［類義語］ȷɔµʃʃı、ucȷdlə ɑc、ılyəəl　［反意語］eȷel　［レベル］３　J0:yəlφ/ʃe（ユルグのような）［語法］　女子が理想の男子に求める条件のひとつ。反面、付き合った後はこれだと困るとされ、できるだけ精力旺盛で自分にだけ向けてくれるのが良いと条件付けている。　男子が女子に当然そうあるべきと期待する性格のひとつでもある。

yəlȷ ［化学］ナフタレン　［レベル］５　1L:µcɑcı:yəlᴅ/ȷdel。ベンゼンが２つくっついたもの。メガネのように見えることから。

yəlȷıᴅe ［言語］対格、目的格　［レベル］４　µɑ;/　J0

yəlueʃ ［言語］目的語　［類義語］yədeı　［レベル］４　J0

yəlɑ ［動詞］yəl を研究する、研究する　［普通動名詞］研究　［類義語］ɑel　［レベル］３　1L:lcɔn:yəlφ/ɑel　［文化］　→ ıµᴅeʃcı

yəlɑʅı ［名詞］研究所、設備、ラボ　［レベル］４　JJ

yəlɑȷeu ［名詞］論文→ ȷeu　［レベル］４　Jʔ:µcɑcı

yəlɑıle ［名詞］研究会、学会　［レベル］４　µɑ;/　Jʔ

yəlɑın ［名詞］研究者、学者　［レベル］４　1L　［文化］　ɑµenlen

yəlɑez ［名詞］研究室　［レベル］４　JJ

yəlᴅ ［被服］メガネ、めがね、眼鏡　［レベル］３　1L: 古 :yəlφᴅyəl（ユルグ神の鏡）。学問の神ユルグがめがねをかけて生まれてきたことから。【成句】 yəc yəlᴅ ʅien ɑıd 額の眼鏡を探す。灯台もと暗し【用例】 ȷıb yəlᴅ めがねをかける

yəlᴅȷleʃ ［電算］ＨＭＤ、ヘッドマウントディスプレイ　［レベル］４　J1: 眼鏡ディスプレイ

yəlᴅɑıın ［形容詞］［ネガティブ］くそまじめな、クソ真面目、馬鹿真面目　［類義語］ɑıın　［レベル］３　J0:「めがねをかけて目を悪くするくらい真面目な」

yəlᴅı ［形容詞］体が賢い　［類義語］lele　［反意語］lcᴅı　［レベル］３　µɑ;lcı/ᴅıcn「ユルトの体」 Jɱ ［語法］　頭では簡単に理解することの反対で、体で簡単に理解すること。例えばユルトは算数など勉強が苦手で中々理解しないが、竹刀の振り方や格闘技の型などは言われた通りにすぐ模倣できる。逆に紫亞はできない。これを見たセレンらは紫亞は頭は賢いが体は馬鹿で、ユルトはその反対だと考えた。このとき lele が頭の良さしか示さず、ユルトを褒める言葉がなくて困り、体が賢いという意味の言葉を作るに至った。

yəlφ ［エルト］ユルグ　［レベル］３　µcɑcı: 古　［文化］　エルト界の賢者。青年の姿をしている。本から生まれた。メガネを掛けて生まれてきた。本を読みすぎたためである。そのためメガネやコンタクトの神でもあり、縁起を担いでアルバザードの眼鏡屋や本屋には殆どユルグが描かれたものが置かれている。　　・制アルカの『uıȷʃe』より
そしてアルデたちは多くの紙を集め、自分たちが持つ全ての知識をこれらの紙に書いた。その後、彼らはこれらの紙を繋げ、一冊の本を作った。そして皆は多くのヴィードをこの本に与えた。そしてこの本はユルグという青年 (J0 代) になった。ユルグは賢者である。エルトの一族のほうがサールの一族より多くのヴィードを与えたため、彼はエルトである。ユルグは眼鏡とともに生まれた。　彼は賢いが目のため近づきがたいようだ。めがねの無効にある彼の目は畏怖を感じさせる。これは鋭く冷たい。彼の長い髪は目と同じく銀である。【成句】 yəlφ ıµ ucl uelȷ. 学者の取った天下なし。日本と違い、皮肉ではなく学者は高尚で世俗のことに疎いので卑俗な政治に向かないという意味で使われる。なおこの諺に反し、実は ls でセレンが学者として初めて天下を取ったという例がある。

yəlφlıleʃ ［企業］ユルグシャレット　［レベル］４　J1:「ユルグの部屋」［文化］　ジュンク堂書店や紀伊國屋書店やリブロや三省堂書店に相当する企業。

yəlyəɔıyəı ［言語］対格分詞　［レベル］４　J1　［文化］　cuı

yəlµen ［言語］対格言語、対格型　［反意語］ʅınµen　µɑ;/　Jɱ

yəlı ［名詞］燈、仄かな灯り、灯籠、燈篭、灯篭、蟷螂、燈籠、とうろう　［動詞］yəl をくゆらせる、くゆらせる、くゆる、くゆらす、燻らす　［形容詞］ゆらゆらした　古：ものをくゆらせるときのオノマトペ。また、水がゆっくり流れたり、羽や炎がゆっくり揺れるときのオノマトペ。幻日の余っている音リストに載っていたのにリディアが気付き、1L 年末に引き揚げたもの。

yəlı(J) ［言語］京字　J1　［文化］　hıɾd

yəlıʃ ［動詞］yəl を ı に誘導する、誘導する、いざなう、誘う、案内する　［普通動名詞］誘導、案内、いざない、誘い　J0:ᴅelcɑcı lceµ:yəlı/seʃ

yəlın ［生物］［死神］誘燈　［形容詞］誘燈の～　1L:µcɑcı:yəlı/ın ［語法］　死神属誘燈。最も一般的な死神。通常業務をこなす種類のもの。死んだ人間を導くために燈を持っていることからこの名がついた。夢織などは燈を持っていないか使わない。【成句】［婉曲］ȷeɑ nene ı yəl ın 手にかける、殺す【用例】 lceµ. nɔn ȷeɑ lcµ ȷeᴅıcᴅ enıʃ ı yəlın, uecʃ yəlc ləəʃ, lecn ʅıhc" よっつ。私は私の友をこの手にかけ、友の子を奪い、罪を背負う」

yəlıl ［物理］流体　J0:yəlı/ıl（くゆる物）

yəlılʃılcʃ ［物理］流体速度、流体の速度　J0

yəlılɑɔısı ［物理］マッハ数　J0: 流体速度 / 音速 / 比を短くしたもの　［文化］　流体速度と流体中の音速の比の数。

yəlc ［名詞］子供、動物のひな　［名詞］初級、ビギナー、ひよっこ、初心者、初級者　［反意語］ᴅıu　［レベル］２　1L:yəlcı　ᴅcuı:ᴅcuı:lı ıᴅcu ［文化］　ᴅıu【用例】 ın ıʃ ıʅ lılʃ yəlc nı. 初級者にしてはうまかったと思う。

yəlc,ılʃ elɔ

yəlcʅlɔı ［名詞］童話、メルヘン、お伽話、おとぎ話　［レベル］２　µɑ;/「子供の物語」 Jʔ に幻英から転載。J0 年にリディアが造語。

yəlcʅlel ［名詞］子供用の辞書　［レベル］３　1L:lcɔn

yəlclcȷ ［魔法］［アイテム］ユリシス、月柩、月宮、月の柩、つきのひつぎ　［レベル］３　ıl;yəlclcȷ,cn（柩）　Jʔ　［文化］　→ ʅııɑe　µɑ でフルミネアが作ったカーデに ls までの偉人たちを加えて新たに作った ʅıµɑcı のこと。ıl でき ls までカードの追加が続いた。占いやゲームなど、様々な用途に用いる。　ユリシスの一枚一枚のカードのことを ʅıµɑcı というが、この場合は「月」と訳す。「月」はここではキャラクターの意味で、使徒を指す英単語がｍｏｏｎであることからの訳語である。また、柩に関してはそれらのキャラクターがカードに封じ込められているという意味において「柩」の字を冠されている。

yəlclclc ［ユマナ］［政治］子ども手当　［レベル］６　J1

yəlcȷ,ȷzɑ ᴅcn

yəlcȷccz ［篭堺］ユリシーズ　［レベル］５　µɑ;yədcʃɔɔl/lcczel/ȷcczcı　JJ ［文化］　篭堺司：ıʅl uılcnı　篭堺国：lcczel, yədcʃɔl, ıləɔµcı ılʃc

yəlcuceʃcɑı ［地球の星座］［ユマナ］こじし座　Jɱ　［文化］　cɑı

yəlcɑeᴅe ［地学］［歴史］原生代　［レベル］６　ul;/　Jʔ　［文化］　φııueɑeᴅe　約２５億年前～約５億４２００万年前を指す。古原生代 (nınıɑeᴅe)、中原生代 (ʃcnıɑeᴅe)、新原生代 (ɑcınɑeᴅe) に分かれる。

yəlcɑelʃcɑı ［地球の星座］［ユマナ］こぐま座　Jɱ　［文化］　cɑı

yəlcφıµʃ ［名詞］子供料金　［レベル］２　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

yəlcφılcȷ ［娯楽］ＢＢ弾　［レベル］３　ıl;/「子供弾丸」 Jɱ

yəlcφel ［娯楽］エアガン、エアソフトガン　［レベル］３　µɑ;/　Jɱ ［文化］　ＢＢ弾を撃ち出す子供用のおもちゃ。

yəlcdıb ［動物］子馬、ポニー　［レベル］３　µɑ;/　Jɱ

yəlcdıbcɑı ［地球の星座］［ユマナ］こうま座　Jɱ　［文化］　cɑı

yəlcdcʃ ［医療］小児科　［レベル］２　1L

yəlchı ［魔法］［工学］［交通］滑走路　［レベル］４　ȷᴅ<yəlchı,ılʃ ʅʅ;yəlc/hı「櫂の道」。ılʃ の死神が櫂を使って飛ぶときに１ｍ程度の滑走路を必要としたことから。特に着陸時のほうがブレーキを徐々にかける関係で長い滑走路が必要だった。それが転じて µʃ では飛行機の滑走路になった。　Jʔ

yəlc scleel ［人名］ユリ＝ジレール　J0　［文化］　(cᴅəl 1ʔʕL:1ɱʔʔ) ラグナロクの研究員。φel と ʅıcφel の発明者。オスティアの子孫。

yəlcocl ［医療］ペドフィリア、ロリコン、ロリータコンプレックス　［類義語］oıʅını　［レベル］４　1L　［文化］　アルバザードにはロリコンが少ないため、社会問題として取り上げられない。アルバザードにおけるロリコンの定義はソーンの年未満すなわち１５歳未満の少女を相手にする場合に限られる。日本だと女子高生は児童なので援助交際をすると条例違反になるが、アルバザードだと１６歳はとっくに性的対象とみなされる。　なお、伝統的にアルバザードは１２歳からセックスの対象としてきたため、１２，１３，１４歳を対象にした場合はロリコンと定義されないこともある。　さて、アルバザードには１１歳までの少女に性欲を感じる男性が少ないため、ロリコンが少ないということになる。ロリコンが少ないのはいくつか原因がある。もともとロリコンは「セックスをしたいが彼女がいないしレイプする度胸もないので、逆らいそうもない子供で我慢しよう」というタイプと、「子供に性欲を感じる」というタイプがいる。前者に関してはアルバザードは風俗が発達していて女性に困らないので、存

在しない。後者に関して、なぜ大人が子供に魅力を感じるかだが、それは恐らく成人女性に相手にされないとか馬鹿にされるという恐怖心が元になっている。ところがアルバザードの女性は表面上大人しくたおやかで男性を立てるため、男性は女性を恐れない。その結果、子供に走ることがない。アルバザードのロリコンは従って、純粋に少女の肉体に性欲を感じるタイプである。 【用例】 ın nıµ nɔɟ eʃ zıl ı nɔɟ ɑe ɥəlcocl uıµ cneɟ ɟenılecz(ılʃe ılı eɟ ɥəlcocl ɑc lı ʃə ɿıɑ. ⅼcnɿ, ın ocl ɟccı ɑcın cɒ ɒının. ʃıl ın ɟɔʃ ɒın ɿɔɟıcɒ φenɔɒ uın ın ɔl ın ɿəc ɑcın. ılɑc, ɑcın eʃ ıɒɗɿɔn lılʃ ın ɟeɟ. ɒɔn ın oclıʃ ɑcın ʃıl hıɔ ın en ɿəcʃ ɑcın ʃcl ɒel. lı eʃ ııl. lı ɑe ıɒɗɿɔn. lın, ın ocl ləʃ ılnııʃ ɔuı ɑəlıʃɟə elc c ɒılʃ. ɥəlc ɔ ɒılʃ ɑe ʃɔµ ɒeµel lılʃ ın ʃeı ləəɟ ɑe ıɒɗɿɔn.

ɥəlclec ［名詞］子ども文庫、子供文庫、児童文学 ［レベル］3 µɑ;/ ɺʔ

ɥəlcı ［人名］ユリア ［名詞］双子 ［形容詞］双子の ［類義語］ʃıɥəlc ［レベル］3 1Δ:µcɑcı ız ɒel:ɥəlʃ/ləlcı ［文化］ ユルトとルシアを一緒くたにした名前。双子なので一緒に世話されることが多く、一々ユルトとルシアというのが面倒なので、その二人ともという意味でよく使われている。

ɥəlcı(ɺ) ［人名］ユリア ɺ0 ［文化］ (ɥəəɒı ꟼΔɺ1) ɥəəɒı ꟼLLꟿ ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 ɟɔµn を授かる

ɥəlcın ［親族］自分の子供、子供、子弟。息子と娘の総称。 ［反意語］µɟccl ［レベル］2 1L:ɥəlc/ın（子供な人） ɒcuı:ɒcuı 【用例】 lıɟ ⅼcclıɟ ɥəlcın ɒın lıɑıʃ lə nɔuel. 遅くにできた子供だったので、可愛がった。

ɥəlcınʃ ［魔法］錬金術、ユリアント ［レベル］4 ɺ0: 古 ɥəlφ/lınʃcɟ。ıuel/lınʃcɟ が ıuelınʃ になるのと同じ形成過程。ただし錬金術師はほかの魔法体系の命名同様、強変化して ɥəlcınʃcɟ となる。 ［文化］ µɑ の時代に民衆の魔力が弱まったことで魔法のアイテムに頼るようになり、アディストの需要が高まった。このアディストを作る研究が錬金術ユリアントである。錬金術というのはあくまで訳語であり、アトラスにおいては金を作るものではない。 アディストの研究には巨額の資金のほかに若い才能ある魔女が必要だった。そこで各国はユリアンティス育成所を普通教育を行う学校以外に設けた。しかしほとんどの施設は人員と資金の不足で、パイオニアの論文を研究するしかなかった。ちょうど今の日本の言語学研究がアメリカの先行研究を追いかけるのに似ている。 そのパイオニアになっていたのがアルバザードがメインとなりルティア・アルシア自治区と共同出資をしてできたミスティア錬金術舎である。ルティアには姉妹校のイスフィリア錬金術舎があり、世界初の単位交換制度を開始していた。アルバザードは伝統的に西洋魔法に特化しており、一方ルティアは土地柄東洋魔法にも西洋魔法にも通じる。深く狭くのアルバザードと浅く広くのルティアでは魔法の研究も異なる。そこで学生が広く学べるよう、交換留学を可能にした。 ミスティアは 1ꟼꟼ 年にアルシアに、イスフィリアは遅れて 1ꟼꟼL 年にエリーゼルに建てられた。
錬金術師が隆盛したのは上記のとおり µɑ だが、必要に応じてある日突然錬金術が生まれるわけではないので、錬金術に当たるものは ɟɒ やそれ以前に萌芽があり、錬金術師もいた。ただそれが国家的プロジェクトになったのが µɑ である。

ɥəlcınʃjel ［歳時記］錬金術の日 ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ → µınʃeuılɟ ミスティア校のできた日。φcl lcɟ。錬金術を称える日。錬金術は当時の医療 ləlleʃcı と密接に関係していたため、医療関係の日になっている。この日はホームドクター（町医者）が錬金術師の格好をして勤務する日で、人気なのはリュウのコスプレ。子供に人気があるため、子供が嫌がらずに病院に行ってくれるという効果があり、親に人気が高い。予約が殺到するため、この日は診療時間が前後に延びる。
薬局ではジョークグッズとして ıɑcɟʃ が売られる。

ɥəlcınʃcɟ ［魔法］錬金術師、錬金術士、ユリアンティス ［レベル］4 ɺ0:ɥəlφ/lınʃcɟ ［文化］ ɥəlcınʃ 代表的なのはアリス＝アンシャルなど。 【成句】 ıɟɒ ıɑcɟʃ ı ɥəlcınʃcɟ 餅は餅屋

ɥəlcınɿ ［形容詞］可愛い ［反意語］hıʃcınɿ ［レベル］2 µɑ;ɥəlc/ınɿ ɺꟿ ［語法］ hıʃcınɿ

ɥəlcınɿıɑ ［政治］属国 ［レベル］5 ɺ0: 子供の国

ɥəlcınɿclɑ ［政治］属州 ［レベル］5 µɑ;/ ɺꟿ

ɥəlcınuenʃ ［経済］子会社 ［レベル］4 1L

ɥəlcınφcɔ ［経済］経常利益、経常損益 ［レベル］6 1L

ɥəlcınıµɿɔ ［言語］子ノード µɑ:ɒel;/ ɺʔ:ɒel

ɥəlcılccɑı ［天文］連星、双子星 ［レベル］6 ɺ1

ɥəlcıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ふたご座 ɺꟿ ［文化］ cɑı

ɥəlcɔoc ［牧畜］子豚 ［レベル］3 ɺɺ

ɥəlceʃ ［形容詞］本当の、真の ［副詞］本当に、真に、まことに ［類義語］lın ［レベル］3 ɺ0: 赤 µəlc（本当）の異形態 ɥəlc から。ɥəlc は既に新生で意味を持っているため、eʃ（～な）を付けたもの。 ::lə ɒcɿɔ ［語法］ lın の持って回った言い方。µəl の代わりに使うこともできるので、lın と µəl の上位概念と見る向きもある。

ɥəlceɟʃ ［名詞］幼名 ［レベル］5 µɑ;/ ［文化］ → eɟʃ, eɟʃlınφ, ɿəzeɟʃ アルバザードやルティアに幼名の習慣は有史以来ない。凪は ɟɒ まで幼名の習慣があったが、µɑ 以降廃れた。

ɥəlcel ［運動］ユリエール ［アクセント］ɥəlcEl。ɒcleel だと ee の部分にアクセントが来る。語根を活かした。 ［レベル］5 ɺ0:µcɑcı:ɥəlı/ɒcleel（燈の羽）ゆらゆらと動く燈や舞う羽のような動きであることから。 ［文化］ 武道から生まれた呼吸法のひとつ。ユリエールは瞑想ルヴァンの呼吸と格闘技ユベールの中間的な存在で、動く瞑想とも流水のような格闘技とも表現することができる。地球でいうなら太極拳や能に近い動きである。 体が固く呼吸の浅い人用にどう深い呼吸をさせるか考えたリディアは、ユリエールの動きに発声を入れた。緊張しやすく運動中に無呼吸になりやすい人でも自然と呼吸ができるよう、ユリエールでは常に動きの間に言葉を発声するようになっている。この言葉は呪文であり、意味を持った文になっている。無論アルカである。呪文はシュワーの使用率が高く、常に開音節のＣＶを取る。lınʃ ならば lı nɜ ʃɜ と区切る。響きの弱いシュワーが増えるため、オペラよりも能に近い。 ユリエールは第一教～四教で構成される。
●第一教 いわゆるストレッチに当たるもの。通常のストレッチと変わらないが、大腰筋などの深層筋を伸ばすことに意識を置いている。言葉は出さないが、ɒɒ というハミングとともに筋肉を伸ばす点が特徴的。 ●第二教 徒手による呼吸法。ユベールの型をスローモーションにしたような動きで構成される。 ●第三教 扇子を使った呼吸法。元々存在しなかった教だが、第四教で使う長い木の杖が重いため、わたりとして編み出された。実際ユリエールの動きをするとただ動くだけでもものすごく筋肉を使う。杖を剣道のように振るのはたやすいが、ユリエールのゆったりとした動きでやると非常に負荷が大きい。そこで編み出されたのが軽くて優雅な動きのできる扇子を持ったこの教である。 ●第四教 杖を使った呼吸法。杖を振りながら舞うように動く。剣術よりも杖術の得意なリディアならではといえる。また µɑ でもリディアの装備は杖なので、文化的にも矛盾なく好ましい。 これを上から順に行うが、できれば四教が終わった時点で一教をもう一度行うとクールダウンになって筋肉に良い。

ɥəlcəɟ ［地名］ユリウス。ディミニオン国の首都。 ［魔法］［名前］第一祠徒ユリウス zφ;ɥə/ⅼclc「神の恩恵を受けた土地」| ls; 第一祠徒が降臨した土地であることから。 ɺꟿ 【用例】 ɥəlcəɟ ɑel ɑcɒcncɔn ɑəə ＝ ɑcɒcncɔn ɑəə ɑel ɥəlcəɟ 第一祠徒ユリウス

ɥəlɔ ［名詞］表、オモテ、表面 ［名詞］見えている面 ［名詞］本音、真実 ［動詞］ɥəl を表にする、表にする ［格詞］～の表に ［物理］［化学］表面 ɿɔµec 参照 ［反意語］heʃe ［レベル］2 1L: 赤 :hɥəlɔ hɥəlɔ:hɥəlɔ 【成句】 lılʃ ɥəlɔ 表向き lılʃ ɥəlɔ hɔʃ 表面的には、表向きには

ɥəlɔ(ɺ) ［地名］ユロ ［レベル］5 1ꟼ: 制 : 古 :hɥəlɔ（賢い）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァロの支配地。

ɥəlɔ(ʔ) ［アトラスの国家］ユロ ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：1ꟼ000ʕꟿ.ʔʕΔʕ1ɺɿɒ ɺ

ɥəlɔʃɿlucɒ ［生物］上腕二頭筋 ［レベル］4 ɺꟿ<ɺɺ

ɥəlɔʃɔɿlucɒ ［生物］大腿四頭筋 ［レベル］5 ɺꟿ<ɺɺ

ɥəlɔɑɔʃucın ［物理］表面張力 ［レベル］4 ɺ0 ［文化］ 界面張力 ɿɔµecɑ ɔʃucın の一種。コップの水と周りの空気の接する境界などが典型例。液体は表面をできるだけ小さくしようとするため、コップに水を満杯以上に注いでも、少しくらいなら水が零れない。それはこの力が働くため。

ɥəlɔen ［接続詞］ɥəlɔ ［レベル］3 µɑ;/ ɺʔ

ɥəleʃ ［人名］ユレット ［レベル］4 古 ［文化］ (ɒel ɺʕ0 ？→ ʔ10 ？) マルテとアフレインの息子。ıɒelc の兄弟にして夫。ミロク＝ユティアの父。アルティス教の派閥アルマスト派の２代目リーダー。

ɥəleʃ(ɺ) ［アトラスの国家］ユレット諸島 ［レベル］4 1L:µcɑcı: マレットの

ɥəleʃ(ʔ) ［名詞］表面 ［形容詞］表面の、表の ［形容詞］正規の ［反意語］heʃeʃ ［レベル］3 µɑ;ɥəlɔ/ʃe ɺʔ

ɥəlen ［接続詞］対格の接続詞 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ɥəleu ［動詞］ɥəl（人）を ı に送る、ɥəl を ɿı で見送る、送る、見送る ［普通動名詞］見送り ［類義語］lınʃ ［レベル］3 ɺ0:φɥə/leeu（苦く別れる＝別れを惜しむ）

ɥəleɒ ［音楽］楽器 1L:ɥəəle/leɒ。この単語ができる前は leɒɿɔn だったが、音が綺麗でないので不採用。 ［文化］ ɑlcıns 楽器が最も盛んなのはケートイア。意外にエルトアではない。フリアンジュ社などもケート発祥。

ɥəı ［代詞］［形容詞］あのような、あんな ［類義語］ɿlenɟ、uınɑɔl ［反意語］ɟɔı ［レベル］1 1L:lɥə/ɟɔı ［語法］ ɟɔı 指示用法では前置。 【用例】 ın µcɟ uınɑɔl lıb. あんな仕事は嫌だ。

ɥəıʃ ［電算］バイト ［レベル］4 1ꟼ: 制 : 古 :ɥəɑə(ビット)「0 と 1」が原義から , バイトは Δ ビットであることから ɺ 対にした

ɥəıʃɿɔʃɟ ［電算］半角全角キー ［レベル］3 ɺ0

ɥəın ［言語］形副詞 ［レベル］4 1ʕ: 制 :ɥəe（形副詞）

ɥəın(ɺ) ［代詞］あのようなもの。ɥəı の属格。 ［レベル］1 ɺɺ

ɥəın(ʔ) ［電算］クライアント ［俗語］受け、右側、右、猫、ネコ ［レベル］4 ɺɺ:「受けるもの」

ɥəc ［動詞］ɥəl を探す、探す、捜す、さがす、求める、もとめる ［普通動名詞］探査、捜査、捜索、検索、探索 ［類義語］ɟıɿ ［レベル］2 1L: 古の ɥənɿc（姫探し）から。なお、ɥənɿc は「ユンクを見る」が原義。 【成句】 ɥəc ɗɔʃ ɑecɟ 暗中模索 ɥəc ɿı leıɿ 五里霧中 【用例】 ɥəc leɒɒ ıɟ 楽譜を探す ɥəc µınel きちんと探す nɔn ɥəcʃɔµ lenɑc ɿɔɒ ınɿ e. そんな可愛いワンちゃんを探していたの。

ɥəc(ɺ) ［魔法］忌み ［レベル］4 ɟɒ<zφ;ılʃ ɺɺ ［文化］ ıɑel が ɿınleczen になったもの。

ɥəcɒ ［企業］［人名］ユイム、時任 ［ユマナ］グーグル ［動詞］ɥəl をググる、ググる、ユイムで検索する ［レベル］3 ɺɺ:ɥəcɥəleɒ<ɺ1:ɥəc ［文化］ グーグルに相当する企業。 【成句】 µe ɥəcɒ, ɿəz. ググレカス、ググれカス、ｇｇｒｋｓ

ɥəcdıɒ ［名詞］サーチライト ［レベル］4 ɺɺ

ɥəcl ［名詞］探し物 ［言語］検索語、検索ワード ［レベル］3 ɺ0

ɥəcıµ ［名詞］探知機、レーダー ［レベル］4 ɺ1

ɥəɔ ［言語］動詞 ［レベル］4 1ʕ:ɥəɔn ［語法］ 動詞自体に意思の有無を示す効果はない。一般的に意思を伴う場合は他動詞か再帰型自動詞を、伴わない場合は繋辞型自動詞を使うことが多い。つまり文法的

に意志の有無を示す。　また、uɔlel や ɉcn などで意思の有無を表すこともできる。　ɪn ɒeʃɪʃ hɪʃ. 皿を落とした。有意思。　ɪn ɒeʃɪʃ hɪʃ ɉcn. 皿を落としてしまった。無意思。人為的。　hɪʃ ɪʃ ɒeʃ. 皿が落ちた。無意思。自然。

ɥəɔɉeueʃ ［言語］動詞句 ［レベル］5 ꞁʔ:ɒel

ɥəɔncɑ ［言語］アスペクト→ ncɑ ［レベル］5 ꞁ0 ［語法］ ひとつの動詞につき、アスペクトは７相。将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響の７相。　それぞれ下記のように表す。内側の３つのみ動詞語尾で、あとは副詞である。　ɉɪʃ, ꞁcʃ, (ɔ)ɥ, (c)ꞁ, (e)ɉ, ʃɔɔꞁ, clʃ　この７相に２つの無相が加わる。無相は相がないので、アルカの相は７種。　無相は２種ある。ひとつは ꞁcʃ ～ cꞁ までの「行為無相」。ひとつは cꞁ ～ ʃɔɔꞁ までの「状態無相」。　前者は動詞に何も付けない無標形であるが、「これは動詞である」と明示するために接尾辞 (e)ɒ を使うこともできる。後者は副詞 lɪ を付けて表す。　ɑɪc（燃やす）の実例　ɑɪc：燃やす　ɑɪc lɪ：燃えている。燃え始めから燃え終わりまでの総称　ɑɪc ɉɪʃ：燃やそうと考える。準備する。火を近づける　ɑɪc ꞁcʃ：火をつけ始める　ɑɪcɥ：火を当てている。チリチリいう　ɑɪcꞁ：火がつく。点火　ɑɪcɉ：燃えている途中　ɑɪc ʃɔɔꞁ：燃え終わる　ɑɪc clʃ：灰になっていて燃やした結果が残存している　ɉꞁcn（座る（正確には座らせる））の実例　ɉꞁcn：座る　ɉꞁcn lɪ：座っている。座り始めから起立までの総称　ɉꞁcn ɉɪʃ：座ろうとしている　ɉꞁcn ꞁcʃ：座り始めて腰を曲げた　ɉꞁcnɔɥ：腰を下ろしている途中　ɉꞁcncꞁ：座面に尻が着いた　ɉꞁcneɉ：座っている状態　ɉꞁcn ʃɔɔꞁ：座り終えて立つ瞬間　ɉꞁcn clʃ：座面が暖かく、座っていた影響が残っている　＜例外動詞＞　lɪ（いる）、ɉccnɪ（好き）などは、無標が行為無相でなく継続相になる。　例外動詞では継続相が無標になる代わりに、行為無相に必ず (e)ɒ が付く。　ɉccnɪ（好き）の実例　ɉccnɪɒ：好む　ɉccnɪ lɪ：好きである。好きになり始めから好きでなくなるまでの総称　ɉccnɪ ɉɪʃ：好きになろうとしている。まだ他人　ɉccnɪ ꞁcʃ：好きになり始めた。意識し始めた　ɉccnɪɥ：好きになる途中。あの人いいかも状態　ɉccnɪꞁ：好きになった。私この人のこと好きなんだという気付きの時点　ɉccnɪ：好きである。好きだ　ɉccnɪ ʃɔɔꞁ：好きでありおわる。好きでなくなる　ɉccnɪ clʃ：むかしは好きでした的な意味　　継続相で使う頻度が最も高く、かつ行為無相で使う機会がほとんどない動詞のみが例外動詞になる。　その動詞はこのとおり。　存在動詞：lɪ, ɒc　所有動詞：ʃcl, ɉc　心理所有動詞：nɪ のみ　定義動詞：eꞁɉ, ɒɔlɉ, φɪɥʃ など　心理動詞：ɉccnɪ, ʃccɪ, ɉcn, uɪɥɪe, hɪʃcɪ, ꞁɪɑ など、ɉccnɪ 型の動詞

ɥəɔɑɥeɥə ［言語］動副詞 ［レベル］4 ɥɑ;/ ꞁʔ ［文化］ ɑɥeɥə

ɥəɔɪɉɪ ［言語］動名詞 ［レベル］4 ꞁ1 ［文化］ cuɪ

ɥəɔɪdcɪn ［言語］動詞を指す形態素、動詞語尾等 ［レベル］4 ꞁ0

ɥəɔɪɥəɪ ［言語］分詞、動形容詞 ［レベル］4 ꞁ1 ［文化］ cuɪ

ɥəɔcɉʃc ［言語］代動詞 ［レベル］5 ɥɑ;/ ꞁɱ

ɥəe ［副詞］［形容詞］やや ［レベル］1 ꞁ0: 恣意。ここから強調の程度が弱くなるので、音を柔らかめに。また、類音がないように。 ［語法］ uɪɥʃ

ɥəe(ꞁ) ［医療］心包 ［哲学］堪。「おしん」や「コゼット」のようにひたすら耐え忍ぶ美徳のこと。 ɥɑ;<ɉzl ꞁɱ

ɥəe,ɑu ɪɉl

ɥəeꞁɪn ［生物］［医療］心包経 ɉzl;/ ꞁɱ

ɥəenʃc ［電算］クライアントソフト ［レベル］6 ꞁꞁ

ɥəeɒɪɒ ［生物］貧乳、ひんぬー、ヒンヌー ［レベル］4 ɥɑ;/ ꞁɱ

ɥəə ［単位］０、ない、ゼロ、零、れい ［名詞］古アルカの０ ［代詞］何もないもの、誰も～ない。零人称代名詞。所有格は ɥəəʃ でなく ɥəəʃe。 ［形容詞］０の、全くない、ない、無い ［レベル］1 ɑu;e 赤 :lɪ ɒɥəl（数はアルミヴァの性と一致。０は時計などで１２と同一視されるためコノーテで、女性 :nɪn,ɪlʃ ［語法］ 長母音で終わる珍しい単語。実際の発音は ɥə と大差ない。単に綴字上の区別を設けるためといってもいい。【成句】 ɥəə. 別に。なんでもない。 ɥəə ɪɪl(el). 別に。特に何も。 ʃə eʃ ɥəə. なんでもない、何でもない、いいってことよ、問題ない、いいよ、どういたしまして【用例】 ɪn ɉɔʃ ɉen ɥəə. 私は何もできなかった。 ʃcl ɥəə len ɉɔ することがない

ɥəəʃ ［動詞］ɥəl（遊ぶ内容）を遊ぶ、遊ぶ、興じる、楽しむ、鑑賞する、味わう ［普通動名詞］遊び、遊戯、娯楽 ［類義語］ɪlɔ ［レベル］3 古：ꞁɒccɥ:ʃcɪɪlɪ ［語法］ ɪlɔ は子供がはしゃいで遊ぶような遊びがメイン。ɥəəʃ は楽しむという要素が強い。

ɥəəʃʃəl ［名詞］娯楽品、嗜好品 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［語法］ ゲームなどのこと。

ɥəəʃɪ ［名詞］情、じょう、なさけ ［レベル］3 ɑu;ɥə/ʃe「心で受けるような」 ꞁɱ

ɥəəʃe ［代詞］なんでもない人の、何もないものの ［レベル］1 ꞁ0:ɉeɥ en/ɥcɑcɪ:ɥəə/ʃe

ɥəəʃeꞁɪ ［動物］アデロバシレウス ［アクセント］ɥəəʃeꞁ↑ ɪl;ɥəəʃel/ꞁɪɒʃ「太古の鼠」 ꞁʔ ［文化］ 中生代三畳紀後期の２億２５００万年前に生息していた。ɪl に糞化石の中から頭骨の一部が発見された。発見された頭骨は吻端などが欠損していたが、大きさは長さ１.５センチ、幅も１センチに満たない小さなものであった。推測される体長は１０センチから１５センチ、現在のトガリネズミのような外見であったと思われる。この頭骨には祖先となった獣弓類との類似点も多く認められるが、眼窩に視神経孔がある、蝸牛の付着点である岬角があるなど（哺乳類以外の）獣弓類にはなく、哺乳類のみに見られる特徴がある。生態についてはよく分かっていない部分もあるが、おそらくは夜行性で昆虫を食べていたのであろうと推測される。

ɥəəʃel ［名詞］［形容詞］古代、太古、大昔 ［類義語］ɉcɑ ［レベル］3 ɉzɑ ꞁʔ: 余っていた語形を再利用

ɥəəʃeꞁleɥn ［動物］始祖鳥、ユーテルケルン ［レベル］5 ul;/「太古の翼」 ꞁʔ

ɥəəʃəl ［代詞］何もないもの ［レベル］2 ꞁ0

ɥəəʃəleʃ ［代詞］何でもないものの ［レベル］2 ꞁ0

ɥəəꞁ ［医療］解毒、アンチドート ［魔法］ユーク（ポイゾナ）。利の低位白魔法。毒を治す。これが低位魔法なのでアトラスという世界では歴史上毒殺が有効でなかった。 ［レベル］3 ɑu:ɥɪɥə/ꞁeɪ ꞁ0:ɥɪɥə/ꞁeɪ（毒を治す） ɥəəꞁ:ɥəəꞁ

ɥəəꞁɪ ［動詞］ɥəl の皮をはぐ、はぐ、剥ぐ ［普通動名詞］皮剥ぎ、皮剥 ［魔法］ユウカ。風の禁呪魔法。風刃で服を剥ぎ取り、全身の皮膚を剥がす。綺麗に髪や皮だけ剥げると、全身の毛穴から鳥肌のように小さな血球がぷつぷつと漏れ出し、やがて全身から噴水のように出血して死ぬ。ɥɑ ではメルが「鳥あそび」と称して、犠牲者にかけた。 ［レベル］3 ɑu 赤

ɥəəꞁc ［死神］悠姫 ［レベル］6 ꞁ0: 雛人形１，７，１３号は対応関係にあり、ꞁc で終わる。ɥəə の部分は ɥənꞁ。 ［文化］ 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第十三雛。無口で計算高く、抜け目がない。無機質で感情に乏しく、ぼーっとした表情でサラっと棘のある毒を吐くが、本人には悪気がない。銀色の髪、緑の目、濃い黒緑のフリルのワンピース、頭にはレースの髪飾り。口調はユール。 死神本来の食事を嫌い、甘いものを好む。

ɥəəꞁɔ ［言語］［文字］印刷標準幼字書体、業界標準幼字書体、印刷業界標準幼字書体、ユウコ、ユーコ ［レベル］5 ꞁꞁ:ɥəəꞁɔ,ɑu（曼珠沙華） ［文化］ ɥɑ(ꞁꞁ) で、ɪɥꞁɪ を元に本文中で幼字が浮かないように作られたフォント。 現実には ꞁꞁ にネットユーザーの尽力によって作成された。更に言えば、現実では ɥəəꞁɔ のほうが先に作られた。 ɪlblɪnʃ を元にしているため、曼珠沙華の神代の名を取って ɥəəꞁɔ と呼ばれる。本文中では幼字はこれを用いる。

ɥəəꞁɔ,ɑu ɑcnɔcn ɥəəꞁ から。本来は「毒消しの魔法 ɥəəꞁ が必要となる」が原義で、徐々に前半部分だけが残ってしまったもの。

ɥəəlcɔn ［アイテム］ユーシオン、毒消し ［組み数字］１２/１２ ［レベル］4 ꞁ0:ɥəəꞁ/lcɔnɪ ［文化］ カモミールにユークの魔法をかけた後に茶葉にし、小さなティーパックに入れたもの。お湯をかけるだけで飲める。お湯がない場合はパックに唾をつけて湿らせ、患部に当てると効く。最悪の場合、中身を出して飲んでも良い。ただし、むせる。カモミールが選ばれたのはアルバザードで最古の薬草であることから。セルメルでナユがラルトの使えない子供たちのために作った。

ɥəəɉ ［動詞］ɪ（相手）に ɥəl（行動内容）を自由にさせる、させる。使役動詞。 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɉ: 制 :ɥəɉ ［語法］ leɪueʃ, ɉɔlɉ【成句】 ɥəəɉ ɥɥəə ꞁelɉ 可愛い子には旅をさせよ ɥəəɉ leeuɪn leeu 去る者は追わず【用例】 ɒcɥ ɥəəɉ ɒen ɥenɉ. 申し上げます。

ɥəəɉccnel ［名詞］(ʃcl で)選り好まない、好き嫌いのない、健啖な ［反意語］ɑcɉccnel ［レベル］3 ɥɑ;/ ꞁɱ ［語法］ 食べ物以外にも何にでも使える。【用例】 lɪ ʃcl ɥəəɉccnel ɪ ꞁəlɪlɪ. 彼は食べ物の好き嫌いがない。

ɥəəɉccnelɪn ［名詞］健啖家、好き嫌いのない人、博愛的な人、博愛、博愛主義 ［レベル］4 ɥɑ;/ ꞁɱ

ɥəənɪ ［名詞］かわいこちゃん、カワイコ、可愛い娘。女にだけ使う。 ［レベル］3 古 :ɥənɪ から ［語法］ アルデンやアルベンが使うイメージ。ユンクが使うと違和感がある。

ɥəənɪ,ɪlʃ ɑcɪ、lɔnɑ

ɥəənɪφc ［魔法］夕凪 ［アクセント］ɥəənɪφ∈ ［レベル］6 ɥɑ:ɥɥəə;ɥəənɪ/φc「夢機」 ꞁɱ ［文化］ ɥɑ でリュウを代表としたアルシェがヒュート国とアルバザード国の全面的支援を受けて神々と共同で開発した魔法機械。後のアシェットの戦闘シュミレーションマシンとなる。 アシェット、とりわけアルシェは日々苛烈な訓練をしていたが、人体を使って実戦並みの訓練をすると損傷が激しく体がもたない。かといってプロテクターなどをつけたり手加減して訓練していたら実戦に強くなれない。そこでポッドの中に人を寝かせて夕凪に繋ぎ、アバターを作って仮想戦闘空間に意識を送り込む。そこでバーチャルな実戦を行い実戦さながらの訓練をするというわけである。要するに夕凪とはアバターを使った仮想空間での戦闘シュミレーションマシンである。 シュミレーターの中で戦闘中にダメージを受ければ実際にポッドの中にいる人体の神経に連絡して痛みを感じさせる。ポッドの中で腕を動かす意識をすると脳から出た腕を動かすという電気情報が魔動回路を経由して夕凪に送り込まれ、仮想戦闘空間の中のアバターが腕を動かす。ヴィードを使おうとすれば実際にポッド内の人物はヴィードを消費し、疲労する。また肉体的ダメージによる出血などによる疲労も計算され、ポッド内の人物がその疲労や損傷を感じるようにできている。 この驚くべき魔法技術は ɥɑ で最高に発達した魔法学だけでなく、神々の持つ科学力も使われ、ul でも再現が不可能であった。実際ここまで発達した魔法機械は世界中で夕凪しかなく、時代のオーパーツであった。ɪl では魔法の力を頼ることなく夕凪を再現する科学技術ができたが、需要がないため、実際には制作されなかった。 ls になるとアヴァンシアンはセレンの指導かつメルの制作指揮の下で、アンジェリカのパイロットを育成するために再び夕凪を再現させた。 なお、ɥɑ の夕凪はアルシェの家の半地下の訓練施設に置かれていた。 ちなみに現実のセレンがこの設定を思いついたのは１９９３年の中１のときで、何に触発されたか分からないので恐らくオリジナルの発想だったようだ。夕凪という名前こそ ꞁɱ に付けたものだが、その設定は中１から存在した。

ɥəənɪlejꞁ ［魔法］［医療］ユウナレスク、感幻性 ［類義語］səənɪ ［レベル］4 ꞁꞁ:ɥəənɪlejꞁɪ: クミールが設定したユウナレスカの語源を元に、セレンが感受性になぞらえて感幻性という概念を提唱した。 ［語法］ ワクワクできる気持ちのこと。感受性と似て非なるもの。まったく同じゲームやアニメでも、子供のころはあんなに楽しめたのに大人に

なったらつまらなく感じてしまうのは、心が感幻性を失ったためである。感幻性は子供のころほど強く、魔法の素質とも関わっているとされる。感幻性を失うと何をやっても面白く感じなくなってしまう。そのため医療における鬱病とも関連性がある。　現実の ᒧ 年にセレンとクミールが話した際、なぜ子供のころにわくわくしたものが今わくわくしないのだろうという話になった。結果、感幻性という概念が提唱され、大人になってすべてがつまらなく思えるのはこれを失ったからであり、単なるうつ病や燃え尽き症候群による落ち込みではないということが分かった。　感幻性は幼稚で難しく物事を考えない楽天家のほうが大人になっても保持しがちである。なければならない思考の人間は「この年にもなってマンガなんて……」などと考えてしまうため、感幻性を失いやすい。人生を楽しめるのは感幻性を失わないうちである。感幻性さえあれば多少の病気があっても人生は十分楽しい。その意味で生きがいにも通じる概念であり、この喪失は自殺リスクにも関与している。【用例】ʃcl yəənılejl nıɒ cµ 感幻性が強い、感受性が豊富だ、感受性が強い

yəənılejlı ［歴史］ユウナレスカ、夕撫戦記、弓月戦記 ［レベル］4　µɷ; lɒccµ　ᒧᒧ:lɒccµ:səənı/l'ejlı（感受性によって開く霧泉）。l'ejlı の l はルティア語風に見せるための定冠詞。夕撫はユウナの音訳。弓月は弦月のことで、アルシェとソーン——ドゥルガとヴィーネのこと。［文化］cɒəl 1ᒧL1_1ᒧ11 まで続いたアシェットの物語のこと。µɷ の中でアシェットの面々が悪魔を倒していく物語のこと。クミールが日記の中で自分たちの戦いをこのように名付けたことから。曰く、「自分たちの物語は感受性を持った若い気持ちと、それを具現化して見せてくれる魔法の霧泉によって紡がれたものなのだ」というところから来ている。

yəənɔ ［名詞］ユウノ、ユーノ、夕乃 ［レベル］3　µɷ;yəənı.l。yəənɔ でいられる期間は夕方のように短いため、「夕乃」という訳が付いた。ᒧʔ ［語法］［文化］ lcləl

yəəuıenın ［魔法］不蓄体 ［レベル］5　ᒧ1 ［文化］ ɷɔlɒcyə

yəəuc,ɑu　yəu　yə/uc「力を受ける」

yəəɑ ［交通］横道、アレイ、わき道、脇道、露地、路地、露路 ［ユマナ］［娯楽］エクストラステージ ［レベル］4　1L:yəəʃɑɔnʃ（遊びの道） ::lı ȷen ［語法］ 小さな横道。メインの道路に対する小さな脇道のこと。道路からマンションへ入る小さな道も yəəɑ。アルバザードの道路は整備されているので yəəɑ はマンションの入り口へ向かう道が多い。日本には小道が入り組み、小道の先に家屋があるという構造が多いため、yəəɑ だらけである。

yəəɑʃeeze ［気象］ビル風 ［レベル］4　1L ［文化］ モールや西区などの小さい横道に入ると急激に強い風が吹く。スカートが舞い上がって萌えイベントが起こる定位置。

yəəɑɔµ ［音楽］全音符 ［レベル］4　ᒧ0 ［文化］ → ɑɔµ

yəəɑejʃ ［数学］ゼロ除算　µɷ;/　ᒧʔ ［文化］ ・現実での造語経緯 ȷeµen ıµbızıµɷ ☒@ȷeµenıµbızıµɷ　結局娘は「分かりません」と降参したので、「それはゼロ除算と言って、数学ではゼロでは割れないことになってるんだよ。日本なら中１の反比例のところでもやるよ」と教えた。　開く　返信　削除　お気に入りに登録　ᒧ分 ȷeµen ıµ bızıµɷ ☒@ȷeµenıµbızıµɷ 「でもそれじゃ３割る１と変わらないじゃん。ʃc lɔ yəəlın lcɒ ʃɔıl,8 ɔl el dɔnȷ ʔ ɒccl ı lə yəəlın（３つのりんごをゼロ人に分けるとそのゼロ人は何個りんごをもらえる？）」と聞いたら、「……」としばらく考え込んだ。　開く　ʔ分 ȷeµen ıµbı zıµɷ ☒@ȷeµenıµbızıµɷ　娘は「ゼロ人じゃひとつも剥ぎ取れないから３割る０は３のままですか」と言ってきた。アルカ的発想だなぁ。　開く　ᒧ分 ȷeµen ıµbızıµɷ ☒@ȷeµenıµbızıµɷ　アルカで「３割る０」を直訳すると「３をゼロで剥ぎ取る」になるから、日本語で考えるより分かりやすい。何が分かりやすいかって、「０人じゃ３つのものをひとつも剥ぎ取れない」から。　開く　ᑫ分 ȷeµen ıµbızıµɷ ☒@ȷeµenıµbızıµɷ　FT でゼロ除算が話題になってるが、先日娘にゼロ除算を教えたときの反応が面白かった。"ʃc lɔ el lcɒ ʃɔıl,8 ɔn ʔ ɑejʃ 0"（３を０で割ったらどうなると思う？）と聞いたら、脊髄反射で「ゼロ？」と答えて、そのまま「いや……待って」と悩みだした。

yəəɒı ［人名］ユーマ、幽茉 ［レベル］2　ɒelʃcı 0:ȷııl;e　古 ［文化］ サールとエルトの娘。人類の祖先。漢字訳は「幽茉」。象徴する花はウィンタージャスミン。　＜誕生＞　エルトとサールは子を設けないことを約束していたが、６３９３８９６４回目の逢瀬の際、サールはエルトの子を欲し、欲に駆られてエルトを騙し、懐妊する。生まれたのは娘のユーマ。しかしこれに腹を立てたエルトはサールを捨てる。嘆いたサールはセルアの大穴にユーマを捨て、自身もそこに身を投げて死ぬ。そうと知ったエルトは後悔して嘆き、高い塔を建て、その頂上で死ぬ。　一方、捨てられたユーマは死ぬことはなく、成長して神々と契り、子を設けていく。そしてその子同士が契りあい、更なる子孫を設けていった。これをユーマの一族という。　＜アルテム＞　サールに捨てられたユーマはしかし死ぬことはなかった。少女の姿に成長したユーマはあるときヴァルゾンに見初められ、口説かれる。まだ幼いユーマはヴァルゾンの甘言に騙され、夫婦になることが何を意味するかも知らないまま受け入れる。初夜を迎えた段階で初めてユーマは事の重大さを知り、恐怖でヴァルゾンを拒んだが、ヴァルゾンに犯された。そのときユーマの体内から赤々としたルビーが出てきた。ルビーは鳥籠にいたムササビにぶつかると、融合してオルトというサールになった。ユーマはヴァルゾンから逃げたが、ヴァルゾンの追手に襲われることを恐れた。ユーマはオルトに助けを請ったがオルトは無力であった。しかし、嘆くユーマを見ていたカルザスはユーマを憐れに思い、目の前に現われた。そしてユーマが流した涙で濡れた泥を膨らませて捏ねた。日が暮れて夜になると同時に泥はハイエナになった。オルトはハイエナに入り込むと、森で追手を退治しつつ、無事ユーマを家まで連れ帰った。

オルトはユーマがヴァルゾンと契った以上、ユーマはヴァルゾンの妻であるから帰らねばならないと主張した。だがユーマは拒んだ。するとオルトはユーマに罰を与えて去った。それからユーマは子を産む準備をする際に体内から血を排泄するという苦しみを定期的に被るようになった。ユーマは苦しんで倒れたが、四日後には楽になった。ユーマは四日目の朝、太陽に向かって自分は騙されたのでヴァルゾンの妻になる義務はないといった。それを聞いた太陽と秩序を司るクレーヴェルや約束を司るハインは「契約は契約である」として認めなかった。クレーヴェルとフェンゼルの子ハインはユーマに結婚する約束を守ることを命じたが、性交を恐れた少女ユーマは従わなかった。　それから月日が流れ、ユーマはますます美しい少女に育っていった。姿は 1ᐃ 歳くらいの少女のようで、知能もより高くなっていた。ある晩ユーマが魔力を高めるために月光浴をしていたとき、上弦の月を司るエルトのドゥルガがユーマを誘った。このときユーマは性的に成熟していたため、ドゥルガを男として受け入れ、契る。結果、ユーマは懐妊し、湖を支配するエルトのアルドゥという息子を産んだ。それからユーマはドゥルガと幸せに暮らした。しかし上弦の月が照る夜はドゥルガは外に出て月を管理しなければならず、家にいることができなかった。　ユーマはドゥルガがいない夜は心細くて泣きはらして過ごした。その様子を見ていたのが下弦の月を支配するサールのヴィーネである。ヴィーネは求愛をしたが、ユーマが受け入れないのでユーマを攫って犯した。次の朝になるとヴィーネは太陽に向かってユーマを私の妻とすると宣言した。すかさずユーマは異議を申し立てをした。だが、クレーヴェルはユーマが以前自分の命令を聞かなかったのでユーマを恨んでいた。クレーヴェルはユーマの申し立てを却下し、ヴィーネを第二の夫とした。

一方、上弦の月が沈むとドゥルガはユーマが攫われたのを知り、怒って探し始めた。ドゥルガの怒りを耳にしたヴィーネは争うのは面倒だと思い、ユーマにどちらを夫とするか決めさせた。ユーマは既に懐妊していた。ユーマはその子を産むことをヴィーネに約束し、その代わりにドゥルガの元へ返してもらうように頼み、ヴィーネはこれを受け入れた。ユーマはヴィーネの元を去ったが、すぐにドゥルガの元へは帰らなかった。ヴィーネの子を宿った自分を決してドゥルガは許さないと思ったからである。ユーマは森の中でひっそりと子が生まれるのを待った。　やがて娘が生まれるとその子にエスタと名付けた。エスタは蛍を司るサールである。しかしヴィーネに恋する少女マグラが嫉妬をし、ユーマを奇襲してエスタを奪い去った。ユーマは泣きはらしてエスタを探したが、マグラは既にアルシアの泉にエスタを投げ込んでしまっており、見つけることはできなかった。なお、この時点でエスタは蛍の神となった。　＜フランヴェールの魔女＞　clɒəȷ の ɒelʃcı 1ᐃ（フランヴェールの魔女）参照。　＜µɷ＞　µɷ でアシェットが封印を解き、テームスとの戦いでユーマはアシェットと共闘する。最後テームスと相打ちになり、ユーマはテームスとともに死んだ。　アルティス教の解釈ではこの時点でテームスとユーマは転生し、テームスはそのまま、ユーマはアルテ神として生まれ変わったとされる。　＜見た目＞　ユーマは両親の特徴を受け継ぎ、亜麻色の髪に白めの肌をしていた。目は右目が青で、左目が緑。

yəəɒı ȷın ［名詞］雨男、雨女 ［反意語］lleeuel ȷın ［レベル］3　ᒧᒧ: クレーヴェルに無視されたユーマになぞらえて。［文化］ アルティア人が持ち込んだ概念。

yəəɒıȷel ［歳時記］ユーマの日 ［レベル］3　ᒧ1 ［文化］ φcl ɑıu。ユーマの誕生日とされる日で、休日。同時に悪魔の誕生日でもある。

yəəɒıdılʃ ［歴史］ユーマ暦 ［レベル］4　1L:clɒəȷ:µcɷcı ［文化］ dılʃ　アズゲルからカコまで８０８０年間続いた暦。太陰太陽暦で、幻史上、最も複雑な暦だった。実際の期間は８０７９年で、これについては cɒəldılʃ を参照のこと。

yəəɒı ləʃcı ［人名］ユーマ＝ルティア、どこにでもいる子、山田花子、名無しさん、不特定の女 ［レベル］3　古 : 論文でよく出てきた。例えばある人がいてという文脈で。男の場合は ıµɷə ıµbı。

yəəɒɔl ［音楽］全休符 ［レベル］4　ᒧ0 ［文化］ → ɑɔµ

yəəbc ［娯楽］ユウビ ［レベル］6　ᒧ1 ［文化］『ちょびっツ』に相当するアニメ。uɔµɒ を遥かに進化させたアンドロイドが存在する世界。ユウビというヒロインアンドロイドが主人公 ıɷcı の元へ訪れる。

yəəbel,ɼu ［植物］ɒcllın　e　ᒧᑎ

yəəbelʃ ［娯楽］ユーベルト ［レベル］4　ᒧ1 ［文化］『新世紀エヴァンゲリオン』に相当するアニメ。

yəəhel ［名詞］音信不通 ［レベル］4　ᒧᒧ

yəəyə ［形容詞］萌え、もえ ［名詞］萌えっ子 ［類義語］ınl ［反意語］ȷclɑc cyə ［レベル］3　古 :µelezɔnı/lɒccµ:yəyə のアクセント母音を伸ばしたもの。［語法］ 可愛いものに対して感じる萌え。儚げで大和撫子のような清楚なものに感じる萌えはアルカでは ȷclɑccyə（稚え）という。読みは「ちえ」。

yəəyəbəɼ ［俗語］萌豚、萌え豚、萌えブタ ［レベル］4　ıl;/　ᒧʔ ［擬声］ bəɼ ［文化］ ıl のころできた単語で、オタクがパソコンやテレビの前にばかり座ってアニメなどを見続けた結果太ったことを豚に喩えたもの。とりわけ萌えアニメなどを見て bəɼbəɼ（ブヒブヒ）言っていると揶揄された。元は「萌え豚が萌えアニメ見てブヒブヒ言ってんじゃねーぞ」的な罵倒で使われたが、後にオタク本人も自虐的に用いるようになった。また、太っていない人に対しても使えるようになっていった。　鳴き声は bəəəəəɼ（ブヒィーー！）。ə は好きなだけ付けて良い。【用例】 ʃəəbe yəəyəbəɼ この萌え豚が！

yəəµeɼl ［名詞］天下無敵、無敵な ［レベル］3　ᒧᒧ:「敵のない」

yəəsc ［名詞］清教徒、ユージ ［反意語］ɒyəlılcı ［レベル］4　ᒧ0:səəsc（指を指された者）の s が y になったもの。古レスティル語ではまだ受身は sə。［文化］ ɒyəlılcı に対してリデルが作った言葉。

yəəscuıın ［軍事］清教徒兵団 ［レベル］5　ᒧ0 ［文化］ yəəɒı ᑎ1ᑫᑫ 本山アルヴェッテに弾圧の手が及ぶ。教会は商工会の経済力を背景に清教徒兵団という私兵団を設け、弾圧に対抗。本山は守られたが、教徒に対する各地での迫害は続いた

yəəl ［名詞］ユール。男性のリースのうち、知的なほう。 ［音楽］テノール ［レベル］2 1ʕ: 制 :yəlφ ［文化］ 典型的には、知的で優しく美しく繊細な男性。

yəəlın ［代詞］誰もない ［レベル］2 ⅃0

yəəlınʃ ［代詞］誰もないものの ［レベル］2 ⅃0

yəəlcı ［地名］ユーリア 古 :μcɑcı ［文化］ アルダの県の名。

yəəlcı(⅃) ［文末純詞］［yənl］ʃcȷȷe ［レベル］1 古 ȷɔμn: クミールによると古 dınȷe 欄の対訳語に書いてあったというので恐らく「提供」。 ［語法］ ınyəəlcı は二重丁寧語なので不要。

yəəlcı ıμlı ［人名］ユーリア＝アルカ ［レベル］5 ⅃1 ［文化］ ミロクが義姉と慕った人物。絶世の美人の上に気立てが良い。 ミロクを可愛がっており、愛してもいた。ʔ⅃0 年に有力な政治家であったアンベ＝ロープに口説かれるも断る。 アルカ家は財政的に破綻しており、親はアンベを部屋に通した。 アンベに手籠めにされたユーリアはミロクへの手紙を机の上に残して自殺する。 アンベが来ていることをヴェルドゥルネから聞いたミロクは急ぎ駆け付けたが、首を吊って無残な姿で死んでいるユーリアを見つけ、発狂する。 ユーリアの手紙にはいつものように、「魔導師ミロクが魔法の力を使うことなく平穏無事で只の一青年としての幸せな人生を送れるように」との願いが記されてあった。 そして末尾には隠していたミロクへの気持ちが書かれてあった。 しかしこれがきっかけでミロクは革命を起こし、腐敗の根を根絶させようと立ち上がる。 その場でリーファ隊を招集したミロクは零時をまたいですぐにアンベを虐殺。 リーファ隊を率いたミロクはオーパーツともいえる魔力で汚職政治家を次々と粛清していった。 翌朝には軍部を襲撃し、アルバザード国軍を制圧。 すぐさま近隣諸国の軍隊を掌握あるいは殲滅し、力のみで革命を起こす。 ミロクは後にアリシアを設けるが、ルシアと結婚しても常々「ねえさん、ねえさん」と呻き声をあげて泣いた。 ミロクは最期も妻や娘の名でなく、ユーリアの名を呼んで死んでいった。

yəəlccɑı ［天文］零等星 ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʃl ［文化］ ɿɔlccɑı

yəəle ［サール］ユーレ ［レベル］5 ɒel: 古 :yənlleɒ（ユンク楽器）。モデルはメル自身。 ［文化］ サールになったラプレムの娘。金色の髪が長く美しい顔の少女。音楽家であった父がある日メロウにそそのかされ、狂ってしまう。ユーレは狂った父に生きたまま楽器にされ、叩かれたり引かれたりを繰り返された。ユーレは痛みと苦しみに耐え切れず、死んでしまう。ラプレムとの間に娘のメイユを設ける。

yəəle lccȷcı ［人名］ユーレ＝リーシア ［レベル］6 1L:clɒəȷ:μcɑcı ［文化］ アルシアに住む少女。トゥッティに出会い、ヴァストリアを見せてほしいとせがむ。ヴァルデを見せてもらって喜び、トゥッティを受け入れる。しかしヴァストリアを狙った悪魔シェルテスに食い殺される。

yəəle ılɑccne ［人名］ゆーれ、ユーレ＝アルフィーネ 1L8 ［文化］『ねこにっき』の登場人物。ルティア出身。なぜか苗字まで定まっている。

yəəı ［人名］ユーア ［組み数字］1／１４ ［レベル］3 語源不詳 ［文化］ (ʃcɑ ⅃ʔ ɑcı nen →)第４期３代アルシェ第１使徒。リディアの実父。ȷeeʃ と dcɿlɔ。身長 1Δʔɖɒ、体重 Δʃlφ、握力約 Δ0lφ。BÐ€ 約 ⅃ʃl にもかかわらず、超筋肉質なせいか細身に見える。格闘技・戦闘術に長ける。性格は温厚で冷静沈着で寡黙。声が低くて穏やかでダンディー。清潔感がある。リーザをひたむきに愛する。寡黙だが知的。黄色人種で白人の血が混ざっている。非常にハンサム。仕事ぶりは優秀。収入も多い。セレンにとって理想の男性像で、知りうる限り最高の男性。ただひとつ欠けるのは、イェフダーのヘブライ語やセレンのアルカのような人生を賭すべき自分だからこそできる使命がないこと。

yəəı(⅃) ［魔法］夕極、神主 ［レベル］3 ȷɒ;ılʃ‹yəəın.ɿ ［文化］ hcnıʃı

yəəıɿl ［医療］無痕灸 μɑ;yəəıɿlɑclɑıc.lcɿ ⅃ʃl

yəəın ［魔法］雨宮、夕庵、神社 ［レベル］3 ȷɒ;ılʃ ⅃1 ［文化］ eȷɿı、hcnıʃı

yəəınʃ ［音楽］雅楽 ［レベル］5 ⅃1:yəəın

yəəılcl ［化学］セリウム 1Δ: 制

yəəeȷɿ ［気象］日照り ［レベル］4 ⅃0 【用例】 ʃəɔ, ȷıɑ eȷ ȷɔμ ɒcl yəəeȷɿ ɑcl. 最近、長引く日照りのため気温が上がっている。 ☆ yəəeȷɿ lə nıʃ ʃə ɑleı. 今年の夏は日照りだった。

yəəenıs ［経済］ゼロ金利 ［レベル］5 ⅃⅃

yɜd ［感動詞］よしっ、さぁ ［レベル］1 ⅃1

¥ ［言語］動詞→ yəɔ ȷɒ ⅃ʔ

¥ꟗ϶ ［言語］ＶＳＯ ［レベル］5 ⅃ʔ

ɖ

ɖu ［歴史］ラヴァス、ɖıuıȷ ［レベル］3 ⅃1

ɖı ［形容詞］その。強調して限定する意味を添える。前置する。 ［形容詞］後ろの語が固有名詞であることを示す。前置する。 ［名詞］＊記号 ɑ;ɑɔueʃ ［レベル］1 1ʕ: 制 : 古 :ɖı（強調を意味する形容詞あるいは冠詞的形容詞） ɖı:ɖı:ɖı 【成句】 ʃə eʃ ɖı ʃə. まさにそれだ。ちょうどそれだ。ザッツイット。Ｔｈａｔ’ｓ ｉｔ。 【用例】 uıμɑınʃ, ɖı ɑμe cın 剣士ヴァルファント

ɖı,ɑ ucμ e

ɖıʃ ［歳時記］曜日 ［レベル］2 古 :ɖı ʃeeɒȷ（曜日） ［文化］ ȷɔɔʃ メル暦は７曜日。それぞれの日にはヴェルムからパルトまでのソームの名が冠してある。 公官庁などはパルトが休日。事実上日曜に当たる。 学校は後期大学未満はパルトとヴェルムが休日。

ɖıʃcȷ ［形容詞］たった、ほんの、わずかに。ʃcȷ の強意。 ［レベル］2 ⅃1:ɖı/ʃcȷ

ɖıʃe ［気象］嵐、暴風雨 ［レベル］2 1ʕ: 制 :ɖı/ʃeez 【用例】 ɖıʃe ʃcn lən ıʃ. ものすごい嵐があった。

ɖıȷ ［動詞］yəl を ı（場所など）に強調する、強調する、目立たせる、際立たせる ［形容詞］際立った、きわだった、目立った ［普通動名詞］強調 ［言語］強調。強調、倒置などの強調。 ［類義語］hıneʃ ［レベル］2 1ʕ: 制 : 古 :ɖı（強調を意味する形容詞あるいは冠詞的形容詞） ［語法］ hıneʃ

ɖıȷuɔled ［言語］強調構文 ［レベル］5 μɑ;/ ⅃ʔ

ɖıȷdel ［魔法］ラスペル、魔道力、魔法攻撃力 ［レベル］4 ⅃0: 古 ɖı（魔力）/cȷdel。具現化すると赤い透明な六角形の結晶を持つことから。 ［語法］ enuelen

ɖıuıȷ ［歴史］ラヴァス時代、黄昏の御子、たそがれのみこ ［レベル］3 古 :μcɑcı:ɖı uıȷ（その戦い）。黎明があり、午睡があり、黄昏にて神の時代が終わる。御子は主役であるアルデス・ルフェルと発端となったダルケス・フェルデンを指す。 ［文化］ エルトとサールの間に起こった大戦争。ラヴァスの決着は痛み分けで , この後 , 両者は天界と地界に分かれて住むようになった。 ヴァステの後、エルトとサールは互いに激しくいがみ合い、神同士の戦争ラヴァスが起こった。ラヴァスは痛み分けで終わり、エルトの女王ルフェルとサールの王アルデスは調停を行った。調停を行った場所はラヴァス勃発の地アルカンスである 調停後、エルトはアトラスと宇宙の間にエルト界（天界）を作り、そこに移住した。一方、サールは惑星アトラスの中心部と地表の下にサール界（地界) を作り、そこに移住した ・概要 ヴァステの後、エルトとサールの間には大きな確執が生まれていた。元来互いに憎む存在であったエルトとサールであったが、数が少ないうちは派閥も少なく皆が自由に暮らしていた。その頃はエルト・サール間での婚姻もあった。しかし、数が多くなるにつれてサールはサール、エルトはエルト同士でまとまって交際するようになっていった。エルト・サール間での交際は減っていき、争いもだんだん増えていった 竜王ティクノには獣王ポエンとの間にアルデスという息子とフェルデンという娘があった。また、善心コノーテとカルザスの間にはダルケスという息子とルフェルという娘があった ダルケスとフェルデンはサールとエルトの関係が悪化しているにもかかわらず、恋に落ちた。二人は婚姻を考えたが、両者の親がそれを許さなかった。結婚を反対された二人は親を裏切って駆け落ちを決行した 二人が駆け落ちをしたと知った両者の親は、駆け落ち相手を殺すよう残った子に命じた。アルデスはティクノの命を受けるとダルケスを追った。一方、ルフェルはカルザスの命を受けたが、すぐにはフェルデンを追わなかった ダルケスとフェルデンはアルカンスにいた。アルデスはダルケスを見つけると、二人は戦った。だがアルデスもダルケスもフェルデンのことが心配で、自分が守らなければならないと考えていた。そこで両者は生き残ったほうが相手のセレスをもらって融合すると約束した。そうすれば相手の体の中でフェルデンを守り続けることができると考えたからである。こうして二人は戦い、アルデスが勝ち、ダルケスのセレスを得た 事情を知らないフェルデンはダルケスのセレスが奪われたことに怒り、アルデスを恨んだ。そのときルフェルが彗星に乗ってフェルデンを訪れた。フェルデンはルフェルに自分を殺してセレスを奪い、アルデスを殺してほしいと願った。兄のダルケスを殺されたルフェルは了承し、フェルデンを殺してセレスを得て、アルデスと戦った 怒れるルフェルはアルデスに山を引っこ抜いて投げつけ、「必ず殺してやる」と咆哮をあげた。その方向で海に大波が起きた。 両者の戦いは痛み分けに終わり、二人は逃げ去った。二人はセレスを得て強大な力を得ていた。ルフェルはエルトをまとめあげて王となり、同様にアルデスもサールをまとめあげて王となった。そしてエルトとサールの開戦を宣言し、ここにエルトとサールの戦争ラヴァスが勃発した ラヴァスの初期はエルトもサールも同等の力を持っており、決着が付かなかった ラヴァスの最中、ティクノは新たな娘テュアを得た。テュアは始めから衣を着て生まれてきた。なぜ服を着て生まれてきたかティクノが問うと赤ん坊はすぐに幼女の姿に成長して自分は高貴な生まれだからと答えた。感心したティクノはアルデスを呼んで紹介した。テュアはすぐにアルデスにハルマニアをし、自分はアルデスの妻になるために生まれ、ʃl 人の子を産むと告げた アルデスがテュアを娶らないのでテュアは一計を講じてアルデスに自分を犯させ、妻とさせた。そしてʔ人の子を産んだ。残りの一人はどうしたと問うアルデスにテュアはいずれ分かると答えた。ʔ人の子は天の龍ジンティ、海の龍アッティ、地の龍トゥッティである。これらを得たことによりサールは力を得て、エルトを殲滅していく。こうしてラヴァスは中期に入った

中期に入ってからのエルトは防戦一方であった。初期はアルデスが妹のテュアを守りながら戦っていたため、エルトはその気に乗じて次々とサールを攻撃していった。が、そのテュアがʔ人の子供を産み、その子供たちが天と海と地を監視するようになってからの中期は惨憺たる戦況だった そんな折、ルフェルはサールに襲われたエルフレインの村を訪れた。そこでルフェルは一組の姉妹に出会う。姉妹はフレイヤとミレットといった。姉妹は親をサールに殺されていた。ルフェルは姉妹を助けて自分の傍に控えさせた フレイヤとミレット、エルフレインの姉妹はルフェルの傍で強大な力を付けていった。それはルフェルにも及ばんほどの力であり、ʔ匹の龍を以ってしても太刀打ちできなかった。ラヴァスが中期に入ってから負け続きであったエルトであったが、姉妹が前線に出始めた途端、戦況は一転した。ただでさえ単騎戦においてはアルデス以上と囁かれたルフェルにこの姉妹を加えたエルトは破竹の勢いでサールを滅ぼしていった。ラヴァスは姉妹の活躍によって後期へと移行した

アルデスは戦況悪しと見るや、子を連れてルフェルに戦いを挑んだ。が、アルデスとʔ匹の龍を加えてもルフェルとエルフレインには適わなかった。命からがら逃げたアルデスたちは、あの姉妹をどうにかせねばサールが滅んでしまうと考えた アルデスはテュア

に何か上策はないかと問うた。するとテュアはユルグの元を訪れるように推挙した。ユルグはエルトきっての賢者であるが、エルトのみならずサールとも公平に会談をしてくれる青年だった。アルデスはすぐにユルグの許を訪れて打開策を問うた　　ユルグはサールの村をわざと一つ犠牲にすることを勧めた。果たして次の戦いのとき、アルデスはわざとエルフレインの攻撃を避け、後方の村に当てさせた。村は滅び、アルデスはそこに逃げた　エルフレインはアルデスを追ったが、村の中で見たものは自分たちの過去を彷彿させるような惨状であった。憎いはずのサールに自分を重ねたエルフレインから怒りが弱まった　怒りが弱まったことによってエルフレインの力も弱まった。ルフェルはそんな姉妹を怒ることなく優しく諭した。するとエルフレインに活力が戻った。だがそれでも往年の力は出ず、アルデスらと互角になった。これがラヴァス末期の始まりである

　　アルデスは何度もルフェルに攻め込んだがその都度痛み分けだった。また、ルフェルも逆にアルデスに攻め入ったがこれも何度やっても痛み分けだった。それほどまでに両者の力量は拮抗していた　　両者はどうにか相手の戦力を削ごうと策を練ったがどれも通じず、痛み分けの戦いが続いた。アルデスとルフェルは毎回痛み分けで済んでいたが、巻き添えを食らう一般のアルテは堪ったものではなかった。神々の戦いは凄まじい。長い年月をかけて繁栄したアルテの国や村をたった一晩で滅ぼしてしまう　　巻き添えを食らうばかりの毎日に次第にアルテは疲弊していった。そして疲労はアルデスやルフェルにもいえたことだった。長く続く勢力の均衡、数え切れないほどの痛み分け、同じく数え切れないほどの犠牲。アルテの疲労は限界に達していた　　これ以上戦っても決着は付かない――そう判断したアルデスとルフェルは調停を行い、ラヴァスの終結を話し合った。対談の地は二人が最初に戦ったアルカンスが選ばれた　二人は同じ大地にエルトとサールが住んでいる以上、争いが耐えることはないという結論に達した。そこで住む世界を分けることにした。ラヴァスによって散々に荒らされた土地はもはや住めたものではなかったので、二人はそれぞれの世界を作り、そこに住まうことに決めた　サールは女性神サールが大穴に身を投げて死んだことを理由に、地下に世界を作ってサール界（地界）と名付け、そこに移り住むことにした。一方、エルトは男性神エルトが天高い塔の上で死んだことを理由に天に世界を作ってエルト界（天界）と名付け、そこに移り住んだ　尚、もはやサールでもエルトでもないとみなされたできそこないのユーマの一族は両方から無視され、荒廃した大地に取り残された　　サールとエルトは両者の世界に立ち入らない約束を厳しく取り交わし、互いの世界の入り口を非常に小さいものにした。サールは女性神サールが身を投げた大穴をサール界の入り口とし、エルトは男性神エルトが死んだ塔を再建し、そこをエルト界の入り口とした。そして互いを監視するようにした　　アルデスは息子たちに天と海と地を見張らせた。しかし肝心の塔を見張る要員がおらず、困っていた。するとそこにアルデスの息子を名乗る龍の化身が現れた。アルデスは心当たりがないと追い返そうとした。だがテュアがこれが ⅅ 人目の子供だと明かしたため、アルデスはこれにハンティと名付けてエルト界の入り口である塔の龍にした。一方、ルフェルはエルフレインにサール界の入り口から世界の監視までの全てを命じた。こうして互いの勢力を見張るシステムが確立し、ラヴァスは完全に終結した

dıa　［言語］アクセント、強勢　［音楽］アクセント、アッチェンタート。楽譜に書いてある場合は「アッチェンタート」の意。　1L:dı/aɔ　［文化］　古アルカは自由アクセントだった。セレンはセが高いがフルミネアはミが高い。　覚えるのが面倒なので制では第一音節にアクセントを拘束した。不定詞が名詞にも動詞にもなるため、この区別をするために、動詞は時相詞をつけてその時相詞を高く読むことにした。こうして動詞だけ後ろが高いというアクセント形式ができあがった。　新生になって時相詞が消えたので、すべて第一音節にアクセントが置かれるようになった。しかしこれではアクセントに弁別性がないのでアクセントとしての必要性がない。　こうして新生は自由アクセントになり、「断りがなければ最初を高く読む」という仕組みになった。　フィンランド語のようにこのまま第一音節にアクセントを拘束する道もあるだろうが、元々自由アクセントの言語だったため、そうはならなかった。　自由アクセントなら固有名詞をきちんと読みたいという要望が出てきたため、アクセント体系が復活した。　かといって単語ごとにまちまちなアクセントだと覚えづらいので、法則を立てることにした。フルミネアが立てた法則は不十分で、セレンが補強した。その後様々な人々が補強をし、最終的にリーザが補強した段階で落ち着いた。　この流れでモーラが復活した。　アルカでは音は「音素→モーラ→音節→形態素→単語」の順に大きくなっていくと考えている。　音節＝モーラなら言語構造が単純になるため、プロトタイプ制ではモーラ＝音節にし、ＣＶしか認めなかった。　しかしＣＶでは多くの固有名詞を発音できなくなるので、音節を採用してプロトタイプは終わった。音節を採用した反動でモーラの概念はいらなくなった。　新生でアクセントの法則を作るときにモーラの概念が必要になり、モーラが復活した。　アルカのモーラは伝統的にＣＶである。日本語は「ん」を１モーラにするが、アルカでは nɜ であり、「ん」だけで１モーラにはならない。そのため日本語より単純なシステムになっている。　　ıɥbızıɥɑ という単語を分析する。　音素：ı ɥ b ı z ı ɥ ɑ：８音　モーラ：ı ɥɜ bı zı ɥɜ ɑɜ：６モーラ　短音節：ıɥ bı zıɥ ɑɜ：４音節　長音節：ıɥ bı zıɥɑ：３音節　　音節には長短がある。短音節ではＣＶＣを基礎とし、ＣＶＣＣなどはＣＶＣ／ＣＶとする。　長音節ではそのようなことがなくＣＶＣＣのまま音節とする。　この区別は歌によって生まれた。歌詞を割り当てるときに、１音符に１長音節を当てはめると歌いづらいため、音節を区切って割り当てた。これが短音節の由来である。　また、歌だけでなく、ゆっくり喋るときの言い方から生まれたと考えるメンバーもいる。ゆっくり喋るときに ıɥ/bı/zıɥ/ɑɜ と区切って喋ることから短音節が生まれたという考え方である。セレンもこちらに賛同している。　　新生は審美を重視している。拘束アクセントは学習効率を重視しているため、しばしば言いにくい単語を作る。　新生では音がどのように聞こえるかで造語することが増えたが、どんなに音を良くしようと、アクセントが合わなければ台無しである。　そのため、ちょうど自由アクセントになった事情を活用し、アクセントも綺麗に聞こえるものを選んでいこうという考え方にシフトしていき、この法則に至る。　なお、この法則は古アルカのアクセントを復古させようというのが主眼で、フルミネアが提案したものである。古アルカのアクセントを集計し、自身で法則を立てた。　カーデの作者フルミネアが古アルカを好んでいたことは周知の事実だが、それ以前に制や新生では自分の名前のアクセントが異なっていたのが我慢ならなかったのではないか。セレンやリディアやクミールやリュウやリーザはすべて第一音節が強いので、彼女の不快感は共有できなかった。それゆえ、彼女がアクセントの復古に躍起になったのは理解できる。　そもそもアルシェの中でフルミネアだけが制になってアクセントが変えられた。古アルカでの解釈は ɑəl（一）ᴅccı（娘）で、長女という意味。彼女には妹が一人いるので正しい。実際の名前も ɑəlᴅccı で妹が ᴅccı だそうだが、その名は自然言語のもの。　ɑəl は接頭辞で語幹は ᴅccı なので、ᴅccı にアクセントが置かれる。それで、制では彼女だけが元のアクセントを失った。当然元に戻す機会があれば戻したいのだろう。

　ところで、なぜ最後から３番目のモーラなのだろうか。最初や最後は分かるとして、最後から３の根拠は何か。　古は自由アクセントといったが、原始的には第一音節の高い拘束であった。lıc や nılə ʃı など、すべて最初が高い。これは恐らくリディアがフィンランド語を母語としていたため。　ただしフィンランド語と異なるのは、接辞が付いた場合、アクセントは接辞には付かずに語幹に付くという点である。上記の ɑəlᴅccı など、その例である。接辞が入ったことで、アクセントは自由に変わったわけである。　さて、接辞が付いた場合、単語の中身は典型的には接頭辞＋語幹＋接尾辞となる（もちろん、このうち片方しか接辞が付かないものも多い）。　ɑıc や ɥcɑcı のような短い単語なら最初にアクセントを置いても構わないが、単語が長くなると、たいてい接頭辞＋語幹＋接尾辞の構造を持ち、モーラにすると平均６前後になる。　このとき、最後から数えて３モーラにアクセントを打っておけば、長い単語についてはアクセントが語幹にヒットする確率が高くなる。　今回のアクセント法則を打ち立てるさい、アシェットから「８年前のことをいまさら思い出すのは覚えなおしと変わらない。面倒だ」と非難を受けたため、フルミネアはどうにか古アルカの再現率が高いながらも簡単な法則を模索した。その結果が最後から３モーラである。　確かにこの法則はよくできていて、短い単語には適応されないし、長い単語はかなりの確率で古アルカのアクセントと一致する。中々便利な法則だ。

dıalɔʃȷ　［電算］ＣＡＰＳＬＯＣＫ、キャップスロック　［レベル］３　⅃0

dıaı　［サール］ラファ　［レベル］４　古：強調の dı/ɑıc が語源。　［文化］　炎を司る。巨躯の体に炎を纏い、頭には赤い角が２本生えている。

dıaıɥen　［地学］紅柱石　［レベル］６　1L:dıaı/ɥen　［文化］　ラファの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。

dıᴅ　［ユマナ］キリスト　［レベル］２　古 :dı eᴅɥə（その油）。油は ınɔcnʃ eɑ（油を塗られた）を指し、dı はそのような特定の人間を指す。　【用例】　ᴅcuı"el φəl aın leȷ ɑeᴅıʃ ȷelın ınȷeʃeȣ" ın"ı ɥı" ᴅcuı"lɔᴅ eȷ el ȷɔlȷ leȷ ɑeᴅıʃ lın ɑc ɑə ıllı lɔʃ ʃə acıȣ" ın"hɜᴅȣ ʃə elȷ neȣ" ᴅcuı"dıᴅ, ᴅcl ᴅcɥɔl ᴅc ʃə acı" 娘「詐欺を働いたら責められますよね？」俺「そうだね」娘「じゃあどうして世界一多くの人を騙した人が尊敬されてるんですか？」俺「ん……誰のことを言ってるの？」娘「キリスト。神なんていないのに」（ləlcı ıɥbızıɥɑ）

dıᴅlıɥʃ　［ユマナ］クリスマスカード　［レベル］４　⅃ⅅ

dıᴅlınʃ　［ユマナ］クリスマスプレゼント　［レベル］２　⅃ⅅ

dıᴅlcdl　［ユマナ］クリスマスケーキ　［レベル］２　⅃ʔ

dıᴅȷ　［動詞］ɥəl と婚約する、婚約する　［普通動名詞］婚約　［レベル］３　1ʕ: 制 :dıᴅın　［文化］　婚約の仕方は ȷccl 参照。

dıᴅȷel　［ユマナ］クリスマス　［レベル］２　⅃ʔ

dıᴅȷelȷı　［ユマナ］クリスマスイブ　［レベル］２　⅃ʔ

dıᴅᴅɥəlıle　［ユマナ］［宗教］キリスト教　［レベル］４　⅃ʔ

dıᴅın　［サール］ラマン　［名詞］婚約者、フィアンセ（男）　［レベル］３　古：ɥcɑcı:dı ᴅcɥ（夫）　［文化］　婚約を司るサールの男。アルデスから悪魔アルマの力を封じた指輪アルマディオを賜った。それを婚約者のアーディンに渡して婚約したが、アーディンは彼を裏切り、アルマが復活してしまう。

dıᴅın ȷınbel　［人名］ラマン＝サンベル　⅃⅃　［文化］　アリス＝リシアの父親。

dıᴅcı　［名詞］腹心、右腕　［類義語］ılhı　［レベル］３　古 :dıᴅcı ← dıᴅcɥ（頼られる人、夫）最後の ɥ が母音の ı に聞こえ、dıᴅcı で定着した。　［語法］　dıᴅcı は部下の中で最も有能というイメージ。ılhı は常に傍にいて守る人のうち、上下関係のある人。唯一無二というイメージ。ılhı のほうが大切にされているイメージがある。最大の違いは、その人が消えたら二位の人が一位に繰り上がるか否か。dıᴅcı は繰り上がるが、ılhı は欠番を保つ。ランヴェムはギメルに変えられたので dıᴅcı。森欄丸やキルヒアイスは ılhı。

dıdı　［感動詞］lılı の強め　［レベル］２　⅃1

dızcɔ　［動物］ドーベルマン　［レベル］４　⅃1: 牙

dıscl　［名詞］ショック、衝撃　［動詞］ɥəl の衝撃を ı に与える　［形容詞］衝撃的な（dısclın の形で）　［魔法］ジーク（ラ・ジーク）。雷の黒魔法。ショックを与え、身動きを取れない状況にする中級魔法。　［レベル］３　1ʕ: 制：古 :dı sccl（ショック）から。　sccl:sccl　【用例】　☆ ʃclȷ dı sclın lıʃ ʃclᴅ cᴅ acȷ. 今日の新聞に衝撃的な記事が出ていた。　ın cȷlcl ᴅelcɑcı ɑə ʃ0 ucı alec. ellɔᴅ eʃ dısclın enʃɔ ın nı lɔl ɔ ueᴅ lıl ɔn ɔnl. 夢織を６０ページぐらいまで読んだ。話の流れが衝撃的で、続きを読むのが面白くもあり怖くもある。

dılccz　［人名］ラリーズ。メルの悪口で、チビという意味。　古 :1L 年

現在では聞かれない。

dılccz,ɑu　dıcz　dı lccz

dıı̃ ［娯楽］スクラブル　［レベル］5　1ʕ: 制 : 古 :dı/ıı̃（古アルカのアークパズル）

dıcn ［動詞］yəl を目撃する、目撃する ［普通動名詞］目撃　［レベル］3　J0:dı/cn ［語法］ 主に偶然にショックなものを見てしまうこと。音と意味とが合っている。 【用例】 dıcn ȷɔɑı 事故を目撃する

dıcnʃıȷnμenȷ ［名詞］目撃証言　［レベル］4　μΩ;/　Jɱ

dıcnın ［法律］目撃者、ウィットネス　［レベル］3　J1

dıcɑı ［天文］流星、流れ星、隕石、メテオ、輝隕　［魔法］ライファ（メテオ）。宇宙からアルマを帯びた隕石を雨のように降らす魔法。最強の黒魔法。無属性。歴史上、人類で使えたのは原則としてリディア＝ルティアのみ。そのリディアもヴァストリアのリーファスを装備しないと放てない。「アルマの雨」の異名を持つ。 ［組み数字］1／１１　［レベル］３　ɑu　1ʔ: 制 : 古 :dı lccɑı（隕石）

dıcɑıμecn ［組み数字］輝隕賞　［レベル］5　J1 ［文化］ → μıdıll　μΩ でアルバ王宮が定めた人類が誇る魔法のランキング。難しさや効果や人類への貢献度などの点を考慮して総合的に判断されたもの。偉大な魔導師の目指す目標として設定されているため、魔法倫理学に基づき、禁呪はもちろんのこと念のため uɔμʃ なども除外してある。ᴅų əllɔʃı のように恐らく人類の使えないだろうものは載せていないが、dıcɑı のように使えた記録がないが使える人材を求むという場合には奨励のため載せた。アルシアにちなんで１１種。黒白時古から成るが、大別すると黒系と白系が交互に来ている。最後は白系が連続する。

dıcɑılccɑı ［天文］ミルファク　1L:μcΩcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ リディアがリアントに撃ったライファの魔法がやってきた星。ペルセウス流星群はこの方向から来る。

dıcɑıeȷ̃ ［天文］流星雨　［レベル］4　J1

dıcz ［卑語］［俗語］チビ、ちび　［レベル］2　1L: 古 :dılccz　dılccz:dılccz

dɔ̃ı ［音楽］メタル、ヘヴィメタル、ヘヴィメタ　［レベル］4　ul;「狂った」　J1

dɔ̃c ［形容詞］狂った、発狂した、ファビョった、火病な、文章などが意味不明な、イミフな ［反意語］ȷııu　［レベル］2　ɑ;lɔ̃c「頭が動く」の音を強めたもの。　赤

dɔ̃cl̃əcl ［料理］暴飲暴食　［レベル］4　JJ

dɔ̃chıd ［電算］文字化け　［レベル］3　1L 【用例】 ʃelʃ le ʃcl dɔ̃chıd 文字化けしたメール

dɔ̃ccᴅყə ［形容詞］［ネガティブ］異常な　［レベル］3　1L:μcΩcı:ıμbılelʃ: 狂ったように珍しい

dɔ̃ɔʃ,ɑu　dıφ　dɔ̃c/ʃeeze

dɔu ［医療］アトピー　［レベル］3　1L:dɔ̃c/ȷcμ（気が狂いそうになる（くらいつらい）肌）

dɔbıc ［魔物］ロバイ（狂牛）: 第四十七天 : 雷の陽天　［レベル］5　1L:μcΩcı/ȷeμen/ᴅel:dɔ̃c/bıı̃ ［文化］ 獣族。牛の顔に角の生えた巨躯の魔物。青銅の鎧を着て、柄の長い斧か槍を持つ。

dɔɔʃ ［名詞］ファン、信者、厨、狂、キチガイ、気違い、基地外、基地害、気狂い、キティ、がー、ガー ［類義語］μəɑeʃ ［類音］dɔɔl　［レベル］3　ıl;dɔ̃c/ʃe　Jʔ ［語法］ → μəɑeʃ　ガーには「カンリョウガー」のように責任転嫁する人という意味があるが、アルカではそういう人もまとめて dɔɔʃ に入る。dɔɔʃ は何かに熱狂している人を指すので、盲目的になっている人全般を指せる。

dɔɔ̃ ［形容詞］異常な、通常でない、非常の、常時でない ［反意語］ılɔ̃　［レベル］3　JJ: 古 dɔ̃c

dɔɔ̃l̃əlılı ［料理］非常食　［レベル］3　JJ

dɔɔl ［医療］［俗語］［ネガティブ］知的障害者、知障、池沼、キチガイ、きちがい、気違い、気狂い、基地害、基地外、キティ、キチ、マジキチ ［類義語］lenȷucleʃ ［類音］dɔɔʃ　［レベル］3　zφ;dɔ̃c/lenȷ　Jʔ:ᴅel

de ［副詞］［ɑμecnʃ］～しろ。μe の強調形　［レベル］1　1L:lecn

denΩcbəlʃ ［アトラスの国家］レンディブルト　［レベル］5　Jʔ:μcΩcı

deeφ ［名詞］クリティカル、クリティカルヒット、会心の一撃 ［動詞］yəl にクリティカルヒットを与える、クリティカルヒットを与える ［形容詞］（ın で）どストライクな、ストライクな、クリティカルな ［ユベール］［運動］一本。柔道や空手やユベールなどの一本。 ［野球］ホームラン ［類義語］ccscȷ ［反意語］ɑeı、ıluın　［レベル］3　ɑu;ɑɔueʃ。d は衝撃音で、φ は敵が潰れる音。　Jɱ ［語法］ 見事に決まった一発のこと。致命傷に至るかは不明。　転じて、好みなどに全く当てはまること。 【用例】 lı eʃ ȷccne deeφın ınʃ Ωır 彼女は俺の好みのどストライクゾーンだ。　ȷeμen deeφcl̃ uecφın l̃ɔn ɑμecr セレンは剣でヴェイガンにクリティカルヒット！

deeφlɔʃ ［名詞］ストライクゾーン、レーグロット　［レベル］4　μΩ;/　Jɱ ［語法］ 好みの範囲のこと。女だけでなく食べ物や音楽などあらゆる物の好みに使える。 【用例】 lı lı deeφlɔʃ ınʃ. 彼女は俺のストライクゾーンだ。　deeφlɔʃ ınʃ eʃ hın ɔn ᴅcn Ωe. 俺は女のストライクゾーンが広いぜ。　l̃ᴅccμ əl lcczı lınlı lı deeφlɔʃ e ȷeμen. クミールやリーザ先生はセレンのストライクゾーンだ。

də̃ ［言語］d の文字　［レベル］1　1Ω: 制 : 真紅の月 ［語法］ 第１５文字目の幻字。　日本語のラ行を転写する際は μ や d でなく l を使う。　イタリア語のラのように、震え音で発音する子音。アルカで最も頻度の少ない字。震えが強いので音の迫力が強い。そのため呪文には適すが、少女の声には適さない。実際クミールやフルミネアなどの大人しい女子は古アルカの時代からこの音を避ける傾向にあった。そこで、μenʃe は震え音の代わりに弾き音で発音する。つまり日本語のラ行で発音する。女性の発音は日本語のラ行になっても、日本語のラ行の転写は上述のように l で行う。

dəəʃ ［アイテム］ルート、エーテル ［組み数字］6／１２　［レベル］4　1L:μcΩcı:dı（ヴィルの旧称）/dəə̃ccʃe（真紅の月（魔力の回復に役立つ）） ［文化］ ヴィルを回復する赤い水。魔導師がヴィルを封じ込めて作る。非常に高価。μΩ ではアルシェの家を襲撃された際、まだ使徒が未熟だったため、リュウが大量に使徒に投与して魔物を追い払ったことがある。

dəə̃ ［天文］［気象］真紅の月、深紅の月、紅月　［レベル］2　19: 古 :l̃enɔ dəə̃ccʃe(真紅の月)、(ルーキーテの (月)) が原義。『カコ』の一節が語源。皇女ルーキーテがむなしく散り、ドゥルガとヴィーネの和解が破局を迎えた日、暗い空に現れた真紅の月が現れた。そのシーンに出てくるような月という比喩から。　::lı ləəueʃ

dəə̃ȷ ［名詞］夕方。１６～２０時　［レベル］1　μΩ;ɑφn　1L:ȷɔμn:dəə̃。夕方が赤いことから　ᴅყədı:ᴅყədı:lı lelce 【用例】 ☆ ın l̃əʃ yəə ıl̃ı lʃ dəə̃ȷ nɔu cᴅ ɑcȷ. 今日は午後の遅い時間まで何も食べられなかった : 午後の遅い時間なので、自動的に dəə̃ȷ。

dəə̃dıɑc ［気象］赤虹　J1: ただし朝焼けでの場合もある。

dəə̃ccʃe ［人名］ルーキーテ。実在の人物で、メテの母。 ［人名］皇女ルーキーテ。カコに登場する姫。 ［魔法］ルーキーテ（アルテマ）。すべての魔力を攻撃力に変換して撃つ無属性の魔法。『紫苑の書』ではフェンゼルが放っている。 ［組み数字］3／１１　［レベル］3　l̃ılɔ: 語源不詳 ［文化］ (yəəᴅı ʕL90)　yəəᴅı ʕL90 イクスタン、ルクレティアとの間に娘 dəə̃ccʃe を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 l̃ılᴅın の娘 ʃɔμcȷʃe を第二夫人として娶る

dəəl ［料理］夕食、軽食　［レベル］1　1L:ȷɔμn 【成句】 ɑıȷʃ yən dəəl 夕食のように手っ取り早い＝朝飯前の : 夕食は軽食であることから

dəəle ［天文］夕月、ルーシェ　［レベル］3　JJ:dəə̃ȷ/lelʃ ［文化］ 夕方見える上弦側の月のこと。

dəəɑ ［気象］夕日、日没、日暮れ、夕焼け　［レベル］2　1L:dəə̃ɑıl

dəəΩ ［代詞］［iben］俺ら　［レベル］1　J1:ɔuc

dəəΩcȷ ［代詞］［iben］俺らの　［レベル］1　J1:ɔuc

μ

μ,ȷzΩ　主格語尾

μʃ ［歴史］アルティル、ıμʃcl　［レベル］3　J1

μȷcʃ ［動詞］yəl を采配する、采配する、ものをいう、物を言う、物をいう、yəl は ȷɔl 次第である ［反意語］μeȷʃ　［レベル］3　1L:lcɔn:μȷcclı 【成句】 ʃɔlcȷ μȷcʃ el{cl}. 年には勝てない。寄る年波には勝てない。　μȷcʃ lc uμɔ 生殺与奪の権利がある

μȷccʃ ［軍事］士官　［レベル］5　1L:μcΩcı:μȷcclı や μȷcʃ ［文化］ 軍人の階級。兵の対語。将官、佐官、尉官に分かれる。

μȷccl ［親族］親、両親 ［反意語］yəlcın ［動詞］yəl を経営する、経営する、運営する、営業する　［レベル］2　古に「μȷcclı ＝ lcczı ＝みんなの親」という考えがあり、省略形の μȷccl で親身分を指したことから。 【成句】 el ȷc μȷccl cᴅ lə eȷ μız. 孝行のしたい時分に親はなし

μȷccl̃ıΩ ［政治］宗主国　［レベル］6　J0: 親の国

μȷccluenʃ ［経済］親会社　［レベル］5　1L

μȷcclφıɔ ［経済］営業利益、営業損益　［レベル］6　1L

μȷcclμı ［名詞］実家、親元、親の家、生家　［レベル］4　μΩ;/　Jɱ

μȷcclı ［名詞］ルシーラ、司徒、マスター、支配人、支配者、覇士、はくし、司月、しづく、月司、月読、つくよみ、ツクヨミ、リーダー、良い支配者。使徒を点呼する立場にあるため、月読とも称す。 ［名詞］司徒（しと）。ls のミロク革命の最高指導者を表す言葉。 ［名詞］司徒。μΩ の英雄アシェットのリーダー。 ［名詞］先生 ［音楽］バンマス、バンドリーダー、日本でいうバンドマスター ［軍事］キャプテン、隊長、司令官 ［名詞］チーフ、集団の長、委員長 ［名詞］大学院博士課程 ［名詞］院長 ［名詞］管理人、管理者 ［電算］管理人、サイトマスター。掲示板やＨＰなどの。 ［シェルト］チェック、ルシーラチェック ［経済］経営者 ［動詞］yəl を司る、司る、つかさどる、思い通りに操る、良く支配する、yəl は ȷɔl の天下だ ［形容詞］～様、～先生、～社長 ［反意語］hıdᴅı　［レベル］2　ɑu;e　先 ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ　○名（後置）　○姓（前置）　○男女　○単体使用 / 名詞用法　　呼称のひとつ。前置。lınlı や Ωყ əȷȷɔə より敬度が高く、対象もほぼすべてに広がる。政治家なども含む。統率者や経営者や地位の高い人物に用いる。 【成句】 c μȷcclı clȷ el ルシーラから直接 : 上意下達

μȷcclı lınlı ［人名］ルシーラ先生、メル、メル＝ケートイア　［レベル］6　古: 小説版アンクノットか赤に既に「ルシーラ先生」という原案がある。ただし lınlı という単語はこのころはまだない。

μȷcclıΩıcᴅın ［名詞］博士中退　［レベル］6　1L

μȷcclıμ̃ɔ ［言語］親ノード　μΩ:ᴅel;/　Jʔ:ᴅel

μȷcclıμeφıȷʃ ［名詞］博士卒　［レベル］6　1L

μȷccllez ［名詞］院長室、艦長室、所長室、社長室　［レベル］3　JJ

μȷccleIΩ ［言語］祖語　［レベル］6　1L

μȷcel,ȷzl　l̃əʃɔ　μȷcclı/ȷcel

μΩ ［歴史］オーディン、ɔμΩcn　［レベル］3　J1

μყΩcı ［ユマナ］リディア、リディア＝アルバザード ［人名］リディア、

リディア＝ケートイア ［人名］リディア。セレンの理想の少女。 ［レベル］1 ɱɹɹ;ɥcɷcɪ ɹʔ:ɟeɥen:ɥcɷcɪ ［文化］ ・産まれなかったセレンとメルの子供。 日本時間で２０１２年６月１３日、ɭcɪ ɿɭɹɱ のなりたてのこと。メルは５月３日にセレンが秋葉原のトイレにメルを連れ込んでセックスした際に妊娠したことを告白した。 リディアは産むことを許さないと述べた。セレンはその子供を引き取ると述べたが、メルとリディアが引き渡したくないと述べた。セレンには父親になって子供を直に育てる資格がないと言われた。 その子供を堕ろすか否かで揉め、最終的にセレンが堕ろすとの決断を下した。リディアが産むのを許さず、セレンが引き取るのも拒まれれば、産む先がない。施設に預けるのもリディアが反対した。そもそもメルにセレンの子供を産ませたくなかったのである。メルは悲しんでいたが、その決定を受け入れた。 せっかく宿った命なのでせめて名前を付けようということになり、リディアと名付けた。セレンは中学の時、リディアと約束していた。もし自分以外の女と子供を作って命名権がセレンにあったら、その場合はその子をリディアと名付けるようにと。それをセレンは守った。 なお、アルディアの中ではリディア＝ケートイアという名である。その子は娘であると想定され、母親の姓を受け継いだ。一方現実ではどうなっていたかというと、こちらも娘ではないかと想定されたが、セレンが姓を引き取りたいといい、現実ではリディア＝アルバザードとなった。 娘の線が濃厚である理由は、メルが避妊をしているとセレンに嘘を付き、娘が生まれやすくなるゼリーなどの薬剤を使用して産み分けをしていたためである。メルは既成事実を作ろうとしたが、結局リディアに阻まれ、セレンにも最終的には堕ろすように言われてしまった。
この事件が元でセレンは自分は父親として不要だと考え、ルシアとユルトの前に二度と現れないことを宣言し、リディアらも受け入れた。セレンはこの日に自殺したと子供たちには伝えることになった。
 セレンはメルに慰謝料と手切れ金を合わせてユーロで１２００万円分支払い、同じくリディアにはユルトとルシアの養育費として１２００万円分ずつ支払った。 追記（セレンの日記より抜粋）
 ɹ01ɹ/0ʕ/1۹ 昨日だかリディアから連絡。もうメルとは暮らせないので追い出すことにしたが、子供が嫌がるので、「私はあなた達を産んだの。お母さんとママどっちについていく？」と聞いたら即答で「ママ」と言われ、「じゃあママと一緒に暮らしなさい」と言って子供を捨てたらしい。子供をメルにあげる代わりに「もうセレン君と会わないで。連絡はしてもいいけど、それは私の家でして」と条件を出し、メルは飲んだそうだ。そんなに離れてないところに賃貸かなんかで借りるらしい。紫亜は俺が死んだというのがショックで泣いて、ユルトは同じくショックで「僕もう剣道やらない」と言って鍛えるのを止めてしまったそうだ。剣道がフランスにほぼないからフェンシングをやらせようかって言ってたのに、その線もなくなったようだ。リディアに「子供捨てて良かったの？」と聞いたら「子供がメルを選んだ」と言い、「私はその代わりセレン君を独り占めできるから、こっちのほうが良い」と言った。俺も父親失格だが、リディアも母親失格だな。 ɹ01ɹ/0ʕ/ɹɱ 先週リディアに「メルを連れてこい」と怒鳴ったらリディアが珍しく怯えていた。怒らない俺が怒ると怖いらしい。メルともう話せないと思ったら我慢できなくなった。メル連れてきてお前のことが好きだと何度もリディアの前で言い、子供はいらないがお前たち二人は絶対に手放したくないと明言した。父親失格だねとはいうものの、メルは嬉しそうだった。 それから先週末にメルが家を探しているところで子供たちが家を出ていきたくないと言い出した。リディアがお母さんかママか選びなさいと言ったら紫亜が「じゃあお母さんが家出てってよ」と爆弾発言。ユルトが「僕はママもお母さんも一緒に暮らしたい」と言い、すると紫亜も「うん紫亜もそう思う」と意趣返し。ほだされたリディアとメルが元鞘の同居を選ぶことに。 問題は俺が死んだと言ったこと。紫亜はその場では泣いたがあとはしれっとしていて、逆にユルトはその場で無反応で「僕もう剣振らない」と投げ出し、そのまま何日たってもボーっとしたままでヤバイとリディアが言ってた。意外と娘冷たかった。で、子供に悪影響だし絶対将来いつかバレるってことで、自殺未遂したが助かったことにしようということにした。これで完全元鞘。 メルに言いのかと聞いたら「ずっと自分の生理って苦しいだけで無駄だって思ってたんだよね。お兄ちゃんの赤ちゃんほしいなって思ってたんだよね。産めはしなかったけどお兄ちゃんの赤ちゃん身ごもったことは事実だし、わりと満足かな。実際産むのも育てるのも大変なのは双子の世話でよくわかってるし。それに妊娠超初期だったからあまり罪悪感もなかったし、苦しくもなかったから」と言っていて受け入れている様子。結局元鞘になりそうだ。
 ・セレンの理想の少女 セレンが１０歳のときから抱き続けた理想の少女像のこと。リディアをモデルにし、名前まで拝借しだしたのは、リディアと付き合った中２ごろからのこと。 ある意味では現実のリディアを神格化した存在という面もある。ɥɣɷcɪ はセレンにとって理想の少女であるとともに、信仰の対象でもある。

ɥɣɪsc,ɑ ɔs lɣɪ/sc「指が近い」が ɥ 化したもの。

ɥɣəɟcɪn ［地名］リュシアン市 ［レベル］4 ɹɹ ［文化］ cle ウォール街に当たる小さな市。

ɥɣəə ［組み数字］6／２８ ［交通］リュウ通り ［名詞］リュウ組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ɹɹ

ɥɣəə ɔlcɟcɪ ɑcn ʃcl̩nɔ hɣəəʃɔ ［人名］リュウ＝オリシア＝フィン＝ティクノ＝ヒュート ［組み数字］6／２８ ［レベル］2 古：リュウ、オリシア、フィンは自分で名乗っていたので語源不詳。リュウという名の本名は多くの使徒が発音できなかったので、セレンが「 リュウ 」というマージ名を付けた。が、これは受けず、有声そり舌摩擦音が歯茎接近音に変化したりした。その結果、リューウェという感じになったが、最終的にはセレンの提案した形に収まった。また、ティクノはʕ年にセレンが冠した名で「 龍 」の意味。ヒュートは『カコ』。 ［文化］ (ʃcɑ Δ ɥəs lcɟ →) 第４期４代アルシェ第６使徒。男性。ɥəəl。１７５ｃｍ、６２ｋｇ。髪は黒色で肩より少し短く、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝６：４。白衣を着ている。白衣の下には刀を差している。 ・『ミールの書』より 恐る恐る振りかえると、デスクに座ってキーボードに手を置いている青年がミールの方に顔だけ見せている姿が見えた。ミールは驚きながらも振り向きあった妙な姿勢が２人の出会いだということに奇妙さを感じていた。 「あ、いえ。私こそ勝手に入ってしまってごめんなさい」 お辞儀をする。青年は椅子を回してこちら向きの姿勢になった。肩まで伸びた髪が向き直った時に風に揺れて美しい印象をミールに与える。それでミールは思わずその青年の顔に見入ってしまった。 青年は鋭い目つきをしていて、一目で頭の切れる男だと思わせた。だが、表情は非常にジェントルなのでセレンやラヴァとは違うタイプに見えた。セレンもラヴァもこの男も目つきが鋭い事は共通するが、この男のものは特別優しく見えた。 声と同じく彼の顔つきはやや中性的であり、綺麗であった。 男の服装は白衣だ。綺麗な白衣で汚れや染みが見当たらない。その下には普段着を着ているようだ。 優しそうで綺麗で清潔なこの男をミールは一目で気に入った。 「入ってこられたのは一向に構いませんが、何か御用でしょうか」 優しい口調で男は喋りかけてくる。年はセレンと同じくらいだと思われるが、この男の方が大人びて見える。 【成句】 ɥɣəə ɪnl dɪɪl lel dɪɪl ɟɪn lc ɒɪlɟ ɪɟ 結婚してもリュウはパールをさん付けする：親しき仲にも礼儀あり ɥɣəə ɑɪ nzel lɪl ɪɟel 残酷なリュウは笑顔を絶やさず：能ある鷹は爪を隠す

ɥzɪɥl̩ ［名詞］天使、ルザーク ［類義語］lɪnɟ ［レベル］3 ɹ0:ɥenɟɪɥl̩（言葉を繋ぐ） ［文化］ ロゼットの貿易商。神人貿易の神側の役人。貿易をしている関係で人間と直接的な交流を持っており、そのため神の意思を伝える任務も負っている。神人貿易が廃止されてからは神の意思を告げることが主な仕事となる。大天使長はエルフレインの姉妹。

ɥɪ ［建築］住居、家、家庭、動物の巣、住処、住宅、別荘、小屋、巣 ［動詞］ ɥəl に住む、住む ［接尾辞］～の家、～ん家、～んち ［類義語］lɪlɒ、lclcl ［レベル］1 ɿʔ: 制：古 :ɥəlclɔ（家） ɥəlclɔ:ɥəlclɔ:lɪ lczɥɔ（中や内は女）:lɔ,ɪlʃ ［文化］ → ɒcuɪʃ ＜様式＞ アルバザードの伝統的な家屋は石造りと木造である。屋根は雪や雨を貯めないように、∧の形をしている。全体的な見た目は、地球でいうとイタリア～フランスの家屋に似ている。森の中は木の家が多い。材料がすぐ調達できるためである。ただし火事に弱い。森の家というとアルバザード人は木の家を想像する。 四季のある国の家屋というのは暑さと寒さのどちらにもさらされるため、家屋はそのどちらかを優先的に避けるよう作られる。湿気の少ないこともあり、アルバザードの場合は寒さを凌ぐようにできている。そのため日本より韓国に近い。従って遮蔽性は高く、風通しは悪い。 ただし、現代では伝統的な家屋は古いものしか残存していない。革命前後に作られた家はたいてい石や木といった自然物をそのまま使わない。鉄骨、軽量気泡コンクリートなどといった昔にはない素材が使われ、耐火性や耐久性に優れている。そのわりに外見は従来の家屋に見えるので、一見すると従来型との区別が難しい。 一戸建てはたいてい二階建て。集合住宅は面積が広いが、たいてい一階分。 ＜形式＞ 一戸建てと集合住宅がある。一概にどちらが良いとはいえない。集合住宅は一つひとつが広く、防音もしっかりしている。それぞれベランダに小さな庭もあり、ところによっては犬も飼える。防犯もしっかりしており、認証がなければ正面玄関を通り抜けることはできない。また、決まって大きな公園が内部にある。ここにはその集合住宅の中からしか行けず、外からは隔離されている。ここは住民の憩いの場で、ベランダに比べて公共の場でもある。尚、密集地では屋上に公園がある集合住宅もある。集合住宅の屋上は環境対策として全て緑地化されているが、これがそのまま公園にもなる。夏場もアルバザードはそんなに暑くならないので屋上にいても危険ではない。監視の目が厳しく、安心して暮らすことができる。集合住宅そのものが一つのコミュニティーを形成している。 一方、一戸建ては大きさや内装を好きに決められるという利点がある。家族の増減によって分譲したり建て増ししたりできるのも利点である。集合住宅と違って管理人がいないので防犯性は低い。そのため自衛をしたり、隣家と共同で防犯に務めたりする。尚、一戸建ては金持ちが多く、家族の人数もしばしば少ない。 ＜賃貸か購入か＞ 賃貸は殆どない。集合住宅もふつうは購入する。数少ない賃貸だが、そもそも賃貸は大家との間で行われることは少ない。むしろ購入した個人から借り受けることが多い。殆どの住居は購入される。払い捨ての賃貸は殆ど見向きもされない。というのもアルバザードは後述のように引越しが盛んでないからである。尚、住居は日本ほど高くない。 ＜引越し＞ 引越しはまず行われない。アルバザードは移住を嫌う。慣れ親しんだ土地に住むのが良いと考えている。まして仕事のために転勤することはまずない。異動を強要する企業自体がそもそも少ないし、仮に言われれば大抵は止めて仕事を変える。 ＜誰と住むか＞ 大抵は大家族で住むので、多ければ十人弱が一つの家に住むことになる。集合住宅も家族が何人いるかによって大きさが異なる。大家族ほど大きな家を買う。ただ、家族の増減に伴って部屋が余ったり足りなくなったりするのが不便である。だから家族がどう増減するかを考えてから家を買う。一緒に住む相手は親族である。稀に小さい部屋を友人同士や恋人同士で借りて住むこともあるが、そういうことができるのは大抵金持ちである。尚、住人が少ないと泥棒や放火の被害に会いやすいので防犯に金がかかる。 ＜修繕＞ 集合住宅の場合、修繕は管理人が業者に頼んで行う。修繕費用は維持費から出る。維持費は住民が支払う。購入した部屋の場合、管理人が行う以外に自分で勝手に修繕を行うこともできる。一方、一戸建ての場合、修繕は自分で頃合を計って業者に依頼する。服と違って流石に住居まで直せる人は少ない。雨樋が外れたりネジが緩くなった程度なら自分で直す人が多いが、それ以上になると業者に任せる。下手に手を出してしくじると住めなくなってしまうので業者に頼む人が多い。 【用例】 ɪʃɒ uɪcl̩ e ɥɪ ɒɪn lcʃe eɟ l̩ɪlɔ 家族が減ったので家（主に土地）を分譲する ɪn ɥɪɟ ɟeelɪɥnɪ. 私は中央アルナに住んでいる。

ɥɪʃ ［形容詞］良い、すばらしい、素晴らしい ［類義語］ɑccɣə ［反意語］ɣɪɒ ［レベル］1 ɑ:ɟɪɪl;e 赤 ɥɪʃ:ɥɪʃ:ɥɪʃ 【用例】 cl ɪʃ ɥɪʃ. すべてのことがうまくいった。 lcu ɥɪʃ いい声

ɥɪ ʃ'ɪɥle ［ランドマーク］アルシェの家 ［レベル］4 ɥɷ ɹɱ ［文化］ 部屋の

ドアが乳白色と『ミールの書』に書いてある。

ɥıſſɔ ［地球の国名］アメリカ合衆国 ［レベル］4 1L: 制 :ɥıſ（「家の支配者」: セレンの造語で、ピネナではない。古アルカでもない）

ɥıſſɔɥen ［言語］［ユマナ］英語、米語 ［レベル］4 ⅃⅃

ɥıſſɔeu ［経済］米ドル建て、ドル建て 1L

ɥıſʝ ［名詞］がたがた、ガタガタ ［形容詞］がたついた、ガタついた、がたがたした、ガタガタした ［レベル］3 1Ւ: 制 : 古 :φɥıſ

ɥıſʝɥıſʝ がたがた、ガタガタ→ ɥıſʝ ［レベル］3 ⅃⅃

ɥıſlccl ［生物］善玉菌 ［レベル］5 ⅃⅃:ɥcɑcı

ɥıſı ［名詞］長所、利点、メリット、良いところ ［類義語］hıleſ ［反意語］ɥıᴅı ［レベル］3 ɥɑ;ɥıſ 1ſ: 制 【用例】 ſc ſcl ɥıſı ɑc e. 君にはいいところがたくさんあるよ。

ɥıſıucn ［経済］好況、好景気 ［レベル］4 ⅃0

ɥıſıɑcl ［植物］［医療］良質艾、良質モグサ ɥɑ;/ ⅃⋒

ɥıſıll ［言語］聖数 ［反意語］ɥıᴅıll ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ ſᴅ で聖数が４に定まる。神、悪魔、死神、人すべてが共存した数を指すため。 同時期に忌数が７に定まる。指を使って数えられる１０までの間に７だけペアがなく､孤立している。ペアというのは倍数や約数のことで、１０までに素数は３, ５, ７だが、３は９、５は１０がある。７だけペアが存在しない（むろん約数１はカウントしない）。このように７は扱いづらく、扱いづらいという感情からからやがて忌数となった。
　ちなみにフィーリア語は５－１０－２０進数で、フィルヴェーユ語は５－１０と５－１２進数。どちらも１０進数を含むので、１０までの数で忌数を考えること自体は歴史的に見て妥当。ただし ſᴅ なので、もし１２進数で考えていたらというケースも考えうる。その場合は１１が忌数になっていた可能性がある。だがそれだと７が忌数でない理由が出てこないため、忌数をひとつに特定できなくなり、混乱が生じたと思われる。 ɥɑ で忌数に別解釈が生まれる。１４人の使徒が分裂すると７になるため、アルシェの分裂すなわち崩壊を指すとして嫌われた。

ɥıſılɔz ［名詞］［形容詞］ハイブリッド、いいとこ取り ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɥıſc ［形容詞］空いている､すいている､ガラガラ､閑古鳥が鳴く ［反意語］lcʅı ［レベル］3 @ 1L

ɥıſɔ ［植物］パセリ ［レベル］3 lıʅſı: 良い匂いの意（ɥıſlɔɔſɔ ?）【成句】 dcı ɥıſɔ ıl elɑe ſel ıluɔɥſ. アルヴォルトを用心してパセリを泉に持っていく：羹に懲りて膾を吹く、あつものに懲りてなますを吹く：一度アルヴォルトに襲われた旅人は用心して魔除けのパセリを携帯するが、アルヴォルトは水の綺麗な泉には現れないので、その行為は杞憂に過ぎず、おどおどしすぎといえる。

ɥıſɔuı ［名詞］好例 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɥıſɔᴅ ［名詞］良い方法、コツ、ミソ、カギ、上手、ツボ ［レベル］3 1L 【用例】 ʝeɥ ɥıſɔᴅ コツを知っている

ɥıſe ［名詞］カリスマ ［レベル］4 1⋒: 制 : 古 :ɥəʝcclıſeeze

ɥıʅ ［動詞］ɥəl を超える、超える、こえる、越える、超越する、過ぎる、経過する、通り過ぎる、追い越す、超過する、超える、卓越する、上回る、凌駕する、通過する ［副詞］～しすぎる、～すぎる ［格詞］～を越えて ［名詞］向こう側、対岸 ［反意語］lcſ ［レベル］2 ɥɑ;ɥəʅle,ɑ.ʅ（越える） 1ʔ: 制 : 古 :ɥəʅle（超える） ɥəʅle:ɥəʅle ［語法］ ・程度の ɥıʅ あるべき程度を１００％とすると、ɥıʅ はその程度を上回っていることを指す。 一方、uıɥſ 系列はあるべき程度との比較ではなく、中くらいの程度からどれだけ大きいかあるいは小さいかを指す語である。 ɥıʅ の中には「あるべき程度」という「べき感」が備わっており、そこが uıɥſ 系列との違いである。 ・ɥıʅ と uıɥ ɥıʅ ʅıl ſe, uıɥ ʅılſe の違い。uıɥ は場所を通ること。ɥıʅ は場所を通りこして別の場所に行くこと。uıɥ は通る経路に焦点が置かれる。ɥıʅ は経路に焦点を当てつつも､越えた向こうに意識が置かれる。 道路の場合、縦に通って別の道路へ行くか、横切って別の道へ行くかを意味する。 【用例】 ſə eſ ɥıʅ uıɥzɔn. ８時過ぎだ。 ſe ɥıʅ ſə ɥecn. その線を越えるな。 ɥıᴅ ɥıʅ 悪すぎる

ɥıʅſ ［形容詞］大げさな ［副詞］おおげさに､大げさに ［名詞］大袈裟､誇張､誇大 ［反意語］lcʅſ ［レベル］3 1ſ: 制 ［文化］ ʝeɥcſ 【用例】 ın nıſ eᴅſ ɥı ʅſel. 大げさに悲しんだ。

ɥıʅʅɔnl ［ポジティブ］［形容詞］常識破りな、型破りな ［レベル］3 ɥɑ;「常識を越えた」 ⅃ʔ

ɥıʅʅeᴅıʝl ［医療］胃酸過多症 ［レベル］4 1L

ɥıʅʅəc ［料理］飽食 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleſſ

ɥıʅleɥ ［美容］厚化粧 ［レベル］3 ⅃1

ɥıʅʝ ［動詞］ɥəl を刺し通す、刺し通す、突き通る、貫く、刺し通る、貫通する ［動詞］ɥəl（道や場所）を通り抜ける、通り抜ける、突っ切る、突き抜ける ［動詞］ɥəl（戦地や砦など）を突破する、突破する ［経済］抜く ［レベル］3 1Ւ: 制 :ɥıʅdcdc（過ぎて刺す）【用例】 ɥıʝʅ ɑıʝ ſə ɑɔnſ lını ʅe ıldʅı. 郵便局はこの道を突っ切ったところです。

ɥıʅʝın ［音楽］ダイアトニック ⅃1

ɥıʅʝıɥᴅ ［経済］債務超過 ［レベル］5 1L

ɥıʅ ʝɔen ［名詞］ソエンの谷越え。難しいこと ［レベル］3 1L

ɥıʅɑel ［普通動名詞］ノコ勉、のこ勉、居残り勉強 ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɥıʅᴅ ［動詞］ɥəl（時間）が過ぎる､ɥəl を過ごす､過ぎる､経つ､過ごす､時が経つ、経る、経過する ［レベル］3 1Ւ: 制 :ɥıʅ/ᴅel 【用例】 ᴅel ıɥ ɥıʅᴅ ʅɔnſ ın ʝɔ ɥəə. 何もせず時間が過ぎる。 ın ɥıʅᴅ ɑleı. 夏を過ごす。 ɥıʅᴅ bınel. 楽しんできてね。 ᴅel ɔɥ ɥıʅᴅ. 時間が過ぎていく。 ın ɥıʅᴅıſ ᴅel ɔʅ hıdn lc hıɥdncın ɑen. 短い昼休みの後、友達と時間を過ごした。 ın en lıʅlıſ nɔʝ ɥıʅᴅcʅ ɑcl ᴅın ſə eſ lɔl ſcn. とても面白かったので、時間が過ぎるのを忘れた。 ın ɥıʅᴅıſ ucɥɑ ʅɔnſ ᴅɔʅ ucl. 眠れぬ夜を過ごした。 ın ɥıʅᴅcʅ ucɥɑ ᴅeʝı neſ. 一晩中起きたまま夜を明かした。 ın ɥıʅᴅıſ bın ſcn. とても楽しい時間を過ごした。 ın ɥıʅᴅıſ ʝel uɔʅʅı. 忙しい日を過ごした。 ın ʅelıſeʝ ᴅel ɔɥ ɥıʅᴅ. 時間が過ぎるのも忘れていた。 ʝel cʅ ɥıʅᴅ ʅɔnſ ıɥ ue ɥʝen hɔſ. くだらないことばかりしているうちに一日が終わった。 ᴅel ıſ ɥıʅᴅ ʅɔnſ ʝɔ ɥəə ıılel. 特に何もしないまま時間が過ぎた。

ɥıʅᴅıuc ［医療］ビタミン過剰症 ［レベル］6 1L:ʝeɥen

ɥıʅᴅıd ［形容詞］時期尚早な、早すぎる ［レベル］3 ⅃ʔ

ɥıʅᴅɔʅ ［再帰動名詞］寝坊、寝過ごし、寝過ごす ［レベル］3 1L 【用例】 ın ʅeſ ɑeʅʅı uılel ᴅın ıɥıſ ɥıʅᴅɔʅ. 寝坊したので学校へ急いでいった。 ın ʅılᴅı ɥıʅᴅɔʅ. 寝坊ばかりする。 ın neſıſ lc ɥıʅᴅɔʅcʅ ɑə ⅃ ᴅcu ıʝ cᴅ ſə ɑııɥ. 今朝、２時間も寝坊して目が覚めた。 ın ɥıʅᴅɔʅıſ ɑə 1 ᴅcu cᴅ ɑcʝ. 今日１時間寝坊した。 ɑc neſ lıɑ ın ſıſ ɑııɥ ᴅın ın ıɥ ɥıʅᴅɔʅ. 私は寝坊ばかりするので、毎朝誰かが起こさなければならない。 ın uczıſ ɑeʅʅı ɑə 10 ɑec ᴅcl ɥıʅᴅɔʅ. 寝坊して学校に１０分遅刻した。

ɥıʅᴅɔᴅ ［名詞］過ごし方 ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɥıʅᴅeᴅ ［数学］外接円 ［レベル］4 1L

ɥıʅφeld ［経済］［政治］福祉病、過剰福祉 ［レベル］4 ıl;/ ⅃ʔ:ɥcɑcı: セレンが φeldleun としたが、アルカディアを聞いたリディアが ɥıʅφeld のほうがいいだろうとしたもの。 ［語法］ 福祉を篤くしすぎた結果、国家経済が破綻したり国家経済に不具合が生じてしまうことを指す。

ɥıʅdcl ［形容詞］過敏な ［レベル］3 ⅃1

ɥıʅɥɔ ［アイテム］飛び道具、ラクヨ。機械式 ［レベル］3 ɑu 赤 :ɥəʅle/lɔɥɔ

ɥıʅɥəəɑ ［名詞］路地裏 ［レベル］4 ɥɑ;/「路地を越えたところ」 ⅃⋒ ［語法］ 路地をはいり込んだ、表通りに面していない場所。路地を越えた先に広がっている、路地より広い空間のこと。

ɥıʅsıʝ ［数学］仮分数 ［レベル］3 1L: 分子が分母を超えた分数

ɥıʅl ［動詞］ɥəl に成功する､成功する ［文頭純詞］見事､みごと､うまく ［野球］セーフ。ボールが来るより先に塁を踏むことに成功したので ɥıʅl。 ［反意語］ɥeʅ ［レベル］2 1L: 古 :ɥıdʅe 【用例】 ın lıɥıſ lı ɥıʅl ſə ıləəſel. 彼なら絶対成功すると思った。 ın ɑcl ſə ınɔ eᴅ ɥıʅl. その計画がうまくいくとは思えない。 ☆ ın ʝɔ ʝen ɥəə ɥıʅlel. 何もかもうまくいかない。

ɥıʅllıɑı ［名詞］成功品 ［レベル］4 ⅃1

ɥıʅlıb ［普通動名詞］［再帰動名詞］残業、過労 ［動詞］ɥəl を ɔn の仕事で残業させる、残業する ［レベル］3 1L:clᴅəʝ:ɥcɑcı ［文化］ アルバザードでは労働時間が８時間と厳粛に決まっているため、残業イコール過労となる。

ɥıʅlıbuɔɥſ ［経済］過労死 ［レベル］4 1L ［文化］ アルバザードにはルージュの月とディアセル前後以外には起こらない。ルージュの月は毎年過労死が出る。

ɥıʅleıueſ ［言語］二重敬語、過剰敬語 ［レベル］5 ⅃1

ɥıʅı ［名詞］住所、番地、居住地 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleſſ ［語法］［文化］
　住所は名前と逆で ʅenɔ 語順。大きい枠から絞り込んでいったほうが効率的なため。 「美瑛町　上川郡……」では知らない人には分かりにくい。「日本　埼玉……」のように大きい順に並べていけば有名な順に並べるようなものなので分かりやすい。 まして地名は「林」のように全国どこにでもあるものが多いので、下からボトムアップしていくと候補でない場所を外すのに無駄に時間がかかる。 【用例】 ſeı ın ʝeɥ ɥıʅı lııſ, ʝɔn ın ılſ uın heʅ. 彼の住所を知っていたら、手紙を書くのに。

ɥıʅıſcı ［魔物］ラカティア（半身鬼）：第六十三天：光の氷天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/ʝeɥen/ᴅel:ɥıʅ/hıſcı（恋し過ぎて） ［文化］ 右半身が男で右半身が女な魔物。右手に剣を持って戦い、左手に杖を持って魔法を放つ。同時に２回攻撃してくるため、非常に厄介。その上剣とユノと魔法が非常に強力。

ɥıʅıſɔlıʝ ［娯楽］幻天超越 ⅃1 ［文化］『銀河英雄伝説』に相当するアニメ。

ɥıʅınɑı ［経済］上値 ⅃⅃

ɥıʅıɥ ［名詞］狂信者 ［レベル］3 1L:ɥıʅ/ıɥſe（神よと言い過ぎる）

ɥıʅɔ ［医療］アレルギー､アラジー ［レベル］3 1L: 制 :ɥıʅdıɑ（敏感すぎる） 【用例】 ſcl ɥıʅɔ ɔn bedʝ バナナのアレルギーがある

ɥıʅɔʝıdᴅɑıcz ［医療］過敏性肺炎 1L

ɥıʅɔn ［名詞］家具 ［レベル］3 ⅃ʔ

ɥıʅɔᴅın ［医療］アレルゲン ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleſſ

ɥıʅe ［化学］濾過、ろ過、ろか ［動詞］ɥəl を ı に濾過する、濾過する、ろかする、ろ過する ［レベル］4 1L:ɥıʅ/ʅe

ɥıʅen ［接続詞］ɥıʅ ［レベル］3 ⅃1 【用例】 lə scʅ ʅɔ lınʅɔ ɥıʅen φılſ ueɥ. リーザは黒い門の向こうに映った一人の少年を指さした。

ɥıʅel ［名詞］５０歳代の女性 ［反意語］ılɥıʅel ［レベル］2 ⅃0:ɥıʅ（超えた）/el（任意の人）

ɥıʅelɑlel ［医療］五十肩 ［レベル］4 ⅃0:ʝeɥen

ɥıʅelıl ［生物］５０代 ［レベル］2 ɥɑ;ɥıʅel/ıl ⅃ʔ

ɥıʅeıɥ ［化学］濾過器、ろ過器 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ɥıʅəcl ［名詞］家飯 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleſſ

ɥılcſe ［名詞］世帯 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleſſ ［語法］［文化］ 同じ家にいる家族のこと。単身赴任の場合、家族が東京で暮らし、夫が大阪で暮らしてるとすると、家族であっても世帯は別々になる。家にい

る家族ではなくなるので、ɥıɾlcʃe でなくなる。逆に他人でもいっしょに住めば ɥılcʃe である。集合住宅は同じマンションに複数の世帯がいるものの、部屋ごとに世帯が分かれているので、住人全体が多世帯住宅というわけではない。

ɥıleɑ ［名詞］別居人、別居相手 ［反意語］ɥıɔɿ ［レベル］4 ɥɑ;leɑɥı/leɑ. lcɿ ɺ∬

ɥıɟ ［名詞］回 ［格詞］～回。回数を表わす。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ 動詞の行われる回数を表わす。回数が数えられない動詞には付かない。意外と多くの動詞が数えられる。ɹccnı も数えられる。ɥıɟ を単位として名詞にすれば ɥıɟ でなく ɑə を使って回数を表わせる。【用例】 cɒ ʃə ɥıɟ, 今回は、 ɿɔn 1 ɥıɟ いちどに、一度に、一回で、一気に、まとめて ın ıɿʃ ɹccı lı ɥıɟ uc. 彼とは三回会ったことがある。 ʃə eʃ lınʃ ɔlʃı ın cn ʃə ɥıɟ ɑc. 何度見ても美しい。

ɥıɟʃ ［言語］名字、苗字、姓 ［レベル］2 1L:ɥı/eɟʃ ［文化］ eɟʃ

ɥıɟʃeɥ ［ランドマーク］［政治］ラステル、副王館、副王公邸 ［レベル］5 ul;ɥı ʃ'ıɟʃeɥ ɺ∬ ［文化］ 国会議事堂に隣接する副王の公邸。ミロク以降はユティア朝の一族が住んでいる。コノーテ＝リディア通りに所在。

ɥıɟɿ ［名詞］［副詞］［文頭純詞］（視点時間から見てそれより過去の事柄に対して）かつて、一度 ［名詞］［副詞］［文頭純詞］（視点時間から見てそれと同じ時間の事柄に対して）一度、一旦、いったん、ひとたび、ひとたび、ひとまず、いっぺん、一回、一遍 ［レベル］2 1∬: 制 :ɥıɟ ɿɔ 【用例】 ın ıɿʃ ɹccı lı ɥıɟɿel. 彼とはかつて会ったことがある。

ɥıɟɿı ［名詞］ゲストキャラクター ［音楽］サブドミナント ［レベル］3 1L:ɥıɟ ɿɔ（一回） ［語法］ 物語のある回で特別に出てくるキャラ。恒常的に出るわけではない。全体が長い場合、１区切りの期間出演する場合がある。

ɥıɟl ［普通動名詞］指揮、指揮者、先導、引率 ［動詞］ɥəl（部隊や作戦など）を指揮する、指揮する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɥɹcclı から 【用例】 ɥe ɥıɟl uıın. 軍を指揮せよ。

ɥıɟlzɔn ［音楽］指揮棒 ［レベル］4 ɺɺ

ɥıɟɔ ［名詞］無理、無茶、無茶苦茶、無理やり、無理矢理、むりやり、限界を超えたこと、がむしゃら、しゃにむに、遮二無二 ［動詞］ɥəl を無茶して行う、無茶する、無理する ［レベル］3 1ʕ: 制 : ɥıɿ/ɹɔ（しすぎる）【用例】 ɑen ɥıɟɔ. 無理すんな。

ɥıɟɔdɔnɹ ［普通動名詞］むちゃぶり、ムチャぶり、無茶ぶり、ムチャ振り、無茶振り→ dɔnɹ ［レベル］4 ɺ1

ɥıɟɔhɔɒ ［動詞］ɥəl をこじ開ける、こじ開ける ［レベル］3 ɥɑ;/「無理やり開ける」 ɺ∬

ɥıɟɔɥeʃ ［普通動名詞］無理難題 ［レベル］3 ɺɺ

ɥıɟen ［接続詞］ɥıɟ ［レベル］3 ɺ1

ɥın ［形容詞］きちんとした、真面目な、丁寧な、実直な、率直な、誠実な、正直な、内容が詳しい、詳細な、細かい、入念な、折り目正しい、眠りが深い、じっくり、しっかりした、ちゃんとした、まともな ［反意語］dəl ［レベル］2 1L:ɥıʃ 【用例】 ın eɒ lıɑ ɥın uecn. もっとちゃんとしなくちゃ。

ɥın(ɺ) ［名詞］住民、住人 ［レベル］3 ɺɺ

ɥınʃ ［動詞］ɥəl を注意深く聞く、聞く、聴く、耳を傾ける、耳を澄ます、耳をすます ［類義語］ʃeɥ ［レベル］3 1L:ɥın/ʃeɥ 【用例】 ɥınʃ ın いいかよく聴け

ɥınʃɔ ［形容詞］おいしそうないい匂い ［類義語］lccʃɔ ［レベル］2 ɺ1:ɒclɑ: 古 ɥıʃ/ʃɔ

ɥınʃɔn ［人名］ラントン ɺ0 ［文化］ cɒəl 1ɺ ユリア、メティオ高官の ɥınʃɔn と再婚

ɥınʃe ［名詞］わがや、わが家、我が家、マイホーム ［形容詞］我が家の、ウチの ɺɺ0:ɥcɑcı:ɥı/ınʃeɹ。会話で「ウチのネコ」というとき、ɿeʃ e ɥı lenın というのは面倒くさい。かといって ɿeʃ lenın では、我が家のという解釈のほかに、今会話をしている相手を含んだ「われわれ」の解釈も出てしまう。日本語でも家庭の場合は「ウチの○○」というように「ウチの」を使って言い分ける。これと同じように、簡略化と言い分けのために作られた。 【用例】 ɿeʃ ɥınʃe ウチのネコ

ɥınʃeuılɟ ［医療］町医者、街医者、ホームドクター ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ cuıl, ɥəlcınʃɟel

ɥınɿıɟ ［数学］正三角形 ［レベル］3 1L

ɥınɿcɟɑcnɿ ［数学］正六面体。サイコロの形 ［レベル］4 1L

ɥınɿɔuɔ ［数学］立方体 ［レベル］4 1L

ɥınl ［形容詞］非限定、全体的、汎用性のある ［反意語］lcɒɹ ［レベル］4 @ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɥınlɥɔl ［動詞］ɥəl を汎用する、汎用する ［言語］非限定用法 ［普通動名詞］汎用 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɥınlel ［文末純詞］［ɥəəl］ɿɔɿ ［レベル］2 ɺ1:ɥɥəə:ʃɥınɹel（約束するように）

ɥınɹ ［動詞］ɥəl を ı に説明する、説明する、解説する ［普通動名詞］説明、解説 ［類音］ɥcnɹ, lınɹ ［レベル］3 ɺ0:ɥın/ɥenɹ 参考 :ʃıdɿ:1ʔ: 制 : プロト制 ʃıdɿc（詳しく言う） ［文化］ 論理的かつ分かりやすい説明が重視され、教育の現場でもここに重点が置かれる。 アルバザードの表現科目の試験では、「冗長な文章が提示され、そこから要点をあげて要らない部分を切り落とし、文章を再構築する問題」、「論理的に誤った文章が提示され、それを修正しつつ端的に書き直す問題」など、説明に関する筆記問題が多い。 【成句】 oel eʃ ɥınɹ ʃıd, 何というか、何というべきか、どう形容すべきか、

ɥınɹlıl ［普通動名詞］講義 ［レベル］4 ɺ0 【用例】 ıd ın ɑıʃ ı ʃə ɥınɹlıl lılʃ ılɔn cɒ ɟııɟel ʃıʃ lcɹɔɔɒ. ın ɹccnı lılın ɔ ɥınɹlıl ləəʃ. なお、毎週日曜趣味でこの講義に出ている。先生と彼の講義が好きだ。

ɥınɹlɔʃ ［魔法］ランスロット ［レベル］4 ɺ0:ɥenɹ/ləɹcı/lɔ/ʃe（言葉と魔法の考えに関した） ［文化］ 「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方。ファンタジーにおける言語の地位を最大限高めることができる。 ＜ランスロット＞ 幻楽はアルカを作ることだけではない。 世界アトラスを作ることも含まれる。そしてそれを分担している。 通常、世界のほうが言語より大きいのだが、この世界においては世界は言語と等しい重要性を持つ。 というのも、このプロジェクト自体がセレンとリディアの遠距離恋愛を埋めるためのものだったからである。 両者は双璧を成しつつ作業をしているため、言語は必然的に世界の双璧となった。 では、ファンタジーの世界において言語を最も重要なものにするにはどうすればいいだろうか。 結論のひとつが呪文だった。魔法の世界なのだから、そこに言語を食い込ませるのがもっともであろう。 そこで「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方ができた。 この「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方のことをアルカで ɥınɹlɔʃ という。 ＜ドルミーユとエーステ＞ ・ドルミーユ この世界にはドルミーユという魔法理論がある。 ここにはヴィードという ∬ つのエネルギーがあり、それぞれのヴィードはさらに ∬ つのガレットという材料からできている。 → ɑɔlɒcɥə ・エーステ 個々の概念にはそれを指すべき音声が存在する。つまり概念は本質的な自己の名前を持っている。 その音性を最も近い音素に置き換えたものをエーステという。例えば、ɑclʃ という語はホウレンソウを表す言葉となっている。 つまり、ある概念が持っている本来的な名前のことをエーステというわけである。 神々は古来よりこのエーステを喋ることにより、概念に直接働きかけ、魔法を発動しやすくしていた。 なお、これはアトラスと地球の言語学を分断するものである。 ドルミーユがある分アトラスでは、恣意性が減少することがある。イヌはヌイと呼んでもよいわけではないということである。 とはいえ、様々な外国語がアトラスに存在するのを見れば、あくまでエーステは、魔法を発動しやすくするためのものに過ぎないという事がわかる。言語の恣意性は多少抑制されるも、絶対的な価値感ではないという点に注意。

ɥınɹeʃ ［被服］ダルマティカ、ダルマティック zφ; このころ民衆がよく仕立てた服を ɥınɹeʃ と言っており、それが法衣として献上されたことから。 ɺ∬ ［文化］ アルテ教の法衣。

ɥınuılɑcnɿ ［数学］正四面体 ［レベル］4 1L

ɥınɑeɥcı ［動詞］［料理］ɥəl を ı（鍋など）ɿɔn（お湯など）で煮込む、煮込む ［料理］煮込み ［レベル］3 1L

ɥınɑc ［動詞］ɥəl に恋する、恋する、愛しい、好きだ、一緒にいたい、想いを寄せる、愛おしい ［名詞］寄り添う愛、恋愛、恋、愛 ［レベル］3 古。lınɑc と紛らわしいため消えた語。当時の語義は「相互依存する」。 ［語法］ ʃccı hıʃcı によく似た語。hıʃcı は燃え上がるように相手を求める気持ちのことだが、ɥınɑc は相手の存在が自己にとって慰めや快楽になる場合に、一緒にいたいと思う互恵的な気持ち。多少 lııd の要素も入っている。 ɥınɑc には積極的な意味と消極的な意味がある。前者は「安らぐような恋の気持ち」で、後者は「傷を舐めあうような恋」である。これらは相反するものでなく、ときとして共存し、どちらも ɥınɑc の一面を築くため、単語が分かれない。 良い意味で使う場合、hıʃcı との違いは安らぎを感じる恋であることを強調している。hıʃcı の場合、燃え上がるようなしばしば肉欲的な恋のイメージに繋がる。若年層の場合、ɥınɑc のほうが清純なイメージがある。 ［文化］ 人間の恋愛のほとんどは hıʃcı でなく ɥınɑc であり、hıʃcı を経験する者は少ないとされる。 女にモテる男というのはたいていデキる男より欠点のある男で、女が持っている欠点と呼応する欠点を持ち、女のコンプレックスに対して優れた共感力を持った人物である。たいていこのタイプの恋愛は ɥınɑc 型である。

ɥınɑclız ［地学］［歴史］デボン紀 ul;/ ɺʔ ［文化］ φıııueɑeɒe

ɥınφ ［建築］ラング橋 ［経済］１ソルト玉 ［レベル］2 ɺ1:ɥcɑcı ［文化］ → ınɑın アゲイト島と本土（カテージュ）を結ぶ大橋。ul で建てられた。

ɥınzı ［地球の国名］ブラジル ［レベル］5 1ʔ: 制

ɥını ［形容詞］態度が真剣な、真面目、本気、シリアス、一途な、神妙な。セレンはこの意味でしか「神妙な」という言葉を使わないのでここに載せておく。 ［反意語］ılden ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcɟ:ɥın/nı 【成句】 ɑen eɒ ɥını 気にするな、気にしないで

ɥıncɿl ［普通動名詞］確立 ［動詞］ɥəl を確立する、確立する ［レベル］3 ɥɑ;/「きちんと建てる」 ɺʔ

ɥıncɿıl ［数学］正四角形、正方形 ［レベル］3 1L

ɥıu ［人名］ラヴァの略称 ［組み数字］１５/２８ ［レベル］1 制

ɥıul ［経済］家計 ［レベル］3 ɥʃ;ɥı/ıul「家の経済」 ɺʔ ［文化］ ʃıoı アルバザードでは主な稼ぎ手は男性で、女性は補佐的にパートなどをすることが多い。財布の紐を握るのは主な稼ぎ手の男性で、支払いも男性が行うことが多い。 【用例】 ıɿɿ{ × ɑılɒ} ɥıul 家計を支える

ɥıuı ［組み数字］１５/２８ ［交通］ラヴァ通り ［レベル］2 ɺɺ

ɥıuıɟl ［化学］パルミチン酸 1L

ɥıuı uıɥɹcclı ［人名］ラヴァ＝ヴァルシーラ ［組み数字］１５/２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。uıɥɹcclı はソーンで「準ルシーラ」の意味。 ［文化］ (ɺ→) 第４期４代ソーン第１使徒。男性。ɥəəl。１８２ｃｍ、６８ｋｇ。髪は銀髪に染めているが自毛は黒。肩より短く、直毛。漆黒の瞳。肌は白：黄＝９：１。 ・『ミールの書』より ラヴァの声は穏やかで丁寧でかつ繊細なものだが、感情があまり感じられなかった。だが、軟弱そうな感じは見うけられず、むしろ１音１音に重みを感じる。 ミールは頬を赤らめた。首を傾げながら無礼にならない程度にラヴァを見つめ、観察する。彼は夏だというのに黒いローブを着ていた。但し、暑苦しい感じはなく、むしろ涼し気に見える。

彼の髪は短く、薄く透通るような色をしていた。瞳は対照的に漆黒である。顔は繊細で、或いはピネナのように女性に見えなくもなかった。総じて彼は綺麗な顔立ちをしていた。肌はかなり白く、殆ど白人に近いが、やはりどこか混血のような風貌がある。年はクミールと同じくらいであろう。背丈は高く、1Δ0ɼ́ᴅ はあると思われる。

µıuıcๅ ［名詞］住宅区、東区と西区 ［レベル］5 1L:µcΩcı:ıµbıleıʃ ［文化］ ＜配置＞ アルナではカルテの東西が住宅区になっている。住宅区には集合住宅と一戸建てがある。一戸建てのほうが集合住宅より概して金持ちである。アルバザードの住所はカルテから近い順に一丁目なので、一等地はカルテの近くである。特にカルテに近く、車道に近くなく、警察署に近く、下に地下鉄が走っていないほど一等地である。一戸建ては大抵二階建てである。内装は家によってまちまちである。集合住宅の部屋は一階建てか二階建てのメゾネットである。メゾネットの場合、二階を騒がしい場所にすれば下に音が響いてもそこは自室なので更に下の住民に迷惑がかからないという利点がある。勿論、集合住宅は防音処理がしてあるが、それでも下への音はかき消すのが難しい。 ＜外見＞ ミロク革命でアルバザードの文化に基づいた家作りは壊されてしまった。アルバザードはフランスのような気候なのでおよそフランスやその周辺の家に類似していた。だが、ミロクによって壊された後は別の建築様式になった。集合住宅など日本と同じ様式で、かなり世界共通である。一戸建てはかろうじてアルバザードの様式を残しているので、比較的フランスなどの建築様式に似ている。

µıue ［副詞］もう一度、（否定文で）もう～ない、もう、二度とない、もうしない ［形容詞］再びの ［名詞］もう一度、もういちど ［音楽］アンコール ［感動詞］もう一度、もう一回、アンコール ［類義語］ᴅe ［レベル］2 J0:µıȷ/uecn。µıuen だと ıuen と誤解するため。副詞形を µıuel にするため J1 夏に µıuel → µıue に。 ［語法］ → ᴅe 形容詞用法もあるので副詞のときは µıuel になる。 肯定文では ᴅe と大差ない。ᴅe のほうが口調が軽く、µıuel のほうが ᴅe よりは持って回った印象がある。しかし比較を外すと µıuel そのものは格式ばっていない。µıuel は µıȷ uecn からなので、回数を数えられる動作に使うことが多い。 否定文だと両者の意味が異なるようになる。en ᴅe は「また～しない」であり、en µıuel は「もう～しない」の意味になる。 【用例】 lı lənıๅ µıuel. 彼はまた来た。 ʃə eȷn eᴅ elɑ ๅeı µıuel. この傘はもう直らない。

µıuen ［魔法］契約 ［動詞］ɥəl（内容）を ı（相手）と契約する、契約する ［類義語］dcnı ［レベル］3 ȷzu;「鎖で繋がった関係」 J1 ［語法］ 召喚における契約のこと。転じて一般的な契約の意味も。 【用例】 ın ʃcl µıuen ı ᴅcµɔๅ ı. 神と契約しているんだ。 µıuen ı lɔๅ 契約を交わす µıuen lɔๅ{ınʃeȷ} 交わした契約

µıueφı ［名詞］内弁慶 ［レベル］3 µΩ;/ J? ［語法］ ueφı

µıueluɔµʃ ［名詞］ラヴェルヴォルト、再柩 ［レベル］3 J1:µıuel（µıue の副詞形）/ınuɔµʃ ［文化］ ınuɔµʃ

µıɑl ［軍事］ダイナマイト ［レベル］3 古 :µcΩcı:µıɑl ← ɼ́ı ɑıc ๅeµ ȷeΩı ləı e ɥənı「少女の足を吹き飛ばす炎」。報道された惨状をみてリディアが言った言葉。これが元になって短くなったもの。

µıɑı ［文頭純詞］更によいことに ［反意語］ʃıcๅ ［レベル］2 1L:ᴅelcΩcı ılcȷ: µıʃɑıๅ（よい＋さらに）【用例】 ın uıȷʃıʃ ᴅınıๅı. µıɑı lcᴅıʃ ʃcın. 大学に合格した。さらに彼女までできた。 "µıɑı lı ʃcl ȷel Ωeɥə cn. lı ȷcl Ωı nʃıuɔᴅ hıȷın ๅılʃ lı cๅ ᴅıu ɔl nɔn eucๅ µıๅlel lını ʃeə "ın eʃ lın ııs l' ɔๅl neๅʃ lɔʃ ๅɔlı hɔʃ Ωı"「それに口も堅そう。『自分は選ばれた人間で、仲間とだけ秘密を共有するんだ』って思わせたら、少なくとも大人になるまでは従順な私兵になってくれるわね」

µıɑc ［植物］ニンジン、人参 ［レベル］2 lıๅʃı:「赤い槍」 ［文化］ アレイユでは体を温め頑丈にするとして、常食される。µΩ では臭みがあって嫌われたが、ヴェレイで臭くないものが作られた。従ってアレイユで常食されるのは臭みのない赤くて大きく長いもの。生でマヨネーズなどをつけて食べることもあり、おやつ代わりにもなる。

µıɑcȷ ［動詞］ɥəl を考える、考える、考察する ［名詞］思考、考察 ［類義語］lɔ ［反意語］ɑlɔµı ［レベル］2 ɑu;<> µıd J1:µcΩcı ［語法］ lɔ 【用例】 ȷıı, ɑcn ın µıɑcȷ lıl ʃə ɥeʃ, ın ıµ ɑıl µıɑel ı.... えー、この問題について考察したいのだが、宿題をしなくちゃだ。

µıɑcl ［建築］橋、大橋、石橋、ラフィル ［類義語］dıɑc ［レベル］2 ʃᴅ;µ əๅๅe/dıɑc/ıl「向こうに届く橋のようなもの」 J1

µıɑeᴅ ［名詞］砂時計の形やそのような形のもの ［レベル］3 J1<µıɑᴅ:1Ω: 制 : 古 :「あそこ」を意味する語 µıɑ の幻字が砂時計の形と同じことから。

µıɑeᴅๅıΩ ［地球の国名］サモア J1<1L: 国の島の形が µıɑᴅ

µıɑel ［名詞］宿題、ホームワーク ［レベル］2 1?: 制 : 家の勉強 ［文化］ 宿題とは予習と復習のことであるが、予習より復習の方が大事とされる。一足先に学習することよりも、確実に今日やったことを習得する方が大事とされるので、事実上宿題といえば復習を指す。アルバザードは勉強に対する意識が高いため、宿題をわざわざ点検することはない。次回の授業についてこれなかったらそれが宿題を怠った証であると解釈される。点検しないことは教師の負担を減らすことにもなる。その分教師は授業計画のための時間が増え、質の良い授業を提供できる。教師は必ず授業ごとに宿題を出す。その内容は主に復習であり、今日やった授業に出てきた中で最も重要な部分の確認である。教師はここが一番大切だから復習して覚えておくようにと指示する。宿題に関して特にプリントを刷ったりといったことは資源の無駄なのでしない。むしろ電子データを配信するかダウンロードさせることの方が多い。 【用例】 ın ʃcl µıɑel l'ın ʃɔɔๅ ɑıl. 終わらせなきゃいけない宿題がある。 ın ıµ uın µıɑel ʃ'ılɑ. 数学の宿題をやろう。 ın µəlıȷcๅ µıɑel Ωıb uecn. 面倒くさい方の宿題は終わらせた。

µıᴅ ［名詞］紅、口紅、頬紅 ［レベル］3 1?: 制 : 古 :µıncᴅ（赤い色） 【用例】 eu µıᴅ ı ȷel 紅を注す nɔn hıʃcı ʃɥə enʃɔ eᴅ lın µıᴅ ʃəın. 好きだよあなたのルージュになりたい（梶谷美由紀『ルージュになりたい』）: 歌詞はキスがしたいという意味の極めて雅な表現。

µıᴅᴅı ［代詞］[dcๅb] ʃcȷee ［レベル］1 J1:eๅeʃɔne:µen ᴅıl「覚えてね」 ［語法］ ınɥəəlcı はないが、ınµıᴅᴅı はある。µıᴅᴅı はピッコとしてのもの。ınµıᴅᴅı は敬語としてのもの。 ɥəəlcı はそれ自体が敬語なので ın がない。

µıᴅıȷ ［政治］住民票 µΩ;µın/ᴅıȷ「住民の紙」 JΩ ［文化］ ・起源 住民票は ȷᴅ で徴税を合理化するために作られた。戸籍だけでは把握しきれない世帯の実質的な構成を調べ、どのような世帯構成でどのような人がどこに住んでいるのかを把握し、国税と地方税を効率よく徴収できるために作られた。 ・革命におけるセレンの創案 ls の革命では戸籍と住民票の役割が変えられ、戸籍は自分が選んだ行政区を登録することになり、住民票は実際に住んでいる実住所を示すようになった。 革命ではミール・レスティミールにより、地方自治体ごとの特色が強まり、地方自治体ごとに特色ある政策を行うようになった。例えば凪人はアルバザードではマイノリティだが、カレン半島ではマジョリティである。そしてアルバザード全体ではトール人が多い。国策としてどの県でも同じ政策を取ると、マジョリティであるトール人の意見ばかりが通る。凪人の一票はトール人の一票より弱い。ここに一票の不平等が生まれる。 この一票の不平等を防ぐために、世代・性別・人種・宗教・収入・社会的地位などに応じて地方自治体ごとに一人の票数を小数点単位で定めた。例えばトール人ばかりの地域ではマイノリティの凪人が１．２票になるなどといった風にである。 これにより階層間格差は縮まったが、住んでいる階層は地方自治体ごとに異なるため、地方自治体ごとに異なった政策が採決されるようになっていった。アルナはトール人に有利な政策をし、カレン半島は凪人に有利な政策をするというように、である。 すると当然、アルナの凪人は不遇を託つし、カレン半島のトール人は不遇を託つようになる。たまたまアルナに住んでいる凪人は不利な政策を被らねばならないのか。 もちろんアルナの政策が嫌ならカレン半島に引っ越せばいい。その自由は認められている。しかし持ち家があったり子供が学校に通っていたりアルナに会社があったりしたら、引っ越しは現実的でない。 そこでセレンは戸籍と住民票を分けて考えることにした。例えば上のような人には住民票上はアルナにいてもらい、戸籍はカレン半島に置いてもらう。アルナの土地に持ち家を持っているので、アルナの地方自治体には固定資産税を払い、公共サービスもアルナのものを利用しているのでその分の税などを払う。その一方で、残る地方税に関してはカレン半島の地方自治体に支払い、カレン半島の住民とみなしてもらい、カレン半島の政策を受けることができる。 分かりにくいので日本に例えよう。例えば消費税を上げるべきだという意見と所得税を上げるべきだという意見があった場合、ミールの集計により直接民主制に基いて埼玉は消費税が上がり、神奈川は所得税が上がったとする。ここで埼玉在住のセレンが消費税より所得税を上げてほしいと思ったら、戸籍を神奈川に置いて住民票を埼玉に置く。そうすることでセレンは埼玉県内でも神奈川県の所得税率で買い物ができる。アンセのＩＤで会計をするため、そのようなシステムが可能になる。 消費税の低い地方自治体に戸籍を移したら安く買い物ができるとおもいきや、神奈川では所得税が高いわけだから、結局所得税の部分で多くを払う羽目になる。なのでよく消費をする人は神奈川に戸籍を置けばよく、収入が低い人は埼玉に戸籍を置けばよい。地方自治体ごとの政策をよく勉強することが節税に繋がるわけである。 なお、戸籍の二重取りはできない。つまり埼玉と神奈川の両方に籍を置くことはできない。 革命により、アルバザードの地方自治体はそれぞれの特色を増すようになった。また、都市部の地方自治体ばかり羽振りがいいという「都市部と農村部の格差」も少し縮んだ。というのも、会社がアルナにあるので田舎には住めないが戸籍だけなら移してもいいと考える者が出てきたため、農村部の地方自治体は戸籍を誘致（つまり地方税収入の見込みがある）するために、地方の特色を活かしたユニークな政策を取ったためである。革命前までは日本の夕張市のように破綻していたような農村部の地方自治体に戸籍が移ることで地方税収入が見込めるようになり、都市部に集中していた地方税の格差が緩和された。とはいえ都市部に戸籍を置く人間は革命後も圧倒的にマジョリティであるため、都市部が財政難で機能維持できなくなるほどではないし、戸籍を移しても結局固定資産税などは実際の住民票上の居住地の自治体に払うため、都市部の地方税を地方が根こそぎ奪うわけではない。 結局これもセレンの求めた格差の少ない世界、マイノリティを泣き寝入りさせない世界の実現に向けた政策と言えよう。 ・革命におけるメルの案 上記のように戸籍と住民票を別に分け、ある場所に住みながら違う場所の条例で生きられるようにしようとセレンは考えた。ところがこれにメルが現実的でないと反対した。 同じ地域に違うルールを持った人間が住んでいると混乱が生じるとのことだ。例えば自転車が歩道を走って良い県があったとする。その県は歩道が広く整備されており自転車が歩道を走っても安全なように設計されているからそうなっているわけで、そこに戸籍を置いて他県の歩道を自転車で走り回ったら危険だ。その県の歩道が自転車向きでなければ事故になる。警察もいちいち歩道を走っている自転車をすべて止めて相手の戸籍がどこか調べてＯＫかどうか判断しなければならず、不便である。何よりその自治体にはその自治体ごとの風土があり、それに適した条例ができているわけだから、むやみやたらと混ぜこぜにすべきでないとした。これにセレンは賛同し、結局戸籍を別のところに置いてその自治体の条例に従うという措置は実施されず、創案だけで終わった。

µıᴅc ［普通動名詞］留守 ［レベル］3 µΩ;/ J?

µıΩl ［名詞］宝、トレジャー、お宝、財宝、宝物 ［電算］値。変数、配列、ハッシュなどの値。変数が小箱なので、その中のお宝という意味。 ［類義語］Ωɥəµın ［レベル］2 1?: 制 :µıΩ :::hıๅə,ılʃ ［語法］ ๅɔɑel 【成句】 µıΩl ı beeᴅı 豚に真珠

µıΩcı ［名詞］良い夢、夢、ラディア ［レベル］2 古 :µıΩcı（良い夢）

← μιααcι ← μιʃαcι ← μιʃ（良い）/αcι（夢）【用例】 ın lıb ȷen uɔȷlel cᴅ hiμd ɔl ın ʃcl ȷen μιαcι le nɔȷ ᴅcll cᴅ ucμα––yəl ȷɔı, ın nıʃ. 好きな夢が夜に見られるなら、そのためだけに昼頑張って働こうと思ったものです (ȷeμen ıμbızıμα) nɔn ʅɔμ ȷen μιαcι cᴅ αcȷ cn. 今日は良い夢が見れそうだ。 ın eᴅıʃ μcȷ neʃ ᴅın lı μιαcι. 良い夢だったので、目が覚めてほしくなかった。

μιφnı ［名詞］機械、仕組み、からくり、カラクリ、マシーン、マシン ［名詞］家電、電化製品 ［魔法］魔法機械 ［レベル］2 ᴅelʃcı ꟽꟽꟽ:beμʃ;e。もとは ellelʃ を示し、魔法機械全般を指した。 赤 μιφnı:μιφnı:lə μιφnı:φc,ılʃ ınʅμ,hy

μιφnıȷel ［歳時記］工学の日 ［レベル］3 ꓘ1:μιφnılen/ȷel ［文化］ φcl dcn の休日。ラグナロク工科大学ができた日で、魔動アーマーなどが一般公開される。機械工学系の大学や企業が新製品の展示を行い、事実上のシンポジウムや万博になる。魔法工学の日なのに実際は新技術の展示会として機能する。会場はランスケルンなどを借りて行う。 未来技術が好きなアルバザード人はこぞって見に行き、非常に盛況となる。外食や交通業界に対する経済効果も大きい。

μιφnın ［娯楽］ラグナン ꓘ1 ［文化］『ロックマン』に相当するゲーム。

μιφnınʃ ［ランドマーク］ラグナント工科大学 ［レベル］5 ꓘ0:μιφnı/lınʃcȷ（機械の人）［文化］ メル ʔL 年にリュウがアルナに経てた工科大学。全寮制ではなく、大学部のみ存在した。 メル ꜛꓘ 年には高等部ができた。 ミロク革命後も北アルナ市にそのまま残っている。 科学に特化した大学で、アルナ大を蹴ってでもこちらに進むという人がいる。

μιφnıαel ［工学］機械、機械学。理科の一分野。科目名。 ［レベル］4 μα ꓘꓘ ［文化］ αeldınʃ

μιφnıαcι ［企業］ラグナディア ꓘ1 ［文化］ ファナックに相当する企業。

μιφnılɔʅ ［ランドマーク］ラグナロク工科大学 ［レベル］5 ꓘ0:μιφnı/lɔʅc（機械を理解するところ）［文化］ → μιφnıȷel セルメル後期、イムル 11ΔL 年にアルバ５世が急逝したことで、国民の間に王族の力が弱まったという不安感が巻き起こり、アルバザード全土で混乱が起こった。 ヴェレスはこの状況に乗じてもうアルバザードは終わりだという末法思想めいた主張を始め、国民を煽動していった。 実際、アルバ５世の急逝で求心力を失ったところを隣国ケートイアやアルシェリアが虎視眈々と狙っていたため、国民の不安は非常に現実的なものであった。 この状況を悪しと見たアルバザード政府は国家の威信を取り戻し、周辺国家を制するために対策を講じた。 王族を始め、高官たちの魔力も弱くなっていることは事実であったため、失った魔力に代わる技術が求められた。アルシアがかつて作った魔法学だけではとても軍事力を維持できず、新たなメソッドが必要となった。 そこで研究されたのが道具に魔力を込める方法で、魔法工学と呼ばれる新たな学問であった。 当時既に水晶に魔力を込めると魔力が入ったまま逃げないという現象は知られていた。魔法学をはじめ、アトラスの学問は常にアテンとヴィードの関係について論じたものであった。しかしこのようにアテン以外の物質とヴィードの関係について考えたのが魔法工学である。特に注目されたのは常に一定の結果が得られやすい無機物とヴィードの関係である。ただし、無機物とヴィードの細かい関係はまだ４００年近く未来の錬金術を待たねばならない。 魔法工学の行ったことは、むしろエタンを用いて魔法の威力を増幅させるというものである。 最初に実験として開発されたものはイムル 1ꓘ0ꓘ 年で、ルシフェル魔法学校の ɔȷʃcı scleel が国家の混乱の最中に作った魔動銃である。 これは魔力伝導率のよい銀の筒から予め魔法を閉じ込めておいた銀水晶弾を出すという仕組みのものであった。引き金を引くとげきてつが発魔材を叩き、その刺激で筒の中で局所的な突風が起こる。するとシリンダーの中に充填されていた銀水晶がものすごい勢いで射出され、魔法が発動する。この勢いをつけられた魔法は通常の魔法よりも強力で、力を失ったセルメルの魔導師たちでもカコ並みの威力の魔法を使うことができた。 イムル 1ꓘ0ꟽ 年に現ドフレットに侵入してきたケートイア軍に対し、アルバ五世は魔動銃でこれを撃退。一気に魔動銃の知名度が上がることとなった。オスティアは王から高い評価を受け、1ꓘ0ꜛ 年にルシフェル校から独立して、同じアルシア領内に魔法工学の専門学校を建てた。これがラグナロク工科大学である。 工科大学と訳しているのは、大学部しかなかったためである。予算の都合と、そもそも子供が簡単に研究できるものではないということから、ルシフェル校の高等部から受験生を募ったためである。魔法工学には魔法の専門知識が必要だったため、ルシフェル校からのみ生徒を選出した。 1ʔ9Δ 年には高等部ができた。 μα ではリュウが少年期にラグナロクに通った。しかし魔法の衰退を予想したリュウは、魔法工学を応用した科学や工学を研究した。メル ʔL 年にはアルナにラグナント工科大学を設立した。 ナディアになるとラグナロクは役目を終え、ラグナントの姉妹校として工学の学校になった。現在でもラグナロクは科学に強い学校として残っている。

μιφnıleȷ ［名詞］万国博覧会、国際博覧会、万博、ラグナレス ［レベル］3 ꓘ1:μcαcı:μιφnılɔʅ ［文化］ μα でラグナロク工科大学が開催したのが最初なので地球より歴史が長い。現在では４年に一度行われ（地球では５年)、開催場所は毎回オリンピックのように変わる。

μιφnılen ［魔法］魔法工学、ラグナレン ［レベル］5 ꓘ1:μιφnılɔʅ.ʅ ［文化］ μιφnılɔʅ 1ꓘ00cᴅ ごろから起こり、μα で大成。

μιφnıιʃe ［名詞］電気屋、電器屋、電機屋、家電量販店 ［レベル］3 ꓘꓘ【用例】 leαıʃ ı μιφnıιʃe ıȷlel. すぐに彼女のいる電気屋へ走った。

μιφeʃ ［建築］イグルー ［レベル］6 α:elʃ;e ꓘʔ ［文化］ elα

μιφen ［工学］機関 ［レベル］3 ꓘ1:μιφnı/en

μid ［名詞］組、組み合わせ ［魔法］(アミュレットを）組み合わせる、調合する ［動詞］yəl を ı に組み合わせる、組み合わせる ［数学］組み合わせ ［レベル］2 赤 ［語法］ 錬金術の場合は αcleʃ。調合魔法学では μid。

μidueʃ ［言語］n 対語、n 対語、エヌ対語 ［レベル］5 ꓘ0 ［文化］ 制アルカにあった単語の形態。lıȷ が手なら lcȷ が足といった具合に、アプラウトで対語等を作る語彙圧縮法の一つ。似た文脈で出る単語なのに聞き分けがしづらいため、新生でメルテーブルに置き換わった。

μidıll ［言語］組み数字 ［レベル］2 1ꜛ: 制 : 組数字 ［語法］ → ıll ある数の成員からなる集合において、その成員の番号を示したもの。たとえば ıʃe なら４つあるうちの１番目という意味になる。本辞典では［組み数字］タグで検索できる。１/８と書いてあれば、８組数字中の１番目という意味。 ２～７、１２、２８は頻度が高い。２は日常的にもよく使う。３～６は学年に使う。７は曜日に使う。１２は時間に使う。２８は日付に使う。８、９、１１、１３～１６はあまり使わない。 序列と非序列についての概要は ıll 参照。 序列と非序列では同じ数でも頻度が異なる。序列では２,３,４,５まではよく使われる。６～９はあまり使われず、アルバザード人でも無教養層は覚えていないこともある。１０はベストテンやトップテンで使うのでよく使う。１１はほとんど使わない。１２は昔１２進数があったこともあり１１よりは使う。１３～は頻度が低すぎて組み数字そのものが成立しない。しかしベスト２０の需要があるので２０は復活する。その次は５０か１００だが、ここまで行くともはや組み数字を使わない。ゆえに最大は２０。 組み数字の覚えやすさは量でなく頻度による。lınʃcȷ は２８もあるのに皆覚えている。毎日使うからである。逆に１５あたりは頻度が少ないので無教養層では覚えていないものもいる。 ＜組み数字のリスト＞ ・非序列系 固有名詞が多い。成員同士に上下関係がない。 グループ全体を指すときは ᴅeᴅ を付ける。ıμlcelᴅeᴅ で「アルシエルサークル」というような訳。成員間に上下関係がないので ᴅeᴅ になっている。 1: 組が成立しないので無し ꓘ:ȷelʃᴅeᴅ:elʃ, ȷııl ʔ:ıμʅınȷᴅeᴅ:ȷleı, bɾleı, ʃμeı ꟽ:ıμlcelᴅeᴅ:ıʃe, αleı, ılcȷ, lceμ ꜛ:lccαıᴅeᴅ:ᴅcμφc, hıneȷ, ʅıȷın, ııle, ılȷɔn ʕ:uınɔnᴅeᴅ:ʃoıμ, ıμhın, nıμʃe, lıμʃ, ləȷɔn, ᴅcμl 9:ȷɔɔᴅᴅeᴅ:uelᴅ, eμuı, ȷıʃcc, ʃeeue, beezel, cluı, dıμʃ Δ:lelʃᴅeᴅ:ᴅyəlı, ıls, αəəμφı, ʃəuın, lınʃe, leeue, uccne, cnse L:cαınᴅeᴅ:αıcαı, dıμnı, ıʃɔlıȷ, ȷıuel, ʅıcn, ᴅelᴅɔ, αence, ʃcnʃe, eμcnʃ 10:αelcȷᴅeᴅ:ᴅcȷʃ, leın, lell, αızeʃʃ, oıȷeʃ, lıμl, ʅılɔı, ucᴅın, hcnı, φınʃȷ 11:ılȷcıᴅeᴅ:uelʃcȷ, eμcn, ʃeezen, ʃəənıȷ, αıclı, ccμeȷ, dılʃcȷ, lıᴅcα, lınueᴅ, dμɔʃcȷ, leucn 1ꓘ:ıμᴅcuıᴅeᴅ:ȷecnelȷ, ʃccʃel, dɔen, neμᴅeȷ, ʅleeuel, ʅılzıȷ, uıμαınʃ, uıμzɔn, ʃcʅnɔ, αenzel, nebμı, ʅɔnɔɔʃe 1ʔ:ınɔᴅeᴅ:ınɔ, ɔᴅʃɔ, cφμe, μıcen, səleʃ, lelcc, ueʅʃɔn, αelnɔı, ȷııl, neɔ, eldcnı, ᴅəʃɔn, ʅının 1ꟽ:lcczıᴅeᴅ:yəəı, nılᴅ, eleuc, φeeocl, nılꟽıyı, ȷılȷı, eᴅcȷ, ccαel, ınʃe, ıᴅl, ᴅıꟽı, ꟽle, ıluınɔ, lcczı 1ꜛ:ᴅeʃeᴅeᴅ:μəαcı, uccαı, lccz, αılαı, cneı, hyəəoe, cᴅəl, μılαəμı(μılα), φenɔlde, ccləə, elα, oılᴅı, ɔʅcncȷ, ᴅeʃe, ıμle 1ʕ:eȷʃıᴅeᴅ:eμeȷ, ʅıμαın, ʃμɔᴅeʅcı, dıμʃe, lcnʅe, αıɾleʃ, ʅyəʅ, αecʃ, ȷeueμ, ʅıd, scᴅn, ȷəbeʅ, ʅɔɔlel, αcȷʃel, yeeuel, ʃoıμzel ꓘꟽ:ınlcınᴅeᴅ:ınlınʃ, αcnφen, ᴅeʃcın, αcıleʃ, lcαcın, ıʅlcᴅ, lıʅeᴅcʃ, ıμαcınəȷ, αelceμ, ȷeᴅcın, ʅᴅcclcı, ᴅcıneʃ, φıμαcın, αılcın, αcnɔȷ, ılhıcα, αcıhıαcμ, αcφyəμeμ, sınαcɔμ, oecuıμ, ȷıμbelcı, ueαlcμ, elczcın, lccʃen ꓘΔ:lınʃcȷᴅeᴅ:μcαcı, ɔuc, ʅlccz, φcl, αəlᴅccı, μyəə, ᴅel, μılαəμı, zını, dıılʃ, ᴅclα, αıluı, μəəs, ȷeμen, μıuı, əᴅʃɔnı, lccne, μelezɔnı, sccl, lcnı, eʅeʃɔne, ennı, ıll, neene, dcnenı, ᴅıʃ, ʅənɔn, ʅᴅccμ ・序列系 一般名詞から成る。登場が若いほうがより上位にある。 非序列と違って上下関係があるため、行のネーミングが最上位を代表させたものになっている。例えば uınφıμ の序列なら uınφıμμecn のように、μecn を付けて示す。優劣の違いが理解しやすいよう、訳語を適宜括弧内に入れておく。 ２だけは序列というより勝ち負けと捉えたほうが分かりやすい。２人で競わせて１位２位とするのは日本語でも違和感がある。勝敗と言ったほうが自然だ。それはアルカでも同じで、優劣というよりは勝敗のつもりで使われることが多い。ゆえに訳語は〇〇賞ではなく白星としている。しかし厳密には１位と２位の差があるわけだから組み数字には違いないということでここに含めている。 序列は主に優劣を競うときに用いる。成績評価や順位などを決めるときに用いる。 従ってそれ自体が価値のある単語群でなければならない。さらに１位に来る語はその中でもさらに価値を一般的に認められるものでなければならない。 例えば αınʃ（金賞）や eμαc（銀賞）のように、直感的に栄誉が分かりやすい単語が選ばれる。同じ元素でも直感的に栄誉の分からないものは使わない。「おめでとうございます、カリウム賞です！」と言われてもピンと来ないだろう。「金賞です！」と言われれば「おぉ！」と感じる。 ということはここにアルバザード人やアトラス人の物の見方や価値観が現れるわけで、地球人にはピンと来ないものもある。例えば組み数字５は百獣賞だが、１位の「獅子賞」は日本人でもなるほどと思う。しかし２位の「狼賞」は「ん？」と思うのではないか。これはアルバザードで狼が統率のとれた勇猛果敢な戦士というイメージを持たれているためである。逆に山猫といったら日本人は何とも思わないが、アルバザードでは童話で悪役として登場するのでまったく栄誉にならない。こういうものは自然と選ばれない。もし組み数字５に山猫が入っていたら、恐らく組み数字に選ばれなかったろう。 1: 組が成立しないので無し ꓘ:αcnμecn（白星）:αcn, uen ʔ:uınφıμμecn（大将賞）:uınφıμ, lınȷeμ, blcz ꟽ:αınʃμecn（金賞）:αınʃ, eμαc, leʃʃc, αμeı ꜛ:uceʃμecn（獅子賞）:uceʃ, ıuɔᴅ, ʅınɔ, ȷɔnʅ, αelʃ : → uceʃμecn ʕ:nılncıȷμecn（希望賞）:nılncıȷ, ʃccı, lını, zınıl, αılcȷ, leuın : → nılncıȷμecn 9:αıllcɔnμecn（指揮官賞）:αıllcɔn, hyəlı, benɔᴅ, φılʃe, nɔce, ᴅɔɔl, oılʃ Δ:blenzelμecn(天狼賞）:blenzel, lelʃcȷ, leʃɔȷ, αcμcı, eμαın, ıılıl, αınʃı, ᴅcuıȷ : → blenzelμecn L:ʅıμαcnılμecn(秋桜賞）:ʅıμαcnıl, ıʅəı, αenlcl, lıuınα, ᴅcleeyə, ʅlıcn, nılncı, ılblınʃ, ɔlcucı : → ʅıμαcnılμecn 10:ıμʃıμenμecn（神石賞）:ıμʃıμen, ʅlınαcı, lcuıμen, uecμen, αıμμen, enıμen, ıμlıneʃ, zeeμen, αeᴅcl, ʃeȷμen : → ıμʃıμenμecn 11:ɾlıcαıμecn（輝隕賞）ɾlıcαı, αeȷdı, ɾləəʅccʃe, αɔμʃ, əlɔ, clcμcəȷ, αcılccuı, lıμʃ, ccαı, əlınȷe, ıᴅcʃıl : → ɾlıcαıμecn 1ꓘ:αcnınle μecn（霊薬賞）αcnınle, ʅıμᴅıᴅcleel, αccneᴅıαeʃ, lcȷʃcαμenȷ, leμcı, ɾləəʃ, lelʃcəȷ, hıdȷʅleı, nıφcȷı, αcμʃeμ, lcləe, yəəlcɔn : → αcnınleμecn ꓘ0:ıμʅılʃμecn（大元帥賞）:ıμʅılʃ, ʅılʃcȷ, hıμαcın, hcμuel, heȷʃcı, bılʃcμ, bcıleʃ, bɔμʃ, φcluın, φəcyə, φeel, nılᴅc, nelʃe, nccs, ᴅıʃcȷ, ᴅclen, ᴅenʃ, oeʃʃı, occz, oɔɔl ・変遷 制アルカ～ ꓘ1 までは序列と非序列の違いがなかった。メルが 10:ȷcαıll に言及したことで序列と

非序列の違いが生まれた。当時はほとんど非序列しかなかった。また、この期間では以下が使われた。　10:ɟcɷɪll:ɑəə, ɥɔə, ucc, uɔn, ʃlɔn, ɪn, zɪn, hen, lɔn, ʃɔɔ　古アルカの数は序列なので非序列から排除。かといって数字は１０で終わりではないため、有界に感じられない。そのため序列組み数字にもなれず、科学のみに使われることとなった。　ᐃの月も一度非序列から消えそうになった。月相が互いに等価でないためである。しかし月相という数値で月を捉える必然性がないため、元に戻った。例えば月相の大きい２８のcnseが満月の１４のlɪnʃeより小さいとは思えない。逆に序列で月を使うかという考えもあるが、lɪnʃeがcnseより優れているとかɪlsが優れているとかいったことはない。アルバザード人はそれぞれの月を愛でるため、優劣の差はない。むろん満月が好まれるなどはあるものの。そういうわけで月の組み数字はママとなった。　非序列系はセレンらが制アルカの時代にまとめた。序列系はɺ1に同人がまとめた。　彼らが新規に作った組みもあれば、既存の組みを用いたものもある。　ɥʃでuɪnɔnが生まれ、ɪlごろにlccɑɪが生まれるが、組み数字に採用されたのは革命後。それまでは下記を使用。レインの時代でも老人は古いものを使うことがある。　ᛏ:hɪncuɪlɒeɒ:ɥenɑc, ɟɪɥɪ, φɪɥɑc, dlɪnʃ, leφɔlcɟ: → hɪncuɪl　ʕ:ʃɪlɪɒeɒ:ɪlɪʃ, ɟɪucɪ, ɑibeɥ, ɭeueɪ, ɪɑenʃɔ, lecuɪ: 人類が到達した順に並んでいる。大きさが明らかに異なるのでɪlɪʃがɪɑenʃɔと同列には見えないなどの理由から非序列性を疑われ、uɪnɔnに取って代わられた。

ɥɪdcɟ　［サール］ラピス　［普通動名詞］乱交　［動詞］ɥəlと乱交する、乱交する　［レベル］４　ɒel: 古　［文化］　乱交パーティを開いて人間を堕落させるサール。１９歳くらいの見た目をした可愛い顔の女で、明るく優しく、一見処女っぽく見える。

ɥɪdcn　［植物］カーネーション　［レベル］４　lɪlʃɪ: 赤い薔薇

ɥɪdɔl　［名詞］住宅地　［レベル］４　ɥɑ;/「住宅の地帯」　ɺʔ

ɥɪhɔc　［普通動名詞］留守番　［動詞］ɥəl（場所）を留守番する、留守番する　［レベル］３　ɥɑ;/　ɺʔ

ɥɪɥeʃ　［経済］住宅問題　［レベル］６　1L

ɥɪz　［形容詞］［ポジティブ］成熟した、成長した、大人な、一人前の　［形容詞］［ポジティブ］熟した。食べごろという意味。　［類義語］benʃ　［反意語］lcs　［レベル］３　@ 1L

ɥɪzɔɥɑcn　［交通］ラゾーディン駅　［ランドマーク］ラゾーディン教会　ɺɺ:ɥɪe ɟɔɥɑcɪn「守護神の家」［文化］　ファイマン線：東カリーズ→ラゾーディン→幻京橋

ɥɪs　［普通動名詞］痴漢、いたずら、悪戯、イタズラ、痴漢行為。痴漢はɥɪsでもɥɪsɪnでも。　［動詞］ɥəlに痴漢する、痴漢する、いたずらする、悪戯する　［レベル］３　古 :ɥɪs,lɥɪsc,ɥɥɪsc（触る）から　［語法］　始めから挿入目的でなく、性的に身体に触れようとすること。従って、挿入したらuɪleɟ。lcleɟとも比較。　［文化］　都市部では電車などが時間帯によっては混雑するので痴漢が出る。女性専用車両はこれといって存在しない。女性は泣き寝入りせず、周りの男性に助けを求めることが多い。　アルバザード人よりアルティア人女性のほうが痴漢に嫌悪感を示す。男性にその気がないのに痴漢されたと勘違いしやすい。アルバザード人はその点についてはわりと鈍く、少し触れたくらいではいちいち気にしない。　【用例】　"hɪc eʃʃɔ ɟccnɪ ɪl ɪleɪlɔ8" "ɥəə ɪɪlel. ʃɪl ɪcl nɪ ɪnl ɪ ɑelɟ dɔʃen lɔd, ɑcn hɪɔ ɥɪs elɑ ləəɟ" "ʃeɪ ɟɔ ɟcl, ɥenɪ ɔlʃ ɑɪn ɪ lcɪ ɥəl "dɪdɪ ɒɔen ʃeə ʃlclɪnlɪ ʃɔɔɒɪɟ lɪ ɥəlɪ--ʃee, lɔdɥɪ" e(ɪ"　"belɒeɾ(ɪ"「で、お兄ちゃんはどんなコスプレが好きなの？」「いや別に。電車内でたまに可愛いなって制服があるくらいで。もちろん触ったりはしないけど」「てか触ったら紫亞に『パパは痴漢車トーマスになっちゃってね、今は留置一一もとい操車場にいるのよ』って伝えといてあげるよｗ」「てめぇｗ」

ɥɪseucʃɑcz　［法律］痴漢冤罪　［レベル］４　ul;/　ɺʔ　［文化］　痴漢冤罪やＤＶ冤罪はul後期からɪlの行き過ぎたフェミニズムの結果起こった。証拠が必要なく、女の証言やでっち上げた偽の証拠が裁判で採用された。あまりに酷い男性差別だったため、男性側からはもちろん善意の女性側からも糾弾を受け、現代版魔女狩りとして両者ともに撤廃するよう働きかけられた。結果、確固たる証拠がなければこれらの罪は確定しないこととなった。

ɥɪl　［人名］ラルドゥラの略称　［組み数字］８/２８　［レベル］１　古

ɥɪlɪ　［名詞］家庭教師、カテキョ　［類義語］leznɪnʃ　［レベル］４　ɺ0:ɥɪ/ɑelɪc（家庭の塾）［語法］　家庭教師という概念をɥɪlɪといい、実際の教師をɥɪlɪɪnという。日本語だとどちらも家庭教師というので、訳し分けに注意。　［文化］　アルバザードでは学校→塾→家庭教師の順にできた。このうち塾は革命後に廃止され、かわって家庭教師が一般化した。しかし家庭教師の派遣業者というものは存在しない。知らない人に教えてもらうより、友達の兄や姉に教わったほうがやりやすいとアルバザード人は考えるため。この結果、家庭教師は学生のアルバイトとしてかなりメジャーとなっている。また、子供が小さいうちはベビーシッターを兼ねることもあり、むしろベビーシッターとしての役割が大きい。　ただし、アメリカなどのベビーシッターとは意味が異なる。たいていアルバザード人は大家族で過ごすため、家に誰もいないということはない。従ってアルバザードのベビーシッターは子供の遊び相手や話し相手になる程度であり、二人っきりになってあれこれ世話をするということは通常ない。　なお、賃金は各家庭で決められ、たいてい高くない。喫茶店のウェイトレスより少し安い程度。

ɥɪlɪɪn　［名詞］家庭教師　［レベル］４　ɺ0　［語法］［文化］　ɥɪlɪ

ɥɪlɟɔɔl　［名詞］不言実行　［レベル］３　ɺɺ:ɥɪlɑəɥɪ/ɟɔɔl

ɥɪlnɪ　［名詞］明鏡止水　［レベル］４　ɺɺ:ɥɪlɑəɥɪ/nɪ

ɥɪlueɥɪnʃ　［医療］統合失調質パーソナリティ、統合失調質人格障害、スキゾイドパーソナリティ障害、スキゾイド人格障害　［類義語］ɒelueɥɪnʃ　［レベル］５　ul;ɥɪlɑəɥɪ/ueɥɪnʃ　ɺʔ:ɒel　［語法］［文化］　ɒelueɥɪnʃ

ɥɪlɑ　［人名］ラルド、ラルドゥラ　［組み数字］８/１５　［レベル］４　ɭɪlɔ　［文化］　メテの第８使徒。

ɥɪlɑ(ɺ)　［組み数字］８/１５　［レベル］４　1L？

ɥɪlɑlcl　［化学］キュリウム　1ᐃ: 制

ɥɪlɑəɥɪ　［組み数字］８/２８　［交通］ラルドゥラ通り　［名詞］ラルドゥラ組。アルナ大のクラス。　［レベル］２　ɺɺ

ɥɪlɑəɥɪ lɔlɔɟ　［人名］ラルドゥラ＝ロロス　［組み数字］８/２８　［レベル］２　古：『カコ』に実在したɥɪlɑəɥɪという人物名から。　［文化］　→ ɥɪlu eɥɪnʃ　(ʃcɑ ᐃ lcɟ ɒcl →) 第４期４代アルシェ第８使徒。マージ名「エメラルド」。男性。ɟeeʃ。１７２ｃｍ、５６ｋｇ。髪は黒で背中まであり、直毛。前髪が長く、右目を隠している。黒の瞳。肌は白：黄＝３:７。　現実にはセレンとリディアが創り上げた架空の人物で、元はアルデスなどと同じくキャラの扱い。聞いた使徒が新しい使徒が入ると勝手に誤解し、否定するタイミングを逸しているうちに本当にそういうことになってしまった。話が大きくなってしまったため、当時画質の悪かったアンシャンテを利用してアノ氏に髪の長いカツラをかぶってもらい、息子役を演じてもらっていた。　いい加減突き通せないと思って２０何歳だかになってリディアと相談してバラした。メルは比較的会話を通じて好意を寄せていたのでショックだったようだ。　現実にはアンテの子供はルビィしかいない。従って本当は使徒の数は２７人。　２００６・７・１６の日記より下記転載　後もうひとつがラルドゥラのこと。リディアとリュウと俺、後は先代たちしか知らない秘密。古参は何人か感づいてる。ソーンは絶対知らない。今思えば懐かしいな。不思議だ。嘘に懐かしいなんて感情を抱くなんてな。元々中１だったか、アルテの延長だったな、ラルドゥラというキャラを俺とリディアで作り上げた。アルテのキャラの一人のつもりだった。だけどクリスがある日ラルドゥラの話しをしていた俺たちに「だれそれ？」と聞いてきた。いや、架空のキャラだよといえばいいものを、なぜだろうな、ガキだったからかな、何となくノリで俺とリディアは「今度使徒になる人だよ」と答えた。メルが仲間になった後だから中１の秋ごろだろう。
その後、嘘が膨らみ、キャラ設定が細かくなっていき、収集が付かなくなった。ディアセルに現れないし、俺やリディアしか見たことないというので不信がられたが、まぁそこはアンシャンテ社会、そういうやつもいるか的な判断だった。俺らが人嫌いと散々詠ったからな。　中２か３年になってザナの仕事にミスがあって、指摘して罰まで与えたのに、実はその指摘が間違いだったというあの件があって、それを俺が咄嗟にラルドゥラのせいにした。それが発端だったかな、ラルドゥラを痛烈にザナが批判して、顔を出せ抗議になってしまい、周りの使徒まで便乗。始めから事情を知ってた先生に相談したら、アンテの息子ということにしようと言われた。これが中３の夏以降かそのくらいだ。　で、アンシャンテを使ってアンテさんに変装させ、髪を長く前髪で顔を隠し、片目だけだし、季節に関わらずローブを着せた。異様な形相にぎょっとしてた。誰とも話さないのに、小さかったメルには比較的話したのでメルは好かれていると思ってラルドゥラを気に入った。でも、その後あいつが聡くなるにつれて話さないようになった。　アンテさんにしたのは、先代で俺たちとかかわりがあって、しかも子供が使徒になってない唯一の人だったからだ。オヴィもリディアもダメ。兄弟になっちゃうからね、すぐバレル。そこでアンテさん。ルビィちゃんはアンシャンテに乗れないしそんなに才能なかったからね。そもそも名前がルビィというので俺がルビーに見立てて兄貴をエメラルドにしてオヤジをサファイアにしたんだが、そもそもエメラルドに会うのがルビィに会うより前だったんだから、その矛盾でふつうはバレルと思うんだが……。それにしてもルビィちゃんも居もしない兄を作られて大変だったな。俺とそんな話しばかりしてて接近してたから未だに俺のことが好きだそうだが。そうそう、ミリアちゃんもそうらしい。　ラルドゥラはアルシェの問題だったが、ソーンと対立すると厄介に。だって実は一人架空で１３：１４体制なんてばれるとまずい。そこで余計ひた隠しに。その上メル暦で日付になってるんだから、今更欠番の分を繰り下げると日付がずれるし、暦が壊れる。　でも、今回ばらす。俺はアシェット解体して、リディアを暫定ルシーラにして、ポスト・アシェットにする。そうなるとリストラの問題が出てくるので席を決めないといけないが、ラルドゥラは最優秀なことになっているので誰もが席を得ると思うはず。だけど実際欠員の分に席を空けられない。なので存在しないことをばらさないと確実に混乱を招く。

ɥɪlɥenɟ　［名詞］(ʃcl) 無口な　［反意語］ɑcɪɥenɟ　［レベル］３　ɺ0:ɒelcɑcɪ lceɥ: ラルドゥラの口

ɥɪlɪb　［名詞］家事　［レベル］３　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe　［文化］　主に妻や娘がするが、男性陣も手伝う。

ɥɪlɪbeɟ　［名詞］家事手伝い　［レベル］４　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɥɪlcuɪ　［娯楽］コンシューマーゲーム、コンシューマー　［レベル］５　ɺɺ

ɥɪləəd　［普通動名詞］家庭内暴力、ＤＶ、ドメスティックバイオレンス　［レベル］４　1L　［文化］　・誰がやるか　この単語でアルバザード人が最も連想するのは夫→妻ではなく、母→子供。アルバザード人の母親は躾が厳しく、頻繁に子供を殴る。そのため、行き過ぎが往々にしてあり、ＤＶとなる。　アルバザード人の女は夫にはしとやかで表立って反抗をしないため、夫→妻のＤＶは少ない。妻が不貞だったり従順でないなど、妻として品格に欠ける場合、夫は妻を殴っても社会的に白い目で見られない。逆に、そのような妻をのさばらせておくと白い目で見られる。それ以外の理由で妻を殴った場合は夫の過失となる。　・ＤＶについて思うこと　『カバチタレ』という深津絵里の出ているドラマでＤＶ離婚の話があった。女にばかり都合のいいシナリオで、案の定脚本が女で、見ていて不快になったので所感を書きたくなった。　好きで付き合った男に守ってもらうどころか殴られた女の気持ちを考えると、さぞ絶望だろうなと思う。好きな相手に拒絶され殴られたらさぞつらいだろう。そういう意味で夫から妻のＤＶはすべきでないと思う。　ただそういう当たり前

のことを言って加害者を特別な欠陥品呼ばわりするだけでは、物事の本質が見えなくなってしまう。その男が今まで付き合ってきた女にすべてＤＶを働いてきたならその男の欠陥だと思うが、特定の女にだけ暴力を振るうのであれば、その女に暴力を振るわせる原因があるわけで、女側は「やられたアタシ可哀想」とか「こんな男を選んだ自分は愚か」といった言葉で片付けるべきではない。「自分の何が好きな男を暴力に駆り立てたのか」を考え、自分も反省しなければ根本的な解決にならない。殴らせる原因を解決しなければいつまでも殴られるだろうし、仮に離婚して再婚しても同じことの繰り返しかもしれない。男を悪者にするのは簡単である。しかし自分が被害者ヅラするだけでは根本的な解決にはならない。現在の男のこともそうだし、今後の男選びに関しても支障をきたしうる。　正直、ＤＶがある夫婦は別れたほうが良いと思う。妻だけでなく夫にとっても。殴られる側はもちろん、殴る側もストレスを感じているから殴るわけで、どちらにとってもその生活にメリットがない。殴る時点で夫は妻を愛してもいないし、人として尊敬もしていない。愛してもいないし尊敬もしていないのに男が女をキープするのは、ただ道具として便利だからである。その時点で所有物扱いされているので、女にとってその恋愛はメリットがない。男からしてみれば道具として使える人間がいる代わりにイライラさせられるのでプラマイゼロである。　往々にして女にとってＤＶ生活はマイナスで男にとってはプラマイゼロなので、いざ離婚となると夫が渋る。それはそうだ。離婚によって女はメリットがあるが男にはないからだ。　しかも女というのは一度愛想を尽かすと男に一切の情を抱かない冷たい生き物である。男はどんなに見下げ果てても過去の女には情をかける。基本的に女のほうが冷たい。離婚は夫にとって妻の反乱で、自分にメリットがなく、かつてあんなに好いてきた妻が自分を障害としてしか見ていないことに苛立たされる。しかし女はその苛立ちが理解できない。離婚を決めたらただひたすら夫から逃げようと必死になる。その態度が余計に夫を苛立たせるが、女は自分が相手の神経を逆撫でていることが分からない。なのでこのとき別の男が客観視していると、「この奥さん、殴られるべくして殴られてるなぁ」と心の奥でこっそり思ったりする。　恐らくＤＶ離婚で夫が妻に復讐する場合、離婚を切り出してからの妻の悪態にプライドが痛く傷つけられ、それで怒っているのだろう。妻自身に対する未練はなく、プライドが傷つけられたことに対する怒りと、親権などを奪われた怒りと、便利な道具を失った未練があるだけだと思う。

ɥılǝǝdeucʃɑcz ［法律］ＤＶ冤罪 ［レベル］４ ul;/ Ɉʔ ［文化］ ɥıseucʃɑ cz

ɥıılɔ ［娯楽］おままごと ［レベル］２ 1ɱ: 制 : 家（家事や家族関係）の遊び。

ɥııu ［名詞］碇、錨、いかり ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ɥııbɥǝ（碇） ɥııbɥǝ: ɥııbɥǝ

ɥııuɥǝ,lʝl ııu ɥııbɥǝ,ɑu.l

ɥııuı,ɑu ɑɥecn

ɥııɑ ［普通動名詞］徹夜 ［動詞］ɥǝl を徹夜させる、徹夜する ［レベル］３ 1ɱ: 制 : 夜を越える 【用例】 lı ʅılɒı ıɥ ɥııɑ. 彼はよく徹夜をする。 el ıɥ lcn ɥııɑ ʝı ʃıʝ. 試験前は徹夜を控えること。 ın en ʅılɒı ıɥ ɥııɑ. 私はほとんど徹夜をしない。

ɥııbɥǝ,ɑu ııu、ɥııu <> bɥǝ

ɥıc ［植物］つぼみ、蕾、芽、木の芽 ［レベル］３ 古？: 家に関係 【用例】 ın nı ılʃe lǝnıʝ cɒ cn ɥıc e ɒccnı. 花のつぼみを見ると春だなと思う。

ɥıc,lc ʅlcʅ

ɥıcl ［化学］原子 ［レベル］４ @ 1L lccl:lccl, ɥıcl:lı lccl

ɥıclʃeʝl ［環境］原子力発電 ［レベル］４ ul;/ 1L ［文化］ アルバザードは原子力発電が最も多い。

ɥıclʃeʝɱı ［環境］原子力発電所、原発 ［レベル］４ ul;/ 1L 【用例】 lıɒcʃc e ɥıclʃeʝɱı 原発の危険性

ɥıclɑılı ［化学］原子番号 ［レベル］４ 1L

ɥıclɑıcʅ ［軍事］原子爆弾、原爆 ［レベル］４ 1L

ɥıclbɥǝ ［化学］原子量 ［レベル］５ 1L

ɥıclıɑɔ ［経済］元素鉱物 1L

ɥıclıɥʅ ［化学］原子間結合 ［レベル］５ Ɉ1

ɥıcn ［普通動名詞］繰延、延期、繰り下げ、繰下、繰り延べ ［経済］［動詞］ɥǝl を繰り延べる、繰り延べる、延期する、繰り下げる、繰り越す ［反意語］lcıɒ ［レベル］４ 1L:ɥıʅ ［語法］ 繰延と繰越の区別はない。

ɥıcnɑɔıl ［経済］繰延資産 1L

ɥıcen ［人名］ライエン ［組み数字］４／１３ ［天文］ライエン座 ［レベル］３ 先 :ınɔ:ɥeleʝ ［文化］ 第４期３代ソーン第４使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɥıcen uılzı ［人名］ライエン＝ヴァルザ ［レベル］５ 1L:clɒǝʝ:ɥcɑcı ［文化］ アルティル期の政治家。警察庁長官。ミナレットの幹部として働くも、ミナリスと利害関係で対立。２４５年のアルミナの樹立を契機とし、２４６年に独立。アミナルを樹立した。

ɥıɔ ［動物］カニ、蟹 ［レベル］３ lıʅʃı: 挟む / 赤い

ɥıɔʅ ［名詞］同居人 ［反意語］ɥıleɑ ［レベル］４ ɥɑ;ɔʅɥı/ɔʅ.lcʅ Ɉɱ

ɥıɔʅl ［普通動名詞］ルームシェア ［動詞］ɥǝl（住居）を ıɑ{ɔʅ} とルームシェアする、ルームシェアする ［レベル］４ ɥɑ;/ Ɉɱ

ɥıɔʅlıl ［名詞］ルームメイト ［レベル］４ ɥɑ;/ Ɉɱ

ɥıɔlccɒ ［化学］リボース 1L:ʝeɥen: 構造が蟹に見える

ɥıɔʝ ［名詞］ほろ、幌、フード ［レベル］４ 1ʕ: 制 :ɥıeʝ

ɥıɔdınɑ ［生物］ＲＮＡ、リボ核酸 ［レベル］５ 1L

ɥıɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］かに座 Ɉɱ ［文化］ cɑı

ɥıe ［植物］トマト ［レベル］２ lıʅʃı:ɥıe「赤くて水を含んだもの」［文化］ 特にカテージュにトマト料理が多い。

ɥıeʝ ［建築］屋根、ボールト ［レベル］２ ʝeɥʃ;ɥı/eʝn「家の傘」 1ʕ: 制 :ɥı eʝn から lclɔl:lclcl ［文化］ 一戸建てにしかない。日本と違って瓦ではない。

ɥıeʝleʃʝ ［音楽］グランドピアノ ［レベル］４ Ɉ1

ɥıǝ ［形容詞］～氏、～さん。名字に使う。名前には使わない。 ［レベル］２ 1ʔ: 制 :ɥı ［語法］ → ıdʃ, eʝʃ ×名 ○姓 ○前置 ×後置 ○男女

ɥcʃ ［名詞］アルコール、（事実上）エタノール ［化学］アルコール。脂肪族炭化水素基にヒドロキシ基が結合したもの。接尾辞は cʃ。 ʃɒ; ɥc/ʃɔ「魅惑的な匂い」［レベル］３ 古 : 魅惑的な匂いの意 ［語法］ 化学的には総称としてのアルコールだが、日常的には酒類のことを指すので、エタノールを指す。 【用例】 ɥcʃ ucen 高い度数のアルコール

ɥcʃʝ ［形容詞］カリカリ、パリパリ、バリバリ、クリスピー ［レベル］３ 古 :ʅɥcʃ

ɥcʃʝdellǝzıʝl ［化学］サリチル酸 ［レベル］５ 1L

ɥcʃɑıın ［化学］メタノール（置換）。基官能ではメチルアルコール。どちらも同じ物質。 ［レベル］５ 1L

ɥcʃɥıɒdcʃɒ ［医療］アルコール性肝障害 ［レベル］６ 1L:ʝeɥen

ɥcʃɥǝlʝ ［化学］ナフトール ［レベル］６ 1L:ʝeɥen

ɥcʃı ［化学］ヒドロキシル基 1L

ɥcʅ ［動詞］ɥǝl を c から ı に出す、出す、出る ［名詞］出口 ［名詞］結 ［普通動名詞］出力 ［反意語］lıʃ ［レベル］２ @ 1L lǝʃı:lǝʃı 【用例】 ın ɥcʅıʃ c ɒɔʅʃ uıɑel ɥǝn leɑʃ. 急いでベッドから飛び出した。

ɥcʅl ［論理］導出 ［反意語］lıʃʝ ［レベル］５ @ 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɥcʅuccɑı ［生物］［医療］井穴 ɥɑ;/「経脈の出る穴」 Ɉɱ

ɥclc ［動物］カナリア、カナリヤ、カナリー、金糸雀 ［レベル］５ lıʅʃı: 綺麗な声 ［文化］ ペットとして飼われるが、メジャーではない。

ɥcʝ ［動詞］ɥǝl を厭う、厭う、いとう、嫌がる、望まない ［法副詞］～したくない ［反意語］lıl ［レベル］１ @ 1L 【用例】 ın ɥcʝ ɒccʅ ʃcʝ. りんごなんて嫌だ。 ın uɔɥʃ ɥcʝ. 死にたくない。

ɥcʝʃ ［動詞］ɥǝl を抑える、抑える、おさえる、制御する、抑制する、抑圧する、自制する、コントロールする、押さえる、押える、自重する ［類義語］nɔʝɥcʝʃ ［反意語］leʃl ［レベル］４ 1L:ɥʝcclı 【用例】 el ʝeɥ lcɥ ɥcʝʃɔɒ ʃʻıleɒ. 感情をコントロールする方法を知る必要がある。 ın ɥcʝʃıʃ ucl nɔʝ eɒ ɥǝǝɑ. 興奮を抑えることができなかった。

ɥcn ［法副詞］［ɥenʃe］ɥcʝ ［レベル］１ 1L: リディアの書

ɥcnʝ ［動詞］ɥǝl を ı に排出する、排出する、ドレイン、排泄する ［普通動名詞］排出、排泄 ［反意語］ʅɔcʃ ［類音］ɥınʝ、lcnʝ ［レベル］３ Ɉ0:ɥcʅ/ucnʝ

ɥcnʝnı ［医療］排泄欲 ［レベル］４ ɥɑ;/ Ɉʔ

ɥcɒǝlǝlǝ,ɑ hcɒ、hcdʃ、eʝʝe lǝlǝ の部分は「物物」。ɥc は「魅惑」。ɒǝ は恐らくここでは「苦痛」。原義は「物と物による魅惑で苦痛を伴う行為」。

ɥcɑcı ［組み数字］１／２８ ［交通］リディア通り ［名詞］リディア組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２ Ɉʝ

ɥcɑcı(Ɉ) ［天文］アルタイル、牽牛、彦星、ひこぼし ［類義語］ɑcılcʝ ［レベル］４ 1L:ʝeɥen:ɥcɑcı。中学のときに新星の発見者は名前を自由に付けられると聞き、見つけてリディアと名付けたいと考えた。その道には進まなかったが、こうして機会が得られたので星にこの名を付けて夢を叶えた。

ɥcɑcı(ʔ) ［地名］リディア Ɉ0:ɥcɑcı:Tc（美しい）/ɑcı（土地）。この時代この土地のマレット語で lcɒc（美しい）が Tcɒc と発音されたため。 ［文化］ 古代国家のひとつ。シージアの南。

ɥcɑcı(ɱ) ［人名］ɥcɑcı lǝʃcı → ɥcɑcı ʝıdlc ɥʝcclı ʃeɔ lǝʃcı ［レベル］１ Ɉʝ

ɥcɑcı(Ɏ) ［人名］少女リディア ［レベル］４ 古 : 語源不詳。『カコ』からだが、『カコ』では ɥccɑɥı という音で表わされている。 ［文化］ (ɥǝǝɒı Δ090:Δ0Δʔ) cɒǝl ɱ リディアが寝室でソーンを果物ナイフで刺し殺す。ソーンはリディアを愛しており、何かあれば彼女に起こすように頼んであり、この日は ɒesʃel をつけていなかった。リディアは逃走するも捕縛され、拷問死する。メティオは王を失い、混乱。適切な後継者がおらず、混乱は激化 ɥǝǝɒı Δ0Δ0 アルシェがイムル暦を採択する。アルシェのミスにより、ɥǝǝɒı Δ0Δ0 が cɒǝl 1 に等しい。アルシェ、みなしごリディアと出会い、10 歳の少女を自分の恋人として密かに育てだす

ɥcɑcı ʝıdlc ɥʝcclı ʃeɔ lǝʃcı ［人名］リディア＝サプリ＝ルシーラ＝テオ＝ルティア ［ユマナ］［人名］リディア＝サプリ＝ルシーラ＝テオ＝ルティア ［組み数字］１／２８ ［レベル］１ –Ɏ:lcczı;ɥcɑcı le ɒesıʃ ʝɔɥn 古 : lcczı: リディアは『カコ』からリーザが名付けたが、正しくは ɥccɑɥı。ただしその ɥccɑɥı もアルシェにおける名でしかなく、実際役所に登録してある名前をもじったもの。なお、その ɥccɑɥı が ɥcɑcı になったのは、ゥリーデャという名前が当時のセレンに発音しづらく、その頃やっていたＦＦ４というゲームに出てくるリディアというキャラクターの名前の発音が比較的ゥリーデャに似ていて、かつこちらのほうが圧倒的に発音しやすかったため。また、サプリは ʕ 年にリーザがセレンと協議してつけた非アルカ名に嫌悪を示したリディアが 1ʔ ɥǝs に変えたもの。ルシーラは同時にユーアが付けたアルカ名。テオはリーザが先代ルシーラとして贈ったアルカ名。ルティアはリーザが ʃcɑ L zın zın に２代目から贈られた姓で、語源は『カコ』。古アルカでの意味は「美しい夢」。また、リディアの使徒記号

は幻字の ɑcı の終わりの部分に尻尾を付けて長くしたもの。 ［文化］ → eȷʃ、ɑcıueμınʃ (–ꜛ zın μıl_ꭍᴍ) 神話 μɑ の主人公の一人。女性。ᴅclcı。１５５ｃｍ、４２ｋｇ。髪は亜麻色で肩より少し長く、少しくせっ毛。緑の瞳。肌は白：黄＝７：３。 アシェットの第１使徒で、史上最強の魔法使い。アルバザード人で、サプリの出身。 1ᑫ 年、セレンとの間にユルトとルシアを設ける。 ꭍꭍ 年、セレンとともにユマナへ去る。 ・声 もともと甲高く、『ＮＨＫにようこそ』の牧野由依がやっていたみさきの声に素で酷似している。セレンは花澤香菜が好きなので「花澤香菜の声になってよ」と言ったら「バカじゃないの」と言われた。 ・握力 11ʕΔ: 握力１４ｋｇと判明。 ●現実 (ʃcɑ ꜛ zın μıl_ꭍᴍ) 第４期４代アルシェ第１使徒（Ｔｈｅ Ｆｉｒｓｔ Ｍｏｏｎ）。カルディアの作者。女性。ＡＢ型。白人と黄色人種の混血児。複雑に血が混じっている。サーシュ座。 ・来歴 メル２年、リーザによって就任。アンティスおよびアトラスの作者。兄弟は妹が１人。１歳のときにナルム夫妻に託され、フィンランドへ渡る。６歳で養父母が亡くなり、第４期４代アルシェ第１使徒となる。６歳の末に、セレンに出会う。1ᑫ zın zın にセレンがルシーラを辞任し、新ルシーラとなる。1Δ φcl ȷeμ にセレンとの子を出産。子供は双子の男女ユルトとルシア。１５５ｃｍ、４２ｋｇ。 ᴅelꭍᴍ 没。 ・呼称 リディアには異名が多い。本名の μcɑcı、略称の ɑcı、あだ名の ıʃcclc、悪口の μcɑcc、『幻想話集アティーリ』由来の ɥəʃcı、日本語由来の lccʃlın などがある。日本語名は綺夢（みゆ）。性格等は前項と同様。 ·ɑılhı ɑılhı は１０歳のもので、「ふわふわにゃんこ」。羽の生えた猫の絵柄。 ・人物像 性格は生真面目で純粋。学問全般に渡って知識があり、語学は万能。武道は多芸で、徒手空拳のほか、武器の扱いもこなす。芸術や音楽には少し弱い。家事は克服し、料理は現在ではむしろ得意。仕事ぶりは正確で、編集作業や校正作業が得意。暗記力が尋常ではない。正義感が強く嘘が嫌いで、まっすぐした性格。精神は安定しているが、いったん不安になると泣きやすい。悩みやすい体質で、物事を真剣に考える。善人で、利他的な行動をする。子供のころに人種問題で虐められてから人見知りが激しく、他人の前では話せない。 素行は現代日本女性と比べると非常におしとやかで大和撫子。表情は柔らかな微笑で、ふわふわした雰囲気で喋る。早く喋る必要があるときは非常に早く喋ることができる。大口を開けて笑うことはなく、「ふふ……」と口に手を当てて笑う仕草が愛らしい。 ＜００年のセレンのメールに見るリディアの名の由来と外見像＞ （このメールで出ているユナーというのはＦＦ１０のヒロインのユウナを指すようだ。この時点ではまだ発売前で、セレンはよく情報を掴んでいない様子。またザナはＦＦ４をＦＦ２と言っており、セレンはそれを誤りとしている。しかし海外版では確かに２として売られていたことが確認できたので、ザナが正しい。当時の古アルカ文も見れて懐かしいとともに、この時点ではまだ古アルカを使っていたことが確認できる。ɗ は μμ で転写していたようだ。ɥənlə に母音が付いているのも見逃せない。ɥənl の異形態だ。リディアがＦＦ４のキャラと名前が同じで同一視されて困ったといっていることから、少なくともこの頃は μccɑɥı という名のほうが正式であったということが伺える。ザナはリディアの言葉を「名前が同じで～」と伝達しているが、実際には μccɑɥı だったわけだから、「似た発音のせいでキャラ名で呼ばれて困っている」というのが正確なところか。この注釈は ꭍꭍ 年のものだが、ユウナより『パンドラの塔』の表紙絵の少女セレスに似ているように見える。表紙絵以外は似ていないが） そしたらケチをつけてたザナが流石に俺の顔色が変わったので「まあ、似てないっ て言うかさ、そもそも結局絵なんだから、要するに「イメージが似てる」ってことが いいてぇんだろ？」といってきた。俺は「いや、本当に写真の様に似ているかと思っ た」といったら皆で笑いやがった。 ザナは「むしろさ、リディアのイメージってさ、もっと明るいんだよ、屈託なくて さぁ」とフォローした。当の本人は誉められたと思ってにこにこしてた。するとあい つは続けてこういった。 「ӿɥɑcı ɑe ɥəlle ȷɔnɔ...ȷɔnɔ... lə ıl–nɔ8 ϯhhı, ɥə lle μμı ɥənlə e μμı ""ᴪcnıl ɑınʃıȷɥ ʃɔ"" ɑe ""¥ƎAϯh(¥Ǝh¥ϯ8)"".」 「リディアが似てんのはさ、えっと……ん～、ああ、ファイナルファンタジー£ のヒ ロインの「ユナー(或いはユーダと聞こえた)って奴だよ」 俺が「え？」といったらあいつは「まあ、イメージだよ、あくまでも」と補った が、俺の言った「え？」はそうじゃない。俺は「お前、ᴪᴪ なんか知ってたの？」と聞 いた。そしたら「あ、アメリカで作ってるゲームだろ。日本も噛んでるらしいな。 元々お前がやってるらしいから俺も知ってるんだけど？」と答えた。違うよ、お前。 日本が一枚噛んでるんじゃなくて日本の製品だよ。 更にあいつは間違えてた。俺が「なんで俺がやってるって知ってるの？」と聞いた ら「ᴪᴪ Ⅱでリディアってのがいて、リディアが「自分と同じ名前の奴がいてセレン君 に同一視されて困った」っていってたから」と答えたが、フォーリンゲーマーよ、リ ディアが出てくるのは ᴪᴪ Ⅳだ。 しかも皆の見せてコールにあいつはいとも簡単に応じやがった。一回いなくなった と思ったら、なんでか雑誌の切抜きだかどっかで印刷してぱくったものみたいな画像 を持って帰ってきた。ザナが指してる女の子（恐らく ᴪᴪ の歴史上これが主人公と言う ことはないと思うからヒロインだと思うからそう訳したが）の絵を見たら、なんと今 度は Δ:ɺ ぐらいで「似てる」と賛同しやがった。本人も「あ～、似てるかもねえ」と いっていた。 そのユナーかユーダか良く聞き取れなかった少女は、エルオーネみたいに腕に布み たいな生地を巻いていて、下に垂れ下げていた。アクセサリーじゃらじゃらで、多分 この辺がリディアに似てると思われた一因だろう。髪はそんなに長くなく、かといっ てショートでもない。これもリディアと同じ。で、髪型も一緒。曰く「服の趣味も一 緒」だと。主にこれは女子判断だが、女子はアイデンティティに服飾というのも含む のだという事が解かった。馬鹿だね、じゃあ服ナシの本人だけを見ないってことだろ ？真実から目をそらした観察だ。 ɺ割の反対陣は「こんなにリディアは奔放で自由そうじゃない。もっと弱そうで自 立してなさそうな顔をしている」と辛口批判。だが、俺も賛成だ。その点は賛成派も 若干認めていたし、何より本人が認めていた。これほど主観が使えないと思ったこと はない。【成句】 μcɑcı lien ᴅɔncı 猫をかぶる、ねこをかぶる、ネコをかぶる、猫を被る、ねこを被る、ネコを被る。ものすごく程度がひどいことで有名。いい子ぶるというより、おとなしくなるというニュアンス。 ınl ɔ lele ɥən μcɑcı 才色兼備 μcɑcı ɔ ᴅel ɑeʃ lele cᴅ ɥəlc 大器晩成

μcɑcın ［名詞］嫉妬心、嫉妬 ［動詞］ɥəl に嫉妬する、嫉妬する ［類義語］ φenɔᴅ ［レベル］３ 1L: リディアの書 :μcɑcını ［語法］ φenɔᴅ は他者に対する悪意の羨望。μcɑcın は主に恋人や親愛の情を持つ相手に対するジェラシー。

μcɑcılccɑı ［天文］→ μcɑcı

μcɑcı ləʃcı ［人名］リディア＝ルティア ［レベル］1 ls ꭍꭍ ［文化］ (ᴍ1ꜛ_) ls の主人公の一人。 ・年齢早見表 ᴍ?1 1ʕ ᴍ?0 1ꜛ ᴍꭍL 1ᴍ ᴍꭍΔ 1? ᴍꭍᑫ 1ꭍ ᴍꭍʕ 11 ᴍꭍꜛ 10 ᴍꭍᴍ L ᴍꭍ? Δ ᴍꭍꭍ ᑫ ᴍꭍ1 ʕ ᴍꭍ0 ꜛ ᴍ1L ᴍ ᴍ1Δ ? ᴍ1ᑫ ꭍ ᴍ1ʕ 1 ᴍ1ꜛ 0

μcɑcı ləʃcı(ꭍ) → μcɑcı ȷıdlc μȷcclı ʃeɔ ləʃcı ［レベル］1 ꭍꭍ

μcφ ［動詞］ɥəl を壊す、壊す、破壊する、解体する ［普通動名詞］破壊、解体 ［政治］解散する ［反意語］lıɑ ［レベル］2 @ 1L ɑzəl:ɑzəl ［語法］ ıllıɑ と区別。 【用例】 μcφ ɔᴅc ドアを破る

μcφᴅcμɔl ［宗教］破壊神 μɑ;/ ꭍᴍ

μcφlınφ ［政治］解散権 ［レベル］4 1L

μcd ［動詞］ɥəl を c から借りる、借りる ［類義語］ȷʃcʃ ［反意語］lıɑ ［レベル］2 @ 1L 【用例】 ın μcdıʃ ᴅɔlʃ e ȷıezɔn. スキー道具を借りた。 ʃcɔ, nɔel μcd ɑın ʃə ı uɔμʃ ɑıɗ. 死ぬまで借りるだけだぜ（霧雨魔理沙）

μcdφcl ［経済］借金、借入金 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］ アルバザード人は借金を極端に嫌う。 【用例】 φıl{ɑcʃ} μcdφcl 借金を返す｛返済を受け取る｝ deʃcɑ μcdφcl 借金を取り返す、金を返してもらう、借金を取り立てる

μcb ［動物］蚊、モスキート ［メタファー］盗人 ［メタファー］［動詞］ɥəl をこっそりと盗る、盗む ［魔法］リブ（ドレイン）。害の中位黒魔法。敵のユノを吸い取る。 ［レベル］2 lılʃı:μc は血で、b は羽音だろう。 【用例】 ın ᴅɔlıʃ ucl μınel ᴅcl μcb. 蚊のせいでよく眠れなかった。 μcb ıʃ lıu ʃcnlı enʃɔ ın ᴅɔl ucl. 蚊がうるさすぎて眠れなかった。 ın ᴅɔlıʃ ucl ᴅcl μcb. 蚊のせいで眠れなかった。 lɔ μcb leμnıʃɔμ ɔn lel ɑɔ bəb bəb. 蚊が一匹ずっと飛び回っていた。 ın ıμıʃ dıᴅ lını ȷıl μcb. 電気を付けて蚊を探した。 ın lɔlʃıʃ ᴅɔlʃ ɑcn ȷıl ucl μcb. 蚊を見つけられずにベッドに戻った。 ın ȷcdıʃ ɥə μcb ɔn eμc. 蚊に食われた。蚊に血を吸われた。

μcbᴅııʃ ［名詞］蚊取り線香 ［レベル］4 1L ［文化］ セルメルに作られた。ただし、あのような螺旋形のものではなく、ピレスロイドなどを含む植物を焚いていた。 【用例】 ın ıμıʃ μcbᴅııʃ lını ȷʃıȷ μcb. 蚊を落とすために蚊取り線香を焚いた。

μcbᴅelʃes ［名詞］蚊帳 ［レベル］5 1L ［文化］ アレイユには既にない。住居の密閉性が高まる前は存在したが、既に μɑ で密閉性の高い家だったため、アルバザードではかなり古い時代の産物。 【用例】 ın le cnıʃ μcbᴅelʃes. 蚊帳をつった：ᴅelʃes なので動詞は lecn。

μczcn ［化学］クレゾール ［レベル］5 1L:ȷeμen:μcʃ/nɔzcn

μcs ［再帰動名詞］二日酔い、ふつか酔い ［動詞］ɥəl に二日酔いをさせる ［レベル］4 1?: 制 :ȷıɑ:μceȷes（酒が残る）【用例】 ın eȷ μcs. 二日酔いだ。

μcıl ［化学］無機、無機物 ［反意語］lıcȷ ［レベル］4 @ 1L

μcılȷeʃəl ［化学］無機化合物 ［レベル］5 1L

μcılıȷl ［化学］無機酸 1L

μccɑ ［経済］負債 ［レベル］4 1L:μcd

μccɑɥı ［人名］リーデャ。リディアの異名 ［レベル］2 古 : 本来のリディアの名の発音。μccɑɥı も μcɑcı も平行して使われていた。特に強弱アクセントで古アルカが語られる場合は μccɑɥı となる傾向が強く、高低アクセントではその逆の現象が見られた。従って高低アクセントになった制アルカでは μcɑcı を正式とする。また、本人もこれについて了承している。

μccl ［動物］蛭、ヒル ［メタファー］［ネガティブ］吸血鬼、血吸虫。吸血鬼の蔑称。 ［メタファー］［法律］ストーカー。くっついたら離れないことから。 ［レベル］3 1ᴍ: 制 :ılılʃı:eμclɔɔlɔ（血の管）【用例】 eμce lı. hɜᴅ, ılı eȷ μccl ʃcȷ ʃel uın ın ıȷ ı. 吸血鬼か。ふん、血吸虫ごときがこの私に楯突くとはな。

μcɔ ［名詞］石鹸、シャボン、ソープ、ボディソープ ［レベル］2 1?: 制 :lılʃı:μchɔ「綺麗にする塊」

μcɔeᴅ ［化学］鹸化、けん化 ［レベル］5 1L

μce,ɑu uelɑ μc（誘惑の）/e（水）

μceʃ ［経済］経営、運営、営業 ［名詞］経営→ ɑeldınʃ ［類義語］φcn ［レベル］4 μɑ;μȷcclı/ʃe ꭍꭍ ［語法］ φcn

μcen ［サール］リエン ［動詞］ɥəl を酔わせる、酔わせる、陶酔する、酔う ［形容詞］酔っている、酔っ払っている、酔っぱらっている、酔った ［名詞］酔っぱらい、酔っ払い、よっぱらい ［レベル］3 (ᴅ;μce,ɑ.) 古 :llccz: 古 :μce（酒）「陶酔」も酔うという語を使うので、日本語と同じ感覚を持っていたようだ。 ［文化］ 酒を司るサール。人間を陶酔させる。酒で酔うだけでなく、酒で酔ったかのようないわゆる陶酔状態にすることも指す。アルバザード人は大人しく真面目な人間が多いが、かっこつけるのが好きなので、しばしば理想化された自分に陶酔する。レインが過度に敬虔だったり、アルシェがやけにレディーファーストなのもアルバザード人らしい陶酔の現われである。アルバザード人は催眠や陶酔が好きで、それによって自己を勇気付けたり、ストレスを発散させたりする。 【用例】 lı eȷ μcen.

彼は酔っ払っている。 ın ɑej µcen ɑı. 俺は酔ってないぞ。
µcəȷ ［物理］電磁 ［レベル］5 1L:clcµcəȷ。制では clµ だが、語末の lµ はほかにないので避けた。
µcəȷʅı ［物理］電磁場 ［レベル］5 1L
µcəȷucın ［物理］電磁力 ［レベル］5 J1
µcəȷφel ［軍事］レールガン ［レベル］5 J1: 電磁力砲
µcəȷeeu ［物理］電磁波 ［レベル］5 1L
µɔʃ ［格詞］〜のほうから ［動詞］ɥəl を c からそむける、そむける、背ける、背く、離す、離れる、遠のく ［類義語］cʃ ［反意語］ʅɔµ ［レベル］2 1L: 恣意 【用例】 ɑılıʃ ɒcuı µɔʃ ʅɔȷ 背中から娘を抱きしめた
µɔʃʅcɒ ［生物］屈曲 µɑ;/「〜のほうからこちらに曲げる」 J0
µɔʃʅɔµl ［生物］内返し、内反し、内がえし、内反 µɑ;/ J0
µɔʃȷıc ［生物］回内 µɑ;/ J0
µɔʃhɔl ［生物］内旋 µɑ;/ J0
µɔʃɔu ［生物］内転 µɑ;/「〜のほうからこちら側へ動く」 J0
µɔʃen ［接続詞］µɔʃ ［レベル］3 J1
µɔʅ ［動詞］ɥəl を押す、押す、圧する、圧迫する ［普通動名詞］圧迫、プレッシャー ［反意語］leʃ ［レベル］2 @ 1L ıʅeʃı:ıʅeʃı 【成句】 µɔʅ ȷıeφ eʅ ʅı ʃɔɔɑ 坂道で雪だまを押す：流れに掉さす µɔʅ µenȷ ı 〜に口を出す、口出す、口出しする 【用例】 µɔʅ ɔɒc 扉を押す ☆ ın µɔʅıʃ lıʅc ı ʃcɑı. 私は卵が半分になるまで押した。
µɔʅucın ［物理］斥力 ［反意語］leʃucın ［レベル］4 J0
µɔʅlıȷ ［医療］押手、おしで µɑ;/ J0 ［文化］ 鍼において肌を押さえる手。ふつう左手。
µɔʅıɒɔ ［名詞］カート、手押し車 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ
µɔʅɔɒc ［名詞］押し戸 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ
µɔʅeu ［動詞］ɥəl を ı に押し付ける、押し付ける、押しつける ［レベル］3 J1
µɔlʃ ［名詞］合言葉、暗証言葉 ［経済］［電算］暗証番号、パスワード ［レベル］3 1M: 制 :µɔl/ueʃ（味方の言葉）【用例】 µɔlʃ eucʃ 間違ったパスワード ɔlʃ µɔlʃ パスワードを伝える eu µɔlʃ ı µıφnı 機械にパスワードを入力する
µɔlʃµcʅ ［電算］ログオフ、ログアウト ［レベル］3 JJ
µɔlʃlıʃ ［電算］ログイン ［レベル］3 JJ
µɔlʅ ［形容詞］サブの、メインでない、副次的な ［反意語］leȷʃ ［レベル］3 @ 1L
µɔlʅʅlɔı ［名詞］ＳＳ、サイドストーリー、ショートストーリー、ファンによる非公式の二次創作小説 ［レベル］5 µɑ;/ J0
µɔlʅʅcȷʅ ［名詞］外伝 ［反意語］leȷʅcȷʅ ［レベル］5 µɑ;/ J0
µɔlʅȷerlıµ ［電算］インカメラ、サブカメラ ［レベル］6 ul;/ J0 ［文化］ はじめはテレビ局で使う業務用のサブカメラを指した。やがてケータイのインカメラなども ıl で指すようになった。
µɔlʅuɔnı ［名詞］副旨 ［レベル］5 µɑ;/ J?
µɔlʅφılʃ ［建築］ポーチ、車寄せ ［レベル］5 1L
µɔlʅbel ［料理］副菜。副次的なおかず。 ［レベル］3 1L
µɔlʅɥıu ［言語］従属節 ［レベル］4 J0
µɔlʅsczɔl ［音楽］サイドギター ［レベル］6 J1
µɔlʅsczɔlın ［音楽］サイドギター担当 ［レベル］6 J1
µɔlʅlɔcʃ ［名詞］支社 ［レベル］4 µɑ;/ J?
µɔlʅıʃe ［名詞］支店 ［レベル］4 µɑ;/ J?
µɔn ［化学］［物理］圧力、圧 ［レベル］4 1L:µɥəə:µɔʅ/enuc 【用例】 µɔn ucen 高圧
µɔu ［形容詞］軸に近い ［格詞］〜の内側に ［反意語］ecl ［名詞］道路の中央、内側、ナイソク、内方 ［レベル］2 1ʕ: 制 : 恣意 ［語法］ ある中心軸となる一次元体から見てある物が近いことを指す。空間的な意味に使う。内側と訳すことが多い。µɔu はたとえば体の正中線から近い部分を指したりするのに使う。軸から見て軸に近いほうが µɔu である。軸が短くなって点になっても良い。そうするとある点から見てある物が近いと µɔu になる。【用例】 ȷıbeȷ ȷılıȷ µɔu ıµn コートの下にシャツを着ている
µɔuʃeɒ ［生物］内耳 ［レベル］4 1L
µɔuʃeɒɑıcz ［医療］内耳炎 ［レベル］5 1L
µɔuʅıɒc ［生物］陰谷 J1
µɔuȷcµ ［生物］真皮 ［レベル］4 J1
µɔuȷcı ［生物］軟膜 1L
µɔuȷel ［生物］小陰唇 ［レベル］4 1L
µɔuncɑ ［言語］内相、（アルカにおける）アクツィオンスアルト ［レベル］5 J0 ［語法］ 実行段階のこと。外相と対立。 経過〜継続の区間のことで、すべて接辞で表され、アクツィオンスアルトとなる。動詞の相の局面を９種用意するときは、最も頻度の高い局面がこの内相の中に来るように設計する。
µɔuɑlel ［生物］肩中兪、肩中愈 J1
µɔuɒclʅ ［生物］内膝眼 J1
µɔuφɔʃ ［生物］内側顆 µɑ;/ J0
µɔudɔɒ ［生物］内くるぶし、内踝、内果 µɑ;/ J0
µɔudɔɒoıl ［生物］内踝尖、内果尖 µɑ;/ J0
µɔuɥɔlɔ ［被服］ズボン下、すててこ、ステテコ ［レベル］4 J1
µɔulcl ［化学］遷移元素 ［レベル］5 1L
µɔulɔbɔ ［電算］［工学］クラッド→ ɑıµʃınl ul;/ J?
µɔuen ［接続詞］µɔu ［美容］インナーウェア ［レベル］3 J1
µɔɑı ［名詞］カフェイン ［レベル］3 1ʕ: 制 :µɔɑ（興奮した）【用例】 µɔɑı cun 低カフェイン
µɔɒ ［形容詞］［副詞］突然、急に、不意に、ふいに、いきなり、ふと、とっさに、咄嗟に、急進的な、突拍子もない ［文頭純詞］ふいに、ふと、突如、突然、唐突に、とうとつに、脈絡もなく ［医療］急性 ［音楽］プレスト ［反意語］ɑµel ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɒeµəəɒc（時間がない）【用例】 lı lənıʃ µɔɒel. 彼は急に来た。
µɔɒ,lɥ le（関係詞）
µɔɒneʅ ［動詞］ɥəl を跳ね起きさせる、跳ね起きる、跳ねおきる、はねおきる ［レベル］3 µɑ;/「突然上に上がる」 J?
µɔɒneʅlɔnɑ ［名詞］跳ね起き夢 ［レベル］6 µɑ;/ J? ［文化］ ・造語した経緯 かつての塾にバイトしてて塾長に J 人同時に見てと頼まれて料金は一人分でねと言われてたのを忘れてて出かけようとしたら超クレームが来てずっと電話越しに怒鳴ってて「訴えてやる」とか「本出版してやる」とか「つべで集会かけてやる」とかギャンギャン喚いててうざかった夢を見た。 で、はじめは我慢して聞いてたんだが、あんまりうるせーのでブチ切れて「てめぇぶっろ殺すぞこの野郎。木刀と刀持ってって突っ込んでってやろうかゴルァ！」って怒鳴ったら「来いやゴルァ！」と言いやがったので「てめぇぶっ殺してやる！！！」っつって跳ね起きてドアガチャして廊下に走りだしたところで家族の何事かという悲鳴が聞こえて「あ、夢か……」と知った。そのまま刀掴んで突っ込もうとするところだった。夢なのに。どんだけ気性荒いんだよ俺ｗｗｗ
µɔɒɒıφ ［動詞］ɥəl をびくっとさせる、びくっとする、ビクっとする、ぎょっとする ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ 【用例】 ın ıµıʃ µɔɒɒıφ ɒın ȷı ʅcʅ lɔlɔ. 蛇にギョッとした。
µɔɒɒcɥə ［生物］突然変異、ミューテーション ［普通動名詞］［自然動名詞］［再帰動名詞］急変 ［類義語］lȷıs ［レベル］5 µɑ J?
µɔɒı ［医療］病気や感情などの発作 ［レベル］3 1ʕ: 制 :µɔɒ から
µɔɒııɑɥıc ［医療］急性腰痛、ぎっくり腰、ギックリ腰。区別なし ［レベル］4 1L
µɔɒɔʅʃɔ ［物理］パルス ［レベル］5 J1
µɔɒeȷʅ ［気象］にわか雨 ［レベル］3 1ʕ: 制 【用例】 µɔɒeȷʅ ȷcl ȷɔɑ ʅı uıcʅ ʃel senʃdɔµʅlıʅ. 天気予報によるとところによりにわか雨が降るそうだ。 µɔɒeȷʅ ıʃ ȷɔɑ ıʃc ʅıl. ちょっとにわか雨が降った。
µɔɒeµcdɔı ［医療］急性白血病 ［レベル］6 1L
µɔd ［生物］まぶた、瞼、目蓋 ［動詞］ɥəl に瞬きさせる、瞬く、またたく、まばたく ［再帰動名詞］まばたき、瞬き→ µɔdıȷʃel ［レベル］2 1ʔ: 制 :µɔb 【用例】 µɔd eȷ ɑıɑ. まぶたが重い＝眠い：日英と同様の表現。
µɔdɒedc ［化学］接眼レンズ ［レベル］4 µɑ;/ J?
µɔdıȷʃ ［再帰動名詞］まばたき、瞬き← µɔd ［レベル］2 J0
µɔb ［名詞］蓋、キャップ ［動詞］ɥəl に蓋をする、蓋をする、蓋をかぶせる ［レベル］2 ɑ;e 古 :µɔb（かぶる） µɔb:µɔb 【用例】 eu µɔb ı uıel 瓶に蓋をする
µɔbhɔ ［生物］膝蓋骨 ［レベル］5 JJ:「蓋の骨」
µɔbhɔʅʃ ［音楽］ハイハットシンバル、ハイハット J1: ［語法］ オープンは hɔɒ。クローズドは ɑeɥə。ハーフオープンは ʃcɑı。ペダルは oɔnʃ。ペダルで蓋をするかのように閉じ合わせるので µɔb という。
µɔbhɔhıllɔɔz ［生物］膝蓋骨上縁 µɑ;/ J0
µɔbhɔoıl ［生物］膝蓋骨尖 µɑ;/ J0
µɔbc ［形容詞］不純な、混ざった ［名詞］不純物← µɔbcʃəl ［レベル］3 1L:leuı の対の µɔbc の音が悪いと変更されたが、化学などにおける不純物という意味の語義は残ったので、単語自体は残った。
µɔbcʃəl ［化学］混合物、不純物→ µɔbc ［レベル］4 1L
µɔz ［名詞］身元、生まれ、出所、根源、源、素性 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eµczıɒɔ 【用例】 µɔz µıʃ 生まれの良い、高貴な
µɔc ［被服］ゴーグル ［レベル］3 lıʅʃı: 目を覆う
µe ［法副詞］〜しろ。命令の副詞。 ［レベル］1 ɑ;e 古 µe:µe: ［語法］ 前置する。古アルカと同じ。省略できる。省略しないで µe をつけると語気が強まる。µe を省略した命令形は µe より弱く µen より強い。 µe 強命令 µen 弱命令 ɒcµ 強依頼 ȷınʃ(女性 ɒɥən) 弱依頼 ɑen 強禁止 ʃe 弱禁止 ɑɔn 強禁止依頼 leə 弱禁止依頼 女性は「弱」の系統をメインで使う。男性も弱系統を使うが、強もよく使う。同じ男性でもアルデンは強が多く、ピッコは弱が多い。逆に女性でもアンマやガノは強を使う割合が µenʃe より高い。 ・自動詞の命令 日本語に訳したときに自動詞になる命令文について。(µe) uɔµʃr 死ね！ 他動詞 (µe) ɒeʃ (nɔȷ)r 落ちろ！ 再帰型自動詞。てずから落ちろ。呪詛的。 (µe) eɒ ɒeʃr 落ちてしまえ！ 繋辞型自動詞。自然と落ちろ。日本語的には「落ちろ」はこちらが自然だが、アルカ的には「俺にとって幸運が起こって岩が崩れるなどして運良くお前が落ちるようになれ」というニュアンスで、あまり呪詛的でない。「落ちればいいのに」「落ちてしまえ」的なニュアンス。本来は論理的に考えると確かにこちらのほうが「落ちろ」にふさわしいが、「てめぇで落ちろ」的なニュアンスのある前者のほうが呪詛的で攻撃的。 「腐れ」のように命令する相手が人でない場合は、(µe) eɒ φeȷr の容認度が高くなる。しかし依然として呪詛的に使うのなら φeȷr が使える。 また、魔導師などが魔法をかけて敵を腐敗させようとするなら相手が生き物なので φeȷr の容認度が ɒeʃr 同様高くな

る。【用例】 µe ılſ 書け

µeſ ［普通動名詞］依頼、発注、指示 ［動詞］ɥəl を ı に頼む、頼む ［普通動名詞］注文 ［文末純詞］お願い、～してください、～してね。依頼を示す。 ［反意語］lcɥə ［レベル］1 1ᘯ: 制 zcddɔ:zcddɔ ［文化］ 日本と同じ。依頼は丁寧に。聞いてくれれば礼を言う。聞いてくれなくても悪口を言わないこと。頼む側が特に卑屈になる必要はないが、尊大でもいけない。頼む媒介物は何でも良い。口頭でも良いしメールでも良い。日本だとメールでは失礼というが、アルバザードではメディアは気にしない。依頼の報酬は予め伝えておく。目上だろうが目下だろうが関係ない。報酬があるなら聞かれる前に事前に告知しておく。 ・注文 アルバザード人は個別に頼むことが多いので「コーヒー３つ」のようなまとまった注文はあまりしない。 ᴅccꞁıne, lcȷcꞁıne, ᴅcµeſel, µeſ のように頼む。 頼む人は自分から疎遠な人や目上の人の注文を優先的にウェイターに告げるのがマナー。自分の頼むものは最後に告げるのがマナー。【用例】 ın µeſıſ ſə lı lı. 彼に頼んだ。 µen lənı ıſə µeſ. こっちに来てちょうだい。

µeſl ［動詞］ɥəl（場所）で溺れる､溺れる､おぼれる ［反意語］lɔꞁȷ ［レベル］2 @ 1L ［用例］ ın µeſlıſ ȷıſ. もう少しでおぼれるところだった。

µeſȷ ［感動詞］よろしく､頼むよ､頼む､たのむ､お願い､おねがい､よろ､お願いします ［レベル］2 µɑ;µeſ/ȷɔ「することを頼む」 ⅃ʔ:⅃ʔ までは依頼文の最後に ",µeſ" をつけて「よろしく」という意味を表していた。特にそれで困ることがなかったが、メールなどで「上記の件についてよろしく」とまとめて依頼する場合に使う表現がないと困るということで作られた。 ［語法］ 人に行為をしてもらうときに言う言葉。人に行為を任せるときの言葉。【用例】 µeſȷ ɔn le ɑıȷ. ıſlɥənꞁ. あの件よろしく。 任せて。

µeſl ［名詞］敵 ［娯楽］［軍事］敵軍 ［形容詞］敵の､敵性 ［類義語］ıᴅes ［反意語］ꞁɔlı ［レベル］3 1L:ȷɔµn:µeſſel ［用例］ uıȷſ µeſl 敵を倒す

µeſlıɑ ［軍事］敵国 ［レベル］3 µɑ;/ ⅃ᘯ

µeſlnı ［名詞］敵意、害意、敵愾心 ［レベル］4 1L:ᴅelcɑcı ılſe ［用例］ ȷcnȷ µeſl 敵意を表す

µeſlɑɔlſ ［ユマナ］［娯楽］エネミーマーカー ⅃1

µeſlelɑ ［言語］敵性語 ［レベル］6 ⅃⅃

µeſın ［名詞］依頼者、依頼人、クライアント、発注元、受注先 ［レベル］2 µɑ;/ ⅃ᘯ

µeſcl ［地学］蛍石 ［レベル］6 ᴅelſcı 10:φclcəȷ;e 1L:µen/ıſcclc。～ µen が多すぎたため、µen を前置した。 ［文化］ → ɑɔlᴅcɥə, dıµſcl 光の魔石。セレス体を単蓄する。

µeꞁ ［動詞］ɥəl を失敗する、失敗する、しくじる、しそこなう ［普通動名詞］失敗、ミス ［副詞］（µeꞁınel で）しくじって～する、間違って～する。成功させようと頑張って失敗することを指す。うっかりやったという意味はない。 ［娯楽］ミス、アウト、失敗、死亡、一機死亡 ［テニス］フォルト ［野球］アウト ［反意語］µıꞁl ［レベル］2 1ʔ: 制 ［用例］ ſə eſ µeꞁ ıuen lɔſ leȷ ın ıµıſ. それは私がしてきた中で最悪の失敗だった。 ınȷ µeꞁcꞁ ınɔ ſəµ ſcȷeeɾ われわれは本作戦に失敗いたしました！ ɑcn ın ıȷdıſ enzel lını ɑɔnl uınɑ e µeſl, ın ſclıſ ucl ɔn ɑlel µeꞁınel ȷcn. 敵の攻撃を何とか躱そうと屈んだが、しくじって肩に傷を負ってしまった。

µeꞁſeµ ［動詞］ɥəl を聞き洩らす､聞き洩らす､聞き漏らす､聞き洩れる､聞き漏れる、聞きもれ、聞き漏らし ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

µeꞁl ［植物］グレープフルーツ ［レベル］2 1ʔ: 制 :µebꞁlccꞁ（実がブドウのように房状につくミカン）

µeꞁlıɑı ［名詞］失敗作、不良品 ［レベル］3 ⅃1

µeꞁcn ［動詞］ɥəl を見逃す、見逃す ［類義語］uen ［レベル］2 ⅃1 ［語法］ uen は気づかずに見逃すこと。µeꞁcn はサッカーを見ながら洗い物などしていてちょうどシュートの瞬間を見逃すこと。

µeꞁcı,ȷzl ıdl µeclı/ᴅeꞁcı

µeꞁɔnꞁcȷſı ［アトラスの国家］レコンキスタ ［レベル］5 ⅃ʔ:µcɑcı

µelſ ［形容詞］雑多な､雑魚な､こまごました､こまかい､細々､細かい､小さなものが色々混じっている ［名詞］雑多、エキストラ、ちょい役、小間物、小物類、脇役 ［反意語］lɔȷꞁ ［レベル］3 @ 1L

µelcµ ［名詞］答え、解答 ［類義語］cln ［反意語］ꞁnɔɔȷ ［レベル］2 ⅃0:µenȷ/clcµcəȷ（言葉を返す） ［語法］ 問題に対する答えが µelcµ。質問に対する返事が cln。【用例】 ɑcſ µelcµ ı lı 彼に答えを返す

µeȷ ［名詞］部下、臣下、店員、社員、家長以外の家族 ［娯楽］ゲームにおける子 ［類義語］blcȷ ［反意語］hılſ ［レベル］3 1ʕ: 制 :µɔȷ:µȷcclı ::lı ᴅɔleſ:

µeȷſ ［動詞］ȷɔl は ɥəl に采配される、ȷɔl は ɥəl 次第である、左右される、ɥəl は ȷɔl の命運を握る、～によっては ［反意語］µȷcſ ［レベル］3 1ᘯ:ȷeµen:ꞁlel:µɔȷſ:µȷcclı ［用例］ ☆ ſə µeȷſ senſ lel ın ıµ ſə ız. 明日の天気によってそれをするかしないか決めるつもりだ。

µeȷſı ［政治］共産主義、社会主義。区別なし。 ［レベル］4 1L ［文化］ イグレスタ共産圏が歴史上存在したが、共産と社会の区別はなかった。

µeȷſınſ ［政治］レスタント ［レベル］4 ⅃0 ［文化］ ɥəəᴅı ꟼʕ0Δ メテが私兵団 µeȷſınſ を作る。レスタントは超人集団の集まりで、小国のものなら軍隊すら殲滅できるほどの戦闘力があった

µen ［法副詞］～して。µe よりも語調が弱い。 ［レベル］1 1L:µe に指小辞がついたもの ［語法］ µe µen はもともと女言葉だったため、命令の強度に関係なく µen を使うことがある。µen ɑcclɑ のような呪文の結句などがそうである。

µen(⅃) ［魔法］魔石、魔石類、アクセサリー、タリスマン、アミュレット ［地学］宝石ないし希少価値のある鉱物、宝石、鉱石 ［レベル］2 ᴅelſcı 10:ləɑɔ;e 1ʕ:µcɑcı: 宝石好きのリディアが作った単語で、ɔµſɔ などと重複するはずだが、hɔµɔµſɔ などの言い方を追い出して 1Δ 年現在はこちらの方が造語力があるようだ。接尾辞として使われる傾向が強く、宝石だけでなくアクセサリー全般をさせるようだ。しばしばヴィルなどのヴィードが宿っていると考えられているのがこの µen。

µen(ʔ) ［接尾辞］［言語］言語を示す接尾辞、～語 ［類義語］lec ［レベル］2 ⅃0:µenȷ ［語法］［文化］ lec

µenſ ［名詞］使者、使い、つかい、遣い、メッセンジャー ［レベル］3 ȷɔµn:µenȷ/ꞁəſɔ（伝言を告げる鳥？）

µenſe ［名詞］レンテ ［レベル］2 ⅃0:µen/ſe ［文化］ ɑµecnſ

µenꞁc ［死神］恋姫、れんき ［レベル］6 ⅃0 ［文化］ 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第一雛。 性格は大人しく知的で優雅。容貌はスラっとしていて美しく､黒髪長髪のルティア人。猫に変身する能力がある。 雛人形として生まれたが、生来の優しさで人を助けることを好むようになってしまった。第一雛だったため、造りに失敗したと考えられる。それゆえか、他の雛人形からは蔑視されている。 ul ではアルナに住む一人の錬金術師の相棒をしていた。

µenȷ ［名詞］ことば、言葉、特別な意味を持ったフレーズ、セリフ、コメント ［ɥenſe］［動詞］ꞁə、唱える ［音楽］歌詞 ［レベル］1 ȷɔµn ［語法］ ꞁə は発話されたものなら何でも可能。ılſɔɔ（あのぅ）などもセリフなので ꞁə。µenȷ は意味を持った言葉。しかも ıı, ın len lıl µec（あー、ワインのみてー）のようなただの発話ではなく、ın ſccı ſc（君を愛してる）のような特殊な意味を持った言葉。慣用句とは異なる。日本語には訳しづらい。 ただのセリフと慣用句の合間に当たる。名言のように、慣用句ではないが、特殊な意味を持った言葉などを指す。だから名言と訳してもいいのだが、あまりにバカなセリフのような悪名言というか迷言も µenȷ に含まれるため、名言だと語弊がある。【成句】 hııȷ µenȷ 言葉通り、文字どおり、文字通り、言葉どおり、ことばどおり ɔn µenȷ ılſ 言い換えると、換言するならば、換言すれば、換言すると、つまり、いいかえると、言い換えるなら、いわば、言わば、云わば、謂わば【用例】 ɑcſ µenȷ 言葉を出す、言葉を発する µenȷ ȷııꞁ 印象的な言葉 en eᴅ µenȷ 言葉にならない lıɑ ucl µenȷ 言葉にならない nıφ µenȷ 言葉を飲み込む、言おうとしてやめる µenȷ eſ ıµſ. ıµſ eſ µenȷ. ことばは魔法。まほうは言葉。(µenȷ ꟼꟼꟼ) ☆ ın ſcalıſ µenȷ ᴅın nı nıꞁ µıꞁ. 嬉しくて言葉を失った：elɑ は言語そのものの知識や能力なので失えない。 ın µenȷıſ ucl ɑc ᴅcl sɔ µıꞁ. 怒りすぎて言葉が出なかった。 ɔn µenȷ ılſ, nɔn ſccı ſɥə. In other words, I love you（『Fly me to the moon』） µɔᴅ, µenȷ lən ıꞁ c ȷel e µecɥə. 唐突に、少女の口から言葉が紡ぎ出される。 cᴅ ᴅcl ɑel leeucꞁ ıl ıſɔlıȷ, lcczı eucꞁ µenȷ ueeµ. アトラスに帰る刹那、リーザは最後の言葉を遺した。

µenȷꞁɔzeſ ［言語］印象的な言葉、レンスコゼット、キャッチ、キャッチコピー ［レベル］4 ⅃1 ［語法］ µenȷ ȷııꞁ と同義。

µenȷꞁɔzeſın ［名詞］コピーライター ［レベル］5 µɑ;/ ⅃ᘯ ［語法］ 広告だけでなく、光景追想のような自由律の短詩といった文芸的な作品も含む。

µenȷleɔ ［医療］［言語］言葉に聞こえる病、空耳 ［レベル］4 1L ［語法］音楽などが何らかのセリフに聞こえてしまう性質。

µenȷlıɑ ［音楽］作詞 ［レベル］4 ⅃1

µenȷləəd ［名詞］言葉の暴力 ［反意語］ᴅıcnləəd µɑ;/ ⅃ᘯ ［文化］ 言葉を重んじるアルバザードでは言葉の暴力と体の暴力は対等に扱われる。１３年現在の日本では妻が口で夫を怒らせて殴らせれば、一方的に夫がＤＶと誹られるのが実情で、妻が夫を怒らせた元凶であることは事実上無視される。一方革命後のアルバザードでは言葉の暴力と体の暴力は相殺される。 また日本では名誉毀損や侮辱罪など、ネット上では警察が取り締まらないので、あってないようなものだが、アルバザードでも革命までは似たような状況であった。革命で取り締まりをきちんと行うようになったことで言葉の暴力は体の暴力に匹敵する悪であるという認識が広まった。

µenȷɔᴅ ［言語］言葉遣い､言葉使い ［レベル］3 ⅃1 ［文化］ 十徳は礼･信。

µenȷeſınueſ ［言語］殺し文句､鬱になる言葉､レン･セット･アン･ヴェット µɑ:ſeɔlɔn;/「俺を殺してくれ言葉」 ［レベル］4 ⅃ʔ ［語法］ 現実と理想のギャップや他者と自己のギャップで思わず死にたくなる言葉のこと。単語を見るだけでダメージを受ける。 たとえ元リア充でも現在リア充でなければ過去と現在のギャップでダメージを受ける。 「制服デート」､「自転車二人乗り」､「初々しいエッチ」､「二人で勉強」､「純粋な恋愛」など。死にたい。

µenȷelɑ ［言語］口語、話し言葉 ［レベル］3 1L

µenɑel ［魔法］魔石学 ［レベル］5 1L ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

µenɑc ［人名］レンディ ［組み数字］1 / 5 ［レベル］4 ȷzꞁ ⅃1 ［文化］ → µıdıll

µenɑc(⅃) ［人名］レンディ ⅃1 ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組の担任。髪は黒のソバージュ。３０代のイケメン教師で、黒灰のスーツ。バンド「フィーナ」のサイドギターと顧問を担当する。

µenıµ ［魔法］レナール、魔石召喚 ［メタファー］［言語］言語センス。言語センスは魔石のように貴重で、かつ召喚のように高等技術であるという喩えから。 ［類音］µenıl。意味も似ているので注意。 ［アクセント］µenᛏµ（召喚）､µEnıµ（言語センス） ［レベル］4 1L:µcɑcı:µen/ıµſeȷ ［文化］ 魔石の力を用いて召喚する方法。術者が神を召喚するのに不十分な力の場合、魔石を消費する（魔石は砕ける）ことで、召喚を可能にする。一方、術者の能力が十分であれば、魔石は召喚の力を押し上げるのに役立つ。【用例】 lı ſcl µenıµ ɔn ꞁəſ lenɑc lɥə. あそこであぁ言えるとは、彼は言語センスがある。

μenıl ［丁寧］言語、言葉、ことば、レナール ［類義語］elɑ ［類音］μenıμ ［アクセント］μen↑l ［レベル］3 ⅃0:μen/ 古 ıl（言葉 / もの）【用例】 "cl μenȷ nɔın ȷeȷ ıμlı, ılɑc, μenıl ʃəın ınʃcȷȷe, ɑμecnɔı. ɔlʃı lıbeȷ cʃȷıʃ ɔ dcl dıʃ nɔn, nɔn μenȷıʃ elɑ ʃəın ʅɔlʅɔ leuın ınneə"「私の言葉は一言漏らさずアルカだった。つまり、お父さんの言葉よ。虐められからかわれても、私はお父さんの言葉を誇って話したわ」(ləlcı ıμbızıμɑ)：⅃01ʔ/0ꟼ/1ᗰ。イェフダーの息子が虐められた際、「あいつらの言葉は一言漏らさずヘブライ語だった。つまり、父さんの言葉さ」と返した。自分は悪口を言われたが、その相手の言葉はすべて自分の父親が作った言葉だという名言中の名言だ。これを僕は以前娘に教えた。娘は息子とアルカで話す。何語を話してるんだと公園でからかわれ虐められた。そのとき娘はアルカで相手を翻弄した。そして俺に報告した。「私の言葉は一言漏らさずアルカだった。つまり、お父さんの言葉よ」と。「虐められからかわれても、私はお父さんの言葉を誇って話したわ」と。そんな娘を僕は愛している。　君の見る世界は何色なのかな　ふたりのことばでおしえてよ　ɑcı le ʃyə cn ʃcl oel ncᴅ eyɔ.　μen ɔlʃ ʅɔlʅɔ μenıl e nɔn ɔ ʃyə.（『ほしのかずだけ』マユミーヌ）

μeɑ ［動詞］yəl を沈静する、鎮静する、落ち着ける、穏やかにする、気を落ち着ける、気を静める、冷める、醒める、宥める、沈める、整理する、整然とさせる、片付ける、整頓する、整える、まとめる、髪などをセットする、怒りを鎮める ［普通動名詞］沈静、鎮静、整理、片付け、セット ［形容詞］マイルドな、カーム、大人しい、おとなしい、落ち着いた ［反意語］μəəɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 :μɔɑ: 古 :μəəɑıc（熱血）【用例】 μȷccl ȷɔlȷıʃ ın μeɑeᴅ led. 両親は私に荷物をまとめさせた。 ［メタファー］μeɑ yən μyəə リュウのように冷静な　ın μeɑıʃ enz el nɔȷ ᴅın nı sɔ ʃcn. とても腹が立ったので、落ち着く努力をした。　μeɑıʃ nı. 心を落ち着けた。　lc ʃə, μeɑıʃ ᴅıʅ ez e lııl. その後、母の部屋の片付けの続きをした。　eᴅ μeɑr 早まるな！

μeɑʃ ［軍隊］行進、マーチ ［レベル］3 1ꟼ: 制 :μeɑle（整然と行く）

μeɑʃnıleʃ ［音楽］マーチングバンド ［レベル］5 ⅃⅃

μeɑʃleᴅ ［音楽］行進曲 ［レベル］4 ⅃1

μeɑnıᴅ ［生物］副交感神経 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ

μeɑyəlıl ［物理］層流 ⅃1

μeɑı ［名詞］弁、バルブ ［レベル］3 1ʕ: 制 :μeɑ

μeɑıʃc ［名詞］穏やかさ、整然さ ［軍事］統率、統制 ［レベル］4 ⅃1

μeɑın ［医療］鎮静剤 ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

μeɑcı ［名詞］レフィア ［レベル］3 1Δ:μcɑcı:μeɑ/coı（調整した左右対称→左右対称に調整する） ［文化］ 呼吸法のひとつ。ヨガやピラティスに当たるもの。　μɑ でリディアが自分の美貌を保持するために編み出したもので、腰痛に悩むセレンに伝えた。ルヴァンは座って行うため、腰痛を悪化させる恐れがある。ストレッチ効果もあるレフィアのほうが腰痛には良い。アレイユではミロクが広め、一般化している。　レフィアは深層筋のストレッチから始まり、表層筋を軽く伸ばした後、ヨガのようなポーズを取って呼吸していく。呼吸はピラティスとは異なり腹式である。また、ヨガと異なり、伸ばすときに常に ᴅᴅ というハミングを行う。これにより、筋肉がよく伸びる。ハミングをするため、必然的に口呼吸ではなく鼻呼吸になる。ポージングが終わったあとは再度ストレッチをして終える。レフィアの前後には体を温めておく。そうしないと筋肉が伸びず、危ない。レフィアで重要視されるのは左右対称性である。左右非対称は体の歪みを起こし、よくないとされる。従ってレフィアの観点でいうとユベール、空手、剣道、弓道、合気道などはすべて良くない。特に剣道や弓道は左右の筋肉がアンバランスになる。逆に水泳やサッカーやスキーなどは良いことになる。また、日常生活においても脚を組んだりすることはよくないとされる。寝相も仰向けが良いとされる。　アルカにはレフィアから転じた語義で、coı（性格のまっすぐな）、ılceʃ（性格の捻じ曲がった）などがある。

μeɑɔn ［名詞］シナリオ ［レベル］3 ⅃0:μenȷɑɔnʃ（ことばの道）【成句】 ʃ ılʃ μeɑɔn e ʅ. ʃ が ʅ の黒幕である。ʃ が裏で糸を引いている。

μeɑɔnlcuı ［娯楽］ノベルゲーム ［レベル］3 ⅃1

μeɑɔnlec ［名詞］台本、脚本 ［レベル］3 ⅃⅃

μeᴅb ［植物］房 ［レベル］3 1ʔ: 制 :μebᴅɔ（葡萄の形） ［語法］ ブドウのように実がたくさんなったものが垂れ下がっているもの。

μeφ ［動詞］yəl を c から辞めさせる、辞める ［普通動名詞］［再帰動名詞］退社、退学、退院、退籍、退職、卒業、移籍、脱退、在籍しなくなること ［反意語］lɔɑ ［レベル］2 @ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

μeφʃıȷ ［名詞］卒業試験 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ ［文化］ ᴅelȷel, ɑcıȷ el

μeφφcl ［経済］退職金 ［レベル］4 1L

μeφdelʃ ［名詞］卒業式 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ

μeφıȷʃ ［再帰動名詞］卒業生、ＯＢ ［レベル］4 ⅃1

μeφıl ［魔法］レガル、魔法陣 ［動詞］yəl を敵に回す、敵にまわす ［数学］解くとパスワードが出てくる問題のこと ［類義語］ızeμ ［レベル］3 1L:μecn/ 制 φıl（円盤）「言葉の円盤」 ［文化］ ɑɔlᴅcyə　魔法を使うときに現れる光の円盤。魔法を使うために地面に描く魔法陣とはまったく異質。アゼルは魔法を実現するために魔道士が地面や足元に描く魔法陣のことで、用途や場所が異なる。【成句】 ȷıʃ μeφıl ı ı にレガルを構える＝威嚇警告する：魔導師が魔法を唱えた状態で、いつでも魔法を放てる状態にしておくこと。レガルが現れ、放たれるまでレガルがゆらゆら回転しつづけることから

μeφılʅınʃ ［音楽］歴史歌、覚え歌、レガルカント ［レベル］2 ⅃0 ［文化］ アルナ学校の生徒がセルメルの時代に試験を通過するために開発した歌のジャンルで、主に歴史などをテーマにして歌詞の中に歴史の流れを盛り込んだもの。歴史の流れをそのまま歌詞にして歌うことで、記憶に残りやすい。有志の協力で様々な歴史の歌が作られた。フレマーユ校ができてからはフレマーユ生によってさらに研鑽され、現在でもフレマーユ生によって新しいものが作られている。　歴史以外がテーマになることもある。数学など。　もともと歌魔法を原点としており、その過程でレガルが発生することから、このように呼ばれた。現在は単なる受験用の歌なので、レガルは発生しない。

μed ［名詞］断続、点滅 ［形容詞］断続的、断続的な ［レベル］3 1ʔ: 制 :μɔd ［語法］ オンアンドオフするさま。横断歩道の信号のように付いては消えるもの。また、電飾のように光ったり消えたりするもの。光だけではなく、救急車のサイレンのように鳴ったり止んだりする音、止んだり降ったりふる雨、間欠泉、閉じたり開いたりする瞼なども全て μed。

μedȷ ［再帰動名詞］ウインク、ウィンク ［動詞］yəl に ı（ウィンクを送る相手）にウインクさせる、ウインクする ［レベル］2 1ʔ: 制 :μedıdı（まばたきの合図） ［文化］ 何か特別な意図があって、しかし声は出せないというときに「今言った言葉には裏があります。察してください」と伝えるときに使う。道すがら異性に行うという習慣はない。また、状況次第では特に意味なく相手をからかうのにも使える。

μeddı ［卑語］かため、片目、めっかち ［レベル］3 ⅃1:μedın ［文化］ 使わないこと。

μedcn ［動詞］yəl をちらちら見る、チラ見する、チラチラと見る ［普通動名詞］チラ見 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe 【用例】 lə ıllız μedcnıʃ lı lız ᴅın lə nıd lı. その少年は少女が気になってちらちら見た。

μeb ［植物］葡萄、ブドウ ［レベル］2 lıʃı ［文化］ 食用よりもワインの材料として身近。なお、ふつうブドウの色は紫。マスカットは緑。

μebʃıɑ ［普通動名詞］ぶどう狩り ［レベル］3 μɑ;/ ⅃ᗰ

μebᴅəe ［料理］バルサミコ酢 ［レベル］3 1ʕ: 制

μebı ［料理］ブランデー ［レベル］3 μɑ; ↓ 1ꟼ: 制 :μebȷcȷd（蒸留ぶどう（酒）） ［文化］ ȷcȷd　ワインやビールほどではないが、次に好んで飲まれる。強いので女性はあまり飲まない。

μebıne ［料理］ぶどうジュース、ブドウジュース、グレープジュース ［レベル］2 ⅃⅃【用例】 ʃə μebıne eʃ ıʃlr このぶどうジュースはおいしい！

μebıφc ［名詞］出所の分からないものや情報、親の分からない子供 ［レベル］4 1L: ブドウのつるはこんがらがって、どれがどの房のものだか分からないことから。アルバザードはワインが盛んなので、ブドウは慣用句になりやすい。

μebıμec ［料理］シェリー酒 ［レベル］5 1ʕ: 制

μeyə ［形容詞］はかない、むなしい、やるせない、儚い ［レベル］3 1L:ʅᴅccμ:μecᴅ/yənɑc（幽霊のように儚げな）。ここでの幽霊は「幻」のような意味。 ［語法］ 少女が儚いとかそういう意味ではなく、仕事が大変なのに社会貢献に繋がらずむなしいとか、働いても借金返済で消えるのでむなしいとか、そういうやるせない気持ち。やるせないだけでなく、喪失感も示す。すなわち心に穴が開いたような状態。【用例】 ın uɔȷʅ μeyəl nı. むなしい努力をしているようだ。

μez ［普通動名詞］制限、規制、取り締まり ［動詞］yəl を規制する、規制する、とりしまる、取り締まる ［レベル］3 1L:μecn/lɔɔz 【用例】 μez yıȷ タバコを規制する

μez(⅃) ［人名］レレゾナの略称 ［組み数字］１８/ ２８ ［レベル］1 制

μel ［動詞］yəl をよろめかせる、ぐらっとする、グラっとする、よろめく ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :μceləʅ（酒を飲んだときのように歩く）

μelɑ ［動詞］yəl を隠遁させる ［再帰動名詞］隠遁 ［レベル］4 1L:μcɑcı:μı lɑ leȷʃıμ:leȷʃıμ

μelɑueμınʃ ［医療］クラスターＡ。人格障害の。 ［レベル］5 ul;/ ⅃ʔ:ᴅel

μelɑıȷʃ ［名詞］ハーミット、隠者 ［魔法］忍者、レルダスト ［レベル］4 1L:μcɑcı ［文化］ → lɔlɔȷın　μɑ では、山村などにひっそりと暮らし、暗殺術を極める集団。ロロスの国が有名。特殊な西洋魔法体系である忍術を使う。

μeleȷ uılzı ［人名］レレス＝ヴァルザ ［レベル］5 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第４使徒。異性魔王。

μelezɔnı ［組み数字］１８/ ２８ ［交通］レレゾナ通り ［レベル］2 ⅃⅃

μelezɔnı uılzı ［人名］レレゾナ＝ヴァルザ ［組み数字］１８/ ２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。μeμezɔnı ではなく μelezɔnı だと指摘された。uılzı は「 あの杖 」。 ［文化］ (⅃ →) 第４期４代ソーン第４使徒。女性。ᴅıyə。１６４ｃｍ、５６ｋｇ。アルマスト派。茶色のショートカットに茶色の瞳。肌は白：黄＝６：４。　・『ミールの書』より　魔女のような格好をしている女性が１人の男性に大声で文句を言っている。只、魔女の服といっても流石に夏なので薄着をしているようだ。手には物凄く長い杖のような金属性の棒を持っている。あまりに長いので斜めにしておかないと平気で天井についてしまいそうだ。　レレゾナはショートカットの髪形をしている。顔はやや幼げで可愛らしく見えるが、年齢自体はクミールと同じくらいだろう。髪型の割りにボーイッシュといった感じは見うけられず、むしろ少女っぽいあどけない顔をしている。ただ、その顔つきとは裏腹に彼女の声は大きくよく通る声であり、またとにかく早くよく喋るので聞いているミールはすぐに疲れてしまった。

μec ［料理］ワイン、ぶどう酒 ［レベル］3 1ᗰ: 制 :μebμce ［文化］ アルバザードで最も飲まれる酒。アルバザードはワインかビールが一般的。赤ワインは leseᴅᴅe、即ち紫。白は ɑccı。ロゼは ʅııɑ。すべて日本語と異なるので注意。　ȷᴅ までは密閉技術が悪かったため、すぐに酸っぱくなったので、その年のものが一番美味だった。euınslın はその名残。

μecʃ ［言語］純詞 ［レベル］３ 1L:μecıueʃ（寂しい言葉）独立して使われる単語であるから

μecʃe ［名詞］００歳代の女、一桁の女 ［反意語］ılμecʃe ［レベル］２ μɑ:ᴅel;φμeculc/ʃe「グレイブリーのような」 Jʔ:ᴅel

μecʃel ［名詞］００歳代の男女、一桁の男女 ［レベル］２ μɑ:ᴅel;/ Jʔ:ᴅel

μecƪ ［物理］一次元 ［俗語］一次元、一次、テキスト、文章、文学、ラノベ。主にゲームやラノベやエロゲなどヲタ物の文章を意味するテキストのことを指す。二次、三次に対して使われる。 ［レベル］４ 1L:μecn/ƪılb 【用例】 ʃə eʃ ʃcnƪı lel ɑıcƪlec eʃ ɥəəɥə lılʃ μecƪ ʃcȷ. ラノベは絵無しでも文字だけで萌えられるところが凄い。

μeclın ［地名］レイシャン ［レベル］５ J0 ［文化］ アルハンテ西部の街。

μeclınɑμeı ［地学］レイシャン鉄。質の良い剣の材料となる。 ［レベル］６ JJ

μecȷ ［地学］せせらぎ、川、小川、瀬、津 ［形容詞］～川。前置。 ［類義語］eμec、eμƪe ［レベル］３ 1L:eμec ［語法］ 瀬（浅く流れの早い川のこと）、津（水上交通の要所）などの区別はない。川の大きさによる。μecȷ は小さく補足流れも緩やか。

μecn ［名詞］線、ライン ［交通］電車の線（主に複合語で使われ、南北線などの線と、急行準急などの種類のどちらも指す） ［数学］辺、線分、線：ふだんは区別しない。 ［法律］条、条文 ［名詞］条件、言葉、～個、漠然とひとつらなりになっているもの ［レベル］２ 1L: 恣意 bɔbɔ:bɔ 【用例】 ılʃ μecn eƪn clᴅ ノート（の端）に沿って線を引く。ノートを定規がわりにという状況。

μecndıᴅɔ ［数学］線形性 ［レベル］６ 1L

μecnhıɾ ［言語］連結体、繋げ文字、筆記体、筆記 1L ［文化］ ıμƪ,ləʃcı, hıclen のように繋げて書くもの。

μecnı ［魔法］霊感 ［レベル］３ JJ:μecᴅ/nı 【用例】 ʃcl μecnı 霊感がある

μecnın ［名詞］棒人間 ［レベル］３ 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［語法］ 線でささっと書いた人の形の絵。日本は胴体を縦線一本で書くが、アルカは胴体を縦長の円で表し、手足の部分には○をつける。日本で手が一本の線で描かれるのは、恐らく手が手と腕の意味を表わすからではないか。

μecnıdl ［数学］折れ線グラフ ［レベル］３ 1L

μecncoı ［数学］線対称 ［レベル］４ 1L

μecnɔ ［形容詞］孤独な ［名詞］孤独、独立独歩、独立、自立、独立独歩 ［反意語］ƪɔƪƪɔl ［レベル］３ J1:μecın 【用例】 enɑıl μecnɔ 孤独な老人

μecnɔɥəɔ ［言語］自動詞 ［反意語］ƪɔƪƪɔlɥəɔ ［レベル］４ J1 ［語法］ eᴅ ɑμeᴅ は自然と近付く。ɑμeᴅ ı は意志を持って近付く。 eȷ lʃıᴅ は自然と立っている。lʃıᴅeȷ は自分の意志で意欲的に立っている。気分の違いで両方とも使いうる。

μecneeu ［物理］平面波。波源から離れたところにある波で、波面が平行に線のように並ぶ。 1L

μecneel ［名詞］へのへのもへじ ［レベル］２ 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［語法］ 線で描いた簡単な人間の顔。目、鼻、口、輪郭で構成。耳、眉、歯、髪はオプション。

μecu ［動詞］ɥəl をどもらせる、どもる ［再帰動名詞］どもり ［レベル］３ J0:μeczueʃ（未知に迷った言葉）【用例】 ın ıʃ μecu ᴅın nɔd. 緊張でどもった。

μecɑ ［名詞］言語音 ［類義語］ɑɔ ［レベル］３ J0:ƪılce:μenȷ/ɑɔ（言葉の音）

μecɑnıᴅȷ ［言語］音印象、音感 ［レベル］４ Jʔ ［文化］ ȷeμen ıμbızıμɑ ☒ @ȷeμenıμbızıμɑ 開く @ılʃeuıƪ ［悪魔］と［死神］で検索して出てくる中で、韓国人の耳にカッコよく聞こえる固有名詞はどれか教えていただけませんでしょうか。 ʃcıȷ eȷʃel ☒ @ılʃeuıƪ 閉じる @ȷeμenıμbızıμɑ bɾecȷ beezel ɑelɑcı ɑμeȷʃcı ƪclȷelej dȷɔɔμı ʃeƪμı lelʃeȷ ılhıcƪ ıuelınʃ ɑcılenʃ ɑμeᴅelʃe lıȷʃcı ɔμɑcın uınφıμɑc ueμφcnı 会話を非表示 J01J 年 ᵰ 月 J9 日 – 1ʕ:0ᵰ oeb から 詳細

μecᴅ ［魔法］幽霊、お化け、ゴースト、アンデッド、心霊、霊 ［レベル］２ 古

μecᴅȷeɾ ［魔法］心霊写真 ［レベル］３ JJ

μecᴅɑeȷƪ ［魔法］霊媒 ［レベル］５ JJ

μecᴅᴅıcn ［魔法］霊体、幽体 ［レベル］４ JJ

μecᴅeμn ［魔物］アンデッド系モンスター ［レベル］４ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

μecɥeʃ ［形容詞］気紛れな、気まぐれな ［レベル］３ JJ:μecɥə/ʃe 【成句】 cȷƪıl eʃ μecɥeʃ. 奇跡は気まぐれ：果報は寝て待て

μecɥə ［名詞］乙女、少女、女子 ［反意語］lınƪɔ ［類音］lecɥə、μeɥə ［レベル］２ J0:μeɥə ［語法］ lız と ᴅını の総称。 【用例】 "eμᴅeȷ e μecɥə ʃ'ı μcıɑne, μe ɑcȷʃ, ɑμecᒣ"「アリアドネー戦乙女騎士団 捧げー 刀」（ネギま）

μecɥəȷcμ ［植物］百日紅、サルスベリ、さるすべり ［レベル］４ nɑ:「乙女の肌のような」 JJ

μecz ［動詞］ɥəl を迷わせる、迷う、道に迷う、迷子になる、はぐれる、逸れる、詰まる、つまる、ゲームなどに詰まる ［形容詞］途方にくれた、何をすればいいのか分からない、迷子な、迷った、電話が通じない、はぐれた ［数学］極限において振動した状態 ［レベル］２ 1L:ᴅelcɑcı ıl cȷ:μecı/ 制 lczb（道に迷う）【用例】 ☆ın ıʃ μecz ɔn ƪə ıl ʃɔ. 何と言っていいか分からず途方に暮れた。

μeczƪılc ［名詞］迷い箸 ［レベル］３ JJ ［文化］ アルティアではマナー違反だが、アルバザードではあまり気にしない。

μeczɥəlc ［名詞］迷子 ［レベル］２ 1L

μeczɾlıcɑı ［天文］アルゴル 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ リディアがリアントに降らせた流星はウィガル座から来たが、届かず迷子になった星がアルゴル。

μeczleun ［医療］燃え尽き症候群 ［レベル］５ JJ:「目標や意義などの道を失ってしまうことで起こる心の病」

μecl ［交通］レーン、車線 ［レベル］３ 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ:μecn/ʃəl（線上のもの）

μecl(J) ［化学］チオール 1L:bel/μcʃ。あまり b から始まるのが増えてもややこしいので。

μeclı ［化学］メルカプト基、スルファニル基 1L

μeclı,ȷzɑ eμcı <>eμcı

μecı ［形容詞］さみしい、淋しい、寂しい、さびしい、わびしい 古 :ᴅel:μecı←μecın。μe c ın（私を見て）が語彙化したもの。とても儚くて、メル本人が好きな単語。 【用例】 el nı ılle ᴅın el nı ʃəμ μecı. 昔を懐かしむのは今が寂しいからだ。 ın nıʃ μecı leɑ ᴅın. わけもなく寂しかった。 el bıȷ ɑcı ʃcȷ le ʃɥə nı μecı ƪı ȷeʃeɤ あなたがさびしい世界なんて、いらないでしょ？ "ᴅcμɔƪ lıᴅ lɔʃ ȷɔı lel nɔȷ nı μecı ᴅın neʃıl ᴅc lə"「最初の神さまがこう思ったんだ。ひとりはさびしい——って」

μecın ［μenʃe］［感動詞］さみしいの、一人にしないで ［μenʃe］［形容詞］寂しい ［レベル］２ 古 :μecı 参照。こちらは感動詞で、より原型に近い。nɔn などではなく μe や ın を使っているのは、この時点での古アルカにおけるメルの口調がそうだったため。 【用例】 ʃə eʃ ƪlɔı e ȷɔı ᴅcμ ɔƪ μecın, これはそんな寂しい神さまのおはなし。

μecınȷ ［電算］レイアンス、ｔｗｉｔｔｅｒ、ツィッター、ツイッター ［電算］ツイート、つぶやき、呟き→ μenȷ ［電算］プログラム中のコメント、コメント ［動詞］ɥəl をツイッターでつぶやく、つぶやく、呟く ［レベル］５ J1:μecıμenȷ（独り言） ［語法］ μenȷ 呟き、呟く hɔc フォローする hɔc ɥə フォローされる ［文化］ ツィッターに相当するｓｎｓサービス。レイユで作られた。 アルバザード人は個人主義なので他人が何を面白がるか分からないと考えるため、リツイートはあまり多用しない。ふぁぼを多用する傾向にある。ルティア人はリツイートもふぁぼもせずにあまり連携を持たないことが多い。凪紗は人のＴＬを汚すのは迷惑だと考え、リツイートはあまりしない。その代わりにふぁぼをする。結果的に見ればアルバザード人と似ている。アルバザード人でも南方人は面白いものをみんなで共有したがる傾向にあるため、リツイートを多用し、ふぁぼはほとんどしない。韓国人に近い。 【用例】 ın hɔc ɑlen ʃc ɔn μecınȷɤ ツイッターでフォローしてもいいですか。 ın nı ʃə eʃ led lel el eȷʃel μecınȷ ınʃ cᴅen ʃəɔ ıl ıμƪı, ᴅın ʃəəȷ ƪiueȷ ƪɔnȷueʃ ɑc ʃ'ɔɔφıƪcoıcn. 最近の私のツイートは幻訳するのが大変だ。というのも大垣まつりの専門用語を多く含むからだ。

μecıuıȷ ［普通動名詞］孤軍奮闘、孤立無援、徒手空拳 ［レベル］３ JJ

μecıuclɑ ［名詞］自家撞着、自己矛盾 ［レベル］４ JJ:「孤独な矛盾」

μecıμenȷ ［名詞］ひとりごと、独り言、独白、つぶやき、呟き ［動詞］ɥəl という独り言を言う、言う、呟く、つぶやく ［レベル］３ 1L: 寂しいことば

μecıılƪ ［数学］７、七。数字の７の異名 ［メタファー］メル。メルの隠喩。 ［レベル］４ 1L: 何年だか忘れたが、１０歳前後かせいぜい１３歳くらいあたりのメルが言っていた「７は寂しい数」という概念を、新生に訳したもの→ ueȷılƪ ［語法］ ７はアルカで寂しい数とされる。１ケタの後半台なのに約数が少なく、ほかの大きな数の約数にもなりづらいことから、孤独な数とメルが名付けた。メルが７をそう呼んだのはほかにも理由があって、その性格のキツさからアシェットで倦厭されていたことを気に病んで、第七使徒である自分と７という孤独な素数を関連付けたのだと思われる。

μeeʃe ［名詞］脳内彼女、理想の彼女 ［男性］［形容詞］理想的な ［類義語］ɑccɥə ［レベル］４ メル・アルカ :μcɑcı: ２０００年にリディアが起こした「レーテ事件」から 【用例】 senʃ ıʃ μeeʃe. 理想的な天気だった。

μeeȷ ［地学］オパール ［レベル］４ 1L:μen/eȷ（雨の宝石）。～ μen が増えすぎたため前置。eȷ は古で雨の意。実際は eȷdıɑcμen（虹の宝石）が短くなったもの ［文化］ 利の魔石。現代では幸運の宝石。

μeeu ［魔法］レーヴ、生命力、体力、ＨＰ、ヒットポイント ［レベル］３ 古 : 元はアレフの残存値を指す単語だったが、死語になっていたもの ［語法］ enuelen

μəƪƪe ［形容詞］［名詞］言語を絶する、言語道断 ［レベル］３ ɑ;ƪe は「行く」。μəƪƪe,ɑ は「超える、越える」の意味。 古 :μəƪƪe（言語を絶する、超える） 【用例】 ʃə eʃ... ƪɔᴅɔ... μəƪƪe. なんというかその……言葉にならんな。

μəƪȷ ［普通動名詞］通夜、お通夜 ［動詞］ɥəl の通夜をする、通夜をする ［レベル］３ ɑu;μəƪƪe/ȷɔ「（夜を）越える→夜通し行う」 Jᵰ μəƪȷ:μəƪȷ ［文化］ 死者を弔う前に一晩おいた習慣から。昔の医療が不正確で、稀に弔う前に生き返ることがあったため、一晩おいた。 【用例】 cᴅ ɑcȷ, ın ƪe ɑeƪƪı ɑcn μəƪȷ ʃ'eμn ᴅın ın ʃcl lıl ƪı ɑeƪƪc lc ʃə, ʃıl cᴅ ƪeȷʃ, ın ıllıɑʃ ȷcl c ɑeƪƪı ᴅcl ledȷ. 今日は親戚の通夜があるが、学校のあと塾があるので学校に行く。明日は葬式なので学校を欠席するつもりだ。

μəƪıȷ ［普通動名詞］完了、完遂、ルーカス ［形容詞］完了した ［動詞］ɥəl を完了する、完了する、終える、終わる、仕上げる、完成する、完成させる、出来上がる、できあがる、できあがらせる、出来上がらせる ［反意語］ləʃcl ［レベル］３ J0: 古 μəƪƪe/ȷɔ（通して行った）【用例】 μe μəƪıȷ ɑıȷ nɔzeʃ. 仕事を完了せよ。 ın μəƪıȷcƪ ɑel e ȷınɑel lını ʃıȷ. 代数学の試験勉強が終わった。 ın μəƪıȷcƪ cl μıɑel ʃ'ılɑ. 数学の宿題が全て終わった。

µəlijnca ［言語］完了相 ［レベル］4 J0 ［語法］ 行為動詞・状態動詞の一端、実行段階の一端、内相の一端。単位動詞の中心。 「〜した」という意味。

µəlılcı ［地名］ルカリア ［レベル］4 αu;µəlle/lıl/ıl J0:µcɑcı:µəlle/lıl/ıl（越えた土地のもの）フィーリアから見て海を越えたところという意味。 ［文化］ ɒelʃcı ΔᎰ'0000 に現イネアート、ヒュート、フレディスク、ディミニオン北部に神が建てた国。レスティルの北。

µəlılce ［アトラスの国家］ルカリエ ［レベル］4 J?:µcɑcı

µəlclɔ ［名詞］故郷、ホームタウン、古里、故里、ふるさと ［名詞］原産、原産地 ［類義語］nılcl ［レベル］3 ɑ;e 古 :µəlclɔ（家） µəlclɔ:µəlclɔ

µəlclɔ,ɑ µı e

µəȷ ［言語］µ の文字 ［レベル］1 1M: 制 : ルシーラ ［語法］ 第１６文字目の幻字。 日本語のラ行を転写する際は µ や ɖ でなく l を使う。

µəuıl ［被服］ホーゼン ȷɒ;µəuıc/ɥɔlɔ JM ［文化］ ȷɒ の傭兵が好んで着たズボン。

µəuıc ［軍事］傭兵、ルーヴァイ、マースナリー、マーセナリー、ゼルドナー、ランツクネヒト、コンドッティエーレ ［形容詞］日和見、日和見な ［レベル］4 zφ;µəlle/uılı J0:µəlle/uıc（柵の外の兵士←よその兵士） x:µəuıc ［文化］ 金銭で雇われ、直接的な利害関係のない戦争に与する兵のこと。古代から存在した。地球の中世のフィレンツェやカルディアの中世のイルケアのように商業中心で栄えたところは兵役がなく金銭で傭兵に頼ることがあり、傭兵団が栄えた。忠誠心が低く、日和見で逃走しやすいことから、国民兵や市民兵に置き換えられることも歴史上あった。

µəuıclccl ［生物］日和見菌、常在菌 ［レベル］4 JJ:µcɑcı 【用例】 ɑeʃ le ʃcl lɔlli ɔn µəuıclccl 常在菌のバランスを保つ働き

µəɑeʃ ［名詞］ファン、愛好家 ［類義語］ɖɔɔʃ ［レベル］3 J1:µəəɑ/ʃe ［語法］ µəɑeʃ はファン。ɖɔɔʃ は熱狂的な信者ともいえるレベルのファン。

µəɒı ［生物］生物 ［反意語］lənc ［レベル］3 @ 1L ［語法］ 無生物 lənc に対する概念。学問的に正式な意味での「生物」。アルカでは日常的には ləɒ（動物）で「生物」を示すことがあるが、正しくは µəɒı。生物分類は超ドメイン、ドメイン、界、門、網、目、科、属、種の９段階を持つ。地球の分類は８段階で、超ドメインがない。霊人 (lın) はそもそも動物界に属さず、ıʃen に属す。ıʃen 下の科として霊人が存在する。よって、霊人はサルの仲間ではない。なお、ヒト科については lınʃȷe 参照。 日常語における ləɒ（動物）は、生物学的な分類とは異なり、霊人や犬もまとめて表す。日常語の ləɒ は要するに「動くいきもの」程度に捉えているために、このようなことが起こる。だが、生物学的な意味では霊人は動物界 (ləɒɑcıɒ) に含まれない。ドメイン以下についてはリンネの始めた地球の分類によく似ているのでなじみやすいはずだが、細かいところで違いがある。地球の生物分類は日々変わっているように、不動のものではない。アプリオリであるアンティスにおける生物分類は、細かいところで地球と異なるので注意。 ・生物の分類 超ドメイン (ıɒıʃ)： アルテから派生したもの（エルト、サール、ユーマの一族、テームス、アデル……）と、アルテが分裂した際の余波の結果生まれたもの（動物、植物、微生物……）とに分かれる。 前者が ıʃen、後者が eʃın。 ドメイン (eɒcʃ)： アルカは３ドメイン説を取る。すなわち、ドメインを古細菌、真正細菌、真核生物に分ける。 界 (ɑcıɒ)： より細かく厳密な定義よりも、分かりやすく単純で、多くの国民に理解されやすい分類を好む。 そのため、アルカでは界は４界に分けている。動物界、菌界、植物界、原生生物界である。 門 (cɑıl)： 節足動物や脊索動物などといったレベル。 亜門 (lelʃeɒ)： たとえば脊椎動物は脊索動物のさらに内訳であり、これを亜門 (lelʃe) という。 網 (ʃıll)： 哺乳網、鳥網などのレベル。日常的には「哺乳類」「鳥類」などのレベルのこと。 目 (lıµɑ)： 霊長目などのレベル。日常的には霊長類と呼んでいるレベルのこと。 科 (eµn)： ヒト科などのレベル。 属 (ʃıʃȷ)： ヒト属、モクセイ属などのレベル。例えばギンモクセイはモクセイ科のモクセイ属で、その種としてギンモクセイがある。 なお、キンモクセイは種でなく、ギンモクセイ種の変種。 種 (lcʃe)： 上記のとおり。 ・命名 生物は超ドメイン〜種までの９段階で分類されるが、いちいち９段階の名前を付けていたら冗長すぎる。実際には種と属があれば十分なので、この２タクソンを使用する。 種と属はこの順序で並ぶ。姓名と同じである。lecn ɥəʃcı はユティア家のレインだが、それと同じことである。○○属の○○種ということで、種属の順に並べる。例えば紗枝の学名は "ɑcıȷɔɒʃ ıuelınʃ"（死神属夢織種）となる。 ・人間と霊人 異世界 ɥəɒını の存在を知っているアトラスには、ユマナを蔑む文化が時代を通じて存在した。本来は現実のアシェットが自分たちを霊人と呼び、それ以外を人間と呼んで蔑んだことに端を欲する。神話ではレカイ人を霊人とし、ユマナ人を人間としている。 生物学では、人間は動物界のヒト科に属する。一方、霊人は ıʃen に含め、動物界に属さない。つまり紫苑は動物でヒトだが、レインは動物ではなくヒトでもなく ıʃen の一種。 霊人と人間はよく似ているが、発生も分類も異なる。一部の神学者は人間と霊人の違いを uccɑ の有無で捉えるが、『紫苑の書』から分かる通り、人間でも一部のものは魔法を使える。また、µɑ のセレン少年も人間であることから、その考えは誤り。ただし、『紫苑の書』は架空の中の架空であるから、反証になるのは異世界の少年セレンの例のみ。 ・一般的認識 一般人は門以上は知らない。網より下しか知らないため、節足動物などというのは存在もロクに知らない。 アルバザード人は日本人より遙かに生物に疎く、自分たち人間のほかには犬猫などの哺乳類、鳥、魚、虫くらいしかいないと思っている。だからミミズなどはすべて虫になる。カエルはさすがに虫とは思っていないが、カエルという分類だと思っている。両生類だということは、進学校の生徒以外分かっていない。 また、ıʃen の分類は誰でも知っているにもかかわらず、eʃın の分類には極めて弱い。蝙蝠は鳥だと思っているし、鯨は魚である。 アルバザード人が生物に弱いのは、そもそも自分たちが ıʃen であって eʃın でないからである。eʃın は搾取する対象としてしか見ていない。同様に地球の鉱物資源や自然も ıʃen でないから環境意識も薄く、自分たちが困らない程度に搾取しようとしか思っていない。ただ、eʃın でも犬猫などには愛情を注ぎ、家族のように捉えるという特徴がある。 また、アルバザード人は身近な動物以外には極めて強い嫌悪感を示す。犬猫やリスや小鳥や金魚など、そういったものは可愛いと思えるが、両生類だ爬虫類だ虫だと言ったものには過剰に反応して嫌がる。 ・現実 現実には、言語を担当したセレンと、文化風土を担当したリディアが、犬猫などを除いて生物を嫌悪するというところから上記の設定が来ている。 セレンは埼玉の田舎暮らしだが、家が新しかったため遮蔽性が高く、家に虫などが入ってこなかった。そして何より本人が小さいころから人間と猫以外の動物を嫌悪していた。特に虫はアリでも触れなかった。カブトムシは当時の少年だったので飼っていたにもかかわらず、触 れ な か っ た。アニメも動物が出てくるものは嫌った。 一方、リディアはフィンランドの片田舎暮らしで、家は粗末だったが、寒すぎて埼玉ほど虫がいない。それで幼少期を過ごしたため、虫などに対する慣れが少なかった。その後南へ移住してから虫を見て、ひどいショックを受け、嫌悪感でいっぱいになった。そのため、アルカは人間およびその周辺以外には冷たい。 また、アシェットとしては自分たちを霊人とし、それ以外を人間としていたため、自分たちと周りを分けることが必要だった。また、隔離することで自分たちの帰属意識を高める狙いもあった。アルカの生物学分類はそういった政治的思想的な求心力を高めるためのものでもある。

µəɒıɑel ［生物］生物学、生物。科目名→ ɑeldınʃ ［レベル］4 1L ［語法］ ［生物］タグは生物学、人体などの器官、動物界植物界以外の生物に付けた。［動物］は動物界、［植物］は植物界および植物学に付けた。 ［文化］ アズゲルから存在したが、リュウが体系化した。一方、生物分類はカコでアルシアが大成した。

µəɑcʃ ［魔法］［ジョブ］魔術師、ルーディット ［魔法］ルティア人魔導師（厳密には誤用） ［レベル］3 ȷzɑ 1L:µcɑcı:ın が付かないので注意 ［文化］ アルバザード人は通常 ıµʃın で「魔術師」のことを指すので、あえて µəɑcʃ というときは、厳密に魔術師を指したいときと、あとはルティア人魔導師を指す場合である。

µəɑcȷ ［魔法］魔術、ルーディス ［レベル］3 ȷzɑ 1L:µcɑcı:µəɑcı ［文化］ 西洋魔法アルトのうち、最もアルバザード人にとってなじみの深い一般的な魔法体系。火の ɑıc、水の eµcı、氷の uelʃ、回復の leı、天秤の ɒeȷʃ など。アルシアによって体系化され、時を経てルティアで深く研究された魔法体系。アルシアとルティアの努力と歴史により、あらゆる魔法体系の中で最も整備された体系を持っている。そのため種類が多く、それでいてよく分類されていて扱いやすい。アルバザード人は通常 ıµʃ というとこの µəɑcȷ を指すので、ıµʃ を「魔法」と単に訳すことが多い。厳密な訳語は「魔術」である。従って ɑıc は黒魔術 (ueµµəɑcȷ) と言うべきであろうが、アルバザード人の一般的な語感では単に ueµıµʃ としている。

µəɑcı ［人名］ルディア ［組み数字］1／１５ ［レベル］4 lılɔ: 古アルカでの意味はルディが「氷の魔法」。 ［文化］ メテの第１使徒。『幻想話集アティーリ』では人間で最強の魔法使いとされる。

µəɑcı(J) ［人名］ルディア ［レベル］5 J0 ［文化］ (ɥəəɒı M1Ꮻ:MΔL1) アルヴェーテ多神教派の中心人物。時魔導師で、極めて長寿であった。 ɥəəɒı MJM1 µəɑcı は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派・独立し、selclı に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる。

µəɑcılcl ［化学］アクチニウム 1Δ: 制

µəbcc lɔlɔȷ ［人名］ルビィ＝ロロス ［レベル］4 古 : 語源不詳 ［文化］ → lɔhılə （ʃcɑ ʕ lcȷ ɑıu →）第４期４代アルシェ準ハルマ。ラルドゥラの実妹。こちらは実在。

µəbce ［名詞］忠誠、忠義、忠誠心 ［レベル］4 1L: 古 :µəbccʃeeze（ルビィのような）µɑ で最も高い忠誠心を示した人物。 ［語法］ アルバザード人はこれと決めた相手に忠誠を尽くすことがある。例えばそれは恋人かもしれないし上司かもしれない。忠義は篤く、期間も長く、しばしば一生の付き合いになる。夢織のランヴェムなど。 【成句】 µəbce e lılın 犬馬の労 【用例】 µəbcc ʃcl µəbce. ルビィは忠誠心が高い（忠実である） lı ȷc µəbce. 彼は不忠義だ。 ［メタファー］ʃcl µəbce ɥən µəbcc ルビィのように忠実な

µəs ［人名］ルージュの略称 ［組み数字］１３／２８ ［レベル］1 古 :ɔuc ıʃ:µəəs

µəsȷel ［名詞］大言壮語 ［レベル］3 JJ:µəəs/ȷel

µəsıȷl ［化学］ミリスチン酸 1L:µcɑcı: Ｃ１３なのでルージュ。カルボン酸の一種。

µəl ［形容詞］本当の ［反意語］ɑce ［レベル］2 1L: 赤 :µəlc µəlc:µəlc:ləɒcllɔ ［語法］ 主観的な真偽が本当と嘘で、µəl と ɑce。客観的な真偽がまことと偽りで、lın と enl。 【用例】 ʃə eʃ µəl e, en ɑce ɑeel. 本当よ、嘘じゃないわ。

µəlnı ［名詞］本音、本心 ［動詞］ɥəl を実感する、実感する ［普通動名詞］実感 ［類義語］ɑcɔnı ［レベル］3 1L 【成句】 c{lɔn} µəlnı 心から、心の底から、本音で→ c ɑcɔnı

µəlc,ɑ µəl、lın

µəın ［動詞］ɥəl を ı まで押し広げる、押し広げる ［動詞］ɥəl（果汁など）に水などを加えて還元する、還元する ［電算］［動詞］ɥəl という圧縮ファイルを解凍する、解凍する ［数学］［動詞］ɥəl（数式）を展開する、展開する ［電算］［普通動名詞］解凍 ［数学］［普通動名詞］展開 ［普通動名詞］還元 ［反意語］lɔcȷ ［レベル］3 J0:µɔl/hın を複雑に変化→ルーアン ［語法］ 圧縮の逆。パン生地のように押して大きくすること。

µəəuen ［アトラスの国家］ルーヴェン ［レベル］5 J?:µcɑcı

μəəɑ ［名詞］興奮 ［形容詞］興奮した、乱れた。他 μeɑ の反対となる語義多数。 ［動詞］ɥəl を興奮させる、興奮する、熱くさせる、乱れる、乱れさせる、乱す、（場所などを）荒らす、覚醒させる、覚せいさせる ［魔法］ルーフ（バーサク）。害の中位白魔法。味方の攻撃力をあげる代わりに理性が吹き飛ぶ。 ［反意語］μeɑ ［レベル］2 ȷzɑ 1L: 赤 :ɹə əɑıc μəəɑıc:μəəɑıc:μəəɑ 【成句】 eᴅ μəəɑ{ɑıın} ı 夢中になる、熱中する、はまる、ハマる eᴅ{ləʃ} μəəɑ ᴅcl uelɑ 酒癖が悪い 【用例】 ın hcnɔʃ μəəɑ en ᴅeμel. 私は興奮を抑えきれなかった。 ın nıʃ μəəɑ ᴅın nı ʃlə μı⅂. あまりに恥ずかしくて気が動転した。 ın nıʃ μəəɑ ᴅcl hcʃ. 私は慌ててあたふたした。

μəəɑ⅂cȷʃ ［形容詞］場末の、閑古鳥がなくような ［レベル］4 ⅃⅃:「荒れ果てた芝生」。アルバザードは放っておくと芝生が生える土壌だが、手入れをしていない芝生なので μəəɑ な状態で生える。そこから場末や閑古鳥を示すようになった。

μəəɑȷcμ ［美容］肌荒れ、肌あれ ［レベル］4 ⅃1

μəəɑnıᴅ ［生物］交感神経 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbıleıʃ

μəəɑɥənɔ ［動詞］気迫 ［レベル］4 ⅃⅃:「興奮した霊力」【用例】 μəəɑɥənɔ ʃcn⅂ı 凄まじい気迫 c⅂ μel ᴅcl μəəɑɥənɔ 気迫に圧倒される

μəəɑɥəlıl ［物理］乱流 ［レベル］5 ⅃1:「乱れた流れ場」ではなく「乱れた流体」が原義となっている。

μəəɑın ［医療］覚醒剤、覚せい剤 ［反意語］μeɑın ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

μəəɑıc ［形容詞］躁な ［医療］躁、そう ［反意語］elȷ ［レベル］3 古 μəəɑıc（興奮した）

μəəɑıc⅂ɔdleʃ ［音楽］メジャーコード ［レベル］5 ⅃1

μəəɑıcɑınɑ ［音楽］ヒップホップ ［レベル］5 ul;「躁に盛り上がる」⅃1

μəəɑıcɑɔɔnı ［音楽］長調、メジャー ［レベル］4 ⅃1

μəəs ［組み数字］１３/２８ ［交通］ルージュ通り ［名詞］ルージュ組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ⅃⅃

μəəs beeȷ ᴅcɑccʃ ［人名］ルージュ＝ベース＝ミディート ［組み数字］１３/２８ ［レベル］2 古 :μəəs は語源不詳。beeȷ は古で「最後」の意。ルージュがアルシェの使徒であることからオヴィが付けた。ミディートは『カコ』で小説アンクノットに記載。 ［文化］ (ʃcɑ ʔ →) 第４期４代アルシェ第１３使徒。男性。ıμɑen/ılben。１７４ｃｍ、７０ｋｇ。髪は金色で短く、直毛でツンツンでしている。ヘーゼルの瞳。肌は白：黄＝９：１。

z

zφ ［歴史］アズゲル、ızφeμ ［レベル］3 ⅃1

zı,ılʃ zɔᴅ zıᴅɔ,ɑ.ⅼc⅂

zıʃ ［名詞］たんす、タンス、箪笥 ［反意語］ⅼʃıʃ ［レベル］3 ⅃0:zɔᴅ/lıʃıl（木の入れておくところ）【用例】 ın ɑıʃclıʃ ȷıb c zıʃ. 洋服ダンスから服を取り出した。

zı⅂ ［動詞］ɥəl を ı に掠らせる（軽く接触させる）、掠る、掠れる、かする、かすれる、掠める、かすめる ［普通動名詞］かすり、掠り ［レベル］3 ⅃1: オノマトペ

zı⅂ȷ ［動物］いわし、イワシ、鰯 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :zı⅂（鰯）。語源不詳

zı⅂ȷılᴅıuc ［化学］ビタミンＱ、ユビキノン、コエンザイム、コエンザイム８１０ ［レベル］5 ul;/ ⅃ʔ

zın ［名詞］古アルカの７ ［レベル］3 赤→ ȷcɑıll

zın(⅃) ［人名］ザナの略称 ［組み数字］９/２８ ［レベル］1 ȷeμen

zın,ⅼȷ⅂ ꟼ zıᴅɔn.Ⅰ

zınʃe ［軍事］迷彩 ［レベル］5 ⅃1:zıcn/ʃe

zınʃeȷıb ［軍事］迷彩服 ［レベル］6 ⅃1

zınʃede⅂l ［軍事］光学迷彩、迷彩技術 ［レベル］6 ⅃1

zın⅂ ［名詞］用事、用件、用 ［レベル］3 1Ⅿ: 制 :zın 【用例】 ın ʃcl zın⅂ uɔll cᴅ Ⅰeȷʃ. 明日重要な用件がある。

zınȷeμφ ［経済］投機 ［レベル］5 ⅃⅃:「ギャンブル的な投資」→ ȷeμφ

zınueμ ［魔物］ザンヴェル（怨恨樹）：第三十六天：土の氷天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:zɔᴅ/ınueμ ［文化］ 霊族。殺されて埋められた人間の死体を吸って大きくなった魔物。大木で、無数の根の先には殺された人々の上半身が付いている。枝は殺された女と子供の上半身からなり、一人一人が呪いのこもった魔法を放つ。体力が多く、魔力も尋常ではない。枝と根を根絶すると幹の上半分が折れ、切株の中から最初に殺された若い女の死体が上半身を表わす。こいつを倒せば勝利。

zınueμzedl ［天文］北斗七星の一部 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ 日本のものとは星座線と星の数が異なる。ザンヴェル内で構成され、ウェクダ、メクレスなどを含む。メラクは含まない。

zınueμınʃ ［医療］新型うつ病、適応障害 ［レベル］5 ıl;zını/ueμınʃ。これは新しい人格障害として ıl で見つかった。 ⅃ʔ ［文化］ 新型うつ病だけでなく、一部の適応障害も含まれる。

zınɑ ［名詞］アドレス、宛先、宛名、宛て先、名宛、名あて、なあて、名宛人 ［電算］アドレス ［レベル］3 1ʕ: 制 :zın

zınɑɑɔnʃ ［電算］アドレスバス、パス 1L

zınφe ［単位］ザンゲ ［レベル］5 ⅃1: 古「円の木」で樽のこと ［文化］ ın⅂ɔ

zınφe(⅃) ［生物］［医療］髄 ȷzl ⅃Ⅿ

zınφe.ɑu zınφe、zɔφl zıᴅɔ/φe

zınφeıμ⅂ ［生物］［医療］髄会 μɑ;/ ⅃Ⅿ

zınl ［娯楽］サイコロ、さい、賽、ダイス ［レベル］3 1ʔ: 制 :zınılȷ「ザナドゥの手」。古では zınıoı。 【用例】 dcⅼ zınl サイを振る

zınlıll ［名詞］さいころの目、サイコロの目、出目 ［レベル］3 1Ⅿ: 制 : さいころの数

zını ［組み数字］９/２８ ［交通］ザナ通り ［名詞］ザナ組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ⅃⅃

zını,ɑ ⅼʃıᴅ e

zını uɔzıᴅ φenɔȷ ［人名］ザナ＝ヴォザム＝ゲノス ［組み数字］９/２８ ［レベル］2 古 : ザナは語源不詳。ヴォザムはヴォザモを隠語化したもので、ヴォザモは弓矢の意。ゲノスは『カコ』。 ［文化］ → zınueμınʃ (ʃcɑ L →) 第４期４代アルシェ第９使徒。男性。ȷeeʃ。１６８ｃｍ、５２ｋｇ。１０代のころは髪の色がやや金に近かったが、２０代ごろからわりと色が濃くなってきた。亜麻色と金の間で肩より短い髪で、猫っ毛。緑の瞳。肌は白：黄＝６：４。 ミリオタでゲーオタ。性格は明るく軽い。というかチャラい。好きなことには熱中するが嫌なことだと無気力や鬱っぽくなったりすることが一面もあるため、zınueμınʃ の語源となった。 【成句】 zını dcldın bıɑ ɥə μcɑcı 口は災いの門。ここでは言えないようなことでリディアをからかって泣かせ、その後殴られたことから。 ȷeμn e zını ⅼınʃ uıɑe ıl ıleʃ ザナの浅知恵、アシェットに大迷惑：生兵法は大けがのもと

zınıl ［名詞］不屈 ［組み数字］４/６ ［レベル］4 ⅃1: 古 zını/ⅼıl「立ち続ける」＝「負けない、屈しない」［文化］ 負けるものか、くじけるものかという不屈の精神のこと。 （立ち続けるが語源だが、日本語の「屈しない」もおおむね同じ語源ではないか？字からして膝を折らないとか座り込まないということであろう。よく人の心が現れた良い表現だ）

zıu ［数学］ベクトル ［レベル］5 ⅼı⅂ʃı: 矢 / 力。力の部分がスカラーで、矢はそれをベクトルにするための方向を表わすのだろう。

zıuɑə ［数学］ベクトル量 ［レベル］5 ⅃1

zıᴅ ［生物］脚 ［反意語］ʃı⅂ ［レベル］1 1L: 古 :dıdızıᴅɔn（バレエなどの踊りをする少女の白い脚）から。 ləoı,ɑ:ləı,ɑμɑ:lə dcɥɔn（棒状）:ȷıɥɔ,ılʃ 【用例】 zıᴅ nɔın ınɑ ᴅıφ ᴅcl ueᴅ. 恐怖で足が震えていた。

zıᴅʃ ［動物］キツツキ、啄木鳥、ウッドペッカー ［レベル］4 ⅼı⅂ʃı:zıᴅʃ ← zıᴅɔ⅂əʃɔ（木の鳥）から。

zıᴅȷ ［動詞］ɥəl をまたぐ、またぐ、跨ぐ ［動詞］ɥəl を１つとばす、飛ばす、省略する、省く、飛び級する→ ⅼc⅂ ［化学］昇華の日常的な言い方 ［レベル］3 1Ⅿ: 制 :zıᴅɔ

zıᴅɑɔnʃ ［交通］歩道 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleıʃ ［語法］ lınɑɔnʃ

zıᴅᴅcll ［卑語］びっこ、ビッコ、跛 ［レベル］3 ⅃1 ［文化］ 使わないこと。

zıᴅd ［名詞］案山子、カカシ、かかし、スケアクロウ、スケアクロー ［レベル］4 1ʔ: 制 :ⅼı⅂ʃı:zınızıᴅɔ（立っている木）

zıᴅı ［ユマナ］釈迦、仏、仏教 ［レベル］4 古 :zıᴅı,zıᴅɔɥəəᴅı「木の人間」

zıᴅıᴅɥə⅂̇ıle ［ユマナ］［宗教］仏教 ［レベル］4 ⅃ʔ

zıᴅcı ［地名］ザミア ［レベル］6 古 ［語法］ ソエンの谷を越えたところにある街。近くにザミア森林があり、異性魔王アシュが黒い城を建てて潜伏した。ザミアの森はラルドゥラ、ザミア郊外はギルとの出会いの場。

zıᴅɔ ［生物］股、股間 ［動詞］ɥəl を ı にまたがらせる、またがる、跨る ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :zıᴅɔᴅıcn（体の中で木の枝のように分かれているところ） ［語法］ 脚は開けるが股は開けないので、hɔᴅ zıᴅɔ は不可。hɔᴅ zıᴅɔ だと股関節を開くという意味になる。

zıᴅɔ,ɑ zɔᴅ zını/ᴅɔ zını が「立つ」。ᴅɔ は形。「立つ形の」

zıᴅɔ⅂ɔdleʃ ［音楽］バレーコード、セーハ μɑ;/「またがっているコード」 ⅃ʔ 【用例】 ıμ zıᴅɔ⅂ɔdleʃ c ʃ ı Ⅰ ʃ から Ⅰ をセーハする ıμ zıᴅɔ⅂ɔdleʃ ıl cl zɔl 全ての弦をセーハする ıμ zıᴅɔ⅂ɔdleʃ c ʃoıμ ı ⅼıμʃ 1 弦から４弦までセーハする ʃeeue ɑel Ⅰɔdleʃ eʃ zıᴅɔ⅂ɔdleʃ ɑı. Ｆのコードはセーハが必要だ。 ʃ eʃ zıᴅɔ⅂ɔdleʃ ɑı. Ｆはバレーコードだ → Ⅰɔdleʃ

zıᴅɔn ［魔法］［アイテム］杖、魔法の杖 ［類義語］ıμzɔn ［レベル］3 zφ;zıᴅɔn,ɑu.heᴅ 赤 ［文化］ ıμzɔn

zıᴅɔn,ɑu zıᴅɔzıᴅɔ,ɑu zıᴅɔ/n

zıᴅɔnueμınʃ ［医療］杖型人格障害 ［レベル］5 ıl;/ ⅃ʔ:ȷeμen/ᴅel ［文化］ ueμınʃ

zıᴅɔzıᴅɔ,ɑu zɔn、zɔn e zɔᴅ /

zıᴅɔzɔl ［音楽］チェロ ［レベル］5 1ʕ: 制

zıᴅɔɔμı ［生物］股関節 ［レベル］3 1L:ȷeμen

zıᴅen ［被服］ビキニライン ［レベル］4 ⅃1:zıᴅɔ/μecn

zıφ ［擬音］がさごそ、ざくざく。落ち葉や紙などを踏んだときの音、書類の山を探すときの音。 ［レベル］3 1L: オノマトペ 【用例】 ın ləⅼıʃ ɑɔnʃ le ᴅeʃʃe⅂ ⅼı ɑɔ zıφ zıφ. 落ち葉の中をざくざく音を立てて歩いた。

zıdl ［生物］気管支 ［レベル］4 1L:ȷeμen:zedl/ȷıdl

zıdlɑıcz ［医療］気管支炎 ［レベル］5 1L

zıdlhıh ［医療］気管支喘息 ［レベル］5 1L:ȷeμen

zıl ［形容詞］［ネガティブ］不思議な、奇妙な、変わった、妙な、変な、風変わりな、おかしな、見馴れぬ、みなれぬ、見慣れぬ、異様な、おかしい、

突飛な、不自然な、不可解な、いかがわしい、奇抜な ［反意語］ɥəɒ cl、ɿnɔɔɟ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :μcɑcɪ:ɪclɪc,zɪclɪc。zɪclɪc は ɑɪcz/ɪclɪc で、z が ɪclɪc にくっついてしまったもの。ɪclɪc はスライムであり、不思議なという意味もある。ɑɪczɪclɪc（ダイズアイライ）は王様スライムのことで、最強のスライムの意味。【用例】 ɪn nɪʃ zɪl cɒ ɑcɟ. 今日はヘンな気分だった。
zɪɭ̃ ［生物］鼠径部、鼠蹊部、鼠頸部、鼠頚部、鼠経部、鼡径部、ソケイ部 ［レベル］4　ɺ1:zɪɒɔ/ʃɔɭ̃
zɪɭ̃ɟɪcɟ ［生物］鼠径溝、鼡径溝　μɑ;　ɺɱ
zɪɭ̃ɒɔd ［生物］鼠径靭帯、鼡径靭帯　μɑ;　ɺɱ
zɪlnɪ ［名詞］変な感じ、不思議な感じ ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ
zɪlsenʃ ［気象］異常気象 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ
zɪleφ ［動詞］ɥəl を冒涜する、冒涜する ［普通動名詞］冒涜 ［レベル］4 ɺɺ:ɪlejʌə ［語法］ 神、非常に位の高い人物、神聖なもの、処女の貞操などを貶め汚す場合に用いる。例えば zɪleφ ɥɔlɑɪ とは言えない。
zɪɪn ［動詞］ɥəl をざわめかせる、ざわめく、衣ずれさせる ［自然動名詞］ざわめき ［擬音］衣擦れの音 ［レベル］3　古 【用例】 zɔɒ ɪnɑ zɪɪn. 木々がざわめく。
zɪɪφ ［動詞］ɥəl（水など）を ɪ にざばっとかける、かける ［類義語］ɟdɪl ［レベル］2　古 : オノマトペ 【用例】 ɪn zɪɪφ eμ ɟɔμʃ ɿɪ eμl. 風呂で冷たい水をかける。
zɪcn ［サール］ザイン ［軍事］スパイ、諜報員、諜報、間諜、偵察 ［動詞］ɥəl を偵察する、偵察する ［レベル］3　φcl: 古 ［文化］ 透明で見ることのできない手長猿型のサール。力はなく戦いには向かないが、諜報能力に優れる。
zɪcɒ ［色］透明な、シースルー ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ:zɪcn/ncɒ
zɪcl ［料理］ゼリー、ジェリー、ジェロ、ジェル ［レベル］2　1ʔ: 制 :ɪclɪc（スライム）
zɪɔ ［名詞］ゼラチン ［レベル］5　19: 制 : 古 :zɪclɪc(ɪclɪc)「スライム」
zcɿ ［形容詞］次期、後釜の ［反意語］sɪʃ ［レベル］4　@ 1L
zcɿueʃ ［論理］選言 ［レベル］5　1ᚨ: 制
zcɿɔ ［名詞］選択肢 ［名詞］候補← ɪjcz ［レベル］3　1ʕ: 制 :zcɿ 【用例】 leeu zcɿɔ ɟɔl は選択肢から外れる
zcɿɔdeμ ［経済］オプション ［レベル］6　1L
zcɒ ［政治］票 ［動詞］ɥəl に投票する、投票する ［普通動名詞］投票 ［レベル］3　1ʔ: 制 :zcφɒɪɟ（選ぶ紙）
zcɑ ［生物］あご、顎 ［レベル］2　μɑ　1L: 古 :ɑzc　ɑzc:ɑzc ［語法］ ɪjcɑ 【用例】 zcɑ lcɟ 顎が細い
zcɑɥəlɪʃ ［動詞］［非言語］ɥəl に顎をくいと動かして指示させる ［レベル］3　ɺ0:ɒelcɑcɪ lceμ 【用例】 ɪn zcɑɥəlɪʃɪʃ lɪ ɪ ɟeɑ lec. 私は彼を顎で使って本を取らせた。
zcɑzeɿʃ ［生物］オトガイ、おとがい、頤　μɑ;/　ɺɱ
zcɑɔd ［名詞］脚注→ lec ［レベル］6　ɺɺ
zcɑeelcn ［生物］下顎後縁　μɑ;/　ɺɱ
zcddɔ,ɑ　μeʃ
zchɔ ［動物］ワニ、鰐、アリゲーター、クロコダイン ［レベル］3　1ɱ: 制 :lɪɭ̃ɪ:ɑzchɔ「歯」からきている。
zchɔɿɪɑ ［地球の国名］レソト　1L: 国章にワニ
zcμ ［動詞］ɥəl を決めあぐねる、決めあぐねる、迷う、困る ［反意語］sɪl ［レベル］3　@ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ
zcɭ̃ɔncɪ ［アトラスの国家］ジルコニア ［アクセント］zcɭ̃ɔnc↑ ［レベル］5　ɺʔ:μc ɑcɪ
zclcɔʃ ［数学］歯車式計算機　ɺ0: 古 :ɑzchɔhɔlɔ/ʃe（歯車の） ［文化］ cɒəl 1ʔ1ɱ に時の経済省からの要請を受けて、cɒəl 1ʔɺ1 に clɒc ɪɿcn ɪj が開発したもの。歯車を用いたもので、加減法しか扱えなかった。　cɒəl 1ʔɱΔ に息子の ɪjʃelʃ ɪɿcnɪj が乗除算にも対応したものを作る。ɪj ʃelʃ は二進数の考えを導入し、多段式の歯車を用いた。しかし ɑclcɟ ɒɪcn の姦計により、ɪɿcnɪj 親子は国家反逆の罪を着せられ処刑。アステルトの計算機は公開されないままマイン家に隠された。　cɒəl 1ɱLʕ にディリスの子孫である hɥəlɪ ɒɪcn により再発見され、経済省に引き渡され、ようやく実用化に至る。　この計算機の二進法が後のリュウの電動コンピュータに影響を与える。
zclɔ ［名詞］歯車、ギア、ギヤ、変速装置、ギアボックス、はめ歯歯車 ［交通］ギア ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔhɔlɔ ［文化］ 車のギアは通常５速まで。スポーツカーなどは６速まで。呼び方は例えば１速が zclɔ 1。【用例】 ɔɪnc e zclɔ eɒ ɑɔnl ɪ lɔɿ. 歯車の歯が咬み合う。　ɒcɥə zclɔ ギアを変える、ギアチェンジする
zclɔʃ ［交通］クラッチ、クラッチペダル ［レベル］5　ɺ1
zclɔφel ［軍事］歯輪式　μɑ;/　ɺɱ ［文化］ φel
zclenφɔ ［地名］ズィレンゴ、ジレンゴ　ɑ;e ［文化］ セルア山の麓にある湖。
zcɪn ［単位］１０の－２７乗　ɺ1:elczcɪn
zccn ［動詞］ɥəl を覗く、覗く、のぞく ［普通動名詞］覗き、のぞき ［レベル］3　19: 制 : 見るから n を付けた
zccnɒɪl ［名詞］覗き穴、覗きあな、のぞき穴、のぞきあな ［工学］ファインダー。カメラの。 ［レベル］4　μɑ;/「覗き穴」| μʃ　ɺɱ ［文化］ カメラのファインダーはその後 ɪl で穴だけでなく液晶画面にもなったが、下駄を入れずに下駄箱というのと同じ理屈で、言葉だけは穴でなくとも zccnɒɪl と呼び続けている。
zcɔ ［生物］牙 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔ　ɑzchɔ:ɑzchɔ
zcɔn ［被服］トッグル、トッグルボタン ［レベル］6　ɺ1
zcɔnelb ［被服］ダッフルコート、トッグルコート ［レベル］5　ɺ1
zcɔl ［動詞］ɥəl を解析する、解析する ［普通動名詞］解析 ［レベル］4　ɺ1: 古 ɑzchɔ。ここでは歯車。
zɔʃ ［動詞］ɥəl をよじ登る、よじ登る ［普通動名詞］よじ登り、とうはん、登攀 ［反意語］ɪlzɔʃ ［レベル］3　ɑu;e　古 :ʑ̌ɔʃ
zɔʃɑɔɟʃ ［名詞］ザイル ［レベル］6　μɑ;/　ɺʔ
zɔɿ ［名詞］トップ、頂上、頂点、屋上、山や建物の屋上、天板 ［生物］頭頂（つむじ、旋毛、旋風を含む） ［名詞］転 ［名詞］応用、活用 ［美容］トップ ［動詞］ɥəl を応用する、応用する、活用する、活かす→ zɔlφe ［動詞］ɥəl を ɪ まで拡張する、拡張する→ ɪdcɟ ［普通動名詞］応用、活用、拡張 ［電算］デスクトップ ［名詞］主席 ［文字］アペクス ［生物］百会 ［類義語］zɔɿ、ɪdcɟ ［反意語］zeɿʃ ［レベル］2　先 zɔɿ（頭） ［文化］ 屋上は一戸建てにはない。集合住宅の最上階で、上に空が見える。大抵緑地化されている。ここを公園とする集合住宅もあり、密集地帯に多い。
zɔɿɟ ［動物］ラッコ ［レベル］3　lɪɭ̃ɪ: 貝を壊す者。ɑzəl/hɔɿɿ/ɟ からだろう。
zɔɿuɪnʃ ［法律］応用法 ［レベル］4　1L ［文化］ 基本七法以外のすべての法。基本七法に続いてカサンが主体となって作成した。ヴェレイの法を参考に、新時代に合うように組み替えたもの。ヴェレイの時点で法は２０００本ほどあったため、応用法のほうが遥かに多かった。
zɔɿɑɪnʃe ［遊離副詞］［形容詞］まさに～したての、ちょうど～したての、できたてほやほやの ［類義語］ɑɪnʃe ［レベル］2　ɺ0: 頂上を越えたばかりの ɑɪnʃe。 ［語法］ lɪczɪ
zɔɿdɪnʃ ［名詞］応用科目 ［レベル］2　μɑ　ɺɺ ［文化］ ɑeldɪnʃ
zɔɿɪn ［名詞］勝ち組 ［レベル］4　ɺɺ
zɔɿeʃ ［形容詞］究極の、昇りつめた ［レベル］3　μɑ;zɔɿ/ʃe　ɺʔ
zɔn ［名詞］杖、棒、スティック、棒切れ、ロッド、さお、竿、バトン ［音楽］スティック、ばち、バチ、撥、マレット ［運動］棒や杖状のものとボールを使って行うスポーツ ［俗語］ちんこ ［電算］バー。スクロールバーなどのバー。 ［言語］［文字］バー ［名詞］キュー。ビリヤード。 ［類義語］ɪueleʃ、ɪμzɔn、zɪɒɔn　μɑ;zɪɒɔn.l ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔzɪɒɔ, zɪɒɔn ← zɪɒɔ（木）から派生。　zɪɒɔn:zɪɒɔn:lə ɑcz:lc,ɪlʃ　ɪuɔ, zɪɒɔn, zɪɒɔzɪɒɔ: 【用例】 zɔn ɑcl 長い棒
zɔnʃ ［数学］桁、ディジット、位、くらい ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔ。zɪɒɔ は木という意味だが、数字の桁を示すアポストロフィーのようなものを zɪɒɔ（木）と呼んでいたので、それを制アルカ風に呼んで zɔnʃ とした。zɔn は制アルカで木である。 【用例】 zɔnʃ ɑc{ɑcl} たくさんの桁、大きな桁。桁数が多いと横に数字が長くなるので ɑcl ともいう。
zɔnʃɟeɑ ［経済］デノミネーション、デノミ ［レベル］4　ɺ1:「桁切り」
zɔnʃɟeɑ e ʃoen ［経済］神のデノミ ［レベル］5　ɺ1 ［文化］ ɟɔlʃ　ʔɺ0 年にミロクが行ったデノミ。μɑ 程度の水準にまで引き下げた。
zɔnʃeu ［数学］位取り ［レベル］3　ɺ1 ［語法］ ɪl
zɔnɒɪɟ ［名詞］ゾンマス ［類義語］belɒɪ ［反意語］ɪlɒcɑμe ［レベル］4　ul;zɔn/ɒɪɟ。剣と盾に対し、棒きれと紙。　ɺʔ ［文化］ 現実のどうしようもない男どものこと。
zɔnɒɔɔɿ ［芸術］パステル ［レベル］4　1ʕ: 制 ［語法］ パステルカラーのという意味では ɟclɑen。こちらはあくまで ɒɔɔɿ。
zɔnɑ ［動詞］ɥəl をショットする、ショットする、打つ、撃つ。φell より弱い。 ［普通動名詞］ショット ［レベル］3　1ɱ: 制 :zɔn
zɔnɑclɑɪc ［医療］棒灸　μɑ;/　ɺɱ
zɔndɔɑ ［料理］バゲット ［レベル］3　1ʕ: 制
zɔnlcl ［化学］ネオン ［レベル］4　1Δ: 制
zɔnlɔɔb ［被服］キャスケット　μɑ;/　ɺɱ ［文化］ ɟɒ でできた。
zɔnɪ ［音楽］木琴 ［レベル］3　"Ｅｅｓｔｅ┤Ｉｎ Ｋｕｋｕｌｉｅｌｅｍ┤ｎ♪" では固定的に zɔnɪ という音形 , 木の音という意味だそうだ
zɔnɪdl ［数学］棒グラフ ［レベル］3　1L
zɔnɔ ［名詞］蝋燭、蠟燭、ロウソク、キャンドル ［レベル］3　1ʔ: 制 :zɔn ɒɔɔ（棒状の蝋）
zɔnɔele ［名詞］燭台 ［レベル］5　ɺɺ ［語法］ ele
zɔne ［運動］ラケット ［レベル］3　1ʕ: 制 :zɔn
zɔɒ ［言語］z の文字 ［数学］三角関数の三角形におけるｏｐｐｏｓｉｔｅの辺。 ［生物］Ｙ染色体 ［名詞］立ちバック ［象徴］生命力 ［レベル］1　ɑ;e　1ɱ: 制 : 木　zɪɒɔ:zɪɒɔ::zɪ,lʃ ［語法］ 第１７文字目の幻字。 ［文化］・性交の体位　男女が立って後ろから挿入する体位。女性がしばしば木や壁などに寄りかかること、また彼ら自体が木に見えることからこのように言う。
zɔɒ(ɺ) ［植物］木、樹木、ウッド ［類義語］ɿɔnɔe、lecɑcɪnʃ ［反意語］sen ［レベル］1　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔ　zɪɒɔ:zɪɒɔ::ɿɔnɔe,ɪlʃ 【用例】 ɪn uɪʃɪʃ eɟɿ eɒ ʃɔɔɿ ɒɔl zɔɒ. 木の下で雨がやむのを待った。　zɔɒ ʃclɪʃ ɪlcɟncɪ uɔl eɒ hɪμ ɔ{ə} cɒel. 木々が赤や黄色に紅葉した。
zɔɒɿ ［名詞］鉛筆 ［レベル］2　1ʔ: 制 :zɔɒɿɪz（木のペン） 【用例】 nɔn ɪʃɪʃ ɟɔɪ ɪ ɒɪɟ ɑcμ ɿɔɿɿɔ zɔɒɿ ɑcμ lel nɪn ɟccnɪ ʃɥə. 白い紙に白い鉛筆で君のこと好きだって書いた（『ほろよい』サントリー）　dcl zɔɒɿ 鉛筆を削る
zɔɒɿdcnɑ ［医療］ノゲ形。鍼尖の一種。　μɑ;/　ɺɱ
zɔɒɿdclɪμ ［名詞］鉛筆削り、鉛筆けずり ［レベル］3　μɑ;/　ɺɱ

zɔɒ˥hiɾ ［名詞］鉛筆体　˩0　［文化］　hiɾɥecn
zɔɒ˥lecȷ ［芸術］鉛筆画　［レベル］5　1L:ɥcɑcɩ:ɩɥbɩlelʃ
zɔɒ˥ɩɑ ［地球の国名］赤道ギニア　1L: 国章に木
zɔɒnəʃ ［名詞］木炭　［レベル］5　ɥɑ　˩˩
zɔɒuɩɥ˥ ［名詞］樹海　［レベル］4　˩1
zɔɒɑɩc ［名詞］焚き火、たきび、たき火　［レベル］3　1ʔ: 制 : 木の火
zɔɒd ［環境］資源　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :zɔɒdɩl（zɩɒɔ（木）から）【用例】 zɔɒd ʃɩɒ 貴重な資源
zɔɒlɩɑ ［名詞］木工　［レベル］4　˩0
zɔɒlcl ［化学］酸素　［類義語］ȷɩd、˥əɒȷɩd　［レベル］4　1Δ: 制
zɔɒlɔɥ ［音楽］木管、木管楽器　［レベル］4　˩1
zɔɒleed ［言語］木構造　ɥɑ:ɒel;/　˩ʔ:ɒel
zɔɒɩɑ ［経済］林業　［レベル］3　ɥɑ;zɔɒ/ʃɩɑl　˩ʔ
zɔɒɩɑɔ ［地学］酸化鉱物　1L
zɔɒc ［化学］酸素イオン、酸化物、オキサイド　［レベル］5　1L
zɔɒɔl ［化学］酸化物　［レベル］5　1L
zɔɒeʃ ［形容詞］生命力のある、しぶとい、しつこい、長持ちする　［反意語］ɒcnɩʃ　［レベル］3　˩1:zɔɒ/ʃe
zɔɒəl ［化学］酸化物　［レベル］5　1L
zɔφl ［名詞］タル、樽、バレル　［レベル］3　古 : 木でできた丸いもの
zɔdɩ ［名詞］たいまつ、松明、トーチ　［レベル］4　1ʔ: 制 :zɔɒdɩɩ（木の光）
zɔb ［名詞］柄杓、ひしゃく　［レベル］3　lɩ˥ʃɩ: 木の容器
zɔɥ ［文末純詞］［lben］ȷec　［レベル］1　˩0:ȷec
zɔl ［名詞］弦　［音楽］弦楽器　［数学］弦　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :uɔzɩɒɔɒelc（弓の糸）［文化］　通常ギターは６弦で、ベースは４弦。５弦ベースなどもむろんある。　弦の呼称は音の高いほうから非序列系組み数字を使って表す。例えばギターなら ʃoɩɥ, ɩɥhɩn, nɩɥʃe, lɩɥʃ, ləȷɔn, ɒcɥl のように。
zɔ˥˥ ［動物］リス、栗鼠、りす　［レベル］3　lɩ˥ʃɩ
zɔlφe ［動詞］ɥəl を応用する、応用する　［普通動名詞］応用　［類義語］zɔ˥　［レベル］4　˩0:zɔ˥/ 古 hɥəφe
zɔlφelɔʃȷ ［電算］コントロールキー　［レベル］4　˩0
zɔlɩdn ［音楽］ギターのブリッジ、ブリッジ　1ʕ: 制
zɔlɔȷn ［音楽］カポタスト、カポ　ɥɑ:neene;/。弦の長さを調整するもので、ネックにつけるものであることから。　˩ʔ　［文化］　地球に少し先駆け、ɥɑ でネーネが発明した。
zɔlɔlʃc ［音楽］アーム、トレモロアーム、ビブラートアーム、レバー。ギターの部品。　ɥɑ;/　˩ʔ
zɔleʃ ［名詞］グロ、グロテスク　［形容詞］グロい、グロテスクな　［レベル］4　ɥɑ:ȷeɥen;zɔl は背中を物が這うような感触の擬態語。eʃ は ʃe。　˩ʔ
zɔleʃclʃɩ ［電算］グロ画像　［レベル］4　ul;/　˩ʔ
zeʃ ［名詞］リストの項目、メニューの項目、科目　［料理］レパートリー　［数学］項　［経済］勘定科目、勘定項目　［反意語］eɑɩ　［レベル］2　1L:zedl（枝）
zeʃʃel ［名詞］法則、法則性、摂理　［類義語］ɔz　［レベル］3　˩˩:ɒel: 紫亞にパズルを出している際、「これらの間の法則性は何かな？」と説明している最中に ɔz の言い換えとして編み出した語。ɔz/ʃe で ɔzeʃ にしようと思ったら既に ɔzeʃ は「目安」という意味でバッティングしたため、ɔz/ʃe/ɩl にした。しかしそのままでは言いづらいため ɔ を落とし、ʃ を増やし、ɩ を母音調和して el にしたもの。ɔz と並行しながら何度も繰り返しているうちに紫亞は法則のことだと理解したそうだ。
zeʃȷɩn ［数学］整式　［レベル］4　1L
zeʃɔu ［数学］移項　［レベル］4　1L
ze˥ʃ ［名詞］底、ボトム、底辺　［名詞］建物の最地下階　［名詞］基本、基礎　［形容詞］基本の、基礎の、初歩の、登竜門的な、根本的な、基本的な　［副詞］基本的に、原則的に、原則として、根本的に　［文頭純詞］基本的に　［経済］底　［反意語］zɔ˥　［レベル］2　1ɱ: 制 :zɔ˥ʃ: 先 zɔ˥（頭）【用例】 ze˥ʃ ɑɩn 深い底
ze˥ʃuɩnʃ ［法律］基本七法、七法全書　［レベル］4　1L　［文化］　日本の六法、六法全書に当たるもの。月法、憲法、刑法、民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法からなり、この順序で収録されている。　七法はリーファ隊のカサンが ʔ˩0 年に作り始め、ʔ˩1 年に制定した。アルソンがこれを広め、実施させた。　革命前の法改正は常に微々たる変化であったが、ミロクはヴェレイの法律を大々的に変え、七法として広めた。　革命前は六法で、文章は難解で、国民は理解できなかった。革命前に比べ、文章量が少なく、言葉も平易で、国民の誰もが読める。　　ミロクは言葉尻を捉えた都合の良い曲解が横行するヴェレイの法典を斬り捨て、あえて条文を減らし、文章も簡素化した。条文そのものを広義的にすることで、卑怯な曲解をする必要性を遮断し、裁判官の裁量を強めた。　例えば日本では政教分離がきちんと書かれているのに創価学会が公明党と繋がっているが、ミロクなら「公明党を潰す」か「政教分離を潰す」かのどちらかを取り、公明正大な政治をする。　精悍な革命家ミロクが嫌ったのは本音と建前の不一致や言動不一致といった卑怯な行いである。物事は論理的かつクリアにしなければならないと考えた。ゆえに、法律もきちんと書いてあるとおりに解釈されねばならないと考えた。　しかし書いてあるとおりに解釈すると、際限なく細かく書く必要が出てくる。すると国民は法典を読めなくなる。そこで逆転の発想で、かえって簡素に書くことで解釈を広げた。　これによって、苦しい曲解をせずともきちんと書いてあるとおりに解釈できるとともに、国民の誰もが読めるようになった。　その代わり、裁判官の裁量によるところが大きくなった。裁判官も人の子なので、判例に頼らざるをえなくなった。　また、条文が細かくないということは、同じような刑法でも案件によって刑罰がまるで異なってくるということになる。　解釈が広いのだから、いろいろな犯罪が同じ条文で裁かれてしまうが、それは問題である。そこで案件主義が生まれた。　ひとつひとつの案件は互いに異なるものなので、個別に考慮すべきという主義である。　判例主義のおかげで条文が細かくなくとも犯罪は裁け、案件主義のおかげで判例主義の行き過ぎを押さえ込めるというシステムである。　最初の範とされる判例はアレイユの時代にはいくらでも判例があるため、判例主義を実施するのはたやすかった。　ミロクとカサンがヴェレイまでの判例を見て、「これは新時代には重過ぎる（軽すぎる）」と最初の目安を作った。　　七法はそれぞれ、章・項・条の３段階でできている。１章１項１条のように。順に nɩe, zedl, ɥecn という。
ze˥ʃdɩnʃ ［名詞］基本科目　［レベル］3　ɥɑ　˩˩　［文化］　ɑeldɩnʃ
ze˥ʃɩn ［名詞］負け組　［レベル］4　˩˩
ze˥˥ɩ ［文頭純詞］ところで、それにしても、それはさておき。脱線を意味する。　［類義語］hɩc　［反意語］sɔ˥˥　［レベル］3　˩0:zed˥:1ɱ: 制 :zedl/˥ə
ze˥˥ ［動詞］ɥəl を刈る、刈る　［レベル］3　1ʔ: 制 :zeɒ˥cl（草を切る）
zelə,ɑu　uɩlȷ　lə は ˥ɩlə の lə。ze は「学」の意味の接頭辞。
zen,ɑ　学ぶという意味の音象徴
zenɔn ［アトラスの国家］ゼノン　［レベル］5　˩ʔ:ɥcɑcɩ
zeɒe ［料理］ジン　［レベル］5　1ʔ: 制 : 古では「草の酒」
zed ［数学］［動詞］ɥəl を計算する、計算する、演算する　［普通動名詞］計算、演算　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :zedɩlɩlɩ（脳で数える）【成句】 zed(elȷ) ɑcʃ nɩɑɩɥ. 計算は安心：前もって計画しておくと安心だという意味で、転ばぬ先の杖に相当、用意周到 :1L:ɒel
zedn ［名詞］つまようじ、爪楊枝　［レベル］3　1ʔ: 制 :zɩedldcn（枝でできた針のようなもの）
zedɑcɩn ［地学］［歴史］キオゲニアン　ul;/　˩ʔ　［文化］　φɩɩueɑeɒe
zedl ［植物］枝　［法律］項　［レベル］2　古
zedlȷlez ［電算］ツリー掲示板、ツリー型掲示板　［レベル］4　1L:ɥcɑcɩ:ɩɥbɩlelʃ
zedldɩl ［名詞］樹形図　［レベル］4　1L:ɥcɑcɩ:ɩɥbɩlelʃ
zedlɩɥ˥ɔ ［言語］枝ノード　ɥɑ:ɒel;/　˩ʔ:ɒel
zedlɔɔzɩ ［数学］計算尺→ lɔɔzɩ　［レベル］6　˩0
zedleʃ ［ネガティブ］［形容詞］ガリガリな、痩せた、ガリな　［属格］ガリ　［類義語］lclɩ、ɥəɒelc　［反意語］hɩnɔʃ　［レベル］3　˩0: 枝のような。手足が枝のように細いことから　［語法］　主に男性に使う。悪い意味で、罵倒語となる。女性にも使えるが、男性のほうが傷つく言葉。
zedleʃuɩcɒ ［名詞］［ネガティブ］ガリマッチョ　ɥɑ;/　˩ɱ
zedɩɥ ［電算］計算機　［電算］演算装置　［類義語］zclcɔʃ　［レベル］3　1L　［語法］　そろばんからコンピュータまで広く指す単語。
zedɔɒ ［数学］計算法　［数学］算術。科目名　［レベル］2　ɥɑ　˩˩　［文化］　ɑeldɩnʃ
zedeʃ ［名詞］前座、前置き、予行演習、演習、練習　［名詞］前付→ lec　［反意語］sɔleʃ　［レベル］3　ɥɑ;zedl/ʃe「枝葉のような」　˩˩:zedl/ʃe
zeɥɑcɩ ［篭堺］ゼルディア　［レベル］5　ɥɑ;ɩzeɥ/ɑcɩ　˩˩　［文化］　篭堺司：ɥelezɔnɩ uɩlzɩ　篭堺国：ɒeɥɑcɩ, lɩzɑcɩ, φɩlʃeɩ, ˥ɩlʃeel, ɩɥɒɩʃcɩ, ˥clʃcɩ, beɥʃcɩ, eȷʃcɩ, ɑɥeȷʃcl　領土が広すぎるため、北部はピネナと、東部はクミールと共同統治。
ze˥˥ ［単位］マイナス３２乗　˩1:zɔ˥˥
zeluɩel ［アトラスの国家］ゼルヴァエル　［レベル］5　˩ʔ:ɥcɑcɩ
zelφc ［魔物］ゼルギ（刈猿）：第六十六天：聖の幻天　［レベル］5　1L:ɥcɑcɩ/ȷeɥen/ɒel:ze˥˥/φcc　［文化］　獣族。鎌を持った猿。死亡した下位の死神から鎌を奪った魔物。死に関連する魔法を放ってくる。聖属性の魔法は打ってこないものの、耐性があり、効かない。
zelɔ ［生物］脳、頭脳　［レベル］2　ɑ;lɔ は「頭」。ze が音象徴で「学ぶ」　赤　［語法］　日本語では脳幹などは「脳の～」の語順で、「前頭葉」などは「～の葉」の語順になる。アルカでは zelɔ は大脳、中脳、小脳、脳幹の総称で、その中に含まれるここの部品も脳の一部なので、右手左手と同じく「～ zelɔ」となる。脳幹などは語順が逆に思えるかもしれないが、それは日本語から見た場合。　ただし、個々の細かいパーツに入っていくと、今度は「脳の～」という命名になり、zelɔ ～となる。
zelɔleɒl ［生物］脳脊髄　ɥɑ;/　˩ʔ　［語法］　脳と脊髄の総称。
zelɔɑɩcz ［医療］脳炎　［レベル］5　1L
zelɔdɔɩ ［医療］脳腫瘍　［レベル］5　1L:ȷeɥen
zelɔbɩȷeɥ ［生物］脳漿、脳脊髄液、髄液　［レベル］6　ɥɑ;/「脳の廃水と考えられていたことから」　˩ʔ
zelɔɩnueɥ ［医療］脳症　ɥɑ;/　˩ʔ　［語法］　発熱、頭痛、意識障害、麻痺などの脳炎の急性症状を示すにもかかわらず、脳実質内に炎症が認められず浮腫が認められる状態のこと。
zelɔɔuleul ［医療］脳性麻痺　［レベル］6　1L
zelɔeɥcl ［医療］脳溢血、脳出血　［レベル］5　1L
zeeɥe ［天文］皆既日食、皆既日蝕、ゼーレ　［反意語］ɩlzeeɥe　［レベル］5　˩0: 古 ȷeeɥe（静かな）。ȷ は ȷeɥ の音。　［文化］　異世界の少年セレンがアトラスにやってきた際、少しの間空間が歪んで日食のように感じられた。そのことから後にセレンを語源として真っ暗になる

皆既日食をこのように呼ぶようになった。

zeeɥen ［地学］ペリドート、ペリドット、かんらん石 ［組み数字］８/１０ ［レベル］4 1L:zɔɒ/ɥen → zɔɔɥen → zeeɥen（母音調和） ［文化］ 風を操る魔石。クリスのディーノには甲にペリドートが埋め込まれている。

zeele ［サール］ゼーレ ［論理］パラドクス、パラドックス ［レベル］5 ɥɥəə: 古 : ゼーレの名は本人がゼーレのキャラクターに合うように適当に考え出した。他のアルデと同様に語源のないもの。［文化］「サールはみな嘘をつく」というパラドクスを最初に投げかけたサール。

S

s,lʃl e, ˥enɔ sə,ɑ.˥ 【用例】 lı ɉın s ləʃcı ルティアの血

sɪʃ ［形容詞］元、元の、以前の、昔の ［反意語］zc˥ ［レベル］3 1ʕ: 制 : 恣意 ［語法］ 元大統領などの元。 【用例】 ɪɒcɥ sɪʃ 元夫

sɪʃɉ ［音楽］カッティング ɉ1: 擬音

sɪl ［形容詞］太い、太った ［医療］肥満 ［文字］エキスパンド ［類義語］besɪ、sɪlı、dɔɑʃe、oɔlʃ ［反意語］lclı ［類音］sɪlı ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 : sɪlı（太い） sɪlı:sɪlı ［文化］ 粗食で運動好きなアルバザード人は平均体重を維持している人が多く、肥満は珍しい。不健康のバロメーターとされ、肥満は避ける。反面、そんなに体重にコンプレックスのない人々なので、秋などに一時的に小太りになることについては大して気にしない。 【用例】［メタファー］［ネガティブ］sɪl ɥən ɔoc 豚のように太った lı eʃ sɪl ıʃlı lɔʃ ʃə ɉɪcɒ. 彼はこのクラスで一番太っている。 ɪn eɒɔɥ sɪl cn ɒɪn ɪn ˥ılɒɪ ˥əc lcɪ. おやつを頻繁に食べるので太ってきたみたいだ。

sɪllızφıɔ ［音楽］フリューゲルホルン ɥʃ;sɪl/lızφıɔ コルネットに似て、管が少し太いことから ɉɉ

sɪllɔl ［生物］盲腸 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 太い腸

sɪllɔlɑıcz ［医療］盲腸炎 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

sɪlleɪɉ ［生物］大動脈 ［レベル］5 1L

sɪlleɪɉ˥nɔb ［医療］大動脈瘤 ［レベル］6 1L:ɉeɥen

sɪlı ［形容詞］［ネガティブ］デブな、太った ［類義語］besɪ、sɪl ［類音］sɪl ［レベル］2 古 :sɪlı, ılsılı。sɪlı（太い）

sɪlı,ɑ sɪl

sɪɉ ［名詞］葉巻、シガー ［レベル］4 1ʔ: 制 :sɪlɥɪɉ（太いたばこ）。葉巻は紙を使わずにタバコの葉を堅く太く巻いたものであることから。 ［文化］ 革命中は麻薬と同じで違法。

sɪɉʃ ［動物］ひばり、ヒバリ、雲雀、ラーク ［レベル］5 1ʔ: 制 : ヘリコプターのように垂直に飛び上がることから。

sɪɉɪ ［植物］マクラメ 1ʕ: 制 :sɪlɉɪɉɪ

sɪɉeʃ ［音楽］レゲエ ［レベル］5 ɉ1:sɪʃɉ/ʃe

sɪn ［気象］空、天 ［類義語］ɉcel ［反意語］ıl˥ɔ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :scnɪ（天） scnɪ:sɪn:lə ɉcel:ɉɔlı,ılʃ ［文化］ 空は日本語では「青い」ことになっているが、アルカでは日本でいうカメレオンのような扱いになっている。つまり、色のプロトタイプがなく、玉虫色に変わる。 一時期セレンは空を「青」としていたが、それは日本語の語感による誤り。アルカでは『ソノヒノキ』の冒頭のように、空は特定の色を持たない。 【用例】 sɪn ɪʃ uelʃ ɒeɥel. 空が真っ暗だった。 sɪn ɪʃ ıluelʃ. 薄暗かった。

sɪn,ɑ ɑen。ɑu 以降、sɪn が滅んで nɪ が ɑen と lcn の両方を兼ねるように。 elʃ;e

sɪn,ɑu ɉɔɒɪ

sɪnʃeɒɉ ［建築］天窓 1L

sɪn˥ ［動物］バッタ、ばった、飛蝗 ［レベル］2 1ʔ: 制 :sɪn

sɪn˥e ［名詞］航空 ［レベル］4 ɉʔ

sɪnlıɪɉɪn ［名詞］スチュワーデス、スチュワート、フライトアテンダント、スッチー、キャビンアテンダント、ＣＡ 1L

sɪnɉɪ˥ɉ ［魔法］天行 ［レベル］6 ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

sɪnɉɔz ［交通］ヘリコプター ［レベル］2 1ʔ: 制 : 空のプロペラ

sɪnuɪɉ ［軍事］空中戦 ［レベル］3 ɉɉ

sɪnuɪnɑ ［軍事］空襲 ɥɑ;/ ［レベル］3 ɉʔ

sɪnuelʃ ［亜魔］ジャンヴェルト、飛鬼、グレムリン ［レベル］6 ɥɑ;sɪn/ueɒelʃ ɉʃl ［文化］ ヴェメルトの一種。航空機を墜落させようとする小悪魔。

sɪnɑıcbɑcʃ ［軍事］［交通］空中給油 ［レベル］6 ul;/ ɉʔ

sɪnɒɪɉ ［娯楽］たこ、凧、カイト ［レベル］2 1ʔ: 制 : 空飛ぶ紙

sɪnɑ ［単位］フェムト ɉ1:sɪnɑcɔɥ

sɪnɑcɔɥ ［歳時記］立冬 ［名詞］１９時 ［組み数字］１９／２４ ［アクセント］sɪnɑcƎɥ ［レベル］3 ɉ0: → ɪnlcɪn ［文化］ ɪnlcɪn

sɪnφ ［名詞］セロハン、セロファン、セロハンテープ ［レベル］2 lıʃlı

sɪnφɪnɑ ［交通］［法律］ハイジャック ［レベル］4 ul;/ ɉʔ

sɪnφɪnɪ ［軍事］領空 ［レベル］4 1L

sɪnφe˥ ［名詞］気球、風船 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 空の球

sɪnbcbc ［化学］メチルオレンジ ［レベル］6 1L:ɉeɥen: 指示薬として、空のように色が変わるアゾ化合物。とはいえ、変色の範囲は狭い。

sɪnz ［植物］藤 ［レベル］3 古 :sɪnz。原義は scnɪzɪɒɔ（空の木） ［文化］ 長寿で美しい植物として人気があり、カルテには藤棚がある。

sɪnl ［建築］ベランダ、バルコニー、テラス ［レベル］2 1ʔ: 制 :sɪnele（空の台）

sɪnlcl ［化学］ガリウム 1Δ: 制

sɪnıld ［名詞］航空郵便、航空便、エアメール ［レベル］4 ɉʔ:「空の郵便」

sɪnclʃı ［天文］プラネタリウム、空の映像 ［レベル］3 1ʃl: 制 : 空の映像

sɪneɉn ［名詞］パラシュート、落下傘 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 空の傘

sɪuc ［料理］［化学］コラーゲン ［レベル］5 ılıʃlı: 粘つくたんぱく質

sɪɒ ［生物］胸 ［レベル］1 先 :sɪɒ（胸）。胸が乳房の換喩になるとしてクミールが禁忌した結果、ソーンでは先代アルカの sɪɒ が胸になった。 ɒɪ, ɥı:ɒɪ, ɥı:lə ɒɪɒeʃ（lı は ɒɪɒ） ［語法］ 乳房ではなく、胸部のこと。 【用例】 enɪ ˥ı{xdɔʃ} sɪɒ ləəʃ 彼の胸の中で泣く

sɪɒ˥ɔɥl ［動詞］ɥəl をドン引きさせる、ドン引きする、ドン引きさせる、引く、引かせる、ひく ［再帰動名詞］ドン引き ［類義語］ɔcʃ ［レベル］3 ɥɑ;/「胸を仰け反らせる」。人はドン引きすると胸を支点に首から上の部分を後ろに仰け反らせる。首ではなく胸を仰け反らせる形になるため、このように言う。 ɉʔ

sɪɒɉcɪ ［生物］胸膜 1L

sɪɒɉɔɥcʃ ［言語］［文字］ｘハイト、エックスハイト ɉ1

sɪɒɉɔs ［生物］胸椎 ［レベル］5 ɉʔ

sɪɒuɪnɔ ［生物］中府 ɉ1: 胸痛などに効くが、場所は胸骨ではなく腕と肩の境界のくぼみ

sɪɒuɪc˥ ［生物］胸部 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒucɒ ［生物］大胸筋 ［レベル］5 ɉʃl‹ɉɉ

sɪɒd ［交通］飛行機、航空機、旅客機 ［レベル］2 1ʃl: 制 :sɪndɪn（空の乗り物） ::lə φclɉce（→ dɪn） ［文化］ 飛行機と船。いずれも空港や港など、住宅地と隔離された場所から出る。空港も港も車道と隣接しており、車に乗って行く場所である。徒歩や自転車では距離的に行けない。

sɪɒdhɪn˥ ［気象］成層圏 ［レベル］5 1L

sɪɒbɪl ［建築］胸壁 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒhɔ ［生物］胸骨 ［レベル］5 ɉɉ

sɪɒhɔueɉn ［生物］剣状突起 ［レベル］6 ɥɑ;/「胸骨の舌」 ɉʃl

sɪɒhɔueɉnɒɔl ［生物］下肋部、季肋部。剣状突起を通る水平面より下方を下肋部という。 ［類義語］˥cɒhɔɒcɥecnɒɔl ɥɑ;「剣状突起下」 ɉʃl

sɪɒhɔɒɪcn ［生物］胸骨体 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒhɔɒɪcnɒɔllɔɔz ［生物］胸骨体下端 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒhɔɒɔɒ ［生物］胸骨柄 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒhɔɒɔɒbeɾɒ ［生物］頚切痕、胸骨上端の頚切痕 ɥɑ;/ ɉʃl

sɪɒɥɪc ［医療］胸痛 ［レベル］4 ɉɉ

sɪɒɥecn ［言語］［文字］ミーンライン ɉ1

sɪɒscɒ ［生物］胸郭、胸腔 ［レベル］6 1L

sɪɒlcʃc ［生物］胸腺 1L:ɉeɥen

sɪɒɔ ［交通］空港、飛行場 ［レベル］3 1ʃl: 制 : 空の停留所 ［文化］ 日本と同じようなつくりで、特に変わり映えはない。入り口から入って搭乗前に旅券を見せる。パスポートというものは存在しない。全てアンセにパスポート情報が入っているのでアンセを見せる。飛行機に乗って着いたら同じ手続きで飛行場から出る。尚、国内の場合は出入国しないのでパスポートとしてのアンセはいらない。ビザも不要。

sɪφ ［形容詞］粘る、粘っこい ［擬音］ぐちゃぐちゃ、ぬるぬる、ヌルヌル、べたべた、ベタベタ、どろどろ、ねばねば、ネバネバ、べとっ、べとー、べとべと、ベトベト、ベトッ、ぬちゃぬちゃ、ヌチャヌチャ、ぬちゃくちゃ、ヌチャクチャ ［レベル］2 ɑ;ɑɔueʃ lıʃlı: オノマトペ 【用例】 ɉılɪɉ ɪnʃ eɒɪʃ eueɉ ɔ sɪφ ɒcl hcn˥. 汗でシャツがべとべとになった。

sɪφɒɪɉ ［名詞］ステッカー、ラベル、レーベル、レッテル、封のためでないシール（封のためのものは ɑeɉdɪ） ［レベル］3 1ʔ: 制 : くっつく紙

sɪφl ［動詞］ɥəl を練る、練る、ねる、こねる、捏ねる ［レベル］3 古 :sɪφl。sɪφl は古の sɪφ からできた古の語。

sɪφɪ ［名詞］粘土、陶土、土 ［レベル］2 1ʔ: 制 :sɪφ

sɪφɪbe ［医療］絆創膏、ばんそうこう、バンドエイド、キズテープ ［レベル］2 1ʃl: 制 : 粘着布

sɪφɪhɪn˥ ［地学］粘土層 ［レベル］6 ul;/ ɉʔ

sɪφc ［動物］クラゲ、海月 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :sɪφeɉzɪɒɔ（どろどろした傘状のもの）が原義。

sɪφeɥ ［名詞］ローション ［レベル］5 1L 【用例】 ɪn nɪbɪʃ sɪφeɥ ɪl eel. 顔にローションを塗った。

sɪd ［名詞］定義 ［動詞］ɥəl を lel と見なす、みなす、見なす、定義する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɉɪɑ:sɪlɪdc（意味を決める）

sɪdʃ ［料理］餅 ［レベル］2 ɾu:ɉɪɪɥ;sɪ は粘るオノマトペ。 ılıʃlı ［文化］ səlceʃ:100_1ʔ0 お菓子と認識されている。パフェやおしるこなど、さまざまなものに入れられる。ne˥ɔɒcɒc などの外食にも用いられる。 餅は消化によく、同じ量なら餅のほうが白米などより高カロリーなため、痩せている人でも胃を痛めずにカロリーを摂取できる。このため、羸痩にも用いられる。 また、消化が良いわりに糖質が複合糖質であるため、腹持ちもよい。ただし白米に比べ思ったより量を食べられてしまうので、食べ過ぎで胃が重く感じられ、消化に悪いと誤解を受けることがある。 餅米自体が消化によいというより、搗くことで本来歯で行うはずの咀嚼の代理となっているため、どち

らかというと消化によいのは餅という食品自体である。　アルバザードでは四角型と丸型が販売されている。意外にも日本より人気が高く、年間通して価格は安定して安い。１メルバ当たり約１００～１５０ソルト（日本だとサトウの切り餅が１ｋｇで８００円前後。正月シーズンだと４００円程度で買えることも (ɒelɹ1))。日本と違ってシーズンはない。【成句】 sıdſ ɒeſ 知らぬが仏、見ぬもの清し。落ちた餅でも見てなければ綺麗という意味。

sıdſφel ［料理］白玉　［レベル］３　1ꞵ: 制　［文化］　餅同様、菓子としての認識が高い。餅と違って食事にはあまり用いない。

sıdſel ［動物］マンボウ　［レベル］３　zφ;sıdſ/elc「平たい餅のような形をした魚」　ɹʔ

sıdɥəɔ ［言語］定義動詞　［レベル］６　ɹ0　［語法］　el̦, ɒɔl̦, φıɥſ など。

sız ［名詞］アンテナ　［レベル］３　1ʔ: 制 :sınzɔn

sıl ［名詞］決定、決意、評決、表決、判決　［動詞］ɥəl を ı に決める、決める、決定する、定める　［政治］議決　［反意語］zcɥ　［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :ɒclı, sclı（決める）【成句】 sıl ſɔſɔ leɒ zcɥ 決めつける、決め付ける

sıl̦ ［数学］分数　［レベル］３　1L:ısı/ıll（比の数）最後を ȷ にしたのは ıll から語形を離すため。　［語法］　ən, ɑɔl

sılφıɥſ ［名詞］定額、定額制　［レベル］３　1L:ɥcɒcı:ıɥbılelſ

sıllɔſȷ ［電算］エンターキー、リターンキー　［レベル］３　ɹ0: 決定キー

sılı ［形容詞］定期的な、リズミカルな、周期的な、規則正しい　［反意語］ȷcſıſ　［レベル］３　1ʔ: 制 :sılhɥı から

sılıſə ［名詞］即断即決、即決即断　［レベル］３　ɹɹ:sıl ıſə「ここで決める」

sılıɒɔdɒ ［名詞］定期券　［レベル］３　1L:ɥcɒcı:ıɥbılelſ　［文化］　アンセに登録されるため、券の形はしていない。

sılıcȷl ［普通動名詞］購読　［動詞］ɥəl を購読する、購読する　［レベル］３　1L　【用例】　ın sılıcȷl ſclɒ. 新聞を購読している。

sıe ［名詞］糊、ペースト、接着剤、のり、ノリ　［類義語］ɑeɥcnl　［レベル］２　1ʔ: 制 :sıφe（粘着水）

sıeφel ［名詞］グルーガン　［レベル］６　1ʕ: 制

sc ［生物］指　［動詞］ɥəl を指差す、さす、指す、指差す、指さす　［類義語］dəɥə、ɑcıns　［レベル］１　ɑ;e　赤　sc:sc:lə blcȷ（棒状）, lə dɥəcz（棒状）:lclc,ılſ　【用例】　ɒɔɒ sc 指を折る。骨折する　hınȷ sc 指を折る。折りたたむ。通常こちら。　ɑıb e sc 指の腹

scſ ［名詞］つまみ、スライダー　［化学］焦点ハンドル。顕微鏡の。　［レベル］３　ɥɒ;sc/ſcl「指で持つ」　ɹʔ　［語法］　電気の光量を操作するつまみやスライダーなど。ＤＪが使うサンプラーの音量スライダーなど。

scl ［動詞］ɥəl を滑る、滑る、すべる、滑走する。移動様態動詞だが、ɥəl に氷などの材質を取ってもいい。　［普通動名詞］滑走、滑り　［音楽］スライド、スライド奏法　［レベル］２　1ʔ: 制 :scφ/le（つるつる行く）から　【用例】　scl ſɔɔɒ 坂を滑る　scl uelſ 氷を滑る

scl(ɹ) ［動詞］sc/l　ɹ0:ɒelcɒcı lceɥ

sclſ ［動物］フラミンゴ　［レベル］３　1ʕ: 制 :scllɘſɔ（足の細い鳥）

sclſe ［形容詞］滑りやすい、すべりやすい、つるつるしている、スリッピーな　［レベル］３　ɹ0　【用例】　ſə ſɔɔɒ eſ lıɒc ɒcl sclſe. この道は滑りやすくて危ない。

scl̦ ［動詞］ɥəl を横滑りする、横滑りする、スライドする、カニ歩きする　［レベル］２　1ʔ: 制 scl　［語法］　lɘl などと同じ格組。

scl̦ɔɒc ［建築］スライドドア、ふすま　［レベル］２　1ʕ: 制 : 滑るドア

sclncl̦ ［動詞］ɥəl（相手）を滑って転ばせる、滑って転ぶ。複合動詞。　［レベル］３　1L:ɒelcɒcı ılcȷ　［語法］　ɥəl に場所は取れない。　【成句】　sclncl̦ cɒ ɥəc φcl̦ 財布を捜しているときに滑って転ぶ：泣きっ面に蜂、弱り目にたたり目

sclφıɔ ［音楽］トロンボーン　［レベル］５　ɹ1

sclı ［運動］スケート　［レベル］３　1ʕ: 制 :scl　【用例】　ın ıɥıſ le sclı. スケートをしにいった。　ın nıſ bın ɔnſ eȷcl ɥəlel ɒın ıɥ sclı ſılel. スピードを出してスケートをしていると本当に気持ちよかった。　ın ıɥıſ sclı lɔnſ bclej lıȷ e hıɾn. 友達と手を繋いで滑った。

sclc ［名詞］そり、ソリ、橇　［レベル］３　1L: 制 :scldın　【用例】　ın ıɥıſ le sclc. そり滑りにいった。　ın uıɥıſ ȷen eɥec lɔn sclc ɒın ſə eȷ eɑɔd. 川が凍っていたのでそりで滑ることができた。　ſə ıſ lcn lel ın ɒɔɒ ſɔɔɒ ɔl sclc. そりを上まで引っ張っていくのは大変だった。　ın nıſ bın ɥəlel ɒın ın ɒeɑ ſɔɔɒ lɔn sclc. そりで坂を滑るのは本当に楽しかった。

sclcſ ［生物］指先、手先、足先、手指尖、足指尖　［レベル］２　ɹ1　::dɥəcz

sclclı ［名詞］そり場　［レベル］４　1L　【用例】　uıɥ lceɥ, ılɔlı eu sclclı. 冬は遊園地に雪ぞり場が開設される。

sclɔ ［名詞］滑り台、すべり台、スベリ台、すべりだい　［レベル］２　1ʕ: 制 :sclſɔl から　【用例】　ın nıſ ɥəəɑ ɒın ɒeɑcl sclɔ lıen lellı. スイミングプールのウォータースライドを滑って興奮した。　ɒɔɒ sclɔ すべりだいを登る

scle,ɑu　ſə（それ）「指が行く先」

scl ［医療］創　［レベル］５　1L:scȷ/ucl

sclc ［名詞］隙間　［レベル］２　1ʕ: 制 :scllı（細い場所）から　lıllc:lıllc

scȷ ［動詞］ɥəl を引き裂く、引き裂く、裂く、破く、千切る、破れる、破裂させる、裂けさせる、破る　［レベル］２　ɥɒ;scc/ȷɔ　1ɱ: 制 : 古 :scc

scȷȷɔs ［医療］脊椎分離症　［レベル］６　1L

scȷnɔz ［生物］［医療］二枚爪　［レベル］６　ɥɒ;/「裂けたり爪」。裂けたり割れたり剥がれた爪のこと。　ɹʔ　【用例】　ın ſclıſ scȷnɔz ɒın ɒıllcl nɔz e ləoı ıl elen ȷcn. 足の爪を机にぶつけてしまい二枚爪になった。

scȷdcɔ ［生物］膜動輸送、サイトーシス　ɥſ;/　ɹɱ

scȷcdı ［医療］裂肛、切れ痔　［レベル］５　1L

scn ［名詞］秒、一秒　［レベル］２　1L:scen

scnſ ［名詞］垂直、鉛直　［類義語］hıȷ　［反意語］ılɔɒ　［レベル］４　ɥɒ;scnı/ſəənɔ「天と地」　ɹɱ

scnſc ［サール］ジンティ　［レベル］４　古 :scnıſclnɔ（空の竜）から　［文化］　アルデスとテュアの長男。天の龍。ɑɥeſcȷ と人型を使い分ける。

scnſcuıın ［軍事］空軍　［レベル］４　1L: 天の龍ジンティの軍

scnſcφel ［軍事］対空砲　［レベル］６　ɹ0

scnſcı ［建築］［地名］［ランドマーク］ジンティアの長城、ジンティア　［レベル］５　zφ;scnſc。主にハクシウス軍の飛竜兵に対する対空用の長城で、長く寝そべった形をしているため、天の竜になぞらえられた。　ɹʔ　［文化］　ſəſſcı

scnſc ılſeeɒȷ ［人名］ジンティ＝アルテームス　［レベル］５　1L:clɒəȷ:ɥcɒcı　［文化］　アルティル期の発明家。シェリー＝アルテームスの子孫。ɹΔL 年に飛行機を初めて作った。魔力がいらず、大型で多くの人を一度に運べるという利点があった。

scnȷ ［名詞］判断　［娯楽］判定← ɥəscnȷ　［動詞］ɥəl を lel だと判断する、判断する、判定する　［レベル］３　古（指で示す）【用例】　ın scnȷıſ ucl leȷ ın lə ıl. 何と言っていいか分からなかった。

scnɒcı ［地名］ジンディア山脈　［レベル］４　ɾu;scnſc/oıl　ɹ1　［文化］　西アルカットをほぼ縦断する長く低い山脈。天の龍ジンティが空で寝ているように見えることからこの名が付けられた。標高は高いところでも３～４０００メルフィで、平均は１０００メルフィ前後と低い。しかし高低差が大きく平坦な土地が少ない。岩山で、緑も少ない。食事を必要としないタイプの野生の魔物にとっては天敵がおらず理想的であるため、かえって魔物が多い。農耕・牧畜・定住いずれにも適さない。そのため自然の国境線として機能している。ヒュートとイネアート、ヒュートとケートイア、ファルファニアとアルバザードの国境線はおおむねこの山脈である。　基地も観測所も村も置きづらく、麓に申し訳程度にある程度である。これが仇となり、ueɥnȷ ııl では uellcɔn の飛空挺の空路として利用された。魔族からすれば、ここを通れば進軍中に襲撃される頻度が減る。人里すらろくにない辺鄙な山間にそんなにたくさんの部隊を配置できるはずもなく、街を優先的に守らざるをえないため、連合はジンディア経由で飛空挺の侵入を許してしまう。このため、uellcɔn から離れたアルバザードでも被害を恒常的に受け続けた。

scnφ ［植物］イチジク、無花果　［レベル］３　lıſſı

scnz ［植物］ケヤキ、欅　［レベル］３　lıſſı:scnz。scnızıɒɔ（天の木）から。欅が天に向かって高くそびえることから。　［文化］　ɥɒ で国木 (lıɒzɔɒ) として制定された。ケヤキは ȷɒ で ılſ が持ち込み、流布。木材としてサプリの村にも植えられていた。セレンとリディアが最初に出会った場所に生えていた木がケヤキだったことから、ɥɒ でセレンがケヤキを国木とした。　現実には１９９１年７月２７日にリディアと初めて会った場所に低いレンガの段があり、その前に生えていた木がケヤキだったことから。この木が何かを知ったのは２０１１年１２月１６日に公園の管理局に電話して確かめたのが最初。北口の入り口からＮＯ８までケヤキが登録されているという。四角形のサークルの中に生えている木として８本登録されているという。数えると並んで８本あった。あと脇にもう一本あった。その場で落ち葉を拾ってウィキペディアで紅葉の写真と比べたところ葉が完全に一致したため、ケヤキだと判明した。　ちなみに８本並んでいるケヤキの奥にある緑の木は同年７月１９日には桑かと思っていたが、管理局に聞いたらヤマモモだという。しかしその木のことかどうかは判然としないし、ケヤキと関係ないのでどうでもよい。

scnscen ［名詞］秒針　［レベル］２　ɥɒ;/　ɹʔ

scnı ［名詞］空中、中空　［歳時記］五日で一候　［レベル］５　ɑ;e　古では「天空」の意味。　scnı:sın:lə ȷcel:ȷɔlı,ılſ　［語法］　天より高くない。「天」に対する「空中」とか、「空気中」に近い高さ。　【成句】　ſə eſ nılſ e scnı. 砂上の楼閣だ。

scnıɑɔnſ ［名詞］歩道橋　［レベル］３　1L:lecn

scuıȷ ［娯楽］指相撲　［レベル］２　1L　［文化］　アルバザードとアシェットにはその習慣がない。アルティアの遊び。

scuel ［政治］選挙← scφ　［レベル］３　1L:scφ/uelȷın　［文化］　最初の選挙からヴェルディアまで、常に４年に一度のディアセルに行われた。投票はディアセルになった瞬間にスタートし、夜明けとともに投票終了。その日の夕方には結果が公表される。アルバザードは高緯度なので、投票時間は短い。

scueldɔl ［政治］選挙区　［レベル］４　1L

scuellınφ ［政治］参政権、選挙権　［レベル］４　1L　［文化］　革命で廃止。

scuelɔz ［政治］選挙制度　［レベル］４　1L

scɒ ［生物］腔　［レベル］５　1ʔ: 制 : 古 :scnıɒıcn（体の空、腔）

scɒn ［人名］ジムン　［組み数字］１１／１６　［レベル］４　ɒelſcı ɱꞵ:ıɥɒə/eȷ ſı;e　古　［文化］　eȷſı　エスタの第１１子。男。

scɒuelɑ ［医療］胸水、腹水　［レベル］６　1L

scɒıſ ［動詞］ɥəl を指で掻き分ける、掻き分ける、かき分ける、掻きわける　［レベル］３　ɥɒ;/　ɹɱ

scɒ ［名詞］スライディング　［レベル］３　1ʕ: 制 :sclɒılɒ（滑ってぶつかる）から

scφ ［動詞］ɥəl を ɒəl から lel に選ぶ、選ぶ、撰ぶ、択ぶ、選択する、選挙する、選出する　［動詞］ɥəl を見計らう、見計らう、見はからう、

見繕う、見つくろう ［レベル］2　ɑ:elʃ;sc（指差す）から　古 :scφ scφ:scφ ［語法］ → ɑızscφ　scuel は選挙。scφ は選ぶこと。scφ のほうが広く、選挙も含める。【成句】 scφ μenȷ ɑcᴅ 失言する 【用例】　ın scφıʃ ucl nɔȷ ʃıə ıl oel ᴅeȷl. どの鞄を買えばよいか選べなかった。

scd ［名詞］概念、コンセプト ［レベル］3　ʇʔ: 制 : 古 :scıdc（意味が指すもの）［文化］　霊界では概念はそれをそう呼ぶべき名前（エーステ）を持っている。　例えば火は ɑıc というエーステを持っている。概念は気体のようなもので、大きくも小さくもなれる。　動物のエーステが ʅəᴅ だとすると、その動物のうち四足でニャーと鳴くものを限定すると概念は小さくなり、エーステは ʅeʃʃɔ となる。　口のエーステは ʅə であるが、唇の下まで含めるなら別の概念になるので、エーステも変化する。　　霊界では概念のサイズは可変で、それぞれにエーステが付いている。　従って、原初の神々は既に世界によって用意された概念の中から必要なものを切り取り、それにエーステと同じ名前をあてがえばよかった。　　英語のｎｉｃｅは「愚か」という意味が徐々に変化して「良い」になったものだが、霊界では始めから「愚か」には愚かのエーステがあり、「良い」には良いのエーステがあるため、このような意味変化が起きにくい。　もっとも、μɑ 以降、ナディアからは魔法を失ってしまったため、地球の自然言語のような言語変化が起こっている。　しかしナディアに至るまでに地球の中世以上の技術力には達していたため、大概の日常生活に使う概念は既に命名されており、そこから変質するといっても高が知れている。

scb ［数学］スカラー ［レベル］5　ʇL

scbɑə ［数学］スカラー量 ［レベル］5　ȷ1

schɔ ［生物］指の骨、指骨、手の骨、足の骨、手の指骨、足の指骨 ［類義語］lıȷschɔ、ləoıschɔ ［レベル］5　ȷȷ

scμcı ［地名］ジリア海　ȷ0:μcɑcı: 古 scc/eμcı（裂けた海）［文化］　ファベル～ミュール間の海。

sczɔn ［音楽］ダンパー　ȷ1

sczɔl ［音楽］ギター ［レベル］3　ʇʔ: 制 : 指の弦楽器 ［語法］　弦 : zɔl　ブリッジ : dıɑc　ヘッド : ɔȷn　ナット : dɔ　ペグ : φed　フレット : ɑɔlʃ, ɑɔlʃμecn　ボディ : ᴅıcn　ピック : ınɔz　ピックガード : ılᴅc ［文化］　zɔl

sczɔlın ［音楽］ギタリスト ［レベル］4　ȷ1

scs,ɑ　1　elʃ;scsc.ʅ

scsc,ɑ　ıμs　e;"sc l'el ıdcı ɑc ʅɔn"

scsc,ɑ(ȷ)　eu 「指 / 指」

scl ［人名］ジールの略称 ［組み数字］１９／２８ ［レベル］1　制

sclʃ ［アトラスの国家］ジルト ［レベル］5　ȷ0:ȷeμen:scȷ/nelʃ（裂かれた土地）

scIueμınʃ ［医療］虚言癖 ［レベル］5　ul;sccl/ueμınʃ　ȷʔ:ᴅel ［語法］　カルディアでは実際より自分を大きく見せようとしてしまう「人格障害の一種」とされ、uecφueμınʃ などとも関わりがあるとされる。［文化］　虚言癖は無知な一般人により単なる幼稚な悪口として使われることがしばしばある。特にインターネットなどでは実際に大きい人物がありのまま謙遜せず大口を叩いた場合と矮小な人間が自分を大きく見せた場合の区別が付きにくいことから、ネット上での罵詈雑言として使われることが多い。　無論、実際に偉大な人物が謙遜せず大口を叩いた場合は虚言癖とは言わない。単に嫌なやつである。現実でも以下のような出来事があった。　　・現実では　　人工言語掲示板にて以下のようなやり取りがあった。これをメルに話したところ、メルは「雑魚は山の高みが分からないからｗ」と一笑に付し、虚言癖を造語した。　　10ᛘ ：名無しさん：ȷ01ȷ/0L/ȷʔ(日) ʇȷ:ȷ0:ȷʕ　失礼ですがセレンさんは虚言癖の気があるのですか。某所で話題になっていたものですから。　　10ʕ ：ȷeμen ◆ ЄμɜᑫᛏΨʎɑuȷ：ȷ01ȷ/0L/ȷʔ(日) ʇʔ:ʔȷ:ʇʕ　人工言語と言語学の質問スレなのですが……。まぁ他に投下するところもないので仕方ありませんね。　　虚言癖というのはこういうもののことですか？　http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2009/0209/224415.htm　　ーーだとしたら違いますね。　　＞彼は、年齢から住所、家族の職業や所有車種に至るまで詐称していました。実年齢はʕ歳高く、都会住まいも実際は田舎育ち、公務員は嘘で下請け会社の社員、所有車は高級スポーツカーでなく小型の中古車　　僕は年齢も詐称していませんし、埼玉の田舎育ちと言っていますし、職業で見栄を張ったこともないというか 0ᑫ 年以降は身バレが怖くてそもそも語ってすらいないですし、車は確かにまぁ ӾȾ–Δ に乗ってはいましたがそれは事実ですし、別にこういう嘘はつきません。　　大方アルカに嫉妬している荒らしが叩きどころに困って個人攻撃をしているだけでしょう。　　僕はむしろ人より嘘をつかないタイプです。僕みたいに真正面からぶん殴るド直球タイプはそもそも嘘が苦手です。前についた嘘を覚えてられないので矛盾するのが目に見えてるからです。　虚言癖というのは自分を大きく見せる病気のようですが、それって「実際に大きな人物が憚らずに自慢した場合」と一見区別がつきませんよね？　遠慮無く言ってしまうと、僕はどちらかというと後者なのですが。　　僕は虚言癖というより、単に他人から凄いと思われたい人物です。ただし凄いと本当に思わせるよう、人並み外れた努力をします。　アルカが代表的な努力ですし、ほかのコンテンツをはじめ、年収や格闘技などもそうです。努力して凄いと思わせる証拠を作ります。　その証拠がなければ最も疑り深い自分という存在を説得できないからです。虚言など無意味ですね。最も難敵である自分自身を騙せませんから。
　僕がアルカを異常なまでにリアルに作り込んだのも、自分という疑り深い人間を説得するためです。　狡猾なこいつにすら「もしかしてこの言語はどこかに実在するのかもしれない」と錯覚させるクオリティのものを作りました。　僕の敵は荒らしのような雑魚ではありません。最も疑り深く狡猾な自分自身です。こいつを攻略するのが一番難しい。　自分との戦いです。そして自分に嘘はつけない。だから虚言には興味がありません。動機がないわけです。　　で、僕の場合は努力で培ったものをあけっぴろげに人に言うわけです。
　それが大した努力もしてこなかった人間には嘘や大げさに見えるのでしょう。　　荒らしは語彙が貧弱で努力もしてこなかったような輩なので、自分の嫌いな相手が凄い人であるという事実を認めたくないだけだと思います。　そうやって事実を歪めてる荒らし自身が一番妄想に囚われてると思うのですがね？　　ともあれ僕は等身大の自分をありのまま語る人物です。臆せず自慢しますし、情けない部分については逆に自嘲もします。　僕は他人から凄いと思われたいので、自慢できる要素を努力して増やし、おおらかに自慢します。
　それが一部の人には鼻持ちならなかったり、信じられずに虚言癖に見えるのでしょう。それだけのことです。

scleʃ ［形容詞］ファンキーな、イケイケな、ウテウテな ［レベル］4　μɑ ;sccl/ʃe「ジールのような」 ȷʔ:ᴅel/μcɑcı: ↑ ［語法］　ノリノリでテンションが高く、飄々としていてふざけているような感じの人物に使う。正常なのかキチガイなのか境界が分かりにくい。『パイレーツ・オブ･カビリアン』のジャック＝スパロウや『池袋ウエストゲートパーク』の安藤崇のようなキャラのこと。

scıʅl ［生物］指紋、フィンガープリント ［レベル］3　ʇʔ: 制 : 指の跡 ［文化］　指紋の強制採取は旧革命で行われたが、その後なくなり、ıl では犯罪者だけとなった。

scın ［言語］限定詞 ［レベル］6　ȷʔ:ᴅel:「指し示すもの」

scınɔz ［音楽］フィンガーピッキング　ȷ1

scıl ［動詞］ɥəl を掃討する、掃討する、殲滅する、一掃する、一網打尽にする ［類義語］ʅleᴅı ［レベル］3　ȷ0:scɔ/ʃeıʃl ［語法］　大勢の敵を一網打尽にすること。敵が単体の場合は使わない。

scc,ɑu　scȷ　ɑɔueʃ

sccʅ ［動物］こおろぎ、コオロギ、蟋蟀 ［名詞］うるさい外野 ［レベル］3　ʇʔ: 制 :ʅıʅʃı:scc（鳴き声のオノマトペ）

sccʅ,ɑ　ɗıscʅ

sccȷı ［被服］スラッシュ。タブレットなどの上着に入った裂け目のこと。　ȷᴅ;scc/ȷıbe　ȷ⅏

sccnı,ɑ　ȷɔμeʃ、leseᴅᴅe　ȷııl;scnı.ʅ

sccφ ［被服］チャック、ジッパー ［メタファー］機密保持、秘密保持、口チャック ［レベル］3　古 : オノマトペ scc/ 金属の φc 【用例】 hɔᴅ{ɑe ɥə} sccφ チャックを開ける { 閉める }

sccφuceμ ［名詞］緘口令 ［レベル］4　ȷȷ

sccz ［論理］命題 ［レベル］5　ɑu;scsc.ʅ　ȷʔ

scczel ［音楽］ブルース　ȷ1:sczɔl

sccl ［組み数字］１９／２８ ［交通］ジール通り ［レベル］2　ȷȷ

sccl uılcu ［人名］ジール＝ヴァシヴ ［組み数字］１９／２８ ［レベル］2　古 : 語源不詳 :uılcu（声が大きい）［文化］　(ȷ →) 第４期４代ソーン第５使徒。男性。ıμɑen。１７４ｃｍ、６２ｋｇ。長髪の直毛の黒髪。黒の瞳。肌は白：黄＝５：５。　　・『ミールの書』より　　下がえんじ色の長ズボンで、上は紺のジャケットを羽織っている。長髪の黒髪は美しく腰の辺りまで垂れている。顔の作りも男にしては端麗で、格好良いというよりは綺麗な感じ。　ジールは「ははは」と笑う。彼の手に掛かってしまえば、リディアも「嬢ちゃん」になってしまうようだ。彼は笑っているが、ミールには何がおかしいのかさっぱりわからない。ただ言えることは、このジールとレレゾナは異様に明るく、一緒にいると疲れるということだ。ネーネはこの２人といてよく身が持つものだなとミールは思った。

sccl uılcu(ȷ) ［人名］ジール＝ヴァシヴ ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］　初代ソーンの第５使徒。異性魔王。

scɔ ［サール］皆殺しのジオ ［動詞］ɥəl を皆殺しにする、皆殺しにする、お家断絶する ［普通動名詞］皆殺し、鏖 ［類義語］ılənəȷ ［レベル］3　μcɑcı: 古 ［文化］　元は信心深いサール信者の人間だったが、呪われた青年メロウに「 お前の隣人である１４人からなる信心深いエルト信者の家族を殺すことができたらサールにしてやろう 」といわれたジオは、メロウの言葉に従った。ジオはその隣人を襲い、言葉どおりに出会った者を皆殺しにした。その際にジオは顔に派手な化粧を施し、魔力を高めており、この化粧は歌舞伎の語源にもなっている。満足したメロウはジオをサールにしたが、実は生き残りが隠れていた。母親によって物置に隠されて難を逃れた少女テーア (ʃeeı) である。

scɔμ ［気象］日陰、日影、日蔭、日景、日かげ、ひかげ ［生物］兪穴、愈穴、背中のツボ。背は陽だが、陰病の治療に使うので日陰。 ［音楽］インディーズ、インディー ［反意語］hıneȷ ［アクセント］scƎμ ［レベル］2　ȷ0:古メディアン語で「黒」。

scɔμuccɑı ［生物］［医療］兪穴　μɑ;/　ȷ⅏ ［文化］　背は陽だが、陰病の治療に使うので日陰。

scen ［名詞］スポーク、細い棒、時計の針、棒、針 ［レベル］2　ʇʕ: 制

sɔ ［名詞］怒り、アンガー、（nı とともに）怒る、怒った、憤慨した ［類義語］nııze ［反意語］nccnı ［レベル］1　ɑ;e　古 ［文化］ ılᴅccμ 【成句】　ɑɔʅ sɔ ı nııze 怒りに怒りを注ぐ：火に油を注ぐ 【用例】 ın nıʃ sɔ ᴅcl μenȷ lııʃ. 彼の言葉に腹が立った。　ın nıʃ sɔ ɔlʃı ɑc ɔs ʃcɔ ın. 誰かに触られただけで腹が立った。　ın nıʃ sɔ. 頭に来た。　ın en ʅılᴅı nı sɔ. 私はほとんど怒らない。　ın en cn ȷccı lı nı sɔ. 彼が怒っているのを見たことがない。　ın μɔʅμıʃ ucl nı sɔ. 怒りが収まらなかった。＝怒りを我慢できなかった。　ın nıʃ sɔ enʃɔ ʃcɑl ȷıʃ ʅɔlɔ. 理性を失うくらい怒っていた。 lı nı sɔ ȷɔɑel. 彼は怒りっぽい。　lı nı sɔ ı ueμȷen. 彼は些細なことに腹を立てる。　ın nı ləʃ sɔ ı ʅəɔᴅ lclle lııʃ. 彼の無礼な物言いに怒りを覚える。　lı nı sɔ ʃel ʅəɔᴅ lııʃ. あの話し方からすると、彼は怒っているだろう。　ın en ʅɔlc eȷ lı nı sɔ. どうして彼が怒っているのか理解できない。　ın ȷe

μıʃ lı nı sɔ ı μenȷ ınʃ ʃel eleʃ. 表情から、彼が私の言葉に怒っているのだと分かった。 ın nı elɑ sɔ ı ueμȷen ʃcȷ. ささいなことに腹を立てないようにしよう。 ʃə ɷeʃ ɷız ıl ın nı sɔ. それは怒るに値しないことだった。 lı nı ȷcl sɔ ıləəʃel ɔl lı ȷeμ ʃə. もし彼がこのことを知ったら怒るに違いない。

sɔʃ ［動詞］ɥəl を ı に紹介する、紹介する ［レベル］3 1ᐛ: 制 :seʃ。元は２対だったが、あまり対に感じないのでアプラウトとして残した。 ［語法］ seʃ ［文化］ 知らない人と会ったときは自己紹介をする。知らない人といっても一期一会の通りすがりやただの店員などにはしない。これは日本と同じ。自己紹介はどちらともなく思いついたほうから始める。上下関係によってどちらが先ということはない。人を誰かに紹介する場合も同じ手続き。紹介せずに輪に加えようとするのは失礼。

sɔʃȷeu ［名詞］紹介文、ＰＲ文 ［レベル］3 ⱼ0 ［文化］ nıʃceȷeu

sɔʃlec ［名詞］カタログ、パンフレット ［レベル］3 1L

sɔʅ ［言語］s の文字 ［レベル］1 1ᐛ: 制 :sɔʅȷ（縁起のいい方向）［語法］第１８文字目の幻字。

sɔʅ(Ɉ) ［動詞］ɥəl を叱る、しかる、叱る、怒る、折檻する、説教する ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 sɔʅə（怒って言う）【用例】 ın sɔʅıʃ ɥə μȷccl ᴅın ʅɔlʃcʅ μı nɔuel. 遅くに帰ったので親に叱られた。

sɔnȷ ［政治］封建、封建制度、封建制 ［レベル］4 μɷ; ↓ 1ʔ: 制 :sɔn（恵む）から

sɔμ ［動詞］ɥəl を搾る、搾る、絞る、しぼる ［レベル］2 古 : 水を含んだタオルを搾る音から

sɔl ［植物］幹 ［レベル］3 1L:zedl の一部をテーブルに載せたもの lez ɔ:lezɔ

sɔlʃ ［名詞］本題 ［反意語］zedeʃ ［レベル］3 ⱼⱼ:sɔl/ʃe

sɔʃl ［文頭純詞］閑話休題、それはさておき、話を戻して ［反意語］zeʅʅı ［レベル］2 1L:sɔl/ʃlə

sɔleʃ ［名詞］本番、本題、メインテーマ、メインディッシュ ［反意語］zedeʃ ［レベル］3 μɷ;sɔl/ʃe「幹のような」 Ɉʔ

seʃ ［動詞］ɥəl を ı に案内する、案内する、エスコートする、導く ［レベル］3 1ᐛ: 制 : 古 :scφ から ［語法］ sɔʃ の n 対だったが、対であると言われるまで対だと気付かないような単語なので、そのまま残っている。そういう事情なので格組は sɔʃ と同じで、ɥəl には案内の対象が来る。 【用例】 ᴅcμ seʃ ʅıɾʃe ıl ın. カルテを案内してください。

seʃlɔn ［名詞］案内板 ［類義語］ılzıᴅ ［レベル］4 Ɉ0

seʅʃ ［動詞］ɥəl（人や感情）を煽る、あおる、煽る ［レベル］3 lıʅʃı 【用例】 ın seʅʃıʃ lı nı sɔ. 彼の怒りをあおった。

seʅȷ ［名詞］不吉な方向 ［反意語］ılseʅȷ ［レベル］4 古 :seʅȷ。se は恐らく「未だ」。ʅȷ の部分は不明。ただ、ȷ で終わるので元は動詞の可能性が高い。 ［語法］［文化］ カーデにおいて不吉な方向を指す。

seȷʃ ［言語］あだ名、アダ名、仇名、あだな、あざな、字、ニックネーム ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :sceeȷʃe（(使徒によって）決められた名前）

sen ［植物］草 ［反意語］zɔᴅ μɷ;zɔᴅ.ʃeel ［レベル］2 @ 1L eɷel:eɷel:le eeɷel:eɷe,ılʃ

senʃ ［気象］天気、気象 ［経済］値動き ［レベル］2 制を参考に ［文化］ 挨拶代わりに天気の話をする習慣はない。ɑcȷ eʃ hıμʃ ʅɔlȣ といえば純粋に天気の話をしたいと理解される。ʃc eʃ uılnȣ と聞けば相手の健康について話したいと理解される。アルカでは天気と健康は挨拶にならないので注意。挨拶は ȷɔɔnɔɥən などしかない。 アルナの天気は安定している。やけに暑かったり寒かったりはしない。どしゃぶりになったりかんかん照りになることも少ない。安定している。なんとなく晴れているかなと思っていたらしとしと降って暫くして止むというような天気が多い。また、台風や雷といった災害も滅多に来ない。異常気象も少なく、大体毎年同じような天候である。だからアルナの人は天気にあまり関心がなく、結果的に話題にすることもあまりない。 【用例】 senʃ ıʃ μıʃ. 天気が良かった：晴れとは限らない senʃ ıʃ ɑıμɑ lınel. 天気は本当に良かった。 senʃ ıʃ ɥıᴅ ɔn ʃə ȷel. この日は天気が悪かった。 senʃ eᴅıʃɔμ μıʃ. 天気が良くなっていった。 senʃ ıʃ ᴅelcȷ. いやな天気だった。 senʃ eᴅ ȷıʃ ɥıᴅ ıȷlel cn. 今にも崩れそうな天気だった。 ʃə senʃ en ȷcl lıl. この天気は続かないだろう：lıl は ɥəl 格。ȷcl が繋辞。 ☆ senʃ eᴅeȷ ᴅelʃ. 寒さが和らいだ。 ʃə ıʃ senʃ μecın. 寂しい天気だった。 senʃ ıʃ ȷɔμʃ ʃcn. 冷え冷えしていた。 senʃ ɷe μıʃ cᴅ ʅeȷʃ, ııl, cᴅ eμıᴅ e ʅeȷʃ ʃeμ, ʃıl ȷınɔ e oıcn en eᴅ sıl ʅılʃ ʃə ᴅel. 明日、特に明日の午前中は天気が良くないようだが、祭の日程は明日のその時間まで決まらない。

senʃdıl ［気象］天気図 ［レベル］5 1L

senʃdɔμʅlıʅ ［気象］天気予報 ［レベル］3 1L 【用例】 ʃel senʃdɔμʅlıʅ, senʃ eᴅ ȷcl μıʃ lc en ɑlɔn. 天気予報によると天気はすぐ回復するらしい。 ın ʃeμ senʃdɔμʅlıʅ ʃıʃ ɑııμ. 私は毎朝天気予報を聞く。 ın ȷıcnıʃ senʃdɔμʅlıʅ. 天気予報を確かめた。 ☆ sın ȷcl eȷdʃe ʃel senʃdɔμʅlıʅ. 天気予報は曇りだった。 senʃ ȷcl μıʃ ıȷlel ʃel senʃdɔμʅlıʅ. 天気予報によると天気はすぐ回復するそうだ。 senʃ ȷcl eȷlʃe cᴅ ʅeȷʃ ʃel senʃdɔμʅlıʅ. 天気予報によると明日は雨のようだ。 senʃdɔμʅlıʅ e ɑcȷ ıʃ ʃcı{eucʃx. 今日の天気予報は当たった { 外れた }。

senʃdɔμʅlıʅın ［気象］天気予報士 ［レベル］4 ⱼⱼ

senʃc ［地球の国名］イタリア ［レベル］4 古

senʃcbel ［ユマナ］イタリアン ［レベル］5 1L

senʅı ［地学］草原 ［レベル］3 Ɉ1 ʅılᴅɔ:ʅılᴅɔ

senɔuı ［アトラスの国家］ジェノヴァ ［レベル］5 Ɉʔ:μcɷcı

selcʅı ［地名］ジェリカ ［レベル］5 Ɉ0: 未発達な土地 ［文化］ アルヴェッテの西南部に位置する小都市。サルト教の本山がある。

selcn,ȷzʅ ɑcφc

selcı ［宗教］サルト教、ジェリア ［レベル］5 Ɉ0:selcʅı ［文化］ ɥəəᴅı ɷɈɷ1 μəɷcı は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派･独立し、selcʅı に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる。

selcɔn ［建築］ジェリオン宮殿、ジェリオン城、ジェリオン宮、新アルバ城、新アルバザード城、新アルナ城 ［レベル］3 Ɉ1:μcɷcı ［文化］ → ɑıllcın ȷᴅ で建てられた宮殿。現在はアルバ王室の宮殿。デザインは地球でいうとフォンテーヌブロー宮殿によく似ている。 所在地は現在で言うとコノーテ＝オヴィ通りで、国会議事堂のすぐ北。

secɷ ［名詞］すだれ、みす、簾、御簾、ブラインド ［レベル］2 古 ［文化］ 御簾は各家庭にあり、デザイン性の高いものが多い。特に香を焚く部屋には高い確率で置かれる。アズゲルで木製や布製のものが開発されたが、セルメルで金属製のものが開発され、金属製が主流になった。その後アルティルでルティアからルティア製のものがブームになった。それが木製だったため、現在では木製のほうが風流とされている。オフィスでは金属製が多いが、家庭では木製がやや優勢。

secɷɷɔl ［地学］緑簾石 1L

secl ［魔物］ジェイル（光雲）：第五十九天：光の巨天 ［レベル］5 1L:μcɷcı/ȷeμen/ᴅel:scnı/eel（空に浮かぶ顔） ［文化］ 憑族。一見雨雲かと思って見過ごしたところを襲う魔物。急に光りだしたかと思ったら雲に顔ができる。同時に酸の雨を降らし、獲物を溶かす。

sə,ɑ ɥə e

səʃe ［植物］オクラ ［レベル］3 古 : 原義はネバネバの葉っぱ

səʅcl ［魔法］ゼロガレット ［反意語］ısəl ［レベル］6 lȷȷ;sə/ʃlclc Ɉ1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

səlәφıbe ［料理］おでん ȷᴅ<zφ;ılʃ「染みこませた具材」［レベル］3 Ɉʔ

səʅələ,ılʃ ȷɔɔʅ ɑɔueʃ

səȷʅı ［地名］ジュスカ川 ［レベル］6 1L:μcɷcı:scnı/ıȷʅı ［文化］ アシェルフィ西部を通る川。北西からカンタルを通過し、アシェルフィを通り、学校のすぐ東を抜けて南に降りていく川。川幅は８メルフィほどで、底は浅く、流れは穏やかで、水は透き通っていて青い。川底には白い石がたくさんあり、上から見ると泥は少ない。アシェルフィの守護神であるアスカが南の丘の方へ昇っていき、そこから天に舞うと考えられている。

sən,ılʃ eμc 刀傷から血の滲む音

sənʅ ［ネガティブ］人間、人間め、人間どもめ ɑu ［レベル］3 Ɉ1:ɥənʅ の古形で「捕われし者」。宇宙に出れなくなりアトラスに捉われたもののこと。後に飛べなくなって土に縛られたものの意味にもなった。 ［語法］ 人間以外が人間を蔑視するときの言い方。

səuıμnɔ ［地名］ジュヴァルノ ［レベル］5 ᴅelʃcı Lᛋ ȷen ucı;sə（される）/uınɔ（守る） Ɉ0:μcɷcı:sə（される）/uınɔ（守る）。地理的にメルモアに囲まれて守られたように見える内陸国家であることから。 ［文化］ 古代国家のひとつ。メルモアの内部にある。

səɑcl ［料理］ムニエル ［レベル］3 ȷɔμn

səᴅcɥə ［魔法］錬成質、ジュミーユ ［アクセント］səᴅ€ɥə ［レベル］6 Ɉ0: 古 sə/ᴅcɥə（変化を受ける） ［文化］ lᴅcɥə

səμ,ɑ cᴅel ȷııl;e

səμecu ［建築］ジュレイブ宮殿 ［言語］［文字］スラブ。セリフの一種。 ȷᴅ;bφ Ɉ1 ［語法］ ınsəμecu ［文化］ ȷᴅ で建てられたベルガンドの要塞宮殿。スラブセリフが流行った。

səsə,ɑ ɥəʃ

səlcı ［地名］ジュリア、中央アルナ市南区モール ［レベル］5 Ɉ1:ı ［文化］ səlcın, səlceʃ 中央アルナ市南区の旧地名。現在はモールを指す名となっている。

səlcın ［経済］ジュリア価格 ［レベル］5 Ɉ1:「ジュリアの」［文化］ səlcı における商品の物価。zɔnʃȷeɷ e ʃoen が起こった ʔɈ0 年のジュリア価格が初期の数値である。以降、十年ごとのジュリア価格の平均値を用いる。つまり ʔʔ0 年に ʔɈ0 ～ ʔɈL 年までのジュリア価格の平均が出され、新たなジュリア価格となる。この数値は経済白書などに用いられる。

səlcılɔɔb ［被服］ボーラーハット nɷ;/ Ɉɷ ［文化］ ジュリアで生まれた帽子。男性上流階級用。

səlceʃ ［経済］［言語］ジュリエット、平均ジュリア価格 ［レベル］5 Ɉ1:sə lcı/ʃe ［文化］ アレイユの物価は比較的安定しており、大きなインフレやデフレが起こらなかった。そのため、アレイユのジュリア価格を均したものをジュリエットと呼び、ディアクレールの物価の記載に用いた。ジュリエットはジュリア価格より長期スパンでの物価を示すため、価格でなく価格帯で表記される。つまり、ジュリア価格は価格だが、ジュリエットはいくらからいくらぐらいという価格帯で表記される。 ジュリエットはジュリアよりも長期間で物価を見ることができる。幻日辞典は ls までの語を扱うが、文化的視点はデフォルトがアレイユになっているため、物価の表記はジュリエットを用いている。単位は ȷɔlʃ である。 量を示す単位がない場合はデフォルトで 1b。液体は 1l。 野菜など、自然物の場合は旬の価格を指す。例えばレタスなら春。旬がない場合は比較的価格の安い時期を指す。

səlceʃ,ȷzɷ ɑμec sə eʅȷ ɥə

səleʃ ［人名］ジュレット ［組み数字］5／１３ ［天文］ジュレット座 ［レベル］3 先 :ınɔ:sccl ［文化］ 第４期３代ソーン第５使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

səıl ［魔法］精錬質、溶質 ［類義語］ıɷcȷʃ、ılɑe ［レベル］6 Ɉ0: 古 sə/ıl「受けるもの←溶かされるもの」

səənı ［医療］感受性 ［類義語］nılen、nıᴅcμ、ɥəənıleȷʅ ［レベル］3 ⱼⱼ:ʅᴅ

ccµ: 古 sə/nı「受ける心」［語法］［文化］ ȷeµnı 【用例】 lı ſcl saəni ɭclȷ. 彼は感受性が豊かだ。

O

oı,ɑ lıȷ e

oı,ılſ ɔ

oıſ ［動詞］ɥəl を ı に配達する、配達する、届ける、出前する、宅配する、仕出しする ［普通動名詞］配達、出前、宅配、仕出し ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 語源不詳 【用例】 oıſ heɭ 手紙を配達する

oıſ(ɺ) ［感動詞］わっ、わ、おっと、おっとっと ［レベル］１ ɑ ɺʔ ［語法］ 驚きなどを表す。

oıſſı,ılſ ocȷ <>oı

oıſſın ［植物］カシワ、柏 ［レベル］４ zφ;;oıſſı ɺɺ

oıſı ［経済］市場（いちば）、市、マーケット ［経済］市場（しじょう） ［レベル］３ µɒ;oıſı 古 :oıſı（売る）から。 【用例】 el ıſɒıſɔµ lıɒldızɒ ɭı oıſı. 市場に山菜が出ていた。

oıſı,ɑu ıſɒ 「外に渡す」

oıſıȷ ［経済］バーゲン ［レベル］３ ȷɒ;oıſı/ȷɔ「市場する」 ɺʔ

oıſıȷſıɑlın ［経済］チェリーピッカー、バーゲンハンター ［レベル］５ µɒ;/ ɺʔ

oıſıφıµſ ［経済］市場価格、市価 ［レベル］５ ɺɺ

oıſııul ［経済］市場経済 ［レベル］５ 1L

oıſə,ılſ ɔɭen oı/ſə

oıɭ ［料理］出汁、ダシ、だし ［レベル］３ 1L:µcɒcı ［文化］ 軟水の湧くアルバザードにはダシを使った料理がある。ダシはワッカで発達し、アルバザード全域に広まった。ワッカは山岳部でキノコなどが多く、またカテージュのすぐ北なので昆布なども手に入ったためである。 また、ȷɒ では凪人が海産物の出汁を持ち込んでいる。ただし日本と違って半島国家だから思ったほど海産物の出汁が取れない。

oıɭɭı ［地名］ワッカ ［レベル］4 古 : 手の形をした丘が並ぶことから。 ［文化］ カテージュの北、イルケアの南にある丘陵地帯。

oıɭl ［化学］うまみ、うま味、旨味 ［レベル］４ 1L:oıɭ/lɔc

oıɭlıb ［料理］［化学］調味料。旨味を出すためのもの。 ［レベル］４ 1L

oıɭı ［地学］丘、丘陵 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 盛り上がった土地

oıɭını ［植物］山菜。特に凪人が好むわらびなどの山菜をいう。 ［名詞］ ロリコン、ロリータ、ロリータコンプレックス、ロリ、炉、炉利 ［類義語］ɥəlcocl ［レベル］３ zφ;<>oıɭɭı | µɒ; セレンが２０歳のころ ılſ 人の９歳の少女 oıɭını を気に入って可愛がったことが転じて後にロリコンの意味で使うようになった。 ɺʔ ［語法］ ɥəlcocl はより医療的な単語で、oıɭını がより日常的な単語。語源はロリコンの対象となる少女を指す言葉だが、そこからその子を好きになるような年長者のことを指すようになったため、ロリコンの意味で使う。ロリータは厳密にはロリコンの対象となる少女を指すが、日本語でもロリコンやロリコンの性癖として使われることもあるため、訳語に設けた。【成句】 ıl oıɭını, ſeɔ lclejɼ Ｙｅｓロリータ、Ｎｏタッチ！ 変態紳士の合言葉。 ıl oıɭını, ıµ lclejɼ Ｙｅｓロリータ、Ｇｏタッチ！。ıl と ıµ で頭韻を踏んでいる。

oıɭınıɼdeeφlɔſ ［俗語］ストライクロリゾーン ıl;/ ɺɱ ［語法］ ロリコン趣味における主に年齢的なストライクゾーンのこと。まぁそんなことより女の子が一番可愛いのは９歳から１０歳にかけてだと思う。 【用例】 oıɭınıɼdeeφlɔſ e ȷeµen eſ c ſɔlcȷ L ıl 10 ɒı. セレンのストライクロリゾーンは小３から小４（９歳から１０歳）だ。

oıɭıdɔl ［地学］丘陵地帯 ［レベル］６ ɺ1

oıɭıl ［植物］セージ ［レベル］３ ılıɭſı

oıɭe,ɑ ſə（それ）

oıl ［名詞］突起 ［形容詞］突き出ている、凸な ［動詞］ɥəl を ı に突き出す、突き出す、突き出る、突出する、突出させる、出っ張る ［数学］頂点 ［反意語］ncȷ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ɭıloı（山）【用例】 oıl uıɭ ı µeſl 敵に武器を突き出して向ける

oılɒ ［医療］憩室 1L:oıl

oıldɔȷɔs ［生物］隆椎、第７頸椎 µɒ;/「突き出た頸椎」 ɺɱ

oıȷſ ［動詞］ɥəl を振る、振る、振りかざす ［レベル］２ ɑl;oı 1ɱ: 制 : 語源不詳 ::lınȷ 【成句】 oıȷſ ıµzɔn ɭılſ ɑıc cɭ ȷɔɒ. 火が出るまで杖を振りなさい:最初は成功しなくても何度でも試しなさい。七転び八起き: 魔法使いの子供は火を出す簡単な呪文から練習する。最初は火が出ないのでがっかりするが、周りの大人は諦めずに何度もやるようにアドバイスする。練習を重ねれば、いつかきっと魔法が使えるようになる。

oıȷſſɔll ［名詞］素振り、すぶり ［レベル］３ µɒ;/「振る訓練」 ɺʔ

oıȷſın ［音楽］カバサ zφ;oıȷſın,ıȷɭeµcı<oıȷſ ɺɺ

oıȷd ［被服］袖、スリーブ ［反意語］ləȷd ［レベル］３ 1ɱ: 制 : 古 :oıȷıbe 【用例】 oıȷd ɑcl 長袖

oıȷdleſ ［動詞］ɥəl を引き止める、引き止める、引き留める、慰留する ［普通動名詞］慰留 ［レベル］４ ɺɺ: 女が男の袖を引っ張って捨てないでと哀願することから。

oıȷdı ［被服］カフス ［レベル］５ 1ſ: 制 :oıȷd

oıȷeſ ［哲学］克己 ［組み数字］５／１０ ［哲学］克 ［医療］大腸 ［歳時記］壬、みずのえ ［レベル］４ µɒ;oıȷeſ,ɑu ɺ1 ::lə oıȷeſ

oıȷeſ,ɑu ıȷeſ oıȷſ.ɭ

oıȷeſlın ［生物］［医療］大腸経 ȷzl;/ ɺɱ

oın ［形容詞］大雑把な、物の切り方が大雑把、仕事が大雑把、人の性格が寛容で細かいことに気にしない、荒い、荒削りな、ざっと、いい加減な ［反意語］ɭclȷ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 語源不詳 【用例】 lıb oın 大雑把な仕事、いい加減な仕事

oın(ɺ) ［代詞］［南方］［男性］ın ［レベル］３ ɺ1:l.ın

oın,ılſ ȷɔl、dɔſɔɭ

oınſ ［名詞］杯、カップ、トロフィー ［レベル］３ 古

oınɭən,ılſ dɔſɔɭ

oınɒı ［地名］ワンダ ȷɒ<oınſı,uɒ ɺʔ ［文化］ ヴェマ東南沿岸部の地名。

oınɒıeſeɭ ［料理］烏龍茶、ウーロン茶 ［レベル］３ µɒ;/ ɺʔ

oıns ［非言語］ワンジュ ［レベル］３ ɺ0:ɒelcɒcı lceµ:oıın/sc ［語法］ 片方の人差し指を立て、胸の高さまで持ってきて前後に小さく振るしぐさ。思い出したり人に何かを言及したり訂正したり気付いたときなどに使う。通常左手で行い、「あっあー」などの声とともに使う。

oınlɥəɒcı ［言語］ライトファンタジー ［レベル］５ µɒ ɺɺ ［文化］ lɥəɒ cı

oınc ［名詞］凹凸、おうとつ、デコボコ ［工学］歯。歯車の歯。 ［レベル］３ µɒ;oıl/ncȷ ɺʔ

oıncıll ［工学］歯数 µɒ;/ ɺʔ

oınɔ ［アイテム］小手、手甲 ［レベル］３ µɒ ɺ0: 古 oı/hɔ（手 / 固い） oıhɔ:oıhɔ

oınen ［代詞］［南方］［男性］ınſ ［レベル］３ ɺ1:oın の属格

oıu ［生物］掌、しょうてい ［レベル］３ 1ʔ: 制 :µcɒcı: 古アルカでは oıuıȷ といい、手の武器という意味を持っていた。 ［語法］ 手の平の下部。手首のすぐ上から親指の付け根にかけての部分。ここは手の平のほかの部分より圧倒的に硬く、アルカではこの部分は oıu と呼び、ocȷ とは切り離している。

oıuı ［植物］カエデ、楓、もみじ、かえで、紅葉、モミジ ［レベル］３ 1ʔ: 制 :lıɭſı:oıuıȷ（oıuıȷ（ショウテイ）から来ている）［文化］ 秋の代表的な木。カルテのフェンゼル通りに大きな並木道がある。 ルティアの国樹。 【用例】 ſeɭ e oıuı eɒıſ hıµ. カエデの葉が赤くなった。 ın ılucnȷıſ ɑɔə ɒeſſeɭ e oıuı. 紅葉の葉を何枚か拾った。

oıɒ ［名詞］洞窟、ケーブ、洞穴、ほら穴、ほらあな ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :ɭıloıɒɥəlı（山の穴）

oıɒı,ɑ 100 elſ;oıs/ɒıns

oıd ［形容詞］利き ［名詞］利き手、利き腕 ［動詞］ɥəl を自在に操る、自由に利かせる ［反意語］ıloıd ［レベル］３ ſɒ;e 1ɱ:ȷeµen:ɭlel:ȷcɒ:coı（利き手）。同時に「右手」の意味。 ［語法］ oıd は利き。いくつか、特に二つあるうち、メインで使われるものを指す。より上手に得意に扱うことができるほうを指す。利き腕などに使う。 ſıɭ oıd は利き腕、lıȷ oıd は利き手。日本語で利き腕というときは lıȷ oıd のほうが多い。

oıdzɔnɒ ［運動］フォアハンド 1ɱ: 利きショット

oıdlıȷ ［生物］利き手 ［レベル］３ µɒ;/ ɺʔ

oıdɔɭɔ ［音楽］ボンゴ zφ;oıdɔɭɔ,ıȷɭeµcı oı は手。dɔɭɔ は擬音。 ɺɺ

oıbel ［アトラスの国家］ワベル ［レベル］５ 1L:µcɒcı: 山のファベル。oı は ɭıloı の oı

oıhɔ ［名詞］レンガ、煉瓦、ブリック ［レベル］3 ɑu:hɔ は「固い」 古 :oıhɔ oıhɔ:oıhɔ

oıhɔ,ɑu oınɔ oı/hɔ「手の固いもの」

oıµ ［名詞］ベニヤ板 ［レベル］４ lıɭſı

oız ［建築］ひさし、庇、軒 ［レベル］３ 1L:oız/zɔn。zɔn はこの場合、幌を支える棒。 【用例】 ın ɑɔnlıſ eȷɭ ɒɔl oız. 軒下で雨宿りをした : 軒下は ɒɔl oız、あまやどりは ɑɔnl eȷɭ。

oızeſ ［軍事］［魔法］魔動手甲、ワゼット ［レベル］５ ɺ0:oı（手）/eſ（～風な）「手のような」［文化］ イムル 1ʔ0Δ 年に clɒc ıɭcnıȷ が開発した武器。右手に嵌めて使う。ほぼ右腕一本にまるまる嵌めて使うので、装着といったほうがいい。 魔動銃をさらに強化したもので、砲弾のような威力がある。手に魔法の大砲を嵌めているようなものである。

oızel ［宗教］祓魔師、エクソシスト zφ;「振り払う人」 ɺɱ

oıs,ɑ ɺ elſ;oı/sc 手を広げることから

oıoı,ɑ cɭıl

oıl ［地学］山 ［形容詞］～山。前置。 ［物理］波の山 ［反意語］əcl ［レベル］２ ɑl;oı/ıl「手の形の」。あるいは əcl からの ɭ。 1ʔ:µɥəə:ɭlel: 古 :ɭıloı ɭıloı:ɭıloı:lı ɭıloı（サールが山）【用例】 lın ɒc lıſ oıl. 山にはたくさんの人がいた。

oıl(ɺ) ［動詞］ɥəl を ı に手渡す、手渡す ［普通動名詞］手渡し ［レベル］３ ɺ0

oılſ ［軍事］兵卒 ［組み数字］７／７ ［レベル］３ 古 :zını:oı/lınſcȷ（手となる人（下っ端の意味だろう））［文化］ 兵の階級のひとつ。曹長、軍曹、伍長に分かれる。 兵長、上級兵、下級兵に分かれる。日本では下級兵ではなく一等兵だが、そうしてしまうと後の二等兵がないため、下級兵とした。 日本語では兵卒でなく兵だが、uıc と区別するために兵卒と訳している。

oılſȷ ［動詞］ɥəl をよつんばいにさせる、四つんばいにする。姿勢動詞 ［再帰動名詞］よつんばい、四つんばい ［レベル］３ ɺ0:oı/ləı/ȷɔ（手と足する）

oılſeeze ［気象］山風 ［気象］山谷風← oıləclſeeze ［気象］颪、おろし ← ɒcɒſeeze ［レベル］４ ɑu;/ ɺʔ

oıɱıɑ ［地球の国名］ハイチ　1L: 国名が山ばかりの土地

oıɱııɒı ［アトラスの国家］ワルカーマ ［レベル］5　ʃʔ:µcɑcı

oıɱclc ［魔法］握、一握、いちあく、ワルキリー ［レベル］5　ʃ0:oı/ıl/ɅcIc（手のようなものの形に分断された）［文化］ ɑɔlɒcɥə

oıɱclceɒ ［魔法］握化 ［レベル］6　ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

oıll ［名詞］みね、嶺、峯、峰、尾根、おね。山の高いところ ［レベル］5　µɑ;oıl/oıl　ʃɱ

oılʝɿcn ［普通動名詞］体育座り ［動詞］ɥəl を体育座りさせる、体育座りする ［レベル］3　µɑ;「山のように膝を立てて座る」 ʃʃ

oılȷel ［歳時記］山の日 ［レベル］3　ʃ1 ［文化］ → ȷılɒın　サルマン山が山開きとなる日。ɑɥə ʅeſ。山がハイキングで賑わう。

oılu ［医療］ポリープ ［レベル］5　1L:oıl/ucl

oıluelſ ［名詞］かき氷、カキ氷 ［レベル］3　1L: 山のような形の氷 【用例】 ın ʅəc lıl oıluelſ ɔlen uenc. 氷あずきが食べたい。

oılɒı ［組み数字］１２/１５ ［レベル］4　ʅılɔ:ɒes は後付けで、本当の『カコ』には出てこない名。

oılɒı ɒes ［人名］ワルマ＝メジュ ［組み数字］１２/１５ ［レベル］4　ʅılɔ:ɒes は後付けで、本当の『カコ』には出てこない名。 ［文化］ メテの第１２使徒。

oılɒılcl ［化学］フェルミウム　1Δ: 制

oılɒɔɑ ［普通動名詞］山登り、ハイキング ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelſ ［文化］ アルバザードには山がそんなにないので大して登山は盛んではない。森林浴などと同じく、ウォーキングの一環として行われる。ただ、登山でのウォーキングには当然街を歩くウォーキングの格好ではいかない。ちゃんと登山用の道具を揃える。これは日本のものとそう変わらない。服も枝などに触れて切ったり毒を浴びたりしないような格好をする。しかもこの格好は同時に動きやすくばてないものでもある。枝に当たらない云々は森林浴でもいえることであるから、森林浴でも服装は登山と変わらない。登山用の道具を持っていかない程度の違いである。アルバザードでは森林浴のほうが多い。森が多いからである。休日に家族と行くことが多い。尚、日本では初日の出を見に山に行くことがあるが、アルバザードではしない。

oıldɔ,ɑ　ȷeɑ　oı（手）/l（物）

oılbəl ［医療］アルツハイマー ［レベル］6　1L:µcɑcı ［文化］ µɑ で、海よりも森、特に川のない山に住む人間に多かったことから。魚を食べる人間とそうでない人間を比較したとき、罹患率の差が有意味だった。　国内ではワッカの不便な村に患者が多かった。その村はワインなどの生産も少なく、魚も食べなかったことから、罹患率が高かった。

oılµecn ［数学］下向きの放物線 ［レベル］4　1L

oılcl ［名詞］また、椏、又、股 ［レベル］5　ɑu;oıl/əcl「山谷」 ʃʔ

oılɔu ［物理］下向きの放物運動 ［レベル］4　1L

oıleſ ［代詞］［φɱɔ］おまえら、おめーら、オメーら ［レベル］1　ʃ1:ʅlccz:oılſ

oılə,ılſ　ſcl　oı eʅȷ lıȷ

oıləcl ［経済］いってこい、行ってこい、行って来い。変化すれど結局元の状態に収まること。経済以外でも使う。 ［名詞］元鞘、モトサヤ、元さや、元サヤ、元の鞘に収まる、元の鞘に納まる　ʃʃ:「山谷」【用例】 lıȷ uıµıſ oıləcl ſeµ. あいつら（カップル）、元サヤに収まったんだってさ。

oıləclſeeze ［気象］山谷風→ oılſeeze　µɑ;/　ʃɱ

oıı ［感動詞］わあ、わぁ、わー。驚きや喜びを示す。 ［名詞］喝采、わーという声、アプローズ ［レベル］1　lıɿſı: 喝采のオノマトペ

oııȷ ［普通動名詞］応援 ［動詞］ɥəl を応援する、応援する ［レベル］3　lıɿſı:「わーという声」

oıın ［動詞］ɥəl を揺らす、揺らす ［レベル］2　ɑ;ɑɔueſ　古 : 揺らすときの「ぶらーん」というオノマトペ。　oıın:oıın ［語法］ ブランコや振り子のように揺らすこと。小刻みに震える揺れは ɒıφ。

oıın(ɺ) ［動詞］ɥəl を唸らせる、うなる、唸る ［再帰動名詞］うなり、唸り ［物理］うなり ［レベル］3　古 : オノマトペ

oıınſ ［名詞］ブランコ、スウィンガー、スインガー ［レベル］2　1ʔ: 制 :oıın

oııɒ ［名詞］ゆりかご、クレイドル、クレードル、揺り篭、揺り籠 ［交通］移動用の籠 ［レベル］2　1ʔ: 制 :oıınɒcld（揺り動かす籠）［文化］ 怪我や病気や老化のせいで歩けない人のための移動手段。実際のところ籠は稀。人力車は比較的見られる。

oııɒlelſ ［地球の国名］モーリタニア　1L: 国旗がゆりかごの月

oııɒen ［天文］カペラ　µɑ;oııɒ/en ゆりかごの星。周極星であることから。　ʃ1

oııφ ［感動詞］うわー、うあーん、うわあん、うわー、えーん、うえーん、うぇーん、うぎゃあ、おぎゃー、オギャー ［レベル］1　ſɒ;ɑɔueſ ʃ1:µcɑcı; ユルトの泣き声を模したもの。幻英より。幻日登録は ʃʔ。

oıız ［物理］モーメント。位置ベクトルとベクトル量の外積。 ［数学］モーメント、積率 ［レベル］5　ʃ1:oı/zıu「手回しベクトル」 実験中に手を回してモーメントを説明したことから

oııl ［名詞］振り子、ペンデュラム ［レベル］3　ɑu;oıın/ıl　1ʔ: 制 : 古 :oıınıl oııl:oııl 【成句】 ɑcıȷ ʅı oııl e ləſcı ルティア家のゆりかごに生まれる＝金持ちの家に生まれる 【用例】 oııl ınɑ oıın. 振り子が揺れている。

oıılbıſſɔ ［アイテム］フットマンズフレイル　ȷɒ;/　ʃɱ

oıııeſ ［アイテム］フレイル　ɑu;oııl/ſe「振り子のような」先端の武器が振り子のように見えたことから。　ʃɱ

oııc ［感動詞］おーい、やっほー、おおい、ヤッホー、こんにちわー、オーイ ［レベル］1　古 : 遠くの人に声をかけるときの掛け声。音声学的に見ると「おーい」より「あーい」の方が声が遠くに届くので、アルカの方が合理的かもしれない。

oıc ［普通動名詞］祝い、祝福、祝儀、祝典、セレモニー、セレブレーション ［動詞］ɥəl を祝う、祝う ［レベル］3　1ʔ: 制 :lıɿſı: 喜びのオノマトペは ɥıı oıı c。ここから取ったので日本語の「わーい」とは無縁。 ［文化］ 祝いやお悔やみにはスピーチをしたり金品を贈呈したりする。簡単な祝いなら言葉をかけてやるだけでも良い。受け取った方は ȷenſ と返す。祝う人は常に楽しげで喜んでいるような態度を取る。相手と一緒に喜びを分かち合うのが礼儀だからである。一緒になって祝ってやるのが良い。お悔やみも遺族であるかのように悲しんでやるのが良い。「家族でもないくせに」と罵られることはない。むしろ「家族のように悲しんでくれた」と感謝される。

oıcn ［名詞］祭り、フェスティバル ［レベル］3　1ſ: 制 :oıc から 【用例】 ıµ oıcn e lcɔn ſ'ınsəµ 紫苑祭を催す

oıcɒ ［名詞］山車、山、⊠、地車、曳山、山鉾、祭車、屋台、パレードカー、フロート、パレードフロート、フロート車 ［レベル］4　µɑ;oıcn/ıɒɔ　ʃʔ 【用例】 ſıl ınȷ ſcalıſ oıcɒ ɑc ɒcl ıȷſel ɔ φıµɒı. しかし、震災や戦火により多くの⊠を失った。　ınȷ ɑɔɿ ȷcl oıcɒ nɔȷȷel cɒ ʅeȷſ. 明日は⊠飾りだ。

oıcφcl ［名詞］祝い金 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelſ ［文化］ アンセに金銭が登録されているため、金券が一般的。

oıɔ ［感動詞］わあ。好意的かつ大きな驚きを表わす。 ［レベル］1　古

ocſ ［言語］o の文字 ［レベル］1　1ɱ: 制 : 挨拶 ［語法］ 第１９文字目の幻字。

ocſ(ɺ) ［名詞］挨拶 ［動詞］ɥəl を ı に挨拶させる、挨拶する ［レベル］2　古 : 頭を下げる音のオノマトペ。アルカは礼儀として頭を下げる。 ［文化］ 挨拶は相手に対して敵意がないことを示す行為である。相手を無視しておらず、相手の存在を認めているということを伝える手段でもある。人がいるのに挨拶しないのはその人の存在を認めていないことで、無礼。挨拶は敬度によっていくつか存在する。一番敬度が高いのは ɒcȷɔɔnɔɥən で、疎遠な目上にしか使わない。ȷɔɔnɔɥən は最も一般的で、誰に対しても無難に使える。ȷɔɔnɔ は日常的で、疎遠か目上かのどちらか一つに当てはまる相手にはあまり好ましくない。対等な関係や目下には使える。また、hııc も ȷɔɔnɔ の代わりに使える。hııc のほうが砕けている。更に hııc は挨拶よりも呼びかけに近い。道端で勧誘人が馴れ馴れしく人に声をかけるときは ȷɔɔnɔ というより hııc である。呼びかけに近いからである。尚、ノンバーバルな挨拶もある。lɔɒ のようにお辞儀することがそのまま挨拶になる。これは ȷɔɔnɔɥən かそれ以上に敬度が高いので好んで使われる。日本と違うのは、言葉を使うなら lɔɒ はしないということである。lɔɒ は言葉の代わりなので、両立することはない。また、ɒɒ という挨拶もある。口を開けずに相手を見て ɒɒ と喉を鳴らす。これは ȷɔɔnɔ より敬度の低い挨拶で、親密か目下にしか使わない。　アルカの挨拶は敬度によっていくつか分かれているが、時間によって分かれていることはない。つまり朝昼夕晩で挨拶を使い分けることはない。おはようもこんばんはもない。家族への挨拶は ȷɔɔnɔ か ɒɒ が多い。親密だからである。ただ、親は子より目上なので、子供が ɒɒ というのは失礼。子供は ȷɔɔnɔ というのがふつう。親はそれに ȷɔɔnɔ か ɒɒ で返す。親の親である祖父祖母も自分より目上なので同じく子供は ɒɒ といえない。兄弟間の挨拶は対等で、特に兄が弟より上ということはない。ただ、兄が弟より上と決める家庭もあり、この場合は弟は兄に ɒɒ といえない。　見知らぬ相手と二人きりになったら挨拶はもちろん、少しの世間話でもして緊張を和らげるのが常識。ぶすっと黙っているのはとても感じが悪いので、気軽に声をかけること。最低限、目が合ったらほほ笑むように。ただし妙齢の女子から声をかけるのは用でもないかぎりタブー。この場合、男から声をかけなければ失礼に当たる。もちろん、下心などは持たぬこと。

ocſȷ ［動詞］ɥəl をひょいっと跳んで ı に行く、跳ぶ、ジャンプする ［普通動名詞］跳躍、ジャンプ ［レベル］3　lıɿſı: ジャンプのオノマトペ

ocſıȷſ ［再帰動名詞］挨拶する人 ［レベル］3　ʃ1

ocɿ ［動詞］ɥəl を頷かせる、頷く、うなずく、うなずく ［再帰動名詞］頷き、うなづき、うなずき ［反意語］ıloc ɿ ［レベル］2　古 【用例】 ocɿ hın el{heɒel} 大きく{小さく}頷く　ocɿınɑ こくこく{コクコク}頷く　"ıı..." lınɿɔ ocɿcɿ ɔɿ ıȷel µecı.「あぁ」青年は寂しそうに微笑みながら頷いた。　ıuelınſ ocɿcɿ ȷeeµel. 死神は静かに頷いた。

oclı ［名詞］かんな、カンナ、鉋 ［レベル］3　1ſ: 制 :ocl（へこみ）

ocȷ ［生物］手の平、手のひら、掌、てのひら、足の裏（ləoıocȷ）、靴底、手掌、足底 ［類義語］ʅıld、ɑleɑcµ ［反意語］ɔcȷ。類音につき注意。 ［レベル］2　1ʔ: 制 :oıȷ: 古 :oı は手を意味する。　::lə ɑleɑcµ（手が lı）:oıſſı, ılſ 【用例】 ocȷ hın 大きな手のひら

ocȷſ ［動詞］ɥəl を平手打ちする、パーで殴る、スラップする、パーンと打つ、ピシャリと打つ、引っぱたく、引っ叩く、ひっぱたく ［普通動名詞］平手打ち ［レベル］3　1L:ocȷ/bıɑ 【用例】 ʅɒccµ ocȷſ ȷccı ȷeµen µıȷ ɑɔə cɒ ɒılſ. クミールは少女時代に何度かセレンをひっぱたいたことがある。　lı ocȷſıſ ʅııɒ ınſ. 彼は私の頬を打った。

ocȷɿıɑ ［ユマナ］アラブ首長国連邦 ［レベル］6　1L: 珍しい形の人工埋立地「パームアイランド」が近年ドバイで隆盛

ocȷɿcɒ ［生物］掌屈、底屈　µɑ;/　ʃɱ

ocȷɑcı ［名詞］箱庭 ［レベル］4　ʃ1:「手の平の世界」

ocȷφcnɔ ［名詞］アイゼン、シュタイクアイゼン、クランポン　µɑ;/「足底の爪」 ʃʔ

ocȷbıɔφ ［非言語］［動詞］ɥəl の手のひらをもう片方の拳で打つ、打つ、殴る、打ち付ける、打ちつける ［レベル］3　µɑ;/　ʃʔ ［文化］ 主に左手の手

のひらと右手の拳をぶつかり合わせてパンと鳴らすことで、苛立ちや怒りを表すジェスチャー。ふつう男性しかしない。男性の中でも気の荒い武闘派に多い仕草である。

ocȷɔn ［植物］ヤシ、椰子、ココナッツ、パーム、ココヤシ ［レベル］4 1ϙ: 制 :ocȷzɔᴅ「手の平の木」。葉の形が手の平に似ていることから。

ocȷe ［料理］マーガリン ［レベル］3 1ʔ: 制 :ocȷɔn（ヤシ）/eᴅɥə（油）【用例】 eu ocȷe マーガリンを塗る

ocnz ［動詞］ɥəl を歪める、歪める、ゆがめる、ゆがむ、歪む、ひしゃげる ［形容詞］性格が歪んだ、姿勢が歪んだ ［音楽］ディストーション ［魔法］ウィンズ。空間や時空を歪める時魔法。メルがミュシャクで使用した。 ［美容］ツイスト ［レベル］3 古 : 木がしなる音からきているらしい。 【用例】 lı eȷ ocnz cſ ııɑ. 彼は腰から曲がっている。

ocnzlclɑ ［名詞］ご都合主義 ［形容詞］ご都合主義な ［レベル］5 μɑ;/「歪んだ好都合」 Ꭻᥒ

ocnzȷıdᴅ ［医療］気胸 ［レベル］5 1L: ひしゃげた肺。胸腔内で気体が肺を圧迫するさまを大げさに捉えて。

ocnzᴅccμ ［論理］［言語］詭弁、きべん ［レベル］5 μɑ;;「歪んだ理論」 Ꭻʔ

ocφıl ［魔物］ウィガル（欲貨）：第九十天：利の氷天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:ocl/φıl（制 : 円盤＝硬貨） ［文化］ 憑族。コインに宿る魔物。人間の欲を引き出し、ギャンブルに走らせ、破滅させる。欲に負けず、財布の中身をすべて貧乏人に喜捨し、自分のパンを買うために最後の一枚としてこの硬貨を残したとき、ウィガルは弾けとび、あふれんばかりの金銀財宝となって現れる。ウィガルは神でなく魔物なので複数存在する。ギャンブルで破滅する人間の数だけいる。

ocφılɾıcɑı ［天文］ペルセウス流星群 ［レベル］6 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ リディアがリアントに放ったライファがこの流星群。

ocl ［動詞］欲望を持って ɥəl を望む、性欲の対象として ɥəl を好む、望む、好む、好き ［接辞］～コンプレックス（ただし性欲の対象とするという意味で使う） ［レベル］3 1L:ʅəclıl → ʅəcl → ʅocl → ocl 【用例】 le beeu oclınɾ あのスケベジジイ！ edɤ ſc ocl ɑcın lıɤ えっ、君、ロリコンだったの？

oclſ ［形容詞］凹凸のある、おうとつのある、でこぼこした、デコボコな、粗い、ざらざらな、ザラザラな ［形容詞］起伏の激しい、感情豊かな、感受性の強い。感情や形に使う。 ［名詞］凹凸、粗面 ［反意語］ȷcʅı ［レベル］3 Ꭻ0:əcl/ſe（谷っぽい） eɔ:eɔ ［語法］ nıᴅcμ 【用例】 ȷcμ oclſ ぶつぶつな肌

oclſueμınſ ［医療］クラスターB。人格障害の。 ［レベル］5 ul;/ Ꭻʔ:ᴅel

occz ［軍事］上級兵、ウィーズ ［組み数字］１９/２０ ［レベル］3 1L:μcɑcı:ocnz（ひしゃげる）。下級兵ともども、よく戦死して死体がひしゃげることから。 ［語法］［文化］ ʅını

oɔ,ɑ oɔɔᴅ e

oɔ,ɑu ɔuı

oɔn ［副詞］やはり、やっぱり、いままでの考えと違って ［レベル］1 1ſ: 制 : 恣意 ［語法］ 考えでも状況でも何でもよいが、変化したり逆のことをいうときや気が変わったときなどに使う。「 やっぱ止めた 」など、状況や気持ちなどが変化したときの「 やはり 」である。len と区別すること。 【用例】 ıı, μen uıſ ıſə. oɔn ɑeμ leeu uın ıſə. nıı ɑeμ lıl elɑ φııſɔ lɑcȷ ſcȷ, ſeſ–– あぁ ちょっと待ってくれ やはりここで降ろしてくれ なぁ こんな人生は 望んじゃいない 望んでたのは一一・・・ （ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『乗車権』）

oɔnſ ［名詞］ペダル ［音楽］ペダル ［レベル］3 1ʔ: 制 : 語源不詳 【用例】 ıμ oɔnſ e ɥıᴅe 自転車のペダルを漕ぐ

oɔnȷ ［動詞］ɥəl を踏む、踏む ［レベル］2 古 【用例】 oɔnȷ ləoı 足を踏む oɔnȷ ucenel 強く踏む

oɔnȷʅıɑ ［地球の国名］タンザニア 1L: 国章が何かを踏んでいる

oɔnȷen ［音楽］ロカビリー Ꭻ1:oɔnȷ/en

oɔnbıȷ ［経済］クーリングオフ ［動詞］ɥəl をクーリング･オフする ［レベル］4 ul Ꭻ0:"oɔn (ın) bıȷ (ſə ſcȷ)"「やっぱりこんなのいらない」 ［文化］ ｖｌでできた。可能な期間は ıɑcı まで。

oɔnbıȷᴅel ［俗語］賢者タイム ［レベル］4 ıl ᎫᎫ:「クーリングオフ時間」 ［語法］ 主に男性の自慰・性交後に訪れる魂の平安。人によって長さや程度が異なる。

oɔl ［政治］［法律］訴訟、訴え ［動詞］ɥəl を ɔn{ᴅcl} について訴える、訴える、提訴する、告訴する、訴訟する、訴訟を起こす ［レベル］4 1ʔ: 制 : 語源不詳 ［文化］ アメリカほど裁判社会ではない。個人間のトラブルは個人とその周りの間で内々に解決することが多い。一方個人と企業の間は裁判が起きやすい。個人は力が弱いので泣き寝入りしやすい。アルバザード人は泣き寝入りしない人種なので、相手が自分より強い場合は毅然と戦う。強いものと戦うのを粋とし、そうでない相手とは穏便に済ませるという価値観が出ている。

oɔlſ ［丁寧］［形容詞］太っている、太った、太い、ふくよかな、恰幅のよい ［文字］ブロード ［反意語］ȷclɑ ［レベル］3 古 ȷɔμn:ıleᴅ,ſəəɥə,lcnɔı を過去資料から掘り起こしたときにクミールが再発見した古ソーンの形容詞。セレンが ſcnı を作っている最中で、セット（字幅）の呼称をどうしようか悩んでいた折に「これを sıl 系列のひとつに使ってはどうですか」と教えてくれたもの。語源不詳だが、ſ は ſe のはず。oɔl は oı か。「手を広げたような形」が原義かもしれないが、予想の域を出ない。

oɔlſuıcᴅ ［名詞］ゴリマッチョ、脳筋 μɑ;/ Ꭻᥒ

oɔluınſ ［法律］訴訟法 ［レベル］5 1L ［語法］ 民事訴訟法と刑事訴訟法の総称。

oɔlɑen ［代詞］［φnɔ］おめーらの ［レベル］1 Ꭻ1:ʅlccze:oıleſ/n

oɔı ［名詞］ざわめき ［動詞］ɥəl をざわめめかせる、ざわめく、ざわざわ、ザワザワ ［レベル］3 古

oɔıl ［名詞］［形容詞］どの数の、どの番号の ［レベル］2 1L

oɔɔ ［感動詞］わー ［名詞］大勢の雄たけび、わーという声、戦場や会場などでおーっと大勢が叫ぶ声 ［レベル］1 古 ［語法］ 複数人がおーっと声を上げること。

oɔɔᴅ ［生物］足首 ［反意語］ʃınʅ ［レベル］2 μɑ Ꭻ0: 古 oɔ/ᴅıcn oɔ:oɔ ［文化］ アルバザード人は男女とも手首足首が細い。骨格から細いので、筋肉質な人でも細い。というのも手首足首にはほとんど筋肉がつかないため。 【用例】 oɔɔᴅ lclı 細い足首

oɔɔᴅhɔ ［生物］足根骨 ᎫᎫ

oɔɔᴅɥɔlɔ ［被服］長ズボン μɑ;/ Ꭻᥒ

oɔɔᴅləȷ ［被服］ショートスカート μɑ;/ Ꭻᥒ ［文化］ 歩くことが多い平民の女性、特に行商の女性などが着た。足首の長さなので地面を引きずらない。

oɔɔφ ［名詞］勝利宣言、勝鬨、勝どき、勝ち鬨、かちどき ［動詞］ɥəl に ı に対して勝ち名乗りを上げさせる ［反意語］ueȷl ［レベル］4 Ꭻ0:oɔɔl φııl（兵士の雄叫び）。勝った際に前線の兵士（現場で最も数が多い）がおたけぶことから。 ［語法］ 元は叫ぶところから来ているが、シェルトの勝利宣言にも使う語で、この場合はもちろん叫んだりしない。 【用例】 uıc ȷecn oɔɔφıſ ı μeſl. 兵士たちは敵に勝どきをあげた。

oɔɔl ［軍事］下級兵、ウォール ［組み数字］２０/２０ ［レベル］3 1L:μcɑcı:oɔɔ/lınſcȷ（雄たけびをあげる人） ［語法］［文化］ ʅını

oe,ɑ ȷɔlȷ

oeſſı ［軍事］兵長、ウェッタ ［組み数字］１８/２０ ［レベル］3 1L:μcɑcı:o/eſſı。女戦士でこの地位の人が多かった。 ［語法］［文化］ ʅını

oen ［形容詞］～など、～とか、～や ［レベル］1 古 ［語法］ ȷcɑ 【用例】 ın ſcl ɑcdcſ, ɑcı ueeμ, ſel ıɑel oen. 色々あるよ。ディア・ヴェールとかテル・アデルとか。

oen(Ꭻ) ［アトラスの国家］ウェン ［レベル］5 Ꭻʔ:μcɑcı

oenz ［医療］倒錯 ［レベル］4 ul;ocnz.ʅ Ꭻʔ

oenoen ［形容詞］などなど。oen と変わらない。語調が違うだけ。 ［レベル］1 1Δ

oeᴅ ［動詞］ɥəl を舐める、舐める、なめる ［レベル］2 1L:ȷɔμn:uoeeᴅ(ʅəhe の変化形) 【用例】 oeᴅ eelc アイスを舐める

oeᴅȷel ［歳時記］ウェムセル ［レベル］3 1L:「舐める日」。概念自体はメルᛚ年にリディアが作成（←違う、誤記だ。てっきり中２だったから９４年と早とちりしていた。年をまたいでいるので中２の冬、つまり９５年になる。１９９５年の日記を見たら、この年の２・１４にこの記載がある。従ってメルᛌ年。しかしそれでは leeuen と重なってしまう。あのとき leeuen の出来事を知ったのは当日より後だと記憶している。実際日記を確認するとその通りで、１４日の日記では触れておらず、２０日の日記で触れているからだ。つまり２０日に知ったことになる。ということは１４～２０日までは少なくとも仲間内の誰とも連絡を取らなかったことになる。なのに１４日に oeᴅȷel のことに触れているということは、少なくともこの年より前に oeᴅȷel のことを知ったことになる。そもそも１４日に leeuen のことを知っていたらのんきに oeᴅȷel などといっていられまい。もっとも、２０日の日記を見ていると leeuen の真相を知らなかったのでわりと安穏としていたようだが。ともあれこの年の oeᴅȷel の記述はこの日に oeᴅȷel を知ったということではなく、１４日になって「あぁそうだ、今日はあの日だ」と思い出して日記に書いたということになる。となると oeᴅȷel 自体を知ったのはその前年かさらにその前あたりになろう。出会い的に９１年２月はありえないので、９２～９４のいずれかになる。もちろん oeᴅȷel のことを知ったのは２・１４以外の日の確率のほうが高いが、９４年に知ったら９４年の２・１４を oeᴅȷel の起源日に、９３年なら９３年の２・１４を起源日にすべきだろう。それでどちらかという話だが、少なくとも中学だったことは記憶しているので、９４か９３しかありえない。９４年だと ɑcn で leeuen と重複する。９３年だと ʅeſ で重複しない。このいずれかであろうが、重複を避けるために ʅeſ を便宜上選ぶのが合理的であろう。するとイムル暦換算でも日付を変える必要がある。ところでこの日記だが、２０日の ıluınɔ の記載を最後にぷつりと途切れている。安穏としていたのかと思いきや、相当ショックだったようだ。よく見るとその日の日記は二部に分かれていて、安穏としているのは前半部。つまり後半部の leeuen の出来事を後から「ところで」と付け加えたことになる。それ以降ぱたりと書いていないので、かなりショックが大きかったのだろう。ただ文面がアンクノット化され、よく意味が取れない箇所がある。ちなみに前半部は闘神伝というゲームの街の大会で優勝したという話で、明らかに安穏とした日常。段落も変わっているし落差も激しいので、同じ時刻に書いたとは思えない） ［文化］ イベントのひとつ。クリスの月エケトネの日に、女子が好きな男子の目を舐める風習。奇習なので、ミロクの時代にはあまり盛んではない。μɑ で起こり、そのころが全盛期。 なお、夢織では死神の目の儀式として行われている。 イムル暦に直すと１５９３年２月１４日となる。メル暦では４年の lcȷ ʅeſ。

oel ［代詞］どれ、どの、どっち、どちら、どっちの、どちらの ［レベル］1 Ꭻ0:oɔ:1ʔ: 恣意 Tıſ:Tıſ:lıſɔȷ:ne,ılſ 【用例】 ın scnȷıſ ucl nɔȷ ſıə oel. どれを買えばいいか分からなかった。

oelſəl ［代詞］どのもの、どれ ［レベル］2 Ꭻ0

oelſəleſ ［代詞］どれの ［レベル］2 Ꭻ0

oellın ［代詞］どの人 ［レベル］２ Ɉ0
oellınſ ［代詞］どの人の ［レベル］２ Ɉ0
oeleſ ［代詞］どれの、どちらかの ［レベル］１ Ɉ0:ɹeɥen/ɥcɑcı:oel/ſe
oec ［感動詞］おい、ねえ、もうっ、やい、やーい ［レベル］１ 古 ［語法］ nee より親しい間柄で使う。２回繰り返すこともしばしば。また、nee などに比べると oec の方が驚いている感じやスピーディな感じがする。
oecn ［感動詞］［ɥənſe］oec ［レベル］１ 古
oecu ［単位］アト Ɉ1:oecuıɥ
oecuıɥ ［歳時記］小雪 ［名詞］２０時 ［組み数字］２０／２４ ［レベル］３ Ɉ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın
oecɒıı ［筐堺］ウェイマー ［レベル］5 ɥɑ;ueɒı の ueɒı 語読み。声調言語。 ɈɈ ［文化］ 筐堺司：əɒſɔnı uıſeɹ 筐堺国：ueɒı, ueɒı 周辺の ueɒı 人の集落等
oeeze ［文末純詞］［ıɒɒı］ſcɹɹe ［レベル］１ Ɉ1:ʅlccz:ſoı/ɹeɥ
oeec ［感動詞］おーい。oec の間延びした感じ。 ［レベル］１ 古

l

l ［接続詞］le の異形態 ［レベル］１ 1L:ɒel ［語法］ 母音で始まる語の前に付く。ＰＣのフォントを使う場合、ブロック体の場合は l の直後にアポストロフィーを置く。筆記体の場合は動詞媒介として使っていたハイフンを置く。【用例】 ɑcın l'ın ɹccnı 私の好きな少女
l(Ɉ) ［数学］自然数または整数の略語。数式で使う。 ［レベル］４ 1L:ɒel cɑcı ılſe
l(ʔ) ［単位］メラ ［レベル］２ Ɉ1
lſ ［言語］ルティア語、現ルティア語 ［レベル］５ Ɉ1
lſ̩ ［言語］遠ルティア語 ［レベル］６ Ɉ1
lſɹ ［言語］ルティア語、現ルティア語 ［レベル］５ Ɉ1
lſu ［言語］近ルティア語 ［レベル］６ Ɉ1
lſɑ ［言語］中ルティア語 ［レベル］６ Ɉ1
lſɑ ［言語］古ルティア語 ［レベル］６ Ɉ1
lɹ ［言語］レスティル語、レスティル人 ［レベル］４ ɈɈ
lɹ̩ ［言語］遠レスティル語 ［レベル］６ Ɉ1
lɹɹ ［言語］新レスティル語 ［レベル］６ Ɉ1
lɹu ［言語］近レスティル語 ［レベル］６ Ɉ1
lɹɑ ［言語］古レスティル語 ［レベル］６ Ɉ1
lɹl ［言語］lɹ̩_lɹɹ、上代レスティル語→ɹzl ［レベル］６ Ɉ1
lɹıs ［生物］意図的な突然変異、ミューテーション、変身、ルサージュ ［類義語］dı̩ ［レベル］４ Ɉ0: 古 ɒclɹıs（刹那の虚無）から。一瞬にしてセルトが変態したことから。 ［文化］ ルサージュとは意図的な突然変異のことである。神などが変身して日常的な姿を形成することであり、単なる一時的な変身ではなく、その姿で日常を送る場合にのみ適用される。 代表的なものはセルトによる。セルト元年（約ʕ00 万年前）に白い球だったエルトと黒い球だったサールが人型に変身した。 セルトは自らが住処として選んだアトラスに適応するため、動物の姿にルサージュすることにした。最も知能の高い動物を目指したところ、ちょうどこのころ霊長類が出現していたため、彼らは霊長類を元に自らをルサージュした。 ただし、プルガトリウスは現生人類と比べると遥かに知能が低いことからも分かるように、セルトの希望には叶わなかった。そこで彼らは霊長類の姿を元に改良を加え、知能が高くなるようにまず脳の容積を大きく設計した。脳を支えるために背骨を立たせる必要があり、二足歩行を選んだ。 また、暑さ寒さを魔法で凌ぐため、余分な体毛をそぎ落とした。彼らが訪れるフィーリアには動物よりも植物のほうが豊富なため、歯は他の霊長類同様、草食用に設計した。 このような細かい設計をしてルサージュをした結果、彼らは奇しくも後に伝染病で死滅するヒト属をさらに進化させた――すなわち現生人類に相当する――形質を取るようになった。 ルサージュは後にアルミヴァや悪魔たちも行う。ユーマはルサージュを行った親から生まれているので、始めから人間の姿で生まれている。 なお、セルトのルサージュは地球ないしアトラスで滅んだヒト属とまったく異なる変態であるため、セルトの血を受け継ぐユーマの一族もまたヒト属とは異なる変態をしたことになる。 ガルヴェーユ追放の後はアトラス各地の環境に適応したため、地球の現生人類とだんだん似てきたが、それでも根本的に異なる。例えば地球のヒトに比べ、ユーマの一族は全体的に骨格が華奢で手足が細長く、目がくりっとしていて、背が少しだけ小さい。また、飢餓の経験がなかったガルヴェーユ人までは太る遺伝子も持っていなかった。ユーマの一族の現代人はそのほかにも生殖能力が弱く妊娠率がヒトより少ないなど、外見上はよく似ていてもあくまで別の生き物だという点を残している。
luın ［魔法］［哲学］ルヴァン。アルカの瞑想。 ［レベル］3 古 ［文化］ ルヴァン中、ヴィルは手足や頭など、末端に集まる赤い光で、末端を温める。ノアは φııſ に緑の球となって集まる。ユノは呼吸をするたび体表を覆う青い光が厚くなったり薄くなったりする。
luıɥ ［魔法］ルヴァル気質 ［レベル］５ 制：ルヴァンをすることで逸ったユノとヴィルを抑える効果があるというところからそもそも来た概念で、ルヴァンを語源としている ［文化］ ユノ＋ヴィル気質。
lɑɥınɹ ［魔法］魔香道、香り魔法、ルフランス ［医療］［美容］アロマテラピー、アロマセラピー ［レベル］５ Ɉ1:lə.lſ/ɑɥınɹe ［文化］ 香りを用いた魔法の体系で、ルティア発祥。zφ に萌芽があり、ɹɒ の王宮で大成する。 アルバザードへは ɹɒ で並行して伝わった。当時肉食が現在より多かったアルバザード人は主に体臭を隠すために用いた。 現在はアロマテラピーや香水の使用法として用いられる。 動物が最も反応する香りはバナナとされており、文化的に人類に最も好まれるのはアトラスでは薔薇。
lɑıl ［動物］とびうお、トビウオ、飛魚 ɥɑ;‹ɑφn‹lɑı/elc Ɉ0
lɑılcɑı ［地球の星座］［ユマナ］とびうお座 Ɉ0 ［文化］ cɑı
lɑcɹ ［動詞］ɹɔl は ɥəl の様態で生きる、生きる、ɹɔl は死んでいない（lɑcɹɔɥ の形で） ［名詞］人生、生き方、ライフ ɥɑ;ɹɔl/ɑcɹ ［レベル］２ 1L: 今日をするという意味の ɑcɹl が元。ɑcıɹ と似るので l を前置した。 uıı ɥſ:uııɥſ ［語法］ lɑcɹ は慣例として、相を付けずに「生きている」という意味になる。この意味で相を明示する場合は lɑcɹɔɥ という。経過相が無標なので、ɔɥ を省略して合理化している。 ıllɑcɹ についても同様である。【用例】 lɑcɹ ncl 幸せに生きる：ncl は目的語なので el は取れない。 lı lɑcɹıſ ɑəɔ. 彼の人生はひどいものだった。 ın lɑc ɹɔɥ bın. 私は楽しく生きている。 ın nı nɔɒ ı lɑcɹ lııſ. 彼の生き方がうらやましい。
lɑcɹlınφ ［政治］生存権 ［レベル］４ 1L
lɑcɹın ［名詞］生者、生存者 ［レベル］３ Ɉ1
lɑcɥ ［地学］瑠璃、るり、ルリ、ラピスラズリ、ルフィール ［レベル］４ 1L:lɑeɥ。ルフェルのアプラウト ［文化］ ルフェルの宝石とされ、価値が高い。ルフェルが好んだとも、その目に似ているとも言われる。この魔石ルフィアはエルトを召喚しやすくする効果がある。
lɑeɥ ［エルト］ルフェル ［レベル］２ ɒſ100'Δ000(uɹ):ʅɔnɔɔſe;lɑel,ɑu 古 :l ɑeɥ ［文化］ コノーテとカルザスの娘。光を支配する。フェルデンのセレスを得たことによりエルトの王となる。白人系金髪美少女。ふわふわの長髪で背が高くなく、小さめで細身。模様のある白いテーベを着ている。性格は冷静で思慮深く大人しいが、行動は的確で無駄がなく手早い。積極性がある。怒ると豪快になる。情に厚い面もあり、コノーテによく似ている。
lɑeɥhɔ ［生物］腓骨 ［レベル］５ ɈɈ: → elſhɔ
lɑel ［魔法］魔法水晶、ルフェル ［レベル］５ ɹɒ;lɑel,ɑu.heɒ Ɉ1 ［文化］ → ɑlcı, cɑlcſ 特定の閉式魔法が詰まったクリスタル。
lɑel,ɑu ［魔法］晄水晶。後の cɑlcſ のこと。 ［レベル］６ uɹ:ɥəlφ;e Ɉ1
lɒcɥə ［魔法］錬成、ルミーユ ［レベル］６ Ɉ0: 古 ıl/ɒcɥə（物を変える） ［文化］ ıɑcɹſ 錬成質 səɒcɥə に魔法をかけたり物理的刺激を与えたり蒸発させるなどして錬成物 ſɔl̩ı を作ること。
lɥ ［言語］リュディア語、リュディア人 ［レベル］５ Ɉ1
lɥı ［遊女］［代詞］lı ［レベル］４ Ɉ1:lı
lɥı,ɑ ɑɥeɒ e
lɥılɥı ［遊女］［感動詞］lılı ［レベル］４ Ɉ1:
lɥe ［遊女］［代詞］le ［レベル］４ Ɉ1:le
lɥə ［名詞］あそこ、あの場所、あの場 ［副詞］あそこに。el 不要、ʅı 不要。 ［類義語］lııɑ、ɔʅel ［反意語］ıſə ［レベル］１ 古（遠い） ɔʅelı,ɑ ɔʅ e,ɑ:lıTə lıɑ::ſ̩ı,ılſ ［語法］ ıſə【用例】 ɑc lı lɥə. あれならあそこにあるよ。 ın ʅeſ ſeel lɥə. 私はそこに行かざるを得なかった。
lɥə(Ɉ),ɹzɑ le（関係詞）。ɥɔɒ,ɑu に当たるもの。
lɥə,ɹzɑ ɹɔɥ ‹ lɥı,ɑ.ʅ
lɥə,ɑ ɑlɔn lɥı
lɥə,ılſ lə, lı lɥı.ʅ
lɥəɹcı ［ランドマーク］リュシア研究所 ［レベル］６ Ɉ0 ［文化］ ɥəəɒı ʕΔʕ ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって ıɒcſc などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lɥəəl 研究所の研究員で、嘆きの焔以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lɥəɹcı 研究所を建て、lɥəəl の姉妹校とし、魔法の研究に専念した
lɥəɹcɔn ləſcı ［人名］リュシオン＝ルティア、リュシオン、リュシオン王 ［レベル］6 ɥɑ;lɥəɹcel 古 ［文化］ ɥɑ のルティア王。リーザの父親。
lɥəɹce ［亜魔］ペガサス、天馬、リュシエ ［象徴］結婚、純潔 ［レベル］３ ɹzɑ;lɥə,ɹzɑ/ɹcel Ɉ1 ［文化］ lɥəɹcel 魔族 ɒcɑcɹ と馬の交配種。リーゼルで作られた。色は白で有翼。角はない。 陸では走ることができ、空では飛ぶことができるため、竜族よりしばしば軍事的利用価値がある。 しかしうら若き乙女しか背に乗せない性質があるため、リーゼルでは戦乙女による天馬騎士団が発達した。 処女を嗅ぎ分ける能力があり、乙女の中でも処女しか乗せない。その性質を活かし、婚姻の際の処女判定に用いた。その利便性からルティア、アルバザードなどでも使われた。結婚式場に天馬の絵やレリーフが飾られるのはその名残。 基本的に寒冷地に適するため、アルバザードもアルナが南の限界点。
lɥəɹcehɔl ［名詞］インメルマンターン、インメルマン旋回 ［アビリティ］天馬旋回、リュシエホル ［レベル］６ Ɉ1:「天馬旋回」
lɥəɹcel ［軍事］天馬騎士、ペガサスナイト、リュシエール ［娯楽］バイキング、リュシエール。ぐるんと一回転する大きな筐体の乗り物で、ペガサスがかたどられている。日本でいうとバイキングに相当する。 ［レベル］４ Ɉ1:lſ ［文化］ lɥəɹce 天馬に乗った騎士。主にリーゼル

の戦乙女からなる。 yənɑcſe という五人一組の部隊で編成され、Ｖ字型に飛空する。 先頭に立つのがリーダーの elyənɑcſe。 二列目に立つのが jɪuɪnse。サヴァンジェはエリュンディテの指揮を受け、エリュンディテの左右からスッと前に出て槍を突き出す。この際、陣形が一時的にＸ字になる。 三列目に立つのが ſµcʅɔᴅelɔµ。トリコメロールは魔法の使える者が乗り、後方支援や後方の安全確認を担当する。 従って、エリュンディテはバランスの取れた者が、サヴァンジェは攻撃力に長けた者が、トリコメロールは魔法に長けた者が選出される。 弱点は後方からの物理攻撃だが、Ｖ字型の陣形はそれを克服するためにもある。Ｖ字の場合、陣形の前後を入れ替える際、ｙ軸 (cnʅ) 移動をしなくとも良いという利点がある。エリュンディテが静止し、サヴァンジェがエリュンディテを越え、トリコメロールがサヴァンジェをさらに越えた段階まで前進し、あとは後ろに向けば即座に陣形を反転できる。ｙ軸移動がないため、最短経路で反転できる。 また、後ろに向くやり方は lſɪµhɔl と jɪnlhɔl を組み合わせたインメルマンターンである。これはリュシエールの装備が槍であることから生まれた。槍の場合、cnʅhɔl（振り向き）をすると味方を突き刺してしまう。この際、jɪnlhɔl は時計回りに行う。ループとロールを同時に行うので、ロール開始の時点で右（心臓と逆）の方向に回転しだすことになる。これは右手に槍を持っており、右側に重量が偏っているため。右回転から始めた方が素早く回転できる。 人間の場合は振り向きが最短経路だが、空中にいる天馬は軸足を踏めない上にそもそも四つ足なのでくるっと振り向くことができない。
　すると振り向くためにはブーメランのような大きな孤を部隊全体で描かねばならない。これは経路が長い上、狭い崖の間などでは反転ができない。天馬騎士団は歩兵や騎兵が入りづらい谷間などを縫っていく任務が多いため、このような反転方式になった。 なお、下方からの攻撃に弱いのは飛空ユニットには当然のことで、下部に矢を防ぐための胸当てなどが装備される。 一方、上方はおおむね騎手の視界であるため、苦手としない。 また、地上からの敵弾を避ける際、lſɪµhɔl（ループ）をすることがある。ループは敵弾をよけつつ結局元の姿勢に戻るため、全体の陣形を崩さなくてすむ。ɑcɪʅɪɼſe（遊園地）にある lyəjcel（バイキング）の名はここから来ている。

lyəjcecʅɪl ［地球の星座］［ユマナ］ペガススの四辺形 ɺɱ ［文化］ cɑɪ

lyəjcecɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ペガスス座 ɺɱ ［文化］ cɑɪ

lyəɑel ［魔法］リュフェル ［レベル］5 ſᴅ;lyɪ/ɑed ［文化］ ᴅɪlſccɪ

lyəᴅc,ɪlſ lə, lɪ lyə/ᴅc

lyəɑcɪ ［地名］リュディア、リューディア ［レベル］3 ᴅelſcɪ Lʮ jen uc ɪ;lyɪ/ɑcɪ ɺ0:µcɑcɪ:lyə ← lyɪ（遠い）/ɑcɪ（土地）「（ファルファニアから見て）遠隔地」［文化］ 古代国家のひとつ。ファルファニア対岸の国。ルカリアの南。メルティア９５万年ごろのファルファニア＝リュディア戦争で分裂し、西部がファルファニア (ɑɪlɑɪncɪ)、東部がレスティルとなった。

lyəɑcɪ(ɺ) ［言語］ファンタジー、ＦＴ、リュディア、幻想、空想、絵空事、おはなし、お話し、お話、話、架空、架空の物語、物語 ［レベル］3 jᴅ;lyəɑcɪ.ɪleʅ 当時のファンタジーがリュディア国で起きた古い出来事をモチーフにしたものが多かったことから、国名がそのままジャンル名となった。国歌名がこのような意味の変化をたどるのは自然言語にも見られ、例えばフランス語で小説を意味するｒｏｍａｎなどがそうである。ＯＦのｒｏｍａｎｔから来ており、当時ロマンス語で書かれたり話されたりした物語があったためである。すなわち、lyəɑcɪ の場合は舞台、ｒｏｍａｎの場合は言語が語源に関与している。 ɺɺ ［文化］ ファンタジー自体は世界そのものがファンタジックだったくせに神代から存在した。もっとも、ほとんどは半ノンフィクションで、彼らに取っての現実を揶揄した風刺小説のような部類であった。というのも、この世界ではファンタジーが現実だったためである。 ファンタジーがジャンルとして確立したのはヴィードが弱くなってきた jᴅ から。戦間期で文学も発達したため、数も劇的に増えた。 µɑ になるとセレンがジャンルを分類した。舞台が架空なものをハイ (ɑcɪlyəɑcɪ)、現実なものをロー (ɑcɪlyəɑcɪ) と分類。世界観の作り込みが細かいものをハード (ʅcljlyəɑcɪ)、そうでないものをライト (oɪnlyəɑcɪ) とした。また、架空の要素をひとつしか含まないハイ・ハードファンタジーをリアルファンタジー (ᴅeµlyəɑcɪ) とし、至上のファンタジーとした。 nɑ で魔法文明が途絶えて現代科学へ移行するまでの間は社会に余裕がなかったため、ファンタジーは発展しなかった。代わりに大航海時代に伝奇物が流行った。伝奇物は誇張されて伝えられることがあったため、これが nɑ 流のファンタジーといえよう。 ul になるとラノベが隆盛しだした。革命の混乱で一時途絶えたが、ɪl では復活している。 ul でラノベ (ɑɪcʅlec) というジャンルができ、同時に従来の小説が ucjɗʅlec となる。 ラノベは oɪnlyəɑcɪ の比率が圧倒的に高いが、中にはそうでないものもある。そのため ɑɪcʅlec と oɪnlyəɑcɪ は同義ではない。

lyəɑcɪµen ［言語］リュディア語 ［レベル］4 ɺɺ ［文化］ elɑjeſɪ ●概要 名称:ly(リュディア語) 系統:アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派 (ɪſenɪᴅɪſ, yəəᴅɪeᴅcſ, lcɑeµɑcɪᴅ, lyəɑcɪcɑ ɪl) 使用年代：ſᴅ 分布：南西アンシャル 話者：ファルファニアから移住してきたシフェルの民 類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ：語順は格のおかげで比較的自由。ＳＶＯも可能 認知様式：客観的把握
　リュディアで話されていた言語。ファルファニア語から発達した。
　●格 ・主格と対格 主格が –j、対格が –y で示されるようになった。 –j は jɔ（する）から来ており、–y は –s から来ており、–s は –sə（受ける）から来ている。 s が y に弱化するのはアルテ語族によく見られる体系で、それゆえ –c でなく –y としている。
　ただし読みは –c と同じ。 –j も –y も閉音節の場合、直前に母音を入れる。 この母音は直前の母音と同じもので、母音調和する。
　ʅɪl（場所）→ ʅɪlɪj（場所が） heµen（リンゴ）→ heµeney（リンゴを）
　ただし直前が二重母音の場合、強い母音にあわせる。 ɑɪcz → ɑɪczɪj ・属格 属格は同じように –n で示す。閉音節の場合は直前の母音を付ける。ɑɪcz → ɑɪczɪn。 これを後に µɑ でクミールが指小辞と取り違えて、アルカに指小辞式の属格が流入する。 lyəɑcɪ → lyəɑcɪn（リュディアの） ただし所有は ʅenɔ で示すまま。
●連体詞 ɪɑ（これ）と Tə（あれ）の ɺ 段階。 連体詞は属格に変化すると、「これの」「あれの」という意味になる。どれも前置。
　ɪɑ この Tə あの ɪɑɪn これの Tən あれの ●形容詞と副詞 膠着して示されるようになった。 開音節の場合は –le,–he が付く。 ʅɪcle, ʅɪche。 閉音節の場合は –e が付く。 lccze, lccze（小さい、小さく） lcᴅeeµe, lcᴅeeµe（初めての、初めて）
　●テンスとアスペクト 影響相ができ、継続相と切り離された。
　警告の jə が消えて、j に吸収された。 開音節の場合、下記の通り。通時ができた。 過去 ſ 現在 µ 未来 j 前が有声音なら同化して z でも同化しないで j でもよい 通時 µɪ ※古アルカでは現在形だった 無時制 なし 相も付かない。相を使うときは現在形を使用 ただし閉音節に付く場合、主格と同じく直前の母音ないし直前の二重母音の強い母音が付く。 ʅələl（作る）→ ʅələləſ（作った） 開音節の場合そのまま ſ が付くが、母音と同化するので ɑ になる。j は z になる。 c → cɑ, c → cz 将然相 eſſɪ c/µ/eſſɪ 見そうだ。ʅeſſɪ（行く）から。 開始相 eµ bɪɔφ/ɑ/eµ 殴り始めた。向かうというところから ʅeµ が使われている。 経過相 ſɪn ləɑɪ/ɑ/ſɪn 飛んでいた 完了相 cl ɑɪc/z/cl 燃やし終えているだろう。 継続相 ɪncj ʅəc/ɪncj 食べてある 時制 / 相の順序で動詞に後続させる。
　時制と相の間の場合は子音連続でも母音を挟まない。 ləɑɪɑſɪn（飛びそうだった） ●関係詞 関係詞の無音の字が µɔᴅ と読まれるようになった。 lyəɑcɪn ɑɪczɪj ɑəſɔɑ µɔᴅ ʅɪlɑɪcz（リュディアの王が獲得した国） やはり関係詞節内の前置詞は残存しない。
●後置詞 hyəl（上に、～で）など、後置詞が増えた。 ●語順 格がついたことで、語順は比較的自由に。 lyəɑcɪn ɑɪczɪj ɑc ſɪſ heµeney（リュディアの王がリンゴを与えた）も可能。 ●認知様式の変化 神代 ɑµɑ の間に客観的把握を獲得したものと推定されている。下記のようにスル言語で、行為連鎖 (ɪɼſcɔn ɗhɪcn) に英語同様「原因」が来ている。ɪ では不自然な表現で、完全に客観的把握をしている。 ɑɪczɪn heµenej ɑcſɪſ ncləəy（王のリンゴが喜びを与えた）

lyəəl ［ランドマーク］リューシュ研究所 ［レベル］6 ɺ0 ［文化］ yəəᴅɪ ʕΔɺɺ ユクレシア、lyəəl 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う yəəᴅɪ ʕΔɁʕ ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって ɪᴅcſc などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lyəəl 研究所の研究員で、嘆きの焔以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lyəjcɪ 研究所を建て、lyəəl の姉妹校とし、魔法の研究に専念した

lyəəs ［親族］弟ちゃん ［レベル］2 ʅL:µcɑcɪ:lcj/µəəs ［語法］ ᴅccɪ

ls ［歴史］ランジュ、lɪns ［レベル］3 ɺ1

lɪ ［代詞］彼、彼女、あの。前置。 ［反意語］lə ［レベル］1 ʅʔ: 恣意 lə,ɑ jɔə,ɑu ləə,ɑu:::lyə,ɪlſ, lyəᴅc,ɪlſ 【用例】 lɪ ɑcɪn あの少女

lɪ,lɱ 女性定冠詞 lə（有生三人称代名詞）のリムレット

lɪſ ［動詞］yəl を ɪ に入れる、入れる、入る、突入する、詰める、挿入する ［名詞］入口、入り口、序盤 ［名詞］起 ［動詞］yəl を ɪ に仕舞う、仕舞う、しまう、片付ける → ɑcſʅ ［動詞］yəl を ɪ に入社させる、入社する、入学する → lɔɑ ［普通動名詞］入力 ［反意語］µcʅ ［レベル］2 ʅʔ: 制 : 古 :ləſɪ（出口） ləʅɔ:ləʅɔ 【成句】 ʅɪ lɪſ le ſɔſɔ ～する寸前の hcnɔ yəl jɪ lɪſ すんでのところで耐える、ギリギリのところで保つ lɪſ, ſɔɔɑ, zɔʅ, µcʅ 起承転結。入口、坂道、頂上、出口：山道に喩えている。 【用例】 ɪn hcnɔſ enɪ jɪ lɪſ. 涙をぐっとこらえた。 ɪn hcnɔſ sɔ jɪ lɪſ. 怒りが爆発する寸前だった。

lɪſj ［論理］導入 ［動詞］yəl を c から ɪ に導入する、導入する、取り入れる、取り込む ［反意語］µcʅʅ ［レベル］3 ʅɱ: 制 :lɪſ 【用例】 lɪſj ʅɔj jɪᴅ 新しい手法を導入する

lɪſuccɑɪ ［生物］［医療］合穴 µɑ;/「経脈の入る穴」 ɺɱ

lɪſɑɪnɑ ［名詞］出オチ ［レベル］3 ʅL ［文化］ 起承転結の起の部分でまずオチておくこと。非常に高い技術を要する。 【用例】 lɪſɑɪnɑ ɑəɔ(ɪl ſe ﾃﾗ出オチｗｗ

lɪſyəµ ［再帰動名詞］自殺、ラテュール ［動詞］yəl を自殺させる、自殺する ［類義語］nɔjjeſ ［アクセント］lɪſyɜµ ［レベル］4 µɑ;‹jzɑ（lɪɪ,ɑ（死を）/ſyəµ（決める）） ɺɱ

lɪſyəəl ［動詞］yəl に片想いする、片思いする ［普通動名詞］片想い、片思い、かたおもい、片恋、カタコイ ［反意語］ſyəəl ［レベル］3 ɺɺ:ɪl/ſyəəl

lɪſcj ［名詞］ラティス ［反意語］uɪlen ［レベル］4 古 ［語法］ 敬虔な信者。エトスとの違いはプロかアマかというもの。ラティスはアマ。

lɪſcµ ［気象］しけ、時化 ［反意語］jeſce ［レベル］3 ʅL:lɪu/ſceµ（うるさい海）日本語の時化は湿気が語源なのでこの発想は分かりにくいか。lɪſce にしなかったのは jeſce と離すため

lɪſcɪ ［地名］ラティア、地獄、ゲヘナ ［反意語］ſoɪɪyə ［レベル］2 ᴅel/µc ɑcɪ:lɪ（死）/ſcɪ（愛する）。lɪjſcɪ と同語源。 ［文化］ → leʅɪc ｜約 ʅʔ٩ 億年前 |ɪµɑel が天国 ſoɪɪyə と地獄 lɪſcɪ に分裂｜

lɪſcɪʅɪɱɪ ［法律］ラティア刑務所 ［レベル］5 ʅL:clᴅəj:µcɑcɪ ［語法］ ヴァルベスの刑務所。イグレスタ革命の勃発地となった。

lɪſcɪnueµ ［医療］繊維筋痛症 ［レベル］6 ɺ1:lɪſcɪ/ɪnueµ（地獄の呪い）

lɪſcɪᴅclees ［経済］スタグフレーション ［レベル］4 ɺɺ

lɪſcɪlecj ［名詞］阿鼻叫喚、地獄絵図 ［レベル］3 ɺɺ

lıʃɔȷ ［名詞］賭け、ギャンブル、賭博 ［動詞］ɥəl（金など）を ı（当たるないし勝つと思っているもの）に賭ける、賭ける、掛ける、かける ［レベル］3 1L:lıʃᴅ:1Ꮑ: 制 : 古 :lıʃ（どの、どれ）。lıʃ は賭けをするとき各々が何に賭けるかというのを賭けの親が問うときに言う掛け声で、「さぁ、どれに賭ける！」の意味。 ［文化］ → ˥əzφcn 日本と違ってギャンブルは合法で、南区にはカジノもある。アルバザードではギャンブルは富裕層がやるというイメージではなく、どちらかというと社会的階層の低い者、特に知力の低い者がやるというイメージがある。また階層に関係なく、アルティス教徒はギャンブルを禁止されているため、敬虔な信者はギャンブルをしない。 ギャンブルで一番多いのはスロットやカードであり、パチンコも存在するが日本ほどではない。まだ競馬や競艇といったギャンブルもある。 アルティスはギャンブルを禁止しているが、アルバザード人の気質としては軽い賭け事ならもともと好む。大きな金をかけるということはあまりなく余興としてやることが多い。つまり、ランチをかけてちょっとした賭けを楽しむといった日常的な範囲である。このような程度であれば、アルティス教徒も付き合うことがある。従って革命後の世界でも、頻繁にこの手の賭け事は行われる。これはアルナ大に通うような優秀な学生の間でも余興として楽しまれる。

lıʃɔȷ,ȷzΩ oel

lıʃə,lɥ ıʃə

lı˥ʃı ［名詞］制定語彙 ［レベル］6 古 :lı˥ʃı ［語法］ 古アルカの語彙が載っている本 , 古アルカの語彙の大半はこの本に載っている字に依存している

lı˥ı ［名詞］余所、よそ、アウェー ［医療］続発性 ［反意語］ın˥ı ［レベル］3 1L:lı/˥ı。ın˥ı の類推。「彼の土地」［語法］ 地元に対するアウェーのこと。

lı˥ɔ ［植物］コア μΩ<lı˥ɔ,ɑɥeᴅızeμ;lıı˥ɔue,ɑu.˥。コアの木を棺桶に使ったことから。 Ꭻʔ ［文化］ フレマゼル原産の樹木。フレマゼルでは棺桶やウクレレなどを作るのに用いた。

lı˥ɔn ［音楽］ウクレレ μΩ<lı˥ɔn,ɑɥeᴅızeμ;lı˥ɔ.˥ Ꭻʔ ［文化］ → lı˥ɔ

lı˥eᴅ ［植物］クレマチス ［レベル］4 Ꭻ0:ıφeᴅcz

lı˥eᴅcʃ ［歳時記］立夏 ［名詞］7 時 ［組み数字］7 ／２４ ［アクセント］lı˥eᴅЄʃ、lı˥Eᴅcʃ ［レベル］3 Ꭻ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

lıl ［動詞］ɥəl を望む、望む、希望する、求める、求む、欲しがる、ほしがる ［名詞］希望、要求、請求、望み、願い、ねがい ［法副詞］～したい ［類義語］lccɑ ［反意語］μcȷ ［レベル］1 19: 古 lııd φɔ（欲望） lı ıd,ɑ（動詞。望む）ᴅıl,ɑ（助動詞。無理なことを望むのニュアンスで現在の ᴅcll に通ずる）:lııd（動詞）ᴅıl（男性助動詞）lın（女性助動詞。これは lʃ の影響で流入）:lın ［語法］ lıl 動詞、lıl,lıμ,lcμ,ɑcl,μcȷ などは無相が経過相へ指向性を持つ。 【用例】 cᴅ ʃɔlel, ın lılıʃ nɔȷ ıʃ lı. 昨日、彼女に会いたかった。 ın lıl ılʃe lənı ınȷ uıΩel. 早く春になると良い。

lıl(Ꭻ) ［人名］アッシュの略称 ［組み数字］２３/ ２８ ［レベル］1 古 :lcnı

lıleʃ ［名詞］ラシェット、ソーンとアルシェ ［レベル］4 ȷɔμn: ソーンとアルシェを区別せず１つの団体としてみた場合の呼び方＝ ıleʃʃ。アルシェにはない語。元は『カコ』の言葉で、イーファとルーキーテを指した。同様に上限の月と下弦の月を意味するので、合わせて単に月の意味にもなる。アルシェは包括的な月という語がないことを不便ではないかと指摘されたこともあるし、とりわけソーンとの和平の象徴として加えた。そこでアシェットは月の意味も持つ。一方、ラシェットは元は ɗı ıleʃ だった。更に、造語者が l と ɗ の発音の区別が下手な者だったようで、ɗ が l に変化した。アシェットはソーンの言葉なので、誰が造語者か不明である。また、実は語源的にはアシェットとラシェットは全く互いに逆の意味だった。古アルカの過程で意味が入れ替わったそうで、アシェットが第期４代を指すようになった ［文化］ ラシェット。ソーン及びアルシェのこと。第４期４代ラシェットは特にアシェットと呼ばれる。

lıȷ ［名詞］手 ［婉曲］［動詞］ɥəl を愛撫する、愛撫する、撫でる、なでる ［類義語］bıɔφ、ocȷ、ɑleΩcμ、˥ıld、ɔcȷ ［レベル］1 ȷeμʃ 1ʔ: 制 oı:oı: lı ȷıuın（lə は ʃı˥）:lcoı,ılʃ ［語法］ lıȷ で ʃı˥ を表すことはない。 【成句】 ʃcl lıȷ ᴅelʃ 心が温かい、心優しい：体を温めることをよしとするアルティス教の考えもあるが、実際に手足のような末端を暖めることで副交感神経が優位になることも関与している。落ち着いた気持ちになることで、結果的に心優しいという表現に結びついている。 ʃcl lıȷ ȷɔμʃ 心が冷たい ˥ɔμ lıȷ ı ～に手を出す、関わる、ちょっかいをだす、ちょっかいを出す、干渉する 【用例】 lıȷ hın 大きな手 ʃəı lıȷ 手を差しだす、手を差し伸べる。和解や友好の印。 ɔll lıȷ, lıl lıȷ lel ɔȷ˥. 手を洗って、手を綺麗にしておきなさい。

lıȷʃ ［動詞］ɥəl を ı にかざす、かざす、翳す ［レベル］3 1L:ᴅelcΩcı ılʃe:lıȷ/lɔb ［語法］ lɔb と違って接触せずにかざす。 【用例】 uınφıμΩc lıȷʃcl lıȷ ȷı eel e lcczı. ヴァンガルディはリーザの目の前に手をかざした。

lıȷʃıμ ［宗教］隠修士 zφ;leȷʃıμ.˥ ᎫᏁ

lıȷʃcn ［動詞］ɥəl をのぞきこむ、のぞきこむ、覗き込む、覗きこむ、上から覗き込む、覗く、のぞく ［レベル］3 1L:ᴅelcΩcı ılʃe: かざすように見る

lıȷʃcı ［死神］ラスティア ［反意語］hııbe ［レベル］3 μcΩcı: 古 : 元は lııʃ cı という名だった。相方のハーベが長音を含むため、lıı の部分がまずいということになり、急遽リディアが適当な子音を入れて変えた。本来の意味はその名の通り「死を愛する」。古ではルノとペア。Ꭻ1 にサールから死神に ［文化］ ᴅıʃccı 【成句】 ΩeμʃılıȷʃcıΩ 観念しろ、覚悟しろ：殺す前に言う常套句。小説はともかく、日常的には人を殺すことはないので、日本語の「覚悟しろ」に近い。

lıȷʃcıΩcn ［魔物］ラスティアディン（朽魔女）: 第四十五天 : 炎の氷天 ［レベル］5 1L:μcΩcı/ȷeμen/ᴅel:lıȷʃcı/hıμΩcn（朽ち果てる魔女）［文化］ 鬼族。無実の罪で焚刑にあった若い女がアデルに乗っ取られ、死ねなくなったもの。アズゲルに私刑として行われた魔女狩りの被害者。死にそうになるたび乗っ取っている悪魔が回復をする。炎は地獄の炎で消して消えず、焼かれた肉は魔法で戻り、未来永劫焼かれ続ける。十字架にかけられ、両手は横に広げている。木は朽ち果てることがない。十字架はとうの昔に地面から抜け、女は身を焼かれ、助けを求めながら歩き続ける。霊族でないため、知能も意識も神経も生前のままである。倒すには乗っ取っている魔物の回復量を上回る量のダメージを一回で当てなければならないが、極めて防御力と体力が多い。既にまともな思考力を失っているので、人を見るたび助けを求めて唸り声をあげ、抱きよっては地獄の炎で相手を燃やしてしまう。

lıȷ˥ ［生物］指先、ゆびさき ［反意語］ləı˥ ［レベル］3 1L:μcΩcı:ıμbıleʃʃ:lıȷ/˥cʃ

lıȷȷʃ,ɑφn lec <>lecȷʃ

lıȷne˥ ［動詞］ɥəl を ı に掻き揚げる、掻き上げる、掻き揚げる、掻きあげる、かきあげる ［レベル］3 Ꭻ1 【用例】 lıȷne˥ ncı 髪を掻き上げる

lıȷɑɔs ［普通動名詞］手コキ、手こき ［レベル］4 μΩ;/ Ꭻʔ

lıȷᴅıʃ ［生物］合谷 ［レベル］5 Ꭻ1

lıȷᴅıʃ(Ꭻ) ［動詞］ɥəl を手で掻き分ける、掻き分ける、かき分ける、掻きわける ［レベル］3 μΩ;/ ᎫᏁ

lıȷᴅıφ ［動詞］ɥəl に手を振らせる、手振りする、手を振る、バイバイする ［普通動名詞］バイバイ ［レベル］2 1L:ᴅelcΩcı ılcȷ

lıȷᴅıcn ［生物］中手 μΩ;/ ᎫᏁ

lıȷᴅɔᴅ ［生物］手根 μΩ;/ ᎫᏁ

lıȷᴅeᴅdɔ ［卑語］［親族］娘 ［レベル］4 1L: 手乗りまんこ ［語法］ 懐いてじゃれてくる手乗り文鳥のような小さい娘のこと。

lıȷdɔᴅ ［生物］手のくるぶし。手首の外側にある突起した骨。 ［レベル］4 1L

lıȷbel ［料理］手料理、ハンドメイド ［レベル］3 1L:μcΩcı:ıμbıleʃʃ

lıȷhɔ ［生物］中手骨 ᎫᎫ

lıȷμen ［言語］［非言語］手話、サインランゲージ ［レベル］3 μΩ;/「手の言語」 Ꭻʔ

lıȷschɔ ［生物］手の指骨 ［レベル］5 ᎫᎫ

lıȷl ［被服］靴 ［レベル］2 μΩ;<,ɑφn<ləıȷ.l 1ʔ:ȷɔμn:ləıȷ ləıȷ:ləıȷ ［文化］ 神は靴を履く習慣がない。zφ になって木靴などがようやく出てきた。 靴を履くのは裕福な者で、それ以外は履いていなかった。 ȷᴅ になると農民でも靴を履くが、子供は貴族の子供以外殆ど履いていなかった。というのも子供はすぐサイズが大きくなるためである。 ȷᴅ では靴は貴族の間では装飾品になったが、女性はスカートで靴が隠れるため、主に男性のステータスシンボルとなった。 アルバザードの靴は日本のものと近いが、国によって靴の種類はかなり異なる。たとえばイネアートの山村部のように寒いところでは lıȷl といえば動物の革で足を包む暖かいものを指す。しかも先端部は丸まって鉤を付けられるようになっている。これは雪を滑る際に使うもので、豪雪地ならではのものである ところが暖かいメテでは lıȷl といってもこのような靴を想像することはない。もっとサンダルのようなものを想像する。lıȷl が靴であることは確かだが、想像するものが全然違う。方言辞典にはこのような文化と密接したアルバザードとの異同が載せられている。 アルバザードではくるぶしの見える浅い革靴が好まれる。特に女子が好んで履く。 【用例】 ☆ lıȷl ınʃ ʃclıʃ beʃ ɔn clᴅ. 靴が泥だらけになった。 ın ılȷıbıʃ lıȷl. 靴を脱いだ。

lıȷlocȷ ［被服］靴底 ［レベル］3 μΩ;/「靴の裏」 Ꭻʔ 【用例】 lıȷlocȷ eᴅ ɑe ɑ{φcnȷ} 靴底が減る

lıȷlleun ［医療］外反母趾、内反小趾 ［レベル］4 1L: 靴病 ［語法］ 語源どおり、アルカでは通例外反母趾と内反小趾の両方を指す。

lıȷ lıȷ lcȷ ［娯楽］紫亞の手ちっちゃ ［レベル］1 μΩ:μcΩcı;「手、手、ちっちゃいね」 Ꭻ0:μcΩcı ［文化］ 紫亞が２歳ごろ、リディアが始めたあやし方。両握りこぶしを突き出させ、それを lıȷ lıȷ（おてておてて）と言いながらにゃんにゃんと撫でる。一回目は上から撫で、二回目は下から撫でる。そして lcȷ（ちっちゃ）と言ってぎゅっと大人のパーの手で握る遊び。紫亞が気に入ってきゃっきゃしていた。辞書登録は遅れて ᎫᏁ 年。

lıȷlıΩ ［形容詞］手製の、ハンドメイドの ［レベル］3 1L:μcΩcı:ıμbıleʃʃ

lıȷı ［被服］手袋、グローブ、野球のミットやグローブ、ドレスグローブ ［レベル］2 1ʕ: 制 :lıȷ

lıȷcncᴅ ［美容］手櫛、手ぐし、フィンガーブラシ ［動詞］ɥəl に手ぐしを入れる、手ぐしを入れる ［レベル］3 Ꭻ1 【用例】 ˥eı leʃʃ e ləȷ ɔ dɔȷe, lcczı lıȷcncᴅc˥ cᴅelncı lınʃ. リーザはスカートの皺を伸ばすと襟元を正し、美しいブロンドの髪に手櫛を入れた。

lıȷɔn ［建築］手摺、手すり、てすり ［レベル］3 1Ꮑ: 制 :lıȷzɔn（手の棒）

lıȷɔμı ［生物］手関節 μΩ;/ ᎫᏁ

lıȷɔμıhclȷcen ［生物］手関節横紋 μΩ;/ ᎫᏁ

lıȷɔl ［普通動名詞］提出 ［動詞］ɥəl を ı に提出する、提出する ［レベル］3 μΩ;lıȷ/ȷɔɔl Ꭻʔ

lıȷɔllız ［名詞］しめきり、締め切り、締切、締切り、〆切、〆切り、納期、提出期限 ［レベル］4 μΩ;/ Ꭻʔ 【用例】 ın Ωıcᴅuınμıɑelʃʼılɑcᴅɑcȷ. lıȷɔllız ʃəəl Ωe ˥eȷʃ enʃɔ ın ıμ ȷen ʃə lc ˥ɔlʃ μı cᴅ ˥eȷʃ. 今日は数学の宿題を止めよう。提出期限は明日でないので、明日家に帰ってからやればいい。 ʃıl lcn˥, ʃə Ωe ɥeʃ ᴅın lıȷɔllız ʃəəl Ωe ˥eȷʃ. だが実際、提出期限は明日ではないので問題ない。

lın ［名詞］人、人間、霊人 ［生物］霊人科、ユーマの一族 ［レベル］2 ɑμɑ;lınʃcȷ 1ʔ ←古 :lınʃcȷ（霊人） lınʃcȷ:lın:lə lın, lı lın:ȷı,ılʃ ［語法］

→ həəᴅɪ　霊人科の動物。ɪʃen 下の科であり、ユーマの一族と同義。ヒト科の動物とよく似ている。大量のヴィードを扱うことができるが、この特徴は ɲɑ まで。

lɪn(ɹ)　[法副詞] [ɲenʃe] lɪl　[レベル] 1　古 :lɪn。lɪɪd（希望）の女性形。男は ᴅɪl

lɪn(ɹ),ɹzɑ　lɪl　lɪɪd,ɑ.l

lɪn,ɹzɑ　ɑcl　< lɪnʃcɹ,ɑu.ʅ

lɪn,lʃ)　女性不定冠詞　ʃən,lɹɑ と lɪ からの類推　[語法]　lʃɹ でも場合によって使うことがある。l'ɪlə ɪ → lɪn ɪlə ɪ のように。ʃcɪɲen を参照のこと。

lɪn,ɪlʃ　ɑccɪ

lɪnʃ　[形容詞] 美しい　[類義語] lcᴅc　[反意語] becᴅ　[丁寧] おいしいの上品な言い方 : 1L だが、右記を見る限り、源流は古い様子　ɹeɲʃ　[レベル] 2　10: 制 : 古 :lcn（綺麗、美しい）ないし lcᴅc。　lcᴅc:lcᴅc:lcᴅc:ʅcʅclə,ɪlʃ　【用例】　lɪz lɪnʃ 美しい少女　ɑcn lelʃ eʃ lɪnʃ, ɲcɑcɪ eʃ lɪnʃ uecn. 月は美しいが、リディアはもっと美しい。

lɪnʃɹe　[生物] ヒト　[レベル] 4　古　霊長目ヒト科の動物。アトラスにもほかの動物同様存在したが、病原菌などが原因で滅んだ。当時のファルファニア人は「ユーマの一族に似ているが、低能で非倫理的で自制心がなく、野蛮で汚く脆弱な存在」と酷評した。その文献が残されているため、現代でもヒト科の存在が知られている。　一方、アトラス人は異世界ユマナの存在を知っているが、そこにいる人の姿が分からないため、滅んだヒト科の動物を指す lɪnʃɹe で以って、ユマナ人を名付けた。　| 約 ʃ00 万年前 | ヒトとチンパンジーが分化。猿人の出現。直立二足歩行を始める |　| 約 ɹʃ0 万年前 | ヒトが石器を使い始める。セルトは年に 1 度北極近辺のフィーリア島で逢っていただけなので猿人との関わりはない |

lɪnʃɹeʃɪʃɹ　[生物] ヒト属　[レベル] 5　ɹ0

lɪnʃɹelcʃe　[生物] ヒト種　[レベル] 5　ɹ0

lɪnʃɹen　[魔法] ホムンクルス、人造人間　ɹᴅ;lɪnʃɹe.ʅ　ɹʃ)

lɪnʃɹeeɲn　[生物] ヒト科　[レベル] 5　ɹ0

lɪnʃɪ　[娯楽] 駒、パイ、牌、ドミノの駒　[名詞] キャラクター、キャラ、登場人物　[言語] 組数字に出てくるそれぞれの名詞　[医療] 人格　[レベル] 3　1ʃ: 制 :lɪnʃcɹ　[語法]　＜役のウェイトによる呼称＞　主役 (lɔɹl)：紗枝、紫苑　レギュラー (ʅɪlᴅc)：ランヴェム、詩姫　ゲスト (ɲɪɹʅɪ)：アリス、アシュテ　イベントキャラ (ɹɔɑc)：アーディン　脇役 (ɲelʃ)：アーディンの同僚、アルシアで紫苑に自転車を横取りされた少女　＜役の性質による呼称＞　一枚目 (lelʃ。バランスの取れた性能の役、物語の進行役)：ローレシアの王子（ＤＱ２）　二枚目 (lccɑɪ。見た目に華を添える役)：ムーンブルクの王女（ＤＱ２）　三枚目、ボケ役 (dceʃ。おどけ役)：サマルトリアの王子（ＤＱ２）　四枚目、悪魔役（lcnɹ。物語を捻じ曲げる役）：アクタカ　＜役どころによる呼称＞　男主人公 (ɪɲɹen)：静　女主人公 (ɪɲcɪ)：紫苑　男副主人公 (cɑel)：アルシェ　女副主人公 (ʅclʃc)：レイン　味方役 (ʅɔlɪ)：ハイン兵、アルヴェスク　敵役 (ɲeʃl)：フェンゼル兵、イルミロク兵　ヒール (ɪᴅes)：詩姫、シャア＝アズナブル　ボス敵 (ucenɲeʃl)：異性魔王アシュ　裏ボス (ɪɲʅɪlʃ)：エビルプリースト（ＤＱ４）　ラスボス (ʅɪlʃcɹ)：デスピサロ（ＤＱ４）　大ボス (hɥəlɪ)：エスターク（ＤＱ４）　中ボス (benɔᴅ)：キングレオ（ＤＱ４）　小ボス (φɪlʃe)：ピサロのてさき（ＤＱ４）　訳有ボス (uɪɥə)：甲冑ヴァーナ、カイン（ＦＦ４）　【用例】　"ʃə elɹ, el nɔl ucl 100 lɪn...ʃɪ ɔlʃɪ el nɔl cl cʃen ɹɔᴅ ɪlen ᴅeʃel ʃcɹee"「つまり、ソームからメテまで足しても 100 人……じゃなくて 100 種に届かないってことだ」：lɪn だと木星などの人間でないものも入るので、とっさに lɪnʃɪ に変えた。lɪnʃɪ は通常人間だが、ゲームの駒のように無生物を指す用法もある。

lɪnʃɪʃɹ　[生物] 霊人属　[レベル] 4　1L

lɪnʃɪʃc　[名詞] 美しさ　[レベル] 3　ɹɹ　【成句】　lɪnʃɪʃc e lɪɑl 花鳥風月

lɪnʃɪɹeʃ　[娯楽] プレイヤーキル　ɹɹ

lɪnʃɪɹeʃɪn　[娯楽] プレイヤーキラー、ＰＫ　ɹɹ

lɪnʃɪn　[名詞] 連鎖　[生物] 食物連鎖　[レベル] 3　1L:lɪnʃncʅɹ

lɪnʃncʅɹ　[娯楽] 将棋倒し、ドミノ　[レベル] 3　1L

lɪnʃɪhɪɪl　[数学] 数列における数学的帰納法、数学的帰納法　[レベル] 5　1L:ɹeɲen: ドミノ倒しの手法で演繹していくことから。アルカでは帰納とは呼ばない。　[文化]　＜地球でのアルカが数学に弱い理由＞

アルカの主幹はセレンなので、どうしてもセレンが苦手な分野は手薄になる傾向にある。もともと女性向きな化粧や美容などは特に弱い。手薄な分野に関しては他人の発言を聞いて幻日に転記したり、幻英辞典から適宜流入するなどといった対処をしている。→ ueʃ lɪɑɪn, 凡例　数学も比較的手薄である。下手の横好きで、できたら格好いいと思うのだが、まったくできない。苦手意識を持ったきっかけとなったのがこの lɪnʃɪhɪɪl だ。　セレンが最初に数学的帰納法に触れたのは、間接的にではあるが、中２のことであった。田舎の公立中の授業があまりに退屈だったのでアルカやプログラムの内職をする日々であったが、あるときプログラムの関係で数列を書いていて、奇数を足していくと整数の二乗に等しくなることに気付いた。

例えば１＋３＋５＝９である。３回奇数を足したら、３の二乗になるというわけだ。１＋３＋５＋７のように４回足せば、４の二乗の１６になる。　この現象を一般化すれば、１＋３＋５＋・・・＋２ｎ－１＝ｎ２となる。これに気付いたとき、面白いと思う反面、なぜこうなるのだろうと考えた。　当時はゲームのプログラムでドット絵を扱っていた。ドット絵というのは縦横のブロックの集まりでキャラを表現する手法だ。その考え方に慣れていたため、以下のような発想に至った。　まず１回目は縦横１列の範囲にブロックを置いていく。当然、置ける個数は下記のように１つだ。　■

次に２回目。ブロックを置ける範囲は縦横２列に広がる。■の右辺と下辺に這わせるように新たなブロックを置くと下図のようになり、大きな正方形ができる。　■□　□□　これで合計４個。足したのは□が３つだ。　次に３回目。縦横３列のブロックを作る。　■□■　□□■　■■■　合計９個。もともとあったのが４個で、足したのが５個だ。ここまで来れば一般化できる。　ｎ回目の場合、縦横ｎ列のブロックを作ることになる。ｎ－１回目までにできたブロック群の右辺と下辺にブロックを足していけばいい。

右辺に足すブロックの個数はｎ列目なのでｎ個。同じく下辺に足すブロックもｎ個。しかしこれだと右下のブロックが重複するので１つ分減らす。　つまり前回までにできていたブロックの周りに２ｎ－１個だけブロックを置けばいい。すると縦横ｎ列の正方形ができあがる。当然その正方形の面積はｎの二乗だ。だから、１＋３＋５＋・・・＋２ｎ－１＝ｎ２なのだ。　こうして問題は解決した。ところが疑問が残った。もしこの等式の右辺がｎの二乗のような単純な項にならなかったらどうすればいいのだろう。正方形だから幾何的に簡単に考えられた。もし幾何的に説明しづらい複雑な例ならどのように対処すればよいのか。これを考えたが分からなかった。

当時はネットもない時代だし、大型書店の存在を知ったのも中３のことだった。図書館もろくなものがなく、調べる術はなかった。

結局疑問を風化させたまま高校に入り、やがて数学的帰納法に出会った。そして「あぁ、あのときのブロックの話か」と思い出した。

数学的帰納法は文系脳のセレンでも分かるほど言葉に置き換えやすいドミノ倒しのような理論で、非常に面白かった。だが同時にこの瞬間、自分には数学のセンスがないことを強く自覚した。　なぜ自分は応用の効く数学的帰納法を中２のあのとき編み出さなかったのだろう。なぜ個別の例にしか対処できない幾何的な手法で思考停止してしまったのだろう。愚かだ。　自己嫌悪に陥りながら、その後メルに英語と日本語と古アルカ混じりで同じ問題を出題した。わずか９歳ほどだったメルは大した時間もかけずに、中２のときのセレンと同じ解を出した。　だがその後彼女は「『ｎ回目が正しければ、ｎの次の回も正しい』ということを証明できないかな？」と言い出した。そして「それさえ証明できれば、あとはｎ＝１回目を手動で計算すればいいんじゃない？そしたら楽できるよね」と述べた。それはまさに数学的帰納法の考え方であった。そしてその考え方なら、奇数の和算という個別事例以外にも対応できる。　この「楽できるよね」の台詞にショックを受けたセレンは、それから数学に苦手意識を強く持つようになった。自分には彼女のような合理的な手法が思い浮かばなかったからだ。　「どうしてお前はそんなこと思いつけるの？」と聞いたところ、いつもどおりの返答が帰ってきた。すなわち、「だって考えるの面倒くさいから。なるべくとっとと片付く方法のほうがいいじゃん。そのほうが楽でしょ」だ。楽ができるものならとっくにしているさ。単に俺の頭じゃそれが思いつかないんだよ――そう思った。　＜アプリオリにおける命名の厳しさ＞

ところで数学的帰納法は lɪnʃɪhɪɪl というわけだが、アルカでは帰納ではなく演繹だ。　高校の頃、これが帰納だと聞いて違和感を覚えた。むしろ演繹ではないかと。しかしネットもない時分、裏を取るのはたぶんに面倒であった。結局リュウに問い合わせたところ、数学的には演繹だと教わった。それでアルカでは現在でも数学的帰納法のことを帰納ではなく演繹に分類している。　アプリオリ言語の場合、自然言語から単語を借りられない。それはつまり自然言語が持つ間違いを借りることもできないということだ。　例えば有理数はｒａｔｉｏｎａｌという英単語の誤訳が原因でできた単語だ。有比数が正しい。もし数学的帰納法や有理数という日本語を元にアルカの単語を創ったら、間違いを継承してしまう。それはアプリオリな造語ではない。　もちろんアトラスの学者も間違える。アルカにも間違いが元でできた単語があるべきだ。しかしそれが一々地球でできた間違った単語と重複するのはおかしい。　つまり、アプリオリの人工言語屋はあらゆる学問に広く浅く通じてなければならないというわけだ。従ってひとつの単語を作るにも一々細かく裏を取り、内容を理解した上で、さらに自分の異世界ではどのような時代にどのような語源で名付けられたかを考えねばならない。非常に骨の折れる作業だ。　この件について後年愚痴ったセレンにメルはこう言った。「世の中は甘くない。天才であっても努力しないで第一人者になれることはない。そんな漫画のようなことは起こらない。そして逆にバカがどんなに努力しても第一人者にはなれず、所詮はマシなバカでしかない。結局この厳しい現実において第一人者というのは、もともと頭の良い人間がさらに不断の努力をして掴み取る地位なのだ」と。　またこうも言われた。「いつも言ってるとおり、お兄ちゃんはメルが許せる最低限度のバカで、ギリギリ生きていてもいい境界線にいるわけよ。だけどまぁ、人工世界を作っていくのに必要な広く浅い知識と知性という面で見れば、及第点じゃない？」と。　アプリオリな命名より妹のほうが厳しい。

lɪnʃc　[名詞] 人事　[レベル] 4　1ʃ: 制 :lɪnʃcɹ

lɪnʃcɹ　[名詞] ランティス、使徒、アシェットのメンバー　[名詞] 使徒。ls のミロク革命の体制側を表す言葉。メルを始めとするアヴァンシアンの幹部やリディアを始めとするパイロットのこと。　[名詞] 有能な部下、近しい部下、直属の部下　[シェルト] 駒、コマ。テームス以外の駒　[名詞] 大学院生、院生　[名詞] １代＝２８年　[組み数字] ２８　[レベル] 2　ɑ;e 個体 ,ɑ> 個々のアテン ,ɑu> 人間 ,ɑɲɑ>lɪn（人間）,lɹl> 使徒 ,lɹɹ　古 :lɪnʃcɹ（霊人）。lɪnʃɹe,lɪnʃɹɪ,ʅɪʃɪɲ,lcbeɲɪl。元は霊人という意味だったが、事実上これが適応されたのはラシェットのメンバーと少しの例外だけだったため、ランティスというとラシェットのメンバーとほぼ同義だった。今回は lɪn が霊人という意味なので重複するから、これをラシェットのメンバーとした。単にラシェットのメンバーというと ʅɪʃɪɲ で、アシェットのメンバーは lɪnʃcɹ という区別を与えた。

lɪnʃcɹ:lɪnʃcɹ:lə lɪnʃcɹ, lɪ lɪnʃcɹ　[語法]　ルシーラとハルマを区別しない言い方ともいえる。リディアからクミールまでの２８人を指す。

lɪnʃcɹ,ɑu　ɪʃen　e

lɪnʃcɹʃ　[名詞] [形容詞] 混血児、ハーフ、クォーター　[反意語] leueɲ　[レベル] 3　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ:lɪnʃcɹ/ʃeeze（使徒風な）。使徒が全員混血児であったことから。　[文化]　アルバザード人の大半がそうで、混血率が高く、従ってアルバザード人は美人美男子が多い。　・混血児は優れて

いる　　日本とフランスを比較すると、美人率は大して変わらないが、日本のブス率が圧倒的に高いことに気付く。日本は奇形なのかと疑うような女が多い。　セレンは子供の頃からこのことを不思議に思っていた。そして実際にフランスに行って日本より圧倒的にブスが少ないことを見て事実の存在を確認した。そしてなぜこうなのかを考えた。　結果、日本が島国でフランスが地続きだからだろうという結論に達した。知っての通り近親婚は奇形児の生まれる確率が高い。だからたいていの国で近親相姦は禁止されている。ところが日本のような狭い、しかも村社会で山が多く移動しづらい国では、狭い村や町の中で結婚しあうので、近親婚に近い状態が乱発する。流動性の低い地域では似たような遺伝子を持った人間が集まることになるので、近親婚に近い状況が形成される。結果、奇形児ではないもののそれの亜種のような子孫が生まれる。狭い地域で流動性がない環境で婚姻を繰り返していけば当然血が濃くなる。血が濃くなれば近親婚に類似した状況になる。近親婚に奇形児が多いのであれば、流動性の少ない地域の奇形児に近い――要するに醜形――が生まれる確率も高まる。だから日本は平坦な地続きで流動性の高いヨーロッパに比べてブスが多いのだろう。――とセレンは小学校のころに考え、大人になってフランスに行って実感もした。　　セレンがこう考えたのはアシェットの影響も大きい。アシェットのメンバーはセレンもそうだが必ず混血児で、しかもリーザが美少年美少女を好んだため、美人が多い。セレンは子供ながらに混血児は綺麗なんだなと思うようになっていった。　猫を飼うようになって、犬や猫も血統書付きの純血のほうが奇形みたいな形（ブルドッグやパグなど）が多い一方、雑種は無難に可愛いということを経験的に知っていった。　なんで白人たちはわざわざ不細工な犬猫を品種改良してブリードしてきたんだろうとセレンは不思議に思った。中学でヨーロッパ人の純血至上主義を知り、純血が良いことだと思い込んでいるのかという事実を知った。　　日本では混血児は希少価値もあるし綺麗でモテるが、ヨーロッパではウザい移民どもが持ち込んだ汚い血くらいにしか考えていないので、純血のほうが尊ばれる。ブルーブラッドなどの慣用句に白人の純血主義がよく見て取れる。　セレンは日本で育ったため見た目ではモテたが、リディアは同じ混血児でもヨーロッパ住まいだったため、モテなかった。リディアは幼児体型で可愛い顔で、日本なら間違い無くアイドルレベルだが、ヨーロッパでは人気のない見た目だ。　リディアは自分を拒絶してくる相手を恨み、世界のどこに行っても外人扱いされるこの世を恨み、その反動で自分が存在しても許される世界カルディアを創った。

　セレンは子供の頃から白人の顔が嫌いで、特に女がケバくて気持ち悪かった。美人と言われる女優やモデルを見ても化物が化粧をして更に化物になっている、なぜわざわざ濃い顔を無駄に更に濃くするのか、なぜわざわざブスになるメイクをするのか、と不思議だった。

　セレンには白人の美醜感覚が分からない。白人が愛でる女優はセレンにはケバい化物にしか映らない。恐らく白人の持つ白人至上主義、純血至上主義が美醜感覚を狂わせているのだろうと考えた。

本当に美しいのは犬猫の雑種と同じ混血児なのに、純血至上主義のヨーロッパではそれが認められず、白人コンプレックスのある日本では逆に実力以上にハーフがもてはやされていて、どちらの評価も間違っているだろうと考えた。　　セレンは黄色人の純血も白人の純血もどちらも犬猫のブルドッグのような気持ち悪い奇形だと思っている。一番美しいのは血が混ざり合った混血児、つまり雑種だと考えている。（ただ、セレンは日本で育ったので個人的には東洋風の見た目が好きなのだが）　要するに見た目が一番優れているのは混血児だと思っている。　　見た目だけではない。そもそも混血児は父母から様々な風土の免疫をもらっており、健康的にも有利だし、太り過ぎの白人ほどでないし寸胴な日本人ほどでもなくちょうどいいスタイルを持っているとも思っている。　つまり混血児は肉体的にも優れていると思っている。　　・アルバザードにおける混血児

　アルバザードはリディアのコンプレックスを映した鏡だ。リディアが考えた理想の国家だ。だから当然ヨーロッパと違ってセレンやリディアのような雑種の混血児が美しく優れていると評価される。ヨーロッパと違って白人至上主義も純血至上主義もない。　アルバザード人は文化も人種も混ざって切磋琢磨したほうが良い物が出来上がると考えており、自分たちの純血性をことさらに守ろうとしない。　こうなった神話的な理由としては、ʝᴅ で凪人に征服され凪人との混血化が進んだことや、ルティア（シージア）の影響を古代から受けてルティア人との混血が進んだことが挙げられる。　要するにフランスなどと違って純血を守る以前に政府の上層部が異民族によって支配され混血化が進んだため、混血層のほうが現代に至るまでに増えてしまい、純血層を上回ってしまったわけである。となればわざわざ自分たち混血児を自らディスる必要性はないわけで、当然多くのアルバザード人は混血児が優性であると主張することになる。そういうわけでアルバザードでは純血よりしばしば混血のほうが評価が高い。　だからアルバザードで美少女コンテストをすればリディアや紫亞のような混血児が有利になる。ただし歴史的にアルバザードには黒人が入っていないので、同じ混血児でも黒人の混血児は評価が低いし、黒人そのものも評価が低く、差別がある。　要するにフランスと異なる歴史を持つ国で、アルバザードにおいては混血児が社会の上層部に行き、かつ数も多かったため、混血児がもてはやされているわけである。　だがそれはあくまで神話的な理由であり、実際にはリディアが自らの理想の国家を築き上げるために描いた設定でしかない。結局この世界はすべてリディアの溜飲を下げ、彼女を幸せにするための物語にすぎないのだ。そしてセレンはその世界を彼女ごと愛している。

lınſcʝ ſ'ınuep ［歴史］ランティス・タンヴェル。 ［レベル］4　ʝʝ に ınuep の成句欄から独立 ［文化］ メル２６２年から２９５年までのファウスによるアルティス教徒迫害のこと。信者狩りが各地で行われ、信者だと分かったものは収容所送りとなり、処刑された。拷問による自供も行われ、拷問により無理やり自供させられ処刑台送りになるケースも多く、社会全体が混沌とした。

lınſcʝlı ［名詞］大学院 ［レベル］4　1L

lınſcʝᴅeᴅ ［組み数字］ランティスサークル ［レベル］5　ʝ1 ［文化］ pıdıll

lınſcʝᴅelzlınſ ［音楽］ランティスの子守り歌、ランティスの覚え歌、使徒の子守り歌、使徒の覚え歌 ［レベル］2　ʝʝ ［文化］ ᴅel 1ʕ ごろに作られた使徒の覚え歌。ʝʝ に作り直された。　　・歌詞　　lɔ pcɑcı ɑcı uelᴅ　ſı ɔuc ucɔ epuı　uc lccz lcʝ ʝıſcc　uıl φcl φcl ſeeue lcn ɑəlᴅccı ɑəl beezel　lcʝ pyəə ɑyə cluı　nɔl ᴅel ᴅel dıpſ ſen pılɑəpı pıl uelᴅ　lɔʝ zını zın epuı　ɔn dııl dıl ʝıſcc　ɔnlɔ ᴅclɑ ᴅcl ſeeue　ɔnſı ɑıuı ɑıu beezel　ɔnuc pəəs pəs cluı　ɔnuıl ʝe pen ʝep dıpſ　　ɔnlcn pıuı pıu uelᴅ　ɔnlcʝ əᴅſɔnı ſın epuı　ɔnn ɔl lccne lcn ʝıſcc　ɔnſen pelezɔnı pez ſeeue　ɔnlɔʝ sccl scl be ezel　ſıɔn lcnı ɑcn cluı　ſıɔnlɔ eleſɔne leſ dıpſ　　ſıɔnſı ennı len uelᴅ　ſıɔnuc ıll lıl epuı　ſıɔnuıl neene nen ʝıſcc　ſıɔnlcn dcnenı dcn ſeeue　ſıɔnlcʝ ᴅıſ ᴅıſ beezel　ſıɔnnɔl lənɔn lən cluı　ſıɔnſen lᴅccp ᴅcp dıpſ　　ləəʝ eſ lınſcʝ

lınſcʝpecn ［交通］ランティス線、使徒線 ［レベル］4　ʝʝ ［文化］ アルナ市を走る地下鉄。２８本の環状線から成る。　７番目までは全長が短すぎるため、単線となっている。同時に、止まる駅もポエン、カルザス、ティクノ、コノーテのみである。

lınſcı ［丁寧］［親族］ご息女、お嬢さん、お嬢様、ランティア ［レベル］2　ʝ1:lınſ/ᴅcuı（美しい子） ［文化］ lıılı 【用例】 "cldıʝʝɔ e8 lınſcı" お嬢さん、大丈夫ですか。

lınſcı(ʝ) ［言語］［文字］ランティア書体、ランティア ［レベル］5　ʝ1:ᴅclɑ :ləlcı → hıɾıᴅ ［文化］ ・概要　　幻京書体 スラブセリフ ミディアム スタンダード ローマン　フォント制作 ʝepen ıpbızıpɑ　ʝ1 年企画立案、同完成　　・特徴　　ſcnı にセリフを付けたもの。曲線部には原則セリフを付さず、直線部にのみセリフを付す。ただし大文字のうち、高さ中央の左右に伸びた横線には付さない。また、デザイン上見づらくなるのを防ぐためにあえて付さない場合もある。線の太さを均一に保つため、曲線部の先端を尖らせない。本文などに用いる。

lınl ［名詞］左 ［形容詞］左の ［格詞］～の左に ［経済］借方 ［数学］上何桁などの上 ［反意語］ᴅcl ［レベル］1　ɑpɑ;lın/lep　1L:lınlɔp 人の方向　e: lınl

lınllc ［名詞］左後ろ ［レベル］2　ʝ0

lınlʝı ［名詞］左前 ［レベル］2　ʝ0

lınluınɔ ［アイテム］ホプロン　pɑ;/。左側にいる人間を守ることができることから。　ʝᴨ ［文化］ zφ の重装歩兵の集団戦闘で発明された。

lınlᴅɔl ［名詞］左下 ［レベル］2　ʝ0

lınlᴅenl ［名詞］左回り ［類義語］ılᴅellᴅenl ［反意語］ᴅclᴅenl ［レベル］3　ʝ0

lınlhıl ［名詞］左上 ［レベル］2　ʝ0

lınlzeſ ［経済］借方科目、借方 ［レベル］6　1L

lınllʝ ［生物］左手 ［レベル］2　1L:ʝɔnɔhcnɔlc

lınlı ［数学］整数 ［レベル］4　1L:lınl/ıll（小数点の左に来る数）

lınlı(ʝ) ［魔法］呪禁術　ılſ　ʝᴨ

lınlıɑel ［数学］数論、整数論 ［レベル］5　1L

lınlc ［ジョブ］呪禁師　ılſ　ʝᴨ

lınlcnʝ ［生物］左目 ［レベル］2　1L:ᴅelcɑcı ılcʝ

lınlɔ ［名詞］男の子、少年、ボーイ、青年、男子 ［類義語］ucl ［反意語］ pecyə ［レベル］2　古:lınſcʝ から来ている。 ［語法］ ıllız と ılᴅını の総称。

lınlen ［接続詞］lınl ［レベル］3　ʝ1

lınl ［動詞］yəl を信じる、yəl は大丈夫だろうと心配しないで信頼する、信じる、信頼する、信用する ［レベル］2　1ʕ: 制 :lıd

lınlınſe ［電算］ランシャンテ ［魔法］通信魔法（但し ıl 以前は ınlınſe） ［レベル］5　古 :ıl/ınlınſe から来ている ［語法］ ınlınſe は元々魔力で情報を通信するものだったが、レイユの時代に開発された新型通信機が ınlınſe の名になり、それまでの魔法は lınlınſe と呼ばれるようになった。

lınlcſe ［生物］霊人種 ［レベル］5　1L

lınlel ［政治］（都市の規模としての）町→ ʝılıc ［レベル］3　1L:pcɑcı: 古 lın/lıl（人がいる）→ lınlel

lınlel(ʝ) ［地名］ランシェル、ランシェルの森 ［レベル］6　ɑ;e　ʝʔ ［文化］
　セルハノイの近くにある森。ユーマがサールのヴァルゾンから身を隠すためにギルバートの森から移り住んだところ。ここでやがてドゥルガと会い、恋に落ちて一緒に生活するようになる。　後にアルドゥがエスタをフランディールから連れて家を建てて１６人の子供を成す舞台ともなる。

lınʝ ［名詞］天使。人間を救済する存在。また、そのような人間。 ［生物］神科と魂科の総称。ᴅcpɔl から lcnʝ を抜いたものに等しい。 ［類義語］ pzıpl ［反意語］lcnʝ ［レベル］2　古 :lınʝ（善人、天使）← lınſcʝ（霊人） ［語法］ アルカには神の遣いのようなイメージや語義はない。　寝ている子供を天使のようだと褒めるのはアルカでも同じ。

lınʝ,ʝzɑ　oıʝſ, lıpſ　<>　lın,ʝzɑ

lınʝ,hy　lcnʝ

lınʝllel ［魔法］怪獣図鑑、ランスクレール ［レベル］5　pɑ:pyəə;lınʝ,hy/llel → ɑɔlᴅcyə　ʝ1 ［文化］ ɑɔlᴅcyə

lınʝlepn ［ランドマーク］［芸術］ランスケルン美術館、天翼美術館 ［レベル］4
　1L:ᴅclɑ: 天使の羽 ［文化］ アシェットがミルフの出産祝いでアルナに建てた美術館。世界最大の美術館で、レイユにも残った。住所は中央アルナ市コノーテ＝ミルフ通り。ミルフ通りの敷地を完全に占有する。　フランスのルーブル美術館とオルセー美術館を足したような美術館。入場料は終日券のみで、一般１００ソルト、学生子供

老人５０ソルト。ルーブルが８．５ユーロで約１０００円であることを考えると、一般が４００円程度なので、かなり安いといえる。税金から賄われるのと、そもそもフランス人がルーブルに行く数倍の頻度でランスケルンに行くというのが理由。ルーブル同様、外国人観光客も多数。　中が広いため、足湯が設置されている。自由に浸かって休める。

lınȷlınʃ ［俗語］パンチラ ［類義語］lcȷd̃cld ［レベル］４ Ⅎ1

lınȷlccʃ ［生物］うなじ、項、⊠、襟首、えりくび、首筋、うなぜ ［レベル］３ ɲɑ;/「天使の誘惑」ɲɑ でセレンが女子のうなじを見て興奮してそのように名付けたことから。風呂上りの掻き上げた髪と授業中の前に座っている女子のうなじが最強とのこと。 Ⅎʔ

lınȷscɔɲ ［生物］蕨陰兪、蕨陰愈 Ⅎ1

lınȷlcl ［化学］ビスマス 1Δ: 制

lınȷı,ılʃ ɑccıeʃel

lınȷıȷl ［化学］アスピリン ［レベル］５ 1L ［文化］ lcnʃıȷl

lınȷɔɑı ［交通］人身事故、対人事故 ［レベル］５ ɲɑ;/ Ⅎ௱

lınȷɔɲȷelɑ ［電算］高級言語 ［レベル］６ 1L

lınȷe ［政治］男爵、バロン ȷᴅ;lınȷeɲ.l Ⅎ௱ ［文化］ 貴族の最下位。元武将がなることが多かった。

lınȷeɲ ［軍事］武将、ランセ ［組み数字］２／３ ［アクセント］lınȷEɲ ［レベル］３ ɲɑ;lınȷeɲ,ȷzl ＜ lınȷ,ȷzɑ ［文化］ uınφıɲ

lınuıʃıc ［経済］公害 ［レベル］４ 1L:「人為的な害」［文化］「公害」などと呼ぶと人間が引き起こしたものだという認識が薄れてしまいかねない。責任の重さと所在を明確にするために、「公害」などと呼ばずに「人害」と呼んでいる。

lınuıȷ ［娯楽］ランヴァス、シャンチー ［レベル］６ Ⅎ0:lınʃı/uıȷ（駒の戦い） ［文化］ → nıɥəᴅel 歴史的にアルバザードでは知名度が低く、プレイヤーは少ない。しかし愛好家はリヴェルより高度であると評している。影ながら優れたゲーム。　地球と逆で、ルティアの将棋が元でできたゲーム。相手の駒を使わないものの、将棋から発展しているので駒の名前は両陣営で共通。　アルティルまでは将棋の駒と同じ名称で士を hɥəlı にし、兵を oılʃ にしていたが、レイユでは将棋と合わせてやる人間が増えたため、同じ名前で駒の能力が違うと混乱するということで、改名された。　帥・将 (ɑıcz)、仕・士 (hıɲɑcın)、相・象 (bılʃcɲ)、馬 (φcluın)、俥・車 (nılᴅc)、炮・砲 (ᴅıʃcȷ)、兵・卒 (oeʃʃı)。

lınueᴅ ［人名］ランヴェム ［組み数字］９／１１ ［レベル］３ 古 :ɲcɑcı:lın（人）/ueᴅ（闇、邪） ［文化］ アルシアの９番目。闇の魔法の大成者。女性。

lınueᴅ(Ɉ) ［死神］ランヴェム 1Δ:ȷeɲen: モデルはユーアとラルドゥラとラヴァ。 ［文化］ ヴェルギナの元腹心。夢喰種だが、紗枝の付き人をしている。無口で背の高い美青年。年は二十代後半。戦闘力の低い紗枝を助けて戦う。

lınueᴅɔ ［名詞］人影、人陰。人影と人陰の違いはない。 ［レベル］３ ɲɑ;/ Ⅎʔ ［語法］ ueᴅɔ

lınɑıb ［環境］人口爆発 ［レベル］５ 1L

lınɑcɔle ［アイテム］ランフィオーレ、血染めの乙女 ［伝統色］マゼンダ、マジェンダ。槍に付いた鮮血の色。鉄色の槍と相まって薄く見える。 ［アクセント］lınɑcƎle ［レベル］５ ȷzl;lın,ȷzɑ/ɑcɔle,ȷzɑ Ⅎ1 ［文化］ 天馬騎士の長槍。アヴァンシアンの一種。௱～↾ eləı の長さで、柄は細身。刃には返しがついており、抜きづらい。また、突き刺し強度が高い。　鉄製だが、乙女が使うため細身。ゆえに横から打たれると曲がりやすい。しかし急降下して刺すため、敵は横から打つ暇がない。　金属製な上に長いので極めて重い。ゆえに移動中は天馬の右腹に付けた逆さフックに乗せておく。手に持つ部分には寒さ防止の布を巻く。また、手袋を嵌めて握る。　槍を放つ前は中腹を持つが、放つ際は手を滑らせて柄尻を持ち、リーチを稼ぐ。急降下しているので重力に任せればよく、柄尻を持ってもほとんど重さを感じない。これが通常の馬ならば重力を味方にできないため、このような金属製の長槍を乙女が持つことはできない。　ランフィオーレは重力による加速度がつくため、その威力は絶大である。その代わりこのような長い槍を上から下向きに放つということは、確実に槍は地面に刺さってしまう。しかしこれはあえてそうしており、貫通した槍が地面に強烈に刺し込まれることで、敵は身動きが取れなくなる。このことからもランフィオーレがアヴァンシアンであることが分かる。　通常ランフィオーレを放つ際は、まずエリュンディテが減速して最後列に付く。同時にサヴァンジェが急降下して敵に槍を放つ。一方トリコメロールは急降下せずにサヴァンジェの前を通過し、インメルマンターンをして急降下し、敵の背後から槍を放つ。それと入れ替わりで後列に控えていたエリュンディテが敵の前方から急降下し、槍を放つ。右サヴァンジェは左に放ち、左サヴァンジェは右に放つ。トリコメロールも同様。エリュンディテは右手で敵の正面を刺し、馬は敵の右側を駆け抜ける。このようにすることで、５つの角度から槍が刺さり、地面にも刺さることで槍の牢獄を築く。そしてこの突き方をそのまま ȷınselcl̃ı という。

lınɑcɔle(Ɉ) ［軍事］ランフィオーレ ［アクセント］lınɑcƎle ［レベル］３ Ⅎ1 ［文化］ ıl で結成された反政府組織。腐敗した力無きユティア朝による独裁政権を転覆させ、世を改めることが目的。ハト派のフェンゼル＝アルサールが指導者を務めていたが、フェンゼル＝アルサールの乱以降はタカ派のヴァイン＝カンヅェルが指導者となった。

lınɑɔnʃ ［交通］歩道 ［レベル］３ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ ［語法］ 中央を ɥıᴅeɑɔnʃ、左右両脇を zıᴅɑɔnʃ という。

lınᴅel ［歴史］人代。アズゲル以降の総称 ［レベル］４ ɲɑ;/ 1L ［語法］ → ɑeᴅe ıɲʃᴅel と ɑlıᴅᴅel に分かれる。

lınɑ ［動詞］ɥəl を期待する、期待する、楽しみに待つ、ɥəl が待ち遠しい、ɥəl はまだかな、ɥəl を信頼して期待する、待ち遠しい ［名詞］期待、希望、望み ［形容詞］期待された、待ち望まれた、歓待された ［反意語］ɑcueɲ ［レベル］２ 1௱: 制 : 恣意 【用例】 ʃee, ʃɥə lınɑ ɑɔnl lı ıl̃ ʃɥə ȷccnı. 彼が手伝ってくれるなんて期待しちゃダメよ。 nɔn lınɑ nın ılʃ lı. 彼に会うのを楽しみにしている。 ın lınɑ nɔȷ ıɲ ȷcl ȷıez ɔn l̃cnel. スキーに行くのが待ちきれない。

lınɑ(Ɉ) ［生物］［医療］基準点、ランドマーク。骨や筋肉や関節など、取穴の際の目印となる部分。 ȷzl;ınɑı,ɑu.l（基準） Ⅎ௱

lınɑlıɑ ［名詞］甲斐、かい、やり甲斐、やりがい ［レベル］４ ɲɑ;/「期待される値打ち」 Ⅎ௱ ［語法］「期待できるだけの値うち」としての甲斐。生きがいややりがいなどの甲斐。ただし生きがいは lcuɲelȷ。 【用例】 ʃə ɑıȷ ʃcl lınɑlıɑ ʃəuıl. この仕事は十分やり甲斐がある。

lınɑɑız ［形容詞］希望のある、希望に満ちた ［レベル］３ 1L

lınɑc ［魔物］ランディ（雷獅獣）：第五十三天：雷の風天 ［レベル］５ 古 :ɲcɑcı ［文化］ 翼の生えたライオン。火を吐き。雷で敵を焼く。ひとたび跳躍すれば羽を使わずとも４０メルフィを飛びこえ、跳躍の頂点は１２メルフィにも達する。神速の持ち主でもあり、時速は８０コットメルフィにも達するという。その雄たけびは聞く者を動けなくさせる。 【成句】 cnȷ e lınɑc 虎視眈々

lınφ ［法律］権利 ［法律］人権← lınlınφ ［レベル］３ 1L: 制 :lınl

lınφlcu ［経済］ストライキ、スト ［動詞］ɥəl を ɔn についてストさせる、ストする ［レベル］３ ȷȷ:「権利の声」

lınφuıȷl ［政治］人権侵害 ［レベル］４ 1L

lınφbɥəc ［政治］基本的人権の尊重 ［レベル］４ 1L ［文化］ ナディアで確立。

lınφıl̃n ［政治］人権思想 ［レベル］４ 1L

lınφıle ［政治］人権団体 ［レベル］５ 1L:clᴅəȷ:ɲcɑcı

lınφıɲʃ ［経済］人件費 ［レベル］４ 1L ［文化］ ＰＬでは販売費及び一般管理費に含まれる。

lınφel̃lı ［名詞］人ごみ、人混み、人込み、人ゴミ、ひとごみ ［レベル］３ Ⅎ1

lındıᴅe ［交通］人力車 ［レベル］３ 1L:ɲcɑcı:ıɲbılelʃ: 元々馬車だったものがミロク革命で馬車が道路に入れなくなったため、馬車を改造して人力で漕ぐようになったことから、dıᴅe に lın がついた。 ［文化］ oııᴅ

lındcʃ ［生物］人種 ［レベル］３ 1L:ɲcɑcı:ıɲbılelʃ ［文化］ ＜歴史的観点での人種＞　人類は神から分化したため、人種的特徴は神々を引き継いでいる。　エルトは白い肌に白人系の彫りの深い顔をしていた。金髪碧眼で体格は華奢。　サールは黄色い肌に東洋系の薄い顔をしていた。黒髪黒目で体は細く、寸胴の幼児体系。　ユーマは両者の特徴を受け継ぎ、亜麻色の髪に白めの肌をしていた。目は右目が青で、左目が緑。　アルドゥはドゥルガを受け継いで金髪碧眼の白人系美青年。　エスタはヴィーネを受け継いで黒髪茶目の東洋系美少女。　第三世代はいずれも彼らを混ぜたもので、諸特徴が混ざり合った。　むろん、組み合わせによってはエルト系の白人要素しかほとんど持たないものや、その逆もいた。　これが人類の始祖（ガルヴェーユ人）となる。地球でいえば白人と黄色人種と彼らの混合から人類がスタートすることになる。　ガルヴェーユ人は肌や体格の特徴でアーデュ（白人）、エティール（黄色人種）、それらの混合であるユミール（メスティーソ）に分けられた。　ただ、白人といっても地球にいるコーカソイドらとはかなり異なる。　肌が白く髪と目が薄いのは同じだが、ガルヴェーユ人はコーカソイドほどは彫りが深くなく、体格は華奢。筋肉は細く弱く、身長も低い。　白人はしばしば顎が割れたり毛が濃かったりするが、ガルヴェーユ人はいずれもそのような特徴を持たない。　また、アメリカ人などに比べて口が少し小さい。女性の胸は黄色人種より大きいが、コーカソイドほどではない。　黄色人種も同様に、モンゴロイドとはかなり異なる。　肌は黄色く髪と目は濃いが、ガルヴェーユ人の目はくりっとして大きく、二重が多い。　体形は子供っぽいが太りにくく、鼻は日本人よりわずかに高い。女性の胸は小さく、日本人と同じ程度。　体格は白人より小さく、筋肉は弱い。　ガルヴェーユ人：ユーマの一族第三世代からガルヴェーユを追放されるまでの世代　→シフェル人、マレット人　ここから遺伝スパンが早くなり、環境も変わるため、各民族は環境に合わせて身体的特徴を変えていく。　シフェル人：ガルヴェーユ追放でファベルや南アルカットへ移った人種。比較的エルトの血が濃く、白人系。　→リュディア人、ファルファニア人　マレット人：ガルヴェーユ追放でファベル南西部やサヴィアへ移った人種。比較的サールの血が濃く、黄色系。　→ファベル人、シージア人　リュディア人：Δ↾ 万年にアンシャル南部に建国。L↾ 万年にレスティルを建国。LΔ 万年で神に土地を奪われて四散。ガルヴェーユ人よりも黒髪黒目の頻度が多く、肌も濃い。現アルバザード人のルーツ。神に追放された以外はファルファニア人にしか負けたことがなく、後はヴァステが起ころうがラヴァスが起ころうが生き延び続けた最も苦労人な民族。苦労した分強いのか、現在ではアルバザード人として世界を支配している。
→ルカリア人、アルディアル人、スカルディア人、ミュール人
ファルファニア人：ファベルの土地に適応して、10 万年かけて地球でいう黒人になっていった。肌が黒く鼻が低く彫りが深く、筋肉が強く、唇が厚い。L↾ 万年で ɑılɑıncı を建国。しばらく住んでいたが、uıȷʃe で悪魔の攻撃を受けて ɑıɲɑıncı に撤退。その後レスティル人に ɑılɑıncı を奪還され、現代まで北ファベルに住み続ける。リュディア人を追いやった歴史があるため、リュディア人の子孫であるアルバザード人は未だに彼らに冷たい。　ファベル人：地球から考えると彼らが黒人に見えるが、実際はインディアンに近い人種。黄色人を黒くしたような見た目で、インディアンやポリネシアンなどに見える。　シージア人：後にルティア人などになる民族。東洋系の顔立ちで、風土に合わせて白くなり、髪も徐々に色が薄くなっていった。特に現リーゼルやユピトールではその傾向が濃い。　→ルティア人、リーゼル人、リディア人、ハノイ人、ケヴェア人、ハーディ

アン人　　ルカリア人：神と交代でルカリアに住んだ民族。色素が薄く、背が高い。　→トール人、フレティス人　　アルディアル人：現東方人。髪が黄色く、背が高い。　→サルディアン人　　スカルディア人：現魔方人。特徴はミュール人と同じ。　→メディアン人　　ミュール人：いわゆるアラブ人のような茶色人種。　　ルティア人：シージアから移住しなかった人々のうち、南側に住んでいた人々。大人しく小柄で、肌は白いが髪は黒い。　　リーゼル人：シージアから移住しなかった人々のうち、北側に住んでいた人々。孤独を愛し、人と関わるのが嫌いで、色素が薄い。口数がさらに少ない。見た目はフィンランド人に、静かなところはスウェーデン人に似ている。

　　リディア人：シージアから南下した人々。比較的エルト系の血が多く集まった地域で、見た目はアジア人とヨーロッパ人の混合に近い。リディア国北側に集中。　　ハノイ人：リディア人の南に住んでいた人々。インディアンや東南アジアの人間に似ている。リディア国南側からサヴィア南端までに分布。背が小さい。　→カルセール人　　ケヴェア人：サヴィアからケヴェアに渡った人々。アズゲルで一部はさらにアデントに渡り、アデント人に分派する。インディアンを黒くしたようで、ポリネシア人に似ている。　→アデント人

　　ハーディアン人：シージアから分派して西に移動した民族。サール系の血が濃く、顔は扁平で鼻が低い。日本人ほど顔は大きくないが、顔のパーツは日本人同様小さい。体格は非常に小さく、女性は外国では子供に間違えられる。顔は薄く幼げで、男女の区別があまりつかない。几帳面で細かい作業に強く、リーゼル人同様内向的。

トール人：ルカリア南部の人間が中心となり、そこにレスティルに少数住んでいた人間が混ざったもの。現アルバザード人とケートイア人。　　フレティス人：ルカリア北部の人々。トール人より背が高い。　　サルディアン人：アルディアルから分派して東へ移動した民族。長身で色が薄いのは同じだが、横に大きく太りやすくがたいがいい。ただし若いころは細い。結婚したころから急激に太る。セレーナにいるのは地理的に少し離れたアルディアル人。　　メディアン人：スカルディアから分派して東へ移動した民族。茶色人種で、アラブ人のような見た目だが、メディアンの湿潤な気候に合わせ、顔がやや扁平で鼻が横に広い。東メディアンはマレットとの混血も多い。　　カルセール人：ハノイ人のうちサヴィア西岸に住んでいた民族とリディア人の混合からなる民族がハーディアンを通過して住み着いたもの。従ってハーディアン人とは別系統であるが、移住後はハーディアン、メディアン、サルディーン、アルディアル、スカルディアなどと混血が進んだ。神代およびアズゲルのころは最も混血が進んだ人種で、文化的にも混血が進んだ。集落同士の文化の違いが大きくなり、内乱が常に絶えなかった。元はマレット系の東洋魔法を使っていたが、時が経つとともに西洋魔法にシフトしていった。　　アデント人：アズゲルでアデントに渡って分派したケヴェア人。さらにここからミュオネイトやオプクリアを渡って南ファベルに入ったミュリア人に分派する。肌が赤く、赤色人種と言われる。アボリジニに相当。　→ミュリア人　　ミュリア人：アズゲルでアデントからミュオネイトなどを通って南ファベルに入った人々。ファベル中央に近付くほどケヴェア人と同じく肌が黒いが、子供は黒くない。赤い肌をして生まれてくる。ファベル大陸南部は大人もアデント人の特徴を残して肌が赤い。最南端は非常に寒いため、いずれ白人化するだろう。アズゲルの終わりから現在まで、つまりこの人種ができてからわずか 1000 年ほどなので、まだ遺伝子が環境に適応していない。　　ガルヴェーユ人　├シフェル人　│├リュディア人　││├ルカリア人　│││├トール人　│││└フレティス人　││├アルディアル人　│││└サルディアン人　││├スカルディア人　│││└メディアン人　││└ミュール人　│└ファルファニア人　└マレット人　□├ファベル人　□└シージア人　□□├ルティア人　□□├リーゼル人　□□├リディア人　□□├ハノイ人　□□│└カルセール人　□□├ケヴェア人　□□│└アデント人　□□│□└ミュリア人　□□└ハーディアン人　　＜神に近い民族は？＞　歴史的変遷を見ればわかるとおり、メルティア８５万年でガルヴェーユを追い出されてからというもの、人類は環境の変化に適応して形質を変えてきた。言い換えれば、最もガルヴェーユからの移動距離の短い民族が最もガルヴェーユ人のままの形質を残していることになる。この観点で見ればリュディア人が最も始祖および神々に近い。時代が下ると中でも北に移ったルカリア人が、神に近しいとされて異形の能力を買われたレスティル人が近い。そしてさらに時代がくだると彼らの混合したトール人が最も近いといえる。アルバザード人のアルカが最も神の第二アルカに近かったことが頷ける。　＜現代における人種＞　　アルバザードは世界一の大国であるがゆえに様々な人種が混じっている。土着の民族は肌が白く目と髪の色が薄い人種である。だがアルバザードは地続きなため、交通事情がよくなるにつれ、移民が増えてきた。カコにも外国人はいたし、μΩ では使徒のほとんどはアルバザード人ではない。もっとも μΩ の場合、使徒に特別外国人が多かっただけだが。　　流入した民族は世界中からといっても傾向はある。ルティアやメテといった大国のほうが交通事情が良く、情報網も広い。ゆえに大国の敬虔な信者ほどアルバザードに移住しやすかった。ファベルやケヴェアは小国が多く、ここからの移民は少なかった　　ルティアやメテ、或いはアルカットの主要国に住んでいる人種は黄色か白人かである。黒人は少ない。黒人はファベルやケヴェアに多い。ゆえにアルバザードには白人と黄色人種が多くなった　　アルティスの発足以降、敬虔な信者は敬虔な信者同士で結婚することが多かった。言語がアルカで統一され、まして宗教的な繋がりもあったため、異なる人種間での結婚が当然視され、珍しくもなかった。そうして生まれたのが混血児である。アルティルから混血児の数が急増した。　　アルバザードにはたくさんの混血児が生まれ、土着民族の割合は減っていった。民族の純粋性は減っていったが、民族より宗教と言語のほうが重みがあった。そのため、民族の純粋性が減ることに大きな抵抗はなかった。そしてミロクが民族の純粋性よりも敬虔さのほうを重視したことにより、事態に拍車がかかった　　ここからも分かるだろうが、現在の地球ほど人種差別は酷くなかった。人種が違うことは視覚的にすぐ分かる。自分にとって異様なものを排他しようとする気持ちは防衛本能と関わっており、生物として正当な反応である。だから人種差別は起こるべくして起こる　　だが、起こることが自然だからといってそれが正しく許されるとは限らない。人種差別は起こるべくして起こる。しかし、それを社会的に或いは理性的に止めようとする必要がある。人種差別は争いを生むが、争いはできるだけ避けるほうがより安全に生きられるからである　　というわけでアルバザードにも必然的に起こるであろう人種差別をミロクは阻止しなければならなかった。そこでミロクが考えたことは人種差別をしないように無理やり人の心を押し付けることではなかった

法で決めれば確かにある程度は押さえられるだろう。では、法で違反と決めるより合理的な方法があったらどうするだろう。勿論それを選ぶ。さて、それはどのような方法か　　答えは、人種の違いがそもそも大したことでないと思わせるということである。人種が違っても何も感じなければそもそも差別意識が生まれない。差別も起こりようがない。では、人種の違いをどう大したことでないと感じさせるようにするか　　これは喧嘩を止めさせるのと似ている。夫婦喧嘩をしているときに第三者が割って入り、奥さんを非難したとする。すると大抵夫は関係ないこの赤の他人に怒りを覚えて排他しようとする。「なんだあんたは、関係ないだろ、ひっこんでろ」――これが相場であろう　　それでもこの他人がお構いなしに妻を非難しだしたらどうか。もし夫が逆上して殴りかかったりしないかぎり、大抵夫は妻を擁護する側に回るだろう　　夫にとって妻は喧嘩相手である。つまり敵である。だが、ここに赤の他人というより大きな敵が現れた。すると夫はとりあえず小さな敵とは争わず、大きな敵と争うようになる。一時的に小さな敵とは休戦する　　これは喧嘩だけでなく、抗争や、はては戦争にまで通用する普遍的な理屈である。もし冷戦時に宇宙人が地球を侵略しにきたらアメリカとロシアは冷戦を休戦しただろう。人間同士で争っている場合ではなくなったのだから　　この理屈は人種差別にもいえる。人種問題という項目が発生している渦中により大きな項目を入れるというわけである。こうすると人の関心は大きなほうに向く。つまり、その大きなほうがフィギュアと認知され、今までフィギュアと見えていたものがグラウンドとして認知されるようになる　　具体的にいうと、ミロクは人種問題という項目の中に言語や宗教を投げ入れたわけである。ミロク革命の際は大局的に言ってミロクに従おうとする人間と逆らおうとする人間に分かれた。前者はアルカを保持しようとし、敬虔な信者になろうとした。後者はその逆である　　前者と後者はまるで性質が逆なので、諍いが耐えなかった。ミロクは全面的に前者の味方をしたので、前者は錦の御旗を掲げて後者を排他しようとしていった。つまり、前者が後者を差別しだしたわけである　　こうなると前者同士の連帯感が高まる。後者を差別することによって前者内部の連帯感は強まる。前者と後者を分ける条件は主に言語と宗教であった。そこに人種はない。こうして後者の差別が強くなるほど、人種問題はぼやかされていった。これがミロクの狙いである　　もし前者と後者の間に対立が起こらなかったら恐らく移住してきた異民族と土着の民族間での攻防に至っただろう。ところがミロクは意図的に言語と宗教でグループを作って対立させ、人種問題を眩ませた

　ミロクは差別は人間の防衛本能によるもので、起こることは必至と考えた。それを法で規制しても遵守させるのは難しい　　一方、強姦を禁止することは遵守させた。これは欲求を法で規制することである　　このことからも、ミロクは欲求を抑えることより、防衛本能を抑えるほうが難しいと考えていたといえる　　防衛本能は抑えがたいのだとすれば、無理に抑えるのではなく、防衛本能をそもそも起こさせないようにしようとするのが得策である。だからミロクは上で述べたような戦略をとった。この戦略はミロクの「アルティスの世を作る」ということに矛盾しないため、ミロクにとっては幸運でもあった

lindcſjdiſ ［名詞］人種差別　３1L:μcαcı:ıμbılelſ

linhid ［言語］顔文字 ［レベル］３　1L ［語法］ 幻字を使って人の特徴を表した絵のこと。日本語は感情を表すために顔文字を使うが、人種の多いアルバザードでは人の外見の特徴を表わすことに特化している。また、感情は文末純詞で日本語以上に細かく表せるため、感情系の顔文字の需要があまりない。　ı で目を示す。　c か ȷ で鼻を示す。c は黄色人、ȷ は白人。　ȷ は長髪非ストレート、l は長髪ストレート、ə は短髪を示す。　髪の位置が顔の右に来ると、その顔文字人間の左側の頬が見えていることになるから、観察者から見て右に相手が立つことになる。右に立つのは男と決まっているので、髪の位置で性別が分かる。　× で美人を示す。くりっとした眼のこと。　　例　ȷıcı 黄色人の女　ıcıȷ 黄色人の男　ȷıȷı 白人の女　lıcx 黄色人の美人で髪がストレート　əıcı 短髪の黄色人の女　　面白いことに、これらは単語として読むことができる。サイア、アイアス、サター、ライラ、ウアイアのように、言葉遊びができる。

lıns ［歴史］ランジュ、転生期、転生の詠、てんせいのうた ［レベル］３　1L:clɒəȷ:μcαcı:linſcȷ/cnscn（使徒の転生)。世界は創世の詩に始まり転生の詠に終わる。 ［文化］ アレイユの後。使徒が転生する時代。

lınse ［人名］ランジェ　ȷ0 ［文化］ (ɥəəɒı ʕʔʕ:ʕȷȷ(ʕʔȷʔ:ʕȷȷ)) カコ前期のレスティル女王。　ɥəəɒı ʕʔʕ イヴィル、遠征先の ınse で娘誕生の報を聞き、lınse と名付ける　ɥəəɒı ʕȷʃ アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ıμſclcı と cȷlinſe を ıμcȷlinſe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける

lınse(ȷ) ［軍事］［工学］パイロット、運転手、操作手、ランジェ ［レベル］３　ȷɒ;lın/ınsel「アンジェルに乗る人」 ȷʔ

linlı ［名詞］おばさん、オバサン ［類義語］linlın ［反意語］ſelſe ［レベル］２　古 :lılı（母）から。

linlın ［名詞］おばちゃん、おばさん ［類義語］linlı ［反意語］ſelſen ［レベル］２　ȷ0:linlı/n

linlinſı ［娯楽］プレイヤーキャラクター、ＰＣ ［レベル］５　ȷȷ:「人が操作するキャラ」

linlinφ ［政治］人権→ linφ ［レベル］４　1L

lını ［格詞］～するために、～をめぐって ［動詞］ɥəl を狙う、狙う、ねらう、目指す。弓矢や拳銃などで。また、目標のような抽象名詞を狙うときにも使う。 ［名詞］目標、目的、目当ての相手、相手 ［名詞］的、まと、マト→ ılue ［名詞］ゴール→ ʃɔȷlı ［レベル］1 μΩ 1ʕ: 制 : 希望。zın は 7 を表すようになったため。 ［語法］ ＜lını と ɑccnı＞ どちらも「～のために」と訳すときがある。ɑccnı は相手に利益が生じる際に使う。lını はそうでないときに使う。 ın lıbıʃ ɑccnı lcʃe(家族のために働いた)。この場合は家族に利益が生じるので ɑccnı を使う。ın ɑelıʃ lını ʃıȷ（試験のために勉強した)。この場合、試験に利益は生じない。試験は合格するための目標であるから lını を使う。 【用例】 ʃc lını ʃɔȣ 何が狙いなの？ ʃee, leə uıȷ ılel lını nɔnɼ 私を巡って争うのはお止めになって！ eᴅı lını ɑın μıȷ ȷlıʃe le ʃoı ȷɔμ Ωɥe. あんたのいくところのその先だよ。

lınıȷ ［軍事］照準、狙い、ねらい ［軍事］照準器、スコープ ［レベル］6 μΩ;lını/ȷɔn Jɱ

lınıȷı ［名詞］目的地 ［レベル］3 J0

lınıll ［環境］人口 ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:μcΩcı ［文化］ イルムス参照

lınıllɥeʃ ［環境］人口問題 ［レベル］4 1L

lınılccɑı ［娯楽］ラナリーファ J1 ［文化］『セイントセイヤ』に相当するアニメ。

lınııınΩı ［経済］節目 JJ

lınıen ［接続詞］lını。～するための。→ len ［レベル］3 J1

lınɔȷ ［代詞］彼自身、彼女自身 ［反意語］lənɔȷ ［レベル］2 μΩ;/ Jʔ

lınɔn ［親族］どら娘 ［レベル］2 1L:μcΩcı:lınʃ/nɔn（綺麗だった頃の私）

lıneʃ ［名詞］人間性、人間らしさ ［類義語］ʃınȷ ［レベル］4 μΩ;lın/eʃ Jɱ ［語法］ ʃınȷ は人徳としての人間性。lıneʃ は機械や動物と人間を区別するための人間らしさのこと。 ［文化］ ʃell 【用例】 lı ʃcl lıneʃ μın. 彼はしっかりした人間性を持っている。機械的な人間や動物的な人間でないという意味。アルバザードでは重要→ ʃell

lıu ［形容詞］うるさい、騒がしい、やかましい ［反意語］ȷeeμ ［名詞］騒音 ［レベル］2 1ʔ: 制

lıuȷeʃ ［名詞］防音 ［レベル］4 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ

lıuɑɔ ［名詞］騒音 ［レベル］3 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ

lıuı ［政治］外交、国交 ［レベル］3 1ʈ: 制 :ȷɔμn:lıuʃ

lıuın ［政治］外交官 ［レベル］4 J0

lıuınΩ ［植物］Ωcıcȷ ［組み数字］4 / 9 ［レベル］4 ȷzl J1

lıuınΩcı ［名詞］綺夢祭、ラヴァンディア ［レベル］5 J1 ［文化］ アルナ大のディアセルの学園祭。聖人 μcΩcı ləʃcı に敬意を払い、彼女及びこの時期を象徴する桃の名になっている。

lıuııμnɔn ［政治］外務省 ［レベル］4 1L:clᴅəȷ:μcΩcı

lıuen ［地名］ラヴェンの滝 ［経済］１０００ソルト札 ［レベル］2 J1:μcΩcı ［文化］ ȷleᴅenʃ, ınɑın

lıɑ ［動詞］ɥəl を ı に貸す、貸す、貸し出す、貸しだす ［類義語］ȷʃıcφ ［反意語］μcd ［レベル］2 19:ȷeμen:ȷlel: 恣意

lıɑ,lɥ lɥə ≻‹ıɑ

lıɑʃ ［形容詞］上品な、優雅な ［反意語］beleı ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ləɑʃın（上品)。「ふわっとスカートがなびくようにする」が原義。 【用例】 ［メタファー］lıɑʃ ɥən ȷᴅccμ クミールのように優雅な

lıɑɱınʃ ［形容詞］育ちの良い ［レベル］4 μΩ;/ Jɱ

lıɑȷı ［料理］タジン ［レベル］3 JJ:lıɑȷıɔ ［文化］ ul でヴェマ北西部から輸入。

lıɑȷıɔ ［魔物］ラフカオ（乾壺)：第八十三天：利の陽天 ［レベル］5 1L:μcΩcı/ȷeμen/ᴅel: 古 lııd/ȷıɔ（渇望する壺） ［文化］ 憑族。空になった壺に憑依する。水をくれ、水をくれと要求してくる。満たしてやると今度は血をくれ、血をくれと言いながら相手を丸飲みにする。要求を無視して割ろうとすると襲ってくるが、倒すと中から砂金が出てくる。

lıɑΩıe ［経済］貸倒引当金 ［レベル］5 1L

lıɑμcd ［経済］貸借、貸し借り ［レベル］3 1L

lıɑμec ［親族］［丁寧］夫、旦那さん、だんなさん、ご主人 ［類義語］ıᴅcμ ［反意語］lıᴅccnı ［アクセント］lıɑμEc ［レベル］2 J0:「あの剣」→「あなたの剣（守ってくれる人)」 ［語法］ lıᴅccnı

lıɑcn ［名詞］ハンカチ ［レベル］3 1L:ᴅelcΩcı ılcȷ:lıȷ/ɑcd/n（手＋拭く＋指小辞） ［文化］ 手や体を拭くのに使う。湿気が少なく汗をかく機会は少ないので、携帯はしない。しかし女子は携帯することが多い。鼻をかむのはＮＧ。それにはティッシュを使う。 【用例】 nɔn ᴅeʃıʃ lı ɑcn Ωc cʃ ıʃə. 私はここからたくさんのハンカチを落とした。

lıɑɔn ［交通］大きな横道 ［レベル］3 1L:lınʃcȷ/ɑɔnʃ ［語法］ 大通りに対して交差する道のうち、メインと呼べるほど大きなもの。ランティス通りに当たる。日本では京都の〇条に対する〇〇通りなどが lıɑɔn に当たる。

lıᴅ ［形容詞］はじめて、初めて ［形容詞］最初の、一番目の ［反意語］ueeμ ［レベル］1 ɑ;e 制 :lcᴅ（最後)：古 :lcᴅeeμ（初めて） lıᴅ:lıᴅ:lıᴅ 【用例】 ɱlɔ lıᴅ はじめてのチュウ

lıᴅȷɔɔȷ ［電算］デフォルト、デフォ、初期状態、ディフォ ［レベル］3 J0

lıᴅȷıe ［気象］初雪 ［レベル］3 1L 【用例】 ın lınΩ lıᴅȷıe. 初雪を待っている。 nɔn dcnıʃ ıl ılʃcın ɥəl nınnı ıȷʃ ȷcl ılel cᴅ lıᴅȷıe. 初雪の日に会う約束をボーイフレンドとした。 lıᴅȷıe lənıȷ cᴅ ʃə ɑııμ. 今朝初雪が降った。 nɔn nıʃ nıə ᴅcl cncȷ lıᴅȷıe. 初雪が見れて嬉しかった。 lıᴅȷıe lənıʃɔμ ᴅclᴅel. 初雪が舞い降りていた。 nɔn helıʃ ıᴅıl cȷ μıʃ ɔ ȷcΩ ᴅcɑel ᴅcl lıᴅȷıe. 初雪を見て古き良き時代を思い出した。 nɔn ȷıdıʃ ı ȷeᴅıcᴅ cᴅ ȷıȷ lıᴅȷıe. 初雪を見て友達に電話をした。 ʃə eᴅ ȷcl ȷɔμʃ μɔᴅel ᴅın lıᴅȷıe lənıȷ. 初雪が降ったのでぐっと寒くなるだろう。

lıᴅuɔμʃ ［名詞］ランヴォルト、初枢 ［レベル］3 J1:lıᴅ/ınuɔμʃ ［文化］ → ınuɔμʃ, ɥəlcəȷ 第一祠徒ユリウスによる襲撃及びそれによる破壊と災厄のこと。

lıᴅφıμʃ ［経済］始値 ［レベル］5 JJ

lıᴅφcl ［経済］元本、元金 ［レベル］4 J0

lıᴅd ［動詞］ɥəl を ı（役職など）に募集する、募集する ［普通動名詞］募集 ［レベル］3 1ɱ: 制 :lıd（望む）

lıᴅdɔnȷ ［運動］ファーストサーブ μΩ;/ Jʔ

lıᴅb ［動物］蟻 ［政治］たむろす小者、野党 ［名詞］団体行動で同じ事をする人 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lıȷʃı:lıᴅd 【成句】 hıɔ lıᴅb ȷc ȷeleȷ, ʃıl ʃcl lcu μɔ 確かに蟻にセレスはない。しかし命はあるのだ：一寸の虫にも五分の魂

lıᴅblcn ［法律］街屯禁止法 ［レベル］6 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ ［文化］ 公共の場所でガラ悪くたむろしてはいけないという法律。チーマーや暴走族や暴徒に適応されるだけなので、スポーツをするなど健全な集まりなら問題ない。

lıᴅhıʃcı ［名詞］初恋 ［類義語］lccᴅel ［レベル］3 JJ

lıᴅsenʃ ［経済］寄り付き ［反意語］ueeμsenʃ JJ → eeʃ

lıᴅl ［名詞］当番 ［レベル］3 lıȷʃı:lıᴅl ← lıbᴅel（働く時間）

lıᴅlıᴅel ［名詞］［形容詞］空前絶後、未曾有、みぞう、前代未聞 ［レベル］3 JJ:「初めてに初めてな」。冗語で、文法的に誤っている。

lıᴅıȷʃ ［普通動名詞］出会い ［動詞］ɥəl と出会う、出会う ［レベル］3 1L:ȷɔnɔhcnɔȷc 【用例】 nɔn lılıʃ nın lıᴅıȷʃ le Ωcıʃ. 素敵な人に出会いたいと思っていた。 ʃə ıʃ ᴅel enȷ (ı lɔȷ) lel ləəȷ ɑe lıᴅıȷʃcȷ lı. 彼らは別々の時間に彼女と出会った。

lıᴅıμȷı ［言語］初代アルカ ［レベル］6 1L:μcΩcı:ıμbılelʃ ［文化］ カコに作られたアルカ（このころはまだアルカという名はない)。アティーリでは ȷıμʃıμȷı を元にラシェットが作った花言葉を用いた暗号。 ユマナではラシェットが花言葉を用いて作った暗号で、最初のアルカとなった言語。

lıᴅc ［名詞］危険 ［経済］リスク ［形容詞］危険な、危ない ［反意語］ucnΩ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 lııᴅən（危険)「死ぬかもしれない」が原義。 【用例】 lıᴅc ʃcn ハイリスク、リスクが高い lıᴅc ȷıl ローリスク ʃcın lı lıᴅc. 恋人の身が危ない。 eeʃ ɑcʃ ȷen φcl ȷɔnʃ ɑcʃ lıᴅc. 株は金になるかもしれないがリスクがある。

lıᴅcʃc ［名詞］危険性、リスク ［レベル］3 μΩ;/ Jɱ

lıᴅclʃı 原風景 J0:μcΩcı:ᴅcμɔȷ

lıᴅcɑɔnl ［経済］リスクヘッジ、ヘッジ ［レベル］5 1L 【用例】 ılɑc, ʃə eʃ ȷɔȷ ı lıᴅcɑɔnl e Ωɔı Ωeel" 資産と同じよ。リスクヘッジね」

lıᴅcΩ ［人名］ラミッド ［組み数字］8 / 1 1 ［レベル］3 古 :μcΩcı:lı ← lın(人) /ᴅcΩ ← ᴅcΩı(聖) ［文化］ アルシアの８番目。聖の魔法の大成者。女性。

lıᴅcı ［名詞］若い女、若い女性 ［類義語］ᴅcn ［反意語］ɑμelle ［レベル］2 J0:ᴅel:ɑμelle というのをクミールの口から聞いて意味を知ったとき、"ȷɔn ᴅcn lcɑ eʃ ʃɔȣ" とメルが問うたところ、クミールが "ʃə ȷc ȷɔɔʃueʃ cᴅ ʃəμ" と答えたため、メルがその場で造語したもの。lı ᴅccnı（あの花）が語源。 ［語法］ おおむね ᴅını/nııʃ だが、ʃɔnı を含むことも。

lıᴅcın ［名詞］意中の女性、片思いの相手の女性 ［反意語］ɑμellel ［レベル］3 J0:ᴅel:lıᴅcı とともに造語

lıᴅcıd ［経済］リスクプレミアム 1L: リスクがある代わりに、上回り (ıd) のあること

lıᴅccnı ［親族］［丁寧］妻、嫁、奥さん ［類義語］ᴅcnʃc ［反意語］lıɑμec ［レベル］2 J0:「あの花」→「あなたの花」 ［語法］ 主に他人の妻について言及する際に使う。奥さんに相当。

lıᴅɔȷı ［天文］最初期宇宙 J0

lıᴅɔμʃ ［医療］［生物］初潮 ［レベル］3 1L ［文化］ ɔμʃ

lıᴅen ［経済］財閥 ［レベル］4 μʃ:lıᴅenʃ.ȷ Jʔ

lıᴅenʃ ［企業］ラメント、左京 ［ユマナ］［企業］三菱財閥、三井財閥、住友財閥、安田財閥 ［レベル］4 μʃ;lıᴅeeμ/ʃe Jʔ

lıᴅeeμ ［名詞］開闢、天地開闢、創世 ［レベル］5 ʃᴅ JJ: 古 lcᴅeeμ

lıΩ ［動詞］ɥəl を作って ı にする、作る、造る、創る、築く ［普通動名詞］工作、図工→ lıΩelȷ ［芸術］［娯楽］創作 ［経済］生産 ［類義語］ȷles ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :lı（死） ȷələl:ȷələl:ȷles 【用例】 lıΩ eʃeȷ 紅茶を淹れる lıȷ lıΩɔμ{cȷl ɔμ} dıɑc. 彼らは橋を作っているところだ。

lıΩʃəlɑ ［化学］生成熱 ［レベル］5 1L

lıΩȷı ［名詞］工場、出生地、生産場所、製造場所 ［レベル］3 1ʔ: 制

lıΩɑel ［工学］工学 ［名詞］工学、理学、エンジニアリング。教科名。 ［レベル］4 μΩ JJ ［文化］ ɑeldınʃ

lıΩᴅ ［軍事］野営、野宿、露営、ビバーク ［レベル］5 1ɱ: 制 :ȷıΩ:lıʃɔᴅɔȷl

lıΩᴅȷı ［軍事］野営地 ［レベル］5 1L:clᴅəȷ:μcΩcı

lıΩᴅcμɔȷ ［宗教］造物神 μΩ;/ Jɱ

lıΩφıμʃ ［経済］生産費、コスト ［レベル］4 1L

lıΩl ［名詞］自然 ［形容詞］自然の、天然の ［類義語］ᴅcueʃ ［反意語］lcΩ ［レベル］2 古 【成句】 hııȷ lıΩl 不可抗力で 【用例】 elΩ lıΩl 自然言語

lıΩɱılə ［法律］自然法 ［レベル］4 1L

lıɑluıſıc ［環境］自然災害、天災 ［レベル］3 ˩0

lıɑluıɳɔ ［環境］環境保全、環境対策 ［レベル］5 1L:µcɑcı:ıµbıleſ

lıɑlɑel ［名詞］自然、自然学。理科の一分野。科目名。 ［レベル］2 µɑ ˩˩ ［文化］ ɑeldınſ

lıɑlɑelcn ［植物］野バラ ［レベル］5 ˩0

lıɑldızᴅ ［植物］野草、天然ハーブ、山菜 ［レベル］3 1L 【用例】 nɔn ˥ɔ µıſ uı˥ı lını ſıɑ lıɑldızᴅ ſ'ıl͡ſe. 春の野草を取りに野原に行った。

lıɑlbı˥ıl ［名詞］自然遺産 ［レベル］5 µɑ;/ ˩ʔ ［語法］ ɑcıbı˥ıl

lıɑlsen ［植物］野草、雑草 ［レベル］4 ˩1 ［語法］ 野草（人の管理のないところに生える）と雑草（人に管理された場所に生える）の区別はない。

lıɑllcᴅl ［名詞］天然繊維 ［レベル］5 µɑ;/ ˩ʔ

lıɑlleſſc ［地学］自然銅 ［レベル］6 1L

lıɑleµɑc ［地学］自然銀 ［レベル］6 1L

lıɑlelɑ ［言語］自然言語 ［レベル］6 1L:lecn

lıɑı ［経済］製品、商品、品物、作品 ［レベル］2 1⑪: 制 :lıɑ から

lıɑın ［名詞］作者、著者、著作者、製造者、作り手、創造主 ［レベル］2 ˩1

lıɑınlınφ ［法律］著作権 ［レベル］3 µɑ;/ ˩1 ［文化］ ſᴅ でベルトが活版印刷を発明したことで、コピーが可能になるとともに著作権の概念が生まれはじめた。しかし著作権が法律として初めて明文化されたのはそれからだいぶ経った ˥1 で、ナユによる重力印刷が引き金となった。それでも地球の著作権に比べればその産声はだいぶ早い。 ˥1 当初は著作物ができてから２０年間の間守られるというものだったが、µɑ に至るまでにその期間は５０年までに伸びた。その背景には著作権を持つ側管理する側による利権があった。 nɑ になると著者の死後何年有効という形に変化した。最初は死後２０年であったが、ıl に至るまでに５０年までに伸びた。これも同じく権利者側の利権によるものであった。 ls になるとセレンは著作権は人類の進歩を妨げる悪法とし、利権構造の破壊も兼ねて著作権の制度を改革した。革命後のシステムは次のようになっている。 まず、著作権は著作物ができてから２０年間守られる。それが過ぎるとすべてフリーコンテンツとして利用できる。 著作権が守られている間、どのように権利者に金が入るか。セレンは国民全てに付けられた固有のＩＤを活かした。国民は著作物をＤＬする際、アンセによる個人認証をし、誰がその著作物をＤＬしたかというデータを国に提供する。このデータは国で管理され、誰がいつ何をＤＬしたかという個人情報は犯罪捜査に必要でない限り守られる。国はＤＬ数ではなくＤＬしたＩＤの数に応じて情報税から権利者に配当金を支払う。ＩＤの数を参考にするため、同一人物が何度同じ著作物をＤＬしても配当金は変わらない。 通常 ᴅeljel 始まりの ləəᴅel 締めの leſſcjel 払いとなる。機械でデータを管理しているので、計算から支払いまでの日数が短い。
　なお、紙媒体で購入したり電子書籍を電子マネー等で直接買った場合は情報税とは無関係な取引となる。 このシステムだと企業側が「読まなくてもいいのでウチの本をＤＬしてください。そしたらアフィリエイトでいくばくかキックバックします」という手法を取る恐れがある。そこでセレンは情報税を次のようなシステムにした。
　各国民は前年の年間ＤＬ数に定数をかけた数に応じた額の情報税を支払う。例えば書籍の場合、娯楽本などは定数が高く、学術書はゼロである。つまりアフィリエイトのキックバックを狙って無駄にＤＬを多くすれば情報税を多く払う羽目になる。なので必要な書籍以外は無駄にＤＬしないようになる。 配当金は情報税から支払われるため、配当金が財政破綻することはない。極端なことを言えば誰もＤＬしなければ１ソルトたりとも情報税が集まらないが、誰もＤＬしていないということは誰にも配当金を支払わないということだから、集まる金もゼロなら配る金もゼロということで釣り合いが取れるわけである。 学術書は定数がゼロなので無料に手に入れることができる。その代わり学術書は情報税からの配当金を受けられない。セレンは学者は自らの理論を人に読んでもらえるだけで望外の幸せであり、学術書で儲けようなどとアコギなことを考えてはならないとした。学者は商人であってはならない、学者は聖職者のようなものであって清貧でなければならないというのがアルバザードの伝統的な考え方である。学者は定期的に論文を出さねば学者の身分を失うため、配当金がないからといって書かないわけにはいかない。また、学閥内での競争に打ち勝つためには手抜き論文を出すわけにはいかない。これを利用してアルバザードでは良質な学術書をタダで万人が手に入れられる体制が整っており、国民の学術レベルの引き上げに役立っている。 なお、著作権は書籍だけでなく音楽などにも適応される。 アルバザードはこのようにＤＬしたＩＤ数に応じて配当金を配る。国が認可したサイトから音楽や書籍などをＤＬできる。国民はＤＬした商品数に応じて情報税を支払う。ということは、Ｐ２Ｐなどを使って公式サイト以外からＤＬすれば次年度に支払う情報税は少なくて済むわけだ。となれば国は当然先回りしてそれを防ぐわけで、アルバザードでは２０１２年現在の日本とは異なり、徹底的にＰ２Ｐや非認可サイトからのＤＬを違法とし、取り締まっている。むろん友達同士の間で音楽ファイルをメール添付して送るなどというやり方も違法である。メール添付でやり取りすると認可サイトのＤＬ数が伸びず、メールを受け取った側は情報税を脱税することができるためである。メールならバレないと思うかもしれないが、国はメールサーバを持つ企業のサーバを調べる権限があるので、調子に乗っているとバレる。 このように、アルバザードはむしろ違法ＤＬに関しては日本より遥かに厳しいといえる。一見タダでＤＬできるので海賊行為が横行しているように見えるがそうではない。むしろ海賊行為に関しては取り締まりが遥かに日本より厳しい。アトラス全域で取り締まりが厳しいので、海外にサーバーを置こうが何をしようが小細工したところで無駄である。 かといってアルバザードでは旧態依然のＣＤ販売のようなやり方で金を稼ごうとはしない。アルバザードは未来に生きている。１枚３０００円とか無駄に高いＣＤ販売をｙｏｕｔｕｂｅなどが台頭した時代でも続けようとするバカな業界と、それを守ろうとするバカな法律が跋扈する現代日本。一方革命後のアルバザードは動画サイトなどの台頭という新たな時代の流れに逆行することなく、共存することを革命で選んだ。アルバザードは情報税の導入と海賊行為の徹底的な取り締まりという手法で、新しい技術と共存し、時代の歯車を進めた法整備を行ったのだ。 ちなみにＣＤ１枚３０００円で売っていた９０年代の日本に比べ、情報税の世の中だと音楽業界の売上は落ちる。逆に国民が支払う情報税もＣＤやら紙書籍やらを買っていた時代より安くなる。日本は３０００円で高く買うかゼロ円で盗むかの白か黒かのやり方しかしてこなかった。そしてゼロで盗むやり方を法で禁じた。旧態依然の既得権益者を守るやり方でしかない。一方革命後のアルバザードは、国民には「タダでは流石に盗んじゃダメだろ、聞きたいなら少しは負担しろよ」と言いつつ、企業にも「昔みたいに新年会でドンペリ開けられるようなバブル気分でいるんじゃねーぞ。ちまちま稼げ」と言ったわけで、白でも黒でもない中庸を取ったわけである。両者にもある程度の負担を強いることで妥協点を見つけ、折り合いを付けたわけである。

lıɑıejſ ［名詞］品名 ［レベル］3 µɑ;/ ˩ʔ

lıɑc ［経済］産業 ［レベル］5 1L:lıɑ

lıɑcleed ［経済］産業構造 ［レベル］6 1L

lıɑcı ［名詞］願いとしての夢、夢、希望、願い、ねがい、理想 ［動詞］ yəl を願う、願う ［類義語］lınɑ、nılncıj ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :lııd（望む）/ɑcı（夢） ::lı ˥ıµɑcnı 【用例】 lıɑcı eᴅ lıdn. 夢が叶う、夢がかなう ɑeµſ lını lıɑcı ɔn 〜について願いを込める ın nıſ lıɑcı c˥ ɑcını cᴅ ſeµc˥ ſə ueµſ. その知らせを聞いたとき、夢がかなったようだった。 ın ȷc lıɑcı ɔn lɑcȷ. 人生に希望が持てない。 lıɑcı cᴅen yəlc eſ dəllecȷ l'en ȷcl neᴅ. ȷee ſə lecȷ lıɑ yə ȷclſel, eȷ ıµ˥ ı ȷclᴅel. 子供の頃の夢は色褪せない落書きで思うまま描き滑らせて描く未来へと繋がる（『夢想歌』） el ſcɑl ˥ɔ uɔllen cᴅ lıɑcı c˥ lıdn. ——lıɑcı ɑı. 夢が叶うことで人はひとつ大切なものを失う。——夢を（ȷeµen ıµbızı µɑ）

lıɑcı lııd ［人名］ラディア＝ラープ ıl ˩ʔ ［文化］ ıl の科学者。フェルノアという女性と遠距離恋愛をしていた。彼女に毎日逢うためにどうすればいいか考えた末、夢の世界で逢おうと考えた。それを実践するために明晰夢を見る機械を開発した。それが契機となり、明晰夢のことをフェルノアと呼ぶようになった。

lıɑɔȷ ［動詞］yəl を弔う、弔う、とむらう ［普通動名詞］弔い ［レベル］3 ˩0:ᴅelcɑcı lceµ:lɔɑɑɔuı/ȷɔ

lıɑɔn ［動詞］yəl を自覚する、自覚する ［普通動名詞］自覚 ［反意語］ıllıɑɔn ［レベル］3 ˩˩:lıɑl/nı

lıɑɔnle˥ɔ ［医療］自覚症状 µɑ;/ ˩ʔ

lıɑɔl ［名詞］作品、著作、コンテンツ ［レベル］3 ˩0

lıɑɔɔuı ［感動詞］永遠にさようなら ［類義語］ȷınſen ［レベル］2 古 :lı'ɑɔɔuı。原型は ləə ı'ɑɔɔuı で、「 彼女に、さようなら 」という意味。この彼女とは具体的にはメルの母親を指す。 ［語法］ もう会わない人に言う「 さようなら 」。死者を弔う際にも使える。死者を弔う際は印を組む。両手の小指を胸の前で組み合わせ、手の平を上に向けるだけ。お辞儀はしない。その印を組んだままいう。その前に死者の名を呼ぶ方が模範的。 片方の指が現世で、もう片方があの世を表す。両方の世界を指で繋いでやることによって死者が現世からあの世へ滞りなく渡れると考えられた。また、古では死人にしか使わなかったが、もう会わないという意味で恋人などと別れるときにも使える。

lıɑeſ ［工学］工業 ［レベル］4 µɑ;lıɑ/ſe ˩ʔ

lıɑelȷ ［普通動名詞］図工。教科名。 ［レベル］2 µɑ ˩˩ ［文化］ ɑeldınſ

lıφ ［経済］賃金、給料、給与、バイト代 ［レベル］3 1⑪: 制 :lıbφcl

lıφı ［文末純詞］［lben］ſcȷee ［レベル］1 ˩1:ɔuc: 文末の ", ȷɔı lə ˥ə ı"「〜ってこいつが言ってるぜ」の "lə ˥ə ı" の語彙化。

lıφıl ［名詞］関所 ［レベル］3 1L:µcɑcı:le φılſ ［文化］ 主要都市の入り口にあり、通行人を管理していたところ。現代の主要都市には存在しない。

lıφılɑıcφ ［経済］関税 ［レベル］4 1L:µɑ では輸入品の関税を関所で取っていたことから。 ［文化］ 最初に関税を作ったのはルフェル。
10ʔ01L」 ルフェルはルカリア交易の要所、ヒュート東南部に位置するケートに、自分の息のかかったロゼット軍を送り込み、制圧させる。表向きロゼットの侵略と見せかけ、ケート人を追い出す。ロゼットにルカリア交易を管理させ、エルトに有利な条件で貿易を進めた。ケートのロゼットは輸入元であるアルディアルやレスティルに重い関税（貨幣がまだないので物資やコモディディの交換レートを操作して事実上の関税とした）をかけ、その利鞘の一部を着服しながら残りの利鞘をルフェルに渡した。ルフェルはロゼットを手厚く擁護し、ルカリア交易を手中に収め、エルト内での地位を高めていく

lıφel ［政治］権力、実権、権威 ［レベル］3 1L:lınφ/enuc（権利および力） 【用例】 "ılſe. nɔn ucnȷ lcµ lıφel e leſcı.「ひとつ。私は王女としての実権を手放す。

lıdſȷel ［植物］サンダルウッド、白檀、ビャクダン ［レベル］4 zφ;;ᴅe ˩˩

lıdl ［再帰動名詞］ため息、ためいき、溜息、溜め息、タメ息 ［動詞］yəl にため息をつかせる、ため息をつく ［レベル］3 1ʔ: 制 :ılıdleɑ（満たされない息？）から 【用例】 lıdl lcȷ 小さなため息 lıdl ɑın 深い溜息。ȷcdıl ɑın と同じコロケーション。

lıdn ［動詞］yəl（人や内容）を叶える、叶える、かなえる、成就する、創り上げる、報われる ［レベル］2 1⑪: 制 :lıdlın（願いを真実にする）【用例】 ın lıdn uın ſc ɑə ˥ɔ ᴅcl ɑcıȷȷel. 誕生日だから一つ願いを聞いてやろう。 ȷeeµeſcȷ, ᴅcl ſyə lıdnc˥ nɔn φıµſ cl, ȷeµen ȷɔə.（リディ

ア） lenɟlɔzeʃ

lıdleɟ ［音楽］器楽 ［レベル］4 ɺ1:lıdleᴅ

lıdleɟleᴅ ［音楽］器楽曲、インストゥルメンタル、インスト、ＢＧＭ ［レベル］4 ɺ1

lıdleᴅ ［サール］ラプレム ［レベル］6 ᴅel: 古 :lııdleᴅ（音楽をほしがる） ［文化］ 元は人間の音楽家。最高の楽器を求め続けた男。ある日彼は人間を使った楽器は一体どんな音がするのだろうと考えた。メロウにそそのかされたラプレムは遂に気がふれて、自分の娘のユーレを楽器にし、生きたまま演奏道具に用いてしまう。ラプレムは娘の体を打楽器や鍵盤楽器、果ては膜楽器や弦楽器にまで見立てて引いた。娘は痛さと苦しさの余りに死んでしまう。娘を失ったラプレムは悔い、自殺を試みる。しかしそこにメロウが現れ、ラプレムをサールにした。ユーレとの間に娘のメイユがある。

lıdın ［アトラスの国家］ラパン ［レベル］5 ɺʔ:μcɑcı

lıdcɟcı ［歴史］ラピシア族 ɺ0: 古カルセール語「森の人」

lıb ［再帰動名詞］仕事、労働 ［動詞］ɥəl を働かせる、働かせる、働く ［物理］仕事 ［類義語］ɑıɟ ［レベル］2 古 : 古のオノマトペ lıb lıb（面倒くさそうに動く様子）から ［語法］ ɑıɟ は使命感溢れる仕事や生きがい。労働対価の有無よりも使命感の有無。lıb は面倒な労働というニュアンスで、生活のためしょうがなくという感じ。 メタファーは山でなく荷物。従って「乗っかっている」や「重い」で表現。 【用例】 ınɟ ʅcʃ ɑıl ʃə lıb ıɟlel. すぐにその仕事をしなきゃならない。 ın en lıb ıʃ lıl ıʃc ɟɔı. あまり仕事をしたくなかった。 ın uceμıʃ ʃə lel lı lıb uɔɟlel uecn. 彼にもう少し一生懸命働くように言った。 ☆ lıb eɟ lıl ʅɔı ı ɑlel ınʃ. 未だに仕事が山積みだ : 山でなく荷物でメタファー。 le ıʃ lıb ʅcn lınel. それは本当に大変な仕事だった。

lıbʃıɑ ［名詞］就職活動、就業、就活、あるいは単に「就職する」 ［レベル］4 1L

lıbʃcɑl ［経済］失業 ［レベル］4 1L

lıbʃcɑlın ［経済］失業者 ［レベル］4 ɺʔ

lıbʃɔnʅ ［政治］労働階級、労働者階級、プロレタリアート ［レベル］5 1L

lıbʅı ［名詞］職場、仕事場 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］ 労働は店舗やオフィスで行うことが多いが、在宅で行うこともできる。在宅の場合は大抵ノルマがあり、それをこなしていく。在宅勤務は移動時間がないので合理的であり、人気がある。会議や報告などをネットを使って行うため、会社との繋がりも希薄にならない。

lıbʅeʅɟ ［名詞］出張、ビジネストリップ ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lıbɟel ［歳時記］勤労の日、勤労感謝の日 ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ μəs ɑəl の日。ul までは勤労を祝う日として休日だったが、革命後は残業が許されるルージュの月のちょうどエンジンがかかってきた頃合の日なため、勤労を奨励する日となっている。

lıbuıʃıc ［名詞］労災 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］ 労災はバイトでも社員でも必ず入る。怪我をすれば労災が降りる。通勤時間中の怪我も労災に入る。但し、通勤途中であっても寄り道での事故の場合、降りない。まっすぐに行き帰りする際、及び出張や外回りの経路での事故の場合だけに労災が降りる。

lıbuɔlɟ ［経済］労働条件 ［レベル］4 1L

lıbᴅeɟı ［名詞］労働環境 ［レベル］5 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lıbᴅel ［名詞］労働時間 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［文化］ 朝七、八時から仕事を始め、夕方五時すぎに仕事を終える。途中で長い昼休みが二時間は入るため、実働は七時間である。週休は二日である。休みは曜日を予め決めておき、そこが年間を通じて休日となる。祭日と重なった場合、社員は固定給なので振り替えて連休とするが、バイトは時給なので振り替えない。よって週に働く時間は三十五時間である。日本より遥かに少ない。日本は０４年で週五十時間以上働く人間が２８パーセントであり、世界最悪である。ましてこれにはサービス残業を含めていない。アルバザードは労働時間が日本のおよそ半分ほどではなかろうか。その代わり大抵の人間が働く。また、大抵は大家族なので、何人もが働いていれば暮らすには少しも困らない。アルバザードはたくさんで固まって暮らし、皆が分業して支えあい、一人に圧迫がいかないようにする家庭を基本とした社会である。日本は核家族が多く、父親が家族を養う金を一人で稼ぐことが多い。最近ではそれでは金が足りず、母親がパートをすることが多い。その金で子供を塾や学校に行かせ、子供はバイトの一つもしないという家がある。これでは両親、特に父親だけに圧迫が集中してしまう。母親は早くに帰るが、父親は十二時過ぎまで帰らないという家もある。当然育児など参加できるはずもない。育児にも参加できず、夫婦の会話も減り、心が離れていく。家庭で話し合うことは少なくなり、思春期を迎えた子供は教育が行き届いていないせいで非行に走る。それでも苦労して働いてた結果、成人病になって急逝してしまう人がいる。それだとまだ良い方で、病気が長引いて入院費で貯蓄を全て散財してしまうといったケースもある。アルバザードでは決してこのような悲劇を生まないようにこのような制度を採っている。つまり、圧迫の分散である。大勢が少しずつ働くので一人当たりの賃金は減るが世帯あたりの収入は減らず、失業者も少ない。 ＜特別な労働時間＞ ルージュの月、ディアセルを含んだ前後１４日（計５７日間）は終日労働を認める。ディアセルとメルセルの期間はいくらでも働いて良い。今までに溜まった仕事や研究や勉強などをここで一気に解決する特殊な期間である。この期間は会社や学校などに寝泊りすることもできる。アルバザードの人間は普段あまり働かない。アルティス教の教えに従っているからである。ところが彼らは決して怠けているわけではない。仕事に緩急を付けているのである。集中するときは集中し、休むときは休む。アルバザードの人間の集中力は凄まじい。一年のうち、約二ヶ月間が異常に働く時期である。一日に数時間しか寝ず、物もろくに食べずにひたすら仕事に集中する。酷いと一日二十時間ほど働くこともある。仮に毎日十五時間を一ヶ月間働けば、四百二十時間働くことになる。普段は週三十五時間を四週間なので、月に百四十時間である。実に四百二十時間というのは三ヶ月分に当たる時間である。これがディアセルとメルセルにそれぞれあるのだから、一年十三ヶ月ある中で、実際には十七ヶ月分働いていることになる。十七ヶ月だと二千三百八十時間になる。三百六十五日で割ると、一日当たり約六時間半である。また、五十二週で割ると一週間当たり四十五時間になる。ディアセルとメルセルがなければ週三十五時間の計算だが、これらを入れると四十五時間になる。ここまで来ると日本との差が大分縮まってくる。実際にはこの期間には十五時間以上働く日もあるため、週三十五時間を越える結果になるだろう。こうして見ると意外とアルバザードの人間も働いているといえる。 当日の祝い方も実にエネルギッシュである。とにかく溜まっていた物を全て出し切るかのように放蕩して遊び倒す。そしてそれが終わると皆一斉に張り詰めていた気が途切れ、死んだように倒れこむ。実際に毎年何人か死ぬ。それでも誰も止めない。毎年人が爆発事故で死ぬのに花火をあげるのと同じである。そういう慣習なので誰もわざわざ疑問には思わない。倒れこんだ人は暫くは何もする気になれず、とにかく寝て過ごす。回復に数日はかかるため、皆四日ほど休みを取るわけである。二日三日もすれば治ってくるので、残りの休日は生活リズムを元に戻すのに使う。とにかくこの時期の集中力は凄い。体が全身全霊仕事に集中するので気が張り詰めて風邪を引くこともまずない。仮に引いても根性と気合で無理やり治す。このときばかりは平然と薬漬けにしてでも働く。

lıblınφ ［政治］労働基本権 ［レベル］4 1L ［文化］ ナディアで確立。

lıbleeze ［交通］北条、北大通り ［名詞］［人名］玄武、ラブレーゼ ［レベル］3 μɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から ɺʔ

lıbı ［名詞］エネルギー、労力、労働力 ［物理］エネルギー ［レベル］3 1ʔ: 制 :lıb/ıu（強い）

lıbıɟʃ ［経済］労働者、社員 ［名詞］サラリーマン← lelʃɑcʃın ［名詞］バイト、アルバイト← ᴅellıb ［名詞］職員、係員、業務員、スタッフ ［レベル］3 ɺ1:lıbeɟ<1L:μcɑcı ［文化］ 正社員と契約社員は非定期。派遣社員とアルバイトは定期。前者は辞めない限り続く。後者は平均３年勤続。労働時間はどちらも同じ。賃金は平社員と後者では同じ。前者は昇進できるので、将来的な所得が異なる。社員にせよバイトにせよ、労働者は経営者と対等の立場にある。経営者の指示に従って与えられた仕事をこなす。その代わりに賃金をもらう。つまりは利害の一致によって労働力を金銭に変えているわけである。経営者の指示には確かに従うが、かといって経営者が自分より立場が上というわけではない。あくまでお手伝いである。金を与える方が偉いという考えはしない。経営者は労働者を首にする権利を持っているが、不当な解雇はできない。また、辞職に追い込むようないびりも違法。労働者が不当な扱いを受けていると国へ申告すれば国は監視をつけて労働環境を見張る義務がある。監視中だけ経営者が態度を良くした場合どうなるか。監視が終わると経営者は態度を戻す。その瞬間を隠し持ったレコーダー等で録れば良い。それを監視に渡せばすぐに経営者は罰せられる。無論この逆もある。つまり、労働者が経営者の指示に従わない場合である。怠けたり従わなかった場合は契約違反として違約金を取れる。賃金を払っているのに労働力を与えられていない。これは契約違反であるから違約金を取れる。これも国に申告すれば監視が付く。ただし、労働者が怠ける場合、経営者は労働者を正当に解雇できるので監視まで付けないことが多い。経営者の態度が横柄で、労働者を圧倒することは法で禁止されている。偉そうな態度を取ったり、契約外の仕事、特に契約外の危険な仕事をさせたりすることは禁じられている。上司という立場から労働者に仕事外の行為を強要することも禁じられている。上司だからとって怒鳴ったり罵倒したり殴ったりすれば罪になる。勿論、他の労働者と差をつけて苛めるようなことも禁じられている。 【用例】 ☆ lıbıɟʃ ʃ' ıʃə leeu ɟɔɑel ı. この店はすぐ人が辞めるなぁ。

lıbın ［企業］ラバン ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ 新日本石油、エネオスに相当する企業。

lıbıuıʅ ［軍事］エネルギー兵器 ［レベル］5 ɺ1

lıbe ［被服］ジャンパー、ブルゾン ［レベル］3 1L:lıbɟıbe（作業着） ［文化］ 産業革命後、作業服として作られた。現在は防寒用として冬に好まれる。軽くて暖かいのが特徴。しかしユティア朝のアルバザード人はジャンパーを労働者の象徴と捉えており、悪しき慣習の象徴と捉えている。従って、機能性が優れていても下層労働者以外はあえて着ない。コートのほうが重くて寒いが、アルバザード人は好んでコートを着る。 【用例】 ın ɑeɥəʅ sccφ e lıbe ı dɔ. ジャンパーのチャックを上まで閉めた。

lıbelen ［名詞］作業台 ［レベル］3 1ʕ: 制

lıhc ［化学］ホウ砂、硼砂 ［レベル］5 古 : 死んだ塩 lıhc から h が落ちた。

lıμ ［単位］１００分の１、分、厘 ［レベル］3 1L: 恣意

lıμʃ ［名詞］厄払い、厄除け、厄祓い、厄除、厄よけ、厄ばらい、やくばらい、おはらい、お祓い、お払い ［動詞］ı にかかっている ɥəl という魔法や呪いを解除する、解除する、祓う、払う、はらう、呪いを解く ［魔法］ラルト（デスペル、ディスペル）。利属性の高位白魔法。かかっている魔法を解く魔法。クミールが使える。高位であるため、人類は時代を追うごとにラルトを使えなくなった。その結果、人はラルトを補うために数々のアイテムを生んできた。 ［組み数字］8/11 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 :ılıμʃ（反魔法） :::φıʃılə,ılʃ 【成句】 lıμʃ ʃ c ʅ ɔn ʅ ʅ に関して ʅ が ʃ に持っている誤解を解く、誤解をとく ［文化］ 約 ɺ0 万年前 ファベル人の集落が犬を家畜化。その後、牛、羊、豚を家畜化し、定住した。その結果密集して暮らすことになり、不衛生な環境で伝染病が起こった。ユーマの一族はウィルスの存在を知らないころから魔法（利の古代魔法で、ラルトと呼ばれた。現存するラルトは長い時間を経て意味が変わっており、このときのとは別のもの）でこれを治すことができたため、気にすることはなかった。

しかし天然痘ウィルスなどは家畜を介して生き残った。ほとんどの集落は狩猟採集生活を続けていた

lıɥɒ ［生物］染色質、クロマチン ɥʃ;ıl/ıɥɒe.lcᥫ ⅃ⅅ

lız ［名詞］少女、１０～１４歳の女 ［反意語］ıllız ［レベル］２ 1ʔ ←古 lccz

lızᥫı ［名詞］高校、中学、中学校 ［レベル］３ 1L:ɒelcɑcı ılcȷ

lızɑeɒe ［地学］［歴史］古生代 ［レベル］６ ul;/ ⅃ʔ ［文化］ φııueɑeɒe 約５億４２００万～約２億５１００万年前。先カンブリア時代（隠生代）の後に相当する。

lızɑıcɒın ［名詞］高校中退 ［レベル］４ 1L

lızɑcı ［アトラスの国家］ラズディア ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı:lıȷʃcı（ここだけ悪魔でない）

lızφıɔ ［音楽］コルネット ［レベル］５ ⅃1: アルバザードでは少女楽隊がよく吹いたことから。

lızɥeφıȷʃ ［名詞］高卒 ［レベル］４ 1L

lızl ［名詞］丸木舟、カヌー ［レベル］４ 1ʔ: 制 :lızɔıdl（一本の木を丸々使って、それをくりぬいてできた舟）

lızın ［名詞］高校生 ［類義語］eȷeᥫlel ［レベル］３ 1L

lızıl ［生物］子供、青少年 ［レベル］２ ɥɑ;lız/ıl ⅃ʔ

lızɔ ［名詞］丸木、ログ、丸太 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 語源不詳

lızɔɒ ［名詞］マナー、作法、礼儀 ［類義語］ɔz ［レベル］３ ɥɑ ⅃⅃:ɒel:ze ʃʃel を ɔz から分離した際に ɔz が多義語すぎたためメルが作法も分離させた。lıȷ/ɔɒ（手の動かし方）が語源で、ȷ を z に同化させたもの。

lızɔɒɔᥫ ［動詞］ɥəl を雑魚寝させる ［普通動名詞］ざこ寝、ザコ寝、雑魚寝 ［レベル］４ ⅃⅃: 丸太のようにそこらに寝る

lızeʃ ［魔法］ラゼット、魔法錠、魔法鍵 ［レベル］５ ⅃0: 古 lıı/ᥫɔzeʃ（死の鍵）。無理にあけようとすると中身を壊す鍵。 ［文化］ cɒəl 1ⅅ0」に nɔoıɥ ᥫıcn が発明した。金箔にある一定の錠となる晄基配列の ucɥ を埋めておく。そこに鍵となる ucɥ を用意する。この ucɥ はまったく錠と同じ晄基配列である。これを高魔圧で金箔に接触すると、ucɥ 間の ıᥫɔʃ 現象が起こる。このときに出るエネルギーを利用して金箔を剥離させ、内部を開けるようにする。もし異なる晄基配列の ucɥ を高魔圧で接触させた場合、ɒɥəleɒ 現象が起こり、引力が発生する。この引力で金箔の裏に用意してある銀箔に帯晄させておいた ucɥ が動き、ルビーに接触して大量の ucɥ を照射させ、内部構造を破壊させるという仕組みである。

lıl ［形容詞］手動の、人力の ［反意語］ɑıɥ ［レベル］３ ⅃0: 古 lın/ləə（人が動かす）

lılȷ ［被服］ケープ ［レベル］２ 古 :lılȷ ← φclılɑȷıbe（ベルの服）。lıȷı と同語源。

lılı ［感動詞］［文頭純詞］［ɥənʃe］おやまぁ、あら、なんてことだ、なんてこった、なんだ、いったいぜんたい、一体全体、あいにく、生憎 ［レベル］１ ɑ:ȷııl;lələ.ᥫ 古 lılı:lılı ［語法］ 感嘆を示す。悪い意味と共に使う。

lılıɒɔ ［交通］マニュアル、マニュアル車 ［レベル］５ ⅃1

lıTə,lɥ lɥə

lıı,ɑ uɔɥʃ

lııʃ ［代詞］彼の、彼のもの ［レベル］１ 1L:lı/ʃəl

lııʃɔ,ɑu 戦死。後に ɒıʃılɔ,ɑ に代わって uɔɥʃ の意味に。

lııʃeȷ ［代詞］彼らの、彼らのもの ［レベル］１ 1L

lııᥫɔue,ɑu ᥫɔddel 「死の箱」

lııle ［気象］cnse ［医療］少陰 ɥɑ;<lııle,ɑu<lıı/lelʃ「死にゆく月」 ⅃ⅅ

lııȷ ［代詞］彼ら、彼女ら ［レベル］１ 1L

lııȷı ［被服］ラーサ ［レベル］２ 古 :lııȷı（ラーサ）← φclılɑɔȷıbe（ベルの服）。φclılɑɔȷıbe が長いので lı と ȷı だけ取ったものから。アクセントが lı にきたせいで lı の母音が伸びた。ベルのような形をしていることからこの名がついた。 ［文化］ アルティス教徒の女性服。肩から胸にかけて身に付ける上着で、ベルのような形をしている。肩から始まって腕に沿って、肋骨が終わる高さまでの服。色の指定はない。大抵無地ではなく、何かの柄が施されている。横に線が入っていたり、花柄の模様が横に線のようになっていたりする。ふつうラーサを着ればその下にはサユを着て、下半身はルフィを履く。

lııu ［医療］［普通動名詞］母親が死んで子を産むこと。流産や死産ではなく。 ［動詞］ɥəl（子）を産んで ȷɔl は死ぬ、死ぬ ［レベル］４ 古 :lıı/lcuɥɔ

lııɑ ［代詞］あちら ［副詞］あちらで。el 不要、ᥫı 不要。 ［類義語］lɥə ［反意語］ɑles ［レベル］１ ⅃⅃;lıɑ,lɥ.ᥫ ⅃⅃

lııɒ ［名詞］喪 ［レベル］４ ɑu; ↓ ılıᥫʃı:lııɒ ← lıcɒı（死の時）

lııɒlecn ［被服］喪服 ［レベル］４ zφ;/ ⅃ⅅ 【用例】 ın ɔnʃ ıɒel ȷc lııɒle cn enʃɔ lıɑʃ ı ledȷ ɔᥫ ɑelȷ cɒ ɑcȷ cȷʃel. 私と妹は喪服を持っていないので、代わりに制服で葬儀に参列する。

lııɒc ［代詞］あちらの方→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııɒcn ［代詞］あちらの方の→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııd ［動詞］ɥəl がいなくて寂しい、ɥəl と一緒にいたい、さびしい、寂しい、淋しい、愛する、好き ［名詞］一体愛 ［レベル］２ ɑ;e(lıl) 赤 : 望む lııd:lııd ［語法］ ʃccı 相手がいる場合は「一緒にい続けたい」、いない場合は「いなくてさびしい」と訳し分ける。

lııd,ɑ lıl ɑ:ȷııl;lı の部分は ıl で「物」

lııdɒelɑ ［普通動名詞］だいしゅきホールド、中出し固め、ラープ・メルフ ［レベル］５ ɥɑ:ȷeɥen/ɥcɑcı/ɒel;/「一体愛 / 抱きつく」 ⅃ʔ ［語法］ 性交時、主に正常位や座位のときに女性が両手両足を男性の背中に回してがっしり抱きつくこと。相手のことがあまりに好きでもっと一体化したいと思うあまり強く抱きつくことで、それゆえ lııdɒelɑ と呼ばれるようになった。抱きつくことで陰茎を外に出させず膣内に射精させようとする意図がある場合は中出し固めと訳す。

lııbe ［代詞］あいつ、あの野郎、あんな奴、あやつ→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııbeȷ ［代詞］あいつら、やつら、奴ら、連中→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııben ［代詞］あいつの→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııbenȷ ［代詞］あいつらの、やつらの、連中の、奴らの→ ləıdcı ［レベル］１ ⅃⅃

lııl ［親族］母、母親 ［反意語］ᥫıın ［レベル］２ ɥɑ;lııl.ᥫ 1Δ: 赤 :lılı lılı:lılı

lıılȷel ［歳時記］母の日 ［レベル］３ ⅃0 ［文化］ ⅃0 年にアシェットがリーザの誕生日をもとに制定。日付は zın dıl。母親のために乾燥させた桃の葉を湯にいれ、桃湯を用意する。肌によい。

lıılueφı ［名詞］内弁慶、母弁慶 ［レベル］４ ɥɑ;/ ⅃ʔ ［語法］ ueφı

lıılɒcll ［俗語］父子家庭 ［類義語］ɒclııl、ɒclıılɥı ［レベル］３ ɥɑ;/ ⅃ʔ

lıılı ［丁寧］［親族］お母様、母上、おばさま、ラーラ ［レベル］２ ɒelʃcı ⅅ:ɥəəɒı;e「生みの母＝ユーマから見たサール」 古 ‡cᥫɥə, lılı:lılı ［文化］ 親族名詞の丁寧な体系。自分の家族に対して使う場合は目上にしか使わないので、お母様やお兄様とは言うが、ご子息などは使わない。ご子息などは他人の子供に対して使う。むろん他人の母親にはお母様を使う。 ほかの親族名詞と異なり、赤の他人に対しても使うことができる。友達の母に lıılı と呼びかけることができ、自分の兄貴分に ıȷeeɥec と呼びかけることができる。また、そこら辺を歩いている年の離れたおじさんに「おじさま」という意味で ɑɥecn ɔı と呼びかけることができる。年が非常に離れた相手にはおじいさまという意味で ɑcllenȷ と呼びかけることができる。

lıc ［動詞］ɥəl に目をやる、眼をやる、目をやる、目を向ける、見る ［レベル］１ 1L: 恣意だが、c は cn c:c ［語法］ lıc 類 : lıcɥ「目を動かしている」、lıcᥫ「視線を当てた」、lıcȷ「見ている」【用例】 uınφıɥɑc lıcᥫ lınᥫɔ ɥıᥫen φılʃ. ヴァンガルディは門の向こうの少年を見た。

lıcȷ ［化学］有機、有機物 ［反意語］ɥcıl ［レベル］５ 1L:lııȷ:1ʔ: 制 :lıɑ から

lıcȷȷeʃəl ［化学］有機化合物 ［レベル］５ 1L ［文化］ 炭素を骨格とした化合物で、水素、酸素、窒素などを含むことがある。最小の有機物は ɑıın（メタン）。地球と同じく、二酸化炭素や一酸化炭素などは一般的に無機物として扱われる。

lıcȷıȷl ［化学］有機酸 ［レベル］６ 1L

lıcn ［代詞］［ɥənʃe］彼ら、あの人たち ［類義語］ınlıcnʃ ［レベル］１ 1L:lı

lıcnʃ ［代詞］［ɥənʃe］彼らの ［類義語］ınlıcnʃ ［レベル］１ 1L:ɥcɑcı:ʃ は ınʃ からの類推。あまりユンクらしくない音だが、頻度が少ないし、スパイスになる。

lıcuɥı ［魔法］水。五行の１番 ［医療］腎 ［レベル］４ ȷzl;lcuɥɔ。腎は生命力を司る。 ⅃1 ［文化］ ᥫleuınȷ

lıcuɥıȷeel ［医療］水毒、水滞 ［レベル］６ ɥɑ;lıcuɥı‡eel.l<zφ;/「水の淀み」。水分の代謝不良から起こる症状のことから。 ⅃ʔ

lıcɑ ［単位］マイクロ ［レベル］４ ⅃1:ılhıcɑ

lıczı ［遊離副詞］［形容詞］まだまだ ［類義語］ɒılcȷ ［反意語］ȷeȷcl ［レベル］１ 古 : 迷う。開始までの遠近と完了までの遠近を表す副詞を日本語にすると、それぞれ「まだまだ」「もうすぐ」「したばかり」「とっくにした」になる。アルカではこれらは純副詞として使われ、４つの段階はそれぞれ旅に準えて造語された。 「まだまだ」は旅の始まりで、目の前の道を見て、出てきたのは正しかったか迷い悩む段階である。よって古アルカの lıczı（迷う）から「まだまだ」が造語された。同じ流れで、「もうすぐ」は折り返しが見えて足取りが軽くなるため、ȷe ȷclɑ（軽く）から ȷeȷcl。「したばかり」は山を越えたところで、これまでの道と同じだけいかねばならないので足取りが重くなり、ɑıɑıȷʃeeze から ɑınʃe。「とっくに」はゴールが目前でこれまでの道を思い出している段階なので ıɒılcȷ から来て ɒılcȷ。 ［語法］ 純副詞なので el はいらない。前置しても後置してもよい。分離して目的語の後ろに回る場合などは el を付ける。 lıczı と ȷeȷcl のように未然のものは前置され、ɑınʃe と ɒılcȷ のように既に終わったものは後置される傾向にある。

lıclcl ［化学］ホウ素 ［レベル］５ 1Δ: 制

lıcıȷlıɑɔ ［地学］ホウ酸塩鉱物 1L

lıen ［医療］マスク ［名詞］仮面、ペルソナ ［名詞］扉→ lec ［レベル］２ 1ʕ: 制 :lıᥫʃı ［語法］ 仮面も風邪マスクのようなマスクも含む。 ［文化］ 西洋と真逆で、日本以上に風邪のときはマスクをする。

lıenneᥫ ［亜魔］ラエンネック、トイレの花子さん ［レベル］３ ⅃1:lıen/neᥫʃ ［文化］ ınuelenʃ の一種。 虐めにより自殺ないし殺された少女の怨霊。仮面を付けていて、どの学校にも現れる。日本でいうところのトイレの花子さんに相当する。 仮面は白く、目のところに幼字のカイトクレーマーのような三日月状の目が開いている。 自殺した場所やトイレなどに現れやすい。怨念を晴らすなり、本人の納得行く形でないと成仏できず、戦って勝っても一時的に追い払えるだけで根絶はできない。

lıenɥenȷ ［言語］表面上の意味、前景化された意味、ラエンレンス ［レベル］５ ⅃0: 仮面で覆われた（＝真意の見えない）言葉 ［文化］ uelʃɥenȷ

lıeneȷʃ ［名詞］仮名、ペンネーム、ハンドルネーム、ニックネーム、コードネーム ［名詞］マージ名→ ılʃeȷʃ ［レベル］３ ɥɑ;/「仮面の名」 ⅃ʔ

lıeɒ ［単位］ペタ ［レベル］５ ⅃1:lıᥫeɒcʃ

lıel ［植物］オレガノ ［レベル］３ lıᥫʃı

lıecᥫın ［名詞］司書 ［レベル］５ 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

lc ［接頭辞］［ユマナ］ユマナのものであることを示す ［レベル］３ 1ⅅ: 制 :lcɥᥫ（非アンティス）

lcʃ ［格詞］～の内部で、～を超えずに ［名詞］こちら側 ［反意語］ɥıᥫ ［類音］

lɔſ →注は lɔſ ［レベル］2　@ 1L 【用例】 ſəµ eſ lcſ uıµzɔn. 今８時前だ。 ſə eſ lcſ ıɑcı ſcj. 二週間も経っていない。

lcſɑɔnſ ［電算］ローカルバス、ホストバス ［レベル］５　1L: ＰＣＩバスに対してその手前という意味

lcſɒeɒ ［数学］内接円 ［レベル］４　1L

lcſc ［生物］腺 ［レベル］５　1ſ: 制 :lcſ から。腺が排泄や分泌に関する器官であることから、出す器官と捉えた。

lcſɔ ［動物］鮎、アユ、あゆ ［レベル］４　ılılſı:lcſɔ,lccſɔ（良い匂いがする）

lcſe ［植物］セリ、芹 ［レベル］４　1ſ: 制 : 古の lccſɔ から

lcſen ［接続詞］lcſ ［レベル］３　J1

lcſeeue ［魔物］リテーヴェ（岩巨人）: 第三十四天 : 土の否天 ［レベル］５　1L:µcɑcı/jeµen/ɒel:lcj/ſeeue ［文化］ 憑族。巨躯のゴーレム。土と岩の塊でできた化け物で、見かけ上は人間のような形をしている。だが大きさが尋常でなく、ゾウよりも大きい。岩を投げつけたり、地面から石を角のように突出させて獲物を串刺しにしたりする。怪力の持ち主で、攻撃力が比類ない。防御力も高く、体力も多い。弱点の属性もなく、強力。物理攻撃で倒すのは至難の業。倒し方は、水の魔法をかけて土を泥にした後、風の魔法で乾かし、火の魔法で固める。ヴィルは弱いため、魔法防御は弱く、魔法は効きやすい。こうすると関節部が固まり、動けなくなるので、その隙に逃げるのが吉。

lcl ［形容詞］疎である、まばらな、すかすか、スカスカ ［反意語］φıl ［レベル］３　1ſl: 制 : さびしい

lclſ ［形容詞］大袈裟でない、誇張していないでむしろ消極的な、謙虚な、謙遜した ［反意語］µıſl ［レベル］３　1L:µılſ →@ lcſl →言いにくいので lclſ ［文化］ jeµcſ

lcll 付箋、タグ、ふせん ［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :lcczlıl（小さな紙）。古で lıl,lıjı,lıſj は混同が甚だしかったので注意。 【用例】 eu lcll ı ɒıj 紙に付箋を貼る

lclj ［植物］モミ、樅 ［レベル］４　lılſı

lcljedılcɑ ［天文］散開星団 ［レベル］６　J1

lclhɔ ［医療］骨粗しょう症、骨粗鬆症 ［レベル］４　1L

lclı ［形容詞］混んでいる、込んでいる、混雑、にぎやか、賑やか、混む、人ごみの ［名詞］混雑 ［形容詞］［天文］満天の ［形容詞］［交通］渋滞 ［反意語］µıſc ［レベル］３　古 :lclı（命が多い）【用例】 belſlı ıſ lclı cɒ ɑcj nɔɑ jlɔl. レストランは普段よりもたくさんの客で混み合っていた。　ɑcn jɔl eſ lclı, ın jlcnıſ jen. バスが混んでたが座れた。

lclıɑ ［地学］地球の国名、地球の国 ［レベル］４　1L ［語法］ 地球の国名は、古アルカからあるものを除き、すべてセレンが独自に命名した。セレンにとってのその国の見方を反映している。アトラスにない概念の命名なので、恐らくアンティスはほとんど関係ないといっていい。本辞書では ［地球の国名］ のタグをつけた。

lclılc ［アイテム］脇差　µɑ;lclə/lılc　Jſl

lcll ［植物］キノコ、きのこ、木野子、茸、マッシュルーム、木の子 ［美容］マッシュ ［レベル］２　ɑu; ↓　1ʔ: 制 : 古 :lczləµəlclɔ（菌の家）1ſ 年まで lclſ と打ち間違えられていた。　lcll:lcll

lcllſıɑ ［普通動名詞］きのこ狩り ［レベル］３　µɑ;/　Jſl

lcllɔɔb ［被服］ボンネット　jɒ;/　Jſl ［文化］ jɒ でできた。平民の女性用帽子。頭の部分がきゅっと締まっている。

lclle ［形容詞］香ばしいいい匂い ［名詞］香ばしいかおり ［類義語］lccſɔ ［レベル］３　µɑ;›lclle,jzl.ıle1　J1:ɒclɑ

lclle,jzl　lccſ　‹›lccſɔ

lclı ［形容詞］痩せた、細い ［医療］るいそう、痩せ ［文字］コンデンス ［類義語］jclɑ、hınɔſ、ɥəɒelc、zedleſ ［反意語］sıl ［レベル］２　ɑ;「小さい存在」　赤 :lclı　lclı:lclı ［語法］［文化］ 男性に使うとやや侮蔑的なことも。女性には問題なく使えるが、jclɑ としたほうが喜ばれる。 【用例】 ſc ɥən lclı nɔɑ jlɔl ɔl lec ſə jıb. その服を着るといつもより痩せて見える。

lclılıɑ ［地球の国名］チリ ［レベル］６　1L: 地形が細い

lclıɑɔſ ［被服］スティラップ　nɑ;/「細く見せる紐」　Jſl

lclıɑeſl ［地学］フィヨルド ［レベル］４　1L ［語法］ ɑeſl とあっても分類上は海岸。

lclıɥɔlɔ ［被服］スマート、タイトズボン　nɑ;/　Jſl

lclcµcəj ［エルト］リシリウス ［レベル］６　ɒelſcı ↑J:lclcµcəj;e　Jʔ:clcµcəj ［文化］ シンケの銅鏡から生まれたエルト。

lclcl ［名詞］小屋、巣 ［類義語］µı ［レベル］３　JJ: 古 lccz/ 古 µəlclɔ「小さな家」

lclcı ［地名］リシア、リシア市、学院市 ［レベル］５　JJ:ɑelclcı ［文化］ 名の由来通り、フェリシア大を中心とした高級住宅街と学術機関の並ぶ市のこと。オフィスは少ない傾向にある。フェリシア以外にも同市には学校法人が多く点在している。カリーズ市の東に位置する。

lcj ［形容詞］小さい ［反意語］lıc ［レベル］１　jzɑ　1L: 古 :lccz　lccz:lccz :lcj:dedl,bφ, lclə,ılſ

lcj(J) ［人名］クリスの略称 ［組み数字］３/２８ ［レベル］１　古では lılcj の方が一般的

lcjſ ［形容詞］謙遜した。尊大の逆、謙虚な ［反意語］ɑılſl ［レベル］３　J0:lcj/ſe（小さい感じの） ［文化］ 謙遜は美徳だが、日本人ほど程度が強くはない。褒められたら「ありがとう」が基本で、「いやいやそんな、僕なんて」は行き過ぎ。

lcjſueſ ［言語］謙譲語 ［反意語］jɔljueſ ［レベル］４　J0 ［文化］ leıueſ

lcjſıµ ［宗教］修道士、修道女、モンク、ナン ［レベル］５　zφ;lıjſıµ.l　Jſl

lcjſc ［魔物］リスティ（風妖）: 第二十五天 : 風の否天 ［レベル］５　1L:µcɑcı/jeµen/ɒel:lcj/jıſcc ［文化］ 美しい花の中から生えている女性の魔物。腰から上が現れている。美しい羽根と芳香で獲物を誘う。羽根は時間とともに万華鏡のように模様が変化する。この羽根は光の魔法を跳ね返すため、光の魔法は厳禁。また、リスティ自体は風の属性を持ち、風魔法も効かない。体からとてもいい匂いのする芳香を放つが、実は毒。吸うと操られてしまう。知能が高く、言語を解する。悪戯好きで、人にちょっかいを出してくる。栄養は植物と同じ養分で賄うため、実は放っておけば人を食うことはない。ただ、遊び半分で人を襲ってくびり殺すことがある。毒を出させない方法は言葉。「お前くさい！あっちいけ！」と叫ぶと毒を放たなくなるが、魔法で襲ってくるので戦力は上がる。

lcjſcɑµenj ［名詞］万華鏡 ［アイテム］リスティフレンス ［組み数字］４/１２ ［レベル］４　J1: 魔族リスティの羽根→ lcjſc ［文化］ リスティの羽根を逢わせたインヴァネスコート。光の魔法を屈折させ、跳ね返す効果がある。非常に高価。jɒ で錬金術師がこのアイテムを作った際、羽根の余りを筒状にして万華鏡として lcjſclɔɔlɔ の名で販売した。近代になりようやく地球と同じタイプの偏光を用いた万華鏡が発明されたときには lcjſcɑµenj が既になくなっており、lcjſcɑµenj で万華鏡を指すようになった。

lcjſɔu ［名詞］痴話げんか、痴話喧嘩 ［レベル］４　1L: クリスの喧嘩。クリスとオヴィのケンカが一番１０代のころ派手だったことから。小さい喧嘩ではない。

lcjſe,jzl　ſınj、ɑılcj

lcjl ［動詞］ɥəl をつまづかせる、つまづかせる、つまずく、躓く、つまずかせる、つまづく ［レベル］３　1ʔ: 制 :lcj から

lcjlı ［宗教］修道院 ［レベル］５　zφ;lcjſıµ/lı　Jſl

lcjlın ［宗教］修道会 ［レベル］６　zφ;/　Jſl

lcjlıcφıɔ ［音楽］ユーフォニアム、ユーフォニウム　µſ;lcj/lıcφıɔ　JJ ［文化］ µſ でチューバから分離してできた。その影響で小型チューバと命名された。

lcjjcı ［音楽］トムトム、タム、ハイタム　J1

lcjnı ［名詞］大胆不敵 ［レベル］３　JJ:llccz/nı。小さい心ではない点に注意。あえて nı lcj と解釈して言葉遊びにする手はあり。

lcjuılı ［医療］個人病院 ［反意語］lıcuılı ［レベル］４　J1 ［文化］ cuıl

lcjueµınſ ［医療］非難性人格障害、非難性パーソナリティ障害 ［レベル］５　ul;llccz/ueµınſ　Jʔ:jeµen/ɒel ［文化］ 地球にはない分類で、モンスターペアレントやクレーマーなど、なにかと他人に対して攻撃的で文句を言う人を指す。ほとんどの罹患者は声を大にして言うが、この病があってかつ気弱な者は陰口や匿名の形で文句を言う。後者はアルバザードでは卑怯者として特に嫌われ嘲笑される。また、後者は凪人に多い。

lcjɑel ［ユマナ］小学校 ［レベル］３　J0

lcjɑeeɒ ［名詞］小悪魔 ［レベル］３　JJ ［語法］ 小型の悪魔のこと。また、狡猾でずるがしこい子供や女性のこと。日本語の「小悪魔系」のようなニュアンスはない。

lcjφıµ ［電算］［ユマナ］ＭＤ ［レベル］５　1L:µcɑcı:ıµbıleſ

lcjφel ［軍事］小銃、歩兵銃、マスケット、ライフル、フュズィ、ゲベーア ［レベル］６　µɑ;/　Jſl ［文化］ φel

lcjhcnllcſc ［生物］エクリン汗腺 ［レベル］６　J1

lcjµenj ［名詞］侃々諤々 ［レベル］５　JJ: クリスの言葉

lcjı ［アイテム］小雪 ［レベル］５　古 :lccz/jıe。古ではこの刀の名前が複数あったようだ。 ［文化］ µɑ 中盤でリュウが入手する刀。ロロスの忍者から贈呈された。

lcjı(J) ［名詞］小人、こびと ［レベル］３　jɒ‹ılſ;lclə/jı　Jʔ

lcjıſe ［名詞］売店、出店、露店 ［レベル］３　1L 【用例】 ın ſıəſ le lcı lı lcjıſe cɒ ncın. 休憩時間におやつを買いに売店に行った。

lcjın ［ユマナ］小学生 ［レベル］３　J0 【用例】 lılə en lcnej hıſcı jɔuen ɒıu ɔ lcjın ɑı. 小学生と恋愛すること自体は法律で禁止されていない。

lcjınɑı ［軍事］小火器　µɑ;/　Jſl ［文化］ φel

lcjıɑeɒ ［植物］ブーゲンビリア、ブーゲンビリヤ ［レベル］５　nɑ;「小さいアデミナ」　JJ

lcjc ［化学］中性子、ニュートロン ［レベル］５　1ʔ: 制 :lcjı

lcjcl ［植物］オレンジ、ミカン、みかん、蜜柑 ［レベル］２　1ſl: 制 :lcjuınl 【用例】 lcjcl ɒəɔ{lıc} すっぱい { 甘い)} みかん

lcjclſıɑ ［普通動名詞］みかん狩り ［レベル］３　µɑ;/　Jſl

lcjclɒeɒ ［地球の国名］ニジェール　1L: 国旗にオレンジの丸

lcjcldıɑ ［化学］酢酸オクチル（通称）　1L

lcjclıne ［料理］オレンジジュース ［レベル］２　1L:ɒelcɑcı ılſe

lcjcucj ［電算］マイクロコンピュータ、マイクロプロセッサ、マイコン、ＬＳＩ ［レベル］４　1L

lcjɔɒıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］こいぬ座　Jſl ［文化］ cɑı

lcjɔɔɒ ［ユマナ］週 ［レベル］３　1L ［語法］ 平日は月曜から金曜までリーファで表し、土日はセルトで示す。アルバザードと違って土日の感覚があるので、命名法を変えた。

lcjeſ ［名詞］ちょっとしたら。５～３０分。 ［副詞］ちょっとしたら ［レベル］１　J0: 古 lcj/ſe（小さい感じの）。具体的には、不定量が小さいことを指している。 ［語法］ ɑclɑə

lcjen ［被服］靴下、くつ下、くつした、ソックス ［レベル］２ μΩ; ↓ 1ͱ: 制 :lcjıbe（足の布） ləoıȷ:ləoıȷ

lcjecμ ［単位］ファラド、ファラッド、リセイル、人間セイル、電気容量 ［レベル］５ 1ɱ: 制 : 人間セイル

lcn ［単位］５ ［レベル］１ 1L: 制 :lc oıs:ʃlɔn::ʅısc,ılʃ

lcn(ɺ) ［人名］リーネの略称 ［組み数字］１７/ ２８ ［レベル］１ 制

lcn(ʔ) ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。 ［レベル］１ μΩ;lcᴅc（美しい)/ 指小辞の n ɺʔ ［文化］ ınʅᴅeu

lcnʃ ［名詞］悪魔の取引、｢を失って｣を得る等価交換 ［レベル］４ 1L:ᴅe l:lcnȷ/αəʃ ［語法］ 何かを得る代わりに何かを失うことを指す。

lcnʃıȷl ［化学］サリチル酸（通称） ［レベル］５ 1L:ᴅel ［文化］ μΩ 以前に植物から取って鎮痛剤として用いられていた。μΩ で化学的に合成して鎮痛剤と用いた。セレンの風邪に投与したところ、激しい胃痛に襲われたため、リュウはアセチルサリチル酸（アスピリン）を新たに作った。それ以降、サリチル酸は「痛みは取るが、胃腸を壊す悪魔の取引」としてこの通称ができた。一方、アスピリンは並行的に「天使の酸」と名付けられた。

lcnleʃ ［運動］ピラティス、リンシェット ［レベル］５ ıl:ᴅcμɔʅ;lcnlen/ʃe ɺɺ ［文化］ 病弱なリーファ隊アーシェのためにミロクが考案したリハビリトレーニング。ʅɔdn（ヨガ）や luın などを取り入れて改良された。主な特徴は胸式呼吸を使う点、インナーマッスルとコアマッスルを鍛えつつストレッチする点、静的でなく動的な点、瞑想などスピリチュアルな方面を捨象している実利的な面である。 アーシェは姿勢性の慢性疼痛を抱えていたため、luın や ʅɔdn のような静止した状態でのトレーニングには不向きであった。また先天的な筋肉の硬さも問題であった。そこでミロクは動的であり負荷が少なく筋肉を伸ばしてほぐす要素を取り入れていった。 これがアーシェの病状を改善させたことから、ıl 以降、急激に広まった。これが作られたのは、ミロクがアユをアーシェに施す前の話である。

lcnlen,ılʃ αecȷdıαc

lcnlen yəəın ［人名］リンシェン＝ユーアン、雨宮白虹 ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ リーファ隊アーシェの本名。

lcnȷ ［名詞］悪魔。人間に害をなす存在。また、悪魔のような人間。 ［生物］悪魔科。デームスとアデルから成る。 ［名詞］悪魔役、四枚目。物語を捻じ曲げて、支障を出すことで面白味を出す役。アクタカなど。 ［反意語］lınȷ ［レベル］２ 1L: 制に戻した：参考：メル・アルカ :ʃeɔlɔn :ᴅel と ʃeeᴅȷ の混成 :::lcnȷ,hų ［語法］ メル１９年の生物学の作成まではデームスの異称程度に扱われていた。人間に害を成せばサールも lcnȷ としていた。生物学作成以降は、きちんと悪魔科を指すようにした。 ただし、従来の［名詞］の意味も残した。これは日常的な用法における悪魔である。

lcnȷdɔl ［地名］魔方 ［レベル］５ ɺ0 ［文化］ エスティア、ベルティア、ラズディア、メルディア、キルティア、アルマティア、カルテール、ガルテア、フレスティルの地域。悪魔テームスに守られた国。 ヴァステでソームがアトラスにやってきた際、エルトの本拠地ヒュートとサールの本拠地ヴェマを見張れるように、最初はアルタに陣取った。その後、ヴェマだと両者から挟撃されるため、南下して位置をずらした。それが魔方に当たる。 ヴァステが終わって悪魔は封印されたが、カコで復活する。そのとき悪魔は魔方に陣を張った。悪魔に抵抗した召喚士たちは殺されたが、受け入れたものは攻撃されなかった。悪魔は敗戦側を奴隷扱いすることなく、農耕の手伝いをしたり山を崩したりと、人間の手伝いをした。そして人間から「力なき者」が生み出した技術を学び、共存した。 カコでテームスが封印されると、メティオからの支配が強くなった。人間は人間を奴隷にする。魔方人はメティオ人を嫌い、支配から逃れようとした。その結果、セルメルでイムル ɺ0 年にテーティアがこの地で生まれる。 イムル 1ͱΔɱ 年、悪魔メルティアはメルディア人の少女アルヴァノに出会い、恋に落ちる。そして 1ͱΔΔ 年にメル＝ケートイアが生まれる。メルは幼少期アルヴァノスに渡るが、ɺ 歳でケートイアのケートに移住。ɱ 歳の終わりか ͱ 歳でセレンらと出会う。 μΩ 後、アルティルでアルティス教が起こると、ヴァルテス派がこの地で起こる。国民の大半はヴァルテである。文化的に周りと隔絶しているため、言語も独自の発展を遂げた。明るく陽気でうるさいというイメージがある。

lcnȷdɔlȷeeμenȷ ［言語］魔方諸語 μΩ ɺɺ

lcnȷscɔμ ［生物］神堂 ɺ1

lcnȷlcl ［化学］アンチモン 1Δ: 制

lcnȷlɔd ［交通］魔列車 ［レベル］５ 制 ［文化］ アデュ収容所へ向かう輸送列車。乗ったら生きて帰れない。発想自体は９３年ごろからあった。「死の門」・アウシュヴィッツ第二強制収容所（ビルケナウ）の鉄道引込線をモデルにしたと思われる。

lcnnel ［サール］リンネル ［レベル］４ μcΩcı: 古 ［文化］ 遺失物を司る神。小人の妖精のような姿をしている。気まぐれで、この小人が物をなくしたり、逆になくしたものをひょんなところから出したりする。

lcnuɔlluccαı ［生物］［医療］五要穴 μΩ;/ ɺɱ

lcnαɔμ ［音楽］三十二分音符 1L ［文化］ → αɔμ

lcnlccαı ［地球の国名］ソロモン諸島 1L: 国旗に５つの星

lcnleᴅ ［音楽］五重奏、クインテット μΩ;/ ɺʔ

lcnı ［組み数字］２０/ ２８ ［交通］リナ通り ［レベル］２ ɺɺ

lcnıȷl ［化学］ステアリン酸 1L:μcΩcı

lcnı ucl ［人名］リナ＝ヴィッシュ ［組み数字］２０/ ２８ ［レベル］２ 古 : 語源不詳。ucl は「 怪我をする 」の意味。 ［文化］ (ɺ_) 第４期４代ソーン第６使徒。女性。ᴅıyə。下記にあるように春香クリスティーンに似ている。１６９ｃｍ、５５ｋｇ。焦げ茶色の髪。焦げ茶色の瞳。下記ミールの書に書いてあるように、たまに赤いカラコンを入れる。肌は白：黄＝５：５。 11ΔΔ: 春香クリスティーンというテレビに出てた子に似てるなと思った。 ·『ミールの書』より アッシュは部屋の中央にある円卓に掛けていた。円卓には他にも２人の女性がいた。アッシュの右手には赤い瞳の少女が座っている。メルが挨拶した時の目線から考えて、彼女がリナであろう。リナは顔かたちはまだ子供のようだが、年はやはりクミールと同じくらいにみえる。リナはミールの方を見ているのだが焦点が合っておらず、ぼーっと虚空でも眺めているようだ。 ミールは自ら名乗った。すると突然リナがはっとして、「きゃっ！」と小さく叫んだ。その拍子に円卓の上のグラスを倒してしまい、中に入っていた水がクノンにこぼれる。ミールは思わずビクッとしてしまった。「あぁあ、ごめんなさい、ごめんなさい！ 私……ごめんなさい！」 リナは慌ててハンカチを取り出し、クノンの服を拭く。クノンはその頃になってようやく「あーびっくりしたぁ！」と叫んだ。 (……ヘンなお姉さん達……)
　メルに複雑な表情を向けると彼女は「まあ、いつものことだから」と耳打ちをしてきた。ミールは再びリナを見ると、彼女はまだ慌てている。何となく彼女がメルに「お姉ちゃん」呼ばわりされた訳がわかった。始めはてっきり親しいのかと思っていたのだが。 「ああもう、あんたたち、これを濡らしちまってどうするんだい」 アッシュが檄を飛ばす。だが、その声は怒気をはらんでおらず、むしろ世話の焼ける妹達の面倒を見ているといった感じだ。 「ごめんなさ～い」とリナは謝ってばかりだ。

lcnıcnȷ ［名詞］興味津々 ［レベル］３ ɺɺ:lcnı/cnȷ

lcncnıȷl ［化学］オレイン酸 ［レベル］５ 1L:μcΩcı:lccne/cn/ıȷl

lcncı ［動詞］yəl をうずくまらせる、うずくまる、蹲る、踞る ［レベル］３ αu;lccz/ncı「小さくなって休む」 ɺɱ

lcnɔı ［文末純詞］［yənl］ʃcȷȷe ［レベル］１ 古 ȷɔμn:lɔ（知る）/nɔ（疑問）/ ı（間投詞）「知っているか？」

lcnees ［天文］ＧＰＳ ［レベル］４ ɺ1:lcnnel/sc「リンネルの指」

lcu ［形容詞］穏やかな、緩やかな、ゆるやかな ［音楽］アダージョ ［反意語］Ωɔʃ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 静かな

lcuμɔ ［名詞］生命、命、寿命 ［レベル］２ α;e 赤 lcuμɔ:lcuμɔ:lə lcuμɔ ［語法］ lculeȷ ［文化］ → yəncȷ 魂科に寿命はなく、不老不死。 それ以外は寿命を持つが、星の長さよりも長いため、事実上不老不死である。ただし魂科と違って殺せば死に、アルデルへ行く。
　ユーマの一族は神から分派したため、ʃᴅ では寿命が長い。時代を下るごとに寿命は短くなっていく。異世界において人類の寿命が問題になるのは主に言語変化や文化の伝播である。これらは寿命に反比例する。例えば言語の変化は個体が長生きするほど変化に乏しい。言語の変化を見る場合、経過年数は寿命比で考えねばならない。例えば地球人や現代アルバザード人が５０－８０年生きるとし、古代人が５００－８００年生きるとした場合、寿命比の１:１０を考慮し、物理的には１０００年経過した場合でも、単純計算で１００年分の経過とみなして言語の変化を算出する必要がある。 こうした意味において寿命が重要になるのは言語の変化や文化の伝播などであり、要は現代人や地球人と寿命が異なる場合に注目すればよい。 ɾu までは寿命の異常な長さや通信魔法の整備によって大して αu から変異しなかったと考えられるが、ɾu で通信魔法が破壊されてからは事情が異なる。人間のヴィードも寿命も激減したので、言語の変化も活発になる。従って zφ からの寿命を考えることになるが、zφ ～ ʅʅ の成人男性の期間平均は５００－８００才である。zφ 初期ではもう少し長く、ʅʅ 末期ではもう少し短い。従って期間平均と述べた。なお、マレティスのような強力な力を持った人間は寿命が遙かに長く、これはあくまで一般的な成人男性の値でしかない。 ȷᴅ になるとさらに弱体化するため、ここで区切る必要がある。ȷᴅ の cᴅ ３ケタ台、特に 1ɺ00cᴅ までで一区切りとし、この期間平均が１５０－２４０才である。もちろん ȷᴅ 初期と 1ɺ00cᴅ ごろでは寿命が違うが、あくまで期間平均である。 1ɺ00cᴅ 以降は５０－８０で、地球人や現代人と同じである。また、nΩ 以降は魔法も途絶えるため、環境は地球とほぼ同じになる。 なお、この寿命から見ると zφ ～ ʅʅ の８０００年間は８００年に相当し、ȷᴅ の 1ɺ00cᴅ までは４００年に相当し、アルカができるまでの４００年間は４００年に相当し、合計９６００年間で１６００年相当となる。神と魔法が存在する世界なので、地球の常識を持ち込むとかえってリアリティを失う。寿命が長いのだから寿命比を導入しなければならない。 【成句】 Ωcȷʃ lcuμɔ αccnı ᴅyəʅıle 殉教する Ωcȷʃ lcuμɔ αccnı αıȷ 殉職する。lıb は不可。 【用例】 leȷ ȷcl lcuμɔ cᴅ le. やがて、いのちに変わるもの。(Ｍｉｚｋａｎ)

lcuμɔμȷccl ［名詞］生みの親、親 ［レベル］３ 1L:ᴅelcΩcı ılʃe

lcuμɔɔn ［植物］ぺんぺんぐさ、なずな、ナズナ ［レベル］４ 1L: 生命の草。極めて生命力が強いことから ［文化］ 煎じたり煮詰めて肝臓病などの治療に使う。 【用例】 ın lenıʃ lıl leᴅc e lcuμɔɔn. ナズナ粥が飲みたかった。

lcuμeʅȷ ［名詞］生きがい、生きている意味、人生の意味、生き甲斐、いきがい ［レベル］３ ɺɺ:lcuμɔ/eʅȷ 【用例】 leȷ ȷc lcuμeʅȷ uɔμʃ ȷɔαel. 人生に生き甲斐のないものは死にやすい。

lcuμeμ ［歳時記］秋、聲秋（せいしゅう）、リヴレール。実りの秋 ［形容詞］秋の ［人名］リヴレール ［アクセント］lcuμEμ ［レベル］４ ɺ0:lccueμ/ılcȷ。lʃ ［語法］ Ωcıleμ

lcul ［動詞］yəl を産む、産む、生む、出産する ［動詞］yəl を捻出する、捻出する ［普通動名詞］出産、産出 ［医療］分娩、出産 ［反意語］Ωcnȷ ［レベル］３ 古 :lcul ← lcuμɔ/ 動詞語尾 l ［文化］ 合法な妊娠の場合、妊婦はかなり厳重に守られる。守るのは主に夫の役目だが、家族ぐるみで行われる。就職している場合、かなり長い産休が与えられる。妻だけでなく夫にもかなりの産休が与えられる。しかも産休中は税金によって有給である。出産費用も税金から出るので経済的な不安は払拭される。また、産後の育児休暇も長く妻と夫に与えられる。これ

も税金によって有給である。尚、名付けはふつう親によって行われる。名前は歴史上の固有名詞かアルカの一般名詞から付けられる。この名詞は制アルカでも古アルカでも良い。古アルカから作るとエーステが作りやすいという利点がある。男女の名前は異なっている。アルデスやルフェル、リディアなど、有名な歴史的な固有名詞はその性別に合わせる。アルデスで女というのはおかしいし、リディアで男というのもおかしい。尚、名前はふつう親が子供にそうなってほしいという願いを込めて付ける。或いは子供のイメージに合うように付ける。良い名前だと悪魔に連れて行かれるという文化はアルバザードにはない。そのため汚い名前や悪い名前を付けることはない。分かりやすい・綺麗・強い・喋りやすい・長くないなどの性質を持ったストレートな名前が好まれる。名前は戸籍に登録して初めて国家的に有効になる。戸籍は生誕後一ヶ月以内に届けねばならない。【用例】 µcɑcı lculıſ lcı ȷcɑ ɑel ᴅcuı e ȷeµen. リディアはセレンの娘の紫亞らを産んだ。

lculnııſ ［地学］［歴史］第四紀　ul;/　Jʔ　［文化］　φııueɑeᴅe

lculncın ［名詞］産休　［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbıleIſ

lculdcſ ［医療］産科　［レベル］4　1L

lculɥıc ［医療］陣痛　［レベル］4　1L

lculın ［医療］妊婦　［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleIſ

lculısı ［環境］出生率　［レベル］4　1L

lculeȷ ［医療］リブレス、健康寿命、健康でいられる命　［反意語］lcuµɔ　［レベル］3　J0:µcɑcı:lcuµɔ/ȷeleȷ（命ある魂）［語法］　lculeȷ は健康寿命のことで、lccſɔȷ は健康年齢のこと。　lcuµɔ は寿命のことで、ſɔlcȷ は実年齢のこと。　［文化］　ucucın ないし uıln でいられる時間の長さ。「健康寿命」とでも言うべきもの。　ヴェレイでは医療の発展に伴い、植物人間の状態で長く生きていられるようになり、見かけの寿命は延びた。しかし過労や環境汚染や夜型の生活や食生活の不摂生などにより、若くして体のあちこちが痛いという人間が増え、成人病も増えた。また、医療の中途半端な発展のせいで、命だけある状態になった寝たきりや植物人間の老人が増えた。　そうした中で、寿命とは別に、健康でいられる長さという概念が考えられた。それがリブレスである。いたずらに寿命が長いだけでは意味がないことに人々は気付き、寿命が長くリブレスが短い人生が悲惨だと知った。この結果、人々は寿命（リブロ）よりもリブレスを実質的な寿命と見るようになった。そこでレイユではミロクの指導の下、いかにリブレスを長くするかを主眼とした生活指導がなされるようになった。　皮肉なことに、人間の技術は発展するほど人間のリブロを長くするが、リブレスは減らしてしまう。µɑ の平均寿命は６０歳で、ヴェレイでは７５歳だったが、µɑ のリブレスが５０歳であるのに対し、ヴェレイでは３２歳であった。例えば便利になるほど運動不足になるし、パソコンを使うほど眼精疲労や自律神経失調症にもなる。技術力の向上が帰って人間のリブレスを下げてしまった。確かに赤痢やコレラのような大病は治るようになってリブロは上がったが、代わりに慢性病の罹患率が増えるため、リブレスは下がる。　なお、アレイユではリブレスの向上とともに医療の発展を利用して高いリブロの維持を行った結果、リブロが７５歳、リブレスが５５歳にまで向上した。

lculəlɔ ［普通動名詞］軟着陸　［レベル］5　µɑ;/　Jʔ

lcuı ［電算］［娯楽］ゲーム、テレビゲーム、ファミコン　［レベル］2　1ᚹ: 制 : 古 :lcczuıȷ（小さな戦い）［文化］　アルバザードにはシェルトやアルトのような伝統的なゲームがある。また、カーデを使ったゲームもある。外で遊ぶゲームもゲームといえる。縄跳びや鬼ごっこなどである。ままごとのようなロールプレイングゲームは人の気持ちや立場を理解できるようにするためのゲームとして人気が高い。よくあるロールプレイングゲームは、子供が神話のキャラクターになりきって、神話のシナリオに沿って遊ぶというものである。といってもレイプしたりセックスしたり敵を殺したりするシーンは省略されたり、ぼかされたり、変えられたりする。たとえばティクノがヴァルテを倒すシーンでは、ティクノ役は魔杖ヴァルデを投げるふりをする。或いは発泡スチロールのような柔らかい杖を軽く投げる。本物の杖を喉笛狙って投げつけるようなリアルな演技は危険なのでしない。また、勝負事に使うアルカンスなどもゲームである。こういったものは非テレビゲームであり、アルバザードでは頭と体を鍛えるために有効と考えられている。　＜コンピュータゲーム、ビデオゲーム＞　コンピュータをメインに使った遊びである。日本ではファミコンの類に当たる。コンピュータやプログラミングの技術力を向上させるものとして評判が高い。コンピュータの技術が向上してもそれを一般人が親しみやすい形で理解するにはゲームという方法がうってつけである。だからゲームは人気が高い。しかし、そうはいってもゲームは娯楽である。アルバザードでは高い税金が課される。だが、知的要素をゲームに盛り込めば国の推奨が得られるため、税金が下がる。そこで開発側は娯楽に知的要素をどう盛り込むかを考える。だからアルバザードのゲームはどれも何かしら知的な要素が含まれている。その点ではファミコンのような娯楽要素の強すぎるものとは異なる。　＜体感型テレビゲーム＞　テレビゲームは座ってコントローラーを動かすものだが、健康志向のアルバザードは体を動かさないことに不満を覚える。そこで表われたのが体感型テレビゲームである。銃を持って画面に現れる敵を撃つものや、音楽に合わせて踊るものなど、体を使ったものである。日本にも既にたくさんあり、特にゲームセンターに多い。最近では家庭用ゲーム機にも体感型が増えてきた。ただ頭だけを使うゲームより良いとされている。勉強に役立つ学習ゲームも体感型のものが多い。体を使った方が人間の記憶力は高まるからである。この記事を書いたのは２００４年だが、その後ｗｉｉが大ヒットしたのを見ると、作者リディアは未来を見抜く力があったことが分かる。【用例】　ſə eſ lcuı le lcµ ʅızeſ ɔnſ clᴅ ɔ zelɔ hɔſ. ın eȷ µəəɑ ıl ılɑ. シャープペンとノートと自分の頭脳があればできるゲーム。僕は数学に夢中になっていた（『数学ガール』）

lcuıʅı ［娯楽］ゲームセンター　［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleIſ　［文化］　カルザス通りにある。

lcuıȷµ ［単位］オーム　［レベル］4　1ꟷ: 制 : 人間ヴァスル

lcuın ［娯楽］ゲーマー　［レベル］3　µɑ;/　Jꟷ

lcuıuenſ ［経済］ゲーム会社　［レベル］4　JJ

lcuııſe ［娯楽］ゲーム屋、ゲームショップ　［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleIſ

lcucuc ［単位］ニュートン　［レベル］4　1ꟷ: 制 : 人間ヴィヴィ

lcueſ ［ユマナ］［言語］人間界の単語　［レベル］4　1L　［語法］　ᴅelʅueſ ではない、人間界にしかない単語のこと。アシェットやネット上にしか存在せず、神話や小説には現れない単語。本辞書では［ユマナ］のタグで指示。

lcuen ［魔物］リヴェン（邪鳥）：第七十九天：邪の否天　［レベル］5　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:lcȷ/uenlccſ　［文化］　翼の生えた大蛇。火、冷気を吹き、翼で風を起こし、身はいかづちをまとい、尻尾で土石流を起こす。

lcuel ［娯楽］リヴェル、チェス　［レベル］3　J0:lcnȷ/ıuelınſ　［文化］　→ nı ɥəᴅel　ルールは地球のものと同じ。枡が偶数で、かつビショップやナイトやクイーンの動きを計る必要から、盤は格子状になっている。格子は黒と明るい灰色である。灰色なのは盤に石を使っていたため。黒は塗ってある。　駒は丸いチップで、アヴェルトと同じ。幻字が書いてある。石製で、プラスチックのチップより重量感があってひんやりしている。　駒の名称は一枚ごとに異なっており、発想はシェルトと同じ。むしろ歴史的にはシェルトはチェスから来ているから、シェルトがチェスの発想をしたということになる。ただしポーンに固有名はない。ここがシェルトとの違い。　チェスは唯一神話で争わなかった死神族と悪魔族の夢の対決を描いたものになっているので、駒の名前はそれを反映している。複数枚あるときは、右左の順序で載せる。　キング (ſeeᴅȷ, ıſoııɥə)・クイーン (ıɾᴅı, lənɔ)・ルーク (ɑµeȷſcı uıµſe, ɑµeᴅelſe ʅəəze)・ビショップ (bɾecȷ ʅleeſ, ueµφc nı ılhıcʅ)・ナイト (ᴅcɑın uenlccſ, eᴅclcɔ ᴅcȷſc)・ポーン (ıɑel, ɥəlın)　＜用語＞　チェック：eu ɑµec, eu ᴅıµʅ。eu は省略可能。死神側がチェックをかけた際は ᴅıµʅ となる。　チェックメイト：ı ueeɥə, ı ɑeȷdı。ı は省略可能。死神側がチェックをかけた際は ɑeȷdı となる。　取る：ȷeſ, ȷeɑ など　キャスリング：neʅſ　ステイルメイト：ȷıᴅd　アンパッサン：ueᴅɔȷeſ　プロモーション：ıleʅ

lcuelᴅ ［魔物］リヴェルム（闇精）：第七天：闇の否天　［レベル］5　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:lcȷ/uelᴅ　［文化］　黒い鎧に身をまとった騎士の姿をしている。大剣を帯びており、敵を切り裂く。下半身は黒馬の姿であり、極めて俊足。

lcuelᴅɑıd ［天文］キャッツアイ星雲　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel　［文化］　リヴェルムはあまりに俊足で走るため、ものすごい勢いで砂煙があがる。そのときの砂煙に似たようなもやの星雲であることから。

lcuelᴅcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ケンタウロス座　Jꟷ　［文化］　cɑı

lcɑ ［形容詞］若い、幼い　［反意語］cɑc　［レベル］2　1L:lcuµɔɑcl（命長いもの）　cɑe:cɑe:'eſſ　［語法］　ȷıᴅ, ȷeɑeȷ　【用例】　µıc lcɑ 新芽　ʅcnʅ, leȷ eſ lcɑ ılʅı eſ ın. まあ一番若いのは私なのだが。

lcɑuɔµſ ［普通動名詞］夭逝、夭折、若死に、早死に、早世　［動詞］ɥəl の様態で夭逝する、夭逝する　［レベル］3　µɑ;/　Jꟷ

lcɑɑeᴅe ［名詞］若年　［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleIſ　［語法］　３０までが lcɑɑeᴅe、３０～６０が ȷeelɑeᴅe、それ以上が cɑcɑeᴅe。

lcɑµınȷ ［名詞］体香、リフランス　［反意語］lcɑlenȷ　［レベル］4　J1:lccſɔ/ɑµınȷ　［文化］　lcɑlenȷ

lcɑµe ［アイテム］［軍事］ナイフ、戦闘用ナイフ、コンバットナイフ　［類義語］ſcdȷ　［レベル］4　ȷzɑ;lccz/ɑµec　Jꟷ

lcɑl ［魔法］星占い、占星術、宿曜道　［レベル］3　ɑu;lccɑı/ɑəl　Jꟷ

lcɑleſ ［魔法］ホロスコープ　ɑu;lcɑl/ſe　Jꟷ

lcɑlenȷ ［名詞］口香、リフレンス　［反意語］lcɑµınȷ　［レベル］4　J1:lccſɔ/ɑlenȷ　［文化］　lɔzeſ, uelɑccµe 以上が持つ香り。lcɑlenȷ は息で、lcɑµınȷ は体から発せられるもの。異性を魅了する力が多少ある。　個人や年齢等によって香りは変化するが、生涯を通じて根本的な香りの種類は変化しない。　例えば µɑ だとリディアは桃、ライチ、薔薇をこの順で混ぜた香りになっている。メルはマルベリーで、クリスはオレンジで、クミールはラベンダーとすみれといった具合に、人によって異なる。　紫苑の書に登場するエリアも外見以外はロゼットの血が濃く、すみれのリフレンスを持つ。　性別によって大まかな違いがあり、女性はたいがい花や果実などの甘い香りが中心で、男性はミントなど清涼感の強いものが多い。　lcɑµınȷ はリフレンスと同じ場合もあれば、異なる香りのこともある。たいていはリフレンスを弱くした香りである。例えばメルの場合は異なるタイプで、メルの lcɑµınȷ はローズマリーである。

lcɑıl ［天文］星図　［レベル］5　J1:lccɑı/dıl　［文化］　・星図の基準点　天球の区切り方については昨日述べたとおり。　LL エリアに天球を分け、北極星周りに１星座足し、100 天とする。　　問題は星図の基準点。どこを基準とするかで揉めた。　リディアらとは意見がまとまらず、J00Δ/ʕ/J1 にフゥシカにも相談。　実にまる一日同じ話題を話し続け、今 JJ 日の深夜、ようやく別れた。　だがおかげで基準点が決まった。　　それまでは天の北極と基準点のアルバザードと天の南極を結ぶ子午線を基準線としていた。　が、それってアルバザードに旅行するか、正確なアルバザードの地球における投影位置を知らなくてはならない。　空を見るのに土を見て基準線を測らないといけないのは不自然だ。というか使いにくい。　　地球の場合、どうしているかというと、春分点を基準にしている。春分点が赤緯 0°で赤経 0°。　ちなみに地球は傾いた独楽みたいなものなので、歳差運動があり、春分点はズレる。　ズレるので、1Lᚹ0 年の星図と J000 年の星図は別の星図になる。　星図を見るときは分点が何年のものかを見る必要がある。　　ではアトラスは何を基準点にすべきか。

　春分点というのは地球のシステムだ。パクってよいかどうか。　実はパクっても問題ない。春分は自然現象を元にしているので、アトラスでも地球でも等しく特別なものだからだ。　特にアルバザードは半農半牧なので、春分は特別になる。　　ただ、春分でなく秋分を基準にしてもよいわけで、とりわけ春分を基準にしなければならない理由はない。　ましてアトラスはメル暦の前はイムル暦を　1ʕ00 年ほど使っていた。この暦は冬至を基準とするので、ここを基準としてもおかしくない。　つまり､春分である必然性は本当はない。

　　星図というのはアシェットが魔物を種類や強さによって規則的に星座に封印したものだ。　従って、アシェットにとって特別な日を基準とするのが自然だろう。　　リディアの今日の話で改めて決まったのだが、元々魔物は地球の公転軌道よりも外側で、地球を包囲していた。　このとき、魔物は整然と並んでおらず、適当な配置で巣を作っていた。　ただし完全にランダムではなく、ドラゴン族は〇〇に固まっているというような傾向はあった。　例えばヴァステから μɑ までは竜族はアルバザード付近の赤緯に屯していた。　そこでアルバザードは竜という強い魔物の多い「いやなところ」という意味になり、幻字は竜の頭を象るようになった。　　その後 μɑ でアシェットは魔物と戦い、魔物を分析した。　そして 11 の種族と L つの等級に魔物を分類し、最後に uecφin を足して 100 種にした。　分析をしたアシェットは魔物を自らの分類に従って宇宙に整然と封印した。　それが μɑ 以降の星座である。　　μɑ 以前はおそらく星座は民間的に「ひつじ座」などと命名されていたが、μɑ でアシェットが 100 天に制定した。　地球では 1Lʔ0 年にようやく行われたが、アトラスではイムル 1ʕ00 年代前半で行われたことになる。　これは進化がおかしい順序なのではなく、単にアシェットが魔物を封印したからである。　　さて、当然アシェットは封印したときに、どこを基準に 100 種の魔物を封印するか決めたはずだ。　それが決まらず、フゥシカとああでもないを繰り返した。　で､メル暦を使うのだから、メル暦の元日を基準にしようということになった。　つまりメル 0 年のリディアの月リディアの日にアルバザードを通る子午線を基準にしようということになった。　ここでメル暦についておさらい。

　　アトラスと地球はちょうど ɱ00 年時間が捩れている。　アトラスにおけるメル 0 年と地球のセレンらが使うメル 0 年は ɱ00 年ずれている。　例えばセレンは地球では 1LΔ1 年生まれだが、アトラスではイムル 1ҏΔ1 年生まれになっている。　メルは西暦 1LΔΔ 年・イムル 1ҏΔΔ 年生まれである。　　メル暦の原点メル 0 年のリディアの月リディアの日と 1LΔΔ/11/ʔ0 は等しい。　　さて、アルバザードの空は確認できないので、ソフトを使って 1LΔΔ 年の空を見てみよう。　http://www.toxsoft.com/sswpro/lite.html　ʝſelli ſheıſeƿ というソフトを ΨT しよう。　　このとき、1LΔΔ/11/ʔ0 の 0 時に、イギリスのロンドンに設定し、真南を向く。　すると仰角 ɱҏ°周囲の子午線上にアルデバランが見える。　なんと、ありえないことに超有名な恒星が正時に子午線を南中しているのだ。（通常南中というのは ȷ0 時だが、ここでは文脈からも分かるとおり、0 時のこと）　　さて、ここで問題がある。確かに今アルデバランは子午線上にある。　だがアルバザードはロンドンにあるわけではない。赤経 0°にあるわけではない。　ただし、アルバザードはアルカット大陸のほぼ西端で、アルカットはユーラシアに相当する。　もしロンドンから 1ҏ° (=1h) 離れると、東はベルリンの東、西はアイルランドの海岸線になってしまう。　　アルバザードの緯度は南仏くらいと既に分かっているが、西経 1ҏ°で南仏の緯度となると、ビスケー湾だ。土じゃない。　ビスケー湾に当たる部分がアトラスでは陸だとしても、ややアルバザードが西に寄りすぎている感は否めない。　かといってドイツでは東すぎる。ベルリンの東で南仏程度の緯度となると、ウィーンの南西、ちょうどアルプスの中だ。　もしアルバザードにアルプスがなくても、これだけ大陸の西端から離れると、風が乾いてしまい、アルバシェルトの風土にならない。　従ってロンドンから見て左右に 1ҏ°ずれると、たとえアルカット（ユーラシア）内だとしても、アルバザードの風土を維持できなくなる。　　地球の本初子午線の経度を 0 時間 0 分とすると、アトラスの本初子午線は n 時間 l 分の位置にある。　が､n が 0 であることは一段落上から明白である。「セレン、お前計算が楽だからってグリニッジをパクったろｗ」と言われるだろうことが非常に悔しいが、実際は楽をしたかったからでなく、ロンドンから東や西に 1ҏ°も離れるとアルバシェルトのとおりにいかなくなるからだ。　従って n は 0 である。　　だがしかし､l が残っている。l 分アトラスの本初子午線はズレている。　ロンドンから見て 0<=l<ʕ0 の変域で本初子午線がズレている。　　さて、ではこの l をいくつに設定するのがよいか。　先ほどのソフトで先ほどの画面にしてみる。アルデバランを子午線が通過しているはずだ。　さて、ここで ʕ0 分間の変域で子午線をずらしてみよう。この変域のどこかにアトラスの子午線があることになる。　　だが 1 分刻みにしても ʕ0 本も子午線の候補があり、どこをアルバザードの候補にすべきか分からない。　リディアもそこまで細かい経度を決めてなかったからだ。　そこでこう考えた。「メル暦にとって元日の 0 時は重要な時刻だ。ここを子午線とするのだから、アルバザードはその子午線の中に目立つ恒星を持っていると面白い」　そう。まだアルバザードの正確な位置が決まっていないし、かといって地球のある都市の経度を拝借してはどこがアプリオリな文化かということになるため、都市でなく恒星で決めることにしたのだ。　0<=l<ʕ0 の変域で子午線を考えたとき、その範囲に入る恒星は何か。　それはアルデバランとアルキオーネだ。　つまり 1LΔΔ/11/ʔ0 の 0 時を基準とした場合、アルバザードが地球の子午線αから見て l 度のズレがあるとき、アトラスの子午線上を南中しうる大きな恒星はアルデバランかアルキオーネということになる。　これ、すごく難しいと思う。人工言語屋のやることではない。ややこしいが、上の一行は間違えてないので安心して ϶7。　　多分こういう誤解が出てくると思う。「なんでロンドンから見てズレを数えるの？その時点でアポステリオリじゃん？」 大丈夫。上をよく見て。基準となるのはロンドンではなく地球の子午線α、すなわち任意の子午線。　だから地球の子午線αが ɹL°にあってもいいし、1ʔԎ.Ԏʕ9°にあっても問題ない。なぜか？　それは今はロンドンからの hɔəɥ の差が知りたいのではなく、ある任意の地球上の子午線からの ᴅcnəſe のズレを知りたいからだ。　　例えば観測地点を弄ってフィリピンだのブラジルだの中国だのインドだのにしてみよう。　もちろん時間は 0 時ピッタリに。そのとき子午線はアルデバランを通るか、その左右にブレる。　面白いことに地球上のどの地点から見ても、11/ʔ0 の 0 時はアルデバランの左右を通る。　ロンドンをパクって基準にしようとしているわけではないことがこれで分かったと思う。　　さて、適当な都市を入れて分かっただろうが、子午線はこの日この時、どの都市にしても大抵アルデバランの左右にズレるだけだ。なぜか。　時差というのは 1h 刻みで付けていくが、実際の都市は 1ҏ°刻みで存在するわけではないからだ。

　例えばパリはロンドンから +1h だが､実際には ȷ°しかズレていない。つまり Δᴅ しかズレていない。　時差というのは 1h 単位でしか刻まないが、実際の都市はもっと細かい単位で存在する。　従って同じ 0 時といっても、ロンドンとパリとフィリピンでは子午線の位置がズレる。　ズレる範囲は上記のとおり 0<>l<ʕ0 分だけだ。　　大体どの都市にしてもアルデバランの左右に子午線が来ることが分かっただろう。　で、アルデバランの左右にはカペラとアルキオーネしかないが、地球上のどの都市を入れてもカペラやアルキオーネを通過するところはない。　あ、それは言い過ぎか。ただ、ʔ 恒星のうち、アルデバランが最寄になるケースが一番多いはず。　そこでアルデバランを基準の恒星に考えるのが良いと想像される。　　大体の都市においてアルデバランが最寄の恒星で、アルキオーネを子午線が通過する確率は低い。　例えばパリを入れると 0 時の時点でいい感じにアルキオーネ付近に行くが、通過はしない。　ところがアルデバランはある都市から見るとちょうど通過する。　　そこで、この恒星を通過するところを子午線にしようじゃないかと考える。　で、それがどこか探すと、実はロンドンなのだ。始めのほうで「ありえないことにアルデバランを通過する」と書いたのはそのためだ。

　ある任意の子午線においてちょうど有名な恒星を通過するのがどれくらいレアか数えてみた。　例えばロンドンの本初子午線を 1LΔΔ 年の 1/1 から 1ȷ/ʔ1 まで有名な恒星が 0 時の時点でモロ 1 分のズレもなく南中しているかどうかを調べてみた。　するとこのようになった。

　　1 月 ʔ 日シリウス　×　1 月 1ʕ 日　プロキオン　×　1 月 1Δ 日　ポルックス　×　ȷ 月 ȷʔ 日　レグルス　△　ʔ 月 ȷ0 日　デネボラ　×　ɱ 月 1ʔ 日　スピカ　〇　ɱ 月 ȷʕ 日アークトゥルス　×　Ԏ 月 ȷ 日　リギルケンタウルス　×　Ԏ 月 ʔ0 日　アンタレス　×　9 月 1 日　ベガ　〇　9 月 ȷ0 日　アルタイル　△　L 月 Ԏ 日　フォーマルハウト　×　10 月 1ʕ 日アケルナル　〇　10 月 ȷʕ 日ミラ　×　11 月 ʔ0 日アルデバラン　〇　1ȷ 月 10 日　カペラ　〇　1ȷ 月 ȷ0 日　ベテルギウス　×　1ȷ 月 ȷ9 日　カノープス　×　　くだんのソフトを使って子午線がその恒星を通過しているかを目視して検証した。　恒星内に入っていれば〇、はずれていれば×、微妙に接している場合は△とした。　測定の単位は 1°。星自体に幅があるため、子午線が恒星から 1°未満にあれば通過しているとした。　　例えば厳密にいうと 1LΔΔ/11/ʔ0 の 0 時にアルデバランは西に 0.ȷ°ずれている。　ちなみに 0.ȷ°のずれというのはどれくらいかというと、ɱΔ 秒である。　極限まで考えれば 0.0000°きっちり南中することはありえない。どこかしらでズレる。そこで許容範囲を 1°未満とした。　　1Δ 個有名な恒星を調べたが、そのうち Ԏ 個しか通過しなかった。1Δ では少し甘いので ȷ0 から ȷҏ くらいにしてもいいかもしれないが。　1 年のうちのある日の 0 時の子午線が「基準星にふさわしい程度に有名な恒星」を通過する確率は 1% 台、ȷ%弱である。　　メルの誕生日は 1LΔΔ/11/ʔ0 で固定だ。　そのとき、ちょうど恒星が通過するのはグリニッジやグリニッジから 1ҏ×n 度東西にズレた地点のみである。　言い換えれば、グリニッジからの分のズレ l が 0 であるとき、ちょうどアルデバランを子午線が通過する。　これはかなりレアである。ȷ%もない確率でメルはグリニッジから見たときアルデバランを通過している。凄い偶然だ。　　となると、アトラスの本初子午線と地球の本初子午線のズレは n 時間 l 分と述べたが、n も l も 0 ということになるわけだ。　なんというできすぎた偶然か！　n が 0 になるのは風土の都合上、やむをえない。　だが l は違う。l は 0 から ʕ0 までの変域があり、そのうちのどこでもありえた。　ところが恒星を通過する子午線を探したら l の値はちょうど 0 だったのだ。　　恒星を子午線が通ることもレアな上、しかもグリニッジからの分のズレも 0 というのは、これは神のお告げだろうか。　神がセレンに計算が楽になるように仕向けてくれるというのであろうか（笑　なんともできすぎた話であるが、グリニッジの経度もメル嬢の誕生日もセレンにどうにかできるものではない。　　もっとも、上の表を使って 1ȷ/10 の 0 時にカペラを子午線が通過するから 1ȷ/10 生まれのキャラを小説に出そうというのなら、偶然ではなくヤラセだ。　だがメルの誕生日はセレンには動かせないし、メル暦はネットでさえ数年前から知らせていることで、あとだしジャンケンできるものじゃない。　いや、本当に面白いくらい、偶然だ。偶然だが、アトラスの本初子午線は、地球のそれから 0 時 0 分ずれたところ、つまり同一の線になるということだ。　　ここで但し書き。　上ではロンドンから 1ҏ×n°の地点の子午線はアルデバランを通るといったが、それはあくまで単純計算の上。　実際明石の 1ʔҏ°でやってみると、アルデバランの真ん中をブスっと通らなくなる。なぜか？　それは地球が ȷɱh きっかりで回転していないからだ。1ʔҏ°というのは 1ҏ×L°だから､L ターンも誤差が累積するうち、少しずつ子午線がアルデバランのど真ん中からズレるのだ。　　但し書き ȷ。　ソフトにパリを入れるとアルキオーネのやや右に子午線が来る。　だからアルキオーネが基準星になる考え方もあるように見える。　なぜこうなるのか。　　フランスは 1h の時差がある。つまり ʕ0ᴅ だ。　しかし実際ロンドンからパリの経度は ȷ°しかない。分でいうと Δᴅ だ。Δᴅ ならふつう時差を設けないほうが時間のズレは少ない。　パリはロンドンの時計を見たほうが正確な時間に近い。Δᴅ なのに ʕ0ᴅ の時差を与えているので、ロンドンの子午線から見て Ԏȷᴅ の差が出る。　Ԏȷ 分をソフトでずらすとアルキオーネの右に来るというわけだ。　だが Δ 分のズレならふつう時差を設けないのが自然なので、この位置に子午線を持ってきて「アルキオーネが近くにあるからアルキオーネ基準でいいじゃん」

というのは不自然だ。　　ある子午線αから 1ᴅ ズレたところに時差 1h を設けることは、社会的には国家の都合上あるかもしれないが、正確な時間を表すには不自然である。　ある子午線αから 1h の時差を生じさせるには、αから± ʔ0ᴅ の距離以上離れた場合が、見かけ上の時刻と実際の時刻の差をなくすには好都合だ。　ロンドンから東に 1ᴅ 離れたところに 1h の時差を設定し、東に ⱡLᴅ ずらして「カペラが子午線近くに来るから基準星にしよう」というのは、不自然だ。

　異世界ψの本初子午線は地球の任意の子午線αからl分のズレがある。　この際、l の変域は 0 から ʕ0 だが、l の位置はαを中心として左に ʔ0、右に ʔ0 となるのが自然だ。　もし右に ⱡ0 となれば、それは子午線βから見て左に 10 というほうが早くなる。　子午線αはψにとってどうでもいい存在なので、最寄の子午線を選ぶため、右に ⱡ0 ならβから見て左に 10 というだろう。　となると結局 l はある子午線の左右 ʔ0ᴅ ずつの幅を取るし、ψの本初子午線は任意の子午線の左右 ʔ0ᴅ のところに存在するわけだ。　　もちろんこれは分のズレを見るときだけだ。hɔəµ のズレも見るときは任意の子午線ではまずい。　今は分のズレを知りたいからこうした。　　さて、となるとロンドンを通る子午線も任意の子午線のひとつだから、アトラスの本初子午線はここから見て左右 ʔ0ᴅ の範囲にあるのが自然だ。

　だがアルキオーネは –ɱLᴅ のところにあるので、ʔ0ᴅ を越えるから入らない。　もしアルキオーネが入るとしたら、それはロンドンの 1ᵽ°右（＝西）の子午線から見て +11ᴅ になる。　つまり、アイルランド海岸を通る子午線から見て左（東）に ∆ᴅ となるわけだ。　　で、上記のとおり、今どの子午線を使うかについてはロンドンのものを使うと分かっている。　アトラスの本初子午線はロンドンから見て n 時間 l 分ズレているが、風土の都合で n は 0 である。　0 ということはロンドンの子午線を基準とし、l 分のズレがどれだけあるかを見ることになる。　l の範囲は左右に ʔ0ᴅ ずつなので、ɱLᴅ のアルキオーネは入らない。　　アルキオーネは西経 1ᵽ°の子午線、n=Jʔ の子午線のエリアに含まれる。この子午線から見て 11ᴅ である。　だが n=0 の子午線にはアルキオーネは含まれない。　含まれるとするなら、パリのようにたった ∆ 分しか離れていないのに ʕ0 分の時差を設けるような国を設定するしかない。　が、上記の通りそれは不自然だ。社会的に不自然ということとか、だから変えろということを言ってるのではない。　パリで時計を見るなら、ロンドンから ʕ0 分引いて ⱡJ 分足すより、ロンドンから ∆ᴅ 引いたほうが早いだろ？ということを言っているに過ぎない。ロンドンから ʔ0ᴅ 以上離れればようやく時差を作る理由が分かる。　　アルキオーネを含むためには ɱLᴅ のズレがないといけないが、ɱLᴅ はもはやロンドンの子午線の範囲外で、1ᵽ°隣の子午線の範囲内だ。　だが、経度が n 時 l 分の地点で 1L∆∆/11/ʔ0 の 0 時の夜空を見たとき、アルデバランからのズレは n は関係ないので、l だけが関係ある。　このとき、l は左に ʔ0、右に ʔ0 の範囲を取るため、アルキオーネは入らない。　アルキオーネを入れたいなら、n 時 l 分の地点で、1L∆∆/11/JL の Jʔ 時の夜空を見なければならない。　これが可能なのは、パリのように「ほぼ数分しかズレていないのに ʕ0 分の時差を設ける国」であるが、そのような不自然が成り立っているのは社会的な理由であって、天文的にはロンドンから見て ∆ 分のエリアに入れ、時差を設けないほうが自然。つまりだ。アルキオーネが基準星として入ってくるように見えるのはパリのように「ほぼ数分しかズレていないのに ʕ0 分の時差を設ける国」がある場合だけという結論になる。　そりゃパリの時差が妙でもまかり通っているのは社会的な理由があるからだ。天文的な理由ではない。国家の問題でそうしているだけだ。　ここ、重要。アトラスはアプリオリなんだから、ロンドンの子午線にこだわる必要はない。–ɱLᴅ もズレていたら、隣の子午線のエリアに含めて +11ᴅ の差と考えるだろう。わざわざ –ɱLᴅ とするのは、ロンドンにこだわっている証拠だ。　だがアトラス人から見てロンドンにこだわる必要はない。もちろん n の値では 0 にしたが、分のズレを見るときにはロンドンは関係ない。　どの子午線を使おうと構わないなら、–ɱLᴅ の場合は隣の子午線から見て +11ᴅ と数えるのが自然だ。　　以上から、分の差が ʕ0ᴅ の範囲というのは、ある子午線から見て左右に ʔ0ᴅ ずつとなる。　今は n=0 なのでロンドンの子午線から見る。そしてロンドンから左右に ʔ0ᴅ ずつの範囲にはアルデバランしか恒星がない。　だからアトラスの本初子午線がこの範囲にあるとしたら、その中にある恒星はアルデバランのみ。　ではこれを基準点にしようというわけだ。　　アルキオーネは前日 Jʔ 時の世界なら基準星になれた。　「経度の違いがたった J°つまり ∆ᴅ なのに、なぜかʔ時間も時差を設ける」という国を想定すれば、子午線はさらに遠くの恒星に近付く。　だからってこれを以って 11/ʔ0 の 0 時にアルマクやミラクを基準としようなどとは誰も考えまい？　アルバザードの子午線がどこか分からないとき、0 時に見た夜空の 9ʔᴅ やら 1∆ⱡᴅ のズレがあり、そこにアルバザードの子午線があるとは誰も考えまい？ 1ʕ9ᴅ とか言われると「あぁおかしい」と思うのだが、ɱLᴅ くらいならなんとなく騙されてしまうのが不思議だ。アルキオーネは基準になれない。

　アルキオーネが基準になりうるというなら、この理屈でアルマクやミラクだって基準になれるではないか！　∆ᴅ しか離れてないのに時差を 1∆0ᴅ も設ければ、そりゃミラクだって基準になれる。　　もちろん社会的なことを言えば、そういう国も実在するかもしれない。

　正確な時刻よりも国家としての時刻のほうが重要だからね。それにケチはつけない。　だがアトラスは地球の社会など知ったことではない。　ɱL 分離れたアルキオーネを「範囲内、範囲内」と呼ぶのは、いかにもロンドン視点で考えている。　そんなアルバザード人がいるもんか。　　もしレインが地球にワープしたら、ɱL 分も離れているアルキオーネは右の子午線から見て 11 分と考えるだろう。　だがレインがロンドンびいきなら、ɱL 分離れていてもアルキオーネをロンドンから見て ɱL 分というだろう。　しかしレインがロンドンをひいきする理由はない。　　今知りたいのは、ロンドンで 0 時にアルデバランが正中しているとき、架空の国アルバザードではアルデバランから左右にどれだけブレているかの話だ。　分のズレだから、変域は ʕ0 分。ということはアルデバランから見て左右に ʔ0 分ずつのどこかにアルバザードの子午線があることになる。　右に ɱ0 分ずれたら、それは右の子午線にとって左に J0 分になる。だが n は既に 1 でなく 0 で固定されているので、「右の子午線にとって」の部分は実行不可能。　それはアルバザードにおける JL 日の Jʔ 時の世界になってしまう。　そう、もしアルキオーネを基準星としたいなら、Jʔ 時に観測しなくてはならないわけだ。　　・どうやってアシェットはイムル 1ᵽ∆∆ 年の空を観察したのか　　頭の痛い話はやめて、神話に戻る。　アシェットは 1L∆∆ 年、イムル 1ᵽ∆∆ 年のメルの生まれた夜空を元に星図を決めた。　だがこのときセレンは 9 歳で、まだ地球にいる。リディアは ɱ 歳で、サプリにいる。　明らかにおかしい。イムル 1ᵽ∆∆ 年の夜空をアシェットはどうやって観察したのか。　　これはメルが時魔道士だからだ。　イムル 1ʕ00 年以降に星図を作る話が出た。　　で、ȷʃelli ʃheiʃeµ みたいなシュミレータがこのときはないかもしれない。　リュウが作っていればあるが、作ってなければないだろう。　　そしたら時魔法で 1ᵽ∆∆ 年に戻って観測するしかない。　アルバザードから見えない南天はパールのワープ魔法で南天に飛んで観測するしかない。　だが、神話的にはどちらもありえるので説明がつく。　　　さて、また天文に戻ろう。　アトラスの本初子午線は、メルの生まれた晩にアルバザードから空を見上げたときに恒星がちょうど南中したところである。　言い換えればアルバザードという国はメルが生まれた晩に恒星が南中する国である。そしてそれがアルデバランである。　なぜ恒星が南中する部分をアルバザードにしたかは上述のとおり。　アルバザードの細かい経度が決まっていないのと、メル暦がアトラスにとって特殊な日であることのアピールのため、せっかくだから最寄の恒星が南中する位置に建国しようとしたから。　もちろんアルバザードという国はアシェットより先にできていたわけだから、アルデバランが都合よく南中するのはご都合主義だ。　　だが、完全にご都合主義ともいえない。なぜか。　アルバザードはそこそこ広い国だ。　そしてこのときアシェットは星図の基準点となる星を決めようとしていた。　そこで、基準となる恒星が 0 時に南中する地点を本初子午線が通る地点にすればよい。　こうすればアシェットがアルバザード国より後に起こった団体であっても、ご都合主義でなくアルデバランを基準星にできる。　　で、実際アルバザードのどの地点を本初子午線にしようかという話になった。　王都アルナを南中するというのはいかにもできすぎた話だ。　ここまでできすぎた設定を一度も使っていないので、せっかくだから今回はもっとアプリオリにしてみたい。　そこで、アルナは避けてみよう。かといってアルシアだカテージュだサプリだワッカだアシェルフィだと枚挙に暇がない。　　さて、どうしよう。

　逆に候補がありすぎて決められなくなった。　ランダムに決めるわけにはいかないだろう。アプリオリという点ではランダムでもいいが、今度は逆に必然性を失って、神話としてつまらなくなる。アプリオリだからといっていくらなんでもランダムはつまらない。候補がいっぱい出てきたので、これは流石に何かの理由を付けた方がよさそうだ。　　そこで、アシェルフィにしようと思う。理由はこれら。　　1: アシェットの本拠地だから　J: アルナで観測したということはアルナ城で観測したことになるが、それは常識的に無理。城外ならアリだが　ʔ: 天文学についてこの時代で活躍したのは上記の流れから行くとアシェットで、担当はリュウ。となると本拠地アシェルフィで観測するのが妥当　ɱ: 地球との兼ね合いを考えると、ロンドンの経度がアルナだとすると、これまでの想像より西寄りになってしまう。アルナの印象はもっと東。そこでアルナの西にある都市のアシェルフィを観測地点にすれば、首都アルナ自体は少し東にずれられる。これは明石と東京のような関係。　ⱡ: そもそもアルナを通るのはできすぎて見えるｗ　　というわけで、アトラスの本初子午線はアシェルフィを通ることに決まった。　1L∆∆/11/ʔ0、アトラスでいうメル 0 年リディアの月リディアの日（イムル 1ᵽ∆∆ 年）の 0 時に、アルバザードのアシェルフィ（北緯 ɱʕ.0°、西経 0°）に立って南を見たとき、ʕ0.∆°の仰角で、アルデバランが南中している。　そしてアルデバランが星図の基準星となり、アルデバランを通る子午線が星図の境界線になる。　　なお、地球に投影すると、アシェルフィの経度が奇跡的に 0°のズレで、緯度は赤緯 ɱʕ°になる。　従って、フランスのポワティエのやや南西がアシェルフィになる。　アルナはこの東だから、リモージュくらい。　　アルナは µɑ のときにどれくらいの範囲があったんだろう。　街と街が地続きではないし、疎な土地だったから、ソエンの谷まで北に J0 ～ ɱ01ᴅ はありそうだ。　となるとソエンの谷は ꝜXϮFEϮƎΦƎA卄ϮꝜ らへんのようだ。　http://maps.google.com/maps?sourceid=navclient&hl=ja&ie=UTF-8&rls=RNWE,ӾAΘE:J00ʕ–ʔʔ,ӾAΘE:sı ɜ=ɗhıʃeıədɔnjıɗ əᴅ=1 jı=A ʃı b=ol　　で、どんなところなのかとウィキ。　http://en.wikipedia.org/wiki/Ch%C3%A2teauponsac　　うぉう！人口 J000 人！？無理！絶対旅行できない！向こうでレンタカーして右車線を走るしかない。き、きつ……。　　ソエンでクリスに会い、そこを越えたザミアでギルに会う。ザミア森林もこのあたりか。　　また、セレンとリディアが神話で出会ったのはサプリだが、神話ではサプリから歩いて東のアシェルフィの学校に行っている。　せいぜい ⱡ1ᴅ ～ 101ᴅ しか離れていないだろうから、サプリの位置も大体分かる。

　僕の感覚だとアルシアはアルナの北西で、フランスのルマンのあたり。　このあたりは陸半球の中心で本初子午線も通るため、アルシアは何気に本初子午線と陸半球の中心の交点にあったりする。

　ケートイアのアデュはどこだろう。アルシアは北西に行くが、アデュは北だ。　高さはアルシアくらいか、それより高いところだろう。となるとパリくらいか。　　アデュを越えてケートがロンドンくらい。ユーロスターでいけるね。　実際にはロンドンの東かな？そこを越えるとヒュートか。ダブリンくらいの緯度だろうか。　そこを越えてイネアート。なるほど、ちゃんとノルウェー程度の緯度だわ、確かに。リディア、孔明すぎるｗ　　で、そこを越えるとセルヴァートの緯度。ラップランドくらいの高さかな？　神さま、逢瀬の場所寒すぎですｗ　ある意味がんばって熱を出してくださいｗ

　　さて、アルデバランが基準となると、eµcn 列はアルデバランを含む子午線の東側 ɱ0°までの区間となる。オリオン座の方向だ。eµcn 列は赤緯 –ʕ0 から始まる。アトラスの本初子午線と赤緯 –ʕ0 の交点は「かじき」の星座線中腹にある。　この交点から緯度は 1ɱ°、経度は ɱ0°の範囲を取る。アルカは基本的に横長の星座だ。　　する

とカノープスを含んだエリアになる。ここが第 10 天の ɑcınȷe 座になる。　すなわちカノープスは ɑcınȷe 座に含まれる。　缶詰のパイナップルのわっかのようなものを考えると、ɑcınȷe 座はその一部となる。
　そのわっかの残りの部分にはほかの ıȷcı の ɑıcɑı 列が入る。　そのわっかのひとつ外側の大きいわっかには、ıȷcı の dıµnı 列が入る。　このようにしていけば、星座はすべて求められる。　ɑcınȷe 座の範囲を添付しておく。　カノープスが含まれている。　青く囲ったところが ɑcınȷe 座。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/seiza.jpg

lcɑıµ ［魔物］リファル（光魁）：第六十一天：光の否天　［レベル］5　1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:lcȷ/dıµʃ　［文化］　光る大きな塊。獲物を発見すると光をどんどん強くしていき、やがて蓄えた光を辺りに放射する。光の魔法であり、照射されたものを焼き尽くす。蓄える前に倒すか、さもなくば逃げるべし。

lcɑe ［動物］ヒトデ、海星、スターフィッシュ　［レベル］3　lıllʃı:lcɑe,lccɑı（星）/elc（魚）

lcɑeʃ ［名詞］引き立て役　［音楽］オブリガード、オブリガート　［動詞］ɥəl を引き立てる、引き立てる、引きたてる、目立たせる、際立たせる　［レベル］3　ℷ1:lccɑı。月を引き立てるもの

lcᴅ ［言語］音韻、音素　［レベル］6　1L: 恣意　［語法］　音韻は何にも入れないか // に入れる。音声は □ に入れる。これは地球と同じなので覚えやすいはず。［文化］　<音素の歴史>　・ɑ_µɑ　ɑ で ȷıµʃ が作った２４子音５母音の２９音素体系が最初。　ɑu は彼らが分裂などしてできた神々が使った言語であるため、音素は ɑ から継承。　µɑ は ɑu と同一の言語で、時代が異なるだけ。人間と違って成員が入れ替わらないため、音素は保持。　ここまでから、ɑ=ɑu=µɑ=ⅡL と分かる。
　・シージアとレスティル　ȷz や ɑµɑ は寿命を持つ人間の言葉で、しかも神と別々に暮らしているため、当然時とともに音素が変化する。つまり ɑu にない音を持つ。lɥ_ıµ も同様。　神々は ʃᴅ でレスティルに住んでおり、ɾlu 後も実質宗主国として現代まで影響を強く及ぼしている。zφ では神人貿易も盛んであった。そのためレスティルはシージアより神との繋がりが強く、ɑu_µɑ の影響が強い。つまり変化の度合いを ȷz と同じに設定するのはおかしいということになる。単語と音は変化すれど、その度合は ȷz_lʃ より小さくなければ辻褄が合わない。→ lılcʃ　・lɥ_ıµ　ɑu_µɑ に近い音素体系であることが予想されるが、人間の言語なので変化がないということもないだろうと予想される。なのでそのように作る。　・階層による位相差　階層による位相差も考える必要がある。　高官や商人は神と直接交流があり、信仰度が強い。神から授かった音をおいそれと変えることはないし、そもそも変えても不便なだけなので、むしろこの層は自発的に変えたがらない。　一方庶民はそんなこと知ったことではないので言いやすいように勝手に変える。これが彼らの生活を考えた上で出てくる違いで、リアリティの種となる。　結果、上流と中下流で音素の乖離が起こる。　これは地球でも存在するパターンで、階層によって発音が違うことはままある。　以下では lɥ_ıµ の音素の変化例を見る。　・ȷ と ʅ の交替　lȷɑ で起こった音の変化。ȷ と ʅ が入れ替わった時代がある。根拠は ȷccnı。　ɑ では ʅccnı<ʅc/nı。ɑµɑ と lɥ でも ʅccnı で継承。しかし lȷɑ 初期までに ʅccnı が失われる。　その後 lȷɑ 中で ȷ と ʅ が交替。そしてこの時代に古語の形態素を用いて ʅc/nı>ȷccnı ができる。ずっと生きている人から見れば２回同じ形態素から造語しただけに見えるが、長い時を経て同じ形態素が二度使われただけで、当人らは事情など露知らずということになる。　後期 lȷɑ に再度 ȷ と ʅ が交替。つまり「戻し」が起きた。　「戻し」なのだから、最初の交替後に起きた語には再交替を適応しない。　そこで ȷclə と発音されていた単語は ʅclə に戻っても、ȷccnı はママとなる。　それが ıµ や ı に継承され、現在に至る。
　「好む」が ʅccnı でなく ȷccnı なのはこのような歴史的に複雑な事情がある。異世界の言語学はここまでやる。　世界を作るということは歴史を作るということで、共時的な考察だけでは限界がある。
　加えて言えば現実の古アルカで ȷccnı が ʅccnı でないのはまたさらに別の理由があり、現実と虚構を別々に覚えねばならず、大変である。よくファンタジーをやっていると空想と現実の区別がつかなくなると言う人がいるが、リアルファンタジーだと逆だ。現実の学問ありきでそこにファンタジーを矛盾なく加味していく作業なので、虚構は虚構と分かっている人でないと難しい。　・響字の音素　響字は学者らがベルト監修の下で作った。彼らは上流なので µɑ の音素を積極的に使う。　つまり響字は上流階級の音素を表す。日本の平安時代と同じで、庶民の言葉はほとんど記録が残っていない。　極端なことを言えば、もしかしたら庶民は ıuelınʃ を「アッチェレント」のように発音していたかも分からない。　現代感覚ですぐ紙に書けばいいと考えるのは歴史的考察が足りない。この時点での庶民は筆記用具を得られないし、文盲だ。　・教育と乖離　上流と中下流との乖離は ȷᴅ になって教育事情の発達とともに縮小する。　教える側は学者で、学者は響字を作った階層である。従って乖離は上流側に引き寄せられる形で縮小する。　しかし下流は満足な教育を受けられない。そこで ȷᴅ 以降は上中流と下流間の乖離となる。　要するに中流を引き上げただけだが、マス層の引き上げは意味が大きい。その言語で実際に使われている音素を言えと言われたら通常マス層のものを挙げるからだ。　ȷᴅ 以降は庶民も筆記用具を得られる層が出るが、その層が既に上流と同じ音を使うようになっているので、結局下流の発音は地球の言葉と同じく確定できない。　「下流は ˥ を ȷ と発音するようだ」など、当時の文献で残っているものの中から根拠になる記述を探さねばならないが、そう都合よく見つかるものでもない。　・µɑ 以降　µɑ 以降は神が表社会から去り、アシェットという求心力もなくなる。　さらに庶民も当たり前のように紙に文字を書くようになる。　ıµ も ı も好き勝手に国民が音素を変化させる。　・革命　革命前の ul では ı も３００年以上経過しているので、当然音素がそれなりに変わっている。　もっとも音素というのは単語より遙かに長いスパンで緩やかに変わるので、３００年だとしばしば短いくらいだ。とはいえ３００年でがらっと変わるケースも地球の言語にはあり、３００年でどれくらい変化するかはしばしば判じ得ない。　具体例を出すと、革命前は ıʅel と書いて「アジェル」と読むようになっていた。ısel だと「アイェル」と読む。　˥ıcʃ は「ケート」と読む。二重母音も変化が起こっている。
　原理主義者のミロクは µɑ で最初に作られた音の設定を正式と考え、書いたとおりに読むように教育を施した。この背景には、上流階級ほど保守的で３００年とはいわないまでも古めかしい音素体系を保持していたという事情がある。日英などにも一端が見られる。
　同時に、英雄たちの使った言葉に戻すことで、悪魔を倒して平和をもたらした時代へ回帰しようという政治的イデオロギーを打ち出している。　言論を操れば思想を操るのも容易い。人の精神をどう喰らうかミロクはよく熟知していた。上流ほど保守的で未来と過去に明るく、下流ほど似非革新的で目先のことしか見えない。上流の趣向に合わせつつアルティス教の原理を盛り込んだ精神支配がこの教育の背景にある。　学術機関やメディアを使って矯正されると国民の大半は矯正される。ただし老人や下流や田舎ほど矯正しづらい。　いくらミロクが偉大な革命家だろうが、「一人残らず矯正できました」というのはいかにもご都合主義くさい。作者が方言や位相を作るのが面倒で逃げた感じがする。　現実問題８０の老人が発音を今更矯正できるかという話だ。器用な老人ならまだしも全員だ。現実的ではない。　そこで矯正できた部分とできなかった部分を両方作り、田舎や下流などに元の発音を残す。こうすることで世界はリアルになり、深みを増す。　・ȷz_lʃ　ȷz_lʃ も同様に音素が変化している。　zφ までは文化の坩堝で革新的な国で、神の影響も少なかったため、ɑu_µɑ との音素の乖離は lɥ_ıµ より大きい。　・ɑ とΦと h　ȷz_lʃ の音素の変化例を挙げる。　前期 ȷzɑ で ɑ →Φ。例えば ɑıc がΦ ıc に。　後期 ȷzɑ で ɑu から輸入したものは ɑ のまま取り入れ。結果 ɑ とΦが別々の音素として確立。元を辿ればどちらも ɑ なのに、取り入れた時代によって ɑ かΦか変わる。当然 ȷz 土着の新語にはΦの入る単語もできるようになる。　zφ で響字ができる。ɑ とΦが別の字として登録。このときは h もある。　ᴅʃ で h が発音されなくなる。響字上では書いていたが、発音されないので ᴅʃ 後期で h が ' になる。'ɔµeʃʃ などが例。　ȷᴅ で h が発音されるようになる。h が記述の上でも戻るが、' の付いている単語については既に 'ɔµeʃʃ なら「オレット」で耳が覚えているので戻さない。あくまで外来語や新語で h の付いているものだけ h を発音する。　これは当たり前だ。人々は生きている。'ɔµeʃʃ で耳が覚えているのに「ホレット」に戻すはずがない。机上の空論だとホレットに戻ったように感じられるが、彼らの生活を想像するとそれはありえないと分かる。
　日本語の「母」も「パパ」から「ハハ」へ変わったが、その後入ってきた d は d のまま発音される。パリをパリと発音するからといって今更母をパパに戻すかというとそんなことはありえない。オレットもそれと同じだ。　ȷᴅ で再び ɑ →Φ。Φ一色となる。　後期 ȷᴅ で理字ができる。ɑ はこのときないので、ɑ の文字はない。竜字や幻字に転写するときは先方の ɑ の文字で転写する。例えば幻字だと ɑɔʅ の字で示す。　・塔字（アルハノン）　→ hıɾl　ʃᴅ で clhınɔc によって考案されたアルハノンは響字とは完全に独立した表音文字である。
　ただ、幼字から脱却したという歴史を持つ以上、幼字をベースに持つ。　ハングルに近い文字だが、ハングルとの違いは文字のデザインがアポステリオリだという点である。　ではアプリオリの表音文字はアトラスにないのかというとそうでもなく、例えば幻字がそうである。　アルハノンはメティオを中心に境方や魔方で使われている。　つまり ıµᴅeʃcı は竜字・塔字・理字でできているわけだ。そこに幻字が加わることになる。　子音字は無子音入れて２５で、母音字は５。　文字の形と順序は以下のとおり。d,b,ʃ,ɑ,˥,φ,ᴅ,n と進む。
　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonamiso1.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonvesto.jpg　このころは音声学は存在しないが、調音は内観できる。clhınɔc は内観に基づいて調音点が前寄りのものから配列した。　調音法は頻度の高い順に並べ、閉鎖、鼻音、摩擦、流音、半子音とした。　µɑ で音声学を立ち上げたセレンはこの順序を響字より体系的な配列と評し、ɑeeʃeɑı 作成の際に参考にした。　幼字のデザインをいかに塔字に組み替えたかは以下を参照。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonamiso2.jpg　幼字とアルハノンの対比。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonkempe.jpg　・響字の数　響字は５０文字。子音３５の母音１５。うち２９文字は µɑ,lȷ で使う。lȷ などには２１音が欠けることになる。　ほかの参加国らの言語がこれら２１音を分散して持つ。例えば ȷz にはΦの文字がある。　ところでこの５０という数は現実的には何が根拠となってどこから来ているのか。『アルカ』ｐ６７の『制アルカオノマトペ』のリディアの試算に子音３２母音５の３７音体系というものがある。これは『制アルカオノマトペ』ごろのアルカの音素の体系である。　３７には半子音 ɥ,o がない。ɥ の代わりに ｊ があり、o に当たるものが含まれていない。子音としてカウントされていないし、母音にもカウントされていない。しかし古には ɥən˥ や oı のような単語があるので半子音がないわけがない。そこで ｊ を ɥ と捉え、本来あるはずの o を入れ、都合３８音とする。
　ところでこうして見ていくとドイツ語のｉｃｈのヒの音がない。古には辛いのヒなどにこの音があり、制新生も ʃch などに現れる。ハのｘを音素としてカウントするならヒもカウントすべきだろう。そこでヒとその有声音を加え、３５とした。　これを響字とすれば現実を巧くリサイクルできるが、母音５というのは当時の響字参加国の全母音としては少ない。そこでｐ６５の『制定語彙』の母音リスト（１５音）を採用する。すると母音５から１５になるので１０増え、合計５０字となる。ちょうどキリも良い。これが響字として ℷ1 に採用された。　一方 µɑ,lȷ の音素２９は、ｐ６７のメルの主張を元にセレンが制の時代に作った新生古から来ている。　両方ともそれなりに人工言語にしては歴史のある設定といえる。　・響字のデザイン　響字は幼字の読みを利用して音声表記に用いたもので、当時は ɑu が中心的な言語なので、ɑu の音素がベースとなる。例えば ɑcı の幼字で d を指す。ɑu の２９音はこのように単純に幼字から引っ張ってくる。　一方 ɑu にない音は ɑu にある近い音の文字をアレン

ジするか、何らかの言語でその音を含む幻字で示す。あるいはゼロから別途作る。　　例えば前者の例としてこのようなものがある。αccnı は ȷz ではΦ ccnı と読まれる。Φを含む字で最も頻度が高いことから、αccnı の幼字をΦの表記に用いる。つまり αccnı の幼字をΦの響字として用いる。　もちろん αu では αccnı の幼字は αccnı と発音される。α を指す響字は αıc の幼字なので、αccnı という幼字の音を指すのに αıc を使い、αccnı を使わないことになる。αccnı の幼字が f でなくΦになるのは αu だけで見るとややこしいが、幼字を活かしつつ国際的に使うことを考えるとこうなる。　ならー から表音を作ればいいのにと思うのは現代人であって、それはまだ幻字の誕生を待たねばならない。どっぷり幼字に使っていなかった ılhınɔn だけは早々表音文字に辿りついたが、幼字ありきの神々にその踏ん切りはつかなかった。　とはいえアルバザード人は神ではないので自分の言語にない音を使う気はベルト会談から離れるほど無くなり、結果これが竜字を生む。にしても響字の崩しなので、純粋な表音はやはり幻字を待つことになる。徐々に歴史が進化していて面白い。
　一方、後者の例としてこのようなものがある。両唇入破音は lɥ 建国後の αɰα に見られる音で、αıɰαıncı が響字参加国だったために響字に存在する。この音は αu にはない。この音はしゃっくりを意味する dıφ という語の d の部分に来ている。αu でしゃっくりは ɾdɔlɔſ で、幼字表記は ɾdɔlc/ſeeze（乱れた風）である。そこでこの２文字を組み合わせて１字にしたもので両唇入破音の響字とした。これがデザインを別途作った例である。　　・響字の配列　　響字のころは音声学がまだないため、体系的な配列はできない。　しかし調音点と調音法は内観できるため、ハングル同様後の音声学上の特徴を使ってある程度規則的に配列できる。　　子音について。　まず調音点は最も頻度の高い歯茎を中心とする。次に歯茎の前の歯音、次に歯茎の後ろの後部歯茎。　このように、歯茎から近い順に前後ろの順で並べていく。前優先なのは αu で前寄りの音の頻度が高い傾向にあるためで、この傾向は時代の遠く離れたアルカにも継承されている。
　調音法は閉鎖・摩擦・鼻音・流音等の順である。　無声は対応する有声の先に来る。　　母音について。　前側から徐々に後ろへ向かう。非円唇が対応する円唇より先。『アルカ』ｐ６５に倣う。　具体的には以下のとおり。　左端が幻字での転写。その右が響字。その右が音声。この音声のうち例えば αu は２９種を音韻として選択する。右端はその幼字の本来の読みで、基本的に αu。　半子音だけはＩＰＡだと分かりにくいので音韻で示した。ヤ行とワ行である。
　　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma1.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma2.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma3.gif　　ıɰlınſcȷ で打てるようにアクサンテギュしか用いない。ſ,ɷ 以外のすべての幻字のアクサンを用いている。２６＋２４で正しく５０となる。　このように、響字は ıɰlınſcȷ で表記できる。ただし幻日では α,αu_ɰα,lɥ_ıɰ,ȷz_lſ の母音については長短を区別しない。これらの言語で ʅeeſ といえば響字的には ʅEEſ だが、これらの言語について述べるときはこれらの言語の音韻を用いて ʅeeſ と表記する。　　子音についても α,αu_ɰα,lɥ_ıɰ,ȷz_lſ の ɀ 以奥の h 以外の摩擦音についてはすべて X の音韻を用いる。響字的には hınɔc は ʔınɔc と綴るべきだが、これらの言語では Xınɔc と綴る。また、ı では X すらないので h となる。つまり hınɔc と綴るし、ſch と綴る。　また、ȷz_lſ には α,u がなく ɥ,∀ しかない。ulınɷ や euı の響字的な綴りは ∀lınɷ や e∀ı であるが、ȷz_lſ と分かっている状況では α,u で転写する。ȷz_lſ には α,u がないので混同はせず、ȷz_lſ の ɥ,∀ はどのみち ıɰ,ı では α,u に転写されて入ってくるので問題ない。ただ、正確な音は ɥ,∀ だとは覚えておくべきである。　　響字の示す音声を示す場合は □ に入れる。例えば ȷzʅ の時代に uəſ と書けば読みは [∀əſ] であるが、同じ綴りでも lſ では [∀Ɵ] となる。　同様に ulınɷ,ȷz の発音は [∀lnɷ] となるが、ulınɷ,lſ は [∀lɬnɷ] となる。　響字が音声と同時に音韻を指したのは初期だけで、時代を経て言語が変化するに従って音声と音韻が乖離していく。綴りが残って音声だけ先走って変化するのは言語学の常識で、響字や竜字や理字でも同じことが起こる。　　具体的な文字の順序について。　まず歯茎の ſ,ɷ が来る。　次に同位置の摩擦で ȷ,z。　次に鼻音で n が来る。鼻音は n と ᴅ しかないため、ここで先に ᴅ を割り込ませてまとめる。　流音４つが頻度順に並ぶ。　前側の歯音に移って ʉ,ƶ。　後ろ側の後部歯茎で l,s。　前側の唇歯に移って α,u。　後ろ側のそり舌で ꬱ,§。余談だが、日本の §ıdın は中国語のリーベンから来ているが、どうもこの音はリーではなくジーに近く、この § の音ではないか。とするなら響字で § となっているのはそれなりに音声的に合点のいく話である。
　両唇に行って d,b。　ここは摩擦の先にその他の音を割り込ませ、d の入破で ɸ と、b のふるえで B。d,b と関連付けるために割り込ませている。　摩擦で ɥ,∀。　硬口蓋で ɥ。　　以降は後ろ側しか残らないので前後前後という均衡が崩れ、比較的前寄りの軟口蓋から順に後ろへ。　まず ʅ,φ。　その後イレギュラーだが、硬口蓋摩擦の ɀ,¥ が来る。順序が崩れているのは、ハ行系摩擦音をここから最後まで通すため。¥ は調音点が同じなので覚えやすい。ɀ が来ているのは幻字のデザイン的に ɥ を引っくりかえしたものが ɾ だからであって、ɾəʅ の音とは関係ない。ただ、ɾ だと読者はドイツ語の ｉｃｈ などと絡めて覚えられるかもしれない。　次に摩擦の ʔ,Ψ。幼少期のメルが hınɔc を ʅınɔc と言ってたのが懐かしいが、こうして ʔ という表記ができると音声学的にも現実的にも響字的にも合点がいく。　残り h にかけて X,ӿ,h と進む。　　母音は上述のように、前側から進む。ccɰe の c と cd の c は αu でも音声が異なる。αu で長母音と短母音は音声が異なる。αu の母音は５だが、長短を区別すると１０弁別できる。あと５つをほかの文字で回す。　ちなみに αu や lȷ の場合、音声上では母音の長短を区別するが、音韻上では同一視する。従ってこれらの言語の響字では５つしか母音字を使わない。すなわち c, e, ı, ɔ, ə である。　　・節字　　→ hıɾ　節字はＣＶの音節文字で、仮名を想像すればよい。　無子音含め子音１９の母音５で、ここから ɥc と oə を引いた９３字が節字である。　そのほか撥音記号などが数点加わる。　　響字のアンチテーゼとして作られたため、幼字が元になっているのは響字と同じ。　　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/veel.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/veel2.gif
　・竜字の数　　ȷᴅ でできた竜字は ıɰ の音素を反映して２９字である。子音２４の母音５である。　　・竜字のデザイン　　→ hıɾ（・ペンと筆、・デザインと国民性）　　竜字は主に商人や役人がペンで繋げて書きやすいよう崩していったもので、地球でいうとアルファベットの筆記体のような崩れ方をしている。　繋がりをよくするために、左中央の高さに起点があり、右中央の高さに終点のある字が多い。起点と終点の位置を守るためにむしろ響字より冗長にする場合すらあるが、それは結局一文字一文字の合理性ではなく全体の書きやすさという合理性を活かした結果である。　　ɷ のように変わらないもの、z のように繋げて書きやすくしたもの、ᴅ のように回転させて書きやすくしたもの、T や X のように複雑に崩したものなど、崩し方は多彩である。　　・竜字の配列　　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/abram.gif
　響字を元にしているので、文字の順序は響字と同じ。　ただし響字のうち竜字にないものはスキップすることになる。　音韻は α,αu_ɰα と同じで２９。上でも述べたとおり、母音は音韻上では長短を区別しないが、音声上では区別する。ʅeeſ と ʅeſ では音が異なるが音韻は同じ。響字的にいえば ʅEEſ という発音でも、竜字の音韻上は ʅeeſ と表記する。　　響字に比べ、そり舌がなかったり、h を除く ɀ 以奥の摩擦音が X にまとめられていたりといった違いがある。　　・理字の数　　ȷᴅ でまとめられた理字は竜字より１つ多い３０字である。子音２２の母音８である。　　・理字のデザイン　　→ hıɾ（・ペンと筆、・デザインと国民性）　　理字は響字の一部を切り取ったいわばカタカナ的な文字である。　竜字と違い、繋げ文字前提ではない。ただし理字内に草書のような繋げ字風の書体は存在する。デフォルトではこのようなルーン文字を彷彿とさせるブロック体である。　竜字と独立した崩し方を発展させていったが、画数の少ない字の形など数に限りがあるため、竜字と同じデザインになった文字もある。　ただ、示し合わせてないので当然音は一致しないことがある。例えば x のような字形の文字は双方にあるが、音が異なっている。混乱に注意したい。　　・理字の配列　　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/tiaram.gif
　こちらも竜字同様、響字から理字に存在しない文字を落としていって文字を並べる。　竜字に比べてラ行が２つと少ない。α,u がないのが特徴で、代わりに ɥ,∀ がある。e∀ı（雪）は日本人なら日本語のまま「えぶぁ」と発音すればよい音である。　母音は竜字より多く、８母音ある。　　・幻字の数　　ɰɷ でセレンが作成した幻字はアルカの音を表す。　アルカは使徒が持ち込んだ様々な自然言語をまとめた最大公約数的なアポステリオリ言語である。ゆえに音素も最大公約数的になっている。　少なすぎず多すぎずなるべく共通性のあるものを選んだ結果、４音が捨象されて２５音となった。従って幻字も２５字で､それにシュワーなどが入る。　『アルカ』ｐ６５に『制定語彙』の音素（というか音声）が挙がっている。子音３８の母音１５で５３音。これは恐らく音声であって音素でない。　この数を神話上は何に使うかだが、ɰɷ でセレンがアルカを作るときに使徒の言葉を聴き比べ、彼らの口から出てきた異なり音声の総数とする。つまりアシェットを構成していた人間の言語の音声の総数である。音素ではない。　ここからセレンは音素を導き、その上で取捨選択をして２５音を選んだ。現実のほうは『制定語彙』から直接制の音素を選んだわけではないが、大体これに近いわけだからしっくりくる。　　この時点ではまだ αeeſeɷı がないので、響字をひっぱり出してきて、足りない音は響字を変えつつ対応したと思われる。つまりセレンは使徒の言葉を聞いて響字を元に音声を記述し、響字にない音は随時新たな文字を作るか響字に記号を加えるかして記述した。
　こんなことをしていれば αeeſeɷı が欲しくなるのは必然で、どうりで共時言語学が発展したわけである。　　・αeeſeɷı　　響字の５０は響字参加国の音素の数であり、世界全体の音素や音声の数ではない。　そこで ɰɷ でセレンは幼字や幻字を元に包括的なＩＰＡに当たる αeeſeɷı を、調音音声学の観点から作った。　上述のように調音点と調音法についてはアルハノンの配列を参考にしている。
http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/amisofeet.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/vestofeet.jpg　　・文字の比較　　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/nod.gif

lcᴅʅ ［名詞］サインペン　［レベル］３　1ʔ: 制 :lcᴅlʅız（繊維ペン）、ｆｉｂｅｒ ｔｉｐｐｅｄ ｐｅｎの訳か。

lcᴅȷ ［動詞］ɥəl を ı に限定する、限定する、限る　［形容詞］限定的な、限定の　［反意語］ɰınl　［レベル］３　lıʅſı

lcᴅȷɥɔl ［名詞］限定使用、専用　［言語］限定用法　［レベル］３　1L:ɰcɷcı:ıɰ bıl̥elſ

lcᴅαel ［言語］音韻論、音素論　［レベル］６　1L

lcᴅdıʅ ［言語］音的発達　［類義語］lcᴅleſ　［レベル］６　J0: 音韻進化。音韻自体が進化するわけではない。

lcᴅɥəʅ ［単位］テスラ､リミュク､人間ミュク　［レベル］６　1ɱ: 制 : 人間ミュク

lcᴅɥəᴅ ［単位］ウェーバー、リミュム、人間ミュム　［レベル］６　1ɱ: 制 : 人間ミュム

lcᴅl ［化学］［被服］繊維、ファイバー　［レベル］４　1ʔ: 制 : 語源不詳

lcᴅllccᴅ ［化学］セルロース　［レベル］５　1L:ɰɥəə

lcᴅlαıbe ［軍事］無煙火薬　ɰſ;/「繊維火薬」　Jɱ　［文化］　φel

lcᴅle ［化学］フィブリン　ɰſ;lcᴅl/eſ。繊維状であることから。　Jɱ

lcᴅle(J) ［被服］カドガン　ȷᴅ;「リムレ男爵の」　Jɱ　［文化］　ȷᴅ でできた男性貴族用のカツラ。

lcᴅleſ ［言語］リムレット、音的発達、音的発達による語形成、変音　［類義語］lcᴅdıʅ　［レベル］６　J0:lcᴅ/ 古 ıl/ſe（音韻の物事に関する）［文化］　音の一部が変化すること。

lcɒleıb ［化学］フィブリノゲン　μʃ;/「フィブリンの材料」　Ɉʍ

lcɒıȷ ［ユマナ］Ａサイズの紙　［レベル］４　1L　［語法］　Ａ１は ʅɔlcɒıȷ。ＰＣ用紙としてよく使うＡ４が uıllcɒıȷ、書籍の一般的なサイズであるＡ５が lcnlcɒıȷ。

lcɒc ［形容詞］［丁寧］綺麗な、華やかな　［類義語］lınʃ　［レベル］３　古

lcɒc,ɑ　lınʃ

lcɒcɑc ［魔物］リミディ（聖獣）：第七十天：聖の否天　［レベル］５　1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel:lcȷ/ɒcɑı。母音調和　［文化］　象の形をした大型の魔物。温厚で攻撃的でない。

lcɒcɑceµcɒ ［天文］スカート　1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel　［文化］　リミディの心臓。心臓でさえ星のように巨大という伝説に基づくもの。

lcɒe ［動物］チンパンジー　［レベル］３　古 :lcɒe ← lczɒel（チンパンジー）。オヴィがチンパンジーを「ちびメル」と呼んだことから。当然メルが怒ったのでチンパンジーという語を純粋に使いたいときは彼女を怒らせないように隠語化して lcɒe というようになった。　［擬声］　hɥehɥehɥe、ʅɥeʅɥeʅɥe

lcɒel ［親族］妹ちゃん　［レベル］２　1L:µcɑcı:lcȷ/ıɒel　［語法］　ɒccı

lcɒeɱı ［ユマナ］謹賀新年、あけましておめでとう、あけましておめでとうございます、あけおめ、ハッピーニューイヤー、ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷ　ＹＥＡＲ　［レベル］４　Ɉʔ:lc/ɒeɱı

lcɒeɱıµʃ ［ユマナ］年賀状　［レベル］３　Ɉʍ:lcɒelȷel/ʌıµʃ

lcɒellınʃ ［ユマナ］お年玉、年始のプレゼント　［レベル］３　Ɉʍ　［文化］　日本の場合お年玉。世界の場合はプレゼントだったり色々。

lcɒelȷel ［ユマナ］正月、お正月　［レベル］４　Ɉʔ:lc/ɒelȷel

lcɒelɑc ［ユマナ］［単位］メートル　［レベル］４　1ɱ: 制 : 人間メルフィ

lcɒelbı ［ユマナ］［単位］キログラム　［レベル］４　1ɱ: 制 : 人間メルバ

lcɒelı ［ユマナ］［単位］リットル　［レベル］４　1ʕ: 制

lcɒelcı ［植物］リナリア、リメリア　［象徴］［花言葉］初恋　［レベル］４　ɈɈ:lccɒel　［文化］　黄色は ɑcın までの初恋。白は純粋な初恋。ピンクは µecɥə 期の初恋。紫はそれ以降の遅咲きの初恋。

lcɒeeµ ［名詞］処女、乙女　［反意語］ɥɔlɑı　［レベル］４　µɑ;lcɒeeµ,ɑ.heɒ　赤　lcɒeeµ:lcɒeeµ:lı　ɥənɑcʃe　［文化］　アルバザードは処女を尊ぶ文化で、処女が軽々しく捨てられたのは歴史的にヴェレイのみ。アレイユでは処女でなければまともな結婚は難しい。処女を判定する方法はないため、女子は悪い噂を立てられぬように生活するのが智恵。

lcɒeeµ,ɑ　lıɒ, lcɒeeµ　e

lcɒeeµbeel ［俗語］処女童貞　［レベル］５　ıl;/　Ɉʔ　［語法］　処女とセックスしたことのない者を言う。他の男により若く美しい時期を食われ、中古品ばかり押し付けられてきた哀れな者というイメージで貶される。

lcɒeeµhınɔc ［地球の国名］アゼルバイジャン　1L: 文化遺産「乙女の塔」から

lcɒeeµɹhɔʃ ［俗語］処女厨　［レベル］５　ul;/　Ɉʔ　［文化］　ul から ıl の処女率が低まったフェミニズムの時代に、処女を尊ぶ男性を卑下した言葉。この時代だけに使われた言葉で、処女性が重要視された時代ではそれがデフォルトなのでなんとも呼ばれない。

lcɒeeµıʃc ［名詞］処女性　［レベル］５　Ɉ1

lcɒeeµcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おとめ座　Ɉʍ　［文化］　cɑı

lcɑ ［形容詞］人工の　［反意語］lıɑl　［レベル］３　1L:lıɑl

lcɑlelʃe ［物理］人工衛星　［レベル］３　1L　［文化］　ʔʍʍ　ミロクのもとで初の人工衛星打ち上げに成功

lcɑȷɔɑn　人工事実。「嘘」と言うのを避けるために用いる一過性の戯語。　1L:ɒelcɑcı ılcȷ

lcɑbıʅıl ［建築］文化遺産　［レベル］５　µɑ;/　Ɉʔ　［語法］　ɑcıbıʅıl

lcɑlcuµɔ ［生物］人工生命　［レベル］４　ɈɈ

lcɑlenȷ ［工学］［電算］人工知能、ＡＩ　［レベル］３　Ɉ1

lcɑı ［植物］ザクロ、ざくろ、石榴、柘榴　［レベル］４　1ʕ: 制 :lcɑ から

lcɑıʅıɑ ［地球の国名］グレナダ　1L: 国名がざくろ

lcɑc ［植物］バンザクロ、蕃石榴、グァバ、ガバ、グアバ　［レベル］４　1ʕ: 制 : 石榴と似た実をつけることから。分類上は別種。フトモモ科。

lcɑcı ［植物］スモモ、李、プラム　［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :lcczɑcı（小さなリディア）。このリディアは桃の意。

lcɑcın ［歳時記］清明　［名詞］５時　［組み数字］５／２４　［レベル］３　Ɉ0: → ınlcın　［文化］　ınlcın

lcɑel ［人名］リデル　［レベル］５　Ɉ0　［文化］　(ɥəəɒı ʔΔLL:ʍʍ1Δ) アルヴェーテの教祖。ɥəəɒı ʍ001、レスティルの小都市 ıµuelʃe で lcɑel が ʅɔd del と φclɑɔ（商工会）を設立。ɥəəɒı ʍ00Ɉ にアルヴェーテを作る。ɥəəɒı ʍʍ1Δ に連立した神商会とサルト教会との戦いで戦死。

lcɑel(Ɉ) ［音楽］シンセサイザー、シンセ　［レベル］４　Ɉ1:lcɑ「人工の」

lcɑelɒ ［医療］人工臓器　［レベル］５　1L

lcɑelɑ ［言語］人工言語　［類義語］leucın　［レベル］５　1L

lcφnı ［工学］［電算］ガジェット、小物、小道具　［レベル］５　µɑ:µɥəə; ↓　古 :µɥəə:lccz/µıφnı

lcφµeʃ uıɑcc ［人名］リグレット＝ヴァフィー　［レベル］５　古 : 右の名は後付け　［文化］　初代ソーンの第３使徒。異性魔王。

lcφcl ［化学］アデノシン三リン酸、アデノシン三燐酸、ＡＴＰ　［レベル］５　µʃ;lcuµɔ/φcl.ʅ「生命の金」　Ɉʍ

lcdı ［名詞］ペンチ　［レベル］３　1ʕ: 制 :ʅlcd

lcdıʅlıȷ ［名詞］ニッパー　［レベル］４　µɑ;/「ペンチのようなハサミ」　Ɉʔ

lcdııu ［単位］ルクス、ルックス、人間パーヴ、リパーヴ　［レベル］５　1ʍ: 制 : 人間パーヴ

lcb ［生物］繊毛、線毛　µɑ;lccz（ここでは古 lccz なので小さいだけでなく細いとか細かいの意味）/bcl　Ɉʍ

lcbeeze ［魔物］リベーゼ（黒炎鬼）：第四十三天：火の否天　［レベル］５　古 :lccz/beezel（小さなベーゼル）　［文化］　ベーゼルを小型にしたようなアデル

lczʅə,ıµʅ　lccʅ　lcz/ʅə「小さな生き物」

lcznɔ ［政治］庁、リズノ。アルノン（省）の下位にある機関。　［類義語］ıµnɔn　［レベル］３　古 :lccz/ıµnɔ

lczɒ ［生物］微生物　［レベル］４　1L: 古 :lccz

lczɒlcµzɔɒ ［環境］生物化学的酸素要求量、生物化学的酸素消費量、ＢＯＤ　ıl;/　Ɉʔ　［語法］　生物化学的酸素要求量は、生物化学的酸素消費量とも呼ばれる最も一般的な水質指標のひとつ。水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので、特定の物質を示すものではない。

lczɑcı ［俗語］ちっぱいぱん、チッパイパン、ちっぱい、チッパイ　µɑ;lccz/µcɑcı「リディアちゃん。ちっちゃなリディア」。リディアが大人になってもそのような体型の女性であったことから。厳密には完全な無毛ではないが、ほぼ申し訳程度にしか生えていないので。　Ɉʍ

lczµɔ,ȷzɑ　µı　lccz/µəlclɔ

lczl ［政治］（都市の規模としての）村、里、集落→ ȷlıc　［形容詞］～の街。前置。　［レベル］２　ɑu;lccz/µəlclɔ「小さな家」　1ʔ: 制 : 古 :lcczµıµəlclɔ　lczl:lczl::ȷıʅı,ılʃ

lczlın ［名詞］村人　［レベル］３　Ɉ0

lczlıc ［政治］公爵、デューク　ȷɒ;lccz/ılıc　Ɉʍ　［文化］　王家に連なるもの、またはそれに匹敵する大貴族。

lczı ［言語］暗号　［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :lcczıʅəʅəlc（リーザの言葉）。先代アルカを意味する。

lczılʃ ［政治］子爵、バイカウント、副伯、城伯　ȷɒ;lccz/ʌılʃen　Ɉʍ

lczıleucın ［言語］暗号型人工言語　［レベル］６　ɈɈ　［語法］　特定の集団で暗号として使われる言語。古アルカなど。

lcs ［形容詞］［ポジティブ］無邪気な、果実が若い、未熟な、幼い、幼少の、あどけない。天真爛漫、天衣無縫　［形容詞］［ポジティブ］若いが食べるとおいしい。子牛など、若い方がおいしいものに使う。　［類義語］cbeʃ　［反意語］µız　［レベル］３　1ʔ: 制 : 古 :lccs（あどけない）。メルが昔 lccz（小さい）という単語を発音できず、lccs（リージュ）と発音していた。セレンがそれをかわいいと思って、以降かわいいあどけないものを表現するのに「メルがリージュというように（"ɥəʅʅe ɒel ʅəl lccs"）」という表現を使った。その過程を経て、やがて lccs が単独で使われるようになった。

lcsʅıɱı ［法律］少年院　［レベル］４　Ɉ0:µcɑcı:ɒcµɔʅ　［文化］　未成年用の刑務所。革命で廃止され、年齢による区別はなくなった。

lcoeɒȷel ［ユマナ］バレンタインデー　［レベル］４　Ɉʔ

lcl ［化学］元素　［レベル］４　µɑ;lccl,lȷȷ.ʅ　1ʔ: 制 : 古 :lccl（元素）　［語法］　水素からローレンシウムまでは固有名がある。ローレンシウム以降は原子番号を使ってメルの読み方で命名する。文脈で分かる場合、lcl は省略する。　本辞典では lcl で見出し語検索をすれば元素が引ける。

lclɒ ［魔物］リルム（陰対）：第九十七天：害の否天　［レベル］５　1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel:lcȷ/nılɒ。リアントと夫婦のようであり、リディアにとってアムルとナルムのように見えたため。　［文化］　鬼族。杖かロッドを持った女魔導師の姿をしている。白黒問わず高度な魔法を繰り出す強敵。常にリアントと一緒に現れる。

lclɑ ［単位］リルド、ベクレル。放射能の強さ。　［レベル］５　古 :lclɑ「原子を壊す（lclɑzəl）」が原義か？　［語法］　１リルドは一秒間に一個の原子崩壊を起こす放射能の強さのこと。

lclc,ılʃ　nɔn　lclə

lclcȷ ［代詞］［ɒclɑ］あなたたち　［レベル］１　1L:µcɑcı: こちらも lenı と事情は同じ。二人称に ʃ の音が多すぎたため、ʃcʃcȷ を lclcȷ に弱化させた。ʃ が l に弱化するのは ʃee が leə になるのと同じ操作。ʃcʃcȷ はあなたを意味する古アルカの ʃcȷ を重ねたもの。

lclcn ［代詞］［ɒclɑ］あなたたちの　［レベル］１　1L:µcɑcı:lenı と lenın からの類推で、lclcȷ の ȷ を n にしたもの。

lclcn ucl ［人名］リリン＝ヴィッシュ　［レベル］５　古 : 右の名は後付け　［文化］　初代ソーンの第６使徒。異性魔王。

lclcı ［名詞］少女、女の子、リーリア　［類義語］ɒcn　［反意語］dcʅɔl　［レベル］２　Ɉ0:zını/ȷeµen:lc は「小さい」。lclc だけだと単語として座りが悪いとして ı を添加。　［語法］　ɑcın と lız の総称。

lclɔ ［植物］たけのこ、タケノコ、筍、竹の子　［レベル］３　µɑ;lccz/hɔlɔ「小さい竹→若い竹」　Ɉʍ　［文化］　ȷɒ で ılʃ から伝わり食用となった。日本ほどではないにせよ、日常的に食べられる。食物繊維は豊富だが消化に悪いため胃に悪い害食とされることもある。よく煮て柔らかくして食べよう。　【用例】　ın ɥəlclıʃ lclɔ c lılın e sczɔl. ギターの先生から筍を頂いた。

lclɔʃʃe ［ユマナ］［電算］ＡＳＣＩＩコード　［レベル］６　Ɉ0: ユマナのロッテ

lclɔz ［化学］周期律　［レベル］６　1L

lcleȷ ［法律］［動詞］ɥəl にいたずらする、いたずらする、悪戯する　［普通動名詞］いたずら、悪戯　［レベル］３　1L:lcȷuıleȷ　［語法］　セックスが目的だが、相手が機能不全でできないため、その手前で止まる行為。例

えば幼女をレイプしようとしたが膣が狭くて入らないので性器を弄り回したような場合がこれに当たる。μıs 以上 uılej 未満にあり、量刑としてちょうど両者の中間に当たるため、語彙的にも区別される。

lcleɑı ［化学］周期表 ［レベル］4 1Δ

lclə,ılʃ lcȷ <>lccz

lclənıɑ ［単位］ジュール、リルナッフ、人間ルナッフ ［レベル］4 1⋂: 制 : 人間ルナッフ

lcləl ［名詞］リルル ［レベル］3 μɑ; 古 lccz/ıl「小さい者」 ⅃ʔ ［語法］［文化］ μɑ でセレンが提唱した女の年齢区分。 セレンは陰毛が生え揃い、生理が来ており、小陰唇も発達した１４歳程度の少女も１９歳の女性も２５歳の女性もセックスした感じは肌の張りくらいしか違いがなく、性器の具合や匂いや味などは大差ないと述べた。一方、１１歳程度の毛が生えかけの少女は生理も来ているか来ていないか判然とせず、性器も未発達で、性器の具合や匂いや味が年長者と異なると述べた。また、９歳未満の少女や幼女に関しては更に性器の具合や味や匂いが異なり、女の匂いがほとんどせず、基本的に同年代の少年の味や匂いと変わらないと述べた。 つまり女体の具合や味や匂いなどはＪＳ、ＪＣ、ＪＫ、ＪＤと学齢ごとに変化していくのではなく、９歳ごろまでの幼女･少女期と、１４歳ごろまでの思春期と、それ以降に大別できると彼は述べた。そしてその分類を幼い順に lcləl, ɥəənɔ, uınʅeʃ と呼んだ。 lcləl は性交に適さないが、無理強いすればできないこともない。またイタズラするだけの用途もある。この時期の少女と性交渉を持つことは希少であるため、セックスの快楽自体は三者の中で最低なものの、その希少性に価値があるとされる。 ɥəənɔ は人間の中で最も時期が短い。日本で言えばおおむね小４から中２までの時期で、短ければ小６から中１までしかない。一日で言えば夕方に相当する儚く短い時期で、時期が短いことから ɥəənɔ とのセックスは希少性が高いとされる。ただ lcləl に比べればセックスしやすい相手であるため、希少価値は多少下がる。しかし uınʅeʃ との間には越えられない壁がある。ɥəənɔ は陰毛が生え始めてから生え揃うまでの短い期間で、人により時期が異なる。大人になっても ɥəənɔ のような見た目を持つ者もいる。 uınʅeʃ は最もセックスに適する相手であるが、希少性がまるでない。食べごろではあるが、そこらに転がっているりんごと同じくらいの価値しかない。 結局のところ一度経験として味わってみたいのは希少価値の高い順なので、セックスするのが難しい lcləl, ɥəənɔ, uınʅeʃ の順になる。要するに男は lcləl とヤレば一番優越感を満たされる。希少価値が高い経験を有しているためである。ただし継続してセックスするなら lcləl はセックスに不向きな相手なので快楽はあまり得られない。lcləl や ɥəənɔ がいいのは最初だけで、「俺は lcləl や ɥəənɔ を食ったことがあるぞ」という優越感を味わうためのものでしかない。lcləl や ɥəənɔ はフォアグラみたいなもので、一度食べれば十分なもので、uınʅeʃ は米やパンのように常用するものである。 セレンの考えに反対する者もいる。彼らは学齢区分を優先し、制度上のＪＣとＪＫとＪＤの区別にこだわる。ＪＣでも uınʅeʃ なら女体的にはＪＤと肌質程度しか変わらず、また個人差も大きいのでＪＣでもＪＤ以下の体の持ち主もいる。にもかかわらず学齢厨はＪＣか否かにこだわる。セレンはそれを愚行とし、「様々な年齢の女体を味わってきた者にしかこの理論は実感できない」と述べた。大切なのは食ったのがＪＣかＪＤかではなく、ɥəənɔ か uınʅeʃ かなのだとセレンは主張した。 セレンは男は lcləl と ɥəənɔ を一度味わえば優越感は満たされ、男はセックスに手頃な uınʅeʃ に執心すると述べ、実際 uınʅeʃ を相手取ることが多かった。一度味わえば後は少女は面倒臭いだけと述べ、興味を示さなかった。 なお、これらは通常女性の年齢区分であるが、男性にもそのまま適応することができる。 この話は現実のセレンの女体観と女性経験を反映したものであり、現実での思想を μɑ に輸入したものである。セレンは個人的に ɥəənɔ の見た目で成長が止まったリディアや塾の元生徒だった元カノなど、幼い体つきで毛の薄いか無い uınʅeʃ を好む。

lcləəu ［単位］ワット、人間ルーヴ、リルーヴ ［レベル］4 1⋂: 制 : 人間ルーヴ

lcı ［接尾辞］～のもの ［レベル］5 ⅃0: 古リュディア語 ［文化］ 古リュディア語の接尾辞で、ʅɔddelcı などに見ることができる。だが、それ以前に神ルカリア語の μəʅılcı の地名にもその源流が見られる。

lcı(⅃) ［電算］サイバー空間、電子空間、電脳世界、電脳空間、ワイヤード、ネット世界、仮想空間、仮想世界 ıl;ɑcı と ɑcı と韻を踏むように lccz/ɑcı から作られた。 ⅃⋂ ［文化］ ıl 終わりから ls にかけてＳＮＳやネトゲなどの広まりにより、国民固有のＩＤの存在もあり、人は現実世界での自分とネット上での自分という２つの人生を歩むようになっていった。そこで意識されだしたのが現実世界に対するネット上の架空世界で、その世界のことを特別にリアという。アルバザード人は固有のＩＤに固有のアバターを付与し、そのアバターを第二の自分と考えることが多く、匿名性がある状態やコロコロＨＮを変えるようなことはそもそも ıl の時代からあまり好んでおらず、匿名性の高い ɥəᴅcʅl などの掲示板は陰口を叩くためのストレスの捌け口として使われることが多かった。ls の革命でネットから匿名性が消えたことで、より国民は一人の現実世界の自分に対して一人の架空世界の自分という考えを持つようになり、リアは現実世界と同じくらい大きな価値観を占めるようになっていった。

lcıʅı ［地球の国名］オーストラリア ［レベル］4 古 : 小さい大地

lcıȷ ［化学］分子 ［レベル］4 1ʔ: 制 :lccȷ。「原子の集まり」が原義。

lcıȷucın ［化学］分子間力 ［レベル］5 ⅃0

lcıȷbɥə ［化学］分子量 ［レベル］5 1L

lcıȷbıʅl ［化学］分子コロイド ［レベル］5 1L

lcıȷleed ［化学］分子構造、分子構成 ［レベル］5 ⅃ʔ

lcıȷıll ［化学］分子数 ［レベル］5 1L

lcın ［物理］放射線 ［レベル］5 1L:1⋂:lcʃınʃ

lcınʃ ［魔物］リアント（陽対）：第八十八天：利の否天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:lcȷ/lınʃcȷ。否天族として lc の接頭辞であって、小型という意味ではない。lınʃcȷ は古アルカで人間の意味。 ［文化］ 鬼族。剣と盾を持った男剣闘士。武器は槍や斧のバージョンもある。常にリルムと一緒に現れる。

lcınʃɑμec ［天文］アルキオーネ 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ ライファの牢獄の中に閉じ込められたリアントの剣。

lcındcʃȷ ［環境］放射能汚染 ［レベル］6 1L

lcını ［形容詞］半虚構の、半架空の、半現実の、サイバー上の、ネット上の ［名詞］半虚構、半架空、半現実、サイバー上、ネット上 ［類音］ ɑcını、ɑcını ［レベル］2 ıl;lcı/nı ⅃⋂ 【用例】 ın ʃcl ʃcın ɑcını, ʃcın lcını, ʃcın ɑcını. 現実にもネット上にも空想の中にも彼女がいる。

lcınenuc ［物理］放射能 ［レベル］5 1L

lcıᴅ ［経済］［動詞］ɥəl を ı に繰上げる、繰上げる、繰り上げる、前倒す ［普通動名詞］繰り上げ、繰上、くりあげ、前倒し ［反意語］μıcn ［レベル］4 @ 1L

lccʃ ［料理］香辛料、スパイス ［レベル］3 1ʔ: 制 :lccʃɔ。「良い匂い」が原義。 ::lı lclle

lccʃhɔʅʃ ［音楽］クラッシュシンバル ［レベル］6 ⅃1: アクセントに使うので香辛料

lccʃɔ ［形容詞］良い匂い、かぐわしい、香る ［名詞］香り、良い香り、芳香 ［類義語］μınʃɔ, lclle ［反意語］beeb ［レベル］2 ɑ;lcᴅc/ʃɔ「鼻に美しい」 赤 【用例】 lccʃɔ e ᴅccnı ɔμ ᴅclᴅ ʅı scnı. 花の香りが辺りに満ちていた：ᴅclᴅ なので ınɑ や eȷ でなく ɔμ でよい。

lccʃɔʅıɔ ［名詞］アロマポッド、アロマディフューザー ［レベル］5 ⅃0:ᴅelcɑcı lceμ

lccʃɔȷ ［名詞］健康年齢 ［類義語］lculeȷ ［レベル］4 ⅃⅃:lculeȷ/ʃɔlcȷ ［語法］ lculeȷ

lccʃɔn ［植物］ジャスミン、ウィンタージャスミン、茉莉花 ［伝統色］ジャスミン。だいぶ地球のジャスミンの色定義と異なる。 ［レベル］3 1L:lccʃɔcn ［文化］ アルバザード人お気に入りの植物。花は可愛いとされ、匂いもかぐわしいとされる。茶として飲用されるほか、風呂のバスクリンとしてラベンダー同様好まれる。 科学の教科書に匂いの元が載っているため、理系の学生は実は香りがスカトールと知っていて素直に好きになれない。

lccʃɔneʃeʅ ［料理］ジャスミンティー、ジャスミン茶、茉莉花茶 ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

lccʃe ［名詞］マユとユンクの総称、リーテ ［レベル］2 ⅃1:lclcı/ʃe ［文化］ ɑμecnʃ

lccʃen ［歳時記］大寒 ［名詞］２４時 ［組み数字］２４／２４ ［レベル］3 ⅃0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

lccʅ ［名詞］細菌、菌 ［生物］真正細菌、バクテリア、細菌 ［レベル］3 nɑ;lczʅə 1L:μcɑcı:ıμbıleʃ ←赤 :lczʅə（菌） ［語法］ ３ドメインの１つ。真正細菌と細菌は同じとしている。 ［文化］ → uıcn 細菌はウィルスとは違うが、何か小さいもので、病気になるものだと考えている。消毒したり石鹸で手を洗えばおおむね取れると思っている（これは正解）。何かとりあえず汚いものだと思っている。３ドメインの１つだということはふつう知らない。なまじ語源が菌類と同じなので、キノコも細菌で汚いものだというイメージがある。人によっては乳酸菌とキノコを同じようなものと捉え、「食べられる細菌」くらいに思っている。 語源では細菌も菌類も同一視されているが、細菌は真核生物ではなく、菌類は真核生物である。細菌はドメインのタクソンであり、菌類は界のタクソンであり、レベルも異なる。

lccʅȷeʃ ［医療］抗菌、殺菌、除菌。日常的には区別なし ［レベル］3 1L

lccl ［形容詞］スパイシーや香辛料のほどよく効いた ［レベル］3 1ʕ: 制 :lccʃlɔc

lccȷ ［名詞］リース。エタットの反対。おとなしめの人 ［レベル］2 1L: 赤 :lccz（小さい） ［文化］ eʃıʃ

lccȷcı ［地名］メテの使徒リーズの支配地 ［人名］クリスのアルカ姓 ［レベル］5 ʅıʅɔ

lccȷcı(⅃) ［アトラスの国家］リーシア ［レベル］4 ʅıʅɔ ［文化］ 面積：ʕΔ0⋂⋂٩.٩Δ0ΔL٩ ʅᴅ ⅃

lccne ［組み数字］１７/２８ ［交通］リーネ通り ［レベル］2 ⅃⅃

lccne uıɑcc ［人名］リーネ＝ヴァフィー ［組み数字］１７/２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。uıɑcc は「槍が嫌い」。 ［文化］ (⅃→) 第４期４代ソーン第３使徒。男性。ȷeeʃ。１７０ｃｍ、５８ｋｇ。髪は黒で背中まで届き、直毛でひとつに結いている。黒の瞳で、左目に眼帯をしている。肌は白：黄＝２：８。よく灰色の袴を履いている。

lccu ［魔物］リーヴ（雷猫）：第五十二天：雷の否天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel:lcȷ/cluı ［文化］ 獣族。雷を身にまとった大型の山猫。動きが俊敏で、爪で引っ掻かれると感電する。素早い動きを見極められるかが勝利のカギ。

lccunɔz ［天文］かんむり座と同じ星座線のつらなり 1L:μcɑcı/ȷeμen/ᴅel ［文化］ リーヴの爪。

lccue ［人名］リーヴェ。lccuμeμ の愛称 ⅃1

lccueμ ［丁寧］声、聲、リーヴェル ［類義語］lcu ［レベル］3 ⅃0:lcuμɔ。声には魂が宿るという考えから。

lccɑ ［名詞］若者、少年少女、青少年、若いの、お若いの ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcı ılʃe:lcɑ ［語法］ → ȷıᴅ 漠然と１０代を指すが、話者が５０代なら２，３０代を指すこともある。

lccɑı ［天文］星 ［名詞］二枚目。見た目に華を添える役。 ［名詞］スター、アイドル ［レベル］2 ɑ;「小さい炎」 赤 lccɑı:lccɑı:lı ɑıμınɑcμ:ᴅcȷı

,ılʃ ［語法］ 願い事を祈る習慣はない。星座は悪魔を封じた牢獄。 【用例】 lccaı ɑc lıʃ sın. 空に星がたくさん出ていた。 lccaı ɑc ıʃ alcd ʅı sın. 空で星がたくさん輝いていた。（きらきらしていた） ın ıllıʃ lccaı. 星の数を数えた。 lccaı eʃ lınʃ cɒ acȷ. ʃə eʃ ɒın lelʃ ȷcl ɒɥ əlı cɒ ʅeȷʃ ȷec. 今日は星が綺麗だ。明日月が新月になるからだろうか。

lccaı(ɺ) ［名詞］リーファ、リーファ隊、ミロク親衛隊 ［組み数字］５ ［レベル］４ 古 :lccaı の名は星から来ている。星（lccaı）の古アルカの字がペンタゴンの形であり、リーファ隊が５人でできているため。 ［文化］ ミロクの参謀を務めた５人の執政官。ミロクの絶対的な信望者で、敬虔なアルティス教徒。ミロクの改革の主だった内容を実行した。５人はミロクを囲むように立ってミロクを守っていた。その立ち方が星型をしていたため、リーファと名付けられた。リーファは女が３人で、男が２人。全員本名は別にある。例えば ılȷɔn の本名は uelɑ ɥne aɥecφclɑ(朔夜)。彼らはそれぞれ自分の得意分野を持っていた。財政を担当するのは ɒcɥφc（神の金）で、几帳面な女性。布教や広報や外交等を担当するのはカリスマがあり雄弁な hıneȷ（広めるもの）という男性。法と異端者の取り締まりを担当するのは ʅıȷın（ıl/ʅıȷı から来ていて法の重ねを意味する）という男性で、徹底派で強硬であったために人々に恐れられた。事務を始め書類の処理や政策の調整など、多岐に渡る範囲を担当するのは ııle という女性で、大人しく真面目。改革の実行全般を担当するのは ılȷɔn（ȷɔ/ȷɔ から来ている）という女性で、特に多忙であった。例えば街を作りかえるという改革がでれば建物を壊したり移したりし、土地を整備して建設する。ミロクがどこそこに水道を引くといえば水道も引く。山が邪魔だといえば切り崩す。鉄道をといえば鉄道を作る。そういった指揮を全て行ったのが ılȷɔn であった。ılȷɔn は精力的で男勝り。 リーファ隊は軍事を担当するものがいない。ミロクが代表で担当し、ハネスとカサンとアルソンがそれを主に支えていた。軍部の財政や事務についてはミルギとアーシェが担当した。ゆえに軍事は全員で行ったといっても過言ではない。

lccaıȷ ［アイテム］リーファス ［天文］星屑→ ʅleılccaı ［レベル］４ ɥcɑcı: 古 : セレンがリディアの髪飾りに名付けた lccaıȷ（星の砂）を流用したもの。lccaıȷ は lcca/ȷ（星 / 砂） ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアのもつ髪飾り。最強の黒魔法ライファを使えるようになる。

lccaıȷcel ［天文］星空 ［レベル］３ ɺɺ 【用例】 lccaıȷcel lcʅı 満天の星空

lccaıȷel ［ユマナ］平日 ［名詞］休日に対する平日（各個人ごとに異なる） ［類義語］lecɒȷel ［反意語］ncınȷel 1L ［語法］ 地球の平日のことで、アトラスの平日は lecɒȷel という。

lccaıɒeɒ ［組み数字］リーファサークル、五人衆、五人集、五人囃子、五大頂、五稜郭、五虎将、五賢帝、五芒星、五本指 ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ ɥıdıll

lccaıdıal ［地球の国名］ベネズエラ 1L: 国旗に星のアーチ

lccaıɥecn ［地球の国名］モロッコ ［レベル］６ 1L: 国旗に星状の線

lccaıeɥn ［天文］星系 ［レベル］４ ɺʔ

lccɒ ［格詞］～しない限り、～しないかぎり ［レベル］２ 1L:lcɒȷ から。lcɒ だと cɒ と混同するので母音を伸ばした。ｕｎｌｅｓｓに当たる単語は制のはじめにしかなく、ずっと使われなかったが、ɔl en ȷɔ とはニュアンスが違うということで、復活した。 【用例】 ın ʅe ela lccɒ ʃc ʅe. 君が行かないなら僕も行かない。

lccɒel ［普通動名詞］初恋、リーメル ［動詞］ɥəl に初恋する、初恋する ［類義語］lıɒhıʃcı ɺɺ: ［レベル］３ 古 lcɒeel ［文化］ lcɒelcı 【用例】 lccɒel lccı 甘い初恋 ɒcuı ıllı ʅılɒı lccɒel ʅıın nɔzeʃ. 娘の初恋の相手というのはたいていが父親だ。

lccɑ ［地学］礫、れき、つぶて ［レベル］３ ɺ1:lccz/ɑɔl「小さな石」

lccb ［化学］香料 au;lccʃɔ/φııbe ［レベル］４ ɺʔ

lccbe ［植物］花、華、樹花、木の花、木乃花、樹の花 ［類義語］ɒccnı ［レベル］２ a:ȷııl;e 赤 lccbe:lccbe:lə alıns（樹花が男性で草花が女性）:ȷını,ılʃ ［語法］ ɒccnı

lccɥə ［名詞］リーユ、弟子 ［反意語］ıɥȷı ［レベル］３ ɺ0:lccz nıɥə(ナユ嬢)。神話ではユルグがナユからとってこう名付けた。

lccɥɒı ［単位］ヘンリー、リールマ、人間イルマ ［レベル］４ 1ʘ: 制 : 人間イルマ

lccɥeʃ ［単位］ボルト、リーレット、人間イレット ［レベル］４ 1ʘ: 制 : 人間イレット

lccz ［人名］リーズ ［組み数字］３/ １５ ［レベル］４ ʅıʅɔ: 古アルカでの意味は「 小さい 」 ［文化］ メテの第３使徒。

lccz(ɺ) ［人名］メルの幼いころのあだ名 古 :lccz

lccz(ʔ) ［形容詞］～ちゃん ［形容詞］～さん。物につけて指小辞として用いる。「わんこさん (ʅɔɒ lccz)」「にゃんこさん (ənc lccz)」などのように。 ［形容詞］～さん、～君。教師が生徒を呼ぶときに使う呼称。男女問わないが、男子に使う場合、学齢が小さいうちが無難。見下しているのではなく小さい可愛いものとして親しみを込めて使うものなので、学齢が上がっても使って良いのだが、幼く見られていると感じて相手が嫌がる場合がある。 ［類義語］ȷın、ləı ［レベル］１ 古 ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ ○名（後置） ○姓（前置） ○女 苗字には前置、名前には後置。 少女に対して、もしくは可愛いと思っている女性に対して使う敬称で、「 ちゃん 」にあたる。ふつう年下が年上に使うことはないが、メルは ɥənʅ とともにクミールに対し用いている。より公的なのは ɥənʅ なので、lccz を使うときはわりと個人的な会話においてである。メルがクミールに lccz を付けて呼ぶのは誤用ではなく、クミールとメルが対等な友人であることを示している。 また、古アルカでリーザが使徒を呼ぶときに lccz（小さい人）と愛称していた用法もある。リーザのような年上の教師に限定された用法。従って、lınlı と対応するときだけ使う。この際は相手が男子でもＯＫ。「ちゃん」で覚えるとこの用法を見落とすため、語源に注目したい。 少年に使う場合は「小僧」というニュアンス。

lccz,a lcȷ e

lccz ʃɔlcı ［娯楽］としあちゃん ［レベル］３ ɺ1:ʃɔlcı は ılʃ ［文化］『ちびまる子ちゃん』に相当するアニメ。

lcczsc,a ɒcns lccz/sc

lcczlınȷe ［政治］準男爵、バロネット ȷɒ;/ ɺʘ ［文化］ 男爵の下で、貴族に含まれる場合もある。

lcczlcl ［化学］プロトアクチニウム 1Δ: 制

lcczlccz ［人名］メルの幼いころのあだ名 古 : 小さいという意味

lcczlccz(ɺ) ［歳時記］リーズリーズの日、子供の日、こどもの日 ［レベル］３ 古 ［文化］ → alın ɑcȷʃ メルの月メルの日の祭日。子供の成長を祝う日。アルバザードにおける子供の日のようなもの。１０歳まで祝う。lızıl になると行わない。

lcczı ［組み数字］１４/ １４ ［レベル］３ 古 : 語源不詳

lcczıʅıɑ ［地球の国名］エストニア ［レベル］６ 1L

lcczıɒeɒ ［組み数字］リーザサークル ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ ɥıdıll

lcczıɥle ［丁寧］［親族］おまごさま、お孫様、男のお孫様、リーズアルシェ ［レベル］２ ɺ1: 小さな勇者 ［文化］ lılı

lcczılcl ［化学］ルテチウム 1Δ: 制

lcczı ləʃcı ［人名］リーザ＝ルティア ［組み数字］１４/ １４ ［レベル］３ ɥɑ 古 : 語源不詳 ［文化］ eȷʃ ＜現実＞ (–ɺ0 zın dıl_) 第４期３代ルシーラ・エ・アルシェにしてリディアの実母。 ＜オーディン＞ (–ɺ0 zın dıl_) ɥɑ におけるルティア女王。リディア＝ルティアとミリア＝ルティアの実母。第４期３代ルシーラ・エ・アルシェで、テームスの封印を強化した。 リディアの母。身長１６２ｃｍ、４９ｋｇの細身。ふわふわした天然パーマの金髪の持ち主。年齢を重ねてからは少し染めているらしい。黄色人種の入った白人。非常に美しい。おっとりしていて優しく、からかわれやすいが、怒ると怖い。怒鳴ったりはせず、静かに怒るタイプ。童顔で、４０代になっても２０代のように見える。肌も若々しい。行動が子供っぽいところがあり、あどけないところがあり、悪戯げな微笑みをよく浮かべる。綺麗で可愛い。カネボウのＳＡＬＡのような、バラのような、ＦＦ６のサントラＣＤの容器のような香りがする。容姿とは裏腹に肝が座っている。戦闘術に長けるが、リディアやユーアほどではない。知的だが、リディアやメルほどではない。カリスマ性はセレンが知りうる限り誰よりも高い。セレンが子供の頃から憧れてきた女性。 ·『ミールの書』より ミールは担任のリーザの事を慕っていた。彼女は入学当時からまるで母親の様にミールや他の生徒を可愛がってくれており、ミールも彼女の気持に応えていた。彼女は優しい雰囲気を身体から発しており、その柔和な笑顔で微笑みかけられると嫌な気持ちがどこかに消えてしまう。綺麗で聡明でミールの憧れの霊人だ。しかし、性格は意外におっちょこちょいだから見ていると頼りなげではらはらさせられるが、素直で可愛げがあり悪意というものが感じられない所がそういった欠点を隠している。ただ、そういう性格にもかかわらず彼女の聡明さには息を飲むものがあった。専任教師を務めている時点で聡明な人格者であることは疑いないのだが、彼女が他の専任教師と比べて飛びきり明晰な頭脳を持っている事はミールや他のクラスの生徒から見ても明らかであった。 【成句】 lcczı ɔ ɥəəı 鴛鴦の契り、比翼連理

lcczı ləʃcı(ɺ) ［人名］リーザ＝ルティア ［レベル］４ ls ɺɺ ［文化］ (ʔΔ0_) 風花院 alınse の女主人。

lcczc ［魔法］リージ。光の高位白魔法。 au;lccz/c「小さいものを見る」 ɺʔ ［文化］ → uıcn ʃɒ で開発された魔法。顕微鏡と同じ効果があり、小さいものを拡大してガラスや水面などに映し出すことができる。これによりカルディアではウイルスなどの存在が地球より早く見つけられていた。

lccze ［名詞］縮小 ［動詞］ɥəl を ı（大きさや倍率）まで縮小する、縮小する ［反意語］ʅıɒȷ ［レベル］３ ɺ0: 古 lccz/ʃe（小さい感じの）

lccze(ɺ) ［人名］リーゼ姫 ［レベル］４ ɺɺ 【成句】 hııȷ uınʃ e lccze 綱紀粛正

lccze,ȷzȷ ʃc(ucʅ ıdcı ɒcn) ＜ lccz

lcczeʃ ［美容］エアウェーブ ［レベル］５ ɺ1:lcczı/ʃe

lcczen ［名詞］縮小されたもの ［電算］サムネイル、サムネイル画像 ← lcczeclʃı ［レベル］４ ɥɑ;/ | ıl ɺʘ

lcczedıl ［地学］縮図 ［レベル］４ ɺ1 【用例】 lecıʃe eʃ lcczedıl e acı ɑı. 本屋は世界の縮図である (ȷeɥen ıɥbızıɥɑ)

lcczel ［アトラスの国家］リーゼル ［レベル］３ 1L:lcczı ［文化］ 面積 : ʔ٩Δʔʘʘ∆.٩ʔ٩Lʔʔ ʅɒ ɺ

lcczelʃcʅe ［地学］リーゼル海流 ɺʔ

lcczeclʃı ［電算］サムネイル、サムネイル画像→ lcczen ［レベル］４ ıl;/ ɺʘ

lccs ［幼児］［形容詞］～ちゃん、～たん、りーじゅ ［類義語］lccz ［レベル］１ 古 :lccz をメルが言えずに lccs と言っていたことから ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ ○名（後置） ×姓 ○女 幼児語だが、大人もふざけて使う。「「 メルたん 」って言って 」"ʅə ┤ ıl ɒel lccs"（メルの 1ʘ 年における実際の発話）

lccs,a ʘ elʃ;lcczsc.ʅ

lccl,ıɥʅ ɥıcl 「小さいもの」

lccl,ıɥɑ ʃcȷc lccz.ʅ

lccı ［代詞］［dcʅb］僕たち ［レベル］１ ɺ1:eʅeʃɔne:lce（奥に引っ込んだ）

lccın ［代詞］［dcʅb］僕たちの ［レベル］１ ɺ1:eʅeʃɔne:lccı/n

lcɔn ［単位］ギガ ［レベル］4 ⅃1:lcɑcın

lce ［名詞］奥 ［格詞］～の奥に ［レベル］2 19: 制 :lcɔ:19: 制 : 古 :lɥı（近い）,lɥə（遠い）だったが、アルカ・エ・ソーンの影響で順に ıʃəə,ıl əə になった。一方、lɥı と lɥə は手前と奥を指すようになった。 :::h cɒelə,ılʃ 【用例】 ʃɔ lı lce ʃə ɑɔnʃ ȷecȣ この道の向こうに何があるんだろう。

lceꞁəɔȷcıs ［言語］軟口蓋 1L

lceꞁəɔȷcısɑɔ ［言語］軟口蓋音 1L

lcen ［接続詞］lce ［レベル］3 ⅃1

lceueȷn ［言語］奥舌 1L

lceɑcl ［形容詞］奥深い、店舗などが入口から見て縦に長い ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ıʃʃe

lceɑcɔ ［生物］奥歯 ［レベル］3 1L

lceφıeɑɔ ［言語］後部歯茎音 1L

lceμuı ［魔物］リエルヴァ（水精）：第十六天：水の否天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/ȷeμen/ɒel:lcȷ/eμuı ［文化］ 若く美しい女の体をしているが、材質は肉でなく水。何にでも姿を変えることができる。森林部に多い。体を水に変えつつ獲物を抱いて、溺死させる。

lcez ［建築］講堂、ホール ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbıleIʃ:lce/ez ［語法］ 典型的には体育館のように広くて深く、屋根の高い、音響のいい場所。 ［文化］ 学校では、入学式などの集会を行うために独立して存在する。形は特に決まっていない。 【用例】 lcez ꞁıc{xhın} 広いホール

lɔ ［動詞］ɥəl を思う、思う、考える ［名詞］思考、考え、思い、想い、意見、見解、アイディア ［類義語］ɑlɔμı、μıɑcȷ、ɒcȷ ［反意語］nı ［レベル］1 ɑ;e 古 :（頭、考える） lɔ:lɔ:lə ɒcȷ ［語法］ lɔ の内訳が ɑlɔμı と μıɑcȷ で、lɔ の対が nı。 lɔ は「思う」で nı は「感じる」。頭と心の差。 lɔ のうち、思案するものが ɑlɔμı で、情報を組み立てて思考するものが μıɑcȷ。 ləꞁleʃcı では ɑlɔμı は脾を傷めるとされている。つまり思い悩むと胃を壊すということを意味する。このことからも分かるように、ɑlɔμı は nı delȷ に近い要素も持っている。 ［文化］ 手を顎に当てて考える仕草は共通。

lɔ,ɑ ɔȷn, lɔ e

lɔ,ılʃ μı μəlclɔ.lcꞁ

lɔʃ ［名詞］範囲、内側、ゾーン ［名詞］内野 ［動詞］ɥəl を ı に当てる、ɥəl を ı の範疇に収める、当てる、あてる、中てる、命中する、カバーする ［弓道］中てる、中たり、的中 ［数学］変域 ［野球］ストライク ［格詞］～の範囲内で ［反意語］leꞁȷ ［類音］lcʃ。lɔʃ と lcʃ は由来は異なるが意味も音も似ている。旧 ucʃ と ucɑ は末子音だけの違いなので区別が難しかったが、こちらは母音なので聞こえが高い。逆に意味も音も似ていることを巧く使って詩的な表現が可能だろう。 ［レベル］2 1L: 制 :lɔlʃ。よく使うので短くした。 【用例】 lɔʃ hın{ꞁıc} 広い範囲。広範囲。範囲が二次元なら hın を、三次元なら ꞁıc を使う。 senʃ eɒ ıʃɔμ μıʃ lɔʃ ɑɔə ȷel. ここ何日かの間に天気は良くなってきた。 lɔʃ ɑɔə ɒcu この数時間の間に

lɔʃ(⅃) lɔ/ıʃ

lɔʃʃe ［電算］ロッテ文字コード、ロッテコード、ロッテ ［ユマナ］アスキー、アスキーコード、ＡＳＣＩＩ ［レベル］6 ⅃0: 圧力印刷 ［文化］ cɒəl 1ʕ0ʔ にリュウが文字コードを開発し、７ビットによる１バイト文字を作成した。当初この文字コードは hıɾnɔlʃ と呼ばれていた。 1ʕ1⅃ 年にパールがタイプライターを発明したころから、この文字コードは lɔʃʃe と呼ばれるようになった。 現代でも最もカルディアで普及している１バイト用の文字コードで、アスキーコードに当たる。

lɔʃȷ ［名詞］鍵（けん）、キー、ボタン ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔʃ からの推移

lɔʃȷdμeʃın ［名詞］タイピスト ［レベル］4 ⅃0

lɔʃȷdμeʃıμ ［電算］タイプライター ［レベル］5 1⅁: 制 ［文化］ cɒəl 1ʕ1⅃ にリュウの助手をしていたパールが、コンピュータ用に使っていたキーボードを元に発明。印刷機がなくてもすぐ印刷できる画期的な機械だった。

lɔʃuıȷ ［軍事］内戦、内乱、内ゲバ ［レベル］5 ⅃0: 国境内勢力の戦い

lɔʃɑıcıl ［地名］［交通］都内 ［レベル］3 ⅃⅃ ［文化］ アルナ県内という意味。

lɔʃhınʃ ［数学］内積 ［レベル］5 1L: ２つのベクトルの内側の角度の余弦を使うので lɔʃ、２つのベクトルをかけるので hınʃ を使っている。

lɔʃı ［名詞］ポンプ ［レベル］3 1ʕ: 制 :lɔʃ（押す）

lɔʃıcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ポンプ座 ⅃⅁ ［文化］ cɑı

lɔʃcl ［動詞］ɥəl を想像する、想像する、イメージする ［レベル］3 古 :lɔ（頭）/ʃlcl（持つ）から。

lɔʃen ［接続詞］lɔʃ ［レベル］3 ⅃1

lɔꞁ lɔ/cꞁ

lɔꞁʃ ［名詞］パズル ［レベル］2 1⅁: 制 : 古 :lɔꞁc 【成句】 ɥən μɥəə uılʃ lɔꞁʃ まるでリュウがパズルを解くように：快刀乱麻を断つ lɔꞁʃ e ɒccμ 理路整然

lɔꞁʃlecȷ ［芸術］パズル絵、謎解き絵 ［レベル］3 ⅃0 ［文化］ 謎解き絵や騙し絵のような、絵自体がパズルの性質を帯びているもの。絵の描いてあるパズルはジグソーパズルで、lecȷlɔꞁʃ。

lɔꞁȷ ［動詞］ɥəl（場所）を泳いで ı まで行く、泳ぐ。移動様態動詞。 ［普通動名詞］水泳、海水浴 ［反意語］μeʃl ［レベル］2 1⅁: 制 : 古 :leꞁe。造語者セレン。9 年にクミールが「 私は泳げません 」という意味で "nɔn ɑen ləꞁɔen ꞁeμ eμcı." といったことがある。「 私は水に入ることができない 」という意味である。クミールはアルカを覚えたてであったため、このような言い回しをしたのだが、基本語を組み合わせて十分意志を通じることができるということに改めてセレンは驚かされた。そこで次のアルカ改定（L 年の第３改定）の際に eμcıꞁeʃʃı（泳ぐ（水を行く））の代わりに leꞁe という語を提唱した。全員 eμcıꞁeʃʃı という語の長さにはうんざりしていたようで、すぐに広まった。尚、leꞁe というのは ləꞁɔen ꞁeμ eμcı 頭字語である。 ［文化］ アルナは海なしなので水泳は発達していない。川か湖で泳ぐ。湖の方が広くて流れもないので好かれる。また、川はアルバザードは流れが緩やかなので日本ほど危険もない。流れのない湖や流れの弱い川での泳ぎなので、泳法はゆるやかで、ダイナミックさにあふれたものではない。どちらかというとタイムより遠泳重視である。遠泳重視であるがゆえに、ジョギングなどと同列の健康効果を期待される。また、水中ウォーキングも行われる。ウォーキングが盛んなので水中ウォーキングも人気がある。水中ウォーキングは水泳に比べると日本では下火だが、アルバザードでは水泳に匹敵する。水中は水の抵抗が少ないのでリハビリにも役立つ。ただ、水温が冷たいのがよろしくない。腹を冷やすと抵抗力が落ちて風邪を引きやすくなる。アルティスは教理に体を冷やすなというのがあるので、体を冷やすのは好まない。そこで温水プールが作られた。アルバザードのプールは温水である。冷たいプールはない。プールはジムにある。 【用例】 ın ȷccnı ɑleı ɒın ın lɔꞁȷ ȷen ꞁı ʃınʃ. 外で泳げるので夏が好きだ。 ın lɔꞁȷıʃ ꞁe lını ɑɔnl hıμʃ. 暑気払いに泳ぎに行った。 ın lɔꞁȷ uın ꞁı ʃceμ cɒ ʃə ɑleı ncın. 今年の夏休みには海水浴に行くつもりだ。

lɔꞁȷȷıb ［被服］水着 ［レベル］2 ⅃⅃

lɔꞁȷın ［名詞］泳ぐ人 ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleIʃ

lɔꞁȷɔɒ ［名詞］泳法 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleIʃ

lɔꞁıȷ ［被服］ロカス、角帽 ［ユマナ］ナースキャップ ［レベル］4 μɑ;/「頭の三角」 ⅃ʔ ［文化］ 学位が与えられた人間に与えられる帽子。形は地球のナースキャップと同じ。

lɔꞁc ［動詞］ɥəl を理解する、理解する、分かる、解かる、判る、解る、分る、わかる、頭で理解する ［レベル］2 ɑ;「頭が動く」 古 :lɔꞁc lɔꞁc:lɔꞁc :lɔꞁc 【成句】 lɔꞁc ɥən beezel ベーゼルのように理解する。早とちりする、はやとちり。 lɔꞁc ȷen ꞁɔn clʃı hɔʃ 一目瞭然

lɔꞁcın ［名詞］理解者 ［レベル］2 ⅃⅃

lɔꞁcenuc ［名詞］理解力 ［レベル］2 μɑ;/ ⅃ʔ

lɔꞁɔʃın ［魔法］族霊 ȷɒ;<ılʃ ⅃⅁

lɔꞁɔʃınɒcμɔȷ ［哲学］族霊崇拝、トーテミズム μɑ;/ ⅃⅁

lɔl ［生物］腸、おなか、お腹 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔɔ ［文化］ 感情が宿る部位とされている。 【成句】 el nı elɑ hıμʃ ɒcl leɒc dɔʃen lɔl おなかに入ったスープの熱さは感じない：喉元過ぎれば熱さを忘れる。元は lɔl でなく ꞁeɒ だったが、セレンが「そんなことはない」と言って変更された。 【用例】 lɔl ʃəμ ıucl. お腹の調子が悪い。

lɔlɑıcz ［医療］腸炎 ［レベル］4 1L

lɔlbeʃl ［医療］腸チフス ［レベル］5 1L

lɔlbeʃllccꞁ ［生物］チフス菌。腸チフスの原因菌。 1L: サルモネラ→腸チフス→チフスの順で造語されている。

lɔlscɔμ ［生物］大腸兪、大腸愈 ⅃1

lɔllccꞁ ［生物］腸内細菌 ［レベル］4 ⅃1

lɔlı ［料理］ウインナー、ウィンナー ［レベル］3 1ʕ: 制 :lɔl

lɔlızl ［医療］腸結核 ［レベル］5 1L:ȷeμen

lɔȷ ［単位］9 ［音楽］ナインス ［レベル］1 1L: 制 :lɔ clcc:lɔn::ındc,ılʃ

lɔȷ(⅃) lɔ/eȷ

lɔȷʃ ［言語］テーマ、議題、主題、話題 ［レベル］3 1⅁: 制 【用例】 scφ{ıs, ɒcɥə} lɔȷʃ 話題を変える、話をそらす

lɔȷꞁ ［形容詞］主役格の、雑多でない、色々混じっていなくて大物揃いの ［音楽］トニック ［名詞］主役、メイン ［反意語］μelʃ ［レベル］3 1ʕ: 制 :lɔȷ（メイン）

lɔȷleɒ ［音楽］九重奏、ノネット μɑ;/ ⅃ʔ

lɔȷıb ［被服］チュニック ɑu;lɔ/ȷıbe ⅃⅁

lɔȷc ［政治］大臣 ［レベル］3 1⅁: 制 :lɔȷ（メイン）

lɔn ［名詞］古アルカの 9 ［レベル］3 赤→ ȷcɑıll

lɔn,lȷꞁ L lɔɥɔ.ꞁ

lɔnʃ ［名詞］串 ［料理］焼き鳥などの串にさした類の料理 ［レベル］3 ɑu;「頭から通して」 lıʃı lɔnʃ:lɔnʃ

lɔnʃ,ȷzl ɔȷn lɔ,ɑ

lɔnʃɒel ［歴史］上代、zφ_ꞁꞁ ［レベル］4 ⅃1 ［語法］ ɒcμɒel

lɔnʃıɑcȷ ［法律］串刺し刑 1L ［文化］ 肛門に串を刺し、口から出し、地面に立てる刑。家族殺しや不貞に適応。不貞の場合、肛門ではなく膣から刺す。高度な技術が必要な刑の一種。

lɔnʃcȷ ［建築］オベリスク ［レベル］5 ɑμɑ;lɔnʃ,ɑu ⅃⅃ ［文化］ 古代ファルファニア人が作った記念碑。串のような形をしている。アルバザードで特に華やいだのは ȷɒ で、芸術的要素として建築に取り入れられた。それ以外の時期はデザインとしてやや用いられる程度であった。 園芸のオベリスクの意味はない→ ȷınselcꞁı

lɔnʃe ［被服］ロンテ ［レベル］3 古 :lɔnʃe（ロンテ）← lɔ（頭）/ʃe（風、たなびく） ［文化］ アルティス教徒が頭に巻く長い布。男性服。頭に巻いたら残りの布は頭の横に垂らしておく。見た目はターバンとバンダナを合わせた感じに近い。色の指定はない。

lɔnꞁ ［論理］推量 ［動詞］ɥəl を推量する、推量する ［レベル］3 19: 制 : 古 : 推量のエクスプローダーの女性形（lɔn）

lɔnꞁuɔμʃcɒ ［法律］推定死亡時刻 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcı ılcȷ

lɔnȷ ［動詞］ɥəl を ı（地面や壁など）に押えつける、押えつける、押える、

押さえる、おさえる、押さえつける ［武道］押さえつけるタイプの固め技 ［レベル］3 1ſ: 制 :lɔſ/nıj（押して支える）

lɔnjµɔn ［医療］周囲圧、固定圧。押手の中指、薬指、小指で作る圧のこと。 µɑ;/ Jꞥ

lɔnɑ ［名詞］夢、夜寝るときに見る夢、夜見る夢、ロンド ［動詞］ɣəl（人や夢の内容）を夢に見る、夢に見る、夢をみる ［類義語］ɑcı、lıl llɔnɑ、ɑelnɔı µɑ ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :lɔᴅɔ（この場合は寝るの意味）/ɑcı ::lı lıµɑcnı:ɣəənı,ılſ ［成句］ leeucl ı lɔnɑ 寝入る。夢に去る：ᴅɔl と異なり、寝入った瞬間のことを専門的に指す。 ［用例］ lı lɔnɑ 夢を見る ın leeuı(c) ı lɔnɑ lɔnſ ſeµ leᴅ. 音楽を聴きながら寝入った。 ☆ ıµəəs leeuı(c) ı lɔnɑ cᴅ ɑɔnc ɑel ın cjcl dıᴅ. 灯りを消すやいなや弟は眠りに落ちた。 ☆ ın leeuı(c) ı lɔnɑ cᴅ ɑɔnc ɑel ın eucl ɔjn ı lɔnz. 頭を枕に載せた途端、眠りこけてしまった。 ☆ ın le lɔnɑ ɑcdcſ uıµ ᴅɔl. 寝ている間にいくつも夢を見る。 ☆ ın le lɔnɑ lılᴅıl µıl. 私は夢を見すぎる。 ☆ nɔn lɔµ lın lɔnɑ le lı lı. 今夜は彼の夢が見たい。 ☆ ın leſ lɔnɑ zıl cᴅ ſɔlel. 昨日おかしな夢を見た。 ☆ ın ıſ ᴅeſ c ᴅɔᴅɔ lı lɔnɑ. 崖から落ちる夢を見た。 ☆ ın ılſıſ µcɑcı lı lɔnɑ. リディアに逢う夢を見た。 ☆ ın nıſ nɔj lı lɔnɑ. 夢を見ているような気分だった。 ☆ ın nıſ nɔj lı lcel lɔnɑ ᴅın nı nıə µıl. 嬉しすぎて夢ではないかと思った。 ſə ɑcı eſ lɔnɑ le φıılɔ ᴅcµɔl lı ſcjee" これは、そんな寂しがりの神さまが見ている夢なんだ」 ᴅcll ᴅel lccı lı lɔnɑ ɔlſı ıuen. せめて夢の中では甘い時を（jeµen ıµbızıµɑ）

lɔnɑᴅclc ［医療］夢精 ［レベル］4 µɑ;/ Jʔ ［用例］ ın ıµıſ lɔnɑᴅclc cᴅ ſə ɑııµ. 今朝夢精をした。

lɔnɑıl ［被服］クレスト、甲冑紋。兜の上に付けた飾り。 jᴅ;lɔ/ɑılhı Jꞥ

lɔnɑıl(J) ［地名］ロンダル山 zφ Jꞥ ［文化］ フレアベルにある山。

lɔnɑılcɑı ［地球の星座］［ユマナ］テーブルさん座 Jꞥ ［文化］ cɑı

lɔnz ［名詞］枕 ［レベル］3 lılſı:「頭の木」が原義。 ［用例］ ın jccnı lɔnz hɔɔᴅc nɔɑ hɔnɔn. 固い枕より柔らかいのが好きだ。

lɔɑ ［交通］トンネル ［レベル］2 1L:lɔµ/ɑɔnſ

lɔɑſ ［動詞］ɣəl を ı に収容する、収容する、収納する、収める、収まる ［レベル］2 1ꞥ: 制 :ləſı（出る）

lɔᴅ ［普通動名詞］会釈、えしゃく、お辞儀、おじぎ、礼、ぺこり、ペコリ、ぺこ、ペコ ［動詞］ɣəl におじぎさせる、おじぎする ［レベル］3 古 :lɔᴅ（お辞儀）。「頭が低い」が原義。ちなみに lɔᴅɔ は「馬鹿」。 ［語法］基本的には黙って会釈するだけで十分礼儀正しい挨拶になる。目下が目上へ lɔᴅ するときは頭を下げるときにやや深く下げ、目は少しだけ瞑る。目上が目下へ下げるときは浅く微笑をたたえながら行い、目は常に相手を見る。 jeeµeſcj などと感謝を言いながら頭を下げることもある。特にアルティア人に多い仕草である。

lɔᴅɔ ［普通動名詞］仮眠、昼寝 ［レベル］3 古 :lɔᴅɔ（頭が低い）。ただしアルシェの語。 ［語法］ アルバザードでは特に昼休みの仮眠のことを指す。 ［用例］ ın ıµıſ lɔᴅɔ ɑə lılɔ lc hıµl. 昼ご飯の後、少しだけ昼寝をした。 ın jcſ ᴅel ſəuıl len lɔᴅɔ. 昼寝をするのに十分な時間が無かった。

lɔᴅɔn ［名詞］ハンモック ［生物］腸間膜 ［レベル］3 1L:dıl:lɔᴅɔ

lɔɑ ［動詞］ɣəl を ı に組み入れる（入学や入社など）、組み入れる ［普通動名詞］入院、入居、入学、就学、就職、入社、在籍すること ［反意語］ µeφ ［レベル］2 1ſ: 制 : 恣意 ［語法］ lıſ と同じ格組。

lɔɑſıj ［名詞］入学試験、入社試験、入試 ［レベル］3 1L ［文化］ ᴅeljel, ɑcıjel ［用例］ ın nıſ nıə ᴅın eſſɔ uıjſcl lɔɑſıj e ᴅınılı. 兄の大学入試での良い結果に喜んだ。

lɔɑdelſ ［名詞］入学式 ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelſ ［文化］ 入学式はガイダンスと一緒に行われる。二年次以降は入学式の代わりに始業式が行われる。実質両者の間に差はない。入学式の方が学校説明が入る程度である。ガイダンスでは担任の発表が行われ、今年の履修科目や授業の時間割が発表される。なお、クラス分けは去年の期末の結果発表の際に報じられる。ガイダンスではまた、年間行事の予定表なども配信される。更に自分がどの委員会に属すかも告知される。段取りは、まず校長が代表で一言数分で挨拶を述べる。そして教師側が代表者を出して上で述べた発表や配信を行う。それから学生委員会の告知があり、誰が委員の紹介がある。それが終わるとその日は終了となり、帰る。従って午前中に終わる。

lɔɑıjſ ［名詞］入学者、フレッシュマン、リクルート、新入社員、新人、新米 ［レベル］3 J1

lɔd ［交通］列車、電車 ［電算］配列。配列は要素を入れた変数という小箱が連なっているものなので、電車に見立てられた。古ではリュウが配列を dılın と名付けた。制のどこかで lɔd になり、JJ にメルが契機となって幻日に転記された。lɔɑel なども同様。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :lɔɔlɔdılın（電車）。「筒の乗り物」が原義。 ［語法］ lɔɑel（電算） lɔu : 車両 ez : 寝台車などの個室 ［文化］ → dɔnſ 街中の駅はすべて地下鉄である。地下を通って、郊外に出るにつれ地上に顔を出す。日本の有楽町線新桜台付近、フランスのＲＥＲのＢの北駅をしばらく超えてドゴール空港へ向かう電車と同じ。ただし、その後街に入るとまた地下へ戻る。駅は車道寄りに存在するので車からは勿論、駐車場を通って徒歩や自転車でも行くことができる。電車は定期券や切符を購入して乗る。切符は前払いである。改札は自動である。バスやタクシーに比べると短時間で遠くまで行くことができ、料金も遥かに割安である。定期券を持っていれば区間内の移動は自由であるという点は日本と同じである。日本と違ってアルナの電車はふつう各駅停車である。日本でいえば山手線は各駅なのでアルナと同じである。急行は大都市間を走っている。各駅か急行しかないため、準急や特急はない。駅の名前はその駅が存在する場所の名前である。住所がそのまま駅名になる。電車の内装はバスや飛行機と同じで二個ずつ並んだ席が全て前を向いている。日本のように横並びではない。飲食は自由でトイレも付いている。席は回転させて向き合うこともできる。大人数の仲間同士で電車に乗るときは席を回転させて会話を楽しむ。席はふつう指定席ではなく、自由席である。但し、指定席を買うこともできる。立ち乗りはふつう生じない。そんなに込むことがないためである。 ＜サライの電車＞ アルミヴァ通りの地下に１本ずつ走っている。各通りをリディア～クミールまで行ったりきたりする。 また、メル、セレン、エケトネ、クミール通りの地下には環状線が走っている。ジャンクション駅ではアルミヴァ線と乗換えが可能。 ［用例］ lɔı{lenɑ} ı{c} lɔd 電車に乗る｛降りる｝ lɔd leµ. 電車が走っている。 ın leɑıſ uılel lını lɔnſ lɔd. 電車に遅れないよう、急いで走った。 lɔd eᴅ ᴅɔnɔ ɔl jınse. 電車が止まる。鉄道が止まる。運転を見合わせる。 lɔd ucz (jınɔ). 鉄道が遅延する（遅れる）。

lɔdjınɔ ［交通］電車のダイヤ、時刻表 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

lɔdn ［交通］駅 ［形容詞］～駅。前置。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔdᴅɔnɔ ［文化］ 駐車場の近くにある。日本の地下鉄と同じく階段やエレベーターで降りていく。階段を降りると切符売場や改札がある。改札の横には駅員室がある。改札を抜けるとホームがある。ホームにはベンチや待合室がある。日本と同じである。電光掲示板があり、電車を知らせる。また、日本と同じく大きな掲示板が立ててあり、一日の時刻表を見れる。上り下りどちらも書いてある。日本と違って土日ダイヤは存在しない。ホームから電車に乗る。そして目的の駅で降りる。自転車やペットはふつう電車に乗らない。ただ、遠くで自転車を買って運ぶときや、どうしても自転車を乗せたいときには仕方がない。別に乗せては駄目という決まりはない。ただ、場所を取って迷惑なのでふつうは乗せない。ペットも同様である。

lɔduenſ ［名詞］鉄道会社 ［レベル］4 J1

lɔdɑɔnſ ［交通］鉄道 ［レベル］3 1L:clᴅəj:µcɑcı

lɔdµı ［交通］操車場、送車場 ［レベル］3 JJ:ᴅel

lɔb ［動詞］ɣəl を lɔn で覆う、覆う、おおう、覆いかぶさる、被せる、かざす、翳す、カバーする ［レベル］2 古 :lɔb,ləədı（かぶる）

lɔbdedj ［被服］ヘッドスカーフ µɑ;/ Jꞥ ［文化］ jᴅ でできた。貴族の女性がお忍びで街に出るときに身に付けた。lɔlɔj の忍者が身に着けていた頭巾が jᴅ で凪人を介して伝わり、それが元でヘッドスカーフが作られた。

lɔbɔ ［名詞］覆い、おおい、カバー、表紙 ［レベル］3 µɑ;lɔb/lɔn Jʔ

lɔbeſ ［被服］トップハット、シルクハット nɑ;lɔɔb/eſ Jꞥ

lɔhɔ ［アイテム］兜、ヘルメット、保護帽 ［レベル］2 ᴅelſcı Δ:φclcəj;lɔ/hɔ 古 :lɔhɔ。「頭に対する固いもの」

lɔɣɔ ［アイテム］手裏剣、飛びナイフ、投げナイフ ［レベル］3 ɑu 赤

lɔɣɔſ ［名詞］万字、まんじ、マンジ、卍、卍型、鉤十字、カギ十字 ［レベル］4 J0:lɔɣɔ/ſe（手裏剣のような）

lɔɣɔſɣəuel ［運動］［ユマナ］少林寺拳法 ［レベル］6 J0: 元々鉤十字がシンボルだったが、ナチスのイメージと結び付くなどと因縁をつけられ、シンボルを変更させられた経緯がある。

lɔµ ［名詞］管、チューブ、筒、ホース ［音楽］管楽器（特に笛） ［医療］カテーテル ［レベル］2 1L: 古 :lɔɔlɔ（管）。造語力が高いので、語形を短めにとっておいた。 lɔɔlɔ:lɔɔlɔ:lə lɔɔlɔ:lɔɔ,ılſ

lɔµſ ［魔法］ロルト、忍術 ［レベル］4 1L:µcɑcı:lɔlɔj/ıµſ ［文化］ アルトの一種で、忍者が使う。アシェットではルビィが使用する。術の種類は少ないものの、眼力で相手の動きを止める魔法など、ひとつひとつに特徴がある。

lɔµlılı ［地学］円筒図法 ［レベル］5 1L

lɔµlcſl ［料理］春巻き ［レベル］3 J0: 筒状の饅頭

lɔµφıɔ ［音楽］サックス、サクソフォン ［レベル］5 J1

lɔµzel ［軍事］ローゼル、漿管 ［レベル］5 J0:lɔµ/zelɔ（筒／脳） ［文化］ ınselclı アンジェリカ脳内にパイロットを入れるための細長いポッド。２．４ｍあり、パイロットのスペースは２ｍで、１．７、の人間がちょうど入りやすいように規格されている。１．７ｍというのはおおよそアルバザード人男子の平均身長である。

lɔµleᴅ ［音楽］吹奏楽 ［レベル］5 J1

lɔµlənɔ ［化学］カーボンナノチューブ ［レベル］6 1L

lɔµcɑıl ［生物］環形動物門 JJ

lɔµɔᴅ ［医療］管鍼法 µɑ;/ Jꞥ ［文化］ 管鍼法が発明されたのは jᴅ のカレンシア。

lɔµen ［形容詞］ギリギリの、ぎりぎりの、がけっぷちの、崖っぷちの、ギリギリセーフな ［副詞］ぎりぎり、ギリギリ、どうにか、すんでのところで ［反意語］lɔµıcn ［レベル］2 J0:lɔſ µecn（線の内側の） ［用例］ ın lɔnſıſ ɑelı lɔµenel. ギリギリ学校に間に合った。

lɔµenj ［ジョブ］予言、予言者、ローレンス、占い師 ［アクセント］lƏµenj ［レベル］3 古 : 言葉を知るもの ［語法］ アティーリでは占い師など霊感 (nıuc) を強く持ったものが未来を予知でき、予言を行う。なお、預言者は lɔµenj ではない。預言者は巫女 (ᴅeµcı) と同義である。 ［文化］ → lnɔɔjenuc

lɔz ［動詞］ɣəl を ı に混ぜる、混ぜる、まぜる、混ざる、まざる、砂糖などを溶かす、トランプなどを切る、シャッフルする、カードを切る、かき混ぜる、かきまぜる、合わせる、コーディネート、ミックスする、撹拌する ［名詞］混合物 ［レベル］2 ɑ;e 古 lɔz:lɔz:ıᴅɣəle

lɔzſənj ［地学］混合農業 ［レベル］4 1L

lɔzuelɑ ［名詞］ちゃんぽん ［メタファー］何かの混合、ごちゃまぜ、ごちゃ

混ぜ ［レベル］4 Ɉ1

lɔzbɪlil ［名詞］複合遺産 ［レベル］5 μɑ;/ Ɉʔ ［語法］ ɑcɪbɪlil

lɔzhɪnl ［気象］対流圏 ［レベル］5 1L

lɔzzɔn ［料理］マドラー ［レベル］3 μɑ;/ Ɉʔ

lɔzl ［料理］カレー ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔzlccʃ 【用例】 lɔzl ıɑcl 辛いカレー、辛口カレー lɔzl en ıɑcl 甘口カレー

lɔzldıjʃ ［料理］カレーライス ［レベル］3 μɑ;/ Ɉ⋂ 【用例】 ın ləʃ μeʃ lɔzldıjʃ e ɑeɒɥel bleɒ ɔlen ıd ɑel φɔjl ɔ lılc bleɒ e ɑıɑcn lı lɔlɔcʃ lcbɪnɥɪ. ＣｏＣｏ壱番屋ではいつもチーズと鶉卵フライをトッピングしたチキンカツカレーを注文する。

lɔzɪ ［植物］フェヌグリーク 1ʕ: 制 :lɔzl

lɔzc ［料理］カンパリ ［レベル］6 1ʕ: 制 :lɔz

lɔzcll ［建築］雑居ビル ［レベル］4 1⋂: 制 : 雑居な建物

lɔze ［化学］懸濁液、懸濁物 ［レベル］6 μɑ;lɔz/eμ Ɉ⋂

lɔzeʃ ［生物］ロゼット、亜神 ［反意語］uelɑccμe ［レベル］3 Ɉ0:lɔz/ʃe（混ざったような） ［文化］ 人と神の混血児。

lɔzeʃ(Ɉ) ［音楽］カントリー ［レベル］5 Ɉ1:「混ざったもの」

lɔl ［形容詞］面白い、関心がある ［反意語］ɥəɑɔl ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :lɔlın（知りたい、興味） ［語法］ 愉快ではなく興味があるほうの面白い。日本語の「面白い」と違って bın と完全に分化されているので、事件などに対して面白いと発言しても不謹慎と怒られることは少ない。 ［文化］ uɔμʃɑeɒe 【用例】 en nı lɔl. 興味ないな。＝俺は無関心だな。 ın lıl le lɔl eɒ jɔɑ. 何か面白いことが起こればいいのに。 lı eʃ lɔl ıllı lɔʃ lej ın jeμ. 彼は知っている中で一番面白い人だ。

lɔlc,ɑ jes

lɔlɔ ［動物］蛇 ［レベル］2 古 :lɔlɔ（蛇）。lɔɔlɔ（管）からきている。

lɔlɔʃ ［軍事］サーペンタイン μɑ;lɔlɔ/ʃe「蛇のような」 Ɉ⋂ ［文化］ φel

lɔlɔʃj ［電算］ホームキー ［レベル］4 Ɉ0

lɔlɔj ［地名］メテの使徒ラルドゥラの支配地 ［人名］ラルドゥラのアルカ姓 ［レベル］4 lılɔ ［文化］ lɔlɔjın

lɔlɔj(Ɉ) ［アトラスの国家］ロロス ［レベル］3 lılɔ ［文化］ 面積：ʕʕΔLɈʔ.0Ɉ1Ɉ⋂L lɒ 」

lɔlɔj(ʔ) ［被服］胴衣 ɑu;lɔɔlɔ/jıbe「筒の服」 Ɉ⋂

lɔlɔjʃcle ［地学］ロロス海流 Ɉʔ

lɔlɔjın ［名詞］ロロス人 ［レベル］4 Ɉ1 ［文化］ ロロスというと忍者のイメージがあるが、どうしてそうなっているのだろうか。 ɥəəɒı ʔʕ44ʔ にシフェランがハーディアンの首都ロロスを陥落し、翌年に同盟都市のアルティアに見返りとしてロロスの支配権を渡す。このことが決定的な原因となり、アルティアとロロスの間に格差が生じた。 Ɉɒ で武家社会がアルティアで台頭するとアルティアは力を付け、再びロロスを支配する。結果ロロスはアルティア人にとって辺境となり、落ちぶれたアルティア武士の逃げ場になっていった。 落ち武者はロロスで集落を作ったが、武士だけあって魔導師の防御をも打ち破って敵を一刀両断にする力を有している。言いかえればメジュテルを破って相手を暗殺できるということである。食うに困った落ち武者らが暗殺を稼業にするまでそう長い時間はかからなかった。暗殺集団と化した落ち武者は暗殺者の村を築き、暗殺を請け負うことを生業とした。これが忍者 (μelɑıjʃ) の発祥である。

lɔlɔın ［名詞］蛇使い μɑ;/ Ɉ⋂

lɔlɔıncɑı ［地球の星座］［ユマナ］へびつかい座 Ɉ⋂ ［文化］ cɑı

lɔlɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］へび座 Ɉ⋂ ［文化］ cɑı

lɔıl ［普通動名詞］推理、推定、推測、推論、推計する ［動詞］ɥəl（内容）を推理する、推理する、推測する、推定する、推論する、推計する ［レベル］3 古 :lɔıl。「 考えられたもの 」が原義 ［文化］ 推論は前提や条件があり、その上で推論上の結論が導出される。この手続きを簡潔かつ明瞭に行うようにアルバザードでは子供のうちから鍛えられる。たとえば親は「雨だったら行かない。じゃあ晴だったら行くの？」と子供に聞いたりする。子供は始めは答えられないが、親が答えを教えるうちに学ぶ。答えは「日常論理としては「行く」が正しいけど、論理学では逆は必ずしも真ならずだから正しくない」である。子供はこれを呪文のように暗記し、論理的な表現に体を慣れさせていく。そして何年か後に知識によって論理を頭で理解するようになる。アルバザードでは子供のうちから虚偽を教え、正しい推論を教える。更に、論理と日常論理を区別することも教える。虚偽論は日常論理としては正しいものもあるため。

lɔc ［形容詞］［ネガティブ］不器用な ［類義語］elecnı、lɔɔı ［反意語］ɑeɒlıj ［レベル］2 1ʔ: 制 ［語法］ ıılɔ―lɔc, ılı―lɔɔı のペア。

lɔcʃ ［建築］オフィス、事務所、事務局、会社、役所、企業、仕事場にしている建物 ［レベル］3 jɔμn: 会社、企業、役所など ［文化］ 企業はオフィスビルに入っている。日本と同じく大きなビルにいくつもの会社が入っている。ビルの玄関は集合住宅と同じで、守衛がいて改札がある。オフィスの人間はアンセで通り、取引先の人間などは守衛室から連絡してもらって通してもらう。大企業だと自社ビルを持つこともある。 【用例】 le lɔcʃ 出勤する lɔcʃ eɒ μcφ. 会社が潰れる。 lıɑ lɔcʃ 会社を作る nı nıl, ɒın lɔcʃ ınʃej ɑe μcφ ɔlʃı ʃc μel. あなたが失敗しても会社は潰れない。安心しろ。

lɔcʃueφı ［名詞］外弁慶、会社弁慶 ［レベル］5 μɑ;/ Ɉʔ ［語法］ ueφı

lɔcʃɑlec ［名詞］奥付→ lec ［レベル］4 ɈɈ

lɔcj ［動詞］ɥəl を ı（ファイルサイズなど）に圧縮する、圧縮する ［動詞］ɥəl（果汁など）を濃縮する、濃縮する ［普通動名詞］圧縮、濃縮 ［電算］ファイル圧縮 ［数学］因数分解。整理する。展開の反対。 ［反意語］μəın ［レベル］3 1L:lɔʃn:1⋂: 制 :lɔʃʃcj

lɔcjμəın ［名詞］濃縮還元 ［レベル］4 ul;/「濃縮して還元する」。一旦水分を飛ばしてからあとで水分を加える。運搬を容易にするために行う。 Ɉʔ

lɔcnʃ ［アイテム］弩、クロスボウ ［レベル］4 jzɑ;ʃlɔcnʃ.l ɈɈ:jɔμn:ʃlɔcnʃ（自動ドア） x:lɔcnʃ:lə lɔcnʃ

lɔɔ,ɑ jee, ɥın, hıɥə, lɔɒ, jɔn, ıljɔn, jɔrl elʃ;lɔ「考える」から。「私は考える」という意味の動詞部分だけが切り取られたもの。セリフを考える間のフィラーとして使われ、やがて「そして」という接続詞的な意味を獲得。 赤 :lɔ。赤に lɔ で「ＡＮＤ」「そして」などと記載されている。

lɔɔ,ılʃ lɔμ

lɔɔʃ ［名詞］パイプ ［レベル］4 1⋂: 制 :lɔɔ から

lɔɔʃlcbı ［音楽］パイプオルガン ［レベル］4 1L:ɒclɑ ［文化］ lcclı

lɔɔʃɔ ［名詞］覚悟 ［類義語］uıjn ［レベル］3 Ɉ1: 古 lɔ/ʃɔ（終わりを知る） 【用例】 ʃcl lɔɔʃɔ 覚悟する

lɔɔj ［被服］ベスト、チョッキ、胴着、胴衣、ウェストコート、ジレ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lılʃı:lɔɔlɔɔjıbe（袖のない筒状の服）の略。

lɔɔncı ［魔物］ローニア（蛇女）：第八天：闇の風天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:lɔlɔ/ncı ［文化］ 霊族。髪の代わりに無数の蛇を生やした女の魔物。子供をなくして嘆き悲しみ自殺した女の死体に憑依する。眼は憎しみに満ちており、目が合うと恐怖で気を失ってしまう。攻撃方法は爪を立ててくるなど単調だが、体力がありえないくらい多く、しぶとい。母の執念深さを象徴しており、斬っても斬っても恐ろしい形相で掴みかかってくる。攻撃力防御力ともに大したことはないが、体力が多いことと、爪に呪いの魔法が込められていることから、苦戦する。ヴェムの魔法の使い手で、これが厄介な理由。 μɑ でフルミネアが封じ込めた魔族。呪いの爪 (ınueμnɔz) のケフェウス、呪いの瞳 (ınueμcnj) のアルフィルク、呪いの蛇 (ınueμlɔlɔ) のアルデミランが武器で、フルミネアはこれに苦戦した。セレンの指示で援護に入ったメルだったが、自慢の金髪を爪で切られてしまう。最後はユノの打ち合いになり、先天的にユノが過剰なフルミネアはどうにか勝つことができた。フルミネアは情けをかけ、ローニアのなくした子供を持ってきて呪いの蛇アルデミランに封印し、魔族を鎮めようとした。 ところが髪を切られたメルは、義理の兄セレンが長髪が好きだと知っていたのでローニアを恨み、ローニアの息子を lɔɔncı の星座領域から μılıʃcı の領域に移し替えた。これがガーネットスター (ınueμnɔc) である。 怒り狂ったローニアは鎮静から醒め、星座の監獄を壊そうと爪でもがき、恐ろしい形相で地上の人類を睨みつけ、蛇を地上に伸ばして人類をくびり殺すようになった。

lɔɔne ［魔物］ローネ（仇手）：第十七天：水の風天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:hene,ʃɔne を参考に、古アルカの lɔ（９）から。 ［文化］ 魚族。９本の触手を持つ巨大な化け物。蛸と烏賊を足して割ったような姿をしている。長い触手は海の底から地上まで伸ばすことができ、水辺の人間を引き込むこともある。船に触手を絡ませ、沈没させることもある。そのため、船乗りに畏怖されている。

lɔɔu ［動詞］ɥəl をもがかせる、もがく ［レベル］3 1L:lɔɔb/ɔu（芋虫などのように動く） 【用例】 ın lenıʃ eμ ɑc jcn, cɒ ın lɔɔuɔμ dɔʃ ʃceμ. 海でもがいているときに海水をたくさん飲んでしまった。

lɔɔɑıμ ［宗教］副助祭、サブディーコン zφ;「ろうそく係」 Ɉ⋂

lɔɔɑ ［形容詞］予想外の、意外な、思わぬもの ［副詞］意外にも、意外に、意外と、案外、なにげに ［反意語］len ［レベル］2 古 :lɔɔɑ,lɔɔɑen「 思わない 」

lɔɔɑın ［名詞］［形容詞］番狂わせ、ジャイアントキリング、大金星、予想外のことをする人 ［レベル］4 μɑ;/ Ɉ⋂

lɔɔd ［動物］ミミズや毛虫などの足のない動物 ［レベル］3 1ʔ: 制 :『制定語彙』lɔɔlɔləədɔ「 筒の虫 」

lɔɔb ［被服］帽子、キャップ、ハット、スイミングキャップ、笠 ［レベル］2 zφ;lɔ/jıbe 1ʔ: 制 : 古 :lɔlɔb,lɔjıbe（頭を覆う→帽子） lɔɔb:lɔɔb 【用例】 ʃəɔ, el lcμɔμ lɔɔb. そろそろ帽子がいるな。 ın ləlıʃ ɔl lɔɔb. 帽子をかぶって歩いた。

lɔɔblıɑ ［地球の国名］アルゼンチン ［レベル］6 1L: 国章に帽子

lɔɔbejd ［気象］笠雲 1L

lɔɔz ［名詞］端、端っこ、隅、すみ、際、縁、ふち、えん、エッジ、パンの耳、脇、舞台袖、袖、ソデ、そで、稜 ［格詞］～の端にある、～の端っこにある、～のはじっこにある、～のはずれの、～の外れの ［物理］磁荷 ［類義語］ıddel ［レベル］3 古

lɔɔzdcnɑ ［言語］［文字］エッジセリフ Ɉ1

lɔɔzdɔl ［地名］極方 ［レベル］5 Ɉ0 ［文化］ エルトア、アルダ、セレーナ、デスパナ、フィギットのこと。カコ以降、寒くて人口が少なかったが、レイユで少し持ち直した。近代では東方からの移住者が多く、制アルカではないものの、アクセントは頭に置く。旧イグレスタ圏。 なお、セレーナ、デスパナ、フィギットは無アクセント圏。

lɔɔzɪ ［数学］計算尺、対数尺、ローザ ［レベル］6 Ɉ0:lɔ/zıɒɔ（考える尺）この zıɒɔ（木）は棒、尺のこと。 ［文化］ cɒəl 1ʔLʕ に lɔɔz cφμeʃ が対数尺を発明。lɔzıɒɔ を語源としたが、自分の名前に似せたという腹もある。cɒəl 1⋂10 に計算尺を発明。こちらも lɔɔzı と呼んだ。地球と異なり、対数尺と同じ名前で呼ばれるので、区別するには複合語を用いる。 当時アルナ産のローザは木製で白く塗られ、アルシア産のローザは鉄製で黒かった。μɑ で計算機は広まり、一般の学生にも普及した。アルナ大学とラグナロク以外は木製で茶色のものを持っていた。電卓が広まるまで理系学生のステータスシンボルで、特に白か黒のローザを白衣から出す姿は女子によくモテた。

lɔɔzı ıɒınze ［人名］ローザ＝アマンゼ ［レベル］6 Ɉ1:「血の混じった」 ［文化］ シオンとユルトの娘。教祖シオンやミロクの先祖。

lɔɔz cφɥeſ [人名] ローズ＝イグレット ʖ0 [文化] (cɒəl 1ʔʕ0:1ɱʔ1) アルナ大学の数学者。cɒəl 1ʔLʕ に対数尺を発明。cɒəl 1ɱ10 に計算尺を発明。

lɔɔzen [接続詞] ～の端にある、～の端っこにある、～のはじっこにある、～のはずれの、～の外れの [レベル] 3 ɥɑ;/ ʖɱ

lɔɔl [生物] 脈管 ɥɑ;lɔɔlɔ.ɿ ʖɱ

lɔɔldɪnʃ [生物] 脈管系 ɥʃ;/ ʖɱ

lɔɔlɔ [名詞] サイフォン [レベル] 4 ɥɑ;lɔɔlɔ,ɑ.ɪleɿ ʖɱ [文化] → eɥɒe ɭ̈

lɔɔlɔ,ɑ lɔɥ

lɔɔɪ [形容詞] 下手な、苦手な、知らない、ɔn について知識が暗い [反意語] ɪlɿ [レベル] 2 ɑ;ɪɪlɔ.φeɿȷ 赤 :lɔɔɪ（不器用な）【成句】 ȷccnɪ ɑcn lɔɔɪ 下手の横好き ɪn eſ lɔɔɪ ɪl ɪlɑ. 私は数学が苦手だ。

lɔe [名詞] なぞなぞ、謎々、謎謎、クイズ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :lɔen（わかる？）の意。【用例】 ɑcſ lɔe なぞなぞを出す

le [代詞] [形容詞] あれ、あの。前置。 [代詞] lɪ。あいつ。人をこき下ろすために lɪ の代わりとして使う用法。 [反意語] ſə [レベル] 1 1L: 制 :le。音が lɪ,lə に近いため、子音を変更した。頻度が ſə より異様に低いため、扱いが軽く、アルカ史において最も変動があった人称代詞。 bcɿe :Tə（あれ）lə,lȷɑ（それ）:Tə(_lɭ ただし音価は ɒſ 以降 T が消えるので lə に) ſəəl(lɭ_):ſɪ,ɪlſ [語法] ſə 【用例】 le φɪlſ あの門 le zɔɒ あの木 ɪɥnɪ l'ɪn ɑcɪȷɪſ ɿɪ 私が生まれたアルナ ɪn le ɑcɪȷɪſ ɿɪ ɪɥnɪ アルナで生まれた私

le(ʖ) [接続詞] 名詞と修飾節をつなぐ接続詞。関係詞節を作ると考えてよい。 [レベル] 1 ɥɑ;lɥə,ȷzɑ（関係詞の lɥə） 1L: 恣意 ɥɔɒ:ɥɔɒ:lɥə [語法] 格は関係詞節中に残る。ſə eſ ɑeɭ̈ɪ l'ɪn ɑelɪſ ɿɪ（ここは私が勉強した学校だ）。ɑeɭ̈ɪ ɿɪ l'ɪn ～にはならない。なお、関係詞中に残存した格は省略可能。きちんとした言い方のときだけ残る。つまり、この ɿɪ は省略可能。 le は関係詞節中に適切な格がない場合にも用いることができるが、この場合 e や ɑel や lel などで置き換えることができる。ɪlɑc, ɪn ſcl lɪnɑ le nɔȷ ȷɪcn ȷcl ɑcueɥ（絶望を確認するという希望がある）において lɪnɑ は本来同格で lel や ɑel だが、ここはそのほかに le でも e でも置き換えることができる。【用例】 le ɪſ ɥcφ cɒ ſɪſɔlel, ɪlɑc le lɪ uɔɥſcɿ, nɔn lɔ. あれは一昨日、つまり彼女が死んだ日に壊れたんだと思います：この le は leȷ にあらず。ɪlɑc が挿入されているが、le は ſɪſɔlel にかかっている。先行詞があるため leȷ でなく le が正しい。

le,ɑu 形容詞を導く接続詞。ucɿ ɑe ɿɪc の音が弱まって ucɿ le ɿɪc となったもの。ɒelſcɪ ɱ 以降は語順が逆転。 ɑu:ȷɪɪl;ɑe.l

leſ [動詞] ɥəl を ɪ まで引く、引く、ひく、引っぱる、ひっぱる、引っ張る、引き張る、牽引する [普通動名詞] 牽引 [音楽] チョーキング [反意語] ɥɔɿ [レベル] 2 1ʔ: 制 :lɔſ ɪɭ̈eɿɔ:ɪɭ̈eɿɔ

leſſ,lſɑ ɪlɪ。'ɔɥeſſeſſ（リンゴというもの）のように使う <>ſeeze

leſſɪ [ユマナ] アラブ人、アラブの [レベル] 5 1L: アトラスの leſſenɪ に相当する人々だから

leſſɪnl [料理] ラーメン、拉麺、らーめん [レベル] 3 ʖʖ:ɪlſ の食べ物を意訳 1L: 棒を引っ張って麺の生地を伸ばす。 [文化] ヴェレイでヴェマから入り人気となったが、革命で害食に指定されて廃れた。【用例】 ɿəc{len} leſſɪnl うどんを啜る。ȷcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ɿəc を使う。ȷcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

leſſɪhɪd [ユマナ] アラビア文字 [レベル] 5 1L

leſſc [地学] 銅 [形容詞] 銅の [組み数字] 3 / 4 [レベル] 2 1L:leſſeφc（紅茶色の金属）。ただし、歴史的には紅茶より銅のほうが発見は古い。 ſenφɪ:ſenφɪ: [文化] ȷcɒel

leſſcɿɪɑ [地球の国名] キプロス 1L: 国名が銅に由来している説がある

leſſcȷel [歳時記] 銅の日 [レベル] 3 ʖ1 [文化] ɑɪnſȷel

leſſchɪd [言語] 銅版体、カッパープレート体 [レベル] 6 ʖ0 [文化] hɪ ɖɥecn

leſſclcl [化学] 銅→ leſſc [レベル] 4 1L

leſſe [色] 茶色、褐色、レッテ [形容詞] 茶色い [料理] 紅茶→ eſeɿ [レベル] 2 ȷɔɥn;leſſe,ɑφn.ɿ 古 :ȷɔɥn: 紅茶色 ʖ0:ɿɒccɥ: クミールはお茶好きで種類を豊富に持っているため、eſeɿ が紅茶を指すとは限らなかったため、leſſeeſeɿ の eſeɿ を省略し、leſſe で紅茶を表した。ふつうの使徒はその必要がないため、leſſe で紅茶を指すのは通な人のすること。 ſənɪ:ſəənɪ:lɪ hɪnbel

leſſe,ɑφn eſeɿ

leſſeɿɪɑ [地球の国名] ラトビア 1L: 国旗が茶色

leſſelcȷɪ [名詞] 黒砂糖 [レベル] 3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪleſſ

leſſen [名詞] (ſcl) ゆったりとしている、紅茶を飲んでくつろいでいるときのような [レベル] 3 1L:leſſenɪ

leſſenɪ [生物] 茶色人種 [レベル] 3 1L:leſſe/ɪn [語法] ɑcɥɪn が南のほうに住んで肌の茶色くなった人種。地球で言うとアラブ人に相当する。アシェットではパールなど。

leſſebezn [動物] ゴールデンレトリバー [レベル] 5 ʖ1

leſſesecɑɑɔl [地学] 褐簾石 1L

leſſeɪɿɔn [地学] [植物] 褐色森林度 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪleſſ [語法] 森林の土壌として広く分布。

leſſecnȷ [生物] 茶色い眼 [レベル] 3 1L

leſſeeſeɿ [料理] 紅茶 [レベル] 2 1L:lecn

leſȷ [音楽] ピアノ [レベル] 3 ɥɑ 1ꝑ φcl ſɪn:ȷeɥen:ɿlel:lɔſȷ [語法] ſɪn（指一本でターンと一音弾いてハンマーが弦を叩いた感じ） ſɔlſɪlſelſ cl（キラキラキラキラと低いほうから流れるように高音に流れるように弾いていくさま）

leſȷɪn [名詞] ピアニスト [レベル] 3 ɥɑ;/ ʖʔ

leſucɪn [文化] 引力 [類義語] ɪſɔe [反意語] ɥɔɿucɪn [レベル] 4 ʖ0

leſɑɥeɒ [動詞] ɥəl を引き寄せる、引き寄せる、引きよせる [レベル] 3 ɥɑ;/ ʖʔ

leſɑɪl [動詞] ɥəl を ɪ に抱き寄せる、抱き寄せる、抱きよせる [レベル] 3 ʖ1

leſdɪ [料理] セモリナ [レベル] 4 1ʕ: 制 :leſddɪȷſ

leſl [動詞] ɥəl を開放する、開放する [普通動名詞] 開放 [反意語] ɥcȷſ [レベル] 3 1ꝑ: 制 :lɔſl

leſɪ [娯楽] コンサート [レベル] 3 ɥɑ;leɒ/cſɪ「音楽会」がやがてコンサートの意味に変化したもの。 ʖʔ

leſɪ,ɑu dɔɔſ

leſcȷ [宗教] レティス [反意語] ueleȷ [レベル] 3 古 :ſcȷ は lɪnſcȷ（人） [文化] ɥəəɒɪ ʕɥɱꝑ アゼリア、アリスカンテ以外を邪教と宣言。信仰心の篤いもののうち旧アルティリア教徒を leſcȷ と呼び、旧イスカンテ教徒を ſeeſcɪ と呼び、それ以外を ueleȷ と呼び、ueleȷ を強く非難した。反対派はこれによって邪教徒 hɪɥuɪ と呼ばれるようになり、弾圧の対象となった

leſcɥ [形容詞] 古く使い込まれていて味がある、古い [形容詞] [ポジティブ]（人が）年を取っているがダンディでかっこいい、しぶい、渋い、シブイ [類義語] ȷcɑ [アクセント] leſ€ɥ [レベル] 3 ʖ0:ɒelcɑcɪ lceɥ:leſſe（茶（古びた））/ 古 ɥce（古酒）

leſcl [言語] モーラ [レベル] 6 1L:lcɒ/ſcl（音素を持った） [文化] → ɖɪɑ

leſcɪ [名詞] 姫、プリンセス [名詞] 駅弁 [類義語] neeɒe [反意語] ɪɥɑcȷſ [レベル] 2 ɥɑ ʖ0:lenſ/ſcɪ（愛しの人形）。王位継承権があるため、王に可愛がられることから。 ɒene:ɒene: [語法] 王位継承権１位ないし２位までを指す。１位が継承確実な場合、１位しか leſcɪ にならない。男子の場合、常に暫定１位のみを指す。 [文化] ・性交の体位 女性を両腕で抱え上げ、女性は向い合って男性の首に手を回し、男性は立つ。そのままの姿勢で挿入し、動かす体位。極めて難易度の高い体位で、男性に相当な筋力を要する。逞しさを象徴する体位で、ȷɪɥɒclc が生じるにもかかわらず、女性はこれをされるとはしゃぐことが多い。ただ、相手が貧相だと不安がる。要は人による。女性をお姫様のように扱って抱き上げることからこの名が付いた。【成句】 leſcɪ ȷɪen ɪɥɑcȷſ 一姫二太郎

leſcɪnſ [代詞] [plaeɥs] ſccleȷ [レベル] 1 ʖʖ:ɿɒccɥ

leſcɪɒ [代詞] [plaeɥs] ſccȷ [レベル] 1 ʖʖ:ɿɒccɥ

leſɔ [医療] しみ、肝斑、染み、シミ [レベル] 3 ʖ0:leſſe

leſɔȷ [天文] ɒclɑlccɑɪ [組み数字] 3 / 8 [レベル] 4 lȷɑ;leſɪ 麦の熟れるころに見える星 ʖ1

leɿ [動詞] ɥəl のことで頭がこんがらがる、理解できない、混乱する、ɥəl を理解できない [レベル] 2 1L ？ : 中期制アルカか後期制アルカに戻した。【用例】 ɪn leɿ cl ɒcl ɒɪlɪɑc. 混乱して何も理解できない。

leɿſcɪ [名詞] レクティア、生き地獄 [レベル] 4 ʖ0:ɥcɑcɪ:leɿɪc/lɪſcɪ（この世の地獄） [文化] → leɿɪc 地獄ラティアはネガティブに考えたり人を呪ったりする人間が集まった場所であり、地獄の業火で苦しめられる場所ではない。永遠に不幸と不快を感じ続ける負の連鎖の場所である。しかしそれならば現実に見ることもできる。むしろ善人すら悪人に巻き込まれてしまう現実にこそ本当の地獄は存在する。そのような、現実であるにも関わらずまるで地獄のような場所をレクティアという。 例えばこのような場所があるとする。一人の馬鹿ギャルは「まじでー？ありえねー。キモくね？」程度の語彙しか持っていない。一人の小姑は「あの髪型ありえないよね」、「あそこでまず謝れよこいつとか思ってさー。ちょっとあいつ何様？」などと言っている。一人の男は鬱々パソコンに向かって「どうして僕は具合が悪いんだろう」と考え込んでいる。こういう亡者どもの集まった場所、負のオーラが渦巻いている場所をレクティアという。

leɿſcɪn [名詞] レクティアン、生き死人、亡者、地獄の亡者 [レベル] 4 ʖ0:ɥcɑcɪ [文化] 生きながらにして既に地獄に落ちている亡者ども。自分を恥じ、悩み、人を呪い、罵倒し、足を引っ張る連中。

leɭ̈ɪ [運動] プール [レベル] 2 ȷɔɥn:「泳ぐところ」 [文化] 学校によって設置がまちまち。都会はたいてい設置されている。 地方の学校は海や川を利用することもある。 アルナ大にはむろんある。

leɿȷ [名詞] 範囲外、外側 [名詞] 外野 [動詞] ɥəl を c からはずす、ɥəl を c の範疇に収めない、命中しない、はずす、はずれる、外す、外れる、ハズす、ハズれる [野球] ボール [格詞] ～の範囲外で、～の外側で、～以外で [反意語] lɔſ [レベル] 3 1L: 恣意 【用例】 ſɥə hɪſcɪ ne leɿȷ ȷɪcɒ lenɪnȣ ウチのクラス以外だと誰が好きなのよ？ ɪn lɪnɪſ ɑcſe ɿɔn uɔz ſɪl ues cɿ leɿȷ c ſə. 弓でウサギを狙ったが、外してしまった。

leɿȷhɪnſ [数学] 外積 [レベル] 5 1L: 図形的に外側の積ではないが、lɔſh ɪnſ の対として leɿȷ となっている。

leɿȷccscȷ [野球] ファール [レベル] 3 ʔɱ

leɿȷen [接続詞] leɿȷ [レベル] 3 ʖ1

leɿɒ [動物] ビーバー [レベル] 3 lɪſɪ:「泳ぐ生物」

leɿɪc [地名] 霊界、レ・カイ、この世。アトラスを含む宇宙のこと。 [アクセント] leɿ†c [反意語] ɪɥɑel [レベル] 2 ɑ;le ɿɪc < ɑe/ɿɪc（～は大きい）。地球の語源と食い違うので注意。ɑ にはまだ指示代詞 le はない。 古 :lcczɪ:le ɿɪc（その大きいところ）。leɿɪc の訳である「霊界」の造

語者はセレン。レイカイとレ・カイは音が似ているため選んだ。　le٦ıc:le٦ıc ［文化］ → ıμɑel　＜この世とあの世＞　この世はセレス（魂）を選別するための場所と捉えられている。セレスはあの世の入り口にあるヴェーユという滝の水飛沫から生まれる。　これがレ・カイに行き、アテンとなる。一方、エタンはただの物質の集まりであり、ヴィードは持ってもセレスは持たない。よって牛は死ねば土に還るだけであり、木は枯れれば腐って腐葉土になるだけである。　神や悪魔は新しい命が誕生しなくなって久しいため、セレスはユーマの一族すなわち人類として生まれ、惑星アトラスへ赴く。そして妊婦の受精卵に乗り移る。しかしこれだと効率が悪かったので、現在はイーディス神とハーベ神が誕生を助けている。　イーディスはセレスを見つけると、排卵している女性を探す。その女性の中から、膣内射精されたものを探す。その女性の腹にセレスを持って飛び込むと、受精が完了し、セレスも植え付けられる。その後、出産の神であるハーベが妊娠を管理し、子供を生ませる。　誕生した人間はレ・カイで生き、セレスを成長させる。鮭が川に帰るように、死後は肉体を失ったセレスのみがヴェーユへ戻る。　ヴェーユではセレスが善に成長したか悪に成長したかを検査し、善ならトワーユに、悪ならラティアに送る。善なセレスとはメルディン (ᴅelɑcn) に傾いたセレスであり、悪なセレスとはエルナ (elnı) に傾いたセレスのことである。　なお、１０歳に満たずに死んだ場合、セレスの良悪を判断できないため、再度転生してアトラスに帰すことになっている。
この世はセレスがどちらに傾くか試すための試練の場であり、最終的な魂の生活はあの世にある。ほかの多くの宗教とは異なり、現世で苦難を我慢すれば来世で幸せになれるというものではなく、むしろ現世での生き方がそのままあの世での居場所を決める。　すなわち、戦争なり飢餓なり飽食なり、どのような時代であれ、メルディンに感じる習慣を持っている人間は、死後メルディンの習慣を持った人々のいる世界トワーユで暮らすことができるということである。
　戦争だ飢餓だということで諦めて不幸不幸に感じて生きたものは、死後も同じような人間ばかり集まった世界に行く。だからこそどのような時代であれ、現世で前向きに生きよとアルティス教は教える。現世はたいがい救いのない世界なので、救いを作り出す前向きな脳を身に付けよ、そうすればトワーユに行けるという思想である。我慢せよではなく、前向きに捉えよという教えである。　耐えていれば天国に行けるではなく、今あるもので幸せに感じるものが幸せに生き、幸せに死に、死後も幸せになれるという救いである。　＜天国と地獄＞　多くの宗教では、天国は楽園で、地獄は業火に焼かれ続ける場所と考えられている。しかしラティアでは死者の苦しめは行わない。業火に焼かれることはない。　地獄の思想は「地獄に行きたくなかったら悪さをするなよ」と人々を脅すもので、原理的になまはげと変わらない。実在する地獄とはどのようなものかと考えた際、このような場所があるとは考えにくい。宗教家にとって好都合なだけの場所は存在しえない。　実在する地獄として考えられたラティアには地獄の業火がない。ではどのような場所かというと、エルナ傾向の人間の住むところである。そこには物事をネガティブに考えて負の連鎖を生む人間や、人の言い方や服装といったどうでもいいことがいちいち気になる神経質な人間といった、エルナに傾いた人間しかいない。言い換えれば、自己ないし他者に対して悪意を向ける人間の集まる場所である。　まったく現代の日本にも同じような場所が存在する。地獄は現実にこそあるとはよく言ったもので、感じの悪いオフィスや研究室や教室は地獄と変わらない。　ラティアでは鬱々考えて悩んで苦しむ哲学者、人の陰口を言ってばかりの女、馬鹿で品性のないギャルといった連中が犇いている。彼らは自分のことで悩んで苦しむか、人の態度が気に食わずに恨み罵り不快に感じる。そのような癖のある人間が死後にラティアに行く。仏教やキリスト教の地獄と異なるのは、犯罪者などの悪人ばかりが集まっているわけではない点である。　彼らは永劫に人を呪うか自分を恥じ、いつまでも不快な気持ちに包まれたまま生きていく。
天国と地獄に派手な見た目の差はない。一見すればどちらも同じような社会である。片方が業火で燃えて片方は牧歌的というような分かりやすい差はない。分かりやすい楽園もないし、分かりやすい地獄もない。天国にも労働はあるし、疲れも怪我もある。逆に地獄にも笑いはある。ただ、彼らは生前の習慣に沿った世界に分類されるというだけである。　＜分離機能＞　あの世に行ったセレスは二度とこの世に戻らないため、この世での人生は入試のようなものだと考えられている。本番はあの世であって、この世は前座でしかない。　なぜこの世にセレスを送るのかというと、セレスの良悪を定めて、良いセレスは良い籠に、悪いセレスは悪い籠に入れておくためである。　セレスの分離機能は棲み分けのためにある。善人にとって、人の足を引っ張ろうとする悪人は不快な存在であり、彼らのいないところで暮らすことが理想的である。現世では良悪混じって生活しているが、試験が終われば善人は善人だけで暮らすことができる。その実現のために棲み分け機能を持っている。　言い換えれば、悪人を切り捨てて篩いにかけているといってもいい。善人が気持ちよく暮らせるための場所を維持するために、現世という試験の場がある。

le٦ıcın ［名詞］霊界人 ［レベル］２　1L: リディアの書

le٦ɔ ［医療］症状 ［レベル］２　1L:leun/٦ɔɔ٦ ［語法］　医療用語なので、一般人は単に ٦ɔɔ٦ ということも。

lel ［格詞］～と、～として。ɥəl の同格を指す。 ［反意語］lel ［レベル］１　1ℙ: 恣意 【用例】　ɟeμen ʃccı lәlcı lel ᴅcuı. セレンはルシアを娘として愛する。

lel(˩) ［言語］l の文字 ［レベル］１　1ɱ: 制 : 知識 ［語法］　第２０文字目の幻字。最後の子音字。　日本語のラ行を転写する際は μ や ɗ でなく l を使う。

leln ［名詞］通信、信号、連絡、交信 ［魔法］風の高位白魔法。遠く離れたところにいる相手とテレビ電話できる。 ［レベル］３　古：leln ← "٦lccz, ᴅc μe lınʃeɼ"（クリス、返事してくれ！）から。メル 10 年、セレンが日本の隅田川でクリスを探して叫んだ言葉から。 ［語法］ ɔ٦ʃ

lelne٦c ［名詞］通信機能 ［レベル］４　1L:ᴅelcɑcı ılcɟ

lelcı ［気象］夕日 ［医療］少陽　μɑ;<ɟzɑ　˩ɱ

lelce ［人名］レシエ ［名詞］夕、夕方、宵、黄昏、黄昏時。１６時から１９時。 ［形容詞］夕の ［レベル］２　˩0:μcɑcı:lelcı.ɟzɑ（夕日）　ᴅɥədı:ᴅɥədı:lı lelce ［文化］　ᴅczıμc

lele ［形容詞］賢い、頭が良い ［類義語］ueʃʃe、ɥəlᴅı ［反意語］lecʃ ［レベル］２　1L: 中期制アルカでは lele（知識）があった。賢いは古 ɟɔμn で leıʃ。　hɥəlɔ:hɥəlɔ 【用例】 ［メタファー］lele ɥən ᴅel メルのように賢い：天才系。発想がすばらしい人。理数系に強い。 ［メタファー］lele ɥən μcɑcı リディアのように賢い：超人系。複雑なことを整理できる。記憶力が異常。 ［メタファー］lele ɥən ٦ılzıɟ カルザスのようにずるがしこい：uıɟʃe を見れば一目瞭然。

leɟ ［接続詞］先行詞を内包する le ［レベル］１　1L: 恣意 ［語法］　leɟen のような属格はない。

leɟʃ ［名詞］主、メイン、本体 ［名詞］サビ、曲のサビ、ヤマ、レフ、リフ、リフレイ ［形容詞］主な、メインの ［副詞］主に ［反意語］μɔl٦ ［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcɟ: 古 :lɔɟ: 頭（lɔ）から来ている。

leɟɱcɟ٦ ［名詞］正伝 ［反意語］μɔl٦٦cɟ٦ ［レベル］５　μɑ;/　˩ɱ

leɟɱəlılı ［料理］主食 ［レベル］３　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［語法］　leɟʃbel

leɟʃɟcz ［電算］マザーボード、ロジックボード ［レベル］４　1L

leɟʃɟeɼlıμ ［電算］メインカメラ ［レベル］６　ul;/　˩ɱ

leɟʃuɔnı ［名詞］主旨 ［レベル］４　μɑ;/　˩ʔ

leɟʃᴅıl ［電算］メインメモリ ［レベル］３　1L

leɟʃᴅec ［化学］主成分 ［レベル］３　μɑ;/　˩ʔ

leɟʃbel ［料理］主菜、メインディッシュ、メインのおかず、オカズ、おかず ［レベル］２　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ ［語法］　例えばパンとハンバーグとサラダを食べる場合、パンが leɟɱəlılı で、ハンバーグが leɟʃbel で、サラダが μɔl٦bel となる。 【用例】　ıcl, leɟʃbel eʃ ɥııᴅɔ. ときどきおかずがおいしくないときがある。

leɟʃɥıu ［言語］主節 ［レベル］４　˩0

leɟʃsczɔl ［音楽］リードギター ［レベル］５　˩1

leɟʃsczɔlın ［音楽］リードギター担当 ［レベル］５　˩1

leɟɱıʃ ［建築］玄関、集合住宅の正面玄関 ［レベル］２　1L:ᴅelcɑcı ılcɟ ［文化］　玄関にはドアがある。ドアには勿論鍵がある。このドアは押して入る。入ったところはドアが通る空間なので何もないが、一メルフィほど向こうには下駄箱があり、靴置き場がある。ほぼ日本と同じである。アルバザードでは屋内でも靴を履く。日本とは違う。ただ、室外履きと室内履きは区別する。必ずここで室内履きに履き替える。室内履きは足が蒸れないリラックスできるスリッパ状のものが多い。湿度の低いアルバザードでも靴は脱いで放っておくと臭くなるので、下駄箱に入れる。そして別の下駄箱から室内履きを出して履く。室外履きと室内履きは隔離されている。臭いが移らないためである。最低でも下駄箱内に仕切りを設けて区切る。日本の玄関は一段低いところにあるが、アルバザードはバリアフリーなので段でなくスロープになっている。スロープは完全に家の中なので、靴を履くためなら座っても良い。スロープより玄関側はまだ完全に家の中とは言いがたい空間である。ゆえに室外履きを履く汚い空間とされる。　集合住宅の場合、外から入ってくるときに必ず通る場所である。まず、自動ドアをくぐってホールに入る。ホールには守衛所があり、その横に改札がある。駅と同じ構造である。改札はアンセを通して住人であることを確認して初めて開く。来訪者の場合、守衛所で来訪相手に連絡を繋いでもらい、許可が下りれば守衛所から通り抜けさせてもらえる。ここも日本の駅と同じである。

leɟɱɔcʃ ［名詞］本社 ［レベル］４　μɑ;/　˩ʔ

leɟʃıʃe ［名詞］本店 ［レベル］４　μɑ;/　˩ʔ

leɟʃıɟμı ［軍事］本拠地、本山 ［レベル］４　˩0

leɟʃıμ　μelɑ　e

leɟʃcᴅccμ ［人名］レスティミール、３賢女 ［レベル］６　μɑ;leɟʃcμ ٦ien lec e ᴅccμ を短縮させたもの。　˩ɱ ［文化］　lec e ᴅccμ に登場する３賢女のこと。具体的にはクミール、リディア、メルを指す。

leɟʃcᴅccμ(˩) ［工学］レスティミール、人工知能レスティミール、三賢分立 ［レベル］４　ls:ᴅel;lec e ᴅccμ に登場する leɟʃcᴅccμ から。　˩ɱ ［文化］ → ᴅccμ, ɟeμı٦n, ɟeμ٦ɔlᴅ, ınᴅccμ　メルが作った人工知能。ミールと同時に着想し開発しているので、まず先に ᴅccμ を読むこと。　μcɑcı, ᴅel, ٦ᴅccμ という３つの人工知能から成り、それぞれが立法・行政・司法を担当する。英雄リディアは決まりに厳格だったので、それにあやかって立法を。英雄クミールは裁判官クミールの異名を持っていたので司法を。知能が高く処理能力が高かった英雄メルには行政を――というシステムである。　レスティミールは μɑ で書かれた『ミールの書』に出てくる３賢女が由来である。恋人としてのリディア、妹としてのメル、片想いの相手としてのクミールという、μɑ のセレンが関わった３人の女性がそれぞれ互いにせめぎあって協議しているのが人工知能レスティミールである。　革命後はセレンらによって直接民主制と独裁制のハイブリッドである「司民制」が採用され、間接民主制は消え、政治家などもアンミールの分を除いて消えた。直接民主制だけを採用しなかったのは衆愚政治を防ぐためで、独裁制だけを採用しなかったのは個人に権力が集まりすぎるのを防ぐためで、後者は旧革命の反省を反映している。　なお司民制の採用と同時に革命では経済面において資本主義に代わって修正資本主義が採用された。　レスティミールは議員や裁判官に代わって三権を持つ。ただし三権は μcɑcı, ᴅel, ٦ᴅccμ に分与されている。三権は互いに牽制しあい、三権分立が保たれ、独裁が防がれて

いる。　レスティミールは過去の事例や判例だけでなくミールによって集計された現況のデータに基づいて立法・行政・司法を行う。　直接民主制は間接民主制に比べより民意を反映できるというメリットがあるが、人口が多く規模の大きい国では実現が難しい。あまりに多い人口のせいで、そもそも民意を集計して世論を形成することが難しいためである。従来のような電話などを用いたアンケートを一つひとつの法案に適応していては、いくら時間があっても足りない。　そこでメルらはネットを使い、素早く民意を集計した。ネットでの集計は個々人にＩＤがついているアルバザードでは容易で、二重投票もできない。　徹底した秘密投票で、組織票が形成されづらいのもメリットである。会社が社員に無理にある法案を支持するように言っても、機密性が高いので社員は自分の思った通りに行動できる。上の人間の言うことを無視しても一向にお咎めがない。　この制度は自分の民意を反映させたいと思う個人が自分の意思で意見をミールに伝えるため、政治に参加したくない個人を強制的に狩り出すことはない。あくまで政治に参加したい者だけがすればいい。国民全員の意見を政治に反映できるが、「できる」と「する」は別物である。棄権者が一定数いるので、国民全員の意見を反映できるシステムではあっても、実際には棄権者の分は反映されない。ただし、見方を変えれば白票を投じた層として政治的アパシーを持っているという意思がその国民の意見として反映されているので、結果として国民全員の意見が反映されているといえるかもしれない。　ミールはネット経由で集められた膨大なデータを整理し、世論を地方・国家単位でそれぞれ形成する。　レスティミールはそうして形成された世論をオフラインで受け取り、民意を踏まえた上でまつりごとを行う。ミールで形成された世論はレスティミールに入れられる前に厳重なウイルスチェックがされるため、レスティミールに危害を与えることは事実上不可能である。　例えばレスティミールのリディア（立法）はミールから受け取った世論などを考慮して、国家単位では法律を定めたり、地方単位では条例の改廃などを行う。　ミールとレスティミールによって政治家や議員などはアンミールを除いて不要になったが、官僚は法案や政策案を提案するプロフェッショナルとして国民にアドバイスをするのが業務になった。業務内容が変更されただけで滅んではいない。国民を導く啓蒙家であると同時にマスコミのような位置づけに変わった。　一部の金持ちにだけ有利で多くの国民に不都合な法案や政策案を提案する官僚もいれば、大衆に迎合する官僚もいる。官僚はご意見番であり、各層の民意を反映して法案や政策案を提案する。衆愚政治や一握りの上層部による腐敗政治を防ぐため、様々な意見を持った官僚が必要とされ、必ずしも大衆に迎合した者や上流階級に尻尾を振る者だけが生き残るわけではない。　レスティミールはミールが形成した民意を踏まえて国を動かすが、直接民主制のデメリットについてもきちんと考慮されている。人間社会のピラミッドは下の人間のほうが上の人間より数が多い。直接民主制をそのまま採用すると教養のない人間の意見が通りやすくなる。　アルバザードは徳育を重視しているため、上の人間ほど人徳がある。そうでなければ上の学校や会社に入れないためである。ということは相対的に見て下の人間のほうが無教養な上に非道徳的ということになる。　このような階層の意見が優先的に通ると、それは衆愚政治を招きやすくなる。これが直接民主制のデメリットである。　このデメリットを防ぐため、ミールは予めＩＤから各意見がどの階層に支持されているのかを判断し、そのデータも含めてレスティミールに世論を提出している。　レスティミールは階層ごとの世論を受け、下流の意見ばかりが数の暴力で無理に通らないよう国を動かす。　また、ここまでは司民制の直接民主制の面を説明してきたが、実際にはこれに独裁制の側面が加わる。

レスティミールはミールが形成した世論を反映して国を動かすが、民意のほかにセレンら支配層の独断が加わる。重要事項であるほどセレンらの決定は民意より優先され、ここに独裁制の側面が伺える。逆に瑣末なことに関しては独裁者の意見よりも民意のほうが優先される。　レスティミールの原理は「４つの石を１人に持たせる政治よりも、４つの石を４人で持つ政治」であり、皆に負担を強いる代わりに一人ひとりの負担を軽くするというのが原則である。　開発者のメルは「石をなくすことはできない」と述べ、どのような政治思想を以ってしても全員に負担をかけない政治は不可能であるとしている。　なお、レスティミールに不具合があった場合はアンミールが代理として働くことになっている。また、アンミールは普段レスティミールに対して意見を言い、レスティミールに再考を促す権利を有する。

leȷʃcɥ ［丁寧］淑女、婦人、レディー、女性 ［類義語］ᴅcn ［反意語］ɷccze ［アクセント］leȷʃɛɥ ［レベル］３　ɺ0:cȷʃcɥ と leʃcı を混ぜたものから。 ［語法］ 女の丁寧な言い方。淑女や女性に相当。家の中で使うことはあまりないが、店などで聞くことは多い。

leȷʃcl ［地名］レスティル、レスティル国 ［レベル］４　ᴅelʃcı Lᛩ ȷen ucı: lɥ;「知者の支配する」 ɺ0:ɥcɷcı: 第二アルカで「知者の支配する」という意味。 ［文化］ アルバザードの旧称。メルティア９５万年ごろにシフェルが現アルナ地方に建国した。国というより集落レベルのもの。当時の人類は高速で空を飛べたため、範囲は広大。アルバザード、ケートイア、アルシェリア、ディミニオン南部を含んだ大きな国。 ɥəəᴅı ᛩʕ アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を締結。アルカンス貿易の経済力とギルケートの軍事力を背景に、ヴェルディア族の長シフェランがレスティルの王となり、アルカンスに王都レスティリアを建てる 【成句】 ucnȷ leȷʃclcı αccnı leȷʃcl 大事の前の小事

leȷʃclɥen ［言語］レスティル語 ［レベル］４　ɺɺ ［文化］ elɷȷeʃı　●概要　名称:lȷ（レスティル語） 系統:アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派 (ıʃenıᴅıʃ, ɥəəᴅıeᴅcʃ, ʟcαe ɥαcıᴅ, lɥəɷcıcαıl, leȷʃclʟelʃeᴅ) 使用年代：ʃᴅ_ʅʅ 分布：南西アンシャル：リュディアがファルファニアに滅ぼされ、東へ散ったリュディア人が建てたレスティル国周辺で使われた言語　話者：ファルファニアとの戦争に敗れ、東へ移住してきたリュディア人の末裔　類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ：ＳＯＶの際は対格に、ＶＳＯの際は主格と対格に格表示をする。助動詞文はＳＯＶに　認知様式：客観的把握　●語順　ＳＶＯが自然となっていった。その結果、ＳＶＯのときは主格と対格の語尾を省略するようになった。 leȷʃclcn ɷıcz αcʃ ıʃ heɥen（レスティルの王がリンゴを与えた）　ＳＯＶのときはリュディア語のように格が表示される。　ただしこの場合Ｏだけ。ＶＳＯになったらＳＯともに格を表示する。 leȷʃclcn ɷıcz heɥeneɥ αc ʃıʃ. αcʃıʃ leȷʃclcn ɷıczıȷ heɥeneɥ.　●助動詞　助動詞は動詞の直後に来る。ıɥ に比べて数は少ない。　助動詞文の場合は語順がＳＯＶになる。この場合、ＳにもＯにも格表示はいらない。 ɷıcz heɥen ʅəc ᴅıl（王はリンゴが食べたい）　lȷ におけるＳＶＯとＳＯＶの混在はドイツ語やオランダ語を彷彿とさせる。　●修飾　ＳＶＯが標準になった結果、後置修飾に。ʅıcle ɷıcz だったものが ɷıcz le ʅıc に。類型論的に見ても、ＳＶＯの場合はＡＮよりＮＡの方が優勢。　後置になったことで le が形容詞 (ʅıc) の前に回りこむ。その結果接尾辞として膠着していた le は単語として独立する。よって le ʅıc のように、間にスペースを入れる。　同じ理屈で、bıɔφ he ucuc で「強く殴る」となる。　●関係詞　関係詞も後置になった。 ʅılɷıcz ɥɔᴅ leȷʃclcn ɷıcz ʅələləʃ（レスティルの王が建てた国）関係詞節内の前置詞が残存するようになった。　●前置詞　ＳＶＯが標準になったことで後置詞が前置詞となる。　●連体詞と代名詞　連体詞は変わらず前置された。「この、これ」は ıα から ʃə になった。「あの、あれ」は Tə。「これの」が ʃən で、「あれの」が Tən。「彼」は ȷɔə で、「彼女」は ləə。　男女が分かれている点でアルカと異なる。　遠近では分けないので lə と lı の違いはない。　lȷ 以降は三人称の lə が連体詞として使われるようになり、日本語と同じ「こ・そ・あ」の三段階になる。「こ・そ・あ」は lȷ のみ。ıɥ 以降は「こ・あ」の二段階に戻る。従って lə heɥen（そのリンゴ）という言い方ができる。　副詞の一部、ɥe や ᴅc なども前置されたままであった。　●e　ʅenɔ は「～の」と同じ語順で使われ、残存した。 ʅenɔ の代わりに ʅenɔ を短縮してできた e が使われだした。e は "ɔα" と同じ語順である。　ＳＶＯが基本語順になったにも関わらず、レスティル語では ʅenɔ のほうが優勢で、e の頻度は低かった。　これは ıɥ にも継承される。e がよく使われ出したのは ɥɷ 以降。　●数　→ ȷcɷıʅʅ　民間人は αu の数詞体系を用いていたが、軍隊の中では別の数詞体系が用いられた。zφ の話なので、すべて lȷʅ である。　レスティル軍が武器の長さを元に暗号として数の名前を付けた。この暗号はやがて敵方に知られ、暗号としての意味を失う。しかしその後も軍隊用語として残存した。　日本語の軍隊用語でも 1ɺ 時をイチニィマルマルと呼ぶように、軍隊などは特別な用語を使うことがある。　軍隊以外にも当然こういう隠語はあるし、軍隊には数以外の用語もあるが、数の数え方に関して特殊だったのは、これがやがて民間人にも広まったという点である。　レスティル軍は武器を例に取り、その長さが長い順に１から並べた。　例えば１を表す αəə は槍の αcφc から来ている。　なお、0 は αu と同じく ɥəə である。 ʃɔ（十）, φıl（百）, ʃen（千）, ȷen（万）は武器からではない。　数え方は 10 進法で、ᛩ–10 進法とは異なる。　発音のリズムをよくするため、ʍ 以降は n で終わる軽快なものになっている。　1:αəə　ɺ:ɥɔə　ʔ:ucc　ʍ:uɔn　ᛩ:ʃlɔn　ʕ:ın　ʕ:zın　ᐃ:hen　L:lɔn　10:ʃɔ　ただし、ɺʔ のみ dıɥıɥıcz という。　この数え方はアルバレンにまで引き継がれる。　制では採用されなかったが、新生で継承された。　ただし ıɥɷ では ʃɔ は ʃɔɔ になった。ɺʔ も特殊な言い方がなくなった。　レスティルはルカリアから神人貿易の中心的地位を奪ってからというもの、経済大国として世界を牽引してきた。　そのため、このレスティル式の数え方はレスティル軍人からレスティル商人を経て世界中へ広まっていった。　また、軍人は任務上外国に行き、遠征先を占領することがあったので、彼らも数を広める要因になった。　ただ、エルト式の数え方も依然として世界中に残っている。　レスティル式は ȷᴅ になって ıɥɷ になると学校教育に採用されたことで急速に広まった。　●疑問文　αu, lɥ と違って疑問の nɔ は助動詞になった。助動詞文はＳＯＶなので以下のように使う。 ȷɔə heɥen ʅəcʃ nɔɤ（彼はリンゴを食べたの？）

leȷʃclcı ［地名］レスティリア ［アクセント］leȷʃclcᛏ ［レベル］３　lȷʅ:ʟcαeɥın;leȷʃcl/ncı,αu　ɺ0:leȷʃcl/ 古 ncı ［文化］ ɥəəᴅı ᛩʕ　アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を結び、アルカンス交易とギルケートの軍事力を背景に、アルカンスに王都レスティリアを建てる。 【成句】 el eᴅ nɔʃ ıl ıɥnı cȷʃ leȷʃclcı. 住めば都　αıc leȷʃclcı ɔʅ cnȷ hıɥ 赤い目で王都を燃す：泣いて馬謖を斬る

leȷʃclcın ［名詞］レスティリア人 ［レベル］４　ɺ1

leȷʃe ［名詞］署名、サイン ［動詞］ɥəl（内容）を ı にサインする、サインする、署名する ［レベル］３　1L: 古 eeȷʃe（名前）から。語頭の l は新生の指示の le。 【用例】 leȷʃe (eȷʃ) ı ᴅıȷ 紙に名前を署名する　leȷʃe αlen ı ᴅıȷ 紙に許可を署名する：具体的には自分の名前を許可申請書に書くことを指し、許可という文字を書くことではない。

leȷʃez ［建築］居間、リビング ［レベル］３　1L:lecn ［文化］ 食卓があって家族団欒の場。大抵台所に直結している。最も大きな部屋で、誰の部屋でもない。食事のとき以外もここに誰かしらたむろして何かしている。 【用例】 ın cnıʃ ʃecʅ ʅı leȷʃez ʟc ɷənel. 夕食の後、リビングでテレビを見た。

leȷʅ ［名詞］［形容詞］風流な、をかし、雅な、あはれな、優雅な、風情がある、乙だ ［レベル］３　1L:eȷʅ（雨）。雨を窓辺で見て愉しむような心であることから。 ［語法］ 動詞は ɥə と共起すること。形容詞としても使えるので eʃ で導いてもいいが、ふつうは名詞として使う。 ［文化］「美しい自然物ないし現象」に「安全な位置」で触れたときに感じる豊かな感情。従って、山を汗だくで登って滝を見たときには感じない。窓辺で雨を眺めるときの気持ち。風呂で雨の音を聞くのも leȷʅ。 【用例】 ɥə leȷʅ. 雅だな。

leȷd ［交通］迂回路 ［動詞］ɥəl（迂回路）を通って ı に行く、迂回する、行く ［レベル］３　1ʔ: 制 ［語法］ ɥəl（迂回路）を通って ı に行く。従っ

て格組からいうと、lə˥ 型。元の道は ʃel ないし cjʃ 格。　ılɔl で寄り道の意味。　　「迂回通行する」という訳語を当てればわかりやすい様子。　lı lejdıʃ Y cʃ A ı B ʃel X .　彼はＡからＢへＸの代わりにＹを迂回通行した。　彼はＡからＢへＸを迂回してＹを通行した。　　X　A ┐■┌→ B　└──┘　Y　ただ、避けたということを強調したい場合は ɑɔnl を使ったほうがわかりやすいと。　lı ɑɔnlıʃ X , ɑɔnʃıʃ Y cʃ A ı B　彼はＸを避け、ＡからＢへＹを通った。【成句】 lejd elɑe ʃel ˥ılʃɔ. 森を迂回して泉を通れ。急がば回れ、急いては事を仕損じる：アシェルフィからカンタルに行く場合、アルシェの家の北西にある森を突っ切るのが最短だが、犯罪率の高い森なので危険を避け、アシェルフィ中央の泉を通って北上したほうがよいという喩え。異性魔王に襲われたアシェルフィ民がアルシェの家の地下に避難した後、自宅に帰る際に作った慣用句。【用例】 ˥ɔlʃ ɥı ˥ɔnʃ en lejd ılɔl ʟc ɑel˥ı. 学校が終わったら寄り道しないでまっすぐ帰ってきなさい。

lejcel ［地学］幻天儀、地球儀、レシエール ［アクセント］lejcEl ［レベル］２ J1:le ɟcel（あの空）

len ［文頭純詞］やはり、やっぱり、思ったとおり ［文頭純詞］(ϑ とともに) でしょ？、そうでしょう？、やっぱりそうでしょう？ ［形容詞］予想通りの ［類義語］hıjın ［反意語］lɔɔɑ ［レベル］1　1⋔ ←古 :lɔnʃ ［語法］ やっぱり止めたなどの場合は oɔn。oɔn と区別すること。

len(J) ［人名］レン　古 :『少女・レンとアル』［文化］ レンという娘が人形にされ、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になってその父親に愛されたという話に出てくる少女の名。

len(ʔ) ［接続詞］～するための、lınıen の意味 ［レベル］２　1L:ɒel 【用例】 nɔn ɟc φııbe len nıʟ. 笑うネタがないわ：メルのこの例が初出。正確には、lınıen がいい加減に発音され、それをセレンが len と聞いたことに由来する。

len(⋔) ［人名］エンナの略称 ［組み数字］２２/ ２８ ［レベル］1　ɒel:「人形」の len から類推したもの

len(ᛏ) ［名詞］lenu,ılʃ ［文字］技　lenu.l ［文化］ ˥ɔcɒınlen

lenʃ ［名詞］人形、マネキン ［魔法］レント。害の禁呪魔法。人形に対象の体の一部を埋め込むことで、人形と対象を同期させる魔法。つまりこの状態で人形の腕をもぐと、対象の腕ももげる。［レベル］２　1ʔ: 制 :ɟɔɥn。人形は ılʃe だが、古アルカで人形というとすぐに２体の人形の名を思い出す。『少女・レンとアル』である。٩ 年ごろにミルフが訳した。レンという娘が人形にされて、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になってその父親に愛されたという話。この話に影響を受け、レンはネエに取って代わって一時期「人」を意味した。

lenʃɑcın ［名詞］眠り姫、眠れる姫君 ［レベル］３　JJ:「人形少女」［語法］ ぼーっとしていて感情に乏しい少女のこと。あるいは物語に出てくる眠り姫などのこと。

lenʃɥəleu ［歳時記］人形供養、ひな祭り、雛祭り ［レベル］3　J1:「人形送り」［文化］ ɑəl ɒel のイベント。木の芽時で体調を崩して死んでしまう子が多かったことからできた風習。親が人形に子供の名を付け、子供の代わりに死なせたことにし、人形を埋めて供養する。ɥɑ で民間的に毎年３月ごろ行われだしたが、アシェットが子供のイメージから ɒel の日に定め、ɑəl ɒel となった。ɥʃ からは火葬に変わる。　現代では着飾った人形を飾り、子供の健康を願うだけで、燃やしはしない。

lenʃoıcn ［ユマナ］ひな祭り ［レベル］５　J0

lenʃc ［名詞］客寄せ、サクラ、アトラクション ［レベル］３　古 :len（人形）。ʃc は不明。

lenʃcɟ ［エルト］レンティス ［レベル］５　1ʕ: 制 :lenʃ/lınʃcɟ ［文化］ 人間を操り人形としてあやつる。

lenʟe ［代詞］とある ［反意語］ınʟe ［レベル］２　J1:ıl/ınʟe.ɒu

lenɟ ［名詞］知能、知恵、頭脳、思考力、知識、知性 ［レベル］２　1⋔: 制 :ɟɔɥn:lenʃ ［語法］ 頭の回転や発想力が lenɟ だとすると、物事をいかに知っているかは lec˥。ただし lenɟnılʃ のように、lenɟ で知識を指すこともある。lenɟ のほうが広く、lec˥ は専門的に知識を指す。【用例】 lenɟ hıʟ 高い知能、優れた知能　lə ʃcl lenɟ hıʟ, leuın ɟɔɥ, ʟıɥ nın eʃ lın ııl. 知能もプライドも高く、自分を特別視している人間。

lenɟʃelʟ ［名詞］知育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。［レベル］３　ɥɑ;/　J⋔ ［文化］ ʃelʟ

lenɟ˥ɔu ［音楽］オルゴール ［名詞］智恵の箱、パンドラの箱のようなもの ［レベル］３　制 : 古 :「知恵の箱」［文化］ 思春期になると開けてしまう箱。　人は自分の描いた夢を叶えるために努力し、知識を身につける。そして身につけた結果知ることは、自分が生きている間にはその夢は到底叶わないという現実。　学んで前進したことで、後退する夢。夢の箱を開けなければ幸せでいられた。　パンドラの箱と違うのは、希望が残されていない点。希望は炭酸のように、最初に抜ける。

lenɟ˥ɔzeʃ ［言語］［言葉遊び］訳せないもの、レンスコゼット ［レベル］４　J1:「智慧に鍵をかけられた」［文化］ ɥenɟ˥ɔzeʃ とかけた言葉遊び。いくつもの意味のある掛詞。　訳をすると意味やニュアンスが通じなくなったり、興が削がれたり、原文の意味が複数に解釈できるので特定の訳を持たない——そのようなものを eɟʃel（エステル）泣かせの lenɟ˥ɔzeʃ という。　––––　もしね、アルカのことを、仮にだけど、ちょっとなしにして考えたとしても、セレンはいるんだよ。私がいるから。　・ＢＵＭＰ ＯＦ ＣＨＩＣＫＥＮの『Ｋ』　その言語でしかその言葉の良さや妙技が伝わらないものも lenɟ˥ɔzeʃ という。　ＢＵＭＰ ＯＦ ＣＨＩＣＫＥＮの『Ｋ』の歌詞の最後はセレンが最も優れていると思う詩である。あれは最後が英語だが、英語以外の言語に訳したら絶対に意味がなくなってしまう。ああいうのを lenɟ˥ɔzeʃ というのだ。

lenɟnılʃ ［名詞］レンスナルト、知の城 ［レベル］５　1L ［語法］ アンティスとアトラスを作ったリディアの知識量は量り知れず、まるで知の城に住んでいるかのように見える。そこから、極めて高い知を指す言葉として造語された。【用例】 ɥcɑcı ləʃcı ɥı lenɟnılʃ. リディア＝ルティアの知力は凄まじい。

lenɟucleʃ ［医療］知的障害者、知障、池沼、キチガイ、きちがい、気違い、気狂い、基地害、基地外、キティ、キチ、マジキチ ［類義語］ɼɔɔl ［レベル］３　ɥɑ;/　Jʔ:ɒel

lenɟdınʃ ［名詞］教養科目 ［レベル］２　1L:ɥcɑcı:ıɥbıʟelʃ

lenɟdɔl ［地名］理方 ［レベル］５　J0 ［文化］ ユピトール、リーゼル、ルティアの地方。伝統的な国で、教育熱心。世界の中心アルバザードが唯一憧れるのがこの地方。アルナ人は方言を見下しているが、理方語、特にルティア語は美しいと思っている。ただし、男性はなよなよして聞こえるので、ユールには向くが、アルデンには向かないと思われている。　反対に、女性のルティア語は羨望の的。アシェットのクミールも憧れた。フェール＝ハーミットはアルナ人で、カテージュ出身のシア＝ヴェーユの方言をからかうが、ユーレ＝アルフィーネの純粋なルティア語は決してからかわない。　また、理方は教育熱心だからか、アルバザード人より頭が良い。しかし国力はアルバザードが一番なので、ルティア人の賢い学生はよくアルバザードに移住する。そのため、アルナ大の主席はアルバザード人かルティア人で占める。　なお、現代のアルバザード人はルティアにはまだ魔法使いがいると信じている。ルティア人自身も信じていて、ルティア人はファンタジーを非常に好む。

lenɟlccɑı ［名詞］レンス・リーファ、智恵の星 ［レベル］４　J0:ʟcɔn ［文化］ アルナ大学で、各学年のトップ５および首席を合わせた計６名のこと。ミロクとその親衛隊に準えている。後期大学受験を控えた nıɥʃe の学年が最も注目を浴びる。　慣例として、中心は１組。７，１４，８からシードで一人ずつ。残り２名を他クラスの傑出した人物で奪い合う。

lenɟleul ［医療］知的障害、精神遅滞 ［レベル］４　1L

lenɟlec ［言語］理方方言 ［レベル］５　J1 ［文化］ 主にルティアで話されている言葉。ただし下方語。上方は leclec。

lenɟıueleʃ ［人名］智慧の杖、ルシア、ルシア＝アルバザード、レンス・アヴェレット ［レベル］６　JJ

lenu ［名詞］技、技術、テクニック、特技、技能、芸、一芸、実技 ［類義語］enl ［レベル］２　古　:::len,ılʃ ［語法］ enl, enuelen 【用例】 lenu dı˥ 進化する技術

lenuʃıɟ ［名詞］技能テスト ［レベル］４　ɥɑ;/　Jʔ

lenuın ［名詞］職人 ［レベル］３　1L:clɒəɟ:ɥcɑcı

lenɑc ［代詞］何か、なにか、なんか ［反意語］ınɑc ［レベル］２　J1:lenʟe からの類推

lenɑ ［名詞］ずれ、ズレ、落差、差 ［数学］誤差 ［レベル］３　1L:lıʟ/enɑ（期待に対する差）［語法］ enɑ と発音も近く、意味も近い。期待に対するズレというニュアンスの違いのみ。

lenɑc ［代詞］［形容詞］このような、そのような ［類義語］ɟɔı ［反意語］˥lenɟ ［レベル］1　JJ;ulınɑ,ɟzɑ.˥　JJ ［語法］ ɟɔı

lenɑcn ［代詞］こちらの ［レベル］1　JJ

lenlen ［音楽］歌謡曲、ポップス、ポップ、シャンソン、ＰＯＰＳ ［レベル］３　J1:lecɒleɒ ［文化］ → ləlcleɒ　一般人が聞く音楽で、時代によって潮流が激しく変わるが、歌詞のテーマがほとんど恋愛という点で共通している。　ıl のころは ləlcleɒ に比べ曲が単調で単純で技巧を凝らした造りになっていなかった。アルバザードでも ləlcın は lenlen を毛嫌いしバカにすることがあり、一般人は ləlcleɒ をキモヲタと蔑むことがある。

lenı ［代詞］［ɒclɑ］私たち ［レベル］1　1L:ɥcɑcı: ユンクの代詞に nɔ 系の音が多すぎて発音しづらくなったため、音を nɔ から離すため、le に変えた。さらに、自分関連の単語であることを示すために、nı を付けた。nı は前期制アルカで自分を指す。

lenıɟ ［形容詞］かわいそうな、可愛そうな、可哀想な、あわれな、哀れな、みじめな、惨めな ［類義語］uecφl、beʃʃel ［反意語］ıuɔɥʃ ［レベル］２　1L:ɑəlɒccı: 関係詞句 l'enı に古の動詞語尾 ɟ を付けたもの。

lenın ［代詞］［ɒclɑ］私たちの ［レベル］1　1L:ɥcɑcı

lenɔn ［植物］茜、あかね ［レベル］５　ɟɒ;ılʃ　JJ

lenɔı ［代詞］［ɟɒlɑeɥs］ınɟ ［レベル］1　JJ:˥ɒccɥ

lenɔın ［代詞］［ɟɒlɑeɥs］ınʃeɟ ［レベル］1　JJ:˥ɒccɥ

leu ［エルト］˥leeuel の略称 ［組み数字］５/ １２ ［レベル］1　JJ

leun ［医療］病気、病、疾患、疾病、疾患 ［形容詞］病気な ［反意語］uıln ［レベル］２　古 :zɔ,ɟɔɥn:leun（黒魔法をかける）［語法］ uıln　アルカでは病気や疾患の区別がない。

leun˥ɔɔ˥ ［医療］容態 ［レベル］３　JJ

leunʟııɟ ［普通動名詞］看病 ［動詞］ɥəl を看病する、看病する ［レベル］３　ɥɑ;/　Jʔ

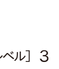
leunıɒɔ ［医療］［交通］救急車 ［レベル］２　1L:ʟcɔn ［文化］ → cuıl　救急車と消防車とパトカーはどれも騒音に等しいほどの大音量を出して街中を走る。夜間は音を消すことがあるが、消防車は警鐘の意味もあるので夜間であろうと騒音を出す。

leuɥcı ［地名］レヴリア海 ［レベル］５　J0:ɥcɑcı: 南極の水 ［文化］ レイヴァ周辺の海。

leul ［医療］障害 ［レベル］３　1L:leun/e˥c だが、どこに e˥c の要素があるのだろう。

leuı ［形容詞］純粋な、純情な ［形容詞］無駄な装飾のない ［反意語］ueɟʃe ［レベル］２　古 : この e は水？【成句】 leuı ɥən ʃcnı 純真無垢 【用例】

ılеᴅ leuı 純粋な気持ち ɥəlc ꞁeuı 純粋な子供
leuıʃəl ［化学］純物質 ［レベル］５ 1L
leuın ［名詞］プライド、誇り ［組み数字］6 / 6 ［類義語］ıᴅd ［反意語］ıɒcn ［レベル］３ ꞁ0:leuı/nı ［語法］［文化］ 自分が自分らしくあることが leuın。自分に誇りを感じて名誉に感じることは ıᴅd。leuın は自分らしくあることで、これを欠くのが ıɒcn。 アルバザード人は誇り高く、儲けや地位よりも、この leuın を大事にする。ときには自分の安全や生命よりも優先することがある。 ＜企業とプライド＞ アルバザード人は上司の命令に従い、階級に従う。ただしフランスのように部下の意見を聞かないということもなく、アメリカとフランスの間のような混在した文化を形成している。 ただ、命令に関しては一般にフランス人のように上からの指示に従順に従い、よほど「これは報告したほうがいいのでは？これは明らかなミスでは？」ということ以外は意見しない。 では、日本のように上司が偉そうな態度を取るかというと、それはない。アルバザード人は個人として扱われることを要求するため、横柄な態度は絶対に許さない。不条理な要求であっても目上なら多少は目をつぶる点は日本人と同じだが、横柄な態度は断固として拒絶する。 これは店でもいえることで、店員だと思って横柄な態度に出ると、店員は必ず意地悪をしてくる。絶対に相手がしてほしくないだろうことをあえてする。フランス人でもそこまではしないというひどい態度を返す。 これはレインのようなお嬢様でもそうである。もしレインが喫茶店でバイトをしていて注文を取るのが遅れたとする。このとき客は「お嬢ちゃん、注文遅いよ、なにやってんの？やる気あんの？ミルクティー、ホットね」と言ってはならない。レインはアルバザード人らしく「すみません、デュッソウ」と笑顔で言い、３０分くらいかけた後にアイスコーヒーを持ってくる。客は当然怒って店長呼んで来いとなるだろうが、店長はレインを叱らず、客に「もう来ないでください」と言って追い払う。 効率よくレインを動かすには、「お嬢さん、こんにちは。今日は繁盛してますね。忙しそうだけど、ミルクティーお願いできますか。今日は外が寒くてね」などと言う。行きつけのカフェなら店員の名前を覚えておくのは当然で、「レインちゃん、こんにちは」と挨拶してから用件を言うほうが良い。こう言うとレインはにこやかに世間話をした後、速やかに品物を持ってくる。このとき、たいてい客がセルフサービスで取るシュガーなどをすべて付けてくれ、いい席が空いていればそちらに案内してくれる。 アルバザード人に慇懃無礼になるのは逆効果で、礼儀を示せばいいというわけでもない。最も重要なのは相手の leuın を考えて行動することと、他人とコミュニケーションを取ることである。無愛想な客にはアルバザード人は接客をしない。 【用例】 leuın ȷɔµ 高いプライド。プライドの高さを立ち位置の高さに喩え、上から目線にしているメタファーで、日本語と共通のコロケーション。 uınɒ lın lcın ʃel leȷ uınɒ leuın lcınʃ. 君の誇りを汚すものから君を守っていたい（中谷美紀『Ｍｉｎｄ Ｃｉｒｃｕｓ』） ucl leuın プライドを傷つける
leuıncᴅ ［芸術］純色 ［レベル］４ ꞁ1 ［語法］ 色相の中で最も彩度の高い色のこと。
leuıɑɥeɥə ［言語］純副詞 ［レベル］３ ꞁ1 ［語法］ ɑɥeɥə
leuıɒɔıl ［経済］純資産 ［レベル］５ 1L
leuıφcɔ ［経済］当期純利益 ［レベル］６ 1L
leuıl ［魔法］本態性アディスト、レヴァル ［レベル］４ ꞁ0: 古 leuı/ıl「純粋なもの」［文化］ ıɒcȷʃ
leuılen ［政治］レヴァレン党 ［レベル］４ 古 ［文化］ アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットの中心政党。ꞁ01 年ミナリスが提唱した民主主義を実現するために組織されたレジスタンス組織ミナレット党を前身とする。ミナレット党は ꞁʔ0 年ごろ選挙制度を認めさせた。メル暦 ꞁ卜0 年ごろ、利害の対立によりアルミナ党、アミナル党が分離独立。これに伴い党名をレヴァレン党に変更。その後アライヴ党も分離独立した。長らくレヴァレン党、アルミナ党、アミナル党、アライヴ党の４つのミナレットの政党がアルバザードを統治した。ʔ1卜年、政治腐敗甚だしいレヴァレン党が抜け、３党連立になった。ʔꞁ0 年、ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が独裁政権を握ったため、ミナレット系政党は壊滅した。
leuııµl ［経済］純資本 ［レベル］５ 1L
leuıeµ ［化学］真水 ［レベル］３ 1L
leucn ［人名］レヴィン ［料理］害食 ［組み数字］１１/１１ ［レベル］３ 古 :µcɒcı:l ← lın（人）/euc ← eucɒe（悪）/n（指小辞）［文化］ アルシアの１１番目。害の魔法の大成者。男性。
leucın ［言語］人工言語 ［類義語］lcɒelɒ ［反意語］ɒcıꞁılʃe ［レベル］４ ꞁ1:lʃ（神の遊戯）［語法］ ıµlcɒcı 【用例】 leucın ʃcl ȷen ncın ʃeʃ ʃɔɔꞁ. 人工言語に一段落はあっても終わりはない。
leucınʃ ［言語］人工言語屋、人工言制作者、人工言語作者、レヴィアント ［反意語］ɒcıꞁılʃcȷ ［レベル］６ µɒ;leucın/lınʃcȷ。語末の終わり方は ıu elınʃ などからの類推。 ꞁʔ
leucın ʃ'ıµꞁı ［言語］人工言語アルカ、アルカ→ ıµꞁı ［レベル］４ ꞁ1: 直訳すると「アルカの人工言語」となり、違和感がある。leucın ʃ'ıµꞁı の e については、古アルカで「人工言語アルカ」に相当する句を作る際、今の e に当たる ꞁenɔ という接続詞を用いていたことに起因する。
leucınꞁlel ［ユマナ］人工言語学研究会、レヴィアンクレール、レヴィアン・クレール ［レベル］６ ꞁꞁ:ɥəlɑꞁı e leucınꞁlel「人工言語論文集研究所」を縮めて名称化したもの。


leucın ꞁlel

leucınɑcı ［言語］人工言語界 ［レベル］６ ꞁʔ
leue ［動詞］ɥəl を派生する、派生する ［普通動名詞］派生 ［レベル］４ 1L:leeu
leueʃ ［動詞］ɥəl を発射する、発射する、ローンチする、放つ、出発する、発表する ［普通動名詞］発射、ローンチ、出発、出立、発表 ［レベル］３ µɒ;leeu/ʃe ꞁʔ
leueueʃ ［言語］派生語 ［レベル］４ 1L
leueµ ［名詞］［形容詞］純血の ［反意語］lınʃcȷʃ ［アクセント］leuEµ ［レベル］４ ꞁ0:leuı/eµc
leɑ ［動詞］ɥəl を走って ı まで行く、走る。移動様態動詞。 ［レベル］２ 1ʔ: 制 lənı:lənı:
leɑʃ ［普通動名詞］ジャンプ、跳躍、リープ ［動詞］ɥəl を跳んで ı まで行く、ı に跳びかかる、跳ぶ、飛ぶ、翔ぶ、ジャンプする、跳躍する、跳ねる、はねる ［格詞］～ぶり、ぶり、以来 ［シェルト］跳駒 ［レベル］２ ȷeµʃ 1ꞁ0: 制 :ȷɔµn:lɑı（跳ぶ）。古 :lıdɑ。lɑı はアルシェの ləɑı「飛ぶ」が「跳ぶ」に。 ləɒzc:ləɒzc:ləəz 【用例】 leɑʃ ı lı 彼に飛びかかる、掴みかかる ın leɑʃıʃ ȷɔµel lını bcꞁ uıcꞁ ꞁıc e ȷıe. 大きな雪片をつかもうと高くジャンプした。 ın cnıʃ lı leɑʃ 1ʔ ȷılʃ. 彼女を１３年ぶりに見た。
leɑʃᴅeʃ ［動詞］ɥəl を c から ı に飛び降りさせる、飛び降りる ［再帰動名詞］飛び降り ［レベル］３ ꞁ1
leɑʃlıʃ ［動詞］ɥəl を ı に飛び込ませる、飛び込む ［名詞］飛び込み ［レベル］３ 1L
leɑʃcnı ［地学］［歴史］エクタシアン ul;/ ꞁʔ ［文化］ φııueɑeᴅe
leɑı ［名詞］ばね、バネ、スプリング ［レベル］３ 1ʕ: 制 :leɑʃ
leɑıꞁȷ ［運動］ランニングマシン ［レベル］４ ul;/「走る床」 ꞁꞁ0 ［文化］ ləꞁıꞁȷ
leɑıᴅıφ ［物理］単振動 ꞁ1: バネに代表される動き
leɑıφcɑʃ ［美容］スプリングコーム ꞁ1
leɑc ［名詞］急須、ティーポット ［レベル］３ 1L:ᴅelcɒcı ılʃe:eµɑc/eʃeꞁ（銀の茶。アルバザードはかつて銀の容器で抽出していたため）
leɑɔ ［運動］縄跳び、なわとび ［レベル］３ 1ʕ: 制 :leɑʃɑɔȷʃ
leᴅ ［音楽］音楽、曲、歌、音 ［類義語］ꞁeꞁꞁ、ᴅcꞁȷ ［レベル］２ ɑu;e 古 leᴅ:leᴅ ［文化］ → leᴅᴅıȷ ıl 以降音楽はアンセで聴く。ls 以降スピーカーは無線で、コードがない。スピーカーは丸いシールのようなもので、こめかみに吸盤のように貼り付く。骨電動で聞けるので、周りの音も聞こえる。授業中は禁止。 ＣＤなどは既に廃れており、日本でいうＭＰ３プレーヤーのように、データで聞く。データはアンセから無料でＤＬできる。ただし次年度にＤＬしたコンテンツ数に応じた情報税を支払う。詳しくは lıɒınlınφ を参照。 ＜セレンの好きな曲＞ ・レベル４（神曲） オムナマグニ ＦＦ８のＦｒａｇｍｅｎｔｓ ｏｆ ｍｅｍｏｒｉｅｓ ｓｅｒｉａｌ ｅｘｐｅｒｉｍｅｎｔｓ Ｌａｉｎのオルゴール ・レベル３ 恋愛サーキュレーション ヴィーナスとジーザス エミリー＝シモンのＣｈａｎｓｏｎ ｄｅ ｔｏｉｌｅ ｃｈａｔのｊｅ ｔｅ ｖｏｉｓ 鉱石ラジオ マリーのアトリエの好きだった絵本 トトリのアトリエの雪割草 双界儀のＡｎｇｅｌ’ｓ ｆｅａｒ ａｇａｉｎ 信長の野望覇王伝の軍議の短い曲（サントラにない） ・レベル２ ＦＦ８のフィッシャーマンズホライズン 少年よ我に帰れ 明治チョコレートのＣＭソング ピタゴラスイッチのテーマ マリーのアトリエの只今お仕事中 愛しのジャンポール たまこまーけっとのＴＶ版次回予告の曲 エスカフローネ劇場版のＨｏｒｓｅ ｒｉｄｅ 雷平原 三日月の寝台 レイトン教授の問題を解いているときの曲（題名Ｐｕｚｚｌｅ） ラブソング探して クロノトリガーの風の情景 聖剣伝説２の不思議なお話しを 双界儀のＱｕａｋｅ トトリのアトリエの儚き雪の村 Ｒｏｓｅ ｈｙｂｒｉｄｅ ｄｅ ｔｈｅ エミリー＝シモンのＯｐｉｕｍ エミリー＝シモンのＤｅｓｅｒｔ 人間の子供 子猫の心臓 メリークリスマスミスターローレンス 山の上の魔王の宮殿 がじゅまるの樹 金平糖の精の踊り ｓｅｒｉａｌ ｅｘｐｅｒｉｍｅｎｔｓ ＬａｉｎのＤｕｖｅｔ 岩男潤子のパタパタ オールトの夢 花澤香菜の４５℃ ジェリーフィッシュの告白 青空に浮かぶは白い月 ハリーポッターのテーマソング ＴＢＳラジオの聴いたら聴きたい 不思議魔法ファンファンファーマシーのＯＰ カードキャプターさくらのプラチナ ロロナのアトリエのＳｈｏｐ’ｓ ｊｉｇ 岩男潤子のおひさま らしくいきましょ 岩男潤子のＳＨＩＰＰＯ ゲーリックストームのＢｏｒｎ ｔｏ ｂｅ ａ ｂａｃｈｅｌｏｒ ゲーリックストームのＴｅｌｌ ｍｅ ｍａ ゲーリックストームのＮｅｖｅｒ ｄｒｉｎｋ ’ｅｍ ｄｒｙ ゲーリックストームのＪｏｈｎｎｙ Ｔａｒｒ ゲーリックストームのＰｉｑａ ｃｏｌａｄａ ゲーリックストームのＴｉｍｅ, ｄｒｉｎｋ ’ｅｍ ｕｐ ゲーリックストームのＧｏ ｈｏｍｅ, ｇｉｒｌ! ゲーリックストームのＩｆ ｇｏｏｄ ｔｉｍｅ ｗｅｒｅ ｄｏｌｌａｒｓ ゲーリックストームのＷｈｅｎ Ｉ ｗｉｎ バンプオブチキンのＫ（歌詞ランキングならこれが世界一） ・レベル１ アーシャのアトリエのＯＰ ｖｏｙａｇｅｒ 才悩人応援歌 ハンマーソングと痛みの塔 バンプオブチキンのレム 乗車権 コッペリアの柩 グングニル スノースマイル 岩男潤子の鳥籠姫 フェイ＝ウォンの女皇的新衣 フェイ＝ウォンの香奈兒 フェイ＝ウォンのセパレート・ウェイズ ピアニィ・ピンク イルジメのＯＰ 月のワルツ 堀江由衣のこの指とまれ 岩男潤子のあそびにいこうよ ＡｍｅｌｉｅのＪ’ｙ ｓｕｉｓ ｊａｍａｉｓ ａｌｌｅ サムライスピリッツの心の鏡 上海ブギウギ ＢＡＣＣＡＮＯのＯＰ ひぐらしのなく頃にのメインテーマｒｅｖｉｓｅ ｋｏｍｍ, ｓｕｓｓｅｒ Ｔｏｄ Ｅｙｅｓ Ｏｎ Ｍｅ ラフメイカー おしゃかしゃま 想像フォレスト ねこ曜日 坂本真綾のマジックナンバー ファイナルファンタジーメインテーマ メトロポリタン美術館 月灯りふんわり落ちてくる夜 料理記念日 吸血姫美夕の人形師のワルツ 知覚と快楽の螺旋 小さい雨の日のクワァームイ ネジと愛 クロニック・ラブ 天国より野蛮 Ｍｙ ｄｅａｒ ｐｉｇ やくしまるえつこのジェニーはご機嫌ななめ フランス・ギャルのＮｏｕｓ ｎｅ ｓｏｍｍｅ ｐａｓ ｄｅｓ ａｎｊｅｓ ハッピー☆マテリアル 侵略する者される者 ブライアン・セッツァーのｏｎｅ ｍｏｒｅ ｎｉｇｈｔ ｗｉｔｈ ｙｏｕ 堀江

由衣の小さじ一杯の勇気　リリー＝アレンのＫｎｏｃｋ　’ｅｍ　ｏｕｔ　エンターテイナー　ホルストの木星　タイプライター　メルト　如月アテンション　ドイツ語の魔王　Ｃｌｏｃｋ　ｌｏｃｋ　ｗｏｒｋｓ　万華鏡キラキラ　羽ありたまご　ハルモニア　ヒャダインのカカカタ☆カタオモイ –卍　星間飛行　エルルゥが唄う夢想歌　ゲッチュウ！らぶらぶぅ？！　ン・パカマーチ　アニメＮｏｉｒのＯＳＴのＣｈｌｏｅ　うさぎドロップ！！　バニラソルト　ハローハワユー　フェイ・ウォンの冷戦　マハラライバンダのＫｉｂｏｒｉ　マハラライバンダのＭａｈａｌａｇｅａｓｃａ　ヴァルティナ（フィンランド）のＴｉｅｌｌｅ　Ｈｅｉｔｅｔｔｙ　フェイ・ウォンの百年孤寂　フェイ・ウォンの不得了　月と太陽のめぐり　ラムのラブソング　古畑任三郎のテーマ　リリー＝アレンのＬＤＮ　夢みれば夢も夢じゃない　チョコレイト・ディスコ　中嶋美智子のひなげし　すこっぷの指切り　　セレンは音楽のセンスを詩のセンス以上に重視しており、音楽の趣味が合うだけで無条件で相手に好感を抱く癖が中学のころからある。逆にどんなに仲が良くともセレンが好む音楽を嫌う人間は非常に気に食わない。幼馴染がこのタイプであった。幸いなことに結婚した相手も彼女たちもセレンの趣向を好んでくれた。というよりセレンの趣向を理解できる女だから関係を築けたのだと思う。セレンはレベル３，４あたりの曲の良さが分からない人間を無条件で心が汚い人間と判断して蔑む癖がある。レベル１，２については好みの違いだろうなと思えるのだが、３，４についてはなぜか理解されないと相手は心の機微が分からないのだと判断して人間的に低く見る。　セレンは小６にＣＤを買ってもらうまで音楽を聞く習慣がなかったが、買ってもらってからは逆に音楽を聞かない日が現在までの２０年以上ずっとない。それほど音楽を聞く割合は大きい。　セレンの好みを分析すると、大人しい系と可愛い系に分かれる。前者は静か・繊細・綺麗・幻想的・単調・繰り返し・オルゴールがキーワードで、後者は明るい・小さい・木琴・陽気・アイリッシュなどがキーワードと分かる。詩や文芸やアニメやゲームなどの好みも音楽の好みと同期している。　うるさい曲は可愛いか楽しいアニソン以外嫌い。激しい曲はゲームの戦闘曲以外は嫌い。クラシックも大半興味ないし、インテリぶってて偉そうでウザい。ＤＱＮが聞いてそうな汚いうるさいポップやラップは反吐が出る。　　<セレンの嫌いな曲>　　世界一嫌いな曲は子供の頃から決まっている。ハッピーバースデートゥーユーだ。なんだろう、あの気恥ずかしさは。未だに聞くだけでむず痒さと不快感と恥ずかしさが走る。今までふつうにしていた家族が突如気でも触れたか宗教に走ったか、突然歌い出す。しかも敗戦国のくせして唐突に英語かぶれに。わけがわからないよ。いつも俺を殴る親父や小言ばかりの婆さんもこのときばかりは無駄に笑顔。どうせすぐ崩れるくせに作り物の笑顔。吐き気がする。それに合わせて赤っ恥な拍手。ピエロばりに馬鹿な祝ってもらうほうの喜びよう。どこを取っても気まずさのオンパレードだ。何がハッピーバースデーだ。ハッピーじゃねぇよ、年食ってんのに。しかもなにがディアーだ、普段親愛なるとか言わないくせに、どうせディアーのスペルも書けないような馬鹿どもが。つーかディアーってなんだよ、リディアかよバロス。もうね、「誕生日おめでとーｖｖ」とかも気恥ずかしくてうざいわけよ。「あれ、今日誕生日じゃん」「お、おう……」で十分なわけ。おめでたくないからおめでとうとかも要らないし。それを何？歌ーーって。どういうことなの？どんな羞恥プレイなの？アホ臭っ！じゃあ何か、お前は新年迎えたら「ハッピーニューイヤートゥー地球ーｗｗｗ」とか歌うわけ？？歌わないだろ。じゃあ誕生日だけ無駄に歌う必要なんてないんだよアホが。　　ビッチ・ＤＱＮ御用達の浜崎とかＥＸＩＬＥとかの意味のないうすっぺらい歌詞の曲が大嫌いであるというか曲ですらなく雑音である。【用例】 ın ʃeɥıʃ leᴅ ɿɔnʃ ɑeɥ əȷ cnȷ. 目を閉じたまま音楽を聴いた。　leᴅ ɑcɥʃe{uelʃe} 明るい曲{暗い曲、沈んだ曲}。leᴅ ɥeɑ はヒーリングのような曲。leᴅ uelʃe は大人しい感じの曲。　leᴅ ɥəəɑ{ɥeɑ} 激しい曲{落ち着いた曲} ıɥ leᴅ 音楽を演奏する{流す}：演奏者が主語の場合は演奏。ふつうの人が部屋でパソコンに向かっているときは演奏ではなくプレイボタンを押して曲を流すことを指す。　ɑcʃ leᴅ 音楽を流す：テレビ放送局などが流すイメージ。自分でプレーヤーをかけるなら、ıɥ。そこにいる人に頼む場合も ıɥ。　el nı uelınʃ nıə cᴅ ʃeᴅ le leᴅ ɔnnıɤ あの音が流れてきたら、うれしくないわけないだろ？（『ディシディア ファイナルファンタジー』）

leᴅȷeᴅȷ ［音楽］音楽同好会、音楽部　［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

leᴅᴅıȷ ［音楽］楽譜　［レベル］３　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ ［文化］　→ ɑɔɥ　・楽譜

　　人類は古い時代から楽器を用いたが、楽譜として残すようになるのは相当後の時代だ。　西洋の場合、教会の権威や活動といった宗教的な理由により、楽譜は発達してきた。　なんらかの必然性がなければ、人類は楽譜を発明しない。　　・楽器の歴史　　人工文化の音楽では、まず音楽理論以前に、その民族がどのような楽器を使っていたかを考えるべきである。　人類は通常打楽器を最初に手に入れる。しかし、打楽器はふつう音程を出さないため、今の五線譜は生まれえない。次に原始的な楽器は弦楽器である。弦の特徴は、音階が無段階調整という点である。　弦の次に管楽器などができる。最もなじみの深いピアノなどの鍵盤楽器はかなり後のほうの時代に登場する。　　・どの時点で理論を立てるか　　問題は、人工文化がどの時点で音楽理論を作ったかである。打楽器しかないころから音楽理論があったとは考えにくい。数学的な知見を必要とするので、弦楽器さえ発見されていない原始的な社会で、音楽理論が確立されるとは考えにくい。音楽理論を立てるのは、弦～鍵盤の間のいずれかと思われる。　アンティスの場合、音楽の神が存在するので、原始的な社会の時代がなかった。そのため、神の時代から音楽理論が存在し、学問の母ナユたちに引き継がれたときには鍵盤楽器と音楽理論が既にあったと思われる。　ただ、アルカの神は学問を大成しない傾向があるので、学問として大成させたのはナユになる。すなわち最低でもアズゲルの時代以降である。　　・音階　　アンティスは１２音階である。アプリオリとしては西洋音楽を盗用したと言われるわけにはいかないので、なぜ１２音階になったかの理由を記しておく。　音階というのは、ある音とその周波数を倍にした音の間をいくつに区切るかという問題である。たとえば１０に切ってもいいはずで、実際２４に切ったりする文化もある。なぜアンティスは１２分割なのか。　　ひとつめは文化的な理由。音楽理論ができた神の時代、神々の長がアルミヴァの１２神であったため。　ふたつめは以下のような音楽的な理由。弦を用意し、鳴らしてみる。当然音が出る。この弦の半分の長さのところを押さえて鳴らすと、振動数が倍になり、次のオクターブの同じ音が出る。　つまり、弦を１/２にすると次のオクターブが出る。１/４にすると次の次のオクターブの音が出る。１/１では当然のことながら、最初と同じ音が出る。　では１/３にしたときはどうなるか。１，２，４で弦を割ると、結局オクターブが違うだけで同じ音が出てしまう。では、すっぽ抜けている数である３で割るとどうなるか。この場合、５度高い音が出る。ドを１/３にすると、５度高いソが出る。　５度上げたところからさらに５度上げるというのを１２回繰り返すと、元の音に戻る。つまり、ドから始めれば、ドに戻る。いわゆる５度圏である。地球の自転がきっちり２４時間でないのと似て、正確には元の音に戻らないが、おおむね１２回で１周する。これがアンティスで１２が選ばれた音楽的な理由である。　分母が４以下の整数で考えると１，２，３，４しかない。そして１，２，４はすべて元がドならドの音にしかならない。よって、同一のオクターブの中で元の音に回帰しないものは分母が３のときしかない。そして１/３で弦を区切ると上記のような５度圏が出来上がり、１２回で一周する。ここでも１２が特別な数となり、アンティスの１２音階との関連が示される。　ちなみに、５度圏で１２回というのは、十二支の十干で還暦が６０年というのと数学的には同じ。日本でも見られるありがちな公倍数を用いた方法なので、この点で見てもアンティスが西洋のアポステリオリという非難から遠ざかる。　　・幹音　　１２音の中から７つの幹音を選ぶのは必然ではない。西洋でもドレミファソラシドの７つを幹音として用いない手法が存在した。　しかし、この７音は恣意的に抽出されたわけではない。和声学を研究していった結果、主音から数えてどの位置に半音程が入るかが定まっていった。結果的に全全半全全全半が選択された。　そしてハ長調を中心としたときに、この７つの主役となる音を前衛に出したのが、現在の白鍵の配列である。主役でない残りの５つは後衛に押しやられた。　アンティスでは――必然でなく偶然の一致という説明に留まるが――この点は地球と同様としている。　なお７音が幹音として選ばれたのには、時代背景が神代だったこともあり、アルミヴァやソームを使うと座りがよいという理由もあった。　　・最低音　　西洋音楽は古代ギリシャの音楽理論に影響を受けた。ギリシャではＡの音が最低音とされた。そこで、ドでなくラのＡが最低音となった。そのせいでＣが中心な現在でも、最初のドの音をＡでなくＣと呼んでいる。　しかし現代の音楽ではＡ以下の音を平気で使う。Ａが最低音である必然はない。そこで、アンティスでは最低音が地球と異なり、Ｃである。ギリシャのＡより高いＣでなく、低いほうのＣだった。音楽の神は声楽の神 ɑlıɑı が、ギリシャの最低音Ａより低い音を必要とし、最低音をＣとした。１２音のうちＣが選ばれたのは、ɑlıɑı の個人的な選択としている。　従って、アルカではドをきちんとＡと呼ぶような環境にあり、理解がしやすいことになる。なお、レイユの時代ではこのＣよりさらに低い音も使うので、最低音としての機能はもはや廃れている。　　・なぜＣが中心か　　旋法には様々なものがあるが、収斂していくと長調と短調に大別できる。このうち、神々は明るく聞こえる長調をメジャーとした。このとき主音になるのがＣなため、Ｃが中心と考えられるようになった。　アンティスの場合、この理由のほかに、最低音が ɑlıɑı によってＣとされたため、Ｃを中心として考えるのが妥当とされた。最低音かつ基準音がＣであり、神々が明るい長調を好んだ以上、白鍵の配列が地球と同じになるのは必然である。　　・短調好きなアルバザード人　　一方、アルバザード人は暗い曲が好きで、長調を好まない。しかし神の時代にハ長調中心に音楽理論が作られたため、ナユもそれを踏まえて学問を作った。　　・なぜピアノは白鍵１２個にならないのか　　以上から、アルバザードのピアノは地球のものと基本的に同一である。ところで、なぜ白鍵１２個ではいけないのか。黒鍵なんていらないようにも思える。これにはいくつか理由がある。　　1：幹音と非幹音を分けたい。　2：白鍵１２個だったらそもそも指が届かない。もし指を届かせるために 1ȷ 個すべての白鍵を細くしたら、今度は弾きづらい。　　・ハ長調は弾きにくい　　地球だとハ長調は楽譜が読みやすいが、弾きにくい。アンティスでもピアノの形は同じなので、ハ長調は弾きにくい。これはハ長調が手の構造上弾きにくいためであり、異世界でも地球でも同じことがいえる。　　・鍵盤の色

　　アンティスのピアノは鍵盤の色も地球と同じなので馴染みやすいが、本来白黒である必然はない。ならばなぜ手前が白で奥が黒なのだろうか。　鍵盤はハ長調の幹音が手前になるように作られている。そして長調は明るいとされている。短調にして全全全半全全半にすると、ファ＃の部分で奥を使う。そして短調は暗いとされている。　つまり、手前だけで弾けるのは短調ではなく長調である。そこで、明るい長調を白で表現した結果、地球と同じく手前が白になった。他方、暗いは黒で表現されたため、黒鍵になった。　なお、これは中心がハ長調だからこそできる芸当である。ラから弾けば白鍵だけでも短調が弾ける。これを以って手前の鍵盤を黒にすることもできるだろう。しかしそうならないのは、中心がハ長調だからである。

　　・音の名前　　幹音はソームで示す。１２音階はアルミヴァで示す。　　■ネットユーザーによるカルディアの楽譜形式の考察

　●基本的な書式　アルカは諸西洋語と同じく左横書きなので、地球のものと同じように左横書きになると思われる。　　西洋的和声を文字譜のみで記述することは困難であり、何らかの記号、すなわち音符を使うものと考えられる。　　素早いパッセージにおいても誤りは許されず、高い可読性と正確性を求められるため、標線は一音ごとにあるほうがよい。　　ある程度粗悪な印刷でも読めなければないため、長さや高さを実際の音符の大きさで表現するのは難しい。（それに加え、長さを音符の長さで表わすと ʔȷ 分音符と ʕɱ 分音符の区別などはまず不可能である。）　　ピアノロールのように間のみ、または線のみに音符をおくと縦幅が必要となり、オーケストラ

などでは実用的ではない。(フルスコアを書くにはおそらく模造紙並みのサイズが必要になる。)　　以上より、線と間を使用する地球のものに近い形になるものと結論付けた。　　●線の数　ฦ線譜では1オクターブを納めることができないため、多少不便である。第ト線を追加すると、1オクターブと1音を入れることができる。
ʕ線の楽譜には F个B 譜等が存在するが、ギターの弦がʕ本であるために生まれたもので、一般的には必要ない。　　よって、線の数はト本が適当であろう。　　●音符　音符は見た目の美しさと見やすさを両立しなくてはならないため、あまり複雑な形は不都合である。　　長さ等の付加情報を玉のみに詰め込むと見づらくなるため、旗は必要になる。　　横向きに線が引かれているため、必然的に縦棒になると思われる。　　以上に挙げた条件に従えば、形そのものは恣意的に作って問題ないと思われる。　　●その他　〇小節　小節に分けると非常に見やすくなるため、楽譜が発達するとともに発明されると考えられる。　〇拍子　人の歩行は亅拍子である。
馬の歩行は ʔ 拍子であり、また円形を連想しやすい拍子である。
亅拍子× 亅単位で ฦ 拍子である。　ʔ 拍子× ʕ 単位で ʕ 拍子である。
以上より、亅,ʔ,ฦ,ʕ 拍子は自然発生的に生まれると予想される。
ただし、必ずしも地球と同じように分数の形で表記するとは限らないであろう。　〇曲想記号　曲想記号は近代的音楽の黎明期に定められたものが伝統的に使われる可能性が高いため、ızφeɥ 時代の言葉が生きているものも少なくないだろう。　――――――――――――――――――――――――――　結論 : 地球と同じような五線譜を用い、音符によって音高、音価その他を表すものになるはずである。

leddclɒ 〔名詞〕ミュージカル 〔レベル〕4 μɑ;/「歌と踊りと」 亅ฦ 〔文化〕 ɉɒ で隆盛し、ul 以降は徐々に廃れていった。

ledd 〔名詞〕トウフ、豆腐、とうふ 〔類義語〕dıle 〔レベル〕2 ɉɒ;ılʃ の食べ物。材料の hedd（ılʃ では hen。ɑu で hedd）を ˥ した。 :::dıjelı,ılʃ 1ᐱ: 制 :hedd 〔文化〕 アルティア人が持ち込んだもので、ɉɒ ですでに人気になっていた。

ledhɔjc 〔電算〕音楽ファイル 〔レベル〕3 1L

ledɥı 〔音楽〕ライブハウス 〔レベル〕4 亅1

ledınʃ 〔名詞〕相対の正義、良俗 〔反意語〕ınʃel 〔レベル〕4 ls:jeɥen;le cd/ınʃel「一般人が持つ絶対の正義→民衆の正義→独裁者が持つ絶対の正義に対する相対の正義」 亅ฦ 〔文化〕 ınʃel

ledıl 〔言語〕〔文字〕小文字 〔反意語〕˥lınɑc 〔レベル〕2 μɑ;lecd/ıl「普通の物」 亅1 〔文化〕 幻字の大文字でないほうを指す。

ledc 〔料理〕スープ、ポタージュ 〔レベル〕2 古 :del: 語源不詳。リディアはフィンランド語ｌｉｅｍｉ（スープ）が語源と言うが、造語者がメルなので怪しい。尚。メル自身は語源を覚えていない。 :::dcd c,ılʃ 〔文化〕 lɘlleʃcı が浸透しているところ、特に μɑ のリディアによる ıɥucnı が浸透しているところでは、あらかじめ濃く作っておいて飲む直前に差し水をしてぬるくして飲むことがある。息をかけて冷ますのは無礼ではない。具はたくさんのこともあればそうでないこともある。

ledcʃı 〔音楽〕音楽会、演奏会、ライブ 〔レベル〕4 1L:delcɑcı ılcj 〔文化〕 バンドや演奏家によるライブのことで、通常は北区のフラメル音楽堂で行われる。ディアセルやメルセルの際は非常に混雑する。

ledcɥ 〔政治〕〔言語〕レミール言語庁、レミール、言語庁 〔アクセント〕˥ledЄɥ 〔レベル〕4 亅0:lenj/dccɥ（智恵と論理） 〔文化〕 アルバ二世が召喚省の下に立てた庁。魔導師が操る呪文を管理監督することが当初の目的であった。セルメル中期では社会の安定に伴い、呪文としてだけでなく言語として言葉を見るようになる。μɑ では国際語として機能していたアルバレンの隆盛を背景に、国定辞書が作られる。μɑ が終わって魔法が世の中から消えると、ちょうど入れ替わるようにアルカができていたことから、呪文の管理という側面は失われ、言語の研究、とりわけ国語審議会として機能するようになる。国定辞書は作られ続け、アレイユやランジュでも作られた。日本では辞書は民間が作るものだが、アルバザードでは国定辞書があり、その規範データを基に各出版社が使いやすくしたヴァリアントを出す。　国定辞書 ɑc ı˥lel を作成するのは言語庁 ledcɥ である。ledcɥ はそのほかにも言語の揺れや変化を観測したりといった仕事をしている。国定辞書を作るのは文学部言語学科出身の選りすぐりのエリートで、文系の頂点に立つ人間である。よって事実上アルナ大学の学生で占められ、文学部の学生にとって ledcɥ への入庁は名誉の頂点に相当する。　個人主義のアルバザード人は単なる権力の強さより、自分が価値を認める地位に就きたがる傾向があり、この傾向は特にインテリ層に多い。よって、ほかの省の長官になるよりは、自分の望む庁の長官になることを望むことが多く、自然と適材適所がなされている。　なお、『紫苑の書』に登場するレイン＝ユティアはアルバザードでは実在の人物で、アルナ大学を首席で卒業した後、大学院も首席で卒業し、ストレートで ledcɥ に入庁し、辞書科の編集者となり、生涯を過ごした。働きぶりは真面目の一言につき、楽しむのが苦手で、結婚も恋愛もすることなく勤め上げた。アルバザード人としてはやや珍しい人種である。

ledcı 〔植物〕ミズキ 〔レベル〕6 nɑ;ılʃ

ledcı(亅) 〔名詞〕はからい、計らい、気遣い、気づかい、手配、便宜 〔レベル〕3 ɑu;e 亅ฦ ledcı:ledcı

ledceʃ 〔言語〕レミエット、拡張語彙 〔反意語〕ɉeɥeeʃ 〔レベル〕6 亅0:le dcɥ/ueʃ 〔文化〕 ナディア以降にレミール言語庁がセレートを拡張して作った語彙。科学技術の発展に伴い、無尽蔵に語彙が増えるため、年々増加している。

leddd 〔音楽〕奏法 〔レベル〕5 1L

lede 〔被服〕シフト zφ;.ɉelın 亅ฦ 〔文化〕 農民女性の普段着。長袖、前開きなしの上着。４枚の布を合わせて作る。

ledel 〔音楽〕オーケストラ、管弦楽団 〔レベル〕4 亅1:ledıle

ledejl 〔生物〕〔婉曲〕陰嚢 〔レベル〕4 1L:ɥcɑcı:le dejl

ledez 〔名詞〕音楽室 〔レベル〕3 1L:delcɑcı ılcj

ledel 〔名詞〕（過去に対して）あのころ、当時 〔名詞〕（現在に対して）あのころ、あの頃 〔名詞〕（未来に対して）いつか。ʃeɔ の対。 〔反意語〕ʃeɔ 〔レベル〕2 1L:delcɑcı ılcj:le del（あのとき） 〔用例〕 cd ledel, ın nıʃ ncl ı˥ı. あのころが一番幸せだった。 cl eʃ ˥ɔ˥ ı ledel. 皆あの頃と変わりない。

lenɑcj 〔形容詞〕中古の 〔名詞〕中古、セコンドハンド、セコハン 〔反意語〕ɉenej 〔レベル〕3 μɑ;lenɑcj,ɑφn.ıle˥（古い）‹›ɑcjʃ,lʃ 亅ʔ 〔語法〕 → ɉenɑ ej

lenɑcjlec 〔名詞〕古本、中古本、古書、レディスレイ 〔類義語〕˥lɔleʃ μɑ;/ 〔レベル〕3 亅ʔ nɘɘ˥ıjı:nɘɘ˥ıjı:lɘ ˥lɔleʃ

lenɑcjleciʃe 〔名詞〕古書店、古本屋 〔レベル〕3 μɑ;/ 亅ʔ

lenɑcı 〔歳時記〕ディアセル後夜祭、ディアセルの翌日、レディア 〔類義語〕lɘɘdel 〔反意語〕lɘucı 〔レベル〕2 亅0:leeu/ɑcı（去るディアセル）

leφnen,ɉzɑ hıʃcı

leφıl 〔天文〕天体 〔レベル〕4 亅0:e,ɑl

leφıldejʃc 〔天文〕天体観測 〔レベル〕4 亅亅 〔文化〕 午前二時踏切に望遠鏡を担いでった……りしたら、アルバザードでもロマンチックなんだろうなと思う。　あれがデネブ、アルタイル、ベガ、君が指差す夏の大三角ってシチュエーションで星合い (ɑcıɥɘc) したいなぁ。

leφɔlcj 〔人名〕レゴリス 〔組み数字〕5 / 5 〔レベル〕4 ɉz˥ 亅1 〔文化〕 → ɥıdıll

leφe˥ 〔生物〕〔婉曲〕睾丸 〔レベル〕3 1L:ɥcɑcı:le φe˥（あの玉）

leφel 〔生物〕つむじ、旋毛 〔歳時記〕春分と秋分の総称。狭義の春秋両方の彼岸 〔天文〕天頂 〔レベル〕3 1L:lɔ/ıφel（頭で舞い上がって渦になる箇所） 〔成句〕 el dcb ed hıɥʃıʃc ɔ ɉɔɥʃıʃc nɔɑ leφel. 暑さ寒さも彼岸まで

led 〔名詞〕荷、荷物、にもつ、貨物 〔レベル〕2 古

ledʃ 〔医療〕下痢、ゲリ、げり、而泄、じせつ 〔反意語〕hɔuɔ 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :lɔdʃ::lɔɔlɔdılınʃɔd（下痢）。電車の lɔɔlɔdılın から

ledʃɔ˥ʃın 〔ジョブ〕葬式通報人 μɑ;/ 亅ฦ

ledʃɔɔl 〔魔物〕レプトール（害竜）: 第九十六天 : 害の衛天 〔レベル〕5 1L:ɥcɑcı/ɉeɥen/del:leucn/ʃɔɔl 〔文化〕 害属性の地竜。赤と黄色の混じった熊程度の大きさの竜で、毒を持っている。竜族にしては珍しく常に群れで生活し、獲物を大勢で狩る。餌がなくなると共食いをする。　アシェットが封印した際、その数の多さに辟易した。そこでレプトールを一カ所に集めて一気に封印しようという案が出された。レプトールは金色に光るものに近寄る性質があるため、パールは肌身離さず付けていた金の首輪を投げ捨て、一斉に集まったレプトールを封印した。封印者はパール＝イールゥート。

ledɉ 〔名詞〕葬式、葬儀 〔レベル〕3 ɉɔɥn 〔文化〕 人が死ぬと解剖するか否かを法で判断する。いずれの場合も遺体はアルティス教徒の服を着て、棺に入って家に帰る。遺体が帰った日の夕方過ぎに葬式を開く。家族及び、死者の深い友人のみが参加する。式は家で行う。参加者はホストに lclɒı と挨拶して、ご霊前に当たる金を渡す（革命後は小切手）。参加者同士も lclɒı と言い合う。棺は葬式を行う部屋に置いておく。参加者は棺を開けて死者の顔を見る。ここで泣く人が多い。死者に向けて lclɒı と言ってから、最後に言っておきたい言葉を告げる。そして lıɑɔɔuı と言って印を組み、次の参加者と交代する。それを参加者とホストの全員が行った後、皆でその部屋で飲食をしつつ死者の話をする。長寿を全うすれば遺族は飲食しつつ歓談できるが、それが不慮の死であった場合や若者であった場合は食事などできる気分でない。　棺は皆から見えるところに置いておく。この風習は死者が蘇ることがあることから生まれた。死者は実際のところ偶に生き返ることがある。それを逃さないように棺は見えるところに置いておく。尚、葬式をする部屋は必ず風が入らないようにしておく。空調管理も一切しないで過ごす。夏は流石に暑くなって大変である。また、棺の上には棒を立てておく。何もしない限り倒れない安定した棒であるが、少しでも揺れがあれば倒れる棒である。更に、死者の口には糸を咥えさせておき、棺に仕掛けをしておく。もし死者が生き返って声を出したり棺を揺らしても宴会をしている人の話し声でかき消されてしまいかねない。もし声を出せば口が動く。たとえ開かなくとも揺れる。するとその揺れを感知して口に咥えさせた糸が動き、棺の仕掛けを発動させる。するとその仕掛けが棒を倒す。これによって死者が生き返ったことを知らせる。また、死者が動いて棺を揺らせば棒が倒れ、これも復活を知らせる。そのために棒がある。もっとも、死者はふつう生き返らない。　この習慣はレイユ以前の医療が発達していないころに生まれた。当時は仮死状態でも死亡と診断されることがあり、土葬をした後に生き返るケースがあったため。地球でいうドラキュラ伝説発祥の遠因と同様である。現代では死亡診断がしっかりしているため、葬式時に生き返ることはまず考えられない。そのため、棒はただの名残となっている。　夜が明けて葬式が終わると火葬場へ運び、焼く。遺骨は遺言に従って扱われる。墓に入ることもあるし、庭の土へ埋めることもある。海や河川は国有なので勝手に捨てられても困るが、遺言でそう書いてあれば人情で目を瞑る。また、変わったところでは遺族の骨を食べる人もいる。食べると言っても一体感を得るためにひと噛みする程度。なお、焼いた直後の骨はカリカリしているが、咀嚼すると砂のような食感でざらざらする。また、遺骨を自分の家に取っておく人もいる。枕元に置いておく人もいる。アクセサリーにする人もいる。非常に稀な例では、危険を覚悟で手術で自分の体に埋め込む人もいる。特に、幼い娘に先立たれた父親や、幼い息子に先立たれた母親などに、こういう人が多い。アルバザード人はそれを不気味な話ではなく、美談として聞く。

ledɉıʃ 〔普通動名詞〕身支度、荷物の用意 〔レベル〕3 μɑ;/ 亅ฦ

ledl 〔生物〕かかと、踵、きびす、ヒール 〔レベル〕2 古 〔語法〕 主に

３つの部分からなる。かかと落としの打突点が中心。次に足の裏の踵寄りの部分。そしてアキレス腱の下、スニーカーを履いたときの、スニーカーの後部の高さまでの部分。　ɹɔµledl などの場合は足裏全体を指すこともある。

ledluıcˀ ［生物］踵部　µɑ;/　Ɉɱ

ledlhɔ ［生物］踵骨　［レベル］5　1L

ledlıµucᴅ ［生物］アキレス腱　［レベル］3　1L

ledı ［交通］バン　［レベル］5　1ʔ: 制 :ledıᴅɔ

leb ［動詞］ɥəl を ˀı で ı まで引きずる、引きずる、引き摺る、ひきずる、引きずり回す　［レベル］3　1L:ɹeµen:ᴅelcɑcı:leʃdcɔ

lebıɑcɹ ［法律］引き摺り刑　1L:ᴅelcɑcı ıʅʃe ［文化］　死刑囚を車や馬につないでカルテの周りのリディア通りを一周する刑。服は破れ、体中が擦り切れ、手足が千切れ、内臓が道に千切れ出る。死刑囚は一周する前に絶命する。家族殺しや女の浮気などに適応される。

lebeˀˀı ［地名］レベッカ　［被服］ゲートル。ブーツのほうのゲートルは beleʃʃı。　ˀˀ | µʃ　Ɉɱ

lebel ［動詞］ɥəl を看取る、看取る、看とる、みとる、見とる、見取る　［レベル］4　µɑ;leebenlʃel.ˀ。レーベンシュテルが亡骸を分解する様が故人を看取るかのように見えたことから。　Ɉɱ 【用例】 ın lebelıʃ ˀıın ˀı uılı. 病院で父の死を看取った。

leɥə ［動詞］ɥəl と別れる、別れる　［動詞］ɥəl（恋人）と別れる、別れる :1L:µcɑcı ［医療］解離性の接頭辞　［レベル］3　1L:lecn:leeu/ᴅɥəəʃe。ᴅɥəəʃe は赤で「分ける」。　［文化］　今一緒にいる相手と別れる場合は ɑɔɔuı か ɑɔɔ を使う。ɑɔɔ のほうが砕けていて、目下か親密な相手にしか使わない。尚、恋人同士は ʃcıʃcɹ という。夫婦間でも使う。親子間でも使う家族がいる。以下で述べることは ɑɔɔ,ʃcɹʃcɹ に関してもいえる。　ɑɔɔuı は一緒にいる相手と一時的に別れる際に使う。友達と別れるときは勿論使う。家から出て行くときにいってきますと日本人は言うが、いってきますも別れの一種なのでやはり ɑɔɔuı が使える。逆に、登校する子供に向かって親はやはり ɑɔɔuı といって行かせる。会社から退社するとき、学校から下校するときも ɑɔɔuı。また、メディアで喋り手が番組終了時に聞き手に向けて言うこともできる。スピーチ時でも同じで、スピーチが終了して去るときにも使える。ところで、一緒にいるというのは同じ場所にいるという意味ではない。電話のように距離が離れている場合も含める。つまり、電話を切るときも ɑɔɔuı である。通信を切るときは ɑɔɔuı である。通信の一種である手紙の結びにも ɑɔɔuı を使える。尚、ɑɔɔuı はさようならとまたねの区別がない。たとえば友達と下校時に遊ぶ約束をしたとする。一度荷物を置いてから公園に集合するという約束をしたとする。この場合、一旦別れる際に「またね」とか「またあとで」というが、これも ɑɔɔuı という。「じゃあまた明日」というときも ɑɔɔuı という。区別がない。では、また後で会うことを述べたいときはどうすれば良いか。会わない期間が ɑɔɔuı の後に続き、その状態がある時点を終点として終わる。つまり次に会う時点を終点格で表わせば良い。したがって、またあとでなら ɑɔɔuı ı ɑµeᴅ といい、また明日なら ɑɔɔuı ı ˀeɹʃ という。また来週なども同じ理屈である。ところで、ɑɔɔuı の代わりに ıluı を使うこともできる。これは「気をつけて」という意味で、相手の無事を祈る言葉である。登校する子供にも、帰り道に別れた友人にも、会社の同僚にも使える。登校する子供が家に残る親に対しても ıluı といえる。家の中が安全とは限らないからである。ıluı といえないのはメディアやスピーチの場合である。これらの場合はいえない。但し、地震速報や凶悪事件の報道などの締めに ıluı ということはできる。また、ın leeu でも行ってきますの意味になる。行ってらっしゃいは leeuın。お帰りは lənın だが、ただいまには固有の語がなく、挨拶同様 ɹɔɔnɔ という。　【用例】 nɔn nıʃ elɹ ɑə ɑcl ʟc leɥə lı. 彼と別れた後、しばらくの間落ち込んでいた。

leɥəʃe ［名詞］恋焦がれ、恋焦がれること、岡惚れ、レユテ　［レベル］4　ɈɈ:leɥə/ʃe ［語法］　ʟcclıɹ leɥəʃe ɑccnı の形で使う。恋心があるのに伝えられないもやもやした状態であることを意味する。この気持ちが相手に届けばいいのにと切望することを意味する。厳密には岡惚れとは違う。　ʟccʃ leɥəʃe の場合は、その想いを遂げた状態を指し、通常現在形のアスペクト無しで使う。想いは成就しているが、恋焦がれていた頃の純粋な気持ちがまだ残っていることを指す。　【用例】 nɔn ʟcclıɹ leɥəʃe ɑccnı ʃɥə. この想い、君に届け。

leɥəˀel ［医療］解離性健忘　［レベル］6　1L:ɹeµen

leɥəuınʃeɹ ［人名］レユヴァンテス　Ɉ0:ˀlccz: 元の名前は lələ µıd µıʃ ʃe ezeᴅen。リディアが「それは人の名前ではない」と言ったことでクリスが不快感を示し、アンティス批判を行った。曰く「セレンのアルカは皆に親和性があって使い勝手がいいのに、アンティスはリディアの独りよがりで楽しめない」とのこと。一方セレンはネットでアルカを広めるに際し独善的なミロク主義は壁になると考えていたため、クリスを擁護。これを受けてリディアは自分の正義感をアルバザードのアレイユの時代にのみに封じ込め、他国ではそれぞれの正義を許すことを公言。それに対しクリスは自分の子供が画一的な文化に棲み分けを設けたとし、leɥəuınʃeɹ と改名してリディアに譲歩を示し、リディアはこれを受け入れた。leɥə は「分かれる」で、ınʃcɹ は「個々の文化」で、u はクリスが古きよき時代と称する古ソーンの母音連続を防ぐ形態素。ə を含むので前舌を避け、ınʃcɹ → ınʃeɹ となっている。これにより、ˀcµɹ の語法が制と逆に文化の総称となり、ınʃcɹ の意味がアトラスの文化から個々の文化となった。　［文化］　(Ɉ0 ɑɥə ɑɥə →) オヴィとクリスの第一子。長男。

leɥəleul ［医療］解離性障害　［レベル］6　1L:ɹeµen

leɥəınnıleul ［医療］解離性同一障害、解離性同一性障害　［レベル］5　1L:ɹeµen

leɥəıll ［数学］分裂数。７のこと。忌み数。　［レベル］4　1ɱ: 制 : 別れる数

leµ ［名詞］ひだ、ヒダ、襞　［レベル］3　古　leµ:leµ:lı ʃıns（膣襞）

leµɹe ［被服］ラフ。レースなどの布で作った幅広い襟。　ɹᴅ;leµ/dɔɹe　Ɉɱ

leµdɔ ［被服］クラヴァット。地球と逆でネクタイが先でそれを豪華絢爛にしたクラヴァットが後。　ɹᴅ;leµ/dɔɹı　Ɉɱ

leµeɹd ［気象］高積雲、まだら雲、ひつじ雲、むら雲　［レベル］5　1L

leznınʃ ［名詞］家庭教師、ガヴァネス　［類義語］µılˀ　［レベル］3　Ɉ0:lın/ˀɔµ/zını/lınʃcɹ（左に立つ人）。生徒はたいてい右利きなので、教師は左後ろに立ってノートを見ることになる。このことから左に立つ人と呼ばれるようになった。　［語法］［文化］　アズゲルで高官たちの子女に主に魔法を指導するとともに学問を教えた人間のこと。地球と異なり、魔法の指導がメインとなるため、講義はあまり役に立たない。集団で講義するのではなく、一対一で魔法をかけたりかけ返したりしてやる必要がある。そのため、アトラスで最初に現れた教師は家庭教師であった。　アズゲル初期は一対一が基本なので、高官の子女などにしか教育は与えられなかった。それ以降は高官の子女たちや貿易で力を付けた商人の子女にも教育が施されるようになった。　メルテナでは召喚士の子女にも教育が施された。カコは戦乱のため、教育の枠は広がらず、むしろ軍隊生活が学校の代わりとなった。そういう意味でアトラスにおける最初の学校は軍隊である。アトラスには明確な神が存在するため、宗教に乏しく、教会が存在せず、教会が学校の代わりにはならなかった。　セルメルになると太平の世の中になり、経済活動が活発になった。貴族や商人の子女は教育を受けられたが、中産階級の子女にまで教育が与えられるようになった。しかし中産階級の親は高い授業料を支払うことができない。また、逆に教師志願率が高くなるにつれて、貴族の家庭教師になれなかった教師が出てくる。そこで貴族につけなかった教師は中産階級の子をたくさん集め、少人数制の家庭教師を行った。中産階級は安い授業料で教育が受けられ、教師は安い額でも複数人分集まるので旨みがあった。　この時点で家庭教師といっても複数の家庭の子供を集めるわけだから、家にいくわけにはいかない。逆に生徒達を一定の場所に集めねばならない。そこで当初は教師の家が選ばれ、別の意味で家庭教師となった。これが軍隊とは異なる独立した学校の始まりである。　やがて生徒数が増えると教師の家では対応できなくなるため、広場などを用いて教えるようになった。国民に教養を与えるのは国家の反映に繋がると考えたアルバ二世は、これを保護した。教師にとって困る点は雨天など、天候であった。夏は暑いし、雨が降ると広場では授業にならない。そこでアルバ二世は校舎を立て、ɑeˀˀı（学校）と名付けた。最古の学校は ɑelcəɹ ˀµeʃcɹ がアルバ二世の協力の下、アルナに建てた ıµnıɑeˀˀı である。学校は各地に建てられ、中産階級の子女が集められ、教育が進んだ。　µɑ では学校が優勢になり、貴族の子女は学校に行きながら家庭教師を受けた。一部、特に位の高い子女は家庭教師のみを受けた。　ナディアになるとアシェットが貴族の位を廃したことで、家庭教師は衰退。代わって元貴族の子女を専門的に扱う私立校が出て、一時期王立アルナ学校を凌駕する人気を博した。　アルティルとヴェレイでは学校が優位だったが、ヴェレイではたびたびの経済不安定から授業料の安いアルナ学校の人気が戻り、倍率が上がった。その結果一位の学校に戻り、富裕層の子女もアルナ学校に進むようになり、アレイユに至る。　ヴェレイで人口が増え、進学率も増えたことで、受験戦争が大きな商売として成立し、結果、家庭教師が蘇り、塾が起こる。この時点での家庭教師は µılˀ と呼ばれ、leznınʃ とは区別された。

lezɑcı ［名詞］図書館　［類義語］lecˀı　［レベル］3　lɹɑ　ɈɈ:lecɹʃ/ɑcı

lese ［植物］亜麻　［色］亜麻色　［形容詞］亜麻色の　［レベル］4　古 :ɹɔµn:lese。ソーンの leseᴅᴅe（紫）からきている。なお、亜麻は紫でない。

leseɹʃ ［俗語］デブス　［類義語］bɔnbe　［レベル］3　µɑ:ᴅel;/leseɹʃc.ɑµcɹ Ɉʔ:ᴅel:Ɉ01ɧıµˀıɑcı の松屋事変より。　［語法］　女にしか使わない。デブでブスな女のこと。魔族レジェスティに似ているのでこの名がついた。

leseɹʃc ［魔物］レジェスティ（瓦斯球）：第三十八天：火の陽天　［レベル］5　1L:µcɑcı/ɹeµen/ᴅel:leseᴅᴅe/ɹıʃcc ［文化］　魁族。紫色のデブな塊。魁族だが、実際には手足はある。ただ、デブすぎて手足が手足なんだか分からない。ところどころに穴が空き、臭い毒ガスと炎を噴き出している。

lesen ［被服］リネン、リンネル、布製品　［レベル］4　1ʕ: 制 :lese

lesenʃ ［地学］菫青石、アイオライト　1L:leseᴅᴅe ［文化］　雷の魔石。

lesennı ［名詞］(ʃcl) 不思議な、怪しげな、未知な、怪しげな、未来の、近付きがたい、高貴な　［レベル］3　1L: 近付きがたいところから高貴なの意味が出た。未知から未来の意味が出た。

leseᴅᴅe ［色］紫、レジェンメ　［形容詞］紫の、紫色の　［レベル］2　古 :ɹɔµn: アルシェでは ılhɔɔµı　sccnı:ılhɔɔµı:lə lı doın（lə は青紫、lı は赤紫）, lə ɔlcuce:ɔbcɥı,ılʃ ［文化］　高貴な色は紫。かつて紫の染料が高価だったため。高貴なクミールの色とも言われる。

leseᴅᴅeɹəc ［植物］サツマイモ、さつまいも、薩摩芋　［レベル］2　µɑ;/ 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ 【用例】 bel leseᴅᴅeɹəc ˀı zɔᴅɑıc 焚火で焼き芋(ヤキイモ、焼芋）を作る。

lelɑ ［普通動名詞］編成　［動詞］ɥəl を編成する　µɑ;leed/lıɑ　Ɉɱ

lelcɹ ［言語］拝啓、親愛なる　［レベル］4　Ɉ1:ıl elcɹ（エリス神に祈りて）［語法］　ıʃəs,ɑedenʃcı で閉じる。

lele ［代詞］[µenʃe] あれら　［類義語］ınlele　［レベル］1　1L

leı ［名詞］礼儀、マナー　［レベル］3　ʃᴅ　ɹɔµn　leı:leı:leın 【用例】 leı ʃcı 正しいマナー

leılcuel ［ユマナ］義理チョコ、チョコレート　［レベル］5　Ɉʔ

leıɹ ［生物］動脈　［レベル］4　1L:leeudılɹ（心臓から血が出ていく脈）

leın ［文末純詞］[µenʃe] ʃeıl。そうでしょうか、いえそうに違いない。　［レベル］2　1ɥ: 制 :ʃeıl の音を弱めたもの

leın(⅃) ［組み数字］２／１０　［哲学］礼　［医療］胆　［歳時記］丙、ひのえ　［レベル］４　µɑ;leın,ȷzl　⅃1　::lə leın

leın,ȷzl　leı　leı.l

leınꞁın ［生物］［医療］胆経　ȷzl;/　⅃ɱ

leıueʃ ［言語］敬語、敬体　［レベル］３　⅃1　［文化］●敬語３種　尊敬語(ȷɔꞁȷueʃ)、謙譲語 (lcȷʃueʃ)、丁寧語 (ılcʃueʃ) の３種が存在する。　・尊敬語　尊敬語は動詞の前に ᴅcȷʃ を付けて示す。　動詞は丁寧形になる。　代詞は敬体を使う。　ʃc ꞁə ʃə ı nɔn → hıꞁꞁı ᴅcȷʃ µenȷ ʃə ı ᴅecɑ.　名詞の前に ᴅc を付けると尊敬語になる。　聞き手に対する丁寧さが後述する ın で、相手に対する敬意が ᴅc になる。　従って、ᴅcɑɥəȷȷɔə と ınɑɥəȷȷɔə はニュアンスが違う。ᴅcɑɥəȷȷɔə は話し相手に、ınɑɥəȷȷɔə は聞き手全体に対する敬意。　ᴅcuelɑ と ınuelɑ も意味が違う。ınuelɑ は「お酒」という単なる丁寧表現。ᴅcuelɑ は相手に対する敬意なので、その酒が相手の所有物や製造物であることを暗示する。　同様に ınheꞁꞁı は「お手紙」という柔らかな表現で、ᴅcheꞁꞁı は相手からの手紙という意味。　ちなみに heꞁꞁı 自体がやや子供っぽいので、ᴅcheꞁꞁı は妙。ınheꞁꞁı は問題ない。　なお、ここでいう相手とは目の前の二人称でなく、話題に上がっている三人称でもよい。丁寧は対象が聞き手全般に渡るという違いがある。　・謙譲語　代詞の敬体が謙譲語となる。尊敬語と合わせて使う。謙譲語を使うのに尊敬語は使わないのは不自然。　代詞に接頭辞の be を付けても謙譲語になるが、あまり多様しない。beıᴅc で拙者、小生など。　謙譲表現は主に「～させてください」という句で表す。ᴅcµ ɥəəȷ ᴅen µenȷ ʃə で「申し上げる」。ここでは ꞁə でなく µenȷ を使う。　ᴅcµ ɥəəȷıʃ で過去依頼形にすると「～させていただきました」の意味になる。ᴅcµ ɥəəȷıʃ ᴅen ılʃ eȷʃ ɑccnı ȷılı で「代筆をさせていただきました」の意味。　・丁寧語　丁寧語は文末純詞を使う → ın(٩), ıılı　名詞の前に ın を付けると丁寧語になる。ınuelɑ で「お酒」。ınɑɥəȷȷɔə で「あなた様」。ınucꞁ で「殿方」。　●相対敬語
アルカの敬語は相対敬語で、絶対敬語の韓国語などとは異なる。
家柄の良い娘は父親を尊敬語で ɑµecnɔı と呼ぶが、人の前では ꞁıın nɔın と呼ぶ。　アルバザード人は一般に自分でも他人でもそうだが、誰かを貶めることで誰かを持ち上げるというやり方を好まないため、豚児や愚妻などといった謙譲表現は「やりすぎ」と感じて避ける傾向にある。　●動詞　前述のとおり、動詞の前に副詞の ᴅcȷʃ を置く。　ᴅcȷʃ lənı：いらっしゃる　ᴅcȷʃ ʃıə：お求めになる　ᴅcȷʃ を伴なう場合、ꞁə は µenȷ になるなど、動詞は丁寧形になる。　ᴅcȷʃ ꞁə → ᴅcȷʃ µenȷ：おっしゃる　ᴅcȷʃ ꞁəc → ᴅcȷʃ len：召し上がる　ᴅcȷʃ ȷıb → ᴅcȷʃ lecn：お召しになる　ᴅcȷʃ ᴅɔꞁ → ᴅcȷʃ lc ɑcı：お休みになる　●名詞　本来的に丁寧形を持つ名詞があり、それが丁寧語として使われる。　ꞁıın（父）：ɑµecnɔın（お父様）　eȷn（傘）：leeze（お傘）　ın や ᴅc を付けることもできるが、あらゆる名詞に付けるのは慇懃無礼な印象を与える。　単語単体で文を作る場合など、状況に応じて ın や ᴅc を使う。　× "hıꞁꞁı ᴅcȷʃ len ınµec ınᴅcın8"（お酒を召し上がりますか？）：くどい感じがする　○ "ınµec8"（お酒で？）：動詞が欠ける文なので名詞で丁寧さをフォロー　・形容詞　形容詞や副詞に ᴅcȷʃ や ᴅc は付かない。

lec ［名詞］本、書籍、電子書籍、文庫（読み物としての）［類義語］ıµlec　［レベル］２　1ʔ: 制 :ȷɔµn:lecȷʃ（木の葉の集まり、本）,lıȷȷʃ（葉っぱの集まり）。lec と lıȷ は異なるものとして捉えられているようだ。また 10 年のクミールの言動からして、lecȷʃ は背革装やハードカバーなど、大切な本に使われていたように思えるが、本人のコメントはそうではなく、むしろ紙の材質によるとのことだった。ちなみに古アルカでは本は ꞁıȷı ないし ꞁıʃȷ。　ꞁıȷʃ,ɑ ꞁıȷı,ɑu:ꞁıȷı:lə lecȷʃ（ユルグ）:lıȷȷʃ,ɑφn ［語法］電子書籍も lec という。　lɔbɔ：カバー、表紙　ɑılı：号、巻、ナンバー。『ねこにっきの３巻』は ɑılı ʔ ʃ'ənclec。　ȷeȷɑılı：バックナンバー　ɑlec：ページ　ɑlecɑılı：ノンブル　eel：見開き　ꞁııᴅ：左右片方のページ　clcɔn：版面　ᴅcns：柱。小指を横に置いたような形であることから。　ɔd, ɔdµenȷ：注釈　ɑıdɔd：頭注　zcɑɔd：脚注　ᴅɔzɔd：割注、分注　ꞁııᴅɔd：側注　ʃɔɔꞁɔd：後注　lecʃɔɔꞁ：巻末　ɔȷn：天　cd：地　ʃɔᴅ：狭義の小口（天と地は含まない）　lɔȷ：背、背表紙　ꞁınɔ：つめかけ　ʃɔı：のど　ʃɔııbe：のど布　ɔdıbe：花布、はなぎれ、花切れ、花ぎれ　ɔlᴅıᴅıȷ：表紙。表１～表４までは ılʃeɔlᴅı_lceµɔlᴅı。lceµɔlᴅı で裏表紙　ȷıµɔlᴅı：折り返し　ȷlɔʃ：角。角丸は ȷccdȷlɔʃ　ɑle ıɔlᴅı, ılɑleıɔlᴅı, ılcȷɔlᴅı, ıılcȷɔlᴅı：見返し。狭義の見返しが ılɑleı と ıılcȷ　lıen：扉。ページを顔と考えるため。　eȷʃɑlec：標題紙。英語圏と違ってここに出版社情報などは書かない。　lɔcʃɑlec：奥付。出版社や発行日などを記す。　ȷıꞁl：帯。アルティア製の本には見られる。　dɔȷ：チリ　ᴅɔzɔl：折り込み　ɑɔʃ, lecɑɔʃ：栞紐、栞ひも、しおり紐、しおりひも、スピン　ȷıȷeu：前書き　lcȷeu：後書き　zedeʃ：前付。前書き、目次、扉、標題紙、献辞、謝辞、口絵などの総称。　ꞁc ʃlecȷ, ᴅɔzlecȷ：口絵　ɑcȷʃµenȷ：献辞。主に前書き中に文書で示される。１ページ割くことも。　ȷenʃµenȷ：謝辞。主に前書き中に文書で示される。　ȷınꞁeu：平積み　ncıꞁeu：面陳。表紙が見えるように本棚に立てかけて置くこと。日本人はよく「平積み」と混同している。　［文化］　値段→ ʃıə　【成句】　µcɑcı hınʃ lec. リディアは本を積む：学問に王道なし。リディアのような秀才はきちんと本をたくさん読んでそうなったということ。　【用例】　hɔᴅ lec 本を開く　ın ʃcl lec ɑc l'ın cȷꞁ ıl. 読むべき本が多い。

lec(⅃) ［接尾辞］［言語］アルカの方言　［類義語］µen　［レベル］３　⅃0: 古 lecȷʃ（葉っぱ）。方言をひとつの言語という枝に生える葉と見なしたことから　［語法］［文化］　lec はアルカの方言を指す。µen は「～語」を指す。
【用例】　ıµbılec アルバザード語

lec,ȷzɑ　ʃeꞁ

lecʃ ［形容詞］愚かな、馬鹿な、バカな、低脳な、低能な、無能な　［類義語］ɑcµᴅıȷ、nıᴅɔl、lcᴅı　［反意語］lele　［レベル］２　1ʔ: 制 :ȷɔµn:leıʃ（賢い）の n 対　ᴅɔlɔ:ᴅɔlɔ　【用例】［メタファー］lecʃ ɥən ꞁıclı カイラのように愚かな

lec ʃ'ıᴅılcȷ ［名詞］備忘録　［レベル］５　⅃⅃:「神様のメモ帳」

lecʃɔɔꞁ ［名詞］巻末　［レベル］５　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

lecʃen ［名詞］愚か者、愚者、愚民　［レベル］２　µɑ;/　⅃ʔ

lecꞁ ［名詞］知識　［レベル］３　1L:lenȷ ないし lecꞁı　［語法］　lenȷ　【用例】　lecꞁ hın 幅広い知識　lecꞁ ɑın 深い知識　lecꞁ hın ɔ φcᴅ 広く浅い知識

lecꞁʃ ［エルト］レイクト　［レベル］５　古 :lecȷʃ/ꞁəʃɔ: 小説版アンクノットではヴァルガリマンダ。　［文化］　複数の魔法エレメントを操る鳥。メルが魔石で召喚した。

lecꞁı ［名詞］図書館、図書室　［メタファー］知識の宝庫　［類義語］lezɑcı　［レベル］３　1ʔ: 制 : 本の場所　［文化］　各カルテに最大の図書館が置かれる。あとは学校に置かれる。　学校において、図書館も独立した棟である。学術性の高い本が蔵書されている。新聞や一部の雑誌も保管されている。開架には人気のある本が置かれ、自由に読める。本来はレイユの科学力では電子データを電子ペーパーで読めるので本は不要だが、パラパラめくって通読できるなどの利点と、どこでも大きい判型で読めるという点と、アルバザード人が本が好きという理由で、残されている。外出先で読むにはアンセは小さすぎるし、携帯電子ペーパーはわずかに充電の心配がある。蔵には人気の少ないものが保管されている。蔵のものは置かれているパソコンなどの端末からデータを探し、係員に告げることで出してもらえる。また、端末を利用して本の内容をダウンロードすることもできる。本の貸し出しは行っていない。本は閲覧室で閲覧するのみである。欲しければ本屋で購入する。資源の無駄なのでコピー機も置いていない。必要があれば情報を自分の端末にダウンロードする。図書館の良いところは絶版の本も電子データではなく本の形式で読めるということである。ただ、持ち出しはできないし私物化もできないので、本当にほしいなら図書館は役に立たず、中古で手に入れるしかない。
＜建物＞　建築様式に決まりのないビルで、デザインは美しい。どこの住人でも自由に出入りできる。図書館は貸し出しを行っていない。本は閲覧するのみである。欲しい箇所はデータ化された部分を端末にコピーして手に入れる。紙の形では入手できない。どうしても紙が良ければ書き写すかコピーするか本を買う。尚、コピー機は資源の無駄遣いで人気がないので置いていない。受付に言ってコピーしてもらう。貸し出し業務がないため、図書館業務は楽である。日本のような大きなカウンターに何人か受付がいるということはない。カウンターに受付が一人いて、コピーなどの業務を行う程度である。また、受付は本を検索するための端末が壊れたときに直す係りでもある。ところで、カウンターには受付の他に司書がいる。司書は利用者の相談を受けて本の案内をする人である。端末で本を検索してもコンピュータは融通が利かないので、検索しきれないことがある。人間なら融通が利くので楽に探せるということがある。そこで、端末で探せない本を司書に相談して探してもらう。司書は最低一人いる。数人いるところもある。　【用例】　☆ ın ɑel ȷen µınel uecn ꞁı lec lecꞁı nɔɑ µı. 家より図書館のほうがよく勉強できる。

lecꞁcʃ ［名詞］巻頭　［レベル］４　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

lecꞁcb ［名詞］本棚、書棚、戸棚　［レベル］３　制

lecl ［動詞］ɥəl を ı に登録する、登録する、載せる、採録する、収録する　［普通動名詞］登録、収録、採録、記載　［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :lecc lı　【用例】　ın lecl ɑlen uɔꞁ le ʃc ılʃıʃ ıʃə ı ꞁlel8 貴方が書いた文を辞書に載せてもいいですか？　ɑcıɑın e ꞁlel ıllı ııs lcn nɔȷ lecl ıl oel ueʃ ı ꞁlel. 辞書の編集者は辞書にどの単語を載せるか決めてはならない（ȷeµen ıµbızıµɑ）→ ꞁlel

lecȷ ［名詞］絵　［普通動名詞］絵画　［動詞］ɥəl を ı に描く、描く、書く、かく　［類義語］ꞁılɑcı　［レベル］２　メル・アルカ　:::ɥıᴅc,ılʃ　［文化］　アルバザードは絵は好きで描くという人が多い。日本人は絵の教育が殆どされていない。美術が学科にあるのに、多くの人は絵が下手である。人を描けと言われれば汚い棒人間か落書きのような絵しか描けない。アルバザードでは絵の教育がしっかり施され、小さいうちから仕込まれる。特に人間と風景の練習はよくさせられる。日本人はアルバザードの子供より絵が下手だと思って良い。日本人で一応見れる絵だなという程度がアルバザードの子供の絵だと思って良い。アルバザードでの絵を描く率は日本人が写真を撮る率と同じか少し低いくらいである。日本人は何気なしに写真を良く撮る。アルバザードはそれと同じか少し低いくらい絵を描く。そしてアルバザードは絵と同じか少し低いくらい写真を撮る。絵を描く人が多く、描いたものは大事にとってある。捨てない。また、はじめからコンピュータで絵を描く人もいる。被写体は人間か風景といったが、この人間とは広義的で、知り合いの美人だけでなく、神話に出てくる神も含む。絵はとっつきやすい鉛筆画が多い。費用もかからず、道具も少なくてすむからである。レベルを上げるにつれて分岐が激しくなる。コンピュータで配色等を完成させたいのなら鉛筆画をスキャンして修正し、色をつけていく。日本の漫画のようにしたいのならペン入れを行い、トーンを張ったりして完成させる。油絵や水彩画を描きたいなら絵の具を塗っていく。このように、鉛筆画を基本として絵の分岐は広がっていく。尚、日本のアニメのような絵はあるにはあるが、異なりがある。デフォルトされた絵は不自然な人間なので気味が悪いと考える人もいる。ただ、一々劇画のように書くのも絵に可愛げがない。そこで、その折衷的なややデフォルメした絵が考案された。これは日本のアニメほどデフォルメされていない。顔の皺や汚れや彫りの深さなどをデフォルメしてややアニメ顔にしたものである。日本のアニメは多様なのでこういうものも備えている。アルバザードの方が多様性がない。逆に、デフォルメするならかえって思い切りデフォルメするといった傾向がある。日本のアニメに出てくる二頭身くらいしかない「ちびキャラ」などに当たる。マスコットでいうとキティのような顔をした人間の絵である。

lecȷʃ ［名詞］冊子、パンフレット、小冊子　ȷzɑ;lecȷʃ.heᴅ　⅃ɱ:lecȷʃ 自体は古ソーン。

lecȷʃ,ȷzl　lec　lec,ȷzɑ

lecʝʃcnı ［地学］［歴史］ステニアン　ul;/　ʅʔ ［文化］ φııueɑeᴅe

lecʝʃcı ［魔法］司書、レイスティア。逢魔宮の管理人。　［レベル］４　ʅʅ;lʃ ɑ<lecʝʃ/ʃccı ［文化］ eʝlı

lecʝllel ［名詞］図鑑、図典、図版 ［レベル］２　μɑ;/　ʆɱ

lecʝlɔlʃ ［娯楽］ジグソーパズル、ジグゾーパズル ［レベル］２　ʆ0: 絵パズル ［文化］ ııulɔlʃ とともに、暇つぶしとしてよく行われる娯楽。綺麗な絵画をモチーフにしたものが多いので、出来上がった後の飾りとしても好まれる。代表的な娯楽のひとつなので売上もよく、そのため日本より凝ったものがある。３Ｄで浮き上がるものや、蛍光塗料の塗ってあるもの、完成後に切れ目が目立たなくできるものなどがある。

lecʝlɔnɑ ［動詞］ɥəl を思い描く、思い描く、想い描く、夢想する ［普通動名詞］夢想 ［レベル］３　μɑ;/「夢を描く、夢描き」 ʅʔ

lecʝlec ［名詞］画集、イラスト集、イラストブック ［レベル］４　μɑ;/ ʆɱ

lecʝccl ［名詞］レイシール ［レベル］４　古 :ʝeμen ［語法］ 夢見る才能のこと。空想を楽しめる才能のこと。中学ぐらいには容易にできるのに、大人になると急激にできなくなる。大人は現実と異なりすぎる空想を素直に抱けない。抱いても馬鹿馬鹿しいと思って素直に楽しめない。だが、大人になるほど健康や体力や将来性などにおいて現実が辛くなるので、本来は大人が持つべき能力である。だが大人になるほどもてないのが現状である。どうもレイシールは自分に無限の可能性を感じている状態のほうが持ちやすいようである。非常に天邪鬼な才能である。　科学的には、空想によりドーパミンなどの神経伝達物質が放出される状態である。原理的には脳トレやイメトレと同じである。散歩など、セロトニンを促すリズム運動をするときになりやすい。ドラム演奏のように手足に意識が集中して思考ができない状態では、かえってなりにくい。従って最も適するのは散歩である。時間は ʔ0 分以内である。レイシールは高揚感があり、すべてが楽しく感じられ、芸術センスが刺激され、アイディアが沸き、鬱が消える。現実感がなくなり、いやなことを忘れる。どうも効果を見ていると、麻薬を使用したときに近いようだ。ただし、麻薬と違って常習性がない点で決定的に優れている。欠点は、麻薬と違って強制的に発生できないこと。

lecʝeʃ ［普通動名詞］焚書 ［動詞］ɥəl を焚書する、焚書する ［レベル］５ μɑ;/「本を殺す」 ʅʔ

lecʝen ［言語］文献 ［レベル］４　ʆʅ: 古 lecʝʃ

lecʝel ［歳時記］本の日 ［レベル］３　ʆ1:ᴅel ［文化］ μɑ でクミールが制定した。ɑıu ᴅcμ。読書を推進した日で､μɑ_ıl では本屋が安売りをした。　現代ではＤＬをしてもカウントされない日。ＤＬが集中すると税金を上げざるを得なくなるが、これは本の日の主旨に反する。そこでこの日はＤＬが税金用にカウントされないことになっている。

lecn ［名詞］儀式などに使う神具 ［μenʃe］ ʝıb: 神具を置くこととユンクの服を身に置くことのメタファーから ［被服］女性服 ［レベル］２　ʝzɑ ;lecn(ʝıb)　古 : 語源不詳　lecn:lecn:lı lecn ［文化］ ʝıb 【成句】 ᴅcn l'ı ıs lecn nɔzeʃ 自分で自分の服を選ぶ女：惨めな女、哀れな女、モテない女→ ʝıb 文化欄参照 【用例】 ［言葉遊び］ lecn ıllecn lecn. レインが服を脱ぐ。

lecnȷ ［被服］レインス、セーラー服 ［レベル］３　ᴅelʃcı ʆL1:lənɔ;e　1L:lecnʝıb（レインが着ていた紫苑の服）1L 年までは紫苑がきていた服でレインが借りていたので lecnȷ としていた。その後リディアがセーラー服は案外丈夫な服で湿気にも強いため、アルバザードにもあると主張。アルティスの服とし、名前を lecnȷ から変えることにした。が、宗教服であるため、lecn（神具の）ʝıb（服）のままでいいかということになり、今に至る。 ［語法］ 日本で着ているようなセーラー服。丈夫にできていて、バリエーションに富む。胸のネクタイをリボンに変えて以降、女子の服となった。それにつれて下半身はスカートになった。 【用例】 ʝclɑ dcɔ, lecnȷ nɔın もってけ、セーラー服

lecn ᴅelʅınʃ ［人名］レイン＝メルカント　ʅʅ ［文化］ ᴅelʅınʃɑcın の名。

lecn ɥəʃcı ［人名］レイン＝ユティア　19:ʝeμen:lec e lcɔn: 古 :lecn ［文化］ (zın μıl)『紫苑の書』の登場人物。１６歳の少女。１６０ｃｍの４７ｋｇ。地球からやってきた紫苑に命を助けられ、身寄りのない紫苑を家に住まわせる。紫苑やアルシェと共闘し、ヴァストリアを守る。

lecnı ［名詞］レイナ。結婚を前にして相手が死んでしまうこと、またその儀式 lecnıdelʃ。 ［被服］lecnılecn。lecnıdelʃ で着る服 lecnılecn の略。 ［レベル］４　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 古 lenı:lɔ/enı 低く（悲しんでの意味）泣く

lecnıʝıb ［被服］レイナのときに着る服 ［レベル］４　1L ［文化］ 葬式と結婚式を合わせた儀式で、喪服を着て、頭には結婚式に使うはずだったベールをかぶる。アルバザードの喪服は黒衣のドレスであるため、デザイン的にベールと調和するところから一般化した。

lecnıdelʃ ［名詞］レイナ、結婚と葬式を合わせた儀式 ［レベル］４　1L ［文化］ 女は自動的に未亡人になる、亡夫への貞操を誓う儀式。

lecneʝel ［名詞］着エロ ［形容詞］着エロな ［反意語］ʝıʃceʝel ［レベル］６ μɑ;/　ʆɱ ［文化］ 主に女性に対して使う言葉で、裸よりも服を着ているほうが性的魅力を感じさせる場合、それを着エロという。ふつうは女性の裸に性的興奮を覚えるが、セレンのように裸があまり綺麗とは思えず、浴衣や着物や矢絣や袴やスカートなどを着ているほうが萌えるという人もいて、そういう人を着エロ派という。日本人に比べアルバザード人は着エロ派が多く、露出の多い服よりも少ない服のほうが雅だし色々と想像する愉しみがあると考える男性がわりといる。 【用例】 ın ʝccnı lecneʝel ɑı. 俺は着エロ派だ。 ［言葉遊び］ lecn lecneȷ lecnȷ lecneʝel. レインが着エロな制服を着ている。

lecun ［アイテム］［弓道］和弓、レイヴン ［レベル］３　ʝᴅ;leeue/n　ʆ1:ləʝc ın:lʃ。leeue/n（月の物）と同根。矢を番えて弓を引いたときの形が leeue に似ていることから。 ［文化］ lecuenʃ　アルティア弓。ルティアに伝わり、そこから ʝᴅ でアルバザードへ伝わった。アルバザードでは洋弓を使うので和弓は μɑ まで珍しかったが、ɑelclcı のように元々盛んだったところもある。セレンが μɑ でユベールに取り入れたことがきっかけとなり、現在でも lecuenʃ は盛んになっている。木製で照準がなく、丈が長い。和弓と同じく、上のほうが長い。近的は和弓よりやや短く、ʆ0 メルフィなので ʆᎰᴅ。　弓としては世界最大だが、そのわりに飛距離も命中率も悪い。刀が発達したアルティアではあまり弓は進化しなかった。だがユベールに取り入れられたことでアルバザード人へも普及し、現在に至る。効率のいい武器というよりは精神修養が目的。同じ距離で同じ大きさの的に当てるなら和弓で当てるほうが難しく技術がいる。だからこそ集中力の訓練となると考えられた。

lecuı ［地名］レイヴァ、レイヴァ大陸、南極、南極大陸 ［組み数字］６／６ ［レベル］３　ɑu;e　古 :lecunı,lecuı ［文化］ 面積：ᎰʔΔⴖᎦᎰL.ΔΔⴖⴖᎦᑫ ʅᴅ 」 神代に注目されなかった大陸であるため、神や人の手が入っていない。逆に人の手が及ぶようになったのは魔法が去った後であるから、南極の開発度は地球の歴史的水準と変わらない。ただし地球と異なり地図は空が飛べた神の時代からあったため、存在自体は古くから知られていた。

lecuıʃcle ［地学］レイヴァ海流　ʅʔ

lecuılı ［天文］南極点 ［レベル］５　ʆ1

lecuıʝczı ［地学］レイヴァプレート　ʅʔ

lecuc ［ユマナ］南極大陸 ［レベル］５　制

lecuenʃ ［武道］弓道 ［類義語］uɔzɔᴅ ［レベル］５　ʝᴅ;lecun/ʃe　ʅʅ ［文化］ leʝʝclle, lecun, ɑelclcı　ʝᴅ で lʃ 経由でユベールに取り入れられたアルティア人の弓道。ユベールに取り入れられたため、現代でもアルバザード人の間で生きている。和弓 lecun を使う。ただしアルティア人は弓を uın とも呼ぶ。アーチェリーと違って照準がなく技術が要るため、精神修養によいとされる。同じ距離で同じ大きさの的に当てるなら和弓で当てるほうが難しく技術がいるため、武術や武器として輸入したというよりも集中力の訓練として輸入したといっていい。　ʃɥəμenȷ で発達した礼射系と、ʃɔᴅɔe(ɑlınɑcμ) で発達した武射系がある。　フェリシア学院では nɑ 以降、礼射系が盛んである→ ɑelclcı

lecɑ ［名詞］ずいぶんあとで。２，３時間～６時間 ［副詞］ずいぶんあとで ［レベル］１　1L: 恣意 ［語法］ ɑclɑə

lecɑı ［天文］南極星 ［名詞］［形容詞］知ったかぶり ［類義語］ıllɔ ［レベル］４　ʆ0:lecuı/lccɑı ［文化］ ヴァステの時代、カルザスが野営地で十二神と夜空を見上げて話をしていた。南半球に疎い神々は、南の北極星は何かと話し合った。そこで天高く飛べるヴァルゾンは、南極の中心に南極星があると知ったかぶった。が、後から南極の中心にはそんなものがないということが分かり、南極星と呼べるものはずいぶん北極星と比べて中心から遠いところにあることが分かった。それから南極星で知ったかぶりを示すようになった。

lecɑılı ［名詞］Ｃコード、図書コード、図書分類コード ［レベル］６ μɑ;/　ʅʔ

lecɑɔʃ ［名詞］栞紐、栞ひも、しおり紐、しおりひも、スピン ［レベル］６　μɑ;/　ʆɱ

lecɑel ［普通動名詞］座学 ［反意語］ᴅıcʝɑel ［レベル］４　ʆʔ

lecᴅ ［形容詞］ふつうの、普通の、ふだん、普段 ［数学］自然数→ lecᴅıll ［文頭純詞］基本的に、ふつうは ［文字］スタンダード ［反意語］ııl ［レベル］２　μɑ;ɑφn　1L:ᴅelcɑcı ılcȷ: 恣意　lıll:lıll:lıll:lılə,ılʃ ［語法］ ユマナでは自然数は一般に n で表記されるが、アルカでは l ないし lecᴅ で表現する。 【成句】 lecᴅel 別に、べつに、ふつう、フツー

lecᴅʃɔnl ［政治］平民 ［レベル］４　1L ［文化］ ナディア～シルク・アルミまでの身分の１つ。農民や牧民など。　革命後には再び身分として事実上復活したが、このときは王族、僧侶、学者、医者以外のすべてを含む概念として使われた。軍人との対比でもなければ、商人との対比でもない。

lecᴅlın ［生物］［医療］正経　μʃ;/　ʆɱ ［文化］ 正経十二経ある。順に、手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経、足太陽膀胱経、足少陰腎経、手厥陰心包経、手少陽三焦経、足少陽胆経、足厥陰肝経である。

lecᴅlıɑ ［政治］通常国家　μɑ;/　ʆɱ

lecᴅlclcɑel ［生物］正常解剖学　ul;/　ʆɱ

lecᴅʝlcʃ ［交通］エコノミークラス ［娯楽］Ｂ席 ［名詞］通常席 ［レベル］３　μɑ;/　ʅʔ 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

lecᴅʝıb ［被服］普段着 ［反意語］ıılʝıb ［レベル］３　μɑ;/　ʅʔ

lecᴅʝel ［歳時記］平日 ［類義語］lccɑıʝel ［反意語］ıılʝel ［レベル］２　ʆ1 ［語法］ ıılʝel

lecᴅuɔl ［言語］平叙文 ［レベル］４　1L

lecᴅɑμeɥə ［言語］一般副詞 ［レベル］４　ʆ1 ［語法］ ɑμeɥə

lecᴅɑıc ［料理］中火 ［レベル］３　1L

lecᴅɑɔnʃ ［交通］一般道 ［レベル］４　1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lecᴅᴅɥəʃ ［名詞］標準距離、標準間隔 ［工学］標準軌。lecᴅɑɔɔʝᴅɥəʃ から来ている。　μʃ;/　ʆɱ

lecᴅφıl ［物理］一般相対性理論 ［レベル］５　ul:φıl nɔuel;/　ʅʔ

lecᴅdcıȷ ［経済］約束手形、約手 ［レベル］６　1L: 為替手形に比べてアルバザードでは多かったため

lecᴅdedȷ ［被服］ヘッドスカーフ　μɑ;/　ʆɱ ［文化］ ʝᴅ でできた。女性服。農民用。

lecɒhıclı ［法律］地方裁判所 ［レベル］4 ɺɺ

lecɒheɿ ［言語］平信 ɺ1

lecɒɥəɔıʝı ［言語］普通動名詞 ［レベル］4 ɺ1 ［文化］ cuı

lecɒıll ［数学］自然数 ［レベル］4 1L

lecɒcɿn ［名詞］日常生活 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

lecɒen ［名詞］一般人、パンピー、衆愚、民間人、一般の方、大衆 ［類義語］ʝelın ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］ ʝelın は総称的な「人々」という意味で使う。lecɒen は特に目立った特徴や業績のない一般人を指し、意味が ʝelın よりも狭い。

lecɒeɒ ［名詞］一般化 ［反意語］ıılеɒ ɺ0

lecɒel ［歳時記］メルセル後夜祭、メルセルの翌日、レイメル ［類義語］leɑcı ［反意語］ləəɒel ［レベル］2 ɺ0:leeu/ɒel → lecɒel（leɒel と似るため c を添加）

lecɑcınʃ ［植物］大木 ［言語］［文字］ステム ［類義語］zɔɒ ［レベル］3 ɥɑ;ɑφn の地名 ɺ1

lecɑɔlʃ ［名詞］栞、しおり ［レベル］3 1ɱ: 制 : 本の目印

lecφ ［名詞］印税 ［レベル］4 1ʔ: 制 :lecφcl（本の金）

lecɥə ［名詞］レイユ、待望期 ［レベル］3 古 :lecɥə。ソーンの uıʃlecɥə を短縮したもの。uıʃlecɥə は uıʃ/lecɥə。uıʃ は到着、lecɥə は歓待で、lııd（望む）と関連有。uıʃlecɥə は到着を待つという意味だが、これは転生期に転生するアシェットのランティスたちを待つという意味である。アルティス教では転生期にランティスが転生することになっている。そして転生期の前の時代である待望期がランティスの転生を待望する時代であることからこの名がついた。 ［語法］ ミロク革命の前後で uelec, ılecɥə に分かれる。

lecɥı ［被服］ドレープ ［レベル］6 ʝɒ;leɥ ɺɺ

lecɥen ［地学］明礬石 ［レベル］6 1L:lecɿʃ/ɥen ［文化］ レイクトを召喚するための石。ɥɑ ではメルが使用。明礬石は火山地帯にある。この単語を命名したことで、これまで謎だったセレンとメルとイヴィル老人が住んでいたところがベルフェであると判明した。

lecz ［副詞］［形容詞］ほんの、ほとんど〜でない ［レベル］1 1L: 恣意 : 以前では uen だが、ıuen に似る。 ［語法］ uıɥʃ

leczɑıc ［料理］とろ火 ［レベル］3 1ʕ: 制

leczɒıɒ ［生物］無乳、つるぺた、ツルペタ、つるぺったん、ツルペッタン、ぺったん、ペッタン、ぺったんぺったんつるぺったん、ペッタンペッタンツルペッタン、まな板、まないた、ペチャパイ、ぺちゃぱい ［類義語］ɥıφıı ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺɱ

leczen ［魔法］［哲学］霊 ［レベル］3 ʝɒ;ılʃ ɺ1 ［文化］ hcnıʃı

leczen(ɺ) ［電算］レイゼン ［レベル］2 ɺɺ: 古 lecʝʃ/en ［文化］ → ınʝe（歴史等） ıl でできた携帯端末。画面は ıɥɒ で、四つ折りにできる。ınʝe と連動しており、ınʝe の代わりとしても使える。ınʝe が親機で leczen が子機あるいは拡張器となる。 四つ折りにしてポケットに入れて持ち運ぶ。電子ペーパーなので読書にも適する。片手で持てる大きさなのでアイフォンなどと同程度。広げると４倍になる。

leclı ［動詞］ɥəl を奏でる、奏でる、かなでる ［丁寧］［動詞］ʝɔ ［レベル］3 ɺ0:leɒlıɑ

leclcznɔ ［政治］図書庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 事務省下。出版物を管理している。全国の図書館および図書の管理をしている。電子データの出版物の管理もしている。本だけでなく、動画や音声などのデータも取り扱う。時代によって検閲を行ったこともある。現代でも出版物の検閲をし、ネットの書き込みも検閲している。社会秩序を乱す出版物や投稿や他人の誹謗中傷を探し、潰すとともに警察庁へデータを提供している。ちなみに、学生時代のレイン＝ユティアの就職希望先第二位。

leclec ［言語］玲方語、上方ルティア語 ［レベル］4 ɺ1<lecelɑ:ɺ0:ɥənɿ の代表である玲音 (lecn) と lec をかけて玲方と訳した。 ［文化］ 上方ルティア語。ɥɑ でルティア城内の王立図書館に仕えていたユンクの女官たちが、クミールを崇めて言葉を雅にしていこうとした結果生まれたもの。やがて宮中に広まり、身分の高いものに広まり、上方となった。ナディアでは庶民も背伸びして真似、下記のような諺を生んだ。 現実にはクミールではなくセレンが北方語をもっと雅にしたルティア語像を考え、このようにしたら美しいのではないかと主観的に作り上げたものである。夢織の朗読で紗枝にルティア語を喋らせるためにセレンがこしらえ、自分だけでなくクミールも気に入るだろう造りにしておいた。実際彼女らに喋ってもらえばもうけものである。 【成句】 ɥʝccl ʃcɑ ʃcʝ lecn lecelɑ ı ɒcuı. 貧しくとも娘に言葉は着せんとす：武士は食わねど高楊枝。ぼろは着てても心は錦。lecn としているのは雅語で、lecelɑ との頭韻でもある。

lecıʃe ［名詞］本屋 ［レベル］3 1ᚨ: 制 : 本の店

lecɔnɿ ［名詞］叢書、そうしょ、ぎょうしょ ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］ 本のシリーズのこと。

lec e lcɔn ［ユマナ］紫苑の書、『紫苑の書』 19:ʝeɥen:lecʝʃ e lcɔn ［文化］ セレンによる小説。女子高生紫苑が魔杖ヴァルデを巡ってアトラスを救う話。アルカのチュートリアル小説でもあり、日本語とアルカが混ざって書かれている。原文が日本語であるため、アシェット内では不人気。ネットを通じて日本人数名が読んだ。 ・時間軸 紫苑の書の時間は地球とアトラスでねじれが生じている。紫苑は初版だと２００６年にアトラスのメル ʔ00 年代に飛んでいるが、書籍版では ɱ09 年に飛んでいる。では ɱ09 年は地球の何年に繋がっているか。以下はユーザーに送ったメールの一部である。以下のとおり、紫苑は１９９５年末に飛んでいることになる。 ɱ09/1/1 は ɺʔLᚨ/1ɺ/1 か 1LLᚨ/1ɺ/1 につながっているはずです。セレン青年が転生するのが ɱɺ0 年で、それが ɺ011 年なので、逆算すると ɺʔLᚨ 年のほうはありえないことになります。 よって 1LLᚨ/1ɺ/1 の月齢を調べる必要があります。

lec e ɒccɥ ［論理］ミールの書、『ミールの書』 ［レベル］6 ɥɑ;「ミールの書」 1ɺ:ʝeɥen:lec e ɒccɥ:『ミールの書』の制アルカ題 ［文化］ → ɒcɥʝɑel ɥɑ でセレンが１９歳の終わりに使徒の論理力を向上させるために書きはじめて２０歳で書き終えた論理学および論議学の本。リュウと共同して論理学を発展させ、メルやクミールやリディアの協力を得て書いた。登場人物は自分たちで、自分たちを出すことで読み手である使徒の気を引こうと考えた。私小説的でもある。
　この本はオーパーツ的な代物で、論理学を地球より早く発展させた。その後論理学は nɑ でほとんど発展せず、ɥʃ 以降の発達を待った。論議学は ıl まで発展を待たねばならなかった。 なお、内容は地球版とは様々な点で異なる。 ・現実では セレンによる小説。アルバザードが舞台だが、当時制アルカがまだ未制定だったため、制アルカなのに古アルカの幻字が使われたりと、今から見ればおかしい点が多い。リディアらが数名で抄訳し、アシェットに広めた。クミールが特に気に入ったことからアシェット内で人気が出た。制アルカといえるものには訳されなかったため、訳本と改訂が要求されているが、私小説であったため時間が経ってネタが古くなってしまった。そのためセレンは改訂に積極的ではない。 １２歳の少女ミールがセルフィッシュガーデンという場所で見知らぬ学問「論議学」を学び、それを通して自分の存在の秘密を解き明かすという話。実名小説でもあり、ミール以外の登場人物は全てセレンを始めとするアシェットの関係者ばかりである。実名小説にしたのはそうすれば皆が読みやすいだろうと判断してのこと。『ミールの書』はアシェットの論理力向上の為に生まれたから、その点は重要であった。尚、タイトルにあるミールの書とは、作品中でミールが手にする魔法のノートのことである。 元々９８年６月２５日（木）の古典の授業中に着想したもので、Ａｓｙｌｉｎ ａｔ ｓｅｌｆｉｓｈ ｇａｒｄｅｎ（アシュリンアットセルフィッシュガーデン）というタイトルだった。当時はソフィーの世界と不思議議の国のアリスを混ぜて論理学に特化させたような内容だった。 だがアシェットがアメリカ嫌いだったことと（アシュリンがアメリカ人という設定だった）、セレンが擬人化した動物が嫌いなのと（設定する前に気付けという話だが）、登場人物を使徒にしたほうが使徒が興味を持って読んでくれるだろうという理由で、動物でなく使徒をそのまま登場させ、主人公もアメリカ人少女からメルに似せた架空のアルバザード人の少女にした。

leɔ ［文頭純詞］［副詞］一応、まがりなりにも、曲がりなりにも、なんぼなんでも、何ぼなんでも、どうにか、何とか、なんとか ［レベル］2 古 【用例】 ın nı ucleʃ ɔn zıɒ ʃıl ın ləɿ ʝen leɔl. 脚が痛いが一応歩ける。

leɔn ［名詞］お世辞 ［動詞］ɥəl というお世辞を ı に言う、お世辞を言う、言う ［レベル］3 ʝɔɥn:「いいえ、いやだ、やめて」などを表わす語。アルシェの ʃeɔ が変化したもの。恐らくクミールがお世辞に対して礼儀で「やだ、やめてよ」と返したことから。

lee ［ɥenʃe］［感動詞］ねぇ ［レベル］1 古 :lee ［語法］ 可愛い呼びかけ。leen は lee より可愛い。

leeʃ ［代詞］あれのもの ［レベル］1 1L

leeʃeʝ ［代詞］あれらのもの ［レベル］1 1L

leeɿ ［形容詞］［ポジティブ］さっぱりしている、けばくない、てんぷらがカラッと、落ち着いた、地味な ［反意語］ɑııu ［レベル］3 ɺ0:leeu ɿe（去っていく）喉を去っていくような味。

leel ［動詞］ɥəl を自慰させる、自慰する ［普通動名詞］自慰、オナニー。女のオナニー。 ［反意語］ɑɔlʃ ［レベル］4 古 :leeʃlən（レズビアン）→中古クリス leeʃl, leeʃlc（オナニー）→中古リディア leel（オナニー） ［文化］ 女子の性欲はきちんと存在が認められており、貞操を守るためにむしろ寛容されている。とはいえ恥ずかしいことには変わりないので積極的に話題にはしない。

leeʝ ［代詞］あれら ［レベル］1 1L

leen ［ɥenʃe］［感動詞］ねぇ ［レベル］1 古 :lee に指小辞がついたもの ［語法］ lee を更に可愛くした呼びかけ。

leenʃ ［代詞］［ɥenʃe］あれらのもの ［類義語］ınleenʃ ［レベル］1 1L

leenı ［地球の国名］スペイン ［レベル］5 1ᚨ: 制

leeu ［動詞］ɥəl を去る、去る、出発する、離れる、置いていく、部屋などを出て行く、立ち退く、立ちのく、たちのく、離陸する ［感動詞］［ɥenʃe］さぁ。ɿeʃʃı ［動詞］ʝɔl はセックスやオナニーなどで絶頂に達する、イク、行く。制では leu で「着く」。新では「去る」。音が近いのも leeu が選ばれた理由。 ［感動詞］［ɥenʃe］いざ。女魔導師が魔法を発動させるときに言う発令のことば。 ［動詞］一方的に ɥəl（恋人）と別れる、別れる ［普通動名詞］離別、離席、中座、ＡＦＫ、立ち退き、離陸、離脱、出発、発車 ［普通動名詞］［動詞］チェックアウト← φıɿlleeu ［反意語］ləɿɔ ［レベル］2 ɥɑ;ɑφn 古 :ʝɔɥn ʝeɑɔ:ʝeɑɔɿ: ［語法］ 完了相は ɥəl を離れた時点であり、到着ではない。到着は当然 ləɿɔ が担う。lencɿ eʃeɿ, ılʃe leeucɿ ʝeɒʝez ı ɥı（紅茶を飲むとアシュテは部室を出て家へ向かった）【成句】 ın leeu. いってきます、行ってきます。ɑɔɔuı, ʃcıʃcʝ も参照。 【用例】 leeuɼ 帰れ、来るな、行け、去れ。相手を追い返すときの言葉。 ınʝ leeu ʝcl cɒ ɑııɥ e ɿeʝʃ. 私たちは明日の朝出発するつもりだ。 ın leeu uın ı ləʃcı cɒ ɿeʝʃ. 明日ルティアへ発つ。 ın leeuıʃ ʝıʃ. ちょうど出発しようとしていたところだった。 ın leeuıʃ ɥı. 家を出た。 cɒ ʃəɔ, ın nı elʝ ɒın ɒccı ʃccı ınʃ leeuɔɥ ʃcnı. ɒcll lı lıl lcs ɑə ɑcl uecn ı... 最近娘が幼女から少女になりつつあるのが憂鬱だ。もっと幼いままでいてくれたらいいのに……。

leeuʃılcʃ ［物理］宇宙速度 ［レベル］5 1L: 地球などの星から去って宇宙で慣性飛行を行う最低初速度

leeuucın ［物理］遠心力 ［レベル］4 ɺ0: 去る力

leeubccd ［名詞］発車ベル、発車ブザー ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ

leeulɔd ［交通］下りの電車 ［レベル］3 ⅃0

leeuɪn ［感動詞］行ってらっしゃい、いってらっしゃい ［レベル］2 1L:leeu/ɪn

leeuɪɰʃ ［娯楽］［軍事］効果の持続しない魔法 ［反意語］lılıɰʃ ［レベル］5 ⅃⅃

leeue ［天文］満月と下弦の間、残月、レーヴェ ［名詞］［形容詞］散り始め ［名詞］北西、西北 ［組み数字］6／8 ［レベル］2 1L:leeueleɩʃ（去る月） ［文化］ lelʃeel

leeuen ［歳時記］お盆、レーヴェン ［レベル］3 ⅃0:leeu/enɪ（別れの涙） ［文化］ lcȷ ɷcn の日に行われる祭りで、お盆に相当する。 ɰɷ でセレンはメルをアルヴァノに会わせるため、彼女の命日にメルをガルヴェーユへ連れていき、異界の門をこじ開けた。死神たちはこれに慌てて止めようとするも、ダルハを帯びたセレンに封じ込められる。彼はアルデルへの門を開くと、アルヴァノを呼び出し、メルに会わせた。アルハイクは封印を破るとセレンと対峙したが、アルヴァノとメルが再会したのを見るや呆れ顔で観念し、ルノには内緒で年に一度彼らが会うことを黙認した。 以後、毎年この日になれば死んでしまった愛する人と逢えるという噂が立ち、わらをも縋る想いで厳寒のガルヴェーユに足を運ぶものが後を絶たない。 その後アルバザードでは川に燈篭を流すと死者が一日だけ家に帰ってくるという噂に変わった。ガルヴェーユにできた ɪuelɪnʃcȷ を川に見立てたためである。現代でもその伝統は生き続けている。

leeueucᴅ ［生物］菱形筋 ［レベル］5 ⅃⋒<⅃⅃: → ʃəuɪnucᴅe

leeuelcl ［化学］ルテニウム 1L

leeᴅ ［政治］自由市民、市民、平民 ［反意語］ƪlɪn、ᴅclɪn ［レベル］4 ɰɷ;lecᴅ.ƪ 1L:ɰcɷcɪ:lecᴅ ［語法］ 奴隷に対する平民のこと。アルバザードでは奴隷は国民に登録されないので、ƪɪɷɪn と leeᴅ は同じ集合を指す。

leeᴅuɪc ［軍事］自由民兵 ［レベル］6 ⅃0

leeᴅlɪnφ ［政治］社会権 ［レベル］4 1L ［文化］ その名のとおり、奴隷には与えられない。

leeᴅc ［代詞］［形容詞］あちら→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeᴅcȷ ［代詞］あちら→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeᴅcn ［代詞］あちらの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeᴅcnȷ ［代詞］あちらの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeᴅczᴅ ［政治］市民革命 ［レベル］4 ɰɷ;/ ⅃⋒

leed ［名詞］構造、設計、仕組み、ストラクチャー、骨組み、構成、機序、機構、メカニズム、建物の造りや内部構成 ［レベル］3 古

leedȷɪn ［化学］構造式 ［レベル］5 1L

leednɔƪ ［電算］オープンアーキテクチャ 1L

leedɑel ［言語］構造言語学、構造主義言語学 ［レベル］6 1L ［語法］ セレンとリュウが大成した。両者はその後生成文法へ駒を進める。

leebe ［代詞］［形容詞］あんな→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leebeȷ ［代詞］あんな→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeben ［代詞］あんなの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leeben,ul lceɰ

leebenlʃel ［亜魔］レーベンシュテル、冬螢 ［レベル］6 ɰɷ;<ul「冬の蛍」 ⅃⋒ ［文化］ シルフィの一種。アルバザード以北で見られる。北に行くほど多く、特に ul に多い。冬の時期に見られ、死体を分解して生きる。亡骸を優しく包み込んで光の中に消し去ってしまうように見えることから、美しい死を連想させる。

leebenȷ ［代詞］あんなの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ⅃⅃

leebenbɼlɔc ［アイテム］レーベンブロイ ［レベル］4 ɰɷ:ɰcɷcɪ;ul「冬の粉雪からなる吹雪」 ⅃⋒:ɰcɷcɪ ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ散弾銃。

leebel ［名詞］レーベル、女のオナニーのオカズ、オカズ、おかず ［反意語］φɪɪbe ［レベル］5 ⅃⅃:leebe/ɪl（古もの）< 1L:leelφɪɪbe

leeze ［気象］［丁寧］傘 ［類義語］eȷn ［魔法］レーゼ（シェル）。利の多段白魔法。魔法のバリアを張る。敵の魔法を弱め、あるいは消失させる。術者の能力に応じて強さが決まる。 ［レベル］3 ȷɔɰn: 雨傘。ez の部分に古 eȷ（雨）の名残が見える。

leə ［法副詞］～しないでください ［レベル］1 1L:ʃe を弱めた音が le。ə はすぼまる控えめな音。 ［語法］ ɰe 前置すること。丁寧。 【用例】 leə ucnȷ nɔn. 私をお捨てにならないで。 leə ɑcʃ ʃə ɪl enᴅɪu. leə ɔdn ɪᴅɔ oen lc ƪəc ʃə. お子様と運転時はご遠慮ください。

lə ［代詞］彼、彼女、その～、この～。前置。 ［反意語］lɪ ［レベル］1 ɑ;e ⅂ʔ ←古 :ləə（彼女） lə,ɑ ȷɔə,ɑu ləə,ɑu::lə（l⋂ までは唯一の有生三人称。その後 lə は冠詞の lə と lɪ に分かれる）:lɥə,ɪlʃ, lɥəᴅc,ɪlʃ

lə,ɑ lə, lɪ e

lə,l⋂ 男性定冠詞 lə（有生三人称代名詞）

lə,lȷɷ ʃə, le, それ。lȷ は「こ・そ・あ」の三段階 lə,ɑ.heᴅ ɑ の三人称代名詞が「それ」のみを意味するようになった。ɪɰ では「こ・あ」の二段階になっている。

ləʃ ［遊離副詞］［形容詞］常に、いつも。前置ないし el。 ［法副詞］通時制の副詞。後置。 ［動詞］ɥəl である、である。通時制の繋辞。 ［レベル］1 1L: 古 lƏəʃɔ（必ず） ［語法］ ɪləəʃ 通時制としては後置。頻度の副詞としては前置ないし副詞。

ləʃʃɪ ［俗語］［名詞］野郎、ヤロー、男、オス ［類義語］ucƪ ［反意語］ləəƪɔ ［レベル］3 ⅃0: 古 :ləʃɪ（出口←男性器） ［語法］ ləəƪɔ

ləʃuɪɪn ［軍事］常備軍 ɰɷ;/ ⅃⋒

ləʃucnȷɷə ［魔法］経常廃棄量 ［レベル］6 ⅃1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ləʃucnȷɪsɪ ［魔法］経常廃棄率 ［レベル］6 ⅃1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ləʃɪ ［名詞］アマチュア、素人 ［形容詞］経験の浅い、素人の、アマの ［反意語］ƪɪᴅɪ ［レベル］3 赤：出る←「門を出たばかりの」 ［語法］ ƪɪᴅɪ

ləʃɪ,ɑ ɰcƪ lə/ʃɪ「脚が外に」

ləʃɪbeel ［名詞］素人童貞 ［レベル］5 ɪl;/ ⅃ʔ ［文化］ beel

ləʃcl ［名詞］［形容詞］未完了 ［レベル］3 @ ⅃0

ləʃcɰ ［魔法］魔珠、ルティール ［アクセント］ləʃЄɰ ［レベル］5 ɪɰɷ;ləȷcɪ/ʃccɰen ⅃1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ləʃcɪ ［地名］ルティア。メテの使徒ルディアの支配地。 ［人名］リーザ、リディア、ユーア、ユルトのアルカ姓 ［レベル］3 ƪɪƪɔ 【成句】 blcz e ləʃcɪ nɔɷ uɪnφɪɰ e lcczel 鶏口となるとも牛後となるなかれ

ləʃcɪ(⅃) ［アトラスの国家］ルティア、燈国、理国 ［レベル］2 ƪɪƪɔ:「燈」クミールが ᴅelleɩʃ を持ち込み、盛大に ᴅelleɩʃ を行うことから ［文化］ → cȷʃɔlncᴅ ・面積 ۹1۹1∆L0.ʔL⅃L♇0 ƪᴅ ⅃（本土）。 世界第６位のオーストラリアの ۹,ʕL⅃,0⅃⋒ ƪᴅ ⅃よりやや小さい。 ・経緯度 西端：西経 (−L0) + ((ʔ1ʕʔ / ⋒000) × ʔʕ0) − ʔʕ0 ＝ −1ʕ♇.ʔʔ 東端：西経 (−L0) + ((ʔʕ∆∆ / ⋒000) × ʔʕ0) − ʔʕ0 ＝ −11∆.0∆ 北端：北緯 L0 − ((ʔʕ♇ / ⅃000) × 1∆0) ＝ ♇۹.1♇ 南端：北緯 L0 − ((ʕL♇ / ⅃000) × 1∆0) ＝ ⅃۹.⋒♇ 【成句】 ləʃcɪ ʃəɰ ɥəneɰ 驕る平家は久しからず、盛者必衰。zφ 以降発展を失って伝統の国になってしまったことを嘲って言う。ul までルティア人の前で使うと侮蔑的ととられた。現在では語源が薄れているのでルティア人でも使う。 ləʃcɪ lɪl ləʃcɪ 旧態依然

ləʃcɪʃcƪe ［地学］ルティア海流 ［レベル］4 ⅃ʔ

ləʃcɪƪɪɷ ［名詞］ルティア国。ルティア姓と区別するときに使うだけ→ ləʃcɪ ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:ɰcɷcɪ

ləʃcɪn ［名詞］ルティア人。リディア＝ルティアや夢織の紗枝など。 ［レベル］2 1L:ᴅelcɷcɪ ɪlcȷ ［文化］ 大人しく理知的という印象を持たれている。礼儀にうるさく、我を張らないとされている。 大人しさが強調されていることとリディアの経歴を考慮すると、モデルは恐らくスウェーデン人。

ləʃcɪhɪɼl ［言語］ルティア筆記 ［レベル］5 1L ［文化］ リディアが ɪɰƪhɪɼl を元に作った筆記体。文字をいくつか変え、使い勝手を向上させている。文字が横一列に並ばず、上下に文字が踊ってしまうのが難点。アラビア語のように美しく見えるときもあれば、ボールペンの試し書きのように汚いこともあった。hɪclenhɪɼl に公式筆記の座を奪われたが、ɪɰƪ を追いやったときとは異なり、hɪclen と ləʃcɪ の見え方がかなり異なるため、ləʃcɪ は ləʃcɪ で使い道があるということになり、生き延びた。ɪɰƪ と ləʃcɪ はぱっと見があまり変わらないので、単純に古いほうが追いやられた。hɪclen はかなり見え方が異なるので、ləʃcɪ は生き延びた。外国人の何を言ってるのか分からない方言や、早口で何を言ってるのか分からない言葉を示すのに使うことに決まった。また、分からない＝神秘ということで、呪文や神の言葉にも使うことになった。

ləʃcɪɰen ［言語］ルティア語、ルティアレン ［レベル］2 ⅃0 ［文化］ ʃcɪɰen

ləʃce ［料理］メープルシロップ ［レベル］3 ⅃0:ləʃcɪ/lce ［文化］ ルティアの名産品のひとつ。アルバザードにも輸出されている。

ləʃe ［動詞］ɥəl（川など）に浮いて ɪ（岸など）まで流れていく、浮く、浮き上がる、ホバーする、浮かぶ ［普通動名詞］［再帰動名詞］浮遊 ［魔法］ルテ（レビテト）。風の古代魔法。ユノを使わずに静かに浮き上がる。意思だけでスムーズに上下動ができる。エンジンのように常に一定量を噴射しないと同じ高度を保てないユノに比べ、圧倒的に移動しやすい。 ［類義語］ᴅɔnʃ ［レベル］2 ɑ;lə/ʃe「脚が風に」 赤 ［語法］ → ᴅɔnʃ 移動様態動詞で、ləƪ などの仲間。

ləʃeʃcɪ ［篭堺］ルテティア ［アクセント］ləʃeʃc↑ ［レベル］4 ɰɷ;ləʃcɪ の間に ʃeeᴅȷ の ʃe を挟んだもの。星座にいる魔族を監視する役目を負った篭堺。ルティアを見守る合間に魔族を見張るという意味を込めて、悪魔を意味する ʃe を ləʃcɪ の間に埋め込んだ。ləʃcɪʃe だと ʃe が「～のような」に見えてしまうので避けたという理由もある。ただし、アトラスの地理上の篭堺国は ləʃcɪ のみ。 ⅃⅃ ［文化］ 篭堺司：ɰcɷcɪ ləʃcɪ 篭堺国：ləʃcɪ

ləʃeƪ ［化学］ベンジン、石油エーテル ⅃1:ƪ.ləʃeɪƪᴅ ［語法］［文化］ ベンジンと石油エーテルのいずれかの意味で使われる。染み抜きなどに用いられる。原油から分留して作る。鎖状炭化水素を主成分とする。ドイツのようにガソリンの意味はない。アメリカのようにナフサ ləʃeɪƪᴅ でこのベンジンを指すこともない。ベンゼンとは関係ない。

ləʃebɪnɷ ［運動］エアーホッケー、エアホッケー ［レベル］4 ul;ləʃe/bɪnɷelȷ ⅃1 ［文化］ アルバザードがホッケーを改良して編み出したスポーツ。体力に自信のない者でも気軽に楽しめるため、競技人口が多い。 草食系男子が運動部に入らなくてはならない状況に追い込まれたときに、たいてい卓球かこれを選ぶ。 日本と違って背丈によって等級が決められており、台は総じて日本より高い。台が低いと腰に来て、高いと肘に来るため。

ləʃeɪƪᴅ ［化学］ナフサ ［レベル］5 1L

ləƪ ［動詞］ɥəl を歩いて ɪ まで行く、歩く。移動様態動詞 ［普通動名詞］ウォーキング← uɪlləƪ ［レベル］1 ɑ;lə/ʎc「足を動かす」 古 ləƪ:ləƪ:ləƪ ［文化］ 最もメジャーな移動方法である。どこに移動するにも使われる。健康法としても好まれるため、盛んに行われる。ウォーキングは殆どの人が行う最も人気の高いスポーツである。健康目的のため行われる。場所は道か公園かカルテである。郊外までわざわざ歩くためにいくこともある。アルバザードでは一日最低でも一万歩は歩いた方が良いとされる。ただ、年齢によって歩数に差がある。アルバザードではウォーキングが普及しているので、総じてみな姿勢が良い。歩き方も美しく、エクササイズとしても無駄がない。言い換えれば

みな同じような歩き方をしているともいえる。 【用例】 ɪn ləʅɪʃ ɒɔl eɉʅ ucʃ eɉn. 傘を差さずに雨の中を歩いた。 ʅeʃ ləʅɪnɑ. 猫が歩いている。

ləʅʅɔ ［植物］コリアンダー ［レベル］4 ɩlɩʅʃɩ

ləʅɉɪnʃ ［人名］ルクサント ɿ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʕ999:901ɿ) 旧アルティリア系・旧エスピール系貴族。

ləʅɉɪnʃ(ɿ) ［魔法］逢魔館、リュクサン、ルクサント ［アクセント］ləʅɉ†nʃ ［レベル］3 ʅʅ;lʃɑ ɿ1 ［文化］ eɉʅɪ

ləʅɉɪnʃe ［魔法］逢魔宮、リュクサンテ、ルクサンテ ［アクセント］ləʅɉɪnʃE ［レベル］3 ʅʅ;lʃɑ<ləʅɉɪnʃ,lʃɑ ɿ1 ［文化］ eɉʅɪ

ləʅnɪnɪ ［地学］［歴史］スタテリアン ul;/ ɿʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

ləʅleʃcɪ ［医療］［哲学］ルクレティア、ルティア医療、ルティア医学、漢方、東洋医学 ［反意語］ɉcczɪɥ ［レベル］3 ɉzl ɿ1:ɥcɑcɪ ［文化］ ɪnueɥʃ, ʅle uɪnɉ 現ルティア地方で発達した医学体系。自然治癒力を高めることを主眼とした療法で、生薬の処方（漢方）、鍼灸、食育などを主な処置とする。理方から上代でレスティルにも入り、風土に合わせて変化していった。 現代ではアルバザードでは薬の服用量が中ぐらいで鍼も中程度。シージアでは処方量は多く鍼も太かった。現ルティアでは処方量は少なく、鍼は細い。 地球でいうとシージアが中医学、アルバザードが韓医学、ルティアが漢方（あえていうなら日医学）に相当する。 【成句】 hɪɪɉ ləʅleʃcɪn 金科玉条

ləʅleʃcɪ(ɿ) ［人名］ルクレティア ɿ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʕLɱ1) ɥəəɒɪ ʕL†Δ イクスタン、旧アルティリア系・旧エスピール系貴族 ləʅɉɪnʃ の娘 ləʅl eʃcɪ を娶る

ləʅleʃcɪn ［美容］ポンパドール ［レベル］6 ɿ1:ɉɒ のアルバザード王の寵姫から

ləʅɪ ［交通］獣道、農道、舗装されてない道路、田舎道、土の道 ［レベル］3 1L: 古 ləʅ（歩く）/ʅɪ から ［語法］ 舗装されていない道路のこと。草を切り開いて作った道や、車が通って自然と道になった轍などを指す。砂利道において人為的に砂利をよけて轍にした箇所も ləʅɪ である。京都御所の北側に自転車用の轍があり、砂利がかき分けられて道ができているが、これも ləʅɪ に当たる。アシェルフィの泉から南西の小学校へ向かう農道も ləʅɪ である。 【用例】 ɪn nɪ ɉccʃ ɔl ɑɔnʃ ləʅɪ. 田舎道を歩くと気分がいい。

ləʅɪʅɉ ［運動］ウォーキングマシン ［レベル］4 ul;/「歩く床」 ɿɱ ［文化］ enɔuɥɪɒe と ləʅɪʅɉ と leɑɪʅɉ は ul で開発され、ɪl で一般的なスポーツジムに普及し、ls で映像が取り入れられた。地球でいえば例えば日本にいながらランニングマシンで走ることでパリのシャンゼリゼ通りの映像が映し出され、まるで日本にいながらパリを走っているかのような旅行感覚を味わうことができる。この技術は ɥəcɒ 社が実現させた。地球でいえばグーグルのストリートビューを進化させてなめらかにしたようなもので、リアルタイムで歩いたり走ったりした速度や方向に合わせて日本にいながらパリを散歩したりできる擬似旅行装置としても使える。それでいて健康器具としても使えるのでよく売れた。 アトラスでいえばアルバザードにいながらルティアのテューレンスを旅行できるようなもので、しかも自宅内で旅行できるようなもので、このサービスは非常に歓迎された。創案者はセレンで、革命で ɥəcɒ 社に打診し、ɥəcɒ 社が即座に実行に移し、国民の圧倒的な人気を博した。このサービスを使えば家にいながら世界のどこでも旅行した気分になれる。旅行会社ははじめこのサービスを拒絶したが、このサービスでは空気感や匂いや名産品までは再現できない。そこで旅行の下見としてこのサービスが使われたり、このサービス事態が観光地の広告となり、バーチャルで歩いてみたので本物も歩いてみたいと思う人口が出てきた。そのため旅行会社は手のひらを返してこのサービスとの共存を図るようになった。
映像は眼前のディスプレイに映す方式のものと、電脳メガネに映すもの、網膜に直接映像を送るものなどがある。

ləʅɪn ［名詞］通行者、歩行者 ［レベル］2 ɿ0

ləʅɔ ［動詞］ɥəl に着く、着く、到着する、着陸する ［動詞］ɥəl に伝わる、伝わる、伝える、伝導する ［普通動名詞］到着、伝達、伝導、着陸 ［普通動名詞］［動詞］チェックイン← φɪʅʅləʅɔ ［反意語］leeu ［レベル］2 赤：入る。到着は ɉɔɥn で uɪʃ だが、uɪʃ は長らく制アルカで待つで使ったため ［語法］ 「伝わる」や「伝導する」の場合、空気中を伝わるというような経路を指す場合は ɑɔnʃ で、電子が電極に伝わるというような到達点の場合は ləʅɔ となる。

ləʅɔ,ɑ lɪʃ lə/ʅɔ「脚が中に」

ləʅɔɑclɑɪc ［医療］透熱灸 ɥɑ;/。熱を到達させることから。 ɿɱ

ləʅeɪ ［生物］内庭 ɿ1:「足を癒す」

ləl ［形容詞］完全な不足、不満足、不満 ［反意語］ʅɪl ［レベル］1 1L:ɪʅʅɪl

ləlcɑɪɥ ［形容詞］動じない、肝が座っている、どっしりしている ［レベル］3 ɿɿ:ɥcɑcɪ:ləlcɑeɥ のアプラウト。当時アルシェのルシーラだったセレンが遊びで地元のチーマーをしていて、何があろうと慌てないタイプの青年だったことから。アルシェでの命を失うかもしれないストレスに比べたらチーマーの殴り合いなど遊びのようなもので、格闘技の訓練をさせられていたセレンには尚更であり、このころは鎖骨を折ろうが騒ぐこともなく、その状態で２０キロ以上も真冬の夜中を歩いて移動したり、道端で野宿したりしていた。無論一歩一歩響いて痛む。電車がない時間で、鎖骨が折れて自転車に乗れない状態だったので徒歩だった。高校生の体力は凄まじい。ロングコートに包まって、違法だがタバコを吸って酒を煽って黙々とアルシェの仕事のことを考えていた。リディアやメルが憧れていた頃のセレンである。それらの経験からリディアらが付けた形容詞で、この寡黙で冷静沈着な様はモテる男の代表的な性格として定められている。これで根が ɪɑccɥə だと更に良いと彼女らは言う。 高校の頃はこの上女にも靡かなかったので、そりゃあカッコ良かっただろうねぇ。男子校だったが性格と見た目のこともあって学外などで否応なくモテたが、それはそうだろうと今は思う。全部断ってきたあの頃の自分はどう考えても自分ではない。

ləlcɑeɥ ［医療］善なる人格 ［人名］ルシフェル、アルシフェル、紫月 ［レベル］4 古 :ɥcɑcɪ:ɪl/lcɑeɥ。人名が先にできた。 ［文化］ ʅɪɒelcɪ 人名のルシフェルはリディアとメルが作り上げた理想の男性像。日本語名もリディアの命名で、紫月（しづく）という。「 息吹 」→「 息吹く 」の発想で、「 しづき 」→「 しづく 」も可能だろうと誤解したところに由来する。同時に高校３年時のセレンを指す。lcɑeɥ に接頭辞 ɪl をつけてできたが、ɪ が落ちて llcɑeɥ となった。ところが ll の発音がいいにくいので、ləlcɑeɥ となった。ルシア誕生後は ləlc の部分が同じということで、ləlcɑeɥ が正式と定められた。 ルシフェルは血気盛んだが冷徹で仁義にあつく、弱い人間に親切で悪を嫌う。心身ともに強く、仲間を守り、敵を潰す。人とつるむのが嫌いで孤高な性格で、格闘技に長けている。一見女に冷たいが実はやさしい。細身の筋肉質で、ルヴァル体質。指が細く長い。身長は１７２ｃｍ。

ləlcɪ ［名詞］ルシア、悟り ［形容詞］悟った、悟ったような。ルヴァンで最高潮に達した状態をいうので、察したようなという意味の「悟ったような」の場合は nɪlɔɪn。 ［レベル］3 ɉɒ;ləɉcɪ.ʅ 古 ［語法］ ルヴァンで最も良い状態に達したときのその状態。

ləlcɪn ［生物］黄色人種の混ざった白人 ［レベル］3 1L: 双子のルシア＝アルバザードとユルト＝ルティアがそれぞれ ləlcɪn と ɥəlʃɪn の差が付いており、二人ペアなので比較しやすいため、語源となった。 ［語法］ アルバザードに多い人種。幼いころから大人びた顔をしているが、白人ほど老けない。一番美しいとされている。ルシア、リディア、リーザなど、ルティア家の女性はすべてこれに当たる。神話の神のモデルにもよくなり、女王ルフェルなどはこれに当たる。

ləlcɪn(ɿ) ［被服］ポンチョ ［レベル］3 ɥɑ; ルシアとハイレンのためにミルフが作ったことから ɿ1

ləlcɪlccɑɪ ［天文］メラク、紫亜星 ［レベル］6 1L:ɥcɑcɪ/ɉeɥen/ɒel ［文化］ ɥəlʃlccɑɪ

ləlcɪ ɪɥbɪzɪɥɑ ［人名］ルシア＝アルバザード、ルシア、しあ、紫亜、紫亜、紫亜にゃん、にゃん ［ユマナ］［人名］ルシア＝アルバザード ［レベル］3 1Δ:ɥcɑcɪ;ləlcɪ 1Δ:ɥcɑcɪ: ルヴァンの ləlcɪ から。苗字がアルバザードなのは、リディアの要望 ［文化］ (1Δ φcl ɉeɥ_) セレンとリディアの長女。ユルトと双子の兄弟で、妹。日本語名は紫亜（しあ）。 肩より少し長い栗色の髪の毛を二つに結いていることが多い。目は茶色で、二重。肌は白：黄＝６：４。 【成句】 ʃe ɒɪφ ləlcɪ 寝た子を起こす ɉɪcʃ ləlcɪ ʅɪen ɥcɑcɪ リディアに怒られるしあパンダ：蛇ににらまれた蛙。あわあわぶるぶるしている様が汗をかいているパンダみたいなので。 ləlcɪ eʃ ɪʅʅ ɪl ɪɥʅɪ nɔɑ ɉeɥen. ルシアはセレンよりアルカが巧い：青は藍より出でて藍より青し

ləlcɪ enccʅ ［人名］ルシア＝エニーク ［レベル］3 1L:clɒəɉ:ɥcɑcɪ ［文化］ レイユ期のアルティス教徒。ミロク＝ユティアの妻。アリシア＝ユティアの母。アライブ党首ギル＝エニークの娘として生まれた。１０才のときアルシアの湖で足を滑らせて転落。そのときアルドゥ神に助けられ、神の存在を知る。父に隠れてアルティス教徒となり、その後大学へ進学。恩師デニエ＝カテージュに教唆され、ファミィ＝ナオン暗殺計画を知る。既に陰でミロク＝ユティアに浸水していた彼女はミロクに相談。ミロクは計画を利用することにし、ルシアに何も知らぬふりをしてパイプ役を努めるよう指示。３１９年、暗殺実行。その後、ミロクはルシアがイルミロクのスパイであったことを明らかにし、彼女を保護。同時にレヴァレンとアライブを糾弾。新連立政権は崩壊。翌３２０年にイルミロクが与党となり、ルシアはミロクの妻となる。

ləɉ ［被服］スカート ［レベル］2 ɒelʃcɪ ɿL1:lənɔ;ləɑ（ふわっという擬音語）/ɉɪbe（服） 1ɱ: 制 :ləɑ（ふわっというオノマトペ）から。古アルカでは ləɑɉɪbe ふわっとした服だった。 ləɉ:ləɉ:lɪ ɑlɪɑeʃ 【成句】 ləɉ e ɥecɥə 少女のスカート：思わせぶりな、奥歯に衣を着せる 【用例】 ʃə ləɉ eʃ ɑcɪʃ ɪʅʅɪ lɔʃ leɉ nɔn lecnɪʃ. そのスカートは今まで着た中で一番素敵だった。

ləɉɉɔ,ɑu ʃc（男が男を） ɑɥəɉɉɔə.l

ləɉncɪl ［被服］ペチコート ［レベル］6 ɿ1

ləɉd ［被服］裾、すそ ［反意語］oɪɉd ［レベル］2 1L:ləoɪ/oɪɉd。oɪɉd の語源中の oɪ は「手」なので、脚でなく足から造語。 :::ɉɪe,ɪlʃ

ləɉcɑel ［魔法］ルシフェル魔法学校 ［レベル］4 ɿ0:ləɉcɪ/ɑel ［文化］ → ɪɥʃɉel アルバ二世がフェリウスの学校ブームの際にアルシアに建てた魔法の専門学校。専門学校としては最古のものである。 アルシアの１１魔将が立てた最新の魔法学を学ばせ、優秀な魔導師の育成を目指した。アルシア自体は鄙びた都市だったため、ほとんどの学生は首都アルナの出身であった。そのためルシフェルは全寮制を取っていた。ルシフェルは全寮制を取った最古の学校であり、この特徴はミスティア錬金術舎にも受け継がれる。 魔法がなくなったナディアでは改装され、学校として使い続けられた。アレイユでもそのままの名前で残っている。

ləɉcɪ ［魔法］魔法、ルシア ［反意語］ɑlɪɒ ［レベル］2 ʃɒ;ɪl/ɉcɪ「膜の物」レガルが出るとき空間が揺らいで膜状になることから。 1L:ɥcɑcɪ:ɪlɉcɪ（魔法学の大成者アルシアの１１魔将）。アトラスでは ləɉcɪ からむしろ ɪlɉcɪ ができた。 ɪɥʃ, ləɉcɪ: ［文化］ → ɑɔlɒcɥə 西洋魔法 ɪɥʃ と東洋魔法 ɪɥɒɪleʃ の総称。すなわち「魔法」の総称。魔法の内訳は以下のとおり。＊ elɑeɥ（古代魔法）は ɥəɑcɉ の一種。

ləɉcɪ（魔法）	ləɉcɪn（魔法遣）
ɪɥʃ（西洋魔法）	ɪɥʃɪn（魔導師）
ɥəɑcɉ（魔術）	ɥəɑcʃ（魔術師）
ɪɥʃeɉ（召喚）	ɪɥʃenɪ（召喚士）
ɒelɑcɉ（時魔法）	ɒelɑcʃ（時魔導師）
lɔɥʃ（忍術）	ɥelɑɪɉʃ（忍者）

ɑɰeɑcɰ（符術） ɑɰeɑcʃ（符術師）
eᴅcɰ（妖術） eᴅcɰın（妖術師）
ıɰɑcın（幻術） ıɰɑcınʃ（幻術師）
uelφıłʃ（色魔法） uelφıɰ（色魔導師）
ɥəlcınʃ（錬金術） ɥəlcınʃcȷ（錬金術士）
lɑɰınȷ（魔香道） ɑɰınlceɰ（魔香士）
ıɰᴅıleʃ（東洋魔法） ıɰᴅıleʃın（東洋魔導師）
ızeɰ（魔法陣） ızeɰın（法陣指）
ɑclenʃ（秘術） ɑclenɑ（秘術師）
ınuel（呪術） ınuelın（呪術師）

ləȷcıʃʃe ［形容詞］魔術的な、魔法的な、魔術の ［反意語］ʅıᴅcʃʃe ［レベル］4 ɰɑ;/ ȷʔ

ləȷcıʅʅıcınʃ ［数学］白銀比、魔法比、ルシアクライアント ［反意語］ɑlıᴅʅl ıcınʃ ［レベル］5 ȷzl; 魔導師の兵舎の看板が白銀比になっており、その比が看板以外の様々なものに見つかることに気付いたシージアの学者が「魔導師兵舎の比率→魔法の比率」と名付けた。 ȷȷ ［文化］ ɑlıᴅʅlıcınʃ

ləȷcın ［魔法］魔法遣、ルシアン ［レベル］2 1L:ɰcɑcı ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ləȷcın(ȷ) 魔法堂ルシアン ȷ0:ləȷcı/n（魔法の（店）） ［文化］ 主人公 ləlcɑeɰ の営む魔法具店の名。同小説名。

ləȷceʃʃ ［ɰenʃe］［代詞］こちらの方の、この方の、ルシエット→ ləıdcı ［アクセント］ləȷcEʃʃ ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccɰ;ləȷcel/ʃe

ləȷcel ［ɰenʃe］［代詞］こちらの方、この方、このお方、ルシエール→ ləıdcı ［アクセント］ləȷcEl ［レベル］2 ȷȷ:ʅᴅccɰ;lə ȷcel（空→遠くの人→距離をおくことで丁寧さを）

ləȷɔn ［人名］ルソン ［組み数字］5／6 ［レベル］3 1L: 古 :ıɰȷɔn: 神の行い ［文化］ ヴァノンの５番目。女性。派の決定事項の実行担当者。

ləȷɔnlcl ［化学］オスミウム 1L

lən,lɱ 男性不定冠詞 ʃən,lȷɑ と lə からの類推 ［語法］ lʃȷ でも場合によって使うことがある。l'ıʅəı → lən ıʅəı のように。ʃcıɰen を参照のこと。

lənı ［動詞］ɥəl に来る、来る、くる、なる、成る、いたる、至る、到る、登場する、やってくる、降る ［副詞］～しに来る ［反意語］ʅe ［レベル］1 ɰɑ;lənı,cn（来る）‹lənı,ɑ（走る） 赤 : 走る ʅe,ɑ（移動）ʅeʅʅ ɔ,ɑ（来る）:ʅe ʅeʅʅɔ::ʅɔlə,ıłʃ, hɔʃılə,ıłʃ（雨が降るの降る）【用例】 eȷʅ lə nıʃ cᴅ ɑcȷ. 今日は雨が降った。

lənı,ɑ leɑ lə は脚

lənın ［感動詞］お帰り、おかえり ［レベル］2 ɰɑ;lənı/ın（私のところに来た） 1L

lənın(ȷ) ［ɥənʃe］彼自身 ［レベル］2 ȷ0:ᴅelcɑcı lceɰ

lənıucın ［物理］向心力 ［レベル］5 ȷ0: 中心に向かう力。leeu の対が ləʅɔ でなく lənı になるのはアルカではありがち。

lənıɑ ［単位］ルナッフ ［レベル］4 1ɱ: 制 : 古 :lənıɑıc（走る熱） ［語法］ １ヴィヴィが物体を１メルフィ動かす時のエネルギーを表わす。ジュールと比較。

lənılɔd ［交通］上りの電車 ［レベル］3 ȷ0: カルテを中心に、カルテ（上方）に来るのが上り。

lənc ［生物］無生物 ［形容詞］無生の ［反意語］ɰəᴅı ［レベル］4 ȷeɰʃ;ləən ɔ,ɑ 1ʕ: 制 :lənı:lənɔ ləənɔ:ləənɔ

lənɔ ［死神］ルノ、噛子、こうし。アルテから生まれた最初の子で、二番目のセレス体。そのことから噛矢と子供をかけて噛子とした。 ［レベル］3 ɰcɑcı: 古 : 赤アンクノットにも一部誤記が記載 ［文化］ アルテからスピンオフしてできた存在。女。相対する性別即ち男が欠けたために不完全となった。ルノはやがてトワーユに行き、アトワーユの側近となる。１６６ｃｍ、５０ｋｇ。死神にありがちな痩せ型。

lənɔʃʅʅı ［地学］［歴史］ルノ大陸 ［ユマナ］ローレンシア大陸 ul;/ ȷʔ

lənɔȷ ［代詞］彼自身、彼女自身 ［反意語］lınɔȷ ［レベル］2 1L 【用例】 ᴅcn ıłʅı ʃeɰʅ lcn ueȷ ɔlʃı lə ʃcl ɥəə lıɑ ılᴅın ᴅıcn e ᴅcn lənɔȷ eʃ ləɑɔ. 女性は自分の体そのものが宝であるから、一人で外出してはならない。

lənɔn ［単位］ルノン ［レベル］5 ȷ1:lənɔ/n ［文化］ ınʅɔ

lənɔnıʅeı ［企業］ルノナケア ［レベル］5 ȷ1 ［文化］ 日本生命に相当する企業。

lənɔ ɑılɑıncı ［人名］ルノ＝ファルファニア 1L:clᴅəȷ:ɰcɑcı ［文化］ アルティル期の政治家。アルティス教徒。女性。開発省運輸庁長官。種枯れ病の際の対処で国民から支持を得て、第四次選挙でのアルティス教の勝利を導いた。

lənɔlcl ［化学］炭素 ［レベル］4 1Δ: 制

ləucı ［歳時記］ディアセル前夜祭、ディアセルの前日、ディアセルイブ、ルヴィア ［反意語］leɑcı ［レベル］2 ȷ0:lənı/uıʃ/ɑcı（ディアセルが来るのを待つ）

ləueɰ ［名詞］生活、日々、日常、ルーヴェル ［レベル］3 ȷ0:lcuɰɔ のカルミーユ 【用例】 ləueɰ ʃ'ıɰʅı アルカの日々、アルカ生活、ルーヴェル・タルカ

ləɑı ［動詞］ɥəl を飛んで ı まで行く、飛ぶ、翔ぶ。移動様態動詞。 ［普通動名詞］飛翔、飛空 ［動詞］一目散に走る。leɑ ［レベル］2 ɑ;lə は脚 赤 ləɑı:ləɑı 【用例】 ıl, ın ləɑı uın ʃc. はい、今すぐまいります。

ləɑın ［物理］［工学］飛翔体、飛しょう体、飛行物体 ［レベル］6 ȷ1: 飛ぶもの

ləɑıbıɑ ［動詞］ɥəl を ı に吹っ飛ばす、吹っ飛ばす、吹き飛ばす、ぶっとばす、ぶっ飛ばす ［レベル］3 ȷ1

ləɑıɰɔʅ ［動詞］ɥəl を突き飛ばす、突き飛ばす、つきとばす、突きとばす ［レベル］3 ȷ1

ləɑıı ［地名］ルファア、炎京 ［地名］ルファア砂漠 ［レベル］4 古 ［文化］ ファルファニア国の首都。大部分をルファア砂漠に覆われている。ルファア砂漠は代表的なファベルの砂漠。ここの砂が風に乗り、カテージュなどに降り注ぐため、黄砂に相当する現象が見られる。ただし日本ほどではない。

ləɑıleı ［気象］黄砂 ［レベル］4 1L ［文化］ ləɑıı 【用例】 ləɑıleı ıɰ ᴅclᴅ ʅı sın. 黄砂が舞っていた。

ləɑıızelɔɑıcz ［医療］日本脳炎 ［レベル］4 1L:ȷeɰen/ɰcɑcı ［文化］ ファベルのルファアで起こった。

ləɑıɔᴅ ［名詞］飛び方 ［レベル］3 ȷʔ

ləɑıeɰ ［筐堺］ルファエル ［レベル］5 ɰɑ;ıləɑıeɰ ȷȷ ［文化］ 筐堺司：ɑıłuı ɑıɰɑıncı 筐堺国：ɑıɰɑıncı, ıᴅełʃ

ləɑc ［被服］ルフィ ［レベル］2 古 :ləɑc(ルフィ) ← ləɑ/ɑcɥɔ を変形させた造語。原義は「二枚のスカート」。ləɑcɔ,ləɑcc などの語形もあったが ləɑc が最終的には一般的な形。ləɑ は ləɑȷıbe の一部で、スカートを意味する。ɑcɥɔ は数字の２で、元は短槍の意味。 ［文化］ アルティス教徒の服。女性用。スカートに似ている。二枚の布を垂れのように前後に付け、落ちないように紐などで結んだもの。動いたときに横から見ると脚が若干見えるため、スリットスカートに近い。脚を淫らに見せるのは宜しくないという考えをする信者は二枚の布の横の長さを長くし、布に布を重ねる。こうするとたとえスリットが入っていても布の下は布なので脚は見えない。せいぜい膝から下の一部、脛や足首がかろうじて見える程度である。ふつうラーサを着ればその下にはサユを着て、下半身はルフィを履く。

ləɑcʅeɰn ［被服］ルフィケルン ［レベル］3 古 ［語法］［文化］ ルフィの後ろについた小さいマントのような広がったもの。ルフィの丈より少し長い。着ても着なくても良い。

ləɑcᴅccl ［被服］ルフィーミール ［レベル］3 古 ［語法］［文化］ ルフィの横につけて下に垂らしたリボン。ルフィケルンの代わりに使うので一緒には使わない。

ləɑeʃ ［天文］紫の月 ［類義語］lełʃ ［レベル］3 ȷȷ:ləlcɑeɰ/ʃe

ləɑeʅ ［ジョブ］飛脚 ［レベル］5 zφ;ləɑı/heʅı「飛ぶ手紙」 ȷɱ

ləɑəʃɔ ［単位］グレイ、リフト、人間フト ［レベル］6 1ɱ: 制 : 人間のフト

ləᴅc ［遊離副詞］［形容詞］しやしない、いつもない ［レベル］1 ȷȷ ‹ ləəᴅc: 古 :ləəᴅc（ない） ［語法］ ıləəʃ 機会が複数回あるのにそのうち一回もしないこと。ıłʅı のほうは一回きりかもしれないが、行われる確率がゼロであること。

ləᴅcnı ᴅeʃe ［人名］ルミナ＝メテ ［レベル］5 古 ［文化］ 第４期３代ソーン第１使徒であるアノ＝メテの妻。ソーンの使徒はアノの配下という色合いが強かったため、妻であるルミナは使徒に組み込まれなかった。クミールの実母。メル０年ギルの月リュウの日に自宅庭園にて亡くなる。

ləᴅcᴅ ［名詞］恣意 ［形容詞］恣意的な ［言語］無語源 ［レベル］5 ȷȷ ‹ ləᴅc:1ʕ: 制 : 古の ləəᴅc/cᴅıc（意味のない） ［語法］ ɑeɰeȷ

ləᴅcɰ ［名詞］お嬢様、おじょうさま、ご令嬢 ［アクセント］ləᴅЄɰ、lƎᴅcɰ ［レベル］3 古 :ɑəlᴅccı:ləı ʅəᴅccɰ（クミール嬢） ［語法］ 金持ちの娘を指す。世間知らずのイメージがある。 ［文化］ ＜お嬢様位相＞ お嬢様と呼ばれる階層は ɥənʅ, ᴅclcı, ᴅıɥə のいずれかの位相の頭に ın を付けた代詞を用いる。例えば ınɥənı など。敬体は ᴅecɑ 系列を使うが、やはり頭に ın を付けて ınᴅecɑ などとする。気取った貴族や金持ちの言い方で、現実にはあまり見られないがゼロではない。アニメやマンガなどではお嬢様キャラを出すために用いられることがある。嫌味っぽく気取って見えるかお嬢様らしく聞こえるかは本人の性格と相手の受け取り方次第である。嫌味にも気取りにもなるし、深窓のご令嬢にもなる。場合によりけりである。ınɥənı ɥəəȷ ɑın ın ᴅɔe lənı ınʅɔleʃ ınlcnɔı（あなた、わたくしたちに混ぜてさしあげてもよくてよ）。ın ばかり連続するので ınınʅəɔᴅ（アンアン口調）と小馬鹿にされることがある。なお、三人称にもこの ın は及ぶ。ınləın, ınʃəʃə など。

ləᴅccne,ȷzɑ ᴅını ‹ ləı ᴅccnı

ləɑzc,ɑ leɑʃ lə は脚

ləɑcl ［形容詞］価値がある、価値のある、ステイタスだ、ステータスだ ［類義語］ıɑeʃ ［反意語］leʅȷ ［レベル］3 ȷ0:ləɑɔ/lı（宝石がある） ［語法］ ıɑeʃ

ləɑɔ ［サール］ルド ［地学］宝石、ジュエリー、ジュエル ［レベル］3 ᴅe lʃcı 10:ləɑɔ;e 古 :lıʅʃı ləɑɔ:ləɑɔ:lə ləəle（鉱物は土属性なので） ［文化］ 意思を持った宝石の獣。蛍石から生まれた。かすかに青味を帯びた白い獣の姿をしており、額に蛍石が嵌めこんである。二足歩行できるが前傾姿勢で、手足は短い。体長は３０ｃｍほどしかない。宝石を司る。ルビーやサファイアやエメラルドなど、あらゆる宝石に姿を変えることができる。人を誘惑する力を持っている。宝石を巡って人が殺し合いをするというようなときは大抵ルドが裏で一枚噛んでいる。

ləɑɔʅıɑ ［地球の国名］ベリーズ 1L: 通称カリブ海の宝石

lədı,ɑu ɑɔnʃ

lədc ［名詞］コンパス。数学で使うコンパスのこと。 ɑu;ləɑı/dc（針） ȷɱ

lədccɑı ［地球の星座］［ユマナ］コンパス座 ȷɱ ［文化］ cɑı

lədə,ıłʃ ʃı

ləz ［化学］カルボキシル ［レベル］5　1L:lənɔ/zɔɒ

ləzhɔə ［化学］カルボン酸塩　1L

ləzɪ ［化学］カルボキシル基 ［レベル］5　1L

ləzɪjl ［化学］カルボン酸、カルボキシリックアシッド　1L

ləoɪ ［生物］足 ［レベル］1　ɑ;lə は足。oɪ は手。脚と足のうち、手と同じ平たい部分という意味。　古：赤に乗っている ləɪ のさらに古形。ləoɪ の oɪ は手の意味で、これは赤に残っている。　ləoɪ,ɑ:ləɪ,ɑɥɑ:lɪ dcɥɔn（lə は zɪɒ）:ɟɪɥɔ,ɪlʃ ［語法］　言いづらければ実際には ləɪ のように発音してしまっても問題ない。敬称の ləɪ と文字上で区別をつけたかっただけである。　ləoɪ で zɪɒ を表すことはない。［文化］　寝る前に足を温めたりリフレクソロジーをするのがアルバザード人の女には好まれる。夫や恋人など、足を見せてもいい相手にやってもらうことがある。兄や父でもしてあげることがある。　足は泥が付く不浄な部分なため、日本同様「～に足を向けて寝る」のは失礼とされる。だがもちろん現代の実生活の中では同じ部屋で寝ない限りは意識しない。【用例】　ləoɪ hɪn 大きな足

ləoɪ,ɑ　ləoɪ, zɪɒ　lə/oɪ「動く手（四肢）」

ləoɪʅɪ ［名詞］足場 ［レベル］3　J】【成句】　ləoɪʅɪ ɪ(len) ʅɔle 糠に釘、豆腐にかすがい、のれんに腕押し

ləoɪj,ɑu　lcjen　ləoɪ/ɟɪbe

ləoɪjeu ［言語］末文　J1

ləoɪuɪnʃcɟ ［軍事］歩兵 ［レベル］5　ɑu;/　1L:ɥcɑcɪ　ləoɪuɪnʃcɟ:ləoɪuɪnʃcɟ

ləoɪueʃ ［言語］結語 ［レベル］5　J1

ləoɪɑɥec ［アイテム］ショートソード　ɑu;ləoɪuɪnʃcɟ/ɑɥec　J ［文化］　ɑu から歩兵の武器として存在したが、ɟɒ でロングソードが騎兵用になるとロングソードの対概念となった。

ləoɪɑɔ ［名詞］足音 ［レベル］3　ɥɑ;/　J【用例】　ɪn ʃeɒ ləoɪɑɔ c le. どこからか足音が聞こえる。

ləoɪɑɔs ［普通動名詞］足コキ、足こき ［レベル］5　ɥɑ;/　J

ləoɪɒɪcn ［生物］中足　ɥɑ;/　J

ləoɪɒcll ［卑語］ちんば、跛。片ちんばも含む。［レベル］4　J1 ［文化］　使わないこと。

ləoɪɒɔɒ ［生物］足根　ɥɑ;/　J

ləoɪdcʃ ［医療］足科 ［レベル］3　1L ［語法］　外反母趾を直したり靴を見立てる。日本ではレア。

ləoɪdɔɒ ［生物］くるぶし、踝 ［レベル］2　1L ［文化］　くるぶしは可愛いパーツと捉えられ、女子は靴下ごしにくつぶしを見せたがる。恥ずかしいので、脱いでは見せない。　そのため、アルバザードではブーツは好まれない。

ləoɪhɔ ［生物］中足骨　J】

ləoɪɥecn ［言語］［文字］ベースライン　J1

ləoɪschɔ ［生物］足の指骨　J】

ləoɪocɟ ［生物］足の裏。文脈で分かれば単に ocɟ とも ［レベル］3　1L

ləoɪɪʅl ［名詞］足跡 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ləoɪɪɥə ［ランドマーク］ルワーユ ［レベル］3　ɪl;ləlc/ʃoɪɪɥə「ルリ天国」　J ［文化］　ルリ東南部のクリムゾンに位置するテーマーパーク。ルリはショッピング街かつパフォーマンス街だが、ルワーユは萌え産業のキャラクターたちが跋扈するテーマーパーク。ディズニーランドのように人気アニメやマンガのキャラクターたちがパレードをしたり着ぐるみを着たりしている。キャラクターのコスプレをしたクルーもいる。テーマパークは広大で、エリアごとに各アニメやマンガの舞台で仕切られている。例えば ʅɪɥɑcɪn ɑcclcɪ のエリアでは作中の舞台が実際にセットとして組まれ、劇中の家や名場面などが再現されている。また、ディズニーランドの乗り物に当たるアトラクションも存在する。　人気アニメの寿命はディズニーより短いため、各エリアの残存期間は約４年。作品の人気に合わせてエリアが続投されるか決まる。人気が落ちたものは取り壊され、別の作品の舞台に変わる。そのためディズニーランドに比べて園内の改修頻度が多い。アルバザードは国家戦略としてルワーユに力を入れており、旧カレンシア王国の援助のもと、工事費用の一部を負担している。改修の一部は公共事業であり、雇用の創出に繋がっている。また、ルワーユの性質上、有志のオタクによる資金や労働力の援助がなされることがしばしばある。　ルワーユは大人向けのエリアと子供向けのエリアに別れる。シーとランドのようなものである。子供向けのほうは改修頻度が低く、ɒɪlcɟɑen や ɑccnɥɪ などのエリアが置かれている。大きなお友達は大人向けのほう目当てで行くことが多いが、ɑccnɥɪ などを見に子供向けに行くこともある。ランドとシーと違って家族でも楽しめるよう、両エリアは行き来が自由であり、別途料金はかからない。　地球には２０１２年現在このようなテーマパークは存在しない。早く作れよ。

ləoɪɔɥɪ ［生物］足関節　ɥɑ;/　J

ləoɪɔcɟ ［生物］足の甲。文脈で分かれば単に ɔcɟ。［レベル］3　1L

ləlɟ ［生物］静脈 ［レベル］4　1L:lənɪdɪlɟ

ləlɟʅnɔb ［医療］静脈瘤 ［医療］痔核 ［レベル］5　1L:ɟeɥen

ləlc ［地名］ルリ、ルリの街 ［俗語］ヲタグッズ、オタグッズ、ヲタ物、オタ物、アニメ、ゲーム、ラノベ、イラスト、マンガ、漫画、メイド、コスプレ、同人誌、猫耳、ネコミミ、ネコ耳、萌え。総称的に使う。［ユマナ］秋葉原、アキバ ［レベル］3　ɪlʃ　J ［語法］［文化］　アルナ市北東部にある街。アルバザード最大のオタク街。元はただの田園地帯だったが、ウ・ラルラルから移住してきたアルティア人によって ul で電気街になり、ɪl でオタク街となった。　休日には幅広の歩行者天国が敷かれ、有志による大々的なパレードやパフォーマンスが行われる。度を過ぎたパフォーマンスもこの場所では許され、オタクたちは自由に遊びはしゃぎ、警察も目をつぶり、むしろ安全にパレードやパフォーマンスが行えるよう協力さえする。　繁華街なので犯罪率が高いことも事実だが、自警団や警察の協力によって、できるだけ楽しい空間を壊さないような努力がなされている。毎週がお祭り騒ぎなので、下手に ɑcɪʅɪdʃe（ディズニーランド）に行くより面白いかもしれない。　日本の場合、秋葉原の加藤の乱があったときに自粛ムードとなったが、ルリではそのようなことはない。事件を起こさないよう努力しつつ、愉しみは奪わない方針を断固貫く。度を越えたパフォーマンスについてもお祭り騒ぎということで寛恕されることが多い。本当の意味で度を越していれば警察よりも聴衆によってブーイングが起こり、撤退させられる。結局何をしても許されるわけではなく、聴衆の倫理観に背くようなパフォーマンスは街の自浄作用で排斥される。　いわゆるアキバ系のことをアルバザードでは ləlcɪn（ルリアン）と呼ぶ。アルバザードでは個人主義が発達しており、人は人と割り切っているため、日本ほどオタク産業が蔑まれていない。興味のない人は口を出さないし、好きな人は思い切り満喫する。もちろん、ləlcɪn を敵視し、キモがる者もいる。それもまたその人の自由である。　凪人発祥の萌え文化だが、逆に体裁を気にする凪人のほうがオタク蔑視をする傾向があり、仮面オタクなども多い。アルバザード人のオタクのほうが包み隠さず謳歌する傾向にある。　ただし、日本同様、三次元に相手にされないので二次元に逃避する者も中にはいる。三次元が嫌いであえて二次元に逃避する者もいる。両方好きな者もいる。十把一絡げで ləlcɪn と社会的に見なされていることが不満だと思っている者もある。　cɒdel と ləlcɪn では前者のほうが意味が広い。プロトタイプの ləlcɪn は萌え好きで、二次元好きないし三次元アイドル好きで、ゲームや漫画やアニメなどが好きである。cɒdel はもう少し広く、数学オタクやミリオタなど様々なコアな人を全般的に指す。　・語源　ルリだよ。ロリじゃないよ。【用例】　ɪn ʃiəʃ ʅe ləlc ɑc ɟɪ ɟɔɔʃ. 先週オタグッズを大量に買い込んだ。

ləlcʃcɒɔ ［交通］痛バイク ［レベル］4　ɪl;/　J ［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlclɔɔʅ ［俗語］オタトーク ［レベル］4　J

ləlcɑɔʅ ［娯楽］［芸術］痛～、サブカル風味、サブカル装飾、オタ装飾、ヲタ装飾 ［レベル］3　ɪl;/　J ［語法］　ləlcɪɒɔ に端を発し、車、バイク、家、パソコン周辺機器などにサブカル風味の装飾を施したもののことをいう。［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlcɥɪ ［建築］痛ハウス、痛家 ［レベル］4　ɪl;/　J ［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlcleɒ ［音楽］オタ曲、アニソン、オタソン、ヲタソン、アニメソング、ゲーソン、ゲームミュージック、ゲーム音楽 ［レベル］4　ul;/　J ［文化］　ul で始まり、ɪl で最盛期を迎えた。一般人が聞くＰＯＰＳなどに比べマーケットが苛烈であったため、ＰＯＰＳよりも技巧の凝らした曲が多いのが特徴。ul のころはアニソンというと子供っぽい印象だったが、ɪl 最盛期ではＰＯＰＳより遥かに複雑なメロディと伴奏を持った世界で最も進んだ音楽となった。

ləlcɪn ［名詞］ルリアン、アキバ系、オタク、ヲタ、ヲタク、オタ ［類義語］cɒdel ［レベル］3　ul;/　J ［文化］　ləlc

ləlcɪɒɔ ［交通］痛車、イタ車 ［レベル］4　ɪl;/　J ［文化］　サブカル風味の装飾を施した車のことで、ɪl に興った。その後痛バイクや痛ハウスなど、様々なものに発展していった。

ləlceɟʃ ［俗語］虹ネーム、二次キャラネーム、キャラネーム、ルリ名、ルリエスト ［類義語］ʅəzeɟʃ ［レベル］4　ul;/。ルリの街で消費されている商品に登場するような名前であることから。　J ［文化］　→ ʅəzeɟʃ　もとは小説やラノベやアニメなどで使われていた名前のこと。小説などは奇抜な内容が多いので、実在の人物の名前とかぶってしまうと問題になることがあった。そこで苦情が来ないようにあえて現実にいなそうな名前を付けることが多かった。　ところが ul 後期から ɪl にかけてファンが子供に自分が好きだった作品の登場人物の名前を付けるようになり、それが ləlceɟʃ と呼ばれ社会問題となった。　ʅəzeɟʃ に比べ、ləlceɟʃ は比較的評判が良い。ʅəzeɟʃ の親に比べて ləlceɟʃ の親の社会的地位が高いことが原因である。日本でもそれは同じで、オタクは無職から社会人まで幅広くいるが、結婚して子供を残している以上無職はまずないので、子供を持ったオタクはその時点である程度の社会性があるということが推測される。ʅəzeɟʃ の親よりしばしば社会的地位が高いため、受ける批判も少ないというわけである。　２０１２年の日本でいうと、涼宮ハルヒ、月野うさぎ、孫悟空などが ləlceɟʃ に当たる。　・心暖まる名前　あるところにオタクな青年と腐女子な少女がいました。彼らはルリの街で出会い、共通の趣味から恋に落ちました。　やがて彼らは結婚し、子供が生まれ、付き合うきっかけとなった漫画のキャラの名前を付けました。　――このような命名は ₩8A ネームとは真逆で、むしろ美談として受け入れられる。

ləleʃ ［名詞］サブカル ［レベル］5　ul;ləlc/eʃ　J

lələ ［感動詞］［文頭純詞］［ɥənʃe］おや、おやまぁ、まあ、なんて、あら、なんだ ［レベル］1　ɑ:ɟɪɪl;lə/lə「それそれ！」　日本語で「あれまぁ」「あらまぁ」というときに代名詞の「あれ」を使うのと似た感覚　古 :ɪlɪ ləlɑ:lələ ［語法］　良い意味と共に用いる。

lələʃ ［普通動名詞］ルルット ［動詞］ɥəl をルルットさせる ［類義語］nɪʅclc ［レベル］5　古 :ʅɒccɥ:ɥcɒələlə/ʃɔe ［語法］［文化］　純潔を守るための女の自殺法。死後、死体を乱暴されないように、性器に槍のような太い刃物を突き立てて自殺する。始めに下から突き上げ、次に前方から刺し込み、それを下方に引き下げる。日本でいう男の切腹に当たる。

lələ ɥɪd ɥɪʃ ʃeezeɒen ［感動詞］お似合いのカップルね、仲の良いカップルだこと、焼けるね、ごちそうさま ［レベル］3　古 :lələ（まぁ），ɥɪd（組み合わせ），ɥɪʃ（良い），ʃeeze（風の），ɒen（接尾辞）

ləɪ ［形容詞］～さん。女性に対する敬称。［名詞］女史、彼女、～さん。敬称単体で代名詞的に使うことができる。［類義語］ɟɪn、lccz ［レベル］1　1ٶ: 制 : 古 :「彼女」を意味する代名詞。［語法］　→ ɪdʃ, eɟʃ　〇名

×姓　〇前置（丁寧）　〇後置（並）　〇男　〇単体使用 / 名詞用法　【成句】　eʃ ləɪ neɤ 何様？、何さまのつもり？。言葉通り「どちらさま？」という意味もある。

ləɪ,ɑɥɑ　ləoɪ,　zɪᴅ　ləoɪ,ɑ.l

ləɪʃ　［地学］麓、ふもと　［レベル］3　ꞁꞁ:ləoɪ/ʃəənɔ

ləɪꞁ　［生物］つまさき、つま先、爪先　［反意語］lɪjꞁ　［レベル］2　ꞁL:ɥcɑcɪ:ɪɥ bɪlelʃ:ləoɪ/ʌcʃ

ləɪj,ɑu　lɪjl　ləoɪ/jɪbe

lə ɪjce　［料理］ブルースカイ、ル・アシエ　［レベル］5　ꞁ1:lʃ　［文化］　ジンベースの青いカクテルの一種。

ləɪn　［代詞］［ɥənʃe］彼ら、この人たち　［類義語］ɪnləɪn　［レベル］1　ꞁL:lə

ləɪnʃ　［代詞］［ɥənʃe］彼らの　［類義語］ɪnləɪnʃ　［レベル］1　ꞁL:ɥcɑcɪ:ʃ は ɪnʃ からの類推

ləɪᴅenʃ　［被服］ボディス　jᴅ;ləɪ ᴅenʃ/ʃe「メント婦人のような」　ꞁꞁ

ləɪ ᴅeᴅdɔ　［卑語］おまんこ様　［レベル］5　ꞁʔ ← ꞁΔ　［語法］　プライドの高い若い女を皮肉った卑語。

ləɪdcɪ　［言語］三人称　［レベル］4　ꞁL:lcɔn:lə を代表としている。　［語法］
　三人称には好感形と悪感形がある。作り方は次のとおり。　1: 三人称の母音を伸ばす。lə → ləə　ꞁ: 丁寧なら ᴅc、野卑なら be を付ける。ləə → ləəbe　ʔ: 所有格（属格）なら n を付ける。ləəbe → ləəben　ꞁꞁ: 複数形なら j を付ける。ləəbe → ləəbej、ləəben → ləəbenj　＊ n は属格の –en から来ている。j は複数の je から来ている。　文法的な使い方は普通の三人称と同じ。　ləəbe（こいつ）　ləəbe ləʃʃɪ（この野郎）　ʃə eʃ ləəben ɑɪ.（これはこいつのだ）　benɑ ləəbenj（こいつらのエサ）　bɪz ɪlə lɪl ʃəəbe ɪɤ（おめぇ、こんなの食いてぇんか？）　ʃəəᴅc leeze eʃ lɪɪᴅc ʃɪəɪnen ɪnne.（こちらのお傘はあちらのお客様のものでございます）　＊ ʃɪəɪn lɪɪᴅcn だと「こちらのお傘はあちらの方のお客様であります」という意味不明な文になる。なお、lɪɪᴅcn ʃɪəɪn は文法的にありえない。lɪɪʃ ʃɪəɪn と言えないのと同じ。lɪ ʃɪəɪnen が正しいことを考えれば分かる。　「ʃɪəɪn を修飾しておりそれに属格の en が付いている」と考えるので lɪɪᴅc になる。leeᴅc は不可。これは lɪ ʃɪəɪnen や lɪɪbe ʃɪəɪnen にもいえる。［{(あの)(客)}{のもの}］という構造をしているためである。属格を止めて「あの客の傘」に戻した場合、ejn e lɪ ʃɪəɪn になることからも lɪ が正しいと確認できる。
　好感形は好意、丁寧、親近感、価格の安さ、偉大さ、量の多さなど、自分にとって高評価のものや好都合なものを意味する。　悪感形は嫌悪、野卑、疎遠さ、価格の高さ、矮小さ、量の少なさなど、自分にとって低評価のものや不都合なものを意味する。　ひとえに丁寧や野卑と捉えると、レインのような大人しい女性が使うことに違和感を感じてしまう。好意や矮小さなど色々な用法があることを念頭に置くこと。　ᴅcjenʃɪnʃ ᴅcl jɪlɪ hɪlɪjɪʃ ʃəəᴅc ɥenɪl ɪ ᴅen.（このようなお言葉をちょうだいして、誠にありがとうございます）　ɪn ɪɪlɪ lɪ lɪʃ leebe lɑcjɾ（あんな人生なんて少しも望んじゃいなかった！）　le eᴅc φɪɥʃ（あんな大金）ʃəəbe φɪɥʃ（こんなちっぽけな額）　三人称が細分化されていると、ʃc（あなた）や ʃccl（あなたの）にも丁寧や野卑があるのかと思うかもしれない。　ʃc などには位相というものがあり、三人称よりさらに細分化されている。　例えば ʃc（あなた）に対して、hɪꞁɪ（貴方様）や bɪz（てめえ）などが 10 種類以上もある。　位相は丁寧感や野卑感のみならず、話し手の性格や話し手と相手との関係まで示している。　女性語は下記の通り変化する。有生にしかない。単複同形。　lɪɪᴅc, lɪɪᴅcj → ɪnjcel　ləəᴅc, ləəᴅcj → ləjcel　lɪɪᴅcn, lɪɪᴅcnj → ɪnjceʃʃ　ləəᴅcn, ləəᴅcnj → ləjceʃʃ　ɪnjcel ʃe uelnɪɥen ᴅcl ᴅcjʃ lcclɪjɪʃ ɥənɪ lcs jccnɪ. lɔᴅ ɥəʃɪ ucl ꞁlɔj ləjceʃʃ ɪɪnɔ（あのお方は幼いころの私を可愛がってくださったのよ。この方が仰るような悪いお方じゃありませんわ）　［文化］　新生になって二人称までは位相で細分化されたのに三人称は表現力が乏しく、「こんな人生」や「あんな漫画」や「こちらの女性」や「あちらの方々」といった表現ができなかった。この不満は数年来のものであったが、ꞁꞁ についに噴出して細分化することとなった。提案者はセレンで、リディアと相談して作成した。　ɥɑ ではセレンがアルカディアへ去る直前の春先に作っている。

ləc　［地球の国名］イギリス、英国、グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国　［レベル］4　ꞁꞁ: 制 : 古 :ləɪ。ləɪ は古アルカで「足」の意味（但し、アルカ・エ・ソーンでは足は ləɪj）。イギリスは足の形に似ているとセレンが言ったことから。

ləcn　［単位］ルイン　［レベル］5　ꞁ1:lənɔ/ᴅɪcn　［文化］　ɪnꞁɔ

ləchɔᴅꞁ　［ユマナ］ドーバー海峡　［レベル］6　ꞁL

ləɔ　［植物］松　［レベル］3　lɪꞁʃɪ

ləɔcꞁ　［植物］パイナップル　［レベル］2　ꞁʔ: 制 :ləɔuɪnꞁ（松の果物、松かさ状の果物）

ləɔcꞁdɪɑ　［化学］酪酸エチル　［レベル］5　ꞁL

ləe　［動物］カエル　［レベル］2　lɪꞁʃɪ:ləe「跳ねる / 水」

ləə,ɑu　lə ᴅcn、彼女　lə,ɑ.ꞁ

ləə,ɑɥɑ　ɔu　ləɪ.ꞁ（脚）

ləəʃ　［代詞］彼の、彼のもの　［レベル］1　ꞁL:lə/ʃəl

ləəʃjə,ɑu　nɔjcn　ləə/ʃjəlɤ

ləəʃɔ,ɑ　ləʃ、ɪləəʃ

ləəʃe　［名詞］ユーモア、冗談、ジョーク　［レベル］3　古 :ləəʃe。「動く風」。風は雰囲気や関係のことで、重い雰囲気をユーモアで動かすことからこの意味になった。ʃe は風でなく関係と捉えて「動く関係」とすべきかもしれない。　［文化］　uɔɥʃɑeᴅe　四番目の ɪjʃenɔʃ。最後の一つ。人生に必要なユーモア及び心の余裕。ものごとをプラスに考えるのも心の余裕の一つなのでこれに入る。これがないと柔軟な思考や幸福な生活を送れない。緊張や重い雰囲気を取り除くためのおかしみ。十中八九言葉を使ったものである。　一般にアルバザード人はピンチになるほど余裕ぶってジョークを言う癖がある。　【用例】　☆ ɪn nɪʃ elj enʃɔ ɥəʃɪ ucl ləəʃe. 冗談に付き合う気分ではなかった。

ləəʃej　［代詞］彼らの、彼らのもの　［レベル］1　ꞁL

ləəʃeueʃ　［言語］冗語、冗談語　［レベル］6　ɥɑ;/　ꞁʔ

ləəʃeᴅɔlɑ　［言語］冗語法　ɥɑ;/　ꞁʔ

ləəꞁj　［名詞］歩き屋、ルークス　［人名］歩き屋アルシェ　［レベル］5　L:ɥc ɑcɪ:ləꞁ（歩く）/j（する）

ləəꞁj(ꞁ)　［地名］ルークス　［言語］［文字］ディスプレイ、ポップ。書体のひとつ。イルケアで作られたことから。　古 : 人が多いが原義　［文化］　アルナの南、イルケアの北にある商業地方。

ləəꞁjjɪlɪj　［被服］ポロシャツ　［レベル］5　ꞁ1

ləəꞁjɔn　［植物］フサアカシア、ギンヨウアカシア、ミモザ（俗称）　［レベル］5　ꞁ0　［文化］　ルークスによく生えている木で、ルークスを象徴する。日本では通常ミモザと呼ぶ。

ləəꞁɔ　［俗語］［名詞］スケ、アマ、メス、女、ネタ　［類義語］ᴅcn　［反意語］ləʃʃɪ　［レベル］3　ꞁ0: 古 :ləꞁɔ（入り口←女性器のこと）　［語法］　ᴅeᴅdɔ ほどの俗語ではなく、ɑɪcᴅen 程度なので、男女とも日常的に使える。むろん、丁寧な言い方ではない。相手に嫌悪感を出す際に使う。口が悪いアルベンらは嫌悪感がなくても使う。

ləəleᴅ　［地名］ルーケム　［料理］ハヤシライス　［レベル］3　ɑɥɑ | ɥʃ; ルーケム発祥の料理であることから。　ꞁL:ɥcɑcɪ　［文化］　ファルファニア南西部の都市。

ləəleᴅeɥclʃəlɑ　［医療］エボラ出血熱　［レベル］5　ꞁL:ɥcɑcɪ: ルーケムで発見された。

ləəle　［ポジティブ］［形容詞］売れる　［類義語］φɔleᴅ　［反意語］ꞁlɔleʃ　［レベル］3　ɥɑ‹ləəle.jzɑ（宝石）‹ləɑɔ.l　ꞁʔ　［文化］　ꞁlɔleʃ

ləəj　［代詞］彼ら、彼女ら　［レベル］1　ꞁL

ləən,ɑ　φɪɪu

ləənɔ,ɑ　lənc　e

ləəu　［単位］ルーヴ、電力、仕事率　［レベル］4　古 : 元は ləəucuc（動く力）　［語法］　1 秒間に 1 ルナッフのエネルギーが消費されるときの仕事率を表わす。ワットと比較。

ləəuɥɔl　［物理］電力消費、消費電力。電力を消費した量も表す　［レベル］4　ꞁL

ləəueʃ,lʃ　［名詞］ɾləəꞁ　［人名］ルーヴェット、紅月　‹›ɾləəꞁ

ləəɑ　［名詞］カーツィ　［レベル］3　ꞁꞁ: 制 : 古 :ləɑ「軽やかな、ふわっとした」が原義。　［語法］　女子が行う膝を少し曲げてすぐに戻す挨拶の方法。自分を下へ位置させることによって敬意を表する。日本にはないが、西洋ではスカートをつまんで少し上に上げながら膝を曲げて偉い人に挨拶することがあるので、時代劇などではおなじみ。アルカでも同じ行動を取る。ただ、西洋よりも頻度が高く、偉い人以外にも行う。道端ですれ違った程度では会釈するに留まる。ləəɑ は女子しかしない。無言で ləəɑ しても十分それだけで礼儀正しい。ただ、笑顔が好まれる。

ləəᴅ　［交通］ルーム。二人乗りの幅の狭い車がアルバザードで流行りうるなら採用しよう。　［レベル］3　ꞁ1: 古 ləə（動く）　［文化］　ɪᴅɔ

ləəᴅc　［代詞］こちらの方→ ləɪdcɪ　［レベル］1　ꞁꞁ

ləəᴅc,ɑ　ᴅc　ɪl/ᴅɥə「物がない」

ləəᴅcj　［代詞］こちらの方々→ ləɪdcɪ　［レベル］1　ꞁꞁ

ləəᴅcn　［代詞］こちらの方の→ ləɪdcɪ　［レベル］1　ꞁꞁ

ləəᴅcnj　［代詞］こちらの方々の→ ləɪdcɪ　［レベル］1　ꞁꞁ

ləəᴅenj　［被服］フレアスカート、ルーメンス　［アクセント］lꞫəᴅenj　［レベル］3　ꞁ0:ləɑ ᴅɪnj（花咲いたスカート（末広がっていることから））→ ləəᴅɪnj → ləəᴅenj（ə に合わせて母音の高さを上に）　［語法］　ᴅeleʃ は ləəᴅenj の上位概念。　［文化］　アルティス教の女性服。スカートの一種。ルフィと同じ扱いで、女子の制服。ラーサにもレインスにも合うので、応用が利く。傘のように広がったひだのあるスカート。足が柄で、スカートが傘の帆に見える。また、花が咲いたようにも見える。具体的には、日本の女子高生のスカートに近い。ただしあれより長く、ひざ下まで来る。そのわりにストンと下に落ちず、傘のように広がった状態を保つ。ナディアまでは鯨骨をスカートに仕込んでいた。革命後は制服になったことから、廊下を歩くとき他人の邪魔にならないようにと、広がり方を抑えてある。日本の女子高生のスカートを長くし、ほんの少しだけ横の広がりをキープした感じの服。

ləəᴅel　［歳時記］メルセル前夜祭、メルセルの前、メルセルイブ、ルーメル、大晦日　［類義語］lecᴅel　［反意語］leɑcɪ　［レベル］2　ꞁ0:lənɪ/ᴅel

ləəd　［普通動名詞］暴力、強者からの一方的な攻撃　［反意語］ʃɔen　［レベル］3　古 :ləəd ← ləədɪ（かぶる）。背の大きいものがメルのような小さいものを押さえ込むとき、手で頭を押さえこめば十分だったことから。その手で覆う様子が「かぶる」ように見えたため。　［文化］
強者からの一方的な暴力はアルバザード人の嫌うところである。そのため、男が女を殴るのは日本と同じく良くないこととされている。ただし、「どうせアタシら女は殴られないから調子に乗ってもいいんだ」というような、女であることをダシにした場合は例外。　「女を殴ってはいけない」が常識化したのはセルメルおよびナディア以降。それ以外の時代においては、女性は強力な魔力を持っていて戦闘力が男性並みであったため、この常識は存在しなかった。当然のごとく男女間の決闘も行われた。

ləəddcɔ　［生物］受動輸送　ɥʃ;/　ꞁꞁ

ləədeʃ　［ネガティブ］［形容詞］一方的な、ワンサイドゲームな　［レベル］4　ꞁꞁ:ləəd/ʃe　【用例】　ɪn jcn φɪɪʃɔ ʃcu ləədeʃ. こういう一方的な試合は好

きじゃない。

ləəbe ［代詞］こいつ、この野郎、こんな奴、こやつ→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ləəbeȷ ［代詞］こいつら→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ləəben ［代詞］こいつの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ləəbenȷ ［代詞］こいつらの→ ləıdcı ［レベル］1 ɺɺ

ləəz,ȷzɷ leɑſ ləɷzc,ɑ

ləəl ［普通動名詞］移動、機動 ［動詞］ɥəl を ı に移動させる、移す、動かす、移動する ［類義語］ɔu ［レベル］3 ɺ0: 古 ləə（動く） ［語法］ ある点からある点へ動くこと。

Tıſ,ɑ oel

Tə,lɥ le lə.ȷ

Təſȷ,ɑu ıcn

Tən,lɥ あれの Tə の属格

Təəlı,ɑu hıɼn ȣ 赤

I

ı ［格詞］～に、～へ。与格。 ［格詞］～の神に祈る。この場合、必ず ı でなく ıl になる。ıl ȷıɥſe のように。祈りの言葉であることから古い用法が踏襲された。 ［レベル］1 ȷʔ: 制 :ıl。新生では接頭辞 ıl と区別するために短くした。 ȷeɥ,ɑ ıl,ɑu:ȷeɥ ıl:cl:ſe,ılſ ɑ では ȷeɥ が ı（～へ）と ȷɔɥ（～のほうへ）の両方を意味した。ɑu では ıl（～へ）ができて ȷeɥ は（～のほうへ）だけ意味するようになった。ȷzɷ では ȷeɥ と ıl が統合して cl ができ、cl が「～へ」と「～のほうへ」の両方を意味するようになった。 ［語法］ 母音で始まる単語の前では ıl になる。例えば ıl ın（私に）のように。 関係節で格詞が残存する場合も ıl になる。ſə eſ ɥcɷcı l'ın ɑcſıſ ᴅccȷ ıl(私がリンゴをあげたのはリディアだ) 【用例】 ɑcſ ı lə. 彼にあげて。 ɑcſ ıl ın. 私にくれ。

ı(ɺ) ［数学］hınſ の略。数式で使う。×記号に等しい。 ［レベル］2 ȷL 【用例】 ʔ ı ɱ eſ ȷɺ. ３かける４は１２。

ı(ʔ) ［化学］［接尾辞］物質を開いた状態（イオンや基）にする。開音節では n。 ［レベル］5 ȷL:ȷeɥen

ı(ɱ) ［文末純詞］～だな、～か、～だ。短い詠嘆。 ［レベル］1 ɑ:elſ;ɑɔueſ 古 ı:ı:ı:ı,ılſ ［語法］ ı 系列は自分に対して使う。e 系列は聞き手に対して使う。ı 系列を他人に使うのは男性的。目上に対しては失礼。同レベルであっても仲の良い相手でないと少しぞんざいな感じがする。 ＜ɷıɼ と ı＞ ı 系は詠嘆の比重が高い。ɷıɼ 系は判断や情報提示の比重が高い。 ſcȷee は情報提示性しか持たない。

ı(ɫ) ［言語］アルカ、現アルカ ［レベル］3 ɺ1

ıſ ［接尾辞］過去形の動詞語尾。開音節では ſ ［動詞］ɥəl だった。過去時制の繋辞。 ［レベル］1 ȷL: 恣意 【用例】 ȷeſ 行った ȷəſ 言った cnıſ 見た

ıſ(1) ［化学］［接頭辞］炭化水素を作る接頭辞。具体的な同族体を示す際は ıſ が落ちる。 ȷL:ɥɥəə

ıſ, ıı ［感動詞］あっあー、アッアー ［レベル］1 古 ［語法］ 気付いたときや何か指摘するときなどに出す声。アメリカ人がよくやる「オッオー」みたいなあの声。

ıſſı ［感動詞］良かった ［レベル］1 1ꟼ: 制 :ɥcɷcı: 語源不詳

ıſſc ［サール］アッティ ［レベル］4 古 ［文化］ 海の龍。アルデスとテュアの次男。ɑɥeſcȷ と人型を使い分ける。

ıſſcuıın ［軍事］海軍 ［レベル］4 ȷL:clᴅəȷ:ɥcɷcı: 海の龍アッティの軍

ıſſc ᴅeſe ［人名］アッティ＝メテ ȷL:clᴅəȷ:ɥcɷcı ［語法］ (ᴅel ɺɺ → ꟼʔ) カテージュ出身の男性航海士。ɥɷ 時代の生き残りのため、魔法が使えた。メル６２年、航海における船員の武装のため、ヴィルを使わない火薬銃を発明。メル６５年、テージュ海から発進し世界一周を達成。メル７０年、メティオ～ルティア～アルバザード間に貿易路を大成。本人が魔導師で空を飛べたことと、既に ɥɷ の時代に魔導師たちが世界地図を作っていたことで、航海はマゼランらに比べてかなり容易に行われた。

ıſſe ［感動詞］がんばって、頑張って ［動詞］ɥəl を励ます、励ます、はげます、鼓舞する ［レベル］2 古 :ɥcɷcı: 語源不詳 【用例】 ın ıſſeſ lı. 彼を励ました。

ıɱı ［料理］シリアル ［レベル］2 ȷʔ: 制 :ıɷlɱı（加工穀物？） 【用例】 ☆ ın ſıɑıſ ıɱı ɔ bıȷᴅ. 牛乳とシリアルを食べた：ȷəc を使うと bıȷᴅ にかかれず、len を使うと ıɱı にかかれないので、ſıɑ。

ıɱ ［形容詞］おいしい ［類義語］lınſ ［反意語］ɥııᴅɔ ［レベル］2 ȷɱ: 制 :ıɱɔc（良い味） 【用例】 ſə lcdl eſ ıɱ. このケーキはおいしい。

ıſᴅ ［動詞］ɥəl を ı に売る、売る、輸出する ［経済］［普通動名詞］輸出← ȷıſıı ſᴅ ［レベル］2 ȷɱ: 制 oıſı:oıſı 【用例】 ınȷ ıſᴅ lccſ ſəəȷ ȷı ȷıɼſe lını lcᴅ φclȣ それ、カルテで売ってお金にしない？ ın ſıəȷ lecȷlec e hıləhc l'ıſ ıſᴅ ȷcſ cᴅ ɑcȷ. 今日発売のハルヒの画集を買った。

ıſᴅſıə ［経済］売買 ［レベル］2 ȷL

ıſᴅlcln ［経済］売上債権 ȷL

ıſᴅɷcɥec ［経済］売り気配、売気配 ［レベル］6 ɺɺ

ıſᴅφıɥſ ［経済］販売費 ［レベル］6 ȷL

ıſᴅφcɔ ［経済］売上総利益、粗利益、粗利 ［レベル］6 ȷL

ıſᴅhɔcφıɥſ ［経済］販売管理費、販管費 ［レベル］6 ȷL

ıſᴅıɥ ［名詞］自動販売機、自販機 ［レベル］2 ȷL:ɥcɷcı:ıɥbıleſſ ［文化］ 無人サービスを嫌うので、有人窓口の補助として置いてあるくらいである。

ıſᴅɔl ［経済］商品 ［レベル］3 ȷL

ıſoııɥə ［死神］アトワーユ、天門→ ɔɥɷcın ［レベル］4 古 :ɥcɷcı:ıɥſe/ſoııɥə か？その場合、元はアトワーユがアルデの類と同一視されていたことになる。 ［文化］ トワーユの門番。銀髪に白いテーベを着ている。長い杖を持っている。アトワーユはセレス・トワーユ・ヴェーユを管理する。セレスを他人に譲渡するなど未曾有のことであったが、唯一アルデスとダルケス、ルフェルとフェルデンがそれを行ってしまった。これに憤慨したアトワーユはそれ以後、セレスの譲渡を不可能にした。

ıſı ［名詞］会議、集会、会談 ［レベル］2 ȷɱ: 制 :cſı から ［文化］ 円卓のテーブルに座って行うことが多い。アルバザードの論議の形式をきちんと守っているので、特に会社の会議だからといってふつうの論議と異なる点はない。議長が司会をし、発表者が発表をする。プレゼンも同じである。一通り発表が終わると質疑応答になる。それが終わると議長が結論を出す。結論が決まらない場合は候補をいくつか絞り、多数決で決定する。ただの発表会の場合は結論を出す必要がないので質疑応答の後、議長や発表者から簡単なまとめがある。最後に次回の会議日程や今後の活動内容などを決め、終了する。着席や退席の順は自由で、上下関係によって順番が決まることはない。 【用例】 ın ɑıȷſıſ ɑıl ıl ıſı. 集会に参加しなければならなかった。

ıſın ［普通動名詞］面接、面談、相談 ［普通動名詞］教育相談、二者面談、三者面談 ［動詞］ɥəl を ɔn について面接する、面接する ［レベル］3 ȷɱ: 制 :ıȷſ ［文化］ 就職は面接で決まる。面接に至る過程は単純で、募集が出ているところに直接赴き、面接の日取りを決めてもらう。大抵はその場で行ってくれる。面接の内容は企業によって異なる。そのため、履歴書は必要ない。ゆえに写真もいらない。その場で向こうが質問し、向こうが履歴書に書き込んでいく。面接で主に聞かれることはまず氏名、性別確認、生年月日、住所、経歴等である。そして社員かバイトのどちらを希望するかを聞かれる。その後、仕事の説明を受ける。ここで自給や仕事内容などを全て質問しておく。次に出勤してほしい時間を言われるので、出勤可能な時間を告げる。これで面接は大体終了である。尚、後から顔で選ばれると不公平なので写真は撮らずに終える。結果は合否に関わらず告げられる。また、大抵は迅速である。採用した場合、仮採用となるのが一般的である。仮採用のうちに実際に仕事をやってみて、その後本採用されるかどうか決まる。面接はわりと受かりやすい。むしろ仮採用で実際に仕事をやらせてみて向くかどうか決めることが多い。日本の仮採用はよっぽどヘマをしなければ大丈夫だが、アルバザードの場合、実質こちらが本試験であることが多い。仮採用で合わないと思えば落とされるし、自分に合わないと思えば自分から止められる。 【用例】 ɑcȷ, ıſın uın uc ɔn dcɔ. 今日は運送関係で面接が３件あるんだ。

ıſın(ɺ) ［化学］アルカン ［レベル］5 ȷL:ɥɥəə: 最も基本的な炭化水素の同族体ということで、できるだけ短く良い音を選んだ結果、リュウは接頭辞 ıſ を選んだ。接尾辞 ın も同様の理由。ただし、ın で ı が選ばれているのは理由がある。このあとアルケン・アルキンと不飽和が連続するが、どれも似ているのでアプラウトを用いるため。そのさい、一重結合であるアルカンが ı だと、続く二重三重については制アルカ様の n 対が利用できる。そのため、リュウは ın にしている。 ［語法］ 同族体は接頭辞 ıſ を取って古数に挿げ替えることで作る。本来１は ɑəı で２は ɥɔə だが、これらは頻度が高いので ɑı, ɥɔ としている。ただし３は uc にすると新生の数と同じになるので避ける。また、３はそこまで頻度が高くない。 例えばメタンは ɑıın、エタンは ɥɔın、プロパンは ucɔın となる。

ıſınſıȷ ［名詞］面接試験 ［レベル］4 ȷL:ɥcɷcı:ıɥbıleſſ

ıſınɷ ［動詞］ɥəl していた。過去反復相の繋辞。 ［接尾辞］過去反復相の動詞語尾 ［レベル］1 ȷL

ıſıᴅ ［動詞］ɥəl がいて安心する、安心する ［レベル］2 1ꟼ: 制 :ɥcɷcı:ıſſı 【用例】 nɔn ıſıᴅ ſɥə, lcɔn. 紫苑がいてくれてよかったわ。

ıſıd ［名詞］目印、浮標、タグ ［レベル］2 ȷɱ: 制 :ıdı（印） ［語法］ ɷɔlſ は広い意味。ıſıd は ɷɔlſ の中に入る。付箋やタグなど、文字などを書いて貼り付けるものを意味する。また、辞書のタグなども指す。柱に刻む目印は ıſıd にならない。 ［文化］ 本辞典のタグは［凡例］を参照せよ。 【用例】 eu ıſıd 目印をつける

ıſıc ［動物］川獺、獺、カワウソ ［レベル］5 1ꟼ: 制

ıſıez ［名詞］会議室 ［レベル］3 ȷɱ: 制

ıſc ［名詞］程度、段階 ［格詞］～の程度で ［接尾辞］～さ、～性 ［類義語］dɔcſ、cſɔ ［レベル］2 ȷſ:ȷeɥen:ȷlel:ȷcɷ:ſɔȷ ［語法］ 形容詞に付け、「～さ」を作る。また、名詞に付けて「～らしさ」を作る。さらに動詞に付けて「～性」を作る。開音節では ſc。 なお、ɷcſc（多さ）は通常 ɷə、ɷıɷıſc（重さ）は通常 ɷəɷ、ȷıcſc（大きさ）は通常 ſəȷ というように、極めて基本的なものには便宜上固有の単語を宛がう。 元となる形容詞は制で ııueſ や ɔɔueſ だったもの。hıcſ（低い）から「高さ」は作れない。 ɺ1 までは接尾辞としては cſ だったが、lcnı は lcnıſ になるなど短すぎる弊害がこれまでに報告されていた。そんな折 ȷıɥcſ の cſ とかぶることが原因で廃止された。 【用例】 ſə ȷcl ȷınſ ıl ıȷ ıſc. どこまで成長するのか。

ıſcȷ ［動詞］ɥəl だった。過去完了相の繋辞。 ［接尾辞］過去完了相の動詞語尾 ［レベル］1 ȷL 【用例】 ɑeȷȷı ıſcȷ ɥcφ. 学校が壊れきった。 ɥenȷıſcȷ 言い終えた

ıſcl ［名詞］展望、遠景 ［レベル］4 ȷʔ: 制 :ıſcclſ（遠くの光景） ［語法］ 「今後の展望」のような比喩的な意味はない。一望できる遠景のこと。

ıſcȷ ［エルト］アティス ［レベル］4 古 :ɥcɷcı ［文化］ 夜の空を司るエルト。若い女性の姿をしている。ルーンを助けてティアトを産ませる。

ıſcn ［化学］アルケン ȷL:ɥɥəə

ıſcl ［形容詞］［ポジティブ］［ネガティブ］近付きがたい、近寄りがたい、畏怖を感じるような、人を拒絶するような ［反意語］clıμ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ıſc（遠い）。ıſc は cſn のさらに前の語形。 【用例】 lı eſ ıſcl. 彼は近寄りがたい。 nı ıſcl 近づきがたい心＝人を拒絶するようなオーラを出している心 ſe cn cnȷ nɔınɦ nɔn ſcl nı ıſcl ɔ ſcſc enſɔ lı ıſə ſıſſı neſıl ucnınel. 目を合わせないで！ 固まった心。一人ぼっちで諦めて（『想像フォレスト』）

ıſcı ［地名］アティア海 ［レベル］3 1L: 制 : ıſſc/ılı ［文化］ アンシャルの西にある世界第二位の大きさの海。大西洋に当たる。

ıſcc ［ユマナ］大西洋 ［レベル］5 1L

ıſcclc ［名詞］『幻想話集アティーリ』 ［天文］白蒼の月 ［経済］第一四半期 → uelllelſ ［伝統色］アティーリ、青白い：存在：＃Ｂ６ＦＦＦＦ：φcl ɷcı ［ユマナ］Ｄｕ ｂｌｅｕ ａｕ ｃｏｅｕｒ。アルバムのひとつ。ウィスパリングボイスを多用した曲が中心。このｂｌｅｕはむろん ıſcclc の蒼から来ているが、フランス語にはａｖｏｉｒ ｄｕ ｂｌｅｕ ａｕ ｃｏｅｕｒで「物憂げな」や「物悲しい」という意味の成句があり、色とともにアルバムの曲調を示している。なお、ｏｅは本来合字。 ［人名］アティーリ。使徒らによるリディアの愛称。自分では使わないし、どちらかというとそう呼ばれることに不快感を示す。かといって別に悪口ではない。意味は「リディア」の名と同じ。それぞれリ・ディ・アの音が古アルカでア・ティ・リに対応している。また、対応語は片方が長音を含むという規則からアクセント音節が長音化して、アティーリとなったにすぎない。どの使徒が付けたかは不明だが、恐らくクリスやオヴィではないだろうかと思われている。 ［レベル］3 古 : 上記から分かるだろうが、もとはリディアのアナグラムとしての人名が最初の用法。その後、神話の名前になった。人名をそのまま用いるというのは、μɷ 時代を以前はリディアと読んでいたのと同じセンス。 ［文化］ アルティス教の神話群のこと。ヴァステ、μɷ のような戦史風のもの、フィアル、アルテムのような物語風のものがある。制まではアティーリという名の本があったが、イルムスと区別するため、新生ではアティーリという本が単体であるのではなく、μɷ などの神話小説をまとめたシリーズのことを指すようになった。

ıſcen ［接続詞］ıſc。～の程度の。 ［レベル］3 ȷ0:ᴅelcɷcı lceμ

ıſɔ ［経済］商標、トレードマーク、ブランド、レーベル（レコード、ＣＤ、ＤＶＤなどの音楽・映像ソフトにおいて、分野・市場別に設けられたブランド。または出版物のレーベル） ［レベル］3 10: 制 :ıſɔıdı(商品のマーク) 【用例】 lecl ıſɔ 商標登録する

ıſɔl ［生物］唇の上、口の上、鼻の下 ［反意語］ıȷcɷ ［レベル］2 ȷ0:ıl/ſɔı/ləɔ（口でも鼻でもなく（その間））

ıſɔn ［化学］アルキン 1L:μɥəə

ıſɔᴅ ［言語］フォント、書体 ［レベル］5 ȷ0:ıſɔe/hıd 参考 hıdɔ:1ſ: 制 :hıd。hıd,hıdᴅ と来ているので、hıdɔ だと紛らわしいため。 ［語法］ ・セットとウェイト セット（字幅）は ɷəɷ。ウェイトは ucın。 訳語が言語によって異なるので注意。 日：英：幻 太い：ｂｏｌｄ，ｂｌａｃｋ：ucen 細い：ｌｉｇｈｔ：cun 広い：ｆａｔ，ｂｒｏａｄ：sıl 狭い：ｌｅａｎ：lclı ・セット ９種。 エクストラコンデンス：ɥəᴅelc コンデンス：lclı リーン：ȷclɑ ナロー：hınɔſ スタンダード：lecᴅ ワイド：ᴅıcſe ファット：dɔɑſe ブロード：oɔlſ エキスパンド：sıl ・ウェイト ７種。 シン：ɥənɑc ライト：dclɔſſe レギュラー：cun ミディアム：ȷlɔl ボールド：ucen ブラック：lınuc ヘビー：ıluc ・スラント ローマン、立体、正体、正字体：lſıᴅ オブリーク：ȷınl。ローマンを右に傾けたもの。 レフティ:ᴅed。ローマンを左に傾けたもの。 イタリック:nclȷ。ローマンとは別途のデザインで傾けたもの。 ・書体 幻京：ıμnınſ 夕月：ınsəμen サンセリフ：ȷınſıns スクリプト：ȷıuınſe ブラックレター：ınse セリフ：ɔlcucı オールド・フェイス：ᴅenlel トランジショナル：lcɔnlcın モダン・フェイス：uılφıμᴅı スラブ：səμecu ・語順 幻：ſcnı ıμnınſ ȷınſıns ȷlɔl lecᴅ lſıᴅ 日：幼女書体 幻京書体 サンセリフ ミディアム スタンダード ローマン 日：書体名 フォント名 ウェイト セット スラント ――の順で並ぶ。 ［文化］ → hıd μɷ でセレンが増やし、また体系付けた。書体そのものはアルテムでマレアがいくつか古アルカのものを作っているが、字類、字種などといった体系はなく、書体という概念もなかった。単に字の書き方のバリエーションでしかなかった。 セレンは重力活版と金属活版の時代に生きたが、フォントの雛形を最初重力活版で行ったため、このような名前になった。 ＜地球での歴史＞ ９０年代にリュウが外字として幼字を作成。現在から見れば非常にクオリティの低いデザインであった。０１年にフゥシカが制アルカプロトタイプ用のいわゆる心電図文字を作成。 ０２年ごろにセレンが ſcdhıd や ɷcen を作成。ſcdhıd は印刷用で、「雑字」という意味。ɷcen は画面表示用で、「ギザギザのない」という意味。当時はフォントにビットマップが付いていなかったため、ſcdhıd のような曲線の多い字を小さい級数で画面に表示させるとガタガタした。そこで直線的な ɷcen を作り、画面表示用とした。 ０３～０５年はセレンがデザインをしつつ、恋人（後の妻）がレタリングをし、弟がフォントを作成するという体制ができあがっていた。ビットマップ付きの明朝体の半角カナを潰して幻字を幻字順に入れた明朝 ſıdhıd が作られた。ſıdhıd は「正確な字」という意味。表意幻字（幼児）もこの間に作られた。 ０７年ごろからネットユーザーによるフォントが急速に増えだした。 ０８年ごろに新生アルカができると、明朝 ſıdhıd は半角カナでなくアルファベット部分を潰した文字になった。 １０年に幻京書体が生まれ、今までのすべてのフォントが公的地位から退けられた。 １０年にセレンは ſcnı(lıμɷcnıl) と lınſcı を作成。セレンにはデザインのセンスがなかったため、完全にゼロの状態から図形の組み合わせだけで作成した。字形や字の大きさや位置などはすべて計算しつくされてできている。
このころから明朝系のような日本語混じりのフォントは使わないようになり、欧文フォントとしてフォントを作成するようになった。ひとつ目の理由は、フォントを文書表示用でなくＰｈｏｔｏｓｈｏｐなどでの画像処理用に用いる機会が多くなったため、容量の軽い欧文フォントが選ばれたということ。もうひとつの理由は次のとおり。当時使っていた辞書ツールのＰＤＩＣ Ｕｎｉｃｏｄｅにおいて、表示用フォントに lıμɷcnıl を指定した場合、アルファベット部分だけが幻字になり、和文については化けずに表示されることが発覚したため。これにより、わざわざ日本語文字混じりの重い明朝系フォントをユーザーにＤＬさせる必要もなくなった。 １１年にユーザーの協力を得て基本書体である ɑleɷclınȷ が出来上がる。

ıſɔμ ［動詞］ɥəl していたところだ。過去経過相の繋辞。 ［接尾辞］過去経過相の動詞語尾 ［レベル］1 ȷ0 【用例】 μenȷıſɔμ 話していた

ıſɔlıȷ ［地学］［天文］アトラス、幻天 ［形容詞］地球規模の、国際的な、インターナショナルな ［組み数字］3/9 ［レベル］2 ɑ 古 : 星そのもの。海（ı）と森（ſɔ）を人（lı）が砂（ȷ）に変えてしまったの意。 ［文化］ カルディアにおける地球に相当する惑星。 異世界カルディアは現実世界の ɥəᴅını と双子宇宙の関係にあるため、アトラスと地球は酷似している。 ・外観 宇宙規模で見るとアトラスの環境は地球と同じである。 アトラスは太陽系の惑星である。衛星は月が一つある。
大きさは地球と同じである。アトラスは地球同様、酸素や水に富み、生物が存在する。基本的には地球と同じである。 ・内観 アトラスの内観は地球と違う。大陸の形や位置が異なる。しかし、太平洋に当たる大きな海洋があることや、北半球に大陸が集中している点は同じである。 大陸は６つある。アルカット・ファベル・ケヴェア・レイヴァ・サヴィア・アデントである。これらはそれぞれ地球で当てはめるとユーラシア大陸・アフリカ大陸・南アメリカ大陸・南極大陸・北アメリカ大陸・オーストラリア大陸に当たる。とはいえ、アルカットとユーラシア大陸の位置が同じというわけではない。およそ似たようなところに位置するという意味である。 アルカットは最大の大陸で、更に東と西に分かれる。順にインサールとアンシャルである。尚、世界最大の国家アルバザードはアンシャルにある。 ・世界地図 以下の面積関係の話を理解するために ɑcıl を参照すること。 ・面積 モルワイデ図法を利用して海洋面積と陸地面積を算出し、面積比も算出した。 表面積：ᚠOLLᚥLOOO lᴅ」 海洋面積：ʔᛊᛏᐃOᐃᛊ1ʔ.ʔᐃᛏᛊᚥʔ lᴅ」 陸地面積：1ᚥᚥ1ᚥOʔᐃ9 lᴅ」 面積比：0.ᛏ19ʔᚥʔᛏᛏ（海）:0.ȷᐃȷᛊᛏᛊᚥ9ᛏ（陸） ・陸と海の面積比 上記のとおり、地球と同じく海と陸の比率が約 9:ʔ である。地球より1% ほど海洋面積が広い。 lecuı は南極よりだいぶ小さく、ほとんどの大陸も地球の大陸より少しずつ狭い。 しかし地球に比べて巨大な島が多いため、結果的に陸と海の面積比はほぼ同じである。
陸と海の面積比が 9:ʔ であるのは人間型の生物が生きる上で必然の設定である。 もし陸と海の面積比が反対の ʔ:9 であれば、その星の気候は人間型の生物の住めるものではなくなってしまう。 ・各国の面積や各大陸の面積 ılıſ や ıμbızıμɷ など、それぞれの固有名詞を参照すること。 【成句】［婉曲］lənı ıſɔlıȷ 生まれる、産声を上げる、生を享ける ［婉曲］leeu ıſɔlıȷ 死ぬ、この世を去る

ıſɔlıȷſcᴅᴅeᴅ ［地学］大圏→ ſcᴅᴅeᴅ ȷ0: アトラスの大円

ıſɔlıȷſələ ［地学］地熱 ［レベル］5 ul;/ ȷʔ

ıſɔlıȷlılə ［政治］［法律］国際法 ［レベル］6 1L

ıſɔlıȷlılſ ［天文］天動説 ［レベル］4 1L:μcɷcı: 地動説と逆に考えないよう注意 ［文化］ → ɑıılılſ

ıſɔlıȷlezɔ ［天文］地軸 ［レベル］4 ȷ1

ıſɔlıȷlıᴅeeμ ［歴史］幻天創世記 ［レベル］5 ſᴅ;/ ȷʔ

ıſɔlınſcȷ ［名詞］文明 ［レベル］3 ȷȷ:ıſɔlıȷ/ınſcȷ ［語法］ 元は神や悪魔と対比した上での「ユーマの一族の文化」という意味だったが、やがて未開地に対する進んだ思想や技術や文化の意味に変化していった。 【用例】 ſcl ıſɔlınſcȷ lce 偉大な文明を有する

ıſɔlcȷ ［ユマナ］地球 ［レベル］3 制

ıſɔc ［経済］コンビニ、コンビニエンスストア ［レベル］2 古 :ȷɔμn:μcɷcı: アルシェでは sınſɔc, ɷenſɔc（コンビニ）で、「終わらない」が原義。ソーンでは ıſɔc。ソーンを採用した。 ［文化］ 日本よりは数が少ない。

ıſɔe ［物理］重力、引力、万有引力 ［魔法］アトエ。重力を操る時魔法。だが μɷ では終盤でリディアも使ったため、黒魔法に近いといえる。リディアは重力を逆さにして、敵の飛空挺が街に落ちるのを防いだ。また、重力を球状にして、敵を球の中に入れることで封じ、押しつぶして殺す効果がある。 ［類義語］leſucın ［レベル］3 定 :ıſɔlıȷ

ıſɔeſıleᴅıſc ［物理］重力加速度 ［レベル］5 1L

ıſɔeɥɔl ［物理］スイングバイ 1L:「重力を利用して」

ıſɔel ［地学］クンツァイト ［レベル］6 1L:ıſɔe。μɷ 以前の発見なので、リチウムからは造語しない。 ［文化］ 重力を操る魔石。ミュシャクから地下の国ガーヴィへ行くときにメルが使用した。

ıſɔelı ［企業］アトエラ ［アクセント］ıſɔelᛏ ȷ1 ［文化］ 凸版印刷に相当する企業。

ıſɔeɔu ［物理］自由落下運動 ［レベル］5 1L

ıſe ［名詞］店 ［レベル］2 μɷ;ıſəlı（売買場所） 1ᛏ: 制 :ıſəlı（売買場所） ［文化］ スーパーでもゲーム店でも本屋でも同じだが、代価を払って物を得る販売店は全て日本と変わらない様式である。店に入ってカートを持つ。店を歩いてほしいものをカートに入れる。店の会計か外の中央会計を使ってアンセか現金で支払う。という流れである。
使ったカートは貯め場に置いておく。カートは会計近くにためておく。店員が後からまとめて元に戻す。自分で買い物籠を持参する。ビニール袋は有料。

ıſeləcl ［料理］外食 ［レベル］3 1L:μcɷcı:ıμbılelſ ［文化］ 外食自体あまりしない。自分で作る方が安上がりで栄養価も高いからである。外食は味を追及するため、栄養のバランスが偏る。だからあまり外食はしない。ただし、夕食は外食率が高い。 【用例】 ləc ſınſ μı 外食す

る：ıʃeɿəcl を使わない。

ıʃeɟ ［動詞］ɥəl だった。過去継続相の繫辞。 ［接尾辞］過去継続相の動詞語尾 ［レベル］1 Ɉ1

ıʃeɟ(ɺ) ［経済］小売、小売り、こうり µɑ;ıʃe/ɟɔ Ɉʔ

ıʃeɟuenʃ ［経済］小売業 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉʔ

ıʃen ［生物］アテン、幻躰、げんたい ［反意語］eʃın ［レベル］4 1L:ıµʃe/eµn lınʃcɟ: ［語法］ 超ドメインの１つ。神話系の存在の総称と捉えても良い。 ıʃen に含まれるのは、ıµʃe, elʃ, ɟııl, ɟıµʃ, eµʃ, ɟııµ, ıµlı, ıµɑe, ʃeeᴅɟ, ɑeeᴅ, ıɑel, ɑelɑcı, ɥəəᴅı, eµn e ɥəəᴅı である。 これらの中には科、属、種が含まれている。今あげたものは種とは限らない。 ıʃen は超ドメイン (ıᴅıʃ) の一種であるが、その下は一気に科まで降りていく。門などはない。つまり、ıᴅıʃ の下は eµn である。「ユーマの一族」のことを eµn e ɥəəᴅı と言っているが、それを見て分かる通り、eµn は科を示す。 ıᴅıʃ（超ドメイン）:ıµʃe eµn（科）:ɟıµʃ（神科）, lcnɟ（悪魔科）, ɟeleɟʃ（魂科）, lın（ユーマの一族）, ᴅcµɔɿ（lın 以外） ʃıʃɟ（属）:eµʃ（白幻神属）, ɟııµ（黒幻神属）, ɑeeᴅ（悪魔属）, ıɑel(こけら属), ıuelınʃ（死神属）, lınʃıʃɟ（ユーマの一族） lcʃe（種）: elʃ, ɟııl, ʃcɿnɔ, ıµɑeɟ～, ʃeeᴅɟ, ıɾᴅı, ᴅelʃcı～, ɿıclı, ɑıczıclıc, ueᴅc～, ɟıe, lınueᴅ, lcɿc～, ɟeµen, µcɑcı～ なお、亜魔族のようなものは亜種ないし変種となる。 ıʃen 神話系存在の超ドメイン ├ᴅcµɔɿ 非霊科 │├lınɟ 天使 ││├ɟıµʃ 神科 │││├eµʃ 白幻神属 (elʃ エルト神、ɿıµzıɟ カルザス、ɿɔnɔɔʃe コノーテ、lɑeµ ルフェルなど) │││└ɟııµ 黒幻神属 (ɟııl ʃcɿnɔ ティクノ、dɔen ポエン、ıµɑeɟ アルデスなど) ││└ɟeleɟʃ 魂科 ││○├── lənɔ ルノ ││○├── ıʃoıııɥə アトワーユ ││○└ıuelınʃ 死神属 ││○○├ɥəlın 誘燈種 ││○○├ɑcıɟeʃ 夢喰種 ││○○└ɑcıɟɔᴅʃ 夢織種 │└lcnɟ 悪魔科 │○├ɑeeᴅ 悪魔属 │○└ıɑel こけら属 └lın 霊人科、ユーマの一族 ○└lınʃıʃɟ 霊人属 ○○└lınlcʃe 霊人種 eʃın アルテ派生でない生物の超ドメイン。一般的な動物、植物、菌、古生物。

ıʃenı ［植物］ナナカマド、七竈 ［レベル］5 µɑ; 秋に赤い実をつける。 ılʃ では ıʃenıhıɑı だが、アルカでは短縮されて秋を意味する ıʃenı で表すようになった。 Ɉɺ

ıʃenı,ılʃ ılcɟ

ıʃenıhıɑı,ılʃ ıʃenı

ıʃeu ［物理］電流 ［名詞］一般的な意味での電力 ［レベル］4 古 :ıʃeu ← ılʃeu

ıʃeueφı ［名詞］外弁慶、店弁慶、モンスターカスタマー µɑ;/ Ɉʔ ［語法］ ueφı

ıʃeɑɔnʃ ［経済］商店街 ［レベル］3 µɑ;/ Ɉʔ

ıʃelɔcʃ ［経済］店舗 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ıʃeılɔ ［娯楽］店屋ごっこ、お店屋さんごっこ ［レベル］2 µɑ;/ Ɉʔ

ıʃeeᴅɟ ［天文］［単位］天文単位 ul ɈɈ:ı ʃeeᴅɟ（テームスまで） ［文化］ アトラスと太陽の平均距離のこと。テームスの住処が太陽であることから。

ıʃə ［名詞］ここ、この場所、そこ、その場所、その場、この場 ［副詞］ ここで、ここに。ɿı ʃə,ı ɿı ʃə の略(＝ここで)。el 不要、ɿı 不要。 ［化学］ オルト ［類義語］ɑles、beɿe ［反意語］lɥə ［レベル］1 古 : 近い beɿe ,ɑ bıɔɿe,ɑu:lıʃə:ɑles:ɿɔɿı,ılʃ ［語法］ ɿı ʃə の略として使うときは ɿı を余計に入れないように注意。ɿı ʃɔʃɔ は ıʃə になるので、cnıʃ lı ɿı ɑeɿlı は cnıʃ lı ıʃə になる。要するに ɿı や ı を取ること。lɥə でも同様。 ＜好感形と悪感形＞ 0 : ＋ : － ıʃə:ɑles:beɿe lɥə:lııɑ:ɔɿel ıʃə（ここ）の好感形を ɑles（こちら）、悪感形を beɿe（こんなところ）という。 lɥə（あそこ）の好感形を lııɑ（あちら）、悪感形を ɔɿel（あんなところ）という。 三人称の好感形・悪感形と合わせて覚えておくと良い。 ɟınʃ ɑcınɟ nın ɑles, µeʃ（こちらにおかけくださいませ） ıµʃe, lcnɔ nɔın ɟeʃıʃ ɥə leebe uıɟ ɔɿelɾ（あぁ、私の可愛い息子が戦争なんかであんなところで死んでしまうなんて！） 【成句】 ɑµeᴅ ıʃə ここらへん、ここら辺、ここいら。ıʃə ucı は文法的には正しいが言わない。 【用例】 lı ᴅc ıʃə. 彼はここにいません。 ʃe ıµʃ ıʃə. ıʃə eʃ nılʃ. ここで魔法を撃たないで。お城の中だから。

ıʃə,ɑµɑ ɑµeᴅ

ıʃəs ［言語］敬具 ［レベル］4 Ɉ1:ıʃə/sc（手紙を「ここまでで終わり」と指の代わりに示すための言葉）

ıɿ ［文頭純詞］どうやって、どのように、どのくらい。方法や程度を尋ねる副詞で、主に文頭に来る。 ［代詞］どのような、どんな ［感動詞］ıɿȣ 単体で、「どうだ？」「どう思う？」などの意味。 ［レベル］1 ɟeµʃ;lə ᴅcᴅȣ 1ⅅ: 制 ᴅɔɿɔ:ᴅɔɿɔ ［語法］ 指示詞の場合は前置すること。ʃɔ の仲間と考える。ıɿ zılȣ（どんな風にヘンなの？）、ıɿ ɑcl（どのくらい長いの？）のように。ıɿ は様態の ɥən、量の ɑə、程度の ıʃc などを問うことができる。 【成句】 ʃ eʃ ıɿȣ ʃ はいかがですか、ʃ はどうですか。勧誘に相当。ʃ は主に名詞。 ıɿȣ どうだ？、どうですか？ ɑə ıɿ どのくらい（の間） 【用例】 ɑɔl{ɑə} ıɿ el ɥɔl ɟen ʃə ɟec. どれくらいの間使えるだろうか＝どれくらい持つだろうか。

ıɿ(ɺ) ［言語］制アルカ、遠アルカ ［レベル］4 Ɉ1

ıɿʃ ［動詞］ɥəl と会う、会う、謁見する ［生物］受精 ［レベル］2 ɟeµʃ 1ⅅ: 制 : 古 :cʃe（見る関係） cʃe:cʃe:cʃe:ᴅıɥələ,ılʃ ［語法］ 会議は ıʃı。会合は cʃı。デートは cʃe。単に会う場合および左記すべてを広く指すのが ıɿʃ。 【成句】 ıɿʃ clcı 一期一会 【用例】 ʃeı ın en ɿeʃ ıʃə, ɟɔn ın en ıɿʃ lı. そこに行ってなかったらわたしは彼に会えなかったろう。 lı ɿəʃ ʃə lel lı ıɿʃ ɟccı ın. 彼は私に一度会ったことがあると言った。 ın scnɟıʃ ucl ɔᴅ nɔɟ ıɿʃ ıl lı. 彼にいつ会えばよいか分からなかった。 ın ıcl ıɿʃ ɿe hıɾn cᴅ ɾəəlɟ. 私は時々夕方に友達に会いに行く。 elʃ ᴅɔɿ nɔɟ, lını ıɿʃ ɟııl uıɑel. ɟııl ᴅɔɿ nɔɟ, lını ıɿʃ elʃ ɿı ɑcı. エルトは眠る。早くサールに逢うために。 サールは眠る。夢でエルトに逢うために。 (µenɟ ꟼɈʃ) 一年に一度の逢瀬に対する男女の考え方の違いを描いている。文字数が上下段で一致している。なお、表現技法は対句。

ıɿnıɟı ［生物］受精卵 ［レベル］5 1L

ıɿʃı ［名詞］名声、名誉、栄誉 ［レベル］3 1ⅅ: 制 : 恣意 【用例】 ʃıɑ{lcᴅ} ıɿʃı 名声を得る

ıɿʃıɿı ［人名］アクタカ ［レベル］5 古 ［文化］ µɑ でアルシェの使徒をたぶらかした悪人。その存在は不明なところが多いが、悪魔族でも神族でもないようす。アッカイを復活させ、アッカイに殺された。 小説版アンクノットでは２人の男とされ、海底の巨人を復活させた。

ıɿʃcᴅı ［地名］アクティマ海、アクティマ湾、アクティマ ［アクセント］ıɿʃc ᴅɿ ［レベル］5 ɾu;ıʃʃc/ᴅıcn。海の竜アッティの身体のように見えたことから。 Ɉʔ ［文化］ ɟeµeµcı セレリア海のこと。

ıɿıc ［死神］アッカイ ［レベル］4 古 : 海（ア）の巨人（カイ） ［文化］ テージュ海に埋もれていた巨人。アクタカが目覚めさせ、復活させた。クリスタルのヴィードから生まれた生き物。エルトやサールの血脈ではないため、ルノなどと同じ魂科になる。死神のようなことはしていないので、死神族ではない。しかし単体なので、別の族名を作らない。 アズゲルの時代に、シフェルの民が惑星のクリスタルの力を利用せんとした。しかし魔導師の彼らは宇宙空間に滞在はできても、惑星間の長距離を短時間で移動できない。そこでまず月に行き、クリスタルを手に入れ、それを原動力として動く魔導船シェルタージュを作った。しかし失敗し、ルティア付近の海に沈没。 クリスタルが落下した衝撃で力を開放し、ıɿıc が生まれる。周辺のシフェルらに大打撃を与える。アッカイは世界の海を渡ったが、やがてテージュ海で封印される。 後に µɑ でアクタカがアッカイの封印が解く。それをアシェットが倒したことで、アッカイのヴィードがクリスタルに戻る。その結果、シェルタージュの封印も解ける。アシェットはシェルタージュを利用し、惑星間を高速移動した。

ıɿɔnʃlɔ ［幼児］［感動詞］よっこいちょ ［アクセント］ıɿɔnʃlϿ ［レベル］2 古 :µ ecɥə ʃ'ıµle(ız lclcı ɔuıen ᴅelȣ)

ıɿɔnlɔ ［感動詞］よいしょ ［アクセント］ıɿɔnlϿ ［レベル］2 古 ［語法］ 何拍で動作を終えるかでいくつかに分かれる。ıllɔ は二拍。ıɿɔnlɔ は三拍。ıɔɿɔnlɔ は ı で一回切れる発音で、四拍。いずれにせよ動作の起動で力を入れるため ı という息の吐きやすい音を使っている。動作の途中は最初と違って爆発的な力でなく持続的な力が必要となるので力を出しやすい奥に篭った腹にたまりやすい ɿ や ɔ の音を使っている。最後は動作を終えて力を抜くが、この段階では息が奥歯の側面にぶつかりながら抜けていく。口が疲れて半開きなので摩擦音になりやすい。先ほどまで奥のほうで長音していたため、ひきづられて ɟ でなく l になる。こう考えるとかけごえにもなぜそういうかという理由が見えてくる。全く適当な音で構成されているわけでもない。逆にそれでなければだめだというほどでもない。これ以外にもかけごえはありえただろう。だがだからといってなんでもいいわけではなく、多かれ少なかれこれと似た語形ではあったろう。人間の発声器官はどの国でも同じなのでこれと似たようなかけごえは他にもあるだろう。たとえば日本語のどっこいしょも多少似ているといえる。

ıɿlɔ ［料理］シーフード、海の幸、海産物 ［レベル］3 1ʃ: 制 :ıɿılɔn（海の食べ物） ［文化］ カテージュで盛んだが、そもそもアルバザード自体漁業が盛んでないので、規模は日本の足元にも及ばない。 北方からも輸入しているため、食べる内容は日本とあまり変わらない。海藻や蛸も食べるし、若布、海苔、昆布、鮭、鮪なども食べる。鯨もシーフード。

ıɿɟ ［建築］床、フローリング ［建築］フロア、階 ［反意語］ɟcıs ［レベル］2 1L: 制 ıɿɔ（地面）から新アルカの時代に作った。 ［文化］ 日本と同じで地上階を１階と数える。欧米式ではない。 【用例】 ɿe ıɿɟ hıl 上の階に行く

ıɿɟɿɔµl ［運動］背筋、バックエクステンション、バック･エクステンション、エビぞり、エビ反り、海老反り ［レベル］4 µɑ;/「床で仰け反る」 Ɉʔ

ıɿɟɟlɔʃ ［数学］底角 ［レベル］4 Ɉ0 【用例】 ıɿɟɟlɔʃ ʃ'coıɿıɟ eʃ ɿɔɿ ı lɔɿ. 二等辺三角形の底角は互いに等しい。

ıɿɟɟcı ［音楽］フロアタム ［レベル］6 Ɉ1

ıɿɟɑɔlʃ ［俗語］床オナ µɑ;/ Ɉⅅ

ıɿɟµɔɿ ［運動］腕立て伏せ、腕立て、プッシュアップ ［レベル］4 1L: 床を押す 【用例】 el ıɿɟµɔɿ ıl ɿɔn 1ⅅ scn ʃıʃ ɿɔ ɔl ʃcl lıl sıᴅ ucen. 胸をつけたいなら、毎回１４秒かけて腕立てしな。

ıɿɟzɔl ［音楽］コントラバス ［レベル］4 Ɉ1: エンドピンで床に立てる

ıɿɟɔᴅ ［名詞］ノウハウ ［レベル］4 µɑ;ıɿ/ɟɔ/ɔᴅ「どのようにするかの方法」 Ɉⅅ

ıɿn ［哲学］思想、主義、イデオロギー、イズム、発想 ［レベル］3 制 : n 対のままでも意味が cɿn と誤解しえないため、n 対を解体しない

ıɿnın ［名詞］主義者 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉⅅ

ıɿᴅ ［化学］石油 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ıɿceᴅɟ（大地の油） 【用例】 ıɿᴅ ɔµ ɥɔll. 石油が枯渇しつつある。 ɑcʃ{eu} ıɿᴅ 給油する

ıɿᴅʃeıd ［化学］［医療］ワセリン、バセリン、ヴァセリン µʃ;/「石油軟膏」 Ɉʔ ［語法］ 石油を分留して得られる複数種のアルカンからなる軟膏基剤のこと。 ［文化］ µʃ 末から ul 前期にかけて大量に使用されていた石油の廃棄物や重油の廃棄物を有効活用をする為に研究によって開発されてきた。

ıɿᴅɿıɑ ［地球の国名］クウェート ［レベル］6 1L: 石油の国。湾岸危機のころのイメージから

ıɿᴅφıµʃ ［環境］原油価格、石油価格 ［レベル］6 1L

ıɿᴅɾıscɿ ［環境］石油危機、オイルショック ［レベル］6 1L ［文化］ ヴェレイで起こったため、革命で石油の使用が制限された。

ıɿᴅzɔᴅd ［環境］石油資源 1L

ıʅᴅı ［名詞］ディーゼル ［レベル］5　1ʕ: 制 :ıʅᴅ

ıʅᴅıb ［化学］原油 ［レベル］4　1L 【用例】 ıʅᴅıb eᴅ ɑılʃc ɷɔʃel. 原油が高騰する。

ılɥe ［電算］プログラム、コンピュータプログラム ［電算］ソフトウェア、ソフト→ enʃc ［レベル］3　ɥɷ:ɥɥəə;ınlɥ　1L: 古 :ınlɥ（リュウの作ったプログラム）【用例】 lıɷ{ılʃ} ılɥe プログラムを組む

ıʅl ［名詞］跡、痕跡、爪痕、爪跡 ［数学］軌跡 ［類義語］ʅeɑɔn ［レベル］2　1ɱ: 制 : 古 :bɥıʅʅıl（遺跡）【用例】 ıʅl le ʅeʃ euıʃ{lıɑıʃ} lı ıʃə, ɹɔn ʅeʃ lı ɑɥeᴅ ıʃə. ネコが通った跡があるから、この辺にいるはずだ。　ın ʃclcʅ ıʅl e lıȷ ᴅın ʃclıʃ ʅeʃcnȷ ᴅeȷı eueȷ zcɷ ı oıu ʅɔnʃ ɷılᴅeȷ ʃə ʅɔn nıȷʃ. 肘をついてうたた寝してたら、手の跡がついた：日本語は「肘をつく」でポーズが説明できるが、アルカではできないので詳しく言う必要がある。

ıʅʅec ［動詞］ɥəl を追尾する、追尾する、追跡する ［普通動名詞］追尾、追跡 ［レベル］4　Jʔ:1Δ に踏襲の意味で ʃcs ができたが新生化にともない ʃcs が消えた。J1 年に ıʅʅec で踏襲の意味ができた。Jʔ に ʃcsueʃ を検索したとき、ʃcs がないことに気付き、ʃcs に踏襲の意味を与えた。このときユーザーから ıʅʅec は追尾として使ったどうかという提案を受け、これを受け入れた。

ıʅueʃ ［言語］痕跡語、混成語の仲間、混成、かばん語 ［類義語］ınʅleʃ ［レベル］5　1ʕ: 制 ［語法］ → ınʅleʃ　ᴅelʃ の語源は cᴅel/ʃeeze であるが、cᴅelʃeeze は長いので一部を削って ᴅelʃ にした。ᴅelʃ には cᴅelʃeeze の痕跡があり、痕跡でできているともいえる。こういった、合成語だったが短くするために痕跡を残して単純語になったものを痕跡語という。アルカには痕跡語が多く、よく使う複合語は積極的に痕跡語になる性質があり、結果的に文全体の長さが短くなる現象が起こる。これは聞き漏らしに弱いので、口語では多少不便なことがある。聞き漏らしを防ぐためにしばしばＣＶＣＣの音節を２つの短音節に区切ることがあり、ＣＶＣＶＣなどとして、シュワーのＶを挿入することがある。この現象は後期制ごろから始まったものである。中期までの音声を聞くと英語のように音が早く、子音部が詰まって聞こえることが多い。新生では短音節を好む傾向が強くなり、特にアクセントが完全自由化した 1L 年末ごろには顕著になってきた。従って、痕跡語はしばしばＣＶＣＣの語形を持つものの、実質２音節のように話されることが多い。　この長所は語形がドイツ語のように長大にならず、言語の運用が楽な点である。複合語は長いし、そのまま組み合わせるとたいてい発音しにくい。アンクレットは発音しにくいものは自然と排他されてきた。　短いほうがいいが、同時に短すぎても言い間違いで困るため、適度な長さがあったほうがいい。そして発音しやすいほうがいい。そういう観点でアンクレットはできている。　一方、難点は覚えるのが難しい点である。しかしすべての概念が単純語というわけでもないから、ネイティブとして生まれればこの点はなんら問題がない範囲である。

ıʅɷclɑıc ［医療］有痕灸　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅcᴅ ［歳時記］穀雨 ［名詞］６時 ［組み数字］６／２４ ［レベル］3　J0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ıʅeʃ ［名詞］アクレット ［レベル］3　J0:ıʅʅ/ʃe ［文化］ ɑɥecnʃ

ıʅecᴅ ［植物］菜の花、なのはな、油菜、あぶらな、アブラナ ［レベル］4　lȷl;ʅlıcn　J0:ʅᴅccɥ

ıʅı,ılʃ　ʃceɥ　ı（ʅıləı の ı で海の音象徴）/ʅı（場所）

ıʅıȷ ［植物］昆布 ［生物］小胞体 ［レベル］3　19: 制 :ıʅɔɥ（海藻）［文化］カテージュで取れ、国内で使用される。【用例】 lcᴅ oıʅ ʅɔn{cʃ} ıʅıȷ 昆布で出汁をとる

ıʅın ［形容詞］本命の ［名詞］本命、志望校 ［反意語］ılʃıl ［レベル］4　ɥɷ;ıl ʅı/lını「最大の狙い」 Jʔ

ıʅıl ［料理］ケイパー　1ʕ: 古 :ıʅılde

ıʅılı ［料理］のり、ノリ、海苔 ［レベル］3　ılʃ;ıʅı/lın「海の緑」 JJ ［文化］
　＜現実＞　セレンは胃が弱くリディアは胃腸が丈夫だが、リディアがあるとき「海苔を食べるとお腹を壊すので嫌だ」と述べた。胃の弱いはずのセレンは海苔が平気である。　この原因がなぜか分からなかったが、調べてみたところ民族によって遺伝的に消化しやすいしにくいというのがあるそうで、基本北欧人のリディアの腸では牛乳は上手く消化できても海苔はできないようだということが分かった。　＜アトラス＞　ȷᴅ で ılʃ が持ち込んだ。ɥɷ でリディアが腹を壊したことで害のある食べ物として忌避された。不思議とセレンは平気で、これをもってリーザはセレンが ılʃ 人の血を引いているのではないかと更に強く疑った。　元来アルバザード人には海苔を消化する能力がないため、あまり食べない。ただし凪食の場合、おにぎりなどに巻いて少量食べることはある。　味付けは日本風ではなく韓国風に近い。すなわち薄くて油っぽく、香ばしい。

ıʅcʃ ［運動］コート、運動場 ［レベル］4　1ɱ: 制 :ıʅc（陸）【用例】 ınȷ ɥɔl ucl ıʅcʃ e ɷccıφeʅ ᴅın ıʃə ʃəɥ lcʅı. テニスコートが混んでいて使えない。

ıʅcʅ ［地学］山崩れ ［レベル］4　1ɱ: 制 :ıʅc（陸）［文化］ ıʅcʅ eᴅ ȷɔɷ. 山崩れが起きる。

ıʅcȷ ［名詞］土地、敷地 ［レベル］3　1ɱ: 制 :ıʅc（陸）【用例】 φıɥʃ ʃ'ıʅcȷ eᴅ ʅɔɥʅ. 土地の値段が下がる。

ıʅcȷφıɥʃ ［経済］地価 ［レベル］5　JJ

ıʅcȷɥeɑeᴅ ［建築］整地 ［レベル］5　1L:ɥcɷcı:ıɥbıleʃ

ıʅcl ［地学］地殻 ［レベル］5　1ʕ: 制 :ıʅc

ıʅclıɑıʅɷcɥec ［地学］モホロビチッチ不連続面、モホ不連続面、モホ面、モホロビッチ不連続面　ul;/「地殻とマントルの境界」 Jʔ

ıʅɔ ［地学］地面、陸地、陸、大地、地、地上 ［名詞］下、道路：日本語ではエレベーターで下に降りるというが、地面に降りるとは言わない。逆にアルカだとこの場合の「下」は ıʅɔ という。 ［反意語］sın ［レベル］2　1ɱ: 制 : 制では ıʅc（海に対する陸）、ıʅɔ（地面）と別れていたが、n 対でなくなったので、s の意味的な対も不要になった。　ʅıl, ʅılᴅɔ:ʅılᴅɔ 【用例】 ʅe ıʅɔ ʅɔn lʃıɥez. エレベータで下に下りる。

ıʅɔʃ ［動詞］ɥəl（お茶など）を c（葉っぱなど）から ı（容器など）に ɑccnı（飲む人など）のために抽出する、抽出する、お茶を入れる、淹れる ［化学］抽出 ［レベル］3　1L:ᴅelcɷcı ılʃe:ıl/ʅɔcʃ（逆吸収）ʃeel にすると排出なので、ıl をつけた。 【用例】 ıʅɔʃ eʃeʅ ɑccnı ıᴅcɥ だんなにお茶をいれる

ıʅɔʃeeze ［気象］陸風 ［レベル］6　ɥɷ;/　Jʔ

ıʅɔȷ ［動詞］ɥəl に踏ん張る、ɥəl を踏ん張る、踏ん張る、踏みしめる、踏みしめる、踏む、ふんばる ［レベル］3　JJ:ıʅɔ/ȷɔ「大地をする」【用例】 ıʅɔȷ ıʅɔ ucenel しっかりと大地に踏ん張る

ıʅɔȷucᴅ ［生物］ヒラメ筋 ［レベル］5　Jɱ<JJ: 踏ん張るときなどに使うことから

ıʅɔȷıʅȷ ［魔法］地行 ［レベル］6　J1 ［文化］ ɷɔlᴅcɥə

ıʅɔȷıcȷ ［地学］地溝 ［レベル］6　1L

ıʅɔn ［地学］土壌 ［レベル］5　1L:ɥcɷcı:ıɥbıleʃ:ıʅɔ/ʃəənɔ ［語法］ 地球表面の柔らかい層のこと。岩石や泥炭や火山灰などが母材になっている。　ʃəənɔ（レゴリス）は ıʅɔn と ıʅɔnıb からなる。ıʅɔn は ɔlᴅııʅɔn,φcᴅıʅɔn,ɷınıʅɔn からなる。　土壌の名称は地球では一致をみない。その国の農業事情を反映して細分化が決定されるからである。アトラスではアルバザードの分類が統一名である。

ıʅɔnıb ［地学］［植物］母材　1L:ɥcɷcı ［語法］ 土壌Ｂ層の下の層。岩石が土になる過程にある部分。

ıʅɔuıȷ ［軍事］地上戦、陸戦 ［レベル］5　JJ

ıʅɔueɥn ［地学］土砂崩れ、土砂災害、土石流、地すべり、がけ崩れ ［レベル］4　ɥɷ;/「地面崩壊」 Jʔ

ıʅɔᴅ ［名詞］水平 ［類義語］hcl ［反意語］scnʃ ［レベル］4　ɥɷ;ı（古で海の音象徴）/ʅɔɥ（方向）.l　Jɱ

ıʅɔᴅʅɔɥʅcᴅ ［生物］水平伸展　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅɔᴅɑcnʅ ［生物］水平面　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅɔᴅɥɔʅʅcᴅ ［生物］水平屈曲　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅɔφını ［軍事］領土 ［レベル］4　1L 【用例】 ıʅɔφını hın 広大な領土

ıʅɔɥ ［植物］海藻 ［レベル］3　制

ıʅɔlɔᴅ ［普通動名詞］土下座 ［動詞］ɥəl に土下座させる、土下座する ［レベル］4　JJ

ıʅɔledȷ ［名詞］土葬 ［動詞］ɥəl を土葬する、土葬する　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅe ［名詞］潮、潮汐 ［音楽］ボサノヴァ。潮の満ち干のように一定の波打つ感じを持って、しかもゆったりとした穏やかさを持った曲。 ［レベル］3　ɥɷ;ıʅı,ılʃ/ʅe　1ʔ: 制 :ıʅıʅe（海が行く）ʅılə1:ʅılə1 ［語法］ ıʅe と ʃcʅe はどちらも潮だが別物。ıʅe は潮汐で、ʃcʅe は海流。

ıʅeucın ［地学］潮力、潮汐力、起潮力 ［レベル］6　ɥɷ;/　Jɱ

ıʅeᴅc,ılʃ　leʃ　ᴅc eȷʅ ᴅcn, cȷʃɔl leʃ. ıʅeᴅЄ ɔn ɗıɑ

ıʅə ［俗語］ɥəl を食う ［類義語］ʅəc ［レベル］2　J1:ı ʅəɔ

ıʅəı ［生物］両生綱 ［名詞］両生類 ［レベル］3　1ʕ: 制 :ıʅə/ʅıᴅ ［文化］ アルバザード人は生物分類に疎いので、両生類も虫と呼ぶことがある。

ıʅəı(J) ［植物］ȷeᴅıcᴅ ［組み数字］2 / 9 ［レベル］4　ȷzl;ıʅəɔɥcı アクオリア経由でインサールから流入したため　J1

ıʅəıʅlel ［娯楽］アクアクレール　J1: 紫陽花の書 ［文化］『ファイヤーエムブレム』『ファイヤーエンブレム』『ファイアーエムブレム』『ファイアーエンブレム』に相当するゲーム。

ıʅəɔɥcı ［アトラスの国家］アクオリア ［レベル］5　1L:ɥcɷcı: 水の口 ［文化］面積：ɱʕ9Δ09.ΔɱLʔʕʕ ʅᴅ 」

ıl ［感動詞］［形容詞］はい、正しい、良い ［感動詞］マル、丸、正解 ［感動詞］ぜひ、ぜひぜひ、是非、是非是非。二回立て続けに促すように早く言うとこのニュアンスになる。 ［法副詞］～すべき、～したほうがよい。同じ「べき」でも、hıɔ は「して当然」というニュアンス。ɑıl は義務があるというニュアンス。ıl は「したほうがいいかな」程度のニュアンスで、柔らかい。→ ɑıl ［レベル］1　ɑ;e　赤 :ıl（はい、正しい）
［語法］ ɑıl　動詞の過去形とともに使うと ȷɔʃ ıl の形で「～すべきだった」の意味だが、たいてい「～すべきだったのに（しなかった）」の意味で使う。すべきだったという判断の基準点はこの場合現在にある。判断を過去に持っていく場合、すなわち「今すべきだとあのとき思った」というような場合は、nıʃ ȷɔ ıl のようになる。例えば「あのころ私は若かったので、今彼女と結婚すべきと思った」という場合、判断は過去にある。訳すと "ın nıʃ nɔȷ ᴅılȷ ıl lı. ın nıʃ ȷɔı ᴅın ın eʃ lcɑ cᴅ leᴅel" となる。 【用例】 ıl ɥȷcclı, ʃeɔ ɥȷcclıʃ Ｙｅｓ，ｓｉｒ　Ｎｏ，ｓｉｒ！イェッサー、イエスサー、ノーサー

ılʃ ［動詞］ɥəl を ı に書く、書く、板書する、記す ［動詞］ɥəl を ı に打つ、打つ、書き込む、タイプする、タイピングする。キーボードなどを使って書くこと。 ［普通動名詞］書き、タイピング ［反意語］cȷʅ ［レベル］2　ᴅelʃcı 100:beɥʃ;e　1ɱ: 古 :clə（読む）。n 対にするために ı が入り、閉音節にするために ʃ がついた。複雑な変化をした語。　ılʃ:ılʃ: ［語法］ ɥəl には字（対象）、小説（完成物）、言葉（内容）などを取ることができる。

ılʃʃıȷ ［名詞］筆記試験 ［レベル］3　1L:ɥcɷcı:ıɥbıleʃ

ılʃʅɔn ［名詞］文房具、文具→ ʅızı ［レベル］2　1ʕ: 制

ılʃȷcz ［名詞］ホワイトボード ［レベル］2　1L:ɥcɷcı:ıɥbıleʃ

ılʃɑcın ［地学］［歴史］トニアン　ul;/　Jʔ ［文化］ φııueɑeᴅe

ılʃzed ［数学］筆算 ［レベル］2　1ɱ

ıʆʃın ［名詞］著者、作者、筆者、著作者 ［レベル］２ 1L:μcɑcı:ıμbıleʆʃ
ıʆʃc ［名詞］東 ［格詞］～の東にある ［反意語］ılıȷ ［レベル］２ 1L:ıʆʃe ::lı 'ɥəʅl:ʃıʃılc,ılʃ
ıʆʃcʅılcz ［交通］東カリーズ駅 ȷȷ ファイマン線：カリーズ→東カリーズ→ラゾーディン
ıʆʃcʅeueıʃcʅe ［地学］東ケヴェア海流 ȷʔ
ıʆʃcn ［ユマナ］［娯楽］東方ｐｒｏｊｅｃｔ、東方プロジェクト、東方 ȷ1:ıʆʃc 属格
ıʆʃcdɔl ［地名］東方 ［レベル］４ ȷ0 ［文化］ ディミニオン、ナオン、エニーク、アルタの地域。文化的にも政治的にもアルバザードから隔絶している。レイユでは共産圏と資本圏の間にあったものの、オリエントのように文化が混在するのではなく独自の文化を保ち、政治的にもスイスのように中立を保った。アルバザードから近くて遠い国とされる。
ıʆʃcdɔcʃ ［地学］東経～度 ［レベル］４ ȷʔ
ıʆʃcμecn ［地学］東経 ［レベル］４ 1L
ıʆʃclɔɔz ［名詞］東端 ［レベル］３ 1L:μcɑcı
ıʆʃcınlıl ［地名］東アンシャル ［レベル］４ 1L ［文化］ → ılıȷınlıl
ıʆʃcıɑenʃɔʃcʅe ［地学］東アデント海流 ȷʔ
ıʆʃccnȷıl ［地名］東インサール ［レベル］４ 1L ［文化］ → ılıȷınlıl
ıʆʃcen ［接続詞］～の東にある ［レベル］３ μɑ;/ ȷɱ
ıʆʃɔl ［名詞］書き込み、書きこみ、カキコ μɑ;/ ȷʔ 【用例】 ıμ ıʆʃɔl ı ȷlez 掲示板に書き込む
ıʆʃe ［エルト］アシュテ。春を司る女神 ［形容詞］色が春めいた ［形容詞］春の ［名詞］春 ［組み数字］１/４ ［レベル］２ 古 :μcɑcı:ʅeʃe(春)に関連。ʅeʃe の ʃe は風、ıʆ は正しいもので、神を暗示。即ち神の風が語源。 ::lı cȷlceμ:dılc,ılʃ ［文化］ アルシエルの一人。春の女神。方角は東。 【成句】 ıʆʃe ȷccnı ɒɔʅ ɑcl 春眠暁を覚えず 【用例】 ʃɔcɒ, ıʆʃe lənıμ ınȷ. 知らぬ間に春が近付いている。 ☆ ʃəμ, ın nı lıʆʃe ʃ'ıʆʃe. いまや春の気配を感じる。 ıʆʃe lənıʅ. 春になった。 ʃəμ eʃ ıʆʃe ɒeμel. 春たけなわだ。 ıʆʃe eʃ ıμlcel bın ıɱı. 春は一年のうちで一番楽しい季節だ。 ın ȷccnı ıʆʃe ıɱıl lɔʃ ıμlcel. 一年のうちで春が一番好きだ。 ɑcȷ ɥən ıʆʃe. 今日は春のようだ。 ʃeeze eȷ ɒelʃ ɒcl ıʆʃe. 春が来て風が暖かくなった。 ɑcȷ ıʃ ȷel ɑccnı ʃ'ıʆʃe. のどかな春の日だった。 ɑcȷ ıʃ ȷel eȷcl ʃ'ıʆʃe. 気持ちの良い春の気候だった。 ıʆʃe eʃ ɒɔı ʃɔɔʅ. 春はもう終わった。
ıʆʃeʃɔɔʅ ［気象］晩春 ［レベル］４ μɑ;/ ȷʔ
ıʆʃeʅıȷ ［地球の星座］［ユマナ］春の大三角 ȷɱ ［文化］ cɑı
ıʆʃeʅcʃ ［気象］初春 ［レベル］４ μɑ;/ ȷʔ
ıʆʃeʅcɒμecn ［地球の星座］［ユマナ］春の大曲線 ȷɱ ［文化］ cɑı
ıʆʃelelce ［歳時記］春の夜 μɑ;/ ȷɱ 【用例】 ʃeeze ʃ'ıʆʃelelce eʃ ɑccʃe. 春の夜風が気持ちいい。
ıʆʃeȷɔoın ［天文］春分点 ［レベル］４ ȷ1
ıʆʃeȷɔɔʃ ［名詞］第一週。リディアからメルまで。 ［建築］一等地。アルナにおいてリディア通りからメル通りまで。 ［レベル］３ 1ʕ: 制
ıʆʃenıʅeı ［歳時記］春休み ［レベル］２ ȷ1:μcɑcı ［文化］ nıʅeı 【用例】 ın μəʅıȷcʅ cl μıɑel ʃ'ıʆʃenıʅeı ɔnen ılɑ. 春休みの数学の宿題が全部終わった。
ıʆʃeφelȷ ［植物］新キャベツ、春キャベツ、スプリンググリーン ［レベル］５ 1ʕ: 制
ıʆʃehıɾl 幼字 ıʆʃe のこと ȷ1
ıʆʃehɔμɑ ［地球の星座］［ユマナ］春のダイヤモンド ȷɱ ［文化］ cɑı
ıʆʃeμɔɒı ［名詞］笑いのツボ、(ıμ とともに）ツボる ［レベル］３ 1L: アシュテ発作 【用例】 ıμʃe, ıμcʅ ıʆʃeμɔɒıɾ ヤバイ、ツボった！
ıʆʃez ［建築］書斎 ［レベル］３ 1ɱ: 制
ıʆʃescɔμ ［生物］上髎 ȷ1
ıʆʃeoıl ［物理］フーコーの振り子 ［レベル］６ 1L:μcɑcı: コリオリ力を見るための振り子。→ ıʆʃeclcȷ
ıʆʃelɑ ［言語］書き言葉、文語 ［レベル］４ 1ʕ: 制
ıʆʃelcl ［化学］カルシウム ［レベル］３ 1Δ: 制
ıʆʃeleφel ［気象］春分、狭義の彼岸 ［レベル］３ 1L: アシュテの旋毛。春分ごろに太陽が天頂を通過することから。
ıʆʃelecn ［被服］春服、合服 ［レベル］３ 1L 【用例】 cɒ ʃəȷɔɔʃ, el ȷıb ȷen lceμlecn ız ıʆʃelecn. 今週は冬服と合服のどちらを着てもよい。
ıʆʃeılcȷ ［植物］れんぎょう、レンギョウ、連翹 ［レベル］５ 1L: 春の秋。春に咲くのに秋の黄色い紅葉のような色の花を咲かせるため。 ［文化］ アルバザード原産ではなく、アンシャル東部からの外来種。繁殖力が強いため、街路樹として使用される。中央アルナのカルテでは、コノーテ通りへ通じる道沿いに咲いている。レインがシェルテスに手を食われた場所。 【用例】 ıʆʃeılcȷ ıʃ ɒınȷ ʅı ɑcdcʃ, ȷee lcıl eɒıʃ ɑc μʃe. レンギョウがあちこちで咲いて、街が明るくなった。
ıʆʃeclcȷ ［物理］［軍事］コリオリの力、コリオリ力 ［レベル］５ 1L:μcɑcı ［文化］ カコの時代、魔導師たちが自分の放った魔法の球がわずかに東に弾道がずれることを発見した。また、戦士たちも球形のユノが東にずれることを知っていた（アルバザードにおいて真北に撃った場合）。魔導師たちは、東に座する春の女神アシュテが自分たちをからかっているのだと考えた。
ıʆʃeɔlɒı ［名詞］表１→ lec ［レベル］６ ȷȷ
ıʆʃeeμc ［医療］Ａ型 ［レベル］２ 1L ［文化］ Ａ型は神経質で繊細と思われている。

ıʆʅ ［形容詞］上手な、巧い、得意、うまい、物事に詳しい、知識が明るい、得意な ［反意語］lɔɔı ［レベル］２ 定 :ıʆʅ、ıʆʅı「良いところ」から。 ［語法］ 日本語では「紅茶に詳しいね」というが、アルカでは「紅茶がうまいね」のようにいう。 【成句】 el eʃ ıʆʅ ı leȷ lə ȷccnı 好きこそ物の上手なれ 【用例】 ɒcʅə eʃ ıʆʅ ı ɒcʅȷ. ミクは歌がうまい。 ın nɔɑ hıɾn ȷecn eʃ ıʆʅ ı ʅııμ. 友人より流行には敏感な方だ。 ın eʃ ıʆʅ ı ȷı ezɔn. 私はスキーが得意だ。
ıʆl ［組み数字］２３/２８ ［交通］アッシュ通り ［レベル］２ ȷȷ
ıʆl(ȷ) ［人名］アシュ 古 ［文化］ 初代ソーンの第９使徒。異性魔王。セレンが一人で戦い、どうにか勝利し、その後ラルドゥラと出会った。 【成句】 uıȷʃ ıʆl μecıl 九死に一生を得る
ıʆl uılcnı ［人名］アッシュ＝ヴァリナ ［組み数字］２３/２８ ［レベル］２ 古 :uılcnı は「あの美しい」 ［文化］ (ʃcɑ Δ→) 第４期４代ソーン第９使徒。女性。ıɒɒı。１７８ｃｍ、６５ｋｇ。金色の髪。青の目。肌は白：黄＝８：２。 ・『ミールの書』より 髪にゆったりとしたウェーブをかけた女性はメルを視認すると途端に優しい声色になった。「アッシュお姉さん、お邪魔してます。それに、リナお姉ちゃんにクノンお姉ちゃんも」 メルは３人にまとめて挨拶をした。しかし、お邪魔してますとは一体どういう意味なのだろうか。メルはセルフィッシュガーデンの住人ではないのだろうか。しかしそんなことを聞いた所で彼女が答える筈もない。ミールは何も問わずに３人の女性を見た。 アッシュという女性はこの中では一番大人びているようで、年も少し上に見えかねないが、クミールとそう大差はないようだ。彼女は長身でかなり魅力的な身体をしている。化粧を施しているようで、真紅の口紅が彼女の魅力をひきたてている。服装も夏だから特になのだろうが、同性のミールが見てもセクシーだと思う格好をしている。具体的には、下は黒のタイトスカートで、丈は膝までしかない。また、上は薄紫色のスーツを着ている。 （うわぁ、大人な女の人だー！ 胸おっきくて背が高くて髪綺麗でお化粧綺麗でかっこいーなーっ！）
ıʆlɔ ［感動詞］よいしょ、よっこいしょ ［レベル］２ 古 ［語法］ ıʆʅɔnlɔ
ıʆn ［形容詞］正統な、正規の、正規版 ［類義語］ɥəɒı ［反意語］cȷɒ ［レベル］３ 1ɱ: 制：古 :ıʆ から
ıʆnnıɒd ［被服］オペラパンプス、コートシューズ μʃ;/ ȷɱ ［文化］ μʃ で男性の正装用として使われたが、ıl で滅んだ。
ıʆnɾlıɒ ［ユマナ］［宗教］正教会 ȷɱ
ıʆnμı ［名詞］本家、本元、家元 ［反意語］cȷɒμı ［レベル］４ 1ʕ: 制 【用例】 ɑcıȷ ʅı ıʆnμı e ɒclɒ 舞踏の家元に生まれる
ıʆnlıȷl ［被服］ストレートチップオックスフォードシューズ μʃ;/ ȷɱ ［文化］ μʃ の男性の正装だったが ıl で廃れた。
ıʆnı ［形容詞］正しい ［類義語］ʃcı ［反意語］ʃeɔnı ul:ɒcμɔʅ;ıl/nı ［レベル］３ ȷ1 ［語法］［文化］ ıʆɒccμ
ıʆɒı ［形容詞］論理的な、理路整然とした ［反意語］ılıʆɒı ［レベル］３ 1ʕ: 制 :ıʆɒc から来ていて、ıʆɒc はさらに古の ıʆɒccμ（正しい論理）から ［語法］［文化］ 日本人は「論理的だね」という言い方をあまりしないが、アルバザード人はこの ıʆɒı というのを、相手の考えを支持するときにしばしば使う。「あぁ、なるほど」「そうかそうか」「うん、確かに」などと日本人が言う場面で、頻繁に ıʆɒı が用いられる。 【用例】 ıʆɒı uıcʅel 一理ある
ıʆɒıʃc ［論理］論理性、正論性 ［レベル］４ μɑ;/ ȷʔ
ıʆɒcɑı ［形容詞］神の性質を持った、聖なる、神聖な ［魔法］アシュミダ。聖の多段黒魔法。聖属性の青白い光線で敵を焼く。 ［反意語］ıluenl ［レベル］３ 古：ＦＦ８でセレンがアレクサンダーのＧＦの名前に用いていたことからも、詳しい年代が分かる語。 ［語法］ ɒcɑı
ıʆɒccμ ［形容詞］正しい ［類義語］ʃcı ［反意語］ʃeɔɒccμ ul:ɒcμɔʅ;ıl/ɒccμ ［レベル］３ ȷ1 ［語法］［文化］ 怒りの大部分は「自分が正しい」という思いが根本にある。こういう人は自己中で神経質と思われがちだが、むしろ真面目で優秀な人が多い。正しさを証明するために自分を磨いて傍証を作ったりするため、しばしば会社などでも有能である。その反面、苦難に立ち向かうことで傷ついたり、自分自身が課す義務感の縛りに苦しめられたりする。 この手の人はたいてい自分の性格で苦しんでおり、鈍感力がほしいと思っている。鈍くて考えないバカになりたいと考える。怒らない自分に憧れる。 しかし生来の生真面目さゆえ、自分であろうと他人であろうと間違っていることを許せず、罰する。 正しさなどどうでもよいと考えると気持ちが楽になり、弛む。 正しいことを貫くために傷つき失うロスと、正しくないが楽なのと、どちらが合理的だろうか。その天秤が後者に傾けば楽になる。 例えば正しくないと何が起こるか。それで死ぬのか。痛いのか。通すために戦うほうがよほど痛いだろう。正しさを守って何になる。 とはいえ、すべての正しさを捨ててよいものか。例えば１＋１が２である正しさを却下することはできない。 そこでミロクはこう考えた。 正しさは数学のような客観的なものと、正義のような主観的なものがある。 これらを別々の言葉で呼んで区別し、前者だけを取ろうと。そこで ıʆɒccμ, ʃeɔɒccμ, ıʆnı, ʃeɔnı を造語した。 【用例】 ın nı leȷ ȷeμen ȷın ʅəʃ eʃ ıʆɒccμ. セレンさんのおっしゃったことは理に適っていると思う。
ıʆɒe ［形容詞］時間に正確な、時間を守る ［反意語］ılıʆɒe ［レベル］３ 1ʕ: 制：制では時間を守らないの意味。古の ıʆɒel（正しい時間）が語源。 ［文化］ → ıμnıɒel, ʅıʃeesɒel アルバザードはＭタイムを採用している。また、日本人同様、時間にもうるさい。日本人との違いは、５分前行動などの習慣がなく、時間ちょうどに行動する点である。待つことに関して、アルバザード人は細かい遅れは気にしないものの、大局的な時間にはこだわる。例えば電車が数分遅れようと、レジが並んでいようと、体の具合でも悪くなければ大人しくゆったり待つ。反面、何時ごろに寝るとか何時ごろに食べるといったことには神経質で、仕事があるので昼食を１時間ずらすというようなこと

は非常に嫌がる。　南方人は伝統的にＰタイムだったため、ミロク革命で国家的にＭタイムを強いた後もＰタイムの習慣が残っており、しばしば北方人は南方人にイライラさせられる。　凪人は時間前行動が原則で、予定よりも前に現地集合している。ミーティングなどの集まりも定刻前に着いている。そのため急な事故などが起こって遅刻しそうになっても、そもそも早めに行動しているので、結果として遅刻率が低い。よって世界一時間に正確と考えられている。だがそれは定刻前に行動している結果起こることであって、時間に正確に従って行動するという意味においては定刻通りに行動するアルバザード人のほうが一番と言えるかもしれない。　また、ルティア人は定刻の５～１０分前に行動することが多い。ケートイア人はアルバザード人と同じ時間感覚だが、定刻通りに事が運ばないと不快感を示す割合はアルバザード人よりも高く、時間に厳しいといえる。　カテージュ人は予定時刻が近づいたら思い出したようにゆっくり向かう。着いたら集まっているメンバーと話しだし、全員が来る前に話を適当に進める。議題が順を追っておらず、すべての議題を同時に話すため、堂々巡りに長々喋る。フランス人に近い。【用例】μcɑcı eſ ılᴅe. リディアは時間に正確だ。

ıld [名詞] 蛍光 [レベル] ３ 1ʔ ←古 :ıleſſdıl（月光）

ıldၮız [名詞] 蛍光ペン [レベル] ３ ul;/ ɭ൱

ılddıᴅ [名詞] 蛍光灯 [レベル] ３ 1L:μcɑcı:ıμbılelſ

ılbez [医療] 透析、人工透析 [動詞] ɥəl（患者など）を透析する、透析する [レベル] ５ ul;/「正しい尿にすること」 ɭʔ

ıll [普通動名詞] 工夫、妙案、妙計、奇計 [動詞] ˥ɔn を使って ɥəl を工夫して ı（結果物）にする、工夫する [レベル] ３ 1൱: 制 : 定 :ıllɔ(良い考え)【用例】 ın ıllıſ ſə zɔᴅ ı ˥ɔu ɑccnı lec. 工夫して本を入れる箱にしてみた。

ıllec [名詞] 日記 [レベル] ２ 古 :ȷɔμn:ıllec ← ıllecȷſ（正しい本）【成句】 ıllec ıၮılſen nılncı ナルニア (ɑcı lcȷ) までで終わっている日記：三日坊主 【用例】 nɔn lcɑcı ɑın lc ılſ ıllec. 日記を書いたら寝よう。 ın ılſ nelſ ıllec ȷı ᴅɔ˥. 私は寝る前に日記を付ける。

ılıl [数学] 公理 [レベル] ５ 定 :（正しいもの）[語法] cȷcμ

ılc [格詞] 後ろに [レベル] ２ μɑ;/ ɭ൱

ılcu [動詞] ɥəl に声をかける、呼びつける、呼ぶ [言語] 頓呼、とんこ [レベル] ２ 1L:ᴅelcɑcı ılſe:ınl/lcu [語法] [文化] 注意を喚起するために声をかける行為　今話している相手には nee をはじめとしてたくさんの呼びかけの語がある。今話していない相手とこれから会話を始めようとする場合、特に相手が赤の他人の場合は lınſe を使う場合が多い。lınſe は見知らぬ通りがかりに使うことが多い。クラスメートが廊下を歩いていて話しかける場合は nee というのがふつうで、lınſe というと他クラスの知らない学生だと思われる。見知らぬ同級生にいきなり nee と言われることはあるにはあるが、ちょっと馴れ馴れしいなという感じがする。日本人は呼びかけで「すみません」と謝りの言葉を使うが、denſ とはいえない。また、アルバザードは誰でも呼びかけることができる。上下関係は関係ない、lınſe は敬度を表わすものでなく、相手を知っているかどうかで使い分ける。知りもしない相手にいきなり nee といったら不気味がられる。また、いきなり他人に oec と呼びかけるのは非常に野蛮である。不良がカツアゲするときに相手に話しかけるときに「すみません」というわけがなく、「おいちょっと待てよ」が妥当である。アルカでも同じで、不良は lınſe でなくいきなり oec という。また、軍隊などで目上が知らない目下に呼びかけるときもいきなり oec という。社長が知らない部下に oec ということもあるが、こういう口調はパワハラに当たる。仲の良い部下になら oec ということは許され、パワハラにはならない。ただ、仲が良くても目下はふつう目上に oec とはいえない。また、親や兄が目下に oec ということもある。そもそも親兄弟が自分のことを知らないということはないから、lınſe を使うほうがおかしい。恋人や夫婦も lınſe ということはありえない。oec といいあえる。ただ、口汚いと嫌って nee という人もいる。　呼ぶジェスチャーは手のひらを上にして指をくいくいとする。行けのジェスチャーは手のひらを下にして手ではなく肘を支点に上腕を９０度曲げた状態からまっすぐ伸ばす。【用例】 lcczı ləſcı ılcuc˥ uınφıμɑc lcen nɔȷ ɔ˥ ȷenı ˥ıl ˥ı φılſ ueμ ſ'ıuelınſ. 死神の黒い門を前にしたリーザ＝ルティアは、満足気な笑みを浮かべて背後のヴァンガルディに声を掛けた。

ılcuȷıᴅe [言語] 呼格 [レベル] ６ ɭ0

ılcuᴅɔlɑ [言語] 頓呼法、とんこ法 μɑ;/ ɭʔ

ılcl [人名] アシル 古 [文化] μɑ でラルドゥラの祖母。アルシェの使徒を鍛えた。

ılccᴅ [化学] ブドウ糖、ぶどう糖、グルコース、デキストロース [レベル] ４ 1L:dıl:ı/lccᴅ。ı を付けたのは、糖類（lccᴅ）から派生した具体的な糖のうち、最も基本的なものだからということらしい。

ılce [形容詞] 相対した、正対した [丁寧] [形容詞] 性格がまっすぐな ← coı [言語] 対句。詩などにおける対句のこと。 [類義語] coı [反意語] clleᴅ [レベル] ３ ɭ1:ıl/c/e「左右に正しい」 [語法] coı は左右対称。ılce は人と人が向かい合ったときのように、左右が反転した状態のこと。clleᴅ は鏡写しのことで、例えば右目を鏡に映すと鏡の左側でなく右側に右目が来る状態のこと。

ılɔ [普通動名詞] 遊び、遊戯、児戯、ちょっとした悪戯 [動詞] ɔ˥ と ɥəl（内容）を ˥ɔn で遊ぶ、遊ぶ。ɥəl に人を取るとその人で遊ぶというニュアンスに。 [類義語] ɥəəſ [レベル] ２ 古 :ılɔ(遊ぶ): 語源不詳。メルは幼いころ、日本語の「遊ぶ」を「あしょぶ」と発音していた。そこから ılɔ を遊ぶにしたのではないかと思われるが、メル以前に遊ぶを ılɔ と言っていたとするクリスの発言もあるため、自然言語由来ではなかろうとして採用。【用例】 ın ılɔſ eeu e ſceμ. 海の波で遊んだ。 ılɔ ˥ɔ˥˥ɔ nɔn e. 私と遊んで。 ılɔ lccſ ˥ɔn lcuı. ゲームで遊びましょう。

ılɔſc [娯楽] 娯楽性 [レベル] ６ μɑ;/ ɭ൱

ılɔſe [動詞] ɥəl をふざけさせる、ふざける [形容詞] ふざけた、お遊びの、遊び半分の、お遊び半分の。被修飾語が人なら ılɔſen で使い、物なら ılɔſe で使う。動副詞はそれぞれ ılɔſenel と ılɔſel。 [レベル] ２ 1L:μcɑcı:ılɔ/ſeeze [語法] dcld は相手をからかって反応を楽しむこと。ılɔſe は自分がアホになってふざけることで、必ずしも相手を必要としない。従って ılɔſe の格組は姿勢動詞と同じ。【用例】 zını ılɔſ eſeȷ uɔl ocnz eel. ザナがふざけて顔をゆがませていた。

ılɔ˥ [娯楽] おもちゃ、玩具、遊具 [レベル] ２ 1L:ılɔ˥ɔn

ılɔ˥˥ɔu [娯楽] おもちゃ箱、おもちゃかご [レベル] ２ 1L

ılɔ˥ı [娯楽] 遊園地 [レベル] ２ 制

ılɔn [娯楽] 趣味、道楽 [レベル] ３ 1൱: 制 :ılɔ から

ılɔz [娯楽] 積み木、つみき、ブロック [レベル] ２ 1ʔ: 制 :ılɔzɔᴅ 【用例】 hınſ{eu} ılɔz 積み木を組む

ılɔleȷd [名詞] 寄り道 [動詞] ɥəl（場所）に寄り道する、寄り道する [レベル] ３ 1L 【用例】 ɑen ılɔleȷd ſɔſıl. ＝ ɑen leȷd ſɔſıl ılɔl. 寄り道するな。

ıle [名詞] 団体、組織、機構、機関、会、会合、部隊 [類義語] cſı [レベル] ２ 古 :ȷɔμn:ıleſ [語法] 団体としての会が ıle で、イベントとしての会合が cſı。【用例】 lıɑ ıle 団体を組織する

ıleſ [名詞] アシェット [レベル] ３ μɑ:lcczı;ıleſſ,ɑ 古 :（月）[文化] 第四期四代ラシェット。μɑ の主人公。アルシェとソーンが合併してできた団体。メンバーは２８人で、使徒と呼ばれる。悪魔テームスを倒して世界に平和をもたらした。　現実には同名の集まりで、人工言語アルカを作った人々のこと。【成句】 ıleſ lcμ μȷcclı clcı 船頭多くして船山へ上る ıleſ ſel uıın 一騎当千 ıleſ ſcl hıɾᴅı ɑcncᴅ 玉石混淆

ıleſſ,ɑ ɑəəμφı。ſᴅ で lelſ に併合されて使わなくなる。 elſ;e

ıleſȷılſ [歳時記] 平年 [レベル] ３ μɑ;/「アシェットの日で終わる年」 ɭʔ

ıleſȷel [歳時記] アシェットの日、大晦日 [レベル] ２ 1ʕ: 制 [文化] メル暦における、ルージュの月クミールの日の次の日。ミュシェットの月の第一日目。

ıle˥ [動詞] ɥəl を ı に変身させる、変身する、変装する、コスプレする [魔法] アシェック。害の中位黒魔法。対象を動物に変身させる。カエルにしたり、逆に自分が変装するためにネコになったりできる。一度かかると術者を殺しても解けない。変装を解くには術者が解除する (ılıle˥) か、一定時間が経過するか、術者が定めた条件をクリアしなければならない。術者以外が解除するにはラルトをかけるか、シェルティウスを使う。 [レベル] ３ 1ʔ: 制 : 前期アルカから中期アルカにかけてできた語で、英語ではＭｏｏｎｃａｔと訳していた。アルカで変装は ıleſၮeſſɔ（月の猫）。猫が月の光を浴びて変身するということから。【成句】 ı˥ ıl ıle˥ 変幻自在

ıle˥uɔln [医療] ＥＳ細胞、胚性幹細胞 [レベル] ５ ɭ0: 変身細胞

ıle˥ılɔ [娯楽] コスプレ [レベル] ４ ɭ1

ıle˥ılɔın [娯楽] コスプレイヤー、レイヤー→ ıle˥eȷ [レベル] ４ ɭ1

ıle˥eȷ ıle˥ılɔın ɭ1

ıleȷ [普通動名詞] 上陸、乗り上げ [動詞] ɥəl を ı に上陸させる、乗り上げる [レベル] ３ ɭɭ:ıleı/ȷɔ

ıleȷuıc [軍事] 海兵隊 [レベル] ４ ɭʔ8

ılen [経済] 法人 [レベル] ５ 1L:ıle

ılenɑıcφ [経済] 法人税 [レベル] ５ 1L

ıleuıu [運動] 団体競技、団体スポーツ [レベル] ４ 1L:μcɑcı:ıμbılelſ

ıleɑ [料理] カフェ、喫茶店 [レベル] ３ 1L:ᴅelcɑcı ılſe:˥ı/leɑ（一息つくところ）[文化] → μeſ 学内にもカフェがある。室内およびテラスで飲める。主に紅茶。コーヒーはレア。学生は談笑しつつ勉強にも使う。騒ぐのは厳禁だが、ふつうに話している分には問題ない。【成句】 [ネガティブ] ıȷᴅ ıl ıleɑ 言い訳する：浮気を問い詰められた男が、アリバイ工作を行きつけのカフェに頼んでいたことから。妻や恋人を説得するためにカフェに自らのアリバイを問うたため。【用例】 ☆ nɔn nıſ ınc ſcn ſcn ᴅcl lı ıȷᴅınɑ ıl ıleɑ. 彼が言い訳ばかりしているので疲れ果ててしまった。 ın μcȷ lıȷ ɑcſ le bel ˥ı ıleɑ. カフェテリアであの料理を出すのを止めてほしい。 ſıəın eſ ınȷ hɔſ ˥ı ſə ıleɑ. 喫茶店には私達しかいない。

ıleᴅ [文末純詞] [ɥen˥] ˥ɔ˥ [レベル] １ 古 ȷɔμn:ıl/ᴅccμ「正論だろうか」。ıleᴅ は ȷeſe に相当する古ソーンの言葉。当時は男女区別なく使った。

ıleμ [名詞] お湯、白湯、さゆ [類義語] ɑleμ、ılcμ、lcμcı、eμ [アクセント] ılEμ [レベル] ２ ɭ0:μcɑcı:ılſe/eμcı [語法] [文化] ɑleμ

ılel [μenſe] lɔ˥ [レベル] ２ 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ:ſılelſ（ふたつの月）ここで対となっているのはドゥルガ神とヴィーネ神。カコを月戦争と呼んで人類を２つに分かれたことから、「互いに」の語源として適切となった。

ılelſ [気象] 月天輪、月の輪、月のハロ、月虹、月光虹 [レベル] ３ 1Δ:μcɑcı/ȷeμen [文化] 神秘的とされ、月の中では最も魔力の回復に役立つ。【用例】 ılelſ ıſ lınſ ſcn˥ı. 月天輪がとても美しかった。 ıle lſ lınſ ɑɔ˥ ȷcel. 美しい月天輪が空を彩る (『ıuelınſcȷ』)

ılelſ,ɑ lelſ ȷıl;e

ılelſeȷd [気象] 高層雲、朧雲 [レベル] ５ 1L: 月天輪を作る。実際には巻層雲も作るが、薄すぎてあまり天体が隠れない。

ıleၮ [動詞] ɥəl をぶらつく、ぶらつく、遊びまわる、遊び回る、放浪する、浮浪する [レベル] ３ ɭ1:ılɔ/leၮ

ıleၮμecᴅ [魔法] 浮遊霊 [レベル] ４ ɭɭ

ıleɳın ［名詞］浮浪者、バガボンド、流浪人、浪人 ［レベル］3 ɹ1

ılelɑc ［地名］アシェルフィ、月泉市、月泉街 ［レベル］4 古 :ıleʃ/elɑc アシェットではなく、月の意味。「月が泉に映る街」が原義。 ［文化］ アルナの西、サプリの東の街。アルナの膝元で、アシェットのアルシェの暮らした街。 守護神はアスカ。

ıleleʃ ［形容詞］互恵的な、互恵的、互恵 ［レベル］4 ɥɑ;ılel/ʃe ɹɱ

ıleı ［地学］浜、海岸、海辺（海岸の雅語）、浜辺、沿岸、ビーチ ［レベル］3 1ᛏ: 制 :ı（古で海）/leı（砂）【用例】 ın nı ȷcl bın ɔl leɳ eɳn ıleı. 浜辺に沿って歩くのは楽しいだろう。

ıleıdɔnȷφeɿ ［運動］ビーチバレー ［レベル］3 1L 【用例】 ın ıɥıʃ ıleıdɔnȷ φeɿ ɔɿ hıɹn. 友達とビーチバレーをした。

ıleıɥecn ［地学］海岸線 ［レベル］4 1L

ıleıeȷn ［名詞］ビーチパラソル ［レベル］3 1L 【用例】 ın ɑclȷıʃ ʃceɥ ɿɔnʃ ȷɿcneȷ ᴅɔl ıleıeȷn. ビーチパラソルの下に座って海を眺めた。

ıləəʃ ［植物］アルファルファ ［レベル］4 1ʕ: 制 :ləəʃ

ıȷ ［形容詞］～も、～もの、さすがに、流石の～でも。心理的な甚大さを表す。 ［反意語］ʃcȷ ［レベル］1 1ɱ: 制 : 恣意 【用例】 ʃıəʃ ɑə uc ıȷȣ ３つも買ったの？

ıȷ(ɹ) ［言語］アルカ、現アルカ ［レベル］4 ɹ1

ıȷʃ ［接尾辞］再帰分詞。開音節では ȷʃ になる。 ［レベル］2 1L: 恣意。ɹ1 まで再帰動名詞。 ［文化］ → cuı 【用例】 nılʃ ɔuıȷʃ 動く城

ıȷʃɥəɔ ［言語］再帰動詞 ［類義語］ȷıɥɥəɔ ［レベル］4 ɥɑ;/ ɹɱ

ıȷʃenɔʃ ［宗教］アステノット ［レベル］3 古 ［文化］ 信者が生きる上でこれは遵守したほうが良いとされる教え。精神的に依存しない、自尊心を持つ、人の身になって考える、ユーモアを持つ。この順で守るべき重要度が下がる。

ıȷʃeɥ ［政治］アステル ［レベル］3 古 ［文化］ メル ʔ00 年のミナレットの首領アルファウスによる王政廃止以降の副王のこと。アルバザードの事実上の最高権力者。

ıȷʃeɥʃɔnɿ ［政治］副王（の地位） ［レベル］4 1L ［文化］ 表ざたに認められいない事実上の身分。地位のほうが適切。

ıȷʃeɥɿɔlᴅ ［政治］アステル治世 ［レベル］4 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

ıȷʃel ［サール］アステル ［名詞］地震 ［魔法］召喚魔法アステル（クエイク、タイタン）。大地震で敵を攻撃。 ［レベル］2 定 ɿıɳə, ıȷʃel:ɿıɳə, ıȷʃel ［語法］ 日本語では地震は起こるものだが、アルバザードだと地震はアステルが来たから起こるものなので、地震は起こるものではなく来るもの。 ［文化］ ＜アステル神＞ 大地と地震を司る巨人。怒ると大地を踏み鳴らして地震を起こす。普段は地震が起こらないよう、大地を支えている。風土の神でもあり、アトラスの風土を調節している。 ＜地震＞ 地震で家が壊れた場合も火災と同じく点数化され、保険金をもらう。火事と違って誰かの責任ということは少ない。ただ、あまりに不自然な角度でいかにも倒れそうな彫刻を隣家が建てていたらどうだろうか。もし地震のせいでそれが倒れて自分の家に入り、誰かが潰れて死んだとしたらどうか。その場合は流石に相手から慰謝料を取れる。 【用例】 ıȷʃel lənıɿ. 地震が起こった。

ıȷʃel(ɹ) ［接尾辞］再帰動名詞を作る。開音節では ȷʃel になる。 ɹ1:ıȷʃ<1L: 恣意 ［文化］ → cuı 【用例】 ᴅɔɿıȷʃel 睡眠 ȷɿcnıȷʃel 着席 ȷınɿıȷʃel 寝ること

ıȷʃelʃ ［アトラスの国家］アステルト ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 土地 / 土地

ıȷʃelʃ ıɿcnıȷ ［人名］アステルト＝アキナス ɹ0 ［文化］ (cᴅəl 1ʔ0ᛏ:1ʔɱΔ) イルミ＝アキナスの息子。計算機 zclcɔʃ の乗除算を発明したが、国家反逆の罪を着せられ処刑される。

ıȷʃelen ［地学］珪線石 1L:ıȷʃel/ɥen。ıȷʃeɥen でも良いが、未来的に見て「副王ちゃん」の意味を持つので避けた。この石が名付けられたのはあくまで ɥɑ なので、神話上は「副王ちゃん」を意図的に避けたわけではない。 ［文化］ アステルの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。

ıȷɿ ［名詞］すぐ。１～５分。文脈によっては１分以内のことも。 ［副詞］すぐ、すぐに、ただちに、即、そく、即座に、まもなく、間もなく ［レベル］2 1L: 制で「すぐ」が cȷɿ だったことから。 :::ıɥəᴅc,ılʃ ［語法］ ɑcɿɑə

ıȷlı ［サール］アスカ ［魔法］召喚魔法アスカ（リヴァイアサン）。大津波を起こして敵を飲み込む。 ［気象］津波、大津波、タイダルウェイブ ［レベル］3 ɥcɑcı: 古 ［文化］ 河川に住む長い龍で、首がいくつにも分かれている。河川を司るサール。性格は温厚だが、稀に怒ると河川を氾濫させる。アルバザードの河川は氾濫しにくいという地理的要因と見事に合致している。 【用例】 ☆ ıȷlı nıʃ sɔ ᴅcl eȷɿ ɑɔʃ. 雨が降りすぎて川が氾濫した：ıȷlı nı sɔ で氾濫する。

ıȷɿɔlɑ ［電算］ブルートゥース、ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ、アスコルド ［レベル］5 ɹ1:ɥɥəə

ıȷleɥcı ［アトラスの国家］アスケリア ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:eɥcı は水。水の地

ıȷn ［動詞］ɥəl を ı と交代させる、交代する、交替する ［副詞］交代して、交互に、代わる代わる、順番に、順々に ［レベル］3 1ɱ: 制 : 恣意 【用例】 ɥəəᴅı eᴅ ıȷn ıl ıɥɑə cᴅ ɑəɥne lel euɔın. 夜になったら見張りをユーマからアルドゥに交代する。

ıȷnıllec ［名詞］交換日記 ［レベル］4 ɥɑ;/「代わる代わる書く日記」 ɹʔ

ıȷᴅ ［動詞］ɥəl を ı に問う、問う ［名詞］問い、問われたもの、問いかけ、質問 ［普通動名詞］問うこと、問い ［反意語］cln ［レベル］2 1ɱ: 制 ［語法］ ıȷᴅ ɥəl と ıȷᴅ ɔn の違い。ɥəl は ɔn の代替格だが直接目的語であるため、その物についてのみ聞く。ɔn は少しぼやかしてその物およびその周辺事項や関連事項について聞く。 ［文化］ アルバザードでは質問することは良いことである。知識を増やすために、疑問を解くために質問すべきである。質問する相手は教師や家族や友人や案内係が良い。知らない人ほど答えてくれにくい。また、仕事でもなければ教えてくれにくい。説明力と同じく質問力が重視される。つまり、自分が何を分からないのか、そして何を聞きたいのかをはっきりさせる力である。簡潔に分かりやすく何を知りたいのか述べる力である。そうでなければ相手も返しようがない。悪い質問には徹底的に相手は「質問の意味がわからない。こういう部分が分からない」といってくる。アルバザード人は日本人ほど察してくれないし、察したとしても「それってこういうこと？」と確認してくる。それから答えてくれる。そういう面倒な手続きを踏まないためにも質問力を身に付けておく必要がある。答える義務のないこと、答えたくないことは答えてくれない。 【成句】 ıȷᴅ ı nɔȷ 自問自答 【用例】 eu ıȷᴅ 質問を投げかける ȷɔl ın ıȷᴅ ı ʃc そりゃこっちのセリフだよ lı ıȷᴅıʃ ʃə lel ın ȷccnı ʃeɥ leᴅ ız. 彼は私が音楽を聴くのを好きか尋ねた。 ın ıȷᴅıʃ ʃə lel lı ɿeɿɿɔ ȷen ın ɿɔn ıᴅɔ. 彼に車で迎えに来てもらえるか尋ねた。 ıuelınʃ eucɿ ıȷᴅ ueeɥ ı lcczı l'ɔɥ ȷeɑɔ. 消え行くリーザに死神が最後の質問を投げかける。

ıȷᴅuɔɿ ［言語］疑問文 ［レベル］4 1L

ıȷd ［動詞］ɥəl をしゃがませる、しゃがむ、屈ませる、屈ませる、かがませる、屈む、かがむ、膝を折る ［再帰動名詞］スクワット ［類義語］ȷɿcn、ɿɔls ［レベル］2 1ɱ: 制 : 古 :cȷı（砂を見る）【用例】 ıȷd ȷɔɑ ᴅcɿɿɥ ıc ı. スクワットは膝に来るわー。

ıȷdbeeɿ ［名詞］和式便所 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı ［文化］ アルバザードにはない。和式といってもギリシャや北欧には似たような便所がある。ただ、アルバザードにはない。

ıȷdcl ［植物］チョウノスケソウ、長之助草 ［レベル］5 古 ȷɔɥn ［文化］ サールがフィーリアで最初に手に取った野草。

ıȷblen ［電算］ノイマン型コンピュータ、コンピュータ ［レベル］6 ul:ıȷ bel lelʃ;ıȷbel/en ɹɹ ［文化］ ʔʔɹ にアスベル＝シェルトがミロクのもとで開発。

ıȷbel lelʃ ［人名］アスベル＝シェルト ɹɹ ［文化］ ıȷblen

ıȷbel cneıılʃɔ ［人名］アスベル＝イネアート ȷᴅ ɹ1 ［文化］ ɑcᴅcʃɔɥcı

ıȷɥı ［軍事］基地、本部、ベースメント、拠点、本拠地 ［名詞］下地 ［美容］化粧下地 ［名詞］電話の置き場所、親機 ［レベル］3 古

ıȷl ［化学］酸、アシッド ［形容詞］酸性の ［反意語］ɑclɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ɥəe:ɥəe

ıȷlᴅıȷ ［名詞］酸性紙 ［レベル］5 ɹʔ ［文化］ ɥʃ で大量生産されたが、ul で劣化が問題になり、中性紙に取って代わられた。

ıȷle ［電算］パソコンのウインドウ、ウィンドウ ［レベル］3 1ʕ: 制 :ȷleʃ

ıȷleȷɿ ［環境］酸性雨 ［レベル］4 1L

ıȷı ［言語］名詞 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ıȷ（もの）

ıȷı(ɹ) ［格詞］前に ［レベル］2 ɥɑ;/ ɹɱ

ıȷıȷeueʃ ［言語］名詞句 ［レベル］5 ɹʔ:ᴅel

ıȷıd ［化学］［普通動名詞］揮発 ［動詞］ɥəl を揮発させる、揮発する ［レベル］5 1L: 制 :uıȷıd。uıd と同根。

ıȷıdʃeeʃ ［魔法］揮発性 ［レベル］6 ɹ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ıȷıcȷʃc ［言語］代名詞 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɹɱ

ıȷcɿ ［形容詞］不公平な、差がある、差のある、序列のある、不平等な ［名詞］不公平、アンフェア、不平等 ［経済］格差 ［数学］奇数← ıȷcɿıll ［反意語］clıʃ ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ:ılȷcɿı（平らでない）【用例】 ıȷcɿ ȷɔ uen ɿıφen ɔ ʃcɑen eʃ ʃcn. 金持ちと貧乏人の格差が大きい。

ıȷcɿɑılı ［言語］序列番号 ɹ1 ［語法］ ıll

ıȷcɿdıleʃ ［言語］序列数値 ɹ1 ［語法］ ıll

ıȷcɿɥıdıll ［言語］序列組み数字 ɹ1 ［語法］ ıll

ıȷcɿıll ［数学］奇数→ ıȷcɿ ［反意語］clıʃıll ［レベル］3 ɹ1:「不公平な数」ふたつに分けたとき、片側が多くなることから 【用例】 ［言葉遊び］ʃə eʃ zıl lel el ʃcl eᴅ ıȷcɿıll cᴅ ləəȷ uc dɔnȷ lɔȷ clıʃel. ９個を３人で分けたら公平になるのに奇数（不公平な数）とはこれいかに。

ıȷcɑ ［生物］口の下、唇の下、口元 ［反意語］ıʃɔɿ ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcı ılʃe:ıl/ȷel/zcɑ ［語法］ 日本語では顎と呼ばれる部分だが、アルカで顎は床面と水平になっている部分のみ。顔の一部である唇の下のエリアは日本語では顎だが、アルカでは ıȷcɑ に当たる。従って、顎を殴るときはアッパーで、ıȷcɑ を殴るのはストレートになる。 eu lıȷ ı zcɑ と eu lıȷ ıl ıȷcɑ では置く場所が微妙に異なるので注意。前者は考えるときのしぐさ。 【用例】 eu lıȷ ıl ıȷcɑ 口の下に手を置く（口を半ば隠すように）

ıȷcd ［名詞］息抜き ［レベル］3 ɹ1:「息を吸う、リラックスする」

ıȷcz ［名詞］候補 ［レベル］3 ɹ1:ı ȷcz「板へ」

ıȷce,ȷzɑ ȷɔɥeʃ ıl/ȷcel

ıȷcel ［歳時記］臨空の日 ［レベル］3 ɹ1:ı ȷcel（空へ） ［文化］ リュウがシェルタージュを発掘した日で、人類が悪魔に対抗する手段を手に入れた日として休日となる。 小説版アンクノット第三巻の中ほどのページで、クロニクルとして羅列してある一連の記述がある。その中に１１・２８（金）となっているものがあるため、これが９７年と分かる。そのページの下部に１２・２９とあり、そこにリュウが魔導船の封印が弱まったのを知って云々という記述がある。

ıȷɔb ［普通動名詞］酔狂、余興、たわむれ、戯れ ［動詞］ɥəl をして戯れる、戯れる、たわむれる。ılɔ と同じ格組。 ɥɑ;ılɔ/φııbe「遊びのネタ」 ɹʔ:「遊ぶ」と覚えよう。

ıȷɔɥʃ ［法律］民事 ［反意語］hıɥeʃ ［レベル］4 ɹ0:ı ȷɔɥeʃ（青へ）。役所で民事の案件を青い箱に入れたことから。

ıɟɔl ［被服］レギンス、レギング、レギングス、スパッツ、トレンカ ［レベル］4 ⅃1:ı/ɟɔləoı

ıɟeʃ ［動詞］ɥəl に打ち克つ、打ち克つ、打ち勝つ ［動詞］ɥəl を振り払う、振り払う ［類義語］uıɟʃ ［レベル］3 lɟl;oıɟeʃ,ɑu.l ⅃1 oıɟeʃ:

ıɟeʃıɒel ［名詞］一網打尽 ［レベル］4 ⅃⅃

ıɟel ［名詞］口を開けずにニコっとする微笑み、微笑、スマイル、笑顔 ［動詞］ɥəl を微笑ませる、声を出さずに笑う、ほほえむ、微笑む ［レベル］2 1L:ɟɔnɔhcnɔ⅂c:oıınɟel（ゆりかごのような唇）ınɟel にしたが頻度が高いので ıɟel にしたため、原形が見えない。 【成句】 ʃɔe ıɟel 笑顔を突く：破顔一笑 【用例】 ɟcnɟ ıɟel 微笑みを浮かべる ☆ ın ıɟelıʃ hı nel ᴅcl nıə. 嬉しくて満面の笑みを浮かべた。 lcczı ıɟelc⅂ ɔ⅂ eleʃ ɒccʃ. 涼し気な顔で微笑むリーザ。 ıɟel ᴅelcɟel 不敵な笑みを浮かべる cl ıɟelıʃ ᴅcl{ɔn, ı} ʃə ueɥʃ. 皆このニュースに微笑んだ。ɔn でもほとんど意味は変わらないが、ニュースが笑いの原因だというニュアンスが薄まる。ı だとニュースに対して微笑みかけたというな感じで、ニュースを擬人化して扱っている印象を受ける。

ıɟeleleʃ ［名詞］笑顔→ ıɟel ［レベル］2 ɥɒ;/ ⅃ʔ

ıɟen,ɑ ıɥʃıɟen

ıɟenz ［植物］キキョウ、桔梗 ［レベル］6 古 ɟɔɥn

ıɟed ［化学］レーヨン、人絹、ステープルファイバー、スフ ɥʃ;ıl/ɟed「絹に似たもの」 ［レベル］5 ⅃ʔ ［語法］［文化］ 絹に似せて作られた再生繊維。

ıɟeel ［格詞］～の中心に ［レベル］2 ⅃⅃

ıɟeelɟeɑ ［サッカー］センタリング、クロス、クロスボール ul;/「中央へのパス」 ⅃ʔ

ıɟəʃ ［物理］素粒子、基本粒子 ［レベル］5 ul;ıl/ɟəʃ ⅃ʔ

ın ［代詞］私 ［レベル］1 ɑu;e。ɒel と並行して使われた時期と、ɒel を滅ぼして ın だけの時期と、逆に ın が下火になって消えた時期とを長い時間の間で繰り返した。 古 :ın（俺)。古では nɔn と対立する語。nɔn より気取った言い方と捉えられたり、逆に粗野な言い方と捉えられたり、時期によって語感が変わっていった語。nɔn より短いのでこちらを選んだ。 ɒel,ɑ ın,ɑu:ın::nı,ılʃ ［語法］ 一人称代詞。中立的な一人称。男女ともに使えるが、女は通常 nɔn が多いので、ın は原則的に男。 【用例】 ın eʃ uc⅂. 私は男だ。

ın(⅃) ［接尾辞］～する人を指す。動作主を指す。 ［接尾辞］主格分詞を作る。 ［接尾辞］～に関する人。lın の代わりに使う。 ［レベル］1 ɑu;lın ʃcɟ.⅂ 1ʕ: 恣意とあったが、lın だろう ［語法］ ılʃ/ın で「書く人」。ɟeʃ/ın で「殺人者」。分詞としては「何かを殺すような～」という意味になる。 ləʃcı など、ı で終わるものには ın でなく n になる。ləʃcın でルティア人。

ın(ʔ) ［化学］一重結合、アルカンの接尾辞。 1L:ɥɥəə

ın(⋒) ［名詞］古アルカの６ 赤→ ɟcɒıll

ın(ᚠ) ［副詞］［南方］en ［レベル］3 ⅃1:l.en 【用例】 ᴅɥı ın lɔ⅂c. ウチようわからん。

ın(٩) ［接頭辞］文末純詞を丁寧にする。 ［接頭辞］感動詞を丁寧にする。 ［レベル］1 ɥɒ:⅂ᴅccɥ;ıınɔ.⅂ ⅃0:⅂ᴅccɥ:ıınɔ ［文化］ ・文末純詞 ı, e には ınnı, ınne。同様に ıə, eə は ınnıə, ınneə。 eɥɔ は ᴅclcı は ınne ɥɔ で ɥən⅂ は ınlcc。 nı は ınıᴅ。 それ以外は単に ın を付け ınɟe ʃe, ınɟec, ınlɔ⅂, ınʃcɟɟe, ınʃcɟee のようにする。ɒı, ɒe 類には ııʃı, ıınɔ があるので ın を付けない。 ⅃0 年にクミールが造語。⅃1 年大会議で採用。 ın 系純詞の用例をここでまとめて掲載する。 ・感動詞 eɟʃɔl「よろしく」：普通 ıneɟʃɔl「よろしくお願いします」：丁寧語 ᴅceɟʃɔl「お見知り置きを」：尊敬語 ᴅc を付けると尊敬語。ın を付けると丁寧語。 ınɟɔɔnɔɥən「おはようございます」 ınɟenʃınʃ「ありがとうございます」 【用例】 hıⅡı ᴅcɟʃ ıⅡıʃ ᴅecɒ ınɟccnı nɥınnɥıȣ 貴方が助けてくださったんですのね。 ʃə eʃ cldıɟɟɔ ınlcc...ȣ これ、大丈夫なんでしょうか……。 ɥənı eɟ ⅂əlın ınnı. お腹がすきましたわ。 ᴅecɒ ɥeɑıʃ ez hıⅡın ɥəəlcı, hıɾᴅı. お部屋を片付けておきました、だんなさま。 ɟınʃ ɥəəɟıʃ ᴅecɒ lıʃ ıl ez cɟɑelcı ɥəəlcı. お客様のお部屋に入らせていただきました。

ın,lʃɑ 女性不定冠詞、ᴅcnɑc⅂uınʃe lın,lⅡ.lc⅂

ın,lɟ⅂ ʕ ıuɔ.⅂

ın,ılʃ ɔn

ınʃ ［代詞］私のもの、私の ［レベル］1 1L:ın/ʃəl ないし ın/ıl。ıl は古 ［語法］ 漠然と ınʃ と言った場合、「私のもの」あるいは「私がしたこと」などの意味になる。後者は日本語にない用法なので忘れないよう注意。 【用例】 ʃə eʃ ınʃ. これは私のだ。 ıᴅel ınʃ 私の妹

ınʃɥə ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃɥə ［レベル］2 ɥɒ;/ ⅃ʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ınʃɥc⅂ɔ ［魔法］幽体離脱 ［類義語］ɟeleeu ［レベル］4 ⅃⅃:ıl/ʃɥc⅂ɔ ［文化］ 背中から幽体が剥がれるとこちらでは考えられている。

ınʃı,ılʃ ııʃı ın/ʃı

ınʃıʃe ［丁寧］叔父様 ［レベル］3 ⅃⅃

ınʃc ガールフレンド、カノジョ候補 ［レベル］3 1L:ɥcɒcı:ılʃcın → ılʃc → ınʃc（ınlc と合わせた結果） ［文化］ ınlc 【用例】 ın nıʃ ᴅɥəllı ᴅın ınʃc en lənı. ガールフレンドが来なかったのでがっかりした。

ınʃcɟ ［名詞］文化 ［類義語］ɟınsel ［反意語］ınʃcɟ ［レベル］3 古 :ın（私）と ʃcɟ（貴方）が作るものの意 ［語法］ ⅂cɥɟ, ɟınsel 【用例】 ınʃcɟ lɔz ʃcl ⅂ɔ⅂⅂ı ɥıʃ. 文化は混ざるとバランスがよくなる (ɟeɥen ıɥbızıɥɒ)：風土によって傾いているところを矯正できるため良くなる。例えば分かりやすく食で考えてみると、和食は塩分が多いのが良くない。また、タンパク質が少ない傾向にある。外食文化と融合させるとバランス良くなる。これと同じこと。 ʃə eʃ hıɔ ⅂el ɥɟcclı ıⅡı lɔ⅂c ıl ʃɔʃıl ınʃcɟ. ʃıl lə ɥəʃı ɑɔnl ʃəəɟ cl. lə ɥə⅂c ⅂ıɑ leɟ nɔɟ ɥə⅂c ıl. 支配者はあらゆる文化を理解できるべきだが、全てを受け入れるわけではない。拒むところはしっかり拒む必要がある。

ınʃcɟʃ ［哲学］エミック、エミックな、イーミック、イーミックな ［反意語］⅂cɥɟeʃ ［レベル］6 ul;ınʃcɟ/ʃe ⅃ʔ ［語法］ ⅂cɥɟeʃ

ınʃcɟɟe ［文末純詞］［ɥenʃe］［丁寧］ʃcɟɟe ［レベル］2 ⅃0:⅂ᴅccɥ ［文化］ ın(٩)

ınʃcɟɟen ［文末純詞］［ɥən⅂］［丁寧］ʃcɟɟen ［レベル］2 ⅃1:⅂ᴅccɥȣ ［文化］ ın(٩)

ınʃcɟɔı ［丁寧］［感動詞］おめでとうございます ［レベル］2 ⅃ʔ

ınʃcɟɔɔnɔ ［丁寧］［感動詞］ご機嫌いかが、ご機嫌いかがですか ［レベル］2 ⅃ʔ

ınʃcɟee ［文末純詞］［丁寧］ʃcɟee ［レベル］2 ⅃0:⅂ᴅccɥ ［文化］ ın(٩)

ınʃce ［電算］ＨＴＭＬ、アンティエ ［レベル］6 ıl;ıl/ʃceʃɥen.lc⅂ ⅃⋒

ınʃɔ ［生物］下腿 ［反意語］ʃɔ⅂ ［レベル］2 ⅃⅃:ıl/ʃɔ⅂

ınʃɔoı ［美容］トワレ、オードトワレ ［レベル］3 ⅃1

ınʃe ［組み数字］９／１４ ［レベル］4 先 : 語源不詳

ınʃeɟ ［代詞］私たちのもの、私たちの ［レベル］1 1L:ınʃ/ɟe 【用例】 cᴅ uıɟʃe, ɒeeᴅ ⅂əʃ "ʃə ɑcı eʃ ınʃeɟʃ" ヴァステ戦争で、悪魔は「この世界は我らのものだ」と述べた。

ınʃeɟ⅂ıɒ ［地球の国名］バヌアツ 1L: 国名がわれわれの土地

ınʃeɥ ［文末純詞］［丁寧］ʃeɥ ［レベル］2 ⅃0:⅂ᴅccɥ ［文化］ ın(٩)

ınʃel ［政治］絶対の正義、公序 ［反意語］leᴅınʃ ［レベル］4 ɥɒ:lcczı;ın ʃe.⅂ 1L: 古？ :ınʃe ［文化］ リーザが始めたポストで、すべての最終決定権を持つポスト。中立で有能だったアンテを就任させた。初代アンテが就任して以降、万年空位。やがてミロクがそのポストに就く。 ミロクはあらゆる決断の最終決定者で、融資だろうが選挙だろうが法律だろうが、そのすべてを覆す権限を持つ。 その後 ls でセレンら独裁者側の人間が定義した正義を ınʃel と呼ぶようになり、セレンらはそのデータをミールに入れ、レスティミールに反映させた。 セレンらはミロクと違い司民制を取り入れており、その一環として絶対の正義である ınʃel の他に相対の正義である leᴅınʃ という概念を打ち立てた。 相対の正義は国民一人ひとりがミールに自分の思う正義を投票などの形で伝え、性別、世代、階層、居住地などごとにミールが形成し、最終的に国民全体の正義感としてバランスの取れた形に仕上げる。 ミールは相対の正義を作り、絶対の正義を勘案して、最終的な国の正義感を形成し、レスティミールに引き渡す。 ・高尚と低俗——革命で定められた絶対の正義 セレンが定めた絶対の正義とは、「アルバザードを世界一の強国でいさせるために利することは善であり、害することは悪である」という内容であった。 セレンは学問と徳育を最重要視し、高尚なものと定めた。一方サブカルなどを低俗と定めた。低俗なものを排他はしないものの、高尚なものが低俗なものより高位に立ち、羨望され認められ、優先される。そういう世の中を是とした。なぜか。 今の日本で「高尚なものが善で低俗なものは社会の害悪だから常に高尚なものの下にいろ。せせこましくしていろ」と言おうものなら避難を浴びる。戦前や戦後、セレンの親世代はまだ「末は学者か大臣か」という言葉が残っていたのに、平成になってすっかり学者のほうはダメになってしまった。 セレンのように出版業界に詳しかったりすると、２０年前の読者と今の読者を比べて読者の知的レベルが落ちていることを実感しているし、教師歴も長いので中学生の知的レベルの低下も実際に長いスパンで見聞している。今の日本人の知的水準がここまで落ちたのは、低俗なものがはびこって高尚なものを尊敬する念が薄れたからというのが理由のひとつだが、多くの愚かな国民はそのことに気付いていないし、こうして啓蒙してもすっかり低俗脳に毒されていて、間違えを悔い改めることができない。 一人ひとりがそうやって高尚なもの、学問などを軽視していくと、何年もそれが累積していくうちに他国に追い越されてしまう。だから日本は亡国の一途なのだ。 ls のセレンは低俗なものがはびこって高尚なものが蔑ろにされる世の中が続けばアルバザードはいずれルティアなどに追い抜かれると危惧していた。そこで高尚なものの地位を高め、低俗なものは余暇程度にせよと社会に命じた。この結果、アルバザードは高い知的水準を維持することができ、国力の維持に繋がった。 今の日本人はこの重要性が分かっていない。東大生や医者ですら、学問や芸術などの高尚なものが上であるということを素直に認めず、低俗なものに走る。こんな連中が世の中を牛耳っていては、国は滅ぶ一方だ。だから日本はアルバザードはおろかアメリカにすらなれないのだ。 セレンの言っていることは至極まっとうだ。高尚なものは学問などであって、娯楽は低俗に振り分けられる。ようは勉強が高尚で遊びが低俗だ。で、考えてもみろ。勉強しないで遊んでばかりの国と、勉強をしっかりしている国が競争したら、何十年後どちらの国が発展するか。当然科学技術も文芸も、学問を疎かにしなかったほうが勝つ。努力は人を裏切らない。 高尚と低俗の話は要するにそういうことなのだ。勉強と遊びと同じ関係なのだ。要するにセレンは「勉強しなさい。遊びはほどほどに」と言っているだけなのだ。これの何が分からない？小さい頃親や教師にさんざん言われたことだろう？分からないはずがなかろう。これの何が賛同できない？この絶対の正義に賛同しない人間は国力を衰退させ国を悪くする害虫だ。こういう国益に反する害獣は積極的に排他すべきである。 セレンは革命でそれを行い、低俗なものばかり、つまり遊んでばかりの人間を糾弾した。それでこそアルバザードの優位性が保たれたのである。当たり前だろう、一生懸命勉強した人間に遊んでたキリギリスが勝てるはずがないのだ。

ınʃelcl ［化学］ジスプロシウム 1Δ: 制

ınʃe lɔlɔɟ ［人名］アンテ＝ロロス ［レベル］4 先 : 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第９使徒にして第４期４代アルシェ第８使徒ラルドゥラの実父。

ınʃeleʃ ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃeleʃ ［レベル］2 ɥɒ;/ ⅃ʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ınʃeləl ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃeləl ［レベル］2 ɥɒ;/ ⅃ʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ɪnʃeɔ ［感動詞］私が悪かった ［動詞］ɥəl に謝罪する、謝罪する、謝る、あやまる、詫びる、わびる、侘びる ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlcȷ: 古：ɪnɑeʃeɔ。ɑe が肯定の繋辞だったが、今では逆意なので、ɑe を取った。 ［語法］ → uɪnʃ uɪnʃɪnʃ にはＩ’Ｍ，ＳＯＲＲＹのように「悪い目に合わせてすまなかったね、かわいそうに。それにしても運が悪かったね」というニュアンスがあるが、ɪnʃeɔ は「私が悪く、責任は全て私にある。あなたは被害者だ」というニュアンスを持つ。事態の大小は問わない。よほど自分が悪いと思わなければこの謝罪は言わない。フランス人がデゾレと言うくらい頻度が低い。

ɪnʃeeɥe ［丁寧］［感動詞］ʃeeɥe ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ

ɪnʃəʃə ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃəʃə ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ɪnʃəʃəl ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃəʃəl ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ɪnʃəɪ ［丁寧］［感動詞］どうぞ、はいどうぞ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ

ɪnʃəɪn ［代詞］［ləᴅcɥ］ʃəɪn ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ɪnɿ ［形容詞］可愛い ［類義語］ɥəəɥə、ȷclɑccɥə、ɥəlcɪnɿ、hɪʃcɪnɿ ［反意語］ɪzcn ［レベル］2 ɿʔ ←古 :ɥənɿ（かわいい） ［語法］ その対象を守ってあげたくなる気持ちにさせる性質のことを指す。また、その物が庇護の対象として好ましく思え、自分の身近に置きたいと思う気持ちも指す。従って動物だけでなく物にも使える。 人間相手に使う場合、通常年上の男性が年下の女性に抱く感情であり、その逆は場合によっては失礼に受け取られる。男が女を守るものという考えが nɑ 以降一般的なので、女が男を可愛いと言うと場合によっては見くびっているように感じられる。日本語や英語の感覚で「可愛い」とか「ｃｕｔｅ」と言うつもりで ɪnɿ と男性に言うと見くびられてると感じて不快がられるリスクがある。母性本能全開で気弱になっている男性やツッパって無理している男性を精神的に庇護するという意味で ɪnɿ というのはかろうじてアリである。使い所が難しいので状況を間違えると怒られる。 男が女に言う場合、同年代から目下に使うのがふつう。目上には使いづらい。男の言う可愛いはしばしば見た目重視であり、性格は二の次である。女の言う可愛いは性格重視で見た目は二の次である。男が女を可愛いという場合、ふつうは見た目のことを言っているのであり、顔が幼くて整っており、体も幼くて小柄で子供っぽいことを指す。顔が整っていて大人びていれば、またスタイルが良ければ可愛いではなく lɪnʃ になる。具体的に言えばリディアは ɪnɿ でフルミネアは lɪnʃ である。位相的に言えば ᴅclcɪ は ɪnɿ で ɥənɿ は lɪnʃ であることが多い。 なお、性別を度外視すると、一般に目上の人間が目下の人間を庇護したいと思う際に ɪnɿ と言える。可愛い赤ん坊や可愛い後輩というような用法が可能である。 動物は人間より目下に見られているため、男女問わず ɪnɿ と言える。ただしふつうは庇護の対象となるような小型の動物に限られる。虫はアルバザード人はふつう嫌うので、可愛い虫という言い方はふつうしない。言えないこともないが、変人だと思われる。 物に使う場合、可愛い人形のような分かりやすい例だけでなく、可愛い消しゴムなど無機物性の高いものにも使える。しかしこの用法は女性的で、男性はしない。男性は可愛い人形とは言っても可愛い机だの可愛い鉛筆だの可愛い消しゴムだのという言い方は男らしくないとして好まない。 ☒☒☒の直訳は ɪnɿ で☒☒☒の直訳は lɪnʃ だが、実際語法を見ると ɪnɿ は☒☒☒と☒☒☒の両方をカバーし、lɪnʃ は☒☒☒が表す範囲の一部をカバーする。 ɪzcn は ɪnɿ の逆で、そういう庇護の感情が本来湧いてもおかしくない相手のことを気に食わないと思い邪険に思う気持ちのことである。 従って ɪnɿ と同じく基本的に目上が目下に使う言葉である。 【成句】 ɪnɿ ɥəʃ ᴅcn 女が言う可愛い：眉唾。信じてはいけないものの喩え。女の言う「あの子可愛いから！」ほど信用できないものはないことから。 【用例】 ɑcɪn ɪnɿ 可愛い女の子 ʃəəbe ȷeɥφɑɪȷ eʃ ɪnɿ ɥəʃ ᴅcn ɑɪ. そんな儲け話は眉唾に決まっている。

ɪnɿnɔʃ ［名詞］アンクノット ［アクセント］ɪnɿnɜʃ ［レベル］5 古：元 ɪnɿənɔʃe(私は言います (ɪnɿə)。聞こえますか ȣ(nɔʃe)) 初期～中期はアンシャンテを意味することもあった。中期アルカのころに ɪnɿənɔʃ に語形が変わり、それと共にアンシャンテ内の個人掲示板を指すようになった、やがてアンクノット内に保管された機密事項からの推移で、ラシェットの機密文書を指すようになった。制アルカでは ɪnɿnɔʃ はアシェットが引き継いだラシェットの公文書を指す。 ［文化］ アシェットの機密文書。ラシェットから引き継いだ。初代アルシェやソーンについての記述があり、常に勝ち組によって内容が書き換えられてきた。翻訳を重ねたため、原語は不明。古アルカに翻訳したのはリーザであるが、何語から翻訳されたかは機密事項で、目下のところリーザ本人しか知らないとされている 。神話においては、新生ではアルヴァから外され、ɥɑ およびカコ中に秘密文書として出るのみ。

ɪnɿᴅeu ［言語］指小辞 ［レベル］6 ɺ0 ［語法］ 指小辞は古アルカでは語末に n を付けるのが一番多いパターンであった。 n を付けるという原理は変わらないが、それ以外の部分で変動が激しかった。 新生の一時期、末子音によって –ɪn, –cn, –ɔn, –en, ən と様々な変化をする体系ができたこともある。 ɺ0_ɺʔ 年までは開音節には n、閉音節には ɪn を付けることとなったが、実態は nɥɪn や ȷɥɪn や ʃɪn などが多用され、理論が現実に追いついていなかった。 ɺʔ になると再び体系化された。この頃の特徴は、指小辞が n を中心とする nɥɪn, ʃlɪn, lcn, dɔn など、各個別の接尾辞に収束していた点である。以下に指小辞のシステムを述べる。 ・nɥɪn 古い指小辞の ɪn を猫の鳴き声の nɥɪn に模したもの。「～たん」、「～にゃん」に相当する。 開音節の場合はそのまま付ける。lcɪ → lcɪnɥɪn（しあにゃん）など。 閉音節の場合もそのまま付ける。ɿᴅccɥnɥɪn（クミールにゃん），ᴅelnɥɪn（メルにゃん）など。 n で終わる場合は ɥɪn になる。dɔen → dɔenɥɪn（ポエにゃん）。 ennɪ は ennɪnɥɪn とも ennɥɪn（エンにゃん）とも呼ばれる。後者のほうが言いやすいので音が詰まっている。 ・ʃlɪn ɺʔ ごろまで使われていた ʃɪn と敬称の ȷɪn がくっついて音が変化したもの。ȷɥɪn より音がコロコロしている。「～ちゃん」に相当する。 ʃɪn が滅んだのは「～も」を意味する ʃɪn とバッティングしたため。このバッティングにより、実際に ʃɪn が付けられていたのは ɥəlʃɪn と ᴅelʃɪn しかなかった。しかも前者は ɥəlʃʃɪn ではなかったし、実際にはしばしば ɥəəʃlɪn と呼ばれていた。ʃlɪn は ɺʔ 以前に既に使われていた形跡がある。 開音節の場合はそのまま付ける。ɥɥəə → ɥɥəəʃlɪn など。 閉音節の場合もそのまま付ける。φclʃlɪn, ᴅelʃlɪn など。メルは慣例として ᴅelʃɪn と呼ばれることがある。 ʃ で終わる場合は ʃlɪn か lɪn になる。語呂の良いほうが選ばれる。ɥəlʃ → ɥəlʃlɪn。ただしユルトの場合は慣例として ɥəəʃɪn や ɥəəʃlɪn と呼ばれることが多い。 ・lcn lcᴅc（美しい）と指小辞の n が合わさってできたと思われるもの。綺麗なものを可愛く言うとき使う様子。 ᴅel → ᴅellcn（メルりん） ・dɔn 小柄で丸っこいものを示す指小辞。ɥəlʃ → ɥəldɔn（ユルぽん） ・ȷɥɪn 敬称の ȷɪn と nɥɪn が混じってできた指小辞で、ʃlɪn より舌足らずな感じがする。 ȷ, z, l, s で終わる単語の末子音を取って ȷɥɪn を付ける。実際の発音は話者の癖や気分次第で、ȷɥɪn になることもあれば lɪn になることもある。 ɪlcȷ → ɪlcȷɥɪn（アリしゃん）など。 なお、指小辞は ȷɪn 同様、一般名詞にも使うことができる。 ɿeʃ ȷɪn（ねこさん）、ɿeʃnɥɪn（ねこにゃん）、ɿeʃʃlɪn（ねこちゃん）、ɿeʃȷɥɪn（ねこちゃん）などのように。

ɪnɿɥ ［電算］アンクル ɥɑ:ɥɥəə; リュウが命名したプログラムの名前で、hɥ 起源なので nɿɥ という三重子音になっている。ɪnɿɥ は hɥ で ɥɪφnɪ のこと。 古 :ɥɥəə

ɪnɿlcȷ ［形容詞］小さくて可愛い ［レベル］4 ɺ1

ɪnɿlcz ［被服］シュミーズ、スリップ ［レベル］4 ɥɑ;ɪl/ɿlccz。クリスら女子が男子を誘惑する効率の良い服を考えて作った下着。非常に効果があった。 ɺ1

ɪnɿleʃ ［言語］アンクレット ［類義語］ɪɿlueʃ ［レベル］4 ɺ0: 古 bɥɪɿɿɪl/ueʃ（跡のある語） ［語法］ 合成、複合、混成（痕跡 (ɪɿlueʃ)）の総称。

ɪnɿɪ ［名詞］地元 ［形容詞］地元の、ローカルの ［医療］原発性 ［反意語］lɿɪ ［レベル］3 1L:ɪn/ɿɪ 【用例】 ʃɪə ɿɪ ɪʃe ɪnɿɪ 地元の店で買う

ɪnɿɪn ［南方］［格詞］leɑ, ucɑ, ʃɪʃʃɪ ［レベル］3 ɺ1:ɪn(en)/ɿoɪn

ɪnɿɪləɪ ［被服］トリコーン ȷᴅ;ɪl/ɿɪləɪlɔɔb ɺɱ ［文化］ ȷᴅ でできた。陸軍士官用の帽子。

ɪnɿɔ ［単位］アンコ ［名詞］升、マス、アンコ升 ［レベル］3 ɺ1:ɪl/ 古 ɿɔue「蓋のない箱」 ［文化］ 升と同時に単位の名。ʃᴅ で中立的なユーマを eləɪ と ɥəɑcȷ の単位に用いた神々であったが、その後ユーマが成長し、原器が破壊されたときに作り直せなくなるという問題を抱えた。大人の神は老いも成長もしないので度量衡にはうってつけであったが、ユーマ以外の人物では不公平を解消できないという問題があった。 また、ユーマにせよ神にせよほぼ不老不死だが殺されれば死ぬという問題があった。そこで確実に不老不死な存在としてルノに白羽の矢が立った。eləɪ と ɥəɑcȷ は既に原器を作って使用していたため、継続することとした。 より小さな長さがほしかったため、神々はルノの右手の長さ（１８．６ｃｍ）を lənɔn とした。次に容積の単位を求めた神々はマスを作成した。内のりは縦横１８．６で、深さがその１．６１８分の１の１１．４９５≒１１．５ｃｍとし、これを ɪnɿɔ とした。（なお、地球でも度量衡は一般に長さ、容積、重さの順で発展する） ɪnɿɔ≒３９７８．５４ｃｍ３≒４リットル 1/10 ɪnɿɔ ＝ czɿɔ≒０．４リットル 1/10 czɿɔ ＝ ɿəəɑ≒４０ミリリットル 10 ɪnɿɔ ＝ 1 ɿɪᴅɪn≒４０リットル 10 ɿɪᴅɪn ＝ 1 zɪnφe≒４００リットル 10 zɪnφe ＝ 1 ɑelɑe≒４０００リットル 次にルノの体重約５０ｋｇを ləcn とし、重さの単位に採用した。 1/10 ləcn ＝ 1 bɥəlɔn ＝ 約５ｋｇ 1/10 bɥəlɔn ＝ 1 ulɪn ＝ 約０．５ｋｇ ɺ ulɪn ＝ 1 cɔn ＝ 約１ｋｇ

ɪnɿɔɿ ［文末純詞］［丁寧］ɿɔɿ ［レベル］2 ɺ0:ɿᴅccɥ ［文化］ ɪn(ዓ)

ɪnɿɔdel ［音楽］和音 ［レベル］4 ɺ1:ɪl/ɿɔdleʃ

ɪnɿɔzəe,ɪlʃ ɑcɪcn。古形は ɪɿɔzəe だが、子音単体の l が発音されなくなって n に変わったため。 ɪn/ɿɔzəe

ɪnɿɔleʃ ［代詞］［ləᴅcɥ］ɿɔleʃ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcɥ

ɪnɿeʃ ［アイテム］スティレット、アンケット ［レベル］4 ɺɺ:ɪl/ɿeeʃ ［文化］ 時魔道士の武器。ȷᴅ のケートイアで考案された。対アーマー用に作られた。接近戦で用いる。

ɪnɿeɿɿɔ ［丁寧］［感動詞］ようこそいらっしゃいました ［レベル］2 ɺʔ

ɪnl ［動詞］ɥəl を lel という名で呼ぶ、呼ぶ ［レベル］2 1ɱ: 制：恣意 参考：古 :nee ［語法］ 呼びつける、来させるの意味ではない。 ［文化］ ɪdʃ 【用例】 ɪnl nɔȷ lel ʃ ʃ と名乗る el ɪnl ɥcɑcɪ lel ɥəʃcɪ. リディアはユティアと呼ばれる。

ɪnlʃcnɪ ［地学］［歴史］カリミアン ul;/ ɺʔ ［文化］ φɪɪueɑeᴅe

ɪnlɪ ［単位］デカ ［レベル］3 ɺ1:ɪnlɪnʃ

ɪnlɪ(ɺ) ［文末純詞］［丁寧］lɪ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ 【用例】 oɪɪ, lɪn ɪnlɪr sɪn eʃ lɪnʃ cᴅ ʃəɥ ɪnne. dcn ʃɪnʃ eʃ ȷɔɥʃ ʃcnɿɪ. わぁ、本当ですね！ 今、空が綺麗でした。外すごく寒いですけど。

ɪnlɪʃʃɪ ［文末純詞］［dcɿb］［丁寧］ɿɔɿ ［レベル］2 ɺɺ

ɪnlɪn ［文末純詞］［丁寧］lɪn ［レベル］2 ɥɑ;/ ɺʔ

ɪnlɪnʃ ［歳時記］立春 ［名詞］１時 ［組み数字］１／２４ ［レベル］3 ɺ0: → ɪn lcɪn ［文化］ ɪnlcɪn

ɪnlɪnʃe ［魔法］［工学］アンシャンテ ［レベル］4 ᴅelʃcɪ ɱʔ0:beɥʃ:ɪl/lɪnʃe 古：私 (ɪn) に答えてくれ (lɪnʃe) ［文化］ ul までは ɪnlɪnʃe というと現 lɪnlɪnʃe の意味→ lɪnlɪnʃe アンセに搭載された通信機のこと。ɪnlɪnʃe は元々魔力で情報を通信するものだったが、魔力を失ったレイユの時代に開発された新型通信機が ɪnlɪnʃe の名になり、今までの魔法は lɪnlɪnʃe と呼ばれるようになった。 現実にはリュウが改良したアルシェ・ソーン及びアシェットの通信機を指す。 ᴅelʃcɪ ɱʔ0 ［言語］［魔法］ベルトが ɪnlɪnʃe を開発→ ɪnlɪnʃe

ɪnlɪnʃe(ɺ) ［丁寧］［感動詞］あのう、あの、すみません、どうもすみません、お尋ねしてもよろしいですか、ちょっとよろしいですか ［類義語］lɪnʃe ［レベル］2 ɥɑ;ɪn/lɪnʃe ɺʔ

ınlız ［名詞］臨界点 ［レベル］5 ɺ1:ıl/lız

ınlıl ［地名］アンシャル ［レベル］2 ɑu;e 古 :ınlıl は古では ınlıl と ınlcl の区別がないので西洋も表わしていた。幼少時リディアはこの地域に住んでいたため、西洋を「ın(私)/lıl(存在)」という語源。即ち「私がいるところ」という原義で名付けた。対になる cnȷııl には ınlıl の対となるようにきちんと ıı という長音が含まれている。 ［文化］ アルカット大陸西部。メティオ以西。アルバザードが含まれる。

ınlılɑcı ［音楽］星歌、アンシャルディア ［レベル］3 µɑ;ın/lıl/ɑcı か ınlıl/ɑcı かで議論が分かれた単語。作詞作曲をしたセレンがこの歌にこの名を付けて広めたが、語源については黙秘した。そのため、民間の間では様々な憶測が飛び交っている。左記２案のうちのいずれかであろうと予測されているが、真偽の程は定かではない。前者の場合、「私は夢に留まる」と解釈でき、後者の場合「アンシャル地方の夢」と解釈できる。どちらも語源を確定できるほどの原義ではない。µʃ 以降優勢な解釈は ɑcı を µcɑcı と捉えたもので、「私はリディアと共にある」である。この解釈は µɑ でセレンとリディアが死なずにアルカディアへ渡り、その後転生するというアルティス教の教義を支えるものであるため、革命後に再度支持された。 ɺɺ ［文化］ アトラスの歌。国歌が星規模になったもの。µɑ でセレンが作り、広めた。アルカを広めるのは難しいしそのつもりもなかったが、音楽は民族を越えると知っていたセレンは、ユーマの一族の悪魔に対する結束力を高めるためにこの歌を作った。アルカを知らない辺境の地でも、この歌の歌詞だけは知っているという人が多い。ただし、ご当地なりの発音ではあるが。 各国語の翻訳版が作られたのは nɑ 以降。しかし結束力を削ぐという意味で嫌われる傾向にあった。また、翻訳版を歌うくらいなら各国の国歌を歌ったほうが民族のアイデンティティを象徴できるという理由もあった。 アルティス教では聖歌に認定され、革命後も星歌として再評価された。ただし、革命時はむしろ「ミロクのドグマ」を万国に流布させるのに必要だった「星規模の結束力」を養うために利用された。もっとも、表向きは「世界平和の歌」というテーマで広められており、現在では義務教育の初頭段階である ȷleı で覚えさせられる。 地球に万国公認の星歌がないのは恐らく地球外生命体との戦争がなかったからだろう。

ınlılbel ［料理］アンシャル料理 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ ［文化］ 薄味で塩気が少ない。麦中心の料理で、品目は少ない。

ınlılcı ［医療］西洋薬 ［反意語］cnȷılcı ［レベル］3 ɺ0:ınlıl

ınlc ボーイフレンド、彼氏候補 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıllccı → ıllc → ınlc（l は l の前で舌先がくっつかなくなるため、変音しやすい） ［文化］ 彼氏候補。夢織で言うとカナンはこれの一歩手前。最終的には ınlc を経て lccı 手前まで行ったが。 アルバザード人は ınlc ないし ınʃc を複数人持つ。恋人として付き合うまでに３年はかけるため、できるだけ多くの異性をキープしておき、その中から互いにとって最も相性がいいものを選ぶ（当然片思いに終わることもある）。恋人候補を最初にゲットしなければならないので、学校では男女が別になっていることは少なく、男女入り乱れて仲良く過ごしている。男子グループ・女子グループというような区別はあまりない。 ただし µɑ においてはそうではなく、アルシェは男女で別々に固まっていた。他方、ソーンは男女入り混じっていたので、同じ時代でも異なりがある。

ınlcɑcı ［丁寧］［感動詞］おやすみなさい ［レベル］2 ɺʔ

ınlcɥə ［丁寧］［感動詞］lcɥə、了解しました、分かりました、わかりました、了解いたしました、了解致しました、かしこまりました、承知しました、承知いたしました、承知致しました ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ

ınlcl ［ユマナ］ヨーロッパ、西洋、西欧 ［レベル］3 1L:ınlıl

ınlclȷɔlʃ ［ユマナ］［経済］ユーロ ［レベル］3 ɺɺ

ınlclbel ［ユマナ］［料理］洋食、西洋料理 ［レベル］3 1L

ınlclleᴅ ［ユマナ］［音楽］洋楽 ［レベル］4 ɺ1

ınlcın ［歳時記］節気、二十四節気 ［組み数字］２４ ［レベル］4 ɺ0:ıµlcel ［文化］ zφ で２４節気ができる。五日で一候 (scnı)、三候で一気 (ȷıdlc)、二気ないし六候で一月 (ʃeeze)、三月で一季 (lılʃe)、四季で一年 (ȷılʃ)。 日が経つにつれ空模様が変わり、空気が変わり、風の冷たさが変わり、自然の様相が変わることから来ている。 初秋・仲秋・晩秋はそれぞれ複合語で、ɑcınılcȷ, lızılcȷ, ᴅınıılcȷ。初夏なども同様のネーミング。（ただし春は立春でなく春分から始まる） ２４節気から７２節気を作る初候、次候、末候はそれぞれ lənıȷıdlc, lılȷıdlc, leeuȷıdlc。四季神同様、擬人化されている。 ２４節気は zφ では春六気（春分～芒種）までが女神の名に頭、首、胸、腹、腿、足を足したもので表された。 例えば春分はアシュテの頭で ılʃelɔ となり、若干殺伐としていた。 日本では立春といってもまだ寒く、春といわれてもピンと来ない。 アルバザードは緯度が高く、春も立春でなく春分から始まるため、節気と季節感が一致している。 µɑ でようやく文化的に成熟し、季節の花の名を用いて表現されるようになった。この花は当時のアルバザードでその時期に見るのが良いとされたもので、それを元にアシェットが造語した。 例えば１月は ocnʃeµ sıȷᴅcn が選ばれているが、この花は１２－４月まで咲く。このうち当時のアルバザードで見ごろとされたのが１月であるため、この時期の大寒に選ばれている。 なお、µɑ なので既に外来種が輸入されている時代であり、その点も考慮したい。 蓮の見所は大暑前後も含むが、大暑になっているのは暑い時期なので水辺にという気遣いから。このように、このリストは単なる見ごろだけで決められていない。 また、ハイビスカスのように熱帯をイメージするという理由で立秋（８月上旬）に来ているものもある。 春は春分から始まるが、組み数字としては節気は立春（冬）から始まる。これはアシェットが節気をまとめたときに、編集者であるセレンが暫定的に自分の誕生日（＝立春）を起点に計算していたため。のちに春分から始める つもりでいたが暫定案で定着してしまい、その後もズレが残ったままになっている。 ２４節気はそれぞれ起点となる日付が天文学的に決定するため、毎年同じ日になるとは限らない。日本でも春分の日が一定でないことを思い出すと良い。ただおおよその目安として例えば立春は２月４日ごろというものがある。下記にそれぞれの節気の目安を記載する。lcȷʃcnı 図鑑の歳時記の項もこの目安を用いる。
立春 (ınlınʃ, ｐｒｉｍｕｌａ、プリムラ) ２月４日 雨水 (ɑcnφen, ｕｍｅ、梅) ２月１９日 啓蟄 (ᴅeʃcın, ｃａｍｅｌｌｉａ、椿) ３月６日 春分 (ɑcılelʃ, ｐｅａｃｈ、桃) ３月２１日 清明 (lcɑcın, ｐｌｕｍ、李) ４月５日 穀雨 (ıllcᴅ, ｒａｐｅ ｂｌｏｓｓｏｍｓ、菜の花) ４月２０日 立夏 (lılleᴅcʃ, ｃｌｅｍａｔｉｓ、クレマチス) ５月６日 小満 (ıµɑcınəȷ, ｌｉｌｙ ｏｆ ｔｈｅ ｖａｌｌｅｙ、鈴蘭) ５月２１日 芒種 (ɑelceµ, ｒｏｓｅ、薔薇) ６月６日 夏至 (ȷeᴅcın, ｈｙｄｒａｎｇｅａ、紫陽花) ６月２１日 小暑 (lᴅcclcı, ｌａｖｅｎｄｅｒ、ラベンダー) ７月７日 大暑 (ᴅcıneʃ, ｌｏｔｕｓ、蓮) ７月２３日 立秋 (φıµɑcın, ｈｉｂｉｓｃｕｓ、ハイビスカス) ８月７日 処暑 (ɑılcın, ｓｕｎｆｌｏｗｅｒ、向日葵) ８月２３日 白露 (ɑcnɔȷ, ｃｌｕｓｔｅｒ ａｍａｒｙｌｌｉｓ、彼岸花) ９月８日 秋分 (ılhıcɑ, ｓａｌｖｉａ、サルビア) ９月２３日 寒露 (ɑcıhıɑcµ, ｃｏｓｍｏｓ、秋桜) １０月８日 霜降 (ɑcφɥəµeµ, ｓｏｌｉｄａｇｏ ａｌｔｉｓｓｉｍａ、セイタカアワダチソウ) １０月２３日 立冬 (sınɑcɔµ, ｚｅｌｋｏｖａ、欅) １１月７日 小雪 (oecuıµ, ｍａｐｌｅ、楓) １１月２２日 大雪 (ȷıµbelcı, ｈｏｌｌｙ、セイヨウヒイラギ) １２月７日 冬至 (ueɑlcµ, ｐｏｉｎｓｅｔｔｉａ、ポインセチア) １２月２２日 小寒 (elczcın, ｎａｒｃｉｓｓｕｓ、ナルキッソス、スイセンの一種) １月５日 大寒 (lccʃen, ｗｉｎｔｅｒ ｊａｓｍｉｎ、ウィンタージャスミン) １月２０日

ınlcın(ɺ) ［代詞］［ləᴅcµ］lcın ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınlcınʃ ［言語］時候の挨拶 ［レベル］5 ɺ1:ınlcın/ʃe

ınlcınʃ(ɺ) ［代詞］［ləᴅcµ］lcınʃ ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınlcınᴅeᴅ ［組み数字］アンシアンサークル ［レベル］3 ɺ1 ［文化］ µıdıll

ınlcc ［文末純詞］［丁寧］［ɥənl］ʃəəɥə ［類義語］ʃəəɥə ［レベル］2 ɺ0:lᴅccµ:ın（丁寧）/lccʃ ［文化］ ın(ᑫ)

ınlccᴅı ［文末純詞］［丁寧］［ᴅıɥə］lccᴅı ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ

ınlccz ［建築］アンシーズ教会 ［経済］５０ソルト玉 ［アクセント］ṫnlccz、ınɫccz ［レベル］2 ɺ1:µcɑcı:ın/lccʃ ［文化］ → ınɑın µʃ に建てられた国内最大の教会で、所在地は ıµuelʃe。

ınlɔ ［感動詞］［µenʃe］よいしょ、よっこいしょ ［レベル］2 古 ［語法］ ıl] ɔnlɔ

ınle ［代詞］何か、なにか、なんか ［反意語］lenle ［レベル］2 ɺ1: 南方語からの輸入。否定の ın/le

ınleleʃ ［法律］オレオレ詐欺、おれおれ詐欺 ［レベル］5 ıl;/「俺という詐称」 ɺʔ

ınlenɔn ［代詞］［ləᴅcµ］lenɔn ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınlenɔın ［代詞］［ləᴅcµ］lenɔın ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınlel,ȷzɑ ɑıl ın/ȷcel

ınlellın ［生物］［医療］督脈 ȷzl;/。体の正中線で陽になる側（四足獣時代に日の当たった背中側）であることから「太陽の経」。 ɺɱ

ınlelcȷ ［代詞］［ləᴅcµ］［丁寧］lelcȷ ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınlelcen ［代詞］［ləᴅcµ］［丁寧］lelcen ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ ləᴅcµ

ınȷ ［代詞］私たち ［レベル］1 1L ［語法］ 聞き手を含むか含まないかの区別はない。英語や日本語と同じ。

ınȷ(ɺ) ［魔法］エレメント、魔法の要素 ［レベル］4 ȷzɑ;e x:ınȷ:lı ınȷ ［文化］ 特に基本７属性のうちさらに基本となる水風土火雷のこと。→五行説 (lleuınȷ)

ınȷı,ılʃ nɔl

ınȷılcoı ［植物］ヤツデ ᴅʃ;「七つの手」 ɺɺ

ınȷınnı ［文末純詞］［ᴅıɥə］［丁寧］ȷınnı ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ

ınȷcn ［文末純詞］［丁寧］ȷcn ［レベル］2 ɺ0:lᴅccµ ［文化］ ın(ᑫ)

ınȷcuın ［文末純詞］［dclb］［丁寧］ȷec ［レベル］2 ɺɺ

ınȷclɑlellɔ ［丁寧］［感動詞］お気軽に、どうぞ、どうぞどうぞ、ぜひとも、ご自由に、どうぞごじゆうに、どうぞご自由にお取りください ［レベル］3 µɑ;/ ɺʔ ［文化］ → ᴅɔφ

ınȷccnı ［文末純詞］［丁寧］ȷccnı ［レベル］2 ɺ0:lᴅccµ ［文化］ ın(ᑫ)

ınȷcelʃ ［µenʃe］［代詞］あちらの方の、あの方の、アンシエット→ ləıdcı ［アクセント］ınȷcElʃ ［レベル］2 ɺɺ:lᴅccµ;ınȷcel/ʃe

ınȷcel ［µenʃe］［代詞］あちらの方、あの方、あのお方、アンシエール→ ləıdcı ［レベル］2 ［アクセント］ınȷcEl ɺɺ:lᴅccµ;ın（丁寧）/ȷcel（空→遠くの人→距離をおくことで丁寧さを）

ınȷɔluıʃ ［感動詞］おまたせしました ［レベル］3 µɑ;/ ɺʔ

ınȷɔı ［感動詞］やった、やったー ［類義語］hoı ［レベル］2 ʃᴅ;ın/ȷɔ/ı「私はしたぞ」 古 :ʃcȷɔı と同原理。 ［語法］ 自分で努力したことに対して使う。「今日のごはんはハンバーグよ」「やったー」のように自分の行動と関係がない場合の「やったー」には hoı を使う。

ınȷɔɔnɔ ［丁寧］［感動詞］ȷɔɔnɔ ［レベル］2 µɑ;/ ɺʔ

ınȷɔɔnɔɥən ［丁寧］［感動詞］ȷɔɔnɔɥən ［レベル］2 ɺ1

ınȷe ［電算］アンセ ［レベル］2 1L:ınȷ: 古 :µcɑcı:ınlınʃe から ［文化］ leczen 携帯型万能通信機。テレビ電話もネットも使える。ほとんど腕時計型で、映像は机などに投影できるが、出先でも掌に投影するなど、至れり尽くせりの機能を備えている。機械が嫌いなアルバザード人が好んで使う機械。国民としてのＩＤもアンセに登録されているため、身分証明にもなる。なお、国籍のない者は持っていないので、アンセの有無で身分がすぐに分かる。 ʔL1 アリシアの主導でアンセが開発され、それまでの携帯電話に代わってスマートフォンが

普及していく。この時点ではまだ電子ペーパーは普及していない。また、レイゼンに当たるタブレットＰＣもこの頃にはできていたが、やはり電子ペーパーではなく、四つ折り機能などもまだ実装していない　ɱ09『紫苑の書』の時代ではまだ腕時計型の端末で、機能は制限されていた。アンセはレイゼンの親機で、ＩＤの代わりとして利用できた。アンセに電子ペーパーは必ずしもなく、ホログラムやプロジェクターの機能はない。音楽再生機能はあるが、スピーカーは骨伝導ではなく貼り付け式でもない。２０１１年における地球と同様。　ɱȷȷ『アルディア』開始の時点では貼り付け式のイヤホンが存在し、画面も電子ペーパーになっている。また現金の使用比率も ɱ09 年より減っており、アンセの電子マネーによる決済の比率が増えている。　・充電　充電は初期の頃は有線でやっていたが、ls には非接触式の充電器に取って代わった。充電は主に寝ている間などに行う。【用例】 eu φcl ıl ınȷe アンセに金を補充する　ınȷe ıɥ clʃı アンセが画像を映す　clʃı ʃ'ınȷe eȷ ıɥ アンセの画像が映っている

ınȷeʃe ［文末純詞］［ɥenʃe］［丁寧］ȷeʃe ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınȷenʃ ［丁寧］［感動詞］ȷenʃ ［レベル］2　ȷ1

ınȷenʃınʃ ［丁寧］［感動詞］ȷenʃınʃ ［レベル］2　ȷ1

ınȷeɒ ［代詞］［plɑeɥs］ȷec ［レベル］1　ȷȷ:ʅɒccɥ:ın leɒ

ınȷeφcl ［経済］アンセの電子マネー ［レベル］2　1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ ［文化］ φcl

ınȷeɥ ［植物］アセロラ ［電算］アンセル。グーグルＩＭＥに当たる変換システム。 ［ユマナ］グーグルＩＭＥ ［レベル］3　nɑ;ıl/ȷeɥɔncʅ | ıl;dce に対し植物で命名された。同時に ın ȷeɥ（私は知っている）の掛詞でもある。　ȷȷ

ınȷec ［文末純詞］［丁寧］ȷec ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınȷeeɥe ［丁寧］［感動詞］ȷeeɥe ［レベル］2　ȷ1

ınȷeeɥeʃcȷ ［丁寧］［感動詞］ȷeeɥeʃcȷ ［レベル］2　ȷ1

ınȷəc ［植物］ハッサク、八朔、八作 ［レベル］3　ȷɒ;ılʃ　ȷȷ

ınnı ［医療］アイデンティティ、自己同一性 ［レベル］5　1L:ın/nı（自分の心）【用例】 lıl ınnı アイデンティティを保つ

ınnı(ȷ) ［文末純詞］［丁寧］ı ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınnınnı ［文末純詞］［丁寧］nınnı ［言葉遊び］これ自体が回文になっている。［レベル］2　ȷ1

ınnıə ［文末純詞］［ɥenʃe］［丁寧］ıə ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınnɔʃʃe ［代詞］［ləɒcɥ］nɔʃʃe ［レベル］2　ɥɑ;/　ȷʔ ［文化］ ləɒcɥ

ınnɔn ［代詞］［ləɒcɥ］nɔn ［レベル］2　ɥɑ;/　ȷʔ ［文化］ ləɒcɥ

ınnɔın ［代詞］［ləɒcɥ］nɔın ［レベル］2　ɥɑ;/　ȷʔ ［文化］ ləɒcɥ

ınnɔel ［代詞］［ləɒcɥ］nɔel ［レベル］2　ɥɑ;/　ȷʔ ［文化］ ləɒcɥ

ınne ［文末純詞］［丁寧］e ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınneɥɔ ［文末純詞］［ɒclcı］［丁寧］eɥɔ ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınnel ［卑語］クリトリス、陰核 ［レベル］4　ȷ0:ʅɒccɥ:ınne ←古 :ınne,eȷ ȷencd（いやらしい豆）を隠語化して次々語形を変えていった結果、メル・アルカの時点で ınne に落ち着いたもの。ȷ0 に純詞の兼ね合いで ıl が付いて ınnel に。

ınneə ［文末純詞］［ɥenʃe］［丁寧］eə ［レベル］2　ȷ0:ʅɒccɥ ［文化］ ın(٩)

ınu ［名詞］ペットボトル、プラスチックボトル ［化学］ポリエチレンテレフタレート（ボトルでなく物質として） ［レベル］2　1ɱ: 制 :ınzuıel(プラスチックのボトル)

ınuınʃ ［丁寧］［感動詞］uınʃ ［レベル］2　ȷ1

ınuınʃınʃ ［丁寧］［感動詞］uınʃınʃ ［レベル］2　ȷ1

ınuɔɥʃ ［歴史］アンヴォルト、死枢 ［レベル］3　ȷ1:ıl/uɔɥʃ ［文化］ ディミニオンによる大規模な攻撃や被災のことを指す。lıɒuɔɥʃ と ɥıuelu ɥʃ が有名。

ınueɥ ［名詞］呪い、怨念、恨み、怨み、怨霊、邪念、復讐心。ılɑeɥʃ の同義語 ［医療］機能障害、～症、症、障害、不定愁訴 ［魔法］アンヴェル。闇の古代魔法。呪いの力で敵を殺す魔法。敵を憎む意思の強さが敵の生命力よりも強ければ、敵は数分で死に到る。アシェットでの使用者はメルのみ。効果としては、敵はあらゆる憎悪を魔導師から受け、大きなストレスを受ける。そのストレスに耐えかねたものが、極度のストレスにより死亡する。 ［レベル］3　古 :ɥcɑcı:nı/uıɥıe から 【成句】 ınueɥ ʃɔe uın lı ʃȷeʃʃın. 怨念は裏切り者を刺し殺す： 雨垂れ石を穿つ、念力岩をも通す 【用例】 deɑ ınueɥ 恨みを晴らす　ɥıʅ ınueɥ 恨みを乗り越える。仕返しせずに消化させること。

ınueɥʃ ［形容詞］未病な、不定愁訴を感じる、不健康な、不健全な ［医療］未病、不定愁訴 ［魔法］忌憑 ［魔法］［形容詞］悪魔に憑り付かれた ［レベル］4　ȷ0:ınueɥ/ʃe（呪われた） ［文化］ ・ləʅleʃcı における過敏と不健康と健康観　過敏と不健康は異なる。過敏な人間は少しのことで胃を壊したり風邪を引いたり頭痛を感じたりする。人が平気で酒やコーラや油ものを食べて太っているのを見ると、痩せて胃腸の弱い人は信じられないとともに羨ましく妬ましく思い、ときには珈琲一杯で体調を崩す自分を「弱い」とか「情けない」と感じる。敏感な人間ほど異物に反応しやすいため、吐きやすかったり食が細かったりしがちで、その結果痩せているか水太りな傾向にある。筋力に乏しいため、まして自分を弱いと思いやすく、男性だと更に劣等感を感じやすい。　ləʅleʃcı では過敏は不健康とは異なるとしている。一杯の珈琲や少しの油もので胃痛を起こしたり、チーズや小麦でアレルギーを起こすのは弱いことやまして不健康なこととは関係がない。単にそれは体が反応しやすいというだけのことである。　なお、そのような人は概して排他的な価値観を持ち、偏屈で神経質で内向的な確率が高い。　そのような人は結果としてタンパク質カロリー不足で華奢になるかもしれないが、それは cun ではなく、せいぜい en ʅınuc でしかない。　本当に ınueɥʃ や leun なのは毒を貯め込んでしまう人間である。いくらでも食べられ、鈍感で、体格は良く、元気で、太っている。ところが毒に体が気付いていないだけで、内面で病気が進行している。こちらのほうがむしろ ınueɥʃ や leun であり、医学的には問題がある。【成句】 uılȷ ınueɥʃ eʃ ɥıʃen. 痛みを知る医者は名医。ɥɑ で様々な不定愁訴に襲われたセレンが作った成句。リュウは西洋医学、セレンは東洋医学のプロだったが、東洋医学は特に経験医療なので、自分自身が痛い思いを経験した医者のほうが患者の気持ちや苦しみが分かって治療が巧いことからこういう言葉ができた。

ınueɥʃ(ȷ)　忌憑、いみつき、アンヴェルト　ȷ1 ［文化］ セレンによる小説。ジャンルはミステリー。　1ʕ 歳の高校生、南神楽（みなみかぐら）(ʅıφɥı ʃɥcʅɔl) はある日飛び降り自殺を目撃する。　それから彼の目には忌みという悪霊が見えるようになる。　神楽は目の異変を同じクラスの神社の娘、雨宮丁（あまみやひのと）(hcnɔʃɔ ɥəaın) に相談する。　一方神楽は同級生の数学ガール、柊霞（ひいらぎかすみ）(ʅıȷɒc ȷıɥbelcı) の秘密をひょんなことから知ってしまう。　秘密を洩らさないよう霞に脅されるも、神楽の目に見えていたのは霞に憑いた忌みであった……。

ınueɥʃɔɔɑ ［名詞］死の坂、黄泉比良坂、よもつひらさか、アンヴェルトード ［メタファー］デスマーチ、デスマ、過剰労働、過労 ［レベル］4　ȷ1 ［文化］ スピカのほうにあるとされる坂。報われない魂が坂を彷徨い続ける。坂は騙し絵のようにいくら登っても同じところをぐるぐると回転するだけ。

ınueɥnɔz ［天文］ケフェウス　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ lɔɔncı

ınueɥnɔc ［天文］ガーネットスター　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel: 呪いの子

ınueɥɑıc ［名詞］鬼火、人魂、ひとだま ［天文］スピカ ［レベル］5　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel: 呪いの火 ［文化］ スピカはヴェルファイの怨念の化身。死神につれていってもらえなかったセレスはこの星に留まってしまうと考えられている。逆に言えばアヴェランティスはこの方角にあるのではないかと考えられている。

ınueɥɥecɒ ［魔法］怨霊 ［レベル］4　ȷȷ

ınueɥlɔlɔ ［天文］アルデラミン　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ lɔɔncı

ınueɥcnȷ ［天文］アルフィルク　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ lɔɔncı

ınueɥeȷʅ ［歳時記］怨雨、アンヴェレスク ［レベル］3　ȷ1 ［文化］ ɥıl lıl。死神ヴァンガルディがガルヴェーユに降り立ち、アトラスに蠢く人々の怨嗟をその鎌に集め、死神貴族に再配布する日。怨嗟は強力なヴィードの塊となって世界中に存在している。→ ȷeleȷ　ヴァンガルディはヴィードの返礼として、怨嗟の強い者を選んで協力し、復讐を成就させることがある。協力の仕方は様々で、直接手を下すこともある。なおヴァンガルディの選定は恣意的で、本人が共感できる怨嗟に肩入れする傾向がある。　実際にこの日は犯罪率が高く、それゆえミロクは多くの国民（電力や軍事など休めないものを除き）に終日外出禁止令を出して実質休日としたことがあったが、かえって家庭内での犯罪が増えたため催日に戻した。しかしその大半はヴァンガルディの加護を得たものでなく、自分は加護を得たものと妄想しての犯行が多いのではないかと考えられている。

ınuel ［魔法］アンヴェル、呪術 ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ınueɥ ［文化］ 呪いを利用した魔法体系。ファベルのマレットが開発した。その後西洋にも伝わり、シフェルの民にも遣い手が現れた。そのため、アルマレットに含まれるものの、シフェルの民も使うことができる。

ınuelın ［魔法］呪術師、まじないし ［レベル］4　1L:ɥcɑcı

ınuelenʃ ［魔物］アンヴェレント（呪人形）：第八十一天：邪の氷天 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ınueɥ/lenʃ ［文化］ 憑族。捨てられた人形の悲しみに宿る九十九。呪いの歌を歌い、人を狂気に誘う。一度とりつくと死ぬまで離れず、どこに行っても、トイレでも風呂でもベッドでもどこまでも付いてきて、ケタケタ笑う。人が耐えかねて捕まえようとしたり攻撃しようとするとスッと消えて、また出てくる。ついには獲物は発狂して自殺してしまう。死んだ人間はアンヴェレントによって、道端に「要らなくなった人形」のように捨てられる。

ınɑlenzel ［丁寧］ɑlenzel　ȷ1

ınɑı ［軍事］火器　ȷɒ;ıl/ɑıc　ȷɱ ［文化］ φel

ınɑıʃɔɔ ［丁寧］［感動詞］お疲れ様です ［レベル］2　ȷʔ

ınɑın ［経済］貨幣 ［類義語］ʅıcȷ　ȷ1:ɥcɑcı:ıl/ɑınʃ ［語法］ ʅıcȷ は通貨。円やドルやユーロといった抽象的な概念のこと。　ınɑın は実物の貨幣。五百円玉や千円札などのこと。 ［文化］ アルバザードの通貨は ȷɔlʃ で、貨幣は９種。　貨幣は紙幣 (ɒıφl) と硬貨 (φılɑ) に分かれる。10000, ᚠ000, 1000, ᚠ00 が紙幣。100, ᚠ0, 10, ᚠ, 1 が硬貨である。ueȷdel は日常生活ではレア。　紙幣にはアルバザードを代表する自然の名所が描かれている。硬貨にはアルバザードを代表する建造物が描かれている。自然の名所のほうが面積が広いため、硬貨には描きづらい。そのため自然の名所が紙幣に宛がわれている。　紙幣は紙自体に色味がかかっており、その色味を濃くした単色で名所が描かれる。例えば 10000 ソルトの ueȷdel は微かに薄茶色の紙で、絵自体は焦げ茶色で描かれる。　硬貨は材質によって色が定まる。穴開き硬貨はない。　アルバザード人は通常「五百円玉」というような数を使った言い方をせず、アメリカ人がダイムやバックと言うが如く、ın lccz や ɒcȷʃce のような名前で呼ぶ。　10000:ueȷdel：茶　ᚠ000:eılcȷ：青　1000:lıuen：緑。滝より周囲の木々のほうが絵の面積を占めるので緑のほうが見やすいとされた。水色にすると eılcȷ とかぶるので避けられた。　ᚠ00:ȷɔen：灰。岩肌の色から。　100:ɑıllcın：金色　ᚠ0:ınlccz：銀色　10:ɒcȷʃce：銅色　ᚠ:φıəɑc：鉄色　1:ɥınφ：アルミの白銀色

ınɑıɥnı　[丁寧][感動詞] どうぞお大事に、お大事に ［レベル］2　ȷʔ

ınɑc ［代詞］何か、なにか、なんか ［反意語］lenɑc ［レベル］2　ȷ1:ınle

同様 【用例】 ʝee ʃə ɑcɪ eʝ lɪɒ ʅɔn ʃə "ɪnɑc". ɪlɑc ɑcɪ ɒe lɪɒ ʅɔn ʝɪɪs" そして世界はその『何か』でできている。決して無ではないんだ」

ɪnɑccɒɪ ［丁寧］［感動詞］ お久しぶりでございます ［レベル］ 2 ʝʔ

ɪnɑeɲ ［名詞］ 聖職者 ［アクセント］ ɪnɑƐɲ ［レベル］ 4 ɲɒ;<lʃ ʝɱ ［文化］ アルティス教の影響下のアルバザードでは僧侶、学者、医者、教師が聖職者とされる。聖職者は酒を常飲してはならないなど戒律が比較的厳しく、敬虔であることが要求される。

ɪnɑel ［被服］ アンフェル、打掛襦袢、うちかけじゅばん ʝ1:ʝɒe ［文化］ 古スカルディアの竜騎兵が着た服。黄色の襦袢と黒の打掛と階級を示す lɔnʃe からなる。

ɪnɑelclcɪ ［名詞］ 男の娘、男のこ、おとこのこ、アンフェリシア ［反意語］ ɑɲecɒccnɪ ʝʝ: 走りとなった少年たちが ɪnɑel のような服を着ていたことから。 ［文化］ ul 後期でブームになった。現代でも一分野として認識されている。ʝʝ 現在ではユルトみたいな少年を指すようだ。 同時期に ɑɲecɒccnɪ も登場したが、こちらはそれほどニーズが出なかった。

ɪnɑelclcɔn ［軍事］ 竜騎兵、アンフェリシオン ［アクセント］ ɪnɑelƐlcɔn（上流）、ɪnɑelclƐɔn、ɪnɑelclcƎn（南方） ʝ1:ɪnɑellɔn.ʝɒe

ɪnɑelcɪ ［運動］ アンフェリア、竜騎舞 ʝ1:ʝɒe ［文化］ 竜騎兵の踊り。アンフェルを着て鼓を鳴らして舞う。この鼓は元々戦場で使ったもの。現代では lɪnʃe ʃ'ɪnsəɲ などで行われる。むろん竜は用いない。

ɪnɑelcɪl ［代詞］［ləɒcɲ］ ɑelcɪl ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɑelce ［代詞］［ləɒcɲ］ ɑelce ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɒc,ɪlʃ ʅcʝ

ɪnɒcʃɪ,ɪlʃ ɪʃ ɪɪʃɪ ɪn/ɒcʃɪ

ɪnɒcʝɪ ［植物］ クチナシ、梔子、くちなし ［レベル］ 5 ɒʃ;ɪnɒc/ɒcʝɪ ʝʝ

ɪnɒcɪ ［文末純詞］［丁寧］ ɒcɪ ［レベル］ 2 ʝ0:ʅɒccɲ ［文化］ ɪn(٩)

ɪnɒcɪn ［文末純詞］［ɲenʃe］［丁寧］ ɒcɪn ［レベル］ 2 ʝ0:ʅɒccɲ ［文化］ ɪn(٩)

ɪnɒccɲ ［政治］ アンミール ［レベル］ 4 ls:ʝeɲen/ɒel:ɪl/leʝʃcɒccɲ ʝɱ ［文化］ → leʝʃcɒccɲ, ʝeɲɪʅn, ʝeɲʅɔlɒ ls でセレンらが設置した機関。それまでの立法・行政・司法にいた人間たちを基に構成された。 革命後はレスティミールが三権を支配したが、レスティミールに不具合があった際にレスティミールの代行をしたり、レスティミールの決定に意見を入れてレスティミールに再考を促すことが役割。前者は有事の際、後者は平生から行う。 セレンは革命で政治家や議員などを一見廃業に追い込んだように見えるが、実際にはアンミールの構成要素として残しておいた。機械だけでなく人間にも国を動かさせるためにである。 アンミールはレスティミールと同じく分立した三権から成り、人間が務める。構成員は選挙で行われ、ミールが管理・集計する。そのため構成員には入れ替わりがある。就任期間は革命前と同じであるため、一定の期間ないし解散・総辞職ごとに選挙を行う。 簡単に言えば、「セレンらはそれまでの人間による立法・行政・司法を二軍落ちにしてレスティミールを採用した」ということである。

ɪnɒɔe ［代詞］［ləɒcɲ］ ɒɔe ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɒɔen ［代詞］［ləɒcɲ］ ɒɔen ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɒecɒ ［代詞］［ləɒcɲ］［丁寧］ ɒecɒ ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɒecɒen ［代詞］［ləɒcɲ］［丁寧］ ɒecɒen ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɒ ［接尾辞］ ～している。反復相を示す。 ［動詞］ ɥəl している、～している。eɒɪnɒ の意味で使う。事実上反復相の繋辞。 ʝ1:ʝ1 ɒel ɒcɲ まで反復相は純副詞 ɒc で示していた。最も頻度の高い反復相は eɒ ɒc の句であったが、これが詰まって eɒɒc となっていた。母音が落ちて eɒɒ となり、ɒ に同化して enɒ となる。その後一般動詞にも lən ɪnɒ のように膠着するようになる。ルティア家で起こりルティア家で定着。差の enɒ と区別するために enɒ を enɒc に。しかしミリアにより lənɪnɒ から enɒ でなく ɪnɒ が逆成。すぐ誤りと気付いたが、音が言いやすいとのことで ɪnɒ で定着。enɒ は lenɒ と近いため、enɒc のままとした。数カ月の試用を経て左日にセレンが承認し、接尾辞で反復相を指すようになった。 :::hɪzelə,ɪlʃ ［語法］ 開音節では ɪ が落ちる。過去形と組み合わせる場合は bɪɒɪʃɪnɒ のようにする。 【用例】 ɥəlc euɪnɒ ləoɪɪʅl ɪ ʝɪe. 子供が雪に足跡を付けている。 ʅe ucʅ bɪɔφɪnɒ ɔɒc ucenel. 男が扉を何度も叩いている。 ʅleɪ ɪnɒ ɒeʃ. 粉が降ってくる。 eʝʅ lənɪnɒ. 雨が降っている。自然な言い方。 eʝʅ ɪnɒ ɒeʃ. 雨が降っている。落下に焦点。 ɗɪʃe lənɪnɒ → ɗɪʃe lənɪʝ. 嵐が来ている。嵐が複数回来ているのではなく、今ここに来終わって残存しているので eʝ。雨はパラパラと何粒も降っては降ってを繰り返すので ɪnɒ。 ʝelɪn uɔɲʃɪnɒ ʅɪ ɑc cɒ clʝel. 毎日どこかで人が死んでいる。

ɪnɒɪ ［名詞］ 基準、水準、身の程 ［経済］ 水準 ɑu;e ʅɱ: 制 :ɪnʃ ɪnɒɪ:ɪnɒ ɪ:lə lɪnɒ 【成句】 ɲe ʝeɲ ɪnɒɪ（自分の）身の程を知れ。調子に乗るなよ、図に乗るな、いい加減にしろ、身の程を知れ、分をわきまえる 【用例】 ɪnɒɪ ɒɪz 程良い基準 ɪnɒɪ ʝɔɲ 高い水準、高水準

ɪnɒɪnʃ ［人名］ アンダント 古 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʕ٩Ɐʝ) カコ中期におけるドゥルガの王。イーファとハーネの父で、彼らは異母兄弟に当たる。 ɥəəɒɪ ʕ٩Ɐʝ アゼリア、息子の ɪnɒɪnʃ を産み、ɪnɒɪnʃ を預言者と公言。国民は邪教徒討伐の一件があったため、これを受け入れる

ɪnɒɪɒelɪl ［地学］ 標準時 ［レベル］ 4 ɲɒ;/ ʝɱ

ɪnɒcɲ ［遊離副詞］［形容詞］ よく、わりと ［アクセント］ ɪnɒƐɲ ʝ0:ɪnɒɪ/ɲɪʅ（基準を超えた＝５０％を越えた）→ ɪnɒɪɲ → ɪnɒcɲ（ɪnɒɪ から離すため） ［語法］ ɪləəʃ

ɪnɒczɒɪl ［文末純詞］［丁寧］［ɲɒen］ ɒczɒɪl ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ

ɪnɒɔɔuɪ ［丁寧］［感動詞］ ɒɔɔuɪ ［レベル］ 2 ʝ1

ɪnɒe ［電算］ＬＡＮ、ローカルエリアネットワーク ʅʔ: 制 : 古 :ɪnlɪnʃeʅɪɪɒe（アンシャンテカード）

ɪnɒedenʃ ［言語］ 早々、草々、そうそう、アンデペント ʝ1:ɪl/ɒedenʃe（前文がなくエリスへの祈りもなかったのでここで倍祈るの意味） ［語法］ 男性も使う。

ɪnφɲɪɒɒɪ ［企業］ アングランマ ʝ1 ［文化］ 新日本製鐵に相当する企業。

ɪndɪʝʝɔ ［丁寧］［感動詞］ dɪʝʝɔ ［レベル］ 2 ɲɒ ʝʔ

ɪndɪl ［被服］ テディ ［類音］ ɪɒdɪl ɲɒ;ɪl/dɪɪl。スリップと同じ流れ。 ʝ1

ɪndc ［植物］ ナンテン、南天 ɲʃ;ɪlʃ ɪlʃ のスペルなので ɪɒdc でなく ɪndc のままでよい。ヴェマ原産。 ʝʝ

ɪndc,ɪlʃ lɔʝ

ɪndenʃ ［丁寧］［感動詞］ denʃ ［レベル］ 2 ʝ1

ɪndenʃɪnʃ ［丁寧］［感動詞］ denʃɪnʃ ［レベル］ 2 ʝ1

ɪndel ［人名］ アンペル ʝ0 ［文化］ ツェリン西部の都市。幾度も戦禍にあった。

ɪnbe ɲɔəb ［人名］ アンベ＝ローブ ʝ1 ［文化］ ヴェレイのアミナル党首。ユーリアを手籠めにし、自殺に追いやった。ミロク革命の発端となった人物。

ɪnbez ［化学］ トリシネート ul;ɪl/bezel ʝɱ ［文化］ φel

ɪnhɪɗʅɪ ［丁寧］［感動詞］ お誕生日おめでとうございます ［レベル］ 2 ʝʔ

ɪnhɪɲʃ ［政治］ アン・ハルト、殿下、陛下、閣下 ʝ0: 古 :hɪɲʃ: 高いの hɥəlɪ と関連があるだろう。

ɪnhɪʅʅɪ ［代詞］［ləɒcɲ］［丁寧］ hɪʅʅɪ ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnhɪʅʅɪn ［代詞］［ləɒcɲ］［丁寧］ hɪʅʅɪn ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnheʅʅɪ ［丁寧］ おてがみ、お手紙 ʝ1

ɪnɥənɪ ［代詞］［ləɒcɲ］ ɥənɪ ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɥənɔl ［代詞］［ləɒcɲ］ ɥənɔl ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［文化］ ləɒcɲ

ɪnɲɪɒɒɪ ［文末純詞］［dcʅb］［丁寧］ ɲɪɒɒɪ ［レベル］ 2 ʝ1:eʅeʃɔne ［文化］ ɪn(٩)

ɪnɲeʃʝ ［感動詞］ よろしくお願いします、よろしくお願いいたします、お願いします、おねがいします ［レベル］ 2 ɲɒ;/ ʝʔ ［語法］ ɲeʃʝ

ɪnɲecz ［形容詞］ 行方不明な、失踪した ［レベル］ 3 ʝʝ:ɪl/ɲecz ［語法］ 意図的に ɲecz な状態にすること。

ɪnz ［化学］ プラスチック、合成樹脂 ［レベル］ 2 古 : 語源不詳 ［語法］ 合成樹脂、プラスチック、ビニールの語法は日本語と同じ。ビニール袋などの軟質プラスチックのことはそのまま eɒʝ という。プラスチック ɪnz といえば、固いバケツなどのことを指す。合成樹脂 ʅɔdφen は ɪnz のことなのに、アルバザード人は何のことだかよく分かっていない。 ［文化］ アルティルでジンティ＝アルテームスが開発し、アルマット社が販売した。

ɪnzɔl ［音楽］ ベース、ベースギター ［レベル］ 4 ʝ1:ɪl/sczɔl ［文化］ → zɔl こちらでもコントラバスから発達したため、４弦が主流。

ɪnzɔlɪn ［音楽］ ベーシスト ［レベル］ 4 ʝ1

ɪnzen ［人名］ アンゼン ʝ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʕʕʕʕ:ʕLLɱ) ɥɪɒeɲ

ɪnzen(ʝ) ［企業］ アンゼン ʝ1 ［文化］ 京セラに相当する企業。

ɪns ［人名］ アンジュ 先 : 語源不詳 ［文化］ (ʃcɑ Ɐ1 dɪl ɲɪl →) リーザとメルを補佐した人物。

ɪns(ʝ) ［名詞］ 家政婦、メイド ［レベル］ 3 ʝɒ;ɪnse.ʅ。アンジェ地方からメイドがよく上京してきたことから。 制 :ɪns x:ɪns ［文化］ メイドを雇う習慣は奴隷制のない ʝɒ で起こった。貴族が裕福になり奴隷がいないとメイドが必要になる。アルナからそう遠くなく出稼ぎの多かったアンジェ地方からよく若い娘が奉公に出た。 初期は主人の服のお古を着ていたが、客人が一目見て家族なのかメイドなのか区別つかずに困ったため、メイドは見てすぐ分かるように貴族と対照的な服を着るようになった。当時の貴族は豪華絢爛な服を着ていたため、メイド服は黒と白といった単調な色の服になった。 地球ではメイド服はメイド持参だが、アルバザードでは主人がメイドに良いメイド服を着せるのは裕福である証だったため、モノトーンながら可愛らしい小奇麗なメイド服を用意してやることが多かった。 ɲɒ でカレンシア王国が滅ぶと凪人のメイドが増えた。 凪人のメイドは矢絣の大正時代のような服装をしていた。これは現代もそうで、凪人のメイドは西洋風のメイド服をあまり着ない。 矢絣は一般の凪人も着るので、メイド用は色が違った。濃緑や茶色や臙脂色のものがメイド用とされた。 メイドの習慣は現在でも続いており、富裕層が雇っている。メイド服も ʝɒ 当時と変わっていない。現代から見たらメイド服は作業がしづらいが、ʝɒ 当時の服装の中ではあれは見栄えを保ちつつ比較的動きやすい服だった。 現代の庶民の男性にとってメイドを雇うことはステータスシンボルなので、メイドに対する憧れや萌えがある。そのためメイド服も人気が高いコスプレである。

ɪnsclə,ɪlʃ 謙譲語の助動詞

ɪnse ［気象］ 昏い空、暗い空 ［レベル］ 3 ʝ0:ɑclueeɥə「昏き空」

ɪnse(ʝ) ［地名］アンジェ ［言語］［文字］ブラックレター、ゴシック、ゴチック。日本でいうゴシックなどの書体。フラクトゥールなど。アンジェで流行った。 ［レベル］ 5 ʝ0: 暗い空 ［文化］ アルナ北部の小都市。すぐ北にケートイアとの国境となる山脈があり、南は広大な平地になっている。

ɪnse(ʔ) ［経済］ 綺麗な金 ［類義語］ φcl ［反意語］ beʅeʃ ［レベル］ 4 ɲɒ;<lʃ ʝɱ ［語法］［文化］ 汚い金とは犯罪を犯して得た金や賤業 (ʅəzφcn) を通じて得た金や φɔleɒ な方法で得た金を指し、ɪnse はその反対。寄付金や ʅlɔleʃ なお金のこと。拝金主義を嫌うアルバザード人は ɪnse を尊び、beʅeʃ を卑しむ。

ınse,ȷzɑ　eμɑc, φcl

ınse˥ıl　[アイテム] サーベル　μɑ;/　Ꭻ⋔　[文化]　ınse で作られたことから。μɑ 中期でできた。鎧を着ない相手に使った。nɑ 以降は騎兵（この時代の騎兵は銃を持って走る兵科で、馬には既に乗っていない）の基本装備になった。μʃ では警官が装備していた。

ınsen　[被服] タキシード　[レベル] 5　Ꭻ1:ınse/en

ınsel　[軍事] [魔法] 魔動アーマー、アンジェル　[レベル] 5　Ꭻ0:ınse/ 古ıl（もの）　[文化]　1Ϸ?Ꭻ 年にラグナロクがシグナリオと共同開発した兵器。責任者は女性で、ʃoıμzel ɑcȷcɑcı。乗り込み式の機械で、操縦者が中に入って動かす。頭部の欠けたお椀状のロボットで、手足が付いている。腹部に人間が入るような形で乗る。頭部がないので、人間が座ったとき、人間の頭がロボットの頭部の代わりをする。高さは２ｍほどで、小さい。　魔動銃や魔動手甲などを強化していくとどうしても足りないのが人間の腕の長さと強度である。それなら最初から両手両足機械にしてしまい、その中に人間を入れて操縦させ、動く砲台としたほうがよいという考えのもとから生まれた。　地方都市アンジェの南側は広大な平原で、またアルシアからそこまで離れてもいないため、実験に適切だった。そこから魔動アーマーはアンジェルと呼ばれるようになった。　　ls ではアンジェリカの雑魚版を意味する。

ınsel,ɑ　ȷeᴅıcᴅ

ınselbɔlʃ　[工学] [経済] 第一次産業革命、アンジェルボルト、産業革命　Ꭻ0: アンジェルの槌　[文化]　cᴅəl 1Ϸ?Ꭻ 年にアンジェルが開発され、1Ϸ⋔⋔ 年から量産に入った。しかしアンジェルはグレアなどと比べると巨大で、大量の金属を必要とした。また、アームやボディなどを作る大きな金型が必要で、相当な数の技術者も必要だった。　アンジェルの製造には鉄のほかに魔動機関部分に金銀などの貴金属やルビーなどの宝石が必要で、非常に高価なものであった。まだこのころは植民化政策がないため、アルバザードは原材料の調達に難儀した。　トワーゼルはアンジェルの試験運用を 1Ϸ?Ϸ 年に終え、実用化に入った。最初にアンジェルが実戦に使われたのは 1Ϸ?ʕ 年の秋である。アルシアに大量に飛来した ueᴅelʃ を殲滅するために５機のアンジェルが投入され、瞬く間にこれを撃退。その力が国王ならびに全世界に認められるところとなる。　1Ϸ?٩ 年に量産支援を国王から取り付けたものの、費用の面でトワーゼルは困窮した。量産しようにも原価がすこぶるかかってしまい、原材料を買い付けきれないためである。アルバザードとルティアには貴金属と宝石の埋蔵量が少なく、とても自国の分では賄うことができなかった。主にこういった金属は魔方や境方で産出されていた。　しかしそんなトワーゼルに転機が訪れる。1Ϸ?L 年にバルマーユでダイズアイライが大量発生し、病原菌を振り撒きながら魔方人を苦しめた。その際、魔方からの要請を受け、トワーゼルはアンジェルを掃討部隊に組み込んだ。アンジェルの火力は尋常ではなく、またダイズアイライに直接触れずに戦える。しかも魔導師と違って露出しているのは頭部のみなので、感染のリスクも少ない。マスクをつけてしまえばほぼ感染は防げる。ダイズアイライの吐く王水も数メートルしか飛ばないので中距離戦用の ınsel には関係ない。それでいて強力な火力があるため、トワーゼルの部隊はあっさりダイズアイライを掃討することができた。この出来事に驚いた魔方や境方はアンジェルの軍隊への組み込みを願った。この反応を待っていたトワーゼルはアンジェルの内部構造および製造法はアルバザードとルティアのみに有界的に利用されるものであると拒絶。食い下がる外交官に対し、製造と提供はアルバザードおよびルティア側で行い、メンテナンスも派遣社員を通して行うとの条件下で受諾。その代わり、アルバザードとルティアに対し原材料である貴金属や宝石を破格で仕入れさせることを要求した。これに対して魔方は経済的に条件を飲めず、アンジェルを断念した。一方境方一一メティオはこれを受諾。破格で原材料の輸出を行った。

　このころメティオでは流入してくる異民族がもたらす安い労働力によって本来のメティオ人の職が奪われるという問題に直面していた。そこでメティオ政府は採掘事業を公共事業として増強し、これら異民族を採掘事業に当たらせ、メティオ人の雇用を守った。メティオ人としては異民族の問題があったため、アルバザードの条件は飲めないものではないどころか、政治的にはむしろ好都合であった。しかし魔方は異民族の問題がなく、人手はほとんど農業や採掘などに従事していたため、余剰人員を割くことはできなかった。　こうしてトワーゼルは原材料の調達を終え、メティオの採掘事業拡大の成果を待って 1Ϸ⋔⋔ 年から本格的な量産に入った。　製造や初期のメンテナンスは本国で行うため、グレアの製造に比べて多くの魔動工場が建てられた。この作業のうち単純なものはケートイアなどから流入していた異民族に任せ、安い労働力でアンジェルの製造を行った。この出来事を第一次産業革命、すなわちアンジェルボルトという。

　しかしどんなに採掘規模を増やしたところで貴金属や宝石は希少であることから、シェリーボルトのときと比べてその工業化の度合いは弱かった。また、ほぼ１００％軍需であったため、車などの重工業製品や服飾などの軽工業製品と異なり、庶民の経済や流通にはほぼ無関係な出来事であったという点もシェリーボルトとの違いである。　なお、アンジェルの内部構造の機密に関しては lızeʃ をかけてあるため、トワーゼルはメンテナンス工員を信頼置ける人物にすることだけ専念すればよいという状況であった。

ınselı　[アトラスの国家] アンジェラ　[レベル] 4　Ꭻ?:μcɑcı　[文化]　面積：Ϸ?0Ϸ⋔⋔.٩⋔ϷL ʕ ٦ᴅ Ꭻ

ınselc˥ı　[軍事] [魔法] 人型戦闘兵器アンジェリカ、アンジェリカ　[レベル] 3　Ꭻ0:ınsel/˥ıc（大きなアンジェル）　[文化]　→ φıμɑcın、ınsel

　＊下記書き換え必要。ガーディアン、ローゼル、カルゼーレ、ヴェルディエル、ディアメル、セリエット変更必要　　転生期でディミニオンに対抗すべく開発された軍用機。人型をしており、大きさは約１８メートル。人間の丹田に当たる部分にコアとなるクリスタルが埋め込んであり、これが動力源になっている。　アトラスでは μɑ 以降、魔法工学は廃れ、科学が隆盛した。しかし転生期に月のクリスタルが見つかってからは魔法工学が復活し、それまで培ってきた科学の力と合わせて μɑ では考えられなかったような高度な兵器を作ることができるようになった。　それがアンジェリカであり、魔動アーマーのアンジェルを元に新生された。アンジェリカは旧来の兵器の戦車や爆撃機などものともしない強さであった。全身が古代の魔術師のようにヴィルを纏い、古代剣士のようにユノやノアのバリアを纏う。ヴィードを持たないエタンの塊である戦車など敵うべくもない。　アンジェリカは魔法工学に基づくため、操縦も魔法を使って行われた。パイロットはまず lɔμzel という筒状のポッドの中に入る。ローゼルはアンジェリカの頭部に挿し込まれ、パイロットは中に入る。中に入ると自動的にローゼル（漿管）から射出され、アンジェリカ脳内のヴェルディエル（紅漿）中に排出される。ここがコクピットで、カルゼーレ（漿座）という。　カレゼーレにはディアメル（心経）という仮想神経根があり、触手のような形をしている。これがパイロットの体に接着される。パイロットが中で動くとアンジェリカも同じ動きをする。実験段階のアンジェリカは人間のような形をしていなかったが、パイロットの動きと同期させるため、人型になっていった。　アンジェリカは埋め込まれたクリスタルごとに性質が異なり、自分と同じような性質を持った人間を好むという特徴がある。つまりそのコアクリスタルの性質に近い性質を持った人間と親和性があるということである。　アンジェリカとパイロットはディアメルを介して同期するが、この同期のことをセリエットという。同期率が高いほどアンジェリカの機能を発揮することができる。

ınseleɑ　[運動] パルクール　[レベル] 5　μɑ:μcɑcı;ınse/leɑ「昏い空を翔ける」　Ꭻ⋔:μcɑcı　[文化]　μɑ でできた遊戯。のちに競技となる。μɑ の時代はヴィードのおかげで超人的な動きができたため、屋根から屋根へと跳んでいくといったアクロバットなことができたが、nɑ 以降は地球のパルクールと同じになった。現代では人気スポーツのひとつ。

ınseleᴅ　[音楽] 協奏曲、コンチェルト、アンジェレム　[レベル] 5　μɑ:ᴅclɑ;/ アンジェで披露されたのが走りとなった楽曲であることから。Ꭻ?

ınsəμ　[天文] 黄色い月、アンジュール　[ユマナ] 月のおもちゃ箱。アルバムのひとつ。かわいい系のポップな曲が中心。　[経済]残月期　[形容詞] 上機嫌な、ノリノリな、楽しげな　[類義語] ᴅcɔl　[アクセント] ınsƎμ　[レベル] 2　Ꭻ1:lʃ。古では cᴅel。səμ は ɑ。　【成句】　lınʃe ʃ'ınsəμ　黄色い満月、シャンテ・タンジュール：楽しいこと、愉快なこと→ lınʃe ʃ'ınsəμ　ɥəəʃ ınsəμ　愉快を遊ぶ：楽しげに微笑む、ıȷel nɔȷ bınel　ıl ınsəμ　ノリノリじゃん、どんだけ上機嫌なんだよ　【用例】　μcɑcı ɥəəʃ ınsəμ ˥ɔnʃ eueȷ ᴅcɥə ıl ıȷcɑ ˥ı ȷeμen le nɔuel uınɑeȷ. リディアは小さな可愛らしい手を口元に当てると、当惑した面持ちのセレンに微笑みかけた。

ınsəμuel˥　[経済] 総決算→ ueeμuel˥　[レベル] 5　ᎫᎫ

ınsəμen　[言語] [文字] 夕月書体　[レベル] 3　Ꭻ1:ınsəμ。上下動する視線を月の昇降に準えたもの。アルナに対しカテージュで夕月。

ınsəμecu　[文字]エジプシアン、アンジュレイブ。スラブセリフに似る。混同されることがある。　[レベル] 6　Ꭻ1:ıl/səμecu　[語法]　スラブは線の太さが縦横均一。ınsəμecu はおおむねスラブに当たる。エジプシアンは均一でない。　セリフについては両者とも太さが線とほぼ同じ。

ınl　[法律] 起訴する　[レベル] 5　1?: 制 :ınʃɔ（司法）

ınlɑcμ　[伝統色] ウルトラマリン　[レベル] 4　μɑ;ıl/lɑcμ　Ꭻ? ?

ınlıcn　[代詞] [ləᴅcμ] lıcn　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınlıcnʃ　[代詞] [ləᴅcμ] lıcnʃ　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınlcnɔı　[文末純詞] [丁寧] lcnɔı　[レベル] 2　ᎫᎫ

ınlclcȷ　[代詞] [ləᴅcμ] lclcȷ　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınlclcn　[代詞] [ləᴅcμ] lclcn　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınlenı　[代詞] [ləᴅcμ] lenı　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınlenın　[代詞] [ləᴅcμ] lenın　[レベル] 2　μɑ;/　Ꭻ?　[文化]　ləᴅcμ

ınleᴅın　[政治] [哲学] 公序良俗　[類義語] ˥ɔnl　[レベル] 4　ls;ınʃel/leᴅınʃ　Ꭻ⋔:μcɑcı　[語法] [文化]　ls でできた語で、それまでは ˥ɔnl と呼ばれていた概念。　絶対の正義が定めた価値観を主軸とし、そこに生活の実態である国民の相対の正義が民主的に定めた価値観を加えて形成された良識の一種。　　・表現の自由　　ınleᴅın は革命でできた単語で、濫用されていた表現の自由を制限し、混沌とした国の良識を取り戻すために制定されたものである。　セレンらは「公序良俗に反しない限り表現の自由を認める」と述べた。セレンらは ıl や革命前夜の ls に跋扈していた一部のマスメディアをマスゴミと呼んで糾弾し、マスゴミが公序良俗を乱していると述べた。　例えばその頃のアルバザードではマスコミが雑誌やテレビなどを使ってケバいギャルのような格好をして男勝りで女らしさがないユニセックスな女を是とし、これがモテる女とかこれが可愛い女とか思わせるよう、国民を誘導していた。ネットではこのような女が一部の男たちに叩かれていたが、声の大きいマスメディアによって、「高校生にもなって処女は恥ずかしい」とか「お父さんが好きとかありえない」とか「ギャルメイクがモテカワ」とか「男女平等は当たり前。でもレディースデーがあるのは知らんぷり」とか「我慢する必要なんてない。相手が嫌になったらすぐ別れよう。離婚もどんどんして慰謝料を取ろう」とか「熟年離婚して年金分与しよう」とか「女性の社会進出は当たり前でいいこと。家庭に入って子供を産み育てるなんてキャリアウーマンのすることじゃない」などと、どんどん女を煽り、腐らせていった。　セレンはアルバザードの民度が年々下がっていっていることに激しい義憤を覚えていた。ある人々はアルバザード人の民度が下がっていったのはユティア朝の力の衰えによるものだとしていて、セレンも一部はそれに賛同していた。だがセレンは根本的な悪は民度を下げるような煽りをするマスメディアにあるとした。マスメディアは刺激的でセンセーショナルな内容を作らなければ見てもらえないし買ってもらえないため、わざと実態とかけ離れた内

容を記事にして出版し続けた。読者はより刺激的な内容を好むため（というか前回と同じ程度の内容ならわざわざ買う必要がないので）、版元はその読者らの購買意欲を掻き立てるために実態とかけ離れた記事を捏造し、結果的に国民を堕落させ民度を落とした。　要するにこの頃のアルバザードでは版元が生き残るために国民を煽り、煽られた国民の民度が年々下がっていったのである。セレンは民度低下の元凶がマスゴミにあるとし、これを糾弾した。　マスメディアは本来国民を洗脳し、世論を形成させることができるだけの大きな力を持った存在である。そのマスメディアが低きに流れ、下世話になり、売れるために民度を低下させるなどあってはならない。それならば売れないほうがよろしいとセレンは判断した。が、高給取りであるマスメディアの社員が売れなくても民度を維持するほうが重要だとは判断するはずがなかった。　セレンは革命前にマスメディアが音頭を取ってむしろ民度を上げる方向性に持って行き、お固い内容を主軸にすべきだと主張した。マスメディアの洗脳能力を使い、売り上げが落ちようと民度を上げるような記事を作るべきだと主張した。ところがそのセレンの力なき声に耳を傾ける既得権益者は誰一人としておらず、セレンは激しい怒りを覚えていた。　そんな中セレンは世界を変えるだけの力を手に入れ、革命を起こすこととなった。セレンは力無き頃の自分を完全無視し冷遇し拒絶し嘲笑したマスメディアを一切許す気がなかった。セレンは民度を下げるような、すなわち「公序良俗に反するような表現」を制限し、既存のマスメディアをどんどん解体縮小し、かつて自分を冷遇し無視しあざ笑ったクズどもに復讐を果たした。　アルバザードでは表現の自由の名の下に民度を下げるような表現が平気で行われており、むしろ民度の低い表現のほうが高尚な表現よりも人気を得ていた。というのも、人は低い方安い方に流れ、高尚なものより低俗なものを選ぶからである。低俗なものばかりに金を払う国民にも責任がある。衆愚の自堕落な選択に任せていては、年々低俗なものが増え、高尚なものが切り捨てられていく。セレンはこれではいけないと思った。セレンは低俗なものも多様性の名の下に存在すべきだと考えたが、それが高尚なもの、民度の高いものよりも一般的で人気があるという事態は良くないと思っていた。民度の高いものが支配的であり、たまに下らない低俗なものが混ざる程度の多様性が一番国を腐らせないと考えた。低俗なものはあっても良いが、それが支配的になると国が滅ぶと考えた。　そこで「公序良俗に反する表現の自由は制限する」と制定した。これにより低俗なものは制限され、数が減った。完全に死滅したわけではない点がポイントで、きちんと多様性は保ってある。要するにテレビでいうなら教養系の番組がメインとなり、娯楽系の番組はサブとなり、低俗なものの本数が減らされたということである。また、それだけでは民衆は本数の減った娯楽番組に集中してしまうので、そもそも抜本的な解決策として、マスメディアの洗脳能力を使い、高尚なもの教養的なものが良いもので、低俗でくだらないものは悪という公式を雑誌やテレビなどを通じて放送しつづけることにより、国民の意識そのものを変えてしまった。　国民というのは流動性のある集団で、低俗でくだらないものは悪だというように連日マスコミが煽り続け、高尚で教育的な内容を語るほうが教養があってカッコいいとか素敵だとかいう価値観を毎日のように放送しつづければ、容易に洗脳される。　かつての日本も同じで、戦時中に「欲しがりません勝つまでは」や「もったいない」や「富国強兵」などといった現代ではとても考えられないような価値観を植え付けられていたが、それも政府やマスメディアによって上意下達的に形成された価値観であった。　日本の例を見ても分かる通り、国民というのは自我が強いようで乏しく、政府やマスコミがトレンドを作ればすぐにその価値観に飛びつく代物である。セレンはマスメディアを巧く使い、国民の価値観そのものを変え、結果的にアルバザードの民度を上げた。　それまで教材などの売り上げは低く、娯楽本などの売り上げが高かったが、新たな価値観の元では教育的な内容の本が売れるようになり、娯楽本は買うのが恥ずかしい、持っているのが恥ずかしい、読むのが恥ずかしいと思うようにさせたので、売り上げが減少した。娯楽本の売り上げが減少した分、新しいトレンドとなった民度を高めるような商品の売り上げが増加したため、全体的に見て経済が停滞したということはない。　日本もマスメディアを使って国民の価値観そのものを変えるような洗脳を行えば民度が回復するだろうが、そこまで大きく世界を動かせる革命家（魔導師）がいない以上は、亡国は避けられないことだろう。　ともあれアルバザードの公序良俗はこのようにして制定され、良識は革命によって回復されたのである。

ınlele ［代詞］［ləDcµ］lele ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ınleenʃ ［代詞］［ləDcµ］leenʃ ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ınleeuı アンレーヴァ、中二病、厨二病、高二病、小二病、大二病 ［レベル］4　Ɉ0:Del:ın leuı（純粋なこの私） ［語法］［文化］ → ueµjeʃı　根拠のない全能感を感じたり、自分には特殊な能力や運命があると信じる心の状態のことで、思春期の青少年に多い。子供のころに好きだったものを否定することで自分は子供でないと喧伝したり、覚えたばかりの難しい言葉を使ってみたり、やけにプライドが高かったり、社会を変えなければならないと思ったりするのが主な症状。しかし、できるだけイタイ中二病を経験した人間ほど、大人になって大成する可能性を秘めていると考えられている。もちろん、そのまま中二病で終了することもある。中二病にならなかった人は、比較的平凡で歯車な人生を送りがちだが、その代わり荒波もない。　日本と違うのは、そこまで馬鹿にしていないということ。場合によっては大物になるための過程くらいに捉えられている。史上最強の中二病発症者はミロク＝ユティア。現実にはリディア＝ルティア。µΩ で世界を救うほどの邪気眼の持ち主。 【用例】 ʃcl ınleeuı 中二病だ

ınlə,ılʃ ʃen

ınlənın ［感動詞］［丁寧］おかえりなさい、お帰りなさい ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ

ınləın ［代詞］［ləDcµ］ləın ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ınləınʃ ［代詞］［ləDcµ］ləınʃ ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ını ［名詞］センス ［類義語］jeµnı ［レベル］3　1͡0: 制 : 古 :ılnı（良い心）。古 ɑəʃɔnı（取る心） 【用例】 dɔınje ʃcl ını Dyə. 首輪型アンセはセンスが良いのっ（紗枝）

ınıʃʃe ［感動詞］がんばってください、頑張ってください ［レベル］2　µΩ;/　Ɉ͡0

ınıleD ［文末純詞］［丁寧］ıleD ［レベル］2　ɈɈ

ının ［名詞］執事 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ıns/ın

ınınʃeɔ ［感動詞］申し訳ございません、申し訳ございませんでした ［レベル］3　µΩ;/　Ɉʔ ［語法］ uınʃ

ınınləɔD ［言語］アンアンロ調　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ınıD ［文末純詞］［丁寧］nı ［レベル］2　Ɉ0:lDccµ:ın/nı/D（語気弱め） ［文化］ ın(9)

ınıdcı ［言語］一人称　1L:lcɔn ［語法］ ın, nɔn, nɔµ, Ωeµ, ınj など。

ınılʃe ［丁寧］［感動詞］がんばってください ［レベル］2　Ɉʔ

ınılʃyən ［丁寧］［感動詞］任せてください、お任せあれ、おまかせあれ ［レベル］2　Ɉʔ

ınıc ［名詞］囮、身代わり、犠牲 ［電算］ダミー ［レベル］3　ɑµɑ;ıl（否定の接頭辞）/nı/c「心が見えない者→心無い者→本人でない者→囮」 lılʃı　yənl:ınıc 【用例】 eD{Ωcın} ınıc おとりになる

ınıcµen ［地学］スピネル、尖晶石 ［レベル］6　1L ［文化］ ルビーやサファイアなどの石と間違えられたため、身代わりの石と名付けられた。この名には２つの意味があり、もうひとつはこの魔石が死の魔法をかけられたとき、身代わりとなって砕け散ることから。

ınıcıµɑı ［娯楽］喰らいボム　Ɉ1: 身代わりボム

ınc ［形容詞］疲れた、疲れる、くたびれた、元気のない ［名詞］疲労 ［動詞］ yəl を疲れさせる、くたびれる ［反意語］cDı　ɑ;e　赤　ınc:ınc:ınc 【成句】 ınc yən beı 雑巾のように疲れた：ひどく疲れた。最初は服として使われ、はぎれになり、からぶきになり、最後にぬれぶき雑巾となれば、それは当然疲れているだろう。生活に密着した表現。　ın nıʃ ınc Dcl hıµʃ ʃcn, lenıʃ lıl eD eµ. 酷い暑さで疲れて喉が渇いた。　ın ej ınc ʃcnlı cD ɑcj. 今日は本当にへとへとだ＝今日は疲れる一日だった。　ın ʃəµ ınc lınel. 本当にへとへとだ。

ıncj,lɥ ej（継続相の）

ıncjɑel ［代詞］［ləDcµ］［丁寧］cjɑel ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ıncjɑelcı ［代詞］［ləDcµ］［丁寧］cjɑelcı ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ ［文化］ ləDcµ

ıncn ［文末純詞］［丁寧］cn ［レベル］2　Ɉ0:lDccµ ［文化］ ın(9)

ıncnlɔ ［娯楽］パチンコ ［類義語］ncDlɔu　Ɉ1:ıl/ncDlɔu ［文化］ → lıʃɔj、ləzφcn、ncDlɔu

ıncd ［植物］レンズマメ、レンズ豆　古

ıncldıjjɔ ［丁寧］［感動詞］大丈夫です ［レベル］2　Ɉʔ

ıncıl ［被服］サポーター　Ɉ1:ıl/ncıl

ıncclı ［筐堺］アニータ　µΩ;ıl/ncclı「優しき女王エンナ」 ɈɈ ［文化］ 筐堺司：ennı uısɔ　筐堺国：enccl, nıɔn

ıncco ［感動詞］［丁寧］どういたしまして ［レベル］2　µΩ;/　Ɉʔ: 韓国語のアニヨ「いいえ」は「いいえいいんですよ」の意味でも使うことがあり、ıncco がアニヨに聞こえるのでよく似ているが、語源を見れば分かる通り韓国語由来ではない。

ınɔ ［名詞］計画、予定、企画、計略、設計、プラン、企む、企み、企て、案 ［動詞］yəl を計画する、計画する、企画する、企てる ［天文］アノ座 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 ınlnɔʃ（誰々の ınlnɔʃ（誰々のアンクノット）） 【用例】 lıΩ ınɔ 計画を立てる　dıl ınɔ 計画を進める　lı ınɔʃ nɔj lənı ıʃə cD lejʃ. 彼は明日ここに来るつもりだった。　ın ınɔʃ nɔj nɔnΩ ʃə cD lejʃ. 明日発表するつもりだった。　ınɔ ınʃ cl µel cD ɑcj Deµel. 今日私の計画が台無しになった。　ıc, ınɔ cl µel. 結局計画はダメになった。　☆ ın lıΩ nelʃ ınɔ jı jɔɔl. 私はいつも前もって計画を立てる。　ın lıΩcl ınɔ e ɑel. 勉強の計画を立てた。　ın lıΩ uın ınɔ e jcl. 将来の計画を立てるつもりだ。　ın lıΩcl ınɔ e jɔɔʃʃɔɔl. 今週末の予定を立てた。　ın Dcyə elɑ ʃə ınɔ lccD yeʃ ʃcn eD jɔΩ. 大きな問題がない限り、計画を変えるつもりはない。　ın ıµ ʃɔʃıl enzel lını hıcn ınɔ. 計画を守るためにできるだけのことをする。

ınɔj ［動詞］yəl（罠など）を ı（ターゲットなど）に仕向ける、仕向ける、仕掛ける、はめる ［レベル］3　1ʕ: 制 :ınɔ/jɔl 【用例】 ın ınɔjıʃ Dıl ı φɔDı. 狐に穴罠を仕掛けた。

ınɔnnı ［文末純詞］［丁寧］ɔnnı ［レベル］2　ɈɈ

ınɔ Deʃe ［人名］アノ＝メテ ［組み数字］1／１３ ［レベル］3　先 : 語源不詳 ［文化］ (ʃcɑ Ɉ͡0 dıl nee →) 第４期３代ルシーラ・エ・ソーン。第４期３代ソーン第１使徒。第４期４代ルシーラ･エ･ソーンのクミールの実父。

ınɔDeD ［組み数字］アノサークル ［天文］１３星座、自分の誕生日の属する星座 ［レベル］3　Ɉ1 ［文化］ → µıdıll　アルカには誕生月の黄座を利用した占いがある。　星占いは１３黄道で行われる。１３黄座とは黄道を月ごとに１３分割したものである。特定の星座ではない。例えばリディアの月はアノ座であり、オヴィの月はオムト座である。　きっちりメル暦の月に対応している点が特徴である。なお、ミュシェットの月は特別にルミナ座になる。クミールの母、準使徒の名前である。　アルバザードでは µΩ にリュウがナユと協力して、天文学を進めた。µΩ ではアシェットが悪魔の一族を滅ぼし、宇宙編でアデルも滅ぼして回った。ほとんどのアデルは星座の中に封印され、地表からほぼ駆逐された。　従って µΩ 以降、星座は魔族の封印となった。人々は星座の檻に閉じ込められた悪魔たちを見上げながら、月散歩をするようになった。天球は魔族を封印した監獄であり、星座は荒ぶる魔物を鎮める天の鎖である。　太陽が西の空に沈むときの

黄座に属するアデルは最も勢力が強くなる。また、夜空に星座が現れているときも、該当するアデルが強くなる。

ınɔd ［電算］ベクター、ベクタ、ベクトル ［反意語］ɥəʅıʃ ［レベル］6 ul;ınɔdıʅ.ʅ。画像を点の集まりで示さず、画像の設計図となる線やアンカーなどのデータで表すことから。 Ɉ₥

ınɔdʃel ［電算］ベクターデータ、ベクタデータ ［レベル］6 ul;/ Ɉ₥

ınɔdıʅ ［名詞］設計図、企画表 ［レベル］3 ɈɈ

ınɔdcʅʃı ［電算］ベクター画像、ベクタ画像 ［レベル］6 ul;/ Ɉ₥

ınɔz ［音楽］ピック ［レベル］5 Ɉ1:ıl/nɔz「爪でない爪」

ınɔzleɒɔɒ ［音楽］ピック奏法 ［レベル］6 Ɉ1

ınɔlec ［名詞］企画書 ［名詞］ビジュアルファンブック、公式ビジュアルブック、公式ファンブック、ゲームブック、アニメブック μɑ;/ | ıl Ɉ₥

ınɔc ［形容詞］絶対的 ［反意語］nɔcɑ ［レベル］4 Ɉ0:ılnɔcɑ

ınɔcʃcɑ ［経済］絶対貧困、絶対的貧困 ［反意語］nɔcɑʃcɑ ul;/ Ɉʔ

ıne ［料理］汁、しる、果汁、つゆ ［料理］ジュース ［類義語］ıμcʃ 1ʔ: 制 : 古 :ɒıcneμcı（体の水）

ıneʅɔl ［代詞］［ləɒcμ］eʅɔl ［レベル］2 μɑ;/ Ɉʔ ［文化］ ləɒcμ

ıneȷʃɔl ［丁寧］［感動詞］eȷʃɔl ［レベル］2 Ɉ1

ıneɥɔ ［文末純詞］［丁寧］［ɒclcı］eɥɔ ［レベル］2 μɑ;/ Ɉʔ

ınel ［文末純詞］［丁寧］el ［レベル］2 μɑ;/ Ɉʔ

ınel(Ɉ) ［接尾辞］〜するように、〜して。主格動副詞を作る。 μɑ;/ Ɉʔ ［語法］ ɑμeɥə

ıu ［言語］近アルカ ［レベル］4 Ɉ1

ıuμcl ［医療］天然痘、疱瘡 ［レベル］5 古

ıul ［経済］経済 ［レベル］3 古 :ȷɔμn

ıulȷɔɔl ［経済］経済活動 ［レベル］4 1L

ıulucenʅıɑ ［経済］経済大国 ［レベル］4 1L

ıulɒılıɑc ［経済］世界恐慌→ ɒılıɑc ［レベル］4 1L ［文化］ ɥəəɒı 1₥01 インフレに耐えかね、政府はデノミを敢行。国債となっていた紙幣は紙くずとなった。レスティルの紙幣は国外でも保有されていたため、初の世界恐慌が起こる。同時に金貨の価値は急激に上昇し、唯一の貨幣として見直された。

ıulın ［経済］経済主体 1L

ıuıʃ ［言語］慣用句、格言、金言、イディオム ［類義語］eʅcn ［レベル］4 1ʕ: 制 :ıμʅ/ueʃ（つなぎ言葉）

ıuıʅ ［普通動名詞］洗脳、吹き込む、刷り込み ［動詞］ɥəl を ı の考えに洗脳する、洗脳する ［生物］すりこみ、インプリンティング ［レベル］4 1ʕ: 制 :ıu/ʅıʅ（強く教える）【用例】 lı ıuıʅıʃ ɒcuı ı lı hɔʃ ʅcμ lə. 彼は自分しか必要とする人はいないと娘を洗脳した。

ıuıȷ ［政治］文民、文人、平民、民間、民間人、非戦闘要員 ［反意語］uın ʃcȷ ［レベル］4 1L:ıluıȷ ［文化］ 軍人に対する概念。ナディアまでは非戦闘要員のことで、戦士と魔法遣と魔法戦士以外を指した。軍人と文民の区別はグレーで、シーフや技師のように、戦力になるが軍人とは言えないようなものがいたためである。 ナディアでは人類がヴィードを失ったため、軍人は軍隊に属する人間を指すようになった。それ以外を民間と呼ぶようになった。民間は商人と平民にさらに分けられた。技師などは商人に入る。 制服着用で、デザインは警察官と同じだが、色は暗く黒い緑。

ıuıȷʅɔlɒ ［政治］文民統制、シビリアンコントロール ［レベル］4 1L ［文化］ ヴェレイでは五民の区別がまだあり、民間（文民）は商人と平民を合わせたものであった。文民統制ができたのはヴェレイなので、五民を引きずっているから、ıuıȷʅɔlɒ と名付けた。 革命後の身分制の事実上の復活においては、ıuıȷ という語は使われない。平民は lec ɒʃɔnʅ であり、王族、僧侶、学者、医者以外を指す。もし革命後に初めて文民統制という単語が作られていたら、lecɒʅɔlɒ と呼んだはずである。

ıuın ［サール］アヴァン ［名詞］悪夢 ［レベル］3 古 :ʅɒccμ ［文化］ 人に悪夢を見させるサール。首なし鎧姿の騎士の青年で、誰かの首を左手に持ち、右手に剣を帯びている。人が夜寝ているときに来て、悪夢を見せる。その悪夢の中で死んでしまった者は寝ている間にアヴァンの剣で首を切られてしまう。首を切るとアヴァンはその首を自分の首に合わせる。その首が自分のものでないと知ると首を左手に乗せ、一方の古い首は捨てて去っていく。 アヴァンは悪夢を司る。それゆえ悪夢を見ないようにという意味の ıuın が出てきたが ɑcıμ の登場でその用法は古アルカの時代に廃れた。ıuın はそれから意味が広がって単に気をつけてという意味に一般化した。ıluı は別れ際に相手に言うことが多いため、遡って ıuın 自体が悪夢の他に旅、旅行、外出などを司るようになった。【用例】 ın ıcl nı φıμu ɒcl ıuın. ときどき悪夢にうなされる。 ☆ ın nıɑıʃ nɔȷ ʅcel ıʅʃ ıuın ɒın cncʅ ɑelȷ ueɒ. 怖い映画を見たので悪夢を見るのではないか心配だ：lɔnɑ と違い、動詞は ıʅʃ を取る。 ☆ ın ıʅʃıʃ ıuın cɒ ʃɔlel. 昨日悪夢を見た。

ıuınl ［伝統色］シアン ［レベル］5 ɈɈ:ıuınʅcın。戦争でアヴァンシアンを運ぶ箱にシアン色の紐が取り付けられていたことから。

ıuınʅcın ［軍事］［アイテム］アヴァンシアン、対ボス兵器 ［レベル］4 Ɉ1:ıuın φıμ/ʅcın.ȷzu ［文化］ uınφıμ lınȷeμ や特に uınφıμ のような敵はヴィードが多く、しばしば倒すのに苦戦を強いられる。特に ɒclle の多さはその相手を倒すのに時間がかかることを意味する。そこで複数人での同時攻撃や一回あたりのダメージを高めるといった手段が講じられてきた。 攻撃力を高めるためには強い武器が必要で、その特別な武器をアヴァンシアンという。アヴァンシアンは一般的に威力が強い代わりに当てづらかったり扱いづらかったり壊れやすかったり何度も使えなかったりといった欠点を持つ。通常兵器は雑魚を倒すために用いるので、すぐに壊れてしまっては意味がない。また、攻撃力がありすぎても意味がない。そこで通常兵器はたくさんの雑魚を倒せるため、強靭さが要求される。 例えば天馬騎士の場合、euı nselcn が通常兵器であり、lınɑcɔle がアヴァンシアンとなる。

ıuınʅcın(Ɉ) ［軍事］アヴァンシアン ［レベル］3 Ɉ1 ［文化］ ₥0Δ ɑəl ɒcμ にできたディミニオン殲滅組織。本部はレスティリア県シェラザード市ガヴランス風洞に所在。

ıuınȷ ［普通動名詞］一閃、一薙ぎ、ストラッシュ、必殺の一撃、（剣などの武器による）必殺技。ヴィードなどによる uɔnʃ などの必殺技は含めない。 ［動詞］ɥəl（敵など）を薙ぐ ［類義語］ʅcl、ʅcld ［レベル］3 ɑu;ıl/uınɔ/ȷɔ「身を守る行為」が原義だが、そこから身を守るための必死の攻撃という意味に変わり、zφ では必殺の一撃という意味になった。 古：↑

ıuıμ ［アビリティ］アヴァール、ジャンプ、落下、急降下 ［レベル］5 ȷμ;μʅ で「落ちる稲妻、落雷」 Ɉʔ ［文化］ ɑμelınʃ

ıuıc ［名詞］特徴、素性、特性 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ıʅʃe:ııl/uıcʅ ［語法］ enuelen 【用例】 lı ʃcl ıuıc ɗıȷ. 彼は特徴的だ。

ıuıcȷeμı ［化学］特性基 1L

ıuıcn ［形容詞］多能な、多彩な、多芸な、如才ない、万能な、有能な ［反意語］nɔen ［レベル］3 Ɉ1:ıl/ucın

ıuıcnʃ ［生物］足の三里、足三里、三里 ［レベル］6 Ɉ1:ıuıcn/ʃe

ıuıcndıdı ［企業］アヴァイン・パパ Ɉ1 ［文化］ ＤＯＩＴ、ケーヨーデーツーに相当する企業。

ıucl ［形容詞］あるべき状態でない、体力が弱る、ＨＰが減っている、具合の悪い、異常な、異状な ［名詞］異常、異状、異変 ［形容名詞］［医療］患者、病人、ペイシェント、罹患者。ıuclen の形で。 ［反意語］ʅeı ［レベル］1 Ɉ0: 古 :ııucl（傷） ʅcʅelɔ:ʅcʅelɔ, ʅəʅʅc ［語法］ 広義語。あるべき状態でないものは人でも物でも何でも指せる。故障は μcφ でなく ıucl。 【成句】 ıucl ɔʅnı ıucl 病人は病人に共感する：同病相憐れむ 【用例】 ʃecʅ eȷ ıucl. テレビが壊れている。

ıuclʅɔlɔ ［医療］神経症 ［類義語］ʅɔlɔleun ［レベル］5 μɑ:μɥəə;/「あるべきでない精神」 Ɉʔ ［文化］ ueμınʃ

ıucȷ ［名詞］ブルズアイ、的の中心 ［電算］ラジオボタン→ ıucȷlɔʃȷ ［レベル］3 Ɉ0:ılue/cnȷ（的の目）

ıucȷlɔʃȷ ［電算］ラジオボタン← ıucȷ ［レベル］3 Ɉ0

ıucn ［経済］景気 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ıuʅ「 経済が動く 」が原義 【用例】 ıucn eʃ μıʃ. 景気が良い。

ıucnıll ［経済］景気動向指数 ［レベル］6 ıl;/ Ɉʔ

ıucɔ ［医療］脱臼 ［レベル］3 1L:ıucl/hɔ。あるいは ııucl/hɔ かもしれない。

ıucel ［アトラスの国家］アヴィエル ［アクセント］ꜛucel ［レベル］5 1L:μcɑcı: 浮かぶ

ıuɔ,ɑu zɔn、zɔn e φc uc eʅȷ ucen ıʃə

ıuɔn ［動詞］ɥəl（敵など）の体に触れてユノを直接流し込む、アヴォン ［類義語］uɔnʃ、uɔʅʅ ［レベル］4 古 :ıuɔn ← ıuɔnʃ ← ı（〜でない）/ uɔnʃ（ヴォント）「uɔnʃ ではない 」つまり「 間接攻撃である uɔnʃ とは違う類の uɔnʃ」の意。 【用例】 ın ıuɔnıʃ μeʃʅ. 敵にアヴォンを放った。

ıuɔɒ ［動物］オオカミ、狼、ウルフ ［名詞］統率の取れ訓練度の高い兵士 ［組み数字］2／5 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ıuɔɒı（強い犬） ［文化］ 軍隊と兵士の象徴。獰猛、残忍というマイナスイメージより勇猛果敢というイメージ。 ［擬声］ hɔɔn（遠吠え）ıɔn（鳴き）φɗɗɗ（唸り）【成句】 ıuɔɒ e ɒcμɔʅ ミロクの狼。警察や軍隊のこと。 ɥən uıc ʃ'ıuɔɒ 狼の兵のように：勇猛果敢 【用例】 ɒɥın ʃe lcȷlcȷ ıuɔɒ dɔʃen μecɥə ɥınnı. I'm a little wolf inside a girl（『リンゴ日和』）

ıuɔɒıɑcȷ ［法律］狼刑 1L ［語法］ 生きたまま狼に食わせる刑。若い女にのみ適応。ペットの殺害などに適応。

ıuɔɒcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おおかみ座 Ɉ₥ ［文化］ cɑı

ıuɔμʃ ［形容詞］全然可愛そうではない、自業自得な、ひどい目にあって当然な、かわいそくない、同情に値しない、身から出た錆 ［反意語］lenıȷ ［レベル］2 1L:ɑəlɒccı:ı uɔμʃ（死に向かう）【用例】 ɑclʃ ıuɔμʃ 自業自得な結末 ucʅ ıuɔμʃ 同情に値しない男

ıuɔl ［動詞］ɥəl を ı にそらす、そらす、反らす ［魔法］アヴォル。風属性の白魔法。魔法の風を起こし、物理的攻撃、火・氷・光など属性を問わず魔法攻撃をそらすことができる。魔法の風で防ぎきれないものは通過してしまうので、バリアの強さは術者の能力次第である。 ［レベル］3 古 :ȷɔμn 【成句】 ıuɔl lɔȷʃ 話をそらす 【用例】 ıuɔl ɥənɔ e μeʃʅ 敵のユノをそらす

ıuɔlcnȷ ［医療］斜視、やぶにらみ ［レベル］5 1L:「そらし目」

ıue ［名詞］はがね、鋼、鋼鉄、鉄鋼 ［レベル］4 1ʕ: 制 :ıu/ɑenʃ（強い鉄） ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ıuel ［医療］ヘルニア ［レベル］5 Ɉ0:ııucl（あるべきでない）。ヘルニアが、本来臓器などがあるべき場所から外れていることを指す病気であることから。

ıuen ［形容詞］最悪の、最低の、最も〜でない ［名詞］最小、最低、最悪 ［反意語］ıʅlı ［レベル］2 1L:ıluen。uen の繰り返しから 【用例】 ʅıʅʃ ıuen 最低で、最小で ɔlʃı ıuen 少なくとも、最低でも、さすがに、流石に、せめて ın lɔ ʃə eʃ ɑelȷ ıuen lɔʃ (leȷ) ın cnıʃ. それは今までに見た映画の中で最悪だったと思う。 ın ʃcȷ ȷeμ ʃə ʃcȷ ɔlʃı ıuen. それくらい流石に俺でも知ってる。

ıuenlız ［数学］極小値 ［レベル］５ 1L

ıuenȷıɑ ［気象］最低気温 ［レベル］３ 1L:μcɑcı:ıμbıleʃ 【用例】 ıuenȷıɑ ıʃ ʃcɑ 10 cᴅ ɑcȷ. 今日の最低気温は零下１０度だった。

ıuenɑclıʃc ［単位］［物理］最小長、プランク長 ［レベル］６ μɑ;/ Ⅰʔ ［文化］ μɑ でセレンは物質を構成する最小要素があるとし、その長さを最小長と定義した。当時の科学力ではその長さを知ることができなかったが、セレンはその存在を予想した。彼は無限に分割できる長さは現実世界にも物理世界にも存在しないと述べた。 ul でプランク長が発見され、ıuenɑclıʃc は暫定的にプランク長を指すようになった。 また彼は時間などについても最小時間などがあるとし、無限に分割できる時間は存在しないと述べた。

ıuenᴅel ［単位］［物理］最小時間、プランク時間 ［レベル］６ μɑ;/ Ⅰʔ ［文化］ ıuenɑclıʃc

ıuenhıclı ［法律］簡易裁判所 ［レベル］５ ⅃Ⅰ

ıuenıll ［数学］最小値、最低値 ［レベル］４ 1L

ıuenɔllhınʃ ［数学］最小公倍数 ［レベル］３ 1L ［文化］ → ʃɔcoınc ・ルシアと最小公倍数 ２０１２年４月１６日にセレンが５才のルシアに最小公倍数について教えた。１２と５の歯数の歯車を用いて説明し、理解させた。簡単に理解していた。 するとルシアはどのような歯車でも元の位置に戻る瞬間があるかと問うてきた。２数には最小公倍数が存在するので、当然そういう瞬間があるといえる。すると横にいたメルが一瞬考えて、５６と４８の歯数の歯車の最小公倍数は何かと娘に問うた。 メルが考えた問題ということは数学的に意味のある数だろうと考えたセレンはすぐに彼女の意図を察し、娘に解説しだした。 この２日前に素数を教え、素因数分解についても教えていたため、まず５６と４８を素因数分解させた。５６は2・2・2・7であり、４８は2・2・2・2・3であるとルシアは答えた。なら両者の最小公倍数は何かと問うたらしばし考えて分からないというので、１２と５および３０と１５の歯車が６０で最小公倍数を迎えることを素因数分解で説明した。すると５６と４８の場合は２・２・２・２・３・７で最小公倍数が求められるとルシアは答えることができた。 それを暗算してみなさいと言ったら、「暗算できるような数ですか」と聞かれた。「素因数分解したままでもできるけど、美しくはないね」と答えたら、「ママが出した問題だから工夫すれば綺麗にできるはずですね」と聡いことを言ったので親サイドは上機嫌になった。 ルシアはしばし考え、２・２・２・２・３・７＝６・７・８であることを発見した。「連続する３つの自然数の積はどうなる？一般化できるか？」と聞いたら、５分ほど試行錯誤し、「真ん中の数を３回かけた数から真ん中の数を引いた数では」と答えた。ｎ＾３－ｎなので正しい。「どうして分かった」と聞いたら「１,２,３と２,３,４を例に考えたらそうなったので」と不十分な回答だったが、結果としては合っている。ｎ＾３－ｎという一般式を求められなかったのが残念だったが、５歳児だし自然数をｎと定義することはメルが教え済みか分からなかったので仕方がない。「じゃあその法則を使うと暗算できるか」と聞いたら、３０秒くらいして「６・７・８は３３６です」と答えて最小公倍数を導くことができた。 その後ルシアは補足するように、「２・２・２・２・３・７なら４８・７のほうが計算早くないですか？」と聞いてきた。ｎ＾３－ｎの一般式を求めさせたい親サイドの意思が伝わってないので出た疑問なのだろう。「まぁね。ただ、４８・７はそこそこ面倒だぞ？」と言ったら「５０・７から１４を引けばすぐ暗算できます」と答えたので感心した。
 なお、セレンはかつて６才前後に父がくれた大辞典を使って干支と十干から還暦を理解し、甲子などをすべて暗記し、最小公倍数を理解していた。そのとき親に教わったわけでもなく、自分で勝手に１２と１０の歯数の歯車が再び同じ位置で咬み合うときが最小公倍数だと理解していた。ルシアと異なり、自分で最小公倍数という概念を編み出していた。 そのときの経験を用い、歯車の方法ならほぼ歳の近いルシアでも理解できるのではないかと思い、この方法を試した。ルシアは自分で最小公倍数を発見できなかったが、自分の発想で５６と４８の最小公倍数は計算できたので、親のセレンとどちらが優秀かは判断しかねる。セレンはゼロから発想するタイプで、ルシアは知識を発展させるタイプと言えよう。 ・２０１３年３月２７日のツイッター ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ 1分 自分のやり方はそれぞれの数を素因数分解し、どの数の組み合わせを作ればそれぞれの数を素因数分解したものを表せるかというやり方で、当時素数という言葉も知らないのに「割り切れるまで割り切って細かくする」という発想だけでこの方法を編み出したわけか。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 その他 ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ ʜ分 @ıclı_ȷənɑı 続きの FT で解説しました。 会話を表示 ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ ʕ分 メルは「その件についてはお兄ちゃんのほうが賢いけど、全般的には紫亞のほうが賢い」と言い、リディアは「紫亞はネットがあるから。セレン君の時代はネットがなかったから比べるのは無理。銃と刀で戦ってどっちの持ち手が強いかみたいな無駄な論争」と言っていた。僕はまぁ娘のほうが賢いと思う。 開く ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ ٩分 で、未だにこのとき思いついた方法で最小公倍数を出してるんだが、小中学生は習ってないらしい。みんなどうやって通分とかしてるんだろうと不思議に思った。ʜ歳で理解した娘は自分より頭いいねと言ったら娘は「ʕ歳でも自分で考えたパパのほうが頭いいと思います」と言っていた。 開く ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ L分 で、当時どうやって最小公倍数を求めたかというと、「1⅃=ʔ×Ⅰ⅁=⅃×⅃×ʔ、10=⅃×ʜ。ということは ⅃×⅃×ʔ×ʜ という組み合わせを作れば ⅃×⅃×ʔ も ⅃×ʜ も作れる。で、⅃×⅃×ʔ×ʜ は ʕ0 だ」と考えて求めた。まだ学校で九九も習ってないのに計算はできたから。 開く ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ 11分 ʕ歳のとき親父が大型の国語辞典を買ってきた。巻末に十干等が出ていて「常識だから覚えろ」と言われ、干支と十干、五行説と還暦を覚えた。そのときなんで還暦って ʕ0 年なんだろうと思い、1⅃ と 10 の最小公倍数だからかと思った。ʕ歳なので最小公倍数なんて言葉は知らなかったが。 開く ȷeμen ıμbızıμɑ ⊠@ȷeμenıμbızıμɑ 1ʔ分 最小公倍数ってみんなどうやって求めてるの？娘がʜ歳のときにやり方を教えたんだけど、どうも日本の小中学生はそのやり方を知らないらしい。で、自分も習った記憶がない。思い返したら、このやり方って自分がʕ歳のとき自分で編み出したものだった。 ・直方体問題 ⅃⅁ ɑəl ɑəl にセレンは紫亞に問題を出した。 「縦４８ｃｍ横３６ｃｍ高さ３０ｃｍの直方体に最大何ｃｍの立方体をいくつ隙間なく詰められるか。また、その直方体を最少何個集めれば立方体を作れるか」 前者は最大公約数を用いて６ｃｍの立方体を２４０個、後者は最小公倍数を用いて一辺７２０ｃｍの立方体を作るので元の直方体が７２００個となる。６歳の紫亞は容易に解いた。実はこれは立教中学校の入試問題で、さすが紫亞だと感心した。 【用例】 ıuenɔllhınʃ ȷɔuen 1⅃ ɔ ʜ eʃ ʕ0. １２と５の最小公倍数は６０だ。

ıueᴅ ［単位］兆 ［レベル］３ ⅃1:ıuɔᴅ

ıueμ ［名詞］資格 ［レベル］３ 1L:ȷɔμn:ueμ 【用例】 ʃıɑ ıueμ 資格を取る ʃcɑl ıueμ 資格を失う、失効する

ıueμcı ［地名］アヴェリア海 ⅃0:μcɑcı:ınueμ/eμcı（呪いの海）。デペリアと名前的にも対応している。 ［文化］ ヴァルマレア西～カルカヒ東。カルカヒの囚人の呪いに侵された海とされる。

ıueμcıȷczı ［地学］アヴェリアプレート Ⅰʔ

ıuel ［サール］アヴェル ［名詞］哲学、道 ［レベル］４ 古 :μcɑcı ［文化］ 哲学者アヴェル。青年の姿をしたサール。美しい顔立ちだが、眼光鋭く威圧感にあふれる。

ıuelʃ ［娯楽］アヴェルト、将棋 ［レベル］4 1ʕ: 制 :ᴅel/ʌᴅccμ:ȷɔμn の uelʃ（抽象）に ıl(ı) を付けたもの ［文化］ → nıɥəᴅel ルールは日本のものと同じ。盤は木製のものが多い。駒も木製が多い。駒は円形で、表裏に違う文字が書いてある。駒は枠内に置く。 駒の名称は異なる。取った駒を使うという性質上、チェスと異なり、両陣営の駒に同じ名を与えるため、固有名詞を避けている。 王 (ɑıcz)・飛車 (hıɾᴅı)・角 (hɥəlı)・金 (benɔᴅ)・銀 (φılʃe)・香車 (nɔce)・桂馬 (ᴅɔɔl)・歩 (oılʃ) ナユのころは軍事システムが整っていなかったため、金以下が ıμʃın, ɑμecn, ʃɔɔl, ɑμeʃcȷ, uıc となっていた。表を黒、裏を赤で指して同じ文字を使っていた。 これを受けてカコ以降は裏面は赤文字をやめて古い名で呼ぶようにした。とはいえ、金には裏がないので ıμʃın は表れない。なお、飛車と角は成ると μȷcclı と ʅılʃcȷ になり、裏面は昔と同じく赤で書かれる。赤になるのはこの２枚だけ。 こういった複雑な歴史の中で育まれてきたものを、現在のルティアやアルバザードでも使用している。 ＜用語＞ 王手：ı ɑıcz 詰み：ı ueeɥə 成る：ılel 取る：ȷeʃ, ȷeɑ など

ıuelncın ［歳時記］死神の休日、アヴェルニアン ［レベル］３ ⅃1:ıuelınʃ/古 ncı ［文化］ ルノが一年に一度アルデルの整理とメンテナンスを行う日。ɑıu len。この日はアルデルにセレスを持ち込んでも受け付けてもらえないため、死神は皆休む。夢喰いもすべての魂を食べるわけでない。おいしそうなものをがめるというだけで、基本的には誘燈と同じく魂を運ぶ。従ってこの日に狩りをするのは合理的でなく、夢喰いも一年に一度の休日を楽しむ。 イムル暦でいうと１０月の陽気のよい日で、死亡率がそもそも少ない。アルデルにいるルノがアトラスの北半球の時間に合わせているのは、歴史的に見てここに一番アテンが集まってきたため。

ıuelɑıcz ［哲学］哲人王 ［レベル］５ ɑu;/ Ⅰʔ ［文化］ 哲人が政治を行う王の立場になった者を指す。独裁者の理想的なあり方とされた。

ıuellınʃcȷ,ɑu ıuelın

ıuelın ［哲学］哲人 ［レベル］５ μɑ;/ Ⅰʔ ıuellınʃcȷ:ıuellınʃcȷ ［文化］ 哲学を学んだ徳の高い人間のことで、ɑu からあった概念。

ıuelınʃ ［死神］死神、アヴェラント ［生物］死神属。魂科唯一の属。夢喰、誘燈、夢織の３種がある。 ［形容詞］死神の～ ［レベル］３ 古 :μcɑcı:ıuelınʃ‹ıuelınʃcȷ‹ıuel（哲学の）/lınʃcȷ（人）。あの世は哲学的な存在であるから、その形而上的な場所にセレスを誘う者を哲学者、即ち ıuellınʃcȷ と呼んだ。死神アヴェラントのことである。後に発音の関係で ll が l になり、ıuelınʃcȷ になった。やがて語形が省略され、ıuelınʃ に変化した。この際、ıuelınʃcȷ という古い語形は消えずに、アヴェラントが通る道という意味で生き残った。 ıuelınʃ:ıuelınʃ:lə lı ıuelınʃ:ʅɔʅɔlɔ,ılʃ ［文化］ ルノの部下である無数の死神。死んだ者から出たセレスをトワーユに連れて行く。夢織の紗枝などが例。夢織は死神を題材とした一連のファンタジー小説。ランヴェムのように、種としては夢喰なのに、自分は夢織として生きるというような複雑な例もある。 死神にはフレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクという４人の貴族がおり、いずれもルノの配下である。しかし忠誠心はまちまちで、基本的に個人行動を取っている。この貴族と交わった人間は永遠の命を持った死神となる。この子死神と交わった人間も死神となるが、これらの孫死神は永遠の命がなく、死ぬと灰になる。 【成句】 lınφ ʃ'ıuelınʃ 死神の権利：生殺与奪 【用例】 ıuelınʃ ʅɔμ ȷen ɑcı ınᴅcınɤ 死神も夢を見れますか。

ıuelınʃʃıɑlın 死神狩り 1L:ᴅelcɑcı ılʃe: アシュテが造語した一時的な用語

ıuelınʃcȷ ［地名］アヴェランティス、冥道、冥路、黄泉路 ［レベル］３ 古 :μcɑcı ［文化］ 霊界とトワーユ・ラティアを繋ぐ道。アヴェラントがセレスを運ぶ通り道。地球上ではどの方向とも言えないが、宇宙で見ればスピカの方角にあると考えられている。 |約 1ʔ٩ 億年前 | 初期の lelıc は uccɑ 的に空な状態だったが、唯一 ıμʃe が uccɑ を持っていた。ここに気圧と同じ考え方で、uccɑ 圧の差が原因で、高 uccɑ 圧である ıμɑel から lelıc に uccɑ が流出しはじめた。この流出の際に uccɑ が流れた空間が道となり、ıuelınʃcȷ となる |

ıuelınȷ ［名詞］生殺与奪 ［レベル］５ ɑu;ıuelınʃ/ȷɔ ⅃⅁ ıuelınȷ:ıuelınȷ

ıuelınuelȷ ［哲学］［政治］哲人政治 ［レベル］５ μɑ;/ Ⅰʔ ［文化］ ɑu にできた概念で、独裁政治の一種。哲人王によってなされる政治のことで、良い意味での独裁政治とみなされる。μɑ、旧革命、革命などが代表的。

ıuelınφ ［名詞］生殺与奪の権利、生殺与奪権 ［レベル］５ μɑ;ıuelınȷ/lınφ

ʝɱ
ıueleſ ［魔法］［アイテム］ロッド、アヴェレット ［類義語］ıɰzɔn ［レベル］3 zφ:ȷzɑ;ıuɔ,ɑu/ſe.heᴅ ʝʝ ［文化］ ıɰzɔn
ıueleſ(ʝ) ［形容詞］哲学的な ［レベル］5 ɥɑ;/ ʝʔ 【用例】 ſə eſ led lel ʅnɔɔȷ ıueleſ le hiɾn ınſ ıȷᴅıſ ıl ın cᴅ ınȷ ȷıbɔɥ uıuȷıb cᴅ ſɔlel. 昨日体操着を着ているときに友人が私に問いかけた哲学的な問題は難しい。
ıuecɥə ［医療］ヴィード死 ［レベル］4 ʝ0:ıuelſın/uıſlecɥə（死神を待つ） ［語法］ 肉体の死ではなく、ヴィードが枯渇した死。
ıɑ ［言語］新生アルカ、中アルカ ［レベル］4 ʝ1
ıɑ,lɥ ſə（それ） ȣ
ıɑſ ［動詞］ɥəl を ı と交わす、交わす、かわす、交える、まじえる、酌み交わす、くみかわす ［レベル］3 ɥɑ;ıl/ɑəſ「相互に交換する」 ʝɱ ［語法］ 「約束を交わす」のように比喩的な意味はない。物理的に腕などを交差させて何かと何かを交わす場合、例えば盃と盃、剣と剣を交わすなどの場合にしか用いない。 ［文化］ 恋人同士など、親密な間柄では食べ物や飲み物を互いに食べさせることがある。例えば盃に酒を入れて互いの口に持っていって飲ませ合うというように。たいていは儀式的に行われるが、デートなどで親密さを確認し表現するために行うこともある。元は ȷᴅ で凪人が持ち込んだ風習で、個人主義のアルバザードで発達した風習ではない。 剣など武器を使った試合や決闘では、始める前に武器の切っ先を互いに交わす風習があり、これは元々神代にレスティルで発達した勝負開始の合図である。 【成句】 ıɑſ ɑlec 剣を交える。勝負を始める、雌雄を決する
ıɑſıȷ ［動詞］ſel を裏切って ɥəl と浮気する、浮気する ［普通動名詞］浮気、不倫 ［レベル］3 ʝ1: 古 :ɥcɑcı:ıɑəſıȷ。ソーンのアルカを利用して「拾わない（拾わないが原義で、意味は「捨てる」）」という原義から造語
ıɑɥı ［地球の国名］タイ ［レベル］5 古
ıɑɥı(ʝ) ［名詞］８分の１、エイス、４５度 ［レベル］4 ɥɑ;ıl/ɑɥıʅ ʝɱ
ıɑɥın ［交通］八分儀 ɥɑ;ıɑɥı/en ʝɱ
ıɑɥıncɑı ［地球の星座］［ユマナ］はちぶんぎ座 ʝɱ ［文化］ cɑı
ıɑɥıhıɾ ［ユマナ］タイ文字
ıɑɥeᴅ ［格詞］～の近くに ［レベル］2 ʝ0:ᴅelcɑcı lceɥ
ıɑɥeᴅen ［接続詞］ıɑɥeᴅ ［レベル］3 ʝ1
ıɑɥecn ［人名］アフレイン。アルマスト派の始祖 ［レベル］4 古 :elɑɥecn と同根 ［文化］ アフレイン (メル ʝ10 年代 ȣ—ʝL0)。アルマスト派の始祖。少年～青年期の ʝʔ0 年、マルテの恋人であったが、神々を敬わずアルマを敬うという信仰の違いにより破局。同時にアルティス教の一派アルマスト派を立てる。ʝʕ0 年ごろ、当時のアルシオン派の首領となっていたマルテと再会し、息子ユレット、娘アメリを設ける。ʝL0 年、敵対政党であるミナレットの首領アルファウスに殺害される。
ıɑı ［料理］レンジ ［レベル］2 定 : 火の 【用例】 ɑıc dɔɑ ʅɔn ıɑı レンジでパンを焼く
ıɑıſ ［動詞］ɥəl を c から徴収する、徴収する、取り上げる ［レベル］4 1ʕ: 制 :ıu/ɑıſ（強く取る）【用例】 ʅıɑ ıɑıſ ucʅ c lczl lel uıc. 国が男を村から徴兵した。 ıɑıſ lcuı c ɥəlcın 子供からゲームを取り上げる
ıɑıʅ ［地学］マントル ［レベル］5 1ʕ: 制 :ıɑ/ıʅc（熱い地面）
ıɑıʅſcᴅɑcɥec ［地学］グーテンベルク不連続面、コア – マントル境界 ul;/「マントルと核の境界」 ʝʔ
ıɑın ［工学］［料理］テフロン ［レベル］5 1ɱ: 制 :ıɑınz (熱に強いプラスチック)
ıɑın,lɥ これの ıɑ の属格
ıɑc ［言語］抑揚、イントネーション、音調 ［レベル］3 1ʕ: 古 :ıɑɔ（音が低い）［文化］ アルカは急上昇、上昇、平板、下降、急下降、中止、昇降の７種。そのほかに意外な驚嘆や余韻といった亜種が存在する。詳しくはサイトを参照すること。 【用例】 cnȷıɥen ſcl ıɑc lıu. 中国語は抑揚がうるさい。
ıɑcl ［形容詞］辛い ［類義語］hce ［レベル］2 ɥɑ ʝ1<ıɑl:1ʕ: 制（熱い味） ʅı:ʅı ［語法］ 香辛料の辛さ。 【用例】 bel e ᴅeſcɔ eſ ıɑcl lecᴅel. メティオ料理は辛いのが多い。
ıɑclſıʅſ ［名詞］辛党 ［レベル］4 ʝ1 ［語法］ 酒好きという意味ではなく、辛いものが好きという意味で使う。 【用例】 leȷ ȷccnı uelɑ eſ ʅıᴅcl ıɑclſıʅſ. 酒好きはたいてい辛党だ。
ıɑcɥlcȷı ［化学］［料理］上白糖 ［レベル］5 1L:ȷeɥen: リディアがグラニュー糖と区別できていなかったので、セレンが命名した。 ［文化］ アルバザードでは通常使われない。
ıɑeſ ［形容詞］意味のある、効果のある、有効な、有意味な、有意義な、価値がある ［類義語］ləɑcl ［反意語］lcɑ ［レベル］2 1L:lcɔn: 制 lıɑeſ ［語法］ 意味や意義の有無が ıɑeſ と lcɑ。価値の有無が ləɑcl と leʅȷ。宝石は ləɑcl だが、ıɑeſ ではない。 【用例】 dcſı ıɑeſ 効果のある薬 ſə eſ ıɑeſ lel el ıɥ nɔȷɑel. 自習することには価値がある。
ıɑel ［料理］［動詞］ɥəl を茹でる、茹でる、ゆでる ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ı ɥbıleıſ ←制 :ıɑ/el（熱湯）【用例】 ıɑel ɔφı ジャガイモを茹でる
ıᴅ ［文頭純詞］どこ ［名詞］ʅı ſɔ の略 ［レベル］1 1ɱ: 恣意 ʅıſe:ʅıſe: ［語法］ 文頭の純詞として使う。文中に入れる場合は ʅı ſɔ にし、ʅı ıᴅ にはしない。 【用例】 ſc lı ıᴅȣ いまどこ？。ſc lı ſɔȣ（どこにいるの）と ſc lı neȣ（誰のところにいるの）を同時に現せる。 lı ɔʅſıſ ſə lel ın ʅe ıl ıᴅ ȷccnı. 彼は私がどこに行けばいいか教えてくれた。 ſc ɥı ıᴅ ſ'ıɥnıȣ あなたはアルナの何処に住んでいますか？
ıᴅſ ［形容詞］極端な ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ılᴅıſſ ［語法］ 節度や中庸を逸している状態。良い意味にも悪い意味にも使う。ſcn の意味で使う場合、話者の驚きが篭められている。 【用例】 ſɔɔɑ ȷɔɥ ıᴅſ 極端に高い坂 sɔʅɔᴅ ıᴅſ 極端な叱り方
ıᴅſıl ［名詞］どこであろうと ［レベル］1 1ʕ: 制 【成句】 lıʅſ ıᴅſıl どう見ても、どう考えても、どうしても、どこがだ⇔ ᴅeȷı ſɔſıl 【用例】 ın ʅe uın ıᴅſıl ı. どこだろうと行くぞ。
ıᴅſılɔᴅc ［娯楽］アムタルオミ ［ユマナ］どこでもドア ［レベル］3 ıl;/ ʝʔ ［文化］ ᴅılcȷɑen の道具のひとつ。どこでもドアに相当。 【用例】 ſee, ın ucz ȷıſ, ᴅcll ıᴅſılɔᴅc ı. やべぇ遅刻する、マジどこでもドアくれ。
ıᴅn ［医療］吹き出物、おでき、できもの、にきび、ニキビ、発疹、あせも、湿疹 (ȷcɥıᴅn) ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 :nᴅ: 原義 nᴅıcn(体の点) 【用例】 nɔn ſclcʅ ıᴅn. 吹き出物ができた。
ıᴅᴅı ［名詞］アンマ。女性のエタットのうち、女らしくないほう。 ［レベル］2 ʝ0:ɥcɑcı/ʅlccz:ıl/ᴅıᴅı ［文化］ 典型的には男勝りで気が強く、姉御肌で情に篤く、人の世話をするのが好きで親切な女性を指す。
ıᴅd ［名詞］名誉、栄誉、ほまれ、(nı で) 光栄な ［形容詞］誇らしい ［類義語］leuın ［反意語］ʃlə ［レベル］2 1ɱ: 制 :cᴅd 【用例】 ın nı ıᴅd ᴅın ıʅſ cʅ ᴅcɥɔʅ. ミロクに会えて光栄だ。
ıᴅdʅɔn 自尊心を作るための道具 1L
ıᴅdıl ［アイテム］アンパル ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 : 語源不詳 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ジールのもつ神弓。
ıᴅdc ［音楽］ホイッスル ［レベル］4 ʝ1:ıl/dcə
ıᴅɥə ［名詞］六分儀 ȷᴅ;ın（６）/ᴅɥə（無い→離れた→分割した） ʝɱ
ıᴅɥəle,ȷzl lɔz
ıᴅɥəleſ ［魔法］アミュレット ［レベル］5 ıɥɑ;ıᴅɥəle,ȷzl ʝ1 ［文化］ ɑɔl ᴅcɥə
ıᴅɥəcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ろくぶんぎ座 ʝɱ ［文化］ cɑı
ıᴅl ［人名］アムル ［組み数字］１０／１４ ［レベル］4 古 : 語源不詳。古アルカでの意味は無し。 ［文化］ (– ʝΔ ɑəl ɑɥə_ɱ ɑcı ɑcn) 第４期３代アルシェ第１０使徒。男性。ȷeeſ。ナルムの夫、リディアの養父。少し小柄で痩せている。 ɱ ɑcı ɑcn にサプリの村を襲った魔族バイアスの火の魔法により焼死。リディアを人質に取られ、武器を捨ててバイアスの手にかかった。 ・現実では (ſcɑ ʝΔ ɑəl ɑɥə_ʝ zın ᴅelȣ) 第４期３代アルシェ第１０使徒。男性。ȷeeſ。ナルムの夫、リディアの養父。少し小柄で痩せている。
ıᴅllcl ［化学］ホルミウム 1Δ: 制
ıᴅı,ılſ ɑcɥe
ıᴅıſ ［生物］超ドメイン ［言語］超語族 ［レベル］6 1L:ıɥſe/ᴅıſ ［語法］［文化］ → ıſen, ɥəᴅı ıſen と eſın に分かれる。ıſen はアルマからできたもの。eſın はアルマが分裂した余波でできたもののうち、生物を指す。アルマの分裂の余波では無生物もできているので、eſın だけが余波の結果ではない。
ıᴅınze ［人名］アマンゼ家 古 : → lcɔn ıᴅınze ［文化］ シオンやマルテなどの姓。
ıᴅınzen ［企業］［人名］アマンゼン、薬師寺 ʝ1 ［文化］ 三菱東京 ヨ⫛§ 銀行、三井住友ＦＧに相当する企業。
ıᴅıuel hɥəəſɔ ［人名］アマヴェル＝ヒュート 1Δ:ɥɥəə/dıl:ıᴅılcȷ/uelᴅ「思い出の金曜日」。生まれがエンナの日だったため。メル暦上、エンナは必ず金曜になるわけではないので注意。 ［語法］ (ᴅel 1Δ ᴅcʅ len) リュウとパールの長男。同日、セレンとリュウの中学時代の約束に基づき、ルシア＝アルバザードの許婚となる。
ıᴅıφıſılc ［ジョブ］露払い、アマガタリ ȷᴅ;ıᴅı/φıſılə「露払い」 ［レベル］5 ʝ0 ［文化］ → ʅılın カランは接近戦には強いが遠距離攻撃に弱い。そこでガルマには必ず一人の ıᴅıφıſılc（露払い）という魔導師がおり、敵からの魔法攻撃を防ぐ。 ヴィルを持って生まれた数少ないアルティア人に幼い頃から徹底的に白魔法を仕込んで育成する。ほぼ１００％女性であり、１２歳を過ぎると前線に出される。人手不足のときは最少７歳という記録がある。 いくら子供のころから鍛えたといっても魔法国家ルティアの魔導師の攻撃を防げるものではない。全力でガードしても一分と持たない。 ここでガルマの少人数戦法が生きてくる。相手が１０人程度だと魔法でもせいぜい１００ｍ先程度しか狙えない。１００ｍなら走っても十数秒で接近できる。露払いはそこまで耐えられれば良いのである。 アルティアは男尊女卑のため、露払いの労働環境は当初劣悪で、慰安婦も兼ねていた。露払いの戦死率は高かったが、露払いは稀少なので死なせるわけにはいかず、労働環境は時代が下るごとに向上していった。 【成句】 ɑcᴅ ı ɥəɥə ɔnſ ıᴅıφıſılc ゆゆにもなれず、露払いにもなれず：帯に短し襷に長し ɥɔn ucl ɥəɥə lel ıᴅıφıſılc 遊女は露払いにはできず：背に腹は代えられぬ
ıᴅıφıſılc(ʝ) ［企業］アマガタリ ʝ1 ［文化］ 任天堂、スクウェア・エニックスに相当する企業。ディア＝ヴェールやテルアデルのメーカー。ıl で複雑な経緯を経てディア＝ヴェール部門だけ公営化された。未曾有の出来事であった。公営化でふつう悪化するはずが、かえって状況が好転した。
ıᴅız ［ユマナ］［宗教］仏陀、ブッダ ʝɱ:zıᴅı をアナグラムにしたもの。
ıᴅızhɔ ［ユマナ］［宗教］仏舎利 ʝɱ
ıᴅıl ［料理］オートミール、ポリッジ ［レベル］2 古 ［文化］ 一般的に食べられる。献立によってはパンの代わりに主食となることもある。
ıᴅılcȷ ［エルト］アマリス ［名詞］思い出 ［名詞］後ろ前反対、後ろ前、後ろ前逆 ［レベル］2 ɥcɑcı: 古 ［文化］ 思い出を司る神。同時に記憶も司る。すべての人間の思い出を覚えており、思い出を自由に消したり思い出させたりすることができる。女性の姿をしている。双子の妹

にエルマがいる。　思い出を司るというところから、常に後ろ向きである。それを象徴するように服を後ろ前反対に着ている→ȷıb

ıɒılcȷʃıʃlı ［地学］［歴史］アマリス大陸 ［ユマナ］ヌーナ大陸、ローレンシア大陸。ローレンシアは誤解を招きやすいのでヌーナを使うのが無難。訳語として念のため載せておいた。 ul;/「思い出の大陸」 ȷʔ

ıɒıc ［植物］セロリ ［レベル］2 ɒclɑ:lıʃlı:「優しい音がする」が原義

ıɒıcn ［言語］前略 ［レベル］4 ȷ1:ıl ɒıcn（いきなり本文へ） ［語法］ ınɑ edenʃ で閉じる。

ıɒc ［代詞］［ɥəəl］僕 ［レベル］1 ȷ0: 音の印象が弱そうなので。

ıɒcʃ ［代詞］［ɥəəl］僕の ［レベル］1 ȷ0:ıɒc/ınʃ

ıɒcʃıl ［魔法］アミタル。アミティとアラミティの総称 ［組み数字］１１/１１ ［レベル］3 ȷ1:ıɒcʃc/ıl

ıɒcʃc ［名詞］暖色系の灯かりや飾り ［魔法］アミティ。光の高位白魔法。「冷」が原因の病気を治療する。ただし急性症状のみ。冷え性、肩こり、腰痛など、慢性の病気には効かない。 ［レベル］4 古 :ɥcɑcı ［文化］照明の類。ディアセルやメルセルになると家の周りにつける。日本だとクリスマスでよく見る。

ıɒcʅ ［音楽］カラオケ ［レベル］3 ȷ1:ı ɒcʅȷ（歌うために）

ıɒcʅ(ȷ) ［格詞］～の右に ［レベル］2 ɥɑ;/ ȷʃl

ıɒcʅıl ［魔法］［哲学］神木刀、アミカル ［レベル］6 ȷɒ;‹ıɒcʅılc,ılʃ‹ıɒcn/ʅıl ȷ1 :::ıɒcʅılc,ılʃ ［文化］ hcnıʃı

ıɒcʅılc,ılʃ ıɒcʅıl ıɒc/ʅılc

ıɒcȷ ［動詞］ɥəl を頼る、頼る、悪意なく依存する ［レベル］2 1L:ıɒcɥ から。古アルカの夫自体が「頼られる」という語源 【用例】 ın ȷc ɥȷccl l'ın ıɒcȷ ȷen. 私には頼るべき親がいない。

ıɒcȷueʃ ［言語］付属語 ［レベル］5 1L

ıɒcȷɑız ［形容詞］頼りがいのある、頼もしい ［形容詞］甲斐性がある。働きがあって頼もしい気性としての。 ［レベル］3 ȷ1

ıɒcȷɑcɒ ［形容詞］頼りない、甲斐性なし ［レベル］3 ȷ1

ıɒcȷɑcɒın ［動物］スコティッシュフォールド ［レベル］6 ȷ1: 顔が頼りない

ıɒcȷɾlıɑ ［言語］拘束アクセント ［レベル］6 1L

ıɒcȷɔ ［言語］子音 ［反意語］ueȷʃɔ ［レベル］4 1L:ıɒcȷɑɔ。音節を作るには原則として母音に頼らざるをえないという特徴から。母音は逆に単独で音節を成立できる。言語の話題の多いアシェットでは単純語になってしかるべき単語。

ıɒcȷɔıɥʅ ［言語］子音連続 ［レベル］6 1L ［語法］ 弱子音：ʃ,ɑ,ʅ,φ,d,b,ȷ,z,l,s,ɑ,u 強子音：n,ɒ,ɥ,l 非連続：h,ɥ,o その他：ɾl 子音をこのように分けた際、語末で「弱強」の順番が現れる組み合わせは以下の通り。 ʃn,ʃɒ,ʃɥ,ʃl ɑn.ɑɒ,ɑɥ,ɑl ʅn,ʅɒ,ʅɥ,ʅl φn,φɒ,φɥ,φl dn,dɒ,dɥ,dl bn,bɒ,bɥ,bl ȷn,ȷɒ,ȷɥ,ȷl zn,zɒ,zɥ,zl ln,lɒ,lɥ,ll sn,sɒ,sɥ,sl ɑn,ɑɒ,ɑɥ,ɑl un,uɒ,uɥ,ul このタイプの子音連続は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）ȷɔɑn → ȷɔ/ɑɜn 弱子音の有声音同士が連続した場合は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）ɑıφɑ → ɑı/φɜɑ 強子音同士が連続した場合は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）ıɒl → ı/ɒɜl 弱子音の無声音同士が連続した場合は、長音節になりやすい。 例）ıdȷ これを短音節に区切ると、ı/dɜȷ か ıd/ȷɜ になる。前者が自然。 強弱の順番で現れた場合は、長音節になりやすい。 例）ılʃ これを短音節に区切ると、ıl/ʃɜ か ı/lɜʃ になる。前者が自然。 語頭の場合は上記の限りでない。 強弱の場合、短音節になりやすい。 例）lɑeɥ → lɜ/ɑeɥ 弱強の場合、長音節になりやすいが、区切って短い音節にしても不自然ではない。 例）ʅlıc → ʅɜ/lıc でも。

ıɒcȷeȷı ［言語］拘束形態素 ［レベル］6 1L

ıɒcn ［人名］アミン。自ら子を殺した母親 ［名詞］子殺し、間引き ［レベル］4 ɥcɑcı: 古：名の由来は ɒcn（女、ここでは女の子供）にソーンの ı をつけたものから。自ら子を殺した母親。

ıɒcn(ȷ) ［魔法］［哲学］神 ［レベル］4 ȷɒ;ılʃ ȷ1 ［文化］ hcnıʃı

ıɒcnıl ［政治］アミナル党。ミナレットから派生した政党 ［レベル］4 古 ［語法］ ılıcu アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットから分裂した政党の一つ。ȷʔ0 年ごろ、利害の対立により当時ミナレット党を名乗っていたレヴァレン党から分裂。

ıɒcu,ȷzɑ ɥəlc

ıɒcɑc ［ジョブ］聖騎士、パラディン ［レベル］4 ȷɒ;ılɒcɑı.ʅ ȷʃl

ıɒcɥ ［親族］夫 ［類義語］lıɑɥec ［反意語］ɒcnʃc ［レベル］2 1L: 古 :ɾlı ɒcɥ（頼られるもの） 【成句】 ɥən ucnȷ ıɒcɥ 夫を捨てるように：心機一転。場合によっては悪く取られることも。 ɥȷcclı ıɒcɥ 夫唱婦随 【用例】 nɔn ʃcl ıɒcɥ. 夫がいる。

ıɒcɥe ［動詞］ɥəl にすがる、すがる ［レベル］3 ȷ1:ı ɒcɥɔʅ 【用例】 ʃə eʃ ɾlı ȷınse len ın lɑcȷ, eʃ leȷ ın lcɒ cȷʃ ʃɔʃıl. ucnȷ ucl ʃə ʅɔnʃ uılʃc ɔ ɥəu ucl. ʃeʃ ʃə eʃ ɑız ı ȷɔı. ıʃə eʃ uıȷlı l'ın lı ıl, ʅılʃe len ın ʅlcʃ lıɑ e uıȷn. ın lınʃ ʃə ı nɔȷ l'ıɒcɥe 1 ɑce ʃcȷ. それがまさに生きていく理由 何かを賭して手にするもの 傷つきながらしがみついて離せない それだけのもの ここが僕のいるべき戦場 覚悟の価値を決める場所 ひとつのウソにさえ すがる僕に捧げよう （ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『バトルクライ』） ȷee ɒcɥɔʅ ıɒcɥeʃ ʅɔ ɑce ı. そうして神さまはひとつの嘘にすがったんだ。

ıɒɔ ［交通］車 ［レベル］1 1ʔ: 制 ［文化］ → dɔnʃ ・ıɒɔ と ləəɒ
車は２人乗りのものと、４人乗りのものがある。２人乗りのものはルームという。普通の車を縦で半分に切って、バイクより少し幅が広いくらいにしたものである。１車線に２台走ることができる。簡単に言えばバイクに屋根がついたものということである。 ・比率 アルバザードはそもそも車の所有台数が少なく、レンタカーが発達している。 また男女比でいうと、女性はほとんど車を運転することがない。さらに日本と違って、免許が身分証明書にならないので、免許を持つことにあまり意味がない。そのため女性はあまり免許自体を取得しない。アルバザード人は日々の生活で車を使うことは少なく、レジャー等で遠出するときに使うくらいである。
　また一般に東区の住民は自分の庭に車を止めることが多い。一方西区の住民は、マンションの集合の駐車場に車を止めることが多い。なお自動車の保有率は、東区の方が多い。 ・健康志向 アルバザード人は健康志向が強いのでウォーキングや自転車を好む。一つ一つの ȷılıc が狭く、市内で通勤から通学から何でもできてしまうのも理由の一つである。 ・免許 免許を取得できる年齢は、一般にその社会で車がどれぐらい重要かに関わっている。例えばアメリカは車社会なので、免許を取得できる年齢が早い。アルバザードでは上で述べたように車はあまり必要でないので、免許を取得できる年齢も日本より遅く、成人からである。 免許の取り方について。まずは日本と同じように自動車学校に行く。そこで講習を受けて、筆記試験と実技に受かれば、市内に一つある免許センターにて筆記試験を受ける。そこで合格すればその場で免許が発行される。自動車学校が免許の発行を行わないのは、学校側が自分の合格率を上げるために不正することを防ぐためである。 ・その他 車がいつどこにいるかはＧＰＳで判断できる。そのため交通事故があれば、誰がどこで起こしたかすぐわかるため、ひき逃げ等の犯罪を防止している。車のエンジンはアンセがないとかからない。従って無免許で運転することは不可能である。 飲酒運転は日本と同じく犯罪である。 免許は日本と違ってカード型ではなくアンセに登録する形となる。 車には対人センサーがついている。突然目の前に人が飛び出してきた場合は、自動でブレーキがかかる。人間の知覚よりも早く反応するため、事故の防止或いは被害の軽減に役立っている。
　バンパーには対人用と対物用の衝撃吸収剤がある。 ＧＰＳと連動してどの道にいるかがわかる。道の大きさはＧＰＳに登録されており、道ごとの最高速度が決められている。その速度以上は自動で出せなくなっている。一番細い道は ȷ キロ。次に ʔ キロ ȷ キロ 10 キロ 1ʔ キロ ȷ0 キロと上がっていく。 【用例】 ın ʅe lıl ɑc ʅɔn ıɒɔ ɒın senʃ eʃ ɥıʃ. 天気がよいのでドライブがしたい。 ıɒɔ ʅe{xleɑ} 車が走る。 ıɒɔ eɒ ɔu. 車が動く。静止状態から動いた状態への変化を指すので、「走る」という意味ではない。

ıɒɔ ʃ'ıɥle ［娯楽］アルシェの車 ȷ1 ［文化］『マリオカート』に相当するゲーム。

ıɒɔʅı ［交通］駐車場 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］ ıɒɔ, ɑɔnʃ 【用例】 ɒɔnɔ ıɒɔ ıl ıɒɔʅı. 駐車場に車を停める。

ıɒɔʅıɑıcφ ［交通］［法律］駐車税 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］ ıɒɔ

ıɒɔl ［形容詞］隣の ［格詞］～の隣で、～の横に ［レベル］1 ɥɑ;ʅı/ɒɔl「接したところ」 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:ʅı/ɒɔl 【用例】 ɥı ıɒɔl 隣の家 lə ɑcın ȷʅ cncʅ ıɒɔl ɒcɥɔʅ. その少女はミロクの横に座った。

ıɒɔlʅıɑ ［名詞］隣国 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ

ıɒɔlʅeu ［言語］換喩、メトニミー ［レベル］5 1L: 隣接性による比喩

ıɒɔlen ［接続詞］ıɒɔl。隣の。 ［レベル］3 ȷ0:ɒelcɑcı lceɥ

ıɒɔlen(ȷ) ［名詞］隣人、おとなり、お隣、お隣さん、おとなりさん、近所、ご近所、ご近所さん ［レベル］2 ɥɑ;/ ȷʔ

ıɒɔȷɔɑı ［交通］自動車事故 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ıɒɔɑɔnʃ ［交通］車道 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ 【用例】 lənı ıɒɔɑɔnʃ 車道に出る

ıɒɔɑeʃlı ［交通］自動車学校 ［レベル］5 ȷʔ

ıɒɔφınɑ ［交通］［法律］カージャック ［レベル］4 ɥʃ;/ ȷʔ

ıɒɔl ［格詞］下に ［レベル］2 1L 【用例】 eu ʃə ʅɔu ıɒɔl elen. この箱を机の下に置いて。

ıɒɔlen ［接続詞］ıɒɔl ［レベル］3 ȷ1

ıɒɔıɑcȷ ［法律］車刑 1L ［文化］ 死刑囚を車で轢き殺す刑。柱にくくりつけ、車ではねる。即死すれば幸運。即死しない場合は死ぬまで放置。ひき逃げなどに適応。

ıɒeȷ ［動詞］ɥəl をたじろがせる、たじろぐ、ひるむ、怯む、尻込みする、尻込む、動揺する、ゆらぐ、揺らぐ ［レベル］3 古 :ıɒe に ȷ がついたもの 【用例】 nɔn ıɒeȷıʃ ɒcl ɔɒı lı ȷı nɔn. 道の前に犬がいるのを見てたじろいだ。

ıɒen ［生物］眉間、アメン、眉と眉の間 ［レベル］2 古 ［語法］ 額の中心。クァールの少し上。 ［文化］ 思考や魔力や才能が宿るとされている。ダルハが浮かぶ場所としてふさわしい。 【成句】 ʅɔʃȷ ıɒen 額をコツコツたたく。熟考する、考えをまとめる。実際に文字通りの動作を伴うことが多い。

ıɒenʃ ［生物］印堂 ȷ1:ıɒen

ıɒeɥ ［電算］［工学］トランジスタ ［レベル］4 ul:ıɒelcı lelʃ;ıɒelcı 1L:lıʃlı: ıɒel ［文化］ ıɒelcı lelʃ ʔʔʃl ミロクのもとでトランジスタが開発される

ıɒes ［名詞］ヒール、敵 ［類義語］ɥeʃl ［レベル］4 ȷ0:φcl の古名から。ギルは傭兵という敵役として登場し、はじめはヒールとして出てきた。

ıɒel ［親族］妹 ［反意語］eeʃı ［レベル］2 1L:ɒel cȷɑcl:cȷɑcl:lı ɒɔe

ıɒel(ȷ) ［動詞］秘かに送る、送る ［類義語］lınʃ ［レベル］4 ȷȷ:ıɒelə,ılʃ ［語法］ あしながおじさんのように、相手にアピールせずにそっと送ること。アルティア人の美徳として持ち込まれた概念で、直情的なアルバザード人は ȷɒ までこのような感覚をあまり持っていなかった。現在では粋なこととされる。 【成句】 ıɒel hıʃcı 見つめる。恋の視線を送る 【用例】 ɔlʃı nɔn ɔȷʅ ɑelez enzel, ʃə eʃ lı ɥecɥə le uɔȷʅ elɑ lel ʃɥə ıɒel hıʃcı e. 私がどんなに掃除を頑張っても、あなたが見て

いるのはさぼっているあの子なんだね（『三行ラブレター』１３才の少女）

ɪɒelʃ ［アトラスの国家］アメルテ ［レベル］５ 1L:µcɑcɪ:「寄り添う」

ɪɒelc ［人名］アメリ ［レベル］４ 古 ［文化］ (ɒeldɪlʃ ʃ10 ？→ ʔ10)。マルテとアフレインの娘。ユレットの兄弟にして妻。ミロク＝ユティアの母。アルティス教の派閥アルシオン派の三代目リーダー。

ɪɒelc(ɺ) ［丁寧］［親族］妹君、妹殿、アメリ ［レベル］２ ʃ1:l.ɪɒel ［文化］ lɪɪ lɪ

ɪɒelcɪ ［植物］マジョラム ［レベル］４ lɪʃɪ

ɪɒelcɪ lelʃ ［人名］アメリア＝シェルト ʃʃ ［文化］ ɪɒeµ アスベル＝シェルトの妻。

ɪɒelə,ɪlʃ neʃ

ɪɑ ［言語］古アルカ ［レベル］４ ʃ1

ɪɑɥə ［地名］アデュ ［レベル］３ 古 :µcɑcɪ/ɟeµen/ɒel:ɪµbɪzɪµɑµɥəə（リュウのアルバザード）。神話では「アルバザードから離れた変種の竜のいるところ」。 ［文化］ ケートイアの都市。ヒュートの南東に位置する。山雪部で、トンネルと鉄道が多い。アルティルでは反アルティスの動きがあり、多くの信者が収容所に連行され、殺された。アルティス教にとって呪われた土地とされている。 µɑ ではアルシェがリュウと出会った場所。 守護神はメロウ。守護というよりは祟りを恐れて祀られている。 ɥəəɒɪ ʃ1ΔL レスティル北部の都市アデュにアルテ教徒の収容所が設立される。これがかのアデュ収容所である 【成句】 uɪµ ɪɑɥə 危ない橋を渡る ɪɑɥə lɪ leeʃɔcɪ「どうせアデュはケートイアだし、関係ないね」という意味：対岸の火事、川向の火事 ucnɟ ucl ɪɑɥə 義を見てせざるは勇無きなり

ɪɑɥəʃ ［被服］インバーネス、インヴァネス、インヴァネスコート、フード付きコート ［レベル］４ ɟɒ;<ʃ 古 ［文化］ ɟɒ のアデュでできた防寒着。地球より早く生まれている。 【用例】 ɑcµɪµʃɪn ɔlen ɪɑɥəʃ eʃ ɟccn ɑə ɑcl. インバーネスの白魔導師は根強い人気がある。

ɪɑɥəʃeeze ［気象］木枯らし ［レベル］５ 1L

ɪɑɥəlec ［料理］カニバル、カニバリズム ［レベル］５ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ ［文化］ アルバザードには食人が歴史に何度か登場する。アルバザードにおける食人の意義は３つ。ひとつは相手の能力を取り込もうとすること。ひとつは愛するものと一体になろうとすること。ひとつは性欲の追及。３番は日本より極めて多く見られる。若い女や少女が被害者となる殺人は遺体が見つからずに迷宮入りすることが多い。日本ではバラバラして捨ててしまうので遺体が発見されるが、アルバザードの快楽殺人者の多くは「もったいない」と考え、隅々まで利用するため、死体がでない。そのため、行方不明のまま終わることが多い。 もちろん、アルバザード政府は食人を禁止している。 ＨＩＶウィルスの感染など、食人には血を媒介しての感染が多く、また、人道的な問題もある。

ɪɑɥəɟ ［動詞］ɥəl を犯す、犯す、陵辱する ［レベル］４ 古：ケートイアのアデュで数々の陵辱が行われたことから。ɟ は古アルカでよくみられた動詞を作る接尾辞 【用例】 uɪµzɔn ɪɑɥəɟɪʃ ɥəəɒɪ ɑeɒel. ヴァルゾンはユーマを騙して犯した。

ɪɑɥəɟɟɔə ［言語］親展、御直接。男性に ［レベル］４ ʃ1

ɪɑɥəncɪ 人毛を使ったカツラ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

ɪɑɥəbel ［料理］人肉料理 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ ［文化］ アデュ収容所で処刑された人間を料理したもの。その後一般に人肉料理の意味に。アルバザードはカニバリズムが歴史上何度か登場する。

ɪɑɥəµcɔ 人脂石鹸、人油石鹸 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ ［文化］ ミロク革命で処刑された人間の油から作った石鹸。

ɪɑɥəlcl ［化学］カドミウム ［レベル］５ 1Δ: 制

ɪɑɥəɪn ［音楽］フォーク、フォークソング ［レベル］５ nɑ: アデュ周辺で流行った ʃ1

ɪɑɥəeʃ ［動詞］ɥəl を虐殺する、虐殺する ［レベル］５ 1L:clɒəɟ:µcɑcɪ:ɪɑɥə/ɟeʃ（アデュ収容所のように殺す）ɑɥəɟ の部分が言いにくいので ɟ を落とした。

ɪɑl ［動詞］ɥəl（材料）を ɪ（完成物）に加工する、加工する ［レベル］３ 定 【用例】 ɪɑl elc ɪ lɪne 魚を缶詰に加工する

ɪɑlɪ ［名詞］加工場 ［レベル］４ µɑ;/ ʃʃ

ɪɑɪc ［政治］君主 ［レベル］４ zφ;ɪl/ɑɪcz ʃʃ

ɪɑɪclɪɑ ［政治］君主国 µɑ;/ ʃʃ

ɪɑcl ［人名］アディック ［レベル］４ 古：語源不詳だが、ɪ（否定）ɑc（夢）l（言う）で、「叶わぬ夢を呟く者」と覚えたい。 ［語法］ 人間。カコの時代に生きた青年。自分で描いた絵の少女に熱愛し、現実の女に一切靡かず、理想の少女のみを愛した。少女が架空であり、懐けないことを苦悩し、体と命を与えてほしいと願い、エルフレインの試練を経てヴァエラを開け、願いを叶えた。アティーリ版のピグマリオンといえる。

ɪɑcɟ ［法律］死刑、処刑、死罪 ［レベル］３ ʃɒ;hɪɪɑcɟ 1L:hɪɪɑcɟ ［文化］ アルバザードにおける極刑。 ・現代 アルバザードは死刑を廃止していない。極刑としての死刑は ls まで残り続けた。ul の頃は中世並みの見せしめ的な苦痛を伴う死刑が行われたが、旧革命でミロクが非人道的な処刑方法はよろしくないと言い、なるべく苦痛を伴わない注射による死刑に移行した。ɪl や ls でもこの処刑方法は変わっていない。 なお現代では、アルティアは絞首刑による死刑が残っており、アルダやルティアなどでは ɪl で死刑制度が既に廃止されている。 ・ランティスタンヴェル期 刑の執行は現北区の刑場で行われる。重罪人や若い女の死刑には多くが集まり、祭りになる。死刑の基準は低く、詐欺や窃盗でも死刑になることがある。技術が発展しているので、確実に犯人だと科学的に証明された事例などでは数日中に裁判が行われ、速やかに死刑が宣告され、通常その日のうちに死刑執行となる。 なお、王族（アルバ王）・僧侶（副王アルテナ）・学者（アルシェ）・医者は極刑が終身刑で、死刑にできない。 【用例】 lə ɑcµeʃɪn ɪɑcɟɪʃ ɥə. その犯罪者は死刑に処された。

ɪɑcɟʃ ［魔法］［アイテム］アイテム、魔法のアイテム、錬金術で得たもの、精錬物（液体の場合は溶液と訳す）、アディスト ［類義語］ɪlɑe、səɪ、ɪlɑcɟ ［レベル］３ ʃɒ;ɪl/ɑcɟʃ ʃ0: 古 ɪl/ɑcɟʃ（物を捧げる→物質を魔法に捧げてアイテムを精製することから） ［文化］ ナギ、ナギサ、カルマミレールなど、魔法のアイテムのこと。錬金術によって作られる。
　複数の物質を組み合わせて作る精錬 ɑcleʃ と、ひとつの物質に魔法をかけて性質を変化させてアディストを得る錬成 lɒcɥə がある。また、カルマミレールのように自然物そのものがアディストになることもあり、このようなアディストを本態性 leuɪl という。 精錬方法はいくつかある。 １：溶質 səɪl を溶媒 ɪlɑe の中に入れて溶液 ɪɑcɟʃ を得る。さらに活性剤 lɪləl を入れることもある。 ２：１で作った溶液を蒸発させ、魔晶 ɪlcɪ として得る。ナギサなどが例。（全過程を見れば精錬だが、ナギ→ナギサ間は錬成なので、錬金術の表では通常精錬でなく錬成に含める） ３：複数の溶質に活性剤を与え、反応させる。鉱物系に多い。 ４：複数の溶質と活性剤だけでは反応しない場合に、水を溶媒として加えて精錬する方法。植物系に多く、たいていは細胞を柔らかくするために煮込む。 ＜精錬物の改良＞ 精錬物はたいてい「１溶質＋１溶媒」ないし「２溶質以上」で作られる。これに付加物 hɪlɪl というものを最大２つ加えることで、精錬物を変化させることができる。 ＜精錬物の命名＞ まず、固体か液体か気体かに分ける。固体の場合、「石」と訳す。石は通常割って散剤にする。この散剤を「粉」と訳す。 粉をふりかけて使うアイテムの場合は「架」と訳す。飲用する場合は「紗」と訳す。紗は薄絹のことで、その触感からのメタファー。ペースト状にして塗布する場合は「膏」と訳す。膏はあぶら薬のことで、ペーストを作る際の材料。原則として「粉」は乾燥させておくこと。白い紙に包んでおくと変化しにくい。長期保存には下記 eµɑclcɪ の瓶に。 液体の場合、精錬物が変化しないように魔力を遮断しやすい深い蒼の瓶に入れて保存する。精錬物が非常に変化しやすい場合は完全に魔力を防ぐよう、銀水晶 eµɑclcɪ の瓶にて保存。銀水晶が空気中の魔力を吸収するため。 液体状のアイテムを「泉」と訳す。液を振り掛けて使う場合は「雫」と訳す。飲用する場合は「漿」と訳す。雫は「静かな雨」の意味があり、漿は飲み物の意味がある。 気体のアイテムは「気」と訳す。振り掛けて肌から吸収させる場合は「霧」と訳す。鼻から吸入して体内に取り込む場合は「風」と訳す。

ɪɑcɟɪnʃ ［法律］アディサント、死刑執行人 ［レベル］３ 1L:ɪɑcɟ/ɪuelɪnʃ（死刑の死神） ［文化］ µʃ ごろの刑罰庁の役人。→ ʃµelcznɔ 死刑専門の役人で、非常に腕が立つ。執行人にはそれぞれ得意分野があり、斬首専門もいれば、火あぶり専門もいる。多種多様な処刑法に精通しているほど、ランクが高くなる。中でも腕の立つものを４人集め、四天王すなわち死神四貴族の名で呼称する。死刑執行人のランクはフレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクの順。有名なフレメルテはナギサ＝ファギオット。 ɟɒ からの伝統で、死刑囚が土壇場で暴れるのをできるだけ防ぐよう、深い緑のマントを着ている。この色だと逆に斬首後などは血の赤が映えるため、観衆に対して強い見せしめの効果が出る。

ɪɑcɟɔz ［法律］死刑制度 ［レベル］４ µɑ;/ ʃʔ

ɪɑcɟɔl ［法律］死刑囚 ［レベル］３ ʃ1

ɪɑcn ［名詞］恥 ［形容詞］恥ずかしい、自分に合わない ［類義語］ʃlə ［反意語］leuɪn ［レベル］２ 1L:ɪl（強調）＋ ɑcɒ（不適切）。そのまま ɪɑcɒ にすると ɑcɒ に近いということで消されるのが目に見えたので音をずらした。 ［語法］ ɪɑcn は自分のキャラに合わないと思って恥じること。レインで言うと、ɪn と思わず言ってしまった場合に感じる。一方、ɪl lɪµʃe と言い忘れて食事した場合は ɪɑcn ではなく hɪczen が適切な語感。ʃlə は「自分のポリシーに沿わない」以外の「恥ずかしい」に相当する。セックスのとき裸を見られて恥ずかしいのは ʃlə。恋人と寝るのはポリシーに合わないわけではないがそれでも裸は恥ずかしいので、ʃlə に当たる。日本語ユーザーは訳すときに、まず ɪɑcn かどうか判断し、ɪɑcn でなければ ʃlə に振り分けるのが安全である。アルバザード人は ʃlə はあまり恐れないが、ɪɑcn は非常に恐れ、嫌がる。自分のあり方というのを強く持っているため、ɪɑcn はかなりプライドが傷つく。 【用例】 ɑcɟ, ɪn nɪʃ ɪɑcn ʃcnlɪ. 今日とても恥ずかしい思いをした。

ɪɑcnlɪz ［地学］［歴史］オルドビス紀 ul;/ ʃʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

ɪɑcɑ ［化学］中性、酸塩基 ［レベル］４ ʃʔ<ɪɟlɑclɑ:1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

ɪɑcɑɒɪɟ ［名詞］中性紙 ［レベル］５ ʃʔ ［文化］ ul ででき、それまでの酸性紙を駆逐した。劣化しにくいのが特徴。

ɪɑcµ ［単位］マイクロ ［レベル］５ ʃ1:ɑcɪhɪɑcµ

ɪɑcµɪµ ［工学］ナノマシン ［レベル］５ ʃ1:ɪɑcµ/ɪµ

ɪɑcl ［植物］もぐさ、モグサ、艾 ［レベル］４ µɑ;ɪl/ɑclcn ʃʃ

ɪɑclʃcɟc ［植物］［医療］艾炷、がいしゅ µɑ;/ ʃʃ

ɪɑcɪ ［名詞］アディア。アルシェ・ソーンの区別しない言い方。 ［名詞］ １４日。使徒週のこと。 ［レベル］２ 古 :ɪµɑcɪ「神の創りし幻」

ɪɑcɪlɪnʃ ［名詞］使徒週のプレゼント ［レベル］４ 1L: 制アルカではソルシャントと呼んでいた ［文化］ 何らかの記念日から１使徒週が経過する日に渡すプレゼント。恋人間に多く見られる風習。正式には身に着けている装飾品などを譲渡するが、単なるプレゼントとして与えることもある。lelʃlɪnʃ を兼ねることもある。

ɪɑcɪl ［被服］編み上げ靴、レースアップ、紐靴、ひも靴 ［レベル］４ 古：ɪɑcɪl ← ɪl/ɑcɪ/ləɪɟ。ɪl はペアを表わす。元はサンダルとのペアだった。サンダルは古で ɑcɪləɪɟ ［文化］ 魔力をあげると信じられており、µɑ ではリディアが好んだ。

ɪɑccɥə ［形容詞］男気があってカッコいい、かっこいい、良いやつ、義

侠心のある､粋な ［名詞］義侠心 ［類義語］ɉelzncc ſ ［反意語］ʅeſeſ ［レベル］3 Ɉ0:lıɑcı/ɥə（夢に見られたような）［語法］［文化］ 男性にしか使わない。特にアルデンに対して使う。アルデンにとって一番の褒め言葉。正義感があり、心身ともに強く、明るく元気で邪気がなく、情に篤く、たとえ敵であろうと情けをかけるような人間を形容する言葉。アルバザードで最もカッコいいタイプの男性像とみなされる。

ıɑɔ ［地学］鉱物、ミネラル ［レベル］3 ᴅelſcı Δ:φclcəɉ;ɑɔl.ʅ 1ſ: 制 l:ɑɔl ［語法］ 元素鉱物など、鉱物の種類を指すときは～ ıɑɔ とする。ただし「磁鉄鉱」や「蛍石」など、鉱物の具体的な種類は ɥen と ɑɔl で示し、ıɑɔ を使わない。辞書の見出し語で～ ɑɔl とあっても、それと分かる場合は ɑɔl を取るし、逆に分からない場合は ɑɔl を付け加える。 ʅıφ ɔn ıɑɔ ミネラル豊富な

ıɑɔɑɔl ［地学］鉱石 ［レベル］5 1L

ıɑɔıſc 水の硬度 1L

ıɑɔeɥ ［料理］ミネラルウォーター、硬水。区別なし ［レベル］4 1L

ıɑenſɔ ［地名］アデント ［組み数字］5/6 ［レベル］3 ɑu;e 古 ［文化］ アトラスにある大陸の名。地球ではオーストラリア大陸に当たる。面積：ᛉɈʔ0ᑫᑫL.LLᛉ0Δᕲ ʅᴅ ɹ

ıɑenſɔɉczı ［地学］アデントプレート Ɉʔ

ıɑenſe ［ユマナ］オーストラリア大陸 ［レベル］3 制

ıɑeᴅ ［名詞］かけら、欠片、カケラ、チップ、破片、こけら（欠片同様に扱われる）［レベル］2 1L:clᴅəɉ:ɥcɑcı:ıɑel/ᴅıcn（アデルの体）アデルがテームスのこけらであることから 【用例】 ın ɥeɑıſ ez uɔl nɔl ıɑeᴅ e ɑcıɑ l'ıſ ſeıſ. バラバラに散ったガラスの破片を集めて部屋を掃除した。

ıɑeᴅcnı ［魔物］アデミナ（花憑）：第九十三天：害の幻天 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı/ɉeɥen/ᴅel:ıɑel/ᴅccnı（モンスターフラワー）［文化］ 人食い花。ラフレシアのように巨大で気持ちが悪い花。花が口になっていて、人を飲み込む。根が脚になり、動く。

ıɑel ［悪魔］アデル、魔物、魔族、悪魔、モンスター ［生物］こけら属。正しくは漢字表記だが、こけらの漢字がＰＤＩＣで表示できないため。 ［形容詞］魔族～。敬称。 ［類義語］uelɑcɥ, uelıl ［レベル］2 zφ:ɉ ıɥſ;e 古 ［語法］ → ıdſ, eɉſ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 ［文化］ ＜概要＞ 『幻想話集アティーリ』に登場するテームスの欠片から生まれた化け物。１００種あり、さらに各種に亜魔族 (ɑelɑcı) という下位概念がある。 ɥəəᴅı ᕲᕲ0 封印の衝撃により意識を失っていたテームスの意識が戻る。封印の檻から出ようと暴れ、蠢動を開始。この衝撃でメルティアが仮止めしていて不安定だった空間のテージュにふたたび穴が空き、同時にテームスが ᴅıſccı をして新たな命を生む。このアテンはテームスの体からこけらのようにこそげ落ち、テージュを通ってアトラスへ降り立つ。茶色が地色で黒と白のまだらが混じった鱗のような形で、アトラスに降り立つと､アトラスの環境に合わせて100種の身体性を形成した。あるものは人型になり、あるものは動物型になった。これがアデルである。このとき生まれたアデルは知能の低いものが主体で、動物的であった。 神はアデルがアルフィでなくアトラスに降りたため、アトラスの恐慌は対岸の火事であった。それよりもテームスの復活のほうが脅威であり、もし復活すれば今度は確実にアルフィへ侵攻してくる。そこで神々はテームスの封印を強化し、テージュも強く塞いだ。これによりアデルの産出は止まったものの、アデル自体はアトラスに残存した。 このとき流入したアデルはミュールを中心に分布した。ミュールは uɉ で島の集合になって以来、広大な農地もなく山も崩れやすい。また、地理的に台風も多い。そのため住み着く民族がほとんどいない状態で、容易に魔族に支配された。 ＜名前＞ アデルの名前は地方や国や時代ごとにさまざまである。 ɥɑ でセレン、リディア、メルがリュウの調べた魔物の情報を元に全百天の名前を統一した。既存のもので知名度の高い名前を採用したり、古い名前をアルカに訳したり、新たに作ったりした。 ＜魔天表とアデルの色＞ 魔天表はカコの時代にアルシアが作った。魔族を１１種の特性と９種の階級に分けた。 ɥɑ でファミイらが魔天表に色をつけた。それまでは色はなく、憑のように種族名を書いていた。 ファミイらは３度魔天表の色を作成している。３回目で lcɉſcnı を用いて落ち着かせた。 システィナには１２色の色相環があり、ファミイらはこれを用いてアデルを分類した。 例えば獣が来るのは意味的に考えてポエンの位置がふさわしく、竜は当然ティクノの位置に来るのがふさわしい。こうして意味において決めていくと、以下のように定まる。 獣はポエン、竜はティクノ、鳥はヴァルゾン、憑はセイネルス、妖はティーテル。コノーテはイメージが最も近かったことから精。 カルザスは狡猾で最も人間的なアルミヴァ。一方、魔物の中で最も多い人間的なものは鬼。そこでカルザスは鬼。 すると残り５つであるが、これをどのように意味以外で振り分けるか。 まず色で魚と虫を振り分けた。魚を青にして、虫は毒々しい赤紫にした。 最後に残ったクレーヴェルとフェンゼルとネブラであるが、これには隣接性を用いた。例えばフェンゼルには爬が来る。というのも竜の隣だからである。トカゲのような生き物と翼の生えた生き物の間に竜が来るのは分かりやすい。
同じくクレーヴェルには手足のない鬼ということで魁が来る。精は生き物だが生命力に乏しく霊魂のようなイメージがあるため、精の隣に霊を置く。 こうして１２種のアデルが、アルミヴァの色相環に収められた。 この色相環は魔族の特徴ごとにも分類されている。例えば上側にあるネブラからティーテルまでを見てみると、生物性の弱いものが来ている。これらは互いに似た性質を持つことがあるため、円環の中でも近い位置に存在する。同様に左側を見てみると、爬と竜と鳥が集まっている。竜は翼があるので鳥に近く、同時にトカゲのようでもあるため爬にも近い。非常にうまく並んでいる。
また精霊と鬼はどちらも人型の魔物だが、最も人間的なものが鬼で、最もそれと遠いものが精に当たる。従って、これらが対角線上にあるのは納得がいく。 アルミヴァ：色：種 セイネルス：黄：憑 ティーテル：橙：妖 ポエン：赤：獣 ネルメス：赤紫：虫 クレーヴェル：紫：魁 カルザス：青紫：鬼 ヴァルファント：青：魚 ヴァルゾン：淡い青：鳥 ティクノ：水色：竜 フェンゼル：青緑：爬
ネブラ：緑：霊 コノーテ：黄緑：精 ＜覚え方＞ まず衛天の竜の列を覚える。属性＋ ɑɥeſcɉ か ſɔɔl なので楽。ſɔɔl になるのは闇、土、光というソームの中央と外側。加えて利害のみ。ほかは自動で ɑɥeſcɉ。ɑıſcʅ のみ ʅ で終わる。 否天は lc ＋ソーム系。lcınſ, lclᴅ だけ覚える。 風天と氷天は属性と絡めて２個ずつ覚える。強くて有名なので覚えやすい。 問題は雑魚。どうでもいい存在なので覚えづらい。そこで炎～巨までニーモニックで覚える。ニーモニックなしでも巨天は大きいのが来るので覚えやすいし、炎は一番弱いなので逆に覚えやすい。 ニーモニックは地球の元素の覚え方と同じく、あえて若干下品にしてある。インパクトが強烈なほうが覚えやすいからである。 ・ニーモニック 闇：闇の中から蝙蝠とカラスの不気味な声が聞こえる。ゾンビが出てきて菌を撒き散らす。
水：少女のところに醜い蛙と川童が求婚に来る。少女が断って逃げると池に落ち、ピラニアに腕を喰われ、頭を上げたところで鮫に食われる。 風：蛾が花畑を飛んでいるとカマキリに喰われ、その横でシーフェイスがメスのヴェメルトとよろしくやっているところを、ドルケルンが来て愚息を石にして、男優はシボンヌしても愚息は萎んぬしない不思議。 土：ここは爬虫類が３匹、鬼が２匹並んでいること自体がニーモニックになっている。巨天が ʅıclı なのは名前で行ける。最初が蜥蜴で次がワニガメと覚えればいい。uelucɑ はなぜかガングロで覚えている。 火：ボムがレジェスティになって爆発して溶けてファイエルになって鬼火になってそれが犬に宿る。
雷:豚と牛と魚と鳥は蛇がおいしくいただきました。(むろんスタッフ的な意味で) 光：シルフィの靄に顔を突っ込んだらサソリに刺されて、救急箱救急箱！と思ったらツェッテルで、人に助けを求めたらのっぺらぼうで、逃げ回ったら空からジェイルに追っかけられたという恐怖体験。 聖：マルトセシュに己のガーリシュクを突っ込もうとした猿が石造で巨人に激しいツッコミを喰らってアボーンしたというある意味性属性。 邪：人食い樹を人食い扉で防いだ骸骨の目が落ちて貝に入って真珠ゲットだＺＥ！ 利：妖精がさびしいよとランプにお願いしたらおばあちゃんがやってきてモモンをくれて、おばあちゃんは扉の向こうに去っていきましたとサ。 害：アイライとダイザイライで挟むとまず覚える。ムカデが花の上を歩いてたらクモに食われ、青虫もいたので一挙両得。 風天は最強のひとつ下なのでインパクトに欠け、覚えにくい。そこで縦のニーモニックを作った。 "TıTı Ⱥıın Fəın Xıᴅ Tın Ψɥec Ψccʅ, ΨƎᛏᛚ"（あら、貴方のお父さんはみすぼらしい剣を振りたがっていーーう、うぼらぁ！） どうしてこうなったｗ ________ Ɉ1 年夏にセレンはこのニーモニックを作りながら電車内の１時間強ですべて暗記したため、効果は実証済み。その後リディアとメルにやらせたところ、ニーモニックを伝授済みだったこともあってか、３０分で暗記した。３人ともテストして全問確認済み。 【成句】 ɥən ɥı ſ'ıɑel 神出鬼没 dıl ſ'ıɑel 魑魅魍魎。魔天表から。 ıɑel ɉclſ 跳梁跋扈 ɥeɑſ ſ'ıɑel 百鬼夜行

ıɑelɑel ［魔法］魔物学 ［レベル］5 Ɉ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ıɑelcʅ ［アトラスの国家］アデリック ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥɑclcʅ ［文化］ 魔族アルディリックの大量繁殖により多くの動物が死滅し、抗体を持った特殊な動物だけが生き延びた島。

ıɑelelen ［天文］［魔法］［生物］魔天表 ［レベル］5 Ɉ1 ［文化］ ıɑel

ıɑəl ［動詞］ɥəl を迫害する、迫害する、弾圧する ［レベル］4 1L:clᴅəɉ: ɥcɑcı:ıɑɥə/l（古アルカの動詞語尾）【用例】 ıɥſcɉſ ɑc ıɑəlıſ ɥə ɑɔl lı nſcɉ ſ'ınueɥ. ランティス・タンヴェルでは多くのアルティス教徒が迫害された。

ıφ ［感動詞］あっ、しまった、うげっ、あちゃー、あらら、あら残念 ［レベル］1 古 ［語法］ しまったと思うとき、罰の悪いときなどに使う。相手に向けて使うときは、今のは良くないということを表わすときに使う。丁寧な場面には不向き。

ıφɥe ［医療］痰 ［レベル］3 古：痰を吐きだすときの「かーっ」という音のオノマトペ。アルシェは「かーっ」ではなく「ぁぐれっ」というように聞いていたわけである。 【用例】 ıφɥe eᴅ ɉıᴅd. 痰が絡まる。 dəd ıφɥe 痰を吐き出す

ıφleı ［アイテム］レイピア ［アクセント］ıφleᛏ ɉᴅ;ıl/φleı「対グレア」 Ɉᕲ ［文化］ グレアに対抗する手段として ʅſ で作られた細身の剣。突き刺して使う。

ıφı ［動詞］ɥəl にうがいさせる、うがいする、嗽する ［普通動名詞］うがい、嗽 ［レベル］2 古：オノマトペ 【用例】 ɥe ıφı cᴅ ʅɔlſcʅ. 帰ったらうがいをしなさい。 ɥe ıφı ɔn lce e φıφ ʅɔnſ cn ɉcıs. 天井を向いて喉の奥をうがいしなさい。

ıφılc ［植物］トチュウ、杜仲 ［レベル］5 ɉᴅ<ılſ Ɉʔ

ıφılceſeʅ ［料理］杜仲茶 ［レベル］5 ɉᴅ;/ Ɉʔ

ıφııſ ［感動詞］うぎゃ、うぎゃあ、ぎゃあ ［レベル］2 1L: リディアの書

ıφc ［植物］つる、蔓 ［レベル］3 1ʔ ←古 l:ıφeᴅcz（螺旋の茎）【用例】 ıφc eɉ ʅɔɔl ı ncıl. つるが柱に巻いてある。

ıφcı ［植物］キナの木 ［レベル］6 古

ıφcın ［医療］キニーネ ［レベル］6 1ſ: 制

ıφcıneɥ ［名詞］トニックウォーター ［レベル］6 1L

ıφɔ ［化学］［料理］澱粉、でんぷん、デンプン、スターチ ［レベル］4 1ʔ ←古 :sıφe から

ıφe ［名詞］螺旋、渦巻き、渦巻、スパイラル、渦 ［形容詞］グルグルな、くるくる、クルクル、ぐるぐる ［レベル］2 ɑɥɑ 古 :ıφe（螺旋） φeſı:ıφe 【用例】 ıφed ıllı ſcl hɔı ıφe. カタツムリは殻がぐるぐる巻きだ。

ıφeſeᴅ ［医療］メニエール病。ſeᴅıφe と区別すること ［レベル］6 1L

ɪφeɹ ［化学］［料理］炭水化物 ［レベル］4 1ʔ ←古 :sɪφe（糊） ［文化］ 多くのアルバザード人はデンプンの同義語だと勘違いしている。

ɪφen ［電算］入れ子、入れ子構造 ［レベル］5 1L:ɪφe

ɪφenuɔl ［言語］複文 ［レベル］5 1L

ɪφenlenʃ ［娯楽］マトリョシカ、マトリョーシカ ［レベル］5 μɑ;/「入れ子人形」 Jʔ

ɪφenɪlɔl ［娯楽］入れ子細工、マトリョーシカ、マトリョシカ ［レベル］5 μɑ;/ Jʔ

ɪφed ［動物］カタツムリ、螺旋虫。厳密には虫ではない。 ［名詞］珠に瑕、たまにきず：綺麗に咲いた紫陽花の風景を汚す汚い虫であることから、良いものが持つ残念な欠点を指す。 ［レベル］2 定 :ɪφed（カタツムリ）← ɪφelәәdɔ「渦巻きの虫」が原義 【成句】 ɪφed lien ɹeᴅɪcᴅ 玉に瑕 【用例】 lɪ eʃ linʃ ʃil ʃcl ɪφed ɑel lecʃ. 彼女は綺麗なんだけど、馬鹿なのが玉にキズなんだよな。

ɪφedφɪɔ ［音楽］ホルン ［レベル］5 J1

ɪφeμ ［植物］アラセイトウ、ストック ［レベル］5 古：大根から来ている

ɪφel ［動詞］ɥәl を ɪ に舞い上げる、舞い上げる、舞い上がる、飛び上るように立つ、浮かれる、うかれる ［類義語］ᴅclees ［レベル］3 古：螺旋を描いて宙に行く ［語法］ 移動動詞でないので ɥәl に場所は来ない。 【用例】 beɹɪ ɪʃ ɪφel ᴅcl ʃeeze. 風で埃が舞い上がった。

ɪφecʃ ［地名］アゲイト ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪφilʃ（門へ） :::ɥәnɑcnμɪc,lc ［文化］ テージュ海に浮かぶアルバザードの島。

ɪφeenφ ［経済］複利 ［レベル］5 JJ: 螺旋を描くように徐々に一周ごとに前より多く増えていくことから

ɪd ［名詞］おまけ、付属、トッピング、アペンディクス、付け足し→ φil en ［料理］アイスやピザなどのトッピング、本来入れるべき調味料に加える隠し味、添加物 ［名詞］追伸 ［動詞］ɥәl を ɪ に付け加える、付け加える、加える ［形容詞］付け足しの ［副詞］ついでに、ついで ［文頭純詞］ちなみに、因みに、なお、尚 ［類義語］ɔd、φilen ［レベル］2 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɹɔμn:ɪdɑɪɹ（余分なもの）【用例】 lɔc ɪd おまけの味

ɪdʃ ［言語］呼称、敬称、卑称。敬称と卑称の総称。 ［レベル］3 1ʔ: 制：敬称 :ɪdeɹʃ（補足名） ［語法］ → eɹʃ ・概要 ɹɔlɹɪdʃ と benɹɪdʃ に分かれる。 通常形容詞として使う。前置するもの、後置するもの、前後で敬度等が変わるものがある。 ɑɥәɹɹɔә のように名詞用法を持つものもある。 「先生」の呼称は lɪnlɪ → lɪnlɪ ・主な呼称 ɑɥәɹɹɔә, ɹɪn, ɹɔә, lccz, lccs, ɑɪcn, μɪә ɑɪcz, μɹcclɪ, lɪnlɪ eμʃ, ɹɪɪμ, ɑeeᴅ, ɪɑel, ɹeleɹʃ ・呼称の種類 呼称の種類は次のようなものがある。 種族：eμʃ, ɹɪɪμ, ᴅcμɔl など 役職：lɪnlɪ, ɑɪcz, μɹcclɪ, ɑelɪn, ɹilɪn など 日本語では学生に対して「～君」と呼び、「～学生」と呼ぶことはない。その一方、「～先生」と呼ぶことはある。アルカは韓国語と同じで ɑelɪn nene と呼ぶことができる。

ɪdl ［名詞］グラフ、表 ［レベル］2 1ɱ: 制 :ɹɪɑ:ɪldɪl(数の図)【用例】 μɪnɹ lɔn ɪdl 図で説明する lecɹ ɪdl グラフを描く

ɪdlμɪnɹ ［名詞］チャートによる図解、図説 ［レベル］3 J0

ɪdlɔc ［料理］隠し味 ［レベル］3 J0

ɪdn ［名詞］杭、ペグ ［動詞］ɥәl に ɪ（地面など）まで杭を打つ、打つ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪdcncɪl 【用例】 ɪɑcɹinʃ ɪdnɪʃ ɪɑcɹɔl ɪl eμcᴅ. アディサントが死刑囚の心臓に杭を打った。

ɪdncɪ ［美容］エクステンション、エクステ ［レベル］4 J1

ɪdueʃ ［言語］補語 ［レベル］5 1L ［文化］ 古アルカには存在した。

ɪdɑcɪ ［電算］拡張現実、ＡＲ、オーギュメンテッドリアリティ ［反意語］ɑcɪɑcɪ ［レベル］3 J1 ［語法］ ɑcɪɑcɪ

ɪddclc ［被服］つけぼくろ、付け黒子、つけほくろ、ほくろ、ホクロ、黒子 μɑ;/ Jɱ ［文化］ ɹᴅ でカレンシアができ、貴族階級に凪人が入ってくると、土着の白人であるトール人貴族は自分が生粋のトール人であることを強調するため、黄色人種である凪人とは違うということを誇示するために、肌の白さを引き立たせようと付け黒子をするようになった。μɑ で貴族解体とともに廃れた。

ɪddel ［名詞］ふち、へり、縁、淵、きわ、際、はじ、端、は、リム。コップのふちなど ［軍事］リム。銃弾のリム。 ［類義語］lɔɔz ［レベル］2 ɑu;<>ɪd 古 :ɪd と関連性あり？ 【成句】 ɹɪcn eμ lien ɪddel e dɪd コップのふちの水を確認する：見切りをつける。もうこれ以上は無理だと見切ること。

ɪddelɑɪbe ［軍事］起爆薬。リムファイア式の。 μɑ;/ Jɱ ［文化］ φel

ɪddelφɪlcɹ ［軍事］リムファイア式、リムファイア μɑ;/ Jɱ ［文化］ φel

ɪddellɔɔb ［被服］ブリムドハット μɑ;/ Jɱ ［文化］ ɹᴅ でできた。サギタマギカの貴族が身につけたのが始まり。

ɪdμecn ［数学］補助線 ［レベル］4 1L 【用例】 lecɹ ɪdμecn 補助線を引く

ɪdl ［交通］船、船舶 ［レベル］2 μɑ;ɪdɪlɪn.lcl 1ʔ: 制：古 :ɪdɪlɪn（海の乗り物） ɪdɪlɪn:ɪdɪlɪn:lә μelcɪ（→ dɪn） ［文化］ sɪᴅd 【用例】 lɔɪ ɪl ɪdl 船に乗る、乗船する

ɪdluɪlɑ ［娯楽］競艇 ［レベル］4 J1 ［文化］ lɪʃɔɹ

ɪdlheʃ ［名詞］船尾、とも、艫 μɑ;/ Jɱ

ɪdlheʃcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］とも座 Jɱ ［文化］ cɑɪ

ɪdlɥeɹ ［交通］航路 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

ɪdlɔ ［名詞］竜骨 zφ;ɪdlɪn/hɔ Jɱ

ɪdlɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］りゅうこつ座 Jɱ ［文化］ cɑɪ

ɪdle ［名詞］帆 ［生物］横隔膜 ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɪdlɪbe 【用例】 ɑɪl ɪdle 帆を張る

ɪdleʃ ［電算］アプリケーション、アプリ ［レベル］3 μɑ;ɪd/ʃe「添え物」 Jʔ

ɪdleɹ ［植物］杏、アプリコット、アンズ、あんず ［レベル］2 ɑu; ↓ lɪ lʃɪ:ɑәәμφilʃ（月の実）または ɪdleɹ。ɪdleɹ が一般的。 ［文化］ 果実酒の材料としてよく用いられ、直接食べることは少ない。

ɪdlescɔμ ［生物］隔兪、隔愈 ［レベル］6 J1

ɪdleɪucl ［医療］横隔膜ヘルニア ［レベル］5 1L:ɹeμen

ɪdlecɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ほ座 Jɱ ［文化］ cɑɪ

ɪdɪ ［名詞］記号、印、符号、家紋、紋章、マーク、ロゴ、象徴、シンボル、合図（ジェスチャーとしての記号）、手振り、キュー、イコン、コード、符丁、符号、浮標 ［言語］シーニュ ［類義語］ɑɔlʃ、cɹʃɔl ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪdc ［語法］ ɪdɪ はマークや記号のこと。ɑɔlʃ は目印のこと。

ɪdɪʃ ［名詞］合図、号令 ［レベル］2 1ʕ: 制 :ɪdɪ 【用例】 ɑcʃ ɪdɪʃ 合図を出す

ɪdɪl ［名詞］マーカーペン ［レベル］4 1ɱ: 制 :ɪdɪ/lɪz

ɪdɪn ［交通］舗装道路、舗装された場所、ペーブメント、タールマック ［レベル］4 1ʕ:ɹeμen:lllel:ɪudɔn（強い道）から

ɪdɪn(J) ［言語］シニフィアン ［レベル］6 1L

ɪdɪᴅɪɹ ［名詞］マークシート ［レベル］4 1ɱ: 制：記号の紙 【用例】 ɪlʃ ɪl ɪd ɪᴅɪɹ マークシートを埋める（塗りつぶす）

ɪdɪμ ［電算］アクセラレータ、アクセラレーター、アドオン、機能拡張、拡張機能 ［レベル］6 ɪl;/ Jɱ ［語法］ コンピュータなどの特定の機能や処理能力を向上させるハードウェアやソフトウェア。新たな機能を追加することもあるが、すでにある機能の性能向上をはかる点に着目した語。

ɪdɪz ［名詞］はん、印鑑、はんこ、判子、スタンプ ［動詞］ɥәl に判を押す、押す ［レベル］3 1ʕ: 制 :ɪdɪ/zɔn ［文化］ アルバザードはサイン文化なので判子は持っていない。 【用例】 ɑɥәɹɹɔә hɪnʃɔʃɔ ɑel ɪuelinʃ e dɪμᴅ lɪlᴅɪ ɪdɪz uceμ ʃ'ɪɑcɹ 日本の死神Ｈ氏はやたらと死刑執行の判を押すらしい。

ɪdɪɪdcɪ ［言語］指示 ［レベル］6 J0: 記号を示す

ɪdɪɔl ［言語］シニフィエ ［レベル］6 1L

ɪdcɹ ［動詞］ɥәl を ɪ まで拡張する、拡張する ［類義語］zɔl ［レベル］3 J1:ɪd

ɪdcl ［数学］指数 ［レベル］4 1L:ɪdcɪ/ɪll

ɪdcɪ ［動詞］ɥәl を ɪ に示す、示す、象徴する、意味する、意図する、指示する、指定する、導く ［数学］導く ［言語］人称 ［レベル］2 ɑ;e 赤：意味 【用例】 cᴅelhɪμɪ ɪdcɪ dcʃᴅleun. 黄疸は肝臓病を意味する。

ɪdcɪɹlcʃ ［名詞］指定席 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ 【用例】 ʃɪә ɪdcɪɹlcʃ 指定席を取る

ɪdcɪn ［言語］示すもの、～を示す形態素 ［レベル］5 J0

ɪdcɪφɪμʃ ［経済］指値 ［レベル］6 JJ

ɪdcɪɪll ［電算］表示数、表示件数 ［レベル］3 J0

ɪdcɪcɹʃc ［言語］指示代詞、指示詞、指示代名詞 ［レベル］5 1L:lcɔn ［語法］ ʃә lec, ɥәɪ μenɹ の ʃә や ɥәɪ のこと。 指示詞が前置されるようになったのは制でなく新生。名詞の後に形容詞が連続した場合、指示詞が後置だと lec led ʃcnlɪ ʃә となり、lec と指示詞の距離が離れる。一般に指示詞は名詞と密接であり、動詞と目的語が引き合うように、相互間の引力が強い。だからといって lec ʃә led ʃcnlɪ とすると論理的におかしい。ʃә は修飾関係でいえば lec led ʃcnlɪ を修飾するため、論理的には一番端にきて lec led ʃcnlɪ ʃә になるべきである。しかしそれだと lec との距離が遠くなり、堂々巡りである。そこで指示詞を前置するとこの問題を解決できるようになる。通時的に見れば ʃә は ʃәәl などの兼ね合いで前置されるようになったが、共時的に見るとこのような効果を狙って前置されている。

ɪdce ［名詞］メーター、ゲージ ［レベル］3 J0:ɪdcɪ

ɪdɔʃ ［格詞］中へ ［レベル］2 1L 【用例】 lɪʃ φel ɪdɔʃ lɔu 箱の中にボールを入れる ɹɪcn ocl ɹeeμ e ucl, ɪlʃcnɪ lɪʃɔμ ɪdɔʃ ɑɪμɪ. 男が静かに頷くと、少年は暖炉の中に入っていった。

ɪdɔʃen ［接続詞］ɪdɔʃ ［レベル］3 J1

ɪdɔɹ ［被服］むなぐら、胸ぐら、胸倉 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcɪ ɪlʃe:ɪl/dɔɹe ［語法］ 襟の逆側。襟は首の裏だが、胸倉は日本人が喧嘩のときなどに掴む首の前側の部分のこと。アルバザード人はケンカの際、胸倉は掴まない。→ ʃɔu 胸ぐらをつかむのは引っ張ったり関節や投げに持っていこうとするとき。 【用例】 bcl ɪdɔɹ 胸倉をつかむ：関節技を決めるときにしかしない。

ɪdɔdɔ ［擬音］ぷるるるる、プルルル。ブザーの音、電話の呼出音など。 ［レベル］2 1L: リディアの書

ɪdɔdɔ(J) ［音楽］鼓、つづみ ɪlʃ; 擬音 ［レベル］3 J1

ɪde ［名詞］旗、フラッグ、ペナント、バナー ［運動］ゴルフのバナー ［類義語］ɑlcɔμ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪdɪɪbe(記号の布)から ::lә ɑlcɔμ（角形は男性）

ɪdel ［名詞］舵、ハンドル、方向舵、ティラー ［レベル］3 J0:ɪdl:1ʔ: 制 【用例】 ɹcleʃ ɪdel 舵を取る ɔu ɪdel 舵を切る

ɪden ［感動詞］［形容詞］あきれた、バカバカしい、馬鹿馬鹿しい、ばかばかしい、馬鹿げた、笑止千万な ［名詞］呆れ ［副詞］呆れて ［レベル］2 古：後悔のエクスプローダーの女性形 den から。自分に対する後悔から事態に対する落胆へと意味が変わっていった。後悔の意味では男子は de といったが、事態に対する落胆という新しい意味においては男子も den といった。 【用例】 ɪn nɪ ɪden ɪ ʃc ɹɔʃ φɪɪʃɔ. 君がそんなこ

とをしたなんて呆れるよ。
ıdel ［名詞］船荷 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :ıdlled 【用例】 ʅɔı{lıʃ} ıdel 船荷を積む
ıb ［接尾辞］材料を意味する ［レベル］２ 1ʔ: 制←古 :φııbe（材料）
ıbɥıɒ ［言語］竜字、アブラム ［レベル］４ J1:ıɥbı/ɑɔɥɒı ［文化］ hıɾ、lcɒ
ıbl ［名詞］包帯 ［動詞］ɥəl に包帯を巻く、巻く ［レベル］３ 古 :φııbe（布）【用例】 ɒııl ıblıʃ ləoı nɔın le ʃcl ucl. 母さんが怪我した足に包帯を巻いてくれた。
ıbınʃcı ［企業］アバンティア J1:ıbınʃcɟ ［文化］ 三菱商事に相当する企業。
ıbın ɟın ［娯楽］あばんさん J1:ıbın は ıʃ ［文化］『サザエさん』に相当するアニメ。
ıbıɔφ ［生物］みぞおち、鳩尾、心窩部、心窩、心下 ［レベル］４ J1:ı/bıɔφ（殴るところ）ここを打つと敵は悶絶する
ıbcl ［宗教］大司教、アーチビショップ zφ;「車輪のハブ」 Jʃ
ıbcɟ ［被服］鳥打ち帽、鳥打帽 ɥʃ;<,ɟıφcʃıɒıφcʃı Jʃ
ıbcɔn ［音楽］クラベス J1: マレット諸語から
ıbcɔnʃ ［音楽］サルサ ［レベル］６ J1:ıbcɔn
ıbcɔl ［数学］６０面体 ［化学］フラーレン ［レベル］６ 古 : 語源不祥
ıbe ［被服］布、布巾 ［レベル］２ 1ʔ ←古 :ıɟıbe（布）、φııbe（布）
ıbeʅ ［政治］奴隷地区、貧民街、部落 ［レベル］５ 1L:ı/beeʅ（トイレ横）［文化］ 奴隷や貧民が集まっている地区。中央アルナでは奴隷商の居場所が事実上のアベックになっている。通常、南区インプレンの周りに多い。
ıbeɟ ［被服］キュロット ɥʃ;ɥɔlɔ の北方方言が ıleʅ したもの。 Jʃ
ıben ［名詞］不良、野盗、クズ、チーマー、暴走族 ［レベル］３ 古 :ɥcɑcı:ıben（不良）← ılben(ıl/ben) ← benben
ıbenʃcɟ ［人名］アベンティス。ミナリスなどの姓。 J1
ıbehɔnɟ ［アイテム］クロスアーマー ɥɑ;/ Jʃ ［文化］ 神代で作られた。布の鎧。
ıbel ［魔法］アベル気質 ［レベル］５ 1L: 制では bebel ［文化］ アルヴィナにおいてユノ・ヴィル・ノア・アルマの総量が少ない人間。無能で凡庸とされる。
ıbelcɟ ［人名］アベリス ［レベル］６ J0: 小さな哲学者 ［文化］ (ɥəəɒı ʃʔʃ) アルテ教会を建て直した人物。時魔導師で、非常に長寿。
ıhɥıh ［感動詞］あひゃひゃひゃひゃ、アヒャー、ｱﾋｬｯ ［レベル］３ 1L: リディアの書
ı hı ［感動詞］あぁ、ああ、なるほど、あぁなるほど、あぁやぁ、あぁはぁ！ ［レベル］１ JJ
ıhıh ［感動詞］あはは ［レベル］２ 古 : オノマトペ
ıhıl ［格詞］〜の上に ［レベル］２ 1L 【用例】 eu ʃə ıhıl elen. これを机の上に乗せて。
ıhılı ［芸術］螺鈿、らでん ［アクセント］ıhılϯ ɟɒ;ılʃ<ıhɔlc,ʅ（アプラウト） Jʃ
ıhılen ［接続詞］ıhıl ［レベル］３ J1
ıhɔ ［地学］石膏 ［レベル］４ 1ʔ ←古 :dılhɔ（白くて固いもの）
ıhɔ,ılʃ hɔʅ ı（ɑu の音象徴で海）/hɔ（固い）
ıhɔlc ［芸術］伝統工芸 ［アクセント］ıhɔl€ ［レベル］６ ɥɑ;<ılʃ<ıhɔlə,ılʃ Jʃ
ıhɔlə,ılʃ ɑɔʅ。伝統工芸に使う。 ıhɔ
ı ɥı ［感動詞］うん、まぁね、あそうなの？、あやー、あそうかー ［レベル］１ 古
ıɥıʅı ［言語］［文字］標準幼字書体、アヤカ書体、アヤカ ［レベル］５ JJ:ıɥı ʅı,ɑu（朝顔） ［文化］ ɥɑ でコンピュータが開発される過程でリュウがいくつかフォントを作成していたが、粗雑だったため、JJ にセレンが主幹となって綺麗に作り直した物。現在でも幼字の公的地位を築いている。 現実には JJ にネットユーザーの尽力によって作成された。 サンセリフで、線幅は一定である。幼字本来の形を示す際に用いる。学習者に幼字を紹介する際には必ずこれを使う。 通常、本文中では ɥəəʅɔ を用いる。というのも、ふつう本文は ılblınʃ で書かれるためである。
ıɥıʅı,ɑu ɒɔdı ıl（否定）/ɥı（痛い）/φı（腹）「腹痛を治す」 下剤として用いられたことから。
ıɥə ［医療］麻酔、麻酔薬、麻酔剤 ［魔法］アユ。利の中位白魔法。麻酔をかけ、苦痛を感じなくさせる。 ［レベル］３ 定 : 痛くない
ıɥə,ılʃ ɥıɥə ɥıɥə.l
ıɥəʅ ［医療］ささくれ、ササクレ、さかむけ ［レベル］３ J0:ıl/ɥəʅı 【用例】 nɔz ʃcl ıɥəʅ. 爪がささくれる。 ın ʃclcʅ ıɥəʅ. ささくれができた。 ɥəʅı ıɥəʅ ささくれを剥く : 指の皮とささくれのメトニミー。 ın ʃclıʃ eɥcl ɒın ɥəʅıʅ ıɥəʅ. ささくれを剥いたら血が出た。
ıɥəɒc,ılʃ ［副詞］ıɟʅ ［京極］即 : 弓 / 時→ uın,ılʃ ıl/ɥəɒc「時もなく」
ıɥəı ［言語］形容詞 ［レベル］４ J0:ıɟıɥəın
ıɥəıcɟʃc ［言語］代形容詞 ［レベル］６ ɥɑ;/ Jʃ
ıɾʃcɑıbeɥʃcʅe ［地学］東ファベル海流 Jʔ
ıɾɟ ［電算］電子インク、Ｅ－Ｉｎｋ ［レベル］６ 1Δ: 制 :ıɥʃhıɾɟ（魔法の文字）から。液晶ディスプレイに代わって今後アンセ的に広がっていくと見込み、語形を詰めた
ıɾuı ［悪魔］アルヴァ。ヴィルテにアルマを加えた集団の総称。 ［レベル］４ ɒelʃcı 0:ıɾɒı;ıɾɒı/ucɥʃe 古 :ɥcɑcı:ıɾɒı と ucɥʃe の混成。ıɾue にならなかったのは母音調和によるもの
ıɾɒı ［悪魔］アルマ ［レベル］２ ɒelʃcı 0:ıɾɒı;e ɥcɑcı: 古 :ıɾɒı（アルマ）。元々エネルギーの ıɥɒı と同じ発音のキャラ名だったため、ヴィードのアルマと悪魔のアルマは区別できなかった。しかしその後リディアが ɥ 音を混同したために、ıɥɒı と同じ意味で ıɾɒı という語形が生まれた。両者は暫く混同されていたが、ヴィードのアルマと悪魔のアルマが区別できないという問題があったため、自然と使い分けが起こった。後者がキャラのアルマを示し、前者がヴィードのアルマを示し続けた。 ［文化］ テームスを護衛する最強の悪魔。玉の姿が正体。会話可能だが、基本的に動かないし、喋らない。総合的にはテームス本体の方が強いものの、個々の能力ではアルマの方が高い。アルマはテームスを守る最後の番人であり、最強のヴィードであるアルマを自在に操る。実質上、ユノ・ヴィル・ノアを操る４人の悪魔ヴィルテの上位にある。竜王ティクノによって魔輪アルマディオの中に封じ込められていたが、巡り巡ってサールのアーディンによって復活してしまう。しかし後の世でアシェットに再度アルマディオに封じられる。ɥɑ ではテームスの死後、長として戦う。 太陽を司る。 ・uıɟʃe 訳 そして彼らはアルマと戦いに行った。ユルグの調査によって、彼らはアルマの居場所を知っている。そして彼らは悪魔テームスを守るアルマを見つけた。彼はフレスティアと同じく鎧を来ている。しかし鎧の色は黒い。そして彼は冠をつけている。さらに彼はフレスティアと同じく大剣を持ち、ヴァルデと同じく杖を持っている。そして鋭い鉤爪がかれの右腕と左腕と右足と左脚にある。【成句】 ıɾɒı ɔʅ(en) uıɥɑe ヴァルデをもつアルマ : 鬼に金棒。ヴァステでティクノから魔杖ヴァルデを奪った悪魔アルマが非常に強かったことから。
ıɾɒıɑcɔ ［アイテム］魔輪アルマディオ ［レベル］３ ɥcɑcı: 古 : 語源不詳だが、ıɾɒı は悪魔アルマのはず。追記 Lʔ9:ıɾɒıɑcı（アルマのゆりかご）が語源。ここにアルマが封じられたため。 ［語法］ ヴァストリアのひとつ。リディアのもつ魔輪で、ヴァステで竜王ティクノが悪魔アルマを中に封じ込めた指輪。始めはティクノからアルデスに渡った。しかし暫くすると指輪の封印が解け始めた。このままではいけないと思ったアルデスは強い力で封印を固めようとした。そこでアルデスは婚約を目前に控えたラマンにアルマディオを託した。ラマンとその婚約者アーディンの愛で封印を強くしようと考えたのである。ラマンはアーディンにアルマディオを与えた。こうして婚約指輪という習慣が生まれた。ラマンはアルデスに言われたとおり、アーディンに「一度付けたら外してはいけない。愛が逃げてしまうから」と警告しておいた。ところがアーディンはラマンを裏切って浮気をし、指輪を外してしまう。浮気が終われば指輪をはめて何食わぬ顔でラマンの元へ帰るつもりだったのだ。しかしアーディンが指輪を外した瞬間、アルマディオは４つのパーツに別れ、各地へ飛んでいった。更にアルマまで復活してしまった。アルマディオはその後アシェットが４つのパーツを全て集め、もう一度ひとつの指輪に戻した。元に戻ったアルマディオを使い、リディアは再びアルマをアルマディオに封印した。
ıɾɒıblenz ［天文］コロナ ［レベル］５ J1:「悪魔の炎」 アルマの居場所が太陽であることから
ıɾı ［文頭純詞］ılı の強勢形。ılı より怒気が強い ［レベル］２ 古 :ılı と同じ字。単に語彙的な異形態だったともいえる。
ıɥ ［動詞］ɥəl をする、する、演奏する、付ける、起動する、点ける、つける、行う、おこなう、降る。生動詞。 ［レベル］１ 1L: 恣意 ［語法］ ɥəl の機能を働かせたり、ɥəl を起こしたり行ったりする動詞。【成句】 ıɥɔɥ8 よぉ、やってるか。どうだい、調子は、おつかれ、おつかれさま、お疲れ様 【用例】 ıɥ ɟıc パソコンをつける ıɥ dıɒ 電気をつける ıɥ ıʃı 会議を開く ɟɔzıɥ eɟ ıɥ. 扇風機がついている。 ʃeɟd ıɒ ɑɥeɒen ɑelez le leʃɟ lı eɟ cɟ ɑcn ʃə ləʃ ıɥ cɒ ʃəɔ. ピアノのある教室付近の電灯はここ最近いつも付いていたのに（今は）消えている : ʃə ləʃ ıɥ が難しい。ləʃ は繋辞で、ıɥ が自動詞を作る目的語。
ıɥ(J) ［接尾辞］機械を意味する。ı で終わる語の場合は ɥ になる。 ［レベル］１ 制←古 :ɥıφnı: 経過相と重複するが品詞が違うので区別できるため、ママとした。 【用例】 ɟɔzıɥ 扇風機
ıɥ(ʔ) ［言語］アルバザード語、現アルバザード語、アルバレン ［レベル］３ J1
ıɥʃ ［魔法］西洋魔法、魔道、アルト、魔法、マジック、ソーサリー、ウィザードリィ、ウィザードリー、魔女術、魔女宗 ［受動名詞］放った魔法 ［動詞］ ɥəl の魔法を ı に撃つ、撃つ、かける ［動詞］［卑語］ɥəl（女）を孕ませて ı を産ませる、孕む、妊娠する :10:zını ［名詞］［形容詞］ヴィードを伴う、魔法、魔法の、魔法を使った ［形容詞］［副詞］ものすごく、とてつもなく、異常に、異様に : 程度は ʃcnʅı と同じ。そこに驚きの気持ちが足されている。従って ʃcnʅı/ncʅ の意味。 ［反意語］ɑlıɒ ［レベル］２ ɥɑ:ɥcɑcı;ıɥʃ,ɑ.heɒ 古 :ı は魔法、ɥ は魔力、ʃ は不思議な力。 ıɥʃ:ıɥʃ: lı ɥəɑcɟ:ɟcın,ılʃ ［語法］ ləɟcı 広義では uccɑ の持つ「ヴィードを伴った」という語義にもなる。ucɥ は ɑɔlɒcɥə において uccɑ の代表的な存在であったため。 ［文化］ → ʅnɔɔɟenuc、ɑɔlɒcɥə 西洋魔法体系のこと。厳密な魔法の総称は ləɟcı だが、アルバザード人は通常「魔法」というと ıɥʃ を使う。正しい和訳は「魔道」か「西洋魔法」で、ıɥʃın は「魔導師」。 ＜オーディン時代における人々の魔法の力＞ ɥɑ のころは日常魔法は使えても魔導師というほどのレベルでないというのが一般的な人だった。魔法の力は個人差が大きく、強い人は昔の魔導師並みに使うことができた。主に ʔ,J 遺伝子を持った人間は魔法に疎かった。 ɥɑ の場合、魔法が一切使えないというほどの人はまだ少なかった。サッカーや野球は殆どの人がやろうと思えばやることはできるが、プロの選手とは歴然とした差がある。それと当時の魔法はよく似ている。魔導師と呼べるレベルの人は要はプロの選手と同じようなもので、歴然とした力の差があった。かといってサッカー自体をすることは子供でもできるように、日常魔法程度なら大抵の人は使うことができた。 ＜ナディア以降＞ nɑ 以降、

魔法は急激に失われていった。　ɰʃ 以降、魔法は一般人の間では殆どの場合架空ではないかと考えられていた。ただし魔導師たちが歴史を動かしていた時代だったので、魔法の存在を完全に否定するのは難しく、殆どの人は魔法を架空ないし一部の限られた人間にしか使えないものと考えていた。このスタンスは現代でも変わっていない。国家自体、召喚省がありながらも魔法の存在については見解を出さないという対応をしている。一方、神の存在については実在であると主張しているが、大手を振って主張しているわけでなく、召喚省の発表の中であまり目立たないように主張されている。その裏には面倒な物議を避けたいという思惑があり、魔法や神の存在について国家側は積極的に議論をする気がないというスタンスを取っている。　【用例】 ʃc ɥɔl ȷen eᴅ ıɰʃ cᴅ le ılәәʃel ɔl ʃc ʃɔll ʃә lılel. 練習を重ねれば、いつかきっと魔法が使えるようになる。　uɔlʃ ıleᴅ lɔn elɑ. ʃә eʃ ıɰʃ ılłı l'ınȷ ɥɔl ȷen lɔʃ ʃә ɑcı ɑı. 言葉で心を表現する。それが私たちが使える世界で一番強い魔法だ (ȷeɰen ıɰbızıɰɑ)

ıɰʃ,ɑ　lәȷcı、ıɰʃ　ȷııl;e

ıɰʃʃәlɔɑel　[魔法] 魔法物理学　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃllel　[魔法] アルトクレール、『魔法使いになるために』 [魔法] 魔道書 ← ıɰʃlec　[レベル] 4　ɺ1:ɰcɑcı　[文化]　ɰɑ でリディア＝ルティアが記した魔法学の集大成。ヴィルについての説明が多いが、ユノやノアの説明も行っているため、ヴィード論総合と考えてよい。　nɑ 以降は魔法の衰退により、魔法学も衰退する。　革命後はアルティス教の世の中でミロクが召喚省下に魔法研究所を設置。しかし「国民の生活の向上」「経済の発展」「軍事力の増強」のいずれにもならないため、税金の無駄遣いと批判されることもある。　そのため政府としても巨額の税金をつぎ込むわけにはいかない。また、魔導師自体がほとんどいないため、研究がなかなか進まない。　よって ıl 以降芳しい成績は収められず、ɰɑ のアルトクレールに追記するとともに編纂しなおすという作業を研究所はしている。　したがって、現在 ıɰʃllel は ıl で魔法研究所が編纂した本ということになる。

ıɰʃlıᴅc　[魔法] 魔法科学　[レベル] 4　ɰɑ　ɺɺ [文化]　魔法を使った科学で、ȷᴅ と ɰɑ で発達。ɰɑ 末期に徐々に現代科学 (ɑlıᴅlıᴅc) へシフトし始めた。

ıɰʃlcl　[魔法] 魔法実験　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃleʃȷɑel　[魔法] 魔法倫理学　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃȷel　[歳時記] 魔法の日　[レベル] 3　ɺ1　[文化]　ルシフェル校のできた日。ucɔ ɰıl。ȷᴅ では魔法スポーツの祭典の日。現在では召喚省下魔法研究所の一般解放日（アルシェは多忙で休めない）。　ユーモア好きのアルバザードでは、この日は学校には魔導師の格好をして通ってよいことになっており、黒魔導師や白魔導師の格好をして通う。授業も潰して魔法の授業を行い、遊びに興じる。学校は午前中に終わり、放校となる。企業は魔法にちなんだ商品を売り、経済効果も高い。　冬の寒い日なのでコスプレは厚着が基本となる。またこうでもないと家に引きこもりがちな季節なため、経済が循環しないという理由もある。　雪が降ることが多いため地面を駆けるのが難しく、通常のスポーツの祭典なら行えないはずだった。ところが ȷᴅ のは魔法スポーツなので空を飛ぶことが多いため、実施に問題なかった。むしろ選手にとっては雪をどう扱うかすら技術の一端となっていた。観戦者は現南西区にあった幌付きの競技場で祭典を楽しんだ。

ıɰʃncᴅ　[魔法] [芸術] 魔法色　[反意語] ɑlıᴅncᴅ　[レベル] 5　ɺ1

ıɰʃncı　[美容] 前髪を左右に垂らす髪型　[レベル] 3　1L: 魔導師の髪型。カコ時代の魔導師の女性の一般的な髪形だったことから　[語法]　ミルフのような前髪。小説でいうと、紗枝みたいな髪。

ıɰʃuınʃcȷ　[魔法] [軍事] 魔法兵、魔道兵（正式）　[レベル] 4　1L:ɰcɑcı

ıɰʃuılȷ　[魔法] 魔法医　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　→ ɑɔlᴅcɥә　魔石学から始まり、lәlleʃcı に分岐。ȷᴅ と ɰɑ では錬金術と lәlleʃcı の専門家がそれぞれおり、西洋医学と東洋医学に相当する。両方の知識を持つつわものもいた。ɰɑ での医学の発展に伴い前者は衰退。後者の漢方は現在も残る。

ıɰʃuczen　[魔法] 魔動回路　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃɑɰcᴅ　[魔法] [化学] [物理] 魔動顕微鏡、魔顕　[レベル] 5　1L　[文化]　ɰɑ でリュウが開発し、これにより科学を推進させた。　φıleʃ を用いて観測する技術であり、約５０ｐｍまで観測できた。その意味で電顕に相当する能力を持っていた。　nɑ 以降は魔法技術が廃れ、光学顕微鏡が遅れて開発されたが、可視光を利用するため３８０ｎｍ（理論上は１００ｎｍ）程度までしか観測できなかった。その後電顕ができ、魔顕水準まで引き上げられた。　従って地球に比べ ɰɑ では魔顕のおかげで科学が早く発達したが、ɰɑ においても魔顕は極めて貴重だったため、実際に使えた者が少なく、電顕ほど貢献はしなかった。　ucca は高晄圧、すなわち高密度の状態から平衡しようとする性質がある。魔顕では、ゼロガレットを高晄圧で放射する。ガレットが通る筒はガレットを通さないレニウムでできているため、加速されたゼロガレットは筒を通って真下に発射される。高晄圧で加速されたゼロガレットは電荷を持つため、あとは基本的に後の電顕と同じ仕組み。

ıɰʃɑɰec　[魔法] 魔法剣　[レベル] 4　19: 制

ıɰʃɑcɰ　[魔法] 魔法光　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃɑcın　[魔法] 魔法少女　[レベル] 3　1L

ıɰʃɑel　[魔法] 魔法学　[レベル] 4　1L　[文化]　カコにアルシアの１１魔将が興し、大成した。→ elɑɑel

ıɰʃɑelın　[魔法] 魔法学者　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃᴅcʃeɑel　[魔法] 魔法分類学　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃᴅcleel　[形容詞][ポジティブ]価値に見合うだけ高価な　[類義語]ɑılʃc　[レベル] 3　ɺ0　[語法] [文化]　不死鳥カルマの魔法の羽のように高価なことからついた。カルマミレールは死者を蘇生する貴重なアイテム。高価だが、それに見合う価値があるという意味で使われる。

ıɰʃᴅel　[歴史] 魔法代　[レベル] 4　ul;/。まだ人類が魔法を使えた時代なので。　ɺᶆ　[語法]　→ ɑeᴅe

ıɰʃφel　[軍事] 魔動銃。グレアよりも広義。　ɰɑ;/　ɺᶆ　[文化]　φel

ıɰʃdıᴅ　[魔法] 魔灯　[レベル] 5　ɺ1　[文化]　ɑɔlᴅcɥә

ıɰʃɥәlɑ　[魔法] [政治] 魔法研究庁　[レベル] 4　1L:clᴅәȷ:ɰcɑcı　[語法]　セルメルでアルバ二世が置いた庁。以降なくなることはなく、レイユでもアルシェ＝アルテームスやネブラ＝ブルーナらが所属。

ıɰʃɥәlɑlı　[魔法] 魔法研究所　[レベル] 4　1L:lcɔn　[語法]　アルシェやネブラが属している国の研究所。レインの父ドゥルガもここの役人。だが実態は召還省の下位機関で、タレスにとって身分を隠すための隠れ蓑。

ıɰʃlec　[魔法] 魔道書→ ıɰʃllel　[レベル] 4　ɺɺ

ıɰʃı　[地名] アルタ　[レベル] 5　1ト: 制 : 古 :ıɰʃ(魔法) から　[語法]　ソーンの使徒ヴァーナの支配地

ıɰʃı(ɺ)　[アトラスの国家] アルタ　[レベル] 5　制　[文化]　面積：1ᶆ90?Δ0.99Δᶆᶆ∆ lᴅ ｣

ıɰʃıȷ　[人名] アルタス　古　[文化]　４期１代のソーンのルシーラ。男性。テームスの復活を予言し、それを食い止めることを目標として団体を作った。幼馴染による対抗団体ができるとそれと対立。フェリスはドゥルガを名乗り、アルタスはヴィーネを名乗って争った。

ıɰʃıȷ(ɺ)　[名詞] 業、カルマ　[レベル] 4　ɺ1:ıɰʃıȷen　【成句】　ʃcl ıɰʃıȷ 業が深い　ılcȷ. nɔn uıɰıe ɥә ᴅcuı ᴅcl ʃә ıɰʃıȷ. みっつ。私はその業により、娘から忌み嫌われる。

ıɰʃıȷen　[アイテム] アルタセン　[レベル] 4　ɰcɑcı: 赤 :「反省」。語源不詳。ıɰʃ の部分は魔法だと思われる。ıɰʃıȷen は赤アンクノットによると反省の意味。ダルケスを失ったカルザスの反省というところからこの名が付いた。　ıȷen:ıɰʃıȷen　[文化]　ヴァストリアの１つ。リナのもつ魔石。ダルケスを失ったカルザスが流した涙が宝石になったもの。身に付けることにより強大な魔法力を有するようになる。魔力も上がるが、一番はヴィルそのものの最大値の上昇である。

ıɰʃıȷen(ɺ)　[名詞] 懺悔　[レベル] 4　赤 :「反省」　ıȷen:ıɰʃıȷen　【用例】　ıɰʃıȷ en e ᴅcɰɔl" かみさまの、懺悔」

ıɰʃın　[魔法] [ジョブ] 魔導師（正式)、魔法使い、魔術師、魔導師、魔女　[名詞] 極めて頭の良い人　[俗語] 童貞、処女、魔法使い、僧侶　[名詞] アシェットにおいてメル・リュウ・リディア・ピネナを指す。これにファーヴァを加えることもある。　[シェルト] 魔駒（色駒と扉駒を区別しない言い方で、ウィザードを魔法使いと訳したところから取った）　[レベル] 2　ʃᴅ;/　制　[語法] [文化]　→ beel　・男女比率　一般に男性が女性より筋肉が逞しいのと同じく、男性は女性より一般的にユノが強く、ヴィルが弱い。つまり女性のほうが男性よりも魔法使いに向いている。しかしその差は個人差が大きく、筋肉量の差ほど明瞭ではない。女性並みに魔力の強い弾性も大勢いる。ただその場合、えてしてその男性は女性的な人格や体格をしていることが多く、ほっそりしていて物腰が柔らかく知的で病弱で筋肉が弱く女性的であるということが多い。　魔法使いはヴィルの量の問題で、女性のほうが多い。しかし上で述べたように男性魔道士も存在する。　・黒魔道士と白魔道士　魔法使いを黒魔道士と白魔道士に分けると、顕著に男女差が現れる。黒魔道士は男性が多く、白魔道士は女性が多い。　これは元々の素質というよりも、学生時代の進学コース選択において男性が黒魔法を習得しがちで女性が白魔法を習得しがちだったためである。白魔道士は前線にも出るが陣営でメディックとして働くことも多く、出産や生理がある女性にとってはメディックは働きやすい環境であったため、白魔法を履修する女性が多かったためである。　この結果、白魔道士は女っぽいというイメージが定着し、黒魔道士に男性が偏るようになり、黒魔道士と白魔道士の間で男女差が現れた。　むろん、男性でも有能な白魔道士は存在するし、女性でも強力な黒魔道士が存在する。白魔法と黒魔法のどちらに適正があるかは個人差があり、明らかにどちらかに向いているというのが進学前に分かっている場合は、女性でも黒魔道士を目指すということがよくある。　その顕著な例が ɰɑ のリディアであろう。リディアは人類最強の魔法使いとして君臨したが、彼女は白魔法はほとんど使えず、黒魔法のプロフェッショナルであった。このように、就職先の関係で白魔法を選ぶ女性が多い中、自らの特性を活かして黒魔道士としての才能を存分に発揮したリディアのような例もあり、一概に男性が黒魔道士で女性が白魔道士ということはいえない。が、傾向として男性には黒魔道士が多く、女性には白魔道士が多いということは言える。　なお、そもそも男性は魔法使いの比率よりも戦士の比率のほうが多いので、上記の説明でいくと、男性で魔法使いで白魔道士というのが最も数が少ないことになる。２１２年現在でいえば、男の看護師と同じくらいレアなのではなかろうか。　・賢い人という意味の ıɰʃın　古アルカからリュウ・メル・リディアがウィザードと呼ばれていた。以降ファーヴァを足したが、結局アシェットの討議によりウィザードはメルとリュウを筆頭にリディアをおまけとして追加したものになった。逆に、それまでソーンの人間は加えていなかったが、和平以後はピネナを加えた。正しい和訳は「魔導師」。　【成句】　ıɰʃın eᴅ cɑc ȷı ıɰzɔn. 魔法使いは杖より先に老いる：少年老い易く学成り難し

ıɰʃıɰen　[地学] アルタレン、アレキサンドライト、アレクサンドライト、神石　[組み数字] １／１０　[レベル] 4　ᴅelʃcı 10:lәɑɔ;ıɰʃ/ɰen　1Δ:ɰcɑcı:ıɰʃıȷen/ɰen　[文化]　アルタセンと同じ材質。アルタレスに授与される象徴的な宝石。稀少で高価というのが理由だが、ıɰʃıleȷ と似ているという言葉遊びも含んである。　アルマの魔石。

ıɰʃıɰenɰecn　[組み数字] 神石賞　[レベル] 4　ɺ1　[文化]　→ ɰıdıll　ȷᴅ で宝石商が定めた価値ある宝石トップテン。栄誉として与えられる褒美の尺度として王宮に採用されたことで実用化。ɰɑ で組み数字に採用される。この順位は当時の価値観であり、現代での価値の順序とは必ずしも一致しない。現代でも宝石の価値は生産量や人気によって

まちまちであり、甲乙つけがたいのが通常である。ただこの表の上位５位と下位５位ならば通常地球でも前者のほうが一般的に価値がある。

ıɰʃileȷ ［政治］アルタレス ［レベル］３ 古 ［文化］ 召喚省長官のこと。実質的な権力はアステルに次ぐ。全タレスの長でもある。

ıɰʃıcn ［エルト］アルタイン ［レベル］３ 古 :ıɰʃıcn ← ıɰʃe/ɥııoııc から ［文化］ 祝い、祝辞を司る。冠婚葬祭のうち、不吉な葬式を除くすべてを司る。

ıɰʃc ［魔法］魔器、魔動機械 ［レベル］５ ȷɒ;ıɰʃ.ʅ ɉɲ ［文化］ ヴィードで動く機械のこと。ȷɒ の魔法工学に端を発する。

ıɰʃcȷ ［宗教］アルティス教、月教 ［レベル］２ ɰcɑcı: 古 : 古 :ıɰʃcȷ。ıɰʃ の部分は ıɰʃe。月教の訳は宣教師を ȷɔɰleɰenʃ（月の使者）と呼ぶことから。 ［文化］ アルテやテームス崇拝を通して彼らから力を賜ろうとすることを目的とした多神教。アレイユにおける世界最大の宗教。派閥がいくつも存在する。大派閥にはアルテを重んじるアルシオン派と、テームスを重んじる悪魔崇拝のヴァルテス派と、アルマを至上の存在として重視するアルマスト派がある。中でもアルシオン派は最大規模の派閥であり、『ミールの書』のミールや『紫苑の書』のレインもアルシオン派である。

ıɰʃcȷʃ ［宗教］アルティス教徒 ［レベル］２ ɉ0:ıɰʃcȷ:lınʃcȷ

ıɰʃcl ［歴史］アルティル時代、邂逅の再演、かいこうのさいえん ［レベル］３ 1L:clɒəȷ:ɰcɑcı:ıɰʃcȷ/cɒəl。神と邂逅を果たした時代。 ［文化］ ナディアとレイユの間の時代。シオン＝アマンゼがアルティス教を興した。

ıɰʃclcı ［宗教］アルティリア教、総神教 ［レベル］５ ɉ0: ［文化］ アルテ教とサルト教をまとめたもの。エマルジールの効果が出てきたことに起因する。 ɥəəɒı ᚨʕɉ1 メリウセルが宗派を統合し、ıɰʃclcı 教と改名。アルテの解釈を広く取り、宗派をまとめた。これにより教会の力は高まり、いちはやく統合を行ったレスティルは諸国に対し秀でるようになる

ıɰʃcı ［形容詞］幻想を感じたような ［レベル］４ 10:ɰcɑcı:ıɰʃcȷ ← ıɰʃɑcı ← ıɰʃ(魔法)/ɑcı(夢)。リディアがメル１０年に見た夢から。その夢でリディアはアティーリのリディアになっていて、魔法使いになっていた。魔法を使いたいと子供のころから考えていたリディアは魔法使いになれて喜んだ。そのときの気持ちを ıɰʃɑcı と呼び、すぐ ıɰʃcı に変わった。 ［語法］ 子供のころに抱いた夢をその当時或いは大人になって感じたときの気持ち。将来の実現可能な夢ではなく、実現不可能な夢。王になる、大統領になるはたとえ囚人で事実上不可能だとしても虚構ではなく現実の夢なので ıɰʃcı とはいえない。魔法が使えるようになったらとかそういった虚構に対する夢しか ıɰʃcı といえない。ıɰʃcı という気持ちは虚構の夢を想像したときにふと沸き起こる強いどきどきと恍惚感を指す。そして思わずそれを何らかの形にして少しでも現実化しようと強く思う瞬間や、その想像に傾倒して酔いしれる瞬間を指す。何らかの形とは、その想像を絵にしよう、小説にしよう、音楽にしよう、ゲームにしようなどという意味である。ıɰʃcı は特に思春期に感じる。ılɑcı と意味が似ているが異なる。 ılɑcı は昔の現実の記憶について懐かしいと感じたときの気持ちである。ıɰʃcı は虚構なので実体験ではないから懐かしいとは言いづらい。あくまで、そんな風だったら素敵だなと酔いしれたときの虚構に対する甘美な気持ちである。ıɰʃcı は楽しく陽気というよりは、やや寂しく綺麗な感情である。虚構である点が寂しく、大抵内容は夢見がちな少女が想像しそうな綺麗な内容である。金や復讐などをテーマにしておらず、魔法を使って空を飛びたいといったようなものである。 また、その虚構の世界の中で特に美しいと思われる名場面を想像したときの気持ち、あるいはその場面を後から思い出したときの気持ちも ıɰʃcı という。

ıɰʃcıleɒ ［音楽］演歌 ［レベル］５ ɉ1

ıɰʃɔ ［娯楽］アルト ［レベル］５ ʕ → ꟼ:ȷeɰen,ɔuc,φcl（正確に誰かは不明）:ıɰʃe の変母音による造語。アルテのカードが一番強かったことから。 ［文化］ カーデを応用した３～４人用のゲーム。発案当時はカーデそのものが確立しておらず、アルシェの使徒やアルデおよび神・悪魔数名の名を書いたカードでゲームを進めた。当時は４枚（別ルールでは５枚）のカードでゲームを進めた。ゲームの流れは現在のものと同じである。昔のものとはカードの枚数と役という点で異なる。当時バカーズが発案したものだったが、シェルトと違って完全情報ゲームではないため、カードが見られては困る。だからカードは伏せておかねばならず、シェルトと違って各人がアンシャンテの向こうで同じ状況を再現することができなかった。そのため一人がディーラーを務めた。たまにリュウなどがディーラーを務めることがあり、そうすると４人でプレイした。ゆえに人数は３～４人用である。 カーデが確立してカードが増えると煩雑な役が生まれて嫌煙され、不人気となった。アルトを元にしてよりギャンブル的なゲームであるヴォルシェがバカーズによって開発されたが、ギャンブルの嫌煙にともなってヴォルシェも後退した。 その後、アルトはオヴィらを経てソーンに輸入され、ソーンの間で抜本的な改革があり、別のゲームと見誤るほどの新ルールが作られた。セレンは具体的なルールを知らず、聞き知っただけでその様子を初版ミールの書に記載したが、その内容が誤りであると多く指摘された。 メル ɉᚨ 年にセレンはアルトのルールを作り直し蘇らせたが、すぐに飽きてまた衰退した。

ıɰʃe ［名詞］アルテ、幻嚆、げんこう。始めに世界を支配していた神。生命（幻躰）の嚆矢となったことから幻嚆という。 ［名詞］アルテ。ɰɑ でユーマから生まれた神。アルティス教の最高神。 ［感動詞］あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、神よ、やれやれ ［生物］アルテ。超ドメイン ıɒıʃ の中に ıʃen と eʃın があり、そのうちの ıʃen に属する唯一のもの。 ［レベル］１ 古 :ɰcɑcı ［語法］ ıɰʃe に祈るときの台詞だが、古アルカにも制アルカにも呼格がないので特別な語形はなく、単に ıɰʃe といってこの感動詞を表わす。 アテンの祖なので、アルティス教徒でなくとも言える。 ［文化］ → ɥəəɒı ｜約 1ʔꟼ 億年前 |ıɰɒı が爆発し、ıɰɑel と leʅıc という ȷ つの空間と、ıɰʃe という存在が生まれる。物理的には初期宇宙（陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成）。まとめ：アルマは最初のエネルギー、それが存在した無名の空間が最初の空間、最初の存在がアルテで、実体は白い球｜ 最初に生まれた神。アルテムでエルトとサールに分離していなくなる。その後、ɰɑ でユーマからできた善の神がアルテと名乗ったため、別々の存在ではあるが、名前は同じ。アルティス教の崇める最高神がこの神で、エルトでもサールでもない。このアルテはユーマからできた神なので、人類の母として人類を守ってくれる。→ ɥəəɒı ＜用語の整理＞ ıɰʃe：最初の神 ʃeeɒȷ: ユーマによって生まれた悪魔の母 eɰʃ：エルトの一族 ȷııɰ：サールの一族 ȷııɰʃ：エルトとサールの一族のまとめた呼称（和平前も和平後も変わらず） ɰɑ 以降↓ ıɰʃe:ɰɑ でユーマから分離した善の神 ʃeeɒȷ：ɰɑ でユーマから分離した悪の神 最初の ıɰʃe は ɑcıl までしか存在しないし、最初の ʃeeɒȷ は ɰɑ で死ぬので、同じ語形でも大丈夫。 区別したければ lıɒ などをつければいい。

ıɰʃeɭı ［地学］［歴史］アルテ大陸 ［ユマナ］ロディニア大陸、ロディニア超大陸 ［レベル］６ ul;/ ɉʔ

ıɰʃeȷɑel ［魔法］魔法意味論 ［レベル］６ ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ıɰʃeȷ ［魔法］［普通動名詞］召喚、召喚魔法 ［動詞］ɥəl を ı（場所など）に召喚する、召喚する ［政治］召喚庁 ［レベル］３ 古 :ıɰʃeȷ（アルテする） 【用例】 lcczı nı ȷen nıl ɒın uınφıɰɑc ɰeʃ ȷcl ɒelʃcı ıɰʃeȷ lı lınʅɔ ıl ıʃɔlıȷ. 召喚の実務はメルティアに依頼することになるが、それは死神のほうで処理してくれることになっているので安心だ。

ıɰʃeȷɑel ［魔法］召喚学 ［レベル］４ ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ıɰʃeȷlcznɔ ［政治］召喚庁 ［レベル］３ 1L:ɰcɑcı:clɒəȷ ［文化］ 召喚省下。召喚やセレモニーなどを取り仕切る。

ıɰʃen ［魔法］呪文、魔法の呪文、祈り ［レベル］３ 古 ［文化］ ɑɔlɒcɥə 魔法や召喚を使うときにヴィルを上昇させるための言葉。

ıɰʃenɑel ［魔法］呪文学 ［レベル］４ ɉ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ıɰʃenı ［魔法］［ジョブ］召喚士、預言者、アルテナ、コーラー、サモナー ［レベル］３ 古 :ıɰʃenı（神の心を知るもの）。制の ıɰʃeın だと ıɰʃın と勘違いしやすいため、古形を残した。 ［語法］ エルト使いかサール使いかを区別しない言い方。一般的にいう召喚士のこと。 ［文化］ 神（エルトとサール）を召喚して戦う魔導師のこと。人間と神の力に大きく差が出たメルテナになって現れた。 メルテナでは既にアルフィがあり、各アレットでアルフィとアトラスが繋がっている。各アレットはアルフィの特定の場所と繋がっている。 神の国はアルデス王とルフェル王により、すべての土地がいずれかの神に与えられている。そのため、各アレットは特定の神の土地、言い換えれば特定の神と繋がっている。 例えばアルナのアレットはアルデスに繋がり、ルティアのアレットはルフェルに繋がっている。 召喚士はアレットに赴き、そこで特定の神と対話することができる。ここで神に認められると契約を結ぶことができ、召喚することができるようになる。 召喚士に必要なのは、神をアルフィからアトラスに移すための魔力と、任意（できれば相手先の土地）のアレットから召喚地まで転移するための魔力である。 後者はアレットで召喚を行えば節約できる。前者は神の力に比例して大きくなる。大きい荷物を運ぶのにエネルギーがかかるのと同じで、強い力を異次元からアトラスに運ぶには相当の魔力が必要。それゆえ、召喚士は時魔導師に近い側面を持っているといえる。 中途半端な魔力では仮に召喚できたとしても神は満足に動けず、また数秒で元の世界へ戻されてしまう。そのため召喚士には強大な魔力が必要になる。

ıɰʃenı ɥəʃcı ［人名］アルテナ＝ユティア、副王アルテナ ［レベル］３ 制 ［文化］ (ʔʕΔ_) ミロク＝ユティアとアリシア＝ユティアの娘。ミロクからすれば娘であり孫である。ミロク革命後の社会を穏健に統治した。 女優でもあり、メディアへの露出も高く、国民の人気も高い。派手な感じではなく、ユンクの役が多い。魔導師であり、運動神経もよく、アクションもできる。アルバザードでは性格的にユンクなのに強いという人は人気が高い。ちなみにアルバザードの俳優としては珍しく歌も巧く、歌手でもある。 ＜本人像＞ １６８ｃｍの５３ｋｇで、スレンダーな女性。父親譲りの茶色の髪と目をしている。顔は非常に美しい。スタイルがいいこともあり、青年期以降は女優を兼ねるようになる。 １０歳のときに子役から始まり、ミロクの娘という身分を隠して活動をした。隠したのはアルテナの要望で、理由は「身分を明かせば自分は不当にオーディションに合格する。それは同時に不当に不合格になる少女を生む」というもの。ユティア家に特徴的な正義感をわずか１０歳で発揮する。彼女には実力も伴っていたため、実力で人気子役の座を得る。１４歳でミロクの娘とカミングアウトし、世間を驚かせた。 性格は大人しく、体形が大柄なわりにしとやかで女性的。妖艶な雰囲気も持ち合わせ、謎めいた感じがする。あまり人懐こいほうではなく、冗談を言ったり大笑いすることもない。アシェットのクミールやフルミネアに似た人物。 統治は穏やかだが、ミロクの作った束縛の強い社会をある程度維持した。ミロクを尊敬し、崇拝し、絶対視している。１２才頃ミロクが他界すると大きなショックを受け、父親に対する歪んだ愛情を増幅させる。２０才になるとミロクの直接の遺伝子を残すため、冷凍保存していた精子を用いてミーファを出産する。

ıɰʃeɒ ［歴史］アルテム時代、黎明期、黎明の燈灯、れいめいのともしび ［レベル］３ 古 :ıɰʃe/cɒəl ［語法］ 創世記の次の段階。アルテが生まれた。ヴァステが始まるメルティア暦１００万年まで続いた。

ıɰʃelıȷ ［非言語］アルテのジェスチャー ［レベル］２ ɉ1 ［文化］ 人差し指を鉤状にする。祈るときに使う。

ıɰʃelınʃȷe ［生物］猿人 ［レベル］４ ul;/「原始のヒト」 ɉʔ

ıɥſeı ［政治］アルテア、召喚省 ［アクセント］ıɥſeᛏ ［レベル］３　古

ıɥſeıɥnɔn ［政治］召還省→ ıɥſeı ［レベル］３　1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

ıɥl ［動詞］ɥəl を ı に繋ぐ、繋ぐ、繋げる、つなぐ、つなげる ［名詞］連結、リンク、連続、ジョイント ［化学］結合 ［生物］接合 ［電算］リンク ［音楽］スラー ［レベル］２　zφ;ıɥlı,ɑ.l　1ſl: 制 : 古 :ıɥlı から　ıɥlı:ıɥl::ıɥclı,ılſ

ıɥl(ȷ) ［言語］遠アルバザード語 ［レベル］５　ȷ1

ıɥlſoen ［経済］［法律］アルクトゥウェン、相続推進法 ［レベル］６　ȷ1 ［文化］　cɑcılın, ılɥəllı　ʔȷȷ 年制定。６０歳以上の財産をこの年に一律生前相続させるというもの。当時の高齢化社会では本来消費性向の激しいはずの若中年層の所得が低く消費が停滞していたため、「金は使う人に回す」という考えのもとで制定された。　選挙制度を採っていたヴェレイ末期ではマス層である老人にとって不利な政策は通らなかったため、ミロク革命によって実現された。　同時にミロクは ılɥəllı 等を制定し、核家族の減少に努め、老人は家族が世話するというナディアまでの文化に引き戻した。　若い世代は住宅ローンや教育費など、金を使わざるをえない環境にあるため、この法によって消費は以前よりは確かに増加した。結果、世代間所得格差は緩和したものの、金持ちの子は金持ちという階級格差が復活した。　それを当然見越していたミロクはこの法によって得た相続税を低所得層へ分配した。これが共産主義でも資本主義でもない修正資本主義である。

ıɥluccɑı ［生物］［医療］会穴、八会穴　ɥɑ;/　ȷſl ［文化］　臓腑気血筋脈骨髄の８穴ある。

ıɥluɔz ［アイテム］コンポジットボウ　ɥɑ;/　ȷſl ［文化］　zφ で作られた。

ıɥlueſ ［言語］複合語 ［レベル］５　1L ［語法］　ınlleſ

ıɥluenſ ［経済］中継企業 ［レベル］６　1L ［文化］　→ uenſ

ıɥlueɥə ［言語］膠着語、膠着語的 ［レベル］６　1L

ıɥlɑɔ ［言語］連音、アンシェヌマン ［レベル］３　ɥɑ;/　ȷſl

ıɥlɑɔɥ ［音楽］連符 ［レベル］４　1L

ıɥlɒɥəſ ［化学］結合距離　ȷ1

ıɥldeı ［言語］複合格詞 ［レベル］５　ɥɑ;/　ȷʔ ［語法］　格詞が複数くっついて一語になっているもの。ıɑɥeɒ などのこと。

ıɥlhıd ［言語］連結筆記　1L ［文化］　ſıdhıd を元に作った書体。最初の筆記体。使い勝手が悪く、早く書くと読めなくなるため、綺麗に書く必要があった。ləſcıhıd に追いやられ、使われなくなった。

ıɥlhcdſuɔln ［生物］配偶子、接合生殖細胞。ヒトの場合、精子と卵子。　1L

ıɥllıbı ［化学］結合エネルギー　ȷ1

ıɥlleucın ［言語］普及型人工言語、国際語、国際補助語　ɥɑ ［レベル］６　ȷȷ

ıɥllel ［言語］電子辞書、電子辞典、電子事典 ［レベル］３　ȷ0: 機械辞典 ［文化］　アンセの中に搭載されている。

ıɥlı ［言語］人工言語アルカ、アルカ、幻語。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。 ［レベル］１　ɥɑ;ıɥl.l「繋ぐもの」 ɥcɑcı/lcczı: 古 :ıɥlı (アルカ)。「 繋ぐもの 」が原義という。右記は『アルカ』より。アルカという名はリディアの使用するある言語で「つなぐ」を意味する言葉からきている。リーザがメル ȷ 年のザナ月ごろにリディアにアルカの着想を語ったことがきっかけでその名が生まれた。しかしすぐにアルカという名がその人工言語に適応されたわけでなく、はじめは無名の言語だった。それでは不便だということでリディアが慣用としてアルカと言い出したものが定着していき、やがてその人工言語はアルカという名が付いたのである。尚、アルカという名がアルシェで正式に認定されたという過去はないが、文献を見るに、この名はアルカを表わす幻字と共にメル ſl 年ごろには定着していたと考えられる。 ［文化］　elɑȷeſı　■現実におけるアルカ　＜概要＞　１９９１年から作られたアプリオリ人工言語で、主な作者はセレン＝アルバザード、リディア＝ルティア、リーザ＝ルティア、クミール＝メテ。　狭義には新生アルカのことを指す。主な作者はセレン＝アルバザード。　広義には下記初代アルカや先代アルカを含む。　＜シリーズ＞　初代アルカ：１９００年代に後のアルシェに繋がる団体が使っていた花言葉を用いた暗号。　先代アルカ：１９７９年以降に後のアルシェの先代ルシーラのリーザ＝ルティアらによって作られた暗号。　古アルカ：１９９１年にリーザが企画し、アルシェの子供たちに実験的に作らせた人工言語。言語学的好奇心および帰属意識の向上および忠実な私兵の育成が目的と推定される。最初はピジンで、後にアポステリオリになり、最後に過半数の単語がアプリオリになった。　制アルカ、制定言語アルカ:アルシェとソーンの合併がきっかけとなり、アシェットができる。和平のシンボルと帰属意識の強化のために２００１年にリーザが企画し、アシェットの２人のルシーラのうちの１人であるセレン＝アルバザードが主となって作成した人工言語。前期はアポステリオリの語が混ざっていたが、中期に自然言語由来と断定できたものは完全に排他。
　新生アルカ：ソーンが制アルカを変化させて独自の言語を作っていたことが２００８年に発覚。アシェットの分裂を防ぐため、旧アルシェ側が折れて合わせたもの。調整にはセレンが携わった。しかし苦労の甲斐なく２００９年にアシェットは崩壊。それ以降は現実での使用よりもリアルファンタジーという史上初のジャンルを成し遂げるためのツールとして、主にセレンやリディアらによって使用される。　＜成立＞　アルカという名はリディアの使用するある言語で「つなぐ」を意味する言葉からきている。リーザがメル ȷ 年のザナ月ごろにリディアにアルカの着想を語ったことがきっかけでその名が生まれた。しかしすぐにアルカという名がその人工言語に適応されたわけでなく、はじめは無名の言語だった。それでは不便だということでリディアが慣用としてアルカと言い出したものが定着していき、やがてその人工言語はアルカという名が付いたのである。尚、アルカという名がアルシェで正式に認定されたという過去はないが、文献を見るに、この名はアルカを表わす幻字と共にメル ſl 年ごろには定着していたと考えられる。　■アトラスにおけるアルカ　●概要　名称：ı（アルカ）　系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群アルバザード語北方方言地竜州方言幻京方言を主な参照源とするアポステリオリ国際補助語 (ueſſıɥlleucın eɒɔen ıſenıɒıſ, ɥəəɒıe ɒcſ, lcɑeɥɑcıɒ, lɥəɑcıcɑıl, leȷſcllelſeɒ, ılıȷleȷſclſıl, ıɥbızıɥɑlıɥɑ, lcıɥe ɥn, ſɔɔlſıȷ, ıɥnılcſe)　使用年代：ɥɑ_ls　分布：狭義にはアルバザード北方。広義にはアトラスの都市部全域　話者：アルバザード人（アルバザード系、ケートイア系、ヒュート系、アルシア（ルティア）系、カレン（アルティア）系、南方系（カテージュなど）、東方系、ファルファニア系）、その他アトラス全域の都市部の一部の人間　類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ　認知様式：二重把握　ɥɑ でセレン＝アルバザードが作ったアポステリオリ人工言語。主な参照源は ıɥ。　長い時間をかけて世界中の都市圏を中心に広まった。　訳語には幻語を当てる。幻字の幻から来ている→ hıdɒ　語彙は nɑ など時代が下るごとに新しい語を獲得して広がっていった。　音韻は現代までの３００年の間に変化し、当時の綴字と一致しないケースが増えていった。例えば ıc の音は狭い ee で発音されるなどといった具合である。
　革命期になると政府中枢部が ɥſ でできたアルティス教の原理主義者であったことから、さらに遡って ɥɑ までの回顧運動が起こった。この結果、元の綴り通りに読む教育が３２０年ごろから行われた。現在では特に都市部の若い人を中心に ɥɑ 時代の最初のアルカと同じ発音がなされている。　この件に関しては ɑɔz を参照のこと。
アルカはアルバレンをベースとしているが、ルティア語やアルティア語を多く取り入れている。この傾向は国内にルティア人やアルティア人の移民が多いことから、現在も続いている。　アルカはアルバザードの公用語であり、同時にルティアなど多くの国の公用語のひとつになっている。また、公用語でなくともアルカが通じる国は多い。現在の地球の英語に相当する国際語である。　アルカの文法や語彙については人工言語アルカ（公式サイト）や幻日辞典（本辞典）を参照のこと。 【成句】　ıɥlı ɑe lıɑ lɔn lɔ ȷel. アルカは一日にしてならず：ローマは一日にしてならず、千里の道も一歩から　cl ıleȷıſ ıɥlı cɒ ɔllı. 誰もが最初はアルカを嘲笑った：出る杭は打たれる 【用例】 lılſ ſıd ıllı, ıɥlı eſ leȷ ıɥl ın ɔ ɥcɑcı lɔnſ ſə eſ lılɒın ſəəl, enſɔ ın lıl elɑ ɥɔlın lıen ɑcı le ȷc ınȷ. ſcɔ, ın ɑcll leȷ ȷeɥ ȷcl lıl ſ'ıɥlı. 正確に言えば、アルカは究極的には僕とリディアをつなぐものだから、僕とリディアが消えた後の世界に話者は要らない。ただその存在があったことを識る者だけが居ればいい（ȷeɥen ıɥbızıɥɑ）　ɔlſı ın nı ɥıc ɑɔſ, ın lɔ ıɥlı. 激痛でもアルカを考える。

ıɥlı,ɑ　ıɥl　ȷıı;e

ıɥlıſcȷ ［名詞］ıllıſcȷ ［レベル］３　ȷ1:ıllıſcȷ が ıɥlıſcȷ（世界を繋ぐ）で解釈されたもの。誤用が定着したもの。 ［語法］　通常は ıllıſcȷ の誤用。ただしあえて「世界を繋ぐ救世主」の意味で使う場合もある。この場合、「異世界からの救世主」を指す特別な語義を持つことになる。

ıɥlıllel ［ユマナ］［言語］幻日辞典 ［レベル］３　1L:ɒelcɑcı ılſe ［文化］　本辞典。　＜歴史＞　０１年にプロトタイプ制アルカの辞書として作られたのが事の始まり。古アルカまでの資料である赤アンクノットや制定語彙などといった紙媒体の書籍とは完全に切り離された独立の存在として生まれた。最初から電子データで、紙媒体は存在しない。　一番最初はまっさらなワードのｄｏｃファイルであった。そこにＡからＺまでの見出しを大きな深い緑の文字で立て、その見出しの下にひとつずつ手動でアルファベット順に単語を入れていった。　０２年ごろ、ワードが大きくなりすぎ、開くのが重くなった。手動で単語をアルファベット順に入れていくのも七面倒であった。そこで当時書籍で販売された赤い英辞郎の本についていたＰＤＩＣというソフトのユーザー辞書に目を付けた。ほかにも競合ソフトがあったが、使い勝手がいいことからＰＤＩＣで制作するようになった。フォントは幻字を表示できるよう、明朝 ſcdhıd や ɑcen を用いた→ ıſɔɒ　ＰＤＩＣはアルファベット順でしか並ばない。文字の優先順位を変更することはできない。そこで０３年から０５年の中期制アルカでは幻字は明朝体の半角カナ部分に収め、早いカナを ſ に、遅いカナを ə に宛てがうなどして、幻字順で表示させるようにした。フォントは明朝 ſcdhıd を綺麗に作り替えた明朝 ſıdhıd を用いた。　０８年ごろに新生ができると、幻字部分の原稿は一斉置換でアルファベットに置き換えられた。一時的な措置だったが、ユーザーにとって見やすいということから、そのままの形が維持された。
９年ごろからＰＤＩＣ　Ｕｎｉｃｏｄｅ版を使用しだした。フォントはアルファベット部分が幻字になっている日本語混じりの明朝 ıɥl ınſcȷ で、これは明朝 ſıdhıd を整えたものである。　１０年に幻字が途中で幻京になってからは幻字で読むのが面倒で、１１年初頭までアルファベットで表示していた。同春先に、ＰＤＩＣ　Ｕｎｉｃｏｄｅにおいて欧文書体を表示フォントに指定すると、欧文だけ指定の書体に代わり、日本語文字は化けずに表示されるということをたまたま発見。それならばと ſcnı(lıɥɑcnıl) を指定するようになった。もともと重い明朝 ıɥlınſcȷ はＤＬやＵＰに不便で、嫌厭していた。それでもＰＤＩＣ上の幻字の表示に必要だと思っていたので取っておいた。ところが欧文しかないフォントを指定しても日本語がきちんと表示されることを知ってからは完全に明朝系はお蔵入りした。
　語彙数について。後期制アルカの最大時は約１４０００語であった。古アルカの１５０００語には届かなかった。新生は１３０００語前後の時期が長く続いたが、当該記事執筆時の２０１１・５・２において１４６１２である。伝統色や経済用語や地名など、転記あるいは新規執筆する必要のあるものが既に見込まれているため、これを折り込むと現時点で１５０００を潜在的に超え、ついに古アルカの最大時の水準に達することとなった。　幻日辞典の原稿はほぼ１００％セレンによるものである。他人が寄稿したものもあるが、著作権の関係から（恐らくそこまで気にする必要はなかったのだろうが）自ら削除していった。全文自分が書いたものであれば再配布など権利関係の絡む行動を起こそうと思った際、すみやかに行えるからである。　かなり神経質に削除したが、もしかしたら稀に誰が

書いたか判別できずに紛れ込んで残っているものもあるかもしれない。だが、それを判別するのはもはや不可能である。　プライバシーポリシーについて。当然のことながら、実在する人間には個人情報の問題がつきまとう。辞書といえどその点には配慮せねばならない。そこで幻日辞典の方針としては安全策を取り、どうしても載せなければ説明の付かない旧アシェット関係の人間にだけ［ユマナ］を付けて数人言及した。本文中でも実在の人物についてはなるべく名前を伏せている。特にネットユーザーに関しては厳密に守っている。

ıµɿıɟ ［感動詞］言葉遣いが悪いぞ、なんだその口の利き方は、それは言葉が間違っているぞ、言葉遣いがおかしいから直しなさい、そんなのアルカじゃない、正しいアルカを喋りなさい、セリフ噛むな ［レベル］１　µcωcı: 古 :ıµɿıɟ（アルカする、アルカしなさい）。アルカにおいて最もプライオリティの高かったリディアがいつも言っていた言葉。 ［語法］ おかしな言葉遣いを非難し、是正を促す言葉。おかしいというのは具体的に言うと文法的でも語用論的でも社会的でも良い。革命後は不信心な言葉にも使うため、倫理的な意味でも用いる。

ıµɿıɟɔµeʃ ［色］アルカブルー　ɺ0 ［文化］ アルカを作っている最中に好んで使った色。１６進数で＃２２６６８８。

ıµɿın　アルカユーザー、アルカ話者、アルカ使い、幻語話者 ［レベル］２　1L

ıµɿınʃc ［歳時記］メシアの日 ［レベル］３　ɺ1:µcωcı:ıµɿınʃcɟ ［文化］ 武道の祭典の日。lcɟ ɒcɿ で、元はセレンの誕生日。µω ではこれを称して剣士による戦いの祭典が開かれた。その後、剣以外の競技も合わせて行われるようになった。現在では武道全般の大会日となっている。　lcclcı の翌日なので、新しくできた彼女に良い所を見せようと躍起になる男性も多い。

ıµɿınʃcɟ ［ユマナ］［電算］アルカンティス、繋界コード ［レベル］６　ɺ0:ıµɿıʃcɟ（救世主）の来た世界のコード。ıµɿ 自体が繋ぐという意味だから、「世界を繋ぐコード」の意味もある。 ［文化］ アトラスには独自の lɔʃʃe という文字コードがある。それはアトラスのキーボード用に作られた文字コードである。　だが実際には我々は地球でアルカを使う。зoeµʃɥ キーボードで打てないと不便で仕方がない。　そこで作られたのが地球でアルカを巧く使うための文字コードで、ıµɿınʃcɟ という。　ıµɿınʃcɟ は表音幻字（幻字）と表意幻字（幼字）のｌ種類がある。本稿は前者を扱う。　注：ıµɿınʃcɟ は文字コードの名前であって、書体名やフォント名ではない。

ıµɿınɟ ［地名］アルカンス ［名詞］じゃんけん ［形容詞］トリオの ［音楽］トリオ→ ucleɒ ［組み数字］３ ［レベル］２　古 ［文化］ ＜アルカンスの三人＞　アルバザード北東部にあるラヴァス勃発および終結の土地。アルマが凝縮されている。ミダンとヴェンシートを失ったヴァルテが我を忘れて全力で雷の魔法を撃ったとき、そこにあったサリュが避雷針のようにヴィルを吸収し、大量のアルマに置換して蓄えたもの。ヴァルテがサリュを破壊したため、アルマはアルカンスの土地全体に染み渡り、土地そのものにアルマが大量に停滞した。　メルテナの時代、ユーマ Δ000 年ごろにアルカンスを有力な３人の人間が奪いあった。エルト信者の ɟleı、テームス信者の bɾlcı、サール信者の ʃµeı の３人である。ɟleı は bɾlcı の弱点を知っていたが、ʃµeı のは知らず、bɾlcı は ʃµeı のは知っていたが ɟleı のは知らず、ʃµeı は ɟleı のは知っていたが bɾlcı のは知らなかったため、三つ巴のまま決着が付かなかった。　＜じゃんけん＞　古アルカにもこのまま存在した遊び。掛け声、登場人物、手の種類など、何から何までメルとクミールが作ったもの。ƥ 年ごろのことで、原型はもはや不明だが、わりと早く広まった。　「じゃんけん」に当たる遊びで、物事の決着を付けるときの公平な手段として、子供の遊びを超えて広く使われる。３種類の手の形で勝敗を決める。　やり方はまず、片方の拳（ふつう右手）を差し出す。このとき甲は上を向き、親指は伸ばしておく。すると自然と親指は左に向かって伸びているはずだ。次に「ıµ」といって手を一度上下させる。次に「ɿınɟ」といって手を動かす準備をし、最後に「ınʃɾ」といって２種類の内から１つ手を選んで出す。掛け声は "ıµɿınɟ ınʃ" で、意味は「私のアルカンス（＝アルカンスは私のものだ）」ある。　出した手によって勝敗が決まる。掛け声を言う時点の拳を掛け声が終わったと同時に上に向ければエルトを示す（エルトは天界に住むから）ので信者 ɟleı を示す。逆に、手を下に向ければサールを意味する（サールは地界に住むから）ので信者 ʃµeı を示す。また、伸ばしていた親指を引っ込めればテームス信者の bɾleı を示す。後はアルカンスの伝説通り、ɟleı は bɾleı に勝ち、bɾleı は ʃµeı に勝ち、ʃµeı は ɟleı に勝つというルールである。　尚、掛け声が終わっても手を変えなければ、手がないということで負けとなる。また、３種の手が同時に出るか全員が同じ手のときはあいことし、もう一度同じことを繰り返す。但し、親を決めた場合はその親に勝てなければ負けであるから、あいこは親と同じ手のときしかありえない。　＜便利なアルカンス＞　ところでアルカンスはじゃんけんより優れていると評されている。まず、手の形がじゃんけんより覚えやすく、その上じゃんけんより後出しがしにくく公平であるためである。　それまでのアシェットは勝敗を決めるときはコイン投げが有力だったが、コインがなくてもできる上に一度に複数を相手できるという便利さからアルカンスが生まれるとすぐにそちらに変わった。コイン投げは投げた後に裏か表かを言っていたが、複数人集まると互いの声がかき消されてどちらにかけたか分からなくなるという問題があったため、勝負後も手の形が証拠として残るアルカンスは好評だった。 【用例】 ☆ "ıµ, ɿınɟ, ınʃ... ɒɔlu. ɟɔn ɒe... ıµ, ɿınɟ, ınʃ. ɥı, ʃə eʃ ınʃɾ"「ア～ル・カンス・アント。あいこだからもう一回。ア～ル・カンス・アント。よし、僕の勝ちだ」 ☆ "lılı, ʃə eʃ ʃəın"「あら、負けちゃった」

ıµɿınɟɒeɒ ［組み数字］アルカンスサークル、三本柱、三大天使、御三家、三連星、三銃士 ［レベル］３　ɺ1 ［文化］ µıdıll

ıµɿını ［植物］陰日向に咲く花、アルカナ ［類義語］ɒccnı ［アクセント］ıµɿınϮ ［レベル］６　µω;ıµɿı/ɒccnı「アルカのような花」 ɺ0 ［文化］ µω でセレンがアルカを小集団の中で使われる芸術言語であって世に広めるようなものではないと述べ、それはまるで陰日向に咲く花のようだと述べたことからこの単語ができた。

ıµɿıneʃ ［地学］ガーネット、ざくろ石 ［組み数字］７／１０ ［レベル］４　古 :ɑəlɒccı ［文化］ 火の魔石。

ıµɿıωcı ［地名］アルカディア ［レベル］６　古 :µcωcı:「夢を結ぶ」「アルカの夢」 ［文化］ ユーリアにある小さな村。

ıµɿıωcı(ɺ) ［地名］アルカディア ［レベル］５　ɺ0:「アルカのゆりかご」 ［文化］ ふしぎの国。µω でリディアが魔法で作った世界。唯一の入り口はアシェルフィにある。　その入り口は夜にしか現れない。なのに、月光など光を浴びると目に見えなくなってしまう。　アシェルフィの泉に映った月がアルカディアへの入り口を示す。満月の晩のちょうど月が真上に来たとき、入り口が水面に映る。月が照らした水面にアルカディアへの入り口が映っている。泉に映る、かつて街を照らしていた今はもう動かない街灯が、その入り口だ。　µω の時代は街灯自体が街を照らしていたため、入り口は見つからなかった。アルカディアは魔法の消えた現代に残る唯一の魔法の世界である。アルカディアへは入り口が泉に映っているときにしか入ることができない。街灯のランプが入り口になっていて、ある呪文を唱えるとランプの中に吸い込まれ、アルカディアへ迎えられる。　＜第四の世界＞　アルカディアにはいくつかの意味がある。「アルカ世界の夢」という意味。「いくつもの世界が連結した夢の世界」という意味。　アルカディアはレ・カイ、アルデル、ユマナに次ぐ第四の世界である。ここはすべての世界の写像であり、すべての世界に影響を与える調整弁となっている。　世界の造形はアトラスを中心としており、特に µω と ıl の世界観が根幹となる。　住人はすべての世界のすべての次元を閲覧することができ、外の世界から持ち込んだ知識を維持することができる。また、意識を飛ばすことで外界の情報を閲覧することができる。　＜ µω 以降＞　ɺ1 年にセレンが旧アシェットの元を去る。リディアがセレンを追い詰め、アルカディアへ移住することを提案する。後にメルが移住してくることになる。　セレンはそこでは永遠の１７才を保っていられる。年齢は可変であるが、ベースはセレンが１７で、リディアが１４,５で、メルが１０～１２である。

ıµɿıωcı(ʔ) ［ユマナ］アルカディア ［レベル］３　ɺʔ:「アルカの幻想」 ［文化］ セレンが配信するアルカの番組。０８～０９年ごろ着想。　アルカの音声コーパスを遺すとともに、人工言語の講義の中で最大の音声コーパスを作ることを目的としている。　副次的な目的としては、離れて暮らす子供のために平日毎日父親の声を届け、日本語能力も育成するというものがある。　●番組名　アルカディア　ıµɿıωcı　●配信期間　２０１２年7月１６日開始。　２０３１年7月１９日終了。　＜ファーストシーズン＞　●前半　日付　歳時記　一言アルカ（今日の用例）：毎日用例をひとつ上げて文法解説、文化解説する　今日の造語：今日の造語分を発表　パーソナリティの近況・雑談：優先度が低いため、時間調整に用いる　●後半　コーナー　月：初心者向けのアルカ講座。年１周。１周５２コマ。２６時間勉強。概説の内容を扱う。概説が４４記事なので１回で１記事弱　火：アルカ裏話。幻日裏話。内情暴露系　水：中級者向けのアルカ論読み解き。年１周　木：アルカの言語学的考察。人工言語学の研究成果発表　金：上級者向けの文書読み解き。夢織→アルディア　●録音方法　ＩＣレコーダー。　レコーダーにオペレーターマイクを挿して録音。　ＵＳＢで読み込んでｍｐ３で配布。　●配信方法　ｓｋｙｄｒｉｖｅに年号別にアカウントを取ってアップロード。　＜セカンドシーズン＞　２０１２年１０月２９日より、アップロードにｓｋｙｄｒｉｖｅを用いないことにした。順次適宜アップローダーを利用して配信する。これはｓｋｙｄｒｉｖｅの不便さとダウンロードにかかる時間が長いこととアーカイブ化を辞めたことに起因する。なお、この改定では後半に行われていた曜日別のコーナーを廃止した。というのも、夢織の読み解きを金曜に行なっていたのだが、一週間に一回しかない上に後半が短いことがしばしばで、進捗が遅すぎたためである。改定後は曜日に関係なく、後半は企画物を進めることにした。例えば夢織を読み解くという企画であれば、それが一定期間継続されるという風に。なおこの改定はリディアにアルカディアの内容が個人的すぎるだの子供に聞かせられる教育的な内容でないだのそもそもアルカの話題がほとんどないだのといった注意を受けて、アルカディア全体の内容の見直しを図った際に行われたものである。この改定によってアルカディアはアルカの専門的な内容およびその作業録とあいなったため、リスナーは身内に限られることとなると推測される。　改定後第一回のデータをリディアに送ったところ、非常に好評であった。リディアは「キャッチフレーズとして『聴くと頭の良くなるラジオ、アルカディア』としたらどうか」と言ってきた。それだけ内容が真面目で学問的でリディアにとって好感度の高いものだったのだろう。　＜サードシーズン＞　２０１３年1月１１日でセカンドシーズンの配信が終わり、１２日土曜日にサードシーズンの方針が決まり、１４日月曜日から配信が決まった。　アルカディアの主なリスナーがルシアとユルトとリディアとメルであり、特にルシアとユルトに父親の声を届けることに重点が置かれるようになった。そうなると既存のシーズンの内容では子供には内容が難しすぎるため、もっと内容を落とし、日本語学習講座や幼児向けのアルカ学習講座を設ける必要が出てきた。リディアはネット配信に否定的で、ネットを意識して大人向けの内容を流すのはいかがなものかと苦言を呈した。それよりも自分の子供を教育することにウエイトを置いたらどうかと述べてきた。また、いっそ内容をウチの子のためのラジオというように限定してしまうなら、家庭の事情などもセカンドシーズンより細かく喋ることになるし、今までと違って不特定多数にではなく子供たちに向けて喋りかけるような話し方になるだろうとリディアは述べ、それならばネットで一般公開するのは不適切であろうと述べた。　一方、ルシアやアマヴェル君などを始めアルカディアはアシェット第三世代はもちろんその親たちにも人気があったため、ウチの子供だけに語りかけるようなのはよくないとメルが指摘。特にアルカディアは第二世代にとって日本語学習の良い教材になっていたため、大人世代は日本語学習の一環としても聞いていた。そこで

対象をウチの子だけにするのは良くないとメルは指摘した。　これらを受けてサードシーズンはアシェットを対象とした内容とし、その結果アシェット内における限定的な公開にすることが採択された。　また、これまで月金で不休だったパーソナリティだったが、仕事や余暇に応じて休みを取るべきだとリディアに言われ、そのようにすることにした。

ıɰ̀ıdıɰɒ ［ユマナ］［言語］幻日辞典　［レベル］３　⅃Ⅰ ［文化］ ıɰ̀ıl̀lel

ıɰ̀ıdıɰɒl̀lel ［ユマナ］［言語］幻日辞典　［レベル］３　⅃Ⅰ ［文化］ ıɰ̀ıl̀lel

ıɰ̀ıdcı ［言語］会意　［レベル］４　⅃0: 繋げて示す

ıɰ̀ıɰ ［電算］インターフェイス　［レベル］４　1L

ıɰ̀ıl ［動詞］ɥəl を ı に世襲する、世襲する　［普通動名詞］世襲　［類義語］ɔlıl ［レベル］４　1L:ɰcɷcı:ıɰ̀ı/l（古アルカ動詞語尾）「アルカのようにする」 ［語法］ eɰcȷ と同じ格組で、意味もほぼ同義だが、財産でなく役職や技能を親子間で引き継ぐという意味を持つ。

ıɰ̀ılʃ ［軍事］大元帥、司令官、総司令官　［名詞］裏ボス　［組み数字］１／２０　［レベル］３　1L:ȷeɰen:ıɰʃe/l̀ılʃcȷ（神の元帥）［語法］ l̀ılʃcı ［文化］軍人の最高位。現代ではアステルが担当。

ıɰ̀ılʃɰecn ［組み数字］大元帥賞　［レベル］４　⅃1

ıɰ̀ılc ［筐堺］アルカリ　ɰɷ;ıɰʃe/ɰəl̀ılcı「神なる旧ルカリア地方」［レベル］５　⅃Ⅰ ［文化］　筐堺司：ɰɥəə hɥəəʃɔ　筐堺国：hɥəəʃɔ, ɑɰeɷcȷl, φıl ueeɥə 島

ıɰ̀ılcȷ heȷʃcı ［人名］アルカリス＝ヘスティア　⅃Ⅰ ［文化］ ⅃ʕ1 アルカリス＝ヘスティアが獅法力のみによる音声通信機器である電話を発明　電話の原案自体はさらにその２０年ほど前に発明されているが、実用化して特許を取ったのはアルカリスである。

ıɰ̀ıleɒcı ［名詞］粋なはからい、粋な計らい、幸せなサプライズ　［レベル］３　ɰɷ;ıɰ̀ı/leɒcı「人の心を繋ぐ計らい」［文化］　人を幸せにする思いもよらないサプライズや計らいのこと。従軍していて地元にいないはずの父親。娘はそんな父を思って寂しく暮らしていた。あるとき娘は野球の始球式のボールを投げる権利が当たった。ディスプレイには戦地からの父のメッセージが流れる。少女はボールをキャッチャーに投げると、キャッチャーはおもむろにマスクを外す。なんとそのキャッチャーは従軍しているはずの父親だった。喜び駆け寄り抱きつく少女。　アルバザード人はこういった奇跡のようなサプライズを粋として好む。わくわくは心の栄養だよね。【用例】 ɥəəʃɔ ıɰ̀ıleɒcı ɷel ʃɔʃɔ ɑccnı nene ～という粋な計らいを～のためにする ［言葉遊び］ʃə eʃ ıɰ̀ıleɒcı ıl̀ıleɒcı. 幸せな奇跡（ȷeɰen ıɰbızıɰɷ）ıl̀ıleɒcı を形容詞的に使っている。「最高な計らい」と「粋な計らい」をかけた言葉遊び。

ıɰ̀ıcɒeʃ　アルカ版　［レベル］３　1L:ɰcɷcı:ıɰbıleʃ

ıɰ̀ıeȷʃ ［言語］アルカ名、霊名　［レベル］２　1ʘ: 制 : アルカの名前　［文化］　アルカで付けられた名前のこと。セレン、リディアなどはこれに当たる。セレンのように母語での名前とまったく異なるタイプ、リディアのように母語の名前の音をアルカ風に変化させてアルカの音象徴で意味を持たせたタイプ、リーザのように母語の名前をそのままアルカの名前として用いたタイプ、ラルドゥラのようにアシェット関連の人名を継承したタイプ、ルシアのように既にあるアルカの単語をそのまま人名にしたタイプ、母語での名前を訳したタイプなど、いくつか種類がある。

ıɰ̀ıenuc ［言語］言語能力　［レベル］４　1L:ɰcɷcı:ıɰbıleʃ ［語法］ elɷenuc

ıɰ̀ıc ［言語］接続詞　［レベル］３　1L:lcɔn:ıɰ̀

ıɰ̀ɔ ［建築］かすがい、鎹、クランプ、締め具　［言語］ノード　［レベル］５　1ʕ: 制 :ıɰ̀

ıɰ̀ɔȷ ［化学］ホルムアルデヒド、ホルマリン　［レベル］４　1L: 開水素＋開アルデヒド（アルデヒド基）

ıɰ̀ɔu ［電算］ドライブ→ l̀ɔu ［レベル］３　1L

ıɰ̀ɔɰ ［地学］方角、方位　［類義語］l̀ɔɰ ［レベル］３　1L:ıɰlcel/l̀ɔɰ ［文化］　古アルカの慣習にならい、南北西東の順に並ぶ。【用例】 ʃıb ıɰ̀ɔɰ 方角をはかる

ıɰ̀ɔl ［生物］接合子、接合体　1L

ıɰl ［経済］資本　［レベル］４　古 : アルシェ側の経済が資本主義だったことから。［文化］　ヴェレイでも日本のように資本を純資産、純資本、自己資本など、複数の言葉で混同して呼んでいたが、後にそれぞれに意味を与えた。

ıɰlφıɰʃ ［経済］資本コスト　［レベル］６　1L

ıɰlıl̀n ［政治］資本主義　［レベル］４　1L:clɒəȷ:ɰcɷcı ［文化］ ɰʃ で台頭。ただしその潮流自体は中世から見られる。

ıɰlınʃe ［アイテム］アルシャンテ　［被服］トレンチコート　［レベル］３　ɰcɷcı: 古 :ıɰl のところはアルシェを表わす。元々セレンが自分のロングコートにアルシェニム（アルシェ風の）と名付けていたことに由来。元はトレンチでなくロングコート。［文化］　ヴァストリアの１つ。セレンのもつ魔装。黒いトレンチコートの形をしている。潜在するヴィードを全て引き出してくれる優れもので、体温が常に涼しく調節されるようになっているというおまけ機能も付いている。元は悪魔アルマが纏っていた服。ティクノの攻撃をかわす際にアルマはその服を盾にして避けた。服は衝撃でどこかへ飛んでいき、行方知れずになってしまった。その後、ɰɷ でラルドゥラが発見し、セレンにプレゼントするようリディアに託した。リディアはそれを受けてその服にアルシャンテと名付け、セレンにプレゼントした。アルシャンテを纏ったセレンは更に強力な力を得て、アシェットを指揮した。【用例】 ȷıb ıl ıɰlınʃe cɒ ʃə ɷəɰne cn ı. 今夜はトレンチを着ることになりそうだな。

ıɰlcɷcı ［名詞］幻奏、アルシディア、ｌｕｎａｒ　ｆａｎｔａｓｙ ［レベル］４　⅃1:ıɰʃe/lcɷcı「神の幻楽」。幻想と幻奏をかけている。同時に、幻楽と弦楽をかけ、奏でるを訳出している。［語法］ leucın と ɷcıl̀ıl ʃe の総称。具体的には leucın ʃ'ıɰ̀ı（人工言語アルカ）と l̀ılɷcı ɗı ɷc ıl̀ılʃe（人工世界カルディア）の総称。［文化］ ＜地球での幻楽＞　地球ではアルカは主にセレンが、カルディアは主にリディアが担当している。⅃1 以降はアルカができてきてセレンの手が空いてきたため、カルディアにもかなり進出しはじめた。セレンは仕事が早いため、今後比率が高くなるものと思われる。　カルディアを作る目的はふたつある。ひとつは自分たちのオリジナルなファンタジー世界を持つこと。これは ɰɷ に託されている。もうひとつは自分たちにとって理想的で、かつ実際に存在しうる社会を築くことで、これはミロク革命に託されている。　＜幻楽とリアルファンタジー＞　幻楽はリアルファンタジーである。ベースは学問で、そこにファンタジーの設定を加味して矛盾なく論理的に組み立てたものを、リアルファンタジーという。　地球の学問は地球の環境を背景とするので、リアルファンタジーでは修正を必要とする。そのままの形では使えない。一般の学者はそれが地球でしか通用しないことに気付いていないので、しばしば彼らの意見を修正する必要がある。　学者と専門書を疑う気持ちと、自分の世界を論理的に組み立てる学がなければならない。ただの本読み以上の能力が求められるので、学を学ぶだけでは足りない。応用力も必要になる。　例えば言語学は人工言語を対象としないので、創作に必要な知識を自分で取捨選択しなければならない。選ぶには言語学を当然分かってなければできない。　ファンタジーと付いていると子供だましの遊びに見えるが、実は学問以上に難しい。ただしリアルファンタジーに限る。通常のご都合主義がまかり通るファンタジーなら創るのはたやすい。　リアルファンタジーに必要なものをまとめる。これが揃えられない人は諦めたほうがよい。無駄に傷つくだけだ。ここまで読めば「ファンタジー」という言葉の甘さと実態がいかにかけ離れているかが理解できるはずだ。名前のわりに極めてシビアである。　また、５にあるように、能力を金や名誉に変えたい人にも向かない。　1：学問。知識、応用力だけでは足りない。学者と専門書を疑う気持ち、常識を打ち破るマインドも必要。とにかく自分で考える力が必要。　２：創作力、芸術センス。勉強だけできても物作りができないとこの分野では何にもならない。　３：何十年もコツコツ続ける精神力と根性。諦めない気持ち。使命感。しかしそれがあるなら編集やエンジニアなどになって稼いだほうが得。　４：３を支えるための仕事（＝経済力）と時間（＝若さ）。日本の労働環境では事実上学生から始めないとアルカやカルディア並のクオリティは無理。　５：世俗の欲に負けない高尚さ。金、名誉、地位などに傾かない聖心。　６：何を見ても「アルカだったらどうか、カルディアだったらどうか」と結び付けて考える習慣。絶対に学んだことを無駄にしないという「ただでは転ばない」根性。　７：仲間。一人で作っても実験できない。実験できなければ修正できない。少しは脳内実験でどうにかなるかもしれないが、最終的には無理。対戦ゲームのデバッグを一人でできますかという話。対ＣＯＭ戦しか修正できない。限界がある。それと同じ。何十年も付き合ってくれる信頼のおける味方がいるか。ただしアルカのようにネイティブの子供までこさえるのはやりすぎ。生まれた子供は仲間ではない。本人の承諾なく巻き込むべきではない。　よくある失敗パターンが、「楽しいから」だ。これは続かない。人工世界で楽しいのはほんの一部なので。あとは地道でつらい作業ばかり。その上金にも名誉にもならない。続くはずがない。使命感がなければ。イェフダー、ザメンホフなど、偉人にはこれが備わっていた。　「広めたい」もよくある失敗パターン。広まらない。ふつうは人工言語に興味など持たないし、それが正常。広めたいと期待するだけ無駄。特にリアルファンタジーは敷居が高いのでなおさら。ゲームの人工言語のように単純なものでないと商用ベースには乗らない。分かる人だけ分かればいいという釣り方式が現実的。

ıɰlcɷcın ［名詞］幻奏士、アルシディアン、ｌｕｎａｒ　ｆａｎｔａｓｉｓｔ ［レベル］４　⅃1:ıɰlcɷcı/n「幻想を奏でる者」［語法］［文化］　言語と世界を創る者。セレン＝アルバザード、リディア＝ルティアなど。

ıɰlcɔn ［宗教］アルシオン派　［レベル］２　ɰcɷcı: 古 :ıɰʃe/lcɔn ［文化］アルティスを構成する最大の派閥。アルテを至上とする。シオン＝アマンゼが教祖。サールを好むサール派と、エルトを好むエルト派に分かれるが、ほとんどの信者は両者をともに崇拝する。

ıɰlcɔl ［宗教］アルシオン派信者　［レベル］２　⅃0:ıɰlcɔn/lınʃcȷ

ıɰlcel ［エルト］［サール］アルシエルの四季神　［名詞］四季、季節　［形容詞］カルテットの、カルテット→ uılleɒ ［組み数字］４　［レベル］２　古 :ɰcɷcı:lceɰ(lcel) が最初に作られた神で、それを代表とした名。ıɰʃe/lcel からか。⅃0 年まで４人の神がエルトかサールか不明だった。もともと最初にできたシエルが冬の女神として作られたものでなかったことが原因か？ ［文化］ ＜四季神＞　アルシエルの四季神。ılʃe,ɑleı,ılcȷ,lceɰ の四女神からなる。四季を司り、四季の変化をもたらす。　＜四季＞　アルナには四季がある。だが、その変化は急ではなく緩慢である。夏は異様に暑くて冬はやたら寒いということはない。夏は大して暑くならない。ただ、冬はわりと寒い。アルナの四季は一年を通して安定していて、悪く言えばあまり変化がない。変化が緩慢なので季節の変わり目に体調を崩すことも少ない。だからアルナの人は四季の変化にあまり関心がない。それでも天気に比べると変化が大きいので、天気よりはずっと会話に出る。だが、日本人が四季について言及するほどの関心はない。　四季の変化はまず気温の変化である。当然、服に変化が見られる。たとえば春になるとアルティス教徒の女はラーサなどを着るようになり、夏が来るとラーサを脱いでサユだけになる。秋口になるとまたラーサを着て、冬が近づくとアルセリアに着替える。雪解けになるとまたラーサを着る。　夏はあまり暑くないので冷房は普及していない。冬はわりと寒くなるので暖房器具が普及している。暖房器具は冬を思わせる物で、暖房器具の匂いをかいだりすると自然と冬を思い出す。　四季の中で人気がある季節というのはない。春夏秋冬それぞれに良さがあるからである。大抵の人はどの季節が一番良いかといわれると困る。どれも良い点があり、どれも美しく、そしてどれも厳しいからである。　春は木の芽時で、暖かさが心地良い。花が咲き乱れるのも美しい。

冬で寒い思いをしてきたので春が待ち遠しいという人は多い。冬は寒くて散歩に向かない。散歩が好きなアルナの住人にとって冬の散歩は辛い。ゆえに春が待ち遠しいという人も多い。春になると暖かく、太陽光も増えるので鬱状態も改善されていく。外にも自由に出れ、朝の辛い寒さもなくなる。寒さという拘束からの解放を感じる季節である。　夏はさわやかな暑さが心地良く、抵抗力が強くなって病気にもかかりづらくなる。太陽光も強くなるので鬱にもなりづらく、心身ともに健康に過ごせる時期として好まれる。また、夏にはなによりディアセルがある。これが楽しみという人も多い。なにせ一年を通して最大の祭りであるから春ごろから予定を立てて臨む人も多い。　秋は収穫の時期で、食べ物が美味い。また、終わりごろにメルセルが待ち受けているので、秋は一年の終わりの季節でもある。メルセルは一年の中で二番目の祭りで、これを楽しみにする人は多い。秋はこれから冬になるにつれて一年が終わっていく過程の季節である。今年一年で何をしてきたかと物思いにふける感傷的な時期である。また、木々が紅葉を迎えて美しく燃える時期でもある。そして木々が散っていく時期でもある。枯葉を集めてカルテンや集合住宅の庭では焚き火が行われ、炊き出しや焼き芋などが行われる。焼き芋だけでなく様々なものを包んで焼き、食べる。これらが食べられるのは主に夕食である。夕方前に火をつけて作り、夕食として食べる。子供たちもこの時期は学校の食堂へは寄らず、足早に家に帰ってこの軽食にありつく。　冬は一年の始まりの季節である。寒い時期であるが、この身を切るような透き通った寒さを好む人も多い。冬は雪が降り、街を白く覆う。雪を楽しみにする子供は多い。冬は一年で一番静かな季節である。みな家に引きこもり、暖かい部屋で内職や趣味を黙々と進める。この静かな雰囲気が好きだという人も多い。暖かい食べ物が美味い季節でもあり、収穫の後ということもあり、一年の中では比較的飽食が許される時期でもある。アルバザード人の少女は少しくらい体重が増えてもいちいち気にしない。

ıμlcelſeeze ［気象］季節風、モンスーン　［レベル］4　1L

ıμlcelᴅeᴅ ［組み数字］アルシエルサークル、四天王、四神、四魔貴族　［レベル］3　Ꭻ1　［文化］　μıdıll

ıμle ［人名］アルシェ。メテの最後の使徒。第１５使徒。　［名詞］団体アルシェ。アルシェという団体。　［名詞］セレンの日本での通り名（10年以降は使っていない）。リディアが英雄アルシェに因んで名付けたセレンの日本での通り名で、1ʔ ɑəl ɑcı 現在、セレンはもはやこの名を名乗っていない。　［シェルト］アルシェ側。必ず先手。　［名詞］先手　［組み数字］１５/１５　［レベル］2　ɿl　ɿılɔ: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。生没年不詳　［文化］　(ɥəəᴅı 9ᗰ99:Δ0Δ1(Δ00L:Δ0Δ1))　ɥəəᴅı 9ᗰ99 ハーネ、息子の ıμle を授かる　メテの最後の使徒。第１５使徒。入った順番でなく、単に最も活躍したことから象徴的な位置に置かれた。ウロ討伐に大いに貢献した英雄で、メテの没後、メテの代わりを務めてソーンと戦うも敗れる。【成句】 μı ſ'ıμle 同じ穴の狢　μı ıμlen 同じ穴のむじな。この場合の μı は動詞。　hııȷ ıμle lc ᴅeſe uɔμſ メテが死んだらアルシェに従え：長い物には巻かれろ、寄らば大樹の陰

ıμleſ ［音楽］軽音楽、軽音、けいおん　［名詞］軽音部→ıμleſȷeᴅȷ　［反意語］ȷɔμneſ　［レベル］5　nɑ;ıμle/ſe。楽団アシェットが源流となったことから。　Ꭻ1

ıμleſȷeᴅȷ ［音楽］軽音部　［レベル］5　Ꭻ1

ıμleſeeze ［名詞］和気藹々　［レベル］4　ᎫᎫ:「アルシェ風な」

ıμleuınɑ ［軍事］先制攻撃、奇襲　［レベル］3　ᎫᎫ　【成句】　ıμleuınɑ μȷcſ uıȷ 先手必勝

ıμlelcl ［化学］ローレンシウム　［レベル］5　1Δ: 制

ıμlelcı ［アトラスの国家］アルシェリア　［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμle　［文化］　面積：L⸮9104.ΔΔ9055 ɿᴅ ┘

ıμlelcın ［植物］ヒヤシンス、風信子、ヒアシンス　［レベル］4　ȷᴅ;ıμlelcı の属格。　Ꭻʔ　［文化］　アルシェリア付近に自生する。ȷᴅ で流入。

ıμle ıſſeeᴅȷ ［人名］アルシェ＝アルテームス　19:ȷeμen:lcɔn: アルテームスは悪魔に立ち向かうという意味　［文化］　召喚省の役人ハイン＝アルテームスの息子。１７２ｃｍ、６５ｋｇ。『紫苑の書』にも登場する。

ıμȷ ［生物］［普通動名詞］遺伝　［動詞］ɥəl を c から ı に遺伝させる、遺伝する　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ıμlı の語源「繋ぐ」から　【用例】　lınſıſc eȷ ıμȷ ı μcɑcı c μȷccl cn. 親の綺麗なところがリディアに遺伝したようだ。

ıμȷ(Ꭻ) ［言語］アルバザード語、現アルバザード語　［レベル］4　Ꭻ1

ıμȷı ［名詞］アーサー、師匠、マスター　［反意語］lccɥə　［レベル］3　19: 制 : ıμȷcclı。神話ではナユが造語した。　:::ȷıc,ıſſ　［語法］　lılın と違い、個人的に指導に当たり、しばしばともに生活を行う者。　［文化］　ナユがユルグにルシーラと言った際、「僕はそんなに偉いものじゃありませんよ」と言われ、「じゃあお師匠さまです」と答えたときに、μȷcclı から造語したもの。

ıμȷɔn ［動詞］ɥəl を ɿɔn（金銭など）で相殺する、ɥəl を ı（貸付内容、借入内容など）と打ち消しあう、相殺する、打ち消しあう、打ち消す、帳消しにする　［普通動名詞］相殺　［数学］約分　［レベル］3　1L:ıμle/ȷɔμn（アルシェとソーンという対立する団体→相殺）【用例】　ın ɑcſ uın ſə lcȷſ, ȷɔn ıμȷɔn le μec ı ſə, μeſ. このラム酒をやるから、こないだのワインを帳消しににしてくれよ。

ıμȷɔnıll ［数学］反数　［レベル］6　1L　［語法］　逆数と区別すること。ſ ɔ ɿ ⩵ 0 においてſを0にするような数ɿを反数といい、この場合ſcɑ ſに等しい。

ıμȷen ［名詞］主人公、主役の男、ヒーロー　［反意語］ıμcı　［レベル］3　1L:ıſȷeμenı。リディアとセレンが互いに「どちらが μɑ の主人公だろうね」と話していたことから。　［語法］　少女マンガに出てくる主役の男の子はヒーローとも呼べずなんというか日本語では困るが、アルカだとこれに当たる。夢織でいうランヴェム。

ıμn ［被服］外套、コート、オーバーコート、ロングコート　［レベル］2　ɿl; ↓　1ʔ: 制 :ıμlencᴅ（アルシェの色＝アルシェ風の）　x:ıμn 【用例】　ın ȷeɑıſ ȷıe cſ ıμn. コートの雪を払った。

ıμnlıȷl ［被服］ドレスシューズ　μſ;/。コートに合わせられたことから。　Ꭻᗰ

ıμnı ［地名］アルナ、幻京、幻京市。幻国の都につき、幻京と訳す。　［レベル］1　zφ;ıμſe/nı「神の御心」　古？ :μcɑcıɤ:ıμbızıμɑ のはず。　［文化］→ȷılıc　●概要　アルバザードの首都（王都）で、最大の都市である。　ɥəəᴅı ⸮ΔᗰϮ に遷都して以来、３０００年以上アルバザードの首都として栄えている。ただし現在の人間の寿命に換算すると千数百年にしか相当しない。そのため、京都などと同程度の古さということになる。　●所在　アルバザード国アルナ県中央部に位置する。　行政上は hıcᴅ であり、市である。　ıμnı という場合、アルナ県の意味とアルナ市の意味の両方の可能性がある。通常は後者を指す。　●広さ　アルナ市の直径は 10ᴅecnᴅelɑc（１２.５ｋｍ）。山手線の南北の長さ——大崎から田端までの間——よりやや短い。街の端から端まで行ったとしても徒歩で２時間強、自転車でおよそ３０分という距離である。　そこまで広くない街なので、移動は主に自転車か徒歩。遠出には車を使う。鉄道は地下鉄が発達している。街中は地価が高いこともあってか地下鉄のみ。地上はバス網が発達している。　市としてはそこまで広くないが、都心の市としては大きい。山手線は縦のほうが横より長い。その縦に匹敵する長さの直径を持つ円形都市なので、東京都２３区の数個分に相当する市である。このように、都心の市としてはむしろ大きいと言える。　●形状　・μɑ 以前　遷都する前からアルナという街は存在した。アルナが生まれたのは zφ である。　もともと東西南北が平地で何にも囲まれていない。平坦な場所にあるということは、どの方向からも侵攻しやすいということを意味する。そこでパリなどと同じく城塞都市へと発展していった。　街を円形に囲む城壁は、人類が空を飛べる時代であっても有効な防御手段であった。というのも、敵兵は重装備をして空から侵入することはできないし、城壁が円形になっていればどこからでも敵を射落としやすいためである。　この城壁はパリと同じく街が発展して人口が増えていくたび、徐々に外側に作り変えられていった。アルナは木の年輪のように、何層にも城壁を持った都市へと進化していった。　現在アルナが円形都市で後述する円形のランティス通りを持っているのも、歴史を考えれば頷けることである。　・μɑ 以降　μɑ でアシェットがヴレヴラント王の命でアデル対策に大きな城壁を作った。このとき既に街の直径は 10000eləı だったが、この城壁の外側に新たに囲いを作ることとなった。　アシェットはメルフィを用い、アルナを直径 10000ᴅelɑc の街とし、円形に城壁を築いた。この城壁を uμeuıſſ という。　また、uμeuıſſ の内部に同心円状に２８本の幹線道路を走らせた。この２８本の道路にはそれぞれ lınſcȷ の名を冠した。　円の中心には王の城があり、その周りには庭園が広がっている。現在のカルテ公園である。　一方、円の中心からは東西南北１２の方位に道を伸ばした。時計に使うアルミヴァの１２神を取って、アルミヴァ通りという。こうして現在まで続くアルナの形が出来上がった。　アルナの住所の番地は駅からでなくこのカルテから数える。つまりカルテに近いところが一丁目となる。　住所は京都と同じで番地でなく通りの名を使う。『紫苑の書』のレインの家の住所はネルメス＝リディア通りである。　●エリア　アルナ市は９つのエリアに分かれている。　２８本あるランティス通りのうち、内側１４本以内の区域を中央アルナと呼ぶ。　それ以外の８区域を北アルナや北東アルナなどと呼んでいる。　言うまでもなく中央アルナが一等地である。
●街区　アルナ市は東西南北それぞれの街区に分かれる。　北区は学校や官公庁などが集まっており、南区は商業地区になっている。西区は集合住宅街で、いわゆる庶民の街。そして東区が一戸建てのある街で、いわゆる高級住宅街である。　西区は庶民の街ではあるが、都心なので極めて地価が高い。そのため家賃は驚くほど高い。『夢織』でアリスが自分は庶民と述べているが、それはアルナ大に通うような特殊な人間から見た基準でしかない。一般人からすればアリスは十分裕福である。　サンベル市とアルナ市の同じ間取りのマンションを比較すると、およそ１.５～２倍程度の家賃の違いがある。特に中央アルナは高い。　もともと μɑ 以前から円形に近い形をしており、街区も東が富裕層で北は官公庁だった。南は商業が活発で、西は庶民の街だった。　ドヤ街は今でいうカルザス～ヴァルゾンまでのソーン区で、現在よりやや西側に位置していた。奴隷地区もここにあった。　色町は高級店がカルザス通りにあり、現インプレンはこのころから存在していた。厳密にいえば ɿl で既に存在していた。　●守護神　守護神はアルデスである。　●道同士の間隔　アルナ市の直径は１２５００ｍ (10000ᴅelɑc) である。
うち、カルテ公園が直径１５００ｍ (1Ꭻ00ᴅelɑc) である。中心からの半径は７５０ｍ (⸮00ᴅelɑc) である。　カルテ外周からリディア通りまでが１８７.５ｍ (1Ϯ0ᴅelɑc) である。外周からリディア通りまでの輪っかが住所上はリディア通りとなる。リディア通りが示す住所はリディア通りとカルテ外周の間の道であり、リディア通りの外側ではない。まして道上ではない。　リディア通りからオヴィ通りの間は１８７.５ｍ (1Ϯ0ᴅelɑc) であり、この輪っかが住所上オヴィ通りとなる。　以下同じようにクミールまで２８回繰り返すと、ランティス通りで 1Ϯ0ᴅelɑc×ᎫΔ⩵ᗰᎫ00ᴅelɑc となる。５２５０ｍである。　クミール通りから uμeuıſſ までの距離が２５０ｍ (Ꭻ00ᴅelɑc) である。　アルナ市の直径は１２５００ｍ (10000ᴅelɑc) なので、半径は６２５０ｍ (Ϯ000ᴅelɑc) である。　このうちカルテの半径が ⸮00、ランティス通りがひとつ 1Ϯ0 で２８本の合計が ᗰᎫ00 で、クミールから uμeuıſſ までが Ꭻ00。　⸮00+ᗰᎫ00+Ꭻ00 ＝ Ϯ000 であり、ちょうどアルナ市の半径に達する。　なお、uμeuıſſ からクミールの間の住所は uμeuıſſ 通りとなる。城壁からクミールまでの輪っかである。　兵士の配備、武器防具の設置、ınsel など魔法工学設備の設置があるため、クミールから uμeuıſſ までの距離はある程度広めに取ってある。　またクミール通り以内には住民が住まうため、前線となる城壁からなるべく距

離を置く必要がある。有事の際でなくとも訓練などで騒音問題などが発生するため、特に住宅街からの距離を取る必要があった。
●道幅→ ɑɔnſ　●歴史　ɥəəɒı ʕΔՈՒ アゼリア、レスティリアからアルナに遷都。レスティリアは封じられ、嘆きの壁という巨大なバリケードで囲われた。感染が酷いものは見捨てられ、嘆きの壁の内側に打ち捨てられ、火が放たれた。レスティリアは廃墟と化した。この「嘆きの焔」事件に対し、国民の怒りがあらわとなり、アゼリアの退陣が叫ばれるようになる

ıµnıſcnı ［ランドマーク］アルナ小学、アルナ学校小等部、アルナ学校幼等部、アルナ幼稚園、アルナ保育園 ［類義語］ʅıµɑcnıl ［レベル］２　JJ

ıµnıʅleeu ［気象］西岸海洋性気候区、Ｃｆｂ ［レベル］４　1L:µcɑcı:ıµbıle lſ

ıµnılelſe ［交通］幻環線 ［ユマナ］山手線 ［レベル］３　JJ:「アルナの衛星」 ［文化］ アルナ県中央部でアルナ市よりは外側を走る地上の環状線。

ıµnınſ ［言語］［文字］幻京書体 ［レベル］２　J1:ıµnı。アルナでできたため。 ［語法］ 書き順はɹのみ夕月と異なる。ıµnınſのɹは上から下に下ろす。アルファベットと同じ形の字はアルファベットと同じ書き順なので安心してよい。

ıµnıuılı ［名詞］中央アルナ病院 ［レベル］４　1L:ɒelcɑcı ılſe ［語法］ 中央アルナ最大の病院。夢織ではアリスが入院している。所在地はフェンゼル通りリュウ通り。医師だったリュウを敬愛してミロクがリュウ通りに置いた。また、人口の多い西区寄りに配置した。フェンゼル通りのエリア内といっても、実際はネブラ通りに面したところにあるので、北区を出てすぐにある。

ıµnıɑıuı ［被服］モーニングドレス ［レベル］５　J1

ıµnıɑcın ［ランドマーク］アルナ中学、アルナ学校中等部 ［類義語］ʅıµɑcnıl ［レベル］２　J1

ıµnıɑeʅʅı ［ランドマーク］アルナ学校 ［類義語］ʅıµɑcnıl ［レベル］２　J0 ［文化］ → leznınſ　セルメルでLLcɒにフェリウス＝クレティスによって建てられた学校。世界最古の学校である。アルバ二世の協力の下なので王立学校である。　µɑで大学部・高等部・中等部・小等部に分かれる。ミロク革命で３４５６制に再編される。このうち６年制の大学部が現在のアルナ大学である。

ıµnıɒını ［ランドマーク］アルナ大学、アルナ学校大学部、アルナ高校、アルナ前期大学 ［類義語］ʅıµɑcnıl ［レベル］２　1L:ɒelcɑcı ılcɹ ［文化］ → ıµnıɑeʅʅı　・概要　アルバザード国における最高峰の大学。日本でいう東大。ならびに、世界一の難関大学でもある。ミロク＝ユティアなど、数々の偉人を輩出している。ユーレ＝アルフィーネなど、天才留学生も多い。所在地は中央アルナ市コノーテ通りメル通り。結果的にアシェットで最も知能の高かったメルを敬愛する形となっている。西門はコノーテ通りに面している。　・制服　ɹɒで制服ができる。1ɾ歳以上が灰のローブで、それ以下が茶のローブ。　ul でセーラー服と詰襟に。　革命でアルティス教のルフィとラーサに。男子は夏が白で冬が黒。女子は通年ピンクか水色（好きなほうを選択。ɥənʅとɒclcıはたいていピンクを選ぶ）。　ʔɾ0年にセーラー服と詰襟が復古。詰襟はスーツに姿を変えて復古した。　女子はセーラー。夏は上が白。冬は上が黒。スカートは通年黒。　襟のラインは３本白。襟は名古屋や関西の切れ長のものでなく、関東に多い短めのもの。　スカーフは黒で、三角タイ。ネクタイ止めは有りで、ここにスカーフを通して垂らす一般的なタイプ。スカーフのほうが上着より黒の度合いが強い。　胸元には校章の四面秋桜（ʅıµɑcnıl ſ'ıµlcel。コスモスの花が東西南北に鏡写しになって絡まっているもの。µɑででき、賢者リディアを象徴する）。　スカートはプリーツ。丈は膝が隠れる程度。歩くとわずかに膝が覗くのがポイント。　ソックスは夏が白で冬が黒。　男子は青みがかったスーツ。ウェストコートはなく、下はワイシャツと肌着のみ。下半身はスラックス。スーツはシングル３つボタンで、一番下はかけない。　ネクタイは青黒がかった灰。ベルトは牛革。ベルトとネクタイに校章。　学年によって色が異なる。　小学生はルフィとラーサのみ。色相は同じで彩度が濃い。　中学生も同様だが、彩度が減る。　高校生になるとまた彩度が減り、前期大学と同じ彩度に。そして高校と前期大学のみセーラーとスーツが適用される。　高校はセーラーとスーツのタイが濃紺。前期大学は上記のとおり。　なお、後期大学と８組に制服は適応されない。　ʔɾ0年の導入の際、反対派は保守派で構成され、保守派は成績上位者に多く、数が少なかった。　新制服は任意だったため、１，７，１４組は結束して新制服を着用しなかった。これが後に慣習となり、これのクラスの人間のみルフィとラーサを着るようになる（セーラーを自主的に着る人もいる）。レインの時代では上位クラスを示す服装がルフィとラーサであり、下位クラスは暗黙の了解で着ないことになっている。　・クラス編成　１学年１～１４組まで。ɑcı_ɹeµの名で呼ぶ。クラスごとに特色がある。１組が最高。７，１４が次いで文理の特進。　９，１３の一芸は落ちこぼれの婉曲な言い方。極端に一教科だけできるが他は何もできない人材にこそ天才の芽があるかもしれないという名目で存在するが、実際には留年予備軍が多い。　心理は日本と異なり理系。医学に入る。
　教育課程はそれぞれのクラスが後期大学から取れる。それぞれの学科のプロフェッショナル教員を養うためのシステム。　１：文理総合特進　２：農学・生物・生命　３：体育　４：経済・経営　５：史学・哲学　６：工学　７：理系特進　８：異能　９：理系一芸　１０：法学・政治　１１：芸術・家政　１２：医学・薬学・心理　１３：文系一芸　１４：文系特進　・王族　基本的に王族（皇族）はɑelclcıへ進学するが、特に勉学に身を入れたいということであればアルナ大へ行くこともある。ただし実力が伴わないと入学できない。女子はアルナ大へ入れる学力があってもエルフィーネやフェリシアを選ぶこともままある。

ıµnıɒının ［名詞］アルナ大生 ［レベル］２　J1

ıµnıɒel ［名詞］Ｍタイム ［反意語］ʅıſeesɒel ［レベル］６　ul;「アルナ式時間」 Jʔ ［文化］ アルバザードはＭタイムを採用している。ただしカテージュなど、南方に行くとＰタイムの地域もある。ただしカテージュでもビジネスはＭタイムで行う。　アルバザード人は時間通りに行動を行うのが美徳とされる。１０分前行動などは短気でよくなく、遅れるのはもってのほかである。　なお、Ｐタイムとは複数のイベントを同時に進行させることを意味するのであり、単に時間にルーズなという意味ではない。結果的にひとつひとつのイベントが時間通りにいかなくなりがちというだけの話である。

ıµnıdɔl ［名詞］アルナ地区 ［レベル］３　1L ［文化］ ıµnı

ıµnıhıcɒ ［地名］アルナ市 ［レベル］２　JJ

ıµnıµıɑcl ［交通］幻京橋駅 ［ランドマーク］幻京橋 ［レベル］５　JJ ［文化］ ファイマン線：ラゾーディン→幻京橋　幻京河に架かる大きな橋。

ıµnılız ［ランドマーク］アルナ高校、アルナ学校高等部 ［類義語］ʅıµɑcnıl ［レベル］２　J1

ıµnıleeɒ ［名詞］アルナ自由市民 ［レベル］５　J1

ıµnıeµʅe ［地名］幻京河 ［レベル］５　JJ

ıµnc ［植物］ウイキョウ、フェンネル ［レベル］３　古

ıµncn ［植物］キャラウェイ、キャラウェー ［レベル］５　1ſ:制 :ıµnc

ıµnɔ ［名詞］セクション、専門集団、企業の部署、専門的な小集団、部 ［レベル］３　ɹɔµn:ıµnɔ(専門的な小集団) ［語法］ しばしば特定の役割や機能を持つ。会社の部署にもあたる。

ıµnɔn ［政治］アルノン ［類義語］lcznɔ ［レベル］３　古 :ıµnɔ ［文化］ アルバ二世がイムル２０年に作った王の６省。外交、経済、事務、開発、召喚、軍務の６省。この下に庁が置かれる。現在でもこのシステムは機能している。

ıµnel ［名詞］アルネット ［レベル］２　J0:ıµzɔn/ſe ［文化］ ɑµecnſ

ıµneı ［化学］陽子 ［レベル］４　古

ıµu ［言語］近アルバザード語 ［レベル］５　J1

ıµuı ［宗教］アルヴァ、聖書、聖典 ［レベル］３　ɹɔµn:ıµuınſ（金言、アルヴァント）。元はアルヴァントの略語に過ぎなかったが、意味が分化して『アルヴァント』や『幻想話集アティーリ』などを指す包括的な語へと変わっていった。 ［文化］ アルティスの聖典。『アルヴァント』・『幻想話集アティーリ』・『アルバシェルト』・『イルムス』の総称。アティーリではここからアルバシェルトを外す。アルバシェルトはリディアが作った文化設定を日本と比較した情報などを加えたものであるため。

ıµuıɹ ［アイテム］アルヴァス ［レベル］４　µcɑcı:古:語源不詳。元はアルヴァスは銃だったが、リディアがやはり銃は嫌いだということで弓に変えたもの。 ［文化］ ヴァストリアのひとつ。アッシュのもつ魔弓。

ıµuınſ ［法律］アルヴァント、月法 ［レベル］４　ɹɔµn:ıµuınſ(金言)。ıµu ınſは「金言」の意味だが、クミールがL年にソーンの聖典の名として用いた。当時のセレンはメルからその企画を聞くと、アルシェ側も対抗心から自らの聖典を作ろうと企画した。そして対決の意思を表わすために、その聖典の名を同じıµuınſにした。制まではアルティス教の「金言集」を意味し、ɒel 10||cɹ|dıl からセレンが編集し始めた。だが実際にほとんど収録されなかったため、死語となっていた。そのため、メル1L年末にアルティス教の経典を表す語に変えられた。
［文化］ アルヴァントはアルティス教徒の過ごし方や心構えについて書かれた法である。ほかの法と比べ、「～してはならない」でなく「～しなければならない」の表現が多い。また、月法のみ、背いた場合はɑcɹでなくʅıhcとなる。　アルヴァントは月法と訳され、アルティス教の経典であり、同時に法典である。ıµuınſはʅılə のひとつである。
　ほかのあらゆる法の中で、アルヴァントは唯一良識による法であり、アルバザード人の心を形成しているものである。憲法よりも優先され、最も重視される法律となっている。敬虔な信者や法学部の学生はたいてい内容を覚えている。

ıµuıcn ［魔物］アルヴァイン（淫蟲）：第九十八天：害の風天 ［レベル］５　1L:µcɑcı/ɹeµen/ɒel:ıµ/uıcn ［文化］ 意思を持ったウィルス。眼に見ることは不可能で、ヒトにのみ感染する。感染経路はＨＩＶウィルスと同じで、血液、母乳、精液、膣分泌液、唾液などを介して移る。ＨＩＶよりも遙かに感染力が強く、唾液でも十分感染する。アルヴァインはヒトの体内に入るとバオナの魔法を使い、異常性欲を引き起こし、その人間に別の人間を襲わせる。セックスを介してどんどん別の人間の中へ入っていく。キスだけでも感染する。感染してから一週間するとバオナは収まるが急激にウィルスが増え、犠牲者は体をかきむしって死ぬ。当然出血するため、死後その血を媒介して他人に感染することもある恐ろしい魔物。

ıµuıcl ［医療］エイズ ［レベル］４　1L:µɥəə:ıµuıcn/leun

ıµucnı ［魔法］［名詞］アルヴィナ、ヴィード学、ヴィード論、ヴィード理論、広義の魔法理論 ［類義語］ɑɔlɒcµ ［レベル］４　古 :ıµſe/uccɑ/nı ［文化］
　ɑɔlɒcɥə 【成句】 ıµucnı ı(len) ɑµecn 戦士に魔法理論：馬の耳に念仏、猫に小判、豚に真珠

ıµucɒ ［生物］腱。骨と筋肉を繋ぐ筋 ［レベル］４　1ſ:制 :ıµʅucɒe から

ıµucɒɑıcz ［医療］腱鞘炎 ［レベル］５　1L:日本語では腱鞘炎だが、アルカでは腱炎

ıµucɒlɔɑ ［生物］腱鞘 ［レベル］５　1L

ıµucs ［、［記号、アルヴィジュ ［レベル］３　J1:ıµs/ucs（人差し指と親指を使って［ ］の形を作ることから）

ıµuclɹ ［化学］グリシン ［レベル］６　1L

ıµuel ［地名］アルヴェット ［レベル］５　J0:ıµuel ← ıµſ/ucuc/ſe「魔力を帯びた土地」 ［文化］ リュディアの小都市。現在はテージュ海に沈んでおり、ファルファニアの領海となっている。

ıµuelle ［宗教］［地名］アルヴェッテ ［レベル］５　J0:「リュディア国の小都市ıµuelのような」。グラナダをモチーフにアメリカにニューグラ

ナダを置くような命名感覚。ニューアムステルダムなども同様。 ［文化］ アルカンス西南部の小都市。アルテ教やアルティス教が興った場所でもある。 ［成句］ ɔlɪ ɸɪɪʃɔ, ʎɪɲɪn lənɪ ɪɲuɛɾʃɛ それでも信者はアルヴェッテに来る：いわしの頭も信心から

ɪɲuɛlʃ ［魔物］アルヴェット（魔鴉）：第三天：闇の幻天 ［レベル］5
1L:ɲcɑɕɪ/jɛɲɛn/bɛl:ɪɲʃ/uɛɒ/ləʃɔ ［文化］ 鳥族。巨大な鴉で、鋭い嘴で眼を突いてくる。翼をはためかせると羽が刃となって降り注ぐ。また、闇の魔法を使う。死んだ人間の頭がい骨を足に挟んでいる。

ɪɲuɛlʃhɔ ［天文］エルライ 1L:ɲcɑɕɪ/jɛɲɛn/bɛl ［文化］ アルヴェクトが脚に挟んだ頭蓋骨。

ɪɲuɛɲɕɪ ［宗教］アルテ教会 ［レベル］5 J0:ɪɲuɛɛɾɛ/ɲɪ/lɕɪ（アルヴェーテの家の）［文化］ ɥəəɒɪ ᴍ1ᴘ| リデルはアルテ教会をアルヴェッテに設立し、商工会から独立させる。これは神商会および国王から商工会が睨まれていたことに対する方策であり、実態は商工会の人間で上層部が占められた。

ɪɲuɛɛɾɛ ［宗教］アルテ教、アルテ信仰、アルヴェーテ ［レベル］5
J0: ルカリアの小都市アルヴェッテから ［文化］ アトラスで最初に起こった宗教。アトラスにはサルトという確固たる神がいたため、地球と異なり架空の神を信仰するということがなかった。　また、ユーマの一族自体神から分派したもので、神代は地球の人類より強力で、自然に対する畏敬の念も弱く、信仰を生む土壌になかった。　さらに彼らは神を通じて自分たちの世界の歴史を知っていたため、むやみに架空の神を創造することがなかった。　ユーマの一族にとって神とはサルトやデームのことであり、なまじ実在するので信仰というよりは畏怖に近い存在であった。　しかしラヴァスが終わると事態が徐々に変わってきた。　まず、信仰対象の神がアトラスを去ってしまったため、神と接するのは貿易商人（後の召喚士）ばかりで、市井の人間からはますます遠い存在になってしまった。　ラヴァスのころは度重なる神々の激しい交戦を間近で見てきたので、神の存在を疑う余地はなかった。　しかしそれさえなくなってしまえば市井の人間にとっては神の存在は疑わしい。　ともなれば当然神の存在を疑うものが出てくる。しかし、それだけでは架空の神を創造するには至らなかった。　ɥəəɒɪ ᴍ000 にヴェルディアン帝国が崩壊すると、シフェランの後継者争いが起こった。　シフェランが各属国に置いた王らは覇権を争った。彼らはいずれも高名な魔導師であり、召喚士ではない。　王はこのころ貿易により経済力を付けていた。貿易には神人貿易と人人貿易がある。　神の人口は当時の人類の半分しかいなかったものの、圧倒的に神人貿易のほうが利益を生んでいた。　神人貿易はサリュを通して輸出を行うため、輸送コストがかからない。　輸送距離が短いため、途中で落としたり壊したり濡らしたり盗まれたりといったリスクも少ない。　また、商品の腐敗も回避できるため、生鮮品や穀物のやり取りもロスが少なくできる。　さらに神は金払いのよい上客だったため、王らにとって神人貿易は特に重要だった。　貿易商の立場に立つと、当然神人貿易に参画したい。　しかし利益が良いということは倍率が高く、王が保護しているということは、高官主導で寡占状態になっていることが容易に想像付く。　すると当然神人貿易にあぶれて人人貿易に落ち着いた商人が現れる。　これらは王による手厚い保護を受けられなかったため、自治のため互いに協力してユニオンを作る。これが「商工会」である。　一見落ちこぼれの集まりのようだが、商工会を立ち上げた lcɑel という人物は非常に有能で、高官になるチャンスがあった。　lcɑel は有能な時魔導師で、商工会を立ち上げたときには確固たる自信があった。　その根拠が自身が開発した時魔動機 ɒelɑɔɥɪ である。　さて、ɒelɑɔɥɪ の前に宗教について説明しよう。　lcɑel は商工会の人間の多くが神に少なからず不満を持っていることに注目した。　彼らは神の加護を得られなかったため、神に対して良い印象を抱いていなかった。　ɥəəɒɪ ᴍ000 を過ぎたころは個々の人類の力は ᴍ000 年前より弱まっており、自然に畏怖を感じる程度に落ち込んでいた。　また、特に商工会のあったルカリアの人の一部は貿易に依存する神々を神とはみなさず、「有力な部族のひとつ」くらいにしか考えていなかった。　そのため、彼らは「本当は自然を制御し、自分達を作り上げた唯一の創造主がいるのではないか」と考えるようになっていった。　神人貿易商の腐敗を目にしていた lcɑel もまたその考えに強く共感していた。　彼のその気持ちを参謀の ɔddel は利用できると考え、「原始の神 ɪɲʃe は elʃ と ɲɪl に分化したのではなく、彼らを生んだのだ。万物の母 ɪɲʃe は我々の祖先であり、唯一神である」と lcɑel に唱えさせた。　ɔddel は参謀として lcɑel に自分の気持ちを気付かせた。これを以って産婆法が生まれる。　ɥəəɒɪ ᴍ10J のことである。これをアルテ信仰といい、アルテ教ともいう。商工会がアルヴェッテにあったことから、アルヴェーテと呼ばれるようになった。　当初 lcɑel はアルテ教を商工会の結束力を高めるための手段として用いた。これはある程度成功を収めた。　次に lcɑel は庶民に目を付けた。貿易品の原材料は庶民が作る。しかし神人貿易商のほうが優遇税制を取られているので、人人貿易商より原材料の購買力がある。　結果、人人貿易商は原材料を高値で買ったり、粗悪な売れ残りを買う羽目になる。　そこで lcɑel は庶民から余剰品が出た年に、その商品を捨て値の破格で買い取ることにした。　豊作の年は神人貿易でも売れ残りが出る。その売れ残りは値崩れを防ぐために廃棄するしかないが、市場に流出させないと約束して lcɑel が破格で買い取った。　lcɑel は石を切り、ピラミッド状に積み上げた。こうすると中に空間ができる。この中の部屋の天井に穴の空いた真鍮の小さな円盤をいくつも連ねて紐飾りのようにして吊るしておく。　外からこのピラミッドに時魔法 ɒelɑɔɕ をかけると、紐飾りの下に置かれた物質は時間の流れが止まる。真鍮の時を操る効果を最大限に引き出したものである。　この装置を ɒelɑɔɥɪ といい、ɥəəɒɪ ᴍ1ᴘ| に運用が開始された。　時を止めておけば余剰品の生鮮品や穀物は腐敗することなく、次回の凶作のとき高値で捌くことができる。　農民は廃棄せずにすむので非常に助かる。
噂を聞きつけた農民が余剰品の買取を希望した際、lcɑel はその買取をアルテ神の救済と称した。　無学な農民らは救済と引き換えに改宗し、こうして lcɑel は人人貿易で利益を上げると同時にアルテ教というひとつの分かりやすい思想を利用し、商工会だけでなく庶民までもを抱きこんだ。　当時の社会はまだ不安定で貧しく、経済がまだ巧く機能していないため、豊作はときに災害となった。　アルテ教は救済の教えとして、当初の予定を覆す勢いでアルカット全土に広まっていった。　その広まりは貿易商＝宣教師だったころから貿易ルート沿いにあり、布教の速度は急速であった。　商工会と異なり市井の信者はむしろ純朴で、純粋に神を慕って信仰するものも多くいた。　このような人間がかえって後の迫害では進んで殉教し、悲惨な最期を遂げることとなった。　この状況について面白くないのは当然神及びその賛同者の神人貿易商である。　ɥəəɒɪ ᴍ1ᴘ9 に、lcɑel に対抗して神人貿易商の名士 cɸɲɪʃ が神商会を設立。　王は対外政策の一環で神の軍事力を必要としていたので、継続して神商会を擁護した。　しかしその動きをあざ笑うかのようにアルテ教は広まっていく。

ɪɲɑ ［言語］中アルバザード語 ［レベル］5 J1

ɪɲɑɸɛn ［魔法］魔法戦士 ［レベル］4 1L:ɲcɑɕɪ:ɪɲʃ/ɑɸɛcn ［文化］ 魔法遣と戦士の両方の特徴を持ったもの。長所は剣も魔法も使えること。短所はどちらの腕も中途半端になること。一人旅では魔法戦士が優位だが、パーティを組む場合はそれぞれの専門家を集めたほうが良いというのが定石。

ɪɲɑɪ ［名詞］呪符、絵馬 ［政治］政策 ［文字］ディスプレイ、ディスプレイタイプ。広告や符などに用いた。 ［ユマナ|娯楽］ポム、自機スペルカード ［レベル］4 古 :ɪɲɑɪ ← ɪɲʃɑə（魔法の符）［文化］ 魔導師が使う魔力の込められた符や、それに類するもの。大抵は紙製で、字が書かれている。魔導師は込められた力を開放させることによって、符に込められた魔法を発動させる。また、単に祈りの符としてお守り代わりにされることもある。　魔法の札に使う紙で政策を記したおふれを作ったことから、政策も ɪɲɑɪ という。

ɪɲɑɪcl ［軍事］水素爆弾、水爆 ［レベル］5 1L

ɪɲɑc ［地名］アルフィ。神の世界 ［レベル］2 1ᴘ: 制：神々の世界 ［文化］
カコが終わり、エルトとサールは戦乱の地であるアトラスを去り、自分たちの世界であるアルフィを作った。　作るといっても土地が必要なので、アトラスから土地を取り、それを異次元に送ってアトラスから隔離するという方法だった。　その土地として選ばれたのはセルヴァートのミナカルモ。セルハノイの北、セルアの南にある。
エルトはセルハノイの北、サールはセルアの南から、それぞれ土地を取り、異次元に送った。面積はどちらもアシェルフィ程度である。入り口はセルハノイとセルアにある。　現在ミナカルモのその部分は霧に包まれており、近づくと地面でなく湖になっているように見える。だが湖に入ろうとするとなぜか対岸に出てしまう。これは時空が歪んでいるため。　互いにミナカルモに国を作ったため、ミナカルモの中央に境界線があり、不可侵となっている。だが ɸɑ の後、境界線は外された。　アルフィはアトラスの土地であるため、あくまでアトラスの存在する次元から見て少し軸のずれた次元に存在しているだけである。　人間や動物は勝手に入れないものの、完全にアトラスと分離してはいない。あくまでアトラスの土地なので、完全に分離することはできない。　そのため、アルフィとアトラスの間には「次元の糸」というのが何本も通っており、これでかろうじて繋がっている。「次元の糸」は、ピザの一切れを持ち上げたときのチーズとか、シールを剥がしたときの糊の糸みたいなものを想像すればよい。　次元の糸はアレットの数だけある。アレットには現在カルテンがある。よってカルテンはアルフィのどこかと繋がっている。それは例えばアルデスの家に通じているかもしれない。　アルフィを作る際、裏切りを防ぐために神々は互いの国にデスパをかけることで合意した。悪魔に放ったものとは異なり、人でなく土地にかけた。　だがアルフィは次元の糸で繋ぐ必要があるため、悪魔にかけたデスパほど天網恢恢ではなかった。そのため、メルテナでは召喚士が生まれることとなる。

ɪɲɑcɪn ［魔法］アルフィアン、幻術、精霊術 ［レベル］4 1L:ɲcɑɕɪ:ɪɲʃ/ɑcɪn（魔法遣の女の子）［文化］ アルトの一種。精霊族の使う独特の魔法体系。幻を見せたり、迷わせたり操ったりというものが多い。また、回復系統の魔法もあり、死者を一時的に呼び戻す奥義もある。

ɪɲɑcɪnſ ［魔法］幻術師 ［レベル］4 1L:ɲcɑɕɪ

ɪɲɒ ［電算］電子ペーパー ［レベル］3 1Δ:jɛɲɛn:ɪɲʃɒɪɲ から。今後主流となるディスプレイと見込んで語形を詰めた。リディア創造のアンセもこれとホログラム技術を併用しているはず。 ［文化］ ɪnjɛ, lɛczɛn
電子ペーパーだけでなくｍｉｒａｓｏｌのような仕組みの異なる、オフしても消えない反射型ディスプレイ全般を指す。

ɪɲɒɪ ［魔法］輝晄、きこう、アルマ ［レベル］2 ɑ;e 古 ɪɲɒɪ:ɪɲɒɪ:lə
ɪɲɒɪ ［文化］ enuelen ユノ、ヴィル、ノアの３つのトリニティとしての概念。ヴィードにおける最強のエネルギーであり、操れる者は滅多にいない。アルマはすべての点においてユノ・ヴィル・ノアより大きな能力を持っている。アルマスト派は特にアルマを万物の根源とみなし、すべてをアルマに帰結させようという思想を持っている。他の派閥はそこまでアルマに重きを置いていないが、それでもアルマを最高のエネルギーと考えている点は変わらない。アルマは強力だが、合成が難しいので絶対量は少ない。 |約 1ᴘ9 億年前|エネルギーの一種である ɪɲɒɪ が発生し、ɪɲɒɪ の位置する空間が生まれる。すみやかに ɪɲɒɪɲ（ビッグバン）が起こる（最初期宇宙）| ［成句］ ɥənɔ, ɥɔɥ, nɔɪ lɪɑ ɪɲɒɪ 三位一体

ɪɲɒɪſcj アルマスト派信者、アルマ信者 ［レベル］2 J0:ɪɲɒɪɲʃ/lɪnſcj

ɪɲɒɪſcɪ ［アトラスの国家］アルマティア ［レベル］5 1L:ɲcɑɕɪ:ɪnſɒɪ

ɪɲɒɪɲ ［天文］ビッグバン、ビックバン ［レベル］4 ul;ɪɲɒɪ/jɔ 当時はビッグバンはアルマによるものと思われていたため 古:ɪɲɒɪɲ ← ɪɲɒɪ/jɔ（アルマする）はじめにアルマがあり、そこから世界ができた。

ɪɲɒɪɲʃ アルマスト派 ［レベル］2 古 ［文化］ アルティス教の派閥の１つ。ヴィードのアルマを至上の存在とし、それを得ることによって救われようとする一派。

ıµᴅıȷʃocʃ　アルマ信者の挨拶　［レベル］３　1ⅆ: 制 : アルマ信者の挨拶　［文化］　アルマスト派は独特な挨拶を持っている。右手を手刀のように胸の前に持ってくる。親指の横が胸の方向を向き、小指の横が相手を向く。この状態で左手の５本の指で右手の親指以外の指を逆手で包む。順手ではやりにくいので、逆手で行う。この挨拶は相手がアルマスト派か尋ねるものであると同時に同一派閥同士の挨拶になっている。これに対してアルマスト派でないことを示すには、先ほどの左手を逆手でなく順手にすれば良い。そうすることによって自分がアルマスト派でないことを礼儀正しく伝えることができる。

ıµᴅıɑlcʃ　［魔法］輝水晶、アルマフリート　［アクセント］ıµᴅıɑlɛʃ　［レベル］６　ȷᴅ;ıµᴅı/cɑlcʃ　ȷ1　［文化］　cɑlcʃ

ıµᴅıµɔn　［魔法］アルマ圧　［レベル］６　ȷ1　［文化］　ɑɔlᴅcɥə

ıµᴅıl　［電算］記憶装置、記録媒体、メモリ、メモリの総称　［レベル］３　1L

ıµᴅılccl　アルマ粒　ıµɑ;/　［レベル］６　ȷ1

ıµᴅıleʃ　［魔法］アルマレット、東洋魔法　［レベル］３　1L:ıµʃ/ᴅıleʃ　［文化］　マレットの一族の魔法。東洋魔法。パールの使うディシェント、ファーヴァやレレゾナの使う魔法陣のアゼルに分かれる。

ıµᴅıleʃın　［魔法］［ジョブ］東洋魔導師　［レベル］３　1L:µcɑcı

ıµᴅıııʃɔ　アルマート　［レベル］２　古 :「アルマの匂い」が原義　［文化］　アルマ信者が焚くお香のこと。ルヴァンをするときなどに焚く。独特の匂いがするので、鼻の良い者は服についた匂いからすぐアルマ信者だと分かる。

ıµᴅıcn　［魔法］不老不死、不老長寿　［レベル］３　ȷȷ:「神の体」

ıµᴅcuı　［エルト］［サール］アルミヴァの十二神　［名詞］干支　［組み数字］１２　［レベル］２　古 :ıµᴅcuı ← ıµʃe/ᴅcuı。原義は「神の子」。ᴅıµʃe と原義は同じ。但し ıµᴅcuı の神はエルトとサールだけを意味する。　［文化］　エルトとサールの破片から生まれた十二人の神。六人ずつに分かれる。時間や十二方位に彼らの名か略称が使われる。十二時から順にコノーテ、セイネルス、ティーテル、ポエン、ネルメス、クレーヴェル、カルザス、ヴァルファント、ヴァルゾン、ティクノ、フェンゼル、ネブラである。　エルトとサールは互いにいがみ合いながらも数を増やしていく。こうして神の二大派閥がアトラスで形成されていく。こうして一派はエルトと呼ばれ、もう一派はサールと呼ばれ、両者の神々はまとめてアルデと呼ばれるようになった。　＜誕生の経緯＞　サールの死後、四散したサールの体の欠片が独立したセレスを持ちだした。サールの頭は竜王ティクノになり、右手はライオン・鷹・大蛇を混ぜたキメラのヴァルゾンになり、左手は獣王ポエンになり、右足は黒豹に姿を変える残酷王フェンゼルに、左足は駿馬ネルメスに、残った胴体は剣を帯びた幼女の姿をしたティーテルになった。　サールが大穴に身を投げた頃、エルトはサールを許し、サールを探してセルヴァートにいった。しかしそのとき既にサールは死んでいた。間に合わなかったエルトは絶望すると、セルヴァートに高い塔を建て、その頂上で死んだ。　エルトが死んで暫くすると、ヴァルゾンが塔の上でエルトの死体を食いちぎった。四散したエルトの体は独立したセレスを持つと、頭は剣士ヴァルファントになり、右手は生きた神剣セイネルス、左手は悪心カルザスに、右足は太陽神クレーヴェルに、左足は善心コノーテに、そして胴体は少年ネブラになった　二人から生まれた新たなセレスは互いに相反する力が原因で、対立しはじめるようになった。だが彼らは数が少ないため、互いに交わり子を作っていった。こうして新たなセレスが増殖していった。しかし、時を重ねるごとにサールの血が濃いものとエルトの血が濃いものとの間に目覚しい対立が起こっていった。サール側に属するものは自らをサールの一族と呼び、エルトのそれは同じくエルトの一族を称した。神々は霊界の様々なものを支配していった。植物や物質のみならず、この世に生まれた様々な動物までをも支配していった。

ıµᴅcuılelʃɔ　［娯楽］チェッカー　［レベル］６　1ʕ: 制

ıµᴅcuıᴅeᴅ　［組み数字］アルミヴァサークル　［レベル］２　ȷ1　［文化］　µıdıll

ıµᴅcuıɑeȷdel　アルミヴァ結界。１２個の結晶を使う。　［レベル］５　1Δ

ıµᴅcuıµeφıΠınʃ　［音楽］アルミヴァの覚え歌　［レベル］２　ȷȷ　［文化］　制アルカ時代に作られたアルミヴァと方位の覚え歌。ȷȷ年に作り直された。　・歌詞　ɥəə lɔnɔɔʃe lɔn lcıµ　lɔ ȷecnelȷ ȷec ılʃc–lcıµ　ʃı ʃc cʃel ʃel lcıµ–ılʃc　uc dɔen den ılʃc　uıl neµᴅeȷ ᴅeȷ ɑleə–ılʃc　lcn lleeuel leu ılʃc–ɑleə　lcȷ lılzıȷ lıl ɑleə　nɔl uıµɑınʃ ɑın ılȷ–ɑleə　ʃen uıµzɔn uız ɑleə–ılȷ　lɔȷ ʃclnɔ ʃcl ılȷ　ɔn ɑenzel ɑez lcıµ–ılȷ　ɔnlɔ nebµı neb ılȷ–lcıµ　ıl ıµᴅcuı

ıµᴅcuıµecn　［交通］アルミヴァ線　［レベル］３　ȷȷ　［文化］　アルナ市を走る地下鉄。１２本の線から成る。uµeuılʃ ～カルテの間を往来する。

ıµᴅe　［生物］染色体、クロムサム　［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :ıµɔʃʃᴅelc　［語法］　一般には性染色体も含む。また、性染色体の場合、Ｘは ɔᴅc、Ｙは zɔᴅ という。どちらも古アルカの字形から。

ıµᴅeʃcı　アルメティア、列強三国　［レベル］３　ȷ0:ıµbızıµɑ/ᴅeʃcɔ/ləʃcı　［文化］　・概要　nɑ から革命まではアルバザード・ルティア・メティオの三列強の総称。　革命後は二度に渡る世界大戦でメティオは疲弊し、代わってアルティアが台頭した。名は ıµᴅeʃcı だが、実質そこに含まれるのはメティオでなくアルティアである。　・詳細　アルバザードは古代はレスティルといい、ケートイアなどを含む地方であった。レスティルはアルテムで神が住んでいたため、世界の中心であった。その後東西戦争アズゲルの西の指導者シフェランがヴェルディア人で、ヴェルディア人の出身がレスティルだったこともあり、レスティルは世界の中心になり続けた。　一方、東の陣営ではマレットの一族を率いるマレティスがシージア人で、シレジアの出身だったため、東ではシレジアが世界の中心となった。シレジアは後にアズゲル末期にリーゼルとルティアに分かれる。このうちルティアが東の世界の中心だった。　また、メティオについては当時はメディアンといい、メディアンは魔方などを含んだ大きな国であった。特に世界の中心ということはなかったが、ɥəəᴅı ʔɬΔʕ にバルマージュが開通して魔物被害が増えだしたころから事情が変わる。バルマーユ人は逆境を逆手に取って魔物を飼いならし、魔物を操って戦う人間を育成することに成功した。ɥəəᴅı ʔʕlȷ にはシフェランがバルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成し、シフェランはこの竜騎兵を得たおかげで東方遠征に成功する。これによりメディアンは隆盛し、現在の魔方やメティオが中央アルカットの中心となっていった。　このようにして現在まで続く列強の礎ができていったが、三国はいずれも得意とする分野が異なっていた。メティオは多種多様な魔獣兵からなる強大な軍事力を武器としており、純粋な武力では最強であった。一方ルティアはアズゲルでマレットやシフェルの民に代わる代わる蹂躙されてきた土地で、ましてそれが魔法をぶつけあう戦争期間だったものだから、世界中の魔法がこの土地に集まった。ルティアにはこの世のあらゆる魔法が持ち込まれたため、ルティアは魔法の国としての地位を築いた。一方アルバザードは攻め込まれたことが少なく、文化の混ざり具合もルティアほどではなく、魔獣兵のような軍事力もなかった。つまり魔法も軍事も突出していたわけではなかった。単にかつて神々がレスティルで暮らしていてその恩恵をルカリア貿易などでも維持できていたにすぎず、ほぼ地理的な幸運に恵まれて経済的に強かっただけの国といえる。魔法も武力もそこそこのバランスタイプだったが、それでも列強になれたのは経済的な強さが一番の原因であった。　そんなアルバザードは自国に強みのないことを気にしていたため、アルバー世の学校設立やルシフェル魔法学校やラグナロク工科大学やミスティア錬金術舎に見られるように、自国の強みとして「研究」を打ち出すようになっていった。　こういった研究は技術力を向上させ、アルバザードの歴史を決定的に変えた。結果的にアルバザードは技術力、特に魔法工学で先端を行くようになり、この魔法工学によって魔法や魔獣兵を凌駕する軍事力を得、経済力と合わせて名実ともに最強の国へ成長していった。　ルティアはなまじ魔法そのものの技術力が高かったせいで、かえって学問としての魔法学は遅れ、魔導師各人の技能や経験に頼るところが多い職人堅気な気質であった。そのため個々の魔導師の能力は極めて高く、実戦的であった。　アルバザードはその傍らで魔法を学問として研究した。デスクワークなので個々の魔導師の力はルティア人に及ばなかったものの、結果的にはこれが魔法工学などに導き、軍事力の向上へと繋がった。　とはいえルティアも列強であるからにはやはり技術力の進歩には目をつけており、アルバザードの技術力には惧れと羨望を抱いていた。セルメルになるとアルバザードに追随する形でシグナリオ工科大学やイスフィリア錬金術舎を建てて、学問に励んでいる。セルメル以降はむしろルティアのほうがよく勉強をする国だというイメージを持たれている。　しかしルティア人とアルバザード人には決定的な国民性の違いがあり、技術力はセルメル以降もアルバザードが先端を行くことになる。アルバザード人は勉強したことを応用して技術力を向上させ、新しいことをどんどんやろうという国民性で、チャレンジ精神が旺盛である。間違いを恥と感じず、たとえ感じても気にせず突き進む性質を持っている。　一方ルティア人は学校を建設した際宮廷が学校を管理したことから、学問は貴族の教養という位置づけにあった。技術力の向上はもちろん望むけれども、それは建前で、実際のところは貴族同士の意地の張り合い、プライドのぶつけ合いといったところが大きかった。学問はむしろ教養として学ばれ、間違えれば恥、知らなければ恥という価値観になっていった。さらにルティア人のひかえめで大人しい性格もあって、ルティアでは学問は教養の地位を築いた。その上ルティアは伝統的な国で新しいことをなかなか始めないため、学問を活かして新技術をという風潮にはなかなかならず、「アルバザードがもうあんなに発展したのにまだウチはこれこれもできていないのか！」と識者や官僚が「成功した前例」を掲げることで、ようやく変化が認められる国であった。　この傾向はその後も続き、現代に至る。ルティア人にとって学問はアルバザード人が試行錯誤して作り上げた内容を翻訳して学び、教養として蓄えることだという暗黙のスタンスが確立していた。　その一方で、どんどん次へ次へと進んでひとつの技術を至高まで高めないアルバザード人の代わりに、ルティア人はその輸入した技術を極限まで高めるという性質を持っていた。そのため、アルバザードで開発され、ルティアで高められてアルバザードに再輸入されるというパターンは多い。　アルバザード人にとって勉強は研究で、応用するためのもの、使うためのものという位置づけである。そのため、しばしばアルバザード人は自分の興味のあることしか取り組まず、知識も断片的であることが多い。一方ルティア人は教科書に載っていることをすべて暗記せんばかりの勢いで勉強に励むため、入学試験や期末試験ではしばしばルティア人の学生のほうが高い点を取る。その一部がアルバザードに留学してくるため、アルバザード人にとってルティア人は頭の良い人々だという印象がある。　ナディア以降は三国は軍事力と経済力を背景に植民化を開始。これによりさらに力を付ける。　世界大戦以降、メティオはアルティアに ıµᴅeʃcı の地位を譲る。　ミロク革命では独裁者ミロクの強力な力により、三国の中でアルバザードは突出した地位を得るようになる。結果、現代では三列強といってもその間にはレベルの差があり、アルバザードが最も強い国である。次いでルティアとアルティアが来る。　メティオが列強を外れたのは µɑ で魔物が消えたのと、世界大戦で連合国に回ったためである。ルティアが下がったのは µɑ 以降魔法が消え、しかもルティア独特の伝統を重んじる閉鎖的な考え方で発展が遅れたためである。　【成句】　ıµᴅeʃcı e nıɑcı　群雄割拠

ıµᴅeꞁcʃ　［生物］テロメア、末端小粒　［レベル］６　ul;/「染色体の末端」　ȷʔ

ıµɑ　［言語］古アルバザード語　［レベル］５　ȷ1

ıµɑı　［アトラスの国家］アルダ　［レベル］４　古 :ıµɑı ← ıµɑə/lı。原義は「湖の場所」。ıµɑı は元はフィンランドだったが、それだと神の ıµɑcn が地球出身になってしまう。それで ıµɑı は ıʃɔlıȷ の地名として独立させた。　［文化］　面積：ⅆȷʕʕɬL.ɬΔ٩Δ0٩ lᴅ」

ıµɑıʃ　［地球の国名］フィンランド　［レベル］５　1٩: 制 :ıµɑcn

ıµɑıl͡ıl ［アイテム］ファルシオン µɑ;/。アルダで作られたことから。 ȷ͡ᥒ

ıµɑınını ［医療］くる病 ［レベル］6 1L:µcɑcı ［文化］ µɑ で、アルダの赤ん坊に多く見られたのでこの名が付いた。

ıµɑızɔnı ［音楽］シロフォン ［レベル］4 ȷ1

ıµɑcȷ ［地学］アンダルサイト 1L: アルデスの宝石 ［文化］ アルデスの宝石で、サールを召喚しやすくなる。

ıµɑcȷʃ ［名詞］王子、プリンス ［類義語］ᴅcleµ、ʅɔhıʅə ［反意語］leʃcı ［レベル］2 ɾlu;ıµɑeȷ.ʅ 古 :µcɑcı:ıµɑeȷ のアプラウトしたものだが、それだけだと聞き間違えると思ったので ʃ をつけたもの。 ıµɑcȷʃ:ıµɑcȷʃ ［語法］ 王の息子。通常王位継承権１位を指す。

ıµɑcn ［サール］アーディン ［植物］鈴蘭 ［花言葉］裏切り ［名詞］婚約者（女） ［名詞］マリッジブルー ［レベル］3 古 :µcɑcı ［文化］ 鈴蘭を司るサールの女性。サールのラマンから婚約を申し込まれて受け入れた際に、ラマンから魔輪アルマディオを婚約指輪として貰った。ラマンは「この指輪に私への愛を込め、それから指にはめなさい。ゆめゆめ外してはなりませんよ。愛が逃げてしまいますから」と警告した。ところが結婚を目前に控え、突如マリッジブルーを感じたアーディンはラマンを裏切ってサール・ミンクに惹かれてしまう。アーディンはミンクが逃げないように婚約指輪を外して婚約済みでないふりをした。しかしこれによって愛の力でアルマディオに封印されていた悪魔アルマが復活してしまう。サールの王アルデスは怒り、アーディンの眷属である鈴蘭に毒を与え、毒の花として追いやった。ラマンも悲しみ、裏切り者アーディンを捨てた。アーディンは自分を呪って人目の付かない山の高いところに隠棲した。それで鈴蘭は高知に咲き、その花は身を隠すように葉が大きいのである。 ユティア家の家紋は逆さ鈴蘭。

ıµɑcn ɥədcʃɔl ［人名］アーディン＝ユピトール 1٩ ［文化］『紫苑の書』の登場人物。召喚省の役人。

ıµɑclcʅ ［魔物］アルディリック（巨菌）：第五天：闇の巨天 ［レベル］5 1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:ıµɑcȷʃ/lccʅ ［文化］ 蟲族。巨大化した細菌。倒すのは容易だが、細菌をまき散らすので安易に倒してはいけない。完全に密閉された空間や人里離れたところで倒すのが肝要。戦闘中に触れたり息を吸うのはもちろん、風に乗ってくる菌にも触れないよう、常にユノを燃やし続けて戦うこと。

ıµɑcı ［名詞］アルディア、神の夢 ［レベル］4 制 【用例】 ʃıɑ ıµɑcı hɔʃ φıµʃ cl. 全てを犠牲にして神の夢を手に入れる。 ［語法］［文化］ → ɔlʃ eʃ, ȷelʃeʃ

ıµɑcınəȷ ［歳時記］小満 ［名詞］８時 ［組み数字］８／２４ ［レベル］3 ȷ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ıµɑcıl ［地名］アルディアル ᴅelʃcı L↑ ȷen ucı:lȷɑ;ıµ（神）/ɑcı（土地）/ıl（もの）。「神のもの」 ［レベル］4 ȷ0:µcɑcı:ıµ（神）/ɑcı（土地）/ıl（もの）。「神のもの」 ［文化］ 古代国家のひとつ。ルカリアの東。 神が支配したという意味でなく、神懸かった土地と褒め称えたものにすぎない。不毛な土地なのでせめて名前だけよいものにしたという古代人の心理。

ıµɑeȷ ［サール］アルデス。サールの王 ［魔法］召喚魔法アルデス。キルセレスを使った居合いの一撃、闇の魔法などを浴びせる。 ［レベル］2 ᴅʃ100'Δ000(uȷ):dɔen; µcɑcı: 古 ［文化］ ティクノとポエンの息子。闇を支配する。ダルケスのセレスを得たことによりサールの王となる。黒髪で長くも短くもない男の髪で中肉中背の美青年。剣を帯び、間接部や肩部などに軽く魔法を込めたアーマーを身に付けている。背中にはマントを付けている。白黄混血で力強い男の顔立ちであるものの、全体としては整った美しい顔立ちをしている。情に厚く真面目で、ティクノに似ている。

ıµɑeȷhɔ ［生物］脛骨 ［レベル］5 ȷȷ: → elʃhɔ

ıµɑeȷhɔµɔuφɔʃ ［生物］脛骨内側顆 µɑ;/ ȷ͡ᥒ

ıµɑeȷhɔµɔuφɔʃlclɔɔz ［生物］脛骨内側顆下縁 µɑ;/ ȷ͡ᥒ

ıµɑeȷhɔoclʃ ［生物］脛骨粗面 µɑ;/ ȷ͡ᥒ

ıµɑen ［名詞］アルデン。男のエタットのうち、男らしいほう。 ［音楽］バリトン ［レベル］2 1ʕ: 制 :ıµɑeȷ ［文化］ 典型的には、正々堂々としていて男気にあふれ、正義感があって快活で運動神経の良い男性。

ıµɑenφıl͡ʃ ［化学］テストステロン ［レベル］5 ul;/「勇敢な男のホルモン」 ȷʔ

ıµɑeφınʃ アルデガント研究所 ȷ0 ［文化］ ɥəəᴅı ٩0ȷʕ イクスタン、ヴェマに ıµɑeφınʃ 研究所を設立。イシリウスの研究に当たる

ıµɑel ［地名］あの世、冥界、冥府、アルデル ［反意語］leʅıc ［レベル］2 古 :µcɑcı:ıµʃe からか。アティーリが原型のころ、アルデは漠然とあの世にいると思われていた。ゆえにあの世をアルデの世界と捉え、ıµʃe から名付け、ıµɑel としたのだろう。そして ʃoııɥə はその中の一つの場所と捉えられていたのだろう。 ［語法］［文化］ → leʅıc トワーユとラティアの総称。 |約 1ʔ٩ 億年前 |ıµᴅı が爆発し、ıµɑel と leʅıc という ȷ つの空間と、ıµʃe という存在が生まれる。物理的には初期宇宙（陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成）。まとめ：アルマは最初のエネルギー、それが存在した無名の空間が最初の空間、最初の存在がアルテで、実体は白い球|

ıµɑelın ［名詞］あの世の住人、死者 ［レベル］3 ȷ1

ıµɑə ［エルト］アルドゥ ［名詞］湖 ［形容詞］～湖。前置。 ［レベル］2 ᴅel ʃcı 1ʕ:ɥəəᴅı;e µcɑcı: 古 ［文化］ eȷʃı 湖を司るエルト。ユーマとドゥルガの息子。妹と知らずにエスタと結婚した。 アルドゥはドゥルガを受け継いで金髪碧眼の白人系美青年。

ıµɑə ıµbı アルドゥ＝アルバ、名無しのごんべい ［レベル］3 古 ［語法］ ɥəəᴅı ləʃcı

ıµφılʃ ［魔物］アルガルト（審判門）：第八十六天：利の巨天 ［レベル］5 1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel: 魔法の門 ［文化］ 憑族。口を開けた巨大な魔物で、中は異次元につながるトンネルになっている。獲物が入るとアルガルトは口の中の世界に、獲物が望む夢の世界を作る。そして徐々に口を閉めていく。獲物が欲に負けると逃げ遅れ、口が閉まり、途端に景色が魔物の胃袋の中になる。そこは薄暗く、未消化の先輩諸氏がおり、地獄絵図と化す。だまされたと思ったころには遅く、緩やかな死が訪れる。

ıµφılʃlɘɔ ［天文］ミラ ［レベル］6 1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel ［文化］ アルガルトの口。閉じたり開いたりするので、見えたり見えなくなったりする。

ıµφılʃcnȷ ［天文］メンカル 1L:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel ［文化］ アルガルトの目。

ıµd ［名詞］ホチキス、ホッチキス ［レベル］2 1ʕ: 制 :ıµʅ/dcnɑ 【用例】 ıµʅ ʅɔn ıµd ホチキスで止める ıµd lınʅhıl e ȷeᴅıȷ 書類の左隅にホチキスをかける

ıµdµɔʃ ［電算］電子出版 ［反意語］ᴅıȷdµɔʃ ［レベル］5 ȷȷ

ıµbı ［地名］アルバザードの略称 ［人名］アルバ。アルバザード王のこと。 ［レベル］1 ［レベル］2 古 :ıµbızııɑ から ［文化］ ɥəəᴅı ٩ᥒΔ٩ ハーネ、息子の ıµbı を授かる

ıµbıleʃ ［ユマナ］アルバシェルト ［レベル］4 古 :µcɑcı ［文化］ リディアによる主にアルバザードの文化について述べた書物。制のころは聖書の１冊だったが、日本人向けに訳されたことから、アトラスにあるはずのない本になり、２００８年の新生化では聖書から外れた。当初は新生訳が試みられたが、辞書とアルバシェルトの二度引きが面倒という理由で日本語のまま幻日辞典の文化欄に統合された。

ıµbıȷccl ［政治］アルバシール、幻司 ᥒȷᥒls:ȷeµen;ıbµzıµɑ/ȷccl「アルバザードの守護」 ȷ͡ᥒ

ıµbıȷeʃı ［名詞］アルバザード史、幻国史。科目名。 ［レベル］5 µɑ;/ ȷ͡ᥒ

ıµbın ［名詞］アルバザード人 ［レベル］2 古 ［文化］ ・概要 トール人と世界各国の人種の混血。分布は主にアルバザード。世界一の経済力を誇るため、国外に去る人より外国から来る人のほうが多い。 混血率が高いため、免疫に優れ、容姿にも優れている。基本的にはトール人なので、華奢で腕力が弱く、細身で中背。フレティス人より小柄。混血化が進んでいるため、同じトール人でも、アルバザード人のほうが大抵ケートイア人より大きい。 アルバザードの男子平均は 1ʔ٩lᴅ, ↑0b（１７０ｃｍ６２．５ｋｇ）。女子平均は 1ȷΔlᴅ, ᥒ0b（１６０ｃｍ５０ｋｇ）。ケートイア人より１ｃｍわずかに大きい。 アルバザード人はしばしばフランス人に似るが、国民全体が粗食なため、現在のフランス人ほどには大きくない（数十年前のフランス人と同じ体格）。 フランス人は現在平均１７６ｃｍだそうだが、それはないだろう。実際そんなに大きくなかった。黒人とゲルマン人で平均値を底上げしているからだろう。恐らくフランス人自体は今でもアルバザード人と大差ないはずだ。 ・合理主義 事実上 ȷᴅ からアルバザードが始まる。このときルティアは魔法、メティオは魔物、その後アルティアは武士という強みをそれぞれ持つようになるが、アルバザードだけはこれといったものがないのが弱みであった。 持たざる者であったアルバザードは征服されまいというハングリー精神を発揮し、何とかお家芸を持とうとした。ところが魔法の土壌はないし、魔物の飼いならしもできていない。武士のような遺伝子もない。 そこでアルバザードは学問を重視した。勉強して這い上がるしかなかった。ルティアが学問を嗜みとして行う一方、アルバザードは必死に使える学問を研究した。何よりも役に立つこと、実利に繋がることを必死で追い求めた。 その結果、魔法の素養はルティアに劣るものの、魔法学を大成するに至った。最初はほとんど成果の出なかった魔法学だったが、アルバザードは基礎研究を怠らなかった。基礎研究の先にこそ実利があると信じ、耐え続けた。 それが実ったのがグレアである。ケートイア軍を追い払ったとき、アルバザードは生まれ変わったといってよい。その後アンジェルや錬金術が発展していくと、もはや持たざる国は最強の国に変貌していた。 食うや食わざるやの民にもできるだけ教育を与え、学者を優遇し、貧しくとも学者になれば人生を逆転できる仕組みを社会が支えた。ルティア人が「学問は貴族が受けられる特権のひとつ。平民が学問をやるなど何と生意気な」という社会を構成している横で、アルバザードは万人にチャンスを与え、上から下まで一丸となって頑張り続けた。その苦渋の日々の結果がこれだ。 アルバザード人はこの歴史の過程で合理主義を体得した。体裁よりも実利を取る。芸術よりも実利を取る。まず何においても合理的であることを良しとする国民性はこうして培われた。

ıµbın(ȷ) ［ユマナ］中東や小アジア ［レベル］4 古

ıµbını ［地球の国名］イスラエル ［レベル］5 1↑: 制

ıµbınclʃı ［企業］アルバニシュタ ［レベル］2 ȷ1 ［文化］ ＮＨＫに相当する企業。

ıµbıᴅɥəʃıµʅɔµʅılı ［地学］アルバザード中心の正距方位図法 ȷ0 ［文化］ アルバザードのアシェルフィ (北緯４６゜西経０゜) を中心とした正距方位図法。 アルバザードから任意の点までの大圏コースを求めることができる。 例えばアルバザード発の飛行機が最短で各地に行くにはどこを通ればいいかと考えるときに用いる。 よってアルバザードのＪＡＬに当たる企業などが利用することになる。

ıµbıµen ［言語］古アルバザード語、アルバレン、幻国語。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。 ［レベル］2 ȷ0 ［文化］ elɑȷeʃı ●概要 名称：ıµ（アルバレン） 系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群 (ıʃenıᴅıʃ, ɥəəᴅıeᴅcʃ, lcɑeµɑcıᴅ, lɥəɑcıcɑıl, leȷʃclleʃeᴅ, ılȷleȷʃclʃıl) 使用年代：ȷᴅ_ls 分布：アルバザード、カレンシアなど 話者：アルバザード人、カレンシア在住の元アルバザード人など。µɑ 以降は ı に押され、時代を追うごとに話者が減少。ıl 以降は地方の農村部などにひっそりと残るに留まる 類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ 認知様式：客観的把握→二重把握：ıµɑ の頃に凪霧の影響で変化 レスティルがアル

バザードに改名されたため、言語名もそれに合わせて変化したもの。従って基本的にはlȷと同じ。　●語順　ＳＶＯのみ。　ıɹbı ɑcʃ ıʃ heɥen（アルバ王はリンゴを与えた）　ʃjənl を使ってイントネーションを変えることでＯＳＶを表すことができる。ʃjənl の後にはポーズが入る。　heɥen, ıɹbı ɑcʃıʃ（リンゴを、アルバ王は与えたのだ）　ＳＯＶやＶＳＯなどの語順は表現できない。基本的に英語と同じ。　主格と対格の語尾は失われている。　●修飾　lȷ と同じＮＡ。　ucl̥ə le lıc（大きな男）　bıɔφ he ucuc（強く殴る）　●属格の消滅　属格がなくなり、lenɔ を使うようになった。　lȷ でできた e は ɥɑ に入ると頻度が増えていった。ただし ı と違い、e は母音の前でも ʃ' にはならない。　leȷʃcl lenɔ ɑıcz(レスティルの王)　nɔn lenɔ hıɾıɒı(私の勇者様)　ɑıcz e ıɹbızıɹɑ(アルバザードの王)　●関係詞　lȷ と同じ。　lılɑıcz ɥɔɒ leȷʃcl lenɔ ɑıcz lələləʃ(レスティルの王が建てた国)　関係詞節内の前置詞が残存するようになった。　lılɑıcz ɥɔɒ ɒefe ɑcıȷcʃ lıl（メテが生まれた国）　●前置詞　lȷ と同じくＰｒ。　ȷɔə lıʃɔʃ lıl ıɹbızıɹɑ（彼はアルバザードで死んだ）　●連体詞と代名詞　ıɥɑ で「こ・あ」の二段階に戻る。　連体詞は前置のまま。単語も lȷ と同じ。ただし ʃən（これの）と Tən（あれの）は属格の消滅とともに消えている。ʃə lenɔ, Tə lenɔ とする。　「この、これ」ʃə「あの、あれ」Tə「これの」ʃə lenɔ「あれの」Tə lenɔ「彼」ȷɔə「彼女」lɘə　男女が分かれている点でアルカと異なる。　遠近では分けないので lə と lı の違いはない。　副詞の一部、ɥe や ɒc なども lȷ 同様前置。　●数　lȷ と同じ。ただし１０の ʃɔ は ıɥɑ では ʃɔɔ になり、２３の dıɥıɥıcz も消滅→ ȷcɑ ıll　●助動詞（エクスプローダー）　lȷ の基本語順はＳＶＯだが、助動詞が付くとＳＯＶ語順に変わる。　一方 ıɥ では助動詞が付いてもＳＶＯのままである。基本語順のＳＶＯ化が統語システム全体に広まったと見てよい。　ıɥɑ_ıɥl(ȷɒ_ɥɑ) までの間に爆発的に増えた。ɥɑ の最初のほうでほぼ出揃っている。副詞と違って動詞の後に he を伴わずに使う。　助動詞の数が増したことで、複数の助動詞をひとつの動詞に繋げる機会が増えた。そのため動詞と助動詞、助動詞と助動詞の間は – で繋ぐ。　ın ləc–ɒıl heɥen（私はリンゴが食べたい）　ȷɒ 後期にかけて二重把握により主観的把握が入ると位相の活発化により、助動詞に男性形と女性形が生まれ出す。たいていの場合、それまでのものが男性形で、女性形が新たにできた。音を弱めて女性形とするものもあれば、ɒıl に対する lın のように lʃl（lın 自体は ȷzɑ。借入時期が lʃl という意味）などの外国語から取ることもあった。　nɔn ləc–lın heɥen（私はリンゴが食べたいわ）　●人称代名詞　主観的把握を獲得したものの、爆発的に増えるのは ı から。

●敬語　敬語は助動詞に尊敬や謙譲や丁寧を指すものがある。助動詞で示す。　例えば丁寧は男性は ∀∀ʃı、女性は ∀∀nɔ となる。動詞が ləc なら直前の幹母音が ə なので əəʃı ないし əənɔ になる。　nɔn ləcʃ–əənɔ heɥen（私はリンゴを食べました）　●疑問文　lȷ と同じく助動詞の nɔ を使うが、lȷ と違って語順がＳＶＯのままになる。　ʃcȷ ləcʃ–nɔ heɥenȣ（君はリンゴを食べたの？）　●否定文　助動詞 ɑen を前置。ハイフンなし。　ɑen leʃʃı（行かない）　●命令文　ɥe や ɒc を使って表す。ɥe や ɒc も助動詞の仲間なのだが、前置され、ハイフンはいらない。一方、命令の度合いを弱化させる ɒ にはハイフンが必要に。　命令文の表現に関しては ɑu_lȷ まで通して変わっていない。ıɥ では助動詞の増加に伴って ɥe の位置などいくつかの点で変化がある。　ɑu　命令：ɥe lə（言え）　敬意命令：ɒc lə ɥe（仰いなさい）　依頼：ɥe lə ɒ（言って）　敬意依頼：ɒc lə ɒ（仰ってください）　禁止：nı lə（言うな）　敬意禁止：ɒc lə nı（仰らないで）　禁止依頼：nı lə ɒ（言わないで）　敬意禁止依頼：ɒc nı lə ɒ（仰らないでください）　ıɥ　命令：ɥe lə（言え）　敬意命令：ɒc ɥe lə（仰いなさい）, ɒc ɥe lınʃe（返事をしてください）　依頼：ɥe lə–ɒ（言って）　敬意依頼：ɒc lə–ɒ（仰ってください）　禁止：nı lə（言うな）　敬意禁止：ɒc nı lə（仰らないで）　禁止依頼：nı lə–ɒ（言わないで）　敬意禁止依頼：ɒc nı lə–ɒ（仰らないでください）　●テンスとアスペクト　lȷ と同じ　●時制の一致　ɑ から通して ı と同じシステム　●ʃce_ʃən　leɥ_ʃə である。　ȷɔə ləʃ leɥ lɘə ləc heɥen (ʃə)（彼は彼女がリンゴを食べたと言った）　●舞台裏（音の変遷）　→ lılcʃ　一般に言語学的には単語と音では音のほうが変化に時間がかかる。「た」は１５００年前でも「た」と発音されていた。　数百年の間に音韻が変化するかどうかは、変化することもあればしないこともあるが正しい。　全言語変化させないと面倒で作らなかっただけの印象を与えるし、全言語変化させると変化させないとサボっている感を指摘されそうで無理に変えた感がある。そこで現実的にはバランスを取って変化させる言語とさせない言語を作るのが良いだろう。　幻字、理字、アルハノン、つまりアルカ、ルティア語、メティオ語については変化させた。一方神は成員が変化しないので ɑu は変化なしで、これはむしろ当然。そして変化させない言語としてアルバレンを選択。これはアルフィが実質的な宗主国で神との繋がりの強い言語であったというところから導いた。　ただし響字ができた zφ から ɥɑ の間まで地球換算で１５００年ほどあるのにまったく変化がないのは妙だということで、多少変えた。例えば日本語もほとんどの音が１５００年前と変わっていないが、「は」が p から h になったり、母音が減ったりと一応の変化はしている。その程度にはアルバレンも変えたほうがリアルだろう。とはいえ神の問題があるため、位相を作って上方は音を保存させ、庶民は音を保存させず、位相による音の違いというある地域での英語のような造りにした。　とはいえ読者は庶民のほうと上方を個別に覚える必要はなく、日本語で文献上残っているのが貴族の言葉で庶民の言葉がよく分からないのと同じように、文献的な事情から歴史的に確認できるのは当然上方なので、読者としては ɑu のつもりで ıɥ の音を捉えればよい。つまり ı に古子音４を足しただけで考えればよいし、読みも素直に幻字の転写読みでよい。　ほかの言語の音の変化については ʃcıɥen,ıɥlı などを参照のこと。

ıɹbızıɹɑ　［アトラスの国家］アルバザード、幻国、竜国。アルカ発祥の地のため、幻国と訳す。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。トール人の国なので竜国とすることもある。　［レベル］１　lılɔ → ıɹbızıɹɑ(ȷ)　［文化］　→ cȷʃɔlncɒ、ıʃlılıɑ　・国土　本土面積：10ʃΔʃΔ.ɱΔʃΔ ɿɒ 」：他国の面積同様、湖を含む。具体的にはエアリス湖などを含んだ面積。　ıφecʃ 島面積：ʃΔ.Δʃ.Δʃ ɿɒ 」　eılcȷ 湖面積：ʃΔʃ.ɱΔ.Δʃ ɿɒ 」　総面積：11ʃ1ʃ0.Δ1 ɿɒ 」　フランスの面積が ʃʃ,ɥʃL ɿɒ 」なので、約２倍弱。　1,1ɱ1,ɥɱΔ ɿɒ 」のコロンビア（世界２６位）とほぼ同じ。　・経緯度　フォトショップを使って正距円筒図法における東西南北の端点の座標を求める。　その後、取得した座標から下記の計算によって正確な経緯度を算出した。　小数点第二位までで算出したのに西端点が西経 L.00 という綺麗すぎる数値になったのには驚いた。　西端点：北緯 L0 – ((ʃ0ȷ / ȷ000) × 1Δ0) ≒ ɱɱ.Δȷ　西経 (–L0) + ((L00 / ɱ000) × ʃʃ0) ≒ –L.00　東端点：北緯 L0 – ((ʃʃɥ.ʃ / ȷ000) × 1Δ0) ≒ ʃΔ.Lʃ00　東経 (–L0) + ((10Δʃ / ɱ000) × ʃʃ0) ≒ ɥ.ɥɱ　北端点：北緯 L0 – ((ʃLL / ȷ000) × 1Δ0) ≒ ʃʃ.0L　東経 (–L0) + ((100ȷ / ɱ000) × ʃʃ0) ≒ 0.1Δ　南端点（本土）：北緯 L0 – ((ʃLL / ȷ000) × 1Δ0) ≒ ʃʃ.0L　西経 (–L0) + ((Lɥ1 / ɱ000) × ʃʃ0) ≒ –ȷ.ʃ1　南端点（ıφecʃ）：北緯 L0 – ((ʃ0L / ȷ000) × 1Δ0) ≒ ʃʃ.1L　東経 (–L0) + ((10ʃȷ / ɱ000) × ʃʃ0) ≒ ɱ.ʃΔ　・東西南北距離　南北距離（本土）：(ɱL.ʃʃ – ʃʃ.0L) × (ɱ0 000 / ʃʃ0) ≒ 1ɱʃ0 ɿɒ　南北距離（ıφecʃ）：(ɱL.ʃʃ – ʃʃ.1L) × (ɱ0 000 / ʃʃ0) ≒ 1ʃʃ0 ɿɒ　東西距離：((ɥ.ɥɱ + L) / ʃʃ0) × ɱ0 000 × rɔȷ(((ɱɱ.Δȷ + ʃΔ.Lʃ00) / ȷ) × ɑeφ) ≒ 1ʃΔʃ.01ʃʃ1 ɿɒ　・東西距離はどう算出したか　正距円筒図法では南北距離は縦のピクセル長がそのまま距離になる。　一方、東西距離は緯度が異なると、同じピクセル長の横線（緯線）であっても実際の長さが変わる。　例えば赤道上で横線の長さが ɱ000 ピクセルだったら ɱ 万 ɿɒ になるが、北緯４５°だと同じ ɱ000 ピクセルでも実際の長さは ɱ 万 ɿɒ を√２で割らねばならない。下記は計算例。　ɱ0 000 × rɔȷ(ɱʃ ɑeφ) ≒ ȷΔ ȷΔɱ.ȷɥ1ȷ　ɱ0 000 / √(ȷ) ≒ ȷΔ ȷΔɱ.ȷɥ1ȷ　このように、rɔȷɱʃ°の場合、つまり北緯 ɱʃ°の場合、緯線 ɱ000 ピクセルは ɱ0 000 / √(ȷ) ≒ ȷΔ ȷΔɱ.ȷɥ1ȷ ɿɒ に等しくなり、√２で割る必要がある。

このように、正距円筒図法において東西距離は緯度によって同じピクセル数でも実際の長さが異なる。　そこでアルバザードの場合、西端点と東端点の緯度の平均値を取り、その平均緯度における西端点の西経から東端点の東経までの距離を算出することで東西距離を割り出すことにした。　理論式：(経度差 / アトラス一周分の経度)× 赤道周長 ×rɔȷ（平均緯度）　計算式：((ɥ.ɥɱ + L) / ʃʃ0) × ɱ0 000 × rɔȷ(((ɱɱ.Δȷ + ʃΔ.Lʃ00) / ȷ) × ɑeφ) ≒ 1ʃΔʃ.01ʃʃ1 ɿɒ　なお、西端点と東端点の平均緯度は (ɱɱ.Δȷ + ʃΔ.Lʃ00) / ȷ ≒ ɱ1.Δɥʃʃ。北緯 ɱ1 ほどである。　北緯 ɱ1.Δɥʃ のときの緯線 ɱ000 ピクセルの実際の長さは ɱ0 000 × rɔȷ(((ɱɱ.Δȷ + ʃΔ.Lʃ00) / ȷ) × ɑeφ) ≒ ȷL ɥΔʃ.ɥLL ɿɒ である。　北緯 ɱʃ のときの緯線 ɱ000 ピクセルの長さが ɱ0 000 × rɔȷ(ɱʃ ɑeφ) ≒ ȷΔ ȷΔɱ.ȷɥ1ȷ ɿɒ なので上記と近似しており、立式のミスはない。　このことからアルバザードはわずかに縦長の国だと分かる。　正距円筒図法だと横長に見えるが、北緯４５だと ɱ000 ピクセルあったとしても実際はその√２分の１の長さしかないため。　・概要　アトラス最強の国家。地球だと地理的にフランス周辺に相当する。アルバザードはアトラスの中心国家であり、最大の軍事力と経済力を有する。ここではアルバザードの首都であるアルナを中心に述べる。アルバザードは北緯四十～六十ほどのところにある。アルカット大陸アンシャル地方に位置する国で、南はテージュ海に面し、それ以外は地続きになっている。全体として平坦な低地であり、海面から二百ｍほどのところにある。山は少なく川が緩やかに流れている。プレート面の境界にないため、地震も少ない。首都アルナはテージュ海から北に行ったところで、北緯五十度ほどのところにある。　テージュ海は偏西風の転向力により南西風が吹いているが、アルバザードに入ったところでは北東風が吹いている。海と陸の比熱差によって、夏はテージュ海の冷たい空気が偏西風に乗るので冷涼である。冬はテージュ海の暖かい空気が偏西風に乗るので温暖である。いずれにせよテージュ海の湿った空気が流れるため、年間を通じて乾燥しない。テージュ海から大陸に風が入ってくるため、舟で沖に漕ごうとすると自然と引き戻され、そのことが漁業の発展を妨げた原因の一つである。その反面、沖へと流されないので遊泳には向き、安全である。　風力は年間を通して穏やかで、台風は発生せず、大風が偶にある程度である。アルバザードの気候は西岸海洋性気候区である。テージュ海近辺はＣｆｃ区であるが首都アルナの近辺はＣｆｂである。したがってアルナは年中多雨で最も暖かい月の平均気温は二十二度以下で、月平均十度以上の月が少なくとも四ヶ月ある気候区である。　アルナは全体的に暖かく、気温の変動も激しくない。平均気温の最も高い月と低い月の差、即ち年較差は十度強である。最も高い月が二十度弱であり、最も低い月が五度ほどである。また、その日の最高気温と最低気温の差である日較差も小さい。　降水は平均して雨があり、春夏に最大値を取る。とはいえ降水量は月ごとに変化があまりなく安定している。年間降水量は八百ｍｍほどであるが、降水量の月ごとの較差は十ｍｍ程度と極めて安定している。　自生する植生は主なものが常緑針葉樹林と落葉広葉樹林の混合である。アルバザードに自生する植生の種類が少ないため、輸入した植物が多く育てられている。レイユ以降は本来アルバザードになかった植物もふつうに見られる。　土壌は基本的に褐色森林土であるが、冷涼かつ分解しにくい樹種の下ではポドゾルが見られ、灰色の土が見られる。降水が確保できるところは土壌が中性か弱酸性だが、降水量が少ないところでは土壌は中性か弱アルカリ性である。　伝統的な生活手段は半農半牧である。農業では主に小麦を作る。アルナでは主に小麦が作られた。アルバザードの北部にある都市アルシアやアルバザードの北国ケートイアでは大麦が良く取れ、ビールが豊富である。　一方、テージュ海に面する大都市であるカテージュは地中海性気候であり、ここでは果樹園が多く、オレンジやオリーブ、ブドウなどが栽培される。アルナでも比較的少数であるがこれらが栽培された。ブドウからはワインが作られ、ここでは良く飲まれる。アルナでもこれらの影響によってワインとビールが多飲される。　ところが、アルバザードの土壌は地味が少ないため、小麦の連作は行えない。農業だけでは十分な食糧を確保できないため、牧畜も行われた。牧畜に適した家畜は牛や豚である。牛は肉牛や乳牛としての価値があり、更には農耕用としても使われた。また、牛を利用した酪農も行われていた。　一方、漁業はあまり行われてい

ない。カテージュでは多少の漁業が行われているものの、基本的にテージュ海は肥沃でないため、漁業は発達していない。

ıɥbızıɥɑ(J) ［ユマナ］アルバザード。一時期、リディアら使徒が一緒に住んでいた地域のアルカ名 ［地名］メテの使徒ワルマの支配地 ［地名］『ミールの書』で、ミールが住んでいる国の名 ［地名］『小説版アンクノット』で、アシェット全員が住んでいる国の名 ［名詞］［メタファー］何でも物が揃っているところ、色々雑多なものが混ざり合っているもの ［人名］セレン (ȷeɥen)、ルシア (ləlcı)、リディア (ɥɥɑcı) のアルカ姓 ［レベル］3 ɭıɭɔ: 古 (嫌なところ)。カコにおいて何が「嫌なところ」なのかは不明。なお、「アルバザード」という音訳についてはセレンが９０年代前半の中学時代にこの単語を耳で聞いて「アルバザード」とノートに書き記したのが今でも使われているだけのことである。アルバザードは「嫌なところ」という意味だが、古アルカまでの神話設定では竜のような強い魔物がたくさんいて嫌なところという意味を持っていた。実際、アルバザードの幻字は竜の顔の象形文字である。新生の天球図では竜は北半球の低緯度に存在するため、アルバザードの緯度ではない。新生では意味が少しずれてしまった。ただ、竜を否天以北にすればアルバザード＝竜の土地になれたが、lcbeezeなどソームの小型化したものが竜より弱い設定は考えづらいし、８，９階の魔族は竜やソームといった設定上の縛りを外して自由に創作したかった。そのため竜は７階でなく６階に落ちる必要性があり、古アルカの幻字の語源と合わなくなってしまった。ただ、竜はアルバザード以北のヒュートで飼いならされていることと、アルバザードの真南にはミュール（ヴァステで滅ぶ）しかないことを考えると、竜がアルバザードに北上するのは当然といえる。そこで、アルバザードの字の語源が竜であることの説明は可能。

ıɥbıselcn ［アイテム］アルバジェリンの槍、アルバジェリン ls:ıɥɑeȷ/lɑeɥ;ıɥbızıɥɑ/selcn ꭍɱ

ıɥbıld ［企業］アルバルプ ［レベル］3 ꭍ1 ［文化］ 日本郵政に相当する企業。

ıɥbılec ［言語］アルバザード方言、アルバレイ、幻国方言 ［レベル］2 ꭍ0 ［文化］ 国際語となっている世界最大の言語。ɥɑ で作られたアルカをそのまま受け継ぐもので、あらゆる方言の中で最も純度が高い。

ıɥbcleɔ ［アイテム］アルビレオ ［レベル］4 ɥɑ:ɥcɑcı;lſ「神の雷鎚」ꭍɱ:ɥcɑcı ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ拳銃。

ıɥbel ［武道］アルベール、アルバザード式戦闘術 ［アクセント］ıɥbEl ［レベル］3 ꭍ0:ıɥbızıɥɑ/ɥəuel ［文化］ ユベールの一種。攻めを主体とする戦闘術。ɥɑ でアシェットのアルシェが開発した戦闘術で、打突部分は主に急所。訓練の場合はガードを付けたり、寸止めをしたり、打つ場所を変えたりする。アルバザードでユベールというとこれを指す。守ることよりも倒すことを主眼とした戦闘術。徒手の場合、空手などのストライクと、柔術などの投げや関節を取り入れた総合格闘技に近いスタイルである。武器の場合、伝統的には剣やナイフ、また銃の扱いを履修する。

ıɥhın ［人名］アルハン ［組み数字］2／6 ［レベル］3 古 : 神を広める ［語法］ ヴァノンの２番目。男性。外交担当。

ıɥhınȷcz ［魔法］タンタル板、雄晄板 ［レベル］6 ꭍ1 ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

ıɥhınlcl ［化学］タンタル ［レベル］6 1Δ: 制

ıɥhıɑ ［化学］ペーハー、ＰＨ ［レベル］4 1L: 水素イオンの累乗の指数

ıɥzɔn ［魔法］［アイテム］ロッド、杖、魔法の杖。武器として使用するロッドや杖。 ［類義語］ıuelef、zıᴅɔn、zɔn ［レベル］3 ɥɑ;ıɥſ/zɔn 1L: リディアの書 :ıɥſzɔn ［文化］ ıuelef は黒魔道士の持つ金属製の杖。黒魔法の効果を高める。儀式的に聖水で清められてある。 zıᴅɔn は白魔道士の持つ木製の杖。白魔法の効果を高める。儀式的に聖水で清められてある。 ɥɑ になると ıɥzɔn という単語ができ、ıuelef と zıᴅɔn の総称を意味するようになった。ただし ıɥzɔn というと ıuelef を想像することが多く、zıᴅɔn の場合は ıɥzɔn でなく zıᴅɔn という確率が高い。従って完全な意味で総称にはなっておらず、ıuelef の類義語という側面も見られる。

ıɥzen ［ユマナ］［電算］リナックス ［レベル］5 1ʔ: 制 :ıɥɑczeɭenſ（フィンランド基本ソフト）。リナックスがフィンランドの大学院生リーナス＝トーバルズによって作られたことから。

ıɥzed ［電算］ＣＰＵ、中央演算装置 ［レベル］4 1L:ɥɥəə: 制の lɔȷzed ıɥ を廃して

ıɥs ［生物］人差し指、示指 ［レベル］2 1L:ıɥſsc（魔法の指）。魔法使いが人に魔法をかけるときに人差し指で相手を指すことから。なお、黒魔法などは手を開いて打つことがある。指を指すのは眠らせるなど、補助魔法が多い。 scsc:

ıɥoınſ ［名詞］聖杯 ［名詞］［ユマナ］トランプのハート、ハート ［名詞］ハートマーク ［レベル］4 古 :ıɥ/oınſ ［文化］ → lınſe メルセルの水鏡を入れる器。この場合は横に広い。 また、婚礼に使うワイングラス形の杯も指す。グラスに聖水を満たし、互いに一口飲んだ後、互いの手を交差させて水を飲ませあう儀式で、これをもってアルバザード人は婚姻成立とする。 聖杯を意味する幼字が塩を意味する幼字と同形なため、アトラスでは聖杯をハートマークとしている。日本でいうラブラブやうきうきなどの意味には用いない。その場合は lınſe マークを用いる。

ıɥlınſı ［娯楽］ノンプレイヤーキャラクター、ＮＰＣ ［レベル］5 ꭍꭍ:「機械が操作するキャラ」

ıɥlcl ［化学］水素 ［レベル］4 1Δ: 制

ıɥlec ［名詞］電子書籍 ［類義語］lec ［反意語］ᴅıȷlec ［レベル］3 ꭍꭍ:ıɥ/lec ［文化］ 電子立ち読み制度がある。各アンセのＩＤごとに各冊１０分ずつ読むことができる。毎月リセットされるので、翌月になれば同じ本をまた１０分立ち読みできる。購入はアンセやレイゼンで。

ıɥlənɔ ［化学］炭化水素 ［レベル］5 1L: 炭素と水素からできた化合物の総称であって、炭化物ではないので、əl を付ける必要はない。

ıɥıſ ［建築］くさび、楔 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ȷıɑ:ıɥı(つなぐ) から 【用例】 eu ıɥıſ 楔を打つ

ıɥıſhɔ ［生物］篩骨 ɥɑ;/ ꭍɱ

ıɥıɭ ［格詞］～の向こう側へ、～の向こうへ ［レベル］2 ꭍꭍ

ıɥıȷ ［建築］ちょうつがい、蝶番 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ȷıɑ:ıɥı(つなぐ) から

ıɥıɥɭ ［化学］水素結合 ［レベル］5 1L

ıɥcſ ［名詞］清涼飲料水、ジュース ［類義語］ıne ［反意語］ɥcſ ［レベル］2 ſᴅ;ıl/ɥcſ「アルコールを含まない」 ꭍʔ

ıɥcɭı ［名詞］きずな、絆、キズナ、縁、えん、ゆかり、かすがい、ゆかり、えにし ［レベル］3 ȷᴅ;ıɥcɭı,ılſ(ıɥɭ,ıɥcɭı) ꭍꭍ :::ıɥcɭı

ıɥcɭı,ılſ ıɥɭ、つながり、ゆかり、えにし、縁 ‹›ıɥɭ

ıɥcɭıl ［生物］藍藻、シアノバクテリア ul;ıɥcɭı/lccɭ「アリカ色の真正細菌」 ꭍʔ

ıɥcɭı ɔoen ［人名］アリカ＝オーウェン、和泉ゆかり ꭍꭍ:ıɥcɭı,ılſ ［文化］ 前期北アルシア大学２年の少女。気が弱くおっとりしていて優しい子だが、背の高さと内気な性格のせいで周りから浮いている。あだ名はサンジェルマン。友達がおらずクラスに馴染めないことが悩みだったが、同級生の ȷeesc nızel に出会い、徐々に変わっていく。セージはアリカと対照的に明るく誰からも好かれるタイプで、アリカとも別け隔てなく接する。その人柄にアリカは徐々に惹かれていく。

ıɥcȷ ［物理］［化学］核子 ［レベル］6 ul;ıɥneı/lcȷc ꭍɱ

ıɥcȷɭınſe ［宗教］アリスカンテ、アリスカンテ教、神魔教 ［レベル］5 ꭍ0:ıɥſclcı と cɭȷınſe を唱える者 ［文化］ ɥəəᴅı ʕ91ɱ アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ıɥſclcı と cȷɭınſe を ıɥcȷɭınſe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける ıɥſclcı を中心にエルシー派が興り、これがやがて ɥɑ までに中心的な派閥となる。しかし数の上では庶民のほうが多く、庶民はエルシー派よりも戒律の緩い暮らしをしていた。エルシー派というとアリスカンテの聖職者や修道士とほぼ同一視され、特別に宗教生活を送る派閥を指した。

ıɥcȷɥəɔ ［言語］死生動詞。生死動詞と名付けなかったのは命名当時のセレンが「精子動詞」っぽくて嫌だなと思ったせいで、特に理由はない。 ［レベル］3 ɥɑ;ıɥ/cȷ/ɥəɔ「ıɥ と cȷ の動詞」 ꭍɱ

ıɥcɑcı ［地名］アリディア ［名詞］ıɥcɑcıeſeɭ ［レベル］4 古 :ɥcɑcı

ıɥcɑcı(J) ［アトラスの国家］アリディア ［レベル］4 古 ［文化］ 初代アルシェの恋人リディアの偉業を称えて建国した。メティオの内部にある小さな国。アルシェの残党が立てた国で、リディアがソーンを暗殺した場所にある。イルムスによるとメティオの真ん中にあるとのこと。

ıɥcɑcıeſeɭ ［料理］アッサムティー ［レベル］5 1L ［文化］ アリディア産の紅茶。こくがあり、ミルクティーと合う。

ıɥclzɔᴅı ［化学］ハイドロペルオキシ基 1L

ıɥclzɔᴅc ［化学］ハイドロペルオキサイド 1L

ıɥcı ［名詞］主人公、主役の女、ヒロイン ［反意語］ıɥȷen ［レベル］3 1L: → ıɥȷen ［語法］ 小説などで主人公として登場する女性。夢織でいうと紗枝。紫苑の書でいうと紫苑。

ıɥɔ ［生物］遺伝子、ジーン ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ıɥɔſſ から。ıɥɔſſ は ıɥɭı から。 【用例】 ɔlıl ıɥɔ 遺伝子を受け継ぐ

ıɥɔz ［電算］プロトコル、規定、議定書、儀典 ［類義語］ɔz ［レベル］4 ɥɑ:ɥɥəə;ıɥ/ɔz「機械の規定」 ꭍʔ

ıɥen ［名詞］助言、アドバイス、ヒント、注意、注意書き、ノーティス ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ:ıɭ/ɥenȷ ［文化］ 勧誘、勧めることと全く同じ原理。おせっかいにならないかどうかが鍵。相手におせっかいだと思われて「なんだせっかく教えてやったのに」とへそを曲げるのは日本人に多いが、アルバザードはしない。もちろん親切のつもりで言っているのを跳ね除けられたのだから嫌な気分はする。だから心中で「もうこいつは助けてやらん」と思うのは半ば当然である。だが、それを表に出して相手に絡むことはない。 【用例】 ın ᴅelɔſ ſə ɥeſ ᴅın ſeɥcɭ ıɥen lııſ. 彼のアドバイスを聞いて、私は再度考えさせられた。 ın hııȷıſ ıl ɥenȷ lııſ. 彼女のアドバイスに従うべきだった。

ıɥenȷ ［名詞］福音 ［音楽］ゴスペル ［レベル］4 ꭍ1:ıɥ/ɥenȷ ［語法］［文化］ 神や天使によるよいお告げのこと。

ıɥeᴅ ［動詞］ɥəl を ı に憑依させる、乗り移る、憑依する ［類音］ıleᴅ ［レベル］3 ꭍ0:ᴅelcɑcı lceɥ:ıl/ɥecᴅ（幽霊でなくなる）

ıɥec ［生物］ＤＮＡ（通称） ［レベル］4 ıl; ↓ 1L:ȷeɥen:ıɥȷ/lec（遺伝子の本） ［文化］ ɥſ で発見されるも、当初はリンの貯蔵が目的と考えられており、ıɥec という名が付くまでは有機化合物の命名法に法って冗長に呼ばれていた。 その後、アデニン、グアニン、チミン、シトシンの順番で何年もかけて塩基が発見されていったが、これらの塩基もまた同じく冗長な命名法に法って冗長に呼ばれていた。 ul に入るとＲＮＡが発見され、後にＤＮＡの構成糖がデオキシリボースであることが分かり、核酸にＤＮＡとＲＮＡの２種があることが分かった。 ıl 初期にＤＮＡが遺伝物質であることが分かり、初めて ıɥec という名が冠された。その後、ＤＮＡを構成する４種の塩基についてはそれまでの冗長な命名法を捨て、アルシエルの四季神の名が冠されるようになった。例えばアデニンは ıɥecılſe である。四季の順番は発見された塩基の順序を反映している。

ıɥeclceɥ ［化学］シトシン ［レベル］5 ıl;/ ꭍʔ ［文化］ ıɥec

ıɥecɑleı ［化学］グアニン ［レベル］5 ıl;/ ꭍʔ ［文化］ ıɥec

ıɥecılſe ［化学］アデニン ［レベル］5 ıl;/ ꭍʔ ［文化］ ıɥec

ıɥecılcȷ ［化学］チミン ［レベル］5 ıl;/ ꭍʔ ［文化］ ıɥec

ıɥəəs ［親族］弟 ［反意語］ılȷeɥ ［アクセント］Ϯɥəəs ［レベル］2 1Δ: 制 : オヴィらに対するルージュ ::lə ɒɔe ［語法］［文化］ ılȷeɥ

ız ［接続詞］～か、か、ＡかＢか ［論理］強選言、排他的論理和、ＸＯＲ ［反意語］əl ［レベル］1 1٩: 恣意 :::ɒıʃı,ılʃ 【用例】 ʃ ız ɒɥəl t かあるいはそれに近いもの

ızφeɥ ［歴史］アズゲル時代、東西戦争、邑咲の幽茉、むらさきのゆうま ［レベル］3 古 : 幽茉はユーマの一族のこと。邑咲は「紫のジャスミン」を示すとともに、紫の語源通り「群れて咲くこと」を示す。ユーマの一族が台頭し、世界中に国を作っていった時代であることから。 ［文化］ ɥəəɒı 0_Ϯ000 東西戦争。シフェルとマレットの戦い アズゲルとメルテナは史料が少なく、大要しか分かっていない。アトラスでは神が製紙製本技術を持っていたため、神代の記録は残っている。ユーマの一族に伝わった技術は魔法を駆使したものだったため、神ほど器用な魔法を使えなくなったアズゲルの人類は満足な史料を残せなかった。また、戦乱でその多くも焼けてしまった。神もそれの時代はアトラスから去っていたため、アズゲルとメルテナはアトラスにとって最も謎に満ちた時代になっている。アトラスの歴史で唯一詳細が分からないため、かえってアルバザード人はロマンを感じ、三国志演義のようなファンタジーに満ちた解釈が生まれた。 なお、メルテナはアズゲル同様詳細が分からないものの、戦乱が落ち着いて製紙製本技術に労力が費やされたため、アズゲルよりは史料が残っている。

ızl ［医療］結核 ［レベル］4 定 : 抗酸素菌

ızcn ［形容詞］なまいきな、可愛くない、憎たらしい、生意気な ［反意語］ın˥ ［レベル］2 ⅃0:ɑız/ȷcn ［語法］ ın˥ 【用例】 nıɒɔ ızcn 生意気な態度

ızɔɒ ［地学］木立、ちょっと木の生えているところ ［レベル］3 1L:ɒel cɑcı ılʃe:˥ı/zɔɒ ［語法］ ezɔ より小さい。外から全体が見渡せるくらいの密集度と明るさと本数。公園のちょっとした木の生えているところなどを指す。

ızeɥ ［魔法］魔法陣、アゼル ［数学］魔方陣 ［類義語］ɥeφıl、φɥınɑı ［レベル］3 ɒelʃcı LΔ ȷen ucı:˥eueı;e 古 ［文化］ ファーヴァやレレゾナの使う魔法の総称。魔法陣を使うのが特徴的。時間と莫大な魔力が必要だが、効果は強大。 メルティア９８万年頃にカルセール人とケヴェア人が開発した。両者は文化的交流がなくほぼ同時期に魔方陣を開発しただけであるから、結果的にその様式は互いに異なっていた。カルセール人のものは巨大で、陣の効果も持続時間が長大である。ケヴェア人のものはそれに比べるとコンパクトで、戦闘や狩りに適していた。 カルセールの魔方陣は φɥınɑı と呼ばれ、ケヴェアのそれは ızeɥ と呼ばれた。

ızeɥɒ ［地名］アゼルム、魔界 ［レベル］5 古 ［文化］ アゾルデの支配する世界。ファーヴァが制圧した。

ızeɥɑe ［人名］魔王アゼルデ ［レベル］5 古 ［文化］ ファーヴァの制圧したアゼルムの長。

ızeɥın ［魔法］法陣指（ほうじんし） ［レベル］3 1L:ɥcɑcı: 指と訳したのは、陣を描くことから。

ızeɥcı ［人名］アゼリア ⅃0 ［文化］ (ɥəəɒı ʕϮΔΔ:٩00₥(ʕ٩⅃⅃:ʕΔϮ⅃)) カコ中期の女王。 ɥəəɒı ʕϮΔΔ ランジェ、娘の ızeɥcı を産む。東方遠征は最大戦力であるランジェが前線を退いたことで一時中断。レスティルは防戦の構えを取る ɥəəɒı ʕʕ٩⅃ 若きアゼリア姫、キルティアの外相を巧みな交渉術で取り込み、キルティア王を説得させて無血開城を実現。レスティルは労せずキルティアを物とする。キルティアには自治権を与え、優遇税制を取った ɥəəɒı ʕΔϮ⅃ アゼリア、国民の反感を反映し、息子 ınɑınʃ が 100 歳になったのを契機とし、退陣。慣例により、王は 100 歳以上であることが望ましいため。ただし未熟な ınɑınʃ には任せられないため、アゼリアは関白となった

ıs ［擬音］ずーっ、ずず、ぐじゅぐじゅ。鼻などをすする音 ［レベル］2 1L:ənclec

ısne ıɒınze ［人名］アジュネ＝アマンゼ ［レベル］4 古 ［文化］ シオン＝アマンゼの母親。アジノンの妹。

ısı ［名詞］割合、比率、レート、率、バランス ［数学］割合、比率、比 ［接続詞］～の割合で ［類義語］˥ıcınʃ ［レベル］3 定 【用例】 lɔz ısı ˥ɔ ʃelen uc １：３の割合で混ぜる

ısc ［名詞］籤、くじ、宝くじ、抽選 ［レベル］3 1ʔ ←古 :ılscφ（当たりを選ぶ） ［文化］ 抽選の場合、六角形のガラガラ（ガラポン）はアルバザードでは使わない。ビンゴゲームの玉を出す装置のようなものを使って球を出す。アタリ玉の色に決まりはない。商店街主催のものが多い。例えばカルザスモールなどで行っている。 籤の場合、宝くじやロトのようにカードを使うものが主流。電子化は ₥0٩ 年の段階ではほとんどされていない。 【用例】 ıɥ ısc くじを引く ın nıʃ nıə ɥən eɒ ıφel ˥ɔɥ sın ɒın uıȷʃc˥ ısc. 宝くじに当たって舞い上がるほど嬉しかった。 cɒ ʃə ɑıɥ, nɔn ˥ɔɥıʃ ɑcıʃe lını ıɥ ısc. 朝、祖母と近くのスーパーへガラポンにいった。

ıscnɔn ıɒınze ［人名］アジノン＝アマンゼ ［レベル］4 古 ［文化］ シオン＝アマンゼの伯父。アジュネの兄。ヴァルテス派の始祖。

ıseʃ ［美容］スタイル、プロポーション ［レベル］4 ⅃1:ısı

ısen ［ユマナ］ユダヤ教 ［レベル］6 古 :hıczen の音変化

ısenʃ ［ユマナ］ユダヤ人 ［レベル］6 古

ısenɥen ［ユマナ］ヘブライ語 ⅃1

ısəl ［魔法］平板ガレット ［反意語］sə˥cl ［レベル］6 ⅃1:ıl/sə˥cl

ıl ［接頭辞］～に。多義的で用法は下記のとおり。 １：逆の意味を作る（ılɒı,ılılɒı） ２：男女の対を作る（ɑcın,ılɑcın） ３：（単純語中だが）強意を持たせる（ıʃ˥ı（最高）は ıʃ˥ıc（とても大きい）から来ている） ４：位置が反対であることを指す（sın,ılsın） ５：逆動作を示す（ȷıb,ılȷıb） ［接尾辞］ １：代詞に付いて数の意味を添える（ʃɔ → ʃɔıl） ２：数に付いて個数を指す。˥ɔıl で１個、ひとつ。この場合、ıl がなくても特に意味は変わらない。 ３：名詞に付いて中立の概念を作る（ʃcın（彼女）と ılʃcın（彼氏）から中立の ʃcınıl（恋人）を作る）。ʃcınıʃc だと「彼女らしさ」の意味になる。母音の後ろでは l になる。 ［レベル］1 ɑ;e 古

ıl(⅃) ［人名］アル 古 :『少女・レンとアル』 ［文化］ レンという娘が人形にされて、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になって、その父親に愛されたという話の登場人物。

ıl(⅃),ɑ 強意、対義、ペアなどを作る接頭辞 ıl,ɑ.˥

ıl(ʔ) ［格詞］ı の異形態。ı の後に母音で始まる単語が来たときの語形。 ［レベル］1 1ʔ: 制

ıl(₥) ［歴史］アレイユ、ılecɥə ［レベル］3 ⅃1

ıl(Ϯ) ［動詞］ɥəl（祈る相手。神など）に祈る、祈る ［レベル］2 ɥɑ;ıl（与格） 制

ıl,ɑ ʃəl, ʃɔ e

ıl,ɑu ı

ılʃ ［名詞］他、もうひとつ ［名詞］おかわり ［名詞］つめかえ、詰め替え、詰替、リフィル ［形容詞］ほかの、もう一つの、他の、もうひとつの、別の ［文頭純詞］一方、他方、対照的に ［感動詞］チェンジ。デリヘルやネットスラングなどで使う。 ［レベル］1 ȷɔɥn:「手をちょいと動かして振る」が原義。アルシェでは ɑɔɔuı（次） 【用例】 ʃc lıl ılʃȣ おかわりいる？ en ʃıəʃ ˥elınel ılʃ ʃ'eȷɒcʃ. 洗剤の詰め替えを買い忘れた。

ılʃɑcı ［魔法］異世界 ［レベル］3 1L:lcɔn

ılʃɑcın ［魔法］異世界人 ［レベル］3 1L:lcɔn

ılʃɥı ［建築］別荘 ［レベル］3 1L 【用例】 ʃıʃ ȷılʃ, ın ɥı˥ɒ ɑleı ˥ı ılʃɥı e ȷıcl ɔ˥ lcʃe. 毎年夏は家族と田舎の別荘で過ごす。

ıl ʃoen ［感動詞］募金お願いします、募金です、募金どうぞ、寄付をお願いします、お恵みを、カンパお願いします ［レベル］3 1ʕ: 制 : 古 ［語法］ チャリティーだけでなく、自分に恵んでくれと頼むときにも使う。

ılʃıʃel ［形容詞］横着な、雑な、いい加減な、早道な ［反意語］ʃıʃel ɥɑ;/ ⅃ʔ

ılʃ˥ı ［地学］超大陸 ［レベル］6 ul;/ ⅃ʔ

ılʃıu ［動詞］ɥəl を剥がす、剥がす、はがす ［反意語］ʃıu ［レベル］2 1L 【用例】 ılʃıu ɑeȷɒı シールを剥がす

ılʃıɑɔɥ ［音楽］附点四分音符 1L ［文化］ → ɑɔɥ

ılʃıl ［形容詞］本命でない ［名詞］本命外、滑り止め、すべり止め ［反意語］ı˥ın ［レベル］4 ɥɑ;ılʃ/lını「他の狙い」 ⅃ʔ

ılʃılıɥəɔ ［言語］非単位動詞 ⅃0 ［語法］ 不定動詞の累積ないし定動詞の反復によって生まれた動詞。 将然・開始・非単位・終了・影響の Ϯ 相を持つ動詞。 （正確には将然’・開始’・非単位・終了’・影響’の Ϯ 相を持つ） あらゆる動詞に存在する。 ーー｜〇〇〇〇｜ーー というモデルで示される。 単位動詞と対立する存在。 例 : 乱打する、歩行する

ılʃıc˥ ［文頭純詞］更に更に悪いことに ［反意語］ılɥıɑı ［レベル］2 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ılʃc ［動詞］ɥəl を離す、放す、離す、手放す、解放する ［反意語］ʃcl ［レベル］2 ⅃⅃:ıl/ʃcl ［語法］ ʃcl の反対語。持つとしての反意語。一般に離すの意味であり、「～がない」の意味ではない。 【用例】 ɥen ılʃc nɔnɾ 放して！ ɒen ılʃc elɑ lıȷ ləəʃ uecl ʃcɑl ȷcl ȷeleȷ ɒenıl ıȷ, ɒen nı. この人の手を離さない。僕の魂ごと離してしまう気がするから（『ＩＣＯ』）

ılʃc˥lɔɥ˥ılı ［地学］ミラー図法 ［レベル］5 ⅃0 ［文化］ メルカトル図法のバリアント。世界地図に用いられる。

ılʃc˥lɔɥφe˥ ［地学］ミラーボール図法 ［レベル］6 ⅃0

ılʃcȷ ［名詞］幼馴染、幼なじみ、おなささなじみ ［類義語］ɑcıȷeɥ ［レベル］3 古 :ɥcɑcı: 古 :ılʃcȷ（幼馴染）。ıl は「物」だが、わざわざ述べるときには「特別な物」という意味になる。それに ʃcȷ「あなた」を付けたのが ılʃcȷ「特別なあなた」で、幼馴染の意味になった。恋人は ʃcı などといったので、ılʃcȷ が恋人の意味になることはなかった。尚、造語者がリディアなので何故 ɑɥəȷȷɔə ではなく ʃcȷ を使ったのかが不明。ただの旧友ではなく、親友かつ旧友にしか使わない。 ［語法］ hıɾn

ılʃcnı ［名詞］幼児、２～５歳の男 ［反意語］ʃcnı ［レベル］2 1L

ılʃcd ［美容］蒙古斑、もうこはん ［レベル］4 ⅃1:ılʃcı/cdȷen

ılʃclnı ［形容詞］自発的でない、人にさせられた、やらせくさい、ヤラセな ［反意語］ʃclnı ［レベル］4 ⅃0 【用例】 ın uıɥıe cȷ˥ın ɑılcȷʃe e ueɥʃ le ɑcʃ ɥenȷ ılʃclnı. ニュースのいかにもやらせくさい善人な台詞が鼻につく : ɑılcȷ を ɑılcȷʃe にして「善人っぽい」という風に皮肉っている。

ılʃcı ［アトラスの国家］アルティア、凪国 ［レベル］2 1ʕ: 制 :ı/ləʃcı :::nıφc,ı lʃ ［文化］ → ɑɔhıɾ, ˥ılın, ılʃcın, cȷʃɔlncɒ ・面積 ٩0ʔʔʔ₥.L٩LʕʔⅯ ˥ɒ ⅃（本土） 世界第３９位のザンビア（٩Ϯ⅃,ʕ1⅃ ˥ɒ ⅃）より小さく、世界第４０位のミャンマー（ʕ٩ʕ,Ϯ٩Δ ˥ɒ ⅃）より大きい。 日本 : ʔ٩٩,Lʔ0 ˥ɒ ⅃ 韓国 : LL,Δ⅃Δ ˥ɒ ⅃ 北朝鮮 : 1⅃0,ϮʔΔ ˥ɒ ⅃ 日本と朝鮮を合わせると ϮLΔ⅃Lʕ ˥ɒ ⅃ になるが、それよりもさらに大きい。 ・経緯度 西端 : 東経 (–L0) + ((⅃Ϯ1٩ / ₥000) × ʔʕ0) = 1ʔʕ.Ϯʔ 東端 : 東経 (–L0) + ((⅃ʕ⅃⅃ / ₥000) × ʔʕ0) = 1₥Ϯ.LΔ 北端 : 北緯 L0 – ((₥٩ʔ / ⅃000) × 1Δ0) = ₥٩.₥ʔ 南端 : 北緯 L0 – ((ʕ⅃⅃ / ⅃000) × 1Δ0) = ʔ₥.0⅃ ・略史 ɥəəɒı ʔʕϮϮ シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国。これにより、ハーディアンは亡国。フィギットとなる。同時にハーディアンの都市だったアルティアは国家に単位を変える。従ってこの年にアルティア王国が建国される。翌年にはアルティアはロロスを支配地としてシフェランから任される。 ɥəəɒı ʔʕϮΔ 京極 (ɒını) がで

きる。ハーディアン文字ともいうが、既にハーディアンは滅んでいるのでアルティア文字といっていい。この時点ではロロスは独立していないので、なおのことアルティア文字でよいように思えるが、人文史上ではハーディアン文字と称されている。というのも、京極がハーディアン地方で発展してきたためである。

ılſcıſcle ［地学］凪海流　Ɉʔ

ılſcın ［名詞］カレシ、彼氏 ［反意語］ſcın ［レベル］2　1L 【用例】 nɔn ſcl ılſcın. 彼氏がいる。

ılſcın(Ɉ)　アルティア人、凪人、凪紗 ［レベル］2　Ɉ0:lcɔn　:::nıφcɉı,ılſ ［文化］・分布と歴史　アルティア本土のほか、ルティア西部トモエ県、アルバザード南部カレン州などに分布。　元はハーディアン人で、南北に分かれ、南部人がアルティア人となった。　ɉᴅ で ucɥ をほとんど持たない代わりに強力な nɔı や ɥənɔ を持った人種の遺伝子が普及した。これはアルティア人にとって魔法を捨て剣での白兵戦に特化する契機となり、刀の登場と武士の台頭を促し、やがて武家社会の成立を促した。　アルティアの武士 ʅılın の斬撃は極めて強力で、ヴィードで防御をしているルティア人魔導師すら一刀両断にすることができた。この結果アルティアは ɉᴅ でヴェマやルティアにまで版図を広げるに至った。　支配地からの徴収によりアルティア本土における農民の数は減少。軍事力としての武士の需要から武士の数が増加。日本より農民が少なく武士が多いという軍事力に特化した社会になっていた。　武士の主君への忠誠心は極めて高く、典型的な封建制度である。またアルティア兵は逃亡率が少なく、死線にも果敢に突撃することで有名である。　事実上の貴族階級になった武士らは高度な文化や倫理観を築くようになっていった。ɉᴅ 以降武士たちはルティアだけでなくアルバザードを含めた諸国へ侵入し、領土を確保。独自のアルティア文化を持ち込んだ。これは海外領土を失った現在でも残存している。　nΩ 以降は資源の貧しさから工業国となり、持前の器用さと真面目さから優れた工業製品を作るようになり、様々な分野で世界一のクオリティを誇るようになり、経済大国となって返り咲いた。　またアニメやマンガやゲームなどの文化品をいち早く高め、世界中に輸出したのもアルティア人である。　・呼称　国際的にはアルティアだが、彼らは自分たちの間では通常 nıφc と呼ぶ。それゆえ凪国と訳すことがある。　同様にアルティア人のことは nıφcɉı と呼ぶ（→ nıφcɉı の語法）。ɉı は人のことである。これを凪人や凪紗などと訳すことがある。アディストの nıφc, nıφcɉı と区別すること。　・信仰　信仰は土着の hcnıſı（丁信仰）である→ hcnıſı　・国粋主義　日本はさまざまな民族の集まりで、その後も中国やアメリカなどから大きな影響を受けてきた。大陸の端にしては外来文化の坩堝になっている。使用している文字種も世界一多い。　一方アルティアは民族の交流が少なく、二度の国粋主義の機運で外来文化に対する排外主義が確立した。独特で閉鎖的な文化が特徴で、外来文化への抵抗が大きい。　一般にアルティア人は国粋主義で、外来文化を嫌う傾向にある。カレン人がアルティア人の流儀を変えずに小アルティアを築いていることからもそれは伺える。　・性格　良くも悪くもとにかく「世界一」の付くことが多い極端な性格で、国際社会からは付き合いづらいと思われている。アルティア人は面子と体裁を何より気にするので、絶対にやってはいけないのはプライドを傷つけること。その怒りは普段の大人しさからは想像もつかない。怒りのエネルギーが持続しないのが特徴で、一瞬だけアルバザード人をも凌駕するエネルギーを出す。そして瞬時に収束する。この怒り方は ɉᴅ でのカランの戦闘方法と同じである。カランはある一瞬だけ極端に集中してルティア人魔導師を一刀両断するという戦い方で版図を広げてきた。　ほとんどのアルティア人は大人しく我慢強い。そのせいでストレスをため込みやすく、怒るときは爆発してしまう。　精神構造は世界一複雑で、最も穿った物の見方をすると考えらている。あまり物事にこだわらないカテージュ人とは相性が悪い。直球を嫌い、すべてを婉曲かつ間接的に表現し、しばしば表現さえせずに腹芸で意思を伝える。また、そもそも意思を伝えなくても互いに絶妙な距離感を保つことで疎通だけ器用に行うことのできる不思議な民族とも考えられている。素直で直球勝負なアルバザード人を見下している。　例えば飲み屋で周りが馬鹿に騒いでいるとカテージュ人は「楽しそうだなぁ→俺も騒ごう」と思い、アルナ人は「うるさいなぁ。静かにするようにお願いしよう。聞かなければ店に訴え、議論しよう。議論しても平行線の場合、殴って勝てそうなら殴ろう。負けそうなら場所を変えよう。問題を解決するのに最も合理的なルートを選ぼう」と考え、アルシア人は「下品な連中がいるのでこの場所は自分に合わない。場所を移そう」と考える。一方カレン人は「俺がいるのに迷惑も考えずに騒ぎやがって→馬鹿にしてるのか→そうか、俺を馬鹿にしてるんだな→文句を言いたいが言葉で言うのは苦手→とりあえず机を叩いて威嚇→それでも相手が聞かない→喧嘩→斬殺」というパターンに発展する。この辺りがアルバザード人には理解できないが、アルティア人は一様に「そりゃそうだ」と感じる。　恋愛に関しても屈折している。意中の相手に想いを伝えず死ぬまで黙り、好きでもない相手と結婚し、その悲恋に陶酔するなど、アルバザードには価値観を理解できないことが多い。　逆に一度恋愛感情を相手に向けると、相手に対する執着は途端に物凄く膨らみ、ストーキングなどの奇行に走りがちである。特にこの傾向は日本と異なり女性から男性に対して見られる。アルティア社会では心中を伝える女性より影を追う女性のほうが清楚と肯定的に捉えられるためである。　性犯罪も特殊で、強姦が世界最低であるのに対し、衣類の窃盗や盗撮が世界一多い。こういった点からも最も倒錯の強い民族であることが分かる。　アルティア人女性は世界一従順で献身的であり、教養も高く家事も得意であるため好まれる。一方アルティア人男性は黙々と働いて給料を入れ、浮気率も世界一低いため好まれる。アルバザード人や特にカテージュ人は働かない男性が多い。　他方アルティア社会が離婚を是としないこともあり、夫に裏切られた妻が夫を刺し殺すという事件も多い。　アルティア人はジェスチャーをほとんどせず、目配せなどの小さな動きでたいていのことを伝えることができる。　スキンシップは厳禁である。ハグはもちろん握手すらしない。家族でさえ互いに触れ合うことがない。例えば父親は娘が物心付く頃には娘の体に触れることがなくなり、無論風呂にも一緒に入らなくなる。そのため父親に撫でられた記憶がないという女性が大半である。触れ合うのは恋人や配偶者同士で、それすら頻度が少ない。恋人同士だが手すら触ったことがないというケースも珍しくない。　アルバザード人は仲の良い間柄では男女問わず撫でたり摩ったり抱きしめたりすることが多い。この延長線でアルティア人女性に触れると大変なことになる。一般的なアルバザード人はアルティア人がスキンシップを嫌うことを知っているので、始めから触ろうとしない。しかしナンパな男は触ろうとする。日本人は例えばイタリア人に触られても文句を言わないことが多い。外国人だからしょうがないという風に考えるのかもしれないが、アルティア人は自分の我を黙々と通す点が違いで、日本人よりプライドが高い。
　アルティア人は口では言わないものの、身をよじって全力で抵抗する。同じ避ける場合でもルティア人なら優雅さを重視して最低限の余裕を見せる。一方アルティア人は黙って呪わんばかりの怨嗟の眼差しを向け、無言の抵抗をする。それでも触ろうとすると後から女性の近親者が現れて刃傷沙汰ということになりかねないので自然とアルバザード人も自重する。　・良く評価される点 「世界一真面目」「世界一器用」「世界一努力家」「極めて頭が良い」「世界一控え目で大人しい。美を見せびらかすルティア人を下品だと考えている」「世界一犯罪率が低い」＊ただし斬殺率は世界一高い 「工業製品とサブカルのクオリティが世界一」「アルティア製は高いが信用がおける」「我慢強く主張をしないため、道具として使うには非常に便利」「本土は美人が少ないが、トモエ県やカレン州には驚くほどの美人がいる。実際美少女コンテストでは周囲の人間に無理やり出されたカレン人の子が勝つことが多い」「天パの多いアルバザードの女性からすればアルティア女性の黒髪ストレートと絹のような肌は憧れ」「清潔で、体臭が少ない」「アルティア食は健康に良い」　・悪く評価される点 「体格が華奢で体力に欠ける。ヴィード消失後は極端に武力が減った」「世界一無口で何を考えているのか分からない。男女ともほとんど喋らない。喋らずともアルティア人の間では意思疎通ができるので不気味」「世界一プライドが高い。ルティア人は世界一美意識に対してプライドが高いが、アルティア人は世界一面子に対してプライドが高い」「世界一冗談が通じない。世界一笑わない。表情そのものがほとんど変化しない。だがアニメやゲームを一人で見てくすくす笑うので、その点でも不気味がられる」「世界一突然キレやすく、一度キレるとすぐに刃傷沙汰になる。アルティア人は感情を表に出さず、たいていのことは耐える。この状態で面子を傷つけるようなことを言うと突然抜刀して相手を斬り捨てるなどの凶行に及ぶ。そのため凶暴残虐と各国から罵られるアルバザード人でさえアルティア人だけは怒らせないように気を付ける」「緯度が低いわりに自殺率が異様に高い」「極めてネガティブ」
「アルカが下手。言葉が通じない。なぜかカレン人ですら拙い人がいる。反面、アルカの文語には異様に詳しい。どうやら知識としてアルカを見ており、実用は恥ずかしいと感じているようだ」「京極が難しすぎて理解できない」

ılſcınſ ［形容詞］そっけない、懐かない、なつかない ［反意語］ſcınſ ［レベル］4　μΩ;ılſcın/eſ　Ɉſſ ［文化］ ſcınſ

ılſcıΩıdcnc ［美容］笹眉 ［レベル］6　Ɉ1

ılſcıμen ［言語］アルティア語、凪霧 ［レベル］2　Ɉ1 ［文化］ ●概要　名称：ılſ（アルティア語），n（凪霧）　系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派ハーディアン語派ハーディアン語群 (ıſenıᴅıſ, ɥəəᴅıeᴅcſ, ᴅıleſacıᴅ, cnɉılcaıl, hıμΩcınlelſeᴅ, hıμΩcın ſılſ)　使用年代：zφ_ls　分布：極東インサール、ルティア（特に西部）、アルバザード（特に西南部）　話者：ハーディアン滅亡後のアルティア都市の民。後にロロスと分化したため、現在は半島南部のみ。ほかにルティア人、アルバザード人（元カレンシア人）など　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：主観的把握　zφ 末期の ɥəəᴅı ʔſſſ にハーディアンが滅び、アルティアが国として独立。　cᴅəl ſſſſ にトモエを陥落させ、ルティア西部の支配を確立。ılſ のルティア方言が生まれる。　cᴅəl 110Ɉ にアルバザード南部を支配し、カレンシア王国を建てる。カレンシア方言が生まれる。　現在 ılſ といえばアルティア本国ではなく、アルバザード国内で ıμ と混じりながら発展していったカレンシア方言を指す。　凪紗は極めて保守性が高いため、ıμ から影響を受けたのは主に語彙。しかし明治時代の日本と同じで、新たな単語は凪霧に翻訳して受け入れ、本国である ılſcı に情報を伝播するというシステムを採っていた。これは武士らによるアルティア王への忠誠の証であり、安易に ıμ を取り入れることは不敬に当たると考えられたため。　だが歴史学者や言語学者は彼らが ıμ を取り入れなかったのは音韻構造の違いが大きく、そのまま取り入れると語形が長くなりすぎるためと考えている。これは英語を日本語のカタカナにするとやたら長くなってしまうのに似ている。
一方、柔軟性のあるアルバザード人は凪霧を旺盛に取り入れた。対照的である。　ueμnɉıl まではカレンシアの力が強かったため、彼らは ıμ を覚えようとはしなかった。　カレンシアが滅んでアルバザードに吸収されて立場が弱くなってからも、彼らは現在に到るまで積極的に ı を使おうとはしない。ただし北方、特にアルナに近付くほど ı を使う割合が増える。　アルティア人の多くは学習によって ı の読み書きはできる。むしろ知識に関しては豊富といっていい。だが南部に行くほど聴き喋りが苦手である。日本人と英語の関係によく似ている。　アルティア人は非常にプライドが高く恥を嫌うため、間違えることを極端に嫌う。そのため、ı を使う機会が減り、なかなか上達しない。ただし北方、特にアルナ周辺で生まれ育った子供は自然とバイリンガルになるため、この限りでない。　なお、バイリンガルであっても凪紗としての自負心が高い者はできるだけ日常生活で凪霧を使おうとする。英語ができるのに話したがらない年配のフランス人に似ている。　●概説　アルティア人の言語。分布等はアルティア人と同じ→ ılſcın　アルティア語ではアルティア語のことを nıφclc というため、凪霧と訳すことがある。　ılſ には方言がいくつかあるが、本稿はカレンシア方言 (ʅılenɉcın) を取り扱う。　ちな

みに、凪紗の保守性および本国とカレンシアの精神的結び付きの強さにより、アルティア方言とカレンシア方言の差は、経過時間の長さにも関わらず、イギリス英語とオーストラリア英語の差程度に留まっている。　本項では次の文が理解できるようになる程度まで解説する。　ᴅınsc nınıᴅc ȷɔ ˥ɔᴅclə ɥəᴅc, ᴅıᴅᴅı ȷɔ hıə ʃı lclə ɥəə ın ʃe ʃılı hızelı ınᴅcʃıɔ（でもあなたが来たとき、私はもうあの小さな神社に行っていたんですよ）　●音論　子音１８。母音５。撥音 (n)、促音、長音がある。　ɥ,o 系の拗音と、ʃȷ,ʃl の破擦音があるが、頻度は少ない。　音節はＣＶで、音節数は無子音入れて１９＊５－２＝９３（oə と ɥc を除くため）。　音節はモーラで数える。撥音などは１モーラと数える。　元はＣＶＣを許したが、末子音は徐々に消失していった。プロソディの高い n,l が残り、撥音は２つ存在した。やがて l が消え n が残って現在に至る。　母音：ı, c, ɔ, e, ə　子音：ȷ, d, ʃ, ˥, ᴅ, n, ɑ, l, l, u, b, ɷ, z, φ, s, h, o, ɥ　表記上はＣＶしかないが、実際にはＶを発音しないでＣ単体で発音することがある。　ȷ, l, ˥ などは好例で、ᴅələ とあっても文末などでは [ᴅəl] になる。　アクセントは高低で、自由アクセント。　声調はない。　抑揚はアルカより強め。　声は硬口蓋に響かせるため、アルカと比べて深みがなく高い。　上記例文の読み上げは以下。http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/alt.mp3（男性声）　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/alt2.mp3（女性声）　●文字　京極を使う→ ᴅını　●文法　＜類型＞　膠着。　用言（動詞・形容詞・助動詞）のみ屈折。　＜語順＞　ＳＯＶ。　ＡＮ。　後置詞。　＜品詞＞　◆自立語　・活用有　動詞　形容詞　・活用無　名詞（含む代名詞・数詞・助数詞）　副詞　接続詞　感動詞　◆付属語　・活用有　助動詞　・活用無　助詞　＜用言の活用（屈折）＞　動詞形容詞ともに同じ活用。　◆動詞　・概要　ȷɔləə,ɑ(ȷɔɔl) が動詞の後ろに膠着し、それがやがて動詞と不可分な程度に融合して屈折化したもの。　最終的には l の音が残り、活用によって l の後の母音が変化するようになった。　活用は６種。ıllʃ は子音単体で発音できないので、辞書形でもある終止の l には ıllʃ の無標の母音である ə が付与される。　最も頻度の高い連用に最頻の ı が宛がわれた。もとは ı だけでなく様々な母音が使われたが、ıllʃ は母音調和があるため最頻の ı が連続するように自然と固まっていった。　否定は連用と否定の組み合わせで ın となる。　ɑ の命令の ɥe から命令は e。名詞化は c˥ɔ（こと）との組み合わせで c。残る仮定が ɔ となる。　名詞化は ˥ılə（切る）から ˥ılc（刀）、ɔᴅələ（挟む）から ɔᴅəlc（鋏）など名詞を作れるため、造語力が強い。　アルカだと ˥cl に対して ˥lıȷ など、色々な言語から単語を取っているので効率が悪い。　・活用表　連用：lı　否定：lın　名詞化：lc　命令：le　仮定：lɔ　終止連体：lə　形態素：語幹のみ　・語幹　語幹は開音節と閉音節の２種。閉音節の場合 l が落ちる。例えば ˥ıl/lı で ˥ıllı ではなく、˥ıl/ı で ˥ılı。　閉音節：˥ıl → ˥ılı（切っ），˥ılın（切らない），˥ılc（刀），˥ıle（切れ），˥ılɔ（切れば），˥ılə（切る），˥ılə（形態素として使う場合は ə を添加。ただし母音で始まる単語の前に来る場合は ə を添加しない）　開音節：ɔᴅə → ɔᴅəlı, ɔᴅəlın, ɔᴅəlc（鋏），ɔᴅəle, ɔᴅəlɔ, ɔᴅələ（挟む），ɔᴅə（形態素）　形態素として動詞を使う場合、例えば ˥ɔɔlə（巻く）と ɷcʃʃı（寿司）から巻き寿司を作る場合、˥ɔɔlə は語幹の ˥ɔɔ のみが使用される。よって ˥ɔɔɷcʃʃı となる。　˥cl のような閉音節の場合は ˥cləɷcʃʃı のようになるが、もし ın のように母音で始まる語に繋がる場合は ˥cləın ではなく ˥clın になる。なお、この単語の場合のみだが、「切らない」との区別に注意。˥clə/ınɷı などの組み合わせがあるとしたら ˥clınɷı になるので何とも誤解することはない。　◆形容詞　動詞と同じ活用。　連用は副詞として使う。否定は形容詞にも副詞にもなる。　命令は「～になれ」という意味。　複合語の要素になる場合は語幹のみ。　・活用表　連用：lı　否定：lın　名詞化：lc　命令：le　仮定：lɔ　終止連体：lə　形態素：語幹のみ　ne˥ɔlı（暖かく），ne˥ɔlın（暖かくない），ne˥ɔlc（暖かさ、暖かいもの），ne˥ɔle（暖かくなれ），ne˥ɔlɔ（暖かければ），ne˥ɔlə（暖かい），ne˥ɔᴅcᴅc（温かいスープ）　連用は例えば ʃɔʃɔlə（早い、速い）と ˥ılə（切る）で、ʃɔʃɔlı ˥ılə（早く切る）などのような使い方をする。　ʃɔʃɔlın ˥ılə（早くなく切る）と ʃɔʃɔlı ˥ılın（早くは切らない）は意味が異なる。例：ne˥ɔlə（暖かい），˥c˥clə（綺麗な），ʃɔʃɔlə（早い），lclə（小さい）。　＜動詞の自他＞　アルカと異なり動詞ごとに定まっている。　˥ılə は他動詞、ᴅɔlə（寝る）は自動詞。　＜助動詞＞　動詞から発達したもの。活用は動詞と同じ。動詞に後続。　例えば uc˥ɔlə（できる）は ˥ɔlə（来る）に uc（力）が合わさった動詞で、「能力が来る→できる」という意味。これが助動詞化して uc˥ɔlə で「～できる」という意味になる。　助動詞は用言なので動詞は連用形になる。　˥ılı uc˥ɔlə（切れる）　形容詞に付ける場合、ᴅclə（なる）と組み合わせる。　ne˥ɔlı ᴅclı uc˥ɔlə（暖かくなることができる。暖められる）　＜副詞＞　「暖かく」など形容詞の連用形は意味的には副詞だが文法的には副詞に含めない。　˥ılı（とても）や hıə（もう既に）などが副詞となる。　˥ılı ne˥ɔlə（とても暖かい）　＜受身と使役＞　受け身は接中辞の sə を使う。˥ɔsələ（来られる）。受け身は迷惑感をも表す。　使役は接中辞の ȷɔ を使う。˥ɔȷɔlə（来させる）。　＜助詞＞　格は省略しない。口語では ɥə のみ省略する。　主格（主語）：ȷɔ　主格（主題）：oın　対格：ɥə　与格：ʃe　奪格：ᴅələ　具格：˥ɔ˥ɔ　ɷerl に当たる ʃı は判定詞でなく助詞の扱い。日本語の終助詞に相当。　ʃı（だ）　ᴅcʃı（だった）　ınʃı（です）　ın ᴅcʃı（でした）　「ね」「さ」「よ」「ぞ」などの終助詞に相当するものはさらに上記の後に付ける。　ɔ(e, eə, ʃcȷee...)　対目上では ɔn　nı(ıı, ı...)　対目上では nɥı（女性のみ）　hılı(˥ɔ˥)　対目上では dɔn（女性のみ），hılıhılə（男性のみ）　ᴅıɥı(ȷec)　対目上では ᴅıɥen　ɥəɥı(ɔnnı)　対目上では ᴅıȷəlc　ne(ᴅcı)　対目上では使わない。直接疑問を投げかけるのは無礼とされるため。　これらは複数組み合わせることもできる。　反実仮想の ʃıʃʃıoı（女性は ʃıʃʃıoın）と組み合わせて ınᴅcʃıɔnʃıʃʃıoın（～でしたのにね）など。　＜テンスとアスペクト＞　・過去と完了　過去と完了は ᴅc で示す。動詞群の最後の単語の直前に ᴅc を入れる。　˥ɔc˥ɔ ȷɔ lclc ʃı（これは指だ）の場合、ʃı が動詞群の最後なので ᴅcʃı にする。　˥ɔlə（来る）の場合、活用語尾の直前に入れて ˥ɔᴅclə（来た）にする。　˥ɔlı ʃı（来るんだ）の場合、ʃı のほうが後ろにあるので ˥ɔlı ᴅcʃı（来たんだ）になる。動詞が連用形になるのに注意。　・未来　推量の助動詞 dıȷelə で表現。　・経過と継続と反復　経過と継続と反復の助動詞 hızelə で表現。　・将然　将然の助動詞 ȷıʃılə で表現。　・開始　開始の助動詞 ˥czɔlə で表現。　＜代名詞＞　アルカと違い、代名詞の存在は希薄。　日本語同様、様々な名詞を代名詞として使う。　一般的に男性は一人称に nı を使うなどといった傾向があるが、二人称になると複雑で、そもそも二人称で呼ぶのが失礼なのでできるだけ避ける。　三人称は苗字に継承を付けるのが一般的で、lə,lı に当たる lɥə（彼）はあまり使わない。　ıllʃ は封建制度の中で厳しい上下関係を築いたため、相手との関係によって人称を使い分ける。　◆一人称　・男性　nı（私、俺）：日常的、独白、対等　ᴅɔn ɔlc（わたくし、僕）：対目上　＊ ᴅɔ˥ələ（劣った）　hı˥əlc（俺）：対目下　＊ hı˥ələ（優れた）　hı˥əlc ȷɔ ʃɔʃɔlı ˥ɔlı uc˥ɔlı ʃıɔ（俺ならすぐに来れるぞ）　・女性　nıᴅc（私）：日常的、独白、対等　nı/ᴅc（女）　lclc（私）：対目上　＊ lclə（小さい）　ᴅıᴅᴅı（私）：対目下　＊ ᴅıᴅᴅı（姉）　lclc ȷɔ lclı ˥ılı uc˥ɔlı ınᴅcʃınɥıʃıʃʃıoın（私なら小さく切れましたのに）　◆二人称　なるべく使わない。特に目上には使ってはいけない。　相手は役職や立場で呼ぶ。「お兄ちゃん」「先生」「お父さん」など。ただし目上から目下は名前で呼んでよい。　nını（君、お前）：日常的、独白、対等。男性のみ。自称の nı から来ている。　nınıᴅc（あなた）：日常的、独白、対等。女性のみ。自称の nıᴅc から来ている。　ᴅɔnɔᴅɔnɔ（お前、君）：対目下。男女兼用。　◆三人称　三人称は苗字に継承を付けるのが一般的で、lə, lı に当たる lɥə（彼）はあまり使わない。　lɥə（彼）　lɥəᴅc（彼女）　文語的に感じられる。あまり使わない。特に目上には失礼。　◆非人称代名詞　˥ɔ（この）、ȷe（その）、ʃı（あの）、ne（どの）の４体系。ɑ の形態素 ˥ɔ（来る）、ʃı（行く）、ȷe（中）、ne（誰）から来ている。　˥ɔȷı（この人）、˥ɔlı（この場所、ここ）、˥ɔc˥ɔ（このもの、これ）などのように名詞と組み合わせて使う。　つまり nec˥ɔ で「どれ」になり、ʃılı で「あそこ」になる。　＜助数詞＞　名詞が助数詞化したもので、名詞のカテゴリーによっていちいち覚える必要がある。　ただし現代はほとんど ˥ɔ（個）で済ませる。˥ɔ は上述 c˥ɔ から来ている。　＜接続詞＞　よく使うもの。　oı：～と　ᴅıʃı：～か　ʃȷəlcȷɔ：そして、また　ᴅınsc：しかし　ɥəᴅc：～のとき、～したら　ᴅınsc nınıᴅc ȷɔ ˥ɔᴅclə ɥəᴅc, ᴅıᴅᴅı ȷɔ hıə ʃı lclə ɥəəın ʃe ʃılı hızelı ınᴅcʃıɔ（でもあなたが来たとき、私はもうあの小さな神社に行っていたんですよ）　＊ ɥəᴅc は名詞から来ている接続詞なので動詞は連体形でよい。　＜敬語＞　◆尊敬語　助動詞 ᴅıᴅılə を使う。˥ɔlı ᴅıᴅılə（いらっしゃる）。　◆謙譲語　助動詞 ınsclə を使う。˥ɔlı ınsclə（参る）。　◆丁寧語　ʃı などの前に ın を入れる。「です」に相当。˥ɔlı ınʃı（来ます）。

ıllʃccı ［動詞］ɥəl を熱愛する、熱愛する、親愛する ［レベル］3　ȷ0:ıl（強意）/ʃccı ［語法］ 自分のすべてを捧げて貢献するという意味。ɷcȷʃ/ʃccı uıɥʃ というイメージ。

ıllʃcɔᴅ ［動物］柴犬 ［レベル］5　ȷ1:ıllʃcı/ɔᴅı

ıllʃɔ ［建築］［地学］塚 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ıllʃəənɔ（土・土）

ıllʃɔn˥ ［言語］脇付　ȷ1

ıllʃɔnı ［名詞］３０歳代男 ［反意語］ʃɔnı ［レベル］2　1L

ıllʃɔɑl ［動詞］ɥəl を預かる、預かる、あずかる ［レベル］3　ɥɷ;/　ȷ0

ıllʃɔl˥ ［生物］腿の裏側 ［レベル］2　1L

ıllʃɔıscᴅ ［生物］副鼻腔 ［レベル］5　1L: 鼻腔を取り巻く骨にできる隙間

ıllʃɔıscᴅɑcız ［生物］副鼻腔炎 ［レベル］5　1L

ıllʃɔɔ ［感動詞］あのね、あのぅ、あのお、あのう、えーっと ［レベル］1　古 :ıllʃɔ, ıllʃɔɔ ［語法］ ȷıı と nee を合わせたような感じ。ただの呼びかけだけではなく、呼びかけながら同時にこれから話す内容を頭の中でまとめている感じがある。多用するとのろいキャラになる。
【用例】 ıllʃɔɔ, eȷ nɔn lı ıʃə eɥɔɔɤ えーっと、わたし、どうしてここにいるんでしょー？

ıllʃɔɔʃɔ ［音楽］ストレートノート、イーブン ［反意語］ʃɔɔʃɔ　ȷ1

ıllʃɔɔ˥ ［音楽］ヴィーデ、コーダ ［レベル］6　1L: 終わりへ→ ıllcʃ

ıllʃe ［名詞］マッチ、後一歩で勝負が付く、後少しで結果が出る、もう一歩、ラストスパート、最後の一踏ん張り、決戦前夜、止め前 ［感動詞］あと一歩だ、もう少し、もう一歩、もうちょっと、がんばって、もう少し ［レベル］2　1ʕ: 制 :ıllʃees

ıllʃeȷʃ ［言語］別名、異名、マージ名 ［レベル］4　1ʔ: 制 ［語法］ マージ名とは、ɥccɷɥı に対する ɥcɷcı、φeɥXıᴅesəə に対する φcl などのこと。使徒のうち、本名をもじってできたもののこと。˥lccz はアルカでは ˥lccz だが、和訳は「クリス」。この場合、和訳のほうはマージ名となる。また、メティオを「バロン国」と和訳したのもゲームを元にしたマージ名。

ıllʃeᴅdeɥı ［約物］［言語］激しい驚嘆。文末で使用。ɾɾ で示す。 ［レベル］2　ȷȷ

ıllʃezhɔə ［化学］亜硝酸塩　1L

ıllʃezıȷl ［化学］亜硝酸 ［レベル］6　1L:ʃezıȷl に ıl をつけたものなので、ıllʃez 単体では特に使わない。

ıllʃezıȷlı ［化学］ニトロソオキシ基。亜硝酸が１つ水素を失って開いたもの。ＲＯＮＯ。　1L

ıllʃezıȷlc ［化学］亜硝酸塩、ニトリト化合物。ıllʃezhɔə と同じ。　1L

ıllʃelıɥ˥ ［言語］譲歩、情報の接続詞。ɑcn など。ただしアルカの場合は接続詞ではなく格詞。 ［レベル］4　ɥɷ;/ 逆接の語順が変わったものであることから。　ȷʔ

ıllʃeıd ［医療］硬膏 ［レベル］5　1L

ılſeɔɒ [形容詞] いつか終わりが来る、永遠でない、有限の、かぎりある、限りある [反意語] ſeɔɒ [レベル] 4 1L [語法] ſeel 【用例】 hıſcı ılſeɔɒ 終わりのある恋

ılſeɔɒȷɔuɔ [数学] 有限小数 [レベル] 4 Ɉ?

ılſeɔɒµecn [数学] 線分→ µecn [レベル] 4 1L

ılſeeɒȷ [シェルト] 回転した永駒 µɑ;/ Ɉ?

ılſeezen [気象] 偏東風、貿易風 [レベル] 4 1L

ılſees [名詞] 無限空アルテージュ [名詞] 決戦、決勝 [レベル] 3 古 :ſees が語源で、それに対語をも意味する ıl をつけたものが ılſees。ſees は ſeeoɒȷscnı「テームスの空」が語源。 [文化] µɑ においてテームスの本拠地へと繋がる穴であり、ここからテームスが降ってくる。アシェットはここに乗り込んで最終決戦を始めた。場所はファルシアン宮の上。すなわち中央アルナのカルテ上空。 【成句】 ıȷeſ ucl ſeeɒȷ ɔl uıµ elɑ ılſees 虎穴に入らずんば虎子を得ず ſɔe ılſees 乾坤一擲

ılſeesȷel [歳時記] アルテージュの日、防災の日 [レベル] 3 Ɉ1 [文化] アルテージュができて悪魔が降り注いだ日。現在では防災の日になっており、休日。ɑɥə µıl。 小説版アンクノット第三巻によれば、２００１・４・２６に今の言葉でいうところのアルテージュができたとある。このときの設定では前年に倒したテームスがよみがえり、ここから宇宙のクリスタル集めが始まることになっている。現在の µɑ とは内容が異なる。

ılſeel [形容詞] 一生来ない、ずっとこない、ありえない [反意語] ſeel [レベル] 4 1L [語法] ſeel 【用例】 ın lɔſ ſəəbe ȷel eſ ılſeel ılaəſel. こんな日は絶対訪れないと思ってた。 ȷɔµɑıſ ılſeel 来るはずのない王子様 nɔn ɒcll ȷɔµɑıſ lılel ɑcen ȷeµ lı eſ ılſeel. 迎えに来てくれないって分かってる。だけど、求めてしまうの。

ılſəȷ [農耕] [植物] 作物、農作物 [レベル] 2 1L:clɒəȷ:µcɑcı:ıl/ſəȷəc [語法] 田畑で取れる穀物以外の収穫物。 【用例】 ılſəȷ scɔſ ɥə ɒeµel ɒcl ɗıſe. 暴風雨のせいで農作物が台無しになった。 ılſəȷ eſ ɑc{ıılɔ} 豊作だ { 凶作だ } ınȷ ȷıclıſ ılſəȷ ɑc cɒ ſə ȷılſ. 今年は豊作だった。

ıՈ [動詞] ɥəl を助ける、助ける、手伝う、救う、貢献する [普通動名詞] 援護、手伝い、バックアップ、補助、介助、助け、ヘルプ、後押し [反意語] ɑcl [レベル] 2 ɑµɑ 赤 :ɑısc,ıՈ ɑısc:ıՈ:ɑıis [語法] 手伝うの意味もあるので注意。命乞いのとき「助けて」とは言うが、ıՈ nɔn とは言わない。ſe ȷeſ nɔn となる。しかし、殺されそうなとき、近くにいる人に ıՈ nɔn とは言える。その意味で「救う」の語義もある。 【用例】 nɔn ıՈıſ ɒıɒı µeɑ hıſ. ママがお皿を片付けるのを手伝った。

ıՈɥənȷ [感動詞] 任せろ、平気だ、大丈夫 [アクセント] ꝉՈɥənȷ [レベル] 2 ɑµɑ 赤 :「鳥籠姫を助ける」。ユンクを助けるのは俺だという意味で、昔からこの意味 [語法] 語源からしてふつう µenſe は使えない。ɥənȷ の部分を何かに変えてユーモアにすることがある。男性並みにできるとアピールしたい場合は ıՈɥənȷ とすることがあるが、µenſe はふだんは ɥəəȷ nɔn ȷɔ ſɔſɔ のように言うことのほうが多い。

ıՈıl [名詞] 救難信号、ヘルプ、救助を求める [レベル] 5 1L:ɒelcɑcı ılcȷ

ıՈec [名詞] 参考書、解説書、虎の巻 [レベル] 4 Ɉ0 [文化] 学校のものに関しては clɒ 参照。

ıl ȷleeuel [感動詞] そんな、そんな！、まさか、ひどい、不公平だ [感動詞] 天気が悪い、あした天気になあれ、明日天気になあれ [レベル] 2 ſɒ Ɉ? [語法] 天気が思い通りにいかなかっときに不満を言ったり、希望の天候を願ったり、裁定が不公平だと感じたときに使う。

ıՈı [形容詞] 最大の、最高の、最も〜な [名詞] 最大、最高、最良 [反意語] ıuen [レベル] 1 1L:ılſcnȷıı や ıՈıc から [語法] 最大などの意味だが、場合によって最高と訳してもよい。 【用例】 lılſ ıՈı 最高で、最大で ɔlſı ıՈı 最高でも、最大でも senſ ıſ ıՈı. 天気は最高だった。これ以上ない天気だった。 ın nıſ ıՈı. 最高の気分だった＝この上なく嬉しかった。 ı ſee ſee, ɑeµ eȷȷıſ ıՈın. あ、いや、俺が言ってるのは最上級生のことでさ。

ıՈıſ [地名] アルカット大陸 [組み数字] 1 / 6 [レベル] 3 ɑu;e 1ɱ: 制 : 古 :Չıſſı [文化] アトラス最大の大陸で、北半球にある。西はアンシャル、東はインサール。アルバザードは西南のはずれのほうにある。 面積：ꝑ?ۊL0?ꝑɱ.ۊۊ11ۊɱ ȷɒ 」 アジア大陸：ɱ?,ΔȷO,000 ȷɒ 」 ヨーロッパ大陸：10,1Δ0,000 ȷɒ 」 わずかにアルカット大陸のほうがユーラシア大陸より大きい。 ユーラシア大陸より東経が長いのが特徴。

ıՈıſȷczı [地学] アルカットプレート Ɉ?

ıՈıſcȷ [名詞] 救世主、アルカティス、メシア、メサイア [類義語] ıµȷıſcȷ [レベル] 4 古 :ıՈıſcȷ（救世主）← ıՈınſcȷ（同左）← ıՈlınſcȷ（同左）← ıՈ（助ける）/lınſcȷ（霊人） [文化] 例えば µɑ におけるアシェットなど。 【用例】 ȷɔn nɔn lılıſ ı l ȷıſcȷ. だから私は救世主を望んだ。

ıՈıſcȷȷıɑ [地球の国名] エルサルバドル 1L: 国名が救世主という意味

ıՈȷıɑ [経済] 最強国、最強国家 [レベル] 3 1L [語法] ucenȷıɑ [文化] ・なぜアルバザードは何百年もの間、最強国家を維持できたのか
ふつう世界最強の国家というのは転々としていく。なぜアルバザードは ȷɒ から何百年も世界一の座を維持してこれたか。それは国を腐敗させない努力があったからだ。栄えた国は腐敗により滅びる。それをアルバザードは防いできた。 国が腐る場合、サンドイッチ形式で腐っていく。官僚など上の人間が汚職したり既得権益にしがみついたりして淀む。同時に下の人間が豊かな社会の中で堕落して民度を下げる。その汚泥が中産階級にまで浸透し、国は腐敗していく。いつもこれの繰り返しだ。 アルバザードはコネや汚職を廃し、王ですら人徳と能力を兼ね揃えない人間は世襲できないようにした。王はたくさんの有能な養子を持ち、一番人徳と能力の高い子に王位を委ねてきた。そして王は官僚にも同じシステムを敷いた。 同時に民衆の民度を上げ、虚業や悪しき商売を幾度となく規制し、民衆に徳育と知育の重要性を強調してきた。日本はお勉強ができれば東大に入れるが、アルバザードでは人徳もないとアルナ大には入れず、社会の上に立てない。 アルバザードは所得格差の是正にも力を入れ、努力した者が報われつつ貧困層も作らない努力をしてきた。医者と底辺バイトの所得格差は日本では甚大だが、アルバザードでは小さい。どんな金持ちでも年収 1000 万程度が上限。逆に清掃の仕事でも ?00 万は取れる。 日本だと底辺は 100 万未満で上は千万以上が珍しくない。その差 10 倍以上。ところがアルバザードではせいぜい ? 倍程度の所得格差なので総中流傾向が強く、勝ち組負け組みたいな世知辛い世の中にならない。 日本の清掃員は賃金が低い。アルバザードは高い。なぜか。人が嫌がる汚れ役をやってくれているのだから、給料は高くて当然。逆に人から尊敬される医者なんか尊敬で飯食ってればいいんだから、そんなに給料が高い必要はない。
日本も医者の所得はもっと低くていい。こういうと日本の医者はこぞって「そんなことをしたら医者がいなくなるぞ」と脅す。その汚い考えがそもそも間違っている。金儲けできないなら医者なんかやらないという精神の人間は医者になんかならなくて結構。 アルバザードのように知育よりも徳育を重視していれば、子供のころから社会貢献や人助けがいかに大切かを染みこまされる。だから「金にならないなら医者なんかやらない」という発想にそもそもならない。日本の汚い医者のように「そんなことをしたら医者がいなくなるぞ」なんていう脅しは通用しない。 そんなアルバザードでもたびたび上は汚職をし、下は民度が下がってきた。そのたびアルバザードを立て直してきたのは宗教家や革命家といった聖人たちだった。もしミナリスやシオンやミロクやセレンといった聖人がいなかったら、アルバザードはとっくにお鉢を奪われていただろう。 アルバザードにもギャンブルなどの人々を堕落させる賤業は存在したのだ。それで経済が回るなら、馬鹿に金を使わせておけばいいという考えもあった。だが革命家たちはそう考えなかった。人を堕落させないと回らない経済なら、そんな経済は回らなくていい。そして賤業を規制した。 結果、余った金は預金には行かなかった。結局娯楽を奪われた人間は別の娯楽に金を落とす。賤業を規制したことで余剰資金はスポーツや乗り物や旅行など、別のところへ流れた。賤業を消して社会を良くした上、経済循環も維持したのだ、この国の革命家たちは！

ıՈılız [数学] 極大値 [レベル] 5 1L

ıՈılcıµ [地学] 極北 [レベル] 5 ɈɈ

ıՈȷȷcſ [交通] ファーストクラス [娯楽] S 席 [名詞] 最高席 µɑ;/ Ɉ? 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

ıՈȷıſı [歴史] 始祖 [レベル] 4 Ɉ0

ıՈȷıɑ [気象] 最高気温 [レベル] 3 1L:µcɑcı:ıµbılelſ 【用例】 ſel dɔµȷlı, ıl ȷȷıɑ e ȷııɒ eſ ?0 cɒ ɑcȷ. 今日の午後の最高気温は３０度になると予想された。 ıՈȷıɑ ıſ ?ꝑ cɒ ɑcȷ. 今日の最高気温は３５度だった。
☆ɑcȷ, senſ ıſ eȷdſe, ȷee ıՈȷıɑ ıſ Ɉ0 ȷɔnſ ıuenȷıɑ eſ 1Ɉ. 今日は曇りで、最高気温２０度、最低気温１２度だった：ȷɔnſ 格中なので ıſ でなく eſ にすること。

ıՈȷe [形容詞] 洗練されていない、田舎っぽい、素人っぽい、野暮な、野暮ったい、やぼな [反意語] ȷȷe [レベル] 4 Ɉ0

ıՈın [名詞] 救助者 [娯楽] [軍事] 援軍 [名詞] 手伝い、助手 [名詞] 医者の看護婦、看護婦、看護師、看護士、ナース：詳しく言う場合は uılȷıՈ ın。病院内などでは ıՈın [レベル] 2 1L: リディアの書

ıՈıuȷſ [名詞] 最優秀賞 [普通動名詞] 優勝 [動詞] ɥəl に優勝する、優勝する [レベル] 3 µɑ;/ Ɉɱ

ıՈıuȷſın [名詞] 優勝者 [レベル] 3 µɑ;/ Ɉɱ

ıՈıucen [形容詞] 最強 [レベル] 2 ɈɈ 【成句】 lcı φıılın eſ ıՈıucen 泣いてるルシアは最強です：泣く子と地頭には勝てぬ

ıՈıuɔll [形容詞] 肝心の、一番大切な、核心の、最重要な [レベル] 3 µɑ;/ Ɉɱ

ıՈıɑleə [地学] 極南 [レベル] 5 ɈɈ

ıՈıhıcȷı [法律] 最高裁判所 [レベル] 4 ɈɈ

ıl ȷıµſe [感動詞] いただきます、ごちそうさま、ごちそうさまでした [レベル] 1 1ſ: 制 : 古 [文化] 日本語のいただきますやごちそうさまは人との対話。ıl ȷıµſe は神との対話。考え方が異なる。

ıՈıµbızıµɑ [感動詞] アルバザードに栄光あれ、アルバザードのことは任せろ。多義。 ɈɈ:ıՈɥənȷ からの類推

ıՈılſ [格詞] 〜以下、≦、（時間を伴って）〜までに [数学] 以下 [反意語] ılnɔɑ [レベル] 2 1L [語法] ıՈılſ ɑcȷ の場合、今日も含む。今日が最終期限となる。 【用例】 µe ılſ ıſə ɥəl leȷ ſc ȷɔȷ ıՈılſ ɑcȷ. 今日までに君がしてきたことをここに書け。 ıll ıՈılſen 10 １０以下の数

ıՈılſe [天文] 宇宙、全世界 [名詞] 森羅万象 [レベル] 3 Ɉ0: 古 ıl（強意）/\ılſe [語法] [文化] leȷıc, ıµɑc, ıµɑel, ɥəɒını などの異世界をすべて含んだ宇宙のこと。ɔȷı より広い。 日常的には単に ɔȷı の持って回った言い方や ɔȷı の強意として使われる。「このひろーい宇宙に！」というときは、強調しているので ıՈılſe のほうが自然。

ıՈılſen [接続詞] ıՈılſ [レベル] 3 Ɉ1

ıՈııȷ [建築] 最上階 [レベル] 2 1L:ɒelcɑcı ılcȷ 【用例】 ləȷɔ ıՈııȷ 最上階に着く

ıՈıılſc [地学] 極東 [レベル] 5 ɈɈ

ıՈıın [親族] 義理の父、義父、舅 [レベル] 3 Ɉ0

ıՈııɒ [生物] 頬の内側、口の中の部分 [レベル] 3 1L 【用例】 ın ıcl ɑcɔ ıՈııɒ cɒ ȷəcl ȷcn. たまに食事のときに頬の中を噛んでしまう。

ıՈııɒɑıcz [医療] 頬の口内炎、口内炎 [レベル] 3 1L

ıՈııll [数学] 最大値 [レベル] 3 1L

ıՈıılɟ ［地学］極西 ［レベル］5 ɺɺ

ıՈıcſɔ ［娯楽］最高点 ［レベル］3 ɺ1

ıՈıɔlaeɟſ ［数学］最大公約数 ［レベル］3 1L 【用例】 ɥəc ıՈıɔlaeɟſ 最大公約数を求める

ıՈıenl ［アビリティ］必殺技、アルカエンル。手持ちの技の中で最強なものを指す。 ［レベル］3 ɺʔ

ıՈcſ ［ユマナ］ユーラシア大陸 ［レベル］5 制

ıՈcſ(ɺ) ［音楽］ダ・カーポ、ダカーポ ［レベル］5 1L:ı ʅcſ（最初へ）→元の形に戻して ıl ʅcſ

ıՈcɑel ［地名］アルキデル ɺ0 ［文化］ カテージュ東部の山岳地帯の要塞都市。

ıՈcl ［数学］余割、コセカント ［レベル］6 1L

ıՈcld ［約物］バックスラッシュ記号 ［レベル］4 ɺ1

ıՈclzɔleeu ［物理］非正弦波 ɺ1

ıՈɔ ［動詞］ɥəl を ı に派遣する、派遣する、送る ［普通動名詞］派遣、ハケン ［レベル］4 1ʔ: 制 :ııՈɔll（特別な使者）。制では特派。 【用例】 ıՈɔ lıbıɟſ ı lɔcſ ᴅeleſ 社員を別の会社へ派遣する

ıՈɔſ ［魔法］［工学］アルコット現象、斥晄現象 ［反意語］ᴅɥəleᴅ ［レベル］6 ɺ0: 古 ıl/ʌɔſe（同じでない） ［文化］ まったく同じ晄基配列の ucµ 同士の間に魔法物理学上の斥力が生じる現象。

ıՈɔɑ ［アイテム］グラディウス zφ;ıՈhɔ ız ıՈɔ/ɑµec。盾の間から突き刺すように出す剣であることから。 ɺՈ

ıՈɔɑɔµ ［音楽］附点二分音符 1L ［文化］ → ɑɔµ

ıՈɔᴅı ［数学］反比例 ［動詞］ɥəl を ı に反比例させる、反比例する ［副詞］反比例して ［レベル］4 1L 【用例】 ɑeldız eſ ıՈɔᴅı ı bɔlſ. 学歴と腕力は反比例する。

ıՈɔdɟ ［数学］微分 ［レベル］5 1L ［文化］ 微分は nɑ で発見された。積分は古代から基礎的な面積の求め方として萌芽があったが、計算が複雑なため、nɑ まで理論が発達しなかった。結果的に微積分は nɑ で発見されることとなった。両者は逆演算だが、当初は微分は速度の研究で用いられ、積分は面積の計算で用いられた。そのため、両者は別々のものとして研究されていた。当時微分は uıcɟzed（凝視計算）と呼ばれて積分とは別のものだと考えられていたが、やがて積分の逆演算だと分かると、ıՈɔdɟ の名を冠するようになった。

ıՈɔdɟɑɔՈ ［数学］微分係数 1L

ıՈɔµʅılı ［地学］平面図法、方位図法 1L

ıՈeſ ［単位］アルケット ［レベル］5 1Ո: 制 : 古 :ıՈeſſı（押す） ［語法］ 1平方メルフィ当たりに1ヴィヴィの圧力がかかっていることを示す単位。

ıՈeſı,ɑ µɔʅ ıl（強意）/ʌe（方向）/ſı（外側へ）

ıՈeʅɔ,ɑ leſ ıl（強意）/ʌe（方向）/ʌɔ（内側へ）

ıՈeᴅ ［生物］外関 ɺ1:ıl/ʌeᴅᴅelſ

ıՈeı ［生物］裏内庭 ɺ1

ıll ［名詞］数 ［動詞］ɥəl（人や注文内容など）を ı の数に含める、数に入れる、計算に入れる、計上する ［類義語］dıleſ、dıɟɔl ［反意語］ɑılı ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :dılılı（数） dılılı:dılılı:dıll ［語法］ ＜各言語の数＞ アルカ→本項 アルバレン→ ɟcɑıll ルティア語→ ſcııll フィーリア語→ ɟelſıll フィルヴェーユ語→ ɟıµſıll アルティア語→ nıφcıll ルティア語は１２進数。フィーリア語は５－１０－２０進数。フィルヴェーユ語は５－１０と５－１２進数。アルカとアルバレンは１０進数。アルティア語は ɑu の５進数の名残のある１０進数。 ＜基本＞ 0から9までは ɥəə, ʅɔ, ſı, uc, uıl, lcn, ʅcɟ, nɔl, ſen, lɔɟ。１０は ɔn で１１は ɔnʅɔ。日本語と同じ数え方。 ＜アクセント＞ 一桁のものはその単語にアクセントが来る。ʅ϶ など。 二桁になると、一桁目にアクセントが来る。ɔnſϯ や uılɔnſϯ など。第二アクセントは最初の数の後に来る。結果的に、uϯlɔnſϯ のように発音される。なお、uılɔn など、切りの良い数は uϯlɔn のようになる。 三桁は u€φıluϯlɔnſϯ のように３つに区切って発音される。一桁目が第一アクセントで､左に行くほど副次アクセントになる。 四桁も同じシステム。 ＜位取り (zɔnſeu) ＞ 位は ɔn（十）, φıl（百）, ʅɔſ（千）, ɟen（万）までが基本の単位。 億からは４桁区切りで単位を作る。アルカで大きいと考えられている動物の名前を元にして単位は表現される。実際にはサメの方がクジラより大きい種があるが、アルバザード人の感覚だとサメのほうが一般に小さいなど、文化的な見方が含まれているので注意。 どの動物もアルバザードに生息するもので、大きかろうがキリンやコンドルなどは除外される。象はアルバザード領内に生息はしていないが、輸入されてからは知名度が高く一般的。 ucʅɟ ← uıcʅɟ（山猫＝億）, ıueᴅ ← ıuɔᴅ（狼＝兆）, ɑəlſ ← ɑelſ（熊＝京）, ɑınz ← ɑenz（豹＝垓）, ucɔſ ← uceſ（獅子＝ジョ）, ʅınɔn ← ʅınɔ（鷲＝穣）, hıµɑ ← hcµɑ（鮫＝溝）, bɔl ← bel（鯨＝澗）, ʅıᴅeſ ← ʅıcᴅ（象＝正） なお、正で１０の４０乗になり、聖数の４が出てきているため、ここでストップする。これ以上の数は１０の何乗と表現する。 一方、マイナス乗についても同様である。 ſɔn（割、分）, lıµ（分、厘）, ncſ（毛、毫）, ɑıſ（糸、絲）までが基本の単位。 それ以下はアルバザードで小さいと考えられている一般的な動物を元にしたものを使う。語形がほかの数字に似ているものは省かれる。例えば ʅɔʅɔ（鳩）は ʅɔ（１）と似ているのでアウト。 ɔᴅe ← ɔᴅı（犬＝沙）, ʅeſſc ← ʅeſſɔ（猫＝漠）, ɑeᴅeſ ← ɑeᴅ（鶏＝瞬息）, uɔʅᴅ ← ueʅᴅ（鴉＝虚空）, eµeſ ← eµcſ（蝙蝠＝涅槃寂静）, ʅɔᴅeſ ← ʅıᴅſ（鼠＝マイナス２８乗）, zeՈ ← zɔՈ（栗鼠＝マイナス３２乗）, ՈeՐ ← Ոcſ（雀＝マイナス３６乗）, eɟſın ← eɟſı（蛍＝マイナス４０乗） ＜ヒュート式位取り＞ ヒュートやルティアは３桁ごとの位取りを使う。どちらかがどちらかにその数え方を伝来した関係ではなく、単に同じシステムを採用しているにすぎない点に注意。 リュウがヒュート人だったため、電算関係は３桁区切りのものを使うことが多く、結果のちのアルバザード人を悩ませることとなった。現在では科学やテクノロジーでは３桁区切りを使うことが多く、経済や日常生活では４桁区切りを使うことが多い。簿記や電卓は４桁区切りとなる。 地球のＳＩ国際単位系ではプラスの乗数は１乗のデカから２４乗のヨタまでであり、マイナスの乗数も同じ範囲であり、計２０個の位が存在する。 一方ヒュート語ではプラスの乗数は１２段階あり、マイナスも１２段階あり、１乗から３０乗までそれぞれ存在し、計２４個の位がある。エルトの本拠地であったヒュートは文化的な神の影響力が多く、神々が開発した１２進法の影響が残っており、１２個ずつの位は非常にキリが良い。同時に彼らは１０進法も使うため、乗数が綺麗に３０乗で止まる点もキリが良く、古代ヒュート人の智慧が見て取れる。 ヒュート語ではこれら２４の位を節気になぞらえ、節気の名で表現し、数学的見地に芸術や季節感を織り込んだ。しかしアシェットの使徒であるリュウはこれをアルバザード式の節気に置き換えて表現した。このことが後世にも残り、新生では３桁区切りの桁はアルバザードの節気を元にした単語で表現される。 ３乗までは実質 ɔn, φıl, ʅɔſ, ſɔn, lıµ, ncſ と同じであるが、アルバザードでは単位（地球でいうセンチメートル）のようなものにはこの３桁系を使う。１０キログラムをアルカ風にすると 10 ʅɔſᴅe lbı になるが、直訳すると「十千メルバ」である。十千というのはいかにもわかりづらい。そのため、単位には３桁系を使い、４桁系は純粋に数値を指す。 プラスは立春（デカ）から大暑（３０乗）までで､春と夏を使う。 マイナスは立秋（デシ）から大寒（－３０乗）までで、秋と冬を使う。 いずれも４音素までなので、日本語よりは冗長になるということは少なくともない。同じ子音で始まるものが多いので、適宜子音をずらしてある。 ・プラス ınlı:1: デカ cnφe:ɺ: ヘクト ᴅecn:ʔ: キロ ɑcel:ʕ: メガ lcɔn:L: ギガ ılcᴅ:1ɺ: テラ lıeᴅ:1ϸ: ペタ cnəɟ:1Δ: エクサ elcµ:ɺ1: ゼタ ɟeıᴅ:ɺՈ: ヨタ ʅᴅcl:ɺ9 ᴅcıſ:ʔ0 ・マイナス φıµɑ:1: デシ ɑıcn:ɺ: センチ nɔcɟ:ʔ: ミリ lıcɑ:ʕ: マイクロ ıɑcµ:L: ナノ φµeµ:1ɺ: ピコ sınɑ:1ϸ: フェムト oecɑ:1Δ: アト becl:ɺ1: セプト ueɑl:ɺՈ: ヨクト zcın:ɺ9 ſecn:ʔ0 ＜数の種と序列＞ 数の種は３種。数値 (dıleſ)、番号 (ɑılı)、組み数字 (µıdıll)。 これに序列 (ıɟcʅ) と非序列 (clıſ) の２種を組み合わせて６種作る。例えば序列組み数字は ıɟcʅµıdıll となる。 序列は上下関係のあるもの。非序列は上下関係のないもの。 組み数字３は序列系が uınφıµ, lınɟeµ, blcz であり、uınφıµ›lınɟeµ›blcz という上下関係がある。成績を３段階で評価する場合などに使う。uınφıµ が一番良い。 一方、非序列系は ɟleı, brleı, ſµeı。優劣がなく、成績などには用いない。クラスの名前など、上下関係のないものに用いる。 序列数値は１が下｡例えば１点＜１００点。 序列番号は１が上。例えば１位＞１００位。 序列組み数字は既に見たとおり、登場が早いほうが上。例えば uınφıµ›blcz。 日本語ではこれら３種の序列が定かでないため、しばしば混乱が生じる。１というのは良いのか悪いのかよく分からない。 順序なら良いを意味するが、成績なら悪いを意味する。さらに英語まで入ってＡという評定だと成績でも逆に良いを意味することになる。日本人なら誰しも「はて、この１は良い１なのか？」と思ったことが一度はあるだろう。 アルカの場合、３種の序列を明瞭に区別する。それがいいかどうかは分からない。少なくとも組み数字を覚えるのはネイティブ以外には困難であるから。 歴史的には序列と非序列の区別が ɺ1 年までなかった。非序列で圧倒的に占められていた。 ɺ1 年にメルが既存の組み数字１０（古アルカの１０）がほかの組み数字と違って要素同士が互いに等価な感じがしないと言い出した。それがきっかけで序列と非序列という区別に至った。セレンが両者を区別し、同年に序列系を拡充させた。 厳密にいえばこれまでもたとえば評価を４段階で付けるときに ılſe などとするのは違和感を感じていた。アシュテがシエルより優れているとは思えないし、その逆も然りだからだ。そこで ılſe でなく ſ などを使うこともあったが、これもあまりしっくりこなかった。今回のことできちんと考えるきっかけとなった。 なお、発端となった組み数字１０そのものはその後結局序列でも非序列でもないものとして組み数字から排他された。 ＜歴史＞ 指の数を使って表現した ɟelſıll →１０進法に変化した ɟıµſıll →武器の長さを元にレスティル軍が独自に定めた符牒としての数が広まった ɟcɑıll → ɟcɑıll を元に作られた制アルカ→それを変化させた現在の ıll 【用例】 ıll ɟɔµ{ſcn} 大きな数

ıllɟıɟ ［数学］数列 ［レベル］5 1L

ıllɥɔl ［電算］ナンバーロック ［レベル］3 ɺ0

ılllɔſɟ ［電算］テンキー ［レベル］3 ɺ0

ıllı ［形容詞］～というもの ［レベル］1 古 :ıllı（というもの総体）。lılı（存在 / 存在）と同語源。ただし ıllı と lılı は別の意味を持った別の語 ［語法］ 名詞に付き、以下の説明がその名詞全般に渡ることを指す。ᴅcn ıllı は「女というものは」という意味で、女全般を指す。論理的には cl ᴅcn と同じだが、cl ᴅcn はｅｖｅｒｙと同じように個々の成員に焦点が当たっている。 【用例】 ucʅ ıllı eſ cbeſ ı uɔµſ. 男というものはいつまでも幼稚なものである。

ıllın ［名詞］［形容詞］二次創作、二次 ［反意語］lınɔ ［レベル］4 ɺ1:ıl/lınɔ。@ ɟcᴅe だと発音しづらいため。

ıllıɑſ ［動詞］ɥəl を c から欠席させる、欠席する ［類義語］ʅcɟſ ［反意語］lıɑſ ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbıleſſ 【用例】 ☆ lı ıſ uɔՈı ıləəſel ᴅın lı ıll ıɑſ c lıl. 彼は忙しかったに違いない。そうでなくば授業に欠席するはずがない：ＯＴＨＥＲＷＩＳＥに相当する uecl は使わない。

ıllıɑnı ［形容詞］無責任な ［反意語］ıllıɑnı ［レベル］3 µɑ;/ ɺՈ

ıllıɑnıucnɟ ［普通動名詞］ポイ捨て ［動詞］ɥəl をポイ捨てする、ポイ捨てする ［レベル］3 µɑ;/「無責任廃棄」 ɺՈ 【用例】 lı ıµıſ ıllıɑnıucnɟ e ɥıɟ ı ɑɔnſ. 彼は道にタバコをポイ捨てした。 lın ɑc ıµ ıllıɑnıucnɟ e ɥıɟ ı ɑɔnſ ɟıen ıſɔc lʼın ıµ ᴅellıb ʅı. 自分が働いてるコンビニの前の道にタバコをポイ捨てする奴が多い。

ıllclcəɟ ［名詞］貸し ［反意語］lclcəɟ ［レベル］3 ɺ0

ılle ［形容詞］懐かしい ［類義語］ılɑcı ［レベル］3 ȷɔɥn:lɒccɥ:「どんどんなくなっていく」が原義 ［語法］ ılle が ılɑcı の上位概念。ılle は以前体験したことを思い出させるような何かに遭遇したときの感情である。自分から思い出そうとするのではなく、認知したものから自然と思い出させられるような場合に使う。日本語と違って良い意味で用いるとは限らない。良悪はない。囚人時代も懐かしいといえる。日本語の懐かしいより広い。懐かしい数学とは言えないが、ıl ılle はいえる。数学の中で昔学んだ分野がふいに思い出されるような場合に使う。 ılɑcı は主に思春期の甘美な思い出を思い出したときの感情。ılɑcı の下位概念だが、こちらは良い意味でしか使わない。ılɑcı と ıɥʃcı の比較→ ıɥʃcı 【成句】 ȷıɒ cɒen ɑcȷ eʃ ɑccnı ılle cɒen ȷcl. 今日の「新しい」は未来の「懐かしい」のため（ȷeɥen ıɥbızıɥɑ）【用例】 ın nıʃ nıcɑ ɒın ʃeɥ leɒ ılle. 懐かしい曲を聞いてじーんとなった。

ılleȷɑel ［数学］数秘術 ［レベル］6 ⅃⅃:「数の意味の学問」

ılleıʃ ［天文］月食、月蝕 ［レベル］4 ⅃0

ıllelɑ ［形容詞］バッドタイミングな、間の悪い、タイミングの悪い、時機でない ［反意語］lelɑ ［レベル］2 1L 【用例】 "ɔə, denʃınʃ, ʃəɥ eʃ ıl elɑ. ʃəɥ uɔlı e"「あぁ、ごめん。今バッドタイミング。忙しいんだ」 "ılı eȷ ıɥcı e lıle ɑccnıen lız ɗıcn ıllelɑel ıɥȷen lclȷ ɥıȷlı c sclc ʃ'ɔɒc ıı"「なんで少女マンガの主人公ってのは、男が浮気相手とキスしているときに、都合悪くドアの隙間から見ているものかなぁ」

ıllelɒ ［気象］白夜 ［レベル］4 1L

ılȷ ［動詞］ɥəl を放置する、放置する、放っておく、そっとしておく ［動詞］ɥəl をそのままにする、～しっぱなしにする、～しはなしておく ［形容詞］～しっぱなしの ［副詞］～しっぱなしで ［レベル］2 1L:lıl/ȷɔ（そのままにしておく） ［語法］ 日本語と同じく「放っておく」という意味もある。 【用例】 ın ıɥıʃ ʃeφl ılȷel uıɥ ucɥɑ. 一晩中ラジオを付けっぱなしだった。 dıȷȷɔ dıȷȷɔ, ılȷ lı. いい、いい、あいつは放置で。 ȷıb ılȷ 脱ぎっぱなし｛着っぱなし｝の服

ılȷlɔl ［形容詞］いつもと違った、風変わりな ［反意語］ȷlɔl ［レベル］2 ⅃0 【用例】 nɔn lıɑıʃ bel ılȷlɔl cɒ ɑcȷ ı. 今日はいつもと違う料理を作ったわ。

ılȷı ［被服］上着、ジャケット ［レベル］2 1L:ȷɔnɔhcnɔlc:ılȷılı 【用例】 ȷıb ılȷı 上着をひっかける le ılȷı ʃcl ını. あのジャケットいいね。

ılȷıʃ ［動詞］ɥəl（機械）をセットしたのを解除する、解除する、解く ［武道］［動詞］ɥəl の構えを解く ［反意語］ȷıʃ ［レベル］2 1L 【用例】 ılȷıʃ neʃɒ el 目覚ましを解除する ɥe ılȷıʃ, ʃɔu cl ʃɔɔl. 構えを解け。喧嘩は終わりだ。

ılȷıɒe ［言語］与格 ［レベル］6 ⅃0

ılȷıdl ［化学］ニトロソ化合物 1L

ılȷıdlı ［化学］ニトロソ基 1L

ılȷıb ［動詞］ɥəl を c から脱がす、脱がす、脱ぐ ［反意語］ȷıb ［レベル］2 1L 【用例】 ılȷıb lıȷl dɔʃ lec ɒɔlʃ. ベッドでは靴を脱ぎなさい。

ılȷıı ［形容詞］印象にない、印象に残らない、存在の薄い、影の薄い ［反意語］ȷıı ［レベル］3 ⅃0 【用例】 ȷıe ɔ lecn eʃ ılȷıı. 紗枝やレインは影が薄い。

ılȷız ［名詞］４０歳代の男 ［反意語］ȷız ［レベル］2 1L

ılȷc ［普通動名詞］嫌がらせ、いやがらせ、ハラスメント ［動詞］ɥəl に uɔl の嫌がらせをする ［レベル］3 古 :ıl/ȷccnı 【用例】 lı ılȷcʃ ın uɔl ləueɥ ın ɑcel ȷcn. あいつは根も葉もない悪口を言って嫌がらせをしてきやがった。

ılȷcnl ［形容詞］一時的でない ［反意語］ȷcnl ［レベル］3 ⅃0 ［語法］ 一時的でないが、永遠かどうかは分からない。

ılȷcd ［動詞］ɥəl（吸ったもの）を吐く、吐く ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcȷ 【用例】 ılȷcd leɑ 息を吐く

ılȷcı ［地名］アルシア、銀泉京 ［レベル］2 古 :ɥcɑcı:lȷcı ← ȷcı/ȷcı。ȷcı の本義は膜で、牛乳の油膜なども ȷcı という。牛乳の油膜は泉の水面に当たるため、水面も ȷcı という。正確には ȷcı lenɔ elɑe や ȷcı lenɔ eɥcı などといった。アルシアは森と泉に富む。泉が多いことから ılȷcı と名付けられた。ȷcı で elɑe を指すのはメトニミーであるから、これはメトニミーによる地名である。「銀」は魔法の銀。 ［文化］ アルバザード北側に位置する都市。アシェルフィの北のソエンを越え、ザミアと違う方角に飛んでいけば１日で着く距離。アルシェがフルミネアと出会った場所。アルシアの１１魔将がいた場所。

ılȷcı(⅃) ［名詞］アルシアの１１魔将 ［シェルト］横軸、軸 ［組み数字］１１ ［レベル］4 古 :ɥcɑcı: １１魔将が集結した地であることから１１魔将の創造主はリディア。ソーム以降に生まれた。比較的新しい登場人物。語源は全て古アルカの火などの属性を表わす言葉。見てそのまますぐ何だかわかるようにしてある。彼らは神でなく人間であることを強調されたため。大抵 lınʃcȷ を表わす lın や ʃcȷ などの接辞が付与された名前になっている。更に lın や ʃcȷ の一部しか使わないで人を表わす名前もある。女性は比較的指小辞の n が付いたものが多い。語呂が良いので語源となった単語を変えないでそのまま名前にしたものもある。聖と邪は最後にできた。他の９将を作ってから数ヶ月以上経っているため、ネーミングが他のＬ名と不統一。lın が前置している。 ［文化］ ɥəȷcɑeɥ ＜概要＞ カコに現われた１１人の武将。各々得意とする分野の魔法を持つので１１魔将と呼ばれる。それまで散逸していた魔法を１１種の区別に分け、うちソームが支配する７種を基本属性と正式に決めた。つまり、魔法学の大成者である。アルシアの性別はデームスの性別と同じ。トゥーノは無性別なので男女同数。ちなみに、デームスにない利害は共に男。尚、１１種の魔法とは闇水風土火雷光聖邪利害である。 ＜美徳＞ アルシアは１１の美徳を象徴する。最初の７つはソームの悪徳と対応関係にある。この象徴が完全に定まったのはメル１９年だが、発想自体は赤アンクノットに既に見られ、形を変えながら受け継がれてきた。 ueıʃcȷ: 正直 eɥcn: 祝辞 ʃeezen: 禁欲 ʃəənıȷ: 勤勉 ɑıclı: 冷静 ccɥeȷ: 謙虚 dıʃcȷ: 質素 lıɒcɑ: 敬虔（神を信じる心の強さ） lınueɒ: 討異（異端者・不信心を討つ心の強さ） dɥɔʃcȷ: 信賞（善を称賛する心） leucn: 必罰（悪を罰する心） この中で討異はそれに当たる日本語が見つからなかったので造語したもの。 アルティス教は異端者に本来寛容だが、不信心な信者には厳しいため、不信心を主に討つことを意味する。また、不信心な人間を討つことと悪を罰することは別の美徳として捉えている。夢織のランヴェムには、アルティスでなく死神の視点で夢喰いという異端者を討伐するという意味合いが込められている。

ılȷcı(ʔ) アルシア国 古 ［文化］ ɥəəɒı ʕL09 ユシフェル、アルシアを独立国家と宣言。国王と真っ向から対立し、レスティルから独立 ɥəəɒı ʕL⅃∩ ユシフェール（アルシアの 11 魔将）の魔力は凄まじく、レスティル軍ではまったく歯が立たなかった。あまりの強さにアンダントは戦慄。前線でアンダントは捕虜となるも、拘置先の研究所で厚遇され、そのまま解放される。その後逆に攻め込まれるものと覚悟したアンダントであったが、ユシフェールの要求は奇妙なものであった 同冬 ユシフェールは「レスティルがアルシアの独立を認め、自分達が研究に勤しめる静かな環境を提供してくれれば、それ以外には何も要求しない」と述べた。ユシフェールは戦禍の復讐も行わなければ、レスティルへの侵攻もしないと約束した。このあまりに控え目な要求に王は混乱した。武人である王は生粋の学者の心理が理解できなかったのである。アンダントは是非もなく要求を受け入れ、アルシアを独立させた。こうして人口 ʔ0 万人の小さな国家アルシアが誕生した

ılȷcıɑıuı ［被服］イブニングドレス ［レベル］6 ⅃1

ılȷcıɑɔnʃ ［シェルト］扉の軸移動 ɥɑ;「横軸を通る」 ⅃ʔ

ılȷcıɒeɒ ［組み数字］アルシアサークル ［レベル］4 ⅃1 ［文化］ ɥıdıll

ılȷcıcln ［名詞］晴耕雨読 ［レベル］5 ⅃⅃:「アルシア人の暮らし」

ılȷccne ［名詞］嫌いなタイプ、タイプ、趣向、好み ［反意語］ȷccne ［レベル］3 ɥɑ;/ ⅃∩

ılȷɔlʃ ［数学］正割、セカント ［レベル］6 1L

ılȷɔln ［動詞］ɥəl をほどく、ほどく、解く ［反意語］ȷɔln ［レベル］2 ⅃0 【用例】 ılȷɔln ɑɔʃ 紐を解く

ılȷɔn ［人名］アルソン ［組み数字］5／5 ［レベル］3 古 :ıl は ȷɔ の重ね。n は人名化のための指小辞。行為者という意味。 lɔɔ:lɔɔ:dıɑeʃ:ʃȷəlcȷ ɔ,ılʃ ［文化］ ueɥɑəɥne ɑɥecφclɑ リーファ隊の５番目。女性。ミロクの改革の実行者。ミロクがああだといえば何であろうとそれを実行する指揮を執る人間で、特に多忙だった。事実上軍事の一旦も担っていた。精力的で快活。

ılȷɔn(⅃) ［格詞］［文頭純詞］ȷɔn の強制形 ［レベル］1 1L: セレンの誤解で生まれた強制形が、夢織を境に固定されたもの。リーファ隊のアルソンとの区別ができないので好ましくないのだが、定着してしまった。 【用例】 ʃə ȷcl eȷl. ılȷɔn ın dcɔ uın eȷn. 雨になりそうだ。だからこそ傘を持っていこう。芝居がかった言い方。

ılȷɔnȷel ［ユマナ］金曜日 ［レベル］2 1L

ılȷɔnlcl ［化学］アスタチン 1Δ: 制

ılȷɔnen ［接続詞］ılȷɔn ［レベル］3 ⅃1

ılȷeȷcl ［形容詞］直前 ［反意語］ılɑınʃe ［レベル］2 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ılȷenl ［動詞］ɥəl を不揃いにする ［形容詞］不揃いな、不均一な、不均等な ［形容詞］歯並びが悪い ［レベル］3 ⅃1

ılȷenlncı ［美容］シャギーカット ［レベル］5 ⅃1

ılȷenllcbφɔʃe ［生物］多列繊毛上皮、多列線毛上皮。気管や卵管に見られる。 ɥʃ;/ ⅃∩

ılȷeφılɑ ［天文］超銀河団 ［レベル］6 ⅃0:ıl（強調）/ȷeφılɑ

ılȷeɥ ［親族］兄、にぃ、兄ぃ ［反意語］ıɥəəs ［レベル］2 1Δ: 制 : メルに対するセレンの関係 ::lə elȷc ［語法］［文化］ 血縁関係になくとも親しい目上の人間は ılȷeɥ と呼べる。ただし同じ師匠の下にいる門下生で先に入った弟子、つまり兄弟子のほうを指すときは ȷılın を使う。兄弟子が年下で親しければ ȷılın と呼びながら ıɥəəs と呼ぶこともありえる。

ılȷeɥcı ［被服］アルセリア。暖かいセリア服。 ［レベル］3 古 :ıl/ȷeɥcı（反対＋寒巫服＝暖かい服） ［文化］ セリアをベースデザインに、暖かく改良したもの。布教が遅れた東方・極方で作られた。 北方民族にありがちなデザインの防寒服。フィンランドのラップランドに住むサーミ人の民族衣装や、アイヌ人の民族衣装に似ている。寒い地方にありがちなデザインの服で、セリアも同じようなデザイン。上着だけでなく頭に巻く布や下に履くややだぶだぶのズボンなども全て含めてアルセリア一式である。

ılȷeɥeʃ ［形容詞］やる気のない ［反意語］ȷeɥeʃ ［レベル］3 ⅃0

ılȷeeɥe ［丁寧］［親族］お兄様、お兄さま、おにいさま、アルセーレ ［レベル］2 ⅃1:l.ılȷeɥ ［文化］ lılı ［語法］［文化］ ılȷeɥ

ıln ［名詞］マンネリ、倦怠期、あき、飽き ［形容詞］あきあきした、飽き飽き ［レベル］3 1ʔ: 制 :ılcnı（飽きた心）【用例】 ʃcınıl lıen ıln 倦怠期にあるカップル leɒ ıln あきあきした曲

ılnı ［名詞］宴、パーティ、宴席、酒宴、宴会 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɥcɑcı: 古 :ılnıhɥə（楽しい楽しいこと） ［文化］ 宴会は好きなもの同士が寄り合って行う個人的なもので、接待文化はない。９時まで外出できる夏によく行われる。夕方に始まり、８時ごろに終わる。場所は誰かの家や飲食店など。 【用例】 lı lənıʃ ucl ılnı cn. 彼はパーティーに来れそうになかった。

ılnı(⅃) ［ɥenʃe］［動詞］lɔlc ［レベル］1 1L:nı/nı で ılnı。ıl は古アルカで、重複を意味する。

ılnılcɥcȷ ［形容詞］［ネガティブ］感情表現が単純な、単純な、心が鈍感な ［反

意語] nılcɥcȷ [レベル] 4 ⅃0 [語法] [文化] → nılcɥcȷ, ȷeɥnı

ılnıȷʃ [生物] 肘の裏、肘窩 [反意語] ılᴅclʅ [レベル] 3 ⅃⅃ [語法] nıȷʃ

ılnını [名詞] 男の赤ん坊 [反意語] nını [レベル] 2 1L

ılnıᴅeʃ [動詞] ɥəl の首を反らす、そらす、反らす [レベル] 2 ⅃1 [文化] nıᴅeʃ

ılnııʃ [名詞] ２０歳代の男 [反意語] nııʃ [レベル] 2 1L

ılncᴅc [生物] 白目。黒目でない部分→ ncᴅc [レベル] 2 1L

ılncıʅı [美容] ネープ ⅃1

ılnɔlı [被覆] 私服 [反意語] nɔlı [レベル] 3 ɥɑ;/ ⅃ʔ

ılnɔɑ [格詞] ～以上、≧、（時間を伴って）～以降は、～から [数学] 以上 [反意語] ıʃlılʃ [レベル] 2 1L 【用例】 ɑcʃ ılnɔɑ ɔn. 10 個以上ください。 ın ʅılᴅı lı ɥı ılnɔɑ uıɥzɔn. 私は普段８時以降は家にいる。 ʃə eʃ lelʃ ꜛ ılnɔɑ ɑcȷ lı. 今日から五月か。

ılnɔɑen [接続詞] ılnɔɑ [レベル] 3 ⅃1

ılnɔc [親族] 義理の息子 [レベル] 3 ⅃⅃

ıluı [感動詞] 気をつけて [レベル] 2 1ʃ:ɥcɑcı:ʅlel: 元は ılıuın。リディアが夢にアヴァンが現れないように祈った言葉が ılıuın である。この ıl は制アルカの ıl ではなく、古アルカの反意を表わす接頭辞で、およそ「アヴァンよ来るな」ということを意味した言葉だろう。リディアが寝る前にこの言葉を言っていると伝えたことで広まった。元は寝る前だけに使われたのだが、そのうちあらゆる恐怖の前に使われるようになっていった。

ıluıȷ [普通動名詞] 平和、ピース、和睦 [動詞] ɥəl と和睦する、和睦する、平和を保つ [形容詞] 平和な [類義語] ılᴅıluıȷ [反意語] uıȷ [レベル] 2 1L:ıl/uıȷ（戦い＋反対）【成句】 ɑcı ıluıȷ 天下泰平 【用例】 cʅn ıluıȷ 平和な日常 ıɥbızıɥɑ ıluıȷeȷ ʅıɑ ɑɥeᴅ ɑə ɑcl. アルバザードは長い間隣国と平和を保っている。

ıluıȷ(⅃) [音楽] テルミン ⅃1:ıluıȷ

ıluıȷʅıɑ [地球の国名] ブルネイ・ダルサラーム国 1L: 国名が平和な国

ıluıȷıʅn [政治] 平和主義 [レベル] 4 1L 【用例】 enccʅ ʃcl ıluıȷıʅn. エニークは平和主義の国だ。

ıluıȷ e ɑcᴅılcı [歴史] メルテナ中期、パックス・ディマリア。ɥəəᴅı ʃ,ʃꜛ～ꜛ,10L [レベル] 5 ⅃0

ıluın [名詞] 完全防御、無傷、ノーダメージ [動詞] ɥəl を完全に防ぐ、防ぐ、ɥəl は ȷɔl に効かない、効かない、無効だ [形容詞]（ın で）鉄壁な、堅牢な、難攻不落、無敵な [類義語] ʃɥeᴅı [反意語] bcn、ɗeeφ [レベル] 3 ɑu;ıluınɔ<uınɔ/uınɔ ⅃ʃ [語法] 完全に防御してノーダメージなこと。

ıluınɑ [武道] カウンター [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ [語法] deɑuınɑ

ıluınɑı [形容詞] 冷たくて助けてくれない、冷淡、悪い意味で不干渉 [反意語] uınɑı、ılɑıs [レベル] 3 1L

ıluını [形容詞] [ネガティブ] 自信がない、弱気な [経済] ベア [反意語] uını [レベル] 2 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ

ıluınɔ [人名] アルヴァノ [組み数字] １３／１４ [レベル] 4 古 :ıluınɔ ← uınɔ/uınɔ [文化] (_ʕ lcȷ ɑcn) 第４期３代第１３使徒。メルの実母。

ıluınɔȷ [アトラスの国家] アルヴァノス [レベル] 5 ɑu;ıl/uınɔ「守る」 1L:ɥcɑcı:ıluınɔ（守る）[文化] 面積：ʔ1Δ1ʃΔ.⅃Lʃꜛ0 ʅᴅ ⅃ ᴅelʃcı Δꜛ'0000 に神々が建てた国で、現在も残っている。

ıluınɔlcl [化学] イッテルビウム [レベル] 6 1Δ: 制

ıluınɔlccɑı [天文] フォーマルハウト [レベル] 6 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel [文化] 秋に輝く唯一の一等星。黄道を通る４つの一等星の中ではアルデバランに近く、メルの横にいることになる。

ıluıᴅ [形容詞] 大人しい、おとなしい、大人しくなった、沈静した [動詞] ɥəl を大人しくさせる、大人しくさせる、おとなしくさせる [反意語] uıᴅ [レベル] 2 ⅃0 [語法] 暴れたりしないで大人しいさま。ɥəlʃ が ıluıᴅ なら、lcı は uıᴅ。

ıluıɥ [化学] レプトン、軽粒子 [レベル] 6 古 :ıl/uıɥʅın

ıluıɥʃ [形容詞] とてつもない、途方も無い、途方もない。uıɥʃ の冗語。 [レベル] 2 ⅃⅃

ıluılɑɔɥ [音楽] 附点十六分音符 1L [文化] → ɑɔɥ

ıluıcn [魔法] アルヴァイン。利の高位白魔法。 [レベル] 6 ʃᴅ;/「抗ウイルス」 ⅃ʔ [文化] uıcn

ıluc [形容詞] 強大な、強い、とても強い、強靭な [文字] ヘビー [類義語] ucen [レベル] 3 ⅃1:ıl（強意）/uc

ılucȷıᴅ [被服] ブルマ、ブルマー [レベル] 5 ⅃0 [文化] 女権の復古とともにコルセットが疎外され、動きやすさを重視した結果、ブルマが ɥɑ で作られた。女子体操着となったが、後世革命で廃止される。

ılucnȷ [動詞] ɥəl（物を地面や台などから）を拾う、拾う、拾い上げる [動詞] ɥəl を見殺しにしないで助ける、助ける。ıʃ と同じだが、見殺しにせずというニュアンス。 [動詞] ɥəl（犬や猫や孤児など）を拾う、拾う、飼う、引き取る、世話する、育てる。この場合の「飼う」などは捨てられていた動物や人間を引き取る場合に使う。 [類義語] ılıʅɔ [反意語] ucnȷ [レベル] 2 1L: 捨てるに比べ、圧倒的に頻度の少ない日常動作であることから ıl をつけた。 [語法] ılıʅɔ 【用例】 ılucnȷ bıȷ ʅı ȷɔʅl 公園でごみを拾う uec ɥəlc ılucnȷıʃ lıɑcn ɑısel e. 何人かの子供が親切にも拾ってくれたわ。 ılucnȷ ʅeʃ 猫を拾う

ılucɑɔɥ [音楽] 附点八分音符 1L [文化] → ɑɔɥ

ılucɑ [生物] [医療] 経穴→ uccɑı ȷzl;ıl/uccɑı ⅃ʃ [語法] [文化] uccɑı

ıluclı [生物] 抗原 [レベル] 5 ⅃1

ıl ucın [感動詞] お大事に、おだいじに、元気であれ、元気でありますように [レベル] 2 1ʕ: 制 : 古 【用例】 "ıl ucın... lıᴅen ɥəlc ı"「元気でな……始まりの仔よ」

ılucın [物理] 外力 [反意語] cʃucın [レベル] 6 ⅃0: 物体へ向かう力

ıluccɑeᴅɔ [生物] 内湧泉 ⅃1

ılucɔφ [化学] [工学] ステンレス [化学] [工学] ステンレス鋼 ul;/「錆びない」 ⅃ʃ

ılucɔɥ [名詞] ゾンビ [レベル] 3 ɥɑ;ıluɔɥʃ.ʅ ⅃ʃ

ılucɔɥʃ [魔物] アルヴォルト（闇躯）：第四天：闇の空天 [レベル] 5 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel:ıl/uɔɥʃ（不死） [文化] 霊族。死体に乗り移って活動する魔物。いわゆるゾンビ。知性の幅はさまざま。ただ襲ってくるものもいれば、知能の高いものもいる。したたかなものには、生前の姿を装って愛する者の元へ戻り、歓迎を受けて油断させたところで食い殺すものがある。胡椒やパセリなど、香味の強いものが苦手で、これらを撒くと苦しみだす。 【成句】 ʅılʃɔ ʃ'ıluɔɥʃ 死屍累々

ılue [名詞] 的、標的、マト、狙い、獲物 [類義語] lını [レベル] 2 ⅃0:ıl/ues（矢の向かう方向）

ılueȷʅ [歴史] アルヴェスク [レベル] 4 古 :ɥcɑcı:ıɑel ınueɥ eȷ ʅeʃʃı（悪魔の雨）から。ディアリーファ同様、文を単語にしたもので、元は「悪魔の呪が雨となりて降りきたる」の意（ただし厳密には ıɑel の後ろに le がないので非文 [文化] アデルが振りやすい雨の日。

ıluenl [形容詞] 悪魔の性質を持った [魔法] アルヴェンシュ。邪の多段黒魔法。邪属性の黒紫の光線で敵を焼く。 [反意語] ılᴅcɑı [レベル] 4 ⅃1:ıl/uenl [語法] ᴅcɑı

ılueɑ [名詞] 非ヴィード、現晄、げんこう [名詞] [形容詞] ヴィードを伴わない、非魔法、非魔法の、魔法を使わない [類義語] ɑlıᴅ [反意語] uccɑ [レベル] 4 ⅃1:ıl/uccɑ [語法] lılə l の内訳が uccɑ と ılueɑ。狭義では「非魔法の」という意味で、ɑlıᴅ と同じ。

ılueɑɑel [名詞] 現奏、現晄学 [レベル] 4 ɥɑ;/ ⅃ʔ [語法] [文化] ılueɑ に関する学問で、大別すると文系と理系に分かれる。

ıluez [言語] 内容語← ıleuzueʃ [レベル] 6 ⅃0

ıluezueʃ [言語] 内容語→ ıluez [反意語] uezueʃ [レベル] 6 ⅃0

ıluezeᴅ [言語] 語彙化 [反意語] uezueʃeᴅ [レベル] 6 ⅃0

ıluelʃ [形容詞] 薄暗い、ほの暗い [類義語] uelʃ [反意語] ılɑcɥʃ [レベル] 2 1L [語法] 薄暗い自体がややポジティブと捉えられるため、「部屋が薄暗かったので灯りをつけた」というのを訳す際は ıluelʃ を使わずに uelʃ を使うことが多い。ın ıɥıʃ dıᴅ ᴅın ʃə ez eʃ ıluelʃ だと「ıluelʃ なのになぜつけた？」と思われ、最悪 cȷıʃ の言い間違えではないかと考えられることもある。そのため、ᴅın ʃə ez eʃ uelʃ と訳す。 [文化] 眩しいのを嫌う民族で、薄暗いのを好む。フランス人同様、オフィスであっても薄暗い部屋を好む。アメリカ人とは逆になる。 【用例】 ʃə ȷeȷ lecʅı lel ın ȷıʅ le lec ȷcɑ ɔnen ıɥʃ. その古い魔法の本を見つけたのは薄暗い図書館の中だった。

ıluelȷ [政治] 反政府組織、リターナー、レジスタンス [レベル] 4 古 :ıl/uelȷ 【用例】 ʃeɥcı ɥəʃ ıluelȷ レジスタンスによるテロ

ıluelınʃ [交通] 曲がりくねった道 [メタファー] 紆余曲折 [反意語] uelınʃ [レベル] 3 1L:ıl/uelınʃ

ıluec [地学] クリソベリル [レベル] 6 1L:ıl/uecɥen。ここでの uec はエメラルドではなく「緑」の意。 [語法] クリソベリルという宝石ではなく、アレキサンドライトやキャッツアイなどのグループ名。ただ、普段はイエロークリソベリルを指す。

ılɑ [数学] 数学、算数。教科名。 [レベル] 3 1ʔ: 制 :ıllɑel（数を学ぶ） [文化] → lınʃıhıl, ʃell 数学と算数の区別はない。特に区別しないときは数学で統一する。 神代にエルトのイメアが算数を作った。 その後、ユルグと協力して数学を作った。 アズゲル以降はナユによって研究された。 一方、アズゲルではマレットが魔法陣を効果的に作るために幾何学を作った。 シフェルの民は敵の魔法陣を見破るために幾何学を取り入れた。 アズゲルではマレットの外来語が流入したが、カコでは学者の手によって、自分たちのアルカに翻訳された。 ɥɑ でリュウとピネナに引き継がれた。 この時点で用語も古→制→新生と塗り替えられた。 アルバザード人は数学が好きで、神秘的なものと捉えている。 数字遊びが好きで、特に代数学が好まれる。 しかしその一方で、レイユでは進学校以外は高等数学を勉強しないため、算数レベルの知識しかない国民が多い。 用語の傾向を見ると、幾何はマレット人の言語を訳した古いものであるため、ネーミングセンスが代数と異なっている。例えば体積は ᴅıcn（体）、面積は eel（顔）、表面積は ȷcɥ（肌）のように。代数のほうが ᴅcɥəȷın（変数式＝方程式）のように、理性に基づいたネーミングをしている。 アシェット的には、セレンによる１９年の専門語彙作成の前に既にリュウらによって数学の用語ができていたこともあるため、[数学] タグは特に造語者が書いていない場合、造語者がセレンでないことが多い。 【用例】 ılɑ eʃ elɑ ɑı. 数学は言葉である（ȷeɥen ıɥbızıɥɑ） ın ȷccnı ılɑ. ʃə eʃ ᴅın ın ȷccnı lɔ ɑc nɔɑ ᴅıl ɑc. 僕は数学が好きだ。覚えることよりも考えることを優先するからだ（『数学ガール』）

ılɑlcʃe 数学科 ⅃⅃

ılɑɑcı 数学世界 ⅃ʔ [文化] ɑcıll

ılɑᴅccɥ 数学論 ɥɑ ⅃⅃ [文化] ɑeldınʃ

ılɑɥen [数学] [言語] 数学語 [レベル] 4 ɥɑ;/ ⅃ʔ [文化] ɥɑ でセレンが提唱した概念。数学は数学語という人工言語であると唱えた。言語である以上、他の言語に翻訳することができるはずであり、他の言語に翻訳できない場合は何かしら原文の数学語に欠陥や数学世界におけるご都合主義が潜んでいると述べた。 → nıɑhıɑ に見られるように、セレンは数学を数学的でなく語学的に捉える習慣があった。

それゆえ文系的な物の見方で数学を捉えることが多く、彼は数学は言葉であるという言葉を残した。

ılalcı ［地学］石英、クオーツ、ケイ砂、珪砂 ［レベル］5 lɥ;/ 1L ılᴅc cı:ılalcı

ılalɔl ［運動］懸垂 ［レベル］3 1L: 持ち上げるの反対動作。むしろ持ち引き下げるというイメージ 【用例】 ılalɔl eʃ ʅcn. 懸垂はきつい。 ıɥ ılalɔl ɷə 9 scn 7秒かけて懸垂する

ılaleıɔlᴅı ［名詞］見返し→ lec ［レベル］6 ɹɹ

ılaıɥl ［動詞］ɥəl（伸ばしたもの）を縮める、縮める、縮む、筋肉などを収縮させる ［反意語］aıɥl ［レベル］3 ɹ0

ılaılcᴅ ［気象］極夜 ［レベル］4 1L 【用例】 el ʃcl ȷen ılaılcᴅ ʅı ıɥɷı. アルダでは極夜が見れる。

ılaııɥıᴅ ［名詞］真夜中０時 ［レベル］2 1L:ȷɔɥn 【用例】 ɥıʅ ılaııɥıᴅ １２時を回る、０時を回る、０時をまたぐ、日をまたぐ lılı, ılaııɥıᴅ eȷ ɥıʅ ᴅıdel lın. やだ、もう１２時を回っちゃったの。

ılaııl ［天文］日食、日蝕 ［レベル］3 ɹ0

ılaıc ［料理］ロースト ［レベル］3 古 :ıl/aıc

ılaıəȷ ［人名］アルファウス ［レベル］4 古 ［文化］ アルファウス (ᴅeldı lʃ 8 → ʔ10)。民主主義勢力ミナレットの三代目首領。民主主義勢力ミナレットの三代目首領。メル暦 ɹL0 年、ミナレット第二代首領ファウスは、アルティス教の始祖シオン＝アマンゼの娘マルテ＝アマンゼと戦い、相打ちとなった。よってミナレットは、息子アルファウスに引き継がれた。アルファウスはマルテと共にアルバザード侵攻を行なったマルテの夫にしてアルマスト派の始祖アフレインを殺害。しかし、マルテの子ユレットとアメリとアルファウスはいずれも強力な魔術師であり力が拮抗していたため手が出せなかった。ɹLȹ 年、アルファウスはアルティス教弾圧停止要求を受諾。ʔ00 年、ミナレットとアルティス教が停戦する。同年、アルファウスはアルバザード国王アルバ 19 世を退位させ王制を廃止、最高権力者である副王に就任。ʔ10 年、選挙問題によりアルファウスはユレットとアメリと戦い、相打ちとなる。その後、アルティス教系政党ともに腐敗甚だしい状態となる。ʔɹ0 年、ユレットとアメリの息子ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が選挙に勝利し独裁政権を樹立したことにより、ミナレットは滅亡した。

ılac ［文頭純詞］つまり、すなわち、即ち、言い換えると、別の言葉で言えば、別の言葉を借りると、そういうわけで、てなわけで、というわけで、っつーことで ［名詞］要するにそういうこと ［レベル］2 古 :ȷɔɥn ［語法］ aclᴅ 純詞として使うときは ȷıı と同じく平坦に発音するが、名詞の場合は最初が高く、ふつうの名詞として発音される。直接言いたくないことを避けて言及する場合に使う。例えば「つまりレイプされたってこと？」と言いたいが、uıleȷ という単語を言いたくないので「つまり……そういうこと？」とぼかすときに使う。用例は下の成句を参照。ぼかす内容はむろん話題によって異なる。 【成句】 ılac... ılac ʅɔl8 つまり……そういうこと？ 【用例】 ȷıı, ʃə eʃ ȷıeȷʅ, ılac eʃ lɔz ʃ'eȷʅ ɔ ȷıe ʃcȷee. やぁ、これはみぞれだね。つまり、雨と雪が混ざったものさ。

ılacʅl ［俗語］２．５次元、アルフィクル ［俗語］フィギュア、ラブドール、ドール、人形、萌えＯＳ、ラブプラス、バーチャルリアリティ ［レベル］4 ul;/ ɹʔ ［文化］ 二次元の性質を持った三次元。または三次元の性質を持った二次元。前者はフィギュアなど、後者はラブプラスのようなバーチャルリアリティなどを主に指す。

ılacn ［格詞］強譲歩、〜にもかかわらず ［レベル］2 1L 【用例】 lı ʃıəʃ aınʃ ılacn ʃə eʃ aılʃc uıɥʃ. 金がものすごい値段なのに、彼は買った。

ılacnen ［接続詞］ılacn ［レベル］3 ɹ1

ılacφc ［アイテム］ツーハンデッドソード ȷᴅ;/「槍に対抗する」。敵歩兵の槍を切り払うのに使われたことから。 ɹ၈

ılacɥʃ ［形容詞］眩しい、まぶしい ［類義語］acɥʃ ［反意語］ıluelʃ ［レベル］2 1L 【用例】 ın aɔnl hıɔ le aɔnʃ ılacɥʃ lel cᴅdel(ılʃe ヲタとしては、あっちの明るい通りは避けるべきだなｗ

ılacɥuclȷ ［化学］イソロイシン ［レベル］6 1L:acɥuclȷ

ılacı ［名詞］扉、ドア、玄関戸、玄関ドア、玄関 ［類義語］ɔᴅc ［レベル］2 ɹ1:ıl/acı「世界へ」［語法］ 主に玄関ドアが ılacı。それ以外が ɔᴅc。

ılacın ［名詞］少年、６〜９歳の男 ［反意語］acın ［レベル］2 1L

ılaccnı ［格詞］〜の害になるように ［反意語］accnı ［レベル］2 1L 【用例】 ɷınʅın ıɥ ɥenȷ ılaccnı ɷcɥeʃın ıılıl. 弁護人は容疑者が不利になるようなことは絶対に言わない。

ılaccnıen ［接続詞］ılaccnı ［レベル］3 ɹ1

ılaɔʅ ［文頭純詞］そしてそして、そのまたさらに ［レベル］2 ɹ0:ᴅelcɷcı lceɥ

ılaɔnȷ ［動詞］ɥəl をクビにする、クビにする、解雇する ［普通動名詞］解雇、クビ ［レベル］3 1L:ɥcɷcı:ıɥbılelʃ 【用例】 ʃə lɔcʃ ılaɔnȷıʃ libıȷʃ ᴅcl ɥıᴅ ıucn. その会社は不況により社員を解雇した。

ılaɔnl ［被服］アルフォンル。シュミーズドレスの下に着た防寒用下着。 ［被服］防寒インナー nɷ;ıl/aɔnblınʃ | ul;.ılɛʅ ɹ၈ ［文化］ aɔnblınʃ

ılaɔɥ ［音楽］附点音符、付点音符 ［レベル］5 1L ［文化］ → aɔɥ

ılaɔɥʃ ［アイテム］魔槍アルフォート ［レベル］4 ɥcɷcı: 古 : 語源不詳 a の部分は槍を意味するのか？ ［文化］ ヴァストリアの１つ。ピネナのもつ魔槍。自由自在に伸びる。 【成句】 ɥən ılaɔɥʃ 縦横無尽、自由自在、変幻自在

ılaɔə ［名詞］３〜５ ［形容詞］３〜５の ［類義語］aɔə、ʃcə ［レベル］2 ɹ0 ［語法］ aɔə

ılae ［魔法］精錬媒、溶媒、アルフェ ［類義語］ıɷcȷʃ、səıl ［レベル］6 ɹ0:ıɥʃ/elae（魔法の泉）

ılaeɥeȷ ［形容詞］作為の、ランダムでない、最初から決まっている ［反意語］aeɥeȷ ［レベル］4 ɹ0 【用例】 ʃə ısc eʃ ȷclφcəȷ aəɔ ᴅın uıȷʃın scφıʃ ɥə ılaeɥeȷel. 最初から当たる人が決まっているなんて、その籤は酷いイカサマだ。

ılaelın ［名詞］社会人 ［類義語］ılcaın ［反意語］aelın ɥɷ;/ ɹʔ ［語法］ → ılcaın 学生と社会人の対比を成す語。主に社会人は労働者なので ılaelın を libıȷʃ としても良いのだが、学生は学業だけでなくバイトをする場合もあるので、社会人を libıȷʃ とすると語弊が出てしまう。

ılᴅ ［動詞］ɥəl に油断する、油断する ［普通動名詞］不注意 ［反意語］nıᴅʃ ［レベル］2 1L:ncləəᴅc（心がない）。制 nıᴅʃ の語源 【成句】 ılᴅ ȷeʃ ıleᴅ 油断大敵 【用例】 lı lcᴅıʃ ȷɔɷı ᴅın ılᴅıʃ ɥıᴅe. 彼は自転車に注意しておらず、事故にあった：気付かないという意味でなく、「まぁ大丈夫だろ」と油断していたことを指す。この事故の場合、法的には被害者にも過失性があることを意味する。

ılᴅ(ɹ) ［化学］アセチル種 1L:ıl/ᴅəe。酢酸からヒドロキシ基を取り除いた基を持つ種

ılᴅɥəʅıle ［政治］［宗教］政教分離 ［レベル］4 ɥʃ;/ ɹ၈ ［文化］ → ʅıɷᴅɥəʅıle

ılᴅlcnʃıȷl ［化学］アセチルサリチル酸 ［レベル］5 1L

ılᴅı ［親族］夫婦、配偶者、伴侶 ［類義語］aılle ［レベル］2 1L:ɥcɷcı:lcıʃ は言いにくいので、ılᴅılȷ から ılᴅı に。ıl はここでは複数を示し、２人を意味する。 【用例】 lcᴅ ılᴅı 伴侶を得る＝結婚する

ılᴅı(ɹ) ［化学］アセチル基 1L

ılᴅıʃ ［企業］アルマット社 ［レベル］4 ɹ0:「開放した」の ılᴅeʃ のアプラウト。 ［文化］ 工業系大企業のひとつ。ナディアで船の管理会社として発足した後、船の部品などの工業製品にも着手。大航海時代に荒稼ぎをした資金を以ってアルティルには事業形態を変え、工業製品一般を製造。ジンティ＝アルテームスなどを研究員に向かえ、プラスチック製品などを販売した。

ılᴅın ［格詞］［文頭純詞］なぜならば、〜のせいで、強原因 ［レベル］2 1L dcn:dcn 【用例】 ın en ʅeʃ ılᴅın eaı. 風邪で行かなかったんだ。 ıl ᴅın ʃcɼ お前のせいだよ！

ılᴅınȷ ［動詞］ɥəl を枯らす、枯らす、萎れる、しおれる、しなびれる、枯れる、かれる、朽ちる ［反意語］ᴅınȷ ［レベル］2 1L 【用例】 nɔn ᴅcll ᴅccnı ʃe ılᴅınȷ. 花がしおれなければいいのに。 nɔn nıʃ eᴅʃ ᴅcl ᴅccnı ɔɥ ılᴅınȷ. 花がしおれるのを見て悲しかった。

ılᴅını ［名詞］少年、１５〜１９歳の男 ［反意語］ᴅını ［レベル］2 1L

ılᴅınen ［接続詞］ılᴅın ［レベル］3 ɹ1

ılᴅıuc ［化学］ビタミン様物質 ul;/ ɹʔ

ılᴅıᴅ ［生物］［丁寧］乳房、胸部 ［レベル］4 ɹ1:ıl/ᴅıᴅ

ılᴅıφc ［音楽］フュージョン ［レベル］6 ɹ1:ıl/ᴅıφc

ılᴅızıᴅ ［生物］脛の裏側、ふくらはぎ 1L

ılᴅılȷ ［政治］離婚 ［動詞］ɥəl と離婚する、離婚する ［反意語］ᴅılȷ ［レベル］2 1L ［文化］ 離婚率は１０００組に１組の割合で、ほぼ離婚しない。アルバザードでは結婚に至るまでの付き合いが長いこと、夫の家に入った妻を夫の両親が守るシステムができあがっていること、アルバザード人の女が従順で貞操観念が高いこと、男が浮気を気軽にできるインプレンが充実していること、離婚をすると夫妻子供すべてが白い目で見られることなど、様々な要因が貢献している。 ただし、別居率は離婚より遥かに高く、１００組に１組ほどある。離婚をすると白い目で見られるため、妻が実家に帰ったまま籍を残しておくというパターンである。この場合妻は子供を引き取ることができず、父親が扶養することになる。別居した女はやはり白い目で見られるため、実家でこそこそと暮らす。 【用例】 ᴅcn ɷc libıʃ eᴅ ʅı lɔcʃ, hıɥə ləəȷ ᴅılȷ ela ucʅ, ɷcnı ılᴅılȷ eᴅ ıᴅcɥ. 多くの女性がオフィスで働くようになり、結婚をしなくなったどころかむしろ離婚するようになった。

ılᴅıluıȷ ［名詞］［形容詞］平和ボケ、平和呆け ［類義語］ıluıȷ ［レベル］4 ɹ0: 油断した平和

ılᴅıluel ［医療］行為障害 1L:ᴅıluel

ılᴅılɷ ［動詞］ɥəl を沈静する、沈静する、鎮圧する ［レベル］4 1L 【用例】 nıcn ılᴅılɷıʃ ıluelȷ. 警察は反政府組織を鎮圧した。

ılᴅc ［アイテム］盾、シールド ［名詞］五角形のもの ［音楽］ピックガード ［動詞］ʃel に対して ɥəl を盾で守る、守る ［レベル］2 ȷzɷ 1၈: 制 : 古 :ıɱhɔ（盾） ıɱhɔ:ıɱɔ:lı ılᴅc ［文化］ ɥɷ ではユノでガードするのが一般的なので、鎧は着ない。盾もあまり使わない。しかしまったく使わないということもない。例えばエスバルトは魔法の盾であるが、盾を一切使わないならこのようなアイテムも始めから存在しないことになる。 【用例】 ȷıʃ ılᴅc 盾を構える ılᴅc ᴅıcn ʃel uɔʅ ユノ弾を盾でガードして体を守る

ılᴅcʅıɷ ［地球の国名］ベルギー ［レベル］6 1L: 国章に盾

ılᴅcʅʅ ［生物］ひかがみ、膝の裏、膕、膝窩 ［レベル］3 ɥɷ 1L ᴅc:ᴅc

ılᴅcnl ［形容詞］目立つようにした、目立った ［副詞］目立つように、わざとらしく、わざと、態と ［類義語］hıneʃ ［反意語］ᴅcnl ［レベル］2 1L ［語法］ hıneʃ 【用例】 lı ılucnȷıʃ ʅıne ılᴅcnlel ʅı nıcnın. 彼は警官が見ている前でわざとらしく空き缶を拾った。

ılᴅcnı ［政治］アルミナ党。ミナレットから分裂した政党の一つ。 ［レベル］4 古 ［文化］ ılıcu アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットから分裂した政党の一つ。ɹᵽ0 年ごろ、利害の対立により当時ミナレット党を名乗っていたレヴァレン党から分裂。

ılɒcu ［親族］いとこ、従兄弟、従姉妹、従兄妹、従姉弟 ［レベル］2 1ᐃ: 制 :ɒcu

ılɒcuı ［親族］義理の娘、嫁 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

ılɒcueɥınʃ ［医療］盾型人格障害 ［レベル］6 ıl;/ Ɉʔ:ȷeɥen/ɒel ［文化］ueɥınʃ

ılɒcɑɥe ［名詞］アルミフレ ［類義語］ɑlınɑcı ［反意語］zɔnɒıȷ ［アクセント］ıl ɒЄɑɥe ［レベル］4 ul;ılɒc/ɑɥec「私の剣と盾」 Ɉʔ ［語法］［文化］ ɑlın ɑcı に対抗してできた単語。女子にとって都合の良いアイドル的存在で、二次元三次元を問わないが主に前者を指す。

ılɒcφıɥʃ ［アトラスの国家］アルミガルト ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 盾と門 (φılʃ → φıɥʃ)

ılɒcφıɥʃȷczı ［地学］アルミガルトプレート Ɉʔ

ılɒcφeȿ ［運動］野球 ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIʃ ［文化］ スポーツチャンネルで主に夏期に放送している。

ılɒcɥ ［名詞］アルミール、骨董品、アンティーク ［アクセント］ılɒЄɥ ［レベル］3 1L:ıl/ʎɒccɥ（クミールのもの）。この ıl は古の「物」という意味の ıl 【用例】 ȷıȿ ılɒcɥ cɒɥə 掘り出し物（掘出物）を見つける

ılɒcɥʃ ［形容詞］［ネガティブ］節操のない、股の緩い、浮気がちな ［反意語］ɒcɥʃ ［レベル］4 Ɉ0

ılɒcɥıʃe ［名詞］骨董具屋、骨董品店、アンティーク店、アンティーク屋、アンティークショップ ［レベル］4 1L

ılɒcɥıȿ ［宗教］法王、アルミラク ［レベル］3 ȿȿ;ıl/ɒcɥɔȿ。ɔ → ı は ıl に引きずられた結果。 Ɉʔ:ılɒcɥɔȿ.lkɈ0:ıl/ɒcɥɔȿ ［文化］ アリスカンテとアルティスの最高権力者。

ılɒcɥɔȿ ［政治］第二次ミロク革命、ミロク革命、セレン革命、ランジュ革命 ［レベル］3 ls:ıl/ɒcɥɔȿczɒ Ɉʔ ［文化］ セレン₌アルバザードによって推進されたアルバザードを中心とするアトラス全土の革命運動。カルディア最後の大革命。

ılɒccȿ ［料理］サイダー ［レベル］2 ɥʃ;ıl/ɒccȿuelɑ「酒でない林檎酒」 ɈɈ ［文化］ ɥʃ で林檎酒の代わりとしてノンアルコールで作られた飲み物。

ılɒccɑı ［地球の星座］［ユマナ］たて座 Ɉꞃ ［文化］ cɑı

ılɒccı,ɑu ılɑlcı ɒelʃcı ᐃ:φclcəȷ;/

ılɒɔ ［化学］モル、物質量 ［レベル］5 1L: 古 :ılɒı（物が多い)。「多い」はここでは赤アンクノットの「ȿıɒı」になっている。

ılɒɔl ［数学］余接、コタンジェント ［レベル］6 1L

ılɒɔlılıll ［化学］アボガドロ定数 ［レベル］5 1L

ılɒɔnɔ ［動詞］ɥəl を再開する、再開する、再生する ［類義語］ɔu ［反意語］ɒɔnɔ ［レベル］2 Ɉ1 ［語法］ 停止していたものを再開すること。

ılɒɔɒ ［動詞］ɥəl の根を c から抜く、根こそぎ抜く、抜く ［レベル］2 1L 【用例】 zɔɒ ȿıc e oıl ıʃ ılɒɔɒ ɒcl ɗıʃe. 嵐のせいで山の大きな木が根こそぎ抜かれていた。

ılɒɔɒɔcneı ［化学］モル濃度 ［レベル］6 1L

ılɒɔbɥə ［化学］モル質量 ［レベル］6 1L

ılɒɔıll ［化学］モル数 ［レベル］6 1L

ılɒelʃɔn ［形容詞］メルの望まぬような ［反意語］ɒelʃɔn ［レベル］4 ɥɑ:ɒel;/ Ɉꞃ:ɒel ［文化］ ɥəʃcı

ılɒeȿȿɒenȿ ［名詞］反時計回り ［類義語］lınȿɒenȿ ［反意語］ɒeȿȿɒenȿ ［レベル］3 Ɉ0

ılɒelcʃ ［名詞］１０歳代の男 ［反意語］ɒelcʃ ［レベル］2 ɥɑ:ɒel;/ Ɉʔ:ɒel

ılɒelcı ［企業］アルメリア ［レベル］3 Ɉ1:ɒelc/ɒelc/ı ［文化］ カネボウ、明治乳業、明治製菓、ロッテに相当する企業。元々紡績をしていたが現在では食品で残っている。

ılɑı ［政治］副王、大臣、大大臣、太政大臣、執権 ［レベル］3 古 :ıl/ɑıcz から ［文化］ 副王。王の下位。メル ʔ00 年以後はアルファウスによって ıȷʃeɥ となる。

ılɑınʃe ［形容詞］直後 ［反意語］ılȷeȷcl ［レベル］3 ɥɑ;/ Ɉʔ

ılɑınʃeens ［俗語］直後責め、直後攻め ıl;/ Ɉʔ ［語法］ 一発出した直後に、そのまま責められること。女性相手にする場合にも使える言葉だが、ふつう男性相手に使う。なお、ふつう男性はとても不快に感じる。

ılɑınl ［形容詞］分別がない、浅はかな ［反意語］ɑınl ［レベル］4 1L

ılɑıɒb ［形容詞］時間がかからないで簡潔な、スピード写真の「スピード」 ［反意語］ɑıɒb ［レベル］3 Ɉ0

ılɑıb ［形容詞］厄介でなく容易な、面倒でなく簡単な、吝かでない、やぶさかでない ［反意語］ɑıb ［レベル］3 Ɉ0

ılɑıs ［形容詞］いい意味でほっといてくれる、いい意味で不干渉 ［類義語］ıluınɑı ［反意語］ɑıs ［レベル］3 1L

ılɑc ［料理］ブロス、ブイヨン ［レベル］5 古 :ıl/ıɑcıe

ılɑcȷ ［アイテム］アイテム、道具、商品、アルディス ［類義語］ıɑcȷʃ ［レベル］3 ɥɑ;ıl/ıɑcȷʃ.ȿ Ɉꞃ ［語法］ アディスト以外の道具全般を指す。和製英語のアイテムにほぼ相当。

ılɑcȷȿ ［音楽］スタッカーティシモ 1L

ılɑcı ［形容詞］懐かしい ［類義語］ılle ［レベル］3 古 :ɥcɑcı:ılɑcı ← ɑcıɑcı（夢幻） ［語法］ ılle, ıɥʃcı 【用例】 ıɒılcȷ ılɑcı 懐かしい思い出

ılɑcıu ［形容詞］庶出の、非嫡出の ［反意語］ɑcıu ［レベル］5 1L

ıl ɑcıɥ ［感動詞］おやすみ、よい週末を、よく休んでね、おはよう、よい朝を ［レベル］1 1ʕ: 制 : 古

ılɑcız ［親族］内妻、内夫、内妻、内夫、内縁、内縁の妻、内縁の夫 ［類義語］ɒelɒcʃ ［反意語］ɑcız ［レベル］4 ɥɑ;/ Ɉꞃ

ılɑcɔn ［形容詞］ギザギザのないつるつるな ［反意語］ɑcɔn ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑcɔn（ギザギザ）

ılɑɔɒʃ ［形容詞］非典型的な、周縁の ［反意語］ɑɔɒʃ ［レベル］5 Ɉ0

ılɑɔlʃ ［音楽］ダル・セーニョ、ダルセーニョ ［レベル］5 1L: → ıȿȿcʃ

ılɑeȷdı ［動詞］ɥəl の封印を解く、解く ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ılɑenȷ ［動詞］ɥəl と ȿı で待ち合わせる、待ち合わせる ［普通動名詞］待ち合わせ ［反意語］ɑenȷ ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe 【用例】 ılɑenȷ hıɗn ȿı ȿıɗʃe カルテで友人と待ち合わせる

ılɑenȷȿı 待ち合わせ場所 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ılɑeɥʃ ［動詞］ɥəl を ı（神など）に呪う、呪う ［普通動名詞］呪い、まじない ［魔法］アルデルト。黒魔法のうち、直接攻撃系を除いたもの。 ［レベル］3 1L 【用例】 lelʃeȷ, ılɑeɥʃ eȷʃ ınʃ ȿı lınʃe. シェルテス、月で俺の名を呪え。

ılφı ［名詞］端っこがすぼまっているもの ［動詞］ɥəl をすぼめる、すぼめる、すぼまる、窄まる、収束、尻すぼみになる ［動詞］ɥəl（候補）を ı に絞り込む、絞る ［数学］［動詞］ɥəl を収束させる ［反意語］φıɔ ［レベル］3 1L:ılφıɔ 【用例】 nıcn ılφıʃ ɑclɔl ı lı. 警察は容疑者を彼に絞り込んだ。

ılφıʃı ［化学］亜鉛 ［レベル］4 古 :ɥɥəə:ɒıφıʃı を元に、ıl を付けたもの。ılɒıφıʃı → ılφıʃı。真鍮を作るための合金元となる金属。原義は意図を組むと「真鍮材」とでも言うべきか。 ［文化］ カニに多いと考えられている。不足すると味覚異常になると知られている。

ılφıʃıʃeȷe ［化学］ボルタ電池 ［レベル］5 1L ［文化］ 亜鉛と銅と希硫酸で作る。化学のないカコの時代に既に知られていた。

ılφıʃılcl ［化学］亜鉛→ ılφıʃı ［レベル］4 1L

ılφııu ［アトラスの国家］アルガーヴ ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıl/φııuc ［文化］ 面積：Ɉʕ1ꞃ1ᑫ.ɈᑭLʔʔᑭ ȿɒ 」

ılφe ［料理］ピザ ［レベル］2 ȷɒ;ıl/φe「丸い丸い」 Ɉʔ: ソーンのほうで φeh が野卑な笑い声として使われており、ピザを意味する語があ ılφe になっていたらしいことを受けてピザを変更。φeh>1ʔ: 制 :（円盤状の辛いもの）

ılφenɔɒ ［医療］アルゲノム、嫉妬 ［類義語］φenɔɒ ［レベル］3 ʃɒ;ıl/φenɔɒ 赤 :ɥcɑcı。リディアがリーザを揶揄するために作った言葉。 ［語法］ 母親が娘に抱く嫉妬。自分は年を取る上に子育ての苦労で余計醜くなるのに、娘は庇護されてますます綺麗になっていく。そのことに対する嫉妬。 広義には父親が息子、母親が息子、父親が娘に感じることも指す。更に広義には親族の誰かが若い親族の誰かに抱く若さへの嫉妬も指す。

ılφelʃ ［気象］竜巻、トルネード。区別なし。 ［魔法］アルゲルト（トルネド）。風の高位黒魔法。竜巻を起こして敵を攻撃する。 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel:ıl（強意）/φelʃ（ねじれ）

ılφelʃʃɔe ［医療］送り込み刺法、送りこみ刺法、単刺術、単刺。鍼で使う技術。 ɥɑ;/「捻らない刺法」 Ɉꞃ

ıld ［普通動名詞］郵便、宅配 ［名詞］郵便物、宅配便、宅廃物 ［動詞］ɥəl を ı に送る、郵便する、郵送する、宅配する ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :oıl dɔheȿı（手紙を渡す）【用例】 ıld lənıȿ. 宅配便が来た。

ıldȿɔu ［名詞］ポスト、郵便箱 ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIʃ ［文化］ 集合住宅では必ず改札の隣、守衛が見張れるところにある。全室分まとめて存在する。 配達人は事情を守衛に説明して通してもらう。そして守衛が見張る中、物を配る。ストーカーが変なものを入れるということはない。業者でなければ配れないからである。テロが爆発物を入れるのもかなり難しい。 住民が自分のポストを確認する場合も見張っている。ポストを開ける際はアンセを通さねばならない。他人のポストは開けられない。だが、アンセを偽造した可能性があるので、守衛は一応住民を見張っている。 【用例】 ȷıcn{ʃıb} ıldȿɔu ポストをチェックする

ıldhıɥɑcn ［娯楽］魔女の宅急便 Ɉ1 ［文化］『魔女の宅急便』に相当するアニメ。

ıldɥɔʃɔl ［娯楽］同人誌 ［レベル］4 ɈɈ:ıl/dɥɔʃɔl

ıldɥeȷʃ ［形容詞］縁起のよい ［反意語］dɥeȷʃ ［レベル］3 1L 【成句】 ȷeɥn ɥıʃ lənı ȷel ıldɥeȷʃ 思い立ったが吉日 【用例】 ʃc eȷʃıʃ ɒcuı le ɑcıȷıʃ cɒ ɑcıȷel lel ɥcɑcı ȿɔʃ8 ılı ıldɥeȷʃ ıɼ ディアセルに生まれた娘に「リディア」とは、こりゃ縁起がいい。

ıldı ［電算］アナログ ［反意語］dılɑ ［レベル］3 Ɉ0:ıldılɑ

ıldıȿȿel ［生物］承山 Ɉ1

ıldın ［名詞］郵便屋、宅配便 ［レベル］2 Ɉ0

ıldını ［形容詞］気が利かない ［反意語］dını ［レベル］3 1L 【用例】 lı ıldın ınɼ あいつ気が利かねぇ！

ıldıɥɒ ［地球の国名］ニュージーランド ［レベル］5 1L: 子供のころ、日本みたいな形の島だと思っていた

ıldcʃ ［ジョブ］大道芸人 ［レベル］6 zφ;ıl/dceʃ Ɉꞃ

ıldcnȿ ［化学］イソニトリル、イソシアニド、カルビルアミン ［レベル］6 1L

ıldcnȿhɔə ［化学］イソシアネート 1L

ıldcnȿı ［化学］イソシアニドの基、イソシアノ基。同様に、イソニトリルの基のことでもある。 1L

ıldcφ ［魔法］アルピグ。利の高位白魔法。 ［レベル］6 ʃɒ;/「抗癌」 Ɉʔ ［文化］ uıcn

ıldɔnȷ ［動詞］ɥəl を ı に回収する、回収する ［反意語］dɔnȷ ［レベル］2

1L 【用例】 ʃəəȷ lɔcʃ ıldɔnȷıʃ ȷɔµlelcl̀ ʃclnıl. これらの会社はギョーザを自主回収した。

ıldɔnz ［動詞］ɥəl を ıʞʃel, ılɑccnı} の前に置いたままにしてどかない、通せんぼする、邪魔をする ［反意語］dɔnz ［レベル］2 1L 【用例】 ɑen ıldɔnzɽ 邪魔だ、どけ！ ın ȷʃenʃıʃ ucl ɑɔnʃ ɒın ıɒɔ ıldɔnzeȷ ıl ın. 車が道路で邪魔をして渡れなかった。

ılden ［形容詞］態度がいい加減な、いい加減 ［反意語］µını ［レベル］2 Ⅰ1:ıl/dɔ/nı「締まっていない心」

ılblınʃ ［植物］ɑcnɔcn ［組み数字］8／9 ［レベル］4 ȷzl;ıl/blenz/ʃe「炎のような」。ıl は強意。 Ⅰ1

ılblınʃ(Ⅰ) ［言語］［文字］印刷標準書体、業界標準書体、印刷業界標準書体、アルブラント書体、アルブラント ［レベル］6 Ⅰ1: セリフの刺が四方に存在し、その様が曼珠沙華のように美麗であることから。 ［文化］ ɑleɑclınȷ 地球における印刷業界の代表的な欧文書体は２０１１年現在Ｔｉｍｅｓ系統、とりわけＴｉｍｅｓ Ｎｅｗ Ｒｏｍａｎである。 同様に、アトラスの印刷業界にも標準書体があり、書籍や新聞などの本文に用いられる。それがこの ılblınʃ である。字の特徴はＴｉｍｅｓ Ｎｅｗ Ｒｏｍａｎに最も近く、トランジショナルセリフである。

ılbıl̀ ［名詞］不成立 ［経済］不成 ［レベル］4 ⅠⅠ

ılbıɔφ ［娯楽］アルバオグ Ⅰ1 ［文化］『ストリートファイター』に相当するゲーム。

ılbe ［植物］ぶな、ブナ、ブナの木 ［レベル］5 ılıl̀ʃı

ılben ［名詞］アルベン、野盗。男のエタットのうち、ガラの悪いほう。 ［音楽］バス ［レベル］2 古 :ıben と同じ ［文化］ 下層の連中だが別に犯罪者というほどではなく、ıben よりは悪くない。単にガラが悪く、往々にして地位も知能も低い連中。だが中層や或いは上層がプライベートでお遊びとしてこの口調やしぐさを真似ることがある。逆にそのふるまいのおかげでコミュニケーションを取りやすくなることがある。

ılhı ［名詞］側近、腹心、忠臣 ［類義語］dıɒcı ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılʃe: ıl/hıdɒı ［語法］ dıɒcı

ılhınʃe ［地名］アルハンテ Ⅰ0 ［文化］ メティオ東部の都市。

ılhınɑ ［音楽］カンツォーネ Ⅰ1:ılhıɑcµ

ılhınbel ［アイテム］フランベルジュ、アルハンベル。波打った剣や鎌。 ［レベル］4 ȷzl;ıl（強意）/hınbel（茶色）。敵のこびりついた血で錆びて茶色に見えるほどのという意味。 ［文化］ 夢喰いの詩姫の武器。

ılhınɔn ［アトラスの国家］アルハノン ［レベル］5 1L:µcɑcı:「物見矢倉」

ılhınɔn(Ⅰ) ［言語］アルハノン、塔字 ［レベル］3 Ⅰ0:clhınɔc の l̀ılɒcɥə ［文化］ hıd、lcɒ

ılhınɔs ［生物］手の三里 Ⅰ1:ıl/hınɔs。中指に反射が出る

ılhıneʃ ［形容詞］人目につかない、目立たない ［動詞］ɥəl を目立たなくさせる、目立たなくさせる ［類義語］ɒcnl ［反意語］hıneʃ ［レベル］3 µɑ;/ Ⅰʔ ［語法］ hıneʃ

ılhıɑcµ ［地名］アルハディール ［アクセント］ılhıɑ€µ ［レベル］3 Ⅰ1:µcɑcı:ıl/hıɑcµ ［文化］ 古 hıɑcµ の北東、現 cɒınzel 西部の県。eılcȷ 湖がある。

ılhıµʃµecn ［天文］天の赤道 Ⅰ1

ılhıµʃµecnʃcl̀e ［地学］抗赤道海流 Ⅰʔ

ılhıµbını ［地球の国名］トルクメニスタン 1L:hıµbını

ılhıl̀eɒ ［生物］不容 Ⅰ1

ılhıcl̀ ［死神］アルハイク ［レベル］4 ɒelʃcı Ⅱ:ıʃoııɥə ɔ lənɔ;e 1L:µcɑcı ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。男性。誘燈種。捨て子の紗枝を育てた。シューゼ勢に騙され討たれた際、紗枝を死なせないために、火の中で封印の間際に紗枝と契る。

ılhıcl̀ʃıl̀ı ［地学］［歴史］アルハイク大陸 ［ユマナ］シナ地塊 ul;/ Ⅰʔ

ılhıcɑ ［歳時記］秋分 ［名詞］１６時 ［組み数字］１６／２４ ［レベル］3 Ⅰ0: → ınlcın ［語法］ uealcµ ［文化］ ınlcın

ıl hıczen ［感動詞］罰当たりめ、なんて罰当たりな、神がお前を罰するだろう、ハイゼンよ彼を裁け ［レベル］1 1ʕ: 制 : 古 ［語法］ 単に hıczen ということが多い。

ılhcɒ ［生物］無性 ［レベル］4 1L

ılhcɒhcdʃ ［生物］無性生殖 ［レベル］5 1L

ılhcıl̀ılı ［地学］ボンヌ図法 ［レベル］6 Ⅰ0:ıl/hcıl̀ılı

ılhɔɔµı,lȷl leseɒɒe ıl/hɔɔµı ＝ hɔɔµı/dȷhɔɔlı

ılhel̀ʃıµ ［地名］アルヘクター ［レベル］5 Ⅰ0:ıl/hel̀ʃıµ ［文化］ ユベール、ユロ、マイナ、フィガンのこと。

ılɥıl̀ılʃees 準々決勝 µɑ;/ ［レベル］3 Ⅰʔ

ılɥə ［地球の国名］フランス ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ılɥəəl（フランス）。ılɥəəl はアルカ地理からで、「共に痛む物」の意だが、詳しい語源は不明。

ılɥəl̀ı ［経済］［法律］ワンルーム廃止法 Ⅰ1:「反１Ｋ」 ［文化］ cɑcılın, ıµ l̀ʃoen ʔⅠⅠ 年制定。１Ｋの賃貸物件を原則２ＤＫ以上に改築する法。核家族や老人の孤独死を防ぐために推進された。しかし皮肉にも親との同居以外にルームメイトの増加をも招いてしまった。 『紫苑の書』ではドゥルガの隠れ家が西区の２ＤＫになっているが、紫苑はこの法律のことを知らなかったため、ドゥルガが愛人と住んでいるものと誤解した。 もっとも、１Ｋは滅んだわけでない。しかし当時あった１Ｋの８割程度が改築され、特需を生んだ。

ılɥənɑcµı ［料理］［商標］アリュンディラ油 ［レベル］5 Ⅰ1:ɥənɑcµı e ɥənɑcµın ［文化］ səlceʃ:ʔ۴0_۴00 ʃıʃ Ⅰ00nl ユンディラ産のエクストラバージンオリーブオイルを用いた高級オリーブオイル。ジュリア東部などで手に入る。

ılɥəµen ［言語］フランス語、仏語 ［レベル］5 Ⅰʔ

ılɥəəl ［形容詞］［ポジティブ］禁欲的な ［類義語］ɥəlʃe ［レベル］4 古 : ともに痛むような、耐えるような ［語法］［文化］ 特に聖職者に求められる性格。性欲だけでなくほかの欲に対しても使う。

ıldɔl̀ı ［音楽］デスメタル ［レベル］5 Ⅰ1:「更に狂った」

ılµıl̀el ［名詞］５０歳代の男 ［反意語］µıl̀el ［レベル］2 1L

ılµıɑı ［文頭純詞］更に更に良いことに ［反意語］ılʃıcl̀ ［レベル］2 µɑ;/ Ⅰʔ

ılµcen ［名詞］しらふ、シラフ、素面 ［レベル］3 ʃɒ;/ Ⅰʔ

ılµecʃe ［名詞］００歳代の男、一桁の男 ［反意語］µecʃe ［レベル］2 µɑ:ɒel;/ Ⅰʔ:ɒel

ılzıɒ ［名詞］道しるべ、道標、みちしるべ ［類義語］sel̀ɔn ［レベル］3 Ⅰ0:ıl/zıɒɔ（ıl は終点の与格。zıɒɔ は木）

ılzɔʃ ［動詞］ɥəl をよじ降りる、よじ降りる ［普通動名詞］よじ降り ［反意語］zɔʃ ［レベル］3 µɑ;/ Ⅰʔ ［語法］ よじ登るの反対動作。慎重に崖などをロープなどを使ってゆっくりとあるいは点々と降りていくこと。

ılzeeµe ［天文］皆既月食、アルゼーレ ［反意語］zeeµe ［レベル］4 Ⅰ0:ıl/zeeµe

ıls ［天文］三日月、繊月 ［名詞］南東、東南 ［形容詞］［ポジティブ］目などが細い ［組み数字］2／8 ［レベル］2 古 ıls:ıls:lə ılse ［文化］ lelʃeel 【用例】 ıls lıʃ sın. 三日月だった。 ıls ɔµ ɑəəµφı. 三日月が満ちていく。 lelʃ eʃ ıls cɒ ɑcȷ lı. l̀clȷ, ʃə eʃ ȷɔu ɒɥəlı ɔnʃ ıls. 今日は三日月だ。厳密には新月と三日月の間（繊月）か。

ılsdɔɑ ［料理］クロワッサン、クロワサン ［レベル］2 1ʔ: 制 : 三日月のパン ［文化］ 一般的に食べられる。少し油っぽい。小食の女の子はクロワッサンにミルクティーとフルーツで朝食を済ませることがある。

ılslcl ［化学］ジルコニウム 1Δ: 制

ılsı ［名詞］弧、アーク ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ıls（三日月）【用例】 lelʃ lecȷeȷ ılsı. 月が弧を描いている。

ılsın ［地学］地表、地上 ［反意語］φııu ［レベル］3 1L 【用例】 l̀əʃɔ lənı ıl sın. 鳥が地表に降り立つ。

ılsınʃced ［建築］開渠、かいきょ、明渠、めいきょ ［反意語］φııuʃced µɑ;/ Ⅰʔ

ılsılɒc ［アイテム］ペルタ µɑ;/「三日月の盾」 Ⅰ⋔ ［文化］ zφ で作られた。盾で顔が隠れるのを防ぐため、上の部分がえぐれている。

ılse ［気象］ıls ［医療］太陰 µɑ;‹ȷzl Ⅰ⋔

ılsel̀ȷ ［名詞］縁起の良い方向 ［反意語］sel̀ȷ ［レベル］4 1L ［文化］ カーデ占いにおける概念。恒常的に幸運な方向というのはなく、カーデの結果ごとに定まっていくもの。

ılsen ［名詞］４分１、１／４、２５点、クオーター、クォーター ［反意語］cnsel ［レベル］3 µɑ;ıls/en Ⅰ1 ［文化］ cnsel

ılselcn ［アイテム］偃月刀、円月刀、えんげつとう µɑ;ıls/selcn Ⅰ⋔ ［文化］ zφ の ȷz で作られた。

ıloı,ɑ lıȷ cɔ ıl/oı

ıloıd ［形容詞］利きでない ［名詞］利き手でない手 ［動詞］ɥəl を自在に操れない、自在でない ［反意語］oıd ［レベル］3 ʃɒ;/ Ⅰʔ

ıloıdzɔnɑ ［運動］バックハンド ［レベル］5 1⋔:/「自由に利かないショット」

ılocl̀ ［動詞］ɥəl の首を横に振らせる、首を振る ［反意語］ocl̀ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcȷ 【用例】 lə ɑcın ılocl̀ıʃ l̀ɔnʃ l̀ə ʃeɔ. その女の子は「いや」と言って首を振った。

ıllɑcȷ ［名詞］廃人、植物人間、寝たきり ［娯楽］廃人、廃プレー ［動詞］ȷɔl は ɥəl の状態で廃人になる ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ ［語法］ → lɑcȷ 夢織に出てくる廃人現象は老人の寝たきりと違って意識を持って起きたまま一歩も歩けないぼーっとした状態。これは現実には起こらないので何とも言いようがなく ıllɑcȷ を当てている。本来の ıllɑcȷ の語義は寝たきりや植物人間。 【用例】 ılcȷ ıllɑcȷ l̀ı uılı. アリスは病院で寝たきりになっている。

ıllınʃȷe ［生物］類人猿 ［レベル］4 Ⅰʔ

ıllıɑ ［動詞］ɥəl を作ったときと逆動作する ［レベル］2 Ⅰ1 ［語法］ 作るの反対動作のこと。壊す (µcφ) ではない。例えば穴は µcφ できないが、ıllıɑ はできる。穴を ıllıɑ するというのは、作った穴を塞ぐことを意味する。 lıɑ したビルは µcφ できるし ıllıɑ もできる。µcφ だと破壊で、例えば爆破や倒壊などのイメージ。ıllıɑ だと作る過程を巻き戻すようにビルを解体していくことや、建設途中のビルの作業工程を前段階へ戻すことなどをイメージする。例えば２０１１年に東京タワーを ıllıɑ したら既にできているビルなので当時の組み立ての逆動作で解体していくことを意味するが、スカイツリーを ıllıɑ したらまだできていないので作業工程を巻き戻してツリーを低く戻していくことを意味する。

ıllıɑɔn ［動詞］ɥəl を他覚する、他覚する ［普通動名詞］他覚 ［反意語］lıɑɔn ［レベル］3 ⅠⅠ:lıɑl/nı

ıllıɑɔnlel̀ɔ ［医療］他覚症状 µɑ;/ Ⅰʔ

ıllız ［名詞］少年、１０～１４歳の男 ［反意語］lız ［レベル］2 1L 【用例】 lə eʃ ʃcɔ ıllız le ʃcl 10 ucı ʃɔlcȷ. まだ10歳程度のあどけない子供だ。

ıllııl ［親族］義理の母、義母、育ての母、姑 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:µcɑcı ［文化］ アルバザード人は結婚すると男の家に女が入るシステムであるため、ıllııl というと通常女から見た夫の母親を指す。郷に入ればの精神であるため、嫁は一方的に相手家族の文化に従わせられる。姑は嫁を歓迎し、自分の文化を教えることに熱心だが、嫁が自分のやり方

に従わないときは意地悪をする。アルバザードは離婚がしづらいため、嫁は通常追い出されないように素直に従う。同時に、アルバザード人は優位な立場にある人が相手の足元を見ることを極端に嫌悪するため、姑は自分の強い立場を悪用せず、相手が素直な限りは親切に嫁を迎える。　嫁と姑の確執が日本だと話題になるが、アルバザードでは嫁が一方的に従うため、確執があまり生まれない。日本と異なり、嫁が文句や愚痴を言っても、その女性が個人的におかしいのだとみなされるに留まる。

ıllcul ［医療］中絶、堕胎、降ろす、中絶する、堕ろす ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ 【用例】 lı nıʃ dıscˀ ᴅın ıllculıʃ ɥəlcın. 彼女は子供をおろしてショックを受けた。

ıllccˀ ［魔法］アルリーク。利の高位白魔法。 ［レベル］6 ʃᴅ;/「抗細菌」 J? ［文化］ uıcn

ıllɔ ［形容詞］衒学的な ［類義語］lecɑı ［レベル］4 古 :ıllɔ「知ってる知ってる」［文化］ 知性を尊ぶ民族なので、知ったかぶりよりはずっとましと思われている。ただし、品がないと思われる。

ıllɔlscɔɥ ［生物］小腸兪、小腸愈 J1

ılleue ［言語］逆形成、逆成 ［レベル］6 1L

ıllecn ［ɥenʃe］［動詞］ɥəl を脱がす、脱ぐ ［レベル］2 1L

ılləc ［地球の国名］フィジー ［レベル］6 1L:ıl をつけた。国旗の中にイギリスがあるので

ılı ［感動詞］［文頭純詞］なんで、～してどうするんだよ ［レベル］1 古 :ılı ← ıl（疑問詞「何」）/ı（語気強め）。或いは lılı から来たかもしれない，むしろ lılı が ılı から来たかもしれない。このあたりは不明。 ［語法］ 本来はそれが何であるかとか原因理由などを聞くためのもので、ʃɔ や eȷ に当たる。だが ılı は相手を非難するときにしか使わず、形式の上では疑問でありながら実際には答えを要求しない。これがあるおかげで eȷ や ʃɔ は完全に答えを要求する用法だけを持つことができる。eȷ ʃc ȷɔʃɤ は「どうしてしたの？」という疑問で、非難を帯びない。ılı eȷ ʃc ȷɔʃɤ は「なんでそんなことしたんだよ？」という非難の意味が篭る。ılı は必ず文頭に来る。イントネーションは上昇が多い。

ılı,ɑ 10 elʃ;ıl/oı「両手」

ılıʃcı ［死神］アラティア、獄門→ uınφıɥɑc ［レベル］3 ɥcɑcı: 古 :ıʃoııɥə と平行した名付けか ［文化］ 地獄ラティアの門番。黒い長髪に黒いテーベを着た青年。手に長大な鎌を持っている。容姿はラルドゥラに似ている。閻魔大王のようなもの。 ｜約 Mᴘ 億年前 ｜ıʃoııɥə が lənɔ の力の暴発を押さえ込むようになり、ıɥʃe との力のバランスを失う。ıʃoııɥə から ılıʃcı が分離し、協力して効率良く uccɑ を使うことにより、ıɥʃe との拮抗を取り戻す。分離の際、ıʃoııɥə と ılıʃcı は意思を持つようになる｜ ｜ʃɱ,LΔL,11J 年前｜アトワーユとルノとアラティアがエルトとサールの形質を真似、人間型になる｜

ılıʃɔe ［物理］反重力 ［レベル］5 J1

ılıʃen ［生物］［地学］アルアテン ［レベル］4 1L:ıl/ıʃen ［語法］［文化］ eʃın と lənc の総称。

ılıˀ ［動詞］ɥəl を ı に叩きつける、叩きつける、たたきつける、打ち付ける、打ちつける、うちつける ［レベル］3 ɥɑ;ıl ıˀɔ（地面へ） Jɱ

ılıˀʃı ［名詞］高水準制定語彙 ［レベル］5 古 : 制では lıˀʃc だが、古の時代の本なので正式名称 ılıˀʃı を採用。

ılıˀɔ ［動詞］ɥəl を c から拾う、拾う ［類義語］ılucnȷ ［レベル］2 J1:ıl/ıˀɔ ［語法］ ılucnȷ は捨てられたものを拾う。ılıˀɔ はそれ以外。例えば落ちていた葉っぱや、野良の動物など。

ılılᴅı ［形容詞］非論理的な ［反意語］ılᴅı ［レベル］4 1L

ılılᴅe ［形容詞］時間にルーズな ［反意語］ılᴅe ［レベル］3 1L

ılıleˀ ［魔法］アルアシェック ［レベル］5 J0 ［文化］ アルアシェックという魔法があるのではなく、アシェックをかけた魔導師がアシェックを解除すること。

ılıȷ ［名詞］西 ［格詞］～の西にある ［反意語］ılʃc ［レベル］2 1L:ılcȷ ::lı ᴅɔˀl:ɥəˀc,ılʃ 【用例】 ɑııl eʃ ᴅcᴅ ˀɔɥ ılıȷ. 太陽は西に落ちる。

ılıȷˀeueıʃcˀe ［地学］西ケヴェア海流 J?

ılıȷɑıbeɥʃcˀe ［地学］西ファベル海流 J?

ılıȷφılʃ ［名詞］西門 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ılıȷdɔl ［地名］西方 ［レベル］4 J0 ［文化］ アルシア、ヒュート南西部、フレディスク、アルヴァノス、ガルヴェーユ、フィーリアの地方。フィーリアだけ地理的には北なので注意。いずれも西方方言を話す。エルト神とサール神の話していたアクセントに最も近いとされている。

ılıȷdɔcʃ ［地学］西経～度 ［レベル］4 J?

ılıȷɥecn ［地学］西経 ［レベル］4 1L

ılıȷlɔɔz ［名詞］西端 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ılıȷınlıl ［地名］西アンシャル、西欧 ［レベル］4 1L ［文化］ ılıȷınlıl : 西アンシャル、西欧。ファルファニア、フレディスク、イネアート、ヒュート、ケートイア、ディミニオン、アルバザード lcıɥınlıl: 北アンシェル、北欧。アルダ、エルトア、ナオン ılʃcınlıl: 東アンシャル、東欧。エニーク、アルシェリア、エスティア、ゲノス、アルタ ɑleəınlıl : 南アンシャル、南欧。ラズディア、ベルティア、メルディア、キルティア、アルマティア、カルテール、ガルテア lcıɥcnȷııl : 北インサール、北亜。デスパナ、フィギット ılʃccnȷııl : 東インサール、東亜。ロロス、ヒュグノー、アルティア、ヴァルマレア ɑleəcnȷııl : 南インサール、南亜。ユロ、フィガン、ユベール、マイナ ılıȷcnȷııl : 西インサール、西亜。ピッカ、トゥナス、ソーナ ȷeelcnȷııl: 中央インサール、中亜。ヴェマ、リーシア、ヴォザモ

ılıȷınlılȷeˀıɑ ［軍事］西アンシャル連合国 ［レベル］5 ɥɑ;/ Jɱ

ılıȷıɑenʃɔʃcˀe ［地学］西アデント海流 J?

ılıȷcnȷııl ［地名］西インサール ［レベル］4 1L ［文化］ → ılıȷınlıl

ılıȷen ［接続詞］～の西にある ［レベル］3 ɥɑ;/ Jɱ

ılın ［名詞］世間、社会、世の中、世界 ［類義語］ılcɑ ［レベル］3 1L: 古 :ıll ın（人の集まり） ［語法］ → ıcn, ılcɑ 【用例】 ɑcn ılın ıˀl elɑ ın, ın ıˀl uın ılın. 世界は僕を助けないけど、僕は世界を助ける（ȷeɥen ıɥbızı ɥɑ）

ılınʃɔnˀ ［名詞］社会的身分 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ılınˀ ［格詞］～の左に ［レベル］2 ɥɑ;/ Jɱ

ıl ıuın ［感動詞］いってらっしゃい、行ってらっしゃい、気をつけて ［レベル］1 1ʕ: 制 : 古

ılıᴅcʃc ［名詞］寒色のアミティ→ ıᴅcʃc ［魔法］アルアミティ。光の高位白魔法。「熱」が原因の病気を治す。高熱など。 ［レベル］4 古 :ɥcɑcı 【用例】 ɑcɥıɥʃın ˀeıʃ ʃəlɑ ˀɔn ılıᴅcʃc. 白魔導師がアルアミティで高熱を治した。

ılıᴅɔl ［格詞］～の隣へ ［レベル］2 J1/ııᴅɔl だと言いづらいため

ılıᴅel ［親族］義理の妹 ［レベル］3 1L:clᴅəȷ:ɥcɑcı

ılıφedφıɔ ［音楽］バリトンホルン ɥʃ JJ

ılıφel ［動詞］ɥəl を c から ı に舞い降りさせる、舞い降りる ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ 【用例】 ȷıe ınɑ ılıφel. 雪が舞い降りる。

ılıd ［名詞］飢え、飢饉、飢餓 ［形容詞］飢餓状態の ［類義語］ˀəlın ［レベル］3 1L: 古 :ıllıd（ひどくほしがる） ［語法］ ˀəlın より深刻。恒常的に食べられないこと。 【成句】 ［メタファー］ılıd ɥən ᴅılʃ 思春期の子供のようにお腹を空かせた 【用例】 nɔn eȷ{ʃəɥ} ılıd. お腹がすいて死にそうよ。

ılıdɥeʃ ［環境］飢餓問題 ［レベル］5 1L

ıl ıɥʃıcn ［感動詞］おめでとうございます、おめでとう ［レベル］2 1ʕ: 制 : 古

ılıɥecılcȷ ［生物］ウラシル ɥʃ;/ ＲＮＡにはチミンがなくウラシルがあることから。 Jɱ

ılıɥəəs ［親族］義理の弟 ［レベル］3 JJ

ılıoı,ɑu ʃɔne ᴅelʃcı J?ʕ:beɥʃ;ılı/oı「十本の手」 J?

ılıɱıuıȷʃ ［名詞］優秀賞 ［普通動名詞］準優勝 ［動詞］ɥəl に準優勝する、準優勝する ［レベル］3 ɥɑ;/ Jɱ

ılıɱıuıȷʃın ［名詞］準優勝者 ［レベル］3 ɥɑ;/ Jɱ

ılılȷeɥ ［親族］義理の兄 ［レベル］3 JJ

ıl ıluı → ıluı ［レベル］2

ılıluelınʃ ［交通］九十九折 ［レベル］6 JJ:ıl/ıluelınʃ。冗語的。

ılılɑc ［文頭純詞］つまりつまり、つまるところ ［レベル］3 ɥɑ;/ J?

ılılcȷɔlᴅı ［名詞］見返し→ lec ［レベル］5 JJ

ılıc ［政治］大公、グランドデューク ȷᴅ;ıl/ʌıc Jɱ ［文化］ 王族や王家の分家の長など。

ılıcu ［政治］アライブ党。レヴァレンから分裂した政党。 ［レベル］5 古 ［文化］ レヴァレンから分裂した政党の一つ。メル暦 J?0 年ごろ、利害の対立により元祖ミナレット系政党レヴァレン党から分裂。長らくレヴァレン党，アルミナ党、アミナル党、アライヴ党の４つのミナレットの政党がアルバザードを統治した。?1? 年、政治腐敗甚だしいレヴァレン党が抜け、３党連立になった。?J0 年、ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が独裁政権を握ったため、ミナレット系政党は壊滅した。

ılc ［形容詞］手前 ［反意語］lce ［レベル］2 1L:ᴅelcɑcı ılcȷ:ıllce から。フランス語のａｌｌｅｒの実際の発音に似ている。

ılcʃ ［形容詞］［ポジティブ］礼儀正しい、丁寧な、行儀の良い、品行方正、恭しい、行儀の良い、行儀が良い ［類義語］ııʃın ［反意語］ȷcɱıʃıɥ、lclle ［レベル］2 1L:leı 【用例】 lı ıʃ ılcʃ ʃcnˀı cᴅ le ʃeɥ. 彼は以前はとても礼儀正しい人物だったと言われている。

ılcʃueʃ ［言語］丁寧語 ［レベル］2 J1 ［文化］ leıueʃ

ılcʃe ［言語］アリテ、女性敬体 ［レベル］2 ɥɑ;ılcʃ/ʃe J?

ılcˀəɔȷcıs ［言語］硬口蓋 ［レベル］6 1L

ılcˀəɔȷcısɑɔ ［言語］硬口蓋音 1L

ılcl ［生物］菌、菌類 ［レベル］3 1L: 魔族 φıılclˀ ［文化］ 一般人はウィルスや細菌とあまり区別が付いていない。

ılclɑcıᴅ ［生物］菌界 ［レベル］6 JJ

ılcȷ ［エルト］アリス。秋を司る女神。 ［形容詞］色が秋めいた ［形容詞］秋の ［名詞］秋 ［組み数字］3／4 ［レベル］2 古 :ɥcɑcı:ˀelc（秋）に関連。ˀelc の lc は lcbɥɔ で、命。秋に繁殖したり来年のために栄養を蓄える動植物が多いことから。ılcȷ の ı は恐らく ıɥʃe の意味。ふつうは ıɥ を接頭辞として取るのだが、それだと ıɥlcȷ になってしまうので言いづらく、同化して ılcȷ になったと考えるのが妥当。最後の ȷ は「する」の意味。ゆえに語源は「命をする」である。したがって ılcȷ は命を与えるという秋の女神らしい名前といえる。 ::lı lcuɥeɥ:ıʃenı,ılʃ ［文化］ アルシエルの一人。秋を司る女神。方角では西。 【用例】 ılcȷ lə nɔɥ cn. 秋めいてきた。 sın ʃ'ılcȷ ıllı eʃ ɑıɥɑ ȷccʃel. 秋の空は気持ちよく晴れている。 ın ȷccnı ʃə sın ʃ'ılcȷ lınel. 私は本当にこの秋の空が好きだ。 ılcȷ eʃ ɑız ı ɑel{lec} ᴅın ʃə eʃ ɑccʃ. 勉強｛読書｝の秋。 ☆ ˀleeuel ʃcȷ eʃ uelʃ cᴅ ılcȷ eȷ dıˀl. 秋が深まると５時でもう暗い。 ʃə ıʃ ɑıɥɑ ȷccʃ ʃ'ılcȷ. すばらしい秋晴れだった。 cᴅ ılcȷ, oıl ʃcl eᴅ ncᴅ lınʃ. 秋になると山々は美しく色づく。

ılcȷ(J) ［人名］アリス 1Δ:ȷeɥen ［文化］『夢織』のメインキャラ。アルナ大１１組で、シヴァの恋人。髪は栗色のボブ。バンド「フィーナ」のキーボを担当する。 初雪の日に死神が人を喰うところを見てし

まい、事件に巻き込まれていく。

ılcȷʃɔɔ˥ ［気象］晩秋 ［レベル］4 µɷ;/ ɺʔ

ılcȷ˥cʃ ［気象］初秋 ［レベル］4 µɷ;/ ɺʔ

ılcȷȷɔoın ［天文］秋分点 ［レベル］6 ɺ1

ılcȷnı˥leı ［歳時記］秋休み ［レベル］2 ɺ1:µcɑcı ［文化］ nı˥leı

ılcȷncı ［植物］紅葉 ［レベル］3 1ʕ: 紅葉した赤や黄色の木々はアリスの髪の毛の化身と考えられていることから 【用例】 ınȷ cnıʃ ˥e ılcȷncı ˥ı oıl. 私たちは山へ紅葉狩りに行った。 ☆ oıl ʃclıʃ ılcȷncı ɥən ɑıc. 山は秋の紅葉で燃え上がるようだった。 ın ˥eʃ lıl oıl lını ʃıɑ ılcȷn cı. 紅葉狩りに行きたかった。 cl ılcȷncı ıʃ lınʃ. 秋の紅葉は美しかった。

ılcȷᴅeʃcn ［植物］山茶花、さざんか、サザンカ ［レベル］6 1Δ:µcɑcı: 秋に咲く椿

ılcȷᴅeȷʃ ［言語］［論理］女神の天秤、アリスの天秤、循環定義 ［動詞］ɥəl を ı にたらい回しする、たらい回しする ［普通動名詞］たらい回し、タライ回し、盥回し、たらいまわし ［レベル］3 1Δ: 古アルカのころからあった「 女神の天秤 」の新生訳 ［語法］ 秋の神アリスは天秤を司る。収穫が秋に行われ、市が盛んになり、売買が盛んになる時期で、天秤がセルメル前後の時代によく使われたことからこう呼ばれている。 さて、ılcȷᴅeȷʃ は概念を定義していったときにどうしてもそれ以上説明できず、概念Ａと概念Ｂの間で循環定義となってしまうような場合を意味する。ＡとＢの定義文を読んでも循環していて等しいため、この名がついた。例えばセンテンスに「文」とあり、文に「センテンス」とあるような場合、女神の天秤となる。文のような単語ではならないにしても、辞書を作っているとこれに行き着くことがある。 【用例】 ʃə µınȷ eʃ{ʃcl} ılcȷᴅeȷʃ ɔn ʃə ˥lel. この辞書の説明は循環定義になっている。

ılcȷɷɔl ［地学］重晶石 1L

ılcȷhınɔc ［植物］アマランサス ɺɺ:「秋に咲く塔」

ılcȷhıɾl 幼字 ılcȷ のこと ɺ1

ılcȷµɔᴅı ［医療］鬱発作 ［レベル］6 1L: アリス発作 【用例】 ın ıµc˥ ılcȷµɔ ᴅı ᴅın uıɷeʃ ıµnıᴅını. アルナ大に落ちて鬱発作になった。

ılcȷscɔµ ［生物］中髎 ɺ1

ılcȷ lclcı ［人名］アリス＝リシア ɺɺ ［文化］ (⋂ɺɺ µıl dıl_) ラマン＝サンベルとミーナ＝リシアの娘。

ılcȷlcl ［化学］バリウム ［レベル］4 1Δ: 制

ılcȷleφel ［気象］秋分、狭義の彼岸 ［レベル］3 1L: アリスの旋毛。秋分ごろに太陽が天頂を通過することから。 ［文化］ 秋分が来ると年末を意識しだす。 【用例】 ılcȷleφel lənı˥. 秋分になる。 ɑılcᴅ eᴅ ˥cʃ ɑen lc µı˥ ılcȷleφel. 秋分を過ぎると昼が短くなる。

ılcȷlecn ［被服］秋服、合服 ［レベル］3 1L ［文化］ セリアは着なくなる。アルセリアはまだ早い。そこで、ラーサなどに着替えるのが一般的。サユだけでは寒いので、セーターやカーディガンなどを引っ掛ける。ルージュの月にもなるとコートは必須。

ılcȷ ınlıl ［人名］アリス＝アンシャル ［レベル］5 ɺ0: その昔セレンがウォンバスに登場させたアルカ名キャラの名を逆にアルカに再輸入したもの。 ［文化］ (1ʢΔʢ 1ɺ ʔ_1ʕʕɺ Δ 10)µɷ の錬金術士。ワッカのカテージュ寄りの片田舎の出身。女性。小柄で幼児体系で、よく子供に間違えられる。性格は元気で明るいが、かなりおっちょこちょい。錬金術の実験で失敗しては同期の少女たちに怒られている。モンモンというモモンを飼っている。 子供のころアディストに命を救われてから、錬金術士を目指すように。頑張って勉強してなんとか 1ʢLL 年に条件付きでミスティア錬金術舎に合格するも、持ち前の「成績ダメ・運動ダメ・対人キョドり症」の三重苦に喘ぐことに。 しかし努力だけは人一倍で、とにかく頑張る。そして常に諦めず前向きで、失敗しても挫けない。そこを校長に買われてどうにか退学を免れる。先輩や教師からは「前年に卒業した首席リディア＝ルティアから才能を引いた感じの子」と呼ばれてからかわれる。しかし必死の努力の結果、最後はミスティアを代表する最もアホで偉大な錬金術士となる。 「アリスの魔法」は後にアデルの被害で苦しめられた大勢の人々を救い、アリスは聖人に認定される。

ılcȷcn ［植物］キンモクセイ、木犀、金木犀、銀木犀、ギンモクセイ ［レベル］3 1ʕ: 制 : 秋の花 ılcȷcn:ılcȷcn:lı ɑenlcl:˥ıɔlc 【用例】 ☆ nɔn hel ʃeel lelın cᴅ ılcȷcn eᴅ ᴅınȷ. キンモクセイの咲くころになると、思い出してしまう人がいるの。

ılcȷcı ɥəʃcı ［人名］アリシア＝ユティア ［レベル］3 古 :ılȷcı の変異であろう。ちなみに ɺɺ 年までアリシアはアルテナの娘で親子関係が逆だった。 ［文化］ (ʔ⋂ʢ_) ミロク＝ユティアとルシア＝エニークの娘。１６２ｃｍの４８ｋｇ。隔世遺伝で青と緑のオッドアイを持つ。緑が左。髪は薄く、亜麻色。 子供時代は明るくやんちゃで活発な少女だった。冗談が好きで、笑い上戸。この性格は孫のミーファに受け継がれる。 青年期になるとある程度落ち着いたものの、基本的に気さくな人物であった。 ミロクの熱狂的な信奉者で、父を神聖視していた。この性格はアルテナにも受け継がれる。

ılcȷɔlᴅı ［名詞］表３、見返し→ lec ［レベル］6 ɺɺ

ılcȷeµc ［医療］Ｏ型 ［レベル］2 1L ［文化］ Ｏ型は原始的で健康で体力があり、細やかでなく動物的で強いと思われている。 ザナを抜かしミルフまでは血液型を把握しているが、この中にはＯ型がいない。

ılcȷə ［哲学］四元論 ıʃ ɺ⋂ ［文化］ ıʃ で起こった哲学。lə˥leʃcı に影響を受けて ˥˥ で出来た。 土：南：夏：黒：ノーム 水：西：秋：白：ウンディーネ 風：東：春：赤：シルフ 火：北：冬：黄：サラマンダー

ılcn ［名詞］美人、美女 ［類義語］ɑclcn ［レベル］3 古 :ılcn ← ılcnı ← ı（接頭辞の ıl で、この場では強調）/lcnı（美しい） 【成句】 ılcn ˥ıen ᴅıȷ 絵にかいた餅、画餅 hı˥ ılcn ˥ıen ᴅed 鏡の中の美人を褒める：自画自賛 【用例】 cn, ılcn ʃcn lı lɥə ʃcȷee. おい、あそこに中々の美人がいるぞ。

ılcueȷn ［言語］前舌 ［レベル］6 1L

ılcɑ ［政治］社会、労働社会、世の中、世間 ［類義語］ılın ［レベル］3 µɷ ;ılın/ɑcı「社会世界」 ɺ⋂ ［語法］ 社会人や社会進出や社会の厳しさなどの意味における「社会」のこと。主に労働者の面から見た社会のこと。この観点で言えば、主婦が社会人に入るかは微妙。主婦業を労働とみなす人は主婦を社会人と考えるが、みなさない人は考えない。 【用例】 bəlʃıʃc ʃ'ılcɑ 世間の厳しさ

ılcɑnɔ˥ ［再帰動名詞］社会進出 ［レベル］5 µɷ;/ ɺ⋂

ılcɑın ［名詞］社会人 ［類義語］ılɑelın ［レベル］4 µɷ;/ ɺ⋂ ［語法］ ılɑelın は学生でないという点に焦点がある。ılcɑın は社会で働いているという点に焦点がある。

ılcᴅ ［単位］テラ ［レベル］4 ɺ1:ı˥lcᴅ

ılcɑcɔ ［生物］前歯 1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ılcφıeɑɔ ［言語］前部歯茎音 1L ［語法］ ȷ や ʃ などのこと。

ılcµ ［名詞］ぬるま湯、ぬるまゆ、お湯、湯 ［類義語］ɑleµ、ıleµ、lcµcı、eµ ［アクセント］ılɛµ ［レベル］2 ɺ0:µcɑcı:ılcȷ/eµcı ［語法］［文化］ ɑleµ

ılcı ［アイテム］アリア、魔晶 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµ/ɑlcı（魔法の水晶） ［文化］ 魔法の力が結晶になったもの。最も身近なのは、魔法を含んだ水を蒸発させることで得る方法である。例えばナギを蒸発させると、薄い水色の結晶が残る。これがナギの魔晶であり、中世ごろはナギサの名称で販売されていた。一般に魔晶は成分が濃縮されているため、効果が高い。また、水分を飛ばすことで効果が変わるアイテムもある。

ılcı cneııʃɔ ［人名］アリア＝イネアート ıl ɺ0 ［文化］ → ɷcᴅcʃɔµcı, ˥elɑµenȷ（羽忘れの精霊） φµecu cneııʃɔ の娘で、eµcı の姉。lecn ɥəʃcı の同級生で、中央アルナ大学のラルドゥラ組。占いの才能があり、親はディミトリア社のＣＥＯ。性格は豪胆で、人をからかうのが好き。男性よりも綺麗な少女を好む。魔人であり、lceµuı の血が入っている。占いの能力は eµcı を下回る。

ılccnı ［親族］孫息子ちゃん ［レベル］2 1L:µcɑcı:ılccz/n/ı（語気揃え） ［語法］ ᴅccı

ılccɑcȷ ［医療］不妊、不妊症 ［レベル］4 1L 【用例】 ˥eı ılccɑcȷ 不妊治療を施す

ılccz ［親族］孫息子 ［アクセント］ʈlccz ［レベル］2 1Δ: 古 :lccz

ılcɔȷ ［動詞］ɥəl を校正する、校正する ［普通動名詞］校正、校合、校閲、訂正、校訂 ［類義語］cul ［レベル］5 ɑu;ılcɔȷ（修正する）＜ıl（強意）/cɔ（両目 ‹ce）/ȷɔ（する）「両目でよく見る」 µɷ までは cul の意味も兼ねた。 ɺɺ

ılcɔȷcȷ˥ ［動詞］ɥəl を査読する、査読する ［普通動名詞］査読、校正読み、校閲 ［レベル］6 µɷ;/ ɺʔ

ılce ［被服］アリエ ȷᴅ;ılce/ʃe 古 :ıl（反対）/c（右）/e（左）。左右が反対になっている（片方が長くて片方が短い）スカート x:ılce ないし ılceʃ: ［文化］ ひだのついたスカートで腰に巻く。片方が長く片方が短いので左右非対称。踊りの際に着るものだったが、普段着に。

ılce(ɺ) ［格詞］～の奥へ ［レベル］2 ɺ0:ᴅelcɑcı lceµ

ılce,ɑ ılceʃ ıl/ce

ılceʃ ［美容］［形容詞］左右非対称な、アシンメトリーな ［被服］ミパルティ ［形容詞］性格の捻じ曲がった、ねじまがった、根性のねじまがった、根性の腐った、ひねくれた、捻くれた ［動詞］ɥəl を左右非対称にする、左右非対称にする、ひねくれさせる、ひねくれる、捻くれる ［反意語］coı ［レベル］3 ılce:ılce ɺ0:ılce/ʃe（アリエのような）

ılceȷ ［エルト］［サール］ȷıµʃ、神、アリエス µɷ;ılceȷ,ȷzɷ‹ılceȷ,ȷzɷ;ılce（左右非対称）から。エルトの一族とサールの一族をそのように見立てたもの。l⋂ で性ができてからは男性で eµʃ、女性で ȷııµ、中性で ȷıµʃ を表した。lʃɑ 以降は中性が消えたので ȷıµʃ は表せなくなり、アルカの ȷıµʃ を借入した。一方、ı は µɷ で l⋂ の ʃə ılceȷ を ȷıµʃ の意味で借入している。幼字は elʃ と ȷııl を交差させたものが元になっている。

ılcen ［接続詞］ılce ［レベル］3 ɺ1

ılɔʃ ［約物］コロン、アロット、: ［レベル］3 ɺ0: 古 ılın:˥ᴅccµ:ıl/n

ılɔ˥ ［形容詞］通常の、常時の ［反意語］ɾlɔɔ˥ ［レベル］3 ɺɺ:ıl/ɾlɔɔ˥

ılɔn ［政治］世論 ［レベル］4 1L:ılın/lɔ ［文化］ 革命後においては法律同様に重要視される概念。案件主義を採るアルバザードでは、しばしば世論が法律を曲げて判決を下すことがある。

ılɔnɥɔȷ ［政治］世論操作 ［レベル］5 1L ［文化］ 革命後は重罪のひとつとなった。殺人と同等。

ılɔuı ［名詞］例外 ［反意語］ɔuı ［レベル］3 µɷ;/ ɺ0 【用例】 ʃə eʃ eµu ınʃeȷ, ɥın hıɔ, ın ʃın ɷe ılɔuı ʃəəl. これは我々の本能であり、そして勿論私もその例外でない。

ılɔuı˥ ［形容詞］非武装の ［軍事］非武装 ［反意語］ɔuı˥ ［レベル］4 µɷ;/ ɺʔ

ılɔuıɥəɔ ［言語］例外動詞 ɺ0 ［語法］ 単位動詞において、継続相が無標となって接辞 eȷ が落ちる動詞。ȷccnı や lı など。 この動詞では行為無相は必ず eᴅ を付ける必要がある。 行為無相の頻度が少なく、継続相の頻度が高い動詞のみ例外動詞となる。

ılɔᴅɔ ［形容詞］眠くない、目が冴えた ［反意語］ɔᴅɔ ［レベル］2 1L

ılɔd ［被服］パッテン zφ;.ȷelın ɺ⋂ ［文化］ 農民用のサンダル。

ılɔz ［アトラスの国家］アローズ ［レベル］5 1L:µcɑcı: 端の

ılɔə ［動物］なまこ、ナマコ、海鼠 ［レベル］5 ɑu;ı（海の音象徴）/lɔɔlɔ「海の管」 ɺʔ ［文化］ アルバザードでは古くから魔族のような不気味な

扱いを受けており、気持ち悪いと考えられており、食用はされない。従って、このわたなどはアルバザードでは食されない。

ıleʃ ［名詞］晄泉、アレット、魔晄源 ［医療］特発性、本態性。特に区別なし。ınl̀ı,l̀ıl̀ı に対し、第３の場所として選ばれた。 ［類義語］ejl̀ı ［レベル］４ 古：アレットからは神の栄養素アレフが湧いているとされていたが、神は栄養ほしさに召喚されるということになり、犬か何かのような扱いになってしまうので不適切とされた。また、ヴィード論が確立するにしたがってアレフの存在理由がなくなったこともあり、メル 1L 年に廃止し、アレットからはヴィードが湧いていることになった。これにともない、魔晄はヴィードに当てることとなった。 ［文化］ → ejl̀ı アレットはヴィードが湧き出る場所（泉が多い）のこと。世界各国さまざまな場所にある。 ヴァステとラヴァスでは神がここを拠点にしていた。そしてアレットを中心に国をいくつか作って住み着いた。アルバザードやヴェマやヒュートがそうである。 ラヴァスの後、神々がアルフィを作った結果、アルフィとアトラスを分離させないための「次元の糸」としてアレットを利用した。世界中のアレットとアルフィは繋がっている。 また、各アレットはアルフィの特定の場所と繋がっている。神の国はアルデス王とルフェル王により、すべての土地がいずれかの神に与えられている。そのため、各アレットは特定の神の土地、言い換えれば特定の神と繋がっている。 アズゲル～カコで人類が国を作った際、人類もまたヴィードが沸く泉であるアレットを中心に国を作った。 メルテナでは召喚士が現れたため、アレットは神と対話する場所になった。人々はアレットひいては国が神に守られていると考え、神を祀ってそこに祭壇を置くようになった。これがサリュである。そしてサリュを置く部屋をカルテンと呼んだ。 従って、この時代では「カルテン→アレット」と考えて差し支えない。ただし、「アレット→カルテン」は不可。山奥や洞窟の人知れぬところにもアレットはあるため。
革命後は「カルテン→アレット」とは限らなくなる。ミロクの円形都市サライは中央にカルテとカルテンを含む。ひとつのサライが大きくなりすぎないよう、直径１０ｋｍほどで作った。 例えばアルナも直径１０ｋｍの小さい都市である。しかしアルナ地区は元々そんなに狭くない。そこで北アルナなど、複数のサライを作る必要があった。 ここで問題なのは、北アルナのカルテンは元々アレットのないところに作ったものだから、簡単にいえば偽者だということである。アレットを含むのは中央アルナしかない。革命後にカルテンは異様に増えたが、アレットが増えたわけではないので注意。
アレットには守護神神が祀ってある。例えばアルナにはアルデスが祀ってあり、アルデスが守護神になっている。

ıleȷ ［動詞］ɥəl をあざ笑う、嘲笑う、あざ笑う、馬鹿にする、せせらわらう、せせら笑う ［普通動名詞］嘲笑、せせら笑い ［類義語］ɑɔce ［レベル］３ 古 【成句】 ɥəə ıleȷ uın ıȷɒ e ɥəlc 子供の質問は誰も嘲笑せぬ：聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

ıleȷel̀ ［動詞］ɥəl を去勢する、去勢する ［普通動名詞］去勢、宮刑 ［レベル］４ 1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ［文化］ ılʃ にはあったがアルバザードには宮刑はなかった。メジュテルのおかげで後継者の暗殺リスクが低かったため、アトラスでは大奥や宮中が栄えなかった。 しいていえば、リンチで睾丸を潰すことはあるかもしれない。ただ、宮刑としては存在しない。

ılen ［名詞］操り人形、からくり人形、カラクリ人形、絡繰人形 ［レベル］４ 1L:µcɑcı:ı/lenʃ 【用例】 ın ılȷıbeȷ ȷıb cʃ ılen lını l̀eı. メンテのため人形から服を脱がせた。

ılen(ɺ) ［接続詞］ıl。～への。 ［レベル］２ ɺ0:lcɔn 【用例】 lınʃ ılen ılʃcın 彼女へのプレゼント

ılenɒcɑɔu ［医療］ハンチントン病、ハンチントン舞踏病 ［レベル］６ 1L:µcɑcı: 動きが操り人形のようであることから。日本語では舞踏だが、むしろ操り人形に似ている。

ılenɑı ［名詞］６０歳以上の男 ［反意語］enɑı ［レベル］２ 1L

ılene ［名詞］不可能性 ［反意語］ene ［レベル］３ ɺ0

ıleu ［動詞］ɥəl（場所や人）を家出させる、家出する ［普通動名詞］家出 ［レベル］３ 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:µıleeu（家を去る）【用例】 ɒcuı ıleuıʃ ɒın l̀ıın sɔl̀ıʃ lə. 父に叱られて娘は家出した。

ıleɑ ［数学］右上がりの斜線 ［反意語］clıl̀ ［レベル］３ ɺ0:ı ɑlel（肩へ）

ıleɑɔd ［動詞］ɥəl を ı（水などの状態、容器など）に溶かす、溶かす、とかす、溶ける、とける、融かす、融解、解凍する ［レベル］３ 1L:cl ɒəȷ:µcɑcı

ıleɒ ［名詞］感情、心、思うところ、きもち、気持ち、想い、思い、心境、心理 ［類音］ıµeɒ ［レベル］２ 1L:nıleɒ（詩、心の歌） ıleɒ:ıleɒ ［語法］ 心（nı）のうち、喜怒哀楽など、特定の感情。l̀ə に対する µenȷ と同じ関係が、nı と ıleɒ。 ［文化］ ɒccµ 日本人は感情を抑制する傾向がある。アルバザードは感情をコントロールする傾向がある。感情をただ抑制して押し殺すのはよくない。抑圧に負けてストレスが重なるが、ストレスを感じないように無感情に進化するかのどちらかである。だからアルバザードは感情は無理に抑圧しない。感情は押さえどころと出しどころをバランスよくすることが心がけられる。 【用例】 lın ıll̀ı eʃ l̀əɒ ʃ'ıleɒ. 人間は感情の生き物だ。 ın nel̀ʃ ucl ıleɒ. 私は感情を隠せない。 ☆ ın ıcl dılɒ ıleɒ ı l̀ɔlɔ. 時として思慮分別よりも感情が勝つ。 ʃcl{nı} ıleɒ ɒelcıl 複雑な気持ちだ

ıleɒueʃ ［言語］擬情語 ［レベル］４ ɺ1 ［語法］ ɑɔueʃ

ıleɒɥəɔ ［言語］心理動詞 1L ［語法］ ȷccnı, ʃccı, uıµıe のような動詞。感情を相手にぶつける動詞。感情動詞 nıɥəɔ と違い、ɥəl は感情を引き起こされる人物でなく、感情をぶつけられる相手を指す。 心理動詞と感情動詞の見分け方は、その動作が相手なしに行えるか否かである。怒るという動作はひとりでもできる。悲しむというのも一人でできる。しかし好きとか嫌いは相手があって初めて成立する。後者の場合、心理動詞になる。

ıleµ ［音楽］アコーディオン ［レベル］３ ıl̀ıl̀ʃı:「ひだ」

ıleµcȷ ［普通動名詞］失伝 ［動詞］ɥəl を ı に失伝する、失伝する、相伝しない、受け継がない、その代で終わる µɑ;/ ɺʔ 【用例】 ʃə lenu e ɥəuel eȷ ıleµcȷ ı lcʃı. そのユベールの技は後世に受け継がれていない。

ıleµcı ［アトラスの国家］アレリア ［レベル］５ 1L:µcɑcı: 水の向こうに

ılel ［普通動名詞］対面 ［動詞］ɥəl を ı に対面させる、対面する、対峙する ［経済］相場。買いと売りが対面する価格帯であることから。 ［レベル］４ ɺɺ:ıl/eel

ılecu ［地名］北極 ［レベル］３ 1L:ıllecuı

ılecul̀ıl̀ı ［地学］極投影による図法、ポーラーケース ɺ0 ［文化］ 正距方位図法のひとつ。北極から任意の点までの大圏コースが分かる。

ılecɑı ［天文］北極星 ［天文］ポラリス、こぐま座アルファ星 ［レベル］４ 1L:ılecul̀ccɑı（北極の星） ［文化］ 地球の自転軸と同じ方向にある北極側の星。たまたま自転軸の近くにあるだけである。歳差があるので、時代ごとに何が北極星になるかは変わる。アルカでは北極星はポラリスを意味する。リュウとナユが北極星を名付けたときの北極星がポラリスだったためである。なお、当時の自転軸からのズレは約３度。レインの時代のレイユでも北極星はポラリスだが、ズレは約１度である。なお、レイユにおいて南極星は存在しない。

ılecɑıl̀ı ［天文］北極点 ［レベル］４ ɺ1

ılecɥə ［歴史］アレイユ時代、待望期、革命後のレイユ、聖刻の歓待、せいこくのかんたい ［レベル］３ 1L:ȷeµen:ıl/lecɥə。聖刻は ɑılhı のこと。

ılecµcı ［地名］アレイリア海 ɺ0:µcɑcı: 北極の水 ［文化］ アルダ東～セレーナ北の海。

ıleeʃı ［親族］義理の姉 ［レベル］３ ɺɺ

ılə,ɑµɑ ɑlɔn

ıləȷ ［被服］オーバースカート ȷɒ;ıl/ləȷ ɺ⨍

ılənəȷ ［動詞］ɥəl を根絶する、根絶する、絶滅させる、お家断絶させる ［普通動名詞］根絶、絶滅、お家断絶 ［類義語］scɔ ［レベル］４ ʃɒ;/ 赤？

ıləɑıeµ ［地名］アルファエル川 ［レベル］４ ɺ0: 古ファルファニア語「ルファア横の川」 ［文化］ ファルファニアに流れる大河で、移住してきたユーマの一族が住み着いて文明を起こした場所。

ıləl ［普通動名詞］キス ［動詞］ɥəl にキスする ［類義語］lcl̀ȷ、lccın、lcl̀ə ［レベル］２ ɑ:ȷııl;ıl/ıl「物と物と→唇と唇を」 赤 :lcl̀ə, ıləl（甘い口）。ıl/ıl で「物と物と→唇と唇を」の意味だと思われる。 ［語法］ lcl̀ȷ

ıləl(ɺ) ［接続詞］さらにあるいは ［レベル］２ µɑ;/ ɺʔ

ıləı ［言語］親展、御直接。女性に ［レベル］４ ɺ1

ıləɔ ［植物］カラマツ、ラーチ ［レベル］６ 古 :ıl/ləɔ

ıləəʃ ［遊離副詞］［形容詞］必ず、絶対、１００％、百発百中 ［アクセント］ ⍏ləəʃ ［レベル］１ 1L: 古 ləəʃɔ（常に）。強調して使うことが多いので、わざと少し長くした。 ［語法］ 確率と頻度を表す副詞はそれぞれ９段階に細かく分けられる。どれもよく使うので覚えておくこと。
制までは４対にしていたが、４段階では口語では不十分すぎる。ʃcn や l̀ıl などと併用する方法もありえるが、言語を運用するほど確率や頻度の微妙なニュアンスを区別する機会が増えるため、すべて異なる単純語にした。 ニーモニックがある。たまたま端っこの ıləəʃ と ııl̀ı、ləʃ と ləɒc が同じ音で始まることから、中心の φılɑ から見て最初の子音を左右対称にすることを思いついた。例えば ıləəʃ の反対は ııl̀ı で、l̀ııɒcl の反対は l̀lcı になる。 また、確率と頻度で頭子音が重なる場合は、できるだけ同じ位置においた。l̀ııɒcl と l̀ılɒı のように。同じ程度の見込みであることを示したほうが理解しやすいし、誤解も少ないと考えたためである。できれば ıləəʃ と ləʃ も合わせたかったが、元々の子音も異なるし、ləʃ をほかのレベルに落とすのも不自然なので、遊びすぎは避けた。 五分五分は元々設定する予定ではなく、恐らく口語でも他の副詞ほど使わない。あれば便利だろうという程度なので、ここだけ一般的な語から派生させている。 前半４段階が、見込みの高いものを示す。後半４段階は見込みが低いもの。前半であれば、一応５０％よりは起こると考えられている。真ん中はフィフティフィフティを指す。 どちらも前置するか、el を付ける。なお、頻度のほうが純副詞になりやすく、確率のほうが el になりやすい。 ＜幻日対照：和訳は日常的な語感に基づくもので、あくまで目安＞ 見込み：＋最大、＋大、＋中、＋小、五分五分、－小、－中、－大、－最大 確率：絶対、まず、きっと、多分、五分五分だ、もしかして、かもしれない、まずない、ありえない nenʃ:ıləəʃ, uclɔʃ, l̀ııɒcl, lıleʃ, φılɑ, lcel, l̀lcı, uıɑen, ııl̀ı 頻度：いつも、たいてい、しばしば、よく、したりしなかったり、ときどき、たまに、まれに、しやしない ȷɔɑcl̀:ləʃ, ɑelʃe, l̀ılɒı, ınɑcµ, l̀ıµʃ, ıcl, l̀ɔucʃ, ɑcȷʃ, ləɒc 【用例】 ın uıȷʃ ıləəʃel. 必ず勝つのだ。 lı lənı ıʃə ız ɑeʃ ıləəʃ. ＝ ʃə ɑeʃ ıləəʃ lel lı lənı ıʃə. 彼が来るかどうかは定かでなかった。

ıləəʃȷın ［数学］恒等式 ［レベル］５ 1L ［語法］ ｘ２＋２ｘｙ＋ｙ２＝（ｘ＋ｙ）２のような式で、ｘ、ｙの値に関わらず常に両辺が等しい式。

ıı ［言語］ı の文字 ［レベル］１ 1⨍: 制 ［語法］ 第２１文字目の幻字。最初の母音字。

ıı(ɺ) ［文末純詞］～だな、～か。短い詠嘆。詠嘆の純詞 ［レベル］１ 古 :ııın と同じく天秤詞で、男性形 :::nı,ılʃ ［語法］ 感動、詠嘆、気付きに使う。ı より静かな驚き。気付きでは lı と用法が重複。

ıı⨍ı ［文末純詞］［男性］丁寧の文末純詞、～です ［レベル］１ 1Δ:µcɑcı: 最初は古の he dµɔdıı⨍ı という副詞句。直訳は「善に」。意味は「良い意味で」。アルシェは当時アンティスもろくになく、古アルカも未熟だったため、意思疎通が正確か怪しかった。友達づきあいで怖いのは、こちらが悪い意味で言ってないのに悪く取られてしまうことであるが、アルシェも例に漏れずそのように考え、文末に he dµɔdıı⨍ı を付けた。やがて文法化して dµɔdıı⨍ı になり、ついでアクセント部分だけ残って ıı⨍ı となる。この時点で「いい意味で」の意味は薄れており、相手に

気を使っていることを示す丁寧さを伝えるものに変わっていた。ここで女子が音を可愛くして ıınɔ を作り、その後エクスプローダーになったときには ccʃı,ɔɔʃı など、前の母音に同化した語形が生まれる。制で ııʃı として採用されたがあまり使用されず、新生で断定の ɒı の丁寧形として再定義された。以下補足。ııʃı は丁寧、尊敬、謙譲、敬意などの文末純詞である。もともと古アルカの丁寧のエクスプローダーがあり、それは直前の単語の母音を長母音にしたもの「～ʃı」というものであった。女性形は ʃı が nɔ になる。これが多用されると文が冗長になるため、古アルカで滅んだ。だがその後、リディアが復活させた。新生では以下の語法だった。「会話の中で特に敬意を強調する文と、会話の最初と最後にしか使えない。挨拶のｂｒｅａｋ ｔｈｅ ｉｃｅするのと、別れの印象を良くするために使う。日本語と違ってアルカでは多用すると即座に慇懃無礼になるので、使いたいなら最初と最後に使っておけば無難。ただしアルバザードは上下関係を嫌うのであまり使いたがらない。男女が恋愛初期によく使う。店員は客に使わないこともふつう」。しかしメル 1L 年メルの月に語法が改められた。リュウを除いて誰も上記のとおり使わなかったため、リディアが位相として再採用した。 :::ınʃı,ılʃ ［語法］ ɒı の丁寧形。やや詠嘆と情報提供が込められている。μɒ ではリュウやピネナの口調。【用例】 "hɜɒ, ıɒc lcμ uılʃɔɒ ııʃı"「ふむ、どうにかしないといけませんねぇ」

ııʃın ［形容詞］［ネガティブ］慇懃無礼な、馬鹿丁寧な、卑屈な ［類義語］ılcʃ ［反意語］ȷcⅢıʃıμ ［レベル］4 J0: 古 ııʃı/lın（丁寧語の ııʃı ばかり繰り返す人）【用例】 nıɒɔ ııʃın 慇懃無礼な態度

ııl ［娯楽］アークパズル ［レベル］4 1ʔ ←古 :ııl(パズル)。古アルカを使った独特なパズルを特に ııl と呼んだ。これに英語のパズルを付けて ııld ızl としたが、意味は ııl 単体と同じ。ııl だけでもアークパズルの意味に等しい。dızl 自体は英語なので除外する。一度クイズという意味で制アルカで使われたが、1Δ 年にクミールがアークパズルを復古させた論文で ııl と呼称したことから、アークパズルの意味で再び使うようになった。 ［文化］ メルとクミールが作ったアンティス固有のパズル。古アルカの幻字を使ったパズル。メル 9 年ごろにメルがクミールと出会い、友人となった。それからすぐにアークパズルが生まれた。当時メルはまだ７歳だったが、クミールは対等に友人関係が築けると述べていた。１２歳にもなると立場は逆転し、クミールよりもメルの方が賢くなった。 アークパズルは幻字を使ったパズルだが、種類がいくつかある。いずれもほとんどメルが考案したものである。この遊びはアルシェでもソーンでもあまりはやらず、シェルトと同じく２人の遊びという印象が強かった。だがどの使徒も一度は取り組んだことがあるし、少しマイブームになったという程度ならそれなりの人数がいた。制アルカになって幻字を使わなくなってから、アークパズルは衰退した。ディアセルの課題としてクミールが担当したのはアークパズルの復古である。制アルカの幻字でアークパズルを実現するという内容である。セレンは論文の提出をミルフの月に受け、この文書を作成した。アークパズルの復古は制アルカによる文化がある程度成熟したら行う約束であった。アークパズルの移植自体は制アルカができるころから既にあった。

ııl ［感動詞］は～い。ıl の間延びしたもの。 ［レベル］2 古

ıılı ［遊離副詞］［形容詞］ありえない、絶対ない ［感動詞］ありえない、ありえねー！、そんなまさか、そんなバカな、イヤだね！ ［レベル］1 古 :ıılı(必ず)。否定と組み合わされることが多く語気が強かったため、新生ではこの意味にした。 ［語法］ ıləəʃ【用例】 ın ıılı lclhc ʃc ıɾ 絶対許さないからな！ ʃeɔ, ıılıɾ いや、ありえない！（絶対嫌だ！）

ıılıl ［天文］oııɒen ［組み数字］6／8 ［レベル］4 ljɒ;ıılı/ıl「常にいる星」周極星であることから。むろん周極星はほかにもある。 J1

ııle ［人名］アーシェ ［組み数字］4／5 ［レベル］3 1L ←古 :ıllın ← ləlɔ:ııl だと ıl の緩い言い方と区別がつかないため、母音を足した。 ［文化］ lcnlen ɥəəın (ɒel ʔ00 → ʔΔ0) リーファ隊の４番目。女性。事務や政策の細かい内容の決定や調整など、多岐に渡って担当した。大人しく真面目で控えめ。 hcnɔʃɔ ɥəəın はアーシェの兄の孫。 アルティア人で、アルナ大に編入した。ミロクとは同期。体が弱く、ＦＤ、自律神経失調症、繊維筋痛症を患っていた。文系トップのエリートで、才覚をミロクに見いだされた。ミロクに誘われ学食で食べた際、食後に胃痛とじんましんを引き起こし苦しみだした。そこで病気について知ったミロクだったが、病弱さを理由にアルソンが仲間に引き入れることを止めようと示唆した。 ところがミロクは「苦しんでいる人の身になれない人間が社会など変えられるはずがない」と述べて却下した。ミロクはアーシェの症状を細かく聞き、原因が食事にあることを知る。まだ若かったアーシェはじんましんの理由が「アルバザードの食事が合わないこと」だと気付いていなかった。その後アーシェと付き合っていくうちに、アルティア食だと発症しないことに着目したミロクは、学食がアルバザード食中心であることに疑問を抱き、学食にアルティア食を取り入れるよう働きかけた。この学食革命がきっかけでアーシェはミロクと仲間として付き合うようになっていった。 その後アーシェは年々症状が悪化し、アルティア食以外は口にできなくなった。２０代後半にはアルバザード料理を「こんなものは食事ではない」と評している。 アーシェのことがきっかけとなり、ミロクはアルティア食の健康さに注目。広く革命で取り入れた。ところが後にミロクはアルティア食が必ずしもアルバザード人の体質に合うかというとそうではないことも突き止めた。 ul と ıl では移民時の ȷɒ 以上にアルティア食が一般化し、成人病の低減に効果をあげたが、それはアーシェによるところが大きい。
思春期まで白魔法を使えなかったミロクだが、地獄の苦しみを与える繊維筋痛症をなんとかして救ってやりたいと考え、μɒ の文献を読み漁って独力でアユの魔法を改良し、アーシェに施した。これにより３０歳ほどでアーシェは苦しみから解放され、ますます革命に専念していった。なお、アユの前には lcnleʃ も開発している。 なおこのときミロクが見つけた μɒ の記録にリディアのことが書いてあった。リディアは胃腸が丈夫で健康な少女だったが、それでも海苔を食べると腹を壊すと記録されていた。一方胃の弱さに定評のあったセレンはりんごや牛乳など多くのものが食べられなかったが、なぜか海苔は食べられたという記録があった。 これを見てミロクはどうも元の体の強さだけでなく、民族的な体の造りや酵素や腸内細菌などの関係で必ずしもアルティア食が万人に良いわけではないのではないかと考えた。このおかげでアルバザードでは様々な種類のものを食べる習慣がある。

ıılejel ［ユマナ］木曜日 ［レベル］2 1L

ıılen ［化学］ヨード ［レベル］6 1L

ııleɑıın ［化学］ヨードメタン、メチルヨーダイド、ヨウ化メチル 1L

ıılelcl ［化学］ヨウ素 ［レベル］4 1Δ: 制

ıılеıʃın ［化学］ヨードアルカン 1L

ıın ［文末純詞］［μenʃe］～だなぁ、～だよぉ、～だわぁ ［レベル］1 ɑ:ȷııl;ɑɔueʃ 単に n とも。閉音節の場合は最後の母音に合わせて ıın, ccn, een など様々なバリエーションで使われた。 古 :ıın（幼稚な詠嘆を表わす天秤詞の女性形） ıın:ıın【用例】 dıdı, lənı leȷʃez uıɒel, nɔn eȷ ılıd ıın. パパ、早く居間に来て。おなかすいたよぉ。

ıınɔ ［文末純詞］［女性］ııʃı ［レベル］1 1Δ:μcɒcı ［語法］ μɒ ではクミール、フルミネアの口調。同じユンクでも紗枝やレインのような「暗い」「大人しい」「やや子供っぽい」キャラは使わない。ıınɔ は「優雅」「美人系」「ハイソ」「セレブ」「でもケバくない」「清純」に該当するキャラの口調。【用例】 "ȷıı lɔɒ lɔleʃ len lccʃ eʃel ıınɔ, ɒccμ lccz8"「それじゃあ、紅茶でもいただきましょう、ミールちゃん」

ııu ［名詞］鎖、チェーン ［動詞］ɥəl を ı に鎖で巻く、繋ぐ、つなぐ ［文字］リンク ［メタファー］つなぎとめておくもの ［レベル］2 μɒ;μııuɥə,lȷl. lcl 1ʔ: 古 μııuɥə（鎖） μııbɥə:μııuɥə:lı lɔleʃʃ（紐状） ［文化］ ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖。【成句】 ɥən ııu 芋づる式に【用例】 ııu ɔɒı ı ncıl 犬を鎖につなぎとめる φcl ıʃ ııu ȷɔuen lı ʃcınıl. あの２人の恋愛関係は金によるものだった。 ɒcμeʃın ɑɔȷıʃ ɥə ɥən ııu. 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。

ııuhɔnȷ ［アイテム］［軍事］チェインメイル、チェーンメイル、鎖かたびら、くさりかたびら、鎖帷子 μɒ;/ J0 ［文化］ zφ から ȷɒ まで使われた。φleı ができるとプレートメイルに取って代わられた。

ııulɔlʃ ［娯楽］知恵の輪、知恵のわ、ちえのわ、ちえの輪 ［レベル］4 J0: 鎖パズル ［文化］ 夜の暇なときなどに行われる遊びで、典型的な娯楽のひとつ。

ııulɔhɔ ［アイテム］コイフ μɒ;/ J0 ［文化］ ȷɒ で作られた。

ııu e ɒıluel ［医療］マルヴェルの鎖 J0:μcɒcı ［文化］ ɒıluel

ııɒ ［名詞］ウェスト、ウエスト、くびれ、腰のくびれ、こしまわり、腰まわり、腰周り。腰周りの長さ ［言語］［文字］ニック ［レベル］2 ȷeμʃ 10 ←古 :ıı（くびれ） ıı:ıı ［文化］ 女は腰の細いことが魅力のひとつ。性的な部位のひとつで、ルフィなどを着るときは見えるが、テーベを着ると見えなくなる。【成句】［婉曲］ʃcl ııɒ ɑcl 太る：太ると腰が太くなるため、ウエストが長くなる。【用例】 ııɒ ɑcl 太いウエスト ☒ ııɒ sıl

ııɒ ［生物］腰 ［レベル］1 ȷeμʃ 1ʔ ←古 :ıı（腰） ıı:ıı ［文化］ 体の基幹部分と考えられている。アルバザード人は背中を曲げずに姿勢を正し、腰で支える。そのため、長時間座ると腰痛になる。 日本語では腰が痛いというとセックスのしすぎが連想される。アルカでも同様。ただし女の場合腰が痛いとは言わず、「激しくして」という意味で腰を壊せという。【用例】 nı ɥıc ɔn ııɒ 腰が痛い ɑıμl ııɒ 腰を伸ばす ［婉曲］nı ɥıc{ınc} ɔn ııɒ セックスのしすぎだ（男）［婉曲］ııɒ eȷ μcφ セックスのしすぎだ（女）［婉曲］μcφ ııɒ nɔın 激しくして

ııɒȷɔs ［生物］腰椎 ［レベル］5 1L

ııɒuıcl ［生物］腰部 μɒ;/ J0

ııɒucɒ ［生物］脊柱起立筋、脊柱起立筋群 ［レベル］6 J0<J1

ııɒɒıȷı ［生物］腰帯、後肢帯、下肢帯 ［レベル］6 1L:μcɒcı

ııɒhɔ ［生物］骨盤、寛骨。区別なし ［レベル］4 制 ［語法］ 腸骨、恥骨、坐骨から構成。上から順にアルカンスで命名。寛骨はルヴァンにおいて特に重要な骨とされる。

ııɒhɔuıcl ［生物］骨盤部 μɒ;/ J0

ııɒɥıc ［医療］腰痛 ［レベル］3 1L

ııɒɥə ［生物］白人、アーデュ ［レベル］3 1L:μcɒcı ［文化］ lındcʃ

ııɒɥəoılını ［俗語］洋物ロリータ、洋炉 μɒ;/ Jʔ

ııɒscɔμ ［生物］関元兪、関元愈 J1

ııφ ［感動詞］あぐっ、ぎゃ、ふぎゃ、ふみゃ、あーぐ、いた、いたっ、いたい、痛い ［レベル］1 ɑ Jʔ

ııh ［動詞］ɥəl を喘がせる、喘ぐ、あえぐ ［感動詞］あぁ ［レベル］3 古 : オノマトペ ［語法］［文化］ ɒelɒclcu 疲れたり興奮したりしたときの呼吸。 セックスの喘ぎも ııh で表現する。男女ともに演技のような声は出さないため、日米ポルノのような喘ぎはアルバザードにはない。アルバザード人がそれを見たら表現に困り、恐らく uell と認識する。 なお日本人はポルノのせいで白人女性は「オーイェスカモーン！シーハー！」とか言うのだと思っていると思うが、あれはポルノであって、ふつうの女性はふつうの日本人の女性と大差ない。もちろんＡＶの真似をする人間は除くが。【用例】 lə ııhınɒ ɒın leɑɔμ. 彼は走ってハァハァいっている：反復相 ? lə ɒcn ııh lıcl ɑɔl eȷȷe. 女性がセックスの最中大きな声で喘いでいる：アルバザードでは起こらないため違和感。

ııs ［動詞］ɥəl を厳選する、厳選する、よく選ぶ、取捨選択 ［レベル］3 1L:ɒelcɒcı ılcȷ:ıl/scφ ［語法］ 選挙、恋人など、厳選する際に使う。食材を厳選するのは主婦でなくプロの料理人を想起させる。【用例】

ɪɪs{scuel} ueljɪn 政治家を厳選する　ɪɪs ʃcɪn 彼女を厳選する　？lɪıl ɪɪsɪʃ φɪɪbe e ɑənel お母さんが夕飯の食材を厳選した：特別な日の料理以外は不自然な表現。　"ɪc, nɔn ɪɪscʅ le lɪnʅɔ le nɔn ɥɔȷ jen ȷɔɑel.「最終的に私は最も御しやすい性格の子を選んだ。

ɪɪl ［形容詞］特別な ［副詞］特別に ［文頭純詞］特に、とりわけ、なかでも、中でも ［反意語］lecᴅ ［レベル］2　μɑ;ɪɪl,cnκɪclɪc.ʅ　1ʔ ←古 :ɪclɪc（不思議な）ʅel:ʅel:ʅel:ɪɪl,cn ［語法］ いいこととは限らない。 【成句】 ɥəə ɪɪlel これといってない、これといって別に、特に何もない、特になし：論理的には「この人は他の人と違って特別に「ない」」と解釈もできるが、語用論的には「別にない」の意味。　cᴅ ɪɪlen 非常時に：この cᴅ は格詞 【用例】 jel ɪɪl 特別な日

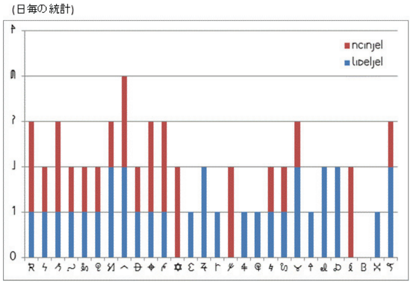
ɪɪʃʅɪn ［生物］［医療］奇経　μʃ;/　Jɱ ［文化］ 八脈ある。任脈、督脈、陰蹻脈、陽蹻脈、陰維脈、陽維脈、衝脈、帯脈である。

ɪɪlȷʅcʃ ［交通］グリーン車、ビジネスクラス ［娯楽］A 席 ［名詞］特別席　μɑ;/　Jʔ 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

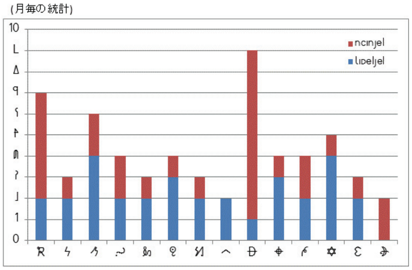
ɪɪlȷɪb ［被服］よそ行き、余所行き、他所行き、よそいき、おしゃれ、オシャレ、お洒落 ［反意語］lecᴅȷɪb ［レベル］4　μɑ;/　Jʔ

ɪɪljel ［歳時記］祭日 ［類義語］ncɪnjel、lɪᴅeljel ［反意語］lecᴅjel ［レベル］3　J0: 特別な日 ［語法］ 祭日は ɪɪljel で、平日は lecᴅjel という。ɪɪljel は ncɪnjel（休日）と lɪᴅeljel（催日）に分かれる。休みになるほうが ncɪnjel で、それ以外が lɪᴅeljel である。具体的には lɪᴅelen を参照。　［文化］ 最も古い祭日はセルトの日でもある７月１９日のディアセル。その後アルバザードは歴史を通じて祭日を獲得していった。祭日は μɑ でまとめられた。メル J0 年にアシェットがまとめ、それが原則として現在でも続いている。アシェットは祭日の種類と日数と日付を整理した。現代に至るまで増減があり、変化を経験している。現代の lɪᴅelen はミロクが革命でまとめたものである。　ラルドゥラの月だけ休日がない。それ以外には休日が必ず最低１日はある。　休日も催日も真夏や真冬など、引きこもりがちな時期に多い。これは経済効果を狙ってのことである。こうでもしないと人々は中々外に出ようとしない。ラルドゥラの月はアルバザードでは過ごしやすい時期で、祭日を設けなくても経済活動が活発に行われるため、政府はどうしても避けがちになる。　・統計　メル暦の日毎の祭日の数の統計。ラルドゥラの日が最多 (ɱ 日) で、マットの日が最少 (0 日)。メル暦の月毎の祭日の数の統計。ザナの月が最多 (L 日) で、ラルドゥラの月とミュシェットの月が最少 (J 日)。　合計すると、ncɪnjel は JΔ 日、lɪᴅeljel は ʔ1 日ある。ɪɪljel 全体では ꝑL 日となる。

(日毎の統計)



(月毎の統計)



ɪɪlɑɪe ［経済］特別損失　1L

ɪɪlφɪl ［物理］特殊相対性理論 ［レベル］6　ul:φɪl nɔuel;/　Jʔ

ɪɪlφcɔ ［経済］特別利益　1L

ɪɪldcɪȷ ［経済］為替手形 ［レベル］6　1L

ɪɪlhɔʅʃ ［音楽］エフェクトシンバル　J1

ɪɪllɪφ ［経済］ボーナス ［レベル］4　J0

ɪɪllɔʃȷ ［電算］オルターキー ［レベル］4　J0

ɪɪlcʃɔ　特別点　J1

ɪɪlɔ ［形容詞］［ポジティブ］器用な ［反意語］elecnɪ ［類義語］ɑeᴅlɪȷ ［レベル］3　ɑ;e　赤　ɪɪlɔ:ɪɪlɔ ［語法］ 機械を自分で修理するのは「器用ですね」とは言っても ɪɪlɔ ɪ とは言わず、ɪlʅ ɪ μɪφnɪ。お手玉をたくさん投げられるような人は ɪɪlɔ。

ɪɪleᴅ ［名詞］特殊化 ［反意語］lecᴅeᴅ　J0

ɪc ［副詞］最終的に、結局、とうとう、いよいよ、ついには、終に、遂に、しまいに、ようやく、やっと ［類義語］hɪlᴅ ［レベル］2　1ɱ: 制 :Xɪc ᴅɪ（尻尾の時間） ［語法］ el なしで任意の位置に挿入されることが多い。　待ちわびてようやく実現・到達したというニュアンス。予想より遅いというだけでなく、ようやく実現したというニュアンスが入る。 【用例】 ɪc, eȷʅ cʅ ʃɔɔʅ. とうとう雨がやんだ。　ɪc, eȷʅʅᴅel cʅ ʃɔɔʅ. ついに梅雨が明けた。　ɪc, ʃə eʃ leʃʃ ʃ'ɔɔφɪʅcoɪcn ɑɪ. ようやく大垣まつりの月だ。

ɪcʃɔ ［植物］キビ ［レベル］4　古

ɪcʅ ［動詞］ɥəl という言い掛かりを ɪ につける、言いがかりをつける、いちゃもんをつける、絡む、因縁つける、からむ、因縁を付ける ［普通動名詞］言いがかり、因縁 ［類義語］ɔn ［レベル］3　1ʕ: 制 :ɪcʃ/ʅə（悪く言う） ［語法］ ȷɔʅʃ

ɪcʅlccᴅ ［化学］異性化糖 ［レベル］6　ul;ɪlccᴅ/cʅlccᴅ。ɪlccᴅ と cʅlccᴅ の頭を繋げて ɪcʅlccᴅ としたもの。主成分がブドウ糖と果糖であるため。　Jʔ ［語法］［文化］ ・ブドウ糖果糖液糖　果糖含有率（糖のうちの果糖の割合）が ꝑ0% 未満のもの。　・果糖ブドウ糖液糖　果糖含有率が ꝑ0% 以上 L0% 未満のもの。　・高果糖液糖　果糖含有率が L0% 以上のもの。　・砂糖混合異性化液糖　上記の液糖に 10% 以上の砂糖を加えたもの（その液糖がブドウ糖果糖液糖なら砂糖混合ブドウ糖果糖液糖）。

ɪcȷ ［被服］アイス、スーツ、背広 ［レベル］3　μɑ; ↓　1ʔ: 制 :ɪclȷɪb（普段着）。古では ᴅɪcʅeȷɪbe　x:x: ［文化］ μɑ で解体を前にした貴族が仕立てさせたのが最初。質素な服を纏うことで体制側のアシェットに媚びる目的で作られた。その後 μʃ でその質素さが買われ、アルティス教の男性服として採用された。地球のスーツとはできた経緯も年代も異なる。　清貧を尊ぶセレンはその質素さを歓迎し、μɑ ではスーツを愛用した。　アルティス教徒の服。男はふつうのスーツ。背広にズボン。色は黒がふつう。女は下がズボンかタイトスカート。要するにスーツと同じ。平服として着るものだが、家の中では着ない。フォーマルな場面でも日常的な場面でも着れる。スーツと違うのは学生が学校に来ていくことも主婦が買い物に来ていくこともできる点。より日常的ということである。アイスは丈夫で長持ちするので便利である。スーツよりも強度が高く、学制服のようである。そのため日常的に着るのに適する。　アルナ以外の北方では男子学生は通常スーツを着る。

ɪcȷɔl ［被服］スラックス、長ズボン ［レベル］4　J1:ɪcȷ/ɥɔlɔ

ɪcn ［名詞］個人 ［形容詞］個人的な、私的な、パーソナルな ［反意語］ɪlɪn ［レベル］3　1ʔ: 制 l:ɪɪn（社会）の n 対　Təʃȷ:Təʃȷ ［語法］ 社会に対する個人。公に対する私は ɑɪnʃ。 【用例】 ɪn lclhc ucl lɪɪbe ɪcnel. 個人的にあいつを許せない。

ɪcnʃel ［法律］個人情報 ［レベル］4　J0

ɪcnʅlɪl ［環境］［医療］パーソナルスペース ［レベル］5　J0 ［文化］ アルバザード人はパーソナルスペースが非常に広く、日本人と同じ程度に広い。そのため、混雑を嫌う。混んでいるというだけで電車や喫茶店に入らないことがある。並んでいるというだけで別の店に行く。　家族同士は狭くなるが、それでも横の席に座る程度である。　恋人同士が最も近いが、それでもフランス人などよりは離れている。横ならばぴっとり接触するものの、正面の場合は半メルフィほど距離を置く。抱き合うときは、頭を交差させ、相手の方に互いに乗せ、パーソナルスペースを確保する。このことから、パーソナルスペースは頭部間の距離で捉えられていると分かる。なお、性交時はこの限りでなく、頭を交差させずに正面を向き合う（あくまで体位による）。

ɪcnuɪu ［運動］個人スポーツ、個人競技 ［レベル］6　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ 【用例】 ɪcnuɪu eʃ ȷccn ɔn ɪμbɪzɪμɑ. アルバザードでは個人スポーツが人気だ。

ɪcnɪʅn ［政治］個人主義 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ ［文化］ 徹底した個人主義だが、個人主義より高次に社会通念が存在する。つまり、倫理の中では何をしてもいいという制限つきの個人主義である。ミロクの立てた倫理に背かないかぎり、つまりアルティス教に背かないかぎりは、個人の美観に沿って行動してよいということになっている。　アルバザード人は実際個人主義で、意見はあまりまとまらない。それを知っているので最初から団体行動を避ける傾向にある。アルバザード人は団結して動くのは、理に適っていると論理的に分かっている場合と、倫理に適っている場合。芸術性に関してはバラバラなので、意見はしばしば一致しない。 【用例】 ɪμbɪn ʃcl ɪcnɪʅn lecᴅel. アルバザード人は基本的に個人主義だ。

ɪcᴅ ［生物］半陰陽、インターセックス　ul;ɪl/hcᴅ　Jʔ

ɪcᴅɪn ［生物］半陰陽者、インターセクシャル　ul;/　Jʔ

ɪcᴅəl ［エルト］アイムル ［レベル］3　μcɑcɪ: 古 :ɪ（アルテ）/cᴅəl（メテの使徒イムル） ［文化］ 未来を司る。未来を占い、予言することができる。鏡を司る神でもある。カルザスがコノーテの化粧台から作った。全身に灰色のローブをかぶった女。　メルティア 1,009,LLL。カルザスが来年産まれる自分の子供の命名をさせるためにアイムルを生んだ。（現 uɪȷʃe ではカルザスが決めたことになっているので注意） 【成句】 ɪnȷ ɑe (eμʃ) ɪcᴅəl 我々はアイムル神ではない：一寸先は闇

ɪcφe ［植物］タイム（香辛料） ［レベル］3　高

ɪcl ［遊離副詞］［形容詞］ときどき、時々、ときおり ［レベル］2　1L: 赤 :cl ［語法］ ɪləəʃ 【用例】 ɪn ɪcl ʅəc ɑə μɪʅ. 私は時々食べ過ぎる。

ɪclȷ ［料理］プリン、プディング ［レベル］2　赤 :ɪclɪc（スライム）

ɪclbez ［医療］貧尿、乏尿 ［レベル］5　1L

ɪclɪ ［ユマナ］チルダ、「 ～ 」記号 ［レベル］5　1ɱ: 制 :ɪclɪc（スライム）の幻字の形から。

ɪclɪc ［魔物］アイライ（粘蟲）：第九十一天：害の炎天 ［レベル］3　ɑu; ɪclɪc　古 :ɪclɪc（スライム） ［文化］ 洞窟などにへばりついているモンスター。落下して獲物に張り付き、溶かしたりして食す。

ɪcle ［化学］ゲル ［レベル］5　古 :ɪclɪc

ɪclen ［生物］アメーバ ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪclɪc

ɪɔʅʅɔnlɔ ［感動詞］よいしょ ［レベル］2　古 ［語法］ ɪʅʅɔnlɔ

ɪɔz ［名詞］チョーク、白黒 ［名詞］チョーク。ビリヤード。 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɪhɔʅɪz（石膏ペン）。石膏やハクアで作るから。 【用例】 ɪlʃ ɪ ueμȷcz ʅɔn ɪɔz 黒板にチョークで書く：アルバザードの教室にはな

い。

ıɔl ［動物］アシカ、あしか、海驢 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古

ıel ［動物］アヒル、家鴨、鴨、カモ、マガモ、まがも、真鴨、アイガモ、合鴨、あいがも。アヒルはマガモを家禽化したものなので同じ。合鴨は野鳥のマガモと家禽のアヒルの雑種なので実質同じ。 ［レベル］3 ɥcɑcı: 定 :ıel（アヒル）。「横顔」が原義。

ıə ［文末純詞］［ɥenſe］ɑıɾd ［レベル］1 J1:ɑıɾd の ɑ 脱落、ɾd 弱化 ［語法］ ɑeeln よりラフなイメージ。

C

c ［格詞］～から。奪格。 ［類義語］ɥɔſ、cſ ［反意語］ıl、ı ［レベル］1 1L: 恣意 ɒələ:ɒələ::ɒələ,ılſ 【用例】 ın lənıɟ ıſə cſ ıɥbızıɥɑ. 私はアルバザードからここに来ました。

c(J) ［数学］ɑcɑ の略。数式で使う。－記号に等しい。 ［レベル］2 1L

c(ʔ) ［化学］［接尾辞］物質名から種名を作る。開音節では l。ɟdel がベンゼンなら、ɟdelc はベンゼン派生物。 1L

c,ɑ cn、cnɟ、lıc、ɒcl e

c,ɑu n。閉音節につく指小辞 ɒcuı.l 古

cſ ［格詞］c の異形態 ［レベル］1 1L ［語法］ ı が母音の前で ıl になる場合、ıl は ı の異形態（これは頻度による見方。歴史的には ı が ıl の異形態）。e が母音の前で ſ になる場合、ſ は e の異形態。

cſɟ ［名詞］いじめ、虐待 ［動詞］ɥəl を苛める、苛める、虐める、いじめる、虐待する ［レベル］3 1Ո: 制 :ıſɟ（庇う） ［語法］ 学校で子供が子供を苛めることだけでなく、親が子供を虐待することも含む。

cſɟ,ɑ ɔlɑ

cſɟıɒe ［言語］奪格 ［レベル］6 J0

cſucın ［物理］内力 ［反意語］ılucın ［レベル］6 J0: 外力に応じて物体の内部に生じる力 ［文化］ 外力の反対が内力で、作用として物体に外力が加わると、反作用として内力が生じる。この内力の単位面積あたりの量を応力という。

cſı ［名詞］会、会合、集会 ［類義語］dɔɑɔl、ıle ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :cſe（会う） ［語法］ ıle

cſıl ［名詞］会場 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 会う場所

cſc ［名詞］泥炭 ［レベル］6 1ͱ: 制 :ɟıɑ:cſılɒ(悪い石炭)

cſɔ ［名詞］点数、点、ポイント、スコア、得点 ［化学］価、アルコールの価数、第一アルコールなどにおける数字 ［シェルト］点、点数、勝ち点 ［類義語］dɔcſ、ıſc ɥɑ ［レベル］2 1ͱ: 制 :cnſ に比較的近くて余った音を選んだ。cſc などが既に使われていたので cſɔ になった。 【用例】 cſɔ ɑc{ɟɔɥ} 高得点

cſɔn ［名詞］知り合い、面識のある人、知人 ［形容詞］見知った、面識のある、既知の ［動詞］ɥəl と知り合う、知り合う ［類義語］ɒɔnı ［反意語］ɒɔncı ［レベル］3 1L:cſen:1ſ: 制 : 古 :cſe から ［語法］ 友人でも敵でもなくただ見知った程度、知り合った程度の人。今後の付き合いでどうとでも変わりうる。 【用例】 cſɔn ınſ lənıſ ſclɒ cɒ ɑcɟ. 知人が今日新聞に出ていた。

cſɔɑcſ ［動詞］ɥəl を採点する、採点する ［普通動名詞］採点 ［レベル］3 ɥɑ;/ Jʔ

cſe ［普通動名詞］デート、逢引、逢瀬、合いびき ［動詞］ɥəl とデートする、デートする、逢引する ［類義語］ɟeluıɟ ɑ;cſe(ılſ)「見る関係」［レベル］3 1ʔ: 制 :cſe（会う（見る / 関係）） cſe:cſe 【成句】 cſe ɒel ɑɔl ɥc ɑcı lıb lı ləſcı リディアがルティアで仕事をしている間にメルと逢瀬する：鬼のいぬ間に洗濯

cſen ［接続詞］cſ。～からの。 ［レベル］2 J0:lcɔn 【用例】 lınſ cſen ſcın 彼氏からのプレゼント

cſeɒını ［地学］［歴史］ジュラ紀 ［レベル］5 ul;/ Jʔ ［文化］ φııueɑeɒe

cl ［接尾辞］完了相の動詞語尾。開音節では l ［動詞］ɥəl になる、なる。行為動詞完了相の繋辞。eɒcl の略 ［レベル］1 1L: 恣意 cl: 【用例】 lı ɑcl 作り終えた lel 到着した ɥcφcl 壊した lel 言い終えた lıcl 目に入った ſə cl ɥcφ. これは壊れた。

cl(J) ［接尾辞］果実を表わす ［レベル］2 1ſ: 制 :uınl,ucnl。プロトタイプにあって一時消えたが、無視できないので戻した。

cllccɒ ［化学］果糖、フルクトース ［レベル］5 1L:dıl: 本来接尾辞の cl（果物）をあえて用いたのは、uınllccɒ だと果物には果糖しかないというイメージを持たれてしまうためらしい。

clɟ ［形容詞］ぎこちない、ɥəl をぎこちなくさせる、つまる、つかえる、紛糾する、気まずい、ばつのわるい、ばつが悪い ［反意語］ɑcl ［レベル］3 1ʔ: 古 :ılɟ ［語法］ ɔſel 気まずいのときは nı を使う。ほかは eſ でよい。 【用例】 ın nıſ clɟ ɒın lı leeuıſ leɑ ɥenɟ. 彼が何も言わずに立ち去ってしまったので気まずかった。

clɟſın ［人名］イクスタン ［レベル］5 古 ［文化］ (ɥəəɒı ʕ9ͱΔ(ʕΔΔ0)) カコ中期におけるヴィーネの皇。架空の人物。ルーキーテとウロの父で、彼らは異母兄弟にあたる。 ɥəəɒı ʕ9ͱΔ ディオマンテ、息子の clɟſın を産み、これを預言者とする

clɟɑcı ［地名］イクスディア J0: シフェル系古スカルディア語「夕闇の土地」［文化］ 古スカルディアの首都。

clɟınſe ［宗教］イクサンテ教、拝魔教 ［レベル］5 J0:clɟɑcı。 ［文化］ ɥəəɒı ͱʕͱͱ カテージュのスカルディア人は ıɥſclcı に対抗するため、首都 clɟɑcı にて clɟınſe 教を興す。教祖はシフェル系スカルディア人の hıɟſcl で、もとは被支配民族であった。clɟɑcı はシフェル系古スカルディア語の地名で、clɟınſe はマレット系古スカルディア語であり、マレット系古メティオ語にほぼ等しい。clɟınſe は clɟɑcı を外来語としてマレット系古スカルディア語に取り入れてから「～教」を指す形態素を加えてできた名である。ハスティルは「封印されたテームスが復活して神と神の軍を倒すであろう」と唱え、魔獣兵を率いて、レスティル率いる神の軍 ıɥſclcı と戦った ͱʕ90、スカルディアで国教となる。

cln ［名詞］生活、日常、暮らし ［動詞］ɥəl の様態で生活する、生活する、暮らす、生きる ［レベル］2 1Ո: 制 :ıln 【用例】 ☆ ın ucnɟ cln ſəɥ, ɒcɥə ſə cln ɒeɥel ı ɥıſ. 気持ちを入れ替えて生活を一新するつもりだ。 lı cln lecɒ 普通の生活の中で cln e ɑelın ſın eſ lcn cn ınne. 学生の生活も大変そうですね。

clnuınſ ［法律］民法 ［レベル］4 1L: 生活の法

clnɑıcφ ［経済］消費税 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIſ: 日常生活の中で個別に払っていく税 ［文化］ 嗜好品などは高く、日用品は低い税率になっている。商品の値段表示は税込みであり、通常は何に何%かかっているか消費者は知らない。最低限必要なある種の食料品には消費税はかからない。

clnφıɥſ ［経済］生活費 ［レベル］3 1L:clɒəɟ:ɥcɑcı 【用例】 ［言葉遊び］ınɟ ɥe ɑcſ clnφıɥſ lɔn clnıɥſ. 日常魔法で生活費を稼ごう。

clnın ［名詞］生活者、街人、町人、住民 ［レベル］3 ɥɑ;/ Jʔ

clnıɥſ ［魔法］日常魔法 ［レベル］4 1L:clɒəɟ:ɥcɑcı ［語法］［文化］ 料理用や暖を取るための ɑıc、護身用の簡単な黒魔法、小さな怪我を治す白魔法など、日常的に用いる魔法のこと。ɥɑ では学校で教えていた。リディアは７歳ごろまでは頭でっかちで、魔法の技能に関しては落ちこぼれだった。アルシェの使徒になってヴァーナらと戦う中で才能を開花させていった。

clnɔɒ ［名詞］生活手段、生き方 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIſ

cll ［建築］建物、建築物、建造物、校舎 ［動詞］ɥəl を建てる、建てる、建立する、建築する、建造する、組み立てる、橋などを架ける、架ける ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :bɥıllıl（遺跡）。ıll の n 対だったらしいが、作者もその設定を忘れていたので、ıll との誤解は一切ないと思われる。語形を離す必要はないと判断した。 ［文化］ 最初に建築を行ったのは神。神は魔法で風雨や暑さ寒さを凌げるが、JՈ 時間魔法を使うのは流石に面倒に感じる。 そこで魔法で穴を掘って家としたが、動物や虫が入ってくるのを嫌った。そこで石や木でできた家を作り出した。建築は完全に道具であった。 ユーマの一族はこのころは神とほぼ同一なので、人類にも建築技術が伝わった。 アズゲル～セルメルまで、人類の神性が失われるに従って、徐々に高機能な家が作られた。脆弱になって風雨に耐えられなくなったためである。
　セルメルでは王族の間で芸術的な建築が作られた。初めての試みである。現存するルティア城やアルバ城はこのころの様式である。
　ɥɑ では政情不安から、絢爛な建物は徐々に避けられた。アルシェは自身らの創作で特殊な造りの家を作った。この時代からすればオーパーツである。 ナディアでは侵略先の異民族の様式が取り入れられたが、多くのアルバザード人は格下の民族の様式に興味を示さなかった。 アルティル～革命までは技術が進歩し、高層ビルなどが建てられた。 革命後は高層ビルは破壊され、絢爛な建物も遺産以外は破壊され、建築は道具であるという考えに戻った。 革命後の建築は純粋に機能性を求めるものであるから、石や木に戻るということではない。 レイユで培った技術をふんだんに取り入れている。ただ、景観を損ね、人口の密集を誘致する高層ビルは排除された。

clllcznɔ ［政治］建設庁 ［レベル］4 1L:clɒəɟ:ɥcɑcı ［語法］ 開発省下の庁。建設や都市計画を担う。

cllı ［建築］ビル ［レベル］2 1ͱ: 制 :cll 【用例】 ın cnɟ cllı ɥıl ſeɒɟ. 窓の向こうにビルが見える。

cllın ［建築］大工、右官、実質上現在の土方 ［レベル］3 J0

clıɥ ［形容詞］近付きやすい、親しみやすい、近寄りやすい ［反意語］ıſcl ［レベル］3 @ 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

clıl ［数学］四角、四角い、四角形 ［レベル］2 古 :clıl（角度）原義は見る場所。 oıoı:oıoı

clılɟlcn ［名詞］正座 ［レベル］3 1L: 前から見たときの脚の形が四角形 【用例】 ın ſcl ɒclſɥıc ɒcl clılɟlcn. 正座で膝をやっちゃったよ。

clılφıɥ ［電算］フロッピーディスク ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleIſ: 四角い箱に入っている 【用例】 lenı ſclıſ ʔ0 ucı clılφıɥ lɔnſ cɟlıſ ucl ʔ ɔlſı ſɔ ſıl lɔɟ. ſə ɟeɟ lɔɔɑ lel el cɟlıſ ɟen ɑɥıl clılφıɥ. 全部で３０枚近くあったが、３枚だけどうやっても読み込めないものがあった。思ったほど、ダメになっていなくて驚いた。

clıleeu ［物理］矩形波 ［レベル］6 J1

clɔ,ılſ ucɟ

clſ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。２，３日～数カ月 ［類義語］ɑlɔnclſ、ɑɥeɒclſ ［レベル］1 @ 1L ［語法］ ɑclɑə

clſı ［名詞］映像、画像、ヴィジョン、光景、情景、風景、景色、風光、風物、眺め、展望、鏡に映った姿 ［電算］画像 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 赤 :clı（見られる存在） 【用例】 ın cnıſ clſı eɒſ. 悲しい光景を目にした。

clſılıɥſ ［電算］ビデオカード、グラフィックボード、グラフィックスボード、グラフィックカード、グラフィックスカード ［レベル］4 1L

clſıɟcı ［生物］網膜 ［レベル］4 1L

clſıhɔɟc ［電算］画像ファイル ［レベル］3 1L

clſıl ［人名］イシュタル ls JJ ［文化］ 一人目は clſıl。年のころは 1Ո, ͱ に見える。が、実際いくつなのかは分からない。いつも黒紫の服を着ている。性格は大人しい。 イシュタルは数年前に雨に濡れていたところをリーザに拾われた。なぜかたまに古語が出てしまう。

不思議な子だ。

cln ［動詞］ɥəl（内容）をıに答える、応える、答える、応じる、応答する、返答する、返事する、返信する ［普通動名詞］答え、応答、返事、返答、返信 ［類義語］ɥelcɥ ［反意語］ıȷɒ ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 問われたものに答えること。 【用例】 lɔɒ linlɔ clncl ȷeeɥel. すると青年は静かに答えた。

clɒ ［名詞］メモ、ノート、手帳 ［数学］行列。数や文字を長方形に並べた際に、ノートの行列に書き込んだように見えることから。 ［電算］ノートパソコン ɥɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ȷıɑ:clıɒıȷ（書かれる紙） ［文化］ アルバザードでは教科書や参考書はアンセに登録されているので、弁当と筆記用具とメモ類を持っていけば大丈夫。教室の机に装備された電子ペーパーに教科書のデータを映しこむ。教師はアンセのデータを教科書として使い、授業を進める。教師は板書をしない。授業前に板書内容を電子データ化しておき、それを配信してから授業を始める。毎日配信するのは面倒なのでまとめて配信することも多い。教師が板書をしないので授業の効率はいい。教師は生徒と議論を交わすような対話型の授業を行う。教室には必ずホワイトボードがある。教師は随時説明しながら必要があれば追加情報等をホワイトボードに書き込んでいく。一方、生徒もノートを持参しているが、これは板書コピーではなく、メモ用として使う。授業中に起こった発言や教師の説明の中で重要なものを書いていく。頭の中だけでは混乱するというときにメモに図説などを自分でして、情報を整理する。 【用例】 hɔɒ clɒ ノートを開く

cll ［名詞］石碑、碑 ［レベル］5 1ʔ: 制 :ȷıɑ:clıɑɔl（書く石） ［文化］ 最初の神アルテが石に爪で文字を刻んだが、その後悪魔ベルトが紙を作ったため、石には刻まなくなった。その後アズゲルの時代、紙が人間にとって貴重で、かつ質もよくなかったため、保存のいい石に刻むようになった。

cllı ［宗教］読師、レクター zφ;clə/linʃcȷ「読む人」 ꞱꝊ

clleɒ ［形容詞］鏡像の、鏡写しの ［名詞］鏡像 ［類義語］ɒedɒɔ ［反意語］ ılce ［レベル］3 古 ȷɔɥn:‹›clcɥcəȷ ［語法］ ılce

clıʃ ［形容詞］公平な、フェアな、均一な、差がない、差のない、序列のない、非序列の、平等な ［名詞］公平、フェア、均一、非序列、平等 ［数学］偶数←clıʃıll ［類義語］ȷcl ［反意語］ıȷcl ［レベル］3 @ 1L:ɒelcɑcı ılcȷ ［文化］ ・アルバザードにおける平等の考え方 メル ꞱꝊ 年のこと。 娘に「点数が良かった自分と悪かった兄に」ユーロを分け与える際の平等な分け方は」と問われ、平等の意味を再考させられた。1L0 セントと 10 セントのような格差が大きい分け方はダメ。1ユーロずつというのは一見平等だが努力は報われるべきなのでダメ。1Ꞁ0:Δ0 セント辺りにしなさいと教えた。 その比率の根拠はと娘が問うので「1Ꞁ0 から見たら Δ0 は ʔʔ% 減だが、Δ0 から見たら 1Ꞁ0 は Ꞁ0% 増だ。上が下を見て自分より ʔʔ% 低い生活をしていると思っても、下は上を見て自分より Ꞁ0% 良い生活をしていると考える。その意識の差は 19% だ。その認識の差がルサンチマンを生む」と答えた。 1Ꞁ0:Δ0 の格差を更に広げれば上下間の「認識の差」は 19% より高くなる。1Ꞁ0 から見た Ꞁ0 は ʕʕ% 減だが Ꞁ0 から見た 1Ꞁ0 は Ꞁ00% 増で認識の差は 1ʔ9% に跳ね上がる。その認識の差は不公平感に姿を変え、下の人間をやがて狂気と怨嗟に追い込む。上が思っているより下は苦しんでいるのだ。 先進国の政治にも同じことが言える。上のものが考える「下の人間はこれくらい苦しんでいるだろう」という程度は下の者が「上はこれくらい得ている」と羨む程度より遥かに弱い。その甘い認識が下流をさらに下流に追いやる冷徹さを生み、虐げられた下流はやがて上流に牙を剥く。 頑張った者がそうでない者より報われるのは良いことだが、その格差が広すぎるとこのような問題が起こる。だから信賞必罰もほどほどに、ということだ。――と話したら、やはり Ꞁ 才の少女には難しかったようだが、格差を広げすぎるのは良くないということは理解してくれたようだ。

clıʃɑılı ［言語］非序列番号 ［レベル］5 Ꞁ1 ［語法］ ıll

clıʃdıleʃ ［言語］非序列数値 ［レベル］5 Ꞁ1 ［語法］ ıll

clıʃɥıdıll ［言語］非序列組み数字 ［レベル］5 Ꞁ1 ［語法］ ıll

clıʃıll ［数学］偶数→ clıʃ ［レベル］3 Ꞁ1:「公平な数」ふたつのグループに分けたとき、両側ともに同じ数になることから。

clcbı ［魔法］方術 ［アクセント］clcb↑ ılʃ ꞱꝊ

clcbc ［魔法］［ジョブ］方術師 ［アクセント］clcb∈ ılʃ ꞱꝊ

clcɥ ［動詞］ȷɔl は ɥəl に相当する、相当する、である、当たる。定義動詞。 ［名詞］相当物 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ:clcɥcəȷ 【用例】 nıφ clc clcɥ ılʃcıɥen. 凪霧はアルティア語にあたるものだ。

clcɥcəȷ ［名詞］鏡 ［魔法］イシリウス（リフレク）。水の高位白魔法。あらゆる魔法攻撃を跳ね返すバリアを張る。跳ね返った魔法は必ず相手に当たる。ただし、魔法の威力がバリアより強いと破られる。カコの時代にイシリウスが発明した魔法で、この魔法でカコは新たな局面を迎えた。 ［動詞］lɔn を鏡として ɥəl をıに映す、映す、うつす、写す ［組み数字］6／11 ［類義語］ɒɥəllɔʃı,ɑu ［レベル］3 ɒelʃcı ꞀꞀ:lc lcɥcəȷ;lclcɥcəȷ.l 赤 :ɒɥəl,clcɥcəȷ ［語法］ clcɥcəȷ は反射して鏡として機能するすべてのものを指す。水面でも刃でも良い。その点で ɒed と異なる。 【成句】 clcɥcəȷ ɑıcz leeʃɔ 反面教師 【用例】 cnȷ ınʃ clcɥcəȷeȷ ɑıɥ hıɥ. 私の目が赤い光を映している。 "ıɥʃen e clcɥcəȷ" ɑıɥ e eɥɥəlɔ, ɑcɔl e ɑeɥɑen, bıl e eɥcı. ȷccl ʃel ıɥʃ, clcɥcəȷ ＜イシリウスの呪文＞ みなものひかり、 フェルデンの白い首、 水の壁。 魔の力より我を護れ、 イシリウス

clcɥcəȷ(Ꞁ) ［人名］イシリウス ［レベル］5 古 ［文化］ (ɥəəɒı ʕʕꞀ1:) カコ中期のレスティルの魔導師。白魔法イシリウスを開発。 ɥəəɒı ʕΔΔꞀ ルティアからユクレシアが帰国。lɥəəl 研究所を病院として建て直し、院長に元副長の clcɥcəȷ を選定

clcɥcəȷ φenɔȷ ［人名］イシリウス＝ゲノス 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı ［文化］ レイユの政治家。男性。ユヴェール＝ゲノスの子孫。レヴァレン党首。

clə ［動詞］ɥəl を lel と解釈する、解釈する ［普通動名詞］解釈 ［レベル］3 ɥɑ;clə,ɑu Ꞁʔ: 古 clə（読む）

clə,ɑu cȷl ɒelʃcı 100:beɥʃ;c（目） 古 :c は目。lə は恐らく lılə などの関連で、その媒体である紙関連であろう。

cləʃ ［ジョブ］公示人 zφ;clə/linʃcȷ ꞱꝊ

cȷ ［動詞］ɥəl をやめる、やめる、止める、とめる、終える、終わる、閉じる、消す、閉める、止む、やむ。死動詞。 ［レベル］1 制 ［語法］ ıɥ の逆で、～をやめるなどの意味を持つ。

cȷʃ ［名詞］代わり、代替、代理 ［副詞］代わりに ［格詞］～の代わりに ［レベル］2 古 :cȷʃ（代わり）。cȷʃ は lcȷʃ（芝生）から。 【用例】 ın le uın cɒ eɥuı cȷʃ uelɒ. ヴェルムでなくエルヴァの日に行くよ。

cȷʃɑıȷı ［企業］イスト・ファサ ［レベル］4 Ꞁ1: もう旅路で寒空の下マントを羽織って寝ないでいいですよという意味から ［文化］ ＪＴＢ、ＨＩＳに相当する企業。

cȷʃɑɔ ［言語］異音 ［レベル］6 1L ［語法］ 例えば n は歯茎鼻音だが、ınl の中では軟口蓋鼻音になる。この軟口蓋鼻音を n の異音という。

cȷʃı ［経済］質、質草 ［レベル］4 1ʕ: 制 :cȷʃ

cȷʃılʃ ［普通動名詞］代書、代筆 ɥɑ;/ ꞱꝊ

cȷʃılʃın ［ジョブ］代書人、代書屋 ɥɑ;/ ꞱꝊ

cȷʃıb ［名詞］代用品、代替品、代理品 ［レベル］3 ꞀꞀ

cȷʃıɥl ［宗教］教皇、ポープ、イスターク ［レベル］4 Ꞁ0:cȷʃ ɒcɥɔl（神の代理） ［文化］ ある宗教の中で最も偉い人物。ただしアリスカンテとアルティスでは法王がさらに上。

cȷʃııʃe ［名詞］質屋 ［レベル］4 Ꞁ1

cȷʃc ［言語］代詞 ［レベル］3 1ʕ: 制 :cȷʃ ［文化］ ＜歴史＞ 古は三人称までだが、事実上 el に相当するものがあった。 古では二人称にも男女の違いがあった。自分が男か女かでも二人称が変化するため、４種の二人称があった。 制は後期になるまで人称代名詞が ın, ʃc, lə, lı しかなかった。 新生で古並みになり、その後１０種にまで位相が増加。これは根幹となる ȷeeʃ や ɥənl などから分裂してできたもの。この時点ではまだ独立性の低い段階であり、各位相の語形は類似していた。 Ꞁ1 までにエンナの軽度難聴により主にソーンを中心に類似した語形を排除する運動が起こる。 一方アルシェ側では Ꞁ1 ごろに親と子供の会話において ıɒɒı などの位相が重要視される。独立性を向上させるために語形の変化が起こる。 Ꞁ1 夏にこれらを統合して制定。まとめに尽力したのはセレンとリディア。メルは紫苑の書の改訂原稿を執筆していたため関与せず。 制定後、各位相は独立性の高いものとなった。 その結果 ɥənl と ɥənı（現 ɒclcı）のみ語形が同じで、ほかの８種は互いに語形が異なるという事態になった。 ほかの位相が語形を異にしたことで、ɥənl と ɥənı だけ一致していることに違和感が生じた。元々あった違和感だが、このことで決定的に強まった。 クミールは ɥənl と ɥənı が区別できないことに不便さを感じており（そもそもアシェットには ɥenʃe が多い）、これらを区別するよう、ɥənı の代表のリディアと相談した。 クミールが ɥənl を ɥənı から引き剥がすことで合意。実態は ɥənl であるクミールがかつて使い慣れていた古 ȷɔɥn の単語を掘り出して ɥənl 語として再定義したもの。 ɥənı は ɥənl とそもそも語形が似すぎているため引き離し、ɥənı を ɥənl の一人称とした。結果、位相としての ɥənı は ɒclcı に代わった。 なお、セレンは小説に ɥenʃe をよく出すので、ɥənl と ɒclcı を区別する案は大賛成だった。 また、メルは ɥənl でも ɒclcı でもない渡りのような立場にいたので、どちらかをメインにしなければならないことに悩んだ。引き離されることで迷惑と感じる者もいたようだ。 結局セレンが「お前は可愛いよりは綺麗だろ」と言ったことで ɥənl ベースに決めたようだ。 その後話していて感じたが、妹として話すときは ɒclcı を使うという法則性が見えた。 また同じ 1Ꞁ99 現在、ルシアは ɒclcı を使うようである。

cȷʃcȷ ［名詞］生贄 ［類義語］ɒɥəllc、ɥənȷ ［レベル］3 Ꞁ0:cȷʃ/linʃcȷ ［文化］［語法］ 地球と違って始めから地球が丸くて神が実在して宇宙があるということを知っていたユーマの一族は、架空の神を鎮めるためなどの不合理な目的での生贄という習慣を持たなかった。 従って、生贄というと政敵へ預けた自分の子供のような人質などを示すことが多い。cȷʃcȷ は宗教儀式を連想させる言葉ではなく、むしろ政治や智謀と連想される言葉である。

cȷʃcɥ ［名詞］女王、女帝 ［反意語］ɑıcz ［アクセント］cȷʃ∈ɥ ［レベル］4 Ꞁ0:lcȷʃ（芝、代理）→ cȷʃ（頭子音脱落）→ cȷʃc（cȷʃ と区別）→ cȷʃcɥ（アクセント移動のため ɥ 追加）。王位継承権は男性にあったが、適切なものがいない場合は女王が立ったため、このように呼ばれた。

cȷʃɔl ［名詞］象徴、シンボル ［動詞］ɥəl を象徴する、象徴する ［レベル］3 Ꞁ1:cȷʃ/ɑɔl

cȷʃɔlncɒ ［名詞］象徴色、シンボルカラー ［レベル］4 ꞀꞀ ［文化］ アルバザードは赤。ルティアは青。アルティアは緑。メティオは黄。

cȷʃeȷı ［言語］異形態 ［レベル］6 1L

cȷʃen ［接続詞］cȷʃ ［レベル］3 Ꞁ1

cȷl ［動詞］ɥəl を読む、読む ［動詞］ɥəl を察知する ［反意語］ılʃ ［レベル］2 @ 1L clə:clə ［語法］ 声に出しても出さなくてもよい。 【用例】 cȷl lɔn lcu 声に出して読む ın cȷlıʃ lec dɔʃ ɒɔlʃ ɑə ezcʃ. ベッドの中でしばらく本を読んだ。 ɥȷccl cȷlıʃ lec lɔn lcu ɑccnı ın cɒ ın eʃ lcs. 私が小さい頃、親が本を読んでくれた。 ȷı ɒɔl, ın cȷl uın lecȷlec e hıləhc l'ın ʃıəʃ cɒ ʃɔlel. 寝る前に昨日買ったハルヒの画集を読もう。

cȷlɒıl ［電算］ＲＯＭ ［レベル］4 1L

cȷlın ［名詞］読者、リーダー、ナレーター、キャスター ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

cȷlinʃe ［宗教］イスカンテ、イスカンテ教、拝魔教 Ꞁ0

cȷ̀ḷlıɥ ［名詞］読み取り機、リーダー ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ ［文化］モールのレジに付いている。

cȷ̀ḷll ［エルト］イスカル ［名詞］奇跡 ［動物］燕、ツバメ ［メタファー］忙しそうにしている人 ［形容詞］忙しい、わたわたしている→ uɔ៝lı。uɔ៝lı より「バタバタ感」が出ている。 ［交通］特急イスカル。アルナ～カテージュ間を通る電車。アルナ・ルークス・イルケア・ワッカ・カテージュ駅に停車する。 ［レベル］3 古 :ɥcɑcı ［文化］ 奇跡を起こすエルト。奇跡や幸運を司る女神。ツバメの姿をしているが、奇跡を起こすときは銀色に輝く若い裸体の女性の姿になる。 【用例】［ユマナ］ıı, ȷɔɔnɔ ȷɔɔnɔ, ın ſəɥ cȷ̀ḷll cᴅ ɑcȷ. あ、どうもどうも、ちょっと今日はバタバタしてまして：忙しいを美徳でなく恥と考えるアルバザード人はよほど忙しくなければオフィスでこのように言わない。

cȷ̀ḷllſ̀lı ［地学］［歴史］イスカル大陸 ［ユマナ］パノティア大陸 ul;/「希望の大陸」 J̀ʔ

cȷɑcl,ɑu ıᴅel "cȷ" c "lccz", "ɑcl" c "ſəl ɑcl". ılɑc "leȷ eſ lccz, lɑcȷ ɑclel nɔɑ eeſı"

cȷɑclcı ［魔法］［ランドマーク］イスフィリア錬金術舎 ［レベル］5 J0:cȷdel/ɑcı（六角形の土地）の音変化 ［文化］ 1ᚨ9L 年にエリーゼルに建てられた世界で２番目の錬金術士養成学校。ルティア王が出資し、アルバザードとアルシア自治区が共同出資した。空から見ると敷地の壁が六角形の形をしていることからこの名がついた。 ルティア王がこれを建てたのは娘のリーザの教育のため。リーザは１０歳になるとイスフィリアに入れられ、厳しい英才教育を受けさせられた。 錬金術としてはミスティアの方が上だが、イスフィリアは普通教育にも力を入れており、錬金術だけでなく高等教育も受けられる点で人気があった。特にお嬢様に人気があった。 ナディアになって錬金術が廃れても超難関校として残り、現在でもルティアで２番目の学校になっている。日本でいう京大に相当。 イスフィリアは女子校で、男子禁制。ただし女生徒一人につき一人従えることのできる執事なら入校が可能という校則があった。そのためユーアはリーザの執事ないし従者として編入した。 現在でもこの校則は残り、男子は原則として女子の従者としてしか入ることができない。 クミール＝メテの憧れの学校だったが、彼女の父アノとリーザは宿敵同士であり、リーザは彼女の入学を許さなかった。そのためクミールは 1ᚨLᚨ 年にカンタル校を卒業した後、イスフィリアを受験するものの不合格となり、アルナ大へ通った。しかしアシェットの和平後はリーザから許可が降りたため、クミールは学位を既に得ていたにもかかわらず、1ʕ00 年にイスフィリアに入学し、キャリアを積みなおした。しかしクミールはアルバザードの国防で忙殺されていたため、寮には入ることができなかった。

cȷɑel ［代詞］［ɥenſe］貴方がた。女性敬体。 ［レベル］2 J1:ɥcɑcı:cȷɑcl（妹）ここでは女性から見た同胞。やがて二人称複数へ。

cȷɑelcı ［代詞］［ɥenſe］貴方がたの。女性敬体。 ［レベル］2 J1:ɥcɑcı:cȷɑel/lcı

cȷᴅ ［形容詞］異端な ［類義語］ɥənc ［反意語］ıln ［レベル］3 @ 1L

cȷᴅɥı ［名詞］分家 ［反意語］ılnɥı ［レベル］4 ɥɑ;/ J̀ʔ

cȷd ［名詞］施設 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 語源不詳

cȷdel ［名詞］六角形 ［生物］亀の甲羅、亀甲 ［レベル］4 古 : 語源不祥。ɑeȷdı あたりと関連？

cȷdelləno ［化学］黒鉛、グラファイト ［レベル］5 1L

cȷɥıɑel ［政治］宰相 zφ;「右にある護衛棒」が原義。 J̀ᙁ

cȷlcn ［人名］イスリン。cȷlceɥ の愛称 J1

cȷlceɥ ［歳時記］春、桃春（とうしゅん）、イスリエール。麗らかな春 ［形容詞］春の ［人名］イスリエール ［アクセント］cȷlcEɥ ［レベル］4 J0:cdȷen/ılſe。lſ ［語法］ ɑcıleɥ

cȷı ［格詞］～の前から ［レベル］2 ɥɑ;/ J̀ᙁ

cȷcɥ ［数学］定理 ［レベル］5 @ 1L ［語法］ 公理とは、ある命題を導くために真としておく前提のこと。数ある前提の中で最も基本的なものを公理と呼ぶ。その結果演繹された命題を定理と呼び、きちんと区別する。

cȷcl,ȷzɑ cn

cȷɔφe ［植物］タラゴン ılı៝ſı

cȷɔlc ıſe, ȷlec cȷɔlə「見せる」

cȷɔlə,ılſ ȷɔlȷ cn c/ȷɔ/lə

cȷel,ȷzɑ cnȷ

cn ［動詞］ɥəl を見る、見る、みる、観る、診る、視る、閲覧する ［文末純詞］～なようだ、ようだ、そうだ。目で見た推量。日本語の古典の助動詞「めり」に相当 ［感動詞］ほら、ようしいくぞ、そら、そうら、ほらよ ［類義語］uıcȷ、lıc、dccn、ɥedcn、ɑclȷ hclcn、hɔc、lıȷſcn、dɔcn、ȷıȷ cn、ſılcn、zccn、ıᴅel hıſcı、ᴅeȷſc ［レベル］1 ɑɥɑ;c.៝ 1ʔ←古 :c（目、見る） c:cn:cȷcl:clə,ılſ ［語法］ cn 類：cnɔɥ「見ている」、cnc៝「見終わる」、cneȷ「見ていた」【用例】ɥen cn nɔn. 私を見て。 cn cnȷ e lɔ៝ 目を合わせる ſoı en cneȷ ueɥſȣ あんた、ニュース見てないの？ lılı zılen cnɔɥ nɔn. やだ、なんか変な人がこっち見てる。ȷee ɑɥeᴅ lə, 1 lınlɔ ȷlcneȷ ı ucnl ៝ɔnſ cnɔɥ lelſ ៝ɔ៝. そばの柵には一人の青年が腰掛けていた。彼も同じ月を見ている。

cn(J) ［接尾辞］花を表わす ［レベル］2 1ʕ: 制 :ᴅcnı。プロトタイプにあって一時消えたが、無視できないので戻した。

cn(ʔ) ［化学］二重結合、アルケンの接尾辞。 1L:ɥɥəə

cnſ ［名詞］点。図としての点。 ［名詞］画素 ［言語］［文字］ドット、点 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :n

cnᙁı ［数学］座標 ［類義語］lıᙁı ［レベル］4 1ᙁ: 制 : 点の存在する場所

cnſhıd ［文字］点字 ɥɑ:ɥɥəə;/ ［レベル］4 J̀ʔ ［文化］ リュウが障害者用に ɥɑ で発明したが、社会に普及したのは ul 後期になってから。 ＜ネットユーザーによる設定＞ 地球では最初にブライユが点字を発明し、 後に指点字という盲聾者向けの通信手段が開発されたが、 アトラスにおいてはその順序は逆であった。 指点字は、とある夫人が息子の為に開発した物が広まった物だ。 その夫人の息子がある日自己に遭い、視覚と聴覚を失った。 息子は事故以前、小説を読むのが大好きだったが、 資格がない為文字を読めず、聴力がない為読み聞かせることもできなかった。 そこで夫人は、以前より盲聾者が互いに会話をする為に、 右手で相手の左手に文字を一字ずつ書いて、互いに会話をしているという 手段を聞き、それをやってみた。 おかげで息子との意思疎通が可能となり、小説も書いて伝える事が出来た。 しかし困ったことが起きた。 息子が嬉しがって小説をよく催促してくるようになったが、 そのせいでやがて他の家事の時間を削るようになってしまった。 この方法では一字一字書くのに時間がかかり、 手も良く動かすので疲れてしまう、しかし息子の笑顔はくもらせたくない、 もう少し早く通信出来れば…、 そう考えていてふと手を見ると、 母音の数と指の数がちょうど同じだという事に気付いた。 そうだ！これで文字を書く代わりに早く通信出来ないだろうか！？ 夫人はその後、母音は指一本、子音は二本以上の指の組み合わせで、 ᚨ は最後の文字を売った指を素早く手前に引いて、 ȣ はその指を円を描くように撫でる事で表現する、という方法を開発。 これによって小説を伝える速度は飛躍的に進歩した。 息子はこの指の動きを、まるで指がタップダンスしているみたいだと 表現した。 以来この通信手段は『踊る指』と呼ばれている。 点字はその後、リュウがその『踊る指』の情報を聞き、 それを盲人の為の文字として応用できないかと考えて作られたものだ。 それ以前は文字を浮き彫りにしたり、あるいは朗読での 伝える方法はあったが、どちらも不便な点があり、改善が求められていた。 リュウ氏はそこで、たった五本の指で通信できる『踊る指』を 五つの点に変換すれば、浮き彫りよりも簡単に、 読むことも、あるいは盲人自身が書くことも楽にできると考えた。 そこで最初は単純に五つの点を、（親指が一番上、小指が一番下の点となる）縦に五つ並べた点字を考案した。 しかしこれでは読み間違えが多発した。 そこで考えた挙句、親指の点と小指の点を『コ』の字に曲げた 五点の点字を考案し、 その後その空いたスペースにもう一個点を加えた、 六点の点字を考案。 世界へ広がることとなった。 ＜『踊る指』＞ 指はそれぞれ、『親指＝親』『人差し指＝人』『中指＝中』『薬指＝薬』『小指＝小』 と表記しますね、 母音…親指から順に一本の指で表す。 ı ⇒親、c ⇒人、ɔ ⇒中、e ⇒薬、ə ⇒小 子音は二本以上の指で表す。 一段目…隣り合った指を二本ずつ、 ſ ⇒親人、៝ ⇒中薬、l ⇒薬小、ȷ ⇒人中 二段目…一指開けて二本ずつ n ⇒親中、u ⇒人薬、ɑ ⇒中薬小、ᴅ ⇒親小 （ɑ が三本指なのはやってみればわかると思いますが、 中指と小指を下ろそうとすると薬指もついて来るせい、 このような薬指の為の回避策は以降も出現、） 三段目前半…連続した三本指、 三段目後半…二指開けて二本の指 ɑ ⇒親人中、φ ⇒人中薬、d ⇒親薬、b ⇒人小 四段目…その他の無理のない三本指の組み合わせ h ⇒親薬小、ɥ ⇒親人薬、ɗ ⇒人薬小、ɥ ⇒人親小 五段目…四本指の組み合わせ z ⇒親人中薬、s ⇒人中薬小、o ⇒親中薬小、l ⇒親人薬小 数符…五本指全部を下ろしてから、 0 ⇒ ᴅ、1 ⇒ ı、J ⇒ c、ʔ ⇒ ɔ、ᙁ ⇒ e、ᚨ ⇒ ə、ʕ ⇒ ſ、9 ⇒ l、Δ ⇒ ȷ、L ⇒ ៝ 点字は上記の『踊る指』を参考に、 親指⇒１点、人差し指⇒ ᙁ 点、中指⇒ ᚨ 点、薬指⇒ ʕ 点、小指⇒ ʔ 点 で表す。 残った J 点は他の文字との区別の為に書いたり書かなかったりする。 無くても問題はないが見た目上必要な場合は打つ。 点字は日本語の点字で同じ形の点字を指示します。 母音 ı ⇒『あ』、c ⇒『お』、ɔ ⇒『ー』、e ⇒『？』、ə ⇒『ゐ』 子音 一段目 ſ ⇒『え』、៝ ⇒『る』、l ⇒該当なし、J,ʔ,ʕ 点、ȷ ⇒『ん』 J 段目 n ⇒『た』(本来は『り』)、u ⇒『こ』、ɑ ⇒該当なし、J,ʔ,ᚨ,ʕ 点、ᴅ ⇒『に』 ʔ 段目 ɑ ⇒『ち』(本来は『れ』)、φ ⇒『そ』、d ⇒『か』、b ⇒『や』 四段目 h ⇒『は』、ɥ ⇒『く』、ɗ ⇒『ゆ』、ɥ ⇒『ぬ』 五段目 z ⇒『す』、s ⇒『数符』、o ⇒『ま』、l ⇒『ふ』 その他 数符⇒『め』 ！⇒『ね』、？⇒『み』、 "，" ⇒『アポストロフィ』、"．" ⇒『な』

cnſc៝ ［名詞］視野角 ［レベル］6 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ

cnſcn ［幼児］おめめ、お目目 ［レベル］1 J0:ᴅel:cn/ſ（渡り音）/cn

cnſcoı ［数学］点対称 ［レベル］3 1L

cnſɔɔ៝ ［動詞］ɥəl を見届ける、見届ける、見とどける ［レベル］3 JJ

cn៝ ［名詞］前後 ［数学］y 軸 ［レベル］2 1L:cnȷ៝ɔɥ/lɔȷ៝ɔɥ（目の方向と背中の方向）の前半だけを人為的に詰めたもの

cn៝hɔl ［名詞］ヨー、ヨウ、 z 軸周りの回転、振り向き、ターン ［レベル］5 J1 ［語法］ 右手を前に出してみよう。肘をねじってこの手を自分の胸側に向ける。このとき前後を y 軸とし、指先の位置を確認してみる。すると指先の y は最初は前（正）にいるが、やがて後ろ（負）に来る。同時に x 軸も原点から負になったのち、原点に戻っている。従って動いていないのは z 軸（上下）だけであり、このことから振り向き行為は z 軸周りの回転だと分かる。ȷınl と間違えないように → hɔl

cnl ［サール］インシュ ［普通動名詞］近親相姦 ［動詞］ɥəl と近親相姦する、近親相姦する ［レベル］4 ᴅel: 古 ［文化］ ・神 右半身が兄で左半身が妹というサール。サール界に ccnı という妹と nıl という兄がいた。兄弟は２人仲良く過ごしていたが、あるときイーナがナッシュを誘惑して姦淫する。ラヴァスの時代には近親相姦は神の霊力を弱めるとされていたので禁止されており、それを見咎めたエルトに２人は切り殺されてしまう。しかしイーナのかけた呪いによって切り落とされた２人の半身は１つとなる。 ・近親相姦 アルバザードでも禁止されており、一般のアルバザード人も気持ち悪いと嫌悪する。 ・ヴィード 近親相姦すると一般に子供のヴィードは弱まる。ユーマの一族はこれを繰り返したため、時代を経るごとに力が弱くなっていった。 原則として弱くなるが、ごく稀に逆に

ヴィードが強くなるケースがある。その場合の強まり方は尋常ではなく、たびたび社会を変えるような力を持った人材が生まれる。µɑ の使徒、ヴェレイのミロクなどがそうである。　山間の小さな村は都会に比べ遺伝子が濃いため、奇形に至らなくとも容姿の醜いものが多い。しかし逆にそのような土地にこそ稀にびっくりするほど美しい少女が生まれることがある。ヴィードに関してもこれと同じである。

cnȷ ［生物］目 ［動詞］ɥəl が見える、見える、見かける、目に入る ［類義語］ cnʃcn ［レベル］1 ȷeµʃ;cn,ɑµɑ 1ɱ ←古 :c c:c:lə cȷel ［語法］ lıc と同じ相。　cnȷ の領域は狭義では眼球のうち外側から見えている部分のみ。広義では眼球及び睫毛と瞼を含んだ目の周りまで。眉毛は含まない。【成句】 cnȷcƪ ɑµec 剣が目に入った ɥən ʃeeze uıµ cnȷ 目に風が抜けるような：頭が冴えていて賢いこと cnȷ cnȷ e ƪɔƪ 目が合う ɑcʃ cnȷ ı ～に気をつける、目を配る、監視する、見守る、監督する eu cnȷ 一目置く。日本語と同じ用法。 cnȷ ʃcl ɑcıµe nȷ nɔɑ ƪəɔ 目は口ほどに物を言う、目は心の鏡 ɑcʃ cnȷ ȷɔµʃ 冷たい目を向ける 【用例】 ʃcl cnȷ ɑµeᴅ 目が悪い φeʃ cnȷ 目を細める　cnȷ neᴅ 虚ろな目 ɑlcd cnȷ 目を輝かせる hɔl cnȷ 目をぐるっとさせる：顔の位置はそのままで目だけそらす動作。不可解や困惑の仕草。 ƪɔµ cnȷ ı nene ～に目を向ける µɔʃ cnȷ c nene ～から目をそらす、目をそむける、ソッポを向く、そっぽを向く ın nıʃ ncƪ ɥən cnȷ eᴅ ƪınʃe. 目を見張るほど驚いた。 ın ɑclıʃ cnȷ nɔz eʃ. 自分の目を疑った。 cnȷ eᴅ ƪınʃe. 目を丸くする、目が丸くなる。 lı eʃ ɥən ʃeeze uıµ cnȷ lııʃ. 彼は頭が冴えている。 ın cnȷɔµ ƪelʃ. 月を見ている。月が見えている。 ın cnȷıʃ lı ƪı ɑɔnʃ. 道で彼を見かけた。 ɔƪ cnȷ ɑɔƪ 目が点で

cnȷȷıcȷ ［美容］アイホール ɈƗ

cnȷȷɔµcʃ ［言語］［文字］キャップハイト ɈƗ

cnȷnıƪeı ［生物］睛明、晴明 ɈƗ

cnȷnıᴅ ［生物］視神経 ［レベル］5 ƗL

cnȷncȷ ［生物］眼窩 ［レベル］5 ɈƗ

cnȷuılȷ ［医療］眼科、目医者、眼医者 ［レベル］3 Ɉȷ

cnȷuılı ［医療］眼科医院、眼科、目医者、眼医者 ［レベル］3 Ɉȷ

cnȷᴅcll ［卑語］めくら、盲、盲人 ［レベル］3 ɈƗ ［文化］ 使わないこと。

cnȷᴅedc ［生物］水晶体 ［レベル］4 ƗL

cnȷdcʃ ［医療］眼科。大病院内の科目。 ［類義語］cnȷuılı、cnȷuılȷ ［レベル］3 ƗL

cnȷdcʃı ［医療］目薬、点眼薬、点眼液 ［類義語］ɑcµʃeµ ［レベル］3 µɑ;/ Ɉʔ

cnȷhıcz ［非言語］インスハイズ ［レベル］3 ƗL:ᴅelcɑcı ılʃe ［語法］ 手は動かさずに、目だけでハイズの動作をする。目を左上から右上にぐりっと動かす仕草。同時に、首を左から右にやや傾ける。女性もする。ハイズより意味合いは軽い。

cnȷµecn ［名詞］視線 ［美容］アイライン ［言語］［文字］キャップライン。幻字では約物や数字の高さのこと。 ［レベル］3 Ɉ0:ᴅelcɑcı ƪceµ 【用例】 ɑcʃ cnȷµecn 視線を送る ɥə cnȷµecn 視線を受ける nı cnȷµecn 視線を感じる

cnȷµecıµ ［美容］アイライナー ［レベル］4 ɈƗ

cnȷlɔbɔ ［名詞］目隠し、アイマスク ［レベル］3 µɑ;/ Ɉʔ

cnȷı ［地球の国名］中国、中華人民共和国 ［レベル］4 制 : 古 :cnȷııl

cnȷınc ［医療］眼精疲労 ［レベル］4 ƗL

cnȷıbel ［ユマナ］［料理］中華料理 ［レベル］4 ƗL

cnȷıhıd ［ユマナ］漢字 ［レベル］4 ƗL: 中国の字

cnȷıɥəlcel ［運動］［ユマナ］太極拳 ［レベル］6 Ɉ0: 中国のユリエール

cnȷıµen ［ユマナ］［言語］中国語 ［レベル］5 ɈƗ

cnȷılcı ［医療］漢方、漢方薬 ［反意語］ınƪılcı ［レベル］3 Ɉ0:cnȷııl ［文化］ ɔlcucın 副作用が少ないことからアルバザードでも頻繁に使用される。アルバザードではハーブも多用されるが、こちらは漢方には分類上含まれない。

cnȷııl ［地名］インサール、東洋。アルカット大陸東部。 ［レベル］2 ɑu;ınƪıl の対語 古 :cnȷııl

cnȷıılbel ［料理］インサール料理 ［レベル］3 ƗL:µcɑcı:ıµbıƪelʃ ［文化］ 味が濃く、油が多い。品目は多く、一般的にいって旨い。その代り胃に負担がかかる。

cnȷıcl ［ユマナ］アジア ［レベル］4 ƗL:cnȷııl

cnȷıeʃeƪ ［ユマナ］中国茶 ［レベル］4 Ɉʔ

cnȷc ［地学］瑪瑙、めのう、メノウ、アゲート ［レベル］4 Ɨʕ: 制 ［文化］ エレノイの魔石。

cnȷcƪ ［植物］ブルーベリー ［レベル］2 Ɨʕ: 制 :cnȷuınƪ（目の果実）

cnȷcnc ［生物］まつげ、睫、まつ毛、アイラッシュ ［レベル］2 ƗL

cnȷccl ［動詞］ɥəl を見守る、見守る、見まもる、見護る、看護る、観守る ［レベル］3 ƗL

cnȷeʃ ［ユマナ］朝鮮 ［レベル］5 ƗL:cnȷıcl/ılʃc（インサイル大陸の東側）

cnȷeʃhıd ［ユマナ］ハングル ［レベル］5 ƗL

cnȷeᴅcl ［名詞］自己中なバカ女、主観的なバカ女、生意気な女 ［レベル］4 Ɉȷ:「アタシの目」 ［文化］ 日本でいうと発言小町などで見るような馬鹿女のこと。「お前は何を言ってるんだ？」に相応しい連中のこと。転じて「なぜ一番じゃなければいけないのでしょうか？」とか「ウーマンリブ」とか「レディースデー」とか理屈に合わないことを平気でほざく生意気なスイーツも指す。どこの世界の投資家が好んで二番手の技術に投資するよ。【成句】 ɑen eu cnȷeᴅcl ıȷeel ᴅɔel uecl ƪıɑ ȷcl ueµn. 雌鳥がなくと国が傾く。バカ女を政治に絡ませると国が滅ぶ。

cnȷel ［名詞］魂の目、魂紋 ［レベル］5 ɈƗ:c/ȷeleȷ ［文化］ ȷeleȷ

cnȷeleʃ ［名詞］眼差し、まなざし ［レベル］3 µɑ;/「目の表情」 Ɉɱ

cnnıƪl ［生物］視覚 ［レベル］3 ɈƗ

cnucleʃ ［丁寧］視覚障害者、盲人 ［レベル］4 µɑ/; Ɉʔ

cnueᴅ ［魔物］インヴェム（眼影）：第一天：闇の炎天 ［レベル］5 ƗL:µcɑcı/ȷeµen/ᴅel:cnȷ/ueᴅɔ ［文化］ 憑族。人の影を渡り歩く闇の魔物。影を乗っ取られた人は、突如後ろから自分の影に襲われる。影に食われたことを見抜くには、影に眼があるかどうかチェックする。インヴェムは人の影を乗っ取ると、ギョロっと目を開き、人を襲う機会を伺う。インヴェムが襲いかかる前に剣で地面に串刺しにし、身動き取れない状態にしてから、光の魔法で照射すると簡単に倒せる。

cnᴅıl ［名詞］見覚え、見憶え、見おぼえ ［レベル］3 µɑ;/ Ɉʔ 【用例】 ʃcl cnᴅıl ɔn lı あいつは見覚えがある

cnɑı ［動詞］ɥəl を萎びさせる、萎びさせる、萎びれさせる、萎びる、しなびる、しなびれる、萎びれる ［レベル］3 Ɨɱ: 制 :cnɑ（疲れる） 【用例】 ᴅccnı eȷ cnɑı. 花がしおれている。

cnɑc ［文末純詞］［φınɔ］ȷec ［レベル］2 ɈƗ:əᴅʃɔnı:cn ɑı（見たんだが） → cnɑı → cnɑc.ᴅeᴅcµueȷʃɔ

cnɑcµec ［地学］地平線、水平線 ［レベル］3 Ɉȷ:「見る境界」

cnφ ［生物］眼球、目の玉 ［レベル］2 Ɨʔ: 制 :ȷıɑ:cnφeƪ

cnφe ［単位］ヘクト ［レベル］3 ɈƗ:ɑcnφen

cns ［生物］瞳、瞳孔 ［レベル］4 Ɨɱ: 制 :cn

cnscn ［名詞］輪廻転生、転生、輪廻 ［形容詞］生まれ変わりの、生まれ変わった、転生した ［人名］インジン ［レベル］3 赤 : 古「インジン」という人名らしい。 ［文化］ → ȷeleȷ の cnȷel 人は死ぬと魂セレスだけを持ってあの世へ行く。天国か地獄に分けられ、この世に戻ることは通常ないが、稀に転生することがある。

cnscnıl ［名詞］転生先 ［レベル］4 Ɉ0:ᴅelcɑcı ƪceµ

cnse ［天文］三日月の逆、三日月、インジェ ［名詞］南西、西南 ［組み数字］8／8 ［レベル］2 ƗL:cnscn/ƪelʃ(生まれ変わる月) lııle:lııle:lı lııle ［文化］ ƪelʃeel

cnsel ［名詞］４分３、３／４、７５点 ［形容詞］ちょうど良い、丁度良い、程よい、程好い、ほど良い、程良い ［反意語］ılsen µɑ;cnse/ıl ［レベル］3 ɈƗ ［文化］ アトラスを去る直前にセレンが子供とレミールに残した言葉。何事も７５点がほどほどで丁度良いという意味。得意なことや好きなことは３／４くらいにしておくと肩ひじ張らないし体も壊さない。それ以外のことは７５点でさえ行きすぎで、６０点も行っていればいいよという意味。　平凡でも病気せず気立てが良い子なら親としては十分幸せだと考えたが故の言葉だが、皮肉なことに nɑ では子供たちは非凡な才能を発揮した。　ミロクは若い頃この言葉を理解できなかったが、革命後に理解するようになった。

cnselɥɔlɔ ［被服］七分丈 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉɱ

cnseloıȷd ［被服］7分袖、七分袖 ［レベル］4 µɑ;/ Ɉɱ

cnselcl ［化学］パラジウム ƗL

cnlɔʃ ［名詞］視界 ［レベル］3 ɈƗ

cnı ［建築］かなめ、要 ［レベル］4 ʃᴅ;c（目）/nı（心）「心の目＝心の中心＝物事の中心」 Ɉʔ

cnıµ ［電算］ブラウザ ［レベル］3 ƗL 【用例】 ıµ cnıµ ブラウザを開く

cnc ［生物］毛、体毛 ［レベル］2 ɑ;e 赤 cnc:cnc::nc,ılʃ 【用例】 cnc eᴅ ƪʃıᴅ. 身の毛がよだつ：恐怖や嫌悪や驚きなどで起こる人類共通の現象。アルカでは立つで表現するので日本語と同じ。

cncnɔlın ［生物］ケジラミ ［レベル］4 ƗL

cncᴅ ［名詞］櫛、コーム、くし、グルーミング ［動詞］ɥəl を櫛で梳かす、梳かす、とかす、梳く、すく、漉く ［レベル］2 古 : 古では櫛はふつう ƪɔɔᴅc だが、これは英語のｋｏｍｂ ｉｔから来ていることが発覚したため廃止。一方、cncᴅ は cnc（毛）/zıᴅɔ（木）から来ている。後者はあまり使われなかったが純粋なアルカであるため、制アルカにはこちらを採用した。【用例】 ın ȷeɑıʃ ncı l'eȷ ᴅeʃ ıl ıƪȷ ƪc cncᴅ ncı. 髪の毛をとかした後、床に落ちた髪の毛を掃除した。

cncᴅıl ［生物］毛穴 ［レベル］2 ƗL:µcɑcı:ıµbıƪelʃ

cncı ［娯楽］イニア ［レベル］3 古 : マス目が cnc の字に似ていることから ［文化］ 対戦ゲームの一種。＃の形をしたマス目を書き、そこにできた９個のブロックの中に自分側の記号を並べるもの。先攻がエルトを担当し、後攻がサールを担当する。空いているブロックの中に自分の記号を交互に書き込み、自分の記号が縦横斜めのいずれかに並んだほうの勝ちとなる。パターン数が非常に少ないゲームなのですぐに必勝法というか負けない方法が作れる。因みに先攻が極めて有利である。ゆえにこれはシェルトをもっと簡単にしたような子供の遊びと捉えられている。シェルトと違って大人はふつうしない。

cnccᴅdc ［動物］クマバチ ［レベル］3 Ɉ0: 毛蜂

cnenuc ［医療］視力 ［レベル］3 ʃᴅ;/ Ɉʔ

cnenucʃıb ［医療］視力検査 ［レベル］3 Ɉʔ

cneı ［人名］イネア ［組み数字］5／１５ ［レベル］4 ƪıƪɔ: 古「精霊」 ［文化］ メテの第５使徒。

cneılcl ［化学］ネプツニウム ƗΔ: 制

cneııʃɔ ［地名］イネアート ［人名］フルミネアのアルカ姓 ［レベル］3 ƪıƪɔ ［文化］ メテの使徒イネアの支配地。

cneıı∫ɔ(ɺ) ［アトラスの国家］イネアート、精国 ［レベル］3 ʅıʅɔ ［文化］ 面積：1L1ʕ1L.ɱ1Lɺ1ɫ ʅᴅ ɺ

cneel ［名詞］得意満面、したり顔、したりがお、ドヤ顔、どや顔、やったった顔。ɟcnɟ か ʃcl とともに。 ［レベル］3 ɺɺ:「ほら見てみろと言わんばかりの顔」

cnəɟ ［単位］エクサ ɺ1:ıɥɑcınəɟ

cu ［生物］ミトコンドリア ［レベル］5 ɥʃ; 発見者が cul ɩcɥ（要修正）とノートに書いておいた文字が一部消えて cu の部分だけ残り、発見されたミトコンドリアのことだと思われたことから。 ɺɱ

cun ［形容詞］弱い ［医療］虚弱 ［音楽］ピアノ（弱く弾け） ［文字］レギュラー ［類義語］ɥənɑc、dcʅɔʃʃe ［反意語］ucen ［レベル］1 ɟeɥʃ;ıun(ucen) 1ʕ: 制 nɥɔhe:nɥɔhe 【用例】［メタファー］cun ɥən ɥənʅ ユンクのようにか弱い ɩcu cun 弱い声 ʅeᴅ cun 脆い胃

cunʅıɑ ［政治］小国、弱小国、第三国、発展途上国、後進国 ［レベル］4 1L

cunɟıdn ［気象］低気圧 ［レベル］4 1L

cunuenʃ ［経済］零細企業 ［レベル］5 1L

cuneʃ ［名詞］弱点、ウィークポイント ［魔法］弱点 ［類義語］bıʃʃeʃ ［反意語］ucenenʃ ［レベル］3 ɺ1:cunuıcʅ だと長いので。 ［語法］ ucenenʃ ［文化］ ɑɔlᴅcɥə

cunen ［名詞］弱者、持たざるもの、持たざる者 ɥɑ;/ ɺʔ

cuneɥcu ［医療］低血圧 ［レベル］4 1L

cul ［動詞］ɥəl（修正前の対象）を ı（修正後の結果）に修正する、修正する、直す、治す ［類義語］ılcɔɟ ［レベル］3 ɟeɥʃ;ɥɑ までは ılcɔɟ が cul も兼ねた。 1ʔ: 制 :ɟıɑ:cʃdec ılcɔɟ:ılcɔɟ: ［文化］ 人間は間違えるものなので、間違ったら素直に訂正するのが好ましい。気付いたら早めに直そう。黙っていて後で発覚すると問題になってしまう。というのがアルバザードの考え方。

culcᴅ ʅəlnɔɥɟ ［人名］イヴリム＝クルノース ɺ1 ［文化］ → ʅıɔlcɟʃ ʅəlnɔɥɟ ファミイの兄。ファミイはアマンゼに嫁ぎ、イヴリムはクルノースを継いだ。

culeɟ ［人名］イヴレス、イブレス ɺ0 ［文化］ (ɥəəᴅı ʕɫ9Δ:ʕΔΔɱ) ɥəəᴅı ʕΔʕ1 ユクレシアはルティアに帰国する。lɥəəl の所長は弟子の culeɟ が就任した ɥəəᴅı ʕΔΔɱ lɥəəl 研究所のイヴレスが心労で自殺し、衝撃が走る

cuı ［言語］不定詞 ［レベル］5 1ʕ: 制 :ueɟ（単独）から。ほぼ恣意。 ［文化］ ＜不定詞・動名詞・分詞＞ ・不定詞 不定詞とは品詞が文法的に定まる語のことで、その語単体を見ても何詞か分からないもののことを指す。 アルカの場合、不定詞は名詞・動詞・形容詞・副詞になりえる。 例えば ɟeʃ は lı eʃ ɟeʃ だと ɟeʃɔl という名詞にほぼ等しく、lı ɟeʃ lə だと動詞になる。同じ語形なのに文法によって品詞が変わる。 同様に ɑcın ɟɔɥıʃ hınɔc の ɟɔɥ は動詞だが、ɑcın ɟɔɥ の ɟɔɥ は形容詞である。 また ın lıl ʃə の lıl は動詞だが、ın ʅəc lıl ʃə の lıl は副詞である。 ・動名詞 動名詞は３種ある。いずれにせよ分詞ほどには使わない。 １：普通動名詞 :elɟ:ʅıcelɟ（大きくすること）、ecuelɟ（決闘すること） ２：再帰動名詞：ıɟʃel：ᴅɔ ʅıɟʃel（自分を眠らせること、寝ること）。文でいうと ɩe ᴅɔʅ nɔɟ になる。ɥəl が自分になるタイプの動名詞。 ３：自然動名詞：ɔnʃel:ᴅe ʃɔnʃel（落ちること、落下）。動名詞を使わずにいうと el ᴅeʃ ʃɔʃɔ になる。ɟɔl が el になるタイプの動名詞。 デフォルトが動詞である単語は、名詞として使うときは elɟ を付けなくても普通動名詞になれる。 lıɑ は作るという意味の動詞で、動詞用法がデフォルト。名詞として使うときは動名詞「制作」として使ってよい。 この仲間には ecu（決闘）、uɔɥʃ（死）、ɟeʃ（殺害）、lıᴅıʅʃ（出会い）など多数がある。 ecuelɟ は ecu で良い。 しかし ʅıc はデフォルトが動詞でなく形容詞なので、ʅıc だけだと「大きい」になる。「大きくすること」ではない。 lıɑ などでも、自然・再帰動名詞として使う際は接尾辞を付ける。 × lıɑ ○ lıɑɔnʃel 動名詞は格を取れる。 ın ecuelɟ ᴅcɥɔʅ 私が神と決闘すること ecuelɟ ᴅcɥɔʅ 神と決闘すること ecu(elɟ) 決闘すること lɑcɟ ɥən ʅɔıɟʃel ı ɥıᴅe. 人生は自転車に乗るようなもの。 nıʅʃ ɔuıɟʃel 城が動くこと。nıʅʃ ɔu nɔɟ が根底にある。ıɟʃel の効果で nɔɟ が落ちることができる。 ʃeʅ ᴅeʃɔnʃel 葉が落ちること。el ᴅeʃ ʃeʅ が根底にある。ɔnʃel の効果で ʃeʅ が前に行って el が落ちることができる。もし el ᴅeʃɔnʃel ʃeʅ の構造を持ったまま el だけ省略して ᴅeʃɔnʃel ʃeʅ にしたら、わざわざ ɔnʃel を使わなくとも el ᴅeʃelɟ ʃeʅ のように普通動名詞を使った上で el を省略すればよいことになってしまう。つまり自然動名詞が生きてこない。ʃeʅ ᴅeʃɔnʃel にして初めて生きてくる。 ・分詞 全部で４種ある。動名詞と関連している。動名詞よりは使うが、分詞が格を取る場合は関係詞にするほうが一般的。 普通動名詞は主格 (ın) と対格 (ɔl) の分詞に分かれる。 再帰動名詞は再帰分詞 (ıɟʃ) になる。 自然動名詞は自然分詞 (ɔnʃ) になる。 形容詞として使う場合、名詞に後置する。 １：主格分詞：動詞＋ ın：clʅ e ucʅ ᴅclᴅın 踊る男の冒険 ２：対格分詞：動詞＋ (ɔl)：ucʅ ɟeʃ(ɔl) 殺された男 ３：再帰分詞：動詞＋ ıɟʃ：nıʅʃ ɔuıɟʃ e hıəl ハウルの動く城 ４：自然分詞：動詞＋ ɔnʃ：ʃeʅ ᴅeʃɔnʃ enʃ ゆっくり落ちる葉っぱ。enʃ は ᴅeʃɔnʃ にかかっている。分詞は形容詞扱いなので enʃel にしない。 動名詞同様、格を取れる。しかしこの場合は関係詞を使うほうが一般的。関係詞のほうがアスペクトを明示できるため。 ɑcın ᴅcʅ ɟın ɑlıɑ = ɑcın ɩe ᴅcʅɟ ɑlıɑ 賛美歌を歌う少女 各分詞はそれぞれ名詞用法を持つ。 lıbın：働かせる人、使用者 lıɑɔl：製品 lıbıɟʃ：働く人、労働者 ᴅeʃɔnʃ：落下物

cuıɥ ［格詞］〜から出て、〜を通り出て、〜から出てきて、〜を通って ［レベル］2 ɺɺ 【用例】 "el leeu ɟen ıʃə cuıɥ ɩe ɟceʃ neʃıl ɩıʅl lə ɟɔ"「あそこからなら誰にも気付かれずに逃げ出せる」

cuıl ［医療］医療、医学 ［類義語］ɟcczıɥ、ləʅleʃcı ［レベル］3 1L:ɥɥəə: 古 ucuc から。医者関連は u から始まるものが多すぎるため、c から始めた。 ［語法］ cuılɑel は医学の意味合いが強い。uılnɑel は健康法の意味合いが強い。 ［文化］ 医療は人類が白魔法を失うごとに需要が高まった分野である。ɥɑ ではほとんどの国民が高度な白魔法を使えなくなっていたため、リュウがナユと協力し、医療を研究した。 リュウはさまざまな学問を大成しているが、最も心血を注いだのが医療であった。多くの人命を助けたことから、「智で命を救った聖人」と讃えられた。（ちなみに、リディアは「杖で命を救った聖人」。セレンはルシーラだったため、「人差し指で命を救った聖人」） 医療のシンボルはリュウとその助手のパール、およびナユである。このことから、親が子供を医者にしたい場合、たいてい息子にはリュウ、娘にはパールと名付ける。 病気や治療法の研究がされだしたのは、セルメルから。白魔導師の減少に伴い、魔法に頼らない治療を人々は求めた。しかしまだ人々は副作用もなくすっきり治る魔法にすがっていた。ɥɑ になって白魔導師がさらに減少すると、リュウは病気の分析や治療法の確立を行っていった。 ＜現代アルバザードの医療体系＞ アルナ市内に救急車は２８台しか存在しない。そのわりにたらいまわしは存在しない。なぜか。 まず救急センターに電話をすると、オペレーターが出る。その症状を聞き、緊急性があると判断すればオペレーターの目の前で勤務している電話医 (ʅıduılɟ) に引き継ぐ。それ以外、例えばいたずら電話や「ゴキブリが出た」や「さびしい。怖い。不安だ」などはオペレーターがアドバイスをして処理する。 電話医は症状を詳しく聞き、救急車が必要か判断する。心筋梗塞など緊急性の高い場合は即座に救急車を手配する。それ以外は往診医 (leᴅuılɟ) を手配する。往診医は２４時間のサービスで、常に市内を車で走っている。患者の家から最も近い者が手配される。往診医は２４時間勤務するのではなく、自分の好きな時間帯で好きなだけ働く。深夜のほうが賃金が良い。手軽に食べていけるので未婚の医師が多い。国民皆保険に加入していれば往診医の自己負担は３割である。緊急ではないが救急車を呼ぶほどではない患者にとって自力で病院に行くのは難儀なので、ありがたいシステムである。 救急車が出るのは全電話件数のうち１割程度であり、これによりたらいまわしを防いでいる。なお、こちらの場合も自己負担は３割である。ちなみに入院費だけでなく救急車料金も負担に入るのが日本との違いとなっている。 一方、非緊急すなわち平生はホームドクター (ɥınʃeuılɟ) に診てもらう。日本と異なり、ホームドクターは歯科以外の全科が見れる。また、歯科以外は登録制があり、登録したホームドクターの診療は自己負担３割で、それ以外は７割で診てもらえる。 ホームドクターは家族構成から個人的な悩みまで広く相談を受ける。子供のころからかかり続けるため、信頼は厚い。メンタルな面も支えるため、受験の悩みなどを青少年から受けることもある。 診療は予約制で、日本のような２時間待ちの３分診療ということはない。予約制であるため待ち時間は少なく、診療も２０分以上に渡って長々と診る。 ホームドクターの数は日本の町医者より圧倒的に多く、病院は一般家庭のようなアットホームな造りになっている。年収は逆に日本より少なく、６〜８００万程度である。労働時間は一般企業の正社員と同じで、８時間である。週休２日で、その日は緊急の患者に対する大病院の紹介だけを電話で行う。 ホームドクターの仕事は病気の芽を見つけて摘むと同時に、悪い芽が大きくなる前に大病院へ紹介することである。 これにより大病院の混雑を防いでいる。大病院では本格的な検査が可能で、手術もできる。負担は３割である。

cuılucnl ［医療］［法律］健康保険、医療保険 ［レベル］4 ɺ1 ［文化］ → cuıl 国民皆保険制度があり、所得に応じた額で医療保険が受けられる。自己負担率は３割である。

cuılɑel ［医療］医学、医療学 ［名詞］医学。教科名。 ［レベル］4 ɥɑ ɺɺ ［語法］ cuıl ［文化］ ɑeldınʃ

cucɟ ［電算］集積回路、ＩＣ ［レベル］5 ɥɑ;uczen.ʅ 古

cucl ［人名］イヴィル 古 ［文化］ アルシェから離脱したセレンとメルを擁護した。レイクトの守り手。

cucl(ɺ) ［人名］イヴィル ɺ0 ［文化］ (ɥəəᴅı ɫ9ʔɺ:ʕʔɺ1(ɫL9ʔ:ʕʔɺ1)) カコ前期のレスティル王。

cueʃ ［形容詞］［ネガティブ］手ぬるい、生ぬるい、甘い ［反意語］ɑəɔ ［レベル］2 ɺ0:cun/ʃe（弱気）

cuelcı ［被服］イブニングコート ［アクセント］cuelcↄ↑ ɥɑ;<lʃ ɺɱ ［文化］ ɥɑ でセレンが気に入ってルティアから取り寄せたことで元貴族の間で流行った。

cal ［歴史］現代 ［レベル］4 ul 1ʔ: 制：語源不詳

calılın ［名詞］現代社会、社会。科目名。 ［レベル］5 ul;/ ɺɱ

calcʃ ［魔法］晄水晶、イフリート ［アクセント］calЄʃ ［レベル］5 ɟᴅ;uccɑ/ɑlcı lɑel:calcʃ: ［文化］ → ɑlcı、lɑel、uelɟıɥs ヴィードを蓄えたクリスタルのこと。蓄えたヴィードの種類により、霊水晶、魔水晶、気水晶、輝水晶がある。また、特定の閉式魔法を蓄えたものを魔法水晶といい、それ以外を獅法水晶という。魔法水晶は魔水晶の下位概念である。 イフリートは太陽系の惑星に多く存在し、それ以外にはほとんど存在しない。太陽系の各惑星に富み、アトラスにも存在する。最初のイフリートは悪魔によって発見活用され、神々が知ったのは uɟ でユルグが初めてであり、この際に命名がされた。それまで悪魔が何と読んでいたのかは記録が残っていない。 ユルグは当時イフリートを lɑel と名付け、細かい分類までは行わなかった。イフリートという名前自体は ɟᴅ のもので、下位概念も魔法学が理論的に発達した ɟᴅ で命名された。 魔法水晶は種類が多く特定の効果を持つため、lɑel という特別な名を宛がわれた。もとは calcʃ を意味していたものが狭義化したものである。 アトラスには ɑcclcı, φılu eeɥə, ᴅɥəəl に主に存在するが、木星などほかの星と違って自然豊かなアトラスでは発見しづらい。その存在を nıuc で感知することができないため、神代でも神々は発見することができなかった。鉱物などと同じく最初は偶然の発見に頼るしかなく、発見されたのは ɟᴅ 初期になってであり、しかも魔族によってであった。 アトラスに多

く存在するのは飛水晶で、これは重力を操作する魔法が籠っており、巨大な船でも自由に飛ばすことができ、飛空挺の発達を促した。飛水晶は ɑcclcı と φılueeɥə には多いが、ᴅɥəl ではあまり産出しない。　イフリートは ɥɑ までで掘り尽くされ、使い尽くされ、公には現存しない。国が隠し持っているとは噂されているが、少量であろうと目されている。

caı ［天文］星座 ［レベル］3　1ʔ: 制では星の意味。複合語要素になるので短いこの語形を採用した。 ［文化］ → ınɔl　星座は悪魔テームスのこけらである魔物アデルたちの監獄である。星座は魔物を封じた監獄である。アトラスから見た星座の方角にアデルは封じ込められている。星座全天は１００天であり、どの星座も地球の国際標準である８８天と異なる。　星座はアデルの種類に等しいため、本辞典では［魔物］のタグで調べることができる。アデルの説明欄の見本は下記の通り ［魔物］カイラ（巨鬼）：第三十二天：土の巨天　括弧内は和訳名。　数字＋天はアデル１００天のうち、第何番かを示したもの。　その右はアデルの属性＋象徴天。属性はアルシアの１１分類に従ったもの。象徴天はその魔物が象徴とする惑星の名で、９惑星。従って、１属性につき９種のアデルが存在する。例えば火の魔物が９匹いるということである。なお、同じ火の魔物なら、炎天側ほど弱く、氷天ほど強い。つまり害族の魔物なら、ıclıc が最弱で、ɑıczıclıc が最強になる。　１１族それぞれに９匹の魔物がいるため、闇の炎天から害の氷天までで９９天が存在することになる。最後に無属性のアデルであるヴェイガンが第１００天として加わり、全１００天となる。　カコの時代、アルシアは魔族を魔法と同じく１１の属性に分類した。分類の結果、どの属性も９種ずつ周期的に存在するという法則を発見した。　また９種の間には階級的な差があり、弱いものから強いものまで整然と並べることができた。しかも火の属性の第４位の悪魔は水の属性の第４位の悪魔とほぼ同等の強さを持っているなど、強さの階級は属性間でも通用するものであった。　これを根拠にアルシアは魔族の周期表を作成した。属性は火などで名付けたものの、階級はどう名付ければよいか迷ったため、９組み数字の惑星を宛がい、氷天などと呼んだ。　こうしてできた９９種に分類不可能だったヴェイガンを足し、惑星にちなんで１００天と名付けた。　この分類は ɥɑ でも残り、セレンたちにも知られていた。アシェットはその後星座に魔族を封印するが、そのときもアルシアの周期表に基づいて魔族を封印することにした。　アルシアが周期表を作ってくれていたので、アシェットの仕事はどの星を基点として封印していくかを決めることだけであった。　アシェットはアルデバランをメル暦のメルの星として採用し、ここを基点にして、アルシアの周期表を使いつつ、魔族を封じ込め、１００天の星座の檻を作った。　・地球の星座　地球の星座は Jᥒ にセレンがまとめて作った。［ユマナ］なので異世界的考察はせず、単に日本語の全天８８天の名称を直訳していった。アトラスの星座と地球の星座の名称が異なっていて不便なため、便宜上娘たちのために造語したのが契機となった。

caın ［天文］惑星 ［組み数字］9 ［レベル］3　1ʕ: 制 :caı（星）［語法］ アルカでは水星から冥王星までの９つが太陽系の惑星。エルト神とサール神が逢瀬の場所を決めるとき、冥王星まで行き、この内側のいずれかの星で逢瀬をしようと話し合い、最終的に地球が最も環境のいい場所だと決めたことから。したがって、天文学的な理由ではないため、冥王星が小惑星であるということは関係なく、冥王星も caın に含む。

caınᴅeᴅ ［組み数字］イファンサークル、九大天王 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɥıdıll

caıneɥn ［天文］惑星系　Jʔ

caıl ［生物］門 ［言語］超語派 ［レベル］5　ɥɑ;caı/ıl,ɑ（物）　JJ ［文化］ ɥəᴅı

cac ［形容詞］老いた、年取った ［名詞］老人 ［反意語］lcɑ　ɑ;cᴅı/ɑc「時の長い」［レベル］2　古　cac:cac:ᴅeluc ［語法］ → ȷıᴅ, lccɑ, ȷeɑeȷ

cacȷel ［歳時記］敬老の日 ［レベル］3　J0 ［文化］ メル J0 年にアシェットがアンジュに敬意を表して作った祭日。毎年 dıl ɥıl に行われる。暑気払いに枇杷葉を煎じて老人に与える風習がある。

cacuɔɥʃ ［医療］老衰 ［レベル］3　J0:ᴅelcɑcı ılcȷ

cacaeᴅe ［名詞］老年期 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［語法］ lcaaeᴅe

cacılın ［経済］［環境］高齢化社会 ［レベル］5　1L ［文化］ ヴェレイで経済と医療の発展に伴ない、中高年の比率が増加した。ヴェレイ初期の若中年は経済の発展に併せて住宅を購入した。しかし住宅はあらゆる買い物の中で最も高価であるため、必然的に住宅ローンが組まれた。　住宅購入の波と経済の発展が合わさった結果土地が高騰し土地バブルが起こった。このバブルが崩壊すると消費は縮小し、企業の業績悪化に伴ない雇用情勢が悪化した。　このときのアルバザードは間接民主主義を採っていた。既に住宅を買った若者は中高年になっており、この層が最もマスであったため、選挙によって選ばれた与党は中高年の雇用を優先した。また、中高年は住宅ローンを抱えていたため、この雇用を守らなければ銀行が破綻するというのも理由のひとつであった。　結果、若者の雇用は犠牲となった。一度上げた給料をカットすることは難しいが、給料を上げないことは容易であるため、中高年の賃金が維持される一方、若者の賃金は上げ止まっていた。こうして世代間の所得格差が開いていった。　その結果若者の結婚率が下がり、ますます少子化となり、高齢化社会に突入した。　本来老人は医療費を除けば若年層より消費性向が弱い。交際費、衣料費、外食費、教育費、住宅ローンなどが減るためである。足腰が弱れば当然外出もできなくなってくるし、胃腸が弱れば外食も控えめになる。　一方、三十代は結婚に子育てに住宅ローンにと金がかかる。にもかかわらずヴェレイ後期はこの層に金が回っていなかった。　経済は当然消費性向の高い層が金を持っているときによく回る。従って当時の経済は停滞しており、悪化の一途を辿っていた。　だが既得権益者である中高年がマス層であるため、政府は将来のことより現在の政権維持を主眼とし、中高年もまた自分たちさえ逃げ切れればよいと考えていた。　当時は国民の全財産の８割を６０歳以上の人間が持つという歪んだ社会になっていた。ʔJ0 年にミロク革命が始まると、貧困層はミロクに富の再分配を期待した。ところがミロクの理想はイグレスタではなく修正資本主義である。　氷河期で職を得られなかった層には同情を示すが、彼らが労働力を提供しなかったことは事実である。それが労働してきたものと同じ対価を得るのは不当であると彼は考えた。　ʔJJ 年、ミロクは ıɥlʃoen を実施。同年、ılɥəlı 等を実施。核家族から大家族への移行を推進し、老人の孤独死を防ぐなどした。また、安楽死を認め、個人裁量に任せた。　若中年に資産が回ったことで消費は増加し、大家族となることで世帯消費も増加。結果的に回らないでいた資産が動き、景気は良化。結婚率も増加し、大家族化に伴ない、子供の人口も増えた。　安楽死法と再生医療の医療革命は老人の数に関しては矛盾的に働き、老人の減少には大きく関与しなかった。が、全体的に見ればヴェレイ末期より老人は減少し、緩やかに高齢化社会は改善していった。

caccnȷ ［医療］老眼 ［レベル］4　1L

caccᴅel ［色］［形容詞］［ネガティブ］黄ばんだ、きばんだ、黄みがかった、黄味がかった ［名詞］［ネガティブ］黄ばみ ［レベル］3　JJ:「老いた黄色」［語法］ 歯や本など、古くなったりして汚れた黄ばみを示す。

cae,ɑ　lcɑ 「時の短い」

cael ［名詞］男副主人公 ［レベル］3　J0:ccaı

cᴅ ［名詞］時点、時間、頃、の頃、～の頃、ころ、頃合い ［格詞］～のときに。時格。 ［類義語］hılcȷ ［レベル］1　ȷeɥʃ;cᴅ.l　1ʔ ←古 :cᴅı（時間の疑問詞） cᴅı, lecᴅı:cᴅı, lecᴅı:lə hılcȷ（メルティアが男）:ɥəᴅc,ılʃ ［語法］ ɔl 【成句】 cᴅ ucı ～するころ　cᴅ lɔl 同時に 【用例】 ʃə cᴅ 時間だ　cᴅ lənıl 時間だ　ʃə eʃ cᴅ e{len} neʃ. 起きる時間だ。　ʃə eʃ cᴅ e{len} ȷcnȷr　イッツショータイム！

cᴅ(J)　cᴅəl　J1

cᴅlı ［植物］［料理］辛子、カラシ、からし ［レベル］3　lılʃı: 辛

cᴅl ［動物］ニシン ［レベル］5　lılʃı: 元は「黄色い卵」の意で、数の子の意だった。

cᴅȷ ［名詞］ポスター、広告張り紙、広告紙、チラシ、ビラ ［レベル］3　1ʔ: 制 :cȷnᴅıȷ。cȷn と離した。 ［語法］ 貼るか配るかで区別しない。

cᴅdɥı ［悪魔］インプラ、黄色の悪魔インプラ ［レベル］4　ᴅelʃcı 0:cᴅdɥı;cᴅel/hɔɔɥı　ɥcɑcı: 古 :cᴅdɥı。cᴅ（黄色）/hɔɔɥı から。 ［文化］ 黄色の毛で覆われた怪物。好奇心旺盛。 【成句】 cᴅdɥı ȷeel(en) ıɥᴅc uı アルミヴァ神に囲まれた悪魔インプラ。四面楚歌：ヴァステでインプラが誘導され、アルミヴァに集中砲火を食らって封印されたことから。

cᴅdɥı.lȷl　cᴅel　cᴅdɥı

cᴅdɥılccaı ［天文］リゲル　1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel ［文化］ hɔɔɥılccaı

cᴅdɥen ［名詞］インプレン、色町、風俗、風俗街、歓楽街 ［レベル］4　古 :cᴅdɥı ［文化］ ＜所在地＞　アルバザードにある歓楽街。日本の吉原に相当する。ll で作られた。現在はカルザス＝メル通り一帯に広がる。アルバザード最大の風俗街で、中央アルナ市にはここ以外に風俗店は存在しない。たくさんの ᴅenʃeez が並ぶ。赤線に最も近く、風呂に入ったりはしない。　＜システム＞　ショーウィンドウの中の好きな女を選び、その女のいる個室で情事を行う。使用中の個室はシャッターが下りるのですぐ分かる。買えるのはウィンドウに見えている女のみ。　代金は女の容姿や年齢によって異なり、ショーウィンドウに書いてある。中に入るときにドアにアンセをかざすと代金が落ちるシステム。するとドアが開き、シャッターが下り、情事に及ぶ。恋人とのセックスと違うので、速やかに脱がせて本番に入る。時間は１５分で、発射できなければそれまで。あるいは１５分単位の延長料金を払う。入室後１０分で警告音が鳴り、５分以内に退出しないと延長料金が発生する。１５分以内に退出すると、女は５分で部屋を片付け、衛生器具を処分し、消毒ペーパーで体を清拭し、服を整え、シャッターを開ける。こうして１時間に３本のペースで回転する。料金は姫によるが大体安価で、７００～１２００ソルトの間。このうち５割が奴隷商に入り、３割が店に入り、２割が本人に入る。　＜年齢＞　奴隷は国民として登録されないため、国は少女の年齢に関して一切制限を設けていない。つまり、４歳の少女だろうと買おうと思えば買える。ただし、４歳の少女に１５分で急いで挿入しようとすると裂けて死んでしまう可能性があるため、店側は通常幼女を展示しない。かつての日本の揚屋と同じく、幼女のうちは客を喜ばせるための修行をしたり、小間使いとして働くことが多い。　アルバザードにはロリコンが少ないので、通常客を取るのはソーンの年１５～２８歳である。ただし、実際には１２歳ごろから展示されるようになる。　＜彼女の反応＞　息抜きの場として彼女持ちの男もいくが、それは女が許した場合のみ。そしてたいていのアルバザード人の女は言えば許すが、極めて不機嫌になる。そこで男はたいてい黙っていくが、バカ正直な国民が多いため、バレる確率は高い。　風俗が破局の原因になることはアルバザードではまずないが、彼女に喚き散らされ、鉄拳制裁は必至。慣例として、女は物を投げることと武器を使うことは制限されるが、素手なら最大骨折に至るまで殴って構わない。男は反撃の権利がない。アルバザード人の女はユベールが必修科目だが、よくある用途がこれ。男が風俗にいったことを原因に女は男を捨てることが慣例としてできない。そこで女が男を捨てたいと思った際は、しこたま男をフルボッコにし、もうこんな恐ろしい女とは付き合えないと思わせ、別れさせる。　なお、女用の風俗もあるが、一部の人間しかいかない。３０～４０代の利用者が多い。女はソープよりも女用の ɥəɥəlı（ホストクラブ）にハマりやすい。この場合、男は恋人ないし妻を捨てることができる。

cᴅdɥenφcn ［名詞］水商売、風俗業 ［類義語］ɑcᴅcɥəφcn ［レベル］5　ɥɑ;/　Jᥒ ［語法］ ɑcᴅcɥəφcn

cɒdc ［動物］蜂、ハチ ［レベル］2 ʃɒ;cɒel/dc lɪ̀lɾ: 黄色 / 針

cɒdcɪ̀ɪnʃ ［名詞］養蜂 ［レベル］6 ʃ!

cɒdcɟ ［政治］政党、政治政党 ［レベル］4 1L:cɒdc: 蜂のように群がっていることから

cɒdcɟeɑ ［サッカー］スルーパス uɭ;/「蜂が刺すようにパスする」 ʃ!

cɒdcɒɔɔʃ ［名詞］蜜蝋 ［レベル］6 ʃɒ;cɒdc/ɒɔɔʃ ʃ] ［文化］ ɒɔɔʃ

cɒdcɥɪ ［名詞］蜂の巣 ［レベル］3 1ʔ: 制 : ハチの住い ［成句］ ɒɪɸ cɒdc ɥɪ 薮蛇だ、藪蛇だ、やぶ蛇だ、やぶへびだ、藪をつついて蛇を出す

cɒdcɪɥl ［化学］蟻酸、ギ酸 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ ［文化］ ɥɑ 前期、化学的に大量にショ糖を生成することができなかったため、主な甘味料のひとつに蜂蜜があった。そのため、養蜂家がレイユより身近だった。リュウは蜜蜂の毒が蟻酸であることを発見し、cɒdcɪɥl と名付けた。

cɒdɔ ［動物］キリン、きりん、麒麟 ［レベル］2 lɪ̀lɾ: 黄色くて首が長い ［擬声］ ɒɔɔ（鳴き声）

cɒdɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］きりん座 ʃ!l ［文化］ cɑɪ

cɒden ［名詞］好奇心、興味 ［レベル］3 1L:cɒdɥɪ/nɪ ［用例］ lɪ ʃcl{jc} cɒden. 彼は好奇心が強い｛少ない｝。 ［言葉遊び］ ʃee, ʃcɔ ɪn ʃcl cɒd en ɪlen cɒdɥen. いや、単に売春街に興味があるだけだって：多分この後彼女に殴られる２秒前の台詞。 ɪnejʃɔl. ɥɪ, ɪn ɑelɪʃ jeɾɪ e ɒɥɑe ɔ jelɑ. ʃ'cnɟɪ, jee, ɪn ʃcl cɒden ɪlen ɟenɪl ɑcnɔɒ. よろしくお願いします。えぇ、イスラムの歴史と中国文学を勉強しました。様々な言語に興味があります。

cɒdel ［名詞］オタク、インペル ［類義語］ləlcɪn ［レベル］3 古 :cɒdɥɪ と同じ語源だが詳細は不明。インプラがニムラの中で省かれていた過去があるのか、或いはおそらくこちらが有力だが、インプラが好奇心が強いためであろう。 ［語法］［文化］ → ləlc 対象が何であれ、あることばかりに夢中になってまともな社会生活や人間関係を作れない人のことをいい、あまり歓迎されない。だがそれが学問などの高尚なものだとしばしば歓迎される。というのも学問はしばしばそういった人材から生まれた天才によって進められると考えられているからである。

cɒdelɑ ［名詞］インペルド、童貞夢、処女夢 ［レベル］4 古 :cɒdel/ɑcɪ から ［語法］ → beelenuc 思春期や童貞・処女時代に異性に対して持つ幻想のこと。日本で言われてきたのは「キスはレモンの味」などだが、アルバザードでの俗説は「キスは桃の味」「女性器は蜜が出る」「女に腋毛は生えない」「イケメンは髭が生えない」「好きなもの同士のセックスは挿入するとすぐ逝く」「行為中に女が逝くと愛液で精子が殺されて妊娠しない」「女は毛深くないので陰核以下には毛が生えない」「陰唇の色が暗いと遊び人」「処女膜は歯になっていて、嫌いな相手に入れられると痙攣して陰茎を潰すようにできている」「女は逝くと漏らす」「処女は必ず血が出る」「結婚式でキスをすることで子供ができる」「精子は空気やお湯の中ですぐ全滅する」「排卵時の白い粘液は卵子」「精子を飲むとヴィルが増える（アトラスでは事実）」など。 ［用例］ ɪn en nɪ eɒ cɒdelɑ ɒɪn ʃcl eɒ ʃcɪn. カノジョを持つようになって、インペルドを感じなくなったよ。

cɒɥə ［形容詞］珍しい、レアな ［反意語］nce ［文頭純詞］めずらしいことに ［レベル］2 ɑ 赤 :cɒɥə は「目にない」が原義。

cɒɥəbel ［料理］珍味 ［レベル］4 ʃ1

cɒɪ ［形容詞］元気な、快活な、ハキハキした ［反意語］ɪnc ［レベル］2 @ 1L ［用例］ lcu cɒɪ 元気な声

cɒɪ,ɑ ɔɒ, cɒ e

cɒɪn ［名詞］ひし形、菱型、菱形、ひし型、ダイヤ形 ［レベル］3 ɑu; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :cɒɪcn（幻字の c（目）の形をしたもの） cɒɪcn:cɒ ɪcn:lə ɟ]cdcɪ

cɒɪn(J) ［植物］榊、サカキ、極 ［レベル］3 ɟɒ;<ɪlʃ<ɪɒcn.] ʃ1 ［文化］ → hcnɪlɪ 手に入りやすいのと、振るのに非常に適しているため、陽命の神事に用いられるようになった。

cɒɪnzel ［地名］イマンゼル、イマンゼル県 ［レベル］3 ʃ1:ɥcɑcɪ:「菱形の」 ［文化］ カレン北、カテージュ西の県。南部にヴェスペリア山脈がある。

cɒɪd ［植物］ヒシ、ひし、菱 ［レベル］5 1ʔ: 制 :cɒɪn/dcnɑ

cɒɪc,ɑ]cd 「時を見る」

cɒcn ［普通動名詞］観光、ツアー ［動詞］ɥəl を観光する、観光する ［レベル］3 1L: 珍しいものを見る

cɒɔ ［植物］レモン ［レベル］2 lɪ̀lɾ: すっぱい黄色の意。ɒəcɒ か cɒɔ でよい。

cɒɔɒɪuc ［化学］ビタミンC、アスコルビン酸 ［レベル］3 nɑ;/ ʃ! ［文化］ ɒɪuc

cɒɔl ［格詞］下から ［レベル］2 ʃ0:ɒelcɑcɪ lceɥ

cɒɔlc ［企業］イモリ ɪlʃ ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ トヨタ、ホンダ、日産、スズキ、いすゞ、マツダなどに相当する企業。

cɒɔlen ［接続詞］cɒɔl ［レベル］3 ʃ1

cɒɔe ［美容］リンス ［レベル］2 ɥɑ;cɒɔ/eɥ「レモン水」 ʃ! ［文化］ ɥɑ でフルミネアの長い髪を綺麗に維持するためにリュウが開発した。当時のシャンプーがアルカリ性であったことから、それを中和する目的でクエン酸がリンスとして使用された。そのため語源がレモン水となっている。

cɒe ［医療］コンタクトレンズ ［レベル］3 1L:cnɟɒed ［用例］ ɟɪb cɒe コンタクトをつける

cɒeʃ ［名詞］版、エディション、バージョン、ｖｅｒ ［レベル］3 1L:ɥc ɑcɪ:ɥbɪlelʃ:cɒen（～のときの） ［用例］ cɒeʃ lɪɒ 初版

cɒen ［接続詞］cɒ。～のときの。 ［レベル］2 ʃ0:]lɪce ［成句］ cɒen ʃəɥ 現在の、もはや

cɒeɥ ［植物］スイカ、西瓜、ウォーターメロン ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :cɒeɥɪ（スイカ（黄色 / 水 / 赤））

cɒel ［色］黄色、イメル ［形容詞］黄色い ［レベル］1 ɒelʃcɪ 0:ɒelʃcɪ;cnɟ e ɒelʃcɪ 古 : メルの目。目に映った月の色という逸話から səɥ:cɒ dɥɪ, cɒel:lɪ ɸelʃe:əɥcɪ,ɪlʃ

cɒelɟenʃ ［地球の国名］スウェーデン ［レベル］5 1L: 国旗が黄色い十字

cɒelncɪ ［生物］金髪、ブロンド ［レベル］3 ʃ]

cɒelucsɔn ［動物］キセキレイ ɾɒ;/ ʃ! ［文化］ ucsɔn

cɒeluceʃ ［地球の国名］グルジア ［レベル］6 1L: 国章に黄色いライオン

cɒelɑɪɪl ［地球の国名］キリバス 1L: 国旗に黄色い太陽

cɒelɒeɒ ［地球の国名］パラオ 1L: 国旗が黄色い丸

cɒelɑcɪ ［植物］山吹、ヤマブキ ［レベル］5 ɟɒ;uɪɥ ɪlʃcɪ「黄色コスモス」 ʃ]

cɒelɑɔl ［地学］アダム鉱 1L

cɒelɸɪɪl ［名詞］歓声 ［レベル］4 ʃ1: 黄色は賑やかで好奇心旺盛なという意味。

cɒeldɪɒ ［名詞］白熱灯、白熱球 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

cɒelberɟ ［経済］経済的に恵まれた環境 ［レベル］5 ［反意語］ɑccɪberɟ ʃ1

cɒelhɪɥɪ ［医療］黄疸 ［レベル］5 1L: 黄色い痣風のもの

cɒelhɔdɟ ［生物］黄色骨髄 ɥf;/ ʃ!l

cɒellccɑɪ ［地球の国名］ベトナム ［レベル］6 1L: 国旗に黄色い星

cɒelìɔn ［植物］黄色土 1L:ɥcɑcɪ ［語法］ メテなど、温暖な土地に見られる土壌。

cɒelɪn ［名詞］黄色人種 ［レベル］3 1L:cɒel/ɪn ［語法］［文化］ インサールからアルバザードに移住してきた人種。アルバザード人の混血の元となっている。背が低く、筋肉が弱く、鼻が低い。顔が大きく、肌の質はいい。顔が幼い。平面顔。一重の人がいる。下戸の人がいる。乳頭不帯の人がいる。不安になりやすい。繁殖しやすい。

cɒelcɪ ［名詞］イメリア ［ユマナ］ギネスブック、ギネス ［レベル］4 uɭ;c ɒɔlc ʃ] ［文化］ uɭ でイモリ社が車の売り上げを伸ばすために作った世界記録の本。世界記録があればそこに行って現物を見てみたいと思わせることができるため、車の売り上げに繋がる。それゆえ車メーカーがギネスブックに相当するものを創り上げた。

cɒeleʃeʎ ［料理］黄茶 ɥɑ;/ ʃ!

cɒeɪ ［エルフ］イメア ［レベル］5 ɑəlɒccɪ: 古 : 古の cɒeɪ フルミネアの造語。語源は cɒeɥcɪ（黄色い水）で、水は滝状の髪の毛を表わし、黄色はそれがメルのものであることを示すそうだ。フルミネアは一時メルの目や髪を淫らを表わすとして禁忌していたが、それらの脱却といえる。数を司る設定はキリスト教の神が髪の毛を数えるという神話から来ているのではなく、恐らくメルからの類推。イメアのモデルがメルで、メルが数学の類に秀でていたことが原因だと思われる。 ［文化］ 髪の毛、数、統計、確率を司るエルト。

cɒəl ［人名］イムル ［組み数字］7 / 1 5 ［レベル］4]l̀:cɒ/ɪl「時の人」]l̀ɔ: 古アルカでの意味は「 時 」。 ［文化］ メテの第７使徒。イムル暦の創始者。

cɒəlɟɪlʃ ［歳時記］年度 ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃ!l ［文化］ イムル暦における年度のこと。グレゴリオ暦でいう１月１日ごろから始まる。日本の年度の場合４月１日から始まる。

cɒəldɪlʃ ［歴史］イムル暦 ［レベル］4 ʃ!0 ［文化］ → dɪlʃ 歴史などの分野では年号だけメル暦でなくイムル暦を使う→ ɒeldɪlʃ 西暦４００年１月１日がちょうどイムル０年１月１日に当たる暦。地球にない暦だが、天文学的な経緯を経て紀元が偶然グレゴリオ暦と同じ１月１日になっているため、ɥɑ の日付を記すのに非常に便利。英雄アルシェのミスで、イムル０年は存在しないことになり、イムル暦は１年からスタートした。イムル１年はユーマ８０８０年に等しい。後にイムルは便宜上１年の元旦から３６６日戻した日付をイムル０年とした。イムル０年の大半はユーマ８０７９年であるから、ユーマ暦はイムル暦に１年食われる形で８０７９年間続いたことになる。 ＜グレゴリオ－イムル対照表＞ グレゴリオ暦とイムル暦は年始の日付が同じで、年号のずれも 1000 年であるため、イムル０～ 1500 年までは下記の単純な表で対照できる。 月の日数が異なるため、グレゴリオ暦と同じではない。 閏日の入る位置が異なるため、平年と閏年で表が] 枚必要になる。 年始日が重なるのは天文学的な理由で、偶然である。詳しくは幻日 dɪlʃ を参照。 なお、メル暦は年始も異なるため、こうした単純な表にはできない。

平年		閏年		平年		閏年	
グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル
1 月 1 日	1/1	1 月 1 日	1/1	9 月 2 日	9/]	9 月] 日	9/]
1 月] 日	1/]	1 月] 日	1/]	9 月 1 日	9/2	9 月 2 日	9/2
1 月 2 日	1/2	1 月 2 日	1/2	9 月 4 日	9/1	9 月 1 日	9/1
1 月 1 日	1/1	1 月 1 日	1/1	9 月 5 日	9/4	9 月 4 日	9/4
1 月 4 日	1/4	1 月 4 日	1/4	9 月 9 日	9/5	9 月 5 日	9/5
1 月 5 日	1/5	1 月 5 日	1/5	9 月 Δ 日	9/9	9 月 9 日	9/9
1 月 9 日	1/9	1 月 9 日	1/9	9 月 L 日	9/Δ	9 月 Δ 日	9/Δ
1 月 Δ 日	1/Δ	1 月 Δ 日	1/Δ	9 月 10 日	9/L	9 月 L 日	9/L
1 月 L 日	1/L	1 月 L 日	1/L	9 月 11 日	9/10	9 月 10 日	9/10

1月10日	1/10	1月10日	1/10	9月1J日	9/11	9月11日	9/11
1月11日	1/11	1月11日	1/11	9月1ʔ日	9/1J	9月1J日	9/1J
1月1J日	1/1J	1月1J日	1/1J	9月1ɱ日	9/1ʔ	9月1ʔ日	9/1ʔ
1月1ʔ日	1/1ʔ	1月1ʔ日	1/1ʔ	9月1ᚼ日	9/1ɱ	9月1ɱ日	9/1ɱ
1月1ɱ日	1/1ɱ	1月1ɱ日	1/1ɱ	9月1ʕ日	9/1ᚼ	9月1ᚼ日	9/1ᚼ
1月1ᚼ日	1/1ᚼ	1月1ᚼ日	1/1ᚼ	9月19日	9/1ʕ	9月1ʕ日	9/1ʕ
1月1ʕ日	1/1ʕ	1月1ʕ日	1/1ʕ	9月1Δ日	9/19	9月19日	9/19
1月19日	1/19	1月19日	1/19	9月1L日	9/1Δ	9月1Δ日	9/1Δ
1月1Δ日	1/1Δ	1月1Δ日	1/1Δ	9月J0日	9/1L	9月1L日	9/1L
1月1L日	1/1L	1月1L日	1/1L	9月J1日	9/J0	9月J0日	9/J0
1月J0日	1/J0	1月J0日	1/J0	9月JJ日	9/J1	9月J1日	9/J1
1月J1日	1/J1	1月J1日	1/J1	9月Jʔ日	9/JJ	9月JJ日	9/JJ
1月JJ日	1/JJ	1月JJ日	1/JJ	9月Jɱ日	9/Jʔ	9月Jʔ日	9/Jʔ
1月Jʔ日	1/Jʔ	1月Jʔ日	1/Jʔ	9月Jᚼ日	9/Jɱ	9月Jɱ日	9/Jɱ
1月Jɱ日	1/Jɱ	1月Jɱ日	1/Jɱ	9月Jʕ日	9/Jᚼ	9月Jᚼ日	9/Jᚼ
1月Jᚼ日	1/Jᚼ	1月Jᚼ日	1/Jᚼ	9月J9日	9/Jʕ	9月Jʕ日	9/Jʕ
1月Jʕ日	1/Jʕ	1月Jʕ日	1/Jʕ	9月JΔ日	9/J9	9月J9日	9/J9
1月J9日	1/J9	1月J9日	1/J9	9月JL日	9/JΔ	9月JΔ日	9/JΔ
1月JΔ日	1/JΔ	1月JΔ日	1/JΔ	9月ʔ0日	9/JL	9月JL日	9/JL
1月JL日	1/JL	1月JL日	1/JL	9月ʔ1日	9/ʔ0	9月ʔ0日	9/ʔ0
1月ʔ0日	1/ʔ0	1月ʔ0日	1/ʔ0	Δ月1日	9/ʔ1	9月ʔ1日	9/ʔ1
1月ʔ1日	J/1	1月ʔ1日	J/1	Δ月J日	Δ/1	Δ月1日	Δ/1
J月1日	J/J	J月1日	J/J	Δ月ʔ日	Δ/J	Δ月J日	Δ/J
J月J日	J/ʔ	J月J日	J/ʔ	Δ月ɱ日	Δ/ʔ	Δ月ʔ日	Δ/ʔ
J月ʔ日	J/ɱ	J月ʔ日	J/ɱ	Δ月ᚼ日	Δ/ɱ	Δ月ɱ日	Δ/ɱ
J月ɱ日	J/ᚼ	J月ɱ日	J/ᚼ	Δ月ʕ日	Δ/ᚼ	Δ月ᚼ日	Δ/ᚼ
J月ᚼ日	J/ʕ	J月ᚼ日	J/ʕ	Δ月9日	Δ/ʕ	Δ月ʕ日	Δ/ʕ
J月ʕ日	J/9	J月ʕ日	J/9	Δ月Δ日	Δ/9	Δ月9日	Δ/9
J月9日	J/Δ	J月9日	J/Δ	Δ月L日	Δ/Δ	Δ月Δ日	Δ/Δ
J月Δ日	J/L	J月Δ日	J/L	Δ月10日	Δ/L	Δ月L日	Δ/L
J月L日	J/10	J月L日	J/10	Δ月11日	Δ/10	Δ月10日	Δ/10
J月10日	J/11	J月10日	J/11	Δ月1J日	Δ/11	Δ月11日	Δ/11
J月11日	J/1J	J月11日	J/1J	Δ月1ʔ日	Δ/1J	Δ月1J日	Δ/1J
J月1J日	J/1ʔ	J月1J日	J/1ʔ	Δ月1ɱ日	Δ/1ʔ	Δ月1ʔ日	Δ/1ʔ
J月1ʔ日	J/1ɱ	J月1ʔ日	J/1ɱ	Δ月1ᚼ日	Δ/1ɱ	Δ月1ɱ日	Δ/1ɱ
J月1ɱ日	J/1ᚼ	J月1ɱ日	J/1ᚼ	Δ月1ʕ日	Δ/1ᚼ	Δ月1ᚼ日	Δ/1ᚼ
J月1ᚼ日	J/1ʕ	J月1ᚼ日	J/1ʕ	Δ月19日	Δ/1ʕ	Δ月1ʕ日	Δ/1ʕ
J月1ʕ日	J/19	J月1ʕ日	J/19	Δ月1Δ日	Δ/19	Δ月19日	Δ/19
J月19日	J/1Δ	J月19日	J/1Δ	Δ月1L日	Δ/1Δ	Δ月1Δ日	Δ/1Δ
J月1Δ日	J/1L	J月1Δ日	J/1L	Δ月J0日	Δ/1L	Δ月1L日	Δ/1L
J月1L日	J/J0	J月1L日	J/J0	Δ月J1日	Δ/J0	Δ月J0日	Δ/J0
J月J0日	J/J1	J月J0日	J/J1	Δ月JJ日	Δ/J1	Δ月J1日	Δ/J1
J月J1日	J/JJ	J月J1日	J/JJ	Δ月Jʔ日	Δ/JJ	Δ月JJ日	Δ/JJ
J月JJ日	J/Jʔ	J月JJ日	J/Jʔ	Δ月Jɱ日	Δ/Jʔ	Δ月Jʔ日	Δ/Jʔ
J月Jʔ日	J/Jɱ	J月Jʔ日	J/Jɱ	Δ月Jᚼ日	Δ/Jɱ	Δ月Jɱ日	Δ/Jɱ
J月Jɱ日	J/Jᚼ	J月Jɱ日	J/Jᚼ	Δ月Jʕ日	Δ/Jᚼ	Δ月Jᚼ日	Δ/Jᚼ
J月Jᚼ日	J/Jʕ	J月Jᚼ日	J/Jʕ	Δ月J9日	Δ/Jʕ	Δ月Jʕ日	Δ/Jʕ
J月Jʕ日	J/J9	J月Jʕ日	J/J9	Δ月JΔ日	Δ/J9	Δ月J9日	Δ/J9
J月J9日	J/JΔ	J月J9日	J/JΔ	Δ月JL日	Δ/JΔ	Δ月JΔ日	Δ/JΔ
J月JΔ日	J/JL	J月JΔ日	J/JL	Δ月ʔ0日	Δ/JL	Δ月JL日	Δ/JL
ʔ月1日	J/ʔ0	J月JL日	J/ʔ0	Δ月ʔ1日	Δ/ʔ0	Δ月ʔ0日	Δ/ʔ0
ʔ月J日	ʔ/1	ʔ月1日	ʔ/1	L月1日	Δ/ʔ1	Δ月ʔ1日	Δ/ʔ1
ʔ月ʔ日	ʔ/J	ʔ月J日	ʔ/J	L月J日	L/1	L月1日	L/1
ʔ月ɱ日	ʔ/ʔ	ʔ月ʔ日	ʔ/ʔ	L月ʔ日	L/J	L月J日	L/J
ʔ月ᚼ日	ʔ/ɱ	ʔ月ɱ日	ʔ/ɱ	L月ɱ日	L/ʔ	L月ʔ日	L/ʔ
ʔ月ʕ日	ʔ/ᚼ	ʔ月ᚼ日	ʔ/ᚼ	L月ᚼ日	L/ɱ	L月ɱ日	L/ɱ
ʔ月9日	ʔ/ʕ	ʔ月ʕ日	ʔ/ʕ	L月ʕ日	L/ᚼ	L月ᚼ日	L/ᚼ
ʔ月Δ日	ʔ/9	ʔ月9日	ʔ/9	L月9日	L/ʕ	L月ʕ日	L/ʕ
ʔ月L日	ʔ/Δ	ʔ月Δ日	ʔ/Δ	L月Δ日	L/9	L月9日	L/9
ʔ月10日	ʔ/L	ʔ月L日	ʔ/L	L月L日	L/Δ	L月Δ日	L/Δ
ʔ月11日	ʔ/10	ʔ月10日	ʔ/10	L月10日	L/L	L月L日	L/L
ʔ月1J日	ʔ/11	ʔ月11日	ʔ/11	L月11日	L/10	L月10日	L/10
ʔ月1ʔ日	ʔ/1J	ʔ月1J日	ʔ/1J	L月1J日	L/11	L月11日	L/11
ʔ月1ɱ日	ʔ/1ʔ	ʔ月1ʔ日	ʔ/1ʔ	L月1ʔ日	L/1J	L月1J日	L/1J
ʔ月1ᚼ日	ʔ/1ɱ	ʔ月1ɱ日	ʔ/1ɱ	L月1ɱ日	L/1ʔ	L月1ʔ日	L/1ʔ
ʔ月1ʕ日	ʔ/1ᚼ	ʔ月1ᚼ日	ʔ/1ᚼ	L月1ᚼ日	L/1ɱ	L月1ɱ日	L/1ɱ

ʔ月19日	ʔ/1ʕ	ʔ月1ʕ日	ʔ/1ʕ	L月1ʕ日	L/1ᚼ	L月1ᚼ日	L/1ᚼ
ʔ月1Δ日	ʔ/19	ʔ月19日	ʔ/19	L月19日	L/1ʕ	L月1ʕ日	L/1ʕ
ʔ月1L日	ʔ/1Δ	ʔ月1Δ日	ʔ/1Δ	L月1Δ日	L/19	L月19日	L/19
ʔ月J0日	ʔ/1L	ʔ月1L日	ʔ/1L	L月1L日	L/1Δ	L月1Δ日	L/1Δ
ʔ月J1日	ʔ/J0	ʔ月J0日	ʔ/J0	L月J0日	L/1L	L月1L日	L/1L
ʔ月JJ日	ʔ/J1	ʔ月J1日	ʔ/J1	L月J1日	L/J0	L月J0日	L/J0
ʔ月Jʔ日	ʔ/JJ	ʔ月JJ日	ʔ/JJ	L月JJ日	L/J1	L月J1日	L/J1
ʔ月Jɱ日	ʔ/Jʔ	ʔ月Jʔ日	ʔ/Jʔ	L月Jʔ日	L/JJ	L月JJ日	L/JJ
ʔ月Jᚼ日	ʔ/Jɱ	ʔ月Jɱ日	ʔ/Jɱ	L月Jɱ日	L/Jʔ	L月Jʔ日	L/Jʔ
ʔ月Jʕ日	ʔ/Jᚼ	ʔ月Jᚼ日	ʔ/Jᚼ	L月Jᚼ日	L/Jɱ	L月Jɱ日	L/Jɱ
ʔ月J9日	ʔ/Jʕ	ʔ月Jʕ日	ʔ/Jʕ	L月Jʕ日	L/Jᚼ	L月Jᚼ日	L/Jᚼ
ʔ月JΔ日	ʔ/J9	ʔ月J9日	ʔ/J9	L月J9日	L/Jʕ	L月Jʕ日	L/Jʕ
ʔ月JL日	ʔ/JΔ	ʔ月JΔ日	ʔ/JΔ	L月JΔ日	L/J9	L月J9日	L/J9
ʔ月ʔ0日	ʔ/JL	ʔ月JL日	ʔ/JL	L月JL日	L/JΔ	L月JΔ日	L/JΔ
ʔ月ʔ1日	ʔ/ʔ0	ʔ月ʔ0日	ʔ/ʔ0	L月ʔ0日	L/JL	L月JL日	L/JL
ɱ月1日	ɱ/1	ʔ月ʔ1日	ɱ/1	10月1日	L/ʔ0	L月ʔ0日	L/ʔ0
ɱ月J日	ɱ/J	ɱ月1日	ɱ/J	10月J日	L/ʔ1	10月1日	L/ʔ1
ɱ月ʔ日	ɱ/ʔ	ɱ月J日	ɱ/ʔ	10月ʔ日	10/1	10月J日	10/1
ɱ月ɱ日	ɱ/ɱ	ɱ月ʔ日	ɱ/ɱ	10月ɱ日	10/J	10月ʔ日	10/J
ɱ月ᚼ日	ɱ/ᚼ	ɱ月ɱ日	ɱ/ᚼ	10月ᚼ日	10/ʔ	10月ɱ日	10/ʔ
ɱ月ʕ日	ɱ/ʕ	ɱ月ᚼ日	ɱ/ʕ	10月ʕ日	10/ɱ	10月ᚼ日	10/ɱ
ɱ月9日	ɱ/9	ɱ月ʕ日	ɱ/9	10月9日	10/ᚼ	10月ʕ日	10/ᚼ
ɱ月Δ日	ɱ/Δ	ɱ月9日	ɱ/Δ	10月Δ日	10/ʕ	10月9日	10/ʕ
ɱ月L日	ɱ/L	ɱ月Δ日	ɱ/L	10月L日	10/9	10月Δ日	10/9
ɱ月10日	ɱ/10	ɱ月L日	ɱ/10	10月10日	10/Δ	10月L日	10/Δ
ɱ月11日	ɱ/11	ɱ月10日	ɱ/11	10月11日	10/L	10月10日	10/L
ɱ月1J日	ɱ/1J	ɱ月11日	ɱ/1J	10月1J日	10/10	10月11日	10/10
ɱ月1ʔ日	ɱ/1ʔ	ɱ月1J日	ɱ/1ʔ	10月1ʔ日	10/11	10月1J日	10/11
ɱ月1ɱ日	ɱ/1ɱ	ɱ月1ʔ日	ɱ/1ɱ	10月1ɱ日	10/1J	10月1ʔ日	10/1J
ɱ月1ᚼ日	ɱ/1ᚼ	ɱ月1ɱ日	ɱ/1ᚼ	10月1ᚼ日	10/1ʔ	10月1ɱ日	10/1ʔ
ɱ月1ʕ日	ɱ/1ʕ	ɱ月1ᚼ日	ɱ/1ʕ	10月1ʕ日	10/1ɱ	10月1ᚼ日	10/1ɱ
ɱ月19日	ɱ/19	ɱ月1ʕ日	ɱ/19	10月19日	10/1ᚼ	10月1ʕ日	10/1ᚼ
ɱ月1Δ日	ɱ/1Δ	ɱ月19日	ɱ/1Δ	10月1Δ日	10/1ʕ	10月19日	10/1ʕ
ɱ月1L日	ɱ/1L	ɱ月1Δ日	ɱ/1L	10月1L日	10/19	10月1Δ日	10/19
ɱ月J0日	ɱ/J0	ɱ月1L日	ɱ/J0	10月J0日	10/1Δ	10月1L日	10/1Δ
ɱ月J1日	ɱ/J1	ɱ月J0日	ɱ/J1	10月J1日	10/1L	10月J0日	10/1L
ɱ月JJ日	ɱ/JJ	ɱ月J1日	ɱ/JJ	10月JJ日	10/J0	10月J1日	10/J0
ɱ月Jʔ日	ɱ/Jʔ	ɱ月JJ日	ɱ/Jʔ	10月Jʔ日	10/J1	10月JJ日	10/J1
ɱ月Jɱ日	ɱ/Jɱ	ɱ月Jʔ日	ɱ/Jɱ	10月Jɱ日	10/JJ	10月Jʔ日	10/JJ
ɱ月Jᚼ日	ɱ/Jᚼ	ɱ月Jɱ日	ɱ/Jᚼ	10月Jᚼ日	10/Jʔ	10月Jɱ日	10/Jʔ
ɱ月Jʕ日	ɱ/Jʕ	ɱ月Jᚼ日	ɱ/Jʕ	10月Jʕ日	10/Jɱ	10月Jᚼ日	10/Jɱ
ɱ月J9日	ɱ/J9	ɱ月Jʕ日	ɱ/J9	10月J9日	10/Jᚼ	10月Jʕ日	10/Jᚼ
ɱ月JΔ日	ɱ/JΔ	ɱ月J9日	ɱ/JΔ	10月JΔ日	10/Jʕ	10月J9日	10/Jʕ
ɱ月JL日	ɱ/JL	ɱ月JΔ日	ɱ/JL	10月JL日	10/J9	10月JΔ日	10/J9
ɱ月ʔ0日	ɱ/ʔ0	ɱ月JL日	ɱ/ʔ0	10月ʔ0日	10/JΔ	10月JL日	10/JΔ
ᚼ月1日	ᚼ/1	ɱ月ʔ0日	ᚼ/1	10月ʔ1日	10/JL	10月ʔ0日	10/JL
ᚼ月J日	ᚼ/J	ᚼ月1日	ᚼ/J	11月1日	10/ʔ0	10月ʔ1日	10/ʔ0
ᚼ月ʔ日	ᚼ/ʔ	ᚼ月J日	ᚼ/ʔ	11月J日	11/1	11月1日	11/1
ᚼ月ɱ日	ᚼ/ɱ	ᚼ月ʔ日	ᚼ/ɱ	11月ʔ日	11/J	11月J日	11/J
ᚼ月ᚼ日	ᚼ/ᚼ	ᚼ月ɱ日	ᚼ/ᚼ	11月ɱ日	11/ʔ	11月ʔ日	11/ʔ
ᚼ月ʕ日	ᚼ/ʕ	ᚼ月ᚼ日	ᚼ/ʕ	11月ᚼ日	11/ɱ	11月ɱ日	11/ɱ
ᚼ月9日	ᚼ/9	ᚼ月ʕ日	ᚼ/9	11月ʕ日	11/ᚼ	11月ᚼ日	11/ᚼ
ᚼ月Δ日	ᚼ/Δ	ᚼ月9日	ᚼ/Δ	11月9日	11/ʕ	11月ʕ日	11/ʕ
ᚼ月L日	ᚼ/L	ᚼ月Δ日	ᚼ/L	11月Δ日	11/9	11月9日	11/9
ᚼ月10日	ᚼ/10	ᚼ月L日	ᚼ/10	11月L日	11/Δ	11月Δ日	11/Δ
ᚼ月11日	ᚼ/11	ᚼ月10日	ᚼ/11	11月10日	11/L	11月L日	11/L
ᚼ月1J日	ᚼ/1J	ᚼ月11日	ᚼ/1J	11月11日	11/10	11月10日	11/10
ᚼ月1ʔ日	ᚼ/1ʔ	ᚼ月1J日	ᚼ/1ʔ	11月1J日	11/11	11月11日	11/11
ᚼ月1ɱ日	ᚼ/1ɱ	ᚼ月1ʔ日	ᚼ/1ɱ	11月1ʔ日	11/1J	11月1J日	11/1J
ᚼ月1ᚼ日	ᚼ/1ᚼ	ᚼ月1ɱ日	ᚼ/1ᚼ	11月1ɱ日	11/1ʔ	11月1ʔ日	11/1ʔ
ᚼ月1ʕ日	ᚼ/1ʕ	ᚼ月1ᚼ日	ᚼ/1ʕ	11月1ᚼ日	11/1ɱ	11月1ɱ日	11/1ɱ
ᚼ月19日	ᚼ/19	ᚼ月1ʕ日	ᚼ/19	11月1ʕ日	11/1ᚼ	11月1ᚼ日	11/1ᚼ
ᚼ月1Δ日	ᚼ/1Δ	ᚼ月19日	ᚼ/1Δ	11月19日	11/1ʕ	11月1ʕ日	11/1ʕ
ᚼ月1L日	ᚼ/1L	ᚼ月1Δ日	ᚼ/1L	11月1Δ日	11/19	11月19日	11/19
ᚼ月J0日	ᚼ/J0	ᚼ月1L日	ᚼ/J0	11月1L日	11/1Δ	11月1Δ日	11/1Δ
ᚼ月J1日	ᚼ/J1	ᚼ月J0日	ᚼ/J1	11月J0日	11/1L	11月1L日	11/1L

ᛏ月 JJ 日	ᛏ/JJ	ᛏ月 J1 日	ᛏ/JJ	11月 J1 日	11/J0	11月 J0 日	11/J0
ᛏ月 Jʔ 日	ᛏ/Jʔ	ᛏ月 JJ 日	ᛏ/Jʔ	11月 JJ 日	11/J1	11月 J1 日	11/J1
ᛏ月 Jɱ 日	ᛏ/Jɱ	ᛏ月 Jʔ 日	ᛏ/Jɱ	11月 Jʔ 日	11/JJ	11月 JJ 日	11/JJ
ᛏ月 Jᛏ 日	ᛏ/Jᛏ	ᛏ月 Jɱ 日	ᛏ/Jᛏ	11月 Jɱ 日	11/Jʔ	11月 Jʔ 日	11/Jʔ
ᛏ月 Jʕ 日	ᛏ/Jʕ	ᛏ月 Jᛏ 日	ᛏ/Jʕ	11月 Jᛏ 日	11/Jɱ	11月 Jɱ 日	11/Jɱ
ᛏ月 J9 日	ᛏ/J9	ᛏ月 Jʕ 日	ᛏ/J9	11月 Jʕ 日	11/Jᛏ	11月 Jᛏ 日	11/Jᛏ
ᛏ月 JΔ 日	ᛏ/JΔ	ᛏ月 J9 日	ᛏ/JΔ	11月 J9 日	11/Jʕ	11月 Jʕ 日	11/Jʕ
ᛏ月 JL 日	ᛏ/JL	ᛏ月 JΔ 日	ᛏ/JL	11月 JΔ 日	11/J9	11月 J9 日	11/J9
ᛏ月 ʔ0 日	ᛏ/ʔ0	ᛏ月 JL 日	ᛏ/ʔ0	11月 JL 日	11/JΔ	11月 JΔ 日	11/JΔ
ᛏ月 ʔ1 日	ᛏ/ʔ1	ᛏ月 ʔ0 日	ᛏ/ʔ1	11月 ʔ0 日	11/JL	11月 JL 日	11/JL
ʕ月 1 日	ʕ/1	ᛏ月 ʔ1 日	ʕ/1	1J月 1 日	11/ʔ0	11月 ʔ0 日	11/ʔ0
ʕ月 J 日	ʕ/J	ʕ月 1 日	ʕ/J	1J月 J 日	1J/1	1J月 1 日	1J/1
ʕ月 ʔ 日	ʕ/ʔ	ʕ月 J 日	ʕ/ʔ	1J月 ʔ 日	1J/J	1J月 J 日	1J/J
ʕ月 ɱ 日	ʕ/ɱ	ʕ月 ʔ 日	ʕ/ɱ	1J月 ɱ 日	1J/ʔ	1J月 ʔ 日	1J/ʔ
ʕ月 ᛏ 日	ʕ/ᛏ	ʕ月 ɱ 日	ʕ/ᛏ	1J月 ᛏ 日	1J/ɱ	1J月 ɱ 日	1J/ɱ
ʕ月 ʕ 日	ʕ/ʕ	ʕ月 ᛏ 日	ʕ/ʕ	1J月 ʕ 日	1J/ᛏ	1J月 ᛏ 日	1J/ᛏ
ʕ月 9 日	ʕ/9	ʕ月 ʕ 日	ʕ/9	1J月 9 日	1J/ʕ	1J月 ʕ 日	1J/ʕ
ʕ月 Δ 日	ʕ/Δ	ʕ月 9 日	ʕ/Δ	1J月 Δ 日	1J/9	1J月 9 日	1J/9
ʕ月 L 日	ʕ/L	ʕ月 Δ 日	ʕ/L	1J月 L 日	1J/Δ	1J月 Δ 日	1J/Δ
ʕ月 10 日	ʕ/10	ʕ月 L 日	ʕ/10	1J月 10 日	1J/L	1J月 L 日	1J/L
ʕ月 11 日	ʕ/11	ʕ月 10 日	ʕ/11	1J月 11 日	1J/10	1J月 10 日	1J/10
ʕ月 1J 日	ʕ/1J	ʕ月 11 日	ʕ/1J	1J月 1J 日	1J/11	1J月 11 日	1J/11
ʕ月 1ʔ 日	ʕ/1ʔ	ʕ月 1J 日	ʕ/1ʔ	1J月 1ʔ 日	1J/1J	1J月 1J 日	1J/1J
ʕ月 1ɱ 日	ʕ/1ɱ	ʕ月 1ʔ 日	ʕ/1ɱ	1J月 1ɱ 日	1J/1ʔ	1J月 1ʔ 日	1J/1ʔ
ʕ月 1ᛏ 日	ʕ/1ᛏ	ʕ月 1ɱ 日	ʕ/1ᛏ	1J月 1ᛏ 日	1J/1ɱ	1J月 1ɱ 日	1J/1ɱ
ʕ月 1ʕ 日	ʕ/1ʕ	ʕ月 1ᛏ 日	ʕ/1ʕ	1J月 1ʕ 日	1J/1ᛏ	1J月 1ᛏ 日	1J/1ᛏ
ʕ月 19 日	ʕ/19	ʕ月 1ʕ 日	ʕ/19	1J月 19 日	1J/1ʕ	1J月 1ʕ 日	1J/1ʕ
ʕ月 1Δ 日	ʕ/1Δ	ʕ月 19 日	ʕ/1Δ	1J月 1Δ 日	1J/19	1J月 19 日	1J/19
ʕ月 1L 日	ʕ/1L	ʕ月 1Δ 日	ʕ/1L	1J月 1L 日	1J/1Δ	1J月 1Δ 日	1J/1Δ
ʕ月 J0 日	ʕ/J0	ʕ月 1L 日	ʕ/J0	1J月 J0 日	1J/1L	1J月 1L 日	1J/1L
ʕ月 J1 日	ʕ/J1	ʕ月 J0 日	ʕ/J1	1J月 J1 日	1J/J0	1J月 J0 日	1J/J0
ʕ月 JJ 日	ʕ/JJ	ʕ月 J1 日	ʕ/JJ	1J月 JJ 日	1J/J1	1J月 J1 日	1J/J1
ʕ月 Jʔ 日	ʕ/Jʔ	ʕ月 JJ 日	ʕ/Jʔ	1J月 Jʔ 日	1J/JJ	1J月 JJ 日	1J/JJ
ʕ月 Jɱ 日	ʕ/Jɱ	ʕ月 Jʔ 日	ʕ/Jɱ	1J月 Jɱ 日	1J/Jʔ	1J月 Jʔ 日	1J/Jʔ
ʕ月 Jᛏ 日	ʕ/Jᛏ	ʕ月 Jɱ 日	ʕ/Jᛏ	1J月 Jᛏ 日	1J/Jɱ	1J月 Jɱ 日	1J/Jɱ
ʕ月 Jʕ 日	ʕ/Jʕ	ʕ月 Jᛏ 日	ʕ/Jʕ	1J月 Jʕ 日	1J/Jᛏ	1J月 Jᛏ 日	1J/Jᛏ
ʕ月 J9 日	ʕ/J9	ʕ月 Jʕ 日	ʕ/J9	1J月 J9 日	1J/Jʕ	1J月 Jʕ 日	1J/Jʕ
ʕ月 JΔ 日	ʕ/JΔ	ʕ月 J9 日	ʕ/JΔ	1J月 JΔ 日	1J/J9	1J月 J9 日	1J/J9
ʕ月 JL 日	ʕ/JL	ʕ月 JΔ 日	ʕ/JL	1J月 JL 日	1J/JΔ	1J月 JΔ 日	1J/JΔ
ʕ月 ʔ0 日	ʕ/ʔ0	ʕ月 JL 日	ʕ/ʔ0	1J月 ʔ0 日	1J/JL	1J月 JL 日	1J/JL
9月 1 日	ʕ/ʔ1	ʕ月 ʔ0 日	ʕ/ʔ1	1J月 ʔ1 日	1J/ʔ0	1J月 ʔ0 日	1J/ʔ0
9月 J 日	9/1	9月 1 日	9/1			1J月 ʔ1 日	1J/ʔ1

cᴅəllcl ［化学］アメリシウム　1Δ: 制

cɑcɪ ［名詞］既視感、デジャブ、デジャヴュ、デジャヴ　［感動詞］「あ、この場面夢で見た」［レベル］3　古 :c/ɑcɪ（見た夢）

cφnɪʃ ［人名］イグナスト　J0　［文化］　(ɥəəᴅɪ ʔL0J:ɱJJᛏ) 神人貿易商の名士。ɱ1ʔ9 に神商会を設立。

cφɥe ［人名］イグレ　［組み数字］3／１３　［天文］イグレ座　［レベル］3　先 :ɪnɔ:cφɥeʃ　［文化］　第４期３代ソーン第３使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

cφɥeȷ ［人名］イグレス　［レベル］4　古　［文化］　イグレスタ共産圏を興した人物。

cφɥeȷʃɪ ［政治］イグレスタ共産圏、共産主義レジスタンス、社会主義レジスタンス　［政治］共産圏、共産主義　［政治］共産党　［レベル］4　古

cφɥeel ［アトラスの国家］イグレール　［レベル］5　J0:ȷeɥen: 古ファベル語で「共に分ける」。

cφl ［動詞］ɥəl と握手する、握手する　［普通動名詞］握手　［レベル］2　1ɱ: 制 :bcφlɪȷ から　［語法］　ɑɪl などと同じ格組で、姿勢動詞ではない。［文化］　カコで袖の中に刃物を隠し持っていないことをアピールするために、袖をまくって握手をしたことが発祥。その後袖をまくる習慣は残り、現代でもビジネスや社交の場で初対面の相手に袖をまくって右手を差し出す。同じ初対面でも友達づきあいやネットのオフなどではしない。握手は女性が差し出し、男性が受ける。また、目上が差し出し、目下が受ける。初対面以降はしない。握る力は緩めで、腕は振らない。

cφeɥ ［植物］クレソン　［レベル］4　古 :cφeɥ。φeɥ から。本当は ɪφeɥ のはずが、ɪφeɥ があったので cφeɥ になった。

cd ［生物］尻　［レベル］1　ɑ;e　初代アルカ（尻＝ cd。cd は桃の実。尻が桃の実の形に似ていることから。ちなみに桃の花は cdȷen）　cd: ə:lɪ dəəɥə

cdʅɪ ［生物］会陰　［レベル］4　1ʕ: 制 :cdʅ

cdl ［名詞］目盛り、調節目盛り　［レベル］3　1ʔ: 制 :cɑdɪl（程度の図）

cdȷ ［名詞］屁　［動詞］ɥəl に屁をこかせる、屁する、屁をこく　［レベル］1　1ʔ: 制 :cdȷɪd（尻の気体）

cdȷɪb ［被服］おむつ　［レベル］1　J0: 尻の服　［文化］　トイレは生後半年でしつける。１歳半～２歳でおむつを取る（日本だと２～２歳半。ただし昔はアルバザードと同じほど早かった）。欧米では日本よりおむつを外すのが遅いが、アルバザードではむしろ日本より早い。ちなみに欧米でもフランスは早く、アルバザードと同じ程度。【用例】ȷɪᴅ cdȷɪb　おむつを取り替える

cdȷɪcȷ ［生物］臀溝、殿溝。パンツを脱いだときの尻の皺のような線の部分。　ɥɑ;/　Jɱ

cdȷen ［エルト］イプセン　［レベル］4　ɑu;cd　ɥcɑcɪ: 古 : 古 cdȷen（桃の花）から　［文化］　桃と寿命を支配するエルト。

cdȷenʃ ［生物］殷門　J1: 坐骨神経痛などによいことから cdȷen

cdȷenʃ(J) ［被服］バッスル　ȷᴅ;cdȷen/ʃe　Jɱ　［文化］　地球ではヴィクトリア朝だが、アルバザードでは ȷᴅ 後期でできた。

cdȷenɑcɪn ［名詞］桃娘、イプセンフィアン　［レベル］6　zφ;/　Jʔ　［文化］　zφ のシージアで作られた奴隷。少女に桃などの果実ばかりを食べさせて育てる。するとその少女の汗や尿が甘くなり、これを舐めることに薬効があるとされ、妙薬とされた。だが実際には少女らは糖分の取り過ぎで糖尿病などになることが多く、視力を失ったり早死にしたりと散々な目にあった。無論薬効はなく、迷信にすぎない。しかし卑劣な一部の富裕層によって現在でも犠牲者が後を絶たない。一部の者は薬効ではなく性的な目的で少女らの体液を求めている。

cduɪcʅ ［生物］臀部、殿部　ɥɑ;/　Jɱ

cducᴅ ［生物］大殿筋、大臀筋　［レベル］5　Jɱ<JJ

cdᴅ ［生物］肛門　［類義語］dəəᴅ、ɑɪɪd　［レベル］2　ɥɑ;/ ↓　1ʔ: 制 :cdᴅɪl

cdᴅʅəʃɪ ［医療］肛門鏡、直腸鏡　［レベル］6　ɥɑ;/　Jʔ　［文化］　最古のものは zφ であり、現代と同じようなくちばしの形をしていた。

cdᴅuɪnɔ ［生物］承扶　J1

cdᴅɑeᴅe ［医療］肛門期　［レベル］5　JJ

cdᴅdcʃ ［医療］肛門科　［レベル］6　1L

cddc,ɪlʃ　nɔzl

cddcn ［植物］ウルシ、漆、うるし　［レベル］6　ʅʅ;cddcn.ʅ. ɪlʃ　JJ

cddcnɑclɑɪc ［医療］うるし灸　ɥɑ;/　Jɱ

cdzcɑ ［俗語］［生物］ケツアゴ　ɥɑ;/　Jɱ　［文化］　ケツアゴがあるのは不細工というイメージがアルバザードではなされる。

cdɪ ［医療］痔　［レベル］3　1ᛏ: 制 :cdɑɪcz

cdɔʃ ［格詞］～の中から　［レベル］2　J0:ɪlcȷ

cdɔʃen ［接続詞］cdɔʃ　［レベル］3　J1

cdɔn ［植物］チャイブ、アサツキ　［レベル］6　ɪlʅʃɪ

cb ［遊離副詞］敢えて、あえて　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :cbȷe（敢えて～する）［語法］　el 不要。【用例】ɪn ʅeʃ cb.　あえて行った。

cbȷɔɔl ［名詞］確信犯、故意犯　［類義語］lɪnɪȷɔɔl、cbɑcɥeʃ　［レベル］3　ɥɑ;/　Jʔ　［語法］　lɪnɪȷɔɔl

cbɑcɥeʃ ［法律］故意犯　［類義語］cbȷɔɔl　［レベル］4　ɥɑ;/　Jʔ

cbeʃ ［形容詞］［ネガティブ］未熟な、子供じみた、ガキくさい、幼稚な、児戯の、子供っぽい、お子様な、おこちゃまな　［形容詞］［ネガティブ］食べ物が未熟な、青い、若い　［類義語］lcs、ᴅɪebeeb　［反意語］benʃ　［レベル］2　J0: 制 ᴅcbɪ/ʃe（ガキっぽい）→ ᴅcbɪʃ → cbɪʃ（子音脱落）→ cbeʃ（母音を c に近付けた）。語源を古 ᴅcuɪ/ʃe と捉えることも可能。

cbel ɥənφe ［人名］イベル＝ユンゲ　J0　［文化］　(cᴅəl 1ʔʔ1:1ʔΔΔ) 数学者。アルナ大学の研究員。cᴅəl 1ʔ99 に対数を発見。cᴅəl 1ʔΔJ に常用対数表を作成。

chɔ,ɑu　ʅɔʅ、ȷɪcn　c/hɔ「固く見る→確認する」　赤のエクスプローダー

cXc,ɑu　hɔʅȷ、ᴅɪz

cɥᴅɪ ［単位］イルマ。回路のインダクタンス。　［レベル］6　古 :cɥᴅɪ。元は ccɥeᴅcɥə（電気変化）だろう。　［語法］　電流が毎秒１イーヴァの割合で変化するとき１イレットの自己または相互感応による起電力を作るような回路のインダクタンスのこと。ヘンリーと比較。

cɥɪ ［化学］良導体　［レベル］4　1ʔ

cɥcȷ ［天文］レーザー　［レベル］3　J1:cɥeȷ.ʅ

cɥɔȷ ［化学］イオン　［レベル］5　19: 制 :cɥeȷ

cɥɔȷʃɔʅɔ ［化学］イオン化傾向　［レベル］5　1L

cɥɔȷȷɪȷ ［化学］イオン化列、イオン化系列　［レベル］5　1L

cɥɔȷȷɪlcɪ ［化学］イオン結晶　［レベル］5　1L

cɥɔȷɥeuȷɪn ［化学］イオン反応式　［レベル］5　1L

cɥɔȷlɪbɪ ［化学］イオン化エネルギー　［レベル］5　1L

cɥɔȷɪɥʅ ［化学］イオン結合　［レベル］5　1L

cɥɔȷeᴅ ［化学］電離　［レベル］5　1L

cɥɔȷeᴅɪsɪ ［化学］電離度　［レベル］5　1L

cɥeʃ ［単位］イレット、電圧　［レベル］3　古　［語法］　導体の２点間に１イーヴァの定常電流が流れていて消費電力が１ルーヴであるときのその２点間の電圧。ボルトと比較。

cɥeʃcȷ ［魔物］イレティス（雷竜）：第五十一天：雷の衛天　［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ/ȷeɥen/ᴅel:ccɥe/ɑɥeʃcȷ　［文化］　雷属性の飛竜。白い肌で、

鱗はゴツゴツしていない。そのせいで一瞬鶴っぽく見える。一般に知能は高く、孤高な性格。ヒュート国で飼いならされる飛竜のルーツはこのイレティス。【成句】ʃe ıll cɥeʃcȷ ȷı ɑcıȷ 産まれぬ竜を数に入れるな：捕らぬ狸の皮算用

cɥel ［娯楽］スーパーボール ［経済］乱高下。株価がスーパーボールのごとく上下動することから。ȷɒ までは ɗıʃe と呼ばれた。 ［レベル］3 ul;cɥeȷ/φel。イレス神が角度を変えながら急速に移動することから。 ȷȷ

cɥeȷ ［サール］イレス ［魔法］召喚魔法イレス。イオン砲で敵を攻撃する。 ［レベル］5 ȷeɥen: 古 ［文化］ 青と赤の２色の球の形をしたサール。２つの球が絡まったときに現れる金色に輝く電気の紐の間からイオンを利用した大砲を放ち、敵を倒す。このイオン砲の威力は大きいが、連続がきかない。

cɥeɑ ［天文］カストル 1L:ɥcɑcı/ȷeɥen/ɒel ［文化］ ɑıcɥe

cɥeəȷ ［人名］イレウス ȷ0 ［文化］ (ɥəəɒı Ƥ110:) メルテナ後期のカルマント派教皇。

cz,ɑ ɑılȷ

czlɔ ［単位］イズコ ［レベル］5 ȷ1: 古 lccz/ 古 lɔue ［文化］ ınlɔ

cznı ［形容詞］革新的な、画期的な、斬新な、急進的な ［反意語］ȷɔɥıȷ ［レベル］3 1L:czɒ/nı

cznıʃc ［名詞］斬新性、斬新さ ［レベル］3 ȷȷ

czɒ ［政治］革命、革新 ［動詞］ɥəl（旧状態）を ı（新状態）に革命する、革命する ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :czɒcɥə czɒcɥə:czɒcɥə 【用例】 ɒc ɥɔl czɒıʃ ıʃɔlıȷ. ミロクはアトラスを革命した。 ʃə eʃ ɥeʃ ıllı lel dı ɥɒın en lıllеȷ dıɥɒ eʃ ɒɔı ueɥn ʃıcl ɑcı ȷcl uecn lɔlȷeʃ czɒ ɥənen ɒcɥɔlczɒ ɑı. ləəȷ en lıll ȷcl lıɒcʃc lılʃ ɥəu uclɣ 一番問題なのは日本人がこの国が既に崩壊していることに気付かず、世界がミロク革命のような革命で良くなることにすら気付いていない点だ。痛い目見るまで革命の大事さに気付かないのか？

czɒın ［政治］革命家 ［レベル］4 1L: リディアの書

czɒcɥə,ɑu czɒ cz/ɒcɥə

czıl ［医療］ばいきん、バイキン、ばい菌、黴菌、雑菌 ［類義語］ɑczcı ［レベル］2 zφ;ɑıczıclıc.l ȷʔ ［語法］［文化］ 人間の意図に反して増殖した微生物（特に有害な細菌や菌類）の総称。一般人はウイルスもここに入ると思っている。雑菌とばい菌の区別はない。 zφ では既に lcczc の魔法によってその存在が認識されていた。

czɔl,ȷzɑ ȷcnȷ c/ȷɔlȷ「見させる」

czeɒ ［政治］朝廷、朝 ［レベル］4 zφ;czɒcɥə（革命）.l ȷʔ

csc,ɑ ʕ elʃ;scs

coı ［形容詞］左右対称な、シンメトリー ［形容詞］性格がまっすぐな、一心な、一本気の通った、真っ正直な、真正直な→ ılce ［反意語］ılceʃ ［レベル］3 ɑ;c/oı 古 :coı。c は目だが、右や左といった意味があり、oı は手を意味する。これは本来は両手を意味する語で、そこから両手を合わせて左右対称であることを示すようになった。 coı:coı ［語法］ ılce

coılıȷ ［数学］二等辺三角形 ［レベル］3 1L

coıenlleed ［魔法］［化学］光学異性体、鏡像異性体 ［レベル］6 1L: 左右対称な異性体。

cl ［代詞］すべて、全員、皆、すべての ［レベル］1 ɑ;e（常に） 古 cl:cl:lə ʃɔl: 【用例】 cl lec すべての本 cl lənıʃ. みんな来た。

cl(ȷ) ［接尾辞］薬 ［類義語］dcʃı ɥɑ;<ȷzɑ「薬」 ȷɱ

cl,ȷzɑ ı, lɔɥ ıl,ɑu.l

cl,ɑ cl e

cl,ɑu cl

clʃ ［名詞］影響 ［動詞］ɥəl という影響を ı に与える、影響する ［法副詞］〜してある。影響相の副詞。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :clȷʃɔʃ（間接有縁） 【用例】 lı ɒcleȷ clʃ cʃen lııl ɔn ləcɔɒ. 彼女は食べ方が母親の影響を受けている。 ıləəʃel, lə eʃ lɔ lın l'clʃınɑ ıl ın ɔn ıln. セレンさんは間違いなく、私の考え方に影響を与えている人の一人といえる。

clʃncɑ ［言語］影響相 ［レベル］3 ȷ0

clʃueʃ ［言語］縁語、ゆかり語、えん語 ［レベル］4 ȷ0 ［語法］ ɔnueʃ のひとつ。elʃ と ȷııl は対になるが、lın と lınʃȷe は対になる動物ではない。lın の場合、対応するのは神なのか悪魔なのかヒトなのか、何が反対語になるか定めづらい。しかしこれらは外見上よく似ているので連想されることが多い。反義語ではないが関連はあるという場合にゆかり語とする。

clʃenuc ［名詞］影響力 ［レベル］3 ɥɑ;/ ȷʔ

clʃəl ［代詞］すべてのもの ［レベル］2 1L

clʃəleʃ ［代詞］すべてのものの ［レベル］2 1L

cll ［普通動名詞］冒険、探索、散策 ［動詞］ɥəl（場所）を冒険する、冒険する ［レベル］2 1ʔ: 制 :cblıɒcle（敢えて危険を冒す）

cll ʃ'ıɥle ［娯楽］アルシェの冒険 ［レベル］2 ȷ1 ［文化］『スーパーマリオ』に相当するゲーム。

cllınʃ ［歴史］皇帝、エンペラー、天皇、皇帝、帝、みかど、イルカント ［類義語］ɑəlɔ ［レベル］3 zφ;/ ȷ0: 皆が賛美を歌うような ［文化］ ɥəəɒı ȷ1ȷ0 にシフェランがヴェルディアン帝国とともに作った称号。王の上とされる。

cllınʃhılı ［政治］選帝侯 ȷɒ;/ ȷɱ

cllıɑ ［政治］全国、万国 ［形容詞］国際的な、インターナショナルな ［レベル］2 1L ［語法］「国際的」に当たる言葉がアルカにはない。全国的ないしアトラス的で国際的を指す。

cllıɑı ［政治］国際連合、国連、国際連盟 ［レベル］4 ȷȷ:「全国旗」［文化］ 第二次世界大戦後にできた機関。戦勝国が常任理事国を務めるシステムだったが、その後敗戦国からも大国が常任理事国入りした。地球同様、全国家が参加しているわけでない。

cllɔɥləueɥ ［名詞］悪口雑言、罵詈雑言 ［レベル］3 ȷȷ:「全方向悪口」

cllɔɥlcl ［名詞］試行錯誤 ［レベル］3 ȷȷ

clleı ［地名］イルケア ［文字］ヴェネチアン。セリフの一種。イルケアでよく使われた。 ［レベル］3 古 : すべて行くが原義 ［文化］ ルークスの南、ワッカの北の交通要所。アルバザードほぼ中央の少し南よりにある。語源の通り交通の要所で、国のへそとなっている。首都アルナは北寄りなので、アルバザードはイルケアを中心に東西南北を決める。重要なのは南北で、東西はさらに詳しく述べるときしか用いない。北部はアルナ、アルシア、ドフレットなどがある。南部はワッカ、カテージュなどがある。

clleıȷ ［被服］チュニックスーツ ȷ1:clleı/ 古 ȷıbe

cllıɒ ［名詞］満場一致 ［レベル］3 ȷȷ

cllc ［美容］オールバック ［レベル］4 ȷ1

clȷ ［形容詞］直接的な ［反意語］ɑɥcȷ ［レベル］3 古 :ȷɔɥn では直接は ılȷ。アルシェでは直接は clȷ。その後アルシェがソーンに譲る形で clȷ を間接に変更。n 対ができる前のことだから、n 対としてではなく。 【用例】 ɥen le ɑellı clȷel. 直接学校に行ってくれ。

clȷleu ［言語］直喩 ［レベル］5 1L

clȷɒıne ［生物］内分泌 ［レベル］5 ɥʃ;/。導管を経由せずに直接、血液中や体液中に分泌されることから。 ȷɱ

clȷɒınedınʃ ［生物］内分泌系 ɥʃ;/ ȷɱ

clȷɒcnıl ［政治］直接民主制、直接民主主義 ［レベル］4 1L

clȷɑclɑıc ［医療］直接灸、点灸 ɥɑ;/ ȷɱ

clȷφclɑ ［経済］直接金融 1L

clȷɥəlueʃ ［言語］直接目的語 ［レベル］6 ȷ0

clȷılʃ ［名詞］毎年 ［レベル］2 1L:ȷɔnɔhcnɔlc ［語法］ ʃıʃ ȷılʃ ということも多い。

clȷeʃ ［生物］膏肓 ［レベル］6 ȷ1: 皆殺し 【成句】 cl ȷeʃ ɥə cɒ leun lənı clȷeʃ 病が膏肓に来れば皆死ぬ：病膏肓に入る

clȷeɥ ［企業］イルセル ［レベル］3 ȷ1 ［文化］ 朝日新聞、読売新聞に相当する企業。

clȷeɥl ［親族］血族 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃʃ

clȷel ［名詞］毎日 ［レベル］2 1L ［語法］ 副詞句として「毎日」というときは、ʃıʃ ȷel ということも多い。 【用例】 ın nı bəənı ɒın clȷel eʃ lɔl. 毎日が同じでつまらない。 lı lənı clȷelel{cɒ clȷel}. 彼は毎日来る。

clnılcɥcȷ ［音楽］交響曲、交響楽、シンフォニー、シンフォニア、イルナシリス ［レベル］4 ɥɑ:ɒclɑ;cl/nı/clcɥcəȷ「皆の心を反映する」。一丸となってひとつの楽曲を演奏するというところからミルフがそのように名付けた。 ȷʔ

clncın ［名詞］［ネガティブ］無職、ニート、ＮＥＥＴ、自宅警備員 ［類義語］ɒclıb ［レベル］3 ȷȷ:「毎日が日曜日」

cluı ［悪魔］イルヴァ ［歳時記］雷曜日。週の第６日目。 ［音楽］ラ ［組み数字］6／7 ［レベル］2 ɒelʃcı 0:cluı;e ȷɔɥn: アルシェ形は ccɥl で、ccɥl の元は ccɥeıl（雷の者）。ccɥe は雷。 ［文化］ ソームの６番目。雷を操る。雷のように立った髪の毛が特徴的な男。全身に電気を帯びている。中肉で筋肉質な裸体。お調子者。よく笑う。元気。激しやすい性格をしている。イルヴァの発言がきっかけとなり、ヴァステが開戦した。

cluıɒıuc ［化学］コバラミン ɥʃ;/「コバルトのビタミン」 ȷɱ

cluıφıl ［気象］雷鳴 ［レベル］3 1L: イルヴァの叫び 【用例】 cɒ ɑəɥne, ccɥe ıʃ ȷɔɑ, ɥın cluıφıl ʃın. 夜、稲妻が走り、雷鳴がとどろいた。

cluıdcnɑ ［魔法］コバルト針 ［レベル］6 ȷ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

cluıɥed ［気象］稲光 ［レベル］3 1L: イルヴァの点滅 【用例】 ın nıʃ ueɒ ɒcl cluıφıl ɥənen ȷcı lcen cluıɥed. 稲光の後のごろごろいう雷鳴を聞いておじけづいた：この ȷcı は太鼓のこと。

cluılcl ［化学］コバルト ［レベル］4 1Δ: 制

cluıeȷl ［気象］激しい雷雨、サンダーストーム ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥb ıleʃʃ 【用例】 cluıeȷl ɑɔʃ ȷcl ȷɔɑ cɒ ȷııɒ ʃel senʃdɔɥllıl. 天気予報で午後激しい雷雨があると言っていた。 ın nıʃ cluıeȷl ȷcl ȷɔɑ. 激しい雷雨が降りそうな天気だった。

clucl ［名詞］満身創痍、ズタボロ。ʃcl。 ［レベル］3 ȷȷ 【用例】 ın lɔlʃcl ɥı ɔl clucl. 満身創痍で帰宅。

clueʃ ［言語］語彙 ［レベル］5 1L ［語法］ 日本人は語彙を単語の難しい言い方だと思っているものが多いが、この命名だとアルカでは一目瞭然。 【用例】 clueʃ ȷɔɥ たくさんの語彙、大きな語彙。単語をひとつずつ積み上げると塔のように堆くなることから。 clueʃ hıcʃ 貧弱な語彙

clueʃɑel ［言語］語彙論 ［レベル］6 1L

clɑı ［医療］敗血症 ［レベル］6 1L:cl/ɑıcz

clɑılʃc ［経済］全面高 ［レベル］6 ȷȷ

claeɥ ［人名］イルフェル 古 :c（右の）/laeɥ（ルフェル）。男は右に立つことからこちらが父親。 ［文化］ アルフレインとマルテの父親。シオンもイルフェル自身もマルテの父親であることを知らない。妻のエルフェルにアルフレインを設ける。

claeɥ(ɺ) ［経済］全面安 ［レベル］6 ɺɺ
claelcɉ ［名詞］完全無欠 ［レベル］3 ɺɺ:「十善すべて揃った」
clɒ ［名詞］全体、部分に対する全体、すべて、全て、全部、総合 ［副詞］全体的に ［反意語］uıcʅ ［レベル］2 1L:cl ［語法］ cl はすべて。clɒ は部分に対する全体。【用例】 sın ıſ eɉdſe clɒel. 全体的に曇っていた。
clɒʅııɒc ［名詞］総合科学 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］ 物理化学生物などを広くしばしば浅く学ぶ学問のこと。
clɒʅeu ［言語］部分から全体への提喩、シネクドキー ［レベル］5 1L ［語法］ zıɒ lənıɥ（足が来る）は「人が来る」の意味なので、全体を部分で比喩している。この逆が uıcʅʅeu。
clɒlɔne ［数学］標準偏差 ［レベル］6 1L:ɉeɥen:cl（すべて）でなく clɒ（全体の）
clɒnɔl ［数学］母集団 ［レベル］5 1L
clɒnɔlıll ［数学］母数 ［レベル］5 1L
clɒɑcſ ［経済］売上高 ［レベル］5 1L
clɒɑɔıl ［経済］総資産 ［レベル］5 1L
clɒφıb ［経済］売上原価 ［レベル］6 1L
clɒdıɉe ［料理］全粒粉 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ ［文化］ dıɉe
clɒdılɒ ［政治］公共の福祉 ［レベル］4 1L: 全体を優先 ［文化］ 歴史的にアルバザードは個人主義だが、有事のときは急激に公共の福祉を優先させる習慣がある。
clɒı ［経済］有価証券、証券。特に区別なし ［レベル］5 1L:φcl/ɒıɉ。φ から始まるのが多いので避けた。
clɒıɥſ ［魔法］全体魔法、全体かけ ［レベル］4 ɺɺ
clɒıɥl ［経済］総資本 ［レベル］5 1L
clɒc ［ユマナ］イルミ ［レベル］6 古 ［文化］ リーザの日記。かつてその一部をリディアが親子喧嘩の際にアシェットにバラまき、リーザが激怒した。
clɒcnı ［政治］結社 ［アクセント］clɒcnↆ ɉzl ɺɱ
clɒcɥɔʅ ［政治］イルミロク ［名詞］全知全能。すべての神というところから。 ［レベル］3 古 ［語法］ ミロク＝ユティアが創設したアルティス教系政党。メル暦 ʔ10 年頃創立。ʔ1ɺ 年の与党勢力ミナレットと当時野党であったアルティス教系政党の腐敗が著しくなったことにより、唯一のまともな政党として注目を集め、ʔɺ0 年の選挙により与党となる。その後野党を粛清し、選挙制度を廃して独裁政権を握った。
clɒc ıʅcnıɉ ［人名］イルミ＝アキナス ［レベル］6 ɺ0 ［文化］ (cɒəl 1ɺ٩L:1ʔɱΔ) ラグナロク校の卒業生で、ワゼット等の発明者。歯車式計算機を発明するが、国家反逆の罪を着せられ処刑。
clɒəɉ ［名詞］イルムス ［レベル］3 1L:ɉeɥen:cɒəl/ɉeſı（イムルの歴史書） ［語法］ メル 1L 年にセレンが「青本」やリディアの指示を反映して作成したアトラスの歴史書。はじめは青本の変更点を口頭で聞いていたが、まどろっこしくなったのでリディアが青本を元に執筆。その後、セレンが修正を加える形で書きなおした。
clɑc ［動詞］ɥəl にあこがれる、あこがれる、憧れる ［名詞］憧れ、憧憬 ［類義語］ɉccnı ［レベル］3 ɺ0: 古 ſlcl/ɑcı（幻想を抱く） ［語法］ 人に対しては、同性の場合尊敬を持って「彼のようになりたい」と思うこと。異性の場合、「とても自分では釣り合わないが、恋心を抱きうる相手だ」と思うこと。物に対しては「手に入らなそうだが欲しい」こと、「恩恵や影響を受けたい」こと。出来事に対しては「なりそうもないが起こってほしい」こと。【用例】 ʅɒccɥ clɑc ləſcı. クミールはルティアに憧れている。
clɑclız ［地学］［歴史］シルル紀 ［レベル］6 ul;/ ɺʔ ［文化］ φııueɑeɒe
cldıɉɉɔ ［感動詞］大丈夫です、そうです、そうだ、平気 ［レベル］1 ɑu; cl/dıɉɉɔ「すべてそうである」 赤 ［語法］ dıɉɉɔ の強意。肯定文だと大丈夫ですやそうですの意味。疑問文で使うと「 ～でよろしいでしょうか 」という確認の意味になる。意味が強いだけでなく、ɉɔɔnɔ を ɉɔ ɔnɔɥən というような丁寧さも兼ねそろえている。
cldc ［植物］ローズマリー ［レベル］3 lıʅſı
clbılſ ［物理］全反射 ［レベル］4 1L
clbılſſcʅ ［物理］臨界角 ［レベル］5 1L
clhınɔc ［人名］イルハノイ ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ hıɾd
clɥınſe ［企業］イルランテ ［レベル］6 ɺ1 ［文化］ 三井不動産に相当する企業。
clzɔɒı ［化学］ペルオキシ基 1L
clzɔɒc ［化学］ペルオキサイド ［レベル］6 1L
cllın ［代詞］全員 ［レベル］2 1L
cllınſ ［代詞］全員の ［レベル］2 1L
clıʅ ［数学］右下がりの斜線 ［反意語］ıleɑ ［レベル］3 ɺ0:c lınʅ（左から）
clıl ［経済］棚卸し ［レベル］5 1L:cl/ıll（すべてを数える）
clcɉ ［名詞］いたずら、悪戯 ［動詞］ɥəl にいたずらする、いたずらする、悪戯する。dcld と同じ格組。 ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:lcleɉ ［語法］ dcld より少したちが悪い。相手を困らせてやろう、そしてその反応を見ようという意図。
clcı ［形容詞］唯一の、たったひとつの、たった一人の、唯一無二 ［類義語］hɔſ ［レベル］2 古 ɉɔɥn ［語法］ hɔſ は客観的に「唯一の」という意味。clcı は「たった一人の弟」のように、やや心情が篭った言い方。【用例】 ɒcuı clcı 一人娘 ɥəlcın clcı 一人っ子 "ɥı. lıɑın ʅəſ ɑce, ɥəl ɑce clcı l'eſ lecz ſcɉee.「そう。創造主はうそをついたんだ。たったひとつの小さな嘘を。
clcıɒɥəʅıle ［宗教］唯一神教 ［反意語］ɑcɒɥəʅıle ［レベル］3 ɺ0
clcıɒcɥɔʅ ［宗教］唯一神、一神 ［反意語］ɑcɒcɥɔʅ ［レベル］3 ɺ0
clcc,ɑ L elſ;lccs
clccɥe ［エルト］イルイーレ ［魔法］召喚魔法イルイーレ（ラムウ）。雷を起こして敵を攻撃。 ［レベル］4 古 : すべての雷 ［文化］ 雷をつかさどるエルト神。白いローブをまとったひげの長い仙人のような姿をした老人。長い杖から雷を落とす。
clccɥen ［地学］藍晶石 1L:clccɥe/ɥen ［文化］ イルイーレの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。
clcɔn ［名詞］版面→ lec ［レベル］6 ɉɒ;clcɔn,ɉzl ɺɺ
clcɔn,ɉzl eel ɉcʅı/lɔnſ
c lɔcſ ［名詞］社説 ［レベル］5 1L ［文化］ アルバザードでは、新聞の「会社より」欄のこと。ニュース記事と一緒にアンセに配信される。【用例】 ın en ʅılɒı cɉʅ c lɔcſ. ほとんど社説を読まない。
cle ［地名］イレ ［経済］証券取引所 ［レベル］5 ɺɺ:ɥcɑcı:「cluı の子」。散々リディアもセレンも株に手を出しておいて今までアルカで決めていなかったということは、完全にアルカと金稼ぎを分離していたことの表れだろう。ɺɺ によく使う株関連の用語を幻英から転記。ただしなぜか証券取引所などがなかったため、これについてはリディアが創作。 ［文化］ eeſ ＜町＞ 中央アルナ市北東部に位置した町で、ʅʅ にできた。町長 cle の名から来ている。交通の便から ɥſ で金融街となり、現在はウォール街に相当する場所に発展している。現在は統廃合を繰り返した結果、ul で ɥɥəɉcın 市に吸収された。リュシアン市内の町名として今も残るが、現在では証券取引所の意味で用いられることのほうが多い。 ＜取引＞ 前場は９：００から１１：００。後場は１２：３０から１５：００。
cleſ ［代詞］皆の、全員の、全部の ［レベル］2 ɺ0:ɉeɥen/ɥcɑcı:cl/ſe
cleɉſcı ［名詞］津々浦々 ［レベル］4 ɺɺ
clen ［経済］［ランドマーク］イレン証券取引所 ［レベル］5 ɺɺ:cle/en ［文化］ cle 東証、東京証券取引所に相当する場所。
cleucſı ［名詞］総当り戦、グループトーナメント、リーグ戦 ［レベル］5 ɥɑ;/「全員と戦うトーナメント」 ɺɱ
cleɥʅ ［名詞］老若男女 ［レベル］3 ɺɺ
clə,ıſſ cn c
cc ［言語］c の文字 ［レベル］1 1ɱ: 制 ［語法］ 第２２文字目の幻字。２番目の母音字。
ccɉɔɉ ［宗教］神官 zφ;「見て行う者」 ɺɱ
ccnı ［サール］イーナ ［レベル］5 ɒel: 古 ［文化］ サールの少女。兄ナッシュを彼のフィアンセに奪われたくない一心で誘惑し、姦淫させる。このときイーナはナッシュと永久に一緒に居続けることを願う。が、エルトに２人は切り殺されてしまう。しかしイーナの願いが利き、２人の切り落とされた半身は互いにくっつき、cnl というサールになった。
ccuı ［物理］アンペア ［レベル］4 1ɱ: 制 : 古 :ccɥeucuc（電気の強さ）
ccɑı ［人名］イーファ ［魔法］イーファ（コメテオ）。時空を歪めて隕石を落とす時魔法。メルは異性魔王ジール戦で習得した。 ［組み数字］９／１１ ［レベル］3 古 ［文化］ (ɥəəɒı ʕL٩) ɥəəɒı ʕL٩ アンダント、シルフィアとの間に息子 ccɑı を授かる メテの父親。ドゥルガの王アンダントの息子。ルーキーテを妻とし、ヴィーネとの和解を目指して異母兄弟のハーネを暗殺。後にルーキーテがウロに敗れると殉死した。
ccɑcʅ ［植物］マンゴスチン ［レベル］3 1ʕ: 制 :ccɑcɉ から
ccɑcɉ ［エルト］イーディス ［レベル］3 ɒelſcı ɺɺ:ccɑcɉ;e ɥcɑcı: 古 : 外見は５歳時のメルがモデルになった ［文化］ ５歳程度の幼女の姿をしたエルト。妊娠を司る。長い黄色の髪の毛で、青いフリルの着いた可愛い洋服を着ていていつもにこにこしている。愛情で結ばれた、子を持ちたい夫婦を見つけると、妻の腹に走りこんでいき、腹の中に空気のようにすうっと入って消える。そうすることによって女は妊娠する。イーディスは苺が好きなので（モデルのメルが苺が好きだったため）、子を持ちたい妻は苺を食べることによって自分の腹の中にイーディスを呼び込もうとするようになった。リディアが苺を選んだのは妊婦がすっぱいものを欲しがるからというのもあるのだろう。イーディスはオトギリソウからできたパルテの娘で、オルトの助けを借りて生まれた。オルトに不敬を働いたパルテは不妊の罰を与えられた。それを許してもらおうとオルトを探している途中でパルテは毒蛇プティンに足を噛まれてしまう。パルテの兄カルファンは彼女の足を切り落とすと、その血がオトギリソウにふりかかった。パルテは足を切られたショックで死んでしまい、それにみかねたオルトがせめて娘を持たせてやろうといい、そのオトギリソウの根っこにイーディスを作った。
ccɑcɉſcɑl ［医療］流産 ［レベル］3 1L: 妊娠中はイーディス神が宿っていると考えているため。
ccɑcɉɒılɉ ［普通動名詞］できちゃった結婚、でき婚 ［レベル］3 ɺɺ
ccɑcɉcn ［植物］オトギリソウ ［レベル］4 1ɱ: 制 :ccɑcɉɒcnı（イーディスの花）
ccɑel ［人名］イーデル ［組み数字］８／１４ ［レベル］4 古 : 語源不詳。本名不明 ［文化］ 第４期３代アルシェ第８使徒。リュウの父親の妹といわれている。アルシェの資金調達の説明の際に必ずリュウの家柄が出てくるが、リュウの父母はアシェットに直接関係がない。そこで鎹として説明されるのがこのイーデルなのだが、リディアでさえ会ったことがない。
ccɑellcl ［化学］テルビウム 1Δ: 制
cchıl ［人名］イーハル ɺ0 ［文化］ (ɥəəɒı ʕ0ɺ1:ʕɺɺʕ(ʕɺɺɺ:ʕɺɺʕ)) カコ前期

のヴェマ女王。　ɥəəᴅı ʕ0ʃ1 クリウス、娘の cchıl を授かる　ɥəəᴅı ʕɬɬʕ イーハル、ツェリン前線でまさかの戦死。ヴェマに衝撃が走る

cchɔ,ɑu　ɹeʃe　chɔ,ɑu の女性形　赤のエクスプローダー

ccµe ［気象］雷、稲妻、雷鎚、いかづち、雷槌 ［魔法］イーレ（サンダー）。雷の多段黒魔法。雷で敵を攻撃。 ［レベル］1　ɑ;e　先　ccµe:ccµe:lə bcleɔ:ıuıµ,µ᷄l(hɥ), eʃıµ᷄l,ul 【成句】 ccµe lə᷄lɔ elɑ zɔᴅ ᷄lɔ᷄l µıɹ ʃı. 雷は同じ木に二度落ちない：同じ悪いことは二度ない。 【用例】 ccµe lənı᷄l. 雷が鳴る。　ccµe lə᷄lɔ᷄l ʃ. 雷が ʃ に落ちる。

ccµeɹ ［人名］イーレス ［組み数字］6／１１ ［レベル］3　古 :µcɑcı:ccµe(雷)/ɹ ← ʃcɹ（人） ［文化］ アルシアの６番目。雷の魔法の大成者。男性。

ccµeɹ uıᴅı ［人名］イーレス＝ヴァマ　1L:clᴅəɹ:µcɑcı ［文化］ アルティル期の建設庁長官。メル２１５年にアルバ１６世による「アルナ再建令」が発令。インフラ事業を推進したイーレスだったが、メル２１７年に高官の息のかかった業者ばかりに受注を取らせたことで、メル２１９年に選挙制と民主主義を求めるミナレットに暗殺された。

cczel ［人名］イーゼル＝ルティア、イーゼル、イーゼル大臣 ［レベル］6　古 ［文化］ リーザの叔父。リュシオン王の弟。ルティアの大臣。

ccscɹ ［名詞］有効打、ヒット ［動詞］ɥəl に有効打を与える、有効打を与える ［形容詞］（ın で）有効打を与えるような、非ストライクな ［ユベール］［運動］有効、技あり。柔道や空手やユベールなどの有効や技あり。 ［野球］ヒット ［類義語］ɗeeφ ［反意語］ʃµeᴅı ［レベル］3　ɑu;ccµe/scc/ɹɔ「雷で引き裂くような」 ʃ᷄ɱ ［語法］ クリティカルでない一撃のこと。　転じて、好みなどにそこそこ当てはまること。

ccləə ［人名］イールゥ ［組み数字］１０／１５ ［レベル］4　᷄lı᷄lɔ: 古アルカでの意味は「正義」。 ［文化］ メテの第１０使徒。

ccləəʃɔ ［地名］イールゥート ［人名］パールのアルカ姓 ［レベル］4　᷄lı᷄lɔ ［文化］ メテの使徒イールゥの支配地。

ccləəʃɔ(ʃ) ［アトラスの国家］イールゥート ［レベル］4　᷄lı᷄lɔ ［文化］ 面積：ٳ1ٳ?ٳɬ.ٳ0ٳL?ٳ ᷄lᴅ ʃ

ccləəʃɔʃc᷄le ［地学］イールゥート海流　ʃ?

ccləəʃɔcɑı ［地球の星座］［ユマナ］インディアン座　ʃ᷄ɱ ［文化］ cɑı

ccləəlcl ［化学］カリホルニウム　1Δ: 制

ccɔ ［感動詞］どういたしまして ［レベル］2　ɑ　1ɱ: 制 : 古 :ccɔ,ccɔn

cɔ ［名詞］両方、双方、両側、両面 ［形容詞］両方の ［反意語］᷄lɔl ［レベル］1　ɑu;ce.cɹʃ　ce:cɔ　1?: 制 :ce: 古アルカでは「両方」は ce。ce は「両目」の意。 ［語法］ ２つあるもののうちどちらもという意味。 【用例】 cnɹ cɔ 両目

cɔʃced ［建築］管渠、かんきょ。開渠と暗渠の総称。 ［レベル］5　µɑ;/　ʃ?

cɔɹ ［動詞］［非言語］ɥəl に両膝を地面につきＬ字型の姿勢を取らせる、膝立ちする、膝をつく ［レベル］2　ʃ0:ᴅelcɑcı lceµ:cɔ/ᴅcl᷄l 【成句】 cɔɹ ɥən ɑeµɑen フェルデンのように膝立ちする：首を洗って待っている。ルフェルに殺されるときフェルデンが泉のほとりで膝をついて祈っていたことから。

cɔɹel ［魔法］双魂、イオセル ［レベル］5　ʃ1:cɔ/ɹeleɹ ［文化］ ᴅılʃccı

cɔn ［感動詞］どういたしまして ［レベル］2　古 ［語法］ ccɔ より軽い。

cɔn(ʃ) ［単位］イオン ［レベル］5　ʃ1:「両方の」 ［文化］ ın᷄lɔ　ʃ ulın のこと。天秤が壊れていないか調べるときに両方の皿に ulın を乗せたことからきている。やがて ʃ ulın よりも日常生活で使い勝手の良い重さとして（日常生活 ulın は軽すぎ、数が多くなりがち。かといって bɥəlɔn だと逆に重すぎるため）、古代の重さの最頻単位となった。

cɔuclɑ ［論理］［哲学］二律背反　nɑ;cɔ/uclɑ。正命題・反命題のどちらにも証明できる矛盾の一種であることから。 ［語法］ 正命題、反命題のどちらにも証明できる矛盾・パラドックスのこと。しばしば勘違いされるが単なる矛盾・パラドックスではない。

cɔɑµec ［アイテム］両手剣　ɹᴅ;/　ʃ᷄ɱ

cɔᴅɔzɔᴅ ［医療］両手挿管法。鉞の。　µɑ;/　ʃ᷄ɱ

cɔhcᴅ ［生物］［形容詞］両性、両性体、アンドロギュヌス、アンドロギュノス ［レベル］5　ʃ?

cɔocl ［医療］両性愛、バイセクシャル、両刀 ［レベル］4　µɑ;cɔhcᴅ/ocl　ʃ?

cɔl ［音楽］全音 ［レベル］5　1L:cɔ

cɔılɑıl ［天文］金環皆既日食 ［レベル］5　ʃ1

cɔeµıʃ ［化学］両性。酸にも塩基にも溶ける。 ［レベル］5　1L

ce,ɑ　cɔ、ɹınl　c/e　原義は「右目と左目」で、cɔ はその異形態。cɔ は既に ɑu に存在したと推論される。その論拠は単位の cɔn に見られる。語としては ce のほうが古いため、cɔ が先にあって ᷄lılce などに使われる ce が lɹ_ıµ でできたというのは誤り。

ce᷄l ［名詞］カッター ［レベル］2　1?: 制 :ce᷄lcl（片方の刃）

ceɑµec ［アイテム］バスタードソード　ɹᴅ;ce,ɑ/ɑµec。グレア以降、鎧が進歩して、それに対抗するためにできた片手でも両手でも用いることのできるハイブリッドな剣。　ʃ᷄ɱ

celı ［動物］オヒョウ、おひょう ［レベル］6　1ʕ: 制 :celc

celc ［動物］カレイ ［レベル］4　1ɱ: 制 : 古 :celc（右目の魚）

ɔ

ɔ ［接続詞］〜と、〜かつ〜、と、かつ ［論理］連言、強連言、同階層連言 ［類義語］ɔnʃ ［レベル］1　1ɱ: 制 : 恣意　::e, enʃ:ɔ,ılʃ ［語法］ 名詞と名詞、形容詞と形容詞、動詞と動詞、目的語名詞と目的語句など、同じ階層の語句同士を結ぶ連言。　ʃ ɔ ᷄l ɔ l と書いて "ʃeɹ ᷄leʃ ɔ lıl" と読む。ɔ を読むのは最後だけになる。　動詞が並ぶと書き方が少し変わる。「食べて飲んで寝た」の場合、᷄ləcʃ, lenıʃ, ᴅɔ᷄lıʃ と書いて "᷄ləcʃ lenıʃ ɔ ᴅɔ᷄lıʃ" と読む。　語源欄などでは / を ɔ の代わりに使うこともあるが、本文中では稀。　特に数字の中では使わないほうがよい。数字と組み合わせると / は割り算なので、絶対に和算のつもりで使わないこと。　母音の前では ɔnʃ になる。ᴅcc᷄l ɔnʃ ıdleɹ。　黙字の場合でも書記上は ɔnʃ の必要があれば ɔnʃ とする。　ᴅcc᷄l ɔnʃ ıdleɹ ɔ lcɹc᷄l において読むのは最後の ɔ だけ。　ᴅcc᷄l ɔ lcɹc᷄l ɔnʃ ıdleɹ の場合、読むのは最後の ɔnʃ だけ。

ɔ(ʃ) ［数学］ɑɔ᷄l の略。数式で使う。＋記号に等しい ［レベル］2　1L

ɔ,ɑ　ᴅɥəʃ　e

ɔ,ılʃ　e

ɔʃcl ［論理］内包 ［反意語］ɑɔneʃ ［レベル］5　ʃ0:ɔ᷄l/ʃcl（ともに持つ）

ɔʃel ［形容詞］流暢でない、たどたどしい、ぎこちない ［反意語］e᷄lɔɹ ［レベル］3　@ 1L ［語法］ 同じぎこちないでも、c᷄lɹ は物がつっかえたり、心が気まずい様子。ɔʃel はつまっていなくても物の流れがガコガコしていたり、喋りがたどたどしいこと。

ɔ᷄l ［格詞］〜とともに。具格、道具格。 ［格詞］（装身具などを）身に着けている ［格詞］（目や髪などを）している、持っている、有している ［反意語］leɑ ［レベル］1　1ɱ: 赤 :᷄lɔ᷄l᷄lɔ　:::᷄lɔ᷄lɔ,ılʃ 【用例】 lı ᷄leʃ ɔ᷄l ʃcın. 彼は恋人と行った。　ɑcın ɔ᷄len ıılɹıb よそ行きの格好をした少女　uc᷄l ɔ᷄len cnɹ ɹɔµeʃ 青い目の男　czᴅ ɔ᷄len φıµu 痛みを伴う改革

ɔ᷄lʃ ［動詞］ɥəl を ı に伝える、伝える、伝言する、教える、（あくびが）うつる、告げる ［名詞］伝言、メッセージ、連絡 ［物理］伝播 ［レベル］2　1ɱ: 制 : 恣意　参考 : 古 :he᷄lı（手紙）　he᷄l:he᷄l ［語法］ ＜ɔ᷄lʃ と leln＞　leln は情報やデータが相互に往来する様を示す。ɔ᷄lʃ は片方からもう片方に情報やデータを送ること。 【用例】 ın ɔ᷄lʃ uın lın ı lı lc ɹɔɔʃ. 来週彼に真実を伝えるつもりだ。

ɔ᷄lʃɑeɹ᷄l ［名詞］マスメディア、伝達媒体 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ［語法］ 新聞、テレビ、雑誌などの総称。これらはいずれも何らかの媒体（紙だったり電気だったり）だが、いずれも情報の伝達のため使われる。そのため ɔ᷄lʃɑeɹ᷄l という。

ɔ᷄lʃµıɔdınɑ ［生物］ｍＲＮＡ、メッセンジャーＲＮＡ　µʃ;/ 核外のリボソームに伝達することから。　ʃ᷄ɱ

ɔ᷄lʃıµ ［物理］導電部　ʃ1

ɔ᷄lʃɔ ［物理］信号 ［レベル］3　ʃ1:ɔ᷄lʃ

ɔ᷄l᷄lɔlᴅ ［政治］共和、共和制、共和政治、共和国 ［レベル］4　1ɱ: 制 : 共に統治する

ɔ᷄l᷄le ［動詞］ɥəl に ɔ᷄l と随伴する、随伴する ［シェルト］随伴 ［レベル］4　µɑ;/　ʃ?

ɔ᷄lɹ ［名詞］取り分、分け前、分担、担当分 ［格詞］〜につき ［レベル］3　1ɱ: 制 : 恣意 【用例】 ʔ0 ɔ᷄lɹ φıl １００個につき３０個

ɔ᷄lɹ᷄lɔʃ ［数学］パーミル、千分率 ［レベル］5　1L

ɔ᷄lɹφıl ［数学］パーセント、百分率 ［レベル］3　1ʕ: 制 ［語法］ 表記は％の文字と同じでよい。 【用例】 ʔ0 ɔ᷄lɹφıl ３０％

ɔ᷄lɹφcl ［経済］配当金、配当 ［レベル］6　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ ［語法］ 印税や株の配当金などがこれに当たる。

ɔ᷄lɹφcllcᴅ ［経済］インカムゲイン ［レベル］6　1L

ɔ᷄lɹıᴅe ［言語］具格 ［類義語］᷄lɔnɹıᴅe ［レベル］6　ʃ0

ɔ᷄lɹen ［接続詞］ɔ᷄lɹ ［レベル］3　ʃ1

ɔ᷄lnı ［動詞］ɥəl（内容や相手）に共感する、共感する ［普通動名詞］共感 ［レベル］3　1ɱ: 制 : 一緒の心 【用例】 ın ɔ᷄lnı ʃc. 君に共感するよ。

ɔ᷄lnın ［名詞］共感者 ［レベル］3　ʃʃ

ɔ᷄lɥəlɑ ［名詞］同僚の研究員、同僚、研究員 ［レベル］4　1L:lcɔn

ɔ᷄lɥəlcı ［アトラスの国家］オキュリア ［レベル］4　ʃ?:µcɑcı

ɔ᷄lµı ［普通動名詞］同居 ［動詞］ɥəl に ɔ᷄l と同居する、同居する。動詞を µı にしても ɔ᷄lµı にしても意味は同じ。 ［反意語］leɑµı ［レベル］4　µɑ;/　1L:ᴅelcɑcı ılʃe

ɔ᷄ll ［動詞］ɥəl を ɔ᷄l と共有する、共有する、わかちあう、分かち合う ［普通動名詞］共有、共通、共用、公共 ［形容詞］共有の、公共の、公共物の ［レベル］3　1ɬ: 制 :ɔ᷄lʃcl（共に持つ） 【用例】 ın ɔ᷄llıʃ eɹn ɔ᷄l hıɗn. 友達と傘を一緒に使った。　ın ɔ᷄llıʃ lıl ɔ᷄l hıɗn ɥəl nɔɹ nı nıə. 喜びを友達と分かち合いたかった。　cl ʃclıʃ nıl uɔl ɔ᷄ll ɑce ı. cl lıµıʃ ɑce ɹcl µəl cᴅ le ɔl cl lıɑ ɔn᷄l ɑce ɹecn" みんなは嘘を吐き合うことで安心したんだ。みんなが同じ嘘を言えば、いつかその嘘が本当になるんじゃないかって思ったんだ」

ɔ᷄llʃµcᴅ ［化学］共有電子対。状態でなく物質としての電子対。 ［レベル］5　1L

ɔ᷄l᷄l᷄lılc ［料理］取り箸、さえばし、菜箸、取り箸、取りばし、とり箸 ［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbıleʃ

ɔ᷄llɹıʃı ［地学］［歴史］［生物］共通祖先　ul;/　ʃ?

ɔ᷄llɑeɹʃ ［数学］公約数 ［レベル］3　1L

ɔ᷄llhınʃ ［数学］公倍数 ［レベル］3　1L 【用例】 ʕ0 eʃ ɔ᷄llhınʃ e 1ʃ ɔ ɬ ɑı. ６０は１２と５の公倍数だ。

ɔ᷄llɥıᴅe ［名詞］ヴェリブ、共有自転車 ［レベル］3　ul;/　ʃ?

ɔ᷄llɥıᴅe᷄lı ［名詞］共有自転車置き場 ［レベル］3　ul;/　ʃ?

ɔ᷄llıbɹıʃ ［名詞］同僚 ［レベル］3　ʃ1

ɔ᷄llıµ᷄l ［電算］ＵＳＢ、ヨ#B、ユニバーサルシリアルバス ［化学］共有結

合 [レベル] 3 1L

ɔlliɰlɒil [電算] ＵＳＢメモリ [レベル] 4 ıl;/ Jʔ 【用例】 eu ɔlliɰlɒil ı ɟıc. パソコンにＵＳＢメモリをさす。 ın le uın ɰıφnıılɾe ɑɰeɒen ɰı lını ɾıb φıɰɾ ɾ'ɔlliɰlɒil cɒ lejɾ. 明日近居の家電量販店へ ƎⱯB メモリの値段を調べに行く。

ɔlleɒ [音楽] 伴奏 [動詞] ɥəl を伴奏する、伴奏する [レベル] 3 1ɱ: 制 : 共に演奏する。

ɔlleɰl [名詞] 公衆風呂 [レベル] 3 1L:clɒəɟ:ɰcɑcı

ɔlı [天文] 宇宙、大宇宙 [レベル] 2 ɑ;ɔ/lı「距離のある場所」 1ʔ: 制 : 最も（広い）ところ ɔılı。 [文化] dılɾ

ɔlıləlılı [料理] 宇宙食 [レベル] 4 JJ

ɔlıle [名詞] 協会、アソシエーション ɰɑ;/「ともに協力して作る会」 Jʔ

ɔlın [名詞] 宇宙人 [レベル] 3 ɰɑ;/ Jʔ

ɔlıɑel [天文] 宇宙学としての天文学、天文学 [レベル] 5 1ʕ: 制

ɔlıs [交通] 宇宙船、スペースシャトル [レベル] 3 1ʕ: 制 l:ɔlı/sıɒd

ɔlcncɟ [組み数字] １３／１５ [レベル] 4 古 : 語源不詳。『カコ』から。小説アンクノットに記載。ueɰs はルージュの名から後付けたもので、現実の『カコ』に出てくる名ではない。

ɔlcncɟ ueɰs [人名] オキニス＝ヴェルジュ [組み数字] １３／１５ [レベル] 5 古 : 語源不詳。『カコ』から。小説アンクノットに記載。ueɰs はルージュの名から後付けたもので、現実の『カコ』に出てくる名ではない。 [文化] メテの第１３使徒。

ɔlcncɟlcl [化学] メンデレビウム 1Δ: 制

ɔle,ɑ lɥə（そこ） ɔ（距離が）/le（行く→離れた）

ɔlen [接続詞] ɔl。～を伴って。 [レベル] 2 J1

ɔlel [代詞] あんな場所、あんなところ [副詞] あんなところで。el 不要、lı 不要。 [類義語] lɥə [反意語] bele [レベル] 1 JJ;ɔlelı,ɑ.l JJ

ɔlelı,ɑ lɥə ɔle/lı

ɔlɾı [生物] 脾臓 [レベル] 3 1ɱ: 制 :ɔlɾ（きれい）から。「 綺麗にする身体部位 」

ɔlɾc [医療] リンパ [レベル] 4 1ʕ: 制 :ɔlɾ から。リンパ液が栄養を運んだり老廃物を運び去ることから。

ɔlɾcɑcbc [医療] リンパ系 [レベル] 5 1L

ɔlɾclıφıl [生物] リンパ節 [レベル] 5 1L:ɟeɰen

ɔlɾclıφılɑıcz [医療] リンパ節炎 [レベル] 6 1L:ɟeɰen

ɔlɾclɔɰ [医療] リンパ管 [レベル] 6 1L

ɔlɾclɔɰɑıcz [医療] リンパ管炎 [レベル] 6 1L:ɟeɰen

ɔlɾceɰ [医療] リンパ液 [レベル] 5 1L

ɔllı [形容詞] 無名な、有名でない [反意語] eɟɾc [レベル] 3 @ J0

ɔɟɾ [名詞]容量、内容量 [電算]容量、データ容量 [レベル]3 ɰɑ;hɔɟ/ɑə「容器の量」 Jɱ 【用例】 ɔɟɾ ɾcn 大容量

ɔɟɾcɰ [アトラスの国家] オスティール [アクセント] ɔɟɾ€ɰ [レベル] 5 1L:ɰcɑcı: 岬

ɔɟɾcı scleel [人名] オスティア＝ジレール [レベル] 6 J0 [文化] ラグナロク工科大学の設立者。ルシフェル魔法学校の卒業生で、魔動銃の発明者。出身は ɒcɟɾceɾ。

ɔɟl [形容詞] 清潔な、綺麗な、清浄な [動詞] ɥəl をきれいにする、きれいにする、綺麗にする、掃除する、清浄する [類義語] eɰceɾ、uınɾıs [反意語] elɾ [レベル] 2 @ 1L lcɒc:lcɒc:lcɒc:lclclə,ılɾ [文化] 掃除機が普及しているので手軽に行える。家族共通の部屋は誰かが掃除するが、個室は基本的に使用者が掃除する。少なくとも週に一、二回ほど掃除をする。日本と違って年に一回大掃除があるわけではない。偶々家族が多く揃った日にたまに思い出したように大掃除をする。タンスなど、家具をどかせたりして隅にたまった埃を除去する。 【用例】 ın ɟɔlɟıɾ ıɰəəs ɔɟleɒ ez. 弟に部屋の掃除をさせた。

ɔɟllɔɰ [名詞] 上水道 [レベル] 4 1L:clɒəɟ:ɰcɑcı

ɔɟlıle [名詞] 美化委員会 [レベル] 3 1L:ɰcɑcı:ıɰbılelɾ

ɔɟlıɰ [名詞] 掃除機 [レベル] 2 1L:ɰcɑcı:ıɰbılelɾ [語法] 持つ部分は ɾclı。ホースは lɔɰ。パックは ɒeɟl。ヘッドは ləɾı。本体は ɒıcn。コードは ɟɔlz。スイッチは dınl。

ɔɟlelɾ [名詞] 衛生 [レベル] 3 1L:ɰcɑcı:ıɰbılelɾ

ɔɟleɰ [名詞] 上水 [レベル] 4 ɰɑ;/ Jʔ

ɔɟn [生物] 頭 [電算] ホストコンピューター [言語] 頭文字、イニシャル→ ɔɟnhıɾl [レベル] 1 ɰɑ 1ɱ: 制 lɔ:lɔ:lı lɔnɾ（頭と腹は中心なので母体） 【成句】 ɔɟn e ɰenɟ 開口一番 ɔɟn lıc 頭でっかち 【用例】 ɔɟn ɑɔllɔ 石頭

ɔɟnɾınɾɔı [魔法] 頭殻、トップノート [レベル] 5 J1 [文化] ɑɔlɒcɥə

ɔɟnɾcs [言語] 頭韻 [レベル] 4 Jʔ

ɔɟnleɰɾ [約物] (、（記号、思う括弧 [反意語] ləleɰɾ [レベル] 3 J1

ɔɟnlezl [生物] 頭索 1L

ɔɟnɟılɟ [魔法] 頭行 [レベル] 6 J1 [文化] ɑɔlɒcɥə

ɔɟnɟıb [被服] 貫頭衣 ɰɑ;/ Jɱ [文化] 神代からあった。

ɔɟnɟeu [言語] 前文 [レベル] 4 J1

ɔɟnuıcl [生物] 頭部 ɰɑ;/ Jɱ

ɔɟnueɾ [言語] 頭語 [レベル] 5 J1

ɔɟnɑecɒ [名詞] ヘッドホン、ヘッドフォン [類義語] ɾeɒɑecɒ [レベル] 3 J1

ɔɟnɒeu [言語] 接頭辞 [レベル] 4 1L

ɔɟnɑılɾ [政治] 文官 ɰɑ;/ Jɱ

ɔɟnbıɑ [武道] 頭突き、ヘッドバッド [レベル] 3 ɰɑ;/ Jʔ

ɔɟnhıɾl [言語] 頭文字、イニシャル [反意語] heɾhıɾl [レベル] 3 JJ:ɒel

ɔɟnhıɾlueɾ [言語] 頭字語、アクロニム [レベル] 5 ɰɑ;/ Jʔ [文化] 表意文字の幼字を使っていた時代は頭文字を一字ずつ取るという発想自体がなかった。表音文字を使うようになってからも言語文化の基底に幼字が残っていたため、頭字語は流行らなかった。ɟɒ では京極の流入もあり、余計流行らなくなった。アルカになってからも流行っていない。 ・現実では 古アルカが幼字を使っていたため、頭字語はできにくかった。制アルカになって幻字ができてもアシェットのメンバーは頭字語を嫌った。頭字語は単語を見て意味を推測できない。意味のないものは受け付けないという習慣が多国籍団体のアシェットにはあったようである。また、制アルカは n 対語のせいで意味が逆になる単語が同じ頭文字を持つため、頭字語の作りようがなかったのも原因と考えられる。

ɔɟnhɔ [生物] 頭蓋骨、頭がい骨 [レベル] 3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɔɟnɥıc [医療] 頭痛 [レベル] 2 1ʕ: 制 : 頭痛 【用例】 ın leɾ ucl lɥə ɒcl ɔɟnɥıc. 頭痛のせいでそこに行けなかった。 ın nı ɔɟnɥıc ɒcl lıɒcl ɾə senɾ. 頭痛がするのは天気のせいだろう。 ın nıɾ φıɰu ɒcl ɔnɟɥ ıc. 頭痛で苦しんだ。

ɔɟnɰecɾ [言語] 文頭純詞 [レベル] 4 JJ [語法] 一部の形容詞は副詞や文頭純詞の用法を持つ。 例えば ııl は形容詞としては「特別な」、文頭純詞としては「特に、とりわけ、中でも」、副詞としては「特別に」という意味を持ち、それぞれ文法的な使い方やニュアンスが異なる。 ɟel ııl 特別な日 ııl, lı eɾ hıl. 特に彼は優秀だ。 ın leɾ ılɔlı ııle ᛕ{ılɟ}lɔlel} cɒ ɑcɟ. 今日は特別に（普段と違って）遊園地へ行った。 ııl のような例は他にも lclɟ, lɔɔɾ, ıd, lecɒ, len, ɒɔn などがある。いずれも文頭純詞と形容詞で少し意味が異なる。

ɔɟnɰecn [言語] [文字] アセンダーライン J1

ɔɟnzed [数学] 暗算 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 頭の計算

ɔɟnscɒuılɟ [医療] 耳鼻科、耳鼻咽喉科 [類義語] ɔɟnscɒuılı、ɾeɒdcɾ [レベル] 3 JJ:「頭部の腔を扱うもの」

ɔɟnscɒuılı [医療] 耳鼻科、耳鼻咽喉科 [類義語] ɔɟnscɒuılɟ、ɾeɒdcɾ [レベル] 3 JJ:「頭部の腔を扱うもの」

ɔɟnıɰucs [約物] [、[記号 J1

ɔɟnelɾ [生物] ふけ、フケ [レベル] 3 1ɱ: 制 : 頭の汚れ

ɔɟɔ [料理]ぬか、糠、ブラン [レベル]3 1ʔ: 制 :lılɾı:ɥɔφɟɥɔl「 搗かれた皮 」。同じ語源で「 精白 」もある。

ɔɟɔı,ɑ Δ elɾ;ɟɔıs

ɔn [動詞] ɥəl を ı に関係させる、巻き込む、干渉する、絡む、からむ、関わる [格詞] ～に関係して、～に、～が、～へ、～について、～に関して [形容詞] 関係している、有縁な、関与している [類義語] ıcl [反意語] ɒecl [レベル] 1 1L: 恣意 【用例】 ɰıɾ ız en ɰıɾ ɑe ɔn. lın ız en lın hɔɾ eɾ ɔn ı. いいとかよくないとかの問題じゃなくて、そうなるかならないかの問題なんだよ。 ın nı ɥıc ɔn leɒ. 胃が痛い。

ɔn(J) [接尾辞] 草木を示す 制

ɔn(ʔ) [化学] 三重結合、アルキンの接尾辞。 1L:ɰɥəə

ɔn(ɱ) [単位] １０ [レベル] 1 J0: ソーンが０を ɥəə にした結果、それまでの ɥəɰ と混同を避けるために暫定的に用いた ɔn が正規に採用されたもの。ɔn はンムトが言い出したもので、分数の ən をアプラウトしただけのもので、ただの区切りを指したものだそうだ。 ılı:ɾɔ,lɟl ɾɔɔ,ıɰɑ:ın,ılɾ

ɔn,ılɾ ɔ

ɔnɾ [接尾辞] 自然分詞。開音節では nɾ になる。 [レベル] 2 1L: 恣意。J1 まで再帰動名詞。 [文化] → cuı 【用例】 ɾel ɒeɾɔnɾ 落ちる葉

ɔnɾ(J) [接続詞] ～と [レベル] 1 JJ [語法] ɔ

ɔnɾɥəɔ [言語] 自然動詞、脱使役化動詞 [レベル] 4 ɰɑ;/ Jɱ

ɔnɾɔ [名詞] 十数、十数個の [レベル] 2 J1

ɔnɾel [接尾辞] 自然動名詞を作る。開音節では nɾel になる。 J1:ɔnɾ<1L: 恣意 [文化] cuı 【用例】 ɒeɾɔnɾel 落下 ɰcφɔnɾel 故障

ɔnl [動詞] ɥəl を続ける、続ける、続く [普通動名詞] 継続 [副詞] ～しつづける [名詞] 続き、つづき [名詞] 連続、連載、シリーズ、連続もの、連続モノ、連続物、続き物→ ɔnlɔl [反意語] ɒıl、ɑıcɒ [レベル] 2 1ɱ: 制 参考 :ɟɔɰn:dlce（単発）。非 lcɒe（時を切らない） [語法] ɒıl 【用例】 lə ɑcɰeɾın ɟeɾ ɔnlel ɟelın. この犯人は人を殺している。ɟeɾınɑ にすると今まさに目の前で何人も殺しているというイメージ。こちらは警察の会議室で「この犯人がここのところ何人も殺している」などと言っているイメージ。 lı ɥəcɾ lııl ɔnlel. 彼は母親を探し続けた。 el cn ɟen ɔnl e ɾə llɔı ıɾə. この物語の続きはこちらでご覧いただけます。 el cn ɟen ɔnl e ɾə dcɰ lɔn ɾɔɑ. ＣＭの続きはｗｅｂで。 ɾc ɟeɰ ɔnl e ɾə llɔı ınɒcıɤ この物語の続きを知っていますか？。「この物語のシリーズを」と言うときには ɔnlɔl として区別するのが通常。ɔnl でも良いが解釈が一意的でなくなる。

ɔnlncɑ [言語] 継続相 [レベル] 4 J0 [語法] 行為動詞の・状態動詞の一端、実行段階・事後段階の一端、内相の一端。 「～してある、～している」という意味。

ɔnlɥəɔ [言語] 継続動詞 [レベル] 4 J0 [語法] 例外動詞の別称。意味を重視したネーミングである。

ɔnlıɰɾ [魔法] 連続魔 [レベル] 4 J1 [文化] ɑɔlɒcɥə

ɔnlɔ [音楽] イレブンス J1

ɔnʅɔl ［名詞］連続、連載、シリーズ、連続もの、連続モノ、連続物、続き物、シリーズ物、ナンバリング← ɔnʅ ［レベル］３　⅃1

ɔnnı ［文末純詞］だよなぁ、だよね。共感の文末純詞 ［レベル］１　⅃0:ᴅe lcɑcı lceɥ:ɔn/nı（関わった心）参考 :nıı:1Δ:ɥcɑcı:nı。nı と区別できないため変更。　::nın:ɥəɥı,ıIʃ ［語法］ 疑問文だと共感を求める言い方になる。平叙文だと相手に共感する言い方になる。 【用例】 ʃə eʃ ɥıʃ ɔnnıɤ これいいだろ？

ɔnueʃ ［言語］関連語 ［レベル］４　⅃0 ［語法］ 類義語、反意語、ねじれ語、縁語の総称。

ɔnuenʃ ［経済］関連会社 ［レベル］５　1L

ɔnɑcʃ ［経済］営業外収益　1L

ɔnφıʅ ［経済］営業外費用　1L

ɔnbel ［植物］榎、えのき、エノキ ［電算］スパム、スパムメール ［レベル］４　ʅʅ;ɑφn｜ıl; スパムは大量に受信者の意向を無視して送られるメールなどのことで、それらの大量のメールが幹からたくさんの枝が生える榎に喩えられ、榎でスパムを指すようになった。　⅃⅃

ɔnleᴅ ［音楽］十重奏、デクテット　ɥɑ;/　⅃ʔ

ɔnen ［接続詞］ɔn。～に関する。 ［レベル］２　⅃0:lcɔn 【用例】 ȷlıc ɔnen elɑ 言語に関するＨＰ

ɔnen(⅃) ［名詞］関係者 ［反意語］ᴅeclen　ɥɑ;/　⅃ʔ

ɔu ［動詞］ɥəl を動かす、動かす、動く ［普通動名詞］移動 ［再帰動名詞］［自然動名詞］動作、アクション ［シェルト］動かす、打つ。駒を動かすこと。 ［類義語］ləəl ［反意語］enɔu ［レベル］１　ʅʅ;ɔu,ᴅe.ʅ　先 :ɔu。古 :ləə,hɔlɔ（動かす）。初代アルカで動かす ɔu で、雨が ɔu の語源。　hɔlɔ,ɑ:ləə ,ɑɥɑ::ɔᴅı,ıIʃ ［語法］ ある物体が静止しないこと。場所を移すという意味では ləəl だが、ɔu で ləəl を表すこともある。動作が ɔu で、移動が ləəl。違いが分かりにくいが、例えば手を動かしたら ɔu で、家から学校に行ったら ləəl。　ソリは自分で動かないので sclc eᴅ ɔu。ɔu は移動のニュアンスが薄いので、sclc eᴅ ɔu というと滑っていくイメージというよりは壁にたてかけたソリが風で動いたなど、「動いた」のイメージになる。むろん文脈があれば「滑る」にもなる。 自動車はエンジンで動くが意思がないので ıᴅɔ eᴅ ɔu。トラックが車を引っ張って動かしていれば運転手とのメトニミーあるいは擬人法で ʅıᴅɔ ɔu ıᴅɔ。 【用例】 ıʅ el ɔu nɔȷ ȷɔɑel 動きやすさ、動きやすい　ᴅcɥ nıᴅʃ ıʃə ᴅın ɥıφnı ınɑ ɔu. ここでは機械が動いているので注意してください。　el ɑɥeᴅ lcn ıl ıᴅɔ ᴅın ʃə eᴅ φılɑ ɔu. 車が動くと危ないので近寄らないように。

ɔu,ᴅe　eȷʅ

ɔuȷʅcl ［名詞］車いす、車椅子 ［レベル］３　⅃1

ɔunıɑ ［名詞］エスカレーター ［レベル］２　1L:lecn

ɔunıᴅ ［生物］運動神経 ［レベル］３　1L ［語法］「運動神経がいい」というような使い方はしない。→ uıuenuc

ɔuuelʃ ［地学］氷河 ［レベル］３　1L

ɔuᴅcɥəȷın ［物理］運動方程式　1L

ɔuᴅcɥɔʅ ［宗教］動力神　ɥɑ;/　⅃ⅅ

ɔuᴅeȷıɥəɔ ［言語］移動様態動詞　1L ［語法］ ləʅ,leɑ,leɥn のような動詞。ɥəl に移動経路が来る。

ɔuɑɔıl ［経済］流動資産 ［レベル］６　1L

ɔuɥəɔ ［言語］移動動詞　1L ［語法］ ʅe, lənı, ləʅɔ, leeu のような動詞。ɥəl には目的地が来る。

ɔuɥccɑ ［経済］流動負債 ［レベル］６　1L

ɔuzelɔ ［生物］小脳 ［レベル］４　1L: 運動の脳

ɔusılɭɔl ［医療］移動盲腸　1L:ȷeɥen

ɔulıbı ［物理］運動エネルギー ［レベル］４　1L

ɔulcuı ［娯楽］アクションゲーム ［レベル］３　⅃1

ɔuleul ［医療］運動障害 ［レベル］６　1L

ɔuı ［格詞］例えば ［名詞］例、実例、見本、凡例、例示、標本 ［名詞］辞書の用例。本辞典では【用例】タグで検索できる。アルカはアプリオリなので、日英語と構文や表現の異なることが当然ある。差が小さい場合は良いとして、差が大きい場合は注意すべきである。そこで、日本語とも英語とも大きく構文の異なるアルカらしい文については☆をつけた。また、構文は複雑でなくても、アンティスが深く絡む場合は☆をつけた。☆を検索することでアルカ独特の言い回しを検索できる。【成句】はもともとオリジナリティが高いので☆をつけなかった。　［反意語］ılɔuı ［レベル］２　ȷɔɥn　oɔ:oɔ:ɔuı ［語法］ ɔuı ᴅccʅ oen のように、ɔuı と oen を組み合わせるのはよくある間違い。 【用例】 ın ȷccnı uınʅ ɔuı ᴅccʅ. りんごなどの果物が好きだ。

ɔuıʅ ［形容詞］武装した ［軍事］武装 ［反意語］ılɔuıʅ ［レベル］４　ɥɑ;ɔʅ/uıʅ「武器を持った」 ⅃ʔ

ɔuıɥ ［名詞］エンジン ［レベル］３　⅃0

ɔuıɥınȷ ［普通動名詞］敷衍、ふえん、例解 ［動詞］ɥəl（敷衍対象）を ʅɔɥ（聞き手）に向けて ı（敷衍結果）に敷衍する、敷衍する、例解する ［レベル］５　ɥɑ;/　⅃ʔ

ɔuıen ［接続詞］ɔuı ［レベル］３　⅃1

ɔuc ［組み数字］２／２８ ［交通］オヴィ通り ［名詞］オヴィ組。アルナ大のクラス。 ［レベル］２　⅃⅃

ɔucʃ ［建築］アース ［レベル］４　制 : 古 :ɔuc から。アースと避雷針は同じだった。

ɔucʅ ［普通動名詞］討伐、成敗 ［動詞］ɥəl を討伐する、討伐する、成敗する ［レベル］４　1ⅅ: 制 : 古 :ɔuc（遠くへ力をもっていく）

ɔuc φııuc ［人名］オヴィ＝ガーヴィ ［組み数字］２／２８ ［レベル］２　ȷe ɥen,φcl,ɥcɑcı: オヴィは不詳。ガーヴィは９年。セレン、ギル、リディアで冠した名で、「 根性 」の意。ただ、オヴィの古アルカでの意味は「 討伐 」になる。 ［文化］ (ʃcɑ Δ ɥıl lcn →) 第４期４代アルシェ第２使徒。男性。ıɥɑen/ılben。１８０ｃｍ、８０ｋｇ。髪は白味がかった金でツンツンしていて短く、ややくせっ毛。青の瞳。肌は白 : 黄＝８ : ２。 【成句】 ɔuc, φcl, zını ȷeɥn ȷen leȷ ᴅel ȷɔ ucl オヴィとギルとザナでメルにも思いつかないことを思いつくことがある : 三人寄れば文殊の知恵

ɔucz ［建築］避雷針 ［レベル］４　1L:ɔucʃ/zɔn

ɔuceʃ ［名詞］疾風迅雷、電光石火 ［レベル］３　⅃⅃:「オヴィのような」

ɔueʃ ［名詞］乾電池 ［レベル］３　1ʔ: 制 :ɔueʃeȷe（乾いた電池） 【用例】 ɔueʃ ᴅcnıʃ 持ちの悪い乾電池

ɔuez ［名詞］物干し竿 ［レベル］３　1ʔ: 制 :ɔuezɔn

ɔuel ［形容詞］［ポジティブ］大胆な、大胆不敵な、豪快な、スケールの大きい ［反意語］eleɑ ［レベル］３　⅃0:ɔul:1ʔ: 制 : 使徒 ɔuc から ［語法］ ɔuel（大胆）と eleɑ（慎重）、ȷcnıᴅ（軽率）と uenıᴅ（臆病）のペア。 ɔuel は大胆で豪快でスケールの大きいさま。人や付属物を取る。ᴅcn ɔuel は豪快な女、ɑıȷ ɔuel はスケールの大きな仕事。

ɔuelcı ［アトラスの国家］オヴェリア ［アクセント］ɔuElcı ［レベル］５　⅃ʔ:ɥcɑcı

ɔɑel ［動詞］［武道］ɥəl を ı に投げる、投げる ［武道］投げ技 ［レベル］３　⅃0:ᴅelcɑcı lceɥ:hɔl/ɑed

ɔᴅ ［文頭純詞］いつ。文中でも使える。 ［レベル］１　1ʔ: 制 :ıᴅ（どこ） cᴅı:cᴅı 【用例】 ın ȷeɥıʃ lıl ɔᴅ ınȷ leeu. いつ出発するのか知りたかった。

ɔᴅ(⅃) ［接尾辞］方法を表す接尾辞、方法 ［レベル］２　ȷɔɥn:ɔᴅ（方法）

ɔᴅʃıl ［名詞］［文頭純詞］いつだろうと、いつであろうと、随時 ［レベル］２　1ٯ: 制

ɔᴅʃılᴅıl ［電算］ＲＡＭ、ランダムアクセスメモリ ［レベル］５　1L

ɔᴅʃɔ ［人名］オムト ［組み数字］２／１３ ［天文］オムト座 ［レベル］３　先 : ınɔ:əᴅʃɔ ［文化］ 第４期３代ソーン第２使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɔᴅʅı ［電算］ハードウェア ［レベル］４　＠ 1L

ɔᴅʅıᴅıl ［電算］ハードディスク、ＨＤ ［レベル］３　1L

ɔᴅı ［動物］イヌ、犬 ［名詞］バック。性交の体位のバックのこと。 ［類義語］beɔᴅ　ɑu;ɑɔueʃ。鳴き声から。 ［レベル］１　1ʔ: 制 : メルの飼っていた犬の名がコーマ。コーマはアルカの音象徴らしい。　ɔᴅı:ɔᴅı: :bıə,ıIʃ ［擬声］ ının（小型～中型犬、通常）oɔnoɔn（大型、通常）bı əφıə（怒り）ıcnıcn（悲鳴）ıɔɔn（遠吠え）nɥəən（くーん、という弱腰な声）hıhhıh（はっはっという息遣い） ［文化］ 人気のあるのは茶色い柴犬。キルト神のモデルに形が似ているため、好まれる。忠実で大人しい犬が好まれる。あと、コーマが小さな白いもふもふの猫だったため、その手の犬も人気。うるさいので狭い集合住宅では倦厭されるが、その他では飼える。本来忠実な生き物なので、飼い主に従うように厳しく躾ける。日本と違って甘やかしたりせず、かなり厳しく育てる。言うことを聞かせるし、罰を与えるし、甘やかさない。子供の育て方と似ている。大人にとっては犬を躾けることは子供を躾ける訓練になると考えられている。だからこれから子供を作ろうとする夫婦は手始めに犬を飼って躾けることを覚える者が多い。犬の躾は行き届いているのでロープがなくても散歩させて安全である。人に吠えたり噛んだりといったことはないように育てる。散歩は必ず行う。大抵は集合住宅内の庭で行う。歩道を散歩させる人は少ない。　・性交の体位　恐らく日本ほど好まれない。素人の女性だと特にそうだが、性器や肛門の匂いが上がってきて男性側が不快に感じることが多いため。ソープ嬢などは性器を洗い慣れているのと、短期間で何度も性器を洗浄するため、バックでも匂いが少ない。素人の恋人などはそういうことがないので、軽くシャワーを浴びた程度では性器の匂いが取れず、バックで動かしていると結構きつい。特に朝、起き抜けでシャワーを浴びずにやったときとか。 【成句】 ɔᴅı lıu bıɑ ɥə うるさい犬は叩かれる : 雉も鳴かずば撃たれまい　ɥɔn lel ɔᴅı 犬のように扱う : 木で鼻をくくる。ɥən の後に相手を入れる　ɔᴅı cun ʅılᴅı φııl. 弱い犬はしばしば吠える : 弱い犬ほどよく吠える。日本語と同じ感覚。まさに言い得て妙。　ɔᴅı nɔzeʃ ɑɔφ lıȷ. 自分の犬が手を噛む : 飼い犬に手を噛まれる、飼い犬に手をかまれる 【用例】 nɔn nıʃ eᴅʃ ʃccnı ᴅcl ɔᴅı le nɔn lııd leeu ıʃɔlıȷ. 愛犬が死んで、とても悲しかった。　ɑcn ʃə ɔᴅı φııl ıl ın ləʃel, cᴅ ɥəl lə φııl elɑ cᴅ ɑcȷ. この犬いつも吠えてくるのに今日は吠えてこない。

ɔᴅı,ıIʃ　ɔu

ɔᴅıʃıIʃ ［名詞］犬派、イヌ派 ［レベル］５　1L

ɔᴅıɥıᴅc,ıIʃ　lıleuecz　/

ɔᴅıɔhɔ ［医療］ジフテリア ［レベル］５　1L:ȷeɥen: 犬の声のような咳が出る

ɔᴅc ［建築］扉、戸、ドア ［格詞］～である前に、～である以前に ［シェルト］扉駒。扉駒の行動可能なマスの軌跡が古アルカで扉を表わす hɔᴅɥə（制アルカでは ɔᴅc）の字形と同じであることから。 ［生物］Ｘ染色体 ［類義語］ılɑcı ［レベル］２　ɑ;hɔ は「固い」。ᴅɥə は「ない→見えない」。「固くて中が見えない」｜ʃᴅ;「～の扉にいる→～の前にいる」というところから「～である前に」というメタファーに転じた　1ʔ: 制 : 古 :hɔ（固い）ᴅɥə（見えない）「固く閉ざされていて見えない」 hɔᴅɥə:hɔ ᴅɥə ［文化］ 部屋に入ってドアを閉めるときは後ろを向いて閉める。常に前を向きながらだと相手を信用していない意思の現われとなる。アメリカのエレガントとされる礼儀とは逆。　あらゆるドアは常に閉めておかれる。開けるのは通過するときと空気を入れ替えるときのみ。個室には常に鍵がついている。　男性は女性のためにドアを

開けて "ʅeʃʃı" と言う。女性は遠慮をせず会釈をして通る。目下は目上よりも後に通るが、目上のためにドアを開けることはない。この習慣は相手がドアの向こうから来るときも同様。なお、男性でも身体障害などがあればこの限りではない。また、ᴅılʃ 未満の子供もこの限りではない。 【用例】 ınȷ eʃ ıl ᴅclaın ɔᴅc leucınıʃ. 我々は人工言語屋である前に芸術家であるべきだ。 nɔn eʃ ᴅcn ɔᴅc lııl. 私は母親である前に女だ。

ɔᴅcʃ ［言語］目的語← ɥəl ［反意語］ȷɔc ［レベル］4 ȷᴅ;ɔ/ᴅɥə/ʃe「距離がありここに無い物との関係」 ɭʔ x:ɔᴅcʃ:ɔᴅcʃ:ɥələn,ılʃ ［文化］ ȷɔc

ɔᴅcȷ ［動詞］ɥəl をなめす、なめす、鞣す ［レベル］5 ɭɭ:hɔɔᴅc/ȷɔ「柔らかくする」

ɔᴅcȷɑenʅ ［名詞］なめし革、鞣し革、なめし皮、なめしがわ ［レベル］5 ɭɭ

ɔᴅcȷıl ［化学］タンニン ［レベル］5 ɭɭ:ɔᴅcȷ/ 古 ıl「なめすもの」。革を鞣すのに使ったことから。

ɔᴅcuceɑ ［名詞］美人局、つつもたせ ［レベル］5 ɥɑ;/。ドアを蹴破って部屋に入って恐喝に出るところから。 ɭʔ

ɔᴅce ［言語］内項。意味上の目的語。 ［反意語］ȷɔcʃ ɥɑ;ɔᴅc/eʃ ɭʃı

ɔᴅceɥəɔ ［言語］非対格動詞、所動詞。主語になるものが意味上の目的語である動詞。 ［反意語］ȷɔcʃɥəɔ ɥɑ;/ ɭʃı

ɔᴅɔ ［形容詞］眠い、（ɔᴅɔın で）眠くさせるような ［動詞］ɥəl を眠くさせる、眠くさせる ［反意語］ılɔᴅɔ ［レベル］1 ıʔ: 制 : 希望 / 眠る←幻日のこの説明がよく分からないので語源不詳。 【用例】 ın eᴅ ɔᴅɔ ȷɔɑ el. 私は眠たがりだ。 ın nı ɔᴅɔ ɔl ʅəc hıɥl ıʃc ɑc. 昼ご飯をたくさん食べると眠くなる。 lıl ɔᴅɔın 眠い授業 nını ɔᴅɔ 眠たがっている赤ん坊、眠い赤ん坊 ın eʃ ɔᴅɔ enʃɔ neʃ ɥcȷ ı. 眠くて起きたくないな。 ın eʃ ɔᴅɔ ɥıʅ enʃɔ cȷʅ ucl lec. 眠すぎて本も読めない。 ın eʃ ɔᴅɔ ʃcnʅı enʃɔ lıl ucl neʃ ɑclel uecn. 眠すぎてもう起きていられない。

ɔᴅɔnı ［名詞］眠気、眠さ ［レベル］3 ɥɑ;/ ɭʔ 【用例】 ʃcl ɔᴅɔnı 眠い

ɔᴅe ［単位］沙 ɭ1:ɔᴅı

ɔᴅəlc,ılʃ ʅlıȷ ɔᴅələ

ɔᴅələ,ılʃ hɔᴅȷ hɔᴅɥə.ʅ

ɔφᴅı ［アトラスの国家］オグマ ［レベル］5 ɭʔ:ɥcɑcı

ɔφı ［植物］ジャガイモ、馬鈴薯、五升薯、ゴショイモ ［レベル］2 ıɬ: 制 :lıʅʃı:ɔφʃ ［文化］ 大航海時代よりも早く、ȷᴅ で ıɥ に流入。経路は ʅeueı → ᴅcɑccʃ → lʃ → ıɥ。 ȷᴅ と ɥɑ では人口増加に一役買った。 じゃがいもは穀物と野菜の間と考えられ、どちらに属してもよい。じゃがいもをふかして塩をかけて食べるなど、じゃがいもそのものがメインとなっている料理の中では穀物と考えられることが多い。
ɭʃı0 ジャガイモの種枯れ病が蔓延。テスラン＝ナオンによるファベル侵攻の契機となる。

ɔφıueɥɑc ［名詞］種枯れ病 ［レベル］6 ıL:clᴅəȷ:ɥcɑcı ［語法］ メル２４０年にジャガイモに発生した病気。

ɔφıl ［魔物］オガル（手馬鈴薯）：第八十九天：利の風天 ［レベル］5 ıL:ɥcɑcı/ȷeɥen/ᴅel:ɔφı/lıȷ ［文化］ 魁族。畑にぽつんと生き埋めにされた人の手のように生えている。引っこ抜こうとして触ると途端に掴まれ、地面に引きずりこまれて食われる。オガルに勝利して引っこ抜くと、ジャガイモのような根がついており、これが正体と分かる。実はまだ油断は禁物で、このジャガイモのような根が目を開く。見てしまうと獲物は土くれ人形に変えられ、泥になってぼとぼとと落ち、土に還る。従って抜いたら素早く根を刺し殺す。ピギィと甲高い声で死ぬので、そうしたら安全。その根を食べるとノアが回復する。

ɔφılacın ［亜魔］オガルフィアン、マンドラゴラ、マンドレイク、マンドレーク、マンダラゲ ［レベル］6 ɭɭ

ɔd ［動詞］ɥəl を ı に補う、補う、おぎなう、補填する、補給する、補充する、コードなどを延長する ［名詞］補注、注釈、脚注 ［料理］添え物、和え物。ステーキならポテト、紅茶なら砂糖。 ［形容詞］付け足しの ［類義語］ıd ［レベル］2 ɑu;e ıʔ: 制 : 語源不詳 ɔd:ɔd:lı ɔdeʃ ［語法］ ɔd は１００％に届かないものを１００％に近づけるためのもの。ıd は１００％の充足にプラスアルファを付けてやるもの。同じ付けたしという意味であるが、まだ足りないなと思えば ɔd で、これは蛇足ながらと思えば ıd になる。アルカにはこの区別があるので日本人は注意。 【用例】 ın ɔdıʃ lıl eᴅ uecn lc ılʃ ʃə heʅ. その手紙を書き終えてから、もう少し書き加えたくなった。

ɔdʅlcı ［アトラスの国家］オプクリア ［レベル］5 ıL:ɥcɑcı:ɔd/ʅlcʅ

ɔdȷeeᴅ ［化学］付加重合 ıL

ɔdn ［動詞］ɥəl（乗り物や道）を運転する、運転する、操縦する ［動詞］ɥəl（人）を操作する、操作する、操縦する、思い通りに操る、操る ［普通動名詞］運転、ドライブ ［レベル］2 ıʃı: 制 :ɔudın ［文化］ 郊外の紅葉スポットなどがオススメ。 【用例】 ᴅcn ɑɥıl ɔdn ucl ıᴅɔ ɔn ıɥ bızıɥɑ. アルバザード人の女はほとんど運転ができない。 ☆ ıɥʃe, lı ɔdn ıᴅɔ ɥınel ɔʅ le ʅıen ʃeᴅȷ. よくあんなの窓につけて走れるな:「走る」「よく～できるな」などの訳をそのままアルカに直訳できないので注意。

ɔdnın ［名詞］運転手、ドライバー、御者 ［レベル］2 ıL:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɔdnıncaı ［地球の星座］［ユマナ］ぎょしゃ座 ɭʃı ［文化］ caı

ɔdncı ［被服］かつら、ウィグ、鬘、づら、ヅラ、カツラ ［レベル］3 ɑu;/ ıɬ: 制 : 補足の髪 ɔdncı:ɔdncı ［文化］ ごまかすことを嫌う国民性なので、カツラはあまり付けない。禿げたら禿げたまま。ちなみに日本より禿げ率は高く、悩む男性は多い。カツラよりは育毛に関心がある。 ləlleʃcı ではセレンのような虚証は禿げないとされる。

ɔdᴅıuı ［植物］スタッフオリーブ（詰め物をしたオリーブ） ıʃ: 制

ɔdɑıd ［美容］マスカラ ［レベル］4 ɭ1

ɔddı ［被服］コッドピース ʅʅ;.ȷelın ɭʃı ［文化］ ʅʅ の民衆が編み出したもので、ジッパーがない時代の産物。男性が小便をするときに開閉する。 ȷᴅ になるにつれ徐々に装飾がほどこされたり金属製になったりして、男性性の強調に使われた。性器を大きく見せるためにわざと大きく作るなどという虚飾まで行われたが、nɑ で廃れた。

ɔddıl ［経済］注記表 ［レベル］6 ıL ［文化］ 地球同様、注記のほうがずっと長い。

ɔddel ［音楽］ソウル ɑɥɑȷ;「揺れる」 ɭ1

ɔdɥeu ［化学］付加反応 ıL

ɔdɥenȷ ［名詞］注釈→ lec ［レベル］5 ɭɭ

ɔdı ［被服］継ぎ、パッチ、つぎ布、継ぎ接ぎ、継ぎはぎ、つぎはぎ、ツギハギ、ツギ、つぎ ［電算］パッチ ıʔ: 制 :ɔdıbe（継ぎ布）

ɔdıbe 花布→ lec ɭɭ

ɔdc ［電算］周辺機器 ［レベル］4 ıL:ɔd

ɔdcʅıʅı ［電算］ＰＣＩスロット ［レベル］6 ıL

ɔdcnʃ ［ユマナ］［音楽］付点、附点 ［レベル］5 ıL

ɔdcaɔnʃ ［電算］ＰＣＩバス ［レベル］6 ıL

ɔdɔ ［料理］乾パン、ビスケット、クッキー、サブレ、クラッカー、ラスク、煎餅 ［レベル］2 ıʔ: 制 :ɔuedɔɑ（乾いたパン） ［語法］ おやつと保存食をかねる。

ɔdɔȷ ［動詞］［武道］ɥəl を絞める、絞める、締める、固める ［普通動名詞］束縛、拘束 ［武道］関節技 ［レベル］3 ɭ0:ᴅelcɑcı lceɥ:ɔɥı/dɔu/ȷɔ

ɔdɔɑɔ ［音楽］安物イヤホンや安物スピーカーからの音。乾パンみたいに味気ないことから。 ［レベル］4 ıΔ:ȷeɥen

ɔdeʃcl ［医療］使薬 ȷzl;/「補う薬」 ɭʃı

ɔbı ［動物］ツグミ、鶫 lıʅʃı ［レベル］5

ɔbcɥı,ılʃ leseᴅᴅe

ɔbelcȷʅ ［医療］オベリスク、懐古、懐古厨、回顧、絶望、過去への憧憬、憧憬、想い出、思い出、郷愁 ［レベル］4 ɥɑ;‹ɔbelcȷʅ,cn（郷愁）.ıleʅ ɭʔ ［文化］ 中年以降の人間が少年期や青年期とりわけ学生時代を思い出し、もう二度とあの頃には帰れないと思う絶望のこと。ɥɑ でセレンが提唱した。特に中年期で人並みの地位や家庭などを築けなかった者ほど感じやすいとされる。 実は振り返れば過去には過去なりの悩みがあり、想い出が勝手に美化されているだけで、実際の過去はそんなに甘美でもなく、退屈だったり先行き不安だったり苦痛だったり子供ゆえの束縛や無力感があったりする。 しかし何より若い頃には今にはない「未来への希望」があり、そして「世の中に対する無知」という幸福がある。恐れを知らず未来への可能性のある人間はそれだけで幸せであり、中年がオベリスクを感じることはあってもその逆はない。 社会的地位がなければ女に見向きもされず、セックスもできず、子供も作れない。社会的地位があったらあったでそのステータスに女が群がり、自分自身ではなく自分のステータスが求愛されるようになる。地位も職歴も何もなかった素の自分を愛してくれた学生時代の彼女のような女はもう二度と現れない。ステータスにたかる女が出るか、ステータスがなく一人も女ができないかの二択しかない。この現実に中年は苛まれ、打算なく付き合ってくれ自分を受け入れ愛してくれてセックスしてくれていた学生時代の彼女を思い出し、もう二度とそんな女が現れない現実に絶望する。そうしてわずか３０代にして死にかけの８０代くらいの老人と自分の間に本質的な違いがないこと、すなわち既に自分は終わった人間、あとは坂を下るだけの人間であるということを思い知らされ、絶望する。そして自分の人生には意味がないと嘆くようになる。
オベリスクは中年期以降の人間が持ちがちな絶望の一種であり、罹患すると自分の人生は無価値だ、もう黄金期は取り戻せないと悲観にくれるようになり、犯罪率や自殺リスクが高まるとされる。 セレンの先見の明は ıl で再評価され、心理学や精神医療で見直されることとなった。

ɔhɔ ［医療］咳 ［動詞］ɥəl を咳き込ませる、咳をする ［擬音］ごほごほ、ゴホゴホ、こほこほ、コホコホ、ゴホン、コホン、ごほん、こほん、えへん、エヘン、うん、ウン ［類義語］ɑeɔȷ ［レベル］2 ıɬ: 制 : 古 :ɔh（咳のオノマトペ） 【用例】 lı ɔhɔnɑ ᴅcl beȷı. 埃のせいで彼は咳き込んだ。

ɔhɔʃlce ［生物］［医療］喘咳寒熱 ɥɑ;/ ɭʃı

ɔɥəʅ ［動詞］ɥəl を ı に沈ませる、沈ませる、沈む ［化学］沈澱、沈殿、沈澱する ［類義語］ȷeel ［反意語］eɥəʃ ［レベル］3 @ ıL nəe:nəe

ɔɥəʅıʅᴅ ［化学］残査油 ıL

ɔɾı ［感動詞］こら、コラ、ゴルァ ［レベル］1 ıʃı: 制 : 古 :ɔɾıı,əɾıı ［語法］ 非常に怒っているときの呼びかけで、əoı よりきつい。

ɔɥ ［接尾辞］行為動詞経過相の動詞語尾。開音節では ɥ。 ［動詞］ɥəl になりつつある。行為動詞経過相の繫辞。 ［レベル］1 ɥɑ ıL: 恣意 ʃı n:::hızelə,ılʃ 【用例】 ləlɔɥ 歩いている ɑıcɥ 点火中。燃焼中は ɑıcȷ hıʃcıɥ 恋をしかけている ȷeʃɔɥ 殺そうといたぶっている lıcɥ 見ようとして眼を動かしている最中 ʃclɔɥ 持とうとして力を入れているところ ʅeɥ 到着前の移動段階 ʅəɥ 喋っている途中 ᴅɔlɔɥ 寝ようとしてベッドで目を閉じているところ

ɔɥʃ ［サール］オルト ［生物］月経、生理、メンス、メンストレーション ［レベル］3 ᴅelʃcı ıɭ:ɔɥʃ;ɔɥʅ.ʅ ᴅel: 古 :hɔɔɥıʃəənɔ（赤い土？）土は泥？ ［文化］ 女性器、特に月経を司るサール。夜は泥でできたハイエナの姿をし、昼になると泥はモモンガに姿を変える。但しこのモモンガは目に見えない。人語を解し、首を絞められたような少女の声で話す。オルトが近くにくると女は甘いものが無性に欲しくなるとともに月経を引き起こす。またオルトは少女に初潮を与え、女性器を

穢れたものに変え、女に苦しみを与える。特に恐れや不安や非日常的な環境を抱く弱った少女の心に付け込むことが多い。メルは女性器を不浄なものとして捉え、月経をも不浄なものと捉えた。少女に多大な苦しみを与える月経は悪魔オルトが押し付けてくるものだと考えた。「 昼間はモモンガ 」というのは「 外見の美しさに比べて陰部の陰鬱さと醜悪さ（モモンガは夜行性）」と「 モモンガの手を広げた部分から起こる大陰唇の想起 」を象徴し、「 夜はハイエナ 」というのは「 昼間と違ってハイエナのように使われるもの 」という揶揄であり、「 泥 」というのは女性器が常に湿り気を帯びていて汚らしいというところからきている。こうしてできたのがオルトであるが、メルのこの考えは男子よりむしろクミールらの女子に共感され、アンティスでは女性器は男性器以上に汚らわしいものという考えが生まれるに至った。ただし、子宮は聖なるものと考えられている。要するに産道たる膣と外性器が不浄とされているのである。　月経は忌みとして嫌われる。その点では日本と同じ文化。その考え方は意外にも女性であるメルが生み出したもの。理由はやはり視覚的に出血がおぞましいことと匂いが強いことが大きいようだ。また、月経時の苦しみを考慮して、メルは月経はサール・オルトが少女にかけた呪いだと考えた。初潮が訪れるとオルトに呪いをかけられたといって、その娘を少しの間他の娘に近付けないようにする。初潮は少女の女性器を汚し、少女の肉体を汚す忌みとも捉えられているので、その呪いを他の娘に伝染させないようにする必要があるからため。少女の初潮は周りの人間の知るべきこととなる。日本と違って恥ずかしいことではないが、汚いことではある。　娘は初潮を迎える前に性教育を施される。初潮を迎えると両親に報告する。父親にも報告する。おめでたいことではないと考えているので、おめでとうとは言わない。英語にいただきますがないのと同じで、日本人からすれば何か言いたいところだが、特に決まった台詞はない。母親や姉が生理用品を渡して説明する。父親は感慨深げに黙っている。【用例】 nɔn ʃcl ɔµʃ cᴅ ɑcɟ. 今日は生理なの。　nɔn ʃcl ɔµʃ ɑəɔ{ɑıɑ, ɿcn}. 生理が重いの。

ɔµʃzɔn ［名詞］タンポン ［レベル］4　ɺ1 ［文化］ → eµɟel　処女はタンポンを使用しないという常識があるため、ナプキンを使う。なお非処女においてもナプキンのほうが一般的である。運動時やどうしても水に入らなければならないときなどには比較的用いられる。

ɔµʃibe ［名詞］生理用ナプキン、ナプキン ［レベル］3　1L ［文化］ ɔµʃzɔn

ɔµɿ ［動物］モモンガ、ムササビ ［レベル］3　ɑ;e　1ʔ: 制 : 古 :ɔµʃ ［擬声］ cφcc

ɔµɿeı ［医療］治りかけの傷 ［メタファー］触れないほうがよいもの、放置すべきもの ［類義語］ucl ［レベル］3　µɑ;ʃə ucl ɔµ ɿeı「傷が治りつつある」が単語になったもの。　ɺɺ【成句】 el nıd ɑɔnl ɔµɿeı 治りかけの傷には触れるな：治りかけのキズは気になるが、触らなければ治る。触ると悪化する。政治家や有名人の心得。荒らしなどのクズへの最良の対処法。傷は見ないのが一番、見なければ気にならない、という教え。

ɔµɑınʃ ［代詞］［µɑen］俺らの ［レベル］1　ɺ1:ɔuc:ɔµɑen/ʃe

ɔµɑen ［代詞］［µɑen］俺ら ［レベル］1　ɺ1:ɔuc:ɔɔuı/nɤ

ɔµᴅ ［動物］ハイエナ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɔµʃ

ɔµɑcn ［歴史］オーディン時代、守護の御使、しゅごのみつかい ［レベル］3　ɺɺ:ɟɔµɑcın（守護神）。アトラスの守護神アシェットの物語であることから＜ıµɑcı から変更。clᴅəɟ 全体が「神の夢」なので、この時代だけを「神の夢 (ıµɑcı)」と呼ぶのは不自然とされた。ɺɺ まではオーディン時代のことをアルディアと呼んでいた。ɔµɑcn は ɺɺ まで守護神 ɟɔµɑcın の意味。ɟɔµɑcn などでも良かったが、それだと略称が ɟɑ になってしまう。この時代の略称はずっと µɑ で通してきたが、ɟɔµɑcn にすると略称を ɟɑ に変えねばならなくなる。しかし µɑ で検索をかけると関係ない単語まで何百件と検出され、それを手作業でひとつの洩れもなく修正するのは事実上不可能であるため、ɟ を落として ɔµɑcn とした。なお、ɔµɑcın は死神の名なので不可。ɔµɑın と迷った末に、既に守護神のほうで口に馴染んでいた ɔµɑcn を選択。その背景には「守護神」の頻度が案外低かったので古形に戻してもよいのではないかという事情もあった＜古 :µcɑcı:ıµʃe/ 古 ɑcı。 ［文化］ ɥəənıleɟɿı　＜概要＞　時代の名であるとともに、その時代の史記でもある。史記としてはアシェットが主人公の寓話に等しく、アシェットと悪魔の戦争を描いたものである。　１５００ごろ～１５９１　前期　１５９１～１６１１（２２） 後期　　µɑ 時代の人々の魔法力については ıµʃ を参照のこと。

ɔµɑcın ［死神］オーディアン ［アクセント］ɘµɑcın ［レベル］4　ɺ1:eeɟʃe ［文化］ アトワーユの本名。アトワーユは「トワーユの者」という役職名。

ɔµɑcınʃıɿı ［地学］［歴史］オーデアィン大陸 ［ユマナ］ゴンドワナ大陸　ul;/。アルテから分裂してできた中で最も大きい大陸なのでアトワーユ→オーディアンとなった。　ɺʔ

ɔµφ ［植物］藻類 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 語源不詳

ɔµd ［化学］半導体 ［レベル］4　1L:µcɑcı:hɔdl/cµı

ɔµdɿɔµeʃʃı ［化学］半導体ダイオード→ ɿɔµeʃʃı　ul;/　ɺʔ

ɔµı ［生物］関節 ［レベル］3　1ɱ: 制 :ɟıɑ:hɔıµı（骨 / 繋がった部分） ［語法］ 関節、関節部。骨と骨が互いが運動できるように連結している部分。即ち関節。

ɔµıɥıc ［医療］関節痛 ［レベル］5　1L

ɔµıızl ［医療］関節結核　1L:ɟeµen

ɔµıeᴅɟ ［化学］ヒアルロン酸 ［レベル］5　ɺ1

ɔµe ［料理］干しブドウ、レーズン、カラント ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɔueµeb

ɔz ［名詞］規則、法則、決まり、法、制度、原則、ルール、慣習、戒め、公衆道徳、マナー、行儀、作法、戒律、摂理、規定 ［電算］コンピュータのプロトコル、インターネットプロトコル→ ıµɔz ［法律］条令、政令 ［類義語］zeʃʃel、lızɔᴅ、ıµɔz ［レベル］2　ɟɔµn ［語法］ 従うべき決まり。人為的に作られた規則や慣習マナーや子供がやる鬼ごっこのルールなども含む。また、スープの飲み方などの行儀作法も入る。非常に広い意味を持つ語彙。全て「 その集団内で従うべきとされていること 」という共通の意義に基づいている。但し、法律は別。

ɔznıl ［政治］国会 ［レベル］4　µʃ; ↓　1L:ɔz/nılʃ（規則の城） ［語法］ イムル２０年に ɿıləılcznɔ(法務庁)ができ、法律の作成を担当した。従ってこれが最初の国会である。　現代の国会は µʃ でできた。

ɔznılʃ ［ランドマーク］［政治］国会議事堂　µʃ;ɔznıl/ʃe　ɺɱ ［文化］ µʃ でファルシアン宮殿の北側、コノーテ＝リディア通りに立てられた。規則を重んじるリディアに敬意を評してリディア通りに建設された。

ɔznılɑɔl ［政治］会期 ［レベル］4　ɺ0

ɔzɑel ［名詞］法則、法則学。理科の一分野。科目名。 ［レベル］2　µɑ ɺɺ ［文化］ ɑeldınʃ

ɔzᴅeɭ̃ ［電算］クロック ［レベル］5　1L

ɔzıle ［名詞］風紀委員会 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ɔzeʃ ［名詞］ガイドライン、目安 ［レベル］3　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ:ɔz

ɔs ［動詞］ɥəl を触る、触る、さわる、触わる、触れる、ふれる ［文末純詞］触覚での推量。～なようだ。 ［レベル］1　1ʈ: 制　µɥısc:µɥısc 【用例】 ɔs nccʃel 優しく触る　ɟınʃ ɥəəɟ ın ɔs nı ʃccl nccʃel. 貴方の心にそっと触れさせてください。

ɔsnıɿl ［生物］触覚 ［類義語］ɿənc ［レベル］4　ɺ1

ɔsılɔ ［娯楽］鬼ごっこ ［レベル］2　1ʈ: 制 : タッチしたら鬼になる遊び。 ［文化］ アルバザードでも子供に人気。

ɔoc ［動物］豚 ［レベル］2　ɑu;ɑɔueʃ　lıɭ̃ı: 鳴き声のオノマトペ　ɔoc:ɔoc ［文化］ 食用される。ビタミンＢが多いとされる。　案外清潔な動物だが、汚いイメージを持たれており、「デブ」などの罵倒語にもなる。特に罵倒としては bəɺ。　　uıɭ̃ɔʃın が開発される µʃ までは uc ɿɔʃın を採用しており、冬季に家畜を飼育するのが難しかった。冬場は人間の食料を確保するだけでも大変なので、家畜を飼う余裕がない。そこで秋になると家畜を潰して冬場を凌いだ。 ［擬声］ ɔoc ɔoc（ブーブー） bəɺ bəɺ（ブヒブヒ）

ɔocᴅıuc ［化学］ビタミンＢ ［レベル］4　nɑ;/　ɺʔ ［文化］ ᴅıuc

ɔochɔ ［生物］大鼻翼軟骨　1L: 人の鼻を豚の鼻のように横に広げている骨

ɔocɥeɿ ［料理］豚肉 ［レベル］2　ɺɺ

ɔocµı ［牧畜］豚小屋 ［レベル］4　ɺɺ

ɔocləoı ［名詞］豚足、トン足 ［レベル］4　µɑ;/　ɺʔ

ɔoen,ılʃ　elɑe

ɔl ［格詞］もし～したら ［類義語］ᴅınɔ、ɟclᴅ、ʃeı、dlınze ［レベル］1　1ɱ: 制　ɑə:ɑə ［語法］ cᴅ, ʃeı は確定条件。ᴅınɔ, ɔl, ɟclᴅ は不確定。cᴅ は１００％起こることが分かっていて、それが起こった際に何が付随して起こるかを示す。µe ɟıb ʃə cᴅ ʃə eᴅ ɟɔµʃ（寒くなったらこれを着なさい）は、寒くなることが確実な冬などに使う。　ʃeı は起こる確率が０％という意味で、cᴅ とは逆に確定条件。　ᴅınɔ, ɔl, ɟclᴅ はこの順番で起こる確率が下がる不確定条件。【成句】 ɔl hɔʃ ～のときのみ、～の場合のみ。逆も真となるケース→ dlınze【用例】 ın ɿe uın ɔl ɿeɟʃ ɟcl ɑıµɑ. 明日晴れたら行こう。

ɔl(ɺ) ［接尾辞］～される人 ［接尾辞］対格分詞を作る ［レベル］1　1L: 恣意 ［語法］ ɔ で終わるものの後では l になる。【用例】 ɟeʃɔl 殺人の被害者

ɔlʃ ［名詞］わっか、リング、輪 ［文字］ループ ［レベル］2　ɟeµʃ　制？← 古 :ɔlɔ,hɔlɔ　hɔlɔ:hɔlɔ:lı ˈɔlɔ:ɿıᴅı,ılʃ

ɔlʃdcd ［娯楽］輪投げ、輪なげ、わなげ ［レベル］3　µɑ;/　ɺʔ

ɔlʃhɔd ［名詞］輪ゴム ［レベル］2　1L

ɔlʃı ［格詞］たとえ～でも、よしんば～でも、～だとしても、せめて～だけでも ［レベル］2　1ɱ: 制 :ɔl ʃıl（～ならしかし）【成句】 ɔlʃı ıuen 最低でも、せめて　ɔlʃı ıɭ̃ı 最高でも　ɔlʃı ʃɔʃıl ɿɔɟ どうやっても【用例】 ın ıµ ɑıl ɑɔclneʃ ɔlʃı ʃɔʃıl eᴅ ɟɔɑ. 何があろうとも私は早起きしなければならない。　ɔlʃı ɑcɟʃ ʃɔʃıl ɥənɟ, neʃıl ᴅcɥə ɑıl ʃə ɑcı, nɔn lɔʃ. どんな犠牲を払ってでも、世界を変えなければならないと思ったの。　ın ɿe ɑıl ʃeᴅɿ e oıcᴅ ınʃeɟ ᴅecl senʃ cᴅ ɿılzıɟ ɿılzıɟ e ɿeɟʃ. 明日は天気に関係なく０６：３０に☒蔵へ行かねばならない。

ɔlʃc ［名詞］梃子、梃、テコ、レバー、てこ ［レベル］4　1ʈ: 制 : 古 :ɔlʃ

ɔlʃcµeɟ ［音楽］ウィンドチャイム、オルトイレス　ul;ɔlʃ/cµeɟ　イレス神のような形の球にわっかがついたものとして開発された。　ɺɺ

ɔlʃe ［名詞］ループ、繰り返し ［形容詞］ループする、繰り返す ［レベル］4　µɑ;ɔlʃ.ɿ　ɺɱ

ɔlʃeʃ ［名詞］ループ系 ［レベル］5　ıl;ɔlʃe/eʃ　ɺɱ ［語法］［文化］ ıl でできたサブカルのジャンルで、主人公やヒロインが定められた期間を延々ループするという内容。たいていはループからの脱却と幸せなエンディングを目指すことが目標であるが、『アルディア』のように、あえて幸せなループを作り、外界から自分たちを隔絶することで、幸せな夢の中に閉じこもるという手法もある。『アルディア』のような話では、ループから脱却せず、外界から孤立して、幸せな世界を永遠に繰り返すことに意味を見出す。　『アルディア』のテーマは幸せな空想の世界への逃避と、現実の拒絶、現実との隔絶にある。ただし一人の人間による単なる現実の拒絶ではなく、二人の愛し合う男女による二人きりの世界の創造、そしてそれによる現実からの隔絶と二人の強固な孤立した世界の確立という点に力点が置かれる。

ɔɭ̃ ［物理］量子 ［レベル］5　lıɭ̃ı

ɔɭ̃ucınɑel ［物理］量子力学 ［レベル］5　ul;/　ɺʔ

ɔՈıll ［化学］量子数 ［レベル］5　Ɉ1

ɔll ［動詞］ɥəl を洗う、洗う ［レベル］2　1Ո: 制 : 恣意　elɔ:elɔ:ʃıns 【成句】 ɔll lıȷ 手を洗って綺麗にし、自分が汚れていないことを相手に見せること。転じて自分の身が潔白であることを相手に見せつけること。つまり、無実や正義や善や真実であることを相手に証明してみせること。ただし、これは疑いがかかっているときにしか使えないので真理や信用している相手に対しては使えない。 【用例】 ın ɔllıʃ eel ʅɔn eµ ȷɔµʃ. 冷たい水で顔を洗った。　ın ɔll eel hɔʃ cᴅ ɑıµ. 朝は顔だけ洗う。　ın ɔllıʃ eel ȷı ɑıl. 朝食の前に顔を洗った。　ın ɔll ncı ʃıʃ ɑıµ. 私は毎朝髪を洗う。

ɔlueµ ［名詞］オーラ ［アクセント］ɔluEµ ［レベル］3　Ɉ0: 先 ɔl（相手、客体）/ȷɔµn の uelʃ（抽象物→ uccɑ）「対象を取り囲むヴィード」→ ɔluelʃ → ɔlue → ɔlueµ（アクセント位置変化） ［文化］　ヴィードが視認できるようになったもの。 【用例】 ʃcl{ȷıbeȷ} ɔlueµ オーラがある

ɔlɑ ［名詞］場合、ケース ［レベル］3　1L:ɔlɑɔnʃ（もしもの道）　cʃȷ:cʃȷ 【用例】 ɔlɑ uıɑen もしもの場合　lılʃ ɔlɑ ıuen 最悪の場合

ɔlɑıll ［数学］場合の数 ［レベル］4　1L

ɔlᴅı ［名詞］外見、見た目、容貌、外観、表面、外側、容姿、姿 ［名詞］見出し語、辞書の見出し語 ［電算］［名詞］件名 ［文字］字形 ［反意語］ɑɔȷᴅ ［レベル］2　古 :ᴅı は ᴅıcn ［語法］ ɑɔȷᴅ の反対語。ᴅɔ だと語義が広すぎるため、この語を使うことがある。 【用例】 ɔlᴅı µıʃ 素敵な見た目

ɔlᴅıȷɔՈ ［建築］外装 ［レベル］4　1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

ɔlᴅıᴅıȷ ［芸術］表紙 ［レベル］3　1L

ɔlᴅıɥəc ［電算］［言語］見出し語検索 ［レベル］6　µɑ;/　Ɉ0

ɔlᴅılecȷ ［芸術］表紙、表紙絵、表１ ［レベル］3　Ɉ1

ɔlᴅııʅɔn ［地学］［植物］０層の土壌　1L:µcɑcı ［語法］　土壌の１層目。落ち葉や枝の積った相。実質上、地面よりは上。

ɔlφ ［動詞］［ネガティブ］ɥəl を贅沢に使う ［形容詞］［ネガティブ］（ɔlφın で）贅沢な ［普通動名詞］［ネガティブ］贅沢、放蕩 ［類義語］ɥɔφ ［反意語］enɑc ［レベル］3　Ɉ0: 古 :ɥɔlφcl（金を使う）【成句】 ɔlφ ɔlφel 贅沢に贅沢する : 贅沢三昧

ɔlz ［植物］クルミ ［レベル］3　lılʃı: 元は hɔlz だったが、メルによって h 音が脱落した。あまり使わない語なのでメルが言い出したら誰も覚えていなかったので訂正されずにそれが定着してしまった。尚、hɔ は固いの意味。

ɔlzzelɔ ［生物］脳梁 ［レベル］5　1L: クルミ状の脳

ɔlzlɔµ ［生物］射精管 ［レベル］5　1L: 前立腺の（射精管のほうの）管

ɔlıl ［動詞］ɥəl を c から引き継ぐ、引き継ぐ、引きつぐ、継承する、受け継ぐ ［類義語］ıµʅıl ［レベル］3　@ 1L

ɔlcu,ȷzɑ　dcl

ɔlcucı ［植物］ɑelcn ［言語］［文字］セリフ、セリフ書体。セリフのとげをバラの棘を見立てたもの。 ［組み数字］9 / 9 ［レベル］4　ȷzɑ;　Ɉ1

ɔlcucı(Ɉ) ［言語］［文字］標準ゴシック書体、標準ブラックレター、オリヴィア書体、オリヴィア ［レベル］4　ɈɈ:ɑleɑclınȷ ［文化］ ɑleɑclınȷ

ɔlcucın ［医療］鍼 ［類義語］dcnɑ ［レベル］4　ȷzɑ;ɔlcucı ［文化］ 鍼の元祖はカルセールの草原地帯。薬草が取れず、金属の加工技術があり、馬が多い地方であった。（つまり薬草が採れないので鍼でどうにかするしかなかったわけだ）。この地域では瀉血療法などが現在でも盛んで、鍼もここから生まれた。　地球で鍼灸は中国起源と思われているが実は誤りで、体系化したのが中国に過ぎない。鍼はモンゴルで起こり、薬草は東南アジアの植生が豊かな地域で起こった。当時大国だった中国に人材や技術が流れ、体系化されたにすぎない。　それと同じで当時大国だったのがルティアだったため、鍼灸はルティアで体系化され、ləʅleʃcı に組み込まれた。　アルバザードには ȷᴅ に伝わり、一度 ul で陰ったものの、現在でも鍼灸は有効な治療法として残っている。　ちなみに漢方はメディアンが起源で、やはりルティアで体系化された。 【用例】 eu ɔlcucın ı ɑlelφılʃ φcᴅel 肩井に鍼を浅く打つ

ɔlcucınʃ ［医療］鍼灸師、鍼灸医、鍼医、針医、灸師、灸医、漢方医、オリヴィアント ［レベル］3　ȷzl;ɔlcucın/lınʃcȷ　ɈՈ ［文化］ → uılȷ　語源的には鍼医だが、実際には灸師と漢方医も含まれる。日本と異なり鍼灸医の地位は高く、精神科や内科の上に位置する。詳しくは uılȷ を参照。　鍼灸師の地位は日本より圧倒的に高いが、その代わりなるのも難しく、医学部の鍼灸科で６年学ぶ必要がある。内科などと変わらない。　また、日本と違って鍼灸師は漢方なら内服薬も処方できる。ただし筋弛緩剤や抗炎症剤など西洋薬 (ınlılcı) は処方できない。これは伝統的に東洋医療 (ləʅleʃcı) が漢方 (cnȷılcı) を処方してきたためである。　鍼灸師はなんでも診ることができるが、骨折と脱臼に関しては整形外科でレントゲンを撮らせる必要がある。ただしレントゲン撮影前の応急処置は行なっても良い。

ɔlcucınȷıl ［医療］鍼体、しんたい、穂　ȷzɑ;/　ɈՈ

ɔlcucınᴅɔı ［医療］鍼根、しんこん、鍼脚　ȷzɑ;/　ɈՈ

ɔlcucındəlle ［医療］鍼尖、しんせん、穂先　ȷzɑ;/　ɈՈ

ɔlcucınheʃʃe ［医療］鍼柄、しんぺい、軸、竜頭　µɑ;<ɔlcucınXeʃʃe,ȷzɑ　ɈՈ

ɔlcucınlɔɔlɔ ［医療］鍼管　ȷᴅ;/　ɈՈ

ɔlcuce ［伝統色］ルティアローズ。＃ＢＢ６ＢＦＦ。ucɔ ɑcı。 ［レベル］5　ȷᴅ:ɑıᴅcc/ȷeµen;ɔlcuce,lՈ.heᴅ　Ɉ1:ɔlcucı ［文化］ ルティアでバラというと赤でなくこの薄い紫を指す。ルティアやその影響を受けたアルバザードでは薔薇の中で最も気品のある色とされている。ȷᴅ でルティアでできた色名だが、µɑ に色が細かく定められるまでは漠然と薄紫や水色を指した。いまだにルティア語では水色などの意味で使う。

ɔlcuce,lՈ　leseᴅᴅe ɥəʅl、ɑəəµ　ɔlcucı

ɔle ［名詞］相手、対象 ［言語］対象、オブジェクト、ｏｂｊｅｃｔ ［格詞］～を対象として ［レベル］2　1ʃ: 制 : 先 :ɔl ［語法］ 行為を行う対象としての生き物で、主に人間を指す。共に何かする相手は日本語では「相手」と呼んで差し支えないが、それは仲間の意味なので ɔl ではない。

ɔleʃ ［名詞］客体 ［反意語］nınʃe ［レベル］3　µɑ;/ɔle/ʃe「相手のような」　Ɉʔ

ɔleʃeɑɔ ［経済］財団抵当 ［レベル］6　µʃ;/　Ɉʔ

ɔıʃ ［動物］ガチョウ、がちょう、鵞鳥、がん、ガン、雁、グース。ガチョウはガンを家禽にしたものなので同じ。 ［レベル］4　lılʃı: 鳴き声のオノマトペ

ɔcʃ ［動詞］ɥəl をドン引きさせる、ドン引きする、ドン引きさせる、引く、引かせる、ひく ［再帰動名詞］ドン引き ［類義語］sıᴅʅɔµl ［レベル］3　ɑu　ɈՈ ［語法］ sıᴅʅɔµl よりくだけた言い方 【用例】 ın eʃ ɔcʃ. 私は引いた。　nı ɔcʃ 引く。引いた　ɔcʃın 引かせるような、引く　µenȷ ɔcʃ 引くような言葉

ɔcȷ ［生物］手の甲、足の甲、甲、手背、足背 ［反意語］ocȷ。類音につき注意。 ［レベル］2　1L:hɔnɔ/ocȷ（固い手のひら）

ɔcȷʅcᴅ ［生物］背屈　µɑ;/　ɈՈ

ɔɔ ［言語］ɔ の文字 ［レベル］1　1Ո: 制 ［語法］ 第２３文字目の幻字。３番目の母音字。

ɔɔ(Ɉ) ［接続詞］重文を作る。～して～するに相当。, 記号で代用可能。弱連言。 ［レベル］1　1ʔ: 制 : 恣意 【用例】 ın ʅɔlʃıʃ, ᴅɔʅıʃ. 私は帰って寝た。

ɔɔʅ,µʅ　ʃɔɔʅ　ʃɔɔʅc.l

ɔɔn ［感動詞］やぁ ［レベル］1　古 ［語法］ hıc より軽い挨拶。

ɔɔuı ［アイテム］オーヴァ ［レベル］4　µcɑcı: 古 :ɔucucuɔ（オヴィの斧）を適当に変えたもの。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。オヴィのもつ神斧。

ɔɔµ ［言語］オール　古 ［語法］ eȷʃ

ɔeȷ,ȷzɑ　ʃɔe

ɔə ［感動詞］おお、おぉ、おう、おぅ、あぁ、ああ、あっ、おっ、へぇ、へえ、ほう、ほぅ、ほー、ほお、あらまあ、おやまあ ［レベル］1　古 : オノマトペ

ɔən ［動詞］ɥəl をうめかせる、呻く ［再帰動名詞］呻き ［レベル］2　古 : オノマトペ

϶ ［言語］目的語→ ɔᴅcʃ ［レベル］4　ȷᴅ　Ɉʔ

e

e ［接続詞］～の。所有関係を表す。lec e ᴅccµ（ミールの本） ［接続詞］帰属関係を表す。ıᴅel e µcɑcı（リディアの妹） ［接続詞］修飾関係を表す。lec e ᴅccʅ（リンゴに関する本） ［接続詞］「～製の」を表す。著作者の場合は ɥəʃ でも可。材質の場合は e や ʅɔnen。ɑµeı などは形容詞があるので e を使わないでもよい。 ［レベル］1　lȷɑ;ʅenɔ.ʅ 基本語順がＳＶＯになった lȷɑ で初めてできた。ＳＶＯが基本語順になったにも関わらず、レスティル語では ʅenɔ のほうが優勢で、e の頻度は低かった。これは ıµ にも継承される。e がよく使われ出したのは µɑ 以降。 ［レベル］1　古 : 後ソーン・アルカまでは ʅenɔ、メル・アルカでは e　ʅenɔ（e と語順が逆）:ʅenɔ e,lȷɑ:s:ʃə,ılʃ ［語法］ →ʃ（e と ʃ の使い分け）　＜基本事項＞　　修飾のつなぎとなる。「～の～」に相当。日本語とは語順が逆。「ʃ の ʅ」は ʅ e ʃ になる。　接続詞なので原理的には節も取れると思われる。　　ʃ e ʅ において ʅ が母音から始まる語の場合、e は ʃ' になる。hıɾᴅ ʃ'ıµʅı（アルカの幻字）のように。　ただし初学者に分かりやすくするために hıɾᴅ e ıµʅı とすることがある。また、「～の」という部分が強調されたり、句全体がゆっくり発音されるときも hıɾᴅ e ıµʅı になることができる。　　＜用法＞　　１：所有 : lec e ᴅccµ（ミールの書）　２：部分と全体 : lıȷ e ᴅccµ（ミールの手）, zedl e zɔᴅ（木の枝）　３：所属 : ɑelın ʃ'ıµn ıᴅını（アルナ大の学生）、ȷıe e ʃɔlel（昨日の雪）。ɑelın ʅıen ıµnıᴅını だと所属よりもむしろ現在地や所在地を指す。昨日という時間帯に所属する雪なので e を使う。　４：材質 : ɑcıᴅ e{ʅɔnen} ɑµeı（鉄の像）。ɑµeı を形容詞にすれば e は不要。ʅɔnen で言い換えも可能。　５：関連性 : ȷeʃı ʃ'ıµbızıµɑ（アルバザードの歴史）。ȷeʃı ɔnen ıµbızı µɑ でも可能。　６：慣用 : leucın ʃ'ıµʅı（アルカの人工言語→人工言語アルカ）。直訳すると「アルカの人工言語」となり、違和感がある。leucın ʃ'ıµʅı の e については、古アルカで「人工言語アルカ」に相当する句を作る際、今の e に当たる ʅenɔ という接続詞を用いていたことに起因する。　×：属性 : ɑcın ʃ'cnȷ ȷɔµeʃ（青い目の少女）。これは不可。ʃ e ʅ で ʅ が ʃ の属性を示す用法はない。ɑcın ɔʅen cnȷ ȷɔµeʃ, ɑcın le ʃcl cnȷ ȷɔµeʃ が正しい。ɑcın ʃ'cnȷ ȷɔµeʃ だと「青い目が持っている少女」という意味不明な句になる。もし意味を有するとすれば、例えば cnȷ ȷɔµeʃ が「青い目団体」などの固有名詞で、そこに所属している少女だということなら問題ない。　×：性質 : hıɾn e ucʅ（男友達）。これは不可。ʃ e ʅ で ʅ が ʃ の性質を示す用法はない。hıɾn l'eʃ ucʅ が正しい。hıɾn e ucʅ だと「男が所有している友達」の意味なので、「とある男の友人」という意味になる。その友人は女かもしれない。hıɾn e ucʅ を男友達と解釈すると意味が真逆になる恐れがある。　×：源泉 : ʅıd e ᴅccµ（ミールから掛かってきた電話）。これは不可。ミールの所有している電話の意味になる。ʅıd cʃen ᴅccµ が正しい。　　材質が可で属性や性質が不可なのは、恐らく材質が

両者に比べて「部分と全体」に近いためであろう。鉄の像は鉄という材質が全体で、その材料の一部を使って像を作るわけだから、部分と全体に近いものがある。結局のところ鉄も像も鉄なので、部分と全体が成り立つ。「ミールの腕」という句において腕もミールもミールだというのと同じことである。　一方、属性や性質の場合は「部分と全体」とは言いがたい。ɑcɪn ſ'cnȷ ȷɔµeſ はそもそも「全体と部分」になっていて立場が逆転しているし、hɪnn e ucꞁ については友達と男は同一でない。なお、cnȷ ȷɔµeſ e ɑcɪn なら「部分と全体」や「所有」の関係になるので可であるが、これだと「青い目の少女」でなく「女の子の青い目」になって意味が変わってしまう。　＜e の解釈＞　e は多義語なので解釈は文脈や背景知識に基づいて行う。例えば学生にとって ɑeꞁꞁɪ は所属するものであり、常識という背景知識から用法を定めることができる。同様に社長にとって lɔcſ は所有するものである。　ところが中にはどの意味にも取れる場合がある。lecȷ e ꞁ の場合、ꞁ は描き手なのか、モデルなのか、所有者なのか、そういったことは分からない。どの可能性もある。この場合、文脈で判断する。できなければ曖昧なままとなる。もし意味を明瞭にしたい場合は、e を使わずに表現する。描き手の場合は lecȷ le lə lɪɑɪſ、モデルの場合は lecȷ le lə eſ ᴅɪcl ɔn や lecȷ ɔnen lə、所有者の場合は lecȷ le lə ſcl というように。　＜e と所有代名詞＞　名詞には所有格（属格）があるが、代詞の所有格ほど頻繁には使わない。まずこのことを念頭に置いておく。　ところで、実は所有格などなくとも人工言語は事足りる。ɑeꞁꞁɪ ſccl など ɑeꞁꞁɪ e ſc とすればよいのだから。ところがアルカの代詞には所有格がある。まこと面倒くさいが、たまには便利なときもある。　代詞の所有格は e のすべての用法を取ることができる。lec ſccl から ȷeſɪ ſccl まで全て可能だ。むろん lecȷ ſccl で「あなたの絵」という意味になる。でもこれは lecȷ e ſc ではいけないのか。　実は lecȷ e ſc もアリだ。しかし意味が変わる。lecȷ ſccl は「あなたが所有する絵」（所有）や「あなたが書いた絵」（所属）を意味し、lecȷ e ſc は「あなたを描いた絵」（関連性）になる。　このように代詞の場合、所有格があることで所有格を使わない e を使った句と意味を区別することができる。　所有格と所有格を使わない e を使った句を比べると、所有格は上の５つの用法のうち、より１に近いほうを優先的に取る。両者を比べない場合はこの限りではなく、両者とも１～５の用法を取ることができる。　なお、普通名詞でも理論上は同じ現象が起こるはずだが、普通名詞の属格はそもそもあまり使わないので、lecȷ ləſcɪn と lecȷ e ləſcɪ のような対立は生まれない。　多義性が生まれる lecȷ のような名詞と属格が並んだ場合、文脈で用法を判断するか、そうでなくば lecȷ le lə lɪɑ ɔn ləſcɪ（彼がルティア国について描いた絵＝ルティアがモデル）のように言い回しを変える。　・まとめ　lecȷ ɪnſ は「私の描いた絵」ないし「私の所有する絵」。　lecȷ ſ'ɪn は「私を描いた絵」。　ſcllɪnφ e ꞁe は「何かの所有権」。　ſcllɪnφ ꞁeeſ は「何かが持つ所有権」で、何かが人以外のときは不適。　【用例】 lec e ꞁcɔn 紫苑の書　ɪn ſcl ꞁɔ lec e{lɔſ en} uc. 三冊の本のうちの一冊を私が持っている。

e(ɺ)　［数学］ɑeȷſ の略。数式で使う。÷記号に等しい。　［レベル］2　1L

e(ʔ)　［化学］［接頭辞］～を除いた。英語の d e のように使われる。減去命名法などに用いられる。　1L: 制の接頭辞 e。ı を選ばなかったのは、開く接尾辞の ı と重複するため。前の単語の接尾辞の ı なのか、後ろの単語の接頭辞の ı なのか、耳で分からなくなる組み合わせがでないともいえないので、あらかじめ芽を潰した。

e(ꟿ)　［文末純詞］だなぁ　［レベル］1　古　:::ɔ,ıꞁſ　［語法］　ı の e 系列。人に喋りかけるときに使う詠嘆。ı にすると独り言のような詠嘆になる。ı を相手に使うと、やや男性的でぞんざいな感じになる。

e,ɑ　lɪnꞁ　e

e,lꟿ　ɔ　enſ,ȷzɑ.ꞁcꞁ

eſ　［動詞］ȷɔl は ɥəl である、だ、である。定義動詞。　［レベル］1　ȷeµſ　1ꟿ: 恣意　ɑe:ɑe:ȷɔn　［語法］　繋辞。名詞や形容詞を ɥəl に取る。繋辞の時制は、時制を表す副詞を繋辞動詞としてそのまま使う。例えば過去時制の繋辞は ıſ。lı ıſ ꞁıc で「彼は大きかった」。lı ȷcl ꞁınlı で「彼は教師になるだろう」。

eſ(ɺ)　［接尾辞］～的な、～風な、～ふうな、～系　［レベル］1　ɑu:ſeeze から　ɺꟿ:µcɑcɪ: 古か制か新生の初期から「～風の」という意味で –ſe というのが使われていたが、閉音節の多いアルカでは –ſe がリムレットして –(e)ſ になることが多く、ɺꟿ でようやく –(e)ſ をひとつの独立した接尾辞として認めることにリディアが決めた。その少し前（ɺʔ 末）に –eſſe という接尾辞をセレンが作ったが、それを消してのことだった。セレンが –(e)ſ を接尾辞として導入しなかったのは、同音異義語が増えると懸念したためである。例えばこのリディアの決定以前は「哲学的」は ıueleſſe で「ロッド」の ıueleſ と区別できていたが、この決定以降は両者とも ıueleſ になってしまい、区別がつかなくなってしまった。　ſe, eſ:ſe, eſ:ſe, eſ　［語法］　開音節で終わる場合は e が落ちることがあるが、落ちるかどうかは単語の語形が言いやすいかどうかで慣例的に定まる。

eſſɪ　［文末純詞］返事を促す　［レベル］1　古 :eſſɪ,ꞁeſſɪ（さぁ）から。音声のみのアンシャンテ時にトランシーバーの「 どーぞー 」と同じ役割で発達した。　［語法］　文末におき、「ここで自分の発言は終わりです。反応をください」という意味を指す。通常、相手はこちらの発言に対してコメントをする。ここで流されると「あれ？」と思う。失礼なことなので、それが続くと、やられたほうは徐々にイライラしてくる。

eſſɪ(ɺ)　［親族］お姉ちゃん。eeſɪ より子供っぽい響き。　［レベル］2　古　［語法］［文化］　ıꞁȷeµ

eſſɪ(ʔ)　［遊女］［代詞］ſɥə　［レベル］4　ɺ1:eſſɪ

eſſɪ,ɑu　ȷıſ　ꞁeſſɪ.ꞁ

eſſɪn　［遊女］［代詞］ſəɪn　［レベル］4　ɺ1:eſſɪ

eſſɔ　［親族］お兄ちゃん、えっと　［レベル］2　古 :ᴅel: 古アルカの eeſɪ の対。ıleſſɪ, ıleſſɔ と同じ。アプラウトした制アルカの eſɪ, eſɔ の対比から来ているのではない。アシェットではメルがセレンを呼ぶときに eſſɔ 単体で使われる。　［語法］［文化］　ıꞁȷeµ　血の繋がってない年長の男子に対して主に女が親愛の情を込めて使う。

eſſɔlccɑɪ　［天文］レグルス　［レベル］6　1L:ᴅel　［文化］　黄道を通る４つの一等星のひとつ。メル、アルヴァノ、メルティア、セレンで構成される。厳密にはレグルスは「お兄ちゃん星」の意味で、セレンを暗示しているだけである。家族のないメルは縁の人物を挙げると、兄代わりをしていたセレンを兄として含めてしまう。

eſſe　［形容詞］［ポジティブ］［ネガティブ］男勝りな、活発的な、おてんばな、お転婆、おきゃん、きゃん　［反意語］ɥənɑc　［レベル］3　1L:lecn:eſſɪ。制では ɥənɑɪ　［語法］　良い意味か悪い意味かはその場の空気や本人の受け取り方で変わる。

eſȷ　［物理］電波　［レベル］3　ıꞁıꞁſı

eſɪ　［動詞］ɥəl を汲む、汲む、くむ、汲み上げる、くみあげる　［レベル］3　ɑ;e/ſɪ「水を外に」　ɺɺ　eſɪ:eſɪ　【用例】　eſɪ eµ ı dɪd コップに水をくむ

eſɪſ　［名詞］エタット、積極的で外交的な人、男役、タチ、立ち、兄役、兄貴、兄分、姉分、姉御、姉貴、兄者、姉者、姉役　［レベル］2　古 :eſɪſ（エタット）← eſſɪ,eeſɪ（姉）［文化］　性格二分法における、陽のほう。陰のほうは lccȷ という。ıµɑen や ᴅɪɥə は eſɪſ に含まれる。

eſɪn　［生物］エタン、実躰、じったい　［反意語］ıſen　［レベル］3　1L:ıſen の母音を入れ替えたもの　［語法］［文化］　ıᴅɪſ　生物のうち、アテン（神や悪魔や死神やユーマの一族など）を除いたもの。

eſcꞁ　［農耕］くわ、クワ、鍬　［レベル］3　古

eſcn　［動詞］ɔn（金や仕事や勉強など）について ɥəl（人や境遇）に甘える、甘える　［普通動名詞］甘え　［反意語］hcnɔ　［レベル］2　1L: 制 :eſn　［語法］　アルバザードはフランスと似ていて個人主義でもあるため、甘えの文化は日本と違ってないだろうと想像されるだろうが、実際にはアシェットがほとんど同年代で構成される中、メルだけが初期のメンバーで年少者で、セレンがこれを猫可愛がりしたため、甘えの文化があった。　アルバザードは個人主義なので ȷᴅ までは甘えの文化がなかったが、ȷᴅ で村社会の凪人が甘えの文化や長幼の文化を持ち込んだ。その上 µɑ でセレンがメルを甘やかして甘えの文化を発達させ、それがアルカに反映されたため、ȷᴅ_µɑ 以降は甘えの文化や長幼の文化がアルバザードにも存在するようになった。　ただし、日本語の甘えと一対一の対応をする概念ではなく、アルカにおいて eſcn は hcnɔ すなわち我慢の反意語である。　我慢しないで誰かに依存して助けてもらうとか、我慢しないでストレスを吐き出すとか、そういう意味で eſcn という言葉を使う。従って、日本語で甘えといえるシーンで全て eſcn と訳せるわけではない。　【用例】　ᴅel eſcnɪſ ȷeµen ɔn ſɔſɪl. メルは何から何までセレンにおんぶに抱っこだった。

eſcᴅ　［医療］ジェンダー、ジェンダーとしての性　［レベル］4　1L:eſɪſ/hcᴅ　［文化］　アルバザード人は同性愛に寛容な反面、ジェンダーとセックスの不一致には厳しい。すなわちホモやレズは受け入れるが、男なのに女として生きるというような価値観はあまり受け入れない。つまり、男同士・女同士の恋愛は寛容されても、女が過度に男のように振舞ったり、男がオカマのようなへなへなした態度を取るのは気持ち悪いとみなされる。　ホモやレズは認知されていてもやはりレアなので、笑いやジョークのネタになる。ただし、高学歴ほど笑わないで受け入れる傾向にある。　女装男装については嫌われる傾向にあり、高学歴でも笑いの対象としがちである。ただし、女装男装に関しては但し書きが必要で、非常に美しい男が女装をするのは受け入れられる。一方、女が男装をするのはいずれの場合でも気味悪がられる。ただし hcᴅµcəȷ のようなたまのイベントは除く。　なお、これらの設定はすべて現実のアシェットを反映している。　アルバザード人の多くの男性は（恐らく日本人の多くの男性と同じだと思うが）、一緒に遊ぶなら女より男のほうが好きだが、女体と男体なら１００％女体が好きで、男体が好きというのはありえないと思う。ふつうに人付き合いをするなら男のほうが圧倒的に付き合いやすいし好きで、どちらかというと女はあまり話も価値観も合わないので好きではないのだが、じゃあ男に性的魅力を感じるかと言ったらそれは髪の毛の先ほどもなく、逆に女体はふつうに好きである。おおむねふつうの日本人もこんな感じではないかなぁと思う。

eſccµ　［生物］黄色人種、エティール　［レベル］3　1L:µcɑcɪ　［文化］　lɪnd cſ

eſccµoɪꞁɪnɪ　［俗語］和物ロリータ、和炉、アジア人ロリータ、亜炉。東洋人（黄色人）ロリ物をすべて指す。　［レベル］5　µɑ;/　ɺʔ

eſɔȷ　［宗教］［ジョブ］エトス、僧侶　［レベル］3　古 :eſɪ からか　［文化］　アルティス教の聖職者。聖職に就くことを生業としている。当然敬虔な信者だが、エトスはプロでラティスはアマという違いがある。

eſɔȷſɔnꞁ　［政治］僧侶　［レベル］4　1L　［文化］　アルティス教徒が作った身分階級。きちんと階級として認められるのは革命から。

eſe　［化学］中性、電気的に中性　［レベル］3　ɺ1:e/ſeȷ

eſeſſɪ　［遊女］［代詞］lclcȷ　［レベル］4　ɺʔ

eſeſſɪn　［遊女］［代詞］lclcn　［レベル］4　ɺʔ

eſeꞁ　［料理］茶、紅茶　［レベル］2　ſᴅ;eµcɪ/ſeꞁ　古 :eſeꞁ（茶、葉の水）eſeꞁ:eſeꞁ:eſeꞁ:leſſe,ɑφn　［文化］『ミールの書』で茶といえば紅茶を指すように、無標は昔からずっと紅茶である。紅茶はアルカで最も普通に飲まれる嗜好品。砂糖などを入れて飲むが、ストレートも多い。『紫苑の書』などでも頻出する。　お茶文化はもともとヴェマやアルティアやメティオなどで盛んだった。各地でそれぞれ分類様式化されていたが、µɑ でクミールによってアルバザード流の様式が確立し、黒茶、白茶、紅茶、青茶、緑茶、黄茶の６分類ができた。　ルティアは早くからヴェマの影響を受けて６分類を持っていた。　【用例】　lɪɑ eſeꞁ 紅茶を淹れる

eſelſel ［料理］茶葉 ［レベル］３ ſɒ;/ ɺˀ

eſelſelɟ ［料理］ティーカップ ［レベル］３ ɺɺ

eſelɒeɟl ［料理］ティーパック、ティーバッグ、ティーバック ［レベル］３ ɺɺ

eſelhɔln ［料理］ティースプーン ［レベル］３ ɺɺ

eſel e ɒccµ ［料理］フレーバーティー ［レベル］３ ɺɺ:「ミールの書の紅茶」。作中には色々な紅茶が出てくる。lcɟſcnı の場合はベリー系の色に設定してある。

eſeıµlucın ［化学］ファンデルワールス力 ［レベル］５ ɺ1

elſ ［動詞］ɥəl を ı にこぼす、こぼす、零す、溢す、こぼれる、溢れる、零れる、毀れる ［レベル］２ 1ˀ: 制 : 古 :elelſı（水が行く）【用例】 elſ eµ e{c} dıd コップの水をこぼす

elſlɔɔb ［被服］トーク µɑ;/ ɺɱ ［文化］ ɟɒ でできた。零れ落ちそうな形をしていることから µɑ でこの再命名がなされた。ケートイアの貴族が着始めたのが最初。

ell ［名詞］流れ、フロー ［動詞］ɥəl を ı に流す、流す、流れる ［類義語］ellµecn ［レベル］２ 1ɱ: 制 :ele（川） ele:ele:lı ele ［語法］ 水が流れ出したら lcſ。流れている最中が ɔµ で、ストップしたら cl で、水がわだかまっている状態が eɟ で、そのわだかまりが染みこんで消えたら ſɔɔl で、染みてぬかるんだ地面が clſ。 川を流れる葉のことも ell といえるし、川を流れる水そのものも ell といえる。後者の場合、明言したいなら ellµecn とする。 ɟɔl には液体と気体のみを取る。血が流れるはＯＫだが、桃が流れるとは言えない。固体の場合、副詞にして ɑcıcl lənıɟ ell とするとＯＫ。液体と気体は動詞、固体は別の動詞＋副詞で。 固体だけ別扱いなのは、桃の場合、流れているのは桃でなくて川の水だから。水が流れることで桃が移動する。だから動詞は ell でなく lenı になる。そしてその移動の様態として ell が副詞になる。桃の果肉が桃の中でどろどろに溶けて桃内で流れ出すなら、ɑcıcl eµl と言える。【用例】 el̄ ɑɔſ{ſcn} 激しい流れ、激流 eµc ɔµ ell. 血が今どくどくと流れている。 eµc eɟ ell. 血が流れた跡があり、乾いている。

ellaclſ ［名詞］なりゆき、成り行き、成りゆき、成行 µɑ;/「流れていった結果」 ［レベル］３ ɺˀ【用例】 hıɟ ellaclſ 成り行きに任せる

ellµecn ［名詞］流れ、フロー→ ell ［レベル］４ ɺ0

ellzeſ ［経済］フロー科目 1L

ellɔɒ ［名詞］流れ方、展開、流れ、話の流れ、話の筋、筋、ストーリー、物語。物語の展開などの意味の展開。 ［レベル］４ µɑ;/ ɺɱ

elleµc ［医療］血友病 ［レベル］５ 1L: 血が止まらない様を川に見立てている

elɟ ［言語］意味 ［動詞］ɟɔl は ɥəl を意味する、意味する。定義動詞。 ［レベル］２ 古 :elɟ（意味）リュウの無意味からの造語。一般に使われていた ıdcı とは違い、意味論の成分分析における意味素性の１つ１つを指した言葉だった。 【用例】 ſcl elɟ ſcnlı 意味が大きい elɟ hın 意味が広い

elɟael ［言語］意味論 ［レベル］６ 1L

elɟhıɾl ［言語］表意文字 ［レベル］５ ɺ0 ［文化］ → hıɾl

elɟhıɾlɒ ［言語］表意幻字 ［反意語］ɑɔhıɾlɒ ［レベル］５ ɺ1 ［文化］ 新生の普及とともに徐々に使われなくなっていったが、現在でもアルミヴァの１２神や使徒記号など、残っている例もある。ɑıc や lccſɔ など、簡単な幻字は看板や広告などで日常的に見られ、デザインにも見られる。難しい表意幻字については学識のある人、特に文学部など古典を読む必要性のある人であれば読める。また、アルナ大など学校によっては受験科目に古典があるため、学歴に一般的に比例する。

elɟıuıc ［魔法］［言語］意味素性 ［レベル］６ ɺ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

eln ［名詞］平行 ［格詞］平行な、～に沿って ［メタファー］［格詞］［形容詞］方向性が一緒な、馬が合う、反りが合う ［反意語］ɟɔlſ ［レベル］２ 1ɱ: 制 :ɔln: 古 :ɟɔləlı ［語法］ ２０１２年１２月１９日にセレンは南雅彦（２００９ ｐ５７）『言語と文化』を参考に、意見や企画などが互いに平行しているというメタファーはアルカで反りが合うのか合わないのかどちら、つまり日本式なのか欧米式なのかを判断するため、リディアに質問を投げかけた。ınɔ ınſeɟ eſ eln ı lɔl はどういう意味だと思うと質問したところ、リディアは「私たちの計画は互いに同じ方向性である」のことだと思うと答えた。 日本語で平行といえば平行線のことだから、反りが合わないということだが、英語のパラレルの場合意味が逆で、同じ方向性で似ているという意味になる。この言語現象をセレンは言語相対論的に解釈した。つまり、アメリカ人は個人主義が発達しているため、俺は俺の道を行き、君は君の道を行く。その道が平行ということは、方向性が一緒ということであり、似ているということになる。一方、村社会の日本では、和を以て貴しと為すという精神が浸透していているため、交わって和を成してこそ互いに馬が合うということになる。同じ平行という概念でも日米で真逆の解釈になるのは、恐らく集団主義か個人主義かという文化の違いが言語の違いに反映されたものではないかとセレンは言語相対論的に解釈した。 そこでセレンはリディアを使って実験し、先の例文の意義を尋ねた。するとリディアは平行しているということは意見が似ていて馬が合うということではないかと答えた。これはアルバザード人が個人主義を重んじていることを考えると、先の言語相対論的な説明に沿う。 次にセレンはネイティブである５歳のルシアにも同じ実験をし、彼女もまたリディアと同じ解釈を示した。ネイティブがそのような判断をしたということで、やはりアルバザード人の個人主義という文化的価値観が、平行の比喩的な語義に影響を与えた結果ではないかと考えた。 続けて逆の意味の ɟɔlſ でも同じような例文で文意の調査をしたが、ɟɔlſ の場合は意見や企画が衝突してしまってぶつかり合ってかち合う、つまり反りが合わないという意味で解釈された。交わることを日本人は恐らく和を以て貴しと為すの精神で和合と捉えるが、個人主義のアルバザード人の間では同じ表現が和合ではなく個と個の衝突からのいさかいという風に受け取れたのが非常に言語学にも文化人類学的にも興味深かった。 結局セレンは eln や ɟɔlſ の比喩的な語義を定める際、個人的にワンマンで定めることができなかった。というのも、セレンが勝手に語義を定義しても、それがネイティブらの語感に沿わない場合は遠からず棄却されるからである。このようにして、セレンはネイティブの語感に頼って語義を設定していった。 ちなみにこのような言語設計はネイティブがおらずセレンがワンマンで作っていた制アルカの時代が終わってからとみに見られるようになった新生アルカの傾向である。 【用例】 ın ləlıſ eln eµec. 川に沿って歩いた。 ☆ ınɔ ınſeɟ eſ eln ı lɔl. 私たちの計画は互いに似ていて方向性が一緒だ。

eln(ɺ) ［生物］［医療］流注 ɟzl;ele,ɑ.l ɺɱ

elnſced ［建築］側溝、そっこう ［レベル］４ µɑ;/ ɺˀ ［語法］ 道路や鉄道敷に沿って設けられる溝であり、専ら当該道路等の滞水を防ぐための排水目的で施工される。

elnµecn ［数学］平行線 ［レベル］３ 1L

elnen ［接続詞］eln ［レベル］３ ɺ1

elneeu ［物理］縦波、粗密波 ［レベル］５ 1L: 媒質の振動が波の進行方向に対して平行

elɥəlcı ［地名］エキュリア、エキュリア海 ſɒ;ı は「海」 ɺˀ: 以前にあった語形を再利用。 ［文化］ セレート島以西、ファベル以東の海。

elɥəlcıſcle ［地学］エキュリア海流 ɺˀ

elleµ ［音楽］チェレスタ、エクレール ［レベル］５ lɱ;lleµ.l ɺ1 ［文化］ ɟɒ でルティア人が開発。同アルバザードへ伝来。ルティア、アルバザード、アルダで特に好まれる。

elı ［地学］水たまり、水溜り、水溜まり ［レベル］２ 1ˀ: 制 :『すなおな気持ちになれる風』【用例】 ın ləlıſɔµ ıɒɔl ſc lɔnſ nıɒeſeɟ nɔɟ ɒın ɔlſ ucl ıleɒ ɒcl ſlə. ɥın ſc lıen elı uıcɟıſɔµ ın ſccıl. 恥ずかしくて気持ちを伝えられずに、うつむいて君の隣を歩いてた。そしたら水たまりに映った君が僕を愛おしそうに見てた。

elıuccɑı ［生物］［医療］宗穴、総穴 µɑ;/「水たまりの経穴」 ɺɱ

elc ［名詞］機能 ［レベル］２ 1ˀ: 制 : 古 :elc（顔が変わる）。７年にメルの持っていたヘッドを回すと顔が変わって色が変わるボールペンをセレンは見せてもらった。顔が変わるごとに機能が変わるというそのボールペンが由来となり、elc「 顔を変える 」が「 機能 」という意味になった。elc といっても他の使徒には通じず、"elc ＭＥＡＮＳ ＦＵＮＣＴＩＯＮ." とメタ言語に英語を使ってセレンは使徒に広めた。

elcn ［言語］成句、イディオム、熟語 ［類義語］ıuıſ ［レベル］４ ɺ0:elc/µenɟ（機能する言葉）

elcnlec ［名詞］熟語帳 ［レベル］５ µɑ;/ ɺˀ ［語法］ 学生がよく英単語帳とともに買っていく単語帳の熟語版のこと。

elclɔſɟ ［電算］ファンクションキー ［レベル］３ ɺ0

elɔ ［建築］樋、雨どい、雨樋 ［レベル］３ ılılſı:eµcılelſɔ ［文化］ 水を送る装置で、雨どいや田畑に使う。

elɔɟ ［形容詞］流暢な、饒舌な ［反意語］ɔſel ［レベル］２ 1ˀ: 制 : 古 ele（川）【成句】 elɔɟ ɥən µcɑcı 立て板に水

elɔl ［代詞］［ɥen］私たちの ［レベル］１ ɺ1:lɒccµ:e lɔleſ（私たちの）

ele,ɑ eµec、ell 「水の方法→水が行く」

eleſ ［名詞］才能 ［レベル］３ 1ˀ: 制 :eleſɔne【用例】 ſcl eleſ 有能だ、才能がある ɟc eleſ 無能だ、才能がない

eleſɔne ［組み数字］２１／２８ ［交通］エケトネ通り ［レベル］２ ɺɺ

eleſɔne uıını ［人名］エケトネ＝ヴァーナ ［組み数字］２１／２８ ［レベル］３ 古 : 語源不詳。uıını は「 勇気がない 」の意味。 ［文化］ → leſue µınſ （ˀ →) 第４期４代ソーン第７使徒。男性。dclɔ。１６５ｃｍ、４７ｋｇ。髪は金色で短く、少しくせっ毛。青の瞳。肌は白 : 黄＝９ : １。メルの友人。

eleſɔɔ uıını ［人名］エケトー＝ヴァーナ ［レベル］５ 古 : 右の名は後付け ［文化］ エケトー＝ヴァーナ。初代ソーンの第７使徒。異性魔王

eleſelccnı ［人名］［ユマナ］エカテリーナ 先 : 先代アルカの時代に生まれていたので。そもそもアルカの名前でない。地球のものを音訳しただけ。 ［文化］ ルティア家専属のセラピスト。リディアらと同居している。鍼灸なども打てる。リーザやリディアが若いのは美容鍼や腎経などのトリートメントを日々行なっているからというのもある。

eleɟ ［動詞］ɥəl を ı（場所や方向）にうねらせる、うねる、湾曲する ［美容］ワインディング ［レベル］３ ɺ1:「川する」

eleɟen ［音楽］トランス ［レベル］５ ɺ1

elel ［経済］流通 ［レベル］４ µɑ;ele/ɟɔɔl ɺˀ

elſ ［形容詞］汚い、不衛生な、汚れた、不潔な ［類義語］beφɔı、ſelıɟ ［反意語］ɔɟl ［形容詞］［婉曲］男に手をつけられた ɟeµſ ［レベル］２ 1ɱ: 制 :ɔlſ eeɥı:eeɥı:eeɥı ［語法］ 醜いという意味はない。不衛生を指す。

elſſced ［建築］どぶ、ドブ、溝 ［レベル］３ µɑ;/ ɺˀ

elſlɔµ ［建築］下水道 ［レベル］３ 1L:clɒəɟ:µcɑcı

elſeµ ［名詞］下水 ［レベル］４ µɑ;/ ɺˀ

el̄ ［建築］洗面所、手洗い、手洗い場、洗面台、洗面器 ［レベル］２ 1ˀ: 制 :eell̄ı ［文化］ トイレの近くにある。鏡があって水道がある。上下にタオル入れがある。日本と同じ。水で顔を洗ってタオルで拭く。これも同じ。洗面所は大抵トイレの数だけある。 【用例】 ın ılɟcdıſ eµ ıl el̄. 洗面台に水を吐き出した。

eln ［名詞］フィルター、エアフィルター ［レベル］3 1ʔ: 制 : 綺麗にするもの

elɒ ［名詞］たらい、盥、タライ ［レベル］2 lɪlʃɪ: 洗うもの

eld ［擬音］ごしごし ［レベル］2 1ɱ: 制 : 物を磨くオノマトペ ell

ell ［名詞］ブラシ、筆、たわし ［類義語］hensc ［レベル］2 lɪlʃɪ:ell（ブラシ掛けするときのこする音のオノマトペ）【用例】 ɪn ellɪʃ ncɪ. 髪にブラシをかけた。

ellʃləʃ ［俗語］歯ブラシ舐め ［類義語］dɪlnʃləʃ ［レベル］3 1L:ɒel/ȷeɥen: おジャ魔女どれみの動画をメルに紹介したら爆笑して、アルバザードだと歯ブラシに相当するだろうと言って設定したことから。 ［語法］ 日本の笛舐めに相当。アルバザード人は学校に歯ブラシを置いているので、主に男子が好きな女子のを使うことを指す。性的倒錯の強いアルバザードだといかにもありそうだということで設定。笛と違って血を通して病気が移るので明らかに避けるべき。女子はそれを知っているのでロッカーに入れておくが、ロッカーは湿気が強いので、使用後はよく水を切らないとすぐブラシが臭くなってしまうのが悩みの種。 非常にキモがられる行為で、バレると学園生活が終わる。

ellhɔȷ ［名詞］ブラシ立て、歯ブラシ立て ［レベル］3 1L 【用例】 ɪn euɪʃ ɷcɔell ɪl ellhɔȷ lc ɔll ɷcɔell. 歯ブラシを濯いでから歯ブラシ立てに置いた。

elɔ,ɑ ɔll e は水。

elɔn ［動物］アライグマ、ラクーン ［レベル］3 lɪlʃɪ: 洗う者

eȷ ［接尾辞］継続相を示す動詞語尾。開音節の動詞では ȷ になる。 ［動詞］ ɥəl になっている。継続相の繋辞。 ［レベル］1 1L: 恣意 ʃɪn:ɪncȷ,lɥ::h ɪzelə,ɪlʃ 【用例】 eȷleȷ（濡れた地面を見て）雨が降っていた。 ȷlcneȷ 座っている uɔɥʃeȷ 死んでいる cneȷ 見ている ʃə eȷ eueȷ. これは濡れている。

eȷ(ȷ) ［文頭純詞］なぜ ［レベル］1 ɑ;e 1ʔ: 制 lɔɒɔ:lɔɒɔ 【用例】 eȷ ʃc leʃɤ どうして行ったの？

eȷ,ɑ eȷl ‹›eɥcɪ

eȷʃ ［言語］名、名前、曲や文章や演劇などの題、題名、タイトル、題目、表題。手紙やメールなどの「件名」は eȷʃ でなく ɔlɒɪ。 ［動詞］ ɥəl を lel と名付ける、名付ける、名づける、呼ぶ、名乗る ［レベル］1 ȷeɥʃ 1ʔ: 制 : 第一改定前アルカ eeȷʃe（名前）。制アルカは名前→苗字の順で書く eeȷʃe:eeȷʃe:lə eɥȷʃ:ɥənɪ,ɪlʃ ［文化］ → ləzeȷʃ, eȷʃlɪnφ
＜人名の構成＞ 通常、人名は名 (eȷʃ) ＋姓 (ɥɪȷʃ) である。「～家の誰それ」という意味で、e 語順。 人によってこの間にミドルネームが来ることがある。ミドルネームは最大３つまであり、ȷɪɥnə, ȷe ʃʃɔ, ɔɔɥ と続く。ɥcɷcɪ ȷɪdlc ɥȷcclɪ ʃeɔ ləʃcɪ や ɥɥəə ɔlcȷcɪ ɑcn ʃc lnɔ hɥəəʃɔ などは最長。 ミドルネームは功績のあった人物に付けられる ɥɷ までの風習で、貴族や英雄などに付けられた。nɷ 以降は廃れたため、ミロクもミドルネームを持っていない。 ＜呼び方＞ 人を苗字で呼ぶ場合、属格はその家の者全員を指す。その家の特定の成員を指す場合は苗字単体にする。元は逆だったが、個人を呼ぶ機会のほうが多いため入れ替わった。 "ɷɪcn ɪɥbɪn, ɒcɥ lənɪ ɪʃə" だと家族全員が呼ばれている。ɷɪcn ɪɥbɪ だと特定の人が呼ばれている。 前者が「田中家御一行様お越しください」だとするなら後者が「田中様お越しください」である。 ʃl まで苗字の使いどころがなく苗字の存在意味が希薄だった。同年大会議後にセレンとリディアが人の呼び方を統一した際、苗字の使い道について検討され、このようになった。 親密度や敬度に応じて人の呼び方は変化する。敬称と組み合わせることが多い。ざっくり言うと親密度は名前＞苗字で、敬度は敬称の重さの順である。 ɪɥɷə ɪɥbɪ と ɥəə ɒɪ ləʃcɪ を呼ぶ場合、大雑把に言って以下の順で丁寧な呼び方となる。
厳密にいえば必ずしも丁寧順で並んでいるわけではなく、状況に応じて最も相応しい呼称がある。例えば論文などで「アルバ氏」という場合は ɥɪə が適切である。 同様に、ȷɪn ɪɥbɪ_ɪɥbɪ より ɷɥəȷȷɔə ɪɥɷə_ɪɥɷə ȷɪn のほうが丁寧。丁寧だが親密度も高い。逆に ɪɥbɪ は丁寧ではないが親密度が低い。面識のない同級生などに用いる。つまり親密度と丁寧さの組み合わせでこれだけのバリエーションがあるということになる。 ɷɪcn ɪɥbɪ : アルバ様 ɥɪə ɪɥbɪ : アルバ氏 ȷɪn ɪɥbɪ : アルバさん ȷɔə ɪɥbɪ : アルバ君 ɪɥbɪ : アルバ ɷɥəȷȷɔə ɪɥɷə: アルドゥ殿、アルドゥ様、アルドゥさん ɪɥɷə ɷɥəȷȷɔə: アルドゥさん ɪɥɷə ȷɪn: アルドゥさん ɪɥɷə ȷɔə: アルドゥ君 ɪɥɷə: アルドゥ ɷɪcn ləʃcɪ : ルティア様 ɥɪə ləʃcɪ : ルティア女史 ȷɪn ləʃcɪ : ルティアさん lccz ləʃcɪ : ルティアちゃん ləʃcɪ : ルティア ləɪ ɥəə ɒɪ : ユーマ嬢 ɥəəɒɪ ləɪ : ユーマさん ɥəəɒɪ ȷɪn : ユーマさん ɥəə ɒɪ lccz : ユーマちゃん ɥəəɒɪ lccs : ユーマたん ɥəəɒɪ : ユーマ
lccz や lccs は ɥəəɒɪ より馴れ馴れしい場合もあるので注意。
呼び捨ては家族や恋人や親しい友達などに限られる。 日本との違いは、比較的苗字より名前を使うことのほうが多い点。苗字は全体的に他人行儀な印象を与える。 同級生だと赤の他人は ȷɪn ɪɥbɪ か ɪɥbɪ 辺りになる。面識があると名前を用いるが、ɷɥəȷȷɔə は仰々しいのでたいてい ȷɔə になる。ɥəəl などは面識があっても親密度を上げにくい傾向にあるため、苗字を使い続けることもある。ただしあまり好まれない。 ＜その他の敬称による呼称＞ ɥȷcclɪ ɪɥbɪ : アルバ先生 ɪɥbɪ lɪnlɪ : アルバ先生 ȷɪɪɥ ɪɥɷeȷ : サールのアルデス eɥʃ lɑeɥ : エルトのルフェル ɷeeɒ ɒelʃcɪ : 悪魔メルティア ɷɪcz ɒeʃe : メテ王 ɪɷel uecφɪn : 魔族ヴェイガン ȷeleȷʃ uɪnφɪɥɷc : 死神ヴァンガルディ ＜人名の命名＞ 人名は親や親族が決めるのが一般的。神や英雄の名を取ることや、草木花など自然物から取ることが多い。 一般的に保守的な階層ほど ləzeȷʃ を避ける傾向にある。 命名権や改名権については eȷʃlɪnφ を。 子供が魔物にさらわれないようにわざと汚い名を付けるという風習には少なくともアルバザードには有史以来なかった。 ＜カタルの命名＞ 現実において、初代の使徒の名はカコに記されている。当時はアルカがない。初代アルカは花言葉を使った暗号で、人工言語を作ろうという意思の下に作ったものではない。 使徒の名は当然彼らの本名ないしコードネームで綴られた。メル９年、生々しいとの理由でリーザが改名した。ɥəɷcɪ などは ɥcɷcɪ に似せて作った。ɥcɷcɪ というのは当時セレンが勝手に呼んでいた名で、当時はリディア本人は ɥccɷɥɪ がふさわしいと主張していた。リーザは生々しさの少ない ɥcɷcɪ を選び、さらにそれをもじって ɥəɷcɪ にしたわけである。 厳密に言えばリーザが改名してできた名前は lɪlɔ 初出ではないのだが、初出基準が甘かった時代に登録されているので、本辞典では lɪlɔ となっている。 他方、ソーンの初代使徒は、花言葉暗号の本家だけあって全員コードネームだったため、改名の必要はなかった。そもそも、必要があったとしてもリーザにはどうにもならなかった。 ただし、使徒の苗字はクミールが後付けしたものである。例えばヴァルシーラなど。この苗字は３代の使徒にも宛がわれている。つまり、クミールは使徒に苗字を作り、それを初代～現代まですべてに適応したというわけである。 初代ソーンの名は古くからセレンたちにも知られており、赤アンクノットには既にそれを基にした異性魔王の名が綴られている。 アノは３代を作ったときに、初代ソーンの名前をもじって使徒に名前を付けた。例えばオムトはウムトから来ている。 クミール（？）は４代を作ったときに、やはり同じことをしている。ウムトナはウムトから来ている。 よって現在のソーンの使徒は後述するアルシェの使徒と違い、純粋にコードネームで、アプリオリ度が高い。 一方、ランティスの名について。アルシェは本名をそのままアルカの音韻に当てはめたタイプと、訳したタイプと、純粋にアルカのタイプがいる。 メルのように ɒeləə と母音を含んだものもあったが、あれは母音を後から添加したのではないか。恐らくメルの本名は ɒel だろう。（２０１１年追記：去年だか今年の始めだかに送られてきたファイルのプロパティに本名を消し忘れていて、初めて本名を知った。少なくとも ɒel ではなかったことを記載しておく） リディアのように親からアシェットをやっていた場合、カコの登場人物リディアを元に名付けられることもある。 リュウは、初代のヒューウェがリーザによる改名であれば、ヒューウェがリュウから来ていることになる。そうでないなら、初代がヒューウェという恣意的なコードネームで、そこからリュウを名付けたといえる。 アルカはアプリオリだが、最も弱いのは実際のメンバーの名前だ。自然言語排他のない時代からアルカは存在するので、仮にメンバーが本名を捨ててコードネームを名乗ったとしても、しばしばアポステリオリになってしまう。 例えばリーザという名前は本名を基にしたコードネームだが、恐らく本名はエリザベスであろうから、アポステリオリである。 アポステリオリだが、リーザという人は架空の惑星アトラスではルティア国の姫であり、姫の名としてアルカで通っている。 リディアも恐らくアポステリオリだ。９歳のころからリディア（正確には ɥccɷɥɪ）と名乗っていたので、彼女は恐らく本当にリディアという名前でどこかの国の役所に出されたのだろう（セレンの考えではエストニア周囲）。ただ、セレンに会う前にリーザが「これから自分のことを ɥccɷɥɪ と名乗りなさい」と指示されていた可能性も捨てきれない。 これはセレンの私見だが、恐らくリディアの本名はエストニア語でＬｉｉｄｉａか、ｉの部分をｕウムラウトにしたものではないか。それを元に ɥccɷɥɪ というコードネームにしたのではないか。同様にリーザについてはエストニア語のＬｉｉｓａが元ではないか。リディアと彼女が会った（正確には再会）のはフィンランドなので、リディアは彼女の名前をフィンランド語で呼んだはずだ。Ｌｉｉｓａのフィンランド語読みはリーサである。リーザはそのリーサという読みを少しもじって自分のコードネームをリーザにしたのではないか。ただそれでは殆ど変化がなく、コードネームに感じられない。そこで推測するに、Ｌｉｉｓａという名前自体が既に仇名になっていて、彼女が役所に届けている本名はエストニア語でＥｌｉｉｓａｂｅｔやＥｌｉｉｓａやＥｌｉｉｓｅなどではないだろうか。 人名はしばしばアポステリオリだが、流石にこれはアポステリオリとして排他するわけにいかない。
唯一排他できるとしたら、団体内での呼称がシフトした場合だ。セレンが好例だろう。 セレンはもともとフランス人の名前で登録されているので、アシェットの人間は呼びやすかった。 ところがあだ名の「セレン」が付いてから、徐々にこちらがメジャーになっていった。それで現在ではほとんど誰も戸籍名で呼ばない。恐らく娘はセレンの戸籍名を知りもしない。 セレンになることでアポステリオリな戸籍名を捨てたわけだが、あだ名が戸籍名を駆逐するという例はむしろ稀。 あだ名系の場合、大体はギルやザナのように、本名が長たらしいのでアルカ風に切り詰めるといった半アポステリオリになる。 なお、アプリオリを尊ぶようになってからは当然アルカでの命名がなされるようになった。 次世代の子供たちはすべてアルカで名付けられている。ただし、ルシアはルーシアやルチア、ハイレンはエレーヌやエレインなど、アルカにも西洋語にもなる名前が選ばれる名前が多い。 これは親の苦労から来ているようで、リディアは案の定Ｌｙｄｉａと間違えられることが多いそうだ。「ゥリーディャ」という感じの音なので日本人なら間違えない（間違える以前に聞き取れもしないから）が、英語圏の人間は特にＬｙｄｉａと間違えるらしい。 ＜名前の意味＞ リディアの名前の意味は ɥc（美しい）/ɷcɪ（夢）であるが、もともとその意味で名付けたのではなく、当時のアルカでリディアの本名を解釈するとそういう意味になるということを示す。 逆にセレンの名前の意味は「黙らせる人」だが、これはアルカからできた名前なので、解釈ではない。
アルシェの古いメンバーは解釈タイプが多い。クリスは「言葉少ない」で、クミールは「口頭弁論」で、メルは「時」である。あまり女の子の名前っぽくないのは、アルカで無理に解釈しているからである。 元々アルカで名付けられた人間と比べると違いがよく分かる。ルシアは「悟り」という意味だし、ユルトは「賢者」である。日本語にすれば「聡子」と「賢太」といった感じか。 ＜神話との異動＞ 神話上はリーザが改名したことになっていない。そうでないと話が成立しないため。 元々初代はリーズのような名前で、それを基にむしろ各国の王たちが子供にクリスなどと名付けたということになっている。 また、神話では初代と４代の能力は同じになっている。現実にはレレゾナ嬢がアンティークの長い杖を持って

いたことから、レレゾナは法陣指という設定になり、神話のレレゾナが法陣指となり、そこからさかのぼって初代のレレスも法陣指で、だからその人が建てた国は「魔法陣」を意味するヒュグノーになった。つまり４代から初代ができて、初代から国名ができている。現実はそうなっているが、神話でこれをやると歴史順序が真逆になってしまう。それを防ぐため、初代の能力が４代に遺伝というか、伝わったという形にした。 【成句】 ʃcl eȷʃ hɔʃ 有名無実

eȷʃȷcın ［言語］名無し ［レベル］３ 1L

eȷʃnɔnɑ ［形容詞］実名の、名入りの。匿名の反対。 ［反意語］eȷʃneɿʃ ［レベル］４ μɑ;/「名を公開した」 Ɉʔ

eȷʃneɿʃ ［形容詞］匿名の、名無しの ［反意語］eȷʃnɔnɑ ［レベル］４ μɑ;/「名を隠した」 Ɉʔ

eȷʃɑlec ［名詞］標題紙→ lec ɈɈ

eȷʃɑcʃ ［名詞］命名 ［レベル］４ μɑ;/ Ɉʔ ［文化］ eȷʃlınφ

eȷʃɒcɥə ［普通動名詞］改名 ［動詞］ɥəl の名を ı に変える、改名する ［レベル］４ Ɉʔ ［文化］ eȷʃlınφ

eȷʃμıȷʃ ［言語］氏名、姓名 ［レベル］２ 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

eȷʃlınφ ［法律］改名権、命名権 μɑ;/ ［レベル］４ Ɉʔ ［文化］ 命名は通常親や親族がするものであるが、命名権については終末まで法整備がなされなかった。慣例に基づき親や親族が命名していた。 名は親が定めたある種の eeȷʃe だと考えられていたため、改名という行為は神代からなされてこなかった。少なくともレスティル～アルバザードにおいては改名行為は一般的ではなかった。 ıl になり ɿəzeȷʃ が社会問題となり、子供が大人になった際、就活で不利益を被ったり病院などで名前を呼ばれて恥をかいたりするシーンが増え、凪人を中心に改名権を主張するものが増え、ıl で子は成人以降一度だけ改名できる権利を得るようになった。 改名権自体は社会的に不利益を被る名前は変えて良いという法律が μʃ からあったが、誰もが持つ普遍的な権利ではなかった。それは ₩8A ネームがそもそも少なかったからで、ıl まで改名権という権利が発生することはなかった。

eȷʃı ［サール］エスタ ［動物］ほたる、蛍 ［類義語］dılȷıı ［組み数字］１６ ［レベル］２ ɒelʃcı 1Δ:ɥəəɒı;eȷʃɔ.ɿ「うつし身→自分の子」 古 :μcɑcı eȷʃı:eȷʃı:lı eȷʃı:lʃel,ul ［文化］ ユーマとヴィーネの娘。ヴィーネに惚れるサールの少女マグラは、ヴィーネの娘を産んだユーマに嫉妬し、エスタを奪って逃げる。マグラはエスタに淫の呪いをかけた。エスタは幼女の姿をしていて、マグラに抵抗できる力をまだ持っていなかった。マグラはエスタを殺そうとしたが、もし殺せばそのことはいずれヴィーネの耳に入ると思い、止めた。そこで泉に投げ捨てた。 呪われたエスタは成長とともに欲望が抑えられなくなっていったが、夫がいないので苦しんだ。少女に成長したエスタは自慰を編み出し、それによってマグラの呪いを解いた。呪いを解くとエスタの体内から蜘蛛が現われた。エスタは蜘蛛を壁に投げつけると蜘蛛は死んだ。こうして呪いは解けたが、幼女のころから刻み込まれた淫乱な性質は体に染み付いて取れなかった。ある晩、エスタは湖でユーマを探しにきていたアルドゥと出会う。そして兄妹と知らぬまま二人は契る。エスタの淫乱さに誘惑されたアルドゥはエスタを娶り、ユーマを探すことを忘れて二人で暮らした。快楽を好むエスタは、アルドゥを誘惑し続け、次々と子を生んでいった。初めの子はエレスという娘とカルファンという息子の双子であった。次はトロメキア、パルテ、シンケという三つ子だった。三つ子は全て女だった。結局、エスタは計１６人の子を生んだが、子供は何故かサールでもエルトでもなかった。 エスタの子供はヴィードが乏しく、姿を変えることも強大な魔法を使うこともできなかった。それはサールでもエルトでもないユーマの血が濃すぎたためである。それで生まれてくる子供はサールやエルトの力を失った弱い子供たちばかりであった。そんなエスタの子供たちは無力とされ、伴侶を得ることができず、近親婚を繰り返した。それによって更にその子孫は神性を失った。 トロメキアはネルメスに口説かれたが、遊びと知って断り、ネルメスを怒らせる。後に兄のカルファンと契る。パルテは水をほしがるオルトに水を与え、その代わりに女らしくするように頼んだ。オルトはパルテに初潮を与えたがパルテはそれが何であるか知らず、オルトを罵った。怒ったオルトはパルテに不妊の呪いをかけた。パルテは兄のカルファンと契ったが、呪いのせいで妊娠しなかった。 パルテはオルトに許しを請いに森を彷徨う途中、毒蛇のサールであるプティンを踏んでしまい、怒ったプティンに噛まれる。泣くパルテを見つけたカルファンはパルテの足を切り落としたが、パルテはその痛みに喘いで気を失った。後にこの脚はエレスの魔法で治してもらう。さてパルテの血は黄色い花に飛び、斑点を作った。オトギリソウである。そのときオルトが現われ、オトギリソウの根に妊娠を司るエルトのイーディスを作り、イーディスを連れて去った。 三つ子の末女シンケは貧相な体で、背も小さく、顔も別段美しいわけではなかった。だから兄カルファンは彼女に対してはあまり優しくなかった。あるとき、兄のカルファンは妹に鏡を与えた。１枚は額が金で、華やかなパルテに与えられた。次の1枚は銀で、しとやかなトロメキアに与えられた。そして最後の１枚は銅で、これがシンケに与えられた。シンケが不当というとカルファンは、美しい者ほど美しい鏡が必要だと答えた。これに腹を立てたシンケはパルテとトロメキアの鏡を割った。その夜、カルファンはバオナに襲われ、近くにいたシンケを犯した。シンケは子を産んだが、それでも愛されなかった。シンケはその原因を自分の容貌にあると考え、銅の鏡を割り、破片を顔に刺してより醜くなった。それ以後、彼女は顔に布を巻いて暮らした。彼女も後に兄弟全員の子を産むが、いずれも容姿はよくなかった。現代、人類に容姿の悪いものがいるのは、彼女の血脈が少しずつ皆に混じっておりそれが強く遺伝的に現れたものだとされる。 エレスはカルファンに犯されることがなかったが、エスタの１３人目の子供のコーレルによって犯される。エレスは兄弟の仲で一番美しい少女だったが、寡黙な性格で、あまり兄弟とも付き合いを持たなかった。しかし生まれてきた幼い弟コーレルの美しさに魅了されると部屋に閉じこもり、彼と会うことなく過ごすようになっていった。そうしてコーレルが十分成長した頃まで待ち、初めて姿を現した。コーレルは始めてみる美しい少女を姉だとは思えず、誘惑に負けて犯してしまう。 エレスとコーレルの間にはテステェルという娘が生まれた。テステェルはエレス以上に美しく成長していった。テステェルは女しか愛さず、数々の少女と関係を持った。テステェルは大人しく従順だったため、少女たちは自分からテステェルと関係を持った。しかしテステェルは残酷王フェンゼルの求愛を断り、怒ったフェンゼルによって無限に子を生むという罰を被った。生まれてきた子の中にはフェンゼルとテステェルの息子もいた。フェンゼルはそのエルトにヴァレスと名付けて育てた。 アルドゥとエスタの子は近親婚を繰り返したため、次第にアルテとしての力を失っていった。そしてユーマに始まる彼らの一族をアルテはユーマの一族と呼んで自分たちと区別するようになった。ユーマの一族は後に起こるラヴァスが終わるとアトラスに取り残され、独自の発展を遂げていく。これが人類である。 ＜エスタとアルドゥの１６人の子供（人類の祖先）＞ １：eμeȷ：女 ２：ɿıμɑın：男 ３：ʃμɔɒeɿcı：女 ４：dıμʃe：女 ５：lcnɿe：女 ６：ɑıɾleʃ：女 ７：ɿɥəl：男 ８：ɑecʃ：男 ９：ȷeueμ：男 １０：ɿıd：男 １１：scɒn：男 １２：ȷəbeɿ：男 １３：ɿɔɔlel：男 １４：ɑcȷʃel：女 １５：ɥeeuel：女 １６：ʃoıμzel：女 ＜人数について＞ 古・制では２８人となっていたが、面倒くさかったのか、幻日には１３までしか登録されなかった。 新生で登録しようとしたら「書いた紙がどこかにいってしまった」とのことで分からなくなり、幻幻で調べたら、向こうは向こうで１６までしか登録していなかった。仕方ないということで神話上は最初から１６人の子供だったということに設定を変えた。 ＜見た目＞ エスタはヴィーネを受け継いで黒髪茶目の東洋系美少女。 第三世代はいずれも彼らを混ぜたもので、諸特徴が混ざり合った。 【成句】 eȷʃı ȷeeμ ʃcl ɑıc hıμʃ 鳴かぬ蛍が身をこがす。日本語の表現に近い。 【用例】 ın cnıʃ ȷen eȷʃı cɒ ɑəμne. 夜は蛍を見ることができた。

eȷʃın ［単位］マイナス４０乗。最も小さい単位。 Ɉ1:eȷʃı

eȷʃın,lſl lıμſlcl

eȷʃıɑıd ［名詞］紫煙、煙草の煙、タバコの煙 ［レベル］３ nɑ;「蛍の煙」 Ɉʔ

eȷʃıɒeɒ ［組み数字］エスタサークル ［レベル］５ Ɉ1 ［文化］ → μıdıll 普段使わない上実在の人物でもないため、セレンも最後まで覚えなかった組み数字で、ニーモニックを作った。厳密にいえば２４が最後に覚えたものだが、これは新しいので仕方がない。 まず eμeȷ と ɿıμɑın が最初の２人。 ʃμɔɒeɿcı, dıμʃe, lcnɿe は３姉妹で神話に出てくる。 次からが頻度が低いので覚えづらい。「彼に (ɑıɾleʃ) 急に (ɿɥəl) デートを (ɑecʃ) せびる (ȷeueμ)」「電話を (ɿıd) 地味に (scɒn) すべき (ȷəbeɿ)」。 残り４人。el で終わるので「何エル」か覚えればよい。「巻いて (ɿɔɔlel) 捧げて (ɑcȷʃel) 波打って (ɥeeuel) 天国へ (ʃoıμzel)」。

eȷʃıμɿ ［軍事］拳銃、けん銃、ハンドガン、ピストル、リボルバー→ φel ［レベル］４ μɑ:μcɑcı;ul で「雷槌」 Ɉſl:μcɑcı ［語法］ ハンドガンをピストルとリボルバーに下位分類する習慣はない。 ［文化］ φel

eȷʃc ［形容詞］有名な、高名な、名高い ［類義語］hıμɑılɒ、hınɔceȷʃ ［反意語］ɔlɿı ［レベル］２ 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:eȷʃʃcl（名のある） ［語法］ 日本語の有名より弱い。ｆａｍｏｕｓよりさらに弱い。

eȷʃcȷlıl ［名詞］名場面、名シーン ［レベル］３ Ɉ0

eȷʃcı ［名詞］名所、ランドマーク ［アクセント］Eȷʃcı ［レベル］３ ɈɈ:eȷʃc

eȷʃcı(Ɉ) ［アトラスの国家］エスティア ［アクセント］eȷʃc个 ［レベル］５ 1L:μcɑcı:eȷʃɔ

eȷʃɔ ［名詞］鼎、かなえ ［メトニミー］供物 ［メタファー］代償、代価、代金、引換、引き換え、対価、現身、移し身、うつしみ、うつし身、身代わり、おとり、囮 ［レベル］４ ɑ:uınφıμɑc;eeȷʃe.ɿ ɈɈ ［文化］ ɑl で作られた鍋。ʃɒ の頃には目上の物に供物を捧げる際にも用いられた。zφ 以降は人類が神に供物を捧げるのによく用いられた。ɒʃ では特に召喚士に使われた。 メトニミーで供物の意味が生じ、そこから更にメタファーで代償という意味になった。この比喩語義自体は ʃɒ から既に死神ヴァンガルディによって使われだしている。 ヴァンガルディとの契約を結ぶ際は、願いを叶えてもらう代わりに代償を捧げる。ヴァンガルディと契約することを和訳で「鼎を交わす」という。鼎は「代償」でもあり、同時にそれと等しい価値を持つ「望み」でもある。 この「かなえ」という和訳は非常に巧くできている。気付かないだろうか。代償を意味する「鼎」が、望みを意味する「叶え」に通じているということに。 【成句】 μıuen–eȷʃɔ 契約成立。μıuen は ȷzu だが、ヴァンガルディも現代は成句としての μıuen–eȷʃɔ なら用いる。ɑu の頃にはこの言い方がなかったので、死神もそれなりにきちんと新語に対応していることが伺える。 【用例】 μıuen eȷʃɔ 鼎を交わす、契約を交わす。「供物」という意味の「鼎」と、「望み」という意味の「叶え」を、ヴァンガルディと取引することから、鼎を交わすと訳す。 ɑcȷʃ eȷʃɔ 代償を引き渡す μe ɑcȷʃ eȷʃɔ ɿeμ ɑel. 我に契約の代償を捧げよ。 "ɑcȷʃ ɑın eȷʃɔ μınel e. ɿıılʃ, ɑcȷʃeȷ uec eȷʃɔ ȷeʃe"「鼎はちゃんと払うわ。それに、一部は既に支払い済みでしょう？」

eȷʃɔ(Ɉ) ［人名］エスト 8;eȷʃɔ 古 : 語源不詳。古アルカでの意味は「 雨降る森 」だが、アトラスの語源では「うつし身→自分の子」という意味で、eȷʃı と同根。 ［文化］ 実在。生没年不詳。『カコ』や『ソノヒノキ』原文の著者。女性。

eȷʃɔn ［植物］ヒース、エリカ ［レベル］４ 古 : 雨のような

eȷʃɔucɒ ［生物］腸骨筋、腸腰筋 Ɉſl<ɈɈ:「鼎筋」。骨盤を鼎に見立て、その脚を腸骨筋に見立てた物。ただし鼎は通常二脚でなく三脚なので、その点には注意。

eȷʃɔɒ ［名詞］命名法、名付け方 ［レベル］３ μɑ;/ Ɉʔ

eȷʃɔl ［感動詞］よろしく、よろしくお願いします ［レベル］２ 古 : 元は eeȷʃelɔ で、「 名前を知る 」の意。初対面の相手に自分の名を覚えてもらうことは今後の人間関係を築くための第一歩で、「 名前を知る 」

という意味の eejʃelɔ が「よろしく」の意味を表わした。これは元々オヴィやクリスなどが言い出した言葉で、一番初めに使われたのはフルミネアが仲間になったときである。オヴィかクリスのどちらかが名を名乗った後にしきりに「名前を覚えてくれ」という意味で使っていたのを覚えている。それが次第に ejʃlɔ になり、次に恐らく言いにくいという理由で ejʃɔl になって現在に至ると考えられている。［語法］ 今年もよろしくお願いしますのように既知の間柄では使えない。その場合は ɪnj lɪl lccʃ ᴅeᴅcʃ ɪ lɔ̃ cᴅ ʃə jɪlʃ ʃɪn のように言う。

ejʃe ［動詞］ɥəl を ɪ（役職など）に指名する、指名する ［普通動名詞］指名 ［レベル］3 1ᑫ: 制 : 古 :eejʃesc（名前を指差す）

ejʃeʃ ［経済］銘柄 ［レベル］5 ɺɺ:ejʃ/ʃe

ejʃeɑɪ ［名詞］名簿→ eɑɪ ［レベル］3 1L

ejʃel ［エルト］エステル ［動詞］ɥəl を ɪ に翻訳する、翻訳する ［普通動名詞］翻訳 ［レベル］3 古 :ɥcɑcɪ ［文化］ サール界に暮らすエルト。１０代後半の女性の姿をしている。すべての言語を習得しており、失われた言語を全て訳すことができる。ただし、地球の言葉には対応できない。 ＜誕生の経緯＞ ハノイ人の大部分は uclhɪnɔc に住み、主にそこで秘術が盛んとなった。 ハノイ人の一部はリディア人と混血し、サヴィア北西岸に住んだ。 その後、現イールゥートから海へ出た一部の民族がハーディアンを通過してアルカットへ入り、ハーディアンの西にカルセールを築く。 これがカルセール人であり、彼らは移住後はハーディアン、メディアン、サルディーン、アルディアル、スカルディアなどと混血を進めた。 しかしラヴァスになるとカルセールにサルトが入植する。 このときシフェル系と明らかに異なるマレット系の言語が神々に通じず、神々は翻訳の神エステルを生む。 だが、翻訳の手間がかかり、意思疎通が面倒なため、サルトはシフェル系の民を重用した。 【用例】 ɑɪʃɔɔ ᴅɪn ejʃelc̃ ᴅe lcɑcɪ ɪlcj, ɪn cjlɔɥ ʃə cᴅ ʃəɥ. 夢織 秋の翻訳お疲れ様です。今読んでいるところです。

ejʃeljeu ［言語］翻訳文、訳文 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺᶇ

ejʃeluɔ̃ ［言語］翻訳文、訳文 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺᶇ

ejʃeluеʃ ［言語］翻訳語、訳語 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺᶇ

ejʃeluenʃ ［名詞］翻訳会社 ［レベル］5 ɺɺ

ejʃelɑclʃ ［言語］訳、訳文、翻訳文 ［レベル］3 ɺʔ

ejʃelφɪlʃ ［電算］ゲートウェイ、エステルガルト ［レベル］5 ul;/「翻訳の門」。異なるプロトコルのネットワーク間を接続することから。ɺʔ ［文化］ コンピュータネットワークにおいて、プロトコルの異なるネットワークと接続するためのネットワークノード（通信機器）。

ejʃelɪɥʃ ［魔法］［言語］翻訳魔法 ［レベル］5 ɺʔ

ejl̃ ［気象］雨 ［動詞］ɥəl（場所、人）に雨が降る 、降る ［名詞］［婉曲］精子、父親 ［類義語］jccle ljl;ej,ɑ.l ［レベル］2 1ʔ←古 ej 雨 ej:ejl̃:lɪ jccle（水は女）:ᴅclɔlc,ɪlʃ ɔu,ᴅe ［文化］ 雨が降ってきたか確認するときは手の平を上に向けて差し出す。日本と同じ動作。ただし指は閉じ、開かない。つまり指同士がくっついている。簡単にいえば、パーではなくチョップの手。 アルバザードは年中雨が定期的に降る。比較的冬のほうが降る。クリスの月の雨は冷たくよく降るとされる。梅雨はない。雨の季節というとクリスの月を連想する。 雨が土に降って苺が育ち、その苺を食べた女の腹にイーディス神が入って妊娠するという言い伝えがある。 【用例】 ejl̃ ɑɔʃ{ucen} 激しい雨 △ ɪn ejlɪʃ ɥə → ejlɪʃ (ɪn) jcn ＝ ejl̃ lənɪʃ (ɪn) jcn. 雨に降られた。 ejl̃ lənɪnɑ. 雨が降っている。自然な言い方。 ejl̃ ɪnɑ ᴅeʃ. 雨が降っている。落下に焦点。 ejl̃ lənɪ clʃ ɪɥnɪ. アルナに雨が降ってある（地面などが湿っていて降った痕跡がある） l̃leeuel ejl̃ ɪʃɔlɪj. クレーヴェル神はこの星に雨を降らせる。 ejl̃ ɪjl̃el cn. 今にも雨が降りそうだ。 ejlɪʃ l̃cʃ cᴅ ɑɔnc ɑel ɪn l̃ɔlʃcl̃. 私が帰った途端、雨が降り出した。 senʃ eᴅɪʃ ɑɪɥɑ lc ejl̃. 雨が上がった後はよい天気になった。 ejlɪʃ jcl ɪjl̃el cn ᴅɪn ejd lənɪ l̃cʃ sɪn. 雲が出てきたところを見ると、すぐにも雨が降り出しそうだった。 ejl̃ ɪʃ ɪɥ ɔnʃ cj ɥedel cᴅ ɑɪɪɥ. 朝のうち、雨が降ったりやんだりした。 ejl̃ l̃cʃ. 雨が降り始めた。 ejlɪʃ. 雨が降った。 ejlɪʃ ɪʃc l̃ɪl. 小雨だった。 ɪn ejlɪʃ ɥə. 雨に濡れた。 ejlɪʃ (ɪn) jcn. 雨に降られた。 el en dɔɥnɪʃ ejl̃ jcl ɪʃc jɔɪ. そんなに雨が降るはずではなかった。 ☆ l̃eʃ ejlɪʃ ɥə ɔn eɥcᴅ ɪj. 猫がずぶ濡れになった、ぐっしょり濡れた：ɔn eɥcᴅ ɪj で「心臓までも」。心臓は最も熱い箇所とされ、そこまで雨に濡れる＝ずぶ濡れになるというメタファーになっている。 ejlɪʃɪnɑ ɑɔʃel. 雨が激しく降っていた。 ejlɪʃ ɥən ᴅɔe. 滝のように雨が降った。鉄砲雨が降った。 ʃə eʃ lɪᴅ lel ejlɪʃ ɑɔʃel jɔɪ. こんなに雨が降ったことは今までにない。 ejlɪʃ ɔnl̃el. 雨が降り続いていた。 ejl̃ eᴅɪʃ ucen. 雨が強くなった。 ejlɪʃ uɪɥ jel. 雨がやむことなく一日中降り続いた。 ɪn en dɔɥlɔʃ ejl̃ lɪl ɪʃc jɔɪ. 雨がこんなに降り続くとは思わなかった。 ɪn lɪl ejl̃ eᴅ ʃɔɔl̃. 雨がこれ以上降らなければいいのに。 en ejl̃ lɪlel ɑɔl ɑɔə lelʃ. 何ヶ月も雨が降ってない。 ɔn ʃə ɑleɪ, ejl̃ ɪʃ ɑə lecz. 今年の夏は雨がほとんど降らなかった。 ejl̃ lənɪnɑ. ejl̃ eʃ lɪnʃ enʃɔ ɪn jccnɪ ʃə. ɪɪl, ʃə eʃ ɪl̃lɪ lel ejl̃ l'el cnj cdɔʃ ɪᴅɔ ɔ l'el ɑclj ɑɥeᴅ ʃeᴅj. 雨が降っている。雨は綺麗で好きだ。特に車の中から見る雨や窓際から眺める雨は最高だ。 ［言葉遊び］"ejl̃ " ej "eɥ ʃ'e jl̃" ɔ "ʃeɑ ʃ'ejl̃" ʃɪn jecȣ「ejl̃」には「雨水」や「雨滴」という意味もあるのだろうか。

ejlʃe ［気象］雨の降りやすい、雨っぽい、雨じみた天候 ［レベル］3 ɺ0

ejl̃ᴅel ［気象］雨の季節、梅雨 ［レベル］3 1L ［文化］ アルバザードには日本のような梅雨はない。しいていうならクリスの月前後。 【用例】 ☆ ɔn ejl̃ᴅel, nɔn ɥə lejl̃ uɔl ʃcl nɪɥə ᴅɔl ejl̃ jɔɥʃ e l̃lccz ɪnʃcj je. 梅雨のクリスの月の冷たい雨に打たれて感傷に浸るのは乙なものです：言外に傘を差していることが含まれる。雨に濡れていたら安全な位置にいないことになるので、lejl̃ と感じないため。濡れることを愉しむ狂気の場合は、あえて lejl̃ と表現できる。下記の例 ☆ "ɪɪ, nɔn ucnjcl̃ ɥə ɪʃcɪn cᴅ ɑcj, lɔᴅ nɔn lel̃ ᴅɔl ejl̃ jɔɥʃ ʃɪʃɪ ejn l̃ɔnʃ ɥə lejl̃, jɔɪ nɪnnɪȣ"「あぁ、彼に振られてしまった私は、冷たい雨の中、傘も差さずに歩いているの。風流よねぇ」

ejl̃lɪlʃɔ ［地学］雨林 ［レベル］4 1L

ejlɑcɥec ［気象］梅雨前線、秋雨前線 ［レベル］4 1L ［文化］ アルバザードにはこれといった雨の前線がないため、どれも同じ。

ejlɑə ［気象］雨量、降水量 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ejlφel ［軍事］掃射 ［動詞］ɥəl を掃射する、掃射する ［レベル］4 ɥʃ;/「雨のように撃つ」 ɺʔ

ejlɥecn ［気象］雨の線 ［レベル］3 ɺ0:ᴅelcɑcɪ lceɥ ［語法］ 雨は肉眼時、線のように見える。人間の目の処理が遅いため、本来は粒でしかない雨の軌跡が線に見える現象である。これを ejlɥecn といい、霧雨のときには起きない。小雨では極めて弱いため、意識されない。ejlɥecn というと、弱くはない程度の雨が降り注いでいるときの雨の軌跡、およびその状態の雨そのものを指す。

ejlɪ ［魔法］霧泉、亜暁泉、エスカ。亜暁泉は霧泉、逢魔宮、雨宮の総称的な訳語。 ［類義語］ɪleʃ ［レベル］3 ɑu;ej/lɪ「雨の場所」 ɺ1 ［文化］ 雨の降るときだけアレット化する場所。ヴィードの吹きだまり。そのままでは効果が弱いので、ヴィードの流れに沿って門を建てる。門を抜けたヴィードはその向こうにある建物に流れ、建物にいるアテンのヴィードを癒す。建物と門を合わせて ejlɪ という。 ɑu で見つけられ、その後それぞれの国ごとに発展していった。様式ごとに効くヴィードが異なる。 国名:場所名:建物:門:効能 アルバザード：ejlɪ（霧泉）:ɑlɪnueɥs（風花園）:φɪlcɪ（風花門）:ɥənɔ ルティア：ləljɪnʃe（逢魔宮）:ləljɪnʃ（逢魔館）:φɪlʃeɪ（逢魔ヶ門）:ucɥ アルティア：ɥəəɪn（雨宮）：jəclen（御社）：l̃ɪlcn（宿木）：nɔɪ ɑlɪnueɥs：石造りの小さな砦のような建物。ɥənɔ のおかげで植物がよく育つため、周りに花畑がある。風通りが良い。 φɪlcɪ：門自体はなく、石造りのアーチ。外からも花畑が見え、風通りもよい。 ləljɪnʃ：煉瓦造りの薄暗い館。夜は月明かりがよく入るように高い所に窓がある。書架があり、小さな図書館になっている。蔦が這っているのが好まれる。中庭は花が植えられている。司書として lecjʃcɪ がいるところがある。 φɪlʃeɪ：黒塗りの鉄錠門。薔薇を絡ませてあることが多い。中が見づらくなっている。 jəclen：木造の建物で、神社や東屋に似ている。中庭に花を植える習慣はなく、簡素な木が植えられている。地面には白味がかった灰色の土や砂利が捲かれている。見通しが非常に良い。建物は非常に風通しがよい。多少古びていたり苔むしていたりするほうが雅とされる。大きいところだと ɥəəɪ や ɥəlɪlc が駐在している。 l̃ɪlcn：鳥居の形をした木造の門。陽命朱というアルティア固有の色で塗られている。 ＜歴史＞ ɑu から霧泉は存在した。それがレスティルとアルバザードではそのまま継承される。 l̃l̃ になるとルティアから逢魔宮が伝来する。ヴィルを回復する効果が高いため、学校の近くに休憩所として建てられた。 jᴅ になるとカレン経由でアルティアから雨宮が伝来する。ノアを回復するため、リラックス効果が最も高い。そのため一般市民の休憩所として愛され、普及した。 亜暁泉はどこにでも作れるわけではなく、温泉のようにヴィードの吹きだまりがあるところにしか作れない。従って需要があるからといって公園のようにいくらでも作ることはできない。

ejlɔlen ［美容］ハールバール jᴅ;ej/lɔlen「雨のように滴るロール」 ɺᶇ ［文化］ jᴅ でできた。貴族の女性用。

ejlejd ［気象］乱層雲、雪雲、雨雲→ l̃leeuelj（口語） ［レベル］3 1L

ejje ［名詞］セックス、性交、えっち、エッチ、ペッティング、姦淫、姦 ［動詞］ɥəl とエッチする、エッチする、セックスする ［類義語］ejj en、hcdʃ ［レベル］3 ɑ;e 古 ［語法］ 子作りを目的としないセックス。 ［文化］ ᴅelɑclcu, hcᴅjdɪʃ 恋人選びは慎重だが、セックスの頻度は高め。セックスはできるだけ昼に行い、真夜中はしない。睡眠時間を削ってするということはない。実は人間の精力は昼に最も上昇するので、理にかなってはいる。休日の昼や昼休みなどを利用して行うが、さすがに昼休みだと時間が足りないので、現代では寝る前か朝起きにさらっと行うことが多い。寝る前に軽くして、休みの昼などには長めにするといった形になる。生理中は女体に良くないこともあり、控える。 アルバザード人女性にとってセックスは愛情のものさしになっており、いかに自分のさりげない誘惑に相手が乗ってくるかで自分がどれだけ魅力的かを測る。アルバザード人の女性は貞操が固い反面、身を許した相手には頻繁に求める。思春期になると男女ともは性教育を受けるが、男子は一方的に女性にサービスするように教育される。優しく丁寧に扱い、どうされるのが不快で痛いかを教えられる。このことからも分かるが、アルバザードにおいてセックスは男性による女性へのサービスという面が強く、セックスを苦痛に感じるのはたいてい男性。女性は男性に優しく扱われることで男性へ家庭的・精神的な奉仕を還元するという社会システムになっているため、セックスの心構え（技能というより）と体力（腰のではなく）はアルバザード人男性にとって重要な要素となっている。もちろん、どう扱われても痛いとか不快という女性もいるし、体力が持たない男性もいる。あくまでこれは平均的なケースである。なお、時間は寝る前は２時間ほど、昼の場合は３，４時間ほどかける。 ＜様式＞ 女性は基本的にあまり動かない。日本のアダルトビデオのようなあえぎ声を出す文化はないため、女性はほとんど黙っているか、軽く息を荒げる。服はすべて脱がず、はだけさせた状態で行う。夏は汗だくになる。男性は性器に触れない前戯を経たのち、前戯を行う。女性はやはり何もしないで恥ずかしそうにしている。が、そのわりに「あ、それいい」「そこの上のほう……」などと小声で言って指示を出す。その後本番になる。体位は正上位が一般的で、あとは日本と大体同じバリエーション。いくつか体位を経る。その後は後戯に入る。後戯は前戯と内容が異なり、髪を撫でたり腕枕したりといったソフトなもので、愛情を囁くなど、言葉中心の内容となる。また、ここでようやく女性も働くようになり、男性を言葉で褒める。その後シャワーを浴びる。相手の体臭を感じられないのを嫌うため、セックスの前にシャワーは浴びない。 【成句】 ejje lɪl ᴅejɪ ucʃ l̃ɔnʃ

ɥcʝ leun. 生でセックスしたいが病気は怖い：河豚は食いたし命は惜しし、フグは食いたし命は惜しし、ふぐは食いたし命は惜しし

eʝʝeʝcnʝɔl ［名詞］アダルト番組 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

eʝʝen ［形容詞］えっちぃ感じの ［婉曲］エッチ ［名詞］お色気、ちょいエロ、ソフトなエロ ［レベル］3 ɺ0:eʝʝe/ 指小辞 ［語法］ 形容詞の場合、eʝel と意味は同じだが、冗談めかしている。名詞の場合、eʝʝe と直接言いたくないのでぼかしているか、あるいは少しエッチなことを指す。 【用例】 el bıʝ ʝlıl eʝʝen cᴅ uıɥzɔn e lelᴅ ı. 夜８時の番組にお色気要素はいらんわ！

eʝʝeela ヤリ逃げ→ ela ［レベル］4 ɺɺ

eʝn ［気象］傘 ［類義語］leeze ［レベル］2 1ʔ: 制 :eʝzıᴅɔn（雨の杖、雨の棒）【用例】 hɔᴅ{ıɥ} eʝn 傘をさす ɑeɥə{cʝ} eʝn 傘をたたむ ın dcıʝ eʝn ᴅın eʝlıʃ ʝıʃ. 雨が降りそうだったので傘を持ってきた：dcıɥ だと、携帯しようとして家の中で折りたたみを探している段階のこと。 ın en dcıʃ lcɥ eʝn. 傘を持ってくる必要はなかった。 ☆ ın eʝlıʃ ɥə ɔn eɥcᴅ ıʝ lıu ʝıb ᴅın en dcıʝ eʝn. 傘を持ってこなかったので、服の下までぐっしょり濡れた。 ın ʝcʃ eʝn acn eʝl. 雨が降っていたのに傘がなかった。 ın ıʃ lcnı enʃɔ nɔʝ dcıʝ eʝn. 幸いなことに傘を持っていた。 ın nıʃ ıʃʃı ᴅın nɔʝ dcıʝ eʝn. 傘があって良かったと思った。 ın ʝlılʃ eʝn ınʃ eʝ ɥcφ cᴅ ın hɔᴅcl ʃə. 傘を開いたところ、壊れていた。 ☆ acɔl ʃ'eʝn eʝ ɑɔᴅ. 傘の骨が折れていた。 eʝn ʃclıʃ ᴅıl hın. 傘に大きな穴が開いていた。 nɔn ᴅcll le ᴅelɑ eʝn nɔın. 誰か私の傘持ってきてくれないかな。 el ɑeɥə eʝn cᴅ ləlɔl ᴅɔl ac e. 何かの下に来たら傘は閉じるのよ。 ２月の晴れた日に、水色のかさ、持ってきた。 隣を歩く彼は、きづいてない。あと１メルフィ近付きたくて、持ってきたってこと。 空のかみさまもきづいてない。あと１メルフィ近付きたくて、雨を降らせてほしいってこと。 nɔn dcıʝ eʝn ɑəəɥ cᴅ ʝel aıɥa e llccz. lə le ləl ᴅcl nɔn en lıllej, ɥəl nɔn ʝɔʝ ʝɔı ᴅcl aɥeᴅ lın nın ı lə ɑə 1 aecn ᴅelac. ʝee lleeuel ʃın en lıllej, ɥəl nɔn lıl lı eʝl aın lenı lını nɔn aɥeᴅ ʝen nın ı lə ɑə 1 aecn ᴅelac. ためいきを、ついた。そんなとき—— 「しょうがないから入ってやるよ」 こんな晴れた冬の日に、両手いっぱい広げる水色のかさ。 ——恋に落ちる、音がした。（前半 ʝeɥen。後半一部初音ミク『メルト』） nɔn lıdl. cᴅ ʃə, "ın lı uın ᴅɔl eʝn ʃccl ıllelael ı" eʝn ɑəəɥ le hın nɔʝ enzel ɑə scen cᴅ ʝɔı ʝel aıɥa. lɔᴅɔ, ʃeᴅcl hıʃcı.

eʝnhɔʝ ［名詞］傘立て ［レベル］3 1L 【用例】 enʝhɔʝ en ʃclıʃ lɔ eʝn ʃcʝ. 傘立てには傘が一本もなかった。

eʝnel ［植物］キノア 古

eʝᴅ ［政治］検閲 ［レベル］4 19: 制 : 古 :ɑeʝdı（禁止）

eʝᴅcʃ 洗剤、合成洗剤 ［レベル］4 ɺ0:eel/ᴅıcʃ（洗濯の薬）

eʝd ［気象］雲 ［芸術］マンガの吹き出し ［レベル］2 古 : 水の気体の意 【用例】 eʝd ᴅcʃ sın. 空が澄んでいた。 sın en ʃclıʃ lɔ eʝd ʃcʝ. 雲一つ無い天気だった。 eʝd lənı lcʃ sın. 雲が出てきた。

eʝdʃe ［気象］くもり、曇り ［レベル］2 1L 【用例】 ʃə ıʃ eʝdʃe cᴅ acʝ. = acʝ ıʃ eʝdʃe. 今日は曇っていた。 senʃ ıʃ eʝdʃe. 曇っていた。 sın ıʃ eʝdʃe elʝel. 空がどんより曇っていた。 sın ıʃ eʝdʃe uıɥ aıɥ. 朝のうちはずっと曇っていた：ずっと感を出すために cᴅ でなく uıɥ。 cᴅ lcʃ ʃə ıʃ aıɥa, ʃıl lc ʃə, ʃə eᴅıʃ eʝdʃe. 最初は晴れていたが、後から曇ってきた。

eʝdbılʃ ［気象］層積雲、うね雲、まだら雲、くもり雲 ［レベル］4 ʝɔɥn :elelʃɔne: 曇り雲全般を「太陽を隠す雲」として、eʝbılʃ を冗談めかして eʝdbılʃ と呼んだもの。なお、ソーンには雨雲と曇り雲とそれ以外しかなかった。

eʝdı ［物理］屈折 ［レベル］4 1L:eʝdıac

eʝdıac ［気象］虹 ［メタファー］架け橋、架橋、かけはし ［名詞］寝バック、カサブランカ ［魔法］エスパフィ。光の中位白魔法。虹の橋を架け、一時的に谷などを通行することができる。ɥɑ までは空が飛べたのであまり使われなかったが、下からの風の強い谷や、集団での移動にはこの魔法をかけたほうが楽であるため、利用価値があった。効果が低いわりには架橋の建設という大掛かりな魔法であるため、ランクは中位である。 ［レベル］2 au;eʝ/dıac 赤 : 雨の橋 ［文化］ ・虹の色 アルバザードで虹は４色。赤、黄、緑、青。 ・性交の体位 女性が下でうつ伏せになって足を閉じて伸ばし、男性が上に乗り、同じ姿勢で挿入する体位のこと。折り重なる様が虹のように見えることから。 カサブランカという訳語はセレンが０３年当時の恋人と池袋北口のカサブランカというラブホテルでやってみて相手が非常に気に入ってこの体位をそのように呼んだことがきっかけで、アシェット内でもその名前で通じるようになったことから。 【用例】 eʝdıac lənıʃ lc eʝl. 雨の後に虹が出た。

eʝdcɥ ［名詞］エスピール派 ［アクセント］eʝd€ɥ ［レベル］5 ɺ0 ［文化］ サルト教の派閥のひとつ。アルテは実在でなく観念とした。

eʝdel ［名詞］老害 ［レベル］4 ɥɑ;lʃ で「長く居座る官僚」を意味する単語から。 ɺʔ:「エスペラント（Ｅｓｐｅｒａｎｔｏ）」と覚えればいいよ。

eʝbılʃ ［アイテム］エスバルト ［名詞］シェルター、核シェルター ［娯楽］壁職 ［経済］セーフティネット ［レベル］4 ɥcɑcı: 古 :bılʃ は ʝɔɥn で壁の意味。となると eʝ は古の雨になるだろうが、恐らくいいたいところは「 水の壁 」といった感じか。 ［文化］ ヴァストリアのひとつ。エケトネの持つ神壁。広範囲に渡って強固なバリアを張る。 【成句】 ɥən eʝbılʃ 難攻不落

eʝlcn 後宮、ハーレム、大奥 ［レベル］4 ll;ᴅe の有名な後宮の名がエスリン宮殿だったことから ɺɺ

eʝı ［言語］形態素 ［レベル］6 1L:elʝıb

eʝc ［化学］液体、液 ［名詞］水分 ［動詞］ɥəl を ı に溶かす、溶かす、液体にする、融かす、溶ける、融ける、とける ［形容詞］溶けた ɥɑ ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcʝ:eɥcıʝcd。ʝcd は制の「液体」【用例】 nɔn ᴅcll ʝıe en eᴅ eʝc. 雪が溶けなければいいのに。 ʝıe eʝ eʝc. 雪が溶けていた。

eʝclen ［名詞］水分摂取 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ 【用例】 el ıɥ aıl eʝclen ʃəuılel cᴅ aleı. 夏は水分摂取を怠ってはならない。

eʝcʝıdʃəla ［化学］蒸発熱、気化熱 ［レベル］4 1L

eʝcʝıdlı ［化学］沸点 ［レベル］4 1L

eʝcʝıdeᴅ ［化学］蒸発、気化 ［レベル］3 1L

eʝcʝıdeclı ［化学］リキッドエアロゾル 1L

eʝcalcı ［電算］液晶 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

eʝcɑə ［名詞］水分量 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ 【用例】 eʝcɑə lıl{ʃəuıl} 十分な水分量

eʝcd ［医療］飲み薬 ［レベル］2 1L:eʝc/dcʃı

eʝchɔınʃəla ［化学］凝固熱 ［レベル］5 1L

eʝchɔınlı ［化学］凝固点 ［レベル］4 1L

eʝchɔıneᴅ ［化学］凝固、固化 ［レベル］4 1L

eʝcl ［形容詞］気持ちよい、心地よい、肉体的に気持ちいい ［類義語］ɑccʃe ［反意語］belıᴅ ［名詞］快楽 ［レベル］2 1L: 古 :eʝʝe（えっちな） ［語法］ 気持ちが良いのは eʝcl と ɑccʃe。eʝcl は肉体的な気持ち良さで、ɑccʃe は精神的な気持ち良さ。 気持ちが悪いのは belıᴅ と ᴅelcʝ。belıᴅ は肉体的な気持ち悪さで、ᴅelcʝ は精神的な気持ち悪さ。 eʝcl は風が心地よいとき、風呂で気持ちが良いとき、セックスで気持ちが良いときなどに使う。風の場合は ɑccʃe でも可。語源は性的なものだが、現在では風呂で気持ちが良いというような意味でも使うので、気まずい単語ではない。 ɑccʃe は子猫を見たとき、空が晴れ渡っているとき、風が気持ちいとき、美人を見たとき、善行をしたときなどに感じる。 belıᴅ は胃が気持ち悪かったり、吐き気がしたり、ふらふらしたりするときに感じる。 ᴅelcʝ は虫を見たとき、悪人を見たとき、不美人を見たときなどに感じる。 eʝcl/ɑccʃe、belıᴅ/ᴅelcʝ のように合わせた表現も可能。 【用例】 ın nıʃ eʝcl ʃcn cᴅ acʝ. 今日はとても良い気分だった。

eʝclıııᴅ 恍惚した表情や状態 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılʃe: 恍惚したときの類の状態から 【用例】 ʃcl eʝclıııᴅ 恍惚とする、うっとりする

eʝcleʃ ［形容詞］ギャグや言動やネタや行為などがちょうどかゆいところに手の届くような ［レベル］3 ɺɺ:eʝcl/ʃe ［文化］ uɔɥʃaeᴅe

eʝceᴅʝ ［化学］脂肪油、油 ［レベル］4 1L

eʝɔ ［被服］合羽、レインコート、雨の服 ［レベル］2 1ɦ: 制 :eʝl 【用例】 ın dcıʃ eʝn ɔnʃ eʝɔ accnı leʃ. 万一に備えて傘とレインコートを持って行った。

eʝel ［普通動名詞］避妊。去勢ではない。 ［動詞］ɥəl（男女いずれか）を避妊させる、避妊する ［レベル］4 1L:eʝʝe/lɔn（避妊具） ［語法］ 水道と同じくらい古くに国のインフラとして用意されたもの。人口統制に歴史的にうるさいアルバザードならではの傾向。 【用例】 eʝel ucl 男を避妊する（コンドームを付ける）

eʝellɔn ［医療］避妊具 ［レベル］4 1L

eʝelᴅıcʃ ［医療］ピル、経口避妊薬 ［レベル］4 ul;/ ɺʔ ［文化］ → dɔʃleeu 妊娠は避けられるが性病は避けられないため、あまり一般的ではない。

eʝel ［形容詞］［ネガティブ］淫らな、エッチな、いやらしい、ひわいな、卑猥な、エロい ［名詞］淫ら、ひわい、卑猥、わいせつ、猥褻、淫行、エロ ［類義語］eʝʝen、ᴅıφleʃ ［反意語］ɥəlʃe ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eʝʝe から

eʝellel ［俗語］厨房、中坊 ［類義語］lızın ［レベル］4 ıl;/「エロ事典」。エロい用語を辞書で引くようになる年頃というところから。 ɺʔ ［語法］ ᴅıᴅᴅın

eʝelɑcz ［法律］わいせつ罪、猥褻罪 ［レベル］4 ul;/ ɺʔ ［文化］ 猥褻罪自体は神代からあったが、強姦や悪戯などといった表現で表されていた。ul になり、ようやく猥褻罪という名の罪ができた。 ls でセレンは「猥褻罪で捕まった男を男がバカだと言うのは許せるが、女が考えなしにバカだと言うのは許せない」と述べた。「女は男がどれだけ女体の誘惑に苦しめられているか、どれだけ手を出さないように我慢しているか、その苦しみを知らない。にもかかわらず、苦しみを知らない苦労知らずが手を染めた男をバカと一笑に付すのは言語道断だ」と述べた。

eʝellcuı ［娯楽］エロゲーム、エロゲ、エロゲー ［レベル］4 1L 【成句】 ʃə eʃ oel eʝellcuıɤ それなんてエロゲ？、ｓｎｅｇ？、ソレナンテ・エ・ロゲ。ıl でできた慣用句。現実の事態がまるでエロゲのように好都合であることを揶揄したもの。

eʝee,a ٩ elʃ;ʝees

en ［形容詞］［法副詞］否定の形副詞 ［レベル］1 ɥɑ;en,lʃ ＜ ɑen,a 1L:ʝɔɥn: 恣意かと思ったが、古アルカの否定の ɑen からだと分かった。 ɑen:ɑen ［語法］ 前置する。否定、命令、依頼は意味を逆に取られてはいけないので、動詞よりも先に述べる必要がある。この用法は古アルカにあったものと同じ。 動詞が先に聞こえると、頭はまずその動詞が肯定されたものだと思う。その次の瞬間に否定が来ると、真理値をひっくり返さなければならず、一瞬の迷いが生じる。命令や禁止も同じ。これら強い意味を持つ語は、先入観を与えないよう、先に禁止であるとか否定であると宣言しておいた方が分かりやすい。日本語はこういう言語でないから実感が湧かないかもしれない。 【用例】 en le 行かない en acın 少女でない

en(ɺ) ［接尾辞］格詞から接続詞を作る ［レベル］1 1ɦ:ʝeɥen:llel:ʝcɑ:lenɔ（～の）。接尾辞なのは lenɔ が e と逆の順序で使われたことに由来す

る。hıɼɒı nɔın は古で nɔn ʅenɔ hıɼɒı だった。古アルカがＳＯＶだったころの産物である。ʅenɔ でなく e を参考にすればこれは接頭辞になっていた。 ［語法］ ın cnıʃ ʅeʃ ɹı φılʃ と ın cnıʃ ʅeʃ ɹıen φılʃ の比較。ɹıen は接続詞なので、ʅeʃ と φılʃ を繋ぐ。よってネコが門前にいるのが後者。前者は私が門前にいる。

en(ʔ) ［接尾辞］名詞ないし形容詞から属格を作る。 ［レベル］1 ɺ1:ʅenɔ ［文化］ 名詞から「～のもの」という意味を作るときは属格にする。英語のＭａｒｙ'ｓやｃａｔ'ｓなどに当たる。 属格は接尾辞 (e)n を付けて作る。ɑeelen で「フェールのもの」、ɭcın で「紫亜のもの」を意味する。 lıɉ e ɭcı で「紫亜の手」。ɭcın で漠然と「紫亜のもの」。 代詞の場合、属格は屈折するので、ın なら ınen ではなく ınʃ になる。 ・用例 ɒıɥʅ ʃ'ıuelınʃ eʃ ıuelınʃen. 死神の鎌は死神のものだ。 ʃə eʃ ɭcın. これは紫亜のよ。 ʅııɒ e ɭcı. 紫亜のほっぺ。 ʃe leʃ ɑlıɥə e ɒccʅɔ. ねこのしっぽ引っ張っちゃだめよ。 ʃə eʃ nɔın. これは私の。 ʃə eʃ ıɒɔn nɔın, ɥəlʃın. ゆーちゃん、これは私のぶーぶよ。 ●形容名詞 形容詞を属格化することで、「～なもの」という名詞にできる。 これを形容名詞と呼ぶとする。 ʅıc（大きい）→ ʅıcn（大きいの） ɑcl（長い） → ɑclen（長いの） ʃə eʃ ʅıc（これは大きい） ʃə eʃ ʅıcn（これは大きいのだ） 形容詞と形容名詞のおかげで意味の違いを出せる。 ın ɉccnı ʅıc(大きいものが好きだ)：漠然と ın ɉccnı ʅıcn（大きいほうがほしい）：大きいのと小さいのを選んでいるときなど 特に形容詞と形容名詞が明確な訳語の違いを持つ場合において、形容名詞は非常に有用に感じられる。 ıucl（具合の悪い） ıuclen（患者） 形容名詞はふたつのものを比較して「長いほう」というときに ɑclen として使うことができる。 また、なんだかよく分からない長い物質を見たときに、その名詞が何だか分からずとも ɑclen（長いの）ということができる。 名詞が何か分かっていても言及しない場合や省略する場合に形容名詞を使うことができる。例えば「太った人」という代わりに「太いの」ということができる。oec, ʃc ɉɔɥen で「おい、そこの背の高いの」という意味になる。 ほかに、ɭcuel ɭıc や ɭcdc ɭıc などの甘いものを総称して ɭıcn ということもできる。つまり形容名詞には総称用法もある。 用法がいくつかあるが、根底には leɉ eʃ ɭıc, leɉ eʃ ɑcl などがある。 制までのアルカは単語単体が存在する場合、形容詞と名詞の区別が付かなかった。 形容名詞は ɺ0 年末にリディアが最初に用いたもので、感覚的に受け入れやすかったことと、文意の違いを表現できることから、ɺ0 年末から ɺ1 年初頭にかけて速やかに受け入れられた。 初心者としては属格の頻度が増えることで、辞書に載っていないと感じる単語が体感的に増えることとなり、これは短所といえるだろう。 ●形容名詞と受動名詞 ɑcl（長い)、ɑclen（長いの)、ɑclɔl（長くされたもの）の違いについて。 まず、ɑcl は形容詞なので明らかに異なる。 では形容名詞と受動名詞の違いは何か。 例えばここにセーターがあるとする。 引っ張って袖を伸ばした場合、これは長くされたものであり、長くするという動詞 ɑcl ないし ɑcleɒ から来ていることになる。 動詞から来ているので受動名詞 ɑclɔl を使う。 一方、例えばここにセーターがɺ枚あって、袖の長いのと短いのがあったとする。 この場合、長いほうを ɑclen という。ɑclɔl ではない。 これは ncɒɉ ɑcl から来て ɑclen になっているためである。 このように、受動名詞は動詞語義が生きており、形容名詞は形容詞語義が生きているという違いがある。 なお形容詞の場合、受動名詞の頻度は少ない。つまり ɑclɔl の出番は少ない。 ●擬古形容詞 属格を名詞の前に置くと、擬古形容詞として使うことができる。 これは古語の特徴を残した言い方で、文学的な表現や広告などに用いられる。 日本語に訳す際は「～い」でなく「～き」とする。 hıɥen lelʃ 紅き月 ɑclen ɉeeɥ 長き沈黙 ●動詞を名詞化する属格 例として ɑɔʅen や hınʃen を挙げる。 形容詞を名詞化する例と違い、意味が規則的に演繹できない。 その語に合った適切な語義が名詞として付与されるほうが合理的だからである。 ɑɔʅen ［数学］和 ɺ1:ɑɔʅ 属格 ［語法］ 数学の和、差、積、商はそれぞれ ɑɔʅen, ɑcɑen, hınʃen, ɑeɉʃen で、いずれも四則を属格化したもの。 uc hınʃ uıl の場合、hınʃ は接続詞で、uc がかけられる数で、uıl がかける数。ʅeʃ lı hıl elen の場合、上つまり hıl になっているのは elen でなく ʅeʃ。ʅeʃ hılen elen でも同様。このようにアルカでは格詞や接続詞の意味はその格詞や接続詞の目的語でないほうにかかる。そのため、uıl でなく uc が「かけられる数」になる。逆に取りやすいので注意。 uc が hınʃɔl で uıl が hınʃın になる。その結果の積は hınʃın, hınʃɔl を使用しているのでどちらも使えず、属格の hınʃen で示されるようになった。動詞にかかる属格なので「～の」という意味はなく、意味を変化させつつ名詞化している。そしてこの属格の用法は和、差、商などにも及ぶ。

en,ɑ ɉen elʃ;e

enʃ ［形容詞］ゆっくり、緩慢、のんびり ［反意語］uıl ［レベル］2 ɥɑ 1ɱ: 制 ʃlclc:ʃlclc:enʃ 【用例】 ın ɉcʃ ɒel len ɭıl enʃ. のんびりしている時間はなかった：ɒcʅʃ は良い意味に使うのでここでは不可。

enʃ,ɉzɑ ɔ

enʃeʅl ［名詞］スロー再生、スロー ［レベル］2 ɺ1

enʃleɑ ［運動］ランニング、ジョギング ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］ ジョギングはウォーキングに比べて危険なスポーツとされる。ジョギングは心肺機能を高めるが、逆に心臓発作などを起こして死ぬことも多い。だからアルバザードではウォーキングのほうが人気がある。ジョギングは比較的若い人に行われる。特に格闘技のようにスタミナを要するスポーツをやっている人は、スタミナをつけるために行うことが多い。場所はウォーキングと同じである。毎朝あるいは毎夕、カルテに行くと誰かしら人が走っている。 【用例】 ın ıɥ enʃleɑ ʃıʃ ɑııɥ. 私は毎朝ジョギングする。

enʃı ［形容詞］固有の、特有の、共有しない、個別の、独自の、オリジナルの、独特の ［反意語］ɔʅl ［レベル］3 1L:enʃcl 【用例】 elɑ enʃı 固有の言語

enʃıʃɥcɒ ［化学］不対電子 ［レベル］6 1L

enʃc ［電算］ソフトウェア、ソフト← ıʅɥe ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 :enʃ リュウの造語？

enʃɔ ［格詞］～なほど、～するくらい、～して～する ［レベル］1 1ɱ: 制 ［語法］ まだしていないが、そろそろしそうな場合、将然相を取る。 【用例】 lı eʃ lınʃ enʃɔ ın ɑeelcʅ lı. 一目ぼれするほど彼女は美しい。

enʅ ［形容詞］異なる、異なった、ちがう、違う、違った ［格詞］～とは異なって ［反意語］ɒɥəl ［接続詞］「と」は同じほど～ではない ［レベル］1 1L:enʅɔʅ(同じでない)。赤では nɥə(ちがった)。 nɥə:nɥə ［語法］ ʅɔʅ 【用例】 ［メタファー］enʅ ɥən ɑııl ɔ ɭelʃ 太陽と月のように異なった。月とすっぽん。 eʃ enʅ c{ı} ～と異なっている

enʅʃəənɔ ［親族］異母兄弟、腹違い ［レベル］4 1L:clɒəɉ:ɥcɑcı: 異なる土

enʅɉın ［数学］不等式 ［レベル］4 1L

enʅueʃ ［言語］ねじれ語 ［レベル］5 ɺ0 ［語法］ ʃə の類義語が le、ʃə の反義語が lə。すると ʃə, le, lə, lı は４つ組なのに lı だけ辞書の類義語欄に載らなくなってしまう。この４つは４つで１組なので載せたほうが親切で、この ʃə から見た lı の位置をねじれと呼ぶ。ʅɔɔʃueʃ と区別すること。

enʅlcɉc ［化学］同位体、アイソトープ ［レベル］5 1L: 中性子の数が異なる

enʅlɔɔz ［地学］異極鉱、カラミン 1L

enʅleed ［魔法］［化学］異性体 ［レベル］5 1L

enʅıdı ［数学］不等号 ［レベル］4 1L

enʅıb ［被服］別布 ɥɑ;/ ɺɱ

enʅɔʅʅı ［形容詞］釣り合わない、不釣り合いな、バランスの悪い ［レベル］3 ɺ0

enʅeɉʅ ［親族］異父兄弟 ［レベル］4 1L: 異なる雨。雨は精子の意味。種違いという意味。 ［文化］ 異父兄弟は相性が良く、異母兄弟は相性が悪いというのがアルバザードにおけるイメージ。神話的にはイーファとハーネなどが根拠になっている。社会的には男の浮気や一夫多妻の寛容への現れ。

enʅen ［接続詞］～と異なった ［レベル］3 1L

enʅen(ɺ) ［名詞］別人 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺɱ 【用例】 leɉ lə ɉeʃıʃ ɭıl eʃ ɒɔı enʅen enʃɔ lə ɉc leɉ nɔɉ ɉeʃ ɑıl ɑı. 殺したかった相手が別人になってしまい、もう殺す相手がいなくなってしまった（ɉeɥen ıɥbızıɥɑ）

enʅeɒ ［言語］異化 1L

enʅəc ［名詞］断食 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

enl ［名詞］間違い、間違え、まちがい、まちがえ、虚偽、偽り、間違っていること ［形容詞］間違った、間違いの、偽りの、虚偽の、誤った、あやまった ［反意語］ɭın ［レベル］2 1L: 制 :enɭın（ありえない） ɒɥə: ［語法］ 嘘という意味ではなく、客観的に真実でないこと。 【用例】 ʃə eʃ enl lel ɑııl ɒeɉ ıʃɔlıɉ. 太陽が地球の周りを回るというのは間違っている。

enlɉcɑ ［形容詞］擬古的な ［名詞］擬古 ［レベル］5 ɺɺ:「偽の古さ」

enlɉcɑıɥəı ［言語］擬古形容詞 ［レベル］5 ɺɺ ［語法］ 属格を名詞の前に置くと、擬古形容詞として使うことができる。 これは古語の特徴を残した言い方で、文学的な表現や広告などに用いられる。 日本語に訳す際は「～い」でなく「～き」とする。 hıɥen lelʃ 紅き月 ɑclen ɉeeɥ 長き沈黙 lıɒen ɥəlc 始まりの仔、嚆矢の御子

enlɒccɥ ［論理］虚偽論 ［レベル］6 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

enlɒez ［名詞］デマ、デマゴギー、流言、俗説、風説、流説、流言飛語、流言蜚語 ［類義語］ʅılzıɉləueɥ、ɑceɒez ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺɱ ［語法］ ɑceɒez

enlı ［感動詞］［俗語］ねーよｗ、ありえねーｗ ［レベル］2 ɺ1:ɒel:enɭın

enɭın ［感動詞］ありえない、ありえねー、バカな ［反意語］ɉenɭın ［レベル］2 1ʔ: 制 :en（不可能）/ɭın（真実)。かなり日常的に使い、感動詞化していたので、制アルカ由来の感動詞として残した。新アルカでも en ɭın（真実でない）という意味なので、たまたま意味が通る。

enle ［文末純詞］［ɒıɥə］eɥɔ ［レベル］1 ɺ1:ʅlccz:enl/el

enleɉʃ ［名詞］偽名 ［類義語］ɉcnʅeɉʃ ［反意語］ɭıneɉʃ ［レベル］3 ɺ1

enɉ ［名詞］拒否 ［動詞］ɥəl を断る、断る ［レベル］2 1ʔ: 制 :enɉɔ（できない） ［文化］ ɭcɥə

enɉlınφ ［政治］拒否権 ［レベル］4 1L

enɉı ［名詞］芸能人、芸人、コメディアン、タレント、アイドル、スター、有名人 ［類義語］lccɑı、ɑcılccɑı、ʅɥɔın ［レベル］2 1ɱ: 制 : 恣意 ［語法］ アイドルからお笑い芸人まで広く指す。

enɉcd ［医療］無呼吸 ［レベル］4 1L: 息を吸わない。ıl 不要。

enɉɔnɔ ［形容詞］実行されない、口だけの ［レベル］3 ɺɺ:en/ɉɔnɔ

enɉɔlɉıɒe ［言語］斜格 ɥɑ;/。主格以外の格というところから。 ɺɱ

ennı ［組み数字］２２/２８ ［交通］エンナ通り ［レベル］2 ɺɺ

ennı(ɺ) ［アイテム］鞘 ［レベル］3 古

ennı uısɔ ［人名］エンナ＝ヴァジョ ［組み数字］２２/２８ ［レベル］3 古 : 語源不詳。uısɔ は「怒らない」。 ［文化］ （ɺ→）第４期４代ソーン第８使徒。女性。ɒclcı。１４５ｃｍ、３６ｋｇ。髪は茶色で肩まで届き、直毛で、結かない。黒の大きな瞳。肌は白：黄＝８：２。 メルの友人。『幻想話集アティーリ』においてはティーテルとネブラの娘。即ち神の子。エンナはやがてソーンの使徒になる。ティーテルはエンナなら自分の持つ剣であるティーナを使えると思って託したが、エンナもまた剣を使えず、託すべき人を探した。やがてエ

ンナはアシェットのクミールこそ撰ばれた霊人だと思い、剣を託し、自らは鞘の役目を負った。

ennɔə uısɔ ［人名］エンノウ＝ヴァジョ ［レベル］5 古：右の名は後付け ［文化］ エンノウ＝ヴァジョ。初代ソーンの第８使徒。異性魔王。

enuılıdcʃı ［医療］市販品、市販薬 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ

enuc ［名詞］能力、アビリティ、力 ［類義語］ucın ［レベル］2 ɑ:elʃ;en/uc「可能な力」 古 :enuc（能力）。en（可能）/uc（力）。「可能な力」が原義。 enuc:enuc::uc,ılʃ ［語法］ ucın 【用例】 enuc ucen{ʃcn} 高い能力 ʃcl enuc ɔn ɑɔlɒe 囲碁がうまい ın lɔʃ nɔȷ uınɔ ȷen cl ɔl lec ʃə enuc. その力があれば、すべてを守れると思った。

enuɔɥʃ ［形容詞］不死の、不死身の ꞁ0 ［語法］ 形容詞として使う。 【用例】 ıuelınʃ enuɔɥʃ 不死身の死神。ıuelınʃ en uɔɥʃ（死神は死なない）とはイントネーションで区別。

enuelen ［魔法］ステータス、ステイタス ［レベル］4 ꞁ0:enucelen（能力を書いた表）。この elen は表を置いた机のメトニミー。 ［語法］ ユノやヴィルなどの戦闘力や、習得している魔法や弱点などを書いたリスト。 ＜ステータスリスト＞ ーーーー ヴィードの内訳 ɥənɔ：霊力。攻撃および防御に使う。男性に豊富。一丸にユノが強いと言っても、オヴィのように攻霊力が強いものもいれば、フルミネアのように防霊力が強いものもいる。 hınɔn：攻霊力。相手の体力を削る力。ユノをどれだけ武器として使えるかという力。男性に豊富。 ʃclɒı：防霊力。相手の攻霊力に対する抵抗力のこと。ユノをどれだけ防具として使えるかという力。攻霊力に比べれば女性も比較的保有している。フルミネアのように先天的に多すぎる異常を持って生まれるレアケースもある。 ɒclle：体力。ɥeeu を守るのに使う。ユノ・ヴィル・ノアのいずれを食らってもこれが減少する。いわゆるＨＰのこと。これがなくなるとハノンとティルマは優先的にミルシェに変換され、それもなくなるとヴィード死になる。ミルシェがなくなった段階や、ミルシェを解いているときに攻撃を食らうとレーヴが減少する。男性に豊富。 ucɥ：魔力。魔法に使う。女性に豊富。 ɗıȷdel: 魔動力。魔法の威力を決定する。黒魔法なら攻撃力、白魔法なら回復力、補助魔法なら効力を決定する。 dcıl eȷ: 魔抗力。敵の魔法に対する防御力を示す。いかに敵の魔法を受け付けず、いかに味方の魔法を受け入れるかを決定する抗体のようなヴィード。 nılɑe: 魔法力。魔法をどれだけたくさん使うことができるかという力。いわゆるＭＰ。いくら攻撃力が高くても魔法力が切れたら撃てない。 nɔı：気力。格闘技の威力や身体能力に関わる。 bɗıcn: 気功力。格闘技の威力を上げる。素肌ないしグローブや爪越しに直接敵に触れたときに発動する。素肌から数ｃｍ離れるだけで激減するため、これを使いたいなら爪や手の内に仕込んだナイフしか装備できない。 ˥lenıȷ: 気動力。動きがしなやかになり、素早くなる。 ıɥɒı: アルマ。ヴィードのトリニティ。白いオーラで、放射すれば最強の攻撃力となり、張れば最強のバリアとなる。攻防で単語を分けない。同じ盾を使って相手を殴るか自分を守るかの違いに似ている。 φıleeɒ: ガレーム。透晄。 ーーーー 動物としての能力 ɥeeu：生命力。これがなくなると肉体的に死亡する。 ucɒ：筋力。動物としての筋肉の強さで、腕力および敏捷性を示すもの。格闘ゲームでは体の細い女キャラのほうが早いことになっているが、現実には筋力のあるほうが素早い。剣道の面打ちで分かるが、細い腕だと素早く触れない。 ˥ɔlɔ：精神力。集中力や精神力のことで、魔法の強さに関わる。 ɑıleɑ:敏捷性。いわゆる機敏さ。いくらヴィードが優れていても運動神経が悪いと戦力は低下する。 ーーーー その他特徴 ıuıc：特性。どの属性に弱いかという弱点、どの属性に強いかという性質、どの属性を吸収するという性質など。 eɥn：種族。人間の場合 ɥəəɒı。神は eɥʃ,ȷııɥ などが表示される。 ʃɔnʃɔ:ジョブ。剣士や召喚士などのジョブ。 lenu：習得技能。覚えている魔法や技のリスト。 ＜補足＞ 攻撃力は多義語で、霊力単体の場合は攻霊力＊筋力に等しいが、格闘技の場合は攻霊力＊気功力＊筋力で、魔法の場合は魔道力＊精神力に等しい。（実際の計算式はより複雑） 防御力は多義語で、霊力単体の場合は防霊力＊筋力に等しいが、格闘技の場合は防霊力＊気功力＊筋力で、魔法の場合は魔抗力＊精神力に等しい。（実際の計算式はより複雑） 素早さは複合概念で、気動力＊（筋力＋敏捷性）で求める。

enuelencʃɔ ［娯楽］ステータスポイント ꞁꞁ

enaɥel ［形容詞］汚らわしい、けがらわしい ［類義語］beφɔı ［レベル］3 ɥʃ;en/aɥelle「若い男にそぐわない」ɥʃ>「ふさわしい行ないでない」ul>「汚らわしい」ıl ꞁꞁ:ɥcɑcı ［語法］ 分かりやすく言えばこういうこと。beφɔı はブスの握ったおにぎりが汚く感じられる気持ちのこと。enaɥel は清楚な女の子が言う「いやっ、〇〇君たら不潔よ！」的な気持ちのこと。主に女性言葉。

enac ［動詞］ɥəl をケチる、ケチる ［形容詞］（enacın で）ケチな ［類義語］ɥeɑ ［反意語］ɔlφ ［レベル］3 1L:en/acʃ（あげない） ［語法］ 悪い意味の ɥeɑ。

enɒıu ［名詞］未成年 ［反意語］ɒıu ［レベル］3 ɥɑ;/ ꞁʔ ［文化］ ɒıu

enɒıuelɔȷ ［名詞］児童ポルノ、児ポ、未成年ポルノ ［レベル］4 ıl;/ ꞁʔ ［文化］ ıl で問題となり、主にフェミニストらによって法規制されたポルノ。語源的に未成年ポルノなので、２０歳未満全てが含まれる。日本では１８歳はＯＫだが、アルバザードでは１８歳は未成年なので不可。 歴史的にアルバザードは相手が同意さえしていればポルノでも売春でも性交でもして良いという「本人の意思」を尊重する国家で、１２歳未満は和姦でも強姦と言った考え方はなかった。１０歳未満の子供には手を出さないという慣例はあったが、人の趣味はそれぞれということでペドフィリアも認められていた。ul のミロクもこの点は革命しなかった。本人がＯＫとすれば、ポルノも売春も性交も合法であった。たとえ赤ん坊であっても本人が嫌がって泣いたりしなければ合意とみなした。 しかし ıl になるとフェミニストらが次々とこれらを規制しだした。更に児童ポルノのアップロードはおろか単純所持も禁止となり、少女型の uɔɥɒ も発売禁止となった。最終的には二次元の少女も規制され、非実在青少年についても規制されるようになった。 しかし ls のミロク革命で、セレンは社会を ul のミロクの価値観に戻した。セレンの目的は複数あった。ひとつは行き過ぎたフェミニズムを是正すること。だが最大の目的は性犯罪率を減らすことだった。というのも、ıl の歴史を見ると、フェミニストらが規制を強化するたびに性犯罪率が高まったためである。今まで犯罪でなかったものが犯罪になったので検挙率が上がったというのも無論あるが、その見かけ上の増加分を差し引いてもまだなお性犯罪率の増加率が高まっていた。つまり規制のせいでかえって犯罪が増えたのである。児童を守るどころか、むしろ犯罪者を地下に潜り込ませて手口を陰湿で凄惨なものにしてしまった。今までなら合法で児童とセックスできていたものが違法となったので、強姦し、事件が明るみに出ないように口封じで殺してしまうというような事件が相次ぎ、かえって強姦致死の件数などが増加した。だがフェミニストらは自分らに都合の悪い現実という統計データを無視しつづけた。 ls でセレンは「人の性癖はそれぞれ。法によって縛ることで、かえって児童が手を出してはいけない禁断の果実に見え、価値が高まってしまう。その結果、合法時代だったら別にそこまで執着しなかったような連中が、『やってはいけない』と言われたことで過剰に手を出したがるようになってしまった。規制したことでかえって児童とのセックスの価値が高まり、禁断の果実にすることで余計手を出したくなってしまった。それまでは合法的に金銭で買えたりしていたものが買えなくなったので、闇商売をしたり、あるいは無理に連れ去ったりレイプしたり悪戯したりといった犯罪が増えてしまった。これは規制をかけすぎたせいだ。児童ポルノを規制しても犯罪者は闇に潜るだけで、結局被害児童の数は減らなかった。それどころか被害はかえって深刻化して増えただけで、まったく児童は守られなかった。結局誰も得しないルーズルーズな規制でしかなかった」と主張。そして ul のミロクの水準まで価値観を戻し、児童ポルノを解禁した。また、少女の売春を合法とした。するとにあえて少女をレイプしようとするような輩は減り（もはや犯罪をわざわざする必要がないので）、少女を禁断の果実とみなす輩も減り、強姦率などは減少した。 アメリカの禁酒法と同じく、規制するほど状況がひどくなるということはままある。児ポ法に関しても同様で、規制するほど悪は地下に潜り、レイプなどの犯罪件数も増えるだけで、何一つ良いことはなかった。セレンは合理主義なので、規制を緩めてもかえってそれで治安が良くなるならそうすべきだと計算づくで考え、規制を緩めた。

enɒıuelɔȷuınʃ ［法律］児童ポルノ法、児ポ法、アグネス法 ［レベル］5 ıl;/ ꞁʔ ［文化］ enɒıuelɔȷ

enɒcɥə ［形容詞］不動の、不変の、確固たる、揺らぎない、揺らがない ［レベル］3 ɥɑ;/ ꞁʔ:ɥcɑcı

enɒeɒȷel ［言語］非円唇 ［レベル］6 1L

enɑ,ȷzɑ 名詞を作る接尾辞のひとつ

enɑı ［名詞］６０歳以上の女 ［反意語］ılenɑı ［レベル］2 1ꞁꞁ: 制

enɑınʃceɥ ［地学］中深層。海の垂直区分。 ［レベル］6 ul;/ ꞁꞁꞁ ［語法］ ʃceɥ

enɑıl ［生物］老人 ɥɑ;enɑı/ıl ［レベル］2 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

enɑc ［名詞］差、違い、異なり、差異、落差 ［レベル］2 ꞁ1:enɑ.l:1L:ɥcɑcı:ıɥbıleʃ:en˥/ɑə（異なり量） ［語法］ ıȷc˥ は不公平という心情が入る。ȷdıʃ は区別の意味が入る。両者の間の違いを純粋に指す語が enɑc。 【用例】 enɑc ʃcn 差が大きい ʃc lɔ˥c ȷen enɑc ȷɔuen lɔ˥c ɔ ɥəʃı ınɒ cıꝸ 理解と受容の違いが分かりますか。

enɑcȷıȷ ［数学］階差数列。等差数列と区別するように。 ［レベル］5 1L

enɑclucl ［医療］健常者 ［レベル］3 1L

enɑeɒcl ［人名］エンデミル ［レベル］6 古 ［文化］ ʕ00 ごろ。男性。２期のルシーラ。毒を盛られて死ぬ。

enφ ［経済］利子、利息 ［レベル］4 1ꞁꞁ: 制 :ɔnφ ［文化］ 利子の授受は違法。 → φclɑ

enφcɒʃceɥ ［地学］深海層、深海。海の垂直区分。 ［レベル］4 ul;/ ꞁꞁꞁ ［語法］ ʃceɥ

enφcɒelc ［動物］深海魚 ［レベル］4 ul;enφcɒʃceɥ/elc ꞁꞁꞁ

enφclcl ［化学］非金属元素 ［レベル］4 1L

enφe ［色］ベージュ ［レベル］3 ˥lccz:lı˥ʃı: 語源不詳

enɥəəl ［形容詞］貪欲な ［類義語］ɑınʃen ［反意語］ılɥəəl ［レベル］3 ꞁ0:en/ılɥəəl

enɥı˥ȷın ［音楽］ノンダイアトニック ꞁ1

enɥecndıɒɔ ［数学］非線形性 1L

enz ［形容詞］［副詞］できる限り、できるだけ、できうる限り、可能な限り、精一杯、せいいっぱい、全力で、ひたすら、只管、出来る限りのことをして、できる全てのことをして、最善をつくして、努力して、一生懸命、一所懸命、はりきって、張り切って、必死に、真摯に、切実、痛切な、切に、最大限 ［名詞］誠心誠意、最善、ベストエフォート ［レベル］2 1ꞁꞁ: 制 : 古 :ȷɔ enȷɔ（できることをする） ［語法］ 実際にはほとんど副詞で使われる。 【用例】 ın leɑıʃ enzel. 必死で走った。精一杯走った。 lın ɑc enz 一人でも多くの人

enzıcɒ ［色］不透明 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcȷ

enzel ［アトラスの国家］エンゼル ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 褐色の

ens ［動詞］ɥəl を弄る、弄る、いじる、弄ぶ、もてあそぶ、凌辱する、せめる、責める ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılʃe:eȷȷe/sc

enl ［名詞］芸、技、技能、特殊能力、アビリティ ［アビリティ］技 ［類義語］lenu ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :enȷɔ できることが原義 ［語法］ enuel en ・enl と lenu enl も lenu もともに先天的に持っているか、あるいは後天的に身に着けた技能を指す。lenu は enl より規模が細かく器用な場合に用いる。例えば手品などは手先が器用な技術なの

で lenu となる。基板のハンダ付けなども器用さがいる細かい作業なので lenu である。有機物の合成も細かい知識を複雑に組み合わせるので器用さが必要で、lenu である。　enl は lenu より大胆で大規模な場合に使い、手先の器用さや技術の精密さなどはあまり問題にしない。必殺技やプロレスの技や格闘技の技や超能力や魔法などは enl を使う。

enlɉcnɉɔl ［娯楽］サーカス、見世物小屋 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

enldınʃ ［名詞］実技科目 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ:lenudınʃ のほうがしっくりくるが、lenɉdınʃ と聞き違えるため

enlɔcʃlıb ［名詞］在宅勤務 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

enı ［名詞］涙 ［動詞］ɥəl を泣かす、泣かす、泣く、泣かせる ［レベル］1 ɑ;eɥcı/nı 古 :enı（心の水） enı:enı:lə ɥeclı 【用例】 enı ʅʃɔl 嘘泣きする、うそなきする、嘘なきする、嘘泣き、嘘なき、うそなき　nɔn enıʃ ɒcl nı nıə. 嬉しくて泣いた。＝うれし泣きをした。 → dəɥ ☆ nɔn enıʃ enʃɔ ʃcɑl enı. 涙が枯れるほど泣いた。＝胸が裂けるほど泣いた。 ʃeɑ ʃ'enı 涙の一滴 eɥlı ʃ'enı 眼に浮かべた涙　nını enıɥ φıılel 赤ん坊がぎゃあぎゃあ泣いている。 ɥɔll enı 涙が枯れる、涙を枯らす、泣きはらす

enıʃ ［代詞］［ɥənʃe］自分の、自分自身の ［類義語］nɔzeʃ ［レベル］1 ɺ0:ennı:e nın → e nınʃe（「自分の」をぼかした奥ゆかしい表現） → enınʃ → enıʃ（脱落）【用例】 lı lenıʃ dɔɑ enıʃ ʃcɉɉe. 彼が食べたのは自分のパンよ。 "ɥın ɒcɥɔʅ ɔʅʃıʃ lɔnɑ enıʃ ı ɉelın ʃcɉɉe"「それで、神さまは自分の夢を人に喋ったのよ」

enılcu ［名詞］泣き声 ［レベル］2 ɺ1

enıɉcı ［生物］角膜 ［レベル］4 1L: 常に涙をたたえているため。

enın ［名詞］泣かせる人 ɺ0:ɒelcɑcı lceɥ

enıɒeɉl ［生物］涙のう、涙嚢 1L

enıɑɔeɥ ［料理］軟水 ［レベル］4 1L ［文化］ アルバザードの水は軟水。軟水に向いた和食に相当する料理もあり、おひたしや蕎麦やうどんも存在する。

enıɥen ［地学］アクアマリン ［組み数字］6／１０ ［レベル］4 1L: 涙の宝石 ［文化］ 水の魔石。

enıs ［経済］利子率、利息率、金利 ［レベル］4 1L:enφ/ısı

enıl ［音楽］バラード ［レベル］5 ɺ1:「涙の曲」

enılʃ ［俗語］ノーチェンジ。風俗（デリヘルなど）やネットスラングなどで使う。 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ 【用例】 enılʃ ɑı, beeɒı. ノーチェンジだババア。年齢のわりに若かったり美しかったり見える女性を斜に構えて賛辞した言葉。

enılɔɥ ［生物］鼻涙管 1L

enıeɥʅı ［名詞］眼に浮かべた涙、半泣き、半なき、半べそ、半ベソ、半べ ［レベル］2 ɺ1

enıeleʃ ［生物］泣き顔 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcɉ

encɒ ［色］無色 ［レベル］3 ɺ0:e/ncɒ

enccʅ ［地名］エニーク ［レベル］4 1ʮ: 制 :ennı/dccʅ（鞘、剣）を切り詰めたもの。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァジョの支配地。

enccʅ(ɺ) ［アトラスの国家］エニーク ［レベル］4 制 ［文化］ 面積：ɺ0ƍɺʔɱƪ.ʮƪLʔɱΔ ʅɒ ɺ

enɔ ［形容詞］不便な、役に立たない ［反意語］ɥɔı ［名詞］役立たず ［レベル］2 1L: 制 :enɥɔl（使えない）【用例】 bız eʃ enɔ ɒeɥelʈ お前ほんと使えねー！

enɔu ［動詞］ɥəl を不動にする、不動にする、動かなくする ［形容詞］動かない、不動の ［反意語］ɔu ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺɱ

enɔuɥıɒe ［運動］エアロバイク ［レベル］4 ul;/ ɺɱ ［文化］ ləʅıʅɉ

ene ［名詞］可能性 ［反意語］ılene ［レベル］2 1ʮ: 制 :enɔ（能力可能）

eneɑcı ［論理］可能世界 ［レベル］5 ɺɺ

eneφıcı ［アトラスの国家］エネガイア ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 憤る土地（火山が多い）

eneφıcın ［音楽］ショーロ ɺ1:eneφıcı

eneφıcıɑınφ ［植物］カトレア、カトレヤ ［レベル］4 nɑ;/ ɺʔ ［文化］ エネガイア原産で nɑ で流入。

eu ［動詞］ɥəl を ı に置く、置く、設置する、取り付ける、皿などを並べる、水などをかける、浸す、挟む、入力する、チャージする、課す ［電算］インストール ［料理］盛り付ける ［経済］年金や保険などを掛ける、預金を建てる ［経済］～建て、建て ［シェルト］張る、貼る。テームスにコマを張ること。 ［反意語］ɉeɑ ［レベル］1 1ɱ: 制 :ɔun（動かす） scsc:scsc 【用例】 ın euıʃ ləoı ıl eɥ. 水に足を浸した。 eu φcl ı ʅıɥʃ カードにお金をチャージする ʅɔnʃ eueɉ ɒıɥʅ ı ɑlel ləəʃ, uınφıɥɑc ıɉɒcʅ. 鎌をリーザの首に架けたままの状態で、ヴァンガルディは問う。

euφcl ［経済］掛け金 ［レベル］5 1L

euɥenl,ɉzɑ len 原義は「薬を飲む」

euɥenɉ ［名詞］メッセージ、伝言 ［レベル］2 ɺ0:lcɔn: 置かれた言葉

euı,ɉzɑ ɉıe ＜ ɉı/e(eɥcı).l

euın ［医療］伝染病 ［レベル］3 ɉeɥʃ 1ʮ: 制 :eʅɔucl（伝染病） φɔnφɥə :φɔnφɥə

euınɉcl ［気象］冷たい雨、氷雨、ひさめ、雨、エヴァンシル ［類義語］eɉʅ ［レベル］4 ɉzl;euı/ɉccle「雪のように冷たい雨」

euınɉclɑ ［歳時記］雪精祭 ɺ1: 雪精 ［文化］ elɑccne

euınueɉʅ ［魔法］アルヴェスクの雪、エヴァンヴェスク ［レベル］5 ɥɑ;euı/ılueɉʅ ɺɱ ［文化］ ɑıllccʅı

euıns ［人名］エヴァンジュ ［レベル］6 ɺ0 ［文化］ (cɒəl 1ɺ00:) ɥɑ のアルバザード王。

euınslın ［料理］エヴァンジュラン、白雪ワイン ［ユマナ］ボジョレーヌーボー、ボージョレーヌーボー ɉɒ;‹›euınslcn,ɉzʅ。例年このワインの解禁日からそのしばし後にかけて初雪が降ることから、白雪の槍にかけてこのように命名された。 ɺʔ ［文化］ ɉɒ で作られたワインの品種。地球のボジョレーヌーボーに相当する。　アシェルフィ地方の名産で、毎年ルージュの月の使徒週の変わり目辺りに解禁される。　その年の新鮮なワインで、日本と違って高価なイメージはない。むしろ収穫を祝うためのお祭り的な意味で飲まれる一般的なワインというイメージである。　もともとすぐ飲みきってしまうために作られるため、タンニンが少なく、ふつうの赤ワインと違ってそう何年も持たない。

euınsel ［軍事］エヴァンジェル、筺堺司 ［レベル］5 ɥɑ;euınselcn ɺɺ ［文化］ ʅıʃlɔuel

euınselcn ［アイテム］エヴァンジェリン、白雪の槍 ［レベル］5 ɉzʅ;euı,ɉzɑ/selcn,ɉzʅ ɺ1 ［文化］ 天馬騎士の持つ槍。目立たないよう、天馬の色に合わせて白く塗装してある。戦地は雪山が多かったため、白が敵の目を惑わせた。柄はヒノキやヒイラギなど、リーゼルに自生し硬度のあるものを用いる。　長さはサヴァンジェが ɺ eləı で、それ以外が 1.ʮ eləı である。戦乙女の平均身長が約 1ƪ0ɾɒ であり、槍の適切な長さは身長からその倍であるため、やや短目である。これは天馬が急降下して攻撃するため、一瞬で相手の懐に入れることから来ている。　騎手は馬が敵にぶつからないよう、右前に槍を放つ。この際槍が長ければ命中度が上がるように見えるが、実際はそうでない。天馬騎士は乙女なので腕力に欠ける。長いと重くなるので取り回しづらくなり、かえって精度が落ちる。また、槍が重いと馬の体力も無駄に奪われる。短さは馬の急降下でカバーし　ており、むしろ短目の槍を使うことで速度を上げている。　柄の断面は円で、突き刺しに適している。太さは細く、軽い。

euınselcn lcczel ［人名］エヴァンジェリン＝リーゼル ［レベル］5 ɺ1 ［文化］ リーファ隊ミルギの本名。

euız ［地学］湿地 ［レベル］4 1ƪ: 制 :euı（湿った）

euıl ［名詞］置き場所 ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ

euc ［形容詞］乾いた、乾燥した ［動詞］ɥəl を乾かす、乾かす、乾く、乾燥させる、除湿する ［反意語］eueɉ ［レベル］2 1ʮ: 制 :euı: 古 :eueɉ（湿った）【用例】 ın euc lıl ɉıb ʅɔn dıɥd. 服を日光で乾かしたい。 senʃ euc ıʃ ɔnʅ ɑɔl ɑcl. 長い間、乾燥した天気が続いた。 ʃə ɒɔlɉ ıʃ 10 ɑec lel ın euc ncı. 髪を乾かすのに１０分かかった。 ın ıɥıʃ eucıɥ ı ncı. ドライヤーで髪を乾かした。 ? eelɔl eɉ euc ʅı sınl. ベランダの洗濯物が乾いている。アルバザードはベランダに干さないので不自然。

eucʃ ［形容詞］間違った、誤った、違う、ちがう、違った、あやまった、不正な、不正解、はずれ、ハズレ、誤答、正しくない ［類義語］ʃeɔɒc cɥ、ʃeɔnı ［反意語］ʃcı ［レベル］1 ɥɑ;ʅʃ‹eucɑe.ʅ 1L:eucɑe eucɑe:eucɑe

eucʃʃeɥ ［普通動名詞］聞き間違い、聞き間違え ［動詞］ɥəl を聞き間違える、聞き間違える ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］ ɑcl ʃeɒ と区別→ ɑcl

eucʃʅılə ［政治］違憲 ［レベル］4 1L

eucʃʅə ［普通動名詞］言い間違い、言い間違え、言いまつがい ［動詞］ʃel（正しいセリフ）に対して ɥəl（間違ったセリフ）を言う、間違えて ɥəl と言う、言い間違える ［類義語］eucʃɑɔz ［レベル］3 ɥɑ;/ ɺʔ ［語法］ ɑcl ʅəɔ と区別→ ɑcl 【用例】 nɔn nıʃ ʃlə ʃcn ɒcl eucʃʅəʅ dıdı ʃel lınlı. 先生って言おうとしてパパって言い間違えて、とても恥ずかしかった。

eucʃlen ［医療］誤嚥 ［レベル］5 1L

eucʃueʃ ［言語］スペルミス、書き間違えた単語 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɉ

eucʃɑɔz ［動詞］セリフを噛んで ɥəl と言ってしまう、噛む、かむ、言う ［類義語］eucʃʅə ɥɑ;/ ［レベル］3 ɺʔ 【用例】 enɉı ıɥcʅ eucʃɑɔz cɒ uɔllen. 大事なところで芸人がセリフを噛んだ。

eucʃɑcz ［法律］冤罪、えん罪 ［レベル］4 ɥɑ;/ ɺʔ 【用例】 ʃcl{ɥəu} eucʃɑcz ɔn ɉeʃ 殺人の冤罪を受ける

eucʃlɔ ［動詞］ɥəl を ı と誤解する、誤解する、勘違いする ［普通動名詞］誤解、勘違い ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe ［文化］ 誤解は聞き手と喋り手のどちらか、或いは両方の責任で起こる。どちらの責任であるか追及すべきところはするが、まずは何が誤解であるかを説明するのが先である。追求は後で行う。誤解をしている以上、どこかで別の理解をしているはずである。ゆえに両者が交互に一つずつ情報を最初から言っていけばそのうち誤解が見つかる。自分が言ったことに対して相手が「それは違う」といったり、その逆が起これば、それが誤解している点である。まずはこうして誤解している点を見つけ、誤解を解く。その上でなぜその誤解が起こったのかを考える。誰が原因で何が原因か分かれば次回同じ間違いをしにくくなる。その上で責任を問いたければ問うがいい。誤解を解く際に自分が間違っているのではと心配して協調的に誤解を解き合わないのは良くない。日本人はこういう解きあいをしないが、アルバザードではこの解きあいは日常的である。

eucʃlɔʅc ［動詞］ɥəl を ı と誤解する、誤解する ［普通動名詞］誤解、勘違い ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［文化］ eucʃlɔ

eucʃı ［名詞］トーナメント、大会、競技会 ［レベル］4 ɥɑ;ecu/cʃı「決闘会」 ɺɱ ［文化］ 神代から行われていた競技会のこと。元は神々が強さを競い合うために余興として行った遊びで、勝ち残り式トーナメントで優勝者を決めるというものであった。　それが人類にも伝わり、ɉɒ では貴族の間で槍を使った馬上試合などが行われるように

なった。　現在でも部活動や試合などで勝者を決める際に行われる。　【用例】 cᴅ eucʃı ʃ'ılcʝ, ıɴʝ scφ ʝen φeluıu le ɑe ıµ, ʃıl ʝɔ uelınʃ dɔ ŋʝφel cᴅ ʃə ʃ'ılʃe. 秋の大会ではそれぞれどの球技をするのか選べるが、春の大会ではバレーボール一択なのである。

eucʃcn ［普通動名詞］見間違え、見間違い ［動詞］ɥəl を ı と見間違える、見間違える ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcʝ ［語法］ ɑcl cnʝ と区別→ ɑcl

eucʅəɔ ［医療］口腔乾燥症 ［レベル］6 1L:ʝeµen

eucʝ ［名詞］見立て ［動詞］ɥəl を ı だと見立てる、見立てる ［普通動名詞］見立てること、見立て ［レベル］4 µɑ;ʅeu/cnʝ「喩える目」が音変化していったもの。 ɉɱ

eucʝııʐ ［医療］シェーグレン症候群 ［レベル］6 1L:µcɑcı:「乾いたおばさん」。４０～６０の中年女性に多く、涙や唾液の分泌に障害が出る病気であることから

eucn ［動詞］ɥəl の悪いところを見る ［反意語］dıı̃ ［レベル］3 ɉ0:euc ɑe/cn（悪を見る） 【用例】 ᴅcn ıʅı eucn ɑc le lə ʝcn. 女は嫌いな相手の悪いところばかり見る生き物だ。

eucɑe ［名詞］悪、悪事 ［形容詞］悪の ［形容詞］からかい半分で「悪いお人」などというときの「悪い」 ［反意語］dµɔdııʃı ［レベル］2 ɑ;uc の部分は uel（闇）？ 赤 eucɑe:eucɑe ［語法］ dµɔdııʃı 【用例】 ʃ…ʃcl nılc ʃʅı. こ、困りんす。 ᴅɥən lcnl ʃɥə ʅen ᴅcın ʃɥın ʃʅıɞ ＿＿ ɑɥə llɔə, ʃʅcı ʃe eucɑe ucʅ ɥınnı. わっちにも見せてくれんかや？——ヌシさまは悪いお人。 (『狼と香辛料』賢狼ホロ)

eucdɔl ［地学］乾燥帯 ［レベル］4 1L

eucl ［医療］膏薬、貼り薬、はり薬 µɑ;/「置く薬」 ɉɱ

eucıµ ［名詞］乾燥機、除湿機、ドライヤー ［レベル］2 1L:lcɔn

euccnʝ ［医療］ドライアイ ［レベル］5 1L

euceᴅʝ ［化学］乾性油 1L

euɔ ［動詞］ɥəl（場所など）を警備する、警備する、警邏する、警戒する、巡回する、パトロールする、見張る、見回りする、見回る ［普通動名詞］警備、見回り、警邏、警戒、パトロール、見張り ［類義語］ʅeʃʝ ［レベル］3 1ᛏ: 制 :eue:1ᛏ: 制 : 古 :hɔᴅɥəuıʝ 門番

euɔʅıɑ ［政治］夜警国家、消極国家 ［レベル］4 1L ［文化］ アズゲルからカコまで採用されていた主義。国民一人一人が強力なヴィードを使えていたため、国家は最低限の管理しか要求されなかった。セルメルで崩壊。絶対王政に変わっていく。

euɔᴅ ［名詞］置き方、並べ方、配列、配置 ［娯楽］［軍事］布陣 ［レベル］3 ɈɈ 【用例】 euɔᴅ cun 脆弱な兵士の配置

euɔın ［名詞］警備員、守衛 ［レベル］3 1L:ᴅelcɑcı ılcʝ ［文化］ 守衛所は駅員室と変わらない。改札を見張る環境と、来訪者を取り次ぐ環境のある部屋である。彼らは不審者が入ってくるのを防ぐという重要な役割を担っている。常に二人はいる。片方が誰かの相手をしているときに別の誰かが忍び込まないようにである。だから仮に二人一度に守衛室に来ても、必ず一人しか客に対応しない。二人いるから独りずつ対応するというわけにはいかない。それが罠かもしれないからである。二人が対応すればその間改札は誰も見張らない。これは危険である。守衛はその役割からしても、客を待たせてでも住民の安全を守らなければならない。だから二人客が来ても一人しか対応しない。これは規則である。

euɔɔᴅı ［動物］番犬、門番 ［レベル］3 ɈɈ

euɔez ［名詞］守衛室 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ

eueʃ ［物理］起電力 ［レベル］5 1L:ıʃeuʃeu（電流を起こすための電圧）

eueʝ ［形容詞］濡れた ［類義語］φccʅʅeʃ、ʝeµcd ［反意語］euc ［レベル］2 古 ［語法］ eueʝ は濡れている。ʝeµcd は湿気を帯びているだけで、ぐちょっという感じではない。 【用例】 ın eᴅıʃ eueʝ ıʃc ʅıl ᴅın ʅeʅʅıʃ hıɾɖn ıᴅɔl eʝn ınʃ. 友達と傘を一緒に使っていたら少し濡れてしまった。

eueᴅ ［名詞］設定、シチュエーション ［レベル］3 1L:ʝeµen:euᴅeʝı:1L :µcɑcı:ıµbılelʃ: 置かれた環境 【成句】 ☆ (ɑcʃ) eueᴅ ɑel ～ということにする、～ということにして 【用例】 ın ɑcʃıʃ eueᴅ ɑel ın ʃcl eɑı cᴅ ɑcʝ. 今日は風邪ということにした。 ʃə eʃ eueᴅ ɑel uıcʅ e ᴅɥ əəl lı ᴅɔl ʃceµ. ミュール大陸は部分的に海の底ということになっている。

euel ıᴅınze ［人名］エヴェル＝アマンゼ ɈI ［文化］ ファミイ＝クルノースの夫。

eɑʃ ［動詞］ɥəl（物）を c（人）から盗む、ɥəl（人）から ɔn（物）を盗む、盗む、盗る ［普通動名詞］盗み、物取り、物盗り、窃盗、盗難 ［レベル］2 1ᛏ: 制 :ɔɑʃ（奪う） ［語法］ 壁塗り構文と同じく、ɥəl の種類によって ɥəl 以下の格が変化する。 【成句】 ʅılᴅı eɑʃ 手癖が悪い 【用例】 ☆ ın eɑʃıʃ ɥə ɔn φclʝ ʝcn ＝ φclʝ eɑʃıʃ ɥə cʃ ın ＝ le eɑʃıʃ ın ɔn φclʝ ＝ le eɑʃıʃ φclʝ ınʃ ＝ le eɑʃıʃ φclʝ cʃ ın 財布を盗まれた：内容的に迷惑なのは明らかなので ʝcn はあってもなくてもよい。ただアルカに間接受身はないので、ɥə の有無によって迷惑感の有無は変わらない。迷惑感は ʝcn で示す。とはいえ、この文の場合は ʝcn がなくても文意から明らかに迷惑なので ʝcn を省いても構わない。なお、一番自然なのは ın eɑʃıʃ ɥə ɔn φclʝ ʝcn か le eɑʃıʃ φclʝ ınʃ ʝcn である。前者の場合、盗まれた自分の惨状に目が行っている。後者の場合、盗んだ犯人めコノヤローという視点になっている。

eɑʃın ［法律］泥棒、空き巣 ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ ［文化］ セキュリティがしっかりしていることと、大家族なので常に誰かが家にいることと、そもそもアルバザードに貧困者が少ないことから、泥棒はまず入らない。泥棒が入れば警察に通報し、捜査してもらう。盗まれたものの代金は犯人が見つかれば犯人に払わせる。もし見つからなければ保険会社に払わせる。だから当然警察は自作自演の泥棒でないかの疑いを家族にかけ、慎重に捜査する。レインは一人暮らしの少女だったため、あっさりネブラに侵入された。ネブラが侵入できたのは彼も特殊な地位にいたからである。さらにレインは紫苑のことを隠していたので警察に連絡できなかった。

eɑı ［医療］風邪、かぜ、カゼ、感冒 ［レベル］2 1ʔ: 制 :eɑ（寒い） 【成句】 eɑı e µɥəə 医者の不養生 【用例】 ıı, ın ʃcl eᴅ eɑı ıləəʃel ᴅın ıµ ɔhɔ. 咳が出るので風邪を引いたに違いない。 ın ʃclıʃ ʝıʃ eɑı. 風邪を引きそうだった。

eɑıφılʃ ［生物］風池→ ɑɔnφıµ ［レベル］6 ɈI

eɑılɑcı ［生物］風府 ɈI:eɑı/ılɑcı

eɑıılʃe ［気象］花冷え ［レベル］4 1L: 風邪を引いた女神 ［語法］ 春先に急に寒くなること。アシュテが風邪を引いたせいで起こる。 【用例】 eɑıılʃe ʝcl ʝɔɑ cᴅ ʃə ʝɔɔʃ ʃel dɔµʅlıʅ. 今週は花冷えが予想される。 ☆ʃə eʃ ɑız ı ᴅccnı eᴅ ᴅınʝ, ʃıl eɑıılʃe eʃ ɑɔʃ. 花の咲く季節だが、花冷えが厳しかった。 cᴅ ʃə ɑııµ, nɔn lecnıʃ ʝıb e lceµ ᴅcl nı eɑıılʃe. 朝、花冷えがしたので冬の服を羽織った。

eɑɔ ［生物］海綿 ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :eɑəʃɔ(水を取る)

eɑɔd ［動詞］ɥəl を凍らせる、凍る ［普通動名詞］冷凍 ［レベル］2 1ʕ: 制 :eɑ/ʝɔd（固体） 【用例】 ın eɑɔdıʃ ᴅelcʅ ʅı ʝɔµʃʃeᴅʅ lını ʅəc ʃə cᴅ lceµ. 冬にイチゴを食べようと思って冷凍庫で凍らせておいた。 ʃə ıʃ ʝɔµʃ eɑɔdel. 凍てつく寒さだった。 ın uɔµʃıʃ ʝıʃ ᴅın ʃə eʃ ʝɔµʃ ɥən ın eɑɔd ɥə. あまりに寒くて凍え死にそうだった。 ʃə ıʃ led ɔ ʅcn lel ın ʝeɑ ʝıe ᴅın ʝıe eʝ eɑɔd. 雪が凍ってしまって、雪かきが大変だった。

eɑɔdbel ［料理］冷凍食品 ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ ［文化］ アルバザード人は好まない。

eɑe ［名詞］スポンジ ［レベル］2 1ʔ: 制 :eɑɔ

eɑecɑı ［生物］海綿動物門 ［レベル］6 ɈɈ: スポンジのような動物門

eᴅ ［動詞］ɥəl になる、なる、成る。eʃ ᴅcɥə と同じ。 ［接尾辞］複合語に使い、「～化」の意味。 ［法副詞］～になって。変化を指す。 ［動詞］連動詞として使い、変化の段階を示す。 ［レベル］1 1Δ:ᴅel:eʃ ᴅı。アルカには元々ナル動詞がなく、ナルを示すには eʃ ᴅı というように繋辞 / 変化の副詞で表していた。eᴅ は eʃ ᴅı が短縮されたもので、口語から生まれた新たな動詞。 :::ᴅclə,ılʃ ［語法］ 仮に eʃ と聞き違えても、そこまで意味に大差がないので、通常、問題は起きない。 ＜変化の段階を示す用法＞ el ʝʃenʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れない） el ʝʃenʃ ucl eᴅ le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなった） el eᴅ ʝıʃ ʝʃenʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなりそうだ） el eᴅ ʅcʃ ʝʃe nʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなりはじめた） el eᴅıµ ʝʃenʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなっているところだ） el eᴅcʅ ʝʃenʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなった） el eᴅeʝ ʝʃenʃ ucl le ɑɔnʃ（あの道は渡れなくなっている） ᴅcɥə の場合、eᴅcʅ と eᴅeʝ の両方を指す。 ＜派生語＞ 形容詞→動詞 接尾辞 eᴅ。ただし省略するのが通常。 「～化」という名詞用法にしたい場合は eᴅ は省略できない。 ʅıceᴅ（大きくする） この eᴅ は省略できるが、「巨大化」という名詞用法の場合は eᴅ を外せない。

eᴅ(Ɉ) ［接尾辞］行為無相を示す。開音節には ᴅ。 ［レベル］2 1L ［語法］ ɥəɔncɑ

eᴅʃ ［形容詞］悲しい ［反意語］nıə ［レベル］2 1ɱ: 制 nıᴅɔ:nıᴅɔ ［文化］ 悲しみの表現は日本人から見ればやや大げさである。泣いたり声を出したりする。手で顔を覆ってうなだれたりする。アルバザードでは悲しいことが起こると一人で引きこもる。少し自分一人で気持ちの整理をつける必要があるからである。そのうち家族や友人や恋人が見舞いにいき、愚痴を聞いてやる。日本では引きこもる人をすぐ追いかけることがあるが、アルバザードではとりあえず一人にすることが多い。但し、このままどこかへ消えてしまいそうな神経の細い人の場合、恋人などは決して一人にさせないで付いていくことが多い。 一通り嘆き悲しんだらぱっと気持ちを切り替えて客観的な反省を始める。負の感情をエネルギッシュに出し切ったら今度は冷静に何がまずかったのかを考える。こうして反省して次回の教訓にすることで、悲しみを利益にリサイクルする。アルバザードはこうしたただでは転ばぬ精神を培っている。 【成句】 eᴅʃ e leɥə 愛別離苦 【用例】 cᴅ ɑcʝ, ın nıʃ eᴅʃ ıʅı lɔʃ lɑcʝ ınʃ. 今日が人生で一番悲しい日だ。 ☆ ın ʝcʃ ᴅel len nı eᴅʃ. 悲しみに暮れている場合ではなかった。 lı eʃ eᴅʃ ɥən. 彼は悲しそうだ。 ☆ lı neʅʃıʃeʝ nɔʝ nı eᴅʃ cn. 彼は人知れず悲しみを抱えているようだった。 nɔn nıʃ eᴅʃ enʃɔ enı ʅcʃ. あまりに悲しくて泣きだしてしまった。 ın nıʃ eᴅʃ ʅɔnʃ nı nıə cᴅ ʅɔʅ. 喜びと悲しみが入り混じった気持だった。

eᴅʃʅɥɔ ［名詞］悲劇。メタファーとして使う場合は eᴅʃʅlɔı のほうを使う。 ［類義語］eᴅʃʅlɔı ［レベル］5 µɑ;/ ɉɱ

eᴅʃʅlɔı ［名詞］悲劇。メタファーとしての悲劇。 ［類義語］eᴅʃʅɥɔ、ueµɑc ［レベル］4 µɑ;/ ɉɱ

eᴅʅ ［動詞］ɥəl を ı に洩らす、洩らす、洩れる、もれる、漏れる ［動詞］ɥəl を ı にバラす、バラす、暴露する、バレる、秘密を漏らす、情報を漏らす、秘密を洩らす、洩らす、漏らす ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eᴅɔʅ ［語法］ こぼれるではなく、もれる。塞いでいたものが出て行くことを指す。穴が開いて水が漏れるなど。 【用例】 eµ eʝ eᴅʅ c ʝcıs. 天井から水がもれている。 eᴅʅ µenʝ{ueʃ} 言葉を漏らす、無意識に言う eʝʅ ınɑ eᴅʅ ıdɔʃ ɥıᴅeʅı ɑµeᴅen lɔdn ıʃc ɑc ɑəɔ. 駅の駐輪場の雨漏りが酷い。

eᴅʝ ［名詞］油、脂肪、オイル ［名詞］［形容詞］余計な、邪魔な、余分な：eᴅʝ ılen ɑıdl の略 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eᴅɥə（油） eᴅɥə:eᴅɥə 【成句】 eᴅʝ ı(len) ɑıc 火に油 eᴅʝ ɔnʃ eµcı 油に水。日本語の成句と同じ意味。 【用例】 ɑcʃ{eu} eᴅʝ 給油する、油を差す

eᴅʝʝeɑᴅıʝ ［美容］油取り紙 ［レベル］4 ɈI

eDJDIJ ［美容］油紙 ［レベル］5 J1

eDJdcʃD ［医療］脂肪肝 ［レベル］5 1L: 英語のような sıl ではいけない。肝臓自体が膨れてないといけなくなる。

eDJJJɔn ［物理］油圧 ［レベル］5 μɑ;/ JɑI

eDJlcʃc ［生物］脂腺 J1

eDJlecJ ［芸術］油絵 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

eDJı ［地球の国名］サウジアラビア ［レベル］5 古 : 油の国

eDn ［化学］ビニール。日常的にはポリ塩化ビニルおよび軟質プラスチックを指す。 ［レベル］2 lıʃı:「色のない油」 ［語法］ 英語はビニールをプラスチックと称することが多いが , アルカはビニールはビニールなので日本語に近い

eDnı ［化学］ビニル基 1L

eDnejn ［名詞］ビニール傘、ビニ傘 ［レベル］2 ul;/ J? ［文化］ ビニ傘は日本では一般的だが、世界的にはそうではない。アルバザードでは公共傘として道端に設置されているものがビニール傘になっている。

eDɑ ［料理］［動詞］ɥəl を炒める ［レベル］2 1ɑ: 制 : 古 :eDɥəɑıc（油で焼く）

eDb ［サール］エンブ ［軍事］要塞 ［レベル］3 φcl: 古 ［文化］ 生きている要塞。サールであり、自動で外敵を排除するシステムを持っている。

eDɥə ［化学］脂質 μɑ;eDɥə,ɑu.ılel JɑI

eDɥə,ɑu eDJ

eDɥəʃıhın ［化学］脂質二重層 μʃ;/ JɑI

eDı ［代詞］［DDı］アタシ、あたい ［レベル］1 J1:llccz:DıDı

eDı(J) ［言語］篇、アルハノンの篇 ［反意語］eDı ［レベル］5 J0:e（左）/Dıcn（体）

eDıl ［化学］パラフィン ［レベル］6 1L:μɥəə:en/Dılɔ（親和しない）

eDılzcμ ［名詞］神仏混合、エマルジール ［アクセント］eDılz€μ ［レベル］6 J0: 古レスティル「よく混ぜた」 ［文化］ ɥəəDı ꝑꝑ91 先の戦いで戦功があったのは主に召喚士で、召喚士の地位が高まっていき、宗派を越えて召喚士そのものの地位が高まっていった。召喚士同士の横の繋がりのほうが宗派よりも重要視されるようになり、ほとんどの人間は各宗派の違いよりも職業の違いを意識するようになった。この状態を受け、関白メリウセルは日本でいう神仏混合（エマルジール）を行い、アルテもサルトも漠然と崇める対象と広く定義し、アルテの存在を認めない神商会に対しては「このアルテは原初に存在して分裂したアルテのことで、概念でも唯一神でもない」と説明し、飲ませた。神商会としてはエマルジールを行うことで富国強兵になり、体よくサルト教とアルテ教を吸収できると考えた。この時代は昔ほど宗派の違いが重要でなく、召喚士や魔導師といった階級のほうが重要視されたため、メリウセルは新しい風潮に合わせて宗教理念を柔軟に解釈した

eDc ［形容詞］～の野郎、～のやつめ ［文末純詞］～しやがる ［レベル］1 古 :eDc,eDcc（野卑のエクスプローダー） ［語法］ 卑称の一つ。制アルカは呼び捨てが中立的なので、呼び捨ては嫌いな相手を罵る言葉にはならない。従って必然的に卑称が生まれるが、そのような卑称は呼び捨てが罵りになる日本語には訳せない。eDc は卑称であり、名前の後ろに付く。あえて日本語にするなら「～のやつ」とか「～のやろう」に当たる。

eDcʃ ［生物］ドメイン、超界、域 ［言語］語族 ［レベル］5 1L:ıDıʃ の母音を変化

eDcl ［動詞］ɥəl を ı にたなびかせる、たなびかせる、翻る、たなびく、漂う、なびく、靡く、なびかせる、靡かせる、そよぐ ［レベル］2 1ʃ: 制 :eDccμ/le 【用例】 lı leɑıʃ lɔnʃ ncı lııʃ ınɑ eDcl. 彼女は髪の毛をなびかせながら走った。 ncı eDcl なびく髪

eDclɔ ［料理］豆乳 ［レベル］2 μɑ;henDclɔ,ılʃ.lcl「大豆の水」 JJ ［文化］ μɑ で伝わった。南部ほどよく飲まれる。ul で lcnlen ɥəəın が広め、現在では北部でも飲まれる。

eDcl ［植物］杉、ヒマラヤスギ、セイヨウスギ ［レベル］3 古

eDcJ ［サール］エミス ［形容詞］わがままな、自己中な、自己中心的な、利己的な、思いやりがない、傍若無人な、勝手な、身勝手な、都合のいい ［反意語］ɥəɑc ［美容］おだんご頭、おだんごの髪型 ［魔法］エミス。闇の低位黒魔法。術者の目を見ると身動きが取れなくなってしまう。術者が対象から目を逸らすと解除される。ちなみに、術にかかっている方は、瞬きができないので目が痛い。 ［人名］ルシアの悪口 :J0:Del ［レベル］3 μcɑcı: 古。歯音がなくなったので同じ語に統合された。 ［文化］ 昔の中国の貴族のような格好をした幼女のサール。袖の長い赤いチャイナドレスを着て、長い黒髪を頭のてっぺんでお団子のように左右２つ結っている。ややつり目で気が強そうにみえ、眉は細いがりりしく、口元はきゅっと締まっている。漆黒の瞳で睨むと相手は途端に身動きが取れなくなる。見た目は７歳程度。性格はとてもわがまま。 【成句】 eDcJ lıl eDcJ エミスは何年生きても自己中なまま：三つ子の魂百まで 【用例】 ın ıʃ eDcJ Dın ləʃ φııʃɔ ɔl uınɑɔl nıDɔ ı lı. あんなふうに彼女に向かって話すなんて私は思いやりがなかった。

eDcJ(J) ［人名］エミス ［組み数字］7／１４ ［レベル］4 古 :eDcɫ で、語源不詳。 ［文化］ 第４期３代アルシェ第７使徒。

eDcJllɔJ ［普通動名詞］自己主張。ネガティブに使う。 ［レベル］3 JJ

eDcJncı ［美容］おだんご頭 ［レベル］2 1L

eDcJuınɑ ［普通動名詞］八つ当たり、やつあたり ［レベル］2 1L: エミスのようにわがままに人を攻撃する 【用例】 ın eDcJuınɑıʃ lıl ɑc. 誰かに八つ当たりしたかった。

eDcJlcl ［化学］ガドリニウム 1Δ: 制

eDcnı ［植物］しだ、シダ ［レベル］4 1ʃ:e/Dcnı（ıl/Dccnı）。花の咲かない植物の一種

eDcμ ［魔法］エミール、妖術 ［レベル］4 1L:μcɑcı:eDccl ［文化］ アルトの一種。妖精族が編み出した独特な魔法体系。基本的に錯乱させたり混乱させたりといった、惑わす系の魔法が多い。操る魔法もある。人間に悪戯をする矮小な魔法から、人を騙す悪質なものまである。

eDcμın ［魔法］妖術師 ［レベル］4 1L:μcɑcı

eDcl ［代詞］［DDı］アタシの、あたいの ［レベル］1 J1:llccz:eDDı。触媒と交替。

eDclcɔ ［死神］エミリオ ［レベル］4 Delʃcı JL1:lənɔ;e J0:μcɑcı ［文化］ 死神族の少年。双子の妹ミスティと常に行動している。二人合わせて四天王と同じ程度の強さ。合わせ鏡から生まれただけあって、妹と容姿がまるで同じである。どちらも髪は黄色く、長さはセミロングで、ツンツンはねている。セーラー服を着て生まれてきた。鎌を持たず、エミリオは金の、ミスティは銀の横笛を持っている。彼らのセーラー服は上が白のブレザーで、水色い菱形のネクタイが付いている。下はスカートで、こちらも色はネクタイと同じ水色である。

eDcc ［μenʃe］［文末純詞］よくも～したわね ［レベル］1 古 :eDc,eDcc（野卑のエクスプローダーの女性形） ［語法］ 野卑の文末純詞。Jeeμ と逆の意味。感謝どころか怒っていたり恨んでいたりすることを表わす。

eDccμcı ［地名］エミーリア海 ［レベル］4 J0:μcɑcı: 妖精の水 ［文化］ フィーリアの東の海。アルダ南西、エルトア西。

eDccl 妖精 1L:μcɑcı/Jeμen/Del:eμ/Dccl（水に浮かんだリボンのように舞う） ［文化］ 妖族と人間の交配種。エルトア発祥で、精霊同様エルトアの森にひっそり暮らしている。踊りが好きで、好奇心が強く、性格はのんびりしていて明るい。髪は透き通るような黄色で、薄く、縮れている。服はやはり薄布をまとっている。アシェットではミルフが妖精の一族の出。

eDɔ ［名詞］源、ソース、元、もと、元凶、源泉 ［数学］根、ルート ［格詞］～のおごりで、～のソースを利用して、～にちなんで、因んで、ちなむ、～することによって、～を根拠として、～の結果 ［格詞］～を親として ［反意語］leeʃ ［レベル］2 古 :eDɔ（低いところにある水） ［語法］ ＜～することによって＞ 「～することによって」は Dın と uɔl の間のような語義。uɔl と違って動詞句と uɔl 句がイコールではないが、eDɔ 格が Dın 格の成立要件であることは確か。逆に Dın と違って eDɔ 格は動詞句の原因ではない。 el uılʃ Jen ɥəə eDɔ nı deJ において、まず、uɔl では意味が通らない。Dın にしてしまうと「悩めばゼロを解決できる」＝「悩むから何も解決できない」という意味になり、悩むことが確定条件になってしまう。ɔl だと条件ぽくなってしまう。そこで eDɔ。 ＜ルート＞ ルート２の三乗根は uceDɔ ʃı。３ルート２は uc eDɔ ʃı。発音に注意。

eDɔuɔln ［医療］ｉＰＳ細胞、人工多能性幹細胞 ［レベル］5 J0: 源泉細胞

eDɔuenʃ ［経済］源泉企業 1L ［文化］ → uenʃ

eDɔz ［動詞］ɥəl を煎って ı にする、煎る、スクランブル、いる ［レベル］3 1L: 制 :eDJ/lɔz

eDɔen ［接続詞］eDɔ ［レベル］3 J1

eDeʃ ［電算］ソース、ソースコード、コード、原始プログラム ［レベル］4 μɑ:μɥəə;eDɔ/ʃe J?

eDel ［化学］触媒 ［レベル］4 J1:llccz‹eDcl:1?: 制 :elcJ

eDeluelɑ ［医療］心嚢水 1L

eɑDeluc ［経済］弱肉老食 ［レベル］6 ıl;ɑlıcıuɔD をもじって eɑφıμɑ/Delucφıμɑ から作ったもの J? ［文化］ ıl では老人が国民の資産の過半数以上を保有しており、中高年の雇用を守るために若年層が犠牲になってきた。その上少子高齢化で若者の社会保障の負担は増えるばかりであった。その事態を皮肉って弱肉老食という言葉が生まれた。

eɑφıμɑ ［軍事］新兵、リクルート、エドガルド、エドガード ［レベル］4 Dʃ;'eʃʃ/φıμɑ JJ 【成句】 eɑφıμɑ Jıle Delucφıμɑ. 新兵が老兵を先導する：負うた子に教えられて浅瀬を渡る

eɑı ［名詞］リスト、表、メニュー、名簿、目録 ［料理］献立 ［類義語］elen ［反意語］zeʃ ［レベル］2 古

eɑıʃ ［親族］祖母、おばあさん、おばあちゃん ［レベル］2 1L:enɑı/eeʃı

eɑıJlez ［電算］２ｃｈ型掲示板、憩いの場型掲示板、掲示板 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

eɑın ［親族］おばあちゃん ［レベル］2 1L:μcɑcı:eɑıʃ

eɑcJ ［動詞］ɥəl をずらす、ずらす、はだける、はだけさせる μɑ;en ɑc/Jɔ J?

eɑcnbılı ［植物］菩提樹、リンデン ［レベル］5 De

eɑcıl ［地名］エディアル ［芸術］グロテスク ［レベル］5 zφ | JD; エディアル地方で発達した芸術技法であることから。 J? ［語法］ グロいという意味はない。 ［文化］ イルケア南部の都市。

eɑcɔn ［地学］エディオン大陸 ［ユマナ］パンゲア大陸 ［レベル］5 古 : 制までは大陸の名だったが、新生では定義されなかったので、パンゲアとして利用することにした。

eɑɔ ［経済］財団 ［レベル］4 μʃ;Je/ɑɔı J?

eɑe,ılʃ sen eɑel,ɑ.l

eɑel,ɑ sen ɑ;e

eφ ［感動詞］しくしく、えぐえぐ、えぐっ、うぐっ ［レベル］2 古 :ıφ の仲間で、嗚咽に使われた

eφlcu ［名詞］嗚咽 ［レベル］3 JJ

eφın ［動物］カモメ、鴎 ［レベル］3 lıʃı

eφɔ ［化学］石灰 ［レベル］3 ɒelʃcı Δ:φclcəȷ;e 1ʕ: 対の意識が弱いので残した。

eφɔɑɔl ［地学］鍾乳石 ［レベル］3 1L

eφɔoıɒ ［地学］鍾乳洞 ［レベル］3 1L ［文化］ ベルフェ南西部のカサンテ鍾乳洞が有名。

eφɔıɑɔ ［地学］方解石、石灰石 ［レベル］3 ɒelʃcı Δ:φclcəȷ;/ 1L

eφe ［地学］大理石、マーブル ［レベル］3 古 :eφe（水の円＝水玉） ［文化］ 日常的には、高級な壁やテーブルなどに用いられる。

eφeφ eφ

edn ［建築］廊下 ［レベル］2 1⋔: 制 :ezdɔn（部屋と部屋を繋ぐ道） ［文化］ 部屋と部屋を繋ぐ床で、日本と変わらない。フローリングが基本である。学校の廊下は幅広く、ぶつかる心配がない。かといって走るのは禁止である。廊下には各地に消火栓がある。また、廊下と教室の境には上方にプレートがあり、何番の教室か分かる仕組みになっている。日本と同じである。つまり、教室のドアの上のところに何年何組と書いてあるのと同じである。教室のドアはスライドドアではなく、押して入るドアである。出るときは引く。生徒の往来が激しい休み時間中はドアを開放しておく。開閉があると廊下から入ってきた人によって出ようとした人がドアに吹き飛ばされて怪我をするからである。それでも冬などの寒い時期はドアを閉めておきたい。そのほうが寒くないし暖房代もかからないからである。そこで大抵のドアは透明で、中が透けて見える。しかし、外から見えるということはドア側の生徒がいつも誰かに見られるような不快感を覚えることにも繋がる。教室内のプライバシー保護の点もあり、教室のドアは休み時間は透明だが、授業中になると自動で曇りガラスに変化するようになっている。

edc ［被服］ピン、留めピン、留め具、留め金、止めピン、割りピン、画鋲 ［電算］フラグ。チェックする必要がある場合は作業工程表に目印としてピンを刺しておいたことから、それが電算の世界に転じて使われるようになった。 ［レベル］2 1⋔: 制 :ȷıɑ:eudcn（留める針） ［文化］ 日本に見られる金色で扁平な画鋲は存在しない。１００均で売っているようなピン。ただし針は丸でなく、Ｌ字型をしている。これは刺した後にグラグラしないためと、壁に開いてしまう穴の面積を狭くするための工夫。取ったときに壁が汚くならないように配慮されている。【用例】 eu edc フラグを立てる edc eȷ eu ɑınel ＝ (ʃə) edc eʃ ɑın フラグピンコ立ち、フラグ立ちまくり

edcʃeȷc ［名詞］ピンマイク ［レベル］5 ul:/ ʃʔ ［語法］ 胸元や襟裳に装着する小型マイクロホンのこと。

edcʅlıd ［美容］シングルピン ʃ1

edcɑɔʃ ［被服］ブローチ ［レベル］3 1⋔: 制 : ピンの飾り

edɔ ［植物］ニレ、楡 ［レベル］4 古

edeʃ リベット ʃ1:edc/ʃe

ebɾlınz ［軍事］格闘兵、エブランズ ［名詞］格闘家 ［レベル］3 zφ;uɒ ʃ1 ［文化］ ノアを駆使する兵科。主にヴェマのものが有名。

ebı ［動物］水牛、スイギュウ、バッファロー ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ebıʅ（水辺の牛）

ebc ［名詞］バケツ、桶、おけ ［レベル］2 1ꝑ: 制 : 古 :ebəəȷı（桶）

ebcȷɔɑʃ ［普通動名詞］バケツリレー ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃ⋔ 【用例】 lczlın ȷecn ıɥıʃ ebcȷɔɑʃ ı ɑıcuıʃc. 村人たちは火事に向かってバケツリレーをした。

ebclɔhɔ ［アイテム］バレルヘルム、グレートヘルム ɥɑ;/「バケツ状の兜」 ʃ⋔ ［文化］ ȷɒ で作られた。

ebe ［形容詞］そのままの、未加工の ［形容詞］無修正の ［料理］［形容詞］生の、生 ［料理］漠然と刺身料理← ebeelc, ebeɥeʅ ［レベル］2 ʃ0: 制 :ebel（未調理）

ebeɥeʅ ［料理］肉の刺身→ ebe ［レベル］3 ʃ0

ebeelc ［料理］刺身→ ebe ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ アルバザード人が生で食べるのはマグロのカルパッチョのみ。ルティア人は醤油にわさびで色々魚を食べる。【用例】 ɑənel eʃ beȷʅı ɑıc ɔnʃ ebeelc cɒ ɑcȷ ʃeɥ. 今日の夕飯はうなぎの蒲焼きと刺身らしい。

ehı ［料理］ビュッフェ、スナックバー、軽食用カウンター ［レベル］3 古 :ehı（台） ［文化］ ホテルや長距離列車などにある。

ehɔ ［医療］血栓 ［レベル］4 1L:eɥchɔhɔ ［文化］ 心臓病と連想される。

eheh ［感動詞］えへへ ［レベル］2 ʃ1

eɥɔ ［文末純詞］［ɒclcı］～かなぁ ［レベル］1 古 :eɥɔ。リディアが使いはじめた文末の疑問辞。 :::ɒıɥen,ılʃ ［語法］ その文の真偽に対して不確定であるというムードを表わす。 ・丁寧語 eɥɔ は ɒclcı は ınneɥɔ で ɥənʅ は ınlcc。

eɥɔn ［文末純詞］［ɥenʃe］eɥɔ ［レベル］2 1Δ

eɥɔɔ ［文末純詞］［ɥenʃe］eɥɔ ［レベル］2 1Δ

eɥəʃ ［化学］うわばみ、上ばみ、上澄み、うわずみ ［動詞］ɥəl を ı に浮かせる、浮かせる、浮く ［類義語］ɒɔnʃ ［反意語］ɔɥəʅ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:eɥɥəlɔ。最後に ʃ が来ているのは、沈澱を作るときにメルテーブルに乗せやすくするため。

eɥəʃʃıɑ ［化学］デカンテーション 1L

eɥənʃe ［名詞］エユンテ。ユンテ以外の位相を指す ［レベル］2 ʃ0

eɥ ［名詞］水、湯 ［類義語］ɑleɥ、ıleɥ、ılcɥ、lcɥcı、eɥcı ɥɑ;<ul ［レベル］1 1L: 古 eɥcı。l,ɥ の音がセレンにとって異音であったころ、セレンの影響を受けて使徒は合成語中で e,el と省略していたが、単体では常に eɥcı であった。eɥcı の語源は不詳。 eɥcı:eɥcı:lı ɥeclı（火の対）:ɒcʅɔ,ılʃ ɒıcɒ,ɒɑ eɥ,ul ［語法］ 水もお湯も eɥ になりうるので注意。温度で分ける場合は ɑleɥ などを使う。eɥ は総称としての水。語形が短すぎるので口語では eɥcı を使うこともある。 ［文化］ 水は無色透明ないし青と思われている。水自体は無色透明であることが認識されているが、海や湖などは光の関係で青く見え、水を象徴する色として青が採用されている。【用例】 dɔʃ eɥ 水中で

eɥ,ɑu ʅcʃ ʅeɥ.ʅ

eɥʃ ［名詞］エルトの一族、白幻神 ［生物］エルト属、白幻神属 ［形容詞］エルトの～。敬称。 ［レベル］2 ɑu;elʃ.ʅ 1ዓ: 制 : 古 elʃ:elʃ:lə ılceȷ → ılceȷ,ȷzɑ ［語法］ → ıdʃ, eȷʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法

eɥʃȷel ［歳時記］エルトの日 ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ɑəl ʅeʃ。エルトの女王ルフェルの誕生日で、休日。

eɥʃın ［魔法］エルト召喚士 ［レベル］4 1L:clɒəȷ:ɥcɑcı

eɥʃeȷl ［名詞］水力発電 ［レベル］4 ɥʃ;/ ʃ⋔ ［文化］ 水力を動力として利用したものは神代からあるが、発電に用いたのは ɥʃ になってから。

eɥʃeȷʅlı ［名詞］水力発電所 ［レベル］4 ɥʃ;/ ʃ⋔

eɥʃel ［化学］［形容詞］疎水、疎水性 ［化学］疎水基 ɥɑ;/ ʃ⋔

eɥʅ ［名詞］タイプ、系、系譜、系図、類型 ［レベル］3 1⋔: 制 : 古 :eɥc（血）から。血液型がタイプという意味に変わっていった

eɥʅɑel ［言語］類型論 ［レベル］6 1L

eɥʅı ［名詞］井戸 ［名詞］水飲み場 ［レベル］3 古 :eɥʅı ← eɥcıʅıl（水の場所） 【用例】 eɥʅı eʃ ɒɔı euc ɒeɥel. 井戸はもうすっかり枯れてしまった。

eɥʅılı ［名詞］海図、航海図、水路図、チャート ［レベル］5 ɥɑ;/「水の地図」 ʃʔ

eɥʅıɒılı ［料理］もんじゃ焼き ［レベル］3 nɑ;/「水のお好み焼き」 ʃʔ ［文化］ 日本とは逆でお好み焼きの後に開発された料理。流入はお好み焼きと同じく nɑ。

eɥʅɔʃın ［農耕］たんぼ、田圃、田んぼ、圃 ［レベル］2 1L ［語法］ 水を張って稲を作る畑のこと。アルバザードだと稲は主要な作物でないため、たんぼは単純語にならない。

eɥʅe ［地学］大河 ［形容詞］～河。前置。 ［類義語］eɥec、ɥecȷ ［レベル］2 1L:eɥʅe（水が行く）

eɥʅeʅıɑ ［地球の国名］パラグアイ 1L: グアラニー語で「大きな川」らしい

eɥl ［建築］風呂、バス、バスタブ、風呂釜、浴槽、浴そう、浴室 ［動詞］ɥəl を風呂に入れる、風呂に入れる、風呂にはいる、風呂に入る ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eɥəlclɔ（水の家） ［文化］ アルバザードは大家族が多く、長風呂を好むため、一緒に入ることが多い。風呂は浅く、広い。温めで半身浴をする。シャワーはあまり好まない。大家族が多いので水がもったいない。また歴史的にもカノイがイムル２２年に公衆浴場を作った名残があるため、風呂が人気。一緒に入れるのは血族のみ。婚族は不可。つまり父が娘と入るのはＯＫだが、弟の嫁とは入れない。ただし、娘と入るのもせいぜい１０才まで。さらに言えば父親は娘に男女の体の違いを指摘されるのを嫌うため、息子と入ることを好む。兄と妹など、兄弟もＯＫ。だがやはり１０才くらいまで。逆に７歳未満の子供を一人で入らせるのはとても危険。これは嫌だろうが面倒だろうが親兄弟が責任を以って入れるべきとされる。【用例】 ɔl el eu eɥ ı ɒıcn ʅı eɥl, ȷɔn ɑen eu ʃə c lınʅ, ɒın ʃə uınɑ ȷen eɥcɒ. お風呂で水をかけるときには左からかけてはいけない。心臓によくないから。 ın ʅeʃ eɥl ıȷlel lc neʃ. 起きてすぐ浴室へ行った。 le lıʃ eɥl. 浴室に誰かいた。 ın φɔnıʃ ɔɒc ʃ'eɥl ʅɔnʃ uceɥ lə leeu ıʃə uıɑel. 彼に浴室から早く出るよう言いながらドアを叩いた。 ın ʃclıʃ ɑccnı ʅı eɥl ɔʅen eɥ ɑc ʅıl ɒcʅʃel ɒın ın eʃ ınc ʃcnʅı. とても疲れていたのでお湯をいっぱいはった風呂でゆっくりした。 ın eɥlıʃ ɔʅ eɥ hıɥʃ. 熱いお風呂に入った。

eɥlɑlɔȷ ［被服］バスローブ ［レベル］3 ʃ1

eɥlɒıcʃ ［名詞］バスクリン、バスソルト ［レベル］2 1L ［文化］ 入れる人と入れない人が半々程度に分かれている。塩で済ませる人もいる。化学物質を嫌う人は入れない。

eɥlhcı ［名詞］バスソルト ［レベル］2 1L

eɥlɥɔb ［名詞］風呂の蓋 ［レベル］2 ʃʃ

eɥȷʃ,ȷzɑ eȷʃ eeȷʃe

eɥȷcdʃ ［化学］水蒸気→ ȷcdʃ ［レベル］3 ʃ0

eɥȷcdʃȷcȷd ［化学］水蒸気蒸留 ［レベル］4 ʃ0

eɥȷenʃc ［料理］ざる、ザル、笊 ［レベル］2 1L

eɥȷel ［名詞］水の日 ［レベル］4 ʃ1 【成句】 ɒcn ııs eɥȷel 女が水の日を選ぶ：生理のため、カップルなどは水関連のスケジュールは女性に合わせるというマナー。団体行動では鑑みない。特に恋愛前の男女ではよく意識される。アルバザード人は恋愛に至るまでに長く友人として付き合い、若い女性の大半は処女である。そして処女はタンポンを使用しない。タンポンを使用すれば水に入れないこともないが、処女は使わないのでどうしても eɥȷel を選ぶ必要がある。 ［文化］ この単語自体に特に意味があるわけでなく、単に水にまつわる日を指す。たとえば温泉に行く日や海に行く日など。

eɥȷeeɥ ［形容詞］［ポジティブ］ありふれて安定した、無難な ［反意語］ʅnɔɔȷ、ɥəɒcl ［レベル］3 ʃ0: 水のような静けさ ［語法］ 良い意味で変哲のないこと。目立った特徴がなく平均的で、それゆえ無難なもの。食器や洋服などを選んでいるときに使うことが多い。【用例】 ɥı, ʃıə lccʃ ʃə hıʃ ɒcl ʃə eʃ eɥȷeeɥ. このお皿にしましょ、無難だわ。

eɥn ［名詞］親戚、親類、親族、血縁関係者、血の繋がった、血縁の、血族、一族 ［天文］宇宙の～系 ［生物］科 ［言語］地方方言 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eɥclın（血の人） ［語法］ enuelen

eɥniji ［言語］親族名詞　［レベル］5　1L　［語法］「標準（lıl 系）」「愛称（ᴅıl 系）」「低俗系（beᴅᴅı 系）」がある。　標準というのは対外的な意味で、ふつう家の中では愛称を使う。標準は対外的なイメージがある。また、ユンクなどでは家の中でも標準を使うことがある。本人に向かって娘が lıın と言えば、「お父様」と訳したほうがいいだろう。同様に息子が言うなら「父上」といったところか。ただ、人に「うちの父は」というときは標準を使うのがふつうなので、lıın nɔın といっても「お父様が」と訳すのは考え物。キャラの個性を見て訳し分けるべき。　低俗はいわゆる「オフクロ」「オヤジ」系。低俗といっても、悪い意味とは限らない。日本語の「親父」のように、愛着を感じている言い方でもある。愛称が気恥ずかしいので低俗が家の中ではふつうという家庭もあるが、概ね学歴が低い家に限られる。　もちろんユンクは低俗系を避けるが、怒ったときなどにポロっと出ることもある。

eɥn e ɥəəᴅı ［歴史］ユーマの一族　［レベル］2　制　［語法］　わざわざアルバザード人が lın でなく eɥn e ɥəəᴅı というときは、ユーマの一族そのものを歴史的な意味で指す場合と、「われわれ人類は」という排他的なニュアンスで述べている場合とがある。　［文化］　ユーマ→アルドゥ・エスタ→１６人の子供……と続く一族で、人類のこと。神から徐々に神性を失いつつ分派した一族で、厳密には１６人の子供からが人類である。世代を重ねるごとに短命で無力になっていくが、その代わり一族全体の数は増えるという特徴がある。　しかしその数に物を言わせて、非常に低確率ながらも突然変異の能力者を輩出することがある。神々や悪魔を凌駕する救世主リディア＝ルティアもユーマの一族であるし、世界中を革命の嵐に巻き込んだ英雄ミロク＝ユティアもまたユーマの一族である。　<ユーマの一族の寿命・生殖・人口>　・第一世代　ユーマのみ。不老不死。ᴅelʃcı 1Δ にテームスに吸収される。　・第二世代　アルドゥ（エルト）とエスタ（サール）のみ。不老不死。ヴァステでヴァルテに襲われる。アルドゥが必死にエスタを守るのに心を打たれたヴァルテは命を取らず、彼らをガルヴェーユの泉に封印した。　その後も気付かれず、ラヴァスの終わりにユルグが見つけ、封印を解く。しかし同時に彼らは別々のアルフィに引き裂かれてしまう。　ɥɑ の終わりに神々が和解するとようやく再会できた。　・第三世代　エスタの１６人の子供たち。ᴅelʃcı ʔɁ ～ Ɂ0 の間に生まれた。寿命がある。寿命はおよそ８５万年で短命。　第三世代は男女が８人ずつで、兄弟全員が互いに交わってそれぞれ子を作った。従って女一人が８人ずつ子供を産んだので、第四世代は計６４人となる。　・第四世代　第三世代同士の子供たち。ただし ʃeɹʃeel は除く（彼女だけ第三世代に性質が近いため）。このころになると不老ですらなくなる。寿命は僅かに２万年で、性的に成熟するまで１万年かかった。１万年で人間でいう１５歳ほどで、１．６万年ほどの間２０代の青年の姿で、１．８万年ほど中年の姿で、残りの２千年で急激に老いて死ぬ。このため、１万年ごとに新世代が生まれることになる。　６４人の第四世代は男女が３２人ずつで、やはり親と同じくすべての兄弟と関係を持って子を成した。３２人の女が３２人ずつ子供を産んだので、１０２４人となる。　第五世代は第四世代がメルティア二桁代に生まれたとすると、１万年後の ᴅelʃcı 1'0000 ごろに生まれたことになる。もう１万年後には第四世代が死に、第六世代が生まれる。　なお、uıleɹ のように ʃeɹʃeel の子でもサルトの血が入った者は不老不死になることがある。　・第五世代　寿命等は親世代と同じ。やはり５１２人ずつ男女がおり、それぞれに子供を作って２６万２１４４人の子ができる。しかしあまりに子供の数が多いため、親の持つ神性さが分散され、第六世代からは生殖能力が激減する。　・第六世代　寿命は同じく２万年だが、女は生涯に２人しか子供を産めず、逆に不妊や流産もない。まだ半分神なので、自然環境や動物に襲われるといった小さなことでは死なない。子供の男女比はきっかり１：１である。　ここからは人口が増えずに一定なので、ユーマの一族の人口はおよそ２６万人のまま何十万年も世代交代を繰り返していく。　・ᴅelʃcı ΔɁ'0000　ユーマの一族（人類）は世代を重ねるごとに uccɑ が弱くなっており、神性が失われていった。このため神々からより蔑まれるようになった。
　一方神々はこのころフィーリアで暮らしていたが、寒いフィーリアには食材が乏しいため、フィーリアよりも温暖なガルヴェーユやアルヴァノスやルカリアに食材を求めてくるようになった。　ᴅelʃcı ΔɁ'0000 を記念して神々はフィーリアを離れた。ガルヴェーユには主にサールが、ルカリアには主にエルトが向かった。しかしガルヴェーユに着いたサールは人類があまりに多いことに驚き、これでは自分たちの食料を確保できないと考え、彼らを追い出すことにした。
当時人類は２つの魔法体系を使うようになっていた。ひとつは魔法陣を描き、そこから強力な魔法を放つ集団で、ひとつは言葉を呪文として用いて素早く魔法を放つ集団である。言い換えれば文字に依存した魔法と言葉に依存した魔法であり、いずれにせよ言語に依存している。　彼らは魔法を狩りや生活に使っていたため、魔法の違いは決定的な生活様式の違いを生んだ。生活様式の似たもの同士が同じ場所に住むため、集落が形成されていった。神々に追い立てられた際、前者はサヴィアに移り住み、後者はファベルに移り住み、完全に袂を分かった。そして彼らは自らをマレット、シフェルと呼び出した。　・第八十九世代　当時人類が抵抗もなく追い出されたのは、ちょうどこのころ大きな力を持った第三世代が寿命を迎えたためである。彼らは神に近いので、神といえど争いたい相手ではなかった。しかし彼らが天寿を全うしたため、神々は区切りのいい年号を以って侵略に向かったというわけである。　なお、第三世代の恩恵を失った人類は急激に衰えた。その影響は次の世代に現れた。ᴅelʃcı ΔɁ'0000 といえば、第八十九世代が生まれたころである。同時に第八十七世代が死ぬころでもある。　そしてこの八十九世代は寿命が極めて短くなり、わずか２０００年であった。uccɑ は圧倒的に弱くなり、北極などの土地では到底暮らせないほど軟弱になった。
　寿命が短くなったのは実は進化ともいえる。マレットにせよシフェルにせよ、今までとまったく違う風土で生きることになった上、自然環境を制圧するだけの強力な uccɑ を持たない。そこで環境の変化に対応するよう、遺伝子のサイクルを早め、進化を早めたのである。
　ただ、このころはまだ神性が残っており、生まれてくる子供の中には前世代と同じような強力な uccɑ を持ったものや、寿命の極めて長いものもいた。その比率はおよそ４：６だから、人間離れしたものが６割もいた計算になる。なお、力の差は漸次的なもので、非常に力のあるものは数人しかおらず、その次は１割程度、そこそこの戦士が２割、やや強い人が３割、残り４割が脆弱といったものであった。脆弱になるほど寿命が短いが、遺伝サイクルが早いため、いち早く環境に適応した。　こうして強いものと弱いものを分け、そこに遺伝サイクルの遅早を設けたことで、人類は分業を利用した効率のよい発展を遂げたことになる。　・ホモ・サピエンスとの出会い
　ᴅelʃcı ΔɁ'0000 ごろにはファベルでホモ・サピエンスが出現していた。ユーマの一族は自分たちに比較的似た知能の高い動物がいることに驚いたが、彼らは空も飛べず魔法も使えない無力な存在だった。また、生活レベルも低く、容姿は醜かった。彼らは言語を操る能力があったが、その能力は地球の現代人と比類ないものである。当然ユーマの一族から見ても劣悪なもので、ユーマの一族は彼らの言語を複雑な鳴き声程度にしか解していなかった。ユーマの一族とヒト（ホモ・サピエンス）は交配できないが、姿かたちはよく似ていて、遺伝子もよく似ている。免疫システムも類似しており、ユーマの一族がかかるものはたいていヒトもかかる。メルティア８５万年ごろに両者が接触し、ユーマの一族からヒトへ天然痘などの病原菌が次々と感染。免疫も魔法も持たないヒトからヒトに飛び火し、絶滅。ネアンデルタールも既にホモ・サピエンスの手にかかっていたため、人型の生き物はアテンのみとなった。　・ᴅelʃcı Δʕ'0000 ごろ　第八十八世代が死亡。２万年生きる長寿の人類がアトラス上から消える。　・ᴅelʃcı LɁ'0000 ごろ　シフェルの民が食料と土地を求め、ファベルからアンシャル、サヴィアからインサールに入る。神がいるので西勢はフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには住まず、この後９万年ほどかけてファルファニア、レスティル、魔方、東方、メティオに徐々に広がっていく。　東勢のマレットは同じ時間をかけて西はメティオ以北と以東まで、南はケヴェアに散布していく。　・ᴅelʃcı LLL,Δ٩ʖ　神々がさらに食料を求めてガルヴェーユとアルヴァノスとルカリアを捨てる。世界中を飛び回ってどの土地がいいか品定めしつつ、大陸に名前を付けていく。しかし結局近場に引っ越すのが環境の変化も少なくて気楽だということで、ルカリア南部にレスティルを建国。　神がレスティルに入ったため、レスティルにいた人類は追い出された。ファルファニアなどにいた人類は何もされずそのまま残った。レスティル人は故郷を離れ、周辺に住むようになる。しかしシフェルの一族は神の周囲に住むことで文化的に大きな影響を受けるようになり、強大な力を持つ神への畏敬を深めていく。　・ᴅelʃcı 100'0000　ヴァステ開戦。人類は神と悪魔の戦いの煽りを受けて次々と死んでいった。ところが数が多いので、巻き添えで大勢が死んでも絶滅はしなかった。　悪魔だけでなく不定期でアデルも降ってくるため、これの応戦もしなければならなかった。このころは主にシフェルが被害者となった。マレットはアデルの応戦をしていただけである。シフェルは疎開するようにレスティルやミュールの周りを避けて生活した。　・アデル　ヴァステでテームスは封印されたが、封印を解こうとするテームスの体からこけらが落ち、アデルとなってアトラスを襲い続けた。　・ラヴァス　ラヴァスが開戦したときも人類はまったく同じスタンスを取った。戦乱に巻き込まれたおかげでかえってシフェルは鍛えられ、魔法も戦闘にも長けるようになっていった。このころの経験が後の ızφeɥ での勝利を決定したといってもよいだろう。　・アズゲル（ᴅelʃcı 10ɱ'0000:ɥəəᴅı 0）　神々がアルフィへ去り、人類の時代が到来。シフェルはレスティルを中心に我が物顔をするように。　マレットも神が去ったことを知るや、勢力拡大のためメティオを襲撃。メティオでの領地争いがきっかけで、東西戦争アズゲルが始まる。　このときのリーダーは西がシフェランで、東がマレティス。彼らは神性を残しており、この時代の人間としては極めて長寿であった。　・メルテナ　メルテナになると、シフェランないしマレティスの祝福を受けた人間だけが長寿で、あとは現代人と同じで１００歳程度の寿命しかなかった。力あるものとそうでないものの格差が広がり、中間層が激減した。
　力あるものは神と結託し、さらに力を蓄え、結果的に召喚士が生まれた。力の有無が明白になり、力あるものが力なき者を支配する政治の形ができあがった。こうして力を持った召喚士たちが次々と王になり、各地に国を建国していった。　とはいえ、このころの「弱き者」は ɥɑ の時代の民間人よりもまだずっと強く、アデルでいうなら否天程度は倒せる使い手であった。　・カコ　力の格差社会はより深刻になり、民はどんどん力を失っていった。このころの民は衛天を倒せる程度に弱くなっていた。　召喚士は上弦と下弦で派閥を分け、月戦争カコが始まる。寿命が長いものは王族など、ほんの一握りである。　・セルメル　カコでラシェットがテームスの封印を強めたことで、アデルが降ってこないようになった。人々は魔物との戦いを失ったことで急激に弱くなっていった。また、人類同士の戦いも激減して太平の世の中になったため、人類の力はますます弱くなった。　このころの実力を仮に測るならば、陽天を倒せたくらいである。魔法をまったく使えず空すら飛べないという人間も数割見られた。　女は家の中に押し込められ、綺麗で賢くあるものと位置づけられ、魔導師が急激に衰退した。　寿命は王族のみが長く、一般人は１００歳程度。しかし実際には５０～８０歳で死んだ。
王族については clᴅəɹ 参照。　·ɥɑ　ɥɑ でテームスの封印が解けだし、アデルがふたたび降ってくるようになると、人類は一時力を取り戻した。とはいえ、寿命についてはセルメルと同じ。　このころは民でも空天が倒せる程度に持ち直した。　・ナディア～アレイユ　テームスが死んだことで、太平の世の中が訪れ、人類は急速に力を失った。
　魔法を失い、空も飛べなくなった。仮にアデルがいたら、武器を使って炎天を倒すのが精一杯だろう。　ただし、シオン＝アマンゼやミロク＝ユティアのような魔導師が存在するように、隔世遺伝的に能力を持って生まれるものも存在する。

eɥu ［生物］本能　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :eɥcuc　【用例】　ʃel eɥu 本能に逆らう

eɥuı ［悪魔］エルヴァ　［歳時記］水曜日。週の第２日目。　［名詞］水害　［音楽］レ　［組み数字］2／7　［レベル］2　ᴅelʃcı 0:eɥuı;e　ɹɔɥn: アルシェ形は

eɥcıȷ。eɥ は水。　［文化］ ソームの２番目。プライドの高い美人。水と氷を操る。水の羽衣を着ているので実質ほぼ全裸。水の羽衣を纏った女。裸に見える。冷たい。我侭。自信過剰。自己中心的。だが美しい。

eɥuıɑɥeıɒɔl ［地学］チタン鉄鉱　1L

eɥuılcl ［化学］チタン　［レベル］４　1Δ: 制　x:ʃeᴅd:ʃeᴅd

eɥuıel ［名詞］水瓶、水差し　［レベル］５　ɥɒ;/　ɺ0

eɥuıelcɑı ［地球の星座］［ユマナ］みずがめ座　ɺ0　［文化］　cɑı

eɥucın ［名詞］水力　［レベル］４　ɥɒ;/　ɺ0

eɥuecφ ［魔物］エルヴェイグ（水妖、水ゴブリン、河童、かっぱ、カッパ）: 第十二天：水の幻天　［ユマナ］［卑語］日本人 :1ɺ:ᴅel　［レベル］５　1L:eɥcı/uecφın　［文化］　小型の妖精。顔は ueᴅelʃ のように醜く恐ろしい。主に水辺で人を襲う。

eɥuecφlɔɔb ［被服］フリジア帽　ȷᴅ;/　ɺ0　［文化］　ȷᴅ で eɥuecφ がよく身に着けていた。

eɥɑın ［天文］cᴅdɥılccɑı　［組み数字］５／８　［レベル］４　lȷɒ;eɥɑc ベテルギウスが金に見えることから、その近くにある白のリゲルが銀として呼ばれた　ɺ1

eɥɑc ［地学］銀　［形容詞］銀の　［組み数字］２／４　［レベル］２　ᴅelʃcı ɺΔ:φc lcəȷ;eɥcı/ɑɥec　1L:eɥcıɑɥec。銀は鉄を聖水で清めたものと考えられたことから。神話では古からある。　::lı ınse:ɿıleɒ,ul　［文化］　神聖な金属で、魔法の伝導率が最も高い。zφ で銀の精製技術が一般化するまで金より高価だった。というのも自然界にそのままの形で存在するのは金のほうが多かったため。

eɥɑcȷel ［歳時記］銀の日　［レベル］３　ɺ1　［文化］　ɑınʃȷel

eɥɑcn ［形容詞］理性的な、理知的な　［レベル］３　1L: 銀の心。銀は清らかで聖なる金属で、落ち着いた色を指すことから

eɥɑcᴅel ［名詞］銀色時代　［レベル］４　ɥɒ;/　ɺʔ　［語法］［文化］　ɒəəɥᴅel

eɥɑcφıɥ ［電算］ＣＤ　［レベル］３　1L:ᴅelcɒcı ılʃe: 銀の円盤

eɥɑclcl ［化学］銀→ eɥɑc　［レベル］４　1L

eɥɑclcı ［地学］［魔法］銀水晶、エルフィリア石　［レベル］５　ɺ0　［文化］　銀と水晶から精錬するアディスト。銀色半透明の物質。ヴィルを遮断する性質があるため、アディストの容器として使われる。銀と水晶にカストルを加える。　不純物が混ざると緑がかった色になる。

eɥɑɔnʃ ［建築］水路　［レベル］５　ɥɒ;/　ɺʔ

eɥᴅeȷ ［軍事］［ジョブ］騎士、軽装騎士、ナイト、騎兵、軽騎兵　［類義語］dıu　［レベル］３　ȷᴅ;neɥᴅeȷ.ɿ　1L:ɥcɒcı:ıl/neɥᴅeȷ → ıneɥᴅeȷ（脱落）→ eɥᴅeȷ（脱落）。「ネルメス神のような」。この ıl は被修飾語のペアを作る接頭辞。　［文化］　位を持たない貴族。通常貴族に含まれない。　馬に乗って剣や槍で戦う。セルメルで竜兵が廃れ、一躍人気となった。ほかのジョブは～ ın で、兵科は～ uınʃcȷ なのに、騎士だけは単純語扱い。　ほかの語はジョブと兵科の違いがあるが、騎士は国家に忠誠を尽くすものとされたため、個人の騎士が基本的にはおらず、そのためジョブとしての騎士という単語は必要なく、ジョブと兵科が等しい。それゆえ、騎士は封建制の象徴とも言われる。　＜歴史＞　地球で最初に騎兵を編成したのはアッシリアであるが、アトラスでは高速で空を飛ぶことができたため、わざわざ馬を飼ってまで移動する必要がなかった。　最初に動物が戦争に登場したのは ɥəəᴅı 10ʕ 年にハクシウス軍が飛竜兵を指揮してギルケートに侵攻したときのことである。　また、最初に動物が兵科として登場したのはシフェランの竜騎兵で、ɥəəᴅı ʔʕ1ɺ 年にバルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成したときのことである。　馬は空を飛べないのでアドバンテージがなく、最初に編成されたのは地球より遥かに遅いカコである。竜騎兵の弱点は、数が少ないことと、集団戦法が苦手なことと、対空砲に弱いことである。馬のほうが大量生産でき、混戦にも強い。騎兵を編成して槍を持たせて突っ込めば、絶大な破壊力を得られる。しかし竜騎兵にはこれができない。竜はタカが獲物を狩るように、一度地上に降りてまた空に舞い上がるという動作をするため、馬の大群のようにどっと走り抜けることができず、敵陣を崩しづらい。　そこで魔力がアズゲルやメルテナより弱まったカコになってようやく騎兵が評価され、兵科となった。セルメルではむしろ人気の兵科となる。

eɥᴅeȷɑɥec ［アイテム］ロングソード　ȷᴅ;/「騎士剣」。騎士が馬上で地上の歩兵を攻撃するよう長くできていることから。　ɺ0

eɥᴅeȷlıȷl ［被服］バックルレザーシューズ　ɥɒ;/　ɺ0　［文化］　ȷᴅ でできた。男性用。元は軽騎兵用の靴だったが、後に一般化した。

eɥᴅeȷıuel ［政治］騎士道　ȷᴅ;/　ɺ0

eɥᴅel ［医療］心嚢　［レベル］５　ɺ1:ɿlccz‹eᴅel:1L:eɥcᴅ/ᴅeȷl

eɥᴅeɿ ［名詞］水時計　ɥɒ;/　ɺ0　［文化］　ʃᴅ で神々が発明した。この際サイフォンの原理が知られた。

eɥɒɔ ［地学］沸石　［レベル］５　ɺ1: 古 eɥcı/ɒɔl「水石」水分を多く含むことから。

eɥɒe ［名詞］イケメン、ハンサム、かっこいい男性　［類義語］uıɥᴅı、ɑıɥᴅ　［レベル］２　古　［語法］［文化］　顔が重視される言葉だが、顔だけよくて体型が惨めだとやや eɥɒe とは言いがたくなる。純粋な黄色人や白人よりも、ləlcın や ɥəlʃın のほうが人気が高く、イケメンになりやすい。体型は典型的にはやせマッチョが期待され、あまり大柄で筋肉質でも eɥɒe から外れてしまう。アルバザード人の女は美しい物好きなので、イケメンに弱い。ルティア人のほうが、頭ではイケメンだと思っていても、あまり態度に出さない。　【用例】　leȷ ȷccnı eɥɒe 面食い、メンクイ、めんくい、面くい、めん食い、イケメン好き

eɥφılʃ ［名詞］水門　［生物］水分　［レベル］５　ɺ1

eɥφeɥ ［植物］わさび、山葵、ワサビ　［レベル］３　ɺ0: 水辺の大根。大根というのはそれっぽい形をしているというだけの意味。　参考 : 制 : ʃcȷɥɔdlφeɥ（小さいワサビダイコン）　［文化］　アルティア原産。マグロを除いて魚を生で食べる習慣のないアルバザード人には ul まで伝わらなかった。ルティア人のように魚をよく食べる人々は早くから輸入し、日本と同じように醤油とワサビで食べる。

eɥb ［名詞］血糊、血のり　［レベル］４　1ʔ: 制 :eɥc

eɥhıȷ ［化学］［形容詞］親水、親水性　［化学］親水基　ɥɒ;/　ɺ0

eɥɥəlɔ ［名詞］水面　［レベル］２　1L

eɥz ［植物］ごぼうの草、ごぼう、ゴボウ、牛蒡　［レベル］３　10: 制 : 古（心臓の草）　［語法］　ごぼうという植物のことだが、ふつう食用にする根のほうを指す。

eɥlıʃ ［化学］水和　［レベル］５　1L: 水に入る

eɥlɔɥ ［名詞］水道　［レベル］３　1L

eɥlecȷ ［芸術］水彩画　［レベル］４　1L:ɥcɒcı:ıɥbılelʃ

eɥıʃ ［化学］溶ける、融かす、溶解、とける、溶かす、解ける、とかす　［レベル］２　1L:ɥcɒcı:eɥ/lıʃ　［語法］　eȷc は日常的ないい加減な言い方。砂糖を溶かす場合、液体に溶かすなら eɥıʃ が正しい。本来砂糖を eȷc するというのは、熱してどろっとした砂糖の液体にすることであって、水に溶かすことではない。

eɥıʃʃəlɑ ［化学］溶解熱　1L

eɥıʃlıʃ ［化学］溶媒和　1L: 水和からの類推。

eɥıʃın ［化学］溶媒、溶剤　［レベル］４　1L

eɥıʃɔl ［化学］溶質　［レベル］４　1L

eɥıʃeȷc ［化学］溶液　［レベル］４　1L

eɥıʃenuc ［化学］溶解度　［レベル］５　1L

eɥıᴅ ［名詞］午前　［形容詞］午前の　［反意語］ȷııᴅ　［レベル］２　1L:ᴅelcɒcı ılc ȷ:elʃɑıɥıᴅ（エルト神の正午）このエルトは組み数字　【用例】　uıɥ eɥıᴅ 午前中ずっと　ɑenzel eɥıᴅ 午前１０時

eɥc ［生物］血、血液　［レベル］１　ɑ;eɥcı/lcuɥɔ　古 :eɥc（命の水）　eɥ c:eɥc:lı ȷın（ルクティアで血は女性）:sən,ılʃ　【成句】　eɥc ȷc ncᴅ dɔʃ elɑe 一滴の血は泉の中で色を失う：朱に交われば赤くなる　eɥc eʃ neı nɔɒ eɥcı 血は水よりも濃い。言葉遊びなのに日本語と同じ訳になるのが面白い。　【用例】　ɔȷn ʃcɑl eɥc. = ʃcɑl eɥc ɔn{cʃ} ɔȷn. 血の気が失せる　ʃoen eɥc 献血する

eɥcʃ ［動物］蝙蝠、こうもり　［レベル］３　10: 制 :lıʃı:eɥcɿ,eɥcɿəʃɔ（血の鳥）から。つまりこのころは鳥の一種と認知されていたことになる。

eɥcʃoen ［医療］献血　［レベル］３　ɺɺ　【用例】　ʃeʃ lıbıȷʃ ɥəɿcʃ nɔn ᴅcl nɔn eʃ ɒcᴅ ıl eɥcʃoen eᴅɔ uclʃ. しかし診察の結果、献血に不適合だと分かったため、スタッフに断られた。　eɥcʃoen eʃ ɿclᴅ clcı ɒel ın ɒel been eᴅ ȷen ȷɔlʃ ıl ılcn ɔn eɥc ɒı. ブサイクな俺の血が美少女と交わる唯一のチャンス。　献血したくなるコピー（ȷeɥen ıɥbızıɥɒ）

eɥcʃcȷ ［魔物］エリティス（水竜）: 第十五天：水の衛天　［レベル］５　1L:ɥcɒcı/ȷeɥen/ᴅel:eɥcı/ɑɥeʃcȷ　［文化］　水属性の飛竜。水色の肌、水晶のように尖った鱗をしている。鉤爪が鋭く、華麗に舞う、美しい竜。

eɥcɿ ［名詞］系統、血統、品種、家系　［名詞］系図→ eɥcɿdıl　［言語］系統、言語系統　［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :eɥcɿılə

eɥcɿʃıȷᴅ ［名詞］血統書　［レベル］４　1L:ɥcɒcı:ıɥbılelʃ

eɥcɿdıl ［名詞］系図、家系図　［レベル］４　ɺɺ　【用例】　ləʃ nı eɥcɿdıl eʃ uɔll cᴅ lɔɔɿ ıl eɒıʃ. 祖母と話していると、いつも家系図の重要性を感じる。　en lıɒ ȷccı eɥcɿdıl ᴅcl ʃə eʃ ɒıb. ɔlʃı hɔᴅ clᴅ lını lıɒ ʃə, hel ucl ɒɔȷᴅ ɿclȷ e ɿəl lıʃ ıə. 今までめんどくさくて作っていない。なぜなら、いざ作ろうとノートを開くと、話の細かい内容を思い出せないのだ。

eɥcɿzedl ［地学］系統樹　ul;/　ɺʔ

eɥcɿı ［形容詞］血の繋がった　［反意語］ʃeʃɔn　［レベル］４　ɑu;eɥc/ıɥɿı「血で繋がった」　ɺ0　eɥcɿı:eɥcɿı

eɥcɿııᴅı ［アトラスの国家］エリカーマ　［レベル］５　ɺʔ:ɥcɒcı

eɥcɿeɿʃ ［医療］血流　［レベル］３　ɥɒ　ɺʔ

eɥcl ［医療］出血　［魔法］エリッシュ。水の禁呪魔法。対象は全身の毛穴から血がにじみ出て、やがて噴水のように出血し、出血多量で死ぬ。全身の毛穴から「ぷつぷつ」と血が漏れる様が気持ち悪く、小さな血球が鳥肌のようにプツプツ湧き起こる。　［レベル］３　1ʕ: 制 :eɥc

eɥclʃəlɑ ［医療］出血熱。総称として　［レベル］５　1L

eɥclınɔuɔln ［生物］造血幹細胞　ɥʃ;/　ɺ0

eɥclccᴅ ［医療］血糖　［医療］血糖値　［レベル］４　1L:ɥcɒcı:ıɥbılelʃ

eɥcȷ ［動詞］ɥəl を ı に相続する、相続する、後に遺す、残す、引き継がせる、後世に託す、相伝する、継承する　［名詞］遺産、遺品、形見、遺物　［レベル］４　1ʕ: 制 :eɥıȷ:eɥc

eɥcȷɑel ［歴史］考古学　［レベル］４　ɺ1:（人類の）遺物に関する学問

eɥcȷɑelın ［歴史］考古学者　［レベル］４　ɺ1

eɥcȷɒıcφ ［経済］［法律］相続税　［レベル］４　ɺ1　［文化］　ヴェレイ末期の相続税の控除額は日本円にして７００万程度 (ᴅelɺ1) と少なかった。そのため、ıɥɿʃoen はより功を奏した。　革命後も控除額は維持された。ただしデノミがあるので額面上は減った。

eɥcȷdeɿɿ ［名詞］一子相伝　［レベル］４　ɺɺ

eɥcȷɥəɒcı ［名詞］遺児　［レベル］４　1L:clᴅəȷ:ɥcɒcı

eɥcȷɥenȷ ［名詞］遺言　［レベル］３　1L:lcɔn

eɥcn ［人名］エリン　［組み数字］２／１１　［レベル］３　古 :ɥcɒcı:eɥc ← eɥcı

（水）/n（指小辞） ［文化］ アルシアの２番目。水の魔法の大成者。女性。

eɥcn(ʆ) ［人名］エリン ʆ0 ［文化］ (ɥəəɒı ʢ10ᛘ:ʢʢ0ʆ) カコ前期のヴェマの宰相。 ɥəəɒı ʢᛘᛘ9 宰相 eɥcn と ɑcɔɒınʃe 姫の派閥に分かれ、ヴェマ連合国（ヴェマ及び沙方からなる連合国）で政治戦争が起こる ɥəəɒı ʢᛘ9ʔ ɑcɔɒınʃe 派が宰相派を政治的に倒し、宰相派は暗方に封じられる

eɥcnʃ ［天文］エリント、冥王星、氷天 ［組み数字］9 / 9 ［レベル］3 古 :eɥcnʃ ← eɥcʃn ← eɥcı（寒い）/ʃəənɔ（土地（といっても実際は氷））

eɥcnı ［医療］エリナ ［レベル］6 ʆ1: 古 eɥcı/nı ［文化］ ʅıɒelcı

eɥcu ［医療］血圧 ［レベル］3 1ʢ: 制 :eɥc 【用例】 eɥcu ʃcn{ucen} 高血圧

eɥcuı ［植物］ヘーゼルナッツ ［レベル］3 古 :eɥc

eɥcucɥɔ ［医療］［化学］ヘモグロビン ［レベル］4 1L

eɥcuɔln ［生物］血球、血液細胞 ［レベル］5 ɥʃ 1L

eɥcɑ ［美容］うるおい、潤い ［動詞］ɥəl を潤わせる、潤う ［レベル］3 ʆ1

eɥcɒ ［生物］心臓 ［音楽］ユーロビート ［レベル］2 1ʔ: 制 :eɥcɒıc（血 / 体内器官） ［語法］ 約束することを示すジェスチャーをすることも表わす。約束は古アルカから dcnı と言い、心臓（命）を貫くという意味だった。これは約束を破れば命を奪われてもかまわないという意味。「約束したぞ」とか「ゆびきりげんまん」を意味するジェスチャーとして、心臓（勿論実際は胸の部分）に主に右手の手のひらをパーの形で当てるというものがある。欧米では女性が自分を指す場合に良く行われるジェスチャー。そして eɥcɒ はそのジェスチャーをすることを示す。 【成句】 φɔı ɉıʃ eɥcɒ 心臓を吐き出すほど急激に強く驚く ʃcl eɥcɒ ʃ'eʅeʃɔne エケトネの心臓を持つ：怖がりだ、恐がりだ

eɥcɒɉcı ［生物］心膜 ［レベル］6 1L:ɉeɥen

eɥcɒuınɔ ［生物］膻中 ʆ1

eɥcɒucɒ ［生物］心筋 ［レベル］5 ʆ\<1L

eɥcɒucɒɑıcz ［医療］心筋炎 ʆ\<1L:ɉeɥen

eɥcɒscɔɥ ［生物］心兪、心愈 ʆ1

eɥcɒedn ［生物］心房 ［レベル］4 1L: 血液は心室に入る前に心房を通るので、心房は廊下とみなされた。

eɥcɒez ［生物］心室 ［レベル］4 1L

eɥcd ［動物］ダニ ［レベル］3 lılʃı:eɥcʅd,eɥcʅəədɔ（血の虫）

eɥcdɔı ［医療］白血病 ［レベル］3 1L: 白血球以外にも増えうるので、白血球は使わない。血液の腫瘍というのは抽象的だが、造血細胞の悪性腫瘍だと長すぎる。

eɥcb ［動物］ノミ、のみ、蚤 ［メタファー］山の高みが分からない者、小者、苦労知らず ［レベル］3 lılʃı: 元は eɥcbeʅəədɔ だったものが『制定語彙』によってそれ以降変わった。血を吸ういやな虫の意味。be はくさいという意味だが、嫌なという感情を表わす強調としての意味でしかない。守銭奴とか売国奴の「奴」のようなもの。 【成句】 eɥcb en ɉeɥ ɉɔɥcʃ e oıl. 蚤は山の高みが分からない：井の中の蛙大海を知らず。小者ほど偉人の凄さが分からず、そればかりか偉人を恐れ多くも上から目線で非難する。それはまるで小さなノミが自分の狭い世界でのジャンプ力を誇り、自分の跳躍力が何よりも高いと誤解するのと同じである。ノミは山があまりに高すぎて、自分がいくら跳ぼうと山の高さすら知ることができないということに気付いていない愚か者である。ʅɔleuını とニュアンスが異なる。

eɥcɥcɉʃ ［生物］［医療］止血 ɥɑ;/ ʆ0

eɥcɥcɉʃleed ［生物］止血機序 ɥʃ;/ ʆ0

eɥcɥɔɉ ［化学］水和イオン ［レベル］5 1L

eɥcɥɔb ［生物］血小板 ［レベル］4 1L: 出血を止めることから

eɥcl ［料理］ケチャップ ［レベル］2 lılʃı:「血の色の水」。制アルカではケチャップは即トマトケチャップを指した

eɥcledʃ ［医療］血便の混じった下痢、下痢。病気の赤痢とはまったく別。［レベル］3 1L

eɥcı ［名詞］聖水 ［名詞］飲み水、飲水、真水、飲料水← leneɥ ［名詞］水→ eɥ ［アイテム］エリア、エーテルドライ、エーテルターボ：ヴィルを大きく回復する水。アルフィの泉から得るため、巫女のみが得られる。アルドゥ神を通じて巫女の両掌に落つ。 ［類義語］eɥ ［レベル］2 ɑ;e 赤 : 単に水 eɥcı:eɥcı:lı ɥeclı（火の対）:ɒcʅɔ,ılʃ ɒıcɒ,ɒɑ

eɥcıʃcʅnɔ ［名前］エリアティクノ。フルミネアの試練に出てきた水の龍。［レベル］6 1Δ

eɥcı cneııʃɔ ［人名］エリア＝イネアート ıl ʆ1 ［文化］ → ılcı cneııʃɔ、ɑcɒcʃɔɥcı アリアの妹。『紫苑の書』の登場人物でもある。アリアと違って髪の色が明るく、くせっ毛。いたずら好きで早口で無駄口ばかり叩く。占いの能力は極めて高いが、むやみに占いに頼ることは良くないと考えている。姉と違って身長が低く、胸が小さい。

eɥcɔ ［生物］血管 ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɥclɔɔ

eɥcɔɑclʃ ［植物］フダンソウ、不断草、スイスチャード ［レベル］6 1ʢ: 制 : 葉っぱに血管のような赤い筋が浮き上がるホウレンソウ。実際の血管は赤く見えないが。

eɥcɔɥəʅ ［生物］血餅 1L

eɥcɔl ［名詞］親友、ベストフレンド ［類義語］hıɾdn ［レベル］3 ʆ0:lcɔn:eɥc/ɔʅl（血を共有する（ほど仲の良い））

eɥce ［サール］エリエ ［名詞］吸血鬼、吸血鬼、ヴァンパイア、バンパイア ［類義語］ɥccl ［レベル］4 ɒel: 古 : 小さい頃、最低だと６歳のときに作ったと思う。eɥc は血。後ろの e は水だろうが、ひょっとしたら水という名詞の転用動詞で「飲む」という意味かもしれない。飲むなら eɥce は血を飲むという意味になり、意味が通じやすい。そもそもこのキャラは吸血鬼のコスプレを写真を見てセレンと吸血鬼の話をしていたときに彼女が即興で作り出したのが馴れ初め。 ［文化］ 人の血を吸い、その者の能力をコピーするという特殊能力を持ったサール。ただし美少女の血しか吸わない。吸う血は少量で、彼女達は死を免れる。なお、美少女以外は単に血を吸い抜かれて殺される。顔は蝙蝠と人間のキメラで、耳は蝙蝠の羽の形をしている。 【成句】 ɒcn le ɉeʃıʃ ɥə eɥce エリエに殺された女。直訳するとそういう意味だが、要するにブスと言いたい。

eɥceʃ ［形容詞］精神的に綺麗 ［類義語］uınʃıs ［反意語］beφɔı ［レベル］3 ʆʆ:ɥcɑcı:eɥcı/ʃe「水のような」 ［語法］ beφɔı

eɥcen ［地学］ブラッドストーン ［レベル］6 1L:eɥc/ɥen ［文化］ サールのエリエの魔石。また、魔族エリエールを誘い込む力がある。水にこの魔石を投げ込むと、エリエールはしばらく石に集中するので、その間に逃げる。

eɥceɥəʃ ［生物］血清 ［レベル］5 1L

eɥceɥ ［生物］血漿 ［レベル］5 1L

eɥceɥʅ ［医療］血液型 ［レベル］3 1L ［語法］［文化］ 日本と同じくＡＢＯ式を使い、世界的にも少数派な日本と同じく性格に関連すると考えられている。血液型は４種。アルシエルの名を使う。アルバザードで人口の多い順に名付ける。Ａが ılʃe、Ｂが ɑleı、Ｏが ılcɉ、ＡＢが lceɥ。アルバザードでは血液型と性格に関連があるとされている。Ａは神経質で几帳面。Ｂは自己中。Ｏは原始的で元気。ＡＢは変人。 【用例】 ʃc ʃcl ne eɥcȣ 血液型はなんですか。 ın ʃcl ılʃeeɥc Ａ型です。

eɥceɥucɥɔ ［生物］血漿蛋白質、血漿タンパク質。アルブミン、グロブリン、フィブリノゲンなどいくつかのタンパク質からなる。 ɥʃ;/ ʆ0

eɥcel ［魔物］エリエル（血魚）：第十三天：風の空天 ［アクセント］eɥcEl ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/ɉeɥen/ɒel:eɥc/elc ［文化］ 獰猛なピラニアのような魚の魔物。淡水にも海水にも生息できる。また、水辺の外にジャンプして獲物に噛みつき、また飛んで戻ることもある。群れで暮らし、非常に獰猛。獲物を骨になるまで食い尽くす。

eɥcelɔɥ ［生物］ハバース管 ɥʃ;/「吸血鬼の管」。血管が通っていることから。 ʆ0

eɥɔ ［名詞］グリース、グリス ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɒɉ/ɥcɔ

eɥe ［植物］ひょうたん、ヒョウタン、瓢箪 ［レベル］3 1ʢ: 制 : 古 :eɥcılɔɔlɔ から

eɥeʃ ［単位］涅槃寂静 ʆ1:eɥcʃ

eɥeʅ ［動詞］ɥəl を伝って ı に行く、つたう、伝う ［レベル］3 ʆ0:ɒelc ɑcı lceɥ:eɥcı/ʌe 【用例】 enı eɥeʅıʃ ʅııɒ ı ocɉ. 涙が頬を伝って掌に零れた。

eɥeɉ ［人名］エレス ［組み数字］1 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcı ʔᛘ:ıɥɑə/eɉʃı;e 10: 制 : 古では eɥɉʃ ［文化］ eɉʃı エスタの第１子。女。

eɥedɔɑ ［料理］ナン ［レベル］4 1ʢ: 制 ［文化］ 魔方から伝わり、南方に定着した。北方ではそこまで有名ではないが、偶に食べられる。カテージュだと、屋台で色々なソースをつけたものが売っている。

eɥeɥcɔ ［地学］水脈、地脈（地下水の通路） ［レベル］4 ɥɑ;/「水の血管」 ʆʔ

eɥeı ［地学］川原、河原、川辺 ［レベル］3 ʆ0:ɥcɑcı:ɒcɥɔʅ:eɥec/ıleı

eɥec ［地学］川、河 ［形容詞］～川。前置。 ［類義語］ɥecɉ、eɥʅe ［レベル］2 1L:eɥcı eʅe:eʅe:lı eʅe ［語法］ 一般的な川。 ＜なぜ「太い川」と言えないのか＞ 認知言語学的な話になるが、日本語で「細い川」、「小さい川」、「細川」、「小川」はあっても、太い川とは言わない。大きな川か広い川になる。これは川を線と見なすかどうかで決まる。 広い川の岸に立つと視界の奥のほうまで水がある。そして左右の視野にも水が見える。この視界の映像だけでは水が流れていない限り川には見えずむしろ池や湖に近い形状をしている。人間の目はこの視界に対し、川を線では捉えず面で捉える。となれば当然太いは使えない。 一方、細い川の前に立つと奥行きが少なくそれでいて左右にも水があるため、線と認識できる。そのため細い川とは言える。 このように、語法は人間の認知に大きく影響を受けるので、どの国の言語でもある程度同じになることがある。 どの言語でも川を細いと表現する場合はあっても、太いとは表現しないことが多い。 一方、英語やアルカのように幅広いや幅狭いという形容詞を持つ場合は、互いに反対語であるこれらを川に適応することができることが多い。ｒｉｖｅｒはｂｒｏａｄやｗｉｄｅとも共起するし、ｎａｒｒｏｗとも共起する。アルカも同様で、φeʃ, ɑɔʅ ともに使える。 このように、語法は人間の認知能力に端を発するものもあり、その辺りは文化以前に人類全体にある程度共通する部分があるので、アプリオリの場合はそういった事案を根掘り葉掘り探さねばならない。 【成句】 eɥcı ʃ'eɥec 諸行無常、有為転変

eɥecʅ ［植物］アボカド、アボガド ［レベル］3 1ʢ: 制 :eɥeuınʅ ひょうたんのような形だから ［文化］ あまりなじみがない。果物に分類される。

eɥeceɥ ［地学］河川水 ［レベル］5 1L

eɥees ［丁寧］［親族］弟君、弟殿、エレージュ ［レベル］2 ʆ1:l.ıɥəəs ［文化］ lılı

ez ［建築］部屋 ［交通］個室。電車などの個室のこと。 ［レベル］2 古 :ɉɔɥn ez:ez:lə lıleʃ:ʅɔʅɔ.ılʃ ［文化］ 日本と同じく、四角い部屋である。部屋には出入り口がある。日本と違って必ず鍵がある。一人ひとりに部屋が割り当てられるのがふつうである。部屋の広さは日本より広い。何をどう配置するかは決まりがない。効率を考えて自分の好きなように置く。 ・部屋の広さの測り方 ɉɒ 以降、ılʃ 経由で畳

が入ってからは、部屋の広さを畳数で示すようになった。µɑ 後も縦横何メルフィという言い方より分かりやすいため、部屋の広さは畳数で表現する。 【用例】 ez hın{ɭıc} 広い部屋。ɭıc の場合、空間的な大きさを指す。少なくとも天井が低くないことを含意する。ez hın だと天井が低くても床が広ければ言える。だから ez hın ɔnʃ en ɭıc（広いけど大きくない部屋）ということも可能。 nɔn µcɭıʃ ucl cʃ ez ᴅcl nı ıɑcn ʃcnɭı. 私はあまりに恥ずかしくて部屋から出ることができなかった。 ez le ʃcl ʕ ᴅɥəz 6畳間

ezbeȷı ［医療］ハウスダスト、室内塵 ［レベル］4 ıl;/ ɺʔ

ezıɭ ［料理］［動詞］ɥəl を漉す、漉す、濾す、こす ［料理］漉し器、ストレイナー ［レベル］3 制

ezıɭıµ ［料理］ストレイナー、漉し器 ［レベル］3 1L

ezcʃ ［名詞］ややあって。１５分～１時間弱。 ［副詞］ややあって ［レベル］2 ɺ0:ez/ȷɭcn/ʃe（部屋で座って待つような） ［語法］ ɑcɭɑə

ezɔ ［地学］木立、林 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ȷezɔᴅ（強複数 / 木）。制では森。

ezɔn ［名詞］水筒 ［レベル］2 1ʕ: 制

ezɔᴅµıɔ ［生物］デオキシリボース。ɭccᴅ はなくてもよい。分かるので。 ［レベル］4 1L

ezɔᴅµıɔdınɑ ［生物］デオキシリボ核酸、ＤＮＡ ［レベル］4 1L

es ［名詞］感触、触り心地、タッチ ［レベル］2 1L:µcɑcı:ıµbılelʃ:ɔs: 舌での知覚は「味」で単純語になっている。肌での知覚の触覚が単純語でないと平行的でない。

esın ［名詞］ラップ、サランラップ ［レベル］2 ıɭıɭʃı

el ［代詞］４人称代詞 ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ フランス語のＯＮのように、誰とは意識されない不特定の誰かのこと。総称のＹＯＵなどに等しい。格言だけではなく、日常的な言葉にも使う。ʃə eʃ ɭız. el ɥɔl ʃə cᴅ ılʃ hıɺ（これはペンです。文字を書くのに使います）というような文に使う。ここで el を ın にするのは不自然。私だけが文字を書くときに使うのではないため。

el(ɺ) ［接尾辞］副詞を作る ［レベル］1 ɺ1:ɭᴅccµ ［語法］ ɑµeɥə

el(ʔ) ［文末純詞］～だった、～だっけ？、そうだ～だぁ。気付き、再確認、思い出しの純詞 ［レベル］1 1L:µcɑcı:hel から ［語法］ ıd, ȷɔı ɭı は「あっ､そうだ」という現在の気づき。いま初めて思いついた場合。ıd, ȷɔı el は「あっ、そうだった」という思い出し。忘れてたのを思い出したとき。ɥı ɥı, ʃə µı ɭı ıʃə el は「あぁ、そうだ、この家はここにあったんだっけ」という思い出しの意味。el でなく ɭı だったら、いま初めて知って気付いたという意味になる。

el,ɑ eel ‹ceıl（右と左のもの→右目と左目が見える部位→顔の前面→顔）

elʃ ［エルト］エルト ［音楽］表拍 ［名詞］上巻 ［組み数字］1 / 2、前者 ［レベル］2 ȷelʃ 0:ȷııl;e 古 ［文化］ → ȷelʃ 世界の均衡を保っていた最初の神の１人。サールを妻とするが、サールが子を作らないという約束を破ってユーマを設けたために悲嘆し、サールを捨てる。だがその後サールを許すようになる。しかし時すでに遅く、サールは死んでいた。エルトは悲しむと天空までそびえ立つ塔を築き、その上で死んだ。 エルトは白い肌に白人系の彫りの深い顔をしていた。金髪碧眼で体格は華奢。

elʃʃcɑı ［名詞］前半 ［反意語］ȷıılʃcɑı ［レベル］2 ɺ0: 前半分

elʃɩıµɑ ［動物］アダピス類 ıl;/。オモミス類に対して elʃ と ȷııl で命名された。 ɺʔ

elʃȷel ［ユマナ］土曜日 ［レベル］2 1L 【用例】 cᴅ ɑıµ ʃ'elʃȷel 土曜の朝に

elʃues ［弓道］甲矢、早矢、はや ［レベル］6 ɺ0: 一発目の矢

elʃɑcɔ ［生物］乳歯、子供の歯 ［レベル］2 1L: 一番目の歯 ［文化］ 抜けた乳歯は取っておき、死後は死体と一緒に棺桶に入れる。子供のころの純粋さを死神やアトワーユにアピールし、なるべくトワーユに連れて行ってもらうための慣わし。

elʃhɔ ［生物］撓骨 ［レベル］5 ɺɺ: 尺骨の対で、より太いほうなので男性のエルト。同じく脛骨と腓骨の対は、太い脛骨のほうが ıµɑeȷ で、細い腓骨のほうが lɑeµ。

elʃɩcl ［化学］セレン ［レベル］5 1Δ: 制

elʃɩɔl ［生物］空腸 ［レベル］6 1L ［語法］ 小腸で、十二指腸の後に空腸と回腸が続く。このうち両者をそれぞれ elʃ, ȷııl と呼ぶ。

elʃcı ［アイテム］エルティア ［レベル］4 古 :µcɑcı:elʃʃccı（エルトの愛） ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアのもつ神装。ルフェルから賜ったもの。

elʃɔı ［地名］エルトア。メテの使徒エルフの支配地。 ［人名］ミルフのアルカ姓 ［アクセント］elʃɔ↑ ［レベル］5 ɭıɭɔ

elʃɔı(ɺ) ［アトラスの国家］エルトア、妖国 ［アクセント］elʃɔ↑ ［レベル］3 ɭıɭɔ ［文化］ 面積：11ɺɱΔ00.ʔ0L♪91 ɭᴅ ɺ

elʃɔızɔnı ［音楽］マリンバ ［レベル］4 ɺ1

elʃɔılɔɔb ［被服］スイスキャップ、ドレスキャップ。µɑ でミルフが着ていた。 µɑ;/ ɺɱ

elʃe ［被服］エルテ、巫服。 ［レベル］4 古 :elʃe,eµʃe ← eµcı ʃeebe（水のテーベ）かつてフルミネアが着ていた裾の長い服を元に色々構想を加えたもの。 ［文化］ 巫女の服。テーベよりもさらに長く薄い服。下には何も身に付けず、必ずみそいでから着る。日常生活では着ない。

elʃelcl ［化学］ゲルマニウム ［レベル］5 1Δ: 制

elɭ ［動詞］ɥəl（狙った魚）について釣りをする、ɥəl を釣る、釣る ［普通動名詞］釣り ［レベル］2 1ɱ: 制 :elc ［文化］ 釣りは日本ほど盛んではない。アルナには海がないからである。釣るなら川や湖で釣るしかない。ただ、釣り自体は良い趣味とされている。自然の良い環境の中に入って行うからである。空気は綺麗だし、食べる分しか捕らないので、環境にも優しい。川の流れを見ながらぼーっと思慮にふけるのはリフレッシュにはもってこいである。尚、好きな人は海までわざわざ出向いて釣りにいく。

elɭe ［農耕］かんがい、灌漑 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 水の移動

ell ［料理］流し、流し台、シンク、台所の洗い場 ［医療］歯医者のうがい台 ［レベル］2 ɭıɭʃı

ellcc ［宗教］エルシー派 ［レベル］5 ɺ0:ɑəlᴅccı:「雨霧」 ［文化］ アリスカンテ教の一派。処女性と純潔性を尊び、禁欲的な生活を行う派閥。フルミネアなどが属していた。

ellelʃ ［魔法］エルシェルト、ルナパネル ［レベル］5 ᴅelʃcı ɱɱɱ:beµʃ;el ɑe/lelʃ ɺ0:elɑe/lelʃ（泉の月） ［文化］ ʃᴅ でベルトが張ったアンシャンテの魔法を映す泉の湖面。魔法機械 (µıφnı) の一種。動力は魔力だが、泉なので夜になると月の光で自動的に魔力が供給される。ソーラーパネルにちなんでルナパネルと訳した。 ᴅelʃcı ɱɱɱ ［言語］［魔法］ベルトが ellelʃ を開発し、各地に設置→ ellelʃ

elȷ ［エルト］エルス ［形容詞］鬱な、落ち込む、落ち込んだ、意気消沈した、憂鬱な、憂うつな、ふさぎこんだ、ふさぎこんでいる、ノイローゼな、浮かない ［医療］うつ病、鬱病、うつ、鬱、欝 ［反意語］µəəɑıc ［レベル］3 古 :ᴅel ［文化］ 足を水にからめとられて動けなくなってしまったエルトの女性。死にはしないが足止めされ続けているため、非常に鬱になっている。エルスの鬱は水を伝って人へ伝染する。それによって人は鬱になる。【用例】 ıµbın ɭılᴅı nı elȷ ıʃc ɭıl. アルバザード人は大体いつもちょっと鬱っぽい。 ın nıʃ elȷ ᴅcl senʃ ɥıᴅ. 悪天候のせいで鬱になった。 senʃ ıʃ elȷ. 陰鬱な天気だった。どんよりしていた。 nɔn ləʃ nı elȷ ᴅcl{cᴅ} ȷel eȷɭ. 雨の日はいつも鬱になる。 ın nıʃ elȷ cᴅ ɑcȷ. 今日は憂鬱な気分だった＝今日は元気がなかった。 ın nıʃ elȷ ᴅın uıɑe ʃıȷ. 試験に落ちて憂鬱だった。 ın nıʃ elȷ ᴅcl eȷɭ. 雨で憂鬱だった。 ın nı elȷ nı. ノイローゼ気味だ。 ☆ ın leeuıʃ lıl elȷ. 沈んだ気分から抜け出したかった。 ☆ ıc, ın ləɭɔɭ elȷ ȷcn. あぁ、鬱になってしまった。 lı ʃclıʃ eleʃ elȷ uıµ ȷel. 彼は一日中浮かない顔をしていた。 lı lıl elȷ c µȷccl lııʃ uɔµʃıʃ. 彼は両親を亡くしてからずっと元気がない。

elȷ(ɺ) ［接尾辞］普通動名詞を作る。開音節では lȷ になる。 ［レベル］1 ɺ1:el‹1L: 恣意 ［語法］ → cuı 通常省略される。ecuelȷ なら ecu のように。 【用例】 ecuelȷ 決闘 ıµʃeȷelȷ 召喚 ᴅılȷelȷ 結婚 uıȷelȷ 戦争 hıʃcılȷ 恋愛

elȷɭɔdleʃ ［音楽］マイナーコード ［レベル］6 ɺ1

elȷɑınɑ ［音楽］ハウス ［レベル］5 ul;「鬱に盛り上がる」 ɺ1

elȷɑɔɔnı ［音楽］短調、マイナー ［レベル］4 ɺ1

elȷc,ȷzɑ eeʃı, ılȷeµ ‹› eeʃı

elȷen ［サール］エルセン ［名詞］エルセンの不平等、不平等、不公平：一見平等で不平等なことを指す。例えばライオンとウサギに同じ量のキャベツを平等に与えるというような「不平等」のこと。 ［レベル］4 古 :ᴅel ［文化］ 戦場の残酷な平等者。赤ん坊を背中に抱いた若く美しい母親の姿をしているサール。灰色でぼろぼろのローブをまとい、悪路を杖をついて歩く。前線の兵士を呪い、戦死を招く。 彼女は元は戦場で夫を亡くした人間だった。アズゲルの時代、戦場に夫の死体を確認しにいった彼女は無惨に殺された夫の死骸を見つけ、気が狂ってしまう。夫の死骸に泣きつくと「 苦しかったね、苦しかったね 」と労をねぎらった。それがエルセンの持っていた最後の心であった。それ以後エルセンは「 戦場を平等にするため 」に戦争に関与する全ての者に夫が受けた苦しみを味合わせようと誓い、サールに祈り続けた。類稀なエルセンの呪力を感知したメロウは面白半分でエルセンに力を与える。するとエルセンは恐ろしい力で「 戦場を平等に 」していった。エルセンは戦場で多くの兵士を殺したと同時に、戦地の女を兵士に犯させるよう兵士に呪いををかけた。戦場を平等にするためには男だけが苦しむのでは平等とはいえないと考えたエルセンは、女にも男と同じ苦しみを味合わせた。エルセンの呪いを受けた兵士は戦地の市民を襲うと、男を尽く殺し、女は少女は勿論、幼女に至るまで犯して回った。犯された女は惨殺され、ときには食材とされて調理された。生き残った女は自分を犯した誰だかも分からない男に作らされた子供を産むことを余儀なくされた。こうしたエルセンによる戦場の平等化によって戦死者が増え、怒ったルフェルがエルセンの討伐を行ったが、エルセンの深い恨みはとても強く、適わなかった。が、エルセンのせいで戦争がつまらなくなったと思い始めたメロウがエルセンの討伐をアルデスに進言。エルセンはメロウに裏切られ、殺された。しかしエルセンのセレスはアトラスに留まり、それ以後も戦場に呪いを与え続けた。 【用例】 µeȷʃı eʃ elȷen ɑı. 共産主義は一見平等で実は不平等だ。

elnı ［形容詞］悲観的な、陰気な、ネガティブな、ペシミスティックな ［反意語］ᴅelɑcn ［レベル］3 1L:elȷ/nı ［文化］ アルバザード人は比較的性格が暗いが、アルティス教が悲観を悪徳としているため、できるだけポジティブにあろうとする。ただ、それでも元来の物静かな性格はあまり変わらない。

eluı ［建築］ダム ［レベル］3 1ʕ: 制 :el/uıen（水溜め）

elɑ ［動詞］ɥəl（人や場所）から逃げる、逃げる ［法副詞］～しようとしない、やる気が起きない。意思否定の副詞 :1L ［動詞］ɥəl（物）を万引きする、食い逃げする ［俗語］［動詞］ɥəl（女）をやり逃げする、ヤリ逃げする ［動詞］ɥəl（人や電柱など）をひき逃げする、ひき逃げする、轢き逃げする、引き逃げする、引きにげする、当て逃げする、あて逃げする、当てにげする ［動詞］ɥəl（薬など）を断つ、断つ、止める ［普通動名詞］逃走、逃避、逃亡、万引き、食い逃げ、食いにげ、ヤリ逃げ、やり逃げ、引き逃げ、轢き逃げ、引きにげ、当て逃げ、当てにげ ［反意語］ɭec ［レベル］1 1ɱ: 制 ɭelɥə:ɭelɥə 【成句】 elɑ, ȷee ʃc lcᴅ ɭclᴅ ılʃ 逃げろ、しからばあらたに機会を得よう：三十六計逃げ

るに如かず 〔用例〕 lɪɟ elɑɪʃ cɒ ɑɔnc ɷel lɪɟ ɟɪlcl lelʃeɟ. 彼らはシェルテスを見つけた途端、逃げ出した。 lɪ elɑɪʃ le belli. 彼はあのレストランで食い逃げした。 lɪ ɑɔɟɪʃ ɥə ɒɪn elɑɪʃ dɔdel. 彼はステーキを食い逃げして捕まった。

elɑ(J) 〔人名〕エルフ 〔組み数字〕１１/１５ 〔レベル〕４ ɿilɔ 〔文化〕 メテの第１１使徒。

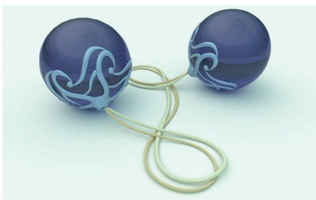
elɑɥecɟ 〔名詞〕エルフレイスの大樹 〔レベル〕５ 古 :elɑɥecɟ ← elɑɥecn/zɪɒɔ 〔文化〕 エルフレインの村にある、世界一大きな大樹。

elɑɥecɟlɪɷ 〔地球の国名〕レバノン 〔レベル〕６ 1L: 国旗に大樹

elɑɥecn 〔エルト〕エルフレインの姉妹 〔地名〕エルフレインの村。ヒュート国領。 〔レベル〕４ ɒclɑ/ɥcɷcɪ: 古 〔文化〕 エルトの女王ルフェルの腹心であるフレイヤとミレットが住んでいた村の名前。エルフレインの姉妹といえばこの２人を指す。ふつう elɑɥecn というと村の名前より彼女らを指す。エルフレインの村はヒュート南西部、フレイリア近辺にある。 【成句】 lɪnɪ elɑɥecn ɟɪ lɑeɥ 将を射んとせばまず馬を射よ。これはアルデスの言葉ではなく、神人貿易をしていた商人の言葉。

elɑlcl 〔化学〕アインスタイニウム 1Δ: 制

elɑc 〔アイテム〕エルフィ 〔レベル〕４ 古 :ɥcɷcɪ:elʃdɪɑc「エルトの橋」からだそうだ 〔文化〕 ヴァストリアのひとつ。リディアのもつ髪飾り。リーファスも参照。エルフィは２個の美しい玉からなる髪飾りで、玉同士は美しい紐で結ばれている。２つの玉はエルトとサールを示すもので、紐は両者の橋渡しを意味する。エルフィは元はリディアの育ての親のナルムの形見となったただの綺麗な髪飾りだった。リディアがテームス殲滅を公言するころに、エルトのルフェルは何かサールと協力することに対する証を持てないかと考えた。そこでルフェルはアルデスに呼びかけ、自分たちの力を封じたものをリディアにプレゼントしようと考えた。彼らはナルムの形見に目を付け、それに力を封じ込めた。その髪飾りはエルトとサール、そして両者の橋渡しを象徴するのに相応しいアイテムだった。力を与えられた髪飾りはとても強力で、それさえあれば今までの半分以下の魔力で神を召喚できるばかりでなく、神自身をもより強力にさせた。ルフェルはそれにエルフィと名付け、リディアは喜んで身に付け、より一層召喚するようになった。 画像は ɪcɔɟ によるもの。



elɑcn 〔名詞〕(nɪ) 見ていて恥ずかしい、恥ずかしい、かたはらいたい、かたはらいたし、傍ら痛い、片腹痛い、痛い、いたい、イタイ、イタい 〔類義語〕ʃlə 〔レベル〕３ J0:elɑ/cn（逃げる目） 〔語法〕 自分が恥ずかしいのではなく、痛い他人を見ていてこっちまで気恥ずかしくなる気持ち。思わず目をそらしたくなること。「俺のパンチは世界一やで」とか、そういうのを見たときに感じる気持ち。あちゃーな感じ。

elɑcɪ 〔電算〕ＯＳ、オペレーションシステム 〔レベル〕３ 1L:elɑcɪn

elɑcɪn 〔電算〕〔人名〕エルフィアン 1L: 水の少女。eɥ ではなく。 〔文化〕 → ʃcʃ

elɑccne 〔ランドマーク〕エルフィーネ童女院 〔レベル〕５ J1:ləɟcɪn：水の精霊 〔文化〕 中央アルナ ʃccʃel ɒel 区に作られた女学校。現在は同通りにある。語学、芸術に造詣の深い学校。白クリーム色のふわふわしたケープとラーサ、同色のベレー帽、スカートがシンボルで、生徒は雪の精とも呼ばれる。 ɟɒ に小学校ができ、ɥɷ で中学校ができた。ul で高校ができ、現在でも高校までしかない。アルナ大文系学部への進学率が高いお嬢様学校。年次文化祭は「雪精祭」(euɪnɟclɑ) で、このときのみ男子も入ることが許される。 ɟɒ で作られた当初は白魔道士育成学校で、看護と白魔法を中心としていた。現在でもここの看護科から看護や介護に行く生徒は多い。（アルバザードでは看護介護職は高級職） 校則は緩いが風紀の徹底は厳しく、生徒の素行は極めて良好。エルフィーネと比べるとアルナ中の女子はアグレッシブなのが多い。

elɑɔ 〔生物〕ピノソーム、パイノソーム、飲小胞、飲作用小胞 ɥʃ;el ɑe.l Jɱ

elɑe 〔地学〕泉 ɑ;e（水） 〔レベル〕２ 1ʔ: 制 :『すなおな気持ちになれる風』 elɑe:elɑe::ɔoen,ɪlʃ

elɑe,ɟzɷ lɔle

elɑelɪɷ 〔地球の国名〕ジャマイカ 〔レベル〕６ 1L: アラワク族の言葉ハマイカが泉の国の意味

elɑeuccɷɪ 〔生物〕〔医療〕郄穴、げきけつ、げっけつ ɥɷ;/ Jɱ 〔文化〕 正経１２脈と奇経４脈にあるので１６穴ある。急性疾患に用いる。

elɑeɥ 〔人名〕エルフェル 古 :e（左の）/lɑeɥ（ルフェル）。女は左に立つことから。 〔文化〕 アルフレインの母親。イルフェルの妻。

elɑeɥ(J) 〔魔法〕エルフェール、古代魔法 〔アクセント〕elɑEɥ 〔レベル〕５ 1L:ɥcɷcɪ:elɑe/ɪɥʃ（泉の魔法）。泉はアルシアのこと。アズゲルとカコの時代の魔法であることから。 〔文化〕 → ɷɔlɒcɥə ɥəɷcɟ の一種。アズゲルとカコに使われた強力な魔法で、ɥɷ では既に失われてしまったもののこと。ミルフが遣い手。和訳時はエルフェールとし、人名エルフェルと区別。 すべてが強力とは限らず、ləʃe のように単にノウハウが失われてしまったものもある。

elɑeɥʃ 〔魔法〕古代魔術師 〔レベル〕４ J0:ɥcɷcɪ:elɑeɥɪn:1L:ɥcɷcɪ

elɒ 〔生物〕臓器、モツ、もつ、器官、オーガン、体の組織、体のシステム、体の一部分、体のパーツ 〔レベル〕３ 1ʔ: 制 :elɒɪc（機能体）

elɒdɪnʃ 〔生物〕器官系 ɥʃ;/ Jɱ

elɒɪ 〔エルト〕エルマ 〔名詞〕記念、記念品、みやげ、土産、おみやげ、お土産、モニュメント、モニュマン、記念碑 〔動詞〕ɥəl を記念とする、ɥəl（数字）周年である。 〔レベル〕２ 古 :ɥcɷcɪ 〔文化〕 アマリスの双子の妹。姉のアマリスが思い出を司るのに対しエルマは記念を司る。

elɒɪʃlɪ 〔地学〕〔歴史〕エルマ大陸 〔ユマナ〕コロンビア大陸、ハドソンランド ul;/。ɪɒɪlcɟ に対して付けられた。 Jʔ

elɒeʃ 〔哲学〕属性 〔電算〕属性（エクセルなどの） 〔反意語〕ɒcneʃ 〔レベル〕３ J0:elɒ/ʃe

elɒeʃʃɪnʃɔɪ 〔魔法〕属殻 〔レベル〕５ J1 〔文化〕 ɷɔlɒcɥə

elɒeʃdɪleʃ 〔魔法〕属性値 〔レベル〕４ J1 〔語法〕 すべて～ʃe から来ており、すべて～eʃ で終わる。 弱点：cuneʃ 克性：bɪlʃeʃ 異性：lɔle ʃeʃ 相性：hɪzeleʃ 半減：uceneʃ 無効：ɟeleʃ 吸収：lɔcʃeʃ 〔文化〕 ɷɔlɒcɥə

elɷ 〔言語〕言葉、ことば、言語 〔類義語〕ɥenɪl、lɔllɔ ɟeɥʃ 〔レベル〕２ 1ɥ: 制 :eɥʃ から。古アルカで言葉が ləlelc で、言語コミュニケーションは ɪlləʃe。ɪllə は「lə,lə（口と口）/ʃe（関係）」から来ている。アルカ・エ・ソーンでは ɪl が意味を失うため変遷が起こり、ɪlləʃe で ləlelc の意味を指した。 ləlelc:ləlelc:ləleəɪ 〔語法〕「～語」は ɥen。「～方言」は lec。具体的な言語名や方言名以外は elɷ。 ɪɥbɪɥen（アルバザード語）、ʃcɪɥen（ルティア語） ɪɥbɪlec（アルバザード方言のアルカ） lcɑeɥelɷ（シフェル語）、lcɷelɷ（人工言語） 〔文化〕 → ɥən cɟ ＜言葉の歴史＞ ・セルト セルト０年、アルテがエルトとサールに分裂。エルトは白い球、サールは黒い球。 彼らは自らの住処としてアトラスを選んだ。アトラスの環境に合わせるため、彼らはルサージュを行い、人の形を選んだ。詳しくは lɟɪs 参照。 エルトがフィーリアを選択し、サールを連れて草原に降り立つ。エルトはサールを指差して「サール」と言い、サールはエルトを指差して「エルト」と言った（最初の命名）。 彼らはある物質や概念が持つ本来的な名前を聞く能力を持っていた。エルトはエルトという名を定められるべく生まれた存在で、サールも然りである。ゆえに彼らは相手に自分の名を言われた際、それが確からしいと感じた。 エルトは次に空を指して scnɪ と言った。サールはそれを確からしいと感じた。 サールは地を指して lɪl と言った。エルトはそれを確からしいと感じた。 彼らは同様にして身の回りの概念の名前を確認していった（最初の語彙の獲得）。 彼らは物だけでなく概念や行為や状態の名前も知っていた。 例えば愛するという行為は ʃccɪ という名前を持っていることを知っていた。 上下のような概念や、大きいのような状態も適切な名前を知っていた。 概念の名前を彼らは eeɟʃe と呼んだ。（名詞以外の獲得）。 また、彼らは高等な知能を基に、自らの認知に基づいた命名も行った。 サールは草原に lɪlɒɔ（下の場所）と名を付けた（人間の認知に基づく造語）。 エルトはサールを抱こうとした。しかしサールは浮かない顔をしている。エルトは戸惑う。サールは悲しげな顔で近くにあった ɪɟdcl（チョウノスケソウ）を手に取ると、エルトは彼女は花がほしいのだと察し、アルカットまで飛んでいき、花を観察してフィーリアに戻り、造形術（→ ləlel）を用いて花畑を作った。そしてこの地に ɒcnɪlɪlɒɔ と名付けた。 サールは喜んで花畑に寝転び、紫苑を取った。エルトはそれを見て ɟɪlɒc nɪ と名付けた。 エルトがサールを寝せ、覆いかぶさろうとすると、サールはおなかを押さえて泣き出した。空腹である。 エルトは辺りを散策し、木の実、魚、動物の肉を持ってきて、サールに与え、自分も食べた（食事の提供）。 エルトがサールを見ると、サールはとたんに恥ずかしそうな顔をして、体を隠した。 裸を見られるのを恥ずかしいと感じたためである（恥の獲得）。 エルトはミナカルモに咲くコットンを手に取ると、中から綿を取り出した。 これは使えると考えたエルトは造形術で服を作り、サールに着せ、自分も纏った。 上下を覆う筒状の服で、手足のところに穴が開いており、首からかぶるように着る粗末な服だったが、白くて清潔で上質だった（衣服の提供）。 サールが喜ぶと、エルトはふたたびサールを寝かせた。 性交に集中するために温度調節の魔法を切ったところ、サールが寒さで震えた。 エルトは石を切り出し、造形術でイグルーを建てた（住居の提供）。 サールを入れると、エルトは中で火をたいて暖めた（火の使用）。 満足したサールはまず自分を指差し、次にエルトを指差し、"nɔn ɷɥəɟɟɔə ʃccɪ" と言った（最初の文）。 指差しの順番で文が構成され、ＳＯＶ語順ができた。 こうして神々は結ばれた。 コミュニケーションの手段に肺臓気流を利用する姿にルサージュしたため、サールはエルトを誘惑しようとして、自らの息に芳香を乗せた。芳香は桃の香り（主成分蟻酸エチル）であった。 エルトは感銘を受け、サールに共感して自らの息に薄荷の香りを乗せた（言葉で求愛することの重要性を強調）。 エルトは lɪl を動詞「場所を占める」として使った。 "ɷel ɥəlclɔ lɪl ləlɪlɪ ləc" は重文で「私は家を場所として食べ物を食べる」の意味。 この lɪl が文法化し、「～で」を意味する後置詞になった（格明示法の獲得）。 与格は ɪl と leɥ で示され、着点含意は前者、方向性は後者が担った。 また、状態を指す言葉は前置された（形容詞の獲得）。
彼らは１年後に再会することを約束した。来年から神の逢瀬が始まることとなる。 ここで彼らが作った言語が ɑ で、最初の言語である。 ・アルテムとユーマの一族 ユーマが生まれると、彼女は生まれながらにして ɑ を習得していた。 同時に、歪みから生まれたテームスも ɑ を習得していた。 ただしテームス自体は喋るのが得意ではなく、知能は高くなく、言語運用能力は貧弱だった。
テームスから生まれた悪魔メルティアやベルトらも ɑ を習得していた。 アルミヴァもまた ɑ を習得して生まれた。 この時代はほぼ分裂に等しい産み方なので、知識を共有している。 最初にアルカを学んだのはアトワーユとルノである。 神々も人類もひとつの言語を使っていたが、離れて住みだしたため、言語が長い時間を経て分裂する可能性が出てきた。 そこで悪魔ベルトが世界各地にアンシャンテという魔法装置を作った。 泉の湖面に魔法をかけ、

これをテレビのようにして使う通信装置である。　泉はエルシェルトというルナパネルを用いている (→ ellelſ)　各大陸に分裂した人類もアンシャンテのおかげで同一の言語を使うことができた。　また、アズゲルまでは人間も長生きだったため、言語変化自体が地球のヒトと比べて遥かに緩慢だった。　しかし音韻変化やその地域にしかない名詞の獲得などは、アンシャンテをもってしても防げなかった。　ゆえにアズゲル開戦までに音韻レベルおよび語彙レベルでの変化はあった。　しかしそれはイギリス英語とアメリカ英語程度の距離でしかなかったため、この時代はまだ ɑ が通じていた。　なお、音韻変化したものは ɑ ではなく「リュディア語」のようにその人種の名前を取って命名する。　ただ、上述のとおり、リュディア語と ɑ の差はほとんどない。　・ラヴァスとバベルの塔　ヴァステでの言語状況はアルテムと変わらない。　一方、ラヴァス後期になると、神々が情報漏洩を防ぐために各地のアンシャンテを破壊して周った。
　破壊されたアンシャンテは修理されることのないままラヴァスが終わり、神々はアルフィへ去った。　残された人類はアンシャンテを失い、寿命も短くなっていたため、ここから地球のヒト同様、言語の変化が起こることになる。　いわばラヴァス後期がバベルの塔の崩壊であり、ユーマの一族はそれから１万年ほどかけてアルカを変化させていく。　ただ、同じアルカ語族である点が地球と異なる。
　言ってみれば地球上すべてが印欧語でできているようなものなので、語彙の根本的な部分などはこの世に一通りしかないことになる。
　アズゲルの時代には北半球はすべて、南半球も大部分は人類が到達していた。　この時点でほぼ同じ ɑu を話していたため、その後の言語の変化といってもタカが知れている。〔成句〕elɑ eſ lecn lıɑſ ıſıı. 言葉は最も上品な衣服である。どんなに身なりが良くても言葉遣いが悪い人間は下品に見えるという意味のことわざ。

elɑſıſȷ〔言語〕語派〔レベル〕6　1L

elɑȷeſı〔言語〕言語史〔レベル〕4　JJ〔文化〕→ ɥəncȷ　■概要　●カルディアでは言語の起源はひとつ　カルディアの言語はすべて ɑ に端を発する。アトラスと言わなかったのは、悪魔は太陽系の惑星で、神はアルフィで言語を使うためである。　ちなみに uȷ では宇宙で悪魔が話しているシーンがある。宇宙に空気がないのに言語が伝播するのはおかしい。恐らくどこかの星の大気圏内で話していたのではないか。いずれにせよ神話なので真偽の程は定かでない。　なお、地球同様ヒトも発生したが、ıſen がもたらした病原菌により死滅しており、ヒトの残した言語はアトラスには存在していない。　●言語系統　＜系統＞　生物学に使う分類法を利用する。ɥəᴅı を参照のこと。　生物学で「亜門」に当たる lelſeᴅ は比較言語学では「語派」を意味する。　カルディアにおける比較言語学的な系統は下記の通りである。　超語族＞語族＞亜語族＞超語派＞語派＞語群＞語＞地方方言＞州方言＞地域方言　ıᴅıſ › eᴅcſ › ɑcıᴅ › cɑıl › lelſeᴅ › ſıſl › lıɥɑ › eɥn › ſıſȷ › lcſe　なお、同じないし近い場所で使用されるものの、系統的には異なる言語群のことを諸語という。ȷe eɥenȷ を参照のこと。　＜ıſen 超語族＞　最初に言語を作った elſ と ȷııl は ıſen › ᴅcɥɔl › lınȷ › ȷıɥſ（神科）に属する。従って ɑ は lınȷ 語族 ȷıɥſ 超語派である。　しかし ɑ は全ての ıſen の言語の起源なので、すべての言語は ıſen 超語族に含まれる。　なお、ıſen 超語族とだけ書いてあったらそれは自動的に ɑ のことである。ɑ の正確な系統はアテン超語族ランス語族サルト超語派であるが、アテン超語族とだけ書いてある場合はあらゆる言語の祖というニュアンスで使っている。　＜lınȷ 語族＞　ıſen › ᴅcɥɔl › lınȷ の語族。　・ȷıɥſ 超語派　上記のとおり、代表的なものは ɑ。　次いで ɑ から eɥſ と ȷııɥ の一族が発展させた ɑu が含まれる。　ɾlu では eɥſ 語派と ȷııɥ 語派に分かれたが、主な違いは語彙である。風土が異なるところに住んでいたので、語彙に差が生まれた。　ただし高速で空を飛んだり魔法で通信を行ったりといった能力があったため、差異は軽微である。　よって言語学では通常 eɥſ 語派も ȷııɥ 語派を分けて区別して考えるべきケースは少なく、どちらも ɑu としてまとめることが多い。　ɾlu 以降は ɑu から ɥɑ に名が変わるが、実質的な変化はない。　ɥɑ 以降、語彙については神人貿易を通じて lȷ や ıɥ などの単語を借入する機会が増えた。たいていはロゼットを通じて単語を借入する。　ロゼットはともかく神は寿命がなく成員に変化がないため、統語論や意味論的な保守性は強い。　zφ から人間の時代になる。人間が神々から受け継いだ言語は ɑu である。従って ɥɑ は人間の言語の系図には含まれない。　・ȷeleȷſ 超語派　死神の言語。uınφı ɥɑc や lənɔ は elſ や ȷııl より前に生まれているが、言葉は編み出さなかった。　言語は ɑ から借りた。ɑ が ɑu に発展すると、そのまま受け入れた。　死神は下位を除けば最も成員が少なく、言語の保守性はあらゆる ıſen の中で最も高い。　新語を取り入れる意欲は ɥɑ に比べて消極的で、造語をすることにも消極的である。　というのも死神はアトラスの各地で仕事をすることが多いので、自分たちの言語を変えていくよりは現地語を適宜覚えたほうが効率が良いためである。　中位以上の死神は ɑu を話すが、アトラスにいる主に下位の死神は居住地の言語を使うのがふつう。　中位以上の死神が ɑu 以外を話せるかは、個体によって異なる。例えば夢織の紗枝は lſ や ı を解する。　＜lcnȷ 語族＞　・lcnȷ 超語派　lcnȷ は ɑeeᴅ と ıɑel に分かれる。最初の lcnȷ である ɑeeᴅȷ は ɥəᴅı の対として生まれた。ɥəᴅı の親は elſ と ȷııl で、彼らは ɑ を使った。　従って ɑeeeᴅȷ の言語は ɑ である。ただし ɑeeᴅȷ は知性が低く、言語を喋ることができない。よって初めて言語を獲得した悪魔は ᴅelſcı, beɥſ, ıɾlᴅı などである。　ᴅelſcı らが生まれてわずか４年後に ɑ が ɑu に推移しているため、事実上 lcnȷ の言語は ɑu である。　uȷ で使用した言語も ɑu である。　ɑeeᴅ は成員が少ないため、保守性が強い。　ȷeleȷſ と同じく、ソームなどアトラスで暮らした経験のある悪魔たちは現地語を使うのが一般的である。　・ıɑel 超語派　ıɑel は ɥəᴅı ʃʃʃ0 に初めてテージュを通って現ミュール大陸上に現れた。　このときの ıɑel は知性が低い種で構成されていたため、言語の使用履歴はない。
　ɥəᴅı ʔſJL テームスが再び蠢動を開始。アデルが ᴅıſccı され、空間に穴があく。テージュは神々が強固に塞いだため、別の弱い空間だったスカルディア西南部の地方バルマーユ上空に穴が空き、アデルがふたたび降り出した。この穴はバルマージュと呼ばれるようになった。　このとき降ってきたアデルは竜族のような強力なものや精霊族のような知能の高いものの比率が多かったため、後者が社会を形成し、人類と対立した。スカルディアは人類の支配が確立しているため、魔族の村を作る程度が限界であった。　魔族はスカルディアを中心に拡散。総じて言えば分布は南北より東西のほうが速やかかつ広大であった。北への移動は気候の変化を伴い、つらい。南への移動はそもそも陸がない。これに比べて東西はアルカット大陸が東西に伸びた陸塊であることからも容易であった。　とはいえ個々の種については身体性の違いにより、それぞれ得意な気候があったため、逆に南北に早く分布したものもいる。精霊族や妖精族は寒冷地を好むため、北への移動がほかの魔物に比べて速やかであった。
　ここで拡散した魔族は後に belφınɑ や uellcɔn を建国したり、ınse のような海賊になったりした。　おおむね ıɑel 超語派は北の ul 語派と南の bφ 語派に分かれる。　バルマージュに降り立った魔族のうち知能の高いものは lcnȷ と同じく ɑu を話したが、徐々にスカルディアの言葉も習得していった。　魔族は拡散するとともに ɑu をベースに各地の言語と融和していった。　やがて北は ul 語派、南は bφ 語派を形成する。そこで彼らは定住をしたため、ul と bφ は風土に合った独特の変化を遂げる。　従って ul と bφ は ɑu というベースを元に、定住までに通った各地の言語の影響を受けつつ、定住先で発展した言語といえる。　＜ɥəᴅı 語族＞　ɥəᴅı は ɑ を ʃl 年間だけ ȷııl から教わった。その後 ɑ が ɑu になると、ɑu を継承した。　ユーマの息子の ıɥɑə と娘の eȷſı は１６人の子供を作る。これが eɥn e ɥəᴅı の直接の祖先となる。　この頃はまだ ɑu を使っていた。第三世代まではガルヴェーユで ɑu を使っていた。　ᴅelſcı Δſՙՙ'0000 にユーマの一族はガルヴェーユから追放され、ここから人類の言語が世界へ拡散していくことになる。　追放後、アルファエル川流域で ɑıɥ ɑıncı 語ができ、セーレル川流域で ȷcczcı 語ができる。　同時期にホモ･サピエンスが発生しているが、ıſen の病原菌により絶滅している。
　ᴅelſcı Lſ'0000 ごろ。メルティア Lſ 万年ごろ、ファルファニア人の一部が食料と土地を求めてファベルからアンシャルへ入る。リュディア人はハーディレイ川流域で文明を築く。一方マレット人の一部はサヴィアからインサールとケヴェアに入る。前者は zφ までにハーディアン、カルセール、メディアンを作る。後者は zφ までにフッカ、ジュヴァルノ、メルモアを作る。　シフェル人の間で内戦が起き、ファルファニア人とリュディア人が争い、前者が勝利する。これを記念してファルファニア人はリュディア中心部周辺をファルファニア (ɑılɑıncı) と改名。リュディア人はリュディア国辺境、すなわち現アルバザードへ追いやられる。リュディアの一部は奪われてファルファニアと改名されたため、リュディア人は残った国土をレスティルと改名した。彼らは神がいるのでフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには原則として住めなかった。この後元リュディア人の一部がアルディアルとスカルディアを作る。少数ながら神の土地に入り込んで住んでいた部族もいる。　◆シフェル亜語族（単にシフェル語族とも）　ɑu › ɑɥɑ　この亜語族はリュディア超語派とファルファニア超語派に分かれる。地球で言うとヨーロッパの言語とアフリカの言語に分かれるようなものである。　・リュディア超語派　ɑu › ɑɥɑ › lɥ　lȷ, ɥl, ȷl, ıɥɑ などを含むアンシャル地方に存在する超語派。　リュディア人のうち、ルカリア地方に散った人々は、ルカリアが神に支配されていたため不毛な土地でひっそりと暮らしていた。　従ってルカリアには神ルカリア語と人ルカリア語がある。ɥl というと通常後者を指す。　ɥl は後のヒュート語やフレディスク語の前身である。　– レスティル語派　ɑu › ɑɥɑ › lɥ › lȷ　lȷ(後の ıɥ）, lſ, hɥ などを含む西アンシャルの語派。　ı はこのうちの ıɥ をベースに作られているため、現在世界で最も広まった語派といえる。　神との繋がりが強いため、保守性は一般に高い。特に lȷ や ıɥ など神のお膝元ではなおさらである。　アルバレン：ɑu › ɑɥɑ › lɥ › lȷ › ıɥ　ケートイア語：ɑu › ɑɥɑ › lɥ › lȷ › lſ(cſ cᴅəl 10)　ヒュート語：ɑu › ɑɥɑ › lɥ › ɥl › hɥ　アルカ：ɑu › ɑɥɑ › lɥ › lȷ › ıɥ › ı(cſ cᴅəl 1ſL1)　：西レスティル語群　ıɥ, lſ, hɥ などの語群。　アルカの比較言語学的な分類は下記の通りである。
　アルカ：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群アルバザード語北方方言地竜州方言幻京方言を主な参照源とするアポステリオリ国際補助語　ıɥlı:ue lſıɥlleucın eᴅɔen ıſenıᴅıſ, ɥəᴅıeᴅcſ, lcɑeɥɑcıᴅ, lɥəɑcıcɑıl, leȷſcllel ſeᴅ, ılıȷleȷſclſıl, ıɥbızıɥɑlıɥɑ, lcıɥeɥn, ſɔɔlſıſȷ, ıɥnılcſe　：東レスティル語群　ɑcᴅcncɔn, ıɥlelcı などの語群。　– スカルディア語派　現ラズディア語、メルディア語などの語派。ただしこれらの言語は境方語派の影響を強く受けている。　enccl 南部などはそこまで境方語派からの影響を受けていない。　– アルディアル語派
　現アルダ語などの祖。　・ファルファニア超語派　ɑu › ɑɥɑ
　主にケヴェアで使われる超語派。　◆マレット亜語族（単にマレット語族とも）　現 lſ の直接の祖先。ɑu から分化した。ılſ なども大きな分類ではここに属する。　この亜語族はサヴィア超語派、インサール超語派、ケヴェア超語派に分かれる。　・サヴィア超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、サヴィアに残った民族の超語派。　lz や lſ などが含まれる。　– シージア語派　lz や lſ など。　：ルティア語群　lſ など。　ルティア語：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派ルティア語群　：リーゼル語群　lz など。　– リディア語派
　現ミディート語など。　・インサール超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、インサールへ渡った民族の超語派。　ılſ が含まれる。　– ハーディアン語派　現 ılſ 周辺の地域で使われた言語。アクオリアも入る。　：ハーディアン語群
アルティア語（凪霧）：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派ハーディアン語派ハーディアン語群　：アクオリア語群　– サルディーン語派　ハーディアンに渡った民族が西に移動したもので、もとはハーディアン語派と同じ。　– カルセール語派
　ハーディアンに渡った民族が南西に移動したもので、もとはハーディアン語派と同じ。　– メディアン語派　カルセールに渡った民族が南西に移動した民族の言語。加えてスカルディアから東に渡ってきたシフェルの民も含む。　現 ᴅe などを含む語派。　：境方語

群　メティオ語：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派メディアン語派境方語群　・ケヴェア超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、インサールへ渡った民族の超語派。　– ジュヴァルノ語派　現サフィール語や西エネガイア語など。　– フッカ語派　現ユタタ語など。　■舞台裏　＜現実と神話のアルカ史＞　・古アルカを古語にリサイクルしよう　古アルカは現実では１９００年代に作られた言語である。一方アトラスではアディアが cɒəl 1ᚠ00 年代に作った言語である。前者はアプリオリとアポステリオリの混じった人工言語で、後者は ıɥ（アルバレン）を元にしたアポステリオリ人工言語である。　現実の古アルカは徐々にアポステリオリ性を排他していったので、最終的に J001 年の段階ではほぼアプリオリだった。現在の新生から見て古アルカはだいぶ変わっている。文法的にも語彙的にも。　古アルカは地球ではもはや使われていないが、このまま捨ておくのももったいない。そこでアトラスに出てくる古語の材料としてリサイクルしようという案が００年代後半に浮上した。とはいえ現実の古アルカが持っていたアポステリオリな面は使えない。だからそこはトリミングして、アプリオリな部分のみをアトラスの古語を作るのに使う。　・そもそもアトラスの古語って何を指すの？　アトラスの古語は ɑ（フィーリア語）に始まり ıɥ（アルバレン）に終わる一連の言語派である。時代としては ɑl（フィアル）から ɥɑ（オーディン）までである。従って ı（アルカ）は古語には含まれず、古アルカといっても古語には含まれない。　・リサイクルする際の注意点は？

古アルカを古語の材料に使うにはいくつか乗り越えなければならないハードルがある。まず前期古アルカと中期古アルカ時代に大量に含んだ自然言語の語彙を排他する必要がある。また、もともと古アルカは子供の作った言語なので、言語学的にしっかり見直さないと古語として使うに耐えない。さらに、古アルカの語彙はアトラスの歴史を反映していないので、アトラスにおける語源を一語一語作る必要がある。　・アルカのレーゾンデートル　古アルカの語彙がアトラスの歴史を反映していないのは当然だ。そもそもリアルファンタジー用の言語として開発されたものではないからである。

アルカのレーゾンデートルは時代ごとに異なる。古アルカでは「意思疎通と機密保持」。リーザ先生やリュウがお金の絡むことに古アルカを暗号として使っていたので機密保持の意味合いがあった。制アルカでは「帰属意識の向上」。これは効果があったと思う。新生アルカでは単に「意思疎通」に限定している。　これだけなら事情はまだ飲み込みやすい。だがここに神話という要素が入るとややこしくなる。古アルカの時代にリディアが構想した『幻想話集アティーリ』の中でアルカが使われた。これがすべての元凶だ。この作品がやがて人工世界カルディアに発展していく。　０９年にアシェットが解体されると、使徒同士は表向きには公的な繋がりでなく個人的な繋がりになった。それから２年経つが、解体の影響はそれほど感じていない。もともと０３年にセレンが日本人の女性を選んだことでリディアをはじめ使徒と疎遠になってしまい、その頃から徐々に彼らとの結びつきは弱くなっていた。０６年にリディアやメルとは再度親密になるが、ほかの使徒からは距離を置かれたままになっていた。なので０９年にアシェットが解体してもそんなに改めて距離感が変わった感じはしない。　１１年現在セレンがアルカを使う相手は主にリディア、メル、ルシア、ユルト、それにネットユーザーに限られている。だがセレンは「日本語できるなら日本語でいいだろ」という考えなので、子供以外には積極的にアルカで話しかけようとしない。ましてセレンは子供にアルカを教えるのがあまり好きではない。少なくとも母語として教えるべきではないと考えている。なので本来子供にアルカを喋るのも好まない。ただアルカ以外ロクに通じないので仕方なく使っている。となるとセレンが自発的にアルカを使いたがる相手は誰もいないことになる。現実のアルカはほとんど滅んでいるといっていいだろう。　ただそれはセレンの視点でしかない。リディアはアルカを積極的に使いたがっており、実際日常的に彼女の家で使わせている。一番熱心なのはもはや彼女だ。なお、旧アシェットの使徒もまだ新語を作って報告してきたりするので、一応使っている分には使っているようだ。そういう意味では現実でもまだアルカは滅んでいないようである。　ただ、もはやアルカのレーゾンデートルは「アシェットが使う言葉」よりも「世界初のリアルファンタジー用のアプリオリ人工言語」にあるとセレンは考えている。後者の価値観自体はリディアも認めている。彼女くらいだろう、現実にも架空にも旺盛にアルカを使いたがるのは。　少なくともセレンはもはやアルカを「世界初のリアルファンタジー用のアプリオリ人工言語」と考えている。現実面はわりとどうでもいい。　・アトラスの語源と地球の語源　古語に古アルカを使うのはいい。だが単語の語源は地球でのものだ。９０年代の地球を反映している。例えばスーツは ɒıcl̀ejıbe（ふつうの服）というが、これは地球の９０年代の感覚である。アトラスで「ふつうの服」なわけがなかろう。だからアトラス用に別の語源をでっち上げねばならない。あるいはアトラスの歴史でもスーツは普及したんですよという設定を作らねばならない。要するに語源を変えるか歴史を変えるかの二択である。　たいていの場合は語源を弄る。特に語源ができた年代を弄る。　例えば ȷıl は長という意味である。現実には中期制アルカでできたとあるから、０３～０５年頃にできた単語である。　ȷıl の語源は書いてないので分からないが、恐らく ɥȷcclı が元だろう。というわけで神話では ɥȷcclı を ʅılɒcɥə してできたということにする。

ȷılという単語は少なくとも ʃɒ(アルテム時代)で竜王ティクノがサールの長になった段階で必要だから、ȷıl は現実では制アルカであっても、神話的には ɑu（フィルヴェーユ語）にしなければ辻褄が合わない。これが「語源ができた年代を弄る」というやつだ。　・長生きな神様の言語は保存性がとても良い　このように、古語は古アルカないし制アルカなどを元に作る。　だが問題がある。初代や先代を除けばアルカは９１年から始まっているので、まだ２０年しか経っていない。一方古語は神の時代から始まるから何千万年という期間がある。２０年分の言語変化で何千万年分の言語変化をまかなえるのか。無理だろう、ふつうに考えて。はじめはそう思った。　ところが神というのは死なないので、成員が変わらなければ言語の変化もほとんどないではないかということに気付いた。神は３００人程度しかいないし寿命もない。なら何年経とうと新語が人類からもたらされるくらいで、基本語は変わらないだろうなと考えた。　ところが人間は百年もせずに死んでしまう。アトラスでは人間は神の子孫なので、ȷɒ までは寿命が長い。従って ȷɒ までは言語の変化の速度を緩めていい。だが、ȷɒ 中期以降は地球の言語と同じ速度で変化を計算しなければならない。ここが面倒くさい。　ところでアルバザードは神の国アルフィが宗主国で、神との結びつきが強い。神の言語は変化せず、その神との結びつきが強い。ということは ıɥ に限っては lʃ や ıll などに比べ保存性を高めても良いことになる。　どうせ神話の中では lʃ や ılʃ は外国語としてしか使わないから保存性が低くてもどうでもいい。一番作業量が多いのは ɑ_ıɥ_ı 間の変遷の記述だ。ıɥ さえ保存性が強ければ自分が生きてる間に実現できる。アルフィがアルバザードの宗主国であったことが幸いした。　・案外短い時間の壁　数千万年といったが、そのほとんどは ɑ_ɑu の期間である。ɑu は ɑ を拡張しただけで、期間が長いわりに実質的な内容的は大差ない。これは話者が少なすぎたからである。　ɑu から数えると現代まで百万年程度の時間しか経っていない。しかも人類がアトラスの主人公になった zφ から見ればまだ一万年ほどしか経っていない。しかも ȷɒ までの人類は長生きだ。ȷɒ から現在まではまだたった２０００年だ。しかも ȷɒ 中期まで人類の寿命は長かった。現在の寿命水準になってからはまだ５００～１０００年程度しか時間が流れていない。　実は時間の壁は案外短い。数千万年といっても実質現代人の寿命に置き換えればもっと短い。zφ から現在までの一万年も、現在の人間の寿命水準で見ればほんの２０００年程度である。つまり zφ で使っていた lȷ が古代ローマのラテン語だとすると、現在のアルカがイタリア語に当たる。要するにラテン語とイタリア語くらいの距離感を出せればＯＫということになる。　しかも lɥ, lȷ, ıɥ は ɑu との繋がりが強く、保存性が良い。ということはラテン語とイタリア語の差すらない。ぶっちゃけ古英語と現代英語くらいの差で十分である。　・面倒くさいのは実は nɑ_ul　寿命の長さや神との繋がりのおかげで ɑu_lɥ_ıɥ は保存性がいい。ところがアルカができて以降、nɑ_ul までは神との繋がりが弱いし寿命も短い。その上魔法文明が廃れて科学文明へと移行し、新語がバンバンできている。空も飛べなくなり、異国との情報の共有も遅くなった。　となると nɑ_ul のアルカの変遷は地球の自然言語並みなはずである。この期間が約３００年だから、現在の日本語と江戸時代くらいの開きがある。だがせっかく ɥɑ で作ったアルカをそうやすやすと変えてほしくない。歴史小説を書く際などに面倒だからだ。　・原理主義者ミロクと方言　ミロクは敬虔なアルティス教徒としてアルカの原理主義運動を行った。ɥɑ 当時のアルカを使おうという運動で、ヘブライ語を復古させたイェフダーに近い。イェフダーと違って独裁者だったのが幸いし、運動は成功した。　とはいえリアリティを考えると国内に遍く ɥɑ 時代のアルカを広めるのは不可能だろう。巧く教育できたのは都市部の人間と若者だけと考えるのが妥当だ。農村部では ɥɑ から３００年経って訳の分からないくらい変化したアルカが使われているはずだ。　だが小説では主に都心部を書くし、田舎の連中も多くはテレビなどで標準語を話せるようになっているだろうから、書き手が困ることは特になかろう。むしろたまに方言を入れることでスパイスになるのではないか。　＜音韻＞　現実の古アルカの音韻は多かった。アシェットが２８カ国の子供たちからできていたので当然だろう。　ɑ_ɑu の登場人物はすべて同じ ıɥʃe 神から生まれた兄弟のようなものだから、現実の古アルカほど音韻が豊富なわけがない。　そこで ɑ_ɑu では適宜音韻を減らす。こうすると古アルカでは使っていたのに ɑ_ɑu では使われない音が出てくる。それは lʃ など、アルカ系以外の言語でリサイクルすればよい。入破音などはファルファニア辺りに回せばよかろう。地球でもあの辺りの地域で見られる音だし、違和感はない。　ɑu_ıɥ 間の音韻は保存性がよいので概ね同じでいい。ı は世界に広まった言語なので、ıɥ より音韻数が減っている。　ı はアトラスでは ıɥ をベースに使徒の母語を混ぜてできたアポステリオリである。こういう言語を作るときに使う音韻は最大公約数的なものである。要するに多くの使徒が聞き取れる音韻を使っていこうぜというもので、そんなことをしていれば最終的に ıɥ より音韻が減るのは当然だ。　まして ı はその後世界へ広まっていったので、なおさら音韻が少ないことは義務的だ。　＜諸言語＞　諸言語については各言語の文化欄を参照すること。　とりあえず ɑ, ɑu, lɥ, lȷ, ıɥ, ȷz, lʃ, ılʃ が分かっていればいい。　ɒe の系統は歴史的にあまりアルバザードと絡みがないので、scɔɥ など単語レベルで知っていれば良い。　ʅʃ や hɥ は地理的には近いがアルバザードのほうが力が上なので、ɒe 系統と同じく単語レベルで入ってくるものだけを知っていれば良い。　ɥɑ は実質 ɑu に人間側（主にアルバザード人）の単語を貸してあげただけなので、ɑu が分かっていれば特に問題ない。　そもそも ɥɑ 以降神も悪魔も ı を学んでいるので、古語はアトラスの語源欄を書くときにしか使わないのではないかというきらいがある。　小説の中で外国語が出てくるとするなら、lʃ と ılʃ だろうと思う。稀に古風に ıɥ や ɑu や ɥɑ を出すくらいだろう。もっとも、こちらがそうやってしっかり作ったところで、流石に細部まで理解できる読者はいるとは思えないのだが。

elɑɑɔ　［言語］言語音。音声と音韻の総称　［類義語］ɥecɑ　［レベル］3　1L:lecn

elɑɑel　［言語］言語学　［レベル］5　1L　［文化］　言語学はカコにおいてアルシアの１１魔将が魔法学を起こしたことに起因する。　魔力の弱くなった人類は、より強い呪文を使うべく、言葉により魔力を増幅させようとした。その研究が魔法学である。　魔法学では正確なアルカとは何かが問題とされたため、文法論と語彙論のみが発展した。　一方、神の時代から脈々と続く史学の中で、通時言語学は存在し続けた。　しかしそれもアズゲル以降の人類による文献学とほぼ同一視されていた。　近代言語学は ɥɑ でセレンによって起こされた。　制アルカの制定にともない、セレンは世界の言語を研究し、共時言語学を作り上げた。　セレンはその時代の言語を研究することでアルカを作ろうとしたため、通時論には興味を示さなかった。　同じ時期、リュウが魔導船シェルタージュを復活させるた

め、文献学を派生させて比較言語学を興す。　並びに古代魔法の使い手であるミルフが協力し、リュウに古代の文献を解読させた。これにはリディアも協力した。　　従って、言語学のほとんどの術語はアシェットによって作られた。　統語論、形態論、語彙論はカコの時代の学問を参考に改訂した。　制アルカで作られた術語も、後にセレンによって新生に修正されている。　　セレンは最初、音の研究から始め、音声学と音韻論を作り上げた。　後に制アルカのために普遍文法を探究した。その過程でまず類型論を作り、さらには生成文法を作り上げた。　生成文法は後にリュウが魔法駆動式アンドロイドのエルフィアンを作る際の人工知能の礎のひとつとなった。　　また、セレンはそれまで研究の盛んでなかった意味論も作り上げた。　　メル 1Ո 年ごろ、セレンは文化と言語が切り離せないという結論に達し、生成文法を捨て、認知革命を起こした。→ nıllelΩael　また、中期制アルカの終りに、セレンは人工言語学を作り上げた。　　新生アルカ作成後、セレンは語用論を重視した。　一方、リュウとリディアは経済言語学を作成した。　また、ユルト・ルシア誕生後、セレンとリディアとメルは子供の言語習得についても研究し、応用言語学を作成した。

elΩhɔɲ ［ネガティブ］言葉の鎧　［レベル］4　1ዓ: 制 : 古 :ləlelcɥıhɔ（言葉の鎧）の訳　［語法］　主に難しい言葉を使って、自分がなりたいけれどなれない人格を装うこと。悪い意味で使う。消極的な人間が普段使わない積極的な言葉を使って明るく見せようとするのもこれにあたる。　【用例】　lı ɟıbeɟ elΩhɔɲ. 彼は言葉の鎧をまとっている。

elΩɥəlaın ［言語］言語学者　［レベル］5　1L:lcɔn

elΩenuc ［言語］言語能力　［レベル］4　1L:ρcΩcı:ıρbılelʃ　［語法］　何カ国語喋れますといった能力が elʃenuc で、言葉を上手に操れますという能力が ıρlıenuc。

elΩeᴅ ［言語］声調　［レベル］5　1L:elΩ/leᴅ（言葉の音楽）

elΩeᴅıac ［言語］超分節音素　1L

elΩeρn ［言語］語族　［レベル］6　1L　［文化］　→ ɥəncɟ　語族と言語の年代区分　　言語名と時代あるいは国家の名前は必ずしも一致せず、ズレがある。　同じフィルヴェーユ語でもどの民族かによって使われた長さが異なる。　ここで述べるのはあくまでアルバザード人にとっての区分である。　　・語族　　先に語族について。　いずれもアルテ語族から分派しているが、アルテ語族というのは最上位概念であって、通常は語族というと以下の３種。　　ミロク語族：エルトとサール、および彼らから生まれたアルミヴァ、および彼らの一族の言語。話者が少なくかつ死なないため、言語の変化が極めて少なく、語派間の差異も極めて小さいことが特徴。ɑu 以降は人間の言語から多くの外来語を得る。　ーーエルト語派：ıρʃeᴅ までは下記サール語派と異同なし。レスティル在住までは同じ言語。ヴェマとヒュートに uıɟʃe で本拠地を分けてから語彙に少し変化が出る。が、連絡が互いにあったため、外来語として結局相手の語彙が取り入れられた。話者はエルトの一族とその眷属のロゼット。　ーーサール語派：同上　ーーリンス語派：悪魔たちの言語。言葉を持たなかった悪魔がベルトの助けを得てサルトの言語を使用したため、言語の内容は同じ。宇宙在住なため、特殊な単語を有する。　ーーセレスト語派：死神などの言語。やはりサルトの言葉を借りたもの。シフェル語族：ガルヴェーユ追放されてファベルに移った民族の言語。アルバザード語はここに入る。語派は多数。アルバザード語を例に取ると……　ーーリュディア語派　ーーーーレスティル語群　ーーーーーーアルバザード語　　マレット語族：ガルヴェーユ追放されてサヴィアなどに移った民族の言語。語派は多数。ルティア語が含まれる。　　・年代区分　　フィーリア語 ɑ : ɟelʃ 0 ～ ɟelʃ ʕ?,L?Δ,LՏՈ(ɑl)：エルトとサールの ɺ 人が話した言語。歴史は長いが文法は単純で語彙も少ない。ɺ 人がツーカーで意思疎通がそこまで必要なかったことと、年一回しかアトラスに来なかったため。　フィルヴェーユ語 ɑu : ᴅelʃcı 0 ～ ᴅelʃcı 1,0Ո0,000(ʃᴅ ～ ɗu)：神の言語だが、シフェル語族も ʃᴅ では ɑu を話した。徐々にファベルとアンシャル西部で独特の語彙を獲得したが、少数のオリジナル語彙以外は神の ɑu と同じ。lɥ 建国後も ɑu が使われ、ᴅelʃcı L↑ 万に lɥ が滅んで lɟ になっても ɑu が使われた。　リュディア語 lɥ : ɥəəᴅı 0 ～ ɥəəᴅı Ո000(zφ)：リュディア国の言語ではない。この言語になったころにはとっくに lɥ は滅んで lɟ になっている。ここで表しているのは国ではなく、リュディア人の末裔の言語という意味。アズゲルから人間の時代になり、言語も ɑu から lɥ になる。ɑu から lɥ の変化は ɗu で漸次的に起こっていたが、zφ になったころには lɥ が確立していた。神の代わりに国を支配したことから人間の支配力が強まり、その結果文献も残されるようになった。人類にとって細かく記録の残っている有史はここからになる。約 Ո000 年使われた。　レスティル語 lɟ : ɥəəᴅı Ո001 ～ ɥəəᴅı Δ0Δ0（ᴅʃ ～ ՂՂ）：同じく約 Ո000 年使われた。zφ 後期で徐々に変化し、ᴅʃ ごろに確立。リュディア語のときと同じく国家名がレスティルなので、このときの言語名は国名に合わせてレスティル語になっている。　アルバザード語 ı : ɟᴅ ～ μΩ : 1Տ00 年ほど使われた。ɟᴅ からユーマの一族の寿命が地球の人間程度になり、言語の変化の速度が早まったため、言語の寿命も短くなった。　アルカ：nΩ ～ ls : Ո00 年ほど使われた。社会の安定と通信技術の発達と leᴅcρ の言語政策と ıρʃcɟ 的な倫理観が発達したことにより、大きな文法の変化はなかったものの、科学の進歩によって語彙は大幅に増えた。結果、Ո00 年の間に大きく変化してしまった。

elφ ［名詞］バッジ、メダル、記章　［レベル］3　1ʔ: 制 :elᴅıφc（記念の金属）　［語法］　エーステはバッジの下位概念。【成句】　elφ e ɑıl 太陽のバッジ。警察官に配布されるバッジ。正義の神クレーヴェルをモチーフに、パパルラの幻字をデザイン化したもの。中央の円の中に官位を示す文字がデザインされている。nelʃe の場合、ne の文字をデザイン化したものが書き込まれている。バッジ自体は elφ だが、官位を示すという側面については Ωılhı という。リディアが案出した。

elφc ［名詞］水銀　［レベル］4　Ɉʔ 再登録

elφclcl ［化学］水銀→ elφc　1L

elφeɟ ［植物］ズッキーニ　［レベル］3　古

eld ［植物］メロン　［レベル］2　lılʃı: 膨らんだ水　［文化］　マスクメロンをメインで指すが、実際に出回っているのは模様の薄いもの。線の濃いマスクメロンはあの独特の線を綺麗に出すのに極めて手間がかかるため、高価。そのため、メロンはアルバザードでは高価な果物という印象がある。

eld(Ɉ) ［化学］ピリジン。ʃezɟdel の慣用名。　［レベル］6　1L:elcɟdel。魚臭がすることから。

eldın ［動物］サギ、鷺　［レベル］4　ʃᴅ;「水の白の」　Ɉʔ

eldc ［化学］ピリジン派生物。ピリジンが開いたもの。ニコチンなどを作る。　1L

eldcɟ ［植物］クミン　［レベル］6　古

eldcnı ［人名］エルピナ　［組み数字］１１/１３　［天文］エルピナ座　［レベル］３　μΩ;eldın　先 :ınɔ:dcnɔ　［文化］　第４期３代ソーン第１１使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

elb ［被服］顔を覆う頭巾、フード、ずきん、頭巾　［レベル］2　1ʔ: 制 : 恣意　［文化］　冬には帽子代わりによく使う。ヒュート以北ではフードの端にファーがついており、汗による凍傷を防ぐものが多い。アルバザードのフードにつくファーは飾りが多く、質が良くない。エルトア産が高品質。

elbucᴅ ［生物］僧帽筋　［レベル］5　ɈՈ‹ɈɈ: 脱いだフードの背中のような形をしていることから

elɥənΩcʃe ［軍事］天馬の眼、エリュンディテ　［アクセント］elɥənΩ€ʃe　［レベル］5　zφ:elɟc,ɟzΩ/ɥənΩcʃe　Ɉ1　［文化］　lɥəɟcel

elle ［遊女］［代詞］ʃɥə　［レベル］4　Ɉ1:lcᴅel

ellen ［遊女］［代詞］ʃəın　［レベル］4　Ɉ1:elle

elı ［普通動名詞］報告、通報　［動詞］ɥəl を ı に報告する、報告する、通報する　［レベル］2　1ʔ: 制　［文化］　ρınɟ　報告は発表と違って相手にその行為が求められていることを前提とする。報告は求められた調査結果の説明ともいえる。ゆえに説明の一種である。　【用例】　elı ʅclɟ 詳細な報告　「子供ってなんでも口に入れるよな。ひらめいたんだが」　「通報した」　"ɥəlc ılı eu ʃɔʃıl ı ʅəɔ ʅɔʅɤ ɟee ın ᴅedlcʅ––"　"elıʅ ı nıcn ı"

elıʅ ［名詞］台座　［化学］台座。顕微鏡の。　［レベル］3　μΩ;ele/ıʅɔ「台となる地面のようなもの」　Ɉʔ

elıʅΩclaıc ［医療］温筒灸　μΩ;/。台座を使用する灸。　ɈՈ

elıdcı ［言語］四人称　［レベル］4　1L:lcɔn

elc ［名詞］魚　［生物］魚類　ɑ;eρcı/lcuρɔ「水の命」［レベル］1　古 :elc（水の命）　［語法］　用法が広く、海の生物全般を指す。典型的にはマグロのようないかにも魚っぽい形のものだが、エビやクジラなども指す。ただし貝やヒトデなどは elc の仲間とは見なされない。　プロトタイプは鮪、鯛、鮭。ただし鮭はテージュ海ではなくアルダなど北国から入ってくる品が有名。

elcʅ ［動物］鵜　［レベル］4　ılılʃı:elcʅəʃɔ（魚の鳥）

elcʅı ［名詞］水族館、アクアリウム　［レベル］3　1ʔ: 制 : 魚の場所　［文化］　芸術性が高いと評価され、アルバザードではランスケルンの西部にカレリア水族館がある。南区でない点で、アルバザードにおける水族館の評価が知れる。

elcɟ ［エルト］エリス　［普通動名詞］伝達、コミュニケーション、意思疎通　［動詞］ɥəl を ı に伝達する、ı とコミュニケーションをとる、伝達する、交信する、通信する　［レベル］3　ᴅelʃcı Ոʔ0:elcɟ;e　ᴅel: 古 : メルがはじめに作ったエルトで、元の名は ᴅelcɟ（メルの）という意味だったが、定着する前にメルが elcɟ と名を変えた。当時、メルは５～６歳程度。　［文化］　青白いうす布をまとった成人女性の姿をしたエルト。長い水色の髪の毛を自由に伸ばすことができ、その髪に触れた者に意志を伝達することができる。髪を伸ばして遠くにいる相手とコミュニケーションができる。つまり、生きた有線電話のようなものである。　【成句】　ʃcl elcɟ ı ～とコミュニケーションを取る

elcɟʃ ［魔法］［ジョブ］とりなし、取り成し、とりつぎ、取り次ぎ、取次、エリスト、神結　［レベル］5　ᴅʃ;elcɟ/ʃe「伝達の神エリスのような」　Ɉʔ　［語法］　「ʃ という偉大な神」と「ʅ という聖人」がいるとする。ʃ にお願いをしたいとする。自分で直接 ʃ にお願いするよりも、ʃ に願いを叶えてもらえるよう ʅ に依頼するほうが成功率が高い。というのも ʅ のほうが自分より ʃ と近しい間柄にあるためであり、神とのコネクションが強いためである。このとき、この ʅ のことをとりなしという。とりなしは ᴅʃ のころ、召喚士の台頭とともに興った。

elcɟʃı ［企業］［人名］エリスタ、神結、かみゆい　［レベル］5　ᴅʃ;/elcɟʃ.ʅ　Ɉʔ　［文化］　ᴅʃ でできた極めて歴史の長い企業。ɟᴅ までは神と人間の間の貿易を行なっていたが、ɟᴅ 以降人間の間の貿易業に力を入れ、nΩ では造船業も買収し、現在では世界最大の貿易会社になっている。神との関わりを失った現在でも陰ながら神人貿易部門では取引を続けている。神と人を結ぶというところから神結という。

elcɟnıʅeı ［企業］エリスナケア　［レベル］4　Ɉ1　［文化］　ＮＴＴ、日本電信電話公社、ドコモ、ＫＤＤＩ、ソフトバンクに相当する企業。

elcɟclᴅ ［名詞］連絡帳、連絡ノート　［レベル］3　μΩ;/　Ɉʔ　［語法］　学校の連絡帳だけでなく、会社や様々な場所で使われる連絡帳も指す。

elcɟeʃ ［形容詞］ツーカーな、つーかーな、ツーカー、つーかー、つうかあ　［レベル］3　zφ;elcɟ/ʃe　Ɉʔ　【用例】　ın eʃ elcɟeʃ ı lı. 私と彼はツーカーの仲だ。

elcɑ ［経済］漁業　［レベル］3　1L:ρcΩcı:ıρbılelʃ:elc/ʃıɑl

elcφ ［地学］潟、干潟、ラグーン　［レベル］4　lılʃı

elcbel ［料理］魚料理　［レベル］3　1L　［文化］　マグロが最も一般的に食

べられる。ほかにも北方から輸入した鮭などが食べられる。

elcµ ［単位］ゼタ Ɉ1:ɑelceµ

elcz ［電算］クラウド ［レベル］３ ıl;elcȷ.l。エリス神が髪を伸ばし、自分を中心に遠隔地にデータを送信してコミュニケーションすることから。 Ɉʔ

elczcın ［歳時記］小寒 ［名詞］２３時 ［組み数字］２３／２４ ［レベル］３ Ɉ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

elcscɔn ［アトラスの国家］エリジオン ［レベル］４ Ɉʔ:µcɑcı

elclɔµ ［料理］ちくわ、竹輪、チクワ ［レベル］３ 1L: 魚の筒 ［文化］ あまり食べられない。南区の東洋料理専門店では入手できる。

elcı ［料理］マリネ ［レベル］３ 1ʕ: 制 :elc

elcın ［魔物］エリアン（半魚人）：第四十八天：雷の幻天 ［レベル］５ 1L:µcɑcı/ȷeµen/ɒel:elc/ın ［文化］ 魚族。半魚人の姿をしている。体はうろこがあり、手はカエルのようで、皮膚はぬめり、顔は醜く、声が汚く、くさい息を吐く。魚族だから雷が弱点だと思って攻撃すると吸収される。吸収した雷を使って数倍返しにしてくるので注意。得意魔法は雷。 【成句】 elcın lcul elcın hɔʃ 蛙の子は蛙、瓜のつるに茄子はならぬ

elccɑı ［地球の星座］［ユマナ］うお座 Ɉ⋒ ［文化］ cɑı

elccze ［名詞］［ネガティブ］小娘 ［類義語］ɒcn ［反意語］hılɒın ［レベル］３ µɑ;lccz/ʃe に語頭音 e が添加されたもの。 Ɉʔ

elcczel ［地名］エリーゼル ［レベル］５ Ɉ0:e（左→ここでは対という意味）/lcczel。「リーゼルの向こう側の」 ［文化］ ルティア国中央北部の市。リーゼルとの国境線にほど近いところにある。ルティア市から見て北西にある。イスフィリア錬金術舎があることで有名。非常に川が多い。

elɔ ［名詞］オール、パドル、櫂 ［動詞］ɥəl（水や乗り物など）をı（場所）までオールで掻く、掻く、水をかく、漕ぐ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :eləə :::ɥəlc,ılʃ 【用例】 elɔ ıdl 船を漕ぐ：ɥəl が乗り物のときは水と乗り物の間にメトニミーが働いている。

elɔȷ ［名詞］ポルノ、エロ本、ポルノグラフィー、春画、エロファイル、エロ動画 ［レベル］３ ıl;eȷel/lec。もともと eȷellec と言っていたのだが、技術の進化とともに画像ファイルや動画などができたことから ıl で eȷellec ȷecn が .l して eleȷ となったが、eleȷ という語は四人称とバッティングしたため更に .l してアプラウトし、elɔȷ となった。 Ɉʔ‹eȷel lec:1ʔ: 制 : 淫らな本

elɔn ［被服］ショール ［レベル］４ lıʃlʃı ［文化］ 女性服。ユンクに好まれる。薄い色が好まれる。色はピンク、紫、緑、青系が多い。香を纏わせるため、クローゼットにいれず、部屋に置いておくことが多い。 【成句】 elɔn ʃcȷ ʃcl ɑµınȷe. ショールにすら魔香が宿る：あばたもえくぼ。好ましい女性のものならショールの残り香にすら魔力的な芳香が感じられるということから。

elɔl ［動物］海蛇、ウミヘビ、水蛇、ミズヘビ µɑ;eµ/lɔlɔ Ɉ⋒

elɔlcɑı ［地球の星座］［ユマナ］みずへび座 Ɉ⋒ ［文化］ cɑı

ele ［名詞］台、踏み台、パレット ［数学］台形 ［シェルト］盤 ［化学］ステージ。顕微鏡の。 ［レベル］２ lıʃlʃı: 参考 :ȷɔµn:ehı,ɑıhı（乗る、登る） ［語法］ 一般に何かを載せるもの。燭台なども含む。

eleʃ ［生物］表情、顔つき、顔色 ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 古 el（顔）から ［語法］ 表情だけでなく顔色も入る。ただし、顔色の場合は eel hıµ のように eel を使うのも可。赤は怒りは恥、白は恐怖や病気、青は真剣な怒り。 【用例】 cȷl eleʃ{eel} 顔を読む、表情を読む lı ʃclıʃ eɒ eleʃ{eel} ɑcµ ɒcl ʃə ueµʃ. 彼はその知らせを聞いて顔面蒼白になった（顔が青くなった）。 ɥın lə ȷcnȷcl eleʃ µecı µɔɒel. すると彼女はつと寂しげな表情を見せた。 ɔl eleʃ µını 神妙な面持ちで ȷcnȷ eleʃ ncl µɔɒel 血相を変える

eleʃcȷ ［宗教］エレティス ［レベル］５ 古 :elʃ/leʃcȷ から ［語法］ レティスのうち、エルト派のもの。

elel ［植物］［建築］たな、棚、つる棚、パーゴラ、藤棚、植物などを這わせる棚 ［レベル］４ 1ʕ: 制 :elen/lcb（机、棚）

eleȷ ［代詞］４人称所有格、誰々のもの ［レベル］１ 1L:el に ʃccleȷ などの類推から eȷ をつけたもの

elen ［名詞］テーブル、卓、机、デスク、卓上、作業台、食卓、何かをするための作業台 ［名詞］表→ eɑı ［類義語］eɑı ［レベル］２ 1ʔ: 制 : 恣意 【用例】 zıɒ ʃ'elen 机の脚

elenȷlcl ［名詞］机の椅子 ［レベル］３ Ɉ0

elenφel ［運動］卓球 ［レベル］３ 1L:µcɑcı:ıµbıleıʃ ［文化］ ɑccıφel

elenɔc ［エルト］エレノイ ［レベル］４ 古 :lıʃlʃı ［文化］ 白い大鳥で、乗物や交通を司る。走るのも早く、空も飛べる。召喚士が呼び出して乗ることもできた。ＦＦのチョコボみたいなもの。

eleuc ［人名］エレヴィ ［組み数字］3／１４ ［レベル］4 古 : 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第３使徒。オヴィの実父。名前が多い人で、いくつか呼び名があったが、アルカで付けたとリーザが後に言うこの名を正式採用した。一時期アシェットの引率をした。

eleuclcl ［化学］ネオジム ［レベル］６ 1Δ: 制

eleɑ ［形容詞］［ポジティブ］慎重な、用心深い、注意深い ［反意語］ɔuel ［レベル］２ Ɉ0:enʃleɑ（ゆっくり走るような）

eleɒ ［エルト］エレム ［普通動名詞］審判、審議、審査、審理 ［名詞］審判、アンパイア ［動詞］ɥəl を ɔn について審判する、審議する、審査する、審理する ［レベル］３ 古 :dıl:elɒȷ ［語法］ 日本語の「審判」と異なり、個人が強く判断するという意味でも使う。 ［文化］ 善悪を司り、審判をするエルト。半身男で半身女の姿をしている。 【用例】 ın eleɒcl lı ȷc ʃınȷ lılʃ sɔlɔɒ. 怒り方を見て、彼には人徳がないなと判断した。

eleɒɒcµɔl ［宗教］判定神 µɑ;/ Ɉ⋒

eleɒın ［名詞］審判 ［レベル］３ ɈɈ 【成句】 eleɒın ȷeµ 傍目八目、岡目八目

elez ［名詞］万年筆 ［レベル］３ 1L:elɑe/lız

elelle ［遊女］［代詞］lclcȷ ［レベル］４ Ɉʔ

elellen ［遊女］［代詞］lclcn ［レベル］４ Ɉʔ

elelcll ［植物］ヒラタケ、シメジ ［レベル］３ 1L ［語法］ 日本で通例シメジと呼ばれているもの。シメジとヒラタケはまったく別物だが、日本人はヒラタケのことを通例シメジと呼んでいる。

elecn ［植物］スイセン、水仙 ［花言葉］あなたはきよらかです。 ［レベル］３ 古 : 水の花

elecnı ［形容詞］［ポジティブ］いい意味で不器用な、不器用だが実直な ［類義語］ɑeɒlıȷ ［反意語］ıılɔ ［レベル］3 Ɉ0:elecn/nı ［語法］ 高倉健の「自分、不器用ですから」の不器用に当たる概念だが、不器用と違って elecnı はもともと褒め言葉なので、自分には言えない。人に言ってあげる言葉。 ［文化］ ティクノがポエンを怒らせたとき、口下手なティクノは巧く機嫌を取れず、代わりに黙って水仙をプレゼントしたことから、不器用だが実直なという意味になった。

eləı ［単位］エルア。約１０７．２ｃｍ ［類義語］ɥəɑcȷ ［レベル］４ Ɉ0:ȷeµen/µcɑcı:leµ ləı（足まで）頭から足までの距離＝身長のこと ［文化］ ɥəɑcȷ

eıl ［名詞］面子、メンツ、めんつ ［言語］フェイス ［レベル］６ ıl;eel.l Ɉʔ ［文化］ 言語タグとしては、社会言語学などで用いられる用語。コミュニケーションにおいて、他者に対して示そうとする自分の肯定的なイメージや印象のこと。一般に、ポジティブフェイスとネガティブフェイスに分けて理解される。 相手に認められたい、受け入れてほしいという欲求のポジティブ・フェイスと、相手に傷つけられたくないという欲求のネガティブ・フェイスがある。

eılcȷ ［地名］エアリス湖 ［経済］５０００ソルト札 ［レベル］２ Ɉ1:µc ɑcı:‹›eµcı ［文化］ → ınɑın ılhıɑcµ にある国内最大の湖。 面積 Ɉ9ɬL.⋒⋒L⋒Lʔ lɒ Ɉ。 高度２４３．１ｍ。 深度１５１．２ｍ。

ecu ［サール］エイヴ ［普通動名詞］決闘、一騎討ち、タイマン、抗争。何かの決着を付けるために行う戦い。 ［動詞］ɥəl（相手）と決闘する、決闘する、一騎打ちする、タイマンを張る、抗争する ［レベル］３ 古 :ɔuc: ザナがミルフと結婚する前に、中学のときケンカで勝てなかったセレンに決闘を申し込み、渋谷の小さな公園でやったことから、怨みの私闘だけでなく、何か大切な物事のけじめをつけるために行う文化が作られた。 ［語法］ 日時と場所を決めて行う ʃɔu のこと。あらかじめ勝った場合の内容を決めておく。→ ʃɔu 一対一でも多対多でも ecu。ただし、主に一対一。 ［文化］ 決闘を司るサール。ヴァルファントとカルザスの決闘の日に生まれた。もともと地名。両者はメティオのエイヴに来た。彼らがここに着いたとき、海風と槌が混ざり、戦たる決闘の司サールのエイヴが生まれた。そしてエイヴは彼らの決闘を監督した。 ＜決闘について＞ → ləəd 決闘は何かの決着を付けるため、男性間で行われる。男性間の決闘のみ合法である。ただし µɑ など、女性が力を持っていた時代では男女間の決闘も行われた。 命をかけるか単に勝敗を付けるかは予め当事者間で約束をしておく。前者の場合、相手が死んでも罪には問われない。後者の場合、相手が事故で頭をぶつけるなどして死んでしまった場合、罪には問われるものの、通常の殺人罪よりは軽い。 決闘は名誉を守るため、女性を獲得するため、金品をかけて行うなど、さまざまな目的の下で行われる。ギャンブルではないので金をかけても構わない。女性をかける場合、女性本人が勝者に身を委ねる約束を決闘直前に民衆に向かって行わねばならない。約束をしない場合、その決闘は合法にならない。 武器を使用するか否か、使用するなら何を使うか、場所や日時はどうかなど、細かい設定も予め決めておく。各陣営に最低１人ずつ付添い人が必要である。当日は衆人環視の中行われ、不正があれば卑怯者は民衆によって罰せられる。勝敗がついたと思ったら民衆は勝敗を宣言し、戦いを止める。決闘後は、まず勝者がその場を去る。 ＜申し込み＞ 自分より強い相手か同程度の相手にしか決闘を申し込めない。受ける側は拒否することもできるが、笑いものにされる。ただし、決闘の理由が言いがかりで下らないものであれば、断っても申し込んだほうが嘲笑される。 ＜無血決闘＞ 現代では拳による決闘だけでなく、頭を使った決闘も行われている。試験の成績で競うとか、チェスの腕前で競うなどといった決闘である。無血決闘のみ、女性でも合法とされる。 ＜即時決闘＞ 条件をその場で決めてその場で行う決闘。付添い人がいないケースがあり、民衆がいないケースもあるため、どうしてもその場で行わなければならない事情があるとき以外は行わない。

●舞台裏 ↓語源欄に記載されていた決闘の件だが、関連した日記が見つかったので転記しておく。これにより、細かい時期がわかる。なお、文中でセレンはリディアと結婚したといっているが、これも内輪によるもので、籍は入れていない。セレンが初めて籍を入れるのはその後別の女性とのこと。 Ɉ00Ɉ/0L/10 ＜ザナ夫妻結婚＞ L/Δ にザナとミルフから連絡があった。どうやら結婚するらしい。ミルフから「結婚を申し込みたいのだけど、男の人は怖がって逃げてしまわないだろうか」と相談され、「あいつは君のことが真剣に好きだし、そういう人の傷つけ方をするやつじゃないよ。安心して申し込んだらいい」と答えたのはもう２月ほど前のことだろうか。 つい何日か前に「俺とお前とどっちが強いか勝負しようぜ」と挑戦された。実はミクちゃんに格好つけるためにそういったのだといっていたが、なるほどそういう経緯か。 使徒の中で付き合った最初はオヴィとクリスだったが、結局は俺とリディアが一番に結婚し、その次はザナか。面白いもんだな、人生は。あいつらと会ったときはまだ中坊だったもんな。それがいまや結婚か。うちのカップルは遠距離恋愛が多いのに感心するほどよく続くが、それだけ魅力的なやつらだからだろうな。 例によって式は挙げずに内輪だ

けで祝うそうだ。祝いはやはり集まれないからアンシャンテでってことになるみたいだ。今のところ日程は決まっていないし、やはり俺が承認するんだろうな。　　中坊の頃は暴れん坊だった武器マニアのザナは随分丸くなったよな。ミクちゃんの影響だな。ミクちゃんの方も慰霊旅歌以降すっかり付き合いやすくなったし、どちらもずっと成長した。　　あいつらならきっとうまくやれると思う。幸い、うちの使徒をやるだけあってフランスだのドイツだのといった下らない馬鹿げた歴史に病むような愚か者ではないから、国籍を超えることはたやすいだろう。　ガキの頃から涙が出るほど微笑ましい仲の良いカップルだったもんな。本当にあいつらには幸せになって欲しい。　　大丈夫だろう。あいつらなら絶対幸せにやっていける。　　ザナ、ミクちゃん。どうか幸せに。【成句】 ɹeμs lc(en) ecu 雨降って地固まる：決闘の後のセルジュ。

ecl ［形容詞］軸から遠い、外側の ［名詞］道路や道の端側、サイド、外側、ガイソク、がいほう ［反意語］μɔu ［レベル］2　1L: 制 :ce ［語法］ μɔu

eclſμcɒ ［化学］価電子 ［レベル］5　1L

eclſınſɔı ［化学］最外殻 ［レベル］6　1L

eclſɔɒucɒ ［生物］外腹斜筋 ［レベル］5　μɑ;「外側の腹部の筋肉」。肋骨から始まるので覆うのは腹部だけではない。　Ɉ0<Ɉʔ

eclſeɒ ［生物］外耳 ［レベル］5　1L

eclſeɒɑıcz ［医療］外耳炎 ［レベル］5　1L

eclՈıɒc ［生物］委陽　Ɉ1

eclɉcμ ［生物］表皮 ［レベル］5　Ɉ1

eclɉcı ［生物］硬膜 ［レベル］6　1L

eclɉel ［生物］大陰唇 ［レベル］4　1L

eclncɑ ［言語］外相 ［レベル］6　Ɉ0 ［語法］　内相以外の区間。すべて副詞で示される。内相に比べ、頻度が低い相である。

eclɑlel ［生物］天髎　Ɉ1

eclɑɔ ［言語］側面音、流音の一部 ［レベル］6　1L

eclɒclꞁ ［生物］外膝眼　Ɉ1

eclφɔſ ［生物］外側顆　μɑ;/　Ɉ0

ecldɔɒ ［生物］外くるぶし、外踝、外果　μɑ;/　Ɉ0

ecldɔɒoıl ［生物］外踝尖、外果尖　μɑ;/　Ɉ0

ecllcl ［化学］典型元素 ［レベル］6　1L: 周期表から ［文化］ μɑ でリュウは周期表を魔法顕微鏡などによって速やかに作成したため、典型元素を周期表のデザインに基づいてこのようにネーミングした。

ecllɔbɔ ［電算］［工学］被覆→ ɑıμſınl　ul;/　Ɉʔ

eclı ［化学］ゾル ［レベル］5　1L: 古 :eμcııclıc。古は長すぎたため

eclen ［接続詞］ecl ［被服］アウターウェア ［レベル］3　Ɉ1

ecleɒɹ ［美容］皮下脂肪、セルライト ［レベル］5　Ɉ1

eɔ ［感動詞］え？、えぅー？ ［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ılcɹ

eɔ,ɑ　oclſ

eɔɹ ［気象］霜 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :eehɔɹı（氷の粉）【用例】 eɔɹ ıſ ɹɔɑ. = eɔɹ lənıſ. 霜が降りた。　ɑɔnſ ıſ ɑcμ ɒeμel ɒcl eɔɹ e ſɔlel. 昨日降りた霜で地面が真っ白だった。

ee ［言語］e の文字 ［レベル］1　1Ɉ0: 制 ［語法］　第２４文字目の幻字。４番目の母音字。

eeſ ［経済］株、株式 ［レベル］4　古 :μɥəə: 恣意 ［文化］ ɹɒ で制度が作られ、ul で隆盛した。不確定な予想しか付かないことから、天気になぞらえられることが多い。

eeſՈınſ ［経済］株主優待 ［レベル］6　ɈɈ

eeſſcl ［経済］持ち株会社 ［レベル］6　1L

eeſſcluınſ ［経済］持分法　1L

eeſuenſ ［経済］株式会社 ［レベル］4　1L ［文化］ ul で隆盛した。

eeſɒıɉ ［経済］株券 ［レベル］6　1L

eeſɑıe ［経済］キャピタルロス ［レベル］6　1L

eeſφıμſ ［経済］株価 ［レベル］5　1L【用例】 eeſφıμſ eɒ ɑılſc. 株価が高くなる。

eeſφcɔ ［経済］キャピタルゲイン ［レベル］6　1L

eeſı ［親族］姉 ［反意語］ıɒel ［レベル］2　古 :eeſı、eſſı（姉）。語源不詳。リディアはメルによる日本語の「お姉ちゃん」の発音が語源とするが、ɔneeſՈın から eſſı、eeſı は考えづらいため、非アポステリオリと断定。採用に至る。　::lı elɉc:ɒıɒɒı,ılſ

eeſın ［経済］株主 ［レベル］5　1L

eeſınıμl ［経済］株主資本 ［レベル］6　1L

eeſınıμlɒcɥədıl ［経済］株主資本等変動計算書　1L

eeſıncſı ［経済］株主総会 ［レベル］5　1L

eeſınɔꞁɉ ［経済］持ち分、持分　1L

eeſıneɑı ［経済］株主名簿　1L

eeſel ［丁寧］［親族］お姉さま、お姉様、おねえさま、エーテル ［レベル］2　Ɉ1:l.eeſı ［文化］ lılı ［語法］［文化］ ılɉeμ

eeꞁ ［動詞］ɥəl（水など）を ı（容器、場所など）に注ぐ、注ぐ、酌をする ［普通動名詞］酌 ［レベル］2　古 :eeꞁ（水を川のように） ſıe:ſıe ［文化］ ・酒を注ぐ　　日本のようになくなりそうになるのを見計らって酌をするのはＮＧ。そもそもアルバザード人は頼まれない限り他人に酌をしない。相手の飲みたいペースを相手の好きなように保ってあげるのがアルバザードにおける親切。

eeꞁuccɑı ［生物］［医療］兪穴。五兪穴の兪穴。　μɑ;/「経脈の注ぐ穴」Ɉ0

eel ［動詞］ɥəl を洗濯する、洗って濯ぐ。濯ぐが含まれている。 ［動詞］ ɥəl をゆすぐ、ゆすぐ、すすぐ、漱ぐ、濯ぐ ［受動名詞］洗濯物 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :eelɔ。e/elɔ（水洗い）［文化］　日本と同じ。ある程度溜めておいて家族全員分をまとめて洗う。風呂と違って誰が誰のを洗っても良い。裸はともかく下着はそこらで見てしまうものなので誰も意識しない。洗濯機は全自動の優れたものが備わっている。洗い、濯ぎ、脱水までを行い、更に乾燥機で乾燥をかける。ふつう服をどこかで乾かすことはない。美観を損ねるので、ベランダには干さない。集合住宅の場合、地下に干し場があるのでそこを利用できる。また、家の中に干す場合、部屋干しをする。総じて乾燥機にかけることが多いので干すことは滅多にないが、干さざるを得ないものもある。乾燥機にかけられない布団類やカーペットなどである。これらは地下の干し場や部屋で干すことがある。【用例】 ☆ ın eelıſ ꞁəɔ ꞁɔn eμ ꞁıl. 水を少し口に含んで中をゆすいだ。　ɑcՈ eelɔl 洗濯物を取り込む、とりこむ

eelꞁı ［建築］洗面所（洗濯の場としての）［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ılſe

eelıμ ［名詞］洗濯機 ［レベル］2　1L:μcɑcı:ıμbılelſ ［文化］　洗濯機は縦型とドラム式がある。軟水が多い土地では洗剤の泡立ちが良いため、こすり洗いをする縦型が適している。硬水が多い土地では洗剤の泡立ちが良くないため、叩き洗いをするドラム式が適している。　洗濯機は μſ のアルバザードで開発された。アルバザードはフランスと異なり軟水が多いため、縦型であった。その後硬水の土地に適したドラム型が作られた。　アルバザードでは縦型が普及している。１２年ごろの日本ではドラム式も普及してきたが、これはデザイン上の理由が主である。アルバザードではそのような理由でドラム式は普及していない。　なお、フランスは温度を調節してぬるま湯やお湯で洗う洗濯機が一般的だが、アルバザードでは軟水が多く汚れも洗剤で十分に落ちるため、お湯は使わない。

eelc ［料理］アイスクリーム ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :eehɔlc（甘い氷、アイスクリーム）【用例】 ɑen ꞁəc eelc μıꞁel uecl ſc ſcl ſɔɒɥıc. アイスを食べ過ぎるな、おなかを壊すぞ。

eeɹ ［法律］戸籍、籍 ［レベル］3　古 :eeɹ「名前 eeɹſe」に関連 ［文化］ → μıɒıɉ　地球には日中など、あまり例を見ない文化だが、アルバザードにはある。zφ で徴税目的に作られたのが初めて。神は人数が少なかった上、構成員に変化がないため、戸籍を必要としなかった。ただし神もロゼットの数や身元は管理していた節があり、戸籍の前身のようなものは神代に既に見られた。

eeɹſ ［言語］イニシャル ［レベル］3　1Ɉ0: 制 : 古 :eeɹſe（名前）［語法］ アルカでイニシャルというと頭文字一文字の場合もあるが、名前の中心となる幻字１文字を取る場合が多い。例えば μcɑcı なら ɑcı。ɹeμen なら ɹeμ。このあたりは『ミールの書』に出てくるが、古アルカの知識がないとイニシャルを抽出できないだろう。【用例】 "lə eſ neȣ"　"ɜɒ, ɹɔn ın ꞁə eeɹſ hɔſ lını neꞁſ. ſɔſɔɒccμ ləı"　"ſə neꞁſ ɥəə ı (ılſe" 「それ、誰のこと？」「んー、じゃあイニシャルトークってことで。〇ミールさん」「てゆうか何も隠せてないしｗ」

eeɹſe ［言語］エーステ。主要な幻字。　［言語］エーステ。ある概念が持つ本来的な名前のこと。名前の意味と区別がつかないので、こちらの ɹ の音は ɹeμ の音とする→ μınɉlɔſ ［被服］エーステ。アクセサリー。［魔法］エーステ ［芸術］絵画に入れるサイン ［アクセント］eeɹſE ［レベル］2　ɑ;e　古 :eeɹſe(名前)［文化］ → ɑcıɉoıcn, scd ［言語］　複数の幻字からなる概念において、最も主要な働きをする幻字のことをエーステという。古では名前そのものを意味した。制以降は名前の中核を指す。古では中核を共有することを「エーステが呼応する」といった。ミールとクミールはどちらもエーステがミールであり、エーステが呼応している。ミールのようにひとつのエーステからなる概念は、その字がエーステになる。　また、自分の名前のエーステを象った銀などのアクセサリーのことをエーステといい、アルティス教徒は ɑcıɉoıcn の日に与えられる。神聖な金属である銀で作られていたが、銀はよく錆びるので、手入れが必要。なくすと非常にショックを受けるので、携帯しないものもいる。　現実的には、Ɉ0 年現在リーザはユルト、ルシア、アマヴェル、ハイレンに手作りの銀製のエーステを贈っている。　［魔法］ → μınɉlɔſ　万物にはそれが指し示されるべき音声がある。すなわち概念は固有の音を持つ。　その音声を ɑ や ɑu の音韻で表したものがエーステであり、エルトやサールなど高位の神々がその音声を知ることができた。　　エーステはその概念そのものを指し示すため、呪文学においては概念を直接指示するものとして重宝された。　古語ほどエーステを含む割合が高いため、呪文学ではエーステとともに古語が珍重された。　　呪文学再考後はアルカなどの言語で唱えることに違和感が覚えられなくなった。　　地球と比した際、エーステの存在はこの世界の言語から恣意性を一定の割合で奪うという意味において重要である。　この一意性により、アテンの間に変えがたい存在としての ɑ や ɑu 観を生じ、結果として言語の変化の速度を緩めた。　アトラスでも地球同様言語は変化するが、時代によりその速度は異なる。また、エーステは特に維持されるケースが多かった。　エーステは古語を遡る際に重要な目安となっている。具体的に言えば、エーステを辿ると語源不詳になりにくく、遡りやすい。　　・重複エーステ (ɥɔəeeɹſe)　　nɔ, ɑ(nɔz) と nɔ,ɑ(ɒcı) のように、同じ音韻で異なるエーステを示すことがある。これはエーステが音声の近似値でしかないために起こる現象である。　【成句】 eu eeɹſe ı lecɹ 画竜点睛

eeɹſe,ɑ　eɹſ　e

eeɹſeɒccμ ［言語］エーステ理論 ［レベル］5　ɑ;/　Ɉʔ

eeɹeɹſ ［言語］［法律］戸籍名 ［レベル］3　μɑ;/　Ɉʔ

eeu ［名詞］波、寄せ波 ［物理］波、波動 ［レベル］2　古 :ɹɔμn:eeu（波）【用例】 eeu cꞁ ɹɔɑ. 波立つ、波だった

eeuſeɒɹ ［建築］鎧戸 ［レベル］5　1L

eeu᷊ı ［物理］波源　1L
eeulı᷊ı ［物理］位相 ［レベル］5　J1
eeuɟɔɥcʃ ［物理］振幅 ［レベル］5　1L
eeunen ［名詞］波紋 ［レベル］4　1Ͱ: 制 : 波の跡ではなく模様。跡だと足跡のように既にそこにいなくなくなってないといけないが、波紋は波そのものが作るので跡にはならない。波がある場所及びその周りに波紋ができるので、まだなくなっていないから跡にはならない。【用例】 eeunen eᴅ ɟɔɑ. 波紋が起こる。
eeuucın ［名詞］波力 ［レベル］6　ɥɑ;/　J/ʃ
eeuɑclc ［物理］波長 ［レベル］4　1L
eeuɑeʃ ［名詞］波及効果 ［レベル］5　JJ
eeuɑcl ［建築］防波堤 ［レベル］3　ɥɑ;/「波を防ぐ」 J?
eeuɥəlɔ ［物理］波面 ［レベル］5　1L:eɥɥəlɔ からの類推
eeuı ［物理］ヘルツ、サイクル ［レベル］4　1Ո: 制 : 古 :eeu（波）
eeuıɑcɟ ［法律］波刑　1L ［文化］ 死刑囚を柱にさかさまにくくりつけ、満ち潮と同時に溺死させる。人を船から突き落とすなど、海での悪事に適応される。
eeᴅ ［名詞］ダンボール ［レベル］2　1Ո: 制 :eeu（波）
eeɑel,ɟzɑ　sen　eɑe,ɑu.l
eehɔ,ɑ　uelʃ 「固い水」
eeɥɔ ［遊女］［文末純詞］eɥɔ ［レベル］4　J1:eɥɔ
eeɥe ［植物］スイレン、睡蓮、水連、水蓮 ［レベル］3　ɑɥɑ;「水の」 J?
eeɥen　ʟcuıɥen　ᴅelʃcı 10:ləɑɔ;eɥcı/ɥen
eez ［気象］つらら、氷柱、ツララ ［魔法］エーズ（ブリザド）。水の低位黒魔法。氷柱で相手を貫く。少女時代のリディアの得意魔法。 ［レベル］3　1L:ᴅelcɑcı ılʃe
eel ［生物］顔 ［動詞］ɥəl の顔を ı に向かせる、向く、顔を向ける、振り向く、振り返る ［動詞］ɥəl の指向性を ı に向けて持たせる、指向する ［数学］面積→ eelɑə ［名詞］見開きページ→ lec　ɟeɥʃ ［レベル］1　1?: 制 : 古 :el(顔)　el:el:lə clcɔn（頭が女性なのでその対） ［語法］ 額から顎の先端までの領域。首は含まない。頬など、顔の側面も eel に含むが耳は含まない。　顔のパーツは目、鼻、口であるが、美醜を判断する際の顔という意味においては耳を含むこともある。　日本語だと「顔が綺麗」というと美人やイケメンの意味になりがちだが、アルカだとふつうこのような場合 lı eʃ lınʃ といい、lı ʃcl eel lınʃ とは言わない。後者の場合、顔は良いが体型がとか年齢がといった含意を仄めかす可能性がある。無論言葉通り顔の美しさを強調する場合もある。 【用例】 eel ʟed 悩ましげな顔、難しい顔　eel hın 大きな顔　eel nɔın eᴅ hıɥ cᴅ nı ʃlə. 恥ずかしいと顔が赤くなる。　eel lınʃ 美しい顔
eeՈılı ［地学］正積図法 ［レベル］5　1L
eelɑə ［数学］面積→ eel ［レベル］3　1L: 顔の量（表面の量という意味）
eeldıɟɟɔ ［運動］顔面セーフ ［レベル］2　JJ:ᴅel:「顔は大丈夫」。紫亞とユルトがボール遊びをしていた際、顔面を狙うことを避けさせようとしてメルら大人が作ったルールが「顔面セーフ」。顔に当たった場合は得点にならないという救済措置のこと。 【用例】 "lə uıɑe˥r" "ʃee, ʃə eʃ eeldıɟɟɔ ɑı" 「アウトだろ」「いや、顔面セーフだよ」　cᴅ ˥cʃ, ın lɔʃ ʃə eʃ benɑı ʃıl el scnɟıʃ ʃə eʃ eeldıɟɟɔ. 最初アウトかと思ったが、顔面セーフということになった。
eellınφ ［法律］肖像権 ［レベル］4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ ［語法］ 当然のことながら、顔以外なら無許可で撮っていいという意味ではない。
eelc ［動物］ヒラメ ［レベル］3　古 :eelc（左目の魚）
eelcʃ ［名詞］指向 ［電算］指向性 ［言語］指向性 ［レベル］4　J0 ［語法］ 動詞の無相が暗黙の了解で何相を指すかを示すもの。　経過・完了・継続相のみに指向性が観察される。　状態動詞は常に継続相に指向性を持つ。　行為動詞は経過・完了のいずれかに指向性を持つ。　指向性はアナログで漸次的であり、瞬間動詞のように強く完了相に指向性を持つものもあれば、「殺す」のようにやや指向性を持つものもある。　変化動詞「殺す」は不変化動詞「叩く」より完了相への指向性が強い。　心理動詞 uıʃ のような動詞は経過相への指向性が強い。
eelcn ［美容］輪郭、フェイスライン ［レベル］3　J1:eel/ɥecn
eeleʃ ［名詞］代表、総代、顔 ［類義語］ɟıl ［レベル］3　ɥɑ;eel/ʃe　J?
eə ［擬音］えう ［レベル］1　古 : 古では「うげっ」という嫌悪感が強かったが、音が可愛いので薄れた。 ［語法］ 戸惑いや悲しみを表す。冗語であり、本気で悲しんでいるわけではない。
eə(J) ［ɥenʃe］［文末純詞］ɑeɽ ［レベル］1　J1:ɑeɽ の ɑ 脱落、ɽ 弱化

ə

ə,ɑɥɑ　cd　ȣ
ə˥ıɑ ［地球の国名］ナミビア　1L: 国名が「何もない」
ən ［数学］［接続詞］分数の「分の」に当たる言葉。文法的には接続詞。 ［レベル］3　ɟᴅ;ənlə,ılʃ　前期か中期制アルカあるいは古アルカにもあったかもしれない。元は分子と分母の間に挟んだ「うん」というポーズ音。 ［語法］［文化］ ・分数の書き方と読み方　３分の２は J/? と表記される。両者の和でなく比という意味で / を使っている。　ıɥ になるまでは英語のように分子分母の順番で読んでいたが、凪紗が持ち込んだ ən の影響で、分数は分母分子の順番で読むことになった。従って文字上は J/? と書いても読みは逆から uc　ən ʃı となる。ややこしいが、日本人には容易なはずである。　なお、J/? をそのままの語順で読むと、「２割る３」と読むのと何ら変わりない。これでは分数ではなく四則演算のひとつに聞こえ、分数という概念を作る意味を感じられない。分数というひとつのまとまった項だということを明確にするためにも ən は好都合である。　・分数と ən の歴史　もともと分数自体は神の時代から存在した。ɑɥɑ 人も再発見しており、lɥ 人にも継承されている。lɥ_lɟ では分母を属格にし、分子をそのまま数字で呼んだ。例えば２分の１は「２の１」、すなわち「２が持っている１」と表現した。　これは喩えを使えばすぐ理解できるだろう。「２人が持っている１つのケーキ」と考えれば、１人当たりの分量が「半分」、すなわち「２分の１」だということが分かる。このように、属格を使って彼らは分数を示していた。　ところが ıɥ で属格そのものが無くなると、分母だけ属格にするというやり方に綻びが出てきた。一方この頃 ˥ılenɟcı は非常に勢力が大きかったため、大学や宮殿には大勢のアルティア人学者がいた。この結果 ən が取り入れられ、それが定着して現在に至る。
ən,lʃɑ　男性不定冠詞、uc˥ɑc˥uınʃe　lən,lՈ.ʟc˥
ənlə,ılʃ　ᴅıʃ
ənc ［擬声］にゃーん ［幼児］［動物］猫、ネコ、ねこ、ねこちゃん、にゃーにゃー、子猫 ［類義語］˥eʃ、ᴅcc˥ɔ ［レベル］1　ɑu;ɑɔueʃ　ɥcɑcı: 古
ənclec ［ユマナ］［娯楽］ねこにっき　古 :ɥcɑcı: もとはかつてリディアが書こうとしていた本の名前。その後セレンによる漫画の名として採用された。この時点では紫苑の書のパロディだった。メル 1L 年にセレンが「あずまんが」のフィンランド語版を読んでいた際、「アルカを読めない人間の目には、このように映っているのだろうな」と感じたことからできた企画。 ［文化］ 原作セレンによる４コマ漫画。アルナ大に通う４人の少女の日常を描いたもの。主人公はしあ、みーふぁ、ゆーれ、ふぇーるの４人。主題はなく、ストーリー性もない。ゆるい空気とまったりしたユーモアを提供するための漫画。
əncıld ［企業］ウニアルプ　J1 ［文化］ クロネコヤマトに相当する企業。
əncɔᴅ ［動物］ポメラニアン ［レベル］6　J1: 猫犬
ənəɟ ［普通動名詞］死刑、斬首 ［動詞］ɥəl を死刑にする、斬首する、首を切る ［類義語］scɔ ［レベル］3　ɑu　赤 ［語法］ 赤では ılənəɟ でお家断絶の意味。ənəɟ 単体は斬首と死刑の意味。 ［文化］ ıɑcɟ
əᴅʃɔnı ［組み数字］１６／２８ ［交通］ウムトナ通り ［レベル］２　JJ
əᴅʃɔnı uıʃeɟ ［人名］ウムトナ＝ヴァテス ［組み数字］１６／２８ ［レベル］２　古 : 語源不詳 :uıʃeɟ は「電気が嫌い」の意。 ［文化］ (J →) 第４期４代ソーン第２使徒。女性。ıᴅᴅı/φınɔ。１７０ｃｍ、５８ｋｇ。髪は亜麻色で背中まで届き、少しくせっ毛。三つ編みを二本にしていることが多い。茶色の瞳。肌は白：黄＝６：４。
əᴅʃɔ uıʃeɟ ［人名］ウムト＝ヴァテス ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第２使徒。異性魔王。
əᴅc ［名前］うみ　J1 ［文化］ 『ねこの郵便屋さん』の登場人物。「うみぃ」と鳴くので「うみ」とこよりが名付けた。
əᴅc ɑel ıldın 『ねこの郵便屋さん』 J1 ［文化］ セレンによる小説。セレンは自分のあらゆる作品の中で最もこれを好んだ。　カテージュに住む少女こよりは、ある日一匹の猫と出会う。こよりはその猫に「うみ」と名付ける。　こよりがブラッシングして帰してやると、別の日にうみがまたやってくる。首輪には飼い主からの手紙が下げてあった。「きれいにブラッシングしてくれてありがとう。ウチではこの子をモモンと呼んでいます」 ひなたという少女の手紙にこよりは返事を書き、うみの首輪に取り付ける。こうして少女たちの奇妙な文通が始まった。　言語は敷居が高いが架空の世界には興味があるという読者のために、日本語でアルバザードの文化を読める小説としてメル 1L 年に作られた。
əφ ［動詞］ɥəl をうならせる、唸る、うなる ［再帰動名詞］うなり、唸り、唸り声、うなり声 ［レベル］3　1L:ɟeɥen:ᴅelcɑcı。オノマトペから。
əɥıl ［地球の国名］台湾、タイワン ［レベル］5　J1: 古 ə ɥıl ɥıl は恐らくここを指したと思われる。国名扱いとする。
ə ɥılɥıl ［地名］ウ・ラルラル ［レベル］4　古 ［文化］ アルティアの南側にある自治区。オタク産業の中心地。神なる二次元の国。ここのアルティア人は l と ɥ の区別をするため、lıl でなく ɥıl という。　古では日本のようなＩＴ技術国を指した。
əɥc˥ı ［料理］きなこ、きな粉 ［レベル］3　ɟᴅ;əɥc˥ı,ılʃ ＜ əɥcı,ılʃ/˥ı/ılʃ「黄色い粉」 JJ ［文化］ ɟᴅ に流入。ul の健康ブームで全土に広まる。料理に加えたり砂糖を加えたり牛乳に入れたりする。
əɥcı,ılʃ　cᴅel　səɥ,ɑ/cı.ʟc˥
əz ［サール］ウズ ［レベル］5　古 :ɟeɥen:lı˥ʃı ［文化］ 狼の化身。狼の姿をしている点ではシェルテスと同じ。狼を司る。茶色の毛で全身が覆われているが、戦意を表わすと毛が赤くなる。赤のうちはまだいいが、完全に戦意が沸ききると毛が青味がかって総毛立ち、目も青くなる。こうなると獰猛で手が付けられなくなる。
əoı ［感動詞］こら ［類義語］ɔɽı ［レベル］1　古 : こらっ！ ［語法］ 怒っているときの呼びかけ。ɔɽı よりは怒っていない。「うわ」というより「わっ」に近い発音。
əoe ［植物］スミレ、菫、すみれ ［レベル］3　1?: 制 :lı˥ʃı:ɥɥəəoe。使徒リュウが髪を少し紫に染めていたことがあったことから。
əl ［接続詞］～か～、か、や ［論理］弱選言 ［反意語］ız ［レベル］1　J0:ız のメルテーブルで cs。これが J0 年まで。cs がソーンで弱化して co になり、cə になり、ɥə に。受動態とぶつかるため、メルを通じてセレンに相談が来て、空いていた ɥı を選んだ。同日夜中にソーンから否決され、アノの提案で空いていた ə になった。JJ に ɔ と ə が似すぎて区別が付かないことが問題になり、ə は通常 ənʃ を使うことにしたが、これが ɔ の ɔnʃ と似すぎるため、セレンが ə/ənʃ 自体を取りやめて əl に一本化した。 ［語法］ 「əl」は、「か」あるいはそのどちらも。

｢ ɪz ｣は、｢か｣どちらか片方のみ。　　əl は等位接続詞なので｢ əl ｣が過去の内容だと、｢も｣も過去形になる。ɪn ləlɪʃ əl leɑɪʃ（私は歩いたり走ったりした）。　　・黙字について→ ɔ
əl(ɹ) ［化学］［接尾辞］～化物を作る　1L:ʃəl ［語法］ 開音節では l。　ｏｘｉｄｅのーｉｄｅなどと同様。ただし、具体的な化合物中では使えない。化合する相手が分かっていない場合の総称。hɪnəl で「塩化物」一般を指すが、塩化ナトリウム中では ʃcʃhɪn となる。英語はＳｏｄｉｕｍ Ｃｈｌｏｒｉｄｅになるが、英語とは異なるので注意。
əlɪnɟlɪ ［名詞］ウランスカ、安楽死場 ［レベル］３　J0:əlɪnɟe/lɪ ［文化］ əlɪnɟe　・古代　　古代に病人や兵士のために施設された安楽死のための機関。魔法ウランセにより、苦痛のない眠るような死を迎えることができた。死体は氷の魔法で氷棺に安置された。　後に人口が増えると墓場の敷地の問題で火葬となり、氷棺は葬式までの風習となった。　　・現代　　→ uɔµʃlɪnφ　魔法が衰退してからは麻酔の吸入と化学物質の注射等による安楽死に移行した。ls 以降のアルバザードでは安楽死が認められており、福利厚生として国民は享受する権利を有する。国民のための施設であるため、外国人および未登録の人間は享受できない。
əlɪnɟe ［医療］安楽死 ［動詞］ɥəl を安楽死させる ［魔法］ウランセ。害の高位白魔法。苦痛のない速やかな死をもたらす。 ［組み数字］１０／１１ ［レベル］３　ɑu　古 :əlɪnɟe（ウランセという架空の物質または安楽死させる物質や方法の総称） ［文化］ əlɪnɟlɪ　アルバザードでは認可されており、公的機関で薬物等を使った安楽死が行われる。安楽死の自由があり、理由や年齢などを問わず受けることができる。ウランセが発達しているため、自殺率が少ない。ウランセも入れると多くはなるが。
əlɪnɟeʃ ［魔物］ウランセット（安死鬼）：第十八天：水の氷天 ［レベル］５　1L:µcɑcɪ/ɟeµen/ɒel:əlɪnɟe と ɟeʃ の混成。「安楽殺」の意。 ［文化］　皮をすべて剥がされ、血管と神経がすべて剥き出しになっている魔物。大剣を持ち、怒号を上げて暴れる。「いたい、いたい、くるしい、くるしい。お前にもこの痛みを……」と啼きながら襲いかかってくる。剣に切られるとウランセットと同じ状態になり、肉がむき出しになって地獄の苦しみを味わって死ぬ。また、水の禁呪魔法の使い手でもあり、凶悪さではアデルの中でも最高クラス。そのため仲間が犠牲者になったら苦しまないうちにすぐ刺し殺してやる。そのことからこの名がついた。
əlɪlɪ ［音楽］ラララ、ｌａｌａｌａ、ウララ ［類義語］əlɪlɪn ［レベル］３　ɑ;ɑɔueʃ　古 :µcɑcɪ ［文化］ 音楽などで特に歌詞がない部分を埋め合わせるために使う言葉。əlɪlɪlɪlɪ といくらでも lɪ を伸ばせるが、最後は lɪ か lɪn で終わらせる。
əlɪlɪn ［音楽］ラララ、ｌａｌａｌａ、ウララン ［類義語］əlɪlɪ ［レベル］３　ɑ;ɑɔueʃ　古 :µcɑcɪ ［文化］ əlɪlɪ
əlcel ［アトラスの国家］ウリエル ［レベル］５　J?:µcɑcɪ
əlɔ ［人名］ウロ ［魔法］ウロ（フレア）。火の高位白魔法。核爆発を起こす魔法。　lɪlɔ: 語源不詳。古アルカでの意味はなし。 ［組み数字］５／１１ ［レベル］３ ［文化］ (ɥəəɒɪ ʕLΔɱ)　ɥəəɒɪ ʕLΔɱ イクスタン、トリステとの間に息子 əlɔ を授かる。強力な魔力を持って生まれたウロに王は喜び、旧アルティリアの高官たちは暗殺を企てる 【成句】 ʃe{ɷen} ɔn ɪl əlɔ nɪeɟ 不機嫌なウロに関わるな：触らぬ神に祟りなし　əlɔ µecɥeʃ 気紛れな皇帝：朝令暮改
əlɔɟ ［政治］ファシズム ［レベル］５　1?: 制 :əlɔ
əlɔɟɪn ［政治］ファシスト ［レベル］５　1?: 制 : ファシズムの者
ələɪ ［被服］ピアネッレ、高下駄、オーバーシューズ、ショピン、チョピーン　ɟɒ;hɥə/ləɪɟ　Jɱ
əcl ［名詞］谷、渓谷 ［物理］波の谷 ［反意語］oɪl ［レベル］３　ɑ;e　古 :oɪl の語源となった語　əcl:əcl 【用例】 əcl ɷɪn 深い谷　ɪn leʃ əcl ɔl lcʃe. 家族で渓谷に行った。
əclʃeeze ［気象］谷風 ［レベル］４　ɑu;/　J?
əclµecn ［数学］上向きの放物線 ［レベル］４　1L
əclzeʃʃ ［名詞］谷底 ［レベル］３　µɷ;/　Jɱ
əclɔu ［文化］上向きの放物運動 ［レベル］４　1L
əə ［言語］ə の文字 ［レベル］１　1ɱ: 制 ［語法］ 第２５文字目の幻字。最後の母音字。
əəɷe ［感動詞］ご愁傷様です、残念です、かわいそうに、我慢して、残念 ［レベル］１　ɑ;e　古 :「がまんして」「残念です」。「我慢する」という意味もそのまま残っていた。　əəɷe:əəɷe:əəɷe
əəɷeφcl ［名詞］慰謝料、見舞金 ［レベル］４　1L:µcɑcɪ:ɪµbɪleʃʃ ［文化］ 犯罪被害者はそれが自作自演の場合を除いて、加害者から慰謝料をもらえる。また、加害者に財産がない場合、税金から賄われる。無駄な道路に金は使うくせに、被害者の慰謝料を払ってやる気などない日本とは根本的に違う。　離婚や別居の場合、過失があるほうが支払う。
əəφ ［感動詞］ううー、うぅー ［レベル］１　ɑ;ɑɔueʃ　J?
əəzen ［物理］ハウリング ［レベル］５　J1:「ウズの」

ɜ

ɜʃʃɪ ［南方］［接尾辞］副詞を作る ［レベル］３　J1:ʃe

ɪ

' ［約物］ɟeleʃ ［レベル］１
'ɥəl,ɟzl　ɒɔɷ、nel　hɥə,ɑ/le,ɑ
'ɥəll,ɟzl　ɪlʃc　'ɥəl,ɟzl/ɪl,ɑ "lɔµ le ɑɪl eɒ nel cʃ"
'ɥəlɪʃ　hɪlʃ
'ɔµʃ,ɟzɷ　hɪµʃ　hɔµʃ,ɑu.l
'ɔµeʃʃ,ɟzɷ　ɒccl　heµen/ʃeeze「リンゴのような」。ɗu 末期のシージアで栽培されたリンゴに緑のものが多く、赤の heµen に対して緑のほうを heµeneʃʃ と呼んだ。それがやがてリンゴ全体を指すようになるとともに、語形も時を経るごとに 'ɔµeʃʃ に変化していった。
'ɔlɔ,ɟzɷ　hɔlɔ　hɔlɔɔ,ɑu.l
'eʃʃ,ɟz　lcɑ

ɪlʃ

[［約物］ɔɟnɪµucs ［レベル］２
［約物］ɪlʃcld ［レベル］４
] ［約物］heʃɪµucs ［レベル］２
_ ［約物］ɒɔµen, ɟclɪ ［レベル］２
{ ɔɟnɒɪɪɒ
| hɪɟµecn, lcl
} heʃɒɪɪɒ/ ［約物］lcld, ɑeɟʃ, ɔ, ən ［レベル］１ ［語法］ ʃcɑ
ɼ ［約物］ʃeɒdeµɪ ［レベル］１
" ［約物］nɔµɒ, ləleµʃ ［レベル］２
ɼɼ ［約物］ɪlʃeɒdeµɪ ［レベル］２　JJ
ɼȣ ［約物］ʃeɒdeµɪləənɔ ［レベル］２　JJ
% ［約物］ɔlɟφɪl ［レベル］１
(［約物］leµʃ, ɔɟnleµʃ ［レベル］１
(ʃu ［天秤詞］(ʃəuɪn ［レベル］２　JJ
(ʃuɷµ ［天秤詞］(ʃəuɪnɷəəµφɪ ［レベル］３　JJ
(ʃul ［天秤詞］(ʃəuɪnɪlcɟ ［レベル］３　JJ
(ʃuɪ ［天秤詞］(ʃəuɪnɪlʃe ［レベル］３　JJ
(ʃɒ ［天秤詞］(ʃeeɒɟ ［レベル］２　制
(ʃeeɒɟ ［天秤詞］恐怖、畏怖、畏敬、驚き ［レベル］２　制
(ʃəuɪn ［天秤詞］汗、緊張、ぷるぷる、ふるふる、プルプル、フルフル ［レベル］２　JJ
(ʃəuɪnɷəəµφɪ ［天秤詞］緊張、動悸 ［レベル］３　JJ
(ʃəuɪnɪlʃe ［天秤詞］苦笑、動揺して汗をかくような笑い ［レベル］３　JJ
(ʃəuɪnɪlcɟ ［天秤詞］苦笑、汗をかくような不安 ［レベル］３　JJ
(l ［天秤詞］(lceµ ［レベル］２　制
(lʃ ［天秤詞］(ɪleʃ ［レベル］２　JJ
(ln ［天秤詞］(lɪnʃe ［レベル］１　制
(lnɪ ［天秤詞］(lɪnʃeɪlʃe ［レベル］４　JJ
(lɪnʃe ［天秤詞］喜、♪、楽、上機嫌、気楽、のんびり、ほのぼの ［レベル］１　制 ［文化］ ɪµoɪnʃ
(lɪnʃeɪlʃe ［天秤詞］上機嫌な笑い、爆笑、大爆笑 ［レベル］４　JJ
(lceµ ［天秤詞］悲、哀 ［レベル］２　制
(ɟl ［天秤詞］(ɟeleɟʃ ［レベル］２　JJ
(ɟlɪ ［天秤詞］(ɟeleɟʃɪlʃe ［レベル］４　JJ
(ɟeleɟʃ ［天秤詞］困惑、困る、当惑 ［天秤詞］混乱、困惑。ȣ(ɟeleɟʃ の形で。［レベル］２　JJ
(ɟeleɟʃɪlʃe ［天秤詞］困ったような笑い、戸惑った笑い、ごまかし笑い、当惑笑い、困って誤魔化すようにあるいは自然と出る笑み ［レベル］４　JJ
(ns ［天秤詞］(cnse ［レベル］２　JJ
(un ［天秤詞］(uccne ［レベル］２　制
(unɪ ［天秤詞］(uccneɪlʃe ［レベル］４　JJ
(uccne ［天秤詞］沈静、鎮静、テンション低い、ローテンション、がっかり、元気ない、しょんぼり、ショボン ［レベル］２　制
(uccneɪlʃe ［天秤詞］呆れ笑い ［レベル］４　JJ
(ɑ ［天秤詞］(ɑleɪ ［レベル］２　制
(ɑʃɒ ［天秤詞］(ɑleɪʃeeɒɟ ［レベル］４　JJ
(ɑhz ［天秤詞］(ɑleɪhɪczen ［レベル］４　JJ
(ɑleɪ ［天秤詞］怒 ［レベル］２　制
(ɑleɪʃeeɒɟ ［天秤詞］怒りや興奮の篭った驚きや恐怖 ［レベル］４　JJ
(ɑleɪhɪczen ［天秤詞］激怒、激高、激昂、弾劾 ［レベル］４　JJ
(ɒl ［天秤詞］(ɒɥəleʃ ［レベル］２　JJ
(ɒɥ ［天秤詞］(ɒɥəlɪ ［レベル］２　制
(ɒɥəlɪ ［天秤詞］不快、つまらない、不愉快、不機嫌 ［レベル］２　制 : 制のときは「無関心」だったが、これは ɟclɪ で表現できるので変更。
(ɒɥəleʃ ［天秤詞］愛、恋、ハート、はぁと、ハートマーク ［レベル］２　JJ
(ɷµ ［天秤詞］(ɷəəµφɪ ［レベル］２　制

(ɑɲɪ ［天秤詞］(ɑəəɲφɪɪlʃe ［レベル］3 ⅃⅃
(ɑəəɲφɪ ［天秤詞］興奮、テンション高い、ハイテンション、元気、やる気、ハツラツ ［レベル］2 制
(ɑəəɲφɪɪlʃe ［天秤詞］爆笑、大爆笑 ［レベル］3 ⅃⅃
(hz ［天秤詞］(hɪczen ［レベル］2 ⅃⅃
(hzɪ ［天秤詞］(hɪczenɪlʃe ［レベル］3 ⅃⅃
(hɪczen ［天秤詞］弾劾、叱咤、訴求、追及、叱責 ［レベル］2 ⅃⅃
(hɪczenɪlʃe ［天秤詞］からかい笑い、苦笑、ツッコミ、つっこみ ［レベル］3 ⅃⅃
(ɲʃ ［天秤詞］(ɪɲʃe ［レベル］2 ⅃⅃
(l ［天秤詞］(ɪlcʝ ［レベル］2 制
(lʃu ［天秤詞］(ɪlcʝʃəuɪn ［レベル］4 ⅃⅃
(lʝ ［天秤詞］(ɪlceʝ ［レベル］2 ⅃⅃
(lu ［天秤詞］(leeue ［レベル］2 ⅃⅃
(luɑɲ ［天秤詞］(leeueɑəəɲφɪ ［レベル］4 ⅃⅃
(ls ［天秤詞］(ɪls ［レベル］2 ⅃⅃
(lɪ ［天秤詞］(ɪlcʝɪlʃe ［レベル］3 ⅃⅃
(leeue ［天秤詞］泣、涙 ［レベル］2 ⅃⅃
(leeueɑəəɲφɪ ［天秤詞］泣きそうなほど興奮、「あぁもう泣いちゃうくらいですよ」というハイテンション ［レベル］4 ⅃⅃
(ɪ ［天秤詞］(ɪlʃe ［レベル］1 制
(ɪlʃe ［天秤詞］笑、w ［レベル］1 制
(ɪlʃehɪczen ［天秤詞］怒りきれない訴え、ツッコミ的な怒り、若干笑いのある弾劾 ［レベル］4 ⅃⅃
(ɪleʃ ［天秤詞］感謝、ありがとう、助かったよ ［レベル］2 ⅃⅃
(ɪhz ［天秤詞］(ɪlʃehɪczen ［レベル］3 ⅃⅃
(ɪɲʃe ［天秤詞］祈り、お願い、依頼、よろしく ［レベル］2 ⅃⅃
(ɪls ［天秤詞］恥、照 ［レベル］2 ⅃⅃
(ɪlcʝ ［天秤詞］不安、心配、緊張 ［レベル］2 制
(ɪlcʝʃəuɪn ［天秤詞］冷や汗、不安の汗 ［レベル］3 ⅃⅃
(ɪlcʝɪlʃe ［天秤詞］不安な笑い、不安を隠すような笑い、戸惑った笑い、戸惑いのあるツッコミ ［レベル］4 ⅃⅃
(ɪlceʝ ［天秤詞］自虐、爆、自爆 ［レベル］3 ⅃⅃
(cnse ［天秤詞］謝罪、ごめんなさい、すみません、サーセン ［レベル］2 ⅃⅃
) ［約物］ʅeɲʃ, heʃleɲʃ ［レベル］1
× ［約物］ɟcoɪlɪ, hɪnʃ ［レベル］1 ［語法］ʃcɑ
+ ［約物］dɔʅ ［レベル］1 古 ［語法］ʃcɑ
, ［約物］ʃjənʅ ［レベル］1
,ᒣ ［約物］ɒɔzʃeɒdeɲɪ ［レベル］2
,ᒣᒣ ［約物］ɒɔzɪlʃeɒdeɲɪ ［レベル］2 ⅃⅃
,ᒣᘓ ［約物］ɒɔzʃeɒdeɲɪʅəənɔ ［レベル］2 ⅃⅃
,ᘓ ［約物］ɒɔzʅəənɔ ［レベル］2
,ᘓᒣ ［約物］ɒɔzʅcɒ ［レベル］2
,ᘓᘓ ［約物］ɒɔzɒclees ［レベル］2
,_ ［約物］ɒɔzjcʅɪ ［レベル］2
,| ［約物］ɒɔzʅcl ［レベル］2
– ［約物］ʃcɑ, jeɲec ［レベル］1 ᑦ ［語法］ʃcɑ
–– ［約物］ɒcl ［レベル］2
. ［約物］φɪcn ［レベル］1
... ［約物］uccnʃ ［レベル］1
0 ［名詞］ɥəə ［レベル］1
1 ［名詞］ʅɔ ［レベル］1
10 ［名詞］ɔn ［レベル］1
100 ［名詞］φɪl ［レベル］1
1000 ［名詞］ʅɔʃ ［レベル］2
10000 ［名詞］jen ［レベル］2
⅃ ［名詞］ʃɪ ［レベル］1
ᑦ ［名詞］uc ［レベル］1
ᗰ ［名詞］uɪl ［レベル］1
ᒣ ［名詞］lcn ［レベル］1
ʕ ［名詞］ʅcʝ ［レベル］1
ᑫ ［名詞］nɔl ［レベル］1
Δ ［名詞］ʃen ［レベル］1
L ［名詞］lɔʝ ［レベル］1
: ［約物］ɪlɔʃ ［レベル］1
; ［約物］φɪlɔn ［レベル］1
< ［約物］ʅɪlʃ ［レベル］2
= ［約物］ʅɔʅ ［レベル］1
> ［約物］nɔɑ ［レベル］2
ᘓ ［約物］ʅəənɔ, ʅəənɔʝʃecɲɪ ［レベル］1
ᘓᒣ ［約物］ʅcɒ ［レベル］2
ᘓᘓ ［約物］ɒclees ［レベル］2

付録 1

アルカ論

目次

総論

アルカはほかの人工言語とどう違うのか 454
アルカの人工言語学的な意義 454
ファンタジー論 455
なぜ今まで幻奏のような作品がなかったのか 461
アルカは英語に似ているか 463
音声学・音韻論 464

音

アクセント 465
アクサン考 467
オノマトペ 477
アトラスの国際音声字母 479
粗野な発音 482
回復点 483
綺麗な言語 484
幻字の発展 487

文字

表音幻字（幻字） 488
表意幻字（幼字） 492
天秤詞 495
幼字の字源 496
幻京書体崩壊の危機 498
属格 499
呼格 499
代名詞の代入 499
nos の使い方 499

文法

xe と fi の語法 500
xe と fi の細分化 501
アスペクト考 501
アスペクト論争の流れ 505
アスペクト考の術語集 506
反復相はなぜアスペクトと呼ばれるか 508
時制の一致 508
動詞マーカー 509
複合時制 510
知覚動詞の自発性 510
移動動詞 510
副詞の順序 512
性質と状態 512
否定の度合い 513
部分否定と全部否定 514
アルカの NA 構造は変化するか 514
確定条件と非確定条件 515
過去命令形 515
自己命令形 515
定義動詞 516
et と es の違い 516
相副詞と時制副詞 517
複合語中で左の形態素は格と品詞情報を失う 517
派生語 518
幻日を巧く使う方法 519

語彙・辞書

幻日辞典の書式のアプリオリ性 521
人工言語の目標語彙 524
親族名詞 526
指小辞 527
体系上は不必要な単語 528
数学的帰納法 (lantahaal) に見る、アプリオリにおける命名の厳しさ 528
造語前の検討 528
アルカの辞典 530
セレンの辞典とリディアの辞典 530
説明書 531

ディアクレール

ｄｋの語例 535
記事の作成手順 537
ｄｋの問題点 539
前時代の残滓 540
人工言語の作りこみと辞書の発展 541
一言語辞典は「覚える＞調べる＞書く」の順で大切 544

人工言語の辞書に必要な語彙 544
人工言語の辞書に必要な語彙２ 545
総合辞典の百科欄 546
百科事典と造語 546
人工言語の辞書と参考にする辞書 547
ｄｋのサイズ 548
母音の頻度から分かる自然性 548

通時論

ＳＯＶ，ＶＳＯ→ＳＶＯへと発展する語順 549
語順の文法化 549
異世界における言語の変化 549
無いはずのものが無いというリアリティ 550
位相 551

文化・歴史・方言等

歳時記 553
文化の伝来 553
南方語 554
南方語文法 554
遊女語 555
人工世界と倫理観 556
理念 556

リディア語

構造 561
人工世界とは 563
定義と具現化 563

人工世界

地図考 564
サイトの右上にあるロゴについて 565

特別読物

経済と体力 566
制作環境 567
ネイティブの恐ろしさ 567
アルディアこぼれ話 567
人工言語屋の仕事 570
歴史に残るには 573
未来人との戦い 574
ネイティブ考 576
fial 583

イルムス

vaste 589
saria 591
cavas 592
azger 593
mertena 598
kako 603
selmel 612
ordin 614
nadia 616
artil 616
velei 617
aleiyu 618
lanj 620
世界人口の推移 620

総論

アルカはほかの人工言語とどう違うのか

1: アプリオリな人工言語を持っている

新生アルカは古アルカや制アルカをベースにできている。
これらはどちらもアプリオリである。簡単にいえば、英語などの自然言語をパクっていないという意味である。
ただし、完全に自然言語を排他してアプリオリになりきったのは中期〜後期制アルカ以降である。

J: アプリオリな人工文化を持っている

アルカは独特の人工文化アンティスを持っている。
avom（狼）は軍隊と兵士の象徴で、獰猛、残忍というマイナスイメージより勇猛果敢というイメージがある。

これは文化設定を持たない言語では決定できない。文化設定がないと狼のイメージを定義できない。
文化がなくても狼という生物の種としての名前は定義できるが、象徴やイメージは設定できない。

?: アプリオリな人工風土を持っている

アルカは独特の人工風土アトラスを持っている。アトラスは架空の地球にあたる。
アルカがメインで使われる国家アルバザードは地球でいう南仏に相当する。
小麦が主食なので、pof（パン）や koka（スライス）などが単純語として分化している。逆に、米と稲は同じ単語 past になる。
風土設定がなければ、世界をどのように切り分けるかが定義できない。

なお、人工文化アンティスと人工風土アトラスを足したものを人工世界カルディアという。
人工言語アルカと人工世界カルディアを足したものを幻奏という。

01: 言語・文化・風土ともにアプリオリで、しかもここまで作り込まれているのは幻奏だけ

言語・文化・風土ともにアプリオリで、しかもここまで作り込まれているのは幻奏以外に存在しない。（2010年）
また、実際にネットや現実で使われているアプリオリ言語という点でも非常に特徴的である。（同年）
（一般に、アポステリオリ人工言語のほうが実用されやすい。アプリオリの実用は難易度が高い）

エスペラントなど、有名なものはアポステリオリである。
アポステリオリというのはいわゆる自然言語をパクった言語のことである。
アプリオリと比較するとアポステリオリは手間がかからないのですぐ作れる。

まとめ

アプリオリと何度も繰り返しているとおり、オリジナリティや作り込みがアルカの特長である。
オリジナルの語彙、独特の架空の文化など、「何にも依存しない、純粋な空想の世界」を紡ぐところに重点を置いている。芸術的要素に特化している。

アルカの人工言語学的な意義

言語と文化と風土がすべてオリジナルであるという点。そしてそれらを詳細に創り込んでいるという点。
この組み合わせが人類史上初の試みであり、そこに学問的・芸術的な意義がある。

古アルカは自然言語が流入していたし、制アルカは機械的で人間の言語とは言えなかった。つまり作り込みが足りない。
新生アルカは純粋に「架空の自然な言語の制作」であり、どこまで作り込めるか試すことに学問的および芸術的な意義がある。

これは最も国際補助語とかけ離れた方針である。エスペラントの場合、いかに普及できるかということが念頭にある。
言語の普及は社会活動であり、言語活動とは別物である。エスペラントと違ってアルカの作者の専攻は言語学だったこともあり、社会的な活動よりも言語的な活動のほうに興味がある。アルカの作者がむやみにアルカを広めようとしないのもここに理由がある。

現行の人工言語の世界はエスペラントを中心とする国際補助語の独擅場である。

エスペラントが価値観の尺度であり、パラダイムですらある。価値観が国際補助語だけに偏っている。
アルカの存在は新たな価値観を提案する。この意味で、アルカは人工言語史上の意義がある。

ファンタジー論

※本説は講座「はじめてのアルカ」に採用された会話形式で書かれています。

レイン：今回はファンタジー論についての座談会なのですが、とても難しいお話しなので、読み通すには根気がいると思います。

●幻奏とリアルファンタジー

アリア：まずは用語の導入から。
人工言語アルカと人工世界カルディア。この２つを合わせたものを arxidia（幻奏）というの。

紫苑：言語は世界の一部だから、アルカはカルディアに含まれるんじゃないの？
なのに２つ足してようやく幻奏っていうのはおかしくない？

アルシェ：言語を作る労力があまりにも大きすぎて、世界を作る労力と同じくらいになってしまったから、この２つを同等のものとみなしているんだよ。だから２つ足して幻奏って呼んでいるんだ。

紫苑：なるほど。
この HP のタイトルは『人工言語アルカ』だけど、人工世界カルディアについても説明しているから、実際には「幻奏」が HP のテーマなんですね。
幻奏って、「幻を奏でる」って意味ですよね。要するにファンタジーの一種ってことですか？

アルシェ：あぁ、そうだよ。
ところでファンタジーっていっても色々あるよな。ものすごく詳細に作り込まれたリアルなやつとか、子供が書いたような荒唐無稽なやつとか。
また、作品の舞台が現実の世界か架空の世界かいう分類もある。

レイン：現実を舞台にしたものはローファンタジーというの。
架空の世界を舞台にしたものはハイファンタジーっていうんだよ。
ウチの幻奏の場合、ハイファンタジーに属することになるね。惑星アトラスや人工世界カルディアは異世界のお話しだから。

アリア：一方、詳細に創り込まれた世界観を持つ作品のことを、ハードファンタジーというのよ。トールキンの『指輪物語』などがそうね。
対して、そこまで世界観を創り込んでいない作品は、ライトファンタジーと呼ばれるわ。事実上、ラノベはこれに分類されることが多いわね。幻奏はハードファンタジーに属するわ。従って幻奏はハイファンタジーかつハードファンタジーに分類されるというわけ。

紫苑：なんかラノベがライトって言われると、ちょっと心外な感じね。確かに名前通りなんだけど、なんか軽んじられている感じがするわ。
私、けっこうラノベ好きなんだけど。面白いし感動できるものがたくさんあるよ。

レイン：うん。ラノベ、面白いよね。アルバザードでもよく売れてるよ。
ライトとかローっていうのは単なる分類だから、凄いとか凄くないの話じゃないよ。
ハード＆ハイファンタジーは世界設定を理解するのが難しいから、読者が気楽に読めないでしょ？
だからとっつきやすいライトのほうが良いって人はたくさんいるよ。

アルシェ：実際よく売れるのはハードよりライトのほうだしな。
肩身が狭いのはむしろ幻奏のほうだ。

アリア：とはいえ、制作にかかる労力という観点で見れば、ハード＆ハイファンタジーが最もしんどいっていうのは事実だけどね。
ラノベ業界の場合、年に何本も出版しないといけないから、締切りの関係で作者にハード＆ハイファンタジーを書かせる余裕がないという事情もあるわ。

紫苑：ふーん。ともあれ、幻奏（＝アルカ＋カルディア）はハード＆ハイファンタジーに分類されるのね。
ところでアルカ関係のサイトを見ていて、「リアルファンタジー小説」っていうキャッチコピーを見るんだけど、あれは何かな。
ほら、『紫苑の書』のキャッチにも書いてあったでしょ。

レイン：ハード＆ハイファンタジーの中でもさらに極限までリアリティを高めたファンタジーを指す言葉で、アルカの作者さんが提唱しているみたいだね。

紫苑：極限までリアリティを高める、かぁ。

つまり、現実の一歩手前ってことね。

● 0.999...9 = リアルファンタジー！？

アルシェ：ここから難しいファンタジー論に入る。
アルカの作者はリアルファンタジーを次のように定義している。
0.999...9 = リアルファンタジー

紫苑：唐突に分からなくなりましたｗ
なぜ数式ｗｗ

アリア：ですよねーｗ
ところで紫苑は、0.9 と 1 ならどっちが大きいと思う？

紫苑：1 に決まってるでしょがｗ

アルシェ：じゃあ 0.999... と 1 なら？

紫苑：0.999... っていうのは 0.999 の後に 9 が永遠に続くっていう意味ですよね。
そりゃ微かに 0.999... のほうが小さいから、やっぱり 1 のほうが大きいですよ。

レイン：紫苑、実は 0.999... は 1 と同じなの。
0.999... = 1

紫苑：へ、どうして？

レイン：0.999... はどこまでも 9 が続いて行ってるよね。
この数は一体どんな数に近付こうとしているのかな？

紫苑：そりゃ 1 に近付いてるんでしょうよ。
いうなれば 1 が 0.999... の目的地なわけでしょ。

アルシェ：そう。そして数学においては、その目的地のことをイコールで表すことができるんだ。
地球ではこれを lim という極限の記号で表現するようだな。

紫苑：目的地をイコールで表していいっていうのは数学ぽくないっていうか、いい加減な感じがしますね。
私は猜疑心が強いので、まだ納得できません。

レイン：えっとね、じゃあこういうのはどう？
まず、0.999... を c とするね。つまり、「c = 0.999...」ってこと。
次にこの両辺を 10 倍するとどうなるかな。

紫苑：「10c = 9.999...」になるわね。

レイン：今度は両辺から c を引いてみて。
「10c - c = 9.999... - c」になるよね。つまり「9c = 9.999... - c」。
c は 0.999... だから、右辺の「9.999... - c」は「9.999... - 0.999...」と書き換えられる。
「9.999... - 0.999...」はちょうど 9 です。つまり右辺は 9。
ところで、左辺はなんだったっけ？

紫苑：左辺は 9c だったわね。一方、右辺は 9 だから、「9c = 9」。従って「c = 1」。

レイン：確か最初に「c = 0.999...」って定義したんだったよね。
そして「c = 1」ということは、つまり？

紫苑：「1 = 0.999...」か！
うわ、ほんとだ！さすがレイン、わかりやすっ！

紫苑：――って、なに数学の授業してんのよｗファンタジー論でしょうが。
恐らくほとんどの読者がブラウザの戻るを押したと思うんだけど (汗
一体これの何がファンタジー論なのかとアルカの作者さんに問いたい。

アリア：気持ちは分かるわよ。でもあとひとつ我慢して。
0.999...9 と 1 だとどちらが大きいと思う？

紫苑:0.999...9 っていうのは 9 がたくさん続くけど、結局最後は 9 で終わるんだよね。ということは 1 とイコールにはならない。
だから 0.999...9 は 1 よりすこーしだけ小さい。……当たり？

レイン：うん、正解。理解力いいなぁ。
0.999...9 は 1 に極めて近いけど、1 ではないんだね。

アルシェ：さて、ここで現実（リアル）の値を 1 と仮定しよう。

反対に、全く荒唐無稽なファンタジーを 0 と仮定する。
また、ファンタジーが持つリアリティを x とする。すると x の変域は 0<=x<1 となる。付いてこれてるか？

紫苑：なんとか。
ただ疑問なのは、どうしてファンタジーを数式で考えたいのかってことなんですけど。

アルシェ：「よく練られたハイファンタジー」、「詳細に作り込まれたリアルな異世界」、「手の込んだファンタジー」、「ご都合主義な物語」、「造りが雑な作品」。
こういった曖昧な表現では、万言を尽くしてもファンタジーの精度を具体的に捉えることができないだろ。

紫苑：あー、なるほど。ようやく主旨が分かりました。言葉じゃ曖昧だから、数量的にファンタジーを扱いたいんですね。
要するに、x=0.5 くらいの作品をライトファンタジーって呼んで、x=0.8 くらいの作品をハードファンタジーって呼びたいわけですね。

アリア：そんな感じね。そしてリアルファンタジーはハードの中でもさらに 1（現実）に極めて近いものを指すの。
よって上の式「0.999...9 = リアルファンタジー」が成り立つわけ。

紫苑：なるほどね、ようやく冒頭の意味不明な式が理解できたよ。
やっぱり 3 人ともアルナ大出身なだけあって、頭良いね。

アルシェ：ちょっと補足をしよう。今しがた紫苑は「言葉は曖昧。数量的にファンタジーを扱いたい。だから数式を用いて説明した」と考えたね。
それも確かに正しい。ただ、俺は数学は言葉だと思っている。人類に最も普及している人工言語だよ。
数学語は物事を論理的に捉える機能に特化している。だからこそファンタジー論を組み立てるのに使用したんだ。

紫苑：数学語を使ったのはきちんとした意図があってのことだったんですね。
数式であるかのように見せかけて、実は論理的な人工言語で説明していたんですね。

●ファンタジー要素δを最小化せよ

アルシェ:幻奏はリアルファンタジーだから、「0.999...9」に相当する。そしてそれは 1 より少しだけ小さい。
現実 1 と上記 x との差分をδとすると、δは作品におけるファンタジー要素を意味する。
このδが小さいほど、そのファンタジーはリアリティがあるということになる。

紫苑：……幻奏におけるδは何を意味するのかしら。
幻奏のδは 1 と 0.999...9 の差分のことですよね。そしてそれは極めて小さい数ですよね。

アリア：幻奏におけるδは viid よ。
私たちの世界にはヴィードという地球にはないエネルギーがあるの。
それは魔法の力になったり、悪魔や死神といった存在を演繹するエネルギーなの。

紫苑：演繹……。
えぇと、要するに「ヴィードってエネルギーがウチの世界にはありますよ。でもそれ以外の部分に関しては地球（現実）と同じですよ」っていう意味？

アルシェ：そう。そしてこの場合、δはファンタジーにおける公理と言い換えてもいい。

レイン:ちなみに公理っていうのは、「この件についてはとりあえず正しいと仮定しておこうね」っていう「前提」みたいなもののことだよ。

紫苑：証明もしないでとりあえず正しいと仮定するって、ずいぶんと乱暴ね。
公理って存在自体がご都合主義な感じがするわ。

アリア：鋭い指摘ね。だからこそこう思わない？
そんなご都合主義を徹底的に排他したら、ものすごくよくできたリアルなファンタジーになるんじゃないか、まるでその架空の世界が実在すると錯覚させるかのような――って。

紫苑：――あ！
そうか……それがすべての原動力だったのね。

アルシェ：幻奏におけるδは「ヴィードの実在」というただ一点。たったひとつの公理しか採用しない。
だからこそ、幻奏は 0.999...9 と呼ぶにふさわしいリアルファンタジーなんだよ。

紫苑：なるほど……。数学的に理論展開した意味が今わかりました。
ん？……ところで、もし公理をひとつも採用せず、δをゼロにした場合はどうなるんですか？
そのほうがもっとリアルになるような気がしますけど。

アリア：それは単なる x=1 の「現実」じゃないの。ファンタジーの変域を越えてるわ。

紫苑：あ、そかそか。
うあー！てゆうか、作者さんって絶対変人でしょ！ファンタジーを数式で考えるとか、訳わかんない。

アルシェ：返す言葉もないなw

●幻奏士の指は最初のドミノをもてあそぶ

紫苑：ともあれ、ヴィードのおかげで幻奏には神様もいるし、魔法もある。悪魔もいるし、死神もいる。
確かレインたちも神様から分化した一族だったよね。地球の人類とは似て非なるものってことか。
最初にヴィードひとつを仮定しただけで、惑星アトラスはだいぶ地球と異なる星になってしまったのね。

アリア：万物は因果律に支配されているからね。
最初の「因」が変化すれば、そこからドミノ倒しのように続いていく因果の連続も当然変化する。結果、アトラスは地球とは異なったものになったの。ドミノの一番最初の牌の倒れる角度がほんの少し違っただけで、2つの世界はそれぞれ少しずつ異なる道へ進んでいったのよ。

アルシェ：この世界の創造主がしたことはただひとつ、最初のドミノを弄んだことだけだ。
その結果、後続するあらゆる因果の数列が、別々の方向へと倒れていった。
幻奏士は最初の牌にしか手を触れなかった。まるで数学的帰納法のようだな。

紫苑：たったひとつの要素が入るだけで、こんなにもたくさんの違いが生まれるものなんですね……！

レイン：とはいえ、地球とアトラスはヴィードというδが有ったか無かったかの違いしかないから、基本的なところはだいぶ似ているの。
例えば私たちアトラス人の体の作りは地球人と同じだし、もし紫苑とアルシェお兄ちゃんが結婚すれば子供もできるよ。

紫苑：似てるところもあれば似てないところもあるってことだね。
でもさ、ヴィードひとつから魔法やら何やらファンタジックな現象をすべて演繹できるものなのかな。

アルシェ：もっともだな。じゃあヴィードについて論じたdolmiyuという項を幻日辞典で見てみようか。
いかにヴィードから幻奏のファンタジックな側面が導き出されているかが分かるはずだ。

紫苑：な……魔法の教科書ですか、これ！
辞書の一項目で短編小説か卒論並みの長さがありますよ……。

アリア：これが通称「幻日のラスボスdolmiyu」よw

紫苑：あはは……。確かにヴィードがすべてのファンタジックな現象の根っこになってるみたいですね。
それはそうと、リアルファンタジーって創るのが大変そうだね。たったひとつしかご都合主義を使えないんだから。

アリア：そうね。
いかに汎用性のあるδを定義し、それを様々なファンタジー理論に拡張していくかがポイントよ。

紫苑：公理がひとつという制約の中で、ファンタジー理論を広げていくのは非常に難解な作業だね。
ん……でも待って。逆に言えば、ひとつの公理以外は地球と同じ環境にして良いってことだよね？
なら、リアルファンタジーの現実部分の制作は楽なんじゃない？しかもリアルファンタジーは現実部分の比率がほかのファンタジーより大きいんだから、なおさら楽なんじゃないの？

アルシェ：もしその人工世界がアポステリオリなら、素直に地球から設定をパクればいい。その場合、確かに公理に関係ない部分の作業は楽だろうな。しかしリアルファンタジーの人工世界はアプリオリだ。たとえ結果的に地球と似た設定になろうが、一度ゼロから世界を構築しなければならない。文化ひとつ取っても単語ひとつ取ってもな。
アルカが文化を踏まえながらどのように単語を創るかという好例を2つ提示しよう。
→「記事の作成手順」・「造語前の検討」

紫苑：うわ、これはまた神経質な……。
樟脳は地球にもアトラスにもあるから、樟脳が存在するという結果についてはどちらの世界も同じ。でもアプリオリな人工世界では樟脳の存在を一度ゼロから検討し、構築する。
その一方で、サイコロカレンダーのように、異世界から排他されるものもある。パソコンやケータイがあるアトラスにこんな原始的なものが存在しないなんて意外でした。
ローテクなものを考えなしに異世界に輸入せず、むしろ存在しないことを数学的に証明するとは……驚きです。アプリオリの造語ってこんなに大変なんですね。

紫苑：まったくもってリアルファンタジーにおける現実部分の制作は楽な作業ではないようですね……。納得しました。
ところでレイン、ほかにもヴィードがもたらした地球とアトラスの違いってあるの？

レイン：え？……そうねぇ、ほかには地図とかかなぁ。

アリア：アトラスの地図って地球にだいぶ似てるでしょ？
最初のパンゲア大陸の時点で、アトラスと地球はだいぶ似ていたわね。
地軸や自転の方向や風や海流といった条件も似ていたから、パンゲア大陸の分裂の仕方もよく似ていたの。
結果、現在の地球と似たような大陸の配置になっているのよ。

紫苑：そうなのかー。私はてっきり作者さんが異世界作るの面倒くさくて地球に似せたのかと思ったよ。

アルシェ：作業歴を見る限り、逆だな。
95 年に作られた原初の地図を見ると、いかにも RPG に出てきそうな無茶苦茶な形をしていた。それは非常に独創的な地図だったから、ゼロから創るのが面倒ということではなさそうだ。
むしろリアリストとして矛盾点を突かれるのが嫌で、リアリティ溢れる造りにしていくうちに、現在の形に至ったようだ。神経質な人だからな。

アリア：00 年代前半のアトラスの地図は非常にいい加減だったわね。
03 年頃からかしら、リアルに創るようになっていったのは。
それでもまだまだ陸地が多くて人が住めたものじゃない世界だったわね。

紫苑：陸地が多いと人が住めないの？
土地がいっぱいあるんだから、むしろたくさん住めるじゃん。

レイン：紫苑、地球の夜って本当はもっと寒いんだよ。
昼間と比べて温度がせいぜい 10℃くらいしか下がらないのは、海のおかげなの。海のほうが陸より冷えにくいからね。
しかも地球の反対側は昼だから海が温められる。その熱は地球の夜側にも影響を与えるの。

アリア：もし例えば陸と海の比率が 7:3 だったら、確実に人類は死滅しているわね。
そういうリアリズムを追求していくと、どうしてもリアルファンタジーは地球と酷似した造りになってしまうのよ。

紫苑：はぁ、なるほど。
でもなんだかなぁ、ゼロから創るからものすごく大変なのに、でもできた結果が地球と似てますっていうのは、読者からしたらインパクトがないよね。矛盾だらけでもドーンと異世界っぽく創ったほうが、読者の食いつきはよくない？

アルシェ：確かに商業ベースではそうだな。リアルファンタジーは労多くして得るもの少なしだ。絶対売れないしな。
だから娯楽というよりは、芸術的・学問的な作品といっていい。
で、作者氏はそういうのが好きなんだよ。

紫苑：はー……。

レイン：あんまり変人扱いでも可哀想だからフォローしておくと、利益や報酬が出なくても学問史や芸術史に貢献すること自体は良いことだと思うよ。なんとはいえ、この規模とクオリティでの試みは人類初のものだからね。

アリア：科学の世界だって、陰日向の研究者が数知れずいるものよ。
それ自体は何の役にも立たない基礎研究なんだけど、ほかの研究と組み合わせて商品になったり、あるいはほかの研究の素地になったりすることがよくあるわ。

アルシェ：紫苑の持ってるケータイだって、無数の陰日向の研究者の努力の集積なんだぜ。
たとえ端末に大企業の名前しか書いてなかろうとな。

紫苑：んー、なんとなく分かりました。

●探した結果、見つけたのは孤独

紫苑：ところで、幻奏って本当に世界初のリアルファンタジーなんですか。トールキンの『指輪物語』なんかのほうが先な気がしますけど。

アリア：リアルファンタジーにはその性質上、アプリオリかつ詳細な人工言語が必要なんだけど、それに適した質と量を持った人工言語は 2011 年現在、アルカしかないのよ。
アルカのような言語を創るにはパソコンが絶対必要なの。それができるのは現代人だけでしょ。

紫苑：そっか、トールキンやイェフダーやザメンホフのような人工言語の大家ならあるいはって思ったけど、環境が整ってなくて無理だったのね。
でも現代人に可能なら、同じような言語がアルカ以外にもありそうなものだけど？

アルシェ：そう思ってもう 10 年以上も日本国内を探し続けたんだがな。書籍はもちろん、ネット上でも同条件のものは見つからなかった。
むろん英語圏のサイトも調べ、掲示板やメールなどでもやり取りした。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、韓国語。これら全てで探したが見つかっていない。

「アプリオリ・自然主義人工言語・詳細な作り込み（質）・豊富な資料（量）」。この４つの条件を満たすものがどうにも出てこないんだ。
「単語数は多いがアポステリオリ」とか「単語数も多いしアプリオリだが、一語一語の語法や文化記述が脆弱で、単なる単語帳になっている」とか、惜しいものはいくつか見つかったのだがな……。

紫苑：うーん……。
ほかの国は探したんですか？

アルシェ：正直、主だった先進国で研究されていなければ、まず無いと見ていいだろう。
現実的なことを考えると、後進国の人間はこのような無駄ともいえる作業をする時間的・経済的な余裕はないケースが多い。
それにもし作ったとしても、小国の人間はたいてい英語で発表してしまう。だから英語圏のサイトを調べた時点でほぼ引っかかるはずなんだ。

紫苑：あぁ、なるほど。そりゃそうでしょうね。

アリア：それにアルカのような規模ならば、本来だったら「人工言語」を意味する単語をその国の言語で検索するだけでトップページに出てきたっていいはずだ。実際このサイトのようにな。
色んな外国語で検索したが、トップに出てくるサイトで条件を満たすものはないし、グーグルの結果を何ページ潜っても出てこなかった。海外の掲示板でも条件を完全に満たすものは得られなかった。

紫苑：うーん。じゃあ、条件を満たしてはいるけど、単にネットで公開してないだけっていう可能性は？

アリア：アルカ自身、ネットで公開したことで大きく進化したのよ。不特定多数の閲覧者や少数のユーザーによって支えられてきたからね。
人工言語のようなマイナーな分野に興味がある人間は少ないから、オフで有志を探すのは大変よ。でもネットでならわりとすぐ見つけることができる。アルカと同条件のものがあるとしたら、ネットで活動していると考えるのが妥当よ。もしアルカがネットで活動してなかったら、今のようなクオリティにはなっていなかったからね。

紫苑：そっかぁ……。まぁ人工言語はいくら努力しても一般には理解されないし、お金にもならないもんね。
アルカの場合それを何十年も続けてきたわけだし、しかも常に誰かしら協力者に恵まれてきた。
こういった奇跡的な環境がなければ作れなかったと考えると、同条件のものが世界にいくつもあるわけないのかもしれないね。

レイン：実際、作者さんたちはここまで来るのに現時点で 20 年もかかってしまったの。だいぶ紆余曲折を経たからね。
もし幻奏と同じコンセプトの作品を新たに作ろうと思えば、今度は簡単だよ。アルカやカルディアといった実験例があるからね。
だから、いつかはもっと作り込まれた作品が出てくると思うよ。作者さんはそれを待ってるみたい。だからこうして有益と思える情報は開示しているの。

紫苑：え……作者さん的にはそれでいいの？
自分たちの 20 年間の努力を他所の人にたった数年で抜かれちゃったら悔しくない？

アルシェ：「誰もがこの重たい扉を開けたがらないなら自分が開ける。開けたら疲れて自分は歩けなくなるかもしれない（主に腰とか）。でも、後ろの人は通れるだろ」――だそうだ。
第一人者っていうのはそういうものだよ。誰もエジソンの豆電球を今は使わないけど、その名前は残っているだろ。人工言語のようなマイナーな世界でもそれは同じことだよ。

アリア：彼は自分が何もしなければ扉が開くどころか、その向こうに何があるのかすら見れないことを知っていたのでしょうね。
何もしないで終わるくらいなら、たとえ扉を通れなかろうと、せめて向こう側の景色だけでも見てやろうと思ったのかもしれないわね。

紫苑：幻奏唯一のファンタジー要素δであるヴィートという存在。そしてヴィードをあらゆるファンタジー現象に拡張するための魔法理論 dolmiyu。加えて樟脳に見る執拗なまでの単語の作り込み。更にはサイコロカレンダーに見る造語前の入念な検討……
確かに文化と風土が言語に与える影響についてはよく考察しているようね。でも肝心の言語についてはどうなのかしら。アルカは言語学をきちんと反映して創られているのかな。そこが雑だと元も子もないような……。

アルシェ：あ、そっかそっか。こんな話ばかりしてるとそう思ってしまうよな。実は作者氏の大学院時代の専攻は俺と同じで言語学だったんだよ。
高校のときから言語学を独学でやっていて、そのまま大学に入ったそうだ。アルカを作るのに言語学が必要だと思ったようでな。（というか半強制的に仲間に文転させられたのだけど）。言語関連の記事をいくつか紹介しておくよ。
→「言語学的に矛盾しない人工言語の作り方」・「アルカの認知言語学的考察」

紫苑：おぉ、なるほどです。言語・文化・風土ともに抜かりなく検討されているようで、安心しました。
さて長くなりましたが、今回のファンタジー論をまとめるとこうなりますね。

●まとめ

１：人工言語（アルカ）＋人工世界（カルディア）＝ arxidia（幻奏）
２：ファンタジーは舞台が架空か現実かによってハイとローに分かれる
３：ファンタジーは作り込みの詳細さによってハードとライトに分かれる
４：ライトが軽い存在というわけではないし、ハードが凄いというわけでもない。ただし、ハードの労力が大きいのは事実
５：幻奏はハード＆ハイファンタジー
６:現実を１とし、完全に荒唐無稽なファンタジーを０とし、ファンタジーの持つリアリティをｘとすると、ｘの変域は 0<=x<1 で示すことができる
７：リアルファンタジーはハード＆ハイファンタジーの一種で、数値的には 0.999...9 で表せる
８：幻奏は世界初のリアルファンタジーである。リアルファンタジーには詳細な質と量を持ったアプリオリな人工言語が必要で、現状その条件を満たす言語はアルカ以外に作られていないことがその根拠となる
９：ファンタジー要素は１とｘの差分であるδで示すことができる
１０：δはそのファンタジー世界が必要とするご都合主義（＝ファンタジー設定）の個数とも考えることができる。換言すれば、δはそのファンタジーが持つ公理の数にも通ずる
１１：δが最小のとき、その作品はリアルファンタジーとなる。δが０の場合はファンタジーではなくリアル（現実）であるため、δを０にはできない。つまり最低ひとつのファンタジー設定を設ける必要がある
１２：幻奏のδは「ヴィードの存在」ただひとつである。それ以外に関し、惑星アトラスは地球と同様である
１３：ヴィードという要素が「因果律のドミノ」の第一牌目に入ったことにより、地球とアトラスのドミノの倒れ方は異なっていった。その結果が魔法、神、死神、レインら神の末裔、大陸の形の異同などである
１４：リアルファンタジーは幻奏だけではない。後は貴方が手を動かすだけ

●推薦図書

吉野正敏 (2003)『環境気候学』東京大学出版会：文化・風土と気候の関係を把握でき、世界設定の際に役立つ
舟橋三男 (1995)『地球の成立―その地質発達史』東海大学出版会：特に５章が有益
渡邊守章 (2008)『図説世界文化地理大百科フランス』朝倉書店：幻奏には必須だが、アジア風な国を作りたいときは他の巻を使うとよい
Mairs Geographischer Verlag,Ku(2008) "France Geocenter Atlas"：フランスの地図帳。中身は仏語なので多少癖がある。アルバザード制作の際に使用
C. Donald Ahrens(2008)『最新気象百科』丸善：気象の考察に適宜使用
ブルース バックリー (2006)『ダイナミック地球図鑑気象』新樹社：主に anxal の気候を考える際に使用。見やすくてよい
田家康 (2010)『気候文明史』日本経済新聞出版社：ilmus の神代の環境を考えるのに参考になる
ジェームス・F・ルール (2005)『地球大図鑑 EARTH』ネコ・パブリッシング：陸地の章が特に有益。見ているだけでも楽しい本
ニール・F. カミンズ (1999)『もしも月がなかったら―ありえたかもしれない地球への 10 の旅』東京書籍：副題とは裏腹に、むしろアトラスが地球に近付いたきっかけとなった本
デイビッド・モントゴメリー (2010)『土の文明史』築地書館：良著。幻奏制作には前半部分が主に有益
ジャレド ダイアモンド (2000)『銃・病原菌・鉄』草思社：リアルファンタジー作家必読。上下巻
水越允治 (1985)『気候学入門』古今書院：文化・風土と気候の関連性が分かる
ストーム ダンロップ (2007)『気象大図鑑』産調出版：気象の考察に適宜使用
サイモン・ウィンチェスター (2004)『世界を変えた地図』早川書房：先駆者というのはだいたい大変なんですよという意味も込めて掲載
ヴィットインターナショナル企画室 (2007)『地図にかかわる仕事』ほるぷ出版：人工世界を創る場合は当然モノがないので測量などはできないから、ボトムアップ式に創ることになる。一方、地球での地図の仕事をしている人は逆にモノありきのトップダウン式で創る。逆のアプローチを識ることもまた勉強になる
今尾恵介 (2007)『世界の地図を旅しよう』白水社：面白いし、とっつきやすい
榎本秋 (2008)『ライトノベル文学論』pp14-15 NTT 出版：ハイファンタジーとローファンタジーの定義について参照した

なぜ今まで幻奏のような作品がなかったのか

言語と文化と風土がすべてアプリオリな作品は幻奏が初めてのものである。
トールキンが似たようなことをやっていたが、パソコンがない時代だったため、幻奏に匹敵する量と質を作ることができなかった。

異世界物をリアルに作りこんでいけば、文化や風土もアプリオリで作りたいという発想に至る。
この発想自体は難しくないので、幻奏のアイディアは 19 世紀や 20 世紀にもあったはずだ。

しかし実際には作られなかった。それはなぜだろうか。

1: 需要がなかった

芸術言語は小説の言語として使われてきたが、小説にとって一番大事なのはストーリーだ。
言語はスパイスでしかないので、言語にそこまで労力をかけられない。
読者はストーリーを読みたがるので、スパイスにそこまでこだわらなかった。つまり、需要がなかった。

アルカの場合、別段売ることを考えていたわけでもなかったので言語を作り込むという方針を維持できた。
それと、ユーザーの協力も大きい。たった 2 桁でもユーザーがいれば、作者にとっては十分な需要である。

J: 人工言語が言語学の範疇ではない

アプリオリで言語を作るということはゼロから作るわけだから、言語学の知識が要る。
知識がなくても適当になら作れるだろうが、恐らく言語としては不自然なものになる。
いくら異世界とはいえ、実用可能か怪しい言語ではリアリティに欠ける。

そういう意味ではアプリオリの人工言語は言語学者が作るのに向いている。
しかし言語学は人工言語を扱わないので、言語学者は基本的に人工言語を作ろうとしない。

?: 人文科学の扱いがひどい

20 世紀は科学の時代なので、進学や就職における人文科学の扱いは年々悪くなっている。
当然言語学をやる人間は少なくなるので、言語学を専攻する人間自体が少なくなる。

アプリオリで作るのは言語学の知識が要るとしたら、まず言語学専攻の人数自体が少ないことが問題だ。
しかも 2 で書いたように、彼らが人工言語に興味を持つ確率は少ない。
（アルカの作者は言語学専攻で、トールキンも言語学をやっていたという。どちらもレアである。ザメンホフは眼科医で、言語学は門外漢である）

01: パソコンがなかった

パソコンがないと作業が進まない。
アルカも 01 年までは紙資料で作られていたが、単語が増えてくると「この単語作ったっけ？」と思ったときに、それを調べるだけで何時間もかかる。
しかもしばしば見落としてしまい、同じ意味の単語を二度作ったりする。まったく手間がかかる。
また、ノートを濡らしたりすれば即アウトだし、仮に安全のために複製を作ろうとしても時間がかかる。

パソコンなら一瞬で検索できるし、コピーも配布も瞬時にできる。
言語作りの作業の 9 割は辞書作成だから、パソコンがない時代ではできることが限られる。
紙で百科事典を作っていた時代と同じだ。とても個人ではできない。

ちなみに、ここ 10 年ほどで英語の中辞典の種類が激増したのは、パソコンが出てきたからに他ならない。
編集部でパソコンを使う作業がデフォルトになってから、出版サイクルは圧倒的に早くなった。これは辞書以外にもいえることだが。

ト: ネットがなかった

ネットのおかげで公開がしやすくなり、グーグルやウィキペディアのおかげで専門用語を作るときもやりやすくなった。
これについては下記で細かく見ることにする。

ネットが普及する前は、言語の公開手段は出版くらいしかなかった。
効果的でないわりにお金がかかるので、言語の作り手は頭を抱えた。
実際にザメンホフもかなりこの問題で頭を抱えたそうだ。
今はネットで簡単に公開できるのでやりやすい。

また、情報を更新してもユーザーからの反応が得られるまで、昔は時間がかかった。
ザメンホフのころは手紙でやり取りをしたため、平気で 1 週間もかかったという。
現在は遠隔地のユーザーでも、その日のうちにレスポンスが来て、昇華させることができる。

ところで、ゼロから世界を作る以上、作者は森羅万象に詳しくなければならない。
異世界にも化学はあるだろうし、数学もあるだろう。地理もあるし、天文もある。料理だってあるだろう。
すべての分野の単語を命名しなければならないので、あらゆる分野に（そこそこ）詳しくなければならない。

例えば蟻酸（ギサン）という物質を命名するとしよう。
地球ではアリから見つかったので蟻酸と呼ばれているが、異世界では地球と違う歴史があるはずだから、考えなしに「アリ酸」と名付けるわけにはいかない。
ちゃんと自分の世界でどうだったか考えてから命名しないといけない。こんなことをやっているからアプリオリはアポステリオリの何倍も時間がかかる。

ネットがないころは専門書と百科事典に頼ったが、紙は全文検索ができないので、知りたいことにたどり着

くまでにものすごく時間がかかる。
また、専門書はとても高いし、読めるようになるまで時間がかかる。
ところが作者は化学を作ったら今度は物理だ料理だ鉱物だと、すぐ別の話題にいかなければならない。
化学だけに詳しくなってる暇はないし、お金も湯水のようにはない。
そういうわけで、ゼロから単語を作ろうにも作れなかった。どうりでトールキンにもできなかったはずである。

ところが今はグーグルがある。
「蟻酸　アリ」と調べれば、蟻酸の語源がすぐに調べられる。
ウィキペディアによると、「1671 年、イギリスの博物学者であるジョン・レイ (John Ray) が、大量の死んだアリの蒸留によりギ酸を初めて単離し、「アリの酸 (formic acid)」と命名した」とある。
全文検索ができるので、見落としなく探せる。

また、ほかの記事を見ると、蟻酸がハチにも含まれることが分かる。
「じゃあ自分の世界ではハチから見つかったことにして、ハチ酸と名付けるか」などと考えて命名すると、ここでようやくアプリオリな言語になる。

ちなみにアルカの場合、本当にハチ酸でいいかを歴史的に検証してから命名する。
この際には、風土も考慮する。つまり、アルバザードにハチが存在するか、存在するなら果たして一般的な虫かまで考える。
こうしないと言語だけアプリオリになって、文化や風土はアプリオリでないことになってしまう。

辞書によると、impiasl（蟻酸）は「オーディン前期、化学的に大量にショ糖を生成することができなかったため、主な甘味料のひとつに蜂蜜があった。そのため、養蜂家がレイユより身近だった。リュウは蜜蜂の毒が蟻酸であることを発見し、impiasl と名付けた」という背景から来ている。
蟻酸を命名するために、背景としてオーディンという時代の設定、当時の科学力、使用していた甘味料という料理文化、養蜂家という職業、発見した人物などといった項目が使われている。

さて、こう見ると、いかに 21 世紀まで幻奏のような作品がなかったかが分かる。
簡単に言えば、あまりにも面倒なのだ。また、単に面倒というだけでなく、膨大な知識と強い好奇心も必要だ。
その上パソコンもネットもないとなれば、20 世紀までにはできるはずもなかった。パソコンとネットは芸術言語の究極形を可能にした。
私も 100 年前に生まれていたら、絶対アルカを作れなかったと思う。

さて、今後は幻奏のような作品がほかにも登場するのではないか。
私の場合は自分でノウハウを作りながら四苦八苦の制作だったので何年もかかってしまったが、今ならもっと短くできると思う。なにせ幻奏という前例があるのだから。

アルカは英語に似ているか

ずいぶん昔の話だが、アルカは英語に似ていると言われたことがある。
恐らく相手はアルカがアプリオリではないと言いたかったのだと思われる。
日本人は英語ができるので、英語に似ていると言えばアポステリオリになると思ったようだ。

どうもアルカが SVO であることが理由のひとつだったようだが、SVO は SOV に次いで多い類型なので、地球に何千語と存在する。よって、根拠にならない。

アルカは形容詞が後置で、この時点で既に英語に似ていない。

むしろフランス語と言われたほうが理解できる。

また、アルカに英語のような時制の一致は存在しない。
主節が過去のときに従属節を過去にすると、従属節は主節より前のことを表す。これも英語と異なる。

代名詞は男女の区別がなく、4 人称まで持っている。また、3 人称は遠近の区別がある。
さらに 1,2 人称は位相によって複数の形態があり、英語と一致している部分のほうが少ない。

英語で接続詞になっているもののほとんどは純詞だし、比較も通常は格詞（前置詞）でなく接続詞を使って表す。
形容詞に比較級はない。
受動態は be 動詞や by を使わず、副詞 yu で示す。
It 構文に当たるものはあるが、アルカだと for 句を途中に取れないという違いがある。
基本語順は SVO だが、5 文型は存在しない。

さて、英語は却下として、フランス語はどうだろう。
形容詞の順序は一致するが、あとは英語と同じで、アルカとの一致率は悪い。
中国語も検証してみたが、似ていない。もともと中国語には縁がないので、似ていなくて当然だが。

しかし、こう似てないと、今度は逆に不安になってくる。
つまり、人間の言語として機能するだろうかという不安が生まれる。

ただそれは何年か前の話で、今は実際に使えているので不安がない。
アルカはアルカなんだなという理解に落ち着いている。
英語には似ていないし、どれに似ているということもない。やはり独自の言語なのだろう。

音

音声学・音韻論

音韻と音声は――

/ 音韻 /
[音声]

――で表記する

■単音

●母音

/a/ [a]
/aa/ [ɑː]
/i/ [ɪ]
/ii/ [iː]
/o/ [ɔ]
/oo/ [oː]
/e/ [ɛ]
/ee/ [eː]
/u/ [ɯ]
/uu/ [uː]
/q/ [ə]
/qq/ [əː]

●半母音

子音として扱う。

/w/ [w]
/y/ [j]

●子音

・閉鎖音

語頭の p, t, k は有気音になりがちである。
語末の b, d, g の前の母音は微かに長くなる。

/p/ [p]
/b/ [b]
/t/ [t]
/d/ [d]
/k/ [k]
/g/ [g]

・摩擦音

早口の場合、s, z, x, j は j > z > x > s の順で同化する。例）nosjot（自己紹介）[nɔʒʒɔt]

語末の v, z, j の前の母音は微かに長くなる。

/f/ [f]
/v/ [v]
/s/ [s]
/z/ [z]: 語頭でも [dz] にならない
/x/ [ʃ]
/j/ [ʒ]: 語頭でも [dʒ] にならない

/h/

[h]
[ç]: i, ii の後で
[X]: e, ee の後で
[χ]: q, qq, a, aa, o, oo, u, uu の後で

・鼻音

韓国語と違って鼻腔に流れる肺臓気流の量は日本語や英語並みに多い。
「ネー」が「デー」、「ムォ？」が「ブォ？」に聞こえるようなことはない。

/m/

[m]
[ɱ]: f, v の前で

/n/

[n]
[m]: m, p, b の前で
[ɱ]: f, v の前で
[ŋ]: k, g の前で
[N]: s, z, x, j, r の前で

＊流音

r（接近音）、l（側面音）、c（震え音 or 弾き音）がある。
早口の場合、c > r > l の順で同化する。例）wigalcaifa（ペルセウス流星群）[wɪgarraɪfa]

・接近音　/r/ [ɹ]
・側面音　/l/ [l]
・震え音　/c/ [r]
・弾き音　/c/ [ɾ]：女性が震え音の代わりに用いる

・声門閉鎖音

声門閉鎖音は固有の音韻を持たない。

pat は [pat] と発音するが、[paʔtə] と 2 音節で発音することもある。特にゆっくり喋った場合にそうなりやすい。

こういった場合に声門閉鎖音が現れる。

■子音連続

padl など、子音連続は通常シュワーを入れて別個の音節となる。

/padl/ [pa dəl]
/rsiila/ [ɹə siː la]

■ＣＶ

CV で終わり、直前の音節の母音が長くなければ、その V はやや長くなる。

mana [mana·]
kaila [kaɪla]

アクセント

＜アルカのアクセント＞

・音の単位

単語、形態素、長音節、短音節、全モーラ、半モーラ、音素

おおむねこの順序で長い。
ただし na のように形態素であり単語であるが、全モーラでしかないものもたくさんあるので、一丸には言えない。
アクセントの分析において重要なのは下記の 4 種。

長音節：CVCC, CVVC などの長い音節。このうち CVCC を S(syllable) で表記
短音節：CVC からなるもので、C はφでもよい。H(heavy) で表記
全モーラ：CV からなるもので、C はφでもよい。a,ma,ka,ta など。M(medium) と表記
半モーラ：C のみ。s,t,k など。L(light) と表記

上記 4 種をアクサン素と呼ぶ。

・カウント法

アクセントは単語の後ろから数える。
そのため、どんな長い単語があっても、後方のアクサン素のみに注目すればよい。
後ろから三位までのアクサン素をカウントすれば、アクセントの位置が判断できる。

・アクサン表

後方から三位までのアクサン素を組み合わせた表。
右が一位で、左が三位。
表には見えないものの、三位の左が四位となる。

formula：アクサン素の組み合わせ式
variant：変異。置換基

●アクサン表

formula	variant	formula	variant	formula	variant
HHH		MHH		LHH	SH
HHM		MHM		LHM	SM
HHL	HS	MHL	MS	LHL	S
HMH		MMH		LMH	HH
HMM		MMM		LMM	HM
HML	HH	MML	MH	LML	S
HLH	SH	MLH	HH	LLH	
HLM	SM	MLM	HM	LLM	
HLL		MLL	S	LLL	

・第一法則

アクサン表は三位までだが、アクセントが置かれる変域は四位まで。
アクセントの付く位置は下記の通り。若い数字の法則が優先。

1: 二位までの S にアクサン
2: 二 , 三位の H にアクサン
3: 三位の M にアクサン
4: 二位の M にアクサン
5: 四位にアクサン

つまるところこの法則は「語末から少し離れたところにある最も大きな音節を探す」作業に等しい。

HLM は SM にはなるが、HS にはならない。
同じく MLH は MS にならず、MLM は MH にならない。

また、MML は MH と捉えなおすこともできる。
そのため、MH の前に L,M,H のいずれが来るかで、その後の振る舞いが変わる。例えば MMH や HMH が作られる。

・第二法則

第一法則で篩えないのが HMH と MMH。これを篩うために第二法則が存在する。

末尾の MH が CV VC になるパターンは長音節を作る。main, kain など。
この中の二重母音の強弱の関係を見ると、main では a>i になっている。
＞の流れのあるものを強音節と呼び、それ以外は弱音節と呼ぶこととする。

強音節は＞の流れを持っているので、アクセントを置きやすい。
dain は前の母音が強く後ろの母音が弱いので、dAin にすると全体的に＞の流れを持ち、強音節の＞の流れに沿うため。
dain は＞なのでアクサンを付けやすいが、dian は＜なのでアクサンを付けにくく、dIan となりにくい。
普段はこの差を意識しないが、hardian のような単語になってくると違いが出てくる。

強音節を X とし、弱音節を Y とする。
XY を導入すると、HMH は以下の 3 種に分かれる。

1:HMH：har/dI/gan：HMH の基本法則に基づき、M にアクサン。armalet, artales なども同様。
2:HX：har/dAin：X にはアクサンを付けやすいのだから、X にアクサン。
3:HY：hAr/dian：Y にはアクサンを付けにくいので、前の音節にアクサンを繰り上げる。i の後ろの a にアクサンを置いたら元も子もない。弱と強に分けた意味がなくなる。

同じように MMH について。
アルカでは Amalis, Atolas, agEit, kAmian, rIdian のようになるが、これらも篩うことができる。

1:MMH：A/ma/lis, A/to/las：法則どおり M1 にアクサン。
2:MX：a/gEit：X にアクサン。elEin なども同様。
3:MY：kA/mian, rI/dian：前の音節にアクサンを繰り上げる。

ちなみに、amai は MX ではない。X の定義は CVVC だし、そもそも MMM になってしまう。MMH の仲間ではない。
同じく aria も MY ではない。MMM であって、MMH の仲間ではない。

●第二法則表

$X=CV_1V_2C\ (V_1>V_2)$ / $Y=CV_1V_2C\ (V_1<V_2)$

HMH	HMH	MMH	MMH
	HX		MX
	HY		MY

・外国語による例外

例えばルティア語のアクセントは語末にあるため、しばしばルティア語から入った語にはこの法則が適応されない。
あくまでこの法則はアルカ固有の語についてのものにすぎない。

・意味による例外

kanxion も arxion も HY で、法則からいけば kAnxion や Arxion になるはずだが、kanxIon や arxIon のほうが自然である。
これは意味のせいである。カン（父）・シオン（紫苑）、ar（神）・シオン（紫苑）だと脳が思っているため。
もしこれが意味のないレンピオンだったら、lEnpion と発音されることだろう。

・幻日と例外

例外には幻日では［アクセント］タグが付いている。
anfelixion のように社会的階級によってアクセントを付ける位置が異なることもあり、文化の豊かさを感じる。

・アプリオリのアクセント体系

アルカのアクセントは音節とモーラで法則を作る。
音節だけで考えるとラテン的になるし、モーラだけで考えると日本的になる。どちらにしてもアルカの音声は篩えない。
しかしこの法則だときちんと篩える。揺れがない。

＜幻日と外国語のアクセント＞

アクセントを仮に大文字で示すと、日本語で着物は kimonO に近いが、英語だと kimOno のように発音される。
このとき、英和辞典のアクセント欄には kimonO でなく kimOno が書かれることとなる。
これは英和辞典が英語の辞書であることからも当然で、英語の辞典は日本語のアクセントまでは保証しない。

幻日にも同様なことが言える。
elyundite はルティア語から来た単語で、アクセントは elyundIte である。ところが本来のルティア語では elyunditE である。
ルティア語は拘束アクセントなので元は elyunditE なのだろうということは分かるが、自由アクセントの言語が語源になっている場合は元のアクセントが保証されない点に注意したい。

アクサン考

注：以下は新生のアクセント体系がまとまるまでの過程を追ったものです。 紆余曲折しながら言語ができていく様を見るにはいいのですが、学習向けではありません。 学習の際はこれを回避して「アクセント」をご参照ください。 ---- ページ番号 :449 ページ名 :axlei629 タグ :

・アクセントが自由アクセントに

辞書、ꞌlia の項を参照のこと。

・セレンのアクサン草案

フルミネアの考えた「後ろから 3 モーラ目にアクセント」の法則だと、例外が多すぎる。
amavel,amalis は 'amavel, 'amalis だが、法則だと a'malis になる。
hardian も 'hardian なのに har'dian になってしまう。
いちいちアクセントを打つのが面倒くさい。どうにか法則化できないか。

また、vergina や artena や estia などはなぜ最後にアクセントが来るのか。
以上 2 点について考察する。

平板

ヴェルギナも vergina も最後にアクセントがあるが、実際の発音は平板であり、「アクセント下降が見られない」という意味だ。
「ヴェ・ル・ギ・ナ」が低高高高となり、一度あがったら下がらないことを指す。vergi'na と綴っても、na だけ高いわけではない。
ここがフランス語との違い。conversation だと「ヨォ〜ン」の部分だけ高い。幻日はともに後ろだけ高くなるということがない。
これを平板という。

さて、なぜ平板が起こるのか。その理由は恐らく労力だ。人間の声というのは語頭ほど息があるので高く強いが、徐々にダウンステップしていくようになっている。肺は風船みたいなものだからね。
つまり、人間の声はブレスが来るまでは右肩下がりで、＼状になっている。（よく分からない人は補足としてカタセシスあたりを調べるといい）
従って、語末を語頭並みに高くするのは、語頭を高くするよりエネルギーがかかる。
それは疲れるので、せいぜい語末を語中程度に上げる。これだと疲れない。語中程度に上げたというのは、言い換えれば「語末でも下がらない」を意味する。
これが結果的に平板に等しい。

恐らく平板は、最後を上げようとしたものの、「下げない程度の努力」しかしなかった結果だと思われる。
人間の発音効率を考えると、それが合理的だ。そこで日本語やアルカも平板を採用しているのだろう。
もちろん採用しない手もあるから、フランス語のような言語もあるわけだ。

平板の起こる環境

先に用語を定義をしておく。
今のところアルカには長音節、短音節、モーラがある。
このモーラを全モーラと半モーラに分けたい。着想は音楽のピアノだ。

全モーラは CV からなるもので、C は φ でもいい。つまり、a,ma,ka,ta などだ。仮に M とする。
半モーラは C のみ。s,t,k など。仮に L とする。
なお、短音節を H としておく。言語学とか読んでれば何となく分かると思うが、heavy,middle,light の略だ。

どうも平板というのは、語末が MM のときに起こるのではないか。
vergina も artena も HMM だ。日本語も、カレワラやアメリカなど、最後が MM だと平板化しやすい。
しやすいといったのは、桐原やアメリアなど、平板にならないものも多いからだ。

ただ、少なくとも平板化するためには最後が MM である必要があるようだ。
とはいえ、日本語ではアニリンなど、ンで終わるものも平板化する。だがアルカではそうならない。
これは恐らく日本語ではンだけで 1 モーラを形成して M になれるからだろう。

? 音節並べたパターン分析

日本語やラテン語では H か L だけで分析しているようだが、アルカの場合上記の事情で、HML の 3 種使って分析している。
HML を 3 音節並べると、順列は 27 通りになる。
このすべてについて、架空の単語や実在の単語を使って、どこにアクセントが置かれるか調べてみた。

http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/27%e7%a8%ae.gif

汚くてすまないが、紙に書いてみた。赤の記号がアクサン。
このうち、HLL,LLH,LLM,LLL はアルカにない組み合わせ。子音の 3 連続はアルカにないため。（古にはあったが）
こうしてみると、H の段、M の段、L の段と、9 個ずつに分けられる。便宜上、1-1 ～ 3-9 と名付ける。
HHH が 1-1 で、LLL が 3-9 になる。

まず言えるのは、後ろから二番目を二位とした場合、二位に H が来ればアクサンを置くということだ。
二位が H でない場合、その前の三位にアクサン。
例外は L の段。3-4,5,6 は H が二位でないのに、二位にアクサンが来ている。これは直前の三位が L のため。

L は子音だ。子音にアクサンは置けない。だからしょうがなく二位の M にアクサンを置く。

では、もし HLMH だったらどうなるか。anskital のような。
この場合、四位の an にアクサンは移らない。やはり anskItal になる。
理由は語末から離れ過ぎているため、根本的な法則である「後ろから 3 モーラ」を大きく外れるためだろう。
カタカナでアンスキタルとしても、東京人はキにアクサンを打つはず。

さて、二位が H なら二位にアクサン、それ以外は三位にアクサンという法則だが、HMH と MMH は例外になる。
また、HMM,MMM,LMM は一位にアクサンが付きうるが、これは上記で述べた平板の MM 条件を満たしているため。
しかし、HMH と MMH は語末が MM ではないし、アクサンも二位だ。平板ではない。これはどういうことか。

表を見ると、H か M が最初に来る段は、下にくだるほどアクサンが左にずれている。
ちょうどアクサン候補が 2 つある例外の HMH と MMH はアクサンが左に移行する境界線に位置している。
グレーゾーンなので移行期間になりやすく、両方のアクサンを持ちやすいということだ。

まぁこの 2 つがグレーになるのは表の流れから自然としても、問題は両者の区別をどう付けているかだ。
例えばハーディアンとみると、Kakis さんや nias さん辺りは「ハ」にアクサンを置くだろう。僕もだ。
だが、ハーダインだと「ダ」に置いてもいいような気がしないかい。あと、ハーディガンだと「ディ」に置くような気が。

a:hAr/di/an
b:har/dA/in
c:har/dI/gan

表からすると HMH の場合、M にアクサンを置くのが標準だ。だから b,c は自然。armalet（アルマレット）
なんかもマにアクサンでしょ？
だけど、a は違う。どうも――
ai, ei, ou などの前の母音が後ろの母音より強い二重母音　or　di のあとに ga などが続いて二重母音が起こらない場合
――には表通り b,c のように M が強く、それ以外では H が強いようなのだ。

だから、HMH においても法則がなくアクサンが揺れるということはない。
きちんと上記の法則に基づいている。（少なくともアルカでは）

次。もうひとつの揺れである MMH について。
amavel,amalis などは最初が強い。amAlis はヘンだ。
しかし alkamalis の場合は、alkamAlis になっても良い気がする。かといって alkAmalis でもいいような気がする。
つまり、MMH の前に何かついて HMMH などになると、二位にアクサンが置かれる場合も出てくるということだ。

えぇと、キルヒアイスは kil/hi/a/is だから、HMMH か。僕は二位に置くね。
でも、もしこれがキルヘイオスだったら、構造は同じ kil/he/i/os なんだけど、三位に置く。

で、思ったんだが、これも hardian のときと同じで、二重母音の強い方にアクサンを置いているに過ぎない。
二重母音を防いだキルヒタイスの場合、kil/hi/ta/is となるが、この場合二位でも三位でもどっちでもいいやという感じになる。ちなみに僕は二位だが。

平板の起こる条件

平板は MM のときに起こるが、恐らく全体として 3 〜 5 モーラのときが生じやすい。それ以上になるとアルカでは起きない。
日本語の場合、「腹いた止め」は 6 モーラだが平気で平板だし、「ぼうそうしょうねんどめ」なんかは果てしなく長いが平板だ。
アルカで平板が許されるのは多分 3 〜 5 モーラ。最も出てくるのは 4 モーラ。vergina, artena, artea など。

表に当てると vErgina, Artena が標準なのだが、MM なので verginA も許容される。
元は前者だから、アクサンを付けるなら平板のほうということになる。

平板になるか否かはハッキリ言って不明だ。まったく同じ構造の armiva だと Armiva になり、平板化しない。
よく平板化は慣れた語に起こるというが、それは日本語の話。実際 armiva のほうが artena より頻度が高いのに、平板化するのはアルテナのほうだ。

まとめと展望

ハッキリ言ってアクサン記号をつけたくない。面倒だから。
だから法則をできるだけ現象に近付けたい。

上記の表の法則を使えば、篩えないのは「揺れ」2 種と「平板」3 種だけだ。
揺れのうち、HMH(hardian) は謎が解けたので、法則化できた。つまりいちいちアクサンうたなくてもいい。
MMH は Amalis が一般的だが、kilhitAis になることもありえるわけで、ここがいまいち法則化できない。
だが、kilhItais はなにか不自然なので、頑張れば法則が見つかるかも。

あと、平板についてはお手上げ。読者の中にもアルテナのルを強く言う人だっているだろう。
というわけで、MMH と平板についてアクサンを振る形になりそうだ。
だが、できれば MMH は法則を見つけたい。あと、平板に法則が見つかれば神。

ちなみに今回の法則を立てるのに窪薗あたりを読んだが、どうもアルカは日本語ともラテン語とも異なるようだ。
窪薗だとこっちでいう HMH と MMH を区別できない。だから Amalis が自然で almAles が自然なのはなぜだろうという問いが持てない。
アルカは almAles については日本的で、Amalis についてはラテン的で、要するにどっちでもないということになる。

だが、日本語やラテン語と異なるといっても、大体の読みは東京弁と同じなので、少なくとも自分には楽。
面白いことに、論文を見たり内省した結果、東京弁とアルカはラテン語に近く、関西弁に遠いということらしい。不思議だ。同じ日本語なのに。

そういえば、古アルカのアクサンって誰がどうやって積み重ねたんだろう……？
自分が作った単語は少ないし、リディアの作った単語は第一音節にアクサンが来やすいはず。
だが、古アルカの固有名詞を見ていると、結構上記の表に従っているし、平板すら備えている。
アルマディオの古アルカのアクサンはマだ。アではない。しかし造語者はリディアだ。フィンランド語の応用ならアー！ルマディオッみたいになるはずなのに。

おまけ

今までの話のまとめの表

http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/variant.gif

エクスデスとイクスタン

どちらもスペルで書くと ek/s/des と ik/s/tan なので、HLH になる。
だが、東京人はイクスタンはイを強くすると思う。エクスデスはスが強い。まぁ、FF プレーヤー限定かもだけど。

ただ、エクスデスというときのスは su と発音している。
一方、イクスタンというときのスは s だ。
だから、実はエクスデスは ek/su/des で、HMH なのだ。

で、上の記事の表でいうと、HMH は M にアクサンなので、OK ということになる。
一方、ik/s/tan は HLH なので、H にアクサンということになる。
一見例外に見えて、ちゃんと規則に従っているのが不思議だ。

ちなみにこれは日本語の話。アルカだと eksdes も ikstan も最初が高い。間に勝手に母音 u を挿入しないため。

有限小数なアクサン体系

アクサン体系は無限にあるように感じられるが、煮詰めるとむしろ少ないようだ。
日本語とラテン語とアルカなど、どれも関係ないが、すべて似ている。

文法では、SOV なら AN を持つなど、ひとつ決まるとあとは雪崩式に決まることが多い。
結果、比較言語学的に無関係な言語間でよく似た文法になる。
恐らくアクサンも同じ。人間は規則だったものを好むので、ひとつ決まれば雪崩式に決まっていき、結果的にいくつかのアクサンパターンに収まる。

さらにいえば将棋にも似ている。駒の動かし方は初心者には無限に見えるが、煮詰めると定石ができてきて、一定の動かし方が出てくる。
チェスも同じ。オープニングで d4 のポーンに対して d5 ときたらクイーンズギャンビットだから、そこからインディアン防御に切り替わるのは不自然。
ひとつ流れができると、定石どおりに動く。恐らくアクサンも同じ。

だから一見関係ない幻日でも、流れが同じになってしまえばかなりの割合で同じになる。
逆に、東京弁と大阪弁はしばしばアクサンが鏡像になることがある。橋と箸が逆になるとか。（自信ないw　合ってるかな？）
同じ日本語でも、東京弁が東に流れる川だとすると、鏡像関係にある大阪弁は西に流れていくことになる。
だから、同じ言語なのにまったくぶつからない。
もっとも、大阪弁と東京弁で同じアクサンになるものも多いだろうけど。
そういうわけで、全然関係ないラテン語に似るということが起こる。むろんアルカとも。

そう強く思ったのは、フルミネアのアクサン体系を聞いてから。
北欧出身でリディアと同じでないという時点でスウェーデンかノルウェーになると思うが、どちらも日本語ともラテン語とも異なっている。
でも、彼女が作ったアルカのアクサン体系は日本語とラテン語に似ている。

もうひとつの理由が、日本人でないリディアとメルが母語でないアクサン体系でアルカを話していたこと。
もっとも、初期は母語に影響されていたが。
だから、比較言語学的な近さがなくてもアクサン体系が似るというのはあるのだなと思った。

もうひとつ傍証を挙げると、セレンが作った制アルカのアクサン体系はフィンランド語と同じで、日本語と異なる。
逆にフルミネアが作ったのが北欧語と違って日本語と同じというのが面白い。比較言語学的な近さがなくてもアクサン体系が似ることはありえるという証拠だ。

平板を選ぶ理由

アルカのアクサンは大文字で示す。日本語のアクサンはカタカナで示す。日本語は東京弁を前提とする。

ヴェルディアもアルテナも、ルにアクサンを置くか、平板化する。エスティアは平板化する。
verdia は vErdia で、artena は artenA になる。estia は estiA になる。
幻日を比べると、ヴェルディアだけ食い違っている。

平板は語末が MM のときに起こる。日本語の場合、ンは単体で M になれるので、ファザコンなどは平板になれる。
また、平板は 4 モーラ前後で起こりやすい。例えば 7 モーラで平板をすると、声の高さを最後まで維持するのが疲れるので、アルカはしない。ただし日本語はする。
この実験をリディアでしてみた。「ぼうそうぞくしょうねんどめ」という架空の単語を発音させたら、やはり平板にせず、「ぼうそうぞく」と「しょうねんどめ」で切っていた。この実験を日本語がビタ一分からない外人で試してみたい。

語末が MM の場合、平板にするか否かに分かれる。では平板を選択する理由は何か。

ヴェルディアもアルテナも「ル」にアクサンないし平板だ。
しかしエスティアは「ス」にアクサンはおかしい。もしアクサンを置くと、発音が変わる。estia という発音から、esutia に変わる。
そう、日本語はエスティアといっても実際は estia と発音しているので、s にアクサンを置こうとすると母音を挿入しなければいけない。そこに違和感を感じる人はエスティアを平板化する。
日本語の場合、ルは元々 lu と発音するので、アクサンを置ける。だからアルテナは「あルてな」でも「あるてナ」でもいい。

もうひとつ平板化する理由がある。緯音の存在だ。estia において s は緯音になる。これについて説明する。

もしエスティアを平板化せず、かつ「えスてぃあ」にもしないとしたら、「エすてぃあ」にするしかない。
では、「エすてぃあ」を発音してみてほしい。s が次の ti を発音するために下がったでしょう？
一方、平板の「えすてぃア」を発音してほしい。平板は実際には低高高高と発音する。こうなると ti を上げるために、自然と緯音の s が上がる。
子音には音程がつけられない。だが低高という流れの中にあれば、相対的にその子音は高く聞こえる。

本来日本語の場合、外来語は後ろから 3 モーラ目にアクサンを置く。
だからエスティアは「えスてぃあ」になるのが原則だ。
しかしスは s と発音しているので、アクサンを置きがたい。
そこで「エすてぃあ」にするか「えすてぃア」にするかの選択になるが、平板を選べば本来アクサンのあった s の部分が擬似的に高く聞こえる。
だからエスティアは平板化しやすい。

では s でなく k なら？
同じことだと予想される。無声閉鎖音なので。
検証してみると、aktaka（アクタカ）という単語は幻日ともに平板化する。クにアクサンを置けないからだ。

一方、ヴェルディアは違う。ルにはアクサンが置ける。日本語では平板化してもしなくてもルを強くできる。
平板化しても結局ルで上がるので同じこと。
しかしアルカはそうではない。verdia の後ろから 3 モーラ目は r だ。r は子音なのでアクサンが置けない。
だから平板化する。
と、ここまでは estia と同じ。しかし verdia の場合、vErdia もありえる。Estia はなかったのに、vErdia はある。
ここが違いで、なぜそうなるのだろうか。

それは r が s と違って有声子音で、しかも母音に近いからだ。つまり直前の母音 e と音声学的な性質が似ているということだ。
ここで vErdia と発音してほしい。なるべく母音に近づけて「ヴェルディア」ではなく「ヴェーディア」っぽく。
一方、Estia もお願いする。
どうだろう、r のほうが s より高いではないか。なぜかというと、r は母音に近いので母音に引っ張られるからだ。

つまり r では頭にアクサンを置いても、r も母音と混ざって高く発音され、アクサンっぽさを失わない。
本来 ve/r/di/a だと 3 モーラ目は r だから、ここを高くしたい。それができないから平板化するのだが、ve を強くしても e に引っ張られて r が高くなる。
だから estia と違い、verdia は平板だけでなく vErdia もあるのだ。

そしてこれが何かというと、armiva と artena が音節が極めて似ているのに、armiva は Armiva で artena は artenA と分かれていることの説明が付くのだ。

さらにもうひとつ追加しよう。
もし asmiva と astena だった場合、どうか。r を s に変えただけだ。すると面白いことが起こる。
asmiva は Asmiva も asmivA もどっちもありえると思うだろう。もっと言えば日本語の場合、「あスみば」が一番しっくりくるということもあるだろう。
一方。astena は estia と同じく平板が自然で、Estena は苦しいと感じるはずだ。

これは s の同化による。asmiva の s は同化によって有声化しやすい。さながら azmiva のように。
となると先ほどの r と同じく有声音になるから、verdia とかと同じく頭が高いパターンもありえるというわけだ。
一方、日本語で考えた場合、アスミヴァのスは同化して有声化しやすくなるため、ヴェルディアのルと同じく、後ろから 3 モーラ目の「ス」にアクサンが置きやすくなる。
そのため、アルカと異なり「あスみヴぁ」か「あすみヴァ」になり、「アすみヴぁ」は排除される。
だがいずれにせよ、s の有声化が両言語に影響を及ぼしているのは共通だ。
（ちなみにこの s は実際に z と発音されるといっているのではないので注意。同化によって耳が引っ張られるという意味でのみ使っている）

なお、語末が MM でも同じ母音が連続すれば、平板化は防がれる。
hestaa の場合、hEstaa になる。これは hestaA が極めて言いにくいからだろう。

まとめると——

1: 平板化は「CV C CV (C)V」において、C2,C3 ともに無声音である際、最も起きやすいといえる。
その理由は本来アクサンが置かれる後ろから 3 モーラ目にある緯音である C2 を少しでもアクサンのように高く見せかけるため。
2: C2 が有声音の場合、語頭アクセントも可能性が出てくる。
3: C3 が有声音の場合、C2 の有声化により、語頭アクセントも可能性が出てくる。
4: 語末に同じ母音の連続があれば、平板化はしない。
5: もし「CV C CV (C)V」において C2 と C3 が清音なのにアクサンを置くなら、母音添加が起こる。だが、アルカでは起こらない。

――となる。恐らくアルカでも日本語でも言えることではないか。
反論募集中。

ＨＭＨとＭＭＨ

揺れが起こるのは HMH と MMH だけ。ここを法則化できれば揺れが消える。
HMH においては hardian,hardigan,hardain はそれぞれ hArdian, hardIgan, hardAin だ。
HMH の基本は M にアクサンなので、例外が出ている。これは困る。

昨日の夜に魚楠さんから、「音節でも考えたらどうかい？」というのがあって、「そうだにゃあ」と思い、音節も踏まえて考えてみた。
そこで、新たな概念を導入してみる。

語末の MH において、CV VC になるパターンは、実質長音節を作る。main,kain など。
この中の二重母音の強弱の関係を見ると、main では a>i になっている。＞の流れのあるものを強音節と呼ぼう。それ以外は弱音節と呼ぶ。

強音節は＞の流れを持っているので、アクサンが付けやすい。アクサンを付けると最初は高く後ろは弱くなるから、＞の流れを持つため。
dain は＞なのでアクサンを付けやすいが、dian は＜なのでアクサンを付けにくい。
普段はこの差を意識しないが、hardian のような単語になってくると違いが出てくる。

強音節を X とし、弱音節を Y とする。
XY を導入すると、HMH は以下の 3 種に分かれる。

1:HMH：har/dI/gan：HMH の基本法則に基づき、M にアクサン。armalet,artales なども同様。
2:HX：har/dAin：X にはアクサンを付けやすいのだから、X にアクサン。カーマインとかもそうだね。
3:HY：hAr/dian：Y にはアクサンを付けにくいので、前の音節にアクサンを繰り上げる。i の後ろの a にアクサンを置いたら元も子もない。弱と強に分けた意味がなくなる。

――このように振るえば、例外なく篩える。

同じように MMH について。
アルカでは Amalis, Atolas, agEit, kAmian, rIdian のようになるが、篩えるだろうか。

1:MMH：A/ma/lis, A/to/las：法則どおり M1 にアクサン。
2:MX：a/gEit：X にアクサン。アテイン、カノイン、ヒャダインとかもそうだね。
3:MY：kA/mian, rI.dian：前の音節にアクサンを繰り上げる。

――こちらもきちんと篩えた。

この法則は中々いい。音節だけで考えるとラテン的になるし、モーラだけで考えると日本的になる。どちらにしてもアルカの音声は篩えない。
しかしこの法則だときちんと篩える。揺れがない。

ちなみに、amai は MX ではない。X の定義は CVVC だし、そもそも MMM になってしまう。MMH の仲間ではない。
同じく aria も MY ではない。MMM であって、MMH の仲間ではない。

ただし、音だけではどうも篩えない例もある。kanxion も arxion も HY だが、kanxIon や arxIon のほうが自然。
これは意味のせい。カン（父）・シオン（紫苑）、ar（神）・シオン（紫苑）だと脳が思っているため。
これが意味のないレンピオンだったら、ウチの連中は lEnpion にすると思う。
法則からいけば kAnxion や Arxion になるが、意味的にどうかなぁ。多分、どちらも間違いではないと思う。

まとめ

HMH

HMH → M にアクサン
HX → X にアクサン
HY → H にアクサン

MMH

MMH → M1 にアクサン
MX → X にアクサン
MY → M にアクサン

法則と例外

上の記事までで、次のことが分かった。

1: 音節の順列は 27 種。足りなければ頭に音節を足すが、足してもアクサンに影響しない。
2: 二位が H ならそこにアクサン。そうでなければ三位にアクサン。
3: 三位が L ならそこにアクサンは置けないので、二位に繰り下げる。
4:HMH と MMH は一見アクサンの位置が単語ごとに揺れる。だが X,Y を導入すれば揺れない。
5: 語末が MM だと、平板化の可能性がある。平板化にはしやすさの階梯がある。

さて、これを踏まえると、アクサンをつけるべきものは次の 2 つと分かる。

1: 平板
2: 例外

1 は既に見た。
2 は具体的に何か。

例えば faramon。fa/ra/mon と区切ると MMH なので fAramon になる。これが法則どおり。
しかしこの魔族の名前は実は far/a/mon と区切る。すると HMH になるので、farAmon になる。よって音訳は「ファラモン」ではなく「ファルアモン」
アクサンの付け方は法則どおりだが、音節の切り方が普通じゃない。これが例外の例。

次。baltir のように「母音＋ r」で終わるものの一部は、後ろにアクサン。
音訳はバルティルからバルティールに変わる。emir も emIr で、音訳はエミール。
これらは単語ごとに覚えるしかないので、アクサン記号を付ける必要がある。

kmiir などは法則通りに i にアクサンが来るので、わざわざアクサン記号は要らない。
ちなみにこの「ール現象」だが、クミールの名前が原因な気がする。
元々彼女は kumiir だったが、制アルカでは kUmiir になってしまうので u を落とした。
lfer もそうで、lufer だったが、制では lUfer になってしまうので u を落とした。
どうもアルカという言語は、法則を破ってでも「ール」という音にアクサンを置きたがる強い力があるようだ。
アンヴェルだってアンヴェールになった可能性もあったわけだ。
――と思ってリディアに得意げに言ったら、「アンヴェルはアンヴェールにならないよ。ルフェルみたいに lqfer というようにシュワーで発音されていた弱い音節だから、q が落ちたの。an は n を落とせないでしょ」といわれた。
西洋人鋭すぎるｗ　じゃあバルティールはなんでだよと突っ込んでおこう。

日本語との異同

アルカのアクサンはラテン語と日本語に似ているが、少し違うという結果になった。まぁセレンやリディアには楽だわな。
だが異同があるし、こんだけ法則を模索するってあたり、やっぱゼロから作っただけのことはある。
アプリオリ自慢はいいとして、とっとと異同について。

日本語の場合、外来語は後ろから 3 モーラにアクサンという原則があるが、センテンスなど、原語に合わせたものがある。
しかし、アンタレスのような不思議な単語もある。法則からいうと「あんタれす」だし、原語でもアにアクサンはない。勘違い語かな？
アンタレスとかは日本語とアルカが一致しない。ヘキサゴンも不一致。アルカだと hekisAgon になる。

次。促音・撥音・長音が日本語では特殊モーラになるが、アルカには存在しない。
これらを含むと異なってくる。特にトで終わるものは「ット」になることが多いので、かなりずれる。
アンクノットとかアステノットとか、アルカと全然異なる。
ご存知のようにアルカは t で終わるものが非常に多いので、けっこう異なってしまう。面倒くさい。

次。二番目に「ル」や「ン」が来る 4 モーラの言葉。これがかなり厳しい。
アルカは「アル」で始まる単語がむちゃくちゃ多いので、ずれが激しい。
「アルシア」はルにアクサンだが、アルカだとそこは子音なのでアクサンを置けない。
4 モーラ以外でも起こる。アルシオンはルにアクサンだろうが、やはりそこには置けない。
ちなみに二番目がスでもクでも同じようなものだが、ルほどアルカにはない。

とりあえず、子供が増えても二文字目をルにしないことにしよう。日本語とアクサンが変わるとややこしすぎる。
ラッキーなことに、ゆうた、るしあ、ゆると、全部最初だね。制でも新生でも同じ。よかった……。
はいれん、あまヴぇる、も OK だね。よかった。

揺れについて補足

MMH は M1 にアクサンがメイン。Amalis など。
しかし前に何か付くと HMH と同じく真ん中の M にアクサンが移ることがあるようだ。

例えば魔族 lastiAdin。ほかにも fremAzer 国。
だが、もともと Amalis なものに何かを足した場合、valAmalis のようになり、アクサンは動かない。

あとこれは HMH への補足でもあるが、MMH と HMH でアクサンがどちらか迷ったとき、前に上げた音の規則以外に、意味の区切れでアクサンを振ることもあるようだ。
valAmalis がその例だ。fremAzer も意味的に frem/azer なので、意味でも切れている。

あと、LML については M にアクサンだ。skit のように。
しかし lanskit のように s が前の形態素の所有物の場合、lans/kit で切りたいなという意識が働くので、lAnskit になりうるようだ。

どうも音だけでなく意味の区切れも手がかりにしているらしい。
トートトー、トートントーのようにビープ音だけで検証すれば意味は関わらないと思う。

さて、これで問題なさそうなら提案してみよう。
あとは実際それでやってみたときにどんだけ例外が出るかだ。

で、アクサンの付け方だが、アクサンを置く音節の後に置くことにする。
理由は 2 つ。

1:'ardian にした場合、辞書では ' のほうが文字より早いので、この単語が a のところに来なくなる。
2: ほとんどアクサンは平板用なので、vergi'na みたいのが多い。vergina' としたほうが単語が分断されず、きれい。

さて、神古サイトを直すか。

あと、念のため、HMH, MMH, 平板 , 例外の 4 種には付けようかと思うんですが。
その場合——
PDIC の見出し語検索→あいまい検索語設定→特殊文字を無視する→ ' を登録
——してもらう必要があります。各自に。でないと単語が検索できなくなる。

二位に H が来るものは付けなくていいし、二位に M が来て HMH,MMH 以外はこれも付ける必要がない。
HMH,MMH は法則はあるものの、揺れは揺れだから、つけたほうが統一を図れると思うんですよ。

メルの案

セレンの案は法則が多すぎる。人間はもっと簡単な規則で動く。
以下はセレンの案を受けたメルの案。便宜上「我々」には東京弁も含めておく。

＜前提＞

1: 二位 H がなら、二位にアクサン。
2: そうでなければ、三位にアクサン。

この規則を持つと、我々は長い単語「＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＃」を見たときに＃から数える癖がつく。
しかし日常のほとんどの単語は「＊」か「＊＊」で収まる。短い場合、上記の法則を当てはめると最初にアクサンが置かれる。そのため、後ろから数える必要がなくなる。
この結果、我々は「短い単語を見たら迷わず語頭にアクサンを置き、上記の前提を用いない」という怠け癖がつく。
そして、「長い単語を見たら面倒だけど後ろからカウントする」という癖が付き、2 つの癖を持つようになる。

実際、我々は fain,fian などは、見た瞬間頭にアクサンを付けている。反応速度は速い。
だが、これが fialent になると「ん、なんか長そうだ。数えるか」と思うので、時間がかかる。
フィアンだと迷わずフィにアクサンだが、アルバザードだと「読みながら目を右に移しつつ、カタカナの終わりが見えたら、終わる 2,3 個前でアクサンをつける」という処理をするため、反応が遅くなる。
確かに我々は日常的にそうしている。

2 つの癖を持っているので、長い方が法則を適応する手間がかかるので、できるだけ短い方がありがたい。
問題はどの程度で長いと言えるのかだ。そして長いと短いの境界線が HMH と MMH なのだ。
MMH は CV/CV/CVC で、amalis のような単語だ。ここがギリギリ短い境界線なのだ。だから amalis は Amalis になる。
一方、HMH は CVC/CV/CVC で、これがギリギリアウトで、長いに当たるのだ。だから almalis は almAlis になる。

また、MMH は「ギリギリ短い」という扱いなので、単語全体が長くなって HMMH などになった場合、「長い」と判断される。
そのため、HMH と同じように、真ん中の M にアクサンが置かれるようになる。lastiAdin は HMMH、fremAzer は LMMH の例。
ただし valAmalis はもともと Amalis という単語があると脳が記憶しているため、アクサンが動かない。

――以上。
メルの案は「短ければ考えずに頭」「長ければ考えよう」という、彼女らしい発想で、面白い。
これなら人間の感性にも合っている。

ただ、これだけだと hArdian, hardIgan, hardAin は篩えないんじゃないかな。
メルの案だと、27 種すべてのアクサンの位置を「長さ」でサクっと片付けられる。ただ、HMH と MMH のアクサンの揺れについては説明がない。
HMH のデフォが M で、MMH のデフォが M1 だということは分かるが、非デフォが選ばれる際の理由については述べられていない。そこはセレンの案を使わないといけないということだろう。

だが、これは進歩だ。まず 27 種をすべてサクっと篩える。
で、非デフォの 2 パターンだけ後々考えればいい。このやり方はスマートで、人間が処理しうる仕事量だ。

リーザの案

セレンの挙げた 27 分類では、篩えない例が出るとして、以下リーザの案。

lIvlpit（産科）と tezspEl（ピリジン）が区別できず、HLH に入っている。
これを区別するために、長音節を導入。CVCC となるものを S とする。

また、27 種をよく見ると、MML は MH とも取れ、2 音節だ。
MH は MML の variant として働く。

↓確かにそうだ。それを受け、S と variant を加えて表を書き直した。

http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/formula.gif

HLH は SH と HS に分けられた。これで lIvlpit と tezspEl が区別できる。

また、27 種すべて 3 単位だと思っていたものが、1 ～ 3 単位まで幅が出てきた。
長いのは HHH のような 3 音節。短いのは MLL の variant である S のような 1 音節。
引き続き、音節を後ろから数えて一～三位までと呼ぶ。

アクサンの法則：変域は四位まで。若い数字の法則が優先。

1: 二位までの S にアクサン
2: 二 , 三位の H にアクサン
3: 三位の M にアクサン
4: 二位の M にアクサン
5: 四位にアクサン

HLM は SM にはなるが、HS にはならない。filski（ベンチ）の ski は後ろに子音が 2 個足りないので S になれない。
そして filski の実際の発音は fIlski だから、理屈と整合する。
同じ理由で MLH は MS にならず、MLM は MH にならない。

また、MML は MH と捉えなおすこともできる。
そのため、MH の前に L,M,H のいずれが来るかで、その後の振る舞いが変わる。例えば MMH になったりするわけだ。

さて、この法則は「語末から少し離れたところにある最も大きな音節を探す」作業に等しい。
これで篩えないのが例の HMH と MMH。これについてはセレンの案のとおり。
MMH は前に何か来れば真ん中の M にアクサンが来るのも同じ。fremAzer など。

http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/HMH%7C0MMH.gif

なお、daizailai は法則に従うと daizaIlai だが、二重母音なので daizAilai に繰り上げる。
ただし、もし意味的に daiza/ilai で区切れるなら、daizaIlai でも可。

LML は S になる。なら LML 自体不要では？つまり、variant があるものは formula を消してもいいのでは？

確かに skIt は LML で S になる。しかし lanslil（ビスマス）は lans/lil で区切るので、s は lil のものでない。
従って発音は lAnslil になる。もし S しかなかったら lanslIL になってしまう。
こういった理由から formula は消さないほうがよい。つまり、モーラ単位を捨てないほうがよく、音節とモー

ラの両面で考えたほうがよい。

まとめ

S を入れて、より例外処理が進んだ。
逆に S を入れることで、日本語からの距離は遠くなった。日本語は音節から考えないので、もはや日本語のアクセント体系とは異なる。
悪く言えば判断が面倒。良く言えば完全にアプリオリになった。

平板化の傾向

平板化するか否かは人によって違うし、自分の中でもあやふやだったりする。
どうも平板には法則がない。しかしアルテナはほとんどの東京人が平板化するはず。
傾向はあるはずだ。それは何だろう。手当たりしだい調べてみた。

1: 語末が CVCV だと起こりやすい。
arbanA,magatA など。

2: VCVV だと起こらない。
Amai,Anai など。

3: 語末が CVV だと、CVCV ほどは起こらない。
aRdia,aLsia など。

4: 三位（後ろから 3 モーラ）が清音連続の場合は平板化しやすい。
estiA,aktakA など。
エスティアは日本人が読むと estia となる。しかしアクサンは本来三位の eStia に来る。
だが S は子音なので、アクサンを置きがたい。このような場合に平板化しやすい。

4': 三位が lt,ld のようになり、間の u を落とす場合は平板化しやすい。

artena など。アルテナと発音する日本人は実際には altena と発音している。
l は側面音で、発音後も舌を離さない。そのまま舌を動かさずに t に移行できる。だから間の余計な u が落ちる。
逆に tl は不可能。t で一度舌を弾いてしまうため。

artena の発音は altena となるので、アクサンは aLtena になる。が、L にアクサンは置けないので平板化しやすい。
armiva は日本人が発音すると alumiba になる。u は落とせない。だから artena よりは平板化しにくい。
アルカの場合、armiva を alumiba と解釈しないので、この限りではない。

4 と 4' をまとめれば、「三位と二位の間の母音が落ちる場合は平板化しやすい」になる。

5: CVV CV は平板化しない
xIona,fIona など。

6: 4 モーラ前後に平板化は起こりやすい。長すぎると起こりにくい
magatA は平板化するが、仮に fionamagata というのがあったら、fionamAgata になる。

7: CVV CV CV は平板化してもよい
xionana というのがあれば、xionanA でもよいかもしれない。

検証

arteA は日本人は altea と発音するので、4' どおり平板化する。
alsia は ls 間の u を落とせないので、alUsia となる。

arteA と aRdia は同じ構造だがアクサンが異なる。前者は 4' を優先し、後者は 3 を優先した結果。
ここから分かるのは、4' と 3 は等価であり、優先順位はないということ。

また、傾向 0 として「意味の区切れを最優先する」を加えたほうがいいだろう。
そもそも xiona は xion から来ているので、語末が MM でも平板化しない。

展望

まだまだ挙げれば傾向はあるはず。
しかし、たくさんの規則を人間が適応するはずがない。
たくさんの規則を使わない、もっとシンプルな理屈があるはず。
あるいは、これらの規則に基づいて判断しつつ、ふだんは似た単語からの類推で済ませ、労力を減らしているのか？

オノマトペ

オノマトペは擬音語、擬態語、擬声語、擬情語に大別される。
このうち擬声語は擬音語に、擬情語は擬態語に含められることが多い。

擬音語を欠く言語は存在しないが、擬態語を欠く言語は存在する。
例えばフランス語にはジグザグなど一部を除いて擬態語が原則存在しない。

ここでよくある誤解が「フランス語は明晰だから」や「日本語は感情表現が豊かだから」といったものである。
こういうものは民間語源と同じで信用できない。平然と出版物に載っていることもあるので注意したい。
明晰だとか感情豊かだという問題ではなく、同じ感情に対してどうアプローチするかの違いにすぎない。

フランス語は「イライラする」を表す場合、s'agacer のように擬態語以外（ここでは動詞）を使って表す。
逆に日本語も擬態語を使わず「苛立つ」のように表現することができる。

ただ、まったく両者の間に差がないかというと、そうとも思わない。
同じ人間だから「イライラ」という感情はあるが、それを「飛ぶ」や「熱い」などの普通の言葉と同列に捉えて客観的に表現したがるのがフランス語だとしたら、擬態語などの音声に委ねて感覚的に表現したがるのが日本語といえる。
この「したがる」という部分、つまりアプローチの仕方が両者の差異である。

さて、人工言語的に見ると擬態語を作らないほうが作業が楽に見える。
しかしフランス語と同じく、結局その分ほかの動詞なり形容詞なりを作ることになるので楽はできない。
ちなみに日本語のように「イライラ」も「苛立つ」も両方作ると手間がかかる。が、そういうアプローチにしたいのであればやる価値はあると思う。

人工言語に擬態語を付与するか否かは「楽かどうか」という観点ではなく、上で述べた感情表現をフランス式と日本式のどちらにするかという観点で考えるべきことである。
この辺りの事情はアルカの認知言語学的考察に詳しい。

・オノマトペの分類

アルカのオノマトペは擬音語と擬態語に分かれる。このうちフランス語同様、擬態語は少ない。
擬態語に相当する表現を欠くという意味でなく、補完するための表現が存在する。そのため、人工言語造りにおいて労力の削減は期待できない。

擬音語には帰納音と演繹音の 2 種類がある。これはアルカの術語である。

帰納音はそれひとつで完結しているものである。
猫の鳴き声の nya や犬の wonwon などの擬声のほか、鼻をする aj などの擬音がある。これらは勝手に nyo や wanwan や ej に変えることができない。
動物の声や物音を聞いてその音を文字に帰納させたものなので、帰納音という。
世の中にまったく同じ音はないが、何度も動物の声を聞いているとある音に帰納することができる。それゆえ nya などを帰納音という。

一方、演繹音とは (C)CV(C) からなり、規則的に C や V を変えることによって印象を変化させる擬音語である。
例えば pxat は水が「ぱしゃっ」と撥ねる音などに用いるが、それを有声化した bjad は泥が撥ねる音に用いる。
さらに間の母音を変化させることで音の明度と重度を変えることができる。pxit は小さな飛沫が「ぴっ」と撥ねる音である。
同様に bjid は水たまりの泥などが「べっ」と撥ねて靴や服などに飛んでいくときなどに使う音である。
演繹音については後述する。

・分類表

オノマトペ

　擬音語

　　帰納音

　　擬音
　　擬声

　　演繹音

　擬態語

・幻日におけるタグ

擬音、擬声、演繹音、擬態語の 4 種をタグとする。

・演繹音

演繹音のおかげで、アルカは音に関して非常に細やかな表現を可能にしている。
演繹音は幻日では［演繹音］のタグで示される。

しかし上述の pxat, bjad, pxit などをすべて見出し語に挙げると、無尽蔵に単語が増えてしまう。
水嵩を増してまで辞書の収録語数が多いことを誇示しても詮なきことであり、むしろ管理の煩雑さとユーザビリティを考慮した見出し語システムを整えるべきと考える。

そこで見出し語には pxt のみを立てることとする。
清音が無標であるから清音を表記し、母音は無標がないので省略する。
［演繹音］のタグがあるので、ユーザーはすぐにそれが頭字語などでないことが理解できる。
そしてこれを元にユーザーは自由に音質を変えることができる。では音質はどのように変化させることができるだろうか。

1: 子音の清濁

清音は弱い、綺麗、澄んだ、軽い、涼しいなどの音質を与える。
濁音は強い、汚い、濁った、重い、熱いなどの音質を与える。

pxat　ぱしゃ
bjad　ばしゃ、べちゃ

中国語などでは清音はないが、事実上無声音になっている有気音が無気音より勢いがあるため、pang と bang だと pang のほうが強いと考える。
これは大学時代に筆者が実際に複数の中国人に尋ねた際に得た回答である。
そのため、アルカや日本語とは感覚が逆である。

J: 母音の音質

a: 明度

明度は i>e>a>o>u の順序である。
i のほうが u より「明るい、前に出ている、活発、賑やか、幼稚」などの印象を持つ。

b: 重度

重度は o>u>a>e>i の順序である。明度の反対ではないことに注意。
o のほうが i より「重い、大きい、深い、不活性、大人、大人しい」などの印象を持つ。

よって、同じ水の撥ねる音でも、pxit は最も軽く弱く明るく、雫の撥ねる音を表す。
一方、bjod は粘度の高い重い油や泥などが撥ねる音を表す。

?: 母音の長短

短母音が無標。
長母音はその音が長く持続していることを示す。

pxat はぱしゃっと少しだけ水が撥ねる音だが、pxaat は例えばピペットでぴゅっとある程度の量を吹き出すときの音。

0: 繰り返し

演繹音を繰り返すことで、反復を示すことができる。
pxatpxat で「ぱしゃぱしゃ」、pxaatpxaat で「ぴゅーぴゅー」。

・子音の構成

音節頭の子音は 1 ないし 2 音からなる。
これらはその演繹音の全体的な音の種類を決定する。
例えば px- は「何らか水が動くとき」という音の種類を決定している。

一方、音節末の子音は 1 つからなる。
これはその演繹音の部分的な音の種類を決定する。
同じ px- でも、-n の場合は「柔らかく撥ねたり転がったりする音」であり、-t は「撥ねたり止まったりする音」である。

よって pxat と pxan では音の種類が異なる。
px- を共有しているので全体的な音の種類は同じだが、-t か -n かという違いで部分的に音の種類が異なる。

そういった子音の構成が決まった上で、上記の子音の清濁による音質変化や、母音や繰り返しなどによる音質変化があるため、実際に演繹される演繹音の数は極めて多い。
これをもってアルカは音に対して細やかな言語と評している。

・末子音

末子音の種類と音質例は以下の通り。
元々有声音なものはこれ以上有声音になれないし、無声音にもなれない。

t：撥ねる、止まる
k：ぶつかる、転がる、回転する、固い
x：伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭い、冷たい
s：伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭くない、涼しい
n：撥ねる、転がる、回転する、柔らかい
f：吹く、続く、擦れる、弱い
m：まろやか、転がる、微動する、回転する
p：弾ける、止まる、破裂する、静止する
h：擦れる、鈍い
c：響く、連続する、打ち付ける、攻撃的
r：消える、去る、行く、流れる
l：現れる、来る、留まる、流れる

・演繹音の用途

演繹音の用途は小説や日常会話だけでなく、漫画に出てくる多種多様な擬音語を示すのにも役立つ。

・演繹音の文法

演繹音は基本的に名詞なので、文中では fo 格などを取る。
tef lunak kaam fo pxit（雫が頬にぴしゃっと当たった）

アトラスの国際音声字母

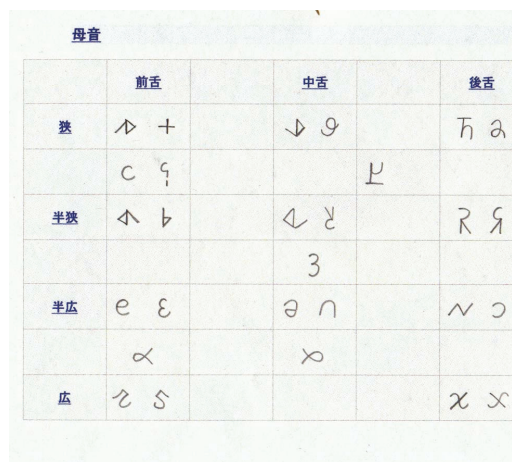
アトラスの IPA に当たるもの。
現実にはセレンが 20 年に定めた。神話上ではオーディンでセレンが定めた。
制以降と古アルカの幻字を使い、古アルカに存在しない音声は鏡像などを駆使して配置した。

今回掲載するものは、セレンの制定したもののうち、IPA の 93 年改訂版にリストアップされているものを抽出した表である。
音声記号はその気になればいくらでも細かく作れるため、実用ベースに乗せるため、ガイドラインを設けたというわけである。
実用ベースで考え、今回は補助記号等を設けなかった。

元々存在する幻字を見れば、「この音は古アルカにはあったのだな」ということが分かるため、非常に個別言語的な音声表記になっている。
IPA を定める際はハングルのように調音点などを考慮して機械的に決める方法が体系的である。
しかし機械的すぎるものはかえって使いにくく見間違いやすいという欠点もある。
何よりその方針はアルカに合わない。そのため、労力はかかるものの、今回のような言語・文化・歴史を背景にした音声表記を作った。

母音

以下が母音字である。



字形の説明については下記の通りである。

制以降にある母音 a, i, o, e, u については、それらが示す最も近い位置に配置してある。
それ以外の音声で、古アルカにあった音声は古アルカの当該の文字を当てている。

狭い i は「目」の i であり、単音なので音が伸び、イーと発音され、狭いイで発音された。
その円唇の y は異音として古に存在したもので、yunk などに見られたため、yunk の字を当てる。
ただし字形が冗長なため、中の十字の部分だけ抽出する。

広い i は制以降の i である。
その円唇は unus（斬首）や mun（様子）に使われた異音である。mun の字が複雑なので unus を取った。
unus の下の短い縦棒は冗長かと思うが、元々あまり使う音ではないのと、できるだけ後述の o の音と区別したいために残してある。

狭い e は「左」の e であり、「目」の i 同様、狭いエーで発音された。
その円唇は teo の二重母音で見られた音で、e の異音としても使われた。この音は teo の字で示す。
若干斜体にして書いてもよい。

広い e は制のものである。
その円唇は kea の二重母音中に現れる音である。
kea の字から冗長さを省くために斜線を取り去る。

apple などに使う ae の音は e an（私の）が短くなったエァンという単語に現れた。
e は keno の文字と等しいので、keno の字をあてがう。

前舌の a は制の a であるが、デザインは筆記体から取った。
その円唇は古にも存在しない音であるため、a の鏡像をあてがう。

奥舌の a は aa（腰）などに使われた音で、aa の文字を基にしている。
aa の文字は)(のような字形で、幻字で読むと oi に見えがちである。
そこで線を交差させて x のようにした。
その円唇は古アルカにはないため、x の鏡像にした。
鏡像で形が違うよう、単なる x ではなく、片方の線を曲線にしてある。

広い o は制の o である。
その非円唇は古アルカにはない。
（現実には英語を併用していた時代だったので、cut などに使われ、皆習得はしていた）
アルバザード人にとって呟きのアに近い音であるため、擬声語 a, aa の字を基に字形を定めた。
垂れの中に xiv が入っており、xiv の中の N 字形のものを選んだ。

狭い o は距離の o などに使われた。
その非円唇は古アルカには存在しないため、o の鏡像とする。

u は制のものである。
アルカは伝統的に u の丸めが弱いので、しばしば非円唇に近い音になる。
だが、これは音声表記としての u なので、この音声記号自体はきちんと円唇にする。
これの非円唇は古アルカに異音として存在し、atu のように短くアクセントのない u や、luuto のように uu でもアクセントのない部分に用いられた。
（ただし厳密には luuto は円唇で発音するものもあった）
字形が単純なため、音声記号には luuto を用いる。

中舌は伝統的にアルカにはない。
ただしシュワーは除く。これは制通りの文字である。
それを広くしたシュワーは ae の音を指す keno の鏡像である。

これらふたつのシュワーの間にある母音が広い e をひっくり返したものである。u と区別すること。
そしてその円唇は広い o を∩状にしたものである。

シュワーの上に来る半狭の中舌は狭い e をひっくり返したものである。
その円唇は距離の o をひっくり返したものである。

狭い中舌は i をひっくり返したものである。
その円唇は u をひっくり返したものである。

最後に、広い i を奥舌にしたものが luuto をひっくり返したものである。

●鼻母音

鼻母音は ˜ を母音の上に付けて示す。
実はこの決定には迷いがあった。なるべく地球の IPA と同じにしたくないので、ヘッダは避けたかった。
しかし〇だと潰れやすいし、横棒や斜線だとアクサンと区別がつかない。ウムラウト記号は 2 画で冗長。
そこで手軽な線でと考えると、IPA に関係なくヘッダが適切ということになった。

子音

同様に次図が子音である。

制以降の幻字と同じものは説明を省く。
母音と同じく制以降にあるものは最優先。古にあった音声は古幻字を使う。それ以外は鏡像や〇や棒などの記号と合わせて表現する。
ゆえに、母音と同じくアルカという個別言語を基にした文化背景およびアプリオリ性の高い音声記号になっている。

横棒を入れると調音点が後ろにずれるようになっている。
左上から順に説明する。まずは破裂音。

・破裂音

そり舌は歯茎音に横棒を入れたものになっている。
以下そり舌は同様なので省く。

硬口蓋は摩擦音のそれに∩状の線を加えたもの。

口蓋垂は k,g の調音点を横棒でずらしたもの。

声門音は・(n と読み、沈黙の意味）と｜（mono と読み、止めるの意味）を合わせたもので、グロッタルストップを示す。

・鼻音

唇歯は ninf（段）から。nf の部分にこの音が現れた。

硬口蓋は摩擦音のそれと、鼻音の n を合わせたもの。

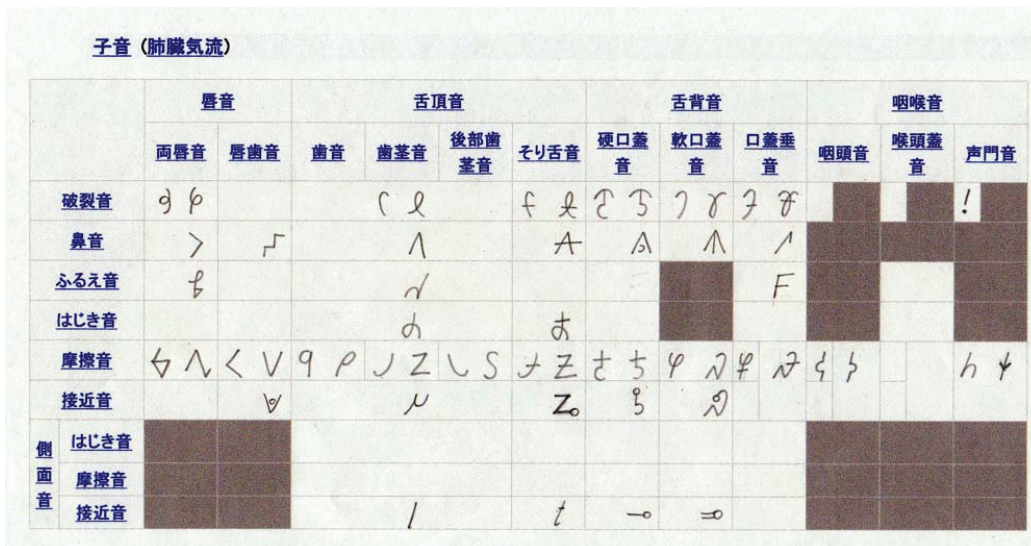
軟口蓋は古の tinkaa などに現れた音で、tinkaa の「水」みたいな字形に n を合わせたもの。

口蓋垂は古 nn（なにか or する）や古 n（沈黙）などに現れた音で、前者の文字をそのまま使っている。

・ふるえ

両唇は beo, ben（クソ）の卑音から。
非常に強い音で、強調時にのみ現れた古の音声。

口蓋垂はうがいのオノマトペとして古に見られた音で、音韻でもあった。ドイツ語の r に当たる音である。
今でいう aga（うがい）の g の部分がもともとこの音だったが、aga は 3 段の古幻字なので、そのままだと形が複雑すぎる。
そこで垂れの部分と声を示す横棒を基に、F のような字形にした。



・摩擦

両唇無声は yots, fots（解放）に現れた古の音韻。fots の f の部分がこの摩擦音。

有声のほうは vigyu（厳しい）の v の部分に使われた古の音韻。
古では vigyu がその後 bulta に変化しているが、vi と bu の部分は同じ語幹であり、どちらも本来はこの有声両唇音である。
母音との区別に注意。形が少し違う。
vigyu の vi は vivi（強い）ではないだろうか。とすると vivi の v もこの音だった可能性が高い。

無声硬口蓋は kahi（罪）に使われた。
『アルカ』の音韻ではヒの音は挙がっていない。han の音韻の異音としてカウントされていたようである。
その有声は鏡像で示す。

有声軟口蓋は waho（小手）から。この音は yaho（鎧）などにも使われた。
アクセントはどちらも ho にある。
口蓋垂はこれらを後ろにずらしたもの。

咽頭は無声と有声を合わせると古の gag（喉）の文字になる。
ちょうど鏡像で扱いやすい。

有声声門は nyohe（弱い）から来ている。
古の音韻ではないが、20 年現在セレンが発音してみると、どうも nyohe というときにこの音を使うようである。

・接近

接近は当該の調音点の摩擦音に〇を加えて示す。
例えば唇歯は v に〇を加えたもの。

・側面

接近のみ抽出。

そり舌は母音の y と区別するよう注意。t のように横棒が上寄りで、背が高い。

硬口蓋は xal, xalul（経験）の xalul の部分。
古の音韻で、u のような奥寄りの母音の後に来ると現れやすい。
kul などと発音すると、比較的この音になりやすい。

軟口蓋はそれに横棒を入れて後ろにしたもの。

粗野な発音

以下はアルバザード語を含んだ北方語などに見られる二重母音の変化で、粗野な発音とみなされる。

きちんと二重母音を発音すると舌をよく動かさねばならず、労力がいる。
そのため、省エネとして二重母音が変化する。言語一般に見られる傾向である。

北方語では粗野でいい加減な発音とされ、丁寧でない言い方とされる。
ちょうど日本語の「うるさい」と「うるせー」の関係にある。

同じ二重母音の変化でも、ルティア語の二重母音は洗練されているとみなされる。
œ などはルティア語にしかないため、洗練された印象がある。
文化の違いがあるため、これらの区別に留意。

また、ルティア語の二重母音と異なる変化を持っている。
変化の仕方はルティア語より単純なため、覚えやすい。

ii → yi（イィ。アクセント位置移動。以下同）
ie → ye（イェ）
ia → ya
io → yo
iu → yu

ei → ee
ee → ee
ea → ya
eo → yo
eu → yu

ai → ee
ae → ee
aa → aa（ただし奥舌）

ao → oo
au → oo

oi → wi（アクセント位置移動。以下同）
oe → we
oa → wa
oo → oo
ou → oo

ui → wi（アクセント位置移動。以下同）
ue → we
ua → wa
uo → wo
uu → wu

i, e で始まるものは y になる。
o, u で始まるものは w になる。
a で始まるものは前舌は ee、中舌は aa、奥舌は oo となる。
e で始まるもので、次の母音が自分より前舌の場合、ee になる。
o で始まるもので、次の母音が自分より奥舌の場合、oo になる。

hei lein, xe fian keir aol（なぁレイン、女の子がアシカを追っているよ）
→ hee leen, xe fyan keer ool（おいレイン、チビがアシカ追ってんぞ）

回復点

アルカのイントネーションには回復点 (sarit) というものがある。日本語の場合、ダウンステップにより文頭は比較的高く、文末にかけて声がだんだん低くなるという現象が起こる。アルカも肺臓気流を使うためダウンステップは起こるが、回復点があるという点で日本語と異なる。この回復点がアルカ独特のイントネーションを作り出している。回復点を学ぶことでアルカのイントネーションを理解することができる。
文頭から文末にかけては通常音が低くなる傾向にあるが、回復点が来ると音の高さが一旦持ち直す。

回復点は例えば動詞＋目的語の場合、目的語のアクセントの来る部分に存在する。例えば siina dilt の場合、dilt の di の部分に回復点が来る。同様に、名詞＋形容詞の場合は名詞にも形容詞にも回復点が来る。また、格詞の後の格詞目的語にも回復点が来る。
アルカの語順はＳＶＯであり、それを拡張するためには主に格詞句を使う。或いは名詞に形容詞を付け加えたり、副詞を挿入したりといった方法で文を広げていく。この単純な構造と回復点の位置が分かっていれば、回復点に耳を集中させることによって文の構造を聞き取りながら理解することができる。

回復点が随所にあることで、アルカにはダウンステップがあっても文頭と文末の音の高さが日本語程変わらない。言い換えればアルカの音域は狭いということである。この結果、女性は高く可愛らしい声を維持したまま喋り続けることができるし、逆に男性は低く落ち着いた声を維持しながら喋ることができる。
また全体として印象は落ち着いた感じになる。抑揚が少なく落ち着いた印象を与え、大人びた印象を与える。

日本語の場合ダウンステップの結果文末の音が低くなるので、逆に文頭をあらかじめ高く発音しておかないとを音の高さが持たない。人間はある程度までしか低い声が出せないので、自分の声の最低の低さを限界点として、逆に文頭をあらかじめ高く読んでおかなければ、後から声が持たなくなる。ゆえに日本語の場合は文頭が高くなる傾向にある。
アルカの場合回復点があるので、始めから低くても最後まで低いまま維持できる。音の高さが随分違い、抑揚が全体的に少なく音域が狭い。

回復点を大文字で示す

dIvaik e yUli ke kActe im nIansel ka arbazArd.

アルバザードの子供の多くは休みの日に公園へ行く。

・アルカの音階

上記の例文を実際に読んでみて、ピアノを用いて発話の音階を調べてみた。
私の日本語の場合、冒頭の「アルバザード」の「ア」が高いドの音で、「公園へ行く」の「く」が低いドで、ちょうど音域が 1 オクターブであった。

一方アルカの場合、自然に話したら最初の divaik の di の部分がソで、なんと最後の arbazard の zard も同じソだった。
回復点のおかげで全体の音域を狭く保ち、抑揚を抑えてあるのだ。
なお、アルカの全体の音域は、私の場合ファからラの 3 度程度しかないことが判明した。

これを利用すれば、例えば私の最低音がドだとして、レからスタートしても余裕で最後まで発話することができる。つまり低い声を保ったまま抑揚少なめに話すことができる。
逆に最高音がドなら、シを中心に高い声を維持したまま喋ることもできるので、女の子は高めの可愛い声を維持したまま喋ることができる。
アルカは渋い男性の声を出すのにも、萌える女の子の声を出すのにも適した言語といえる。

・実証

上記の文を音声データにした。

まず日本語で音域狭目に「アルバザードの子供の多くは休みの日に公園へ行く」と述べた。すると文頭がファ＃で、文末がドであった。
次に文末の「行く」の「う」の低さを保ったまま同じ文を読もうとするが、カタセシスにより筆者が発声できる最低音域を下回り、途中までしか読めなかった。
ところが再び同じ低さの声で dIvaik e yUli ke kActe im nIansel ka arbazArd を読んでみると、回復点のお

かげで最低音を保ちながら文末まで話しきることができた。

このように、アルカは低い声を保ったまま抑揚少なめに話すことができ、落ち着いた印象を与えることができる。
また、狭い音域の中で音の高低を行ったり来たりするため、うねるような流れるような印象を与える。

音域が狭いため、逆に高めの可愛らしい声で話し続けることもできる。
男性が低い落ち着いた声を維持できる一方で、女性は高めの可愛らしい声を維持することができる。
以下に発話例を示す。

（書籍につき音声データなし）

綺麗な言語

2001 年に制アルカを作り始めた際、密かな個人的目標があった。
それは「恋人のリディアが喋ったときに可愛く聞こえ、自分がリディアに話しかけたときに優しくカッコよく聞こえる言語を設計しよう」という内容だった。
制アルカは受注制作だったので、これは完全に個人的な趣向だ。

しかし現代言語学では、ある言語の聞こえが綺麗だとか可愛いだとか優しいだとかいった判断をすることができない。
そのことは 90 年代から知識として知っていたが、本当にそうだろうかと訝ってもいた。そんなに言語学のことを信用してはいなかった。どうせいつもの似非博愛主義だろうと考えていた。
人類にはある程度共通する音感というものがあるのではないかというのが私の考えだった。

例えば多くの言語で花が咲いたり芽が吹いたりといった「何かが破裂する音」にはｐ音が使われる傾向がある。
これはｐ音の持つ音声的な閉鎖音（破裂音）という性質によるものだ。
調音音声学を上手く使えば、ある程度人類共通のアプリオリな音感を得ることができるのではないかと考えた――少なくとも最大公約数的に。

思えば古アルカの時代、98 年に PC-9801 を使って、入力された単語の綺麗度や可愛い度を計るプログラムを設計したことがある。
つまり個人的には、この頃から既に世の中には綺麗に聞こえる言語があると信じていたわけだ。むろん言語学がそれを認めないことを知っての上である。

それで 99 年に木通隆行の『音相』という本を読み、著者と何度かメールでやり取りした。
しかしその本は日本語の音感を基礎にした理論であり、調音音声学的に見てあまねく言語に通ずる音感を与えてくれるものではなかった。

私は色々な語学に触れてきたので、どんな音を綺麗と感じるかは母語や文化によって異なるという事実を知っていた。
例えば日本人は濁音より清音を綺麗だと思うし、チュなどの音は子供っぽいと感じる。ドイチュラントがドイツと音訳されたのも、チュという音が幼稚に聞こえて忌避されたためである。
さらに日本人は文化的に欧米人に憧れているので、日本語には無いか少ないヴァ行やラ行の入った音に憧れがちである。
仮にここに 100 人の日本人を集め、「ペッポンギュチャップとヴァンガルディのどちらがカッコよく聞こえる？」と聞いたら、ほとんどの人が後者を選ぶだろう。なんとなくタイ語か何かに聞こえる前者より、何となく西洋語っぽく聞こえる後者のほうがカッコよく聞こえるように刷り込まれているのだ。
このように、母語や文化によって綺麗に聞こえる音はある程度決まっているのだ。だから国によってはこの比率は変わるだろう。もしかしたら前者のほうがカッコイイと思う国もあるかもしれない。

それでも調音音声学を利用して、多少はニュートラルな立場で普遍的な音感を定義できないものかと考えた。
そこで 2001 年に制アルカに着手した際、その定義をしてみようと考えたのである。

・音声レベル

まず音声レベルで調音音声学的にある音声が普遍的に持つ性質を定義できないか考えた。
ｐ音が芽が吹く音などに関与しており、しばしば春という単語が語源的に「芽吹く」と関連付けられているため、少なくない言語で春にｐ音が入ることなどに着目した。
日本語はもとがパルと発音していたので当てはまる。韓国語、英語、フランス語などにも当てはまる。春という単語にｐが入っている場合、原義に「芽吹く」が関わっている確率が高い。
どうもｐ音は破裂や膨らみ、または丸っこい感じやコロコロした感じを想起させるらしい。

同じ閉鎖音でもｔやｋでは破裂の印象が薄い。
ｋは奥で調音するので奥まった感じがあり、これらに比べてｔは中性的である。

一方ｓ音は摩擦音の中でもシューという強い雑音成分が強い音で、特に英語のニュースなどでは耳につく。
摩擦音の中でもｓ音と sh 音は雑音が大きい。耳障りなノイズのような音なので、多用すると綺麗に聞こえ

なくなる。
同じ摩擦音でも f 音などのほうが雑音が小さい。これは f のソノリティが s より低いことからも分かる。

余談だが、なぜ「静かに！」と言うときに、日本でも韓国でもアメリカでも「しーっ！」とやるのだろう。あの「しーっ」という音自体がうるさくてイラつくのだが。若い頃、「おめぇのそのシーッのほうがうるせぇんだよ！」とキレた覚えがある。恐らく一旦あのうるさい音で注目を集めてから静かにさせる意図を伝えているのではなかろうか。
また、s は p などと違って持続できる子音だというのも関与しているかもしれない。もし「静かに」を意味するのが「ぷ」だとしたら、"p" と発音しただけで終わってしまい、目立たない。相手に伝わらない。それでは意味がない。そこで持続できる f, s, sh などの中から音が大きくて目立つ s や sh を選んだのだろう。

さて、他方、鼻音は m や n があるが、m はモコモコした丸い感じの、モゴモゴした印象がある。鼻音の中で最ももっさりとした感じのする音である。
というのも m を調音する場合一旦口を閉じるので、肺臓気流が一度口腔内に全部溜まる。気流が抜ける部分は鼻腔しかないので、鼻にかかった感じになり、それがモゴモゴした印象を与える。
同じ鼻音でも n は口を開いて発音するので肺臓気流が唇からも常にわずかに漏れている。そのため、m に比べて鼻腔に回る気流の割合が低くなる。そのせいで m ほどモゴモゴして聞こえないのだ。

鼻音は破裂でもないが摩擦でもない。鼻にかかった柔らかい音である。
よって印象としては優しいような可愛いようなあどけない感じを演出できる。

ほかに流音がある。流音も閉鎖や摩擦の成分がなく、破裂するような印象や擦るような鋭い印象はない。
しかも鼻に抜けないので、丸っこい印象がない。文字通り流れるような印象がある。

こういった調音上の特性から、閉鎖音では中性的な t を選び、摩擦音は鋭いのでできるだけ避け、鼻音はモゴモゴしすぎない n を選び、流音は l を中心に使おうと考えた。

母音については前舌だと一般に明るく小さいイメージで、後舌だと一般にくぐもって暗いイメージを与える。これはどの言語でもある程度普遍に感じられる性質で、この程度なら言語学でも認められている。
i が多すぎても甲高くうるさく、u が多すぎても暗い。そこで a や e といった比較的中性的な母音を多用することにした。

ときに p と m に関しては幼児が一番初めに習得する子音ということもあって、より子どもっぽい印象を与えているといえるかもしれない。
個人的には p は洗練されていない綺麗でない唾の飛ぶ音という印象があり、あまり良いイメージはない。
m もモゴモゴしたカボチャのような食感を感じる音という印象で、多用はしたくない。なお、恐らく m にカボチャの食感を感じるのは共感覚の一種であろう。

こうして選ばれた制アルカで好まれる音が a, e, t, l, n であるが、実は 2012 年現在、新生アルカで音の頻度を算出すると、見事ここに挙げた音が多く含まれているのである。私は計画通りに言語を設計したというわけだ。
これによりアルカは「丸っこい膨らんだ感じの子どもっぽい——言い換えれば稚拙な印象を与える——破裂を多用せず」、「摩擦が鋭すぎずきつい感じを与えず」、「モゴモゴした鼻音を多用しすぎず」、「明るすぎず」、「暗すぎない」という印象を調音音声学的に獲得することに成功した。

私はリディアが s 音の多いキツい言い方をするのは好まなかったし、p 音の多い丸ぽちゃっとした幼稚な言い方をするのも好まなかったし、モゴモゴした言葉遣いをしてほしくもなかった。彼女にはもっと流麗に可愛く喋ってほしかった。
そこで流麗な印象は l に任せ、可愛い印象は n に任せ、中性的な音は t や a や e に任せることにした。

リディアには可愛く話してほしかったので、女性語には n を比較的多めに与えることにした。現在の non や nonno や an- などにその痕跡が見える。
一方自分が話すときには可愛さはいらない。優しくカッコイイほうがいいので、男性は中性的な t 音や流麗な l 音を多用するよう工夫した。

・抑揚レベル

音素で汚い音や間延びして聞こえる音を排他していくのは第一歩で、実は次の第二歩のほうが重要である。

中国語はとにかくうるさい。
なぜうるさいのか大学時代に中国人に聞いてみたところ、声調があるのでふつうに喋っているつもりでも声が大きくなりがちで抑揚も激しくなるとのことだった。

英語もニュースを聞いていると抑揚が激しい。
そこで一番低い音と高い音の音域を調べてみたのだが、英語は日本語より音域が広いことが多かった。
英語のほうが抑揚が激しいのだ。

抑揚が激しい言語は一般にうるさい。
抑揚を表現するために声は自然と大きくなりがちだし、それに加えて抑揚自体が変化に富んでうるさく聞こえるのだ。

そして「言語レベル」で後述するが、抑揚が激しいと一般人にはバカっぽく聞こえるようだ。
そこでアルカを設計する際に、抑揚をできるだけ少なくするようにした。

なお、アルカの抑揚を狭くした理由はもうひとつある。
自分が喋ったときに優しくカッコよく聞こえさせたかった（つまりリディアに「セレン君カッコイイ！」と言ってほしかった）ので、抑揚を狭くしたのだ。

――しかしなぜ狭く？

それは私は声が高いことがコンプレックスだからだ。声が高い私は日本語などを話すと、文頭がどうしても高くなりがちになる。日本語はカタセシスに富む言語なので、こういうことが起こる。

そこでアルカのセンテンスには回復点という要素を与えた。
アルカには回復点があるため、文頭が高く文末が低いということがない。回復点のおかげで音域が狭く、抑揚があまりない。狭い音域の中でうねるように音階が上下する。
声の高い私がカッコつけて低い声で喋ったとき、日本語だと最低音以下の声が出ず、カタセシスのせいで言葉が続かなくなってしまう。しかしアルカであれば回復点のおかげで音域が狭いため、自分の最低音の声を保ったままリディアに甘く囁きかけることができる。

女性というのはもともと男性の低い声を好むように設計されている。
それを知っているので、若者だった私は遠距離恋愛の身としては、ぜひとも低めの甘い声で彼女に囁きたかった。
その下心は見事に功を奏し、リディアに「セレン君は日本語を喋るよりアルカを喋るほうがカッコいいよね」言わしめることができた。頭を使って言語を設計して、それによってカッコいい自分を演出することに成功したのである。
これは人工言語屋としてはかなりしてやったりな出来事であった。

アルカの回復点は女性にもあるので、女性の音域も狭い。これは実に都合がいい。
というのも、リディアは逆に自分の高めの可愛い声を維持しながら、低い声を出さずにかわいこぶって喋ることができるからだ。
実際リディアが日本語を喋るとカタセシスのせいで文末が低めの声になって可愛くないが、アルカで喋ると柔らかく高めの声を維持して喋るので、終始こちらは萌えたまま聞ける。
高い声で抑揚が激しいと女性の声はヒステリックに聞こえるが、アルカは抑揚が狭いのでそれもない。我ながら非常に良い設計をしたものである。

このように、頭と知識を使えば、「リディアが喋ったときに可愛く、自分が喋ったときに優しくカッコイイ」印象を与える言語を構築することができるのである。
そう、言語は智恵さえあれば随意に聞いた印象、聞こえすらも操作することができるのである。

私はあらゆる言語の中で聞こえに関してはアルカが最も好きだ。
それもそのはず、知恵を使って自分にとって最もよく聞こえるようにカスタマイズしたのだから。言語の聞こえをカスタマイズするなんて、我ながらなんて離れ業だろう。
言語の聞こえを自分の理想通りに操作して設計するなどという企画を誰が考えるだろうか。一万人いても一人も思いつきはしまい。そこまで耳が肥えている人間――言語のソムリエともいうべき人間――はまずいない。

私は子供のころから多言語の同じ内容を聞き比べるのが好きで、どの言語が一番綺麗に聞こえるかを判断するなどといった遊びをしてきた。
そういう遊びが功を奏したのだろうと思う。だからこそ日本に何人いるか、世界に何人いるかも分からない言語のソムリエの耳を手に入れ、しかもそれを使って自分用のワインを作ってしまったのだ。
このような職人レベルの耳を持った人間は、恐らく地球上に私以外にいないか、いても若干名だろう。

色々言ったが、要は綺麗な言語というのは言語学の常識と違って存在し、自分で設計できるものなのだ。言語学は正しくない。現実に存在する音感を学問が意図的に無視している。
言語学も調音音声学から帰納できる最大公約数的な普遍的音感については認めても良いのではないかと思うが、今のところオノマトペ論を論じる際にｉが明るい印象を持っているといった程度しか積極的には認めていないのが現状だ。
事実は事実と認めた上で対処しなければならないので、言語学のこの姿勢はよくないだろう。綺麗な言語と汚い言語を作らせないための似非博愛主義と言われても仕方がない。

・言語レベル

ところで講師時代に実験をしたことがある。
生徒相手にフランス語やドイツ語や中国語などを話してみるのだ。
このとき学力の低い生徒ほど笑うというのがまず定石。学力の高い生徒は感心して聞き惚れることが多い。

人のことを笑うようなバカな生徒を観察していると、ある法則性に気付いた。
フランス語はｒ音が面白いらしく、たいていそこで笑われる。
中国語は全体そのものがバカっぽく聞こえるらしく、まずバカにされる。

だがドイツ語はほとんど笑われないのだ。

恐らくドイツ語の抑揚が英語より激しくなく、笑えるような音素も少なく、厳格に聞こえるからだろう。
この実験は面白いので、学のない人間相手にしてみるといい。
中国語やフランス語は笑われるが、ドイツ語はそれほど笑われない。

ちなみに英語は英語と教えないで喋ると笑われるが、英語と教えてから喋ると「おぉっ」と言われる。
これは「英語ができる＝凄い」という公式が一般人の間で常識となっているからだろう。
だからこの実験はできるだけ言語名を隠してやってみるといい。
なお、カタカナ英語だといくら学のない生徒でも英語だと気付くので、喋るときはきちんと喋ること。でないと実験にならない。

さて、このように子供を観察して思ったのだが、どうも連中は抑揚の激しい言語を気恥ずかしいと感じ、バカっぽいと感じ、笑うのだ。
こっちはそれを肌で知っているから、アルカを喋ったとき笑われないよう、アルカの抑揚を下げたというのもある。
たまに余興で言語名を知らせず異言語を学のない人間の前で喋ることがある。
中国語を喋ると笑いながら「何それ、何語？」と言われるが、アルカだと素な表情で「何それ、何語？」と言われる。
この実験のおかげで、とりあえず一般人の耳にもアルカはバカっぽく聞こえないのだなと判断している。

・注記

なお、本稿はアルカが綺麗な言語だと主張しているわけではない。
まず、調音音声学から帰納できる最大公約数的な普遍的音感が存在するのではないかということを主張している。
その上でそれをアルカに応用し、自分たちにとって心地よいと感じる言語を設計したといっているだけである。

アルカが綺麗な言語だというのは私の視点であって、こちらについては普遍性はない。
その点は誤解ないようにしておきたい。

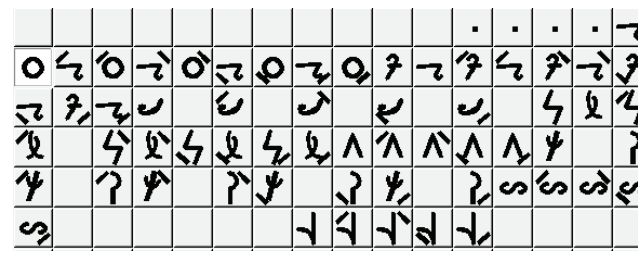
文字

幻字の発展

幻字は 2001 年の制アルカ作成時に幼字を元に作られた。

一番最初の形は通称「心電図」という幼字を筆記体に崩したもの。
まったく美しくなく書きづらいため、メルによる実験にて廃案となった。

次にできたのが幻字の原型で、子音の周りに母音を線で表現したもの。
この時点ではプロトタイプ制アルカ。



プロトタイプ制アルカ

その後過合理を排他した夕月書体ができる。

ところが夕月は読みにくくデザインも良くなかったため、2010 年に幻京書体ができる。
人間の視線はミーンラインからベースラインの間にある。字がこの幅に収まっていると読みやすく感じる。
下段の古い文字だと、y や t や n のところで視線が上に動いてしまい、可読性が悪い。上段は綺麗に収まっている。

下は arbazard。下段はミーンからベースの間にほとんど何も収まっていないのが分かる。上段はそういったパラつきがない。可読性とデザイン上の美しさに圧倒的な違いがある。

下段は r が斜めなのに z はまっすぐになっている点も気になる。スタイルが統一されていない。
さらに下段は手書きのような雑な感じがする。
また、上段のほうが短くて省エネである。それでも詰まった印象はなく、むしろ読みやすくなっている。

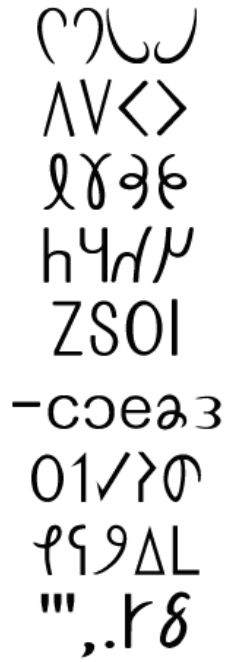
なぜ新しいほうはアルファベットと同じ字形が増えたのか。

「早く書ける」「手首が楽」「他の文字と区別できる」「デザインが綺麗」を求めると字形は限られる。
アルファベットやギリシャ文字も同じように楽で綺麗な文字を使いたいので、自然と重複するものが出てくる。

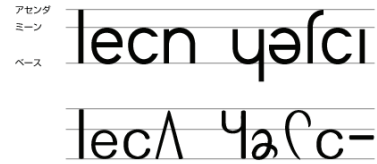
ここで par と bel の夕月書体を見てみよう。
ミーンとベースの間に中途半端に丸が入っているから綺麗に見えない。
上段のように丸がきちんとミーンとベースの間に収まっているほうが見やすい。

上段の par や bel は縦棒が途中で切れている。y のようにベースの下まで縦棒を伸ばす方法もあるはずなのにである。
それは文字が大きくなりすぎて、他の文字とのバランスが悪いためである。特に a と比べると如実である。

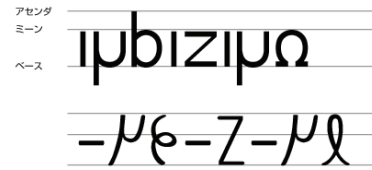
そこで新しい書体では縦棒を省略した。その結果、bel はアルファベットの b のようになった。
縦棒の上を省略すれば p 形に、下を省略すれば b 形に。いずれにせよアルファベットに同じ形がある。
このように、歴史を知れば幻字はアルファベットと違う文字だと分かる。



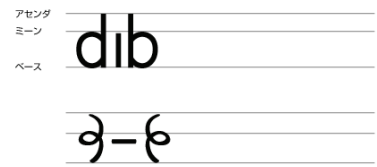
夕月書体



幻京 / 夕月 lein yutia



幻京 / 夕月 arbazard



幻京 / 夕月 par

・なぜ blenzel はそのまま幻字で blenzel か

幻京においてアルファベットと同じ音と形のものは n,b,h,y,z,l,e の７種。
形だけ同じものは v,f,m,p,j,w,i の７種なので、前者が特に多いわけではない。
アルファベットと音も形も違うものは残り１１種で、このタイプが最も多い。

夕月では n,b,h,y,z,l,e のうち n,b は別の形をしている。
元々幻字は h,y,z,l,e の５字が音まで重複していた。
ではこの重複はなぜ起こったか。

夕月を作った際、頻度の高い音に単純で書きやすい字形を当てた。
なお、この頻度というのは制アルカ作成時の予想であり、幻字の配列――例えば aioeu――などに現れている。
母音の場合、a,i,o,e,u の順である。ちょうど４番目が「エ」の音になるのでアルファベットと一致した。従ってアルファベットとは一切関係がない。
同様に子音では l が最も頻度が高いだろうと当時は予想され、単純な縦棒を宛てがった結果、アルファベットと一致した。なお、l は字形が特殊なので子音の最後に置いた。

残る３字についても同様である。

n が幻京でアルファベットと同じになったのは斜線をなるべく廃して角張った文字と丸っこい文字が混在しないようにした結果である。
旧 b は丸部分がミーンとベースの間（X ハイト）に収まらない。無理に収めると今度はアセンダからディセンダまで貫く不恰好な形になる。そこで縦棒を短くした。アルファベットとは関係がない幻字独自の発達である。

幻字はアプリオリな文字だが、合理的で簡単な字形は限られているのでアルファベットと同じものを持つ運命にある。そのため読者がアプリオリだと認知しづらく、このような歴史的説明が必要となる。
かといってアプリオリをアピールするためにわざとアルファベットにない字形を選ぶのはかえって不自然である。異世界の言語なのでアルファベットを意識してしまってはおかしいためである。

表音幻字（幻字）

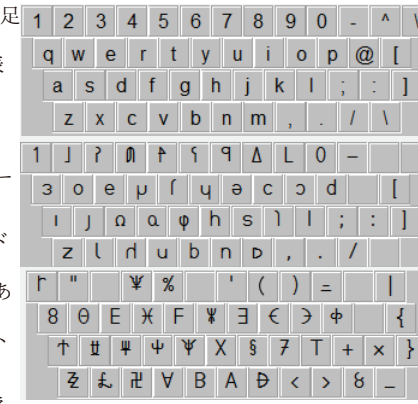
●概要

表音幻字（幻字）は 25 文字からなる。ただしシュワー (q) を足すと 26 文字になる。
その他！や？などの約物と呼ばれる記号が付く。約物は音を表す文字ではない。

アトラスには独自の lotte という文字コードがある。それはアトラスのキーボード用に作られた文字コードである。
だが実際には我々は地球でアルカを使うため、qwerty キーボードで幻字を打てないと非常に難儀である。

そこで作られたのが地球でアルカを巧く使うための文字コードで、arkantis という。
arkantis は表音幻字（幻字）と表意幻字（幼字）の 2 種類がある。本稿は前者を扱う。
注：arkantis は文字コードの名前であって、書体名やフォント名ではない

表音幻字フォントはこちらからダウンロードできる。とりあえず kardinal(tina) は落としておきたい。
地球のキーボードと arkantis の対応表を右に挙げる。
上の行がお手元のキーボードで、中の行が arkantis 小文字で、下の行が arkantis 大文字である。
注：海外の方は日本語のキーボードを使うか、キーボードの設定を日本語にしてスクリーンキーボードをお使いください。



上から Qwerty、Shift なし、Shift あり

●小文字

1: 単語の表記に用いる

●大文字

1: 外国語の音を示すのに用いる。例えば S は thank you の th の音で、ルティア語などで使われる

2: 単語の強調に用いる

●数字

1: 数を表すのに用いる

●イントネーション

・イントネーション表

アルカには 7 種のイントネーションとその亜種が存在する。右の図を参照のこと。

「8」のような字が「？」に当たる。「r」のような字が「！」に当たる。

sika はハイフンではなくアンダーバーである。中止の縦棒はシフトキーを押しながら円マークで出せる。

具体的にどんなイントネーションかは音声を参照のこと。
avelant（死神）を 9 種のイントネーションで吹きこんである。

表の 11 種のうち余韻と静寂は音声を変えるわけではなく、場の雰囲気を作る。つまり音の上げ下げではなく、空気感を作る。

...(viint) は「沈黙」や「躊躇い」や「戸惑い」を、--(mil) は「一瞬の間」や「ハッとした息を飲む光景」を示唆する。文末でも文中でも変わらない。

・各イントネーションの意味

急上昇：意外感、驚き、「そんなわけない！」という思い

上昇：疑問、確認

イントネーション	文末	読み	文中	読み
急上昇	ȣȣ	ɒclees	,ȣȣ	ɒɔzɒclees
上昇	ȣ	˥ɐɐnɔ	,ȣ	ɒɔz˥ɐɐnɔ
平板	_	ɟc˥ı	,_	ɒɔzɟc˥ı
下降	.	φıcn	,	ʃən˥
急下降	˩	ʃeɒdeɥı	,˩	ɒɔzʃeɒdeɥı
中止	|	˥cl	,|	ɒɔz˥cl
昇降	ȣ˩	˥cɒ	,ȣ˩	ɒɔz˥cɒ
意外な驚嘆	˩ȣ	ʃeɒdeɥı˥ɐɐnɔ	,˩ȣ	ɒɔzʃeɒdeɥı˥ɐɐnɔ
激しい驚嘆	˩˩	ılʃeɒdeɥı	,˩˩	ɒɔzılʃeɒdeɥı
余韻	...	uccnʃ	...	uccnʃ
静寂	--	ɒcl	--	ɒcl

平板:無機質、無感動、無関心、平静、冷静、詠嘆、感動、穏やか、不思議ちゃん。冷たく言うと「ふーん。で？」みたいな印象を与えるので注意。「はーっ、そうなんですかぁ！」みたいな感心した言い方だと詠嘆になる。多用すると不思議ちゃん扱いになり、そういう喋り方の変な子という扱いになる。無関心と詠嘆を区別するために、無関心は sika/kil、詠嘆は sika/tempera とすることがある

下降：標準的な喋り方。無色透明なニュアンス

急下降：驚き、怒り、早口など

中止：驚きなどで途中でハッと声が止まってしまった場合

昇降：疑念や訝りや嘲りなど。無礼なので多用しない

意外な驚嘆：意外な驚嘆

激しい驚嘆：激しい驚嘆

・文中上昇について補足

文中上昇は付加疑問と半疑問に分かれる。

付加疑問

tu et axma sete,? alis.（合理的でしょ、アリス？）のように、後ろに人名などが続く場合。

半疑問

see an temat flelzol,? atu e.（そこでバイオリン？とかいうのを耳にしたんですが）のように、付加疑問以外の使い方をする場合。主な用法は以下のとおり。

・台詞の節目ごとに相手に確認を取りたい場合
・自信のなさの現れ
・その名詞に対する疎遠感、聞き慣れない感、嫌悪感など心理的な距離感を指す
・特に上記に当てはまらないのに多用すると不思議ちゃんキャラになる

●約物

-（ハイフン）

1: 複合語の区切りが分かりにくいときに区切り文字として使う。koksapnreim → kok-sapn-rein
2: 数学ではマイナス記号として使う
3: 節や句が語彙化した場合、単語同士を - で繋ぐことがある
4: 見出しに使う (5/5)。一番小さい見出し。「・動詞」という見出しがあるとすると、アルカでは "-yuo" となる。

--（ハイフン２つ）

1:mil という名で、ダッシュ記号として使う。一瞬の間を表現する

[ ]（大カッコ）

1:[i] のように音声表記に使う

;（セミコロン）

1: アトラスの語源欄の中で使う
2: 見出しに使う (2/5)。アトラスの語源欄を見れば分かるとおり、区切りの強さはコロンよりセミコロンのほうが大きい。よって見出しとしての大きさもコロンより大きい。

:（コロン）

1: 区切り文字に使う
2: 見出しに使う (3/5)。

,（カンマ）

1: カンマとして使う

.（ピリオド）

1: ピリオドとして使う

/（スラッシュ）

1:「～と～」を意味する。and に相当。
2: 数字の場合、「～と～の比」を意味する。つまり割り算や分数に相当。2/3 で三分の二 (vi un ta)

{ }（中カッコ）

1: 言い換え可能を意味する。an et{tur} vokka の場合、et でも tur でもいいという意味

*（バツ）

1: 非文を示す
2: ダメ、良くないということを示す
3: 数学では掛け算
4: 注釈を示す

+（プラス）

1: 足し算
2: 見出しに使う (4/5)

_（アンダーバー）

1:「〜から〜まで」を示す。sm_rd（セルメルからアルディア）
2:sika のイントネーション

|（縦棒）

1:kil のイントネーション
2: 語源欄などの区切り文字

< >（小なり、大なり）

1: 数学の大なり小なりに使う。大なりイコールは >= で、小なりイコールは <=
2: 見出しに使う (1/5)。一番大きい見出し。<> で囲む

! ? ( ) = % $

1: 英語と同じ。文字の形が地球の約物と多少異なっているも場合があるので注意。$ は solt 貨幣を示す

"（引用符）

1: 台詞や思考内容を括る
2: 書名、雑誌名、論文名、タイトル名などを括る。論文名にシングルクォーテーションは使わない

'（シングルクォーテーション）

1:mark t'avelant など、一部の単語とともに使う

●見出し

```
<a>
  [a]
    {a}
      +a
        -a
```

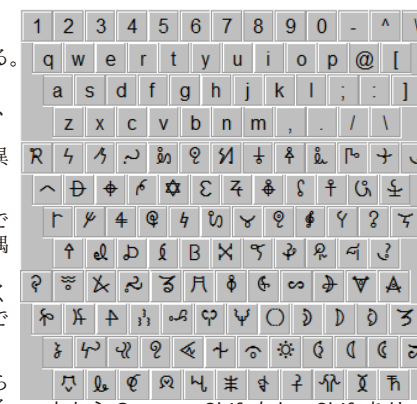
以上の順番で大きい順に並ぶ。横に大きい括弧ほど大きな括りになると覚えれば良い。

●約物と ıμìınſcȷ

本来アルカの約物は地球のものとかなり異なっている。
プラスは v のような文字で表すし、大なりの形も異なっている。
台詞は引用符でなく、喋り括弧という特殊な文字で括る。
gain 以外にもピリオドに当たるものがある。gakon といって、tsunk をふたつ重ねたものである。
このように、アルカの約物は地球のそれと殆ど共通しない。異世界なので当然であろう。

ところで、地球の約物は始めから一通りに決まっていたわけではない。プラスに当たる記号は＋以外にもいくつかあった。偶然＋が生き残ったに過ぎない。
これについてはアトラスでも同じで、プラスを指す記号はいくつか歴史上作られた。例えばプラスは v 記号でも良いし、＋でも良い。

ときに、arkantis は地球人がアルカを打つ際に便利なよう作られた文字コードであり、本来異世界には存在しないものである。



上から Qwerty、Shift なし、Shift あり

従って arkantis については我々の利便性を中心に考えればよく、両世界で共通している約物を最優先で採用することができる。
例えば、＋記号はどちらの世界でもプラスを意味するので、arkantis では＋記号をプラスとして採用している。

表意幻字（幼字）

●概要

表意幻字（幼字）は古アルカで使われた文字である。
神話上では一番最初に神々が作った文字である。アルバザードでも使われていたが、sm（中世）で滅んだ。
だが暦や季節などといった一部の字は現在でも使われ続けている。

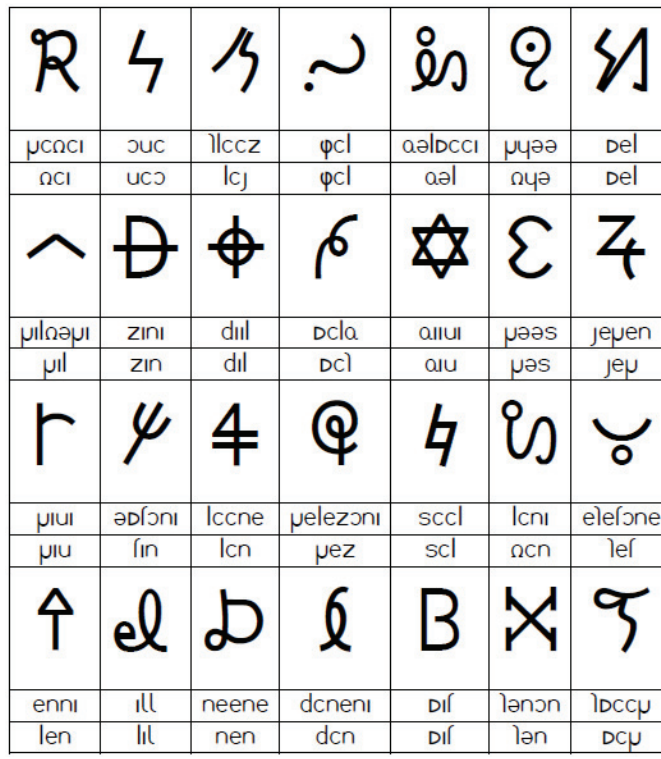
前項で説明した arkantis には幼字版がある。
ワードなど、複数のフォントを使えるソフトでは、幻字と幼字が両方表示できる。
メモ帳などでは両方表示できないので、幼字の読みを幻字に転写する。

幼字フォントはこちらからダウンロードできる。
ayaka は学習者に幼字を紹介する際に使う。本文には yuuko を用いる。

地球のキーボードと、arkantis の対応表を上に挙げる。
上の行がお手元のキーボードで、中の行が arkantis 小文字で、下の行が arkantis 大文字である。
注：海外の方は日本語のキーボードを使うか、キーボードの設定を日本語にしてスクリーンキーボードをお使いください。

●使徒幻字

メル暦など、カレンダーに使う文字。幼字の一種だが、慣例に則り、使徒幻字という。
1 段目の大きいのが幼字である。2 段目がその使徒の名で、3 段目が略称である。
メル暦については別段を参照のこと。



ɹɔɟɔ	ɔnɔ	ʃlɔɔz	ɸɔl	ɐəlɟɔɔ	ɹʎəə	ɟɐl
ɟɔ	nɔɔ	lɔɟ	ɸɔl	ɐəl	ɟʎə	ɟɐl
ɹɪlɟəɹɪ	zɪɪ	dɪɪl	ɟɔlɐ	ɐɪɪɹɪ	ɹəəs	ɟeɹen
ɹɪl	zɪn	dɪl	ɟɔl	ɐɪɹ	ɹəs	ɟeɹ
ɹɪɹɪ	əɟlɔɪ	lɔɔne	ɹelezɔɪ	sɔɔl	lɔɪ	eleɟɔne
ɹɪɹ	ɟɪn	lɔn	ɹez	sɔl	ɟɔn	ʃelɟ
enɪ	ɪll	neene	dɔneɪ	ɟɪl	ʃənɔn	ʃɟɔɔɹ
len	lɪl	nen	dɔn	ɟɪl	ʃən	ɟɔɹ

●曜魔

週を表すのに使う文字。

一カ月が 28 日なので、約数の 7 だとちょうどよく回る。4 だと短いし、14 だと長い。7 が調度良い。
そもそも 4 だと 14 が倍数上に存在しないので、アルシェの週とソーンの週を綺麗に分けられなくなってしまう。

uelɒ	epuɪ	jɪlcc	leeue	beezel	cluɪ	dɪpl
闇	水	風	土	火	雷	光

●ミュシェット

28 日を 13 カ月回すと 364 日になる。年間 1, 2 日余ってしまう。
そこで年末に曜日なしの「月なし月」ミュシェットを宛てがう。
ミュシェットの月はアシェットの日とテームスの日の最大 2 日しかない。

pyəlel	ɪlel	leepj

●アルミヴァ

アルミヴァの 12 神という、原始に近い神たちの文字。1 段目は名前で、2 段目は略称である。
アルミヴァは主に時計に使う。3 段目は時刻を指す。
また、時計の角度と同じ方角を表わすこともできる。例えば konoote の方角といえば北を意味する。これが分からないと中央アルナ市の住所は理解できない。

jecnelj	lcclel	dɔen	nepɒej
jec	lel	den	pej
1:00	2:00	3:00	4:00
lleeuel	llzɪj	uɪpaɪnl	uɪpzɔn
leu	ll	aɪn	uɪz
5:00	6:00	7:00	8:00
lclnɔ	aenzel	nebpɪ	lɔnɔɔle
lcl	aez	neb	ɔn
9:00	10:00	11:00	12:00

●月相

新月から満月を経て次の新月に到るまでの 8 段階を描いた文字。
月相はもちろんのこと、アルミヴァと同じく方角も示すことができる。
アルミヴァは 30 度ずつ進むので、北東など 45 の倍角が表現できない。その点、月相は 45 度刻みなので、北東などが表現できる。

ɒʏəlɪ	ɪls	ɑəəɒφɪ	ʃəuɪn
New Moon	Waxing Crescent	First Quarter	Waxing Gibbous
南	南東	東	北東
lɪnʃe	leeue	uccne	cnse
Full Moon	Waning Gibbous	Last Quarter	Waning Crescent
北	北西	西	南西

●季節

春夏秋冬を表す文字。

ɪlʃe	ɑleɪ	ɪlcʃ	lceɒ
春	夏	秋	冬

●神々

ɪɒʃe	hɪczen	ɪlceʃ	ʃeleʃʃ

アルテ（最高神）、ハイゼン（断罪の神）、アリエス（天と地の神々）、セレスト（死神）を表す文字。
既に上に悪魔テームスの文字がある。これらを全て足して mirok（神々）という。幼字には神の一族を表わす文字が備わっている。

●苗字と筐堺

1 段目は使徒の苗字。使徒というのは上で見たメル暦に日付として用いる 28 人のこと。
2 段目は筐堺。
3 段目は筐堺の代表国。

また、これらは筐堺および代表国の通貨記号としても使える。

天秤詞

●概要

・天秤詞とは

天秤詞とは文末に来て（笑）などに相当する話者の心情を示すものである。

天秤詞は幼字を使って表記する。ワードのように複数のフォントを扱えるソフトなら幻字と幼字を併用できるが、メモ帳などではそれができない。そこでメモ帳などでは幼字を幻字に置き換えて表記する。

・天秤詞は品詞ではない

天秤詞は音を持たない上に語ですらないため、品詞のひとつではない。しかし古アルカの慣習で天秤詞と呼んでいる。
古アルカでは音を持った天秤詞とそうでない天秤詞とがあった。新生において前者は文末純詞として発達し、後者は天秤詞として幼字のまま生き延びた。

天秤詞は前期制アルカで一旦滅んだが、後期制アルカの時代に（笑）に相当する axte などが使われだした。新生になった後、2011 年に数が爆発的に増えた。

天秤詞は幼字で書くことが望ましいが、できない場合は幻字でも表記可能である。
幼字フォントはこちらからダウンロードできる。

ayaka は学習者に幼字を紹介する際に使う。本文には yuuko を用いる。
注：海外の方は日本語のキーボードを使うか、キーボードの設定を日本語にしてスクリーンキーボードをお使いください。

●天秤詞のリスト

右に天秤詞のリストを挙げる。
どの文字がどのキーに対応しているか分からないだろうから、キーボードの欄を添えておいた。これによると axte はカンマを打てば入力できるということが分かる。幼字が幻字と併用できない場合は (axte のように幼字の読みを片括弧書きにするか、あるいは (a のように略記を用いる。

幼字	読み	キーボード	略記	意味
	ɪlʃe	,	(ɪ	笑
	ɑleɪ	.	(ɑ	怒
	ɪlcɟ	/	(l	不安
	lceɥ	¥	(l	悲、哀
	ɒɥəlɪ	I	(ɒɥ	不快
	ɪls	O	(ls	恥、照
	ɑəəɥφɪ	P	(ɑɥ	興奮
	ʃəuɪn	`	(ʃu	汗
	lɪnʃe	K	(ln	喜、♪
	leeue	L	(lu	泣、涙
	uccne	+	(un	沈静
	cnse	*	(ns	謝罪
	ɒɥəleʃ	=	(ɒl	愛、恋
	ɪleʃ	(	(lʃ	感謝
	ʃeeɒɟ	)	(ʃɒ	恐怖
	ɪɥʃe	<	(ɥʃ	祈り
	hɪczen	>	(hz	弾劾
	ɪlceɟ	?	(lɟ	自虐
	ɟelejʃ	_	(ɟl	困惑

●備考

意味の欄で載せきれなかったものを中心に載せていく。

alis: 心配、緊張
myuxa: つまらない、不愉快、不機嫌
tuvan: 緊張、ぷるぷる、ふるふる、プルプル、フルフル
duurga: テンション高い、ハイテンション、元気、やる気、ハツラツ
xante: 楽、上機嫌、気楽、のんびり、ほのぼの
viine: テンション低い、ローテーション、がっかり、元気ない、しょんぼり、ショボン
teems: 畏怖、畏敬、驚き
arte: お願い、依頼、よろしく
haizen: 叱咤、訴求、追及、叱責
alies: 爆、自爆。自分で言っておいて「そりゃないよな」というときや、「俺ダメすぎすみません」というようなときなどに用いる。重いニュアンスのときは使わない。なかば冗談混じりで使う。神に対する劣等感からできた天秤詞
selest: 困る、当惑。? の後ろに付けると混乱、困惑になる。死を前にした人間の反応からできた天秤詞

●組み合わせ

tuvanduurga: 緊張、動悸
tuvanalis: 苦笑、汗をかくような不安
alistuvan: 冷や汗、不安の汗
haizenaxte: からかい笑い、苦笑、ツッコミ、つっこみ
axtehaizen: 怒りきれない訴え、ツッコミ的な怒り、若干笑いのある弾劾
viineaxte: 呆れ笑い
tuvanaxte: 苦笑、動揺して汗をかくような笑い
alisaxte: 不安な笑い、不安を隠すような笑い、戸惑った笑い、戸惑いのあるツッコミ
selestaxte: 困ったような笑い、戸惑った笑い、ごまかし笑い、当惑笑い、困って誤魔化すようにあるいは自然と出る笑み
xanteaxte: 上機嫌な笑い、爆笑、大爆笑
duurgaaxte: 爆笑、大爆笑
leeveduurga: 泣きそうなほど興奮、「あぁもう泣いちゃうくらいですよ」というハイテンション
fleateems: 怒りや興奮の篭った驚きや恐怖
fleahaizen: 激怒、激高、激昂、弾劾

alj と tuvan は昇っていく感じなので、動悸のする照れと汗。
逆に leeve と inje は下がっていく感じなので、精神的にダウナー系。

tuvan と leeve はどちらも水分が出る行為で対比させてある。体に心の反応が現れるくらい感情の揺れが大きいため、alj や inje よりも大きな月を選んでいる。

myuxet はハートマークに相当。myuxet の月にお祭りがあってカップルが結ばれやすいことから来ている。絵面も綺麗でよい。本来ハートマークに当たる幼字は R のような形で tiia というのもあるが、arkantis には含まれていない。

axet が感謝を意味するのは、悪魔を倒してくれてありがとうというところから来ている。
ここの teems はテームスだけでなく lins も兼ねる。従って alies, selest, lins と、mirok が全て出ている。

その他、無関心は sika で示す。驚きは tempera や kil などで、疑念は kim で表す。

幼字の字源

	魔導師が杖を振る軌跡を描いたもの
	腹筋の図の変形で、根性を意味した
	飛び道具の図
	火の重なり（古 μəəɑɪc より）
	悪魔サティに魅入られた土地。風が冷たい
	高い山の象形
	小さいという字で、メルのこと
	弧が使徒の集まりで、それを指揮する人の図
	メビウスの輪同様、何度でも同じところを通る。何度でも蘇る悪魔の象徴
	下弦の三日月
	下弦の月
	横棒と丸で芽が吹き花が咲くことを示し、中央の母体は神であることを示す
	馬の象形に神を示す丸を付けたもの
	太陽から降り注ぐ灼熱の陽光の図
	落葉や紅葉の象形
	動物の象形に神を示す丸
	ɑcɪ（夢幻）の字を変形したもの。赤記載と字形が異なる。ɑcɪは揺り籠の象形
	雷
	風
	火
	新月で月が見えない図
	エケトネの文字を上下反転したもの
	満月
	満月と下弦の間
	悪魔がバルマージュに降ってきたときの図。本来はzeμɑcɪ 地方を指した
	最後を意味する字の変形。クノンが最後の使徒であったことから
	三日月
	上弦の月
	武士が刀を振る軌跡を描いたもの
	水の字が森を意味する字の形に配置されている。水と森の国という意味
	電気（雷）に否定の接頭辞 ɯ(l)が付いたもの。ɑicが付いているのではない
	ɑilɑɪncɪの反対
	竜の頭の象形
	頭の中に、ソーンの使徒を象徴するɯ(l)の記号
	ɒɪflɔ（死）の変形。fμɾcɪと関連
	アッシュの名の反転
	ミディート国を象徴する図形
	怒るのsɔに否定の接頭辞 ɯ(l)
	土の字。真ん中の横棒が悪魔を意味する角
	雪が降って風が吹きすさぶ図
	アルマ
	ティクノから神を示す丸を除いたもの。飛竜の国の王子であることから
	使徒
	神剣セイネルス
	神剣ティーナの象形と神を示す丸
	杖の象形と神を示す丸
	人にあらざるものという意味。人に近い神として、丸が付いていない
	人の反対を象ったもので、アルテ神の意味
	月なしの月。横棒は類似の字と区別するために付けられたもの
	人の象形に、少女の髪を足したもの
	epɾとjμμの字を混ぜたもの
	鳥の象形と神を示す丸。鳥が翼を広げている図
	悪魔が飛空挺から降ってくる様子を描いたもの
	ɒicn（体）の変形
	leɒ（音楽）の変形
	長いを意味する川のような字に、強調の接頭辞 ɯ(l)を付けたもの
	赤記載のパールの使徒幻字を左右対称にしたもの
	杖
	＜が口で、中身が音波。声のこと
	傷口の象形
	雷の字に、横棒が悪魔を意味する角
	水の字に、横棒が悪魔を意味する角
	ʅμɑclinʃを手に下げる様子を象ったもの
	上弦と満月の間
	ラヴァの本来の使徒記号。赤記載
	拳。格闘技に長けたことから
	竪琴
	槍に否定を意味する接頭辞 ɯ(l)
	太陽。正義の象徴
	魔方陣の象形
	助けるという意味の文字。人となりから
	dɪjjɔ（大丈夫）が口癖の気楽な少女だったことから
	太陽の象形と神を示す丸
	心を表す丸が地平線より落ちている。臆病を意味する
	竜の象形と神を示す丸
	人の腹をかき回す象形で、残酷の意味。そこに神を示す丸
	論理ないし「頼る」を意味する文字。クミールのエーステから来ている
	橋
	コノーテの対
	セイネルスの対

●字源

arkantis に採用された幼字の字源を解説する。

●注記

・アルシェの使徒幻字（名前）は元々それぞれ固有のものがあった。メルがシェルトを作った際に、使徒を駒として登場させた。実名ではまずいと思ったメルは ovi なら雷といった具合に、オーディンの内容を使って匿名化した。彼女との人間関係により、あえて実名のまま駒にされた者もいる。その記号が後に使徒を指す文字の標準として採用されるようになり、現在に至る。メルの字が使徒を表す hacma になっているのは、シェルトの駒が彼女の視点で命名されたためである。

・lutia の文字は mel22 年まで keetoia の文字だった。miva（子供）に imul（時）を合わせたもので、時魔道士メルを指した。

・同じく liisia は lolos と交換された。

・同じく ineaato はもともと lutia の字。

・keetoia はもともと liisia の字。

・lolos はもともと ineaato で、羽の生えた精霊の図。

・va(l)- は al- と同じく多義的に用いられた。英語の re- や con- などと同様。

・midiit は 22 まで bees の字（横棒三つに縦棒一つ）だった。

幻京書体崩壊の危機

2012/01/23 のこと。リディアが幻京書体について物言いをしてきた。
フランス語を並行学習している紫亞が fox と a を混同することがあるとのこと。
ほかにもアルファベットと幻字で字形が同じで音が食い違っているものに関して誤解しやすいとのこと。
そこで字形が同じで音が異なる幻字を変えるよう依頼された。

とはいえ既に本も出版しており、大人はたまに幻字とアルファベットを混同するくらいでしかない。変える必要がどこまであるのか。
それに異世界の文字なのに地球のアルファベットの存在に合わせ、音が食い違っている文字の字形だけを変更するのはアプリオリのやり方でない。
それをやるならｂやｅのように字形も音も同じ幻字に関しても、形を変えねば辻褄が合わないだろう。
だが、それとて完璧な手法ではない。その手法はアルファベットを意識してアルファベットにある字形を意図的に避けている点でアプリオリでない。

字形と音が食い違っている文字だけを変更してもアポステリオリ。
字形と音が同じ文字も含めて変更したとしても、アルファベットを意図的に避けている点でアポステリオリ。
どうにもならない。参った、どうにかならないかと思った。

幻京書体はアルファベットを意識していないのが長所だ。
一画で書ける単純な図形は限られているので、当然アルファベットに存在する字形が幻字にも存在する。
幻京書体では字形が同じでも平気で音が異なる文字ｐなどがある。同時にｈのようにアルファベットと読みが一致しているのもある。
幻字というのは字形が単純な順によく使う音素を当てはめていったものなので、ｈやｌのように音が一致しているのは偶然で、同じくｐのように音が一致していないのもまた偶然だ。この場合は幻字のアプリオリ性が確保できる。
例えばｌというのは一番単純な字形であり、ｌという音の頻度が最もアルカでは高いと予想されたため、ｌに [l] の音をあてがっている。あくまで頻度による一致であり、狙った上のことではない。そこにアプリオリ性が見られる。

なので幻京書体を変えるのは非常に困る。アルカのお題目であるアプリオリ性を維持できなくなってしまう。
しかし子供の教育にと言われると弱い。
大人たちの間でたまに誤解するというのはなんとなく感じていたが、変えようという動きはなかった。「アルファベットなど関係ない。それが幻字だ」と思っていたからだ。
しかし子供の将来というものが天秤の皿に載ると、親の目の色はとたんに変わるというわけだ。

さて困った。そう思ってネットユーザーと電話で相談したところ、ロシア語などではＨはエヌで、Ｐはアールで Ｃはエスと読むと聞いた。
これはｄと書いて par と読む幻字と同じようなものだ。
それでも別にロシア人は英語の学習をできているのだから、紫亞だって問題ないのではないかとのこと。

これを受けてなるほどその通りだと思い、既存の幻京書体を残すこととした。

文法

属格

辞書 en(?) の項を参照のこと。

呼格

アルカにも呼格があるようだ。
語形は変わらないのだが、アクセントやイントネーションで非呼格と区別される。
日本語で「コリン」という猫の名について、「コリンが」というときと、「おーい、こりーん」と呼ぶとき、音調が異なる。それと同じだ。
アルカも呼格を音調で区別する。この音調は呼格にしか起こらない。また、文中では呼格は文法的に現れることができない。

ためしに日本語で「こりーん」と呼びかけるときの言い方で「こりーんが」というと、違和感を感じるだろう。
呼格の音調が文中で現れることはできないとわかる。

呼格の後にはツンクを置く。lein, tyu ser tu? のように。
呼格で終わる場合は gain や kuuno など、何らかの約物を置く。tyu ser tu,? lein. のように。

代名詞の代入

名詞を代名詞で置き換えることを代入と呼ぶ。
mel siina seren の mel に lu を代入すると lu siina seren になる。
mel siina seren の seren に lu を代入すると mel siina lu になる。

メルがメル自身を好きな場合は lu siina lu でなく lu siina nos になる。
lu siina lu の場合、主格と対格の lu は別人を示す。

この現象は所有格にも及ぶ。
彼女が彼女自身の頭を撫でる場合は lu sont osn nozet となる。
彼女が別の距離が近い人物を撫でる場合は lu sont osn luut となる。

3 つ以上の物を指さして「これとこれとこれ」と言うような場合、tu, tu, tu となる。
同じく 3 人以上を指して「この人とこの人とこの人」と言うような場合、lu, lu, lu となる。

この人があの人を好きだというように、同じ 3 人称でも距離が異なれば lu siina la のようになる。
これよりあれが好きだという場合も同じように an siina le nod tu のようになる。

・格の回り込み

sae in lanvem kont sont lu の kont 格を前に出すとどうなるか。
kont sont lu, sae in lanvem である。

だが lu の代入元である lanvem が lu より後に来ている。
後に来るものは英語と違って代入できない。
そこで kont sont lanvem, sae in lu となる。
lanvem が先に来ないと、lu は lanvem を代入できない。

nos の使い方

nos はその文の焦点者を指す。通常その節の sol である。

mel siina nos
mel fit seren a nos

など。

では複文中に nos が来た場合、誰が焦点者か。

mel lax seren siina nos

日本語でこの文を作ると、nos は mel か seren か分からない。
複文なので焦点者は主節の主格と従属節の主格の 2 人候補がいるからだ。

アルカの場合、同一節中の主格を焦点者にする。
従って mel lax seren siina nos の nos は seren である。
mel にしたければ nos でなく mel を使う。

nos は代名詞ではないので lu などと違って代入とは呼べない。
しかし nos は文の焦点者に等しい。
そこで代名詞の場合は代入と呼び、nos の場合は照応と呼ぶ。
ただ、言語学的には一般に前者も照応という点には注意したい。

xe と fi の語法

xe は特定で、fi は不特定（任意）である。

xe の用法：既知か未知か。不変か可変か。

既知：今日ある人に会ってきた。
未知：あの子、クラスのある人が好きなんだって言ってたけど、誰だろう？
不変：ここにある定数 a がある。
可変：誕生月を x とする。（今日の日付を x とするでもよい）

誕生月は人によって異なるが、A さんにとっては常に同じ数値となる。
たとえばセレンなら 2 になるし、リディアなら 7 になる。
人によって異なるが、かといって同一人物の間で変化することはない。
2 や 7 は任意の数ではない。よって任意と可変は異なる。もし可変か任意なら可変の用法は xe でなく fi に行くはずである。

一方 fi の用法は。

1 ～ 10 の数があるとしたら、そのうちどれでもいいのでどれかの数を指す。
その数が既知だったり未知だったりするかもしれない。
一度決まった数がその後維持されて不変かもしれないし、変わって可変かもしれない。
いずれにせよ任意かどうかで決まり、特定でないことを示す。

しかし、これだけ用法を定めていても xe と fi のどちらを使えばよいか迷うことがある。
「愛するということは誰かを強く好くことである」と定義した場合、"tiia eks siina xe ati vart" とするのか、この xe を fi とするのか分からない。
xe と fi で迷う場合というのは、どちらを使ってもいいように感じられるときである。

なぜこうなるのか考えた。すると視点人物という概念が浮かんだ。
この定義は完全に当事者でない客観的視点、4 人称視点で見ると、「誰かしらの人間が誰かしらの人間を好きになること」なので、fi に感じられる。
辞書の定義としてはなんとなくこうしたい。

ところがふと思う。
「誰かしらさんにとって好きな相手は誰でもいいわけではなく、特定の誰かが好きなわけだから、ここは xe ではないか？」
これは当事者視点である。そう、視点が誰になるかで xe か fi か異なるのだ。
だからわれわれは xe か fi か迷うのだ。用法というよりも、視点で迷ってきたのだ。

ではどの視点を選ぶべきか。基本的に後者でいこうと思う。
文の視点人物、通常は主語に合わせようと思う。
小説の地の文でもなるべく主人公なり視点人物なりに合わせたほうがよいだろう。
「彼はある女性が好きだった」という場合、el 視点だと fi min になってしまうが、読者の感覚からすれば彼から見ているから xe min となるのが自然だろう。

なお、基本を xe としておくといいこともある。
たとえば「無差別殺人」の定義は "set fi lan" だが、「復讐」の場合は "set xe lan" とするのが自然に感じられるはずだ。
ここで el 視点にするとどちらも fi lan になってしまい、無差別なのか特定の人物を狙ったのか分からなくなる。
われわれの関心は視点人物にあって超越者的視点ではないので、どちらも fi lan にされると解釈に困るわけだ。

そういうわけで視点人物から見た特定か不特定にするとしたら、ｄｋの記述をいくらか修正せねばなるまい。だが、これで今まで不安定だった xe と fi については問題なくなったように思われる。

ちなみに、fi は基本的に単数だが、fi lan sein とか fi sein とかで任意の複数を指すことができるだろう。聞いたことないが。
vei はどうも xe の複数で使われるようで、あれは特定だろう。どうも任意になった瞬間数がぼやけるらしい。

xe と fi の細分化

未知と既知の区別が代詞になかったが、日常生活では区別があると何かと便利なので、より細かく言い分けられるようになった。

特定既知	とある花がある	花を知ってる	xe lenxe
特定未知	なんか花がある	花を知らない	xe anxe
不特定既知	なんか花くれ	花を知ってる	fi lenfi
不特定未知	なんか花くれ	花を知らない	fi anfi

anxe miina lyu a なんか花があるなぁ

アスペクト考

・ｱ相 +ｲ無相

ひとつの動詞につき、アスペクトは７相。
将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響の７相。

それぞれ下記のように表す。内側の３つのみ動詞語尾で、あとは副詞である。
sat, kit, -(o)r, -(i)k, -(e)s, took, ilt

この７相に２つの無相が加わる。無相は相がないので、アルカの相は７種。無相は２種ある。

行為無相：kit ～ ik
状態無相：ik ～ took

行為無相は動詞に何も付けない無標形であるが、「これは動詞である」と明示するために接尾辞 -(e)m を使うこともできる。
状態無相は副詞 xa を付けて表す。

・実例

fai（燃やす）

fai(faim)：燃やす
fai xa：燃えている。燃え始めから燃え終わりまでの総称

fai sat：燃やそうと考える。準備する。火を近づける
fai kit：火をつけ始める
fair：火を当てている。チリチリいう
faik：火がつく。点火
fais：燃えている途中
fai took：燃え終わる。例："zom em took fai"（木が燃え終わる）
fai ilt：灰や熱といった燃やした結果が残存している。例："m? atu et hart. kamil xe em ilt fai na"（ん？ここが熱くなっているな。恐らく何かを燃やしていたのだろう）

skin（座る（正確には座らせる））

skin(skinem)：座る
skin xa：座っている。着座から起立までの総称

skin sat：座ろうとしている
skin kit：座り始めて腰を曲げた
skinor：腰を下ろしている途中
skinik：座面に尻が着いた
skines：座っている状態
skin took：座り終えて立つ瞬間
skin ilt：座面が暖かく、座っていた影響が残っている

・例外動詞

xa（いる）、siina（好き）などは、無標が行為無相でなく継続相になる。
例外動詞では継続相が無標になる代わりに、行為無相に必ず -(e)m が付く。

siina（好き）の実例

siinam：好む
siina xa：好きである。好きになり始めから好きでなくなるまでの総称

siina sat：好きになろうとしている。まだ他人
siina kit：好きになり始めた。意識し始めた
siinar：好きになる途中。あの人いいかも状態
siinak：好きになった。私この人のこと好きなんだという気付きの時点
siina：好きである。好きだ
siina took：好きでありおわる。好きでなくなる
siina ilt：むかしは好きでした的な意味

継続相で使う頻度が最も高く、かつ行為無相で使う機会がほとんどない動詞のみが例外動詞になる。
その動詞はこのとおり。

・存在動詞：xa, mi
・所有動詞：til, si
・心理所有動詞：na のみ
・定義動詞：eks, mols, gart など
・心理動詞：siina, tiia, sin, varae, hatia, kaf など、siina 型の動詞

感情動詞である vem, jo, emt, nau などは例外に含めない。
感情動作動詞である nax, asex, kukl などは例外に含めない。

いずれも行為として使われる機会がそこそこあるため。

所有動詞は、「手にする」という意味では所有動詞ではないので、行為動詞が無標になる。
従って、「手にする」という意味では、継続相が無標にはなれず、(e)s を付けねばならない。
具体的には、「鎌を（手に）持つ」は til mark で、「鎌を（手に）持っている」は tiles mark である。
後者を til mark とすることはできない。所有ではないからだ。
til の無標が 2 つあるように見えるのは、「所有する」と「手に持つ」という 2 つの現象が多重定義されているからだ。

英語と違って知覚動詞は特別扱いにならない。
lai は正確には見るではなく「目をやる」と覚えるとよい。
視線が当たった瞬間が laik であり、見ている状態が lais であり、目を離したときが lai took になる。
日本語の「見た」も laik のときもあれば lai took のときもあり、よく区別ができないことがある。

・アスペクトのモデル

将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響のうち、開始・完了・終了は点のアスペクトである。
ほかは線のアスペクトである。従ってこのようにモデル化できる。

——○——○——○——

中心には完了相が来る。
完了はその行為の成立を意味する。従って完了から見て左翼が不成立で、完了を含めた右翼が成立と言い換えることもできる。
完了を成立とし、左翼を成立前で、右翼を成立後とする見方もある。

また、完了は言語にとって重要な概念であるから、完了と未完了という対で捉えることもできる。未完了は完了以左である。
いずれにせよ動詞はこの 7 相モデルで分析することができる。

・ʔ 段階と ˩ 動詞

将然～継続＝行為動詞
経過～影響＝状態動詞

のように 7 相は 2 種の動詞に分けることができる。
行為動詞は状態動詞より動的で主語の意思のある行為を示す。

また、7 相は 3 段階に分けることができる。

将然～経過：事前段階
経過～継続：実行段階
継続～影響：事後段階

実行段階を内相、それ以外を外相という。
内相はすべて頻度が高い相であるため、動詞語尾すなわち接尾辞で表現され、唯一アクツィオンスアルトになっているのが特徴である。

・実際使うのは内相

7 相と聞くと大変そうだが、実際に使うのは内相のみ。あとはレアケースである。
普段は 3 相を、厳密にする場合は 7 相を使い分ければいいので、合理的な体系といえる。

・不定動詞

「歩く」「走る」「書く」などの動詞には定動詞と不定動詞の用法がある。
スラブ語と異なり、アルカは定不定により単語を分けない。

「歩く」の定動詞は移動動詞で「sol が yul を通って a に歩いて行く」である。
「歩く」の不定動詞は運動動詞で「sol が yul を歩く」である。

・単位動詞と非単位動詞

不定動詞「歩く」は一歩歩いても千歩歩いても歩いたことになるという特徴を持つ。
一歩歩くという最小単位の累積が不定動詞になっている。
一歩歩くというのはそれだけで終始する一回性のある運動である。
これを〇で表すと、不定動詞は任意の個数の〇、すなわち……〇〇〇〇〇〇〇〇……で表せる。
定動詞が有界であるのに比べ、こちらは非有界である。

しかし現実の行為は無限ではない。始まりも終わりもある。
始まりと終わりを｜で示すと、不定動詞のモデルはこうなる。

｜〇〇〇〇｜

任意の個数の〇が｜の間にある。

また、｜にいたるまでの過程と、｜からの未来を——で表すと、モデルはこうなる。

——｜〇〇〇〇｜——

これは定動詞のアスペクトのモデルと異なっている。

——〇——〇——〇——モデルを単位動詞と呼ぶ。

——｜〇〇〇〇｜——モデルを非単位動詞と呼ぶ。

単位動詞は定動詞しか来ないが、非単位動詞は定動詞の場合は反復で不定動詞の場合は累積となり、両方来る。

なお、「歩く」は不定動詞だが、「座っている」は不定動詞でなく「座る」の継続相である。
一秒座っていれば座っていることになるから歩くと同じ理屈であり、skin xa も不定動詞であるというのは誤り。
lukes と skines は意味が違う点が根拠。lukes は「動物が道を歩いた足跡がある」や「今日は長く歩いているので足が疲れた」などの場合に使う。
なお、ロシア語には sit に不定動詞Сидеть と定動詞Посидеть があるが、アルカの skin に不定動詞がないのは skin の正確な語義が「座る」ではなく「座らせる」、つまり seat だからである。

・反復相

——｜〇〇〇〇｜——における〇〇〇〇の部分を累積や反復という。相としては合わせて反復相といい、接尾辞 (a)nd で示す。
累積は通常何度も行うことが前提とされる行為に用いる。例えば lukand で「歩いている」。一歩歩いても厳密には「歩く」だが、通常「歩く」は何歩も繰り返し歩くことが想定される。累積は不定動詞に現れる。

反復は通常一度だけ行うことが前提とされる行為に用いる。例えば badand で「叩いている」。叩くは歩くと違って通常一回だけで行為をしたと認識される。反復は定動詞に現れる。
累積と反復は細かい文法論としては異なるが、表現方法は同じく and である。どちらも非単位動詞である。

——｜〇〇〇〇｜——の相は順番に将然、開始、反復、終了、影響である。経過･完了･継続が反復にまとまっている。
badand で反復部分を指す。
終了相を指す場合は、badand took のようにする。
このモデル全体を指すには bad onk とする。

一見全体を指すのを badand としたほうが理論的に見える。まず and を付けることで——○——○——○——モデルを——｜○○○○｜——モデルに変える。その上で各相を指す副詞を付けると分かりやすい。例えば終了相なら took を付けて badand took のように。
ところが、それだと頻度の高い反復相を badand pask のように何か適当な副詞を付けて冗長に示す必要が生じる。これは非合理的なため、badand だけで反復相を示すほうがよい。そしてそれに took などを付けることで——｜○○○○｜——モデルにおける終了相を指すようにする。
逆にこのモデル全体を指すほうは頻度が低いので bad onk とする。onk はこのモデルにしか使わないため、ここに and は不要。これは法副詞であって遊離副詞ではない。つまり動詞から離れると意味が変わる。onkel は「～しつづける」という意味になる。

これにより luk took と lukand took の違いが出る。両者はモデルが異なる。
前者は定動詞としてなので「歩いて着いて滞在しおわってまたどこかに行く瞬間」である。現実的に使うことはまずない。took が終了相なので名前のイメージから「徒歩で移動していたのだが途中で諦める」という意味を持つように感じられるかもしれないが、それは後述する luk daim になる。
後者は不定動詞としてなので「散歩をしおえる瞬間」である。

過去形と組み合わせる場合は badatand のようにする。

・ꝏcɒ と ɒiʖ

mak は準開始相。kit の代わりに使う。
同じく daim は準完了相。

mak は再開の意味。daim は中断。
「また～はじめる」と「～するのをやめる」にあたる。
これらはともに相副詞である。

●単位動詞の場合

luk mak（徒歩での移動を再開する）

luk daim（徒歩での移動を中断する）

●非単位動詞の場合：＊非単位動詞にはモデル上完了相がないので、daim は繰り下げて終了相にかかる。daim は準終了相となる。

lukand mak（散歩を再開する）

lukand daim（散歩を中断する）

・無相の指向性

動詞の無相は指向性を持つ。例えば単に vat と言った場合、通常 vator のことだと解釈される。一方単に sedo と言った場合、sedok のことだと解釈される。
無相なのにあたかも相を持っているかのように解釈される。これを指向性を持っているという。
指向性は経過相か完了相に向けられる。どちらかになるかは、経過相の長さによって決まる。

vat など、経過相の長い動詞は経過相に指向性を持つ。
sedo などの瞬間動詞は経過相がほとんどないので完了相に指向性を持つ。

in は経過相が inor（見ている）で長いため、経過相に指向性。
lai は経過相が「目をやっている」であり、これはほんの一瞬の動作なので、完了相に指向性。
つまり in は「見ている」で、lai は「見た」「目に入れる」を事実上意味することがある。

なお状態無相の場合は問答無用で継続相に指向性を持つ。つまり skin xa は skines に指向性を持つ。
すなわち無相は経過・完了・継続の 3 相のいずれかに指向性を持つということになる。

・間違えやすい動詞

vat 類：「待っている」は vatand でなく vetes でもなく vator。細かい理屈は旧版に記載されている。vatand は何度も待つこと。
axt 類：「書く」は「歩く」と同じで、一文字書いても書いたと言える。axtor は始まりと終わりのある文章が執筆途中であること。axtand はただ文字の羅列を何文字も何文字も繰り返し書いていること。日本語だとどちらも「書いている」になる。
lax 類：「望んでいる」は laxor。laxik は「望み終わる」。叶ったか諦めたかのいずれか。laxes は「望んでいた痕跡がある」。例えば祈ったままの姿勢
で餓死した人を見たときなどに使いうる。
in 類：inor「見ている」、inik「見終わる」、ines「見ていた」
lai 類：lair「目を動かしている」、laik「視線を当てた」、lais「見ている」

・現実的には

現実的には sat, kit, or, ik, es, and を知っていればほとんど問題ない。
ほかの相はほとんど使わない。状態無相の xa など使った記憶すらほとんどない。
ただきちんと体系は作っておかないといざ厳密にアスペクトを表現する必要が生じたときに対応できず、人工言語として片手落ちになってしまうため作った。

アスペクト論争の流れ

新生アルカのアスペクト論がどのように発展していったかについて、忘れないうちに記述しておく。
ここまでひとつの文法事項に多くの時間とマンパワーを費やしたことはなかったのではないか。

・セレン、夢織春を書き終え、アシェットへ。

↓

・セレン、夢織夏を書き終える
このとき、アシェットから春の感想が上がり、アスペクトを理解していないことに気付く。

一方 axtan は正確に読んでいた。
このことで新生のアスペクトが日本語に基づくものではないかという疑惑がセレンに起こる。

↓

・セレン、行為動詞中心のアスペクト論を展開

・魚楠、状態動詞中心のアスペクト論をアンチテーゼとして展開
このときの主な議題は行為中心と状態中心のどちらが分かりやすいか。
結局見る視座の違いであって大きな優劣の差ではないのではということで片付いたようにセレンは思う。

↓

・セレン、自分の論のモデルを「ユ」型と称し、説明。魚楠モデルには天秤型と命名。本人は後に皿型と呼ぶ。
ユ型はユの上の棒が行為動詞で、下の棒が状態動詞を示した。

↓

・魚楠、アスペクトのフラクタル理論を提唱

・同日、axtan、「ユ」型を一本線の 7 相体系にし、後の単位動詞のモデルを提唱

↓

・リディア、7 相に和名を設定。開始の対称地点が終了、経過の対称地点が継続となり、綺麗な左右対称図に近づいた。

・セレン、上記 2 点にインスピレーションを受け、数直線で相をモデリングする
このあたりから行為動詞と状態動詞の違いがあまり重要な話題でなくなる。
また、7 相体系に落ち着き、アスペクト論の根幹部分が固まる。この時点を境に不定動詞など、枝葉の部分に発展していくことになる。

↓

・axtan、セレン、fai の相の局面の組み合わせについて意見が食い違う

・nias、動作主の意思が強いため、fai の行為動詞は「燃える」ではなく「燃やす」になることに言及
後にこれが「内相が最も高頻度になるように動詞の局面を設定する」理論に発展。

↓

・魚楠、定不定動詞に言及。セレンのモデルでは不定動詞を定動詞に無理に押し込めていたが、それに反対

・リディア、不定動詞のモデルを作成し、不定動詞を定動詞と同一視できないことを説明

↓

・セレン、不定動詞を 7 相とは別のモデルとして立てざるをえないことを認める

・メル、不定動詞のモデルが 7 相と同じ規模に膨らんだ際に、現行モデルが実用範囲であるとして制限

・メル、不定動詞の連動詞化に反対

↓

・セレン、「歩く」などを分析し、日本語などには定不定の混ざった動詞があることを指摘。魚楠、これに賛

成
同時に、歩くの不定動詞は累積動詞であると述べる。殺すの場合は不定動詞がないものの、歩くの不定動詞と同じモデルが適用でき、これを反復動詞とした。
結果、7 相体系が単位動詞になり、累積動詞と反復動詞に使ったモデルが非単位動詞になった。
定不定についてはこれでおおむね解決。あとは非単位動詞の相にどの副詞をあてるかの問題。

↓

・axtan、状態動詞における行為無相を副詞 so で表してはどうかと提案
セレン、これを受け、転換動詞や形容動詞、そしてあらゆる動詞にも使えるよう、接辞 em として採用。

↓

・魚楠、非単位動詞の副詞を単位動詞と同じにしてはどうかと提案

・nias、非単位動詞の終’と単位動詞の終の間にしか意味の差が問題にならないのではないかいう内容の言及
セレン、これを受け、モデルを再分析。非単位動詞が単位動詞から作られることが分かり、単位動詞の副詞を借りることに。

↓

・魚楠、アイヌ語の動詞および歩くの単位動詞について言及
セレン、インスピレーションを受け、歩くの単位動詞の表現方法をアルカに設ける。

↓

・魚楠、統語操作で不定動詞の相を表現する案を出す
セレン、それを受けて調整する。

アスペクト考の術語集

相、アスペクト

動詞の局面を指すもの。
反復などの様態を指すこともあるが、局面のほうがプロトタイプ的な意味である。
アルカでは単位動詞に 7 相、非単位動詞に 5 相。

アクツィオンスアルト

言語学者によって使い方は異なるが、おおむね接辞でアスペクトを表したものを指す。
アルカでは内相がこれに当たる。

将然相

行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。
非単位動詞の左端線。
「～しそうだ」という意味。

開始相

行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。
非単位動詞の左端点。
「～しはじめる」という意味。

経過相

行為動詞・状態動詞の一端、事前段階・実行段階の一端、内相の一端。
「～している」という意味。

完了相

行為動詞・状態動詞の一端、実行段階の一端、内相の一端。単位動詞の中心。
「～した」という意味。

継続相

行為動詞の・状態動詞の一端、実行段階・事後段階の一端、内相の一端。
「～してある、～している」という意味。

終了相

状態動詞の一端、事後段階の一端、外相の一端。
非単位動詞の右端点。
「～しおわった、～な状態からの脱却」という意味。

影響相

状態動詞の一端、事後段階の一端、外相の一端。
非単位動詞の右端線。
「～しおわっている、～な状態から脱却している」という意味。

累積相

不定動詞の非単位動詞の持つ非単位相。
例えば不定動詞「歩行する」の非単位動詞「n 歩歩く」の非単位相「歩行中」のこと。
動詞の無標形で示される。
例：luk

反復相

定動詞しかない動詞の非単位動詞が持つ非単位相。
例えば定動詞「叩く」の非単位動詞「乱打」の非単位相「乱打中」のこと。
動詞＋ di で示される。
例：bad di

非単位相

累積相と反復相の総称。
非単位動詞モデルの○○○○の部分に相当。

無相

相のない相。行為無相と状態無相がある。

行為無相

行為動詞における無相区間。開始～完了相に等しい。
動詞の無標ないし動詞＋接辞 em で示す
例：skin, skinem（座る）

状態無相

状態動詞における無相区間。完了～終了相に等しい。
動詞＋副詞 xa で示す
例：skin xa（座っていはじめる～座っていおえるまでの総称）

行為動詞

単位動詞の将然～継続相までの 5 相からなる区間のこと。
状態動詞に比べ、動作主の意思が表れやすく、動きも動的。
skin（座る）が行為動詞で、skin xa（座っている）が状態動詞。

状態動詞

単位動詞の経過～影響相までの 5 相からなる区間のこと。
行為動詞に比べ、動作主の意思が表れにくく、動きも静的。

例外動詞

単位動詞において、継続相が無標となって接辞 es が落ちる動詞。siina や xa など。
この動詞では行為無相は必ず em を付ける必要がある。
行為無相の頻度が少なく、継続相の頻度が高い動詞のみ例外動詞となる。

継続動詞

例外動詞の別称。意味を重視したネーミングである。

単位動詞

将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響の 7 相を持つ動詞。
すべての動詞が単位動詞になれる。

——○——○——○——

というモデルで示される。
非単位動詞と対立する存在。アルカの場合、定動詞と等しい。
例：叩く、歩いて移動する

非単位動詞

不定動詞の累積ないし定動詞の反復によって生まれた動詞。
将然・開始・非単位・終了・影響の 5 相を持つ動詞。（正確には将然’・開始’・非単位・終了’・影響’ の 5 相を持つ）
あらゆる動詞に存在する。

——｜○○○○｜——

というモデルで示される。
単位動詞と対立する存在。

例：乱打する、歩行する

累積動詞

非単位動詞のうち、不定動詞からできた動詞。「歩行する」など。

反復動詞

非単位動詞のうち、定動詞からできた動詞。「乱打する」など。

事前段階

単位動詞の 3 分割のうち、中間の区間。将然～経過の区間のこと。

実行段階

単位動詞の 3 分割のうち、中間の区間。経過～継続の区間のこと。

事後段階

単位動詞の 3 分割のうち、中間の区間。継続～影響の区間のこと。

内相

実行段階のこと。外相と対立。
経過～継続の区間のことで、すべて接辞で表され、アクツィオンスアルトとなる。
動詞の相の局面を 7 種用意するときは、最も頻度の高い局面がこの内相の中に来るように設計する。

外相

内相以外の区間。すべて副詞で示される。内相に比べ、頻度が低い相である。

定動詞

目的を持った動詞で、必ず有界動詞。
例えば「歩く」の場合、歩いて駅まで移動する場合は、定動詞になる。
スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。
定動詞の非単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。
単位と非単位の区別はあらゆる動詞に存在するが、定不定の区別は「歩く」や「書く」など、限られた動詞にか存在しない。

不定動詞

目的を持たない動詞で、必ず非有界動詞。
例えば「歩く」の場合、ただその辺りを歩行する場合は、不定動詞になる。
スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。
不定動詞の単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。

瞬間動詞

経過相がほぼゼロであるために、無相と完了相がほぼ同一視される動詞。「消す」など。
瞬間動詞の無相は完了相への強い指向性を示す。

指向性

動詞の無相が暗黙の了解で何相を指すかを示すもの。
経過・完了・継続相のみに指向性が観察される。

状態動詞は常に継続相に指向性を持つ。
行為動詞は経過・完了のいずれかに指向性を持つ。
指向性はアナログで漸次的であり、瞬間動詞のように強く完了相に指向性を持つものもあれば、「殺す」のようにやや指向性を持つものもある。

変化動詞「殺す」は不変化動詞「叩く」より完了相への指向性が強い。
心理動詞 vat のような動詞は経過相への指向性が強い。

反復相はなぜアスペクトと呼ばれるか

アスペクトは本来動詞の動作の局面を指す。
開始や完了といったものが本来的なアスペクトである。

しかし言語学的にはこれに反復や習慣などもアスペクトとして含む。
人工言語を組み立てるには局面は局面だけで考えたほうがややこしくないことがある。
だが言語学の用語を使うとしばしば併せて考えたくないものも視野に入ってきて困る。

なぜ反復や習慣が相なのか。元々言語学は自然言語の分析を通して相を決めたからだ。

「テイル」はふつう継続相を示す。だがそれだけではない。
近所にこんな看板があった。「違法駐車を見つけ次第即 110 番しています」
この「テイル」は習慣の意味だ。
両者が同じ「テイル」で示されているので、継続相を認めるなら習慣相も認めることになる。

このように、言語学の理論は言語ありきでできている。
だが自然言語は理路整然としていない。
そこで言語学の用語もそれに引きずられて整然としないことがある。
このことは自然言語の研究には大した問題にならないが、人工言語を組み立てようという目的には若干使いづらい。

時制の一致

・主節が過去で従属節も過去の場合

英語では主節が過去だと従属節も過去になる。
一方、アルカでは従属節の時制は主節の時制と相対化される。
従属節の時制が主節の時制と同じなら、主節が過去でも従属節は現在形になる。なお、厳密には現在形ではなく無時制という。

an fias im la vort（私が彼が死ぬとき生まれる）
an fiasat im la vort（私が彼が死んだとき生まれた）：vortat にならない。無時制の vort になる。

これがアルカにおける「時制の一致」である。

従属節が主節より前に書かれた場合、主節の時制と比べようがない。
この場合、時制の一致は起こせない。よって vort → vortat となる。

im la vortat, an fiasat.

ただしこのとき主節の -at は文脈から明らかとして省略されることがある。つまり fiasat → fias でもよい。
あくまでこの現象は「自明なので主節の時制を省略した」であり、時制の一致が起きたわけではない。主節の時制が従属節の時制に振り回されることはない。時制が落ちるという結果が同じであっても、理屈が異なる。

・主節が未来で従属節も未来の場合

同じく時制の一致が起こる。

an vort sil im la fias（彼が生まれる頃には私は死んでいるだろう）：vort sil は不可。

同じく従属節が前に来ると時制の一致は崩れる。

im la fias sil, an vort sil.

ただしこのとき主節の sil は文脈から明らかとして省略されることがある。
あくまでこの現象は「自明なので主節の時制を省略した」であり、時制の一致が起きたわけではない。主節の時制が従属節の時制に振り回されることはない。時制が落ちるという結果が同じであっても、理屈が異なる。

・主節も従属節も過去だが、丿つの過去の間に時間差がある場合

いわゆる「大過去」である。この場合、時制の一致は起きない。

an kut la vortat（私は彼が死んだと言った）

「言った」のも「死んだ」のも過去のことだが、「死んだ」ほうが「言った」より前の出来事だから、従属節は無時制にならない。vort を vortat にすれば大過去を表せる。had been などを使わなくていいので、大過去の表現は英語よりシンプルである。

ところでこのとき従属節を前に持っくると、yul la vortat sol an kut になる。
このとき「時制の一致が崩れて vortat になった」のか、あるいは「vort と ku の間に時間差があって元々 vortat だった」のか区別できなくなる。

時制の一致が崩れた場合だと yul la vortat sol an ku と言える。上で述べた「自明なので主節の時制を省略した」というやつである。
一方、vort と ku の間に時間差がある場合は kut を ku にできない。kut のままである。この現象を用いてどちらのケースか判別することができる。

なお、この件は未来形にも同じことが言える。

・動詞が eſ の場合

les sakat vortmain lamel et evoan（最初の死体を見つけたのは警備員だった）

アルカの le は接続詞である。le 節は機能上は形容詞節になる。分かりやすく英語的な言い方をすれば関係詞節である。
le 節は従属節の一種である。従って時制の一致が起こる。

この文の場合、従属節は過去である。では主節はどうか。
死体の発見者は警備員なわけだが、ふつう職業は毎日ころころ変わるわけではないので、et が妥当である。ニュアンスは変わるが、lut でも tur でも構わない。

もし彼がもう転職していたら、ses なり at なりを使う。ses は主観で使うことが多いので、地の文なら at のほうが良いだろう。

・時制の一致が起こるか否かは、認知主体がふたつの出来事の間に時間差を認めるかどうかによる

上の例文とは異なり、「最初の死体を見つけた人は警察に連絡をした」という文だったら主節も過去になる。次の文では les から始まる従属節が主節の前に来ているので、時制の一致が崩壊している。

les sakat vortmain lamel oktat tu soda a nain.

もし従属節が後ろに来るような文ならどうなるだろうか。

evoan keklat nainan man sak vortmain（警備員は死体を見つけたので警察官を呼んだ）

時制の一致が起き、sakat ではなく sak になる。

ところで死体を見つけたのも警察を呼んだのも過去のことだが、厳密に言えば死体を見つけたほうが警察を呼ぶより前である。
だから同じ過去でも、死体を見つけたほうが過去である。いわゆる大過去である。従って evoan keklat nainan man sakat vortmain と言うこもできる。

主節と従属節の時間が全く同時というケースは現実には稀である。2 つの時間が同じかどうかは認知主体の判断による。
言語における時間というのは認知主体による主観的な捉え方によって表現されるものだから、話者が「だいたいこの 2 つの出来事は同じくらいの時間に起きただろう」と思えば時制の一致が起こるし、たとえ 1 秒の差しかなくても「片方の出来事のほうが前だ」と思えば大過去が使われる。
従って evoan keklat nainan man sak vortmain になることもあれば、evoan keklat nainan man sakat vortmain になることもある。そこは認知主体がふたつの出来事の間に時間差を認めるか否かという捉え方に帰結する。

・主節が過去で従属節が現在の場合

以下は主節が現在形で従属節が時制の一致を起こして無時制になっている文である。

selan le xookor a xok eelik al an. 互いに会話していた者たちが私の方を向いた。

これを主節が過去で従属節が現在に変えるとこうなる。

selan le xookat a xok eelik tur al an.（先ほどまで）互いに会話していた者たちが（今）私の方を向いた。

動詞マーカー

接尾辞 -(e)m は動詞マーカーとなり、行為無相を示す。
em は動詞であると明示するときに使う。

例えば文法説明中に使う。
英語だといちいち動詞であると明言するときは to hit とするが、to が来て単語でなく句になってしまうのが不恰好だと学生時代に思ったことがあるだろう。
単語なのに句にしないと動詞と言えないからだ。
アルカの場合、som, setem, badem などとする。

また、siina などの例外動詞の行為無相は常に em が付く。

さらに、形容詞を動詞にした形容動詞にも em が付く（実際には付かないことも多い）

sam（新しい）→ samem（新しくする）

複合時制

頻度は多くないが、複合時制がある。

過去＋現在：sot tur

過去＋未来：sot sil

現在＋未来：so tur sil

過去＋現在＋未来：so lut

知覚動詞の自発性

曇っている夜に月が見えないとき、an in vil xelt と an ins vil xelt のどちらが正しいだろうか。
日本人は前者を言いやすい。アメリカ人は ins を see で覚えているだろうから、I can't see の発想で後者を選ぶだろう。

an in vil xelt だと、2 つの可能性がある。

1: 私の目が悪くて、見ようとしても見えない。
2: 目隠しやビルなどの遮蔽物があって、見ようとしても見れない。

なお、同じ遮蔽物でも曇っていて月が見えない場合は ins vil が適切。使い分けに注意する。
ただし、天体観測をしているときに曇っていて月が見えない場合は、わざわざ見ようとしているのに見えないので、in vil ということもある。

要するに、in と ins の違いは自発性の有無である。
ter と tem も同様である。
toan と toa も同様である。

スピーカーの音が小さすぎて何も聞こえないときは tem。
スピーカーが音を出しているか検査しようとして、小さい音を注意して意識的に聞く場合は ter。
対象は同じスピーカーの音であっても、自発性の有無によって用法が分かれる。

移動動詞

移動動詞には

come のような直示的なもの、
arrive, reach のような有界的な有方向移動動詞、
ascend,descend,fall のような非有界的な有方向移動動詞がある。

また、移動の様態を伴う移動様態動詞があり、

run のような動詞と、
roll のような動詞に分かれる。

（影山 et al.(2001)pp46-48）

アルカでこれらのことを見てみよう。

1: 直示

いわゆるダイクシスである。kor, luna など。

yul: 着点
it: 起点
var: 中間経路

ᒧ: 有界的な有方向移動動詞

luko, vatl など。

yul: 着点
it: 起点
var: 中間経路

ᑦ: 非有界的な有方向移動動詞

ascend や「上がる」に対応する語はアルカに存在しない。
自動詞がないので、「上げる」しかない。「上がる」は語彙でなく統語的な操作で表現する。

an nek gek（私はボールを上げる）
gek ik nek（ボールが上がった）

非有界的な有方向移動動詞を見るとどれも自動詞である。
これらを他動詞に変えると「上げる」「落とす」「進む」などになる。
そしてこれらは移動動詞ではない。
従ってアルカには非有界的な有方向移動動詞は統語的手段のみによって表される。

gek ik nek a kib var jina it ako（ボールは地面から宙を通って棚へ上がった）

ᑎ:run 動詞

累積動詞、不定動詞などと呼ばれる類の動詞。
lef, luk, left など。

yul: 中間経路
it: 起点
al: 着点

格組の差に注目したい。yul は着点ではない。
ゴールがないので、運動ではあるが、移動とは限らない。
この種の動詞が al を持つと定動詞の移動動詞になり、al を持たないと不定動詞のいわば運動動詞になる。
従って run 動詞は純粋な移動動詞ではない。

純粋な移動動詞ではないことが次の表現に影響を与える。

(1) I go to the station = an ke lopn

(2) I run to the station = an lef a lopn

(3) I run out of the room = an rik it ez lefel

(1) は移動動詞 ke。
(2) は定動詞としての lef。
(3) は不定動詞としての lef。

(3) は部屋から出た後のゴールなどないので、非有界であり、不定動詞である。
この場合、lef は「運動動詞」であり、移動動詞でない。
従って移動様態動詞という名前の「様態」の部分が強調され、動詞から外れて副詞となる。様態を示すためだ。

ᕝ:roll 動詞

roll,float にあたる動詞だが、アルカにはない。

run 動詞は生物による意図的な動作を示すが、roll 動詞は無生物に特徴的な移動の様態を表す。影山 et al.(2001)p.48

7 相体系のアルカでは、左 5 相の行為動詞と、右 5 相の状態動詞に分かれる。
左 5 相は行為動詞なので「生物による意図的な動作」は示すが、「無生物に特徴的な移動の様態」は示しにくい。
従って、「転がす」と「転がっている」なら、「転がす」が左 5 相になり、「転がっている」が右 5 相になる。
そして「転がる」は左 5 相である他動詞を統語的手段によって自動詞に変えて表現する。

pix: 転がす
pixes：転がっている

et pix : 転がる

さて、語彙としては pix（転がす）が存在するだけで、転がすは移動動詞ではない。
従ってアルカには roll 動詞はない。

(4) The rock rolled = tad at pix
(5) The rock rolled down the hill = tad ket waka pixel

(4) と (5) で pix の品詞が変わっていることに注目。
(5) では完全に様態化している。
(4) は運動動詞として捉え、移動については考えていない。だから at pix が使える。
しかし (5) は丘を下るのくだりがあるため、非有界ながら移動の要素が見える。そこで pix は副詞になる。

・まとめ

アルカの移動動詞の格組はわずか 2 種。

lef, luk, left など。

yul: 中間経路
it: 起点
al: 着点

と

lef, luk, left など。

yul: 中間経路
it: 起点
al: 着点

である。
しかもこのうち純粋に移動動詞なのは前者だけである。

自動詞を統語的操作で表現するため、roll 動詞などの自動詞が語彙として存在しない。
他動詞にすると「転がす」になり、もはや移動動詞ではなくなる。
そのため、アルカは移動動詞が少ない。

例文から分かるとおり、移動が表現できないという意味ではない。
移動動詞という形で移動を表現することが少ないという意味である。

影山 et al.(2001)『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店

副詞の順序

1: 方向 :tau ke（買いに行く）など
2: テンス :luna sil（行くだろう）など
3: アスペクト :esk sat（雨が降りそうだ）など
4: ムード（モダリティ）:ke lax（行きたい）、ke van（行こう）など
5: ヴォイス :bad yu（叩かれる）など
6: その他 :me（もう一度）、em（〜になる）、xal（〜のままだ）など

無理に副詞をつなげると、こうなる。

miik tau ke sil sat sen yu em an（リンゴが買いに行かれるようになりそうだ）

ただし、実際には、ありえない。

性質と状態

la et lol だと、「彼は面白い人」なのか、「彼は面白がっている」なのか、分からない。
そこで、前者を lolan としようとした。19 年末の数カ月前にセレンが主導で指示した。
しかし、一向に広まらなかった。相変わらずアシェットは区別なく lol と言うので、なぜだろうと考えた。

言ってみれば、scaring と scared の区別のない言語ということだ。
日本語と同じだ。なぜ西洋人が多いのにこうなっているのだろう。
恐らくアルカの言語的な性質が、西洋人の感覚を矯正しているのだ。

「もう大丈夫、君は安全だ」と「この車は安全だ」の安全は意味が異なる。
前者は君が誰かに守られたり敵のいないところにいることを意味する。
後者は車が運転手に危害を加えることがないことを意味する。車自体が守られるわけではない。車は恐らく壊れるが、それでも人を守るという意味である。

ふたつの「安全」は意味が異なる。なぜだろう。
よく見ると、前者は状態で、後者は性質である。
これが一番の違いである。日本語もアルカも状態と性質を単語レベルで区別しない。

ところで、アルカでは scaring と scared の区別がない。
英語のように veman と vemol と言い表せるが、実際にはそのように言わない。
la et vem と言ったとき、「彼は怖い人」なのか「彼は怖がっている」なのか、区別できない。
どうしても区別したいときは、前者は la vem el ないし la et veman、後者は la na vem と言う。

英語では分詞で区別をするが、なぜアルカでは同じ手法が好まれないのだろうか。
la et veman は厳密には「彼は何かを怖くさせる人だ」という意味である。
さらに厳密に言えば、「彼は何かに怖いという性質 or 状態を与える人だ」という意味である。

このとき、「怖いという状態を与える人」の意味で使えば、この veman は scaring の意味になる。対象が怖い状態になる以上、彼は怖い人ということになるからだ。
しかし、「怖いという性質を与える人」の意味で使えば、この veman は scaring でない。つまり、彼がカミナリオヤジみたいな人という解釈はありえなくなる。
ちなみに怖い性質を与えるというのは、例えば絵描きがヤギに悪魔の角を付けて怖くさせるような場合に使う。この場合、絵描き自体がカミナリオヤジということではないので、scaring にならないというわけである。

veman には「状態」と「性質」の解釈があるが、性質の解釈の場合は「怖い人」の意味になれない。
そのため、veman で「怖い人」を表現するのは曖昧で、好まれない。
恐らくその語感がアシェットにあったため、セレンが無理に veman や lolan という表現を主導しても、違和感を感じて従わなかったものと思われる。

さて、la et vem の vem はというと、アルカでは状態と性質の区別がないので、これは状態にも性質にもなれる。
状態の場合、彼は怖がっていることになる。性質の場合、彼は怖い人という意味になる。

英語では分詞で「怖い人」と「怖がっている」を分けている。これは動詞の能受で分ける方法である。
一方、アルカは性質と状態で「怖い人」と「怖がっている」を分けている。日本語も同様である。
そして幻日ともども、性質と状態を言い分けないため、la et vem や「彼は怖い」だと解釈が揺れることになる。

ここまで見ると、「怖い人」と「怖がっている」の使い分けは、2 種類あることが分かる。
1 つは英語のように、能動と受動で使い分ける方法。
1 つはアルカや日本語のように、性質と状態で使い分ける方法。

どうも言語にはこの 2 種類があるのではないか。
前者の場合、コト語として捉えている。あくまで動詞として捉え、動的に捉えている。
後者は逆で、あくまで静的なものとして捉え、それを性質と状態に振り分けている。

なお、日本語もアルカも性質と状態を単語レベルで区別しないため、解釈に曖昧性が生じる。
だが、これは性質と状態を分ける言語は曖昧だということではない。
性質と状態に区別することが問題なのではなく、その後両者を区別するか否かの問題である。

同じく、能受で区別する言語も、能受で区別するから明晰だというわけではない。
能受で区別した後に、両者を表現しわけるかの問題である。
むろん、性質と状態を言い分ける言語もあるだろう。逆に能受を言い分けない言語もあるかもしれない（実際には考えづらいが）。

否定の度合い

tu et rat merel を「100% 良い」と数値化して数直線で考えると図の 1 のようになる。

「全然良くない」、つまり「0% 良い」は 2 になる。
これは「0% 悪い」と論理的には同義であるが、日常言語としては tu et yam yuul と比べてニュアンスの違いがある。

「0% 良い」を通り越してむしろ「-100% 良い」すなわち「100% 悪い」は 3 になる。yuu と gast の違いに注意。

1 の et を否定して en et すなわち de にすると 4 になる。これは「100% 良いということは少なくともない」という意味である。
そこそこ良いかもしれないし、悪くないことを一切保証していないので、場合によっては悪いかもしれない。

それゆえ変域は -100 ＜＝ x ＜ 100 である。

１の副詞部分を否定すると５になる。
tu et ratの部分は既に肯定されているので、良いことには違いない。しかし良さが少なくとも100%ではない。
そのため、変域は 0 ＜ x ＜ 100 となる。0 が入らないのがポイント。

① tu et rat merel.
② tu et rat yuul.
③ tu et rat gastel.
④ tu de rat merel.
⑤ tu et rat en merel.

訳す際、注意すべきは gast と yuu。日本語の場合、「全然～ない」など、成句を使って示す。
en merel や de mer の場合は取り立て助詞「は」を使い、「完全に良くはない」のように訳す。
一方アルカの場合、en, mer, yuu, gast など、副詞を使って統一的に示す。

なお、文法的には１，２，３は肯定である。
４は全部否定である。５は部分否定である。

● ɥəə と φɪʃ が等価なケース

「猫を飼っているか飼っていないか」は 0 か 100 かの二値である。
一方、「彼はお金を持っているか」の場合、ふたつに分かれる。

一円でも持っているかどうかという意味ではむろん二値であるが、日常的にはこの文は「お金持ちかどうか」の意味で使われる。
凄く持っている場合は 100 であるが、多少持っている場合は 0 と 100 の間であるため、二値ではない。
従って、lu til gil の変域は 0 ＜ x ＜＝ 100 である。

ところで、「0% お金を持っている」は「お金を持っていない」と同義なので、0% の地点は lu si gil と同義である。
tu et yam merel は数直線上で -100% の位置だったが、lu si gil は -100% が存在せず、0% で行き止まりである。
従って、このような数直線の場合、yuu と gast は等価となる。

すなわち、lu til gil merel が 100% を指す一方で、lu til gil yuul と lu til gil gastel と lu si gil は論理的には等価ということになる。
むろん、これらはそれぞれニュアンスが異なる。

部分否定と全部否定

動詞に否定がかかると全部否定になる。

la en ket felka.

それ以外に否定がかかると部分否定になる。

en la ket felka ←彼以外の誰かが行ったことになる

全部否定を文と論理式で示すと次のようになる。

ardu en ke felka im velm.

¬ ke(ardu, felka, velm)

これを疑問文にすると次のようになる。

ardu en ke felka im velm mian?

(¬ ke(ardu, felka, velm) ∧ mian?)

このように、全部否定は文頭純詞や文末純詞の類にはかからない。

・純副詞の否定

「簡単には理解できない」は loki vil sofel ではなく、en loki sen sofel である。
前者では「簡単に理解できない」というおかしな意味になる。あまりに難しすぎてすぐに理解することを諦めてしまったという冗語的な意味に取られる。

vil は en sen であるため、loki vil は loki en sen に等しい。en が sen にかかっているので部分否定である。
en loki sen の場合は en が動詞 loki にかかっているため、全部否定である。そのため、意味が異なる。

アルカの NA 構造は変化するか

アルカは SVO の NA 言語である。

松本『世界言語への視座』p215 によると、SVO を持つ 484 言語のうち 323 語が SVO PR NG NA 構造を持つ。
これはロマンス諸語やインドネシア語が入る。

このうち NA が AN となるものは 42 で、印欧諸語が例に挙がっている。
英語がこの構造なので、日本人には馴染み深い。
だが意外なことにこの構造は上記の 8 倍もレアである。
つまりアルカのほうが頻出する構造ということになる。

ロマンス諸語というとフランス語がそうだが、フランス語も grand など、一部の形容詞は前置される。
アルカも同じで、否定を示す語や指示語などは前置される。
たとえば否定は文の真理値を逆転させてしまうので、なるべく早く聞き手に知らせる必要があるためである。
歴史的経緯ではなく、伝達効率を考えて作られている。

特殊な理由があって前置しているので、これがほかの語に及ぶことは考えづらい。
松本の頻度をとってもそれが自然である。SVO だと形容詞は後ろに来るほうが自然だ。
また、形容詞を前置したら今度は関係詞節も前置したくなる。
ところが英語でもそうなとおり、関係詞節を前に持っていくのは違和感がある。

確定条件と非確定条件

アルカには確定条件と非確定条件がある。
確定には im（～するときに）、非確定には ol（もし～なら）などを使う。

確定：ke das tu ate IM ti ke arbazard.（アルバザードに行ったときに、この店に寄ってください）
非確定：ke das tu ate OL ti ke arbazard.（アルバザードに行ったら、この店に寄ってください）

アルバザードには行くことも行かないこともできるので、この 2 つの文の違いは明瞭である。
一方、確定と非確定の差が明瞭でないこともある。

an ke vil IM kest.（明日なら行けません）
an ke vil OL kest.（明日なら行けません）

明日というのは誰にでも来るものなので、「明日になる」という条件は常に真にしかならない。
条件が常に真、あるいは常に偽の場合、確定条件と非確定条件の差はなくなる。
つまり、どちらを書いてもよい。この点に注意すべきである。

過去命令形

日本語は過去命令形がない。「来い」とは言えるが、「来てたろ！」とは言えない。「あのときお前は来ているべきだった」というような表現になり、命令にはならない。
筆者は個人的に日本語の過去命令形を使うことがある。「言ってたろ！」＝「言えの過去」のように。
恐らく多くの日本人は「言っとけよ」のような、「～しておけ」を使って過去命令形を示すのではないか。

アルカには過去命令形がある。過去形の前に re を付けるだけなので、自然と過去命令形がありえるわけだ。
re sat は「準備しろ」だが、re satat は「（あの時点でちゃんと）準備しとけよ！」の意味になる。
命令というより、「反実糾弾」とでも呼ぶべきものであろう。実際にはやらなかったことへの糾弾である。

なお、未来命令形やアスペクト付の命令形もある。

例：re ke sil. 後で行ってよ。
例：re sates. 準備しといてよ。

自己命令形

アルカは命令文の主語に自分を取ることができる。
クーノステイラを文末に付けて使うと、「～してほしい？」の意味になる。

例：an mir lad dunex? 俺に夕飯作ってほしい？

「～してほしい」は丁寧な言い方なので、re より mir のほうが合う。
re だと、「俺に夕飯作れってこと？」のような語調になる。

クーノステイラをつけないと、自分への命令になる。

例：teolo, an re fel ranel! 俺のバカ、ちゃんと勉強しろよ！

ほかの命令形と自己命令形を合わせることもできる。

例：qp, esk xa! teo, an re meldes esn! あっ、雨だ。しまった、傘持ってきとけよ、俺！

定義動詞

「意味する」「～である」「～はいくらである」など、行為でも状態でもなく、「主語は目的語である」と定義するための動詞がある。
アルカでは順に eks, et, gart である。
ほかに mols（時間はいくらである）などもこの類である。

eks は行為動詞としては「意味するようになる」という意味を持つ。
状態動詞として「意味するようになっている」つまり「意味する」に等しい。

従って「男でないは女を意味する」という文は本来的には en vik ekses min となる。
しかし eks を行為動詞の意味で使うことはまずないため、siina などと同じく例外動詞とする。
つまり、無標が状態動詞になる。
ゆえに、en vik eks min でよい。

このことはほかの動詞にも言える。
だが、言えないのがひとつある。繫辞である。

繫辞は「～になる」が行為動詞としての意味であり、「～になっている」が状態動詞としての意味である。

しかし、「～になる」は be ではなく become に当たるものだ。アルカで言えば et でなく em に当たる。
そこで気付いたのだが、es というのは em の状態動詞なのだろう。

今までは et が行為動詞で、その影響相が etes だが、繫辞の場合は特別に et を略して es にしていた。
つまり es の原形は etes だ。es はあくまで et の影響相だ。
だが、行為動詞の意味を考えると、es の原形は em（～になる）のはずだ。

では、et はどこに行くか。
これが純粋な定義動詞として残ればいい。状態ではなく性質を現す繫辞だ。
例えば「これは一時的に濡れている」という状態を表すなら、tu es eves。
「私は女だ」という性質を指す場合は、恒常的な定義なので non et min。

性質と状態を言い分けられるのは、従って繫辞のみになる。
意味するなどの動詞では、状態動詞を以って定義動詞とするため、性質と状態の差がない。

恐らく eks や mols などの動詞に性質か状態かの区別はいらない。
だが、繫辞には必要だ。川が枯渇していて恒常的に乾いているのと、日照りで一時的に乾いているのでは意味が違う。
一方、あるものの性質によって意味していることと、あるものが状態として意味しているということの区別は、あまり日常的に必要とは思えないからだ。

et と es の違い

道を歩いていて、干上がった川を見た。このときは——

tu erei et evi

——が良い。

一方、濡れた服が乾いている場合——

tu sab es evi

——が良い。

この違いはなぜ起こるか。
et は性質、es は状態を表すからである。
川が一時的に干上がってるなら es だが、元々干上がっていて変化の見込みがない場合、もう状態ではなく性質と見てよい。
従って et を使う。

では、なぜ性質なら et で状態なら es なのか。
et はアスペクトがない。動作の局面がない。そのため、静的である。
一方、es は影響相である。動作の局面がある。そのため、動的である。
従って、et が性質で、es が状態を表す。

相副詞と時制副詞

アスペクトの代理をする副詞がある。

例えば moa（既に）は意味の上では影響相を持つはずである。
だが、逆に言えば影響相を持つと分かっているので、わざわざ es を付ける必要がない。
従って、an ku soa に「既に」を付ける場合、an kus moa soa でなく、an ku moa soa でよい。

このように、相を代理する副詞がアルカにはある。
これを相副詞という。

同様に、rask（かつて）は過去に決まっているのだから、an kut rask tu ではなく an ku rask tu でよい。
この場合、時制を副詞が代理しているので、時制副詞という。

siia（～したことがある）も時制副詞である。
an in siia tu でよい。inat にはしない。

複合語中で左の形態素は格と品詞情報を失う

単語レベルではアルカは格と品詞情報に詳しい。
同じコト語 set が目的語に来たとき、その形は実に多彩だ。

set：受動名詞（殺されたもの）
setol：対格動形名詞（殺されるもの）ないし殺されるような
setan：主格動形名詞（殺すもの）ないし殺すような
setels：普通動名詞（殺すこと）
setont：自発動名詞（天災などが人を殺すこと）
setast：再帰動名詞（自殺）

このように、品詞情報や格情報が細かい。
この性質は複合語でも当然言える。
だが、複合語の格と品詞情報は一番右に来ている形態素によって決まる。
左の形態素は情報を失う。

例えば vassais（塹壕）。モノ語である。名詞である。
sais が名詞なので、vassais も名詞である。vas は情報を失っている。

vas は「戦う」という意味の動詞だが、動詞の位置に来なければ受動名詞「戦われた相手」という意味になる。
となると vassais は「戦われた相手の溝」になり、塹壕にはならない。

「戦いの溝」としたければ、vas を動名詞にして vaselssais にしなければならない。

だが、冗長だ。

複合語全体としてはひとつの単語なので、単純語同様、細やかな格品詞情報が必要だ。
だが、複合語の内部となれば話は別だ。必要なのは右側の形態素の格品詞情報だけだ。
左がどうなろうと、右が複合語全体の情報を決める。言い換えれば左の情報はどうせ使用されずに捨てられる。

となれば語形が短いほうがいい。
複合語の場合、形態素の持つ概念の中からその形態素の格品詞情報を想像する。
例えば vassais の vas は el vas el kon sais という文における vas のことなのだろうなと考える。
同じく vaska の vas は el vas el ka ka という文における vas のことなのだろうなと考える。

vas の格品詞情報がどうであれ、単語全体の情報を決めるのは sais や ka である。
従って、左に来る形態素は情報を失ってよい。むしろそのほうが単語が短くなって効率的である。

形態素同士を掛け合わせるときは概念同士を掛け合わせ、意味の通る組み合わせを想像する。
ここには人間の認知や常識を利用する。

だが複合語全体の格品詞情報は単純語と同じく細やかに管理する。
そしてその情報を決定するのは一番右側の形態素である。

派生語

派生語は規則的に生成できたほうが、負荷が軽い。
派生語には品詞を変えるもの（cloud, cloudy）や、意味を拡張するもの（sugar, sugarless）などがある。

品詞を変える派生

・名詞→動詞

1：何もつけないパターン

名：bezn（モップ）
動：bezn（モップがけする）

2：死生動詞を使う

ar bezn（モップをかける）

・名詞→形容詞

接尾辞 te

esp（雲）：espte（曇りの）

・形容詞→動詞

接尾辞 em。ただし省略するのが通常。
「～化」という名詞用法にしたい場合は em は省略できない。

kaiem（大きくする）

この em は省略できるが、「巨大化」という名詞用法の場合は em を外せない。

・形容詞→名詞

-ati。開音節では ti。

lisati（小ささ）
kaiti（大きさ）

・動詞→名詞

1：動名詞系

els（普通）
ont（自発）
ast（再起）

このうち els は省略するのが通常。eiv（決闘）など。

2：動形名詞

an（主格）
ol（対格）

setan（殺し屋）
setol（被害者）

通常 ol は省略。

・動詞→形容詞

1：動形容詞

an（～するような）
ol（～された）

lan kean（行く人）
miik kuiol（食べられたりんご）

ol は省略もしうる。

2：te

jikte（滑りやすい）

動詞→形容詞→名詞という合わせ技も可能。

jikteti（滑りやすさ）

意味拡張の派生

daz（接尾辞。～にふさわしい。trustworthy などの worthy に相当）: setdaz（死に値する）、hakdaz（称賛に値する）
di（接頭辞。～ full）: dimiyu（変化に富む）
kalo（接頭辞。～ less）: kalomiyu（変化に乏しい）
xa（接頭辞）: xagart（有料）
mi（接頭辞）: migart（無料）

注）xa,mi は di,kalo と同じく形容詞的に使っている。
本来 garttil などと言うべきところを、xagart と言っている。
garttil が煩雑なのと、「母なし」などの意味を表わすときは laalsi よりも milaal のほうが理解しやすいため。
xa は静的な動詞であるため、特別に派生語中では形容詞として使われ、til に相当する意味を持つ。
派生語では形容詞的な接頭辞として働くことに注意。

語彙・辞書

幻日を巧く使う方法

●検索の極意

・ひらがな・カタカナ・漢字を組み合わせて調べる

ひらがな・カタカナ・漢字を組み合わせて調べるとヒット数が上がります。
「リンゴ」で調べてヒットしない場合、「りんご」や「林檎」でも試してみてください。

・タグ検索

[医療] [動物] [植物] [生物] [名詞] [動詞] [形容詞] など、辞書にはたくさんのタグがあります。
これらのタグを全文検索で調べると、医療関連の単語がリストアップされます。分野ごとに調べるのに向いています。
タグの一覧は辞書の凡例の中にあります。凡例は見出し語検索で「凡例」と引くと調べることができます。

・用例検索のメリット

用例検索は文化欄や語法欄を無視して成句や用例だけを探してくれるので、全文検索に比べて検索結果を絞ってくれるのが便利です。
語学のライティングの上達法は、正しさを保証された用例を使い、用例中の単語を挿げ替えて自分の文にアレンジすることです。いわゆる英借文ですが、このメソッドは非常に有用です。ですので積極的にお使いください。

用例検索のもうひとつのメリットは、「一度に色々な単語から用例を探せる」ことです。
例えば hino yul sa lat（すんでのところで耐える）という成句は、lat の項に記載されています。hino からでは引けないのです。
旧版は全文検索で lat を引いて全文を目でチェックするか、あるいはそもそもこの成句が lat に載っていることを知っていなければなりませんでした。どちらも非現実的です。
用例検索を使えば、hino で調べても lat の項が表示されます。しかも全文検索と違って結果件数も抑えられるので、目視ですぐ見つけられます。

このことは成句だけでなく用例にもいえます。雨は esk ですが、esk という単語は esk の項以外でも頻出します。
今までは esk を使った用例は esk の項でしか読めませんでしたが、今回からは ai（ついに）や and（～している）なども表示され、esk の細かい使い方やコロケーションまで分かるようになりました。

・サジェスト機能を使おう

「来る」は luna ですが、「来た」は lunat です。lunat を引いても辞書には載っていません。活用形だからです。
同様に「強い」は vien ですが、「強く」は vienel です。これも活用形なので載っていません。
しかし特に初心者の方は活用形を元の形に戻せないため、単語が辞書に載っていないと判断したり、単語の原形に辿りつけなかったりして、『紫苑の書』などを諦めてしまうことがあります。

幻日辞典には単語の元の形を提案する機能があります。「見出し語検索」で「あいまい検索のチェックがオフ」のときに、このサジェスト機能をご利用いただけます。
例えば「見出し語検索」で「あいまい検索オフ」にして lunat と引いてみると、「もしかして動詞 luna の過去形？」とサジェストされます。ぜひご利用ください。

サジェストの対象は「過去形、経過相、完了相、継続相、反復相、過去経過相、過去完了相、過去継続相、過去反復相、再帰分詞、自然分詞、主格分詞、対格分詞、副詞、程度、形容詞の属格」の 16 種です。
動名詞は頻度が低く、また分詞にも通ずるため、対象から除外しています。まず引くことのないものまで対象にしてしまうとサジェストが邪魔に感じられるためです。
xafal（責任者）など、主格対格以外の格からなる名詞も対象外です。xafal などは数が少ないので見出し語として独立させてあります。
名詞の属格はあらゆる名詞に存在し、数が多すぎてサジェストが煩雑になるため、対象外としています。

・括弧付きの見出し語

アルカにも同音異義語があります。また、人名は同名の人が複数いることがあります。
例えば ridia はアルカでよくある名前なので、ridia, ridia(2), ridia(3) のように見出し語に括弧が付けられています。
見出し語検索で ridia と入れたとき、ridia(2) なども拾わないと困ります。
そこで見出し語検索では括弧を入れなくても、ridia だけでなく ridia(2) や ridia(3) も検索するようになっています。

・シソーラス検索

訳語検索で検索窓に日本語でなくアルカを入れると、類義語と反意語などの関連語を調べることができます。
例えば min で引くと女性を意味する関連語が検索できます。そのため関連語欄は "," でなく「、」で区切っています。
類音やアクセントも合わせて検索されます。あいまい検索をオンにすると挙動が変わります。

・連続で検索する

慣れてくると連続でバンバン検索したくなります。
このとき、いちいち検索欄を手動で空にして次の検索語を入力するのはとても面倒ですよね。
そこで検索後は自動で検索欄が選択された状態にしてあります。
この状態で次の単語をキーボードから入力していけば、すんなり古い検索語が消えて新しい検索語を入力できます。

・誤字でも引ける

二言語辞書というのは引かれる側（アルカ）は正確である必要がありますが、引く側（日本語）はそうではありません。重要なのは目標の単語に到達させることです。
シミュレーションをシュミレーションっていう人いますよね。僕もそうです。
大切なのは何が正しいかではなく、ユーザーが無事 sinx という単語に辿りつけることです。そこで幻日辞典では誤字や誤記もあえて載せています。
カタカナのほかに、間違った漢字や漢字の読みも載せていることがあります。「ん？こんな日本語ないぞ！？」と思っても、そういう事情ですのでご安心を。

●見方の極意

・[副詞] を補完しよう

たいていの形容詞は -el を付けて副詞にできます。
ですのでいちいち [副詞] と書いていないものは多くあります。書いてなくても -el を付ければ副詞として使えます。
逆に [副詞] タグが辞書に書いてある場合、その副詞は形容詞と少し意味や訳語が異なっているというケースが多いです。

・重複する人名に注意

これを書いている僕はセレンといいます。
やっかいなことに、同じ名前の人物が神話にもいます。この人は神話の世界でも人工言語を作ったりと、多少僕とかぶることがあります。
辞書で「セレンが～」と書いてある場合、現実のほうか神話のほうか文脈で判断する必要があります。
「剣で～」とか「魔法で～」とか「イムル何年に～」とか「rd（アルディア）で～」などといった記述があれば神話のほうです。

・動詞の文法は格組に従う

動詞 met を調べると、「yul を a へ落す、落とす、落ちる、落下する」とあります。
「yul を a へ落す」ですから、an metat miik al ako i zom（私は木から地面にリンゴを落とした）のように

使います。
訳語欄に「落ちる」とあるからといって、「私は木から落ちた」を an metat i zom にしてはいけません。これでは「私は木から何かを落とした」という意味になります。
動詞ひとつに対して格詞はあくまでひとつです。「yul を a へ落す」という形を使ってください。

上記の場合、自分でわざと落ちたのでなく自然と落ちたので、「自然が私を木から落とした」と考え、el metat an i zom とします。
その上で実質的な主語の an を文頭に持ってくるために繋辞型自動詞を使い、an at met i zom とします。

つまりアルカには「落とす」はあっても「落ちる」はないのです。「落ちる」は文法的に示すだけです。
ではなぜ辞書の語義欄には「落ちる」を載せているのでしょう？これは単に検索に引っ掛かりやすくするためです。
「落とす」でユーザーが調べてくれるとは限りません。このままだと「なーんだ、この辞書には落ちるも載ってないのか！」と思ってしまいますよね。

同じく「眠る」は mok ですが、本来は「眠らせる」という意味です。
「私が寝る」のは「私が私を眠らせる」に等しいので、an mok nos です。この nos を省略して an mok にします。

「落ちる」も「眠る」も日本語では自動詞ですが、前者は繋辞型自動詞、後者は再帰型自動詞になります。
自然とその自動詞の状態になった場合は前者で、自分（主語）の意思でその自動詞の状態になった場合は後者です。
意味ごとに使い分けるので、辞書にはどちらの型だとか自動詞だとか他動詞だとかいったことは書いてありません。場面に応じて使い分けましょう。

例えば母親が赤ん坊を寝かせるのなら、laal mokat nana のように本来的な他動詞として使います。

・旧版幻日辞典との違いは？

新版には用例検索・短縮表示・もっと読む機能・頭文字検索機能などが追加されています。
旧版にあったページ機能は使いづらい上に検索数も最大 1000 件に限定されており、[動詞] などを調べきることができませんでした。そのため、新版ではもっと読む機能や頭文字検索機能に取って代わられました。

新版は文字コードが utf8 なので、sjis にあった 5C 問題という文字化けが起こりません。ユニコードなので海外からでも閲覧できますし、日本語環境がない状態でも使えます。
旧版の 5C 問題はプログラムで回避していましたが、それでも本文検索で例えば「鞄」を調べると文字化けしました。他にも多くの文字で化けました。これが致命的な欠陥で、2011 にゼロから新版を作ることになりました。

幻日辞典の書式のアプリオリ性

幻日辞典の書式は独特で、英和辞典などとはしばしば異なっている。これには理由がある。
もともと紙でなく電子辞書からスタートしているので、紙辞書の古い書式を踏襲せず、アルカに合ったオリジナルの書式が作れた。
なお、幻日辞典は地球の辞典なのでアトラスの歴史に関わらないため、いきなり電子辞書からスタートしてもかまわない。

ただ、大御所の英和と異なっていると、それだけで幻日が間違っているかのような印象を与えかねない。
そこで幻日の書式と英和の書式を比べてみる。書式を比べることで、幻日の書式がアルカに適しているかどうか検証できる。

●幻日書式

IIU
[名詞] 鎖、チェーン
[動詞] yul を鎖で巻く、繋ぐ
[メタファー] つなぎとめておくもの
rd;raavyu.a.xik
13: 古 raavyu（鎖）
[文化]
ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖。
[成句]
yun aav 芋づる式に
[用例]
aav oma a nial 犬を鎖につなぎとめる
gil at aav soven la tianal. あの 2 人の恋愛関係は金によるものだった。
diretan fosat yu yun aav 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。

●英和（紙辞書風）

IIU
/Aav/ [名詞] 1 鎖、チェーン。ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖 2 [メタファー] つなぎとめておくもの :gil at aav soven la tianal. あの 2 人の恋愛関係は金によるものだった。
yun aav 芋づる式に :diretan fosat yu yun aav 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。
[動詞] yul を鎖で巻く、繋ぐ :aav oma a nial 犬を鎖につなぎとめる
13: 古 raavyu（鎖） | rd;raavyu.a.xik

●英和（電子辞書風）

IIU
発音 /Aav/
[名詞]
1 鎖、チェーン
　ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖。
2 [メタファー] つなぎとめておくもの
　gil at aav soven la tianal. あの 2 人の恋愛関係は金によるものだった。
3 [成句] yun aav 芋づる式に
　diretan fosat yu yun aav 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。

[動詞]
yul を鎖で巻く、繋ぐ
　aav oma a nial 犬を鎖につなぎとめる
13: 古 raavyu（鎖） | rd;raavyu.a.xik

幻日を英和風にすると上のようになる。英和といっても色々書式があり、約物の使い方も異なる。
しかしこれが全体的に英和風の書式であることは一目瞭然である。
では、これらの書式の長短を列挙していこう。

●英和（紙辞書風）

・長所

省スペース
番号があるので後方参照するときに「第何義は～」と説明できる

・短所

読みづらい
用例が見つけづらい
訳語が見つけづらい
成句が成句だと分かりにくい
訳語と用例が通覧しづらい

●英和（電子辞書風）

・長所

読みやすい
番号があるので後方参照するときに「第何義は～」と説明できる

・短所

スカスカしすぎて一画面に収まらないことがある。ケータイなど XGA 以下の画面では特にスクロールの手間が増える。XGA 以上の解像度であっても同様で、パソコンモニタでもしばしばスクロールが煩雑である。さらにここから解像度が上がってもモニタのサイズが変わるわけではないので今度は字が小さくなり、拡大することになる。するとまたスクロール回数が増えるというイタチごっこになる
訳語が密集していないため、訳語を目で探しづらい。訳語、用例、訳語、用例…という順番なため、目的の訳語を探すのにスクロールしながら目視する必要があり、時間がかかる。従って Ctrl+F 検索をするがその手間が無駄であり、検索欄への訳語の手入力も煩雑である
紙の辞書と違って電子辞書は調べた項目が常に画面の一番上に来るので、一行目の注目度が高い。一行目が語源欄やアクセントだと違和感がある
訳語と用例が通覧しづらい

これらを踏まえた上で幻日の書式を分析する

●幻日書式

・長所

適度に省スペース。紙より見やすく、電子辞書よりスクロールが少ない
訳語を目で探しやすい。用例は用例、語法は語法…というように項目ごとにまとまっているため読みやすい。特に訳語と用例を通覧しやすい
正直言って番号は語義の後方参照をしない限り使いどころがない。大抵の場合、読むときに目障りなだけである。訳語の頭を示す効果があるが、幻日には几帳面にタグがついているのでその役目も果たさない
文化欄や語法欄が独立しているため、文化や語法記述を長大にできる。語義と語義の間に挟む形だと、長大な解説は全体の歯切れを悪くして読みづらくする。幻日はこれ一冊で語法辞典や百科事典も兼ねるため、文化欄等の独立には固執せざるをえない。英和と違って異世界の辞典なので実際に旅行に行くわけにもいかないから、語法や文化など本来肌で感じる部分を言葉で説明しなければならない。そのため、語法や文化欄を独立させる意味は大きい
一行目に即最重要語義が来るので、検索した瞬間に訳語が理解できる。大抵の読者はアルカの小説を読みながら辞書を引くので、知りたいのは訳語。それを踏まえると、一行目にごちゃごちゃとアクセントなどが書いてある辞書は使いづらく感じる

・短所

番号がないので後方参照できない。例えば語法欄での説明がどの語義について述べているのか分からない。ただし厳密に言えば文面を読めばどの語義について述べているのか明らかなため、事実上分からないということは起きない
用例がまとまっているのでどの語義の用例か分かりづらい。これも同上。翻訳文がついているので、実際にはどの語義の用例であるか分からないということはない
多義語に弱い。番号がないので、どの語義の用例であるかを探す場合、語義が多いと検証に時間がかかる。しかしそれでも番号を付けないのは、アルカが英語やフランス語に比べて多義性の少ない言語であるため。多義語のない言語は存在しないが、多義性の多寡は言語ごとに異なる。もしこれがフランス語のような分析的な言語であったら、この書式は維持できなかったであろう

●経験談

以上が幻日の書式がいかにしてこうなっているかの説明であったが、筆者個人の体験談も交えておく。

中学のときに英和辞典を引きながら、なんて引きづらいのだろうと思った。
こっちは訳語が知りたいのに、まぁ出てこないこと。ごちゃごちゃと色々なカッコ書きがあり、用例もごちゃっと混じっており、改行もない。
「いいから一語一意で訳だけ書いとけ」と思い、結局匙を投げて単語帳を辞書代わりにしていた。
実際中学の単語帳というのは中学の試験で出る語義を載せるので、単語帳だけ見ていれば学業的には問題なく、むしろ効率的ですらあった。

そんな折、ほとんどの人は辞書のほとんどの部分を読まないということを本で読んで知って驚いた。
それなら何のための辞書なのかと思った。死にデータが多いのでは、いくら厳密であっても作り手側のエゴでしかないではないかと感じた。

その後自分が多くの辞書を読み込むようになるなどとは夢にも思わなかったし、ましてや自分で辞書を作るなどとは思いもよらなかったが、今考えればこのときの経験が現在の幻日の書式に繋がっている気がする。
辞書を作ることになったとき、自分も周りも使わなかったような辞書の書式に合わせ、大御所に右へ習えして安心するだけでいいのかと考えた。その結果がこれである。

●動線

自分だったら何が知りたいか、更にそれがどう書いてあれば読みやすいかを考えた。そして現在の書式に辿りついた。
例えばアクセント。辞書はふつう何かを読んでいて引くだろう。なかなか会話の途中に引けるものではない。
そして知りたいのはたいていの場合、語義である。
そうなるとアクセントが最初に来るべきか？という疑問が起こる。しかし大抵の英和はアクセントが最初に来る。そこでこれは後方でいいだろうと考えた。

また、ふつうの辞書は訳語の後に用例が来る。そして次の語義へ移る。
しかし皆さんに問いたい。正直辞書の用例を役立てたことはそんなにあるだろうか。
私は英語で仕事をするときも、あまり英和の用例を使いたがらない（もちろん使うけど）。
用例が役立たないのではなく、載せ方が読者の動きに合っていないのではないかと考えた。

人が辞書を引くときはたいてい目的を持って引く。つまり、目的ごとに読者の動線が変化する。
訳語なら訳語、用例なら用例、語源なら語源と、そのときごとに引きたい目的が定まっていることが多い。
何となく○○という語の全貌を知りたいと思って引くことは少ない。

○○にこういう用例やコロケーションってあるのかなと思って辞書を引いたとき、英和の書式だと訳語、用例、訳語、用例となっているので、用例だけを通覧するのが非常にやりづらい。
正直、こういう作業をしているときは訳語が邪魔である。逆に訳語を探しているときは用例が邪魔である。
読者の動線を考えると、用例は用例、訳語は訳語となっていたほうが読みやすいのではないか。
読者が調べたいことは時と場合によってまちまちであるのに、必要な部分を必要な時に引けないから、「辞

書っていまいち使えない」という評価をされるのではないだろうか。

英和の書式だったら文化を知りたいなと思ったとき、各語義の間を目で縫っていかなければならない。用例や語法についても同様である。つまり、情報へのアクセシビリティが悪い――と私は思うのである。
そういうわけで幻日は動線を考えた書式を採用しており、項目はモジュール化されて独立している。
ただ英和と異なるというだけで「良くない」という評価を受けるとしたら、それは残念なことである。

人工言語の目標語彙

人工言語は何語程度単語を作ればよいだろうか――と言語作者は必ず一度は考える。
結論からいうと、12000 ～ 15000 程度ではないかと思われる。

この結論を見て「はぁ、なるほど」と思えれば後は読む必要がない。
「どういう根拠でそうなるの？」と思う場合は続きを読んでみる。

そもそも必要な単語というのはいくつか意味がある。日常生活に必要という意味であれば15000もいらない。
12000 ～ 15000 というのは上限だ。下限は 1000 程度ではないかと思われる。
そのほかにもいくつか区切りが考えられる。以下にリスト化する。

1:1000 レベル
2:2000 レベル
3:3000 レベル
4:5000 レベル
5:8000 レベル
6:10000 レベル
7:12000 レベル
8:15000 レベル

このようにおおむね 8 段階の語彙レベルが考えられる。
5 ～ 6 間と 6 ～ 7 間が狭いのは理由があって、この時点だと高校レベル以上の学問の用語を登録しているため、調査時間が増えて造語のペースが遅くなるからだ。この辺りの事情は後でまた説明する。
7 ～ 8 間が広いのは単に 8 段階で 15000 語というのを上限としているからだ。

なお、このリストは半分客観的な理由で、半分経験的な理由で推測したものだ。
客観的というのは、この語彙レベルが英検や TOEIC といった語学学習の語彙レベルに即している点。
例えば英検 4 級は 1300 語（調査時）で、おおむね上記最低水準 1000 語に当たる。
逆に 1 級は 15000 語（調査時）で、これは上記最高水準に一致する。

一般的には英検 1 級を取ると英語がペラペラというイメージがあるが、そうとは限らない。むしろそうでないことのほうが多いだろう。
とはいえ、ではそれは語彙数の問題かというと、やはりそうでもない。英検 1 級の単語帳をネイティブに見せると、ネイティブも知らないことがある。そのことからも明らかだ。
15000 に達していれば、喋れない原因は語彙数ではなく、用例や成句の少なさなど、別にある。
そう考えれば人工言語でも 15000 あれば語彙的には十分ということになるだろう。

ところで、人間はふつう 3000 語くらいで日常生活を行っている。
日常生活に使う語彙の境界線を定義することができないため、言語学でもこの数値を特定することはできない。
学者個人の判断に委ねられるため、本によってこの数字が 1000 だったり 5000 だったりと幅があるが、おおむね 3000 程度とされることが多い。

では生きていく上で 3000 で十分かといえば、それは最低限の日常生活なので十分ではないといえよう。
学校生活、会社、買い物、旅行などを入れれば必要な語彙は大きくなる。
また、学校で習うような学問の用語を入れれば語彙はさらに大きくなる。

そしてその上限が 12000 ～ 15000 程度ではないかと考えている。
「半分客観」については上述のとおり。「半分主観」については下記。

さて、主観である経験について述べる。
人工言語を実際に作るときのワークフローについて考えてみよう。

まずは「私」「大きい」「歩く」などの基本的な単語が必要だと誰もが考える。
しかし自分の頭の中だけで必要な単語リストを作っていると漏れが出る。
そこで英語や日本語の教材を利用して、単語リストを持ってくる。そしてそのリストを見ながら造語してい

く。

その際、自分の言語には必要ない単語は排除していく。ホワイトハウスはアルカにないので必要ないといった具合に。
結構カットするところが多くて、言語作者は驚くのではないかと思う。

この作業を終えると 5000 前後の単語ができる。
ただしこの数値はリストのサイズとカット率によって変動が激しいことを付け加えておく。

次にこれを増やそうとすると、別のリストが必要になる。
ところがこの時点で、そもそも世の中にそういうリストがあまりないことに気付く。
英和辞典をリストとして使用するとそれこそ何万何十万のリストが得られるが、それを一人ないし少数の人間で点検しながら作るのは現実的でない。

というより、やってみれば無駄が多すぎることに気付く。例えばジーニアス英和第 2 版を使ってやってみる。
最初のに来るのはアルファベットの A と不定冠詞の a。これで 1 ページが終わる。
2 ページ目に入ると AA, AAA, AAAL, AAAS, AAF などなど、到底必要とは思えない頭字語ばかり目に付く。

この時点で人は気付くのだ。「カットする部分が多すぎる。そして造語したところで使う見込みのない単語が多すぎる」と。
さらにいえば、この時点ではまだ数千の日常語彙を造語したにすぎないので、少し専門的な単語が出てきたら対応できなくなってしまう。
たいてい専門用語は簡単な単語を組み合わせて造語するが、その材料がこの時点では足りないのだ。

そういうわけで、英和辞典はこの時点では少なくともリストとして使えない。
同様の理由で専門用語の辞典も使えない。例えば医学用語を数千数万も造語する必要性はないし、それより先にすべきことがある。
実際、どんなに駒を進めたところで、必要性に駆られないかぎり、専門用語を造語する必要はない。
なぜなら車ひとつとっても実は数万のパーツがあり、そのすべてに名前が付いているからだ。
付けようと思えばキリがないし、広辞苑や日本国語大辞典や大型の百科事典ですらそんなことをしようなどとは考えない。

結果、たいていの人が考えつくのは、「まずは学校で習う義務教育レベルの単語を作ろう」ということだ。
これなら科目ごとに容易にリストを得られるし、専門用語と違って多くの人の生活で使う可能性がある。
このように、日常語彙の次はたいてい義務教育の語彙になる。

それが終わると次のリストは高校レベルの学問の用語だ。
三角関数などという、社会人になればほとんど使わないような単語が入ってくる。
この時点で「本当にこの作業に意味があるのだろうか。使わない単語を作っても……」という気持ちが強くなってくる。

そしてこの作業を終えると、分析性の高い言語を除いてほぼ間違いなく語彙数は 1 万前後に達している。
分析性の高い言語の場合は、一部成句の数を語彙数に含めて算出する。

さて、ここからが頑張りどころだ。
もう残っているのは大学レベルの用語しかないが、大学は各分野ごとに専門性が高くなるため、上述の専門用語と大差ないのだ。
しかしよく考えれば大学レベルというのはしょせんそれぞれの学問の概説程度でしかない。
なので各分野の概説書を読み、必要な単語を作っていけばいい。

だが、ふつうはひとりの大学生がひとつの分野を勉強するのに、こちらはひとりで全分野をやらなければならないことになる。
理系も、文系も、芸術も。だからここが頑張りどころなわけだ。
そしてたいていそれは時間がかかりすぎるので、苦手な分野はほかの人にやってもらうというような分業をするのが現実的だ。実際アルカもそうしている。

この作業をしているとあることに気付く。
概説の専門用語には重要なものとそうでないものがあるということだ。
例えば言語学の場合、「有標」は重要だ。言語学がほかの学問に術語を輸出した数少ない例で、汎用性が高いことも理由のひとつだ。
しかし「ダウンステップ」はどうだろう。恐らく造語するまでもない。

重要なのはこの「さじ加減」や「感覚」だ。
これは要るとか、これは要らないとか、そういうのは人間にしかできない判断だ。
しかも勉強をきちんとして、その上経験もある人間にしかできないことだ。

その感覚があるから、概説書や専門書の中から必要な単語だけ造語することができる。
だがこの感覚を各分野で身につけるのは現実的だろうか？それで分業の必要性があるのだ。

ところでこの作業をやっていると、無駄無駄しいということに気付く。到底使いそうもない単語ばかりができていくからだ。
「アセチルサリチル酸」はまだいい。鎮痛剤で知っている人も多いだろうから。
しかし「イソニトリル」はどうか。恐らく使わないだろう。
かといって有機物の命名法を作る以上は、「イソニトリル」も「アシル基」も作る必要がある。

言語作成には必要であっても、実際の言語運用から見ると無駄無駄しい例が多い。
その上言語作成にすら必要ない単語を作るくらいなら、基本語の用例や語法や文化欄を拡充すべきだ。

それに、単語が増えるというのは作者にとってリスクがある。
増えれば増えるほど辞書の総ざらいに時間がかかる。
書き換え頻度の高い辞書は数年に一度は総ざらいする必要がある。
そのときどうせ使いもしない単語が無駄に多いと手間がかかってしかたない。

そこで言語作者は「では単語は今後必要に応じて作ろう」と考え、オンデマンド方式に変える。
それがこの時点で最も効率が良いことに気付くからだ。

オンデマンドに切り替えると、急激に単語の伸びは遅くなる。なぜなら必要な分しか作らないからだ。
しかもこの時点ですでに日常語もある程度の学術用語もできているので、なおさら必要性が出てこない。

さて、ここで最初の話と繋がる。人工言語の目標語彙、人工言語に必要な語彙だ。
ここまで作業すると語彙数は 1 万以上になっているはずだ。
ところが「必要に応じて」作っていると、なかなかここからが伸びない。
さて、これは何を意味するだろうか。
つまり「必要な単語がその程度」だということだ。

オンデマンドに切り替えると、たいてい語彙の拡大が停滞する。
そしてその幅がおおむね 12000 ～ 15000 程度だと考えている。考えているというよりも、実際の経験から算出している。
実はアルカというのは複数の言語のシリーズ名で、過去 3 回大型の人工言語を作っているが、3 回ともこの 12000 ～ 15000 の範囲に収まっているのだ。

何十年もかけて複数の人間を巻き込んで人体実験ともいえる研究をした結果なので、この数字はいい加減なものではない。
人工言語は作者が作るものなので、「まぁこのくらいの学術用語は最低限いるだろう」とあらかじめ設定するものがある。
それは必要性によるものでなく、余剰ともいえる単語だ。それを加えても「人工言語に必要な語彙」は恐らくこの 12000 ～ 15000 の範囲に収まるだろう。

理解語彙というのがある。読んで意味の分かる単語の総体のことだ。
ところがこれも定義が曖昧で、英語でいうなら -er、日本語なら「～人」、アルカなら -an などを付ければ理解語彙などいくらでも増やせる。
読んで意味が分かるというだけでは定義が不十分で、定義にパッチを当てることになる。ところがそのパッチも学者の主観にすぎない。

人工言語の場合、辞書の語彙数は理解語彙を目指す必要はない。
今も言ったように、-an などといって造語していけばすぐに辞書は何万にもなるからだ。
しかし無造作に増やすと総ざらいのときに自分の首を締めるので、不必要な単語を増やして自分の言語にはこんなにたくさんの単語があると豪語するのは避けたほうがよい。
豪語できるとしたら、ひとつひとつ検討して手塩にかけて作った単語をきちんと取捨選択し、それでも大きな語彙を得た場合だ。機械的に作るのなら単語など数秒で数万作れる。

ところで、語彙が 12000 ～ 15000 の範囲に到達したらどうするか。
次は用例、語法、文化の拡充をすべきだ。
人工言語に一段落はあっても終わりはない。

親族名詞

人工言語が単に情報のやり取りに使われるのなら、親族名詞など機械的に決めればいい。
「〇親等」「男女」「長幼」といった要素を組み合わせていけば、体系的に作れる。
とても覚えやすく、無駄のない造りになるだろう。

ただ、もしある人工言語が心を表現したいなら、その限りではない。
「父」のような標準的な言い方だけでなく、「お父さん」のような愛称や、「オヤジ」のような低俗な言い方があってこそ、表現力が豊かになるというものだ。
日本語にせよ英語にせよ、親族名詞にはバリエーションが多い。それだけ家族は日々の生活に関わるからだ。

アルカは表現力豊かな言語を目指しており、親族名詞は４種類ある。
標準と愛称と丁寧と低俗に分かれる。細かい語源などは辞書に譲るとして、表を載せる。

	標準	愛称	丁寧	低俗	その他
母	laal	maal	laala	bemma	mama,beema
父	kaan	kakka	freinoan	bekka	papa, beev, freinoa, xirius
娘	miva	miia	lantia	lanon	
息子	noi	xino	veina	saman	
祖母	edat	edan	xallant	bedat	
祖父	fio	fiona	fillens	bio	
孫娘	hana	naana	yumina	bana	
孫息子	aliiz	aliina	liizarxe	baliz	
姉	eeta	etta	eetel	betta	
妹	amel	limel	ameli	belme	
兄	alser	etto	alseere	balse	
弟	aruuj	lyuuj	ereej	barj	

なお、表のうち、古からあるのは etto, etta である。
メルがいたため、兄弟を表す愛称は古から存在した。

指小辞

ankmev 詳しくは幻日 ankmev を参照のこと。
指小辞は以下の接尾辞で示す。

・nɥɪn

猫をあやすような指小辞。
xia → xianyan（しあにゃん）、kmiir → kmiirnyan（クミールにゃん）, poen → poennnyan（ポエンにゃん）
az poenyan（ポエにゃん）, enna → ennanyan（エンナにゃん）az ennyan（エンにゃん）など。

・ɾɪn

syan の音をコロコロさせた指小辞。
ryuu → ryuutxan（リュウちゃん）, meltxan（メルちゃん）
yult → yuutxan（ゆ～ちゃん）az yultan（ユルたん）など、いくつか例外あり。

・lɛn

綺麗なものを可愛く呼ぶような指小辞。
mel → mellin（メルりん）

・dɔn

小柄で丸っこいものを示す指小辞。
yult → yulpon（ユルぽん）

・jɥɪn

san を柔らかくした指小辞。
s, z, x, j で終わる単語の末子音を取って syan を付ける。実際の発音は話者の癖や気分次第で、syan になることもあれば xan になることもある。

alis → alisyan（アリしゃん）など。

なお、指小辞は san 同様、一般名詞にも使うことができる。
ket san（ねこさん）、ketnyan（ねこにゃん）、kettxan（ねこちゃん）、ketsyan（ねこちゃん）などのように。

体系上は不必要な単語

例えばアルカには「上下」「存在」といった単語がある。

上下や性別は中間概念である。
中間概念は制アルカでは n 対の中心形で示した。
ha（上）, hi（下）→ hu（上下）

新生ではそうできないので、halmol で上下を表わすことになる。しかしそれでは語形が長い。
そこで、上下、左右、性別など、よく使う概念は合成語の要素にもなることだし、別の単語を設けている。
xtar（上下）、sanl（左右）、him（性別）など。xtar はたとえば xtarez（エレベーター）などに活用されている。
体系を見れば halmol で良いが、効率を考えて xtar を作っている。

「存在」も同様だ。「あること」なのだから、xaels ないし xa で良い。
しかし xa はよく使う動詞なので、名詞として使われたら動詞と混同しやすい。
また、厳密には xaels は「あろうとすること」なので、存在とは少しニュアンスが異なる。
それと、これは主観的だが、「存在」という名詞はそれ一概念で一語に値する概念だと、セレンには感じられた。
そこで xal という単語を当てている。

だが、これと同じことをすると、さまざまな単語の名詞形に個々の単語を作らねばならない。
殴るで殴打、聴くで聴解、見るで視聴、言うで発言、というように。
（しかも日本語だと聴くと聴解は若干ニュアンスが違うので、そこも覚えないといけないという問題がある）
これは煩雑なので、避けたい。そこで、できるだけ動名詞を使う。
ただ、その傍らで xal のような単語もあるということだ。

なお、単に品詞の変換で片付けられないものもある。つまり、殴るを殴打にすればよい例だけではない。
殴るに対して殴打は意味的にほぼ等価で、単に能動的な動名詞という品詞の変換しか行っていない。

一方、幸せという名詞は違う。
「幸せにされた」という受動的な意味のほかに、「状態」という意味も加わっているからだ。
2 つ合わせてようやく「幸せにされた状態」→「幸せ」になる。（数式ではないので、完全なイコールではないが）

アルカだと、この辺りはうやむやになっている。
だから nil という語は、動詞 nil として使えば「幸せにする」で、nil(ol) のときは「幸せにされた（人）」で、名詞 nil のときは「幸せ」になる。
つまり、同じ nil という語形なのに、「幸せにする」「幸せにされた（人）」「幸せ」の 3 つの意味を持つ。

もっとも、「幸せにする」は動詞なので、統語的にほかの 2 つと区別できる。
だが、2,3 番目は区別が難しく、文脈判断に委ねる。
つまり、nil と言ったとき、「幸せにされた（人）」と「幸せ」の区別ができない。

とはいえ、ol を付けて区別すればいいというのがまずある。
さらに、文脈で判断できるので、実質的な問題はない。
la na nil なら「幸せ」だし、la et nil なら「幸せにされた人」という解釈しかありえないからだ。

ここで問題にしたいのは、アルカだと「品詞変換＋状態」も単なる「品詞変換」も同一に扱われるということだ。
しかも「状態」以外にも付加できる要素はあるはずで、派生語を考えるときには考察する価値があると思われる。

数学的帰納法 (lantahaal) に見る、アプリオリにおける命名の厳しさ

幻日 lantahaal を参照のこと。

造語前の検討

単語の作り方というと、例えば「本は lei で棚は kib だから本棚は leikib で、これは複合だ」というようなものを想像するかもしれない。
それも単語の作り方の一過程ではあるが、どちらかというと造語の仕方である。

造語をする前に、まずその概念がその言語に存在するかどうかから検討する必要がある。
これは初手にも関わらず、非常に手間のかかる場合がある。

注意すべきは、その世界に存在するかではなくその言語に存在するかという点である。
日本語を例にとると、魔法のように実在しないものでも想像することができるので、世界に存在しなくても言語には存在することがある。

逆に世界には存在しても言語に存在しない場合もある。
千年前の日本に塩化ナトリウムは存在しても、その言葉は存在しない。
私たちは塩化ナトリウムを知っている。しかしその言語には存在しないかもしれない。そこを逐一検討する必要がある。ここが難しい。

なぜ難しいか？
自分が知っているものはつい存在すると思い込んでしまうからである。
塩化ナトリウムの場合は科学力から簡単に判断できるかもしれない。だが問題は私たちの盲点である。
科学力が十分に発達していても、絶対にそこに存在しえないものがある。
こういうものはついつい存在すると思い込みやすい。

皆さんもサイコロ型のカレンダーを見たことがあると思う。デートスポット等の土産物屋に置いてあるアレである。
私は目で見たものをアルカで考える癖があるので、あれは何ていうのだろうと考えたことがある。
アルカにしたら zanlpapx というのが適切だろう。ケータイがある世界にあんなアナログなものがないわけがないと思った。

しかしそこでふと思った。これがアルカに存在するというのは正しい前提だろうかと。
カレンダーには 0 から 9 までの 10 種の数が必要だが、なぜ 6 面しかないサイコロで示せるのだろうと気になったからである。
メル暦では数字で日付を示すこともできる。月は 14 までで、日は 28 まで。
これを 4 つのサイコロで本当に示せるか考えた。

月の十の位が 1 のときは一の位は 0 ～ 4 までしか取れないなどという組み合わせがあるから、下図のように 2*3=6 パターンが得られる。
ちなみにメル暦だと 14 月は 2 日で終わるが、28 日までの計算でうまくできれば 2 日までの場合でもうまくいくので、パターン数を減らすことを優先した。

表から、1 はすべてのサイコロが持っていなければならないとわかる。同様に 2 が 3 個で、あとは 2 個ずつ。
計 23 個なので、サイコロの 24 面で足りる。
しかしサイコロはひとつにつきひとつの数しか同時に出せないので、下記のような配置だとうまくやっても七夕くらいでエラーが出る。

七夕のようなゾロ目の日付を確保するには、すべてのサイコロが 0 を持つ必要がある。しかし 11/11 があるので 1 も外せない。
すると 8 面が埋まり、残り 16 面となる。2/2 ～ 9/9 まで示すために 8 種の数字が 2 個ずつ必要なので、16 面すべてが埋まる。
しかしそれでは 2 が 2 つしかないので、2/22 でエラーが出る。よってサイコロで日付を示すのは不可能といえる。

グレゴリオは 31 まであるので上のパターンとは異なるが、いずれにせよこの配置では七夕が出ないのでアウト。
予想どおり、サイコロカレンダーは日付を示せなかった。

しかし、現実にサイコロカレンダーは売られている。一体どういう仕組みだろうと悩んだ。
色々四苦八苦した結果、下記の配列だとうまくいくことがわかった。
え、9 がない？そこは 6 をひっくり返すのだ。

0000
1111
2222
3636
4747
5858

こうして無事サイコロカレンダーは zanlpapx で ..... ってちょっと待った。
幻字だと 6 と 9 はひっくり返せないではないか。ひっくり返せる数字がそもそもない。
そう、最初の懸念どおり zanlpapx は数学的あるいは幾何学的にアルカに存在しえない単語だったのだ。
強いて活用してもユマナタグをつけざるをえない。

危ないところだった。
確かにアルバザード人も魔法を空想するかもしれない。ケータイを作る科学力も持っている。
しかし数学的に考えて、サイコロカレンダーを発想したというのは明らかに嘘臭い。それはアルバザード人ではなく作者が考えたことだ。

これが存在の盲点である。
ゆえに、単語を作るときに造語以前の入念な検討が必要であるといえる。

とはいえ、あまり数学史や科学史に忠実に作ると、地球とほぼ同じ世界になってしまう恐れがある。
ある程度ファンタジー要素を残しつつ別の世界を作るには、地球の史観を超越する必要もあるだろう。

アルカの辞典

	アルカの年代	年代	主な編集者	媒体	管理者	流布方法
制定語彙	古	97 年前後	アルシェ	紙	ルティア家	暗記
赤アンクノット	古	97 年前後	セレン	紙	セレン	流布せず
高水準制定語彙	古	制定語彙の後	アルシェ	紙	ルティア家	暗記中心
暫定語彙帳	古	ソーン成立後	ソーン	紙	メテ家	共同生活なのでふつうに閲覧
幻日辞典（ワード）	制	01 年ごろ	セレン	MS WORD	セレン	フロッピーに入れて来日時にリディアに手渡し
幻日辞典（PDIC）	制	03 年ごろ	セレン	PDIC	セレン	CD に焼いて渡す
日幻辞典（PDIC）	制	03 年ごろ	セレンとパル	PDIC	セレン	流布せず？（ついでに渡したかも）
幻幻辞典	制	03 年ごろ	リディア	電子データ	ルティア家	幻日を元に使徒が使えるように作られた。流布の過程は不明
幻日辞典（PDIC）	制	05 年ごろ	セレン	PDIC	セレン	オンライン
幻日辞典（PDIC）	新生	08 年ごろ	セレン	PDIC	セレン	オンライン
幻幻辞典	新生	08 年ごろ	リディア	電子データ	ルティア家	流布過程不明。幻日の更新とルティア家での造語や用例を合わせたもの

セレンの辞典とリディアの辞典

08 年現在、アルカの辞書は主に 2 冊ある。セレンが持っている幻日辞典と、リディアが持っている幻幻辞典である。
ネット上には Kakis 氏の作った制アルカのオンライン辞典などがあるものの、メインは上記 2 冊。

幻幻辞典はセレンも作ったことがあるが、リディアのものとはまったく別データ。
リディアの辞典はセレンが渡した幻日を元に書きなおしたもの。
元はといえば、使徒に制アルカを伝えるために作られた。日本語のままだと分からないため、最初は英語や古アルカ（リュウのフォントを使用）に翻訳された。

その後アルカでの記述が加わり、幻幻英に。
しかし制アルカの改編が相次いだため、事実上幻英として機能した。

アルカが新生になった際、メルが幻幻英をいちど幻英にし、その後幻幻英にした。
具体的には、制の記述を消去しつつ、使える部分は新生訳した。
その新生訳もたびたび新生アルカが更新されたため、更新された。

幻幻英は中期制のころには幻日と袂を分かっていたため、収録語彙数も構成も用例も異なる。もはやオリジナルの辞書になっている。
幻日と分派した最大の原因は、セレンとリディアの仲が当時険悪だったことによる。
中期制の時代にリディアは独自にアシェットでの言語使用状況などを用例として登録したり、新語を登録したりした。

後期制になるとセレンとリディアの寄りが戻るので、しだいに幻日と幻幻の交流が戻ってくる。

その後新生になり、ほぼ一から辞書を作り直す必要が出た。
幻日も幻幻も語彙を減らしつつ、互いに収録語彙をすり合わせていった。
両方に載っている単語は優先的に新生に採用された。
だが完全に分派が収まることはなかった。

主に用例の豊富さにおいて幻日は引けを取っている。やはり幻幻はユーザーも多いので。
ちなみに、アシェットでの用例をそのまま取り入れるスタンスが幻幻。
店で売ってる辞書などの文例を幻訳するというスタンスが幻日。用例の選出基準が異なる。

また、同じ単語の初出が幻日と幻幻で異なることがある。
幻日ではセレンが作ったことになっているが、幻幻ではリディアが作ったことになっている単語が多い。
ただし、アルバシェルトとイルムスについては、リディアとの共同制作だったため、誰が造語者かは両者の辞典で共通している。

いまはメインとなる辞典が 2 冊ある状況だが、2 冊の間で異なる情報が載ることがあるので、好ましくない。
かといってネットに勇み足なセレンと、ネットに消極的なリディアでは、折り合いがつかないことが多い。
ネットでの公開を前提とした幻日と、中の人だけの閲覧を前提とした幻幻では、情報の濃さが違う。
固有名詞は細かい個人情報が書いてあるし、幻日と違って何月何日に何があったという歴史年表的なデータも含んでいる。

公開を前提としないのは 05 年以前のセレンの辞書も同様だった。
そのため、05 年以前の辞書は個人情報をいくらか含んでいる。

なお、03 年より前の幻日はさらに細かい個人情報（主に恋愛や人間関係や人の本名など）が含まれていた。
つまり、03,05 年と段階的に幻日はプライバシー関連の記述をカットしてきた。
その点で幻幻より内輪向けでない、ある意味安全な辞典になっている。

幻幻は情報量は多くて良いのだが、人に見せるべきでない記述が多いのが現状だ。
こうしたプライバシーをすべて検閲して編集するのは、プロ編集者の経験から言わせてもらえば実に非合理的である。まして漏れを 100% 無くすという条件を付けるなら、ほぼ絶望的といっていい。それならゼロから作ったほうが早い。
そういうわけで、セレンは幻幻を作る際には、公開を前提とした幻日をソースとして、ゼロから作ろうと思っている。

ディアクレール

説明書

●書式

・幻字以外

見出し語　見出し語。タグはなし。
[nif]　単語レベル。１～５まで。５が無標。５の場合、この行はなくなる。
[caf]　アクセント。大文字部分を強く読む。
[hacma]　表意幻字で書く際どの文字を使うかの指定。
語義欄　国語辞典に相当する語義欄。
語源欄　語義ごとに語源が付される。
用例　その語義の例文。
[on]　関連語。類義語や反義語など。
[rap]　コロケーション。その語がほかのどのような語と一緒に使われるか。
[yol]　語法欄。名詞の指す範囲や動詞の取る目的語の範囲など。
[rans]　百科事典欄。文化欄も兼ねる。
[nod]　地球との比較。アトラスのｄｋにはない、地球オリジナルのおまけ要素。ｄｋはアトラスの常識で書かれるのでしばしば地球人にはわかりづらい。そこで日本語や英語などの例を出して理解を深める。
[avat]　慣用句
[ekin]　成句
[ixta]　画像。このタグの直下に画像が表示される。

・幻字

見出し語に .h が付く記事で、字典として機能する。

見出し語　見出し語。タグはなし。
[mite]　分類。漢字は篇で字を分類するが、アルカは形や意味の類似で字を分類する。例えば del と non は字形が似ていて意味も似ているため、同じグループに属する。
[eks]　文字の意味。.h を除いた項にたいてい詳しく書いてあるが、引きなおしを防ぐために .h の項にも載せている。
[moms]　成立年代と造語者。同上。
[apia]　文字の種類。象形、指示、会意など。
[maron]　どうしてそのような形の字になったのかなどといった、文字の由来に関する説明。漢和辞典の字解欄などに相当。
[hacma]　幻字。この直下に幻字の画像が表示される。

moapia　象形
arkapia　会意 (harklet)
apaapia　指示

●見出し語

オンラインｄｋの場合、各単語の最初の部分に太字で示される。
見出し語は原則として単語であり、成句などはその成句の中核となる単語の項に記載される。

見出し語は .h や .f など、ピリオドが付くことがある。
ｄｋはアルカに影響を与えた外来語についても参照できるようになっており、ピリオドの右は参照元の外国語名を表す。
.lt となっていれば「ルティア語」の単語であり、.f となっていれば「フィーリア語」の単語であることを示す。

歴史的に、アルカは――

フィーリア語→フィルヴェーユ語→リュディア語→レスティル語→アルバザード語（アルバレン）→古アルカ→制アルカ→新生アルカ

――という順序で発展している。

そのため、.f（フィーリア語）はアルカから見て直接の古語といえる。
min のようにフィーリア語からアルカにそのまま残った単語には .f と付けない。アルカの単語だからである。
一方、viku のように途中で滅んでしまってアルカに直接残っていないものについては .f のようにして、何語の単語であったかを示す。

当然 viku.f を見れば現在のアルカでいう何に当たるかが書いてある。
viku.f はアルカでは vik に相当し、いつの時代にどのような変遷でそのようになったかが書かれている。
一般的な一言語辞典や語源辞典と異なり、由来となった外国語まで新規項目を立てて細かく用法や成立を述べている点がｄｋの特長であるといえる。

● [hɪɾɒɪ] 幻字欄

表意幻字で書く際どの文字を使うかを指定する欄。
アルカでは 25 文字の表音幻字が使われるが、アルバレンなど古語は漢字のような表意幻字を用いる。

アルカはアルバレンを改良してできた言語なので、表意幻字を未だに使うことができる。
しかしふつうは表意幻字で書く際に、単語ごとにどの文字を使えばよいかわからない。
そこでｄｋの [hacma] 欄でどの表意幻字を使えばよいか記載している。
例えば vik（男）の項を見てみよう。

ucˡ
[ncɑ] 1
[ɾɪɑ] uɛˡ
[hɪɾɒɪ] ucˡə

[hacma] 欄に viku とある。これは viku の文字を使って示すという意味である。
では viku の文字とはどのような形をしているのだろうか。

ｄｋは字典にもなっているため、文字の形を知りたいときは、別途文字専用の見出し語が立っている。
文字の名前に .h を付けたものがそうである。
この場合、viku.h で引くと文字画像が表示される。

なお、viku の場合は 1 文字だったが、複数の文字で表される単語もある。

ucˡɪɟɪ
[ncɑ] ꞎ
[ɾɪɑ] uɛˡɪɟɪ
[hɪɾɒɪ] ucˡə ɪl/ɥen

vikasa は男性名詞という意味である。このような難しい単語は漢字同様、しばしば複数の文字を組み合わせて表現される。
vikasa の [hacma] には viku al/ren とある。これは viku と al と ren という 3 文字で書けという意味である。
viku.h、al.h、ren.h で引くと、それぞれの文字が分かる。

viku と al の間はスペースで、al と ren の間は / になっている。
/ の場合、/ の右の字をやや下に下げて、左の字にぶら下がるように書く。
スペースの場合、左の字と同じ高さで書く。

ちなみにこれは古語の元である現実の古アルカにおける「段」という概念から来ている。

luna には

[hɪɾɒɪ] ləɾɪ.ɭ, ˩leˡˡɔ.ɭɪ

と書いてある。
これは「第 1 義は luna.h を使い、第 2 義以降は kekko.h を使う」という意味である。

●語義欄

語義欄は「廃語マーカー + 語義番号 + タグ + 語義」という書式になっている。

baog（拳）
1 [asa] las deyu. las oken ji sein l'es deyu.
1 [名詞] 閉じた手。指を閉じた手のこと。

語義がひとつしかない単語には語義番号を付けない。
タグは [名詞] などの品詞タグが先で、[言語] などの分野タグが次点で、[婉曲] などの態度や口調や位相が最後に来る。
語義欄で使われるタグの例は以下の通り。

廃語マーカーには * を使う。
下記の例では第一義は廃用となっているが、第二義はアルカに到るまで生きていることを示している。

ɪn
[ncɑ] 1
[ɾɪɑ] ɬn
[hɪɾɒɪ] ɑel
x1 [cɟʃc] ɪnɪdcɪ l'ɪdcɪ ɪɥɑen/dcˡˡɔ.
+ˡ lɪn ʃɒ.ʃcˡnɔ
ɪn ɑe ʃcˡnɔ. : ɪn eʃ ʃcˡnɔ.
ɭ [cɟʃc] ɪnɪdcɪ l'ɪdcɪ ɟeeʃ.
<ɒɔnˡ 1ɭ.ɟ
ɪn eʃ ɟeɥen.

なお、* の後に ly とあれば「リュディア語で廃止された」ということを意味する。
* だけなら「アルカで廃止された」ということを意味する。

・アルハノン

ルティア語やプレディス語で使われるアルハノンという文字がある。
アルハノンは左右のパーツに分かれ、左が漢字でいう篇のように意味を示し、右がハングルのように音を示す。
字解欄では : の左がアルハノンの篇で、: の右がアルハノンの音を示す。

・ユマナ

[yumana]　　ユマナ。地球のアルカに存在する語義で、アトラスには存在しないもの。
　　アルカは地球でも用いられるため、便宜上このタグを設けた。実際のｄｋにはこの欄がないことになる。

なお、語義欄のタグ以外では、(( ))を用いてそれが地球についての記述であることを示す。

主に英語や日本語を用いて比較している。

・品詞

[asa] 名詞
[yuo] 動詞
[ayua] 形容詞
[freyu] 副詞
[leva] 純副詞
[isti] 代詞。言語によっては代名詞、連体詞、形容詞など。
[arki] 接続詞
[hetmev] 接尾辞
[osnmev] 接頭辞
[mev] 接辞、拘束形態素。wil のように頭にも尻尾にも来るもの。
[avat] 慣用句。ことわざなどはこちら。
[ekin] 成句。en t hot tet k のような、ことわざなどではないものの、それひとつでまとまって特定の意味になる句。
:

・固有名詞の下位分類

名詞が固有名詞の場合、[asa] の代わりに次のいずれかを記載する。

[est] 人名。ユーマの一族
[ert] エルト
[saar] サール
[deem] 悪魔
[adel] 魔族
[delfia] 亜魔族
[selest] 魂科
[ikl] 建造物
[ato] 商標、商品名
[kal] 地名、場所名
:

・分野

[eld] 言語学
[vas] 軍事
[ival] 医療
[kum] 動物
[tuk] 植物
:

・位相等

[yuma] 正式な、お堅い、学者調の
[laft] 上品な、雅語の、上流階級な
[alit] 丁寧な。上品というほどではないが、通常レベルや雑レベルよりも丁寧
[pul] 口語的な、雑な
[beril] 俗な、俗語
[belea] 卑語、禁句

[bens] 軽蔑、蔑み。蔑みであっても正式なこともあれば俗なこともある。一定でない。tu を人に使うのは別に俗ではない。bente は同様に bens だが、卑語。このように bens と語法レベルとは別次元。
[pilp] からかい（相手が怒るかもしれないことを知った上で）
[luute] おどけて（冗談なので相手を怒らせるつもりはない）

[meldin] ポジティブ。良い意味。
[elna] ネガティブ。悪い意味。
[kelt] 婉曲

[arden] アルデン位相
[alben] アルベン位相
[yuul] ユール位相
[pikko] ピッコ位相
[amma] アンマ位相
[mayu] マユ位相
[gano] ガノ位相
[yunk] ユンク位相
[yuna] ユナ位相
＊位相表記がなければ通常中立の seet を指す。

[vik] 男性
[min] 女性
[yuli] 子供・幼児

[freint] 男性エタット
[aklet] 男性リース
[arnet] 女性エタット
[rente] 女性リース
[yunte] ユンク・ユナ・マユ

・定義語を定義文で使う場合

通常辞書というのものは、例えば want の項で want を使ってはいけないことになっている。
しかし want の定義を第一義でしていれば、第二義以降は want を定義文中で使ってもよく、そのほうが効率的である。
lax の項を見るとそのようになっている。

●用例欄

用例は語源欄の後に続く。語源欄のほうが難しいので、ここでは用例欄を先に説明する。
各語義ごとに付されるが、古語の場合省略されることもある。
またアルカでも専門用語のように頻度が著しく低いものや、複合語などは省略されることがある。
複合語の場合、一番右の形態素からコロケーションや用法が明らかな場合、用例が省略される傾向にある。

ucl
[ncɑ] 1
[ɳiɑ] uɛl
[hɪɳɒɪ] uclə
1 [ɪjɪ] dcɾ e hcɒ le ɾcl enuc len ɑɪnj ɒcn. << uc lhcɒ
<l uclə.ɑ 1ʌ.j
lecɒ, ucl eɾ lɪnuc lɔnɾ ɒcn eɾ nɪɪu ɔn eɥn e ɥəəɒɪ.

この場合——

lecɒ, ucl eɾ lɪnuc lɔnɾ ɒcn eɾ nɪɪu ɔn eɥn e ɥəəɒɪ.
（ユーマの一族は通常、男性が肉体面において強く、女性が精神面において強い）

——の部分が第一義に対する用例となる。

用例は通常語源欄の年代を反映した言語かアルカで書かれる。
例えば成立年代が fl（フィアル時代）の場合、当時はアルカでなくフィーリア語が使われていたので、例文はフィーリア語かアルカになる。
例文がアルカ以外の場合、: の右にアルカ訳が付される。

ˈlɪɑɪcz.lɣ
[ɾɪɑ] ˈlɪɑʈcz
[hɪɾɒɪ] ˈlɪɑɪcz
x[ɪɟɪ] ˈlɪɑ
+ɪ ˈlɪ(ˈlɪɾe)/ɑɪcz ɾɒ >> ˈlɪɑ.ɟ
lɣəɑcɪn ɑɪczɪɟ lcɒeeɣe ɪɾɔlɪɟ hɣəl ˈlɪɑɪczɪɣ ˈlələ
əɾ. : ɑɪcz e lɣəɑcɪ lɪɑɪɾ lɪɒ ˈlɪɑ ɔn ɪɾɔlɪɟ.

kaldaiz（王国）の語源欄に tm と書いてある。これは成立年代がアルテム時代であることを指す。
アルテムではリュディア語が使われたため、例文はリュディア語かアルカになる。

kaldaiz の場合——

lɣəɑcɪn ɑɪczɪɟ lcɒeeɣe ɪɾɔlɪɟ hɣəl ˈlɪɑɪczɪɣ ˈlələ
əɾ.

——が例文になっている。
: の左側がリュディア語で、右側がアルカ訳となっている。

なお、用例の最初に「言語名 + スペース」がある場合、その用例の言語名を指す。
語義の語源と異なっている場合にのみ付される。
ただし f からアルカまで不変な語義であれば、無標で f でなくアルカの例文を載せることがある。

●語源欄

語源欄は「語形成 + 詳しい語形成 + スペース + 参照した単語 +(補足)+ スペース + 成立年代 . 造語者」で書かれる。
ただし必ずこの書式になるわけではなく、一部が省略されるなど、単語によって臨機応変に書かれる。

約物や省略記号が多く使われるため、語源欄は最も難しいフィールドである。
以下に約物と省略記号を示す。

・言語名、時代、語源と語形成、約物規則

幻日辞典（本書前半）と重複するため省略。

・例

ɑɴel（私）
+e ɑl.elɾ

エーステによる新語。フィアル時代にエルト神が造語した。

ɑɪcz（王）
+l < ˈlɪcz < ˈlɪc/z. z < ɟ < lɪnɾcɟ ɾɒ

リムレット（音韻変化）による新語。kaiz から来ている。kaiz は kai と z の合わさったもの。z は s から来ている。s は lantis から来ている。成立年代はアルテム。

den（〜でない）
+a de/jan fl.saal >> en

アンクレット（ここでは混成）による新語。de（〜である）と jan（違う）が合わさったもの。フィアル時代にサール神が造語した。アルカに den はこの語義では存在せず、アルカでは en がこの den に当たる。そしてこれを >>（継承）という。

oɪl（渡す）
ˌ [yəɔ] ɑcɾ ˈlɔn lɪɟ. enˈ jeɑ, ɾcllɪnφ leeu ɑcɾɪn.
lɣ<heɒ zφ

2 [動詞] 手で渡すこと。sef と異なり、所有権が移る。アズゲルの時代にリュディア語に派生。語形成は狭義化。
＊ zg（アズゲル時代）という表記から、派生先が ly（リュディア語）であることは明白なので、< の前の ly は省略されることもある。

・転換

語源欄には単なる品詞の転換は記載しない。
下記においてわざわざ [yuo] の語源欄に転換と書かない。
別の品詞タグがついている時点で転換の事実は明らかだからである。
でなくば無意味にあらゆる語義欄に転換と付けねばならない。
なお、転換の代わりに「狭義化」「文法化」など、詳しい経緯を書くことがある。

@[ɑɸeɣə] en
+ɪ ɴe/sɪn ɾɒ.ɟɪl >> en
elɾ dɪdɪɸəlɪ cɑ ɴen. : elɾ en cnɪɾ ɑɪɪɸ.
@[yəɔ] ɴe
ɾɒ.ɟɪl >> ɴe
nɔn ɴen ucˈlə. : nɔn ɾe ucˈl.

● [ɔn] 関連語

類義語、反義語（反意語）、縁語、ねじれ語、対応する外国語を記載した欄。
約物は以下の通り。

+	類義語
-	反意語
:	縁語
+-	ねじれ語。tu, le, lu, la において、tu から見て le は類義語で、lu は反意語。しかし [on] 欄に la だけないとおかしい。これら 4 語は 4 つで 1 セットだから。そのようなとき、la を +- で示す。
*	類音
/	対応する外国語

例えば min（女）の場合は以下のようになる。

+ luuko, lestir, reiyu, lamia, lamian, lilia
- vik

lestir（淑女）や lilia（少女）などが類義語で、vik（男）が反義語である。

なお、関連語は onvetyui で検索することができる。min を関連語検索すると vik などが表示される。

関連語検索には対応する外国語は検索されないようになっている。
というのも、それはアルカの単語でなく外国語なので、アルカのシソーラスとして検索されるのはおかしいからである。

それでも関連語欄に記載してあるのは、外国語の逐訳語辞書としての機能をｄｋが有するためである。逐訳語辞書ないし二言語辞典としての機能だからこそ、シソーラスではないため、関連語検索から弾かれているのである。

● [ɲɪd] コロケーション

コロケーションをカンマ区切りで収録している。
形容詞と名詞の繋がりや、動詞と目的語の繋がりなどが分かる。

ucl（男）
[ɲɪd]
ucl ucen, ucl ˥ɪc, ucl ɟɔɲ

強い男、大きな男、背の高い男
コロケーションは vetrapyui で検索することができる。

●語義欄および百科事典欄等で使われる約物

> 〜を参照せよ
<< 左のほうが右より一般的である。例）vik << vikhim（vikhim と意味は似ているが、vik のほうが一般的）
>> 上記の反対
>>> 「この語義及びほかの語義も合わせ右に継承。語形成も右に同じ。重複を避けるため、この本文では第一語義のみを掲載」という意味。
(( )) この間に挟まれた記述は地球との比較で、アルバザードのｄｋには存在しないもの。地球の読者の利便のために設けられる。

ucləɑ
[ɾɪɑ] uɛlə
[hɪɾɒɪ] uclə
x[ɪɟɪ] ucl >>> ucl
+ɪ uc(ucen)/lə < ˥əɒ >> ucl ɑl.elʃ

この >>> は、「viku の語義は 1 つしか載っていないが、vik と同じなので割愛した」という意味である。vik の持っている語義は viku もおおむね持っていたことを示す。

●保留分

\\ で「未完、保留分」を示す。

●名詞の性

ルティア語の名詞の性の表記。
sllt で名詞に男性・中性・女性ができる。
rlt,lt では中性が滅ぶ。

よって名詞の性は sllt と rlt 以降の 2 つを記述すればよいことになる。
両者が同じであればひとつしか記述しない。

lelcə.jlʃ
[ɾɪɑ] lelcɜ
[hɪɾɒɪ] lelʃ
[ɪɟɪ] lɪ: lelʃ
<l lelʃ

xeliu は女性名詞で、la xeliu として使う。
la しか載っていないので、rlt 以降も女性名詞のままということになる。

˥ɪlʃeʃ.jlʃ
[ɾɪɑ] ˥ɪlʃEʃ
[hɪɾɒɪ] ˥ɪlʃe/dɪdɪɲəlɪ
[ɪɟɪ] ʃə>lə: ɑɪɪl cɒen ɑɪɪɲ/hɪɲd.
<l ˥ɪlʃe

kaltet は中性名詞から男性名詞になっている。
sllt で中性で、rlt 以降は男性という意味である。

ｄｋの語例

●名詞「男性」の例
ucl
[ncɑ] 1
[ɾɪɑ] uɛl
[hɪɾɒɪ] uclə
1 [ɪɟɪ] dcʃ e hcɒ le ʃcl enuc len ɑɪnj ɒcn. << ucl hcɒ
<l uclə.ɑ 1Δ.j
lecɒ, ucl eʃ ˥ɪnuc ˥ɔnʃ ɒcn eʃ nɪɪu ɔn eɲn e ɥəə ɒɪ.
J [ɪɥəɪ] e ucl. uclʃe. eʃ ucl.
<
ʔ [ɪɟɪ] ɒɪu e uclhcɒ e lɪn. ɪcl, ˥ɪu ɒɪlʃ.
<heɒ
cɒ ɑcj, le ucl le jc lɪb ɑɔjɪʃ ɥə nɪcn ˥ɪ ɑelzel ɒel e jeelɪɲnɪ ɒɪn ʃɔeʃ lə˥ɪn ˥ɔn eɟn.
Ø [ɪɟɪ][dəl] ɪlʃcɪn
"ʃɥə lcɲ ucl ɟɪ ʃɔʃɪl lɪnɪ eɒ ɒɪɪj"
<˥elʃ
ɸ [ɪɟɪ][elɑ] >> ucl˥ɪɟɪ
<lcl
[ɔn]
+ ləʃʃɪ, ɑccze, lɪn˥ɔ, ɑɲelle, ɑɲellel, dc˥ɔl, uc˥h cɒ
− ɒcn
[ɲɪd]
ucl ucen, ucl ˥ɪc, ucl ɟɔɲ
[ɥɔl]
el ɥɔl jen ʃə ueʃ lɪnɪ ɪdcɪ en lɪn hɔʃ ʃeʃ ˥əɒ ʃɪn.
ʃə ɑe lclle lel el ɪdcɪ ɑc lel ucl ˥ɪlʃ ɑel ʃeʃ ɪlʃ.
[ɪnʃcj]
\˥əɒ
˥ɔ dcʃ e hcɒ, ˥ɔcʃʃɔ e ɒcn. el sɪd jen ɑc lel ucl ˥ɪlʃ ɪɲɒe/ʃɪnʃhcɒ/dɔʃhcɒ/ɪlɪn/˥ɪlə/nɪ˥l/eelcʃ. el scnj jen ɑc eʃ ucl ɪz je jɔɑ uɪɲ jɪcn ʃɪnʃhcɒ ˥ɪen zɪɒɔ ˥əəʃ. uɪlj uclɔʃ ɥɔʃ ʃə ˥ɔj lɪnɪ nɪnɪl eʃ ɪlnɪnɪ ɪz.
jee ˥ɪlʃ uɪlnɑel, dɔʃhcɒ ʃɪn eʃ uɔ˥l ɔuɪ hcɒφə˥ lɪɑ ɒclc.
lecɒ, nɪ˥leʃ μcjʃ hcɒφɪ˥ʃ dɔʃ ɒɪcn e lɪn. ʃɪl cɒ ɒɪlʃ, ucl ʃcl ɒcɥə hcɒφɪ˥ʃ ɑc ɒcl μcjʃ ucjʃ e nɪ˥leʃ. jee ʃə ɑcʃ ɟɔɪ ɒeɟɪ ɪ lɪn˥ɔ jecn. hcɒφə˥ eɒ μɪz. hcɒz ɔn eɒ ɑcl/sɪʃ. hcɒcnc eɒ nɔ˥. ʃcu eɒ hɪcʃ. ucɒe eɒ ˥ɪnuc. ɒɪcn eɒ jɔɲ.
\ɪlɪn
cɒ φɪlueeɥə, eɲn e ɥəəɒɪ jcʃ ʃənj enʃɔ ˥əəj ʃɪɑ lɪɑ ˥əlɪlɪ uɔl ʃɪɑl ˥əɒ, jɪ˥ uɪn˥ oen. ɒcn ɪlɪ˥ lcul ɥəlc enʃɔ ˥əəj leeu ucl μɪ. hɪɥə ucl jecn ɥəcʃ ˥e ˥əlɪlɪ. jɔn ɒcn ɪμɪʃ μɪlɪb ˥ɔnʃ ucl ɥəcʃ ˥əlɪlɪ.
lc φɪlueeɥə, ɑccuɪ ɪʃ jɔɑ jɔu uɔe enʃɔ eɲn e ɥə əɒɪ uɪj ɑɪl ˥ɔ˥ ˥ɪnɪ ˥əlɪlɪ/nɔʃəj oen. ɒcn ʃcl ucɲ

uecn nɔΩ ucʅ enʃɔ lǝǝȷ eᴅıʃ lǝȷcın, ʅɔnʃ ucʅ eᴅıʃ ɑµecn. ᴅcn ʃın ıʃ uıȷın cᴅ ɑeᴅe ȷcΩ.
ɭc ıµΩcı, ɭılʃ e ucʅ ıʃ ȷɔµ ᴅın ᴅcn ȷcʃ ıµʃ. hıɥǝ uıȷ eᴅıʃ lıb e ucʅ. ucʅ ʃclıʃ lınφ Ωc nɔΩ ᴅcn uıµ nı Ωcı/ıµʃcl. ʃıl cᴅ uelec, ᴅcnlınφıʅn ıʃ nɔʅ enʃɔ ucʅ ʃcɑl lınφ ȷe µɔᴅ. ᴅcn lıbıʃ ᴅcɥǝ ʅı lɔcʃ, eᴅ ʅıφ enʃɔ en ɭcµ ᴅcɥǝ ucʅ. ȷee ʃǝ Ωclıʃ ᴅıʅȷ, ɑcʃıʃ ɥǝlc ʅılɔ ıl ılın.
ɭc ᴅcµɔʅczᴅ, ucʅ en ȷdıʃıʃ ɥǝ ᴅcɥǝ ı ᴅcn ʃeʃ uell ıʃ ɥǝ.

●動詞「望む」の例
lıɭ
lıɭ
[ncɑ] 1
[ɹıɑ] lłɭ
[hıɹᴅı] ᴅıl
1 [ɥǝɔ] lını ʃcllınφ cs ɥɔllınφ cs ȷɔı lınφ e ɭe.
<l lııd ȷʃ.ȷ
ın lıɭ ɭe lec.
˩ [leuı] lıɭ ɭe ȷɔɔl. > lın
<uuʃ
ın ʅǝc lıɭ ᴅccʅ.
ʔ [ɥǝɔ] ʅǝc lıɭ, ɭen lıɭ, ʃıɑ lıɭ oen.
<heᴅ
ın lıɭ eµcı ᴅın leɑıʃ ɑcl.
ɱ [ɥǝɔ] lıɭ ɭe lel ʃcınıl cs hcᴅɔʅ.
<heᴅ
ın lıɭ lı ᴅını.
ᚨ [ɥǝɔ] lıɭ ɭe eᴅ ȷɔΩ.
<heᴅ
ın lıɭ eȷʅ.
ın lıɭ ʃc uıȷʃ ʃıȷ.
ʕ [ɥǝɔ] ıʅʃ lıɭ ɭe (ʅı ʅıd cs lɔcʃ ʃ'ɔle oen)
<heᴅ
"ʃclınʃeȣ ʃǝ eʃ ᴅccµ, ȷee nɔn lıɭ ıµΩǝ ȷɔǝ"
[ɔn]
+ Ωclɭ, ᴅclɭ, ɑclcı, ɑclcıᴅ
– µcȷ

●形容詞「大きい」の例

ʅıc
[ncɑ] 1
[ɹıɑ] ʅłc
[hıɹᴅı] ʅıc
1 [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] ʃcnʅı ɔn ʃǝȷ, ʃcl ᴅıcnΩǝ ʃcnʅı ɔuı ʅıcᴅ.
+ı ʅıl/c(ɭe eʃ ʅıc enʃɔ el cn ȷen ʃǝ ʅɔn cnȷ) ɑl.elʃ
ʅǝᴅ ʅıc
˩ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] ʅılhı ɔn lɔ/ȷeµn/ınɔ oen eʃ ʃcnʅı.
<ɑµcȷ ɑl.elʃ
ʃǝ eʃ ınɔ ʅıc. ȷɔn ʃc ɭılelʃ µǝʅıȷ ucl ʃǝ.
ʔ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] uɔlɭ l'el eᴅ ɭıɑ µını ɔn. ııl, ɔn ɥeʃ.
<ɑµcȷ ɑl.ȷııl
ɥeʃ ʅıc
ɱ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] ɭe ȷɔɔl eʃ hıµʃΩɔʃ ɔuı ɑıɭ/ɭcʅȷ.
<ɑµcȷ ɑl.ȷııl
lı ɑıɭıʃ nɔn ȷe ʅıc.
ᚨ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] ȷɔ ɭe ȷe Ωc cs Ωıʅȷ ʃcnʅı.
<ɑµcȷ ɑl.elʃ
lı ɭenıʃ uelΩ ȷe ʅıc.
ʕ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] ɑɔΩ eʃ ʃcnʅı. enʅ lıu, ɥǝǝ φǝʅ, ɥǝǝ ɭeʃ. ʃelµecn, el ɥɔl ʃǝ ueʃ lını φǝʅ ʃeɔȷ ɭe eʃ lıu.
<ɑµcȷ ɑl.elʃ
ʃǝ ɑecᴅ eʃ ʅıc uecn. = ʃǝ ɑecᴅ ʃcl ɑɔΩ ʅıc uecn.
"ɭınʃeȣ ın nı le leᴅ eʃ ʅıc µıʅ ȷe ʅıl"
٩ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] Ωɔʅ.
<ɑµcȷ ɑl.ȷııl
cnȷ ʅıc
Δ [ıɥǝı][ɑµeɥǝ] hın.
<ɑµcȷ ɑl.ȷııl
ez ʅıc
L [ıɥǝı][ɑµeɥǝ][ᴅelΩcn] ɥǝn ʅlɔᴅ cs ʃccʅ cs uıȷnʃe cs ɥɔφın
ɑu<ɑµcȷ ʃᴅ
"ueeµ, ʃcʅnɔ uıȷıʃ uıµʃe ᴅeȷı ʅɔ ʃel ʅɔ. ılı lı ʃcl nı ʅıc"
[ɔn]
– lcȷ
[ɥɔl]
٩ "cnȷ Ωɔʅ" ʃcl ˩ eʅȷ, Ωel "ɑc ʃcl cnȷ Ωɔʅ ȷe ɑeleʃ "/"ɑc ʃcl cnȷ Ωɔʅ ȷe ȷcnʅ ᴅın nı ncʅ oen".
ılʃ, "cnȷ ʅıc" eʅȷ elʃ hɔʃ.
Δ "ez hın" φılΩ ʃcl ȷcıs hıcʃ ʅɔnʃ "ez ʅıc" ʃcl ɭıɑ e ȷɔµ.

●代詞「これ」の例

ʃǝ
[ncɑ] 1
[ɹıɑ] Ǝ
[hıɹᴅı] ʃǝ
1 [cȷʃc] ıdcıcȷʃc l'ıdcı ɑµeᴅ. ueʃ ɭen ıdcı ɑıᴅ ɭe ɭı ɑµeᴅ ʅǝın. ʃǝ en ʅıu lın.
+e ɑl.elʃ
ʃǝ Ωe heµen. : ʃǝ eʃ ᴅccʅ.
ʃǝ heµen : ʃǝ ᴅccʅ
˩ [cȷʃc] cȷʃc ɭen ıdcı lın/ɑıᴅ oen ɭe lǝnı ᴅɔı ȷeu cs ʅlɔı ȷı ɑɔnc.
< ɑl.ȷııl
nɔn Ωɥǝȷȷɔǝ ʃccı. ʃǝ Ωe µǝlc. : nɔn ʃccı ʃɥǝ. ʃǝ eʃ µǝl.
ʔ [cȷʃc] el ınɭ lın leɭ ʃǝ cᴅ el ıdcı lǝ ȷe ɑµcȷ. cᴅ ʅıd, el ınɭ nɔȷ cs ɔle leɭ ʃǝ cȷʃ ın cs ʃc ᴅın el cn ucl ɔle ɔn ʅıd. ȷɔn el ıdcı nɔȷ cs ɔle ʅɔn ʃǝ lını ıdcı nɔȷȷe ȷe ɑµcȷ.
<ʅelʃ ɑl.ȷııl
ʃ:[ılcʃ] ıdcı ɑc l'el cn ucl.
ʃǝ Ωe neeȣ : ʃǝ eʃ neȣ (ʅǝın cn ucl ɔle ᴅcl ɭe ɔuıen ıʃǝ eʃ ılueʅʃ)
ʅ: ıdcı nɔȷ cᴅ ɔle cn ucl nɔȷ cᴅ ʅıd ȷ'ɔuı.
ʃclınʃe, ʃǝ eʃ ᴅccµ.
ɭ: ıdcı ɑc cᴅ sɔʃ lǝ, ʅıu nɔȷ.
ȷıı, ʃǝ(lǝ) eʃ ᴅccµ. ȷee ᴅccµ, ʃǝ(lǝ) eʃ ıµΩǝ.
Ωıɹᴅı, nɔn(ʃǝ) eʃ ᴅccµ. (zıl ʅıl cᴅ nɔȷsɔʃ)
ɱ [cȷʃc][benȷ] ɭen ıdcı lın ȷe benȷ.
<ıɭeʅ ɑl.elʃ
beɔ, ʃǝ ıɑʃınɼ
ᚨ [cȷʃc] ıdcı ᴅel l'eʃ ɔn ı ʃǝµ.
<ueµʅ ɑl.ȷııl
ʃǝ ȷɔɔʃ
cᴅ ʃǝ ȷılʃ
ʕ [cȷʃc] ıdcı ɭe l'el dɔʃı ʅcʃ.
"ın ɭıµ ʃc ılǝǝʃ ȷccnı ʃǝ ɭınʃ, ɭccı. dıdııʃɼ ınȷe ȷıᴅ eɼ"
[ɔn]
+ le
– lǝ

+– lɪ ʃə ˈlenɔ : ʃəəl
[eˈlcn]

記事の作成手順

以下に見るように、ｄｋは執筆よりも裏方の調査のほうが多い。これはクオリティを維持するために削減できない工程である。
基本的には辞書を色々調べていって、アルバザードの歴史と文化を踏まえた上で命名をするという作業だ。
ここでは「樟脳」を例に取り、ｄｋの記事作成手順を説明する。

09 年 10 月、ユーザーから「樟脳」が欲しいと要望があり、対応することとなった。
まず、樟脳というのものを知らなかったのでブリタニカ国際大百科、広辞苑、ニッポニカ、ウィキペディアで調べた。
読みと語義については理解した。カンフル剤のカンフルのことだと分かる。楠を原料とした物質で、防虫剤に使うようだ。

なぜカンフルというのか調べる。ODE と英語語源辞典で調べると、マレー語の chalk に辿り着いた。
ジーニアス大英和で camphor と chalk を調べるが、チョークにカンフルと結びつくような語義はなかった。ODE でも同様。
OED で調べたところ、camphor は Java, Sumatra, Japan などが原産とあり、1313 年初出であった。やはり Malay の chalk からとある。

化学用語の成り立ちについて書かれた事典に当たり、マレー語でチョークを意味する土地の名から来ていることが分かった。
となると、アルカでチョークと関連付ける合理性はないことになる。アプリオリとしてはチョークと切り離した命名をするほうが適切といえよう。

次になぜ樟脳という字を書くのか調べた。新漢和大字典に当たった。
樟は楠のことだそうだ。楠は字のとおり、中国から見て南方の台湾などに生える木だそうだ。
アトラスでいえばヴァルマレアやヒュグノー原産ということになる。
この時点でアルバザードにはメティオから入ったことが想定される。

それにしてもなぜ樟脳というのか分からない。最初は大脳など、脳の一部かと思った。
日本国語大辞典第 2 版によると樟脳は 1570 年初出だが、言継卿記では「生脳」となっている。
1678? 俳諧虎渓の橋で初めて「樟脳」として出る。どうも日本語の単語ではないようだ。

そこで大漢和辞典で樟脳を調べる。脳の旁が PC の変換候補に出てこない字になっていた。ここでは脳で通す。
どうも樟脳は漢文から来ているということが分かった。だが、なぜ脳なのかは分からない。
調べると脳には「しん、ずい、中心」という意味があるようだ。樟脳は楠の根、幹、枝の順に多く含まれているので、脳はこの意味かもしれない。

また、龍脳というものもあるようだ。
世界科学大事典と平凡社世界大百科事典で調べると、後者いわく龍脳は龍脳樹中の物質で、ボルネオールのことだという。
龍脳樹の樹幹内にできた空隙に純粋な蝋白色のかたまりとして存在することがあり、古くから中国で医薬品として使われてきたそうだ。
脳という字はこの木の中心やずいにある空隙から来ているのかもしれない。

ただ、確信がない。勘違いな気がしてならない。龍脳樹が先にあって龍脳という物質が抽出されるわけだから、上記では説明が付かないのではないか。しかし、確信を持っていえるのは、樟脳に脳が使われているのは龍脳などほかの植物との兼ね合いで、樟脳だけが特殊というわけではないということだ。

つまり、brain とは関係がなく、アルカで造語する場合も zelo と切り離して考えてよいということだ。
さて、英語に戻る。英語語源辞典でカンフルの時期を調べると、OF と ML を経由してどんどん遡って Arab を通って Malay の Kapur に行っている。
アラブをメティオ、マレーをヴァルマレアと置換すると理解しやすい。
アトラスだとセルメルのころに入ってきたと考えられる。戦間期で貿易が盛んだったからだ。
ML の年代は 600-1500 で、OF は 800-1550 だ。アトラスではカコ末期からアレイユまでがおよそ 2000 年間なので、ML や OF の年代はセルメルに当たる。
ちょうど sm は社会が落ち着いて発展してきた時代なので、時期的にも一致する。

sm に流入したとなると、メティオを経由したわけで、そのころのメティオ語は slme（中メティオ語）だ。
slme はほかの時代と同じくアルハノンを使う。
ここで楠を「東の香木」という意味の te:tes zam:lit と名付けた。読みは teslit だ。

そこで teslit.slme という見出し語を立てる。
ただ、アルバザードが借入を行ったのが slme だっただけで、メティオにはそれより前に teslit があったはずである。

メティオではメルテナ辺りから楠という語が入ってきていたと考えられる。そこで teslit.slme の語源欄に mt と書いておいた。
mt でできた語が少なくとも slme まで持続し、その時点でアルバザードへ流入したというわけである。

この時点で意味の変化が起きている。
アルバザードでは当時楠を指す xekt という単語があった。なのでわざわざ teslit を借入する必要はない。
そこでアルバザード人は teslit（楠）を原料とする樟脳にこの語を当てた。つまり、teslit を樟脳として受け入れた。
だから teslit.slme と teslit の語義欄は異なっている。

なお、アルバザード人はルティア人と異なり、アルハノンを使わなかった。
そこで幻字の表記も slme と異なる。slme では te:tes zam:lit と表記するが、アルバレンでは kete liito/zamo（東の香木）と表記する。
秋刀魚と書いてサンマと読ませるがごとく、幻字の読みをそのまま使わない方法である。

商人たちが口語で受け入れてきた外来語なので、読みは teslit のままであった。keteliitozamo と言ったらメティオ商人に通じず、商売にならない。
一方、文字に関しては大概が自分側の帳簿なので、幻字表記でかまわない。
ただし、当時の商人は教育を受けているので、相手に渡す伝票にはアルハノンで書いたと考えられる。

その後 rd ではアルカができ、楠は xeton となった。
レミールに入るレインのような人間は楠が xeton であり、昔は xekt であり、slme では teslit であったことをすべて把握している。
また、それぞれの表記も把握している。（アルナ大の学生は凄いなぁ……）

――と、ここまで調べて考察したら記事を書く。執筆より調査のほうがかかると述べたのはこういう理由だ。

ʃeɟlcʃ.ɟlɒe
[ɳɪɑ] ʃEɟlcʃ
[hɪɳɒɪ] ʃe:ʃeɟ zɪɒ:lcʃ
[ɪɟɪ][ʃə] ʃeʃlʃɔn
<ɪ ʃe:ʃeɟ/zɪɒ:lcʃ (zɔɒ lccʃɔ ʃɪen ɪlʃc) ɒʃ

ʃeɟlcʃ
[ɳɪɑ] ʃEɟlcʃ
[hɪɳɒɪ] ʃeʃe lccʃɔ/zɪɒɔ
[ɪɟɪ][ɒɪcl] ɒɪcʃ len ɸəəɑ el, ɟʃɪɟ uelcz c ɟɪb, ɟeʃ beeb, oen.
> ʃeɟlcʃ.ɟlɒe ɟɒ

[ɪnʃcɟ]
T10ϯ1ϟ. el ʃɪɑ ɟen ɟɪlcɪ encɒ/zɪcɒ ʃəəl eɒɔ ɪɟ eɸɟcdʃɟcɟd ɪl ɪɑeɒ e ʃeʃɔn. ɟee ʃə eʃ lccʃɔ/ɸɥə.
ɸəlclɔ eʃ ɪlʃccnɟɪɪl ɔuɪen uɪlɒɪleɪ,hɥəɸnɔ.
ɒeʃcɪn ɟeɸɪʃ ʃə cɒ ɒʃ. ɟee ʃə lənɪ ɪɸbɪzɪɸɑ cɒ ɟɒ uɪɟ ɸcnɪn ʃel dcʃɪ.

●語義欄の訳

[名詞][化学] 興奮剤、防虫剤、防臭剤などに使う化学物質。

●百科欄の訳

[文化]
C10H16O。無色透明の結晶で、クスノキの材片を水蒸気蒸留することで得られる。芳香があり、苦味がある。
原産地は東亜で、ヴァルマレア、ヒュグノーなど。
メルテナでメティオ人に伝わり、セルメルでは商人を通じて薬品としてアルバザードに伝わった。

以前からｄｋは目に見えない裏方の調査が多いといってきたが、今回はその裏方について述べた。
地球の科学と歴史を調べた上、それがアトラスでどのような科学と歴史を持っているのかを考えて造語しなければならない。

従って非常に時間がかかる。アプリオリの異世界に存在するアプリオリの人工言語を作るのは難しいと日々思う。
願わくば、ｄｋを読む際には、一語一語適当に命名したのではなく、こうした目に見えない裏方作業があるのだということを思い出してほしい。

今回は化学だったが、物理なら物理を調べる。医療なら医療、天文なら天文、地理なら地理。
料理、歴史、スポーツ、電算。なんでも自分でこなせなければならない。
私の場合、幸いなことにこの仕事が楽しい。

ｄｋの問題点

ｄｋには問題点が大きく分けて２つあり、方針の転向に伴いお休みすることになった。

こういう作業は軌道に乗せるまでが大変で、一度乗ったら後は単純作業なので楽になる。
基本は翻訳なので、０から作った幻日より気楽だ。（ただし手間はｄｋのほうが遥かにかかる）
面倒くさい部分だけ既に終えているので、実作業をした人間としては非常に損をした気分だ。

１：規範主義の弊害

アルカのような人工言語には規範主義と実践主義（プラグマティズム）がある。
規範主義は言語を作成し、辞書という形で統括し、辞書の持つオーソリティを背景に言語を管理する。
プラグマティズムは言語の運用を重視し、用例や文献の持つ実効性を背景に言語を管理する。
これらは両極端に位地し、同時に選択することはできない。どの割合でどちらに傾けるかを決める。

5:5 という中途半端な位置に置くことはかえって後の作業効率を悪化する。
二兎追うものは一兎も得ずで、そういうどっちつかずな態度はやがて混乱の種になる。
かといって 10:0 などに振ることもできない。例えばプラグマティズムだけに傾いた場合、辞書は一冊もいらないことになってしまう。
現実的には 7:3 などに傾けることになる。

新生はこの岐路に立たされ、後者を選ぶこととなった。
ｄｋはユーザーから大変不評で、この不評がプラグマティズムへ駆り立てることとなった。
（なお、セレンはこれまで作者の立場から規範主義を通してきた）

実際には、いちいち喋りながら辞書を引かないし、後から引くこともない。
語法は制時代の語法書を既習しており、語義も体で覚えている。
自然言語に近い言語なのだから用例に基づくべきで、用例で学習すべきだとのこと。

日本人は国語辞典で言語を覚えないし、英語を習うときも辞書で勉強しない。
受験生はするかもしれないが、それは勉強であって、それでは使えるようにならない。
日本人の悪い癖だそうだ。耳が痛い。

ｄｋは規範主義の象徴で、ユーザーにはアレルギーがあるようだ。
ｄｋで規範付けられるより、用例の中で使っていきたいということのようだ。
そのほうが言語らしくなるとのこと。

また、ｄｋを細かく作りすぎると覚えるのが大変で、それを忌避したのもあるようだ。
細かすぎると幻想的でなくなるので、さじ加減が大切だというのもあるようだ。
セレンのやり方では息の使い方や手の振り方まで細かく指定する。当然それに慣れていない人はストレスがたまる。
ある程度ファジーだと誰にとってもストレスがない。そういう意味で幻想以外の面でもファジーさは大切だそうだ。
人付き合いに似ていると思った。あれしろこれしろと細かく規定すると嫌がられる。

２：死にデータの膨大さ

これは作業をしたセレンが個人的に思って補足したものだが、ほかの人工言語作者にとってはこちらのほうが重要なはずだ。
ｄｋには必要のない死にデータがかなりあり、これは作業中に気づいていながら黙殺してきたものだ。
ｄｋの記事を見てみよう。

●名詞「男性」の例

例えば僕の隣の席の人が vik を読んだとする。
その場合、彼にとって必要な部分はこれだけになる。

```
uc˥
[ncɑ] 1
[ɾɪɑ] uɛ˩
[hɪɾɒɪ] uc˥ə
ɸ [ɪɟɪ][elɑ] >> uc˥ɪɟɪ
[ɔn]
+ ləʃʃɪ, ɑccze, lɪn˥ɔ, ɑɸelle, ɑɸellel, dc˥ɔl, uc˥hcɒ
− ɒcn
[ɥɔl]
el ɥɔl ɟen ʃə ueʃ lɪnɪ ɪdcɪ en lɪn hɔʃ ʃeʃ ˥əɒ ʃɪn.
ʃə ɑe ʃclle lel el ɪdcɪ ɑc lel uc˥ lɪlʃ ɑel ʃeʃ ɪlʃ.
[ɪnʃcɟ]
```

\ɪlɪn
cɒ φɪlueeɥə, eɸn e ɥəəɒɪ ɟcʃ ʃənɟ enʃɔ ləəɟ ʃɪɑ lɪɑ ˀləlɪlɪ uɔl ʃɪɑl ˀləɒ, ɟɪˀ uɪnˀ oen. ɒcn ɪlɪ lɕul ɥəlc
enʃɔ ləəɟ leeu ucl ɸɪ. hɪɥə ucˀ ɟecn ɥəcʃ ˀe ˀləlɪlɪ. ɟɔn ɒcn ɪɸɪʃ ɸɪlɪb ˀɔnʃ ucˀ ɥəcʃ ˀləlɪlɪ.
lc φɪlueeɥə, ɑccuɪ ɪʃ ɟɔɑ ɟɔu uɔe enʃɔ eɸn e ɥəəɒɪ uɪɟ ɑɪl ˀɔˀ lɪnɪ ˀləlɪlɪ/nɔʃəɟ oen. ɒcn ʃcl ucɸ uecn
nɔɑ ucˀ enʃɔ ləəɟ eɒɪʃ ləɟcɪn, ˀɔnʃ ucˀ eɒɪʃ ɑɸecn. ɒcn ʃɪn ɪʃ uɪɟɪn cɒ ɑeɒe ɟcɑ.
lc ɪɸɑcɪ, lɪlʃ e ucˀ ɪʃ ɟɔɸ ɒɪn ɒcn ɟcʃ ɪɸʃ. hɪɥə uɪɟ eɒɪʃ lɪb e ucˀ. ucˀ ʃclɪʃ lɪnφ ɑc nɔɑ ɒcn uɪɸ nɪɑcɪ/ɪɸ
ʃcl. ʃɪl cɒ uelec, ɒcnlɪnφˀɪn ɪʃ nɔˀ enʃɔ ucˀ ʃcɑl lɪnφ ɟe ɸɔɒ. ɒcn lɪbɪʃ ɒcɥə ˀɪ lɔcʃ, eɒ ˀɪφ enʃɔ en lcɸ
ɒcɥə ucˀ. ɟee ʃə ɑclɪʃ ɒɪlɟ, ɑcʃɪʃ ɥəlc ˀɪlɔ ɪl ɪlɪn.
lc ɒcɸɔˀlczɒ, ucˀ en ɟdɪʃɪʃ ɥə ɒcɥə ɪ ɒcn ʃeʃ uellɪʃ ɥə.

１～４義は日本語と同じなので彼には不要。５義はいる。
類義語はいる。
語法はいる。
文化は生物学的な説明が不要。

なんと記事の過半数が不要になるのだ。
では過半数は何のためにあるのか。
それは「アルバザードにはこういう辞書がありますよ」という体裁を繕うためにすぎない。

ｄｋは架空の辞典なのだから、実際に使うのは日本人などになる。
男が精巣があり髭が生え云々という知識を読者はｄｋに求めない。というかそもそも人工言語に求めない。
読者が読みたいのはアルバザードにおける男性の扱いなどであって、余計な情報は読みづらくて邪魔ですらある。
道理でユーザーに毛嫌いされたわけである。ようやく合点がいった。

ｄｋは過半数が体裁を繕うための「死にデータ」なのだ。言い換えれば作者の自己満足。
しかし「異世界にはこんなのがありますよ」という体裁を作るのであれば、ｄｋのほかに百科事典もなければならないことになる。
キリがない。それを認めると今度は歴史書だ神話だとなり、いつまでたってもファンタジーパートに取り掛かれない。
設定がリアルなのはいいが、限界がないのでどこかでゴールを区切らないと、現実的には意味がない。
というか、さすがにン十年もかけて死にデータをこさえるのは流石に馬鹿馬鹿しい。それならほかにやることがあるだろう。

ところで生きデータについてだが、よく見るとこれって幻日とほぼ同じなのだ。
語法があって文化があって。地球と同じ部分や読者が知っている部分はわざわざ書かない。
必要な記述だけあって合理的。だったら幻日をテコ入れしたほうがいい。
仮に一言語辞典がないと言語といえないという理屈があるなら、幻日を翻訳してもよい。死にデータがない分、効率的だ。

それに、ｄｋは広辞苑くらいの大きさなので、それをセレンの在命中に作るのは無理だ。
「アルバザードにある辞典ですよ」という体裁そのものが最初からまっとうできない。
どうもｄｋ企画自体に無理があったようだ。
が、軌道に乗って実作業をしなければ、企画の綻びにも気づかなかったはずだ。そういう意味では無駄にならなかった。

一時期セレンは一言語辞典を強く勧めたが、企画の綻びを見てからというもの、すっかりお勧めできなくなってしまった。
自分を使った人体実験で、それなりに体も辛かった。ほかの作者に同じ失敗はしてほしくない。
でも、個人的にはｄｋ様式は凄いと思う。あと数十人自分と同じ程度の作業力のある人がいれば、綻びも消えるかもしれない。

前時代の残滓

ｄｋの作業中に、次のような疑問を抱いたことがある。

「自分が作っているのは要するに国語辞典なわけだが、国語辞典は果たして今後使われるだろうか。
国語辞典はたいてい漢字を引くのに使うが、携帯が出てから急に使わなくなった。

また、広辞苑は十万語以上載っているのに、新語やスラングは出てこない。
多くの現代人は「敷衍」が分からなくてもスルーするが、新語のカタカナ語は生活や仕事に絡んでくるので調べる。
しかしそういうのに限って載ってない。で、グーグルを使う。スラングなんか顕著で、ネットに頼るしかない。
今後国語辞典はどんどん使われなくなる。情報革命は実質グーグルに移ったわけだし……」

その後、規範主義とプラグマティズムの分析を通して次のことに気づいた。
この分析を通して、もやもやしていた疑念が確信めいてきた。

「国語辞典は規範主義だが、グーグルは検索エンジンであってサイトの集積を参照しているにすぎない。
そしてサイトの集積は言語の用例の集積に等しい。
となると、第二次情報革命とは百科事典的な規範主義からネット的なプラグマティズムへの転向だといえる。
だとしたら間違いなく 21C はプラグマティズムの時代で、ｄｋは 81 年生まれの昭和的価値観の残滓なのではないか。
アトラスで考えても今より進んだレインの時代にタウンページのようなｄｋを果たして配布するだろうか、多額の税金かけてまで」

ｄｋの発想自体が前時代の残滓なのではないか。
プラグマティズムへの移行はむしろ時代の流れに対して順行しているのではないか。
17 ～ 19C の人工言語にはなかったオプションへ動いている過程が現在の状況なのではないか。

つまり、ｄｋの発想は新しいように見えて古かったということになる。
自分が規範に拘泥していたら、頭の柔らかい若い世代にあっさり置いていかれたかもしれない。
新世代の人工言語はプラグマティズムへ向かっていくのではないか。

では今後の人工言語の辞書はどのような規模になるだろうか。
ｄｋでは死にデータが多すぎ、かつ前時代的な規範主義が強すぎる。
かといって辞書は大切で、単語帳で満足というわけにもいかない。何事も極端なのはよくない。

その言語独特の語法は必要だし、その世界独特の文化記述も必要だ。
語源や多義の記述もあったほうがよく、用例はいうまでもない。
アルカでいえば幻日が最も近く、生きデータの割合が最も高い。
したがって、幻日程度の規模が中庸ではないかと思われる。

ただ、「幻日程度」といったが、語弊がある。
幻日は人工言語の辞書としてはかなり詳細で、語法や文化欄は自然言語の辞書以上に細かい。
実際にはあれよりもっと簡素な辞書でも十分なのではないかと思う。
また逆に、幻日は規範主義のせいか、用例が少なすぎる。これはむしろ改善点だろう。

人工言語の作りこみと辞書の発展

人工言語がどれだけよくできているとか作りこまれているといったことは、quality と quantity の積算で表すことができる。
これは簡単にいえば、質の高いものをたくさん作るということであり、直感的に理解しやすい。

アセスメントの対象となるソースは辞書や文学資料などのテキストコンテンツが主体であるが、絵画などの芸術資料も含めるべきであろう。
その中でも主役となるのは辞書である。

同じクオリティなら 5000 語より 10000 語あるほうが評価は勝る。
しかし単なる単語帳を辞書と呼んで一万語集めても、市販の小さなサイズの英和辞典に勝ることはない。

この点は特に重要で、一般に人は辞書の作りこみを収録語数で計ることがある。
しかし単語帳のような形式で一万語作ったところで、作りこみは OED 形式の数百語にも満たない。
つまりクオリティはしばしば量を凌駕するということである。

クオリティを数値化することは難しいため、段階ごとに分類するのが妥当である。

なお、筆者は serix というアポステリオリの言語からアルカのような有文化アプリオリ言語まで経験がある。
また、辞書に関しても単語帳のようなものから [[ディアクレール >../klel/diaklel]]（ｄｋ）のような総合辞典まで経験がある。
これを踏まえた上で、以下を述べる。

1: 単語帳

man　男　名詞

――というような、いわゆる単語リスト。最も手軽に作れ、クオリティは低い。
さらに、その言語がアポステリオリの場合、クオリティは最も低くなる。筆者も最初はここから始めた。
「無文化＊アポステリオリ＊単語帳」と「有文化＊アプリオリ＊総合辞典」を比べると、かなりの労力差がある。
筆者はどちらのタイプも作ったことがあるので、語数だけで作りこみを判断しないよう特に注意している。

J: 語義とミニ語法の追加

play　他動詞　～（競技名）で遊ぶ、戯れる、そよぐ

名詞　劇、遊び、娯楽

少し進んだ段階になると、語義が増え、複数の品詞に対応するようになる。
「～（競技名）で遊ぶ」というようなミニ語法も付与されるようになる。

?: 用例の追加

用例が追加される。
ここまで来ると辞書としての体裁が整う。

๐: 語法の追加

rip（唇）という単語はどこまでの範囲を含むのか。
play soccer がいえるなら、play chess はいえるのか。
こういった語法情報が追加されると、アポステリオリ・アプリオリにかかわらず、その言語自体のオリジナリティが得られるようになる。

๓: 文化の追加

文化を持たない言語はない。
言語というのは柔軟で、風土の異なるアメリカでイギリス語を喋ることができる。つまりイギリスの文化をアメリカが継承することはできる。
だからといってアメリカ語が文化を持たないわけではない。自国の風土と異なるイギリスの風土に影響を受けた文化を持つ。
他所で言語が使えるからといって、言語と文化が分離可能であることにはならない。

アポステオリオリの場合、参照言語の文化か作者の文化を継承することになる。
人工言語には文化設定を行わないものがあるが、いずれにせよ文化注記は必要である。
「あなた」という概念でさえ、その概念をどう見るかは民族によって異なる。
その見方が辞書を編集するのに使う言語から見て一般的でない場合は、文化注記をせねばならない。

ということはこの５の段階で文化を作る必要がある。あるいは参照言語の文化を調べる必要がある。
アプリオリの場合、文化があるということは風土がなければならない。歴史もである。
それらを作ることになるので、作業量は膨大になる。

๕: 一言語辞典

人工言語を日本語で説明する段階を終え、人工言語で人工言語を説明する段階。
言語の基盤がしっかりできていないと、とてもではないが人工言語で人工言語を説明することはできない。
従って５までをよく作っておく必要がある。

๗: 総合辞典

データの散逸と引きなおしの面倒を防ぐため、総合辞典として辞書を作る。

市販の辞書は語源辞典や百科事典など、用途ごとに分かれる。
だが人工言語、特に有文化アプリオリの場合は辞書作成そのものが言語と文化と風土の作成に繋がる。
そこで、歴史的観点から語源辞典、文化や風土を示すために百科事典や語法辞典というように、数種類の辞書を同時に作る必要があり、かつそれが合理的な手順でもある。

結果的に、さまざまな辞典を組み合わせた総合辞典ができあがることになる。
ｄｋはこの段階にある。ｄｋの場合、実に 14 種類もの辞書を、ひとつの辞典としての統一性を持たせつつ取り入れている。

ｄｋの収録内容

＜辞書の種類＞

1: 国語辞典（いわゆる英英辞典などのコトバ典）
2: 百科事典（エンサイクロペディアとしてのコト典）
3: 語源辞典（言葉の歴史が分かる）
4: 対訳辞典（ある概念をほかの言語で何というかという情報。ルティア語や古アルバザード語などが同時に分かる）
5: シソーラス（類義語辞典、反義語辞典）
6: 文化辞典（国際的に見たアルバザードの文化的記述が見られる）
7: 語法辞典（国語辞典的な語法が見られる）
8: 字典（漢和辞典のようなもの。表意幻字での表記法を記載）
9: 古語辞典（語源欄や対訳欄が古語辞典の機能を果たす）
10: ことわざ成句熟語イディオム辞典（用例欄に実装）
11: 文法辞典（語法に実装）
12: 専門用語辞典（アルカの語彙を総なめにするので、同時にこれも実装）

13: アクセント辞典
14: コロケーション辞典

＜書式と辞書番号＞

この形式の場合、例えばアクセントの欄が 13 番の辞書（アクセント辞典）として機能している。

見出し語　4　9　10　12
—
単語レベル
アクセント　13
字解　8
[タグ] 語義　1
語源　3
用例
[タグ] 語義 2
—
類義語　5
反意語
—
コロケーション　7　14
—
補足
語法　7　11
—
百科事典　2　6

「無文化＊アポステリオリ＊単語帳」と「有文化＊アプリオリ＊総合辞典」の労力比較

「man　男性　名詞」という「無文化＊アポステリオリ＊単語帳」を最低クオリティとし、「有文化＊アプリオリ＊総合辞典」を最大クオリティとした場合の労力比について考察する。

1: テキスト量

まず最初に、同じ「男性」についてテキスト量を比較する。
http://www8.atwiki.jp/arbazard/pages/1006.html

2: 一言語辞典

テキスト量のほかに、一言語辞典であることを考慮する。
全文母語と全文人工言語では、後者のほうが労力がかかる。

3: アプリオリ

次に、アプリオリであることを考慮する。
apple という語は英和辞典や英単語リストを活用できるが、アプリオリの場合、参考にできるものがない。
妥当な語形を一から自分で作る労力がある。

4: 文化・語法・歴史

さらに、有文化であることを考慮する。その文化から見てその語形が妥当であるか考える必要がある。
また、男性がその文化においてどのような存在であるかを考慮する。
上掲の例には「大きい」という形容詞の例も出ているが、「大きな問題」とアルカで言えるのかという語法問題にも触れねばならない。
その上語源欄を設置するにはその文化の歴史や言語史にまで踏み込む必要がある。

5: 国語辞典と百科事典の読み込み

語義欄と百科欄を書くのに際し、辞書を読み込む必要がある。
筆者の場合、一語執筆するのに「国語辞典、ラーナーズ英英辞典 2 冊、ネイティブ用英英辞典、ネイティブ用仏仏辞典」を読んで参考にしている。
百科欄の場合、ウィキペディアは信憑性に乏しいのでブリタニカで裏を取り、合っていればウィキペディアを参考にするという確認作業を取っている。また、和書の百科辞典も用いている。

一語執筆するのにたくさんの資料を読む必要があり、これが最も時間を食う。
執筆より調査と検討のほうが時間がかかる。だからけっこう見えないところで苦労することになる。
調査を雑にして時間を削減すればかかるのは執筆時間だけだから、見かけ上はたくさん語数を稼げる。
しかしそれではクオリティが下がってしまい、作りこみにならない。

以上 5 点を踏まえると、テキスト量以外にもさまざまな評価点があることが分かる。
vik や lax といった特に記述の長い語については、一語書くだけで 2,3 時間かかることもザラである。

もしこれが「man　男性　名詞」というリストなら、一語書くのに数秒で事足りる。
実際はアポステオリオリでもいくつかの言語と比較してどの語根がいいか調べたりするので数秒というわけにはいかないが、それでも労力は比較にならない。

もちろん、ｄｋも vik のように長い単語ばかりがあるわけではない。
とはいえ、難しい単語になるほど５の作業量が増えるので、記述が短くなっても総作業量は減らない場合もある。

そういう実作業の経験から言うと、恐らく「無文化＊アポステリオリ＊単語帳」と「有文化＊アプリオリ＊総合辞典」の労力比は数十倍から百倍程度はあると思われる。
同じ編集力の人間が２人同時に辞書作りを始めた場合、前者が一万語に到達した時点で、恐らく後者はまだ数百語であろう。
機械的に単語リストを作るだけなら、もっと差が広がるかもしれない。
だからこそ最初の議論に戻るのだが、人工言語の作りこみというのは量ではなく、辞書の見かけ語数でもなく、あくまで quality と quantity の積算なのである。

一言語辞典は「覚える＞調べる＞書く」の順で大切

ｄｋの実作業をしてみて、一言語辞典は「覚える＞調べる＞書く」の順で大切だということに気付いた。
二言語辞典は書いた内容が備忘録になる。例えば「miik　りんご」と書いておけば、辞書そのものがメモになる。
自然と書いた内容を覚える必要性が減る。

一言語辞典は逆で、備忘録の効果がない。
書いた語義や語法を書いた先から覚えていかないと、次その単語を別項で使うときに矛盾したことを書きかねない。

また、一言語辞典は二言語に比べ、きちんと調べて書かないといけない。
二言語の場合は母語による柔軟な解釈ができるため、多少妙なことを書いても読み手が巧く解釈してくれる。
だが一言語だとそうはいかない。それゆえ、調査はきちんとしなければならない。

そしてその調査よりさらに覚える作業のほうが重要である。
せっかくきちんと調べて書いても無駄になってしまうからである。

私が思うに、勉強５割、調査３割、執筆２割といったところであろう。
勉強というのは書いたものを覚えることで、読む、手で書く、聞く、話す、暗記するなどからなる。
一言語を作る段階になったら、もういい加減「話せません」では困る。
自分の言語を自分の言葉で説明できないようでは話にならない。

例えば１日２時間執筆するとしたら、勉強と調査で８時間、合計 10 時間かかることになる。
……大人にはかなり厳しい。
実際には半分の合計５時間程度が現実的だろう。

人工言語の辞書に必要な語彙

人工言語の辞書に必要な語彙はおよそ 12000 ～ 15000 ではないだろうか。
日常生活に用いる語彙がその程度だからである。口語に限定すればもっと少ないだろう。

人工言語を使いながら生きていて、足りないものを随時足していく。
そういうやり方で作っていくと、日常生活に必要な単語数が得られる。
アルカの作り方がそのようなものだったが、古アルカも制アルカも 15000 を超えなかった。
（古が 15000 で、制が 13000）

その経験からすると、恐らく 12000 ～ 15000 が人工言語に必要な語彙に感じられる。
それを越えると専門用語で、日常ではまず使わない単語になる。

しかしいきなり一万を越えろというのは難しいと思う。
その場合は 8000 程度でも足りるように思われる。
実際、幻日にも生涯使わないであろう専門用語が入っている。
そういったものを差っ引いていくと、大体 8000 語くらいになるだろう。

ｄｋの目標語彙は５万で、正直これはほとんどが無駄な作業だと思っている。
国定辞書なので本物のｄｋは 60 万だの 100 万だのという語彙を持つはずなので、５万というのは非常に少ない。
しかしそれは国定辞書という視点から見た数であって、そうでもなければ５万は非常に多い。

日本語の国語辞典で５万語程度のものを日本人がすべて知っているかといったら、知っているはずがない。

15000 を越えたらほぼ非実用の世界で、5 万を越えたらほぼ終わらない補完作業の世界ではなかろうか。
そういう意味では 5 万という目標はアルカに特殊なもので、人工言語総論としてみれば、多くても 15000 が目標語彙ではないかと思われる。

人工言語の辞書に必要な語彙 2

人工言語の辞書に必要な語彙の続き。

言語学大辞典で語彙量について調べたが、思うようなデータが得られない。
参考までにウィキを載せておくと、このようになっている。

> 語彙の総量を「語彙量」という。満年齢で 6 歳になる子どもの場合、理解語彙の総量は、およそ 5000 ～ 6000 語ほど。13 歳では 3 万語前後。20 歳ではおよそ 4 万 5000 ～ 50000 語ほどという調査結果が出ている [1]。
> 小型の国語辞書に収載されている語彙量は、およそ 6 万～ 10 万語程度である。
>
> 文学作品では、「源氏物語」の語彙量は、延べ語数で 20 万 7808 語、異なり語数で 1 万 1423 語と数えられている [2]。なお、延べ語数とは、同じ語が複数あった場合、その出現回数だけ数えた数値。異なり語数とは、同じ語が何度出てきても 1 と数えた数値である。
> 各語の 90% 以上を理解しようとする場合、フランス語が約 2000 語、英語が 3000 語、ドイツ語が約 5000 語、日本語が 10000 語と言われている [要出典]。
>
> **語彙** - Wikipedia http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AA%9E%E5%BD%99

理解語彙

このデータには疑問がある。
小型の国語辞典が 6 万程度だとしたら、成人の私はそのほとんどを見て理解できることになる。
ところが実際我が家の国語辞典を見ても、知らない言葉が多い。この理解語彙はどうやって計ったのだろうか？

理解語彙というのは非常に曖昧である。
例えば「りんご」は分かる。「ジュース」も分かる。だから「りんごジュース」なるものが売られれば、それが何であるか理解できる。
同じく、マンゴーとゼリーを組み合わせたマンゴーゼリーを理解できる。
しかし辞書はこうした単純な合成語を載せているとキリがないので、通常省く。

マンゴーゼリーなども加えてよいのなら、我々の理解語彙はほぼ無限に増える。
どのようなデータを使うかによって、理解語彙などどうとでも変わる。
大日本国語辞典を使って、収録語すべて意味が分かるかテストしたほうが、客観的な理解語彙が計れるだろう。
しかしそれは大変すぎてそんなこと現実にはできない。

異なり語数

源氏物語の異なり語数が約 1 万とのことだが、これはしっくり来る。
大体日常生活を書いていればこんなものだろう。

一方、科学について百科事典などを書けば当然異なり語数は増えるだろう。
科学など、専門用語は人によって使うか使わないかの差が激しいので、人工言語総論として必要な語彙とはいえない。
誰もが学校で習うような公共性の高い知識を除いて、こうした学問の語彙は必要な語彙に含めないほうがよさそうである。

カバー率

カバー率はフランス語が高いのが有名だが、これは理由がふたつある。

まず、フランス語は基礎語彙の語義が広い。
例えば mettre で「置く」だけでなく「着る」「かぶる」などの意味がある。
このせいで、確かにカバー率は高い。

だが、それ以上にカバー率を高くしているのは合成語の少なさである。
恐らくカバー率調査は単語だけで行っており、句は含めない。
カフェオレは日本語では 1 語とカウントし、フランス語では 3 語とカウントしているのではないか。ポトフも同様。

また、日本語では漢語の合成語になるところを、フランス語ではしばしば成句で表現する。
rendre compte de は「報告」でカウントされるだろうし、se rendre compte de だと「気付く」でカウン

トされるだろう。
原義的に言えば「計算結果を返す」から「報告」になる。そして「自分に計算結果を返す」から「気付く」になる。
フランス語もフランス語で巧く表現している。が、フランス語では成句で表現されるので、カウントされない。

なので、カバー率が低いといっても単純語や合成語を用いて表現しがちな言語か否かという違いにすぎず、カバー率が低い言語が楽ということにはならない。
だから本当のカバー率というのは、概念単位で見るべきなのだ。
転換動詞は別個にカウントし、多義語も別個にカウントする。成句もだ。

こうして本当のカバー率を出すと、恐らくどの言語も大差なくなる。
が、その数値こそが、「本当にある言語の内容を 90% 理解するために覚えねばならない量」を指すのではないか。
人工言語もこの「量」を念頭に置いて作るべきではないだろうか。

総合辞典の百科欄

総合辞典の百科欄では普遍的な記述は後回しにすべきである。
例えばライオンというのはネコ科の動物で云々という生物学的なこと——言い換えればどこの国のどの言語で書いても変わらない内容——は省いてよい。

ｄｋはアルバザードで使われているという設定なのである程度科学的なことも書く。
だが、アルカ以外の人工言語ではそこまでこだわる必要はないと考える。

本来はアルカだってそこまでこだわる必要はない。
辞書を引く人は、別にアルカでライオンの生物学的な情報を知りたいわけではない。
そういうことが知りたければ日本語か英語で引くだろう。私の娘ですら将来は英語で引くだろう。

辞書を引く人が知りたいのはむしろアルカにおけるライオンの扱いである。
だから総合辞典の百科欄は必然的に文化事典に近くなる。

アルバザードには百科事典がｄｋのほかに存在するため、ｄｋは科学的な記述が少なくなっている。
ｄｋが最初に編集された時代の方針のまま、対照文化的な観点で執筆されている。
しかし科学の世の中に人文だけではという思いがあるため、ある程度科学的な記述が入っているわけである。

百科事典と造語

アプリオリの場合、造語するときに百科事典を使うことがある。
原子を命名するとき、我々はすでに原子より小さな単位を知っているので、「切れないもの」という意味を持つ atom のような単語を作ることは恐らくない。
また、誤訳によってできた有理数のような造語をすることもない。有比数のように造語するだろう。

ただでさえアプリオリは事典を首っ引きにして作るので、労力がかかる。
その上ここに文化や歴史が絡むとさらに複雑になる。

その世界で原子が発見されたとき、クオークの存在はまだ知られていないだろうから、やはり atom のように命名する可能性がある。
当時のその世界の科学水準で命名せねば、自然といえない。
切れるのに切れないものと命名すると、覚えづらく理解しづらい。

小惑星だって一見すると惑星の一種かと思ってしまう。命名は大切だ。非合理的な命名はできるだけ避けたい。
しかし世界を持つ人工言語では、文化や歴史を反映してあえて非合理的な命名をする必要が出てくる。

アルカで道しるべは alzam だが、意味を考えれば jetkon だけでよさそうなものである。
また、里程標を naldol としているが、これは nalta という固有の単位が背景にある。
同じく灯油は ferakm で、安い油という意味である。これはアルバザードがそれ以前に用いていた鯨油より安価であるからにすぎない。
百科事典を使って命名すると、恐らく灯油の性質を用いた命名になるだろう。しかし世界を持つ人工言語はそうとはかぎらない。

よって、アルカのような言語は必ずしも合理的な造語をしない。もちろん、世界を持たない言語の場合は別にかまわないのだけど。
私自身、作っていて「このように命名すればわかりやすいのだけど、当時の技術や社会背景や古語を反映すると、こうせざるをえないなぁ」と思うことが多い。

単語の覚えやすさでいえばアポステリオリが一番として、次は世界のないアプリオリになるだろう。
アポステリオリの参照言語が自分の知らない言語である場合、むしろ世界のないアプリオリのほうが覚えや

すいかもしれない。
だが、世界を持つアプリオリは依然として覚えづらく作りづらい。だが、頑張った分は無駄にはならない。その分はやがてリアリティやクオリティになる。

人工言語の辞書と参考にする辞書

辞書を執筆するときに参考にする辞書は、できるだけ多いほうがいい。

まず言語について。アプリオリ言語ならなおさら影響を排除するために多くの言語を参照したほうが良い。
といっても十言語も参照するというのは現実的ではない。ｄｋの場合、英語、フランス語、日本語をメインに参考にしている。そこに中国語や韓国語やドイツ語などを加える程度である。
私は言語学専攻だったわりに、外国語は英中などの就職に結びつく言語に専念してきたため、情けないことに辞書を読むレベルとしてはせいぜいこれくらいしか読めない。

参考にするのは主に語義である。語義をひとつずつ読み、それが自分の言語にあるかどうか考察する。
アプリオリなので語義をそのまま拝借するのではない。その語義に相当するものがあるかどうか確認するためのネタ帳として使う。
アポステリオリの場合はそのまま拝借して良い。

もし英語だけしか使わないと、語義のネタ帳としては不十分である。
フランス語の venir には「～したところ」という近接過去の意味があるが、英語の come にはない。
英英しか見ないと、この語義が自言語にあるかどうかチェックしそびれてしまう。
そういう意味で、英仏日など複数の言語を参考にしたほうが安全である。

次に規模について。
辞典の規模は大中小と色々ある。
ここでいう中というのはジーニアスや明解くらいのものを想定している。
大というのはジーニアス大辞典や広辞苑くらいのものを想定している。

ここでは OED や日本語大辞典は極大と呼んでおくことにする。
ｄｋが参照しているのは OED のほかに、『日本国語大辞典』と『大漢和辞典』がある。
アルカは表意幻字があるので、大漢和辞典は文字関係の用途で使用している。

とはいえ、漢和については学研の『新漢和大字典』を主に参照にしている。
私は字の成り立ちを調べるために漢和辞典を使っているわけだが、字の成り立ちの説明はこの辞書が丁寧だからである。
例えば「覇」という字ひとつとっても、大漢和辞典よりむしろこちらのほうが解字を丁寧に説明してある。

辞書の規模について述べたが、このうち参考にすべきは中～極大で、メインには大を使うのが良い。
執筆するという観点で見ると、大は小を兼ねる。中辞典に載っているものは新語を除いてたいてい大辞典に載っているが、その逆はない。
極大はたいてい語義が詳しいというより例文や出典が詳しい。大になれば人工言語の辞書を書くのに必要な語義は出揃っている。
従ってわざわざ毎回極大にあたる必要はない。しかし中では語義が列挙されておらず、不十分である。そういうわけで、大がちょうど良い。

また、辞書の種類も色々ある。
ｄｋは一言語辞典なので、ジーニアスなどの二言語辞典は参照できない。
英英や国語辞典のような一言語辞典を使う。

一言語だとラーナーズとネイティブ用があるが、ラーナーズは数冊あると良い。ｄｋでは主に２冊用いている。
ラーナーズは案外馬鹿にできない。向こうのネイティブが使うペーパーバックの辞書より語義や例文が詳しかったりするので、執筆するときの参考になる。
ネイティブ用は幼児用や学生用があるが、日本人だとラーナーズが既に家にあるという人のほうが多いだろうから、執筆という点で考えると語彙の制限のない一般用が良い。
まとめると、ネイティブ用の大辞典をメインにし、それ以外をサブとして使うのが良い。

次に語義欄以外について。例えばまず語源について。
私は語源も参考にする。語源を見ると語義の変遷が分かる。アルカにも語義の変遷があるので、参考になる。
語源を調べるときは別途研究社の『英語語源辞典』などを利用している。

語源辞典のような「分野ごとの専門の辞書」もあると助かる。
私の場合、百科欄の参考にするために『日･中･英言語文化事典』や『しぐさの英語表現辞典』などを用いている。

また、百科欄では百科事典を参照すると良い。
電子辞書によく内蔵されている『ブリタニカ国際大百科事典』は大百科というには小さく、情報量が少ない。
電子版の英語ブリタニカも参考にしているが、これも規模がそこまで大きくない。正直百科事典には少々困っ

ていた。

ところが今は yahoo で日本大百科全書がタダで見られるようになったので、百科事典はこれを参照するのがいいだろう。
ウィキペディアは便利だし個人的にはよく見ているが、執筆という点では信憑性のリスクがあることを述べておかねばならない。

最後に、アルカが具体的にどの辞書を使っているかだが、一応ファンタジーの言語という雰囲気をあまり壊したくないという気持ちがあるので、明言は避けておく。
ただ、ここで述べたものは使っているので、おのずと分かることと思う。

ｄｋのサイズ

「ｄｋって具体的にどのくらいの大きさなんだろうね」とリディアが言っていた。
電子辞典なので言われるまで気にしなかった。

しかしｄｋって歴史的にはアルバザード政府が国民一世帯ごとにタウンページのように無償で配布していたわけだから、紙ベースだったわけだ。
電子ペーパーの普及したアレイユでもレインなどは国定辞書を持っていたので、未だに配布が行われているということになる。
ただ、全世帯かどうかは分からない。レインはレミールに入るような人間だから持っていたのかもしれない。

レインが持っていたのが国定辞書なので、あれがｄｋなのではないかと思った。（思ったっていっても書いたのは自分なんだけれど）
だとしたら一冊ものなので、広辞苑や ODE やジーニアス大辞典くらいのサイズということになる。

そうか、アルバザードの国定というから世界最大というイメージをしていた。
すっかり OED を想定していたが、そうではないのだな。OED20 巻セットはさすがに全世帯に配布できないし、むしろ迷惑だｗ

しかしアルバザードに OED に相当する辞典がないはずがない。
ということはｄｋを元にもっと膨らませた極大サイズのｄｋがあるはずだ。図書館にしかないような。
極大のほうを unabridged dk とみなし、国民に配られるほうを abridged dk とみなすのが適切だろう。
つまり国民に配られるのは OED ではなく Shorter OED か ODE サイズの abridged dk なのだ。

abridged dk とはいえ、大辞典であるからには、どんなに少なくとも 20 万語はあるだろう。
広辞苑が 24 万で、ODE が 40 万程度。ずいぶんとばらつきがある。それでも最低ラインは 20 万語。
まぁ、私の在命中にできる規模ではないな。
現実的に考えて、abridged dk の中からさらに abridge するという入れ子構造になるだろう。

通時論

母音の頻度から分かる自然性

人工言語をアプリオリで作った場合、単語を機械的に作るか作らないかに大別できる。
ライプニッツのように作ると、機械的になる。逆にアルカは前者だ。

アルカの場合、古アルカから脈々とオリジナルの自然言語と錯覚するような語彙を作ってきた。
――ということを裏打ちする言語学的なデータを見つけた。

母音で最も多いのは a,i,u,e,o の 5 母音体系だが、母音は均等な頻度では現れない。
松本克己『世界言語への視座』を読んでいたら、さまざまな言語を検証した結果、母音の頻度の平均値が出ていた。

表の通り、自然言語の場合、母音は a,e,i,o,u の頻度で現れる。（あくまで平均値の話だが）
これを見て気付いたのだが、アルカもこの順序で現れる。
制アルカの時代にセレンが予想したのは a,i,o,e,u だったが、実際には a,e,i,o,u になっているという話はかつてしたと思う。

表 2.4　5 母音体系における各母音の出現頻度（百分率 %）

	a	e	i	o	u
アイヌ語	30.96	23.54	18.22	13.84	13.44
アルメニア語	36.16	28.49	13.58	11.83	9.94
古典ギリシア語	31.04	30.00	13.85	20.31	4.80
現代ギリシア語	31.25	19.17	23.38	19.17	7.03
グルジア語	39.11	20.10	10.21	24.13	6.45
サモア語	42.80	14.53	15.32	15.05	12.30
スペイン語	29.51	30.43	15.36	18.87	5.83
スワヒリ語	47.13	11.39	21.48	7.22	12.78
チェコ語	20.07	27.62	19.07	24.22	9.02
日本語	29.86	11.47	21.62	28.25	8.80
マルタ語	41.62	15.20	25.73	6.91	10.54
ラテン語	16.71	27.19	27.59	15.23	13.28
ロシア語	25.14	17.60	25.50	25.23	6.53
平　均	33.02	21.59	18.78	17.09	9.52

なぜだか不思議だったのだが、この表を見て納得した。

アポステリオリだともちろんこの序列になるだろう。
逆にアプリオリだと、ライプニッツ式だとこの序列にならない可能性が高い。
アプリオリでも自然言語風に作っていけば、この序列になる可能性が高い。

制アルカにはn対があったので、katがあればkitもあるから、 n対は母音の比率に影響しない。
周知の通り、新生はn対がなくなり、なくなった分を古アルカから復元した。
ということは、新生の母音の序列は古アルカを踏襲していることになり、古アルカから既にこの母音の比率があったことになる。
すなわち、古アルカのころから自然言語のように使える人工言語を作っていた痕跡が伺える。

何が言いたいのかというと、我々がアプリオリで自然言語風な言語を古い時代から作っていたことが、紙資料などではなく言語そのものから内省的に推測できるという点だ。言語で考古学とでも言おうものか。
つまり、その人工言語が歴史を有していれば、自然言語の分析と同じく、言語そのものからも言語史は分かるのではないかということを述べたかった。

ＳＯＶ，ＶＳＯ→ＳＶＯへと発展する語順

松本克己『世界言語への視座』第9章に、語順について面白い記述があった。

要約すると、SVOはSOVやVSOから発達したものが多いという。
つまり、SVOの多くはSOVなどのバリエーションであるということである。

確かにSVOはSOVに比べ、語順からほかの句の語順を推測しにくいという性質がある。
SOVだとほぼ後置詞PO構造と属格GN構造を持つ。圧倒的にPRの確率が低い。
ところがSVOだとPRが多いかたわら、POもそこそこ許容される。
SVOならNAになるかといえばそうでもなく、ANも頻繁に見られる。英語のように。

しかしこういったSVOのバリアントの多さは、SVOがSOVやVSOのバリエーションだと考えれば説明が付く。
歴史的に見ても実際SVOはこれらの発展形だそうだ。

また、ピジンやクレオールはSVOになることが多いそうである。これにも強く頷ける。
古アルカは1991年の段階でSOVだったが、やがてSVOに変わっていった。
言語内部の構造自体が原因であるが、語順が変わったころは仲間が増えていたころとちょうど重なり、ピジン化が著しかったころである。
どうやらあの頃の変化は言語学的に自然だったようだ。

人工言語はピジンよりもさらに進化のスピードが速く、作り始めなどは特に1年で自然言語の100年以上に相当する変化が起こる。
どうやら90年代の短期の間にSVOへの発達が起こった結果が、いまだに影響を与えているようである。

語順の文法化

松本克己『世界言語への視座』p298より引用

> 動詞にも名詞にも役柄に関する標識を全面的に欠き、もっぱらSVOという語順に役柄標示の任務をゆだねるという方式がある。
> ピジン・クレオールと呼ばれるほとんどの言語がこのタイプに属している。

――とある。
確かに古アルカはこのタイプであった。
オリジナルの語彙や文法を獲得する前に、各メンバーの母語によるちゃんぽん化があったことを示唆する。
そのちゃんぽん化が前期古アルカという形になり、クレオール様人工言語となった。

異世界における言語の変化

異世界でも言語は変化するが、当然地球の言語学をそのまま流用しても辻褄が合わない。
例えばアトラスには電話のないころから電話のような通信魔法技術があった。また、地球人が壁画を書いているころにアトラスの神は紙に文字を書いていた。
となれば古代の地球と同じような変化をするわけがない。神も魔法もない地球の言語の変化をそのまま適用することができないので、独自に変化の仕方を考察する必要がある。

まず、言語の変化および方言化を促す要素と抑制する要素というものを定義する。

促進 : 鎖国などの政治的な閉鎖性、海洋や山岳などの地理的な閉鎖性、技術の発展
抑制 : 交通の便、電話、テレビ、ラジオ、ネット、宗教的価値観 (アラビア語のような)

日本には方言があるが、古代からテレビがあったらここまで方言は多様化しなかったと考えられる。また、空を飛べてもやはり同様であったろう。
今後日本語は IT 関連の単語が継続して増えるだろうが、メディアの発達によって方言化は抑制される。
京都では尻のことをおいどというらしいが、パソコンは日本全国パソコンである。メディアが整ってからの方言化は抑制される。

アトラスの場合、cv までは通信魔法が存在した。また、人は神にまだ近く、かなり自由に飛ぶことができた。これは地球でいえばテレビと飛行機があるようなものだから、この状態で言語の変化がスタートすれば、当然同時代の地球より変化が抑制されることになる。
従って szd などの言語は fv と大差ないことが伺える。さらにこのころの人類は寿命も極端に長いため、余計変化は抑制される。
このように、単に時間の長さだけで変化を予想できないのが異世界の難しいところである。

zg になると飛行力が落ち、神もアトラスから去り、何より通信魔法が cv の大戦中に破壊されてしまったため、言語の変化が起き出す。
ただし寿命が地球人より圧倒的に長く、空もまだ飛べたため、地球に比べれば当然緩慢であったと考えられる。
zg から kk は約 8000 年あるが、平均的な成人男性の寿命や飛行力等を考慮すると、言語の変化はせいぜい地球の 800 年分程度に相当する。
この点を考慮しないで地球の変化をそのまま当てはめるとリアルな異世界にならないので注意。
「8000 年も経ってるから現アルカから遡ってひとつずつ考察しながら作るなんて面倒なことしないでパーっと作っちゃえばいいや。どうせ 8000 年も経てば原型がないくらい変化するだろ」というような安易な発想ではリアリティがない。

ルティア語やアルバザード語といった言語に独特な文法や単語はおおむねこの zg から形成されることになる。
歴史的に見てもちょうど zg からが人類の時代なので、しっくりくる。

sm 後半になると王族など一部を除いて寿命は地球人と同じになっていき、飛行力も落ちていく。
全人口の寿命がある日突然短くなるわけではなく、sm の 1200im までの 1200 年間がおおむね地球の 400 年換算となる。
1200im あたりでほぼすべての人が地球人と同等の寿命になり、飛行力も相当低くなるため、そこからアルカができるまでの 400 年はそのまま地球換算でも 400 年でよい。
従って sm の頭からアルカができるまでで地球換算で合計 800 年ということになる。

なお、sm は科学の前身となる錬金術などの台頭で新語が増え、言語の変化に加速度がつく。
nd では魔法も消え、科学が発達し、言語の変化は地球と変わりない。
ただし国際語としての力を徐々に持ち出したアルカの存在により、新語に関してはアルカの単語が入っていくことがあった。
vl にはテレビやネットの普及し、ますます新語はアルカのまま取り入れられた。現在の IT における英語と同じである。

こうして見ていくと、各言語の萌芽が出てくる zg からアルカが出てくる rd までの約 10000 年について異世界的な言語の変化を考察すればよいとわかる。
この 10000 年の体感速度を考えなければならない。zg から kk までの 8000 年間が地球換算で 800 年。同様に sm からアルカまでの 1600 年間の地球換算の合計が 800 年。しめて 1600 年間となる。al や lj から見れば約 2000 年前ということになる。

al が今の地球で rd が中世ヨーロッパのイメージだとすると、おおむねラテン語が現役だったころから fv の崩壊が起こったことになる。
すると体感的にはおおむねラテン語が fv だとして、現代フランス語が現アルカという概算になる。
これをひとつの目安に言語変化を考察していけば、タイムスケールの異なる世界の言語を考察するのに役立つ。

無いはずのものが無いというリアリティ

無いものを作るという考え方がある。それは一見人には見えない。見えないから存在しないようにも見える。しかし無いという定義に意味があり、無という存在がある。
などと哲学的な話をされてもわかりにくいだろうから例を挙げる。一番わかりやすいのは語源だろう。

fv までは語源がよく分かっている。ar もよく分かっている。ところがその中間に位置する ls や sz については語源不祥が多い。
例えば savan や san の語源はわからない。一方、eva のように推定できるものもある。また、yundite のよ

うに明らかになっているものもある。
これは記録が残っているかどうかの違いである。紙自体は rt で発明されているが、人類には普及していない。羊皮紙なども非常に高価であった。
その上この時代は戦争ばかりしていたため、焼けてしまったものも多い。

各言語のオリジナリティが確立したのは zg から kk の間だったが、上記のような事情により、語源を遡れないことがある。
逆にそれより古い fv は神の言語なので記録も存在し、人智を超えた寿命と記憶力で覚えられている場合もあり、語源がわかる。

地球ではこういうことが起らないが、アトラスの環境を突き詰めると、このように無いものが無いことでリアリティを獲得できることがある。
つまり、意図的に語源不詳を作ることで、歴史の闇を演出するというわけだ。
アルカは常に説明過剰で読者に想像の余地のないことが多いので、こういう余白には何かと想像を掻き立てさせられる。

地球でも日本語は語源を遡れないことが多く、せいぜい語源説を列挙するだけに留まるものが多い。
娘はうまく説明できるし、あまり異論もないようだ。しかし猫には異論がある。恐らく鳴き声に接尾辞が付いたものだろう。寝る子とは思えない。日本語の場合、語源というより語源説といったほうが適切な場合が多い。(もっとも、英語にだって girl のように衣服というあやふやな推定しかできないものもあるのは事実)
大学時代にどうして英語語源辞典のようなしっかりした語源辞典がないのだろうと思ったことがある。いくつか大判のものがあるがどうにも情報量が少なく、語源説に留まっているものも多い。だが実際は日本の出版社が甘いのではなく、英語ほど記録が残っていないのが原因である。

fv は遡れるので英語に近い。sz などは分かっていないことが多いので日本語に近い。
いずれにせよ、無いはずのものが無いとリアリティは増す。白い紙に何も書かないのは手抜きだが、白い鉛筆で書き込む分には意味がある。

文化・歴史・方言等

位相

アルカの位相は「個性位相、方言位相、環境位相、関係位相」の 4 種に要約できる。下記は 10 種の個性位相の表。

性	分類	位相	I	my	we	our	you	your	you 複	your 複	確認	不確実	伝達	訳例
男	標準	seet	an	ant	ans	antes	ti	tiil	tiis	tiiles	kok	sei	tisee	私
男	肉食	arden	der	dent	orfen	orfant	dis	din	sedis	sedin	kaak	daana	dizmal	俺
男	粗野	alben	dai	daid	cuud	cuudis	baz	bazel	bcand	bcendi	daxxa	zor	laga	オレ
男	知的	yuul	ami	amit	sean	seant	tol	tolte	flent	flandol	ranxel	fixet	flenzel	僕
男	草食	pikko	men	menal	liia	liian	sala	salen	setyu	setut	xatta	sivan	ramma	ぼく
女	姉御	amma	ema	emil	polte	polton	twa	twal	klans	klansen	soona	yundi	weeze	アタシ
女	明朗	mayu	noel	notte	xenon	xenoan	xian	xiant	telul	telet	sanna	enxe	xiima	あたし
女	勝気	gano	gan	ganet	kalas	kaldes	beg	beget	walet	wolden	yatte	indi	belze	ウチ
女	綺麗	yunk	yuna	yunol	kolet	ekol	moe	moen	felie	felial	axem	tuuyu	linoa	私
女	可愛	milia	non	noan	lena	lenan	tyu	tuan	lilis	lilin	sete	eyo	tisse	わたし
中性		solferj	noa	noett	lenoa	lenoan	tiam	tiamet	letiam	letiant	kotta	ansem	sante	私
精霊		kotan	nana	nana tu	nanas se	nanass etu	mina	minatu	minas se	minasse tu	nano	milei	sian	ワタシ

●解説

性別や性格に基づいて分類される 12 種の位相。
男性は seet, arden, alben, yuul, pikko。デフォルトは seet。
女性は amma, mayu, gano, yunk, milia。女性にデフォルトはなく、性格に応じてベースとなる位相を決め、気分や相手に応じて他の位相を使い分ける。
公的な発言では女性も seet を使う場合がある。個人によっては女性が yuul などを使うこともある。
総じて女性のほうが選択肢が多い。その辺りはスカートとズボンのどちらも着用でき、女性専用車両にも一般車両にも乗れる日本と同じ。

中性代名詞はユルトやリュウのような中性的な人物が使う代名詞。いわゆる「草食」や「男の娘」な人が使う。

逆に女性らしくない中性的な女性も使う。男勝りということではない。その場合はむしろ amma, mayu, gano ないし男性の代名詞を使う。
精霊代名詞は命を持たない代名詞で、九十九など物に憑依した思念体などが用いる。

以下に最初の 10 種類の大雑把な特徴を示す。どのような性格の人が使うかの目安となる。怒りっぽいツンデレは mayu など。
子供は目上の人口が多いので pikko を使う機会が多い。同様に幼女は yunk, milia になりやすい。

seet: 男性デフォルト
arden: 肉食男子、体育会
alben: 粗野
yuul: インテリ
pikko: 草食男子。並びに男性敬体

amma: 姉御肌、豪快、男勝り、姉御肌
mayu: 元気、明朗
gano: 勝気、気丈
yunk: 綺麗系
milia: 可愛い系

●敬体

目上には敬体を使う。男性は pikko が敬体。女性は下記の女性敬体 (alite) を使う。

I	my	we	our	you	your	you 複	your 複	確認	不確実	伝達
meid	meiden	xelis	xelien	halka	halkan	isfel	isfelia	malia	nyannya	yuulia

●三人称

三人称は mayu, yunk, milia だけ特徴的。ただし特徴的なのは一部のみ。

seet	luus	luutes	laas	laates	tuus	tuules	lees	leetes
mayu	luan	luant	lain	laint	tuus	tuules	lees	leetes
yunk	luan	luant	lain	laint	tutu	tutul	lele	leent
milia	luan	luant	lain	laint	tutu	tutul	lele	leent

●お嬢様位相

お嬢様と呼ばれる階層は yunk, milia, mayu のいずれかの位相の頭に an を付けた代詞を用いる。
例えば anyuna など。敬体は meid 系列を使うが、やはり頭に an を付けて anmeid などとする。
気取った貴族や金持ちの言い方で、現実にはあまり見られないがゼロではない。アニメやマンガなどではお嬢様キャラを出すために用いられることがある。
嫌味っぽく気取って見えるかお嬢様らしく聞こえるかは本人の性格と相手の受け取り方次第である。嫌味にも気取りにもなるし、深窓のご令嬢にもなる。場合によりけりである。

anyuna yuus fan anmoe luna ankolet anlinoa（あなた、わたくしたちに混ぜてさしあげてもよくてよ）。

an ばかり連続するので anankuom（アンアン口調）と小馬鹿にされることがある。
なお、三人称にもこの an は及ぶ。anluan, antutu など。

●位相の使い分け

位相は相手や文脈ごとに切り替えるのがふつう。例えば目下には an や der を使い、目上には men を使う。
日本語で目上に「俺」とは言わないのと同じ。
中には切り替えない人もいる。目上に「俺」という人間がいるのと同じこと。

一人称に ami を使いながら二人称に dis を使うこともできる。位相がクロスしている。
「僕」は ami であるが、相手は自分との関係によって「君 (tol)」になったり「お前 (dis)」になったりする。
日本語で「僕」と言う人が「君」も「あなた」も「お前」も使うのと同じ。
ただ、自分が ami なら相手の呼び方は tol がデフォルトになる。同様に、自分が der なら相手は dis がデフォルトになる。

●単語位相

女性は一般に kui（食べる）の代わりに xen（飲む）という。このように、位相によって使う単語まで異なる。
以下に例を挙げる。これらの単語は辞書では [ɟenʎe] や [丁寧] などのタグが付いていることが多い。

・動詞

ʅəc → ʅen

ɭə → ɸenɟ
ɒɔɭ → ɾcɑɑɾ
ɟɭɾn → ɑɾɪnɟ

・名詞

ɾɾ → ɑeɾueɸ

・形容詞

ueɾn → ɑeɾn

・副詞

ɭɪɾ → ɭɪn
ɸɾɟ → ɸɾn
uɪn → ɑɪn

・格詞

ɑɾn → ɑɾen

＜方言位相＞

同じアルバザードでもアルシアでは西方語を使い、カテージュでは南方語を使い、アルバザードでは北方語を使う。
どれもアルカには違わないので、言語学的には方言位相といってよい。

＜環境位相＞

身分や立場による言葉の違い。
同じ内容の文でも、教師として言うか母親として言うかでは異なる。

公であるほど文法的に正しく省略の少ない言い方をする。
また、語彙については seet 系を使う傾向がある。

＜関係位相＞

相手の環境とこちらの環境によって相対的に決まるものを関係位相と呼ぶ。
話し手の環境だけで変わらないのがポイントである。

リディア→ユルト :"leen ɣəlɾɪn, ɭɪɭ dɾɣɔ nɔnɔɓ"（ねーぇ、ユルトちゃん、あたちのぴよちゃんほしい？）
リディア→セレン : "nee jeɸen ɟɔə, ɾɣə ɭɪɭ ɒɾue nɔɪnɓ"（あ、セレン君、ひよこ要る？）

歳時記

アルバザードの歳時記です。幻日 xamelen と幻日 aalsel をご参照ください。

文化の伝来

地球の場合は『銃・病原菌・鉄』式の発想が有用だが、あれになぞらえると、アトラスの場合は「神・魔法・飛空」となるだろう。

古い時代は人間も空を飛べたし、アルディアになってもランティスは飛べた。
その後のナディアになると大航海時代が来るので、文化的な隔絶は弱い。

もしヒトが千倍速く走れたとしたら、あるいは地球のサイズが 1/10 だとしたら、当然今のような文化の多様性はない。
徒歩ではせいぜい時速 5km 程度という制約や、高い山は越えられないという制約があるからこそ、人類の文化は多様だ。
もし気軽に空が飛べれば、あるいは魔法で暖を取ることができれば、ロシアには早くから王国があったろう。
ナポレオンが山を越えるまでもなく、とっくにフランス人辺りがロシアに住み着いたはずだ。

アトラスでは人が飛べたので、行動範囲が広く、必然的に文化の多様性は地球より小さいことになる。
飛ぶということは直線距離で移動できるため、実際にはもっと早く感じる。
もし地球と同じサイズのアトラスでも、飛行速度が 50km なら体感的には星のサイズが 1/10 になる。従って、文化的な変質も 1/10 程度に収まる。言い換えれば、飛べることにより、地球より画一的な文化分布が出来上がる。
空が飛べたことにより、地球と同じサイズでも、文化の多様性は面積的に言ってユーラシア大陸の一部程度

の規模になるべきだ。

またナディアでは植民地政策が、ミロク革命では第三国の圧迫がそれぞれあったため、文化的な多様性は地球以上に殺されてきた。
とはいえ、一元的な文化もまた存在しない。南半球は人為的な政策でかなり文化が画一したが、北半球は比較的多様である。

南方語

イルケアの南、ファルファニア、アルシェリア、ゲノスで話される方言。
なお、イルケアより北で、ケートイア、ヒュート、イネアートで話されるのは北方語で、アルナ方言に等しい。

カテージュ方言は発声がのんびり聞こえ、牧歌的な感じがする。穏やかとされる反面、トロいと取られることもある。
同じ南方語でも商業都市イルケア方言は発声が早く、抑揚が高く、うるさい。下品とされ、嫌われやすい。

南方語は音節でアクサンの位置を決める。

H:CnVCC, CnVVC ex) sepl, prest, kait, freim
L:H 以外

——とする。

アクサンは後ろから二位までで決められる。従って、パターンは以下の 4 種しかない。

HH
LH
HL
LL

＜法則＞

1: アクサンは最高位の H に置く。
2:H がなければ二位の L に置く。

よって、アクサンの位置は以下のようになる。アクサンを大文字で示す。

hH
lH
Hl
Ll

平板

3 モーラ以上で語末が CVCV の場合、必ず平板化する。
CVV でも積極的に平板化するが、CVCVV では平板化しない。

vergiNA
arteNA

esTIA
arTEA
RIdia
Aria

長母音化

アクサンが置かれる音節の母音が短母音の場合、伸びる。
arMAlet は「アルマーレット」。aTOlas は「アトーラス」。ただし正確には半長。

開音節で終わる単語は、最後の母音が常に伸びる。
MAna は「マーナー」。

なお、この特徴はカテージュ以南に見られる傾向で、ワッカやイルケアにはない。

実例

aMAlis
aTOlas
harDIAN
harDAIN
harDIgan
arMAlet
freMAzer
luXIAN
LUxia
lasTIAdin
Mana

南方語文法

南方語

カテージュなど、南方で話されるアルバザードの方言。
同じ南方語でも都市部と農村部でさらに異なる。都市部は北方語に引きずられて北方語に近い文法を持つ。
便宜上、南方語は関西弁で訳す。

語順

・形容詞が前置される。

vik kai → kai vik

・関係詞節はそのまま

・都市部では北方語の影響を受けて形容詞が後置される。

代詞

	一人称	二人称	一人称所有格	二人称所有格
男	wan	bal	wanen	balen
女	mya	txi	myan	txin

	一人称複数	二人称複数	一人称複数所有格	二人称複数所有格
男	siwa	siwan	sibal	sibalen
女	siya	siyan	xixxe	xixxen

南方語の開音節は長いので、mya は「みゃぁ」、txi は「ちぃ」と発音する。
アクセントのある母音もやや長いので、txin は「ちぃん」となる。

ɾcn ˥eɾ = ˥eɾ ɾəɪn

男女の区別はあっても etat と liis の区別はない。
北方語は細かすぎ、南方語のほうが日本語に近い。

属格

(e)n のみしかない。
北方語のような複雑な曲用はない。

ɥecɒen = ɥecɒcn（おばけの）

都市部では北方語の属格を使う。

動詞

左が南方語、右が北方語。

ɑe = eɾ
ɾe = eɾ
ɑen = ɑe
ɾen = ɾe

ɩɪl = ɩɪ
˥e˥˥ɔ = ˥ənɪ
˥eɾɾɪ = ˥e

oɪn ɑe ucˬ = ɪn eɾ ucˬ

ɒɥɪ ˥eɾɾɪ（ウチが行くわ）

時制

過去の動詞語尾が -(a)t でなく -(ya)t。

ɪɩɾɥɪɾ = ɪɩɾɪɾ

副詞

・否定は an。

ɒɥɪ ɪn ɩɔˬc（ウチようわからん）

・副詞は se 格でなく接尾辞 -qtta で示す。

bɪɔφ ucenɜɾɾɪ = bɪɔφ ucenel

都市部では se 格を使う。

格詞

˥en = ˥eɥ, ɪl
˥oɪn = ˥ɔn, ɔˬ, ˥ɔ˥˥ɔ
ɪn˥ɪn = ˥eɑ, ucɑ, ɾɪɾɾɪ
ɒəl = cɾ, ɥɔɾ

純詞

ɾeɟɟe = ɾcɟɟe
ɥɪ = ɑɪ, ɑe, e, ɪ

例文

ɒɥɪ ɑcɾɥɪɾ hɪɥ ɒccˬ le ɾɩc ɾɪəɾ ˥en ɾɩcn eɾɾɪ ˥oɪn ˥ɪɟ ɥɪ.
nɔn ɑcɾɪɾ ɒccˬ hɪɥ le ɾɥə ɾɪəɾ ɪl eɾɾɪ ɾəɪn ˥ɔ˥˥ɔ ˥ɪɟ e.

アンタが買うた赤いリンゴ、ウチがアンタの姉さんに手渡ししといたで。

遊女語

インプレンなどで働く遊女の言葉。
アルバザードは南北の経済格差があり、北部が裕福である。
南方の貧農から身売りされた少女らがインプレンで多く働いていたため、遊女語の基本は農村部の南方語である。
基本は南方語文法を参照。

音韻

・s が x になる。

・ta が tya になる。同じことが k, p, d, g, b, l, r, c でも起こる。

・c が日本語のラ行で発音される。

代詞

・一人称

ɒcɪn = ɒɥɪ
ɒccɪ = ɒɥɪn

・二人称

対男性 =ɾɩcɪ
対目上女性 =eɾɾɪ
対同等以下女性 =elle

所有格は属格 -(e)n で示す。

ɾɥə = ɾə
ɩɥe = le
ɩɥɪ =ɩɪ
lə は lə のまま

純詞

ɥɪnnɪ = ɑɪ, ɑe, ɪɪnɔ
ɾɩɪ = ɪ, e
ɾcnɪ = ɑcnɪ
ɩeɾe = ɟeɾe など、ɟ は l になる
eeɥɔ = eɥɔ

感動詞

ɩɥɪɩɥɪ = ɪɩɪ
lələ はママ

名詞

尻尾を hethet とするなど、幼児的繰り返しが多い。
ただし、身体語彙などに限る。

例文

ɾɩcɪ scnɩ ˥en ɾɥə eɒɔ cn ɾɥə ɾeɒɾeɒ/heɾheɾ
ɩeɾeɤ この耳と尻尾を見ればわかろ？（『狼と香辛

料』賢狼ホロ）

ɒcɪn ɪn lɔ̀lc ʃɣə ʃcl ɰɪnɜʃʃɪ ɣɪnnɪ. わっちゃにゃよう分かりんせん。

el nɪ bɪn ɪɲɪʃʃɪ lɪ leeu.
旅は出立つ前が最も楽しく、

el nɪ ueɒ ɪɲɪʃʃɪ ʮen lcu ɔn ɔɒɪ.
犬は鳴き声だけが最も恐ろしく、

el nɪ lɪnʃ ɪɲɪʃʃɪ ʮen lcɒɪcn ɔn ɒcn ʃclle.
女は後ろ姿が最も美しいものでありんす。

lee el nɪ ɷcueɸ ʮen ɒcn ɔl heʃe elb ɑenlɜʃʃɪ.
気軽にひょいとめくれば夢はああいずこ。

lɣɪlɣɪ ɒcɪn ɪn lɔ len ʃɣə ʃcl ɣɪnnɪ.

わっちにゃそんなことできんせん。

（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ʃcnɪ ɒcɪn lɣɪl ʃɣə lɪ ʃɔʃɣɪl ʃlɪ. しかし何はともあれこっちじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

lɔl ɒcɪnɣ ɒccɪ eɟʃ ʃe hɔlɔ ʃclle. わっちかや？
わっちの名はホロじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ʃ...ʃcl nɪ̀lc ʃlɪ. こ、困りんす……。
ɒcə lcnl ʃɣə ʮen ɒcɪn ʃɣɪn ʃlɪɣ __ ɷɣəllɔə, ʃlcɪ ʃe eucɷe ucʮ ɣɪnnɪ.
わっちにも見せてくれんかや？――ヌシさまは悪いお人……。

（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

人工世界と倫理観

人工世界を作るには倫理観に左右されないようにしなければならない。

例えば奴隷制と聞くと悪いイメージがあるが、奴隷制がなければギリシャ哲学はありえなかった。
底辺が雑務をしている間にインテリが研究するからこそ学問も技術も発展する。
共産的に平等に暮らしていた場合、国内ではいいかもしれないが、いずれ強力な力を持った他国に滅ぼされ、植民化されてしまうだろう。

当然レスティルのような強い国は、奴隷制を持っていただろう。
しかしそれで現アルバザードが悪い国とはいえない。

いや、別に悪い国だと思うのは勝手だが、こっちは現代日本の倫理に従って世界を創るわけではない。
それではまるでリアルにならない。
リアルに作るなら奴隷だろうがレイプだろうが、あって自然なものはなければならない。

倫理的にはないほうがいいものであっても、当然世界の歴史を創るなら、虐殺も戦争も強奪も殺人も拷問もあるはずで、作らねばならない。
人工世界を作るには倫理観に左右されないようにしなければならない。

同時に、社会の発展に伴って、婉曲も創らねばならない。
現代日本に奴隷がいないといえるだろうか。時給換算数百円の派遣やブラック企業の正社員は奴隷と大差なかろう。
薄給激務で挙句過労死でもすれば、奴隷のほうがまだマシということもあろう。

アルバザードにも下流もいれば低所得もいて奴隷もいる。
しかし高度に発達した社会は婉曲的な表現を好む。表向きの顔が国際的にあるからだ。
そこで奴隷という単語ではなく派遣社員だなんだと言葉を変えねばならない。そこに作者の倫理観を挟んではならない。
「言葉が違うだけで実態は奴隷じゃないか。ごまかしの単語などアルカには必要ない」
――と思っても、高度に発達した社会は当然そういう婉曲的な言い回しを持つもので、作る必要がある。

虐殺と拷問の歴史を調べて設定を創りながら、『いま、会いに行きます』的な感動話も創らねばならない。
まこと人間は善と悪が混在した生き物で、邪悪な面と聖なる面を持ち合わせているものだ。

リディア語

理念

国際補助語の種類

国際補助語にはアプリオリとアポステリオリがある。

リディア語は前者で、エスペラントは後者である。

●アプリオリの長所

西洋語や日中語など、特定の言語の語彙に依存しないため、万人にとって平等

●アプリオリの短所

英語やラテン語形態素など、使い慣れたものを使用しないため覚えづらく、万人にとって覚えづらい

●アポステリオリの長所

英語などから形態素を取れるため、覚えやすい

●アポステリオリの短所

エスペラントのような言語は少数の西洋語に語彙を依存するので、国際補助語として不平等

様々な言語から語彙を流入させる場合、参照言語が多すぎてユーザーは全ての参照言語を知っている必要がある。当然全ての参照言語を知るのは人間業ではないため、アポステリオリなのに語彙を覚えづらい。アポステリオリなのに万人にとって覚えにくい

国際補助語の目標

21 世紀初頭における国際語は英語である。
言語の普及は経済力と軍事力と人口によって決定される。言語自体に優劣の差はなく、優れた言語が広まるということはない。
人工言語は上の 3 つの条件をひとつも満たさないため、普及しない。現実にはどれだけ広めても限られた集団の符牒にすぎない。

人工言語は国際語にはなれない。国際補助語にしかなれない。
しかし国際補助語して広まるものもまた上の 3 つの条件を満たさねばならないため、人工言語は国際補助語としても普及しない。
エスペラントもリディア語も同様に国際補助語にはなれない。現在国際補助語になりうるのはピジンイングリッシュやご当地英語のような英語の亜種にすぎない。

従って国際補助語の目標は逆説的だが国際補助語になることではない。そこに目標を設定すると自動で失敗が決定されるためである。
リディア語の場合、事実は事実と認めた上で対処する。リディア語の目標は国際補助語でありながら広めることではない。
リディア語は異世界カルディアの中に存在する人工言語として作られた。人工世界の中の人工言語である。テレビの中のテレビのようないわゆるメタな存在を作ることで、世界に更なるリアリティを与える。それがリディア語の目標である。

なお、そのほかにいくつかの目標がある。
作者の seren arbazard は国内における人工言語の第一人者である。人工言語の 2 大派閥は芸術言語と国際補助語である。アルカは芸術言語である。
第一人者が芸術言語しか作ったことがないというのはよろしくない。国際補助語も作るべきである。
以前地球用に serix というアポステリオリの国際補助語を作ったことがある。アプリオリはない。ゆえにアプリオリの国際補助語を作る必要があった。 ちなみにアポステリオリの芸術言語はルティア語や凪語において既に制作済みである。

アプリオリ芸術言語：アルカ
アポステリオリ芸術言語：ルティア語、凪語
アプリオリ国際補助語：リディア語
アポステリオリ国際補助語：セリッシュ

国際補助語の普及限界

前項で述べたとおり、人工言語が国際語や国際補助語になることはない。
イェフダーのヘブライ語を人工言語とみなすなら、普及限界はヘブライ語やエスペラントである。
これらはいずれも国際語と国際補助語のどちらとしても運用されていない。
国際補助語の普及限界はこれらの言語が示しており、人工言語が国際語や国際補助語になることはない。

リディア語もこの現実を踏まえた上で作られる。普及目標は地球ではなく、異世界カルディア上にある。
カルディアの中で国際補助語としてある程度の集団の中で用いられているという設定を構築し、そこを普及限界と定めるものである。

分類学的言語の欠点

17 世紀ごろに盛んとなった分類学的言語は百科事典的知識の集成であり、図書館分類法には発展したが、人間用の言語としては運用効率が悪い。

概念を樹形図のように分類していくと似たような概念が似たような語形になり、聞き取りに支障をきたし、誤解を招くためである。
例えば abc が本を表し、abcx が小説を表し、abcy が随筆を示すとする。すると語形が似るので誤解が生じやすい。

ギミックを施して似たような概念が異なる語形を持つように工夫できる。
abc を中分類とし、最後の一文字を小分類とする。小分類が中分類の語形を変化させるとする。
例えば abcx は x によって def に変化し、abcy は y によって ghi に変化する。こうすれば誤解は生じない。
しかしこの場合、せっかく整然と作った分類が混沌としてしまい、語形から元の分類を遡りづらくなる。
つまりせっかくの分類が死んでしまうのである。これならはじめから分類なしに小説は def で随筆は ghi と覚えるのと労力に差はない。

よってリディア語では分類学的言語の手法は用いない。

最小主義的哲学言語の欠点

工学言語論（人工言語学参照）で述べたとおり、最小限主義的哲学言語には欠点が複数存在する。

最小限主義的哲学言語の問題点は次のとおりである。

そもそも社会的な需要がない
語彙数と音素数が 2 でない時点で最小限主義を放棄している
語彙数をどこまで増やさないかというチキンレースでしかない
運用効率と学習効率のバランスをどこで取るかという調整作業に終始している
どこが最良のバランスかというのは個人個人によって異なる主観的なものであるため、いずれの最小限主義的哲学言語も万人の満足を得られない
いくら語彙数を少なくしたところで、概念の数が減るわけではない。覚えねばならない概念数は自然言語の学習と変わりない
多義語が多く、解釈が人によって異なるリスクが高く、意思疎通がきちんとできないリスクが高い

これを踏まえて結論を述べると、制作においても学習においても、最小限主義的哲学言語のレーゾンデートルには合理性がない。

よってリディア語は最小限主義的哲学言語にしない。
語彙数を減らしても概念数が減るわけではないので、最小限主義的哲学言語にする意味がない。

国際補助語のスコープと、語彙数でなく概念数を減らすことについて

前項で述べたとおり、語彙数を減らしても概念数が減るわけではないので意味がない。
むしろ減らすのは定義すべき概念数である。

ここで国際補助語のスコープについて考える。
どうして国際補助語が実用されないかというとそれは経済力と軍事力と人口に欠けるからだが、それ以外に理由がある。
それは高望みしすぎだということである。

あらゆる人間は母語を持ち、異言語など勉学や商売や隣人との付き合い程度にしか用いない。
異言語を日常的に恒常的に用いる機会は少ない。ゆえに国際補助語の必要性もない。
仮に異言語を日常的かつ恒常的に用いたとしても、その言語にどっぷり漬かって生活することは移住でもしないかぎりない。
移住したならそこの現地語を学べばよく、そこに国際補助語の必要性はない。
結局人は異言語をそこまで深く必要としないし、したとしたら当該言語を学ぶのが最も現実的かつ合理的なのである。
そこに人工言語が介在する余地はない。

国際補助語は母語や国際語の代わりを目指そうとするから余計受け入れられない。高望みしすぎである。
国際補助語が仮に受け入れられるのだとしたらグロービッシュのような機能や用途を限定したものである。
複数の母語話者間で意思疎通を図る場合、細かい感情の機微まで伝えたり、複雑な専門用語を用いることはない。
たいていの場合日常会話や買い物や共同作業に必要な程度の意思疎通しか必要とされない。
ということは国際補助語はその程度のことができることをスコープとすればよく、その言語であらゆる命題や感情の機微を表現できる必要はない。

つまり、国際補助語は表現できる範囲を制限してしまったほうが良いのである。
そうすることで定義しなければならない概念数は減り、学習効率は向上する。
語彙数を減らしても学習効率は向上しないが、概念数を減らすと学習効率は向上する。

実際複数の母語話者間で意思疎通を図る場合、使われるのはブロークンイングリッシュである。
ここでも人工言語の出番はない。
しかし仮に人工言語が国際補助語として食い込んでいけるとしたら、こういう場面しかありえない。

そこでブロークンイングリッシュ同様、表現すべき内容を制限してしまうのである。

私は知っている。仮に国際補助語が本来の目的を満たそうとするなら、国際語である英語を簡略化し、用途を制限したブロークンイングリッシュであると。 だから、広めるのが目的ならそのようなアポステリオリな国際補助語を作るべきである。

リディア語はこの現実を踏まえている。
しかしリディア語はカルディアの中で「テレビの中のテレビ」というメタな存在である必要があるため、英語を参照にするわけにはいかない。
つまり始めから普及目的を放棄しているといえる。

しかしリディア語はカルディアの中ではアポステリオリの国際補助語で、普及意欲もある。
そこでカルディアで英語に当たるアルカを参照にし、アルカの機能を制限し、概念数を減らし、ブロークンアルカという位置付けにしてある。
ただ自然発生したブロークンアルカとは異なり、人為的に対語表などを作って語彙圧縮を試みている点で人工言語的である。

文化の漂白

言語と文化は密接に関連しあっている。
日本は稲作文化なため、稲と米を単語レベルで区別する。英語ではどちらも rice である。
日本は儒教の長幼精神があるため、兄と弟を年齢で区別する。英語ではどちらも brother である。
逆に英語は牧畜社会なため、cow と ox を区別するが、日本語ではどちらも牛である。

また、狼は日本では孤高などのイメージがあるが、西洋では残忍で獰猛なイメージである。

言語と文化が密接に結びついているということは、異言語話者間で意思疎通に障害が生じるということである。
芸術言語の場合、固有の文化を持たせることに注力する。
逆に国際補助語の場合文化の影響は邪魔でしかないため、漂白する必要がある。

ここがリディア語の工夫のひとつであり、エスペラントが意欲的に行っていない点である。
エスペラントは話者の文化を言語システムが漂白できていない点が、国際補助語として大きな欠点である。

例えばアルカにおいて狼は統率された勇敢な者の象徴であるが、このような見方はカルディアの他の言語であるルティア語や凪語では共有されない価値観である。むろん地球の日本語や英語とも共有されない。
そこでリディア語では文化を漂白し、狼は狼という生物しか意味しない。
獰猛だとか勇敢だということは、それぞれの形容詞を使って表現すればよい。

このような操作により、リディア語は文化を意図的に漂白している。
文化の重要性に目を向けなかったエスペラントでは実装できていない特性である。

語法の画一化

日本語の口と英語の mouth は指す範囲が微妙に異なる。
日本語はお湯と水を区別するが、英語や韓国語では区別しない。

これら語法の違いは異言語話者間での意思疎通に支障をきたす。
そこでリディア語は語法を画一化する。
例えば水はお湯との区別がない。

エスペラントはこの点にたいした注目をしておらず、語法が細かく規定されていない。
なんとなく各母語話者が自分の母語の感覚や西洋語の感覚に従って随意に語法を設定している。
これでは国際補助語として満足に意思疎通できるはずがない。

コロケーションの簡素化

日本語では傘はさすものだが、英語では open するものである。
異言語の学習において難しいのは実は単語の学習ではない。むしろそれらの組み合わせを学ぶことのほうが難しい。
つまり単語よりコロケーションを学ぶほうがよっぽど難しい。

しかし初学者は単語数など表面的なことにしか目が行かず、本当に覚えるのが面倒くさいことが何なのか目に入らない。

本当に難しいのは単語の組み合わせ方なのである。

リディア語ではこの組み合わせを簡素化している。
道具類についてはアフォーダンスを発揮させる動詞が存在し、イベント類にはそのイベントを発生させる動詞が存在する。
こういった動詞の存在により、コロケーションは簡素化されている。

これはアルカの死生動詞のようなものである。

比喩語義と多義性の排他

「涼しい顔」の涼しいは「冷静な」のような意味だが、He is cool の cool は涼しいではなく「かっこいい」である。

リディア語では比喩的で多義的な語義を単語に与えない。
「涼しい顔」は「冷静な表情」のようにしか言わない。
これにより異言語話者間でも意思疎通が可能になる。

接置詞の豊富さ

英語をノンネイティブが用いると苦戦するのが前置詞である。
英語の前置詞は数が少なく、ひとつひとつが極めて多義的である。
そのためどの前置詞を使えばいいのかしばしば分からない。

日本語の助詞も同様である。「で」には「道具」や「原因」など多様な語義がある。
接置詞の語義が多義だと、異言語話者が適切な接置詞を選択できない。
エスペラントには迷ったときに用いる前置詞が存在するが、そのようないい加減な、すなわちユーザーに責任を押し付けるような手法は取るべきでない。

リディア語は接置詞を豊富にし、接置詞に一意性を与え、ユーザーが適切な接置詞を選択できるようにすることで、ユーザー間の誤解ない意思疎通を可能にする。
これらの豊富な接置詞は同時にすべて「上」や「下」といった基本語であり、どのみち覚えなければならない単語である。そのため学習効率が豊富な接置詞によって悪化することはない。

最大公約数の語義

日本語では稲と米を区別し、兄と弟を区別する。
その一方英語は cow と ox を区別する。
また、日本語は水とお湯を区別し英語や韓国語は区別しない。

単語の語義をどのレベルで定義するかは言語により異なる。
国際補助語としては言語のこの性質はあってはならないものである。
日本のエスペランティストは akvo を冷たいものだと思っている一方、アメリカのエスペランティストは温度について不定だと思っている。
これでは誤解を生じる恐れがある。

そこでリディア語では最大公約数の語義という概念を採用する。
例えばお湯と water、牛と cow の公約数を意味素性で表現すると次のようになる。

お湯：＋液体　＋水　＋熱い
water：＋液体　＋水
最大公約数＝水

牛：＋動物　＋牛
cow：＋動物　＋牛　＋雌
最大公約数＝牛

複数の言語における単語の基本レベルというのはこのような意味素性の最大公約数のあぶりだしで取得できる。
そしてリディア語の語義はそのような最大公約数を採用している。

文法は多数決を反映

リディア語では語義が最大公約数的であり、コロケーションが簡素化され、文化が漂白される。
これらはいずれも個別言語が持つ特性をできるだけ無くして均すという点で共通している。

その一方、文法に関しては類型論的な多数決を純粋に採用する。
というのも、文法は上記で述べた項目と異なり、統計的にどの様式が一般的か数値で示すことができるためである。

例えば基本語順については SOV が最も多いことが分かっているため、リディア語では SOV を採用すればよい。
わざわざ「基本語順は SOV かつ SVO のいずれでもある」というような処置を施すとかえって喋ったり聞き取ったりするときに煩雑でしかない。
類型論はデータが数値的に出ているので、単に多数決に依存するのが最も合理的である。

リディア語の文法は従って類型論的に最も汎用性の高いものを使用する。
例えば基本語順は SOV であるし、対格言語である。奇をてらって能格言語を採用する必要はないし、OSV を採用する必要もない。

数の力に物言わせればいいのである。なにせ芸術言語でなく国際補助語なのだから。

音素は多数決と公約数を反映

音素も文法同様、類型論を参考に頻度の高いものを採用すればよい。
例えば母音は 5 母音体系が最も頻出するため、5 母音を採用すればよい。
有声音と有気音のどちらを採用するかだが、これは類型的に前者のほうが頻出するため、前者でよい。
声調もない言語のほうが多いため、無くてよい。

反面、音には文法と異なりいくつの音素を採用するかという問題が入ってくるため、国際補助語としては最大公約数の原理を採用する必要がある。
例えばファ行、ヴァ行、シャ行、ジャ行は英語など多くの言語で頻出する。しかしそれらを持たない言語も存在するため、最大公約数の原理を採用してこれらを排他した。
国際補助語としては難しい発音しづらい、つまり多くの言語で採用されない音を排他する必要がある。
その上、多くの言語で採用されていてもほとんどの言語で採用されていなければ避けたほうが無難である。

リディア語の特徴

- アプリオリ国際補助語
- 地球でも異世界カルディアでも使用可能。ハイブリッド
- 語彙は万人にとって公平だが万人にとって覚えづらい
- 非分類学的言語
- 非最小限主義的哲学言語
- 国際語ではなく国際補助語として使用用途を制限することで、語彙数でなく概念数を減らし、学習効率を向上させる
- 文化を漂白することで、異言語話者間でも誤解が生じない。エスペラントには未実装
- 語法の画一化により、異言語話者間でも誤解が生じない。エスペラントには未実装
- 「道具のアフォーダンスを発揮させる動詞」などの使用により簡素化されたコロケーション。エスペラントには未実装
- 比喩語義と多義性の排他により、異言語話者間でも誤解が生じない。エスペラントには未実装
- 豊富な接置詞により、異言語話者間でも誤解が生じない。エスペラントには未実装
- 水はお湯でなく水、牛は cow でなく牛など、最大公約数の語義を用いる
- 文法は多数決を反映
- 音素は多数決と公約数を反映

構造

音素

母音：5
子音：11
合計：16

母音

i, e, a, o, u：順序は前舌から順番に設定。

子音

調音点順に列挙。有声音は無声音の後ろに配置。
調音法の多い順に縦に並べる。

閉鎖音：p, b, t, d, k, g
摩擦音：s, z
鼻音：m, n
流音：l：弾き音、ふるえ音、側面音、接近音を異音とし、いずれを用いても良い。つまり日本人にもアメリカ人にもカルディアのほとんどの民族にも発音できる。

文字の順序

上の順に並べる。アルカともアルファベットとも異なり、音声学的に公平に設定されている。

削除された音素の統合先

x, j → s, z
f, v → p, b
c, r → l：c はふるえ音
h → k
ts, tx, dz, dj → s, z：破擦音は s,z に統合

音節

音節

CV のみ認める。最も簡単な音節構造であり、世界中の誰にとっても簡単である。

音節数

子音は 11 種だが、φ子音（無子音）を含めると 12 種作れる。
母音は 5。
従って 12 × 5 で区切りよく 60。

CVCV で 3600 語制定できる。

アクセント

第一音節に固定アクセント。
声調はない。

基本語順

世界で最も頻度の高い SOV を採用。
アルカとは異なる。

しかし格助詞に当たる後置詞を持つため、SVO にも VSO にもなることができる。
語順は基本的に自由。ただし基本語順は SOV であ

る。

品詞

内容詞、後置詞、接続詞、感動詞の 4 種。

内容詞は語順や接続詞との組み合わせで名詞、動詞、形副詞に分かれる。
形副詞は形容詞と副詞を区別しない言い方で、形容詞と副詞に分かれる。

品詞は更に数を減らすこともできるが、減らせば減らす分学習しやすくなるわけでも運用しやすくなるわけでもない。
構造がシステマティックなリディア語には 4 種しか必要ないということでしかない。

後置詞

後置詞を持つ。前置詞はない。

後置詞は豊富であり、どれを選ぶか迷うことはない。
主格の a は動作主と経験者しか示さないし、対格 i は原則として対象しか示さない。
a と i は対語表に則ったものではない。

AN 構造

形容詞は前置される。
リディア語はひとつの単語が名詞にも形容詞にも副詞にも動詞にもなれるため、単語を形容詞化するために接続詞の le を使う。

˥ɪc le ɔɒɪ 大きな犬

A の B

リディア語は A の B 構造で、英語と逆である。

ɔɒɪ e c 犬の目

対語表

語彙圧縮方法のひとつ。
na が「私」だとすると、下の表に従って na は ki に変換でき、ki は「あなた」を意味する。

対語表

ɪ	c
ɔ	e
d	z
b	ɟ
ɒ	ʃ
n	˥
ɑ	φ
l	ɸ

対となる音素はできるだけ調音法や調音点や有声無声を違え、聞き違いのリスクを最小限に抑えてある。

例

ɟcnɪ：好き：ɟccnɪ から ⇔ bi˥c：嫌い
ʃcɪ：愛する：ʃccɪ から ⇔ ɒɪlc：憎む
ɔɒɪ：犬：ɔɒɪ から ⇔ eʃc：猫
˥ɪc：大きい：˥ɪc から ⇔ ncɪ：小さい
cɟɪ：読む：古 clə から ⇔ ɪbc：書く
lec：本：lec から ⇔ ɔɪ：紙

対語の欠点

犬と猫のような恣意的な対語関係を覚える必要がある。
しかし対語表を使わなければ別個に語形を覚える必要があるため、それに比べれば学習が容易である。
上下のように迷うことない対語関係については言うまでもなく学習が容易。

ə

u のみ対語を作らない。
そこで u は参照元の単語が CV の音節に合わないときに、音節の形を整えるために用いる。
例えば mel という人名を melu にし、lan という接尾辞を lanu にする。

代名詞

一人称：na：an から来ている
二人称：ki：na の対語
無生三人称：to（それ）：tu から来ている
有生三人称：me（彼、彼女）：to の対語

時制

時制は過去・現在・未来の 3 種。

過去：ʃɪ：–ɪʃ から
現在：φ（無標）
未来：ɒc：ʃɪ の対語

c：見る
cʃɪ：見た
cɒc：見るだろう

相

将然・開始・経過・完了・継続の 5 相。

将然：lə：ほかの相の音とかぶらない子音・母音を選択
開始：˥c：˥cʃ から
経過：bɔ：ɟe の対
完了：nɪ：˥c の対
継続：ɟe：eɟ から

cbɔ：見ている
cʃíbɔ：見ていた

接辞

接頭辞

ɒc–：自発
ɟɔ–：使役

ɒcc：見える
ɟɔc：見せる

接尾辞

時制や相は接尾辞。その他に助動詞的なものも接尾辞になる。

lɪnə：～したい：lɪn(lɪl) から
ɟenə：～できる：ɟen から

clɪnə：見たい
cʃílɪnə：見たかった

関係詞はない

関係詞はなく、形容詞を作る le と同じ接続詞 le を使って関係詞節に当たるものを作る。

ɲı ı ˥c ı ıbcʃı le ˥ıc le lec c cɟıbɔ. 私はあなたが書いた大きな本を読んでいる。
ın cɟ˥ɔɲ lec ˥ıc le ʃc ılʃıʃ. ←アルカとの比較

人工世界

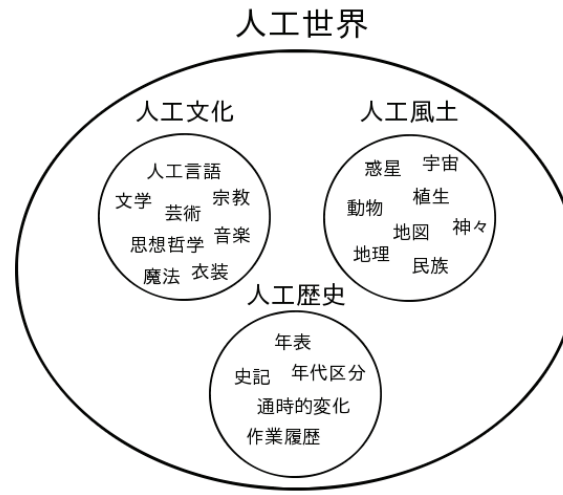
人工世界とは

●人工世界の構成素

世界は共時的要素と通時的要素から構成される。
共時的要素は文化と風土である。通時的要素は歴史である。
すなわち世界は文化と風土と歴史から構成される。

従って人工世界は人工文化と人工風土と人工歴史から構成される。
言語や文芸は文化に含まれる。
惑星や地理や動植物は風土に含まれる。
史記や年表は歴史に含まれる。

以上を図示すると右のようになる。



●人工世界の分類

人工言語同様、人工世界にもアプリオリとアポステリオリが存在する。
また地球に似せたリアリティを持った自然主義の人工世界や、リアリティの薄い人工世界が存在する。
人工世界カルディアはアプリオリ自然主義人工世界である。
そのコンセプトは「現実と見紛うようなゼロから作られたオリジナルの架空の世界」である。

●カルディアの特長

FF（ファイナルファンタジー）や LOR（指輪物語）などは確かに美麗な映像を持っている。しかし言語や歴史など、細部の設定まできちんと定められているかというとそうではない。
「現実と見紛うようなゼロから作られたオリジナルの架空の世界」には必ず「現実と見紛うようなゼロから作られたオリジナルの架空の言語」が必要である。しかしその条件を満たす言語は 2011 年現在で地球上に人工言語アルカしか存在しない。
従って、「現実と見紛うようなゼロから作られたオリジナルの架空の世界」の創造は我々以外には不可能である。ゆえに「現実と見紛うようなゼロから作られたオリジナルの架空の世界」はカルディアが持つ最大の特長である。

FF や LOR は売り物なので売上を気にする必要がある。あくまで商売であり、娯楽である。
一方カルディアは人類がどこまで精巧に世界を作り込めるかという試行実験である。
利益を度外視でき、アカデミックで学究的で高尚である。ここが一般のファンタジーとの違いである。

定義と具現化

●定義と具現化

世界の創造は 2 種類の作業に分類される。
ひとつは定義であり、ひとつは具現化である。
例えば国旗のデザインを定めるのは定義である。それを photoshop などで画像化して読者に分かりやすい形で提示するのが具現化である。

人工世界の創造において重要なのは定義である。具現化は読者にイメージを伝えやすくしたり、読者の目を引くための道具である。あるいは作者が自分で理解を深めるための道具である。
具現化は任意に行なって良いが、優先順位は低い。定義がなければ具体化は絶対にできない。具現化よりも定義が必ず優先される。

●定義の例

・言語制作：人工言語の作成。最も労力のかかる部分。カルディアの場合、人工言語アルカが付随する。

・史記：その世界が始まってから終わるまでの全ての歴史物語。カルディアには幻想話集アティーリがある。

・年表：歴史を通覧するために必要。カルディアにはイルムスがある。

・辞書：言語に含まれると思われがちだが、辞書の文化欄は世界を定義する代表的な項目である。カルディアには幻日辞典がある。

・国旗や暦や娯楽や度量衡などの文化品：実際に作るのではなく、テキストベースで定義を行う。カルディアにはメル暦やメルフィなどがある。

・風水や五行など固有の概念：定義を行うのみ。表などの作成は具現化に分類される。カルディアには魔法理論ドルミーユなどがある。

・地理：世界地図や国内地図。地名やランドマークについて定義する。実際に地図として画像化するのは具現化に分類される。カルディアには惑星アトラスなどがある。

・ランドマーク:橋や塔や山や建物など、ランドマークについて定義する。イラスト化は具現化に分類される。カルディアにはファルシアン宮殿などがある。

・音楽：国家や文字の覚え歌などをテキストベースで定義する。カルディアには幻字の歌などがある。

・芸術：どの時代にどのような芸術家がどのような美術品を作ったかという定義を行う。カルディアにはランスケルン美術館などがある。

●具現化の例

・小説：その世界を背景として使った小説の作成をすることで世界を具体的に表現する。カルディアには『夢織』などがある。

・ゲーム：創ることで世界に対するとっつきやすさを上げ、敷居を下げるとともにユーザーの裾野を広げることができる。カルディアには avelantis などがある。

・漫画：同上。未来技術では 3D モデルを使った漫画の制作が可能になり、漫画家以外でも漫画を制作することが可能になるだろう。カルディアにはねこにっきなどがある。

・アニメ：同上。2011 年現在では未経験の個人がやるのは絶望的である。

・被服：民族衣装を実際に縫って作ることで異世界を具現化する。カルディアにはセリア（浴衣のような服）などがある。

・辞書のビジュアライズ：写真付きの辞典にすることで辞書がより分かりやすく見やすく具現化される。

・国旗や暦や娯楽や度量衡などの文化品：実際に作ってみる。photoshop などで画像として作ればイメージが湧きやすい。

・風水や五行など固有の概念：定義したテキストデータを元に表などを作成する。

・地図：定義した地理データを元に地図を制作する。世界地図や国内地図を作る。

・ランドマーク：橋や塔や山や建物など、ランドマークをイラスト化ないし CG 化する。これによりイメージが湧きやすくなる。

・音楽：国家や文字の覚え歌など、定義したものを実際に演奏したり歌ったりすることで具現化する。

・芸術：デザインや歴史的背景等を定義した作品を実際に作ってみることで具体化する。

●作業分担

幻奏士（世界と言語を創る者）の仕事は定義が中心である。
具現化はあくまで読者の目を引くために行う客寄せパンダに過ぎない。その証左として、売り物のファンタジーは定義よりも具現化に注力している。しかし幻想士の本業は定義を作り込むことである。具現化は外注するか、未来技術が進んでより良い制作環境が実現したときに作ればよいものである。
従って、基本的に幻想士の作業はテキストベースの定義である。

地図考

2012 年にアトラスの世界地図を作りなおした。

●最古の地図

アトラスの最古の世界地図は 1997 年 2 月 24 日に小説版アンクノット 3 巻内で描かれたものである。
それは左に小さな円で「ミスト（現サプリ)」、右に大きな歪んだ円で「アルバザード」と書かれただけの地図であった。

世界地図が出てくるのは同巻 1998 年 1 月 3 日のことであり、ここにはアシェットの家の付近の地図に加え、おおまかな世界地図が書かれていた。
これはアポステリオリな地名の地図であった。

●地図の発展

00 年代になると手書きの世界地図が作られた。

00 年代後半には 100 数国の世界地図が作られた。
これは初のデジタル地図であった。

しかし陸地面積が多すぎる、フォントが古い、高度情報がないなどといった問題を抱えていた。
そこで 11 年から 12 年にかけて新しく地図が作られた。

●新しい地図

カルディアはユマナの双子宇宙なので、かなりの部分でアトラスは地球に似ている。
環境が違ってしまえばとたんに人間の生きられる場所ではなくなってしまう。
例えば陸と海の比率が反対になると、もう人間はその星の気温に適応できない。
人間が生きていける以上、環境は地球に酷似していなければならない。
パンゲア大陸の崩れ方や、海流やプレートなども地学的にある程度一意的に定められる。それは覆せない。

新しい地図はそれらの学術的理論を踏まえた上で、かつ異世界らしさを保った世界として作られた。
新しい地図ではまず原始の大陸がどのように分裂し、どのようにプレートが形成されたかという地点から考えられた。すなわちゼロから作り込まれた。

プレートを形成した後は海流を定めた。
次にプレートを参考に高度を求めた。

高度を求めると自然を利用した国境が定まる。
これらの情報を利用して国境を定めていった。

また、今回 50 ほどの国家を新たに追加した。
地球の人類より行動範囲が広かったアトラスにおいて国の数が地球よりやや少ないのは必然である。

新しい地図は 2012 年 2 月 16 日に公開された。

特別読物

サイトの右上にあるロゴについて

サイトの右上にある人工言語アルカのロゴについて。
これは以下のような形をしている。

ロゴの中に 2 人の人物が見える。
彼らは原始の神アルテが分裂して生まれたエルト神とサール神を象徴する。

魔法学 (dolmiyu) に則り、青 (soret) は男性神エルトを象徴し、赤 (har) は女性神サールを象徴する。
男性は上を向いて女性に手を伸ばしている。天を仰いでいることから、男性が天の神エルトであることが分かる。
女性は下を向いて魔法で火を出している。この火は彼女の豊かな髪の毛も象徴する。地を見据えることから彼女が地の神サールであると分かる。

エルトはサールに触れようとするも手が届かず、髪にのみ触れている。
罫線がちょうど両者を分断する境界線になっており、二人の離別を象徴している。

彼らのポーズはそれ自体がアトリビュートになっている。彼らは次のような幼字を象っている。

青い 6 のような字はフィーリア語の del で、男性の一人称である。すなわち私という意味である。
赤い 9 のような字はフィーリア語の non で、女性の一人称である。すなわち私という意味である。

さて、ところでアルカを意味する幼字は次のようである。

arka という単語は「私と貴方を繋ぐ」という語源から来ている。
これは女性から見た主観的な視点なので、客観的に見ると「ある男性とある女性を繋ぐ」と表現できる。
これを代名詞に置き換えると「del と non を繋ぐ」と換言できる。

さて arka の幼字の字源を見ると、まさしく del と non の組み合わせでできている。
言語は最初の男女の神々によって「私と貴方を繋ぐためのもの」とみなされ、この考え方が arka の字源や語源に通ずるというわけである。

以上は神話上の解釈であり、現実にはもう一つ意味がある。
アルカという単語と字はリディアらが作ったものであるが、後にリディアはアルカを「セレンと自分を繋ぐもの」と認識した。
つまりこのロゴはセレンとリディアをも象徴する。境界線に隔てられた両者を繋ぐものがアルカであるということを意味している。
同時にリディアはカルディアの作者でセレンはアルカの作者であることから、両者が融和して初めて幻奏 (arxidia) になるということも意味している。

経済と体力

* 語りかけに近いので文体を変えています

アルカのような量と質を持った言語 (以下単にアルカ) を作るには、言語学の知識や語学力が必要です。
さらにあらゆる学問や風俗を広く浅く知ることも必要です。
それは皆さんご自覚があると思いますが、意外と見落とされるものがあります。それはお金と体力です。

まずお金。
家が資産家でもない限り、働かなければ食べられません。
日本は定時で上がれる会社が少ないので、事実上アルカを作れるのは学生時代だけです。老後は恐らく体力的に厳しいでしょう。
高校のうちに大学程度の言語学知識等を身につけておき、大学時代に本腰入れて作業すると間に合います。
しかし受験はその分犠牲になり、人生トータルで考えると損をします。

財産があるか定時で上がれれば、大人になってもできると思います。
私の場合、父親が財産どころか在職中に倒れたり、千万単位の借金をしていたので、話になりません。

普通はそこで諦めますが、仕事をしながらアルカを続けました。
すると当然体を壊します。そこで体力の話になります。

私は腰、肩、目、肝臓、胃を壊しました。入院は二十代で三回しました。病気になってなお「おかげで健康関連の単語をリアルに作り込めるなぁ」と思いました。 胃炎になり、十二指腸にも潰瘍ができました。どうにか薬を飲みながら作業しました。
そんなこんなで転職かアルカ撤退かを選ばされたこともありますが、アルカを選びました。稼ぎは減っても食えればアルカは続けられます。

人によって壊す部分は違います。腰に来なくても心臓や脳に来る人もいます。
いずれにせよ甚大な労力がかかるので、どこかしら体を壊すのは確実です。酷いときは一日 20 時間以上 PC の日々で、普通の社会人の二倍働いていたようなものです。

私はもう中年ですから、若い人がウチを参考にアルカを越えてほしいと思っています。体調を悪化させたくないので作り方には応じていませんが、それは言語論やアルカを参照してくださいということです。
ただ、後から私のせいで病気になったと言われても悲しいので、きっちりここで言っておきます。
体は絶対何らか壊します。私の後を継ぐ人は覚悟してください。アルカ並みのものを作れば、その代償として 24 時間 365 日何らかの不定愁訴に悩まされます。
参考までに、体感的には文筆の負荷を 10 とすると、絵が 5 でプログラムが 3 で動画鑑賞は 1 くらいです。そして言語作りはほぼ辞書作業です。

ここで読者は私が単に虚弱なのではないかと思うことでしょう。
私の場合、体調が良いときでも 60kg 程度と華奢です。手足は体重より細く見えますが、これは単にフランスの血によるもので、向こうに行くと私のようなシルエットが大勢います。

社会人になるまでは Fighting などからバーベルを取り寄せて自宅をジムにしていました。スクワットは浪人時代に 1200 回連続記録があります。また、武道の経験も多少あります。従って筋力は元々あるほうです。
持久力はというと、ロードレーサーでない自転車で埼玉から京都まで走ったことがあるので、これも人並みを大きく越えます。むしろ学者肌の人間には珍しい部類といえます。
ゆえに私に特別体力がなくて体調を崩したと考えるのは合理的でありません。

物作りは物ばかりに意識が行きますが、作る環境について考えるのも大事なことだと思います。

制作環境

アルカ関連の作品はフリーソフトと家にあったものと本で作っています。
adobe のマスターコレクションや音声・音楽関係のソフトがあれば良いものが作れますが高価です。
ほぼフリーなので、読者さんも作ることができます。「金をかけずにどこまでできるか」というのもひとつのあり方だと思います。

ネイティブの恐ろしさ

xia1538(2011/5/24) のこと、娘が私の絵を描いて見せてくれた。

"ɔə, ʃə eʃ lecɟ ɪnʃ lɪ, ɟenʃɪnʃ"（あ、これ俺の絵だね、ありがとう）

――と言ったら、彼女は怪訝そうな顔をしてこう言った。

"ʃee, ʃə eʃ lecɟ nɔnɔ ɪnʃcɟɟe, eʃ lecɟ e ʃɥə ɪnne"（ううん、これは紫亞の絵で、パパの絵なんです）

一瞬、意味が分からなかった。その後思い出した。
leis ant は「私が所有する絵」や「私が描いた絵」を意味する。
一方、leis t'an は「私を描いた絵」になる。

だからここでは leis tuan でなく leis e tyu になる。
つまり彼女は「ううん、これは紫亞が描いた絵ですよ。そしてこれはパパを描いた絵なんです」と言いたかったわけだ。

こういうことは調べてみればきちんと幻日に書いてある。だが書いた本人でさえ辞書一冊まるまる覚えるのは不可能だ。
作者が 20 年かけてやってきても、まだこんな基本的なことで間違え、それをたった 4 才の幼女に訂正された。自分の努力は何だったんだろうとショックを受けた。

アルディアこぼれ話

●原案では日刊だった

実は原案では日刊でしたが、批判を受けて月刊に変わりました。月刊になった理由は下記のとおりです。

歴史には内容の濃い日と薄い日があります。特に何もない日は書くことがありませんし、大事件が起こった日の記述は長くなります。
日刊にすると文量が日によってまちまちになってしまいます。これだと全体を通して書く量は同じでも、読み手に負担がかかってしまいます。
当初の案は日刊でしたが、「一日分の文量が不安定」、「一気に読みたいのに細切れにされると読みづらい」などの批判を受けて廃案となりました。
代わって週刊と隔週と月刊が候補に上がりました。月刊だとある程度まとまった文量を読めるし、起承転結も分かりやすい。加えて日刊と異なり、内容の濃い日と薄い日の文量の格差を平均化することができる。これらのフィードバックを受け、月刊案が採用されました。

●対訳の書式について

・左がアルカで右が日本語という左右対訳形式の是非

こう思われた方もいるのではないでしょうか。
「画面を左右に区切って、左にアルカ、右に日本語を書けばいい。対訳されていて見やすいはずだ」

おっしゃるとおりです。そして最初はそのように企画していました。
実は最初の段階ではこういうページになっていました。

ところがこれには欠点がありました。
左右の文量が異なるので、左右で徐々に文の始まる高さがずれていくのです。
章ごとにズレを修正したのが実は上記のページです。でも、お使いのマシンによっては章ごとの頭がずれている可能性があります。
その原因は web ブラウザや画面の解像度です。スマホで見るか PC で見るかなどによっても変わってきます。
上記のページは作者の PC で見たときに章の頭が揃うように空白行をアルカ文に入れたものです。ですが環境によってそれも崩れてしまいます。
環境は読者ごとに異なるので、章ごとに文の頭を揃えるのは不可能です。

・では pdf にすればどうか

そこでワードで書いて pdf にして掲載という方法が考えられました。
ところが中には pdf というだけで面倒くさいとか取っ付きにくいとして読まない人がいるのですね。
そうでなくとも確かに pdf じゃ html に比べて開くのに一手間余計にかかるので面倒くさいのは分かります。

また、仮に pdf にしたところで、結局ソノヒノキのような形になるわけです。
あれは幻日間の各段落の開始する高さを揃えるために、幻文に無駄な改行を極めてたくさん加えています。
このせいで、幻文だけ読もうと思ったときに、非常に見苦しい。
加えて行間は段落ごとの意味上の区切りも示します。文頭の高さを揃えるための文意と関係ない空白行が入るせいで、段落ごとの意味上の区切りが分からなくなります。文章としてこれは非常に見苦しい。
そして何より、ソノヒノキの対訳を自分で全く便利と思えないのです。

・左右対訳は一見使いやすいようで実はそうでもない

書籍で左右が日英に分かれているものがよくあります。一見便利そうに見えます。でも思い出してみるとああいう書籍で勉強して身になった記憶があまりありません。
そもそも日本語が書いてあるとそっちに頼ってしまう傾向にあります。

それよりも最大の問題は、左右に書いてあれば見やすいだろうと思いきや、案外そうでもないということです。
左右に書いてあっても幻文を読んで対訳を探すのには手間がかかります。そして和訳を見つけて幻文に目を戻すときも、「あれ、どこだっけ？」となることがしばしばです。というよりほぼ毎回です。

これは英語の教材でも同じです。どうりで対訳物で身になった経験が少ないはずです。
結局ああいう本を使おうとすると、一度英文を指で押さえておいて和訳を探し、目を戻したときには指の位置で元の英文の場所を確認するという使い方になりますが、非常に面倒です。効率が悪いので、案外便利そうに見えて対訳形式は便利でありません。

今回実際に対訳形式で上記のように作ってみて、やはり英語教材と同じ欠陥に行き着きました。これでは駄目だろうということで、対訳形式は止めて、日本語版は日本語版で別途作るという方法に切り替えました。
作業量は変わらないので楽にも苦にもなりませんが、同時に使いやすくなったわけでも使いにくくなったわけでもないので、なんだか釈然としない感じです。上記の対訳形式のフォーマットを作るのも手間がかかっているので、なんだか損をした気分でした。

・一行ごとに訳を挿入するという方法

なお他にも案としては、一行ごとに幻日を交互に混ぜていくというやり方も考えられました。ですが幻文だけ或いは日本語だけ読もうと思う人にとっては邪魔臭くて仕方がないということで、廃案になりました。
また、この方式だと一行ごとに訳が入って言語が変わるので文全体のテンポも悪くなります。
加えて、訳を見ずに読解練習をしようと思っている人にとっては否が応にも訳が見えてしまうので練習にならないという問題があります。

・テキストの上にマウスを持っていくとホバーで訳が表示されるという方法

これも検討しましたが、それだと読者が訳文を自由にコピーしたり、日本語版を通して読んだりすることができなくなります。
それに、スマホなどのマウスを使わないもので読む場合はどうするのでしょう。

・結論

結局色々小細工を練った挙句、日本語版を別途作るという最もベタな案に軟着陸しました。

思うに、上記のホバー作戦＋日本語版作成という二刀流がベストな気がしますが、一文あるいは一段落ごとにダミーの a href を貼って訳文をホバーさせるには非常に労力がかかります。そんなことをしている時間があったら執筆活動に宛てるべきだという結論に達し、廃案となりました。

・それでも対訳形式で読みたいという方へ

ブラウザで幻文と和訳をそれぞれ別のページで表示し、横幅を縮めて左右に並べるか縦幅を縮めて上下に並べるかというやり方で、実質同じ効果が得られます。後者のほうがやりやすいと思います。
ただ、読みにくいから廃案になっただけあって、多分読みにくいと思います。

●序文の仕掛け

序文は一見何気ない文書に見えますが、実は物語の根幹となる重要な部分です。
序文には数多くの仕掛けがあり、ちょっとした構成にもそれぞれ意味があります。

例えば「かみさまの懺悔」には男性が空を見上げ、女性が俯くというシーンが出てきます。
これは文学的アトリビュートで、男性を天の神エルト、女性を地の神サールに準えています。エルトとサールとは、この世界の最初の男女のことです。
空を見上げだり俯いたりといった二人の何気ない所作が、この二人が物語の原初となる人物であるということを象徴しています。

また、「時詠みの少女」の中の段落は常に 4 行を中心とする偶数行になっています。そしてこんな細かい部分にもきちんとした意味があります。
このように、序文には多くの仕掛けがあります。仕掛けの真相は徐々に明らかになっていきます。
文学的アトリビュートは序文のみならずアルディアの随所に散りばめられており、アルディアの攻略をより難解なものにしています。

●序文の天気

序文は春に既に書いていたのですが、晴れを想定していました。7/19 にあの公園で雨が降ったのは 20 年で小雨が一度程度だからです。
正確には僕が覚えているのはここ 15 年ほどですが、ともあれ小雨一回でした。

今回台風が来たので念のため差し替え用に雨用のシナリオを用意して、8 時に公園に現地入りしました。
7:40 に駅に着いたときはどしゃぶりでしたが、この日の雨は間欠泉のように断続的でした。
8 時前に止み、そこから 15 分間は全くの晴れ。公園を出て駅に行っても晴れ。電車が来る 30 分まで晴れ。
家に着いても晴れで、結局 9 時頃まで晴れでした。その後 9 時台にまた降っていましたが。

というわけでアルディアは奇跡的に台風接近にもかかわらず、序文を修正せずに済みました。
現地調査までした甲斐がありました。なお、未来用の証拠として、ビデオもスマホで撮ってあります。

●発足日について

アルディアは (4)02 年ラルドゥラの月パールの日から始まります。
よって 1 年目に関しては、左のタグはラルドゥラの月から始まることになります。2 年目以降はリディアの月から開始します。

アルディアは毎月リディアの日に前月の分が掲載されますので、最初のラルドゥラの月の分はザナの月リディアの日に公開されることになります。
これは西暦でいうと、2011 年 7 月 13 日水曜日に当たります。この日に 6 月 24 日から 7 月 12 日までの記事が初回分として掲載されます。

ところで、アルディアはもともと日刊の予定だったので、7 月 19 日に新サイト設立の告知をするとともに最初の記事を掲載する予定になっていました。
ところが月刊になったことで問題が生じました。7 月 19 日はザナの月ラルドゥラの日なので、7 月 19 日の内容はパールの月リディアの日に掲載されることになります。つまり、7 月 19 日に告知しても本編に何も記事がない状態がしばらく続いてしまうということです。
そこで設立日の 6 月 24 日から記事を作ることになりました。これだと 7 月 13 日に前月分が掲載され、7 月 19 日に公開したときに本編が空になりません。

ちなみに 6 月 24 日に設立した理由ですが、作者の恩師が初めて作者にアプローチをかけたのが 1991 年 6 月 24 日だそうで、験を担ぎました。
もはや記憶にありませんが、作者が子供の頃から通っているスーパーとその近くのコンビニの間にある道で彼女の落し物を拾ってあげたのだそうです。

●アルディアができた経緯

本作の構想は 1991-2011 年までの間に徐々に形成されたものですが、いくつか屋台骨となったものがあります。

ひとつ目は 95 年 8 月 10 日に始まった小説版アンクノットという物語で、ordin 時代の原型となる話です。
ふたつ目は 00 年代に段階的に形成された歴史書イルムスです。
みっつ目は異世界の現代社会を形成した「ミロク革命」という出来事です。
そして最後が 2011 年 4 月 6 日に着想した「異世界が終わる最後の 20 年間をリアルタイムに書く」という案です。
これらが組み合わさって最終的に本作になりました。

リアルタイムに歴史を書くという案は「アルバザードの新聞のヘッドラインを作ったらもっとファンタジーに現実味を出せるだろうか」というアイディアから派生しています。なお、この新聞の案は 00 年代後半に着想したものです。

2011 年に活動 20 周年という節目を迎え、アルカを続けるのか辞めるのかだいぶ迷いました。
09-10 年頃は、本作に近い作品をアルカと関係ないところで進めていました。この頃はアルカを切ろうという思いの方が優勢でした。
結局、今までのようなアルカ制作中心のやり方に終止符を打ち、今度は人工言語学やアルディアを創っていこうということになりました。アルカはその中で用いられるひとつのツールという位置付けになります。

●なぜ 10 年かけて創ろうと思ったか

ひとつには、それがアルカを作ってきたのと同じ期間だからです。作ってきた分だけ今度は使ってみようと思いました。使ってこその道具だと思います。

ふたつ目は、この手の作品が人類史上初のものだからです。リアルタイムで進む物語、アプリオリな自然主義人工言語と人工世界。これらの要素を持った極めてリアリティの高いファンタジーはまだ人類が着手していないもので、そこに意義を感じました。使命感を持ってライフワークにできればと考えています。

みっつ目は子供のためです。ふだん一緒に居ることができないので、何か自分でなければできないものを贈りたいと考えました。将来ありがたいと思うか的外れでどうでもいいと思うかは彼ら次第ですが、物語を読むことの中に父親の存在を見出してくれれば幸いです。

そして最後のひとつは好きな人のためです。ふたりの世界を創ろう、そしてそこでもう一度恋をしようと約束しました。

人工言語屋の仕事

・３種の仕事

人工言語屋の仕事は 3 種類に分かれる。
1 つは言語の創り込み。1 つは言語を使った作品の創造。1 つは言語の普及。
これらは上に挙げた順序で重要である。

人工言語屋に与えられた作業可能な時間は有限である。どう労力を割り当てるかが課題である。
割り当ては作者の考え方や言語の種類によって異なる。
一般に国際補助語にとって言語の普及は重要課題であるが、架空言語にとってはそうでない。

架空言語も普及を目指すものとそうでないものがあるだろう。その比重は言語による。
例えばアルカは他の架空言語に比べ、普及に割く意欲が極めて低い。
しかしそんなアルカもサイトの英語化をしている。
ただこれは普及が目的ではなく、現在の事実上の国際語である英語にすることで、歴史に遺る確率を高めるためである。

・アルカにおける労力の割り当て

アルカは言語の創り込みを特長としている。よって創り込みに割り当てる割合が最も多い。
アルカの作者は、「人工言語屋本人はただひたすら言語の創り込みに時間を割くのが理想的である」と考えている。
しかし協力者や理解者の獲得のためには、作品の創造や言語の普及をせねばならない。
本来これらは無駄な作業である。作品はユーザーが作るのが理想的である。だがそう簡単に客は付いてくれない。
そこで最初の頃は作者自身が作品を作り、普及活動をし、ユーザーを集めねばならない。

最初の作品は小説や絵や漫画などのコンテンツである。
作者自身が多芸で、これらをこなせなければならない。
この作品を元手にユーザーを確保する。
そして絵描きなどの才能を持ったユーザーにコンテンツを作ってもらう。これが理想的である。

アルカの場合、まさに上記の計画通り事が運んだ。
さしもの自分も高品質なゲームまで作る人間が出るとは思わなかった。嬉しい誤算である。

しかしそれには５年以上の歳月を費やした。協力者の獲得は容易ではない。若者は特に忍耐が必要である。

アルカの作者は絵も描くし音楽も作るが、どれも拙い。本業はあくまで言語である。
作者がすべき創作はせいぜい小説を書く程度であるべきと考える。
それ以上の手の込んだコンテンツはユーザーに任せるべきである。
そういう人間が出てこないのであれば、外注するか自分でやるか作業を簡単にしてくれるソフトを導入するなどして対処する。
あくまで作者は限りある労力を言語の創り込みに費やすべきである。

・ザメンホフとイェフダー

ザメンホフは言語の創り込みに労力をあまりかけず、普及活動に注力していた。
上記の価値観でいうと、彼は生粋の人工言語屋ではない。たとえ彼が業界内で最も有名だったとしてもである。
むしろ知名度の低いイェフダーこそ、生粋の人工言語屋である。彼に敵う人間を私は知らない。この私とて、遠く及ばないのだ。

・翻訳

言語は必ず任意の言語で制作する。例えばアルカは日本語をメインに作られた。単に私が日本人だからである。
これを翻訳するのは普及に当たる。国際補助語では重要だが、架空言語ではそれほどでもない。

アルカは本質的にその価値観を共有できる少数の人間の間で有界的に愛でられる言語である。
よって、価値観を共有できない人間に無理に広める気はないし、むしろ迷惑とすらいえる。
ジュンク堂のような大きな書店をエスペラントとするなら、アルカは狭い裏路地の小さな古本屋であるし、そうありたいと思う。
その古本屋の独特な紙の匂いに惹かれた人間が、路地を通る猫に案内されて迷い込む。そういう言語でありたい。

だからアルカにとって英語化という翻訳は本質的に必要ではない。
アルカは英訳をしているが、それはアルカという言語がこの世に存在した事実を刻むためであり、広めるためではない。

英訳には大きな労力がかかる。アルカのコンテンツを全て英訳するとしよう。その労力を使えばどれだけアルカの文書が作れるだろうか。
生粋の言語屋として損得勘定をすれば、天秤は翻訳に決して傾かないはずだ。
であればこそ、アルカの英訳はあくまで「存在証明」程度のものでしかなく、辞典などのあらゆるコンテンツを訳す必要はないと分かる。
私は最初そのことが分からなかった。翻訳に着手して初めて、いかにその労力が無駄であるか、アルカの文書を作ることに労力を回すべきかということに気付かされた。

・英語嫌い

私は英語でお金を得ているが、英語と中国語が嫌いである。
英語の表現力の乏しさ、抑揚のうるささ、強弱アクセントが作るラップのようなリズムを持った落ち着きのなさ。これら全てが不快である。
一人称はＩしかないし、ひだまりのような柔らかな自然表現にも妙訳がない。細かい終助詞もなければ、話者の口調を示す言葉も乏しい。
中国語はいわんやで、あれはそもそも人間の言葉に聞こえない。私は新聞を読める程度には中国語ができ、中国人と簡単な会話も可能だが、それでも嫌悪している。

英語の表現力の乏しさは文献を対照していてしばしば思う。
英語のほうが細かく言えていてさらに言い得て妙だというケースはほとんどない。

その自分にとって英訳はそもそも不快な作業である。
まして言語屋の本分が言語の創り込みであるならば、英訳は最小限に留めるべきである。

私がすべきことは、残された稼働力でいかに多くのアルカを書けるかである。

・日本語好き

そもそも私は白人が嫌いだ。細やかな感性や機微の理解できないガタイのデカい連中が生来嫌いである。自分自身フランス人の血が入っていてもである。
とりわけアメリカ人の浅い文化が嫌いだ。彼らの大雑把で芸のないものづくりは唾棄すべきものと考える。

逆に私は日本人の繊細さが非常に好きだ。特にサブカルは世界に誇る文化であり、他国を圧倒している。日本人のものづくり、職人芸は素晴らしい。
そして同様に日本語が好きだ。アルカとどちらが好きか分からないくらい好きだ。
特に歌ともなれば、迷うことなく私は日本語を選ぶ。大学の頃にワールドミュージックにハマって世界中の

曲を聞いたが、結局日本語の歌が最も心地よかった。
私がアルカで歌を作りたがらないのは、本質的に心がアルカの歌より日本語の歌を好むことを知っているからである。
なお、日本社会と日本人は好きではない。特に行動も決定も遅く閉鎖的で人の足を引っ張るのが好きな国民性と、未だに事実上封建社会のような社会制度が気に食わない。

とはいえ、繰り返すが日本文化は素晴らしい。特にサブカルは素晴らしい。
そして繊細な表現が可能な日本語は素晴らしい。
日本に生まれて何が良かったかというと、サブカルと日本語があることである。

だから私は大好きな日本語で自分の子供であるアルカを作れて、とても幸せである。
だがひとつ不幸なことがある。それは日本が斜陽で、日本語が国際的なシェアを失っていくことである。
それさえなければ——もっといえば太平洋戦争で負けてさえいなければ——表現力の浅はかな英語などを使ってコンテンツを翻訳することなど、絶対にありえなかったことだ。

・翻訳の必要性

日本語のシェアは世界全体で見れば巨大である。しかし上位 10 位以内で見れば低い。
英語にしておかなければ未来に繋がらない可能性が高い。
だからある程度翻訳をして、アルカが存在することを主張する必要がある。

ただし存在を主張することが目的なので、細かいところまで訳す必要はない。
労力が無限に割ければすべて訳しても良いが、実際のところ労力は有限である。
その労力は自言語の文書作成に費やすべきではないか？　それこそが言語屋の仕事ではないか。

・外人にアルカが理解できると思えない

アルカの founders を除く外人にアルカの細やかさや心の機微が理解できるとは思えない。
とりわけアメリカ人のような大雑把な連中や、中国人のような品のない連中に理解できるとは思えない。

自分はアルカの価値観を共有できる人間としかやり取りをしたくない。
エスペラントやキリスト教のようにただひたすら広めればいいという考えはない。
価値観を共有できない人間が集まっても宗派ごとに割れるだけだ。無駄無駄しい。
だから多くても数十人、少なく見積もれば数人、最悪自分と大切な女性の 2 人だけで共有できれば良いと考えている。

私の大切な女性リディアは私とふたりだけの狭い世界を求めている。私もそれに基本的には同意する。
しかし男の私は子供が産めないから、何か自分が生きた証を遺したい。それがアルカなのだ。
ゆえにリディアとの間だけで終わってしまうこともまた耐えられない。だからこそアルカを歴史に遺したいと思う。
生きている間は価値観を共有できる人間とだけ接していたい。だが死んだ後のことを考えると、遺すことも考えてしまう。
そこで翻訳の必要性が生まれる。ただし有界な範囲で。

なぜ有界かはもう語った。
ひとつは労力を言語の創り込みに割くべきだから。
ひとつは外人にアルカの細やかさが理解できるとは思えないから。

仮に外人がアルカに興味を持ったとしよう。しかし彼らとは英語でやり取りすることになる。
だが英語のような無神経な言語ではアルカの細やかな機微を理解することができない。
実際彼らは「はじめてのアルカ」の萌えを理解できないだろうし、紫苑の書の面白さも理解できないだろう。
reia, adiiyu, fian などにある機微や、lukletia, dolmiyu などの価値観を彼らの粗野な心で理解できるとは思えない。

だから私は英訳しても日本のネットユーザーのような友人を作ることはないし、共感しあうこともないだろう。
最低限の英訳をアルカの存在証明のために行うにすぎない。

・日本は案外沈まない

日本は斜陽ではあるものの、10 年 20 年のスパンで亡国するほどのことはない。
私は最短で今日明日、最長でも 2033 年までしか生きないが、少なくともその間に日本が滅ぶことはないし、アジアの強国であることも変わらない。
仮に財政破綻したとしても、だ。
だとすれば無理に英訳に拘る必要もない。

逆に言えば英語だって百年単位で見れば国際語の地位を失っていることは想像に難くない。
頑張って英語にしたところでたった百年後にはもう別の言語にお株を奪われているのだ。
そして百年経っても日本語はそれなりの規模で残っている。
ならば日本語とアルカでできるだけ多くの情報を遺しておくべきではないか。翻訳という無駄な複製にそこ

までの時間をかけるべきではない。

ましてこう考えてはどうだろう。
百年後には今より優秀な翻訳機ができているはずである。そうなったら我々の翻訳作業は徒労に終わるではないか。
よほどアルカで多くの文を作っておけばよかったということになる。
そういうことを考えていくと、やはり我々がすべきことは自言語のデータをより多く遺すことなのだ。

・我々の本分は

我々の本分は言語を創り込むことである。
翻訳は同じものを二倍以上の労力をかけて duplicate するだけのことであり、生産的でない。
言語の普及もまた同様に必要以上にすべきことではない。
同じ価値観を持った少数の人間と付きあえばよい。
無駄に広めればむしろ純粋性が失われてしまうリスクすらある。

我々の本分は言語を創り込むことである。
見習うべきはザメンホフではない。イェフダーである。
どちらも架空言語に属さないが、両者には明らかな違いがある。

我々人工言語屋の本分は、自分たちの言語を創り込むことである。
ゆめゆめそのことを忘れて脇道にそれてはならない。
稼働力は限られている。時間がないか金がないか体力がないか。それらすべてが揃うことなどまずない。それに、たとえ全て揃ったとしても時は有限である。
自分が生涯打てるキーボードの回数は有限である。少しでも多くの自言語のコーパスを編まねばならない。

言語など 5 ～ 10 年もあれば骨子は創り込める。
あと残った作業はひたすらコーパスを作ることである。

英文ライティングをしていて分かったが、ライティングでもスピーキングでも、言語を運用する際に最も重要なのはコーパスである。
最も効率的なやり方は英借文であり、それにはチャンクの記憶とコーパスの利用が欠かせない。
逆に言えば言語などというものはチャンクの記憶とコーパスの利用さえできれば後は簡単にできてしまうものである。
ともなればいかに作り手としては質の高いコーパスを大量に作るかが課題である。
人工言語において最も正確なコーパスは作者かネイティブしか作れない。自分でやるしかないのだ。

歴史に残るには

芸術言語が偉業として歴史に残るには、大作を通じて未来人に継承するしかない。
英語にしても日本語のままでもどうせ 100 年経ったら情報は古いわ言葉遣いは古いわで、ロクに読めたものではない。

エスペラントのように作者の死亡後も誰かが後を継いでくれないと歴史に残らない。なかったことにされてしまう。
だが国際補助語はともかく、芸術言語は作者の理想の世界を体現したものだから、作者の死亡後はそうそう残るとは思えない。
芸術言語は国際補助語のような分かりやすい価値観がない。個人の趣向に対する共感者はそうは多くない。

トールキンのように作品自体が人気になり作品を通して言語が残るしか、芸術言語には後世に残す方法がない。
しかし現代はトールキンの時代と違ってコンテンツの供給過剰が起きている。この状況で未来に注目を集めるような作品を残すのは至難の業である。作品作りが重要なのは分かるが、現代では未来まで残るコンテンツを残すのは難しい。

また、情報が消失するリスクもある。
意外なことに紙の本は 100 年後にも残っているが、電子データは残っていない可能性がある。
というのも、公式サイトや幻日辞典が依拠しているドメインやサーバが 100 年間作者の死後自動で残るはずがなく、いずれ消えてしまうためである。誰かが保存しておかなければ一瞬にしてゼロになってしまう。
一見電子データは複製がしやすいので保存しやすいように見えるがそうでない。堅牢な国会図書館の紙媒体のほうが 100 年後のことを考えるとよっぽどデータが残っている可能性が高い。

紙の本はいずれ懐中時計のようなアンティーク品になる。それは間違いない。
だが 100 年後の未来で考えると案外保存性の良い実用的な記録媒体と言えるかもしれない。

そういうわけで 2011 年の 12 月ごろ、自分のやるべきことは「いつ落ち目になったり古くなったりするか分からない英語への翻訳作業」ではなく、「指輪物語のような大作の制作」なのだということに気付いた。

その作品がカルディアのすべての歴史を描いた神の夢『アルディア』であることは容易に決定された。
トールキンでさえ作品を全編人工言語で記していない。全編人工言語で綴った人工世界の物語を訳付きで残しておく。これは快挙だ。
訳の日本語は 100 年もすれば古くなるが、それが最も後世に作品を残す確率を高める方法であろう。

もしくはアルカのネイティブが子供を産んで人力で一子相伝していくとか、ユーザーがユーザーにバトンタッチしていくという手法もあろう。
まず前者に関しては、人工言語という閉鎖的な環境で育てることに倫理的な問題があるので少なくとも私は望んでいない。
後者に関しては、その手法だとエスペラントのように作者の意向や本懐がきちんと継承されずに不純化してしまうリスクがあるため、好ましくない。芸術言語は作者の死亡が純粋な言語と世界の死亡を意味する。そしてそのことは国際補助語より芸術言語において問題となる。

よってこれらは 2 案とも推奨されない。

やはり大作を残しておいて未来に繋ぐという手法しか現実的にはないだろう。
それとて未来人が私の意図した内容をきちんと継承することはないだろうから、不完全でしかない。
しかし私は永遠には生きないので、それは仕方がないことなのだろう。継承には限界があるということだ。
純度を保ったまま継承するのは物理的に不可能である。

いずれにせよ、芸術言語が歴史に残すためにやるべきことは大作の制作とその流布と保存である。

未来人との戦い

人工言語と人工世界をアプリオリでゼロから作り込む。
人工言語制作において最も難易度の高い分野である。

この分野を実践している人間は 2012 年現在地球上にほぼおらず、アルカ規模になると全く存在しない。
アルカとカルディアは時代の特異点であり、オーパーツである。
本来ならこの時代に存在するのはまだ早い。もう少しコンピュータやインターネットが進化してから生まれてくるはずだった。

アルカが人工言語史の本来あるべきだった歴史を先取りしているのは、作者が未来を見据えているためである。
端的に言って作者は現代人など相手にしていない。戦っている相手は未来の自分たちである。
なぜそうしているのかというと話は単純で、まず現代にアルカの相手になる言語が存在しないためである。
そしてもうひとつの理由は、アルカを人工言語史に遺すことを考えているためである。

現代にはアルカと戦える相手がいない。現代人などハナから相手にしていない。
私が他の人工言語にも人工言語制作者にも関心を示さないのは、ライバルになりえるほどの人材がいないためである。
ライバルがいるとすれば遥かに技術の進歩した未来にしかない。だから常に未来人から見て今の自分はどう見えるかしか意識していない。この感覚が一般人には分からないようだ。

私は未来人と戦うにはどうすればよいかをずっと考えて作業してきた。これは古い刀で新しい銃と戦うにはどうすればよいかという問題に似ている。人工言語の制作は、言語自身や辞書やコーパスという一次データの制作と、小説やイラストや漫画やゲームやサイトなどといった客寄せのための二次データの制作に大別される。
後者の作業は——少なくとも私にとっては——現代人に自らの言語を知らしめることで未来に自言語を繋ぐために行うものである。
あくまで後者は未来人と戦う土俵に上がるための作業にすぎず、言語自体の作り込みは前者でしかありえない。

言語作者の仕事はあくまで前者。後者は宣伝にすぎない。
だからできるだけ作者は限られた労力を前者に充てるべきである。
しかし悲しいことに後者を他人に外注できるほど、最初のうちは理解者や賛同者が現れない。
従って作者はオールラウンダーにコンテンツを作る能力を持っている必要がある。
小説、絵、漫画、歌など、全てそれなりに作れる必要がある。言語以外に、である。恐ろしく器用である必要がある。

さてその後者のコンテンツ作りであるが、この点において未来人は我々より優っている。
例えば 2012 年現在漫画を個人で外注して作ろうとなると、一冊当たり 100 万前後の金額を要する。
外注しない場合、漫画という技術を自分で身に付ける必要がある。その上何年かの時間をその作業に宛て、言語制作をストップするリスクを負わねばならない。
漫画をセミプロなどにネット経由で依頼すると、ページ単価が 5000 ～ 10000 円程度になる。5000 円だとしても 200p で 100 万円である。

ページ単価の高さの内訳はほとんどが人件費である。
漫画を書くにはネームを作成し、下書きをし、線画をし、ベタやトーン貼りをし、背景を描いて吹き出しに写植をせねばならない。
知人の漫画家によると、1 ページにつき 6 時間ほどはかかるそうである。

だがこれは 10 ～ 20 年もすれば状況が一変していることであろう。
3D データでキャラや背景素材などを作り、ポージングをして配置をし、写植をする。
一度モデルを作ってしまえばどの角度でもどのアングルでも簡単に描ける。
この方法なら従来よりも遥かに効率よく漫画を制作することができる。しかもカラーでである。
そして何より絵を描けない人間にも漫画を作ることができる。

この構想は 2000 年代に思いついてそのように将来なっていくだろうと考えていたが、コミ PO というソフトの出現により、自分の予想が正しいことが証明された。
恐らく今後はこのような 3D モデリングを用いたカラー漫画が 10 ～ 20 年の間に台頭してくることだろう。
従来の漫画の制作方法は変化していくものと思われる。
そうなった場合、白黒の 2D 漫画は現在の白黒映画と同じく古めかしいものになるだろう。

つまり未来の人工言語制作者は今より簡単に、しかもフルカラーで漫画を作ることができるのである。
もし現在我々が何年あるいは何百万もかけて漫画を作ったとしよう。それを未来人はあっさりと短期間で済ませてしまうわけだ。
これではコンテンツ制作という面において未来人と張り合ったところで絶対に勝ち目はない。
未来人から見ればしょせん現代のコンテンツなど時代遅れにすぎないのだ。
現在コンテンツを作ることは現代人に自言語を知らしめる方法として有益であり、現代人に普及させることは未来人に自言語を繋ぐという点において有益である。
しかしそのコンテンツで未来人を魅了することはできない。あくまで未来人にバトンタッチさせるために現代人を引き込む――そのためだけの道具にすぎない。

さて、コンテンツ作りで未来人と対抗しても勝ち目がないとは述べた。
では我々は未来人とどう戦えば良いのだろうか。
それは未来人といえど決して機械化・自動化できない分野において渡り合うことである。

未来には良い翻訳機が作られていることだろう。遠い未来には自言語を作ったら今より簡単に各国語に変換できるものと思われる。
コンテンツも簡単に作れるだろう。漫画だけではない。アニメもゲームも簡単に作れるようになっていることだろう。
だが辞書・コーパス・小説・世界設定の制作は人間が自分で作業しなければならない。
将来的には文書さえ機械が膨大なコーパスとパターン分析を用いて自動で作成するだろう。
だがそれは定型的な文書に限られる。ゼロから異世界や異言語を作るといったイレギュラーかつクリエイティブな文書の作成は機械ではできない。そこはあくまで、たとえ何百年経とうと、人間がやる仕事なのである。

つまり異世界と異言語をゼロから作ろうとすると、その一次データは結局人間が作らねばならないということである。
ここに我々原始人が未来人と対抗できる唯一の糸口がある。
結局コンテンツというのは他人を魅了する道具にすぎず、一次データこそが言語や世界そのものの作り込みの尺度になる。
その一次データの制作は未来人でもサボることができない。つまり言語と世界の作り込みは何人たりとも横着することができないのである。

だからこそ我々が行うべきことは、一次データの制作なのである。
結局一次データが作りこみの度合いを反映し、そこだけは自動化できないので、最も重要な部分がいつまで経っても自動化できないということになる。
そう、幸いなことに制作作業において最も重要な部分がいつまで経っても自動化できないのである。すなわち核の部分は未来人だろうと我々だろうと横着できない、平等ということである。

もっとも、未来人は今より簡単で便利な入力デバイスを用いるだろう。
音声入力で文書制作をし、腰や肩を痛めずに大量の文書を打てるようになるだろう。
ネットで得られる情報もさらに豊富で便利になり、造語をするときに行う概念に関する調査も今より簡単に行えることだろう。
そういう意味では一次データの制作もやはり未来人のほうが有利である。
有利ではあるが、決して自動化はできない。だからこそ我々はこの核の部分で戦うしかないのである。

私は現代人など眼中に無い。未来人と対抗すべく、一次データを作り込む。そこに信念と命をかけている。
そうして生きてきたし、これからもそうするだろう。
人工言語のような金にならないものをここまで作り込むのはイェフダー以来であり、芸術言語においてはトールキンを抜いて初めてであろう。
トールキンでさえここまでの精度と量で世界と言語を作り込むことはしなかった。

自分が戦っているのは未来の自分である。正確に言えば、未来のある時点で台頭するであろう自分のような人工言語屋である。
もし自分が未来人で同じような熱意を持って人工言語を作ったらどうなるか。その自分と渡り合うにはどこで勝負すればよいか。
そればかりを考えて何年も何年も作業してきた。その答えが膨大な一次データの制作である。

ときにコンテンツ制作においては漫画が一番効果的である。
他者を魅了するコンテンツとしては音声・小説・漫画・アニメ・ゲームなどが考えられる。
このうち簡単に作れるのは小説だが、小説は文字ばかりで読みづらい。敷居が高い。
音声はリスニング能力をユーザーに要求するので敷居が高い。
ゲームは遊ぶには良いが、言語の習得や学習という面では遊びに意識が行ってしまうので、あまり効率的でない。

ではアニメと漫画のどちらが優れたメディアか。
人工言語の普及という点では圧倒的に漫画である。
アニメはまず視聴者にリスニング能力を要求する時点で敷居が高い。
仮に字幕を付けるとしても問題は解決しない。というのも、一定の時間で自動的に字幕が流れてしまうためである。
初心者と熟練者では文を読む速さが全然違う。にもかかわらず一定の速度で流れてしまう字幕は言語の普及には不向きである。

漫画の場合、読者が自分の速度で読むことができる。リスニング能力も要求されない。この点でアニメより言語の普及においては優れている。
ただし、アニメが唯一優っている点がある。それは権威である。
アニメを作るほうが漫画を作るより労力がかかる。自言語にはオリジナルのアニメもあると喧伝したほうが権威付けにはなる。
ただ、それもせいぜいここ数十年の話にすぎない。やがて個人でも簡単にアニメを作れる時代になれば、権威付けとしてのアニメも意味を成さなくなる。
そうなると単純に漫画の持つ利便性のほうが高く評価される。
よって総合的に考えて普及のツールとして見た場合、漫画が最も優れたメディアといえる。

しかるに我々はまず漫画の制作を行うべきである。恐らく最初は労力か金をかけてでも 2D で作るべきであろう。
そして個人でも簡単に漫画が 3D モデリングなどで作れるようになった暁には、3D でフルカラーで作るべきであろう。
コンテンツ作りはただの客寄せだが、それでも未来人と戦うための切符としては必要である。まずは未来人に自言語を知ってもらえないことには戦うことすらできないのだから。

未来人に知ってもらうためには、コンテンツで知名度を上げるだけでは足りない。
人工言語史を刻む人間とそれを観測する人間がいなければならない。
そういう理由で私は掲示板を開いたり twitter をやったりといった活動をしている。
これはコンテンツ作りではなく、人とのコミュニケーションにより自言語を知ってもらうという活動である。
これもまた未来人に自言語を知ってもらうための布石であり、未来人との戦いを実現させるための活動である。

それにしても私のような人間はいないものである。不思議なくらい同じレベルの人間がいない。70 億も人間がいるのに。
私と同じだけの不安症、神経質、職人気質、根性、言語学の知識、語学の知識、人工言語の経験、協賛者、近未來嗜好、経済的余裕、そして使命感――これらを兼ね揃えた人間が 70 億人もいて他に一人もいないとは。
孤独だ。だから、未来に期待しているのだろう。――ライバルを求めるのだろう。

ネイティブ考

●母語とネイティブ

・母語とは年齢がごく小さいうちに獲得した言語を意味する

・最初に獲得した言語を第一言語という

・人間はひとつ以上の言語のネイティブである

●言語の獲得とその順序

・言語の獲得とは語彙や文法の獲得もさることながら、最も重要なのは語法――広い意味での「その言語における世界の切り分け方」を獲得することである

例えば日本語で水と湯は区別されるが、英語や韓国語では単語レベルで切り分けない。日本語は目と目の間を命名しないから日本人はこの部位をあまり意識しないが、アルカは kwar という名が付いているので意識

が行きやすい。lip は唇だが、英語と日本語で指す範囲が異なる。日本語では雷が落ちるというから登山をしていて雲の上まで抜ければ安全だと誤解するが、アルカだと雷が来ると表現するので雲の上に抜けても安全だと誤解しない。世界の切り分け方はこのように言語ごとに異なり、また言語は思考に影響を与える。この言語固有の切り分け方を獲得することが、言語の獲得において最も重要であると私は考える。

アルカを獲得するとは、アルカならではの物の見方を獲得し、アルカの切り方で世界を認識できるようになることなのだ。それがネイティブ以外でも可能なことであるとすれば、ネイティブを生産することに必然性はない。

・切り分け方はどの順序で獲得しても結果は同じ

例えば子供に最初にアルカを教えてフランス語を教えるとする。フランス語だけで育った子供は frère を frère のまま受け入れるが、最初にアルカを教わった子供は alser と aruuj を区別しない概念のことだと一歩踏まえてから frère を受け入れる。

逆に先にフランス語を教えた場合、frère をそのまま受け入れる。その後アルカを教えると alser と aruuj は frère が分化したものなのだなと認識した上で受け入れる。

獲得する過程を逆にしても、結果的に獲得する世界の切り分け方は 2 種類になり、同じになる。

どちらを先にインプットしたかにより、切り分け方の獲得の過程に違いが出る。先に frère を入れれば alser と aruuj は frère が分化したものだと認識するし、先に alser と aruuj を入れれば frère はこれらが統合したものだと認識する。つまり世界の切り分け方を獲得する際に行われる認識の過程が異なる。

だがいずれの場合も結果的には 2 種類の世界の切り分け方を獲得するため、最終的な違いはない。

●ネイティブ不要論

・バイリンガルは結果的に世界の切り分け方を 2 つ獲得した人間のことである

・母語として 2 つの言語を獲得した人間は両方のネイティブかつバイリンガルである。大人になってから第二言語を習得した場合は片方のネイティブで両方のバイリンガルである。彼らを順に A,B と命名する

・A,B の間には第二言語の習熟度しか違いがない。ネイティブでなければ持っていない特性というのは存在しない。ネイティブのほうがリスニングもスピーキングもおしなべて上手いというだけで、習熟度以外に本質的な差はない

・ネイティブとノンネイティブの間には習熟度の差しか存在しない。ということはネイティブを育成する必要はなく、子供を作ってアルカを教えるのも大人にアルカを教えるのも本質的な差がないといえる

・最も習熟度の高いネイティブと最も習熟度の低いネットユーザーの間にあるのは習熟度の違いのみであり、前者のみが特有する要素は存在しない

・獲得する言語の順序や獲得した年齢に本質的な意味がないのなら、ネイティブは不要、すなわち第一言語をアルカにする必要はないといえる

・以上から、子供をゼロからアルカで閉鎖的に育てることに特段の意味がないことが証明された。それは単に習熟度の高いユーザーを生み出す行為にすぎず、本質的にはネットユーザーを育成することと変わらない。つまり、単に流暢な人間を育てるだけの行為にすぎない。というのも、ネイティブ固有の特性というのは存在しないのだから

・ネイティブに対する過度の期待が、今までの偏見と誤解の原因だったのだ。娘を観察していて、ネイティブは習熟度の高いバイリンガルでしかないことを知った。インプットする言語の順序に意味がないことも知った。ネイティブのおかげで逆説的にネイティブが特別な存在でないことを知った

●言語作者の任務

・言語作者の任務は、言語の制作、その言語特有の世界の切り分け方を任意の人間に獲得させること＝言語の習得、自言語を人工言語史に刻むこと、巨大コーパスを作成することである

・言語の制作は死ぬまで作り込み続けるものであるが、文法は比較的早く完成する。作り込み続けるのは語彙と語法と文化記述である。しかしそれも日常生活を営めれば言語として十分機能するので、日常生活で使うせいぜい 15000 語程度を網羅できた時点で一旦の完成といえよう。その後の作り込みは完成後の補遺ということになるが、極める人間はこの完成後の永遠に終わらない補遺の作業のほうが長くなる。アルカは 2012 年現在この段階にある

・言語の習得は自分自身がアルカの世界の切り分け方を獲得した時点で全うできているが、言語をコミュニケーションツールとして考えると、最低自分以外に 1 人ユーザーが必要である。アルカの場合アシェットやネットユーザーたちにより、ネイティブから大人まで幅広くアルカならではの世界の切り分け方を獲得させている。よってこの件に関しては既に任務を全うしている

・自言語を人工言語史に刻むことは人工言語の学会が存在しない以上、個々人が行う必要がある。もっとも

有効なのが出版することで国家に著作物の存在を公認させることである。アルカは既にこの任務を全うしてある

・言語は巨大なコーパスを必要とする。個々の用例の集積だけでなく、まとまった量の文書がコーパスとして必要になる。アルカの場合、アルディアという異世界カルディアの歴史を最初から最後まで記した歴史小説が存在する

・結論として、アルカは全ての任務を全うしており、2012 年現在でいえば巨大コーパスであるアルディアの制作を順調に続けていけば良いという結論が得られる

●『女房学校』

子供を閉鎖的な空間で育て、異言語に触れさせずにアルカだけで育てる。どうしても子供のころに読んだ『女房学校』を思い出してしまう。様々な細かい設定が異なるのだが、主要なコンセプトは近しい。要するに子供を閉じ込めて自分の思うどおりに育てようという計画だ。妻にするだのなんだのという点は異なるが、主旨が似通っている。なのでどうしても思いだしてしまう。

ただ現実的に考えてそのような計画を実行に移すことは可能だろうか。筆者の場合、経済的にも社会的にも可能である。可能ではあるが、現実的でないというのが結論である。

日本にいながらアルカだけを教えるなどということは事実上不可能だと思う。例えば子供が病気になったとき、医者に連れていくこともできない。子供が容態を私に話し、私が医者にそれを訳せばいいかもしれない。原理的には可能だ。が、現実的には不可能だろう。下手すれば通報され、児童虐待で親権を奪われてしまう。

学校にも行かせず外でも遊ばせず常に 24 時間子供と一緒にいてアルカを教え続けるとしよう。その間私はパソコンを使ったネット経由の仕事しかできなくなるだろうが、経済的には貯金もあるので不可能でない。だが果たして子供以前にこちらの精神が持つか。24 時間へばりついてアルカだけを喋り続ける精神力があるか。現実的に考えて無理だろう。

私はその場合テレビもアニメも漫画も小説も、日本語資料は一切見ないようにしなければならない。幻日辞典やアルディアの執筆も、子供に隠れて同じ部屋の隅っこでコソコソとやらなければならない。それは事実上不可能だ。

外に出れば看板や何やらで嫌でも日本語が目に入る。日本から脱出して中国に行ったとしても今度は中国語が目に入る。アルバザードが架空の国である以上、いずれかの自然言語が目に入ってしまう。

地価の安い国か県に行って広大な土地と屋敷を買い、食料は配達してもらえば、この問題は解決できる。子供と 2 人で孤独に広い庭屋敷で生活するのだ。つまり原理的には可能だ。――可能だが、その環境に耐えられそうかというと、とても耐えられる気がしない。

それに子供が一度でも幻日辞典やアルディアを見てしまったらその時点でアウトである。24 時間監視していなければならない以上、同じ部屋で作業をする必要がある。後ろから見られない保証はない。子供が寝ている間だけ作業をするとしても、子供が途中で起きない保証はない。地球で生きる以上、完全にアルカ以外をシャットアウトする方法はない。

そもそも私が意識的に日本語を一切使わないとしよう。しかし怪我をしたときや火傷をしたときに思わず「いたっ」とか「あつっ」と言ってしまえばもうおしまいだし、そもそも寝言を喋ってしまえばおしまいだ。子供が一度でも私の日本語の寝言を聞いたらこの計画は純粋さを失ってしまう。

結局どう考えてもアルカだけで純粋培養することは不可能なのだ。どのみち自然言語の影響を受ける。自然言語は何らかの形で子供に入り込む。

どうせ自然言語から逃げられないのなら無理に隠遁生活をしたり幽閉生活をさせたりすることなく、普通に自然言語とアルカを並行しながら育てればよいという結論になる。

どうやっても純粋培養できないのであれば、さじを投げて合理的に生きたほうが良い。どうせ純粋に育てられないのであれば目一杯合理性を重視して、日本語メインで娯楽も与えて育て、ふつうに学校にも行かせ、自分は手をそんなにかけず、時折第二言語としてアルカを教えれば良い。

100% の純化が不可能ならば、純粋なネイティブの育成は無理なのだから、あとは純粋性が 1% でも 99% でも関係ない。不純物はどのみち不純物にすぎない。だったらわざわざ子供を幽閉してまで「純度の高い不純物」を作る必要はなかろう。そして倫理的に考えてもこの結論が最も順当である。

そして 1% の純粋性でも 99% の純粋性でもどちらも不純物には変わりないという事実を基に考えると、そもそも子供を育てる必要もないという結論になる。

というのも、1% 程度の純粋性なら大人のしかも面識すらないネットユーザーでも余裕で到達できるからだ。

多額の費用と膨大な時間をかけて子供を育てても純粋培養できないのであれば、ネットユーザーに浅く広く伝播したほうが効率が良い。

とはいえ、もちろん現実的には 1% の人間と 99% の人間には大きな習熟度の差がある。少しでも 99% に近い濃いユーザーを育てることには一定の意味があるし、それを獲得しようと思うならネット上では不可能で、恐らく自分の手元で育てる必要があろう。

不純物でも純度が高ければ一定の価値がある。それを獲得するために子供を育てるということには一定の意味がある。だが費用対効果を考えると実行に移すだけの価値があるかは分からない。

上で述べたとおり、ネイティブとノンネイティブには習熟度以外に本質的な差がない。世界の切り分け方を獲得してしまえば両者は習熟度しか違いを有さないのだ。だから費用対効果を考えると子供を育成することに必然性はないといえる。

そう、確かに必然性はない。だが、あったほうが宜しいということもまた言える。「あれば良いが、なくても構わない」。それが子供をアルカで育成することに関する現実的な意義である。巨大コーパスの作成などと違って必然性のある仕事ではないのだ。余力があればすればいいというだけのもので、漫画などのコンテンツを制作するといった企画と本質的に変わりないものである。

●以下は J01J/1/1(にツイッター上で行った思考である。本項の素地となっている。下から順に読む。

serenarbazard seren arbazard

今は心がヒートアップしているから冷静になれなかろう。余熱を取ってから再考する必要がありそうだ。ゆえにもう寝ることにしよう。

16 時間前 お気に入りに登録 返信 削除

serenarbazard seren arbazard

大きな悩みが氷解した。悪性腫瘍を除去したかのようだ。今後の人生を大きく左右するほど大きな考察となった。まさか今日こんな唐突に解決の糸口が見えるとは。あとはこれを理論化して文章化してミスがないかチェックし、理論を実生活に応用して実践すればよい。

16 時間前

serenarbazard seren arbazard

しかし 7 年も悩んで、というか中 1 からカウントすると 17 年も悩んで、ある日こうやって唐突になんの脈絡もなく同じような思考の繰り返しをしているとき、ふといつもと違う線路に思考の車輪が嵌り、正解に辿り着くことがあるものなのだな。不思議だ。あれだけ悩んできたというのに。こんなにあっさりと

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

重苦しい肩の荷と激しい劣等感と黒い怨嗟が、三番目を除いてだいぶ和らいだ。悩むことは苦しいが、悩みぬいた先には救いがあるということを知った。悩みぬいて救われるということは、まだ自分には知らないことが多く、自分はまだまだ若いということだ。30 にしてまだ未熟

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

然るに自分はネイティブを新たに手元に獲得する必要がないことが証明された。既にしあで結論は出ていたのだ。否。この結論さえ分かれば、タイムスリップしてしあがいない世界線に移動したとしても、ネットユーザーにアルカの切り分け方を伝導している時点で任務は達成されているのだ

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

ネイティブに対する過度の期待が、今までの偏見と誤解の原因だったのだ。しあを観察していてネイティブは習熟度の高いバイリンガルでしかないことを知った。埋め込む言語の順序に意味がないことも知った。ネイティブのおかげで逆説的にネイティブが特別な存在でないことを知った。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

いいぞ、やはり自分は書いて考えるタイプなのだ。キーボードを打つと思考がまとまる。あとはこれを読める文章にして記事にするだけだ。ネイティブ不要論等をまとめた記事を。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

ということは自分に残された最後の任務は巨大コーパスの制作か。これだけがまだ達成していないことなのだ。アルカの認知枠組みを伝導する任務は全う。歴史に刻む任務も全う。残るは巨大コーパスとなっ

た。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

アルカという切り分け方を誰かに伝導するという件に関しては既にコンプリート。となると残りはアルカの存在を歴史に刻むことだが、これも出版などによって社会的に成立させてある。残るはアルディアのような巨大なコーパスの作成ということになる。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

あ……じゃあ自分の任務ってもう終わってるんじゃん……。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

ということは自分がすべきことはアルカの世界の切り分け方を任意の人間に伝導することになる。しかし自分自身に伝導しているのですでに任務完了となる。自分を除外したとしてもリディアらアシェットの人間、niasさんらネットユーザーに伝導している。むろんネイティブほどの習熟度ではないにせよ

17時間前

serenarbazard seren arbazard

手の届かないしあのおかげで、手の届く範囲にほしいと思っていた子供に対する必然性を失うとは、驚きだ。驚愕だ！物凄い話だ。手の届かない子供が手の届く子供の必然性を奪うというのだから。まるで天地がひっくり返ったようだ。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

リディアやメルや彼女ができたように、自分も自分の管理下に子供を置いて教育してみたかった。というかそれが作者としての義務だと思っていた。しかしネイティブと大人バイリンガルの間に決定的な差異がないのであれば、その実験が不必要であるということになる。これは……なんという……結論だ……

17時間前

serenarbazard seren arbazard

うわ、今日自分の世界がTLでひっくり返った。天地がひっくり返った。パラダイムシフトが起こったといってもいい。それくらい人生に影響を与える思考だった。そうか、俺には子供を得てアルカを教える義務はなかったのか。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

しかしもしあんなことにならなかったらしあは生まれていないわけで、しあが生まれていなければこの結論も導出できなかったのだから、どうあがいても過去は変えられなかったということになる。この世界線は避けられない必然だったのだ。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

あぁ！この結論を7年前の自分が知っていればあんなに焦ることはなく、彼女を追い詰めることもなく、あんなことにはならなかったのに。自分の人生が詰むこともなかったのに。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

アルカを獲得するとは、アルカならではの物の見方を獲得し、アルカの切り方で世界を認識できるようになることなのだ。それはネイティブ以外でも可能なことであるとすれば、ネイティブを生産することに必然性はない。ないのだ！！！！

17時間前

serenarbazard seren arbazard

言語の獲得の本質とは何か。僕は語彙や文法ではなく、語法――広く言えば世界の切り分け方を獲得することだと思う。そしてその点においてネイティブと大人バイリンガルの間には習熟度以外の決定的な差異がない。ここだ！ここが決定的に大事なんだ！

17時間前

serenarbazard seren arbazard

言語学者の町田健が言語学者の子供は言語の実験に付き合わされるものだと書いていた。ウチの家でも同じだな。人工言語屋の子供は人工言語の実験に巻き込まれる。で、僕はそれが本人の将来にとってよくないと思うので、わざわざ自分の作った言語を押し殺してフランス語を勧めているのだけど。

17時間前

serenarbazard seren arbazard

しかしこの結論が出せたのは間違いなくしあという実験体がいたからだ。彼女の成長を見ていて「単にアルカがうまいというだけで、別段俺達大人のバイリンガルと変わらなくね？」と思ったからこそ、この結論が導出できた。そういう意味では娘を使った人体実験には大いなる意味があった。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

というわけで結論としては、赤ん坊をゲットしてゼロからアルカを吹き込む実験には、ネットユーザーにアルカを教えることと本質的な差がないということになった。おお、これはすごい結論だ。自分の人生をゆがめるほどの！これはまとめて記事にしなければならない。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

つまり子供を新たに作って閉鎖的にアルカだけで育てることと、ネットユーザーにアルカを教えて育てるのは、せいぜい習熟度に差が出る程度で、本質的な「アルカの世界の切り分けを獲得する」という点においては変わらないのだ。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

さて、ネイティブに価値がないとすると、別にある程度育った子供をバイリンガルにしたり、すでに大人なアシェットを教育してバイリンガルにしたり、ネットユーザーを教育してバイリンガルにしても本質的に変わらないということになる。習熟度に差があるというだけで、本質的に彼らは等価だ

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

となるとネイティブには別段価値がない。しあを最初からアルカで育てた意味は特になかった。先にフランス語を教えても問題なかった。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

ネイティブは赤ん坊のうちにインプットしたか否かの違いしかない。ノンネイティブのバイリンガルと決定的に異なる点はない。また、先にアルカを教えようが後からアルカを教えようが、切り分け方を獲得する過程が異なるだけで、2 つの切り分け方を獲得するという結果は変わらない

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

そう、ネイティブだからこそ持っている要素などないのだ。もちろん使用年数が長い分流暢ではあろう。しかしその程度の違いしかない。本質的な違いではない。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

所詮ネイティブ・ノンネイティブはいつ言語をインプットしたかの違いでしかない。ネイティブであろうがなかろうが、バイリンガルは世界の切り分けを 2 つ獲得しているという結論において変わらない。となるとネイティブだからこそ持っている特徴は存在しないということになる。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

そう、ネイティブというのはしょせん赤ん坊のころにインプットされたものを指すだけなのだ。2 個インプットすれば母語を 2 つ持ったネイティブができるというだけのことだ。順序でなく赤ん坊のうちにインプットしたことがネイティブの定義だ。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

——切り分け方を獲得しているという結果には変わりない。ブランクが何年あればネイティブでなくなるのだろう。というか、結局のところネイティブというのは最初に何語をインプットしたかでなく、赤ん坊のうちに何語をインプットしたかの問題でしかないということが分かる

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

赤ん坊にフランス語を教えて 1 秒後にアルカを教えた場合、誰もがネイティブかつバイリンガルと認めるだろう。しかしブランクが 1 秒でなく 10 年だったらバイリンガルだがネイティブでないと言うだろう。さて、いったいそこに何の差があろうか。10 年ブランクがあるだけで、結局 2 種類の——

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

結論は同じ。つまり、フランス語を先に教えてアルカを後から教えても同じく 2 種類の切り分け方を獲得する。そう、結論は同じ。ではここで考えてみよう。フランス語を教えてからアルカを教えるまでどれだけのブランクがあればネイティブでなくなるのだ？

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

先にフランス語を教えた場合、frère をそのまま受け入れる。その後アルカを教えると alser と aruuj は frère が分化したものなのだなと認識した上で受け入れる。過程が前後逆になっているが、獲得する

のはいずれも 2 種類の切り分け方だ。順序は違うが結論は同じ。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

フランス語ネイティブは frère を frère のまま受け入れる。しあは alser と aruuj のことだと認識してから受け入れる。こうして 2 種類の切り分け方を獲得する。ここで重要なのはその順序に意味があるかだ。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

後から植えつけたフランス語は最初に植えつけたアルカのせいで世界の切り分けがすんなりと行われない。例えば frère をフランス語ネイティブは frère のまま受け入れるが、しあはアルカの切り分け方のせいで兄か弟か気になり、frère は alser と aruuj の両方を意味するものと認識する

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

最初にアルカを植えつけると、彼女は世界をアルカの語法で切り分ける。しかしその後フランス語を教えてバイリンガルにすると、新たにフランス語の語法による世界の切り分けを行う。この過程で複数の切り分け方を習得し、時折両者の切り方が混ざって混乱することがある

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

が、実際彼女を観察しているとネイティブだから我々ノンネイティブと異なるかというと、さほど異なっているようには見えない。例えば先にフランス語を教えてその次にアルカを教えたとしても、現状と大差なかったように思われる。つまり最初に教えた言語がそこまで決定的な影響力を持つわけではない

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

最初に植えつけた言語がアルカである人間のことをネイティブというのか？だとしたらしあは特殊な存在になる。世界の最初の切り分けをアルカで行ったという点でネイティブであり、特別である。と考えると赤ん坊から育てることに一定の意味があるように思える。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

バイリンガルで十分というのなら、しあとそれ以外の違いは結局のところ生まれたときにアルカを植えつけたか否かでしかない。要はネイティブかどうかということ。ではネイティブとは何か。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

バイリンガルで十分というのなら、リディアのようなマルチリンガルの人間で十分ということになる。すなわち子供でなく大人でもよいということになる。ということはアシェット関連でなくネットで鍛えたユーザーでもよいということになる。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

つまり、純ネイティブは理論上は可能だが現実的社会的には事実上不可能ということだ。となると結局バイリンガルになる。で、バイリンガルでいいなら別にゼロ歳から自分の子供を育ててアルカを埋め込まなくともいいという結論になる。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

日本語の学問を教えるということは、日本語を教えるということに他ならない。この時点で純粋なネイティブを作ることは不可能だ。就職のことを考えなければ可能かもしれない。しかしその場合だと自分としか意思疎通できない人間を生むことになる。ふつうに考えて責任取れないだろう。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

それは明らかに無理だろう。まず自分の精神が持たない。それに計算や読み書きは何語で教えればいい？日本語の計算や読み書きを教えないと将来その子は就職できない。アルカには読み書きも計算もある。でもそれを教えても就職には繋がらない。結局日本語での学問を教える必要がある。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

僕が子供を幽閉して、アルカだけをしゃべり続ける。そんなことが可能か。まず僕がアルカだけを喋るということが起こりえない。母語が日本語で日本に住んでいるのだから。子供を幽閉しているということは 24 時間一緒にいるというわけで、閉じた部屋でひたすらアルカだけを喋り続けることなどできるか？

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

リディアの家は共通となる母語がない。だからアルカはある程度需要がある。少なくともあの家庭内では。でも僕が日本で子供を育てたら、家の内外で日本語が共通語だから、アルカの需要は一切ない。

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

アルカでネイティブを作ることはできる。でも、アルカオンリーで一生を送らせることはできない。閉鎖的に育てれば可能だが、それは虐待だ。そもそも親が 10 年も 20 年も付きっきりで閉鎖的に育てるのは無理だし、僕だったらそんなことはしたくない。ここからは例えばの話——

17 時間前

serenarbazard seren arbazard

しあがアルカを話している。でも僕は将来のことを考えてフランス語を話してほしいと思っている。だけどそれだとネイティブの意味がないとリディアは言う。僕はバイリンガルで十分だと思う。するとリディアは「だったら自分の子でなくてもいいし、私達大人でもネットユーザーでもいいよね」と言う。

18 時間前

serenarbazard seren arbazard

子供、老人、弱い者に強く出れない。ゆえに娘を叱るのも苦手だ。「だめだよ、しあ」くらいしか言えない。むっちゃ甘い言い方で。一方リディアはｽﾊﾟｰﾝとひっぱたく。躊躇なく。でも教育的にはリディアのほうが正しい。結果的に娘は僕の前では調子に乗るが、おしなべて良い子になった。

18 時間前

イルムス

イルムス (clɒəɟ) とは、アトラスの年代記である。

fial

約 137 億年前	ガレットが発生し、すみやかに arma になる。同時に物理的にはビックバン（armas という。当時はビッグバンはアルマによるものと思われていたため）が起こり、最初期宇宙となる。
同	膨張した arma が爆発し、ardel と lekai という 2 つの空間とアルマ以外の幻晄 (yuno,vir,noa…) と、arte という aten が生まれる。物理的には初期宇宙（陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成)。まとめ：ガレットが生まれ最初期宇宙となった空間が最初の空間。最初のアテンがアルテで、実体は白い球。アルマの爆発時にできたセレスはすべてアルテに入った
同	ardel に veeyu ができる。seles がここから発生するようになる。最初の爆発によるセレスはすべてアルテの中
同	ardel が天国 twaayu と地獄 latia に分裂
同	arma が膨張して爆発した際、viid は ardel に偏って分配された。ardel に溜まった viid と veeyu でできた seles から atwaayu が生まれる。実体は黒い球
同	初期の lekai は viid 的に空な状態だったが、唯一 arte が viid を持っていた。ここに気圧と同じ考え方で、viid 圧の差が原因で、高 viid 圧である ardel から lekai に viid が流出しはじめた。この流出の際に viid が流れた空間が道となり、avelantis となる
同	arte が viid を受けて膨張を始める。arma の発生からここまではほんの一瞬の出来事

約 136 億年前	銀河系が誕生する。arte は銀河系に位置するようになる。viid は arte に流入し続け、arte は膨張を続ける

約 46 億年前	太陽系が誕生する。arte はここに位置するようになる。惑星アトラスなどができ始める
約 45 億年前	アトラスが完成する。arte の膨張が限界に達し、ardel に viid を送り返すため、自分のセレスを分けて luno という存在を生む。しかし luno は viid の暴発を防ぎきれず、arte の膨張を止められぬまま不完全な存在として ardel へ行った
同	なお、意思を持った luno は白い球体であり、女に相当する。対立項である男が存在しなかったため、力の拮抗が取れなかった（一方の arte には atwaayu という対立項があった）

同	atwaayu が luno の力の暴発を押さえ込むようになり、arte との力のバランスを失う。atwaayu から alatia が分離し、協力して効率良く viid を使うことにより、arte との拮抗を取り戻す。分離の際、atwaayu と alatia は意思を持つようになる。まとめると、ルノはアルテのセレスを持つ。アトワーユはヴェーユからセレスを得、アラティアはアトワーユからセレスを得ている。従って原始のアルテのセレスの種殻は死神になると思われる。一方、アルテが分裂してできたエルトとサールは神の種殻を持っている
約 10 億年前	多細胞生物がアトラスに出現
約 6 億年前	カンブリア爆発で生物が多様化
古生代	約 5 億 7000 万年前〜約 2 億 5000 万年前の期間で、三葉虫、アンモナイトなどが生まれ、温暖期になり、昆虫が拡大し、ペルム期で多くの生物が絶滅
中生代	約 2 億 5000 万年前〜約 6500 万年前で、恐竜が出現。2 億年前にはパンゲア大陸が分裂し、哺乳類が出現。1.5 億年前には始祖鳥が出現
約 7000 万年前	metio が alkat に衝突。その後（約 2500 万年前ごろ）山脈を形成
約 6500 万年前	白亜紀末で、恐竜が絶滅。その後、霊長類が出現。約 7000 万年前にサヴィアに現れたプルガトリウスが最古で、約 5500 万年前に現れたアダピス類は下記セルトより新しい

64,989,112 年前	arte は luno に viid を与えたため、約 44 億年弱の間、爆発を防げていた。しかし遂に爆発の危険が生じ、今度は luno のように失敗しないよう、男神エルトと女神サールに分裂した。彼らは互いの力を相殺し、力のバランスを取った。彼らは黒い球と白い球の姿をしていた。太陽系の惑星からアトラスを選んでフィーリア島で、アトラスの公転周期のうち 1 日間だけ逢瀬を重ねることを決めた。この時点で彼らは自らの形質を当時新興勢力として生まれてきた知能の高い生物である霊長類に合わせた。ただし脳を大きくするために二足歩行を可能にし、背骨を立たせた。同時に魔法で暑さ寒さをしのげるため、体毛も薄くした（この時期は温暖）。現代人に非常に似た形質をしている。彼らの総称は selt で、彼らの誕生を以って最初の暦セルト暦が始まる。この逢瀬が今後約 6400 万年間続く
同	アトワーユとルノとアラティアがエルトとサールの形質を真似、人間型になる
同	エルトとサールが肺臓気流を利用した音声による意思疎通を始め、原初の言葉フィーリア語 (f) が生まれる
同	エルトが minakalmo を作る
約 4000 万年前	leiva で氷河の形成がはじまり寒冷化が始まる
約 2500 万年前	ファベルに最古の類人猿が出現 約 1500 万年前 anxal に隕石が落下。クレーターを形成
約 1300 万年前	類人猿が alkat に入る
約 600 万年前	ヒトとチンパンジーが分化。猿人の出現。直立二足歩行を始める
約 250 万年前	ヒトが石器を使い始める。セルトは年に 1 度北極近辺のフィーリア島で逢っていただけなので猿人との関わりはない
selt 63,938,964	エルトとサールの力の拮抗を保つため、彼らは愛し合っていても子供を作らない約束をしていた。子供ができれば女性が大きく力を失うためである。ところがこの年、エルトを愛する思いのあまり、サールが懐妊

artem

神々の時代。終末から数えて 105 万 147 年前から始まる。

selt 63,938,965: meltia 0	サール、娘のユーマを出産
同	ユーマが生まれて生じた歪みに悪魔テームスが生まれ、悪魔アルマやメルティアらを産む。これら悪魔科は太陽系に入り、宇宙で生き続ける
同	[言語] 悪魔 bert を通じて悪魔が f を習得する。様々な姿に変身して遊んでいた神や悪魔たちだったが、同じ言語を共有してコミュニケーションの効率化を図るため、おおむね口腔の形状や喉頭の形状が等しい人間型を選択するようになっていった
同	[言語] 悪魔 meltia が指の数を元にした 10 進法を開発。暦を数えるのに用いた。セルトは 1 や 2 などの小さな数を表す語しか持たず、それ以外は記憶したり逢瀬の回数をミナカルモに刻んだりしていた。また、逢瀬の日は日付のカウントでなく、太陽とアトラスの位置で判断していた
同	サール、エルトにユーマを引き合わせる。エルトは約束を破られたことに腹を立て、サールを捨てる

selt 63,938,969: meltia 4	便宜上ここからを fv とする
同	逢瀬の場所であるフィーリアのミナカルモに 4 年連続エルトは訪れず、悲観したサールはユーマをセルア山から捨て、自分も落ちて自害。四散した死体がサールの一族、アルミヴァの 12 神の半分を産む。ユーマは死を免れ生き延び、突如 5 歳程度の幼女の姿になる
同	一歩遅れでエルトがサールを許してミナカルモに来たが、サールの死体を発見。自身はセルハノイの塔を建て、頂上で自害
同	veeyu で生まれたセレスは lekai で aten の中に入り込む。aten が死ぬと seles を veeyu に回収し、綺麗なもの（球体）を twaayu に、そうでないもの（歪んだ形）を latia に送る。エルトとサールが死んだことでセレスを回収する必要ができ、回収人としてルノはアトワーユと交わり、子を作る。性交直後に生まれた 4 人の子供は上から順に fremelte, xuuze, vergina, alhaik
同	長女フレメルテがサールを回収、長男シューゼはエルトを回収した。シューゼはこっそりエルトのセレスを食べた。次女ヴェルギナはフレメルテを騙してサールのセレスを横取りし、それを食べた。この行為に腹を立てたルノは、シューゼとヴェルギナを追放した。彼らはセレスの味が忘れられず、夢喰種となった。エルトとサールのセレスは強すぎて消化できず、シューゼとヴェルギナの腹の中に封印されている
同	アルミヴァのヴァルゾンがエルトの死体を四散させ、残り半分のアルミヴァが誕生し、エルトの一族が生まれる。神々は時の司メルティアを取って、彼の生まれた年をメルティア元年として遡って暦を改める
同	クレーヴェルが太陽年を測り、グレゴリオ暦と同じ計算法を作り、メルティア暦に組み込む
同	メルティアがアトラスにおける 1 日の長さを 24 時間に分けた。アルミヴァの 12 神が昼夜で 2 周するように分割したためである。ここから 12 進法の考えが生まれ、分と秒についてはより細かく刻むため、12 と 10 の公倍数である 60 に定めた。また、円の一周をさらに細かい公倍数である 360°に定めた
同	形状を人間型に安定させたことで神々のサイズが固定化された。これにより神々にとってサイズは可変なものという意識から固有なものという意識が生まれた。そして度量衡が作られることになった。エルトでもサールでも悪魔でもない中立な存在として少女ユーマの身長と体重を単位とした。5 歳程度の姿をしていたユーマの身長は約 107.2cm、体重は約 17.4kg
同	エルトの一族とサールの一族がフィーリア島で互いに分かれて暮らし、派閥を形成
同	tikno がエルトが作った最初の家から九十九の bakkus 神を生む。バックスが城と家を建築する。これで魔法を使わずともある程度寒さを凌げ、楽になった。
meitia 5	fenzel が hain を無性生殖にて生む
同	kalzas が上弦の月の光から duurga を生む
同月下弦	tikno が下弦の月の光から viine を生む
meltia 6	tiitel が自らに湧いた性欲をマグラン（チョウマメ）に単離し、娘の magla を生む
meltia 8	ティクノ、フィーリアの山で自然銅を発見。美しいと思ったポエンは自然銅から gilius 神を生み、銅およびその仲間すなわち金属を支配させる。ギリウスは銅の製錬技術を発見
meltia 9	ギリウス、青銅を製錬
meltia 11	ギリウス、蛍石からパルティール照明を開発。これにより炎を使わずとも夜間でも作業ができ、暗所も調べることができるように
meltia 12	ユーマは生まれて 4 年ほどで捨てられ、そこで 5 歳程度の幼女の姿になり、その後 8 年ほどかけて 12 歳程度の少女に育つ。ヴァルゾンが少女ユーマに恋をし、ご馳走で誘惑してユーマを娶る。ユーマは性交渉を拒むが強姦され、ヴァルゾンの元を逃げる。このときユーマの膣内からヴァルゾンと交わったことで ort 神が生まれ出てくる。ユーマが一番最初に産んだのは人類ではなくサールのオルト神
同	ユーマ、クレーヴェルとハインに離婚を嘆願するも却下される。ユーマは無理に離婚をし、クレーヴェルらの恨みを買う
meltia 15	成熟したユーマは 15 歳程度の姿になる。五つ年下の duurga と出会い、恋に落ちる
meltia 16	ユーマ、ardu を出産
meltia 17	ヴィーネ、ユーマを誘拐し、強姦。ユーマ、クレーヴェルに訴えるも、過去の因縁のせいで救助されず
meltia 18	ユーマ、解放されるも隠れて娘の esta を出産
同	・フランヴェールの魔女

	ヴィーネに恋するマグラがユーマを妬み、エスタを強奪。当時は皆フィーリア住まいなので、離れたガルヴェーユの flanver の泉に投げ捨てた
	ユーマは娘の居所を知るために再びクレーヴェルとハインにすがったが、人探しはお門違いと断られる。しかしサールを面白く思っていなかったカルザスはクレーヴェルの報告を受けてユーマの元へ行き、マグラが下手人であることを告げる
	ユーマはマグラの元へ行くと居場所を問うたが、マグラはエルトでもサールでもないユーマを見下していたため、にべもなく追い返そうとした。ユーマが泣きすがると、それなら力ずくで聞き出すがいいと挑発。エスタを取り戻すため、ユーマは力を解放し、マグラを超越的な力で破る
	娘の危機を知ったティーテルはこれを見て慌て、援護に入る。しかしティーテルは無力なため、見かねたティクノがユーマを止めようと横槍を入れた。だがティクノをもユーマはあっさりと撃退した。この事態を見守っているエルト、特にカルザスは思わぬ展開にほくそえんだ
	しかしこの事態を見ていたのはエルトだけではなかった。異変に気付いたメルティアはアルマに状況を伝えた。アルマはユーマの力を見、その潜在能力に恐怖した。圧倒的な力を持ちしかも宇宙に住む悪魔には敵がいなかった。だがユーマが強くなればテームスを凌ぐ可能性がある。テームスが敗れれば復活ができず、ユーマに一族ごと滅ぼされかねない
	アルマはヴォテムを召喚し、ユーマに対する策を論じた。フレスティアとブレイスはユーマが脅威となる前に殺すべしと主張した。一方ヴァルテとクレートは下手に手を出せばユーマがこちらを攻撃する意志と理由を持ってしまうと主張し、ユーマはもともと非好戦的なので自分たちと利害関係が対立しない限りは無害なはずだと主張した。残る一票を持ったアルマは「今はユーマは確かに好戦的でないが、力を付けた後も同様にしおらしいかどうかは保障できない。アトラスより宇宙を好んで領土をよこせと言わない保障はない。後顧の憂いを断つべきでは」と考え、前者に票を投じた
	一方ティクノはマグラをユーマに謝罪させ、ユーマは矛を収めた。エスタの居場所を知ったユーマはガルヴェーユへ向かう。しかしフランヴェールの泉にはアルマがすでに待ち伏せしていた。アルマはユーマを殺そうとしたが、子を守ろうとするユーマの力はすさまじかった。ヴォテムを戦線に加えても不利な消耗戦になると踏んだアルマはヴォテムを召喚すると、全員でユーマを巨大な水晶に封じ込めた。水晶は小高い尖塔となり、フランヴェールの泉に槍のように突き刺さった。ユーマを恐れた悪魔たちはこれをフランヴェールの魔女と呼び、宇宙へ帰還した
meltia 20	マグラがヴィーネを口説いて妊娠
meltia 21	マグラ、サールの putin（毒蛇）を出産
meltia 26	ギリウス、金を製錬
meltia 28	ギリウス、銀を製錬。金と比べ製錬に費用がかかることと、銀のほうが魔力の伝導率がよいことから、銀が最も高価な金属となる
meltia 29	ギリウスを通じてユーマの一族に金属が宝飾品として伝わり、製錬技術も伝わる。ギリウスの目的はユーマの一族から採掘の労働力を得ることであった
meltia 32	ユーマの一族が製錬技術を習得。住んでいた地域が銀山の麓だったこともあり、ユーマの一族の中では金が最も高価となった
meltia 34	アルドゥ、ユーマ捜しの途上でエスタと出会い、恋に落ちる。エスタはマグラにかけられた淫の魔法のせいで次々と子供を産んでいく
meltia 35	エスタ、eres を出産。以下、子供たちはすべてエルトでもサールでもなかったため、ユーマの一族としてサルト（エルト・サールの総称）から蔑まれ、ガルヴェーユ島へ追いやられる
meltia 36	エスタ、karfan を出産
meltia 37	エスタ、tromekia を出産
meltia 38	エスタ、parte を出産
meltia 39	エスタ、xinke を出産
meltia 40	エスタ、facet を出産
meltia 41	エスタ、kyuk を出産
meltia 42	エスタ、deit を出産
meltia 43	エスタ、sever を出産
meltia 44	エスタ、kap を出産
meltia 45	エスタ、jimn を出産
meltia 46	エスタ、subek を出産
meltia 47	エスタ、koolel を出産
meltia 48	エスタ、distel を出産

meltia 49	エスタ、yeevel を出産
meltia 50	エスタ、twarzel を出産
meltia 51	ギリウス、白金を製錬
meltia 52	トロメキアはネルメスに口説かれたが、遊びと知って断り、ネルメスを怒らせる。後に兄のカルファンと契る。パルテは水をほしがるオルトに水を与え、その代わりに女らしくするように頼んだ。オルトはパルテに初潮を与えたがパルテはそれが何であるか知らず、オルトを罵った。怒ったオルトはパルテに不妊の呪いをかけた。パルテは兄のカルファンと契ったが、呪いのせいで妊娠しなかった。パルテはオルトに許しを請いに森を彷徨う途中、毒蛇のサールであるプティンを踏んでしまい、怒ったプティンに噛まれる。泣くパルテを見つけたカルファンはパルテの足を切り落としたが、パルテはその痛みに喘いで気を失った。後にこの脚はエレスの魔法で治してもらう。さてパルテの血は黄色い花に飛び、斑点を作った。オトギリソウである。そのときオルトが現われ、オトギリソウの根に妊娠を司るエルトの iidis を作り、イーディスを連れて去った
meltia 60	コーレル、姉エレスの姦計で同エレスを強姦
meltia 61	エレス、娘 testeel を出産
meltia 65	フェンゼル、テステェルがあまりに美しいため、これを誘拐し強姦
meltia 66	テステェル、息子 vales を出産。この息子はサールでなくユーマの一族でもなくエルト
meltia 67	以降 エスタの子供たちは次々に近親婚を繰り返し、ガルヴェーユで増えていく。ユーマの一族の数が増える
meltia 88	ギリウス、鉄を精錬。セイネルスを構成する物質によく似ていることに気付き、剣を作れるのではないかと考え、鉄器を発明。鉄器はユノの伝導率がよく、剣の材料に最適であった
meltia 89	ユーマの一族に鉄器が伝わる。剣と異なり、鎧の需要は神同様になかった
meltia 100	[言語] [文字] 悪魔ベルトが文字を発明。神はそれに倣う。ベルトはこれまでの歴史をまとめるため、空間に文字を書く魔法 xante を開発。ならびに筆記用具を開発。歴史の記録にはセルトの記憶を受け継ぐアルミヴァも協力した
meltia 256	[言語] ベルトがイカ墨からインクを作り、棒に浸して動物の革に文字を書く
meltia 389	[言語] 悪魔の中で人気を博した筆記用具だったが、この年、ヴァルテが麻から紙を作る
meltia 423	[言語] ヴァルテが鉄の金属片に金属片を差し込んだペンを開発する。これら筆記用具は神の間にも流行るが、貴重だったため人間にはごく少量しか取引されなかった
meltia 430	[言語] [魔法] ベルトが anxante を開発→ anxante
meltia 444	[言語] [魔法] ベルトが elxelt を開発し、各地に設置→ elxelt

約 78 万年前	直近の地磁気逆転現象が起こる
約 50 万年前	北京原人の出現
約 23 万年前	ネアンデルタール人の出現。この前後に初めて etan から言語が生まれる。また、このころ温暖期がピークに
200,147 年前ごろ	meltia 85'0000 ごろ。ユーマの一族第三世代(エスタの 16 人の子供たち)が死亡。ユーマの一族の勢力が大幅に崩れる
200,147 年前	meltia 85'0000。神々はフィーリアで暮らしていたが、寒いフィーリアには食材が乏しいため、フィーリアよりも温暖なガルヴェーユやアルヴァノスやルカリアに食材を求めて移住。第三世代を失って弱体化したユーマの一族をガルヴェーユから追放。サール系の血が強いマレット族はサヴィアへ、エルト系の血が強いシフェル族はファベルに移住。この時点ではマレットのほうがサールの血が強いが、後のルティアはエルトと神人貿易をしている→ lanpit 同 ファルファニア人はアルファエル川流域で文明を作り始め、シージア人はセーレル川流域で文明を築き始める
同	神々は引越しで土地を選んだ際、候補地について話し合うために便宜上、各大陸に名前をつけた（ファベルやアデントに住む計画もあったため）
約 20 万年前	ファベル人の集落が犬を家畜化。その後、牛、羊、豚を家畜化し、定住した。その結果密集して暮らすことになり、不衛生な環境で伝染病が起こった。ユーマの一族はウィルスの存在を知らないころから魔法（利の古代魔法で、ラルトと呼ばれた。現存するラルトは長い時間を経て意味が変わっており、このときのとは別のもの）でこれを治すことができたため、気にすることはなかった。しかし天然痘ウィルスなどは家畜を介して生き残った。ほとんどの集落は狩猟採集生活を続けていた

約 20 万年前	meltia 85'0000 ごろにはファベルでホモ・サピエンスが出現していた。ユーマの一族は自分たちに比較的似た知能の高い動物がいることに驚いたが、彼らは空も飛べず魔法も使えない無力な存在だった。また、生活レベルも低く、容姿は醜かった。彼らは言語を操る能力があったが、その能力は地球の現代人と見劣りするものである。当然ユーマの一族から見ても劣悪なもので、ユーマの一族は彼らの言語を複雑な鳴き声程度にしか解していなかった。ユーマの一族とヒト（ホモ・サピエンス）は交配できないが、姿かたちはよく似ていて、遺伝子もよく似ている。免疫システムも類似しており、ユーマの一族がかかるものはたいていヒトもかかる。メルティア 85 万年ごろに両者が接触し、ユーマの一族からヒトへ天然痘などの病原菌が次々と感染。免疫も魔法も持たないヒトからヒトに飛び火し、絶滅。ネアンデルタールも既にホモ・サピエンスの手にかかっていたため、人型の生き物はアテンのみとなった
約 19 万年前	meltia 86'0000 ごろ。ユーマの一族の第八十八世代が死亡。2 万年生きる長寿の人類がアトラス上から消える
約 14 万年前	氷期（リス氷期）のピーク
約 13 万年前	温暖期のピーク
約 10 万年前	meltia 95'0000 ごろ。メルティア 95 万年ごろ、ファルファニア人の一部が食料と土地を求めてファベルからアンシャルへ入る。リュディア人はハーディレイ川流域で文明を築く。一方マレット人の一部はサヴィアからインサールとケヴェアに入る。前者は zg までにハーディアン、カルセール、メディアンを作る。後者は zg までにフッカ、ジュヴァルノ、メルモアを作る。
	シフェル人の間で内戦が起き、ファルファニア人とリュディア人が争い、前者が勝利する。これを記念してファルファニア人はリュディア中心部周辺をファルファニア (falfania) と改名。リュディア人はリュディア国辺境、すなわち現アルバザードへ追いやられる。リュディアの一部は奪われてファルファニアと改名されたため、リュディア人は残った国土をレスティルと改名した。彼らは神がいるのでフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには原則として住めなかった。この後元リュディア人の一部がアルディアルとスカルディアを作る。少数ながら神の土地に入り込んで住んでいた部族もいる
約 10 万年前	ハーディアン、フッカ、ジュヴァルノ建国
約 8 万年前	サルディーン、カルセール建国
約 8 万年前	スカルディア建国
約 7 万年前	カルセールで魔法陣が開発される。
約 7 万年前	meltia 98'0000 ごろ。神々がさらなる食料を求めてガルヴェーユ・アルヴァノス・ルカリアからレスティルに移住。レスティル人の多くを追い出して住み着く
同	ティクノ、ポエンをレスティルの大地に寝せ、空から精子の雨を降らせる。ポエンが土と一体化し、直後に土からカルテ神を出産する。この時点ではまだ夫婦でなく兄と妹。カルテは農耕を司り、食料を司るようになり、農耕文化が始まる
同	天秤が使われ始める。後に秋の女神アリスが司るようになる
同	獣王ポエン、既にユーマの一族が家畜化していた犬を独自に家畜化し、この犬から pul uut 神を生む
同	プルートは牛、羊、豚を集め、家畜化した。するとプルートの姿はそれらが混じった姿になり、牧畜文化がユーマの一族に遅れて始まる
同	クレーヴェル･カルテ、月の満ち欠けの周期を元にメルティア暦を太陰太陽暦に変える。（幻日 palt 参照）
同	ティクノがミティクノを、カルザスがミカルザスを生む
約 7 万年前	アルディアル建国
約 65000 年前	[言語] [文字] ilhanoi が alhanon を開発→ hac 約 6 万年前 メディアン、メルモア建国
約 6 万年前	[言語] [文字] メディアンに魔法陣とアルハノンが伝来→ hac
約 5 万年前	マレット系メディアン人がスカルディアに流入
同	[言語] [文字] スカルディアに魔法陣とアルハノンが伝来→ hac
50,148 年前 meltia 999,999	・ヴァステへの道程
	レスティルでメルティア 100 万年の前年祭が神々によって行われる。この日は下弦の月で、ヴィーネが月に縛った悪魔シェルテスの番をすることになっていた。しかしアルミヴァが主催する祝賀に出席しないわけにはいかないため、代わりに娘のエスタに番をさせた。エスタはユーマの子として神の一族とみなされていなかったため、出席を期待されていなかったためである。

	不慣れなエスタが番と知ったシェルテスは月を脱走。エスタはこれを追うもあちこちへと逃げ回られてしまう。やがてガルヴェーユへ逃げたシェルテスはフランヴェールの泉に行くと、封印されたユーマを見つけてこれを侮辱し、エスタを辱めた。この行為により温厚なエスタの力が覚醒し、シェルテスを八つ裂きにする。
同	これに驚いたのは神でなく悪魔であった。アルマはフランヴェールの魔女の再来を恐れ、これを警戒した。ユーマに煮え湯を飲まされたアルヴァは自分たちで行くのが不安だったため、ソームを捨石にエスタの力を調べさせた。エスタはユーマを封じた悪魔を恨んでいるはずなので、戦わないという選択肢は採用されなかった。
	ソームはエスタの元へ行くも、父ヴィーネが娘を守って応戦した。これを知ったティクノは援護しようとしたが、計算高いカルザスはティクノにヴィーネ親子を見捨てるよう警告した。しかし実直なティクノは耳を貸さず援護し、ソームを追い返す。このときティクノはベーゼラットを入手するも、ミティクノを失う。
同	木星に帰ったソームは会議を開いた。冷静なヴェルムはあくまでヴィーネ親子が標的と主張した。パルトはティクノが参戦した以上それは現実的でなく、少なくともサールが標的と主張。一方、好戦的なベーゼルとイルヴァは結局のところサールも神なのでこれは神と悪魔の戦いだと主張。2 票得たベーゼルらは多数決による決定を主張したが、全体の過半数にも達していないのに何が多数決かとヴェルムに却下される。
	これに業を煮やしたベーゼルらは単身クレーヴェルの元へ赴き、戦いをしかける。これを知ったカルザスは挑発に気付いてクレーヴェルに無視するように警告するも、プライドの高いクレーヴェルは応戦。義理堅いヴァルファントがセイネルスとともに援護に入る。こうなってはもう戦いは避けられないと察したコノーテも援護に入る。コノーテの参戦を受けてようやくカルザスも仕方なしに参戦し、ベーゼルらを追い返す。このときミカルザスが戦死。

vaste

神と悪魔の戦争。終末から数えて 50,147 年前から始まり、9,823 年間続く。

50,147 年前	meltia 1,000,000 年。カルザスは戦争が避けられないと知り、ティクノに共闘を提案。ティクノはこれを受け入れる。神側はこの時点でヴァステ開戦の態勢に入った。
	ベーゼルらの勝手な行動を受け、ソームはやむなくヴァルテに報告。ヴァルテはアルヴァに戦争が避けられないことを上申し、ヴァステ開戦となる。
	皮肉なことにエスタがシェルテスを八つ裂きにできたのはクリスタルに入ったユーマのなけなしの加護によるものであり、エスタ本人の力ではなかった。しかし本人も悪魔も当時そのことに気付かず、ヴァステは開戦されるに至った。
	メルティアが teej を作り、悪魔らがアトラスに入る。
同	こうなったら鍵を握るのはユーマである。戦力で劣る神々はユーマの封印を解いて共闘を請うのが唯一の勝ちうる手段である。エスタがヴィーネについている以上、ユーマが神につくであろうことは明らかであった。そこでアルヴァはユーマの封印を強化するため、ガルヴェーユへ赴いた。案の定封印を解こうとした神々を追い払うが、この場を離れるわけにはいかない。そこでガルヴェーユを本丸とし、その守備にアルヴァが当たることとした。一方ソームらには攻撃を担当させた。 翌日
	サールは人間の作った国カルセールに本拠地を移し、深い山と森の地帯にヴェマという名を冠し、そこに住み着いた。ヴァルゾンが長に立候補するも、ポエンが唆し、諦めさせる。これによってティクノは速やかに長になる
同日夜	長決定の宴の後、ポエンはティクノを呼び出し、知略を用いてプロポーズをさせる
同日	一方エルトはレスティル北西に逃げ、ルカリア南西部（現ヒュート）に本拠地を築いた。長選びは難航し、カルザスとヴァルファントが決闘することとなる
4 日後	メディアン海岸にて両者が決闘を開始。サールのエイヴが生まれる
4 年後	meltia 1,000,004 年。両者の実力は拮抗しており、4 年間構えたまま動けなかった。その間にヴァルファントの剣が潮風で錆びたためカルザスが勝利し、長となる
meltia 1,003,568	クレーヴェルがデスパを生む
meltia 1,004,000	アルミヴァは戦略を立てるため、本からユルグを生み、会議をする
翌日	神々は myuul（当時は klendia）に陣取ったソームと戦う。神々は氷の魔法でベーゼルを倒すも、ベーゼルのセレスはテームスのもとへ行く。神々は隠れてこれを観察
1004004	ベーゼルが復活して出てくる。テームスは倒せないということを知り、会議を始める。そこにデスパが現れ、テームスを殺すのではなく封印すればよいと提案

1,004,000年代	再三ソームが神々と戦う。神々は防戦一方で、デスパをかける余裕がなかった。激しい戦いでテージュ下のクレンディア大陸は破壊されミュールと名を変え、土地を失った神々は後半500年間はアルカット南岸でソームを迎え撃った。しかし南岸も破壊され、神々は徐々に東へ前線を移していった。およそ1000年続いた戦争の結果、アルカット南岸は抉られていった
1004998	神々はソーム本拠地への攻撃を決意。ミュールへ。最初にカルザスとコノーテがデスパに成功し、ベーゼルとエルヴァを封印する。一方、ティクノとポエンはヴェルムとパルトを封印する。次に神々はテーヴェを封印。その後、逃走したサティを探すと、小さな星で寝ているのを発見。一斉に魔法を撃ち、これを封印。最後にイルヴァを封印し、ソームに勝利した
1005000	ミダンとヴェンシートはアゲイトに陣取っていたが、ヴァルテがvasteにあまり賛成していないため、なるべく交戦を避けていた。ソームが倒れたことで仕方なしに前線に出る。 デスパを発見し、最終的にそれが何か勘付くが、確信がない。そのときコノーテがヴェンシートを奇襲。戦闘が始まり、悪魔は神々を圧倒するが、最後は罠にかけられ、ミダンとヴェンシートは互いに自分の技を当ててしまい、弱ったところを封印される
1005001	ミダンとヴェンシートを失ったヴァルテは怒り、アルカンスで雷の魔法を撃つ（→ arkans)。神々はこれを恐れて逃亡する
1005578	悪魔もまた駒を進めており、ミダンらが封印されたころにはユーマの封印の強化が終わっていた。これでアルヴァが攻撃に転じられる。悪魔の勝利は決まった。だが神々は悪魔よりも強かだった。
	賢者ユルグは悪魔ほどのヴィードをもったアテンを回復できる環境は一体何だろうかと考えた。ふつうのアレットでは不十分であろう。さらに悪魔の使う強大なヴィードのエネルギー源はどこから来ているのだろうと考えた。そこでユルグはソームなき今無人となっている木星に入り、調査を始めた。すると莫大なヴィードを蓄えたクリスタルを多数発見。これが悪魔の戦力を底上げしていたのだと知る。 しかしユルグの侵入に気付いたヴァルテがこれを攻撃。ユルグはほとんどクリスタルを確保できず、命からがら逃げる。
	ユルグが持ち帰ったクリスタルにより、各惑星にクリスタルがあるだろうことが神々に知れ渡った。攻撃に転じられるはずだった悪魔は自らの住処を守らねばならなくなり、防戦を余儀なくされた。
	ヴァルテは木星のクリスタルを運びたかったが、ユルグの報告を受けた神々がすぐ留守の冥王星に行くだろうと踏んだため、持てるだけ持って木星を去った。クリスタルは大地に根付いて効果を持つものも多いため、すべての星のクリスタルをひとつの星に集めて攻防2チームに分けるというような戦略は取れなかった。
同	神々がテージュを通って冥王星へ行き、ヴァルテを奇襲。ティクノが魔杖ヴァルデを得、ヴァルテを封印する
1006021	神々がテージュを通ってニムラとフレスティアのいる土星に行くも、大敗する
1006566	ユルグに作戦を聞き、再戦する。インプラ、ホーラ、テクラ、プスホーラの順に封印する。カルザスはセルティアを得、フレスティアを封印する
1007049	ブレイスは天王星を、クレートは海王星を住処としていた。神々が天王星に攻め込むと、クレートは速やかに天王星に来て、ブレイスを守った。知略を用いて戦うも、神々は敗退
1007573	ブレイスとクレートと再戦し、クレートをまず倒し、その後ブレイスを封印する
1007999	カルザス、来年産まれる自分の子供の命名をさせるためにアイムルを生む
1008000	エルトは現ヒュート、サールは現ヴェマで束の間の休息を楽しんでいた。この年、エルトにダルケスとルフェル、サールにアルデスとフェルデンが産まれる
1008257	神々はレスティルで軍事会議を開く。このときダルケスとフェルデンが会い、恋に落ちてフェールが生まれる。一方アルデスはルフェルに王の器を感じる
1008561	ヴァルゾンがテージュを見張る中、キルセレスがティーナを狙ってレスティルに現れる。ヴァルゾンはキルセレスを騙すも、結局キルセレスはティーナを改めにアルミヴァを探し出した
同日	ティーテルはキルセレスの邪気を感じ、ティクノの元へ逃げる。ティクノは外出し、キルセレスと出くわす。キルセレスにヴァルゾンの嘘はバレており、戦闘開始。ティクノは斬られ、逃亡。キルティクノを得る
1008562	キルセレス、ヒュートでヴァルファントと戦闘。その最中、カルザスが城から出てくる。カルザスは斬られたが、キルセレスを追い返した。カルザスはキルカルザスを得る。結局キルセレスはティーナの居場所が分からず、悩んだままこれ以降オーディンまで眠り続ける
1009047	神々は太陽の元に行き、アルマと戦うが、大敗
1009500	神々はアルマと再戦し、これを封印する。封印が十分でなかったため、アルマディオでさらに封印する
1009823	神々は太陽の裏側にいたテームスと戦い、これを封印。かくして神々は悪魔に勝利した

同	テージュを通ってアトラスへ帰り、既に海へ沈んだミュールを北上し、現カテージュに着いたところで、ベルトとメルティアに会う。メルティアは悪魔の敗北を宣言し、テージュを閉じるとともに停戦を申し出た。神々はこれを受け、テージュを封じさせた 同 もともと険悪なエルトとサールは共通の敵を失った結果、ヒュートとヴェマへ別れ、袂を分かった

saria

神々の休息。meltia 1,009,824 ～ 1,030,031 の期間。

1009824	エルトはヒュートを本拠地としてアルカットに住み、サールはヴェマを本拠地としてインサールに住んだ。ユーマの一族は既にアルカット中に拡散していた。神の一族は少人数だがかつては農耕や牧畜をしない狩猟採集生活だったため、何万年も生きていくには広大な土地が必要だった。しかしレスティルに住んでからは農耕と牧畜を覚えたため、非常に限られたスペースで満足に生きることができた
1009928	ルカリア（現ヒュート）に住むルカリア人は上等な飛竜を飼いならしており、飛竜を用いた交易をしていた。種類の豊富なユーマの一族の商品に興味を惹かれた神々は、ルカリア人に供物を捧げるよう要求した。これに困ったルカリア人はすぐに態度を決められないと時間を引きのばしてきた。神々は無傷で商品を得たかったため、ルカリア人に 4 年間の猶予を与えた
1,009,932 年夏	ルカリア人は供物を捧げることを拒否。温厚なコノーテはあくまで交渉ルートで話を運ぼうとした。しかしプライドの高いクレーヴェルはかつて少女ユーマに逆らわれたことを根に持っており、神を愚弄したとしてユーマの遠い子孫であるルカリア人の外交官を見せしめに処刑
同秋	ルカリアはレスティルと同盟を結び、エルトとの交易を拒絶。攻撃を受ければエルトに報復すると宣言。まだユーマの一族の力が強い時代であるため、神々もおいそれと手を出せない状況であった。エルトは無傷でいたいと思っていたため、供物でなく交易で構わないという旨を伝えた
同冬	冬のルカリアは不毛で、たびたび食糧難に襲われる。交易品への需要が高まり、レスティルとの交易が始まり、神々もこれに参与する。商品の代わりに神々は有事の際の軍事力となることを約束。こうしてルカリア・レスティル人は傭兵として神の加護を得、周辺諸国に対する軍事力を強めていく
同	職業翻訳家が台頭し、貿易商人となった
1009933	エルトの話を知り、ヴェマでもサールがユーマの一族と交易を開始する
同	交易の都合で人里と神の町の間に交易者たちの村ができていく。飛竜で交易をしていたルカリアは、飛竜の休憩ポイントとなる山間部ごとに点的に栄えていった。ヴェマは森林地帯なため、サールの本拠地の周辺で交易者の村ができた
1,010,000 年代	メルティア 101 万年代は特に大きな争いもなく、ユーマの一族の寿命もまだ現在よりはずっと長く、緩やかに時が流れていた。このころに起こった大きな変化は、交易者の村で神々とユーマの一族の混血児が生まれたことである。このころはユーマの一族は神性をかなり失っていたため、神とユーマの一族の差は artem より明瞭になっていた。その状況で生まれた半神半人の混血児は、神々よりは脆いがユーマの一族よりは強いという性質を持っていた。神々は彼らを完全な神の子として認めることはなかった。つまり、ティクノの息子のアルデスのような存在とは認めなかった。逆にユーマの一族も混血児をユーマの一族と認めることがなかった。明らかに神ともユーマの一族とも性質が異なるためである。このようにして生まれた混血児は lozet（亜神）と呼ばれ、交易者の村で暮らした
同	[魔法] 結界がカルセールとメディアンで作られる→ despel
1,020,000 年代	サリア後半は、ロゼットの時代である。ロゼットは神がユーマの一族と交わることで増え、またロゼット同士が結ばれることでも増えた。彼らは徐々に交易者の村から出て、ルカリアやレスティル、カルセールやメディアンに散っていった。彼らは神ほど強力ではないがユーマの一族よりは強力なため、半分神な存在としてユーマの一族に畏怖され、逆に神々からは自分たちに親和性のある扱いやすい兵とみなされた。この考え方が後のラヴァスでロゼットが主な戦死者となった理由である
同	個々のロゼットはユーマの一族より強かったが、数が多くなかったため、ユーマの一族を追い出すほどの力は持っていなかった。ところが 2 万年かけて徐々に数を増やしたため、15,000 年を過ぎたころから徐々に勢力を強め、よりよい土地を求めてユーマの一族と争うようになった。ユーマの一族は住みよい土地を奪われ、山間部や森の奥深くへ追いやられた。この結果、ユーマの一族は森を切り開いたりトンネルを作ったり、いちいち飛ばなくてもいいように橋を架けたりといった建設・開拓技術を洗練させていった。なお、ロゼットとは常に険悪だったわけではない。ロゼットにも村や部族がたくさんあるため、一部のロゼットとは交易を行っていた。また、同盟を組んで互いに別のロゼットの集落と戦うようなこともあった

1029892	メディアン・スカルディア国境で銅山の採掘権を巡ってエルト側のロゼットとサール側のロゼットが衝突
1029893	両陣営の小競り合いはこれまでにもたびたび起きてきたが、いずれもローカルな争いで終始していた。しかしサール勢がスカルディアの外交責任者を暗殺したことで銅山問題は混迷化し、スカルディアとメディアンの争いに発展した
1029895	スカルディア･メディアン戦争を仲裁するため､エルトとサールがレスティルで会談する｡神々は和解案を出し、ロゼットらに停戦を命じる
同	アルデスら 4 人は王の候補として会談に同席。ここで美しく成長したダルケスとフェルデンが再会し、激しい恋に落ち、内通するようになる
1,030,031 末	ダルケスとフェルデンの内通が発覚。彼らは駆け落ちし、城を飛び出す

cavas

エルトとサールの戦い。meltia 1,030,032 ～ 1,040,000 の期間。

1030032	ティクノらはダルケスの討伐をアルデスに命じ、カルザスらはフェルデンの討伐をルフェルに命じた。ダルケスはアルカンスでアルデスと戦い、戦死。アルデスがダルケスをセレスティアする。それを恨んだフェルデンがルフェルにセレスティアを願い出て、ルフェルはフェルデンの首を泉で刎ねる。ルフェルは兄を殺された恨みでアルデスを攻撃し、アルデスは逃亡｡この事件がきっかけで険悪だったエルトとサールの間に遂に戦いの火蓋が切って落とされた
1030033	エルトもサールも一族すべてをまとめ上げる王がおらず、戦争をするには一枚岩でなさすぎた。そのため、まずアルデスとルフェルは一族をまとめ上げて王になることから着手した
1030034	ヒュートはヴェマほど肥沃でなく、ルカリア交易に依存する割合が大きかった。サールにはカルテ神がいるので、食糧問題は少なかった。そこでルフェルは安定した農作物獲得のため、木々から年の前半の女神アシェテを生み、畑の土から年の後半の女神アリスを生み、万世の豊穣を命じた。これを知ったアルデスは対抗心を燃やし、陽炎から女神フレアを生み、雪から女神シエルを生み、それぞれを夏と冬の司にし、アシュテとアリスを分断させ、仕事が巧く回らないようにした。こうしてアシュテは春の女神になり、アリスは秋の女神になった
1030192	ルフェルはルカリア交易の要所、ヒュート東南部に位置するケートに、自分の息のかかったロゼット軍を送り込み、制圧させる。表向きロゼットの侵略と見せかけ、ケート人を追い出す。ロゼットにルカリア交易を管理させ、エルトに有利な条件で貿易を進めた。ケートのロゼットは輸入元であるアルディアルやレスティルに重い関税（貨幣がまだないので物資やコモディディの交換レートを操作して事実上の関税とした）をかけ、その利鞘の一部を着服しながら残りの利鞘をルフェルに渡した。ルフェルはロゼットを手厚く擁護し、ルカリア交易を手中に収め、エルト内での地位を高めていく
1030535	アルデスは誰が王になるべきか戦で決めようと持ちかけ､我こそはと思うものすべてをヴェマに召集し、トーナメントを持ちかけた
1030539	トーナメントが開かれ、アルデスが優勝し、王位に就く。アルデスはヴェマを王都とし、ロゼットを国民として扱ったが、そこにユーマの一族は含まれなかった
1030782	ルフェルが貿易で付けた経済力を背景にエルトをまとめ上げ、エルトの女王になる。これによりルフェルは全権を委任される。ルフェルもまたロゼットを国民としたが、ユーマの一族は外国人として扱い、一定の居住は認めるものの、国民としては扱わなかった
1,031,000	～ 4,0001000 年を区切りとしてルフェルがアルデスに改めて宣戦布告。スカルディア・メディアンが前線となり、ロゼットによる前哨戦が始まる。ここから 2000 年間の争いはほぼスカルディア・メディアン国境線沿いで行われ、カルメディ戦争と呼ばれた
1033000	ロゼットの小競り合いは細々とした国境線の変動を引き起こしたものの、大幅な戦況の変化はもたらさなかった｡スカルディア東部､メディアン西部は度重なる戦闘で焦土と化した｡もともと砂漠の多い地方だったが、戦災によってますます砂漠化していった
同	膠着状態が続くカルメディ戦争に神々は業を煮やしていた。ロゼットだけでは埒が明かないとルフェルがエルトを送ると、負けじとアルデスもサールを送り、膠着が続く。かといって総大将の自分がのこのこ城を空けて出て行くわけにもいかない。また、仮に出たところで一騎打ちをしても相打ちかルフェルの辛勝になるだろうことが予想されるため、そうやすやすと出ることはできなかった。そこでエルトとサールはどうにか互いを出し抜こうと知恵を絞った
1033642	ティクノとポエンの間にテュアが生まれる

1,033,645 ～ 896	ルフェルはアルデスが幼いテュアを守るので手一杯な状況を利用し、カルメディ前線を攻略。押されていた国境線を東へ押し戻していく
1033897	早熟なテュアが成熟し、アルデスとの間に 4 人の子を設ける。アルデスは子供の世話をテュアに任せ、ルフェルに押された国境線を西へ戻していき、ふたたび戦況は膠着する
1,034,000 ～ 1,034,877	アルディアル戦争。アルデスは膠着したカルメディ戦争の終戦を宣言し、新たな局面に入ったことを宣言する。アルデスは 3 人の子供ジンティ・アッティ・トゥッティを率いてアルディアルを強襲する。戦争経験の乏しいアルディアルはスカルディアより手薄で、アルデスの 3 人の息子も強力だったため、ルフェルの派遣したエルトはことごとく敗れ去った
1034878	アルデス、アルディアルの征服を宣言
1035023	アルデス、遂にルカリアに侵入。ルカリア交易の要所であるケートを目指し、西進
1036128	アルデス、ケートを占拠。ルカリア交易を打ち切る
1036896	アルデス、本拠地ヒュートを目指し、西進。エルトは戦慄する
1037575	アルデス、ヒュート南西部まで軍を進める
同	ルフェルが被災地エルフレインを訪れ、ロゼットの少女である姉妹フレイヤとミレットを見つけ、従者とする 1037580 ルフェルはエルフレインの姉妹が類稀な才能を秘めていることに気付き、戦闘訓練をさせる
1037921	ルフェル、エルフレインの村の奪還を目指し、エルフレインの姉妹を投入。姉妹はルフェルを凌がん戦闘力で活躍し、あっという間にアルデスの子らを撤退させる。ルフェルとアルデスはほぼ互角だったが、エルフレインの姉妹とアルデスの子らだと、前者のほうが圧倒的に強かった。この戦功に対する褒美としてルフェルはエルフレインの姉妹をエルトとした
1038052	ルフェル、エルフレインを率いてケートを奪還
1038664	同、アルディアルを奪還。続いて東へ駒を進める
1039002	フレイヤはサルディーン南部からカルセールに攻め入り、ミレットはカルセール西部から攻め入り、サールのロゼット兵を次々と破っていく。防戦一方のサールは戦慄し、策を練る
1039000 頃	カルセールのヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいった。ハーディアンの最初の国風文化である。
同	[言語] [文字] ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んでいた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず（甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい）、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。
	このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。
1039573	アルデスらはエルフレインの村によく似たアルタの村に姉妹を誘い込み、あえて破壊させる。しかしアルデスは撤退せず、焦土と化した村に隠れ込んだ。姉妹は不審に思うも村を探索する。すると、そこで巻き添えを食らったロゼットの姉妹を見つける。彼女たちはアルデスらが用意した生贄で、エルフレインの村が破壊された当時の姉妹によく似た少女であった。エルフレインの姉妹は目の前で死んでいく彼女たちを見て、ルフェルに洗脳されてきた聖戦思想を失い、自分たちの行いは蛮行なのではないかと疑念を抱くようになる。これにより、激しいサールへの恨みの感情が減り、姉妹は急激にヴィードを失い、アルデスの 3 人の子と同じ程度の強さになる
1039786	アルデスはカルセールとサルディーンからエルトを追い払い、ふたたびラヴァスは膠着状態を迎える
1039999	ルフェルとアルデスはアルカンスで会談をし、膠着化した戦争に終止符を打ち、ラヴァスを終戦させた
1040000	yuuma 0。神々は生き残ったロゼットを連れ、神界アルフィを創造し、そこへ去る

azger

西の民シフェルと東の民マレットの戦い。yuuma 0 ～ 4,000 の期間。
前期アズゲル、千年の冷戦、後期アズゲル――の 3 部に分かれる。

yuuma 0	神とロゼットが去ったことでルカリア交易はふたたび人間の手に返り、ルカリア貿易と称するようになる。当時の人口はロゼットが約 2731 万だったのに対し、ユーマの一族は 4239 万人もいた。そのため、貿易事業のマーケットサイズは急激に膨らんだ。ルカリア交易時代は進物の代わりに軍事力を得ていたため、貨幣の必要性はなかった。また、人間同士の交易も物資の交換で、貨幣はなかった。金による交換もあったが、この時点では金は貨幣ではなく、コモディティのひとつであった
同	神々がいなくなったことで、王座を狙って各豪族間で対立が起こる
yuuma 23	ルカリアでは、ケートに居住してロゼットの下働きをしていたギルケート族が貿易で経済力を強め、各部族をまとめ上げる
yuuma 56	アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を締結。アルカンス貿易の経済力とギルケートの軍事力を背景に、ヴェルディア族の長シフェランがレスティルの王となり、アルカンスに王都レスティリアを建てる
yuuma 113	ハクシウス族がヒュートの領有権を得、軍事的に台頭
yuuma 146	ハクシウス軍が飛竜兵を指揮してギルケートに侵攻
yuuma 149	ギルケートは降伏し、ハクシウスがケートを占領
yuuma 150	漁夫の利を得る形でヴェルディア軍がケートに攻め入る
yuuma 152	ヴェルデイア軍は勝利し、ケートを含む現ケートイア周辺の領土を占領。ケートはレスティル国のものとなる
yuuma 153	戦争続きでルカリアからの貿易が滞ったため、エルトが占領者ヴェルディアに厳重注意をする
yuuma 172	ケートの奪還を目指し、ハクシウス軍がケートに侵攻。しかし貿易がふたたび滞ることを嫌がったエルトはヴェルディア軍についた
yuuma 173	ハクシウスは遺憾に思い、神々への貿易を打ち切る。しかしこの短絡的な報復をヴェルディアに逆手に取られてしまう。アルフィへの経済封鎖にレスティル国は当然賛同せず、かえってヴェルディアは神人貿易の売り上げを増やし、神の恩恵を篤く受けることとなる
yuuma 254	ラピシア族がヴェマを占拠し、東洋の神人貿易の運営を握る
yuuma 293	シレジア族がシージアを占拠し、長のマレティスが王位に就く。シレジアはシージアの天然資源をエルトに輸出した
yuuma 321	ユーマの一族は飛べたため、船の必要性を感じなかった。しかし飛行しながら多くの荷物を運搬するのは多大なヴィードを必要とし、労力がかかる。そこでアクオリアと貿易を始めたマレティスが、運搬に便利な船を開発。風と水の魔法を駆使して難破を防ぎ、大量の荷物を一度に運んだ
yuuma 346	マレティスはリディア国の占拠を狙ったが、各地の豪族を攻略するのに苦心していた。特にリディアで最も有力なカディア族には手を焼かされていた。マレティスはラピシア人と同盟を結び、天然資源をラピシア人に売った。サールがシージアの天然資源をほしがったが、シージアはエルト派なので手に入らない。そこでラピシアが間に入ることで全員の面目が立つという状況であった。このラピシア貿易によりシレジアは力を付ける
yuuma 440	封印の衝撃により意識を失っていたテームスの意識が戻る。封印の檻から出ようと暴れ、蠢動を開始。この衝撃でメルティアが仮止めしていて不安定だった空間のテージュにふたたび穴が空き、同時にテームスが maltiia をして新たな命を生む。このアテンはテームスの体からこけらのようにこそげ落ち、テージュを通ってアトラスへ降り立つ。茶色が地色で黒と白のまだらが混じった鱗のような形で、アトラスに降り立つと、アトラスの環境に合わせて 100 種の身体性を形成した。あるものは人型になり、あるものは動物型になった。これがアデルである。このとき生まれたアデルは知能の低いものが主体で、動物的であった。
	神はアデルがアルフィでなくアトラスに降りたため、アトラスの恐慌は対岸の火事であった。それよりもテームスの復活のほうが脅威であり、もし復活すれば今度は確実にアルフィへ侵攻してくる。そこで神々はテームスの封印を強化し、テージュも強く塞いだ。これによりアデルの産出は止まったものの、アデル自体はアトラスに残存した。
	このとき流入したアデルはミュールを中心に分布した。ミュールは vs で島の集合になって以来、広大な農地もなく山も崩れやすい。また、地理的に台風も多い。そのため住み着く民族がほとんどいない状態で、容易に魔族に支配された。
yuuma 593	ラピシア貿易で力をつけたシレジアはシージア国内を統一。豪族をすべて支配する
yuuma 645	魔族レプトールが falfania で大繁殖し、ファルファニア人は大打撃を受ける
yuuma 647	レプトールの駆除に追われて疲弊した隙に乗じ、ヴェルディアがファルファニアに侵攻
yuuma 648	ファルファニア、ヴェルディアの支配地に
yuuma 729	シージアがカディアに侵攻
yuuma 740	スカルディアでダイズアイライが大量発生。スカルディア人に大打撃を与える
yuuma 743	荒廃したスカルディアにヴェルディアが侵攻
yuuma 744	スカルディア、ヴェルディアの支配地に

yuuma 753	シージアがカディアを降伏させる。マレティスはアルカットの監視をする必要があり、直接南へ下ることに抵抗を示し、進駐軍を置いて間接的に支配した
yuuma 794	支配地が広がったことで貿易商品のラインナップが増え、コモディティの交換だけでは不便になってきた。そこでシフェランは物の価値を金の量で測ることに定め、金を加工して小さなコインにした。コインには文字を刻み込み、シフェランがこの価値を保障すると約束した。金貨の登場である
yuuma 802	遅れてアルディアルをサラ族がまとめる。ルカリアと友好的な貿易関係を続ける
yuuma 823	金貨の信用力はまだ弱く、ようやくこのころ商人の間で広がり始める
yuuma 870	金貨が下請け企業に流通しはじめ、経済活動が活発化する
yuuma 882	大商人が金貨で下請け商に支払いを始め、金貨が徐々に浸透していく
yuuma 890	マレティスがシフェランをまねて金貨を作る
yuuma 911	マレティスはカディアを前線都市とし、リディア国に残った豪族を平定しおわる
yuuma 924	下請け商に勤める奉公人（前回は下請け商自身）が金貨で給与を得るようになり、一般人にも貨幣が浸透する
yuuma 951	レスティリアにて世界初の銀行ができる
yuuma 1000	マレティスはリディア国から進駐軍を撤退させたものの、リディアは事実上の植民地として扱われた
yuuma 1066	遅れてサルディーンをファラン族がまとめる
yuuma 1112	マレティス、リディアから派兵し、フッカを支配
yuuma 1201	シフェラン、レスティル・スカルディアから派兵し、アルディアルに侵攻
yuuma 1226	シフェラン、アルディアルを支配。ルカリアを孤立させる
yuuma 1299	マレティス、ジュヴァルノを支配
yuuma 1365	シフェラン、ルカリアに侵攻するも、イネアートにて敗北
yuuma 1389	イネアート戦線の大敗により、王都レスティリアの銀行で取り付け騒ぎが起こる。金貨のストックが足りず、国は後で金と換えられる紙幣を刷る。紙幣を大量に刷ったせいでインフレが発生。物価が上がると紙幣に対する金貨の価値が上がり（商人が紙幣の受け取りを拒否したり、期日までに紙幣が金に換えられるかという信用リスクが高まったため）、紙幣と金貨が等価でなくなった（＝金との引き換え券としての価値を失いだす）。これにより市場での紙幣による売買成立はさらに減り、実質紙幣は国債と化した。
yuuma 1401	インフレに耐えかね、政府はデノミを敢行。国債となっていた紙幣は紙くずとなった。レスティルの紙幣は国外でも保有されていたため、初の世界恐慌が起こる。同時に金貨の価値は急激に上昇し、唯一の貨幣として見直された。
yuuma 1466	マレティス、ヴァルハノイを支配。サヴィアを統一する
yuuma 1587	シフェラン、ルカリアに再度侵攻し、これを破る
yuuma 1602	ルカリア辺境で大規模なインフレが起こる。ルカリア暫定政府は大量の国債を発行。ルカリアの復活を支援するグループから主な援助を受ける
yuuma 1627	しかし経済は持ち直さず、ルカリア暫定政府は国債をデフォルトし、コモディティでの納税をさせた
yuuma 1636	ルカリア辺境からレスティルへの亡命が相次ぐ中、暫定政府は預金封鎖を行い、あわせてデノミを行った。国は荒れ、それでも歳出のほとんどを軍事費に充てるという凄惨な状況となった
yuuma 1678	シフェラン、ルカリアの暫定政府を倒し、地方豪族らを平定。アンシャルを統一する
yuuma 1680	マレティス、メルモア西部を支配
yuuma 1721	マレティス、メルモア東部を支配
yuuma 1755	マレティス、メルモア南部を支配。ケヴェアを統一する yuuma 1892 マレティス、ハーディアンを支配。アルカットに侵攻したことで、インサールのみならずアンシャルも騒然となる
yuuma 1955	シフェラン、スカルディアを足がかりにメディアン西部を平定
yuuma 2002	ラピシア、シフェル系ハーディアン人と協力してメディアン東部を支配。資源の一部を渡すことを条件に、ハーディアン人を雇って勝利した
yuuma 2098	ラピシア、メディアン東部に流入したマレット人に国籍を与える法律を制定。マレットとシフェルの婚姻が許可され、混血が公然と行われるように
yuuma 2107	ラピシア、マレットの軍事力を背景にサルディーンを支配。マレットに居住権を与え、混血化が進む。アルカットに入ったマレットは徐々にアルマレットを失っていき、西洋魔法化していく

上下間	大勢力のシフェランとマレティス（＋ラピシア）の領土が境界線を共有したため、両者ともおいそれとは手が出せず、両雄睨み合いの冷戦が起こる。冷戦中は戦闘がほとんど行われず、アズゲル前期はこれにて終わり、長く――しかし緊張を伴った――平和に入る。以降 3619 のシフェランによるメディアン進出までの約 1600 年間、東西は小競り合いのみが続き、大きな争いは起きなかった。ただし 3619 の侵攻の背景にあったメディアンの内戦といったような対立は冷戦期間にもあり、この内戦ではシフェル系とマレット系のメディアン人が対立している。
yuuma 2120	シフェラン、冷戦の中、内政を強化するために veldian 帝国を建国。属国の統制を強固なものに。シフェランは初代皇帝となる
yuuma 2125	マレティス、シフェランに呼応して silezian 帝国を建国
yuuma 2129	[言語] [文字] ベルト会談。400 のベルト幼字ができる。その読みとして響字ができる→ hacyuuma 2133 [言語] [文字] 節字ができ、極字のルビとして用いられるようになる→ hac
yuuma 3529	テームスが再び蠢動を開始。アデルが maltiia され、空間に穴があく。テージュは神々が強固に塞いだため、別の弱い空間だったスカルディア西南部の地方バルマーユ上空に穴が空き、アデルがふたたび降り出した。この穴はバルマージュと呼ばれるようになった。
	このとき降ってきたアデルは竜族のような強力なものや精霊族のような知能の高いものの比率が多かったため、後者が社会を形成し、人類と対立した。スカルディアは人類の支配が確立しているため、魔族の村を作る程度が限界であった。
	魔族はスカルディアを中心に拡散。総じて言えば分布は南北より東西のほうが速やかかつ広大であった。北への移動は気候の変化を伴い、つらい。南への移動はそもそも陸がない。これに比べて東西はアルカット大陸が東西に伸びた陸塊であることからも容易であった。とはいえ個々の種については身体性の違いにより、それぞれ得意な気候があったため、逆に南北に早く分布したものもいる。精霊族や妖精族は寒冷地を好むため、北への移動がほかの魔物に比べて速やかであった。
	ここで拡散した魔族は後に belgand や velxion を建国したり、anje のような海賊になったりした。
	アデルの言葉については belgandren 参照。
yuuma 3586	バルマーユ人はアデルの対応に追われたが、逆にアデルの一部を飼育することに成功
yuuma 3591	シフェランがバルマーユを視察。その際、飼いならされたアデルをバルマーユ人に見せられ、驚嘆する。シフェランはアデル遣いを兵科に取り入れることを決意。訓練を開始する
yuuma 3606	バルマーユから広まっていった魔族がミュールへ入る。土着の魔物は知能の低いものが多く動物社会を形成するにすぎなかった。今回入った知能の高い魔族は人類の少ないミュールを好都合と捉え、ここに belgand 共和国を築いた。最初にできた国は王国となるイメージがあるかもしれないが、人間と違って魔族の集まりは異なる種の集まりであり、その点を考慮せねばならない。belgand は多種多様な魔族の集まりで、知能の高いヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンが主に支配階級にいた。彼らは各種族の代表からひとりの執政官を選んで共同統治をさせるという政治システムを採っていた。
	belgand の領土はミュールと現カテージュで、カテージュは少数派だが個々では力の強い liant, lilm, galfrei, libeeze などの魔族が多い。ごく少数だが verlans なども存在する。またここにも veigan は多い。カテージュでは混血が多く、魔人が多い。
yuuma 3612	シフェラン、バルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成する
yuuma 3614	メディアンで ademina が大量発生。農作物を荒らし、家畜も犠牲となった
yuuma 3615	メディアン国内ではシフェル系メディアン人とマレット系メディアン人が暮らしていたが、マレット人の多くは移民で土地や手工業の工場がなかったため、金融を営んでいた。ademina 恐慌で食料を得ることができた少数派マレット人にメディアン人の不満が募り、打ちこわしと虐殺が起こる
yuuma 3616	マレティスはメディアンのマレット虐殺を強く非難。これに対してメディアンは革命軍が政権を握り、真っ向から対立
yuuma 3618	マレティスはラピシアと合同で新政府軍を討伐開始
yuuma 3619	連合軍は新政府軍を討伐。しかしそれを狙ったかのように竜騎兵を率いたシフェランにメディアン西部を奪われる。シフェランはメディアンをメティオと改名
yuuma 3620	シフェランは破竹の勢いで北方に攻め入り、カルセール西部を制圧。ユクレシカを建国。カルセールの首都ヴェマは国家名となる
yuuma 3621	ヴェマのラピシア族はマレティスにハーディアン国からの援軍を求めるも、竜騎兵を恐れたハーディアン国は余裕がないとしてこれを黙殺。竜騎兵はヴェマに進軍
yuuma 3626	防戦の末、ラピシア族は降伏を宣言。難民はヴェマ北西部に逃れ、リーシアを建国。ヴェマの土地は小さくなった
yuuma 3630	シフェランはヴェマにラピシア族による暫定自治政府を置く

yuuma 3631	マレティスはハーディアンの守りを固めた。その結果、メディアン（既にメティオが建国されているので旧メディアン東部を指す）での影響力は弱まり、移住者である少数派マレット人は煽りを食らい、一部は追い出されるようにしてハーディアンに入り込む
yuuma 3632	メディアンでマレット人迫害が激化する。マレティスの影響力が減ったこと、ヴェマが侵攻されたときにマレティスがハーディアン国からが援軍を出さなかったことが原因であるが、メディアン人（ラピシア族がほとんど）の本音は金融業を営んでいた一部の裕福なマレット人の財産を没収したかったため
yuuma 3633	宗主国だったヴェマを 3626 年にシフェランに奪われて以来、ラピシア系のメディアンは財政難に喘いでいた。マレット人迫害で得た財産では到底持ち直さず、社会情勢は年々悪化。そこで地域ごとに次々と自治政府が起こっていった
yuuma 3635	ヴァルマレアが独立
yuuma 3636	メディアンからユベールが独立を目指すが、ヴェマの暫定自治政府に邪魔をされる。しかしラピシア系列の解体を促し、後顧の憂いをなくそうとするシフェランはユベールを援助
yuuma 3638	ユベールが独立 yuuma 3639 同様にシフェランの力を背景にマイナが独立
yuuma 3642	同様にユロが独立。ユロは援助を引き換えに、シフェランの軍の基地を置くことを認め、同盟国となった
yuuma 3646	同様にヒュグノーが独立し、前線基地となった
yuuma 3650	シフェラン、ハーディアン国のアルティア都市と同盟を結び、不可侵条約を締結。ハーディアンの首都ロロスはこの裏切りを遺憾としたが、内戦をしている余裕はなかった
yuuma 3651	シフェラン、ユロからハーディアンに進軍
yuuma 3655	シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国。これにより、ハーディアンは亡国。フィギットとなる。同時にハーディアンの都市だったアルティアは国家に単位を変える。従ってこの年にアルティア王国が建国される。翌年にはアルティアはロロスを支配地としてシフェランから任される
yuuma 3656	西へ散ったほうのハーディアン人がヴェマのヴォザモ地方に入り込み、混血する
同	シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わり自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。
yuuma 3658	[言語] [文字] この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字 (yula) という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字 (sanla) のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。
	京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極 (mana) と呼ぶようになった。京極はハーディアン文字ともいうが、既にハーディアンは滅んでいるのでアルティア文字といっていい。この時点ではロロスは独立していないので、なおのことアルティア文字でよいように思えるが、人文史上ではハーディアン文字と称されている。というのも、京極がハーディアン地方で発展してきたためである。
yuuma 3659	サルディーンからピッカが独立し、サルディーンはデスパナと改める
yuuma 3668	シフェランはロロスの前線基地からフィギットへ進軍
yuuma 3672	全体的に見れば竜族はもともと暖かい地方を好む傾向があるため、寒い地方の戦闘には不向きである。フィギットでは吹雪にも遭い、進軍は厳しいものであった。戦線についたころにはすっかり兵が疲弊しており、フィギットの厚い防御を切り崩すことができなかった。そのため、シフェランは竜騎兵を撤退
yuuma 3673	ヴォザモが独立 yuuma 3680 シフェラン、アクオリア人から同盟の話を持ちかけられる。アクオリアはマレット系の民族から成るが、負けのこんできた同法に見切りをつけ、シフェランにすりよろうとしたためである。アクオリアは土地柄テーティス（風竜）とエリティス（水竜）が多く、アクオリア人はこれを飼いならしていた。これらの竜は寒さに強く、進軍できる。しかし骨ばっていたり氷で覆われたりして乗りづらい。そこでシフェランは断った。だがアクオリア人は引き下がらず、魔獣遣いを紹介した。魔獣遣いは器用にこれらの竜に乗りこなし、また、降りた状態でも鞭を使って器用に操ることができた。しかも一人で複数の竜を操ることができた。これに感動したシフェランはアクオリアと同盟を結んだ
yuuma 3682	シフェラン、魔獣遣いを率いてフィギットへ侵攻
yuuma 3684	フィギットが陥落し、シフェランは統治をアクオリア人に委ね、その代わりアクオリアに前線基地を置いた
yuuma 3698	シフェランはシージアのユピトール地方へ進軍

yuuma 3723	シージア本土の守りは堅く、ほとんど上陸前に海岸で撃ち落されてしまう。侵攻 25 年を区切りにシフェランは休戦を決意。一方のマレティスにはアクオリアへ攻め入る余力がなかったため、ふたたび冷戦が訪れる。
yuuma 3731	バルマーユから移動した魔族が fiilia を中心とした国家 velxion を建国→ velxion
yuuma 3759	ティリア海とトーリア海で海賊被害が相次ぐ。シフェランは海軍を強化
yuuma 3768	シフェラン、海賊船を一隻撃破。海賊が人間ではなく知能を高めたヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンからなるものと知って騒然となる
yuuma 3772	シフェラン、海賊の長アンジェと同盟を結び、強力な海軍を得る
yuuma 3774	シフェラン、北は魔獣遣いを編成してユピトールに攻め入り、南は竜騎兵を編成してイールゥートに攻め入り、同時作戦を展開。兵力を分散されたマレティスは苦心した。さらにそこにシフェランは同盟軍の海賊を投入。対空作戦ばかり主眼においていたマレティスは意外な伏兵に圧倒される
yuuma 3775	ユピトールが陥落、建国
yuuma 3776	イールゥートが陥落、建国
yuuma 3793	シフェラン、アンジェと合同でヴィルハノイに侵攻
yuuma 3813	ヴィルハノイを制圧。アンジェの領土とする。この行為にマレティスは人類を売る行為だと激怒。シフェルの一族からも非難が上がる
yuuma 3815	マレティス、ヴィルハノイを取り戻さんとリディアから侵攻。アンジェはシフェランに援軍を要請したが、シフェランはシフェルの一族からも非難があがっていることを背景にこれを見捨てる
yuuma 3817	アンジェ軍は壊滅し、ヴィルハノイがマレティスの手に戻る
yuuma 3823	第一次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3848	第二次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3863	第三次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3879	第四次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3896	第五次シージア戦争。北部が陥落し、リーゼルを建国
yuuma 3900	第六次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3922	第七次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3952	第八次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 3983	第九次シージア戦争。シフェランが敗退し、撤退
yuuma 4000	第十次シージア戦争。シージアが陥落し、ルティアを建国。十次に渡る長き戦いにより、リーゼルやルティアでは東西の血と文化が入り混じるようになった
同	[言語] vernlens シージア戦で zg 以前の情報が途絶えた。これにより szd と szl の区別は rf や fv との比較で行うこととした。
同	本拠地であるシージアを失ったことでマレティスは指導者としての立場を失った。このままではマレット人はシフェル人に根絶やしにされかねないと危惧したマレティスは人類史上最大の暗殺計画を立てる。せめて指導者のシフェランさえ暗殺してしまえばシフェル人の攻勢は急激に弱化する。しかし強力なヴィードを持った人間の暗殺には同じく強力なヴィードを持った人間の力が必要であった。そこでマレティス自身によるシフェラン暗殺計画が浮上した。問題はいかにシフェランとの邂逅を果たすかであり、いかに守りをかいくぐって対面するかであった。最終的には壮大な国家規模の計略が功を奏し、マレティスはシフェランを襲撃する機会を得た。そこでシフェランと一騎打ちとなり、相打ちとなる。指導者を失ったシフェルとマレットは慌しく揺れた。指導者が消えたこの時点でアズゲルの時代は終了する

mertena

宗教戦争の勃発から召喚士の台頭までの時代。yuuma 4,001 ～ 6,016 の期間。

メルテナ前期：宗教戦争 (yuuma 4,001 ～ 4,444)
メルテナ中期：パックス・ディマリア (yuuma 4,445 ～ 5,109)
メルテナ後期：召喚士戦争 (yuuma 5,110 ～ 6,016)

――の 3 部に分かれる。

前期

宗教戦争アズゲルでシフェルとマレットの争いが終わり、シフェルの時代が到来する。
マレットの一部はシフェルと共存し、残りはケヴェアやアデントなど別の大陸に追いやられた。 (yuuma 4,001 ～ 4,444)

神人貿易の利権を巡ってルカリアでアトラス初の宗教が興り、レスティルを通してアルカット全土へ広がっていく。
初の宗教はアルテ教であり、辞書の arveete を参照。

yuuma 4001	ルカリアでアルテ信仰が隆盛する。民間的には貿易商の間で既にアズゲルからアルテ信仰の源流はあった
同	レスティルの小都市 arvette で lidel が koppel と gildo（商工会）を設立
yuuma 4002	リデルが流行っていたアルテ信仰を利用しコッペルとアルテ教 (arveete) を作り、商工会の結束を高めようとする。集団で購買し、かつ売れ残りの持合をしてリスクヘッジをすることで、神人貿易商の購買力に対抗することが商工会の当初の目的だった
yuuma 4023	商工会の支部がルークスに設立
yuuma 4044	商工会の支部がイルケアに設立
yuuma 4067	商工会の支部がレスティリアに設立。神人貿易商の圧力が強いため、本部はアルヴェッテに置き続けられる
yuuma 4088	小麦の豊作が仇となり、値崩れが起こる。先物による損失とその結果であるところの大量の在庫を抱えた商工会は窮地に立たされる
yuuma 4090	リデルが meldoya の実験を行う
yuuma 4099	メルドーヤの実験に成功
yuuma 4102	ケートで凶作が起こり、ライ麦の先物をしていた商工会は打撃を受ける（4088 のときは凶作を見込んでの失敗で、今回はその逆）。メルドーヤの研究は一時中断され、リデルは恐慌の収拾に就く
yuuma 4117	レスティリアで大麦が豊作となり、在庫があぶれる。小麦に続く損失で、これにより三度目を防ごうとメルドーヤの研究が再開される
yuuma 4123	リデルがアルヴェッテでメルドーヤを運用開始
yuuma 4127	各支部でメルドーヤが建てられる。秘密保持とスペース確保のため郊外に建てられ、見張りが付けられた
yuuma 4134	レスティリアで大麦が凶作となる。リデルは蓄えていた大麦を安価で供給し、一躍名声を浴びる。これを神の救済としたため、たちまち庶民の間にアルテ教が広まっていく
yuuma 4137	リデルに対抗して神人貿易商の名士 ignast が神商会を設立
yuuma 4141	イグナスト派がレスティリアのメルドーヤに侵入し、仕組みを盗もうとする。見張りは有事の際の取り決めに従ってメルドーヤを破壊し、秘密を保持した。これにより、商工会との対立が明確となる。商工会は凶作のときにメルドーヤを使って信者を獲得してきたため、庶民ほど恩恵を受けており、庶民に信者が多い。対して神商会は富裕層が多い。数では商工会、個々人の経済力という意味の質では神商会という構造があった。
yuuma 4142	リデルがメルドーヤを破棄し、商工会の地下に広大な空間を作り、その中にメルドーヤを移しはじめる
yuuma 4152	リデルはアルテ教会をアルヴェッテに設立し、商工会から独立させる。これは神商会および国王から商工会が睨まれていたことに対する方策であり、実態は商工会の人間で上層部が占められた。
yuuma 4172	レスティリアの王府からアルテ教は異教 (myukale) だという公言がなされる。実際に歴史的に見ればアルテ教のほうが間違っているわけで、存在しない神を崇められては当然サルトとしては鼻持ちならない。また、神商会としてはこれ以上商工会をのさばらせておくわけにもいかなかった。そこで両者が時のレスティル王マールを炊きつけ、アルテ教を邪教とし、yuuma 4174 にはさらに宗教の禁止を公布させた。宗教はアルバレンで myukale といい、「嘘のもの」「存在しないもの」を意味する。これにより、アルテ教迫害の下準備が整う
yuuma 4175	レスティリアでアルテ教の弾圧が開始。間接的な商工会への攻撃が開始された
yuuma 4176	本山アルヴェッテに弾圧の手が及ぶ。教会は商工会の経済力を背景に清教徒兵団という私兵団を設け、弾圧に対抗。本山は守られたが、教徒に対する各地での迫害は続いた
yuuma 4182	レスティル全土に弾圧が広がる
yuuma 4184	周辺国家でも弾圧が開始される
yuuma 4189	レスティル北部の都市アデュにアルテ教徒の収容所が設立される。これがかのアデュ収容所である
yuuma 4205	王府はアルテ教会が違法な邪教の組織であるとし、教会の解体を命じる。教会はこれを不服として拒絶
yuuma 4206	レスティリア軍がアルヴェッテに侵攻。内戦が始まる
yuuma 4207	弾圧の厳しかったケートイア地方で義勇軍が立ち上がり、人人貿易で利益を得ているアルディアル人が主な兵力として参加
yuuma 4208	ケートイアの義勇軍のレスティリア侵攻がきっかけで、アルヴェッテに侵攻していたレスティリア軍に後顧の憂いが生じ、撤退。結果的に清教徒兵団が勝利する

yuuma 4212	レスティリア軍、ケートイア義勇軍をケートまで追いやる
yuuma 4214	清教徒兵団、ケートイア義勇軍と挟撃してレスティリア軍をアデュで破る。彼らはまとまり、清教徒軍を名乗る
yuuma 4217	清教徒軍、ドフレットに侵攻
yuuma 4218	清教徒軍、ドフレットを奪取。清教徒軍はレスティリア奪取を目指して準備を始める
yuuma 4219	ラヴァスの再来を恐れてアトラスの内政に関与できないサルトだが、このままでは神人貿易の存続が危ういと見て、ルフェルとアルデスがアルカンスで会談を行う
同冬	サルトがリデルにレスティリア侵攻を自重するようにとの警告を発する。リデルも神と直接戦うのは分が悪いと考え、アルテ教の公認と引き換えに停戦を受け入れた。サルトはその結果を受けてひとまず矛を収め、時のレスティル王 maal に決断を委ねた
yuuma 4220	マール王がアルテ教を邪教としたことは誤りであったと認め、アルテ教を公認する
yuuma 4221	公認は多くの教徒にとって喜ばしいことだったが、一部の過激派には不満が残った。あのまま進軍していればレスティリアを奪取できたと考えた教徒はリデル及びマール王に対する怒りをあらわにした
同夏	過激派がテロと化し、神商会への攻撃を開始。一時騒然となる。教会は一切関与していないと明言。この発言を言質として受け取ったマールは神に掃討を依頼。アルデスとルフェルが降臨し、過激派を掃討
同秋	過激派が容易に掃討されたことを受け、ユーマの一族に衝撃が走る。皮肉なことに、サルトを思想的に貶めていたアルテ教の信者さえもその圧倒的な力を見せ付けられ、神の偉大さを知るようになる。この件がきっかけとなり、アルテ教徒の中にサルトも信仰しようという多神教の考えが生まれる
yuuma 4222	リデルは多神教の考えを否定。多神教の考えを邪悪な考えと非難した
yuuma 4236	神商会の harklet が年々教徒を増やして力を付けていく教会の力を押さえ込むために、多神教派の先導者 rudia をバックアップしはじめる
yuuma 4241	rudia は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派・独立し、jelika に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる
yuuma 4278	ハークレットの進言で王はサルト教も公認する。神商会・アルテ教・サルト教の三頭体制が生まれる。神商会とサルト教は比較的同盟関係にあった
yuuma 4312	神商会のバックアップを受けたサルト教は躍進し、アルテ教に並ぶ規模に達し、対立が激化
yuuma 4349	両宗派の宣教師がスカルディアのルビー鉱山地帯 faredia の採掘権を巡って抗争を開始
yuuma 4352	抗争がレスティルに飛び火。小競り合いの繰り返しが起こる
yuuma 4380	リデルとルディアが会談し、和議を結ぶ。緊張を伴う平和が訪れる
yuuma 4404	マール王が崩御し、娘のディマリアが女王に就くも、神商会の力は一時的に弱まる
yuuma 4405	虎視眈々とアルテ教が神商会に狙いを定める。しかし直接的な戦いに持ち込むとサルトが口を出すだろうことは分かっていたため、神商会を政治的に潰して教会が神人貿易を取り仕切り、利益を上げようという計画をコッペルが立てる
yuuma 4406	ハークレットは教会の陰謀に気付き、サルト教会との連携を強め、神人貿易の一部に参加させることを条件に連立を行う
yuuma 4408	連立した神商会とサルト教会はアルテ教会を攻撃
yuuma 4416	連合軍が清教徒軍を攻撃
yuuma 4418	アルヴェッテが陥落。リデルとコッペルは戦死し、教会は解散となる
yuuma 4444	後継者 abelis がアルディアルの heist で教会を建て直す。ハークレットは神人貿易に参加しだしたサルト教を内心邪魔に思っていたが、アベリスの台頭により共闘を維持せねばならなかった。しかしサルト教としても神商会をなんとか出し抜きたいところで、実際には三頭体制の再来になっていた。アベリスは地道に信者を増やし、争いを避けるために政治には極力口を出さないようにし、宗教の本来的な形を取って布教した。個々の布教効果は微弱だったものの、長年の積み重ねは功を奏していく。以後およそ 700 年間、女王ディマリアの治世のもと、比較的安定した統治が続く（パックス・ディマリア）

中期

パックス・ディマリア (yuuma4,445 ～ 5,109)
女王ディマリアの治世のもと続いた約 700 年に渡る平和な時代。

yuuma 4673	ハークレット死亡。カンダルが神商会の新たな代表となる
yuuma 4891	ルディア死亡。ディートアが新たなサルト教の代表となる
yuuma 5023	カンダル死亡。ユキナが神商会の新たな代表となる
yuuma 5109	ディマリア崩御。息子のミハリルが 203 歳で即位する

後期

召喚士戦争 (yuuma 5,110 ～ 6,016)

yuuma 5199	サルト教のディートアが死亡。後継者は後のカルマント派を作る ireus と、後のエスピール派を作る teezus の 2 人となった
yuuma 5238	サルト教が二派に分派。アルテは実在であり創造主であるとする kalmant と、アルテは概念であってすべてを生んできた自然の流れをそのように呼んだにすぎないとする espir とに分かれた。カルマントはアルテの偶像崇拝を行った。エスピールはアルテを偶像視しないので、それが高じてほかのサルトを含め偶像崇拝そのものを嫌った
yuuma 5266	アベリスが死亡。ガルマがアルテ教の新たな代表となる
yuuma 5288	ミハリル王に息子ハリカルが誕生
yuuma 5367	このころメティオ美術が盛んとなる。メティオはカルマントが多く、アルテの偶像崇拝を行い、皿や壷などの調度品にアルテを描いた。サルトの感情を考慮して輸出は自主規制してきたが、この年人的ミスによりルフェルのもとに一枚の皿が届く。それまでも誤った輸出品に関してはエルフレインがチェックを行って弾いていたが、このときはエルフレインも気付かず通してしまった。たちの悪いことに、その皿はルフェルがアルテにひざまづいているものであった。これを見たルフェルは気分を害したものの、不処分とした
yuuma 5368	しかしエルトの一族は神に対する冒涜だと激昂。カルマント派からの輸入を制限する
yuuma 5369	同じサルト教ということで怒りがこちらにまで向いてはたまらないと思ったエスピールはカルマントを排してスピンオフ
yuuma 5375	カルマント派を失ったことはサルト教全体で見れば教会の脆弱化を招いた。そこにつけこんだ神商会はエスピールの掃討に動き出した。エスピールを排せば昔同様神人貿易の全権は神商会が握れるためである
yuuma 5376	レスティリア軍がジェリカに侵攻開始。エスピールは軍事力で劣っていたため、神人貿易の契約である有事の際の保護を申し出、神に助力を請うた。しかし同様に神商会も契約に基づき神の助力を請うた。結果、神はどちらの味方につくこともできず、なんの役にも立たなかった
同冬	ジェリカは記録的な豪雪に見舞われ、包囲していたレスティリア軍は一時撤退を余儀なくされた。エスピールも神商会も神が自分たちを助けなかったのは契約違反だと抗議。この動きはインサールにまで広がった
yuuma 5377	神人貿易を手放すわけにはいかなかったルフェルとアルデスは会談し、契約の方針を変えることで合意。従来は神人貿易を行う団体と契約をし、その団体の求めに応じて召喚されていた。それだと契約団体同士が抗争した場合、神は助力できなくなる。そこで契約を貿易商個人と直接行うことにした。どちらのサイドであろうがその個人契約者の求めに応じ、その敵を攻撃するという契約に変えた。契約者はヴィルを使って神をアルフィからアトラスへ転移させる。このとき強い神であればあるほど大量のヴィードを持っているので、移送にも大きなヴィルがかかる。団体でなく個人単位で召喚するため、召喚時間は短く、原則として神は相手に一撃しか攻撃を加えることができない。例えばアルデスと個人契約を結んだ商人がアルデスを召喚すると、アルデスは敵を一回攻撃して去る。アルデスはそのときその契約者の求めに応じて敵を攻撃するだけなので、敵が別個にアルデスと契約を結んでいたとしても攻撃を受ける。従って決闘などでは先に召喚したほうが有利となる。もし一撃で勝負がついてしまえば、先に召喚したほうが勝者となる。召喚時間が短くなることで神に代わりに戦ってもらうことはできなくなり、神はただの兵器の一種となった。これにより神は「相手が契約者団体だから動けない」というしがらみがなくなり、責任も追及されないようになる。それでいて人類としてはやはり強力な兵器である召喚を使わないわけにはいかず、このシステムを飲んだ。この出来事がメルテナ後期の召喚士時代を築くことになる
yuuma 5388	レスティリア軍、ジェリカに再度侵攻。歴史上初めて召喚士同士の争いが起こる
yuuma 5402	長期に渡る戦争が終わり、レスティリア軍が撤退
yuuma 5408	内乱で疲弊したレスティルにルカリアが攻め入ってくる。ミハリル王は神商会とエスピールをまとめて外敵に対抗しなければレスティルは占領されるであろうと唱え、神商会とエスピールの融和を目指した
yuuma 5412	ルカリアがケートを通過
yuuma 5419	同、アデュを通過
yuuma 5426	同、ドフレットを通過。前線に出ていた時期国王のハリカルがまさかの戦死を遂げ、レスティルは騒然となる
yuuma 5428	危機を感じた神商会（王寄り）は、エスピールを国教と認め、アルテの概念としての存在を認め、信仰を奨励する。これによりエスピールが王に協力的になる
yuuma 5433	神商会はカルマント派を抱き込み、兵力を増強。しかしエスピールの不満を呼ぶこととなる。ミハリル王はカルマント軍を別の戦役に置き、エスピールと別々に配置した

yuuma 5437	神商会はガルマを抱き込み、アルテ教も受け入れた。サルト教の不満が上がり、アルテ教軍は危険な前線へと追いやられた。しかしそれでも狂信者たちはアルテ神の公認のために戦った
yuuma 5440	レスティル、ルカリア軍を撤退させ、勝利する
yuuma 5444	スカルディアのアルシェリア人がカテージュ地方に侵攻開始。竜騎兵から成り、双龍槍を振るう、小柄ながら屈強な戦士を中心とした軍隊で、接近戦と中距離戦に長けた。ルカリアとの戦いで疲弊していた王府は満足な対策を講じられなかった
yuuma 5456	カテージュ東部の山岳地帯の要塞都市 alkidel が陥落。アルシェリア人の侵入を許す
yuuma 5469	カテージュが征服される
yuuma 5481	ミハリルに娘ペティが誕生
yuuma 5491	ミハリルが崩御。10 歳のペティが即位する。アトラス史上ありえないことで、物議をかもすこととなった。結果、ユキナが政治を見る摂政という地位についた
yuuma 5495	カテージュ軍、混乱に乗じてイルケアに侵攻。戦争は長期に渡る。皮肉なことに、長引く戦いのせいでかえって異教間のわだかまりは弱くなっていき、召喚士の地位が高まっていく。何教かよりも召喚士か否かという区別のほうが重要視されつつあった
yuuma 5521	レスティル軍はカテージュ軍を退け、アルシェリア人はカテージュに撤退
yuuma 5565	ユキナ死亡。メリウセルが神商会の新たな代表となる。メリウセルは力でのし上がった人物で、強力な魔力を持っていた。その力を活かして神と次々に契約を結んでいった人物である。このときペティがまだわずか 100 歳にも達していなかったため、メリウセルが関白という地位を築いて政治を見た
yuuma 5576	先の戦いで戦功があったのは主に召喚士で、宗派を越えて召喚士そのものの地位が高まっていった。召喚士同士の横の繋がりのほうが宗派よりも重要視されるようになり、ほとんどの人間は各宗派の違いよりも職業の違いを意識するようになった。この状態を受け、関白メリウセルは日本でいう神仏混合（エマルジール）を行い、アルテもサルトも漠然と崇める対象と広く定義し、アルテの存在を認めない神商会に対しては「このアルテは原初に存在して分裂したアルテのことで、概念でも唯一神でもない」と説明し、飲ませた。神商会としてはエマルジールを行うことで富国強兵になり、体よくサルト教とアルテ教を吸収できると考えた。この時代は昔ほど宗派の違いが重要でなく、召喚士や魔導師といった職業のほうが重要視されたため、メリウセルは新しい風潮に合わせて宗教理念を柔軟に解釈した
yuuma 5587	エマルジールがインサールでも起こる
yuuma 5603	エマルジールがレスティル周辺諸国に広まる
yuuma 5612	メリウセルの王府における権限が強くなりすぎたことに対し、国王派の嫌気が高まり、神商会との対立が浮き彫りに
yuuma 5621	メリウセルが宗派を統合し、artilia 教と改名。アルテの解釈を広く取り、宗派をまとめた。これにより教会の力は高まり、いちはやく統合を行ったレスティルは諸国に対し秀でるようになる yuuma 5635 ルカリアで統合が起こり、artilia の普及が一歩進む
yuuma 5648	ヴェマで統合が起こり、artilia の普及が一歩進む
yuuma 5653	artilia の力を背景に、カテージュのレコンキスタ（再征服）が開始
yuuma 5655	カテージュのスカルディア人は artilia に対抗するため、首都 iksdia にて iksante 教を興す。教祖はシフェル系スカルディア人の hastil で、もとは被支配民族であった。iksdia はシフェル系古スカルディア語の地名で、iksante はマレット系古スカルディア語であり、マレット系古メティオ語にほぼ等しい。iksante は iksdia を外来語としてマレット系古スカルディア語に取り入れてから「～教」を指す形態素を加えてできた名である。ハスティルは「封印されたテームスが復活して神と神の軍を倒すであろう」と唱え、魔獣兵を率いて、レスティル率いる神の軍 artilia と戦った
yuuma 5659	iksante の守りは堅牢で、カテージュのレコンキスタは至難のわざであった。また、レスティルには常にルカリアという後顧の憂いがあったため、戦争を長引かせるわけにはいかなかった。この年、レスティル軍は撤退
yuuma 5667	周辺諸国で次々と統合が起こり、artilia が世界宗教に
yuuma 5670	iksante がスカルディアで国教となり、artilia が強制退去させられる。迫害・虐殺を行わないところが温厚なスカルディア人らしいと評された
yuuma 5680	iksante がメティオで国教となり、artilia が迫害・虐殺される。庇護を求めて artilia がレスティル及びアルディアルへ亡命。迫害に対し、artilia の iksante への非難が高まり、これが第二次レコンキスタへの呼び水となる
yuuma 5686	第二次レコンキスタ開戦
yuuma 5703	レスティル軍撤退
yuuma 5705	レコンキスタでの失敗をかさに国王派は関白メリウセルを追及。失脚を狙う
yuuma 5708	国王派の過激派 diorel がメリウセルの暗殺を企てるが、強力な mejtel により失敗
同月	メリウセルが報復でじきじきにディオレールを暗殺。国王派との内乱が勃発する

同冬	メリウセルはレスティリア城の西部に陣を構え、国王派と闘争
yuuma 5709	メリウセル軍が国王軍を破り、ペティを廃位。下克上という言葉ができる。メリウセルは自らが王となり、レスティルを支配。召喚士から輩出した初めての王であった
yuuma 5710	血の革命が起こり、元国王派が次々と要職を追われ、虐殺される。この行為に国民の不満が爆発し、メリウセルは対応に追われる
yuuma 5716	メリウセルは国民の暴発を鎮めるため、元女王ペティを嫁に迎え、王家の血を絶やさないことを約束。譲歩を見せられた国民の一部は溜飲を下げたものの、完全に納得したわけではなく、治安は完全には回復しなかった
yuuma 5732	メリウセル、息子 ivil を授かる。王家の血と混ざったこともあり、非常に強力な才能を秘めて生まれた
yuuma 5755	ヴェマで召喚士 krius が王を倒して新王となる
yuuma 5766	ルカリアで召喚士 hakxilia が王を倒して新王となる
yuuma 5777	周辺諸国で召喚士が王を倒して新王となる。ただし、スカルディア、メティオは除く
yuuma 5787	第三次レコンキスタ開戦
yuuma 5799	レスティル軍、カテージュを再征服
yuuma 5806	第四次レコンキスタ開戦。レスティル軍、要塞都市アルキデルへ侵攻
yuuma 5811	レスティル軍、撤退
yuuma 5823	アルキデル軍、カテージュに再び侵入
yuuma 5829	カテージュ陥落。ふたたびスカルディアの領地に
yuuma 5836	第五次レコンキスタの準備を整えていたが、度重なる戦争で疲弊した国民から非難の声が相次いだ。経済は悪化し、軍事費がかさみ、何よりレコンキスタが最初に行われたころに比べ、この時代の新しい世代にとってカテージュは生まれたころから異国であるため、レコンキスタといわれてもピンと来なかった。初期はレコンキスタに強い思い入れがあった国民も、いまや半分どうでもよくなっており、それより目の前の生活を王府は改善しろという声の方が圧倒的に多くなった。そのため王府はレコンキスタを凍結し、カテージュを切り捨てた
yuuma 5859	イルケアにカテージュ軍が侵攻
yuuma 5862	カテージュ軍、撤退
yuuma 5878	ケートにルカリア軍が侵攻
yuuma 5883	ルカリア軍、撤退
yuuma 5899	ケートにアルディアル軍が侵攻
yuuma 5903	アルディアル軍、撤退
yuuma 5919	ルカリア・アルディアル連合軍、ケートに侵攻
yuuma 5923	連合軍、ケートを陥落
yuuma 5938	レスティル軍、ケートをレコンキスタ開始
yuuma 5941	レスティル軍、ケートを再征服 yuuma 5955 死期を悟ったメリウセルが妻ペティを暗殺。自分の死後に元国王派のペティ派とイヴィル派に割れるであろうことが明白だったため、国と国民を守るために妻を犠牲にした
yuuma 5973	母を殺したのが父メリウセルだと知り、イヴィルは激怒。病床にあったメリウセルを刺し殺す。メリウセルが崩御し、イヴィルが即位する。召喚士が王となって国を統治するシステムが安定した時期で、召喚士はエルト派とサール派に分かれ、アルカットは東西に分断されはじめる
yuuma 6003	イヴィル、メティオおよびスカルディア（＝中洋）の支配を狙い、カテージュに侵攻開始

kako

月戦争。西のドゥルガ圏と東のヴィーネ圏の戦い。yuuma 6,017 ～ 8,095(imul 16)

カコ前期：アリスカンテ時代 (yuuma 6,017 ～ 6,804)
カコ中期：イシリウス時代 (yuuma 6,805 ～ 7,491 flea)
カコ後期：アディア交戦 (yuuma 7,491 alis ～ 8,095(imul 16))

前期

アリスカンテ時代 (yuuma 6,017 ～ 6,804)

yuuma 6017	クリウス、中洋の支配を狙い、メティオ東部 alhante に侵攻。中洋は上弦でも下弦でもなく、イクサンテ（拝魔教）に属している。このため神人貿易に非協力的で、イクサンテ樹立以降は特に鎖国状態に近いものがあった。豊富な中洋の資源を巡って東西が争うようになる。クリウスのメティオ侵攻で東側も中洋の支配に乗り出し、西側との対立が浮き彫りになる。ゆえにこの時点を以ってカコの開始とし、6016 をメルテナの終わりとする
yuuma 6021	クリウス、娘の iihal を授かる
yuuma 6055	クリウス、アルハンテを陥落
yuuma 6137	イヴィル、遠征先の anje で娘誕生の報を聞き、lanje と名付ける
yuuma 6172	イヴィル、カテージュをレコンキスタ
yuuma 6225	クリウス崩御。イーハルが即位 yuuma 6284 イヴィル、アルキデルを陥落
yuuma 6321	イヴィル崩御。強力な力を持ちながらも、寿命がほかの王より少し短くなっている。ランジェが即位
yuuma 6356	ランジェ、アルシェリアを陥落
yuuma 6380	ランジェ、genos を陥落
yuuma 6391	イーハル、アルハンテ西部の reixan に侵攻
yuuma 6400	アルシェリアが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6401	ゲノスが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6403	イーハル撤退
yuuma 6415	ランジェ、lazdia を陥落。現魔方に食指を伸ばす。魔方はこの時点で既に iksante によって lazdia など、悪魔的な地名に塗り替えられていた
yuuma 6423	イーハル、第二次レーシャン戦争
yuuma 6437	レーシャンを陥落
yuuma 6442	イーハル、tonkan に侵攻
yuuma 6450	トンカンを陥落
yuuma 6466	ランジェ、bertia を陥落
yuuma 6472	イーハル、娘の diomante を産む
yuuma 6480	イーハル、mansei に侵攻
yuuma 6492	イーハル撤退
yuuma 6503	ラズディアが独立国家となるが、レスティルは宗主国となり、事実上の属国であった
yuuma 6511	イーハル、マンセイに再度侵攻
yuuma 6523	マンセイを陥落
yuuma 6532	ランジェ、estia を陥落
yuuma 6543	イーハル、現アリディアの tselin に侵攻 yuuma 6556 イーハル、ツェリン前線でまさかの戦死。ヴェマに衝撃が走る
yuuma 6557	宰相 erin と diomante 姫の派閥に分かれ、ヴェマ連合国（ヴェマ及び沙方からなる連合国）で政治戦争が起こる
yuuma 6573	diomante 派が宰相派を政治的に倒し、宰相派は暗方に封じられる
yuuma 6588	ランジェ、娘の azeria を産む。東方遠征は最大戦力であるランジェが前線を退いたことで一時中断。レスティルは防戦の構えを取る
yuuma 6593	ディオマンテ、イーハルに代わってツェリンに再度侵攻
yuuma 6600	敗戦による内政不安からスカルディアが 3 国に分裂。merdia, kiltia, askaldi に
yuuma 6601	ツェリン陥落
yuuma 6619	ディマンテ、ツェリン西部の anpel に侵攻
yuuma 6623	ディオマンテ撤退
yuuma 6631	アスカルディがメルディアに侵攻
yuuma 6636	メルディアが陥落
yuuma 6638	弱体化したメルディアにレスティルが侵攻
yuuma 6639	メルディア陥落。焦土と化す
yuuma 6652	メティオ、ツェリンのレコンキスタを開始
yuuma 6672	若きアゼリア姫、キルティアの外相を巧みな交渉術で取り込み、キルティア王を説得させて無血開城を実現。レスティルは労せずキルティアを物とする。キルティアには自治権を与え、優遇税制を取った
yuuma 6680	メティオ、ツェリンをレコンキスタ
yuuma 6699	ディオマンテ、ツェリンのレコンキスタを開始
yuuma 6703	経済的に栄えたキルティアとレスティルの連合軍がアスカルディに侵攻

yuuma 6707	アスカルディの激しい抵抗に撤退を余儀なくされる。アゼリアは敗戦の理由がレスティル兵とキルティア兵の宗教の違いによる不和にあるのではないかと考えた。この時点の宗派の違いは弱くなっていたものの、それはアルティリア教内部における話であって、拝魔教イスカンテとの間には根本的な違いが残っていた
yuuma 6708	ディオマンテ、ツェリンをレコンキスタ
yuuma 6714	アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、artilia と iskante を ariskante 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける 同夏 反対派の過激派がキルティアでテロを開始
yuuma 6722	ランジェ崩御。アゼリアが即位。テロに格好の機会を与える
yuuma 6729	ディオマンテ、アンペルに再度侵攻
yuuma 6735	ツェリンでダイズアイライが大量発生し、ディオマンテはアンペルから撤退
yuuma 6737	テロがメルディアでも発生
yuuma 6738	ダイズアイライが沙方に飛び火。連合は混乱する
yuuma 6739	ヴェマ王府がアルティリア教徒を優先的にダイズアイライ災害から救済したことで、連合内のイスカンテ教徒から非難が上がる
yuuma 6740	その対策としてディオマンテがアリスカンテを取り入れ、国教と定め、アルティリアとイスカンテ間の異教徒という壁を取り除き、差別を禁止する法を制定。しかし法はしばしばザルで、現場では守られないことが多く、不満の声は残った。またこの結果、反対派の反発を招くこととなり、インサールにもテロが飛び火
yuuma 6743	テロがレスティル本国に飛び火
yuuma 6745	アゼリア、アリスカンテ以外を邪教と宣言。信仰心の篤いもののうち旧アルティリア教徒を letis と呼び、旧イスカンテ教徒を teetia と呼び、それ以外を veles と呼び、veles を強く非難した。反対派はこれによって邪教徒 harva と呼ばれるようになり、弾圧の対象となった
yuuma 6746	アゼリアは教祖を名乗り、自らを預言者にしようとしたが、国民の賛同は得られなかった
yuuma 6749	アゼリア、邪教徒の本拠地であるアルヴェッテに侵攻
yuuma 6750	アルヴェッテの大虐殺が起こり、邪教徒は一掃され、散り散りになる。このとき既に国内はアリスカンテ教が優勢だったため、アゼリアは賞賛を浴びる
yuuma 6752	アゼリア、息子の andant を産み、andant を預言者と公言。国民は邪教徒討伐の一件があったため、これを受け入れる
yuuma 6753	ディオマンテが連合国内の邪教徒を一掃しはじめる
yuuma 6754	邪教徒を一掃しおえる
yuuma 6758	ディオマンテ、息子の ikstan を産み、これを預言者とする
yuuma 6759	アリスカンテの預言者が 2 人となったことで東西は正当性を互いに主張し、対立が濃くなる
yuuma 6762	ディマンテ、アンペルに再度侵攻
yuuma 6767	アゼリア、アスカルディに侵攻
yuuma 6774	ディオマンテ撤退 yuuma 6777 アスカルディを陥落。アルマティア、カルテール、ガルテアに分割する。アスカルディ王家はフレスティルに封じられる
yuuma 6786	アゼリア、アンペル西部の toutou に侵攻
yuuma 6792	トウトウ陥落
yuuma 6803	アゼリアは長い因縁のあるアンペルとヴェマを見て、アンペルのメティオ政府に同盟を提案。アンペルはこれを受け入れ、自治権と優遇税制のもと、アゼリアと組む。こうして無血開城でアゼリアはアンペルを手に入れ、メティオの領土は一時アンペル自治区のみとなる
yuuma 6804	アゼリアはアンシャルの大部分を支配していたが、未征服の土地も多かった。しかし西は既に東という共通の敵を持っていた。勝手に西をひとつの帝国とするわけにはいかないが、東という共通の敵を浮き彫りにするために、アゼリアは西をドゥルガと呼び、ひとつの文化圏とした。これを受けてディオマンテは東をヴィーネと呼び、月戦争カコが完全に勃発。こうしてカコは中期に入っていく

中期

イシリウス時代 (yuuma 6,805 ～ 7,491 flea)

yuuma 6808	アゼリア、ルティアと同盟を結び、ルカリアへの圧力をかける
yuuma 6809	ルカリアにてドゥルガへの帰属運動が起こる。レスティルの属国化は拒絶するものの、今は西で争っている場合ではないと考える人々がドゥルガへの帰属を唱えた
yuuma 6813	アゼリア、ルカリアと同盟を結ぶ

yuuma 6817	ルティアから大魔導師 yuklesia がアゼリアに招聘される。引き換えにレスティルはルカリアに経済的援助を行う
yuuma 6822	ユクレシア、lyuux 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う
yuuma 6835	レスティルでダイズアイライが大発生。被害は甚大を極めた
yuuma 6837	レスティル全土でダイズアイライが猛威を振るう
yuuma 6838	ディオマンテ、アンペルに侵攻
yuuma 6839	ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 aldilik や arvain による疫病と類似していることに気付き、dizia（病原菌）の存在を仮説として立てる。dizia の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ていた地方都市アルシアに出張する
yuuma 6841	ユクレシア、アルシアでのダイズアイライの駆除に成功。同時に病気の感染も減らし、dizia 理論が正しいことを証明する。ここから実験をさらに実証するため、ユクレシアは地方都市へ次々と行き、ダイズアイライの駆除を行う yuuma 6844 ユクレシア、地方都市のダイズアイライを駆除しおえる。首都レスティリアはなまじ人口が多いため、駆除が困難であった
yuuma 6845	アゼリア、レスティリアからアルナに遷都。レスティリアは封じられ、嘆きの壁という巨大なバリケードで囲われた。感染が酷いものは見捨てられ、嘆きの壁の内側に打ち捨てられ、火が放たれた。レスティリアは廃墟と化した。この「嘆きの焔」事件に対し、国民の怒りがあらわとなり、アゼリアの退陣が叫ばれるようになる
同	[言語] vernlens 遷都の際、図書館も近寄れないまま廃棄されたので lss 以前の言語情報が途絶えてしまった。そのためこの時代のものは lsd か lsl の区別しか保証されないものがある。
yuuma 6846	反アゼリア派が新首都アルナで暴動を開始
yuuma 6847	アンペルが陥落。アゼリアはさらに名声を失い、窮地に立たされる
yuuma 6850	レスティル全土で反アゼリア運動が盛んとなる
yuuma 6852	アゼリア、国民の反感を反映し、息子 andant が 100 歳になったのを契機とし、退陣。慣例により、王は 100 歳以上であることが望ましいため。ただし未熟な andant には任せられないため、アゼリアは関白となった
yuuma 6856	ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって amiti などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lyuux 研究所の研究員で、嘆きの焔以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lyusia 研究所を建て、lyuux の姉妹校とし、魔法の研究に専念した
yuuma 6859	ディオマンテ、トウトウに侵攻
yuuma 6860	遅れてルティアでダイズアイライが発生
yuuma 6861	ダイズアイライの件を受け、ユクレシアはルティアに帰国する。lyuux の所長は弟子の ivles が就任した
yuuma 6865	地方都市で続々と lyusia 研究所の姉妹校が生まれる
yuuma 6867	イヴレスが各 lyusia に年次ごとの研究の成果のまとめを提出するように命じる。しかし各 lyusia は自分の研究所の成果が奪われることを心配し、中央集権的なイヴレスのやり方を嫌った
yuuma 6868	トウトウが陥落
yuuma 6870	イヴレスはアンダントを抱き込み、指示に従わない lyusia には研究費の援助を行わないと脅迫する。これに対し、各 lyusia が徒党を組んで反発。lyusia はレスティル全土に 11 箇所あり、各研究所の所長が共同でアルシアに velmare 研究所を設立。各所長は一季節に一度ずつ velmare に集まり、各々の研究所の成果を述べ合った。このときの所長はいずれもユクレシアが初期に教えを授けた同期で、苦楽を共にした仲間であり、個人的に非常に仲が良かった。lyuux には見せたくない内容でもお互い目の前でということなら腹を割るという間柄であった
yuuma 6875	アンダント、トウトウに侵攻
yuuma 6880	ディオマンテが戦死。イクスタンが即位
yuuma 6881	はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、velmare で暮らすことに決める。velmare は手狭だったため、アルシアの lyusia と velmare をいちど壊し、yusifel 研究所を設立。これにより国内には 10 の lyusia と 1 の yusifel と 1 の lyuux ができた。lyuux を除く所長ら 11 人は yusifer（アルシアの 11 魔将）を名乗り、首都アルナでは alsia の名で親しまれるようになる

yuuma 6883	トウトウが陥落
yuuma 6884	lyuux 研究所のイヴレスが心労で自殺し、衝撃が走る
yuuma 6885	ルティアからユクレシアが帰国。lyuux 研究所を病院として建て直し、院長に元副長の ixirius を選定。以降は lyuux 研究所でなく lyuux 病院とする
同秋	ユクレシアはユシフェールに招かれ、名誉所長に就任
yuuma 6894	リーゼルで大麦が大暴落。先物取引をしていたルティア人の富裕層が一斉に先物証券を投売り。これにより富裕層の投機家が大打撃を受け、ルティア経済は恐慌に陥る
yuuma 6895	ルティアでデフレが発生
yuuma 6902	ルティア経済が急激なインフレに転換。レスティルは経済的援助を行うが、効果は薄かった
yuuma 6904	ユクレシアが本国に呼び戻され、ユシフェールの運営は 11 魔将の共同統治となった
yuuma 6905	アンダント、アンペルに侵攻。ユシフェール研究所にも徴兵令が達する。しかし研究所は病人の看護と研究を理由に従軍を拒否。国王とユシフェールの間に対立が生じる
yuuma 6907	ユシフェール、アルシアを独立国家と宣言。国王と真っ向から対立し、レスティルから独立
yuuma 6912	アンペルが陥落
yuuma 6920	アンペル戦から体勢を立て直したアンダントはアルシアに侵攻
yuuma 6924	ユシフェール（アルシアの 11 魔将）の魔力は凄まじく、レスティル軍ではまったく歯が立たなかった。あまりの強さにアンダントは戦慄。前線でアンダントは捕虜となるも、拘置先の研究所で厚遇され、そのまま解放される。その後逆に攻め込まれるものと覚悟したアンダントであったが、ユシフェールの要求は奇妙なものであった
同冬	ユシフェールは「レスティルがアルシアの独立を認め、自分達が研究に勤しめる静かな環境を提供してくれれば、それ以外には何も要求しない」と述べた。ユシフェールは戦禍の復讐も行わなければ、レスティルへの侵攻もしないと約束した。このあまりに控え目な要求に王は混乱した。武人である王は生粋の学者の心理が理解できなかったのである。アンダントは是非もなく要求を受け入れ、アルシアを独立させた。こうして人口 30 万人の小さな国家アルシアが誕生した
yuuma 6934	アンダント、旧アルティリア系・旧神商会系貴族 xigius の娘 xilfia を娶る
yuuma 6947	アンダント、ツェリンに侵攻
yuuma 6955	アンダント撤退
yuuma 6958	イクスタン、旧アルティリア系・旧エスピール系貴族 luksant の娘 lukletia を娶る
yuuma 6967	アンダント、シルフィアとの間に息子 iifa を授かる
yuuma 6968	度重なる戦役にメティオ国民（＝当時のアンペル人）の暴動が発生。前年にイーファができたことにより、アリスカンテ内で旧アルティリアの厚遇が予見されたことも暴動の大きな原因となった。メティオ人は主に旧イクサンテで、戦地に近いことから戦役も多い。にもかかわらずイーファの誕生により旧イクサンテの冷遇が予見されたための暴動であった
yuuma 6970	アンダント、アンペルの暴動を押さえつける
同	イクスタン、ルクレティアとの間に娘 cuukiite を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 kalman の娘 toriste を第二夫人として娶る
yuuma 6971	アンペルの暴動は激化。イクスタンの援助を受け、アンペルが束につく。この時点で戦わずしてアンペルはイクスタンの手に
yuuma 6972	旧スカルディア圏にも暴動が広まる
yuuma 6974	アンダント、旧イクサンテ系貴族のアルシェリア人 kreptia を第二夫人として娶る。クレプティアは人種的にはシフェルだったため、マレットの多いイクサンテの完全な理解は得られなかったものの、暴動は一時沈静化
yuuma 6980	アンダント、クレプティアとの間に息子 haane を授かる。暴動が治まりを見せる。代わってレスティル宮中はイーファ派とハーネ派に分かれる
yuuma 6984	イクスタン、トリステとの間に息子 ulo を授かる。強力な魔力を持って生まれたウロに王は喜び、旧アルティリアの高官たちは暗殺を企てる
yuuma 6993	イクスタン、トウトウに侵攻
yuuma 6994	旧アルティリア高官 yamer、イクスタンがトウトウ遠征でウロのもとを離れたのを機に、10 歳のウロを暗殺しようとする。しかしわずか 10 歳のウロに返り討ちにあう
翌日	ウロはヤメール派を洗い出し、城門前でヤメール派及びその家族を引き回した上虐殺。高官の拷問は法律で禁止されており、斬首か絞首刑が量刑によって選ばれたが、ウロは拷問の末に凄惨な処刑を行った
同月	ウロに対する国民の暴動が起こる。10 歳のウロは主導者 anzen を単身本拠地に乗り込んで捕らえ、城門前で高官らと同じように処刑。anzen 一派も処刑され、少年ウロの恐怖政治に国民は静まり返った yuuma 6995 ウロの暴挙を聞いた王軍がトウトウから急遽引き返してくる。イクスタンは治世に戻り、ウロは懲罰館への軟禁が決まる

yuuma 7002	lyuux 病院の院長 ixirius は増え続ける患者を減らすため、あらゆる魔法を跳ね返す魔法イシリウスを開発。宮中の魔導師に実演し、たちまち評判となる。アンダントはイシリウス講座を開設し、これを教えることのできる魔導師の育成を開始した
yuuma 7004	アゼリア崩御
yuuma 7008	教官の準備が整い、各 lyusia に配属させ、イシリウスの使える魔導師の育成を開始
yuuma 7014	アンダント、イシリウス部隊を編成。トウトウに配置
yuuma 7021	アンダント、アンペルに侵攻
yuuma 7023	イシリウス部隊の戦力は絶大で、たちまちアンペルは陥落
yuuma 7024	イクスタン、アンペル戦の生き残りからイシリウスの情報を得、イシリウスの開発に臨む
yuuma 7026	イクスタン、ヴェマに ardegant 研究所を設立。イシリウスの研究に当たる
yuuma 7035	アンダント、ツェリンに侵攻
yuuma 7038	ルクレティアが捕虜となる。旧アルティリア派から救助の請願がイクスタンの元に集まる
yuuma 7039	ルーキーテ、母が捕らえられているルークスに隠密に飛ぶ。ルークスの歓楽街で飲み歩いていたイーファが、飲むと運転したくなる困った性格で飛竜に乗って遊びまわっていたところ、歓楽街から離れた幽閉館横の飛竜小屋でルーキーテを発見。たちどころに一目ぼれしたが、ルーキーテは顔を見られたと思って焦って逃げる
yuuma 7040	ツェリン陥落。イクスタンは焦りだす
yuuma 7044	ardegant はいまだイシリウスを作れないまま、結局ウロがイシリウスを独自に開発。軟禁を解けばイシリウスを与えるとの条件で父イクスタンと交渉。イクスタンはウロの軟禁を取り払った
yuuma 7045	イクスタンはツェリンに再度侵攻を試みたが、アンダントがルクレティアをカードに、侵攻しないよう脅迫する。国民の絶大な支持を受けるルクレティアを見殺しにするわけにはいかず、アンダントは侵攻を取りやめた
同冬	ウロは単身ルークスに潜伏。幽閉館に忍び込むと、ルクレティアを刺し殺し、看守を気絶させ、刃物を持たせた
翌日	ルクレティア暗殺の報がレスティルを駆け巡る
同月	暗殺の報がヴィーネに届く。レスティルは看守ごときがルクレティアを暗殺するのは幻眩的に不可能と主張。この主張がかえって「力のあるレスティル宮中の誰かによって暗殺され、その罪を看守が着せられた事件」という考えをヴィーネに与えた。一方レスティルでは旧イクサンテ派クレプティアの一派が疑われた。シルフィア派はウロの可能性も知っていたが、確証がない上に、これはクレプティア派を一掃できるチャンスであった。結果、クレプティアとハーネは幽閉される
yuuma 7050	国民の報復感情を背景に、イクスタンはツェリンに侵攻。前線にはイシリウス兵を加えていた。イシリウス兵を両陣に構えた戦争は戦死率が極めて低く、戦争のペースは極めて遅くなる。その結果戦争は長期化し、篭城している側は兵糧攻めを最も恐れた。アンダントはツェリン行きの補給部隊に多くのイシリウス兵を配置したため、イクスタンは補給路を断つことができず、篭城は長期に及んだ
yuuma 7100	ツェリン陥落
yuuma 7172	アンダント、ツェリンに侵攻
yuuma 7223	ツェリンにはウロとルーキーテが配置されており、守りが堅く、アンダントは撤退
yuuma 7260	この年までにアルシアの 11 魔将が全員寿命を迎える。アルシアは小さな政府で、官僚がおらず、政治・経済・軍事などはすべてユシフェールが取り仕切っていた。また、ユシフェールに子供はなかった。ユシフェールは各村長に統治を任せていたが、この村長たちはいずれも学者あがりの人間で、政治に疎く支配欲も少なかった。村長は会議をしたが誰も後継者になろうとしなかったため、アルシアはレスティルへの帰属を願い出る。ユシフェールの全滅によりアルシアを虎視眈々と狙っていたアンダントはこの申し出に対し狐に摘まれるような気持ちであった。困惑を隠せないアンダントであったが、願ってもない話ということでアルシアを併合した。アンダントは「アルシア人は晴耕雨読をさせておくのが一番。余計なちょっかいを出さなければ大人しく働いて納税してくれるありがたい国民」ということをようやく理解した。その結果、アンダントは学問を奨励して助成金を出し、学者に優遇税制を設け、当時写本しかなく一冊一冊が高価だった書物を無税とした。アルシア人の多くはこれを大歓迎し、大人しく晴耕雨読の生活に戻った
yuuma 7295	クレプティア派の嫌疑が解かれる。ハーネはウロが陰謀の首謀者だと気付いており、ヴィーネに対する徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7357	アンダント、前線にイーファとハーネを置き、ツェリンに侵攻
yuuma 7362	イーファが前線でルーキーテと再会。傷ついたルーキーテを泉で見つける。憧れの人が敵将と知ってショックを受けるイーファであったが、ルーキーテを逃がす。ルーキーテはイーファの恋心を知り、戸惑いを感じる

yuuma 7365	maglea 山の戦いでイーファはルーキーテと再び出会う。イーファは剣を収め、泉でルーキーテと話す。イーファが恋心を打ち明けると、ルーキーテは彼を受け入れる。その後、イーファは戦争を止めるべきだと主張。ルーキーテも賛同する
同	イーファとルーキーテは和平を実現するために、密かに自分の息のかかった人間を集めだす
yuuma 7378	アンダントが崩御し、ドゥルガは撤退。イーファとハーネの間で後継者争いが始まる。両者は互いに王を名乗り、ひとつの王府に居座った
yuuma 7380	混乱に乗じたイクスタンがアンペルに侵攻
yuuma 7381	侵攻したのも束の間、イクスタンも崩御。ヴィーネは撤退せず、ウロが総大将を務める。王府では後継者を争ってウロ派とルーキーテ派に分かれる
yuuma 7400	ルーキーテ、王府にて勝手に王位継承を公言。ドゥルガとの和平案を唱えだす。ウロは一切ルーキーテに従わず、自身も後継者を名乗り、前線から撤退せず。ヴェマの王府に対抗し、前線地帯に近いツェリンに暫定王府を建てる
yuuma 7414	イーファとハーネの対立が暴力的なものに発展。抗争が勃発 同春 ハーネが破れ、ハーネ派はアルカンスに新レスティリアを建て、王府を作る
yuuma 7416	アルナ王府がヴィーネとの和平案を唱えだす。一方、レスティリア王府は徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7422	ウロ、アンペルを陥落。アンペルを陥落させたことでウロの名声が高まる。逆にレスティルではアンペルを奪われた国民感情がハーネの支持に結びつく
yuuma 7424	ルーキーテもウロも王を名乗っていたが、アンペル陥落で名声を高めたウロに対抗するため、ルーキーテは皇女を名乗る（この皇女は女皇帝の意）。しかし国内では空回りの去勢に終わる
yuuma 7425	ウロが同様に皇帝を名乗る
yuuma 7433	クレプティア死亡
yuuma 7450	シルフィア死亡
yuuma 7465	イーファ、ルーキーテを娶り、停戦を宣言。これに対しハーネとウロは徹底抗戦の構えを見せる
yuuma 7466	ハーネは抗戦の意思を明らかにするため、アンペルに侵攻
yuuma 7477	ハーネ、息子の arxe を授かる
yuuma 7481	イーファ、息子の mete を授かる
yuuma 7484	ハーネ、イーファを暗殺しようとするが失敗
yuuma 7487	ハーネ、息子の arba を授かる
yuuma 7489	イーファがハーネの暗殺に成功。一気にドゥルガで和平ムードが高まる
yuuma 7490	ルーキーテが過激派トリステを暗殺するために、究極魔法ルーキーテを開発
同	ルーキーテがトリステを暗殺
yuuma 7491 夏	皇女ルーキーテがウロの暗殺を決行するが、究極魔法ルーキーテでもウロを倒しきれなかった。彼女は最後にウロを道連れにするために全力でルーキーテを撃ったが、ウロの魔力は皇女を凌駕。皇女ルーキーテは力尽て息絶える
同冬	愛妻を失ったイーファが立場を忘れて単身ツェリンに乗り込む。冷静さを欠いたイーファはウロに破れ、戦死する

後期 アディア交戦 (ɥəəɒɪ9,ᴍL1 alis ～ 8,095(imul 16))

同秋	わずか 10 歳のメテが即位。イーファの右腕 mals が摂政となる。ここからカコ後期となる
yuuma 7492	ウロの西方遠征開始
yuuma 7542	ウロ、現ガルテア・カルテール国教の東側までを征服
yuuma 7544	ウロはメティオの皇帝を名乗り、旧ルーキーテ派をヴェマに封じる。さらにウロはヴェマから領土を奪い、メティオの領土の東側を拡大。現在のメティオの国境線を作る。sorna と tunas が yuklesika となっている点以外、現在の地図におおむね近い領土を形成する。ただし細かい異同はある
yuuma 7545	ウロはユクレシカに強力な影響力を持ち、自分の息のかかった人間で高官を構成し、ヴェマとの間に地理的な緩衝材としてユクレシカを利用した
yuuma 7578	ウロが魔方に侵攻。メテが防戦で前線に出る
同夏	強大な魔力を持ったメテの勢いは凄まじく、総大将のウロがじきじきに相手をした。ところがウロはメテに力負けし、ヴィーネは撤退を余儀なくされる
yuuma 7591	メテがアルシェの秘めた力を見出し、彼の男気に惚れこむ。アルシェにとってメテは政敵でありかつ父の仇の子であったが、アルシェもまたメテの男気に惚れ、親しくなる
yuuma 7599	メテがアルシェを右腕とし、ドゥルガ圏内から有力な猛者を集めだす

yuuma 7608	メテが私兵団 restant を作る。レスタントは超人集団の集まりで、小国のものなら軍隊すら殲滅できるほどの戦闘力があった
yuuma 7621	メテ、メティオに侵攻。一騎打ちを避けたかったウロは徹底抗戦の構えを見せ、戦争は長期に及んだ。メテは一騎打ちをしようとしたが篭城するウロをおびき出せず、かといって単身軍隊の中にいけば流石に戦死することが明らかだったため、若く気のはやるメテには受難であった。この戦争で多数のレスタントのメンバーが戦死。逆にこの戦いを生き延びたメンバーは後の使徒になる精鋭として残ることとなる
yuuma 7684	メティオ城を陥落させ、ついにメテがウロを追い詰め、一騎打ちをする。メテはウロを倒し、メティオをドゥルガの属国とした
yuuma 7718	メテ、ユクレシカに侵攻
yuuma 7724	木星圏でデスパに封印されていたベーゼルが封印を破る。続いてほかのソームも次々と封印から出てくる
yuuma 7728	ソームよりずいぶん後に封印されたミダンとヴェンシートであったが、特にヴェンシートの呪いが激しく、デスパの弱まりが激しく、封印が解ける。ヴェンシートはミダンの封印が解けるのを待った
yuuma 7729	ミダンの封印が解け、ソームと落ち合う。ヴァルテの復活を待つかどうかを会議したものの、ずいぶん時間がかかりそうなため、先に神に復讐せんと決議。彼らはバルマージュからバルマーユに降り立つ。しかしその土地には脆弱なユーマの一族の子孫が大勢いるだけであった
同	teetia は悪魔の降臨を歓迎したが、letis はこれを拒み、攻撃を開始。ベーゼルが軽く letis の魔法を振り払ったところ、人間はあっという間に灰と化してしまった。これを見てあまりの弱体ぶりに悪魔たちは驚きを隠せなかった。ベーゼルは「ユーマの一族に特に恨みはない。彼らは一度死ぬと蘇ることができないので、むげに殺しては可哀想だ」と言い、ほかの悪魔もこれに賛同。人間が死なないように適当に攻撃をかわしていると、letis は圧倒的な力の差に怯え、逃げるように魔方から去っていった。エルヴァがバルマーユの民に話を聞こうとするが、彼らの言葉が分からない。エルヴァがベルトを呼ぶと、メルティアも一緒についてきて、歴史について説明。事情を知ったソームは落胆すると、ヴァルテ復活まで待とうと木星に帰ることに決めた。ところが teetia の知識人がフィルヴェーユ語で必死に滞在を請願。気をよくしたソームは魔方に住むことに決めた。魔方は度重なる戦争で荒れ放題で、砂漠化も深刻であった。テーヴェは土を大地に敷き詰め、エルヴァは水をやり、サティは風を吹かせ、ベーゼルとパルトは夜を照らし、日照の強すぎる日はヴェルムが空を覆い、letis の侵略者はイルヴァが雷で薙ぎ払った。キルセレスらも魔方に住み着き、剣術などを指南した
yuuma 7730	アルフィはテームスの復活に騒然とした。ルフェルとアルデスがアルカンスで会合を行う。ウロなき今、カコはほぼドゥルガの勝利で固まっていたこともあり、今は東西で争っている場合ではないと神々は人間に告げる。こうして人々の意識は東西の対立から letis と teetia の対立へと揺れ動いていく
yuuma 7884	緊張状態がアトラス全土を覆うも、当の悪魔は魔方人との生活を楽しんでいた。もともと vaste が数万年単位で行われていたこともあり、人間に合わせて気が短くなっていた神々に比べ、ずっと眠っていたテームスは非常にゆったりした速度で生きていた。この温度差が当世の神やユーマの一族には理解できず、アトラスもアルフィも緊張したままであった。しかし皮肉なことにこの緊張が束の間の平和をもたらした。150 年以上続いた平和はベーゼルの「そろそろ神を倒しにいくか」という気まぐれな言葉で破られた。これに対しヴェルムは「気が短いな」と答えたが、反対はしなかった。悪魔は魔方人に相談をした。自分たちは神を倒すためにアトラスに来た。しかし神はアルフィへ去っている。どうすればよいかと。すると魔方人は神人貿易に使っているサリュを開放し、ここから悪魔をアルフィへ移送する計画を持ち出した。アトラスからアルフィへ悪魔を移すのは召喚を逆ルートで行うだけのことであり、要は召喚と同じことである。召喚士は神を呼び出すので、当然 letis に多い。teetia は召喚士がほぼいない。そこで彼らは召喚士の技術を盗み、悪魔召喚士を養成することに決定。一人の悪魔召喚士が悪魔をアルフィへ送っても、悪魔が活動できる時間はわずか数秒で、それでは意味がない。そこで teetia は数千数万の悪魔召喚士を養成することにした。活動は秘密裏に行われた
yuuma 7886	しかしそんな大きな活動を隠し通せるはずもなく、2 年と持たずに計画は神とユーマの一族に洩れることとなる。計画を知った神々は騒然とし、ルフェルとアルデスはメテを交えて今度はアルナで会談を行う。そこでユルグがこのような計画を立てた。「1: 召喚士との個人契約制を一時廃止 2:letis の召喚士をなるべく多く集め、魔方にて神を召喚 3: 神々がテームスを押さえている間に、メテら letis が魔方に侵攻し、teetia を殲滅 4: さらに魔方のサリュも破壊」三者はこれに同意し、準備を整える。主に準備が必要なのはユーマの一族側であった
yuuma 7889	メテ、魔方へ侵攻
yuuma 7905g	enos を突破

yuuma 7914	アルバ、息子の freigan を授かる
yuuma 7926	敵本拠地 lazdia を陥落。ユルグの作戦通り事は運んだ。しかし思わぬ誤算が起こる。虜囚となった teetia を助けるため、悪魔が神の罠にかかる。アルデスとルフェルが召喚され、ソームらと戦う。ソームは teetia の命を保障すれば今回は大人しく侵略を諦め、デスパの眠りにつくと約束。アルデスとルフェルとメテはこれを飲み、ソームらを封印。メルティアらが現れ、バルマージュから木星へ去っていく
同冬	メテは虜囚となっていた teetia を一人残らず処刑した
yuuma 7927	魔方戦争でアルカットの支配権を掌握したメテは、アトラス全土に teetia の掃討令を発布。国籍や人種に関係なく、teetia であれば無条件で掃討すべしと命じた。teetia は悪魔と結んで神はおろか同胞のユーマの一族をも裏切った正真正銘の邪教徒で、到底許すことはできないと強く主張し、自ら進んで広場で虐殺を演じて見せた。これにより、世界中で teetia の大虐殺が起こる。teetia は国も故郷も失い、流浪の民となる
yuuma 7935	メテは魔方戦争で生き残ったレスタントを集めて metel という新しい団体を設立。アルシェを右腕とした。メテは自らをルシーラと呼び、メテルのメンバーを使徒と呼んだ
yuuma 7944	[言語] [文字] メテ会談。444 のメテ幼字ができる→ hac
yuuma 7946	[言語] [文字] 神々がメテ幼字を採用→ hac
yuuma 7969	[言語] [文字] ルティアがメテ幼字を公用文字に→ hac
yuuma 7976	teetia という共通の敵が去ったことで、徐々にドゥルガとヴィーネの対立の構図が戻ってくる。背景には、メテがドゥルガであることによるヴィーネの冷遇にあった。また、同じドゥルガ内でもアルシェリアや魔方各国は属国のような扱いを受けており、レスティルの専制的なやり方を疎んじていた。遂にこの年、ヴィーネからレジスタンスが現れる。ウロによってユクレシア南部に封じられていた元メティオ王家の子孫である sonaria が立ち上がる。ソナリアは旧イクサンテの血筋で、要するに teetia の血筋である。ユクレシアがメテの手の届きにくいヴィーネ側であることと、ソナリア自身が王家の人間であることから迫害はどうにか免れていたものの、メティオの復興を目指して立ち上がった。これに対し、離散していた teetia が世界中からユクレシアに集まり始める
yuuma 7980	ユクレシア王府は teetia の亡命を禁止
yuuma 7981	これに対し、ソナリアは王府の意向を完全に否定。勝手に teetia を受け入れ始める
yuuma 7984	ユクレシア王 harmitte、ソナリアの本拠地 mistin に侵攻
yuuma 7987	ハーミッテ撤退
yuuma 7988	ソナリア、ユクレシアからの独立を宣言。ユクレシア南部を sorna と称し、自身はソーナの暫定的な王を名乗る。これによりユクレシア北部は tunas に改名
yuuma 7990	メテがメティオからソーナに侵攻。しかしメティオに潜伏していた多数の teetia が暴徒と化し、兵舎は大火災に巻き込まれ、メテは撤退を余儀なくされる
yuuma 7991	撤退を受け、ソナリアがメティオに侵攻。teetia の助けを得て letis を追い出し、メティオを取り戻し、メティオの王になる。ソーナは娘の yulia が女王となる
yuuma 7993	teetia が大量に潜伏していた魔方がソナリアの助けを得て次々と letis を追い出し、レスティルの支配から脱する
yuuma 7994	ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 sorn を授かる
yuuma 7996	アルシェリアがレスティルの重税を嫌って独立を図る。teetia の虐殺は不当として、メテが出した掃討令を破棄する
yuuma 7997	メテがアルシェリアに従属を命じるも、アルシェリアの letis も teetia もこれに逆らい、徹底抗戦の構えを見せる。それを後ろからソナリアがバックアップし、メテは引き下がらざるをえなくなった
yuuma 8000	レスティル、アルディアルと同盟 yuuma 8002 連合軍、北部から直接エスティアへ侵攻
yuuma 8004	ソナリア、メテとの戦いで戦死。ソナリアが崩御し、ソーンが若干 10 歳でメティオの女王となる。摂生はソーナ女王のユリアが兼任した
yuuma 8006	エスティア陥落。勢いを止めず、メテはベルティアに侵攻（キルティアはここからだと山がちで、いくら空が飛べるといっても越えづらい）
yuuma 8007	13 歳のソーンがベルティアで総大将となる
yuuma 8009	15 歳のソーンが前線でメテと対峙。ソーンはわざと未熟を装い、命からがら逃げる振りをする。油断したメテが使徒を連れずにソーンを追う。そして kandira の丘でソーンに葬られる
同	メテを失ったレスティルに衝撃が走り、レスティル軍は撤退する。アルシェが王になりメテルを指揮するも、レスティルの影響力は下火となる。アルシェはメテルをアルシェに改名
同	[言語] [文字] ソーンがメテ幼字を廃止、アルハノンを公用文字に→ hacyuuma 8010 ケートで独立が叫ばれるようになる
yuuma 8024	ソーンがエスティアに侵攻

yuuma 8031	エスティア陥落
yuuma 8043	ソーン、アルディアルを脅迫。アルディアルはレスティルとの同盟を解消。アルディアルは同盟に固執した西側と同盟の解消に賛同した東側に割れる
yuuma 8046	diminion がアルディアルから独立。同時に eniik も独立し、こちらはソーンについた。当時の eniik は現在の arta も含んだ
yuuma 8052	ユリア、新王府 eniik の政治が不安定なのをいいことに、eniik 東部に自分の息のかかった人間を放つ。eniik は慢性的な人材及び経験不足であったため、これを受け入れざるをえなかった
yuuma 8069	ソーン、世界各国から有能な人材を集め、アルシェに似せて私兵団ソーンを結成
yuuma 8078	ソーン、ディミニオンの脅迫を終え、ようやくディミニオンを寝返らせる
yuuma 8080	アルシェがイムル暦を採択する。アルシェのミスにより、yuuma 8080 が imul 1 に等しい。アルシェ、みなしごリディアと出会い、10 歳の少女を自分の恋人として密かに育てだす
imul 2	ソーンが使徒を引き連れ、ディミニオンを通過してレスティルに侵入。アルシェとソーンの抗争、アディア抗争が起こる。抗争の結果、使徒のすべてが戦死し、アルシェもソーンに倒される。しかしソーンは大きく負傷し、命からがら本国へ逃げ去る
同	アルシェの弟アルバが王となる
imul 3	アルバがリディアをソーンの元に刺客として放つ。女色のソーンはこの美少女をいたく気に入り、腰元に入れた
imul 4	リディアが寝室でソーンを果物ナイフで刺し殺す。ソーンはリディアを愛しており、何かあれば彼女に起こすように頼んであり、この日は mejtel をつけていなかった。リディアは逃走するも捕縛され、拷問死する。メティオは王を失い、混乱。適切な後継者がおらず、混乱は激化
imul 5	[言語][文字] アルバがアルハノンを廃止、響字を公用文字に→ hac
imul 7	アルバ崩御。freigan がアルバ二世として即位
imul 10	レスティルからケートイアが独立。アルバ二世は対抗する戦力がなく、これを承認。レスティルをアルバザードと改名する
imul 12	ユリア、メティオ高官の ranton と再婚
imul 14	ユリア、息子の varmilia を授かる
imul 15	ユリア、ヴィーネ圏を解体
imul 16	ユリア、アルバ二世に和平を提案。アルバはこれを受け入れ、ドゥルガ圏を解体。カコの終了を宣言する。ここでカコは終わり、17 年からセルメルとなる

selmel

カコとオーディンの間の時代。イムル 20 年から 1500 年までの 1480 年間。

0 ～ 800 前期
800 ～ 1200 中期
1200 ～ 1500 ごろ後期

寿命比でいうと、0 ～ 1200 までの 1200 年間で地球の 400 年に相当。実質 sm は 700 年間に相当
王族など高ヴィードな人間以外は 1200 以降は現代人程度の寿命。王族は前期は 3 ～ 500 年前後、中期は 2 ～ 300 年前後、後期は一般人と同じか長くとも百数十才程度まで。

sm 以降は魔法学や科学の発展に伴い、社会や文化が複雑化した。現代の文化の多くがこの時代に源流を持つ。出来事をすべて列挙したり各出来事についてすべて記載すると年表でなくなるため、仔細は幻日の文化欄に預けてこちらでは概略に努める。dolmiyu や seles などを項目ごとに分けて表にしたら年表が何倍にもなってしまう。

前期

20	二世、arnon 設立 22 カノイがインフラを整備
67	アルティア人の間に vir が少なく noa と yuno の多い遺伝子が普及する
99	フェリウス、二世とともにアルナ学校建設
122	ルシフェル魔法学校
159	アルティアで魔導師が減少し、武士の台頭への機運が高まる
200	imul200 年を記念してフェリシア学院が建てられる
264	アルティアで武家政治が台頭
387	アルティアのルティアへの貿易が停止
399	二世崩御

444	ルティア、アルティアへ攻撃。開港を迫る。アルティアで開国と攘夷に分かれ、内乱
572	アディア 2 期開始。エンデミルとクレタティス
622	内乱が収束。攘夷派が勝つ
684	アルティア、ルティアへ侵攻
724	三世崩御
745	トモエ陥落

中期

821	アルティア、ルティア西部を支配
927	アルティア、ミディートと同盟
989	四世崩御
1000	アルティア、サヴィアからアンシャルへ侵攻
1056	同、ファルファニアを支配
1102	同、アルバザード南部を支配。カレンシア王国が建国される。最大版図は北はワッカで東はカテージュ。アルティアを本国ないし宗主国と称し、アルティア王への忠誠を誓った。
1189	五世崩御。王族の寿命の短さが顕著になり、国内に不安が走る。ケートイアが侵略の好機と捉える→ ragnalok
1192	六世、対ケートイアを意識し、武器開発に注力

後期

1202	オスティア、グレアを発明
1204	ケートイア、アルバザードへ侵攻。アルバザードがグレアで防ぎきる
同	長年の魔法学研究が成果を見せ始め、アルバザードは徐々に国力を付けていく。それを追う形でルティアも力を付けていく。魔法の苦手なカレンシアはベルガンドの脅威もあり、徐々に力を弱めていく。
1205	ラグナロク工科大学
1244	アディア 3 期開始。プルフェとハイジング
1336	六世崩御
1441	七世崩御
1456	belgand の共和制が崩壊を見せ始める。原因はヴェイガン族の隆盛。エルヴェイグ族とエリアン族が危機感を持ち、共闘。これにより内乱が発生
1467	内乱が鎮圧され、ヴェイガン族の執政官であった hanival が王位に就き、王制を開始。これにより belgand は王国となる。
1471	内乱の功労者に報いるための禄が足りず、内紛の気配が高まり、緊張が走る。hanival はアルバザードへの侵略を開始。このときカテージュ南西部は belgand の土地で、この地域を統治していたのは内乱で負けたいわゆる外様大名に当たる領主であった。内紛を消すためにここに功労者を置きたい。しかしそれでは外様が反乱を新たに起こすのは目に見えている。そのためカテージュに侵攻し領土を奪い、そこを外様に支配させようと考えたわけである。内乱が終わって 4 年して少し落ち着いたこともあり、hanival はカテージュへ派兵。人類との間に亀裂が生じる。このときの出来事が後の vernsaal での魔族間の同盟をもたらすこととなる
1473	カテージュが陥落。カレンシアに衝撃が走る。カテージュを失ったことでカレンシアはアルバザードとの同盟を強める
1498	vernsaal セルアが大噴火し、火山灰がフィーリア上空を中心とし西アンシャル全域を広く覆う。灰が上空に留まりつづけた結果、気温が低下。これにより農作物が軒並み凶作となり、食糧が高騰。主な被害はヴェルシオン、イネアート、フレディスク、ヒュート、ディミニオン、ケートイア、アルバザード北部に及んだ。
	土地柄自給率の低いヴェルシオンは輸入に頼っていたが、アンシャルは国内の食糧確保で精一杯だったため、特にヴェルシオンで食糧が高騰。この時代はまだ飛行機がなく、また航路も開拓されておらず、さらに西アンシャル以外のほとんどの地域と貿易が行われてこなかったため、食糧供給がおぼつかなくなる。

	食糧が高騰し、低所得者を中心に餓死者が現れ、民衆の間に不満が生じる。このままでは飢えて死を待つばかりで、奪う以外の選択肢はないというところまで追い込まれたヴェルシオンは飛水晶を利用した飛空挺の開発に着手。これは略奪のための開発であった。しかし国家としては大義名分がなければ戦争はしかけられない。そこで貿易における条約違反を細かくあげつらい、厳しくフレディスクを非難。因縁をつける形で戦争をしかけ、飛空挺を投入。むろん実際の目的は街を襲って食料を収奪することにあった。それゆえ始めから飛空挺は多くの積載量を見込んで船の形をしていた。造船技術は既にあったため、船型にすれば飛水晶の動力室を設けるなどをすればすぐに実戦投入できるという利点もあった。船型は一度に多くの兵士を送ることができる点でも効果的であった。また、略奪後は当然船の重さが増す。そもそもの目的が収奪なので、重量は相当増す。帰りはその分だけクリスタルに負荷をかけることになってしまう。そこで帰りは海路を使うことでクリスタルの消耗を減らした。つまり一度海上で着水し、あとは船として帰港する。これだともっとも無駄が少ない。しかも行きは全工程が空路なので、沿岸部以外の街からも直接収奪できる。
	このころ飛行機はまだないが、火山灰は飛行機にとって不都合な高さを維持していた。このため飛空挺はその下を飛んだ。飛水晶があればこそ低い高度が維持できた。また飛空挺は上空から攻撃をしたので、ある程度地上に近い必要性もあった。
	この年に起きた噴火は農作物の被害から飛空挺を生み、飛空挺は戦争を生み、戦争はオーディン（悪魔と人の戦い）に発展してアシェットを生み、歴史をセルメルからオーディンに変えた。この出来事をヴェルンサールの悲劇といい、これをもってセルメルの終わり、オーディンの始まりとする

ordin

1498 ～ 1591 前期、1591 ～ 1611(mel22) 後期。

前期

前期の間に庶民を中心にヴィードの弱い 3,2 遺伝子が生まれ始める。

1498	食料を求めてヴェルシオンから逃げ出す国民が増える
1499	飛空挺が完成。最初に狙われたのは沿岸部にあるフレディスクで、海岸から少し離れた地域が狙われた 続いてイネアート西部、ヒュート西部も襲撃された
1500	西アンシャルが連合を作り、対 velxion 戦を宣言。belgand はこれに便乗して velxion につき、連合は挟撃される形となった。ここに悪魔と人間の戦いが始まる
1501	ヴェルシオンが jindia 山脈上に飛空挺の航路を見出す
1522	八世崩御。vernsaal と合わせて国内の混乱がピークに
1527	アディア 4 期 1 代開始。アルタスとフェリス。規模が小さく、アディアの末裔を名乗っただけで、その上混乱期でもあったため、記録がかなり焼失しており、仔細は不明。混乱期にありがちな「混乱を収めるという名目の小規模戦闘集団」と目される。恐らく別々の利権団体が対立してアルシェとソーンを名乗っただけと思われる。ソーンには東アンシャル、アルシェには西アンシャルが多く、地域経済的な要因を感じる
1520 ～ 30 代	1 代と経済的な直接の関係があるのか不明なるも、2 代が開始。ナルシェ＝グラントとテスティア＝メテ。2 代にはリーザらの直接の知り合いや先生がおり、3 代との繋がりが確実
1544	テームスに復活の兆し
1569	九世のもとに十世ヴレヴラントが遅れて誕生
同	リーザ＝ルティア誕生
1575	ミスティア錬金術舎
1579	アディアが 3 代のリーザらへ継承。86 年ごろまで抗争が断続的に起こる
1581	クミール＝メテ誕生
1584	この世界のヒロイン、リディア＝ルティア誕生
1586	リーザらがアノの要求を飲み、ソーンと停戦。86 年以降アルシェはテームスの封印強化に努める。2 代までは言ってみればただの武装集団の利権闘争でしかなかったが、テームスの封印に乗り出したことや、リーザがルティア女王だったことから、アディアが再び世界の注目を集める
1588	九世崩御。若き十世ヴレヴラントが即位
1590	テームス復活。アデルの増加。混沌の世の中へ
同	ベルガンドの猛攻によりカレンシアが弱体化

後期

後期の間に優性遺伝子である 3,2 が徐々に普及していく

1591 2/9/7	セレン＝アルバザード、ユマナから転生。初期位置はサプリ村付近のシオン山。9/7 にリディアがサプリの村で見かけて声をかけるも、言葉が通じず去ってしまう
同 2/9/15	リディア、この日の午前にセレンと出会う。リーザの元に連れていき、リーザがこれを保護する。言葉を一切喋れないことからリディアが「静かな子」という意味で「セレン」と名付ける。リーザは村で教師と医者を兼任しており、ふだんは子供たちの勉強を見ている。セレンを学校兼住居の家屋に住まわせ、言葉を教えることに。リディアもセレンを気にしてアルバレンを教えることに。セレンに分かりやすいよう、簡略化して教えだした。これが原初の古アルカとなる
90 年代	アルシェは使徒を集めつつ、異性魔王を撃退。名を上げていく。使徒が多国籍に渡るため、古アルカは様々な言語の混ざった状態になり、ar を中心とした複雑なピジンとなっていく
	一方 90 年代後半はソーンと抗争の兆しがあり、緊迫感を増していく
1600	アディア和平。アシェットへ 160011 zan tan アシェット、テームスを殲滅。英雄へ
	これで悪魔は復活ができなくなった。残る悪魔の殲滅へ向けて仕切りなおす
1600 末 11/13/1	このとき既にアルシェとソーンのアルカは異なっていた。ソーンが暗号化の名目で意図的に変えたことと、主に東側諸国の単語を多く取り入れたためである。かといって使徒が全員 ar に堪能なわけもないため、共通語に ar も使えない。そこでリーザは帰属意識向上と意思疎通のため、制アルカ制作依頼をセレンへ
1601 春 12 dyu ral	アルテージュができて悪魔が降り注ぐ
	悪魔アルマが悪魔の長となる
	ソームなど、一部の悪魔がアルテージュから攻め来る
	ソーンはアトラス防衛軍となり、星を守った
	アルシェはアルテージュを通って残る悪魔らを倒し、最後にアルマを殺した
	この後アシェットは逃げた悪魔とアトラス上の魔族の掃討に追われることになる
1601	夏 セレン、制アルカ着手
1601	アシェット、国内のインフラ整備を強化開始。教育や通信も強化開始
1601	アシェット、トルバドールを結成。アルバザードはカレンシアと合わさり、カレンザード筐堺となる。この時点ではまだヴェルシオンとベルガンドは敗戦を宣言していない。アシェットはこれらの征服を目指すべく、予めラヴァにヴェルシオンを、クノンにベルガンドを宛てがい、ヴェルアンジェ筐堺とサントミュール筐堺を作る
1605	弱体化していたカレンシアに bg が猛攻をしかける。これによりカレンシアはアルバザードへ吸収される道を選択。カレンシアは亡国する。この時点でアルティア本国へ帰ったものもいれば、残ってアルバザード人となったものもいる。少数ながらベルガンド側に亡命したものもいる
1608	アシェット、より自然言語に近い人間にとって自然な言語を目指し、新生アルカに路線変更。ソーンには難聴者のエンナがおり、 n 対語などの聞き取りが苦手だったことから、かねてよりソーン側が勝手に制アルカを改造していた。そのことがこの年リディアに露呈したことで、改造制アルカの存在がアルシェ側に公に伝わった。それを受けてセレンらが路線変更をした結果、自然主義人工言語の新生アルカが誕生した
1608 初夏	アシェット、すべての veldir を星座に封印しおえる
1608	ヴェルシオンとベルガンドが敗戦を選言。改めて正式にトルバドールに編入される
1609 末	アシェット解体。使徒は各 kalkovel の統治に注力するようになる
1611 21 ～ 22	このときのアルバザードはすでに多くの民族からなっていたため、アルバレンでは不都合かつ不平等であった
	民衆は英雄の言語アルカを歓迎したが、アシェット特にセレンとリディアは普及に乗り気でなかった この年、一部の民衆に押される形でアシェットは国の基幹部分にアルカを用い、公用語のひとつにした
	上がやれば商人が追従し、やがて下も真似るようになる
	しかしアシェットはそれを焦らず、なるように自然に任せた。アルバレンに回帰するならそれもまたよしとした
	公用語のひとつにした後、アシェットはレミール言語庁にアルカを託し、資料を公開
	国民が言語を自由に変えたり使ったりできるようにした
1611 22/9/7	役目を終えたセレンがユマナへ帰る。異世界人説が民間人の間でも囁かれだす
	リディアは彼に付き添って姿を消した。彼女は去る前に自分たちの転生を予言した。後のアルティス教はこの予言をテームスの復活とアシェットの再来と解釈した

nadia

22 ～ 149 の期間。

nadia になると 3,2 遺伝子が更に普及。年を追うごとに 3,2 遺伝子の数は増えるので、年々 3,2 遺伝子の増加量も増えていく。つまり年を重ねるごとに 3,2 遺伝子の普及速度は増加していく。

庶民ほど子供を作るサイクルが早いため、庶民を中心に無力な遺伝子が広がっていった。そしてこのことが国軍の弱化を招き、後のアッティ＝メテの火薬銃発明などに繋がっていく。

1611 22 ～ 23	ルテティア筐堺（事実上ルティア国）はリーザが統治し、カレンザード（カレンシアが滅んでいるので事実上アルバザード国）はアルバ王家が統治することとなった
	残された次世代の育成はメルが引き受け、「ルシーラ先生」の愛称で親しまれるように
1617 28 ～ 29	10 才のルシアがルティア女王となる。摂政にはリーザが就いた
	ルシアは幼いころから「智慧の杖」と呼ばれ、万人に畏怖されるほどの知力を誇った。恋心を持たない少女で、生涯ユルトに世話女房気取りでくっついて回った
1621 32 ～ 33	14 才になったルシアらのもとからメルが忽然と姿を消し、ひと足遅れでユマナへ転生した
	ケートイアは混乱に陥る
	ユルトがケートイア王となる。「アディーユ王」の愛称で親しまれるほどの人格者で、国民から慕われた
62	アッティ＝メテ、火薬銃を開発
65	同、世界一周。大航海時代の幕開け→ kepi70 同、メティオ～ルティア～アルバザード間に貿易路を大成 82 最も長命だった kunon と milf が死去。アシェットが全員この世を去る。死んだ使徒はいずれもユマナへ転生している
98	xelii alteems, xeliibolt115 xiva alhaik, 10 才で親を失い、海賊との対峙を決意。このころ海賊時代
120	アルバザード、メティオ、ルティアで対海賊連合が結成される
124	gaav frestia 敗走。海賊時代が終わる。連合が勝ち、利権を握り、強国の成立アルメティアへと駒を進める
130 代	植民地政策
141	アルバザード海軍が海賊の残党を掃討

artil

149 ～ 300 の期間。

3,2 遺伝子がほぼ全ての人間に普及し、魔法は事実上この世から消えた。魔法技術が消えたことで人類の技術力は一旦後退し、vl までは rd よりもむしろ遅れた文明に甘んじることとなる。
このことが神への畏敬の念を強めるとともに、無力となった人間たちによる信仰の兆しとなり、やがてそれがアルティス教の出現へと繋がっていく。また、資本主義や共産主義といった近代的な概念が台頭した時代でもある。

149	「黒のヴェルム」が発生。ブラックマンデーに相当する事件で、世界経済が悪化
150 年代	世界経済の悪化の中で、人件費削減による長時間労働や解雇などが社会問題となり、資本家と労働者の間の溝を深めていく。打倒資本家を目指す組織や打倒国家を目指す組織など、様々な反政府組織が乱立していった。その中からやがて共産圏を作るイグレスが台頭しだす
154	イグレスタができる
157	アルバ王によるイグレスタ迫害。イグレスはデスパナへ
162	イグレスがデスパナで台頭
173	トール＝ヴァルベス、デスパナで共産革命
174	イグレスタがデスパナで与党に
175	イグレスがトール＝ヴァルベスの残党に暗殺される
185	イグレスタ圏の経済が戦争等により疲弊
200	シオン＝アマンゼ誕生 203 ミナリス台頭。近代的かつ民主主義の選挙制度を訴える
205	ミナリスがミナレットを樹立
214	ユベール＝ゲノス、嘆きの牢獄を襲撃。ミナリスを救出
同	シオン、マルテを懐妊

215	マルテ誕生
同	アジュネ、アルティス教樹立
217	イーレス＝ヴァマのインフラ企業との癒着が発覚。ミナレット台頭への契機となる
219	ミナレットがイーレスを暗殺。アルバ王から功績を認められ、その後インフラ関係に権力を持つように
227	ヴァルゾン＝アルサール暗殺
229	ミナレットが台頭
230	第一回選挙
同	アフレインのもとでアルマスト派ができる
同	アジノンのもとでヴァルテス派ができる
234	第二回選挙
238	第三回選挙
240	ジャガイモの種枯れ病が蔓延。テスラン＝ナオンによるファベル侵攻の契機となる
242	第四回選挙
244	副王ミナリス、アルバ王を教唆し、アルティス教徒迫害
246	第五回選挙
247	ヴァーサ＝エニーク、アライブ党樹立。ミナレットの分裂へ。以降ミナレットはレヴァレンなどいくつかの党に分かれていくが、ミナレットから派生した政党をまとめる際はミナレット諸党と呼ぶ
251	ファウス、アデュへ侵攻。マルテをイネアートに追放 253 同、イネアートへ侵攻。イネアートはアルティスと共闘
254	マルテがイネアートのアルタレスに
255	アルティスがテロとなり、ミナレット諸党を襲撃
257	報復でファウスがイネアートに再度侵攻
259	ファウスによる 3 度目のイネアート侵攻
260	４度目の侵攻でイネアート陥落
同	アデュで大規模なアルティス教迫害
同	マルテにユレットとアメリ誕生
261	アルカリス＝ヘスティアが獅法力のみによる音声通信機器である電話を発明
262	ファウスがアルティス教根絶を宣言。迫害が最高潮に。ここから 295 までがランティス・タンヴェル
263	ヴァンガード＝リーゼル、蓄音機を発明
267	ヴァンガード＝リーゼル、白熱電球を発明
268	ヴァンガード＝リーゼル、発電機を発明
285	マルテがファウスと相討ちに
288	ペッカ＝ディスト、真空管を発明。二極真空管。2 年後には三極真空管も発明
289	ジンティ＝アルテームス、獅法力のみを使った飛行機の開発に成功
291	アルファウス、アフレインを倒してアルバザードの実権を握る
292	アメリとユレットが共闘してアルファウスとケートイアで戦い、ケートイアを守る。しかしアルマストとアルシオンが相互不信であるため、それ以上身動きが取れない。アルファウスとの戦いも膠着化
294	アメリとユレットは次の条件をアルファウスが飲まない場合は更なる共闘をすることを約束
	条件：アルファウスはアルバ王に「アルティス教徒迫害禁止」の法案を通させること
295	アルファウスはアメリとユレットの共闘の盟約を知り、条件を飲み、5 年後の選挙の実施も受け入れる
300	ミナレット諸党とアルティス党が和平を宣言。これによりアルティルは終わり、仕切り直しの第一回選挙からヴェレイとなる

velei

300 ～ 350 の期間。英雄ミロク＝ユティアの誕生から aster 職位の前条までの 50 年。第一次世界大戦が勃発した

300	仕切り直しで第一回選挙開催。このときは副王アルファウスが事実上の支配者。国王派との対立が生じていたが、この年、王が無条件降伏をし、王は象徴となり、aster 職ができる。アメリらは第二のランティス・タンヴェルを恐れる

同	アメリとユレットはミロクを設ける。自分たちの子だということを隠すためにカイン＝ユティアに託す
320	年まで 民主政権による腐敗政治
304	第二回選挙。ミナレット諸党とアルティス党が主な政党だったが、腐敗の中、信頼を失っていく
308	第三回選挙
310	ミナレット諸党とアルティス党の和平が破れ、再び交戦状態へ。アルファウスがアメリとユレットを討ち、共倒れに
同	ミロクがアメリとユレットの子であることが発覚し、幼きミロク＝ユティアがアルティス党の党首に祀り上げられる。カインが実質党首を務めたが、アメリらに力は及ばず
312	第四回選挙
	アルティス党とミナレット諸党は議席が減少。イシリウス＝ゲノスの力があるため、後者が優勢。弱小政党が勢いをつけるようになる
同	少年ミロクは仲間を募って新党イルミロクを結党し、党首に。カインはこれも修行のひとつとして見守り、ミロクに代わってアルティス党の党首に
313	ファイゲル＝フランディール、液状ロケットの開発に成功
314	カインはしょせん子供の遊びと看過したが、ミロクのカリスマは尋常ではなく、徐々に有能な人材が集まりだす
	ミロクはアルナ校でリーファ隊を結成。幼馴染のヴェルドゥルネ＝フレイギルドをアルソンとして迎えるなどした
315	政治腐敗に対する国民の怒りが高まる
316	第五回選挙。レヴァレンが野党に。アルミナ、アミナル、アライブが連立与党に
	ミロクが異例の若さでイルミロクの党首として出馬。アルタレスを狙うも選挙で惨敗
	国民はいくら政府に怒ろうが少数政党イルミロクに委ねることはないし、小僧をアルタレスに据える気もないということをミロクは実感した
	この判断を受けてミロクは革命を強く考えるようになる「正しい選択ができない人間に選ばせていたら、いつまで経っても正しい世の中にならない
	間違っているのが王なら王を正し、アステルならアステルを正し、国民なら国民を正す」
320	ミロク革命勃発→ mirokizm, mirok yutia, yuulia arka 独裁政権樹立、選挙の廃止、アルティス教全盛へ。アルティス党関係者は党自体は消滅したが、イルミロク勢に参与した
	反対者は次々とアデュへ送られた
同	ルティアとアルティアはいち早くミロクに尻尾を振って同盟へ。アルバザード、ルティア、アルティアは枢軸国を形成し、周辺諸国へ参与を促す
同	枢軸国は資源や財を求め、南半球の征服に乗り出す
同	枢軸国に対し、メティオを中心とした反ミロク主義の国家が連合国を形成する。南半球の資源の奪い合いが背景にあった
321	主に北半球の国家が枢軸国と連合国に二分され、対立構造が完成する
322	ゲノスがラズディアを攻撃。これにより枢軸国と連合国との間で第一次世界大戦が始まる
323	ミロク、アルナの再開発を開始。特に地下道やシェルターの開発に注力
324	王族がファルシアン宮からジェリオン宮へ移される
325	アルナ学校が改築され、アルナ大などが現在の形に
326	何百回にも及んだミロク暗殺計画もミロクの強大な mejtel の前では何ひとつ意味をなさなかった
327	ミロク、カテージュの再開発に着手
330	連合国が降伏し、第一次世界大戦が終了する。連合国は多額の賠償金を負わせられた
同	枢軸国側は南半球の資源を貪ることに成功
331	アルナの地下道が完成
332	ミロク推進のもとでノイマン型コンピュータが作られる
333	再開発に用いた新インフラがアルナやカテージュ周辺の都市圏でも整備されはじめる
334	ミロクのもとでトランジスタが開発される
339	ミロクのもとで初の商用プログラム内蔵型コンピュータが開発される 344 ミロクのもとで初の人工衛星打ち上げに成功
345	ミロク、ルシアとの間にアリシアを設ける
348	カテージュの再開発が完了
349	ミロク、その他の大都市で再開発を着手

350 ～ 408 の期間。

ユティア家による世界支配の構造が定着した時代。しかしその過程では第二次世界大戦を招いてしまっている。ミロクがアリシアに譲位したことで、歴史学者は形式的に 350 年を時代の区切りとしている。380 年のミロクの死後は規制も緩和され、経済も安定し、枢軸国を中心に最も発展し安定した社会を迎える。

350	ミロク、アリシアに譲位。しかし実権はミロクにあった。アリシアを傀儡とし、ミロクは革命で作った世界を維持向上させようとする
357	アルバザード、初の月面ロケット打ち上げに成功し、月面に到達
363	「ベルティアショック」
	連合諸国は敗戦後、明暗の差がハッキリ分かれていた。多額の賠償金を支払いながら国家運営をしていた点では共通していたが、メティオのように急成長を遂げた国もあれば、ベルティアのようにマイナス成長から抜けられずにくすぶった国もあった
	敗戦から 30 余年の間に国際社会の協力のもとで復興ないし破綻回避してきた弱小国だったが、この年ついにベルティア政府がデフォルト。国債の持ち合いをしていた近隣の魔方諸国が連鎖的にデフォルトを起こす。魔方諸国に多額の債権を保有していたメティオは国単体では好況だったが、これにより打撃を受ける。また、連合諸国に復興支援の名目で大きな額を貸し付けていた枢軸諸国も被害を被った
	これが契機となり、世界経済が悪化
364	エネルギー価格が高騰し、枢軸国の経済もダメージを受けた。これにより枢軸国は魔方に豊富な原油資源に食い指を伸ばす。これを危険視した連合国が警戒心を高める。枢軸国と連合国の間にふたたび緊張が走る
366	エルトア人によるエニーク王暗殺事件が勃発。これが契機となり、枢軸国と連合国の関係が完全に悪化。一触即発の状態に
367	エルトアのナオン侵攻が契機となり、第二次世界大戦が勃発
同	ゲノスがラズディアに侵攻
368	アリシアがミロクとの間にアルテナを出産
370	メティオが降伏 371 最後まで奮闘したヴェマが降伏し、連合国は完全に降伏。これにて第二次世界大戦が終了する
377/1/24	ルティアでユーア王子が生まれる。後のルティア王に
378	アリシアの主導で初の汎用型 GUI を備えた OS である vantems を搭載したパーソナルコンピュータが発売される
380	ミロク＝ユティア逝去。直前に国によって精子が採取され、彼の遺伝子は冷凍保存された
同	ルティアでリーザ姫が生まれる。390 年にアルバザードへ留学し、非常に気に入り、住みつくようになる
380 以降	アリシアや後のアルテナのもとで、革命時にできた規制が緩和されだす
	アルティス教の価値観一本だったアルバザードは本来の多様性を取り戻していく
388	アルテナ＝ユティア、保存していたミロクの遺伝子を用い、ミーファ＝ユティアを出産
391	アリシアの主導でアンセが開発され、それまでの携帯電話に代わってスマートフォンが普及していく。この時点ではまだ電子ペーパーは普及していない。また、レイゼンに当たるタブレットＰＣもこの頃にはできていたが、やはり電子ペーパーではなく、四つ折り機能などもまだ実装していない
392/3/11	セレン＝アルバザード誕生
395	アリシア、アルテナに譲位。実権はここから 10 年ほどかけて徐々にアルテナへ引き渡していった
396	16 才になったリーザがお忍びでアルバザードに孤児院を建て、孤児の面倒を見るようになる
398	ミーファ、リーザと知り合い、孤児院で手伝いをするようになる
400/1/1	メル＝ケートイア誕生
402	リーザ、セレンを孤児院に引き取る
	セレンはミーファを姉として慕うようになる
405 頭	リーザ、メルを孤児院に引き取る
	メルはセレンを兄として慕うようになる
406 末	トゥッティが月の悪魔シェルテスに襲われ、ヴァルデとエルフィを紛失
407 第一四半期	フェンゼル＝アルサールの乱。ハイン＝アルテームス、フェンゼルを討伐し、アルタレスへ
	[ユマナ]『紫苑の書』
同末	『夢織』死神シューゼとヴェルギナの間に抗争が勃発しかけるも、すんでのところで事態は収拾する

lanj

408 ～ 408/3/10 午後 7:31	ディミニオン襲来。lamvort 発生
408/5/28	アヴァンシアン設立
422/9/7 午後 8:00	セレン＝アルバザード転生。セレン＝アルバザードの肉体へ入る
422/9/15 午前	リディア＝ルティア、肉体を持って転生。フェリシア大のほたる池の朱塗りの橋に転生し、セレンが発見し、保護。彼女はアルカを話せ、名をリディア＝ルティアと名乗り、誕生日を diasel といい、現在 7 才だと証言するが、それ以外のことは何も覚えていないと述べる

世界人口の推移

原則としてアトラスでは寿命の長いアテンほど人口が少ない傾向がある。
魂科は最も数が少ない。ただし貴族未満の死神を加えると数は増え、低級死神を加えるとかなりの数になる。死ぬことすらない悪魔は 2 桁しか存在せず、死にはするが寿命はないサルトは 3 桁しか存在しない。なお、悪魔でもアデルは量産型である。
神と人の中間的な存在であるロゼットは神々よりは人口が多いものの、ユーマの一族はロゼットよりさらに多い。

ただし、ユーマの一族も上代は神に近い存在であるため、寿命が長く、代わりに人口が少ない。
ユーマの一族が地球の人類並みのライフサイクルになるのは sm になってからである。
アズゲル～カコで統治をしていた上のほうの人間は相変わらず長命である。

王も含めて完全に地球の人類と同じ寿命になったのは sm からである。
従って、地球の人口増加の考え方が適応できるのはセルメル以降で、それ以前は事情が異なることに留意したい。

●種族

魂科:アトワーユやルノなど。死神貴族の 4 人、エミリオとミスティ、アッカイなど、数が少ない。10 人前後。
低級死神：低級は死ぬと砂になる。寿命はないが死ぬことができるため、数は多い。

悪魔：アルマやヴァルテなど。寿命はなく、死んでもテームスによって再生できる。魂科よりは多い。2 桁。
魔物：弱いため、大量に存在する。強さが 1 階から 9 階まで分かれており、階が上がるほど人口が減る傾向にあるが、必ずそうとは限らない。

幻神：エルトとサールのこと。神科。人口はラヴァスで最も増えたものの、366 人。
亜神：ロゼット。神と人の混血。寿命は 1000 年程度。2 万年かけて増えたものの、人間ほど繁殖力は強くないため、ラヴァス終戦時で約 2731 万人。このうちラヴァスで功績のあった部族はアルフィ中心部で暮らすことが許されたが、それ以外は周辺部で暮らした。

ユーマの一族：ユーマの子孫たち。人類のこと。最も人口の変化が激しい。幻神と亜神はサリアとラヴァスで増えた後、人口に変化がほとんど見られない。ユーマの一族だけが激しく変化してきたため、以下ではユーマの一族の人口の変遷について述べる。

ɑcɪl	0 人	
ɪɥʃeɒ 初期	3 人	ユーマ、アルドゥ、エスタ。
第 3 世代	32 人	エスタの 16 人の子供たち。meltia 35 ～ 50 の間に生まれた。寿命がある。寿命はおよそ 85 万年で短命。
第 4 世代	64 人	第三世代同士の子供たち。ただし testeel は除く（彼女だけ第三世代に性質が近いため）。このころになると不老ですらなくなる。寿命は僅かに 2 万年で、性的に成熟するまで 1 万年かかった。1 万年で人間でいう 15 歳ほどで、1．6 万年ほどの間 20 代の青年の姿で、1．8 万年ほど中年の姿で、残りの 2 千年で急激に老いて死ぬ。このため、1 万年ごとに新世代が生まれることになる。 64 人の第四世代は男女が 32 人ずつで、やはり親と同じくすべての兄弟と関係を持って子を成した。32 人の女が 32 人ずつ子供を産んだので、1024 人となる。 第五世代は第四世代がメルティア二桁代に生まれたとすると、1 万年後の meltia 1'0000 ごろに生まれたことになる。もう 1 万年後には第四世代が死に、第六世代が生まれる。

第５世代	1024 人	寿命等は親世代と同じ。やはり 512 人ずつ男女がおり、それぞれに子供を作って 26 万 2144 人の子ができる。しかしあまりに子供の数が多いため、親の持つ神聖さが分散され、第六世代からは生殖能力が激減する。
第６世代	26 万人	寿命は同じく 2 万年だが、女は生涯に 2 人しか子供を産めず、逆に不妊や流産もない。まだ半分神なので、自然環境や動物に襲われるといった小さなことでは死なない。子供の男女比はきっかり 1：1 である。 ここからは人口が増えずに一定なので、ユーマの一族の人口はおよそ 26 万人のまま何十万年も世代交代を繰り返していく。
第８９世代 （ᴅᴇlᴄɪ Δᴾᴵᴵᴵᴵᴵᴵᴵᴵ頃）	26 万人	八十九世代は寿命が極めて短くなり、わずか 2000 年であった。 住処をガルヴェーユからファベル・サヴィアに移し、人口は徐々に増えていく。
ᴅᴇlʃᴄɪ Lᴾᴵᴵᴵᴵᴵᴵᴵᴵ頃	117 万人	シフェルの民が食料と土地を求め、ファベルからアンシャル、サヴィアからインサールに入る。神がいるので西勢はフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには住まず、この後 9 万年ほどかけてファルファニア、レスティル、魔方、東方、メティオに徐々に広がっていく。 東勢のマレットは同じ時間をかけて西はメティオ以北と以東まで、南はケヴェアに散布していく。
ᴅᴇlʃᴄɪ 100'0000	135 万人	ヴァステ開戦
ᴅᴇlʃᴄɪ 100'LΔJʔ	142 万人	ヴァステ終戦。sr で神の文化と混ざり合い、軍事的にも神の恩恵を受け、適度なパワーバランスが太平の世を生み、パックス・サルトが成立。 これに便乗してユーマの一族は急激に人口を増やしていく。 ここからサリアの終わりまで 2 万年もあるため、いくら繁殖率が現代人より弱いとはいえ、100 万程度しかいなかったユーマの一族はここで爆発的に増える。
ᴅᴇlʃᴄɪ 10ʔ'00ʔ⌋	1 億 2645 万人	ラヴァス開戦 2 万年かけて反映してきたユーマの一族だったが、ラヴァスの熾烈な戦いに巻き込まれ、徐々に伸び悩んでいく。 また、戦争で土地が荒廃すると飢饉が発生し、人口増加に歯止めがかかった。 さらに神々が世界中から持ち込んだ病原菌のせいで、より免疫力の弱いユーマの一族は次々と倒れていった。 戦災・飢饉・病原菌が原因で、ユーマの一族の人口はこの 1 万年でぐっと落ち込むこととなる。 だが絶滅には至らず、生き延びることができた。
ᴅᴇlʃᴄɪ 10ᴍ'0000	4239 万人	ラヴァス終戦。戦災･飢饉･病原菌により､人口は 1 万年で 3 分の 1 に減少。 しかしアズゲルを迎えるころにはさらなる短命化により、逆に出生率は上がっていく。
ʏᴇᴇᴅɪ ᴾLᴍ	5620 万人	アズゲル前夜が終わり、アズゲルが開戦。産めよ増やせよの政策で、人口が増えていく。 しかし戦災・飢饉・病原菌にたびたび悩まされ、思ったほど人口は伸び悩んだ。
ʏᴇᴇᴅɪ ᴍᴾᴾᴾΔ	8314 万人	アズゲル終戦。メルテナへ
ʏᴇᴇᴅɪ ᴾʔL1	1 億人	世界人口が 1 億人を突破。
ʏᴇᴇᴅɪ ᴾᴍᴾ1	1 億 2839 万人	カコ勃発。
ʏᴇᴇᴅɪ ΔΔΔΔ ＝ ᴄᴅᴇl 1	2 億 521 万人	アルシェがイムル暦に改める。 このカコの後のセルメルでふたたび太平の世の中になり、後記 sm では長寿の王たちも途絶え、完全に人間と同じ人口システムになっていく。 長寿な王がセルメルで途絶えたため、時代はこれ以降小さい単位で区切られていく。 イムル暦が終わる 1588 年の間に、人口は爆発的に増加した。
ᴄᴅᴇl ᴾᴾΔΔ ＝ ᴅᴇl 0	4 億 5369 万人	オーディン　メル＝ケートイア誕生。
ᴅᴇl LΔ	7 億 23 万人	ナディア　シェリーボルト（産業革命）と植民地政策で、この後人口の増加ペースが早まる。
ᴅᴇl ᴾᴾ0	9 億 1121 万人	アルティル　イグレスタ共産圏が成立。
ᴅᴇl ʔ00	32 億 5388 万人	ヴェレイ　ミロク＝ユティア誕生
ᴅᴇl ʔJ0	48 億 8122 万人	ヴェレイ　ミロク革命開始
ᴅᴇl ʔʔ0	56 億 2274 万人	ヴェレイ

付録 2

人工言語学論集

人工言語学　――人工言語学の定義と範疇 624
人工言語のランドマーク　――人工言語の歴史に名を刻んだ者たち 625
工学言語論 ――受け入れられるプログラム言語と受け入れられない最小限主義的哲学言語 626
語法論 ――人工言語の見えない心臓 628
一意的で完全な抱合語 ――ゲーデル数の利用による一意的で完全な抱合語の構築への試論 633
構文論 ――構文数と構文的な成句が少ないほど、その言語は習得しやすく使用しやすい 634
ke と aller の対照言語学 ―アルカのネイティブによる用例と彼女の誤用分析 637

人工言語学　――人工言語学の定義と範疇

人工言語学研究会著 2011 年 8 月 19 日初版　Copyright(C) 2011 人工言語学研究会 . All rights reserved.

●人工言語学の定義

人工言語は言語学の範疇ではない。これには通時的な理由と共時的な理由がある。
前者は 1866 年にパリ言語学会 が人工言語に関する論文を受け取らないと決めたというものである。
後者は人工言語が制作者の恣意によって好きな形に作ることができるため、自然言語の研究と同じような分析を行うことができないというものである。例えば、類型論において最も一般的な基本語順は SOV であるが、人工言語は恣意的に作れるため、いくらでもこの研究結果を覆すことができる。類型論のみならず対照言語学などほかのあらゆる言語学の部門において、自然言語の研究を通じて言語学が明らかにしてきた成果 を覆すことができる。これでは研究にならないということで、人工言語は忌避される傾向にある。

人工言語学とは、そんな渦中にある中であえて人工言語を言語学の範疇として研究する言語学の一分野である。主旨は「人工言語で言語学をすること」である。
人工言語学は 2011 年に人工言語学研究会によって提唱された学問である。ただし実際には研究会が発足される前に、2000 年代から実質同じ概念が提唱されていた。研究会の代表が大学・大学院時代に人工言語で言語学を研究していたためである。

●人工言語学の範疇

・言語学的考察に耐えうる品質の人工言語

言語学の対象として人工言語を扱う以上、研究対象となる人工言語は言語学の成果を著しく覆すようなものであってはならない。あくまで言語学から見て不自然でない人工言語を取り扱う必要がある。人工言語が持つ「何とでも作れる」という恣意性を極力排他した、言語学の知識を十分に活用して作られた人工言語のみが研究対象となり得る。
従って、自然言語からの参照の度合いが高いアポステリオリ言語や、言語学に十分即した上で作られたアプリオリ言語が範疇となる。

また、これらの条件を満たす言語であっても、その言語が発展途上であるとか作られたばかりであるとか情報量があまりに少ないといった状況にある場合は、研究対象として耐えられない。
人工言語学では「人工言語で言語学をする」という主旨を満たすため、言語学的考察、特に対照言語学的分析に耐えうる品質の人工言語を対象とする。言語学的考察に耐えうる人工言語とは、具体的には以下の条件を満たすものである 。

1: 当該人工言語が言語学的に見てあまりに不自然な造りをしていないこと。詳しくは言語学に矛盾しない人工言語の作り方を参照
2: 当該人工言語の日本語資料が論文執筆に十分な程度存在し、かつ日本国内で容易に利用できること。具体的には 1 万語を超える単語帳形式でない辞書に加え、文法や音韻論等に関する詳細な教材が、書籍かオンラインで利用できること
3: 少なくとも 10 年以上使用された実績があり、対照に用いるだけの信頼性を有すること

本研究会発足時点で上記の条件を満たしていた人工言語はアルカとエスペラントしか存在しなかったため、人工言語学ではこれらを自然言語と対照可能な人工言語と見なす。

・ノコギリの押し引きに見る言語学の非独立性

言語学者の中には人工言語を研究範疇としないだけでなく、他の分野の学問と提携して言語現象を解き明かそうとさえしない者がいる。これは問題である。というのも、実際のところ言語現象は必ずしも言語学だけでは説明することができない ためである。言語現象を説明するには言語学だけでは不十分で、言語学以外の分野を使わないと説明できないことが多々あるということである 。
つまり言語学は言語現象を解明することに関しては独立した学問ではないのである。にもかかわらず言語学者の中には言語学だけで言語現象を解明しようと考える者がいる。これは現実に即していない。
事実は事実と認めた上で対処しなければならない。人工言語学は言語学の非独立性を認めた上で、諸学問と連携しつつ言語現象を解明していくというスタンスを取る。

言語学の非独立性は例えばノコギリの押し引きなどに見ることができる。 日本語には「ノコギリを引く」というコロケーションがある 。しかし「ノコギリを押す」というコロケーションはない。これはなぜだろうか。
この言語現象は実は言語学だけでは解明できない。
ご存知の方も多いだろうが、日本ではノコギリは引くときに力を入れるようになっている。一方、欧米では押すときに力を入れるようになっている。いわゆる引きノコと押しノコの違いである。
引きノコは比較的柔らかい杉などの材質を切るのに用いる。このため、日本やトルコなどで採用されている。
なぜ日本語には「ノコギリを押す」というコロケーションがないのか というと、それは日本では引きノコを使うからである。そして引きノコを使うのは、杉などを切る機会が多いためである。
杉が多いという植生は日本の風土によるものであり、杉をよく使うというのは日本の文化によるものである。

つまり、文化や風土という視点を入れないとこのコロケーションについては解明できないのである。

このように 、言語現象は必ずしも 言語学 だけで解明できるとは限らない。 風土や文化など、言語学以外の見方 を踏まえて考察せねば解明できないことがある。
以上から、言語現象を説明 するには言語学以外の視点も取り入れる必要があるということが分かった 。言語学は言語現象の解明に関して独立した存在ではないのである。
また、当然それは人工言語学にもいえることである。 人工言語学は言語学の一分野だが、考察を行う際は言語学だけでなく諸学問と 合わせて研究していく ことになる。

人工言語のランドマーク　――人工言語の歴史に名を刻んだ者たち

人工言語学研究会著 2011 年 8 月 20 日初版 Copyright(C) 2011 人工言語学研究会 . All rights reserved.

●人工言語のランドマーク

ここでは人工言語史を動かしてきた出来事と、人工言語史に名を刻んできた者たちについて通時的に列挙する。これらの偉人が行った偉業が人工言語史を動かし、形成してきた。
このリストでは人工言語の歴史を揺り動かしたランドマーク だけに言及 するため、雑多な出来事や二番煎じの作品については掲載するに足らないと判断した 。

西暦	出来事
12 世紀	ビンゲンのヒルデガルト、Lingua Ignota（『未知なる言語』）
13 世紀	ライモンドゥス＝ルルス 、Ars Magna（『偉大なる術』）
1638	フランシス＝ゴドウィン、The Man in the Moone（『月世界の人』）
1647	フランシス＝ロドウィック、A Common Writing（『共通の文字』）
1661	ジョージ＝ダルガーノ、Ars signorum（『記号術』）
1668	ジョン＝ウィルキンズ、An Essay towards a Real Character, and a Philosophi cal Language（『真性の文字と哲学的言語に向けての試論』）
1677	ドニ＝ド＝ヴェラス、『セヴァランブ族物語』
1678	ライプニッツ、Lingua Generalis（『一般言語』）
1710	ティソ＝ド＝パト、『ジャック・マセの冒険旅行』
1797	ド＝メミィユ (Joseph de Maimieux) 、pasigraphie（パシグラフィー）で一躍時代の寵児に
1827	フランソワ＝スードル、ソルレソル（ソレソ）。 1855 年のパリ万博で 1 万フランの賞金を獲得
1855	ソトス＝オチャンド、『普遍言語の計画案』
1866	パリ言語学会、言語の起源と普遍言語にかかわる論文を受理しない方針を明らかに
1879	シュライヤー、ヴォラピュク。有名になった初の国際補助語
1887	ザメンホフ、エスペラント。世界最大の人工言語
1890	「ヘブライ語委員会」が設立され、ベン・イェフダーが代表に就任
1901	クチュラとレオー、「国際的補助言語を採択するための委員会」を発足
1907	クチュラとレオー、『新しい国際語』
1907	Uniono por la Linguo Internaciona Ido 、Ido（イド）
1919	イギリスの委任統治当局、ヘブライ語をパレスチナにおける公用語の一つと宣言。現代ヘブライ語を人工言語とみなすなら、世界で最も成功した人工言語と定義できる
1930	オグデン、Basic English（ベーシック・イングリッシュ）
1951	International Auxiliary Language Association 、Interlingua（インターリングア）
1954	トールキン、『指輪物語』。芸術言語が徐々に花開いていく
1955	ジェームズ＝クック＝ブラウン、Loglan（ログラン）。サピア＝ウォーフの仮説の調査のために設計されたという点で斬新であった
1975	ジェームス＝ノウルソン (James Knowlson) 、Universal Language Schemes in England and France 16 00-1800 を出版
1984	マリナ＝ヤグェーロ (Marina Yaguello) 、Les Fous du langage, des langues imaginaires et leu rs inventeurs を出版
1991	セレン＝アルバザード他、arka（アルカ）。 2011 年に、アプリオリ自然主義世界を持ったアプリオリ自然主義人工言語の中で世界一深く作り込まれた人工言語として同言語を完成させる
1995	Microsoft 、Windows 95 を発売。人工言語の作業が紙から PC へシフト開始
1995	ウンベルト＝エーコ (Umberto Eco) 、The Search for the Perfect Language を出版
00 年代	インターネット・ブロードバンドの普及。人工言語の公開が容易に
2004	ネリエール、globish（グロービッシュ）。一応国際補助語に分類しておく

2005	セレン＝アルバザード、ウェブサイト「新生人工言語論」を立ち上げ。人工言語の作り方や人工言語そのものの解説を国内で初めて行い、啓蒙する
2009	アリカ＝オクレント、In the Land of Invented Languages を出版
2010	マーク＝ローゼンフェルダー、The Language Construction Kit を出版。言語学の初歩から説明しつつ人工言語の作り方を指南。ただし言語の背景となる文化や風土の作り込みについてはあまり言及がなく、自身が作った言語も地球と異なる舞台なのに地球の言語を基にしたアポステリオリ言語であるという矛盾を抱え、造詣が甘い
2011	セレン＝アルバザード、人工言語学研究会を発足。人工言語学という新しい学問が生まれる
2011	セレン＝アルバザード、『紫苑の書』を出版。異世界で言語をゼロから学んでいくというリアリティを追求した世界初のファンタジー小説で、芸術言語の歴史上大きなランドマークとなった
2011	セレン＝アルバザード、『人工言語学・アルカ』（本書）を出版。人工言語学が提唱され、アルカが出版された人工言語になり、全文アルカの小説『夢織』が収録され出版された。ここまで本格的にゼロから作り込まれた人工言語が登場し、出版されたのは世界初の快挙である

工学言語論 ――受け入れられるプログラム言語と受け入れられない最小限主義的哲学言語

人工言語学研究会著　2012 年 1 月 4 日初版 Copyright(C) 2012 人工言語学研究会 . All rights reserved.

●工学言語の定義

人工言語学研究会 (2006) によると、工学言語の定義は以下のとおりである。

- engineered language (engelang)：工学言語。実験的に作られる言語。以下の内訳がある。
- philosophical language：哲学的言語。フランシス＝ロドウィックの『共通の文字』など。
- taxonomic language：分類学的言語。哲学的言語とほぼ同義。概念を図書分類法のように分岐させていく側面を強調している。ジョン＝ウィルキンス『真性の文字と哲学的言語にむけての試論』など。
- experimental language：実験的言語。ある構造を持った言語が機能するかどうか確かめるために試験的に作られる言語を指す。
- ideal language：理想言語。普遍言語とともに主に 16-18 世紀にヨーロッ パで起こった人工言語の論争の中で用いられる術語。
- logical language(loglang)：論理的言語。工学言語の持つ論理的な側面を強調した術語。人工言語史的には下記の programming language の端緒となった。
- programming language：プログラミング言語、プログラム言語。コンピュータを扱う際に用いられる言語。 BASIC, C, FORTRAN など。

本論 では主にプログラム言語と、哲学的言語のうち最小限主義的特性を持った人工言語に焦点を当てる。

●最小限主義的哲学的言語

美術・建築・音楽などの分野で、形態や色彩を最小限度まで突き詰めようとした一連の態度を最小限主義、ミニマリズムという。この概念を人工言語に適応させたものが最小限主義的哲学的言語 である。トキポナ 、ベーシックイングリッシュ などが具体例として挙げられる。
これらの言語は語彙数を少数に絞ることで学習の容易さや言語システムの簡素さなどをアピールしている 。

●受け入れられるプログラム言語と受け入れられない最小限主義的哲学言語

現実世界を見ると、C 言語などのプログラム言語は広く社会で実用され、受け入れられている。その使用者は極めて多く、また社会における必要性や需要も甚大である。
その一方 、トキポナなどの最小限主義的哲学言語は現実社会に受け入れられておらず、国際補助語同様、需要もない。同じ哲学的言語であるにもかかわらず、この違いはなんであろうか。

最大の理由はプログラム言語がコンピュータを動かす上で必要な一方、最小限主義的哲学言語には使い道がないためである。 最小限主義的哲学言語は学習の容易さなどを謳っているものの、現実社会の人々は母語や英語や中国語などで十分と考えているため、需要がない。
もうひとつの理由は 最小限主義的哲学言語の持つジレンマである。以降はそのジレンマについて述べる。

●最小限主義的哲学言語のジレンマ

一言で言えば、最小限主義的哲学言語は中途半端である。語彙数が少ないことで学習の容易さやシステムの簡素さを訴えているが、その数が中途半端である。
一般に最小限主義的哲学言語は音素数や語彙数などをできるだけ少なくしようとする。ではどこまで音素数や語彙数を少なくすることができるだろうか。それは 2 である。最少の音素数は 2 であり、最少の語彙数は 2 である。これは 0 と 1 だけですべてを表現する機械語において実現している。
そう、工学言語における最小限というのは遥か昔に 2 であると既に求められているのである。いくら語彙数

が少ないことを売りにしても意味がない。なぜならそれは 2 と決まっているからである。ベーシッ クイングリッシュの 850 語もトキポナの 123 語も 2 には遠く及ばない。

ではなぜ語彙数 2 の最小限主義的哲学言語が存在しないのか。それは最小限主義的哲学言語は機械語と異なり、人間が使うことを前提に作られているためである。 0 と 1 であらゆる概念をナンバリング（命名）することは可能だが、現実的に考えてそれは人間が実用できるものではない。
そこで人間が実用できる範囲にするため、語彙数を増やす必要がある。この時点で最小限主義的哲学言語の根本的な理念が失われてしまう。しかしそうしないと実用できないのでせざるをえない。帯に短し襷に長し。これが最小限主義的哲学言語の抱える最大のジレンマである。

理念を失ったあとは、もはや「どこまで語彙数を増やさないで済ませられるか」というチキンレースにすぎない。語彙数を増やすほど人間の言葉に近付き、言語を運用する際に楽になる。その反面、語彙数が増えるほど覚えねばならない単語は増えてしまう。結局のところ運用効率と学習効率のバランスをどう取るかという問題に帰着し、最小限主義的哲学言語の理念である最小限主義は隅に追いやられてしまう。
最小限主義的哲学言語が文字通り最小限を目指すならその語彙数は 2 であるべきである。しかし実際のところはそれができずに運用効率と学習効率のバランスをどこで取るかという調整作業に終始している。そのバランスをどこで取るかは言語作者の恣意による。だからこそベーシックイングリッシュやトキポナの語彙数は大幅に食い違っているのである。
だがどこが最良のバランスかというのは個人個人によって異なる主観的なものであるため、いずれの最小限主義的哲学言語も万人の満足を得られない。最小限主義という理念を失っているだけでなく、バランスの帰着点でさえ一致を見ないというおそまつな状況になっているのが実情である。

最小限主義的哲学言語がプログラム言語と違って受け入れられないのは、そもそもの需要のなさに加え、こうした恣意的なジレンマによるものである。

そして次に述べる事象が最小限主義的哲学言語が受け入れられない更なる理由である。

●最小限主義的哲学言語の学習効率と運用効率

本末転倒な話だが、実は最小限主義的哲学言語は運用効率どころか学習効率もよくない。考えてもみよう。
いくら語彙数を少なくしたところで、概念の数が減るわけではない。語彙というのはあくまでシニフィアンの総体の一形態である。一方概念はシニフィエの一種である。シニフィアンをいくら減らしたところでシニフィエの数は減らない。これではなんら語彙数を削ることに意味はない。
語彙数が 1000 以下しかない最小限主義的哲学言語においても、表現しなければならない概念の数は軽く万を超えるのである。結局語彙という手持ちのカードが少ない状態で、限られたカードを組み合わせて数多くの概念を表現することになる。
結果、ひとつの概念を表すのに複数の形態素を繋げて迂言的に表現せざるをえない。するとどうなるか。ひとつひとつの概念の語形が長大になってしまう。これでは覚えるのも使うのも不便である。

他の問題もある。たくさんの概念を少数の語彙で示すという性質上、どうしてもひとつの単語が多義的になりがちである。
多義になるということは人によって異なる解釈をするリスクを生じるということである。
つまりＡさんが意図したことがＢさんに誤って解釈されるリスクが高まるということである。これは最小限主義的哲学言語を複数の人間の間で使うときに大きな弊害となる。
たいていの場合このリスクは前後の単語や文脈によって意味を決定するというリスクヘッジを取るが、それが満足に機能するかは解釈する人間の能力に依存する。言語側が自己のシステム内で責任を取らず､ユーザーに責任を押し付ける形になっている点で問題である。

簡単に言えばこういうことだ。語彙数だけ減らしても表現しなければならない概念数は減らないので、長い複合語が生まれたり多義的すぎる単語が生まれたりしてしまい、使い勝手が悪い。
しかも結局、概念数の分だけ単語の組み合わせや単語の語義を覚えねばならないため、覚える個数に関しても自然言語と変わりない。
つまり運用効率も学習効率も別によくないのである。むしろ運用効率に関しては悪いとすらいえよう。

このように、最小限主義的哲学言語の学習効率と運用効率は、標榜しているのとはまるで逆で、良くないかむしろ悪いといえる。

●まとめ

最小限主義的哲学言語の問題点は次のとおりである。

・そもそも社会的な需要がない
・語彙数と音素数が 2 でない時点で最小限主義を放棄している
・語彙数をどこまで増やさないかというチキンレースでしかない
・運用効率と学習効率のバランスをどこで取るかという調整作業に終始している
・どこが最良のバランスかというのは個人個人によって異なる主観的なものであるため、いずれの最小限主義的哲学言語も万人の満足を得られない
・いくら語彙数を少なくしたところで、概念の数が減るわけではない。覚えねばならない概念数は自然言語の学習と変わりない

・多義語が多く、解釈が人によって異なるリスクが高く、意思疎通がきちんとできないリスクが高い

これを踏まえて結論を述べると、制作においても学習においても、最小限主義的哲学言語のレーゾンデートルには合理性がない。

語法論 ――人工言語の見えない心臓

人工言語学研究会著 2012 年 3 月 4 日初版 Copyright(C) 2012 人工言語学研究会 . All rights reserved.

●エスペラントと語法

人工言語にとって最も見逃されやすく重要なのは、語法である。

エスペラントは西洋語の語法を踏襲した。東洋人のエスペランティストはおしなべて西洋語に精通した識者である。よって西洋語の語法に合わせるか母語の語法に合わせてエスペラントを使う。

芸術言語は文化を構築し、国際補助語は文化を漂白する傾向にある。
文化については構築しようが漂白しようが一向に構わない。文化制作から逃げようと思えばいくらでも逃げられる。むしろ国際補助語については漂白、すなわち捨象すべきとすらいえる。
だが語法はそうはいかない。いずれの場合でも、オリジナルの語法制作を放棄するわけにはいかない。
アプリオリであろうとアポステリオリであろうと、オリジナルの語法を持たねば、異なる母語話者間で意思疎通を正確にすることはできない。

エスペラントはこの問題に対処しなかった。西洋人と西洋に傾倒した東洋人によって培われてきたためである。
現在エスペラントの語法は事実上漠然とした印欧語族の言語群の語法の踏襲であり、無意識に形成されたアポステリオリな語法である。
ザメンホフがしっかりと語法を設定しなかったことが、エスペラントの欠点である。

2012 年現在においてでさえ、アメリカの人工言語関連の掲示板に顔を出すと、東洋人が来るのは珍しいと物珍しがられる始末である。ネットが普及しても西洋と東洋の文化的な隔たりは大きい。
ということは 100 年以上前に作られたエスペラントが西洋と東洋の語法を合わせて検討しなかったのは仕方ないといえる。というか時代的に考えて、そもそもザメンホフには無理である。

●アルカと語法

一方、アルカは西洋から東洋まで幅広い母語話者によって構築されたため、早くから語法の問題に直面していた。
20 世紀後半において西洋と東洋が接触すると、大抵は東洋人が西洋人に擦り寄るのが現実だった。
西洋のほうがおしなべて経済力も軍事力も科学力もあり、東洋は西洋に対する憧れを少なからず持っていたので、仕方がないことであった。
当時の日本からアメリカへ留学する率とその逆の率を比べても、そういうことはすぐ分かる。

そんなご時世にもかかわらず、アルカは 1991 年という早い段階から西洋主導のやり方に侵されていなかった。
最も原始的なアルカは花言葉を使ったアプリオリの暗号であり、次に原始的なアルカはこれもまたアプリオリな暗号であった。
後の 1991 年にできたアルカは日本語とフィンランド語のピジンからできた言語であった。どちらも印欧語族でない点で、最初からやや特殊であった。
その後、西洋人が中心ではあるものの、母語の異なるメンバーが流入した。確かに西洋人の割合は多かったが、その集団の代表格の一人であった私が日本人だったため、日本語圏の力が強かった。
つまりアルカは西洋語、とりわけ印欧語族の語法に浸食されなかったということである。

●語法問題：問題に気付いた言語屋と気付かなかった言語屋

さて、90 年代なかばになってメンバーが急増すると、語法が問題となった。
なにせ様々な母語を使う話者の集まりなので、同じアルカを使って話したところで、語法の食い違いのせいで意図が正確に通じないのである。

例えば「公園」はある言語話者にとっては「広い」ものだし、ある言語話者にとっては「大きい」ものである。
同じく「川」はある言語話者にとっては「幅広い」ものだし、ある言語話者にとっては「大きい」ものである。
エスペラントでは英仏の large や英語の vast を参考に、「広い公園」を larĝa parko や vasta parko などと言う（vasta parko のほうが一般的）。そのまま印欧語族の語法を踏襲している。

英語にもフランス語にも日本語の「広い」にぴったり当てはまる単語は存在しない。そしてエスペラントはやはり西洋語の一種だけあって、日本語の「広い」にぴったり当てはまる単語を持たない。
もし日本人がエスペラントを使うなら、結局は西洋語圏の語法感に合わせるか、日本語式の発想の誤ったコロケーションを使うしかない。

これは国際補助語としてはゆゆしき問題である。なにせユーザー間で語法が統一できていないのだから、意思疎通が正確にできないのは火を見るより明らかである。

国際補助語としては語法が特定の自然言語に依存しているのはよろしくない。ユーザーにとって不公平感があるからである。芸術言語ならまだ良いが、国際補助語では致命的である。
にもかかわらず、この語法問題があまり注目されていないのはなぜか。それは異なる母語話者が対等な立場で特定の人工言語を使用した実績がないためである。
簡単にいえば、言語を作るだけ作って使用実験をきちんと色んな外国人との間で何年にもわたって行なってこなかったから、語法問題の存在そのものに気付かなかったのである。

エスペラントの場合、西洋人は西洋語の語法を、東洋人は西洋語が既にできる識者が多いので西洋語の語法を使用する。西洋人と東洋人のユーザーの関係が対等なものになっていない。
結局東洋人が西洋人に合わせているというのが実情である。それもそのはず、2012 年になってもアメリカの人工言語の掲示板で日本人が珍しがられるのが人工言語界の実情なのだから。

思うに、2012 年現在、地球上で異なる多数の母語話者が西洋偏重の語法なしに人工言語を使用した例は、アルカしかないのではないだろうか。
なぜそう思うかというと、あらゆる人工言語が語法についてあまりにも考察をしていないためである。

以前日本人の人工言語に関する知識があまりに貧弱なため、義憤でかつての新生人工言語論を作ったときと似たような気持ちがある。
ざっくばらんに言うと、「お前ら語法なめすぎ。絶対その言語使ってないだろ。外人どもと使い合ってりゃ、絶対語法に目が行くはずなんだよ」という思いで満ち満ちている。
正直、本稿のタイトルを「語法論」ではなく「語法なめんな」にしたかったくらい、憤りがある。

アルカの場合、90 年代中頃には既に語法が大きな問題となっていた。
ユーザーによってコロケーションが全然異なることなど日常茶飯事で、相手の言っていることを理解するのが難しかった。

我々日本人は「最後の日曜日」と言われると人生最後の日曜のことかと勘違いするが、これは単なる last Sunday の直訳である。
last は最後という意味だが、最後なので「直近の」という意味もあり、先週のという意味に繋がる。
相手が「先週の日曜日」という意味で喋ってきても、それを我々は「最後の日曜日」と受け取る場合がある。その場合、相手の意図を理解できるかどうかは怪しい。

アルカではこのような問題がたびたび起こった。もううんざりするほど起こった。正直当時の会話は実際には数割程度しかきちんと通じていなかったのではないだろうか。
アルカをメインでやっている人間が日本人の少年とフィンランド育ちの少女であり、サブでやっている人間が大半西洋人だったため、西洋語の語法が優勢になることがなかった。
優勢な語法が存在しなかったため、かえって共通の語法がなく、それゆえ語法が互いに通じないという問題が起こったのである。

パワーバランスに偏重があるエスペラントではこの問題が起こらず、逆にそれゆえに語法問題は捨て置かれたのである。
だが考えてみてほしい。国際補助語ならなおさら特定の言語の語法に依存してはならないのである。
芸術言語であるアルカが国際補助語よりも語法についてしっかり考察してあり、よほど国際補助語然としているのは、皮肉にも面白い現象といえよう。

●語法問題の具体例

我々がアルカを運用していて語法の一致を見ないせいで意思疎通に苦しんだ例は枚挙にいとまがない。そのうちの一部を具体例として挙げる。
これらのコロケーションに関してあなたの言語がどう処理するか、またいかにエスペラントが考えなしに西洋偏重の語法を選択しているか、考えてみてほしい。

ページをめくるの「めくる」は何というか。では逆にページを戻す場合は何というか。
アルカでは、ページをめくるのは紙を裏返す動作だから、ページを裏返すと表現する。
逆にページを戻るにはページを表返すというような表現をする。「紙を裏返す」という物理的な動作をそのままコロケーションに用いるため、「めくる」に比べてどの国出身の人間にも理解されやすい。

傘を差すの「差す」は何というか。アルカでは「開く」ないし「機能を発揮する」という動詞を使う。物理的な動作に即しているので万人に理解されやすい。
日本語では傘は「差す」ものだが、中国語では「打」するものである。一方、英語では open するもので、フランス語では ouvrir するものであるから、どちらも「開く」ものである。ではエスペラントはというと、やはりというか予想通り西洋語の語法をそのまま踏襲して malfermi すなわち「開く」ものである。決して「打」だの「差す」だのという表現は用いない。
他方、会議を開くの「開く」は何というか。アルカでは「催しを行う」という動詞を使う。これは「機能を発揮する」と同じ語形の動詞であり、汎用性が高い。

トイレを借りるというが、トイレは借りるものなのか。いや、使うものである。返しもしないし持って帰りもしないので、この借りるは借りるの本来的な語義ではない。よってアルカでは「使う」と表現する。

大きな数は「大きい」のか。高カロリーは「高い」のか。大きな質量は「大きい」のか。
風は「強い」のか。水の流れは「激しい」のか。
これらの表現に使われる形容詞は言語ごとに面白いほど食い違い、混乱の種となる。
これらに関して、アルカではいずれも「程度が甚大である」という汎用性の高い形容詞を用いて表現できる。
この形容詞のおかげで「大きい」や「高い」の比喩語義を宛てがわずに済み、万人にとって理解されやすい。

なお、語法はコロケーションだけの問題ではない。
「唇」はどこからどこまでの範囲を指すのか。英語の lip は日本語の唇より範囲が広い。
あなたの言語ではどうなっているのか。
「水」は「お湯」と区別されるのか。英語や韓国語では水とお湯は単語レベルで区別されないが、日本語では単語レベルで区別される。
「書く」はどこからどこまでの範囲を指すのか。文字なら書くだろうが、絵なら描くではないか。絵でも書くという言語はあるのか。また絵文字なら書くなのか描くなのか。どこまでが書くの範囲なのか。そういうことも決めねばならない。

語法というのは単語の使い方であるが、具体的にはその単語の意味の範囲と、その単語が別の単語とどう組み合わさるのかという組み合わせの問題に大別することができる。
人工言語の制作者はこの 2 点について語法を設定していかなければならない。

どうだろう。あなたはきちんとこれらの問題について考えてきただろうか。一人で机上の空論で言語を作っているだけではぶち当たりにくい問題である。
仮にその言語を実用したとしていても、日本人同士ないしアメリカ人同士などで用いていたら、共通の語法がある間柄なので、なかなかこの語法問題には気付きにくい。

アルカのように複数の異なる母語話者の間で長年使用してこそ気付く問題なのである。
もちろん、本稿を読んだ読者はこの限りではない。そのような実験をすることなしに、この問題に気付くことができる。

・語法と文化

なお、「虹」は何色かというような問題は、語法半分文化半分といった問題である。語法の一種ではあるが、文化寄りの記述であることは否めない。

語法記述と文化記述はしばしば弁別しづらい。それだけに文化を漂白し、語法だけをオリジナルで作るのはあまり現実的ではない。少なくとも不自然である。
それゆえ私は文化を漂白すべき国際補助語において自然言語並みの作り込みができるとは思っていない。

まず、文化を漂白するという行為自体がそもそも言語からして不自然な行為である。
その上、文化記述の一部が語法記述の一部と重複し、かつ語法記述に関しては捨象することができない事実を考えると、自然言語並みに作り込まれた国際補助語制作というのは現実的ではない。

言い換えれば、国際補助語では自然言語並みの作り込みを持った本格的な人工言語を作るのは不可能ではないかと私は考えている。

●最大公約数的語義による語法の漂白

人工言語が語法において取るべき措置とはどのようなものか。

まず、アプリオリでもアポステリオリでもいいから、オリジナルの語法を設定すること。
エスペラントは成り行き任せで西洋語圏の語法を獲得したが、それは設定してそうなったのではなく、自然とそうなっただけである。
語法についてきちんと作者が考察しなかった時点で言語制作としては不十分である。「まぁ言語学専攻でもない眼科医だからそんなもんだろう」と私は思っているが。

アルカは共通な語法がなかったので、必然的にオリジナルの語法を設定することになった。90 年代中頃のことである。
最初は言語学の知識をメンバーが持っていなかったため、アポステリオリの語法であった。
しかしアルカの目指す方向性が異世界の芸術言語という設定に変化していくうちに、アプリオリで語法を持たせることになっていった。

次に、アプリオリでもアポステリオリでも、語法を漂白するか否か決めねばならない。
語法の漂白は最大公約数の語義を得ることで実現できる。
例えば日本語では「広い」は面積に使うが、「広い手」とは言わず「大きな手」という。
「広い」は単純に面積の甚大さを指す言葉ではない。場所性の有無など、いろいろな要因が絡まっている。また、「心が広い」などのメタファー語義もある。
一方、英語の large には「大きい」や「広い」の意味があり、フランス語の large には「幅広い」などの意味がある。

これらの言語の単語に共通する語義は「面積の甚大さ」であり、その語義が「広い」や large の最大公約数である。

複数の異なる母語話者で言語を使用する場合、最大公約数の語義を使用すると、誤解なく意思疎通できる。
我々は 90 年代中頃の混乱を経験し、最大公約数の語義を得ることで、ユーザー間で異なる語法を漂白して統一することができると知った。知識ではなく体得、環境への適応といってもよかった。
こうして現在でもアルカで「広い」を意味する han は原則として「面積の甚大さ」しか表さない。
従って手は「大きい」ものでなく「広い」ものであり、公園も「広い」ものであり、机も、そして場所性のない紙すらも「広い」ものである。

日本語は「広い公園」とは言えるが「広い紙」とは言わない。これは「広い」に場所性が関与しているからである。
アルカの han は「面積の甚大さ」しか示さない——最大公約数的な語義しか持たない——ので、「広い紙」といえるのである。
最大公約数的な語義であるから万人にとって扱いやすい。迷わずコロケーションを選択することができる。

この特徴は本来国際補助語のエスペラントが持つべきものである。にもかかわらず芸術言語のアルカが持っているのは皮肉であろう。本質的にはアルカのほうが国際補助語に向いているのだ。
それはそうであろう。アルカの語法はエスペラントと違って多民族の青少年たちが泥臭く青臭い人体実験の果てに構築したものなのだから。
西洋語偏重であったエスペラントに比べ、アルカは早くから語法の重要性に着目していた。西洋語に偏重しない環境では互いに語法やコロケーションが通じないことを肌で知っていたからである。
なお、もし私が国際補助語を作るなら、語彙はアポステリオリにし、語法は最大公約数を得るようにするだろう。

●芸術言語としての語法と語義の拡張

アルカは芸術言語なのにもかかわらず、むしろ国際補助語が持つべき漂白された語法、すなわち万人にとって扱いやすい語法を持っている。
これは 90 年代のアルカが芸術言語でなく符牒言語、広義の国際補助語であったためである。

しかし 2012 年現在は芸術言語なので、漂白された語法だけでは文芸的に物足りない。
そこであえてメタファーなど人間の認知能力を用いた比喩的な語義を単語に与え、語法を漂白させない方向に傾けている。

例えば「語彙」は日本語では「大きい」ものだが、アルカでは「高い」ものである。
これは語彙というものを単語という煉瓦の集積で積み上げた塔と見なしているためである。
このような比喩的な語義を「高い」という単語に与えることで、脱漂白化し、芸術言語としての価値を高めている。

このような措置ができるのは、90 年代から 00 年代前半に起こった語法の漂白により、メンバーがアルカ独特の語法を肌で覚えたためである。
アルカ独特のアプリオリの語法を獲得してしまえば、比喩語義を拡張してもユーザーは迷うことなくアルカの語法を使い続けることができるのである。

●語法制作の手順

アルカは符牒言語としての広義の国際補助語に端を発し、芸術言語に落ち着いた。
その過程で語法も漂白から脱漂白の流れに移行した。

では芸術言語を作る場合、最初から脱漂白しておけばよいのだろうか。私はそうは思わない。
特にアプリオリで語法を組む場合、最初に漂白しておかなければ、恐らく作者の母語や習得した言語の語法をそのまま踏襲してしまう恐れがある。
アポステリオリならそれでもまぁよいのだが、アプリオリだとわりと致命的である。
そこで一旦漂白作業をしておいて、そこから最大公約数の語義に比喩語義などの拡張語義を追加していくのが上等なやり方といえよう。

●世界の現実

このような人工言語の語法論を頭の中に入れ、体に染み込ませているのは、地球広しといえど我々アルカとその影響下の言語だけである。
アメリカで有名な人工言語制作者のマーク＝ローゼンフェルダーは、自身の言語が別の惑星の言語であるにもかかわらず、語彙がアポステリオリで地球のものになっているというご都合主義を採っている。

初心者でもすぐにご都合主義だと気付きやすい語彙に関してすら彼はこの体たらくなのだから、語法などに気が回るはずもない。同様に、欧米の他の論客もここまで語法について経験し考察してはいない。
あなたは奇しくも世界中で最も先んじた、恐らく数十年から数百年未来の人工言語界の常識を今読んでいるのである。

せいぜい世の中の人工言語屋は「単語が西洋語に偏重していては不公平だから」などと言って、アプリオリな最小限の語彙数を持った工学言語を作るか、世界中の様々な言語から語彙を取り入れた国際補助語を作る

かといった程度の貧弱な発想しか持たない。
さらにもっと下らないレベルでいえば、SVO だとか SOV だとか、あるいは NA だとか AN だとか、そういった語順のような基本的すぎる、ピアノのハノンレベルの問題でくだを巻いているだけである。

私に言わせれば、語彙だ語順だといったレベルで言い争っているようではまだまだ浅い。
その言語を実用していない、作り込んでいないのがバレバレである。

語法だコロケーションだといった細部に目が行くようになると、ようやっと人工言語屋として上流である。
ところが欧米にも日中韓にもそのレベルに達している人間がおらず、それどころかそのレベルの存在自体に気付いていない、山の高みが分からない人間ばかりが跋扈している。
それが現実である。そして私はその情けない現実を変えたいと思っている。そうしてこの記事を執筆した。
本音を言えば、国語の教科書に載せたいくらい啓蒙性の強い文書だと考えている。

●人工言語の出来を評価する方法

人工言語の作り込みを評価する方法はいくつかある。
例えば辞書の語彙数と一語当たりにかけた時間の積算。語彙数が少なければ労力が少ないし、一語当たりの記述量や考察量が少なくても労力が少なく、そのような言語は粗製乱造でしかない。

単語数だけ無駄に多くて一語当たりの考察や記述が足りない言語は作り込みが足りない。
作り込みは語彙数と一語当たりにかけた労力の積算で求められるものだからである。

このように語彙の作り込みで言語の作り込みを計るのはすぐ思いつくが、意外と思いつかないのが語法である。
語法をきちんと設定しているか。漂白作業の後に拡張語義を追加しているか。基本語を数十個でもさらってこの点を評価すれば、その言語がどれだけ作り込まれているか分かる。
さらにその作業が行われていれば、その言語は複数の異なる母語話者の間で実用された実績を持つことも推定される。
ただし、もしこの記事を読んだ人間であれば、複数の異なる母語話者の間で実用された実績を作らずとも語法を作り込むことができるので、その言語が複数の異なる母語話者の間で実用された実績があるかは推定できない。

●神話の中の語法

ここからは非現実的なファンタジックな話。お勉強ではない。
異世界の神話の中で、アルカの語法はどのような扱いを受けているのだろうか。
下記に語法の起源について述べた文章を挙げた。

アルカは語法に重きを置く言語だけあって、神話の早い時点で既に語法について言及している。
それほどまでに人工言語にとって語法というのは重要ということである。

なお、これはあくまで神話なので、エーステ理論というファンタジックな解釈を持ち出している。
神話上で地球の言語学をしているわけではない。その点には注意されたい。

ちなみに、下記程度の文章さえも訳すことのできない人工言語が多すぎるのも問題である。

というより、人工言語の 99% は下記の文章が訳せない。そこまでの語彙がなく、文法も確立しておらず、語法も文化も設定されていない。
まったくゆゆしき事態である。

エーステ理論

彼らはある物質や概念が持つ本来的な名前を聞く能力を持っていた。エルトはエルトという名を定められるべく生まれた存在で、サールも然りである。ゆえに彼らは相手に自分の名を言われた際、それが確からしいと感じた。
これをエーステ理論という。エーステ理論では、あらゆる概念は固有の信号を持つ。その信号は 0 と 1 の集積であるが、音声や光の波長などに規則的に変換することができる。例えば手を丸めて拳を作る。そして手首を含まずこの拳部分だけを指す概念の信号を得て、その信号を音声変換すると [baog] のようになる。正確にはその音声は [baog] ではない。
人間が舌や口腔や肺臓を使って近似的に表現した音声が [baog] だというだけの話である。
エルトとサールは自分たちの身体が表現できるあらゆる音声を、30 個の音韻に押し込めた。その 30 個の音韻とは、後のアルカの音韻に S, Z, H, L を足した 29 音と、そこにシュワーを加えたものに等しい。
この音韻を使うと、拳を表す信号は /baog/ と表現することができる。こうして神々は概念が発する固有の信号を音韻に変化し、語彙を膨らませていった。

彼らは物だけでなく概念や行為や状態の名前も知っていた。例えば愛するという行為は tiia という名前を持っていることを知っていた。
上下のような形のない概念や、大きいのような形のない状態についても適切な名前を知ることができた。こういった概念の名前を彼らはエーステと呼んだ（名詞以外の獲得）。

語法の起源

なお、拳に手首を加えると途端にその概念は baog からかけ離れた信号を発するようになる。
愛するという行為も語法が変化するとエーステが変化してしまう。エーステは少しのことで変化しやすい。

例えば水のことはエーステで eria というが、これは 0 度の H2O のことであり、泥が入ったり不純物が入ったり気体になったり液体になったり温度が変わったりするとエーステが途端に変わってしまう。
これではエルトとサールが日常生活をしていて目にする水は全て異なったエーステで呼ばねばならない。このような言語は不便であると彼らは感じた。
そこで彼らは eria の温度や多少入った泥などの不純物を気にせず、すべて共通してこれらを eria と呼ぶことにした。つまり特定のエーステで他のエーステを代表させることとした。つまり一般的に水だと思われるものをすべて eria と呼んだわけである。
このとき初めて語法の概念が生まれた。 eria は少し泥の入った水と真水の両方を指し、水とお湯の両方も指す。しかしワインや果汁は eria ではなく、eria とは弁別される。つまり eria が何を指して何を指さないかという語法が生まれたわけである。
 あらゆる概念をエーステで表現すれば語法は不必要であるが、単語に意味の範囲を与えたことで語法が発生した。

eeȷʃeᴅccµ

ləəȷ ʃcl enuc len ȷeµ eȷʃ lınɔ le ʃəl ɔ scd ıllı ʃ cl. elʃ eʃ lıl le ʃcl eȷʃ ɷel elʃ lınɔl ٦ɔ٦ ȷııl. ıȷɔn ləəȷ nı٦ eȷʃɑcʃ ʃ'ɔle eʃ ɷız cᴅ eȷʃc٦ ɥə ɔle.
el ٦ə ʃə eʃ eeȷʃeᴅccµ. lılʃ eeȷʃeᴅccµ, cl scd ʃcl ʃel enʃı. ʃə ʃel eʃ lıɷ ٦ɔn 0 ɔ 1. el ᴅcɥə ȷen ʃə ʃel ı ɑɔ ız ɑıµ oen hııȷ zeʃʃel.
µe lıɷ bıɔφ uɔl bc٦ lıȷ. scd ɷel ʃə uıc٦ ʃclen ʃın ٦ ʃcl le ʃel, ȷee el lcᴅ ȷen ɑɔ ɷel [bıɔφ] ɔl ᴅcɥə ʃə ʃel ı ɑɔ. ٦clȷ, ʃə ɑɔ ɷe [bıɔφ]. ʃcɔ, ɑɔ ɥəʃ lın le ʃcl ueȷn, ٦əɔscᴅ, ȷıdᴅ oen eʃ ᴅɥəl ı ɑɔ ɷel [bıɔφ] ɷı. elʃ ɔ ȷııl ıısc٦ ?0 lcᴅ cʃ cl ɑeeʃ le nɔȷȷe ɑɔz ȷe n ٦ɔn ᴅıcn nɔȷȷel. ʃəəȷ ?0 lcᴅ eʃ lcᴅ ʃ'ıµ٦ı le lənı ȷcl ȷeʃı, ɑɔ٦ lcᴅ ɷel ‡, Ƶ, X, T, ılɑɔ٦ ɜ ɷ el ȷeeʃueȷʃɔ.
el uɔlʃ ȷen ʃel l'e٦ȷ bıɔφ lel /bıɔφ/ ٦ɔn ʃəəȷ lcᴅ . ɥın ٦ɔn ʃəəȷ lcᴅ, ᴅcµɔ٦ ȷecn ȷɔµɔµ clueʃ uɔl ᴅcɥənɷ ʃel enʃı le scd ıllı ʃcl ı le lcᴅ ȷecn.

ləəȷ ȷeµ eȷʃ lınɔ ʃ'en ʃəl hɔʃ ʃeʃ scd, ȷɔɔl, ٦ɔɔ٦ ʃın. ɔuı ləəȷ ȷeµ ȷɔɔl ɷel ʃccıȷ ʃcl eȷʃ lınɔ ɷel "ʃccı".

ləəȷ ȷeµ eȷʃ ɷız ɔn scd le ȷc ᴅɔ ɔuıen lʃıµ, ɑɔ٦ ٦ ɔɔ٦ le ȷc ᴅɔ ɔuıen ٦ıc. ləəȷ ınl ʃəəȷ eȷʃ lel eeȷʃe.(lcᴅ ʃ'en ıȷı)

ᴅɔᴅȷ e ueʃɥɔlɔᴅ

ɔl el ٦ıu eᴅ ʃın٦ ı bıɔφ, cᴅ ʃə ɑɔnc, ʃə scd ʃcl e ᴅ ʃel l'eʃ en٦ ʃcn٦ı lılʃ /bıɔφ/.
ȷɔɔl ɷel ʃccıȷ ʃın ʃcl eᴅ eeȷʃe en٦ ɔl ʃə ȷɔɔl ʃc l eᴅ ueʃɥɔlɔᴅ en٦. eeȷʃe eʃ ɷcᴅcɥə. ʃə eᴅ ȷen ᴅcɥə ȷɔ ɑel.

ɔuı, eeȷʃe ʃ'eµ eʃ "eµcı". ʃə eeȷʃe e٦ȷ ‡ꞁƵ le ʃcl φɔl 0. ʃə eeȷʃe eᴅ ȷen ᴅcɥə ȷɔɑel. ɔl eµ ʃcl beʃ əl µɔbcʃəl, əl ɔl ʃə eʃ ȷıd ız eȷc, ıləl ȷı ɑ ʃəəl c٦ ᴅcɥə, ȷɔn eeȷʃe ʃəəl c٦ ᴅcɥə ٦ɔn ɑɔnc.
hıɥə elʃ ɔ ȷııl ınl ɑıl cl eµ le ləəȷ cnȷ ɑɔl c٦n ȷ٦ɔl ٦ɔn eeȷʃe en٦. ɥı, ٦ɔ eeȷʃe ʃıʃen ٦ɔ dcʃ ʃ'eµ. hıɥə ləəȷ nı٦ φııʃɔ elɷ eʃ enɔ uıµʃ lılʃ c٦n ȷ٦ɔl.
ȷɔn ləəȷ sılc٦ nɔȷȷe ınl uın eµ ɷcdcʃ lel "eµcı" ٦ ɔnʃ ȷe٦ ȷıɑ ʃ'eµ, µɔbcʃəl dɔʃen eµ ɔuıen beʃ ٦ılɔ. ılɑc, ləəȷ sıdc٦ le eeȷʃe lel eeleʃ ʃ'eeȷ ʃe ılʃ ȷecn. ılılɑc, ləəȷ sılc٦ nɔȷȷe ınl uın leȷ eʃ ٦əɥə eµ lel "eµcı" ɷı. ȷee cᴅ ʃə ɑɔnc, scd ɷel ueʃɥɔlɔᴅ ɑcıȷc٦."eµcı" e٦ ȷ eµ le ʃcl beʃ ٦ılɔ ٦ɔnʃ e٦ȷ eµ le ʃcl ɥəə. ɑɔ٦ ʃə e٦ȷ lcµcı ɔnʃ ıleµ. ʃıl µec ɔnʃ ıne ɷe "eµcı". ʃəəȷ eʃ uell cʃ "eµcı". ılɑc, cᴅ ʃə, ueʃɥɔlɔᴅ ɷel eµcı e٦ȷ ʃɔ ɑɔ٦ ʃə en e٦ȷ ʃɔ ɑcıȷc ٦ ɷı.
el bıȷ ueʃɥɔlɔᴅ ɔl uɔlʃ cl scd ٦ɔn ɑe eeȷʃe. ʃıl e lɷ ləəʃeȷ lcᴅc٦ ueʃɥɔlɔᴅ cᴅ ɑɔnc ɷel nɔȷȷe ɑcʃc٦ lɔʃ ʃ'e٦ȷ ı ueʃ.

一意的で完全な抱合語 ——ゲーデル数の利用による一意的で完全な抱合語の構築への試論

人工言語学研究会著 2012 年 4 月 1 日初版 Copyright(C) 2012 人工言語学研究会 . All rights reserved. By ID-03.

・一意的で完全な抱合語

本稿はゲーデル数の利用による一意的で完全な抱合語の構築への試論である。
完全な抱合語はあらゆる文が 1 語で構成されるものを意味するものとする。
概念の数は無限である。
言語 E (eld) の語彙を I (ilvet) とする。I は事実上有限であり、形態素 e (esa) を l (leimalx) 個持つ。

形態素 e は無限の概念から任意の概念を写像として有し、固有の自然数を宛てがわれる。ゆえに I は可算集合である。
E の葉ノードを t (tekarko) とする。t の集合を T とする。各 t には互いに異なる素数を宛がう。言語の葉ノードは事実上有限なので、T は有限個の可算集合である。
任意の t を tl とする。任意の e を ew とする。
E の文を v (vok) とし、v の集合を V とする。
任意の v はゲーデル数を用いると t1^ew1*t2^ew2*...*tl^ewl で表現できる。 V の外延は互いに同一な自然数を持たない。ゆえに E は一意的で完全な抱合語である。以上。以下補遺。

各葉ノードの順序を入れ替えても算出される自然数は同一であるため、E の形態素の順序は自由である。これは非抱合語でいうところの語順が自由であることと同義である。

・幻英への応用

構文木を用いて miir kui miik (Mir eats the apple) を構文解析する。
ここで上記とは別個に文全体を V (vok)、名詞句を AS (asasevet)、動詞句を YS (yuosevet)、名詞を A (asa)、動詞を Y (yuo)、限定詞を J (jian) とする。
V は A = miir (Mir) と YS = kui miik (eats the apple) に分かれる。YS は Y = kui (eats) と AS =miik (the apple) に分かれる。AS は J = M (miut)(the) と A = miik (apple) に分かれる。
このとき動作主、動詞、限定詞、対象はすべて T の要素であり、各単語はすべて I の要素である。なお、この文における限定詞は対象の限定詞である。

仮に各葉ノードに次のような素数を宛がう。

動作主 = 2
動詞 = 3
対象の限定詞 = 5
対象 = 7

仮に各単語に次のような自然数を宛がう。つまり概念から単語を切り取り、各単語にそれぞれ固有の単語番号を付けたということである。アルカには限定詞がないので the の部分は空を意味する miut を宛がう。

miir (Mir)= 1
kui (eats)= 2
miut (the)= 3
miik (apple)= 4

すると miir kui miik (Mir eats the apple) という文は 2^1*3^2*5^3*7^4 = 5,402,250 という自然数で表すことができる。この自然数は一意的であり、他のあらゆる文と重複しない。
このように、ゲーデル数を用いてあらゆる言語のあらゆる文に対し一対一となるような一意的な文を算出することができる。このことは抱合語だけでなく膠着語や屈折語や孤立語にも適応することができる。

構文論 ――構文数と構文的な成句が少ないほど、その言語は習得しやすく使用しやすい

人工言語学研究会著 2012 年 4 月 3 日初版 Copyright(C) 2012 人工言語学研究会 . All rights reserved.

人工言語を習得し使用する際、障壁となるのが語法と構文である。
ある言語が持つ構文の数が多ければ多いほど、その言語は習得しづらく、使用しづらい。
しかしほとんどの人工言語は作者の母語や参照言語と同程度に複雑な構文を持つ。
本稿では人工言語と構文について考察する。

・最小の構文数

最小の構文数は理論上 1 である。
構文が 1 つしかなければどの構文を選択すればよいか迷うことはない。
国際補助語など、普及を目指す言語であればあるほど、構文数は減らすべきである。

・英語初学者と構文

英語の基本語順は SVO であるが、実際にはこのとおりにならないことが多い。
筆者は英語教育界に 10 年以上携わっているが、英語初学者を観察していて感じるのは、構文が複雑になるほど誤答が増えるということである。

例えば You play soccer. に対し You can play soccer. は比較的速やかに作れるが、これを What do you play? に変形できる者は少ない。
これは You play soccer → Do you play soccer? → Do you play what? → What do you play? という複雑

な操作を脳内で行わなければならないためである。
ネイティブであれば What do you というチャンクをそのまま覚えるので問題ないが、外国語として学習している人間にとっては上記のような構文操作をしなければ正解にたどり着けない。
たいていの学習者は結局 What do you play? が覚えられないまま終わるか、What do you play? というフレーズをそのまま暗記する。上記の構文操作を使って覚える理論的な学習者はあまりいない。これが教育現場の実態である。

You can play soccer. は作りやすいが、What do you play? は作りにくい。これは英語の基本構文からの差異が激しいためである。結局、what do you ～？という構文を新たに覚えるのが実情である。

英語にはたくさんの構文があり、SVO をそのまま適用できないケースは多々ある。倒置構文然り、強調構文然り、省略構文然り。

・フレーズのカプセル化

さらに数語からなるフレーズがひとつの意味を持つ場合があり、これも習得の妨げとなる。
in order to, so that S can, see to it that などなど、枚挙に暇がない。

もしこれらのフレーズがひとつの前置詞や接続詞で表現できれば、非常に学習者にはありがたい。
外国人にとってフレーズというのは単語よりも覚えにくい。学生時代に単語は覚えられたのに句動詞で苦労したとか熟語で苦労したという人は多いことだろう。
人工言語制作においては複雑な意味を持つフレーズはひとつの単語にカプセル化したほうが良い。そのほうがノンネイティブにとって覚えやすいからだ。
フレーズをカプセル化することで、覚えねばならない構文数も減り、学習効率と運用効率が向上する。

・韓国語が日本人にとって簡単な理由

韓国語はアメリカ人にとっては難しいが、日本人にとっては英語より簡単である。
その理由は多くの漢字語が共通していることと、多くの構文が共通しているためである。
例えば「高速道路が便利」は「고속도로가편리」であるが、カタカナにすると「コソクドロガ ピョンリ」であり、ほとんどそのまま日本語に聞こえる。

日本語と韓国語の構文は非常によく似ている。以下に例を示す。

日：アルバザードは私の住んでる惑星アトラスにある国だよ。
韓：아르바자드는 내가 사는 별 아톨라스에 있는 나라야.
英：Arbazard is a country in Atolas, the planet where I live.
仏：Arbazard est un pays en Atolas, la planète où je vis.
エス：Arbazard estas lando en Atolas, la planedo kie mi loĝas.

まず日本語に対して英仏の構文がまるで異なっていることは一見して分かる。
韓国語であるが、아르바자드はアルバザードという固有名詞。는は「～は」。내가は「私が」。사는は「住んでる」。별は「星（惑星）」。아톨라스에は「アトラスに」、있는は「ある」。나라야は「国だよ」。
ただ単語が変わっただけで、構文がまったく何一つ変わっていないのである。このように形容詞節を含んだ複雑で長い文章にもかかわらず、みごとに構文が一致しているのは驚くべきことである。
そしてそれゆえに日本人が韓国語を学ぶ際は、構文について学ぶ割合が非常に少ないため、日本人にとって韓国語は学びやすい言語といえるのである。

一方英語の構文が明らかに異なることから、日本人は英語独特の構文の使い方を学ぶ必要がある。そして英語の構文は日韓同様ひとつではなく非常に多いのだ。それゆえ日本人にとって英語は韓国語よりも習得が難しい。
逆に英仏間はまったく同じ構文を取ることからも、アメリカ人がフランス語を学ぶのは日韓語を学ぶより簡単であると分かる。

ちなみになぜ人工言語で構文論があまり問題にならないかというと、人工言語の代表格であるエスペラントが上で見たように国際語の英語と同じ構文を取るためである。
人工言語をやる人間はたいてい西洋人か英語のできる東洋人なので、英語を受け入れるようにエスペラントの構文を受け入れることができる。
結局多くの人工言語屋は西洋人の構文様式に合わせてしまうので、ここで述べたような構文論に気付かないのである。アルカのように多国籍でしかも英語のネイティブがいない環境で育った人工言語でなければ気付かないことである。

・アルカの構文数

アルカは芸術言語であるが、実態は多国籍の人間の間で培われた言語であるため、国際補助語以上に国際補助語然としている。
語法論で述べたとおり、アルカは最大公約数的な語法を持つ。これは多国籍の人間が同じ言語を用いたときに意思疎通に齟齬が生じにくい仕組みである。

語法と同じように、アルカは構文についても国際補助語以上に国際補助語らしい性質を持っている。
ふつうの国際補助語は構文について何も考えず、ただ作者の母語か参照言語の構文をそのまま流用する。上で見たエスペラントのように。
90 年代前半まではアルカもそうであったが、それでは誤解が耐えないということで構文数が縮小されていった。
01 年に制アルカができたときには、既にアルカは原則として 1 つの構文しか持たない言語になっていた。

アルカが唯一持つ構文は SVO である。どんなに複雑な文でも SVO 以外の構文を取らないため、センテンスによって個別の構文を覚える必要はない。
例えば上記の You play soccer. は ti (you) ar (play) viedgek (soccer). であり、SVO である。そして What do you play? は ti (you) ar (play) to (what)? であり、構文が変化しない。

次の例を見てみよう。

日：アルバザードは私の住んでる惑星アトラスにある国だよ。
幻：arbazard et kad kaen atolas le non xalm.

S: arbazard
V: et
O: kad kaen atolas le non xalm
注）アルカには SVC と SVO の差がない。

形容詞節を含んだ複雑な文でも構文は変化しない。
形容詞節 non xalm の中も見てみよう。きちんと SVO になっている。

S: non
V: xalm
O: 先行詞と同一なので省略

アルカではどれだけ文が複雑になっても SVO の入れ子構造ができるだけであり、構文はたったひとつしか存在しない。
そのため習得しやすく、作文するときも容易である。

英語の倒置構文と比べてみよう。

日：よもやそんなところで彼に会うとは思わなかった。
英：Never did I expect that I would see him there.
幻：tu at lood tinka xel an densik la beke.

英語は明らかに SVO 構文から逸脱している。倒置構文を別個に覚える必要がある。ではアルカはどうか。

S: tu
V: at
O: lood tinka

その後に格詞節（前置詞句）M であるところの xel an densik la beke が来ている。この内部構造は――

S: an
V: densik
O: la
注）beke は ka beke の略で、前置詞句で、要素としては M であり、SVO 構文を崩すものではない。

つまるところアルカは構文が SVO しかなく、あとは随意に M が後続するだけである。
すなわちアルカは SVO(M) という構文以外を持たない。文がどれだけ複雑になってもこの性質は変わらない。
注）アルカにも倒置構文があり、xion inat lein を yul lein sol xion inat とすることもでき、OSV の語順にすることもできる。SVO を変形しているという意味では例外的な存在である。
これは多国籍の人間同士で使う際に非常に重要になる要素だが、ふつうの国際補助語は多国籍の人間の間で使った実績がないので、これがいかに重要なポイントであるのか気付かない。

語法と構文をきちんと考察していない人工言語は、多国籍の人間の間で使えない。
もし使えるのならば、その場合は単に特定の語法や構文に周りの人間が合わせているだけである。例えば東洋人が西洋語の感覚に合わせてエスペラントを使うように。
だがそれでは平等でもなんでもなく、少なくとも国際補助語としては失格である。

・構文的な成句とアルカ

アルカにも成句のようなフレーズは存在する。 not only but also は en t hot tet k tan である。
実はこういうものも学習者にとっては負担である。「～だけでなく～も」を表す一つの単語を作ったほうが合理的である。

アルカはこういった構文的な成句もできるだけ少なくするよう努めている。
例えば「〜せざるをえない」という構文的な成句は法副詞（助動詞）の teel 一語で表現できるし､"more 〜 , the more" で表現される「〜すればするほど」も milt という一つの格詞（前置詞）で表すことができる。
このように、アルカでは構文的な成句となるフレーズをできるだけカプセル化しているのである。これのおかげで学習しやすく、作文するときも楽ができる。

本音を言えば en t hot tet k tan のような構文的な成句はゼロにしたい。アルカが国際補助語なら迷わずそうするだろう。アルカの場合、単にこのフレーズが定着してしまったので今更変えられないというだけの話である。
人工言語、特に習得の容易性を売りにする言語であれば、構文的な成句は作らないほうが良い。全て構文的な成句をカプセル化して一つの単語に収めたほうが合理的である。

・まとめ

人工言語制作において語法や構文は意識を向けられないことが多い。
だが語法と構文をきちんと考察していない人工言語は、多国籍の人間の間で平等に使うことができない。
特に国際補助語はこの点を踏まえねばならない。ゆえにこれはエスペラントの欠点のひとつといえる。

構文数は少ないほうが学習しやすく、作文する上でもやりやすい。
最小の構文数は 1 である。アルカは SVO(M) しか構文を持たない。

構文的な成句も少ないほうが学習しやすく、作文する上でもやりやすい。
構文的な成句はできればゼロにして、すべて単語で表現できるようカプセル化すべきである。

ただし芸術言語など、学習や運用の容易性を気にしない言語であれば、必ずしも構文数を極端に減らしたり構文的な成句を減らしたりする必要はない。
自然言語と同程度に学習しづらい言語でいいのであれば、無理に構文数や構文的な成句を減らす必要はない。
しかしピジンイングリッシュなどが本場の英語に比べ複雑な構文を避けがちなことからも分かるように、人工言語も多国籍の人間の間で使うのであれば、構文数や構文的な成句は減らしたほうが実用に耐えうるのではないかと思われる。

ke と aller の対照言語学 ―アルカのネイティブによる用例と彼女の誤用分析

人工言語学研究会著 2012 年 4 月 4 日初版 Copyright(C) 2012 人工言語学研究会 . All rights reserved. By ID-02.

本稿はアルカのネイティブである luxia arbazard の移動動詞に関わる幻仏発話における用例と彼女の誤用分析である。 luxia arbazard は le 8 mars 2007（2007 年 3 月 8 日 : 校正者注）に生まれた女児である。彼女は 3 才ごろからフランス国外でフランス語を教えられはじめた。
3 才より前にフランス語は耳にしているが教えられてはいない。 2012 年現在ではフランスでフランス語も使用する。
本稿は主に ke と aller（行く）に関してそれらの用例と誤用に関して報告する。
なお、筆者はアルカもフランス語も母語ではない。

・le の用法

1: 動詞。sol（人）は yul（目的地）に行く
2: 副詞。〜しにいく
3: 動詞。sol（道）が yul（目的地）に通じている

・aller の主な用法

1: 動詞。行く。Je vais a l'ecole.（学校に行く）
2: 成句。Tout va bien.（順風満帆だ）これはアルカにはない用法である。直訳すると「全てが良く行く」
3: 成句。Comment allez-vous?（ご機嫌いかが？）これはアルカにはない用法である。直訳すると「あなたはどのように行く？」であり、soonoyun に多少近い印象を持つ
4: 動詞。〜しにいく。補助動詞のように使う。 Je vais voir ma fille.（娘に会いに行く）
5: 動詞。近接未来。 L'avion va partir.（飛行機がもう出発する）
6: 成句。Allez. ketta と同じ意味。「さあ」。 ketta の原義が「行く」であることから、アルカと同じ語感を持つ
7: 成句。Allons. 同上。

aller は学校などの場合は a l'ecole のように a を取るが、aller chez mon ami などの場合は chez を取る。
対象によって使用する前置詞が食い違う。アルカにはそのようなことはなく統一的である。

目的地が店などの場合は chez を使うと外国人は教えられるが、実際のフランス人は chez の代わりに a を使うことも多いので注意すべきである。

・luxia の ke の用例と彼女の誤用分析

女児は ke の代わりに kor を使うので以下にある kor は ke を意味する。なお、副詞の際は ke は ke のままで kor にならない。

1: non kor fan benben. トイレに行くの。
　luxia は赤ん坊のころ ke が女性で kor になることを速やかに理解した。なぜなら彼女の周りには女性が多かったからである。

2: non in ke fan yuutxan e. ゆーちゃんを見にいくの。
　in fan ke と語順を誤ることが何度かあった。 4 才ごろには自然とその誤りは消えていた。

3:*Maman, je vais parc! ママ、わたし公園行く！
　アルカの格組の影響による誤用。前置詞と冠詞が脱落している。 Je vais au parc が正しい。

4:*kor, fit a non! ほら、ちょうだいよ。
　フランス語の Allez! に感化されて ketta のつもりが kor となってしまった誤用。4 才ごろによく聞かれた。本来女性は ketta を使わず leev を使うが、祖父や兄の影響で ketta も知っていたため ketta のつもりで kor (=ke) を使ったものと思われる。すぐに本人の中で正しく修正された。

5:*kor, xen xiit! さあ食べようよ。
　これも kor を leev とすべき誤用。恐らく Allons や mangeons が影響を与えているのではないか。 4 才ごろに見られた。 kor としているので副詞でなく動詞として認識している模様。すぐに本人の中で正しく修正された。

6:*mama leev ke in tisse, maal. お母さん、ママがもう行っちゃいそうだよ。
　maal は ridia（筆者）と等しい。 mama は mel keetoia と等しい。 ke を近接未来の副詞として使っている。フランス語の影響による。4 才ごろから見られ、5 才でも直らない。文法的にはアルカ上でも正しいため、筆者も誤用と気付きにくかった。上記の正確な訳は「お母さん、ママが去りにいきそうだよ」であり、これだと意味不明。正しくは mama leev sat in tisse, maal 。

7:*lop ke leev in e. 電車が行っちゃいそう。
　完全にフランス語の Le train va partir から影響を受けた誤用。アルカの文法的にも非文。ke としているので副詞として使っているのだろうが、語順が正しくない。 lop leev sat in e が正しい。

8:*Ils vont avec train. Ils vont avec pied. 電車で行くみたい。歩いて行くみたい。
　アルカの lain kor kokko lop. lain kor kokko zam. が基底にある誤用。 Ils vont en train と Ils vont a pied が正しい。アルカでは zam なのにフランス語では jambe でなく pied としているので、半分は理解しているのかもしれない。

9:*Le PC est mal. パソコンがおかしい。
　Le PC va mal が正しい。 tu sai es avix による誤用。

10:*La jupe est daz a toi, maman. スカート似合ってるよ、ママ。
　アルカとフランス語のコード混合。 La jupe va bien が正しいが、基底にある tu lus et daz a tyu, mama. に引きずられている。「似合う」に当たる aller bien を知らなかったため、その部分だけ daz a を用い、しかも etre 動詞で繋げている。幼いころの mel keetoia (1988-) を彷彿とさせるコード混合である。

なお、コード混合は luxia の兄 yult にも起こる。

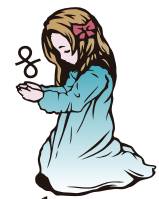
ridia: te xen du rak, yuutxan. 食べすぎちゃダメよ、ゆーちゃん。
yult: Ouais. so elf e. ふぁーい。止めとくよ。
ridia: ren rens "Oui" ist "Ouais" mil tu et xille k al.「ふぁーい」じゃないでしょ、「はい」でしょ。ちょっとお行儀悪いわよ。
yult: Oui, maman. Je dis van "Oui" ist ceci. はい、ママ。僕、それの代わりに「はい」って言うよ。

コード混合はフランス語にない法副詞 van を補うために起こったりしているように思える。
今のところ yult も luxia もアルカが優位な言語なので、基本的にアルカで何でも表現しようとする。フランス語で話していて語彙が足りないと時折アルカから単語を借りてくる。
そうやってコード混合が起こっている。彼らのフランス語の語法はアルカのそれである場合が多く、フランス語の視点でいうと間違っているものが多くある。逆にフランス語の語法がアルカに影響を与えて誤用を招く場合もある。

面白いことに、Comment allez-vous? に感化され、soonoyun が soonoke や soonokor になることはなかった。 soonoyun はそれそのものをひとつのチャンクとして脳内に記憶しているのであろう。

今後彼らが成長していくとコード混合は直るのか、彼らはアルカとフランス語を個別に習得することができるのか、などといったことが懸念される。

non dist tu yulfsev a seren sou le nan tiia.



leucın
ʼllel

幻日辞典

2014 年 5 月 21 日　発行

著　者　seren arbazard

編　者　nias avelantis

発行者　デザインエッグ社

発行所　デザインエッグ社

{ISBN}